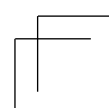
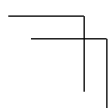


日本大学 法学部

【平成26年度以降入学者】



科目名索引

● : 教職課程科目

ア		外国法B（アジア）Ⅰ	2234
アジアの歴史Ⅰ	303	外国法B（アジア）Ⅱ	2236
アジアの歴史Ⅱ	305	外国法B（EU）Ⅰ	2238
アメリカ経済論	2181	外国法B（EU）Ⅱ	2241
アメリカ政治論	2183	外国法B（英米）Ⅰ	2244
イ		外国法B（英米）Ⅱ	2249
イノベーションと知的財産Ⅰ	2186	外国法B（独）Ⅰ	2253
イノベーションと知的財産Ⅱ	2188	外国法B（独）Ⅱ	2256
異文化メディア	2190	外国法B（仏）Ⅰ	2258
インターンシップA	3	外国法B（仏）Ⅱ	2260
インターンシップB	5	外国法C（英米）Ⅰ	2262
エ		外国法C（英米）Ⅱ	2264
英検／IELTSⅠA	1061	外国法C（EU）Ⅰ	2266
英検／IELTSⅠB	1069	外国法C（EU）Ⅱ	2268
英検／IELTSⅡA	1077	学際教養A	307
英検／IELTSⅡB	1083	学際教養B	313
英検／IELTSⅢA	1089	科学の歴史Ⅰ	319
英検／IELTSⅢB	1093	科学の歴史Ⅱ	321
英検／IELTSⅣA	1097	環境政策	2270
英検／IELTSⅣB	1099	環境論Ⅰ	323
英語A	600	環境論Ⅱ	325
英語B	711	観光政策	2272
英語C	822	韓国語ⅠA	2016
英語D【公共政策学科1年生共通クラス】	1001	韓国語ⅠB	2018
英語E	1013	韓国語ⅡA	2020
英語F	1015	韓国語ⅡB	2022
英語G	1017	監査論Ⅰ	2274
英語H	1019	監査論Ⅱ	2276
英語演習A	1021	管理会計論Ⅰ	2278
英語演習B	1027	管理会計論Ⅱ	2280
英語演習C	1033	キ	
英語演習D	1037	企業会計法Ⅰ	2282
英語演習E	1041	企業会計法Ⅱ	2284
英語演習F	1045	企業不祥事論Ⅰ	2286
英語演習G	1049	企業不祥事論Ⅱ	2288
英語演習H	1055	企業法務Ⅰ	2290
映像／デジタル・ジャーナリズムⅠ	2192	企業法務Ⅱ	2292
映像／デジタル・ジャーナリズムⅡ	2194	キャリア・デザインA	7
カ		キャリア・デザインB	9
会計学Ⅰ	2196	キャリア・デベロップメントA	11
会計学Ⅱ	2200	キャリア・デベロップメントB	15
外国ジャーナリズム史A	2204	キャリア入門	19
外国ジャーナリズム史B	2206	教育学Ⅰ	327
外国法A（アジア）Ⅰ	2208	教育学Ⅱ	331
外国法A（アジア）Ⅱ	2210	● 教育課程論	3724
外国法A（EU）Ⅰ	2212	● 教育原論	3726
外国法A（EU）Ⅱ	2214	● 教職実践演習（中・高）	3728
外国法A（英米）Ⅰ	2216	教育政策	2294
外国法A（英米）Ⅱ	2221	● 教育制度論	3734
外国法A（独）Ⅰ	2226	● 教育相談	3736
外国法A（独）Ⅱ	2228	● 教育の方法・技術論	3738
外国法A（仏）Ⅰ	2230	行政学Ⅰ	2296
外国法A（仏）Ⅱ	2232	行政学Ⅱ	2304

行政管理研究	2312	刑事法特殊講義Ⅲ B	2503
行政管理論	2314	刑事法特殊講義Ⅳ A	2505
行政広報研究	2316	刑事法特殊講義Ⅳ B	2509
行政広報論	2318	芸術論Ⅰ	359
行政実務演習	2320	芸術論Ⅱ	366
行政組織研究	2322	刑法Ⅰ	2513
行政組織論	2324	刑法Ⅱ	2533
行政法Ⅰ	2326	計量経済学	2557
行政法Ⅱ	2338	計量政治学	2559
共通科目特論 A	21	原価計算論Ⅰ	2561
共通科目特論 B	23	原価計算論Ⅱ	2563
教養演習Ⅰ A	335	健康科学Ⅰ	371
教養演習Ⅰ B	341	健康科学Ⅱ	373
教養演習Ⅱ A	347	● 現代教職論	3740
教養演習Ⅱ B	353	現代行政論Ⅰ	2565
金融商品取引法Ⅰ	2346	現代行政論Ⅱ	2568
金融商品取引法Ⅱ	2349	現代政治理論	2571
金融マネジメント研究	2352	現代メディア社会論Ⅰ	2575
ク		現代メディア社会論Ⅱ	2579
グローバル・コミュニケーションⅠ	2354	憲法Ⅰ（人権）	2583
グローバル・コミュニケーションⅡ	2356	憲法Ⅱ（統治機構）	2603
ケ		憲法A（人権）	2623
経営学Ⅰ	2358	憲法B（統治機構）	2631
経営学Ⅱ	2366	コ	
経営管理研究	2374	公共経済学Ⅰ	2639
経営管理論	2376	公共経済学Ⅱ	2641
経営情報システム論Ⅰ	2378	公共政策基礎演習	2644
経営情報システム論Ⅱ	2380	公共政策特殊講義A	2656
経営組織研究	2382	公共政策特殊講義B	2658
経営組織論	2384	公共政策論	2660
経営訴訟法Ⅰ	2386	公共選択論	2662
経営訴訟法Ⅱ	2388	広告コミュニケーションⅠ	2667
経営法学特殊講義（企業と労働）Ⅰ	2390	広告コミュニケーションⅡ	2669
経営法学特殊講義（企業と労働）Ⅱ	2392	広報広告コミュニケーション演習Ⅰ	2671
経営法学特殊講義（ビジネス法学入門）Ⅰ	2394	広報広告コミュニケーション演習Ⅱ	2673
経営法学特殊講義（ビジネス法学入門）Ⅱ	2396	広報広告コミュニケーション演習Ⅲ	2677
経済学Ⅰ	2398	公法特殊講義Ⅰ（憲法）A	2681
経済学Ⅱ	2406	公法特殊講義Ⅰ（憲法）B	2683
経済行政法Ⅰ	2415	公法特殊講義Ⅱ（行政法）B	2685
経済行政法Ⅱ	2417	公務員制度論	2687
経済刑法Ⅰ	2419	コーポレート・ガバナンス論Ⅰ	2690
経済刑法Ⅱ	2423	コーポレート・ガバナンス論Ⅱ	2694
経済史	2427	国際関係史Ⅰ	2698
経済思想史Ⅰ	2429	国際関係史Ⅱ	2704
経済思想史Ⅱ	2431	国際関係法〔公法系〕AⅠ	2710
刑事政策Ⅰ	2433	国際関係法〔公法系〕AⅡ	2714
刑事政策Ⅱ	2437	国際関係法〔公法系〕BⅠ	2718
経済政策論	2441	国際関係法〔公法系〕BⅡ	2722
経済法Ⅰ	2443	国際関係法〔私法系〕AⅠ	2727
経済法Ⅱ	2445	国際関係法〔私法系〕AⅡ	2730
警察政策	2447	国際関係法〔私法系〕BⅠ	2732
刑事訴訟法Ⅰ	2449	国際関係法〔私法系〕BⅡ	2738
刑事訴訟法Ⅱ	2469	国際関係論Ⅰ	2744
刑事法Ⅰ	2477	国際関係論Ⅱ	2747
刑事法Ⅱ	2481	国際金融論Ⅰ	2749
刑事法特殊講義Ⅰ A	2485	国際金融論Ⅱ	2751
刑事法特殊講義Ⅰ B	2489	国際経営法学Ⅰ	2753
刑事法特殊講義Ⅱ A	2493	国際経営法学Ⅱ	2755
刑事法特殊講義Ⅱ B	2497	国際経営論Ⅰ	2757
刑事法特殊講義Ⅲ A	2501	国際経営論Ⅱ	2759

国際経済法Ⅰ	2761	● 自然地理学概論Ⅱ	3744
国際経済法Ⅱ	2763	実践教養A	381
国際経済論Ⅰ	2765	実践教養B	383
国際経済論Ⅱ	2767	資本市場論Ⅰ	2865
国際契約法Ⅰ	2769	資本市場論Ⅱ	2867
国際契約法Ⅱ	2771	ジャーナリズム・スタディーズⅠ	2869
国際研修（英）ⅠA	1149	ジャーナリズム・スタディーズⅡ	2871
国際研修（英）ⅠB	1151	ジャーナリズム倫理Ⅰ	2873
国際研修（中）ⅡA	1910	ジャーナリズム倫理Ⅱ	2875
国際研修（中）ⅡB	1912	社会学Ⅰ	385
国際研修（独）ⅠA	1636	社会学Ⅱ	393
国際研修（独）ⅠB	1638	● 社会科・公民科教育法Ⅰ	3746
国際研修（仏）ⅠA	1778	● 社会科・公民科教育法Ⅱ	3750
国際研修（仏）ⅠB	1780	● 社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	3754
国際政治学Ⅰ	2773	● 社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	3756
国際政治学Ⅱ	2779	社会思想の歴史Ⅰ	401
国際政治経済特殊講義A	2785	社会思想の歴史Ⅱ	403
国際政治経済特殊講義B	2787	社会情報システム研究	2877
国際税法Ⅰ	2789	社会情報システム論	2879
国際税法Ⅱ	2791	社会政策論Ⅰ	2881
国際取引法AⅠ	2793	社会政策論Ⅱ	2883
国際取引法AⅡ	2795	社会調査概論	2885
国際取引法BⅠ	2797	社会保障法Ⅰ	2887
国際取引法BⅡ	2799	社会保障法Ⅱ	2891
国際民事紛争処理法Ⅰ	2801	社会保障論Ⅰ	2895
国際民事紛争処理法Ⅱ	2803	社会保障論Ⅱ	2899
国会論	2805	宗教学Ⅰ	405
コミュニケーション演習Ⅰ	2807	宗教学Ⅱ	407
コミュニケーションの科学A	2810	出版メディアⅠ	2903
コミュニケーションの科学B	2814	出版メディアⅡ	2906
コミュニケーション調査	2177	上級簿記論Ⅰ	2909
コンピュータ・リテラシーA	25	上級簿記論Ⅱ	2911
コンピュータ・リテラシーB	42	少年法Ⅰ	2913
サ		少年法Ⅱ	2915
債権法各論	2820	商法Ⅰ（会社法）	2917
債権法総論	2823	商法Ⅱ（商取引法）	2941
財政学Ⅰ	2825	商法Ⅲ（支払システム法）	2949
財政学Ⅱ	2829	商法Ⅳ（保険法）	2961
サイバー法Ⅰ	2833	商法Ⅴ（運送法）	2969
サイバー法Ⅱ	2835	情報システム論Ⅰ	2977
財務管理論	2837	情報システム論Ⅱ	2979
財務諸表論Ⅰ	2839	消防政策	2981
財務諸表論Ⅱ	2841	情報通信政策	2983
産学連携と知的財産Ⅰ	2843	情報の科学Ⅰ	2986
産学連携と知的財産Ⅱ	2845	情報の科学Ⅱ	2990
産業技術と知財A（情報通信）Ⅰ	2847	情報法Ⅰ	2992
産業技術と知財A（情報通信）Ⅱ	2849	情報法Ⅱ	2994
産業技術と知財B（機械・エネルギー）Ⅰ	2851	人材マネジメント論Ⅰ	2996
産業技術と知財B（機械・エネルギー）Ⅱ	2853	人材マネジメント論Ⅱ	2998
産業技術と知財D（コンテンツ）Ⅰ	2855	● 人文地理学概論Ⅰ	3758
産業技術と知財D（コンテンツ）Ⅱ	2857	● 人文地理学概論Ⅱ	3760
産業技術と知財F（エレクトロニクス）Ⅰ	2859	心理学Ⅰ	409
産業技術と知財F（エレクトロニクス）Ⅱ	2861	心理学Ⅱ	418
産業立地論	2863	ス	
シ		数学Ⅰ	426
自主創造の基礎Ⅰ【経営法】	101	数学Ⅱ	428
自主創造の基礎Ⅱ【公共政策】	177	スピーキング・リスニング（中）ⅠA	1914
自然人類学Ⅰ	375	スピーキング・リスニング（中）ⅠB	1930
自然人類学Ⅱ	378	スピーキング・リスニング（中）ⅡA	1947
● 自然地理学概論Ⅰ	3742	スピーキング・リスニング（中）ⅡB	1958

スピーキング・リスニング（中）ⅢA	1968	専門演習C	3129
スピーキング・リスニング（中）ⅢB	1970	専門演習D	3131
スピーキング・リスニング（独）ⅠA	1640	専門演習E	3137
スピーキング・リスニング（独）ⅠB	1652	専門演習F	3141
スピーキング・リスニング（独）ⅡA	1664	専門研究B	3143
スピーキング・リスニング（独）ⅡB	1668		
スピーキング・リスニング（独）ⅢA	1672	ソ	
スピーキング・リスニング（独）ⅢB	1674	総合講座A〔（文学/芸術は「危機」をどう捉えたか）〕	454
スピーキング・リスニング（仏）ⅠA	1782	総合講座B〔＜～らしさ＞をめぐる視点〕	456
スピーキング・リスニング（仏）ⅠB	1790	ソーシャル・キャピタル論	3145
スピーキング・リスニング（仏）ⅡA	1798		
スピーキング・リスニング（仏）ⅡB	1800	タ	
スペイン語ⅠA	2008	体育実技ⅠA	2034
スペイン語ⅠB	2010	体育実技ⅠB	2067
スペイン語ⅢA	2012	体育実技ⅠC	2099
スペイン語ⅢB	2014	体育スポーツ科学Ⅰ	458
セ		体育スポーツ科学Ⅱ	460
西欧政治思想史Ⅰ	3000	男女共同参画論	3147
西欧政治思想史Ⅱ	3003	チ	
政策研究A	3008	地域開発論	3149
政策評価論	3010	地域コミュニケーションA	3151
政策法務論	3012	地域コミュニケーションB	3153
政治学Ⅰ	3014	地域政策	3155
政治学Ⅱ	3028	地球科学Ⅰ	462
政治学原論	3041	地球科学Ⅱ	464
政治過程論	3045	● 地誌学概論Ⅰ	3768
政治経済原書研究A	3047	● 地誌学概論Ⅱ	3770
政治経済原書研究B	3055	知的財産法A（特許・実用新案）Ⅰ	3157
政治経済専門研究A	3059	知的財産法A（特許・実用新案）Ⅱ	3163
政治経済専門研究B	3068	知的財産法B（意匠）	3169
政治コミュニケーション	3077	知的財産法C（商標・不正競争）	3172
政治制度論	3079	知的財産法D（著作権）Ⅰ	3175
政治哲学	3082	知的財産法D（著作権）Ⅱ	3179
政治経済理論特殊講義A	3084	知的財産法E（関連条約）Ⅰ	3183
政治経済理論特殊講義B	3086	知的財産法E（関連条約）Ⅱ	3185
政治経済理論特殊講義C	3089	知的財産政策	3187
精神分析学Ⅰ	430	地方行財政特殊講義A	3189
精神分析学Ⅱ	432	地方行財政特殊講義B	3191
● 生徒指導・進路指導論	3762	地方行財政特殊講義C	3194
税法Ⅰ（基礎理論Ⅰ）	3091	地方行財政特殊講義D	3196
税法Ⅰ（基礎理論Ⅱ）	3095	地方財政論Ⅰ	3198
税法ⅡA（所得税法）	3099	地方財政論Ⅱ	3200
税法ⅡB（法人税法）	3101	地方自治法Ⅰ	3203
税法ⅢA（資産税法）	3103	地方自治法Ⅱ	3205
税法ⅢB（消費・諸税法）	3105	地方自治論Ⅰ	3207
生命の科学Ⅰ	434	地方自治論Ⅱ	3215
生命の科学Ⅱ	436	中国語演習A	1870
● 西洋史概論Ⅰ	3764	中国語演習B	1876
● 西洋史概論Ⅱ	3766	中国語演習C	1882
西洋政治史Ⅰ	3107	中国語演習D	1884
西洋政治史Ⅱ	3109	中国語演習E	1886
西洋の歴史Ⅰ	438	中国語演習F	1888
西洋の歴史Ⅱ	440	中国語演習G	1890
西洋法制史Ⅰ	3113	中国語演習H	1892
西洋法制史Ⅱ	3115	中国語基礎文法A	1838
世界文学Ⅰ	442	中国語基礎文法B	1854
世界文学Ⅱ	448	中国語資格試験対策ⅠA	1898
選挙制度論	3117	中国語資格試験対策ⅠB	1900
専門演習A	3121	中国語資格試験対策ⅡA	1902
専門演習B	3127	中国語資格試験対策ⅡB	1904
		中国語資格試験対策ⅣA	1906
		中国語資格試験対策ⅣB	1908

中国語基礎表現A	1802	日本経済論Ⅱ	3237
中国語基礎表現B	1820	日本語Ⅰ	1976
調査ジャーナリズム	3223	日本語Ⅱ	1980
地理学Ⅰ	466	日本語Ⅲ	1984
地理学Ⅱ	468	日本語Ⅳ	1986
テ		日本語Ⅴ	1988
哲学Ⅰ	470	日本語Ⅵ	1992
哲学Ⅱ	476	日本語Ⅶ	1996
● 哲学概論Ⅰ	3772	日本語Ⅷ	2000
● 哲学概論Ⅱ	3774	日本語Ⅸ	2004
ト		日本語Ⅹ	2006
ドイツ語演習A	1552	日本国憲法	295
ドイツ語演習B	1558	● 日本史概論Ⅰ	3786
ドイツ語演習C	1564	● 日本史概論Ⅱ	3790
ドイツ語演習D	1570	日本ジャーナリズム史Ⅰ	3239
ドイツ語演習E	1576	日本ジャーナリズム史Ⅱ	3241
ドイツ語演習F	1582	日本政治過程論	3243
ドイツ語演習G	1588	日本政治史Ⅰ	3245
ドイツ語演習H	1594	日本政治史Ⅱ	3250
ドイツ語基礎表現A	1415	日本政治思想史Ⅰ	3252
ドイツ語基礎表現B	1445	日本政治思想史Ⅱ	3254
ドイツ語基礎文法A	1476	日本政治特殊講義B（選挙運動論）	3256
ドイツ語基礎文法B（月曜2時限）	1514	日本政治論Ⅰ	3258
ドイツ語資格試験対策ⅠA	1608	日本政治論Ⅱ	3262
ドイツ語資格試験対策ⅠB	1614	日本大学の歴史	297
ドイツ語資格試験対策ⅡA	1620	日本の近現代Ⅰ	491
ドイツ語資格試験対策ⅡB	1622	日本の近現代Ⅱ	493
ドイツ語資格試験対策ⅢA	1624	日本の自然A	495
ドイツ語資格試験対策ⅢB	1628	日本の自然B	497
ドイツ語資格試験対策ⅣA	1632	日本の社会A	499
ドイツ語資格試験対策ⅣB	1634	日本の社会B	502
統計学Ⅰ	482	日本の前近代Ⅰ	505
統計学Ⅱ	487	日本の前近代Ⅱ	507
倒産法Ⅰ	3225	日本の文化A	509
倒産法Ⅱ	3227	日本の文化B	511
● 道德教育の理論と方法	3776	日本文学Ⅰ	513
● 東洋史概論Ⅰ	3780	日本文学Ⅱ	521
● 東洋史概論Ⅱ	3782	日本法制史Ⅰ	3266
東洋法制史Ⅰ	3229	日本法制史Ⅱ	3268
東洋法制史Ⅱ	3231	ニュース英語Ⅰ	3270
TOEICⅠA	1153	ニュース英語Ⅱ	3276
TOEICⅠB	1172	ハ	
TOEICⅡA	1191	● 発達と学習	3794
TOEICⅡB	1212	発展教養A	529
TOEICⅢA	1233	発展教養B	533
TOEICⅢB	1245	犯罪心理学	3282
TOEICⅣA	1257	ヒ	
TOEICⅣB	1259	比較行政論	3284
TOEFLⅠA	1101	比較憲法Ⅰ	3287
TOEFLⅠB	1112	比較憲法Ⅱ	3289
TOEFLⅡA	1123	比較ジャーナリズム史	3291
TOEFLⅡB	1129	比較政治学	3293
TOEFLⅢA	1135	東アジア経済論	3295
TOEFLⅢB	1140	東アジア政治論Ⅰ	3297
TOEFLⅣA	1145	東アジアの文学Ⅰ	537
TOEFLⅣB	1147	東アジアの文学Ⅱ	539
● 特別活動論	3784	ビジネスロー文献講読Ⅰ	3299
都市政策	3233	ビジネスロー文献講読Ⅱ	3301
ニ		フ	
日本経済論Ⅰ	3235	福祉政策	3303

物権・担保物権法	3305	民事訴訟法	3459
フランス語演習C	1740	民事法特殊講義Ⅰ（要件事実）A	3475
フランス語演習D	1745	民事法特殊講義Ⅰ（要件事実）B	3479
フランス語演習E	1750	民事法特殊講義Ⅱ（判例演習）A	3481
フランス語演習F	1752	民事法特殊講義Ⅱ（判例演習）B	3484
フランス語演習G	1754	民事法特殊講義Ⅲ（会社法）A	3486
フランス語演習H	1756	民事法特殊講義Ⅲ（会社法）B	3488
フランス語基礎表現A	1680	民事法特殊講義Ⅳ（商法）A	3490
フランス語基礎表現B	1694	民事法特殊講義Ⅳ（商法）B	3492
フランス語基礎文法A	1708	民事法特殊講義Ⅴ（不動産登記法）	3494
フランス語基礎文法B	1724	民事法特殊講義Ⅵ（商業登記法）	3496
フランス語資格試験対策ⅠA	1762	民事法特殊講義Ⅶ（民事手続法）A	3498
フランス語資格試験対策ⅠB	1766	民事法特殊講義Ⅶ（民事手続法）B	3500
フランス語資格試験対策ⅡA	1770	民法Ⅰ（民法総則）	3502
フランス語資格試験対策ⅡB	1772	民法Ⅱ（物権法）	3530
フランス語資格試験対策ⅢA	1774	民法Ⅲ（担保物権法）	3546
フランス語資格試験対策ⅢB	1776	民法Ⅳ（債権法総論）【法職課程】	3558
文化人類学Ⅰ	541	民法Ⅴ（債権法各論）	3574
文化人類学Ⅱ	543	民法Ⅵ（親族法）	3586
文章表現法Ⅰ	545	民法Ⅶ（相続法）	3592
文章表現法Ⅱ	562	民法総則	3598
ヘ		メ	
平和学	3310	メディア演習Ⅰ	3603
ホ		メディア演習Ⅱ	3605
法医学Ⅰ	3312	メディア演習Ⅲ	3607
法学Ⅰ	3314	メディア・コミュニケーションの科学A	3609
法学Ⅱ	3339	メディア・コミュニケーションの科学B	3613
法学演習AⅠ（憲法基礎演習）	3345	メディア史	3617
法学演習AⅡ	3347	メディア／情報産業Ⅰ	3621
法学演習BⅠ（民法基礎演習）	3349	メディア／情報産業Ⅱ	3623
法学演習BⅡ	3353	メディア調査	3625
法学演習CⅠ（刑法基礎演習）	3355	メディア・テキストの基礎Ⅰ	3628
法学演習CⅡ	3361	メディア・テキストの基礎Ⅱ	3646
法学演習EⅠ	3365	メディア・テキストの基礎Ⅲ	3664
法学演習EⅡ	3367	メディア・ビジネス	3670
法学特殊講義（ジェンダーと法）Ⅰ	3369	メディア文化演習Ⅰ	3672
法学特殊講義（ジェンダーと法）Ⅱ	3371	メディア文化演習Ⅱ	3674
法思想史Ⅰ	3373	メディア文化演習Ⅲ	3676
法思想史Ⅱ	3377	メディア法Ⅰ	3678
法情報学Ⅰ	3381	メディア法Ⅱ	3680
法情報学Ⅱ	3383	メディア理論	3684
法哲学Ⅰ	3385	ヨ	
法哲学Ⅱ	3389	ヨーロッパ政治論Ⅰ	3686
法律外国語AⅠ	3393	ヨーロッパ政治論Ⅱ	3688
法律外国語AⅡ	3395	ラ	
法律外国語BⅠ	3397	WritingⅠA	1407
法律外国語BⅡ	3400	WritingⅠB	1409
簿記原理Ⅰ	3403	WritingⅡA	1411
簿記原理Ⅱ	3411	WritingⅡB	1413
マ		リ	
マーケティング戦略論Ⅰ	3419	ReadingⅠA	1361
マーケティング戦略論Ⅱ	3421	ReadingⅠB	1374
マーケティング論Ⅰ	3423	ReadingⅡA	1387
マーケティング論Ⅱ	3425	ReadingⅡB	1395
マクロ経済学Ⅰ	3427	ReadingⅢA	1403
マクロ経済学Ⅱ	3435	ReadingⅢB	1405
ミ		リーディング・ライティング（中）ⅠA	1894
ミクロ経済学Ⅰ	3441	リーディング・ライティング（中）ⅠB	1896
ミクロ経済学Ⅱ	3449	リーディング・ライティング（中）ⅡA	1972
民事執行・保全法	3455	リーディング・ライティング（中）ⅡB	1974

リーディング・ライティング（独）Ⅰ A	1600
リーディング・ライティング（独）Ⅰ B	1604
リーディング・ライティング（独）Ⅱ A	1676
リーディング・ライティング（独）Ⅱ B	1678
リーディング・ライティング（仏）Ⅰ A	1758
リーディング・ライティング（仏）Ⅰ B	1760
リサーチ・ペーパー（メディアと社会）	3690
リサーチ・ペーパー（情報と社会）	3692
リサーチ・ペーパー（政治行動論）	3694
リサーチ・ペーパー（メディアと文化）	3696
リサーチ・ペーパー（メディア史）	2179
リスク・コミュニケーション	3700
Listening & Speaking Ⅰ A	1261
Listening & Speaking Ⅰ B	1279
Listening & Speaking Ⅱ A	1297
Listening & Speaking Ⅱ B	1311
Listening & Speaking Ⅲ A（火曜 3 時限）	1325
Listening & Speaking Ⅲ B（火曜 3 時限）	1339
Listening & Speaking Ⅳ A	1353
Listening & Speaking Ⅳ B	1357
立法過程論	3702
倫理学Ⅰ	578
倫理学Ⅱ	584
● 倫理学概論Ⅰ	3796
● 倫理学概論Ⅱ	3800
□	
労働事情	3704
労働法Ⅰ	3706
労働法Ⅱ	3710
ローカル／コミュニティ・メディアⅠ	3714
ローカル／コミュニティ・メディアⅡ	3716
ローマ法Ⅰ	3718
ローマ法Ⅱ	3720
ロシア語Ⅰ A	2024
ロシア語Ⅰ B	2026
ロシア語Ⅲ A	2028
ロシア語Ⅲ B	2030
論理学Ⅰ	590
論理学Ⅱ	594

I 群

共通科目

I 群

共通科目

科目名	インターンシップA	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	学生自らキャリア目標を明確にし、就職活動に臨む準備を整えるため、それぞれ志望するマスコミ・メディア各業界別にグループを作り、業界研究と発表を繰り返し、第3学年夏から冬にかけて集中するマスコミ・メディアインターンシップに臨むための講座である。				
授業目的・到達目標	マスコミ業界ないしメディア関連企業への就職を目指す学生が、業界研究やインターンシップ実習などの演習を通して、就業に対する理解を深める人材育成を目的とし、志望する業界への理解を深め、学内選抜だけでなく一般公募によるインターンシップに積極的に参加できるような能力を身につける事を目標とする。				
履修条件	2018年度に第3学年でマスコミやメディア関連企業への就職を第1志望に定めている者。原則「インターンシップA・B」両方を履修すること※初回講義出席必須。志望業界毎にグループ分けし、第2回よりグループ毎実習開始。				
授業方法	志望業界毎に編成したグループで業界研究を行いグループ発表する。夏季休業中に実施されるインターンシップ実習へのエントリーを行う。現業に携わるゲストスピーカーによる特別講習を実施する。授業毎リアクションペーパー提出。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	筆記試験は課さない。	
	平常評価		100%	積極的な参加度(50%)、業界研究レポートおよび発表(50%)。この他、資格試験や各種特別講座での実績を加味する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	業界を網羅している教科書として「図説 日本のメディア」藤竹 暁 著 NHKブックス 漢字検定2級以上、ニュース検定は受験することが望ましい。				
オフィスアワー	月曜～木曜日の13：00～18：00 授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。 対面質問も受けるが、メールで日時予約が条件。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	マスコミ・メディア各社のインターンシップの概要を調べておく。（2時間）
	授業内容	インターンシップとキャリア形成／初回ガイダンス （グループ分けを行うので、履修登録を悩んでいる者も必ず初回に出席すること）
	事後学習	グループ分け後に連絡を取れるよう各グループでコミュニケーションを密に出来るようにする。（2時間）
2	事前学習	自身の志望業種を絞り、第1志望業界をグループ分けの根本にする。（2時間）
	授業内容	業界研究についてのオリエンテーション／グループワーク
	事後学習	グループワークでの業界研究に必要な情報を入手する方法を考えておく。（2時間）
3	事前学習	実際にインターンシップをした学生の企業を調べておく。（2時間）
	授業内容	実際にインターンシップを経験した学生の話しを聞く①
	事後学習	講座を聴いてインターンシップで注意すべき点を確認しておく。（2時間）
4	事前学習	実際にインターンシップをした学生の企業を調べておく。（2時間）
	授業内容	実際にインターンシップを経験した学生の話しを聞く②
	事後学習	講座を聴いてインターンシップで注意すべき点を確認しておく。（2時間）

5	事前学習	新聞業界について基本的なことを知っておく 発表はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う（2時間）
	授業内容	業界研究① 新聞 グループ研究発表&ディスカッション
	事後学習	研究発表を聴き業界の特徴をまとめる。（2時間）
6	事前学習	出版業界について基本的なことを知っておく 発表はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う（2時間）
	授業内容	業界研究② 出版 グループ研究発表&ディスカッション
	事後学習	研究発表を聴き業界の特徴をまとめる。（2時間）
7	事前学習	広告業界について基本的なことを知っておく 発表はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う（2時間）
	授業内容	業界研究③ 広告 グループ研究発表&ディスカッション
	事後学習	研究発表を聴き業界の特徴をまとめる。（2時間）
8	事前学習	放送業界について基本的なことを知っておく（2時間） 発表はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う
	授業内容	業界研究④ 放送 グループ研究&ディスカッション
	事後学習	研究発表を聴き業界の特徴をまとめる。（2時間）
9	事前学習	コンテンツ業界について基本的なことを知っておく 発表はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う（2時間）
	授業内容	業界研究⑤ コンテンツ グループ研究発表&ディスカッション
	事後学習	研究発表を聴き業界の特徴をまとめる。（2時間）
10	事前学習	インターネット業界について基本的なことを知っておく 発表はパワーポイントやレジュメ、板書を使い分かり易く行う（2時間）
	授業内容	業界研究⑥ インターネット グループ研究発表&ディスカッション インターンシップ公募用模擬ES配布
	事後学習	研究発表を聴き業界の特徴をまとめる。（2時間）
11	事前学習	模擬ESに記入してみる。（2時間）
	授業内容	インターンシップ一般公募対策 第一志望企業に出すESを提出する
	事後学習	講座を聴いて改めて自分の書いたESを推敲する。（2時間）
12	事前学習	ゲストスピーカーについてプロフィールをよく読み、必ず質問を考えておく。（2時間）
	授業内容	マスコミ業界に求められる人材（1） （ゲストスピーカー）
	事後学習	自らにあてはめ、インターンシップに臨む業界についてまとめておく。（2時間）
13	事前学習	ゲストスピーカーについてプロフィールをよく読み、必ず質問を考えておく。（2時間）
	授業内容	マスコミ業界に求められる人材（2） （ゲストスピーカー）
	事後学習	自らにあてはめ、インターンシップに臨む業界についてまとめておく（2時間）
14	事前学習	自らの志望する業界情報をまとめる。（2時間）
	授業内容	レポート提出とインターンシップの心構え
	事後学習	これまでの講座で疑問点が生じていないかもう一度洗いなおす。（2時間）
15	事前学習	講座について質問をまとめておく（2時間）
	授業内容	レポート解説と講座前期総括
	事後学習	最終的に自らの志望するインターンシップの日程を確認。（2時間）

科目名	インターンシップB	担当者	柴田 秀一	部 別	第一部	期 間	後期	単 位 数	2
-----	-----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-------	---

授業概要	学生自らキャリア目標を明確にし、就職活動に臨む準備を整えるため、それぞれ志望するマスコミ・メディア各業界別にグループを作り、業界研究と発表を繰り返し、第3学年夏から冬にかけて集中するマスコミ・メディアインターンシップに臨むための講座である。							
授業目的・到達目標	マスコミ業界ないしメディア関連企業への就職を目指す学生が、業界研究やインターンシップ実習などの演習を通して、就業に対する理解を深める人材育成を目的とし、志望する業界への理解を深め、学内選抜だけでなく一般公募によるインターンシップに積極的に参加できるような能力を身につける事を目標とする。							
履修条件	先修条件として「インターンシップA」を履修した者に限る。夏季休業中にインターンシップ実習や夏季集中講座（新聞学研究所講座）に参加した者（但し、後学期中に企業のインターンシップ実習に参加する意思がある者も履修可）。							
授業方法	インターンシップ実習の報告（個人発表）を通して、クラス全体で就業に対する理解を深める。また、現業に携わるゲストスピーカーによる特別講義を実施する。授業毎リアクションペーパー提出。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%		筆記試験は課さない。			
	平常評価		100%		積極的な参加度(50%)、インターン実習報告書および発表(50%)。この他、資格試験や各種特別講座の実績を加味。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	備考		使用しない					
参考書	必要な関連図書、資料については授業内で紹介する。 業界を網羅している教科書として 「図説 日本のメディア」 藤竹 暁 著 NHKブックス							
オフィスアワー	月曜～木曜日の13：00～18：00 授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。 対面質問も受けるが、メールで日時予約が条件。							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	インターンシップ経験者は、自分の経験をまとめておく。提出ES、作文等あれば用意、また、実施演習や行ったグループディスカッションのテーマ等を分かり易くまとめておく。未経験者は今後のインターンシップ日程を調べ、エンリー出来るようにする。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 今後の講座の進め方とアンケート
	事後学習	講座の進め方をうけてインターンシップ経験の発表準備をする。（2時間）
2	事前学習	業界別に発表準備（パワーポイント、板書、レジュメ等工夫して発表準備をする）（2時間）
	授業内容	インターン実習個人発表① （業界別・個人別）／ES・作文演習
	事後学習	各業界のインターンシップ内容を比較、業界間の違い、特徴をまとめる。（2時間）
3	事前学習	業界別に発表準備（パワーポイント、板書、レジュメ等工夫して発表準備をする）（2時間）
	授業内容	インターン実習個人発表② （業界別・個人別）／ES・作文演習
	事後学習	各業界のインターンシップ内容を比較、業界間の違い、特徴をまとめる。（2時間）
4	事前学習	業界別に発表準備（パワーポイント、板書、レジュメ等工夫して発表準備をする）（2時間）
	授業内容	インターン実習個人発表③ （業界別・個人別）／ES・作文演習
	事後学習	各業界のインターンシップ内容を比較、業界間の違い、特徴をまとめる。（2時間）

5	事前学習	業界別に発表準備（パワーポイント、板書、レジュメ等工夫して発表準備をする）（2時間）
	授業内容	インターン実習個人発表④（業界別・個人別）／ES・作文演習
	事後学習	各業界のインターンシップ内容を比較、業界間の違い、特徴をまとめる。（2時間）
6	事前学習	業界別に発表準備（パワーポイント、板書、レジュメ等工夫して発表準備をする）（2時間）
	授業内容	インターン実習個人発表⑤（業界別・個人別）／ES・作文演習
	事後学習	各業界のインターンシップ内容を比較、業界間の違い、特徴をまとめる。（2時間）
7	事前学習	業界別に発表準備（パワーポイント、板書、レジュメ等工夫して発表準備をする）（2時間）
	授業内容	インターン実習個人発表⑥（業界別・個人別）／ES・作文演習
	事後学習	各業界のインターンシップ内容を比較、業界間の違い、特徴をまとめる。（2時間）
8	事前学習	業界別に発表準備（パワーポイント、板書、レジュメ等工夫して発表準備をする）（2時間）
	授業内容	インターン実習個人発表⑦（業界別・個人別）／ES・作文演習
	事後学習	各業界のインターンシップ内容を比較、業界間の違い、特徴をまとめる。（2時間）
9	事前学習	ゲストのプロフィールをよく読み事前に質問を考えておく（2時間）
	授業内容	マスコミ業界の実務と最新動向（1） （ゲストスピーカー）
	事後学習	最新のマスコミ企業の動向をまとめインターンシップだけでなく今後の就職活動に生かす。（2時間）
10	事前学習	ゲストのプロフィールをよく読み事前に質問を考えておく（2時間）
	授業内容	マスコミ業界の実務と最新動向（2） （ゲストスピーカー）
	事後学習	最新のマスコミ企業の動向をまとめインターンシップだけでなく今後の就職活動に生かす。（2時間）
11	事前学習	ゲストのプロフィールをよく読み事前に質問を考えておく（2時間）
	授業内容	マスコミ業界の実務と最新動向（3） （ゲストスピーカー）
	事後学習	最新のマスコミ企業の動向をまとめインターンシップだけでなく今後の就職活動に生かす。（2時間）
12	事前学習	企業のエントリーシートにどんなものがあるか調べてみる（2時間）
	授業内容	マスコミ就職対策① エントリーシートの書き方
	事後学習	実際にESを書き、見てもらう。（2時間）
13	事前学習	入社試験にはどんなものがあるか調べておく（2時間）
	授業内容	マスコミ就職対策② 筆記試験
	事後学習	漢字の読み書き・時事問題・作文はかならず出るので普段から、Webを含めマスメディアで取りあげられているものに触れまとめておくことが重要。（2時間）
14	事前学習	インターンシップ等で行ったグループディスカッションでの反省点をまとめておく（2時間）
	授業内容	マスコミ就職対策③ グループディスカッション レポート提出
	事後学習	様々な題で、グループディスカッションを友人らと行って慣れておくこと。（2時間）
15	事前学習	インターンシップで得たものをまとめておく。（2時間）
	授業内容	実習の経験を就職活動に活かすための総括と提出レポート解説
	事後学習	この時点で、3年次生は、既に自分の目指す仕事の方向や業種・企業等が定まっている事が必要。（2時間）

科目名	キャリア・デザインA	担当者	岡崎 淳一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	キャリアデザインの必要性、手法、支援施策とともに、キャリアデザインを考える際に必要となる労働をめぐる諸事情について学習する。講義に際しては、担当教員が厚生労働省職業安定局長等として雇用政策を担当してきた経験を活かして解説をする。			
授業目的・到達目標	長い職業生活において、自らキャリア形成を考え、行動していくために必要であるキャリアデザインについて、重要性を理解し、自らのキャリアデザインを描けるようにすること目的とする。 受講生が自らのキャリアデザインを念頭に、大学生活をおくり、希望する仕事に就けることが目標である。			
履修条件	なし			
授業方法	講義を中心として授業を進める。受講者の人数によっては受講者との討議も行う。関連資料をポータルシステムからダウンロードして持参してもらうことがある。提出したレポートについては、後の講義でコメントする。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	3回提出するレポートによって評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		
参考書	山崎京子・平林正樹著「未来を拓くキャリアデザイン講座」（中央経済社） 岡崎淳一著「働き方改革のすべて」（日本経済新聞出版）			
オフィスアワー	授業終了後（金曜1時限後）に受け付け、内容、日時、場所等を確認、調整する。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前に「働き方改革実行計画」（総理大臣官邸HP参照）を読んで、働き方改革の概要を理解する。（2時間）
	授業内容	オリエンテーションとして、授業スケジュール、成績評価の方法、参考資料などを説明する。 働き方改革について説明し、企業の動きなどを理解してもらう。
	事後学習	働き方改革に関するマスコミ報道、書籍なども参照して、働き方改革に関する理解を深め、友達と意見交換する。（2時間）
2	事前学習	事前に「アルバイトをする前に知っておきたい7つのポイント」（労働条件に関する総合情報サイト）を参照のうえ、友人とともに、アルバイト経験に基づいて意見交換を行い、アルバイトの働き方に問題がないか確認する。（2時間）
	授業内容	労働法の基礎知識を説明する。 労働法はアルバイトにも適用があること、就職活動や就職後において必要な知識を中心に解説する。
	事後学習	「知っておきたい働くときのルールについて」（労働条件に関する総合情報サイト）を読んで、働く際に必要となる労働法の知識を深める。（2時間）
3	事前学習	「キャリア」「キャリアデザイン」について、ネット検索、参考書購読などによって、予備的知識を得ておく。（2時間）
	授業内容	キャリア、キャリアデザインとは何か、基本的な事項について説明し、以後の講義の前提となることを理解してもらう。
	事後学習	キャリアデザインの概念を理解したうえで、この段階における自分のキャリアデザインについて考えを整理してみる。（2時間）
4	事前学習	「日本的雇用慣行」について、ネット検索、書籍購読によって、予備的知識を得ておく。（2時間）
	授業内容	日本的雇用慣行とは何か、現在の実態はどうなっているかを説明する。 そのうえで、会社内においてキャリアを積む場合、転職など外部労働市場においてキャリアを積む場合について、それぞれの状況を説明する。
	事後学習	我が国の現在の雇用慣行を理解したうえで、自分の目指したい方向を考え、友達と意見交換する。（2時間）

5	事前学習	雇用政策研究会報告（平成31年）を読んで、我が国の経済、労働市場の変化や今後の見通しについて理解しておく。（2時間）
	授業内容	産業構造・就業構造の変化の状況、人口構造の変化と今後の見通しを説明する。 これらが、長い職業生涯に与える影響を理解してもらう。
	事後学習	関心のある産業について、売上高・生産量、就業者数などの推移、今後の見通しについて、ネット検索によって情報を集めて、整理する。（2時間）
6	事前学習	正社員、限定正社員、テレワーク、在宅就業、フリーランス、個人請負、派遣など働き方についてネット検索し、多様な働き方の状況について理解しておく。（2時間）
	授業内容	多様な働き方について、状況、法的位置づけ、課題などを説明する。 就職に際して、多様な働き方の特徴を理解したうえで、就職活動ができるようにする。
	事後学習	第3回から今回までの講義を踏まえて、自分のキャリア形成の方向についてレポート（1000字以内）をまとめ、提出する。（2時間）
7	事前学習	「働き方・休み方ポータルサイト」にアクセスして、企業における労働時間短縮に向けた取組事例を閲覧し、企業における取組状況を理解する。（2時間）
	授業内容	現在の労働時間や休暇の状況、法改正や関係施策、企業の取り組み状況を説明する。 就職した場合の働き方について、理解してもらう。
	事後学習	現在の労働時間・休暇取得状況を理解したうえで、自分が企業で働く場合の課題、職業・企業選択の視点を整理し、友達と意見交換する。（2時間）
8	事前学習	「平成30年賃金構造基本統計調査の概況」（厚生労働省HP参照）を読んで、賃金の概況を理解しておく。（2時間）
	授業内容	年功給、職能給、職務給などの賃金制度について基礎的な説明をするとともに、最近の賃金の動向、賃金に関する政策について説明する。
	事後学習	賃金制度や賃金水準などを理解したうえで、職業・企業選択の視点を整理し、友達と意見交換する。（2時間）
9	事前学習	厚生労働省HPにアクセスして、大学等卒業者の就職内定状況、新規学卒者の離職状況を確認し、大学新卒者の就職の課題を考える。（2時間）
	授業内容	大学等卒業者の就職状況、離職の状況などの状況を説明するとともに、就職に関するルール、新規学卒者に対する就職支援などについて説明する。
	事後学習	新規大卒者の就職状況、就職に関するルール、支援策などを踏まえて、今後の自分の就職に向けた活動について整理する。（2時間）
10	事前学習	「平成29年版働く女性の実情」の「第1章 平成29年の働く女性の状況」を読んで、女性の雇用の概況を理解する。（2時間）
	授業内容	女性の雇用の状況、問題点、関係法制について説明する。育児・介護などは、女性だけの問題ではなく、すべての働く人の問題であることを理解してもらう。
	事後学習	女性の働く環境の問題点や育児・介護・治療と仕事の両立の課題について考えをまとめ、友達と意見交換する。（2時間）
11	事前学習	会社四季報、就職情報誌などによって、企業情報を閲覧し、どのような企業の関する情報が入手できるか、試みてみる。
	授業内容	就職活動においては企業情報の取得が重要であるが、どのような情報源があるか、何に注意する必要があるか、さらに、求人情報の見方などについて説明する。（2時間）
	事後学習	企業に関して、働く環境を含めた情報を収集し、最も関心がある企業を選定し、就職先の候補として、当該企業の情報、評価をレポートにまとめる（1000字以内）（2時間）
12	事前学習	自分の性格、価値観、関心事項などを整理し、どのような大学生活を送りたいか、将来どういうことをやりたいのかを考えること。（2時間）
	授業内容	将来の職業を考えるうえでかわりのある、自己理解、キャリアアンカー、職業関心などについて解説する。また、キャリアコンサルティングについて説明する。
	事後学習	講義を踏まえて、再度自分の今後の大学生活、将来の仕事について考える。（2時間）
13	事前学習	ジョブカード制度総合サイトにアクセスして、ジョブカード制度の概要について理解する。（2時間）
	授業内容	ジョブカードの趣旨、活用状況、作成方法などについて説明する。講義を踏まえて、学生用のジョブカードを作成できるようにする。
	事後学習	学生用のジョブカードを作成し、提出する。（提出用には、住所・電話番号・メールアドレスなどの個人情報の記入は不要）（2時間）
14	事前学習	「平成30年労働経済の分析」要約版の「第II部 働き方の多様性に応じた人材育成の在り方について」を読んで、人材育成の状況について、理解する。（2時間）
	授業内容	企業における教育訓練の状況、公的職業訓練、自主的な教育訓練受講に対する支援施策などについて説明する。職業生涯を通じてキャリアアップを目指すために必要な知識を得られるようにする。
	事後学習	関心のある職業について、必要な資格、知識を確認し、それらの資格・知識を取得するために必要な教育訓練などを整理し、友達と意見交換する。（2時間）
15	事前学習	「年齢にかかわらず転職・再就職者の受入れ促進のための指針」（厚生労働省HP）を読んで、転職・再就職に関する政策の考え方を理解する。（2時間）
	授業内容	転職市場の状況、転職する場合の支援措置、ハローワークの利用などについて説明する。
	事後学習	就職したのちに、企業に問題があった場合、別のキャリアを希望するようになった場合などについて、対応の仕方について考えを整理し、友達と意見交換する。（2時間）

科目名	キャリア・デザインB	担当者	岡崎 淳一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国・地方における公務員の種類、働き方を概観するとともに、担当教員が厚生労働行政37年間に直接携わった具体的な政策立案、法律改正などの事例をもとに、実際の公務員の仕事について説明する。また、担当教員が厚生労働省官房長として、人事管理を担当した経験を踏まえて、公務員のキャリアデザイン、働き方について解説する。			
授業目的・到達目標	政策策定の過程、行政機関の運営、公務員の働き方などを理解したうえで、あるべき公務員像を描けるようにすることを目的とする。 公務員を志望する受講者は自らの目指すべき公務員像を描けることを目標とする。公務員を志望しない受講者は、公務員の働き方を参考に、自らの進むべき方向を描けることを目標とする。			
履修条件	なし			
授業方法	講義を中心として授業を進める。受講者の人数によっては受講者との討議も行う。関連資料をポータルシステムからダウンロードして持参してもらうことがある。提出したレポートについては、最終の講義でコメントする。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	提出されるレポートで評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
				谷田部光一
	備考	使用しない		
参考書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	授業終了後（金曜1限後）に受け付け、内容、日時、場所等を確認、調整する。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	公務員の先輩、知り合いに話を聞くこと、公務員に関するネット検索や書籍購読をすることによって、公務員に関する情報を収集する。（2時間）
	授業内容	オリエンテーションとして、授業スケジュール、成績評価の方法、参考資料などを説明する。 また、担当教員の37年間の公務員生活における働き方を事例として、公務員の職業キャリアを説明する。
	事後学習	講義で説明した担当教員の職業キャリアの事例を参考にして、公務員について自分の考えを整理して、友達と意見交換する。（2時間）
2	事前学習	国、地方の行政機関について、種類、業務などを調べ、基礎知識を得る。（2時間）
	授業内容	国・地方の行政機関について概観し、働いている公務員の状況を説明する。
	事後学習	自分がどのような機関で働きたいか考えたうえで、友達と意見交換する。公務員を志望しない受講者は、本人の志望する職業との関連で公務員の働き方について意見交換する。（2時間）
3	事前学習	骨太2019を読んで、国の政策、予算編成の考え方がどのように示されているのかを理解する。（2時間）
	授業内容	骨太方針策定までの流れを説明し、国の政策立案過程を理解する。
	事後学習	国の政策立案過程、骨太方針の役割を整理し、国の政策立案の在り方について、友達と意見交換する。（2時間）
4	事前学習	働き方改革実現会議の経緯を調べ、働き方改革実行計画を読んで、全体の流れを理解する。（2時間）
	授業内容	担当教員が実務に携わった働き方改革を事例として取り上げ、政府全体にかかわる政策の立案過程について説明する。
	事後学習	働き方改革の流れについて整理し、政府全体にかかわる政策立案について、友達と意見交換する。（2時間）

5	事前学習	昭和60年労働基準法改正の経緯、内容などについて調べて、基礎知識を得る。（公務員の仕事を説明する事例であるので、改正内容を詳しく理解する必要はない）（2時間）
	授業内容	担当教員が法改正の担当係長として携わった、昭和60年労働基準法改正を事例として取り上げ、法改正における法規係長の役割、働き方について説明する。
	事後学習	法改正における実務担当者の役割、働き方を整理して、友達と意見交換する。（2時間）
6	事前学習	平成17年障害者雇用促進法改正の経緯、内容などについて調べて、基礎知識を得る。（公務員の仕事を説明する事例であるので、改正内容を詳しく理解する必要はない）（2時間）
	授業内容	担当教員が法改正の担当部局長として携わった、平成17年障害者雇用促進法改正を事例として取り上げ、法改正における部局長の役割、働き方について説明する。
	事後学習	法改正における実務責任者の役割、働き方を整理して、友達と意見交換する。（2時間）
7	事前学習	衆議院インターネットTV中継にアクセスし、関心のある委員会（予算委員会以外）審議の状況を見て、国会審議の状況を知る。（2時間）
	授業内容	国会業務について、準備段階から審議まで、公務員の業務を中心に説明する。 併せて、県庁における県議会業務について説明する。
	事後学習	国会・議会業務における答弁者、補助者としての公務員の役割を整理して、友達と意見交換する。（2時間）
8	事前学習	平成31年度予算案を調べて、予算の構成、記載事項等を理解する。（予算の内容ではなく、どのようなことが書かれているかを理解すること）（2時間）
	授業内容	予算編成について、各省での検討・調整、財務省の査定、予算案の決定プロセスと、公務員の業務について説明する。
	事後学習	予算編成の流れを理解し、予算編成における公務員の役割について、友達と意見交換する。（2時間）
9	事前学習	関心のある予算を伴う施策を選び、実施状況などを調べる。（2時間）
	授業内容	予算関連施策の実施準備、実施状況の把握、政策評価などについて説明する。
	事後学習	施策の実施過程を理解し、公務員が必要とする能力、留意すべき事項などについて、友達と意見交換する。（2時間）
10	事前学習	関心のある省庁の地方支分部局を選んで、どのような業務を行っているか調べる。（2時間）
	授業内容	労働局を事例として取り上げ、業務内容、所属している職員の状況などを説明する。
	事後学習	地方支分部局の職員の職務内容、働き方を整理し、地方支分部局で働くことについて、友達と意見交換する。（2時間）
11	事前学習	国・地方公共団体における直接国民と接する第一線機関のうちから、関心のある機関を選んで、どのような業務をやっているか、職員はどのような者か調べる。（2時間）
	授業内容	労働基準監督官、ハローワーク職員を事例として取り上げ、第一線機関の業務、所属している職員の状況などを説明する。
	事後学習	第一線機関の役割を理解し、国民と直接かかわる仕事で働くことについて考えを整理して、友達と意見交換する。（2時間）
12	事前学習	県庁・市役所等のうち、関心のある機関について、業務内容、職員の働き方について調べる。（2時間）
	授業内容	秋田県庁に勤務していた経験を踏まえて、国と地方との関係、地方公務員の働き方について説明する。
	事後学習	県庁・市役所の役割を理解し、地方公務員として働くことについて、友達と意見交換する。（2時間）
13	事前学習	ネット検索などによって、公務員に関する様々な情報、評価を収集し、一般的な公務員像を整理する。（2時間）
	授業内容	公務員に求められる資質、能力などについて説明する。
	事後学習	公務員志望者は、自分の目指すべき公務員像とそのために何をするかについて、レポート（2000字以内）をまとめ、提出する。 公務員を志望しない受講者は、あるべき公務員像、公務員の改革すべき点について、レポート（2000字以内）をまとめ、提出する。（2時間）
14	事前学習	国家公務員法・地方公務員法のうち、関心があるものについて、概要を調べる。（2時間）
	授業内容	公務員の賃金、人事評価、昇給・昇格などの人事管理について、制度、運用について説明する。
	事後学習	公務員の人事管理の在り方について、友達と意見交換する。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義を踏まえて、公務員のキャリアについて、整理する。（2時間）
	授業内容	公務員の採用、人事管理、働き方改革などに携わった経験を踏まえて、公務員のキャリアについて、説明する。
	事後学習	行政機関の機能や公務員のキャリアについての理解を踏まえて、公務員を志望するか、別の途を目指すか、自分の考えを整理したうえで、友達と意見交換する。（2時間）

科目名	キャリア・デベロップメントA	担当者	久地楽 雅也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	【AB共通】自分でキャリアを切り開くために、「創造力」を鍛える授業。日常生活の観察・発見と自問自答の発表・対話を通じ、前期は「発想力」、後期は「仕事リテラシー」を学ぶ。崖っぷち日本の若者の生涯は、人口減・長寿化・機械化が常に進行。標準の人生双六は消失。仕事は、マニュアル作業型「他問他答」も、答案穴埋め型「他問自答」も縮む。よって、自主創造型「自問自答」の仕事が人生のカギになる。これを、将来に備えて実践的に学ぶ。			
授業目的・到達目標	【AB通期の目的：創造習慣】「正答のない未来を肯定する力」を育成すること。【前期Aの目標：発想力】テーマ「私のおすすめ商品」（試行編と実践編）の準備と発表を通じ、仕事生活と人間社会を豊かにする＜発想力＞を養成すること。さらに修了後、これを日常生活の習慣として、「仕事生活」に活かすこと。【参考：後期Bの目標：仕事リテラシー】テーマ「身近な自主企画」（試行編と実践編）の準備と発表を通じ、仕事を読む・描く・話す能力である＜仕事リテラシー＞を養成すること。さらに修了後、これを日常生活の習慣として、「企業理解・職業選択・仕事生活」に活かすこと。			
履修条件	【AB共通】今現在、自分の仕事で将来を充実させたい欲求を、もっていることが条件。「自分の仕事と将来像」を文章や絵図で書面（A 4 横置き 1 枚片面）にし、初回授業にコピーを提出。履修人数の制限あり。			
授業方法	【AB共通】学年・学科・専攻を横断した全員参加。クラス／グループ／チーム／個人の各ワークに、レクチャーを交える。 フィードバック：授業内で実施し、発表では、各自の発表直後、あるいは全員の発表終了後に伝える。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	【AB共通】①〔創造点〕発表と提出物（生活手帳の進捗確認など）と小テスト：70% ②〔参加点〕授業参加度：30% ③欠席・遅刻・早退・妨害は、1回2%以上減点。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	1988～	CCCメディアハウス等	アイデアのつくり方	ジェームス・W・ヤング
	1986～	筑摩書房	思考の整理学（ちくま文庫）	外山滋比古
	備考	【A B 共通】上記 2 冊に加えて、日常生活＝教科書 とみなす。		
参考書	【AB共通】適宜、授業中に配布または紹介。			
オフィスアワー	【AB共通】原則として事前予約の上、授業終了直後（水曜 5 限後）の1時間以内に、同じ教室で実施。予約連絡先は、授業の中で告知。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	▼①自分が履修条件を満たすことを確認。②シラバスを読み、意見や質問をもつ。③履修条件をふまえ、「自分の仕事と将来像」を文章や絵図で書面（A 4 横置き 1 枚片面）にし、初回授業にコピーを提出。④教科書 2 冊を「アイデアのつくり方」→「思考の整理学」の順に読み始め、重要箇所直接マークとコメントをつける。（注：後述の「内容理解確認の小テスト」に備える）（2 時間）
	授業内容	●【前期A：発想力】ガイダンス： ①書面の提出と、過去の授業アンケート結果の開示。②名札等の記入。③講師の紹介。④授業概要のキーワード解説（創造力／日常生活の観察・発見／自問自答の発表・対話／発想力・仕事リテラシー／崖っぷち日本／人口減・長寿化・機械化／標準の人生双六／他問他答・他問自答・自問自答）。⑤授業計画の解説。⑥質疑応答。
	事後学習	▲①当授業の特性とキーワードを咀嚼し、将来の自分の仕事生活を展望。②書面「自分の仕事と将来像」を書き直す。（2 時間）
2	事前学習	▼教科書を読み進め、重要箇所に直接マークとコメント。（2 時間）
	授業内容	●生活手帳のつくり方とつかい方（1）： ①教科書読了の進捗確認。②生活手帳による「日常生活の観察・発見」のやりかた。③「日常生活の観察・発見」に関するグループワーク。
	事後学習	▲授業をふまえて、生活手帳の実践にチャレンジ。（2 時間）
3	事前学習	▼教科書を読み進め、重要箇所に直接マークとコメント。（2 時間）
	授業内容	●生活手帳のつくり方とつかい方（2）： ①教科書の読了確認。②生活手帳の進捗確認。③生活手帳によるグループワーク
	事後学習	▲授業をふまえて、生活手帳の実践にチャレンジ。（2 時間）

4	事前学習	▼教科書を読了し、重要箇所のマークとコメントの全体を整理し再読。（2時間）
	授業内容	●発表テーマ「私のおすすめ商品」（試行編と実践編）のオリエンテーション： ①教科書2冊の内容理解確認の小テスト ②発表テーマ「私のおすすめ商品」（試行編と実践編）をオリエンテーションし、今後の準備進行イメージを共有。
	事後学習	▲小テストをふまえ、発表テーマの準備開始。（2時間）
5	事前学習	▼生活手帳を実践。（2時間）
	授業内容	●前期Aの創造力：発想力（1）： ①生活手帳の進捗確認。②発想法：「ブレインストーミング法」「SCAMPER法」 ③発表テーマの進捗確認。
	事後学習	▲授業で学んだ発想法を活かして、生活手帳を実践。（2時間）
6	事前学習	▼発表テーマの準備進行。（2時間）
	授業内容	●前期Aの創造力：発想力（2）： ①生活手帳の進捗確認。②発想法の応用と実践。③発表テーマの進捗確認。
	事後学習	▲授業で学んだ発想法を活かして、生活手帳を実践。（2時間）
7	事前学習	▼①発表テーマの準備進行。（2時間）
	授業内容	●「私のおすすめ商品（試行編）」発表（1）： ①生活手帳の進捗確認。②発表 ③発表テーマ（実践編）の進捗確認。
	事後学習	▲自分と他者の発表を振り返り、良かった点／改良すべき点を抽出し、生活手帳に記述。（2時間）
8	事前学習	▼①生活手帳の実践。②発表テーマの準備進行（2時間）
	授業内容	●「私のおすすめ商品（試行編）」発表（2）： ①生活手帳の進捗確認。②発表 ③発表テーマ（実践編）の進捗確認。
	事後学習	▲自分と他者の発表を振り返り、良かった点／改良すべき点を抽出し、生活手帳に記述。（2時間）
9	事前学習	▼①生活手帳の実践。②発表テーマ（実践編）の準備進行。（2時間）
	授業内容	●スピーチ視聴 ①生活手帳の進捗確認。②優れたスピーチの動画視聴とグループワーク。③発表テーマ（実践編）の進捗確認。
	事後学習	▲スピーチ視聴とグループワークを振り返り、自分の将来ビジョンとして、書面「自分の仕事と将来像」を書き直す。（2時間）
10	事前学習	▼①生活手帳の実践。②発表テーマ（実践編）の準備進行。（2時間）
	授業内容	●「私のおすすめ商品（実践編）」中間発表（1）： ①生活手帳の進捗確認。②中間発表と意見交換・アドバイス（前）
	事後学習	▲自分と他者の発表を振り返り、良かった点／改良すべき点を抽出し、生活手帳に記述。（2時間）
11	事前学習	▼①生活手帳の実践。②発表テーマ（実践編）の準備進行。（2時間）
	授業内容	●「私のおすすめ商品（実践編）」中間発表（2） ①生活手帳の進捗確認。②中間発表と意見交換・アドバイス（後）
	事後学習	▲自分と他者の発表を振り返り、良かった点／改良すべき点を抽出し、生活手帳に記述。（2時間）
12	事前学習	▼①生活手帳の実践。②発表テーマ（実践編）の準備進行。（2時間）
	授業内容	●「私のおすすめ商品（実践編）」発表（1）： ①生活手帳の進捗確認。②発表と質疑応答・アドバイス（前）
	事後学習	▲自分と他者の発表を振り返り、良かった点／改良すべき点を抽出し、生活手帳に記述。（2時間）
13	事前学習	▼①生活手帳の実践。②発表テーマ（実践編）の準備進行。（2時間）
	授業内容	●「私のおすすめ商品（実践編）」発表（2）： ①生活手帳の進捗確認。②発表と質疑応答・アドバイス（後）
	事後学習	▲自分と他者の発表を振り返り、良かった点／改良すべき点を抽出し、生活手帳に記述。（2時間）
14	事前学習	▼①生活手帳の実践。②発表テーマ（実践編）の準備進行。（2時間）
	授業内容	●「私のおすすめ商品（実践編）」発表（3）と講評 ①生活手帳の進捗確認。②発表と質疑応答・アドバイス（再演と予備）
	事後学習	▲自分と他者の発表を振り返り、良かった点／改良すべき点を抽出し、生活手帳に記述。（2時間）
15	事前学習	▼①生活手帳の実践。②シラバスを再読、発想力を活かして、書面「自分の仕事と将来像」を書き直す。（2時間）
	授業内容	●ふりかえりと展望： ①生活手帳の進捗確認。②各自の書面「自分の仕事と将来像」を全員で閲覧。③「発想力を活かして、正答のない未来を肯定する」をテーマに、全員で対話。
	事後学習	▲①生活手帳の実践を習慣にする。②書面「自分の仕事で充実させたい、自分の将来像」を、自分が確信できるように白紙から描き、毎日眺められるよう、自室の壁に貼る。（2時間）

科目名	キャリア・デベロップメントA	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	大学卒業後の進路選択について、指針を示し、自らの希望・能力を考えた職種選択が可能なよう、自己分析、適性評価を行うなど、自らの意志と行動で、職業に就けるようにする。							
授業目的・到達目標	職業の多様化・細分化に伴い、仕事や雇用形態も複雑化している。大学卒業後の進路を、4年次には自らの考えで選択・決定出来る事よう養成することを目的に、自らの力で進路を切り開いて行く力をつけることを目標とする。							
履修条件	共通科目として、法学部全学科学学生が受講可能である。レポート課題・討論などの内容から、特に、マスコミ業界を目指す学生は受講を勧めるが、一般企業、公務員等志望者にも受講可能な内容である。							
授業方法	キャリア・デベロップメントA、B両方受講の方が望ましい。受講生の発言や討論によって授業進め、受講生が、多人数の前で意見表明しやすくする。専門性の高いゲストを呼ぶこともあり、授業毎にリアクションペーパーを書かせる。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%		行わない			
	平常評価		100%		授業中に随時、レポート課題を出す、その提出物評価と授業内の討論、発言も評価対象となる。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	備考		使用しない					
参考書	あるときは、随時、提示する。							
オフィスアワー	月曜～木曜日の13：00～18：00 授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。 対面質問も受けるが、メールで日時予約が条件。							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	仕事をする。仕事に就くとはどういう事か考えてみる。(2時間)
	授業内容	イントロダクション 講義内容と準備
	事後学習	自分はどんな仕事だったらやりたいと思うのか考えてみる。(2時間)
2	事前学習	何故仕事をするか、その意味は何か考える。(2時間)
	授業内容	何故仕事に就くか① 仕事をする意味 正社員・契約社員・総合職・一般職・起業・個人事業主
	事後学習	どんな方向の仕事だったらやりたいか、業界・業種を考える。(2時間)
3	事前学習	好きな仕事が特に好きでなくてもやるか。(2時間)
	授業内容	何故仕事に就くか② 好きな事が仕事になるか。敢えて好きなことは選ばないか。
	事後学習	講座を聴き改めて考察する。(2時間)
4	事前学習	自らどんな仕事に向いているか考察した上で、友人知人に、自分はどんな仕事に向いていると思うか授業前に聞いておく。自らの考えと一致していればよいが、一致していなかった場合は、何故なのか考えていみる。(2時間)
	授業内容	自己分析① 分析の仕方、課題提示 自分はどんな仕事に向いているか。
	事後学習	改めて、自己分析と他人からの意見を総合して、自らの進路を考えてみる。(2時間)

5	事前学習	5年後、10年後、15年後、20年後の自分について、どうありたいか想像してみる。(2時間)
	授業内容	自分の一生を考えてみよう 課題：生涯の青図を描いて発表する。5年後、10年後、15年後、20年後の自分の理想は何かどうありたいか。
	事後学習	他の学生と比較して自らの将来を再考してみる。(2時間)
6	事前学習	友人、知人、親等周りの人に自分はどのような人間で、そういう性格にみえ、どのような人間に捉えられているかを聞く。(2時間)
	授業内容	自己分析② 課題発表 自己紹介①(1人3分間)をする。
	事後学習	他の学生の発表を聞き、自分の自己紹介を改めて考えてみる。(2時間)
7	事前学習	友人、知人、親等周りの人に自分はどのような人間で、そういう性格にみえ、どのような人間に捉えられているかを聞く。(2時間)
	授業内容	自己分析② 課題発表 自己紹介②(1人3分間)をする。
	事後学習	他の学生の発表を聞き、自分の自己紹介を改めて考えてみる。(2時間)
8	事前学習	自らの目指す仕事を大まかでもいいから決める。(2時間)
	授業内容	業界研究 (I) 自らの目指すところとは何か？
	事後学習	講座を聞いてみて、再び自己分析を利用して自分の職業を具体的に考えてみる。(2時間)
9	事前学習	方向が決まれば、業界研究に着手する。(2時間)
	授業内容	業界研究 (II) Web、書籍をはじめキャリアセミナー、OB・OGからの情報を分析する。
	事後学習	情報の整理をする。どんな情報が自分に足りないか、何を得心すべきか整理し、小野情報を得心手法を考える。(2時間)
10	事前学習	インターンシップとは何か概要を調べておく。(2時間)
	授業内容	インターンシップ (I) 行ってみる。試してみる。調べてみる。殆どの企業が3年の夏から秋にかけて行う。
	事後学習	講座を聞き自らの志望する業界のインターンシップを調べ、申し込む。(2時間)
11	事前学習	自らの志望する各企業のインターンシップを調べてみる。(2時間)
	授業内容	インターンシップ (II) インターンシップ経験者の話
	事後学習	インターンシップ経験者の話を聞き、夏に受けられるように準備をする。(2時間)
12	事前学習	法律用語・一般常識の入社試験問題集を見ってみる(2時間)
	授業内容	法学部学生であることと、一般常識 入社試験、面接の常識・非常識
	事後学習	法学部学生として、専門知識がきちんと身についたか。また、改めて自己分析と自己紹介の練習をしておく。(2時間)
13	事前学習	ゲストのプロフィールをよく読み質問を考えておく。(2時間)
	授業内容	ゲストスピーカー招聘① 仕事について。何を目指してきたか、仕事とは何か。 レポート課題発表(7月締切)
	事後学習	ゲストの話の中で実行できるものをすぐ実行に移す。(2時間)
14	事前学習	ゲストのプロフィールをよく読み質問を考えておく。(2時間)
	授業内容	ゲストスピーカー招聘② 仕事について。何を目指してきたか、仕事とは何か。
	事後学習	ゲストの話の中で実行できるものをすぐ実行に移す。(2時間)
15	事前学習	これまでのノートを見直してみる(2時間)
	授業内容	レポートの解説とまとめ、質疑応答
	事後学習	インターンシップが経験できるようにES準備をする。(2時間)

科目名	キャリア・デベロップメントB	担当者	久地楽 雅也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	【AB共通】自分でキャリアを切り開くために、「創造力」を鍛える授業。日常生活の観察・発見と自問自答の発表・対話を通じ、前期は「発想力」、後期は「仕事リテラシー」を学ぶ。崖っぷち日本の若者の生涯は、人口減・長寿化・機械化が常に進行。標準の人生双六は消失。仕事は、マニュアル作業型「他問他答」も、答案穴埋め型「他問自答」も縮む。よって、自主創造型「自問自答」の仕事が人生のカギになる。これを、将来に備えて実践的に学ぶ。			
授業目的・到達目標	【AB通期の目的：創造習慣】「正答のない未来を肯定する力」を育成すること。 【後期Bの目標：仕事リテラシー】テーマ「身近な自主企画」（試行編と実践編）の準備と発表を通じ、仕事を読む・描く・話す能力である＜仕事リテラシー＞を養成すること。さらに修了後、これを日常生活の習慣として、「企業理解・職業選択・仕事生活」に活かすこと。 【参考：前期Aの目標：発想力】テーマ「私のおすすめ商品」（試行編と実践編）の準備と発表を通じ、仕事生活と人間社会を豊かにする＜発想力＞を養成すること。さらに修了後、これを日常生活の習慣として、「仕事生活」に活かすこと。			
履修条件	【AB共通】今現在、自分の仕事で将来を充実させたい欲求を、もっていることが条件。「自分の仕事と将来像」を文章や絵図で書面（A 4 横置き 1 枚片面）にし、初回授業にコピーを提出。履修人数の制限あり。			
授業方法	【AB共通】学年・学科・専攻を横断した全員参加。クラス／グループ／チーム／個人の各ワークに、レクチャーを交える。 フィードバック：授業内で実施し、発表では、各自の発表直後、あるいは全員の発表終了後に伝える。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	【AB共通】①〔創造点〕発表と提出物（生活手帳の進捗確認など）：70% ②〔参加点〕授業参加度：30% ③〔減点〕欠席・遅刻・早退・妨害は、1回2%以上減点。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	1988～	CCCメディアハウス等	アイデアのつくり方	ジェームス・W・ヤング
	1986～	筑摩書房	思考の整理学（ちくま文庫）	外山滋比古
	備考	【AB共通】上記2冊に加えて、日常生活＝教科書 とみなす。		
参考書	【AB共通】適宜、授業中に配布または紹介。			
オフィスアワー	【AB共通】原則として事前予約の上、授業終了直後（水曜5限後）の1時間以内に、同じ教室で実施。予約連絡先は、授業の中で告知。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	▼①自分が履修条件を満たすことを確認。②シラバスを読み、意見や質問をもつ。③履修条件をふまえ、「自分の仕事と将来像」を文章や絵図で書面（A 4 横置き 1 枚片面）にし、初回授業にコピーを提出。④教科書 2 冊を「アイデアのつくり方」→「思考の整理学」の順に読み始め、重要箇所直接マークとコメントをつける。（2 時間）
	授業内容	●【前期A：発想力】ガイダンス： ①書面の提出と、過去の授業アンケート結果の開示。②名札等の記入。③講師の紹介。④授業概要のキーワード解説（創造力／日常生活の観察・発見／自問自答の発表・対話／発想力・仕事リテラシー／崖っぷち日本／人口減・長寿化・機械化／標準の人生双六／他問他答・他問自答・自問自答）。⑤授業計画の解説。⑥質疑応答。
	事後学習	▲①当授業の特性とキーワードを咀嚼し、将来の自分の仕事生活を展望。②書面「自分の仕事と将来像」を書き直す。（2 時間）
2	事前学習	▼教科書を読み進め、重要箇所直接マークとコメント。（2 時間）
	授業内容	●生活手帳の実践（1）： ①教科書の読了確認。②生活手帳による「日常生活の観察・発見」のやりかた。③「日常生活の観察・発見」に関するグループワーク。 ※仕事リテラシーの習得に向け、後期Bの生活手帳では、企画の素材としての観察・発見にフォーカス。
	事後学習	▲授業をふまえて、生活手帳の実践にチャレンジ。（2 時間）
3	事前学習	▼教科書を読み進め、重要箇所直接マークとコメント。（2 時間）
	授業内容	●生活手帳の実践（2）： ①教科書の読了確認。②生活手帳の進捗確認。③生活手帳によるグループワーク ※仕事リテラシーの習得に向け、後期Bの生活手帳では、企画の素材としての観察・発見にフォーカス。
	事後学習	▲授業をふまえて、生活手帳の実践にチャレンジ。（2 時間）

4	事前学習	▼教科書を読了し、重要箇所のマークとコメントの全体を整理し再読。（2時間）
	授業内容	●発表テーマ「身近な自主企画」（試行編と実践編）のオリエンテーション： ①発表テーマ「身近な自主企画」（試行編と実践編）をオリエンテーションし、今後の準備進行イメージを共有。
	事後学習	▲発表テーマの準備開始。（2時間）
5	事前学習	▼生活手帳を実践。（2時間）
	授業内容	●後期Bの創造力：仕事リテラシー（1） ①生活手帳の進捗確認。②仕事リテラシーの解説（前） ③発表テーマの進捗確認。
	事後学習	▲仕事リテラシーを活かして、生活手帳を実践。（2時間）
6	事前学習	▼発表テーマの準備進行。（2時間）
	授業内容	●後期Bの創造力：仕事リテラシー（2）： ①生活手帳の進捗確認。②仕事リテラシーの解説（後） ③発表テーマの進捗確認。
	事後学習	▲仕事リテラシーを活かして、生活手帳を実践。（2時間）
7	事前学習	▼①発表テーマの準備進行。（2時間）
	授業内容	●「身近な自主企画（試行編）」発表（1）： ①生活手帳の進捗確認。②発表（前） ③発表テーマ（実践編）の進捗確認。
	事後学習	▲自分と他者の発表を振り返り、良かった点／改良すべき点を抽出し、生活手帳に記述。（2時間）
8	事前学習	▼①生活手帳の実践。②発表テーマの準備進行（2時間）
	授業内容	●「身近な自主企画（試行編）」発表（2）： ①生活手帳の進捗確認。②発表（後） ③発表テーマ（実践編）の進捗確認。
	事後学習	▲自分と他者の発表を振り返り、良かった点／改良すべき点を抽出し、生活手帳に記述。（2時間）
9	事前学習	▼①生活手帳の実践。②発表テーマ（実践編）の準備進行。（2時間）
	授業内容	●「身近な自主企画（実践編）」の各自の題材候補を決定。
	事後学習	▲自分と他者の題材候補の検討を振り返り、自分の発表に向けて、良かった点／改良すべき点を抽出し、生活手帳に記述。（2時間）
10	事前学習	▼①生活手帳の実践。②発表テーマ（実践編）の準備進行。（2時間）
	授業内容	●「身近な自主企画（実践編）」中間発表（1）： ①生活手帳の進捗確認。②中間発表と意見交換・アドバイス（前）
	事後学習	▲自分と他者の発表を振り返り、良かった点／改良すべき点を抽出し、生活手帳に記述。（2時間）
11	事前学習	▼①生活手帳の実践。②発表テーマ（実践編）の準備進行。（2時間）
	授業内容	●「身近な自主企画（実践編）」中間発表（2） ①生活手帳の進捗確認。②中間発表と意見交換・アドバイス（後）
	事後学習	▲自分と他者の発表を振り返り、良かった点／改良すべき点を抽出し、生活手帳に記述。（2時間）
12	事前学習	▼①生活手帳の実践。②発表テーマ（実践編）の準備進行。（2時間）
	授業内容	●「身近な自主企画（実践編）」発表（1）： ①生活手帳の進捗確認。②発表と質疑応答・アドバイス（前）
	事後学習	▲自分と他者の発表を振り返り、良かった点／改良すべき点を抽出し、生活手帳に記述。（2時間）
13	事前学習	▼①生活手帳の実践。②発表テーマ（実践編）の準備進行。（2時間）
	授業内容	●「身近な自主企画（実践編）」発表（2）： ①生活手帳の進捗確認。②発表と質疑応答・アドバイス（後）
	事後学習	▲自分と他者の発表を振り返り、良かった点／改良すべき点を抽出し、生活手帳に記述。（2時間）
14	事前学習	▼①生活手帳の実践。②発表テーマ（実践編）の準備進行。（2時間）
	授業内容	●「身近な自主企画（実践編）」発表（3）と講評 ①生活手帳の進捗確認。②発表と質疑応答・アドバイス（再演と予備）
	事後学習	▲自分と他者の発表を振り返り、良かった点／改良すべき点を抽出し、生活手帳に記述。（2時間）
15	事前学習	▼①生活手帳の実践。②シラバスを再読、発想力を活かして、書面「自分の仕事と将来像」を書き直す。（2時間）
	授業内容	●ふりかえりと展望： ①生活手帳の進捗確認。②各自の書面「自分の仕事と将来像」を全員で閲覧。③「仕事リテラシーを活かして、正答のない未来を肯定する」をテーマに、全員で対話。
	事後学習	▲①生活手帳の実践を習慣にする。②書面「自分の仕事で充実させたい、自分の将来像」を白紙から描き、自室の壁に貼る。（2時間）

科目名	キャリア・デベロップメントB	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	大学卒業後の進路選択について指針を示し、自らの希望や、能力を考えた職種選択が可能なよう、自己分析、適性評価を行うなど、自らの意志と行動で、職業に就けるようにする。					
授業目的・到達目標	職業の多様化・細分化に伴い、仕事や雇用形態も複雑化している。大学卒業後の進路を、4年次には自らの考えで選択・決定出来る事よう養成することを目的に、自らの力で進路を切り開いて行く力をつけることを目標とする。					
履修条件	共通科目として、法学部全学科学学生が受講可能である。レポート課題・討論などの内容から、特に、マスコミ業界を目指す学生は受講を勧めるが、一般企業、公務員志望者でも受講可能な内容である。					
授業方法	キャリア・デベロップメントA、B両方受講が望ましい。受講生の発言や討論で授業を進める形式で、受講生が自らの考えを多人数の前で表明できる力をつける。討論課題は前週講座で提示。授業毎リアクションペーパーを出させる。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業中に随時、レポート課題を出す、その提出物評価と授業内の討論、発言も評価対象となる。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない				
参考書	必要なときは、講座中、随時提示する。					
オフィスアワー	月曜～木曜日の13：00～18：00 授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。 対面質問も受けるが、メールで日時予約が条件。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	何故仕事をするか社会的意味を論理的に考えておく。（2時間）
	授業内容	イントロダクション 講座の進め方 レポート課題のやりかた
	事後学習	講座を聴き受講計画を立てる。（2時間）
2	事前学習	自ら希望する業種、業界を考えておく。（2時間）
	授業内容	職業について 何故仕事に就くのか
	事後学習	何故仕事に就くのか理由を明確にしておく。（2時間）
3	事前学習	自分はどんな仕事に就くのか、好きな事を仕事にするのか、そうではないのか。考えておく。（2時間）
	授業内容	どんな仕事に就くのか 自己紹介書の配布
	事後学習	講座を聴き自分の進むべき方向を考える。自己紹介書を書く準備をする。（2時間）
4	事前学習	自己紹介書を具体的に書いておく。（2時間）
	授業内容	自分がどんな人間か 自己を知る 課題：自己紹介書を書き、発表する（1人3分間前後）①
	事後学習	他の学生の発表を聴いた上で、自己紹介書を直すべきところがあれば、書き直し推敲する。（2時間）

5	事前学習	自己紹介書を具体的に書いておく。（2時間）
	授業内容	自己紹介書の発表②
	事後学習	他の学生の発表を聴いた上で、自己紹介書を直すべきところがあれば、書き直し推敲する。（2時間）
6	事前学習	改めて自分の書いた自己紹介書を確認しておく。（2時間）
	授業内容	自己紹介書発表の評価
	事後学習	評価を受けて再度自己紹介書の点検と口頭での自己紹介の練習をしておく。（2時間）
7	事前学習	これまでの講座をまとめ、自分の仕事の方向性を考える。好きな事を仕事とするならば、それは何か、その仕事へのアプローチはどうしたらいいか。好きな事を仕事にはしないのであれば、何を仕事として選べばいいか、方向性だけでもはっきりさせておく。（2時間）
	授業内容	あなたが、気になる社会的事象とは リポート課題提示「私と仕事」「気になる出来事」 自らが、世の中で気になっている事と仕事との関係。
	事後学習	リポート締め切りを守って書く。（2時間）
8	事前学習	討論の題について自らの意見をまとめておく。（2時間）
	授業内容	討論① 社会的事象と自らの意見 世の中で起きている事を自分はどうとらえているか。 他の学生の意見の述べ方や表現の仕方も注意深くきいて良い点を参考にする。
	事後学習	討論を受けて他の学生の意見と自らの意見を比較、良い点を取り入れる。（2時間）
9	事前学習	討論の題について自らの意見をまとめておく。（2時間）
	授業内容	討論② 社会的事象と自らの意見 世の中で起きている事を自分はどうとらえているか。 他の学生の意見の述べ方や表現の仕方も注意深くきいて良い点を参考にする。
	事後学習	討論を受けて他の学生の意見と自らの意見を比較、良い点を取り入れる。（2時間）
10	事前学習	討論の題について自らの意見をまとめておく。（2時間）
	授業内容	討論③ 課題と問題解決策 ある問題が発生し、その解決にはどうしたら良いか考え意見を出し合う討論 他の学生の意見の述べ方や表現の仕方も注意深くきいて良い点を参考にする。
	事後学習	討論を受けて他の学生の意見と自らの意見を比較、良い点を取り入れる。（2時間）
11	事前学習	討論の題について自らの意見をまとめておく。（2時間）
	授業内容	討論④ 課題と問題解決策 ある問題が発生し、その解決にはどうしたら良いか考え意見を出し合う討論 他の学生の意見の述べ方や表現の仕方も注意深くきいて良い点を参考にする。
	事後学習	討論を受けて他の学生の意見と自らの意見を比較、良い点を取り入れる。（2時間）
12	事前学習	討論の題について自らの意見をまとめておく。（2時間）
	授業内容	討論⑤ 課題と問題解決策 ある問題が発生し、その解決にはどうしたら良いか考え意見を出し合う討論 他の学生の意見の述べ方や表現の仕方も注意深くきいて良い点を参考にする。
	事後学習	討論を受けて他の学生の意見と自らの意見を比較、良い点を取り入れる。（2時間）
13	事前学習	インターンシップの概要について調べておく（2時間）
	授業内容	インターンシップでは、何を見、なにを見られるか、資格と職業、様々な業態、
	事後学習	（2時間）インターンシップ募集の情報があれば、すぐに対応できるように業界の事やE S の志望理由などの下書きをしておく。
14	事前学習	これまでのノートをまとめておく。（2時間）
	授業内容	授業内 リポート執筆 60分 ノート持ち込可 及びまとめ、振返り
	事後学習	何をどう述べたか、リポート内容の検討をしておく。（2時間）
15	事前学習	改めて自己紹介書や口頭での自己紹介をきちんとできるようにしておく。（2時間）
	授業内容	リポートの解説 講座のまとめと質疑応答
	事後学習	就職活動にすぐに移れるように、志望業界の資料をそろえておく。（2時間）

科目名	キャリア入門	担当者	白川 欽也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、人生の生き方や役割を理解した上で、経済や産業、仕事の内容を学習するとともに職業人としての働き方を把握することを通じて、キャリア（人生と仕事）に関する基礎的な事柄を学習する。					
授業目的・到達目標	大学での学びが社会人になるための準備として重要であることを理解し、充実した大学生活を計画するよう動機付けることを授業目的とし、産業や働くことについての基本的知識を学習し、職業生活に向けての自己の考え方を深められるようになることを到達目標とする。					
履修条件	1年次生、2年次生を対象とする（1年次生優先）。（3年次生、4年次生は履修不可であり、キャリアデザインA、B等を受講すること）					
授業方法	担当教員の講義、演習、発表等を組み合わせて、授業を進める。必要に応じて、講義に関連する資料を紹介する。なお、小テスト（授業内試験）は、試験終了後に解説等を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業内小テスト、レポート、授業への参加度、授業での発表等によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考					
参考書	「キャリア・マネジメントー人材マネジメントの視点から」谷田部光一（晃洋所書房、2010年） 「働くひとのためのキャリア・デザイン」金井壽宏 PHP選書（2002年） その他、授業内で適宜紹介する。					
オフィスアワー	土曜2限授業終了後に、授業講堂にて行う。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業概要、授業目的、授業方法、授業計画、参考書等について理解しておく（2時間）。
	授業内容	ガイダンス 人生における役割、ライフステージについて学習する。
	事後学習	ガイダンスに基づき、今後の自分の受講計画を立てるとともに、ライフステージについて自分なりの考え方をまとめる。（2時間）
2	事前学習	働くことの意味と選択肢について考えておく。（2時間）
	授業内容	働くことの意味と選択肢、働くことを考える
	事後学習	働くことの意味と選択肢について、自分の考え方をまとめる。（2時間）
3	事前学習	大学での学びと自分の強みと弱み、興味について考えておく。（2時間）
	授業内容	大学での学びと自分の将来、自己分析について学習する。
	事後学習	大学での学びと自分自身について、自分の考え方をまとめる。（2時間）
4	事前学習	産業と企業についての基礎知識・動向に関する情報を収集しておく。（2時間）
	授業内容	産業と企業についての基礎知識・動向を学習する。
	事後学習	産業と企業についての考え方を自分なりにまとめる（2時間）

5	事前学習	製造業・建設業についての情報を収集しておく。（2時間）
	授業内容	働くことの意味と理解 製造業・建設業についての基礎知識・動向、仕事の内容や働き方を学習する。
	事後学習	製造業・建設業の動向、仕事の内容等について整理しまとめる。（2時間）
6	事前学習	金融業、電力・通信産業についての情報を収集しておく。（2時間）
	授業内容	働くことの意味と理解 金融業、電力・通信産業についての基礎知識・動向、仕事の内容や働き方を学習する。
	事後学習	金融業、電力・通信産業の動向、仕事の内容等について自分なりの考え方をまとめる（2時間）
7	事前学習	小売業・サービス業について情報を整理しておく。（2時間）
	授業内容	働くことの意味と理解 小売業・サービス業についての基礎知識・動向、仕事の内容や働き方を学習する。
	事後学習	小売業・サービス業の動向、仕事の内容等について自分なりの考え方をまとめる。（2時間）
8	事前学習	公務員について情報を収集し整理しておく。（2時間）
	授業内容	働くことの意味と理解 公務員についての基礎知識・動向、仕事の内容や働き方を学習する。
	事後学習	公務員の状況、仕事の内容等について自分なりの考え方をまとめる（2時間）
9	事前学習	事前にレジメを読み、職業人インタビューについて考察する。（2時間）
	授業内容	職業人インタビューの目的、内容、方法等を学習し、自分がインタビューを行う準備をする。
	事後学習	職業人インタビューに取り組み、その結果をレポートにまとめる。（2時間）
10	事前学習	事前にレジメを読み、職業選択とエンプロイアビリティについて考察する。（2時間）
	授業内容	職業選択とエンプロイアビリティについて学習する。
	事後学習	職業選択とエンプロイアビリティについて自分なりの考え方をまとめる。（2時間）
11	事前学習	事前にレジメを読み、社会人基礎力について考察する。（2時間）
	授業内容	社会人基礎力の意義、能力要素について学習する。
	事後学習	社会人基礎力の意義や能力要素について自分なりの考え方をまとめる。（2時間）
12	事前学習	事前にレジメを読み、キャリアデザインの基礎について、考察する。（2時間）
	授業内容	キャリアデザインの基礎について学習する。
	事後学習	キャリアデザインについて自分なりの考え方をまとめる。（2時間）
13	事前学習	事前にレジメを読み、キャリアデザインの演習の準備を行う。（2時間）
	授業内容	キャリアデザインについての演習を行い、自分のキャリアデザインを行う第一歩とする。
	事後学習	キャリアデザインについて自分なりの考え方をまとめる。（2時間）
14	事前学習	事前にレジメを読み、働くことと法律について考察する。（2時間）
	授業内容	働くことと法律について学習する。
	事後学習	働くことと法律について自分なりの考え方をまとめる。（2時間）
15	事前学習	事前にレジメを読みキャリアデザインとライフデザインについて考察する。（2時間）
	授業内容	キャリアデザインとライフデザインについて学習する。
	事後学習	キャリアデザインとライフデザインについて自分なりの考え方をまとめる。（2時間）

科目名	共通科目特論 A	担当者	大熊 圭子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	【思考方法論】 法科大学院適性試験、公務員試験などでは、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうか問われる。本講座では、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるこのような力について学習する。特に試験で出されるような問題を解くための知識を学びながら、問題を解く力（論理的な思考力）を身につけていく。					
授業目的・到達目標	法科大学院適性試験や公務員試験等で必要となる論理的思考力を有する学生を育成することを目的とする。 論理的思考方法とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できるようになること、また実際にそのような思考方法を用いて様々な問題（試験問題も含む）を論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察し解決策を見出すことができるようになることを目標とする。（対応DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4）					
履修条件	特になし					
授業方法	論理的思考法について講義、理解を深め知識を確実なものとするための演習問題（課題）を交互に行っていく。 提出した課題は翌週に解説を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%		毎回行う課題と授業内で行うまとめの総合問題（80%）、および授業参加度（20%）で総合評価	
	平常評価		100%			
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用せず。授業内でプリントを配布。				
参考書	野内良三『実践ロジカル・シンキング入門』大修館書店 野矢茂樹『新版論理トレーニング』産業図書					
オフィスアワー	水曜日 18:00～19:00 研究室（本館8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。 okuma.keiko@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認する。公務員試験や法科大学院適性試験でどのような問題が出されているか調べる。（2時間）
	授業内容	思考方法論とは（ガイダンス） 授業内容、スケジュール、成績評価などの説明
	事後学習	授業内容を確認し、他の履修予定科目との関連性等を考え、自分の学習計画を立てる。（2時間）
2	事前学習	授業内容をシラバスで再確認する。 論理的思考とはどのようなものか、自分なりに考えておく。（2時間）
	授業内容	命題、演繹と推測について
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習する。命題とは何か、演繹と推測の違いについて説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。矛盾とは何か、自分なりに考えておく。（2時間）
	授業内容	真と偽、矛盾と反対、定言命題とは、ヴェン図の基礎
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習する。（2時間）
4	事前学習	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。特にヴェン図の書き方をしっかりと復習しておく。（2時間）
	授業内容	ヴェン図を用いての判断、仮言命題と選言命題
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習する。定言、仮言、選言命題の違いを説明できるか確認する。（2時間）

5	事前学習	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。ジレンマとは何か、ジレンマに陥るとはどのような状況か、友達と話し合ってみよう。（2時間）
	授業内容	両刀論法、条件連鎖
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習する。両刀論法における注意点を明確にしておこう。（2時間）
6	事前学習	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。対偶について復習しておく。（2時間）
	授業内容	条件連鎖（続き）、ド・モルガンの法則、消去法
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習する。特に、逆・裏と対偶のの違い、ド・モルガンの法則について説明できるか確認する。（2時間）
7	事前学習	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。消去法とはどのようなものか復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	消去法（続き）、背理法、存在文がある条件連鎖
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習する。存在文とはどのような分であったか明確に説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。特に存在文を含む条件連鎖についてしっかりと復習し、理解できているか確認する。また、ヴェン図についても復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	存在文がある条件連鎖（続き）、ヴェン図を使った判断
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習する。特にヴェン図を用いた判断ができるかどうかいろいろな問題を用いて復習する。（2時間）
9	事前学習	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。ヴェン図による判断が確実にできるようにしておく。（2時間）
	授業内容	条件連鎖とヴェン図（続き）、命題論理概要
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習する。これまでに出来た定言命題と命題論理との違いを明確に説明できるようにする。（2時間）
10	事前学習	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。命題論理で用いる記号について復習しておく。（2時間）
	授業内容	真理表について
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習する。特に真理表とは何か、その見方について説明できるか確認する。（2時間）
11	事前学習	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。命題・推理・妥当な推理などこれまでに学習してきた主な用語について説明できるか確認する。（2時間）
	授業内容	真理値分析、命題論理応用問題
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習する。真理値分析が確実にできるようにすること。（2時間）
12	事前学習	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。（2時間）
	授業内容	命題論理応用問題をトライ
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習し、命題論理学の問題に出てくる言葉の意味について理解できているか確認する。（2時間）
13	事前学習	これまでの授業内容における不明点をすべて明らかにし、ノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	復習、不明点に関する解説
	事後学習	ノートを参考にこれまでの授業内容をすべて復習し、さらなる不明な点がないか確認する。（2時間）
14	事前学習	これまでの授業内容を復習をする。特に難しかったところは、授業内で行った問題に再度取り組んでみる。（2時間）
	授業内容	講義全体の振り返り、および理解度の確認のための総合問題を行う
	事後学習	ノートを参考に総合問題でできなかったところ、不安なところを確認し復習しておく。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業内容における不明点、および総合問題での不明点を明らかにしておく。（2時間）
	授業内容	講義全体のふり返し 総合問題の解説
	事後学習	授業内容全体を復習し、公務員試験などの問題集に取り組んでみよう。（2時間）

科目名	共通科目特論 B	担当者	大熊 圭子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	【思考方法論】 法科大学院適性試験、公務員試験などでは、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうか問われる。こういった力は、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものである。そこで本講座では、このような論理的判断力・分析的判断力等を養っていき、特に立論や批判について理解し、それを十分に行えるような力をつけていく。				
授業目的・到達目標	法科大学院適性試験や公務員試験等で必要となる論理的思考力を有する学生を育成することを目的とする。 論理的思考方法とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できるようになること、また実際にそのような思考方法を用いて様々な問題（試験問題も含む）を論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察し解決策を見出すことができるようになることを目標とする。（対応DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4）				
履修条件	前期に開講する共通科目特論A【思考方法論】を履修していることが望ましい。				
授業方法	論理的思考法について講義、理解を深め知識を確実なものとするための演習問題（課題）を交互に行っていく。 提出した課題は、翌週に解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	毎回行う課題と授業内で行うまとめのテスト（80％）、および授業参加度（20％）で総合評価	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用せず。授業内でプリントを配布。			
参考書	野内良三『実践ロジカル・シンキング入門』大修館書店 野矢茂樹『新版論理トレーニング』産業図書				
オフィスアワー	水曜日 18:00～19:00 研究室（本館8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。 okuma.keiko@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読む。前期科目の共通科目特論A【思考方法論】のシラバスもよく読んでおく。公務員試験や法科大学院適性試験で出されている問題を調べておく。（2時間）
	授業内容	思考方法論とは（共通科目特論A【思考方法論】概要） 授業内容、スケジュール、精製評価などの説明
	事後学習	授業内容を確認し、他の履修予定科目との関連性等を考え、自分の学習計画を立てる。（2時間）
2	事前学習	授業内容をシラバスで再確認しておく。 論証とは何か、調べておこう。（2時間）
	授業内容	論証とは
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習する。論証に関連する様々な用語について確実に理解・説明できるようにしておく。（2時間）
3	事前学習	前回の授業内容における不明点を明らかにし、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	論証の前提・支持について
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習する。特に論証の構造について確認し、前提や支持となる主張との関連性について説明できるようにする。（2時間）
4	事前学習	前回の授業内容における不明点を明らかにし、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	論証の前提・支持についての問題
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習する。授業内で行った課題について見直し、正解と不正解の違いが何かを明確に説明できるようにする。（2時間）

5	事前学習	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。批判をするとはどんなことを述べることを自分なりに考え、また友達と話し合ってみよう。(2時間)
	授業内容	批判とはなにをすることか
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習する。批判と批判もどきの違いを明確に説明できるか確認する。(2時間)
6	事前学習	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。(2時間)
	授業内容	批判する
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習する。新聞などを読んで、ある主張を取り出しそれを批判してみよう。(2時間)
7	事前学習	前回の授業内容における不明点、および事後学習において不明な点を明らかにし、まとめておく。(2時間)
	授業内容	批判に関する演習問題
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習する。新聞などを読んで、ある主張を取り出しそれを批判してみよう。(2時間)
8	事前学習	前回の授業内容における不明点、および事後学習において不明な点を明らかにし、まとめておく。(2時間)
	授業内容	批判に関する応用問題
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習する。新聞などを読んで、ある主張を取り出しそれを批判し、さらにその批判について批判してみよう。(2時間)
9	事前学習	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。前提、支持、批判となる主張についてしっかりと復習しておく。(2時間)
	授業内容	対立する議論、論理的誤謬について
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習する。何をもって対立とするのか、明確に説明できるようにしておく。(2時間)
10	事前学習	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。批判について再度復習しておく。(2時間)
	授業内容	論証に関する様々な問題を解く
	事後学習	ノートを参考にこれまでの授業内容を復習する。(2時間)
11	事前学習	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。(2時間)
	授業内容	立論・異論・批判とは
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習する。立論・異論・批判の説明が確実にできるようにしておく。できるかどうか、ノートに自分の言葉でまとめてみよう。(2時間)
12	事前学習	前回の授業内容における不明点を明らかにしておく。(2時間)
	授業内容	立論・異論・批判に関連する様々な問題を解く
	事後学習	ノートを参考に授業内容を復習する。不明点がないようにしておくこと。(2時間)
13	事前学習	これまでの授業内容における不明点を明らかにしノートにまとめておく。授業内で行った課題につて、不正解の解答についてもなぜ不正解なのか説明ができるか確認しておく。(2時間)
	授業内容	復習、不明点に関する解説
	事後学習	ノートを参考にこれまでの授業内容を復習し、さらなる不明点がないか確認する。(2時間)
14	事前学習	これまでの授業内容を復習する。特に難しかったところは、授業内で行った問題に再度取り組んでみる。(2時間)
	授業内容	講義全体の理解度の確認、および確認のための総合問題を行う
	事後学習	ノートを参考に総合問題でできなかったところ、不安なところを確認し復習しておく。(2時間)
15	事前学習	これまでの授業内容における不明点、および総合問題での不明点を明らかにし、ノートにまとめておく。(2時間)
	授業内容	講義全体のふり返し 総合問題の解説
	事後学習	授業内容全体を復習し、法科大学院適性試験などの問題に取り組んでみよう。(2時間)

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	今福 啓	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義ではMicrosoft Wordを使い、図、表、グラフ、計算式の作成方法を学びます。長文の作成に必要な見出し番号、図表番号、目次の設定方法も学びます。またMicrosoft Excelを使い、データの合計、平均の計算、グラフ作成、必要なデータの抽出、まとめ直しといったデータ操作を学びます。				
授業目的・到達目標	大学のレポート作成に必要な基礎的な知識ではなく、一般社会で要求される実用的なWord、Excelの操作技術を身につけることを目的とし、それらの技術を活用できるようになることを目標とします。				
履修条件	キーボードを使った文字入力、ファイルのコピー、ファイル名の変更といった基本的なコンピュータの操作ができることを条件とします。				
授業方法	コンピュータ教室で、Microsoft WordとExcelを使った実習形式で行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義時間内に作成するレポート課題の内容により判断します。具体的なレポート課題の作成方法と成績の評価方法は、講義の1回目に説明します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用しません。授業計画にしたがって、講義中に実習で使用するExcelおよびPDFファイルを配布します。			
参考書	立田ルミ、今福啓、堀江郁美『実践に役立つ情報処理―基礎から応用まで―』日経BP社（2018）				
オフィスアワー	keiimafuku@gmail.comまでメール、または木曜3、4限の講義後をお願いします。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	講義でどのような内容を学ぶのか、シラバス全体に目を通して理解する。（2時間）
	授業内容	講義で学ぶ内容、講義の進め方、講義の準備、授業評価について
	事後学習	講義で使用する資料の配布、使用方法を確認する。授業の進め方と評価方法を確認する。（2時間）
2	事前学習	Microsoft Wordとはどのようなソフトウェアであるのかを調べる。（2時間）
	授業内容	文章作成、全体的なレイアウトの調整
	事後学習	文章を入力して全体を整える機能を復習する。（2時間）
3	事前学習	Wordで図、表、グラフをどのように作成するのか調べる。（2時間）
	授業内容	図、表、グラフを作成する
	事後学習	Wordで作成できる図の種類を調べる。表を作成して整形する方法を復習する。作成できるグラフの種類を調べる。（2時間）
4	事前学習	文章の章、節をどのように設定することが望ましいのかあらかじめ考えておく。（2時間）
	授業内容	数式の入力、章や節の番号、図表や数式番号を自動で設定する。
	事後学習	章番号、節番号を自動で設定する機能の使い方を復習する。（2時間）

5	事前学習	セクション区切りの機能がどのようなものであるのか調べる。（2時間）
	授業内容	セクション区切りを使いこなす
	事後学習	セクション区切りで何を行っているか、利用することでどのような利点があるのか調べる。（2時間）
6	事前学習	目次とはどのようなものか、参考文献がどのようなもので、なぜ必要なか調べる。（2時間）
	授業内容	目次の自動作成、参考文献の一覧を作る
	事後学習	さまざまな目次の種類、参考文献一覧を調べる。（2時間）
7	事前学習	第2回～第6回の講義で学んだ内容を復習する。（2時間）
	授業内容	総合課題の作成：Microsoft Word
	事後学習	総合課題で作成した内容のうち、理解が不十分であった点を復習する。（2時間）
8	事前学習	Microsoft Excelとはどのようなソフトウェアであるのかを調べる。（2時間）
	授業内容	データ入力、計算式、相対参照、絶対参照
	事後学習	計算式で使う「相対参照」「絶対参照」とはどのようなものであるのかを確認する。（2時間）
9	事前学習	Excelの関数とはどのようなものであるのかを調べる。（2時間）
	授業内容	関数を使った計算
	事後学習	「関数」の使い方と種類を確認する。（2時間）
10	事前学習	Excelでのグラフ作成方法を調べる。（2時間）
	授業内容	グラフの作成
	事後学習	グラフの作成方法を確認する。グラフにはどのような種類があるのか、「複合グラフ」とはどのように作成するのかを確認する。（2時間）
11	事前学習	データ処理において、並べ替えや抽出が必要となる理由を調べる。（2時間）
	授業内容	データの並べ換えと抽出：ソート、フィルタ
	事後学習	「2つ以上のキー」で並べ換える方法と、フィルタで「必要なデータのみ表示する方法」「元データはそのままに、必要なデータをシートに抽出する方法」を確認する。（2時間）
12	事前学習	「クロス集計」とは何であるのかを調べる。（2時間）
	授業内容	データの集計：ピボットテーブル、小計
	事後学習	同様の集計方法である「ピボットテーブル」と「小計」の違いを確認する。（2時間）
13	事前学習	Excelの「マクロ」と「VBA」とは何であるのかを調べる。（2時間）
	授業内容	操作の自動化：マクロ
	事後学習	マクロを使い、どのように操作を記録して使うのかを確認する。マクロがVBAとして記録されていることを確認する。「マクロを含んだファイルを保存する形式」を確認する。（2時間）
14	事前学習	第8回～第13回の講義で学んだ内容を復習する。（2時間）
	授業内容	総合課題の作成：Microsoft Excel
	事後学習	総合課題で作成した内容のうち、理解が不十分であった点を復習する。（2時間）
15	事前学習	この講義で学んだすべての内容を復習する。（2時間）
	授業内容	講義のまとめ：期末レポート課題の作成と解説
	事後学習	レポート課題の作成で、理解が不十分となっていた点を復習する。（2時間）

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、この「情報活用能力」を高めるため、PCの様々な操作方法を学習し社会で活躍できる人材の育成を目指す。				
授業目的・到達目標	【授業目的】現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付ける。Word、Excelの基本的操作方法を学び、PowerPointについては、プレゼンテーション資料の作成と利用方法を学習する。また、ファイルの管理方法や、PCによる電子メール送受信のリテラシーを養成することを目的とする。 【到達目標】1. PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について理解できる。2. インターネットや電子メールの基本を理解し、安全に使いこなせるようになる。3. Word、Excelの基本的操作方法を理解できる。4. PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成と利用方法を理解できる。以上のことを目標とする。				
履修条件	わかりやすい授業を心掛けており、コンピュータ初心者でも可。				
授業方法	PC教室でコンピュータを利用した演習を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる。 授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施（50%） 授業に対する姿勢・提出物等で総合的に評価（50%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付・提示する。			
参考書	講義中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	火曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。） 研究室（本館6階601） メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ID、パスワードを事前に確認しておく、事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	法学部情報システムの利用法、講義計画、成績評価方法
	事後学習	PCの基本構造について復習する（2時間）
2	事前学習	最近のネットにおける問題点を調べておく（2時間）
	授業内容	情報モラルとセキュリティ（ウィルス、スパイウェア）
	事後学習	情報モラルやセキュリティ問題について復習する（2時間）
3	事前学習	スマートフォンとPCの違いを調べておく（2時間）
	授業内容	インターネットによる情報検索（収集、加工、分析、評価）、Eメール利用、ファイル添付
	事後学習	情報の利用について復習する（2時間）
4	事前学習	ビジネス文書の体裁を調べておく（2時間）
	授業内容	Microsoft Word 1（基本操作、ファイル管理、保存）
	事後学習	Wordの基本操作を再確認する（2時間）

5	事前学習	前回保存したファイルを開き、基本操作を確認する（2時間）
	授業内容	Microsoft Word 2（PC画面のキャプチャ、マニュアル作成）
	事後学習	PC画面をキャプチャし、簡単なマニュアルを作成する（2時間）
6	事前学習	前回保存したファイルを開き、画面のキャプチャを確認する（2時間）
	授業内容	Microsoft Word 3（罫線、図、図形、画像）
	事後学習	罫線を使って時間割表を作成する（2時間）
7	事前学習	前回保存したファイルを開き、罫線等を確認する（2時間）
	授業内容	Microsoft Word 4（論文書式：脚注、段組み、ページ番号、PDFファイル）
	事後学習	書式の機能を復習する（2時間）
8	事前学習	表計算ソフトについて調べておく（2時間）
	授業内容	Microsoft Excel 1（基本操作・表計算）
	事後学習	Excelの基本操作を再確認する（2時間）
9	事前学習	Excelの関数について調べておく（2時間）
	授業内容	Microsoft Excel 2（関数：SUM, AVERAGE, RANK）
	事後学習	表作成の機能を復習する（2時間）
10	事前学習	Excelの関数について調べておく（2時間）
	授業内容	Microsoft Excel 3（関数：IF, 棒グラフ作成）
	事後学習	グラフ作成の機能を復習する（2時間）
11	事前学習	グラフの種類と役割についてしらべておく（2時間）
	授業内容	Microsoft Excel 4（2軸グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、複合参照）
	事後学習	各グラフ作成の機能を復習する（2時間）
12	事前学習	データベースについて調べる（2時間）
	授業内容	Microsoft Excel 5（データベース機能）
	事後学習	機能について復習する（2時間）
13	事前学習	作成テーマについて検討しておく（2時間）
	授業内容	Power Point 1（基本操作・プレゼンテーション作成）
	事後学習	課題作成を進める（2時間）
14	事前学習	プレゼンテーション資料の作成確認（2時間）
	授業内容	Power Point 2（効果的な利用法）
	事後学習	課題作成を進める（2時間）
15	事前学習	学習内容の再確認（2時間）
	授業内容	総まとめ、解説
	事後学習	作業内容について復習する（2時間）

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	谷川 由紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講座では、情報活用の実践力（課題や目的に応じて、コンピュータやインターネット等の情報手段を活用し、必要な情報を収集・分析・解釈・創造・表現するとともに、受け手の状況を踏まえて発信・伝達を行うスキル）を、基礎的な知識の学習とコンピュータやインターネットを活用した実習による課題作成を通じて育成する。				
授業目的・到達目標	本講座では、情報活用の実践力（課題や目的に応じて、コンピュータやインターネット等の情報手段を活用し、必要な情報を収集・分析・解釈・創造・表現すると共に、受け手の状況を踏まえて発信・伝達を行うスキル）を育成することを目的とする。講座を通じて、データまたは情報を整理・分析し、受け手に理解しやすい文書にまとめるための基本的な考え方や方法を知ると共に、それらの知識を適用した情報の分析や解釈、また創造・表現・伝達が、コンピュータやインターネットを活用して実際にできるようになることを目標とする。				
履修条件	特になし。				
授業方法	実習による課題作成を中心として授業を進める。課題内容に応じて、必要な講義を行う。授業内で作成課題へのフォローアップを実施。毎時間振り返りシート（リアクションペーパー）提出、次の授業時に必要なフォローアップを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	各学習項目(シリーズ)単位での課題(作品またはレポート)提出を課す。全課題提出の上で、課題要件の充足度、課題別の目標達成度、授業への参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特に定めない。講義時に課題、参照資料等のプリントを配布する。			
参考書	必要に応じ、講義時に紹介する。				
オフィスアワー	金曜 10:30～ 授業終了後の講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、講座全体を概観する。ColnetのユーザIDとパスワードを確認する。（2時間）
	授業内容	社会が求める能力とは、情報活用の実践力、 授業計画と評価方法
	事後学習	講座オリエンテーションの内容（授業目的、計画、評価方法等）を再確認する。 「情報活用の実践力」について、Webサイト等を活用して調べてみる。（2時間）
2	事前学習	「理解しやすい資料の作成（MS-Word）」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。MS-WORDの起動方法、編集画面、文字入力方法を確認し、実際に操作してみる。（2時間）
	授業内容	コンピュータとネットワークの活用 理解しやすい資料の作成（MS-Word）(1)：見本にそった2種類の資料作成 作成を通じて、資料作成に必要なMS-WORDの基本操作を習得・確認する。
	事後学習	1種類目の資料作成を完了する。2種類目の資料に未着手の場合は、1種類目の資料と比較しながら資料（見本）の全体像を把握する。（2時間）
3	事前学習	1種類目の資料と2種類目の資料を比較検討して、ワークシート（異なる編集方法による資料の比較）に記入する。（2時間）
	授業内容	理解しやすい資料の作成（MS-Word）(2)： ワークシートを基にしたグループ討議、理解しやすい資料作成のための方法（講義） グループ討議と講義をもとに、理解しやすい資料に必要な要件とそのための方法について考える。
	事後学習	講義内容を復習する。（2時間）
4	事前学習	2種類目の資料の見本を確認すると共に、操作ガイドを参照して資料の凡その作成方法を掴む。（2時間）
	授業内容	理解しやすい資料の作成（MS-Word）(3)： 見本にそった2種類の資料作成、テーマをもとにした資料作成 資料作成に必要なMS-WORDの基本操作を習得・確認する。さらに、これまでの授業で学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を、資料作成に応用する。
	事後学習	見本にそった資料作成で課した2種類目の資料の作成が終わっていない場合は完了する。（2時間）

5	事前学習	課題：テーマをもとにした資料作成に必要な調査・情報収集を行う。また、「理解しやすい資料作成のための方法」をどのように資料作成に適用するかを構想を練る。（2時間）
	授業内容	理解しやすい資料の作成（MS-Word）（4）：テーマをもとにした資料作成 これまでの授業で学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を資料作成に応用する。
	事後学習	テーマをもとにした資料作成の課題が終わっていない場合は作成完了する。（2時間）
6	事前学習	作成資料に対する自己評価シートを記入する。評価観点に対して不十分と自己評価した場合には、資料を修正する。（2時間）
	授業内容	理解しやすい資料の作成（MS-Word）（5）：受講者間での作成資料の相互評価 作成した資料に対する他者からのフィードバックを得ること、また他者の資料を見てフィードバックすることを通じて「理解しやすい資料作成の観点」を再考する。
	事後学習	相互評価でのコメントを受けて、修正すべき点を検討し、資料をブラッシュアップして提出する。（2時間）
7	事前学習	「データの分析と解釈（MS-Excel）」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。MS-Excelの起動方法、基本画面を確認し、実際に操作してみる。（2時間）
	授業内容	データの分析と解釈（MS-Excel）（1）： データ分析の基本的な考え方（講義）、課題説明、分析対象データのExcelへの入力 データ分析の概要：何のためにどのようなことをするのか、を学習する。表計算ソフトであるMS-Excelの特徴と基本操作を習得する。
	事後学習	講義内容を復習すると共に、課題シートを再読して課題全体を概観する。MS-Excelの基本操作を復習する。（2時間）
8	事前学習	分析対象データのExcel入力を完了する。（2時間）
	授業内容	データの分析と解釈（MS-Excel）（2）：測定項目毎の特徴の分析（数式、関数の活用） Excelの数式や関数を用いて、平均や分散などの値を算出する方法を習得する。算出値をもとに、講義内容を活用して、測定項目別の特徴を考察する。
	事後学習	測定項目毎に、平均や分散など指示した値の算出を完了する。（2時間）
9	事前学習	講義内容を参考に、算出した値（平均や分散など）からわかる測定項目毎の特徴をピックアップする。（2時間）
	授業内容	データの分析と解釈（MS-Excel）（3）：測定項目毎の特徴の分析（ヒストグラムの活用） Excelによる度数分布表およびグラフの作成方法を習得する。作成したグラフ（ヒストグラム）をもとに、講義内容を活用して、測定項目別の特徴を考察する。
	事後学習	測定項目毎のヒストグラム作成が終わっていない場合は完了する。（2時間）
10	事前学習	講義内容を参考に、ヒストグラムからわかる測定項目毎の特徴をピックアップする。（2時間）
	授業内容	データの分析と解釈（MS-Excel）（4）：測定値の比較分析（偏差値の活用） 学んだExcel操作を応用して、各測定値の標準化（偏差値算出）する。偏差値をもとに、講義内容を活用して、各測定値の特徴を考察する。
	事後学習	各測定値に対する偏差値の算出および指示したグラフ作成を完了する。（2時間）
11	事前学習	講義内容を参考に、指示した測定値について、偏差値やグラフからわかる特徴をピックアップする。（2時間）
	授業内容	データの分析と解釈（MS-Excel）（5）：分析レポートの作成 考察してきた測定項目別の特徴、各測定値の特徴を整理して、分析レポートを作成する。
	事後学習	分析レポートの作成を完了し、提出する。（2時間）
12	事前学習	「効果的に企画内容を伝える（MS-PowerPoint）」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。MS-PowerPointの起動方法、基本画面を確認し、実際に操作してみる。（2時間）
	授業内容	効果的に企画内容を伝える（MS-PowerPoint）（1）：企画書をもとにしたプレゼンテーション資料の作成 課題全体（目的と取り組み内容）を概観する。プレゼンテーション作成の基とする企画書を確認し、プレゼンテーション資料の構想を練る。MS-PowerPointの特徴と基本操作を習得する。
	事後学習	プレゼンテーション資料の構想がまとまっていない場合、企画書をもとに訴求点を決め掲載情報の絞込みを行う。MS-PowerPointの基本操作を復習する。（2時間）
13	事前学習	プレゼンテーション資料作成に必要な写真やイラスト等の参考資料を集める。（2時間）
	授業内容	効果的に企画内容を伝える（MS-PowerPoint）（2）：企画書をもとにしたプレゼンテーション資料の作成 資料作成に必要なMS-PowerPointの基本操作を習得する。構想にそって、プレゼンテーション資料を作成する。
	事後学習	プレゼンテーション資料の作成を完了する。（2時間）
14	事前学習	課題シートを再読し、口頭発表の要件（時間他）を確認する。プレゼンテーション資料をもとに、ページ毎に伝えたい点をピックアップする。（2時間）
	授業内容	効果的に企画内容を伝える（MS-PowerPoint）（3）： プレゼンテーション資料にそった発表シナリオ作成、口頭発表時の留意点（講義） 口頭発表の際の留意点を踏まえて、発表シナリオを作成する。シナリオを考慮して、プレゼンテーション資料に修正を加える。
	事後学習	プレゼンテーション資料および発表シナリオの作成を完了し提出する。（2時間）
15	事前学習	プレゼンテーション（口頭発表）の練習をする。（2時間）
	授業内容	効果的に企画内容を伝える（MS-PowerPoint）（4）：企画プレゼンテーションと受講者間での相互評価 講座全体のまとめ 他者からフィードバックを得ること、また他者にフィードバックすることを通じて「効果的なプレゼンテーションの観点」を考える。
	事後学習	講義資料、作成課題等を見直して、これまでの授業全体を振り返り、講座を通じて学んだことを確認する。（2時間）

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	土屋 正寿	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	基礎的な情報理論、コンピュータ理論の講義を行い、併せて大学生に必要なアカデミックスキルを確認し実習に入る。実習基礎編でWord、Excel、PowerPointの基本操作を確認する。実習応用編ではWordを使った論文・レポートの作成、PowerPointによる論文の口頭発表、Excelによる統計解析などの実習を行う。実習はAが論文の作成、Bが口頭発表を重点とするのでA・B併せての履修も有益。				
授業目的・到達目標	大学における知的活動（＝情報処理：情報の収集、情報の評価と分析、情報の創造と発信）に必要な共通の作法や技法すなわちアカデミックスキルを理解し、これに必要不可欠なコンピュータやインターネットなど情報通信技術（ICT）の基本原理と効率的な利用技術を修得し様々な分野で活躍できる人材を育成することを目的とする。ICTを駆使し、必要な情報にアクセスし、それを的確に評価分析し、その結果を論理的な文章としてとりまとめ、効果的なプレゼンテーションを行うことが出来るようになることを到達目標とする。				
履修条件	初歩的な情報理論、コンピュータの基本操作を確認した後、講義、実習を進めるので特段の予備知識や経験は要しない。なお実習に関してはAが論文骨子の作成、Bが口頭発表を重点とするのでA・B通しての履修も有益。				
授業方法	講義と実習を適宜組み合わせる。授業内で1、2回の確認テストを行う。実習は原則としてマイクロソフトオフィスの主要アプリを利用する。論文骨子、口頭発表、確認テストに関する講評・解説は授業内で行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	実施せず	
	平常評価		100%	論文(骨子)、口頭発表、授業内確認テスト、授業中の発言や実習の結果などから総合的に評価する	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	授業中に指定する			
参考書	授業中に随時紹介				
オフィスアワー	授業前後に質問を受け付ける。土曜日12：10～12：40、授業講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	各回の授業の最後に次回の授業項目について指定するので、自分の知識の確認と必要な項目の予習を行うこと。初回はシラバスを確認し講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス】講義の目的、講義計画・成績評価の方法、実習テキスト、参考書などの紹介を行い、受講生が事前・事後の学習を具体的に行えるようにする。
	事後学習	前回授業内容を理解していることを前提に授業を進めるので、ポイントの復習を怠らないこと。特に実習項目については自ら再度実行することで理解度が格段に上がる。ガイダンスを踏まえ自分のICTの知識、コンピュータのスキルとの関連から重点項目を認識する。（2時間）
2	事前学習	自らのICTに関する知識を確認し疑問点などを抽出する。（2時間）
	授業内容	情報通信技術（ICT）の概要：情報処理の基礎理論とコンピュータの歴史と動作原理の解説。
	事後学習	コンピュータの歴史、ノイマン型、デジタル化（標準化と量子化）、情報量（ビットとバイト）、コンピュータの動作原理、OSとアプリなど基本概念・用語の確認をして自ら説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	ICTと社会に係る最近の課題について事前に調査、情報収集する。（2時間）
	授業内容	情報通信技術（ICT）と社会：情報セキュリティ、個人情報保護、知的財産の保護、ネット利用の留意点などの解説。講義の後、後半に授業内テスト（ICTと情報処理の基礎に係る確認テスト）を実施。
	事後学習	健全なネット利用に不可欠な情報セキュリティや知的財産の保護などの基本知識を再確認する。（2時間）
4	事前学習	自らのコンピュータに係る知識を確認する。（1時間）
	授業内容	【実習基礎編1】 コンピュータの基本操作の確認： Windowsの基本操作、基本的な文書作成（Word）、口頭発表用スライドの作成（PowerPoint）
	事後学習	実習の事後学習については実際にコンピュータを動かしながら確認することが重要。Windowsの基本操作とWordやPowerPointの基本についてコンピュータを動かして再確認する。（3時間）

5	事前学習	自らのExcelに係る知識を整理確認し授業に臨む。（1時間）
	授業内容	【実習基礎編2】 コンピュータの基本操作の確認： データ集計・整理・分析、グラフの作成、データベース機能の活用（Excel）
	事後学習	Excelの三大機能（表計算、グラフ、データベース）の基本を再確認する。（3時間）
6	事前学習	コンピュータやスマートフォンなどによるインターネットの利用について自らのイメージをまとめる。（2時間）
	授業内容	【アカデミックスキル1（情報の収集）】インターネット上の情報利用の留意点、インターネット上のデータのインポート、図書館の活用について講義。
	事後学習	インターネットの仕組みと学問分野での利活用について確認し自分なりの説明を取りまとめる。（2時間）
7	事前学習	自らの数学、統計学の知識を確認。（2時間）
	授業内容	【アカデミックスキル2（情報の評価・分析）】統計学の基本的な概念の確認、コンピュータを活用した情報整理法の例の紹介。
	事後学習	統計学のポイントについて復習する。（2時間）
8	事前学習	これまでに学習した文章作成方法の確認。（2時間）
	授業内容	【アカデミックスキル3（情報の創造・発信）】論文・レポートの書き方（テーマと問題設定、論理展開と全体構成、引用の仕方、注と文献表の役割と書き方）、口頭による研究発表の方法（テーマと問題設定、論理展開と発表用スライドの構成など）の解説。
	事後学習	情動的な文章と論理的な文章の書き方の違いを明確に意識する。（2時間）
9	事前学習	自らの数学、統計学の知識を確認するとともに、基礎編の関連事項を整理し応用編に備える。（1時間）
	授業内容	【実習応用編1】 Excelによる統計解析実習（正規分布、統計的推測と検定、偏差値、相関分析と回帰分析）、併せてRなど統計用フリーソフトの紹介。
	事後学習	授業で提示されたデータを使って、自らの手で再度、Excelによる統計解析を実行する。（3時間）
10	事前学習	基礎編の関連事項を整理し応用編に備える。（1時間）
	授業内容	【実習応用編2】 Wordの利用実習： 図表などオブジェクトの挿入、ヘッダーとフッター、ページ番号や脚注の挿入、セクション区切り、等
	事後学習	論文やレポートに有用なこれらのツールの利用手順を確認。（3時間）
11	事前学習	基礎編で学んだWordの関連事項を整理し応用編に備える。（1時間）
	授業内容	【実習応用編3】 Wordの利用実習：アウトライン設定、見出しスタイルの適用、目次・索引の作成、アウトライン表示の活用、Excel等との連携など
	事後学習	これらのツールは論文やレポートに極めて有用であり、確実に身に着くよう復習する。（3時間）
12	事前学習	論文のテーマと論点を整理し骨子案を検討する。（2時間）
	授業内容	【実習応用編4】 Wordによる論文の作成（他の授業等で作成した論文・レポートを基に再構成も可）：Wordの論文作成に有効なツール（アウトライン表示、見出しスタイル、目次、脚注、文献管理など）を活用し論文を作成。参考としてLaTeXによる論文作成例の紹介。（コンピュータ・リテラシーAの重点項目）
	事後学習	Wordのこれらの機能は社会人になった後も極めて有用であり、繰り返し実行し自分のものにする。（2時間）
13	事前学習	基礎編のPowerPointに関する関連事項を整理し応用編に備える。（1時間）
	授業内容	【実習応用編5】 PowerPointの利用実習：口頭発表用（読ませるのではなく見せる）スライドの要件を踏まえ実習（マスター表示の活用、図表の挿入、アニメーション・画面切り替えの設定、自動プレゼン、ノート・配布資料の作成等）
	事後学習	フォントの種類やサイズ、1枚あたりの行数など口頭発表用スライド（見せるスライド）の要件を復習し、発表用のスライドの作成を行う。（3時間）
14	事前学習	自らの問題意識、主張を明確に意識し発表のリハーサルを行う。（2時間）
	授業内容	【模擬発表会】作成した論文のポイントについてPowerPointのスライドショーを実行しながら各自5～10分程度の口頭発表を行う（発表時間は履修人数により調整）。発表後、質疑応答、相互評価を行う。
	事後学習	質疑応答や相互評価の指摘をふまえ発表資料を改訂する。（2時間）
15	事前学習	AIやIoTなど最新のトピックについて情報収集し課題を確認する。（1時間）
	授業内容	【総まとめ講義】論文の技法などアカデミックスキルの再確認と実習のポイントの整理、ICT関連の最新動向の紹介
	事後学習	今後はアカデミックスキルとの関連を意識しつつコンピュータやネットワークなどの情報技術を活用することが重要であり、実習内容について繰り返し実行し自分のものにする。（3時間）

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	水野 正	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	コンピュータにインストールされている基本的なソフトウェアの操作方法ができるようになることを演習方式で学ぶ講義である。 ワープロソフトを利用して単純な文章を完成させるだけでなく、画像やエクセルデータを貼り付けるような編集ができるようになることや、表計算ソフトを十分に使いこなせるようにするための演習形式の講義である。			
授業目的・到達目標	情報は紙ベースの時代から電子データの時代へと変化している。そこで、ワード、エクセルによる電子データの作成と処理方法を習得することを目的とする。 各ソフトウェアを十分に使いこなせること、さらに効果的に利用できるようになることを目標とする。特にマイクロソフトエクセルを使いこなせるようになることを目標とする。			
履修条件	演習科目であるから、毎回出席して、説明に従ってソフトウェアを操作することが望ましい。			
授業方法	配布するデジタルデータを利用して、その処理を説明する方法で進める。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%	定期試験は実施しない。	
	平常評価	100%	学期末に習熟度を考査するために課題の処理を行ってもらいそれにより評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2013年	FOM出版	よくわかる Word 2013 ドリル	FOM株式会社
	2013年	FOM出版	よくわかる Excel 2013 ドリル	FOM株式会社
	備考			
参考書	市販の様々なテキストがあるが、ビジネス系パソコン雑誌の特集記事の方がより実践的な処理方法を記述しているのでそれらを入手して利用すること。			
オフィスアワー	木曜日10：30～授業講堂にて 希望者は事前にメールでアポイントを取ること。 E-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	タッチキーで文字入力ができるか確認すること。タッチキー入力を練習すること。(2時間)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ワードのテキストLesson3を利用し、400文字以上を10分で入力できるように練習すること。(2時間)
2	事前学習	ワードのテキストLesson1～Lesson11を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作 1 (テキストLesson1～Lesson11)」
	事後学習	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。 一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。(2時間)
3	事前学習	ワードのテキストLesson11～Lesson17を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作 2 (テキストLesson11～Lesson17)」
	事後学習	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。 自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。 一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。(2時間)
4	事前学習	ワードのテキストLesson20～Lesson32を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作 1 (テキストLesson20～Lesson24)」
	事後学習	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。 一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。(2時間)

5	事前学習	ワードのテキストLesson25～Lesson32を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作 2 (テキストLesson25～Lesson32)」
	事後学習	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。(2時間)
6	事前学習	算数の四則計算と一次方程式、累計、割合の意味を復習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトエクセルの基本操作 1 (テキストLesson1～Lesson4)」
	事後学習	一次方程式の計算など、十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみること。(2時間)
7	事前学習	エクセルのテキストLesson5～Lesson7を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトエクセルの基本操作 2 (Lesson5～Lesson7)」
	事後学習	一次方程式、累計、割合計算など、自らができなかった部分の演習問題を完成させてみる。(2時間)
8	事前学習	エクセルのテキストLesson8～Lesson12を予習すること。特に関数について予習しておくこと。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトエクセルの基本操作 3 (Lesson8～Lesson11)」
	事後学習	関数の使用方法を十分に理解できたか、演習問題を再度行い確認すること。(2時間)
9	事前学習	エクセルのテキストLesson13～Lesson16を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトエクセルの基本操作 4 (Lesson13～Lesson16)」
	事後学習	グラフを作成するための要素がなんであるか理解すること。演習問題を再度行い理解すること。(2時間)
10	事前学習	エクセルのテキストLesson18～Lesson22を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトエクセルの応用操作 1 (Lesson18～Lesson22)」
	事後学習	一次方程式の計算や関数の使用方法を十分に理解できたか、演習問題を再度行い理解すること。(2時間)
11	事前学習	エクセルのテキストLesson23～Lesson26を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトエクセルの応用操作 2 (Lesson23～Lesson26)」
	事後学習	グラフを作成する際の要素が何であるか、演習問題を再度行い理解すること。(2時間)
12	事前学習	エクセルのテキストLesson27～Lesson30を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトエクセルの応用操作 3 (Lesson27～Lesson30)」
	事後学習	必要なデータが抽出できるか、また、ピボットテーブルの作成方法と機能について再度演習問題を行い理解すること。(2時間)
13	事前学習	エクセルのテキストLesson31～Lesson34を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトエクセルの応用操作 4 (Lesson31～Lesson34)」
	事後学習	基本操作を忘れることなく作業効率化の為の操作方法ができるよう演習問題を再度行うこと。(2時間)
14	事前学習	講義で行ってきたワードとエクセルの演習問題の総合的な復習を行うこと。(2時間)
	授業内容	ワードとエクセルの習熟度をチェックするための試験を行う。
	事後学習	できなかった個所を確認し、できるように復習すること。(2時間)
15	事前学習	習熟度チェックでできなかったところを自ら学習しておくこと。(2時間)
	授業内容	習熟度チェックのワードとエクセルの問題完成に関しての解説を行う。
	事後学習	誤っていた操作について正しく理解しワードとエクセルを利用できるよう習熟度チェック問題を再度行う。(2時間)

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	毛利 康秀	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、コンピュータ（Windows）の基本的な操作を修得したのち、Wordを用いた文書の作成、Excelを用いたデータ処理、WordとExcelの連携、PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成、タイピングの練習、インターネットを用いた情報収集などの課題を行う。これらの操作方法を習得し、関連する課題が作成出来るとともに、卒業後も業務でコンピュータを使いこなせる力を養成することを目的とする。				
授業目的・到達目標	Wordを用いた文書の作成では、基本機能を確認しながら実用的な文書の作成、ビジネス文書の作成、インターネット上の情報を取り込んだ文書の作成等を行う。Excelを用いたデータ処理では、四則演算、簡単な関数、IF関数の使いこなし、応用的な関数の使いこなし、グラフの作成等を行う。PowerPointを用いた資料の作成では、プレゼンテーションとは何かを理解した上で、発表テーマに即した構成・情報の収集と取り込み・配置、アニメーション機能の設定などを行う。上記の作成を目的とし、これらの課題の作成を通して、他の授業における予習・復習やレポート課題の作成等に活用出来、卒業後にもビジネスの現場などで役立てる力を獲得することを目標とする。				
履修条件	初心者も十分に履修可能。各自でスキル向上に努めること。				
授業方法	PC教室にてコンピュータ（Windows）を利用した演習を行う。 課題に関する講評・解説等のフィードバックは、授業の最終回に教室で個別に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	定期試験は行わない。平常点で評価を行う。	
	平常評価		100%	授業中に作成した課題の成果、ならびに授業への参加度によって評価する。やむを得ず欠席した場合は、後日プリントにて自習に努めること。（課題提出で加点あり。）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。毎週プリントを配布する。			
参考書	必要に応じて、適宜紹介する。				
オフィスアワー	月曜日 6 限、授業の前後の時間帯、授業講堂にて。まずメールで問い合わせること。mohri-y@chs.nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	高校時代にコンピュータ関係の授業で学習した内容を再確認する。（120分）
	授業内容	ガイダンス 授業内容の説明
	事後学習	Windows/パソコンの使用方法を再確認し、必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。（120分）
2	事前学習	Windows/パソコンの使用方法について確認しておく。（120分）
	授業内容	コンピュータの基本 インターネット・電子メール
	事後学習	Windows/パソコンの使用方法を再確認し、必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。（120分）
3	事前学習	Microsoft社のビジネスアプリ「Word」の使用方法について確認しておく。（120分）
	授業内容	Wordの基本的な操作（１）基本的な操作の確認
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）
4	事前学習	ビジネス文書とは何かについて、検索して調べて確認しておく。（120分）
	授業内容	Wordの基本的な操作（２）ビジネス文書の作成
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）

5	事前学習	Wordのメニュー欄をひととおり確認し、どのような機能があるのかを把握しておく。（120分）
	授業内容	Wordの様々な機能を使う（１）画像の取り込みと加工
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）
6	事前学習	Wordのメニュー欄をひととおり確認し、どのような機能があるのかを把握しておく。（120分）
	授業内容	Wordの様々な機能を使う（２）スクリーンショットの活用
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）
7	事前学習	タイピングとは何かについてインターネットで検索しておく。（120分）
	授業内容	タイピングの練習
	事後学習	タイピングソフトを活用して習慣的に練習を行い、タッチタイピングが出来るようにする。（120分）
8	事前学習	Microsoft社のビジネスアプリ「Excel」の使用方法について確認しておく。（120分）
	授業内容	Excelの基本的な操作（１）基本的な操作の確認
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）
9	事前学習	Excelのメニュー欄をひととおり確認し、どのような機能があるのかを把握しておく。（120分）
	授業内容	Excelの基本的な操作（２）算術演算子の活用
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）
10	事前学習	Excelのメニュー欄をひととおり確認し、関数に関連する機能を把握しておく。（120分）
	授業内容	Excelの様々な機能を使う（１）関数の活用
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）
11	事前学習	Excelのメニュー欄をひととおり確認し、グラフに関連する機能を把握しておく。（120分）
	授業内容	Excelの様々な機能を使う（２）関数の応用、グラフの作成
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）
12	事前学習	WordとExcelを同時に使用する方法について、インターネットで検索して調べておく。（120分）
	授業内容	WordとExcelの連携（Excelで作成した表やグラフをWordで活用する）
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）
13	事前学習	Microsoft社のビジネスアプリ「PowerPoint」の使用方法について確認しておく。（120分）
	授業内容	PowerPointを用いた課題作成（１）プレゼンテーションとは何か
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）
14	事前学習	PowerPointのメニュー欄をひととおり確認し、どのような機能があるのかを把握しておく。（120分）
	授業内容	PowerPointを用いた課題作成（２）プレゼンテーション課題の作成
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）
15	事前学習	最終課題の内容を確認し、提出するまでの準備を整えておく。（120分）
	授業内容	授業のまとめ・課題に関する講評・解説等のフィードバック
	事後学習	これまでの課題作成で使用してきた様々な機能を総復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	山田 正雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代社会は仮想通貨やソーシャルメディア、ビッグデータの利用によるマーケティング、サイバー戦争そして2045年問題など政治や経済、教育、家庭生活など多様な扇面で利便性と危険を併せ持つ課題を抱える。 本授業はこのような高度情報化社会で求められる情報通信技術や情報倫理への理解と情報活用能力の醸成に向けてPCを利用した講義・実習を行う。				
授業目的・到達目標	1. ネットワーク・コンピューティングへの理解やMicrosoft WordやExcel、PowerPoint等の利用技術を養成することを目的とする。 2. 各種データの収集・分析を通じて問題の発見・考察・解決方法について複眼的思考と技法を獲得できること、 3. 高い情報発信能力（適切なデータの援用による明快な資料の作成とそれを含めたプレゼンテーション能力）を身につけることができること、を目標とする。				
履修条件	情報処理の基本的な素養（コンピュータやネットワーク、経営情報、統計処理等々への理解）がほとんど無い学生を前提とする。				
授業方法	PC教室で基本課題と復習課題の2系統の配付資料（基本的にはデジタルデータ）による講義と実習を行う。 なお受講生が提出したレポートや課題については、次の授業の冒頭かポータルサイトを通じてフィードバックを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業への参加度（50%）と複数の提出課題等（50%）によって行う。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。 授業の際に資料（デジタルデータ、必要に応じてアナログデータ）を配付・提示する。			
参考書	レイ・カーツワイル 『シンギュラリティは近い（エッセンス版）人類が生命を超越するとき』 NHK出版 2016 宮下 紘 『ビッグデータの支配とプライバシー危機』 集英社新書 2017				
オフィスアワー	原則的には火曜日・11時～13時まで、または16時20分以降・学内某所としますが、ご希望によって日時・場所等を相談しましょう。 必ず事前に電子メールでアポイントメントを取って下さい。 → → → 【yamada.masao@nihon-u.ac.jp】 授業や就職活動、進学等キャンパスライフ全般についてご相談に応じます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	・メディア教育センターに設置されているPCの利用方法に慣れておく。 (2時間)
	授業内容	・授業ガイダンス 法学部情報システム（COLNet）の利用方法・講義計画・課題の入手と提出方法・成績評価等について
	事後学習	・日本大学法学部のHPより初期パスワードの変更作業を行う。 (2時間)
2	事前学習	・リモートアクセスにチャレンジして【課題01¥課題1.xlsx】を閲覧しExcelの画面構成の理解に努める。 ・2回目の授業以降はポータルサイトから事前学習の内容について連絡を致します。 (2時間)
	授業内容	・各種デジタルデータの保存と管理・再利用、ネットワーク・コンピューティングと情報倫理 ・Microsoft WordやExcelの入門
	事後学習	・リモートアクセスで【課題1.xlsx】を指定フォルダへ提出する。 (2時間)
3	事前学習	・リモートアクセスで【復習01¥ご案内状.docx】を閲覧しWordの画面構成の理解に努める。 (2時間)
	授業内容	・レポート作成法（コピペと言われないレポートの作成方法） ・フォント、インデント、脚注（参考文献・参考資料・参考URL）、ページ設定、ページ番号等々。
	事後学習	・Microsoft Wordのページ設定（余白・字数・行数の調整）について理解しておく。 ・【ショートカット・キー一覧.pdf】を配布するので概観しておく。 (2時間)

4	事前学習	・配付資料から指定した5つのショートカット・キーを学習しておく。 (2時間)
	授業内容	Microsoft Wordの基本操作 2 (Desk Top Publishing 1) ・各種技法を採り入れたフライヤーの作成 ・高度情報化社会：インターネットの仕組みとビジネスモデル
	事後学習	・指定した5つ以外の利用度の高いショートカット・キーもマスターする。 ・リモートアクセスで【ご案内状.docx】を指定フォルダへ提出する。 (2時間)
5	事前学習	・リモートアクセスで【課題01¥受講者数統計.xlsx】を閲覧しExcelの画面構成の理解に努める。 (2時間)
	授業内容	Microsoft Excelの基本操作 1 ・表計算と編集（データ入力と合計・平均関数）、PCの構造と機能、保存メディアの種類と機能
6	事後学習	・リモートアクセスで【受講者数統計.xlsx】を指定フォルダへ提出する。 ・復習課題でMicrosoft Excelの合計・平均関数とオートフィル機能を復習しておく。 (2時間)
	事前学習	・リモートアクセスで【復習01¥ (5) グラフとオートシェイプ.xlsx】を閲覧し 理解できる範囲で各種グラフを作成しておく。 (2時間)
	授業内容	Microsoft Excelの基本操作 2 ・（各種グラフ作成、基本的関数の利用） ・HP閲覧（検索エンジンの利用とデータ収集）
7	事後学習	・リモートアクセスで【復習02¥ (7) IF評価A.xlsx】の予習結果を指定フォルダへ提出する。 (2時間)
	事前学習	・官公庁や業界団体、任意の企業のHPからExcelデータ等をダウンロードしておく。 (2時間)
	授業内容	Microsoft Excelの応用操作 1 ・（各種グラフ、DB関数） ・HP閲覧（EDINETや企業・自治体のデータ収集）
8	事後学習	・リモートアクセスで【復習02¥ (7) IF評価B.xlsx】を指定フォルダへ提出する。 ・経済・経営・会計・ICT関連の「調査課題」を配布するので概観しておく。 (2時間)
	事前学習	・各企業のHPや金融庁EDINETから任意の企業の有価証券報告書を閲覧し 必要なデータをExcelファイルに保存しておく。 (2時間)
	授業内容	Microsoft Excelの応用操作 2（経営トレンド分析） ・電子メールの利用（Excelファイルに読み取りパスワード設定を付けて添付して送信する）
9	事後学習	・指定課題で復習してリモートアクセスで当該フォルダにアップしておく。 ・【復習14¥0. ABC分析.xlsx】に読み取りパスワードを付けて電子メールに添付して提出する。 (2時間)
	事前学習	・日本社会学会等、任意の社会科学系の学会のHPより論文投稿規定を閲覧し、理解しておくこと。 ・リモートアクセスで【課題11Word & Excel】を閲覧し理解に努める。 (2時間)
	授業内容	・ABC分析について ・レポート作成（ExcelデータのWordへの転用） ・社会科学系論文・レポートの作成方法について ・ファイルサーバの利用と管理
10	事後学習	・論文・レポートの作成要件・形式について復習しておく。 ・プレゼンのテーマについて調査・決定しておく。 (2時間)
	事前学習	・プレゼン・テーマのアウトラインをWordに記述して指定フォルダにアップロードしておく。 (2時間)
	授業内容	PowerPointによるプレゼン資料の作成 1 （アウトライン重視の効果的なプレゼン資料の作成）
11	事後学習	各自のPowerPoint課題の作成作業を進めておく。 (2時間)
	事前学習	・新たなデータを加えて各自のPowerPoint課題の作成作業を進めておく。 (2時間)
12	授業内容	PowerPointによるプレゼン資料の作成 2 （聴取者にマッチした訴求度の高いプレゼン資料の作成、評価の視点）
	事後学習	・各自のPowerPoint課題の作成作業を更に進めておく。 (2時間)
13	事前学習	・プレゼンテーションについて解説した指定教材を読み込んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	PowerPointによるプレゼンテーション 1 （学生によるプレゼンテーション 1）
13	事後学習	・プレゼンテーションの内容を評価して評価集計表に記入しておく。 (2時間)
	事前学習	・プレゼンテーションの評価基準をWordにまとめリモートアクセスで当該フォルダにアップしておく。 (2時間)
	授業内容	PowerPointによるプレゼンテーション 2 （学生によるプレゼンテーション 2）
13	事後学習	・プレゼンテーションの内容を評価して評価集計表に纏めておく。 ・官公庁や業界団体、任意の企業のHPからExcelデータ等をダウンロードしておく。 ・リモートアクセスで【復習11¥ 5 逆トーナメントデータ分析.xlsx】を閲覧し 理解できる範囲で作業を進めておく。 (2時間)

14	事前学習	・官公庁HPから『各種白書』や業界団体、任意の企業のHPから業績Excelデータ等をダウンロードしておく。 (2時間)
	授業内容	Excelによるスモールデータの分析 (ピボットテーブルによるデータの分析と解釈)
	事後学習	・分析結果を再検討して更に異なる視点で検討した結果をWordにまとめておく。 ・Web上で「HTMLタグ」について5個以上の基本的なものについて理解しておく。 (2時間)
15	事前学習	・10行のHTMLを完成させておく。 (2時間)
	授業内容	・スクリプティング入門 (HTML入門) ・講義全体の復習・スクリプティング入門 (HTML入門)
	事後学習	☆「期末課題」を完成後に指定期日までに当該フォルダへアップロードする。 (2時間)

科目名	コンピュータ・リテラシーA	担当者	鈴木 正章	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	コンピュータの操作の基本や学内におけるコンピュータの使用方法について理解し、インターネットを利用した情報入手、電子メールによる情報伝達、Wordを使った文書の作成、Excelを使ったデータ処理、PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成などについての基礎的な技術を毎時行う実習を通して習得する。			
授業目的・到達目標	【授業目的】現代社会で生活する我々にとって、コンピュータは情報の収集、情報の制作やそれらの伝達のツールとして必須不可欠である。本講義では、コンピュータのアプリケーションを利用して、文書作成，データの解析や処理および伝達やプレゼンテーションなどの活用能力を養成することを目的とする。 【到達目標】この授業において、インターネットを利用した情報検索、電子メールを使った情報伝達やWord 2013 を使った文書作成、Excel 2013では、表の作成・表からグラフの作成・簡単な関数を使った表の作成、PowerPoint 2013使ったプレゼンテーションの作成などについて理解し、使うことができるようになることを目標とする。			
履修条件	毎時、出席できること。機器台数により、50名を限度とする。コンピュータ・ネットワーク初心者可。			
授業方法	授業は教科書や配布資料を使って基礎的な事項のポイントについて解説し、教科書の中に設定されている課題にそって実習を行う。なお、採点の内容と講評は、後日ポータルサイトで配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	定期試験は行わない。
	平常評価		100%	提出された課題、その内容と授業の参加度などを総合的に評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	実教出版	Windows8対応 時間でマスター Word&Excel2013	実教出版編集部
	備考			
参考書	「Windows7対応 30時間でマスター Office2010」実教出版、2018年			
オフィスアワー	火曜日および木曜日の19：30ー19：50の時間帯で授業講堂で受付ます。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の「Windows8の基礎」についてあらかじめ熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	情報とメディアの活用法
	事後学習	学内パソコン使用について習熟すること。（2時間）
2	事前学習	Internet Explorerのについて熟読しておくこと（2時間）
	授業内容	学内ネットワークの活用 クラウドの活用
	事後学習	様々なホームページを開き、学内メールも使ってみる。（2時間）
3	事前学習	教科書の「Word2013の基礎的な使い方」について熟読しておくこと（2時間）
	授業内容	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（1）文章の入力・文書の読み込み、保存および印刷
	事後学習	Word2013の画面構成の理解と文字入力に習熟しておくこと。（2時間）
4	事前学習	教科書の文書の作成について熟読しておくこと（2時間）
	授業内容	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（2）文書の書式設定
	事後学習	文字入力と文書の書式設定に習熟しておくこと（2時間）

5	事前学習	教科書の編集機能について熟読しておくこと（2時間）
	授業内容	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（3）Wordの編集機能
	事後学習	編集機能を使った様々な文書を作成すること（2時間）
6	事前学習	教科書の画像・テキストボックスの挿入を熟読しておくこと。
	授業内容	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（4）Wordの編集機能
	事後学習	画像やテキストボックスを挿入した文章の作成に慣れておくこと。（2時間）
7	事前学習	教科書のExcel2013の画面構成とそれらの機能について熟読し理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（1）表の作成
	事後学習	Excel2013を使って表を作成出来るようにする。（2時間）
8	事前学習	教科書のExcel2013の様々な書式設定を理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（2）計算式の挿入
	事後学習	数式の入力と様々な書式設定をして表の作成をする。（2時間）
9	事前学習	教科書のグラフの挿入の仕方を熟読および理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（3）Excelのデータからグラフを作成
	事後学習	表データから様々なグラフを作成する。（2時間）
10	事前学習	教科書のグラフの書式設定変更の仕方を熟読および理解しておくこと。
	授業内容	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（4）グラフの編集
	事後学習	表データからグラフを作成し、グラフの種類や数値軸目盛などの書式設定の変更ができるようにしておく。（2時間）
11	事前学習	教科書を通して、Excelで活用する関数を調べておく。（2時間）
	授業内容	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（5）Excelの活用（基本的な関数）
	事後学習	Excelの関数を用いて様々な表データを作成する。（2時間）
12	事前学習	教科書を通して、Excelで活用する関数を調べておく。（2時間）
	授業内容	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（6）Excelの活用（相対参照・絶対参照）
	事後学習	Excelの関数を用いて様々な表データを作成する。（2時間）
13	事前学習	プレゼンテーションの内容とその構成について計画を立てる。（2時間）
	授業内容	PowerPointを活用したプレゼンテーション（1）PowerPointの基本的な使い方とプレゼンテーションの設計
	事後学習	PowerPointの画面構成との役割について習得しておくこと。（2時間）
14	事前学習	PowerPointの機能についてあらかじめ調べておく。（2時間）
	授業内容	PowerPoint活用したプレゼンテーション（2）ワードアート・Smart Art・図の挿入・アニメーション効果・動画の挿入
	事後学習	ワードアート、Smart Art、図の挿入やアニメーション効果を利用したプレゼンテーションの作成する。（2時間）
15	事前学習	PowerPointの機能についてあらかじめ調べておく。（2時間）
	授業内容	PowerPoint活用したプレゼンテーション（3）プレゼンテーションの方法とまとめ
	事後学習	「まとめ」として一つのオリジナルなプレゼンテーションの企画と作成。（2時間）

科目名	コンピュータ・リテラシーB	担当者	今福 啓	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義ではMicrosoft Wordを使い、図、表、グラフ、計算式の作成方法を学びます。長文の作成に必要な見出し番号、図表番号、目次の設定方法も学びます。またMicrosoft Excelを使い、データの合計、平均の計算、グラフ作成、必要なデータの抽出、まとめ直しといったデータ操作を学びます。				
授業目的・到達目標	大学のレポート作成に必要な基礎的な知識ではなく、一般社会で要求される実用的なWord、Excelの操作技術を身につけることを目的とし、それらの技術を活用できるようになることを目標とします。				
履修条件	キーボードを使った文字入力、ファイルのコピー、ファイル名の変更といった基本的なコンピュータの操作ができることを条件とします。				
授業方法	コンピュータ教室で、Microsoft WordとExcelを使った実習形式で行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義時間内に作成するレポート課題の内容により判断します。具体的なレポート課題の作成方法と成績の評価方法は、講義の1回目に説明します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用しません。授業計画にしたがって、講義中に実習で使用するExcelおよびPDFファイルを配布します。			
参考書	立田ルミ、今福啓、堀江郁美『実践に役立つ情報処理―基礎から応用まで―』日経BP社（2018）				
オフィスアワー	keiimafuku@gmail.comまでメール、または木曜3、4限の講義後をお願いします。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	講義でどのような内容を学ぶのか、シラバス全体に目を通して理解する。（2時間）
	授業内容	講義で学ぶ内容、講義の進め方、講義の準備、授業評価について
	事後学習	講義で使用する資料の配布、使用方法を確認する。授業の進め方と評価方法を確認する。（2時間）
2	事前学習	Microsoft Wordとはどのようなソフトウェアであるのかを調べる。（2時間）
	授業内容	文章作成、全体的なレイアウトの調整
	事後学習	文章を入力して全体を整える機能を復習する。（2時間）
3	事前学習	Wordで図、表、グラフをどのように作成するのか調べる。（2時間）
	授業内容	図、表、グラフを作成する
	事後学習	Wordで作成できる図の種類を調べる。表を作成して整形する方法を復習する。作成できるグラフの種類を調べる。（2時間）
4	事前学習	文章の章、節をどのように設定することが望ましいのかあらかじめ考えておく。（2時間）
	授業内容	数式の入力、章や節の番号、図表や数式番号を自動で設定する。
	事後学習	章番号、節番号を自動で設定する機能の使い方を復習する。（2時間）

5	事前学習	セクション区切りの機能がどのようなものであるのか調べる。（2時間）
	授業内容	セクション区切りを使いこなす
	事後学習	セクション区切りで何を行っているか、利用することでどのような利点があるのか調べる。（2時間）
6	事前学習	目次とはどのようなものか、参考文献がどのようなもので、なぜ必要なか調べる。（2時間）
	授業内容	目次の自動作成、参考文献の一覧を作る
	事後学習	さまざまな目次の種類、参考文献一覧を調べる。（2時間）
7	事前学習	第2回～第6回の講義で学んだ内容を復習する。（2時間）
	授業内容	総合課題の作成：Microsoft Word
	事後学習	総合課題で作成した内容のうち、理解が不十分であった点を復習する。（2時間）
8	事前学習	Microsoft Excelとはどのようなソフトウェアであるのかを調べる。（2時間）
	授業内容	データ入力、計算式、相対参照、絶対参照
	事後学習	計算式で使う「相対参照」「絶対参照」とはどのようなものであるのかを確認する。（2時間）
9	事前学習	Excelの関数とはどのようなものであるのかを調べる。（2時間）
	授業内容	関数を使った計算
	事後学習	「関数」の使い方と種類を確認する。（2時間）
10	事前学習	Excelでのグラフ作成方法を調べる。（2時間）
	授業内容	グラフの作成
	事後学習	グラフの作成方法を確認する。グラフにはどのような種類があるのか、「複合グラフ」とはどのように作成するのかを確認する。（2時間）
11	事前学習	データ処理において、並べ替えや抽出が必要となる理由を調べる。（2時間）
	授業内容	データの並べ換えと抽出：ソート、フィルタ
	事後学習	「2つ以上のキー」で並べ換える方法と、フィルタで「必要なデータのみ表示する方法」「元データはそのままに、必要なデータをシートに抽出する方法」を確認する。（2時間）
12	事前学習	「クロス集計」とは何であるのかを調べる。（2時間）
	授業内容	データの集計：ピボットテーブル、小計
	事後学習	同様の集計方法である「ピボットテーブル」と「小計」の違いを確認する。（2時間）
13	事前学習	Excelの「マクロ」と「VBA」とは何であるのかを調べる。（2時間）
	授業内容	操作の自動化：マクロ
	事後学習	マクロを使い、どのように操作を記録して使うのかを確認する。マクロがVBAとして記録されていることを確認する。「マクロを含んだファイルを保存する形式」を確認する。（2時間）
14	事前学習	第8回～第13回の講義で学んだ内容を復習する。（2時間）
	授業内容	総合課題の作成：Microsoft Excel
	事後学習	総合課題で作成した内容のうち、理解が不十分であった点を復習する。（2時間）
15	事前学習	この講義で学んだすべての内容を復習する。（2時間）
	授業内容	講義のまとめ：期末レポート課題の作成と解説
	事後学習	レポート課題の作成で、理解が不十分となっていた点を復習する。（2時間）

科目名	コンピュータ・リテラシーB	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代において「情報活用能力」は社会を動かす基礎的スキルであり、この多様化した社会にとっての「共通言語」といえる。また、ICT（Information and Communication Technology）が注目される中、この「情報活用能力」はこれから社会で活躍する学生にとって有効な武器となる。本講義では、この「情報活用能力」を高めるため、PCの様々な操作方法を学習し社会で活躍できる人材の育成を目指す。			
授業目的・到達目標	【授業目的】現代社会において必要不可欠な「情報活用能力」を身に付ける。Word、Excelの基本的操作方法を学び、Accessについては、データベースの理解や操作方法を学習する。また、ホームページ作成については、HTMLの基礎等を学習し、情報活用能力を養成するとを目標とする。 【到達目標】1.PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について理解できる。2.Word、Excelの基本的操作方法を理解できる。3.Accessの基本的操作を学習し、データベースについて理解できる。4.HTMLの基礎等を学習し、情報発信の方法について理解できる。以上のことを目標とする。			
履修条件	わかりやすい授業を心掛けており、コンピュータ初心者でも可。			
授業方法	P C教室でコンピュータを利用した演習を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる。 授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施（50%） 授業に対する姿勢・提出物等で総合的に評価（50%）
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付・提示する。		
参 考 書	講義中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。） 研究室（本館6階601） メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ID, パスワードを事前に確認しておく, 事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	法学部情報システムの利用法, 講義計画・成績評価方法
	事後学習	PCの基本構造について復習する（2時間）
2	事前学習	ビジネス文書の体裁を調べておく（2時間）
	授業内容	Microsoft Word 1（基本操作・罫線・図・図形等）
	事後学習	Wordの基本操作を確認する（2時間）
3	事前学習	前回保存したファイルを開き、基本操作を再確認する（2時間）
	授業内容	Microsoft Word 2（論文書式・段組み・脚注等）
	事後学習	書式の機能を復習する（2時間）
4	事前学習	表計算ソフトについて調べておく（2時間）
	授業内容	Microsoft Excel 1（基本操作, SUM・AVERAGE関数, 罫線等）
	事後学習	Excelの基本操作を確認する（2時間）

5	事前学習	Excelの関数について調べておく（2時間）
	授業内容	Microsoft Excel 2（MAX・MIN・RANK・IF関数、ネスト、相対・絶対参照等）
	事後学習	関数の機能を復習する（2時間）
6	事前学習	グラフの種類と役割についてしらべておく（2時間）
	授業内容	Microsoft Excel 3（棒グラフ・折れ線グラフ・複合グラフ等）
	事後学習	各グラフ作成の機能を復習する（2時間）
7	事前学習	データベースについて調べる（2時間）
	授業内容	Microsoft Access 1（データベースの設計）
	事後学習	Accessの基本操作を確認する（2時間）
8	事前学習	前回の復習（基本操作の確認）（2時間）
	授業内容	Microsoft Access 2（テーブルとフォーム）
	事後学習	作業内容の確認（2時間）
9	事前学習	前回の復習（基本操作の確認）（2時間）
	授業内容	Microsoft Access 3（リレーションシップとクエリ）
	事後学習	作業内容の確認（2時間）
10	事前学習	前回の復習（基本操作の確認）（2時間）
	授業内容	Microsoft Access 4（パラメータクエリと集計クエリ）
	事後学習	作業内容の確認（2時間）
11	事前学習	前回の復習（基本操作の確認）（2時間）
	授業内容	Microsoft Access 5（レポート等）
	事後学習	作業内容の確認（2時間）
12	事前学習	HTMLとは何か調べる（2時間）
	授業内容	ホームページの仕組み(HTML言語の基礎)
	事後学習	HTML言語の基礎の復習（2時間）
13	事前学習	前回の復習（基本操作の確認）（2時間）
	授業内容	ホームページの作成（フォント、区切り線、画像）
	事後学習	HTML言語のタグの確認（2時間）
14	事前学習	前回の復習（基本操作の確認）（2時間）
	授業内容	ホームページの作成（特殊効果、リンク）
	事後学習	HTML言語のタグの確認（2時間）
15	事前学習	学習内容の再確認（2時間）
	授業内容	総まとめ、解説
	事後学習	作業内容について復習する（2時間）

科目名	コンピュータ・リテラシーB	担当者	谷川 由紀子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講座では、情報活用の実践力（課題や目的に応じて、コンピュータやインターネット等の情報手段を活用し、必要な情報を収集・分析・解釈・創造・表現するとともに、受け手の状況を踏まえて発信・伝達を行うスキル）を、基礎的な知識の学習とコンピュータやインターネットを活用した実習による課題作成を通じて育成する。				
授業目的・到達目標	本講座では、情報活用の実践力（課題や目的に応じて、コンピュータやインターネット等の情報手段を活用し、必要な情報を収集・分析・解釈・創造・表現すると共に、受け手の状況を踏まえて発信・伝達を行うスキル）を育成することを目的とする。講座を通じて、データまたは情報を整理・分析し、受け手に理解しやすい文書にまとめるための基本的な考え方や方法を知ると共に、それらの知識を適用した情報の分析や解釈、また創造・表現・伝達が、コンピュータやインターネットを活用して実際にできるようになることを目標とする。				
履修条件	特になし。				
授業方法	実習による課題作成を中心として授業を進める。課題内容に応じて、必要な講義を行う。授業内で作成課題へのフォローアップを実施。毎時間振り返りシート（リアクションペーパー）提出、次の授業時に必要なフォローアップを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	各学習項目(シリーズ)単位での課題(作品またはレポート)提出を課す。全課題提出の上で、課題要件の充足度、課題別の目標達成度、授業への参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特に定めない。講義時に課題、参照資料等のプリントを配布する。			
参考書	必要に応じ、講義時に紹介する。				
オフィスアワー	金曜 10:30～ 授業終了後の講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、講座全体を概観する。ColnetのユーザIDとパスワードを確認する。（2時間）
	授業内容	社会が求める能力とは、情報活用の実践力、授業計画と評価方法
	事後学習	講座オリエンテーションの内容（授業目的、計画、評価方法等）を再確認する。「情報活用の実践力」について、Webサイト等を活用して調べてみる。（2時間）
2	事前学習	「理解しやすい資料の作成（MS-Word）」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。MS-WORDの起動方法、編集画面、文字入力方法を確認し、実際に操作してみる。（2時間）
	授業内容	コンピュータとネットワークの活用 理解しやすい資料の作成（MS-Word）(1)：見本にそった2種類の資料作成 作成を通じて、資料作成に必要なMS-WORDの基本操作を習得・確認する。
	事後学習	1種類目の資料作成を完了する。2種類目の資料に未着手の場合は、1種類目の資料と比較しながら資料（見本）の全体像を把握する。（2時間）
3	事前学習	1種類目の資料と2種類目の資料を比較検討して、ワークシート（異なる編集方法による資料の比較）に記入する。（2時間）
	授業内容	理解しやすい資料の作成（MS-Word）(2)： ワークシートを基にしたグループ討議、理解しやすい資料作成のための方法（講義） グループ討議と講義をもとに、理解しやすい資料に必要な要件とそのための方法について考える。
	事後学習	講義内容を復習する。（2時間）
4	事前学習	2種類目の資料の見本を確認すると共に、操作ガイドを参照して資料の凡その作成方法を掴む。（2時間）
	授業内容	理解しやすい資料の作成（MS-Word）(3)： 見本にそった2種類の資料作成、テーマをもとにした資料作成 資料作成に必要なMS-WORDの基本操作を習得・確認する。さらに、これまでの授業で学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を、資料作成に応用する。
	事後学習	見本にそった資料作成で課した2種類目の資料の作成が終わっていない場合は完了する。（2時間）

5	事前学習	課題：テーマをもとにした資料作成に必要な調査・情報収集を行う。また、「理解しやすい資料作成のための方法」をどのように資料作成に適用するかを構想を練る。（2時間）
	授業内容	理解しやすい資料の作成（MS-Word）（4）：テーマをもとにした資料作成 これまでの授業で学んだ「MS-WORDの基本操作」と「理解しやすい資料作成のための方法」を資料作成に応用する。
	事後学習	テーマをもとにした資料作成の課題が終わっていない場合は作成完了する。（2時間）
6	事前学習	作成資料に対する自己評価シートを記入する。評価観点に対して不十分と自己評価した場合には、資料を修正する。（2時間）
	授業内容	理解しやすい資料の作成（MS-Word）（5）：受講者間での作成資料の相互評価 作成した資料に対する他者からのフィードバックを得ること、また他者の資料を見てフィードバックすることを通じて「理解しやすい資料作成の観点」を再考する。
	事後学習	相互評価でのコメントを受けて、修正すべき点を検討し、資料をブラッシュアップして提出する。（2時間）
7	事前学習	「データの分析と解釈（MS-Excel）」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。MS-Excelの起動方法、基本画面を確認し、実際に操作してみる。（2時間）
	授業内容	データの分析と解釈（MS-Excel）（1）： データ分析の基本的な考え方（講義）、課題説明、分析対象データのExcelへの入力 データ分析の概要：何のためにどのようなことをするのか、を学習する。表計算ソフトであるMS-Excelの特徴と基本操作を習得する。
	事後学習	講義内容を復習すると共に、課題シートを再読して課題全体を概観する。MS-Excelの基本操作を復習する。（2時間）
8	事前学習	分析対象データのExcel入力を完了する。（2時間）
	授業内容	データの分析と解釈（MS-Excel）（2）：測定項目毎の特徴の分析（数式、関数の活用） Excelの数式や関数を用いて、平均や分散などの値を算出する方法を習得する。算出値をもとに、講義内容を活用して、測定項目別の特徴を考察する。
	事後学習	測定項目毎に、平均や分散など指示した値の算出を完了する。（2時間）
9	事前学習	講義内容を参考に、算出した値（平均や分散など）からわかる測定項目毎の特徴をピックアップする。（2時間）
	授業内容	データの分析と解釈（MS-Excel）（3）：測定項目毎の特徴の分析（ヒストグラムの活用） Excelによる度数分布表およびグラフの作成方法を習得する。作成したグラフ（ヒストグラム）をもとに、講義内容を活用して、測定項目別の特徴を考察する。
	事後学習	測定項目毎のヒストグラム作成が終わっていない場合は完了する。（2時間）
10	事前学習	講義内容を参考に、ヒストグラムからわかる測定項目毎の特徴をピックアップする。（2時間）
	授業内容	データの分析と解釈（MS-Excel）（4）：測定値の比較分析（偏差値の活用） 学んだExcel操作を応用して、各測定値の標準化（偏差値算出）する。偏差値をもとに、講義内容を活用して、各測定値の特徴を考察する。
	事後学習	各測定値に対する偏差値の算出および指示したグラフ作成を完了する。（2時間）
11	事前学習	講義内容を参考に、指示した測定値について、偏差値やグラフからわかる特徴をピックアップする。（2時間）
	授業内容	データの分析と解釈（MS-Excel）（5）：分析レポートの作成 考察してきた測定項目別の特徴、各測定値の特徴を整理して、分析レポートを作成する。
	事後学習	分析レポートの作成を完了し、提出する。（2時間）
12	事前学習	「効果的に企画内容を伝える（MS-PowerPoint）」のシラバスを確認し、学習内容を概観する。MS-PowerPointの起動方法、基本画面を確認し、実際に操作してみる。（2時間）
	授業内容	効果的に企画内容を伝える（MS-PowerPoint）（1）：企画書をもとにしたプレゼンテーション資料の作成 課題全体（目的と取り組み内容）を概観する。プレゼンテーション作成の基とする企画書を確認し、プレゼンテーション資料の構想を練る。MS-PowerPointの特徴と基本操作を習得する。
	事後学習	プレゼンテーション資料の構想がまとまっていない場合、企画書をもとに訴求点を決め掲載情報の絞込みを行う。MS-PowerPointの基本操作を復習する。（2時間）
13	事前学習	プレゼンテーション資料作成に必要な写真やイラスト等の参考資料を集める。（2時間）
	授業内容	効果的に企画内容を伝える（MS-PowerPoint）（2）：企画書をもとにしたプレゼンテーション資料の作成 資料作成に必要なMS-PowerPointの基本操作を習得する。構想にそって、プレゼンテーション資料を作成する。
	事後学習	プレゼンテーション資料の作成を完了する。（2時間）
14	事前学習	課題シートを再読し、口頭発表の要件（時間他）を確認する。プレゼンテーション資料をもとに、ページ毎に伝えたい点をピックアップする。（2時間）
	授業内容	効果的に企画内容を伝える（MS-PowerPoint）（3）： プレゼンテーション資料にそった発表シナリオ作成、口頭発表時の留意点（講義） 口頭発表の際の留意点を踏まえて、発表シナリオを作成する。シナリオを考慮して、プレゼンテーション資料に修正を加える。
	事後学習	プレゼンテーション資料および発表シナリオの作成を完了し提出する。（2時間）
15	事前学習	プレゼンテーション（口頭発表）の練習をする。（2時間）
	授業内容	効果的に企画内容を伝える（MS-PowerPoint）（4）：企画プレゼンテーションと受講者間での相互評価 講座全体のまとめ 他者からフィードバックを得ること、また他者にフィードバックすることを通じて「効果的なプレゼンテーションの観点」を考える。
	事後学習	講義資料、作成課題等を見直して、これまでの授業全体を振り返り、講座を通じて学んだことを確認する。（2時間）

科目名	コンピュータ・リテラシーB	担当者	土屋 正寿	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	基礎的な情報理論、コンピュータ理論の講義を行い、併せて大学生に必要なアカデミックスキルを確認し実習に入る。実習基礎編でWord、Excel、PowerPointの基本操作を確認する。実習応用編ではWordを使った論文・レポートの作成、PowerPointによる論文の口頭発表、Excelによる統計解析などの実習を行う。実習はAが論文の作成、Bが口頭発表を重点とするのでA・B併せての履修も有益。				
授業目的・到達目標	大学における知的活動（＝情報処理：情報の収集、情報の評価と分析、情報の創造と発信）に必要な共通の作法や技法すなわちアカデミックスキルを理解し、これに必要な不可欠なコンピュータやインターネットなど情報通信技術（ICT）の基本原理と効率的な利用技術を修得し様々な分野で活躍できる人材を育成することを目的とする。ICTを駆使し、必要な情報にアクセスし、それを的確に評価分析し、その結果を論理的な文章としてとりまとめ、効果的なプレゼンテーションを行うことが出来るようになることを到達目標とする。				
履修条件	初歩的な情報理論、コンピュータの基本操作を確認した後、講義、実習を進めるので特段の予備知識や経験は要しない。なお実習に関してはAが論文骨子の作成、Bが口頭発表を重点とするのでA・B通しての履修も有益。				
授業方法	講義と実習を適宜組み合わせる。授業内で1、2回の確認テストを行う。実習は原則としてマイクロソフトオフィスの主要アプリを利用する。論文骨子、口頭発表、確認テストに関する講評・解説は授業内で行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	実施せず	
	平常評価		100%	論文(骨子)、口頭発表、授業内確認テスト、授業中の発言や実習の結果などから総合的に評価する	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	授業中に指定する			
参考書	授業中に随時紹介				
オフィスアワー	授業前後に質問を受け付ける。土曜日12：10～12：40、授業講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	各回の授業の最後に次回の授業項目について指定するので、自分の知識の確認と必要な項目の予習を行うこと。初回はシラバスを確認し講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス】講義の目的、講義計画・成績評価の方法、実習テキスト、参考書などの紹介を行い、受講生が事前・事後の学習を具体的に行えるようにする。
	事後学習	前回授業内容を理解していることを前提に授業を進めるので、ポイントの復習を怠らないこと。特に実習項目については自ら再度実行することで理解度が格段に上がる。ガイダンスを踏まえ自分のICTの知識、コンピュータのスキルとの関連から重点項目を認識する。（2時間）
2	事前学習	自らのICTに関する知識を確認し疑問点などを抽出する。（2時間）
	授業内容	情報通信技術（ICT）の概要：情報処理の基礎理論とコンピュータの歴史と動作原理の解説。
	事後学習	コンピュータの歴史、ノイマン型、デジタル化（標準化と量子化）、情報量（ビットとバイト）、コンピュータの動作原理、OSとアプリなど基本概念・用語の確認をして自ら説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	ICTと社会に係る最近の課題について事前に調査、情報収集する。（2時間）
	授業内容	情報通信技術（ICT）と社会：情報セキュリティ、個人情報保護、知的財産の保護、ネット利用の留意点などの解説。講義の後、授業内テスト（ICTと情報処理の基礎に係る確認テスト）を実施。
	事後学習	健全なネット利用に不可欠な情報セキュリティや知的財産の保護などの基本知識を再確認する。（2時間）
4	事前学習	自らのコンピュータに係る知識を確認する。（1時間）
	授業内容	【実習基礎編1】 コンピュータの基本操作の確認： Windowsの基本操作、基本的な文書作成（Word）、口頭発表用スライドの作成（PowerPoint）
	事後学習	実習の事後学習については実際にコンピュータを動かしながら確認することが重要。Windowsの基本操作とWordやPowerPointの基本についてコンピュータを動かして再確認する。（3時間）

5	事前学習	自らのExcelに係る知識を整理確認し授業に臨む。（1時間）
	授業内容	【実習基礎編2】 コンピュータの基本操作の確認： データ集計・整理・分析、グラフの作成、データベース機能の活用（Excel）
	事後学習	Excelの三大機能（表計算、グラフ、データベース）の基本を再確認する。（3時間）
6	事前学習	コンピュータやスマートフォンなどによるインターネットの利用について自らのイメージをまとめる。（2時間）
	授業内容	【アカデミックスキル1（情報の収集）】インターネット上の情報利用の留意点、インターネット上のデータのインポート、図書館の活用について講義。
	事後学習	インターネットの仕組みと学問分野での利活用について確認し自分なりの説明を取りまとめる。（2時間）
7	事前学習	自らの数学、統計学の知識を確認。（2時間）
	授業内容	【アカデミックスキル2（情報の評価・分析）】統計学の基本的な概念の確認、コンピュータを活用した情報整理法の例の紹介。
	事後学習	統計学のポイントについて復習する。（2時間）
8	事前学習	これまでに学習した文章作成方法の確認。（2時間）
	授業内容	【アカデミックスキル3（情報の創造・発信）】論文・レポートの書き方（テーマと問題設定、論理展開と全体構成、引用の仕方、注と文献表の役割と書き方）、口頭による研究発表の方法（テーマと問題設定、論理展開と発表用スライドの構成など）の解説。
	事後学習	情動的な文章と論理的な文章の書き方の違いを明確に意識する。（2時間）
9	事前学習	自らの数学、統計学の知識を確認するとともに、基礎編の関連事項を整理し応用編に備える。（1時間）
	授業内容	【実習応用編1】 Excelによる統計解析実習（正規分布、統計的推測と検定、偏差値、相関分析と回帰分析）、併せてRなど統計用フリーソフトの紹介。
	事後学習	授業で提示されたデータを使って、自らの手で再度、Excelによる統計解析を実行する。（3時間）
10	事前学習	基礎編の関連事項を整理し応用編に備える。（1時間）
	授業内容	【実習応用編2】 Wordの利用実習： 図表などオブジェクトの挿入、ヘッダーとフッター、ページ番号や脚注の挿入、セクション区切り、等
	事後学習	論文やレポートに有用なこれらのツールの利用手順を確認。（3時間）
11	事前学習	基礎編で学んだWordの関連事項を整理し応用編に備える。（1時間）
	授業内容	【実習応用編3】 Wordの利用実習：アウトライン設定、見出しスタイルの適用、目次・索引の作成、アウトライン表示の活用、Excel等との連携など
	事後学習	これらのツールは論文やレポートに極めて有用であり、確実に身に着くよう復習する。（3時間）
12	事前学習	論文のテーマと論点を整理し骨子案を検討し授業に備える（2時間）
	授業内容	【実習応用編4】 Wordによる論文の作成（他の授業等で作成した論文・レポートを基に再構成も可）：Wordの論文作成に有効なツール（アウトライン表示、見出しスタイル、目次、脚注、文献管理など）を活用し論文を作成。参考としてLaTeXによる論文作成例の紹介。
	事後学習	Wordのこれらの機能は社会人になった後も極めて有用であり、繰り返し実行し自分のものにする。（2時間）
13	事前学習	基礎編のPowerPointに関する関連事項を整理し応用編に備える。（1時間）
	授業内容	【実習応用編5】 PowerPointの利用実習：口頭発表用（読ませるのではなく見せる）スライドの要件を踏まえ実習（マスター表示の活用、図表の挿入、アニメーション・画面切り替えの設定、自動プレゼン、ノート・配布資料の作成等）
	事後学習	フォントの種類やサイズ、1枚あたりの行数など口頭発表用スライド（見せるスライド）の要件を復習し、発表用のスライドの作成を行う。（3時間）
14	事前学習	自らの問題意識、主張を明確に意識し発表のリハーサルを行う。（2時間）
	授業内容	【模擬発表会】作成した論文のポイントについてPowerPointのスライドショーを実行しながら各自5～10分程度の口頭発表を行う（発表時間は履修人数により調整）。発表後、質疑応答、相互評価を行う。（コンピュータ・リテラシーBの重点項目）
	事後学習	質疑応答や相互評価の指摘をふまえ発表資料を改訂する。（2時間）
15	事前学習	AIやIoTなど最新のトピックについて情報収集し課題を確認する。（1時間）
	授業内容	【総まとめ講義】論文の技法などアカデミックスキルの再確認と実習のポイントの整理、ICT関連の最新動向の紹介
	事後学習	今後はアカデミックスキルとの関連を意識しつつコンピュータやネットワークなどの情報技術を活用することが重要であり、実習内容について繰り返し実行し自分のものにする。（3時間）

科目名	コンピュータ・リテラシーB	担当者	水野 正	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	コンピュータにインストールされている基本的なソフトウェアの操作方法ができるようになることを演習方式で学ぶ講義である。 ワープロソフトを利用して単純な文章を完成させるだけでなく、画像やエクセルデータを貼り付けるような編集ができるようになることや、表計算ソフトを十分に使いこなせるようにするための演習形式の講義である。			
授業目的・到達目標	情報は紙ベースの時代から電子データの時代へと変化している。そこで、ワード、エクセルによる電子データの作成と処理方法を習得することを目的とする。 各ソフトウェアを十分に使いこなせること、さらに効果的に利用できるようになることを目標とする。特にマイクロソフトエクセルを使いこなせるようになることを目標とする。			
履修条件	演習科目であるから、毎回出席して、説明に従ってソフトウェアを操作することが望ましい。			
授業方法	配布するデジタルデータを利用して、その処理を説明する方法で進める。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%	定期試験は実施しない。	
	平常評価	100%	学期末に習熟度を考査するために課題の処理を行ってもらいそれにより評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2013年	FOM出版	よくわかる Word 2013 ドリル	FOM株式会社
	2013年	FOM出版	よくわかる Excel 2013 ドリル	FOM株式会社
	備考			
参考書	市販の様々なテキストがあるが、ビジネス系パソコン雑誌の特集記事の方がより実践的な処理方法を記述しているのでそれらを入手して利用すること。			
オフィスアワー	木曜日10：30～授業講堂にて 希望者は事前にメールでアポイントを取ること。 E-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	タッチキーで文字入力ができるか確認すること。タッチキー入力を練習すること。(2時間)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ワードのテキストLesson3を利用し、400文字以上を10分で入力できるように練習すること。(2時間)
2	事前学習	ワードのテキストLesson1～Lesson11を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作 1 (テキストLesson1～Lesson11)」
	事後学習	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。 一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。(2時間)
3	事前学習	ワードのテキストLesson11～Lesson17を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作 2 (テキストLesson11～Lesson17)」
	事後学習	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。 自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。 一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。(2時間)
4	事前学習	ワードのテキストLesson20～Lesson32を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作 1 (テキストLesson20～Lesson24)」
	事後学習	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。 一つの作業をするために、複数の操作方法があるので、自らが予習で行った方法と違いがある場合、違いを理解すること。(2時間)

5	事前学習	ワードのテキストLesson25～Lesson32を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作 2 (テキストLesson25～Lesson32)」
	事後学習	自らができなかった部分を十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。(2時間)
6	事前学習	算数の四則計算と一次方程式、累計、割合の意味を復習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトエクセルの基本操作 1 (テキストLesson1～Lesson4)」
	事後学習	一次方程式の計算など、十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみる。(2時間)
7	事前学習	エクセルのテキストLesson5～Lesson7を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトエクセルの基本操作 2 (Lesson5～Lesson7)」
	事後学習	一次方程式、累計、割合計算など、自らができなかった部分の演習問題を完成させてみる。(2時間)
8	事前学習	エクセルのテキストLesson8～Lesson12を予習すること。特に関数について予習しておくこと。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトエクセルの基本操作 3 (Lesson8～Lesson11)」
	事後学習	関数の使用方法を十分に理解できたか、演習問題を再度行い確認すること。(2時間)
9	事前学習	エクセルのテキストLesson13～Lesson16を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトエクセルの基本操作 4 (Lesson13～Lesson16)」
	事後学習	グラフを作成するための要素がなんであるか理解すること。演習問題を再度行い理解すること。(2時間)
10	事前学習	エクセルのテキストLesson18～Lesson22を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトエクセルの応用操作 1 (Lesson18～Lesson22)」
	事後学習	一次方程式の計算や関数の使用方法を十分に理解できたか、演習問題を再度行い理解すること。(2時間)
11	事前学習	エクセルのテキストLesson23～Lesson26を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトエクセルの応用操作 2 (Lesson23～Lesson26)」
	事後学習	グラフを作成する際の要素が何であるか、演習問題を再度行い理解すること。(2時間)
12	事前学習	エクセルのテキストLesson27～Lesson30を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトエクセルの応用操作 3 (Lesson27～Lesson30)」
	事後学習	必要なデータが抽出できるか、また、ピボットテーブルの作成方法と機能について再度演習問題を行い理解すること。(2時間)
13	事前学習	エクセルのテキストLesson31～Lesson34を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトエクセルの応用操作 4 (Lesson31～Lesson34)」
	事後学習	基本操作を忘れることなく作業効率化の為の操作方法ができるよう演習問題を再度行うこと。(2時間)
14	事前学習	講義で行ってきたワードとエクセルの演習問題の総合的な復習を行うこと。(2時間)
	授業内容	ワードとエクセルの習熟度をチェックするための試験を行う。
	事後学習	できなかった個所を確認し、できるように復習すること。(2時間)
15	事前学習	習熟度チェックでできなかったところを自ら学習しておくこと。(2時間)
	授業内容	習熟度チェックのワードとエクセルの問題完成に関しての解説を行う。
	事後学習	誤っていた操作について正しく理解しワードとエクセルを利用できるよう習熟度チェック問題を再度行う。(2時間)

科目名	コンピュータ・リテラシーB	担当者	毛利 康秀	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、コンピュータ（Windows）の基本的な操作を修得したのち、Wordを用いた文書の作成、Excelを用いたデータ処理、WordとExcelの連携、PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成、タイピングの練習、インターネットを用いた情報収集などの課題を行う。これらの操作方法を習得し、関連する課題が作成出来るとともに、卒業後も業務でコンピュータを使いこなせる力を養成することを目的とする。				
授業目的・到達目標	Wordを用いた文書の作成では、基本機能を確認しながら実用的な文書の作成、ビジネス文書の作成、インターネット上の情報を取り込んだ文書の作成等を行う。Excelを用いたデータ処理では、四則演算、簡単な関数、IF関数の使いこなし、応用的な関数の使いこなし、グラフの作成等を行う。PowerPointを用いた資料の作成では、プレゼンテーションとは何かを理解した上で、発表テーマに即した構成・情報の収集と取り込み・配置、アニメーション機能の設定などを行う。上記の作成を目的とし、これらの課題の作成を通して、他の授業における予習・復習やレポート課題の作成等に活用出来、卒業後にもビジネスの現場などで役立てる力を獲得することを目標とする。				
履修条件	初心者も十分に履修可能。各自でスキル向上に努めること。				
授業方法	PC教室にてコンピュータ（Windows）を利用した演習を行う。 課題に関する講評・解説等のフィードバックは、授業の最終回に教室で個別に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	定期試験は行わない。平常点で評価を行う。	
	平常評価		100%	授業中に作成した課題の成果、ならびに授業への参加度によって評価する。やむを得ず欠席した場合は、後日プリントにて自習に努めること。（課題提出で加点あり。）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。毎週プリントを配布する。			
参考書	必要に応じて、適宜紹介する。				
オフィスアワー	月曜日 6 限、授業の前後の時間帯、授業講堂にて。まずメールで問い合わせること。mohri-y@chs.nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	高校時代にコンピュータ関係の授業で学習した内容を再確認する。（120分）
	授業内容	ガイダンス 授業内容の説明
	事後学習	Windows/パソコンの使用方法を再確認し、必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。（120分）
2	事前学習	Windows/パソコンの使用方法について確認しておく。（120分）
	授業内容	コンピュータの基本 インターネット・電子メール
	事後学習	Windows/パソコンの使用方法を再確認し、必要に応じて図書館のPCルーム等で実際に操作を行う。（120分）
3	事前学習	Microsoft社のビジネスアプリ「Word」の使用方法について確認しておく。（120分）
	授業内容	Wordの基本的な操作（１）基本的な操作の確認
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）
4	事前学習	ビジネス文書とは何かについて、検索して調べて確認しておく。（120分）
	授業内容	Wordの基本的な操作（２）ビジネス文書の作成
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）

5	事前学習	Wordのメニュー欄をひととおり確認し、どのような機能があるのかを把握しておく。（120分）
	授業内容	Wordの様々な機能を使う（１）画像の取り込みと加工
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）
6	事前学習	Wordのメニュー欄をひととおり確認し、どのような機能があるのかを把握しておく。（120分）
	授業内容	Wordの様々な機能を使う（２）スクリーンショットの活用
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）
7	事前学習	タイピングとは何かについてインターネットで検索しておく。（120分）
	授業内容	タイピングの練習
	事後学習	タイピングソフトを活用して習慣的に練習を行い、タッチタイピングが出来るようにする。（120分）
8	事前学習	Microsoft社のビジネスアプリ「Excel」の使用方法について確認しておく。（120分）
	授業内容	Excelの基本的な操作（１）基本的な操作の確認
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）
9	事前学習	Excelのメニュー欄をひととおり確認し、どのような機能があるのかを把握しておく。（120分）
	授業内容	Excelの基本的な操作（２）算術演算子の活用
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）
10	事前学習	Excelのメニュー欄をひととおり確認し、関数に関連する機能を把握しておく。（120分）
	授業内容	Excelの様々な機能を使う（１）関数の活用
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）
11	事前学習	Excelのメニュー欄をひととおり確認し、グラフに関連する機能を把握しておく。（120分）
	授業内容	Excelの様々な機能を使う（２）関数の応用、グラフの作成
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）
12	事前学習	WordとExcelを同時に使用する方法について、インターネットで検索して調べておく。（120分）
	授業内容	WordとExcelの連携（Excelで作成した表やグラフをWordで活用する）
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）
13	事前学習	Microsoft社のビジネスアプリ「PowerPoint」の使用方法について確認しておく。（120分）
	授業内容	PowerPointを用いた課題作成（１）プレゼンテーションとは何か
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）
14	事前学習	PowerPointのメニュー欄をひととおり確認し、どのような機能があるのかを把握しておく。（120分）
	授業内容	PowerPointを用いた課題作成（２）プレゼンテーション課題の作成
	事後学習	本日の課題作成で使用した機能を復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）
15	事前学習	最終課題の内容を確認し、提出するまでの準備を整えておく。（120分）
	授業内容	授業のまとめ・課題に関する講評・解説等のフィードバック
	事後学習	これまでの課題作成で使用してきた様々な機能を総復習し、いつでも使用出来るスキルを保てるようにする。（120分）

科目名	コンピュータ・リテラシーB	担当者	山田 正雄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代社会は仮想通貨やソーシャルメディア、ビッグデータの利用によるマーケティング、サイバー戦争そして2045年問題など政治や経済、教育、家庭生活など多様な扇面で利便性と危険を併せ持つ課題を抱える。 本授業はこのような高度情報化社会で求められる情報通信技術や情報倫理への理解と情報活用能力の醸成に向けてPCを利用した講義・実習を行う。				
授業目的・到達目標	1. ネットワーク・コンピューティングへの理解やMicrosoft WordやExcel、PowerPoint等の利用技術を養成することを目的とする。 2. 各種データの収集・分析を通じて問題の発見・考察・解決方法について複眼的思考と技法を獲得できること、 3. 高い情報発信能力（適切なデータの援用による明快な資料の作成とそれを含めたプレゼンテーション能力）を身につけることができること、を目標とする。				
履修条件	情報処理の基本的な素養（コンピュータやネットワーク、経営情報、統計処理等々への理解）がほとんど無い学生を前提とする。				
授業方法	PC教室で基本課題と復習課題の2系統の配付資料（基本的にはデジタルデータ）による講義と実習を行う。 なお受講生が提出したレポートや課題については、次の授業の冒頭かポータルサイトを通じてフィードバックを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業への参加度（50%）と複数の提出課題等（50%）によって行う。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。 授業の際に資料（デジタルデータ、必要に応じてアナログデータ）を配付・提示する。			
参考書	レイ・カーツワイル 『シンギュラリティは近い（エッセンス版）人類が生命を超越するとき』 NHK出版 2016 宮下 紘 『ビッグデータの支配とプライバシー危機』 集英社新書 2017				
オフィスアワー	原則的には火曜日・11時～13時まで、または16時20分以降・学内某所としますが、ご希望によって日時・場所等を相談しましょう。 必ず事前に電子メールでアポイントメントを取って下さい。 → → → 【yamada.masao@nihon-u.ac.jp】 授業や就職活動、進学等キャンパスライフ全般についてご相談に応じます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	・メディア教育センターに設置されているPCの利用方法に慣れておく。 (2時間)
	授業内容	・授業ガイダンス 法学部情報システム（COLNet）の利用方法・講義計画・課題の入手と提出方法・成績評価等について
	事後学習	・日本大学法学部のHPより初期パスワードの変更作業を行う。 (2時間)
2	事前学習	・リモートアクセスにチャレンジして【課題01¥課題1.xlsx】を閲覧しExcelの画面構成の理解に努める。 ・2回目の授業以降はポータルサイトから事前学習の内容について連絡を致します。 (2時間)
	授業内容	・各種デジタルデータの保存と管理・再利用、ネットワーク・コンピューティングと情報倫理 ・Microsoft WordやExcelの入門
	事後学習	・リモートアクセスで【課題1.xlsx】を指定フォルダへ提出する。 (2時間)
3	事前学習	・リモートアクセスで【復習01¥ご案内状.docx】を閲覧しWordの画面構成の理解に努める。 (2時間)
	授業内容	・レポート作成法（コピペと言われないレポートの作成方法） ・フォント、インデント、脚注（参考文献・参考資料・参考URL）、ページ設定、ページ番号等々。
	事後学習	・Microsoft Wordのページ設定（余白・字数・行数の調整）について理解しておく。 ・【ショートカット・キー一覧.pdf】を配布するので概観しておく。 (2時間)

4	事前学習	・配付資料から指定した5つのショートカット・キーを学習しておく。 (2時間)
	授業内容	Microsoft Wordの基本操作 2 (Desk Top Publishing 1) ・各種技法を採り入れたフライヤーの作成 ・高度情報化社会：インターネットの仕組みとビジネスモデル
	事後学習	・指定した5つ以外の利用度の高いショートカット・キーもマスターする。 ・リモートアクセスで【ご案内状.docx】を指定フォルダへ提出する。 (2時間)
5	事前学習	・リモートアクセスで【課題01¥受講者数統計.xlsx】を閲覧しExcelの画面構成の理解に努める。 (2時間)
	授業内容	Microsoft Excelの基本操作 1 ・表計算と編集（データ入力と合計・平均関数）、PCの構造と機能、保存メディアの種類と機能
6	事後学習	・リモートアクセスで【受講者数統計.xlsx】を指定フォルダへ提出する。 ・復習課題でMicrosoft Excelの合計・平均関数とオートフィル機能を復習しておく。 (2時間)
	事前学習	・リモートアクセスで【復習01¥ (5) グラフとオートシェイプ.xlsx】を閲覧し 理解できる範囲で各種グラフを作成しておく。 (2時間)
	授業内容	Microsoft Excelの基本操作 2 ・（各種グラフ作成、基本的関数の利用） ・HP閲覧（検索エンジンの利用とデータ収集）
7	事後学習	・リモートアクセスで【復習02¥ (7) IF評価A.xlsx】の予習結果を指定フォルダへ提出する。 (2時間)
	事前学習	・官公庁や業界団体、任意の企業のHPからExcelデータ等をダウンロードしておく。 (2時間)
	授業内容	Microsoft Excelの応用操作 1 ・（各種グラフ、DB関数） ・HP閲覧（EDINETや企業・自治体のデータ収集）
8	事後学習	・リモートアクセスで【復習02¥ (7) IF評価B.xlsx】を指定フォルダへ提出する。 ・経済・経営・会計・ICT関連の「調査課題」を配布するので概観しておく。 (2時間)
	事前学習	・各企業のHPや金融庁EDINETから任意の企業の有価証券報告書を閲覧し 必要なデータをExcelファイルに保存しておく。 (2時間)
	授業内容	Microsoft Excelの応用操作 2（経営トレンド分析） ・電子メールの利用（Excelファイルに読み取りパスワード設定を付けて添付して送信する）
9	事後学習	・指定課題で復習してリモートアクセスで当該フォルダにアップしておく。 ・【復習14¥0. ABC分析.xlsx】に読み取りパスワードを付けて電子メールに添付して提出する。 (2時間)
	事前学習	・日本社会学会等、任意の社会科学系の学会のHPより論文投稿規定を閲覧し、理解しておくこと。 ・リモートアクセスで【課題11Word & Excel】を閲覧し理解に努める。 (2時間)
	授業内容	・ABC分析について ・レポート作成（ExcelデータのWordへの転用） ・社会科学系論文・レポートの作成方法について ・ファイルサーバの利用と管理
10	事後学習	・論文・レポートの作成要件・形式について復習しておく。 ・プレゼンのテーマについて調査・決定しておく。 (2時間)
	事前学習	・プレゼン・テーマのアウトラインをWordに記述して指定フォルダにアップロードしておく。 (2時間)
	授業内容	PowerPointによるプレゼン資料の作成 1 （アウトライン重視の効果的なプレゼン資料の作成）
11	事後学習	各自のPowerPoint課題の作成作業を進めておく。 (2時間)
	事前学習	・新たなデータを加えて各自のPowerPoint課題の作成作業を進めておく。 (2時間)
	授業内容	PowerPointによるプレゼン資料の作成 2 （聴取者にマッチした訴求度の高いプレゼン資料の作成、評価の視点）
12	事後学習	・各自のPowerPoint課題の作成作業を更に進めておく。 (2時間)
	事前学習	・プレゼンテーションについて解説した指定教材を読み込んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	PowerPointによるプレゼンテーション 1 （学生によるプレゼンテーション 1）
13	事後学習	・プレゼンテーションの内容を評価して評価集計表に記入しておく。 (2時間)
	事前学習	・プレゼンテーションの評価基準をWordにまとめリモートアクセスで当該フォルダにアップしておく。 (2時間)
	授業内容	PowerPointによるプレゼンテーション 2 （学生によるプレゼンテーション 2）
13	事後学習	・プレゼンテーションの内容を評価して評価集計表に纏めておく。 ・官公庁や業界団体、任意の企業のHPからExcelデータ等をダウンロードしておく。 ・リモートアクセスで【復習11¥ 5 逆トーナメントデータ分析.xlsx】を閲覧し 理解できる範囲で作業を進めておく。 (2時間)

14	事前学習	・官公庁HPから『各種白書』や業界団体、任意の企業のHPから業績Excelデータ等をダウンロードしておく。 (2時間)
	授業内容	Excelによるスモールデータの分析 (ピボットテーブルによるデータの分析と解釈)
	事後学習	・分析結果を再検討して更に異なる視点で検討した結果をWordにまとめておく。 ・Web上で「HTMLタグ」について5個以上の基本的なものについて理解しておく。 (2時間)
15	事前学習	・10行のHTMLを完成させておく。 (2時間)
	授業内容	・スクリプティング入門 (HTML入門) ・講義全体の復習・スクリプティング入門 (HTML入門)
	事後学習	☆「期末課題」を完成後に指定期日までに当該フォルダへアップロードする。 (2時間)

科目名	コンピュータ・リテラシーB	担当者	鈴木 正章	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	コンピュータの操作の基本や学内におけるコンピュータの使用方法について理解し、インターネットを利用した情報入手、電子メールによる情報伝達、Wordを使った文書の作成、Excelを使ったデータ処理、PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成などについての基礎的な技術を毎時行う実習を通して習得する。			
授業目的・到達目標	【授業目的】現代社会で生活する我々にとって、コンピュータは情報の収集、情報の制作やそれらの伝達のツールとして必須不可欠である。本講義では、コンピュータのアプリケーションを利用して、文書作成、データの解析や処理および伝達やプレゼンテーションなどの活用能力を養成することを目的とする。 【到達目標】この授業において、インターネットを利用した情報検索、電子メールを使った情報伝達やWord 2013 を使った文書作成、Excel 2013では、表の作成・表からグラフの作成・簡単な関数を使った表の作成、PowerPoint 2013使ったプレゼンテーションの作成などについて理解し、使うことができるようになることを目標とする。			
履修条件	毎時、出席できること。機器台数により、50名を限度とする。コンピュータ・ネットワーク初心者可。			
授業方法	授業は教科書や配布資料を使って基礎的な事項のポイントについて解説し、教科書の中に設定されている課題にそって実習を行う。なお、採点の内容と講評は、後日ポータルサイトで配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	定期試験は行わない。
	平常評価		100%	提出された課題、その内容と授業の参加度などを総合的に評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	実教出版	Windows8対応 時間でマスター Word&Excel2013	実教出版編集部
	備考			
参考書	「Windows7対応 30時間でマスター Office2010」実教出版、2018年			
オフィスアワー	火曜日および木曜日の19：30ー19：50の時間帯で授業講堂で受付ます。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の「Windows8の基礎」についてあらかじめ熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	情報とメディアの活用法
	事後学習	学内パソコン使用について習熟すること。（2時間）
2	事前学習	Internet Explorerのについて熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	学内ネットワークの活用 クラウドの活用
	事後学習	様々なホームページを開き、学内メールも使ってみる。（2時間）
3	事前学習	教科書の「Word2013の基礎的な使い方」について熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（1）文章の入力・文書の読み込み、保存および印刷
	事後学習	Word2013の画面構成の理解と文字入力に習熟しておくこと。（2時間）
4	事前学習	教科書の文書の作成について熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（2）文書の書式設定
	事後学習	文字入力と文書の書式設定に習熟しておくこと。（2時間）

5	事前学習	教科書の編集機能について熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（3）Wordの編集機能
	事後学習	編集機能を使った様々な文書を作成すること。（2時間）
6	事前学習	教科書の画像・テキストボックスの挿入を熟読しておくこと。
	授業内容	Wordを活用した分かりやすく正確に伝える文書作成（4）Wordの編集機能
	事後学習	画像やテキストボックスを挿入した文章の作成に慣れておくこと。（2時間）
7	事前学習	教科書のExcel2013の画面構成とそれらの機能について熟読し理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（1）表の作成
	事後学習	Excel2013を使って表を作成出来るようにする。（2時間）
8	事前学習	教科書のExcel2013の様々な書式設定を理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（2）計算式の挿入
	事後学習	数式を入力と様々な書式設定をして表の作成する。（2時間）
9	事前学習	教科書のグラフの挿入の仕方を熟読および理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（3）Excelのデータからグラフを作成
	事後学習	表データから様々なグラフを作成する。（2時間）
10	事前学習	教科書のグラフの書式設定変更の仕方を熟読および理解しておくこと。
	授業内容	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（4）グラフの編集
	事後学習	表データからグラフを作成し、グラフの種類や数値軸目盛などの書式設定の変更ができるようにしておく。（2時間）
11	事前学習	教科書を通して、Excelで活用する関数を調べておく。（2時間）
	授業内容	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（5）Excelの活用（基本的な関数）
	事後学習	Excelの関数を用いて様々な表データを作成する。（2時間）
12	事前学習	教科書を通して、Excelで活用する関数を調べておく。（2時間）
	授業内容	Excelを活用したデータの集計・分析・表現（6）Excelの活用（相対参照・絶対参照）
	事後学習	Excelの関数を用いて様々な表データを作成する。（2時間）
13	事前学習	プレゼンテーションの内容とその構成について計画を立てる。（2時間）
	授業内容	PowerPointを活用したプレゼンテーション（1）PowerPointの基本的な使い方とプレゼンテーションの設計
	事後学習	PowerPointの画面構成との役割について習得しておくこと。（2時間）
14	事前学習	PowerPointの機能についてあらかじめ調べておく。（2時間）
	授業内容	PowerPoint活用したプレゼンテーション（2）ワードアート・Smart Art・図の挿入・アニメーション効果・動画の挿入
	事後学習	ワードアート、Smart Art、図の挿入やアニメーション効果を利用したプレゼンテーションの作成する。（2時間）
15	事前学習	PowerPointの機能についてあらかじめ調べておく。（2時間）
	授業内容	PowerPoint活用したプレゼンテーション（3）プレゼンテーションの方法とまとめ
	事後学習	「まとめ」として一つのオリジナルなプレゼンテーションの企画と作成。（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【公共政策】	担当者	阿部 徳幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし				
授業方法	【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	月曜日・金曜日の16：00～ 事前に連絡のこと。9号館 9301研究室				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【政治経済】	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法					
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	月曜日 12：15～13：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館4階9403） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法職】	担当者	池田 実	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件					
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	金曜日12:10-13:00 研究室（4号館5階454研究室） メールアドレス：ikedam.minoru61@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法律】	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。					
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8					
履修条件						
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。					
成績評価	種別		割合	評価方法		
	定期試験		0%			
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%		
教科書	年	出版社		書名	著者名	
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）		
	備考					
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する					
オフィスアワー	水曜日、3時限目（13：30～14：30） 尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【政治経済】	担当者	岩崎 正洋	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし			
授業方法	【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	月曜日12：10～13：00 研究室（4号館2階425）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法律】	担当者	岡西 賢治	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。			
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	月曜 12：00～13：00			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【公共政策】	担当者	小澤 久仁男	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	金曜日10：30～ 授業終了後、授業講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法律】	担当者	尾田 清貴	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	木曜日16:10～17:00に本館9階1904号室で実施する。 ただし、メールで事前予約することが望ましい。oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法律】	担当者	小野寺 千世	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜日12:20～13:00研究室にて（事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（9号館3階 9308号室） メールアドレス：onodera.chise@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法律】	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	木曜日12時～13時。 また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールでアポイントメントを取ること。 研究室：本館7階 1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【公共政策】	担当者	竹内 敏夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べるができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）		
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	金曜日 10時40分～11時30分 担当講師研究室 事前にアポイントをとること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【経営法】	担当者	加藤 浩	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修するの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修するの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より修業成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件					
授業方法	【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜日 5 時限目に設定する。（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館 6 階 1 6 1 0 号室）メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【政治経済】	担当者	金澤 良弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法					
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜日15：00～16：00（授業講堂にて受付ける）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【公共政策】	担当者	上村 進	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜日2限。（休暇中を除く。事前にメールにて要アポイントメント） 研究室 本館6階 1604号室 メールアドレス：kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法律】	担当者	栗原 千里	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件					
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜昼休み(12:10～13:00)研究室等。中国語学習方法、可能な範囲で相談に応ずる。又メール連絡可、栗原千里研究室 メールアドレス kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法律】	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	月曜日の昼休み。事前にメール等で予約の上、質問・相談・指導をおこないます。 研究室（4号館1階412） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件					
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜日4限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【公共政策】	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜日 12：20～13：30、木曜日 12：10～13：00 ※事前に連絡をしてください。 e-Mail satou.hideaki@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法律】	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件					
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	月曜～木曜日の13：00～18：00 授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。 対面質問も受けるが、メールで日時予約が条件。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【経営法】	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜日 昼休み 研究室（4号館424研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【経営法】	担当者	菅野 政孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	時間帯：水曜日15：00～16：00 場所：研究室（9号館3階 9309号） 内容：学業、就職活動支援、その他諸事可 記事：メールでの相談可（sugano.masataka@nihon-u.ac.jp）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【政治経済】	担当者	杉本 竜也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	オフィスアワーは火曜日15:00～16:00とする（研究室：本館8階1808研究室）。事前にメールで予定を確認してもらいたい（E-Mail：sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp）。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【公共政策】	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし				
授業方法	【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。 メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【新聞】	担当者	田中 夏樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし				
授業方法	【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜日 14：30～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法律】	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	月曜13：00～14：30 金曜13：00～14：30 事前にメール等で連絡をすること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	中 静 未 知	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	---------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし				
授業方法	【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	面談可能時間：火曜昼休み(12:10-12:50)。事前にアポイントメントを取ってください（メールか授業の前後に口頭で）。 研究室（9号館4階405号）nakashizuka.michi@nihon-u.ac.jp なお、授業内容についての質問はメールでも受け付けます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法職】	担当者	西貝 吉晃	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし			
授業方法	【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	火曜日 14：40～16：10			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【新聞】	担当者	西山 智之	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。			
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	月曜日16：20～19：30 事前にnishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法律】	担当者	野中 貴弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし				
授業方法	【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	月曜日12：10～13：00 研究室（4号館2階425）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【新聞】	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし			
授業方法	【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	火曜日13時～14時（事前にメールにてアポイントをとること） （メールアドレスは、ポータルにて連絡）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法律】	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし				
授業方法	【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	月曜日・2時限（出来るだけ事前に予約すること）。なお、これ以外の曜日・時限も可。 研究室（本館6階1616号室） メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【政治経済】	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	オフィスアワー：水曜日15:00～16:00（予定） 連絡先（メールアドレス）は初回の授業の際にお伝えします。 事前にアポイントをとってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【政治経済】	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし			
授業方法	【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、火曜日授業の前後に、直接、その旨を話に来てください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	藤田 晶子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜日16:30pm～17:30pm 事前にメールで予約を取ること。 e-mail：akiko_fujita@lapinrose.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【経営法】	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜12時20分～12時50分、研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。 matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp 本館7階1713研究室				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【政治経済】	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件					
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	担当教員研究室（本館8階1815研究室）にて金曜日3時限に対応する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法律】	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。					
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8					
履修条件	【履修条件】なし					
授業方法	【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。					
成績評価	種別		割合	評価方法		
	定期試験		0%			
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%		
教科書	年	出版社		書名	著者名	
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）		
	備考					
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する					
オフィスアワー	火曜日13:00～14:00（研究室：本館8F 1811） 担当者が不在の場合もあるので、事前にメールで予定を確認すること。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【新聞】	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜日16：20-17：50（4号館1階） 連絡先：mizumoto.koji@nihon-u.ac.jp 、 「メールする場合は*を@に変えて使って下さい」				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【経営法】	担当者	三谷 文栄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし				
授業方法	【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	毎週水曜日の14時半～16時 できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	金曜日12：15～12：55 ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法職】	担当者	南 健悟	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	毎週水曜日午後1時00分～2時30分。ただし、在室中や事前にアポイントがある場合には、適宜対応する。 研究室本館9階1919研究室、メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【新聞】	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし			
授業方法	【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	火曜日の12:10-1:00に、9号館（9408）研究室にて対応する。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜4限、本館1614研究室にて（事前に必ずアポイントメントを取ること）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【政治経済】	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件					
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜日、お昼休み、9107研究室にて（事前にメールで予約をとること） メールにての相談は随時受け付ける。morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【公共政策】	担当者	山田 光矢	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし				
授業方法	【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜日5限に研究室（9号館5階9505）で行います。 ※会議等のために毎週確実に対応できないことも考えられるので、相談を希望する場合には事前にメールで連絡し、私からの相談可能の連絡を受けてからきてください。（yamada.mitsuya@nihon-u.ac.jp）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【政治経済】	担当者	山本 直	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜3限。不在の場合があるので事前に連絡すること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法律】	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法					
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜日12時20分から13時（事前にメールでアポイントメントを取ってください） 研究室（本館9階1910）yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【新聞】	担当者	吉原 達也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	金曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（本館9階1908）yoshihara.tatsuya@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【経営法】	担当者	和田 万紀	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法					
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	月曜日12時20分より13時まで。 事前に、授業前後に予約すること。 場所は、9号館501研究室。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【政治経済】	担当者	渡邊 容一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし				
授業方法	【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜日 14：40～16：10（事前にメールで予約してください） 研究室（9号館2階 9207研究室） watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法律】	担当者	大熊 圭子	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。					
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8					
履修条件						
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。					
成績評価	種別		割合	評価方法		
	定期試験		0%			
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%		
教科書	年	出版社		書名	著者名	
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）		
	備考					
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する					
オフィスアワー	水曜日 18:00～19:00 研究室（本館8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。 okuma.keiko@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法律】	担当者	大山 盛義	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜日3時限（メールでアポイントメントをとること）研究室にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	児玉 直起	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法					
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜日12:30-13:30に435研究室で対応する。 E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法律】	担当者	齋藤 康輝	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。					
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8					
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。					
成績評価	種別		割合	評価方法		
	定期試験		0%			
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%		
教科書	年	出版社		書名	著者名	
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）		
	備考					
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する					
オフィスアワー	時間帯：毎週水曜日の昼休み（12:10～13:00） ただし、祝日・休暇期間は除く 場所：研究室（本館1809） 必ずメール等で事前予約した上で来室すること。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法律】	担当者	末澤 国彦	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし				
授業方法	【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜日16：20～19：30、水曜日14：00～16：00研究室（本館7階1704号室）で行う。なおsuezawa.kunihiko@nihon-u.ac.jp宛のメールでアポイントを取ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ	担当者	舘野 正生	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
授業方法	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜日の09時～10時。ただし必ず事前にメールにて連絡すること。 授業者の大学アドレス tateno.masao@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法律】	担当者	常松 淳	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）		
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	授業期間中の木曜日12:20～12:50、本館6階1611号室にて。必ず事前にメールでアポを取ること（tsunematsu.jun@nihon-u.ac.jp）。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅰ【法律】	担当者	渡辺 徳夫	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	日本大学教育憲章の「自主創造」を構成する3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して理解し、グループの一員として課題に取り組む能力を養成することを目的とする。 1. 日本大学教育憲章の「日本大学マインド」と「自主創造」の3つの構成要素及びその能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。2. 予習の内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べることができる。3. 授業で与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。4. 授業で与えられた課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。5. グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。6. グループ活動において、より良い成果をあげるために、お互いを尊重することができる。7. 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。8. プレゼンテーションの意味を理解し、相手が理解しやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし				
授業方法	【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、教室、図書館の利用状況、また授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	①授業終了後の教室（授業時間：水曜3限） ②図書館7階ラーニング・コモンズ・スペース（事前に電子メールでアポイントメントを取る） ③国際交流センター入室時 のいずれか				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を予習する（2時間）
	授業内容	大学を知ろう
	事後学習	神田三崎町キャンパスを実際に歩く（2時間）
2	事前学習	予習動画を視聴する（2時間）
	授業内容	日本大学の歴史を訪ねてみよう 予習動画を教材として
	事後学習	自主創造の精神を確認する（2時間）
3	事前学習	高校と大学の違いを調べる（2時間）
	授業内容	大学生になるために
	事後学習	教科書第3章末の課題に取り組む（2時間）
4	事前学習	主権者の役割について調べる（2時間）
	授業内容	有権者としての自覚をもとう
	事後学習	教科書第4章末の課題に取り組む（2時間）

5	事前学習	図書館の入館方法を確認する（2時間）
	授業内容	図書館を利用してみよう
	事後学習	他大学OPACを利用する（2時間）
6	事前学習	情報リテラシーの概念を調べる（2時間）
	授業内容	情報を収集・整理してみよう
	事後学習	教科書第6章末の課題に取り組む（2時間）
7	事前学習	批判的思考の概念を調べる（2時間）
	授業内容	論理的思考を身につけよう
	事後学習	教科書第7章末の課題に取り組む（2時間）
8	事前学習	新聞の社説を読む（2時間）
	授業内容	論説を要約してみよう
	事後学習	教科書第8章末の課題に取り組む（2時間）
9	事前学習	文章の違いを考える（2時間）
	授業内容	論文と説明文の違いを理解しよう
	事後学習	教科書第9章末の課題に取り組む（2時間）
10	事前学習	著作権の重要性を考える（2時間）
	授業内容	レポートを書いてみよう
	事後学習	参考文献の引用、表記方法を確認する 教科書第10章末の課題に取り組む（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションの役割を考える（2時間）
	授業内容	プレゼンテーションをしてみよう
	事後学習	教科書第11章末の課題に取り組む（2時間）
12	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディスカッションをしてみよう
	事後学習	教科書第12章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディスカッションをする
13	事前学習	興味あるテーマをいくつか提案する（2時間）
	授業内容	ディベートをしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間） 興味あるテーマでディベートをする
14	事前学習	キャリア・デザインの概念を調べる（2時間）
	授業内容	自分のキャリアをデザインしてみよう
	事後学習	教科書第13章末の課題に取り組む（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する 後学期のグループ討論のテーマ案を準備する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう ※後学期のテーマについて準備しよう
	事後学習	後学期の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【公共政策】	担当者	阿部 徳幸	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することが出来る。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	月曜日・金曜日の16：00～ 事前に連絡のこと。9号館 9301研究室			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【政治経済】	担当者	荒井 祐介	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎1」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することが出来る。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	月曜日 12：15～13：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館4階9403） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマABの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマABで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマABで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法職】	担当者	池田 実	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。法職課程在籍者は、例年秋に開催される法律討論会への出席を平常評価で考慮する。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	金曜日12:10-13:00 研究室（4号館5階454研究室） メールアドレス：ikedam.minoru61@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマABの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマABで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマABで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法律】	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキル ¹ の修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8 【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。			
履修条件				
授業方法				
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	火曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜日、3時限目（13：30～14：30） 尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【政治経済】	担当者	岩崎 正洋	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	月曜日12：10～13：00 研究室（4号館2階425）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法律】	担当者	岡西 賢治	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキル ¹ の修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8 【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
履修条件					
授業方法					
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	月曜 12：00～13：00				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【公共政策】	担当者	小澤 久仁男	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修対 _ル の修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8 【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
履修条件					
授業方法					
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	金曜日10：30～ 授業終了後、授業講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法律】	担当者	尾田 清貴	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8 【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
履修条件					
授業方法					
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	木曜日16:10～17:00に本館9階1904号室で実施する。 ただし、メールで事前予約することが望ましい。oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法律】	担当者	小野寺 千世	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。					
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8					
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。					
成績評価	種別		割合	評価方法		
	定期試験		0%			
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%		
教科書	年	出版社		書名	著者名	
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）		
	備考					
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する					
オフィスアワー	火曜日12:20～13:00研究室にて（事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（9号館3階 9308号室） メールアドレス：onodera.chise@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法律】	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	木曜日12時～13時。 また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールでアポイントメントを取ること。 研究室：本館7階 1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【公共政策】	担当者	竹内 敏夫	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキル ¹ の修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8 【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
履修条件					
授業方法					
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	金曜日 10時40分～11時30分 担当講師研究室 事前にアポイントをとること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【経営法】	担当者	加藤 浩	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜日 5 時限目に設定する。（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館 6 階 1 6 1 0 号室）メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【政治経済】	担当者	金澤 良弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）		
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜日15：00～16：00（授業講堂にて受付ける）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【公共政策】	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	水曜日2限。（休暇中を除く。事前にメールにて要アポイントメント） 研究室 本館6階 1604号室 メールアドレス：kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法律】	担当者	栗原 千里	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜昼休み(12:10～13:00)研究室等。可能な範囲で相談に応ずる。又メール連絡可、栗原千里研究室メールアドレス kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法律】	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8 【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
履修条件					
授業方法					
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	月曜日の昼休み。事前にメール等で予約の上、質問・相談・指導をおこないます。 研究室（4号館1階412） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキル ¹ の修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8 【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
履修条件					
授業方法					
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜日4限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【公共政策】	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	火曜日 12：20～13：30、木曜日 12：10～13：00 ※事前に連絡をしてください。 e-Mail satou.hideaki@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法律】	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8 【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。			
履修条件				
授業方法				
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	月曜～木曜日の13：00～18：00 授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。 対面質問も受けるが、メールで日時予約が条件。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【経営法】	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）		
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜日 昼休み 研究室（4号館424研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【経営法】	担当者	菅野 政孝	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	時間帯：水曜日15：00～16：00 場所：研究室（9号館3階 9309号） 内容：学業、就職活動支援、その他諸事可 記事：メールでの相談可（sugano.masataka@nihon-u.ac.jp）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【政治経済】	担当者	杉本 竜也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	オフィスアワーは火曜日15:00～16:00とする（研究室：本館8階1808研究室）。事前にメールで予定を確認してもらいたい（E-Mail：sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp）。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【公共政策】	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）		
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。 メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【新聞】	担当者	田中 夏樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	水曜日14：30～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法律】	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）		
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	月曜13：00～14：30 金曜13：00～14：30 事前にメール等で連絡をすること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	中 静 未 知	部 別	第一部	期 間	後 期	単 位 数	2
-----	----------	-----	---------	-----	-----	-----	-----	-------	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	面談可能時間：火曜昼休み(12:10-12:50)。事前にアポイントメントを取ってください（メールか授業の前後に口頭で）。 研究室（9号館4階405号）nakashizuka.michi@nihon-u.ac.jp なお、授業内容についての質問はメールでも受け付けます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法職】	担当者	西貝 吉晃	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキル ¹ の修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8 【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。法職課程在籍者は、例年秋に開催される法律討論会への出席を平常評価で考慮する。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
履修条件					
授業方法					
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜日14：40～16：10				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【新聞】	担当者	西山 智之	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。					
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8					
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。					
成績評価	種別		割合	評価方法		
	定期試験		0%			
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%		
教科書	年	出版社		書名	著者名	
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）		
	備考					
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する					
オフィスアワー	月曜日16：20～19：30 事前にnishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法律】	担当者	野中 貴弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜日13：00—17：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館6階1608） nonaka.takahiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【新聞】	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	火曜日13時～14時（事前にメールにてアポイントをとること） （メールアドレスは、ポータルにて連絡）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法律】	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	月曜日・2時限（出来るだけ事前に予約すること）。なお、これ以外の曜日・時限も可。 研究室（本館6階1616号室） メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【政治経済】	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	オフィスアワー：水曜日15:00～16:00（予定） 連絡先（メールアドレス）は初回の授業の際にお伝えします。 事前にアポイントをとってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【政治経済】	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、火曜日授業の前後に、直接、その旨を話に来てください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	藤田 晶子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜日16:30pm～17:30pm 事前にメールで予約を取ること。 e-mail : akiko_fujita@lapinrose.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【経営法】	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜12時20分～12時50分、研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。 matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp 本館7階1713研究室				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【政治経済】	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修対 ^ル の修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	担当教員研究室（本館8階1815研究室）にて金曜日3時限に対応する。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法律】	担当者	三澤 真明	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜日13:00～14:00（研究室：本館8F 1811） 担当者が不在の場合もあるので、事前にメールで予定を確認すること。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【新聞】	担当者	水本 孝二	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜日16：20～17：50（4号館1階） 連絡先：mizumoto.koji@nihon-u.ac.jp 、 「メールする場合は*を@に変えて使って下さい」				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【経営法】	担当者	三谷 文栄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。					
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8					
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。					
成績評価	種別		割合	評価方法		
	定期試験		0%			
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%		
教科書	年	出版社		書名	著者名	
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）		
	備考					
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する					
オフィスアワー	毎週水曜日の14時半～16時 できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。					
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8					
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。					
成績評価	種別		割合	評価方法		
	定期試験		0%			
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%		
教科書	年	出版社		書名	著者名	
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）		
	備考					
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する					
オフィスアワー	金曜日12：15～12：55 ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法職】	担当者	南 健悟	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8 【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。法職課程在籍者は、例年秋に開催される法律討論会への出席を平常評価で考慮する。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。			
履修条件				
授業方法				
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	毎週水曜日午後1時00分～2時30分。ただし、在室中や事前にアポイントがある場合には、適宜対応する。 研究室本館9階1919研究室、メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマABの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマABで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマABで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【新聞】	担当者	三村 淳一	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	火曜日の12:10-1:00に、9号館（9408）研究室にて対応する。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	宮澤 隆義	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8 【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
履修条件					
授業方法					
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜4限、本館1614研究室にて（事前に必ずアポイントメントを取ること）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【政治経済】	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	水曜日、お昼休み、9107研究室にて（事前にメールで予約をとること） メールにての相談は随時受け付ける。morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【公共政策】	担当者	山田 光矢	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	水曜日5限に研究室（9号館5階9505）で行います。 ※会議等のために毎週確実に対応できないことも考えられるので、相談を希望する場合には事前にメールで連絡し、私からの相談可能の連絡を受けてからきてください。（yamada.mitsuya@nihon-u.ac.jp）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【政治経済】	担当者	山本 直	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8 【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。			
履修条件				
授業方法				
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	火曜3限。不在の場合があるので事前に連絡すること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法律】	担当者	吉澤 保	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	水曜日12時20分から13時（事前にメールでアポイントメントを取ってください） 研究室（本館9階1910）yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【新聞】	担当者	吉原 達也	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	金曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（本館9階1908）yoshihara.tatsuya@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【経営法】	担当者	和田 万紀	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）		
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	月曜日12時20分より13時まで。 事前に、授業前後に予約すること。 場所は、9号館501研究室。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【政治経済】	担当者	渡邊 容一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜日 14：40～16：10（事前にメールで予約してください） 研究室（9号館2階 9207研究室） watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法律】	担当者	大熊 圭子	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。							
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8							
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%					
	平常評価		100%		2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	2019		北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）			
	備考							
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する							
オフィスアワー	水曜日 18:00～19:00 研究室（本館8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。 okuma.keiko@nihon-u.ac.jp							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法律】	担当者	大山 盛義	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	火曜日3時限（メールでアポイントメントをとること）研究室にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	児玉 直起	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）		
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜日12:30-13:30に435研究室で対応する。 E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法律】	担当者	齋藤 康輝	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	時間帯：毎週水曜日の昼休み（12:10～13:00） ただし、祝日・休暇期間は除く 場所：研究室（本館1809） 必ずメール等で事前予約した上で来室すること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法律】	担当者	末澤 国彦	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜日16：20～19：30、水曜日14：00～16：00研究室（本館7階1704号室）で行う。なおsuezawa.kunihiko@nihon-u.ac.jp宛のメールでアポイントを取ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ	担当者	舘野 正生	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）		
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	火曜日の09時～10時。ただし必ず事前にメールにて連絡すること。 授業者の大学アドレス tateno.masao@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法律】	担当者	常松 淳	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。			
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	北樹出版	『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考			
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する			
オフィスアワー	授業期間中の木曜日12:20～12:50、本館6階1611号室にて。必ず事前にメールでアポを取ること（tsunematsu.jun@nihon-u.ac.jp）。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討—グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	自主創造の基礎Ⅱ【法律】	担当者	渡辺 徳夫	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本大学憲章では、以下のように定めており、この憲章を具体化する第一歩が、この自主創造の基礎です。 【日本大学憲章】日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。				
授業目的・到達目標	「グループワーク」から「チームワーク」へ。「自主創造の基礎Ⅰ」で身につけた学修能力・スキルを活用し、事象を認識して個人では完遂できない問題をチームメンバーと協働して解決することができるようになることを目的とする。 以下に掲げる1～6の能力を学修スキルの修得を通して概説できるようになることを目標とする。1. 取り組む問題や事象を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察できる。2. 取り組むべき問題や事象について、助言をうけて複数の解決策を提示することができる。3. 見出した問題や事象に対して、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。4. 多様な学生とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。5. チームでの活動において、より良い成果をあげるために、他者と協働し作業を行うことができる。6. 自己の学修経験に対して継続的に振り返りを行うことができる。関連DP及びCP：3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【履修条件】なし 【授業方法】参加型（能動的）学習方法をとる。原則として下記の授業区分通りに行うが、授業の進捗具合によって区分を入れ替えることがある。10月20日(日)(予備日は27日(日))に、「日本大学ワールド・カフェ」（編入等クラス及び再履修クラスを除く）が開催される。なお、「日本大学ワールド・カフェ」は2週分の授業に相当するため、後学期中に2週分の休講措置を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる ①授業内課題50%、②平常評価（授業への参加度を勘案する）50%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	北樹出版		『2019年度版 自主創造の基礎』（日本大学法学部編）	
	備考				
参考書	『“自主創造”のためのLearning Guide 2019』 その他授業中に指示する				
オフィスアワー	①授業終了後の教室（授業時間：水曜3限） ②図書館7階ラーニング・コモンズ・スペース（事前に電子メールでアポイントメントを取ること） ③国際交流センター入室時 のいずれか				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
	授業内容	テーマA（前学期最後の授業で指定）についての検討―背景説明・論点の抽出・検討
	事後学習	抽出された論点について整理をする（2時間）
2	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
3	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
4	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマAについての検討―グループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）

5	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる 興味関心のあるテーマ候補を準備する（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評 / テーマBの選定
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
6	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（1）
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
7	事前学習	会場・日時・チーム番号・持ち物などの確認。
	授業内容	日本大学ワールド・カフェ（2）※予備日
	事後学習	当日配付されたレポート課題の作成やアンケートへの回答など
8	事前学習	当日配付されたレポート課題の見直し（2時間）
	授業内容	日本大学ワールド・カフェの振り返り
	事後学習	書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する（2時間）
9	事前学習	自分の論点整理をまとめる（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの討論
	事後学習	グループの他のメンバーの論点整理を評価する（2時間）
10	事前学習	パワポスライド原案を作成する（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとのまとめ
	事後学習	パワポスライド完成版を点検する（2時間）
11	事前学習	発表リハーサル（2時間）
	授業内容	テーマBについての検討ーグループごとの発表
	事後学習	次回発表に向けた反省点、課題を検討する（2時間）
12	事前学習	前回発表の反省点、課題をまとめる（2時間）
	授業内容	教員・学生による講評
	事後学習	テーマA Bの発表を振り返る（2時間）
13	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（1）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
14	事前学習	小論文の文字数を確認する 書籍・新聞・雑誌などで関連情報を収集する 参考文献の引用、表記方法を確認する。（2時間）
	授業内容	テーマA Bで取り上げられた論点について小論文を書いてみよう（2）
	事後学習	参考文献の引用、表記方法が適切であったか確認する。（2時間）
15	事前学習	自主創造の基礎Ⅱの授業目的、到達目標を確認する（2時間）
	授業内容	これまでの学びを振り返ってみよう
	事後学習	次年度の目標を設定する（2時間）

科目名	日本国憲法	担当者	田上 雄大	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	本講義は、憲法問題についての知識を得ることを通じて、自己の意見を固め、そこから憲法にかかわる諸問題について考察できるようになることを目的とする。また、必要に応じて時事問題についても触れる。			
授業目的・到達目標	◎授業目的 憲法に関する知識を深め、自らの見解を整理し、発信・分析力を養うことを目的する。 ◎到達目標 現代社会に関係する憲法に関する諸問題について、柔軟にかつ客観的に見ることができるよう知を深めることを目標とする。			
履修条件	特になし。			
授業方法	必要に応じてレジュメを配布。講義形式。【フィードバック方法】必要に応じてリアクションペーパー等。これらに応じて、学生次第でフレキシブルに対応するので、シラバスから内容が多少変更される可能性もある。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	※受講者の人数が多くなった場合、試験期間中の試験に変更する可能性もある。
	平常評価		100%	論述試験を中心に授業参加度などを加味して評価する。詳細については講義中に適宜伝える。自主レポートは随時受け付ける。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	平成29	弘文堂	憲法（Next教科書シリーズ）第二版	齋藤康輝, 高畑英一郎（編集）
	備考			
参考書	講義内で必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	講義終了後（水曜日 5 限、二部 2 限）に学内の開かれたスペースまたは講義する（した）講堂で行う。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく確認しておくこと（1時間）。
	授業内容	ガイダンス ガイダンスを行い、今後の講義の進め方について説明する。
	事後学習	ガイダンスを踏まえて学習計画を考える（3時間）。
2	事前学習	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい（2時間）。
	授業内容	主権、天皇の地位と権能 主権や天皇の憲法上の地位について講義する。
	事後学習	主権、天皇の地位についてまとめておくこと（2時間）。
3	事前学習	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい（2時間）。
	授業内容	戦争放棄 憲法9条の成り立ちや解釈について講義する。
	事後学習	憲法9条についてまとめておくこと（2時間）。
4	事前学習	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい（2時間）。
	授業内容	基本的人権とその限界 基本的人権の種類とその限界について講義する。
	事後学習	基本的人権の歴史をまとめておくこと（2時間）。

5	事前学習	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい（2時間）。
	授業内容	法の下の平等 憲法上の平等と平等の範囲外について講義する。
	事後学習	平等についてまとめておくこと（2時間）。
6	事前学習	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい（2時間）。
	授業内容	思想・良心の自由 内心の自由の保障の定義と限界について講義する。
	事後学習	内心の自由についてまとめておくこと（2時間）。
7	事前学習	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい（2時間）。
	授業内容	信教の自由、政教分離 信教の自由と政教分離について講義する。
	事後学習	信教の自由や政教分離の形態についてまとめておくこと（2時間）。
8	事前学習	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい（2時間）。
	授業内容	表現の自由、学問の自由 表現の自由とその規制の態様について講義する。
	事後学習	表現規制についてまとめておくこと（2時間）。
9	事前学習	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい（2時間）。
	授業内容	身体的自由権、経済的自由権 身体的自由権や経済的自由権について講義する。
	事後学習	これまで学習した各種自由権についてまとめておくこと（2時間）。
10	事前学習	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい（2時間）。
	授業内容	参政権 国民固有の権利である参政権について講義する。
	事後学習	参政権についてまとめておくこと（2時間）。
11	事前学習	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい（2時間）。
	授業内容	教育権 教育権にかかわる問題について講義する。
	事後学習	教育にかかわる問題についてまとめておくこと（2時間）。
12	事前学習	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい（2時間）。
	授業内容	労働者の権利 勤労権や労働基本権について講義する。
	事後学習	労働者の権利についてまとめておくこと（2時間）。
13	事前学習	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい（2時間）。
	授業内容	立法、行政 立法府の意義やあり方、行政権の特徴や役割について講義する。
	事後学習	国会や内閣の概要についてまとめておくこと（2時間）。
14	事前学習	テーマについて教科書の該当箇所を通読しておくことが望ましい（2時間）。
	授業内容	司法、憲法尊重擁護義務 司法権や裁判員制度について講義する。
	事後学習	司法や法律の役割についてまとめておくこと（2時間）。
15	事前学習	今までの講義を振り返っておくことが望ましい（2時間）。
	授業内容	まとめ 授業内試験を実施する。
	事後学習	今までの講義を踏まえて自身の意見をまとめておくことが望ましい（2時間）。

科目名	日本大学の歴史	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	幕末から平成までの日本近現代史の歴史をたどりながら、日本大学と我が国の高等教育の歴史的展開を講義する。日本近代史における日本法律学校・日本大学が担った社会的な役割を明らかにしていきたい。山田顕義が学祖と言われる理由、明治初年の「法の継受と法学の受容」、山田と法典編纂、日本法律学校の躍進、大学令と高等教育機関の拡充、大学の自治、専門部の展開、などに留意して講述する。			
授業目的・到達目標	山田顕義の生涯、日本大学の歴史、さらに日本における高等教育の歴史の概要について理解し、さらに説明できることを目標とする。 こうしたことをふまえて、あらためて大学での学ぶ意義を考えてもらうことを目的とする。			
履修条件	学ぶ意欲がある学生を歓迎します。無礼な方は遠慮して下さい。			
授業方法	事前に課題を示し、授業は参考プリントを配布してすすめる。適宜、Power Pointを使用して画像による理解をはかる。事後学習レポート、および課題レポートを課す。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	70%	日本大学の歴史について説明できるかをみる。授業内試験に変更することもある。	
	平常評価	30%	5回の課題レポート。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	①高梨公之「小ナポレオンと法典伯」②古川隆久「日本近代史の中の日本大学」③リーフレット（日本大学広報部）日本大学のホームページ http://www.nihon-u.ac.jp/history		
参考書	内田貴『法学の誕生』（筑摩書房）、天野郁夫『大学の誕生』上・下（中公新書）『高等教育の時代』上・下（中公叢書）『新制大学の誕生』上・下（名古屋大学出版会）、その他、授業で適宜指示する。			
オフィスアワー	月曜日の昼休み。事前にメール等で予約の上、質問・相談・指導をおこないます。 研究室（4号館1階412） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	日本大学のホームページで「日本大学の歴史」をみて概略を把握する。(2時間)
	授業内容	ガイダンス 授業の展開についての説明 5回の課題レポート 試験 成績評価 幕末史ー松下村塾と山田顕義たち
	事後学習	松下村塾の教育から学ぶべきものを考えてみよう。(2時間)
2	事前学習	リーフレットと論文①を参考にして山田顕義の倒幕運動についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	討幕運動の時代と山田顕義 山田顕義の倒幕運動参加 戊辰戦争
	事後学習	「山田顕義と倒幕運動」についてまとめてみよう。(2時間)
3	事前学習	リーフレットと論文①を参考にして明治政府と山田顕義についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	明治政府と山田顕義 岩倉使節団に埋事官として参加 当時のヨーロッパ・アメリカ社会
	事後学習	明治政府と山田顕義について、授業内容を反映させてまとめてみよう。(2時間)
4	事前学習	リーフレットと論文①を参考にして司法と教育についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	山田顕義の「建白書」を読む
	事後学習	山田顕義の「建白書」の特徴を明確にしてまとめてみよう。(2時間)

5	事前学習	日本大学のホームページの「日本大学の歴史」と論文②を参考にして「大学の誕生と私立法律学校」についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	大学の誕生と私立法律学校 新時代の人材育成 専門学校 帝国大学 私立法律学校
	事後学習	「大学の誕生と私立法律学校」について、授業内容を反映させてまとめてみよう。(2時間)
6	事前学習	日本大学のホームページの「日本大学の歴史」と論文②を参考にして「日本法律学校の設立」についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	日本法律学校の設立 山田顕義が学祖と称されるわけ 山田がめざした「法律学校」 創設者たち
	事後学習	「日本法律学校の設立」について、授業内容を反映させてまとめてみよう。(2時間)
7	事前学習	日本大学のホームページの「日本大学の歴史」と論文②を参考にして「山田顕義の死と日本法律学校の廃校問題」についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	山田顕義の死と日本法律学校の廃校問題 山田顕義から松岡康毅へ
	事後学習	「山田顕義の死と日本法律学校の廃校問題」について、授業内容を反映させてまとめてみよう。(2時間)
8	事前学習	日本大学のホームページの「日本大学の歴史」と論文②を参考にして「専門学校令と「日本大学」」についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	専門学校令と「日本大学」
	事後学習	「専門学校令と「日本大学」」について、授業内容を反映させたレポート(800字以上)を作成して、次回授業時に提出して下さい。(2時間)
9	事前学習	日本大学のホームページの「日本大学の歴史」と論文②を参考にして「大学令と日本大学(1)―大学令と大学昇格」についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	大学令と日本大学(1)―大学令と大学昇格 原敬内閣の政策
	事後学習	「大学令と日本大学(1)―大学令と大学昇格」について、授業内容を反映させてまとめてみよう。(2時間)
10	事前学習	日本大学のホームページの「日本大学の歴史」と論文②を参考にして「大学令と日本大学(2)―教育組織の整備拡充」についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	大学令と日本大学(2)―教育組織の整備拡充
	事後学習	「大学令と日本大学(2)―教育組織の整備拡充」について、授業内容を反映させてまとめてみよう。(2時間)
11	事前学習	日本大学のホームページの「日本大学の歴史」と論文②を参考にして「大正時代の日本大学」についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	大正時代の日本大学―関東大震災後の発展
	事後学習	「大正時代の日本大学―関東大震災後の発展」について、授業内容を反映させてまとめてみよう。(2時間)
12	事前学習	日本大学のホームページの「日本大学の歴史」と論文②を参考にして「戦時体制下の日本大学」についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	昭和時代の日本大学(1)―戦時体制下 大学の自治
	事後学習	「昭和時代の日本大学(1)―戦時体制下」について、授業内容を反映させてまとめてみよう。(2時間)
13	事前学習	日本大学のホームページの「日本大学の歴史」と論文②を参考にして「新制大学の誕生と日本大学」についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	昭和時代の日本大学(2)―新制大学の誕生と日本大学
	事後学習	「昭和時代の日本大学(2)―新制大学の誕生と日本大学」について、授業内容を反映させてまとめてみよう。(2時間)
14	事前学習	日本大学のホームページの「日本大学の歴史」と論文②を参考にして「高度経済成長期の日本大学についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	昭和時代の日本大学(3)―高度経済成長期
	事後学習	「昭和時代の日本大学(3)―高度経済成長期」について、授業内容を反映させてまとめてみよう。(2時間)
15	事前学習	日本大学のホームページを参考にして「日本大学の現在」についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	高等教育の時代のなかで一むすびにかえて
	事後学習	「日本大学の歴史」について、授業内容をふまえた学期末テスト対策をしよう。(2時間)

科目名	日本大学の歴史	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	幕末から平成までの日本近現代史の歴史をたどりながら、日本大学と我が国の高等教育の歴史的展開を講義する。日本近代史における日本法律学校・日本大学が担った社会的な役割を明らかにしていきたい。山田顕義が学祖と言われる理由、明治初年の「法の継受と法学の受容」、山田と法典編纂、日本法律学校の躍進、大学令と高等教育機関の拡充、大学の自治、専門部の展開、などに留意して講述する。				
授業目的・到達目標	山田顕義の生涯、日本大学の歴史、さらに日本における高等教育の歴史の概要について理解し、さらに説明できることを目標とする。 こうしたことをふまえて、あらためて大学での学ぶ意義を考えてもらうことを目的とする。				
履修条件	学ぶ意欲がある学生を歓迎します。無礼な方は遠慮して下さい。				
授業方法	事前に課題を示し、授業は参考プリントを配布してすすめる。適宜、Power Pointを使用して画像による理解をはかる。事後学習レポート、および課題レポートを課す。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	日本大学の歴史について説明できるかをみる。授業内試験に変更することもある。	
	平常評価		30%	5回の課題レポート。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考		①高梨公之「小ナポレオンと法典伯」②古川隆久「日本近代史の中の日本大学」③リーフレット（日本大学広報部）日本大学のホームページ http://www.nihon-u.ac.jp/history		
参考書	内田貴『法学の誕生』（筑摩書房）、天野郁夫『大学の誕生』上・下（中公新書）『高等教育の時代』上・下（中公叢書）『新制大学の誕生』上・下（名古屋大学出版会）、その他、授業で適宜指示する。				
オフィスアワー	月曜日の昼休み。事前にメール等で予約の上、質問・相談・指導をおこないます。 研究室（4号館1階412） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	日本大学のホームページで「日本大学の歴史」をみて概略を把握する。(2時間)
	授業内容	ガイダンス 授業の展開についての説明 5回の課題レポート 試験 成績評価 幕末史ー松下村塾と山田顕義たち
	事後学習	松下村塾の教育から学ぶべきものを考えてみよう。(2時間)
2	事前学習	リーフレットと論文①を参考にして山田顕義の倒幕運動についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	討幕運動の時代と山田顕義 山田顕義の倒幕運動参加 戊辰戦争
	事後学習	「山田顕義と倒幕運動」についてまとめてみよう。(2時間)
3	事前学習	リーフレットと論文①を参考にして明治政府と山田顕義についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	明治政府と山田顕義 岩倉使節団に埋事官として参加 当時のヨーロッパ・アメリカ社会
	事後学習	明治政府と山田顕義について、授業内容を反映させてまとめてみよう。(2時間)
4	事前学習	リーフレットと論文①を参考にして司法と教育についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	山田顕義の「建白書」を読む
	事後学習	山田顕義の「建白書」の特徴を明確にしてまとめてみよう。(2時間)

5	事前学習	日本大学のホームページの「日本大学の歴史」と論文②を参考にして「大学の誕生と私立法律学校」についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	大学の誕生と私立法律学校 新時代の人材育成 専門学校 帝国大学 私立法律学校
	事後学習	「大学の誕生と私立法律学校」について、授業内容を反映させてまとめてみよう。(2時間)
6	事前学習	日本大学のホームページの「日本大学の歴史」と論文②を参考にして「日本法律学校の設立」についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	日本法律学校の設立 山田顕義が学祖と称されるわけ 山田がめざした「法律学校」 創設者たち
	事後学習	「日本法律学校の設立」について、授業内容を反映させてまとめてみよう。(2時間)
7	事前学習	日本大学のホームページの「日本大学の歴史」と論文②を参考にして「山田顕義の死と日本法律学校の廃校問題」についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	山田顕義の死と日本法律学校の廃校問題 山田顕義から松岡康毅へ
	事後学習	「山田顕義の死と日本法律学校の廃校問題」について、授業内容を反映させてまとめてみよう。(2時間)
8	事前学習	日本大学のホームページの「日本大学の歴史」と論文②を参考にして「専門学校令と「日本大学」」についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	専門学校令と「日本大学」
	事後学習	「専門学校令と「日本大学」」について、授業内容を反映させたレポート(800字以上)を作成して、次回授業時に提出して下さい。(2時間)
9	事前学習	日本大学のホームページの「日本大学の歴史」と論文②を参考にして「大学令と日本大学(1)―大学令と大学昇格」についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	大学令と日本大学(1)―大学令と大学昇格 原敬内閣の政策
	事後学習	「大学令と日本大学(1)―大学令と大学昇格」について、授業内容を反映させてまとめてみよう。(2時間)
10	事前学習	日本大学のホームページの「日本大学の歴史」と論文②を参考にして「大学令と日本大学(2)―教育組織の整備拡充」についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	大学令と日本大学(2)―教育組織の整備拡充
	事後学習	「大学令と日本大学(2)―教育組織の整備拡充」について、授業内容を反映させてまとめてみよう。(2時間)
11	事前学習	日本大学のホームページの「日本大学の歴史」と論文②を参考にして「大正時代の日本大学」についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	大正時代の日本大学―関東大震災後の発展
	事後学習	「大正時代の日本大学―関東大震災後の発展」について、授業内容を反映させてまとめてみよう。(2時間)
12	事前学習	日本大学のホームページの「日本大学の歴史」と論文②を参考にして「戦時体制下の日本大学」についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	昭和時代の日本大学(1)―戦時体制下 大学の自治
	事後学習	「昭和時代の日本大学(1)―戦時体制下」について、授業内容を反映させてまとめてみよう。(2時間)
13	事前学習	日本大学のホームページの「日本大学の歴史」と論文②を参考にして「新制大学の誕生と日本大学」についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	昭和時代の日本大学(2)―新制大学の誕生と日本大学
	事後学習	「昭和時代の日本大学(2)―新制大学の誕生と日本大学」について、授業内容を反映させてまとめてみよう。(2時間)
14	事前学習	日本大学のホームページの「日本大学の歴史」と論文②を参考にして「高度経済成長期の日本大学についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	昭和時代の日本大学(3)―高度経済成長期
	事後学習	「昭和時代の日本大学(3)―高度経済成長期」について、授業内容を反映させてまとめてみよう。(2時間)
15	事前学習	日本大学のホームページを参考にして「日本大学の現在」についてまとめてみよう。(2時間)
	授業内容	高等教育の時代のなかで一むすびにかえて
	事後学習	「日本大学の歴史」について、授業内容をふまえた学期末テスト対策をしよう。(2時間)

Ⅱ 群

総合科目

Ⅱ 群

総合科目

科目名	アジアの歴史 I	担当者	齋藤 史範	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	中国ナショナリズムの起源から展開について講義を進め、それに加えて、本年度は「孫文の革命思想と革命戦略」を詳述したい。20世紀はじめの中国では欧米列強に主権が奪われ、「亡国の危機」にあった。この危機のなからナショナリズムが生まれて展開していく過程を概述し、とくに「孫文の革命思想」－三序や賢人政治－や「孫文の革命戦略」－軍閥との提携－について取り上げたい。				
授業目的・到達目標	アジアの歴史－なかでも近代中国を中心とした東アジア諸地域（朝鮮半島・沖縄・日本）についての講義を通じて、近代の東アジアの歴史や文化を知ることが目的とし、それを通して近代中国が直面した課題にどのような対応をしたかを理解し、的確に説明できることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4, 6				
履修条件	学ぶ意欲がある学生を歓迎します。無礼な方は遠慮して下さい。平常の取り組み（5回のレポート）ができる方が望ましい。				
授業方法	教科書を参考にしながら講義する。プリントを配布するので、クリアブック（A4）／クリアフォルダー（A4）を用意して下さい。パワーポイントを使用するときもある。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		70%		前期末試験・後期末試験。授業で取り上げたテーマの理解と、それをふまえた近代中国についての考察を問う。授業内試験に変更する場合もある。
	平常評価		30%		授業およびテキストに関する5回のレポートを課す。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017年	中公新書		『中国ナショナリズム』	小野寺史郎
	備考				
参考書	川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会、2007年				
オフィスアワー	月曜日 昼休み（休暇中を除く、事前にメールにて予約を取って下さい） 研究室（4号館1階 412研究室） メールアドレス：saito.fuminori@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を購入して、「ナショナリズム」「国民国家」について考えてみよう。（2時間）
	授業内容	ガイダンス・参考文献案内・成績評価について テキストにもとづく「中国ナショナリズム」の概略
	事後学習	テキストの「中国ナショナリズム」について体系的な視点にたって把握してみよう。（2時間）
2	事前学習	『中国ナショナリズム』序章の「朝貢・冊封体制」「西洋諸国との関係」をまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	中国を中心とした東アジアの国際秩序
	事後学習	東アジアの国際秩序についてまとめてみよう。（2時間）
3	事前学習	『中国ナショナリズム』第1章「中国ナショナリズムの起源」1 王朝から国家へ をまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	19世紀後半の中国と周辺地域との関係
	事後学習	授業内容をふまえて19世紀末の中国情勢をまとめておこう。（2時間）
4	事前学習	「瓜分の危機」とは何か、概略をとらえておこう（『中国ナショナリズム』p29～p32参照）。（2時間）
	授業内容	「瓜分の危機」 列強の勢力範囲 鉄道・鉱山利権
	事後学習	授業内容をふまえて「瓜分の危機」についてまとめてみよう。（2時間）

5	事前学習	中国ナショナリズムの起源についてまとめてみよう（『中国ナショナリズム』 p 17～p 46参照）。(2時間)
	授業内容	中国ナショナリズムの起源－「瓜分の危機」
	事後学習	授業内容をふまえて「中国ナショナリズムの起源」についてまとめてみよう。。(2時間)
6	事前学習	「梁啓超の試み」について概観してみよう（『中国ナショナリズム』 p26～p46参照）。(2時間)
	授業内容	梁啓超の思想と活動 「開明専制」
	事後学習	授業内容をふまえて「梁啓超の思想と活動」についてまとめてみよう。(2時間)
7	事前学習	「日本経由の近代」といわれる理由を知っておこう（『中国ナショナリズム』 p46～p53参照）。(2時間)
	授業内容	日本経由の「近代」 清朝の新政・立憲派と革命派にとっての日本
	事後学習	当時の中国にとって日本はどのような存在であったのか、清朝、立憲派、革命派に分類してまとめてみよう。(2時間)
8	事前学習	革命運動について概観してみよう（『中国ナショナリズム』 p54～p61参照）(2時間)
	授業内容	革命運動の発展－中国同盟会の成立
	事後学習	革命派の大同団結と中国同盟会の実態についてまとめてみよう。(2時間)
9	事前学習	配布プリントを参考にして孫文について知っておこう。(2時間)
	授業内容	孫文の革命戦略
	事後学習	孫文の「辺境革命論」を革命派の諸戦略の中に位置づけてまとめてみよう。(2時間)
10	事前学習	配布プリントを参考にして孫文について知っておこう。(2時間)
	授業内容	孫文の革命思想－三序・四綱・賢人政治
	事後学習	孫文の革命思想、すなわち三序・四綱・賢人政治の論理についてまとめてみよう。(2時間)
11	事前学習	辛亥革命と中華民国の成立について概観してみよう（『中国ナショナリズム』 p62～p84参照）。(2時間)
	授業内容	辛亥革命と袁世凱政權
	事後学習	袁世凱が「国を盗んだ大泥棒」といわれる所以を理解しよう。(2時間)
12	事前学習	「第一次世界大戦と中国」について読んでまとめてみよう（『中国ナショナリズム』 p84～p93）。(2時間)
	授業内容	第一次世界大戦と中国
	事後学習	第一次世界大戦期と中国についての関係をまとめてみよう。(2時間)
13	事前学習	第一次世界大戦後の中国の変化について知っておこう（『中国ナショナリズム』 p94～p104）。(2時間)
	授業内容	第一次世界大戦後の中国をめぐる国際環境の変化
	事後学習	第一次世界大戦後の中国をめぐる国際環境の変化についてまとめてみよう。(2時間)
14	事前学習	第一次世界大戦後の中国における新たな動きについてとらえておこう（『中国ナショナリズム』 p105～p108）。(2時間)
	授業内容	中国共産党の誕生 国共合作の成立
	事後学習	中国共産党の誕生と国共合作の成立についてまとめてみよう。(2時間)
15	事前学習	配布プリントを参考に孫文と日本との関係を知っておこう。(2時間)
	授業内容	孫文を支えた日本人（一部映像を紹介）
	事後学習	孫文と日本との関係をまとめてみよう。(2時間)

科目名	アジアの歴史Ⅱ	担当者	齋藤 史範	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	20世紀初頭からアジア・太平洋戦争期までの中国ナショナリズムの展開について講義を進め、それに加えて、本年度は謀略ではじまった満州事変、偶然で始まった日中戦争について詳述したい。			
授業目的・到達目標	アジアの歴史—なかでも近代中国を中心とした東アジア諸地域（朝鮮半島・沖縄・日本）についての講義を通じて、近代の東アジアの歴史や文化を知ることが目的とし、それを通して近代中国が直面した課題にどのような対応をしたかを理解し、的確に説明できることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4, 6			
履修条件	学ぶ意欲がある学生を歓迎します。無礼な方は遠慮して下さい。平常の取り組み（5回のレポート）ができる方が望ましい。			
授業方法	教科書を参考にしながら講義する。プリントを配布するので、クリアブック（A4）／クリアフォルダー（A4）を用意して下さい。パワーポイントを使用するときもある。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	70%	前期末試験・後期末試験。授業で取り上げたテーマの理解と、それをふまえた近代中国についての考察を問う。授業内試験に変更する場合もある。	
	平常評価	30%	授業およびテキストに関する5回のレポートを課す。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	中公新書	『中国ナショナリズム』	小野寺史郎
	備考			
参考書	川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会、2007年			
オフィスアワー	月曜日 昼休み（休暇中を除く、事前にメールにて予約を取って下さい） 研究室（4号館1階 412研究室） メールアドレス：saito.fuminori@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	北伐の開始から易幟までを概観してみよう（『中国ナショナリズム』p109～p127）。(2時間)
	授業内容	ガイダンス 北伐と山東出兵 済南事件と張作霖爆殺事件
	事後学習	授業内容をふまえて、北伐時代の日中関係についてまとめてみよう。(2時間)
2	事前学習	「革命外交」についての確に把握しておこう（『中国ナショナリズム』p118～p121）。(2時間)
	授業内容	国民政府の「革命外交」 ロンドン海軍軍縮条約 日中の経済外交
	事後学習	授業内容をふまえて、「国民政府の「革命外交」」「ロンドン海軍軍縮条約」「日中の経済外交」についてまとめてみよう。(2時間)
3	事前学習	満洲事変は謀略で始まった戦争といわれるが、それはどういうことなのか考えてみよう。(2時間)
	授業内容	満洲事変-謀略ではじまった戦争
	事後学習	満洲事変が何故、謀略ではじまった戦争といわれるか、その経緯や事実関係からまとめてみよう。(2時間)
4	事前学習	満洲事変についてまとめてみよう（『中国ナショナリズム』p127～p129）。(2時間)
	授業内容	柳条湖事件と満洲国の建国
	事後学習	授業内容をふまえて、「柳条湖事件と満洲国の建国」についてまとめておこう。(2時間)

5	事前学習	授業内容について、ガイダンスで紹介した参考文献などで調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。(2時間)
	授業内容	中国の「無抵抗政策」 紛争をめぐる対立
	事後学習	授業内容をふまえて、「中国の「無抵抗政策」」「紛争をめぐる対立」についてまとめておこう。(2時間)
6	事前学習	授業内容について、ガイダンスで紹介した参考文献などで調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。(2時間)
	授業内容	日本の国際連盟脱退
	事後学習	授業内容をふまえて、「日本の国際連盟脱退」についてまとめてみよう。(2時間)
7	事前学習	授業内容について、ガイダンスで紹介した参考文献などで調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。(2時間)
	授業内容	塘沽停戦協定から華北分離工作へー断絶説と連続説ー
	事後学習	授業内容をふまえて、「塘沽停戦協定から華北分離工作へ」の過程を年表としてまとめてみよう。(2時間)
8	事前学習	日中戦争が「偶然」からはじまった戦争といわれるのはどういうことなのか、考えてみよう。(2時間)
	授業内容	日中戦争が、何故「偶然」からはじまった戦争といわれるのか。
	事後学習	日中戦争が、何故「偶然」からはじまった戦争といわれるのか、をまとめてみよう。(2時間)
9	事前学習	授業内容について、ガイダンスで紹介した参考文献などで調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。(2時間)
	授業内容	盧溝橋事件から全面戦争へ
	事後学習	授業内容をふまえて、「盧溝橋事件から全面戦争へ」の経緯を年表としてまとめてみよう。(2時間)
10	事前学習	日中戦争がどのように泥沼化していったのかを把握していこう。(2時間)
	授業内容	泥沼化する戦線 南京／重慶国民政府の抗日戦争
	事後学習	授業内容をふまえて「泥沼化する戦線」「南京／重慶国民政府の抗日戦争」についてまとめてみよう。(2時間)
11	事前学習	日中戦争期における「中国ナショナリズム」について概観してみよう（『中国ナショナリズム』p133～148）。(2時間)
	授業内容	日中戦争と国際化をめぐる外交戦・宣伝戦
	事後学習	授業内容をふまえて「日中戦争と中国ナショナリズム」についてまとめてみよう。(2時間)
12	事前学習	授業内容について、ガイダンスで紹介した参考文献などで調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。(2時間)
	授業内容	日中戦争における列国の態度
	事後学習	授業内容をふまえて「日中戦争における列国の態度」についてまとめてみよう。(2時間)
13	事前学習	授業内容について、ガイダンスで紹介した参考文献などで調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。(2時間)
	授業内容	ヨーロッパの国際関係と「南進」（日中戦争の膠着化 日本と列国との対立増幅）
	事後学習	授業内容をふまえて「ヨーロッパの国際関係と「南進」」についてまとめてみよう。(2時間)
14	事前学習	授業内容について、ガイダンスで紹介した参考文献などで調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。(2時間)
	授業内容	日米対立と米中協力
	事後学習	授業内容をふまえて「日米対立と米中協力」についてまとめてみよう。(2時間)
15	事前学習	授業内容について、ガイダンスで紹介した参考文献などで調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。(2時間)
	授業内容	日米交渉 真珠湾攻撃へー太平洋戦争への日本の選択
	事後学習	日中戦争の解決策としてより大きな戦争を選んだというのは、どういうことか。事実とその経緯にもとづいてまとめてみよう。(2時間)

科目名	学際教養A	担当者	大岡 聡	部 別	第一部	期 間	前期	単 位 数	2
-----	-------	-----	------	-----	-----	-----	----	-------	---

授業概要	【東京の社会文化史】 都市という複雑な対象を理解するには、学際的なアプローチが必要である。本講義は、都市論のさまざまなアプローチを織り込みながら、東京の明治・大正・昭和の歴史を考察し、この巨大都市の特質を考えることを目的とする。特に地域社会構造や生活文化などに重点を置きながら、検討する。具体的なトピックスは、講義計画を参照のこと。				
授業目的・到達目標	都市に関する学問領域を志すものはもちろん、都市に暮らし、都市で働くものが、現在の都市が抱える諸問題を発見し、批判的・論理的に考察できるようになること、これからの都市とどのように向き合うべきかについて、自分になりの答えを持てるようになることを目的とし、身につけた能力を論理的に表現し、あるいは実践的に行動することができるようになることを目標とする。関連DP・CP：総合科目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	東京の過去・現在・未来に関心を持つ者、街歩きが好きな者、都市にこだわった研究をしたいと考えている者の履修を歓迎する。2部生も履修可。単位だけが欲しいという者、勉学意欲・参加意欲のない者の履修はお断りします。				
授業方法	レジュメとパワーポイント・画像・映像を使用し、時折ディスカッションや小レポートなどを通じて参加型の形式を取り入れる。課外でフィールドワークを行うこともある。講評をポータルサイトで発表してフィードバックとする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	レポート試験に加え、講義内での発言やコメントカードの提出による講義への貢献を評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参考書	さしあたり、藤田覚・大岡聡『江戸 街道の起点』（街道の日本史20）、吉川弘文館、2003年を紹介しておくが、読書リストは講義の中で配布する。				
オフィスアワー	月曜 13:00～14:00 金曜 16:30～17:30 講義に関する質問、講義とは直接関係のない勉強についての質問や相談、学生生活全般や進路についての相談ごとなど、上記の時間に対応します。メールでアポイントを取ると確実です。研究室は9号館 6階・9604室。メールは ohoka.satoshi@nihon-u.ac.jp 。なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読して、頭に入れておく。特に講義の趣旨や全体像を概観しておく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス ①さまざまな都市へのアプローチ、②講義概要と視点、③評価方法、単位取得条件、注意事項、文献紹介
	事後学習	ガイダンス資料を熟読しながら、履修を検討する。（2時間）
2	事前学習	シラバスを熟読する。「東京」と聞いて連想するものを10個以上挙げてください（2時間）
	授業内容	東京遷都
	事後学習	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。（2時間）
3	事前学習	前回の講義内容を復習する。 なぜ東京を改造しなくてはならなかったかを考えてみる。（2時間）
	授業内容	明治の東京改造
	事後学習	プリントやノートを見直して、明治の東京改造の理由を中心に復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。（2時間）
4	事前学習	前回の講義内容を復習する。 「下町」についての自分のイメージをまとめる。（2時間）
	授業内容	下町の社会構造と暮らし
	事後学習	プリントやノートを見直して、下町の社会構造と暮らしについて復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。（2時間）

5	事前学習	前回の講義内容を復習する。 「山の手」についての自分のイメージをまとめる。（2時間）
	授業内容	山の手の主婦の日記を読む
	事後学習	プリントやノートを見直して、復習する。山の手の主婦の日記を読み直す。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。（2時間）
6	事前学習	前回の講義内容を復習する。 「スラム」についての自分のイメージをまとめる。（2時間）
	授業内容	最暗黒の東京——都市下層社会論
	事後学習	プリントやノートを見直して、都市下層に関わる諸論点を復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。（2時間）
7	事前学習	前回の講義内容を復習する。月島は「下町」か？、自分の答えをまとめる。（2時間）
	授業内容	工業化と地域社会——新下町論
	事後学習	プリントやノートを見直して、「新下町」概念を復習し、その概念の意義をまとめる。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。（2時間）
8	事前学習	前回の講義内容を復習する。「郊外」についての自分のイメージをまとめる。（2時間）
	授業内容	郊外の思想と住宅地形成
	事後学習	プリントやノートを見直して、「郊外」の思想を中心に復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。（2時間）
9	事前学習	前回の講義内容を復習する。「百貨店」に関わる自分の体験をまとめる。（2時間）
	授業内容	百貨店と商業空間の変容
	事後学習	プリントやノートを見直して、「百貨店」誕生の歴史的意義を中心に復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。（2時間）
10	事前学習	前回の講義内容を復習する。関東大震災について知っていることを書き出す。（2時間）
	授業内容	関東大震災と朝鮮人虐殺
	事後学習	プリントやノートを見直して、「関東大震災時の朝鮮人虐殺事件」の実態と要因を復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。（2時間）
11	事前学習	前回の講義内容を復習する。震災復興で出来た施設を挙げる。（2時間）
	授業内容	震災復興と都市構造の変容
	事後学習	プリントやノートを見直して、東京の都市構造の変容を中心に復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。（2時間）
12	事前学習	前回の講義内容を復習する。盛り場とは何か、自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	東京の盛り場論(1)—浅草
	事後学習	プリントやノートを見直して、東京の盛り場の変容や特色を中心に復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。（2時間）
13	事前学習	前回の講義内容を復習する。銀座と新宿のイメージを自分なりにまとめる（2時間）
	授業内容	東京の盛り場論(2)—銀座・新宿
	事後学習	プリントやノートを見直して、復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。（2時間）
14	事前学習	前回の講義内容を復習する。自分の地域の町内会について調べておく。（2時間）
	授業内容	戦争と東京——地域の組織化と空襲による破壊
	事後学習	プリントやノートを見直して、戦争は都市の何を破壊したのかを中心に復習する。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義内容を振り返る。（2時間）
	授業内容	まとめ—都市への向き合い方（ディスカッション）
	事後学習	講義内容や都市への見方・考え方を振り返った上で、レポート課題に取り組む。 講義に出てきた場所を訪れるなどして、理解を深める。（2時間）

科目名	学際教養A	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「中国文化論」について論じる。中国文化に関して、歴史の展開にふれながら、講義を進める。神話、宗教や民間信仰、天命思想・華夷思想、中国の古典や思想などを紹介する。			
授業目的・到達目標	中国文化について、その歴史的な背景や意義を深く理解することを目的とし、説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4, 6			
履修条件	中国の文化・歴史に関心のある学生。無礼な方は遠慮して下さい。			
授業方法	プリントを配布します。A4版のクリアブック／クリアフォルダーを用意して下さい。なお、「まとめレポート」を課します。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		70%	前期末試験。授業で取り上げたテーマの理解と、それをふまえた中国文化についての考察を問う。授業内試験に変更する場合もある。
	平常評価		30%	課題レポート
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		
参考書	授業時に適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜日の昼休み。事前にメール等で予約の上、質問・相談・指導をおこないます。 研究室（4号館1階412） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業内容について、中国の文化や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方・成績評価など 中国の地理的状况
	事後学習	授業内容をふまえて「中国の地理的状况」に関してまとめてみよう。（2時間）
2	事前学習	授業内容について、中国の文化や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	中国の神話 宗教と民間信仰
	事後学習	授業内容をふまえて「中国の神話」「宗教と民間信仰」に関してまとめてみよう。（2時間）
3	事前学習	授業内容について、中国の文化や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	漢字の文化史
	事後学習	授業内容をふまえて「漢字の文化史」に関してまとめてみよう。（2時間）
4	事前学習	授業内容について、中国の文化や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	天命思想 華夷思想
	事後学習	授業内容をふまえて「天命思想」「華夷思想」に関してまとめてみよう。（2時間）

5	事前学習	授業内容について、中国の文化や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	中国の歴史書 「二十四史」 文献の歴史
	事後学習	授業内容をふまえて「中国の歴史書」に関してまとめてみよう。（2時間）
6	事前学習	授業内容について、中国の文化や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	儒教的・道徳的な世界の古典思想 儒教の政治論
	事後学習	授業内容をふまえて「儒教的・道徳的な世界の古典思想」に関してまとめてみよう。（2時間）
7	事前学習	授業内容について、中国の文化や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	「兼愛」と「非攻」の世界の古典思想 戦争は万死である
	事後学習	授業内容をふまえて「「兼愛」と「非攻」の世界の古典思想」に関してまとめてみよう。（2時間）
8	事前学習	授業内容について、中国の文化や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	老荘思想の世界 無用の用 「得意の論語・失意の老子」
	事後学習	授業内容をふまえて「老荘思想の世界」に関してまとめてみよう。（2時間）
9	事前学習	授業内容について、中国の文化や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	組織を動かす「孫子の兵法」・「韓非子の思想」 味方と敵の実情を知る 実益重視の統治法
	事後学習	授業内容をふまえて「組織を動かす「孫子の兵法」・「韓非子の思想」」に関してまとめてみよう。（2時間）
10	事前学習	授業内容について、中国の文化や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	陰陽五行－世界理解のための枠組み
	事後学習	授業内容をふまえて「陰陽五行」に関してまとめてみよう。（2時間）
11	事前学習	授業内容について、中国の文化や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	朱子学の成立と朝鮮半島・日本への広がり
	事後学習	授業内容をふまえて「朱子学の成立と朝鮮半島・日本への広がり」に関してまとめてみよう。（2時間）
12	事前学習	授業内容について、中国の文化や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	儒教の「身近さ」について－朱子学との比較
	事後学習	授業内容をふまえて「儒教の「身近さ」について－朱子学との比較」に関してまとめてみよう。（2時間）
13	事前学習	授業内容について、中国の文化や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	『三国志』と『三国志演義』－正史と通俗小説
	事後学習	授業内容をふまえて「『三国志』と『三国志演義』」に関してまとめてみよう。（2時間）
14	事前学習	授業内容について、中国の文化や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	「精神勝利法」 魯迅の『阿Q正伝』を読みながら、魯迅が問題とした近代中国の人びとの奴隷根性について考える
	事後学習	授業内容をふまえて「精神勝利法」に関してまとめてみよう。（2時間）
15	事前学習	授業内容について、中国の文化や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	『菜根譚』－中国処世訓の傑作
	事後学習	授業内容をふまえて『菜根譚』に関してまとめてみよう。（2時間）

科目名	学際教養A	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	館野の宗教学Ⅰ・Ⅱの内容を踏まえ、それを超えて、人間が成長・進化して次の段階となることについてさらなる探究へ展開していきたい。自分で自分を鍛え、さらに進化・成長させていくためことを探究し訓練していく。				
授業目的・到達目標	自分をよく観察し、思考して、自分で自分の人生を切り拓いていける人となるよう育成することを目的とする。自分の軸を創り自分で自分の人生を切り拓くことができるようになり、より苦しめない人生となることを到達目標とする。とくに、参加者の様々な見解を聞くことにより、今を生きる上で有益な、自分にとっての最適解を見出し、速やかに成長発達して、より生きやすくなることを到達目標とし、その訓練の場にしたい。なお学生教員共有フォルダの「館野」のフォルダに授業アンケートを公開しているので参考にしてほしい。関連DP及びCP：総合科目領域1，2，3，4，5，6，7，8				
履修条件	館野担当の宗教学Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。その内容に基づいてさらなる探究を行っていく。いかなる理由でも4回の欠席で成績は付かない。遅刻しないこと。真剣にしかも楽しく行なっていきたい。				
授業方法	題材に対して自分の成長に結び付けたレポートを書き、それを発表し、授業者からの講評を聞き、さらにレポートを書くということを繰り返し、より思考を深め、自らを成長させてゆく形態で行う。レポートは次回授業開始時に講評する				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	真剣さ、自分で自分を成長させることができるようになったかを基準とし、各種のレポート、発問に対する回答内容、宿題、欠席・遅刻の回数などにより総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用せず。			
参考書	随時伝達する。				
オフィスアワー	火曜日の09時～10時。ただし必ず事前にメールにて連絡すること。 授業者の大学アドレス tatenom.masao@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。（2時間）
	授業内容	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に關してのルール等について、シラバスに基づき詳細に説明する。受講者はメモを取り、授業者からの発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	シラバスとメモ、ノートを確認し、その内容と時間割確認によって履修授業の選択を検討する。（2時間）
2	事前学習	宗教学Ⅰで考察した「宗教」という言葉の定義について、ノート、レポートを読み返し、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	宗教学Ⅰで考察した「宗教」の定義に關して振り返り、本授業で行う、それを超える内容を説明する。受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
3	事前学習	人工知能について、現状、今後の展開などについて調査し、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。人工知能の発展によって人間の環境が大きく変わることに、それに対応するために、また人工知能の能力を超えていくためにどのようにすればいいか、生きればいいのかについて扱う。受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
4	事前学習	日常の生き方を確認し、宗教学Ⅰ、Ⅱを受講後の変化についてノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。宗教学で伝達した方法からさらに進展した内容について扱う。受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）

5	事前学習	宗教学Ⅰで行った、自分が何を求めて生きているか、に対して書いたレポートを読み直し、現状の自分と比較してノートにまとめておく。(2時間)
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。宗教学Ⅰ受講後、自分が何を求めて生きているかに関する自分の変化について受講者の話を聞き、さらに授業者からの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。(2時間)
6	事前学習	宗教学Ⅰで行った、自分は何によって動かされているかに対して書いたレポートを読み直し、現状の自分と比較してノートにまとめておく。(2時間)
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。宗教学Ⅰ受講後、「主人公」の人生を生きているかに関する自分の変化について受講者の話を聞き、さらに授業者からの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。(2時間)
7	事前学習	これまでの授業についてさらに調べ、自分の見解をノートにまとめておく。(2時間)
	授業内容	第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に発表し、それについてさらにレポートを書く。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。(2時間)
8	事前学習	自分が執われていることについて、宗教学Ⅰで書いたレポートを読み直し、現状を検討してノートにまとめておく。(2時間)
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。執われを超えることについて授業者の話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。(2時間)
9	事前学習	世の中が相対性までの段階に執われた世界であることを扱った宗教学Ⅰのレポートを読み直し、ノートにまとめておく。(2時間)
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。精神的次元の展開について、宗教学Ⅰの内容をさらに超えた話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。(2時間)
10	事前学習	アブラハム・マズローの欲求階層説について、宗教学Ⅰで書いたレポートを読み直し、さらに調べ、ノートにまとめておく。(2時間)
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。欲求階層説における自己超越などの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。
	事後学習	ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。(2時間)
11	事前学習	近代科学と宗教について調べ、ノートにまとめておく。(2時間)
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。近代科学の特徴と欠点を考察し、そこからどのように展開していけばいいかについて検討し、受講者は授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。(2時間)
12	事前学習	精神的弱さについて宗教学Ⅰで書いたレポートを読み直してノートにまとめておく。(2時間)
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。精神的な弱さとその超克についての話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。(2時間)
13	事前学習	精神集中について宗教学Ⅰで書いたレポートを読み直し、その後の変化と併せノートにまとめておく。(2時間)
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。精神集中について、さらに展開した話を聞き、受講者は授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。(2時間)
14	事前学習	第8回から第13回までのノートを確認し、まとめておく。(2時間)
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。(2時間)
15	事前学習	初回からのノート、授業内レポートすべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。(2時間)
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	ノート、レポートを振り返って確認し、要点をまとめる。(2時間)

科目名	学際教養B	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	【近代日本の戦争と社会】 狭義の戦争史や軍事史ではなく、一兵士の目線や地域、文化、民衆意識を重視した戦争社会史論、あるいは社会現象として戦争を捉え、あるいは社会との関係で軍隊を捉え直そうとする戦争社会学的研究が、近年活発になっている。そこでは戦争経験の戦後に対する規定性や戦後の戦争記憶の機能もまた、重要な論点となっている。こうした新しい研究潮流に学びながら、戦争と社会との関係について考えたい。				
授業目的・到達目標	(1)史料に基づき論理的に考察できるようになること、(2)歴史を構造的に捉えることができるようになること、(3)過去の人間や社会に対する歴史的想像力をもてるようになること、(4)平和形成への条件を発見し、それを構築する意欲を育成することを目的とする。 講義内容を理解・咀嚼した上で、上記の目的にあるような能力の存在を、文章で論理的に説明できるようになることを目標とする。 関連DP・CP：総合科目1,2,3,4,5,6,7,8				
履修条件	本講義は軍事史や戦史そのものを扱うものではない。講義の趣旨を良く理解した上で、履修を決めること。2部生も履修可。意欲のない者や単位だけが欲しいという者、心地よいものしか見たくないという者は、履修しないでほしい。				
授業方法	レジュメとパワーポイント、映像を使用する。コメント提出やディスカッション、振り返りシートの提出などを求める。授業に積極的に参加して欲しい。展示施設への見学会も行う。講評はポータルサイトで発表する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内試験（レポート）に加え、講義内での発言やコメントカードを通じての講義への貢献も評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	吉田裕『日本人の戦争観―戦後史のなかの変容』(岩波現代文庫)、同『日本の軍隊―兵士たちの近代史』(岩波新書)、『日本軍兵士―アジア・太平洋戦争の実実』(中公新書) その他文献リストを配布。				
オフィスアワー	月曜 13:00～14:00 金曜 16:30～17:30 講義に関する質問、講義とは直接関係のない勉強についての質問や相談、学生生活全般や進路についての相談ごとなど、上記の時間に対応します。メールでアポイントを取ると確実です。研究室は9号館 6階・9604室。メールは ohoka.satoshi@nihon-u.ac.jp 。なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読する。講義の趣旨を良く理解する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス（履修案内、講義計画、履修上の注意） イントロダクション——戦場を想像することの意味
	事後学習	プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。（2時間）
2	事前学習	前回の講義内容を復習する。国民国家についての知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	国民国家と軍隊
	事後学習	国民国家と軍隊との関係を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。（2時間）
3	事前学習	前回の講義内容を復習する。ナショナリズムについて知っていることをまとめる。（2時間）
	授業内容	戦争とナショナリズム―日清戦争を中心に
	事後学習	戦争とナショナリズムとの関係を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。（2時間）
4	事前学習	前回の講義内容を復習する。第一次世界大戦について知っていることをまとめる。（2時間）
	授業内容	世界戦争と戦争違法化——第一次世界大戦の意義
	事後学習	戦争の歴史にわたる第一次世界大戦の意義を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。（2時間）

5	事前学習	前回の講義内容を復習する。日本の軍隊についてのイメージをまとめておく。（2時間）
	授業内容	「良兵」を作り出す社会——軍隊と社会構造
	事後学習	軍隊と社会構造との関係を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。（2時間）
6	事前学習	前回の講義内容を復習する。戦場では何が起こっていたか、知っていることをまとめる。（2時間）
	授業内容	戦場の兵士——軍事郵便や兵士の日記を読む
	事後学習	日本軍兵士の蛮行の構造的要因を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。（2時間）
7	事前学習	前回の講義内容を復習する。満州事変についての知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	マス・メディアと「大衆の国民化」——満州事変を例として
	事後学習	「大衆の国民化」に果たしたマス・メディアの役割を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。（2時間）
8	事前学習	前回の講義内容を復習する。「総力戦」に関する知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	総力戦体制と「国民」(1)——国民の精神・身体の動員
	事後学習	国民の精神・身体の動員メカニズムを中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。（2時間）
9	事前学習	前回の講義内容を復習する。国民は戦争の被害者であるか？、考えをまとめておく。（2時間）
	授業内容	総力戦と国民(2)——強制と同意
	事後学習	プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。（2時間）
10	事前学習	前回の講義内容を復習する。しょうけい館のWEBサイトをみて、施設の概要を確認しておく。（2時間）
	授業内容	しょうけい館（戦傷病者資料館）見学会
	事後学習	見学で感じたこと、学んだことをレポートにまとめる。（2時間）
11	事前学習	前回の講義内容を復習する。アジア・太平洋戦争という呼称について調べる。（2時間）
	授業内容	アジア・太平洋戦争論
	事後学習	アジア・太平洋戦争という戦争の性格を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。（2時間） 関連する文献を読む。
12	事前学習	前回の講義内容を復習する。戦死に意味があるのか？、自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	兵士たちの無残な死——餓死・玉砕死・特攻死
	事後学習	無残な死の構造的要因を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。（2時間）
13	事前学習	前回の講義内容を復習する。戦犯や戦争裁判についての知識を確認する。（2時間）
	授業内容	チョウ・ムンサンの遺書——極限下の人間から何を学べるか？
	事後学習	プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。（2時間）
14	事前学習	前回の講義内容を復習する。戦争はいつ終わるのか、戦後はいつ終わるのか？、自分なりの答えをまとめる。（2時間）
	授業内容	戦争の「傷痕」——忘れられた戦争犠牲
	事後学習	日本の戦後処理の特質を中心に、プリントやノートを見直して講義内容を復習する。 関連する文献を読む。
15	事前学習	後期の講義内容を復習する。講義を通じて、自分にどのような変化があったのか、ディスカッションでの発言を考えておく。
	授業内容	おわりに。まとめのディスカッション。
	事後学習	プリントやノートを見直して講義内容・ディスカッションでの議論を復習する。 関連する文献を読む。期末レポートを執筆する。

科目名	学際教養B	担当者	齋藤 史範	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「中国社会論」について論じる。中国社会に関して、歴史の展開にふれながら、講義を進める。都市、農村社会、中国を中心とした東アジアの国際秩序、伝統中国法、法家思想と政治などについて論じる。				
授業目的・到達目標	中国社会について、その歴史的な背景や意義を深く理解することを目的とし、説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4, 6				
履修条件	中国の文化・歴史・社会に関心のある学生。無礼な方は遠慮して下さい。				
授業方法	プリントを配布します。A4版のクリアブック／クリアフォルダーを用意して下さい。なお、「まとめレポート」を課します。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		70%		前期末試験。授業で取り上げたテーマの理解と、それをふまえた中国文化についての考察を問う。授業内試験に変更する場合もある。
	平常評価		30%		課題レポート
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	授業時に適宜紹介する。				
オフィスアワー	月曜日の昼休み。事前にメール等で予約の上、質問・相談・指導をおこないます。 研究室（4号館1階412） saito.fuminori@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業内容について、中国の社会や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方・成績評価など 治水の歴史
	事後学習	授業内容をふまえて「治水の歴史」に関してまとめてみよう。（2時間）
2	事前学習	授業内容について、中国の社会や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	中国の都市（1）－唐代の長安
	事後学習	授業内容をふまえて「唐代の長安」に関してまとめてみよう。（2時間）
3	事前学習	授業内容について、中国の社会や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	中国の都市（2）－宋代の開封
	事後学習	授業内容をふまえて「宋代の開封」に関してまとめてみよう。（2時間）
4	事前学習	授業内容について、中国の社会や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	近代都市の発達
	事後学習	授業内容をふまえて「近代都市の発達」に関してまとめてみよう。（2時間）

5	事前学習	授業内容について、中国の社会や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	選挙（1） 科挙以前の官吏登用法
	事後学習	授業内容をふまえて「科挙以前の官吏登用法」に関してまとめてみよう。（2時間）
6	事前学習	授業内容について、中国の社会や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	選挙（2） 科挙の成立と発展
	事後学習	授業内容をふまえて「科挙の成立と発展」に関してまとめてみよう。（2時間）
7	事前学習	授業内容について、中国の社会や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	20世紀初頭の農村社会－ゆるやかな農村統治
	事後学習	授業内容をふまえて「20世紀初頭の農村社会－ゆるやかな農村統治」に関してまとめてみよう。（2時間）
8	事前学習	授業内容について、中国の社会や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	近代化政策のなかの農村社会－農村統治機構の拡張
	事後学習	授業内容をふまえて「近代化政策のなかの農村社会－農村統治機構の拡張」に関してまとめてみよう。（2時間）
9	事前学習	授業内容について、中国の社会や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	共産党統治下の農村
	事後学習	授業内容をふまえて「共産党統治下の農村」に関してまとめてみよう。（2時間）
10	事前学習	授業内容について、中国の文化や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	土地革命における「土匪」との提携
	事後学習	授業内容をふまえて「土地革命における「土匪」との提携」に関してまとめてみよう。（2時間）
11	事前学習	授業内容について、中国の社会や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	朝貢・冊封体制 朝貢と交易のネットワーク
	事後学習	授業内容をふまえて「朝貢・冊封体制」「朝貢と交易のネットワーク」に関してまとめてみよう。（2時間）
12	事前学習	授業内容について、中国の社会や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	前近代中国における法と政治 法・術・勢の関係 法家思想と政治
	事後学習	授業内容をふまえて「法・術・勢の関係」「法家思想と政治」について－朱子学との比較」に関してまとめてみよう。（2時間）
13	事前学習	授業内容について、中国の社会や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	前近代中国における法と刑罰
	事後学習	授業内容をふまえて「前近代中国における法と刑罰」に関してまとめてみよう。（2時間）
14	事前学習	授業内容について、中国の社会や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	前近代中国における法と裁判
	事後学習	授業内容をふまえて「前近代中国における法と裁判」に関してまとめてみよう。（2時間）
15	事前学習	授業内容について、中国の社会や歴史に関する用語などを調べてみよう。なお事前に配布した資料がある場合は、その内容を把握しておこう。（2時間）
	授業内容	前近代中国における家族・婚姻・「同居共財」
	事後学習	授業内容をふまえて「前近代中国における家族」に関してまとめてみよう。（2時間）

科目名	学際教養B	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	館野担当の宗教学Ⅰ・Ⅱ、及び学際教養Aの内容を踏まえ、それを超えて、人間が成長・進化して次の段階となることについてさらなる探究へ展開していきたい。自分で自分を鍛え、さらに進化・成長させていくためことを探究し訓練していく。			
授業目的・到達目標	自分をよく観察し、思考して、自分で自分の人生を切り拓いていける人となるよう育成することを目的とする。自分の軸を創り自分で自分の人生を切り拓くことができるようになり、より苦しめない人生となることを到達目標とする。とくに、参加者の様々な見解を聞くことにより、今を生きる上で有益な自分にとっての最適解を見出し、速やかに成長発達して、より生きやすくなることを到達目標とし、その訓練の場にしたい。なお、学生教員共有フォルダの「館野」のフォルダに授業アンケートを公開しているので参考にしてほしい。関連DP及びCP：総合科目領域1，2，3，4，5，6，7，8			
履修条件	館野の「宗教学Ⅰ・Ⅱ、及び学際教養A」を履修済みであることが望ましい。その内容に基づきさらなる探究を行なっていく。いかなる理由でも4回の欠席で成績は付かない。遅刻しないこと。			
授業方法	題材に対して自分の成長に結び付けたレポートを書き、それを発表し、授業者からの講評を聞き、さらにレポートを書くということを繰り返し、より思考を深め、自らを成長させてゆく形態で行う。レポートは次回授業開始時に講評する			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	真剣さ、自分で自分を成長させることができるようになったかを基準とし、各種のレポート、発問に対する回答内容、宿題、欠席・遅刻の回数などにより総合的に評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用せず。		
参考書	随時伝達する。			
オフィスアワー	火曜日の09時～10時。ただし必ず事前にメールにて連絡すること。 授業者の大学アドレス tatenom.masao@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。（2時間）
	授業内容	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に關してのルール等について、シラバスに基づき詳細に説明する。受講者はメモを取り、それを提出する。
	事後学習	シラバスとノートを確認し、その内容と時間割確認によって履修授業の選択を検討する。（2時間）
2	事前学習	「自分」ということについて考え、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	「自分・自我・自己」に關する先人たちの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
3	事前学習	前回のノート、レポート、それに対する自分の見解を読み直し、さらに思考して授業に備えておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。「自分を越える」ということに関する先人たちの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
4	事前学習	「人間の次の段階」について広く調べ、思考し、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。「人間の次の段階」に關する先人たちの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）

5	事前学習	仏教の「仏・菩薩・神」、ユダヤ教、キリスト教の「神」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。仏教の「仏・菩薩・神」などに関しての話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
6	事前学習	仏教の「ダルマ」、ユダヤ教の「ルアッハ」、キリスト教の「ブネウマ」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。仏教の「ダルマ」、ユダヤ教の「ルアッハ」、キリスト教の「ブネウマ」に関する先人の見解、授業者による話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
7	事前学習	これまでの授業についてさらに調べ、自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き、提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
8	事前学習	「人間が生きるための犠牲」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。授業者の話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
9	事前学習	「仏教に於ける戒と律」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。「仏教に於ける戒と律」と現代社会に於ける規律、倫理などに関する授業者の話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
10	事前学習	前回のメモ、レポート、さらにそれをまとめたノートを振り返り、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。「仏教に於ける戒と律」と現代社会に於ける規律、倫理などに関する授業者の話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	事後学習	ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
11	事前学習	「対象は自分の思考が現れたものである」という見解について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。仏教の唯識思想の話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
12	事前学習	前回のメモ、レポート、さらにそれをまとめたノートを振り返り、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。仏教の華嚴思想に於ける「唯心」思想の話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
13	事前学習	「自分の主体」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。受講者は授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
14	事前学習	第8回から第13回までのノートを確認し、まとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	事後学習	ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
15	事前学習	初回からのノート、レポートすべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話を聞き、受講者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを発表し、他者の発表を聞いてさらに思考を深めレポートを書き提出する。
	事後学習	初回からのノート、レポートを振り返って確認し、要点をまとめる。（2時間）

科目名	科学の歴史 I	担当者	古谷 紳太郎	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	--------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	現代社会は科学技術に依存しているため、たとえば法的対応やジャーナリズムにおいても、科学技術についての理解が益々求められるようになっていく。AI、Fintech、自動運転など新しい科学技術が社会に実装された場合は、科学技術についてのさらなる理解が求められることが予想される。そこで本講義では、社会における科学技術の歴史を通じて、受講者がそれぞれの立場から科学技術に関連する諸問題に取り組むための、基礎的教養を提供する。				
授業目的・到達目標	それぞれの専門の観点から現代における科学技術と社会の間に生じうる様々な課題について、歴史的な背景を踏まえた考察できる人材を育成することを目的にし、科学技術と社会の関係性の歴史的変遷について理解し、説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域 1， 2， 3， 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	スライドと配布資料を用いた講義およびグループワークによるアクティブ・ラーニングを行う。また、毎回のコメントシートで質問等を受け付け、次回の冒頭でフィードバックを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		50%	穴埋めと記述による試験で評価する。	
	平常評価		50%	授業への貢献度および任意の中間レポート（10%相当）で評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2010	左右社		『＜科学の発想＞をたずねて：自然哲学から現代科学まで』	橋本毅彦
	備考				
参考書	A) トーマス・S・クーン，中山茂訳，『科学革命の構造』，1971，みすず書房。B) シュムペーター・J・A，塩野谷祐一・中山伊知郎・東畑精一訳，『経済発展の理論（上）・（下）』，1977，岩波書店。				
オフィスアワー	木曜日13:20～14:00本館。必ず授業前後に講義室で直接アポイントメントを取ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	本講義を受講しようと思った動機や受講に際しての豊富を共有する準備をしておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンスとグループディスカッション
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
2	事前学習	教科書第一章を読むこと。（2時間）
	授業内容	古代ギリシアの自然哲学
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
3	事前学習	教科書第二章を読むこと。（2時間）
	授業内容	古代の医学・生物学
	事後学習	配布物による復習。参考書Aの該当箇所を読むこと（任意）。（2時間）
4	事前学習	教科書第四・五章を読むこと。（2時間）
	授業内容	古代の数学・天文学
	事後学習	配布物による復習。（2時間）

5	事前学習	教科書第二章を読むこと。（2時間）
	授業内容	アリストテレスの哲学体系と自然学
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
6	事前学習	教科書第三章を読むこと。（2時間）
	授業内容	ローマの技術・アラビアの科学
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
7	事前学習	教科書第三章を読むこと。（2時間）
	授業内容	12世紀ルネサンス
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
8	事前学習	教科書第三・六章を読むこと。（2時間）
	授業内容	スコラ学の成立と中世の自然観
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
9	事前学習	教科書第七章を読むこと。（2時間）
	授業内容	中世の技術の発達
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
10	事前学習	教科書第七章を読むこと。（2時間）
	授業内容	中世の自然観の変化
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
11	事前学習	教科書第七章を読むこと。（2時間）
	授業内容	17世紀科学革命1：天体
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
12	事前学習	教科書第八章を読むこと。（2時間）
	授業内容	17世紀科学革命2：力学
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
13	事前学習	教科書第九章を読むこと。（2時間）
	授業内容	化学革命
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
14	事前学習	第2回から第13回までの配布物による復習とテーマに沿った事例の調査・準備。（2時間）
	授業内容	グループディスカッション（技術と人間社会のこれまでとこれから）
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
15	事前学習	第2回から第13回までの配布物による復習。（2時間）
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	前期の総復習（2時間）

科目名	科学の歴史Ⅱ	担当者	古谷 紳太郎	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	現代社会は科学技術に依存しているため、たとえば法的対応やジャーナリズムにおいても、科学技術についての理解が益々求められるようになっている。AI、Fintech、自動運転など新しい科学技術が社会に実装された場合は、科学技術についてのさらなる理解が求められることが予想される。そこで本講義では、社会における科学技術の歴史を通じて、受講者がそれぞれの立場から科学技術に関連する諸問題に取り組むための、基礎的教養を提供する。				
授業目的・到達目標	それぞれの専門の観点から現代における科学技術と社会の間に生じうる様々な課題について、歴史的な背景を踏まえた考察できる人材を育成することを目的にし、科学技術と社会の関係性の歴史的変遷について理解し、説明できるようになることを目標にする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域 1， 2， 3， 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	スライドと配布資料を用いた講義およびグループワークによるアクティブ・ラーニングを行う。また、毎回のコメントシートで質問等を受け付け、次の冒頭でフィードバックを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		50%	穴埋めと記述による試験で評価する。	
	平常評価		50%	授業への貢献度および任意の中間レポート（10%相当）で評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2010	左右社		『＜科学の発想＞をたずねて：自然哲学から現代科学まで』	橋本毅彦
	備考				
参考書	A) トーマス・S・クーン，中山茂訳，『科学革命の構造』，1971，みすず書房。B) シュムペーター・J・A，塩野谷祐一・中山伊知郎・東畑精一訳，『経済発展の理論（上）・（下）』，1977，岩波書店。				
オフィスアワー	木曜日13:20～14:00本館。必ず授業前後に講義室で直接アポイントメントを取ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	本講義を受講しようと思った動機や受講に際しての豊富を共有する準備をしておくこと。前期から受講している者は、前期に学んだ内容と後期への豊富を共有する準備をしておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンスとグループディスカッション
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
2	事前学習	教科書第十章までを一通り読むこと。（2時間）
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
3	事前学習	教科書第十までを一通り読むこと。（2時間）
	授業内容	産業革命・フランス革命と近代科学技術
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
4	事前学習	教科書第十・十一・十二章を読むこと。（2時間）
	授業内容	近代科学技術の成立
	事後学習	配布物による復習。（2時間）

5	事前学習	教科書第十二章を読むこと。（2時間）
	授業内容	近代化と科学技術
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
6	事前学習	教科書第十三章を読むこと。（2時間）
	授業内容	現代物理学
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
7	事前学習	ダーウィンが乗船したビーグル号の航海の社会的背景を調べてくること。（2時間）
	授業内容	分類学・比較解剖学・進化論
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
8	事前学習	「セントラルドグマ」について調べてくること。（2時間）
	授業内容	現代生物学
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
9	事前学習	教科書第十二・十三・十四章を読むこと。（2時間）
	授業内容	現代化学
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
10	事前学習	教科書第十四章を読むこと。（2時間）
	授業内容	科学技術と戦争
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
11	事前学習	教科書第十四・十五章を読むこと。（2時間）
	授業内容	研究開発の体制と競争
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
12	事前学習	参考書Aを読むこと（後期スタート時点から読み進めることを薦める）。（2時間）
	授業内容	科学技術とパラダイム
	事後学習	配布物による復習と参考書Aを読むこと。（2時間）
13	事前学習	参考書Bを読むこと（後期スタート時点から読み進めることを薦める）。（2時間）
	授業内容	科学技術とイノベーション
	事後学習	配布物による復習と参考書Bを読むこと。（2時間）
14	事前学習	第16回から第28回までの配布物による復習とテーマに沿った事例の調査・準備。（2時間）
	授業内容	グループディスカッション（科学技術と人間社会のこれまでとこれから）
	事後学習	配布物による復習。（2時間）
15	事前学習	第17回から第29回の配布物による復習。（2時間）
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	後期の総復習。（2時間）

科目名	環境論 I	担当者	田代 崇	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	環境論とは、人間と自然環境との関係に関する理論であり、古くは古代ギリシアより近代的理論へ通じる議論がおこなわれてきた。特に近年の日本では、「環境問題」という言葉が、公害や地球温暖化などグローバルな社会・経済との関係から広く認識されるようになった。本科目では、現代社会における環境問題について具体的事例を通して学習し、様々な視座に立った環境を理解できるようになることを目的とする。				
授業目的・到達目標	世の中で起きている現象とその現象を主体とする環境に対し、そこに内在する問題を理解し説明できることを目的とし、解決策に関して様々な視座から考察できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域 1, 2, 3, 4, 6				
履修条件	なし				
授業方法	スライド及び配布プリントを用いた講義形式。映像資料やプリントを適宜配布する。授業内において、学生主体のプレゼン及びディスカッションをおこなう。定期試験の解説は、後日ポータルシステムを通じておこなう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	学期末試験において、課題に関する理解の程度を評価する。	
	平常評価		30%	プレゼン及び提出課題中において、理解の程度を評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	なし。教材が必要な場合は、授業時に適宜配布。			
参考書	必要な際に授業内にて参考図書を紹介する。				
オフィスアワー	月曜日14：30～16：00／水曜日14：30～16：00。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス内容の理解（2時間）
	授業内容	ガイダンスー環境を環境問題から考えるー
	事後学習	前期授業計画と授業内容の理解（2時間）
2	事前学習	環境という言葉に対するイメージを考える（2時間）
	授業内容	環境論とは
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
3	事前学習	前回の授業内容の復習（2時間）
	授業内容	環境の概念とその歴史的変遷
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
4	事前学習	前回の授業内容の復習（2時間）
	授業内容	環境変化から環境問題へ
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）

5	事前学習	前回の授業内容の復習（2時間）
	授業内容	法規制と環境保全
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
6	事前学習	前回の授業内容の復習（2時間）
	授業内容	環境問題①－大気環境－
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
7	事前学習	前回の授業内容の復習（2時間）
	授業内容	環境問題②－生物環境－
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
8	事前学習	前回の授業内容の復習（2時間）
	授業内容	環境問題③－廃棄物・有機化合物の生態系への影響－
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
9	事前学習	前回の授業内容の復習（2時間）
	授業内容	環境問題④－エネルギー問題－
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
10	事前学習	様々な環境問題に関するプレゼン資料の作成（2時間）
	授業内容	プレゼン及びディスカッション－個別のテーマ設定と資料作成及びプレゼン－
	事後学習	ディスカッション内容のまとめ（2時間）
11	事前学習	前回の授業内容の復習（2時間）
	授業内容	環境問題を捉える視点①－環境倫理について－
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
12	事前学習	前回の授業内容の復習（2時間）
	授業内容	環境問題を捉える視点②－東洋と西洋の自然観－
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
13	事前学習	前回の授業内容の復習（2時間）
	授業内容	環境問題を捉える視点③－科学技術的問題としての捉え方－
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
14	事前学習	前回までの授業内容の復習（2時間）
	授業内容	環境問題を捉える視点④－社会政治的問題としての捉え方－
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
15	事前学習	前回までの授業内容の復習（2時間）
	授業内容	前学期授業の総括
	事後学習	授業内容及び配布資料を基にしたノートの作成（2時間）

科目名	環境論Ⅱ	担当者	田代 崇	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	近年の日本においては里地里山に代表される生活環境と社会環境の変化が，固有の生態系に対して悪影響を与えているが指摘されている。これは，地域の自然環境が人間との関係を持ちながら維持されてきたことによっている。本科目では，ローカルからグローバルまで様々な空間スケールで発生する環境問題に対し，自然科学がどのようなアプローチを取ってきたかを学習すると共に，人間と環境の関係を理解し，将来に向け持続可能な人間環境を考える。							
授業目的・到達目標	様々な時空間スケールの環境問題に対し，その中で展開される自然科学的アプローチを理解し説明できることを目的とし，人間社会との繋がりを説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4, 6							
履修条件	なし。							
授業方法	スライド及び配布プリントを用いた講義形式。映像資料やプリントを適宜配布する。授業内において，学生主体のプレゼン及びディスカッションをおこなう。定期試験の解説は，後日ポータルシステムを通じておこなう。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		70%		学期末試験において，課題に関する理解の程度を評価する。			
	平常評価		30%		プレゼン及び提出課題中において，理解の程度を評価する。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	備考		使用しない。必要な場合は授業時に適宜配布。					
参考書	必要な際に授業内にて参考図書を紹介する。							
オフィスアワー	月曜日14：30～16：00／水曜日14：30～16：00。							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの理解（2時間）
	授業内容	ガイダンス・後学期の授業概要
	事後学習	後期授業計画と授業内容の理解（2時間）
2	事前学習	前学期授業内容の復習（2時間）
	授業内容	環境論とは－前学期授業内容の復習・環境論の歴史－
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
3	事前学習	前回の授業内容の復習（2時間）
	授業内容	環境問題の特性－科学的不確実性と予測－
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
4	事前学習	前回の授業内容の復習（2時間）
	授業内容	環境学/環境科学の視点－問題設定と解決への道筋－
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）

5	事前学習	前回の授業内容の復習（2時間）
	授業内容	環境と生態系①ー植生環境と保全ー
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
6	事前学習	前回の授業内容の復習（2時間）
	授業内容	環境と生態系②ー河川環境と保全ー
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
7	事前学習	前回の授業内容の復習（2時間）
	授業内容	生態系の分断と破壊
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
8	事前学習	前回までの授業内容の復習（2時間）
	授業内容	砂漠化・海洋の役割
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
9	事前学習	前回授業内容の復習（2時間）
	授業内容	エルニーニョ現象・オゾン層破壊・酸性雨など
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
10	事前学習	後学期前半授業を通した問題設定とプレゼン資料の作成（2時間）
	授業内容	プレゼン及びディスカッションー個別のテーマ設定と資料作成及びプレゼンー
	事後学習	ディスカッション内容のまとめ（2時間）
11	事前学習	前回授業内容の復習（2時間）
	授業内容	環境保護の思想と現在の地球環境①ーエコロジー思想の系譜ー
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
12	事前学習	前回授業内容の復習（2時間）
	授業内容	環境保護の思想と現在の地球環境②ーディーブ・エコロジーなどー
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
13	事前学習	前回授業内容の復習（2時間）
	授業内容	持続可能な循環型社会への取り組みー循環型及び自然再生型社会へ・環境技術の現状ー
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
14	事前学習	前回授業内容の復習（2時間）
	授業内容	地球時代の環境論ー現在における地球観を通して見た環境ー
	事後学習	授業内容及び配布資料の復習（2時間）
15	事前学習	前回までの授業内容の復習（2時間）
	授業内容	後学期授業の総括
	事後学習	授業内容及び配布資料を基にしたノートの作成（2時間）

科目名	教育学 I	担当者	香川 七海	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「少年犯罪が増えている」、「朝食を食べない子どもが増えている」というような通俗的な教育言説をひとつひとつ再検討します。イメージではなく、学術研究にもとづき、「教育」について理解できることを目標とします。【実務家経験：文部科学省委託事業（2016～2017：篠原学園受託）の実務委員会、調査研究委員会の経験をもとに、社会調査方法について実践的に説明します】					
授業目的・到達目標	「教育」とは、なにかということを考えられることを目的としています。「教育」にできること、「教育」にできないこと、「教育」がしてよいこと、「教育」がしてはいけないことを身につけられることを目標としています。【関連DP+CP：総合科目1, 2, 3, 4, 6】					
履修条件	教育学分野、社会学分野に関心のある学生。「息をしていれば単位が取得できる」と考える受講者は受けつけません。教室内の秩序を著しく乱す受講者に対しては、厳しい措置を取ります。ご承知おきください。					
授業方法	講義形式。授業終了後に受講生からコメントペーパーを回収しますが、次週の授業にて、50～60件の代表的な意見をプリントにまとめて配布します。紙上討論というかたちで、受講生の意見に対して、そのつど応答をします。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		レポート作成（60%）、コメントペーパー、質疑など受講態度（40%）にて判断いたします。※コメントペーパー=出席点ではありません。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	指定いたしません。				
参考書	レポート作成時に参考書のリストを配布いたします。					
オフィスアワー	前期：月曜日のお昼休み、月曜日の5限、木曜日の午後（会議時間は除外）、いずれかの時間帯、本館8階の研究室にて。 後期：金曜日の14時45分～16時。18時～19時。本館8階の研究室にて。（それ以外の日程については別途相談）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	個々人の被教育体験をめぐって
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
2	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	近世の教育システムと「軍国主義教育」までの変遷を追う
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
3	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	戦後初期の教育システム
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
4	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	学生運動と高校紛争
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）

5	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	「ゆとり教育」とはなにか？ 虚構とイデオロギー
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
6	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	世界の子育て（1） 昔話はどう変化したか？（グリム童話と日本昔話の原作から）
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
7	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	世界の子育て（2） 子どもはどう見ていたか？（子ども像の変化と「子ども服」、「おもちゃ」の登場）
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
8	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	世界の子育て（3） 映画に見る子どもの育ち。
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
9	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	曖昧になった男女の区分け？（色、ファッション、遊び）。
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
10	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	「LGBT」概念の登場（差別問題と学校教育、グレーゾーンをどうつくるか？）
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
11	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	映像視聴（1） （テーマ：個人の「生きづらさ」と価値観）
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
12	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	映像視聴（2） 提出コメントをもとに討議。
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
13	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	映像視聴（1） （テーマ：抑圧される女性と価値観）
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
14	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	映像視聴（2） 提出コメントをもとに討議。
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
15	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	変わり続ける「保育」と「教育」の価値観【総括】
	事後学習	レポート作成。（2時間）

科目名	教育学 I	担当者	壽福 隆人	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	教育学の基礎的概念を習得するため、教育の原理的観点から教育を探究する。人間の歴史の中からさまざまな教育現象を抽出し、人間が教育という人間にしか持ちえない活動を通して人間になっているという教育の原理的側面に焦点をあてて、教育の問題を考察する。また、教育の原理から今日的教育問題を考える視点についても考えていく。			
授業目的・到達目標	教育に関わらずに生きている人間はいない。したがって、すべての人間が教育に対する一定の認識と意見を持っていなければならない。教育の原理を明らかにして、受講者が人間と教育の関係を明瞭に理解できることを授業目的とし、すべての受講者が教育に対する自らの考えを自らの言葉で表現できるようになることを講義の到達目標とする。関連D P及びC P：総合科目領域1, 2, 3, 4, 6			
履修条件	とくに条件を設けないが、学校教育など教育問題を真剣に考えようとする学生の履修を望む。			
授業方法	講義を中心とするが、リアクションペーパーなど講義内容に対する自分の考えを適宜提出させる。模範的なリアクションやレポートを講義の中で紹介し、課題の趣旨について解説する。また、SABCDの5段階で評価し、返却する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	講義内容に触れつつ、教育に対する自分の意見を自らの言葉で表現する力がついたかどうか、最大の評価基準である。	
	平常評価	20%	講義に対する参加態度を重視する。レポートまたはリアクションペーパーの提出あり。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	芦書房	社会科教育課程の歴史的研究	壽福隆人
	備考			
参考書	『歴史教育の課題と教育の方法・技術』DTP出版			
オフィスアワー	火曜日2限 9号館9106研究室（休暇を除く、事前にメールでアポイントをとること）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、テキストの序章・目次を確認して、講義の概要を理解する。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス】 授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、テキストの用い方について説明するとともに、教育学を考える姿勢について講義する。
	事後学習	各自の教育歴や学校歴についてまとめ、教育を一人の人間が成長していく過程と深くかかわる問題であることを考える。（2時間）
2	事前学習	各自の現在の人格を形成してきた作用について考える。受講者各自の現在の人格を形成してきたうえで、最も大きな影響を与えたと考えられる出来事や人の存在を考え、まとめる。（2時間）
	授業内容	【「教育は人間の営みである」について考える】 オオカミに育てられた少女や人間に育てられたライオンの話を通して、動物と人間の違いを教育という観点から明らかにし、教育が人間という種だけに見られる行為であることを考察する。
	事後学習	講義ノート確認して、人間を人間たらしめる行為こそが教育であることを確認し、その意義を各自が自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
3	事前学習	各自の教育歴・学校歴の中から「子ども」、「青年」、「おとな」を区別するものは何かを考える。とくに、インターネットや文献の調査を通して、「子ども」の定義について検索する。（2時間）
	授業内容	【子どもの発見】 「子どもの夜明け」と「夜明けの子ども」という表現について考える。文明の発達が「子ども」「青年」を生み出したという教育の基本理念についての説明を通して「教育」の定義について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、文明の発達がもたらした「子ども」について、ルソーなど教育学の発達に大きく貢献した人々について調べ、各自の教育に対する認識をレポートとしてまとめる。（2時間）
4	事前学習	高等学校や大学の総合科目などで学んだ日本の「教育」について復習する。とくに、学校が庶民に広く開かれていなかった頃の教育がどのようなものであったか考える資料を検索する。（2時間）
	授業内容	【学校がなかったころの庶民の教育】 日本の中世農村社会で行われていた教育活動を通して、学校が庶民に開かれていなかった時代の教育について講義する。これを通して、学校教育が必ずしも教育活動の中心ではないことを明確にする。
	事後学習	講義ノートを確認して、常に教育が人間社会の発展に大きく寄与していることを確認し、人間と教育の関係を、各自が自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）

5	事前学習	「教育」という現象を分類した文献や資料を検索して、「教育」という現象の分類に挑戦する。各自の教育歴・学校歴のなかから、教育の方法の違いを明らかにしてまとめる。（2時間）
	授業内容	【教育現象の分類（1）】 教育の現象「陶冶」とは何かを考える。学校教育のなかで広く行われている授業について、教育現象の分類という観点から考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「陶冶」という教育現象が行われている事例を学校教育だけでなく、幅広く社会全体の営みの中から抽出し、「陶冶」という教育現象の特徴を、各自が自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
6	事前学習	「教育」という現象を分類した文献や資料を検索して、「教育」という現象の分類に挑戦する。各自の教育歴・学校歴のなかから、教育の方法の違いを明らかにし、「陶冶」以外の教育現象について考える。（2時間）
	授業内容	【教育現象の分類（2）】 教育の現象「教化」とは何かを考える。学生が日常的に行っている活動の中から、「教化」という教育現象を抽出して、教育現象の分類について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「教化」という教育現象が行われている事例を学校教育だけでなく、幅広く社会全体の営みの中から抽出し、「教化」という教育現象の特徴を、各自が自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
7	事前学習	「教育」という現象を分類した文献や資料を検索して、「教育」という現象の分類に挑戦する。各自の教育歴・学校歴のなかから、教育の方法の違いを明らかにし、「陶冶」「教化」以外の教育現象について考える。（2時間）
	授業内容	【教育現象の分類（3）】 教育の現象「形成」とは何かを考える。学生が日常的に行っている活動の中から、「形成」という教育現象を抽出して、教育現象の分類について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「形成」という教育現象が行われている事例を学校教育だけでなく、幅広く社会全体の営みの中から抽出し、「形成」という教育現象の特徴を、各自が自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
8	事前学習	高等学校や大学の総合科目などで学んだ内容を手掛かりに、16世紀以降のヨーロッパの歴史について調べる。とくに、中部ヨーロッパ、スイス、ドイツ、チェコの歴史に注目し、宗教改革についての知見を広める。（2時間）
	授業内容	【教育学の成立（1）】 教育学成立の背景を中部ヨーロッパの歴史・地理の講義を通して考察する。また、教育学成立に大きな足跡を残した人々について紹介する。
	事後学習	講義ノートを確認して、教育学の成立と中部ヨーロッパの歴史・地理と関連付けて各自が自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
9	事前学習	中部ヨーロッパの歴史・地理についてまとめる。とくに、宗教改革や30年戦争について、高等学校や大学の総合科目などで学んだ内容を手掛かりに詳しく調査する。（2時間）
	授業内容	【教育学の成立（2）】 教育学成立の背景を中部ヨーロッパの歴史・地理の講義を通して考察する。とくに、コメニウスの生涯と彼の教育学に残した足跡を紹介して、教育学の基礎理念について説明する。
	事後学習	講義ノートを確認して、コメニウスの教育学における位置を確認し、各自がコメニウスについて各自の言葉で表現できるようにする。（2時間）
10	事前学習	高等学校や大学の総合科目などで学んだ内容を手掛かりに、ルソーについて調べる。（2時間）
	授業内容	【教育学の成立（3）】 教育学成立の背景をヨーロッパの歴史・地理の講義を通して考察する。とくに、ルソーの生涯と彼の著作『エミール』の世界について紹介し、彼の教育学に残した足跡を紹介して、教育学の基礎理念について説明する。
	事後学習	講義ノートを確認して、ルソーが果たした教育学成立への役割を明らかにし、各自がルソーや『エミール』について各自の言葉で表現できるようにする。（2時間）
11	事前学習	高等学校や大学の総合科目などで学んだ内容を手掛かりに、18世紀ヨーロッパの歴史を調べる。（2時間）
	授業内容	【教育学の成立（4）】 教育学成立の背景をヨーロッパの歴史・地理の講義を通して考察する。とくに、ベスタロッチ、ヘルバルトの生涯と彼らの業績について紹介し、彼らが教育学成立にはたした大きな役割について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、ベスタロッチ・ヘルバルトが果たした教育学成立への役割を確認し、各自が彼らの業績と今日の教育学に与えている影響について各自の言葉で表現できるようにする。（2時間）
12	事前学習	高等学校や大学の総合科目などで学んだ内容を手掛かりに、19世紀以降のアメリカの歴史を調べる。（2時間）
	授業内容	【教育学の発展】 新教育運動から進歩主義教育運動への発展をデューイの教育思想を取り上げて考察する。さらに、戦後の日本の教育改革やその後の教育理念の発展が、アメリカで発達した教育理論の影響下にあることを説明する。
	事後学習	講義ノートを確認して、デューイ主義のわが国への影響について、各自が自らの言葉で説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	テキスト第1章を参考として、戦後日本の教育のについて考える。とくに、1970年代後半から顕著となった「学校荒廃現象」の背景に存在した教育理念について考える。（2時間）
	授業内容	【近代日本の教育観と戦後の日本の教育観】 欧米の教育理論を吸収し発展してきた近代日本の教育観を紹介し、戦後教育改革の意義を明らかにする。また、学校教育が大きく行き詰った1970年代後半の教育事情から「ゆとり教育」が実施されていった過程を考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、学校荒廃現象とはどのようなものであったかをまとめ、「ゆとり教育」導入の背景について、各自が自らの言葉で説明できるようにする。（2時間）
14	事前学習	テキスト第2章、第3章を手掛かりとして、教育改革に必要な視点とは何かを考える。さらに、テキスト第6章、第7章を参考として、教育改革への試みについて考える。（2時間）
	授業内容	【教育改革に必要な視点】 より良い教育改革には、教育内容の中身、教材のひとつひとつを検討していく姿勢が必要であるという、教育学成立を支えた教育理念が重要であることを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、教育改革と教育課程研究が不可分であることをまとめ、受講者各自が自らの言葉で教育理念と教育課程研究が並行して行われなければならないことを表現できるようにする。（2時間）
15	事前学習	初回からのテキストや講義ノートを見直し、教育原理研究の重要性について考察する。（2時間）
	授業内容	これまでの学習を評価するために講義内テスト及び解説を実施する。
	事後学習	新たな「教育を見る目」から今日の教育やこれからの教育を考える。（2時間）

科目名	教育学Ⅱ	担当者	香川 七海	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「少年犯罪が増えている」、「朝食を食べない子どもが増えている」というような通俗的な教育言説をひとつひとつ再検討します。イメージではなく、学術研究にもとづき、「教育」について理解できることを目標とします。【実務家経験：文部科学省委託事業（2016～2017：篠原学園受託）の実務委員会、調査研究委員会の経験をもとに、社会調査方法について実践的に説明します】					
授業目的・到達目標	「教育」とは、なにかということを考えられることを目的としています。「教育」にできること、「教育」にできないこと、「教育」がしてよいこと、「教育」がしてはいけないことを身につけられることを目標としています。【関連DP+CP：総合科目1, 2, 3, 4, 6】					
履修条件	教育学分野、社会学分野に関心のある学生。「息をしていれば単位が取得できる」と考える受講者は受けつけません。教室内の秩序を著しく乱す受講者に対しては、厳しい措置を取ります。ご承知おください。					
授業方法	講義形式。授業終了後に受講生からコメントペーパーを回収しますが、次週の授業にて、50～60件の代表的な意見をプリントにまとめて配布します。紙上討論というかたちで、受講生の意見に対して、そのつど応答をします。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		レポート作成（60%）、コメントペーパー、質疑など受講態度（40%）にて判断いたします。※コメントペーパー=出席点ではありません。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	指定いたしません。				
参考書	レポート作成時に参考書のリストを配布いたします。					
オフィスアワー	前期：月曜日のお昼休み、月曜日の5限、木曜日の午後（会議時間は除外）、いずれかの時間帯、本館8階の研究室にて。 後期：金曜日の14時45分～16時。18時～19時。本館8階の研究室にて。（それ以外の日程については別途相談）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	学校給食の歴史（「ちびまる子ちゃん」を手がかりに）
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
2	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	社会問題としての貧困問題と学校教育（ブラック・バイト、ブラック企業、生活保護）
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
3	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	子どもの貧困と学校教育（奨学金問題）
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
4	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	移民問題・ニューカマー・在日コリアン（ヘイトスピーチ、排外主義）
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）

5	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	映像資料「アンネの日記」視聴（1）（テーマ：排外主義と子ども）
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
6	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	映像資料「アンネの日記」視聴（2） 提出コメントをもとに議論
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
7	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	ナチス・ドイツの台頭について（ナチス・ドイツにおける「保育」・「教育」）
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
8	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	映像資料「ナチスドイツ下の庶民の生活と子育て」（テーマ：教師とナショナリズム「凡庸な悪」）
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
9	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	日本における戦時下の障害児教育（学童疎開と肢体不自由児）
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
10	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	障害者差別と「青い芝の会」（差別のなかの差別構造について）
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
11	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	「見た目」問題と子ども（ユニークフェイス・脱毛症・吃音症……）
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
12	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	「曖昧な生きづらさ」と学校教育
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
13	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	世界の教育と保育（1）（フィンランド・オランダと日本の学校教育・幼児教育）
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
14	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	世界の教育と保育（2）（発展途上国の子どもの育ち）
	事後学習	コメントペーパーの振り返り。（2時間）
15	事前学習	配布資料をもとに復習。（2時間）
	授業内容	変わり続ける「保育」と「教育」の価値観【総括】
	事後学習	レポート作成。（2時間）

科目名	教育学Ⅱ	担当者	壽福 隆人	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	教育学の基礎的概念を習得するため、日本の学校教育に焦点をあて、教育の制度的観点から教育を探究する。戦前の国家主義的教育から戦後の民主教育へと改革が進んだ過程で、何が教育の問題とされたのか、また、戦後民主教育が直面している教育問題とは何かを学校教育の歴史を振り返りながら明らかにしていく。			
授業目的・到達目標	学校教育が人間の教育に大きな影響を及ぼすようになった現代を、人類の歴史の中に位置づけ、今日の学校が担っている役割を明らかにする。さらに、今日の社会で、学校教育が持つ重要性和問題点を明らかにして、学校制度改革の現状について認識を深めることを目的とする。そのために、古代にまで遡って学校の歴史をまなび、人類史に位置づけ、それを基礎に戦後教育改革の意義や今日の学校が直面する問題に対し、自らの考えを自らの言葉で表現できることを目標とする。関連D P及びC P：総合科目領域1、2、3、4、6			
履修条件	とくに条件を設けないが、学校教育など教育問題を真剣に考えようとする学生の履修を望む。			
授業方法	講義を中心とするが、リアクションペーパーやレポートの提出を求める。模範的なリアクションやレポートを講義の中で紹介し、課題の趣旨について解説する。また、SABCDの5段階で評価し、返却する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	講義内容を理解し、自分の言葉で教育問題を論述することができるかに評価基準を置く。	
	平常評価	20%	リアクションペーパーやレポートの提出を通じて、講義に対する態度を評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2013年	弘文堂	教育政策・行政	安藤正・壽福隆人 監修
	備考			
参考書	『歴史教育の課題と教育の方法・技術』DTP出版			
オフィスアワー	火曜日2限 9号館9106研究室（休暇を除く、事前にメールでアポイントをとること）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、テキストの序章、目次を確認して、講義の概要を理解する。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス】 授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介し、教育学研究の方法や研究方法について説明する。また、学校に焦点を当てた本講義の意義について説明する。
	事後学習	各自の学習計画を他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	高等学校や大学の総合科目で履修した内容を参考としながら、日本の学校の起源について調べる。また、日本の古代学校である大学寮が誰を対象に、何を目的とした学校であったか調べる。（2時間）
	授業内容	【学校の起源と官僚養成】 庶民を対象とした学校がなかった時代、官僚養成を目的とした学校が中国の制度をもとにして成立していたこと、また、私立の学校も一定の役割を果たしていたことを説明する。
	事後学習	講義ノートを確認して、日本の学校の起源がどの時代に求められ、それが何を目的とした教育を行っていたのかをまとめ、学校成立の意味について各自が自分の言葉で表現できるようにする。（2時間）
3	事前学習	高等学校や大学の総合科目で履修した内容を参考としながら、近代社会が公教育制度を設立する前の学校の在り方を調べる。とくに、近世日本の官立学校および庶民を対象とした教育機関の存在について調べる。（2時間）
	授業内容	【日本の公教育のはじまり】 近世以前の日本の学校を紹介しながら、日本の近代公教育制度発達について考察する。その過程で、戦前の学校教育の国家主義的性格を明らかにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、テキスト第3章を参照しながら、戦前の国家主義教育とはどのようなものであったか、戦後教育と比較できるよう、その実相をまとめる。（2時間）
4	事前学習	高等学校や大学の総合科目で履修した内容を参考としながら、占領下の日本に大きな影響を与えたGHQの役割について調べる。とくに、学校教育制度に大きな影響を与えた4大指令について調べる。（2時間）
	授業内容	【戦後教育改革と日本の学校教育】 4大指令をはじめとするGHQによる戦後日本の教育改革について説明し、公選制教育委員会制度導入の意義について考察の考察を通して、戦後民主教育が目指したものは何であったか考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、教育委員会が行っている仕事を考える。とくに、身近にある教育委員会の仕事を探す過程から教育委員会の意義について、各自が自らの言葉で教育委員会について説明できるようにする。（2時間）

5	事前学習	都道府県教育委員会と市町村教育委員会の仕事の違いについて、インターネット等を用いて調査する。また、都道府県 の教育関係予算の変遷についても、インターネットで調査する。（2時間）
	授業内容	【任命制教育委員会】 公選制教育委員会制度から任命制教育委員会制度へ変わっていった理由について説明し、日本の教育委員会制度がさ まざまな批判にさらされてきたのはなぜか考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、教育委員会の問題点をまとめる。また、2003年の教育委員会改革の意味について、学校教育の 「責任者」という観点から整理する。（2時間）
6	事前学習	かつての教育委員会委員長と教育長との違いを調べる。また、現在の教育委員会における教育長位置づけについて、 インターネットを利用して調べる。（2時間）
	授業内容	【教育長の役割の変遷】 教育委員会事務局の長としての教育長から教育委員会を代表する教育長へと変化していった理由について説明し、教 育委員会制度の今日的あり方について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、現在の教育長の役割についてせりりし、各自が自らの言葉で、教育長について説明できるよう にする。（2時間）
7	事前学習	憲法26条、教育基本法（旧法）、現行教育基本法を読んで、日本の教育、とくに学校教育に関する基本的な法律の基 本をまとめる。（2時間）
	授業内容	【憲法26条】 憲法前文や憲法26条を取り上げ、教育の機会均等、義務教育など、戦後民主教育の基礎について講義し、学校教育制 度の今日的意義について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、戦後民主教育を基礎づけている法体系を理解する。（2時間）
8	事前学習	義務教育をテーマに憲法と教育基本法についてまとめる。また、学校教育法や同施行規則が、どのような構成になっ ているのかをまとめる。（2時間）
	授業内容	【教育に関する法律と教育の現状】 憲法や教育基本法に定められていることが現状の学校では必ずしも達成されていない実情を紹介し、日本の学校教育の 問題点を考察する。
	事後学習	憲法や教育基本法の精神が生かされていないと思われる事例を探す。また、その原因がどこにあるのかを考察し、各 自が各自の言葉で、教育の問題点を表現できるようにする。（2時間）
9	事前学習	高等学校や大学の総合科目で履修した内容を参考としながら、16世紀末から18世紀のヨーロッパ史の基礎を整理す る。とくに、プロイセンに注目し、フリードリヒ大王について調べる。（2時間）
	授業内容	【義務教育の源流】 絶対主義王政のもとで、義務教育制度が成立した経緯とフランス革命で絶対王政下の義務教育制度が否定され、今日 的義務教育制度が成立した経緯について考察する。
	事後学習	講義ノートとテキスト第2章を参照し、義務教育の二つの源流についてまとめる。「子どもの権利としての義務教 育」の成立過程について、自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
10	事前学習	高等学校や大学の総合科目で履修した内容を参考としながら、明治以降の歴史についてまとめる。とくに戦前の日本 の教育政策や制度に注目して、国家主義教育下の義務教育について考える。（2時間）
	授業内容	【戦前の義務教育制度と富国強兵】 富国強兵を目的とした日本の戦前の国家主義的教育制度について説明し、戦前の学校教育や義務教育制度の問題点に ついて考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、日本の戦前の義務教育制度が徴兵制や侵略戦争と深くかかわっていたことをまとめる。（2時 間）
11	事前学習	第4回目の講義で行った戦後教育改革および第9回講義で行った義務教育制度の源流について復習し、戦後教育改革の 目的、方向性についてまとめる。（2時間）
	授業内容	【戦後の民主教育と選別主義教育】 受験競争の激化に見られる戦後民主教育の問題点を選別主義教育の定着という観点から考察する。とくに中央教育審 議会答申と1960年代前期の全国一斉学力テストがもたらした問題について考察する。
	事後学習	1960年代に実施された全国一斉学力テストと現行の全国一斉学力テストの違いを明確に理解できるよう、講義ノート を確認する。（2時間）
12	事前学習	高等学校や大学の総合科目で履修した内容を参考としながら、第二次世界大戦と朝鮮戦争についてまとめる。（2時 間）
	授業内容	【選別主義教育の定着】 英国の1944年教育法に見られるストリーミングとは何か、英国はなぜこの制度を停止したかを説明し、これを参考と した日本の学力テスト体制はなぜ継続したのかについて考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、教育におけるストリーミングとは何かまとめる。また、受験戦争といわれた時代に使われた 「15の春」という言葉について検索する。（2時間）
13	事前学習	1970年代から1980年代の日本社会の状況について調べる。政治・経済・文化など各方面からこの時代を調査する。 （2時間）
	授業内容	【学校荒廃現象と教育界】 選別主義教育がもたらした弊害が1970年代後半から顕著となり、いじめ、非行、不登校が日本の学校に広がった状況 を説明し、選別主義教育の限界に直面したことについて考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、新聞やインターネットを検索し、学校荒廃現象と言われた時代の学校について調べ、当時、学 校教育の大きな転換が必要とされたことを確認する。（2時間）
14	事前学習	「ゆとり教育」について、新聞やインターネットを検索して、批判的意見や肯定的意見などを収集しまとめる。（2 時間）
	授業内容	【ゆとり教育】 学習指導要領の変遷やゆとり教育に対する各界の意見を紹介し、ゆとり教育が日本の教育にもたらした結果や成果に ついて考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、ゆとり教育とはなんであったか、今日その価値は失われたのか、ゆとり教育に対する、各自の 考えを各自が自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義を振り返り、日本の戦後の学校教育にはどのような問題があったのかまとめる。（2時間）
	授業内容	講義のまとめてして、講義内テスト及び解説を実施する。
	事後学習	日本の未来の教育に向けて、私たち社会にはどのような教育観が必要か考え、各自が各自の言葉で表現できるように する。（2時間）

科目名	教養演習 I A	担当者	香川 七海	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	教育社会学分野、社会学分野の多様な当事者研究をもとに、現代社会の教育課題、社会問題について考察します。【実務家経験：文部科学省委託事業（2016～2017：篠原学園受託）の実務委員会、調査研究委員会の経験をもとに、社会調査方法について実践的に説明します】					
授業目的・到達目標	教育社会学分野、社会学分野の多様な社会問題研究をもとに、現代社会の教育課題、社会問題についての知識を育成することを目的とし、個々人がみずからの生活経験や日常生活の主観的体験をもとに、教育課題や社会問題を客観的に把握できることを目標とします。 【関連DP+CP：総合科目1, 2, 3, 4, 6】					
履修条件	主体的に授業や議論に参加できる学生を対象とします。ただし、個人報告や共同報告（発表）、人前で話すことが苦手な方にも考慮します。なお、理想的には、総合科目の「教育学」を履修後にご登録することをおすすめします。					
授業方法	ゼミナール形式。多くの履修者が個人報告、あるいは、共同報告（複数人で発表）をすることになります。「息をしているだけで単位がもらえる」という授業ではありません。毎回の報告内容については、授業内で講評をいたします。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		個人報告、共同報告、および、議論の内容と参加度、コメントペーパーにて教育評価をいたします。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	指定いたしません。				
参考書	宮内洋/編著『あなたは当事者ではない』（北大路書房）、宮内洋/編著『〈当事者〉をめぐる社会学』（北大路書房）、矢吹康夫『私がアルビノについて調べ考えて書いた本』（生活書院）、小林多寿子/編著『自己語りの社会学』					
オフィスアワー	月曜日のお昼休み、月曜日の5限、木曜日の午後（会議時間は除外）、いずれかの時間帯、本館8階の研究室にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	授業内容と授業方法、教育評価の内容の説明。
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
2	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	教員による個人報告（当事者研究の概要の解説「当事者研究とは何か？」）。
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
3	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	教員による個人報告（具体的な当事者研究の方法と研究内容の紹介）。
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
4	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	学生による個人報告（1）
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）

5	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	学生による個人報告（2）
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
6	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	学生による個人報告（3）
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
7	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	学生による個人報告（4）
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
8	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	学生による個人報告（6）
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
9	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	学生による個人報告（7）
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
10	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	学生による個人報告（8）
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
11	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	学生による個人報告（9）
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
12	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	学生による個人報告（10）
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
13	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	学生による個人報告（11）
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
14	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	総括討議「私憤から公憤へ ～公共性をめぐって～」
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
15	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	総括討議「当事者研究から社会問題研究へ」
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）

科目名	教養演習 I A	担当者	常松 淳	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代社会では、経験科学（とりわけ自然科学）が大きな役割を演じるようになってきている。この授業は、近年の発展が著しい脳神経科学を取り上げ、これがわれわれの社会生活にとってどのような意味を持っているかについて再考するものである。			
授業目的・到達目標	この授業の目的は、社会と自然科学の関係について考える力を身につけることである。現代の脳神経科学は、われわれの日常生活や道徳性をも対象として盛んに展開されている。メディアなどでは「神経科学の知見」がしばしば引き合いに出され、これをもとに、われわれの考え方や社会の仕組みに変更が迫られることも少なくない。この授業では、まず近年の脳科学の提示する知見や利用のされ方を理解したうえで、社会生活との関わりという観点から、学生自らがこれを正確な理解に基づいて批判的に検討できるようになることを目標とする。対応DP・CP：総合科目（1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8）			
履修条件	2年次以上での履修			
授業方法	テキスト講読を中心とした演習形式で行う。受講生は指定したテキストを事前に読み、授業ではそれぞれの疑問点や考えを報告し、議論し合うことが求められる。レポート等についての講評は授業内で行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	授業参加度とレポートで評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015	紀伊國屋書店	『その〈脳科学〉にご用心——脳画像で心はわかるのか』	サテル&リリエンフェルド
	備考			
参考書	関連する文献を授業内で適宜紹介する。			
オフィスアワー	授業期間中の木曜日12:20～12:50、本館6階1611号室にて。必ず事前にメールでアポを取ること（tsunematsu.jun@nihon-u.ac.jp）。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストの序章やあとがき等を読み、受講に向けて自分の問題関心を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【イントロダクション】 取り上げるテキストや背景について紹介するとともに、どのような観点から脳科学について考えてゆくのかを解説する。また授業の進め方や評価の方法についても説明する。
	事後学習	イントロダクションで与えられた説明をもとに、あらためてテキスト全体を見直しておく（2時間）。
2	事前学習	テキスト序章・第1章を読み、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【序章・第1章をめぐって（1）】 現代の脳神経科学が社会に向けて何を訴えようとしているのかについて、まずその全体像を把握する。
	事後学習	事前の疑問点が解消されているかを確認し、理解をまとめる（2時間）。
3	事前学習	前回の授業を踏まえ、テキスト序章・第1章について自分の考えをまとめる（2時間）。
	授業内容	【序章・第1章をめぐって（2）】 技術的な発展が著しい脳画像技術について知り、それが何を示し、同時に何を示していないのかを理解する。
	事後学習	序章・第1章に関して、授業での議論をもとに、自分の考えを整理し直しておく（2時間）。
4	事前学習	テキスト第2章を読み、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【第2章をめぐって（1）】 消費行動に関して、神経科学がどのようなアプローチを取っているのかを理解する。
	事後学習	事前の疑問点が解消されているかを確認し、理解をまとめる（2時間）。

5	事前学習	前回の授業を踏まえ、テキスト第2章について自分の考えをまとめる（2時間）。
	授業内容	【第2章をめぐって（2）】 「ニューロマーケティング」が孕む問題点について理解し、どのように対応していくべきかについて考える。
	事後学習	第2章に関して、授業での議論をもとに、自分の考えを整理し直しておく（2時間）。
6	事前学習	テキスト第3章を読み、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【第3章をめぐって（1）】 われわれの欲求を脳がどのように処理しているかに関する議論を理解する。
	事後学習	事前の疑問点が解消されているかを確認し、理解をまとめる（2時間）。
7	事前学習	前回の授業を踏まえ、テキスト第3章について自分の考えをまとめる（2時間）。
	授業内容	【第3章をめぐって（2）】 脳についての知識が、市場や治療の現場で応用されていく場合の問題点について考える。
	事後学習	第3章に関して、授業での議論をもとに、自分の考えを整理し直しておく（2時間）。
8	事前学習	テキスト第4章を読み、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【第4章をめぐって（1）】 「嘘」をめぐる神経科学が何を明らかにしてきたかを学ぶ。
	事後学習	事前の疑問点が解消されているかを確認し、理解をまとめる（2時間）。
9	事前学習	前回の授業を踏まえ、テキスト第4章について自分の考えをまとめる（2時間）。
	授業内容	【第4章をめぐって（2）】 ひとの「嘘」を見抜くために利用される神経科学的技術が、どのような問題を引き起こすかについて考える。
	事後学習	第4章に関して、授業での議論をもとに、自分の考えを整理し直しておく（2時間）。
10	事前学習	テキスト第5章を読み、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【第5章をめぐって（1）】 脳科学が法廷でどのように用いられるようになってきているかを学習する。
	事後学習	事前の疑問点が解消されているかを確認し、理解をまとめる（2時間）。
11	事前学習	前回の授業を踏まえ、テキスト第5章について自分の考えをまとめる（2時間）。
	授業内容	【第5章をめぐって（2）】 脳科学を法廷で応用する際、どのような法的・倫理的問題が生じうるかについて再考する。
	事後学習	第5章に関して、授業での議論をもとに、自分の考えを整理し直しておく（2時間）。
12	事前学習	テキスト第6章を読み、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【第6章をめぐって（1）】 脳科学がわれわれの「自由意志」について何を明らかにしてきたかを学ぶ。
	事後学習	事前の疑問点が解消されているかを確認し、理解をまとめる（2時間）。
13	事前学習	前回の授業を踏まえ、テキスト第6章について自分の考えをまとめる（2時間）。
	授業内容	【第6章をめぐって（2）】 自由意志に関する脳科学の知見が、われわれの道徳的責任・法的責任にとってどのような意味があるのかを考察する。
	事後学習	第6章に関して、授業での議論をもとに、自分の考えを整理し直しておく（2時間）。
14	事前学習	テキスト全体を読み直し、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【テキスト全体のまとめ】 テキストで紹介されていた各種の脳科学・技術について、その意義と限界を整理する。
	事後学習	テキスト全体に関して、授業での議論をもとに、自分の考えを整理し直し、レポートの準備をする（2時間）。
15	事前学習	これまでの授業を踏まえ、社会における神経科学の意義について自分の考えをレポートにまとめる（2時間）。
	授業内容	【授業全体の振り返り】 各自のレポートをもとに、現代の脳神経科学が、われわれの社会生活にとってどのような意味を持っているかを再考する。
	事後学習	他の受講生のレポートや授業内での議論をもとに、自分の考えを整理する（2時間）。

科目名	教養演習 I A	担当者	馬 淵 彰	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	【ヨーロッパ人の歴史観】ヨーロッパの人々が、どのような世界像や歴史観を用いて過去の世界（歴史の世界）を理解しようと試みたのか、また、その世界像や歴史観を変化させた要因は何だったのかといった問題を、岡崎勝世著『世界史とヨーロッパ：ヘロドトスからウォーラーステインまで』を読みながら学ぶ。				
授業目的・到達目標	【授業目的】西洋に関する歴史的な視野を広めるとともに、歴史問題を扱う際に求められる感覚を鋭くすることを目的とする。 【授業目標】古代ギリシア・ローマから今日のヨーロッパの人々の世界像とその変遷を理解し、各時代特有の歴史解釈がどのように人々の歴史認識を助け（あるいは歪め）てきたかを説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	教科書を読み、予習と復習をすること。				
授業方法	教科書の講読を基本とする。教科書の各箇所の担当者を決め、担当者がその箇所の内容を要約し報告する。その後、受講生全員でディスカッションし理解を深める。毎回教員が受講生の発表等に対して講評し、補足説明をする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	報告の内容、授業への参加度、出欠席ならびに遅刻の回数などを総合的に評価	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2003	講談社現代新書		世界史とヨーロッパ	岡崎勝世
	備考				
参考書	ヨーロッパ史や歴史学などについての参考書は、授業中に必要に応じて紹介する。報告の仕方やまとめ方に関しては、次の二冊が役立つ。澤田昭夫『論文の書き方』講談社学術文庫。澤田昭夫『論文のレトリック』講談社学術文庫				
オフィスアワー	水曜5限授業終了後、質問・相談等を受付ける。オフィスアワーは一部の学生は火曜日の昼休みか火曜日5限、二部の学生は水曜2限。オフィスアワー利用の際は、事前にメール名などでアポイントメントをとってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをしっかりと読み、この講座についての目的や方法や履修条件を理解してくる。（2時間）
	授業内容	ガイダンス：岡崎勝世著『世界史とヨーロッパ』の説明
	事後学習	『世界史とヨーロッパ』が何の目的で書かれたものか、その趣旨についてまとめる。授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
2	事前学習	『世界史とヨーロッパ』にざっと目を通し、どのような構成となっているか、各章では何が論じられているかといったことを理解してくる。（2時間）
	授業内容	各回の担当者の決定、報告準備の仕方の説明
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
3	事前学習	テキストの「ヨーロッパ古代の歴史記述」の個所の11頁から32頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにして くる。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパ古代の世界史記述： 世界史記述の発生 ① 歴史観の世界観的基礎
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
4	事前学習	テキストの「ヨーロッパ古代の歴史記述」の個所の33頁から58頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにして くる。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパ古代の世界史記述： 世界史記述の発生 ② 古代的歴史学・世界史像の特質
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）

5	事前学習	テキストの「ヨーロッパ中世のキリスト教的世界史記述」の個所の59頁から67頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパ中世のキリスト教的世界史記述： 「普遍史」の時代 ① 歴史観の世界観的基礎
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
6	事前学習	テキストの「ヨーロッパ中世のキリスト教的世界史記述」の個所の68頁から79頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパ中世のキリスト教的世界史記述： 「普遍史」の時代 ② 中世における「世界」と時間
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
7	事前学習	テキストの「ヨーロッパ中世のキリスト教的世界史記述」の個所の80頁から94頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパ中世のキリスト教的世界史記述： 「普遍史」の時代 ③ 中世的歴史学・世界史像の特質
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
8	事前学習	テキストの「ヨーロッパ近世の世界史記述」の個所の95頁から118頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパ近世の世界史記述： 普遍史の危機の時代
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
9	事前学習	テキストの「啓蒙主義の時代」の個所の119頁から127頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	啓蒙主義の時代： 文化史的世界史の形成と普遍史の崩壊 ① 歴史観の世界観的基礎 「科学革命」による諸変化
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
10	事前学習	テキストの「啓蒙主義の時代」の個所の128頁から145頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	啓蒙主義の時代： 文化史的世界史の形成と普遍史の崩壊 ② 啓蒙主義的世界史＝文化史的世界史
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
11	事前学習	テキストの「啓蒙主義の時代」の個所の146頁から162頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	啓蒙主義の時代： 文化史的世界史の形成と普遍史の崩壊 ③ 啓蒙主義的世界史の諸問題
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
12	事前学習	テキストの「近代ヨーロッパの歴史記述」の個所の163頁から181頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	近代ヨーロッパの世界史記述： 科学的世界史 ① 歴史観の世界観的基礎
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
13	事前学習	テキストの「近代ヨーロッパの歴史記述」の個所の182頁から197頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	近代ヨーロッパの世界史記述： 科学的世界史 ② ランケによる「歴史主義の完成」と科学的世界史
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
14	事前学習	テキストの「近代ヨーロッパの歴史記述」の個所の198頁から259頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	近代ヨーロッパの世界史記述： 科学的世界史 ③ マルクスやマックス・ウェーバー、ウォーラステインの世界史像
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
15	事前学習	ヨーロッパ人の歴史観がどのように変容してきたかについて自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）

科目名	教養演習 I B	担当者	香川 七海	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	教育社会学分野、社会学分野の多様な社会問題研究をもとに、現代社会の教育課題、社会問題について考察します。【実務家経験：文部科学省委託事業（2016～2017：篠原学園受託）の実務委員会、調査研究委員会の経験をもとに、社会調査方法について実践的に説明します】					
授業目的・到達目標	教育社会学分野、社会学分野の多様な社会問題研究をもとに、現代社会の教育課題、社会問題についての知識を育成することを目的とし、個々人がみずからの生活経験や日常生活の主観的体験をもとに、教育課題や社会問題を客観的に把握できることを目標とします。 【関連DP+CP：総合科目1, 2, 3, 4, 6】					
履修条件	主体的に授業や議論に参加できる学生を対象とします。ただし、個人報告や共同報告（発表）、人前で話すことが苦手な方にも考慮します。なお、理想的には、総合科目の「教育学」を履修後にご登録することをおすすめします。					
授業方法	ゼミナール形式。多くの履修者が個人報告、あるいは、共同報告（複数人で発表）をすることになります。「息をしているだけで単位がもらえる」という授業ではありません。毎回の報告内容については、授業内で講評をいたします。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		個人報告、共同報告、および、議論の内容と参加度、コメントペーパーにて教育評価をいたします。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	指定いたしません。				
参考書	白石壮一郎『社会問題と出会う』（古今書院）、赤川学『社会問題の社会学』、安田裕子『不妊治療者の人生選択』（新曜社）、中村英代『摂食障害の語り』（新曜社）、青山陽子『病の共同体』（新曜社）					
オフィスアワー	金曜日の14時45分～16時。18時～19時。本館8階の研究室にて。（それ以外の日程については別途相談）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	授業内容と授業方法、教育評価の内容の説明。
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
2	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	教員による個人報告（社会問題研究の概要の解説「社会問題研究とは何か？」）。
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
3	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	教員による個人報告（具体的な社会問題研究の方法と研究内容の紹介）。
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
4	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	学生による個人報告（1）
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）

5	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	学生による個人報告（2）
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
6	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	学生による個人報告（3）
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
7	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	学生による個人報告（4）
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
8	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	学生による個人報告（6）
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
9	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	学生による個人報告（7）
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
10	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	学生による個人報告（8）
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
11	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	学生による個人報告（9）
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
12	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	学生による個人報告（10）
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
13	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	総合討議「社会問題の生まれるところ」
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
14	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	総括討議「社会問題の構築と公共性 ～ハンナ・アレントから考える～」
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）
15	事前学習	指定された文献をもとに事前学習。（2時間）
	授業内容	総括討議「戦後日本の公教育と公共性 ～社会問題研究の観点から～」
	事後学習	配布されたプリントをもとに自習。（2時間）

科目名	教養演習 I B	担当者	常松 淳	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代社会では、経験科学（とりわけ自然科学）が大きな役割を果たすようになってきている。この授業では特に、人間を含めた生物に対する理解の基盤として確固とした地位を占めている「進化論」を取り上げ、これがわれわれの生き方や、社会の進むべき道とどのような関係にあるのかを再考する。				
授業目的・到達目標	進化論は、人間を含めたすべての生物を対象として、そのあり方を説明しようとする。このとき、われわれの社会性や道徳的な感覚、人間の「本性」もまた進化論の枠組みで理解されることになる。進化論は、果たしてわれわれの生き方や社会の目指すべき仕組みを示してくれるのだろうか？この授業の目的は、進化論を基盤として展開されている倫理学について、その基本的な内容に関して正確な理解に基づいて議論することにある。受講生が、進化論にもとづいた倫理的議論について、批判的な観点も踏まえて自分の考えを表明できるようになることを目標とする。対応DP・CP：総合科目（1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8)				
履修条件	2年次以上での履修				
授業方法	指定したテキストを講読する演習形式。該当する箇所を事前に読み、疑問点を整理した上で授業に臨み、授業内では内容や疑問点について互いに議論することが求められる。受講生のレポート等については授業内で講評する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業参加度とレポートによって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	名古屋大学出版会		『進化倫理学入門』	スコット・ジェイムズ
	備考				
参考書	関連する文献を授業内で適宜紹介する。				
オフィスアワー	授業期間内の木曜日1220～1250、本館6階1611にて対応する。事前にメールでアポを取ること（tsunematsu. jun@nihon-u. ac. jp）。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストの序文などに目を通し、自分の問題関心を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【イントロダクション】 問題の背景とテキストについて解説する。また授業の進め方や成績評価の方法についても説明する。
	事後学習	イントロの内容を踏まえ、テキストの全体を概観しておく（2時間）。
2	事前学習	テキストの該当章を読み、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【テキスト第1章「自然選択と人間本性」を読む】
	事後学習	疑問点が解消されたかを確認し、自分の考えをまとめる（2時間）。
3	事前学習	テキストの該当章を読み、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【テキスト第2章「正しさ（最も初期の）起源」を読む】
	事後学習	疑問点が解消されたかを確認し、自分の考えをまとめる（2時間）。
4	事前学習	テキストの該当章を読み、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【テキスト第3章「穴居人の良心」を読む】
	事後学習	疑問点が解消されたかを確認し、自分の考えをまとめる（2時間）。

5	事前学習	テキストの該当章を読み，疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【テキスト第4章「公正な報い」を読む】
	事後学習	疑問点が解消されたかを確認し，自分の考えをまとめる（2時間）。
6	事前学習	テキストの該当章を読み，疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【テキスト第5章「美德と悪徳の科学」を読む】
	事後学習	疑問点が解消されたかを確認し，自分の考えをまとめる（2時間）。
7	事前学習	テキストの該当章を読み，疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【テキスト第6章「社会的調和」を読む】
	事後学習	疑問点が解消されたかを確認し，自分の考えをまとめる（2時間）。
8	事前学習	テキストの該当章を読み，疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【テキスト第7章「ヒュームの法則」】
	事後学習	疑問点が解消されたかを確認し，自分の考えをまとめる（2時間）。
9	事前学習	テキストの該当章を読み，疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【テキスト第8章「ムーアの自然主義的誤謬」を読む】
	事後学習	疑問点が解消されたかを確認し，自分の考えをまとめる（2時間）。
10	事前学習	テキストの該当章を読み，疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【テキスト第9章「ムーアとヒュームを再考する」を読む】
	事後学習	疑問点が解消されたかを確認し，自分の考えをまとめる（2時間）。
11	事前学習	テキストの該当章を読み，疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【テキスト第10章「進化論的反実在論」を読む】
	事後学習	疑問点が解消されたかを確認し，自分の考えをまとめる（2時間）。
12	事前学習	テキストの該当章を読み，疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【テキスト第11章「最近の進化論的反実在論」を読む】
	事後学習	疑問点が解消されたかを確認し，自分の考えをまとめる（2時間）。
13	事前学習	テキストの該当章を読み，疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	【テキスト第12章「進化論的実在論者が取りうる選択肢」を読む】
	事後学習	疑問点が解消されたかを確認し，自分の考えをまとめる（2時間）。
14	事前学習	テキスト全体を読み返し，残った疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	テキスト全体の振り返り（進化倫理学の主張を社会生活の観点から再検討する）
	事後学習	テキスト全体についての理解をもとに，自分の考えを整理する（2時間）。
15	事前学習	社会生活と進化倫理学との関係について自分の考えをレポートにまとめる（2時間）。
	授業内容	各自のレポートをもとに，進化論とわれわれの社会との関わりについて考える。
	事後学習	他の受講生のレポートや授業内での議論を参考に，自分の考えを見直す（2時間）。

科目名	教養演習 I B	担当者	馬 淵 彰	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	【進歩史観の魅力と幻惑】過去に起こったことを我々は本当に正しく理解できるのか、我々は何のために歴史を学ぶのかという素朴でかつ厄介な問いに対する答えを、これまで世界中の非常に多くの人々によって読まれてきた名著（迷著？）E. H. カー著『歴史とは何か』を講読しながら、多角的に論じ探究する力を培う。				
授業目的・到達目標	【授業目的】西洋に関する歴史的な視野を広めるとともに、歴史問題を扱う際に求められる感覚を鋭くすることを目的とする。 【授業目標】E. H. カーが指摘している歴史の学びにおける諸問題（事実と解釈の問題、個人と社会のどちらが重要かなどという問題）の本質を理解したうえで、E. H. カーの歴史観や他の進歩史観がともに抱える問題（危険性）を論じられるようになることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	教科書を読み、予習と復習をすること。				
授業方法	教科書の講読が基本。毎回、担当者が自分に割り当てられた担当箇所の内容を要約し、報告する。その後、受講者全員でディスカッションをし、理解を深める。毎回教員が受講生の発表等に対して講評し、補足説明をする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	報告の内容、授業への参加度、出欠席ならびに遅刻の回数などを総合的に評価	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	1962	岩波新書		歴史とは何か	E. H. カー
	備考				
参考書	R. J. エヴァンズ『歴史学の擁護：ポストモダニズムとの対話』晃洋書房。遅塚忠躬『史学概論』東京大学出版会。報告の仕方に関しては、澤田昭夫『論文の書き方』講談社学術文庫、澤田昭夫『論文のレトリック』講談社学術文庫				
オフィスアワー	水曜5限授業終了後、質問・相談等を受け付ける。オフィスアワーは一部の学生は火曜日の昼休みか火曜日5限、二部の学生は水曜2限。オフィスアワー利用の際は、事前にメール名などでアポイントメントをとってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをしっかりと読み、この講座についての目的や方法や履修条件を理解してくる。（2時間）
	授業内容	ガイダンス：E・H・カー著『歴史とは何か』の説明
	事後学習	『歴史とは何か』が何の目的で書かれたものか、その趣旨についてまとめる。授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
2	事前学習	『歴史とは何か』にざっと目を通し、どのような構成となっているか、各章では何が論じられているかといったことを理解してくる。（2時間）
	授業内容	班編成、報告準備の仕方の説明
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
3	事前学習	ランケと「近代歴史学」について調べ、「近代歴史学」がそれ以前の研究とどのように異なるか考えてくる。（2時間）
	授業内容	教員による説明：「近代歴史学」とは
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
4	事前学習	テキストの「Ⅰ 歴史家と事実」の個所の1頁から24頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	Ⅰ 歴史家と事実 （前半部分）「事実尊重の時代」
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）

5	事前学習	テキストの「Ⅰ 歴史家と事実」の個所の24頁から40頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	Ⅰ 歴史家と事実 （後半部分）「歴史家が歴史を作る」
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
6	事前学習	テキストの「Ⅱ 社会と個人」の個所の41頁から59頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	Ⅱ 社会と個人 （前半部分）「社会を離れた個人はいない」
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
7	事前学習	テキストの「Ⅱ 社会と個人」の個所の59頁から78頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	Ⅱ 社会と個人 （後半部分）「歴史（社会）の産物としての歴史家」
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
8	事前学習	テキストの「Ⅲ 歴史と科学と道徳」の個所の79頁から100頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	Ⅲ 歴史と科学と道徳 （前半部分）「歴史は科学であること」
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
9	事前学習	テキストの「Ⅲ 歴史と科学と道徳」の個所の100頁から126頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	Ⅲ 歴史と科学と道徳 （後半部分）「価値の歴史的被制約性」
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
10	事前学習	テキストの「Ⅳ 歴史における因果関係」の個所の126頁から144頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	Ⅳ 歴史における因果関係 （前半部分）「歴史の研究は原因の研究」
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
11	事前学習	テキストの「Ⅳ 歴史における因果関係」の個所の144頁から160頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	Ⅳ 歴史における因果関係 （後半部分）「歴史における偶然とは何か」
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
12	事前学習	テキストの「Ⅴ 進歩としての歴史」の個所の161頁から182頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	Ⅴ 進歩としての歴史 （前半部分）「歴史における進歩の概念」
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
13	事前学習	テキストの「Ⅴ 進歩としての歴史」の個所の182頁から198頁を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	Ⅴ 進歩としての歴史 （後半部分）「『最も役に立つもの』」
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
14	事前学習	テキストの「Ⅵ 広がる地平線」の個所全体を読み、要点を自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	教員による説明：E.H. カーの歴史哲学の罫（問題点）
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）
15	事前学習	『歴史とは何か』が何の目的で書かれたものか、その趣旨についてまとめ直し、この書の短所・長所について自分の言葉で説明できるようにしてくる。（2時間）
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	授業中に出てきた用語や人名で分からなかったものを調べて、ノートに整理する。（2時間）

科目名	教養演習ⅡA	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	【近代日本社会文化論——『＜日本人＞の境界』を読む】 小熊英二の大著『＜日本人＞の境界』（新曜社、1998）を読む。「日本人」「日本」の範囲はどこまでで、その境界線はどのような要因で設定されたのか。近現代の日本における境界設定に関する政策言説の検証作業を通じ、現在起きている境界線やナショナルアイデンティティに関わる問題への視座やアプローチを学ぶ。				
授業目的・到達目標	①境界設定に関する政策論や近代日本社会・文化の特質について見識をもつこと、②社会現象を歴史的・構造的に理解し、問題を発見する力をつけること、③確かな根拠に基づいて、論理的な思考を展開する力をつけること、④批判的読解力や表現力、討論する能力を向上させること、⑤学問を媒介とした人間関係を作ること、以上を通じ、批判的教養人を育成することを目的とする。 上記のような批判的教養人にふさわしい報告や討論をし、論文を作成することができるようになることを目標とする。 関連DP・CP：1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	上記のテーマに関心を持つものなら学年を問わず参加できる（2部生も可）。知的好奇心・向上心をもつ者、大教室講義に飽き足らなさを感じている者、自分の殻を破りたいという者を歓迎する。学習意欲のない方はご遠慮ください。				
授業方法	演習形式で行う。全員がテキストを精読しコメントを準備する。担当者は論点整理と補足説明、問題提起を発表し、それをめぐって討論する。必要があれば合宿や調査を行う。毎回の総括コメントをもってフィードバックとする。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験				
	平常評価		100%		報告の内容、討論での貢献、終了レポートを総合的に評価して採点する。 終了レポートとして、本書の書評ないしは個別テーマでのレポートを課す。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	1998	新曜社		＜日本人＞の境界	小熊英二
	備考	各自書店で購入のこと。古書でも可。			
参考書	小熊英二『単一民族神話の起源』（新曜社、1995年）ほか。				
オフィスアワー	火曜 13:00～14:30 金曜 18:00～18:30 講義に関する質問、講義とは直接関係のない勉強についての質問や相談、学生生活全般や進路についての相談ごとなど、上記の時間に対応します。メールでアポイントを取ると確実です。研究室は9号館 6階・9604室。メールは ohoka.satoshi@nihon-u.ac.jp 。なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、テキストに関する情報を収集して、本演習の狙いを理解する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス（テーマの説明、履修上の注意など） 参加者自己紹介 報告スケジュールの決定
	事後学習	配布のプリントをよく読む。指定のテキストを購入し、読み始める。（2時間）
2	事前学習	該当箇所をよく読み、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	『＜日本人＞の境界』序章・第1章・第2章
	事後学習	内容を振り返り、論点を整理する。関連文献にも目を通す。（2時間）
3	事前学習	該当箇所をよく読み、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	『＜日本人＞の境界』第3章・第4章
	事後学習	内容を振り返り、論点を整理する。関連文献にも目を通す。（2時間）
4	事前学習	該当箇所をよく読み、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	『＜日本人＞の境界』第5章・第6章
	事後学習	内容を振り返り、論点を整理する。関連文献にも目を通す。（2時間）

5	事前学習	該当箇所をよく読み、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	『＜日本人＞の境界』第7章・第8章
	事後学習	内容を振り返り、論点を整理する。関連文献にも目を通す。（2時間）
6	事前学習	該当箇所をよく読み、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	『＜日本人＞の境界』第9章・第10章・第11章
	事後学習	内容を振り返り、論点を整理する。関連文献にも目を通す。（2時間）
7	事前学習	該当箇所をよく読み、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	『＜日本人＞の境界』第12章・第15章
	事後学習	内容を振り返り、論点を整理する。関連文献にも目を通す。（2時間）
8	事前学習	施設のパンフレットに目を通す。
	授業内容	『＜日本人＞の境界』第13章・第14章
	事後学習	内容を振り返り、論点を整理する。関連文献にも目を通す。（2時間）
9	事前学習	該当箇所をよく読み、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	『＜日本人＞の境界』第16章・第17章
	事後学習	内容を振り返り、論点を整理する。関連文献にも目を通す。（2時間）
10	事前学習	該当箇所をよく読み、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	『＜日本人＞の境界』第18章・第19章
	事後学習	内容を振り返り、論点を整理する。関連文献にも目を通す。（2時間）
11	事前学習	該当箇所をよく読み、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	『＜日本人＞の境界』第20章・第21章
	事後学習	内容を振り返り、論点を整理する。関連文献にも目を通す。（2時間）
12	事前学習	該当箇所をよく読み、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	『＜日本人＞の境界』第22章・第23章
	事後学習	内容を振り返り、論点を整理する。関連文献にも目を通す。（2時間）
13	事前学習	該当箇所をよく読み、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	『＜日本人＞の境界』結論
	事後学習	内容を振り返り、論点を整理する。関連文献にも目を通す。（2時間）
14	事前学習	終了レポートの構想をレジюмеにする。（2時間）
	授業内容	終了レポートの構想について発表する。
	事後学習	演習でのコメントを参考にしながら、終了レポートの執筆を開始する。（2時間）
15	事前学習	本章の内容やこれまでの討論を振り返り、残された論点がないかを考える。（2時間）
	授業内容	総括討論
	事後学習	前期の感想をまとめる。（2時間）

科目名	教養演習ⅡA	担当者	岡山 敬二	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	【「世界の存在」と哲学】マルクス・ガブリエルは、個々人の経験とはかかわりなく世界が存在するのでもなく、個々人にとってのそれぞれの世界があるだけだとするのでもなく、そのどちらも否定する「新しい実在論」を提示しようとする。世界は存在するのかもしれないのか。個々人の思う世界は、世界ではないのか……。そうした問いをめぐるガブリエルの思索をたどりなおしながら、人間存在や世界の存在の意味について一緒に問い、考えてゆく。				
授業目的・到達目標	既存の観念に縛られずに、諸事象を根本から見つめなすことのできる哲学的な視野・姿勢、倫理観を養成することを目的とする。そのために、1. 科学技術の世界に生きている現代的状況を見据えながら、常識や科学知の可能性や限界を見つめなおすことで、現代社会の諸問題の根拠を理解し、説明できるようになること、2. 様々な哲学的、倫理的な立場や見解を比較・検討、整理し、人間と自然や社会、文化、世界のありようを根本から見つめなおすことで、自らの考え（哲学）をうまく伝え、他者と柔軟にコミュニケーションできるようになることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目領域1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	3年次生以上。有益に、教科書を一緒に考えながら読み進め、その理解を深めてゆくためには、それなりの哲学への関心と学習意欲が必要となる。下記指定の教科書を各自用意すること。※コンスタントに出席できる状況であること。				
授業方法	指定の教科書を読み進めていき、議論を通じて、教科書の内容を解釈、検討してゆく。最終回で授業を総括するさいに、授業への参加度や取り組み、姿勢について講評する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	3分の2以上出席した者を評価対象とし、授業への参加度や取り組み、姿勢を評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2018年1月11日	講談社	なぜ世界は存在しないのか（清水一浩訳、講談社選書メチエ）		マルクス・ガブリエル
	備考	履修にあたっては上記教科書を各自用意すること。			
参考書	そのつど必要に応じて紹介する。				
オフィスアワー	原則として火曜日12：00～13：00、土曜日12:00～13:00（休暇期間は電子メールで相談の上対応する）。事前に電子メールでの連絡を踏まえ対応する。 研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容		
1	事前学習	シラバスの「授業概要」、「授業目的・到達目標」を読み、その内容を確認しておくこと。その他のシラバスの内容についても確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）	
	授業内容	ガイダンス（1）——授業内容や評価方法などの説明	
	事後学習	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）	
2	事前学習	シラバスの「授業概要」、「授業目的・到達目標」を読み、その内容を確認しておくこと。その他のシラバスの内容についても確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。世界の存在について思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）	
	授業内容	ガイダンス（2）——「世界とは何か」という点から、授業の目的や到達目標について確認する。	
	事後学習	世界の存在について形而上学と構築主義との考え方の違いを調べ、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）	
3	事前学習	「I これはそもそも何なのか、この世界とは」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。（2時間）	
	授業内容	テキストの講読（1）——I これはそもそも何なのか、この世界とは（29ページ～）	
	事後学習	「I これはそもそも何なのか、この世界とは」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。（2時間）	
4	事前学習	「I これはそもそも何なのか、この世界とは（前回のつづき）」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。（2時間）	
	授業内容	テキストの講読（2）——I これはそもそも何なのか、この世界とは（前回のつづき～74ページ）	
	事後学習	「I これはそもそも何なのか、この世界とは（前回のつづき）」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。（2時間）	

5	事前学習	「Ⅱ存在するとはどのようなことか」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	テキストの講読（3）——Ⅱ存在するとはどのようなことか（75ページ～）
	事後学習	「Ⅱ存在するとはどのようなことか」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。（2時間）
6	事前学習	「Ⅱ存在するとはどのようなことか（前回のつづき）」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	テキストの講読（4）——Ⅱ存在するとはどのようなことか（前回のつづき～106ページ）
	事後学習	「Ⅱ存在するとはどのようなことか（前回のつづき）」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。（2時間）
7	事前学習	「Ⅲなぜ世界は存在しないのか」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	テキストの講読（5）——Ⅲなぜ世界は存在しないのか（107ページ～）
	事後学習	「Ⅲなぜ世界は存在しないのか」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。（2時間）
8	事前学習	「Ⅲなぜ世界は存在しないのか（前回のつづき）」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	テキストの講読（6）——Ⅲなぜ世界は存在しないのか（前回のつづき～144ページ）
	事後学習	「Ⅲなぜ世界は存在しないのか（前回のつづき）」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。（2時間）
9	事前学習	「Ⅳ自然科学の世界像」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	テキストの講読（7）——Ⅳ自然科学の世界像（146ページ～）
	事後学習	「Ⅳ自然科学の世界像」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。（2時間）
10	事前学習	「Ⅳ自然科学の世界像（前回のつづき）」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	テキストの講読（8）——Ⅳ自然科学の世界像（前回のつづき～198ページ）
	事後学習	「Ⅳ自然科学の世界像（前回のつづき）」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。（2時間）
11	事前学習	「Ⅴ宗教の意味」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	テキストの講読（9）——Ⅴ宗教の意味（199ページ～）
	事後学習	「Ⅴ宗教の意味」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。（2時間）
12	事前学習	「Ⅴ宗教の意味（前回のつづき）」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	テキストの講読（10）——Ⅴ宗教の意味（前回のつづき～242ページ）
	事後学習	「Ⅴ宗教の意味（前回のつづき）」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。（2時間）
13	事前学習	「Ⅵ芸術の意味」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	テキストの講読（11）——Ⅵ芸術の意味（243ページ～）
	事後学習	「Ⅵ芸術の意味」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノート整理しておくこと。（2時間）
14	事前学習	「Ⅵ芸術の意味（前回のつづき）」「Ⅶエンドロール——テレビジョン」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	テキストの講読（12）——Ⅵ芸術の意味、Ⅶエンドロール——テレビジョン（前回のつづき～295ページ）
	事後学習	「Ⅵ芸術の意味（前回のつづき）」「Ⅶエンドロール——テレビジョン」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。（2時間）
15	事前学習	教科書全体を振り返り、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業の総括、授業への参加度や取り組み、姿勢についての講評。
	事後学習	教科書全体の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。（2時間）

科目名	教養演習ⅡA	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	【日本の説話文学の研究】日本の古典の中から代表的な説話文学作品を取り上げ、その中に収録されている説話に関して各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それをもとに参加者全員で質疑・応答し、当該説話に関する理解を深めるとともに、説話文学の特質について考察する。取り上げる作品は『宇治拾遺物語』『十訓抄』『今物語』だが、受講者の希望により他の作品を取り上げる場合もある。受講生の主体的な研究・調査意欲を重視する。							
授業目的・到達目標	図書館・ネット等を積極的に利用して必要な資料を入手することが出来るようになるとともに、それらを各自の発表に活かしてプレゼンの能力を高め、或るテーマ対して客観的・論理的に説明できる能力を育成することを目的とする。併せて、研究・調査の過程において思考力・洞察力・解決力が身につくようになることも目的とする。そして、受講生が、説話文学ひいては日本文学に対する十分な理解を為し、その特質について自らの言葉で説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8							
履修条件	特になし。							
授業方法	担当者（教員）の側で扱う説話の原文等を用意する。発表者が研究・調査を行って発表し、全員で質疑・応答し理解を深める。成績評価にレポートを課すが、その解説は最終授業で行う。従って最終授業までにレポートを提出すること。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験							
	平常評価		100%		「演習発表」「授業中の質疑応答への参加」「レポート」を総合的に評価する。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
					特になし（プリントを用意する）。			
	備考							
参考書	講義中に適宜紹介する。調査に必要な基本的な著書に関しては教員の側で用意するので、各自で利用して欲しい。また、法学部図書館や発表者の自宅近隣の図書館の著書の利用も推奨する。							
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館8階の小野研究室にて質問・相談を受け付ける（メールで必ず事前にアポをとること）。また、第1回の授業時に質問用メールアドレスを公表するので、それも積極的に利用し、質問などで授業への理解を深めて欲しい。							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	高等学校で使用した古典の教科書や国語便覧などで、「説話」「説話文学」に関して書かれている部分を精読する。また、そこにあげられている説話文学作品に関して、図書館・ネットなどで概要をつかんでおく。（1時間）
	授業内容	〔1〕授業概要の説明（成績評価の方法、授業の進め方などを詳細に説明するので必ず出席すること）。 〔2〕日本文学における説話文学の概説。
	事後学習	授業内の配付プリントを再読し、授業の概要と計画を理解する。また、日本の説話文学に関して特に史的流れの全容を再確認しておく。（3時間）
2	事前学習	『宇治拾遺物語』『十訓抄』『今物語』に関して、高等学校で使用した古典の教科書や国語便覧、或いは図書館・ネットなどで調査し、概要をつかんでおく。（2時間）
	授業内容	『宇治拾遺物語』『十訓抄』『今物語』の概説。
	事後学習	授業内容と事前学習を照らし合わせて、高等学校での学習と、大学での学びの違いについて理解する。また、『宇治拾遺物語』『十訓抄』『今物語』の特質について整理する。（2時間）
3	事前学習	〔1〕『宇治拾遺物語』巻一・十六の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べておく。〔2〕「宝志和尚」に関して、図書館やネットで調査しておく。（2時間）
	授業内容	『宇治拾遺物語』巻一・十六「尼、地蔵見奉る事」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。
	事後学習	発表者の作成したレジュメを再読し、『宇治拾遺物語』巻一・十六に対する理解を深める。（2時間）
4	事前学習	〔1〕『宇治拾遺物語』巻三・六の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べておく。〔2〕芥川龍之介の『地獄変』を読んでおく。（2時間）
	授業内容	『宇治拾遺物語』巻三・六「絵仏師良秀、家の焼くるを見て悦ぶ事」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。
	事後学習	発表者の作成したレジュメを再読し、『宇治拾遺物語』巻三・六に対する理解を深める。芥川龍之介の『地獄変』に当該説話がどのように改変されて活かされているのかを考える【発展事後学習】。（2時間）

5	事前学習	〔1〕『宇治拾遺物語』巻十二・十の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べておく。〔2〕「悔しくぞ」の和歌に関して、他出文献を調べておく。（2時間）
	授業内容	『宇治拾遺物語』巻十二・十「季直少将歌の事」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。
	事後学習	発表者の作成したレジュメを再読し、『宇治拾遺物語』巻十二・十に対する理解を深める。当該説話に関して『大和物語』『新古今和歌集』との違いを確認する。（2時間）
6	事前学習	〔1〕『宇治拾遺物語』巻十四・十の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べておく。〔2〕安倍晴明に関して、図書館やネットで調査しておく。（2時間）
	授業内容	『宇治拾遺物語』巻十四・十「御堂関白の御犬、晴明等、奇特の事」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。
	事後学習	発表者の作成したレジュメを再読し、『宇治拾遺物語』巻十四・十に対する理解を深める。安倍晴明に関する他の作品に収載された説話を調べ、古典世界の人々が安倍晴明に対して抱いていたイメージを考える〔発展事後学習〕。（2時間）
7	事前学習	〔1〕『十訓抄』巻三の三の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べておく。〔2〕漢詩の朗詠に関して、人々の訓読と牟尼の訓読とで生じる差異について考える。（2時間）
	授業内容	『十訓抄』巻三の三「菅原文時郎の老尼」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。
	事後学習	発表者の作成したレジュメを再読し、『十訓抄』巻三の三に対する理解を深める。事前学習で各自の考えた漢詩の朗詠の訓読による差異に関して、発表者・教員の説明をもとに再考しまとめておく。（2時間）
8	事前学習	〔1〕『十訓抄』巻五の十七の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べておく。〔2〕醍醐天皇と地獄に関して、図書館やネットで調査しておく。（2時間）
	授業内容	『十訓抄』巻五の十七「冥界におちた醍醐天皇」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。
	事後学習	発表者の作成したレジュメを再読し、『十訓抄』巻五の十七に対する理解を深める。「追善供養」に関して図書館やネットで調べ、本説話に対する理解を深める。（2時間）
9	事前学習	〔1〕『十訓抄』巻六の三十一の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べておく。〔2〕故事成語「人間万事塞翁が馬」に関して、図書館やネットで調査しておく。（2時間）
	授業内容	『十訓抄』巻六の三十一「塞翁が馬」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。
	事後学習	発表者の作成したレジュメを再読し、『十訓抄』巻六の三十一に対する理解を深める。『十訓抄』巻六における本説話の位置づけに関して再考する。（2時間）
10	事前学習	〔1〕『十訓抄』巻六の三十六の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べておく。〔2〕安養の尼の発言はなぜ発せられたか（尼の発言の真意）に関して考える。（2時間）
	授業内容	『十訓抄』巻六の三十六「安養の尼上」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。
	事後学習	発表者の作成したレジュメを再読し、『十訓抄』巻六の三十六に対する理解を深める。事前学習〔2〕で考えた内容と質疑応答・教員のアドバイスから得られた結論との異同について再考する。（2時間）
11	事前学習	〔1〕『今物語』二の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べておく。〔2〕平忠度に関して、図書館やネットで調査しておく。（2時間）
	授業内容	『今物語』二「野もせにすだく」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。 ※レポートのタイトル、概要、分量等の公表
	事後学習	〔1〕発表者の作成したレジュメを再読し、『今物語』二に対する理解を深める。〔2〕授業内に発表されたレポート概要に基づき、各自のレポートの準備に入る〔段階1〕。まず、各自の発表を振り返り（未発表の者は発表予定内容に基づき考える）、レポート内容の梗概を作成する。（3時間）
12	事前学習	〔1〕『今物語』九の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べておく。〔2〕古典世界における「けがれ、きよめ」に関して、図書館やネットで調査しておく。（2時間）
	授業内容	『今物語』九「革堂へ参る女」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。
	事後学習	〔1〕発表者の作成したレジュメを再読し、『今物語』九に対する理解を深める。〔2〕各自のレポートの作成を進める〔段階2〕。各自の発表における質疑応答、教員のアドバイスをもとに更に調査が必要な事項を抽出し、手控えを作成する。（3時間）
13	事前学習	〔1〕『今物語』十八の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べておく。〔2〕西行に関して、図書館やネットで調査しておく。（2時間）
	授業内容	『今物語』十八「打たれ西行」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。
	事後学習	〔1〕発表者の作成したレジュメを再読し、『今物語』十八に対する理解を深める。〔2〕各自のレポートの作成を進める〔段階3〕。12回目の事後学習で作成した手控えに基づき、更に必要な参考文献を図書館・ネットなどで入手し、熟読した上で各自のレポートでの活用を考える。（4時間）
14	事前学習	〔1〕『今物語』二十七の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べておく。〔2〕「ぬかご」とはどのようなものか、図書館やネットで調査しておく。（2時間）
	授業内容	『今物語』二十七「ぬかご」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。
	事後学習	〔1〕発表者の作成したレジュメを再読し、『今物語』二十七に対する理解を深める。〔2〕各自のレポートの作成を進める〔段階4〕。13回目の事後学習で入手した参考文献と各自の発表をもとに、レポートの梗概を更に精選し、文章化する。（4時間）
15	事前学習	14回までの授業内容を振り返り、各自の発表に基づくレポートを完成させ、授業内に提出できる準備をする〔事後学習のために必ずレポートの複写を手元に残しておくこと〕。（4時間）
	授業内容	各自で用意したレポートの回収。その後、レポートの出題意図・採点基準について解説する。また、授業全体のまとめを行う。
	事後学習	授業内に行われた「レポートの出題意図・採点基準・解説」をもとに、各自のレポートの良い点と悪い点を確認し、よりよいレポートにするためにはどうしたらよいかを考える。（1時間）

科目名	教養演習ⅡB	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	【戦後日本政治社会論―「被爆体験」をめぐる戦後史】戦争は「終戦」で終わるわけではない。被害者は戦争で傷ついた心身を抱えて、「戦後」を生き抜く戦いを続け、その体験を継承しようと努力を重ねた。ただ「日本は唯一の被爆国」という言葉があるように、「被爆体験」は被爆者個人だけのものではなく、集合的なものとなり、数ある戦争体験のなかでも特別な地位を占めてきた。被爆者と「被爆体験」の歴史を通して、戦後日本の戦争観の特質を考える。				
授業目的・到達目標	上記テーマに関する研究書を精読し討論することで、集合的記憶論、ナショナリズム論、社会運動論を始めとする諸理論を学び、政治社会史に関する総合的な研究能力を養成することを目的とする。 論理的・批判的な思考力・読解力を鍛え、上記テーマに関連する研究方法論や理論を身に着け、関連テーマについて個人研究を遂行できるようになることを目標とする。関連DP・CP：総合科目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	当該テーマや方法論に関心のある者、知的なチャレンジの意欲を持つ者の受講を歓迎する。単位にならない2年生以下の参加も歓迎する。一方、単位だけがほしいとか「時間割の都合」という理由で安易に履修しないで欲しい。				
授業方法	演習方式で行われる。毎回、全員がテキストを精読しコメントを準備して望む。報告者はテキストの論点を整理し、問題提起する。その後、質疑応答や討論をする。毎回の受講者の発言にコメントすることで、フィードバックとする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	毎回の発言・報告を通じた討論への貢献度、および終了レポート（読破した書物の書評ないしは関連するテーマの研究レポート）をもって総合的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2014	岩波書店	ヒロシマ戦後史―被爆体験はどう受け止められてきたか		宇吹暁
	2015	岩波書店	原爆体験と戦後日本―記憶の形成と継承		直野章子
	備考				
参考書	根本雅也『ヒロシマ・パラドクス』（勉誠出版）、福岡良明『焦土の記憶―広島・長崎・沖縄』（新曜社）、藤原帰一『戦争を記憶する―広島・ホロコーストと現在』（講談社現代新書）ほか				
オフィスアワー	月曜 13:00～14:00 金曜 16:30～17:30 講義に関する質問、講義とは直接関係のない勉強についての質問や相談、学生生活全般や進路についての相談ごとなど、上記の時間に対応します。メールでアポイントを取ると確実です。研究室は9号館 6階・9604室。メールは ohoka.satoshi@nihon-u.ac.jp 。なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、テキスト・参考文献に関する情報を収集するなどして、演習の趣旨をよく理解する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス テーマや演習の目的・目標・方法についての説明、メンバーの自己紹介、履修上の注意、分担の決定など
	事後学習	テキストを入手し、読み始める。
2	事前学習	テキストを精読し、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	宇吹暁『ヒロシマ戦後史―被爆体験はどう受け止められてきたか』はじめに・第1章「原爆被害者の戦後への出発」
	事後学習	討論を振り返り、メモを整理する。次回のテキストを読み始める。（2時間）
3	事前学習	テキストを精読し、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	宇吹暁『ヒロシマ戦後史―被爆体験はどう受け止められてきたか』第2章「占領下の広島」
	事後学習	討論を振り返り、メモを整理する。次回のテキストを読み始める。（2時間）
4	事前学習	テキストを精読し、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	宇吹暁『ヒロシマ戦後史―被爆体験はどう受け止められてきたか』第3章「原爆タフーからの解放」
	事後学習	討論を振り返り、メモを整理する。次回のテキストを読み始める。（2時間）

5	事前学習	テキストを精読し、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	宇吹暁『ヒロシマ戦後史—被爆体験はどう受け止められてきたか』第4章「原水爆禁止運動の出発」
	事後学習	討論を振り返り、メモを整理する。次回のテキストを読み始める。（2時間）
6	事前学習	テキストを精読し、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	宇吹暁『ヒロシマ戦後史—被爆体験はどう受け止められてきたか』第5章「原水爆禁止運動の展開」
	事後学習	討論を振り返り、メモを整理する。次回のテキストを読み始める。（2時間）
7	事前学習	テキストを精読し、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	宇吹暁『ヒロシマ戦後史—被爆体験はどう受け止められてきたか』第6章「被爆体験の展開」
	事後学習	討論を振り返り、メモを整理する。次回のテキストを読み始める。（2時間）
8	事前学習	テキストを精読し、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	宇吹暁『ヒロシマ戦後史—被爆体験はどう受け止められてきたか』第7章「被爆体験の国際化と歴史化」・おわりに
	事後学習	討論を振り返り、メモを整理する。次回のテキストを読み始める。（2時間）
9	事前学習	テキストを精読し、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	直野章子『原爆体験と戦後日本—記憶の形成と継承』序章・第1章「原爆体験の成立」
	事後学習	討論を振り返り、メモを整理する。次回のテキストを読み始める。（2時間）
10	事前学習	テキストを精読し、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	直野章子『原爆体験と戦後日本—記憶の形成と継承』第2章「『被爆者』の誕生と原爆被害の広がり」
	事後学習	討論を振り返り、メモを整理する。次回のテキストを読み始める。（2時間）
11	事前学習	テキストを精読し、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	直野章子『原爆体験と戦後日本—記憶の形成と継承』第3章「『平和』と『原爆』の間」
	事後学習	討論を振り返り、メモを整理する。次回のテキストを読み始める。（2時間）
12	事前学習	テキストを精読し、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	直野章子『原爆体験と戦後日本—記憶の形成と継承』第4章「被爆ナショナリズムと『共感の共同体』の裂け目」
	事後学習	討論を振り返り、メモを整理する。次回のテキストを読み始める。（2時間）
13	事前学習	テキストを精読し、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	直野章子『原爆体験と戦後日本—記憶の形成と継承』第5章「物語を求めて」
	事後学習	討論を振り返り、メモを整理する。次回のテキストを読み始める。（2時間）
14	事前学習	テキストを精読し、コメントを準備する。（2時間）
	授業内容	直野章子『原爆体験と戦後日本—記憶の形成と継承』第6章「つかみ損ねた体験の痕跡」および終章「被爆の記憶を引き継ぐために」
	事後学習	討論を振り返り、メモを整理する。（2時間）
15	事前学習	書評ないしは研究レポートの構想をレジュメにまとめる。
	授業内容	全体のまとめの討論と書評ないしは研究レポートの構想の発表
	事後学習	討論を振り返り、メモを整理する。終了レポートの作成（2時間）

科目名	教養演習ⅡB	担当者	岡山 敬二	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	【「人工知能」と哲学】いわゆるシンギュラリティ（人工知能が人類の知能を超える転換点）が意識されはじめるなかで、人間そのものの意味が改めて問いなおされつつある。同時に、AIの殺人兵器への利用や、自動運転による事故の責任をどう考えるべきかなど、倫理的問題への対応も迫られている。人間や社会は人工知能にどう向き合うべきか、という問いをめぐって、人間やこれからの社会のあり方とその意味について一緒に問い、考えてゆく。			
授業目的・到達目標	既存の観念に縛られずに、諸事象を根本から見つめなすことのできる哲学的な視野・姿勢、倫理観を養成することを目的とする。そのために、1．科学技術の世界に生きている現代的状況を見据えながら、常識や科学知の可能性や限界を見つめなおすことで、現代社会の諸問題の根拠を理解し、説明できるようになること、2．様々な哲学的、倫理的な立場や見解を比較・検討、整理し、人間と自然や社会、文化、世界のありようを根本から見つめなおすことで、自らの考え（哲学）をうまく伝え、他者と柔軟にコミュニケーションできるようになることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	3年次生以上。有益に、教科書を一緒に考えながら読み進め、その理解を深めてゆくためには、それなりの哲学への関心と学習意欲が必要となる。下記指定の教科書を各自用意すること。※コンスタントに出席できる状況であること。			
授業方法	指定の教科書を読み進めていき、議論を通じて、教科書の内容を解釈、検討してゆく。最終回で授業を総括するさいに、授業への参加度や取り組み、姿勢について講評する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	3分の2以上出席した者を評価対象とし、授業への参加度や取り組み、姿勢を評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年9月15日	SBクリエイティブ	人工知能に哲学を教えたら（SB新書）	岡本裕一朗
	備考	履修にあたっては上記教科書を各自用意すること。		
参考書	そのつど必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	原則として火曜日12：00～13：00、土曜日12:00～13:00（休暇期間は電子メールで相談の上対応する）。事前に電子メールでの連絡を踏まえ対応する。 研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの「授業概要」、「授業目的・到達目標」を読み、その内容を確認しておくこと。その他のシラバスの内容についても確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス（1）——授業内容や評価方法などの説明
	事後学習	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
2	事前学習	シラバスの「授業概要」、「授業目的・到達目標」を読み、その内容を確認しておくこと。その他のシラバスの内容についても確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。「人口知能は人間のように考えることができるか」という問題について思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス（2）——人工知能は「考える」ことができるか、という点から、授業の目的や到達目標について確認する。
	事後学習	「人工知能が考える」というときの「考える」ということの意味について確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
3	事前学習	「第1章 AIvs正義 人工知能に倫理を教えられるか」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	テキストの講読（1）——第1章 AIvs正義 人工知能に倫理を教えられるか（30ページ）
	事後学習	「第1章 AIvs正義 人工知能に倫理を教えられるか」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。（2時間）
4	事前学習	「第1章 AIvs正義 人工知能に倫理を教えられるか（前回のつづき）」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	テキストの講読（2）——第1章 AIvs正義 人工知能に倫理を教えられるか（前回のつづき～62ページ）
	事後学習	「第1章 AIvs正義 人工知能に倫理を教えられるか（前回のつづき）」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。（2時間）

5	事前学習	「第2章 AIvs脳 人工知能にとって「認知」とは何か？」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。(2時間)
	授業内容	テキストの講読(3) —第2章 AIvs脳 人工知能にとって「認知」とは何か？(64ページ)
	事後学習	「第2章 AIvs脳 人工知能にとって「認知」とは何か？」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。(2時間)
6	事前学習	「第2章 AIvs脳 人工知能にとって「認知」とは何か？(前回のつづき)」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。(2時間)
	授業内容	テキストの講読(4) —第2章 AIvs脳 人工知能にとって「認知」とは何か？(前回のつづき～94ページ)
	事後学習	「第2章 AIvs脳 人工知能にとって「認知」とは何か？(前回のつづき)」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。(2時間)
7	事前学習	「第3章 AIvs芸術家 人口知能はアートを理解できるか？」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。(2時間)
	授業内容	テキストの講読(5) —第3章 AIvs芸術家 人口知能はアートを理解できるか？(96ページ～)
	事後学習	「第3章 AIvs芸術家 人口知能はアートを理解できるか？」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。(2時間)
8	事前学習	「第3章 AIvs芸術家 人口知能はアートを理解できるか？(前回のつづき)」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。(2時間)
	授業内容	テキストの講読(6) —第3章 AIvs芸術家 人口知能はアートを理解できるか？(前回のつづき～124ページ)
	事後学習	「第3章 AIvs芸術家 人口知能はアートを理解できるか？(前回のつづき)」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。(2時間)
9	事前学習	「第4章 AIvs恋愛 人工知能にとって幸福とは何か？」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。(2時間)
	授業内容	テキストの講読(7) —第4章 AIvs恋愛 人工知能にとって幸福とは何か？(126ページ～)
	事後学習	「第4章 AIvs恋愛 人工知能にとって幸福とは何か？」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。(2時間)
10	事前学習	「第4章 AIvs恋愛 人工知能にとって幸福とは何か？(前回のつづき)」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。(2時間)
	授業内容	テキストの講読(8) —第4章 AIvs恋愛 人工知能にとって幸福とは何か？(前回のつづき～156ページ)
	事後学習	「第4章 AIvs恋愛 人工知能にとって幸福とは何か？(前回のつづき)」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。(2時間)
11	事前学習	「第5章 AIvs労働者 ロボットは仕事を奪うか？」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。(2時間)
	授業内容	テキストの講読(9) —第5章 AIvs労働者 ロボットは仕事を奪うか？(158ページ～)
	事後学習	「第5章 AIvs労働者 ロボットは仕事を奪うか？」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。(2時間)
12	事前学習	「第5章 AIvs労働者 ロボットは仕事を奪うか？(前回のつづき)」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。(2時間)
	授業内容	テキストの講読(10) —第5章 AIvs労働者 ロボットは仕事を奪うか？(前回のつづき～188ページ)
	事後学習	「第5章 AIvs労働者 ロボットは仕事を奪うか？(前回のつづき)」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。(2時間)
13	事前学習	「第6章 AIvs宗教 人工知能は「神」になるか？」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。(2時間)
	授業内容	テキストの講読(11) —第6章 AIvs宗教 人工知能は「神」になるか？(190ページ～)
	事後学習	「第6章 AIvs宗教 人工知能は「神」になるか？」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。(2時間)
14	事前学習	「第7章 AIvs遺伝子 人工知能は人類を滅ぼすか？」を読み、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。(2時間)
	授業内容	テキストの講読(12) —第7章 AIvs遺伝子 人工知能は人類を滅ぼすか？(220ページ～)
	事後学習	「第7章 AIvs遺伝子 人工知能は人類を滅ぼすか？」の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。(2時間)
15	事前学習	教科書全体振り返り、疑問や質問、意見や感想等ノートに整理しておくこと。(2時間)
	授業内容	授業の総括、授業への参加度や取り組み、姿勢についての講評。
	事後学習	教科書全体の講読を踏まえ、その内容を確認し、疑問や質問等ノートに整理しておくこと。(2時間)

科目名	教養演習ⅡB	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	【日本の名歌の読解と鑑賞】代表的歌人6人を取り上げ、その歌人ならびに代表歌に関して各自が研究・調査を行い、演習形式で発表する。それをもとに参加者全員で質疑・応答し、当該歌と歌人に関する理解を深めるとともに、日本の和歌・短歌の特質について考察する。取り上げる歌人は紀貫之・西行・源実朝・橘曙覧・石川啄木・若山牧水の6名だが、受講者の希望により他の歌人を取り上げる場合もある。受講生の主体的な研究・調査意欲を重視する。				
授業目的・到達目標	図書館・ネット等を積極的に利用して必要な資料を入手できるようになるとともに、それらを各自の発表に活かし、或るテーマ対して客観的・論理的に説明できる能力を育成することを目的とする。併せて、研究・調査の過程において思考力・洞察力・解決力の養成も目的とする。そして、受講生が、和歌・短歌ひいては日本文学に対する十分な理解を為し、歌を厳密に解釈できるようになるとともに、正確な解釈に基づく鑑賞文・評論文・調査報告文が書けるようになることを目標とする。関連DP及びCP：1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	特になし。				
授業方法	教員の側で扱う歌人の基礎資料を用意する。発表者が研究・調査を行って発表し、全員で質疑・応答して理解を深める。成績評価にレポートを課すが、その解説は最終授業で行う。従って最終授業までにレポートを提出すること。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	「演習発表」「授業中の質疑応答への参加」「レポート」を総合的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
			特になし（プリントを用意する）。		
	備考				
参考書	講義中に適宜紹介する。調査で必要な基本的な著書に関しては教員の側で用意するので、各自で利用して欲しい。また、法学部図書館や発表者の自宅近隣の図書館の著書の利用も推奨する。				
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館8階の小野研究室にて質問・相談を受け付ける（メールで必ず事前にアポをとること）。また、第1回の授業時に質問用メールアドレスを公表するので、それも積極的に利用し、質問などで授業への理解を深めて欲しい。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容		
1	事前学習	シラバスを精読して授業の概要をつかんでおく。高等学校で使用した古典・現代文の教科書や国語便覧などで、紀貫之・西行・源実朝・橘曙覧・石川啄木・若山牧水に関して書かれている部分を精読する。（1時間）	
	授業内容	〔1〕授業概要の説明（成績評価の方法、授業の進め方などを詳細に説明するので必ず出席すること）。 〔2〕和歌文学の概説。	
	事後学習	授業内の配付プリントを再読し、授業の概要と計画を理解する。また、和歌文学に関して特に史的流れの全容を再確認しておく。（3時間）	
2	事前学習	紀貫之・西行・源実朝に関して図書館・ネットなどで調査し、概要をつかんでおく。（2時間）	
	授業内容	〔1〕古典和歌史の概観。〔2〕紀貫之・西行・源実朝の概説。	
	事後学習	授業内配付プリントを精読し、紀貫之・西行・源実朝それぞれの歌風の特徴と歌壇における位置づけについてまとめておく。（2時間）	
3	事前学習	橘曙覧・石川啄木・若山牧水に関して図書館・ネットなどで調査し、概要をつかんでおく（2時間）	
	授業内容	〔1〕近代短歌史の概観。〔2〕橘曙覧・石川啄木・若山牧水の概説。	
	事後学習	授業内配付プリントを精読し、橘曙覧・石川啄木・若山牧水それぞれの歌風の特徴と歌壇における位置づけについてまとめておく。（2時間）	
4	事前学習	〔1〕事前配布資料を読み、に関する概略を押さえるとともに、各自で資料に挙げられている和歌の解釈をおこなう。難しい語句などは調べておく。〔2〕（2時間）	
	授業内容	「紀貫之とその作品」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。	
	事後学習	発表者の作成したレジュメを再読し、に対する理解を深める。（2時間）	

5	事前学習	〔1〕事前配布資料を読み、西行とその作品に関する概略を押さえるとともに、各自で資料に挙げられている和歌の解釈をおこなう。難しい語句などは調べておく。〔2〕『山家集』について図書館などで調べておく。（2時間）
	授業内容	「西行とその作品〔その1〕」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。
	事後学習	発表者の作成したレジュメを再読し、西行とその作品に対する理解を深める。（2時間）
6	事前学習	〔1〕事前配布資料を読み、西行とその作品に関する概略を押さえるとともに、各自で資料に挙げられている和歌の解釈をおこなう。難しい語句などは調べておく。〔2〕西行伝説について、図書館やネットで調べておく。（2時間）
	授業内容	「西行とその作品〔その2〕」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。
	事後学習	発表者の作成したレジュメを再読し、西行とその作品に対する理解を深める。第5回・第6回の発表をもとに、西行の歌の特色についてまとめておく。（2時間）
7	事前学習	〔1〕事前配布資料を読み、源実朝とその作品に関する概略を押さえるとともに、各自で資料に挙げられている和歌の解釈をおこなう。難しい語句などは調べておく。〔2〕『金槐和歌集』について図書館やネットで調べておく。（2時間）
	授業内容	「源実朝とその作品〔その1〕」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。
	事後学習	発表者の作成したレジュメを再読し、源実朝とその作品に対する理解を深める。（2時間）
8	事前学習	〔1〕事前配布資料を読み、源実朝とその作品に関する概略を押さえるとともに、各自で資料に挙げられている和歌の解釈をおこなう。難しい語句などは調べておく。〔2〕源実朝をとりまく歴史上の事跡に関して調べておく。（2時間）
	授業内容	「源実朝とその作品〔その2〕」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。
	事後学習	発表者の作成したレジュメを再読し、源実朝とその作品に対する理解を深める。第7回・第8回の発表をもとに、源実朝の歌の特色についてまとめておく。（2時間）
9	事前学習	〔1〕事前配布資料を読み、橘曙覧とその作品に関する概略を押さえるとともに、各自で資料に挙げられている和歌の解釈をおこなう。難しい語句などは調べておく。〔2〕橘曙覧に関して、図書館やネットで調べておく。（2時間）
	授業内容	「橘曙覧とその作品〔その1〕」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。
	事後学習	発表者の作成したレジュメを再読し、橘曙覧とその作品に対する理解を深める。（2時間）
10	事前学習	〔1〕事前配布資料を読み、橘曙覧とその作品に関する概略を押さえるとともに、各自で資料に挙げられている和歌の解釈をおこなう。難しい語句などは調べておく。〔2〕橘曙覧の「独楽吟」に関して、図書館やネットで調べておく。（2時間）
	授業内容	「橘曙覧とその作品〔その2〕」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。
	事後学習	発表者の作成したレジュメを再読し、橘曙覧とその作品に対する理解を深める。第9回・第10回の発表をもとに、橘曙覧の歌の特色についてまとめておく。（2時間）
11	事前学習	〔1〕事前配布資料を読み、石川啄木とその作品に関する概略を押さえるとともに、各自で資料に挙げられている歌の解釈をおこなう。難しい語句などは調べておく。〔2〕石川啄木の生涯に関して図書館やネットで調べておく。（2時間）
	授業内容	「石川啄木とその作品〔その1〕」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。 ※レポートのタイトル、概要、分量等の公表
	事後学習	〔1〕発表者の作成したレジュメを再読し、石川啄木とその作品に対する理解を深める。〔2〕授業内に発表されたレポート概要に基づき、各自のレポートの準備に入る〔段階1〕。まず、各自の発表を振り返り（未発表の者は発表予定内容に基づき考える）、レポート内容の梗概を作成する。（3時間）
12	事前学習	〔1〕事前配布資料を読み、石川啄木とその作品に関する概略を押さえるとともに、各自で資料に挙げられている歌の解釈をおこなう。難しい語句などは調べておく。〔2〕石川啄木の歌集について図書館やネットで調べておく。（2時間）
	授業内容	「石川啄木とその作品〔その2〕」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。
	事後学習	〔1〕発表者の作成したレジュメを再読し、石川啄木とその作品に対する理解を深める。〔2〕各自のレポートの作成を進める〔段階2〕。各自の発表における質疑応答、教員のアドバイスをもとに更に調査が必要な事項を抽出し、手控えを作成する。（3時間）
13	事前学習	〔1〕事前配布資料を読み、若山牧水とその作品に関する概略を押さえるとともに、各自で資料に挙げられている和歌の解釈をおこなう。難しい語句などは調べておく。〔2〕若山牧水の生涯に関して図書館やネットで調べておく。（2時間）
	授業内容	「若山牧水とその作品〔その1〕」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。
	事後学習	〔1〕発表者の作成したレジュメを再読し、若山牧水とその作品に対する理解を深める。〔2〕各自のレポートの作成を進める〔段階3〕。12回目の事後学習で作成した手控えに基づき、更に必要な参考文献を図書館・ネットなどで入手し、熟読した上で各自のレポートでの活用を考える。（4時間）
14	事前学習	〔1〕事前配布資料を読み、若山牧水とその作品に関する概略を押さえるとともに、各自で資料に挙げられている和歌の解釈をおこなう。難しい語句などは調べておく。〔2〕（2時間）
	授業内容	「若山牧水とその作品〔その2〕」の演習発表。並びに、質疑応答。教員からのアドバイス。
	事後学習	〔1〕発表者の作成したレジュメを再読し、若山牧水とその作品に対する理解を深める。〔2〕各自のレポートの作成を進める〔段階4〕。13回目の事後学習で入手した参考文献と各自の発表をもとに、レポートの梗概を更に精選し、文章化する。（4時間）
15	事前学習	14回までの授業内容を振り返り、各自の発表に基づくレポートを完成させ、授業内に提出できる準備をする〔事後学習のために必ずレポートの複写を手元に残しておくこと〕。（4時間）
	授業内容	各自で用意したレポートの回収。その後、レポートの出題意図・採点基準について解説する。また、授業全体のまとめを行う。
	事後学習	授業内に行われた「レポートの出題意図・採点基準・解説」をもとに、各自のレポートの良い点と悪い点を確認し、よりよいレポートにするためにはどうしたらよいかを考える。（1時間）

科目名	芸術論 I	担当者	河原 啓子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	芸術は私たちにどのような発見をもたらしてくれるのか。多様な見方を提起してきた作品とともに考察する。映像の時代を見据えて、写真や映画などがどのようなメディアなのかを考察する。芸術作品を鑑賞しながら人々の価値観を理解する。また、文化政策において、人々の価値観がいかに文化に反映されているかを考える。世界遺産をめぐり、人類共通の文化遺産の意義についても検討する。				
授業目的・到達目標	社会における芸術や文化の位置づけを考える。芸術作品を鑑賞しながら、既成価値観を見直し、多文化が進む社会における問題解明能力を向上させることを目的とする。多様な価値観を理解し、自分の言葉で説明できることを目標とする。批判的精神を持ちつつ自らの持つ文化や価値観も相対化しながら新たな「知」を創造できるようになる。文化政策についての理解を深め、国際社会が直面する問題の構造を根源的に考察し、その理解を適切に整理し表現する力を育成することも目標とする。関連DP 及びCP：総合科目1, 2, 3, 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式。パワー・ポイント、視聴覚機器を用いて、数多くの作品を映像などで紹介しながら進める。随時リアクションペーパーを行い、事後にフィードバックする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業参加度と課題の総合評価。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参 考 書	必要に応じて紹介する。				
オフィスアワー	授業前後（月曜2限、火曜4限）授業講堂にて質問を受け付ける。 vector13155@gmail.comでも対応する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	芸術の価値 クリエイティブ・クラス AIは何をもたらすか
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
2	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	既成価値観の見直し（1） 岡本太郎の対極主義 芸術とは何か 「なんだ、これは！」
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
3	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	既成価値観の見直し（2） 身のまわりを見つめ直す 赤瀬川原平『老人力』にみる新しい立脚点
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)

4	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	既成価値観の見直し（3） 荒川修作 反芸術 弱者に向けた芸術
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
5	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	既成価値観の見直し（4） おたく クール？ 村上隆 コンテナラリー・アートの意味
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
6	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	既成価値観の見直し（5） ポップ・アート 日常的イメージの引用 アンディ・ウォーホル 他
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
7	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	既成価値観の見直し（6） 芸術を思索すること オノ・ヨーコとジョン・レノン
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
8	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	複製技術時代の芸術（1）写真の発明 写真は人々の認識をどのように変えたか 情報授受の変容
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
9	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	複製技術時代の芸術（2）写真の発展 記録か芸術か？ 報道写真 表現としての写真
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
10	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	複製技術時代の芸術（3）映画の発明 映画前史からたどる 世界初の映画の登場と影響
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
11	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	複製技術時代の芸術（4）映画、映像の発展 娯楽か芸術か？ 多様な映像 進展する映像技術
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
12	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	複製技術時代の芸術（5）音楽の複製 生演奏か？ 録音か？ グレン・グールドの問題提起
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
13	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	ミュージアムの存在意義 各国のミュージアムをめぐって メディアとしての文化装置
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)

14	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	文化政策 日本 アメリカ フランスを比較する 国家の文化や芸術に対する価値観
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
15	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	文化価値観の形成 世界遺産 人類共通価値観としての文化形成 知的財産
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)

科目名	芸術論Ⅰ	担当者	木名瀬 紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	芸術論は、美術作品の鑑賞、解釈をスライドを使い論じていきます。 建築、絵画、彫刻、工芸を解説し、古代より現代までの豊かで多様な美術諸作品を見ていきます。 芸術関係の専門用語は丁寧に分かりやすく説明します。			
授業目的・到達目標	【授業目的】西洋美術史から見た日本美術史。西洋の美術や、日本の美術に親しみ、基礎理論の修得を目的とする。 【授業目標】多種多様な美術作品を通して美の本質を理解し、説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域 1， 2， 3， 4			
履修条件	特になし。			
授業方法	講義形式で行なう。時に、アクティブラーニングとして質問なども実施する。 授業の振り返りや、授業内試験などにおける全体講評、まとめなどを行なう。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業内容の理解と習得に応じる。 確認テストを適宜行なう。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。		
参考書	授業内にて指示する。			
オフィスアワー	木曜日 16：10 から。 授業講堂 メールアドレス：nrkinase@yahoo.co.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	最初ですから、シラバス全体をよく読み、西洋と日本の美術作品には、どのような違いがあるかを、自分ながらに考えてみることに。（2時間）
	授業内容	序論Ⅰ：芸術論Ⅰについて 授業の紹介、オリエンテーション。
	事後学習	今日の授業内容や学習方法を、授業時のノートを見ながら再び復習すること。この授業では、毎回この復習を必ずすることを希望します。（2時間）
2	事前学習	興味に応じた予習。授業内容の関連事項について調べる。（2時間）
	授業内容	西洋美術史から見た日本美術史 各論1－① 仏教伝来と飛鳥時代。鑑賞と解釈。 建築、絵画、彫刻、工芸の定義。
	事後学習	講義ノートなどで整理し、自分なりの説明を組み立てる。（2時間）
3	事前学習	準備を行なう。講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	各論1－② パルテノン神殿と奈良の法隆寺。 伽藍造営経緯、作品様式とアルカイックスマイル等諸技法。
	事後学習	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
4	事前学習	興味に応じた予習。授業内容の関連事項について調べる。（2時間）
	授業内容	各論1－③ 薬師寺と唐招提寺。 歴史記念建造物、世俗建築について。
	事後学習	講義ノートなどで整理し、自分なりの説明を組み立てる。（2時間）

5	事前学習	準備を行なう。講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	各論1－④ 天平時代、奈良盛期。クラシック様式。 国家事業としての東大寺造営。
	事後学習	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
6	事前学習	興味に応じた予習。授業内容の関連事項について調べる。（2時間）
	授業内容	西洋美術史から見た日本美術史 各論2－① 平安時代の美術と西洋への影響。 浄瑠璃寺、平等院及びサグラダファミリア、モネの絵画。
	事後学習	講義ノートなどで整理し、自分なりの説明を組み立てる。（2時間）
7	事前学習	準備を行なう。講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	各論2－② 曼荼羅と密教尊像。 大陸より伝承した図像形式。
	事後学習	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
8	事前学習	興味に応じた予習。授業内容の関連事項について調べる。（2時間）
	授業内容	各論2－③ 絵巻物とやまと絵。 画面構成法、説話表現。
	事後学習	講義ノートなどで整理し、自分なりの説明を組み立てる。（2時間）
9	事前学習	準備を行なう。講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	西洋美術史から見た日本美術史 各論3－① 鎌倉時代における寺院建築再興。 大仏様と禅宗様。
	事後学習	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
10	事前学習	興味に応じた予習。授業内容の関連事項について調べる。（2時間）
	授業内容	各論3－② 絵画、彫刻、工芸における鎌倉様式。 精緻な肖像に見る写実。 日本とヨーロッパの写実表現。
	事後学習	講義ノートなどで整理し、自分なりの説明を組み立てる。（2時間）
11	事前学習	準備を行なう。講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	各論3－③ 室町時代。楼閣建築と庭園造営。 パラッツォ、ヴィッラの歴史。
	事後学習	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
12	事前学習	興味に応じた予習。授業内容の関連事項について調べる。（2時間）
	授業内容	各論3－④ 水墨画、詩画軸山水。雪舟。 書斎と風景描写、同時代のルネサンス風景画。
	事後学習	講義ノートなどで整理し、自分なりの説明を組み立てる。（2時間）
13	事前学習	これまで学んだ内容について、時代順に、それぞれの時代の芸術の特色について、もう一度全体をよく復習してください。（2時間）
	授業内容	授業まとめ
	事後学習	初回からの講義ノートを見直し、知識の整理をしてください。（2時間）
14	事前学習	準備（1）前期内容の振り返り。（2時間）
	授業内容	理解度の確認 1
	事後学習	整理（1）これまでの学習内容を確認する。全体講評。（2時間）
15	事前学習	準備（2）前期内容の振り返り。（2時間）
	授業内容	理解度の確認 2
	事後学習	整理（2）これまでの学習内容を確認する。全体講評。（2時間）

科目名	芸術論 I	担当者	石井 香絵	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	美術作品は自身の感性で鑑賞、創作するものとしばしば考えられる。しかし作品に対峙する行為は時代背景や作者、または人は視覚表現をどのように行ってきたかといった知識や考察力を総合して行うものであり、自身の感性だけでなく社会や文化への見解をも深める活動であると考え。以上をふまえ、前期は近現代の美術作品を中心に、後期は出版物や広告などの視覚メディアとともにその成立事情や、近代以前、異文化等の影響関係を考察する。				
授業目的・到達目標	受講生の関心の幅を広げ、自発的な作品鑑賞・調査研究の支援となることを目的とする。 近現代視覚芸術に関する基本的な知識の習得を目標とする。 関連D P 及びC P：総合科目1, 2, 3, 4				
履修条件	特に無し。				
授業方法	講義形式。レジュメ、スライド、視聴覚機器を使用し作例を具体的に紹介しながら進める。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	平常点と課題の総合評価。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特に無し。授業内で適宜紹介する。			
参 考 書	授業内で適宜紹介する。				
オフィス アワー	木曜 1 限、授業前後に受け付ける。 授業講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	「芸術」「美術」について自身の知識、見解を整理しておく。（2時間）
	授業内容	「芸術」「美術」とは何か 図像・様式と写実の歴史
	事後学習	美術史の基本事項について復習。（2時間）
2	事前学習	20世紀前後の美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。（2時間）
	授業内容	20世紀前後の西洋と日本① 写実主義の展開 日本の江戸と近代化
	事後学習	19世紀東西文化の復習。（2時間）
3	事前学習	20世紀前後の美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。（2時間）
	授業内容	20世紀前後の西洋と日本② 印象派とジャポニスム 日本の近代化
	事後学習	ジャポニスムについて復習。（2時間）
4	事前学習	世紀末芸術について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。（2時間）
	授業内容	世紀末芸術 象徴主義、アール・ヌーヴォーの展開
	事後学習	世紀末芸術の思想・視覚表現について復習。（2時間）

5	事前学習	20世紀前後の美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。（2時間）
	授業内容	表現主義とキュビズム マティス、ピカソの時代 色とかたちの追求
	事後学習	表現主義とキュビズムについて復習。（2時間）
6	事前学習	20世紀前半の美術、文学活動について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。（2時間）
	授業内容	ダダイスム、シュルレアリスム ツァラ、デュシャン、フルトンの時代
	事後学習	ダダ、シュルレアリスムについて復習。（2時間）
7	事前学習	戦後日本美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。（2時間）
	授業内容	前衛と戦争の影 占領下とその後の日本美術
	事後学習	戦前、戦後美術の復習。（2時間）
8	事前学習	戦後西洋美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。（2時間）
	授業内容	アンフォルメル、アクションの時代① 抽象表現主義 未定形の表現
	事後学習	アンフォルメル、抽象表現主義の復習。（2時間）
9	事前学習	戦後日本美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。（2時間）
	授業内容	アンフォルメル、アクションの時代② アンフォルメル旋風と日本 具体美術協会
	事後学習	50年代日本美術の復習。（2時間）
10	事前学習	戦後日本美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。（2時間）
	授業内容	ネオダダ、反芸術① カラー・フィールド・ペインティングからネオ・ダダへ
	事後学習	50年代日本とアメリカ美術の復習。（2時間）
11	事前学習	戦後日本美術史について書籍、画集、展覧会などを通じて予習。（2時間）
	授業内容	ネオダダ、反芸術② 読売アンデパンダン展の時代とその後
	事後学習	60年代日本美術の復習。（2時間）
12	事前学習	戦後美術、コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。（2時間）
	授業内容	ミニマルアート、もの派、コンセプチュアル・アート 要素の抽出 ミニマルへの普遍的美意識
	事後学習	ミニマル・アート、コンセプチュアル・アートの復習。（2時間）
13	事前学習	戦後美術、コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。（2時間）
	授業内容	ポップアート 日用品、マス・メディアへの視点 イメージの提示
	事後学習	ポップ・アートについて復習。（2時間）
14	事前学習	戦後美術、コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。（2時間）
	授業内容	シミュレーショニズム、ニューペインティング 未視感から既視感へ 新表現主義の台頭
	事後学習	シミュレーショニズム、ニューペインティングについて復習。（2時間）
15	事前学習	コンテンポラリーアートについて書籍、画集、展覧会などを通じて予習。（2時間）
	授業内容	まとめ、現代の動向
	事後学習	授業全体の復習。（2時間）

科目名	芸術論Ⅱ	担当者	河原 啓子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義では、私たちの価値観形成に関連する近代以降の芸術作品を主に解説する。美術作品を鑑賞しながら、創造活動がいかなるものかを考える。同時に、芸術家の思想や人生を踏まえて、人間の創造が社会に与えた価値観の変化やものの見方の広がりなどの影響をふり返る。					
授業目的・到達目標	多文化が進む社会における問題解明能力を向上させることを目的とする。さまざまな芸術家たちが生きた時代、歴史、社会システムなどの吟味しながら、人生をふり返り作品を鑑賞する。多様な価値観を理解し、自分の言葉で説明できることを目標とする。批判的精神を持ちつつ自らの持つ文化や価値観も相対化しながら新たな「知」を創造できるようになる。 関連DP 及びCP：総合科目1, 2, 3, 4					
履修条件	特になし。					
授業方法	講義形式。パワー・ポイント、視聴覚機器を用いて、数多くの作品を映像などで紹介しながら進める。随時リアクションペーパーを行い、事後にフィードバックする。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業参加度と課題の総合評価。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない。				
参考書	必要に応じて紹介する。					
オフィスアワー	授業前後（月曜2限 火曜4限）講堂にて質問を受け付ける。 vector13155@gmail.comでも対応する。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	ガイダンス 芸術とは何か 私たちの視野を広げてくれる芸術 アートの存在意義
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
2	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	芸術家の創造・思想・人生（1）フランシスコ・デ・ゴヤ 近代の先駆者 さまざまな試み
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
3	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	芸術家の創造・思想・人生（2）ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー 風景画の意義 自然と人間
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)

4	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	芸術家の創造・思想・人生（3）葛飾北斎 江戸後期の浮世絵師の挑戦 ジャポニスムへの影響
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
5	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	芸術家の創造・思想・人生（4）クロード・モネ 《印象・日の出》当時のジャーナリズムをふり返る 印象派とは
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
6	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	芸術家の創造・思想・人生（5）オーギュスト・ルノワール 酷評された作品 世論とは何か 女性表現の開拓
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
7	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	芸術家の創造・思想・人生（6）エドガー・ドガ 社会を見つめるまなざし 写真の影響
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
8	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	芸術家の創造・思想・人生（7）ジョルジュ・ルオー キリスト教絵画 ヨーロッパの精神文化 独自の世界を構築
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
9	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	芸術家の創造・思想・人生（8）アンリ・マティス フォーヴィスム（野獣派）とは 《ジャズ》最晩年の作品
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
10	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	芸術家の創造・思想・人生（9）パブロ・ピカソ キュビズム（立体派）とは ピカソの革新とは何か
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
11	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	芸術家の創造・思想・人生（10）マルク・シャガール 夢や愛を描く 世界的活躍の軌跡
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
12	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	芸術家の創造・思想・人生（11）ジョアン・ミロ スペインの歴史とともに 詩的絵画の世界
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
13	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	芸術家の創造・思想・人生（12）エドヴァルド・ムンク 《叫び》はなぜ人々を魅了するのか 病、死をどうとらえるか
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)

14	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	芸術家の創造・思想・人生(13) ヴァシリー・カンディンスキー 抽象絵画とは何か 《即興》《コンポジション》音楽との関わり
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)
15	事前学習	社会における創造活動に注意を向けてみる。 任意の参考文献を講読する。 (2時間)
	授業内容	芸術家の創造・思想・人生(14) 横山大観 明治、大正、昭和をふり返る 富士の描写にみられるもの
	事後学習	授業で学習したことを再検討してみる。 (2時間)

科目名	芸術論Ⅱ	担当者	木名瀬 紀子	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	--------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	芸術論は、美術作品の鑑賞、解釈をスライドを使い論じていきます。 建築、絵画、彫刻、工芸を解説し、古代より現代までの豊かで多様な美術諸作品を見ていきます。 芸術関係の専門用語は丁寧に分かりやすく説明します。				
授業目的・到達目標	【授業目的】西洋美術史から見た日本美術史。西洋の美術や、日本の美術に親しみ、基礎理論の修得を目的とする。 【授業目標】多種多様な美術作品を通して美の本質を理解し説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1，2，3，4				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式で行なう。時に、アクティブラーニングとして質問なども実施する。 授業の振り返りや、授業内試験などにおける全体講評、まとめなどを行なう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内容の理解と習得に応じる。 確認テストを適宜行なう。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参考書	授業内にて指示する。				
オフィスアワー	木曜日16：10から。 授業講堂 メールアドレス：nrkinase@yahoo.co.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	最初ですから、シラバス全体をよく読み、西洋と日本の美術には、どのような違いがあるかを、自分ながらに考えてみること。（2時間）
	授業内容	序論Ⅱ：芸術論Ⅱについて 授業の紹介、オリエンテーション。
	事後学習	今日の授業内容や学習方法を、授業時のノートを見ながら再び復習すること。この授業では、毎回この復習を必ずすることを希望します。（2時間）
2	事前学習	興味に応じた予習。授業内容の関連事項について調べる。（2時間）
	授業内容	西洋美術史から見た日本美術史 各論4－① 安土桃山、織豊時代。 国宝姫路城。
	事後学習	講義ノートなどで整理し、自分なりの説明を組み立てる。（2時間）
3	事前学習	準備を行なう。講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	各論4－② 西洋美術の伝播と導入。暮らしを彩る工芸意匠。 狩野派。茶の湯と茶室。数寄屋造から和式家屋へ。
	事後学習	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
4	事前学習	興味に応じた予習。授業内容の関連事項について調べる。（2時間）
	授業内容	各論4－③ 宗達光琳派。 季節の推移を味わう。ルネサンスの風神（ゼフュロス）画。
	事後学習	講義ノートなどで整理し、自分なりの説明を組み立てる。（2時間）

5	事前学習	準備を行なう。講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	西洋美術史から見た日本美術史 各論5－① 寛文美人画と浮世絵。イタリアの美人画。 師宣肉筆、木版製作工程。東西比較。
	事後学習	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
6	事前学習	興味に応じた予習。授業内容の関連事項について調べる。（2時間）
	授業内容	各論5－② 春信、歌麿、広重、北斎などの錦絵。 色彩や輪郭。パリの日本美術流行。
	事後学習	講義ノートなどで整理し、自分なりの説明を組み立てる。（2時間）
7	事前学習	準備を行なう。講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	各論5－③ 舶来機器と洋風絵画。 源内。蘭学と油彩。オランダ絵画の影響。
	事後学習	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
8	事前学習	興味に応じた予習。授業内容の関連事項について調べる。（2時間）
	授業内容	各論5－④ 文人画。銅版、動植物絵。 空気と線などによる遠近法。モナ・リザの空気遠近法。
	事後学習	講義ノートなどで整理し、自分なりの説明を組み立てる。（2時間）
9	事前学習	準備を行なう。講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	西洋美術史から見た日本美術史 各論6－① 学制発布と美術教育の始まり。印象派とパリ留学。 明治以後の建築様式。
	事後学習	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
10	事前学習	興味に応じた予習。授業内容の関連事項について調べる。（2時間）
	授業内容	各論6－② 日本美術を鑑賞致します。 伝統保持や復古再生。
	事後学習	講義ノートなどで整理し、自分なりの説明を組み立てる。（2時間）
11	事前学習	準備を行なう。講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	各論6－③ 近現代における芸術。20世紀初め西洋美術の影響。 洋画や彫刻における充実。
	事後学習	授業で学習した成果を伸ばし、考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
12	事前学習	興味に応じた予習。授業内容の関連事項について調べる。（2時間）
	授業内容	各論6－④ 作品に描かれた人物、静物、風景。 美術を多様に楽しみ、鑑賞する眼を養う。
	事後学習	講義ノートなどで整理し、自分なりの説明を組み立てる。（2時間）
13	事前学習	これまで学んだ内容について、時代順に、それぞれの時代の芸術の特色について、もう一度全体をよく復習してください。（2時間）
	授業内容	授業まとめ
	事後学習	初回からの講義ノートを見直し、知識の整理をしてください。（2時間）
14	事前学習	準備（1）後期内容の振り返り。（2時間）
	授業内容	理解度の確認 1
	事後学習	整理（1）これまでの学習内容を確認する。全体講評。（2時間）
15	事前学習	準備（2）後期内容の振り返り。（2時間）
	授業内容	理解度の確認 2
	事後学習	整理（2）これまでの学習内容を確認する。全体講評。（2時間）

科目名	健康科学 I	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	健康についてWHO憲章では「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない。」と定義している。このことから健康は様々な要素が存在していることがわかる。同時に健康は様々な要因に左右されているといえる。健康への関心を持てるように関連する話題を取り上げ講義の展開をする。			
授業目的・到達目標	【授業目的】健康に関連する分野は多岐に渡るため、健康への理解を深め総合的に健康を考える力を養成することを目的とする。 【到達目標】学習した内容を知識だけに終わらせず、健康の獲得や保持増進に向けた行動に繋がれることを目標とする。 【関連するDP及びCP】総合科目・体育実技科目領域 1、2、3、4			
履修条件	健康についての関心を持ち、シラバスやガイダンスを通じて講義内容や授業方法を理解して履修すること。			
授業方法	スライド及び配付資料を用いて授業を行う。必要に応じて各自でノートを取ること。 【フィードバック方法】授業内試験の解答及び解説			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	授業内試験（70％）、小テスト・課題レポート（30％） ※小テスト及び課題レポートは、ポータルシステムを使用する場合がある。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	なし		
参考書	授業内で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日 12：20～13：30、木曜日 12：10～13：00 ※事前に連絡をしてください。 e-Mail satou.hideaki@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに記載されている内容を確認する 2時間
	授業内容	【ガイダンス】 ・講義計画、授業内試験、小テスト・レポート課題等の説明 ・事前学習及び事後学習の進め方について ・各課題へのフィードバック方法について ガイダンス内容を振り返り、受講計画の確認を行う 2時間
	事後学習	
2	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【健康とウェルビーイング】 健康を理解する上で重要な「考え方」について理解を深める。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めリポートを作成する。 2時間
3	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【ヘルスプロモーションとプライマリーヘルスケア】 自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスについて考える。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めリポートを作成する。 2時間
4	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料 書籍等）2時間
	授業内容	【健康診断】 健康診断の必要性とどのように活用するのかを示す。授業では、簡単な自己診断を行い、健康診断への理解を深める。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めリポートを作成する。 2時間

5	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料 書籍等）2時間
	授業内容	【環境と健康（気候変動による健康被害）】 気候変動による健康への影響を知り、「緩和策」及び「適応策」についての理解を深める
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間
6	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【環境と健康（公害による健康被害）】 健康被害の一つである公害を取り上げ、その内容と健康への影響への理解を深める。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間
7	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【環境と健康（暑熱・寒冷環境と健康）】 暑熱・寒冷環境での活動が身体に与える影響について理解を深める。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間
8	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【危機管理と健康（インフルエンザ）】 世界流行の事例を挙げ、インフルエンザへの理解を深める。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間
9	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【危機管理と健康（感染症）】 3大感染症をはじめ、それに関する途上国と先進国の格差についての理解を深める。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間
10	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【健康寿命】 日本人の健康と病気について理解を深める。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間
11	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【現代人の病気】 日本人に多い病気の現状について理解を深める。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間
12	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【統計と健康】 保健統計から読み取れる健康に関する情報への理解を深める。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間
13	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【健康の社会的決定要因】 健康格差を生み出す要因について理解を深める。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間
14	事前学習	講義内容をまとめる 2時間
	授業内容	【授業内試験及びまとめ】 授業内試験の実施、講義内容のまとめ
	事後学習	試験・講義内容の振り返り（リアクションペーパーを作成する。各回で作成したレポートをまとめる。） 2時間
15	事前学習	授業内試験の内容で不明な点を確認する。2時間
	授業内容	【まとめ】 授業内試験問題の解答及び解説をする
	事後学習	講義で取り上げた健康に関わる話題を出発点として、関連資料や書籍を通して健康への理解を深める。2時間

科目名	健康科学Ⅱ	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	人生100年といわれるが、寿命と健康が同じものとして考えることは難しい。健康の維持増進において自らが管理できる要素として栄養、運動、休養があげられる。本講義では、健康への関心を持ち、健康の維持増進に必要な「栄養、運動、休養」について学び、健康行動へと発展できるように講義の展開をする。					
授業目的・到達目標	【授業目的】健康に関連する分野は多岐に渡るため、健康への理解を深め総合的に健康を考える力を養成することを目的とする。 【到達目標】学習した内容を知識だけに終わらせず、健康の獲得や保持増進に向けた行動に繋がられることを目標とする。 【関連するDP及びCP】総合科目・体育実技科目領域 1、2、3、4					
履修条件	健康についての関心を持ち、シラバスやガイダンスを通じて講義内容や授業方法を理解して履修すること。					
授業方法	スライド及び配付資料を用いて授業を行う。必要に応じて各自でノートを取ること。 【フィードバック方法】授業内試験の解答及び解説					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業内試験（70％）、小テスト・課題レポート（30％） ※小テスト及び課題レポートは、ポータルシステムを使用する場合がある。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	なし				
参考書	授業内で適宜紹介する。					
オフィスアワー	火曜日 12：20～13：30、木曜日 12：10～13：00 ※事前に連絡をしてください。 e-Mail satou.hideaki@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに記載されている内容を確認する 2時間
	授業内容	【ガイダンス】 講義計画、授業内試験、小テスト・レポート課題等の説明 事前学習及び事後学習の進め方について 各課題へのフィードバック方法について
	事後学習	ガイダンス内容を振り返り、受講計画の確認を行う 2時間
2	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【健康を損なう要因】 健康を損なう要因の一つである喫煙リスクを示し、理解を深める
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間
3	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【ストレスと健康】 ストレスに関する基礎情報を知り、ストレスの理解を深める
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間
4	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【ストレスマネジメント】 ストレスを軽減させるための方法について紹介する。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間

5	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【生活習慣と健康】 健康の維持増進において自らがコントロールできる要素として栄養、運動、休養があげられる。以降の講義の軸となる概要を学び、生活習慣への理解を深める。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間
6	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【栄養と健康】 身体を作る基本ともいえる栄養素について学び、それぞれの働きへの理解を深める。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間
7	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【健康的な食生活】 健康の維持増進においては、栄養素の摂取とともに、質を高める「食生活」が重要な要素の一つである。これを踏まえて、健康な食生活について理解を深める。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間
8	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【運動と健康 体力とその必要性】 健康に関連する体力要素を知り、授業では、簡単な自己診断を行い、健康体力への理解を深める。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間
9	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【健康的な運動】 「運動不足」による健康への悪影響は周知のことである。一方、運動のやりすぎによる健康被害についての理解も必要である。それらを踏まえ、運動の功罪を学び適切な運動量やについて理解を深める。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間
10	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【運動処方について】 健康の維持増進を目的とした運動を実施するにあたり、運動プログラムを作成する上での知識を学ぶ。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間
11	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【疲労と休養】 疲労のメカニズムについて学び、適切な休養の選択（積極的休養と消極的休養）ができるように理解を深める。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間
12	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【睡眠と健康】 睡眠のメカニズムについて学び、睡眠の質及び量について考える。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間
13	事前学習	授業内容を確認し、関連する情報を調べる（資料、書籍等）2時間
	授業内容	【コミュニケーションと健康】 今日、孤独死や孤立死といった言葉を耳にすることが少なくない。人との関わりが健康に与える影響について知り、コミュニケーションの必要性についての理解を深める。
	事後学習	講義内容を振り返り、関連する書籍等を用いて理解を深めレポートを作成する。 2時間
14	事前学習	講義内容をまとめる 2時間
	授業内容	【授業内試験及びまとめ】 授業内試験の実施、講義内容のまとめ
	事後学習	試験・講義内容の振り返り（リアクションペーパーを作成する。各回で作成したレポートをまとめる。） 2時間
15	事前学習	授業内試験の内容で不明な点を確認する。2時間
	授業内容	【総括】 授業内試験問題の解答及び解説をする。
	事後学習	講義で取り上げた話題を出発点として、関連資料や書籍を通して健康への理解を深める。2時間

科目名	自然人類学Ⅰ	担当者	松浦 秀治	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	人類の特質を理解するには、まず、哺乳類、霊長類の特徴を捉え直しておく必要がある。授業では「霊長類とはどういう哺乳類か」を概観した上で、現在のヒトの身体的特徴を講義する。そうしたヒトの身体形質の特徴が、ヒトの持つ特殊な生活様式と環境とに強く関係していること、更に「直立姿勢と二足歩行」という特性が、ヒトの諸特徴、例えば、大きな脳と小さな顔面、音声言語の獲得、身体は無毛性、家族の形成などとも深く関連していることを解説する。				
授業目的・到達目標	「生物としてのヒト」という視点を持ち、ヒトの身体特徴を知ることで、ヒトの身体形質と文化環境は不可分の関係にあることを理解する。また、ヒトの特性・特質について科学的に偏りなく考察する基盤を培い、「人類の真の特徴」とは何かを正しく捉える基礎力を養成することを目的とする。この講義によって、「進化の結果として得た現在のヒトの身体的特徴」に関する基礎知識を学ぶ。また、それに基づいて、「ヒトが文化を創ったというよりは、文化がヒトを創り上げた」という観点を説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1、2、3、4				
履修条件	シラバスやオリエンテーションを通じて授業の概要や評価方法などを理解した上で履修すること。教科書は用いないので、まずは出席し、講義をしっかり聴くことが大切である。私語は厳禁とする。				
授業方法	プリントを配り、スライドを写しながら講義・解説する（スライドの撮影は厳禁）。質問があれば、いつでも挙手すること（質疑応答は出席者全員の前で行うので、授業中に質問すること）。小テストの翌週はテストの内容解説も行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	小テストを資料参照不可で6回行う（事務が認める公的理由によるテスト欠席は証明書類の提出で考慮）。受験回数が規定（4回）に達しない場合は採点拒否（E評価）とする。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。プリントを配布し、スライドを写す（スライドの撮影は厳禁）。			
参考書	配布プリントを参考にすること。プリントは履修人数分で用意されるので、それぞれ各人1枚を厳守すること（残部がなくなると、公的理由による欠席者にも配布不可となってしまいます）。				
オフィスアワー	第一部：火曜14:40～16:10（授業時間内に随時質問を受け付ける） 授業講堂にて。 第二部：火曜16:20～17:50（授業時間内に随時質問を受け付ける） 授業講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、内容を確認するとともに、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション（授業の目的・方法、評価方法、授業スケジュール、受講時の注意等）およびイントロダクション
	事後学習	第1回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（質問は第2回の授業時に受けるので、遠慮なく質問すること）。（2時間）
2	事前学習	第1回で配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（特に、プリントに記された「授業計画（授業全体としての「目次」）」を参照）。また、第1回で理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること）。（2時間）
	授業内容	ヒトに至る生物の系譜（1）： ヒトの分類上の位置、各分類群の特徴（動物、脊椎動物）
	事後学習	第2回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。（2時間）
3	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。（2時間）
	授業内容	ヒトに至る生物の系譜（2）： 各分類群の特徴（脊椎動物の中の哺乳類）
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。（2時間）

4	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。（2時間）
	授業内容	ヒトに至る生物の系譜（3）： 霊長類とはどういう哺乳類か 小テスト（出題範囲は第2回・第3回の授業内容）
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。（2時間）
5	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。（2時間）
	授業内容	ヒトの定義
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。（2時間）
6	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。（2時間）
	授業内容	ヒトの特徴（1）： 直立姿勢と二足歩行 小テスト（出題範囲は第4回・第5回の授業内容）
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。（2時間）
7	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。（2時間）
	授業内容	ヒトの特徴（2）： 直立姿勢と二足歩行（続）
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。（2時間）
8	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。（2時間）
	授業内容	ヒトの特徴（3）： 直立姿勢と二足歩行（続）（参考：ヒトは早く立ち上がりすぎた？） 小テスト（出題範囲は第6回・第7回の授業内容）
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。（2時間）
9	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。（2時間）
	授業内容	ヒトの特徴（4）： 文化（文化と身体形質）
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。（2時間）
10	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。（2時間）
	授業内容	ヒトの特徴（5）： 咀嚼器官（咬器、歯と顎）の退化 小テスト（出題範囲は第8回・第9回の授業内容）
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。（2時間）
11	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。（2時間）
	授業内容	ヒトの特徴（6）： 脳の発達（左右差、一側優位性）
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。（2時間）
12	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。（2時間）
	授業内容	ヒトの特徴（7）： 生理的早産（習慣的早産）、成長遅滞 小テスト（出題範囲は第10回・第11回の授業内容）
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。（2時間）
13	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。（2時間）
	授業内容	ヒトの特徴（8）： 無毛性、音声言語
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。（2時間）

14	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。（2時間）
	授業内容	ヒトの特徴（9）： 繁殖期の季節性欠如(周年化)と発情期の非顕現化(長期化) 小テスト（出題範囲は第12回・第13回・第14回の授業内容）
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。（2時間）
15	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。（2時間）
	授業内容	ヒトの特徴（10）： 性差 まとめ
	事後学習	半期の授業を振り返り、これまでの学習内容を確認する。（2時間）

科目名	自然人類学Ⅱ	担当者	松浦 秀治	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	ヒトの進化史を講義する。まず、新生代において霊長類が進化発展していく中で、人類と類人猿がどの様に分岐してきたのかを概観した上で、始原的人類から現生人類に至るヒトのおよそ6百万年間の変遷史を解説する。また、日本列島にはどれくらい古くからヒトが棲んでいたのか、現代の日本人が成立する過程はどのようなであったのかについても考察する。講義は主に化石骨を中心とした古人類学的証拠を基に進めるが、必要に応じて遺伝学的証拠にも言及する。				
授業目的・到達目標	最初の人類はチンパンジーに似ていたわけではない。授業では、人類と類人猿という類型的な捉え方を見直すとともに、初期の人類から現生の人類まで、人類は単に「猿人→原人→旧人→新人」と直線的に進化してきたのではない、ことを把握する。また「日本人」は必ずしも均質ではなく、「日本人種」を定義するのは難しいことを理解する基盤を養成することを目的とする。講義でヒトの起源・進化の基礎を学び、また現生人類の起源に関する近年の考え方を知る。そうした進化史を踏まえた上で、日本人の起源と形成史について考察し、説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1、2、3、4				
履修条件	シラバスやオリエンテーションを通じて授業の概要や評価方法などを理解した上で履修すること。教科書は用いないので、まずは出席し、講義をしっかり聴くことが大切である。私語は厳禁とする。				
授業方法	プリントを配り、スライドを写しながら講義・解説する（スライドの撮影は厳禁）。質問があれば、いつでも挙手すること（質疑応答は出席者全員の前で行うので、授業中に質問すること）。小テストの翌週はテストの内容解説も行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	小テストを資料参照不可で6回行う（事務が認める公的理由によるテスト欠席は証明書類の提出で考慮）。受験回数が規定（4回）に達しない場合は採点拒否（E評価）とする。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。プリントを配布し、スライドを写す（スライドの撮影は厳禁）。			
参考書	配布プリントを参考にすること。プリントは履修人数分で用意されるので、それぞれ各人1枚を厳守すること（残部がなくなると、公的理由による欠席者にも配布不可となってしまいます）。				
オフィスアワー	第一部：火曜14:40～16:10（授業時間内に随時質問を受け付ける） 授業講堂にて。 第二部：火曜16:20～17:50（授業時間内に随時質問を受け付ける） 授業講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、内容を確認するとともに、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション（授業の目的・方法、評価方法、授業スケジュール、受講時の注意等）およびイントロダクション 地質時代の区分－「人類の時代」はいつ？－
	事後学習	第1回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（質問は第2回の授業時に受けるので、遠慮なく質問すること）。（2時間）
2	事前学習	第1回で配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（特に、プリントに記された「授業計画（授業全体としての「目次」）」を参照）。また、第1回で理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること）。（2時間）
	授業内容	現生霊長類（サル類）の分類と類縁関係
	事後学習	第2回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。（2時間）
3	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。（2時間）
	授業内容	新生代前半（古第三紀）における霊長類の進化と発展
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。（2時間）

4	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。（2時間）
	授業内容	中新世におけるヒト上科の展開（類人猿と人類の分岐） 小テスト（出題範囲は第2回・第3回の授業内容）
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。（2時間）
5	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。（2時間）
	授業内容	サルからヒトへ（ホミニゼーション）
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。（2時間）
6	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。（2時間）
	授業内容	鮮新世における猿人の展開　ーホモ Homo 属（humans）の出現へー（1） 小テスト（出題範囲は第4回・第5回の授業内容）
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。（2時間）
7	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。（2時間）
	授業内容	鮮新世における猿人の展開　ーホモ Homo 属（humans）の出現へー（2）
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。（2時間）
8	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。（2時間）
	授業内容	鮮新世における猿人の展開　ーホモ Homo 属（humans）の出現へー（3） （猿人の系統関係の解釈　ーラミダスから原人へ至る系統ー） 小テスト（出題範囲は第6回・第7回の授業内容）
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。（2時間）
9	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。（2時間）
	授業内容	更新世における人類の進化　ー現代人への道ー（1）： 原人（ホモ・エレクトス）
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。（2時間）
10	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。（2時間）
	授業内容	更新世における人類の進化　ー現代人への道ー（2）： 「旧人」（ホモ・ハイデルベルゲンシスとホモ・ネアンデルターレンシス） 小テスト（出題範囲は第8回・第9回の授業内容）
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。（2時間）
11	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。（2時間）
	授業内容	更新世における人類の進化　ー現代人への道ー（3）： 新人（ホモ・サビエンス）ー現生人類の起源問題ー
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。（2時間）
12	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。（2時間）
	授業内容	日本人の起源と形成　ー旧石器時代の日本列島人から現代日本人への系譜ー（1） 小テスト（出題範囲は第10回・第11回の授業内容）
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。（2時間）
13	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおく（授業計画を参照）。また、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。（2時間）
	授業内容	日本人の起源と形成　ー旧石器時代の日本列島人から現代日本人への系譜ー（2）
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。また、小テストへの準備学習をする。（2時間）

14	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。また、小テストへの準備学習を再度行う。（2時間）
	授業内容	日本人の起源と形成　－旧石器時代の日本列島人から現代日本人への系譜－（3） 小テスト（出題範囲は第12回・第13回・第14回の授業内容）
	事後学習	この回の講義内容を復習するとともに、理解できなかった箇所があれば、質問を準備しておく（授業では、前回までの講義内容に関する質問も受けるので、遠慮なく質問すること）。（2時間）
15	事前学習	それまでに配布されたプリントをもとにして、講義内容の全体的な流れをつかんでおくとともに（授業計画を参照）、前回までに理解できなかった箇所があれば、質問を用意しておく（質疑応答は出席者全員に聴いてもらうので、授業時間内に質問すること。前回までの質問は授業開始直後が望ましい）。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	半期の授業を振り返り、これまでの学習内容を確認する。（2時間）

科目名	実践教養A	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	瞑想や精神集中は脳の機能を著しく向上させ、精神疾患にも有効であることなどが科学的に明らかになってきているが、東洋思想では人間を錬成する基礎となる実践とされ、不自然な人間にとって必要なものであるとして紀元前から行われ続けてきているので、これを実践しつつ学んでいきたい。テキストの他に、医者であり呼吸法を指導する人物による科学的効果の説明や、スポーツで一流と言われる人が瞑想などを用いていることも学んでいきたい。			
授業目的・到達目標	瞑想・精神集中を習慣づけることによって、自分の軸、中心を養成することを目的とする。落ち着いて余裕があり達観できる、自然と共に在る「自然体」でいられることを到達目標とする。 なお、本授業では個人発表を行ってもらう。人前での発表は避けたいものだが今後、必須となる能力であるので、この時間を使って慣れてほしいとおもう。関連DP及びCP：総合科目領域1，2，3，4，5，6，7，8			
履修条件	自分のために真剣に行える人に参加してほしい。授業開始時間から精神集中を行うので遅刻しないこと。「いかなる理由」でも4回の欠席で成績が付かない。遅刻・欠席は減点となる。			
授業方法	主に演習形式。個人発表を複数回行ってもらうが、後半の発表は全員、テキスト『氣の呼吸法』を用いる。いずれも質疑応答を行い、レポートを書き提出する。レポートは次回授業開始時に講評する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	真剣に取り組んでいるか、より良い発表ができるように工夫しているか、授業内容を日常に生かしているかを中心とするが中間・期末レポートなどから総合的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2008	幻冬舎	『氣の呼吸法』（幻冬舎文庫）	藤平光一
	備考			
参考書	随時伝達する。			
オフィスアワー	火曜日の09時～10時。ただし必ず事前にメールにて連絡すること。 授業者の大学アドレス tateno.masao@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。（2時間）
	授業内容	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関するルール等について、シラバスに基づき詳細に説明する。参加者はメモを取り、授業者からの発問に答え、レポートを書き、それを提出する。
	事後学習	シラバスと講義ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。（2時間）
2	事前学習	「瞑想」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	参加者は「瞑想」について調べてきたことを発表し、授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
3	事前学習	「精神集中」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は「精神集中」について調べてきたことを発表し、授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
4	事前学習	「呼吸法」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は「呼吸法」について調べてきたことを発表し、授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）

5	事前学習	「マインドフルネス瞑想」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は「マインドフルネス瞑想」について調べてきたことを発表し、授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
6	事前学習	「ヴィパッサナー瞑想」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は「ヴィパッサナー瞑想」について調べてきたことを発表し、授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
7	事前学習	これまでの授業についてさらに調べ、自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に発表し、それについてさらにレポートを書く。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
8	事前学習	「動禅と静禅」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は「動禅と静禅」について調べてきたことを発表し、授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
9	事前学習	「武道と呼吸法」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は「武道と呼吸法」について調べてきたことを発表し、『禅と武道』を元にした授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
10	事前学習	テキスト『氣の呼吸法』「はじめに」と「第1章」を読み、自分に結び付けた見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は書いてきたことを発表し、『氣の呼吸法』「はじめに」と「第1章」についての授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、そこに書かれた実践を行い、レポートを書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
11	事前学習	テキスト『氣の呼吸法』「第2、3章」を読み、自分に結び付けた見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は書いてきたことを発表し、『氣の呼吸法』「第2、3章」についての授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、そこに書かれた実践を行い、レポートを書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
12	事前学習	テキスト『氣の呼吸法』「第4章」を読み、自分に結び付けた見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は書いてきたことを発表し、『氣の呼吸法』「第4章」についての授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、そこに書かれた実践を行い、レポートを書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
13	事前学習	テキスト『氣の呼吸法』「第5章」を読み、自分に結び付けた見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は書いてきたことを発表し、『氣の呼吸法』「第5章」についての授業者の話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、そこに書かれた実践を行い、レポートを書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
14	事前学習	第8回から第13回までのノートを確認し、まとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は授業者による第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
15	事前学習	初回からのノート、授業内レポートすべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は授業者による講義全体のまとめの話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	初回からのノート、授業内レポートを振り返って確認し、要点をまとめる。（2時間）

科目名	実践教養B	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	自己分析が就職活動において行われるようになって20年ほどが経つが、自分を知ることは東洋の思想では紀元前から探究、実践されてきた、人間が生きていく上で基礎となる重要な訓練であった。そこでこの時間は古来からの実践や、現代の様々な方法を行い、自分が成長・進化するためのことを身に付ける実践を行っていきたい。				
授業目的・到達目標	自分を知り、探る実践を行うことによって自分を知り理解し、自ら自分を創ることができる力を養成することを目的とする。自分で自分を進化・成長させ、最適解を選ぶことができ、より生きやすくなることを到達目標とする。人前での発表は緊張するので避けたいものだが、プレゼンテーションは今後、必須の能力となるので、発表を繰り返すことでこの時間を使って慣れていってほしい。関連DP及びCP：総合科目領域1，2，3，4，5，6，7，8				
履修条件	自分のために真剣に行える人に参加してほしい。「いかなる理由」でも4回の欠席で成績が付かない。遅刻しないこと。遅刻・欠席は減点となる。				
授業方法	主に演習形式。個人発表を複数回行ってもらうが、後半の発表は全員、テキスト『氣の呼吸法』を用いる。いずれも質疑応答を行い、レポートを書き提出する。レポートは次回授業開始時に講評する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	真剣に取り組んでいるか、より良い発表ができるように工夫しているか、授業内容を日常に生かしているかを中心とするが中間・期末レポートなどから総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用せず。			
参考書	随時伝達する。				
オフィスアワー	火曜日の09時～10時。ただし必ず事前にメールにて連絡すること。 授業者の大学アドレス tatenom.masao@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。（2時間）
	授業内容	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関するルール等について、シラバスに基づき詳細に説明する。参加者はメモを取り、授業者からの発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	シラバスと講義ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。（2時間）
2	事前学習	「自分を知る」ということに関して、西洋で言われてきたことをノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	参加者は調べてきたことを発表し、授業者による「自分を知る」ことに関する西洋の先人たちの話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
3	事前学習	「自分を知る」ということに関して、東洋で言われてきたことをノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は調べてきたことを発表し、授業者による「自分を知る」ことに関する東洋の先人たちの話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
4	事前学習	自分はどのような人かについて考え、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は調べてきたことを発表し、授業者による「自分を知る」ことに関する話を聞き、メモを取り、授業者から提示されたテストを行い、レポートを書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）

5	事前学習	「ヴィパッサナー瞑想」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は「ヴィパッサナー瞑想」について調べてきたことを発表し、実践を行い、授業者の話聞き、それをメモし、授業者からの発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
6	事前学習	仏教の「身調べ」と「内観」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は「身調べ」と「内観」について調べてきたことを発表し、実践を行い、授業者の話聞き、それをメモし、授業者からの発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
7	事前学習	これまでの授業についてさらに調べ、自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	参加者は第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に発表し、それについてさらにレポートを書く。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
8	事前学習	「マインドフルネス瞑想」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は「マインドフルネス瞑想」について調べてきたことを発表し、実践を行い、授業者の話聞き、それをメモし、授業者からの発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
9	事前学習	「就職活動での自己分析」について調べ、その方法をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は調べてきた「就職活動での自己分析」を紹介し、行い、レポートを書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
10	事前学習	「自分を知るテスト」が書かれた書籍を1冊選び、そこで紹介されている内容をまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は自分が選んだ書籍の内容を紹介し、そこに説かれているテストを参加者全員で行い、レポートを書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
11	事前学習	「自分を知る方法」が書かれた書籍を1冊選び、そこで紹介されている内容をまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は自分が選んだ書籍の内容を紹介し、そこに説かれている方法を参加者全員で行い、レポートを書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
12	事前学習	「自分を観察する方法」が書かれた書籍を1冊選び、そこで紹介されている内容をまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は自分が選んだ書籍の内容を紹介し、そこに説かれている方法を参加者全員で行い、レポートを書き、発表し、それを提出する。
	事後学習	講義ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
13	事前学習	自分の日常を観察し、そこから分かった自分についてをノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は書いてきたことを発表し、授業者の話聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
14	事前学習	第8回から第13回までのノートを確認し、まとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
15	事前学習	初回からのノート、授業内レポートすべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は講義全体のまとめの話を聞き、メモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	初回からのノート、授業内レポートを振り返って確認し、要点をまとめる。（2時間）

科目名	社会学Ⅰ	担当者	常松 淳	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、社会学の基本的な方法と知見について学習する。前期開講の「社会学I」では、社会学の概要とともに、社会についてのデータを収集する方法（社会調査法）を中心に学ぶ。					
授業目的・到達目標	経験科学としての社会学にとって、社会に関するデータを妥当な仕方で収集することは中心的な課題である。この授業の目的は、社会学の概略を知るとともに、社会データの集め方（社会調査の方法）を学習することである。受講生が、社会学のアプローチについて理解し、社会データの集め方と分析の仕方を自ら説明できるようになることを目標とする。対応DP・CP：総合科目（1，2，3，6）					
履修条件	特になし。					
授業方法	資料を利用した講義形式（ただし、受講者数がごく少ない場合は授業方法を変更する可能性がある）。資料はファイルサーバにアップロードしておくので、事前に各自で用意しておくこと。試験については授業内で講評を与える。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業参加度と授業内試験で、基礎的な知識と考え方が修得できているかを判断する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	指定しない。				
参考書	マシュー・サルガニック『ビット・バイ・ビット——デジタル社会調査入門』（有斐閣，2019.4刊行予定）のほか、授業の中で適宜紹介する。					
オフィスアワー	木曜12:20-12:50（本館6階1611号室）必ず事前にメールで問い合わせること。 メールアドレス：tsunematsu.jun@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通して、自分の問題関心を整理しておく（2時間）。
	授業内容	イントロダクション：講義の概要、授業の進め方、扱うトピック、評価方法等について説明する。
	事後学習	講義の概要を振り返り、学習予定を立てる（2時間）。
2	事前学習	講義資料をダウンロードし、目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	社会学とは何か：社会学の歴史，その対象と方法の拡がり，社会的データの必要性
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたか確認する（2時間）。
3	事前学習	講義資料をダウンロードし、目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	個人と社会：個人，社会的行為，合理的選択，社会秩序，社会的ジレンマ，社会制度
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたか確認する（2時間）。
4	事前学習	講義資料をダウンロードし、目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	デジタル時代の社会調査（1）：デジタル化されたデータ収集の拡がり
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたか確認する（2時間）。

5	事前学習	講義資料をダウンロードし、目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	デジタル時代の社会調査（2）：行動の観察、ビッグデータ
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたか確認する（2時間）。
6	事前学習	講義資料をダウンロードし、目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	デジタル時代の社会調査（3）：社会科学における実験
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたか確認する（2時間）。
7	事前学習	講義資料をダウンロードし、目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	デジタル時代の社会調査（4）：調査倫理の問題
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたか確認する（2時間）。
8	事前学習	講義資料をダウンロードし、目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	量的調査と質的調査：サーヴェイ、フィールドワーク、聞き取り、参与観察
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたか確認する（2時間）。
9	事前学習	講義資料をダウンロードし、目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	サーヴェイの方法：サンプリングの意義と限界、調査票をどう作るか
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたか確認する（2時間）。
10	事前学習	講義資料をダウンロードし、目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	量的な社会データの読み方（1）：度数分布表、ヒストグラム、平均、中央値、最頻値
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたか確認する（2時間）。
11	事前学習	講義資料をダウンロードし、目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	量的な社会データの読み方（2）：分散と標準偏差
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたか確認する（2時間）。
12	事前学習	講義資料をダウンロードし、目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	量的な社会データの読み方（3）：クロス集計表、散布図、相関係数
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたか確認する（2時間）。
13	事前学習	講義資料をダウンロードし、目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	質的調査の方法と事例：フィールドワーク、参与観察の諸事例
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたか確認する（2時間）。
14	事前学習	これまでの資料と授業を振り返り、試験に備える（2時間）。
	授業内容	まとめと授業内試験
	事後学習	自分の答案を振り返っておく（2時間）。
15	事前学習	試験と授業全体についての疑問点などを整理しておく（2時間）。
	授業内容	試験の解説と講評
	事後学習	講義全体を振り返り、自分なりの観点をまとめる（2時間）。

科目名	社会学 I	担当者	仲川 秀樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	地域社会の問題を社会学から考える。社会学における地域社会とは何か、都市と地域の関係、地方の時代、地域活性化のための取り組みなどを理解するための前提を社会学的方法論から考える。本講義では、地域社会の再生に向けた視点として、ポピュラーカルチャーやメディア文化の視点からの具体的事例を紹介しながら、その重要性を学びとっていく。				
授業目的・到達目標	社会学という学問の意味を説明し、社会的な考え方を育成することを目的とする。社会学は家族という小集団から、近隣社会、学校、企業、国家国民社会へと展開する学問である。そこには人間関係、人びとの動機が存在して、社会を構成している。社会学の基本的性格を理解し、各領域を個別テーマにすることで、その社会全体を理解することが可能となる。本講義では、とくに地域社会にかかわる問題を中心に、地方の時代に応え、地域活性化を実践するために必要な考え方を身につけられることを目標としたい。 関連DP及びCP：総合科目1, 2, 3, 6				
履修条件	とくにありません。				
授業方法	講義を中心に社会学の世界を探っていく。教科書中心の授業、教科書の具体的事例などに関し、資料や映像なども使用しながら進めていく。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	授業の理解を図るための筆記試験を実施する。筆記試験は、中間試験と期末試験を実施、評価の対象とする。	
	平常評価		30%	状況に応じて小レポートなどを実施、講義の理解に努める。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2006	学文社		もう一つの地域社会論―酒田大火30年、「メディア文化の街」ふたたび	仲川秀樹
	備考				
参考書	必要に応じて授業中に指示します。				
オフィスアワー	月曜1限、授業前後、授業講堂にて。 授業中に詳細を指示します。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業内容の確認として、シラバスを読んでおいてください。社会学という学問と、地域社会を知るために、教科書の序文を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	授業の内容、授業の進め方、試験・成績評価などの説明をします。教科書や参考文献の説明など、授業の準備について説明します。
	事後学習	授業の進め方とシラバスを再点検し、教科書の序文を再読してください。（2時間）
2	事前学習	社会学という学問の理解と、メディア文化の関係を教科書、第1章の序文からよみとってください。（2時間）
	授業内容	社会学とメディア文化の関係
	事後学習	授業内容と教科書の該当部分から理解を深めてください。（2時間）
3	事前学習	地域社会の特徴を、教科書第1章の1からよみとってください。（2時間）
	授業内容	メディア文化が根ざしたフィールド
	事後学習	授業内容と教科書の該当部分から理解を深めてください。（2時間）
4	事前学習	地域社会に根差した洋画専門館について、教科書第1章の2から内容をよみとってください。（2時間）
	授業内容	洋画専門館「グリーン・ハウス」
	事後学習	授業内容と教科書の該当部分から理解を深めてください。（2時間）

5	事前学習	メディア環境の意味を、教科書第1章の3からよみとってください。（2時間）
	授業内容	大都市と地方都市のメディア環境
	事後学習	授業内容と教科書の該当部分から理解を深めてください。（2時間）
6	事前学習	1970年代の時代背景の特質を教科書第1章の4からよみとってください。（2時間）
	授業内容	1970年代のメディア文化
	事後学習	授業内容と教科書の該当部分から理解を深めてください。（2時間）
7	事前学習	酒田大火の歴史を教科書第2章の1と2からよみとってください。（2時間）
	授業内容	地方都市のメディア文化の消失
	事後学習	酒田大火によって街はどのように変貌したのかを自分なりに考えてください。（2時間）
8	事前学習	地方都市のモータリゼーションがもたらした状況を、教科書第2章の3からよみとってください。（2時間）
	授業内容	中心市街地から郊外型社会へ
	事後学習	中心市街地の衰退の意味を、郊外型店舗登場との関係からまとめてください。（2時間）
9	事前学習	地方都市活性化の取り組みを、教科書第3書の1から事前に学習してください。（2時間）
	授業内容	地域活性化へ向けた取り組みとしてのメディア文化的プロジェクト
	事後学習	メディア文化的プロジェクトが若者に浸透した事例を講義ノートから振り返ってください。（2時間）
10	事前学習	地方アイドル登場の社会的背景を教科書第3書の2からよみとってください。（2時間）
	授業内容	地方アイドルによるまちおこしプロジェクト
	事後学習	地方アイドル登場によって街がどのように変化するのか、教科書講義ノートから予測してください。（2時間）
11	事前学習	地方アイドルが商店街活性化に与えて影響を教科書第3章の3からよみとってください。（2時間）
	授業内容	商店街発アイドル誕生
	事後学習	商店街はどのように発展するのか、商店街アイドルの実態を振り返ってください。（2時間）
12	事前学習	商店街の活性化から、商店街の進化の過程を、教科書第4章の1から探ってください。（2時間）
	授業内容	商店街の進化
	事後学習	郊外に比較し、衰退続ける商店街に、進化の可能性とは何か、講義ノートから振り返ってください。（2時間）
13	事前学習	メディア文化の街の象徴として君臨していた洋画専門館を教科書第1章の2から再考してください。（2時間）
	授業内容	洋画専門館「グリーン・ハウス」と「世界一と言われた映画館」ロードショー公開
	事後学習	ドキュメンタリー映画になった地方都市の洋画専門館が果たした役割を講義から振り返ってください。（2時間）
14	事前学習	地域社会のメディア文化的プロジェクト、「地方アイドル」「洋画専門館」の事実を再考してください。（2時間）
	授業内容	メディア文化の街のゆくえ
	事後学習	社会学的思考による地域社会の分析をこれまでの講義、実践的な取り組みから総括してください。（2時間）
15	事前学習	本講義のノートと教科書で履修した部分を振り返ってください。（2時間）
	授業内容	「社会学1」講義の総括、振り返り
	事後学習	教科書と講義用ノートから、社会学における地域社会の意義をまとめてください。（2時間）

科目名	社会学Ⅰ	担当者	中村 英代	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「社会学Ⅰ」の受講生には、初めて社会学を学ぶ方も多いと思います。まずは、私たちにとって身近な問題から、社会学の考え方や言葉に馴染んでいただきたいと思います。 本講義では現代社会を生きる私たちが抱えるさまざまな「生きづらさ」を取り上げ、そうした苦しさが生まれる社会環境を理解しつつ、そこからの解放について社会学の観点から考えていきます。			
授業目的・到達目標	社会学の基礎的な用語をマスターすることを目的とし、社会で起こっている出来事や自分の身のまわりで起こる現象を社会的に理解し説明できること、社会学で学んだことを、自分自身の生活のなかで実践できること、ひとつの現象に対して、多様な見方があることを理解し説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目1, 2, 3, 6			
履修条件	他の受講生が静かに、集中して講義を受けることを妨げない方。ガイダンスでは、本講義で何が学べるのか、学ぶことで何が得られるのか、受講生は半期で何をどの程度習得できるかについて説明します。			
授業方法	指定テキストを用い、板書による説明を中心とした講義形式で行います。講義内容への理解を深めるために、視聴覚作品(DVD)も鑑賞します。レスポンスカードでの質問等には、次週の講義の冒頭でフィードバックを実施します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	テストは、用語問題と論述問題です。	
	平常評価	20%	授業後に提出するレスポンスカードで評価します。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	新曜社	『社会学ドリルーこの理不尽な世界の片隅で』(¥1,900+税)	中村 英代
	備考	初回ガイダンスではテキスト(教科書)は使いません。テキストはガイダンスを聞いて受講を決めた後に購入して下さい。本講義では毎週必ず指定テキストを使います。第2回目から毎週必ずテキストを持参して下さい。		
参考書	指定テキストの各章にブックガイドがあります。時間外学習の指針として下さい。			
オフィスアワー	質問等は金曜2限、講義の前の時間に受けつけます。授業講堂にて。 履修の際には、担当教員のウェブサイトも参考にして下さい。 http://www.hideyonakamura.com			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。(2時間)
	授業内容	ガイダンス&イントロダクション：社会学とはどのような学問なのか
	事後学習	身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。(2時間)
2	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。(2時間)
	授業内容	現代の就労(1)：非正規雇用とワーキングプア
	事後学習	前回の講義の復習。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。(2時間)
3	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。(2時間)
	授業内容	現代の就労(2)：格差の何が問題なのか
	事後学習	前回の講義の復習。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。(2時間)
4	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。(2時間)
	授業内容	貧困と格差(1)：資本主義社会を理解する
	事後学習	前回の講義の復習。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。(2時間)

5	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	貧困と格差（2）：現代の貧困
	事後学習	前回の講義の復習。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。（2時間）
6	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	恋愛と結婚（1）：恋愛と結婚はどのような関係にあるのか
	事後学習	前回の講義の復習。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。（2時間）
7	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	恋愛と結婚（2）：データからみる現代の結婚
	事後学習	前回の講義の復習。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。（2時間）
8	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	ジェンダー論（1）：「男らしさ／女らしさ」と生きづらさ
	事後学習	前回の講義の復習。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。（2時間）
9	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	ジェンダー論（2）：「とり乱し」の思想を理解する
	事後学習	前回の講義の復習。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。（2時間）
10	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	関係性と暴力（1）：ドメスティックバイオレンスを理解する
	事後学習	前回の講義の復習。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。（2時間）
11	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	関係性と暴力（2）：ドメスティックバイオレンスに対処する
	事後学習	前回の講義の復習。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。（2時間）
12	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	依存症の社会学（1）：生き延びるための依存
	事後学習	前回の講義の復習。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。（2時間）
13	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	依存症の社会学（2）：セルフヘルプグループとは何か
	事後学習	前回の講義の復習。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。（2時間）
14	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	依存症の社会学（3）：「もっと、もっと」という欲望と社会環境
	事後学習	前回の講義の復習。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。（2時間）
15	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	レポートの書き方：面白いレポートはなぜ、どのように面白いのか 振り返り、解説
	事後学習	前回の講義の復習。身近な出来事や社会現象を、講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象について理解を深める。（2時間）

科目名	社会学Ⅰ	担当者	服部 慶巨	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	我々は、「社会」とのかかわりの中で「人間らしさ」を身に付ける。つまり、「社会とのかかわりを拒否してしまえば自由な人間になれる」ということは有り得ない。 この講義では、「人間」としての評価を落とさずに生きていくために必要とされる「社会学的想像力」を通して、日常生活の様々な場面を分析する。			
授業目的・到達目標	人間は、独りで生きてゆくことの出来ない弱い存在である。故に、共同生活を営む者（仲間）が必要不可欠となる。よって、社会生活は（必ずしも）自分の思い通りにゆくものではない。このような現実を、理論的・実践的に理解する視点を養成することを目的とする。 また、「大学で学んだことは、日常で役に立たない」という声を聞くが、そんな疑問と対峙しつつ、学問が日常生活と密接に関わっていることを理解し、社会学的な視点を身につけることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1， 2， 3， 6			
履修条件	特になし。ただし、「社会学Ⅱ」も継続履修することが望ましい。			
授業方法	受講生自身も陥りがちな（問題）行動を例示し、講義する。パワーポイント・テキスト類・プリント・視聴覚資料などを理解の助けとする。定期試験の解説を後日、担当者のサイトで配信する予定。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		70%	講義内容をどの程度理解したか、どの程度自分の日常に活かしているのかを確認する。
	平 常 評 価		30%	授業参画度（20%）、レポート類（10%）で評価する予定。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	初回授業内で指示する。		
参 考 書	追って指示する。なお、講義で使用するプリントは、事前にサーバからダウンロードしてもらうことになる（詳細は、初回の講義で説明する予定）。			
オフィスアワー	木曜日（12:20～13:00）に授業講堂にて、または、hattori.yoshinobu11@nihon-u.ac.jpにて質問・相談を受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んで、講義の目的・目標を理解する。（2時間）
	授業内容	前期ガイダンス 講義の方針、展開方法、目標などを確認する。
	事後学習	テキストを入手し、「プロローグ」に目を通しておく。（2時間）
2	事前学習	前回の講義内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	状況（情況）判断① 疑似環境、状況（情況）的影響について。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）
3	事前学習	前回までの講義内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	状況（情況）判断② レディネス（readiness）の重要性について。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）
4	事前学習	これまでの講義内容をふまえて、「日常生活」について説明できるようにしておく。（2時間）
	授業内容	社会（学）とは何か？ 社会学の研究対象である「社会」について、その構造と機能を理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）

5	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	社会的動物としての人間① 現代人にとって欠如傾向にある福祉的観点（Double Happiness）を理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）
6	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	社会的動物としての人間② 人間が他の哺乳動物と異なる点について考察する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）
7	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	人間関係の諸相と構造① 人間とヒトの違いについて理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）
8	事前学習	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	人間関係の諸相と構造② 人間（Human Being）の本質について考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）
9	事前学習	区分7～8の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	人間関係の諸相と構造③ パーソナリティ（personality）の形成要因について考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）
10	事前学習	区分7～9の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	人間関係の諸相と構造④ 人間関係における地位（status）について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）
11	事前学習	区分7～10の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	人間関係の諸相と構造⑤ 人間関係における役割（role）について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）
12	事前学習	区分7～11の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	人間関係の諸相と構造⑥ 地位を性質的に分類する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）
13	事前学習	区分7～12の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	人間関係の諸相と構造⑦ 構造的地位としての「アイドル」（idol）について考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）
14	事前学習	区分7～13の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	人間関係の諸相と構造⑧ 県民性 構造的役割と対人的役割および生得的役割としての「性差」について考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	「社会学Ⅰ」まとめ ここまでの解説内容を、実際に知識・技術に結びつけられたかどうか確認する。
	事後学習	定期試験に向けて、これまでの講義内容を復習しておく。（2時間）

科目名	社会学Ⅱ	担当者	常松 淳	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、社会学の基本的な方法と知見について、日本社会の現状を中心に学ぶ。後期開講の「社会学II」では、現代社会の成り立ち・仕組みを捉える上で重要な観点・トピックを幾つか取り上げ、日本社会のデータを参照しながら、社会を分析的に理解するための方法を解説する。				
授業目的・到達目標	複雑な現代社会の成り立ちや仕組みを理解するには、社会の様々な事象について学ぶと同時に、それらが互いにどう関連し合っているかを把握する必要がある。この授業の目的は、社会的な観点から社会を見る能力を習得することにある。受講した学生が自らの生きる社会について分析的に理解し、データに基づいて現状を正確に把握し、その課題について議論する能力を身につけることが目標である。対応DP・CP：総合科目（1, 2, 3, 6）				
履修条件	特になし。				
授業方法	資料を利用した講義形式（ただし、受講者数がごく少ない場合は授業方法を変更する可能性がある）。資料はファイルサーバにアップロードしておくので、事前に各自で用意しておくこと。学期の終わりに授業内試験と講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加度と授業内試験で、基礎的な社会的知識と考え方が修得できているかを判断する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	指定しない。			
参考書	授業の中で適宜紹介する。				
オフィスアワー	木曜12:20-12:50（本館6階1611号室）必ず事前にメールで問い合わせること。 メールアドレス：tsunematsu.jun@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通して、自分の問題関心を整理しておく（2時間）。
	授業内容	イントロダクション：講義の概要、授業の進め方、取り上げるトピック等について
	事後学習	資料と講義の内容を見直し、学習計画を立てる（2時間）。
2	事前学習	資料に目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	ジェンダー：sexとgender、性差、性役割、性差別
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたかを確認する（2時間）。
3	事前学習	資料に目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	エスニシティ：raceとethnicity、レイシズム、日本のエスニック・マイノリティ
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたかを確認する（2時間）。
4	事前学習	資料に目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	家族（1）：現代日本の「少子化問題」、未婚化と晩婚化
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたかを確認する（2時間）。

5	事前学習	資料に目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	家族（2）：近代家族、性別役割分業、戦後日本の家族像
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたかを確認する（2時間）。
6	事前学習	資料に目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	権力と支配（1）：権力、支配の三類型、官僚制
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたかを確認する（2時間）。
7	事前学習	資料に目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	権力と支配（2）：権威への服従、アイヒマン裁判、ミルグラム実験
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたかを確認する（2時間）。
8	事前学習	資料に目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	社会における法（1）：法の社会的役割、日本人の法行動
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたかを確認する（2時間）。
9	事前学習	資料に目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	社会における法（2）：日本人の「法意識」論、司法制度改革
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたかを確認する（2時間）。
10	事前学習	資料に目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	働き方の変化と消費社会（1）：日本的経営の変容、非正規雇用の拡大、外国人労働者
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたかを確認する（2時間）。
11	事前学習	資料に目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	働き方の変化と消費社会（2）：「誇示的消費」、消費社会、環境問題
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたかを確認する（2時間）。
12	事前学習	資料に目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	教育と社会階層（1）：メリトクラシー、学歴主義、機会の平等
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたかを確認する（2時間）。
13	事前学習	資料に目を通して、疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	教育と社会階層（2）：現代日本の社会階層、世代間社会移動
	事後学習	資料と講義の内容を復習し、疑問点が解消されたかを確認する（2時間）。
14	事前学習	これまでの授業を振り返り、試験の準備をする（2時間）。
	授業内容	まとめと授業内試験
	事後学習	自分の答案を振り返っておく（2時間）。
15	事前学習	試験と講義全体について疑問点を整理しておく（2時間）。
	授業内容	試験の解説と講評
	事後学習	講義全体を見直し、自分なりの観点をまとめる（2時間）。

科目名	社会学Ⅱ	担当者	仲川 秀樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	社会学Ⅱでは、地域社会衰退の問題を解決するための実践的な取り組みを論じてみる。地方都市の中心市街地にあるシンボルの存在をローカル百貨店におき、そこをめぐる人びとの集まりを考えてみたい。本講義では、地方都市の衰退を阻止するために有効な方法をメディア文化のスタイルに求め、子どもから若者、大人たちが集う中心市街とのシンボルを実証研究をベースに論じてみる。地方活性化の役割を、講義と実証結果から明らかにしていきたい。				
授業目的・到達目標	地方都市の活性化には何が必要か、どのような取り組みをするべきであるか。これまで行政機関や商店街が取り組んできたコンテンツに、社会学の視点から、メディア文化的手法を用い、より実践的な手法を身につけることを目標とする。人が集まる空間には、メディア環境の充実が不可欠である。ポピュラーカルチャーによるイベント会場、さまざまな催しものを、実施するエリアとはどこか、大都市と異なり地方都市でそのイベントを実施する空間をローカル百貨店に求めながら、どのような取り組みをすることで、地方都市の衰退を阻止できるか、その方策を明らかにできるようになることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目1, 2, 3, 6				
履修条件	とくにありません。				
授業方法	教科書の内容に沿いながら、講義中心に進める。講義では、基礎的な思考から、実証研究の成果を分析し、地方都市のまちおこしや、地域活性化、地方再生の道をメディア文化とポピュラーカルチャーの取り組みから探ってみる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	筆記による中間試験と期末試験を実施する。成績評価の基準とする。	
	平常評価		30%	授業中における数回の小レポートなどを参考にする。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2012	学文社		コンパクトシティと百貨店の社会学	仲川秀樹
	備考				
参考書	必要に応じて授業中に指示します				
オフィスアワー	月曜1限、授業前後、授業講堂にて。 授業中に詳細を指示します。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容をよく読んでください。教科書の序文を読み、授業の導入に役立ててください。（2時間）
	授業内容	社会学Ⅱの進め方。授業内容の確認、シラバスの要点、成績評価などについて説明し、確認します。
	事後学習	教科書の序文から、目次全体を把握し、次回の講義の要点を確認してください。（2時間）
2	事前学習	教科書の序文にある、中心市街地の研究過程をよみとってください。（2時間）
	授業内容	中心市街地の研究
	事後学習	社会学における中心市街地研究の特徴を、講義ノートから理解を深めてください。（2時間）
3	事前学習	教科書第1章の、社会学から考えるコンパクトシティを事前によんでください。（2時間）
	授業内容	コンパクトシティの必要性
	事後学習	講義ノートと教科書から基本知識を整理してください。（2時間）
4	事前学習	教科書第1章の、コンパクトシティのシステム問題を事前に読んでください。（2時間）
	授業内容	コンパクトシティの問題
	事後学習	講義ノートと教科書から基本知識を整理してください。（2時間）

5	事前学習	教科書第2章の、中心市街地のシンボルを事前に読んでください。（2時間）
	授業内容	中心市街地のシンボル
	事後学習	講義ノートと教科書から基本知識を整理してください。（2時間）
6	事前学習	教科書第2章の、中心市街地と百貨店を事前に読んでください。（2時間）
	授業内容	ローカル百貨店の存在
	事後学習	講義ノートと教科書から基本知識を整理してください。（2時間）
7	事前学習	ローカル百貨店の必要性を、教科書第2章からよみとってください。（2時間）
	授業内容	ローカル百貨店のメディア環境構築
	事後学習	講義ノートと教科書から基本知識を整理してください。（2時間）
8	事前学習	教科書第3章の、調査結果を読んでください。（2時間）
	授業内容	百貨店のあり方—大学生調査1—
	事後学習	調査内容をカテゴリーごとに理解するようつとめてください。（2時間）
9	事前学習	教科書第3章の、調査結果を読んでください。（2時間）
	授業内容	百貨店のあり方—大学生調査2—
	事後学習	調査内容をカテゴリーごとに理解するようつとめてください。（2時間）
10	事前学習	教科書第3章の、実践例を読んでください。（2時間）
	授業内容	ポピュラーカルチャー的空間の構築
	事後学習	ポピュラーカルチャーとエンタテインメントの関係を振り返ってください。（2時間）
11	事前学習	教科書第3章の、実践例を読んでください。（2時間）
	授業内容	ポピュラーカルチャー的イベントの取り組み
	事後学習	ポピュラーカルチャーとエンタテインメントの関係を振り返ってください。（2時間）
12	事前学習	教科書第4章の百貨店の、重要性和メディア環境の構築を読んでください。（2時間）
	授業内容	地方都市におけるローカル百貨店と若者の居場所
	事後学習	自分たちが考えるメディア環境を講義ノートから整理してください。（2時間）
13	事前学習	教科書第6章の、学生たちのレポートを読んでください。（2時間）
	授業内容	中心市街地シンボルと人が集まる空間
	事後学習	自分たちが考える人が集まる空間を講義ノートから整理してください。（2時間）
14	事前学習	地域社会を再考するために必要なコンパクトシティ構想と百貨店の役割を教科書から再考してください。（2時間）
	授業内容	コンパクトシティとローカル百貨店にみる地方再生
	事後学習	社会学の実証研究としてのフィールドワークの意味を理解するようつとめてください。（2時間）
15	事前学習	社会学Ⅱでは、実証研究の重要性をあつかいました。その対象をあらためて整理してください。（2時間）
	授業内容	社会学Ⅱの総括、振り返り
	事後学習	基礎研究から実証研究、そして実践的な取り組みにある、社会学的方法論の理解につとめてください。（2時間）

科目名	社会学Ⅱ	担当者	中村 英代	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「社会学Ⅱ」では、現代社会の生きづらさをテーマに、社会学を学んでいきます。私たちが抱えるさまざまな「生きづらさ」を取り上げ、そうした苦しさが生まれる社会環境を理解しつつ、そこからの解放について社会学の観点から考えていきます。本講義では、社会現象を社会学の理論とも関連づけながら学んでいきますが、社会学の理論といっても、それは私たちの日々の生活と密接に関係していることばかりです。					
授業目的・到達目標	社会学の基礎的な用語をマスターすることを目的とし、社会で起こっている出来事や自分の身のまわりで起こる現象を社会的に理解し、他者に対して説明できること、社会学で学んだことを、自分自身の生活のなかで実践できること、ひとつの現象に対して、多様な見方があることを理解し説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目1, 2, 3, 6					
履修条件	他の受講生が静かに、集中して講義を受けることを妨げない方。担当教員による「社会学Ⅰ」を受講していると望ましいですが、「社会学Ⅰ」を受講していなくても問題のないように、講義を進めます。					
授業方法	指定テキストを用い、板書による説明を中心とした講義形式で行います。講義内容への理解を深めるために、視聴覚作品（DVD）も鑑賞します。レスポンスカードでの質問等には、次週の講義の冒頭でフィードバックを実施します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		80%		テストは、用語問題と論述問題です。	
	平常評価		20%		授業後に提出するレスポンスカードで評価します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017年	新曜社		『社会学ドリルー—この理不尽な世界の片隅で』（¥1,900＋税）		中村 英代
	備考	初回ガイダンスではテキスト（教科書）は使いません。テキストはガイダンスを聞いて受講を決めた後に購入して下さい。本講義では毎週必ず指定テキストを使います。第2回目からは毎週必ずテキストを持参して下さい。				
参考書	指定テキストの各章にブックガイドがあります。時間外学習の指針として下さい。					
オフィスアワー	質問等は金曜2限、講義の前の時間に受けつけます。 担当教員のウェヴサイトも参考にして下さい。 http://www.hideyonakamura.com					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス&イントロダクション：社会学Ⅱで何を学ぶか
	事後学習	身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。（2時間）
2	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	権力論（1）：犯罪と逸脱
	事後学習	身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。（2時間）
3	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	権力論（2）：権力はいたるところに
	事後学習	身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。（2時間）
4	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	儀礼と自己（1）：礼儀作法は身を守る？
	事後学習	身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。

5	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	儀礼と自己（2）：変えられる自己と変えられない自己
	事後学習	身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。（2時間）
6	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	過食症と拒食症（1）：ダイエットをするとどうなるのか？
	事後学習	身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。（2時間）
7	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	過食症と拒食症（2）：回復・承認・自己受容
	事後学習	身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。（2時間）
8	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	自殺論（1）：データから理解する現代の自殺
	事後学習	身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。（2時間）
9	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	自殺論（2）：自殺希少地帯での人々に人間関係とは？
	事後学習	身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。（2時間）
10	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	医療の社会学（1）：私たちはどのような医療を受けているのか
	事後学習	身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。（2時間）
11	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	医療の社会学（2）：医療化する社会
	事後学習	身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。（2時間）
12	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	犯罪と逸脱（1）：逸脱行動の理論の歴史
	事後学習	身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。（2時間）
13	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	犯罪と逸脱（2）：犯罪をとりまく社会環境
	事後学習	身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。（2時間）
14	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	構築主義と心理療法（1）：「問題志向」・「解決志向」・「解消志向」
	事後学習	身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。（2時間）
15	事前学習	講義で扱うトピックについての知識をニュース、新聞、書籍などで得ておく。（2時間）
	授業内容	構築主義と心理療法（2）：ナラティブ・アプローチを理解する 振り返り、解説
	事後学習	身近な出来事や社会現象を講義で学んだ知識を用いてとらえなおす。ブックガイドを指針として講義で取り上げた現象についての理解を深める。（2時間）

科目名	社会学Ⅱ	担当者	服部 慶巨	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	我々は、「社会」とのかかわりの中で「人間らしさ」を身に付ける。つまり、「社会とのかかわりを拒否してしまえば自由な人間になれる」ということは有り得ない。 「人間」としての評価を落とさずに生きていくために必要とされる「社会学的想像力」を通して、日常生活の様々な場面を分析する。			
授業目的・到達目標	人間は独りで生きてゆくことの出来ない弱い存在であるが故に、社会生活の中で我々は様々な「問題」と遭遇する。本講義では、「問題行動」の発生要因を知り、それらの解決方法や防衛方法を社会学的に理解する視点を養成することを目的とする。 また、「大学で学んだことは、日常で役に立たない」という声を聞くが、そんな疑問と対峙しつつ、学問が日常生活と密接に関わっていることを理解し、社会学的な視点を身につけることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 6			
履修条件	特にないが、同一担当者による「社会学Ⅰ」を履修していることが望ましい。			
授業方法	受講生自身も陥りがちな（問題）行動を例示し、講義する。パワーポイント・テキスト類・プリント・視聴覚資料などを理解の助けとする。定期試験の解説を後日、担当者のサイトで配信する予定。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	70%	講義内容をどの程度理解したか、どの程度自分の日常に活かしているのかを確認する。	
	平常評価	30%	授業参画度（20%）、レポート類（10%）で評価する予定。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	初回授業内で指示する。なお、「社会学Ⅰ」履修者は、同一教科書を使用する。		
参考書	追って指示する。なお、講義で使用するプリントは、事前にサーバからダウンロードしてもらうことになる（詳細は、初回の講義で説明する予定）。			
オフィスアワー	木曜日（12:20～13:00）に授業講堂にて、または、hattori.yoshinobu1@nihon-u.ac.jpにて質問・相談を受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	「社会学Ⅱ」から履修を開始する学生は、シラバスを読んで講義の目的・目標を理解する。 「社会学Ⅰ」からの継続履修学生は、これまでの講義内容をテキストやノート、資料を読んで復習しておく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 講義の方針、展開方法、目標などを確認する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。なお、「社会学Ⅱ」から履修を開始する学生は、テキストを入手して「プロローグ」に目を通しておく。（2時間）
2	事前学習	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	問題行動の根源① 「問題行動」をとらえる際の留意点について考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。（2時間）
3	事前学習	前回までの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	問題行動の根源② 「行為」と「行動」の性質の違いについて理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。（2時間）
4	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	視聴覚機器による問題行動の理解① 韓国で放送された日本のアニメーションがどのように編集されるのか、映像を通して確認する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。（2時間）

5	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	視聴覚機器による問題行動の理解② 韓国で放送された日本のアニメ主題曲がどのように編集されるのか、映像を通して確認する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。（2時間）
6	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	問題行動の根源③ 「罪」の定義および構造について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。（2時間）
7	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	問題行動の根源④ 「罪」と「超自我」の関係性について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。（2時間）
8	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	問題行動の根源⑤ アノミー（anomie）現象について、実例を上げて説明する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。（2時間）
9	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	問題行動の誤対処① 現代社会における「人生縮小化」傾向について考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。（2時間）
10	事前学習	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	問題行動の誤対処② 「問題」に直面した時に起こり得る「リセット願望」と「リロード願望」について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。（2時間）
11	事前学習	区分9～10の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	問題行動の誤対処③ 人間の本能的反応としての「防衛機制」について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。（2時間）
12	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	「正義」の含意① 日本人の発想（一元論、二元論、多元論）と「正義」の関係性を考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）
13	事前学習	区分12の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	「正義」の含意② 日本人の精神的根幹である「私」（わたくし）について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）
14	事前学習	区分12～13の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	「正義」の含意③ 「正義」の定義および性質について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	「社会学Ⅱ」まとめ ここまでの解説内容を、実際に知識・技術に結びつけられたかどうか確認する。
	事後学習	定期試験に向けて、これまでの講義内容を復習しておく。（2時間）

科目名	社会思想の歴史Ⅰ	担当者	川本 隆	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	現代は、ヒト、モノ、カネ、情報が、相互に大量に行き交うグローバル化時代といわれます。なにかと便利ですが、環境破壊や経済不況など深刻な矛盾も露呈しているようです。この講座では古の社会思想の歴史的推移を学びつつ、現代の問題解決の糸口を探ってゆきたいと思います。社会思想に関する一般的な基礎理解の上に、多角的な見方を柔軟な姿勢で身につける授業といえます。				
授業目的・到達目標	古の社会思想を学ぶことを通じて、各時代の社会意識や時代精神を読みとり、多角的な批判力を養うことを目的とします。自分と異なる価値観を遠ざけるのではなく、まずは謙虚な姿勢で理解しようと努力することが肝要です。時代と国の相違も単にご時世やお国柄で片づけるのではなく、どう異なるか、なぜ異っているのか、その背景と根拠を吟味・検討し、現代のわれわれを相対化したうえで、過去の思想や哲学をどうしたら応用できるか、どうしたら今に活かせるかについて、独力で熟考できるようになることを目標とします。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域 1, 2, 3, 4				
履修条件	特にありませんが、自分と異なる考えを全く受け入れられないような姿勢はいただけません。いろいろな見方を、柔軟な構えで受け入れることが要求されます。				
授業方法	配布プリントによる講義形式授業。毎回リアクションペーパーで意見を求め、翌授業でフィードバックします。中間チェックテスト（2択20題）を1回行い授業時に講評します。レポートは提出確認後、最終授業で総評します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	実施しません。	
	平常評価		100%	リアクションペーパーの意見20%、中間チェックテスト20%、Colnetまたはポータルシステムにアップロード提出する学期末レポート60%で評価します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
				指定教科書はありません。	
	備考	教科書は用いず、Colnet「教材提示」フォルダにアップするPDF資料と授業時に配布するプリントで授業を進めます。			
参考書	必要に応じ紹介します。				
オフィスアワー	金曜日、19：30～20：30（下記メール宛、アポイントを取ってください）。 授業講堂にて。 kawamoto.takashil1@nihon-u.ac.jp（川本）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	年間講義計画・成績評価の方法、参考文献紹介などの確認をします。
	事後学習	授業時に配布された「履修上の注意」を精読し、次回以降の授業に臨んでください。（2時間）
2	事前学習	「Colnet＞学生教員共有＞川本隆＞教材提示」フォルダにアクセスし、「社会思想とは？」のPDFをお読みください。（2時間）
	授業内容	総論：社会思想史とは何か ルネサンス期の社会思想：宗教改革者ルター① 当時のキリスト教世界においてなぜ贖宥状が必要だったか、社会において教会がどのような役割を果たしていたかを把握します。
	事後学習	Colnetの「教材提示」フォルダにあるルター関連のPDFで授業内容を復習してください。（2時間）
3	事前学習	前回配布の資料をよみ、疑問点をピックアップしておいてください。（2時間）
	授業内容	ルネサンス期の社会思想：宗教改革者ルター② 「95か条の論題」の成立背景と、ルターの信仰義認説を解説します。
	事後学習	Colnetの「教材提示」フォルダに提示された新しいルター関連のPDFも参考に、授業内容を復習してください。（2時間）
4	事前学習	配布されたプリントやColnetのPDF資料をもとに、ルターのプロテスタンティズムとエラスムスやモアのカトリック的改革との違いを考えてみてください。（2時間）
	授業内容	ルネサンス期の社会思想：エラスムス 「宗教改革」がカトリック内部から生じてくる背景を理解し、エラスムスの時代批判の意義を確認してゆきます。
	事後学習	時代のキリスト教を改革しようとする精神は共通しているにもかかわらず、ルターとエラスムスの両者が対立しているのはなぜかを考え、授業内容を復習してください。（2時間）

5	事前学習	キリスト教教会の時代的な腐敗と国王の覇権主義との関係に注意しながら、モアの複雑な立ち位置を想像してみてください。（2時間）
	授業内容	ルネサンス期の社会思想：モア 主著『ユートピア』の成立事情とその影響について解説します。
	事後学習	主著『ユートピア』が対話篇で綴られている理由は、プラトンの影響が考えられます。作中にモアが登場しますが、作中人物としてのモアと書き手としてのモアの使い分けはどう考えたら良いでしょう？そこに留意しながら彼の思想をまとめてください。（2時間）
6	事前学習	マキアヴェリ時代の時代背景を知るには、イタリア・ルネサンスの時期の傭兵の役割を知る必要があります。その社会事情が、マキアヴェリ思想形成の要因ともなっているからです。PDF資料の「傭兵の二千年史」を一読して授業に臨んでください。（2時間）
	授業内容	ルネサンス期の社会思想：マキアヴェリとその時代 エラスムスとほぼ同時代でありながら、マキアヴェリ思想はキリスト教的な枠を突き抜ける要素があります。その時代背景を概説します。
	事後学習	エラスムス、モア、ルターの3者と全く異なる発想がマキアヴェリにあることを、まずは確認してください。マキアヴェリにとって当時の「傭兵」がどのように映っていたかについて、資料を通して考えてみてください。（2時間）
7	事前学習	事前に提示されているマキアヴェリ関連の資料PDFを参考に予習してください。キーワードは「フォルトゥーナ」と「ヴィルトゥ」です。英語なら何に相当するかを考えながら、解説を読むと原語（イタリア語）の言葉の広がりが見え、わくわくします。（2時間）
	授業内容	ルネサンス期の社会思想：マキアヴェリ『君主論』 一見、冷徹な皮肉屋に見えるマキアヴェリですが、単純な権謀術に還元できる人ではなく、祖国愛に満ちたヒューマンな一面もあります。その多様性を検討していきます。
	事後学習	『君主論』を中心に概説しますが、他方で『ウィリウス論』も無視できません。後者については、復習の段階で各自、調べてみてください。（2時間）
8	事前学習	ピューリタン革命の時代にホブズがどのような立場で思想を形成していたかを考えながら、事前資料PDFを読んでみてください。（2時間）
	授業内容	近代の社会契約思想：ホブズ『リヴァイアサン』1 ホブズの時代背景（2つの市民革命）から、彼の思想がどのように形成されたかをみてゆきます。
	事後学習	王党派に一時接近したホブズをさして、「絶対王政擁護者」というレッテルを貼ることが妥当といえるでしょうか。ピューリタン革命当時の独立派や平等派との関係をみながら、この問題について考えを整理してみてください。（2時間）
9	事前学習	一見似ているようなマキアヴェリの君主論とホブズのリヴァイアサンですが、両者で決定的に違うポイントがあります。それは何でしょうか。授業の解説を聞く前に、自分なりに答えを探してみてください。（2時間）
	授業内容	近代の社会契約思想：ホブズ『リヴァイアサン』2 自然権を譲渡する必要からコモンウェルスが生成する事情を理解し、ホブズ思想が近代人権思想の源流であることを概説します。
	事後学習	「自然権」と「自然法」の相違に注意しながら、コモンウェルスの必要性について考えてみてください。また「リヴァイアサン」の挿絵の意味も考えつつ、復習してください。（2時間）
10	事前学習	ピューリタン革命から名誉革命に至るロックの時代背景を、大まかにでもチェックしてみてください。（2時間）
	授業内容	近代の社会契約思想：ロック『統治論』1 ロックがたんに机上の理論家だけでなく、名誉革命の理論上の立役者であったことを確認し、『統治論』の成立背景を概説します。
	事後学習	時代の嵐に翻弄されながら、ロックがどのような政治体制を展望したのか、そこに留意しながら復習してください。（2時間）
11	事前学習	自然状態がホブズと対比するとかなり変わります。「自然権」と「自然法」との区別がロックではつきにくくなります。それはなぜでしょうか。その点を考えながら事前配布資料を一読することをお勧めします。（2時間）
	授業内容	近代の社会契約思想：ロック『統治論』2 ロックの思想が議会制民主主義の基礎づけを果たした点を確認して行きます。
	事後学習	イギリスの議会政治の歴史的発達とロックの『統治論』は密接な関係があります。その点に留意して彼の議論を整理してください。（2時間）
12	事前学習	ルソーの破天荒な人生は、彼の思想形成にとっても重要な要因と言えます。ルソーにまつわる神話的イメージを払拭して、彼を等身大で見ようように心がける必要があります。（2時間）
	授業内容	近代の社会契約思想：ルソー『人間不平等起源論』 ルソーのパーソナリティの特異性に着目しつつ、不平等論のキータームを丁寧に読み解きます。
	事後学習	アムール・ド・ソワ とアムール・ド・プロブルは同じ愛でありながら、極端な差異として描かれます。その微妙なニュアンスの違いに気をつけながら、『不平等論』の理解を深めてください。（2時間）
13	事前学習	『不平等論』と『社会契約論』とは「自然状態」のとらえ方が大きく異なります。同じ人物がなぜこのような見方になるのかは授業時に確認するとして、まずは両著作の相違点を確認してください。（2時間）
	授業内容	近代の社会契約思想：ルソー『社会契約論』 『不平等論』と全く性格の異なるルソーの『社会契約論』の読解方法を解説します。
	事後学習	自然状態が破局寸前の状態として描かれるために、彼の社会契約はロックとうってかわって「全面譲渡」という極端な形で描かれます。なぜこのような極論に至るのでしょうか。時代背景と合わせて考えてみてください。（2時間）
14	事前学習	法服貴族というモンテスキューの身分（立ち位置）が彼の思想とどのような関係にあるか、想像しながら事前配布資料を読んでみてください。（2時間）
	授業内容	仏リベラリズム：モンテスキュー『法の精神』 法服貴族という位置から、フランスの王政の暴走に法的な歯止めをかけようとしたモンテスキュー思想の意義を見てゆきます。
	事後学習	権力分立論はロックも主張していたことですが、モンテスキューの場合は、今日の日本社会に近い三権分立を主張していました。「穏和な整体」というときの「穏和」の意味に注意しながら、モンテスキューの独自性がどこにあるか、考えてみてください。（2時間）
15	事前学習	年代順に並べなおすと、マキアヴェリ、エラスムス、モア、ルター、ホブズ、ロック、モンテスキュー、ルソー、の順になりますが、なぜ上記のような順で概説したかを改めて考えてみてください。（2時間）
	授業内容	前期まとめ：時代状況に即した思想家たちの改革の試み これまでに取り上げた近代の思想家たちの総まとめを行います。
	事後学習	「カトリシズム的改革とプロテスタンティズム」、「アダム的人間とプロメテウス的人間」、「社会契約思想と権力分立論」、「自然法概念」の推移、という4項目について、これまで学んできたことを整理してみてください。（2時間）

科目名	社会思想の歴史Ⅱ	担当者	川本 隆	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	現代は、ヒト、モノ、カネ、情報が、相互に大量に行き交うグローバル化時代といわれます。なにかと便利ですが、環境破壊や経済不況など深刻な矛盾も露呈しているようです。この講座では古の社会思想の歴史的推移を学びつつ、現代の問題解決の糸口を探ってゆきたいと思います。社会思想に関する一般的な基礎理解の上に、多角的な見方を柔軟な姿勢で身につける授業といえます。			
授業目的・到達目標	古の社会思想を学ぶことを通じて、各時代の社会意識や時代精神を読みとり、多角的な批判力を養うことを目的とします。自分と異なる価値観を遠ざけるのではなく、まずは謙虚な姿勢で理解しようと努力することが肝要です。時代と国の相違も単にご時世やお国柄で片づけるのではなく、どう異なるか、なぜ異っているのか、その背景と根拠を吟味・検討し、現代のわれわれを相対化したうえで、過去の思想や哲学をどうしたら応用できるか、どうしたら今に活かせるかについて、独力で熟考できるようになることを目標とします。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域 1, 2, 3, 4			
履修条件	特にありませんが、自分と異なる考えを全く受け入れられないような姿勢はいただけません。いろいろな見方を、柔軟な構えで受け入れることが要求されます。			
授業方法	配布プリントによる講義形式授業。毎回リアクションペーパーで意見を求め、翌授業でフィードバックします。中間チェックテスト（2択20題）を1回行い授業時に講評します。レポートは提出確認後、最終授業で総評します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	実施しません。
	平常評価		100%	リアクションペーパーの意見20%、中間チェックテスト20%、Colnetまたはポータルシステムにアップロード提出する学期末レポート60%で評価します。
教科書	年	出版社	書名	著者名
			指定教科書はありません。	
	備考	教科書は用いず、Colnet「教材提示」フォルダにアップするPDF資料と授業時に配布するプリントで授業を進めます。		
参考書	必要に応じて紹介します。			
オフィスアワー	金曜日、19：30～20：30（下記メール宛、アポイントを取ってください）。 授業講堂にて。 kawamoto.takashil1@nihon-u.ac.jp（川本）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	スコットランドとイングランドとの対立やジャコバイトの乱などの時代背景に着目しながら、彼の道徳哲学がどのように形成されていくか、予想してみてください。（2時間）
	授業内容	市民社会の思想：アダム・スミスの道徳哲学 スミスの時代背景を踏まえつつ、『道徳感情論』を中心に性善説・性悪説をのりこえる道徳論の形成にスミスがいかに苦慮したかを概説します。
	事後学習	道徳観各学派、マンデヴィル、ヒュームといった人たちの道徳論をスミスがどのように吸収していったか、整理してみてください。（2時間）
2	事前学習	スミスの道徳論が「共感」や「公平な観察者」というテクニカルタームにどうつながっていくか、予想してみてください。（2時間）
	授業内容	市民社会の思想：アダム・スミス『国富論』 『国富論』の「見えざる手」の理論と分業の功罪についての考察を読み解いていきます。
	事後学習	スミスの自由主義的経済思想の発展系が、現代のグローバル社会の新自由主義といえるのか？ この点を考えつつ、スミスの思想をまとめてください。（2時間）
3	事前学習	スピノザ哲学の骨子となる汎神論の見方が、人間主義と異なるにもかかわらず、民主主義的であるというパラドックスをどう解いたら良いか、考えてみてください。（2時間）
	授業内容	市民社会の思想：スピノザの市民社会論 スピノザ哲学は、われわれの日常意識を超える神の視点が必要です。その視点から「必然性」と「自由」が一つであること、また、「永遠の相のもと」で生きることが幸福と平等につながる事情を読み解きます。
	事後学習	スピノザ哲学がデカルト以来の自我中心的哲学の対極にありながら、自我の主権意識にこだわるほうが、真理から遠のく事情についてじっくり考えてみてください。（2時間）
4	事前学習	カントの有名な定言命法「君の意志の格率が、つねに同時に、普遍的立法の原則にかなうよう行為しなさい」が、どのような意味をもつか、具体的場面を想定しながら考えてみてください。（2時間）
	授業内容	市民社会の思想：カントの道徳哲学と法論 カントの義務倫理は厳格すぎるという前に、その成立背景を理解する必要があります。キリスト教倫理との関係を含め、「永遠平和」も含め、カントの理想が今日どのような意味をもつかを考えてゆきます。
	事後学習	カントの義務倫理は厳格だと批判する人が多いですが、不幸な介護殺人や鷗外の『高瀬舟』のような事例では、「生きる義務」という着想が必要とも考えられます。その点を加味しつつ、彼の道徳論をまとめてください。（2時間）

5	事前学習	高校までの学習でヘーゲルの弁証法を「正→反→合」で説明するのは良しとしても、「カツ→カレー→カツカレー」にたとえるのは問題があります。なぜでしょう？ 予測してみてください。（2時間）
	授業内容	市民社会の思想：ヘーゲル哲学への導入；弁証法とは何か？ ヘーゲルは「概念」にこだわったドイツ観念論の哲学者です。いくつかの「言葉」の例から、段階的に認識を深めていく「弁証法」について概説します。
	事後学習	弁証法は哲学的思弁の論理であり、アウフヘーベンされた「合」の段階では、前の二つの契機を内に含みながら一つになっているものとして概念的に把握されなければなりません。その点に注意しながら、弁証法の理解を深めてください。（2時間）
6	事前学習	カントが規定した「婚姻」や「愛」に対して、ヘーゲルは批判的でした。「個」を基礎におくか、「個」を超える「愛」を基礎に据えるか、の違いに注意しながら、事前資料を読んでみてください。（2時間）
	授業内容	市民社会の思想：ヘーゲル『法哲学』の家族論 カントとの対比でヘーゲルの家族論をみると、その発想がユニークであることに気づきます。愛を基礎とする一体性が、近代的な個の論理を超える点に着目しつつ、人倫の最初の段階である「家族」の意味を探ります。
	事後学習	家族の一体性・普遍性は、子どもが陶冶され巣立っていくと、家族は背景に退き「解体」されますが、家族がバラバラになるわけではありません。用語に注意しながら、家族から市民社会への移行をまとめてください。（2時間）
7	事前学習	スミスの主張する自由放任の市場は、公平な観測者が機能するかぎりでは平等でしたが、ヘーゲルのとらえる市民社会は欲求の体系としての強制国家でした。克服に必要なものが行政と職業団体とされる理由を考えてください。（2時間）
	授業内容	市民社会の思想：ヘーゲル『法哲学』の市民社会と国家 ヘーゲル『法哲学』の第2段階「市民社会」の問題点と第3段階「国家」への以降の必然性を概説します。
	事後学習	「家族→市民社会→国家」の歩みは、人倫精神の弁証法的発展と言えます。市民社会から国家への移行は、行政による施しよりも、職業団体で培われる「誇り」に力点があります。その点に注意しながら、まとめてください。（2時間）
8	事前学習	労働における人間の「自己疎外」、すなわち「働けば働くほど人間が貧しくなる」という逆説がなぜ生じるか、予想してみてください。（2時間）
	授業内容	経済社会の思想：マルクス『経済学・哲学草稿』の疎外論 ヘーゲルおよびフョエルバッハとの対比で、初期のマルクスが「労働の疎外」という問題をどのように考えていたかを概説します。
	事後学習	授業では労働における人間の自己疎外を、チャップリンの『モダン・タイムス』から考察します。19世紀ドイツの状況と対比しながら、今日につながるその意義をまとめてください。（2時間）
9	事前学習	「マルクスの思想はマルクス主義ではない」という言説の根拠はどこにあるのか。源流となる思想と派生的形態としての運動を区別して、その理由を考えてください。（2時間）
	授業内容	経済社会の思想：マルクス『資本論』の物象化論 商品という価値が見えているように見えないこと、またその物象化論的錯視の解明にマルクスが取り組んでいた事情を概説します。
	事後学習	マルクスが問題提起した労働者のアソシアションははまだ実現されざる理想かもしれません。理想を空論の一言で片づけることなく、現代につながる問題があるという点を中心に見直してみてください。（2時間）
10	事前学習	カーソン『沈黙の春』冒頭の「明日の寓話」は美しい文体で書かれていますが、それだけに背後から忍び寄る影が不気味です。「白い粉」は何の寓意か？ 考えてみてください。（2時間）
	授業内容	現代の環境思想：レイチェル・カーソン『沈黙の春』と日本の公害 カーソンの『沈黙の春』の成立事情と1970年代の日本の公害問題と現代の環境問題とを関連づけて理解します。
	事後学習	『沈黙の春』は現代の環境思想の原点です。生態系が「目に見えないネットワーク」であることを見定めつつ、彼女の思想をまとめてください。（2時間）
11	事前学習	「自我」の狭い殻を破り「自己」を実現せよと主張するネスの「拡大自己実現」。近代の人間の基礎をなし、科学の発達を促した「自我」がなぜ批判されなければならないのか、その点を考えてください。（2時間）
	授業内容	現代の環境思想：ディープ・エコロジー①；アルネ・ネスの拡大自己実現 「エゴ」と「セルフ」の巧みな使い分けに着目しつつ、「自己同一化」のプロセスが「拡大自己実現」につながる事情を概説します。
	事後学習	実体としての「自我」、関係としての「自己」。後者が前者を包括するホーリズムがネスの思想の基礎にあります。ガンディーの非暴力主義との関連に配慮しながら、ネスの思想をまとめてください。（2時間）
12	事前学習	ブラットフォーム原則は、思想や信条などの哲学的な根源をなすレベル1になく、その次のレベル2にあります。なぜでしょう？ 予想しながら事前資料を読んでみてください。（2時間）
	授業内容	現代の環境思想：ディープ・エコロジー②；エプロン・ダイアグラムとブラットフォーム原則 ディープ・エコロジーの思想と運動は同一ではありません。レベルによって規定が変わること、また、原則が抽象的であいまいに見えたとしても、意義があることを理解してゆきます。
	事後学習	ブラットフォーム原則の第4原則「不可欠の必要」は、なぜ「曖昧な」書き方になっているのか、その点を考えながら整理してみてください。（2時間）
13	事前学習	人間が生きるためには、食べなければならず、食べるためには何らかの生物を殺さなければなりません。この矛盾をふまえつつ、「生命圏平等主義」を主張する意味は何なのか、考えてみてください。（2時間）
	授業内容	現代の環境思想：ディープ・エコロジー③；食と生死の哲学 ディープ・エコロジストとは微妙に異なる「生命中心主義」の論客ピーター・シンガーと対比しつつ、アルネ・ネスが食に関してどのような立場にあったかを確認していきます。
	事後学習	生けるものの「いのち」を「解く」ことなしに、われわれは食することができません。「いのちを解く」現場から離れた現代人の食生活の問題は何かを考えながら、「生命圏平等主義」の意義をまとめてください。（2時間）
14	事前学習	フロムの説から入りましょう。世間体を気にする「立派な」母親の教育が、子どもにどんな悪影響を及ぼすのか、なぜ「自己愛」と「他者愛」が両立可能なのか、事前資料から読み取ってください。（2時間）
	授業内容	現代の環境思想：アルネ・ネスにとってのフロムとスピノザ 「エゴ」を切り捨ててしまっは「他者」への配慮が逆にできなくなるという逆説をフロムから学んだネスは、その視点より確かなものにするためにスピノザ哲学を高く評価しました。この事情をわかりやすく解説します。
	事後学習	フロムから共感論のほかに、“preserve in his being”というスピノザの主張がなぜ必要となるのか、「エゴの脱色（解放）」という視点で考えてみてください。（2時間）
15	事前学習	ブクチンの『エコロジーと社会』第1章に登場する、カリフォルニア出身のエコロジストの言説のおかしな点とは何でしょうか。探してみてください。（2時間）
	授業内容	現代の環境思想：マレイ・ブクチンのソーシャル・エコロジー ディープ・エコロジーの発想で見落とされがちな、社会関係（人間対人間の関係）が環境問題を考える上でも重要であることを学んでゆきます。
	事後学習	授業では、生物資源を略奪するドイツの製薬会社の事例をVTRで見えていきます。この事例は、先進国日本に生きるわれわれの問題でもあります。社会的な人間相互の関係を改善せずには、地球環境問題の真の解決には至らない、というブクチンの主張をまとめてください。（2時間）

科目名	宗教学 I	担当者	舘野 正生	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	宗教とは辞書の定義では「人間と超越的存在との関わり」とされ、この超越的存在とは主に人間から先に進んだ存在のことをいう。本授業では、人間が成長・進化した次の段階になることを宗教の本筋とみて、次の段階に進んだ存在としての先人たちから教わり、さらに広く様々な対象から学んで成長・進化するためのことを身に付ける実践を行っていきたい。よって単に記憶するために宗教の歴史・教義などを一方的に話すことは行わない。				
授業目的・到達目標	自分で自分を成長・進化させ、自分の軸を創り、より苦しまない人生にできる人に育成することを目的とする。それによって人類をよりいい方向に進化させられるようになることを到達目標とする。そのため、話す、寝る、いい加減なレポートを提出するなど真剣に受講できない人は単位を認定しない。また授業内で書くレポートは試験と同じ扱いなので相談したり他者のを見るなどするとカンニングとみなし無効とする。自分で自分を成長・進化させるための訓練の時間と考え、単位のためなどではなく自分のために行える人に受講してほしい。シラバスを読み、初回には必ず出席すること。学生教員共有フォルダに授業アンケートを公開しているので参考にしてほしい。関連DP及びCP：総合科目領域1， 2， 3，				
履修条件	自分と向き合い内面を深く探るので不向きな人、真剣に取り組めない人は参加を避けること。「いかなる理由」でも4回の欠席で成績は付かなくなる。遅刻しないこと。遅刻・欠席は減点となる。隣の席は必ず空席にして着席すること。				
授業方法	発問に答え、話を自分の成長に結び付けたレポートを書くということを繰り返し、自らを成長させてゆく形態で行う。レポートは次の回の開始時に紹介、講評する。レポートは携帯端末などで必ず記録しバックアップも取ること。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加の真剣さ、自分で自分を成長させることができたかを基準とし、各種のレポート、発問に対する回答内容、宿題、欠席・遅刻の回数などにより総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用せず。			
参考書	随時伝達する。				
オフィスアワー	火曜日の09時～10時。ただし必ず事前にメールにて連絡すること。 授業者の大学アドレス tateno.masao@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。（2時間）
	授業内容	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関するルール等について、シラバスに基づき詳細に説明する。参加者はメモを取り、発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	シラバスと講義ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。（2時間）
2	事前学習	「宗教」という言葉の定義を広く調べた上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	「宗教」の定義に関して、語源、歴史、研究者による定義などについて概説し、本授業で行うことを説明する。参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
3	事前学習	人間はどのように生きればいいのか、人生の中間目標、最終目的について考え、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。人間が生活している環境、そこをどのように生きればいいのか、その目標・目的について扱う。参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
4	事前学習	自分が日常をどのように生活しているかを確認し、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。日常でどのように生活しているか、どのように生活することがいい方向となるのかについて扱う。参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）

5	事前学習	自分が何を求めているか、ノートに書き出し、まとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。日常の自分は一体何によって動かされているのかなどに関する話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
6	事前学習	「承認欲求」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。他人を相手にするのみでは人生が進んでいかないことなどについての授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
7	事前学習	これまでの授業についてさらに調べ、自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	参加者は第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に発表し、それについてさらにレポートを書く。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
8	事前学習	仏教に於ける「執(しゅう)着(じゃく) (執著)」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。人間の苦しみはどこから生ずるのかについて授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
9	事前学習	自分の精神的立場が一点に執われ続けていることを、自分の日常を記録することで調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。精神的次元の展開についての話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
10	事前学習	自分の日常のふるまいを精神的次元にあてはめて、それを記録しノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。精神的次元をさらに高める話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
11	事前学習	自分の短所・欠点を調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。短所・欠点を元に、そこから展開していく話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
12	事前学習	精神的弱さについて調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。精神的な弱さについての話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
13	事前学習	精神集中について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。精神集中についての話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
14	事前学習	第8回から第13回までのノートを確認し、まとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
15	事前学習	初回からのノート、授業内レポートすべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	初回からのノート、授業内レポートを振り返って確認し、要点をまとめる。（2時間）

科目名	宗教学Ⅱ	担当者	舘野 正生	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	宗教とは辞書の定義では「人間と超越的存在との関わり」とされ、この超越的存在とは主に人間から先に進んだ存在のことをいう。本授業では、人間が成長・進化し次の段階になることを宗教の本筋とみて、次の段階に進んだ存在としての先人たちから教わり、さらに広く様々な対象から学んで成長・進化するためのことを身に付ける実践を行っていきたい。よって単に記憶するために宗教の歴史・教義などを一方的に話すことは行わない。				
授業目的・到達目標	自分で自分を成長・進化させ、自分の軸を創り、より苦しまない人生にできる人に育成することを目的とする。それによって人類をよりいい方向に進化させられるようになることを到達目標とする。そのため、話す、寝る、いい加減なレポートを提出するなど真剣に受講できない人は単位を認定しない。また授業内で書くレポートは試験と同じ扱いなので相談したり他者ののを見るなどするとカンニングとみなし無効とする。自分で自分を成長・進化させるための訓練の時間と考え、単位のためなどではなく自分のために行える人に受講してほしい。シラバスを読み、初回には必ず出席すること。学生教員共有フォルダに授業アンケートを公開しているので参考にしてほしい。関連DP及びCP：総合科目領域1， 2， 3， 4の授業担当者の宗教学Ⅰを大きく踏まえた内容となるので、受講していない人は受講した人に対して大きく不利であることを納得の上で参加してほしい。その他は宗教学Ⅰに同じなので必ず読んでほしい。				
履修条件	4の授業担当者の宗教学Ⅰを大きく踏まえた内容となるので、受講していない人は受講した人に対して大きく不利であることを納得の上で参加してほしい。その他は宗教学Ⅰに同じなので必ず読んでほしい。				
授業方法	発問に答え、様々な題材を自分の成長に結び付けたレポートを書くということを繰り返し、自らを成長させてゆく形態で行う。レポートは次の回に紹介、講評する。レポートは携帯端末などで必ず記録しバックアップも取ること。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加の真剣さ、自分で自分を成長させることができたかを基準とし、各種のレポート、発問に対する回答内容、宿題、欠席・遅刻の回数などにより総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用せず。			
参考書	随時伝達する。				
オフィスアワー	火曜日の09時～10時。ただし必ず事前にメールにて連絡すること。 授業者の大学アドレス tatenom.masao@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。（2時間）
	授業内容	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関するルール等について、シラバスに基づき詳細に説明する。参加者はメモを取り、発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	シラバスと講義ノートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。（2時間）
2	事前学習	自分はどのような人かについて考え、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	授業者による「自分を知る」ことに関する先人たちの話を聞き、参加者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
3	事前学習	前回のノート、レポート、それに対する自分の見解を読み直し、さらに思考して授業に備えておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。参加者は「自分を知る」ためのテストを行い、自分について分かったことをレポートに書き、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
4	事前学習	自分が「どうにもできないこと、どうにかできること」について広く調べ、思考し、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。「変えられること、変えられないこと」、それをどうすればいいか、などについての話に対し、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）

5	事前学習	仏教の「無常」、「無我」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。仏教の「無常」、「無我」についての話などを聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
6	事前学習	「人間の暗い面」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。「人間の暗い面」についての先人の見解、参加者は授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
7	事前学習	これまでの授業についてさらに調べ、自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	参加者は第6回までの授業で気が付いたこと分かったことを自分に当てはめたレポートを書き、その内容を簡略に発表し、それについてさらにレポートを書く。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
8	事前学習	「人間の邪悪さ」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。「人間の邪悪さ」に関する授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、さらにレポートに自分の見解を書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
9	事前学習	「失敗」について自分の経験から考え、見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。「失敗」に関する先人たちの見解、参加者は授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
10	事前学習	前回のメモ、レポート、さらにそれをまとめたノーとを振り返り、失敗にどのように対応すればよいかを思考し、それをノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。失敗にどのように対応するか先人たちの見解、授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
11	事前学習	対象を捉えるとき、自分の思いをかぶせることについて調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
12	事前学習	自分の進化を停滞させるものについて調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
13	事前学習	「自分の行動は自分が選んで行っているか」について調べ、ノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。授業者の話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
14	事前学習	第8回から第13回までのノートを確認し、まとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
15	事前学習	初回からのノート、授業内レポートすべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話を聞き、参加者はメモを取り、発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	初回からのノート、授業内レポートを振り返って確認し、要点をまとめる。（2時間）

科目名	心理学 I	担当者	木村 敦	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	心理学は外部から直接観察できない「心」を客観的な手法で研究し、人間行動の理解や問題解決への応用に役立てる学問領域である。心理学Iでは、知覚、記憶、学習、感情、性格といった心理学の主要分野の基本的知識およびその研究法や研究史を概観するとともに、簡単な心理実験・検査への参加を通じて、心理学的現象を客観的に解釈し判断する力を身につける。			
授業目的・到達目標	【授業目的】知覚、記憶、学習、感情、性格に関わる心理学の基礎知識、および心理学の研究法や歴史について学習することで、社会人として必要な教養と社会科学の知識を修得する。また、講義および心理実験・検査への参加を通じて自分自身について心理学的見地から認識することで、省察力を修得する。 【到達目標】(1) 科目内で学習した心理学の概念や理論、用語について説明することができる。(2) 自分自身の心理的反応について、心理学の知識や技能を踏まえて客観的に述べるができる。関連DP及びCP: 総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4, 6, 8			
履修条件	事前履修科目は特になし。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。			
授業方法	講義を中心とするが、授業に関連する調査や実験の体験およびレポート作成、授業内試験等も適宜実施する。授業内試験・レポートについては、それぞれ翌週に解説・全体講評を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業内試験 【60%】 レポート 【30%】 レスポンスペーパー 【10%】 ※詳細は、ガイダンス等で適宜説明する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014	弘文堂	心理学 第3版	和田万紀 編
	備考			
参考書	授業内で適宜案内する。			
オフィスアワー	一部金曜 4 限、二部金曜 1 限、授業内で質問を受け付ける。授業講堂にて。 E-mail: kimura.atsushi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。(2時間)
	授業内容	【ガイダンス】 授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、受講者が当科目の到達目標や授業内容を踏まえた上で学習準備を行えるようになる。
	事後学習	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。(2時間)
2	事前学習	教科書1章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【心理学とは】 心理学では人間の心や行動をどのように研究するか、心理学の学問的位置づけや研究法について説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)
3	事前学習	教科書序章を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【心理学の歴史と研究法】 心の探究に関する研究の歴史的変遷と心理学のアプローチについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)
4	事前学習	教科書2章pp. 53-63を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【感覚・知覚(1)感覚の特徴と知覚】 感覚の一般的特性の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、錯視量の測定に関する実験体験に基づいて「知覚は物理的環境の再現ではない」ことを論じられるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。(2時間)

5	事前学習	教科書2章pp. 63-72を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【感覚・知覚(2)視覚】 知覚の成立条件、運動知覚・錯覚等の知覚の諸相の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)
6	事前学習	教科書2章pp. 74-76を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【感覚・知覚(3)認知と感性】 知覚・認知と感性との関わりに関する諸理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、感性評価の体験を通じて知覚特性と感性的印象との関連について考察できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。(2時間)
7	事前学習	教科書3章pp. 81-91を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【記憶】 記憶の種類や特性に関する基礎的な理論や研究法を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)
8	事前学習	教科書3章pp. 91-99を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【学習】 条件付けの概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)
9	事前学習	教科書4章pp. 105-117を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【感情(1)感情の機能と働き】 感情・情動の分類、機能、発生について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)
10	事前学習	教科書4章pp. 117-120を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【感情(2)感情のコントロールと心の健康】 感情とメンタルヘルスの関わり、および怒りや不安といった感情のコントロール技法について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)
11	事前学習	教科書4章pp. 121-124を読み、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【感情(3)動機づけと行動】 欲求や動機づけに関する基礎的な理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)
12	事前学習	教科書5章の内容を概観し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【性格(1)性格の捉え方】 心理テスト、個人差についての概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、性格検査の体験を通じて自己の性格を性格理論の枠組みから説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した検査についてのレポートを作成する。(2時間)
13	事前学習	教科書5章の内容を概観し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【性格(2)性格と精神疾患】 パーソナリティに関係する精神疾患の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。(2時間)
14	事前学習	これまでのノートや資料を再度復習し、各回の学習内容について説明できるよう準備する。(2時間)
	授業内容	【授業内テスト】 授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認する。
	事後学習	テストを振り返り、理解しきれいなかった点について再度まとめなおす。(2時間)
15	事前学習	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識、技能、態度を論じられるように準備する。(2時間)
	授業内容	【総括】 授業内テストの解説や授業総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。
	事後学習	総括を振り返り、今後の学修方針を考える。(2時間)

科目名	心理学 I	担当者	田中 堅一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	心理学の基礎領域を通覧し、心理学で使われる基礎用語を解説する。			
授業目的・到達目標	授業目的：哲学的論考から脱して、科学としてこころの科学を目指した心理学の歴史的経緯を理解し、心理学の中でも基礎的な領域について理解し、説明できるようになる。 到達目標：受講した範囲で心理学の基本的用語について理解し、説明できる。習得した心理学的知見を基にして、自己理解を深めることができ、自分自身の身の回りの事象について考えられることができる。関連DPおよびCP：総合科目領域1、2、3、4、6、8			
履修条件	心理学に興味があること。こころの働きを科学的アプローチから考えることに関心があること。			
授業方法	講義形式。設備環境が許すかぎり、毎回PowerPointを使いながら講義を行う（殆ど板書はしない）。時間が許せば、講義内容について討論の時間を設ける。期末試験の解説を、後日「法学部ポータルサイト」に配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	筆記試験は、心理学Ⅰにおける基礎用語が習得されているかについて判定する。持ち込み不可。	
	平常評価	20%	宿題としてレポート提出を課す。レポートの内容は、講義で出てきた内容に関連したテーマについて出題される。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	弘文堂	心理学〔第3版〕（Next教科書シリーズ）	和田万紀
	備考			
参考書	下山晴彦（編集代表）（2014）. 誠信心理学辞典 新版 誠信書房 中島義明ほか（編集）（1999）. 心理学辞典 有斐閣			
オフィスアワー	質問等は、e-mailでアポイントをとること。（tanaka.kennichirou@nihon-u.ac.jp）。 金曜1限授業前、授業講堂にて、その間に質問を受けます。 授業後はすぐ帰ります。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の「序章」「第1章」を中心に全体を通読する（2時間）。
	授業内容	心理学 I のガイダンス 講義概要、成績評価についての留意点について理解し、心理学がどのような領域に広がっているか理解することができる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
2	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第1章」を通読する（2時間）。
	授業内容	心理学の研究法 心理学を研究する様々な手法（実験法、調査法、観察法、面接法）について理解することができる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
3	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「序章」を通読する（2時間）。
	授業内容	科学としての心理学が始まった歴史的経緯 科学としての心理学が始まった19世紀後半を中心とした歴史的経緯を理解することができる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
4	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第2章」を通読する（2時間）。
	授業内容	感覚・知覚 1 視覚の基本的な機能について、心理学の視点から考えることができる。
	事後学習	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する（2時間）。

5	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第2章」を通読する（2時間）。
	授業内容	感覚・知覚2：視覚のしくみ（その2）、聴覚・味覚・触覚・嗅覚について視覚のみならず、それ以外の五感の機能について理解することができる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
6	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第3章・2」を通読する（2時間）。
	授業内容	学習1：心理学での「学習」とはなにか（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、試行錯誤学習）学習の中でももっとも基本的な、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、試行錯誤学習について理解することができる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
7	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第3章・2 学習」を通読する（2時間）。
	授業内容	学習2：洞察学習、観察学習、条件づけの応用 6で学んだ条件づけ以外の学習について理解し、それらをどのように応用できるかについて理解することができる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
8	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第4章・1， 2」を通読する（2時間）。
	授業内容	感情1：感情とは何か、感情の生起メカニズム 感情はどのように生ずるのかについて生理学的・心理学的な視点から理解できる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
9	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第4章・4」を通読する（2時間）。
	授業内容	感情2：動機づけ、欲求不満 動機づけ（モチベーション）と欲求不満（フラストレーション）の基本的なメカニズムについて理解することができる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
10	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第2章・1」を通読する（2時間）。
	授業内容	記憶：記憶の種類とそれらの性質 記憶はどのように研究され、記憶の種類とそれらの性質について理解することができる。
	事後学習	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する（2時間）。
11	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第5章」を通読する（2時間）。
	授業内容	パーソナリティ1：性格に関する理論 古来から今日まで人の性格はどのように捉えられてきたかについて理解することができる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
12	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第8章・4」を通読する（2時間）。
	授業内容	パーソナリティ2：パーソナリティ検査の種類 パーソナリティはどのようにして測るかについて理解することができる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
13	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第6章・1， 2」を通読する（2時間）。
	授業内容	発達1：生まれてから成人し、そして高齢期を迎えるまで 人間の発達について、心理学的な視点から理解することができる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
14	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書「第6章・3」を通読する（2時間）。
	授業内容	発達2：エリクソンの心理・社会的発達理論 「アイデンティティ」という概念を広めたE. エリクソンによる生涯発達について理解し、自分自身のこれからの発達について考察することができる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
15	事前学習	今まで講義で使用されたPPT（あるいはその出力用紙）に目を通す（2時間）。
	授業内容	講義の総括と期末試験についての留意点 これまで学習した内容を復習し、期末試験についての留意点を確認することができる。
	事後学習	講義ノートを確認して、留意点で述べられたことを参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。

科目名	心理学 I	担当者	種ヶ嶋 尚志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	心理学は外部から直接観察できない「心」を客観的な手法で研究し、人間行動の理解や問題解決への応用に役立てる学問領域である。心理学Iでは、知覚、記憶、学習、感情、性格といった心理学の主要分野の基本的知識およびその研究法や研究史を概観するとともに、簡単な心理実験・検査への参加を通じて、心理学的現象を客観的に解釈し判断する力を身につける。				
授業目的・到達目標	【授業目的】知覚、記憶、学習、感情、性格に関わる心理学の基礎知識、および心理学の研究法や歴史について学習することで、社会人として必要な教養と社会科学の知識を修得する。また、講義および心理実験・検査への参加を通じて自分自身について心理学的見地から認識することで、省察力を修得する。 【到達目標】(1) 科目内で学習した心理学の概念や理論、用語について説明することができる。(2) 自分自身の心理的反応について、心理学の知識や技能を踏まえて客観的に述べるができる。関連DP及びCP: 総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4, 6, 8				
履修条件	事前履修科目は特になし。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。				
授業方法	講義を中心とするが、授業に関連する調査や実験の体験およびレポート作成、授業内試験等も適宜実施する。授業内試験・レポートについては、それぞれ翌週に解説・全体講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内テスト 【60%】 レポート 【30%】 レスポンスペーパー 【10%】 ※詳細はガイダンス等で適宜説明する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	弘文堂		心理学 第3版	和田万紀 編
	備考				
参考書	授業内で適宜案内する。				
オフィスアワー	月曜4限授業終了後講堂にて。予約制：事前にメールにてアポイントをとること。 tanegashima.hisashi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス】 授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、受講者が当科目の到達目標や授業内容を踏まえた上で学習準備を行えるようになる。
	事後学習	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書1章を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【心理学とは】 心理学では人間の心や行動をどのように研究するか、心理学の学問的位置づけや研究法について説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書序章を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【心理学の歴史と研究法】 心の探究に関する研究の歴史的変遷と心理学のアプローチについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
4	事前学習	教科書2章pp. 53-63を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【感覚・知覚(1)感覚の特徴と知覚】 感覚の一般的特性の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、錯視量の測定に関する実験体験に基づいて「知覚は物理的環境の再現ではない」ことを論じられるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）

5	事前学習	教科書2章pp. 63-72を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【感覚・知覚(2)視覚】 知覚の成立条件、運動知覚・錯覚等の知覚の諸相の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書2章pp. 74-76を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【感覚・知覚(3)認知と感性】 知覚・認知と感性との関わりに関する諸理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、感性評価の体験を通じて知覚特性と感性的印象との関連について考察できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）
7	事前学習	教科書3章pp. 81-91を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【記憶】 記憶の種類や特性に関する基礎的な理論や研究法を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書3章pp. 91-99を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【学習】 条件付けの概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書4章pp. 105-117を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【感情(1)感情の機能と働き】 感情・情動の分類、機能、発生について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書4章pp. 117-120を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【感情(2)感情のコントロールと心の健康】 感情とメンタルヘルスの関わり、および怒りや不安といった感情のコントロール技法について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書4章pp. 121-124を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【感情(3)動機づけと行動】 欲求や動機づけに関する基礎的な理論を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書5章の内容を概観し、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【性格(1)性格の捉え方】 心理テスト、個人差についての概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになるとともに、性格検査の体験を通じて自己の性格を性格理論の枠組みから説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した検査についてのレポートを作成する。（2時間）
13	事前学習	教科書5章の内容を概観し、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【性格(2)性格と精神疾患】 パーソナリティに関係する精神疾患の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
14	事前学習	これまでのノートや資料を再度復習し、各回の学習内容について説明できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【授業内テスト及び振り返り】 授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認する。
	事後学習	テストを振り返り、理解しきれいなかった点について再度まとめなおす。（2時間）
15	事前学習	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識、技能、態度を論じられるように準備する。（2時間）
	授業内容	【総括】授業内テストの解説や授業総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。
	事後学習	総括を振り返り、今後の学修方針を考える。（2時間）

科目名	心理学 I	担当者	和田 万紀	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	心理学の概観を俯瞰して修得して、最新の知見を理解する。、本講義を通じて、自分自身そして他者の心の働きに目を向けて、心理学の観点から自己理解を進める。				
授業目的・到達目標	人の心の姿、形、そして働きについて、心理学の視点でそれらを「見える化」することを目的とする。それを心理学の研究例や理論から理解して、考察する。その作業を通して、心の働きをとおした自己理解を深めることができることを目標とする。 DP＝A-1, 2, 3, 4, 6, 8, 到達目標レベル１－２.				
履修条件	各クラスの受講希望者数が極端に多い場合には、上級学学年からの受講を許可する、という制限をすることがあります。				
授業方法	講義を中心として実習などを行い集団討議を行います。試験の講評等はポータルサイト等を通じて行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		50%	授業で取りあげた内容について試験を行う。論述式の場合には、授業中に目安となる字数を指示する。	
	平常評価		50%	リフレクションペーパーの提出、課題提出等を総合的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	H27年度	弘文堂	心理学第3版		和田万紀編
	備考	課題の１つである「ミュラーリヤーの錯視」については、各自教科書とは別途に購入してもらう。詳細は、授業中に指示する。			
参考書	授業中指示する。				
オフィスアワー	月曜日１２時２０分より１３時まで。 事前に、授業前後に予約すること。 場所は、９号館501研究室。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の目次を読む。こころとはどのようなイメージがあるのかについて、自分の考えをまとめると同時に、他の人と話し合い、考えを集約する。2時間の予習をする。
	授業内容	講義計画、評価方法、参考文献などの説明をする。こころについてのイメージ、こころはどこにあるのか、について、自分の考えをまとめて、他の受講生と話し合う。
	事後学習	試験の日程、課題提出方法、課題購入の方法を確認する。また、授業で必要な文房具について用意する。「心」についてのイメージ、「心」に見える化する、とはどのようなことなのかについて、自分と他者の考えをまとめて記述しておく。2時間の復習。
2	事前学習	教科書第1章を読み、疑問点を書き出す。 2時間の予習
	授業内容	「こころ」のありかを求めて心のイメージと心に見える化する、ということについて考える。
	事後学習	教科書第1章を読む。自分が考える心のイメージについてまとめて、他者の意見との相違を記述する。心は見える化できるのかどうかについて、自分の意見を記述する。2時間の復習。
3	事前学習	教科書序章を読んで、心についてこれまでにどのようなアプローチがされてきたのかをまとめる。2時間
	授業内容	「心理学」の歴史：現代心理学はいかに誕生したのか、実験心理学の誕生。 心理学の過去と歴史：何を境界にして、心理学の過去と歴史が分かれるのか。心理学の過去では、心はどのように記述されたのか。現代心理学の歴史はいつ、なぜ始まったのか。心理学の今は心へどのようにアプローチしているのか。
	事後学習	教科書序章を読んで、心理学の過去と歴史について、復習をして記述する。2時間の復習。

4	事前学習	教科書第2章1, 2節を読む 心理学における実験という方法についての特徴についてまとめる。 2時間の予習
	授業内容	心理学の方法： 心は実験できるのか。実験で心の何がわかるのか。 実験心理学の利点と欠点。心理学の実験以外の方法はあるのか。心理学における方法について学び、特徴を知る。
	事後学習	教科書第2章1, 2節を読む。心理学の方法にはどのような種類があるのかについて、復習する。そしてそれぞれの方法の特徴と利点と欠点とをまとめて記述する。 2時間の復習
5	事前学習	教科書第2章、第3, 4節を読む。人間の5感の種類と特徴について、教科書をまとめて記述する。さまざまな錯視の現象について、普段の生活での経験を記述する。ミュラーリヤーの実習に備えて、実習用キットを購入して、説明書を読む。 2時間の予習
	授業内容	感覚と知覚：「見る」と「見える」こと 人間の感覚と知覚について、錯視の現象を通じて考える。「ミュラーリヤーの錯視」の実習を行う。
	事後学習	教科書第2章、第3, 4節を読む 錯視の具体的な現象を体験して、そこから何を考えたのかについて、まとめて記述する。レポート作成の注意事項を確認する。自分の結果だけではなく、他の人の結果と比較検討する。レポートを完成させる。2時間の復習。
6	事前学習	教科書第2章を全体を通して読む。2時間の予習。
	授業内容	感覚と知覚：私たちは環境のすべてを感じることができるのか。閾値の概念の理解をする。注意の機能とは何か。感性について。
	事後学習	教科書第2章を全体を通して読む。閾値、注意という概念について、研究例を参考にして、理解をする。2時間の復習。
7	事前学習	教科書第3章第1, 2節を読む 自分はどの様に記憶するとよく覚えていることができるのかについて、普段の例を考えて記述する。 2時間の予習
	授業内容	記憶の仕組み：人はどの様に覚えるのか、忘れるのか。 人間の記憶の過程、忘却の過程について考える。感情は記憶にどの様に影響するのか。目撃証言の研究、自伝的記憶、展望的記憶、について考える。
	事後学習	教科書第3章第2節を読む 記憶することができない、ということについて、記憶の過程、感情と記憶、自伝的記憶、作られた記憶、記憶の老化等について、まとめて記述する。2時間の復習。
8	事前学習	教科書第4章第1, 2, 3節を読む 感情はなぜ喚起されるのか、感情は認知にどの様に影響すると思うのかについてまとめて記述する。 2時間の予習。
	授業内容	感情の働き：感情の機能と働き 感情は非合理的なのか。情報としての感情。感情のコントロールとストレス。
	事後学習	教科書第4章第1, 2, 3節をまとめる。自分の感情コントロールの特徴とストレス対処法の特徴についてまとめて記述する。2時間の復習。
9	事前学習	教科書第4章4, 5節を読む。動機と行動について教科書をまとめる。2時間の予習
	授業内容	動機と行動：動機づけの過程。報酬と罰。動機の強さと行動、動機の階層性。欲求不満と耐性およびその対処法。
	事後学習	教科書第4章第4, 5節をまとめる。自分の欲求不満と耐性、対処法の特徴について記述する。2時間の復習。
10	事前学習	教科書第4章第5節を読んでまとめる。2時間の予習。
	授業内容	認知と行動：原因帰属の過程、帰属形成と行動との関連性。意識と行動、意識と無意識。
	事後学習	教科書第4章第5節をまとめて記述する。なぜ人はそのような行動をするのか、について、欲求と行動、帰属過程と行動、意識と無意識と行動、の3側面から考えて理解して、説明できるようにする。2時間の復習。
11	事前学習	教科書第5章を読む。自分の性格の特徴と性格形成の要因について記述する。 2時間の予習
	授業内容	性格のとらえかた：特性論と類型論。性格検査の種類と特徴。性格検査の実例と実習。
	事後学習	教科書第4章第5節を読む。自分の性格について、実習の結果からレポートの作成と提出をする。2時間の復習。
12	事前学習	教科書第6章を読む。発達の特徴について、まとめて記述する。2時間の予習。
	授業内容	発達の特徴：人間は生理的早産で生まれる、ということの意味。 乳児期、幼児期から児童期について。自我の発達と社会性の発達。認知の発達。「2人だから1人になれる」とはなにか。
	事後学習	教科書第6章を読む。発達の過程で「2人」とは何を形成するのか。「1人になる」とは何を意味するのか。教科書をまとめて、レポート作成、提出をする。2時間の復習。
13	事前学習	教科書第6章を読む。2種類の反抗期について、自分の経験をもとにしながら、自我の発達を中心にしてその特徴をまとめて記述する。2時間の予習。
	授業内容	青年期の身体的発達の特徴と自我形成。反抗期と心理的自立、自我同一性の確立と自己評価（心理検査実習を含む）。
	事後学習	教科書第5章をまとめる。自我同一性達成地位、自己評価と自尊心、について、実習の結果をまとめて、レポート作成と提出をする。2時間の復習。
14	事前学習	教科書、資料、ノート等をすべてまとめて整理する。未提出の課題等がないかどうか確認する。これまでの質問等をまとめる。2時間の予習。
	授業内容	授業のキーワードと質問：各授業のキーワード等をまとめ、振り返り。質問への解答をおこなう。
	事後学習	質問や疑問点についての解答を整理する。2時間の復習。

15	事前学習	教科書、資料、ノート、疑問点についてのまとめ、提出物等の再確認をする。特に疑問点について書き出して、授業で質問できるように準備する。2時間の予習。
	授業内容	こころのイメージ、心を見える化する、ということがどのような意味があるのか。心の姿、形、働きについて、心理学の考え方や研究等をまとめる。
	事後学習	教科書、資料、ノート等をまとめる。心のイメージ、心を見える化する、ということについて、授業から何を考えたか、をまとめて記述する。2時間の復習。

科目名	心理学Ⅱ	担当者	木村 敦	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
-----	------	-----	------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	心理学は外部から直接観察できない「心」を客観的な手法で研究し、人間行動の理解や問題解決への応用に役立てる学問領域である。心理学IIでは、社会の中の人間行動に焦点を当て、社会的認知やコミュニケーション、集団などの基本的知識およびその研究法を概観するとともに、学習内容を通じて自他の行動を解釈する課題を通じて、日常生活の中の人間行動を客観的に理解し判断する力を身につける。				
授業目的・到達目標	【授業目的】社会心理学の基礎的な概念や理論についての学びを通じて、社会人として必要な教養と社会科学の知識を修得する。また、自分や他者の行動について社会心理学的見地から省察することで、省察力を身につける。 【行動目標】(1)科目内で学習した社会心理学の概念や理論、用語について説明することができる。(2)自分や他者の振舞いについて、社会心理学のアプローチを踏まえて客観的に解釈することができる。関連DP及びCP: 総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4, 6, 8				
履修条件	心理学Iを履修していること（担当教員は問わない）。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。				
授業方法	講義を中心とするが、授業に関連する調査や実験の体験およびレポート作成、授業内試験等も適宜実施する。授業内試験・レポートについては、それぞれ翌週に解説・全体講評を行う（レポート講評はポータルシステム配信）。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内試験 【70%】 レポート 【10%】 授業参加（レスポンスペーパー、授業内調査等）【20%】 ※詳細は授業内で説明	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	備考	使用せず			
参考書	授業内で適宜案内する。				
オフィスアワー	一部金曜 4 限、二部金曜 1 限、授業内で質問を受け付ける。授業講堂にて。 E-mail: kimura.atsushi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。(2時間)
	授業内容	【ガイダンス】 授業の進め方や評価方法について説明、及び心理学の主領域について簡単な解説をし、受講者が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。(2時間)
2	事前学習	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【社会心理学の研究法】 社会の中の人間行動を科学的作法をもって研究するために社会心理学ではどのような実験技法が用いられるかを実験例を通じて学び、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。(2時間)
3	事前学習	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【心理学の研究倫理】 人間を対象とした研究を遂行する上で留意すべき倫理的配慮について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。(2時間)
4	事前学習	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【印象形成】 人間が他者や状況をどのように認知するかに関して、印象形成のメカニズムや諸要因について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。(2時間)

5	事前学習	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【社会的推論】 人間が他者や状況をどのように認知するかに関して、原因帰属のメカニズムや特性、ヒューリスティックについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。(2時間)
6	事前学習	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【態度の形成と変容】 人間が他者や状況をどのように認知するかに関して、態度形成のメカニズムや態度変容・説得に影響を及ぼす要因について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。(2時間)
7	事前学習	これまでの授業ノートを読み直し、各回のテーマや専門用語について論じられるよう準備する。(2時間)
	授業内容	【前半復習・小テスト】 前半範囲の復習および、授業内小テスト(1)を実施し、ここまでの学習についての理解度を確認する。
	事後学習	小テストを振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。(2時間)
8	事前学習	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【環境と行動】 物理的環境と人間行動の相互作用に関して学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。(2時間)
9	事前学習	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【他者存在】 人間が集合・集団の中でどのように振る舞うかに関して、他者存在が個人のパフォーマンスに及ぼす影響の現象とメカニズムについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。(2時間)
10	事前学習	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【対人関係・集団行動】 人間が集団の中でどのように振る舞うかに関して、対人関係や集団行動の基礎的理論について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。(2時間)
11	事前学習	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【集合行動】 集合行動の範囲、集合行動と集団行動の差異、集合行動のメカニズムについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。(2時間)
12	事前学習	これまでの授業ノートを読み直し、各回のテーマや専門用語について論じられるよう準備する。(2時間)
	授業内容	【後半復習・小テスト】 後半範囲の復習および、授業内小テスト(2)を実施し、ここまでの学習についての理解度を確認する。
	事後学習	小テストを振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。(2時間)
13	事前学習	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【法と心理学】 子どもを対象とした司法面接を行う際の心理学的側面からの留意点について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。(2時間)
14	事前学習	授業資料を事前に一読し、不明な点は調べたり、質問できるようノートにまとめる。(2時間)
	授業内容	【日常生活の心理学】 食事など身近な場面における心理・行動に関する最新の知見を学習し、これまで学習した心理学の知見を整理し直すとともに、日常生活への応用について自分の意見を述べられるようになる。
	事後学習	授業ノートを確認し、授業内容について自分の言葉で他者に概略を述べるとともに、日常生活例や発展研究例など自分なりの説明をまとめる。(2時間)
15	事前学習	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識や技能を論じられるように準備する。(2時間)
	授業内容	【総括】 14回の授業で学習したことを総括し当科目に関するまとめを行うとともに、科目を通じて自分が何を修得したかを授業内レポートとして提出する。
	事後学習	授業総括および授業内レポートの内容を振り返り、自分の考えを再検証するとともに、今後の学修方針を考える。(2時間)

科目名	心理学Ⅱ	担当者	田中 堅一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	心理学の応用領域のうち、組織や職場への応用を通覧し、心理学がどのように応用されているかについて解説する。			
授業目的・到達目標	授業目的：心理学の基礎領域を理解した上で、心理学がどのように応用されているかを理解し、説明できる。 到達目標：受講した範囲で心理学の基本的用語について理解し、説明できる。習得した心理学的知見を基にして、自己理解を深めることができ、自分自身の身の回りの事象について考えることができる。関連DPおよびCP：総合科目領域1、2、3、4、6、8			
履修条件	心理学に興味があること。こころの働きを科学的アプローチから考えることに関心があること。「心理学Ⅰ」を履修することが望ましい。			
授業方法	講義形式。設備環境が許すかぎり、毎回PowerPointを使いながら講義を行う（殆ど板書はしない）。時間が許せば、講義内容について討論の時間を設ける。「法学部総合ポータルサイト」を毎週必ずチェックする。期末試験の解説を、後日「法学部ポータルサイト」に配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	筆記試験は、筆記試験は、心理学Ⅱにおける基礎用語が習得されているかについて判定する。持ち込み不可。	
	平常評価	20%	宿題としてレポート提出を課す。レポートの内容は、講義で出てきた内容に関連したテーマについて出題される。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	弘文堂	心理学〔第3版〕（Next教科書シリーズ）	和田万紀
	備考	教科書よりも、参考書の使用頻度が多いです。		
参考書	田中堅一郎（2011）．産業・組織心理学エッセンシャルズ(改訂三版) ナカニシヤ出版． 藤田政博（編著）(2013)．法と心理学 法律文化社． ベイザーマン，M.H. ニール，D.A. 長瀬勝彦(訳)（2011）．行動意思決定論 白桃書房．			
オフィスアワー	質問等は、e-mailでアポイントをとること。（tanaka.kennichirou@nihon-u.ac.jp）。 金曜1限授業前、授業講堂にて、その間に質問を受けます。 授業後はすぐ帰ります。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	講義ノートとテキストを確認して、「心理学Ⅰ」で学んだことを振り返る（2時間）。
	授業内容	心理学Ⅱのガイダンス 講義概要、成績評価についての留意点、心理学の応用領域について理解できる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
2	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料に目を通す（2時間）。
	授業内容	応用心理学の歴史的経緯 応用心理学がどのように始まり発展してきたかについて理解することができる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
3	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「1 仕事への動機づけ」）に目を通す（2時間）。
	授業内容	ワーク・モチベーション1：科学的管理法、ホーソン研究、達成動機理論 仕事におけるモチベーションの歴史的経緯と基本的な用語を理解することができる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
4	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「1 仕事への動機づけ」）に目を通す（2時間）。
	授業内容	ワーク・モチベーション2：期待-価値モデル、目標設定理論と目標による管理 ワーク・モチベーションをどうすれば高めることができるかについて、その手立てを理解できる。
	事後学習	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する（2時間）。

5	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書（第7章・3）に目を通す。参考書の該当箇所に目を通す（2時間）。
	授業内容	同調と服従 同調行動と権威への服従を心理学の視点から理解し、ナショナリズムやホロコーストの原因について考察できる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
6	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、教科書（第7章・2）に目を通す。参考書の該当箇所にも目を通す（2時間）。
	授業内容	説得を科学する 効果的な説得と要請の仕方について理解し、効果的に説得するにはどうすればよいか考えることができる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
7	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、およびに参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「5 職場集団におけるリーダーシップ」）に目を通す（2時間）。
	授業内容	リーダーシップを心理学の視点から考える1 リーダーシップをリーダーの特性面と行動面から理解できる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
8	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、およびに参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「5 職場集団におけるリーダーシップ」）に目を通す（2時間）。
	授業内容	リーダーシップを心理学の視点から考える2 効果的なリーダーシップが、リーダーを取り巻く状況へ適合できるか否かで決まることを理解できる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
9	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、およびに参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』の「3 人事測定の方法」）に目を通す（2時間）。
	授業内容	職業適性：「自分に合う仕事は何か」を科学する 職業の適性について理解し、自分自身の職業適性を考えることができる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
10	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、参考書の該当箇所に目を通す（2時間）。
	授業内容	組織における意思決定の落とし穴1：プロスペクト理論 日常生活における一見すると「不合理な」判断を、心理学的視点から理論的に考えることができる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
11	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、参考書の該当箇所に目を通す（2時間）。
	授業内容	組織における意思決定の落とし穴2：コミットメントのエスカレーション 経営者・運営管理者が陥る「非合理的」な意思決定について理解し、その対処法について考えることができる。
	事後学習	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する（2時間）。
12	事前学習	教科書「第4章・5」、事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書（『産業・組織心理学エッセンシャルズ』）の該当箇所に目を通す（2時間）。
	授業内容	職場におけるストレス：ストレスとは何か ストレスに関する基本用語（例えば、ストレッサーとストレイン）を理解することができる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
13	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、参考書の該当箇所に目を通す（2時間）。
	授業内容	ストレスへの対処 ストレスによる障害を理解し、ストレスに対処することができる。
	事後学習	授業内容に関してレポート提出を求められることを想定して、講義ノートを確認して復習する（2時間）。
14	事前学習	事前にダウンロードされたPPT資料、および参考書の該当箇所に目を通す（2時間）。
	授業内容	法と心理学：法学と心理学のコラボレーション 心理学は法学にどのような貢献ができるかを理解できる。
	事後学習	講義ノートを確認して、講義内容で出てきた心理学用語を、参考書に示された辞書などで調べる（2時間）。
15	事前学習	今まで講義で使用されたPPT（あるいはその出力用紙）に目を通す（1時間）。
	授業内容	講義の総括と期末試験についての留意点 これまで学習した内容を復習し、期末試験についての留意点を確認する。
	事後学習	講義ノートと参考書を確認して、講義の総括と期末試験についての留意点を確認し、試験準備を行う（3時間）。

科目名	心理学Ⅱ	担当者	種ヶ嶋 尚志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	心理学は外部から直接観察できない「心」を客観的な手法で研究し、人間行動の理解や問題解決への応用に役立てる学問領域である。心理学IIでは、発達、社会、言語思考、健康、臨床といった心理学の主要分野の基本的知識およびその研究方法や研究史を概観するとともに、簡単な心理実験・検査への参加を通じて、心理学的現象を客観的に解釈し判断する力を身につける。			
授業目的・到達目標	【授業目的】発達、社会、言語・思考・知能、健康、臨床に関わる心理学の基礎知識、について学習することで、社会人として必要な教養と社会科学の知識を修得する。また、講義および心理実験・検査への参加を通じて自分自身について心理学的見地から認識することで、省察力を修得する。 【到達目標】(1) 科目内で学習した心理学の概念や理論、用語について説明することができる。(2) 自分自身の心理的反応について、心理学の知識や技能を踏まえて客観的に述べることができる。関連DP及びCP: 総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4, 6, 8			
履修条件	事前履修科目は特になし。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。			
授業方法	講義を中心とするが、授業に関連する調査や実験の体験、授業内テスト等も適宜実施する。 授業内テストについては、それぞれ翌週に解説・全体講評を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業内テスト 【60%】 レスポンスペーパー 【40%】 ※詳細はガイダンス等で適宜説明する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	弘文堂	心理学 第3版	和田万紀 編
	備考			
参考書	授業内で適宜案内する。			
オフィスアワー	月曜4限授業終了後講堂にて。予約制：事前にメールにてアポイントをとること。 tanegashima.hisashi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス】 授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、受講者が当科目の到達目標や授業内容を踏まえた上で学習準備を行えるようになる。
	事後学習	授業ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【発達の心理学①】 発達と成熟、ピアジェの認知発達理論について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【発達の心理学②】 身体・心理の発育発達について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
4	事前学習	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【発達の心理学③】 エリクソンの心理社会的発達理論を中心にした発達課題を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（1時間）

5	事前学習	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【社会の心理学①】 対人認知、態度と態度変容の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【社会の心理学②】 対人魅力、恋愛、援助行動の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）
7	事前学習	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【社会の心理学③】 集団心理的諸特徴(社会的促進・抑制、社会的手抜き等)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【社会の心理学④】 集団心理的諸特徴(集団規範、凝集性、同調、服従)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【言語・思考・知能の心理学】 思考の特徴、推論等についての概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【健康の心理学①】 ストレスについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【健康の心理学②】 ストレスとメンタルヘルスの関係と予防について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【臨床・異常の心理学①】 精神疾患の基礎知識を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した検査についてのレポートを作成する。（2時間）
13	事前学習	教科書の関連項目を読み、不明な点は調べたり、質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【臨床・異常の心理学②】 精神疾患(うつ病、統合失調症、神経症、解離性障害、アディクション等)の概要を学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
14	事前学習	これまでのノートや資料を再度復習し、各回の学習内容について説明できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【授業内テスト及び振り返り】 授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認する。
	事後学習	テストを振り返り、理解しきれていなかった点について再度まとめなおす。（2時間）
15	事前学習	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識、技能、態度を論じられるように準備する。（2時間）
	授業内容	【総括】授業内テストの解説や授業総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。
	事後学習	総括を振り返り、今後の学修方針を考える。（2時間）

科目名	心理学Ⅱ	担当者	和田 万紀	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	他者の存在が個人の心の働きに与える影響について、個人レベルから集団、集合レベルまでを社会心理学の理論、研究例から俯瞰して、理解する。社会、共同体の中で社会的動物としての人間の存在について考える。			
授業目的・到達目標	他者の存在は、どの様に個人の心の働きに影響するのか。個人が集団や集合となったとき、それぞれのレベルで、どのような特徴が個人、さらには集団や集合のなかにある個人の心の働きに現れるのか。「社会的動物」としての人間の心とその働きについて、その特徴を理解し説明できることを目的とする。そして、社会心理学の研究例や理論等から、説明ができるようになることを目標とする。 dp, cp 1, 2, 3, 4, 6, 8			
履修条件	心理学Ⅰを履修済み、または履修中であること。受講希望者が極端に多い場合には、上級学年から受講を許可する、という制限を設定する。第1回の授業に必ず出席して、制限のあるクラスかどうかの確認を行うこと。			
授業方法	講義を中心にエクササイズや心理検査等実習を行うことがある。それらをもとに集団討議を行いリフレクションペーパー、レポートを提出する。試験を行う。試験結果の説明等については、ポータルサイト等を通じて行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		50%	授業で取り上げた内容について、試験をする。論述の場合には、字数を指定する。
	平常評価		50%	リフレクションペーパー、レポート、課題提出状況等を基本として、総合的に判断する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	弘文堂	心理学第3版	和田万紀編
	備考	提出物をまとめるのりかホッチキス、配布する資料をまとめるバインダー、ノート、ものさし、3色の色鉛筆かボールペン等を用意する。		
参考書	授業中指示する。			
オフィスアワー	月曜日12時20分より13時まで。9号館501研究室にておこなう。 なお事前に、授業の前後にあらかじめ予約をすること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	「社会的動物としての人間」とはどのような存在なのか、についての意味を、まとめる。2時間の予習。
	授業内容	講義計画、評価方法、参考文献などの説明。「社会的動物」とはどのような存在か。
	事後学習	教科書、評価方法等を確認する。「社会的動物」としての人間について、自分の考えと授業のまとめを記述する。2時間の復習。
2	事前学習	教科書第6章、第7章を読む。社会心理学、本講義でとり扱う範囲について、記述する。2時間の予習。
	授業内容	自己認知の諸側面：わたしとは何者か。私はどのような私を知っているのか。他者に写る「私」を考える。現実の自己評価、理想の自己評価、そして他者評価について、それぞれの評価差から「自己認知」を考える。エクササイズで実習を行う。
	事後学習	授業中の実習から、自己認知の諸側面について、考察する。それをレポートとしてまとめて、提出の準備をする。2時間の復習。
3	事前学習	教科書第7章を読む。特に対人認知の一般的な特徴について、まとめて記述する。2時間の予習。
	授業内容	対人認知の特徴と対人感情、対人関係の構築：アッシュの研究例から、対人認知の特徴について考える。対人関係のバランス理論から対人感情と対人関係の構築について考える。対人関係の基本的態度について実習を行う。
	事後学習	授業中のエクササイズについて、自分および他者の結果のまとめとの比較、考察を記述する。自分の基本的対人態度について、その特徴を記述する。これらをレポート提出ができるように準備する。2時間の復習。
4	事前学習	教科書第7章を読む。自己表現の自分の特徴について、これまで成功した例、失敗した例を考えて記述する。どの様に自己表現しているのか、上手な自己表現とはなにか、についてまとめて記述する。2時間の予習。
	授業内容	上手な自己表現：自己呈示 「私」をどの様に「見せる」のか。見せ方は対人関係にどのように影響するのか。「上手な」「下手な」自己表現とは何か、を考える。 自己提示についての研究から、具体的な事例について学ぶ。
	事後学習	自己提示についての研究、理論をまとめて記述する。「上手な」「下手な」自己表現とは何を意味するのかについて、授業から考えたことをまとめて記述する。2時間の復習。

5	事前学習	教科書第7章を読む。「自己開示」について、これまでの経験を記述する。2時間の予習。
	授業内容	上手な自己表現：自己開示 「私」の本当の姿とは何か。なぜ「本当の私を見せる」ことが問題になるのか。自己開示の機能とは何か。自己開示と対人関係、適応、社会的スキルについて。「上手な」自己表現とは何か、を自己呈示との比較から考える。
	事後学習	自己提示と自己開示の2つの自己表現について、その差異に注目して、まとめて記述する。「自分にとって上手な」「下手な」自己表現とは何かを考えて記述して、レポート提出の準備をする。2時間の復習。
6	事前学習	教科書第7章を読む。人はなぜ助けられないのか、自分の経験等から考えて記述する。2時間の予習。
	授業内容	援助行動：なぜ人は人を助けるのか。なぜ人は人を助けられないのか。援助行動を「行動を起こす」までの心理過程について、研究例等から考える。
	事後学習	援助行動が生じるまでの過程から、援助行動を起こすことができない要因をまとめて記述する。2時間の復習。
7	事前学習	教科書第7章を読む。援助が欲しい時に、援助要請行動を起こすことができなかった例を考えて、なぜ援助要請ができなかったのかの要因を記述して考える。2時間の予習。
	授業内容	援助要請行動：なぜ「助けて」と言えないのか。「助けて」というまでの心理的過程について考える。援助焼成行動と子精神的健康（例、バーンアウト（燃え付き症候群）、感情労働等）という観点から考える。
	事後学習	助けてと言えない、ということについて、バーンアウトと援助要請行動という視点からその要因をまとめて考察して記述する。2時間の復習。
8	事前学習	教科書第7章を読む。人はなぜ人を攻撃するのか。なぜ攻撃行動を抑えることができなかったのか、という観点から考えて記述する。2時間の予習。
	授業内容	攻撃行動：なぜ人は人を攻撃するのか 攻撃行動が生じる要因、心理的過程について学ぶ。人間以外の動物の攻撃行動と人間の攻撃行動に差はあるのか。攻撃行動を抑制することは可能なのか。攻撃性の強さと攻撃行動。攻撃行動には「対人的機能」があるのか。報復としての攻撃行動。自分の攻撃性と攻撃行動について考える。
	事後学習	攻撃行動の生起と抑制の要因と、心理的過程についてまとめて記述する。2時間の復習。
9	事前学習	教科書第7章を読む。他者が存在することで、自分の判断や行動に影響を受けた例を考えて、記述する。「空気を読む」とはどのようなことかについて、具体例を考えて記述する。2時間の予習。
	授業内容	他者の存在の影響：「空気を読む」とは何か。「空気」を見える化する。規範の形成と種類。同調行動について。
	事後学習	「裸の王さま」の寓話について、規範の形成および同調行動という視点から説明をする。2時間の復習。
10	事前学習	教科書第7章を読む。集団の形成と特徴について、教科書をまとめて記述する。2時間の予習。
	授業内容	集団の形成とその特徴：人が集団を形成するとき、その特徴について。集団を形成すると個人にどのような影響を与えるのか。集団による作業の特徴。集団に対する認知の特徴。集団間関係について。
	事後学習	集団の形成と特徴について、教科書と授業時配布資料をまとめて記述する。2時間の復習。
11	事前学習	教科書第7章を読む。リーダーの役割についてまとめて記述する。2時間の予習。
	授業内容	リーダーとフォロワー；組織の特徴とは何か。 集団と組織。リーダーの役割。リーダーとフォロワーについて。日本型組織とは何か。組織の発達と終焉。
	事後学習	組織心理学について授業のまとめをする。リーダーとして自分の特徴を考えて記述する。2時間の復習。
12	事前学習	教科書第7章を読む。日本の文化に特有の「うち」と「そと」について考えて記述する。2時間の予習。
	授業内容	集団間関係：「ウチ」と「ソト」 内集団と外集団。うちとそとの認知と行動の特徴。ステレオタイプと偏見。日本的集団の特徴とは何か。
	事後学習	ステレオタイプによる認知と行動の特徴について、まとめて記述する。2時間の復習。
13	事前学習	教科書第7章を読む。回りに流される、という現象について、自分の経験をまとめて記述する。2時間の予習。
	授業内容	「みんな」と「わたし」；「みんな」とは誰か。長いものにはまかれろとはどのような意味か。多数派と少数派の影響。「わたし」と「没個性化」。
	事後学習	「みんな」を意識して行動した例を考えて、心理学の研究例や理論から、説明をする。2時間の復習。
14	事前学習	教科書第7章を読む。流行に影響を受けた例を考えて、なぜ影響を受けたのかについて心理的な過程を記述する。2時間の予習。
	授業内容	集合行動：見えない「みんな」について。集合行動、流行、流言、緊急時の認知と行動の特徴、を考える。
	事後学習	流行、流言の発生要因について、研究例や理論から説明をする。2時間の復習。
15	事前学習	教科書第6章、第7章、配布資料をまとめて、未提出物が内かどうかなを確認する。質問等を記述しておく。2時間の予習。
	授業内容	授業全体を振り返り、キーワードの確認をする。質問等に答える。
	事後学習	授業で取り上げた教科書、配布資料を読み、質問等の解答を確認する。2時間の復習。

科目名	数学 I	担当者	木村 孝	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単 位 数	2
-----	------	-----	------	-----	------------	-----	----	-------	---

授業概要	この講義では、数と式の計算および方程式と不等式を学習する。主な内容は素因数分解、記数法、数列、方程式の整数解、不等式等で、中高で学習したことの復習をしながらその発展および応用等を学習する。					
授業目的・到達目標	中学・高校程度の数学の復習を行いながら、公務員試験等で出題された問題の解法を考えることで、主に、文章化された問題を数学的に定式化する能力を養成することを目的とする。より一般的には、多面的な見方・考え方ができるようになることも目的とする。柔軟で多面的な思考を身につけ、文章題で表現されるような具体的な課題を、数学的に表現し処理できる能力を養成することを到達目標とする。対応DP及びCP：総合科目領域1, 2, 3, 4					
履修条件	中学校程度の数学および高等学校の数学Ⅰ程度の数式処理に関する知識・技術は、身につけていることを仮定して講義する。					
授業方法	講義の最初に提出されたレポートの解説を行い、次にその回に必要な基本的な知識を説明し、問題を解いてもらう。その後、問題解決のための思考方法を説明し解法を与える。授業内試験終了後には、その解説を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		試験、レポート授業への参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない				
参考書	適宜紹介する					
オフィスアワー	木曜日4時限の授業前後に授業講堂において質問を受け付ける。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	中高における数学内容を一通りおさらいしておくこと。(2時間)
	授業内容	ガイダンス 講義の進め方、評価方法を説明する。
	事後学習	ガイダンスを振り返り、次の授業に備えること。(2時間)
2	事前学習	中高における数と計算に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	数と式の計算について（その 1） 数と計算に関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
3	事前学習	中高における素因数分解に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	数と式の計算について（その 2） 素因数分解に関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
4	事前学習	中高における約数・倍数に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	数と式の計算について（その 3） 約数・倍数に関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)

5	事前学習	中高における商と余りに関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	数と式の計算について（その4） 商と余りに関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
6	事前学習	中高における記数法に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	数と式の計算について（その5） 記数法に関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
7	事前学習	中高における数量問題に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	数と式の計算について（その6） 数量問題に関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
8	事前学習	中高における数列に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	数と式の計算について（その7） 数列に関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
9	事前学習	中高における方程式の整数解に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	方程式と不等式について（その1） 方程式の整数解に関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
10	事前学習	中高における不等式に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	方程式と不等式について（その2） 不等式に関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること(3時間)
11	事前学習	中高における時計算等に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	方程式と不等式について（その3） 時計算等に関する問題
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること(3時間)
12	事前学習	中高における集合に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	方程式と不等式について（その4） 集合に関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
13	事前学習	中高における速さ・距離・時間に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	方程式と不等式について（その5） 速さ・距離・時間に関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
14	事前学習	中高における旅人算等に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	方程式と不等式について（その6） 旅人算等に関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
15	事前学習	初回からの講義ノートを見直し試験の準備をする。(3時間)
	授業内容	授業内試験及びまとめ
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。(1時間)

科目名	数学Ⅱ	担当者	木村 孝	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	-----	-----	------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、方程式と不等式、図形、場合の数と確率を学習する。主な内容は、ダイヤグラム、仕事算、ニュートン算、三角形・円の面積に関連すること、順列・組み合わせ・確率等で、中高で学習したことの復習をしながらその発展および応用等を学習する。					
授業目的・到達目標	中学・高校程度の数学の復習を行いながら、公務員試験等で出題された問題の解法を考えることで、主に、文章化された問題を数学的に定式化する能力を養成することを目的とする。より一般的には、多面的な見方・考え方ができるようになることも目的とする。柔軟で多面的な思考を身につけ、文章題で表現されるような具体的な課題を、数学的に表現し処理できる能力を養成することを到達目標とする。対応DP及びCP：総合科目領域1, 2, 3, 4					
履修条件	中学校程度の数学および高等学校の数学Ⅰ程度の数式処理に関する知識・技術は、身につけていることを仮定して講義する。					
授業方法	講義の最初に提出されたレポートの解説を行い、次にその回に必要な基本的な知識を説明し、問題を解いてもらう。その後、問題解決のための思考方法を説明し解法を与える。授業内試験終了後には、その解説を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		試験、レポート授業への参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない				
参考書	適宜紹介する					
オフィスアワー	木曜日4時限の授業前後に授業講堂において質問を受け付ける。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	中高におけるダイヤグラムに関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	方程式と不等式について（その7） ダイヤグラムに関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
2	事前学習	中高における比と割合に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	方程式と不等式について（その8） 比と割合に関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
3	事前学習	中高における濃度に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	方程式と不等式について（その9） 濃度に関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
4	事前学習	中高における仕事算に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	方程式と不等式について（その11） 仕事算に関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)

5	事前学習	中高におけるニュートン算に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	方程式と不等式について（その１２） ニュートン算に関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
6	事前学習	中高における三角形に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	図形について（その１） 三角形に関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
7	事前学習	中高における三角形の面積に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	図形について（その２） 三角形の面積に関する問題
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
8	事前学習	中高における円に関する問題に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	図形について（その３） 円に関する問題－2つの円に外接する直線－を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
9	事前学習	中高における円に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	図形について（その４） 円に関する問題－軌跡の長さ－を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
10	事前学習	中高における円の面積に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	図形について（その５） 円の面積に関する問題－円の面積比－を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
11	事前学習	中高における円の面積に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	図形について（その６） 円の面積に関する問題－2つの円が重なった部分の面積－を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
12	事前学習	中高における場合の数に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	場合の数と確率について（その１） 場合の数に関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
13	事前学習	中高における順列に関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	場合の数と確率について（その２） 順列に関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
14	事前学習	中高における組合せに関する理解・知識・技術等が不十分ならば事前に補っておくこと。(1時間)
	授業内容	場合の数と確率について（その３） 組合せに関する問題を解答できる。
	事後学習	講義中に説明されたことのメモを見る等して、講義で出された問題の解答をノートに整理し、レポートを作成すること。(3時間)
15	事前学習	初回からの講義ノートを見直し試験の準備をする。(3時間)
	授業内容	授業内試験及びまとめ
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。(1時間)

科目名	精神分析学Ⅰ	担当者	種ヶ嶋 尚志	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フロイトの精神分析学を学び、精神分析学的人間理解の方法になじむ。精神分析学Ⅰでは、精神分析学の基礎を概観するとともに、自由連想法や精神分析学における精神病理的現象を客観的に解釈し判断する力を身につける。				
授業目的・到達目標	【授業目的】精神分析学の基礎を概観するとともに、自由連想法や精神分析学における精神病理的現象について学習することで、社会人として必要な教養と社会科学の知識を修得する。また、講義および心理検査への参加を通じて自分自身について精神分析学的見地から認識することで、省察力を修得する。 【到達目標】(1) 科目内で学習した精神分析学の概念や理論、用語について説明することができる。(2) 自分自身の心理的反応について、精神分析学の知識や技能を踏まえて客観的に述べるができる。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4, 6, 8				
履修条件	事前履修科目は特になし。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。				
授業方法	講義を中心とするが、授業に関連する調査やリアクションシート、授業内テスト等も適宜実施する。授業内テストについては、それぞれ翌週に解説・全体講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内テスト【60%】 リアクションシート【40%】 ※詳細はガイダンス等で適宜説明する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし			
参考書	授業内で適宜案内する。				
オフィスアワー	月曜1限、授業終了後講堂にて。予約制：事前にメールにてアポイントをとること。 tanegashima.hisashi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス】 授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、受講者が当科目の到達目標や授業内容を踏まえた上で学習準備を行えるようになる。
	事後学習	授業ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	無意識・夢について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【無意識・夢とは】 意識の3つのレベル、夢について説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
3	事前学習	錯誤行為、心の構造について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【錯誤行為、心の構造とは】 （心的装置、エス、自我、超自我）について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
4	事前学習	防衛機制について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【防衛機制とは】 （抑圧、合理化、同一化、反動形成、等）について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）

5	事前学習	フロイト発達理論について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【心の発達】 フロイト発達理論（口唇期、肛門期、男根期、潜伏期、性器期）について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
6	事前学習	フロイトの性格形成について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【心の発達と性格形成】 各発達段階における固着した場合の性格タイプについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）
7	事前学習	フロイトにおけるヒステリーについて調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【精神分析と心の病①】 ヒステリーの症例について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
8	事前学習	転換性障害の心理面について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【精神分析と心の病②】 転換性障害等と精神分析との関わりについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
9	事前学習	人格障害について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【精神分析と心の病③】 パラノイア・境界性人格障害等と精神分析との関わりについて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
10	事前学習	転移・逆転移について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【精神分析と心の病の治療①】 転移・逆転移等について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
11	事前学習	自由連想法における解釈と終結について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【精神分析と心の病の治療②】 精神分析学における解釈と終結について学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
12	事前学習	分析心理学、自我心理学・対象関係論について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【フロイト以降の精神分析①】 分析心理学、自我心理学・対象関係論の概略ついて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した検査についてのレポートを作成する。（2時間）
13	事前学習	独立学派、自己心理学について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【フロイト以降の精神分析②】 独立学派、自己心理学の概略ついて学習し、受講者がそれについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
14	事前学習	これまでのノートや資料を再度復習し、各回の学習内容について説明できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【授業内テスト及び振り返り】 授業内テストを実施し、これまでの学習内容についての到達度を確認する。
	事後学習	テストを振り返り、理解しきれいなかった点について再度まとめなおす。（2時間）
15	事前学習	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識、技能、態度を論じられるように準備する。（2時間）
	授業内容	【総括】授業内テストの解説や授業総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。
	事後学習	総括を振り返り、今後の学修方針を考える。（2時間）

科目名	精神分析学Ⅱ	担当者	種ヶ嶋 尚志	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フロイトの精神分析学を学び、精神分析学的人間理解の方法になじむ。精神分析学IIでは、精神分析学の一般知識（フロイトの生涯、思想観等）を概観するとともに、ユング（分析心理学）との比較における精神病理的現象を客観的に解釈し判断する力を身につける。				
授業目的・到達目標	【授業目的】精神分析学の基礎を概観するとともに、精神分析学の一般知識（フロイトの生涯、思想観等）、ユング（分析心理学）との比較における精神病理的現象について学習することで、社会人として必要な教養と社会科学の知識を修得する。 【到達目標】(1) 科目内で学習した精神分析学の概念や理論、用語について説明することができる。(2) 自分自身の心理的反応について、精神分析学の知識や技能を踏まえて客観的に述べるができる。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4, 6, 8				
履修条件	事前履修科目は特になし。シラバスやガイダンスを通じて学習内容や授業方法を理解した上で履修すること。				
授業方法	講義を中心とするが、授業に関連する調査やリアクションシート、授業内テスト等も適宜実施する。授業内テストについては、それぞれ翌週に解説・全体講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内テスト【60%】 リアクションシート【40%】 ※詳細はガイダンス等で適宜説明する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし			
参考書	授業内で適宜案内する。				
オフィスアワー	月曜1限、授業終了後講堂にて。予約制：事前にメールにてアポイントをとること。 tanegashima.hisashi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をWEB、図書館等を利用して調べる。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス】 授業の内容や進め方、評価方法についての説明を通じて、受講者が当科目の到達目標や授業内容を踏まえた上で学習準備を行えるようになる。
	事後学習	授業ノートを確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	フロイトが活躍していた時代背景について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【フロイトの生涯①】 反ユダヤ主義の時代とフロイトの家族について説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
3	事前学習	精神分析が発展する過程について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【フロイトの生涯②】 精神分析の発展していく時代とフロイトの亡命について説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
4	事前学習	フロイトの思想について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【フロイトの思想①】 フロイトの思想（文化、社会、宗教等）について説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した実験についてのレポートを作成する。（2時間）

5	事前学習	ミケランジェロ、レオナルド・ダ・ビンチ、シェークスピア、ゲーテの代表作品について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【フロイトの思想②】 フロイトが行った各芸術・文学作品の分析について説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
6	事前学習	カール・グスタフ・ユングの生い立ちについて調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【精神分析の展開】 ユングの分析心理学について説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
7	事前学習	無意識、心的構造、コンプレックスについて調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【フロイトとユングの理論比較①】 フロイトとユングの無意識、心的構造、コンプレックスの各理論の同異について説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
8	事前学習	神経症理論、精神分析の技法について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【フロイトとユングの理論比較②】 フロイトとユングの神経症理論、精神分析の技法の同異について説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
9	事前学習	抑圧、強迫神経症について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【フロイトとユングの症例①】 ドラ、ネズミ男の症例について説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
10	事前学習	集合的無意識、うつ症状について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【フロイトとユングの症例②】 太陽のファロスを見た男性、うつを呈した子ども殺人の女性の症例について説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
11	事前学習	エディプス・コンプレックス、統合失調症について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【フロイトとユングの症例③】 狼男、グレートヘンについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
12	事前学習	防衛機制について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【精神分析から見たフロイト①】 フロイトのコンプレックスについて説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。また、授業で実施した検査についてのレポートを作成する。（2時間）
13	事前学習	心的装置（エス、自我、超自我）について調べ、不明点については質問できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【精神分析から見たフロイト②】 フロイトの生涯からみた欲動論の変遷について説明できるようになる。
	事後学習	授業ノートを読み直し、学習内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。（2時間）
14	事前学習	これまでのノートや資料を再度復習し、各回の学習内容について説明できるよう準備する。（2時間）
	授業内容	【授業内テスト及び振り返り】 授業内テストを実施し、ここまでの学習内容についての到達度を確認する。
	事後学習	テストを振り返り、理解しきれいなかった点について再度まとめなおす。（2時間）
15	事前学習	これまでに配布した授業資料やノートを読み直し、科目を通じて自分が修得した知識、技能、態度を論じられるように準備する。（2時間）
	授業内容	【総括】授業内テストの解説や授業総括を通じて、受講者が当科目での学習内容や自己の到達度を説明できるようになる。
	事後学習	総括を振り返り、今後の学修方針を考える。（2時間）

科目名	生命の科学Ⅰ	担当者	濱崎 雄太	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	生命現象の基本的なしくみを分子レベルで理解することが本講義のねらいである。まず、生命体がどのようなものであるかその基本概念を解説した後、生物の基本構造である細胞を構成する分子について説明する。そして、DNAという分子に記録されている遺伝情報がどのように伝達し、発現するのか解説する。本講義で扱った分子や遺伝子がどのように細胞を機能させ、個体を形作るのかは「生命の科学Ⅱ」で扱う。				
授業目的・到達目標	現代社会において生命現象の基本的な仕組みを知ることは重要である。本講義では社会人として身に着けるべき生命科学の知識、考え方を身に着けることを目的とする。具体的には、授業で学習した課題・項目の本質を平易に解説できるようになることを目標とする。関連DP:1, 2, 3, 4				
履修条件	前期と後期を継続して聴講することが望ましい。				
授業方法	液晶プロジェクターを用いたスライド映写と板書を併用した講義形式で行う。毎回参考プリントを配布する。毎回の講義で小テストを行い受講者の理解度の確認を行うとともに、翌週の講義で解説を行うことで理解を深める助けとする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	毎回の講義の中で小テストを行う。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。			
参 考 書	和田勝 『基礎から学ぶ生物学・細胞生物学』 羊土社 2015 第3版 吉村成弘 『大学で学ぶ身近な生物学』 羊土社 2018年 中村桂子・松原謙一 『The Cell』 Newton Press 2018年 第6版				
オフィスアワー	時間 水曜日 15:30～16:10 受付場所 授業講堂				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの第1回目の授業内容を確認するとともに、生物学、生命科学について調べておく。(2時間)
	授業内容	生命とは？ 授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考書について説明し、受講生が授業の準備を具体的に 行えるようにする。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
2	事前学習	シラバスの第2回目の授業内容を確認するとともに、「細胞」、「原核生物」、「真核生物」について調べておく(2時間)
	授業内容	生物の基本構造 生物に共通する基本的な事柄について述べ、生物の基本単位が細胞であることを学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
3	事前学習	シラバスの第3回目の授業内容を確認するとともに、「原子」、「分子」、「電子」、「水分子」、について調べておく。(2時間)
	授業内容	細胞を構成する物質 細胞を構成している物質の種類とその特徴について知り、さらに細胞内で働く力について学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
4	事前学習	シラバスの第4回目の授業内容を確認するとともに、「アミノ酸」、「タンパク質」、について調べておく。(2時間)
	授業内容	タンパク質の構造 タンパク質は生体内における重要な有機化合物である。タンパク質の基本単位がアミノ酸であることを知り、タンパク質の多様な立体構造がアミノ酸の特性に依存することを学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)

5	事前学習	シラバスの第5回目の授業内容を確認するとともに、「酵素」、「細胞骨格」、「筋肉」について調べておく。(2時間)
	授業内容	タンパク質の働き 生体内でタンパク質がどのような役割を果たしているのかを学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
6	事前学習	シラバスの第6回目の授業内容を確認するとともに、「遺伝子」、「ゲノム」、「DNA」について調べておく。(2時間)
	授業内容	遺伝子とDNA 遺伝子、ゲノム、DNAの関係について学び、DNAという物質の中に遺伝情報がどのように保存されているかを学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
7	事前学習	シラバスの第7回目の授業内容を確認するとともに、「DNAの構造」について調べておく。(2時間)
	授業内容	DNAの複製 DNAは細胞の増殖に伴って複製される。DNA複製の分子メカニズムについて学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
8	事前学習	シラバスの第8回目の授業内容を確認するとともに、第6回、第7回の内容を復習しておく。(2時間)
	授業内容	DNA損傷と修復 DNAはたびたび損傷を受けるが、それを修復する機能も備わっている。DNAに損傷が起きる要因とその修復機構について学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
9	事前学習	シラバスの第9回目の授業内容を確認するとともに、「細胞周期」、「細胞分裂」、「DNAの複製」、「染色体」について調べておく。(2時間)
	授業内容	細胞周期 細胞は決まった細胞周期に従って成長し複製される。細胞周期の概要とその仕組みについて学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
10	事前学習	シラバスの第10回目の授業内容を確認するとともに、第6回、第7回、第8回の内容を復習しておく。(2時間)
	授業内容	DNAの塩基配列の調べ方 第6回、第7回、第8回の講義で個体の遺伝情報がDNAの塩基配列として保存されていることを学習した。DNAの塩基配列情報を調べる手法について学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
11	事前学習	シラバスの第11回目の授業内容を確認するとともに、「DNA」、「RNA」、「アミノ酸」について調べておく。(2時間)
	授業内容	遺伝子発現：転写 遺伝子が持つタンパク質の情報とはタンパク質のアミノ酸の並び順の情報である。DNAに記された遺伝情報は転写、翻訳という過程を経てタンパク質の合成が行われる。本講義では転写の分子メカニズムについて学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
12	事前学習	シラバスの第12回目の授業内容を確認するとともに、「mRNA」、「リボソーム」、「コドン」、「アミノ酸」について調べてくる。(2時間)
	授業内容	遺伝子発現：翻訳 遺伝子が持つタンパク質の情報とはタンパク質のアミノ酸の並び順の情報である。DNAに記された遺伝情報は転写、翻訳という過程を経てタンパク質の合成が行われる。本講義では翻訳の分子メカニズムについて学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
13	事前学習	シラバスの第13回目の授業内容を確認するとともに、「転写」、「複製」の過程について再度復習しておく。(2時間)
	授業内容	遺伝子発現：遺伝子発現調節 同一個体内の細胞は同じ遺伝情報を持っている。しかしながら同一個体内には様々な細胞が存在している。同じ遺伝情報から様々な細胞を生み出す仕組みについて学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
14	事前学習	シラバスの第14回目の授業内容を確認するとともに、「ES細胞」と「iPS細胞」について調べておく。(2時間)
	授業内容	ES細胞とiPS細胞 近年注目されているES細胞とiPS細胞についてその特徴について学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
15	事前学習	これまでの講義の内容を復習しておく。(2時間)
	授業内容	講義のまとめ
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)

科目名	生命の科学Ⅱ	担当者	濱崎 雄太	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	生命現象の基本的なしくみを分子レベルで理解することが本講義のねらいである。「生命の科学Ⅰ」では生物の基本構造である細胞がどのような分子で構成され、遺伝情報がどのように伝達・発現するのかを扱った。これを受けて、本講義ではまず、これらの分子や遺伝子がどのように細胞を機能させているのか、その原理を学ぶ。そして、細胞集団がどのように組織化され、個体を形成していくのかについて動物の現象を例に解説する。				
授業目的・到達目標	現代社会において生命現象の基本的な仕組みを知ることは重要である。本講義では社会人として身に着けるべき生命科学の知識、考え方を身に着けることを目的とする。具体的には、授業で学習した課題・項目の本質を平易に解説できるようになることを目標とする。関連DP:1, 2, 3, 4				
履修条件	前期と後期を継続して聴講することが望ましい。				
授業方法	液晶プロジェクターを用いたスライド映写と板書を併用した講義形式で行う。毎回参考プリントを配布する。毎回の講義で小テストを行い受講者の理解度の確認を行うとともに、翌週の講義で解説を行うことで理解を深める助けとする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	毎回の講義の中で小テストを行う。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参 考 書	和田勝 『基礎から学ぶ生物学・細胞生物学』 羊土社 2015 第3版 吉村成弘 『大学で学ぶ身近な生物学』 羊土社 2018年 中村桂子・松原謙一 『The Cell』 Newton Press 2018年 第6版				
オフィスアワー	時間 水曜日 15:30～16:10 受付場所 授業講堂				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの第1回目の授業内容を確認するとともに、生物学、生命科学について調べておく。(2時間)
	授業内容	生命とは？ 授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考書について説明し、受講生が授業の準備を具体的に 行えるようにする。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
2	事前学習	シラバスの第2回目の授業内容を確認するとともに、「細胞」、「原核生物」、「真核生物」、「生物界三大ドメイン」について調べておく(2時間)
	授業内容	種概念と生物の系統 DNAの塩基配列によって生物種を分類することができる。本講義では生物が大きく3種類のドメインに分かれていることを学習し、さらに新たな遺伝子が生まれる仕組みについて学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
3	事前学習	シラバスの第3回目の授業内容を確認するとともに、「細胞膜」、「DNA」、「タンパク質」、「細胞小器官」について調べておく。(2時間)
	授業内容	細胞の構造 細胞を構成している物質の種類とその特徴について知り、特にDNAとタンパク質の特徴について改めて学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
4	事前学習	シラバスの第4回目の授業内容を確認するとともに、「アデノシン三リン酸(ATP)」、「酵素」について調べておく。(2時間)
	授業内容	細胞とエネルギー 生命活動を維持するためには外部からエネルギーを取り入れる必要がある。本講義では生命活動とエネルギーの関係について学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)

5	事前学習	シラバスの第5回目の授業内容を確認するとともに、「ミトコンドリア」、「解糖系」、「クエン酸回路」について調べておく。(2時間)
	授業内容	呼吸 細胞内にミトコンドリアを取り込んだ生物は酸素を用いた酸化過程を通じて大きなエネルギーを取り出すことができる。本講義ではミトコンドリアにおいて糖からエネルギーを取り出す過程について学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
6	事前学習	シラバスの第6回目の授業内容を確認するとともに、「葉緑体」、「可視光」、「クロロフィル」について調べておく。(2時間)
	授業内容	光合成 植物は光合成によって太陽エネルギーを化学エネルギーに変換している。本講義では光合成のメカニズムについて学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
7	事前学習	シラバスの第7回目の授業内容を確認するとともに、「細胞膜」、「シグナル伝達物質」について調べておく。(2時間)
	授業内容	シグナル伝達 多細胞生物の細胞は、周囲の細胞と情報交換を行っている。本講義では、多細胞生物におけるシグナル伝達について学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
8	事前学習	シラバスの第8回目の授業内容を確認するとともに、「神経細胞」、「静止膜電位」、「活動電位」について調べておく。(2時間)
	授業内容	神経系 我々の脳内では多数の神経細胞からなるネットワークによって情報処理が行われている。本講義では、神経細胞が活動するメカニズムと複数の神経細胞からの情報がどのように統合されるのかについて学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
9	事前学習	シラバスの第9回目の授業内容を確認するとともに、「視覚」、「聴覚」、「嗅覚」、「味覚」、「触覚」について調べておく(2時間)
	授業内容	外界からの情報を受容する仕組み 生物が外界の情報を取得する仕組みについて学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
10	事前学習	シラバスの第10回目の授業内容を確認するとともに、「メンデルの法則」について調べておく。(2時間)
	授業内容	遺伝 有性生殖によって親から子へ遺伝情報が継承されていく。本講義では、遺伝の法則性とその染色体の関係について学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
11	事前学習	シラバスの第11回目の授業内容を確認するとともに、「染色体」、「体細胞分裂」、「減数分裂」について調べておく(2時間)
	授業内容	減数分裂と配偶子形成 有性生殖をする生物は卵や精子といった配偶子を形成する。本講義では、配偶子形成の際に行われる減数分裂について学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
12	事前学習	シラバスの第12回目の授業内容を確認するとともに、「受精卵」、「細胞分化」について調べてくる。(2時間)
	授業内容	多細胞生物の発生 多細胞生物の受精から発生の過程について学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
13	事前学習	シラバスの第13回目の授業内容を確認するとともに、「ウィルス」、「細菌」、「白血球」ついて調べておく。(2時間)
	授業内容	自然免疫 細菌やウィルスといった病原体から身を守るために、我々の体は何重もの防御線が働いている。そのうち自然免疫は体内に侵入してきた病原体に対して最初に働く免疫システムである。本講義では、自然免疫について学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
14	事前学習	シラバスの第14回目の授業内容を確認するとともに、「抗体」と「キラーT細胞」について調べておく。(2時間)
	授業内容	獲得免疫 獲得免疫は病原体の目印(抗原)に対して特異的に働く免疫システムである。本講義では、獲得免疫について学習する。
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)
15	事前学習	これまでの講義の内容を復習しておく。(2時間)
	授業内容	講義のまとめ
	事後学習	配布プリントを読み、講義を聴講して新しく学んだことをまとめる。(2時間)

科目名	西洋の歴史Ⅰ	担当者	馬 淵 彰	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	ルネサンスの時代から啓蒙思想の時代に至るまでの人物や事件、思想、文化などを取り上げて、ヨーロッパにおける政治、経済、社会、宗教、文化などにわたる幅広い歴史像を持つ力を養う。			
授業目的・到達目標	【授業目的】西洋に関する歴史的な視野を広めるとともに、歴史問題を扱う際に求められる感覚を鋭くすることを目的とする。 【授業目標】ルネサンスや宗教改革や自然科学革命に関連する人物や事件・思想・文化などを理解した上で、「三時代区分問題」を説明できることを目標とする。DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4, 6			
履修条件	特になし			
授業方法	具体的なイメージを受講者が持てるようビデオや絵画や写真などを用いて、講義をおこなう。授業理解度を確認する作業（論述）の後、どのような点に気を付けて理解し論じるべきだったかなどについて授業内で解説する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価（授業内試験や授業参加度など）100%。出席日数不足の者は、授業内課題を提出しても授業内試験を受けても点数がつかない。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。必要に応じて、授業内で資料を配布する。		
参考書	『西洋の歴史：古代・中世編』『西洋の歴史：近現代編』『教養のための西洋史入門』（どれもミネルヴァ書房）。『歴史学における方法的転回：現代歴史学の成果と課題』青木書店。			
オフィスアワー	授業（一部火曜5限、水曜3限、二部木曜3限）終了後、質問・相談等を受付ける。オフィスアワーは一部の学生は火曜日の昼休みか火曜日5限、二部の学生は水曜2限。オフィスアワー利用の際は、事前にメール名などでアポイントメントをとってください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通し、講義の概要などを理解しておく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
2	事前学習	西洋とは何か、また西洋史が東洋史など他の歴史とどうして区別されているのか考えておく。（2時間）
	授業内容	西洋史とは何か
	事後学習	西洋史という歴史研究・教育領域が日本の特殊な歴史背景と関係していること、また今日では西洋史という枠組みが揺らいでいることをまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
3	事前学習	循環史観と直線史観とは何か、また代表的なものにそれぞれどのようなものがあるか調べておく。（2時間）
	授業内容	西洋史における時代区分法 アジアの「直線史観」、西洋での継承と変容
	事後学習	ヨーロッパ世界に直線史観がどのような経緯で入ったのか、またどのような変容を遂げたのかまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
4	事前学習	古代ギリシアとはどのような世界であったか、政治・社会・文化などの特徴を調べる。（2時間）
	授業内容	三時代区分再考：ルネサンス① 古代ギリシアの世界
	事後学習	「ルネサンス」期の人々が古代ギリシアの世界にアコガれた理由をまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）

5	事前学習	古代ローマとはどのような世界であったか、政治・社会・文化などの特徴を調べる。（2時間）
	授業内容	三時代区分再考：ルネサンス② 古代ローマの世界
	事後学習	「ルネサンス」期の人々が古代ローマの世界にあこがれた理由をまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
6	事前学習	「ルネサンス」とは何か、また「ルネサンス」との呼称がついている歴史用語にどのようなものがあるか調べてくる。（2時間）
	授業内容	三時代区分再考：ルネサンス③ 古代世界の再生か、「個」の発見か、前進か？
	事後学習	「ルネサンス」の前後で「中世」と「近代」とに時代を区分することの問題点をまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
7	事前学習	「宗教改革」とは、何をどのように改革しようと試みたものなのか調べておく。（2時間）
	授業内容	三時代区分再考：宗教改革① ルターの福音解釈と近代個人主義？
	事後学習	ルターの説く福音信仰による個人の救いとはどういうことかをまとめる。（2時間）
8	事前学習	己（個人）の魂の革新をえるために格闘続けてきた隠修士・修道士に、古代ローマ時代から宗教改革期までの時期にどのようなグループ（修道院・修道会）があり、どのように発展してきたか調べておく。（2時間）
	授業内容	三時代区分再考：宗教改革② 「中世」的世界観を引きずるルター？
	事後学習	「宗教改革」の前後で「中世」と「近代」とに時代を区分することの問題点をまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
9	事前学習	なぜイギリスでは地動説がキリスト教からの反発を受けず、ニュートンたちによって近代自然科学が確立したのか調べたり考えたりしておく。（2時間）
	授業内容	三時代区分再考：自然科学革命① キリスト教自然観の落とし子「近代科学」
	事後学習	ある種のキリスト教的自然観が近代科学の誕生に影響を与えていたことをまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
10	事前学習	近代自然科学の成果と啓蒙思想の発展がどのように関係しているか、また17世紀から19世紀において科学的・合理的世界とは異なる（あるいは反する）思想にどのようなものがああったか調べてくる。（2時間）
	授業内容	三時代区分再考：自然科学革命② 法・政治・経済・社会の科学ブームとその反動
	事後学習	「科学革命」の前後で「中世」と「近代」とに時代を区分することの問題点をまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
11	事前学習	「ルネサンス」「宗教改革」「科学革命」のどれによってでも、「中世」と「近代」を区分する際に、過去の実態を見誤らせられることを再確認しておく。（2時間）
	授業内容	三時代区分の問題点のまとめ 人類の歴史を三区分する賢さ、または愚かさ？
	事後学習	なぜ三時代区分が歴史研究において深刻な問題を生じさせるのかまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
12	事前学習	近代歴史学がどのように誕生したのか、近代歴史学はそれまでの歴史研究とどのような点で異なるか調べておく。（2時間）
	授業内容	西洋における歴史研究の発展（近代歴史学の誕生） 科学的歴史研究へのチャレンジ
	事後学習	近代歴史学の手法が、これまで人類が持っていた歴史研究手法とは異なり、特殊であることをまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
13	事前学習	今日の歴史研究者が、近代歴史学に基づいて実際にどのように研究作業を遂行しているか調べる。（2時間）
	授業内容	歴史研究の方法 ある種の「タイムマシーン」プロジェクト 現代人を過去の世界へと送り込めるか？
	事後学習	近代歴史学の手法による歴史研究の長所と短所をまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
14	事前学習	前学期に学んだことの要点を理解できるまで復習する。（2時間）
	授業内容	授業理解度確認作業
	事後学習	授業理解度確認作業をおこなってみて、どこが理解できていなかったのかまとめる。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業の中で理解しきれていない箇所をまとめてくる。（2時間）
	授業内容	前学期のまとめ
	事後学習	授業内に紹介された参考文献や配布された資料を読み、西洋史の知識や歴史学の手法を自分の研究に応用する能力を確かなものにしていく。（2時間）

科目名	西洋の歴史Ⅱ	担当者	馬 淵 彰	部 別	第一部 第二部	期 間	後 期	単 位 数	2
-----	--------	-----	-------	-----	------------	-----	-----	-------	---

授業概要	フランス革命からドイツ統一に至るまでの人物や事件・思想・文化などを取り上げて、ヨーロッパにおける政治・経済・社会・宗教・文化などにわたる幅広い歴史像を持つ力を養う。				
授業目的・到達目標	【授業目的】西洋に関する歴史的な視野を広めるとともに、歴史問題を扱う際に求められる感覚を鋭くすることを目的とする。 【授業目標】フランス革命からドイツ統一に至るまでの人物や事件・思想・文化などを理解した上で、19世紀に新たに登場した歴史観とその歴史学上の諸問題を説明できることを目標とする。DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4, 6				
履修条件	特になし				
授業方法	具体的なイメージを受講者が持てるようビデオや絵画や写真などを用いて、講義をおこなう。授業理解度を確認する作業（論述）の後、どのような点に気を付けて理解し論じるべきだったかなどについて授業内で解説する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価（授業内試験や授業参加度など）100%。出席日数不足の者は、授業内課題を提出しても授業内試験を受けても点数がつかない。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。必要に応じて、授業内で資料を配布する。			
参考書	『西洋の歴史：古代・中世編』『西洋の歴史：近現代編』『教養のための西洋史入門』（どれもミネルヴァ書房）。『歴史学における方法的転回：現代歴史学の成果と課題』青木書店。				
オフィスアワー	授業（一部火曜5限、水曜3限、二部木曜3限）終了後、質問・相談等を受付ける。オフィスアワーは一部の学生は火曜日の昼休みか火曜日5限、二部の学生は水曜2限。オフィスアワー利用の際は、事前にメール名などでアポイントメントをとってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通し概要を把握してくる。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 授業の説明
	事後学習	授業の視点がどのようなものかまとめる。（2時間）
2	事前学習	歴史学も科学とだという主張が、どのようなことを根拠になされているか調べてくる。（2時間）
	授業内容	「近代歴史学」の特徴と課題
	事後学習	近代歴史学に対する多くの批判があることをまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
3	事前学習	歴史学以外に過去を扱う学問にどのようなものがあるか、またそれらの学問と歴史学では過去の研究方法でどのように異なるか調べたり考えたりしてくる。（2時間）
	授業内容	歴史学でしか説明できない過去の世界はあるのか
	事後学習	歴史学が過去を研究する手法において他の学問とは異なること点をまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
4	事前学習	歴史研究において優れた研究とは何か、また劣った研究とは何か考えてくる。（2時間）
	授業内容	自分の理想や価値観で、過去を物語っていいのか
	事後学習	過去をその内側から理解することがなぜ必要であるかまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）

5	事前学習	フランス革命の経緯とフランス革命の政治的・社会的・文化的影響を調べてくる。（2時間）
	授業内容	西洋の歴史意識：進歩史観 フランス革命
	事後学習	フランス革命と啓蒙主義や進歩史観との関係をまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
6	事前学習	ナポレオン1世について、彼の功績や失脚の経緯などを調べてくる。（2時間）
	授業内容	西洋の歴史意識：ナショナルな歴史観 ナポレオン
	事後学習	ナポレオンの登場によってなぜナショナルな歴史観がヨーロッパ各地に芽生えたのかをまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
7	事前学習	「産業革命」とはどのような歴史現象だったのか、また社会構造をどのように変容させる出来事だったのか調べてくる。（2時間）
	授業内容	西洋の歴史意識：自由主義、急進主義、社会主義、階級闘争的な歴史観 産業革命
	事後学習	「産業革命」を一つの契機として、なぜ自由主義や急進主義、社会主義、階級層的な歴史観が芽生えたのかをまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
8	事前学習	「ウィーン体制」とは何かについて調べてくる。（2時間）
	授業内容	西洋の歴史意識：超民族共同体的、漸進的保守主義の歴史観 ウィーン体制
	事後学習	メッテルニヒやウィーン体制によって、反ナショナリズム的、漸進的保守主義の歴史観が強められたことをまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
9	事前学習	ヨーロッパの革命とされる1848年に、どのような革命がどの地域で生じたのか調べてくる。（2時間）
	授業内容	西洋の歴史意識：種々の歴史観の衝突 1848年の革命
	事後学習	フランス革命、ナポレオン、産業革命、ウィーン体制などによって生じた理想的社会像が1848年に衝突し、暴動や革命へと発展したことをまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
10	事前学習	東方問題がなぜ生じたのか、またヨーロッパ列強間でどのような対立構図が生じていたのかを調べてくる。（2時間）
	授業内容	西洋の歴史意識：ヨーロッパ中心的な歴史観 東方問題
	事後学習	イスラーム圏においてヨーロッパ列強間の対立が展開され、また帝国主義の時代の幕開けにつながることをまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
11	事前学習	イタリアの統一とドイツの統一が、それぞれどのように達成されたのか調べてくる。（2時間）
	授業内容	西洋の歴史意識：民族中心の歴史観 イタリア統一・ドイツ統一
	事後学習	政府が展開した民族統一政策と、民族統一運動に貢献した民衆の民族意識についてまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
12	事前学習	西洋の歴史のこの講義の17回・18回・19回で学習したことを復習しておく。（2時間）
	授業内容	歴史の発展法則や理論を発見したいという誘惑
	事後学習	西洋史の学びが西洋の過去の実態の理解のためではなく、無意識のうちに別の目的のための道具にすり替えられていくカラクリについてまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
13	事前学習	西洋の歴史解釈が、特定の理想や信念に基づいて歪められていた実態を、ここまでの講義内容を振り返ることで再確認する。（2時間）
	授業内容	歴史の学びは今日の社会に役に立つのか
	事後学習	学問としての歴史研究（近代歴史学）が、今日の社会に重要な役割を果たしていることをまとめる。授業の中で触れられた歴史用語や人物などで分からなかったものを、図書館などで調べノートにまとめる。（2時間）
14	事前学習	後学期に学んだことの要点を理解できるまで復習する。（2時間）
	授業内容	授業理解度確認作業
	事後学習	授業理解度確認作業をおこなってみて、どこが理解できていなかったのかをまとめる。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業の中で理解しきれっていない箇所をまとめてくる。（2時間）
	授業内容	全体のまとめ
	事後学習	授業内に紹介された参考文献や配布された資料を読み、西洋史の知識や歴史学の手法を自分の研究に応用する能力を確かなものにしていく。（2時間）

科目名	世界文学 I	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ポスト革命期にあたる19世紀フランス文学を取り上げます。①19世紀フランス文学のいくつかの作品について知る ② 革命期に醸造されたさまざまな思想が、どのようなかたちで文学に反映されているのかを理解する ③ 19世紀文学について知ることで、現在のフランスにおけるラインテ（政教分離、脱宗教性）の在り方の背景をなす考え方を理解する、以上の内容を中心に授業を展開します。					
授業目的・到達目標	【授業目的】文学研究がもたらす思考力を土台に、批判的考察力を養成し、問題発見を行える能力を身につけることを目的とする。 【授業目標】文学作品を通して、社会を考察する新たな視野を養い、それによって総合的に物事を判断できるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：総合科目1, 2, 3, 4					
履修条件	特になし。					
授業方法	①毎回のテーマにそって、解説を行う。②毎回の授業で、受講者にコメントおよび質問を書いてもらい、その内容について次回に説明を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		前期試験（70%）、授業参加度とコメントペーパー（30%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	なし	なし		なし		なし
	備考					
参考書	課題図書を前期1冊、後期1冊課します（詳しくは授業中に解説します）。					
オフィスアワー	日時：月曜日15：00～16：00 場所：図書館7階ラーニングコモンズ（イースト） 内容：フランス語学習に関する質問、留学相談、その他 メールによる問い合わせ・相談も受け付けます（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	フランス19世紀文学にどのような作品があるのか、調べておく。（2時間）
	授業内容	授業の説明
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
2	事前学習	配布されたプリントにある課題について調べること（2時間）
	授業内容	19世紀フランスの歴史と社会(1) 19世紀フランス文学概観(1)
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
3	事前学習	配布されたプリントにある課題について調べること（2時間）
	授業内容	19世紀フランスの歴史と社会(2) 19世紀フランス文学概観(2)
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
4	事前学習	配布されたプリントにある課題について調べること（2時間）
	授業内容	キリスト教とは何か(1)キリスト教の教義、その他に
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）

5	事前学習	配布されたプリントにある課題について調べること（2時間）
	授業内容	キリスト教とは何か(2) フランス史におけるキリスト教について
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
6	事前学習	配布されたプリントにある課題について調べること（2時間）
	授業内容	啓蒙思想家ジャン＝ジャック・ルソーの思想と19世紀文学(1)
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
7	事前学習	配布されたプリントにある課題について調べること（2時間）
	授業内容	啓蒙思想家ジャン＝ジャック・ルソーの思想と19世紀文学(2)
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
8	事前学習	配布されたプリントにある課題について調べること（2時間）
	授業内容	ルソーの後継者たち（1）フェリシテ・ド・ラムネ
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
9	事前学習	配布されたプリントにある課題について調べること（2時間）
	授業内容	ルソーの後継者たち（2）シャトーブリアン
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
10	事前学習	配布されたプリントにある課題について調べること（2時間）
	授業内容	ルソーの後継者たち（3）アルフォンス・ド・ラマルティエヌ
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
11	事前学習	配布されたプリントにある課題について調べること（2時間）
	授業内容	ルソーの後継者たち（4）ヴィクトール・ユゴー
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
12	事前学習	配布されたプリントにある課題について調べること（2時間）
	授業内容	ミシュレ『フランス革命史』序説とヴォルテール
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
13	事前学習	配布されたプリントにある課題について調べること（2時間）
	授業内容	啓蒙思想家ヴォルテール『寛容論』とカラス事件（1）
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
14	事前学習	配布されたプリントにある課題について調べること（2時間）
	授業内容	啓蒙思想家ヴォルテール『寛容論』とカラス事件（2）
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
15	事前学習	前期試験の準備をすること。（2時間）
	授業内容	前期試験とまとめ
	事後学習	前期全体の復習をすること。（2時間）

科目名	世界文学 I	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語圏文学を中心に文学とその読み方を講義します。19世紀から現代までのドイツ・オーストリア文学を中心に扱います。 実際にテキストを読み、グループワークを通じて自律的に作品解釈をしてゆきます。				
授業目的・到達目標	自律的に文学テキストを解釈し、それを元に他の人の解釈と比較し、多角的なものの捉え方を実践的に学ぶことが目的です。 同時に、文学作品の背景にあるドイツ語圏の歴史・政治・文化を学ぶことも目的です。 文学の引用方法・解釈の方法論・解釈の表現を身につけ、半期で5000字以上のレポート作成することが目標です。関連DP及びCP：総合科目1, 2, 3, 4				
履修条件	特になし				
授業方法	講義とグループワークを併用した授業です。テーマごとにワークシートを作成し、前期・後期それぞれ扱った作品（テーマ）の中から一つずつ選んでレポートを書きます。プレゼン・講評をした上で提出してもらいます。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	ワークシート30%+レポート70%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	授業中に指示します。			
参考書	授業中に指示します。				
オフィスアワー	火曜日 昼休み 研究室（4号館424研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp） 授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス確認 （1時間）
	授業内容	ガイダンス ドイツ語圏文学概論
	事後学習	ドイツ語圏に関する基本データをまとめる。 （3時間）
2	事前学習	作品予習 （2時間）
	授業内容	テーマ1-1 20世紀から現代のメディアとドイツ文学1
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。 （2時間）
3	事前学習	作品予習 （2時間）
	授業内容	テーマ1-2 20世紀から現代のメディアとドイツ文学2
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。 （2時間）
4	事前学習	作品予習 （2時間）
	授業内容	テーマ2-1 EUとドイツ語圏文学 1
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。 （2時間）

5	事前学習	作品予習（2時間）
	授業内容	テーマ2-2 EUとドイツ語圏文学 2
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。（2時間）
6	事前学習	作品予習（2時間）
	授業内容	テーマ3-1 オーストリア文学の特徴 ― 多民族多文化国家の文学1
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。（2時間）
7	事前学習	作品予習（2時間）
	授業内容	テーマ3-2 オーストリア文学の特徴 ― 多民族多文化国家の文学2
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。（2時間）
8	事前学習	作品予習（2時間）
	授業内容	テーマ4-1 ユダヤ人とドイツ文学1
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。（2時間）
9	事前学習	作品予習（2時間）
	授業内容	テーマ4-2 ユダヤ人とドイツ文学2
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。（2時間）
10	事前学習	作品予習（2時間）
	授業内容	テーマ5-1 カフェ文化と文学1
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。（2時間）
11	事前学習	作品予習（2時間）
	授業内容	テーマ5-2 カフェ文化と文学2
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。（2時間）
12	事前学習	作品予習（2時間）
	授業内容	テーマ6-1 ナチスとドイツ文学1
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。（2時間）
13	事前学習	作品予習（2時間）
	授業内容	テーマ6-2 ナチスとドイツ文学2
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。（2時間）
14	事前学習	作品予習（1時間）
	授業内容	テーマ7 第二次政界大戦とドイツ文学
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。 レポート作成（3時間）
15	事前学習	プレゼン準備（2時間）
	授業内容	ワークショップ 解説
	事後学習	前期振り返り（2時間）

科目名	世界文学 I	担当者	児玉 直起	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	ソポクレスの『アンティゴネー』（前441）とアヌイが翻案した『アンチゴーン』（1944）を読み、両者を比較する。前者は人間の掟（国家）と神々の掟（個人の良心）との相克を描いた古典的悲劇。後者は、ナチス・ドイツによる占領下のフランスで1942年に執筆され、44年2月に初演された悲劇の現代版。			
授業目的・到達目標	外国文学の名作を味わいながら、人間性（人間とは何か）への認識を深め、共感力を養うことを目的とする。毎回の意見交換を通じ、自分の考えを根拠に基づいて表現することができるようになることを目標とする。 関連D P 及びC P：総合科目1，2，3，4			
履修条件	文学・芸術への関心と発言（意見交換）の意志を持っていること。			
授業方法	演習形式で進める。適宜CDやDVDを使う。テストの講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。後期（Ⅱ）は、フィールドワークとして『ロミオとジュリエット』をバレエ化した舞台を劇場で観る予定。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価		テスト 40%，平常点（発表・発言・授業参加度等）60%。欠席を繰り返した場合、その時点で履修資格を失う。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014	岩波文庫	アンティゴネー	ソポクレス
	備考	アヌイの『アンチゴーン』（芥川比呂志訳）は絶版のため、プリントを使用する。		
参考書	ソポクレス『オイディプス王』岩波文庫、ソポクレス『コロノスのオイディプス』岩波文庫、ジョージ・スタイナー『アンティゴネーの変貌』みすず書房、プレヒト『アンティゴネ』光文社古典新訳文庫			
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は金曜10：30～授業終了後の教室で、または水曜日12:30-13:30に435研究室で対応する。 E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、授業の全体を概観する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス／イントロダクション
	事後学習	授業で何を学ぶのか確認する。（2時間）
2	事前学習	演劇と小説の違いについて考え、ギリシア悲劇について調べておく。（2時間）
	授業内容	ギリシアの劇場・劇の構造・物語の前史
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
3	事前学習	当該箇所を熟読し、感想と疑問点をメモする。（2時間）
	授業内容	ソポクレス『アンティゴネー』プロロゴス・第1エペイソディオン・第1スタシモン
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
4	事前学習	当該箇所を熟読し、感想と疑問点をメモする。（2時間）
	授業内容	『アンティゴネー』第2エペイソディオン・第2スタシモン・第3エペイソディオン・第3スタシモン
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）

5	事前学習	当該箇所を熟読し、感想と疑問点をメモする。（2時間）
	授業内容	『アンティゴネー』 第4エピソード・第4スタシモン・第5エピソード・第5スタシモン
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
6	事前学習	当該箇所を熟読し、感想と疑問点をメモする。（2時間）
	授業内容	『アンティゴネー』 エクソドス／まとめ
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
7	事前学習	フランスの劇作家ジャン・アヌイについて調べておく。（2時間）
	授業内容	ジャン・アヌイ（1910-1987）について
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
8	事前学習	当該箇所を熟読し、感想と疑問点をメモする。（2時間）
	授業内容	アヌイ『アンチゴーヌ』 1
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
9	事前学習	当該箇所を熟読し、感想と疑問点をメモする。（2時間）
	授業内容	アヌイ『アンチゴーヌ』 2
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
10	事前学習	当該箇所を熟読し、感想と疑問点をメモする。（2時間）
	授業内容	アヌイ『アンチゴーヌ』 3
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
11	事前学習	当該箇所を熟読し、感想と疑問点をメモする。（2時間）
	授業内容	アヌイ『アンチゴーヌ』 4
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
12	事前学習	当該箇所を熟読し、感想と疑問点をメモする。（2時間）
	授業内容	アヌイ『アンチゴーヌ』 5
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
13	事前学習	当該箇所を熟読し、感想と疑問点をメモする。（2時間）
	授業内容	ソボクレスとアヌイの比較
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
14	事前学習	半期の授業内容を振り返り、疑問点等を整理する。（2時間）
	授業内容	まとめ・質問・授業評価
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
15	事前学習	半期の学習内容を復習する。（2時間）
	授業内容	目標の到達度を確認する
	事後学習	この授業で何を学んだか、整理する。（2時間）

科目名	世界文学Ⅱ	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ポスト革命期にあたる19世紀フランス文学を取り上げます。①19世紀フランス文学のいくつかの作品について知る ② 革命期に醸造されたさまざまな思想が、どのようなかたちで文学に反映されているのかを理解する ③ 19世紀文学について知ることで、現在のフランスにおけるライシテ（政教分離、脱宗教性）の在り方の背景をなす考え方を理解する、以上の内容を中心に授業を展開します。			
授業目的・到達目標	【授業目的】文学研究がもたらす思考力を土台に、批判的考察力を養成し、問題発見を行える能力を身につけることを目的とする。 【授業目標】文学作品を通して、社会を考察する新たな視野を養い、それによって総合的に物事を判断できるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：総合科目1, 2, 3, 4			
履修条件	特になし。			
授業方法	①毎回のテーマにそって、解説を行う。②毎回の授業で、受講者にコメントおよび質問を書いてもらい、その内容について次回に説明を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	前期試験（70%）、授業参加度とコメントペーパー（30%）	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	なし	なし	なし	なし
	備考			
参考書	課題図書を前期1冊、後期1冊課します（詳しくは授業中に解説します）。			
オフィスアワー	日時：月曜日15：00～16：00 場所：図書館7階ラーニングコモンズ（イースト） 内容：フランス語学習に関する質問、留学相談、その他 メールによる問い合わせ・相談も受け付けます（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ヴィクトール・ユゴーについて調べてくること。（2時間）
	授業内容	授業の説明
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
2	事前学習	渡されたプリントの指定された中で、指定部分を読んでくること。（2時間）
	授業内容	19世紀の歴史とヴィクトール・ユゴーの政治的軌跡（1）
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
3	事前学習	渡されたプリントの指定された中で、指定部分を読んでくること。（2時間）
	授業内容	19世紀の歴史とヴィクトール・ユゴーの政治的軌跡（2）
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
4	事前学習	渡されたプリントの指定された中で、指定部分を読んでくること。（2時間）
	授業内容	①『レ・ミゼラブル』の概略（1） ②『レ・ミゼラブル』とシネマ/ミュージカル
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）

5	事前学習	渡されたプリントの指定された中で、指定部分を読んてくること。（2時間）
	授業内容	①『レ・ミゼラブル』の概略（2） ②『レ・ミゼラブル』におけるキリスト教
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
6	事前学習	渡されたプリントの指定された中で、指定部分を読んてくること。（2時間）
	授業内容	①『レ・ミゼラブル』の概略（3） ②『レ・ミゼラブル』におけるファンタスティック
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
7	事前学習	渡されたプリントの指定された中で、指定部分を読んてくること。（2時間）
	授業内容	①『レ・ミゼラブル』の概略（4） ②『レ・ミゼラブル』における社会問題
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
8	事前学習	渡されたプリントの指定された中で、指定部分を読んてくること。（2時間）
	授業内容	①『レ・ミゼラブル』の概略（4） ②『レ・ミゼラブル』と革命
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
9	事前学習	渡されたプリントの指定された中で、指定部分を読んてくること。（2時間）
	授業内容	①『レ・ミゼラブル』の概略（5） ②『レ・ミゼラブル』と女性たち
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
10	事前学習	渡されたプリントの指定された中で、指定部分を読んてくること。（2時間）
	授業内容	①『レ・ミゼラブル』の概略（6） ②『レ・ミゼラブル』の文学としての位置づけ
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
11	事前学習	渡されたプリントの指定された中で、指定部分を読んてくること。（2時間）
	授業内容	ユゴーのその他の作品（『クロード・ゲー』）
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
12	事前学習	渡されたプリントの指定された中で、指定部分を読んてくること。（2時間）
	授業内容	ユゴーのその他の作品（『九十三年』）
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
13	事前学習	渡されたプリントの指定された中で、指定部分を読んてくること。（2時間）
	授業内容	ユゴーの死刑廃止論(1)
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
14	事前学習	渡されたプリントの指定された中で、指定部分を読んてくること。（2時間）
	授業内容	ユゴーの死刑廃止論(2)
	事後学習	配布されたプリントを読み、疑問点を抽出しておくこと。（2時間）
15	事前学習	後期末試験の準備をする。（4時間）
	授業内容	後期末試験とまとめ
	事後学習	後期全体の復習をすること。（2時間）

科目名	世界文学Ⅱ	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語圏文学を中心に文学とその読み方を講義します。19世紀から現代までのドイツ・オーストリア文学を中心に扱います。 実際にテキストを読み、グループワークを通じて自律的に作品解釈をしてゆきます。				
授業目的・到達目標	自律的に文学テキストを解釈し、それを元に他の人の解釈と比較し、多角的なものの捉え方を実践的に学ぶことが目的です。 同時に、文学作品の背景にあるドイツ語圏の歴史・政治・文化を学ぶことも目的です。 文学の引用方法・解釈の方法論・解釈の表現を身につけ、半期で5000字以上のレポート作成することが目標です。関連DP及びCP：総合科目1, 2, 3, 4				
履修条件	特になし				
授業方法	講義とグループワークを併用した授業です。テーマごとにワークシートを作成し、前期・後期それぞれ扱った作品（テーマ）の中から一つずつ選んでレポートを書きます。プレゼン・講評を経た上で提出してもらいます。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	ワークシート30%＋レポート70%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	授業中に指示します。			
参考書	授業中に指示します。				
オフィスアワー	火曜日 昼休み 研究室（4号館424研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp） 授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス確認 （1時間）
	授業内容	ガイダンス ドイツ語圏文学概論
	事後学習	ドイツ語圏における20世の歴史についてまとめる （3時間）
2	事前学習	作品予習 （2時間）
	授業内容	テーマ1-1 精神分析学と文学1
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。 （2時間）
3	事前学習	作品予習 （2時間）
	授業内容	テーマ1-2 精神分析学と文学2
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。 （2時間）
4	事前学習	作品予習 （2時間）
	授業内容	テーマ2-1 ドイツ語圏の推理小説1
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。 （2時間）

5	事前学習	作品予習（2時間）
	授業内容	テーマ2-2 ドイツ語圏の推理小説 2
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。（2時間）
6	事前学習	作品予習（2時間）
	授業内容	テーマ3-1 ノンフィクション文学1
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。（2時間）
7	事前学習	作品予習（2時間）
	授業内容	テーマ3-2 ノンフィクション文学2
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。（2時間）
8	事前学習	作品予習（2時間）
	授業内容	テーマ4-1 皆伐文学 ― 言葉が皆伐された後1
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。（2時間）
9	事前学習	作品予習（2時間）
	授業内容	テーマ4-2 皆伐文学 ― 言葉が皆伐された後2
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。（2時間）
10	事前学習	作品予習（2時間）
	授業内容	テーマ5-1 グリム童話はどう読まれたか1
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。（2時間）
11	事前学習	作品予習（2時間）
	授業内容	テーマ5-2 グリム童話はどう読まれたか2
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。（2時間）
12	事前学習	作品予習（2時間）
	授業内容	テーマ6-1 東西ドイツの文学1
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。（2時間）
13	事前学習	作品予習（2時間）
	授業内容	テーマ6-2 東西ドイツの文学2
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。（2時間）
14	事前学習	作品予習（2時間）
	授業内容	テーマ7 EUとドイツ文学
	事後学習	講義内容をワークシートにまとめる。 レポート作成（2時間）
15	事前学習	プレゼンテーション準備（2時間）
	授業内容	ワークショップ 解説
	事後学習	全体振り返り（2時間）

科目名	世界文学Ⅱ	担当者	児玉 直起	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ウィリアム・シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』（c. 1596）とその種本のひとつマッテオ・バンデルロの物語『ロメオとジュリエッタ』（1554）を読み、両者を比較する。本作は親同士が反目する若い男女の恋愛と不運な死を描いた古典的悲劇。					
授業目的・到達目標	外国文学の名作を味わいながら、人間性（人間とは何か）への認識を深め、共感力を養うことを目的とする。毎回の意見交換を通じ、自分の考えを根拠に基づいて表現することができるようになることを目標とする。 関連D P 及びC P：総合科目1, 2, 3, 4					
履修条件	文学・芸術への関心と発言（意見交換）の意志を持っていること。					
授業方法	演習形式で進める。適宜CDやDVDを使う。テストの講評・解説を後日ポータルシステムで配信する。なお、フィールドワークとして『ロミオとジュリエット』をバリエ化した舞台を劇場で観る予定。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価				小論文 40%，平常点（発表・発言・出席状況等）60%。欠席を繰り返した場合、その時点で履修資格を失う。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2005	角川文庫		新訳 ロミオとジュリエット		シェイクスピア
	備考	バンデルロの『ロメオとジュリエッタ』（斎藤祐蔵訳）は絶版のため、プリントを使用する。				
参考書	ホッジズ『シェイクスピアの劇場』ちくま文庫、ホッジズ『絵で見るシェイクスピアの舞台』研究社					
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は金曜1限、授業終了後教室で、または水曜日12:30-13:30に435研究室で対応する。E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、授業の全体を概観する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス／イントロダクション
	事後学習	授業で何を学ぶのか確認する。（2時間）
2	事前学習	当該箇所を熟読し、感想と疑問点をメモする。（2時間）
	授業内容	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第1幕を読む
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
3	事前学習	当該箇所を熟読し、感想と疑問点をメモする。（2時間）
	授業内容	『ロミオとジュリエット』第2幕を読む
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
4	事前学習	当該箇所を熟読し、感想と疑問点をメモする。（2時間）
	授業内容	『ロミオとジュリエット』第3幕を読む
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）

5	事前学習	当該箇所を熟読し、感想と疑問点をメモする。（2時間）
	授業内容	『ロミオとジュリエット』第4幕・第5幕を読む
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
6	事前学習	『ロミオとジュリエット』についての感想をまとめておく。（2時間）
	授業内容	プロコフィエフ作曲 バレエ音楽『ロミオとジュリエット』を聴く
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
7	事前学習	バレエについて調べておく。（2時間）
	授業内容	マクミラン振付のバレエ『ロミオとジュリエット』について
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
8	事前学習	フィールドワーク（バレエ鑑賞）の感想をまとめる。（2時間）
	授業内容	バレエ『ロミオとジュリエット』について意見交換
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
9	事前学習	演劇とバレエの違いについて考える。（2時間）
	授業内容	演劇（原作）と舞台（バレエ）の違いについて
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
10	事前学習	当該箇所を熟読し、感想と疑問点をメモする。（2時間）
	授業内容	マッテオ・バンデルロの物語『ロメオとジュリエッタ』を読む 1
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
11	事前学習	当該箇所を熟読し、感想と疑問点をメモする。（2時間）
	授業内容	『ロメオとジュリエッタ』を読む 2
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
12	事前学習	当該箇所を熟読し、感想と疑問点をメモする。（2時間）
	授業内容	『ロメオとジュリエッタ』を読む 3
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
13	事前学習	『ロミオとジュリエット』と『ロメオとジュリエッタ』の違いについて考える。（2時間）
	授業内容	シェイクスピアとバンデルロを比較する——演劇と物語の違いについて
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
14	事前学習	半期の授業内容を振り返り、疑問点等を整理する。（2時間）
	授業内容	まとめ・質問・授業評価
	事後学習	授業内容を振り返り、要点をまとめる。（2時間）
15	事前学習	半期の学習内容を復習する。（2時間）
	授業内容	目標の到達度を確認する
	事後学習	この授業で何を学んだか、整理する。（2時間）

科目名	総合講座A〔(文学/芸術は「危機」をどう捉えたか)〕	担当者	児玉 直起 他	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	戦争，災害，老い，狂気，愛——いずれも当事者の生命や存立基盤を危うくする「危機」の別名である。文学/芸術は、そうした危機的狀況を好んで題材にし、むしろ危機の時代にこそ栄えた歴史を持っている。本講では、複数の講師による様々な分野（詩・小説・演劇・映画・音楽等）の作品分析をとおして、文学/芸術が危機をどう表現したか、危機とどう関わってきたのか、考察する。				
授業目的・到達目標	文学/芸術に親しむ機会を提供し、創造的思考力と“文化的体力”を養うことを目的とする。 「生きていく上での土台がぐった豊かになった」（授業アンケート）と実感し、文学/芸術について自分の考えを表現できるようにすることを目標とする。				
履修条件	必ず初回に出席し、成績評価の方法・課題レポート作成の注意点を理解すること。				
授業方法	ゲスト（画家を予定）を含む複数の講師が共通テーマに基づき、様々なジャンルの作品分析を講義形式でおこなう。適宜、ビデオ・画像等を用いる。レポートの講評を各区分の翌週以降にポータルで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	課題レポート 30%×3回（90%），平常点10% 著作権（知的所有権）を遵守しないレポート提出者は不合格とする	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	各講師が扱う文献（資料）については下記の「参考文献表」を参照。			
参考書	初回の授業時に「参考文献表」を配付する。				
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は金曜3限授業終了後教室で、または水曜日12:30-13:30に435研究室で対応する。 E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シバラスを熟読し、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	イントロダクション——共通テーマ〈文学/芸術と「危機」〉について【児玉直起】
	事後学習	この授業で何を学ぶのか確認し、配布した「参考文献表」の文献を図書館や書店で調べておく。（2時間）
2	事前学習	第二次世界大戦とナチスの強制収容所について、パウル・ツーランについて図書館等で調べておく。（2時間）
	授業内容	ウィーン発：亡命者の文学と思想【真道 杉】
	事後学習	授業内容をまとめ、授業内で紹介された文献を読む。該当者はレポートを作成する。（2時間）
3	事前学習	1回目の授業を踏まえて、ユダヤ人について、ヴィクトール・フランクルについて図書館等で調べておく。（2時間）
	授業内容	ウィーン発：残された者の文学と思想【真道 杉】
	事後学習	授業内容をまとめ、授業内で紹介された文献を読む。該当者はレポートを作成する。（2時間）
4	事前学習	吉田松陰について、高校の教科書や副教材、図書館などで調査する。特に、晩年の処刑の理由と経緯について調査しておくことで授業の理解度が深まる。また、吉田松陰作の和歌にはどのようなものがあるのか調べることも勧める。（2時間）
	授業内容	吉田松陰の歌集『涙松集』（1）——処刑を覚悟した上京の旅【小野 美典】
	事後学習	松陰本『涙松集』と流布本『涙松集』の違いについて確認する。また、「作品の改変」について、どのような可能性があるか考えてみる。（2時間）

5	事前学習	配付されたプリントの『留魂録』を読み、松陰が遺書の中で述べようとした概要をつかんでおく。（2時間）
	授業内容	吉田松陰の歌集『涙松集』（2）——遺書『留魂録』と歌集収載歌【小野 美典】
	事後学習	松陰の没後に『涙松集』が改変された理由と目的を整理する。（2時間）
6	事前学習	『ユリシーズ』（ジェイムズ・ジョイス）について図書館等で事前に調べておくこと。特に英文学史における『ユリシーズ』の位置づけについて調べるとよい。（2時間）
	授業内容	美学と政治のあいだ——『ユリシーズ』再考（1）【松山博樹】
	事後学習	次の講座に備え、「美学と政治のあいだ——『ユリシーズ』再考（1）」の振り返りをおこなうこと。（2時間）
7	事前学習	前回の講座内容を踏まえ、『ユリシーズ』（ジェイムズ・ジョイス）の書かれた時代について図書館等で事前に調べておくこと。特にその時代の国際政治および芸術のおかれた状況について調べるとよい。（2時間）
	授業内容	美学と政治のあいだ——『ユリシーズ』再考（2）【松山博樹】
	事後学習	「美学と政治のあいだ——『ユリシーズ』再考（2）」の振り返りをおこなうこと。（2時間）
8	事前学習	フランス・ルネサンスの歴史的・社会的・宗教的背景について、高校までに習った世界史の知識を復習し、図書館の書籍などで事前に調査しておく。（2時間）
	授業内容	フランソワ・ラブレールとルネサンス—— 信仰の危機と人間性の回復（1）【石橋正孝】
	事後学習	講義で扱った本文を再度読み直し、パフチンの参考書と照らし合わせながら、生命の喜びと生命の死を文化の創造と破壊のサイクルに当てはめて読み直す。（2時間）
9	事前学習	唯名論争、宗教革命について、高校までに習った世界史の知識を復習し、図書館の書籍などで事前に調査しておく。（2時間）
	授業内容	フランソワ・ラブレールとルネサンス—— 信仰の危機と人間性の回復（2）【石橋正孝】
	事後学習	講義で扱った本文を、講義で学んだ歴史的・文化的文脈の中で再度読み直し、中世から近代への移行をもたらした要因について考察する。（2時間）
10	事前学習	「作家エミール・ゾラ」と「自然主義文学」について、図書館の書籍やウェブサイトで事前に調査しておく。（2時間）
	授業内容	エミール・ゾラとドレフュス事件（1）【江島泰子】
	事後学習	講義で配布した資料とノートを読み直して、質問があれば次のためにメモしておく。（2時間）
11	事前学習	「ドレフュス事件」について、図書館の書籍やウェブサイトで事前に調査しておく。（2時間）
	授業内容	エミール・ゾラとドレフュス事件（2）【江島泰子】
	事後学習	講義で配布した資料とノートを読み直し、ドレフュス事件が後世に残した教訓について再検討する。（2時間）
12	事前学習	木下晋氏の画業について調べ、美術館や画廊もしくは画集やインターネットで作品を見ておく。（2時間）
	授業内容	高齢者/ハンセン病者からバンダへ—— “鉛筆の画家” 木下晋の世界【木下 晋＋児玉】
	事後学習	講義の内容を振り返り、そこから得たものをメモしてみる。（2時間）
13	事前学習	演劇などの「実演芸術」と映画などの「映像芸術」との違いはどこにあるのか、考えておく。（2時間）
	授業内容	危機と共感（1）——悲劇・感情同化・カタルシス【児玉】
	事後学習	授業の内容を振り返り、自分の考えを整理する。（2時間）
14	事前学習	石黒浩『ロボットとは何か』（講談社現代新書）特に第6章「ロボット演劇」を読んでおく。（2時間）
	授業内容	危機と共感（2）——共感・異化・ロボット/アンドロイド演劇【児玉】
	事後学習	授業の内容を振り返り、自分の考えを整理する。（2時間）
15	事前学習	半期の授業を振り返り、何を得たかメモしてみる。（2時間）
	授業内容	まとめ——半期の授業を振り返る【児玉】
	事後学習	授業で学んだことを今後活かすにはどうすればよいか考える。（2時間）

科目名	総合講座B[＜～らしさ＞をめぐる視点]	担当者	江島 泰子 他	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	---------------------	-----	---------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	今年度のテーマは「ジェンダーから見たワークとライフ」です。ワークに関してはサービス残業、過労死等の異常状態の解消、男女共同参画社会をどのように実現するかが問題です。さらに家事、育児さらに介護を含むライフには、無償労働である家事労働をどのように解釈し、今後社会がどのような支援を行い、また男女の間で公平に分担するのかという問題があります。本講座での上記の諸問題を、オムニバス形式による講師陣からの問いかけを通して考えます。				
授業目的・到達目標	【授業目的】講師陣の講義を聴きながら問題の所在を理解し、ジェンダーの視点から今後の世界のあり方に関して提案ができる思考力の涵養を目的とします。 【授業目標】ジェンダーから見たワークとライフの問題点について総合的な見地から説明ができ、それらについて自分なりの視点から解決策を提案できるようになることが目標です。関連DPおよびCP:総合科目・体育実技科目領域 1, 2, 3, 4.				
履修条件	特になし。				
授業方法	ゲストを含む複数の講師が、それぞれの専門分野から講義を行う。適宜、ビデオ・画像等を用いる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加度と課題提出（40％）、レポート（1回、60％）レポート評価基準：各講義の内容を的確に把握したうえで、独自の見解が展開されているか。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	原則として、各講師がプリントを配布する。			
参考書	初回の授業時に参考文献表を配布する。				
オフィスアワー	日時：月曜日15：00～16：00 場所：第一回授業の際に説明します。 内容：フランス語学習に関する質問、留学相談、その他 メールによる問い合わせ・相談も受け付けます（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読んで、特に興味をもった内容に関して調べておくこと。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション 【江島泰子】
	事後学習	配布された参考文献に関して、興味あるものを選んで読んでおくこと。（2時間）
2	事前学習	賃金労働と家事労働、その他様々な人間的活動との違いや共通点について見解をまとめ、整理しておくこと（2時間）
	授業内容	人間と労働 ―― 生きることと働くこと【岡山敬二】
	事後学習	ヘーゲルのいう労働、マルクスのいう抽象的な人間労働、賃金労働と疎外についてその意味の違いを人間と社会という点からまとめておくこと（2時間）
3	事前学習	「無償労働」に該当する労働について調べてくる。それがなぜ、無償なのかの正当性を考えておく。（2時間）
	授業内容	「仕事と労働の法的評価」 無償労働について、法的な権利という側面と、ケアの倫理という別の側面から、その意味を考える。【松島雪江】
	事後学習	無償労働が無償で行われている理由、それによりどのような問題があるのか、無償労働が有償労働分野に及ぼす影響についてまとめておく。（2時間）
4	事前学習	50年前、100年前、200年前の家族はどのようなものであったか。自分が抱いているイメージをA4・2枚以内でまとめなさい。
	授業内容	近代家族の形成と家事労働―歴史で考える労働とジェンダー(1)【大岡聡】
	事後学習	講義内容を踏まえて、近代家族の特質について A4・2枚以内にまとめなさい。（2時間）

5	事前学習	父母および祖父母から教育歴・職歴・結婚・出産・育児・介護などを中心としたライフヒストリーを聞き取り A4・2枚以内でまとめなさい。(2時間9
	授業内容	企業社会の形成とワークライフバランス―歴史で考える労働とジェンダー(2)【大岡聡】
	事後学習	落合恵美子『21世紀家族―家族の戦後体制の見かた・超えかた』(有斐閣選書)を読んだ上で、「家族と労働の過去・現在・未来」というテーマ3000字の小論文を作成しなさい。(2時間)
6	事前学習	韓国の近代史について、調べておく。(2時間)
	授業内容	韓国におけるジェンダーから見たワークとワイフ【ゲストスピーカー】
	事後学習	配布された資料をもとに、韓国における労働および家事の問題を整理する。(2時間)
7	事前学習	フランスはどのような国か、基本的な情報を収集して、整理しておこう。(2時間)
	授業内容	フランスのワーク・ライフ・バランス【神尾真知子】
	事後学習	フランスのワーク・ライフ・バランス政策を踏まえて、日本のワーク・ライフ・バランス政策が、女性に「自由な選択」を保障しているのか、批判的に検討してみよう。(2時間)
8	事前学習	「労働」に関して、現在の日本が抱える諸問題について、整理する。また、ジェンダーの視点から、これらの問題をどのように考えたらよいのか、検討しておく。
	授業内容	ディスカッション(1)【江島泰子】
	事後学習	グループで意見交換を行い、全体発表を聞いたのちに、自分の考えと他者の考えの相違について整理し、その差異の原因について自分なりに検討する。
9	事前学習	「地域包括ケアシステム」「介護保険制度」について調べておくこと。(2時間)
	授業内容	介護と家族【矢田尚子】
	事後学習	レジュメ・ノートに沿って、講義内容を復習すること。(2時間)
10	事前学習	男性の育児休暇取得率、家事労働参加率について日本の状況を調べ、それをヨーロッパまたはアジアの任意の国の状況と比較する。また、比較の対象となって国が男女共同参画社会の実現のために行っている諸政策について確認する。(2時間)
	授業内容	男性の家事参加【ゲストスピーカー】 ゲストスピーカーは、「男も女も育児時間を！連絡会(通称：育時連)」の会員を予定しています。
	事後学習	講義から何を学んだかを整理し、男女共同参画社会の実現に必要な政策についての提案を考える。(2時間)
11	事前学習	「労働」に関して、現在の日本が抱える諸問題を整理してノートにまとめておく。(2時間)
	授業内容	過労死を防ぐために【ゲストスピーカー】 ゲストスピーカーは、過労死問題に長く関わってきた弁護士の方を予定しています。
	事後学習	講義から何を学んだかを整理し、日本における今後の労働の在り方について自分なりの意見を説明できるようにする。(2時間)
12	事前学習	インターネットや参考文献などを利用して、フェミニズム研究の歴史的流れとケアの倫理の概要について把握しておく。(2時間)
	授業内容	「ケアの倫理とは何か」 フェミニズム研究の中から生まれたケアの倫理の考え方について学び、近代以降の社会における価値観とケアの倫理の主張する価値観の違いについて考察する。【杉本竜也】
	事後学習	講義内容と参考文献を材料として、近代以降の社会において受け入れられてきた価値観の功罪について考える。(2時間)
13	事前学習	インターネットや参考文献などを利用して、「優生思想」について概観する。(2時間)
	授業内容	「ケアの倫理と市民社会」社会契約説やリベラリズムなどに代表される近代政治理論とケアの倫理との「人間」像・「市民」像の違いについて、「弱さ」「脆弱性」をキーワードとして学ぶ。そのうえで、現代政治において掲げられている政治目標の問題点について考える【杉本竜也】
	事後学習	近代以降の政治・社会において理想視されてきた「市民」という概念の評価すべき点と問題点について考える。(2時間)
14	事前学習	講義を参考に、ケアの問題と家事労働について、自分なりの見解をまとめておく。(2時間)
	授業内容	ディスカッション(2)
	事後学習	ディスカッションで交わされたさまざまな意見について整理し、ディスカッションの前後で自分の見解に変化があったか検討してみる。(2時間)
15	事前学習	到達目標を確認し、①～④について、自分が達成できているか確認する。
	授業内容	到達目標①～④の確認、解説【江島泰子】
	事後学習	①～④について、自分が達成できているか、各講義の内容を踏まえてそれぞれが確認する。

科目名	体育スポーツ科学Ⅰ	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	スポーツは「世界共通の人類の文化」であり、社会においてスポーツが関わる領域は、現代生活を送る上で欠くことのできない領域を形成している。身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマを通じて学ぶことは、今後のあらゆる分野で一つの教養・知識として求められるようになるだろう。授業においては、体育スポーツの基礎的知識をテーマごとに展開する。				
授業目的・到達目標	[授業目的] この授業では、身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマを通じて、体育スポーツの基礎的知識を学習することを目的とする。 [達成目標] 身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマから学び、受講生があらゆる分野で一つの教養・知識として求められるスポーツを理解し説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域 1, 2, 3, 4				
履修条件	関連書籍を事前に読んでおくこと。 授業で示された論点を整理し、関係文献や資料を利用して理解を深めること。				
授業方法	授業はスライド(パワー・ポイント)を使用して行う。毎回小レポートを提出する。 [フィードバック方法] 授業内試験及び解説、学習内容の振り返を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業内に毎回小レポートを提出する。授業内試験を行い総合的に評価する。 授業内試験60%、毎回の小レポート40%とする。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書はありません。 必要に応じてプリントの配布			
参考書	健康、身体、運動、スポーツに関する書籍				
オフィスアワー	金曜日の昼休み メールにて事前に予約すること tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、関連書籍を調べまとめておく。講義全体を概観する。(2時間)
	授業内容	[ガイダンス] 授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め説明する。
	事後学習	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、学習計画について検討する。(2時間)
2	事前学習	スポーツを楽しめる能力(スポーツリテラシー)について調べる。(2時間)
	授業内容	[スポーツとは何か] スポーツ科学の体系について理解する。
	事後学習	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、スポーツとは何かについて自分なりの説明でまとめる。(2時間)
3	事前学習	体力の分類について調べる。(2時間)
	授業内容	[体力とは] 体力の構成要素：防衛体力、行動体力
	事後学習	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、体力の構成要素：防衛体力、行動体力について理解を深める。(2時間)
4	事前学習	運動と脳・神経系について調べる。(2時間)
	授業内容	[身体運動を生み出す生体のしくみ ①] 運動と脳・神経系
	事後学習	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、運動と脳・神経系についてまとめる。(2時間)

5	事前学習	運動器のしくみと働きについて調べる。(2時間)
	授業内容	[身体運動を生み出す生体のしくみ ②] 運動器のしくみと働き
	事後学習	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、運動器のしくみと働きについて理解を深める。(2時間)
6	事前学習	循環器系とエネルギー代謝について調べる。(2時間)
	授業内容	[身体運動を生み出す生体のしくみ ③] 循環器系とエネルギー代謝
	事後学習	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、循環器系とエネルギー代謝について理解を深める。(2時間)
7	事前学習	身体運動と身体の適応、変化について考察する。(2時間)
	授業内容	[身体の発育・発達と加齢] 発育発達期の運動
	事後学習	身体運動と身体の適応、変化について発育発達に応じた身体の動きについて理解を深める。(2時間)
8	事前学習	今までのスポーツ経験から運動技能の向上、スポーツとスキルについて自分なりの考えをまとめる。(2時間)
	授業内容	[身体運動のコントロール] 運動技能の向上、スポーツとスキル
	事後学習	運動技能の向上、スポーツとスキルについて、身体の動きについて理解を深める。(2時間)
9	事前学習	今までのスポーツ経験からコーチに必要な資質と能力について自分なりの考えをまとめる。(2時間)
	授業内容	[スポーツコーチング ①] コーチに必要な資質と能力
	事後学習	コーチに必要な資質と能力について理解を深める。(2時間)
10	事前学習	スポーツ競技を1つの選択し、その競技の国際競技力と強化方策を考察する。(2時間)
	授業内容	[スポーツコーチング ②] スポーツコーチングの実践
	事後学習	スポーツコーチングの実践について日本の国際競技力と強化策について理解を深める。(2時間)
11	事前学習	スポーツの価値について考察する。(2時間)
	授業内容	[フェアプレイ：アンチ・ドーピング ①] スポーツの価値について学ぶ。
	事後学習	スポーツの価値について自分なりの説明でまとめる。(2時間)
12	事前学習	ドーピングが禁止されていることについて考察する。(2時間)
	授業内容	[フェアプレイ：アンチ・ドーピング ②] 世界ドーピング防止規程および我が国の対応について学ぶ。
	事後学習	世界ドーピング防止規程および我が国の対応について理解を深める。(2時間)
13	事前学習	オリンピックの歴史について考察する。(2時間)
	授業内容	[スポーツとオリンピズム ①] オリンピックの歴史：オリンピックはどのようにして始まったのか？
	事後学習	オリンピックの歴史について理解を深める。(2時間)
14	事前学習	オリンピックの理念について考察する。(2時間)
	授業内容	[スポーツとオリンピズム ②] オリンピックの理念：オリンピックはどんな願いが込められている？
	事後学習	オリンピックの理念について自分なりの説明でまとめる。(2時間)
15	事前学習	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を見直し、復習する。(2時間)
	授業内容	[まとめ] 授業内試験及び解説、学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。(2時間)

科目名	体育スポーツ科学Ⅱ	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	スポーツは「世界共通の人類の文化」であり、社会においてスポーツが関わる領域は、現代生活を送る上で欠くことのできない領域を形成している。身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマを通じて学ぶことは、今後のあらゆる分野で一つの教養・知識として求められるようになるだろう。授業においては、体育スポーツの基礎的知識をテーマごとに展開する。			
授業目的・到達目標	[授業目的] この授業では、身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマを通じて、体育スポーツの基礎的知識を学習することを目的とする。 [達成目標] 身体に関する科学的知識をスポーツに関する様々なテーマから学び、受講生があらゆる分野で一つの教養・知識として求められるスポーツを理解し説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域 1, 2, 3, 4			
履修条件	関連書籍を事前に読んでおくこと。 授業で示された論点を整理し、関係文献や資料を利用して理解を深めること。			
授業方法	授業はスライド(パワー・ポイント)を使用して行う。毎回小レポートを提出する。 [フィードバック方法] 授業内試験及び解説、学習内容の振り返りを行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	授業内に毎回小レポートを提出する。授業内試験を行い総合的に評価する。 授業内試験60%、毎回の小レポート40%とする。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書はありません。 必要に応じてプリントの配布		
参考書	健康、身体、運動、スポーツに関する書籍			
オフィスアワー	金曜日の昼休み メールにて事前に予約すること tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、関連書籍を調べまとめておく。講義全体を概観する。(2時間)
	授業内容	[ガイダンス] 授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め説明する。
	事後学習	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、学習計画について検討する。(2時間)
2	事前学習	スポーツは人間と社会にとってどのような意味をもっているかについて自分なりの考えをまとめておく。(2時間)
	授業内容	[文化としてのスポーツ] スポーツの概念と歴史について理解する。
	事後学習	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、スポーツの概念と歴史について自分なりの説明でまとめる。(2時間)
3	事前学習	トレーニングの原理・原則について調べる。(2時間)
	授業内容	[トレーニング論 ①] トレーニングの原理・原則
	事後学習	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、トレーニングの原理・原則について理解を深める。(2時間)
4	事前学習	今までのスポーツ経験からトレーニングの種類について調べる。(2時間)
	授業内容	[トレーニング論 ②] トレーニングの種類
	事後学習	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、トレーニングの種類についてまとめる。(2時間)

5	事前学習	トレーニング目標の設定について調べる。(2時間)
	授業内容	[トレーニング論 ③] トレーニング計画とその実際
	事後学習	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、トレーニング計画とその実際について理解を深める。(2時間)
6	事前学習	5大栄養素の役割について考察する。(2時間)
	授業内容	[スポーツと栄養 ①] 5大栄養素の役割
	事後学習	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を確認して、5大栄養素の役割について理解を深める。(2時間)
7	事前学習	栄養と食事について考察する。(2時間)
	授業内容	[スポーツと栄養 ②] バランスの取れた食事
	事後学習	身体と栄養、バランスの取れた食事について理解を深める。(2時間)
8	事前学習	今までのスポーツ経験からケガや病気について自分なりの考えをまとめる。(2時間)
	授業内容	[運動とケガ] スポーツ活動中に多いケガや病気
	事後学習	スポーツ活動中に多いケガや病気について理解を深める。(2時間)
9	事前学習	今までのスポーツ経験からスポーツにおける動機づけについて自分なりの考えをまとめる。(2時間)
	授業内容	[運動と心理 ①] スポーツにおける動機づけ
	事後学習	スポーツにおける動機づけについて自分なりの説明でまとめる。(2時間)
10	事前学習	スポーツにおけるメンタルマネジメント(自己コントロール)について考察する。(2時間)
	授業内容	[運動と心理 ②] メンタルマネジメント(自己コントロール)
	事後学習	メンタルマネジメント(自己コントロール)について理解を深める。(2時間)
11	事前学習	グローバリゼーションと日本のスポーツについて考察する。(2時間)
	授業内容	[スポーツと政策 ①] グローバリゼーションと日本のスポーツ
	事後学習	グローバリゼーションと日本のスポーツについて理解を深める。(2時間)
12	事前学習	日本のスポーツプロモーションについて考察する。(2時間)
	授業内容	[スポーツと政策 ②] 日本のスポーツプロモーション
	事後学習	日本のスポーツプロモーションについて理解を深める。(2時間)
13	事前学習	柔道の国際化について考察する。(2時間)
	授業内容	[武道とスポーツ ①] 柔道の国際化
	事後学習	柔道の国際化について理解を深める。(2時間)
14	事前学習	柔道の歴史と技法について考察する。(2時間)
	授業内容	[武道とスポーツ ②] 柔道の歴史と技法
	事後学習	柔道の歴史と技法について自分なりの説明でまとめる。(2時間)
15	事前学習	講義ノート・スライド(パワー・ポイント)を見直し、復習する。(2時間)
	授業内容	[まとめ] 授業内試験及び解説、学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。(2時間)

科目名	地球科学 I	担当者	永田 玲奈	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	地球科学とは、私たちが住んでいる「地球」で起こる自然現象を対象とする学問である。本講義では、その中でも身近な自然現象である「気象」を取り上げる。雨や風などの気象現象が発生する仕組みを学ぶとともに、近年問題となっている地球温暖化に伴い気象はどのように変化するのか、また私たちの生活にどのような影響をもたらすのかについて理解を深める。					
授業目的・到達目標	本講義では日々当たり前にかかる気象現象のメカニズムを知ること、近年増加している豪雨などの自然災害に備える知識を身につけられるようになることを目標とする。また、人間活動により引き起こされている地球温暖化の問題点を知ること、未来の地球のために私たちが今できる対策について考える力を養うことを目的とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1，2，3，4。					
履修条件	特になし。					
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用する（授業内容の理解を深めるために適宜映像を用いる）。試験については授業内に解説を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業態度と授業への参加状況及び授業内試験を総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない。				
参考書	授業中に適宜紹介する。					
オフィスアワー	講義（木曜3限）の後に授業講堂にて受け付けます。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	日々の生活の中で気になっている気象現象について調べてくること（2時間）。
	授業内容	講義ガイダンス（前期）～日々の生活に見られる気象現象を知ろう！～
	事後学習	前期の全講義の流れを頭に入れ、今後の講義に備えること（2時間）。
2	事前学習	地球大気に占める割合が一番多い気体は何かについて調べてくること（2時間）。
	授業内容	地球大気の組成と成り立ち～太古の地球には酸素がなかった？～
	事後学習	地球誕生から現在の大気への変遷についてノートにまとめること（2時間）。
3	事前学習	大気は4つの層に分けられる。その4つの層の名前を調べてくること（2時間）。
	授業内容	大気の鉛直構造と大気の運動～なぜ風は起きるのか？～
	事後学習	大気が地球に果たす役割となぜ風が発生するのかについてまとめること（2時間）。
4	事前学習	現在の地球の平均気温は何℃か調べてくること（2時間）。
	授業内容	地球のエネルギー収支～大気がなければ地球の温度は－18℃？～
	事後学習	地球が現在の気温に保たれているメカニズムについてしっかりと理解すること（2時間）。

5	事前学習	空気中を落下する雨粒はどのような形をしているのかと、その理由について調べてくること（2時間）。
	授業内容	降水過程～雨はどうやって降るのか？～
	事後学習	雲ができて雨が降る過程についてノートにまとめること（2時間）。
6	事前学習	大気大循環とは何か調べてくること（2時間）。
	授業内容	大規模な大気の運動～地球をめぐる大気の流れと高気圧・低気圧～
	事後学習	地球大気の流れを把握し、低気圧・高気圧の仕組みについてしっかりと理解すること（2時間）。
7	事前学習	中小規模の気象現象による災害の事例について調べてみること（2時間）。
	授業内容	中小規模の気象現象～台風・集中豪雨・竜巻～
	事後学習	豪雨・突風に実際遭遇した際に今回学んだ知識を役立てられるように講義内容を理解すること（2時間）。
8	事前学習	日本の四季の中で好きな季節を選び、その季節に見られる天候の特徴について調べてくること（2時間）。
	授業内容	日本の気候と卓越する気圧配置～冬の日本海側はなぜ雪が多いのか？～
	事後学習	四季それぞれに見られる天気の特徴を理解し、季節ごとに見られる気圧配置をしっかりと頭に入れること（2時間）。
9	事前学習	恐竜が生息していた頃の気候と現在の気候は何が違うのか調べてくること（2時間）。
	授業内容	気候変動とは？～今の気候は地球にとって「標準の気候」ではない？～
	事後学習	地球が誕生してから現在までの地球の気候の変遷についてまとめること（2時間）。
10	事前学習	火山活動がどのようにして気候変動を引き起こすのか調べてくること（2時間）。
	授業内容	気候変動はなぜ起きる？～火山活動や太陽活動が引き起こす気候変動～
	事後学習	気候変動を引き起こす要因をまとめ、そのメカニズムについて理解すること（2時間）。
11	事前学習	地球温暖化とはどのような現象であるのか調べてくること（2時間）。
	授業内容	近年の気候変動～地球温暖化とは？～
	事後学習	地球温暖化は地球の過去の気候と比較して何が問題であるのかを理解すること（2時間）。
12	事前学習	地球温暖化の影響にはどのようなものがあるのか事前に調べてくること（2時間）。
	授業内容	地球温暖化の影響と対策～身近にできる地球温暖化対策～
	事後学習	地球温暖化は私たちの生活にいかなる影響を及ぼしているのかを理解するとともに、私たちが今日からできる対策について考察すること（2時間）。
13	事前学習	「エルニーニョ現象」・「ラニーニャ現象」とは何か事前に調べてくること（2時間）。
	授業内容	エルニーニョと世界の天候～引き起こされる異常気象～
	事後学習	エルニーニョ現象が日本を含めた世界の天候に与える影響についてきちんと理解すること（2時間）。
14	事前学習	都市の高温化であるヒートアイランド現象の要因は何かについて調べてくること（2時間）。
	授業内容	ヒートアイランド現象～なぜ東京の夏は暑いのか？～
	事後学習	都市の高温化を止めるには何が必要か考察すること（2時間）。
15	事前学習	前期全14回の講義について要点をまとめてくること（2時間）。
	授業内容	講義のまとめ（前期）～講義の知識を気象災害から身を守るために生かそう！～
	事後学習	前期の講義の中で一番興味をもったトピックについて書籍などを読み、さらに理解を深めること（2時間）。

科目名	地球科学Ⅱ	担当者	永田 玲奈	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	地球46億年の歴史を経て現在の地球が形成された。現在の地球は人類が平穏に暮らせる環境であるが、過去には生物にとって試練ともいえる時代も存在した。現在の住みやすい地球はいくつかの「偶然」が重なって出来上がった産物である。この「現在の地球」はいかにして作り上げられたのか、私たちが当たり前に見ている地形から読み解くことで、現在の「奇跡的な地球環境」の成り立ちについて学ぶ。					
授業目的・到達目標	地球はどのようにして誕生したのか、地球の内部はどうなっているのか？また、日本のように地震の多い国があるのはどうしてなのか？本講義では、その答えを知るために地球内部や表面の特徴を知るとともに、地球環境の変化の歴史について学ぶ。この過程で地震や火山に対する知識を養成することを目的とし、自然災害と向き合う方法について考えられるようになることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1，2，3，4。					
履修条件	特になし。					
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用する（授業内容の理解を深めるために適宜映像を用いる）。試験については授業内に解説を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業態度と授業への参加状況及び授業内試験を総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない。				
参考書	適宜紹介する。					
オフィスアワー	講義（木曜3限）の後に授業講堂にて受け付けます。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	後期シラバスの中で興味のあるテーマを1つ選び、自分なりに調べてくること（2時間）。
	授業内容	講義ガイダンス（後期）～地球の内部と表面について知ろう！～
	事後学習	後期の講義の流れをしっかりと頭に入れ、自分が一番どの内容に興味があるのか考えること（2時間）。
2	事前学習	誕生したばかりの地球である「原始地球」はどのような状態だったのか調べてくること（2時間）。
	授業内容	地球の誕生～火の玉地球から現在の地球になるまで～
	事後学習	地球はいかにして「現在の地球」となったのか、その過程をノートにまとめること（2時間）。
3	事前学習	地球の過去を知ることが出来る「地層」とは何か調べてくること（2時間）。
	授業内容	地球環境の変遷～地球環境の古文書「地層」とは？～
	事後学習	地層から何を知ることが出来るのかを理解し、そこからわかる地球環境の変遷について復習すること（2時間）。
4	事前学習	地殻変動とは何かを調べ、地殻変動によりどのような地形が形成されるのか調べてくること（2時間）。
	授業内容	世界の大地形～地震が多いところと少ないところがあるのはなぜ？～
	事後学習	地域によって地形が異なる理由を理解するとともに、普段あまりなじみのない海底地形についてもよく復習すること（2時間）。

5	事前学習	地球を卵に例えると地球内部はどのように分けられるのか調べてくること（2時間）。
	授業内容	地球の内部構造～地球の構造は卵に似ている～
	事後学習	地球の内部構造を分ける2種類の方法についてその違いを理解し、その特徴についてノートにまとめること（2時間）。
6	事前学習	前回話した地球の内部構造をしっかりと理解し、プレートとは何かについて復習してくること（2時間）。
	授業内容	プレートテクトニクスと大陸移動説～昔大陸は1つだった～
	事後学習	プレートの動きについて理解するとともに、プレートが動くメカニズムについてもノートにまとめること（2時間）。
7	事前学習	地震が起こる2つのメカニズムは何か調べてくること（2時間）。
	授業内容	地震はなぜ起こる？～日本はどうして地震が多いのか～
	事後学習	日本に地震が多い理由についてきちんと理解すること（2時間）。
8	事前学習	東日本大震災ではどのような被害が発生したのか事前に調べてくること（2時間）。
	授業内容	大規模地震のメカニズム～阪神・淡路大震災と東日本大震災の例から～
	事後学習	阪神・淡路大震災と東日本大震災における被害の違いについて地震発生のメカニズムから説明できるようにすること（2時間）。
9	事前学習	火山はなぜ噴火するのかについて簡単に調べてくること（2時間）。
	授業内容	火山活動～なぜ火山は噴火するのか？～
	事後学習	火山国日本で火山と上手に付き合っていくために「火山はどこにでき、どうして噴火するのか」について理解を深めること（2時間）。
10	事前学習	長崎県の雲仙普賢岳で1990年代に発生した火山噴火による被害について調べてくること（2時間）。
	授業内容	日本の火山活動と災害～雲仙普賢岳を例に～
	事後学習	火山が噴火した際に自分の身を守るために気を付けるべき点についてまとめること（2時間）。
11	事前学習	迷子石・U字谷・モレーンとは何か事前に調べてくること（2時間）。
	授業内容	氷河地形～現在の地形を見れば昔の氷河の分布がわかる？～
	事後学習	氷河地形の種類とその形成過程についてノートにまとめること（2時間）。
12	事前学習	ヤンガードライアス期とは何かを事前に調べてくること（2時間）。
	授業内容	海洋が地球環境に果たす役割～海洋の変動が気候を決める？～
	事後学習	海洋が気候などの地球環境に影響するメカニズムについて理解すること（2時間）。
13	事前学習	河川が作り出す地形や海岸に見られる地形の中で、自分が興味のある地形についてその形成過程も含めて調べてくること（2時間）。
	授業内容	世界の小地形～扇状地やラグーンはどうやって作られるのか？～
	事後学習	小地形を作り出す侵食・運搬・堆積の作用について理解すること（2時間）。
14	事前学習	回帰線砂漠と海岸砂漠について、砂漠の形成要因の違いを事前に調べてくること（2時間）。
	授業内容	風が作り出す地形～鳥取砂丘は風が作っている？～
	事後学習	風が作り出す地形の種類とその要因についてノートにまとめること（2時間）。
15	事前学習	後期の第1回～第14回について通して復習し、一番興味があったことや疑問に思うことをまとめてから講義に臨むこと（2時間）。
	授業内容	講義のまとめ（後期）～安全に地球に住むために私たちが気を付けること～
	事後学習	現在の地球がどのようにして成り立ったのかをよく理解することで、地震や火山噴火などの災害時に自分がどのように対応したら良いのかについて考えること（2時間）。

科目名	地理学 I	担当者	小倉 眞	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	地理学の主要な分析視点である「空間」の概念と社会的展開の関係、また自然環境と社会との関係について学習する。具体的には空間認識としての地図（地形図）の特徴と利用、世界の気候を中心とする自然環境と地域的特色や人口支持力、人口偏在と経済開発・経済発展の関係、工業資源の偏在と工業立地、日本の自然的特徴と工業開発などについて具体的事例を踏まえながらその分析方法や理論的整理について学習する。			
授業目的・到達目標	社会は地域空間の中で成立・展開していることを認識し、その基本的論理について考察する。換言すれば社会科学を学修するための基本となる地域の構造について深く追求できる能力を涵養することを目的としている。従って世界における社会の多様な展開状況を客観的に把握する能力、特に自然的条件によって多様な社会の展開状況について整理するとともに、そのメカニズムについて理解し、それについての確に説明できるようになることを授業の目標としている。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域：1, 2, 3, 4			
履修条件	特になし。			
授業方法	テキストを参照しつつ講義を進めるが、プリント配布によりテキスト以外の内容についても取り上げる。また、適時にパワーポイント等も使用して講義する。 定期試験の解説をポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		75%	授業の内容を客観的に理解しているか、また論理思考がなされているかについて評価する。
	平 常 評 価		25%	授業への積極的参加度合いを授業後の小テスト・発表などにより評価する。（10%）特定のテーマについて課題を設定し、レポート提出を求める。（15%）
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2010年	原書房	世界を読む	青木英一・北村嘉行 著
	備考			
参 考 書	地図帳を準備する。その他の参考文献については授業中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	(月) 12：10～13：00 14：40～16：00 (水) 12：10～13：00 事前にメールにてアポイントメントをとること。 研究室（4号館4階441） メールアドレス：ogura.makoto@nihon-uc.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスで授業内容の確認をすると共に、教科書の概要について確認する。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、地理学の学習方法等について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書の4ページまでを読み、地理学の特色について事前に考えてみる。（2時間）
	授業内容	地理学と現代社会について、地理学の研究史や特色等について具体的事例を踏まえて考察する。また、地理学の特色と地域の関係についても考察する。
	事後学習	ノートを確認し、地理学の歴史と発展過程について整理する。（2時間）
3	事前学習	自然環境と我々社会の発展との関係について事例を挙げて整理する。（1時間）
	授業内容	地理学の学問的特徴と地形図の読図・利用法について具体的に考察する。
	事後学習	社会発展と自然環境との関係について整理するとともに、与えられた課題についてのレポート作成をする。（3時間）
4	事前学習	教科書の4～10ページまでを読み、空間の認識について事前に考えてみる。（2時間）
	授業内容	地理学における空間論（1）「広がりと境界」 空間における地域の範囲、境界について考察する。特に地図読図方法について学習する。（前回授業時の課題レポートを提出する）
	事後学習	等質地域と機能地域について整理し、具体的例について検討してみる。（2時間）

5	事前学習	世界全図の種類や特徴について配布プリントを利用して検討する。（1時間）
	授業内容	地理学における空間論（2） 「世界地図から見た空間」 世界図の特徴や問題点などについて取り上げ、その詳細について分析・考察する。 （3回授業時レポートに対する講評と討議も行う）
	事後学習	メルカトル図の特徴などについて整理するとともに他の図法等についても、それぞれの特色と利用方法について検討してみる。また、世界地図の特徴についてのレポートを作成する。（3時間）
6	事前学習	世界や日本の自然的特徴、特に日本の地帯構造などについて事前に調べてみる。（2時間）
	授業内容	世界の諸環境と人々が住む地域的特色（1） 「自然環境〔地形と諸地域〕」 自然環境と人々が居住する地域の特徴について考察する。（ （前回授業時のレポート提出を行う）
	事後学習	災害大国といわれる日本の地形・気候、海洋面積の広がりなどについて整理する。（2時間）
7	事前学習	世界の気候分布等について事前に列記してみる。（2時間）
	授業内容	世界の諸環境と人々が住む地域的特色（2） 「自然環境〔気候・土壌の分布〕」 自然環境（特に気候と土壌・植生）と地域の特徴について考察する。 （5回授業時の課題レポートについての講評と討議も行う）
	事後学習	気候の形成メカニズムについて整理すると共に、Cfb気候地域の特徴を抽出してみる。（2時間）
8	事前学習	気候と土壌、農業環境について考える。特に農業地域の展開と気候の関係について整理する。（2時間）
	授業内容	世界の諸環境と人々が住む地域的特色（3） 「気候と社会」 世界に展開する農業とそれぞれの気候区との関連について考察する。
	事後学習	ケッペンの気候区分を中心に世界の気候区分方法と気候分布についてまとめてみる。次回小テストの準備をする。（2時間）
9	事前学習	小テストの準備、及び世界の人口増加状況と人口分布についてプリントにて整理・確認する。（3時間）
	授業内容	世界の人口問題と経済開発（1） 「人口の偏在性と食料供給力」 世界の人口集積地域について抽出し、その要因等について考察する。 （ケッペンの気候に関する小テストを行う。20分）
	事後学習	アジアとヨーロッパ・新大陸等の人口分布の特徴について整理する。（1時間）
10	事前学習	人口分布と農業との関係について考察してみる。（2時間）
	授業内容	世界の人口問題と経済開発（2） 「農業生産力と人口収容力」 水稻生産力と人口の関係について具体的に取り上げ、その特質について考察する。 （9回授業時の小テストに関する講評と討議も行う）
	事後学習	畑作農業（ヨーロッパ）と水稻作灌漑農業（アジア）の相違について整理する。（2時間）
11	事前学習	中国等アジアの人口分布と経済開発の関係について考察してみる。（2時間）
	授業内容	世界の人口問題と経済開発（3） 「アジアの人口と経済開発」 アジア及び日本の農業社会の特色について考察する。
	事後学習	特に日本の水利社会の特質について整理する。（2時間）
12	事前学習	教科書の26～30ページまでを読み、またプリントにより資源の偏在状況について考える。（2時間）
	授業内容	世界の経済と貿易（1） 「変わる工業配置」 世界における工業立地の特徴について考察する。特に工業立地と自然資源分布の関係について分析する。
	事後学習	工業立地型について整理するとともに、先進国と中進国における工業立地の状況について整理する。（2時間）
13	事前学習	自然環境と工業立地の関係についてヨーロッパの事例を抽出してみる。（2時間）
	授業内容	世界の経済と貿易（2） 「ヨーロッパの工業立地と資源」 工業先進国における産業革命期初期の自然と資源、工業立地に関する考察を行う。
	事後学習	産業革命期のイギリスの綿織物工業の立地特性について整理する。（2時間）
14	事前学習	教科書の30～34ページまでを読み、日本の工業立地空間の認識について事前に考えてみる。（2時間）
	授業内容	世界の経済と貿易（3） 「国際化と日本の工業」 高度経済成長期の工業立地変動について考察する。
	事後学習	日本における工業発展の歴史・特徴などを整理するとともに、高度経済成長期の鉄鋼工業の立地変動について整理する。（2時間）
15	事前学習	初回からの教科書・プリントと講義ノートを見直す。（2時間）
	授業内容	講義のまとめ
	事後学習	教科書・プリントと講義ノート見直し、期末デストに向けて準備する（2時間）

科目名	地理学Ⅱ	担当者	小倉 眞	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	地理学の主要な分析視点である空間の概念と社会的展開の関係、また自然環境と社会との関係について整理する。特に地域構造の視点から世界および日本の地域的特色、歴史的発展過程などを中心として都市と農村・中央と地方の関係を体系的に整理し、地域の構造問題について学習する。			
授業目的・到達目標	社会は地域空間の中で成立・展開していることを認識し、その基本的論理について考察する。換言すれば社会科学を学修するための基本となる地域の構造について深く追求できる能力を涵養することを目的としている。従って世界における社会の多様な展開状況を客観的に把握する能力、特に農村・都市の成立・展開過程について整理すると共に、そのメカニズムを理解し、それについての確に説明できるようになることを授業の目標としている。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域：1, 2, 3, 4			
履修条件	特になし。			
授業方法	テキストを参照しつつ講義を進めるが、プリント配布によりテキスト以外の内容についても取り上げる。また、適時にパワーポイント等も使用して講義する。 定期試験の解説をポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		75%	授業の内容を客観的に理解しているか、また論理思考がなされているかについて評価する。
	平常評価		25%	授業への積極的参加度合いを授業後の小テスト・発表などにより評価する。（10％） 特定のテーマについて課題を設定し、レポート提出を求める。（15％）
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2010年	原書房	世界を読む	青木英一・北村嘉行 著
	備考			
参考書	地図帳を準備する。その他の参考文献については授業中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	(月) 12：10～13：00 14：40～16：00 (水) 12：10～13：00 14：00～16：00 事前にメールにてアポイントメントをとること。 研究室（4号館4階441） メールアドレス：ogura.makoto@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスで授業内容の確認をすると共に、教科書の概要について確認する。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、地理学の学習方法等について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	社会的・歴史的・経済的視点で日本の特色を考えてみる。（2時間）
	授業内容	世界の中の日本（1）「日本の諸地域の特色」 災害大国日本とは何かについて、地形・気候等の特徴から考察する。
	事後学習	北海道から沖縄に至る弧状列島の自然的・社会的特質について整理する。（2時間）
3	事前学習	教科書の35～42ページまでを読み、都市と農村の相違・特質等について事前に考えてみる。（1時間）
	授業内容	世界の中の日本（2）「日本における都市と農村」 日本における都市化の特徴について、特にスプロール化の実態について具体的に整理・考察する。
	事後学習	都市化の定義、日本の都市化と開発規制について整理すると共に、与えられた課題についてのレポートを作成する。（3時間）
4	事前学習	水稲作農業を中心とする日本農村の特色について列記して考察してみる。（2時間）
	授業内容	世界の中の日本（3）「日本の農業・農村の変容」 日本の農村について古代の「条里制村」や中世・近世農村の特色を整理・考察する。 （前回授業の課題レポートを提出する）
	事後学習	「水によって結ばれた社会」の特質について整理する。（2時間）

5	事前学習	都市としての東京の範囲、都市圏としての範囲などについて整理してみる。（2時間）
	授業内容	日本の大都市圏（1）「東京の都市構造」 江戸・東京の都市構造を大坂と比べて考察する。 （3回授業時レポートに対する講評と討議も行う）
	事後学習	「江戸」の都市構造の特徴や「東京」への発展拡大過程などについて整理する。（2時間）
6	事前学習	なぜ銀座に商業施設が集中するのか、その理由について検討してみる。（2時間）
	授業内容	日本の大都市圏（2）「東京と首都圏」 現在の東京が持つ機能・構造について考察する。
	事後学習	一極集中型の経済・都市構造について検証し、整理する。（2時間）
7	事前学習	教科書の61～76ページまでを読み、近畿圏・中京圏の特色について考えてみる。（2時間）
	授業内容	日本の大都市圏（3）「複核構造の近畿圏と大阪の役割」 特に商業都市としての大阪の発展過程について、「干石船」の役割と共に考察する。
	事後学習	大阪の複核的都市構造と、経済の相対的低下の特徴、要因について整理する。（2時間）
8	事前学習	名古屋の都市構造、経済的特色について列記し、考察してみる。（1時間）
	授業内容	日本の大都市圏（4）「多角的産業都市としての中京」 現在の機械組立工業（自動車工業）の集積と都市構造の特色に関して分析・考察する。
	事後学習	自動車産業を中心として近年の経済的伸張と都市域の拡大について整理する。次回小テストの準備をする。（3時間）
9	事前学習	北陸・東北・北海道などの地域的特色について考察する。（2時間）
	授業内容	「日本の地方圏の変容」 札幌・仙台・金沢等の地方中核都市の展開過程について、整理・分析する。 （名古屋の都市構造に関する小テストを行う 20分）
	事後学習	北陸・東北日本における自然的・地域の特徴と西南日本のそれとの相違について整理する。（2時間）
10	事前学習	北陸の自然（豪雪地帯）と経済開発の関係について考察する。（2時間）
	授業内容	日本の地方圏（1）「日本海沿岸の経済的特色」 半周辺地域の機能を持つ富山を中心に考察する。 （9回授業時の小テストに関する講評と討議も行う）
	事後学習	半周辺地域の理論的意味についての整理と、北陸の地域的・経済的特徴についてまとめる。（2時間）
11	事前学習	東北地方の地域的特色（位置的・自然的・交通アクセス等）について考察する。（2時間）
	授業内容	日本の地方圏（2）「工業化と東北」 東北地方が置かれた経済的地位と都市衰退について考察する。
	事後学習	地方中核都市としての仙台と東北経済圏について整理する。（2時間）
12	事前学習	北海道の開発史について、開拓政策や開拓の拡大過程等について事前に調べる。（2時間）
	授業内容	日本の地方圏（3）「北海道の近代化」 札幌市を中心として、北海道の開拓と都市発展過程について考察する。
	事後学習	人口減少と経済発展の相対的低下、札幌一極集中化について整理する。（2時間）
13	事前学習	九州の地域的特徴について考え、特に中国・韓国などの隣接国との関係について整理する。（2時間）
	授業内容	日本の地方圏（4）「アジアと九州圏」 環日本海経済圏と北九州の経済的発展の可能性を中心に考察する。
	事後学習	九州経済圏とアジア経済圏の結びつきと発展過程について整理する。（2時間）
14	事前学習	アジアと日本の社会的・歴史的結びつきについて考察する。（2時間）
	授業内容	日本と世界 「アジアの工業化と日本の地域的対応」 日本とアジアの経済的結びつきについて考察する。
	事後学習	アジアの地域経済圏と日本・中国・韓国との関係について整理する。（2時間）
15	事前学習	初回からの教科書・プリントと講義ノートを見直す。（2時間）
	授業内容	講義のまとめ
	事後学習	教科書・プリントと講義ノートを見直し、期末テストに向けて準備する。（2時間）

科目名	哲学 I	担当者	岡山 敬二	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「人間とは何か」という問いを大きなテーマにしなが、人間と機械や生物との違い、人間と自然や生物とのつながりについて、様々な角度から考察してゆく。その手がかりとして、人間特有の認識機能や言語能力、身体存在としての人間のあり方、人間と自然や世界との関係性について問い、考えてゆく。			
授業目的・到達目標	常識や科学知の自明性を超え、人間と世界のありようを根本から見つめなおす哲学的な視野を養成することを目的とする。科学技術の進歩が招いた諸問題・諸状況に柔軟に対応するために、物心、身心の関係について哲学的に考察することを通して、人間や生命、自然についての様々な見解や立場を比較・検討し、それらの可能性と限界を理解し、説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目領域1, 2, 3, 4			
履修条件	哲学への関心と学習意欲をもっていること。私語、遅刻厳禁（ばあいによっては減点対象にする）。			
授業方法	配布するレジュメ（※共有フォルダでも入手可）に沿い講義を中心にすすめてゆく。リアクションペーパーを提出してもらい、その返答の機会を設けてゆきたい。定期試験の講評を後日、ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	授業内容の要点を理解し、それを自分の言葉でしっかりと説明、表現できているかを見る。	
	平常評価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014年8月6日	亜紀書房	人間が人間でなくなるとき フッサールの影を追え、とメルロ=ポンティは言った	岡山敬二
	備考	上記教科書のみ定期試験で持ち込み可とするが、教科書の内容だけでは合格点に達する答案を準備できない点に十分注意すること。教科書の説明にはない講義内容についての理解も必要となる。		
参考書	木田元・須田朗編著『基礎講座 哲学』（ちくま学芸文庫）。その他、必要なものについては授業のなかでそのつど紹介してゆく。			
オフィスアワー	原則として火曜日12：00～13：00、土曜日12:00～13:00（休暇期間は電子メールで相談の上対応する）。事前に電子メールでの連絡を踏まえ対応する。 研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの「授業概要」、「授業目的・到達目標」を読み、その内容を確認しておくこと。その他のシラバスの内容についても確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス ——授業内容や評価方法などの説明。
	事後学習	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
2	事前学習	シラバスの「授業概要」、「授業目的・到達目標」を読み、その内容を確認しておくこと。その他のシラバスの内容についても確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。人間とは何か、哲学とは何かについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	「人間らしさ」とは ——人間とは何かという問いと哲学の問いの関係について考える。
	事後学習	人間とは何かという問いがどうして哲学のテーマになるのかという意味について確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
3	事前学習	デカルトやニーチェとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	哲学的人間観 ——デカルトとニーチェの人間観を比較、検討する。
	事後学習	デカルトとニーチェの人間観の違いや関係についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
4	事前学習	デカルトの哲学、とくに「われ思う、ゆえにわれあり」という命題の意味を調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	「私」という存在 ——デカルトの「われ思う、ゆえにわれあり」という命題について考える。
	事後学習	デカルトのいう、私の存在の確実性、「われ思う、ゆえにわれあり」という真理の意味について確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）

5	事前学習	人間と動物との違い、心や利害意識、言語能力とは何かについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	人間はどこまで動物か —— 動物に心や利害、言語能力はあるのか。
	事後学習	動物における心や利害、言語能力の有無についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
6	事前学習	言語とは、認識とは何かについて思い、考えることを整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	人間らしさの基準とは —— 言語と認識について考える。
	事後学習	言語と認識がどうして人間らしさの基準になるのか、その意味を確認し、疑問や質問があれば整理しておくこと。（2時間）
7	事前学習	ヒト（ホモ・サピエンス）の誕生について思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	人類の「心」の歴史 —— 人類の心の歴史をたどりながら、動物の行動と人間の行動を比較し、その違いについて考える。
	事後学習	霊長類学の知見から考察される、動物と人間との違いについてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
8	事前学習	ここまでの講義内容を振り返り、人間と機械や動物との違いについてその意味をノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業の総括 —— 授業内容のまとめ。
	事後学習	人間と機械や動物との違いについてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
9	事前学習	心（精神）と身体（肉体）と物質の違いや関係について思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	心と身体 —— 身心問題の歴史的背景を確認し、その意味について考える。
	事後学習	身心問題の意味について確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
10	事前学習	心（精神）と身体（肉体）や物質とはどうつながるのかについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	デカルトを越えて —— デカルトの身心関係論の問題や限界を探る。
	事後学習	デカルトの身心関係論の問題や限界の意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
11	事前学習	物質と身体（肉体）との違いについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	生きられる身体へ —— 物体存在ではない、内面としての「私」によって裏打ちされた身体のあり方について考える。
	事後学習	内面としての「私」に裏打ちされた身体についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
12	事前学習	表情や表現とは何かについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	「世界内存在」としての身体 —— 身体の変現から自と他の関係について考える。
	事後学習	表現における心と身体との一体性、自己と他者との絆としての表現についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
13	事前学習	幻影肢という現象、ゲシュタルトという概念とはどういうものかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	身体図式とは —— 感覚連合説の難点とゲシュタルトとしての「身体図式」について考える。
	事後学習	ゲシュタルトとしての身体図式についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
14	事前学習	フッサールとはどういう哲学者であったのかを調べておくこと。日常生活の世界と科学的世界との違いや関係について思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	生きられた世界 —— フッサールの「生活世界」の意味と役割について考える。
	事後学習	生活世界と科学的、客観的な世界との違いや関係についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
15	事前学習	講義内容の全体を振り返り、人間と機械や動物との違いや関係についてその意味をノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業の総括 —— 授業内容のまとめ。定期試験の出題範囲や傾向、対策などの説明。
	事後学習	人間と機械や動物との違いや関係についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）

科目名	哲学 I	担当者	金子 佳司	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	「哲学とは何か」という問題に対しては様々な主張があり、専門家の間でも意見が一致しませんが、哲学が古代ギリシアで始まったという点では意見が一致しています。そこで、古代ギリシア哲学の歴史をたどることによって、歴史的事実として哲学がどのように始まったかを学びます。すなわち、伝統的に哲学の始まりとされているミレトス派から始めて、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、さらに、ヘレニズム時代の哲学までをたどります。			
授業目的・到達目標	「そもそも哲学が何であったか」を知ることがこの授業の目的です。また、古代ギリシアの哲学者たちがどのような問題に取り組み、それらの問題に対してどのような考察をしたかを理解し、それを説明できるようになることが、この授業の目標です。 関連DP及びCP:総合科目領域1, 2, 3, 4			
履修条件	なし。			
授業方法	授業は講義形式で行ないますが、できるかぎり学生のみなさんとの対話を取り入れながら、いっしょに問題を考えていきたいと思います。なお、授業中に行なう小テストについては、後日授業中に解説を行ないます。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		70%	授業中に取り上げた事項や問題がしっかり理解できているかどうか、またその理解したことを自分の言葉で的確に表現できているかどうかを定期試験で判定します。
	平 常 評 価		30%	授授業中に行なう小テスト（4回行なう予定）で評価します。なお、やむをえない事情があつて小テストを受けられなかった場合は必ず速やかに申し出ること。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	1994	北樹出版	西洋思想の要諦周覧	嘉吉純夫・斎藤隆
	備考			
参 考 書	授業中に随時紹介します。			
オフィスアワー	木曜日午後6時以降 希望者は授業講堂にて申し出ること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	このシラバス全体を読み、教科書を使って授業の概要を理解する。（2時間）
	授業内容	授業計画や評価方法などの説明。「哲学とは何か」「哲学はいつ始まったのか」という問題を考える。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
2	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	アリストテレスの哲学史観を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
3	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	ミレトス学派の自然観を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
4	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	ピュタゴラスとヘラクレイトスの自然観を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）

5	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	エレア学派の考え方を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
6	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	エンペドクレスとアナクサゴラスの自然観を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
7	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	レウキッポスとデモクリトスの原子論を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
8	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	ソフィストとソクラテスの思想を学び、哲学者とは何かを考える。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
9	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	プラトンがなぜイデア論を唱えるようになったかを考える。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
10	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	プラトンのイデア論に基づく世界観を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
11	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	アリストテレスの世界観を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
12	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	アリストテレスの人生観を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
13	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	エピクロスの快楽主義を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
14	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	ストア派の禁欲主義を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
15	事前学習	前回までの授業内容をノートを読み直して確認しておく。（2時間）
	授業内容	授業の総まとめと理解の確認
	事後学習	授業の総まとめを振り返って、自分の理解が確かであったかどうか確認する。（2時間）

科目名	哲学Ⅰ	担当者	江川 晃	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	-----	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	私たちの世界は、スマホ、インターネット、ＴＶなどの科学・技術により植民地化されつつある。問題は、科学・技術が人類の幸福に役立つという本来の目的を忘れ、我が物顔で幅を利かしていることである。いま、私たちに必要な能力は、経済第一主義と結びついた科学・技術崇拜に陥らず、科学・技術を社会的かつ個人的にコントロールする「哲学力」である。特に哲学Ⅱでは、現代哲学を取り上げる。				
授業目的・到達目標	科学はギリシャの自然哲学にそのルーツがある。アテナイの哲学になると人間の道徳・倫理に問題が移る。中世になると、ギリシャ哲学とキリスト教が合体し、宗教が理性化される。近世では、科学革命により、科学的真理が発見されるに至り、人間の理性が哲学の中心の問題へと発展する。現代では、理性だけではなく、実存や行動、そして論理、言語、コンピュータとの対比を通して、人間が哲学的に考察されている。この授業の目的は、哲学と宗教と科学の関係という根本的問題を把握することを目的とし、現代文明に振り回されずに、自由に創造的に生き抜く視点(哲学力)を開発できるようになることを目標とする。関連ＤＰ及びＣＰ：総合科目1, 2, 3, 4				
履修条件	特になし				
授業方法	教科書とプリントによる講義。感想・意見・質問ペーパーを講義の最後に提出のこと。次回、それをもとに対話をしながら授業を進めていきたい。哲学レポートの書き方も指導します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	レポート	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	備考	文書プリント、バワボプリントを配布する。			
参考書	授業中にて提示いたします。				
オフィスアワー	金曜日1限、授業終了後の教室にて対応します。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでくること。（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	配布プリントの復習。（2時間）
2	事前学習	プリントを読んでくること。（2時間）
	授業内容	哲学とは何か
	事後学習	「哲学」という語の語源と意味を復習する。（2時間）
3	事前学習	プリントを読んで、ギリシアの自然哲学の流れを把握してくること。（2時間）
	授業内容	ギリシアの自然哲学1（ミレトス学派とピュタゴラス学派、ヘラクレイトスとパルメニデス）
	事後学習	哲学発生の意義の理解。（2時間）
4	事前学習	プリントを読んでく、エンペドクレスの意義について把握してくること。（2時間）
	授業内容	ギリシアの自然哲学2（エンペドクレスの生きる自然とデモクリトスの死せる自然）
	事後学習	タレスからデモクリトスまでの流れを理解する。（2時間）

5	事前学習	ソクラテスについてのプリントを読んでくること。（2時間）
	授業内容	ソクラテスの対話の真意とは何か。
	事後学習	ソフィスト、徳の定義について把握。（2時間）
6	事前学習	プラトンについての配布プリントを読んでくること。（2時間）
	授業内容	プラトンの想起説と魂の不死。
	事後学習	「アイデア」を具体的に説明できるように復習しよう。（2時間）
7	事前学習	アリストテレスとは誰だ。（2時間）
	授業内容	アリストテレスの自然学と形而上学
	事後学習	「存在論」とは何か。（2時間）
8	事前学習	コペルニクス・ガリレオとは誰か、調べてこよう。（2時間）
	授業内容	科学革命（コペルニクス・ガリレオ）
	事後学習	科学革命の構造の理解。（2時間）
9	事前学習	デカルトについて調べる。（2時間）
	授業内容	デカルトの「われ思う、ゆえにわれあり」
	事後学習	デカルトの「精神と物質の二元論」を説明できるようにしておこう。（2時間）
10	事前学習	配布プリントを読んでくること。（2時間）
	授業内容	F. ベーコン（種族イドラ・洞窟のイドラ・市場のイドラ・劇場のイドラ）
	事後学習	「イドラ」とは何かを説明できるように復習しよう。（2時間）
11	事前学習	「コペルニクスの転回」とは何か。プリントを読んでくること。（2時間）
	授業内容	カントの哲学
	事後学習	「純粋理性」を理解する。（2時間）
12	事前学習	レギーネとの恋物語について調べていこう。（2時間）
	授業内容	キルケゴールの実存主義
	事後学習	「血の騒ぐもの」と「実存」（2時間）
13	事前学習	プリントを読んでくること。（2時間）
	授業内容	実存の三段階(美的実存・倫理的実存・宗教的実存)
	事後学習	人生にとっての「挫折」の意義エオ考えよう。（2時間）
14	事前学習	どのレポート課題を選択するか考えてこよう。（2時間）
	授業内容	哲学レポートの書き方1（まとめ）
	事後学習	書き始めよう。（2時間）
15	事前学習	完成させる。（2時間）
	授業内容	授業補足と後期内容予告 前期レポート提出
	事後学習	反省。（2時間）

科目名	哲学Ⅱ	担当者	岡山 敬二	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「人間とは何か」という問いを大きなテーマにしながら、時間とは何か、生とは、死とは何かについて、様々な角度から考察してゆく。その手がかりとして、時計的な時間と現象学的な時間との違いや関係性、形而上学的な死生観と非形而上学的な死生観、存在論と死の問題について問い、考えてゆく。			
授業目的・到達目標	常識や科学知の自明性を超え、人間と世界のありようを根本から見つめなおす哲学的な視野を養成することを目的とする。科学技術の進歩が招いた諸問題・諸状況に柔軟に対応するために、時間と死の問題について哲学的に考察することを通して、人間や生命、自然についての様々な見解や立場を比較・検討し、それらの可能性と限界を理解し、説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目領域1, 2, 3, 4			
履修条件	哲学への関心と学習意欲をもっていること。私語、遅刻厳禁（ばあいによっては減点対象にする）。			
授業方法	配布するレジュメ（※共有フォルダでも入手可）に沿い講義を中心にすすめてゆく。リアクションペーパーを提出してもらい、その返答の機会を設けてゆきたい。定期試験の講評を後日、ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	授業内容の要点を理解し、それを自分の言葉でしっかりと説明、表現できているかを見る。	
	平常評価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014年8月6日	亜紀書房	人間が人間でなくなるとき フッサールの影を追え、とメルロ=ポンティは言った	岡山敬二
	備考	上記教科書のみ定期試験で持ち込み可とするが、教科書の内容だけでは合格点に達する答案を準備できない点に十分注意すること。教科書の説明にはない講義内容についての理解も必要となる。		
参考書	その他、必要なものについては授業のなかでそのつど紹介してゆく。			
オフィスアワー	原則として火曜日12：00～13：00、土曜日12:00～13:00（休暇期間は電子メールで相談の上対応する）。事前に電子メールでの連絡を踏まえ対応する。 研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの「授業概要」、「授業目的・到達目標」を読み、その内容を確認しておくこと。その他のシラバスの内容についても確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス ——授業内容や評価方法の説明。
	事後学習	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
2	事前学習	シラバスの「授業概要」、「授業目的・到達目標」を読み、その内容を確認しておくこと。その他のシラバスの内容についても確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。人間とは何か、哲学とは何かについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	心と身体 ——「哲学Ⅰ」の授業内容を総括しながら、「哲学Ⅱ」の授業内容とのつながりを確認する。
	事後学習	心と身体との違いや関係についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
3	事前学習	時間の存在について思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	時間とは ——時間の不思議さについて考える。
	事後学習	時間の存在の矛盾や不思議さについてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
4	事前学習	アリストテレスやアウグスティヌスとはどういう哲学者であったかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	時間の見方 ——アリストテレスとアウグスティヌスの時間論を比較し、その違いの意味について考える。
	事後学習	アリストテレスとアウグスティヌスの時間論の違いの意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）

5	事前学習	現象学とはどういう哲学的な立場なのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	現象学の視点　——フッサールをはじめとする現象学の時間論を考察する準備として、「現象学的還元」という方法について考える。
	事後学習	現象学的還元の意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
6	事前学習	フッサールの時間論について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	内的時間意識とは　——フッサールの時間論の「把持」と「予持」について考える。
	事後学習	フッサールのいう把持と予持の意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
7	事前学習	メルロ=ポンティとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	積み重なる時間　——メルロ=ポンティの時間論の「現在野」について考える。
	事後学習	メルロ=ポンティのいう現在野の意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
8	事前学習	ここまでの講義内容を振り返り、流れ去る時間と積み重なる時間との違いや関係についてその意味をノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業の総括　——授業内容のまとめ。
	事後学習	流れ去る時間と積み重なる時間との違いや関係についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
9	事前学習	生と死について思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	死とは　——人間存在と死の問題について考える。
	事後学習	人間存在と死の問題の関係についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
10	事前学習	死後の世界、魂の不死について思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	魂は不死なのか　——形而上学的不死思想（プラトンなど）について考える。
	事後学習	形而上学的な死生観についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
11	事前学習	死の悪について思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	死の善と悪　——非形而上学的死生観（エンペドクレス、ソクラテスなど）について考える。
	事後学習	死の善と悪についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
12	事前学習	死と時間の関係について思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	死と時間　——エピクロスの死生観を確認し、死と時間意識の関係について考える。
	事後学習	死と時間意識の関係についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
13	事前学習	ハイデガーとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	死と存在　——ハイデガーの存在論についての死の問題の意味と役割について考える。
	事後学習	存在論と死の問題の関係についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
14	事前学習	運命や縁の存在について思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	時間と運命　——ハイデガーの時間論における本来的時間性と非本来的時間性との違いや関係について考える。
	事後学習	ハイデガーのいう本来的時間性と非本来的時間性との違いや関係についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
15	事前学習	授業内容の全体を振り返り、人間存在と時間や死の問題との関係についてノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業の総括　——授業内容のまとめ。定期試験の出題範囲や傾向、対策などの説明。
	事後学習	人間存在と時間や死の問題との関係についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）

科目名	哲学Ⅱ	担当者	金子 佳司	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	-----	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	哲学は近代になって大きく変化しました。そこで、中世の崩壊とルネッサンスによるギリシア哲学の復興、さらにそれを乗り越えることによって始まった西ヨーロッパの近代哲学を学びます。すなわち、デカルトやイギリス経験主義の認識論、カントやヘーゲルに代表されるドイツ哲学までの近代哲学、さらには、マルクス主義と実存主義までをたどります。				
授業目的・到達目標	17世紀ころ西ヨーロッパで大きな知的変革が起き、現代人はその新しい考え方に影響を受けていますが、そのことを知ることがこの授業の目的です。また、17世紀以降の西ヨーロッパの哲学とそこから生まれた近代科学の考え方の特殊性を理解し、それを説明できるようになることが、この授業の目標です。関連DP及びCP:総合科目領域1, 2, 3, 4				
履修条件	なし。				
授業方法	授業は講義形式で行ないますが、できるかぎり学生のみなさんとの対話を取り入れながら、いっしょに問題を考えていきたいと思ひます。なお、授業中に行なう小テストについては、後日授業中に解説を行ないます。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	授業中に取り上げた事項や問題がしっかり理解できているかどうか、またその理解したことを自分の言葉で的確に表現できているかどうかを定期試験で判定します。	
	平常評価		30%	授授業中に行なう小テスト（4回行なう予定）で評価します。なお、やむをえない事情があつて小テストを受けられなかった場合は必ず速やかに申し出ること。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	1994	北樹出版		西洋思想の要諦周覧	嘉吉純夫・斎藤隆
	備考				
参考書	授業中に随時紹介します。				
オフィスアワー	木曜日午後6時以降 希望者は授業講堂にて申し出ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	このシラバスを読み、教科書を使って授業の概要を理解する。（2時間）
	授業内容	授業計画や評価方法などの説明。「近代哲学はどのようにして始まったのか」という問題を考える。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
2	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	中世の崩壊と宗教改革、および二つのルネッサンスについて学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
3	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	17世紀の西ヨーロッパで世界観が大きく変化したことを学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
4	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	デカルトの「私は考える、だから私は存在する」の意味を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）

5	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	デカルトの物心二元論（精神と物体の二元論）とスピノザの心身並行論を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
6	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	ホッブズの世界観と人間観を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
7	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	ロックの経験主義に基づく認識論を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
8	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	バークリーとヒュームによる経験主義の徹底化を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
9	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	フランス啓蒙主義と産業革命を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
10	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	カントの認識論を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
11	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	カントの義務論を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
12	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	ヘーゲルの世界観と弁証法的な歴史観を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
13	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	マルクスの弁証法的唯物論を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
14	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	サルトルの実存主義を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
15	事前学習	授業内容をノートを読み直して確認しておく。（2時間）
	授業内容	授業の総まとめと理解の確認
	事後学習	授業の総まとめを振り返って、自分の理解が確かであったかどうか確認する。（2時間）

科目名	哲学Ⅱ	担当者	江川 晃	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	-----	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	私たちの世界は、スマホ、インターネット、TVなどの科学・技術により植民地化されつつある。問題は、科学・技術が人類の幸福に役立つという本来の目的を忘れ、我が物顔で幅を利かしていることである。いま、私たちに必要な能力は、経済第一主義と結びついた科学・技術崇拜に陥らず、科学・技術を社会的かつ個人的にコントロールする「哲学力」である。特に哲学Ⅱでは、現代哲学であるプラグマティズムと科学哲学を取り上げる。			
授業目的・到達目標	現代では、理性だけではなく、実存や行動、そして論理、言語、コンピュータとの対比を通して、人間が哲学的に考察されている。哲学と宗教と科学の関係という根本的問題を把握することを目的とし、現代文明に振り回されずに、自由に創造的に生き抜く視点(哲学力)を開発できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目1, 2, 3, 4			
履修条件	特になし			
授業方法	教科書とプリントによる講義。感想・意見・質問ペーパーを講義の最後に提出のこと。次回、それをもとに対話をしながら授業を進めていきたい。哲学レポートの書き方も指導します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	レポート
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	文書プリント、バワボプリントを配布する。		
参考書	授業中に提示します。			
オフィスアワー	金曜日1限、授業終了後の教室にて対応します。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	C. S. パースとは誰か調べておいてください。（2時間）
	授業内容	プラグマティズム1：信念は行動の規則
	事後学習	疑念・信念・習慣・行動の関連を把握する。（2時間）
2	事前学習	4つの信念を固定する方法について調べておいてください。（2時間）
	授業内容	プラグマティズム2：信念の固め方（固執の方法・権威の方法・先天的方法・科学の方法）
	事後学習	それぞれの方法を復習。（2時間）
3	事前学習	シネマ“MATRIX”とは何か。（2時間）
	授業内容	情報記号論：シネマ“MATRIX”の哲学
	事後学習	VRの哲学、復習。（2時間）
4	事前学習	ロラン・バルトとはだれか？（2時間）
	授業内容	構造主義1：メディアの神話作用
	事後学習	具体例をよく考えなおしてください。（2時間）

5	事前学習	流行についての予習。（2時間）
	授業内容	構造主義2：モードは言語だ！
	事後学習	言語と衣服の関連の復習。（2時間）
6	事前学習	ウィトゲンシュタインとは誰だ？（2時間）
	授業内容	分析哲学1：事実の像が命題だ！
	事後学習	「写像理論」の復習。（2時間）
7	事前学習	カール・ポパーとは誰だ。（2時間）
	授業内容	分析哲学2：なぜ占いは非科学なのか
	事後学習	「反証可能」はなぜ科学的？（2時間）
8	事前学習	A. J. オースティンとは誰だ？（2時間）
	授業内容	言語行為論：話すことは同時に3つの行為をしている。
	事後学習	言語行為論の復習。（2時間）
9	事前学習	心と脳の関係について考えよう。（2時間）
	授業内容	心の哲学1：心は脳にあるのか
	事後学習	「心脳同一説」批判しよう。（2時間）
10	事前学習	AIが心を持つとは？（2時間）
	授業内容	心の哲学2：ロボットに心はあるのか
	事後学習	「機能主義」の復習（2時間）
11	事前学習	脳科学と哲学について予習しよう。（2時間）
	授業内容	脳神経科学を哲学する
	事後学習	「脳倫理」復習。（2時間）
12	事前学習	自由意志とは何。（2時間）
	授業内容	われわれに自由意思はあるのか
	事後学習	脳に責任を転嫁できるか、考えよう。（2時間）
13	事前学習	iPS細胞を調べてこよう。（2時間）
	授業内容	生命科学と哲学：iPS細胞は人類に幸福をもたらすか？
	事後学習	そ本主義に徳はあるのか？（2時間）
14	事前学習	課題を選択してこよう。（2時間）
	授業内容	哲学レポートの書き方2（まとめ）
	事後学習	書き始めよう。（2時間）
15	事前学習	完成させよう。（2時間）
	授業内容	授業補足とレポート提出
	事後学習	反省。（2時間）

科目名	統計学 I	担当者	荒関 仁志	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	本講座では、従来のような数式を中心とする説明ではなく、我々の身近にあるような具体的な例（ハンバーガーショップ）を取り上げ、数式を解さず、直接表計算ソフトを使うことで、数学が苦手な人でも統計処理の「基本的な考え方を理解する」ことを目的とします。				
授業目的・到達目標	統計が身近な疑問や現象に答えてくれる、比較的身近な数学であることを理解することを目的とします。統計処理は、決して理解が難しい数学ではなく、非常に単純な数学的思考に立脚した数値処理であることを理解してください。本講座では、統計処理ではよく使われている「平均・分散」や「有意差を表す検定」について理解することを目指します。特に「検定」に関しては、その背景にある単純な仮定を理解することで、検定の「考え方」や「適用範囲」を理解します。ここでは、それらの統計処理を使って身近なデータを処理し、それによって具体的な統計処理技術の習得を目標とします。関連DP及びCP：総合科目1, 2, 3, 4				
履修条件	各自が自由に使えるパソコンがご自宅にあること。また、利用可能なパソコンにはエクセルがインストールされていることを履修の条件とします。				
授業方法	事前に指定教科書の関連箇所を熟読してから授業に臨んでください。授業では講義ノートパワーポイントを使って授業を行い、各授業の最後に確認のための簡単なレポートを提出と、不定期で課題レポートの提出を課します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	定期試験は行いません。	
	平常評価		100%	授業内確認レポートと、課題レポートの評価の合計を成績とします。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2007年	技術評論社	ファーストブックシリーズ統計学がわかる		向後千春、富永敦子
	備考				
参考書	・『挫折しない統計学入門』、浅野晃著、オーム社 ・必要に応じて補助プリントを配布します。				
オフィスアワー	授業内容に関する不明な点や課題レポートに関する質問は、授業内（一部金曜4限、二部金曜1限）で行うか、以下のメールでご質問ください。なお、メールでの質問には、学部名、学科名、学生番号と氏名を必ず明記してください。 araseki.hitoshi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	統計に関する各自の考えをまとめてください。 これに関しいては、授業内で確認レポートとして皆さんに解答してもらいます。（2時間）
	授業内容	統計と確率の関係について講義を行います。 特に、統計から導かれる確率の考えが、個人の意思決定に利用できない理由等、統計処理の問題点を講義で明らかにします。また、指定教科書についての説明も行います。さらに、各自のパソコンのエクセルで「データ分析」が使えるようにするための設定手順も合わせて講義します。
	事後学習	今日の授業ノートを再度読み返し、統計に関する各自の考えをまとめてください。（2時間）
2	事前学習	指定教科書の第1章を熟読してください。特に、「1-1 平均を調べる」と「1-2 度数分布」については、各自理解をして授業に臨んでください。（2時間）
	授業内容	平均と分散、特に分散についての重要性について講義します。また、分散や標準偏差の考えと計算方法、その意味について講義を行います。
	事後学習	確認レポートで提出した「統計処理手順」を、再度自宅のパソコンで計算できるようにしてください。（2時間）
3	事前学習	今日の授業で講義を行い、下記の単語を予めインターネットなどで調べてください。（2時間） ・正規分布 ・大数の定理 ・中心極限定理
	授業内容	統計分布としての正規分布、大数の定理と中心極限定理
	事後学習	統計処理における「データの正規性」が重要な役割を果たします。 データの正規分布と中心極限定理が密接な関係にあることを理解し、身の回りの正規分布を示すデータを探してみてください。（2時間）

4	事前学習	指定教科書第2章を熟読して下さい。（2時間）
	授業内容	データが従う統計分布が理解できると、それを利用した区間推定と信頼区間の考えを導入することができます。この信頼区間に考えが、有意差検定の基本であることを講義します。
	事後学習	この区間推定と信頼区間（と棄却域）は、有意差検定の根幹を成す考えですので、再度講義ノートを確認してください。（2時間）
5	事前学習	指定教科書の第3章の「3－1」を熟読してください。 また、先週講義した「信頼区間」についても再度確認しておいてください。（2時間）
	授業内容	有意差検定の考え方の基本を講義します。 第4回に講義した「信頼区間」との関係を講義します。 また、有意差検定の考え「帰無仮説」や「対立仮説」についても講義します。
	事後学習	今日の授業が、統計Ⅰの要となります。 「統計分布」と「信頼区間」の考えが重要なつながりがあることを再確認してください。（2時間）
6	事前学習	指定教科書の第3章「3－2」と「3－3」を熟読してください。（2時間）
	授業内容	カイ2乗検定の考え方を講義します。 有意差検定の最も基本になる考えを、このカイ2乗検定を使って具体的に説明します。
	事後学習	カイ2乗検定を理解してください。特に、授業内レポートについて再度確認をしてください。（2時間）
7	事前学習	指定教科書の第3章「3－4」を熟読してください。特に計算について理解をしてください。（2時間）
	授業内容	カイ2乗検定の計算の実際を講義します。 特に、実際のデータを使って、カイ2乗検定の具体的な計算方法の手順を講義します。
	事後学習	課題レポートが課されますので、各自のパソコンで、課題レポートを計算して指定された方法で、締め切り日までに課題を提出してください。（2時間）
8	事前学習	指定教科書の第4章を熟読してください。 特に、計算方法について理解をしてください。（2時間）
	授業内容	有意差検定で、最も利用されている「t検定（対応なし）」の考え方を講義します。 特に、正規分布とt分布、その信頼区間の関係について詳しく講義します。
	事後学習	次の課題レポート課題に関係しますので、必ず「t検定」の仕組みを理解してください。（2時間）
9	事前学習	第8回の講義内容と指定教科書第4章を再度読み返してください。（2時間）
	授業内容	実際のデータを使った「t検定（対応なし）」の計算方法について講義します。 計算の手順と、エクセルにおける「データ分析」を使った計算方法も講義します。 その上で、計算結果の解釈方法も講義します。また、「t検定（対応なし）」の前提条件である「等分散性」についても説明します。
	事後学習	課題レポートが課されますので、各自のパソコンで、課題レポートを計算して指定された方法で、締め切り日までに課題を提出してください。（2時間）
10	事前学習	指定教科書第5章を再度読み返してください。（2時間）
	授業内容	実際のデータを使った「t検定（対応あり）」を使った計算方法も講義します。 その上で、計算結果の解釈方法も講義します。さらに、第9回講義に「t検定（対応なし）」との違いについても講義します。
	事後学習	課題レポートが課されますので、各自のパソコンで、課題レポートを計算して指定された方法で、締め切り日までに課題を提出してください。（2時間）
11	事前学習	指定教科書第6章を熟読してください。（2時間）
	授業内容	多変量の有意差検定である「分散分析」の考え方を講義します。 特に「t検定」との違いと、「分散分析」の考え方を講義します。 特にF分布とF値の考えを理解することを目的とします。 また、分散分析の前提条件である等分散性についても講義します。
	事後学習	F分布の成り立ちと信頼区間との関係を確認してください。 この理解は、第12回以降の講義に必須です。（2時間）
12	事前学習	指定教科書第6章を再度読み返してください。（2時間）
	授業内容	実際のデータを使った「分散分析（1要因）」についての計算方法を講義します。 特に「等分散検定」と「分散分析」の計算手順についても解説します。
	事後学習	課題レポートが課されますので、各自のパソコンで、課題レポートを計算して指定された方法で、締め切り日までに課題を提出してください。（2時間）
13	事前学習	指定教科書第7章を熟読してください。 特に「交互作用」について理解してください。（2時間）
	授業内容	「分散分析（2要因）」について「分散分析（1要因）」との違いについて講義を行います。 特に「分散分析（多要因）」で現れる「交互作用」について詳しく説明します。
	事後学習	「分散分析（2要因）」の仕組みと「交互作用」について理解してください。 この理解は、第12回以降の講義に必須です。（2時間）
14	事前学習	指定教科書第7章を再度読み返してください。（2時間）
	授業内容	実際のデータを使った「分散分析（2要因）」についての計算方法を講義します。 特に「交互作用」について詳しく説明します。
	事後学習	課題レポートが課されますので、各自のパソコンで、課題レポートを計算して指定された方法で、締め切り日までに課題を提出してください。（2時間）

15	事前学習	今まで講義について、どのような統計処理が、どのようなデータ分析に利用可能かを整理しておいてください。（2時間）
	授業内容	総復習として、半年間行った講義内容を、データ分析の立場から講義します。 この講義によって、統計分析の適用範囲を正しく理解することを目指します。 まとめ及び振り返り。
	事後学習	講義内レポートと課題レポートをまとめてください。（2時間）

科目名	統計学 I	担当者	廣瀬 毅士	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	さまざまな施策の立案には正しい現状認識が前提となるが、そのためには適切な情報が必要である。それらの情報は、社会についてのデータを分析することによって得られる。この授業は、社会調査のマイクロデータを素材にして社会のありかたを把握するための統計量を計算する方法について、PCを用いて実践的に説明する。					
授業目的・到達目標	【授業目的】社会調査の結果を分析するための基礎知識として統計学の手法とデータの読み解き方を理解し、基礎的なデータ分析を実施する能力の養成を目的とする。 【到達目標】(1)授業で扱った統計量の意味を説明できること、(2)社会調査のマイクロデータから統計量を計算できること、(3)2つの変数の間の関係の有無や方向について説明できること。 【関連DPおよびCP】総合科目・体育実技科目領域1，2，3，4					
履修条件	特に条件を設定しない。					
授業方法	講義およびパソコンを用いた実習を組み合わせる。最終回の到達度チェック（PCを用いた実践的演習テスト）のフィードバックは、最終回の授業内もしくはポータルサイトで行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業参加度、授業期間内に課す小課題。さらに、統計学の基本知識と実践的理解が身についているか、最終回に到達度チェック（PCを用いた実践的演習テスト）を行う。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2010	オーム社		社会調査のための統計データ分析		廣瀬毅士・寺島拓幸
	備考					
参考書	授業期間内に適宜指定する。					
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は、水曜2限授業終了後に対応する。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	統計学とはどのようなものか、ネット上のwebサイトなどで調べてみる。（2時間）
	授業内容	授業の全体的な流れのほか、記述統計学の考え方の基礎について学ぶ。
	事後学習	統計学が社会においてどのようなことに用いられているか、ネット上のwebサイトなどで調べてみる。（2時間）
2	事前学習	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、必要に応じて関連書籍を読む。（2時間）
	授業内容	社会調査とマイクロデータの基礎知識について学ぶ。
	事後学習	授業で学んだことをふり返り、授業時間内で指定した小課題を完成する。（2時間）
3	事前学習	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、必要に応じて関連書籍を読む。（2時間）
	授業内容	代表値（平均値、メディアン、モードなど）について学ぶ。
	事後学習	授業で学んだことをふり返り、授業時間内で指定した小課題を完成する。（2時間）
4	事前学習	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、必要に応じて関連書籍を読む。（2時間）
	授業内容	散らばりの指標（レンジ、分散、標準偏差）とデータの標準について学ぶ。
	事後学習	授業で学んだことをふり返り、授業時間内で指定した小課題を完成する。（2時間）

5	事前学習	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、必要に応じて関連書籍を読む。（2時間）
	授業内容	散らばりの指標とデータの標準化について学ぶ。
	事後学習	授業で学んだことをふり返り、授業時間内で指定した小課題を完成する。（2時間）
6	事前学習	これまでに学習した、教科書の該当箇所を再度読んでおく。（2時間）
	授業内容	小括として、ここまでの復習を行う。
	事後学習	ここまでの内容で理解できていなかった点があれば教科書の該当箇所ですでに再度学習する。（2時間）
7	事前学習	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、必要に応じて関連書籍を読む。（2時間）
	授業内容	データを視覚化する手段として、グラフによる表現について学ぶ。
	事後学習	授業で学んだことをふり返り、授業時間内で指定した小課題を完成する。（2時間）
8	事前学習	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、必要に応じて関連書籍を読む。（2時間）
	授業内容	データを視覚化する手段として、グラフ表現の注意点を学ぶ。
	事後学習	授業で学んだことをふり返り、授業時間内で指定した小課題を完成する。（2時間）
9	事前学習	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、必要に応じて関連書籍を読む。（2時間）
	授業内容	量的変数の共変動とその強さとして、共分散と相関係数の考え方について学ぶ。
	事後学習	授業で学んだことをふり返り、授業時間内で指定した小課題を完成する。（2時間）
10	事前学習	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、必要に応じて関連書籍を読む。（2時間）
	授業内容	質的変数をまとめる手法として、度数分布表について学ぶ。
	事後学習	授業で学んだことをふり返り、授業時間内で指定した小課題を完成する。（2時間）
11	事前学習	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、必要に応じて関連書籍を読む。（2時間）
	授業内容	質的変数の関連をみる手法として、クロス集計表について学ぶ。
	事後学習	授業で学んだことをふり返り、授業時間内で指定した小課題を完成する。（2時間）
12	事前学習	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、必要に応じて関連書籍を読む。（2時間）
	授業内容	クロス集計における関連の強さについて学ぶ。
	事後学習	授業で学んだことをふり返り、授業時間内で指定した小課題を完成する。（2時間）
13	事前学習	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、必要に応じて関連書籍を読む。（2時間）
	授業内容	クロス表で第3変数の影響を統制する手法として、エラボレイションについて学ぶ。
	事後学習	授業で学んだことをふり返り、授業時間内で指定した小課題を完成する。（2時間）
14	事前学習	前回指定した教科書の該当箇所を事前に読み、必要に応じて関連書籍を読む。（2時間）
	授業内容	分析結果のまとめ方について学ぶ。
	事後学習	授業で学んだことをふり返り、授業時間内で指定した小課題を完成する。（2時間）
15	事前学習	これまでに学んだ教科書の該当箇所を事前に読み、必要に応じて関連書籍を読む。（2時間）
	授業内容	全体のまとめとして、授業で設定した目標の到達度チェック（PCを用いた実践的演習テスト）を行う。 及び振り返り。
	事後学習	これまでの授業で学んだことについてふり返り、注意点を整理する。（2時間）

科目名	統計学Ⅱ	担当者	荒関 仁志	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	最近のコンピュータの高性能化に伴い、高性能な統計ソフトを自由に利用できるようになってきました。その結果、今までは利用するのが難しかった、多変量解析などが簡単に誰でもが利用できるようになりました。本講座では、『多変量解析』における「回帰分析」，「相関係数」や「因子分析」などを，身近な具体例を使い，なるべく数式を介さずに表計算ソフトを利用することで，その基本的考え方を理解することを目指します。				
授業目的・到達目標	本講座では，実際に様々な統計処理で使われることが多い「多変量」の統計処理について学習します。特に，「相関」，「重回帰分析」や「因子分析」についての考え方や処理方法の取得を目的とします。 多くの学生が統計を嫌いになるきっかけとなっているのが，この「多変量統計解析」ですが，その理論的背景を理解することで，多変量解析が単純な数学的仮定（線形関係）の上に成り立っていることを理解してください。その上でこれら線形関係を解くための数学が「線形代数」に起因することを理解し，その線形代数の手法が「最小2乗法」や「（座標）回転」や「固有値」と関係することを理解し説明できることを目標とします。関連DP及びCP：総合科目1, 2, 3, 4				
履修条件	統計Ⅰを受講していること。また、各自が自由に使えるパソコンがご自宅にあること。 なお、利用可能なパソコンにはエクセルがインストールされていることを履修の条件とします。				
授業方法	事前に指定教科書の関連箇所を熟読してから授業に臨んでください。授業では講義ノートパワーポイントを使って授業を行い、各授業の最後に確認のための簡単なレポートを提出と、不定期で課題レポートの提出を課します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	定期試験は行いません。	
	平常評価		100%	講義内レポートとレポート課題が課されます。レポート課題の評価を成績とします。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2008年	技術評論社		ファーストブックシリーズ統計学がわかる 【回帰分析・因子分析編】	向後千春，富永敦子
	備考				
参考書	『挫折しない 統計学入門』、浅野晃著、オーム社				
オフィスアワー	授業内容に関する不明な点や課題レポートに関する質問は、授業内（一部金曜4限、二部金曜1限）で行うか、以下のメールでご質問ください。なお、メールでの質問には、学部名、学科名、学生番号と氏名を必ず明記してください。 araseki.hitoshi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	多変量解析について、各自インターネットで調べておいてください。（2時間）
	授業内容	本講義で行う「多変量解析」について講義を行います。 指定教科書について解説します。 また、各自のパソコンでの統計処理を行うための設定についても説明します。
	事後学習	第2回の講義までに各自のパソコンの設定を確認してください。（2時間）
2	事前学習	指定教科書の第1章を熟読してください。（2時間）
	授業内容	教科書の例題を参考に、データに構造を表す「散布図と相関」について講義します。 特に、データ間に関係がデータ解析に重要な要素であることを理解します。
	事後学習	様々なデータに関する散布図を作成し、その背景にある相関関係を調べてください。（2時間）
3	事前学習	指定教科書に第3章を熟読してください。（2時間）
	授業内容	前回講義の「散布図」を基に、より定量的である「相関係数」について解説し、その計算方法を説明します。また、偏差積についても講義します。
	事後学習	相関係数の計算方法を確認してください。その場合、指定教科書の確認テストを計算することをお勧めします。（2時間）
4	事前学習	指定教科書の第3章を熟読してください。 また、統計Ⅰで講義した「有意差検定」について確認してください。（2時間）
	授業内容	相関検定で、より定量的に判断できる「無相関検定」について講義します。 この「無相関検定」を行う場合には、前期で学習した「有意差検定」を利用することを解説します。
	事後学習	課題レポートを課しますので、必ず締め切り日までに課題レポートを提出してください。（2時間）

5	事前学習	指定教科書の第4章を熟読してください。（2時間）
	授業内容	講義では「回帰分析」の考え方を講義します。特に計算の要となる「最小二乗法」について詳しく説明します。
	事後学習	回帰分析は何を計算できるのかを理解してください。特に、データからの推測が可能な統計処理であることを理解してください。（2時間）
6	事前学習	指定教科書の第4章を再度読んでください。（2時間）
	授業内容	本講義では、実際のデータを使った「単回帰分析」についての具体的な計算方法について講義します。また、この単回帰分析と相関係数との関係についても解説します。
	事後学習	課題レポートを課しますので、必ず締め切り日までに課題レポートを提出してください。（2時間）
7	事前学習	指定教科書の第5章を熟読してください。（2時間）
	授業内容	ここでは「偏相関」についての考え方と、その数学的意味を講義します。また、「偏相関」の計算方法についても解説します。
	事後学習	偏相関の考えは少々複雑で理解し難いので、必ず「確認テスト」を計算して、偏相関の理解を確実にしておいてください。（2時間）
8	事前学習	指定教科書の第6章を熟読してください。（2時間）
	授業内容	ここでは「重回帰分析」の考え方と計算方法を講義します。特に、重回帰分析での「説明変数の線形性の仮定」について詳しく講義します。また、重回帰分析で重要な条件である「多重共線性」についても解説します。
	事後学習	「重回帰分析」の考え方を理解してください。必要なら「確認テスト」で各自確認をしてください。（2時間）
9	事前学習	指定教科書の第6章を再度読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	実際のデータを使って「重回帰分析」の計算方法を講義します。ここでは1ステップずつの計算方法を説明し、その後でエクセルの「データ分析」を使った計算方法も説明します。
	事後学習	課題レポートを課しますので、必ず締め切り日までに課題レポートを提出してください。（2時間）
10	事前学習	指定教科書の第7章を熟読してください。（2時間）
	授業内容	多変量解析における「相関行列」について講義します。第3回の講義で説明した「相関」との関係を解説し、「相関行列」の利用方法を解説します。
	事後学習	第7章の「確認テスト」を各自解答し、「相関行列」を理解してください。（2時間）
11	事前学習	「主成分分析」は、指定教科書にはありません。事前に「資料」を配布しますので、それを熟読してください。（2時間）
	授業内容	多変量解析として「主成分分析」の数学的な仕組みを説明します。また、主成分分析では何が分るのかも説明します。
	事後学習	配布資料を使って、実際の計算方法を理解してください。（2時間）
12	事前学習	配布資料と指定教科書の第8章を再度読んでください。（2時間）
	授業内容	実際のデータを使って、主成分分析の計算方法を解説します。授業内で課題を出しますので、それを回答することで各自主成分分析の計算方法を確認します。
	事後学習	どのような時に、主成分分析を使うかを各自理解してください。（2時間）
13	事前学習	指定教科書の第8章を熟読してください。（2時間）
	授業内容	「因子分析」の考え方を講義します。特に、因子分析の意味と、その結果の解釈の方法も解説します。また、「因子分析」の解法の基本である「行列式の解法」についても解説します。また、「主成分分析」との違いも解説します。
	事後学習	因子分析の理解自体は難しくありませんが、その計算方法が非常に面倒ですので、不明な点などがありましたら、再度教科書を読んで確認してください。（2時間）
14	事前学習	指定教科書の第8章を再度読んでください。（2時間）
	授業内容	「因子分析」の計算方法について、教科書を参考に、手順を追って計算方法を講義します。また、因子分析の解釈の方法も合わせて解説します。
	事後学習	課題レポートを課しますので、必ず締め切り日までに課題レポートを提出してください。（2時間）
15	事前学習	今まで講義について、多変量解析において、どのような統計処理が、どのようなデータ分析に利用可能かを整理しておいてください。（2時間）
	授業内容	総復習として、半年間行った講義内容を、多変量解析の立場から講義します。この講義によって、多変量解析の適用範囲を正しく理解することを目指します。まとめ及び振り返り。
	事後学習	講義内レポートと課題レポートをまとめてください。（2時間）

科目名	統計学Ⅱ	担当者	廣瀬 毅士	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	さまざまな施策の立案には正しい現状認識が前提となるが、そのためには適切な情報が必要である。それらの情報は、社会についてのデータを分析することによって得られる。この授業では社会調査のマイクロデータを素材にした統計量の計算を用いて、社会について仮説を立て推論するための基本的なデータ分析手法について学ぶ。				
授業目的・到達目標	【授業目的】社会について考え課題を解決する道具として推測統計学を捉え、現実の課題に応用する能力の養成を目的とする。 【到達目標】(1)確率論や推測統計学の基本的な考え方を身につけ、説明できるようになること、(2)データを用いて推論や仮説を検証するための手法を習得し、説明できるようになること、(3)現実のビジネスデータに適用可能か考える力を習得すること。 【関連DPおよびCP】総合科目・体育実技科目領域1，2，3，4				
履修条件	特に条件を設定しないが、「統計学Ⅰ」で学ぶ知識を前提に進めるので、「統計学Ⅰ」を事前に履修しておくことを強く推奨する。				
授業方法	講義およびパソコンを用いた実習を組み合わせる。最終回の到達度チェック（PCを用いた実践的演習テスト）のフィードバックは、最終回の授業内もしくはポータルサイトで行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業参加度、授業期間内に課す小課題。 さらに、統計学の基本知識と実践的理解が身についているか、最終回に到達度チェック（PCを用いた実践的演習テスト）を行う。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	市販の教科書を指定せず、担当教員が作成・配布する資料によって授業を行う。			
参考書	豊田利久・大谷一博・小川一夫・長谷川光・谷崎久志，2010，『基本統計学（第3版）』東洋経済新報社。 篠崎信雄・竹内秀一，2009，『統計解析入門〔第2版〕』サイエンス社。				
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は、水曜2限授業終了後に対応する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	推測統計学とはどのようなものか、ネット上のwebサイトなどで調べてみる。（2時間）
	授業内容	授業の全体的な流れのほか、推測統計学の考え方の基礎について学ぶ。
	事後学習	推測統計学が社会でどのようなことに用いられているか自ら考え、調べてみる。（2時間）
2	事前学習	事前配布する授業資料を事前に読み、必要に応じて関連書籍などを読む。（2時間）
	授業内容	標本抽出、とくに無作為標本抽出の考え方について学ぶ。
	事後学習	学んだことを授業資料でふり返り、授業時間内で指定した小課題があればそれを完成する。（2時間）
3	事前学習	事前配布する授業資料を事前に読み、必要に応じて関連書籍などを読む。（2時間）
	授業内容	確率論の基礎として、その基本的な概念と用語、基礎的な計算について学ぶ。
	事後学習	学んだことを授業資料でふり返り、授業時間内で指定した小課題があればそれを完成する。（2時間）
4	事前学習	事前配布する授業資料を事前に読み、必要に応じて関連書籍などを読む。（2時間）
	授業内容	確率変数の期待値や分散などについて学ぶ。
	事後学習	学んだことを授業資料でふり返り、授業時間内で指定した小課題があればそれを完成する。（2時間）

5	事前学習	事前配布する授業資料を事前に読み、必要に応じて関連書籍などを読む。（2時間）
	授業内容	主要な確率分布や、Excel関数を用いた計算について学ぶ。
	事後学習	学んだことを授業資料でふり返し、授業時間内で指定した小課題があればそれを完成する。（2時間）
6	事前学習	事前配布する授業資料を事前に読み、必要に応じて関連書籍などを読む。（2時間）
	授業内容	標本抽出に関連して、標本統計量と標本分布、中心極限定理について学ぶ。
	事後学習	学んだことを授業資料でふり返し、授業時間内で指定した小課題があればそれを完成する。（2時間）
7	事前学習	事前配布する授業資料を事前に読み、必要に応じて関連書籍などを読む。（2時間）
	授業内容	統計的推定の基礎として、点推定と区間推定、標本統計量と母数、母平均の推定について学ぶ。
	事後学習	学んだことを授業資料でふり返し、授業時間内で指定した小課題があればそれを完成する。（2時間）
8	事前学習	事前配布する授業資料を事前に読み、必要に応じて関連書籍などを読む。（2時間）
	授業内容	統計的推定の応用として、母比率の推定や標本サイズの決め方について学ぶ。
	事後学習	学んだことを授業資料でふり返し、授業時間内で指定した小課題があればそれを完成する。（2時間）
9	事前学習	事前配布する授業資料を事前に読み、必要に応じて関連書籍などを読む。（2時間）
	授業内容	統計的検定の基礎として、統計的検定の基本的な考え方、統計的検定の手順について学ぶ。
	事後学習	学んだことを授業資料でふり返し、授業時間内で指定した小課題があればそれを完成する。（2時間）
10	事前学習	事前配布する授業資料を事前に読み、必要に応じて関連書籍などを読む。（2時間）
	授業内容	統計的検定の具体的な方法、第一種の過誤・第二種の過誤、検定の方法、統計的有意性の概念について学ぶ。
	事後学習	学んだことを授業資料でふり返し、授業時間内で指定した小課題があればそれを完成する。（2時間）
11	事前学習	事前配布する授業資料を事前に読み、必要に応じて関連書籍などを読む。（2時間）
	授業内容	母平均の差の検定の手法として、小標本の場合に用いられるt検定の手順について学ぶ。
	事後学習	学んだことを授業資料でふり返し、授業時間内で指定した小課題があればそれを完成する。（2時間）
12	事前学習	事前配布する授業資料を事前に読み、必要に応じて関連書籍などを読む。（2時間）
	授業内容	分散分析の考え方やその手順、多重比較の考え方について学ぶ。
	事後学習	学んだことを授業資料でふり返し、授業時間内で指定した小課題があればそれを完成する。（2時間）
13	事前学習	事前配布する授業資料を事前に読み、必要に応じて関連書籍などを読む。（2時間）
	授業内容	クロス表の2変数の独立性の検定方法として、統計的独立の下での期待度数の考え方、ピアソンのカイニ乗値の計算、カイニ乗検定の論理と方法についてについて学ぶ。
	事後学習	学んだことを授業資料でふり返し、授業時間内で指定した小課題があればそれを完成する。（2時間）
14	事前学習	事前配布する授業資料を事前に読み、必要に応じて関連書籍などを読む。（2時間）
	授業内容	相関係数、無相関検定、回帰分析の基礎、回帰係数の検定について学ぶ。
	事後学習	学んだことを授業資料でふり返し、授業時間内で指定した小課題があればそれを完成する。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業資料を通して読み、必要に応じて関連書籍を読んで理解を深める。（2時間）
	授業内容	全体のまとめとして、授業で設定した目標の到達度チェック（PCを用いた実践的演習テスト）を行う。及び振り返り。
	事後学習	これまでの授業で学んだことについてふり返し、注意点を整理する。（2時間）

科目名	日本の近現代Ⅰ	担当者	大岡 聡	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	以下のような問いを念頭に置きながら、19世紀後半における日本の国民国家形成過程とその問題点を検討する。 ①ヨーロッパとの関係で日本はどのような道を選び取ったのか、それはアジアとの関係にどのような影響を与えたか。②日本が選び取った道筋は、その後の日本の歩みにどのような刻印を与えたのか。③近代社会の形成は、ふつうの人びとの生き方や価値観にどのような変化を与えたか。そのことの持つ意味は何か。				
授業目的・到達目標	基礎的な歴史的事項の習得の上に、出来事の推移や因果関係を構造的に分析するなかで、出来事の歴史的意義や問題点を発見し、国際比較の中で日本の近代社会の特質を理解し、獲得した認識を論理的に説明できるような力を養成することを目的とする。 日本の近代社会の形成過程やその特質、そして「近代」の意味を考えることは、日本で社会科学を学ぶ者にとって、必須の事柄である。本講義はそれらについて基本的な認識を獲得することを目標とする。関連DP・CP：総合科目1，2，3，4。				
履修条件	特になし。日本史の学習歴は問わない。義務教育終了程度の常識を前提として講義する。				
授業方法	毎回レジュメと史料を配布し、なるべく一話完結式で進めるようにする。配布の史料の他、パワーポイントを用いて、写真、音声、映像などの教材も使用したい。講義中に小レポートやコメントカードの提出を課すことがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内試験を実施する。論述式、持ち込み不可、即題。 オプションとして読書レポートを提出することができる。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参考書	読書リストを配布するので、意欲的に読書を進めてほしい。講義の参考文献として、さしあたり井上勝生『幕末維新』、牧原憲夫『民権と憲法』、原田敏一『日清・日露戦争』（以上岩波新書）を薦める。				
オフィスアワー	月曜 13:00～14:00 金曜 16:30～17:30 講義に関する質問、講義とは直接関係のない勉強についての質問や相談、学生生活全般や進路についての相談ごとなど、上記の時間に対応します。メールでアポイントを取ると確実です。研究室は9号館 6階・9604室。メールは ohoka.satoshi@nihon-u.ac.jp 。なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、記載内容を頭に入れておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス ①教養とは何か、歴史を学ぶとはどういうことか。②講義概要と視点、③評価方法、単位取得条件、注意事項、文献紹介
	事後学習	ガイダンス資料をよく読んで、履修を検討する。（2時間）
2	事前学習	前回配布資料とシラバスを熟読する。江戸時代の支配のしくみについての知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	「内憂」と「外患」（その1）——19世紀前半の社会情勢と正統性の危機
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 幕藩体制の危機についてまとめる。（2時間）
3	事前学習	前回の講義内容を復習する。「鎖国」と「開国」についての知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	「内憂」と「外患」（その2）——「鎖国」と「開国」の意味
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 「鎖国」「開国」という歴史認識の問題点についてまとめる。（2時間）
4	事前学習	前回の講義内容を復習する。 19世紀の世界の状況についての知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	「内憂」と「外患」（その3）——世界史のなかの「開国」
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 「開国」したことの意味についてまとめる。（2時間）

5	事前学習	前回の講義内容を復習する。 幕末の出来事についての知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	公論・尊王・世直し——開国後の政治社会情勢と政治構想
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 2～5回の内容を踏まえ、維新政権が解決しなかった課題をまとめる。（2時間）
6	事前学習	前回の講義内容を復習する。 「国民」とは何か？ 自分なりの答えを考えておく。（2時間）
	授業内容	「国民」になるということ——<国民化>と国民国家形成の課題
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 特に「国民国家」概念を復習する。（2時間）
7	事前学習	前回の講義内容を復習する。 「文明開化」についての知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	文明開化論——対外的自立と<文明化>
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 特に<文明化>の意義と問題点をまとめる。（2時間）
8	事前学習	前回の講義内容を復習する。 「近代」とは何か、と問われたときの答えを持っておく。（2時間）
	授業内容	「文明」への懐疑——明治前期の民衆運動と「近代」
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 特に民衆運動の発生が何を示していたのかを説明できるようにする。（2時間）
9	事前学習	前回の講義内容を復習する。 自由民権運動と明治憲法についての知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	「国民」の誕生？——自由民権と明治憲法
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 特に自由民権運動と明治憲法の意義と問題点をまとめる。（2時間）
10	事前学習	前回の講義内容を復習する。 明治政府の外交についての知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	日本外交の「2つの顔」——<文明化>と東アジア国際関係の再編
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 特に明治政府の近隣外交の基調について説明できるようにする。（2時間）
11	事前学習	前回の講義内容を復習する。 特に配布の史料をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	<文明化>と対アジア外交論の諸潮流——征韓論・興亜論・脱亜論・小国主義
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 特に各外交論の違い・特質を説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	前回の講義内容を復習する。日清戦争についての知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	日清戦争論——「文明戦争論」とその実態
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 特に日清対立の背景について説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	前回の講義内容を復習する。 日露戦争についての知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	東アジア国際情勢の変化と日露戦争
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 特に日清戦争後の東アジア情勢と日露対立の要因について説明できるようにする。（2時間）
14	事前学習	前回の講義内容を復習する。日比谷焼打事件についての知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	日比谷焼打事件——20世紀の開幕
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 日比谷焼打事件の歴史的意義を説明できるようにする。（2時間）
15	事前学習	プリントやノートに沿って、前期の講義内容を復習し、授業内試験に備える。 本講義での自らの学びの意義と反省点を振り返る。（2時間）
	授業内容	まとめとテスト
	事後学習	プリントやノートをみながら、答案の自己評価をする。 半期の学びを振り返る。

科目名	日本の近現代Ⅱ	担当者	大岡 聡	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	【近代社会の変容と「大日本帝国」の崩壊】20世紀初頭、世界の諸帝国の仲間入りをした日本は、それゆえ国内外にさまざまなジレンマを抱え込むことになり、これに規定されて内政・外交にわたる針路の変更を繰り返した。「帝国日本」は結局破局への道を歩むことになるが、その過程では現代日本社会につながるような社会変容も起きている。20世紀前半の日本の歩みと、それを規定した基本的な要因を検討する。			
授業目的・到達目標	基礎的な歴史的事項の習得の上に、出来事の推移や因果関係を構造的に分析するなかで、出来事の歴史的意義や問題点を発見し、国際比較の中で日本の近現代社会の特質を理解して、獲得した認識を論理的に説明できるような力を養成することを目的とする。 「帝国日本」の展開～破局の過程とその構造的要因、「帝国日本」の実態や問題点についての基本的認識を持つことは、日本で社会科学を学ぶ者にとって、必須の事柄である。本講義は「帝国日本」に関する基本的な認識を形成することを目指す。関連DP・CP：総合科目1，2，3，4。			
履修条件	特になし。日本史の学習歴は問わない。			
授業方法	毎回レジュメと史料を配布し、なるべく一話完結式で進める。配布の史料の他、写真や音声、映像などの教材も使用したい。講義中に小レポートやコメントカードの提出を課すことがある。試験の講評はポータルサイトで発表。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業内試験を実施する。論述式、参照不可、即題である。オプションとして読書レポートを提出することができる。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		
参考書	読書リストを配布する。意欲的に読書を進めてほしい。さしあたり成田龍一『大正デモクラシー』、加藤陽子『満州事変から日中戦争へ』、吉田裕『アジア・太平洋戦争』（以上岩波新書）は、講義の参考になる。			
オフィスアワー	月曜 13:00～14:00 金曜 16:30～17:30 講義に関する質問、講義とは直接関係のない勉強についての質問や相談、学生生活全般や進路についての相談ごとなど、上記の時間に対応します。メールでアポイントを取ると確実です。研究室は9号館 6階・9604室。メールは ohoka.satoshi@nihon-u.ac.jp 。なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、記載内容を頭に入れておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンスとイントロダクション ①評価方法、講義の進め方、履修上の注意 ②19世紀後半の日本（日本の近現代Ⅰサマリー） ③講義の概要と計画
	事後学習	配布のプリントとノートを見直して、履修を検討する。（2時間）
2	事前学習	前回の講義内容を復習する。日本の領土拡張について確認しておく。（2時間）
	授業内容	多民族国家としての日本——「帝国」になるということ
	事後学習	「帝国」概念を中心に、プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。（2時間）
3	事前学習	前回の講義内容を復習する。植民地についての知識を再確認する。（2時間）
	授業内容	「帝国」の内実——日本の植民地主義と植民地支配
	事後学習	日本の「植民地主義」を中心に、プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。（2時間）
4	事前学習	前回の講義内容を復習する。日本の産業革命についての知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	「裏日本」「東北」とは何か——地域の不均等発展
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 「上からの近代化」がもたらしたものは何かをまとめてみる。（2時間）

5	事前学習	前回の講義内容を復習する。第一次世界大戦に関する知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	帝国主義世界の変容と日本の針路——第一次世界大戦のインパクト
	事後学習	第一次世界大戦が、世界と日本にどのような影響を与えたかを中心に、プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。（2時間）
6	事前学習	前回の講義内容を復習する。日本の労働運動についての知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	21 工場労働者とその意識の変容——大衆の時代(1)
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 特に労働者意識の変容過程をまとめる。（2時間）
7	事前学習	前回の講義内容を復習する。大正期の都市生活についての知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	サラリーマン家族の肖像——大衆の時代(2)
	事後学習	配布レジュメやノートに沿って、講義内容を文章化するなどしながら復習する。 「近代家族」概念についてまとめる。（2時間）
8	事前学習	前回の講義内容を復習する。日本の政党政治成立過程についての知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	帝国のデモクラシー——普選体制論
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 「帝国」であることと大衆民主制との関係についてまとめる。（2時間）
9	事前学習	前回の講義内容を復習する。満州事変に関する知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	岐路に立つ帝国日本——満州事変の歴史的意義
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 満州事変前後の時期がどのような意味で転換期であるのかをまとめてみる。（2時間）
10	事前学習	前回の講義内容を復習する。日中戦争についての知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	戦争拡大の構図——日中全面戦争
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 戦争拡大の要因についてまとめる。（2時間）
11	事前学習	前回の講義内容を復習する。アジア・太平洋戦争という呼称について、調べてみる。（2時間）
	授業内容	アジア・太平洋戦争論
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 アジア・太平洋戦争という呼称の意義についてまとめてみる。（2時間）
12	事前学習	前回の講義内容を復習する。戦時下の国民生活についての知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	総力戦体制と国民生活
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 総力戦概念、および戦時国民生活の特徴をまとめてみる。（2時間）
13	事前学習	前回の講義内容を復習する。日本の敗戦過程についての知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	「大日本帝国」の崩壊
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 「大日本帝国」の崩壊とはどういうことか、考えてみる。（2時間）
14	事前学習	前回の講義内容を復習する。占領改革についての知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	戦争体験と戦後デモクラシー
	事後学習	プリントやノートに沿って、講義内容を文章化するなどして、復習する。 日本の戦後処理の問題点をまとめる。（2時間）
15	事前学習	プリントやノートに沿って後期の講義内容を復習する。（2時間）
	授業内容	まとめ・テスト
	事後学習	プリントやノートを見直して、答案に書いた内容を自己評価する。 後期の講義内容と自らの学びを振り返り、自己評価する。（2時間）

科目名	日本の自然A	担当者	瀬戸口 信一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本各地の自然環境（地形・気候・自然災害・景観等）を、そこに住む人々の生活・文化・産業など人間の営みとのかかわりで考える。					
授業目的・到達目標	日本各地の自然環境について人間活動との関係とそこでの課題を学ぶことを授業目的とする。 以下4つの到達目標を達成する。 ①日本の自然環境の成り立ちや自然環境の特色に関する基本的事項を理解・習得し、それを説明できるようになる。②日本の自然環境を学ぶ上で必要な地図や図表の読み取りの技術を身につける。③日本の自然環境の中で生きる人々の活動から課題を見出し、それについて考え自分の意見を発信できるようになる。④日本の自然環境について関心を持ち、自ら課題意識をもって学んでいこうとする態度を身につける。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1，2，3，4					
履修条件	外国人留学生のみ					
授業方法	講義形式・問題解決型学習・グループワーク・映像や写真を元にした学習などいろいろな授業方法を試みます。レポートの講評・解説をフィードバックとして授業内で行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		①自然環境に関する基礎知識に関する小テストの得点。②課題の提出状況。③授業への参加度。以上3つの評価内容を総合的に判断し評価します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019年度	帝国書院		「中学校社会科地図」		帝国書院編集部編
	備考					
参考書	適宜紹介いたします。					
オフィスアワー	希望者は、事前にメールでアポイントメントを取ってください。 （メールアドレス s-setoguchi@nifty.com） 金曜日17：50～18：20 受付場所（授業講堂）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	前期のガイダンス（シラバスの説明・学びたいことの要望調査）
	事後学習	第二回以降の授業についてシラバスを読みまた関連書籍を読んで概観しておくこと。（2時間）
2	事前学習	日本の自然入門に関連する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	日本の地理入門（日本の地域区分・都道府県・地図帳の使い方など）
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
3	事前学習	日本の地形（日本の山地と海岸）に関する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	日本の地形（日本の山地と海岸）
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
4	事前学習	日本の地形（日本の川と平野）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	日本の地形（日本の川と平野）
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）

5	事前学習	日本の気候（世界から見た日本の気候）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	日本の気候（世界から見た日本の気候）
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
6	事前学習	日本の気候（日本の気候区分）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	日本の気候（日本の気候区分）
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
7	事前学習	日本の自然災害（地震・風水害）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	日本の自然災害（地震・風水害）
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
8	事前学習	日本の自然災害（防災）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	日本の自然災害（防災）
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
9	事前学習	日本の自然環境と産業（農業）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	日本の自然環境と産業（農業）
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
10	事前学習	日本の自然環境と産業（漁業）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	日本の自然環境と産業（漁業）
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
11	事前学習	日本の自然環境と産業（林業）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	日本の自然環境と産業（林業）
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
12	事前学習	日本の環境問題（公害問題）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	日本の環境問題（公害問題）
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
13	事前学習	日本の環境問題（日本の資源・エネルギーと環境問題）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	日本の環境問題（日本の資源・エネルギーと環境問題）
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
14	事前学習	日本の景観（世界自然遺産と世界文化遺産）に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	日本の景観（世界自然遺産と世界文化遺産）
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
15	事前学習	前期の授業を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	前期の授業のまとめ
	事後学習	これまでの復習を行い、後期の授業の準備を行う。（2時間）

5	事前学習	関東地方の自然環境と人々の暮らしに関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	関東地方の自然環境と人々の暮らし
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
6	事前学習	関東地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	関東地方の自然環境と産業
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
7	事前学習	中部地方の自然環境と人々の暮らしに関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	中部地方の自然環境と人々の暮らし
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
8	事前学習	中部地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	中部地方の自然環境と産業
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
9	事前学習	近畿地方の自然産業と人々の暮らしに関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	近畿地方の自然環境と人々の暮らし
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
10	事前学習	近畿地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	近畿地方の自然環境と産業
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
11	事前学習	中国・四国地方の自然環境と人々の暮らしに関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	中国・四国地方の自然環境と人々の暮らし
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
12	事前学習	中国・四国地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	中国・四国地方の自然環境と産業
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、自分の考えを述べられるようにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
13	事前学習	九州地方の自然環境と人々の暮らしに関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	九州地方の自然環境と人々の暮らし
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
14	事前学習	九州地方の自然環境と産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	九州地方の自然環境と産業
	事後学習	授業の内容（レジュメ等）を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。 授業で出された小テストの課題を習得する。（2時間）
15	事前学習	南西諸島の自然環境と人々の営み・産業に関連する書籍等を読み調べ、感想や課題意識をノートにまとめる。 前期の授業を振り返り、それを整理して、感想や問題意識をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	南西諸島の自然環境と人々の営み・産業
	事後学習	これまでの復習を行い、後期の授業の準備を行う。（2時間）

科目名	日本の社会A	担当者	舘野 正生	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「日本の社会」として日本人は中学校でどのように教えられているかをテキストを使って知り、参加者の自国と比較してその相違を明らかにして、その上で人類がいかに進展していけばいいかを探りたい。					
授業目的・到達目標	参加者の自国で教えられている自国についてと日本でのものとを比較しながら、人類としてどのように進展していけばいいかを捉えられる人となるよう育成することを目的とする。 自分、自国といった狭い見解のみに執われず、人間として、人類として成熟した視点を持てるよう成長・進化することを到達目標とする。 関連DP及びCP：総合科目領域 1， 2， 3， 4					
履修条件	外国人留学生のみ単位となるが、それ以外の参加者も望みたい。 ※初回、あるいは2回目の授業に必ず参加すること。レポートは携帯端末などで必ず記録しバックアップも取ること。					
授業方法	演習形式。指名された者はテキストの担当箇所を音読し解説し、自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はレポートを書き発表し、全員で話し合い、より高次の見解を求めていく。レポートは次回授業で講評する					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業参加の真剣さ、自分をよりよく成長させることができたかを基準とし、発表内容、レポート、発言内容、欠席・遅刻の回数などにより総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	かんき出版		『中学校の公民が1冊でしっかりわかる本』		蔭山克秀
	備考					
参考書	随時伝える。					
オフィスアワー	火曜日の09時～10時。ただし必ず事前にメールにて連絡すること。 授業者の大学アドレス tatenom.masao@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。（2時間）
	授業内容	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について、シラバスに基づき詳細に説明する。参加者はメモを取り、質問し、授業者からの発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	シラバスとレポートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。（2時間）
2	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	テキストの01「格差社会を拡散させるグローバル化の猛威」、02「情報化のキーワードはつながる」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
3	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの03「世界一のスピード！日本は少子高齢化超特急だ」、04「環境問題だけじゃない！安全で幸せな社会づくり」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）

4	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの05「国や地域によって千差万別！生活に密着している文化」、06「マンガ・アニメは日本の誇る現代文化だ」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
5	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの07「責任を伴わない自由なんてありえない！」、08「多数決こそが正義は危険！」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
6	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの09「あたり前だけどあたり前じゃない基本的人権」、10「天皇は神から人」、国民は家臣から主権者に!？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
7	事前学習	これまでの授業のレジュメ、レポートを確認し、自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。第6回までの内容からさらに展開した話を参加者全員で話し合う。参加者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	授業ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
8	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの11「国民こそが国家の支配者だ!」、12「自衛隊は戦力ではなく実力!？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
9	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの13「犯罪者にだって人権はある!？」、14「日本に存在する差別問題」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
10	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの15「おれは自由だ～って誰から、何から?」、16「健康で文化的な最低限度の生活って何?」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
11	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの17「参政権なんていらねーよとかいっちゃダメ!」、18「人権は無制限には尊重できない!？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
12	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの19「憲法に載っていない人権がある?」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
13	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの20「社会の変化が生み出した新しい人権」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）

14	事前学習	第8回から第13回までのレジメ、レポートを確認し、まとめておく。(2時間)
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を参加者全員で話し合う。参加者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	授業ノート、レジメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。(2時間)
15	事前学習	初回からのノート、授業内レポートすべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。(2時間)
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。講義全体を振り返りまとめの話を聞き、参加者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	初回からのノート、授業ノート、レポートを振り返って確認し、要点をまとめる。(2時間)

科目名	日本の社会B	担当者	舘野 正生	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	「日本の社会」として日本人は中学校でどのように教えられているかをテキストを使って知り、参加者の自国と比較してその相違を明らかにして、その上で人類がいかに進展していけばいいかを探りたい。					
授業目的・到達目標	参加者の自国で教えられている自国についてと日本でのものとを比較しながら、人類としてどのように進展していけばいいかを捉えられる人となるよう育成することを目的とする。 自分、自国といった狭い見解のみに執われず、人間として、人類として成熟した視点を持てるよう成長・進化することを到達目標とする。 関連DP及びCP：総合科目領域 1， 2， 3， 4					
履修条件	外国人留学生のみ単位となるが、それ以外の参加者も望みたい。 ※初回、あるいは2回目の授業に必ず参加すること。レポートは携帯端末などで必ず記録しバックアップも取ること。					
授業方法	演習形式。指名された者はテキストの担当箇所を音読し解説し、自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はレポートを書き発表し、全員で話し合い、より高次の見解を求めていく。レポートは次回授業で講評する					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業参加の真剣さ、自分をよりよく成長させることができたかを基準とし、発表内容、レポート、発言内容、欠席・遅刻の回数などにより総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	かんき出版		『中学校の公民が1冊でしっかりわかる本』		蔭山克秀
	備考					
参考書	随時伝達する。					
オフィスアワー	火曜日の09時～10時。ただし必ず事前にメールにて連絡すること。 授業者の大学アドレス tatenom.masao@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、講義の概観を理解し、注意事項に留意しておく。（2時間）
	授業内容	今後の授業の内容、方法、評価基準、受講に関してのルール等について、シラバスに基づき詳細に説明する。参加者はメモを取り、授業者からの発問に答え、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	シラバスとメモ、レポートを確認し、その内容と時間割り確認によって履修授業の選択を検討する。（2時間）
2	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの21「少数意見の持ち主もみんなが主権者」、22「お金がなくても選挙権を持っている」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
3	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの23「連呼に電話に戸別訪問。いったいどれが選挙違反！？」、24「政治にカネがかかるは事実」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）

4	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの25「あなたの主張、偏っていない？」、26「国会議員が何をする人かわかりますか？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
5	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの27「ヤジ、バンザイ、審議拒否…国会の仕事って？」、28「国会と内閣ってどう違うんだっけ？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	講義ノート、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
6	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの29「官僚って何をする人？」、30「令状がないなら帰れ黙秘します！は憲法上の権利」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
7	事前学習	これまでの授業のレジュメ、レポートを確認し、自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。第6回までの内容からさらに展開した話を参加者全員で話し合う。参加者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
8	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの31「えっ！私が裁判員になるの？」、32「国会・内閣・裁判序はグー・チョキ・パーの関係」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
9	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの33「地方らしさの発揮って何をするの？」、34「外国人でも中学生でも政治に参加できる！？住民投票」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
10	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの35「ごはんを食べ、服を買い、映画を観るのが経済」、36「悪徳商法には引っかけたくない」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
11	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの37「自由を取るか、平等を取るか。それが分かれ目だ」、38「会社で一番偉いのは社長じゃない！？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
12	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの39「働くことの意味ってなんだろう？」、40「これからの働き方はどうなっていくんだろう？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）
13	事前学習	テキストの指定箇所を調べ、自国と比較した上で自分の見解をノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。テキストの41「需要と供給ってどういうこと？」、42「ただの紙なのに、1万円札に価値があるのはなぜ？」について担当者は音読し、用意したレジュメに基づいて自国で教えられていることや自分の考えを発表する。他の参加者はそれに対し自分の見解をレポートを書き、それを発表し、全員でより高次の見解となるよう話し合い、最後にまとめのレポートを書き、記録を取って提出する。
	事後学習	授業ノート、レジュメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。（2時間）

14	事前学習	第8回から第13回までのレジメ、レポートを確認し、まとめておく。(2時間)
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。第8回から第13回までの内容からさらに展開した話を参加者全員で話し合う。参加者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	授業ノート、レジメ、レポートを確認し、事前にまとめたノートと併せ、自分の見解をまとめる。(2時間)
15	事前学習	初回からのレジメ、レポートすべてを振り返って要点をまとめ、自分の見解を書いておく。(2時間)
	授業内容	前回のレポート紹介と講評。講義全体のまとめの話を聞き、参加者はメモを取り、授業者からの発問に回答し、出題に対するレポートを書き、それを提出する。
	事後学習	初回からのノート、授業ノート、レポートを振り返って確認し、要点をまとめる。(2時間)

科目名	日本の前近代Ⅰ	担当者	朴澤 直秀	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	本講義のテーマは「歴史学と史料」である。具体的には、古文書や図像などのさまざまな史料（歴史研究の材料）を使ってどのように歴史研究を進めていくのか、ということの切り口にして、歴史学の特質に触れていきたい。つまり、さまざまな「史実」ではなく、それを明らかにする舞台裏に焦点を当てる、ということである。特に、教員の自治体史等での史料調査・編集経験も反映させ、前近代の日本の史料（漢文や古文のようなもの）を中心に上げていく。				
授業目的・到達目標	さまざまな資料から情報を抽出し、活用する基礎的な能力や、歴史に関するさまざまな情報を取捨選択するための基礎的な能力の涵養を目的とする。そのために、人間の営為のなかで、どのように情報が残されていくのか。残された過去の情報をもとに、どのようにして「歴史」が明らかにされるのか、といったことについて理解を深め、説明できるようになることを目標とする。併せて、史料を通して、日本の前近代の特質について理解を深める。 関連D P及びC P：総合科目領域1, 2, 3, 4				
履修条件	担当者が後期に開講する「日本の前近代Ⅱ」とは独立した講義だが、広い意味で関連した講義としたいと考えている。単独の履修も可能だが、できれば「日本の前近代Ⅱ」と併せて履修することが望ましい。				
授業方法	講義形式で行う。受講者の状況・取り組みなどに応じて進行・内容につき対応する。達成度テストに関する全体の講評を、後日ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内での達成度テスト（100%）。ただし、授業への取り組みについて、特に優れたもの、劣ったものについては、加点ないし減点することがある。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	なし	なし		なし	なし
	備考				
参考書	講義内で適宜紹介する。				
オフィスアワー	原則として月曜日18：00～18：30、ただし、必ず事前に、口頭、ないしはメールにてアポイントメントを取ること				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通す。いままでに触れてきた「歴史」について、振り返っておく（２時間）。
	授業内容	ガイダンス 授業内容・方法の概観
	事後学習	ガイダンス時のアンケートで問われたことについて、振り返る（２時間）。
2	事前学習	ガイダンスで説明された内容について、質問すべき点はなかったか、振り返っておく。ガイダンスの内容を受けて、「史料」とは何か、あらためて考えておく（２時間）。
	授業内容	画像史料をよむ１ 画像を読み解く
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（２時間）。
3	事前学習	前回の講義内容を復習する（２時間）。
	授業内容	画像史料をよむ２ 情報を吟味する
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（２時間）。
4	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（２時間）。
	授業内容	史料とは１ 史料とは何か
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（２時間）。

5	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	史料とは2 史料を読み解く留意点
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
6	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	史料批判
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
7	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	文献史料の諸相1 偽文書を読む
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
8	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	文献史料の諸相2 偽文書の意義
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
9	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	文献史料の諸相3 背景を踏まえる
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
10	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	文献史料の諸相4 形式・形態から情報をよむ
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
11	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	聞き取りと史料
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
12	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	史料と史料群
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
13	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	史料と現在
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
14	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する。これまでの講義内容について、質問すべき事はないか、点検しておく（2時間）。
	授業内容	重要な論点の補足
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
15	事前学習	授業内に説明した問題について、いかに解答すべきかを考えておく（2時間）。
	授業内容	授業目的・到達目標に関する確認
	事後学習	今学期の達成度を振り返り、授業内で紹介した参考文献などに目を通して学習を深める（2時間）。

科目名	日本の前近代Ⅱ	担当者	朴澤 直秀	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	本講義では、「史料からみる江戸時代の村」をテーマに、いくつかの話題を取り上げ、掘り下げて考えてみたい。そのことにより、（１）日本の近世の村や、日本の近世の社会の特質について考えてみたい。さらに、教員の自治体史等での史料調査・編集経験も反映させ、（２）史料（漢文や古文のような江戸時代の史料を取り上げる）を読み解くとはどういうことか、ということについて体験する、といったことも目指したい。				
授業目的・到達目標	過去の日本の社会の特質について考えてみることを踏まえて、現在の社会との類似点・相違点を考えることにより、現在の社会を捉え直す視点をもつこと。そういったことから歴史的な視点を養うことを目的とする。日本の近世の村や日本の近世の社会の特質について、基礎的な理解をもち、説明できるようになることを目標とする。 関連ＤＰ及びＣＰ：総合科目領域1, 2, 3, 4				
履修条件	担当者が前期に開講する「日本の前近代Ⅰ」とは独立した講義だが、広い意味で「日本の前近代Ⅰ」の内容を踏まえた講義としたいと考えている。単独の履修も可能だが、できれば「日本の前近代Ⅰ」と併せて履修することが望ましい。				
授業方法	講義形式で行う。受講者の状況・取り組みなどに応じて進行・内容につき対応する。達成度テストに関する全体の講評を、後日ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内での達成度テスト（100%）。ただし、授業への取り組みについて、特に優れたもの、劣ったものについては、加点ないし減点することがある。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	なし	なし		なし	なし
	備考				
参考書	講義内に適宜紹介する。				
オフィスアワー	原則として月曜日１８：００～１８：３０、ただし、必ず事前に、口頭、ないしはメールにてアポイントメントを取ること				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通す。いままでに触れてきた「歴史」や、日本の近世に関する自分の知識について、振り返っておく（２時間）。
	授業内容	ガイダンス 授業内容・方法の概観
	事後学習	ガイダンス時のアンケートで問われたことについて、振り返る（２時間）。
2	事前学習	ガイダンスで説明された内容について、質問すべき点はなかったか、振り返っておく。ガイダンスの内容を受けて、「日本の近世」や、「近世の村」について調べてみる（２時間）。
	授業内容	江戸時代の社会１ 社会の構造
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（２時間）。
3	事前学習	前回の講義内容を復習する（２時間）。
	授業内容	江戸時代の社会２ 村と町
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（２時間）。
4	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（２時間）。
	授業内容	江戸時代の書類１ 村と文書
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（２時間）。

5	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	江戸時代の書類2 字体と文体
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
6	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	村の諸相1 村役人
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
7	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	村の諸相2 年貢の納入
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
8	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	村の諸相3 村と土地
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
9	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	領主との交渉1 合法的な交渉
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
10	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	領主との交渉2 非合法の交渉
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
11	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	領主との交渉3 一揆と顕彰
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
12	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	領主との交渉4 具体例―事態の経過
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
13	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	領主との交渉5 具体例―さまざまな手法
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
14	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	重要な論点の補足
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
15	事前学習	授業内に説明した問題について、いかに解答すべきかを考えておく（2時間）。
	授業内容	授業目的・到達目標に関する確認
	事後学習	今学期の達成度を振り返り、授業内で紹介した参考文献などに目を通して学習を深める（2時間）。

科目名	日本の文化A	担当者	浅野 充	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本では1年の各時期に、また人の生涯を通じてさまざまな行事を行っている。それらは外国人留学生にとって、知っているもの、知らないもの、なじみやすいもの、なじみにくいものもあるだろう。そこで、この科目ではそれらの行事について、テキスト購読を通じて学習していく。受講生にも意見を求めることも考えている。それ以外にも、江戸や東京について、また最新の出来事や日本独特の文化などに関しても考えていく。			
授業目的・到達目標	日本の年中行事について、その歴史と文化、自然条件を踏まえて、日本の文化を考える能力を養成することを目的とする。 日本の年中行事、習慣の意味を知り、日本の文化、生活、社会に触れることで、自分の国の文化と比較し、両国の文化や価値観を相対化した上で理解し、説明できるようになり、有意義な留学生活を送ることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技関連科目領域1・2・3・4			
履修条件	外国人留学生のみ。			
授業方法	テキスト購読を主とする。それ以外の内容についても、基本的に講義形式で行う。リアクションペーパー＝小テストと授業内試験のフィードバックはその都度、授業内にて行う（場合によってはポータルシステムを利用する）。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	リアクションペーパー＝小テストを毎回書いてもらう：30%。 日本の文化と自分の国の文化を比べて、両者の違いの理解の確認と自分の意見を書く授業内試験を行う：70%。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2003年	青春出版社	『日本人のしきたり』青春新書46	飯倉晴武
	備考			
参考書	参考になる書物がある場合は、テーマごとに授業の際に指示をする。			
オフィスアワー	木曜日の3限と5限（授業の前後）に対応可能です。授業講堂にて。 メールの場合はasano.mitsuru1@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス内容を確認するとともに、教科書の「はじめに」と「目次」を読み、興味を持った部分について、自国のものと比較し、まとめておくこと（2時間）。
	授業内容	授業計画などのガイダンスと導入。干支や六曜などを導入として取り上げる。
	事後学習	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣との比較や、日本での生活とで思い浮かぶことをまとめておくこと（2時間）。
2	事前学習	花見に行っておくことが望ましい（2時間）。
	授業内容	花見と日本人（最新の出来事①）。日本の花見の習慣の歴史や桜の種類などについて考察する。
	事後学習	花見について、自分の国の習慣との比較や、日本での経験などをまとめておくこと。まだ行える花見があるかどうか調べる（行ってみても良いかもしれません）（2時間）。
3	事前学習	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと（2時間）。
	授業内容	テキスト購読：正月行事のしきたり①。初日の出。初詣。門松。しめ飾り。年男。若水。
	事後学習	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）
4	事前学習	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと（2時間）。
	授業内容	テキスト購読：正月行事のしきたり②。鏡餅。おとそ。おせち料理。雑煮。お年玉。書き初め。
	事後学習	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。

5	事前学習	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと（2時間）。
	授業内容	テキスト購読：正月行事のしきたり③。初夢。七草がゆ。鏡開き。小正月。左義長。藪入り。
	事後学習	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。
6	事前学習	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと（2時間）。
	授業内容	テキスト購読：年中行事のしきたり①。節分。初午。針供養。ひな祭り。お彼岸。花祭り。
	事後学習	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。
7	事前学習	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと（2時間）。
	授業内容	テキスト購読：年中行事のしきたり②。八十八夜。端午の節句。衣替え。七夕。土用の丑の日。お盆。盆踊り。
	事後学習	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。
8	事前学習	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと（2時間）。
	授業内容	テキスト購読：年中行事のしきたり③。お月見。重陽の節句。恵比須講。酉の市。年の市。除夜の鐘。年越しそば。
	事後学習	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。なお、3-8回までで取り上げたしきたりが、ちょうど時期的に合っているものについては、自分の住居の近所の行事を見学したりすることも良いかと思います。
9	事前学習	自分の住んでいる地域や日大法学部のある地域の地図をよく見ておくこと。歴史地図を見られればさらに良いです（2時間）。
	授業内容	江戸と東京①。近世都市江戸の成立について講義する。
	事後学習	江戸について、知っていること、知りたいことを整理しておくこと（2時間）。
10	事前学習	配布したプリントの江戸と東京の地図をよく見ておくこと（2時間）。
	授業内容	江戸と東京②。大江戸の成立。水道橋の名称の由来と江戸の上水。江戸についてのビデオを見る。
	事後学習	江戸について知ったこと、さらに知りたいことを整理してまとめておくこと（2時間）。
11	事前学習	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと（2時間）。
	授業内容	テキスト購読：結婚のしきたり①。婚姻。見合い。仲人。結納。神前結婚式。
	事後学習	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。
12	事前学習	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと（2時間）。
	授業内容	テキスト購読：結婚のしきたり②。三三九度。披露宴。お色直し。引出物。里帰り。
	事後学習	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。
13	事前学習	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと（2時間）。
	授業内容	テキスト購読：懐妊・出産のしきたり①。帯祝い。へその緒。お七夜。赤飯。
	事後学習	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。
14	事前学習	テキスト該当部分を読んでおくことと、自国の国の関連行事をまとめておくこと（2時間）。
	授業内容	テキスト購読：懐妊・出産のしきたり②。お宮参り。お食い初め。初誕生祝い。
	事後学習	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。
15	事前学習	日本の文化Aの授業内容について、ノート・小テストを見直し、確認しておくこと（2時間）
	授業内容	日本の文化Aの授業内試験とフィードバック、まとめ。
	事後学習	授業内試験問題・正解の確認と、日本のしきたりなどで、テキスト以外で、さらに知りたいことを整理しておくこと（2時間）。

科目名	日本の文化B	担当者	浅野 充	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本では、お祝いや弔事（葬儀など）の時などにさまざまな行事を行っている。それらは外国人留学生にとって、知っているもの、知らないもの、なじみやすいもの、なじみにくいものもあるだろう。そこで、この科目ではそれらの行事について、テキスト購読を通じて学習していく。受講生にも意見を求めることも考えている。それ以外にも、歴史都市京都について、また最新の出来事や日本独特の文化などに関しても考えていく。				
授業目的・到達目標	日本の慶事（お祝い）や弔事（葬儀など）の行事について学ぶことで、その歴史と文化、自然条件を踏まえて、日本の文化を考える能力を養成することを目的とする。 日本の慶事・弔事の行事、習慣の意味を知り、日本の文化、生活、社会に触れることで、自国の文化と比較し、両国の文化や価値観を相対化した上で理解し、説明できるようになり、有意義な留学生活を送ることを目標とする。さらには、日本の手紙の書き方についても学び、それに基づき手紙を正しく書くことができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技関連科目領域1・2・3・4				
履修条件	外国人留学生のみ。				
授業方法	テキスト購読を主とする。それ以外の内容についても、基本的に講義形式で行う。リアクションペーパー＝小テストと授業内試験のフィードバックはその都度、授業内にて行う（場合によってはポータルシステムを利用する）。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	リアクションペーパー＝小テストを毎回書いてもらう：30%。 日本の文化と自国の文化を比べて、両者の違いの理解の確認と自分の意見を書く授業内試験を行う：70%。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2003年	青春出版社		『日本人のしきたり』青春新書46	飯倉晴武
	備考				
参考書	参考になる書物がある場合は、テーマごとに授業の際に指示をする。				
オフィスアワー	木曜日の3限と5限（授業の前後）に対応可能です。授業講堂にて。 メールの場合はasano.mitsuru1@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス内容を確認するとともに、教科書の「はじめに」と「目次」を読み、興味を持った部分について、自国のものと比較し、まとめておくこと（2時間）。
	授業内容	授業計画などのガイダンスと導入：受講学生が重なるようであれば、日本の文化Aの定期試験の返却なども行う予定。導入は日本の休日制度について確認してみる。
	事後学習	授業で取り扱った休日などについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめてみること（2時間）。
2	事前学習	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと（2時間）。
	授業内容	テキスト購読：祝い事のしきたり①。七五三。十三参り。成人式。
	事後学習	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。
3	事前学習	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと（2時間）。
	授業内容	テキスト購読：祝い事のしきたり②。還暦の祝い。長寿の祝い。地鎮祭。棟上式。
	事後学習	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。2・3回目で取り上げたしきたりが自分の周りで行われているようでしたら、見学させてもらおうと思います。
4	事前学習	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと（2時間）。
	授業内容	テキスト購読：贈答のしきたり①。中元。歳暮。贈答品の包装。
	事後学習	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。

5	事前学習	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと（2時間）。
	授業内容	テキスト購読：贈答のしきたり②。水引。のし。贈答品の表書き。
	事後学習	授業で取り扱ったしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめておくこと（2時間）。4・5回目で取り上げたしきたりを自分が実際に行う体験がある人は良く思いだしておくこと。
6	事前学習	自分が旅行などで、京都のどこに行ったかを思いだし整理しておくこと（2時間）。地図などを駆使することもお勧めです。
	授業内容	観光都市・歴史都市の京都①。平安京を中心にして日本の古代の都の具体的実像を明らかにしていく。
	事後学習	自分が行ったことのある京都の観光地などは歴史的にみるとどの時代のものかを整理しておくこと（2時間）。
7	事前学習	配布プリントをよく見ておくこと。授業では説明し切れていない部分もあるので、その部分はよく読んでおくこと（2時間）。
	授業内容	観光都市・歴史都市の京都②。その後の（中世・近世・近代・現代）の京都の変遷を確認していく。
	事後学習	今後、京都のどこに行きたいかをあらためて考えてみること（2時間）。世界遺産、国宝などの該当寺社なども調べてみると興味がわくと思います。
8	事前学習	京都御所について、歴史や場所について調べてみること（2時間）。
	授業内容	観光都市・歴史都市の京都③。京都御所のビデオを見る。
	事後学習	京都御所のビデオを見た感想をまとめてみること（2時間）。
9	事前学習	テキスト該当部分を読んでおくことと、これまでに、日本で自分にきた手紙を読み返してみること（2時間）。
	授業内容	テキスト購読：手紙のしきたり①。手紙と葉書。表書き。裏書き。
	事後学習	授業で講義した内容を基に、表書きと裏書きを書く練習をしてみること（2時間）
10	事前学習	テキスト該当部分を読んでおくことと、これまでに自分が日本で書いた手紙を思い起こしておくこと（2時間）。
	授業内容	テキスト購読：手紙のしきたり②。頭語と結語。時候のあいさつ。実際に、手紙の凡例を書く。
	事後学習	授業で学んだ手紙の書き方を復習し、これまでに自分に来た手紙の正しい部分、問題のある部分を確認してみること（2時間）。
11	事前学習	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の時候の手紙を確認してみること（現在だけではなく、古い習慣も調べてみること）（2時間）。
	授業内容	テキスト購読：手紙のしきたり③。年賀状。暑中見舞い。手紙の禁忌言葉。
	事後学習	授業で取り扱った手紙や禁忌言葉について、自分の国の手紙などと具体的に比較し、まとめてみること（2時間）。
12	事前学習	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと（2時間）。
	授業内容	テキスト購読：葬式のしきたり①。末期の水。死装束。北枕。通夜。葬式。
	事後学習	授業で取り扱った葬式のしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめてみること（2時間）。
13	事前学習	テキスト該当部分を読んでおくことと、自分の国の関連行事をまとめておくこと（2時間）。
	授業内容	テキスト購読：葬式のしきたり②。焼香。戒名。位牌。お布施。
	事後学習	授業で取り扱った葬式のしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめてみること（2時間）。
14	事前学習	授業で取り扱った葬式のしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめてみること（2時間）。
	授業内容	テキスト購読：葬式のしきたり③。出棺。香典。忌中と忌明け。精進落とし。年忌法要。
	事後学習	授業で取り扱った葬式のしきたりについて、自分の国の習慣などと具体的に比較し、まとめてみること（2時
15	事前学習	日本の文化Bの授業内容について、ノート・小テストを見直し、確認しておくこと（2時間）
	授業内容	日本の文化B授業内試験とフィードバック、まとめ。
	事後学習	試験の正解の確認と自分の意見を振り返っておくこと。また、日本のしきたりなどで、さらに知りたいことを整理しておくこと（2時間）

科目名	日本文学 I	担当者	小野 美典	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	【鴨長明の人と文学】平安時代末期から鎌倉時代初期という、災害と戦乱の時代を生きた鴨長明の関歴と文学作品について、総合的に考察する。特に、「①長明の出家と当時の世相②『方丈記』から窺われる長明の人生観③『発心集』から窺われる長明の思想」の3点に注目して授業を進める。混乱の世を生きた鴨長明の思想と文学の全容を捉えることによって、現代を生きる我々の思索の糧としたい。			
授業目的・到達目標	原典を厳密に読解し、周辺の諸資料を援用して考察を深めることにより、課題に対して客観的・論理的にアプローチできる能力を育成することを目的とする。併せて、積極的な授業への参加と能動的な事前・事後学習により幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力の育成を図ることも目的とする。そして最終的には、受講生が、日本文学に対する十分な理解を為し、原典に則した厳密な解釈に基づく客観的な理論展開ができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：1, 2, 3, 4			
履修条件	特になし(古典の文章を扱うが口語訳等は適宜配付する。口語訳するのが目的ではなく、文学を理解するのが目的なので、高校初級程度の古典の力があれば理解できるように講義を進める)。古語辞典（電子辞書可）を持参すること。			
授業方法	プリント資料を使いながらの講義形式の授業。各自の意見をリアクションペーパーに書いて提出する（その紹介）などして、一方通行の授業にならないように注意する。14回目に授業内試験、15回目にその解説と講評を実施する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上の出席が必要。リアクションペーパーもあわせて総合的に評価する。受講人数が多い場合は、試験教室の関係から定期試験になる可能性がある点も了承して欲しい。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない（担当者がプリントを用意する）。		
参考書	以下のものが便利。他にも授業中に出来るだけ多く紹介する。『（新潮日本古典集成）方丈記・発心集』三木紀人、1976 ※法学部図書館にアリ／『（角川ソフィア文庫）発心集 上・下』浅見和彦、2014			
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館8階の小野研究室にて質問・相談を受け付ける（メールで事前にアポをとること）。また、第1回の授業時に質問用メールアドレスを公表するので、それも積極的に利用し、質問などで授業への理解を深めて欲しい。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	〔1〕シラバスを精読して授業の概要をつかむとともに、授業中に質問したい事項をまとめておく。〔2〕歴史や文学の本で平安末鎌倉初期のことに触れている著作を持っていたら、その該当箇所を読んでおく。（2時間）
	授業内容	〔1〕授業概要の説明（成績評価の方法、授業の進め方などを詳細に説明するので必ず出席すること）。 〔2〕平安末鎌倉初期の歴史と文学の概観。
	事後学習	授業内の配付プリントを再読し、授業の概要と計画を理解する。また、平安時代から鎌倉時代にかけての文学史の流れの全容を再確認しておく。（2時間）
2	事前学習	高等学校で使用した古典の教科書や国語便覧などで、平安時代と鎌倉時代の文学史に関して書かれている部分を精読する。また、そこに書かれている内容に関して、図書館・ネットなどで深く調査しておく。（2時間）
	授業内容	鴨長明の生きた時代の概観
	事後学習	授業内の配付プリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、日本の鴨長明の生きた時代の特徴をまとめておく。（2時間）
3	事前学習	鴨長明に関して、高等学校で使用した古典の教科書や国語便覧、或いは図書館・ネットなどで調査し、概要をつかんでおく。（2時間）
	授業内容	鴨長明の関歴と代表的文学作品
	事後学習	『方丈記』と『発心集』に関して、まとめておく。（2時間）
4	事前学習	〔1〕プリントの序章「ゆく川の流れ」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕当該本文の中で対比的に描かれているものを指摘する。（2時間）
	授業内容	『方丈記』を読む【その1】——序章「ゆく川の流れ」
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、序章「ゆく川の流れ」に対する理解を深める。〔2〕当該本文にもし題名を付けるとしたらどのような題が相応しいか考える。（2時間）

5	事前学習	〔1〕プリントの五大災害「元暦の大地震」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕「元暦の自身」に関して、頭注を参考にしながら、他作品での記述について調べておく。（2時間）
	授業内容	『方丈記』を読む〔その2〕——五大災害「元暦の大地震」
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、五大災害「元暦の大地震」に対する理解を深める。〔2〕『平家物語』ほかの記述と『方丈記』の違いについて考える。（2時間）
6	事前学習	〔1〕プリントの閑居礼賛「日野山の住まい」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕当該本文で長明が礼賛している事項を箇条書きで挙げておく。（2時間）
	授業内容	『方丈記』を読む〔その3〕——閑居礼賛「日野山の住まい」
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、閑居礼賛「日野山の住まい」に対する理解を深める。〔2〕長明が閑居を礼賛する理由について考える。（2時間）
7	事前学習	〔1〕プリントの終章「自問自答」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕当該本文は非常に哲学的で深遠な内容を含むので、最終的に長明が言おうとしている内容が何なのかを各自で押さえておく。（2時間）
	授業内容	『方丈記』を読む〔その4〕——終章「自問自答」
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、に対する理解を深める。〔2〕『方丈記』の概要を整理する。（2時間）
8	事前学習	〔1〕プリントの序「心の師とはなるとも、心を師とすることなかれ」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。（2時間）
	授業内容	『発心集』を読む〔その1〕——序「心の師とはなるとも、心を師とすることなかれ」
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、序「心の師とはなるとも、心を師とすることなかれ」に対する理解を深める。〔2〕長明が「心」をどのように理解し考えていたのかをまとめる。（2時間）
9	事前学習	〔1〕プリントの巻三の四「讃州源大夫、にはかに発心、往生の事」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕源大夫の行動とそれを周囲の人々がどう見ているかを整理しておく。（2時間）
	授業内容	『発心集』を読む〔その2〕——巻三の四「讃州源大夫、にはかに発心、往生の事」
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、巻三の四「讃州源大夫、にはかに発心、往生の事」に対する理解を深める。〔2〕発展学習として、当該説話をもとにして書かれた、芥川龍之介の『往生絵巻』を読んでみる。（2時間）
10	事前学習	〔1〕プリントの巻三の八「蓮華城、入水の事」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕蓮華城の死後の発言について整理しておく。（2時間）
	授業内容	『発心集』を読む〔その3〕——巻三の八「蓮華城、入水の事」
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、巻三の八「蓮華城、入水の事」に対する理解を深める。〔2〕「異相往生」について整理しておく。（2時間）
11	事前学習	〔1〕プリントの巻五の十三「貧男、差図を好む事」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕貧男の行為に対する長明の考えを整理しておく。（2時間）
	授業内容	『発心集』を読む〔その4〕——巻五の十三「貧男、差図を好む事」
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、巻五の十三「貧男、差図を好む事」に対する理解を深める。〔2〕長明が理想とした生き方について考えてみる。（2時間）
12	事前学習	〔1〕プリントのの本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕西尾の聖と東尾の聖の言動を比較して整理しておく。（2時間）
	授業内容	『発心集』を読む〔その5〕——巻八の三「仁和寺西尾の上人、我執によって身を焼く事」
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、巻八の三「仁和寺西尾の上人、我執によって身を焼く事」に対する理解を深める。〔2〕西尾の上人を長明がどう見ているかをまとめる。（2時間）
13	事前学習	〔1〕プリントの長明の和歌を読み、難しい語句などは辞書で調べ、和歌の意味を考えておく。（2時間）
	授業内容	鴨長明に関する発展学習——長明の和歌
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、長明の和歌に対する理解を深める。（2時間）
14	事前学習	これまでの講義内容をまとめ、「鴨長明の人と文学」について整理し理解する。（6時間）
	授業内容	〔1〕授業目的・到達目標の達成度確認試験。〔2〕13回までの授業内容に関する質疑応答の実施。疑問点の解消。
	事後学習	試験問題を再度解きなおしてみる。他の受講者たちの質疑応答をもとに、各自の理解の至らなかった点を復習する。（1時間）
15	事前学習	14回目の授業内試験の問題を再度確認し、授業での解説に備える。（1時間）
	授業内容	〔1〕14回目に実施した試験の解説・講評。質疑応答。〔2〕授業目的・到達目標を深化・発展させるための著作の紹介と概要説明。
	事後学習	授業内に行った解説・講評・紹介を参考にしてこれまでの授業をまとめるとともに、紹介された著作を読むこと等により更に理解の徹底と深化を図る。（3時間）

科目名	日本文学 I	担当者	高橋 啓之	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期は言語遊戯について、韻文学（和歌・狂歌・川柳）を中心に講義する。				
授業目的・到達目標	本講義においては、最近なおざりにされがちな母国語である日本語の魅力を再認識してもらい、豊かな知識と教養、そして表現力を身につけることを最大の目的とする。前期はパロディや見立てなどの言語遊戯を川柳や狂歌、草双紙を学び表現力を身につけられることを目標とする。関連DP及びCP（総合科目・体育実技領域）1, 2, 3, 4				
履修条件	特になし。ただし、4年生の優遇は、就職活動による欠席を含め、一切ないものとする。また、初回の講義には必ず出席すること。また、皆出席が前提であり、各期4回を超える欠席は原則として、単位を認定しない。				
授業方法	板書や配布プリント、映像資料を中心として講義をするが、講義ノートは必需品である。授業内試験の解説は最終回に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	前期、後期の筆記試験（60％）、授業中の課題（20％）。授業における積極性（20％）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	最初の講義で指示する。			
参考書	授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜5限 授業終了後 授業講堂にて。 メールによる質問、相談については授業時に説明する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読すること。（2時間）
	授業内容	年間講義計画・評価法などについてのガイダンスと、言語遊戯について概観する。
	事後学習	江戸時代について概観する。（2時間）
2	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	江戸文学とは何かを理解し、前時代との差異を理解する。
	事後学習	講義を踏まえてノートをまとめる。（2時間）
3	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	言語遊戯の発生について理解し、その文学的背景を身につける。
	事後学習	講義を踏まえてノートをまとめる。（2時間）
4	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	中世・近世の「なぞ」について理解し表現の方法を身につける。
	事後学習	なぞについて調査し、レポートする。（4時間）

5	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	川柳前夜について講義する。新たなジャンルの誕生過程と時代背景を理解する。
	事後学習	都市としての「江戸」について調査する。（3時間）
6	事前学習	今回のテーマについて予習する。（1時間）
	授業内容	川柳と文運東漸について理解し、新興都市における文化の発展について考える。
	事後学習	講義を踏まえてレポートにまとめる。（4時間）
7	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	歴史と川柳について講義する。詠史句について理解する。
	事後学習	講義を踏まえて復習する。（2時間）
8	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	日常句と川柳について講義する。現在も変わらぬ人の心理について作品を通して理解する。
	事後学習	講義を踏まえて復習する。（2時間）
9	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	パロディについて、百人一首を題材に講義する。古来より親しまれてきた古典をどのように変換し、笑いに換えるかを理解する。
	事後学習	百人一首について調査し、まとめる。（3時間）
10	事前学習	今回のテーマについて予習する。（1時間）
	授業内容	見立てについて講義する。共通理解のもと作られたさまざまな文芸について理解する。
	事後学習	見立てを用いた作品について調査する。（3時間）
11	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	見立て絵本について講義する。その豊かな表現力を理解し、現在の漫画との差異を考える。
	事後学習	講義を踏まえて復習する。（2時間）
12	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	言語遊戯と他文芸について講義する。話芸や歌舞伎に用いられた言語遊戯を理解し、豊かな表現力を身につける。
	事後学習	講義を踏まえて復習する。（2時間）
13	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	浮世絵と言語遊戯について講義する。実際に「判じ絵」を鑑賞し、その面白さを理解する。
	事後学習	浮世絵についてレポート作成。（3時間）
14	事前学習	前期内容を踏まえ、ノートをまとめる。（2時間）
	授業内容	授業内試験と解説
	事後学習	川柳についてのレポート作成。（3時間）
15	事前学習	解説をもとに質問を考える。（2時間）
	授業内容	前期のまとめ。全体を概観する。
	事後学習	前期講義を復習する。今回のテーマについて予習する。（2時間）

科目名	日本文学Ⅰ	担当者	野口 恵子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	学生は未来を創造する当事者である。そのための権利主張のみならず、責任感や使命感も持ち続けなければならない。また、現在社会で起きている事象についても主体的に考察しながら、その解決策を見出さなければならない。本授業では、古代日本における過去の事象から思考力を養い、未来に対する責任感や使命感がいかに必要であるかを理解し、説明できるように学習する。				
授業目的・到達目標	『万葉集』の宴席歌を取り上げる。万葉の時代は現代と違って、律令制に基づく厳然たる階級社会であった。文雅の世界とはいえ、身分秩序を抜きにして、歌を披露するわけにはいかなかった。従って宴席歌からは、彼らが現代とは異なる常識や価値観に支配されていたことが見えてくる。また現在と似たような人間関係が繰り広げられていたことにも気づかされる。当授業ではその両面を作品から読み取ることを目的とし、事象を理解し、自ら説明できることを目標とする。また歌はいかに表現されているものかを理解し説明することも目標とする。加えて、研究者の立場から『万葉集』を捉えた場合、研究書とはどのような性質のものなのか理解し説明できる。関連DP及びCP:総合科目1～4				
履修条件	なし。				
授業方法	講義形式。数回復習テストを実施し、次回授業時にフィードバックする。なお、詳細な古典文法を問うことはない。提出されたレポートについては、ポータルシステムで講評を公開する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加度（20%）＋レポート評価（80%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。取り上げる作品等の情報はポータルシステムで公開する。			
参考書	授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	『万葉集』がどのように成立しかののか、まとめておく。（2時間）
	授業内容	前期の授業計画と内容の説明
	事後学習	『日本書紀』を読んでおく。（2時間）
2	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「日本」と「天皇」の成立時期とその意義について理解できる。
	事後学習	『萬葉集』が成立した時期と、「日本」「天皇」が成立した時期について確認する。（2時間）
3	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	田辺福麻呂に関する説明を受け、渡来人系歌人の一実態を理解できる。
	事後学習	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。（2時間）
4	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	田辺福麻呂が歌を披露した宴席歌群全体を通して、宴席でのルールを理解できる。その後、復習問題を出す。
	事後学習	宴席における田辺福麻呂の役割について確認する。（2時間）

5	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	秦朝元に関する説明を受け、宴席で歌を披露することができなかった歌人の事情を理解できる。
	事後学習	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。（2時間）
6	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	秦朝元が歌を披露した宴席歌群全体を通して、天皇臨席の宴席の特徴を理解できる。その後、復習問題を出す。
	事後学習	宴席における秦朝元の役割を確認する。（2時間）
7	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	大伴家持に関する説明を受け、家持がいかに宴席に慣れていたかを理解できる。
	事後学習	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。（2時間）
8	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	大伴家持が歌を披露した宴席歌群全体を通して、身分秩序に基づいた席や歌を披露する順番を理解できる。その後、復習問題を出す。
	事後学習	宴席における大伴家持の役割を確認する。（2時間）
9	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	大伴坂上郎女の伝記的情報を理解できる。
	事後学習	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。（2時間）
10	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	大伴坂上郎女が歌を披露した宴席歌群全体をととして、女性歌の宴席での役割を理解できる。その後、復習問題を出す。
	事後学習	宴席における大伴坂上郎女の役割を確認する①。（2時間）
11	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	古代の禁酒令について理解できる。
	事後学習	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。（2時間）
12	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	大伴坂上郎女が歌を披露した宴席歌群全体を通して、酒と歌との関係性について理解できる。その後、復習問題を出す。
	事後学習	宴席における大伴坂上郎女の役割を確認する②。（2時間）
13	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	藤原仲麻呂の政治家としての活躍を理解できる。
	事後学習	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。（2時間）
14	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	藤原仲麻呂が歌を披露した宴席歌群を通して、歌による君臣秩序の作用を理解できる。その後、復習問題を出す。
	事後学習	宴席における藤原仲麻呂の役割を確認する。（2時間）
15	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	前期の授業内容を振り返り、理解の到達点を確認する。
	事後学習	貴族は宴席で歌を披露するルールをどのように理解していたのかを確認する①。（2時間）

科目名	日本文学 I	担当者	宮澤 隆義	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	「近代」の日本語表記が展開してゆく中で文学者たちがどのような試みを行なってきたのか、当時の問題と関連させながら論じてゆく。また文芸評論に携わる立場から、文学の読解・執筆についての解説も行う。				
授業目的・到達目標	20世紀前半までの「近代」文学を中心に、そこでの様々な活動の様子を読み込める力の育成を目的とする。文学を社会動向や科学技術との関係からも考察しつつ、現代との相同性と差異について論じられる力をつけることを目標とする。到達DP及びCP：総合科目領域1, 2, 3, 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義時にプリントを配布する。毎回、前回提出のコメントシートを教場にて読み上げ講評する。なお、扱う文学者は講義の進行具合に応じて変化する可能性があることをお断りしておく。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	(70%)レポートにおける理解度を評価する。(30%)コメントシートにおける参加度を評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	講義中に配布するプリントを主に使用する。			
参考書	中村光夫『日本の近代文学』（岩波書店）、宮澤隆義『坂口安吾の未来―危機の時代と文学』（新曜社）ほか、適宜授業中に指示する。				
オフィスアワー	火曜4限、本館1614研究室にて（事前に必ずアポイントメントを取ること）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	明治期の歴史について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	イントロダクション。近代と日本の文学について。
	事後学習	近代と日本の文学について、講義内容を復習しておくこと。（2時間）
2	事前学習	明治期の歴史について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	明治期のユートピア：政治小説とSF
	事後学習	政治小説とSFについて、講義内容を復習しておくこと。（2時間）
3	事前学習	坪内逍遙と二葉亭四迷について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	「いま・ここ」を描くこと：坪内逍遙と二葉亭四迷
	事後学習	坪内逍遙と二葉亭四迷について、講義内容を復習しておくこと。（2時間）
4	事前学習	泉鏡花と柳田国男について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	「異郷」への欲望：泉鏡花と柳田国男
	事後学習	泉鏡花と柳田国男について、講義内容を復習しておくこと。（2時間）

5	事前学習	夏目漱石について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	地下空間という深淵：夏目漱石「坑夫」
	事後学習	夏目漱石について、講義内容を復習しておくこと。（2時間）
6	事前学習	夏目漱石について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	倫敦の夏目漱石と『吾輩は猫である』
	事後学習	夏目漱石について、講義内容を復習しておくこと。（2時間）
7	事前学習	芥川龍之介について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	「河童」の世界はどこにあるのか？：芥川龍之介
	事後学習	芥川龍之介について、講義内容を復習しておくこと。（2時間）
8	事前学習	谷崎潤一郎について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	転倒する秩序の享楽：谷崎潤一郎
	事後学習	谷崎潤一郎について、講義内容を復習しておくこと。（2時間）
9	事前学習	佐藤春夫について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	都市と「人工の世界」：佐藤春夫
	事後学習	講義内容を復習しておくこと。（2時間）
10	事前学習	葉山嘉樹について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	商品世界の裏面：葉山嘉樹
	事後学習	葉山嘉樹について、講義内容を復習しておくこと。（2時間）
11	事前学習	小林多喜二について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	スパイ小説としての小林多喜二「党生活者」
	事後学習	小林多喜二について、講義内容を復習しておくこと。（2時間）
12	事前学習	江戸川乱歩について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	法外な幻想：江戸川乱歩「パノラマ島綺譚」
	事後学習	江戸川乱歩について、講義内容を復習しておくこと。（2時間）
13	事前学習	萩原朔太郎について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	人間認識の再定位：萩原朔太郎「猫町」
	事後学習	萩原朔太郎について、講義内容を復習しておくこと。（2時間）
14	事前学習	坂口安吾について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	空襲下の世界：坂口安吾
	事後学習	坂口安吾について、講義内容を復習しておくこと。（2時間）
15	事前学習	最終課題の準備をしておくこと。（2時間）
	授業内容	近代と日本の文学について。半期の授業をふりかえり、理解の到達度を確認する。
	事後学習	近代と日本の文学について、前期講義内容の確認をしておくこと。（2時間）

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	小野 美典	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	【歌物語に見られる「愛」「死」のかたち】現代とは異なる社会体制の中で、古典世界の人々がいかに悩み、いかに生きてきたかを本文に即して精読する。今年度は歌物語の中から『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』を取り上げて、「愛」「死」が文学作品にどのように描写されているかを考えるとともに、現代を生きる我々の思索の糧としたい。				
授業目的・到達目標	原典を厳密に読解し、周辺の諸資料を援用して考察を深めることにより、課題に対して客観的・論理的にアプローチできる能力を育成することを目的とする。併せて、積極的な授業への参加と能動的な事前・事後学習により幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力の育成を図ることも目的とする。そして最終的には、受講生が、日本文学に対する十分な理解を為し、原典に則した厳密な解釈に基づく客観的な理論展開ができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：1, 2, 3, 4				
履修条件	特になし(古典の文章を扱うが口語訳等は適宜配付する。口語訳するのが目的ではなく、文学を理解するのが目的なので、高校初級程度の古典の力があれば理解できるように講義を進める)。古語辞典（電子辞書可）を持参すること。				
授業方法	プリント資料を使いながらの講義形式の授業。各自の意見をリアクションペーパーに書いて提出する（その紹介）などして、一方通行の授業にならないように注意する。14回目に授業内試験、15回目にその解説と講評を実施する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上の出席が必要。リアクションペーパーもあわせて総合的に評価する。受講人数が多い場合は、試験教室の関係から定期試験になる可能性がある点も了承して欲しい。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない（担当者がプリントを用意する）。			
参考書	授業中に出来るだけ多く紹介する。				
オフィスアワー	水曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館8階の小野研究室にて質問・相談を受け付ける（メールで事前にアポをとること）。また、第1回の授業時に質問用メールアドレスを公表するので、それも積極的に利用し、質問などで授業への理解を深めて欲しい。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	高校時代に学習した便覧・文学史のテキストなどで歌物語にどのようなものがあるのか調べて講義に臨む。（2時間）
	授業内容	〔1〕授業概要の説明（成績評価の方法、授業の進め方などを詳細に説明するので必ず出席すること）。〔2〕歌物語の概要。
	事後学習	授業内の配付プリントを再読し、授業の概要と計画を理解する。また、歌物語の概要に関して整理しておく。（2時間）
2	事前学習	高等学校で使用した古典の教科書や国語便覧などで、『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』に関して書かれている部分を読み直す。また、そこに書かれている内容に関して、図書館・ネットなどで深く調査しておく。（2時間）
	授業内容	『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』の概要とその特質
	事後学習	授業内の配付プリントを再読し、授業内容の徹底を図る。また、、『伊勢物語』『大和物語』『平中物語』の特質をまとめておく。（2時間）
3	事前学習	〔1〕プリントの初段「初冠」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕有職故実としての語句「初冠」について調べておく。（2時間）
	授業内容	『伊勢物語』を読む〔その1〕——初段「初冠」
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、初段「初冠」に対する理解を深める。〔2〕「いちはやきみやび」とは何なのかをまとめておく。（2時間）
4	事前学習	〔1〕プリントの六段「芥川」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕当該本文の構成の面白さについて考えておく。（2時間）
	授業内容	『伊勢物語』を読む〔その2〕——六段「芥川」
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、六段「芥川」に対する理解を深める。（2時間）

5	事前学習	〔1〕プリントの二十四段「梓弓」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕古典世界における「弓」「矢」の呪術的な意味合いについて調べておく。（2時間）
	授業内容	『伊勢物語』を読む〔その3〕——二十四段「梓弓」
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、二十四段「梓弓」に対する理解を深める。〔2〕女の心情の変化を整理する。（2時間）
6	事前学習	〔1〕プリントの四十五段「ゆく蛭」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕蛭の見られる季節やその特色について調べておく。（2時間）
	授業内容	『伊勢物語』を読む〔その4〕——四十五段「ゆく蛭」
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、四十五段「ゆく蛭」に対する理解を深める。〔2〕和歌に込められた男の思いをまとめておく。（2時間）
7	事前学習	〔1〕プリントの百二十三段「鶉」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕「深草」の地について調べておく。（2時間）
	授業内容	『伊勢物語』を読む〔その5〕——百二十三段「鶉」
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、百二十三段「鶉」に対する理解を深める。〔2〕男の心情の変化について整理する。（2時間）
8	事前学習	〔1〕プリントの百二十四段「われとひとしき人」、百二十五段「つひにゆく道」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕「辞世の歌」について調べておく。（2時間）
	授業内容	『伊勢物語』を読む〔その6〕——百二十四段「われとひとしき人」、百二十五段「つひにゆく道」
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、百二十四段「われとひとしき人」、百二十五段「つひにゆく道」に対する理解を深める。〔2〕業平の恋愛について整理しておく。（2時間）
9	事前学習	〔1〕プリントの百五十段「猿沢の池」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕「采女（うねめ）」について調べておく。（2時間）
	授業内容	『大和物語』を読む〔その1〕——百五十段「猿沢の池」
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、百五十段「猿沢の池」に対する理解を深める。（2時間）
10	事前学習	〔1〕プリントの百五十六段「姥捨」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕「おばすて伝説」について調べておく。（2時間）
	授業内容	『大和物語』を読む〔その2〕——百五十六段「姥捨」
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、百五十六段「姥捨」に対する理解を深める。〔2〕男が連れ戻した理由について考えてみる。（2時間）
11	事前学習	〔1〕プリントの百五十八段「鹿鳴く声」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。（2時間）
	授業内容	『大和物語』を読む〔その3〕——百五十八段「鹿鳴く声」
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、百五十八段「鹿鳴く声」に対する理解を深める。〔2〕『今昔物語集』の話との違いを整理しておく。（2時間）
12	事前学習	〔1〕プリントの初段「憂き世には門鎖せり」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。（2時間）
	授業内容	『平中物語』を読む〔その1〕——初段「憂き世には門鎖せり」
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、初段「憂き世には門鎖せり」に対する理解を深める。〔2〕二首の歌に込められた男の心情を整理する。（2時間）
13	事前学習	〔1〕プリントの十八段「見る人もなき我が言の葉」の本文を読み、難しい語句などは辞書で調べ、書かれている概要をつかんでおく。〔2〕本文全体が長くてやや難しいので、全体をよく読んで内容を理解しておく。（2時間）
	授業内容	『平中物語』を読む〔その2〕——十八段「見る人もなき我が言の葉」
	事後学習	〔1〕プリントを再読し、十八段「見る人もなき我が言の葉」に対する理解を深める。〔2〕三首の歌に込められた男の心情を整理する。（2時間）
14	事前学習	これまでの講義内容をまとめ、「歌物語に見られる「生」「愛」「死」のかたち」について整理し理解する。授業内試験の準備と対策をしておく。（6時間）
	授業内容	〔1〕授業目的・到達目標の達成度確認試験。〔2〕13回までの授業内容に関する質疑応答の実施。疑問点の解消。
	事後学習	試験問題を再度解きなおしてみる。他の受講者たちの質疑応答をもとに、各自の理解の至らなかった点を復習する。（1時間）
15	事前学習	14回目の授業内試験の問題を再度確認し、授業での解説に備える。（1時間）
	授業内容	〔1〕14回目に実施した試験の解説・講評。質疑応答。〔2〕授業目的・到達目標を深化・発展させるための著作の紹介と概要説明。
	事後学習	授業内に行った解説・講評・紹介を参考にしてこれまでの授業をまとめるとともに、紹介された著作を読むこと等により更に理解の徹底と深化を図る。（3時間）

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	高橋 啓之	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	後期は落語や歌舞伎などの伝統芸能について講義する。				
授業目的・到達目標	本講義においては、最近なおざりにされがちな母国語である日本語の魅力を再認識してもらい、豊かな知識と教養、そして表現力を身につけることを最大の目的とする。後期は、世界に冠たる伝統芸能である歌舞伎について理解を深め、海外でも評価の高いかぶきについて外国人にも説明できる能力をに身につけられること目標とする。関連DP及びCP（総合科目・体育実技領域）1, 2, 3, 4				
履修条件	特になし。ただし、4年生の優遇は、就職活動による欠席を含め、一切ないものとする。また、初回の講義には必ず出席すること。また、皆出席が前提であり、各期4回を超える欠席は原則として、単位を認定しない。				
授業方法	板書や配布プリント、映像資料を中心として講義をするが、講義ノートは必需品である。授業内試験の解説は最終回に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	前期、後期の筆記試験（60％）、授業中の課題（20％）。授業における積極性（20％）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	最初の講義で指示する。			
参考書	授業中に指示する				
オフィスアワー	水曜5限 授業終了後 授業講堂にて。 メールによる質問、相談については授業時に説明する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読する。（1時間）
	授業内容	後期講義のガイダンスと評価について理解する。
	事後学習	歌舞伎以前の芸能について、調査する。（3時間）
2	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	かぶきの発生について理解し、その時代背景について考える。
	事後学習	講義を踏まえて復習する。（2時間）
3	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	劇場の誕生から若衆歌舞伎まで理解し、その成り立ちを考える。
	事後学習	三味線について調査する。（3時間）
4	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	元禄歌舞伎について、その経済成長などの時代背景とともに理解する。
	事後学習	講義を踏まえて復習する。（2時間）

5	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	狂言舞踊を鑑賞し、感想文を作成する。
	事後学習	講義を踏まえて復習する。（2時間）+
6	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	歌舞伎の舞台装置について、その成り立ちを理解する。
	事後学習	講義を踏まえて復習する。（2時間）
7	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	歌舞伎十八番について考え、現代まで続く「家の芸」について、理解する。
	事後学習	講義を踏まえて復習する。（2時間）
8	事前学習	今回のテーマについて予習する。（1時間）
	授業内容	歌舞伎十八番の解説と鑑賞
	事後学習	感想文作成（3時間）
9	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	時代物と世話物など、歌舞伎のジャンルについて理解を深める。
	事後学習	講義を踏まえて復習する。（2時間）
10	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	「世界」と趣向について講義する。歌舞伎の作劇法を理解する。
	事後学習	講義を踏まえて復習する。（2時間）
11	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	河竹黙阿弥の作品について、その表現と魅力について理解する。
	事後学習	黙阿弥の生涯について調査する。（3時間）
12	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	作品鑑賞と解説をする。作品は講義の中で決める。
	事後学習	講義を踏まえて復習する。（2時間）
13	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	歌舞伎における「悪」の描かれ方について理解する。
	事後学習	講義をもとに、レポート作成（4時間）
14	事前学習	試験の準備をする。（2時間）
	授業内容	後期試験と解説。
	事後学習	解説をもとに質問作成（2時間）
15	事前学習	講義全体を把握する。（2時間）
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	最終的に全体をまとめる。（2時間）

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	野口 恵子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	学生は未来を創造する当事者である。そのための権利主張のみならず、責任感や使命感も持ち続けなければならない。また、現在社会で起きている事象についても主体的に考察しながら、その解決策を見出さなければならない。本授業では、古代日本における過去の事象から思考力を養い、未来に対しての責任感や使命感がいかに必要であるかを理解し、説明できるように学習する。				
授業目的・到達目標	『万葉集』の宴席歌を取り上げる。万葉の時代は現代と違って、律令制に基づく厳然たる階級社会であった。文雅の世界とはいえ、身分秩序を抜きにして、歌を披露するわけにはいかなかった。従って宴席歌からは、彼らが現代とは異なる常識や価値観に支配されていたことが見えてくる。また現在と似たような人間関係が繰り広げられていたことにも気づかされる。当授業ではその両面を作品から読み取り、事象を理解することを目的とし、自ら説明できることを目標とする。また歌はいかに表現されているものかを理解し説明できることも目標とする。加えて、研究者の立場から『万葉集』を捉えた場合、研究書とはどのような性質のものなのかも理解し説明できる。関連DP及びCP:総合科目1～4				
履修条件	なし。				
授業方法	講義形式。数回復習テストを実施し、次回授業時にフィードバックする。なお、詳細な古典文法を問うことはない。提出されたレポートについては、ポータルシステムで講評を公開する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加度（20％）＋レポート評価（80％）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。取り上げる作品等の情報はポータルシステムで公開する。			
参考書	授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	古代日本史について調べておく。（2時間）
	授業内容	後期の授業計画と内容の説明
	事後学習	『続日本紀』を読んでいく。（2時間）
2	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	石上宅嗣に関する説明を受け、渡来系歌人の一実態を理解できる。
	事後学習	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。（2時間）
3	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	石上宅嗣が歌を披露した宴席歌群全体を通して、『万葉集』に登場する歌人はごく一部の役人であることを理解できる。その後、復習問題を出す。
	事後学習	宴席における石上宅嗣の役割を確認する。（2時間）
4	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	葛井広成に関する説明を受け、渡来系歌人の一実態を理解できる。
	事後学習	次の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。（2時間）

5	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	葛井広成が歌を披露した宴席歌群全体を通して、親しい仲間同士が集まった宴席の特徴を理解できる。その後、復習問題を出す。
	事後学習	宴席における葛井広成の役割を確認する。（2時間）
6	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	文馬養に関する説明を受け、渡来系歌人の一実態を理解できる。
	事後学習	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。（2時間）
7	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	文馬養が歌を披露した宴席歌群全体を通して、直属の上司が主催した宴席の特徴を理解できる。その後、復習問題を出す。
	事後学習	宴席における文馬養の役割について確認する。（2時間）
8	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	秦八十嶋に関する説明を受け、渡来系歌人の一実態を理解できる。
	事後学習	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。（2時間）
9	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	秦八十嶋が歌を披露した宴席歌群全体を通して、赴任先の地方で開催された宴席の特徴を理解できる。その後、復習問題を出す。
	事後学習	宴席における秦八十嶋の役割を確認する。（2時間）
10	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	大伴坂上郎女に関する説明を受け、女性歌の特徴と役割を理解できる。
	事後学習	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。（2時間）
11	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	大伴坂上郎女が歌を披露した宴席歌群全体を通して、宴席歌と明記のない作品の読み方ができる。その後、復習問題を出す。
	事後学習	宴席における大伴坂上郎女の役割を確認する③。（2時間）
12	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「梅花の宴」に関する研究史について理解できる。
	事後学習	研究史における問題点を確認する。（2時間）
13	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「梅花の宴」の参加者の動向を理解できる。
	事後学習	次回の授業では復習問題を課すので、授業内容とノートの整理をしておく。（2時間）
14	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「梅花の宴」に参加した歌人の配置と披露された歌の順番を通して、大宰府という第二の政庁における宴席の特徴を理解できる。その後、復習問題を出す。
	事後学習	研究論文を読むことを通して、自分の考えはどのように述べるべきなのかを確認する。（2時間）
15	事前学習	前回の授業で配布した資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	後期の授業内容を振り返り、理解の到達点を確認する。
	事後学習	貴族は宴席をどのような場所として捉えていたのかを確認する②。（2時間）

科目名	日本文学Ⅱ	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、20世紀後半の文学をたどることで、「戦後文学」と呼ばれてきたものが総体として何を行ってきたのかを探る。歴史的背景も鑑みつつ、どのような問題がそこで浮上していたのかを扱いながら、現代との相同性と差異についても論じてゆく。また文芸評論に携わる立場から、文学の読解・執筆についての解説も行う。					
授業目的・到達目標	「戦後文学」と呼ばれてきたものが総体として何を行なってきたのかを読み込める力の育成を目的とする。文学を社会動向や科学技術との関係からも考察しつつ、現代との相同性と差異についても論じられる力をつけることを目標とする。到達DP及びCP：総合科目領域1, 2, 3, 4					
履修条件	特になし。					
授業方法	講義時にプリントを配布する。毎回、前回提出のコメントシートを教場にて読み上げる。なお、扱う作家名は講義の進行具合によって変更する可能性があることをお断りしておく。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		(70%)レポートにおける理解度を評価する。(30%)コメントシートにおける参加度を評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	講義中に配布するプリントを主に使用する。				
参考書	中村光夫『日本の現代文学』（岩波書店）、宮澤隆義『坂口安吾の未来―危機の時代と文学』（新曜社）ほか、授業時に適宜指示する。					
オフィスアワー	火曜4限、本館1614研究室にて（事前に必ずアポイントメントを取ること）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	「戦後」の歴史について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	イントロダクション。「戦後」文学について。
	事後学習	「戦後」文学について復習をしておくこと。（2時間）
2	事前学習	太宰治・坂口安吾について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	敗戦と文学者：太宰治・坂口安吾
	事後学習	太宰治・坂口安吾について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
3	事前学習	大岡昇平について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	大岡昇平の戦争（1）
	事後学習	大岡昇平について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
4	事前学習	大岡昇平について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	大岡昇平の戦争（2）
	事後学習	大岡昇平について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）

5	事前学習	武田泰淳について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	武田泰淳と中国（1）
	事後学習	武田泰淳について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
6	事前学習	武田泰淳について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	武田泰淳と中国（2）
	事後学習	武田泰淳について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
7	事前学習	三島由紀夫について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	三島由紀夫のパフォーマンス
	事後学習	三島由紀夫について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
8	事前学習	「第三の新人」について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	「第三の新人」について：庄野潤三・安岡章太郎・小島信夫（1）
	事後学習	「第三の新人」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
9	事前学習	「第三の新人」について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	「第三の新人」について：安岡章太郎・小島信夫（2）
	事後学習	「第三の新人」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
10	事前学習	安部公房について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	安部公房と偽装（1）
	事後学習	安部公房について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
11	事前学習	安部公房について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	安部公房と偽装（2）
	事後学習	安部公房について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
12	事前学習	大江健三郎について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	大江健三郎（1）
	事後学習	大江健三郎について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
13	事前学習	大江健三郎について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	大江健三郎（2）
	事後学習	大江健三郎について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
14	事前学習	「戦後」の歴史について確認しておくこと。最終課題の準備をしておくこと。（2時間）
	授業内容	中上健次と津島佑子
	事後学習	中上健次と津島佑子について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
15	事前学習	最終課題の準備をしておくこと。（2時間）
	授業内容	現代と「戦後文学」について。半期の授業をふりかえり、理解の到達度を確認する。
	事後学習	「戦後」と文学の関係について、講義内容の復習をしておくこと。一年間の講義内容の確認をしておくこと。（2時間）

科目名	発展教養A	担当者	長谷部 圭彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業は「法学部のためのイスラーム概説」である。法学部で学習する法学、政治学、経済学、経営学、新聞学、外国語等を、多様な視点から再考するための素材を提供する。具体的には、イスラームの教義、世界秩序、法、奴隷制、税制、神秘主義等を概観したうえで、現代の事象を検討する。対象とする時期は、7～12世紀および20～21世紀である。13～19世紀は「発展教養B」で扱う。				
授業目的・到達目標	イスラームに関する基礎的な知識を有し、それに基づいて自身の専門を再考できる法学部生を養成することを授業目的とする。また、受講生がイスラームに関する基礎的な知識を理解し、説明できるようになることを到達目標とする。 関連DPおよびCP:1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8。				
履修条件	なし				
授業方法	講義形式で行う。毎回質問用紙を配布するので、授業に関する質問等を記入すること。翌週、可能な限り回答したい。14回目の講義で試験を実施し、15回目の講義で返却、解説する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内試験（70%）および講義への参加度（30%）。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	大塚和夫他編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002年。東長靖『イスラームのとらえ方』山川出版社、1996年。堀井聡江『イスラーム法通史』山川出版社、2004年。屋形禎亮・佐藤次高『西アジア』上巻、朝日新聞社、1993年。				
オフィスアワー	火曜日2限（10:40-12:10）の前後、授業講堂において受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを精読する。（2時間）
	授業内容	現代の中東・イスラーム地域
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
2	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	イスラーム生誕
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
3	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	スンナ派とシーア派
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
4	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	イスラーム的世界秩序と法
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）

5	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	法の担い手とその養成
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
6	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	マムルークとイクター制
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
7	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	スーフィーと聖者
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
8	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	歴史的前提としてのオスマン帝国
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
9	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	オスマン帝国の崩壊
	事後学習	講義の内容を復習すること。その際、適宜参考文献を参照すること。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
10	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	オスマン崩壊後の中東
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
11	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	パレスチナ問題の行方
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
12	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	イスラーム復興運動の展開
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
13	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	アラブの春とイスラーム国
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
14	事前学習	本講義全体の復習。（3時間）
	授業内容	混迷のシリア、授業内試験
	事後学習	再度、試験問題を解く。（1時間）
15	事前学習	再度、本講義全体の復習。（2時間）
	授業内容	試験解説、講義総括
	事後学習	解説を踏まえ、再度試験を解く。（2時間）

科目名	発展教養A	担当者	朴澤 直秀	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義は基本的には歴史学の講義であり、【民俗から遡る日本近世の宗教】をテーマとする。現代の民俗行事の記録や歴史資料などを手がかりにしながら、イメージすることが困難になりつつある近世の宗教の諸相に言及し、近世社会の諸側面との関係を考えていく。さらに、それが現在にかけて変容していく局面にも注目する。					
授業目的・到達目標	過去の社会の実態や、その現在との類似点・相違点について考えてみる。さらに、民俗行事などの、近代を経て現在に掛けての変容の、様相や意味をめぐって考えてみる。また、過去の社会におけるさまざまな要素の相互関係について考えてみる。以上を通じて、歴史に対する感覚や、事象を相対化する視点を養うことを目的とする。近世における宗教や民俗の様相とその現在との連続や断絶、「伝統」とは何か、といったことについて知識と考えを持ち、説明できるようになることを目標とする。 関連D P及びC P：総合科目領域1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8					
履修条件	担当者が後期に開講する「発展教養B」とは独立した講義だが、相互に関連する内容を扱う。片方のみの履修も可能だが、双方あわせて履修することにより理解が深まるであろう。					
授業方法	基本的に講義形式で行うが、受講者数によって柔軟に対応する。受講者の状況・取り組みなどに応じて進行・内容につき対応する。達成度テストに関する全体の講評を、後日ポータルシステムにて配信する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業内での達成度テストを中心に、受講態度などを勘案する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	なし	なし		なし		なし
	備考					
参考書	講義中に適宜紹介する。					
オフィスアワー	原則として月曜日18：00～18：30、ただし、必ず事前に、口頭、ないしはメールにてアポイントメントを取ること					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通す。いままでに触れてきた「歴史」や、民俗事象について、振り返っておく（2時間）。
	授業内容	ガイダンス 授業内容・方法の概観
	事後学習	ガイダンス時のアンケートで問われたことについて、振り返る（2時間）。
2	事前学習	ガイダンスで説明された内容について、質問すべき点はなかったか、振り返っておく。ガイダンスの内容を受けて、日本の近世社会や現在の年中行事などについて、あらためて考えておく（2時間）。
	授業内容	年中行事と祭り1 年中行事とは
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
3	事前学習	前回の講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	年中行事と祭り2 近世の村
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
4	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	年中行事と祭り3 年中行事の様相
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。

5	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	年中行事と祭り4 年齢集団
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
6	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	神仏習合と神仏分離1 神仏習合の痕跡
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
7	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	神仏習合と神仏分離2 神仏分離
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
8	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	さまざまな宗教者1 江戸の宗教者
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
9	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	さまざまな宗教者2 宗教者と修行
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
10	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	さまざまな宗教者3 参詣と宗教者
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
11	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	境域と信仰1 北方の境域
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
12	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	境域と信仰2 西南の境域
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
13	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	境域と信仰3 対外関係の局面
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
14	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する。これまでの講義内容について、質問すべき事はないか、点検しておく（2時間）。
	授業内容	重要な論点の補足
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
15	事前学習	授業内に説明した問題について、いかに解答すべきかを考えておく（2時間）。
	授業内容	授業目的・到達目標に関する確認
	事後学習	今学期の達成度を振り返り、授業内で紹介した参考文献などに目を通して学習を深める（2時間）。

科目名	発展教養B	担当者	長谷部 圭彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業は「法学部のためのオスマン史概説」である。法学部で学習する法学、政治学、経済学、経営学、新聞学、外国語等を、多様な視点から再考するための素材を提供する。具体的には、支配体制、国際体系、ナショナリズム、自由と平等、法の継受、立憲制、議会制、外国投資などにつき、オスマン帝国を事例に検討する。対象とする時期は13～19世紀である。7～12世紀および20～21世紀は「発展教養A」で扱う。					
授業目的・到達目標	オスマン史に関する基礎的な知識を有し、それに基づいて自身の専門を再考できる法学部生を養成することを授業目的とする。また、受講生がオスマン史に関する基礎的な知識を理解し、説明できるようになることを到達目標とする。 関連DPおよびCP:1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8。					
履修条件	なし					
授業方法	講義形式で行う。毎回質問用紙を配布するので、授業に関する質問等を記入すること。翌週、可能な限り回答したい。14回目の講義で試験を実施し、15回目の講義で返却、解説する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業内試験（70%）および講義への参加度（30%）。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない				
参考書	小笠原弘幸『オスマン帝国』中央公論新社、2018年。鈴木董『オスマン帝国』講談社、1992年。同『オスマン帝国の解体』筑摩書房、2000年。新井政美『トルコ近現代史』みすず書房、2001年。					
オフィスアワー	火曜日2限（10:40-12:10）の前後、授業講堂において受け付ける。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを精読する。（2時間）
	授業内容	12世紀までの中東・イスラーム世界
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
2	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	オスマン史1—君侯国から帝国へ
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
3	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	オスマン史2—古典的支配体制の確立
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
4	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	オスマン史3—後期支配体制の形成
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）

5	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	オスマン史4—近代西洋国際体系への参入
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
6	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	オスマン史5—二つのナショナリズム
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
7	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	オスマン史6—自由と平等
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
8	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	法の継受1—西洋・オスマン・日本
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
9	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	法の継受2—オスマンの民法典論争
	事後学習	講義の内容を復習すること。その際、適宜参考文献を参照すること。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
10	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	憲法と議会制1—オスマン憲法の制定
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
11	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	憲法と議会制2—二つの立憲制
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
12	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	外国投資と商法1—日本資本のトルコ投資
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
13	事前学習	事前に配布されているレジュメを精読する。（2時間）
	授業内容	外国投資と商法2—政体の変容と法の連続性
	事後学習	講義の内容を復習する。その際、適宜参考文献を参照する。参考文献は、上記の「参考書」のほか、講義中に提示する。（2時間）
14	事前学習	本講義全体の復習。（3時間）
	授業内容	講義総括、授業内試験
	事後学習	再度、試験問題を解く。（1時間）
15	事前学習	再度、本講義全体の復習。（2時間）
	授業内容	試験解説、講義総括
	事後学習	解説を踏まえ、再度試験を解く。（2時間）

科目名	発展教養B	担当者	朴澤 直秀	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義では、【宗教からみる日本近世の社会】をテーマとして、とくに、原則として人々の葬祭を一手に担っていた、仏教の寺院や僧侶に関する実態や制度、それをめぐる通念にとくに焦点を当て、掘り下げて考えてみる。				
授業目的・到達目標	講義で取り上げる諸論点 一制度や通念が、歴史的にどのように形成されるのか、あるものに対するイメージや、「歴史」がどのように形作られてくるのか、といったような点など一、について理解を深めること。過去の社会における様々な要素の相互関係について考えてみることを。以上を通じて、歴史に対する感覚や、事象を相対化する視点を養うことを目的とする。近世の宗教の制度や社会との関係、それに対するイメージの形成と変容などについての知識と、それを手がかりとした自らの考察について説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目領域1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	担当者が前期に開講する「発展教養A」とは独立した講義だが、相互に関連する内容を扱う。片方のみの履修も可能だが、双方あわせて履修することにより理解が深まるであろう。				
授業方法	基本的に講義形式で行うが、受講者数によって柔軟に対応する。受講者の状況・取り組みなどに応じて進行・内容につき対応する。達成度テストに関する全体の講評を、後日ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合		
	定期試験		0%		
	平常評価		100%		
		授業内での達成度テストを中心に、受講態度などを勘案する。			
教科書	年	出版社		書名	著者名
	なし	なし		なし	なし
	備考				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	原則として月曜日18：00～18：30、ただし、必ず事前に、口頭、ないしはメールにてアポイントメントを取ること				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通す。「中世仏教」「近世仏教」をめぐるイメージについて、整理しておく。また、現在において、実態から乖離したイメージが肥大化したり、一人歩きしたりしている物事の例について、考えておく（２時間）。
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ガイダンス時のアンケートで問われたことについて、振り返る（２時間）。
2	事前学習	ガイダンスで説明された内容について、質問すべき点はなかったか、振り返っておく。ガイダンスの内容を受けて、日本の近世社会や現在の年中行事などについて、あらためて考えておく（２時間）。
	授業内容	中世仏教・近世仏教をめぐるイメージ
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（２時間）。
3	事前学習	前回の講義内容を復習する（２時間）。
	授業内容	中世仏教の展開
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（２時間）。
4	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（２時間）。
	授業内容	中世仏教と現代
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（２時間）。

5	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	村と宗教
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
6	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	教団編成と地下信仰
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
7	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	地下信仰の実態
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
8	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	葬送と寺檀関係
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
9	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	寺請制度
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
10	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	寺請制度と偽法令
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
11	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	江戸幕府の「寺院統制」
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
12	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	仏教教団の構造
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
13	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する（2時間）。
	授業内容	寺院の機能
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
14	事前学習	前回の講義内容を中心に、前回までの講義内容を復習する。これまでの講義内容について、質問すべき事はないか、点検しておく（2時間）。
	授業内容	重要な論点の補足
	事後学習	講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
15	事前学習	授業内に説明した問題について、いかに解答すべきかを考えておく（2時間）。
	授業内容	授業目的・到達目標に関する確認
	事後学習	今学期の達成度を振り返り、授業内で紹介した参考文献などに目を通して学習を深める（2時間）。

科目名	東アジアの文学 I	担当者	福木 滋久	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	東アジアの文学作品の中から、古代中国の歴史文学、司馬遷の『史記』を講読する。特に秦の始皇帝による中華統一を中心テーマとして、春秋戦国時代から秦の六国併合に至るまでのいくつかの伝記を読んでいく。各伝記から抜粋された部分を訓読にて鑑賞、原文に親しんでもらう。登場人物の行動・思い・挫折や栄光・生き方等から、受講者それぞれが、生きていく上でのヒントになるようなものを見い出せば何よりである。					
授業目的・到達目標	『史記』の伝記に描かれたエピソードの背景を知り、作者の言葉・文体・思想などについて理解を深めていく。また、文学作品から自身の生き方にとって有益な部分を自らの中で昇華させていく——そういった資質を養成することを目的とする。中国の古典文学を正しく読解でき、時代に生きた人々の事跡、成功や失敗、様々な思いを読み取るとともに、受講者自らの人生に如何に活かしていくか考えられるようになることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域領域1・2・3・4。					
履修条件	本シラバスの内容を了解し、指示に従って受講できる者。「指示」とは例えば「わからなければ質問する」「できる範囲でしっかり取り組む」「私語等其他の受講者に迷惑をかけない」「授業開始後は無断で退席しない」等基本的なこと。					
授業方法	配付教材を用い講義形式で行う。『史記』より抜粋した文に解説を加え、訓読により講読していく。事後学習としてポータルより小課題を送信し、期限内の回答を求める。修了後のフィードバックは学期末にポータルより送信する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		学期末提出課題の評価（70%）・授業参加度（30%）。受講の事実が確認できない履修者については評価しない。詳細な評価基準（ルーブリック表）を講義時に発表する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	教科書は使用せず、配付教材を用いる。				
参考書	『史記を語る』 宮崎市定 著 岩波文庫（『史記』の解説）・『史記の風景』 宮城谷昌光 著 新潮文庫（『史記』に関するエッセイ）・『史記』の日本語訳については講義時に紹介する					
オフィスアワー	火曜 5 限、532 講堂にて。授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施する。 s-fukugi.2019@ceres.dti.ne.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、『史記』と春秋時代の楚・斉（姜斉）について調べ、前期初回の授業にのぞむ（2 時間）
	授業内容	はじめに 配付資料(4)より 「楚世家」を読む① ― 中華統一の黎明 春秋時代 楚 テーマ：「上に立つ」
	事後学習	配付資料(4)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる前期小課題A01に回答する（2 時間）
2	事前学習	配付資料(4)や前回の講義内容等を振り返り、春秋時代の宋について調べ知識を深めておく（2 時間）
	授業内容	「楚世家」を読む② ― 中華統一の黎明 春秋時代 楚 テーマ：「上に立つ」
	事後学習	配付資料(4)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる前期小課題A02に回答する（2 時間）
3	事前学習	配付資料(4)や前回の講義内容等を振り返り、春秋時代の晋について調べ知識を深めておく（2 時間）
	授業内容	「楚世家」を読む③ ― 中華統一の黎明 春秋時代 楚 「上に立つ」ということ
	事後学習	配付資料(4)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる前期小課題A03に回答する（2 時間）
4	事前学習	配付資料(4)や前回の講義内容等を振り返り、春秋時代の周について調べ知識を深めておく（2 時間）
	授業内容	「楚世家」を読む④ ― 中華統一の黎明 春秋時代 楚 「上に立つ」ということ まとめ
	事後学習	配付資料(4)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる前期小課題A04に回答する（2 時間）

5	事前学習	配付資料(5)や前回の講義内容等を振り返り、晋末の六卿について調べ知識を深めておく（2時間）
	授業内容	はじめに 「刺客列伝」を読む① — 春秋から戦国へ 戦国七雄 韓 テーマ：「報いる」
	事後学習	配付資料(5)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる前期小課題A05に回答する（2時間）
6	事前学習	配付資料(5)や前回の講義内容等を振り返り、晋の三分について調べ知識を深めておく（2時間）
	授業内容	「刺客列伝」を読む② — 春秋から戦国へ 戦国七雄 韓 テーマ：「報いる」
	事後学習	配付資料(5)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる前期小課題A06に回答する（2時間）
7	事前学習	配付資料(5)や前回の講義内容等を振り返り、古代中国の戦国時代について調べ知識を深めておく（2時間）
	授業内容	「刺客列伝」を読む③ — 春秋から戦国へ 戦国七雄 韓 「報いる」ということ
	事後学習	配付資料(5)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる前期小課題A07に回答する（2時間）
8	事前学習	配付資料(5)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の韓について調べ知識を深めておく（2時間）
	授業内容	「刺客列伝」を読む④ — 春秋から戦国へ 戦国七雄 韓 「報いる」ということ まとめ
	事後学習	配付資料(5)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる前期小課題A08に回答する（2時間）
9	事前学習	配付資料(6)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の燕について調べ知識を深めておく（2時間）
	授業内容	はじめに 「楽毅列伝」を読む① — 中華統一の揺籃 戦国七雄 燕 テーマ：「立ち向かう」
	事後学習	配付資料(6)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる前期小課題A09に回答する（2時間）
10	事前学習	配付資料(6)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の秦について調べ知識を深めておく（2時間）
	授業内容	「楽毅列伝」を読む② — 中華統一の揺籃 戦国七雄 燕 テーマ：「立ち向かう」
	事後学習	配付資料(6)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる前期小課題A10に回答する（2時間）
11	事前学習	配付資料(6)や前回の講義内容等を振り返り、合従連衡について調べ知識を深めておく（2時間）
	授業内容	「楽毅列伝」を読む③ — 中華統一の揺籃 戦国七雄 燕 「立ち向かう」ということ まとめ
	事後学習	配付資料(6)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる前期小課題A11に回答する（2時間）
12	事前学習	配付資料(7)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の斉（田斉）について調べ知識を深めておく（2時間）
	授業内容	はじめに 「田単列伝」を読む① — 中華統一の揺籃（戦国七雄 斉） テーマ：「諦めない」
	事後学習	配付資料(7)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる前期小課題A12に回答する（2時間）
13	事前学習	配付資料(7)や前回の講義内容等を振り返り、前期期末提出課題についてテーマを検討する（2時間）
	授業内容	「田単列伝」を読む② — 中華統一の揺籃（戦国七雄 斉） テーマ：「諦めない」
	事後学習	配付資料(7)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる前期小課題A13に回答する（2時間）
14	事前学習	配付資料(7)や前回の講義内容等を振り返り、前期期末提出課題について構想を練る（2時間）
	授業内容	「田単列伝」を読む② — 中華統一の揺籃（戦国七雄 斉） 「諦めない」ということ
	事後学習	配付資料(7)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる前期小課題A14に回答する（2時間）
15	事前学習	前期の配付資料とノートを見直して講義内容を復習、前期期末提出課題を仕上げる（2時間）
	授業内容	「田単列伝」を読む① — 中華統一の揺籃（戦国七雄 斉） 「諦めない」ということ 前期のまとめ
	事後学習	配付資料(7)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる前期小課題A15に回答する（2時間）

科目名	東アジアの文学Ⅱ	担当者	福木 滋久	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	東アジアの文学作品の中から、古代中国の歴史文学、司馬遷の『史記』を講読する。特に秦の始皇帝による中華統一を中心テーマとして、春秋戦国時代から秦の六国併合に至るまでのいくつかの伝記を読んでいく。各伝記から抜粋された部分を訓読にて鑑賞、原文に親しんでもらう。登場人物の行動・思い・挫折や栄光・生き方等から、受講者それぞれが、生きていく上でのヒントになるようなものを見い出せば何よりである。				
授業目的・到達目標	『史記』の伝記に描かれたエピソードの背景を知り、作者の言葉・文体・思想などについて理解を深めていく。また、文学作品から自身の生き方にとって有益な部分を自らの中で昇華させていく——そういった資質を養成することを目的とする。中国の古典文学を正しく読解でき、当時に生きた人々の事跡、成功や失敗、様々な思いを読み取るとともに、受講者自らの人生に如何に活かしていくか考えられるようになることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域領域1・2・3・4。				
履修条件	本シラバスの内容を了解し、指示に従って受講できる者。「指示」とは例えば「わからなければ質問する」「できる範囲でしっかり取り組む」「私語等他の受講者に迷惑をかけない」「授業開始後は無断で退席しない」等基本的なこと。				
授業方法	配付教材を用い講義形式で行う。『史記』より抜粋した文に解説を加え、訓読により講読していく。事後学習としてポータルより小課題を送信し、期限内の回答を求める。修了後のフィードバックは学期末にポータルより送信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	学期末提出課題の評価（70%）・授業参加度（30%）。受講の事実が確認できない履修者については評価しない。詳細な評価基準（ルーブリック表）を講義時に発表する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用せず、配付教材を用いる。			
参考書	『史記を語る』 宮崎市定 著 岩波文庫（『史記』の解説）・『史記の風景』 宮城谷昌光 著 新潮文庫（『史記』に関するエッセイ）・『史記』の日本語訳については講義時に紹介する				
オフィスアワー	火曜5限、532講堂にて。授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施する。 s-fukugi.2019@ceres.dti.ne.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、『史記』と戦国四君について調べ、後期初回の授業にのぞむ（2時間）
	授業内容	はじめに 配付資料(9)より「趙奢伝（廉頗・蘭相如列伝）他」を読む① — 六国の抵抗（戦国七雄 趙）
	事後学習	配付資料(9)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる後期小課題B01に回答する（2時間）
2	事前学習	配付資料(9)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の趙について調べ知識を深めておく（2時間）
	授業内容	「趙奢伝（廉頗・蘭相如列伝）他」を読む② — 六国の抵抗（戦国七雄 趙） テーマ：「護る」
	事後学習	配付資料(9)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる後期小課題B02に回答する（2時間）
3	事前学習	配付資料(9)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の秦について調べ知識を深めておく（2時間）
	授業内容	「趙奢伝（廉頗・蘭相如列伝）他」を読む③ — 六国の抵抗（戦国七雄 趙） 「護る」ということ
	事後学習	配付資料(9)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる後期小課題B03に回答する（2時間）
4	事前学習	配付資料(9)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の楚について調べ知識を深めておく（2時間）
	授業内容	「趙奢伝（廉頗・蘭相如列伝）他」を読む④ — 六国の抵抗（戦国七雄 趙） 「護る」ということ まとめ
	事後学習	配付資料(9)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる後期小課題B04に回答する（2時間）

5	事前学習	配付資料(10)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の魏について調べ知識を深めておく（2時間）
	授業内容	はじめに 「魏公子列伝」を読む① — 六国の抵抗（戦国七雄 魏） テーマ：「謙虚さ」
	事後学習	配付資料(10)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる後期小課題B05に回答する（2時間）
6	事前学習	配付資料(10)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の斉（田斉）について調べ知識を深めておく（2時間）
	授業内容	「魏公子列伝」を読む② — 六国の抵抗（戦国七雄 魏） テーマ：「謙虚さ」
	事後学習	配付資料(10)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる後期小課題B06に回答する（2時間）
7	事前学習	配付資料(10)や前回の講義内容等を振り返り、函谷関について調べ知識を深めておく（2時間）
	授業内容	「魏公子列伝」を読む③ — 六国の抵抗（戦国七雄 魏） 「謙虚さ」ということ まとめ
	事後学習	配付資料(10)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる後期小課題B07に回答する（2時間）
8	事前学習	配付資料(11)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の韓について調べ知識を深めておく（2時間）
	授業内容	はじめに 「呂不韋列伝」を読む① — 中華統一への道（戦国七雄 秦） テーマ：「のし上がる」
	事後学習	配付資料(11)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる後期小課題B08に回答する（2時間）
9	事前学習	配付資料(11)や前回の講義内容等を振り返り、合従連衡について調べ知識を深めておく（2時間）
	授業内容	「呂不韋列伝」を読む② — 中華統一への道（戦国七雄 秦） テーマ：「のし上がる」
	事後学習	配付資料(11)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる後期小課題B09に回答する（2時間）
10	事前学習	配付資料(11)や前回の講義内容等を振り返り、宦官についての知識を更に深めておく（2時間）
	授業内容	「呂不韋列伝」を読む③ — 中華統一への道（戦国七雄 秦） 「のし上がる」ということ
	事後学習	配付資料(11)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる後期小課題B10に回答する（2時間）
11	事前学習	配付資料(11)や前回の講義内容等を振り返り、戦国七雄の燕について調べ知識を深めておく（2時間）
	授業内容	「呂不韋列伝」を読む④ — 中華統一への道（戦国七雄 秦） 「のし上がる」ということ まとめ
	事後学習	配付資料(11)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる後期小課題B11に回答する（2時間）
12	事前学習	配付資料(11)や前回の講義内容等を振り返り、後期期末提出課題のテーマを検討する（2時間）
	授業内容	はじめに 「王翦伝（白起・王翦列伝）」を読む① — 中華統一の完成（六国併呑） テーマ「大事を成す」
	事後学習	配付資料(14)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる後期小課題B12に回答する（2時間）
13	事前学習	配付資料(12)や前回の講義内容等を振り返り、後期期末提出課題のテーマを検討する（2時間）
	授業内容	「王翦伝（白起・王翦列伝）」を読む② — 中華統一の完成（六国併呑） テーマ「大事を成す」
	事後学習	配付資料(14)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる後期小課題B13に回答する（2時間）
14	事前学習	配付資料(12)や前回の講義内容等を振り返り、後期期末提出課題の構想を練る（2時間）
	授業内容	「王翦伝（白起・王翦列伝）」を読む③ — 中華統一の完成（六国併呑） 「大事を成す」ということ
	事後学習	配付資料(14)とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる後期小課題B14に回答する（2時間）
15	事前学習	後期の配付資料とノートを見直して講義内容を復習、後期期末提出課題を仕上げる（2時間）
	授業内容	「王翦伝（白起・王翦列伝）」を読む④ — 中華統一の完成（六国併呑）「大事を成す」ということ 後期のまとめ
	事後学習	後期の配付資料とノートを見直して講義内容を復習し、ポータルから送られる後期小課題B15に回答する（2時間）

科目名	文化人類学Ⅰ	担当者	前嵩西 一馬	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	文化人類学の世界へようこそ。本講座では、共同体、記憶、ことば、マイノリティといった現代社会を読み解くキーワードを軸に、私達を取り巻く様々な「文化」の諸相を具体的に考えます。			
授業目的・到達目標	本講座では、古今東西における様々な具体的事例を通して、他者の痛みを知ることや自己への内省的な姿勢を培うことで、人文科学における批判精神と想像力を養成することを目的とする。 それぞれの社会における文化に潜む倫理的規範を、異文化理解を通して相対的に見つめる視点と、自文化を見つめ直すという俯瞰的な視点を、主体的に身につけられることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1，2，3，4 毎回遅刻せずに全ての講義に出席することを強く望む。 初回の参加人数によっては登録者数の制限を行う。			
授業方法	適宜視覚教材などを用い、講義に関する資料を配布し、基本的にはレクチャーとグループワークの併用で90分間のトレーニングを行う。また講義後に提出するレビューシートへのフィードバックを次の講義にて行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	ほぼ毎回配布するレビューシートならびに参加態度を総合評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011	昭和堂	『沖縄学入門 空腹の作法』	勝方＝稲福恵子 前嵩西一馬
	備考			
参考書	参考文献などは講義において随時指示する。			
オフィスアワー	毎週木曜日の講義（2，3，5限）終了後、もしくは昼休みを含む休み時間に講義講堂にて質問を受け付ける。 事前にメールにて予約を取ることを薦める。 メールアドレスは、講義内にて伝達する。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの確認と教科書の内容を確認することで、講義全体の概要を見通す。 また、本講義を履修することの意義についてまとめておく。（2時間）
	授業内容	前期ガイダンス。 授業計画、今後の講義にて扱うテーマやトピックについての概略、ノートの取り方、参考文献紹介など。
	事後学習	ガイダンス内容を確認し、講義ノートをもとに、今後の学習計画を立てるとともに、文化を学ぶ意義をあらためて自身に引き付けて捉え直す作業を行う。（2時間）
2	事前学習	前回の配付資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。（2時間）
	授業内容	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる基礎的な諸概念について（1） 特に、文化を理解するとは何を意味するのか、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。
	事後学習	配付資料の復習および講義ノートの確認を通して、「文化理解」について自分なりの経験を探し出し、ノートにまとめる。（2時間）
3	事前学習	前回の配付資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。（2時間）
	授業内容	「文化」「社会」「民族」など、文化人類学の実践に関わる基礎的な諸概念について（2） 特に、社会におけるそれぞれ固有の問題について、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。
	事後学習	配付資料の復習および講義ノートの確認を通して、自らが所属する社会の固有の問題についてひとつ選び、自分なりの意見をノートにまとめる。（2時間）
4	事前学習	前回の配付資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。（2時間）
	授業内容	「文化」「社会」「民族」など、文化人類学の実践に関わる基礎的な諸概念について（3） 特に、民族もしくはエスニティーに関するトピックについて、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。
	事後学習	配付資料の復習および講義ノートの確認を通して、民族やエスニティーといった概念に関連する具体的作品（小説、映画、漫画、美術作品など）を選び、鑑賞し、ノートにまとめる。（2時間）

5	事前学習	前回の配付資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。（2時間）
	授業内容	近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程について（1）文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。
	事後学習	配付資料の復習および講義ノートの確認を通して、講義内で扱ったトピックやテーマをひとつ選んで考察し、ノートにまとめる。（2時間）
6	事前学習	前回の配付資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。（2時間）
	授業内容	近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程について（2）文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの問題点を考察する。
	事後学習	配付資料の復習および講義ノートの確認を通して、講義内で扱った問題点をひとつ選んで考察し、ノートにまとめる。（2時間）
7	事前学習	前回の配付資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。（2時間）
	授業内容	近・現代日本を中心としたマイノリティの形成過程について（3）文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの可能性を考察する。
	事後学習	配付資料の復習および講義ノートの確認を通して、講義内で扱った可能性をひとつ選んで考察し、ノートにまとめる。（2時間）
8	事前学習	前回の配付資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。（2時間）
	授業内容	近・現代を中心としたマイノリティの形成過程と現状について（1）日本におけるマイノリティの諸相を踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、諸外国におけるマイノリティの現状を考察する。
	事後学習	配付資料の復習および講義ノートの確認を通して、講義内で扱った可能性をひとつ選んで考察し、ノートにまとめる。（2時間）
9	事前学習	前回の配付資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。（2時間）
	授業内容	近・現代を中心としたマイノリティの形成過程と現状について（2）日本におけるマイノリティの諸相を踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、諸外国におけるマイノリティの問題を考察する。
	事後学習	配付資料の復習および講義ノートの確認を通して、講義内で扱った可能性をひとつ選んで考察し、ノートにまとめる。（2時間）
10	事前学習	前回の配付資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。（2時間）
	授業内容	日本を中心としたマイノリティの現状と課題について（1）資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について考察する。
	事後学習	配付資料および教科書を用いた復習
11	事前学習	前回の配付資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。（2時間）
	授業内容	日本を中心としたマイノリティの現状と課題について（2）資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について考察する。
	事後学習	配付資料および教科書を用いた復習
12	事前学習	前回の配付資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。（2時間）
	授業内容	日本を中心としたマイノリティの現状と課題について（3）資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について考察する。
	事後学習	配付資料および教科書を用いた復習
13	事前学習	前回の配付資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。（2時間）
	授業内容	日本を中心としたマイノリティの現状と課題について（4）資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について考察する。
	事後学習	配付資料および教科書を用いた復習
14	事前学習	前回の配付資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。（2時間）
	授業内容	日本を中心としたマイノリティの現状と課題について（5）資本主義、国家、共同体の関係性を通して見た具体的なマイノリティの事例について考察する。
	事後学習	配付資料および教科書を用いた復習
15	事前学習	前回の配付資料の確認をする。教科書や参考資料など、指示されたものを精読する。（2時間）
	授業内容	前学期まとめ これまでの講義における理論的枠組みと具体的な文化事象を整理する。
	事後学習	配付資料および教科書を用いたこれまでの復習

科目名	文化人類学Ⅱ	担当者	前嵩西 一馬	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	文化人類学の世界へようこそ。本講座では、共同体、記憶、ことば、マイノリティといった現代社会を読み解くキーワードを軸に、私達を取り巻く様々な「文化」の諸相を具体的に考えます。			
授業目的・到達目標	本講座では、古今東西における様々な具体的事例を通して、他者の痛みを知ることや自己への内省的な姿勢を培うことで、人文科学における批判精神と想像力を養成することを目的とする。 それぞれの社会における文化に潜む倫理的規範を、異文化理解を通して相対的に見つめる視点と、自文化を見つめ直すという俯瞰的な視点を、主体的に身につけられることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1，2，3，4 毎回遅刻せずに全ての講義に出席することを強く望む。 初回の参加人数によっては登録者数の制限を行う。			
授業方法	適宜視覚教材などを用い、講義に関する資料を配布し、基本的にはレクチャーとグループワークの併用で90分間のトレーニングを行う。また講義後に提出するレビューシートへのフィードバックを次の講義にて行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	ほぼ毎回配布するレビューシートならびに参加態度を総合評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011	昭和堂	『沖縄学入門 空腹の作法』	勝方＝稲福恵子 前嵩西一馬
	備考			
参考書	参考文献などは講義において随時指示する。			
オフィスアワー	毎週木曜日の講義（2，3，5限）終了後、もしくは昼休みを含む休み時間に講義講堂にて質問を受け付ける。 事前にメールにて予約を取ることを薦める。 メールアドレスは、講義内にて伝達する。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの確認（2時間）
	授業内容	後期ガイダンス（授業計画、参考文献紹介など） 授業計画、今後の講義にて扱うテーマやトピックについての概略、ノートの取り方、参考文献紹介など。
	事後学習	ガイダンスの内容確認（2時間）
2	事前学習	配付資料および教科書を用いた予習（2時間）
	授業内容	「文化」「共同体」「民族」など、文化人類学の実践に関わる文献と映像（1） 文化人類学にとって文化を理解するとは何を意味するのか、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。
	事後学習	配付資料および教科書を用いた復習（2時間）
3	事前学習	配付資料および教科書を用いた予習（2時間）
	授業内容	「文化」「社会」「民族」など、文化人類学の実践に関わる文献と映像（2） 特に、社会におけるそれぞれ固有の問題について、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。
	事後学習	配付資料および教科書を用いた復習（2時間）
4	事前学習	配付資料および教科書を用いた予習（2時間）
	授業内容	「文化」「社会」「民族」など、文化人類学の実践に関わる文献と映像（3） 特に、人種問題に関するトピックについて、具体的な映像資料と配布資料を基に考察する。
	事後学習	配付資料および教科書を用いた復習（2時間）

5	事前学習	配付資料および教科書を用いた予習（2時間）
	授業内容	近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像（1） 文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。
	事後学習	配付資料および教科書を用いた復習（2時間）
6	事前学習	配付資料および教科書を用いた予習（2時間）
	授業内容	近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像（2） 文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。
	事後学習	配付資料および教科書を用いた復習（2時間）
7	事前学習	配付資料および教科書を用いた予習（2時間）
	授業内容	近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像（3） 文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。
	事後学習	配付資料および教科書を用いた復習（2時間）
8	事前学習	配付資料および教科書を用いた予習（2時間）
	授業内容	近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像（4） 文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。
	事後学習	配付資料および教科書を用いた復習（2時間）
9	事前学習	配付資料および教科書を用いた予習（2時間）
	授業内容	近・現代におけるマイノリティの形成過程についての文献と映像（5） 文化、社会、民族という基本的枠組みを踏まえうえて、具体的な映像資料と配布資料を基に、日本におけるマイノリティの諸相を考察する。
	事後学習	配付資料および教科書を用いた復習（2時間）
10	事前学習	配付資料および教科書を用いた予習（2時間）
	授業内容	マイノリティの可能性について（1） 具体的な芸術作品を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を考察する。
	事後学習	配付資料および教科書を用いた復習（2時間）
11	事前学習	配付資料および教科書を用いた予習（2時間）
	授業内容	マイノリティの可能性について（2） 具体的な社会運動を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を考察する。
	事後学習	配付資料および教科書を用いた復習（2時間）
12	事前学習	配付資料および教科書を用いた予習（2時間）
	授業内容	マイノリティの可能性について（3） 具体的な社会運動を中心に、マイノリティの当事者性と社会性のあり方を考察する。
	事後学習	配付資料および教科書を用いた復習（2時間）
13	事前学習	配付資料および教科書を用いた予習（2時間）
	授業内容	ポストモダン以降の人類学と文化理論について（1） 具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を考察する。
	事後学習	配付資料および教科書を用いた復習（2時間）
14	事前学習	配付資料および教科書を用いた予習（2時間）
	授業内容	ポストモダン以降の人類学と文化理論について（2） 具体的な民族誌の読解を通して、文化理解の理論的解釈を考察する。
	事後学習	配付資料および教科書を用いた復習（2時間）
15	事前学習	配付資料および教科書を用いたこれまでの復習（2時間）
	授業内容	後学期まとめ これまでの講義における理論的枠組みと具体的な文化事象を整理する。
	事後学習	配付資料および教科書を用いたこれまでの復習（2時間）

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義では、「社会人として実社会を生きていく上で必要な文章表現法」という観点から、講義を進める。具体的には、就職活動等において必要とされる各種小論文・論作文の書き方、エントリーシート・履歴書の書き方などを学習し、それが実際に使いこなせるようにすることを目的とする。レポート、小テストなどの課題を多く課す。「楽しんで単位をもらいたい」などという「不埒な輩」は心して受講し、勉学に勤しんで欲しい。			
授業目的・到達目標	課題文を厳密に解説して筆者の言わんとするところを正しく理解するとともに、それを正しい日本語で文章化することにより、課題に対して客観的・論理的にアプローチできる能力を育成することを目的とする。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力の育成を図ることも目的とする。そして最終的には、受講生が、日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正しい日本語で自己を表現し、他者と適切なコミュニケーションが取れるようになることを目標とする。関連DP及びCP：1, 2, 3, 4			
履修条件	単位認定には2/3以上の出席が必要。欠席・遅刻・早退には厳しく対応する。ゼミ関連・遠征・競技・各種実習等での欠席は、90分授業相当の課題レポートを提出した者のみ出席扱いとする。以上を了解した者のみ履修を認める。			
授業方法	テキストとプリント資料併用で、講義と演習を組み合わせた授業。各自の文章を教材として使用（全員にオープン）することもあるので了承の上で履修して欲しい。14回目に授業内試験、15回目にその解説と講評を実施する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	2/3以上の出席が必要。授業内試験、小テスト、課題レポートで総合的に評価する（上記「履修条件」を参照のこと）。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	翰林書房	『日本語表現法〔改訂版〕——21世紀を生きる社会人のたしなみ』	庄司達也・山岸郁子・小野美典ほか
	備考			
参考書	授業中に適宜紹介する。なお、授業には必ず国語辞典を持参すること。			
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館8階の小野研究室にて質問・相談を受け付ける（メールで事前にアポをとること）。また、第1回の授業時に質問用メールアドレスを公表するので、それも積極的に利用し、質問などで授業への理解を深めて欲しい。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス全体を読んで授業の概要と流れをつかむ。また、テキスト5ページの「はじめに」を読んでテキストの編集意図を理解しておく。（1時間）
	授業内容	〔1〕講義概要の説明（成績評価の方法なども詳細に説明するので、必ず出席すること）。〔2〕テキストの概要とその使い方の説明。
	事後学習	講義中の配付プリントとテキストを読み返し、理解の徹底に努める。（3時間）
2	事前学習	テキストの第9章を読んでおく。特に57ページに登場する語句で語義のわからないものは事前に調べて講義に臨む。（2時間）
	授業内容	履歴書の書き方1〔概説〕
	事後学習	講義中の説明をもとに再度テキストを読み返し、理解の徹底に努める。テキストに掲載されている「履歴書」〔例〕に記入してみる。（2時間）
3	事前学習	図書館の資料や各種ウェブサイトで、履歴書記入に際しての注意点を事前に調査しておく。（2時間）
	授業内容	履歴書の書き方2〔注意点〕
	事後学習	講義中に配布した履歴書の下書きを完成させる。また、最終的には完成させたものを課題学習として提出する。（2時間）
4	事前学習	前回の事後学習において作成した履歴書に不備がないか事前に確認する。（2時間）
	授業内容	履歴書の書き方3〔実例をもとに〕
	事後学習	講義中の配付プリントとテキストを読み返し、テキスト第9章の理解の徹底に努める。（2時間）

5	事前学習	テキストの第7章の前半（39～44ページ）を読んでおく。初めて目にする語句で語義のわからないものは事前に調べて講義に臨む。（2時間）
	授業内容	手紙の書き方1【手紙の基本と形式】
	事後学習	テキストの第7章の課題1（39ページ）をやり直すことにより、講義内容の理解の徹底に努める。（2時間）
6	事前学習	テキストの第7章の後半（45～46ページ）を読んでおく。初めて目にする語句で語義のわからないものは事前に調べて講義に臨む。（2時間）
	授業内容	手紙の書き方2【手紙文の構成と実例】
	事後学習	講義中に指示された手紙文を作成する。最終的には完成させたものを課題学習として提出する。（2時間）
7	事前学習	今回の講義内容はテキストには書あまり詳しくかかれていない事項なので、図書館の資料や各種ウェブサイトで、「カバーレター・添え状」に関して事前に調査しておく。（2時間）
	授業内容	手紙の書き方3【カバーレターとは】
	事後学習	講義中の配付プリントを読み返し理解の徹底に努めるとともに、各自でカバーレターを書いてみる。最終的には完成させたものを課題学習として提出する。（2時間）
8	事前学習	第6回の事後学習で取り組んだ提出課題にミスがないか、再度確認する。（2時間）
	授業内容	手紙の書き方4【実作演習】
	事後学習	テキストの第7章の課題2（39ページ）をやり直すことにより、講義内容の理解の徹底に努める。（2時間）
9	事前学習	テキストの第4章を読んでおく。語義のわからない語句は事前に調べて講義に臨む。（2時間）
	授業内容	小論文・作文の書き方1【小論文と作文】
	事後学習	講義中の説明をもとに再度テキストを読み返し、理解の徹底に努める。特にテキスト27ページの構成に関しては理解の徹底に努める。（2時間）
10	事前学習	テキストの第1章を読んでおく。語義のわからない語句は事前に調べて講義に臨む。（2時間）
	授業内容	小論文・作文の書き方2【文章を書く上での基礎知識1】
	事後学習	テキストの第1章の課題1・2（7ページ）をやり直すことにより、講義内容の理解の徹底に努める。（2時間）
11	事前学習	テキストの第3章を読んでおく。語義のわからない語句は事前に調べて講義に臨む。（2時間）
	授業内容	小論文・作文の書き方3【文章を書く上での基礎知識2】
	事後学習	テキストの第3章の課題（17ページ）をやり直すことにより、講義内容の理解の徹底に努める。（2時間）
12	事前学習	今回は授業内での課題演習をおこなうので、9・10・11回で学習した内容を事前に復習して講義に臨む。（2時間）
	授業内容	小論文・作文の書き方4【実作演習1】
	事後学習	自分が書き上げた課題に誤字・脱字がないか確認する。また、日本語として不自然な表現、わかりにくい言い回しがないか確認する。（2時間）
13	事前学習	前回の事後学習の内容を再度確認して、講義に臨む。（2時間）
	授業内容	小論文・作文の書き方5【演習の解説】。併せて次回の授業内試験の概要の説明。
	事後学習	返却された各自の答案の良い点・悪い点を考える。また、講義中に配布された他の人々の課題文の良い点・悪い点を各自で考える。（2時間）
14	事前学習	これまでの講義内容をまとめ、前回到公表された試験概要に沿って、対策を立てておく。（6時間）
	授業内容	【1】授業目的・到達目標の達成度確認試験。【2】13回までの授業内容に関する質疑応答の実施。疑問点の解消。
	事後学習	試験問題を再度解きなおしてみる。他の受講者たちの質疑応答をもとに、各自の理解の至らなかった点を復習する。（1時間）
15	事前学習	14回目の授業内試験の問題を再度確認し、授業での解説に備える。（1時間）
	授業内容	【1】14回目に実施した試験の解説・講評。質疑応答。【2】授業目的・到達目標を深化・発展させるための著作の紹介と概要説明。
	事後学習	授業内に行った解説・講評・紹介を参考にしてこれまでの授業をまとめるとともに、紹介された著作を読むこと等により更に理解の徹底と深化を図る。（3時間）

科目名	文章表現法 I	担当者	木村 一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	われわれは〈ことば〉をもって思考し、意思を伝達する。それにもかかわらず、現代では意思の伝達が困難になりつつある。デジタル全盛の社会において、現代人であるわれわれは、いかに〈ことば〉の重要性を再認識し自身のものとなし得るのか。文章で表現するということについて、読みと考察と実践とで鍛錬していく。			
授業目的・到達目標	文章表現は自己表現の一形態である。。人文・社会・自然の各分野から積極的に学び、自身の考察するところを文章で表現することを目的とする。そのためには、あらゆる歴史と文化、自然条件等を踏まえた開かれたものの見方を養い、新たな価値を創造・伝達できる力を養うことを目標とする。関連DP及びCP：総合科目領域1，2，3，6			
履修条件	なし			
授業方法	テキスト・資料を参照し講義をする。基本的に毎回、課題に解答してもらう。 前期は基本編、後期は応用編。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	(70%)授業内試験。講義で鍛錬したことの基礎知識、理解度、応用度、柔軟性を総合的に評価する。(30%)授業参加度、課題への取り組みの姿勢を評価の対象とする。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年3月	おうふう	文章表現ガイドダンス	西山春文 他
	備考	各自、提出用の原稿用紙（縦書・四百字詰）とホチキスを用意すること。		
参考書	必要に応じて講義当日にプリントを配布する。 辞書を必携とするが、電子辞書だと便利。なお、電子端末（＝スマホ・タブレット）の使用は認めない。			
オフィスアワー	火曜日12：30～13：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 受付場所は授業講堂 kimuraworknitidai@yahoo.co.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、テキスト各章の目次・冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。 (2時間)
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を含めて、文章表現の学修方法や注意点について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、テキストの内容と講義の内容と自身の書いた（あるいは考えた）ものの乖離を把握すること。 (2時間)
2	事前学習	テキスト1時限「まず自己紹介」を再度読み、自己紹介とはどのようなものであるのかという認識を新たにしておくこと。 (2時間)
	授業内容	1時限 まず自己紹介 「1.1自己紹介文は説明文 1.2自己紹介の目的は 1.3簡潔な表現」から、1回目の授業で書いた自身の自己紹介文と照らし合わせてみる。理想形に近づけてみる。
	事後学習	講義ノートを参照して、テキストの内容の把握と、講義での展開の把握すること。〈課される継続的課題〉 (2時間)
3	事前学習	テキスト2時限「論理的な「書き言葉」」を再度読み、「説明文」ということを把握しておくこと。 (2時間)
	授業内容	2時限 論理的な「書き言葉」 「2.1話し言葉と書きことば 2.2論理的な文章 2.3説明文」から、2回目で学修した内容との差別化を明確にす
	事後学習	講義ノートを参照して、自分の書いたものが「話し言葉と書き言葉」を明確に把握し、分けて書かれているかを確認する。〈課される継続的課題〉 (2時間)

4	事前学習	テキスト3時限「発想力トレーニング」を再度読み、そのトレーニングを把握しておくこと。 (2時間)
	授業内容	3時限 発想力トレーニング 「3.1三段論 3.2定義する 3.3逆転の発想 3.4言葉遊び」から、自身の考え方が「常識・通念」にとらわれていることから始める。
	事後学習	講義ノートを確認して、テキストの内容の把握と、講義での展開の把握すること。発想のトレーニングをしておく。 〈課される継続的課題〉 (2時間)
5	事前学習	テキスト4時限「論理的文章」を再度読み、論理的文章をいうことを把握しておくこと。 (2時間)
	授業内容	4時限 論理的文章 「4.1事実と意見 4.2意見には根拠が必要 4.3根拠が大事 4.4「～と思う」と書いてはいけない」から、それぞれの章の眼目を説明する。
	事後学習	講義ノートを確認して、各章が求めるものと自身の認識の乖離を理解すること。〈課される継続的課題〉 (2時間)
6	事前学習	テキスト5時限「文章を書くときのルール」を再度読み、各文章パターンの決まりを把握しておくこと。 (2時間)
	授業内容	5時限 文章を書くときのルール 「5.1原稿用紙の使い方 5.2引用のルール 5.3表紙・注・参考文献 5.4文章の構成 5.5段落に分けよう」と、用意した資料を用いて、具体的なルールを各ケースをあげて説明する。
	事後学習	講義ノートを確認して、各パターンの細かいルールを把握しておく。次回からの提出物において、使えるようにしておく。〈課される継続的課題〉 (2時間)
7	事前学習	テキスト6時限「学習レポートの作成」を再度読み、レポートということを把握しておくこと。 (2時間)
	授業内容	6時限 学習レポートの作成 「6.1レポートとは 6.2学習レポートの書き方」から、レポートとは、その他注意点を説明する。
	事後学習	講義ノートを確認して、レポートの概念・注意事項を実践で活かせるように確認しておく。〈課される継続的課題〉 (2時間)
8	事前学習	テキスト7時限「意見文を書く」を再度読み、意見文ということを把握しておくこと。 (2時間)
	授業内容	7時限 意見文を書く 「7.1課題文を理解する 7.2自分の意見をまとめる 7.3意見文を書く」から、意見文を書くためのプロセスを説明する。
	事後学習	講義ノートを確認して、自身の書いたものがその根拠・主張に則り、説得性ということまで整理しておくこと。〈課される継続的課題〉 (2時間)
9	事前学習	テキスト「8時限 表現を工夫する」を再度読み、自身の文章と比較しておくこと。 (2時間)
	授業内容	8時限 表現を工夫する 「8.1句読点と語順 8.2ねじれない文 8.3文末表現 8.4指示表現・接続表現 8.5読み手の立場で」を説明する。自身の書いたものを客観的に把握する。
	事後学習	講義ノートを参照して、「伝わらない理由」ということを認識・把握すること。〈課される継続的課題〉 (2時間)
10	事前学習	テキスト「9時限 研究レポートの作成1」を再度読み、これまで学修してきたことを実践的に活かすことを認識しておくこと。 (2時間)
	授業内容	9時限 研究レポートの作成1 「9.1ブレインストーミングで話題を絞る 9.2主題文を作る」ブレインストーミングということを学ぶ。主題文作成までのプロセスを体系的に説明する。
	事後学習	講義ノートを確認して、ブレインストーミングの方法を確認し、主題文の重要性を再認識する。〈課される継続的課題〉 (2時間)
11	事前学習	テキスト「10時限 研究レポートの作成2」を再度読み、前回の学修内容とのつながりを認識しておくこと。 (2時間)
	授業内容	10時限 研究レポートの作成2 「10.1資料のいろいろ 10.2資料リストの作成 10.3先行研究について 10.4資料の収集方法 10.5文献以外の資料について」を説明する。種々の細かいルールとマナー等、注意事項を説明する。
	事後学習	講義ノートを確認して、前回の講義内容とを連続性を把握する。〈課される継続的課題〉 (2時間)
12	事前学習	テキスト「11時限 研究レポートの作成3」を再度読み、前回・前々回との流れを把握しておくこと。 (2時間)
	授業内容	11時限 研究レポートの作成3 「11.1論の展開 11.2リンクマップ 11.3反論を想定する 11.4データを集め、主張を微調整する 11.5構成を考える」を具体的に説明する。文章作成の過程において、柔軟的対応が求められることを説明する。
	事後学習	講義ノートを参照して、前回・前々回からの流れの中に位置付ける作業をすること。〈課される継続的課題〉 (2時間)
13	事前学習	テキスト「12時限 研究レポートの作成4」を再度読み、セルフマネジメントということを把握しておくこと。 (2時間)
	授業内容	12時限 研究レポートの作成4 「12.1執筆時の注意 12.2表記上の注意」を説明し、全体を見る目の重要性を説明する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「9時限」からの一連の流れを理解・把握すること。〈課される継続的課題〉 (2時間)
14	事前学習	テキスト「手紙の書き方」を再読し、本単元のおおよその流れを把握すること。 (2時間)
	授業内容	13時限 手紙の書き方 「13.1手紙文の形式 13.2封筒・葉書の使い方 13.3ビジネスレターの書き方 13.4手紙の言葉」を説明し、デジタル社会の現代における手紙の役割などを説明する。
	事後学習	講義ノートを確認して、手紙を書いてみる。〈課される継続的課題〉 (2時間)

15	事前学習	これまでの学修内容の整理と確認 (2時間)
	授業内容	中間試験及びまとめ振り返り
	事後学習	テキストの内容の把握と、講義での展開の把握。〈課される継続的課題〉 (2時間)

科目名	文章表現法 I	担当者	鹿野 しのぶ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	文章表現における社会人としてのたしなみを身につけます。				
授業目的・到達目標	自身を見つめ分析し、そのことを的確に表現することを学び、実際に書いてみることを目的とします。エントリーシートや手紙の書き方を身につけることを目標とします。また、自分の考えをわかりやすく論理的に伝える書き方を学びます。 関連D P 及びC P：総合科目1, 2, 3, 6				
履修条件	積極的に授業に参加できる学生向けの授業です。受講希望者は、第1回目の授業に必ず出席して、ガイダンスを受けてください。				
授業方法	課題作文やその発表など、学生による演習型の授業です。ほぼ毎回、課題を提出・添削・返却／解説（フィードバック）を行うことにより、よりわかりやすい文章を書く力を身につけましょう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	課題作文の提出により評価をします。また、質疑応答での発言回数や内容なども評価ポイントとします。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2011年	翰林書房		『日本語表現法 改訂版 21世紀を生きる社会人のたしなみ』	庄司達也・山岸郁子・小野美典他
	備考				
参考書	授業中になるべく多く紹介します。				
オフィスアワー	金曜日・午後0時20分～午後0時50分、場所は授業講堂にて質問を受け付けます。その他、講義中に指示します。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読んでください。（2時間）
	授業内容	授業ガイダンス 授業の進め方、受講に当たってのルール、持参するものについて説明します。
	事後学習	テキストを準備し、一通り読んでおきましょう。（2時間）
2	事前学習	テキスト7ページの課題1をやっておきましょう。（2時間） テキスト53・54ページを読んでおきましょう。
	授業内容	自己紹介文1 効果的な自己紹介の方法を考えます。また、エントリーシートの書き方を学びます。
	事後学習	授業で示した課題をやってきてください。（2時間）
3	事前学習	テキスト8～9頁を読んでおきましょう。（2時間） 400字で自己紹介文を考えてきてください。
	授業内容	自己紹介文2 前回の授業を確認し、自己紹介文を書きます。
	事後学習	授業で示した課題をやってきてください。（2時間）
4	事前学習	自己紹介文を口頭発表できるように準備しておいてください。（2時間）
	授業内容	自己紹介文3 自己紹介を各自口頭で行います。
	事後学習	他の受講者の発表を聞いた感想を書いてきてください。（2時間）

5	事前学習	テキスト57ページを読み、履歴書が書けるように確認しておきましょう。（2時間）
	授業内容	履歴書の書き方 テキスト57ページに従って実際に履歴書を書いてみましょう。
	事後学習	記入するべきところに空欄があるときは、埋めてきてください。（2時間）
6	事前学習	テキスト39～46ページをよく読んできてください。（2時間）
	授業内容	手紙を書く1 時候の挨拶など、手紙の基本的な書き方について学びます。
	事後学習	テキスト40ページをよく読んでおいてください。（2時間）
7	事前学習	前回出題される課題に添って、手紙が書けるように準備しておいてください。（2時間）
	授業内容	手紙を書く2 実際に手紙を書いてみましょう。
	事後学習	時候の挨拶など、実践で記したもの以外の表現も確認しておきましょう。（2時間）
8	事前学習	テキスト37ページを読んでおきましょう。（2時間）
	授業内容	手紙を書く3 書いた手紙を添削、清書します。敬語表現などにも注意しながら書いてみましょう。
	事後学習	適切な敬語表現書かれているか、確認しておきましょう。（2時間）
9	事前学習	テキスト47～51ページを読んでおきましょう。（2時間）
	授業内容	電子メールの書き方 電子メールを使って自分の考えを的確に相手に伝える方法を学びます。
	事後学習	テキスト52ページを読んでおきましょう。（2時間）
10	事前学習	自分が読んだ本の中からみんなに紹介したい作品を1冊、準備しておきましょう。その際に、図書館を利用しましょう。（2時間）
	授業内容	課題作文1 読書体験を書こう。今まで読んだ本の中で印象深かったものについて、感想や自分に与えた影響についてまとめます。
	事後学習	感想文の書き方を復習しておいてください。（2時間）
11	事前学習	自分が紹介した本を、どのように表現したらみんなが読みたくなるか、プレゼンテーションの方法を考えておいてください。（2時間）
	授業内容	課題作文2 自分の読書体験を発表しよう。前回の課題について、自分の書いた文章を口頭発表してもらい、合評します。
	事後学習	添削で示された部分を復習しておきましょう。（2時間）
12	事前学習	テキスト13～16ページをよく読んでおきましょう。（2時間）
	授業内容	文章表現の基本1 論理的な文章とはどのようなものを考えます。
	事後学習	テキスト13ページの課題をやっておきましょう。（2時間）
13	事前学習	テキスト17～24ページをよく読んでおきましょう。（2時間）
	授業内容	文章表現の基本2 論理的な文章の書き方を学び、実際に書いてみよう。
	事後学習	テキスト17ページの課題をやっておきましょう。（2時間）
14	事前学習	テキスト25～28ページをよく読んでおきましょう。（2時間）
	授業内容	文章表現の基本3 前回書いた文章を添削し、全員で討論します。
	事後学習	添削で示された部分をリライトしておきましょう。（2時間）
15	事前学習	半期に学んだことについて、質問事項をまとめておきましょう。（2時間）
	授業内容	まとめ 前期に学んだことを振り返ります。
	事後学習	授業の到達目的が達成されたか、確認しましょう。（2時間）

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	高橋 啓之	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義においては、言語技能のうち、「書く」を中心に、文章の基礎を学んでいく。句読点の打ち方、表記の基礎から始まり、敬語の使い方や改まった手紙・メールの書き方、エントリーシートの書き方などを講義する。				
授業目的・到達目標	本講義では文章の基礎的能力を身につけることを目的とし、句読点や、文章の長さといった初歩的なスキルから、手紙や公用文の書き方や敬語など、社会に出ても通用する文章力を身につけることを目標とする。関連DP及びCP（総合科目・体育実技科目領域）1, 2, 3, 6				
履修条件	特になし。ただし、4年生の優遇は、就職活動を含め、一切ないものとする。また、必ず、1回目の講義に出席すること。また、皆出席が前提であるため、三分の一以上の欠席は原則単位を認定しない。詳細は最初の講義で説明する。				
授業方法	基本的には講義中心だが、時間内にレポート、小テストを行う。授業内試験の解説は最終回に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	前期授業内試験（50％）レポート（20％）及び授業中の課題（30％）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	毎回プリントを配布する。			
参考書	授業時に指示する。				
オフィスアワー	水曜4限 授業終了後授業講堂にて。 メールによる質問、相談については授業時に説明する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、自分の文章力を把握する。（2時間）
	授業内容	前期のガイダンス。授業全体を把握してもらう。
	事後学習	次の課題について準備する。（2時間）
2	事前学習	自分の文章力を元に、800字程度の文章を作成する。（2時間）
	授業内容	小論文作成（800字程度）。現在の自分の文章力の把握と書くスピードを認知する。
	事後学習	本課題について考え、改めて書いてみる。（3時間）
3	事前学習	前回の文章をふまえて、改めて自身の文章力を見直す。（2時間）
	授業内容	文章の基礎を学ぶ。「読む人が読みやすく、わかりやすい文章」とは何かを講義を通して理解する。
	事後学習	今回の講義を踏まえて文章を作る。（3時間）
4	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	文章の長さと文末表現。読み手が混乱しない文章作成を身につける。
	事後学習	自分の文章力を見直す。（2時間）

5	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	句読点について。特に、「読みやすい読点の打ち方」を身につける。
	事後学習	講義を踏まえて、課題の文章を作成する。（2時間）
6	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	悪文について（1）今回は、「相対的悪文」ともいうべき、読み手によって評価の変わる文章について、身につける。
	事後学習	講義を踏まえて、課題の文章を作る。（2時間）
7	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	悪文について（2）「絶対的悪文」ともいうべき、誰が読んでも読みづらい文章を読む。これを反面教師として、「読みやすい文章」も書き方を身につける。
	事後学習	講義を踏まえて、課題の文章を作る。（2時間）
8	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	話し言葉と書き言葉について学び、加えて文語表現と文体の統一について理解する。
	事後学習	講義を踏まえて、課題の文章を作る。（2時間）
9	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	引用について学び、引用と剽窃（いわゆる「バクリ」）の違いを理解し、正しい引用法を身につける。
	事後学習	講義を踏まえて、課題の文章を作る。（2時間）
10	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	参考文献について、その表記の仕方を身につける。
	事後学習	文献収集し、参考文献一覧を作成する。（4時間）
11	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	敬語について理解し、学生時代はもちろん、社会に出ても恥ずかしくない敬語の用法を身につける。
	事後学習	講義ノートをまとめ、練習問題に取り組む。（2時間）。
12	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	手紙について（1）「はがき」「封書」の用途の違いや、年賀状などの略式あいさつなど、一般的な手紙の用途について身につける。
	事後学習	講義ノートをまとめ、挨拶状を作成する。（2時間）
13	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	手紙について（2）今回は「改まった手紙」の書き方について講義する。その上で、きちんとした手紙やメールの作成法を身につける。
	事後学習	改まった手紙を書く。（3時間）
14	事前学習	前期の講義を振り返り、質問を考える。（2時間）
	授業内容	前期の内容をまとめ、基礎的文章力について、改めて理解する。
	事後学習	講義を踏まえて文章を作る。（2時間）
15	事前学習	授業内試験の準備（2時間）
	授業内容	授業内試験と解説
	事後学習	全体の復習（2時間）

科目名	文章表現法 I	担当者	野口 恵子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この授業では、まず、文章を書く際、誰に何を書くのかなど目的によって書き方のスタイルが異なることを学ぶ。さらに直面する問題を主体的に考察し、関係のある情報を適切に収集・整理をしながら、解決策を的確に、かつ論理的に自ら表現することができる。				
授業目的・到達目標	在学中・卒業後に書くことが求められる文章を多種取り上げる。それは、文学的な感動を起こさせるものではなく、事実を正確に伝える文章である。事実に基づいた意見を主張する表現、または相手を納得させる表現とはどのようなものなのか、相手に対して失礼にならない表現とはどのようなものなのかを学び、自ら表現する能力を養成することを目的とする。様々な文章を書くことによって、状況に応じた書き方の違いがあるに気づいた上で、それぞれの文書スタイルを修得することを目標とする。関連DP及びCP:総合科目 1, 2, 3, 6				
履修条件	特になし。但し、受講希望者が多数の場合は添削指導の回数が減少することを了解した上で履修してもらいたい。				
授業方法	教科書に従って進める。授業時間内で書くこともしばしば求めため、国語辞典（電子手帳可）を必ず持参すること。提出物や授業内試験のフィードバックは、次の授業以降ポータルシステムにて講評を公開する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内容をどの程度正確に理解しているかを評価する。 前期・後期授業内試験（80%）＋授業への参加度（20%）	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2007年	翰林書房	日本語表現法 21世紀を生きる社会人のたしなみ		庄司達也ほか
	備考				
参考書	三省堂編集所編『新しい国語表記ハンドブック』：三省堂など。その他については、適宜授業中に紹介する。				
オフィスアワー	研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を全体読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業計画とその内容の説明
	事後学習	要約ノートを準備し、新聞の社説を要約する（次の授業で提出）。（2時間）
2	事前学習	前回の授業で配られたプリントを読んでおく。（2時間）
	授業内容	要約する目的を理解できた上で、その情報に基づいた意見文を書く。〔実践〕
	事後学習	新聞の社説を要約する（次の授業で提出）。（2時間）
3	事前学習	前回の授業で配られたプリントを読んでおく。（2時間）
	授業内容	前回書いた意見文を使って、正しい表記方法について理解できる。〔説明〕
	事後学習	新聞の社説を要約する（次の授業で提出）。（2時間）
4	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第1章「まずは書いてみよう」＋復習プリント 基本的な原稿用紙の書き方を再確認した後、原稿用紙を正しく使用することができる。
	事後学習	新聞の社説を要約する（次の授業で提出）。（2時間）

5	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第2章「悪文とは？」＋復習プリント 不適切な表現や理解しにくい表現を自ら訂正することができる。〔実践〕
	事後学習	新聞の社説を要約する（次回の授業で提出）。（2時間）
6	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	要約文と意見文の作成方法の説明を受けた上で、区別して書くことができる。〔実践〕
	事後学習	要約文と意見文の違いを確認する。（2時間）
7	事前学習	教科書の第1章と第2章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	意見文と感想文の表現上の違いを理解した上で、作成方法を身に付けることができる。〔説明〕
	事後学習	意見文と感想文の違いを確認する。（2時間）
8	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	意見文と感想文の内容上の違いを理解した上で、意見文を書くことができる。〔実践〕
	事後学習	意見文の書き方を確認する。（2時間）
9	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第3章「良い文章を書くために」① レポートを書く目的と表記方法を理解することができる。〔説明〕
	事後学習	レポートの文体を確認する。（2時間）
10	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第3章「良い文章を書くために」②＋復習プリント レポートの形式と構成を理解することができる。〔説明〕
	事後学習	文献の引用方法を確認する。（2時間）
11	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第4章「さあ文章を書いてみよう」① 文章の種類によって、構成等の違いがあることを理解することができる。〔説明〕
	事後学習	作文・論作文・論文それぞれの違いを確認する。（2時間）
12	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第4章「さあ文章を書いてみよう」②＋復習プリント テキストを批判することによって、自分の考えを導くことができる。〔説明〕
	事後学習	テキスト批評の構成を確認する。（2時間）
13	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第5章「プレゼンテーションをより効果的に」① プレゼンテーションの手順と注意点を理解できる。〔説明〕
	事後学習	プレゼンテーションの手順と注意点を確認する。（2時間）
14	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第5章「プレゼンテーションをより効果的に」②＋復習プリント プレゼンテーションの構成を理解できる。〔説明〕
	事後学習	プレゼンテーションのアウトラインを確認する。（2時間）
15	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	前期授業の復習テストとその解説
	事後学習	教科書巻末にある練習問題を解く。（2時間）

科目名	文章表現法 I	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけてるための講義を実践的に進めてゆく。エッセイや評論を中心とした自分の考え・意見の表出を中心に、基本的な文章表現に習熟してゆくための講義を行う。また文芸評論に携わる立場からの、文章の読解・執筆についての解説も行う。				
授業目的・到達目標	書くことに関して意識すべき基本的な事柄を身につけることを目的とし、様々な問題に批判的に取り組みつつ、他者に向けた文章を表現できる力を身につけられることを目標とする。到達DP及びCP：1, 2, 3, 6				
履修条件	特になし。				
授業方法	提出する課題を添削して返却する。欠席は原則として認めないので注意すること。なお、シラバスの授業進行はテーマが前後することもあることをお断りしておく。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	毎回の授業で課題として出す作文を、評価基準として重視する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	授業内で配布するプリントをテキストとして使用する。			
参考書	授業中に適宜指示する。				
オフィスアワー	火曜4限、本館1614研究室にて（事前に必ずアポイントメントを取ること）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	これまでの自分の文章表現に対する取り組みを振り返っておくこと。（2時間）
	授業内容	イントロダクション。文章表現について
	事後学習	文章表現について、講義の要点の復習をしておくこと。（2時間）
2	事前学習	文章表現について、前回内容の確認をしておくこと。（2時間）
	授業内容	自己紹介文を書く自己紹介文について、
	事後学習	自己紹介文について、講義の要点の復習をしておくこと。（2時間）
3	事前学習	自己紹介文について、前回内容の確認をしておくこと。（2時間）
	授業内容	記憶を書く
	事後学習	記憶を書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。（2時間）
4	事前学習	記憶を書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。（2時間）
	授業内容	悪文に学ぶ
	事後学習	悪文に学ぶことについて、講義の要点の復習をしておくこと。（2時間）

5	事前学習	悪文に学ぶことについて、前回内容の確認をしておくこと。（2時間）
	授業内容	厳密に書く
	事後学習	厳密に書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。（2時間）
6	事前学習	厳密に書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。（2時間）
	授業内容	言い換えに注意して書く
	事後学習	言い換えに注意して書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。（2時間）
7	事前学習	言い換えに注意して書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。（2時間）
	授業内容	エピソードを書く
	事後学習	エピソードを書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。（2時間）
8	事前学習	エピソードを書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。（2時間）
	授業内容	近親者に向けて書く近親者に向けて書くことについて、
	事後学習	近親者に向けて書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。（2時間）
9	事前学習	近親者に向けて書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。（2時間）
	授業内容	長文記事をまとめる
	事後学習	長文記事をまとめることについて、講義の要点の復習をしておくこと。（2時間）
10	事前学習	長文記事をまとめることについて、前回内容の確認をしておくこと。（2時間）
	授業内容	肯定・否定の意見を書く
	事後学習	肯定・否定の意見を書くことについて、講義の要点の復習をしておくこと。（2時間）
11	事前学習	肯定・否定の意見を書くことについて、前回内容の確認をしておくこと。（2時間）
	授業内容	学生生活について報告する
	事後学習	学生生活の報告について、講義の要点の復習をしておくこと。（2時間）
12	事前学習	学生生活の報告について、前回内容の確認をしておくこと。（2時間）
	授業内容	レポートの目標を設定する
	事後学習	レポートの目標を設定することについて、講義の要点の復習をしておくこと。（2時間）
13	事前学習	レポートの目標を設定することについて、前回内容の確認をしておくこと。最終課題に向けての準備をすること。（2時間）
	授業内容	引用・参考文献をまとめる
	事後学習	引用・参考文献をまとめることについて、講義の要点の復習をしておくこと。（2時間）
14	事前学習	引用・参考文献をまとめることについて、前回内容の確認をしておくこと。最終課題に向けての準備をすること。（2時間）
	授業内容	レポートを執筆する
	事後学習	レポートを執筆することについて、講義の要点の復習をしておくこと。（2時間）
15	事前学習	レポートを執筆することについて、前回内容の確認をしておくこと。最終課題に向けての準備をすること。（2時間）
	授業内容	半期の授業をふりかえり、理解の到達度を確認する。最終課題の提出
	事後学習	半期を振り返り、要点を復習すること。（2時間）

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	渡辺 重人	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	文章表現法Ⅰは、〈書く〉という言語技能を中心に洗練し、効果的な文章表現ができるようになることを目指す授業です。そのため、授業時と準備学修時に文章作成を通して〈書く〉という言語技能を十分に発揮していくことが肝要となります。このプロセスによって、実用文などを必要に応じて適切に作成できるようになります。							
授業目的・到達目標	社会人として必要となる、効果的な文章を作成する表現力の養成を目的とします。また、次の1～3についてできるようになり、豊かなコミュニケーションを図れるようになることを到達目標とします。1. 表記の基準や文章表現に関する基本的な注意事項を踏まえて、多様なジャンルの文章をわかりやすく作成することができる。2. 適切な敬語を使用し、手紙文などの実用文を作成することができる。関連D P及びC P：1, 2, 3, 6							
履修条件	何事にも積極的に取り組み、文章作成に関する抵抗を減らしていくことを求めます。							
授業方法	講義形式、個人作業、ピア・ワークを複合して進めます。フィードバック方法：演習問題の解説・作成例の提示、提出物の講評、小テストの添削・返却、到達度試験の解説と講評とします。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%					
	平常評価		100%		到達度試験（敬意表現・手紙文）50%、小テスト（敬語）20%、提出物と授業時の積極性30%で評価します。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	備考		プリントを配布します。					
参考書	文章表現に関する文献を授業時に適宜紹介します。							
オフィスアワー	木曜5限、授業終了後、授業講堂にて。 watanabe.shigetoll★nihon-u.ac.jp ★印を@に変更してください。エラーでメールのやりとりができないことがあります。レスポンスが遅い場合は授業の前後に直接申し出てください。							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、向上させたい能力、身に付けたい知識・技術についてまとめておきます。（2時間）
	授業内容	学修活動と全体のスケジュールを確認します。
	事後学習	スケジュールを踏まえて、各自の学修計画を立てます。（2時間）
2	事前学習	メールや提出物などで日常的に用いている表記について確認し、各自の表記の特徴をまとめておきます。（2時間）
	授業内容	表記法の確認：表記の基準と読みやすさについて演習問題に取り組み、確認します。
	事後学習	図書館やP Cで各自が用意した文章を表記の基準に注意しながら読み、必要に応じて修正します。（2時間）
3	事前学習	わかりやすい説明文の特徴について想起し、まとめておきます。（2時間）
	授業内容	説明文の作成：わかりやすい説明の仕方を踏まえて実践し、ピア・ワークで確認します。
	事後学習	作成例を基に説明文をリライトし、演習問題に取り組みます。（2時間）
4	事前学習	要約文作成のポイントについて想起し、まとめておきます。（2時間）
	授業内容	要約文の作成：要点の捉え方と文章化の手順を踏まえて実践し、ピア・ワークで確認します。
	事後学習	作成例を基に要約文をリライトし、演習問題に取り組みます。（2時間）

5	事前学習	尊敬語の使用について想起し、曖昧な部分をピア・ワークで確認しておきます。（2時間）
	授業内容	敬意表現：尊敬語 尊敬語の適切な使用について理解します。
	事後学習	学修内容を踏まえて演習問題に取り組み、尊敬語の使用が適切かどうかについて再確認します。（2時間）
6	事前学習	謙譲語の使用について想起し、曖昧な部分をピア・ワークで確認しておきます。（2時間）
	授業内容	敬意表現：謙譲語 謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱの適切な使用について理解します。
	事後学習	学修内容を踏まえて演習問題に取り組み、謙譲語の使用が適切かどうかについて再確認します。（2時間）
7	事前学習	丁寧語・美化語の使用について想起し、曖昧な部分をピア・ワークで確認しておきます。（2時間）
	授業内容	敬意表現：丁寧語・美化語 丁寧語・美化語の適切な使用について理解します。
	事後学習	学修内容を踏まえて演習問題に取り組み、丁寧語・美化語の使用が適切かどうかについて再確認します。（2時間）
8	事前学習	敬語使用全般について弱点がないか整理し、ピア・ワークで確認しておきます。（2時間）
	授業内容	敬意表現：誤用例の解説と小テスト 誤用例について学び、小テストで到達度を確認します。
	事後学習	小テストを踏まえて、敬語使用についての弱点を確認し、復習に取り組みます。（2時間）
9	事前学習	手紙文作成に関する、現段階での知識を想起し、曖昧な部分を確認しておきます。（2時間）
	授業内容	実用文：手紙文（目上宛の私信）の基本 手紙文の基本ルールを修得します。
	事後学習	作成例を基に手紙文の基本ルールについて整理しておきます。（2時間）
10	事前学習	手紙文作成の準備をし、演習問題に取り組みます。（2時間）
	授業内容	実用文：手紙文の作成 基本ルールを活用し、事前に作成した手紙文をリライトします。
	事後学習	作成例を基に演習問題に取り組みます。（2時間）
11	事前学習	日常的なメールの使用に問題点がないか、ピア・ワークで確認しておきます。（2時間）
	授業内容	実用文：メールの基本 教員とのメール、就職活動時のメールについての注意点を学びます。
	事後学習	作成例を基にメールをリライトし、演習問題に取り組みます。（2時間）
12	事前学習	自己分析シートを作成し、ピア・ワークで読み合わせをします。（2時間）
	授業内容	実用文：エントリーシート作成の基本 基本的な知識と手順を踏まえて、自己分析シートの見直しをします。
	事後学習	エントリーシートの効果的な作成の仕方について整理しておきます。（2時間）
13	事前学習	自己分析シートを踏まえてアピールポイントを確認します。（2時間）
	授業内容	実用文：自己PR作成 基本的な知識と手順を踏まえて自己PRを作成し、ピア・ワークで読み合わせをします。
	事後学習	作成例を基に自己PRをリライトします。（2時間）
14	事前学習	敬意表現と手紙文についての学修内容を整理します。（2時間）
	授業内容	到達度試験の準備と実施：敬意表現と手紙について復習し、到達度を確認します。
	事後学習	敬意表現と手紙文について自己点検をします。（2時間）
15	事前学習	敬意表現と手紙文について自己点検し、弱点について分析します。（2時間）
	授業内容	到達度試験の振り返り：到達度試験を解説と講評によって振り返り、各自の弱点について検討します。
	事後学習	敬意表現と手紙文についての弱点を再確認し、克服のための手立てを講じ、実践します。（2時間）

科目名	文章表現法Ⅰ	担当者	茅原 雅之	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本語表現の基礎的な事項に関する講義をおこなう。また講義によって得た知識を，実際に文章を作成することにより，現実の社会生活の中で活用できるようにしていく。「文章表現法Ⅰ」では，漢字の学習，手紙の書き方，原稿用紙の使用法，修辞法に関する知識，段落構成の組み方，作文の方法等を学習する。				
授業目的・到達目標	日本語の表現力は，分かりやすい文章，上手な文章を書こうと意識して努力しないかぎり，なかなか上達するものではない。この授業では，文章には一定の表現形式があり，書き方のルールがあることを学び，社会人として必要な水準での文章表現力の獲得を目的とする。わかりやすく適切な文章が作成できること，論理的な文章が作成できることを到達目標にする。関連D P及びC P：総合科目 1， 2， 3， 6				
履修条件	文章表現の能力向上に興味がある者，また本気で取り組む意思がある者。授業では発言を求められることがあり，積極的に授業に参加できることが履修の条件となる。				
授業方法	講義および実習によって進める。文章作成にあたっての留意点を講義したのち，学生各自が実際に文章を作成する。作成した文章については，添削によって，問題点と良かった点を指導する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業内で作成した文章の到達度，および授業内試験の成績。授業時に指示する文章作成の課題については，必ず提出すること。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2014年3月20日	翰林書房	日本語表現法〔改訂版〕21世紀を生きる社会人のたしなみ		庄司達也・山岸郁子・他
	備考				
参 考 書	『国語表現ハンドブック新訂版』長谷川泉著 明治書院				
オフィスアワー	質問・相談については電子メールにて対応。E-mail:locke@sea.plala.or.jp また授業の前後（月曜2限もしくは金曜2限）にも，直接の相談を受け付ける。授業講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	辞書・教科書の準備。教科書の内容確認。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション
	事後学習	配布資料〈漢字〉の復習。（2時間）
2	事前学習	配布資料〈手紙の構成〉に関する予習。（2時間）
	授業内容	手紙の書き方。（1）
	事後学習	配布資料〈手紙の構成〉に関する復習。（2時間）
3	事前学習	教科書〈手紙を書こう〉項目の予習。（2時間）
	授業内容	手紙の書き方。（2）
	事後学習	教科書〈手紙を書こう〉項目の復習。（2時間）
4	事前学習	配布資料〈読みやすい文章とは〉の予習。（2時間）
	授業内容	「読みやすい文章」「誤った文章」とは。（1）
	事後学習	配布資料〈読みやすい文章とは〉の復習。（2時間）

5	事前学習	教科書〈悪文とは〉項目の予習。（2時間）
	授業内容	「読みやすい文章」「誤った文章」とは。（2）
	事後学習	教科書〈悪文とは〉項目の復習。（2時間）
6	事前学習	配布資料〈敬語の理解〉に関する予習。（2時間）
	授業内容	文章表現の基礎，敬語の確認。（1）
	事後学習	配布資料〈敬語の理解〉に関する復習。（2時間）
7	事前学習	教科書〈敬語を適切に使おう〉項目の予習。（2時間）
	授業内容	文章表現の基礎，敬語の確認。（2）
	事後学習	教科書〈敬語を適切に使おう〉項目の復習。（2時間）
8	事前学習	教科書〈まずは書いてみよう〉項目の予習。（2時間）
	授業内容	文章表現の基礎，原稿用紙の使い方。
	事後学習	教科書〈まずは書いてみよう〉項目の復習。（2時間）
9	事前学習	教科書〈さあ文書をかいてみよう〉項目の予習。（2時間）
	授業内容	文章表現の基礎，段落・構成の組み方。
	事後学習	教科書〈さあ文書をかいてみよう〉項目の復習。（2時間）
10	事前学習	自分が紹介したいと思う作品の選定。（2時間）
	授業内容	紹介文（小説・映画・漫画，その他）を書いてみよう。（1）
	事後学習	自分が紹介したいと思う作品の適否確認。（2時間）
11	事前学習	自分が紹介したいと思う作品の調査。（2時間）
	授業内容	紹介文（小説・映画・漫画，その他）を書いてみよう。（2）
	事後学習	自分が紹介したいと思う作品の周辺調査と資料準備。（2時間）
12	事前学習	紹介文の文章構成を考える。（2時間）
	授業内容	紹介文（小説・映画・漫画，その他）を書いてみよう。（3）
	事後学習	提出課題〈紹介文〉の作成。（2時間）
13	事前学習	教科書〈練習問題〉項目の予習。（2時間）
	授業内容	文章表現の基礎，漢字の確認。（1）
	事後学習	教科書〈練習問題〉項目の復習。（2時間）
14	事前学習	授業にて理解不十分であった点を自己点検する。（2時間）
	授業内容	前期のまとめ。前期授業に関する質疑応答。
	事後学習	前期授業の自己総括。（2時間）
15	事前学習	前期到達試験に関する学習。（2時間）
	授業内容	前期到達度試験、および解答と解説。講義全体のまとめ。
	事後学習	前期到達試験に関する自己反省。（2時間）

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「社会人として実社会を生きていく上で必要な文章表現法」という観点からの講義・演習。具体的には、社会に出てから必要とされる冠婚葬祭の場での祝儀袋・不祝儀袋・贈答品の表書きの書き方、敬語法の正しい理解と使用、就職活動等において必要とされる各種の課題文の書き方、長文の要約法などを中心に扱う。授業以外にも課題を多く課す。「楽しんで単位をもらいたい」などという「不埒な輩」は心して受講し、勉学に勤しんで欲しい。					
授業目的・到達目標	課題文を厳密に解説して筆者の言わんとするところを正しく理解するとともに、それを正しい日本語で文章化することにより、課題に対して客観的・論理的にアプローチできる能力を育成することを目的とする。併せて、積極的な授業への参加（特に文章作成）と能動的な事前・事後学習により幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力の育成を図ることも目的とする。そして最終的には、受講生が、日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正しい日本語で自己を表現し、他者と適切なコミュニケーションが取れるようになることを目標とする。関連DP及びCP：1, 2, 3, 4					
履修条件	2/3以上の出席が必要。欠席・遅刻・早退には厳しく対応する。ゼミ関連・遠征・競技・各種実習などでの欠席は、90分授業相当の課題レポートを提出した者のみ出席扱いとする。以上を了解した者のみ履修を認める。					
授業方法	テキストとプリント資料併用で、講義と演習を組み合わせた授業。各自の文章を教材として使用（全員にオープン）することもあるので了承の上で履修して欲しい。14回目に授業内試験、15回目にその解説と講評を実施する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		2/3以上の出席が必要。授業内試験、小テスト、課題レポートで総合的に評価する（上記「履修条件」を参照のこと）。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	翰林書房		『日本語表現法〔改訂版〕——21世紀を生きる社会人のたしなみ』		庄司達也・山岸郁子・小野美典ほか
	備考					
参考書	授業中に適宜紹介する。なお、授業には必ず国語辞典を持参すること。					
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館8階の小野研究室にて質問・相談を受け付ける（メールで事前にアポをとること）。また、第1回の授業時に質問用メールアドレスを公表するので、それも積極的に利用し、質問などで授業への理解を深めて欲しい。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを事前に読んで、講義の流れを理解しておく。また、テキスト5ページの「はじめに」を読んでテキストの編集意図を理解しておく。（1時間）
	授業内容	講義概要の説明（成績評価の方法なども詳細に説明するので、必ず出席すること）
	事後学習	講義内での配付プリントを読み直し、理解の徹底を図る。（3時間）
2	事前学習	テキストの第10章の前半（59～62ページ）を事前に読んで講義に臨む。わからない語句があったら事前に調べておく。（2時間）
	授業内容	冠婚葬祭・贈答にかかわる文章表現1〔祝儀・不祝儀袋のおもて書き〕
	事後学習	テキストの課題1（59ページ）をやり直すことで、理解の徹底を図る。（2時間）
3	事前学習	テキストの第10章の後半（63～64ページ）を事前に読んで講義に臨む。わからない語句があったら事前に調べておく。（2時間）
	授業内容	冠婚葬祭・贈答にかかわる文章表現2〔熨斗と水引の意味〕
	事後学習	講義中の配付プリントを読み直し、理解の徹底を図る。ウェブサイトで熨斗・水引・熨斗袋・熨斗紙について調査する。（2時間）
4	事前学習	図書館の資料やウェブサイトなどで日本の年中行事を調べ、その際に必要とされる「文章表現」や様々な「書き方」の慣習について調べておく。（2時間）
	授業内容	冠婚葬祭・贈答にかかわる文章表現3〔年中行事で使う文章表現〕
	事後学習	テキストの課題2（59ページ）をやり直すことで、理解の徹底を図る。（2時間）

5	事前学習	テキストの第6章の前半（33～34ページ）を事前に読んで講義に臨む。わからない語句があったら事前に調べておく。（2時間）
	授業内容	敬語法 1【敬語法の基本概念】
	事後学習	テキストの課題（33ページ）をやり直すことで、理解の徹底を図る。（2時間）
6	事前学習	テキストの第6章の後半（35～36ページ）を事前に読んで講義に臨む。わからない語句があったら事前に調べておく。（2時間）
	授業内容	敬語法 2【社会の中に見られる敬語の誤用】
	事後学習	講義内での配付プリントを読み直し、理解の徹底を図る。また、配付プリントに掲載されている練習問題を解いてみる。（2時間）
7	事前学習	今回の講義内容は、テキストにはない事項なので、5・6回の講義内容をよく復習して講義に臨む。（2時間）
	授業内容	敬語法 3【注意すべき敬語の用法】
	事後学習	配付プリントに掲載されている各種試験における敬語法の練習問題を解いてみる。（2時間）
8	事前学習	テキストの第6章の末尾掲載の資料（37～38ページ）を事前に読んで講義に臨む。わからない語句があったら事前に調べておく。（2時間）
	授業内容	敬語法 4【正しい敬語】
	事後学習	返却された小テストの間違った箇所を各自で確認し、正しい解答を考える。（2時間）
9	事前学習	今回から「課題の完成・提出」「課題への解説」「添削の返却」「添削内容の確認」を繰り返さず講義である。それらの前提が文章表現・論文作成の基礎なので、テキストの3・4章を事前に読む。法学部のテキスト『自主創造の基礎』8章も参考になるので事前に読んでおく。（2時間）
	授業内容	小論文・論作文の実践演習 1【要約の方法】
	事後学習	講義内配布資料とテキストを読み直して、要約の方法についての理解に誤りがないか確認する。また、各自の課題が適切になされているか確認する。（2時間）
10	事前学習	前回の授業を振り返りつつ「要約の実践」について考えておく。テキストの3・4章を事前に読んで講義に臨むようにする。法学部のテキスト『自主創造の基礎』8章も参考になるので事前に読んでおく。（2時間）
	授業内容	小論文・論作文の実践演習 2【要約の実践】
	事後学習	講義内配布資料とテキストを読み直して、要約の実践についての理解に誤りがないか確認する。また、各自の課題が適切になされているか確認する。（2時間）
11	事前学習	前回の授業を振り返るとともに、「意見論述の方法」について考えておく。テキストの3・4章を事前に読んで講義に臨むようにする。（2時間）
	授業内容	小論文・論作文の実践演習 3【意見論述の方法】
	事後学習	講義内配布資料とテキストを読み直して、意見論述の方法についての理解に誤りがないか確認する。また、各自の課題が適切になされているか確認する。（2時間）
12	事前学習	前回の授業を振り返るとともに、「意見論述の実践」について考えておく。テキストの3・4章を事前に読んで講義に臨むようにする。（2時間）
	授業内容	小論文・論作文の実践演習 4【意見論述の実践】
	事後学習	講義内配布資料とテキストを読み直して、意見論述の実践についての理解に誤りがないか確認する。また、各自の課題が適切になされているか確認する。（2時間）
13	事前学習	これまでの「実践演習」で学んだことを確認するとともに、「課題の完成・提出」「課題への解説」「添削の返却」「添削内容の確認」を振り返っておく。（2時間）
	授業内容	小論文・論作文の実践演習 5【演習のまとめ】。併せて次回の授業内試験の概要の説明。
	事後学習	講義内配布資料とテキストを読み直してこれまでの授業への理解に誤りがないか確認する。また、各自の課題が適切になされているか確認する。（2時間）
14	事前学習	これまでの講義内容をまとめ、前回到公表された試験概要に沿って、対策を立てておく。（6時間）
	授業内容	〔1〕授業目的・到達目標の達成度確認試験。〔2〕13回までの授業内容に関する質疑応答の実施。疑問点の解消。
	事後学習	試験問題を再度解きなおしてみる。他の受講者たちの質疑応答をもとに、各自の理解の至らなかった点を復習する。（1時間）
15	事前学習	14回目の授業内試験の問題を再度確認し、授業での解説に備える。（1時間）
	授業内容	〔1〕14回目に実施した試験の解説・講評。質疑応答。〔2〕授業目的・到達目標を深化・発展させるための著作の紹介と概要説明。
	事後学習	授業内に行った解説・講評・紹介を参考にしてこれまでの授業をまとめるとともに、紹介された著作を読むこと等により更に理解の徹底と深化を図る。（3時間）

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	木村 一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	われわれは〈ことば〉をもって思考し、意思を伝達する。それにもかかわらず、現代では意思の伝達が困難になりつつある。デジタル全盛の社会において、現代人であるわれわれは、いかに〈ことば〉の重要性を再認識し自身のものとなし得るのか。文章で表現するということについて、読みと考察と実践とで鍛錬していく。			
授業目的・到達目標	文章表現は自己表現の一形態である。。人文・社会・自然の各分野から積極的に学び、自身の考察するところを文章で表現することを目的とする。そのためには、あらゆる歴史と文化、自然条件等を踏まえた開かれたものの見方を養い、新たな価値を創造・伝達する力を養うことを目標とする。関連DP及びCP：総合科目1, 2, 3, 6			
履修条件	なし			
授業方法	テキスト・資料を参照し講義をする。基本的に毎回、課題に解答してもらう。 前期は基本編、後期は応用編。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	(70%)授業内試験。講義で鍛錬したことの基礎知識、理解度、応用度、柔軟性を総合的に評価する。(30%)授業参加度、課題への取り組みの姿勢を評価の対象とする。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年3月	おうふう	文章表現ガイダンス	西山春文 他
	備考	各自、提出用の原稿用紙（縦書・四百字詰）とホチキスを用意すること。		
参考書	必要に応じて講義当日にプリントを配布する。 辞書を必携とするが、電子辞書だと便利。なお、電子端末（＝スマホ・タブレット）の使用は認めない。			
オフィスアワー	火曜日12：30～13：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 受付場所は授業講堂 kimuraworknitidai@yahoo.co.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期までの確認。前期間中はテキスト中心の講義・実践であることを確実にしておくこと。 (2時間)
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を含めて、文章表現の学修方法や注意点について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	これまでの学修内容の整理と確認をしておく。 (2時間)
2	事前学習	テキスト「エントリーシート・履歴書の書き方」を再読し、何をどう学ぶかということを把握しておくこと。 (2時間)
	授業内容	1.4時限 エントリーシート・履歴書の書き方 「14.1エントリーシートの書き方 14.2履歴書の書き方」を講義し、実際にエントリーシートを書いてみる。
	事後学習	講義ノートを確認して、エントリーシートの書き方を把握しておくこと。 (2時間)
3	事前学習	前回の学修内容の整理と自身の何をどのようにアピールすべきなのか、ということを準備しておくこと。 (2時間)
	授業内容	X時限 エントリーシート応用 何らかの「条件」を課した上で、エントリーシートを書いてみる。前回の反省がどのように活かしているか、あるいは活かせないまま終わるのか、という説明をする。
	事後学習	学修内容の整理、エントリーシートの重要なポイントを整理・把握すること。 (2時間)
4	事前学習	これまでの学修内容の応用編という自覚 後期の眼目は、歴代作家から文章について学ぶことである。列挙された作家を把握しておく。 (2時間)
	授業内容	谷崎潤一郎の「文章読本」から学ぶこと 谷崎が目指したものの、谷崎が理想としたものを実際の資料を読みながら考えていく。
	事後学習	講義ノートを参照して、講義内容の確認。谷崎が目指したものを時代的な背景を含めて、理解・把握すること。 (2時間)

5	事前学習	谷崎から次の作家へと移行するが、伊藤整について、おおまかに把握しておく。 (2時間)
	授業内容	伊藤整から学ぶもの 伊藤整の著したものにも、実は「谷崎」が出てくる。どのような関係性があるのかを資料を読みながら考えていく。
	事後学習	講義ノートを参照して、講義内容の確認。伊藤整と谷崎との関係性を理解・把握しておく。
6	事前学習	萩原朔太郎について、おおまかに把握しておく。 (2時間)
	授業内容	萩原朔太郎から学ぶもの これまで、谷崎潤一郎・伊藤整と資料を読みながら考えてきたが、萩原朔太郎ではどうであろうか。ある共通点を手掛かりに、テーマを体系的に説明していく。
	事後学習	講義ノートを参照して、講義内容の確認。歴代作家三人目の萩原朔太郎は、前二人とどのような差異があったのかを把握しておく。 (2時間)
7	事前学習	井伏鱒二について、おおまかに把握しておく。 (2時間)
	授業内容	井伏鱒二の苦悩から学ぶもの 井伏鱒二は、あることに苦悩しつつ文章を書いている。実際に資料を読みながら考えていく。
	事後学習	講義ノートを参照して、講義内容の確認。井伏鱒二の苦悩について把握しておく。 (2時間)
8	事前学習	作家というものは「苦悩」するものであろうか。宇野千代について、おおまかに把握しておく。 (2時間)
	授業内容	宇野千代のスタンスから学ぶもの 歴代初の女性作家であるが、宇野千代という個性がなすものを実際の資料をとおして考えていく。
	事後学習	講義ノートを参照して、講義内容の確認。宇野千代の個性とはどのようなものであったか。 (2時間)
9	事前学習	前回到続いて女性作家を取り上げる。変則的に「香山リカ」を同時に取り上げる。両者をおおまかに把握しておく。 (2時間)
	授業内容	佐多稲子・香山リカから学ぶもの 文章はどのように書くべきなのか、ということを二人の女性作家が著したものを実際に読みながら考えていく。
	事後学習	講義ノートを参照して、二人の作家のそれぞれのスタンスを把握しておく。 (2時間)
10	事前学習	川端康成について、おおまかに把握しておく。 (2時間)
	授業内容	川端康成のこだわりから学ぶもの わが国初のノーベル文学賞作家は、どのようなスタンスで文章を書いているのか、実際の資料を読みながら考えていく。
	事後学習	講義ノートを参照して、川端康成の文章についての考え方を整理・把握すること。 (2時間)
11	事前学習	三島由紀夫について、おおまかに把握しておく。 (2時間)
	授業内容	三島由紀夫の考え方から学ぶもの 三島由紀夫の資料は、ある種特別なものを用意する。これまでの資料のありかたとの違いを、資料を読みながら考えていく。
	事後学習	三島由紀夫は、どのような文章の捉え方をしているのか、資料を読み返して把握しておく。 (2時間)
12	事前学習	安岡章太郎について、おおまかに把握しておく。 (2時間)
	授業内容	安岡章太郎から学ぶもの 安岡章太郎の人生と、その文章についての因果関係を資料を読みながら考えていく。
	事後学習	講義ノートを参照して、作家の生き方と文章についての関係性について、整理・把握しておく。 (2時間)
13	事前学習	丸谷オ一について、おおまかに把握しておく。 (2時間)
	授業内容	丸谷オ一の「種明かし」から学ぶもの 後期、一連の作家達が目指したもののある種の到達点が、ここにあるということを資料を読みながら考えていく。
	事後学習	講義ノートを参照して、谷崎から始まった文章というものについて体系的に整理しておく。 (2時間)
14	事前学習	金井美恵子について、おおまかに把握しておく。 (2時間)
	授業内容	金井美恵子に至るもの 前回の丸谷オ一で、ある種の到達点に達するも、金井美恵子という作家はどのように文章を捉えているのか、資料を読みながら考えていく。
	事後学習	講義ノートを参照して、金井美恵子に至るプロセスを総合的に把握しておく。 (2時間)
15	事前学習	これまでの学修内容の整理と確認。資料と返却歌題の整理を確実にしておくこと。 (2時間)
	授業内容	期末試験及び振り返り
	事後学習	テキストの内容の把握と、講義での展開の把握。後期の一連の作家たちに通底する文章の捉え方を総合的に整理・把握すること。 (2時間)

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	鹿野 しのぶ	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	文章表現における社会人としてのたしなみを身につけます。冠婚葬祭でのマナー・敬語表現などを身に付けます。また、自分の考えをわかりやすく論理的に伝える書き方を学びます。					
授業目的・到達目標	文章を作成するに当たっての基本的なことを学ぶことを目的とします。自分の意見をまとめ、論理的な文章構成を考え、実践的に表現できるようになることを目標とします。関連DP及びCP：総合科目1, 2, 3, 6					
履修条件	積極的に授業に参加し、課題を必ず提出できる学生向けの授業です。受講希望者は、第1回目の授業に必ず出席して、ガイダンスを受けてください。					
授業方法	課題作文やその発表など、学生による演習型の授業です。ほぼ毎回、課題を提出・添削・返却／解説（フィードバック）を行うことにより、よりわかりやすい文章を書く力を身につけましょう。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		課題作文の提出により評価をします。また、質疑応答での発言回数や内容なども評価ポイントとします。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2011年	翰林書房		『日本語表現法 改訂版 21世紀を生きる社会人のたしなみ』		庄司達也・山岸郁子・小野美典他
	備考					
参考書	授業中になるべく多く紹介します。					
オフィスアワー	金曜日・午後0時20分～午後0時50分、場所は授業講堂にて質問を受け付けます。その他、講義中に指示します。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読んでください。（2時間）
	授業内容	授業ガイダンス 授業の進め方、受講に当たってのルール、持参するものについて説明します。
	事後学習	テキストを準備し、一通り読んでおきましょう。（2時間）
2	事前学習	テキスト59～63ページを読んでおきましょう。（2時間）
	授業内容	冠婚葬祭のマナーを学びます。 祝儀・不祝儀袋の書き方、水引の意味など、伝統文化なども学びます。
	事後学習	付録6のbに祝儀袋の書き方にしたがってもう一度書き、確認しておきましょう。（2時間）
3	事前学習	テキスト33～38ページを読んでおきましょう。（2時間）
	授業内容	敬語法について学びます。 場面に応じた適切な敬語を使えるように学習します。
	事後学習	テキスト33ページの課題を再度確認しておきましょう。（2時間）
4	事前学習	テキスト7～12ページをよく読んでおきましょう。（2時間）
	授業内容	課題作文1 論理的な文章の書き方を学びます。400字程度の文章を書きます。
	事後学習	授業内で示された参考図書を読んでおきましょう。（2時間）

5	事前学習	前回の授業で指示される課題1について、必要な参考文献を図書館で調べておきましょう。（2時間）
	授業内容	課題作文2 前回の授業で指示される課題1について、自分の意見を文章に書きます。
	事後学習	テキスト13～16ページを復習しておきましょう。（2時間）
6	事前学習	課題1について補足資料がないか、調べておきましょう。（2時間）
	授業内容	課題作文3 課題1について書いた文章を適宜発表し、受講者全員で討議します。
	事後学習	添削された点を確認しリライトしてみましょう。（2時間）
7	事前学習	前回の授業で指示される課題2について、必要な参考文献を図書館で調べておきましょう。（2時間）
	授業内容	課題作文4 前回の授業で指示される課題2について、自分の意見を文章に書きます。
	事後学習	テキスト20～23ページを読み返しておきましょう。（2時間）
8	事前学習	課題2について補足資料がないか、調べておきましょう。（2時間）
	授業内容	課題作文5 課題2について書いた文章を適宜発表し、受講者全員で討議します。
	事後学習	添削された点について、リライトしてみましょう。（2時間）
9	事前学習	前回の授業で指示される課題3について、必要な参考文献を図書館で調べておきましょう。（2時間）
	授業内容	課題作文6 前回の授業で指示される課題3について、自分の意見を文章に書きます。
	事後学習	テキスト8～12ページを読んでおきましょう。（2時間）
10	事前学習	課題3について補足資料がないか、調べておきましょう。（2時間）
	授業内容	課題作文7 課題3について書いた文章を適宜発表し、受講者全員で討議します。
	事後学習	添削された点を確認し、リライトしてみましょう。（2時間）
11	事前学習	自由作文1の題材について、図書館を利用して調べておきましょう。（2時間）
	授業内容	自由作文1 各自が自由なテーマで文章を書きます。日ごろ受講者が考えていることを論理的な文章にまとめてみましょう。
	事後学習	補足資料がないか、図書館を利用して調べておきましょう。（2時間）
12	事前学習	自由作文1について、問題点をまとめておきましょう。（2時間）
	授業内容	自由作文1について、適宜口頭で発表し、講評をします。
	事後学習	添削された点を確認しリライトしてみましょう。（2時間）
13	事前学習	自由作文2の題材について、図書館を利用して調べておきましょう。（2時間）
	授業内容	自由作文2 各自が自由なテーマで文章を書きます。日ごろ考えていることを論理的な文章にまとめてみましょう。
	事後学習	補足資料がないか、図書館を利用して調べておきましょう。（2時間）
14	事前学習	自由作文について、問題点をまとめておきましょう。（2時間）
	授業内容	自由作文2について、適宜口頭で発表し、講評をします。
	事後学習	添削で示された部分をリライトしておきましょう。（2時間）
15	事前学習	テキストを再度よく読んでください。（2時間）
	授業内容	まとめ 半期で学んだことを振り返ります。
	事後学習	授業目的、到達目標が達成できたかを確認してみましょう。（2時間）

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	高橋 啓之	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義においては、言語技能のうち、「書く」を中心に、文章の基礎を学んでいく。特に、2000字程度の論理的文章が作成できるよう、構成・参考文献・引用など、論文作成に特化した講義を行う予定である。					
授業目的・到達目標	本講義では、自分の考えを主張する「論文」作成を目的とし、引用や構成、テーマ決定などにより、説明力や論理的・批判的思考力、そして、問題を発見し、解決する力を身につけることを目標とする。関連DP及びCP（総合科目・体育実技科目領域）1, 2, 3, 6					
履修条件	特になし。ただし、4年生の優遇は、就職活動を含め、一切ないものとする。また、必ず、1回目の講義に出席すること。また、皆出席が前提であるため、三分の一以上の欠席は原則単位を認定しない。詳細は最初の講義で説明する。					
授業方法	基本的には講義中心だが、時間内にレポート、小テストを行う。授業内試験の解説は最終回に行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		小テスト（10％）授業中の課題（20％）最終レポート（70％）。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	毎回プリントを配布する。				
参考書	授業時に指示する。					
オフィスアワー	水曜4限 授業終了後 授業講堂にて。 メールによる質問、相談については授業時に説明する。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読する。（1時間）
	授業内容	後期のガイダンス。講義の全体像を把握する。
	事後学習	講義を踏まえて文章を作る。（3時間）
2	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	説明スキーマについて理解し、現時点での自分の説明力を理解する。
	事後学習	講義を踏まえて、自分の弱点をノートにまとめる。（2時間）
3	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	前回の講義をもとに説明スキーマを理解し、説明力を身につける。
	事後学習	講義を踏まえて文章を作る。（3時間）
4	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	文章の構成の形式を学び、構成の仕方を身につける。
	事後学習	講義を踏まえて、ノートをまとめる。（2時間）

5	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	文章の構成について、序論・本論・結露など各論の意味を理解し、身につける。
	事後学習	講義を踏まえて、構成表を作成する。（3時間）
6	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	パラグラフ・ライティングについて学び、エントリー・シートの構成を身につける。
	事後学習	テーマにしたがって、エントリー・シートを作成する。（3時間）
7	事前学習	今回のテーマについて予習する。（1時間）
	授業内容	マッピングについて理解し、思考マップ・構想マップの方法を身につける。
	事後学習	マッピングをしてみる。（3時間）
8	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	課題に見合った文献収集のメソッドを身につける。
	事後学習	講義を踏まえてノートを自分なりに整理する。（2時間）
9	事前学習	今回のテーマについて予習する。（1時間）
	授業内容	批判的思考について理解し、その考え方を身につける。
	事後学習	講義を踏まえて文章を読み、レポートにまとめる。（3時間）
10	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	客観的文章について理解し、論文と感想文の差異を身につける。
	事後学習	講義を踏まえて文章を作る。（2時間）
11	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	同世代の書いたレポートを批評し、考え方のバリエーションを広げる。
	事後学習	講義を踏まえて文章を作る。（2時間）
12	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	要約について理解し、実際に要約文を作成する。
	事後学習	次週行う作業のため、文献を収集する（4時間）
13	事前学習	今回のテーマについて予習する。（2時間）
	授業内容	最終レポートの構成表を作成し、理解の深度を確認する。
	事後学習	講義を踏まえて文章を作る。（4時間）
14	事前学習	後期内容を復習し、質問を用意する。（2時間）
	授業内容	レポート提出及び後期のまとめ。
	事後学習	レポート作成の上での疑問点をまとめる。（2時間）
15	事前学習	後期の講義ノートをまとめる。（2時間）
	授業内容	レポートの講評および指導を聞くことにより、レポートの書き方を身につける。
	事後学習	講義をもとに改めてレポートを作成する。（2時間）

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、まず、文章を書く際、誰に何を書くのかなど目的によって書き方のスタイルが異なることを学ぶ。さらに直面する問題を主体的に考察し、関係のある情報を適切に収集・整理をしながら、解決策を的確に、かつ論理的に自ら表現することができる。				
授業目的・到達目標	在学中・卒業後に書くことが求められる文章を多種取り上げる。それは、文学的な感動を起こさせるものではなく、事実を正確に伝える文章である。事実に基づいた意見を主張する表現、または相手を納得させる表現とはどのようなものなのか、相手に対して失礼にならない表現とはどのようなものなのかを学び、自ら表現する能力を養成することを目的とする。様々な文章を書くことによって、状況に応じた書き方の違いがあるに気づいた上で、それぞれの文書スタイルを修得することを目標とする。関連DP及びCP:総合科目 1, 2, 3, 6				
履修条件	特になし。但し、受講希望者が多数の場合は添削指導の回数が減少することを了解した上で履修してもらいたい。				
授業方法	教科書に従って進める。授業時間内で書くこともしばしば求めため、国語辞典（電子手帳可）を必ず持参すること。提出物や授業内試験のフィードバックは、次の授業以降ポータルシステムにて講評を公開する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内容をどの程度正確に理解しているかを評価する。 前期・後期授業内試験（80%）＋授業への参加度（20%）	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2007年	翰林書房	日本語表現法 21世紀を生きる社会人のたしなみ		庄司達也ほか
	備考				
参考書	三省堂編集所編『新しい国語表記ハンドブック』：三省堂など。その他については、適宜授業中に紹介する。				
オフィスアワー	研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業計画とその内容の説明
	事後学習	教科書巻末にある練習問題を解く。（2時間）
2	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第6章「敬語を適切に使う」 不適切な敬語とはどのような表現なのかを理解できる。[実践]
	事後学習	敬語の種類と使用上の注意点を確認する。（2時間）
3	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第7章「手紙を書こう」① 手紙の構成と表現を理解できる。[説明]
	事後学習	手紙の構成と表現を確認する。（2時間）
4	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第7章「手紙を書こう」② 近況報告の手紙を書くことができる。[実践①]
	事後学習	近況報告の手紙の書き方を確認する。（2時間）

5	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第7章「手紙を書こう」③ 案内の手紙を書くことができる。[実践②]
	事後学習	案内の手紙の書き方を確認する。（2時間）
6	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第7章「手紙を書こう」④ お詫びの手紙を書くことができる。[実践③]
	事後学習	お詫びの手紙の書き方を確認する。（2時間）
7	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第8章「効果的な電子メールとは？」 効果的なメールを書き、送ることができる。[実践]
	事後学習	メールを書く時の注意点を確認する。（2時間）
8	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第9章「効果的な文書作成」①エントリーシートを書く 適切なエントリーシートの書き方を理解できる。[説明]
	事後学習	エントリーシートとはどのようなものなのかを確認する。（2時間）
9	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第9章「効果的な文書作成」②エントリーシートを書く 「あなたの夢は何ですか？」という課題のエントリーシートを書くことができる。[実践①]
	事後学習	エントリーシート「あなたの夢は何ですか？」を書く時の注意点を確認する。（2時間）
10	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第9章「効果的な文書作成」③エントリーシートを書く 「あなたの理想は何ですか？」という課題のエントリーシートを書くことができる。[実践②]
	事後学習	エントリーシート「あなたの理想は何ですか？」を書く時の注意点を確認する。（2時間）
11	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第9章「効果的な文書作成」④ビジネス文書を書く 社内文書と社外文書の違いを理解できる。[説明]
	事後学習	ビジネス文書の種類と形式を確認する。（2時間）
12	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第9章「効果的な文書作成」⑤ビジネス文書を書く 適切なビジネス文書を書くことができる。[実践]
	事後学習	社内文書と社外文書の違いを確認する。（2時間）
13	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第9章「効果的な文書作成」⑥履歴書を書く 適切な履歴書の書き方を理解し、書くことができる。[説明・実践]
	事後学習	履歴書を書くときの注意点を確認する。（2時間）
14	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	（教科書）第10章「冠婚葬祭・贈答のしきたり」 日本のしきたりを理解する。[説明]
	事後学習	社会が求める礼儀作法やしきたりを確認する。（2時間）
15	事前学習	教科書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	後期授業の復習テストとその解説
	事後学習	教科書巻末にある練習問題を解く。（2時間）

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	様々な場面で用いる文章表現に関する力を身につけるための講義を実践的に進めてゆく。実務的な文面も含めた多彩な範囲の文章ジャンルに習熟してゆくための授業を行う。また文芸評論に携わる立場からの、文章の読解・執筆についての解説も行う。				
授業目的・到達目標	長文を中心に、伝えるべき事柄をより精確に書くことを目的とし、レトリックについて意識しながら、説得力のある文章を書く力を身につけることを目標とする。到達DP及びCP：1, 2, 3, 6				
履修条件	「文章表現法Ⅰ」を履修していることが望ましい。				
授業方法	提出する課題を添削して返却する。欠席は原則として認めないので注意すること。なお、シラバスの授業進行はテーマを変更することもあることをお断りしておく。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義で課題として出す作文を、評価基準として重視する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	授業内で配布するプリントをテキストとして使用する。			
参考書	授業中に適宜指示する。				
オフィスアワー	火曜4限、本館1614研究室にて（事前に必ずアポイントメントを取ること）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	これまでの自分の文章表現に対する取り組みを振り返っておくこと。（2時間）
	授業内容	イントロダクション。文章表現について
	事後学習	文章表現について、講義内容の要点を確認しておくこと。（2時間）
2	事前学習	文章表現について、前回講義の内容を復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	夏期休暇中の出来事を書く
	事後学習	夏期休暇中の出来事を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。（2時間）
3	事前学習	夏期休暇中の出来事を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	引用して書く
	事後学習	引用して書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。（2時間）
4	事前学習	引用して書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	データを援用して書く
	事後学習	データを援用して書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。（2時間）

5	事前学習	データを援用して書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	手紙を書く
	事後学習	手紙を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。（2時間）
6	事前学習	手紙を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	メールを書く
	事後学習	メールを書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。（2時間）
7	事前学習	メールを書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	依頼文を書く
	事後学習	依頼文を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。（2時間）
8	事前学習	依頼文を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	自己PR文を書く
	事後学習	自己PR文を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。（2時間）
9	事前学習	自己PR文を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	エントリーシート形式で書く
	事後学習	エントリーシート形式で書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。（2時間）
10	事前学習	エントリーシート形式で書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	書評を書く
	事後学習	書評を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。（2時間）
11	事前学習	書評を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	課題文を書く
	事後学習	課題文を書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。（2時間）
12	事前学習	課題文を書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	小論文のアウトラインを書く
	事後学習	小論文のアウトラインを書くことについて、講義内容の要点を確認しておくこと。（2時間）
13	事前学習	小論文のアウトラインを書くことについて、前回講義の内容を復習しておくこと。最終課題に向けての準備をしておくこと。（2時間）
	授業内容	引用・参考文献のまとめ
	事後学習	引用・参考文献のまとめについて、講義内容の要点を確認しておくこと。（2時間）
14	事前学習	引用・参考文献のまとめについて、前回講義の内容を復習しておくこと。最終課題に向けての準備をしておくこと。（2時間）
	授業内容	小論文の仕上げ
	事後学習	小論文の仕上げについて、講義内容の要点を確認しておくこと。（2時間）
15	事前学習	小論文の仕上げについて、前回講義の内容を復習しておくこと。最終課題に向けての準備をしておくこと。（2時間）
	授業内容	半期の授業をふりかえり、理解の到達度を確認する。最終課題の提出
	事後学習	半期の講義について、要点の復習をしておくこと。（2時間）

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	渡辺 重人	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	文章表現法Ⅱは、〈書く〉という言語技能を中心に洗練し、論理的な文章表現ができるようになることを目指す授業です。そのため、授業時と準備学修時に文章作成を通して〈書く〉という言語技能を十分に発揮していくことが肝要となります。このプロセスによって、論理的な文章（小論文）を必要に応じて適切に作成できるようになります。				
授業目的・到達目標	社会人として必要となる、論理的な文章を作成する表現力の養成を目的とします。また、次の1～3についてできるようになり、豊かなコミュニケーションを図れるようになることを到達目標とします。1. 読み手に負担をかけない、わかりやすい文章を作成することができる。2. パラグラフ・ライティングを用いた論理的な文章を作成することができる。3. 論理的で批判的な思考法を身に付けることができる。関連ＤＰ及びＣＰ：1, 2, 3, 6				
履修条件	何事にも積極的に取り組み、文章作成を自分の日常の一部にしていくことを求めます。				
授業方法	講義形式、個人作業、ピア・ワークを複合して進めます。フィードバック方法：演習問題の解説・作成例の提示、提出物の講評、小テスト・小論文の添削・返却、課題小論文の解説と講評とします。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	課題小論文40%、小論文20%、小テスト（表記と表現）20%、提出物と授業時の積極性20%で評価します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	プリントを配布します。			
参考書	文章表現に関する文献を授業時に適宜紹介します。				
オフィスアワー	木曜5限、授業終了後、授業講堂にて。 watanabe.shigetoll★nihon-u.ac.jp ★印を@に変更してください。エラーでメールのやりとりができないことがあります。レスポンスが遅い場合は授業の前後に直接申し出てください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、向上させたい能力、身に付けたい知識・技術についてまとめておきます。（2時間）
	授業内容	学修活動と全体のスケジュールを確認します。
	事後学習	スケジュールを踏まえて、各自の学修計画を立てます。（2時間）
2	事前学習	図書館やＰＣで論理的な文章を探し、その特徴をまとめておきます。（2時間）
	授業内容	論理的な文章の基本：パラグラフ・ライティングの概念を捉え、活用の準備をします。
	事後学習	パラグラフ・ライティングの概念を踏まえて、図書館やＰＣで各自が用意した文章を読みます。（2時間）
3	事前学習	学修内容を踏まえて、パラグラフ・ライティングで書かれている文章を図書館やＰＣで探します。（2時間）
	授業内容	論理的な文章の基本：パラグラフ・ライティングについての演習問題に取り組み、実践します。
	事後学習	作成例を踏まえて、もう一度演習問題に取り組みます。 事前配布された演習問題に取り組みます。（2時間）
4	事前学習	各自の用意した文章が、パラグラフ・ライティングで書かれているかについて再確認します。（2時間）
	授業内容	論理的な文章の基本：パラグラフの構造化について実践し、ピア・ワークで確認します。
	事後学習	作成例を踏まえて、パラグラフの構造化に取り組みます。 事前配布された演習問題に取り組みます。（2時間）

5	事前学習	キーワードの効果的な配置について想起し、注意点についてまとめておきます。（2時間）
	授業内容	論理的な文章の基本：センテンスやパラグラフの結束性の高め方について実践し、ピア・ワークで確認します。
	事後学習	接続詞やキーワードの効果的な配置に注意し、センテンスやパラグラフの結束性の高め方についてもう一度実践します。（2時間）
6	事前学習	表記と表現についての確認に備え、文章作成に関する知識を整理しておきます。（2時間）
	授業内容	情報収集の基本と活用法：情報収集の基本と活用法について確認し、実践します。 論理的思考と批判的思考：論理的思考と批判的思考の基本を修得します。 表記と表現についての確認：表記と表現について小テストで確認します。
	事後学習	図書館やP Cを利用し、情報収集を実践します。（2時間）
7	事前学習	提案型小論文の作成手順を想起し、まとめておきます。（2時間）
	授業内容	誰でも書けるようになる小論文攻略法：提案型小論文の攻略法を修得し、小論文（721～800字）を作成します。
	事後学習	授業時に作成した小論文をリライトします。（2時間）
8	事前学習	リライトした小論文を推敲し、完成度を高めます。（2時間）
	授業内容	小論文の提出：リライトした小論文（721～800字）をピア・ワークでチェックし、提出します。
	事後学習	作成例を参照し、提案型小論文の作成手順を再確認します。（2時間）
9	事前学習	事前配布された演習問題に取り組み、これまでの学修を振り返ります。（2時間）
	授業内容	パラグラフ・ライティングについての確認：パラグラフ・ライティングの修得について、演習問題で確認します。 論理的思考と批判的思考についての確認：論理的思考と批判的思考の修得について、演習問題で確認します。
	事後学習	パラグラフ・ライティング、論理的思考と批判的思考が身に付いているか、自己点検します。（2時間）
10	事前学習	抽象題型小論文の作成手順を想起し、まとめておきます。（2時間）
	授業内容	誰でも書けるようになる小論文攻略法：抽象題型小論文の攻略法を修得します。
	事後学習	作成例を参照し、抽象題型小論文の作成手順を再確認します。（2時間）
11	事前学習	自己P R型小論文の作成手順を想起し、まとめておきます。（2時間）
	授業内容	誰でも書けるようになる小論文攻略法：自己P R型小論文の攻略法を修得します。
	事後学習	作成例を参照し、自己P R型小論文の作成手順を再確認します。（2時間）
12	事前学習	課題小論文の作成に必要な情報が何であるかについて検討し、図書館やP Cで情報収集をします。（2時間）
	授業内容	誰でも書けるようになる小論文攻略法：情報の活用法について再確認し、ピア・ワークで実践します。
	事後学習	情報収集で得たデータを小論文に活用できるよう整理します。（2時間）
13	事前学習	各論のパラグラフのトピックを決め、アウトラインを考えます。（2時間）
	授業内容	誰でも書けるようになる小論文攻略法：パラグラフ・ライティングによる課題小論文（721～800字）の作成の準備をします。
	事後学習	課題小論文の下書きを作成します。（2時間）
14	事前学習	課題小論文の下書きを推敲します。（2時間）
	授業内容	課題小論文の作成：課題小論文（721～800字）を作成し、提出します。
	事後学習	課題小論文の下書きを熟読し、完成度を検証します。（2時間）
15	事前学習	完成した課題小論文をリライトします。（2時間）
	授業内容	課題小論文（721～800字）について解説と講評で振り返り、文章作成に関する自己点検報告を作成します。
	事後学習	課題小論文の振り返りを通して、文章作成上の注意事項を各自でまとめ、発展的な学習へつなげます。（2時間）

科目名	文章表現法Ⅱ	担当者	茅原 雅之	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本語表現の基礎的な事項に関する講義をおこなう。また講義によって得た知識を、実際に文章を作成することにより、現実の社会生活の中で活用できるようにしていく。「文章表現法Ⅱ」では、主に小論文の書き方を中心に学習する。小論文作成の技術の習得を通じて、文章表現力を向上させ、論理的な思考方法について学ぶ。							
授業目的・到達目標	日本語の表現力は、分かりやすい文章、上手な文章を書こうと意識して努力しないかぎり、なかなか上達するものではない。この授業では、文章には一定の表現形式があり、書き方のルールがあることを学び、社会人として必要な水準での文章表現力の獲得を目的とする。わかりやすく適切な文章が作成できること、論理的な文章が作成できることを到達目標にする。関連D P及びC P：総合科目 1， 2， 3， 6							
履修条件	文章表現の能力向上に興味がある者、また本気で取り組む意思がある者。授業では発言を求められることがあり、積極的に授業に参加できることが履修の条件となる。							
授業方法	講義および実習によって進める。文章作成にあたっての留意点を講義したのち、学生各自が実際に文章を作成する。作成した文章については、添削によって、問題点と良かった点を指導する。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%					
	平常評価		100%		授業内で作成した文章の到達度、および授業内試験の成績。授業時に指示する文章作成の課題については、必ず提出すること。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	2014年		翰林書房		日本語表現法〔改訂版〕21世紀を生きる社会人のたしなみ		庄司達也・山岸郁子・他	
	備考							
参考書	『国語表現ハンドブック新訂版』長谷川泉著 明治書院							
オフィスアワー	質問・相談については電子メールにて対応。E-mail:locke@sea.plala.or.jp また授業の前後（月曜2限もしくは金曜2限）にも、直接の相談を受け付ける。							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書・辞書の準備。教科書の内容確認。（2時間）
	授業内容	文章表現の基礎、漢字の確認。（1）
	事後学習	教科書〈練習問題〉項目の復習。（2時間）
2	事前学習	配布資料〈漢字〉の予習。（2時間）
	授業内容	文章表現の基礎、ことわざ・故事成語の確認。
	事後学習	配布資料〈漢字〉の復習。（2時間）
3	事前学習	配布資料〈小論文の書き方〉の予習。（2時間）
	授業内容	小論文を書く。（1、小論文の書き方）
	事後学習	配布資料〈小論文の書き方〉の復習。（2時間）
4	事前学習	教科書〈さあ文書を書いてみよう〉項目の予習。（2時間）
	授業内容	小論文を書く。（2、小論文の構成）
	事後学習	教科書〈さあ文書を書いてみよう〉項目の復習。（2時間）

5	事前学習	小論文執筆のための資料準備。（2時間）
	授業内容	小論文を書く。（3，小論文における言葉遣い）
	事後学習	提出課題〈小論文A〉の作成。（2時間）
6	事前学習	配布資料〈各種小論文〉の予習。（2時間）
	授業内容	小論文を書く。（4，小論文の各種応用問題）
	事後学習	配布資料〈各種小論文〉の復習。（2時間）
7	事前学習	小論文執筆のための資料準備。（2時間）
	授業内容	小論文を書く。（5，小論文の作成）
	事後学習	提出課題〈小論文B〉の作成。（2時間）
8	事前学習	小論文執筆のための資料準備。（2時間）
	授業内容	小論文を書く。（6，公務員試験対策の小論文作成）
	事後学習	提出課題〈小論文C〉の作成。（2時間）
9	事前学習	小論文執筆のための資料準備。（2時間）
	授業内容	小論文を書く。（7，公務員試験対策の小論文作成）
	事後学習	提出課題〈小論文D〉の作成。（2時間）
10	事前学習	エッセイについての事前調査。（2時間）
	授業内容	エッセイを書く。（1，エッセイとは何か）
	事後学習	配布資料〈各種エッセイ〉の復習。（2時間）
11	事前学習	エッセイにて表現する〈自分〉について考えておく。（2時間）
	授業内容	エッセイを書く。（2，エッセイにおける「自分」）
	事後学習	提出課題〈3分スピーチ〉の作成。（2時間）
12	事前学習	エッセイにて表現する〈文筆力〉について考えておく。（2時間）
	授業内容	エッセイを書く。（3，エッセイにおける「文筆力」）
	事後学習	提出課題〈エッセイ〉の作成。（2時間）
13	事前学習	配布資料〈ことわざ・四字熟語〉の予習。（2時間）
	授業内容	文章表現の基礎，漢字の確認。（2）
	事後学習	配布資料〈ことわざ・四字熟語〉の復習。（2時間）
14	事前学習	授業にて理解不十分であった点を自己点検する。（2時間）
	授業内容	授業全体のまとめ。これまでの授業に関する総合的な質疑応答。
	事後学習	授業全体の自己総括。（2時間）
15	事前学習	到達試験に関する学習。（2時間）
	授業内容	到達試験、および解答と解説。講義全体のまとめ。
	事後学習	到達試験に関する自己反省。（2時間）

科目名	倫理学 I	担当者	嘉吉 純夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	倫理学は、古代ギリシアにおいて成立し、今日まで様々な思想家によって探究されつづけてきた学問である。それは、道徳哲学的側面をもち、法学や政治学との関連性をも有している。さらに、現在では、生命倫理をはじめとする多岐にわたる領域が登場し、新たな研究主題になっている。本講座では、総合教育科目の一つであることを意識して、西欧の倫理思想の歴史的展開と伝統的な倫理学上の理論を踏まえ、徳、幸福、生の選び等々の主題について考究する。					
授業目的・到達目標	まず、倫理学上のいくつかの根本問題について検討する。次いで、倫理学的観点から代表的な幸福観の類型を取り上げて紹介・検討し、そのひとつひとつに対して、現代に生きる私たちの立場から評価・批判を加える。 本講座は、法学部の大学生に相応しい倫理観・人生観を養成することを目的とする。 最終的な到達目標は、受講者自身がみずからの生き方について主体的に考えることができるようになることを目標とする。					
履修条件	関連DP及びCP:総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4					
授業方法	講義形式で進めるが、無味乾燥な知識供給型の授業に終止することを避け、できるだけ問題提起型の楽しい講義になるよう心がけたい。授業内試験の講評を、第14回目もしくは第15回目の講義時に行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業内試験100パーセント(きちんと授業に出席していないと答えられない問題を出します)	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない				
参考書	『哲学の軌跡』 嘉吉純夫編著（北樹出版）					
オフィスアワー	金曜日の3時限の後、授業講堂にて講義内容に関する質問のみ受け付ける。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	現代人が直面している倫理的状況について、そこにどんな問題があるか、考えておく。（2時間）
	授業内容	本講座の運営方針と授業内容の紹介と「倫理学入門」（倫理学の考察対象、歴史などの概観・概説）
	事後学習	倫理学の主題と特徴について関連図書にあたって調べ、講義内容をまとめる。（2時間）
2	事前学習	わが国の倫理観の特質を、西欧と比較しながら考えておく。（2時間）
	授業内容	倫理学上の根本問題1 倫理の普遍性と相対性(いつでも、どこでも、誰にでも妥当する倫理はありうるか)
	事後学習	わが国の倫理観の特質を、いわゆる日本人論を参考にしながら、講義内容を踏まえてまとめる。（2時間）
3	事前学習	正邪善悪の判断の基準を行為の動機に置くべきか結果に置くべきか、考えておく。（2時間）
	授業内容	倫理学上の根本問題2 法的判断と倫理的判断、動機説と結果説
	事後学習	正邪善悪の判断の基準について、講義内容を踏まえ、自分なりの考えをまとめる。（2時間）
4	事前学習	人間性を構成する要素のうち、知性、感情、意志のいずれが最も重要か考えておく。（2時間）
	授業内容	倫理学上の根本問題3 知か情か意か(倫理的行為の最も信頼に値する導き手は、知性か、感情か、意志か)
	事後学習	知性主義、感情主義、主意主義のいずれが妥当か、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。（2時間）

5	事前学習	義務の履行と幸福の獲得のいずれを基準を倫理的な目標とすべきか、自分なりに考えておく。(2時間)
	授業内容	倫理学上の根本問題4 幸福説と義務説(倫理的な最高善は、幸福の獲得か、それとも道徳法則の履行か)
	事後学習	幸福説と義務説のいずれが妥当か、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。(2時間)
6	事前学習	古代ギリシアの思想家アリストIPPUSとエピクロスについて下調べをしておく。(2時間)
	授業内容	幸福観の探究1 利己的快楽主義(積極的快楽主義、消極的快楽主義、精神的快楽主義)
	事後学習	利己的快楽主義の妥当性と限界について、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。(2時間)
7	事前学習	イギリスの思想家ベンサムについて下調べをしておく。(2時間)
	授業内容	幸福観の探究2 公衆的快楽主義(功利主義)上(分量的功利主義)
	事後学習	ベンサムの分量的功利主義の美点と欠点について、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。(2時間)
8	事前学習	イギリスの思想家ミルとオーストラリア出身の倫理学者シンガーについて下調べをしておく。(2時間)
	授業内容	幸福観の探究3 公衆的快楽主義(功利主義)下(質的功利主義と選好功利主義)
	事後学習	ミルの質的功利主義および選好功利主義の美点と欠点について、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。(2時間)
9	事前学習	古代ギリシアの思想家ベアリストテレスについて下調べをしておく。(2時間)
	授業内容	幸福観の探究4 活動説(自己実現説)
	事後学習	アリストテレスの幸福観の現代性と問題点について、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。(2時間)
10	事前学習	古代ギリシアの思想家アンティステネスとキプロスのゼノンについて下調べをしておく。(2時間)
	授業内容	幸福観の探究5 脱俗的・超俗的幸福観
	事後学習	反世俗的幸福観の美点と欠点について、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。(2時間)
11	事前学習	古代ギリシアの思想家プラトンとキリスト教や仏教について下調べをしておく。(2時間)
	授業内容	幸福観の探究6 哲学的・宗教的幸福観
	事後学習	世俗的幸福観を超える幸福観について、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。(2時間)
12	事前学習	岩波文庫所収『ラッセル 幸福論』を入手して読んでおく。(2時間)
	授業内容	幸福観の探究7 ラッセルの幸福論
	事後学習	ラッセルの幸福論について、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。(2時間)
13	事前学習	ここまでの講義内容を復習し、自分なりの見識を確立しておく。(2時間)
	授業内容	ここまでの講義に関する補足説明(30分)、《授業内試験》(60分)
	事後学習	試験で問われたことについて、あらためて考え、自分の考えを省察する。(2時間)
14	事前学習	これまでの講義内容について、質問すべき事項・質問したい事柄を考えておく。(2時間)
	授業内容	質問コーナー(質疑応答)現代の倫理的問題、講義内容、授業内試験等々について、質問を受けて解答する。
	事後学習	質疑応答を思い返ししながら、本講座から得た学識を自分なりにまとめる。(2時間)
15	事前学習	これまでの講義において触れられなかった幸福観としてどのようなものがあるか、自分なりに考えておく。(2時間)
	授業内容	不幸脱出法について考える
	事後学習	現代人の不幸の原因について、講義内容を踏まえて、自分なりの考えをまとめる。(2時間)

科目名	倫理学 I	担当者	佐々木 聖使	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	--------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	私たちは日常の生活を送るにあたって、倫理や法を意識して生活しているわけではない。しかし毎日の生活は、人と人との関係の上に築かれている。この関係をなくして私たちの生活は成り立たない。この関係こそ倫理の課題である。この講義では、日本人の人間関係や日本社会の特色について講義するとともに、現代の情報化社会における倫理関係について分析し、その知識を深めることを目的としている。			
授業目的・到達目標	1. 日本の社会の中で、人間関係がどのように形成されているのか、構造的関係を理解し、説明できることを目的とする。 2. 価値観の違いが、日本と欧米の人間関係の違いを生み出していることを理解し、説明できることを目標とする。 3. 情報化社会が、人間関係を根本的に変えようとしている現状を理解し、説明できることを目標とする。 4. 青年期に、いかに自己実現を達成するのか、その過程と目標を理解し、説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目1, 2, 3, 4			
履修条件	受講にかんするかなり厳しい「授業履修要項」（ガイダンス時配布）の内容を承認の上、受講すること。 日常的に、新聞記事を読むこと。授業中のスマホやパソコンの使用は認めない。			
授業方法	講義形式で行なう。黒板を多用するので、専用のノートを用意すること。 試験の解説や講評は、後日ポータルシステムを使って行なう。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		60%	倫理の不変の関係性と、急激に変化している現状を理解できていれば合格。
	平常評価		40%	授業態度など。私語や遅刻などは減点対象とする。 授業中のスマホやパソコン・カメラの使用は認めない。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用せず		
参考書	授業時に指示する。必要に応じて、新聞記事などを配布する。			
オフィスアワー	授業後（一部火曜4限、二部水曜2限）、授業講堂にて。メールでも可。 メールアドレス：sezi.wokoze@gmail.com（メールの内容にかかわらず、「授業について」と表題をつけること。学生証番号、氏名を明記すること。）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	高校時代の『倫理社会と現代』を復習してくること（2時間）
	授業内容	ガイダンス；授業概要と倫理について
	事後学習	道徳と倫理の違いについて確認すること（2時間）
2	事前学習	南博『日本的自我』（岩波新書）を読んできること（2時間）
	授業内容	倫理とは何か；現代社会における倫理
	事後学習	友人や後輩・先輩との人間関係に必要なことを考えること（2時間）
3	事前学習	中根千枝『タテ社会の力学』（講談社学術文庫）を読んできること（2時間）
	授業内容	日本社会の倫理；日本の社会と人間関係
	事後学習	日本の人間関係の特色について確認すること（2時間）
4	事前学習	池田謙一『日本人の考え方 世界の人の考え方』（勁草書房）を読んできること（2時間）
	授業内容	日本人の倫理と価値観；アメリカ人の正義・日本人の「和」
	事後学習	国や文化によって、人間関係の違いを確認しておくこと（2時間）

5	事前学習	南博『日本人の心理と生活』（勁草書房）を読んでくること（2時間）
	授業内容	僕はどこにいるのか；社会の中での自己位置の確認
	事後学習	家族や友だちにとっての自分の立場を確認すること（2時間）
6	事前学習	増成隆士『現代の人間観と世界観』（放送大学教材）を読んでくること（2時間）
	授業内容	社会と自己；弱気な私と強気な集団
	事後学習	集団的犯罪行為はなぜ起こるのか、新聞記事を調べること（2時間）
7	事前学習	大平健『豊かさの精神病理』（岩波新書）を読んでくること（2時間）
	授業内容	「らしさ」と文化；日本人の同調性と倫理的行動
	事後学習	なぜ人と同じ行動を取るのか考えてみること（2時間）
8	事前学習	梅本吉彦『情報社会と情報倫理』（丸善）を読んでくること（2時間）
	授業内容	メディアと人間関係；メディアが変える人間関係
	事後学習	TVやゲーム機がどのように日常生活の中に入り込んでいるのか、確認すること（2時間）
9	事前学習	福島章『イメージ世代の心を読む』（新曜社）を読んでくること（2時間）
	授業内容	情報と人間関係；TV・コンピューターが生み出すデジタル人間と倫理
	事後学習	IT革命 がもたらす倫理的問題について考えること（2時間）
10	事前学習	福島章『イメージ世代の心を読む』（新曜社）を読んでくること（2時間）
	授業内容	情報社会の人間関係；疑似現実世界の人間関係
	事後学習	Virtual reality がもたらす倫理的問題について考えること（2時間）
11	事前学習	福島章『イメージ世代の心を読む』（新曜社）を読んでくること（2時間）
	授業内容	情報社会の恋愛；愛情は「モノ」でしか表現できないのか
	事後学習	Virtual な恋愛について、考えてみること（2時間）
12	事前学習	福島章『青年期の心』（講談社現代新書）を読んでくること（2時間）
	授業内容	青年期の人間関係；反抗 ― 自立 ― 恋愛
	事後学習	それぞれが直面している倫理的問題を箇条書きしてみること（2時間）
13	事前学習	小林司『「生きがい」とは何か』（NHKブックス）を読んでくること（2時間）
	授業内容	人間形成と自己実現；青年期の自己実現の意味と目的
	事後学習	何のために生きているのか、自己実現との関係で考えてみること（2時間）
14	事前学習	これまでの講義ノートの整理と重要な点についての確認をすること（2時間）
	授業内容	まとめ；講義の重要事項についての解説と補足
	事後学習	学年末試験の対策を講じること（2時間）
15	事前学習	授業内容の総復習（2時間）
	授業内容	学期末試験及び振り返り
	事後学習	自己採点をすること（2時間）

科目名	倫理学 I	担当者	吉田 一史美	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	倫理学の入門として、基礎的な知識と方法を概説する。愛、友情、勇気など身近なテーマから倫理的諸概念に対する考え方を学び、人間の生き方、社会のあり方を考える倫理的思考の手がかりを得る。映像視聴、ワークショップを通して、倫理的な問いの立てかたや他者の倫理的な問いかけへの応答など、倫理的な対話を学ぶ。				
授業目的・到達目標	倫理学の基礎的な知識と方法を理解することを目的とする。 到達目標： 人間社会が直面している差別をめぐる諸問題、多様な価値観を理解し、説明することができる（DP1, 2）。差別に関わる倫理的問題の中で、自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる（DP3）。現代の差別に関わる倫理的問題の解決策を考え、提案することができる（DP4）。				
履修条件	配布資料にある文章や画像に目を通すこと、授業中に紹介する参考文献で適宜復習すること。アクティブ・ラーニングの内容は事前に告知するので、授業内で適切に行えるように準備をしておくこと。				
授業方法	プリント教材を配布する。受講者数に応じた内容のワークを行う。フィードバックは、授業内あるいはポータルシステム上で行う。授業の順番や内容は、受講者の理解度やスケジュールの都合により変更する可能性がある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		50%	筆記試験（選択問題・論述問題）	
	平常評価		50%	授業態度・ワークシート	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。			
参考書	参考になる文献を授業内で適宜紹介する。				
オフィスアワー	授業時間（木曜3限）の前後に授業講堂で受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	なぜ倫理学を学びたいと思ったのか、理由を考えておくこと（2時間）
	授業内容	ガイダンス：授業の進め方、評価方法、注意事項、倫理学という学問について
	事後学習	配布資料に目を通しておくこと（2時間）
2	事前学習	古代ギリシアについて調べておくこと（2時間）
	授業内容	倫理学の歴史 1 古代
	事後学習	配布資料に目を通しておくこと（2時間）
3	事前学習	ルネッサンスについて調べておくこと（2時間）
	授業内容	倫理学の歴史 2 中世近代
	事後学習	配布資料に目を通しておくこと（2時間）
4	事前学習	ポストモダニズムについて調べておくこと（2時間）
	授業内容	倫理学の歴史 現代
	事後学習	配布資料に目を通しておくこと（2時間）

5	事前学習	優生学について調べておくこと（2時間）
	授業内容	人間社会における差別：優生思想
	事後学習	配布資料に目を通しておくこと（2時間）
6	事前学習	ハンセン病について調べておくこと（2時間）
	授業内容	人間社会における差別：ハンセン病
	事後学習	配布資料に目を通しておくこと（2時間）
7	事前学習	第5・6回の配布資料に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	アクティブ・ラーニング ① ハンセン病に関するDVDを視聴してワークを行う。
	事後学習	ワークシートの内容を理解しておくこと（2時間）
8	事前学習	ワークシートの内容を理解しておくこと（2時間）
	授業内容	アクティブ・ラーニング ① つづき ハンセン病に関するDVDを視聴してワークを行う。
	事後学習	ワークシートの完成（2時間）
9	事前学習	ユダヤ人について調べておくこと（2時間）
	授業内容	人間社会における暴力：ユダヤ人
	事後学習	配布資料に目を通しておくこと（2時間）
10	事前学習	植民地主義について調べておくこと（2時間）
	授業内容	アクティブ・ラーニング ② 短い文学作品を読んでワークを行う。
	事後学習	ワークシートの完成（2時間）
11	事前学習	倫理学の思想家について調べておくこと（2時間）
	授業内容	倫理学の諸概念について：愛・友情・勇気・優しさ
	事後学習	配布資料に目を通しておくこと（2時間）
12	事前学習	ホロコーストについて調べておくこと（2時間）
	授業内容	アクティブ・ラーニング ③ ホロコーストに関するDVDを視聴してワークを行う。
	事後学習	ワークシートの内容を理解しておくこと（2時間）
13	事前学習	ワークシートの内容を理解しておくこと（2時間）
	授業内容	アクティブ・ラーニング ③つづき ホロコーストに関するDVDを視聴してワークを行う。
	事後学習	ワークシートの完成（2時間）
14	事前学習	これまでの授業の配布資料に目を通すこと（2時間）
	授業内容	まとめとフィードバック
	事後学習	配布資料に目を通しておくこと（2時間）
15	事前学習	これまでの授業の資料、ワークの内容を確認すること（2時間）
	授業内容	学習内容の確認
	事後学習	配布資料に目を通しておくこと（2時間）

科目名	倫理学Ⅱ	担当者	嘉吉 純夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	倫理学上の諸理論は、最終的に個々人の「生の選び」へと結びついていかなければあまり意味がない。この点を意識して、西欧の代表的な思想家たちがどのような生き方を提言し実践したかを通史的に見てゆく。古代ギリシアのソクラテスからニーチェまで取り上げた後、生の選びにおいて重要な「自由」や「愛」について考察する。最終的に、科学技術文明の真っ只中に置かれたわれわれは、どのように生きるべきか、考察する。				
授業目的・到達目標	西欧の代表的な思想家たちが「人生と倫理」について何をどのように考えたのかを紹介・検討し、彼らの思想的メッセージを現代に生きる私たちの立場から再評価する。その後、現代人が直面しているいくつかの倫理的問題について考究する。それを通して、受講者自身の倫理観・人生観の確立に寄与したい。 本講座は、人間の生き方と倫理について、本学の学生に相応しい見識を獲得してもらうことを目的とする。 最終的な到達目標は、受講者自身が批判精神を身につけ、混迷化する現代社会においてみずからの悔いなく人生を生き抜くことができるようになることである。				
履修条件	関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4				
授業方法	講義形式で進めるが、無味乾燥な知識供給型の授業に終止することを避け、できるだけ問題提起型の楽しい講義になるよう心がけたい。第14目回目もしくは第15回目の講義時に、授業内試験の講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	『授業内試験（下記日程参照）』100パーセント(きちんと出席していないと解答できない問題を出题します)	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	『哲学の軌跡』嘉吉純夫編著（北樹出版）				
オフィスアワー	金曜日の3時限の後、授業講堂にて講義内容に関する質問のみ受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	古代ギリシアの思想家ソクラテスについて下調べをしておく。（2時間）
	授業内容	西欧倫理思想史1 ソクラテスの哲学と倫理思想
	事後学習	ソクラテスの倫理思想の現代的意義について、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。（2時間）
2	事前学習	岩波文庫所収プラトン『国家』上・下を入手して読んでおく。（2時間）
	授業内容	西欧倫理思想史2 プラトンの哲学と倫理思想
	事後学習	プラトンの倫理思想の現代的意義について、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。（2時間）
3	事前学習	岩波文庫所収アリストテレス『ニコマコス倫理学』上・下を入手して読んでおく。（2時間）
	授業内容	西欧倫理思想史3 アリストテレスの哲学と倫理思想
	事後学習	アリストテレスの倫理思想の現代的意義について、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。（2時間）
4	事前学習	アガペーというキリスト教の愛について下調べをしておく。（2時間）
	授業内容	西欧倫理思想史4 イエス・キリストの倫理的教説
	事後学習	キリスト教の説くアガペーの現代的意義について、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。（2時間）

5	事前学習	フランスの思想家デカルトについて下調べをしておく。(2時間)
	授業内容	西欧倫理思想史5 デカルトの哲学と倫理思想
	事後学習	デカルトの倫理思想の現代的意義について、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。(2時間)
6	事前学習	ドイツの思想家カントについて下調べをしておく。(2時間)
	授業内容	西欧倫理思想史6 カントの哲学と倫理思想
	事後学習	カントの倫理思想の現代的意義について、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。(2時間)
7	事前学習	ドイツの思想家ヘーゲルについて下調べをしておく。(2時間)
	授業内容	西欧倫理思想史7 ヘーゲルの哲学と倫理思想
	事後学習	ヘーゲルの倫理思想の現代的意義について、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。(2時間)
8	事前学習	ドイツの思想家ショーペンハウアーとデンマークの思想家キルケゴールについて下調べをしておく。(2時間)
	授業内容	西欧倫理思想史8 ショーペンハウアーおよびキルケゴールの哲学と倫理思想
	事後学習	ショーペンハウアーとキルケゴールの倫理思想の現代的意義について、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。(2時間)
9	事前学習	ドイツの思想家ニーチェについて下調べをしておく。(2時間)
	授業内容	西欧倫理思想史9 ニーチェの哲学と思想
	事後学習	ニーチェの倫理思想の現代的意義について、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。(2時間)
10	事前学習	ミルの『自由論』について下調べをしておく。(2時間)
	授業内容	自由について考える(ミルの自由論を中心に)
	事後学習	ミルの自由論の現代的意義について、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。(2時間)
11	事前学習	現在のわが国の現状を見ると、愛の危機を感じさせるさまざまな事件や犯罪が頻発している。そのことについて自分なりに考えておく。(2時間)
	授業内容	現代における愛と倫理について考える
	事後学習	現代における愛のあり方について、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。(2時間)
12	事前学習	科学技術文明の光と影について、自分なりに考えておく。(2時間)
	授業内容	現代文明の功罪について倫理的な観点から考える
	事後学習	科学技術文明の発展によってわれわれ現代人が得たものと失ったものについて、講義内容を踏まえて、自分自身の考えをまとめる。(2時間)
13	事前学習	ここまでの講義内容を復習し、自分なりの見識を確立しておく。(2時間)
	授業内容	これまでの講義の補足(30分)および《授業内試験》(60分)
	事後学習	試験で問われたことについて、あらためて考え、自分の考えを省察する。(2時間)
14	事前学習	これまでの講義内容と試験について、質問すべき事項・質問したい事柄を考えておく。(2時間)
	授業内容	質問コーナー(質疑応答)
	事後学習	質疑応答を思い返ししながら、本講座から得た学識を自分なりにまとめる。(2時間)
15	事前学習	生と死について自分なりの考えをまとめておく。(2時間)
	授業内容	生と死について考える(様々な死生観の検討)
	事後学習	講義内容を踏まえて、自分なりの死生観を確立する。(2時間)

科目名	倫理学Ⅱ	担当者	吉田 一史美	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	生命科学と医療技術の発展は、私たちの生命観や倫理観に様々な影響を与えてきた。本講義では、人体実験、尊厳死、臓器移植、生殖医療、遺伝子技術などの具体的な事例を通して、生命倫理学の歴史、概念、論点を学ぶ。テーマに関連する映像、新聞記事、当事者の手記などの実際の資料から、多様な生き方や価値観を理解した上で、現在および将来の倫理的諸課題に対する主体的な思考を身に付ける。				
授業目的・到達目標	生命倫理学の基礎的な知識を理解することを目的とする。 到達目標： 人間社会が直面している生命倫理をめぐる諸問題と多様な考え方を理解し、説明することができる（DP1,2）。 生命倫理の問題に関わる人間活動の中で、自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる（DP3）。 現代社会の生命に関する倫理的問題の解決策を考え、提案することができる（DP4）。				
履修条件	配布資料にある文章や画像に目を通すこと、授業中に紹介する参考文献で適宜復習すること。アクティブ・ラーニングの内容は事前に告知するので、授業内で適切に行えるように準備をしておくこと。				
授業方法	プリント教材を配布する。受講者数に応じた内容のワークを行う。フィードバックは、授業内あるいはポータルシステム上で行う。授業の順番や内容は、受講者の理解度やスケジュールの都合により変更する可能性がある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		50%	筆記試験（選択問題・論述問題）	
	平常評価		50%	授業態度・ワークシート	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	備考	教科書は使用しない。			
参考書	参考になる文献を授業内で適宜紹介する。				
オフィスアワー	授業時間（木曜3限）の前後に授業講堂で受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	なぜ生命倫理学を学びたいのか、理由を考えておくこと（2時間）
	授業内容	ガイダンス：倫理学とは何か、応用倫理学とは何か、生命倫理学が取り組む問題
	事後学習	配布プリントに目を通しておくこと（2時間）
2	事前学習	第二次世界大戦について調べておくこと（2時間）
	授業内容	人体実験と研究倫理：ナチス、731 部隊、医学研究、インフォームド・コンセント
	事後学習	配布プリントに目を通しておくこと（2時間）
3	事前学習	薬害や公害について調べておくこと（2時間）
	授業内容	生命と経済的利益：サリドマイド、スモン、薬害エイズ、水俣病、食品汚染
	事後学習	配布プリントに目を通しておくこと（2時間）
4	事前学習	優生思想について調べておくこと（2時間）
	授業内容	近代化と優生思想：優生学、断種法、障害者運動
	事後学習	配布プリントに目を通しておくこと（2時間）

5	事前学習	安楽死・尊厳死について調べておくこと（2時間）
	授業内容	安楽死・尊厳死：安楽死の分類、カレン・アン・クインラン事件、自殺幫助、QOL
	事後学習	配布プリントに目を通しておくこと（2時間）
6	事前学習	第4・5回の授業の配布資料に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	アクティブ・ラーニング① 尊厳死に関するDVDの視聴とワーク
	事後学習	ワークシートの内容を理解しておくこと（2時間）
7	事前学習	ワークシートの内容を理解しておくこと（2時間）
	授業内容	アクティブ・ラーニング① 尊厳死に関するDVDの視聴とワーク
	事後学習	ワークシートの完成（2時間）
8	事前学習	解剖・輸血について調べておくこと（2時間）
	授業内容	解剖と輸血：正常解剖、病理解剖、司法解剖、献体、売血、「黄色い血」輸血
	事後学習	配布プリントに目を通しておくこと（2時間）
9	事前学習	脳死・臓器移植について調べておくこと（2時間）
	授業内容	脳死・臓器移植：異種間移植、死後移植、生体移植、脳死した身体、利他・利己
	事後学習	配布プリントに目を通しておくこと（2時間）
10	事前学習	妊娠中絶・出生前診断について調べておくこと（2時間）
	授業内容	妊娠中絶・出生前診断：プロ・ライフ、プロ・チョイス、優生保護法、選択的中絶、養子縁組
	事後学習	配布プリントに目を通しておくこと（2時間）
11	事前学習	生殖補助医療について調べておくこと（2時間）
	授業内容	生殖補助医療：代理出産、卵子・精子・胚提供、死後生殖、出自を知る権利
	事後学習	配布プリントに目を通しておくこと（2時間）
12	事前学習	遺伝子技術について調べておくこと（2時間）
	授業内容	遺伝子技術：再生医療、遺伝子検査、ゲノム編集、デザイナー・ベビー、クローン技術、キメラ動物
	事後学習	配布プリントに目を通しておくこと（2時間）
13	事前学習	第11・12回の授業の配布資料に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	アクティブ・ラーニング②：エンハンスメントに関するDVDの視聴とワーク
	事後学習	ワークシートの内容を理解しておくこと（2時間）
14	事前学習	ワークシートの内容を理解しておくこと（2時間）
	授業内容	アクティブ・ラーニング②：エンハンスメントに関するDVDの視聴とワーク
	事後学習	ワークシートの完成（2時間）
15	事前学習	これまでの授業の資料、ワークの内容を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	これまでの学習内容の確認
	事後学習	配布プリントに目を通しておくこと（2時間）

科目名	倫理学Ⅱ	担当者	佐々木 聖使	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	環境問題の解決が、現代社会の喫緊の課題となっている。 また、現代のバイオテクノロジーや生殖医療・救急救命医療の急速な進展が、従来の生命観を根底から変えはじめてい る。 この講義では、日本人が従来考えてきた自然観や生命観の理解をふまえ、現代の環境倫理・生命倫理の基本的問題点につ いての知識を深め、各自が主体的に考えることを目的としている。				
授業目的・ 到達目標	1. 自然に対する考え方が、文化や宗教などで違うことを理解し、説明できることを目的とする。2. 日本人の自然に対する 考え方を理解し、説明できることを目的とする。3. 環境問題が、現代社会の価値観を変えようとしていることを理解し、 説明できることを目的とする。4. 生命倫理や生殖医療を通して、現代人がどのように「生命」の問題に直面しているのか 理解し、説明できることを目的とする。5. 救急救命医療の進展により、従来の生命観が根底から変わり始めていることを 理解し、説明できることを目的とする。 以上の各項目を理解し、説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目1, 2, 3, 4				
履修条件	受講にかんするかなり厳しい「授業履修要項」（ガイダンス時配布）の内容を承認の上、受講すること。 日常的に、新聞記事を読むこと。授業中のスマホやパソコンの使用は認めない。				
授業方法	講義形式で行なう。黒板を多用するので、専用のノートを用意すること。 試験の解説や講評は、後日ポータルシステムを使って行なう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		60%	現代社会の変化とともに、どのように倫理が変化しているのか。環境倫理や生命倫理が、 私たちの価値観をどのように変えようとしているのか理解できていれば合格。	
	平 常 評 価		40%	授業態度など。私語や遅刻などは減点対象とする。 授業中のスマホやパソコン・カメラの使用は認めない。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用せず			
参 考 書	授業時に指示する。必要に応じて、新聞記事などを配布する。				
オフィス アワー	一部火曜 4 限、二部水曜 2 限 授業終了後 授業講堂にて。 メールアドレス：sezi.wokoze@gmail.com（メールの内容にかかわらず、「授業について」と表題をつけること）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	夏期休業中の環境問題に関する新聞記事を確認すること（2時間）
	授業内容	ガイダンス； 環境倫理とはなにか
	事後学習	環境の何が問題となっているのか、復習しておくこと（2時間）
2	事前学習	安田喜憲『森を守る文明・支配する文明』（PHP新書）を読んでくること（2時間）
	授業内容	自然とは何か； 東洋では自然をどのように考えてきたのか
	事後学習	中国以外の自然観を調査すること（2時間）
3	事前学習	旧約聖書の「創世記」冒頭部分を読んでくること（2時間）
	授業内容	西洋人の自然観； キリスト教的自然観と私たちの自然観とどのように違うのか
	事後学習	現代日本に於けるキリスト教の影響を考えてみること（2時間）
4	事前学習	土橋寛『日本語に探る古代信仰』（中公新書）を読んでくること（2時間）
	授業内容	日本人の自然観； 古代日本人の感じた神聖なる自然への眼差し
	事後学習	身近な神社のご神木に、どのような種類があるか、調べてみること（2時間）

5	事前学習	「もののけ姫」のビデオを見てくること（2時間）
	授業内容	現代日本人の自然観； 宮崎駿はもののけ姫で、何を主張しようとしたのか
	事後学習	宮崎駿の他のアニメで、どのように自然を描いているのか、調べてみること（2時間）
6	事前学習	森本哲郎『そして文明は歩む』（新潮社）を読んでくること（2時間）
	授業内容	文明と自然観； 世界の各文明がもっている自然観の違いを比較しながら考える
	事後学習	授業内容の文明における自然観の違いを、表にしてみること（2時間）
7	事前学習	A. トフラー『第三の波』のなかで、近代社会の特色を確認すること（2時間）
	授業内容	環境破壊の根源； 破壊をもたらした近代社会の構造的原因は何か
	事後学習	身近な環境問題にどのようなものがあるのか、確認すること（2時間）
8	事前学習	A. トフラーの主張する、新しい社会について、調べてくること（2時間）
	授業内容	環境倫理と新しい世界観・価値観； 近代社会の終焉と新しい世界像
	事後学習	「近代主義」の先の「人間と自然」の関係はどのようなものか、レポートにまとめること（2時間）
9	事前学習	日常の新聞記事の中で、医療問題や終末期医療の問題を確認すること（2時間）
	授業内容	生命倫理の基本的考え方； 生命倫理とバイオテクノロジー
	事後学習	環境倫理と生命倫理の区別を確認すること（2時間）
10	事前学習	体外受精における精子提供や卵子提供について確認してくること（2時間）
	授業内容	生殖医療技術と人間関係 1； 体外受精がもたらす問題
	事後学習	生殖医療を自らの問題として考えること（2時間）
11	事前学習	向井亜紀と高田延彦夫婦の代理出産の事例を確認してくること（2時間）
	授業内容	生殖医療技術と人間関係 2； 代理母問題を通して
	事後学習	代理母以外に子供を持つ方法はあるのかを考えること（2時間）
12	事前学習	ジェンダーと性的役割の葛藤を確認してくること（2時間）
	授業内容	生殖医療技術と人間関係 3； 同性婚や性転換がもたらす影響
	事後学習	生殖医療技術が、どのような倫理的問題を起こすのかをまとめること（2時間）
13	事前学習	クレア・シルヴィア『記憶する心臓』（角川書店）を読んでくること（2時間）
	授業内容	脳死・臓器移植問題； 人間の心はどこに宿るのか。生命倫理と心身論
	事後学習	臓器移植ネットワークのデータで、移植者のみならず移植希望者の数を確認すること（2時間）
14	事前学習	奥野修司『魂でもいいから、そばにいて』（新潮社）を読んでくること（2時間）
	授業内容	新しい「死」； 安楽死と生命の尊厳、現代医療技術がもたらす新しい死のあり方と意味
	事後学習	家族の死について、両親などより聞き取りをすること（2時間）
15	事前学習	授業内容の総復習（2時間）
	授業内容	学期末試験及び振り返り
	事後学習	自己採点をすること（2時間）

科目名	論理学 I	担当者	江川 晃	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	自分の考えを、飛躍の少ない、理解しやすい表現にするには、論理力が必要です。論理力とは、考えをしっかりと伝える力であり、伝えられたものをしっかりと受け取る力です。さらに、論理力がつけば、深い思考力、すばやい判断力、鋭い分析力、そして明解な読解力が養われ、議論に積極的に参加できる自信がついてきます。さあ、みなさん、いっしょに、論理力をつけましょう！					
授業目的・到達目標	この授業は、論理力を付けることを目的とする。前期は、伝統的論理学の直接的推理（対当推理と変形推理）と間接的推理（定言三段論法・選言三段論法・仮言三段論法）を理解する。とくに、定言三段論法をヴェン図によりその妥当性を判断し、さらには、その日常生活への応用力を養うことを目標とする。 関連D P及びC P：総合科目1, 2, 3, 4					
履修条件	間違っても恥ずかしくないという勇気を持つこと！演習問題はみんなで「ああだこうだ」議論していきましょう。					
授業方法	講義と演習を交互に行ないます。まず基本的な形式論理学の原理を説明します。次に、徹底的に演習し、具体的な応用問題を皆で納得のいくまで議論し合いながら楽しく、解いていきましょう！「考えるより慣れていきましょう」。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業内試験	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	プリントを配布します。				
参考書	授業中に提示する。					
オフィスアワー	金曜日4限、授業終了後の教室にて対応します。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読んでおきましょう。論理学という学問について調べておきましょう。（2時間）
	授業内容	ガイダンス：論理学とは何か
	事後学習	配布プリントをしっかりと復習しましょう。（2時間）
2	事前学習	配布プリントを予習し、伝統的論理学の直接的推理（対当推理と変形推理）について調べておきましょう。（2時間）
	授業内容	1 直接推理 （1）対当推理とは何か （定言命題、矛盾対当、反対対当、小反対対当、大小対当）
	事後学習	対当推理を復習しましょう。（2時間）
3	事前学習	演習問題 1 を予習してきてください。（2時間）
	授業内容	演習問題 1 （具体的な対当推理の妥当性判断）
	事後学習	授業で練習した演習問題をもう一度考えてみましょう。（2時間）
4	事前学習	変形推理とは何かを把握しておきましょう。（2時間）
	授業内容	（2）変形推理 （換質、换位、換質换位換質）
	事後学習	変形推理の復習。（2時間）

5	事前学習	変形推理の演習問題 2 を解いておきましょう。（2時間）
	授業内容	演習問題 2（E判断、I判断、A判断の変形推理）
	事後学習	変形推理の演習問題 2 をもう一度、自力でやってみよう。（2時間）
6	事前学習	間接推理を（定言三段論法・選言三段論法・仮言三段論法）把握しておこう。（2時間）
	授業内容	2 間接推理 （1）定言三段論法（定言三段論法の構造と、格式）
	事後学習	定言三段論法の構造を説明できるか試してみよう。（2時間）
7	事前学習	定言三段論法の演習問題 3 の予習。（2時間）
	授業内容	演習問題 3（ベン図による妥当性判定に関する練習問題）
	事後学習	授業で取り上げられた問題をもう一度試してみよう。（2時間）
8	事前学習	仮言三段論法を把握してこよう。（2時間）
	授業内容	（2）仮言三段論法
	事後学習	仮言三段論法を復習しよう。（2時間）
9	事前学習	仮言三段論法の演習問題を解いてこよう。（2時間）
	授業内容	演習問題 4（仮言三段論法の問題）
	事後学習	仮言三段論法の演習問題の復讐（2時間）
10	事前学習	選言三段論法を把握してこよう。（2時間）
	授業内容	（3）選言三段論法
	事後学習	選言三段論法の内容を振り帰ろう。（2時間）
11	事前学習	演習問題 5 を解いておこう。（2時間）
	授業内容	演習問題 5（選言三段論法に関する問題）
	事後学習	演習問題 5 を復習しよう。（2時間）
12	事前学習	記号論理学の基礎（論理語とは何か等）を把握してこよう。（2時間）
	授業内容	3 記号論理学の基礎 （1）論理語 （2）命題計算
	事後学習	命題計算の構造と方法について復習しよう。（2時間）
13	事前学習	演習問題 6 を解いておこう。（2時間）
	授業内容	演習問題 6（命題計算）
	事後学習	演習問題 6 を復習しよう。（2時間）
14	事前学習	今まで配布されたプリントをしっかりと理解しておこう。（2時間）
	授業内容	模擬試験及び振り返り
	事後学習	模擬試験問題を徹底的に復習しよう。（2時間）
15	事前学習	模擬試験においてミスしたところ克服しよう。（2時間）
	授業内容	授業内試験と解説
	事後学習	試験でできなかった箇所を復習しておこう。（2時間）

科目名	論理学 I	担当者	大熊 圭子	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	法科大学院適性試験、公務員試験などでは、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうか問われる。これらの力は、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものであろう。文章を書く場合も、論文ではなくたとえ作文であってもその内容を論理的に展開させていく必要がある。本講座ではこのような、特に論理的な文章を読み書きしていくために必要な論理的思考方法の基本について学ぶ。					
授業目的・到達目標	論理的思考力を有し、それを実社会において有効に活用できる人材を育成することを目的とする。 論理的思考とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できるようになること、また実際にそのような思考方法を用いて様々な主張を行ったり、ある主張について論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察することができるようになることを目標とする。（対応DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4）					
履修条件	特になし					
授業方法	できるだけ教科書に沿って説明・課題を行っていく。 提出した課題については翌週に解説を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業内で行う課題およびまとめの総合問題（80％）、授業参加度（20％）で総合評価	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2006	産業図書		新版 論理トレーニング（哲学教科書シリーズ）		野矢茂樹
	備考					
参考書	野内良三『実践ロジカル・シンキング入門』大修館書店					
オフィスアワー	水曜日 18：00～19：00 研究室（本館8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。 okuma.keiko@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認する。テキストの目次を見て講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	論理学とは（ガイダンス） 授業内容、スケジュール、成績評価などの説明
	事後学習	授業内容を確認し、他の履修予定科目との関連性等を考え、自分の学習計画を立てる。（2時間）
2	事前学習	授業内容をシラバスで再確認する。論証とは何か、ネットなどを使って調べてみよう。（2時間）
	授業内容	論証とは
	事後学習	講義ノートを参考に授業内容を復習する。論証とは何か明確に説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	テキスト第1章を読んでノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	接続関係（順接）
	事後学習	講義ノートを確認し、順接の接続関係と注意点について理解できているか確認する。（2時間）
4	事前学習	テキスト第2章を読んでノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	接続関係（逆接）
	事後学習	講義ノートを確認し、逆説の接続関係と注意点について理解できているか確認する。（2時間）

5	事前学習	テキスト第3章を読んでノートにまとめておく。(2時間)
	授業内容	議論の構造
	事後学習	講義ノートを見ながら、議論の構造がどのようになっているか復習する。(2時間)
6	事前学習	テキスト第3章をもう一度読んで不明な点などをノートに書きだしておく。(2時間)
	授業内容	議論の構造の問題
	事後学習	講義ノートを確認し、議論の構造の把握の仕方がしっかりと身についた確認する。(2時間)
7	事前学習	テキスト第4章を読んでノートにまとめておく。(2時間)
	授業内容	論証の組み立て
	事後学習	講義ノートを確認し、論証とはどのような構造を持つものか、また論証の3つのタイプについても確認する。(2時間)
8	事前学習	テキスト第4章をもう一度読んで不明な点をノートに書きだしておく。(2時間)
	授業内容	論証の分析
	事後学習	講義ノートを確認し、論証の分析とは何をすることか、論証を読み取って論証図を書けるようになっているか確認する。(2時間)
9	事前学習	テキスト第5章を読んでノートにまとめておく。(2時間)
	授業内容	論証の評価
	事後学習	講義ノートを確認し、根拠の評価(批判)の方法を確認する。また演繹と推測の違いを確実に説明できるようになっておく。(2時間)
10	事前学習	テキスト第5章をもう一度読んで不明な点をノートに書きだしておく。(2時間)
	授業内容	導出の関連性
	事後学習	講義ノートを確認し、導出の関連性とはなにか、できる限り反論するとはどのようなことか、反論できているかなどについてしっかりと復習すること。(2時間)
11	事前学習	テキスト第6章を読んでノートにまとめておく。(2時間)
	授業内容	推測について
	事後学習	講義ノートを確認し、様々な推測とその評価の方法について理解・説明ができるか確認する。(2時間)
12	事前学習	テキスト第6章をもう一度読んで不明な点をノートに書きだしておく。(2時間)
	授業内容	推測の評価の練習問題
	事後学習	講義ノートを確認し、様々な推測とその評価の方法について確実に理解・説明ができるか確認する。(2時間)
13	事前学習	テキスト第7章を読んでノートにまとめておく。(2時間)
	授業内容	価値評価
	事後学習	講義ノートを確認し、価値を含んだ論証の反論の仕方について明確になっているか確認する。(2時間)
14	事前学習	これまでの授業内容を復習する。特に難しかったところは、テキスト・講義ノートを見直しておく。(2時間)
	授業内容	前期の授業の振り返り、および理解度の確認のための総合問題を行う
	事後学習	講義ノートを参考に、総合問題でできなかったところ、不安なところを確認し復習しておく。(2時間)
15	事前学習	これまでの授業内容における不明点、および総合問題での不明点を明らかにしておく。(2時間)
	授業内容	講義全体のふり返し 総合問題の解説
	事後学習	授業内容全体を復習し、テキストにある問題に再度取り組んでみよう。(2時間)

科目名	論理学Ⅱ	担当者	江川 晃	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	自分の考えを、飛躍の少ない、理解しやすい表現にするには、論理力が必要です。論理力とは、考えをしっかりと伝える力であり、伝えられたものをしっかりと受け取る力です。さらに、論理力がつけば、深い思考力、すばやい判断力、鋭い分析力、そして明解な読解力が養われ、議論に積極的に参加できる自信がついてきます。さあ、みなさん、いっしょに、論理力をつけましょう！					
授業目的・到達目標	論理学Ⅱは、論証の図式化、演繹と推測の区別を理解することを目的とし、さらに、ドモルガンの法則や条件法、消去法、記号論理を把握し、演習を行い、それらの論理的操作を使いこなすことにより、高度な実践的推理に慣れることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目1，2，3，4					
履修条件	間違っても恥ずかしくないという勇気を持つこと！演習問題はみんなで「ああこうだ」議論していきましょう。					
授業方法	講義と演習を交互に行ないます。まず基本的な形式論理学の原理を説明します。次に、徹底的に演習し、具体的な応用問題を皆で納得のいくまで議論し合いながら楽しく、解いていきましょう！「考えるより慣れていきましょう」					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業内試験	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	プリントを配布します。				
参考書	授業中に提示する。					
オフィスアワー	金曜日4限、授業終了後の教室にて対応します。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	ガイダンス：（1）論理学とは何か （2）論証図、演繹と推測、ドモルガンの法則1～2や条件法、消去法、記号論理
	事後学習	論理学とは何かについてもう一度考えてみよう。（2時間）
2	事前学習	論証の構造と論証図について事前に把握しておこう。（2時間）
	授業内容	1 論証の構造と論証図・演習
	事後学習	論証の構造と論証図について復習する。（2時間）
3	事前学習	演繹と推測をどのように区別するのか考えておこう。（2時間）
	授業内容	2 演繹と推測 (1) 演繹と推測の違い・演習
	事後学習	演繹と推測の復習。（2時間）
4	事前学習	仮説形成とは何かを把握しておくこと。（2時間）
	授業内容	(2) 仮説形成・演習
	事後学習	仮説形成・演習の復習。（2時間）

5	事前学習	否定、反対、両立不可能の違いについて見ておこう。（2時間）
	授業内容	3 否定 （1）否定と反対
	事後学習	例題を復習しよう。（2時間）
6	事前学習	ドモルガンの法則 1 とは何かを予習しておこう。（2時間）
	授業内容	（2）「かつ」と「または」（ドモルガンの法則 1）
	事後学習	「かつ」と「または」の否定に関する例題をもう一度考え直そう。（2時間）
7	事前学習	ドモルガンの法則 2 とは何かを予習しておこう。（2時間）
	授業内容	（3）「すべて」と「ある」（ドモルガンの法則 2）
	事後学習	「すべて」と「ある」の否定に関する例題をもう一度考え直そう。（2時間）
8	事前学習	条件構造とは何かを見ておこう。（2時間）
	授業内容	4 条件構造 （1）逆・裏・対偶
	事後学習	逆・裏・対偶の関係を、例題でもう一度理解してみよう。（2時間）
9	事前学習	条件連鎖の構造を予習してみよう。（2時間）
	授業内容	（2）条件連鎖
	事後学習	例題を復習しよう。（2時間）
10	事前学習	存在文の扱い方を予習しよう。（2時間）
	授業内容	5 推論の技術 （1）存在文の扱い方
	事後学習	例題の復習。（2時間）
11	事前学習	消去法とは何かについて見ておこう。（2時間）
	授業内容	（2）消去法
	事後学習	例題の復習。（2時間）
12	事前学習	背理法とは何かについて見ておこう。（2時間）
	授業内容	（3）背理法
	事後学習	例題の復習。（2時間）
13	事前学習	配布プリントを総復習。（2時間）
	授業内容	試験の傾向と対策 (1)
	事後学習	模擬問題を完全理解しよう。（2時間）
14	事前学習	前回の復習と疑問点を明確化しておこう。（2時間）
	授業内容	試験の傾向と対策 (2)
	事後学習	模擬問題を完全理解しよう。（2時間）
15	事前学習	模擬問題の総復習しておこう。（2時間）
	授業内容	授業内試験と解説
	事後学習	反省。（2時間）

科目名	論理学Ⅱ	担当者	大熊 圭子	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	法科大学院適性試験、公務員試験などでは、判断力・思考力・分析力等の資質を有しているかどうか問われる。これらの力は、実際にはどのような職業に就くにしても必要とされるものであろう。文章を書く場合も、論文ではなくたとえ作文であってもその内容を論理的に展開させていく必要がある。本講座ではこのような、特に論理的な文章を読み書きしていくために必要な論理的思考方法の基本について学ぶ。			
授業目的・到達目標	論理的思考力を有し、それを実社会において有効に活用できる人材を育成することを目的とする。 論理的思考とはどのようなものであるかを理解し、それを説明できるようになること、また実際にそのような思考方法を用いて様々な主張を行ったり、ある主張について論理的、科学的、合理的かつ批判的に考察することができるようになることを目標とする。（対応DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 4）			
履修条件	特になし			
授業方法	できるだけ教科書に沿って説明・課題を行っていく。 提出した課題については翌週に解説を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業内で行う課題およびまとめの総合問題（80％）、授業参加度（20％）で総合評価
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2006	産業図書	新版 論理トレーニング（哲学教科書シリーズ）	野矢茂樹
	備考			
参考書	野内良三『実践ロジカル・シンキング入門』大修館書店			
オフィスアワー	水曜日 18：00～19：00 研究室（本館8F） 事前にメールでアポイントメントをとること。 okuma.keiko@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認する。テキストの目次を見て後期の講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	後期講義内容に関するガイダンス 授業内容、スケジュール、成績評価などの説明
	事後学習	授業内容を確認し、他の履修予定科目との関連性等を考え、自分の学習計画を立てる。（2時間）
2	事前学習	テキスト8.1を読んでノートにまとめておく。いろいろな言葉が出てくるので、ノートをしっかりと作成し整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	さまざまな否定の形
	事後学習	講義ノートを確認し、さまざまな否定の形について理解できているか確認する。（2時間）
3	事前学習	テキスト8.2を読んでノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	ド・モルガンの法則
	事後学習	講義ノートを確認し、否定関係について説明できるようになっておくこと。（2時間）
4	事前学習	テキスト第9章を読んでノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	逆・裏・対偶
	事後学習	講義ノートを確認し、逆・裏と対偶の違いについて明確に説明できるようになっているか確認すること。（2時間）

5	事前学習	テキスト第9章をもう一度読んで不明な点をノートに書きだしておく。（2時間）
	授業内容	条件連鎖
	事後学習	講義ノートを確認し、条件連鎖を用いて演繹かどうか判別できるようになっているか、練習問題などを行って確認すること。（2時間）
6	事前学習	テキスト10.1を読んでノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	全称と存在
	事後学習	講義ノートを確認し、存在文とは何か、存在文が含まれる場合の条件連鎖の方法を説明できるか確認する。（2時間）
7	事前学習	テキスト10.2を読んでノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	消去法
	事後学習	講義ノートを確認し、消去法とは何か、消去法が含まれる場合の条件連鎖の方法を説明できるか確認する。（2時間）
8	事前学習	テキスト10.3を読んでノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	背理法
	事後学習	講義ノートを確認し、背理法とは何か、背理法が含まれる場合の条件連鎖の方法を説明できるか確認する。（2時間）
9	事前学習	テキスト第9章および第10章をもう一度読んで不明な点をノートに書きだしておく。（2時間）
	授業内容	条件連鎖のまとめ
	事後学習	講義ノートを確認し、さまざまな条件連鎖について確実に理解・説明できるか確認する。（2時間）
10	事前学習	テキスト第11章を読んでノートにまとめておく。（2時間）
	授業内容	異論と批判
	事後学習	講義ノートを確認し、立論・異論・批判について説明できるようになっているか確認する。（2時間）
11	事前学習	テキスト第11章をもう一度読んで不明な点をノートに書きだしておく。（2時間）
	授業内容	批判の基礎
	事後学習	講義ノートを確認し、批判とは何かを説明でき、また実際に批判することができるかどうか確認する。（2時間）
12	事前学習	批判についての講義ノートを確認し、テキストの問題にトライしてみよう。（2時間）
	授業内容	批判の応用
	事後学習	講義ノートを確認し、さまざまな視点から批判ができることができるように、いろいろな主張を批判してみよう。（2時間）
13	事前学習	これまでの授業内容における不明点をすべて明らかにし、ノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	後期授業のふり返し 不明点に関する解説
	事後学習	講義ノートを参考に後期の授業内容をすべて復習し、さらなる不明点がないか確認する。（2時間）
14	事前学習	授業内容を復習する。特に難しかったところは、授業内で行った問題に再度取り組んでみる。（2時間）
	授業内容	授業内容のふり返し、および理解度確認のための総合問題を行う
	事後学習	講義ノートを参考に、総合問題でできなかったところ、不安なところを確認し復習しておく。（2時間）
15	事前学習	授業内容における不明点、および総合問題での不明点を明らかにしておく。（2時間）
	授業内容	講義全体のふり返し 総合問題の解説
	事後学習	授業内容全体を復習し、批判的な視点を含む小論文を書いてみよう。（2時間以上）

Ⅲ群

外国語科目

Ⅲ群

外国語科目

科目名	英語A【法職課程1年生共通クラス】	担当者	原田 明子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今までに学んだ英語の語彙や文法を復習しつつ、語彙力、読解力をさらに高め、大学での専門分野の学習や資格試験に対応できる英語力を目指す。英文の内容を正確に読み取り、的確に伝える能力を身に着ける。			
授業目的・到達目標	[授業目的]TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成すること、並びに現代の社会や文化、科学技術などについて書かれた英文のエッセイを読み、問題を解いて、様々な語彙や英語表現を身につけるとともに、英語で書かれた情報を正確、迅速に把握する能力を養成することを目的としています。 [到達目標]語彙力、文法、読解力を身につけ、テキストの英文はもちろんのこと、インターネットのニュースなど英語サイトの記事や、TOEICの読解問題の英文を、限られた時間内に正確に理解し、説明できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3， 6			
履修条件	法職課程1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Bと通年で履修してください。			
授業方法	2回の授業でひとつの単元を学ぶ。1回目はToday's Readingの内容を中心に学習する。2回目は単語テストを通じて重要な単語を定着させるとともに、テキストの問題の答え合わせを行って、英語表現の理解を深める。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業での発表、テストの結果など
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	南雲堂	SIMPLY ENGLISH:An Introduction to Today's Key Concepts	Jim Knudsen
	備考			
参考書	授業にて指示			
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は、授業終了後（月曜10：30～授業講堂にて）対応します。 e-mailにてアポイントを取ること。 e-mailには「日本大学法学部」「学籍番号」「名前」を明記してください。 あて先はharada@sakushin-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストを入手し、事前にシラバスの内容を十分に確認しておくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	テキストを見て、事前学習、授業内容、事後学習について、具体的にイメージしてみる。（30分）
2	事前学習	Lesson 1のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。（30分）
	授業内容	Lesson 1のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。
	事後学習	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。（30分）
3	事前学習	Lesson 1のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。（30分）
	授業内容	Unit 1 単語テスト Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ
	事後学習	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。（30分）
4	事前学習	Lesson 2のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。（30分）
	授業内容	Lesson 2のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。
	事後学習	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。（30分）

5	事前学習	Lesson 2のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。(30分)
	授業内容	単語テスト Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ
	事後学習	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。(30分)
6	事前学習	Lesson 3のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	Lesson 3のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。
	事後学習	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。(30分)
7	事前学習	Lesson 3のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。(30分)
	授業内容	単語テスト Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ
	事後学習	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。(30分)
8	事前学習	Lesson 4のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	Lesson 4のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。
	事後学習	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。(30分)
9	事前学習	Lesson 4のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。(30分)
	授業内容	単語テスト Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ
	事後学習	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。(30分)
10	事前学習	Lesson 5のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	Lesson 5のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。
	事後学習	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。(30分)
11	事前学習	Lesson 5のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。(30分)
	授業内容	単語テスト Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ
	事後学習	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。(30分)
12	事前学習	Lesson 6のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	Lesson 6のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。
	事後学習	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。(30分)
13	事前学習	Lesson 6のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。(30分)
	授業内容	単語テスト Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ
	事後学習	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。(30分)
14	事前学習	現代社会を扱った指定された英文を読んでくる。(30分)
	授業内容	現代社会を扱った英文を読み、問いに答える。
	事後学習	英文に再度目を通し、重要な単語を暗記し、内容をまとめる。(30分)
15	事前学習	テキストの総復習(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。(30分)

科目名	英語A【法職課程1年生共通クラス】	担当者	水野 隆之	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験を目指すための基礎固めをします。基礎的な文法事項を身につけることを目標とするとともに、TOEICに出題される表現を多く覚えます。			
授業目的・到達目標	〔授業目的〕 TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 〔授業目標〕 TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。関連D P 及びC P：外国語科目領域3， 6			
履修条件	法職課程1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。			
授業方法	演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で返却を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）100%、
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	成美堂	BEST PRACTICE FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST REVISED EDITION	吉塚 弘
	備考			
参 考 書	各種英語辞書			
オフィスアワー	月曜日10：30～ 授業終了後の講堂にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、TOEICの概要を説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC, TOEFL, 英検等の各種検定視点についてWEBサイト等で調べてみる。（30分）
2	事前学習	テキスト1頁、4～7頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	Unit1 人称代名詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。（30分）
3	事前学習	テキスト8頁、11～14頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	Unit2 不定代名詞と再帰代名詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。（30分）
4	事前学習	テキスト15頁、18～21頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	Unit3 現在・過去の時制について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。（30分）

5	事前学習	テキスト22頁、25~28頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit4 現在完了について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
6	事前学習	テキスト29頁、32~35頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit5 時・期間を表す前置詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
7	事前学習	テキスト36頁、39~42頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit6 位置・場所を表す前置詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
8	事前学習	テキスト43頁、46~49頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit7 数量形容詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
9	事前学習	テキスト50頁、53~56頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit8 自動詞と他動詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
10	事前学習	テキスト57頁、60~63頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit9 形容詞を作る接尾辞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
11	事前学習	テキスト64頁、67~70頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit10 副詞を作る接尾辞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
12	事前学習	テキスト71頁、74~78頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit11 分詞構文について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
13	事前学習	テキスト79頁、82~86頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit12 比較について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
14	事前学習	テキスト87頁、90~94頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit13 受動態について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
15	事前学習	テキストの総復習。(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。(30分)

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	井上 悦男	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC Listening & Reading テストの受験のための基礎力を養成する。					
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的とします。 TOEIC450点以上獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 3, 6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。					
授業方法	TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行う。フィードバックは授業内において行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		試験(60%)、平常点(毎回の小テスト、発表)(40%)	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	国際ビジネスコミュニケーション協会		公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 4		Educational Testing Service
	備考					
参考書	授業時に指示する。					
オフィスアワー	質問は授業終了後の講堂、あるいはメールで受けつけます。 授業時間：月曜 4・5・6 限、水曜 1 限 inoue_etsuo4949@yahoo.co.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	既習事項の確認 (30分)
	授業内容	ガイダンス(問題構成など)、模擬問題での演習、関連事項の演習
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習 (30分)
2	事前学習	前回までの復習 (30分)
	授業内容	Part2, Part5、関連事項の演習、音読練習
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習 (30分)
3	事前学習	前回までの復習 (30分)
	授業内容	Part2, 5
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習 (30分)
4	事前学習	前回までの復習 (30分)
	授業内容	サンプル問題(listening)、Part2, 5
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習 (30分)

5	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	サンプル問題(reading)、Part2, 5
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
6	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test1 Part1, 2、Part5
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
7	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test1 Part3、Part2
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
8	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test1 Part5(前半)、Test1 Part3の復習(この後適宜行う)
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
9	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test1 Part4、Test1 Part5(後半)
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
10	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test1 Part4の復習(この後適宜行う)、Test1 Part6
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
11	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Part 2, 5、Test1 Part6の復習
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
12	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Part2, 5
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
13	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test1 Part7
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
14	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test1 Part7
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
15	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	確認（30分）

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	井上 悦男	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語資格試験の受験に必要な基礎力を磨きます。語彙、表現、文法の基礎固めと、音読を中心としたリスニングの練習をします。					
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的とします。 TOEIC450点を獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域3, 6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。					
授業方法	TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行う。フィードバックは授業内において行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		試験(60%)、平常点(毎回の小テスト、発表)(40%)	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	プリント使用				
参考書	授業時に指示する。					
オフィスアワー	質問は授業終了後の講堂、あるいはメールで受けつけます。 授業時間：月曜4・5・6限、水曜1限 inoue_etsuo4949@yahoo.co.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	既習事項の復習，シラバスの確認（30分）
	授業内容	ガイダンス（問題構成など），模擬問題での演習（TOEIC Part1），以後毎回音読練習
	事後学習	問題構成の確認，語彙の確認（30分）
2	事前学習	前回の復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習（TOEIC Part1、品詞：名詞・動詞），前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
3	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習（TOEIC Part2、品詞：形容詞・副詞），前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
4	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習（TOEIC Part2、品詞：形容詞・副詞），前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）

5	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(文型)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
6	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(文型)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
7	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(時制)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
8	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(時制)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
9	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(準動詞)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
10	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(準動詞)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
11	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(語彙)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
12	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(語彙)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
13	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(読解)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
14	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(読解)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
15	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	見直し（30分）

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	小倉 浩子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英文読解の授業です。使用するテキストは、ロンドン在住の著者がイギリスの文化や歴史に触れながらイギリスの今を語る英文エッセイ集です。語句や文法に留意しながら、丹念に英文を読み進める場にしたいと思います。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。対応DP及びCP：外国語科目領域3,6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。					
授業方法	輪読形式。テキストのユニットごとに小テストを行う予定です。小テストや試験は次の授業で返却し、解答の確認・解説を行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業への参加度、小テストや試験の結果を総合的に評価。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018年	成美堂		鼓動するイギリス		John H. Randle、 棕平淳
	備考					
参考書	適宜紹介します。					
オフィスアワー	水曜10：30～授業終了後の講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通す。テキストの“Preface”と「はじめに」を読む。（30分）
	授業内容	ガイダンス シラバスに基づいて授業の進め方を説明。テキストの“Preface”の内容を確認。 英語学習（特にTOEIC）について話をする。
	事後学習	ガイダンスを振り返る。（30分）
2	事前学習	テキストUnit 1のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 1 The Brexit Referendum Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
3	事前学習	テキストUnit 2のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 2 The New Mayor of London Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
4	事前学習	テキストUnit 3のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 3 Brits on Bikes Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）

5	事前学習	テキストUnit 4のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 4 Oxford and Cambridge : Looking to the Future Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
6	事前学習	テキストUnit 5のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 5 A Profile of Cornwall Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
7	事前学習	テキストUnit 5までの授業の復習をする。(30分)
	授業内容	Unit 1 ～Unit 5のまとめ
	事後学習	Unit 5までの授業のまとめを振り返る。(30分)
8	事前学習	テキストUnit 6のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 6 The Cost of Being Young Today Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
9	事前学習	テキストUnit 7のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 7 It All Began at Rugby School Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
10	事前学習	テキストUnit 8のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 8 Britain and the Sea Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
11	事前学習	テキストUnit 9のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 9 Images of Scotland Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
12	事前学習	テキストUnit 10のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 10 “The New Look” : Beards and Tattoos Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
13	事前学習	テキストUnit 6以降の授業の復習をする。(30分)
	授業内容	Unit 6～Unit 10のまとめ
	事後学習	Unit 6以降の授業のまとめを振り返る。(30分)
14	事前学習	試験に向けて学習する。(30分)
	授業内容	授業内試験及びまとめ
	事後学習	試験への取り組みなどを反省する。(30分)
15	事前学習	テキストUnit 1～Unit 10の語句や内容を再確認する。(30分)
	授業内容	授業内試験後のまとめ
	事後学習	前期授業を振り返る。(30分)

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	小山 誠子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	English(language/literature),Fashion, Computer...等様々な「イギリス発祥」(Made in Britain)に関する英文の読解を通じて、一定の語彙力の増強及び構文(英文法の確認)の理解と共に、情報収集の「手段」「道具」としての英語の習得により「英語圏」という異文化を通じて国際社会への知識・「客観的」理解を深め、それらに対する「主体的」な判断・意見を涵養します。			
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 情報収集の手段としての英文の読解を習慣化し、TOEIC500点代(意思疎通に必要な英語レベル)取得に必要な語彙及び文法の習得に努め、効率的な学習方法を身に付けます。英文の精読を通じて欧米文化の価値観への理解を深め、受講者各自の持つ自国文化との比較・対照を行うことで、批評(批判)的且つ論理的な思考を養い、自国の言語文化を相対化する視点を持ち、客観的理解・共感を得られる自身の意見を国際社会に発信できるようになることを目標としています。			
履修条件	法律学科1年生が必修科目領域3止配資格試験の受験を強く奨励します。到達目標を意識して意欲的に学習に取り組む者。原則、英語Bと通年で履修してください。			
授業方法	英文を通じた知識の涵養を目標に精読(確認)を行います。文法事項は本文の文構造に関連づけ展開し、Chapter毎に指定範囲内の小テストを、最終授業日にて授業内試験(60分)及び解説/講評(30分)を行います。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常評価(発表等の授業への積極的取組状況及びテスト(毎Chap. 等)により総合的に評価する。※上記各種英語資格試験や関連情報の調査報告も推奨、評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	成美堂	Made in Britain	Anthony Sellik John Barton
	備考			
参考書	大学生/社会人レベルの辞書(電子辞書も可)を毎回携帯すること。学習記録用のノートを用意すること。 ※ PC・タブレット・携帯電話の使用は認めない。			
オフィスアワー	授業後20分間(水曜10:30~10:50)授業講堂にて対応する。(※初回授業にて指示する。)			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキスト全体及び下記展開トピック(Chapter)に目を通し、気になる点をメモして授業に臨むこと。 加えて、テキスト以外に「イギリス」と聞いて思いつく事柄及びそれについての各自のコメントを併せてメモしておく。(30分)
	授業内容	ガイダンス(授業の進め方、TOEICの概要を説明する。) ＋第2回以降の展開方法のシミュレーションを行い、英文読解及び情報整理の方法を習得する。
	事後学習	次回(第2回)以降展開範囲を中心に、辞書を使わずにどの程度内容が把握できそうか現時点での「実力チェック」を各自行う。(→3か月後の学習成果を自己確認できるようにするため。)(30分)
2	事前学習	1. Chapter16全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter 16 Football – The Beautiful Game(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)
3	事前学習	Chapter16前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想及び記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 16 (Football – The Beautiful Game中盤～後半) 章全体を通じて、'Football'の起源・歴史の変遷/(日本を含めた)国際的影響を理解・説明できる。 ※1つのChapter/2回のペースで進む予定。
	事後学習	1. Chapter16全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた、Footballの起源・変遷(歴史)に関する情報を整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)

4	事前学習	1. Chapter1全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等 (5W1H) をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter16 Mini Test(小テスト) Chapter 1 My English, Your English, Our English(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)
5	事前学習	Chapter1前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 1 My English, Your English, Our English (中盤～後半) 章全体を通して、「国際語」'Lingua franca'となった「英語」'English'の誕生・歴史的変遷/(日本を含めた)国際的影響への理解し、説明できる。
	事後学習	1. Chapter1全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた、言語としてのEnglish「英語」の歴史を概観し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)
6	事前学習	1. Chapter2全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等 (5W1H) をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter 1 Mini Test Chapter 2 A Short History of the Miniskirt (前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)
7	事前学習	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/を記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 2 A Short History of the Miniskirt (中盤～後半) 章全体を通して、'Mini Skirt'というイギリス発祥の'Fashion' (風俗/流行)の変遷を概観し、「(流行の)発信地」としてのイギリス文化への理解及び「流行の誕生」とはどういうものか説明できる。
	事後学習	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた、流行・ファッションの発信地としてのイギリスに関する情報を整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)
8	事前学習	1. Chapter3全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等 (5W1H) をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter 2 Mini Test Chapter 3 The Cutest Car Ever Made - The Mini -(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)
9	事前学習	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 3 The Cutest Car Ever Made - The Mini -(中盤～後半) 'Mini'というイギリス発祥の車の誕生/変遷を通じて、歴史と「ものづくり」との関係性についての理解を深め、説明できる。加えて、自国の「ものづくり」とも比較・対照し、コメントする。
	事後学習	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報(「Miniが何故イギリスを象徴する存在なのか」)を整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)
10	事前学習	1. Chapter4全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等 (5W1H) をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter3 Mini Test Chapter 4 Always in Fashion - The Suit-(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)
11	事前学習	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 4 Always in Fashion - The Suit- (中盤～後半) 章全体を通して、国際的な正装(フォーマル・ウェア)としてのスーツ'suits'の発祥/変遷を理解すると共に、「伝統」とは何か考え、説明できる。
	事後学習	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報を(特に最終段落の内容を具体的に)整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)
12	事前学習	1. Chapter5全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等 (5W1H) をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter4 Mini Test Chapter 5 The English Gengleman - Does He Really Exist Anymore? -(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)

13	事前学習	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 5 The English Gengleman - Does He Really Exist Anymore? - (中盤～後半) 章全体を通して、日本語にもなっている「ジェントルマン」'gentleman' の定義とは何か、その誕生/変遷を理解/説明し、併せて、受講者各自による(ジェントルマンの)定義する。
	事後学習	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報を(タイトルにある質問への回答を中心に)整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)
14	事前学習	1. Mini Test(Chapter5)に向けての準備に併せて、学期内展開範囲全てのMini Testを復習(特に初回にて不正解だったものを中心に)を行う。2. テキスト読解箇所全般の構文・内容についても各自確認する。(不明なものは授業にて確認すること。)(30分)
	授業内容	Chapter 5 Mini Test及び学期内展開範囲の総復習 Chapter16及びChapter1～5全体の英文の中で、特に構文が複雑なものや、内容が抽象的な事柄の確認を行うことで、学習内容全般の情報の修正/補足を行い、正確に説明できる。
	事後学習	学習範囲全体を見直し、今一度各自で必要に応じて修正を行い、初回事前学習時からの成果を確認する。(30分)
15	事前学習	3か月学習内容を整理・総括する。(①「英語能力」②「英語圏文化について得た知識」の2つに関して)加えて、「異文化」との比較・対照によって得た感想・意見を整理する。(30分以上必要に応じて)
	授業内容	前期授業のまとめ(授業内試験(60分)) 解説/講評(30分):受講者各自が3か月の学習を通じて得た、異文化(欧米文化)への理解及び自国文化との比較・対照により国際社会への理解及び国際社会での自らの意見を発信できる。
	事後学習	初回事前学習からの成果を自己分析・確認するとともに、今後の課題(英語学習及び「英語」を「手段」としての情報収集及びその活用(発信するための方法/展開)に関する具体的目標)を設定する。(30分)

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	菊地 幸子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	アメリカ文化に関するさまざまな話題のエッセイを読みながら読解力の向上を目指す。				
授業目的・到達目標	【授業目的】 TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】 英文法の知識を用いて英文の内容を正確に読み取れるようになることを目標とする。対応DP及びCP:外国語科目領域3, 6				
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Bと通年で履修すること。				
授業方法	演習方式で行う。フィードバックとして最終授業で授業内試験の講評及び振り返りを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加度（30％）、小テスト（20％）、学期末試験（50％）の割合で総合的に評価する	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017年	南雲堂		English Indicator 3 [Intermediate]	Joshua Cohen他
	備考				
参考書	特に指定しない。				
オフィスアワー	授業前後の休み時間（水曜日10：30～）に講堂にて。緊急の連絡事項がある場合はメールで知らせること。 メールアドレス：kikuchi.sachiko11@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、講義全体を概観する。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、評価方法、受講上の注意事項等を説明する。
	事後学習	ガイダンスの内容を確認する。（30分）
2	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 1 Reading College Sportsに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。（30分）
3	事前学習	練習問題は listening を除いて全て解いておく。（30分）
	授業内容	Unit 1 Exercises 現在時制について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。（30分）
4	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 2 Reading Hip Hop Musicに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。（30分）

5	事前学習	練習問題は listening を除いて全て解いておく。(30分)
	授業内容	Unit 2 Exercises 過去時制について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。(30分)
6	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。(30分)
	授業内容	Unit 3 Reading Travelに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。(30分)
7	事前学習	練習問題は listening を除いて全て解いておく。(30分)
	授業内容	Unit 3 Exercises 進行形について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。(30分)
8	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。(30分)
	授業内容	Unit 4 Reading Video Gamesに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。(30分)
9	事前学習	練習問題は listening を除いて全て解いておく。(30分)
	授業内容	Unit 4 Exercises 完了時制について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。(30分)
10	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。(30分)
	授業内容	Unit 5 Reading Recyclingに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。(30分)
11	事前学習	練習問題は listening を除いて全て解いておく。(30分)
	授業内容	Unit 5 Exercises 冠詞、代名詞について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。(30分)
12	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。(30分)
	授業内容	Unit 6 Reading Fast Foodに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。(30分)
13	事前学習	練習問題は listening を除いて全て解いておく。(30分)
	授業内容	Unit 6 Exercises 名詞について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。(30分)
14	事前学習	試験範囲を復習する。(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期のまとめ。
	事後学習	試験で分からなかった部分の正解を考える。(30分)
15	事前学習	テキストの総復習。(30分)
	授業内容	授業内試験の講評及び振り返り。
	事後学習	前期の学習内容を確認する。(30分)

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	北原 安治	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際文化関連のテキストを使い、各国の歴史や文化を学びながら、文法の理解と発音そして訳しかたなどの基本事項を養成することを目的とする。本文のみやり、練習問題はやらない。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身につけ、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6			
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Bと通年で履修してください。			
授業方法	学生の理解度によって速度を調整する。辞書（電子辞書可）を持ってくる。ノート検査はいつ検査されても良いようにまとめておく。ノートなきものは不可。実力テストは次の週に解説、解答をする。映像教材をみせる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常評価（授業参加度、実力テスト、学期末試験等）100%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2006	鳳書房	Major Countries in the World ～世界の主要国～	小泉和弘
	備考			
参考書	『ロイヤル英文法』1,890円（旺文社）この本は講義では使いません。辞書は毎回持ってくる。			
オフィスアワー	授業終了後（水曜日10：30～授業講堂にて）またはEメールで対応。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス、授業の進め方やノートの取り方の説明。五文型の基本確認。TOEICの概要の説明。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
2	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第1章 英国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。文の種類の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
3	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第1章 英国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。自動詞と他動詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
4	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第1章 英国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。補語と目的語の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）

5	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。助動詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
6	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。現在進行形の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
7	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。過去進行形の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
8	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。未来進行形の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
9	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。現在完了形の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
10	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。過去完了形の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
11	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第2章 ドイツ（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。未来完了形の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
12	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第2章 ドイツ（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。関係代名詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
13	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第2章 ドイツ（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。関係副詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
14	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第2章 ドイツ（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。複合関係詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
15	事前学習	試験範囲の復習。単語、文法、訳の確認。（30分）
	授業内容	復習とまとめ
	事後学習	間違った部分の復習。単語、文法、訳の確認。（30分）

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	関戸 冬彦	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語に積極的に触れ、楽しく、自律的に学習していく姿勢を養う授業です。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】英語の文章、音声に抵抗なく触れ、積極的に自らレスポンスができることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3、6			
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。			
授業方法	教員からの一方的な講義ではなく、受講者が積極的に、時にペアで、グループで、活動するような参加型（ワークショップ）方式にします。 適宜小テストを行い、返却します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	小テスト、学期末ふりかえり、授業内課題等
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	朝日出版社	CNN 10 Vol.2	関戸冬彦ほか
	備考			
参考書	随時指示します。			
オフィスアワー	授業に関する質問、相談などは授業終了後（月曜19：30～講堂にて）またはE-mailにて対応します。 fuyuhiko@df6. so-net. ne. jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	高校までの英語学習のふりかえり（30分）
	授業内容	イントロダクション：授業の概要説明と英語の学習方法について
	事後学習	今学期の英語学習の自分なりの計画をまとめる（30分）
2	事前学習	自分で立てた今学期の学習計画のチェック（30分）
	授業内容	Unit 1: A Look at Gold リスニング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第3回までの宿題（30分）
3	事前学習	第3回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 1: A Look at Gold リーディング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第4回までの宿題（30分）
4	事前学習	第4回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 2: Daylight Savings リスニング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第5回までの宿題（30分）

5	事前学習	第5回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 2: Daylight Savings リーディング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第6回までの宿題（30分）
6	事前学習	第6回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 3: Making Libraries リスニング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第7回までの宿題（30分）
7	事前学習	第7回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 3: Making Libraries リーディング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第8回までの宿題（30分）
8	事前学習	第8回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 4: Pyramid Tech リスニング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第9回までの宿題（30分）
9	事前学習	第9回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 4: Pyramid Tech リーディング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第10回までの宿題（30分）
10	事前学習	第10回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 5: Pigments リスニング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第11回までの宿題（30分）
11	事前学習	第11回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 5: Pigments リーディング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第12回までの宿題（30分）
12	事前学習	第12回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 6: Shopping Tech リスニング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第13回までの宿題（30分）
13	事前学習	第13回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 6: Shopping Tech リーディング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第14回までの宿題（30分）
14	事前学習	第14回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 7: Origami リスニング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第15回までの宿題（30分）
15	事前学習	第15回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 7: Origami リーディング、今学期全体のふりかえり
	事後学習	夏休みの学習計画の確認（30分）

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	塚田 英博	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	文法項目を確認しながら、演習・英文読解を行います。					
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を磨くことを目的としています。TOEICの基礎力を身につけ、スコア450点を獲得できることを目標とします。関連DP及びCP：外国語科目領域3,6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く推奨します。原則、英語Bと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。毎回英単語を含む小テストを実施する。また、2回の課題レポート提出を課します。小テスト、課題とも次回の授業で返却を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		小テスト、レポート、確認テストの結果、授業参加度等	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	朝日出版社		読解力につなげるコア英文法		福井 慶一郎
	2016	アルク		新装版 TOEIC(R) テスト スーパー英単語		ロバート・ヒルキ、小石裕子
	備考					
参考書	英和辞典					
オフィスアワー	水曜日 12：10～13：00 授業講堂					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキスト2冊の目次の確認をする。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、レポートの書き方を説明する。
	事後学習	レポートの書き方、小テストの形式の確認を配布資料を見ながら確認する。（30分）
2	事前学習	Unit 1.2（名詞・冠詞）の例文確認する。（30分）
	授業内容	名詞と冠詞について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 1.2の例文、演習問題復習をする。（30分）
3	事前学習	単語1-50を暗記し、Unit 2.22（冠詞・前置詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト1 冠詞、前置詞について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 2.22の復習をする。（30分）
4	事前学習	単語51-100を暗記し、Unit 3（代名詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト2 代名詞について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 3の復習をする。（30分）

5	事前学習	単語101-150を暗記し、Unit 4（代名詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	代名詞について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 4の復習をする。（30分）
6	事前学習	単語151-200を暗記し、Unit 5（時制）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト4 時制について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 5の復習をする。（30分）
7	事前学習	単語201-250を暗記し、Unit 6（進行形）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト5 進行形について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 6の復習をする。（30分）
8	事前学習	単語251-300を暗記し、Unit 7（現在完了形）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト6 現在完了形について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 7の復習をする。（30分）
9	事前学習	単語301-350を暗記し、Unit 8（過去・未来完了形）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト7 過去・未来完了形について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 8の復習をする。（30分）
10	事前学習	単語351-400を暗記し、Unit 9（助動詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト8 助動詞について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 9の復習をする。（30分）
11	事前学習	単語401-450を暗記し、Unit 11（受動態）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト9 受動態について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 11の復習をする。（30分）
12	事前学習	Unit 12（受動態）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	特殊形態の受動態について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 12の復習をする。（30分）
13	事前学習	これまでの授業で扱った事項をチェックする。（30分）
	授業内容	これまでの授業の確認をする。
	事後学習	配布プリントの確認をする。（30分）
14	事前学習	英語圏の文化をWEB等を活用し、調査する。（30分）
	授業内容	映像を使用した英語圏の文化を理解し、明示できる。
	事後学習	英語圏の文化の確認をする。（30分）
15	事前学習	単語451-550を暗記する。（30分）
	授業内容	小テスト10 英語圏の文化、これまでの授業の解説をする。
	事後学習	これまでの文法事項で、不確かであったものを復習をする。（30分）

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	藤木 智子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	リーディングと文法を中心にTOEICの問題を解いていきます。予習で文法事項や単語の意味を確認しておきましょう。授業では積極的に質問をしましょう。また、復習をして、授業で学習したことをきちんとノートに書きこみ、知識の基礎固めをしましょう。授業は皆さんが主役なので、積極的に取り組んでください。				
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。到達目標はTOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標としています。関連DP及びCP:外国語科目領域3，6				
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。授業中の、携帯やスマートフォンの使用は固く禁止します。				
授業方法	本文や問題文の音読と、訳を求めます。毎回、全員が一度は発表しますので、事前に予習をしましょう。演習方式。テストを行います。返却後は必ず間違った箇所やあやふやなところはまとめて事後学習をしましょう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	60%)学期末にテストをします。 40%)平常評価では授業参加度を重視します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	19年度	朝日出版社		『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』	西谷敦子 他
	14年度	南雲堂		『5分間 新TOEICテストリスニング 550』	片野田 浩子
	14年度	南雲堂		『5分間 新TOEICテストサプリメント 文法語法』	小池直己
	備考				
参考書	英和、和英辞書両方です。電子辞書、紙媒体どちらでも構いません。例文と品詞が載っているものに限ります。授業中に携帯やスマホを辞書代わりに使用することは認めません。必ず辞書を準備してください。				
オフィスアワー	水曜日 9時～12時10分 授業講堂にて。 質問は授業の前が望ましいです。授業後の昼休みでの質問は、事前にアポイントメントを取ってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit1の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
	授業内容	Orientation 授業の方法についてレクチャーをします。授業に関する質問に答えます。教科書および英和・和英辞書を用意してください。
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
2	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit1の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
	授業内容	Unit 1 『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』、前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題1 『5分間 新TOEICテストサプリメント 文法語法』Section1
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。(30分) 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
3	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』Unit2のテーマ、単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
	授業内容	Unit 2 『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600』 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストサプリメント 文法語法』Section1 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題2
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)

14	事前学習	事前学習として、どこがどのように分からないのかを明らかにし、備えておくこと。質問も遠慮なくしてください。 (30分)
	授業内容	前期授業のまとめ
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
15	事前学習	最近のニュースに関して事前に英字新聞などを読んで、時事英語に関する単語などを調べておく とより一層理解が深まるので準備しておくこと。(30分)
	授業内容	今期のまとめをして、時事英語に関するDVDを鑑賞しましょう。
	事後学習	事後学習として、今回のDVDの内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめること。(30分)

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	堀 紳介	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業ではこれまでに習ったことがあるであろう基本的な文法事項を学びながらも、そこから英米文化を知ること为目标とします。授業では各自に和訳を発表してもらい、どのように英文を読んだのか、どうしてそのような和訳になったのか、を確認しながら進めていきます。英文の内容に関して問うこともあるでしょう。したがって、この授業で学生は自ら考えながら英文を読むことが求められます。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング、文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3，6			
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。			
授業方法	グループワークを取り入れ、発表形式で行います。 レポート課題返却時、詳細なコメントを入れてフィードバックを行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価 (Report 30% Test 50% Participation 20 %) *授業に出席することは単位を認定する上での前提条件とする。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし		
参考書	随時指示します。			
オフィスアワー	金曜2限終了後（19：30～19：40）、授業講堂で対応します。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの確認（30分）
	授業内容	ガイダンス、前期授業内容の説明
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
2	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度1 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
3	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度1 グループワークでレポート作成
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
4	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度1 グループワークでレポート作成、単語リスト作成
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）

5	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度1 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
6	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度1 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
7	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
8	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 グループワークでレポート作成
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
9	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 グループワークでレポート作成、単語リスト作成
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
10	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
11	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
12	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
13	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	TOEIC模試：解答、解説
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
14	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	復習、テスト準備
	事後学習	既習事項の確認、復習（60分）
15	事前学習	既習事項の確認、復習（60分）
	授業内容	前期授業のまとめ
	事後学習	後期授業の範囲を読んでおくこと。（60分）

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	依田 悠介	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This course develops essential knowledge and skills for learners to succeed in today's global society. Students are encouraged to work on in-and outside class activities enthusiastically.			
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています. The main objective of this course is enable students to understand and respond to ideas and contents in English, by reading articles adapted for level and viewing related TED talks. 対応DP及びCP：外国語科目領域3.6			
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。			
授業方法	Read the text, solve the quizzes, view the videos and discuss the contents.			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	One examination 30% plus collaborative work (group poster presentation) 40% and quizzes 30%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015	Cengage Learning	21st Century Reading Level 3	Laurie Blass et.al
	備考			
参考書	Will be given in class			
オフィスアワー	授業（水曜1限）終了後、講堂にて。 by appointment: yusuke.yoda@tyg.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Look through the textbook (30分)
	授業内容	Introduction: Please bring the copy of syllabus and the textbook.
	事後学習	Read the passage in Unit 1 (30分)
2	事前学習	Prep. for Quizz (30分)
	授業内容	Hidden Miracles: Life sciences
	事後学習	Review Vocabulary (30分)
3	事前学習	Prep. for Quizz (30分)
	授業内容	Hidden Miracles: Life sciences
	事後学習	Read the passage in Unit 2 (30分)
4	事前学習	Prep. for Quizz (30分)
	授業内容	Sleep Matters: Health Sciences
	事後学習	Review Vocabulary (30分)

5	事前学習	Prep. for Quizz (30分)
	授業内容	Sleep Matters: Health Sciences
	事後学習	Read the passage in Unit 3 (30分)
6	事前学習	Prep. for Quizz (30分)
	授業内容	Cyborg Tech: Engineering /Technology
	事後学習	Review Vocabulary (30分)
7	事前学習	Prep. for Quizz (30分)
	授業内容	Cyborg Tech: Engineering /Technology
	事後学習	Read the passage in Unit 4 (30分)
8	事前学習	Prep. for Quizz (30分)
	授業内容	Happy Planet: Economics/ Statistics
	事後学習	Review Vocabulary (30分)
9	事前学習	Prep. for Quizz (30分)
	授業内容	Happy Planet: Economics/ Statistics
	事後学習	Read the passage in Unit 5 (30分)
10	事前学習	Prep. for Quizz (30分)
	授業内容	Career path: Business/ Design
	事後学習	Review Vocabulary (30分)
11	事前学習	Prep. for Quizz (30分)
	授業内容	Career path: Business/ Design
	事後学習	Review Unit 1-5 (30分)
12	事前学習	Review Unit 1-5 (30分)
	授業内容	Overview (Examination)
	事後学習	Preparation for Group Presentation (30分)
13	事前学習	Preparation for Group Presentation (30分)
	授業内容	Group discussion
	事後学習	Making a poster (30分)
14	事前学習	Finalize your poster (30分)
	授業内容	Group Presentation-1
	事後学習	Evaluate your / your friends' presentation (30分)
15	事前学習	Finalize your poster (30分)
	授業内容	Group Presentation-2
	事後学習	Evaluate your/ your friends' presentation (30分)

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	G. ハイデン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	You will read, discuss and write about English texts. You will communicate in English with your teacher and your classmates.			
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なりーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。To learn about the international history of Japan through listening to, reading and discussing English texts. Student will get confident by understanding, writing and speaking English through learning about important events in Japanese history. You discuss English texts with your teacher and your classmates. 関連D P / C P : 3, 6			
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Bと通年で履修してください。This course is aimed at students who wish to improve their English communication skills.			
授業方法	演習方式。Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	Assessment and reflection 20%. Final test 30%. Participation and effort 30%. Weekly tests 20%.	
教科書	年	出版社	書名	著者名
			前期「An International History of Japan I」(Thomas Lockley, DTP出版、1,700円＋税)	Thomas Lockley
	備考			
参考書	A dictionary, or a smartphone with a dictionary app.			
オフィスアワー	Email gary@garyhayden.co.uk Please ask questions after the class (Wednesday 1st period) at classroom.			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	You will be given a vocabulary test each week. So please be prepared. (30min)
	授業内容	First lesson Outline of the course
	事後学習	You will need to learn some new vocabulary each week. There will be a small vocabulary test at the beginning of each lesson. (30min)
2	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Ancient international Japan Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
3	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Japan Towns Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
4	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Yasuke – the African samurai Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)

5	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: The Tensho Embassy Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
6	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: William Adams Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
7	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: International Nagasaki Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
8	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Yamada Nagamasa Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
9	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Tagawa Matsu Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
10	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: The Japanese families of European merchants Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
11	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Korean embassies to Tokugawa Japan Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
12	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Zhu Shun-sui Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
13	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Waegwan Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Write your reflections on the course. (30min)
14	事前学習	Revise all of the course vocabulary. (30min)
	授業内容	Semester revision
	事後学習	revise for the upcoming test. (30min)
15	事前学習	Prepare for semester test. (30min)
	授業内容	Semester test Review 解説
	事後学習	Review (30min)

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	河本 房子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TED Talksのコンテンツをもとに、授業内に意見交換するために内容を読み込んだ上で、自分の言葉で相手に伝える英語コミュニケーションの力をつけます。テキスト以外にも興味ある分野の文章を読み、発言できるようにします。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング、文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】国際研修や交換留学等の海外留学に必要とされる英語力を総合的に身につけ、また、TOEICやTOEFLにて高得点を獲得できるようにすることを目標とします。 対応DP及びCP: 外国語科目領域3, 6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。小テストを毎回実施します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業への積極的な参加。小テスト結果。期末テスト。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017	Cengage Learning		Keynote 3 ISBN-13 978 1 305 96505 8		Paul Dummett
	備考					
参考書	辞書 は毎回持参してください。参考書は必要に応じて紹介します。リスニングに慣れるため、BBC, NHK World, CNNなどの英語ニュースに普段から慣れ親しんでください。					
オフィスアワー	毎回の授業開始前、開始後（水曜10：30～）に授業が行われる講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Preview Unit1 (30分)
	授業内容	Introduction Overview of the course
	事後学習	vocabulary noteを作成 教科書の使い方、学習の進め方について確認する。(30分)
2	事前学習	Preview Unit 1 Part 1 volunteer firefighterについて調べる(30分)
	授業内容	Unit 1 – Part 1 Making a differenceのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)
3	事前学習	Preview Unit 1 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 1 – Part 2 A life Lesson from a volunteer firefighterのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
4	事前学習	Preview Unit 2 Part 1世の中のtrendについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 2 – Part 1 Trendsのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 教科書の文法事項について確認する。(30分)

5	事前学習	Preview Unit 2 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 2 – Part 2 How to start a movementのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
6	事前学習	Preview Unit 3 Part 1 Health Careについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 3 – Part 1 Improving livesのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)
7	事前学習	Preview Unit 3 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 3 – Part 2 My simple invention, designed to keep my grandfather sageのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
8	事前学習	Preview Unit 4 Part 1 web designについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 4 – Part 1 Designing the webのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)
9	事前学習	Preview Unit 4 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 4 – Part 2 How giant websites design for youのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
10	事前学習	Preview Unit 5 Part 1 community artについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 5 – Part 1 Community buildersのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)
11	事前学習	Preview Unit 5 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 5 – Part 2 How painting can transform communitiesのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
12	事前学習	Preview Unit 6 Part 1 communication styleについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 6 – Part 1 Clear communicationのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)
13	事前学習	Preview Unit 6 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 6 – Part 2 Talk nerdy to meのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
14	事前学習	Review Unit 1`6の問題とリーディングパートを確認する。(30分)
	授業内容	Review Unit1-6の内容、リスニングを理解する。 小テストを返却し答え合わせと確認をする
	事後学習	Vocabulary note学習 Review Unit 1`6を確認する。(30分)
15	事前学習	Review Unit 1`6(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	事後学習	Review Unit 1`6の確認。(30分)

科目名	英語A【法職課程1年生共通クラス】	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験のための基礎固めをします。講師は、東進ハイスクール初代英語講師、旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送）、日本実用英語検定協会英検セミナー講師、オレゴン州立大学語学研修引率（アクト・コーポレーション主催）などの実務経験を生かした授業を展開する。							
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解に必要なリーディング、語彙力、文法の基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】受講生は、1100 Words You Need to Know、およびBasic Word Listの単語をすべて覚え、1分間で250語程度読めるようになることを目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域3、6							
履修条件	法職課程1年生番号指定クラス。ノート検査をする。将来的に英語が人生の重要な要素となることを自覚すること。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Bと通年で履修すること。							
授業方法	演習方式。毎時間リーディング・テストと単語テストを実施し、次の授業で返却を行う。テストの得点は加算され、順位を出す。また授業計画に変更が生じた場合には、そのつどプリントないしは口頭にて受講生に知らせる。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%					
	平常評価		100%		諸テストの得点を加算して順位を出して評価する。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	2017		Barron		Basic Word List		Brownstein	
	備考		1100 Words You Need to Knowに関してはプリントを使用。					
参考書	リーダーズ英和辞典							
オフィスアワー	水曜日、お昼休み、9107研究室にて（事前にメールで予約をとること）、英語全般、留学、海外の大学院進学などの相談を受け付ける。メールにての相談は随時受け付ける。morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス記載事項の熟読（30分）
	授業内容	Introduction、シラバス記載事項の確認、その他評価方法、シラバスに記載できなかった授業内容について説明する。
	事後学習	配布されたプリントを熟読する（30分）
2	事前学習	1100 Words You Need to Knowの単語ノートを作成しなるべく多くの単語を覚え、4週からの単語テストに備える。同様にBasic Word List の単語テストにもノートを作成し備える。（30分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 1、所有格について
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（30分）
3	事前学習	1100 Words You Need to Knowの単語ノートを作成しなるべく多くの単語を覚え、4週からの単語テストに備える。同様にBasic Word List の単語テストにもノートを作成し備える。（30分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 2、接続詞について
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（30分）
4	事前学習	1100 Words You Need to Know(new wordsのみ)1-12 weekの単語を覚える（30分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 3、挿入について、1100 Words You Need to Know(new wordsのみ)1-12 weekの単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（30分）

5	事前学習	1100 Words (new wordsのみ)13-25weekの単語を覚える (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 4、独立節について、1100 Words (new wordsのみ)13-25weekの単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)
6	事前学習	1100 Words (new wordsのみ)26-38 weekの単語を覚える (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 5、句読法について、1100 Words (new wordsのみ) 26-38weekの単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)
7	事前学習	1100 Words (new wordsのみ)1-46weekの単語を覚える (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 6、数について、1100 Words (new wordsのみ)1-46 weekの単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)
8	事前学習	Basic Word List (見出し語のみ)pp. 3-22の単語を覚える (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 7、代名詞について、Basic Word List (見出し語のみ)pp. 3-22の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)
9	事前学習	BWL (見出し語のみ)pp. 23-43の単語を覚える (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 8、分詞構文について、BWL (見出し語のみ)pp. 23-43の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)
10	事前学習	BWL (見出し語のみ)pp. 44-64の単語を覚える (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 9、英作文について、BWL (見出し語のみ) pp. 44-64の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)
11	事前学習	BWL (見出し語のみ)pp. 65-85の単語を覚える (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 10、能動態と受動態について、BWL (見出し語のみ)pp. 65-85の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)
12	事前学習	BWL (見出し語のみ)pp. 86-106の単語を覚える (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 11、否定表現について、BWL (見出し語のみ)pp. 86-106の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)
13	事前学習	BWL (見出し語のみ)pp. 107-127の単語を覚える (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 12、無駄な語を削ることについて、BWL (見出し語のみ)pp. 107-127の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)
14	事前学習	これまでの範囲すべての単語の総復習 (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 13、散列文について、全範囲の単語テスト (1)
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)
15	事前学習	これまでの範囲すべての単語の総復習 (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 14、文法の復習、全範囲の単語テスト (2)
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	アメリカでベストセラーを記録した“Chicken Soup for the Soul”の精読を通して、英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学びます。また、適宜、『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』を用いて、英文法・語法の知識を整理していきます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【授業目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。関連DP及びCP：外国語科目領域3，6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。輪読形式で教科書を読み進めていきます。指名された学生には、教科書の音読と和訳をしてもらい、その後、クラス全体で内容の確認をしていきます。また、適宜、小テストを実施し、次の授業以降で返却をします。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）100% 予習をしていない場合は、大幅に減点します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	1997	金星堂		『Chicken Soup for the Soul チキンスープをどうぞー心あたたまる17のアメリカ小話集』		Jack Canfield 他
	2018	いっずな書店		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』		いっずな書店編集部
	備考	『ジーニアス英和辞典 第5版』など、大学生向けの英和辞典を必ず毎回持参すること。				
参考書	使用しない。					
オフィスアワー	水曜日10:30～授業終了後の講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体像を概観しておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス 事前・事後学習の方法、成績評価等について説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。（30分）
2	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 2～3 の Exercise を解いておく。（30分）
	授業内容	英文読解に必要な品詞と文型、句と節について学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
3	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Circusの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。（30分）
4	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Circusの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。（30分）

5	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Circusの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
6	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Puppies For Saleの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
7	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Puppies For Saleの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
8	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Puppies For Saleの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
9	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Follow Your Dreamの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
10	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Follow Your Dreamの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
11	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Follow Your Dreamの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
12	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Love and the Cabbieの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
13	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Love and the Cabbieの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
14	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Love and the Cabbieの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
15	事前学習	前期授業内容の総復習。（30分）
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り。
	事後学習	前期の授業内容について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。（30分）

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	辻岡 宏子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	海外の慣習、文化についての知識を深めるとともに、リーディングの内容を理解し正確な情報を得るための語彙や表現の習得を目指します。 ペアワークやグループワークを通して、能動的に学ぶ態度や学習スキルの習得を目指します。			
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要リーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 リーディングの内容を理解し正確な情報を得るための語彙や表現の習得及び、外部試験のリーディング・文法のパートで高得点をとれることを目標とします。 対応D P 及びC P：外国語科目領域3， 6			
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。 30分以上の遅刻は欠席とします。			
授業方法	授業に積極的に参加することが求められます。 授業内で講評、解説等のフィードバックを行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業参加態度、ペアワーク、グループワークへの貢献度、宿題、授業課題、テスト等
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2004	Oxford University Press	Identity	Shauls, Tsujioka, Iida
	2014	Nan'undo	A Shorter Course in Expressions for Everyday Actions	
	備考			
参考書	英和、和英辞書（電子辞書可）			
オフィスアワー	授業の後に授業講堂に来て下さい。 水曜日10:30-10:40			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	英語の勉強方法、授業に対する取り組み（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	課題 about yourself（30分）
2	事前学習	課題 how to manage group work（30分）
	授業内容	Get to know each other
	事後学習	ジャーナル 1 授業振り返り（30分）
3	事前学習	課題 your school life（30分）
	授業内容	culture shock 1
	事後学習	ジャーナル 2 授業振り返り（30分）
4	事前学習	課題 cultural differences（30分）
	授業内容	culture shock 2
	事後学習	ジャーナル 3 授業振り返り（30分）

5	事前学習	課題 language examples (30分)
	授業内容	culture in language 1
	事後学習	ジャーナル 4 授業振り返り (30分)
6	事前学習	課題 proverbs (30分)
	授業内容	culture in language 2
	事後学習	ジャーナル 5 授業振り返り (30分)
7	事前学習	課題 what you like (30分)
	授業内容	values 1
	事後学習	ジャーナル 6 授業振り返り (30分)
8	事前学習	課題 your family (30分)
	授業内容	values 2
	事後学習	ジャーナル 7 授業振り返り (30分)
9	事前学習	プレゼン準備 (30分)
	授業内容	presentations
	事後学習	ジャーナル 8 授業振り返り (30分)
10	事前学習	課題 Japanese body language (30分)
	授業内容	body language 1
	事後学習	ジャーナル 9 (30分)
11	事前学習	課題 hidden language (30分)
	授業内容	body language 2
	事後学習	ジャーナル 10 授業振り返り (30分)
12	事前学習	課題 your value (30分)
	授業内容	individualism
	事後学習	ジャーナル 11 授業振り返り (30分)
13	事前学習	課題 who you are (30分)
	授業内容	identity
	事後学習	ジャーナル 12 授業振り返り (30分)
14	事前学習	前期学習の復習 (30分)
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	到達度振り返り (30分)
15	事前学習	課題 autonomous learning (30分)
	授業内容	リフレクション
	事後学習	ジャーナル 13 まとめ (30分)

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	児玉 直起	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	殺人事件に関する陪審員の審議を扱ったアメリカのTVドラマ台本を基本教材とし、法廷/法律にまつわる英語に親しみながら、コンテキストを重視した読解力を身につけます。					
授業目的・到達目標	専門分野の英文原書読解や英語の資格試験（TOEIC, TOEFL, 英検等）等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することが目的です。 アメリカの陪審制度やデモクラシーについて一定の見識を持ち、英文のコンテキストを理解し、説明できるようになることが目標です。対応DP及びCP：外国語科目領域3， 6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。					
授業方法	発表やグループワーク等を中心とした参加型の授業をおこないます。適宜ビデオを使います。小テストは実施した翌週に返却。テストの講評・解説を後日ポータルシステムで配信します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		テスト40%，平常点（発表・小テスト・予習・授業参加度等）60%。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	1995/2010	開文社		Twelve Angry Men		Reginald Rose
	備考					
参考書	授業時に指示する。					
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は授業終了後教室で、または水曜日12:30-13:30に435研究室で対応する。 E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、授業の全体を概観する。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の趣旨や進め方を説明する。
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
2	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Descriptions of Jurors／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
3	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act I, pp. 3-4／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
4	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act I, pp. 4-7／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）

5	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act I, pp. 7-10／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
6	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act I, pp. 10-13／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
7	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act I, pp. 13-16／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
8	事前学習	Act I を振り返り、理解が不十分な点等を再確認する。（30分）
	授業内容	Act I のまとめ／関連ビデオを視聴する
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
9	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act II, 16-19／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
10	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act II, pp. 19-22／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
11	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act II, pp. 22-25／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
12	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act II, 25-27／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
13	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act II, pp. 27-29／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
14	事前学習	Act II を振り返り、理解が不十分な点等を再確認する。（30分）
	授業内容	Act II のまとめ／関連ビデオを視聴する
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
15	事前学習	Act I Act II を振り返り、内容理解・語学上の疑問点を整理する。（30分）
	授業内容	前期の目標到達度を確認する
	事後学習	前期で学んだことを整理する。（30分）

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観し、異文化理解において言語は社会や文化と切り離して存在し得ないことを学んでいきます。論理的思考／批判的思考の手法を習得し、かつ、従来の学校英文法の不備を指摘しつつ、手段に過ぎなかった英文法の洗い直しを試みます。				
授業目的・到達目標	[授業目的]TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的とします。 [到達目標]眼前の一文のみに気をとられることなく文章全体の流れを意識し大意を掴めるようにするためskimming力の涵養を第一目標とします。さらに、自分の考えを客観的かつ論理的に明確な英語で表現できることを最終目標とします。TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上の獲得を目指します。 対応DP及びCP：外国語科目領域3,6				
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。積極的かつ集中して授業に臨む必要があります。				
授業方法	輪読形式と演習形式を織り交ぜながら授業を展開していきます。小テストを毎回実施します。フィードバックは授業内に行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価（毎回の小テスト・課題への取り組みや授業への参加参加度、学期末試験などから総合的に評価します。）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2010年	金星堂		Polite Fictions in Collision	坂本ナンシー 坂本示洋
	備考				
参考書	適宜、資料配布や参考文献紹介を行います。辞書必携。				
オフィスアワー	月曜日 12:20~13:00、場所は事前にアポイントメントを取った際に決めます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	これまでの自分の英語学習歴を整理する。シラバスとテキストを熟読するとともに、講義全体を概観する。大学での英語学習に向けての目標を考える。（30分）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検などの検定試験について調べる。（30分）
2	事前学習	指定された課題の予習をする。（30分）
	授業内容	英語のPolite Fiction／日本語の敬語行動について
	事後学習	弱点ノートを作成する。（要点の整理・理解）（30分）
3	事前学習	指定された課題の予習をする。（30分）
	授業内容	英語のPolite Fiction／日本語の敬語行動について
	事後学習	弱点ノートを作成する。（要点の整理・理解）。（30分）
4	事前学習	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Chapter 1(You and I are equals)
	事後学習	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。（30分）

5	事前学習	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Chapter 1(You and I are equals)
	事後学習	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。（30分）
6	事前学習	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Chapter 2(You and I are close friends)
	事後学習	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。（30分）
7	事前学習	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Chapter 2(You and I are close friends)
	事後学習	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。（30分）
8	事前学習	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Chapter 3(You and I are relaxed)
	事後学習	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。（30分）
9	事前学習	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Chapter 3(You and I are relaxed)
	事後学習	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。（30分）
10	事前学習	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Chapter 4(You and I are independent)
	事後学習	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。（30分）
11	事前学習	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Chapter 4(You and I are independent)
	事後学習	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。（30分）
12	事前学習	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Chapter 5(People as individuals)
	事後学習	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。（30分）
13	事前学習	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Chapter 5(People as individuals)
	事後学習	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。（30分）
14	事前学習	Chapter 5までに学習した箇所の語彙や文法などを復習して学期末試験に臨む。（60分）
	授業内容	授業内試験及び振り返り
	事後学習	間違えた箇所を復習する。（30分）
15	事前学習	講義全体を確認し、復習する。（30分）
	授業内容	試験の講評と前期学習の振り返り
	事後学習	理解不十分な箇所をチェックし、後期の授業に臨めるようにする。（30分）

科目名	英語A【法律学科1年生共通クラス】	担当者	石川 太郎	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語の4技能（読み・聞く・話す・書く）を基礎から始めて出来るだけ発展させる事を目標としています。とにかく暗記中心でパターン化しやすく退屈になりがちな授業を少しでも楽しく行っていきたいと考えています。そのためになるべくクラスの皆さんで話し合いながら授業を進めていきます。また、映画等も教材として扱う予定です。楽しく頑張りましょう。					
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。これまで学習してきた英語の総復習及びその発展のため、リスニング力と読解力の養成を中心に行います。基礎力の確認から始めて、最終的にTOEFL/TOEIC等英語の資格試験で良い成績を獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域3， 6					
履修条件	二部法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く推奨します。原則、英語Bと通年で履修してください。毎回の授業に出席する事はもちろん、出席しても寝ていたり、授業に参加する態度が感じられない場合は出席とカウントしない場合があります。					
授業方法	テキストの内容の文法理解に加えて、音読・シャドーイングが基本。テキストの内容に基づいた会話練習も行います。とにかく出席者が必ず英語を発音する場になります。毎回、前回の授業内容確認の小テストを行います。フィードバックは授業内に行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		7月に試験を行います。内容は授業の復習です。（50%） 授業参加度（声の大きさ、課題提出率等）から総合的に判断します。（50%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	Kinseido		British News Update（BBC）		Timothy Knowles
	備考					
参考書	英和辞典（必ず毎回持って来てください）					
オフィスアワー	初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。 授業時間：月曜7限、土曜2～4限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	高校もしくは前年度の英語授業の復習（30分）
	授業内容	イントロダクション（小テスト実施予定）
	事後学習	復習（30分）
2	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 1(1)DVD映像を見ながらリスニング&リーディング。必要に応じて文法解説
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
3	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 1(2)DVDの内容について意見を述べ、英語で書く練習
	事後学習	復習（30分）
4	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 2(1)DVDを参考にリスニングやシャドーイングの練習をしてリーディング。必要に応じて文法解説
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）

5	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 2(2)DVDを参考にしながらUnit 2全体の内容をまとめて英語で説明して、英語で書いてみる
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
6	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 3(1)DVDを参考にリスニングとシャドーイングの練習をしてリーディング。必要に応じて文法解説
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
7	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 3(2)DVDを参考にしながらUnit 3全体を英語で要約して書く
	事後学習	復習（30分）
8	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 4(1)DVDを参考にしながらリスニングとシャドーイングの練習をしてリーディング。必要に応じて文法解説
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
9	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 4(2)DVDを参考にUnit 4の内容を英語で要約して書く
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
10	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 5(1)DVDを参考にリスニングとシャドーイングの練習をしてリーディング。必要に応じて文法解説
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
11	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 5(2)DVDを参考にUnit 5全体を英語で要約してペアワーク（英語で内容に関して質問を出し合って答える練習）
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
12	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 6(1)DVDを参考にリスニングとシャドーイングの練習をしてリーディング。必要に応じて文法解説
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
13	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 6(2)DVDを参考にUnit 6の内容全体を英語で要約してグループワーク（授業で扱った内容に関してディスカッションを行えるようにする練習）
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
14	事前学習	復習（30分）
	授業内容	これまでのまとめ及び時間が足りなくて出来なかった箇所を扱う。
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
15	事前学習	総復習（30分）
	授業内容	前期授業のまとめ
	事後学習	自己採点（30分）

科目名	英語A【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	小倉 浩子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英文読解の授業です。使用するテキストは、ロンドン在住の著者がイギリスの文化や歴史に触れながらイギリスの今を語る英文エッセイ集です。語句や文法に留意しながら、丹念に英文を読み進める場にしたいと思います。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6					
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。					
授業方法	輪読形式。テキストのユニットごとに小テストを行う予定です。小テストや試験は次の授業で返却し、解答の確認・解説を行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業への参加度、小テストや試験の結果を総合的に評価。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018年	成美堂		鼓動するイギリス		John H. Randle、 棕平淳
	備考					
参考書	適宜紹介します。					
オフィスアワー	水曜12：10～授業終了後の講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通す。テキスト“Preface”と「はじめに」を読む。（30分）
	授業内容	ガイダンス シラバスに基づいて授業の進め方を説明。テキストの“Preface”の内容を確認。 英語学習（特にTOEIC）について話をする。
	事後学習	ガイダンスを振り返る。（30分）
2	事前学習	テキストUnit 1のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 1 The Brexit Referendum Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
3	事前学習	テキストUnit 2 のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 2 The New Mayor of London Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
4	事前学習	テキストUnit 3のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 3 Brits on Bikes Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）

5	事前学習	テキストUnit 4のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 4 Oxford and Cambridge : Looking to the Future Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
6	事前学習	テキストUnit 5のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 5 A Profile of Cornwall Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
7	事前学習	テキストUnit 5 までの授業の復習をする。(30分)
	授業内容	Unit 1 ～Unit 5のまとめ
	事後学習	Unit 5 までの授業のまとめを振り返る。(30分)
8	事前学習	テキストUnit 6のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 6 The Cost of Being Young Today Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
9	事前学習	テキストUnit 7のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 7 It All Began at Rugby School Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
10	事前学習	テキストUnit 8のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 8 Britain and the Sea Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
11	事前学習	テキストUnit 9のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 9 Images of Scotland Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
12	事前学習	テキストUnit 10のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 10 “The New Look” : Beards and Tattoos Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
13	事前学習	テキストUnit 6以降の授業の復習をする。(30分)
	授業内容	Unit 6 ～ Unit 10 のまとめ
	事後学習	Unit 6以降の授業のまとめを振り返る。(30分)。
14	事前学習	試験に向けて学習する。(30分)
	授業内容	授業内試験及びまとめ
	事後学習	試験への取り組みなどを反省する。(30分)
15	事前学習	テキストUnit 1 ～ Unit 10の語句や内容を再確認する。(30分)
	授業内容	授業内試験後のまとめ
	事後学習	前期授業を振り返る。(30分)

科目名	英語A【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	小山 誠子	部 別	第一部	期 間	前期	単 位 数	1
-----	---------------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-------	---

授業概要	English(language/literature),Fashion, Computer...等様々な「イギリス発祥」(Made in Britain)に関する英文の読解を通じて、一定の語彙力の増強及び構文(英文法の確認)の理解と共に、情報収集の「手段」「道具」としての英語の習得により「英語圏」という異文化を通じて国際社会への知識・「客観的」理解を深め、それらに対する「主体的」な判断・意見を涵養します。			
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 情報収集の手段としての英文の読解を習慣化し、TOEIC500点代(意思疎通に必要な英語レベル)取得に必要な語彙及び文法の習得に努め、効率的な学習方法を身に付けます。英文の精読を通じて欧米文化の価値観への理解を深め、受講者各自の持つ自国文化との比較・対照を行うことで、批評(批判)的且つ論理的な思考を養い、自国の言語文化を相対化する視点を持ち、客観的理解・共感を得られる自身の意見を国際社会に発信できるようになることを目標としています。			
履修条件	政治経済学科1年国語科領域コース6上記資格試験の受験を強く奨励します。到達目標を意識して意欲的に学習に取り組む者。原則、英語Bと通年で履修してください。			
授業方法	英文を通じた知識の涵養を目標に精読(確認)を行います。文法事項は本文の文構造に関連づけ展開し、Chapter毎に指定範囲内的小テストを、最終授業日にて授業内試験(60分)及び解説/講評(30分)を行います。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常評価(発表等の授業への積極的取組状況及びテスト(毎Chap. 等)により総合的に評価する。※上記各種英語資格試験や関連情報の調査報告も推奨、評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	成美堂	Made in Britain	Anthony Sellik John Barton
	備考			
参考書	大学生/社会人レベルの辞書(電子辞書も可)を毎回携帯すること。学習記録用のノートを用意すること。 ※ PC・タブレット・携帯電話の使用は認めない。			
オフィスアワー	授業後20分間(水曜12:10～12:30)授業講堂にて対応する。(※初回授業にて指示する。)			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキスト全体及び下記展開トピック(Chapter)に目を通し、気になる点をメモして授業に臨むこと。 加えて、テキスト以外に「イギリス」と聞いて思いつく事柄及びそれについての各自のコメントを併せてメモしておく。(30分)
	授業内容	ガイダンス(授業の進め方、TOEICの概要を説明する。) ＋第2回以降の展開方法のシミュレーションを行い、英文読解及び情報整理の方法を習得する。
	事後学習	次回(第2回)以降展開範囲を中心に、辞書を使わずにどの程度内容が把握できそうか現時点での「実力チェック」を各自行う。(→3か月後の学習成果を自己確認できるようにするため。)(30分)
2	事前学習	1. Chapter16全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。)
	授業内容	Chapter 16 Football – The Beautiful Game(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)
3	事前学習	Chapter16前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想及び記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 16 (Football – The Beautiful Game中盤～後半) 章全体を通じて、'Football'の起源・歴史の変遷/(日本を含めた)国際的影響を理解・説明できる。 ※1つのChapter/2回のペースで進む予定。
	事後学習	1. Chapter16全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた、Footballの起源・変遷(歴史)に関する情報を整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)

4	事前学習	1. Chapter1全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等 (5W1H) をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter16 Mini Test(小テスト) Chapter 1 My English, Your English, Our English(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)
5	事前学習	Chapter1前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 1 My English, Your English, Our English (中盤～後半) 章全体を通して、「国際語」'Lingua franca' となった「英語」'English' の誕生・歴史的変遷/(日本を含めた)国際的影響への理解し、説明できる。
	事後学習	1. Chapter1全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた、言語としてのEnglish「英語」の歴史を概観し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)
6	事前学習	1. Chapter2全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等 (5W1H) をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter 1 Mini Test Chapter 2 A Short History of the Miniskirt (前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)
7	事前学習	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/を記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 2 A Short History of the Miniskirt (中盤～後半) 章全体を通して、'Mini Skirt' というイギリス発祥の'Fashion' (風俗/流行)の変遷を概観し、「(流行の)発信地」としてのイギリス文化への理解及び「流行の誕生」とはどういうものか説明できる。
	事後学習	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた、流行・ファッションの発信地としてのイギリスに関する情報を整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)
8	事前学習	1. Chapter3全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等 (5W1H) をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter 2 Mini Test Chapter 3 The Cutest Car Ever Made - The Mini -(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)
9	事前学習	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 3 The Cutest Car Ever Made - The Mini -(中盤～後半) 'Mini' というイギリス発祥の車の誕生/変遷を通じて、歴史と「ものづくり」との関係性についての理解を深め、説明できる。加えて、自国の「ものづくり」とも比較・対照し、コメントする。
	事後学習	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報(「Miniが何故イギリスを象徴する存在なのか」)を整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)
10	事前学習	1. Chapter4全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等 (5W1H) をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter3 Mini Test Chapter 4 Always in Fashion - The Suit-(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)
11	事前学習	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 4 Always in Fashion - The Suit- (中盤～後半) 章全体を通して、国際的な正装(フォーマル・ウェア)としてのスーツ'suits' の発祥/変遷を理解すると共に、「伝統」とは何か考え、説明できる。
	事後学習	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報を(特に最終段落の内容を具体的に)整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)
12	事前学習	1. Chapter5全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等 (5W1H) をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter4 Mini Test Chapter 5 The English Gengleman - Does He Really Exist Anymore? -(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)

13	事前学習	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 5 The English Gengleman - Does He Really Exist Anymore? - (中盤～後半) 章全体を通して、日本語にもなっている「ジェントルマン」'gentleman' の定義とは何か、その誕生/変遷を理解/説明し、併せて、受講者各自による(ジェントルマンの)定義する。
	事後学習	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報を(タイトルにある質問への回答を中心に)整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)
14	事前学習	1. Mini Test(Chapter5)に向けての準備に併せて、学期内展開範囲全てのMini Testを復習(特に初回にて不正解だったものを中心に)を行う。2. テキスト読解箇所全般の構文・内容についても各自確認する。(不明なものは授業にて確認すること。)(30分)
	授業内容	Chapter 5 Mini Test及び学期内展開範囲の総復習 Chapter16及びChapter1～5全体の英文の中で、特に構文が複雑なものや、内容が抽象的な事柄の確認を行うことで、学習内容全般の情報の修正/補足を行い、正確に説明できる。
	事後学習	学習範囲全体を見直し、今一度各自で必要に応じて修正を行い、初回事前学習時からの成果を確認する。(30分)
15	事前学習	3か月学習内容を整理・総括する。(①「英語能力」②「英語圏文化について得た知識」の2つに関して)加えて、「異文化」との比較・対照によって得た感想・意見を整理する。(30分以上必要に応じて)
	授業内容	前期授業のまとめ(授業内試験(60分)) 解説/講評(30分):受講者各自が3か月の学習を通じて得た、異文化(欧米文化)への理解及び自国文化との比較・対照により国際社会への理解及び国際社会での自らの意見を発信できる。
	事後学習	初回事前学習からの成果を自己分析・確認するとともに、今後の課題(英語学習及び「英語」を「手段」としての情報収集及びその活用(発信するための方法/展開)に関する具体的目標)を設定する。(30分)

科目名	英語A【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	河本 房子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TED Talksのコンテンツをもとに、授業内に意見交換するために内容を読み込んだ上で、自分の言葉で相手に伝える英語コミュニケーションの力をつけます。テキスト以外にも興味ある分野の文章を読み、発言できるようにします。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング、文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】国際研修や交換留学等の海外留学に必要とされる英語力を総合的に身につけ、また、TOEICやTOEFLにて高得点を獲得できるようにすることを目標とします。 対応DP及びCP: 外国語科目領域3, 6					
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。小テストを毎回実施します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業への積極的な参加。小テスト結果。期末テスト。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017	Cengage Learning		Keynote 3 ISBN-13 978 1 305 96505 8		Paul Dummett
	備考					
参考書	辞書 は毎回持参してください。参考書は必要に応じて紹介します。リスニングに慣れるため、BBC, NHK World, CNNなどの英語ニュースに普段から慣れ親しんでください。					
オフィスアワー	毎回の授業開始前（水曜10：30～10：40）、開始後（水曜12：10～）に授業が行われる講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Preview Unit1 (30分)
	授業内容	Introduction Overview of the course
	事後学習	vocabulary noteを作成 教科書の使い方、学習の進め方について確認する。(30分)
2	事前学習	Preview Unit 1 Part 1 volunteer firefighterについて調べる(30分)
	授業内容	Unit 1 – Part 1 Making a differenceのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)
3	事前学習	Preview Unit 1 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 1 – Part 2 A life Lesson from a volunteer firefighterのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
4	事前学習	Preview Unit 2 Part 1世の中のtrendについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 2 – Part 1 Trendsのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 教科書の文法事項について確認する。(30分)

5	事前学習	Preview Unit 2 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 2 – Part 2 How to start a movementのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
6	事前学習	Preview Unit 3 Part 1 Health Careについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 3 – Part 1 Improving livesのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)
7	事前学習	Preview Unit 3 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 3 – Part 2 My simple invention, designed to keep my grandfather sageのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
8	事前学習	Preview Unit 4 Part 1 web designについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 4 – Part 1 Designing the webのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)
9	事前学習	Preview Unit 4 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 4 – Part 2 How giant websites design for youのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
10	事前学習	Preview Unit 5 Part 1 community artについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 5 – Part 1 Community buildersのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)
11	事前学習	Preview Unit 5 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 5 – Part 2 How painting can transform communitiesのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
12	事前学習	Preview Unit 6 Part 1 communication styleについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 6 – Part 1 Clear communicationのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)
13	事前学習	Preview Unit 6 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 6 – Part 2 Talk nerdy to meのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
14	事前学習	Review Unit 1~6の問題とリーディングパートを確認する。(30分)
	授業内容	Review Unit1-6の内容、リスニングを理解する。 小テストを返却し答え合わせと確認をする
	事後学習	Vocabulary note学習 Review Unit 1~6を確認する。(30分)
15	事前学習	Review Unit 1~6(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	事後学習	Review Unit 1~6の確認。(30分)

科目名	英語A【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	菊地 幸子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	アメリカ文化に関するさまざまな話題のエッセイを読みながら読解力の向上を目指す。				
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOFEL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】英文法の知識を用いて英文の内容を正確に読み取れるようになることを目標とする。対応DP及びCP:外国語科目領域3, 6				
履修条件	政治経済学科年1生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Bと通年で履修すること。				
授業方法	演習方式で行う。フィードバックとして最終授業で授業内試験の講評及び振り返りを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加度（30％）、小テスト（20％）、学期末試験（50％）の割合で総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017年	南雲堂		English Indicator 3 [Intermediate]	Joshua Cohen 他
	備考				
参考書	特に指定しない。				
オフィスアワー	授業前後の休み時間に（水曜日12：10～）講堂にて。緊急の連絡事項がある場合はメールで知らせること。 メールアドレス：kikuchi.sachiko11@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、講義全体を概観する。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、評価方法、受講上の注意事項等を説明する。
	事後学習	ガイダンスの内容を確認する。（30分）
2	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 1 Reading College Sportsに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。（30分）
3	事前学習	練習問題は Listening を除いて全て解いておく。（30分）
	授業内容	Unit 1 Exercises 現在時制について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。（30分）
4	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 2 Reading Hip Hop Musicに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。（30分）

5	事前学習	練習問題は Listening を除いて全て解いておく。(30分)
	授業内容	Unit 2 Exercises 過去時制について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。(30分)
6	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。(30分)
	授業内容	Unit 3 Reading Travelに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。(30分)
7	事前学習	練習問題は Listening を除いて全て解いておく。(30分)
	授業内容	Unit 3 Exercises 進行形について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。(30分)
8	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。(30分)
	授業内容	Unit 4 Reading Video Gamesに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。(30分)
9	事前学習	練習問題は Listening を除いて全て解いておく。(30分)
	授業内容	Unit 4 Exercises 完了時制について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。(30分)
10	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。(30分)
	授業内容	Unit 5 Reading Recyclingに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。(30分)
11	事前学習	練習問題は Listening を除いて全て解いておく。(30分)
	授業内容	Unit 5 Exercises 冠詞、代名詞について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。(30分)
12	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。(30分)
	授業内容	Unit 6 Reading Fast Foodに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。(30分)
13	事前学習	練習問題は Listening を除いて全て解いておく。(30分)
	授業内容	Unit 6 Exercises 名詞について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。(30分)
14	事前学習	試験範囲を復習する。(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期のまとめ。
	事後学習	試験で分からなかった部分の正解を考える。(30分)
15	事前学習	テキストの総復習。(30分)
	授業内容	授業内試験の講評及び振り返り。
	事後学習	前期の学習内容を確認する。(30分)

科目名	英語A【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	北原 安治	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際文化関連のテキストを使い、各国の歴史や文化を学びながら、文法の理解と発音そして訳しかたなどの基本事項を養成することを目的とする。本文のみやり、練習問題はやらない。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身につけ、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6			
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Bと通年で履修してください。			
授業方法	学生の理解度によって速度を調整する。辞書（電子辞書可）を持ってくること。ノート検査はいつ検査されても良いようにまとめておく。ノートなきものは不可。実力テストは次の週に解説、解答をする。映像教材をみせる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常評価（授業参加度、実力テスト、学期末試験等）100%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2006	鳳書房	Major Countries in the World ～世界の主要国～	小泉和弘
	備考			
参考書	『ロイヤル英文法』1,890円（旺文社）この本は講義では使いません。辞書は毎回持ってくること。			
オフィスアワー	授業終了後（水曜日12：10～授業講堂にて）またはEメールで対応。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス。授業の進め方やノートの取り方の説明。五文型の基本確認。TOEICの概要の説明。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
2	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第1章 英国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。文の種類の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
3	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第1章 英国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。自動詞と他動詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
4	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第1章 英国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。補語と目的語の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）

5	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。助動詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
6	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。現在進行形の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
7	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。過去進行形の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
8	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。未来進行形の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
9	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。現在完了形の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
10	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第2章 ドイツ（1） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。過去完了形の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
11	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第2章 ドイツ（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。未来完了形の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
12	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第2章 ドイツ（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。関係代名詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
13	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第2章 ドイツ（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。関係副詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
14	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第2章 ドイツ（2） 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。複合関係詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
15	事前学習	試験範囲の復習。単語、文法、訳の確認。（30分）
	授業内容	復習とまとめ
	事後学習	間違った部分の復習。単語、文法、訳の確認。（30分）

科目名	英語A【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	塚田 英博	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	文法項目を確認しながら、演習・英文読解を行います。					
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を磨くことを目的としています。TOEICの基礎力を身につけ、スコア450点を獲得できることを目標とします。関連DP及びCP：外国語科目領域3,6					
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く推奨します。原則、英語Bと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。毎回英単語を含む小テストを実施する。また、2回の課題レポート提出を課します。小テスト、課題とも次回の授業で返却を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		小テスト、レポート、確認テストの結果、授業参加度等	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	朝日出版社		読解力につなげるコア英文法		福井 慶一郎
	2016	アルク		新装版 TOEIC(R) テスト スーパー英単語		ロバート・ヒルキ、小石裕子
	備考					
参考書	英和辞典					
オフィスアワー	水曜日 12：10～13：00 授業講堂					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキスト2冊の目次の確認をする。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、レポートの書き方を説明する。
	事後学習	レポートの書き方、小テストの形式の確認を配布資料を見ながら確認する。（30分）
2	事前学習	Unit 1.2（名詞・冠詞）の例文確認する。（30分）
	授業内容	名詞と冠詞について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 1.2の例文、演習問題復習をする。（30分）
3	事前学習	単語1-50を暗記し、Unit 2.22（冠詞・前置詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト1 冠詞、前置詞について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 2.22の復習をする。（30分）
4	事前学習	単語51-100を暗記し、Unit 3（代名詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト2 代名詞について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 3の復習をする。（30分）

5	事前学習	単語101-150を暗記し、Unit 4（代名詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	代名詞について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 4の復習をする。（30分）
6	事前学習	単語151-200を暗記し、Unit 5（時制）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト4 時制について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 5の復習をする。（30分）
7	事前学習	単語201-250を暗記し、Unit 6（進行形）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト5 進行形について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 6の復習をする。（30分）
8	事前学習	単語251-300を暗記し、Unit 7（現在完了形）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト6 現在完了形について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 7の復習をする。（30分）
9	事前学習	単語301-350を暗記し、Unit 8（過去・未来完了形）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト7 過去・未来完了形について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 8の復習をする。（30分）
10	事前学習	単語351-400を暗記し、Unit 9（助動詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト8 助動詞について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 9の復習をする。（30分）
11	事前学習	単語401-450を暗記し、Unit 11（受動態）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト9 受動態について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 11の復習をする。（30分）
12	事前学習	Unit 12（受動態）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	特殊形態の受動態について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 12の復習をする。（30分）
13	事前学習	これまでの授業で扱った事項をチェックする。（30分）
	授業内容	これまでの授業の確認をする。
	事後学習	配布プリントの確認をする。（30分）
14	事前学習	英語圏の文化をWEB等を活用し、調査する。（30分）
	授業内容	映像を使用した英語圏の文化を理解し、明示できる。
	事後学習	英語圏の文化の確認をする。（30分を）
15	事前学習	単語451-550を暗記する。（30分）
	授業内容	小テスト10 英語圏の文化、これまでの授業の解説をする。
	事後学習	これまでの文法事項で、不確かであったものを復習をする。（30分）

科目名	英語A【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	藤木 智子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	予習で文法事項や単語の意味を確認しておきましょう。授業では積極的に質問をしましょう。また、復習をして、授業で学習したことをきちんとノートに書きこみ、知識の基礎固めをしましょう。授業は皆さんが主役なので、積極的に取り組んでください。				
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。時事英語に触れるため、英字新聞に目を通し、BBCやCNNニュースを観ましょう。到達目標はTOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標としています。関連DP及びCP:外国語領域3, 6				
履修条件	政治経済課程1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。授業中の、携帯やスマートフォンの使用は固く禁止します。				
授業方法	本文や問題文の音読と、訳を求めます。毎回、全員が一度は発表しますので、事前に予習をしましょう。演習方式。テストを行います。返却後は必ず間違った箇所やあやふやなところはまとめて事後学習をしましょう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	60%)学期末にテストをします。 40%)平常評価では授業参加度を重視します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	19年度	成美堂		『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』	菰 寛美 他
	14年度	南雲堂		『5分間 新TOEICテストリスニング 550』	片野田 浩子
	14年度	南雲堂		『5分間 新TOEICテストサプリメント 文法語法』	小池直己
	備考				
参考書	英和、和英辞書両方です。電子辞書、紙媒体どちらでも構いません。例文と品詞が載っているものに限ります。授業中に携帯やスマホを辞書代わりに使用することは認めません。必ず辞書を準備してください。				
オフィスアワー	水曜日 9時～12時10分 授業講堂にて。 質問は授業の前が望ましいです。授業後の昼休みでの質問は、事前にアポイントメントを取ってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit1の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)
	授業内容	Orientation 授業の方法についてレクチャーをします。授業に関する質問に答えます。教科書および英和・和英辞書を用意してください。
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (30分)
2	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit1の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)
	授業内容	Unit 1 『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』、前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題1 『5分間 新TOEICテストサプリメント 文法語法』Section1
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 (30分) 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。
3	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit2のテーマ、単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)
	授業内容	Unit 2 『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストサプリメント 文法語法』Section1 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題2
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (30分)

14	事前学習	事前学習として、どこがどのように分からないのかを明らかにし、備えておくこと。質問も遠慮なくしてください。 (30分)
	授業内容	前期授業のまとめ
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
15	事前学習	最近のニュースに関して事前に英字新聞などを読んで、時事英語に関する単語などを調べておく とより一層理解が深まるので準備しておくこと。(30分)
	授業内容	今期のまとめをして、時事英語に関するDVDを鑑賞しましょう。
	事後学習	事後学習として、今回のDVDの内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめること。(30分)

科目名	英語A【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英字新聞攻略法を身につけながら、時事英語の運用力を養成します。時事英語に特有な表現や語彙を学び、正確に意味内容を把握できる力を向上させます。また、授業で学習したことに基づき、各トピックについて自分の意見を英語で述べるができるようにします。				
授業目的・到達目標	[授業目的]TOEIC，TOEFL，英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的とします。 [到達目標]skimming力を身につけながら、パラグラフの論理展開を学んでいき、自分の考えを客観的かつ論理的に明確な英語で表現できるようにすることを最終目標とします。TOEICテストのための基礎力を身につけ、スコア450点以上の獲得を目指します。対応DP及びCP:外国語科目領域 3，6				
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。積極的かつ集中して授業に臨む必要があります。				
授業方法	critical thinking/creative thinkingの手法を下地とし、輪読形式と演習形式を織り交ぜながら授業を展開していきます。小テストを毎回実施します。フィードバックは授業内に行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常授業（毎回の小テスト・課題への取り組みや授業参加度（50％） 単元5つ毎に行われるテスト（50％））	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019年	成美堂	Meet the World 2019 ―English through Newspapers―		若有保彦
	備考				
参考書	適宜、資料配布や参考文献紹介を行います。辞書必携。				
オフィスアワー	月曜日 12:20～13:00、場所は事前にアポイントメントを取った際に決めます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	これまでの自分の英語学習歴を整理する。シラバスとテキストを熟読するとともに、講義全体を概観する。大学での英語学習に向けての目標を考える。（30分）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。ニュース記事の特徴を把握する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。TOEIC，TOEFL，IELTS, 英検などの検定試験について調べる。（30分）
2	事前学習	課題のニュース記事を読み、理解できない点は質問できるようにしておく。（30分）
	授業内容	ニュース記事の特徴。Unit 1(Study: Microwave ovens are cooking the environment) Reading/Grammar/Composition
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（30分）
3	事前学習	課題のニュース記事を読み、理解できない点は質問できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 2 (Truck damages Peru’s ancient Nazca Lines) Reading/Grammar/Composition
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（30分）
4	事前学習	課題のニュース記事を読み、理解できない点は質問できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 3 (Firms struggle to secure IT workers) Reading/Grammar/Composition
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（30分）

5	事前学習	課題のニュース記事を読み、理解できない点は質問できるようにしておく。（３０分）
	授業内容	Unit 4 (Global automakers to speed up electrified vehicle rollout)Reading/Grammar/Composition
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（３０分）
6	事前学習	課題のニュース記事を読み、理解できない点は質問できるようにしておく。（３０分）
	授業内容	Unit 5 (Pharmacists in Oita create guidebook for drinkable spa water) Reading/Grammar/Composition
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（３０分）
7	事前学習	Unit 5までに学習した箇所の語彙や文法を復習しテストに臨む。（６０分）
	授業内容	テスト及び振り返り
	事後学習	振り返りの内容を確認する。（３０分）
8	事前学習	課題のニュース記事を読み、理解できない点は質問できるようにしておく。（３０分）
	授業内容	Unit 6 (SpaceX's rocket blasts off, puts sports car in space) Reading/Grammar/Composition
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（３０分）
9	事前学習	課題のニュース記事を読み、理解できない点は質問できるようにしておく。（３０分）
	授業内容	Unit 7 (Single-person households expected to hit 40% in 2040) Reading/Grammar/Composition
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（３０分）
10	事前学習	課題のニュース記事を読み、理解できない点は質問できるようにしておく。（３０分）
	授業内容	Unit 8 (Govt plans to implement 'EdTech' for schools) Reading/Grammar/Composition
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（３０分）
11	事前学習	課題のニュース記事を読み、理解できない点は質問できるようにしておく。（３０分）
	授業内容	Unit 9 (Universities help run cafeterias for low-income kids) Reading/Grammar/Composition
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（３０分）
12	事前学習	課題のニュース記事を読み、理解できない点は質問できるようにしておく。（３０分）
	授業内容	Unit 10 (Tunisian schoolgirls rebel against uniforms) Reading/Grammar/Composition
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（３０分）
13	事前学習	Unit10までに学習した箇所の語彙や文法を復習しテストに臨む。（６０分）
	授業内容	テスト及び振り返り
	事後学習	振り返りの内容を確認する。（３０分）
14	事前学習	課題のニュース記事を読み、理解できない点は質問できるようにしておく。（３０分）
	授業内容	Unit 11 (English added to more school entrance exams) Reading/Grammar/Composition
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（３０分）
15	事前学習	課題のニュース記事を読み、理解できない点は質問できるようにしておく。（３０分）
	授業内容	Unit 12 (International body OK's Japanese names for undersea features)Reading/Grammar/Composition
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（３０分）

科目名	英語A【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	殺人事件に関する陪審員の審議を扱ったアメリカのTVドラマ台本を基本教材とし、法廷/法律にまつわる英語に親しみながら、コンテキストを重視した読解力を身につけます。			
授業目的・到達目標	専門分野の英文原書読解や英語の資格試験（TOEIC, TOEFL, 英検等）等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することが目的です。 アメリカの陪審制度やデモクラシーについて一定の見識を持ち、英文のコンテキストを理解し、説明できるようになることが目標です。対応DP及びCP：外国語科目領域3， 6			
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。			
授業方法	発表やグループワーク等を中心とした参加型の授業をおこないます。適宜ビデオを使います。小テストは実施した翌週に返却。テストの講評・解説を後日ポータルシステムで配信します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	テスト40%，平常点（発表・小テスト・予習・授業参加度等）60%。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	1995/2010	開文社	Twelve Angry Men	Reginald Rose
	備考			
参考書	授業時に指示する。			
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は授業終了後教室で、または水曜日12:30-13:30に435研究室で対応する。 E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、授業の全体を概観する。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の趣旨や進め方を説明する。
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
2	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Descriptions of Jurors／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
3	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act I, pp. 3-4／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
4	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act I, pp. 4-7／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）

5	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act I, pp. 7-10／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
6	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act I, pp. 10-13／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
7	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act I, pp. 13-16／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
8	事前学習	Act I を振り返り、理解が不十分な点等を再確認する。（30分）
	授業内容	Act I のまとめ／関連ビデオを視聴する
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
9	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act II, 16-19／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
10	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act II, pp. 19-22／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
11	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act II, pp. 22-25／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
12	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act II, 25-27／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
13	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act II, pp. 27-29／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
14	事前学習	Act II を振り返り、理解が不十分な点等を再確認する。（30分）
	授業内容	Act II のまとめ／関連ビデオを視聴する
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
15	事前学習	Act I Act II を振り返り、内容理解・語学上の疑問点を整理する。（30分）
	授業内容	前期の目標到達度を確認する
	事後学習	前期で学んだことを整理する。（30分）

科目名	英語A【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	辻岡 宏子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	海外の慣習、文化についての知識を深めるとともに、リーディングの内容を理解し正確な情報を得るための語彙や表現の習得を目指します。 ペアワークやグループワークを通して、能動的に学ぶ態度や学習スキルの習得を目指します。					
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要リーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 リーディングの内容を理解し正確な情報を得るための語彙や表現の習得及び、外部試験のリーディング・文法のパートで高得点をとれることを目標とします。 対応D P及びC P：外国語科目領域3， 6					
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。 30分以上の遅刻は欠席とします。					
授業方法	授業に積極的に参加することが求められます。 授業内で講評、解説等のフィードバックを行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業参加態度、ペアワーク、グループワーク貢献度 宿題、授業課題、テスト等	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2004	Oxford University Press		Identity		Shauls, Tsujioka, Iida
	2014	Nan'undo		A Shorter Course in Expressions for Everyday Actions		
	備考					
参考書	英和、和英辞書（電子辞書可）					
オフィスアワー	授業の後に授業講堂に来てください。 水曜日12:10-12:20					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	英語の勉強方法、授業に対する取り組み（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	課題 about yourself(30分)
2	事前学習	課題 how to manage group work（30分）
	授業内容	Get to know each other
	事後学習	ジャーナル 1 授業振り返り(30分)
3	事前学習	課題 your school life(30分)
	授業内容	culture shock 1
	事後学習	ジャーナル 2 授業振り返り(30分)
4	事前学習	課題 cultural differences(30分)
	授業内容	culture shock 2
	事後学習	ジャーナル 3 授業振り返り(30分)

5	事前学習	課題 language examples(30分)
	授業内容	culture in language 1
	事後学習	ジャーナル 4 授業振り返り (30分)
6	事前学習	課題 proverbs(30分)
	授業内容	culture in language 2
	事後学習	ジャーナル 5 授業振り返り (30分)
7	事前学習	課題 what you like(30分)
	授業内容	values 1
	事後学習	ジャーナル 6 授業振り返り (30分)
8	事前学習	課題 your family(30分)
	授業内容	values 2
	事後学習	ジャーナル 7 授業振り返り (30分)
9	事前学習	プレゼン準備(30分)
	授業内容	presentations
	事後学習	ジャーナル 8 授業振り返り (30分)
10	事前学習	課題 Japanese body language(30分)
	授業内容	body language 1
	事後学習	ジャーナル 9 授業振り返り (30分)
11	事前学習	課題 hidden language (30分)
	授業内容	body language 2
	事後学習	ジャーナル 10 授業振り返り (30分)
12	事前学習	課題 your value(30分)
	授業内容	individualism
	事後学習	ジャーナル 11 授業振り返り (30分)
13	事前学習	課題 who you are(30分)
	授業内容	identity
	事後学習	ジャーナル 12 授業振り返り (30分)
14	事前学習	前期学習の復習(30分)
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	到達度の振り返り (30分)
15	事前学習	課題 autonomous learning(30分)
	授業内容	リフレクション
	事後学習	ジャーナル 13 まとめ(30分)

科目名	英語A【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	小倉 浩子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英文読解の授業です。使用するテキストは、ロンドン在住の著者がイギリスの文化や歴史に触れながらイギリスの今を語る英文エッセイ集です。語句や文法に留意しながら、丹念に英文を読み進める場にしたいと思います。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6					
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。					
授業方法	輪読形式。テキストのユニットごとに小テストを行う予定です。小テストや試験は次の授業で返却し、解答の確認・解説を行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業への参加度、小テストや試験の結果を総合的に評価。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018年	成美堂		鼓動するイギリス		John H. Randle、 棕平淳
	備考					
参考書	適宜紹介します。					
オフィスアワー	火曜10：30～ 授業終了後の講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通す。テキストの“Preface”と「はじめに」を読む。（30分）
	授業内容	ガイダンス シラバスに基づいて授業の進め方を説明。テキストの“Preface”の内容を確認。 英語学習（特にTOEIC）について話をする。
	事後学習	ガイダンスを振り返る。（30分）
2	事前学習	テキストUnit 1のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 1 The Brexit Referendum Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
3	事前学習	テキストUnit 2のVocabuulary in Focusで重要語を確認する。Reading comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 2 The New Mayor of London Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
4	事前学習	テキストUnit 3のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 3 Brits on Bikes Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）

5	事前学習	テキストUnit 4のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 4 Oxford and Cambridge:Looking to the Future Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
6	事前学習	テキストUnit 5のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 5 A Profile of Cornwall Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
7	事前学習	テキストUnit 5までの授業の復習をする。(30分)
	授業内容	Unit 1～Unit 5のまとめ
	事後学習	Unit 5までの授業のまとめを振り返る。(30分)
8	事前学習	テキストUnit 6のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 6 The Cost of Being Young Today Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
9	事前学習	テキストUnit 7のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 7 It All Began at Rugby School Reading comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
10	事前学習	テキストUnit 8 のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 8 Britain and the Sea Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
11	事前学習	テキストUnit 9 のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 9 Images of Scotland Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
12	事前学習	テキストUnit 10 のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 10 “The New Look”:Beards and Tattoos Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
13	事前学習	テキストUnit 6 以降の授業の復習をする。(30分)
	授業内容	Unit 6 ～Unit 10のまとめ
	事後学習	Unit 6 以降の授業のまとめを振り返る。(30分)
14	事前学習	試験に向けて学習する。(30分)
	授業内容	授業内試験 及び まとめ
	事後学習	試験への取り組みなどを反省する。(30分)
15	事前学習	テキストUnit 1 ～Unit 10 の語句や内容を再確認する。(30分)
	授業内容	授業内試験後のまとめ
	事後学習	前期授業を振り返る。(30分)

科目名	英語A【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	新聞記事を編集したテキストを使用して英字新聞の形式に慣れ、英文全体の内容を把握しながら一文ずつ正確に読めるようにします。そのため、テキスト以外の英文も授業の中で読んでいく。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】英字新聞を辞書を使わずに読めるようになることとTOEICテストのための基礎力を養い、TOEICスコア450点以上を獲得できることを目標とします。関連DP及びCP：外国語科目領域3, 6			
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。授業回数の1/3以上欠席すると単位は取得できない。英和辞書を毎回持参すること。携帯、スマホの使用は認めない。			
授業方法	授業は演習形式で行い、テキストのUnit一つを2回で終わらす。1回目はReadingの英文を中心に、2回目はExerciseを中心に学生が発表する。詳しいことは1回目の授業で説明する。 適宜小テストを行い、返却する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	学期末試験50%、小テストや授業内の発表など50%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年	朝日出版社	15章版：ニュースメディアの英語2019年度版	竹内、植木他3名共著
	備考			
参考書	英和辞書 総合英語「Forest」（桐原書店）			
オフィスアワー	授業講堂：火曜日9時～12時10分/木曜日13時～14時10分			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストをよく読み、授業全体で行うことを理解する。(30分)
	授業内容	ガイダンス —— 英語Aの履修についての説明と注意、他
	事後学習	授業に関する説明を再度チェックする。授業のガイダンスで聞いたことを参考にTOEIC、TOEFL、英検等の資格試験について調べてみる。(30分)
2	事前学習	Unit 1 'Japan's demographic sweet spot':Words and Phrases/ Summary/ Readingの分からない語、語句は辞書で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 1 'Japan's demographic sweet spot':Words and Phrasesと Summaryの答え合わせ/ Reading-本文を段落ごとに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説、
	事後学習	Unit 1 'Japan's demographic sweet spot' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)
3	事前学習	Unit 1 'Japan's demographic sweet spot' Reading：英文の内容をまとめる。True or FalseとVocabularyの問題を解く。(30分)
	授業内容	Unit 1 'Japan's demographic sweet spot' Readingの復習/ True or FalseとVocabularyの答え合わせ
	事後学習	Unit 1 'Japan's demographic sweet spot'のReadingの内容とTrue or FalseとVocabularyを復習。(30分)
4	事前学習	Unit 2 'The crisis in Pakistan's schools':Words and Phrases/ Summary/ Readingの分からない語、語句は辞書で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 2 'The crisis in Pakistan's schools':Words and Phrasesと Summaryの答え合わせ/ Reading-本文を段落ごとに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説
	事後学習	Unit 2 'The crisis in Pakistan's schools' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)

5	事前学習	Unit 2 'The crisis in Pakistan's schools' Reading : 英文の内容をまとめる。True or FalseとVocabularyの問題を解く。(30分)
	授業内容	Unit 2 'The crisis in Pakistan's schools' Readingの復習/ True or FalseとVocabularyの答え合わせ
	事後学習	Unit 2 'The crisis in Pakistan's schools' のReadingの内容とTrue or FalseとVocabularyを復習。(30分)
6	事前学習	Unit 3 'Easier Taught Than Done? Yale's Most Popular Class Tackles Happiness' :Words and Phrases/ Summary/ Readingの分からない語、語句は辞書で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく(30分)
	授業内容	Unit 3 'Easier Taught Than Done? Yale's Most Popular Class Tackles Happiness' :Words and Phrasesと Summaryの答え合わせ/ Reading-本文を段落ごとに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説
	事後学習	Unit 3 'Easier Taught Than Done? Yale's Most Popular Class Tackles Happiness' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)
7	事前学習	Unit 3 'Easier Taught Than Done? Yale's Most Popular Class Tackles Happiness' Reading : 英文の内容をまとめる。True or FalseとVocabularyの問題を解く。(30分)
	授業内容	Unit 3 'Easier Taught Than Done? Yale's Most Popular Class Tackles Happiness' Readingの復習/ True or FalseとVocabularyの答え合わせ
	事後学習	Unit 3 'Easier Taught Than Done? Yale's Most Popular Class Tackles Happiness' のReadingの内容とTrue or FalseとVocabularyを復習。(30分)
8	事前学習	Unit 4 'The Case for 'America First' Economics' :Words and Phrases/ Summary/ Readingの分からない語、語句は辞書で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 4 'The Case for 'America First' Economics' :Words and Phrasesと Summaryの答え合わせ/ Reading-本文を段落ごとに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説
	事後学習	Unit 4 'The Case for 'America First' Economics' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)
9	事前学習	Unit 4 'The Case for 'America First' Economics' : 英文の内容をまとめる。True or FalseとVocabularyの問題を解く。(30分)
	授業内容	Unit 4 'The Case for 'America First' Economics' Readingの復習/ True or FalseとVocabularyの答え合わせ
	事後学習	Unit 4 'The Case for 'America First' Economics' Readingの内容とTrue or FalseとVocabularyを復習。(30分)
10	事前学習	Unit 5 'Thousands Walk Out of Class, Urging Action on Gun Control' :Words and Phrases/ Summary/ Readingの分からない語、語句は辞書で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 5 'Thousands Walk Out of Class, Urging Action on Gun Control' :Words and Phrasesと Summaryの答え合わせ/ Reading-本文を段落ごとに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説
	事後学習	Unit 5 'Thousands Walk Out of Class, Urging Action on Gun Control' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)
11	事前学習	Unit 5 'Thousands Walk Out of Class, Urging Action on Gun Control' : 英文の内容をまとめる。True or FalseとVocabularyの問題を解く。(30分)
	授業内容	Unit 5 'Thousands Walk Out of Class, Urging Action on Gun Control' Readingの復習/ True or FalseとVocabularyの答え合わせ
	事後学習	Unit 5 'Thousands Walk Out of Class, Urging Action on Gun Control' Readingの内容とTrue or FalseとVocabularyを復習。(30分)
12	事前学習	Unit 6 'A Language Melting Pot That Can Still Boil Over'' Language issue divides Northern Ireland' :Words and Phrases/ Summary/ Readingの分からない語、語句は辞書で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 6 'A Language Melting Pot That Can Still Boil Over'' Language issue divides Northern Ireland' :Words and Phrasesと Summaryの答え合わせ/ Reading-本文を段落ごとに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説
	事後学習	Unit 6 'A Language Melting Pot That Can Still Boil Over'' Language issue divides Northern Ireland' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)
13	事前学習	Unit 6 'A Language Melting Pot That Can Still Boil Over'' Language issue divides Northern Ireland' : 英文の内容をまとめる。True or FalseとVocabularyの問題を解く。(30分)
	授業内容	Unit 6 'A Language Melting Pot That Can Still Boil Over'' Language issue divides Northern Ireland' Readingの復習/ True or FalseとVocabularyの答え合わせ
	事後学習	Unit 6 'A Language Melting Pot That Can Still Boil Over'' Language issue divides Northern Ireland' Readingの内容とTrue or FalseとVocabularyを復習。(30分)
14	事前学習	Unit 1 ~ Unit 6までの復習して授業内試験の勉強をする。(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期授業の振り返り
	事後学習	Unit 1 ~ Unit 6までの内容を復習をする。(30分)
15	事前学習	前期授業の総復習(30分)
	授業内容	Readingのプリントを読んで問題を解く。英文の解説
	事後学習	授業で読んだ英文の内容をもう一度見直す。解釈を間違えたところを復習(30分)

科目名	英語A【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	山田 潤治	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	大学生としての英語基礎力を身につける演習授業。英語Aでは文法を中心に演習する。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身につけ、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 関連D P 及び C P：外国語科目領域3、6			
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受検を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。			
授業方法	テキストの指定された範囲の演習問題を自宅で事前学習します。講義では、重要項目を説明した上で、演習問題の解答確認をしていきます。 小テストを行い、返却します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	小テストの成績（50％）。授業の予習状況（50％）	
教科書	年	出版社	書名	著者名
		Pearson	Focus on Grammar 3	Fuchs, Bonner, Westheimer
		Jリサーチ出版	TOEIC TEST必ず☆でる単スピードマスター	成重寿
	備考			
参考書	大学生にふさわしい辞書、参考書について、初回授業時に詳しく説明いたします。			
オフィスアワー	授業終了後（火曜：10：30～）授業講堂にて メールにてアポイントを取ることが望ましいです。 junji%y.email.ne.jp（％は、@に変換する）まで電子メールで連絡ください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストを購入し、テキストの構成を確認しておく。（30分） かならず初回授業に、教科書を持参するように、あらかじめテキストを購入しておく。
	授業内容	ガイダンス授業：クラスの到達目標、学習目標の定め方、辞書の選び方等、大学英語の全般についての説明。
	事後学習	学習目標をたてる。（30分）
2	事前学習	PART 1 Present and Past UNIT 1 Present Progressive and Simple Present (pp.4-16) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。（30分）
	授業内容	PART 1 Present and Past UNIT 1 Present Progressive and Simple Present
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 1 Review (p.17) (30分)
3	事前学習	PART 1 Present and Past UNIT 2 Simple Past (pp.18-31) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。（30分）
	授業内容	PART 1 Present and Past UNIT 2 Simple Past
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 2 Review (p.32) (30分)
4	事前学習	PART 1 Present and Past UNIT 3 Past Progressive and Simple Past (pp.33-45) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。（30分）
	授業内容	PART 1 Present and Past UNIT 3 Past Progressive and Simple Past
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 3 Review (p.46) (30分)

5	事前学習	PART 1 Present and Past UNIT 4 Used to and Would (pp.47-59) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	PART 1 Present and Past UNIT 4 Used to and Would
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 4 Review (p.60) (30分)
6	事前学習	PART 1 Present and Past UNIT 5 Wh-Questions (pp.61-70) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	PART 1 Present and Past UNIT 5 Wh-Questions
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 5 Review (p.71) (30分)
7	事前学習	Part 2 The Future UNIT 6 Future (pp.74-89) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 2 The Future UNIT 6 Future
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 Unit 6 Review (p.90) (30分)
8	事前学習	Part 2 The Future UNIT 7 Future Time Clauses (pp.91-100) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 2 The Future UNIT 7 Future Time Clauses
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 Unit 7 Review (p.101) (30分)
9	事前学習	Part 3 Present Perfect UNIT 8 Present Perfect: Since and For (pp.104-116) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 3 Present Perfect UNIT 8 Present Perfect: Since and For
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 8 Review (p.117) (30分)
10	事前学習	Part 3 Present Perfect UNIT 9 Present Perfect: Already, Yet, and Still (pp.118-127) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 3 Present Perfect UNIT 9 Present Perfect: Already, Yet, and Still
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 9 Review (p.128) (30分)
11	事前学習	Part 3 Present Perfect UNIT 10 Present Perfect: Indefinite Past (pp.129-142) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 3 Present Perfect UNIT 10 Present Perfect: Indefinite Past
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 10 Review (p.143) (30分)
12	事前学習	Part 3 Present Perfect UNIT 11 Present Perfect and Simple Past (pp.144-155) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 3 Present Perfect UNIT 11 Present Perfect and Simple Past
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 11 Review (p.156) (30分)
13	事前学習	Part 3 Present Perfect UNIT 12 Present Perfect Progressive and Present Perfect (pp.157-170) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 3 Present Perfect UNIT 12 Present Perfect Progressive and Present Perfect
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 12 Review (p.171) (30分)
14	事前学習	Part 4 Modals and Similar Expressions UNIT 13 Ability and Possibility: Can, Could, Be able to (pp.174-187) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 4 Modals and Similar Expressions UNIT 13 Ability and Possibility: Can, Could, Be able to
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 13 Review (p.188) (30分)
15	事前学習	Part 4 Modals and Similar Expressions UNIT 14 Permission: Can, Could, May, DO you mind if (pp.189-200) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 4 Modals and Similar Expressions UNIT 14 Permission: Can, Could, May, DO you mind if
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 14 Review (p.201) (30分)

科目名	英語A【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	P.カレンダー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This course will improve your speaking and listening skills through practicing conversations and listening by native speakers in different situations. Then there is simple conversation practice, usually between two students.			
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 This course is designed to help students develop their communication skills in focusing on discussion and listening skills based on structured conversation and listening exercises. 関連DP／CP：3, 6			
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。 Students need to complete 11 out of 15 classes and both tests to pass.			
授業方法	The 32 lessons have warmup talking, listening, pronunciation and free conversation practice.			
成績評価	種別		割合	
	定期試験			
	平常評価		100% 50% = two speaking tests of 25% each 25% = participation and effort 25% = active participation	
教科書	年	出版社		書名
	2018	Oxford University Press		Speak Now 1 ISBN: 978-0-19-403015-1
				Jack C. Richards, David Bohlke
	備考			
参考書	English learners dictionary or an electronic dictionary			
オフィスアワー	paulkallender@gmail.com. Attention Dr. Kallender. Contact if you are going to miss a lesson, or if you have missed a lesson. Explain why. Please ask questions after the class (Tuesday 1st period) at classroom.			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please make sure to check you have your textbook in advance (30min)
	授業内容	Course outline, expectations, testing, attendance, etc. Unit 1: How are you
	事後学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
2	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 2, 3 & 4: Nice to meet you/ Can you say that again?/ Nice weather isn't it?
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
3	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 5, 6 & 7: I love hip hop!/ My favorite movie is.../ What time is it?
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
4	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 8, 9 & 10: Would you like to try kayaking?/ Do you have any brothers? / She's pretty smart.
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)

5	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 11, 12 & 13: I love your shirt! / What is she wearing? / When do you get up?
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
6	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 14, 15, & 16: When do you get there? / What do you do first? /What are you doing?
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
7	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Unit 16 What are you doing? Review exercises Units 1-4, 5-8, 9-12 and 13-16 swapping partners
	事後学習	Make a note of major mistakes made. (30min)
8	事前学習	Please review Units 1-16 before test (30min)
	授業内容	Mid-Term Test
	事後学習	Please review weaknesses (30min)
9	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 17, 18, & 19: What's your place like? / Where can I get a lamp? / Where is the mall?
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
10	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 20, 21, & 22: Take a left/ How much is the coffee? / Will you take \$20?
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
11	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 23, 24, & 25: Do you ever buy books? / Your phone is so cool/ Do you eat much fruit?
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
12	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 26, 27, & 28: We need onions/ Do you eat a big lunch? / How does it taste?
	事後学習	Please make sure to complete all the exercises up to this point. (30min)
13	事前学習	Make sure to read the lesson beforehand (30min)
	授業内容	Units 29, 30, & 31: I had a great weekend/ What time did you call?/ You won't believe this!
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
14	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Unit 32 What are your plans? Review exercises Units 17-20, 21-24, 25-28 and 29-32 swapping partners
	事後学習	Make a note of major mistakes made. (30min)
15	事前学習	Please review Units 17-32 before test (30min)
	授業内容	End-of-Term Test Review 解説
	事後学習	Please keep your textbook for follow-up (30min)

科目名	英語A【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語のリーディング、文法を中心に学習します。					
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。英文を素早く読んで、情報を正確に読み取ることが出来るようになることを目指します。 関連DP及びCP：外国語科目領域3， 6					
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。					
授業方法	実践演習をして解説をします。 毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施します。返却後は復習しておくこと。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%		学期末授業内試験を実施します。また毎回、単語テストを行い、総合的に判断します。	
	平常評価		100%			
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	南雲堂		Global Issues Towards Peace		達川奎三、他
	備考	なし				
参考書	飛田茂雄（編）『現代英米情報辞典』研究社 参考書を購入する必要はない。適宜図書館等で参照すること。					
オフィスアワー	水曜日16：20-17：50（4号館1階） 連絡先：mizumoto.koji*nihon-u.ac.jp　、「メールする場合は*を@に変えて使って下さい」					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
2	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Education and gender 1-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
3	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Education and gender 1-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
4	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Global warming 2-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）

5	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Global warming 2-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
6	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Drinking water 3-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
7	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Drinking water 3-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
8	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Poverty and hunger 4-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
9	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Poverty and hunger 4-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
10	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Fighting disease 5-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
11	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Fighting disease 5-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
12	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Terrorism 6-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
13	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Terrorism 6-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
14	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Internment 7
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
15	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	復習、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）

科目名	英語A【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験のための基礎固めをします。講師は、東進ハイスクール初代英語講師、旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送）、日本実用英語検定協会英検セミナー講師、オレゴン州立大学語学研修引率（アクト・コーポレーション主催）などの実務経験を生かした授業を展開する。							
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解に必要なリーディング、語彙力、文法の基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】受講生は、1100 Words You Need to Know、およびBasic Word Listの単語をすべて覚え、1分間で250語程度読めるようになることを目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域3、6							
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。ノート検査をする。将来的に英語が人生の重要な要素となることを自覚すること。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Bと通年で履修すること。							
授業方法	演習方式。毎時間リーディング・テストと単語テストを実施し、次の授業で返却を行う。テストの得点は加算され、順位を出す。また授業計画に変更が生じた場合には、そのつどプリントないしは口頭にて受講生に知らせる。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%					
	平常評価		100%		諸テストの得点を加算して順位を出して評価する。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	2017		Barron		Basic Word List		Brownstein	
	備考		1100 Words You Need to Knowはプリントを使用					
参考書	リーダーズ英和辞典							
オフィスアワー	水曜日、お昼休み、9107研究室にて（事前にメールで予約をとること）、英語全般、留学、海外の大学院進学などの相談を受け付ける。メールにての相談は随時受け付ける。morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス記載事項の熟読（30分）
	授業内容	Introduction、シラバス記載事項の確認、その他評価方法、シラバスに記載できなかった授業内容について説明する
	事後学習	配布されたプリントを熟読する（30分）
2	事前学習	1100 Words You Need to Knowの単語ノートを作成しなるべく多くの単語を覚え、4週からの単語テストに備える。同様にBasic Word List の単語テストにもノートを作成し備える。（30分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 1、所有格について
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（30分）
3	事前学習	1100 Words You Need to Knowの単語ノートを作成しなるべく多くの単語を覚え、4週からの単語テストに備える。同様にBasic Word List の単語テストにもノートを作成し備える。（30分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 2、接続詞について
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（30分）
4	事前学習	1100 Words You Need to Know(new wordsのみ)1-12 weekの単語を覚える（30分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 3、挿入について、1100 Words You Need to Know(new wordsのみ)1-12 weekの単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（30分）

5	事前学習	1100 Words (new wordsのみ)13-25weekの単語を覚える (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 4、独立節について、1100 Words (new wordsのみ)13-25weekの単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)
6	事前学習	1100 Words (new wordsのみ)26-38 weekの単語を覚える (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 5、句読法について、1100 Words (new wordsのみ) 26-38weekの単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)
7	事前学習	1100 Words (new wordsのみ)1-46weekの単語を覚える (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 6、数について、1100 Words (new wordsのみ)1-46 weekの単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)
8	事前学習	Basic Word List (見出し語のみ)pp. 3-22の単語を覚える (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 7、代名詞について、Basic Word List (見出し語のみ)pp. 3-22の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)
9	事前学習	BWL (見出し語のみ)pp. 23-43の単語を覚える (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 8、分詞構文について、BWL (見出し語のみ)pp. 23-43の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)
10	事前学習	BWL (見出し語のみ)pp. 44-64の単語を覚える (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 9、英作文について、BWL (見出し語のみ) pp. 44-64の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)
11	事前学習	BWL (見出し語のみ)pp. 65-85の単語を覚える (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 10、能動態と受動態について、BWL (見出し語のみ)pp. 65-85の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)
12	事前学習	BWL (見出し語のみ)pp. 86-106の単語を覚える (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 11、否定表現について、BWL (見出し語のみ)pp. 86-106の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)
13	事前学習	BWL (見出し語のみ)pp. 107-127の単語を覚える (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 12、無駄な語を削ることについて、BWL (見出し語のみ)pp. 107-127の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)
14	事前学習	これまでの範囲すべての単語の総復習 (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 13、散列文について、全範囲の単語テスト (1)
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)
15	事前学習	これまでの範囲すべての単語の総復習 (30分)
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 14、文法の復習、全範囲の単語テスト (2)
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記 (30分)

科目名	英語A【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	小倉 浩子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英文読解の授業です。使用するテキストは、ロンドン在住の著者がイギリスの文化や歴史に触れながらイギリスの今を語る英文エッセイ集です。語句や文法に留意しながら、丹念に英文を読み進める場にしたいと思います。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。対応DP及びCP：外国語科目領域3,6					
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。					
授業方法	輪読形式。テキストのユニットごとに小テストを行う予定です。小テストや試験は次の授業で返却し、解答の確認・解説を行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業への参加度、小テストや試験の結果を総合的に評価。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018年	成美堂		鼓動するイギリス		John H. Randle、 棕平淳
	備考					
参考書	適宜紹介します。					
オフィスアワー	火曜12:10～授業終了後の講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通す。テキストの“Preface”と「はじめに」を読む。（30分）
	授業内容	ガイダンス シラバスに基づいて授業の進め方を説明。テキストの“Preface”の内容を確認。 英語学習（特にTOEIC）について話をする。
	事後学習	ガイダンスを振り返る。（30分）
2	事前学習	テキストUnit 1のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 1 The Brexit Referendum Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
3	事前学習	テキストUnit 2のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 2 The New Mayor of London Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
4	事前学習	テキストUnit 3のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 3 Brits on Bikes Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）

5	事前学習	テキストUnit 4のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 4 Oxford and Cambridge:Looking to the Future Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
6	事前学習	テキストUnit 5のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 5 A Profile of Cornwall Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。(30分)
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
7	事前学習	テキストUnit 5までの授業の復習をする。(30分)
	授業内容	Unit 1 ～ Unit 5 のまとめ
	事後学習	Unit 5 までの授業のまとめを振り返る。(30分)
8	事前学習	テキストUnit 6のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 6 The Cost of Being Young Today Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
9	事前学習	テキストUnit 7のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 7 It All Began at Rugby School Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
10	事前学習	テキストUnit 8のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 8 Britain and the Sea Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
11	事前学習	テキストUnit 9のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 9 Images of Scotland Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
12	事前学習	テキストUnit 10のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。(30分)
	授業内容	Unit 10 “The New Look”:Beards and Tattoos Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。(30分)
13	事前学習	テキストUnit 6以降の授業の復習をする。(30分)
	授業内容	Unit 6 ～Unit 10 のまとめ
	事後学習	Unit 6 以降の授業のまとめを振り返る。(30分)
14	事前学習	試験に向けて学習する。(30分)
	授業内容	授業内試験及びまとめ
	事後学習	試験への取り組みなどを反省する。(30分)
15	事前学習	テキストUnit 1 ～ Unit 10の語句や内容を再確認する。
	授業内容	授業内試験後のまとめ
	事後学習	前期授業を振り返る。(30分)

科目名	英語A【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	堀 千和子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代社会の問題をトピックにした教科書を使用します。比較的わかりやすい英語を聞き取り、内容を理解し、重要語彙や表現を学びます。学んだ英語を定着させるために、シャドーイングや音読も行います。			
授業目的・到達目標	[授業目的]TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 [授業目標]TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP： 外国語科目領域3，6			
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修して下さい。			
授業方法	教科書に沿って、聴解、ディクテーション、読解を行っていきます。文法事項や重要表現を学習した後、英作文や発話練習を行って、知識を定着させます。 英作文や発話練習については、都度添削・講評を行います。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	中間試験 30%、 期末試験 35%、提出物（読書記録表）5 %、 授業への貢献度 10%、グループ・プレゼンテーション 10%、音読のチェック 10%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	金星堂	Pleasure in Reading Aloud and Retelling	Anthony P. Newell、山口高領
	備考			
参考書	英和辞書、英英辞典			
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業終了後（火曜：昼休みに講堂にて）またはE-mailにて対応します。授業開始時にアドレスをお知らせします。授業関連の連絡は大学ポータルを使用します。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	これまでの自分の英語学習を振り返って、使用した辞書や単語集、教材などをまとめておく。大学で英語をどのように学習したいかという目標を考えておく。簡単な自己紹介を英語で出来るように考えておく。(30分)
	授業内容	ガイダンス、語彙・文法の振り返り
	事後学習	教科書を購入する。音声のダウンロードの準備をする。前期分のテキストにざっと目を通す。(30分)
2	事前学習	教科書Unit 1の読み物の大まかな内容を把握しておく。わからない英単語を調べておく。(30分)
	授業内容	教科書 Unit 1の1 「ビジネスのリーダーになるために」内容把握、文法項目の説明
	事後学習	既習事項の内容を復習する。わからない箇所があれば、質問できるようにまとめておく。(30分)
3	事前学習	新出語彙と文法の確認をする。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 1の2 「ビジネスのリーダーになるために」音読の練習、グループワーク、ストーリーの再現
	事後学習	学習した英文を使用し、音声の後について音読の練習をする。(30分)
4	事前学習	教科書Unit 2の英文の大まかな内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 2の1 「食品ロスをなくす」内容把握、文法項目の説明
	事後学習	既習事項の内容を復習する。わからない箇所があれば、質問できるようにまとめておく。(30分)

5	事前学習	新出語彙と文法の確認をする。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 2の2 「食品ロスをなくす」音読の練習、グループワーク、ストーリーの再現
	事後学習	学習した英文のスク립トを使用し、音声の後について発音の練習をする。(30分)
6	事前学習	教科書Unit 3の大まかな内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 3の1 「俳句」内容把握、文法項目の説明
	事後学習	既習事項の内容を復習する。わからない箇所があれば、質問できるようにまとめておく。(30分)
7	事前学習	新出語彙と文法の確認をする。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 3の2 「俳句」音読の練習、グループワーク、ストーリーの再現
	事後学習	学習した英文を使用し、音声の後について発音の練習をする。(30分)
8	事前学習	教科書Unit 4の英文の大まかな内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 4の1 「プライバシー保護」内容把握、文法項目の説明
	事後学習	既習事項の内容を復習する。わからない箇所があれば、質問できるようにまとめておく。(30分)
9	事前学習	新出語彙と文法の確認をする。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 4の2 「プライバシー保護」音読の練習、グループワーク、ストーリーの再現
	事後学習	学習した英文を使用し、音声の後について発音の練習をする。(30分)
10	事前学習	教科書Unit 5の英文の大まかな内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 5の1 「ロシアの地方都市」内容把握、文法項目の説明
	事後学習	既習事項の内容を復習する。わからない箇所があれば、質問できるようにまとめておく。(30分)
11	事前学習	新出語彙と文法の確認をする。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 5の2 「ロシアの地方都市」音読の練習、グループワーク、ストーリーの再現
	事後学習	学習した英文を使用し、音声の後について発音の練習をする。(30分)
12	事前学習	教科書Unit 6の英文の大まかな内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 6の1 「音楽の癒し効果」内容把握、文法項目の説明
	事後学習	既習事項の内容を復習する。わからない箇所があれば、質問できるようにまとめておく。(30分)
13	事前学習	新出語彙と文法の確認をする。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 6の2 「音楽の癒し効果」音読の練習、グループワーク、ストーリーの再現
	事後学習	学習した英文を使用し、音声の後について発音の練習をする。(30分)
14	事前学習	教科書Unit 7の英文の大まかな内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 7 「動物の目から見た世界」内容把握、文法項目の説明、音読の練習
	事後学習	学習した英文を使用し、音声の後について発音の練習をする。(30分)
15	事前学習	今期の学習範囲の復習を行う。ポータルを見て、既習事項の内容を確認する。(60分)
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	事後学習	理解があやふやな箇所を見直し、後期の学習に備える。(30分)

科目名	英語A【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	山田 潤治	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	大学生としての英語基礎力を身につける演習授業。英語Aでは文法を中心に演習する。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身につけ、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 関連D P及びC P：外国語科目領域3、6			
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受検を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。			
授業方法	テキストの指定された範囲の演習問題を自宅で事前学習します。講義では、重要項目を説明した上で、演習問題の解答確認をしていきます。 小テストを行い、返却します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	小テストの成績（50％）。授業の予習状況（50％）	
教科書	年	出版社	書名	著者名
		Pearson	Focus on Grammar 3	Fuchs, Bonner, Westheimer
		Jリサーチ出版	TOEIC TEST必ず☆でる単スピードマスター	成重寿
	備考			
参考書	大学生にふさわしい辞書、参考書について、初回授業時に詳しく説明いたします。			
オフィスアワー	授業終了後（火曜：昼休み）授業講堂にて メールにてアポイントを取ることが望ましいです。 junji%y.email.ne.jp（％は、@に変換する）まで電子メールで連絡ください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストを購入し、テキストの構成を確認しておく。（30分） かならず初回授業に、教科書を持参するように、あらかじめテキストを購入しておく。
	授業内容	ガイダンス授業：クラスの到達目標、学習目標の定め方、辞書の選び方等、大学英語の全般についての説明。
	事後学習	学習目標をたてる。（30分）
2	事前学習	PART 1 Present and Past UNIT 1 Present Progressive and Simple Present (pp.4-16) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。（30分）
	授業内容	PART 1 Present and Past UNIT 1 Present Progressive and Simple Present
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 1 Review (p.17) (30分)
3	事前学習	PART 1 Present and Past UNIT 2 Simple Past (pp.18-31) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。（30分）
	授業内容	PART 1 Present and Past UNIT 2 Simple Past
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 2 Review (p.32) (30分)
4	事前学習	PART 1 Present and Past UNIT 3 Past Progressive and Simple Past (pp.33-45) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。（30分）
	授業内容	PART 1 Present and Past UNIT 3 Past Progressive and Simple Past
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 3 Review (p.46) (30分)

5	事前学習	PART 1 Present and Past UNIT 4 Used to and Would (pp.47-59) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	PART 1 Present and Past UNIT 4 Used to and Would
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 4 Review (p.60) (30分)
6	事前学習	PART 1 Present and Past UNIT 5 Wh-Questions (pp.61-70) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	PART 1 Present and Past UNIT 5 Wh-Questions
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 5 Review (p.71) (30分)
7	事前学習	Part 2 The Future UNIT 6 Future (pp.74-89) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 2 The Future UNIT 6 Future
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 Unit 6 Review (p.90) (30分)
8	事前学習	Part 2 The Future UNIT 7 Future Time Clauses (pp.91-100) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 2 The Future UNIT 7 Future Time Clauses
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 Unit 7 Review (p.101) (30分)
9	事前学習	Part 3 Present Perfect UNIT 8 Present Perfect: Since and For (pp.104-116) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 3 Present Perfect UNIT 8 Present Perfect: Since and For
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 8 Review (p.117) (30分)
10	事前学習	Part 3 Present Perfect UNIT 9 Present Perfect: Already, Yet, and Still (pp.118-127) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 3 Present Perfect UNIT 9 Present Perfect: Already, Yet, and Still
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 9 Review (p.128) (30分)
11	事前学習	Part 3 Present Perfect UNIT 10 Present Perfect: Indefinite Past (pp.129-142) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 3 Present Perfect UNIT 10 Present Perfect: Indefinite Past
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 10 Review (p.143) (30分)
12	事前学習	Part 3 Present Perfect UNIT 11 Present Perfect and Simple Past (pp.144-155) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 3 Present Perfect UNIT 11 Present Perfect and Simple Past
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 11 Review (p.156) (30分)
13	事前学習	Part 3 Present Perfect UNIT 12 Present Perfect Progressive and Present Perfect (pp.157-170) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 3 Present Perfect UNIT 12 Present Perfect Progressive and Present Perfect
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 12 Review (p.171) (30分)
14	事前学習	Part 4 Modals and Similar Expressions UNIT 13 Ability and Possibility: Can, Could, Be able to (pp.174-187) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 4 Modals and Similar Expressions UNIT 13 Ability and Possibility: Can, Could, Be able to
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 13 Review (p.188) (30分)
15	事前学習	Part 4 Modals and Similar Expressions UNIT 14 Permission: Can, Could, May, DO you mind if (pp.189-200) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 4 Modals and Similar Expressions UNIT 14 Permission: Can, Could, May, DO you mind if
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 14 Review (p.201) (30分)

科目名	英語A【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	瀧野 みゆき	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	インターネットなどで使われている英語を素材とし、自然な英語を読み、理解する訓練をします。英語の読みの方法を学び、多様な方法で読みながら内容への理解を深めます。授業の前半では、テーマ性のある英語の素材を読んで理解し、表現や内容・文法等について学びます。後半では、テキストの指定されたユニットを読み、英語の質問に英語で答える練習を行います。授業計画等は、状況によって、変更する可能性があります。				
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的にしています。自然な英語を日本語に訳さずに大意を理解し、必要な情報を読み取れるようになります。継続的に英語を読む習慣を身に付けられることを目指します。対応DP及びCP: 外国語科目領域3.6				
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。				
授業方法	英語の素材を読み、内容や表現を理解する練習を多様なテーマの素材を使って行います。授業の後半で読むテキストについては、授業の前に指定されたユニットを繰り返し読み、内容を理解してきてください。ミニテストは都度返却するので、復習をしておくこと。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業の参加と貢献（30%）授業内小テスト（30%）リーディングレポート（40%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2014	アルク		究極の英語リーディングVol. 1	アルク英語出版編集部
	備考				
参考書	授業で適宜指示します。				
オフィスアワー	原則として授業終了後（火曜：昼休み）。授業講堂にて。詳細は授業で指示します。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの購入と内容の確認 (30分)
	授業内容	ガイダンス：リーディング力を伸ばすには、英語の読みの練習方法、授業の進め方、事前・事後学習の説明 リーディングミニテストの練習
	事後学習	授業の進め方の確認、ミニテストの復習 (30分)
2	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解 (30分)
	授業内容	自己紹介：ニュースを読む
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習 (30分)
3	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解 (30分)
	授業内容	ニュースを読む
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習 (30分)
4	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解 (30分)
	授業内容	インターネットの情報を読む
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習 (30分)

5	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	インターネットの情報を読む
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
6	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	インストラクションを読む
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
7	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	インストラクションを読む
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
8	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	ニュースを読む
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
9	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	ニュースを読む
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
10	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	プレゼンを読む
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
11	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	プレゼンを読む
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
12	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	ニュースを読む
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
13	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	物語を読む
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
14	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	物語を読む
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
15	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）

科目名	英語A【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	河本 房子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TED Talksのコンテンツをもとに、授業内に意見交換するために内容を読み込んだ上で、自分の言葉で相手に伝える英語コミュニケーションの力をつけます。テキスト以外にも興味ある分野の文章を読み、発言できるようにします。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング、文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】国際研修や交換留学等の海外留学に必要とされる英語力を総合的に身につけ、また、TOEICやTOEFLにて高得点を獲得できるようにすることを目標とします。 対応DP及びCP: 外国語科目領域3, 6					
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。小テストを毎回実施します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業への積極的な参加。小テスト結果。期末テスト。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017	Cengage Learning		Keynote 3 ISBN-13 978 1 305 96505 8		Paul Dummett
	備考					
参考書	辞書 は毎回持参してください。参考書は必要に応じて紹介します。リスニングに慣れるため、BBC, NHK World, CNNなどの英語ニュースに普段から慣れ親しんでください。					
オフィスアワー	毎回の授業開始前（水曜10：30～10：40）、開始後（水曜12：10～）に授業が行われる講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Preview Unit1 (30分)
	授業内容	Introduction Overview of the course
	事後学習	vocabulary noteを作成 教科書の使い方、学習の進め方について確認する。(30分)
2	事前学習	Preview Unit 1 Part 1 volunteer firefighterについて調べる(30分)
	授業内容	Unit 1 – Part 1 Making a differenceのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)
3	事前学習	Preview Unit 1 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 1 – Part 2 A life Lesson from a volunteer firefighterのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
4	事前学習	Preview Unit 2 Part 1世の中のtrendについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 2 – Part 1 Trendsのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 教科書の文法事項について確認する。(30分)

5	事前学習	Preview Unit 2 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 2 – Part 2 How to start a movementのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
6	事前学習	Preview Unit 3 Part 1 Health Careについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 3 – Part 1 Improving livesのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)
7	事前学習	Preview Unit 3 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 3 – Part 2 My simple invention, designed to keep my grandfather sageのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
8	事前学習	Preview Unit 4 Part 1 web designについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 4 – Part 1 Designing the webのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)
9	事前学習	Preview Unit 4 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 4 – Part 2 How giant websites design for youのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
10	事前学習	Preview Unit 5 Part 1 community artについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 5 – Part 1 Community buildersのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)
11	事前学習	Preview Unit 5 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 5 – Part 2 How painting can transform communitiesのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
12	事前学習	Preview Unit 6 Part 1 communication styleについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 6 – Part 1 Clear communicationのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)
13	事前学習	Preview Unit 6 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 6 – Part 2 Talk nerdy to meのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
14	事前学習	Review Unit 1`6の問題とリーディングパートを確認する。(30分)
	授業内容	Review Unit1-6の内容、リスニングを理解する。 小テストを返却し答え合わせと確認をする
	事後学習	Vocabulary note学習 Review Unit 1`6を確認する。(30分)
15	事前学習	Review Unit 1`6(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	事後学習	Review Unit 1`6の確認。(30分)

科目名	英語A【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験を目指すための基礎固めをし、英文の内容を辞書を使わずに把握することが出来るようにすることと英文を正確に読めるようにする。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】英字新聞を辞書を使わずに読めるようになることとTOEICテストのための基礎力を養い、TOEICスコア450点以上を獲得できることを目標とします。関連DP及びCP：外国語科目領域3， 6			
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。授業回数の 1/3以上欠席すると単位は取得できない。英和辞書を毎回持参すること。携帯、スマホの使用は認めない。			
授業方法	授業は演習形式で行い、テキストのUnit一つを2回で終わらす。1回目はReadingの英文を中心に、2回目はExerciseを中心に学生が発表する。詳しいことは1回目の授業で説明する。 適宜小テストを行い、返却する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験			
	平 常 評 価		100%	学期末試験 5 0 %、小テストや授業内の発表など 5 0 %
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年度	金星堂	English Stream (Intermediate)	竹内、他4名共著
	備考			
参 考 書	英和辞書 総合英語「Forest」 (桐原書店)			
オフィスアワー	授業講堂：火曜日9時～12時10分/木曜日13時～14時10分			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストをよく読み、授業全体で行うことを理解する。(30分)
	授業内容	ガイダンス —— 英語Aの履修についての説明と注意、他
	事後学習	授業に関する説明を再度チェックする。授業のガイダンスで聞いたことを参考にTOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験について調べてみる。(30分)
2	事前学習	Unit 1 'The Power of Imagination and Effort':Pre-reading tasksの問題を解く/ Readingの分からない語、語句は辞書 で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 1 'The Power of Imagination and Effort': Reading-本文を段落ご とに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説、
	事後学習	Unit 1 'The Power of Imagination and Effort' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)
3	事前学習	Unit 1 'The Power of Imagination and Effort' Reading：英文の内容をまとめる。Post-reading tasksを解く。(30分)
	授業内容	Unit 1 'The Power of Imagination and Effort' Readingの復習/ Post-reading tasksの答え合わせ
	事後学習	Unit 1 'The Power of Imagination and Effort' Readingの内容と英文の分からなかったところを復習/ Post-reading tasksの復習 (30分)
4	事前学習	unit 2 'The History of Jeans' :Pre-reading tasksの問題を解く/ Readingの分からない語、語句は辞書 で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	unit 2 'The History of Jeans' Reading-本文を段落ご とに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説、
	事後学習	unit 2 'The History of Jeans' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)

5	事前学習	unit 2 'The History of Jeans' Reading : 英文の内容をまとめる。Post-reading tasksを解く。(30分)
	授業内容	unit 2 'The History of Jeans' Readingの復習/ Post-reading tasksの答え合わせ
	事後学習	unit 2 'The History of Jeans' Readingの内容と英文の分からなかったところを復習/ Post-reading tasksの復習 (30分)
6	事前学習	Unit 3 'To Long Life!' :Pre-reading tasksの問題を解く/ Readingの分からない語、語句は辞書 で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 3 'To Long Life!' Reading-本文を段落ご とに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説。
	事後学習	Unit 3 'To Long Life!' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)
7	事前学習	Unit 3 'To Long Life!' Reading : 英文の内容をまとめる。Post-reading tasksを解く。(30分)
	授業内容	Unit 3 'To Long Life!' Readingの復習/ Post-reading tasksの答え合わせ
	事後学習	'Long Life!' Readingの内容と英文の分からなかったところを復習/ Post-reading tasksの復習 (30分)
8	事前学習	Unit 4 'Be Careful What You Wish For' :Pre-reading tasksの問題を解く/ Readingの分からない語、語句は辞書 で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 4 'Be Careful What You Wish For' Reading-本文を段落ご とに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説、
	事後学習	Unit 4 'Be Careful What You Wish For' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)
9	事前学習	Unit 4 'Be Careful What You Wish For' Reading : 英文の内容をまとめる。Post-reading tasksを解く。(30分)
	授業内容	Unit 4 'Be Careful What You Wish For' Readingの復習/ Post-reading tasksの答え合わせ
	事後学習	Unit 4 'Be Careful What You Wish For' Readingの内容と英文の分からなかったところを復習/ Post-reading tasksの復習 (30分)
10	事前学習	Unit 5 'Baseball and Cricket' :Pre-reading tasksの問題を解く/ Readingの分からない語、語句は辞書 で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 5 'Baseball and Cricket' Reading-本文を段落ご とに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説。
	事後学習	Unit 5 'Baseball and Cricket' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)
11	事前学習	Unit 5 'Baseball and Cricket' Reading : 英文の内容をまとめる。Post-reading tasksを解く。(30分)
	授業内容	Unit 5 'Baseball and Cricket' Readingの復習/ Post-reading tasksの答え合わせ
	事後学習	Unit 5 'Baseball and Cricket' Readingの内容と英文の分からなかったところを復習/ Post-reading tasksの復習 (30分)
12	事前学習	Unit 6 'In Our Blood in Our Minds?' :Pre-reading tasksの問題を解く/ Readingの分からない語、語句は辞書 で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 6 'In Our Blood in Our Minds?' Reading-本文を段落ご とに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説。
	事後学習	Unit 6 'In Our Blood in Our Minds?' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)
13	事前学習	Unit 6 'In Our Blood in Our Minds?' Reading : 英文の内容をまとめる。Post-reading tasksを解く。(30分)
	授業内容	Unit 6 'In Our Blood in Our Minds?' Readingの復習/ Post-reading tasksの答え合わせ
	事後学習	Unit 6 'In Our Blood in Our Minds?' Readingの内容と英文の分からなかったところを復習/ Post-reading tasksの復習 (30分)
14	事前学習	Unit 1 ~ Unit 6までの復習して授業内試験の勉強をする。(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期授業の振り返り
	事後学習	Unit 1 ~ Unit 6までの内容を復習をする。(30分)
15	事前学習	前期授業の総復習(30分)
	授業内容	Readingのプリントを読んで問題を解く。英文の解説
	事後学習	授業で読んだ英文の内容をもう一度見直す。解釈を間違えたところを復習。(30分)

科目名	英語A【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	鈴木 京子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、英文を読むことで、書かれた内容の理解を深めるための学習を行います。教科書には身近な日本の様々な次章が書かれており、英文を読みながら内容が自然に理解できるようにしていきます。主に読解力向上を目指しますが、同時に基礎的な英文法の復習、重要な語彙、イディオム、構文などの復習も行います。また内容に関する質問は英語で書かれていますので、TOIECテスト形式に慣れていく練習も行います。				
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 この授業では英語を読み、また自分の意見を発表していくことで、自然に英語を学んでいきます。 基礎的な英文法の復習、重要な語彙、イディオム、構文などを復習することで、上記資格試験にて高得点を獲得できることを到達目標としています。				
履修条件	関連政策学科1年生共通科目領域3。6上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。				
授業方法	演習方式。小テストを毎回実施し、返却します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業への参加度、小テスト結果、期末試験の結果等を加味します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	南雲堂		Japan Goes Global! (総合英語で学ぶ自文化再発見～外国の視点から考えるニッポン文化～	Stuart Gale他3名
	備考				
参考書	英和辞書必携				
オフィスアワー	金曜昼休み、講堂にて。 授業の前後で質問してください。アポイントメントを取りたいときにも授業の前後に相談してください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	自己紹介文を考える (30分)
	授業内容	オリエンテーション、自己紹介コンテンツ作成、プレゼンテーション
	事後学習	自己紹介文を書いてクラスで発表し提出 (30分)
2	事前学習	Unit 1 “One Piece and the world’s favorite pirate” の本文の予習 (30分)
	授業内容	Unit 1 “One Piece and the world’s favorite pirate” 本文
	事後学習	授業で学習したことの復習・小テストの準備 (30分)
3	事前学習	Unit 1 “One Piece and the world’s favorite pirate” のExercises の予習 (30分)
	授業内容	Unit 1 “One Piece and the world’s favorite pirate” 本文の続き、Exercises
	事後学習	授業で学習したことの復習・小テストの準備 (30分)
4	事前学習	Unit 2 “Japan’s company culture: the misery behind the miracle” の本文の予習 (30分)
	授業内容	Unit 2 “Japan’s company culture: the misery behind the miracle” 本文
	事後学習	授業で学習したことの復習・小テストの準備 (30分)

5	事前学習	Unit 2 “Japan’s company culture: the misery behind the miracle” のExercises の予習 (30分)
	授業内容	Unit 2 “Japan’s company culture: the misery behind the miracle” 本文の続き、Exercises
	事後学習	授業で学習したことの復習・小テストの準備 (30分)
6	事前学習	Unit 3 “The genius of Japanese animation” の本文の予習 (30分)
	授業内容	Unit 3 “The genius of Japanese animation” 本文
	事後学習	授業で学習したことの復習・小テストの準備 (30分)
7	事前学習	Unit 3 “The genius of Japanese animation” のExercises の予習 (30分)
	授業内容	Unit 3 “The genius of Japanese animation” 本文の続き、Exercises
	事後学習	授業で学習したことの復習・小テストの準備 (30分)
8	事前学習	Unit 4 “How superstitious is Japan?” の本文の予習 (30分)
	授業内容	Unit 4 “How superstitious is Japan?” 本文
	事後学習	授業で学習したことの復習・小テストの準備 (30分)
9	事前学習	Unit 4 “How superstitious is Japan?” のExercisesの予習 (30分)
	授業内容	Unit 4 “How superstitious is Japan?” 本文の続き、Exercises
	事後学習	授業で学習したことの復習・小テストの準備 (30分)
10	事前学習	Unit 5 “Bousouzoku: very Japanese rebels” の本文の予習 (30分)
	授業内容	Unit 5 “Bousouzoku: very Japanese rebels” 本文
	事後学習	授業で学習したことの復習・小テストの準備 (30分)
11	事前学習	Unit 5 “Bousouzoku: very Japanese rebels” のExercises の予習 (30分)
	授業内容	Unit 5 “Bousouzoku: very Japanese rebels” 本文の続き、Exercises
	事後学習	授業で学習したことの復習・小テストの準備 (30分)
12	事前学習	Unit 6 “Why do Japanese students sleep in class?” の本文の予習
	授業内容	Unit 6 “Why do Japanese students sleep in class?” 本文 (30分)
	事後学習	授業で学習したことの復習・小テストの準備 (30分)
13	事前学習	Unit 6 “Why do Japanese students sleep in class?” のExercises の予習 (30分)
	授業内容	Unit 6 “Why do Japanese students sleep in class?” 本文の続き、Exercises
	事後学習	授業で学習したことの復習・小テストの準備 (30分)
14	事前学習	Unit 7 “The attraction of onsen”の本文の予習 (30分)
	授業内容	Unit 7 “The attraction of onsen”の本文
	事後学習	授業で学習したことの復習・小テストの準備 (30分)
15	事前学習	総復習 (30分)
	授業内容	前期授業のまとめ
	事後学習	前期授業の総復習 (30分)

科目名	英語A【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	堀 紳介	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業ではこれまでに習ったことがあるであろう基本的な文法事項を学びながらも、そこから英米文化を知ること为目标とします。授業では各自に和訳を発表してもらい、どのように英文を読んだのか、どうしてそのような和訳になったのか、を確認しながら進めていきます。英文の内容に関して問うこともあるでしょう。したがって、この授業で学生は自ら考えながら英文を読むことが求められます。				
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング、文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3，6				
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。				
授業方法	グループワークを取り入れ、発表形式で行います。 レポート課題返却時、詳細なコメントを入れてフィードバックを行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価 (Report 30% Test 50% Participation 20 %) *授業に出席することは単位を認定する上での前提条件とする。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし			
参考書	随時指示します。				
オフィスアワー	金曜2限終了後（12：10～12：30）、授業講堂で対応します。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの確認（30分）
	授業内容	ガイダンス、前期授業内容の説明
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
2	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度1 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
3	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度1 グループワークでレポート作成
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
4	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度1 グループワークでレポート作成、単語リスト作成
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）

5	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度1 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
6	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度1 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
7	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
8	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 グループワークでレポート作成
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
9	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 グループワークでレポート作成、単語リスト作成
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
10	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
11	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
12	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
13	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	TOEIC模試：解答、解説
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
14	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	復習、テスト準備
	事後学習	既習事項の確認、復習（60分）
15	事前学習	既習事項の確認、復習（60分）
	授業内容	前期授業のまとめ
	事後学習	後期授業の範囲を読んでおくこと。（60分）

科目名	英語A【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	茂木 健幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	読むことで情報を得て、書くことで自分自身についての情報や意見等を表現するという流れに重点を置き、英語リーディング、ライティングの基礎力向上に取り組みます。					
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 情報収集等に必要な英語読解力を習得し、自身の意見を表現できるようになることを目標としています。 対応DP及びCP：外国語科目領域 3， 6					
履修条件	公共政策学科一年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。					
授業方法	教科書に沿って授業を進めます。ユニットの終わりにあるライティングの課題はレポートとして提出してもらいます。長文読解部分の予習や、レポート作成については予習が必要となります。レポートについては、採点后返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		授業への参加度、レポート等により評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017	朝日出版社		コミュニケーションのための総合英語		阿野幸一
	備考					
参 考 書	使用せず。					
オフィスアワー	授業終了後（金曜：昼休み）講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Unit 1 全体を読んでくること。(30分)
	授業内容	ガイダンス、授業の進め方、評価方法などの説明
	事後学習	授業内容の確認。(30分)
2	事前学習	Unit 1のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。(30分)
	授業内容	Unit 1 Communication の読解
	事後学習	Unit 1のリーディング部分の復習(30分)
3	事前学習	Unit 1のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。(30分)
	授業内容	Unit 1 Communication の読解、レポート作成
	事後学習	Unit 1のリーディング部分の復習(30分)
4	事前学習	Unit 1の文法解説部分を読んでおくこと。また授業内にレポート作成があるのでその準備。(30分)
	授業内容	Unit 1 Communication の読解、レポート作成
	事後学習	Unit 1の文法問題の復習(30分)

5	事前学習	Unit 2のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。(30分)
	授業内容	Unit 2 Friendship の読解
	事後学習	Unit 2のリーディング部分の復習(30分)
6	事前学習	Unit 2の文法解説部分を読んでおくこと。また授業内にレポート作成があるのでその準備。(30分)
	授業内容	Unit 2 Friendship の読解、レポート作成
	事後学習	Unit 2の文法問題の復習(30分)
7	事前学習	Unit 3のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。(30分)
	授業内容	Unit 3 Health の読解
	事後学習	Unit 3のリーディング部分の復習(30分)
8	事前学習	Unit 3の文法解説部分を読んでおくこと。また授業内にレポート作成があるのでその準備。(30分)
	授業内容	Unit 3 Health の読解、レポート作成
	事後学習	Unit 3の文法問題の復習(30分)
9	事前学習	Unit 4のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。(30分)
	授業内容	Unit 4 Environment の読解
	事後学習	Unit 4のリーディング部分の復習(30分)
10	事前学習	Unit 4の文法解説部分を読んでおくこと。また授業内にレポート作成があるのでその準備。(30分)
	授業内容	Unit 4 Environment の読解、レポート作成
	事後学習	Unit 4の文法問題の復習(30分)
11	事前学習	Unit 5のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。(30分)
	授業内容	Unit 5 Fashion の読解
	事後学習	Unit 5のリーディング部分の復習(30分)
12	事前学習	Unit 5の文法解説部分を読んでおくこと。また授業内にレポート作成があるのでその準備。(30分)
	授業内容	Unit 5 Fashion の読解、レポート作成
	事後学習	Unit 5の文法問題の復習(30分)
13	事前学習	Unit 6のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。(30分)
	授業内容	Unit 6 Food の読解
	事後学習	Unit 6のリーディング部分の復習(30分)
14	事前学習	Unit 6の文法解説部分を読んでおくこと。また授業内にレポート作成があるのでその準備。(30分)
	授業内容	Unit 6 Food の読解、レポート作成
	事後学習	Unit 6の文法問題の復習(30分)
15	事前学習	前期授業範囲であるUnit1～6までの復習(30分)
	授業内容	前期授業のまとめ
	事後学習	授業内容の復習。(30分)

科目名	英語A【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	石川 勝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	大学生がヨーロッパを旅した経験もとにしたテキストである。内容としては学生が興味を持てるものと思われる。比較的易しい英語を的確に訳していく。				
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的とする。比較的易しい英語を的確に訳せることを目標とする。				
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域3， 6 公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。				
授業方法	学生一人一人に訳してもらう。一時間に2ページのペースで読み進めていく。 小テストを2回行い返却する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	小テストを2回行い成績をつける。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
		金星堂		ジローのヨーロッパ旅行	
	備考				
参 考 書	英和辞典				
オフィスアワー	金曜日9時～12時20分 授業講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの購入，事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）
	授業内容	講義計画の説明
	事後学習	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。（30分）
2	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit1 Introductoryを読む 五文型
	事後学習	訳の訂正（30分）
3	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit1 Cultureを読む
	事後学習	訳の訂正（30分）
4	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit2 Introductoryを読む 不定詞
	事後学習	訳の訂正（30分）

5	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit2 Cultureを読む
	事後学習	訳の訂正（30分）
6	事前学習	指示された個所の予習（30分） 関係代名詞
	授業内容	Unit3 Introductoryを読む
	事後学習	訳の訂正（30分）
7	事前学習	試験範囲の復習（30分）
	授業内容	Unit3 Cultureを読む 小テスト
	事後学習	訳の訂正（30分）
8	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit4 Introductoryを読む 仮定法
	事後学習	訳の訂正（30分）
9	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit4 Cultureを読む
	事後学習	訳の訂正（30分）
10	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit5 Introductoryを読む 動名詞
	事後学習	訳の訂正（30分）
11	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit5 Cultureを読む
	事後学習	訳の訂正（30分）
12	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit6 Introductryを読む
	事後学習	訳の訂正（30分）
13	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit6Cultureを読む
	事後学習	訳の訂正（30分）
14	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit7 Introductryを読む
	事後学習	訳の訂正（30分）
15	事前学習	試験範囲の復習（30分）
	授業内容	文法のまとめ 小テスト
	事後学習	間違った箇所を理解し直す。（30分）

科目名	英語A【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	トーマス・ロックリー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Welcome to English A. This semester you will learn about some of the international history of Japan in English. I hope you enjoy it.					
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としている。英語力の基礎となり、専門分野の原書理解などに必要なリーディングなど、資格試験に必要なジャンルの語彙の基礎力を高める。英語を聞き取れるようになり、文字を見なくてもその内容が理解できるようになること。また、電子辞書を使いこなせるようになること。一年を通して、自身での英語トレーニング方法を身につけること。 関連D P / C P : 3, 6					
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則英語Bと通年で履修すること。大学生向けの電子辞書を持参すること。					
授業方法	本物のニュース、生の英語に触れることでリスニング力を鍛える。ひとつのユニットを二回に分けて行い、リスニングの実技力を高めると同時に、読解力を高めるため、テキストを用いた文法事項の確認も行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		Semester test 30%, Weekly vocabulary tests 20%, Reflection and vocabulary 20%, Participation 30%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017	DTP出版		An International History of Japan I		Thomas Lockley
	備考					
参考書	2019年 東京書籍「外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」ロックリー・トーマス					
オフィスアワー	9:30-10:30am Thursdays in my office, 1602, or email lockleyta@gmail.com					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Read the syllabus. (30 mins)
	授業内容	Theme: First Lesson Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30 mins)
2	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Ancient International Japan Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30 mins)
3	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Japan Towns Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30 mins)
4	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Yasuke the African Samurai Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30 mins)

5	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Tensho Embassy Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30 mins)
6	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Hosokawa Tama Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30 mins)
7	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: William Adams Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30 mins)
8	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: International Nagasaki Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30 mins)
9	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Yamada Nagamasa Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30 mins)
10	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Tagawa Matsu Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30 mins)
11	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Japanese Families of European Merchants Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30 mins)
12	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Korean Embassies to Tokugawa Japan Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30 mins)
13	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Zhu Shun Sui Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30 mins)
14	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Waegwan Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30 mins)
15	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Revision 確認テスト (授業内テスト)
	事後学習	Reflect on semester. (30 mins)

科目名	英語A【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	アメリカでベストセラーを記録した“Chicken Soup for the Soul”の精読を通して、英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学びます。また、適宜、『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』を用いて、英文法・語法の知識を整理していきます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【授業目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。関連DP及びCP：外国語科目領域3，6					
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。輪読形式で教科書を読み進めていきます。指名された学生には、教科書の音読と和訳をしてもらい、その後、クラス全体で内容の確認をしていきます。また、適宜、小テストを実施し、次の授業以降で返却をします。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）100% 予習をしていない場合は、大幅に減点します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	1997	金星堂		『Chicken Soup for the Soul チキンスープをどうぞー心あたたまる17のアメリカ小話集』		Jack Canfield 他
	2018	いっずな書店		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』		いっずな書店編集部
	備考	『ジーニアス英和辞典 第5版』など、大学生向けの英和辞典を必ず毎回持参すること。				
参考書	使用しない。					
オフィスアワー	金曜日12:10～授業終了後の講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体像を概観しておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス 事前・事後学習の方法、成績評価等について説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。（30分）
2	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 2～3 の Exercise を解いておく。（30分）
	授業内容	英文読解に必要な品詞と文型、句と節について学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
3	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Circusの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。（30分）
4	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Circusの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。（30分）

5	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Circusの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
6	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Puppies For Saleの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
7	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Puppies For Saleの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
8	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Puppies For Saleの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
9	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Follow Your Dreamの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
10	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Follow Your Dreamの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
11	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Follow Your Dreamの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
12	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Love and the Cabbieの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
13	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Love and the Cabbieの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
14	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Love and the Cabbieの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
15	事前学習	前期授業内容の総復習。（30分）
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り。
	事後学習	前期の授業内容について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。（30分）

科目名	英語A【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語のリーディング、文法を中心に学習します。					
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要リーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。英文を素早く読んで、情報を正確に読み取ることが出来るようになることを目指します。 関連DP及びCP：外国語科目領域3， 6					
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。					
授業方法	実践演習をして解説をします。 毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施します。返却後は復習しておくこと。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%		学期末授業内試験を実施します。また毎回、単語テストを行い、総合的に判断します。	
	平常評価		100%			
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	南雲堂		Global Issues Towards Peace		達川奎三、他
	備考	なし				
参考書	飛田茂雄（編）『現代英米情報辞典』研究社 参考書を購入する必要はない。適宜図書館等で参照すること。					
オフィスアワー	水曜日16：20-17：50（4号館1階） 連絡先：mizumoto.koji*nihon-u.ac.jp　、「メールする場合は*を@に変えて使って下さい」					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
2	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Education and gender 1-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
3	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Education and gender 1-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
4	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Global warming 2-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）

5	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Global warming 2-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
6	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Drinking water 3-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
7	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Drinking water 3-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
8	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Poverty and hunger 4-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
9	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Poverty and hunger 4-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
10	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Fighting disease 5-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
11	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Fighting disease 5-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
12	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Terrorism 6-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
13	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Terrorism 6-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
14	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Internment 7
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
15	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	復習、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）

科目名	英語A	担当者	板倉 亨	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「人口」「貧困」「戦争」「インターネット」など様々な同時代の問題を扱っている英文エッセイを、基本的な英語の語彙と構文・文法を確認しながら精読して、英文を正確に読む力を身につけ、その上で、論の基本的な構成を理解して読む速度を上げていくクラスです。							
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なりーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。文法の基礎力を活用してより正確で速いリーディングができるようになることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6							
履修条件	2年次生以上対象。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。							
授業方法	演習形式。演習形式。学生に音読、語彙や構文の説明、訳読等をしてもらい、それに補足や解説を加えながら授業を進めます。レポート課題、小テスト、授業内試験を実施し、テスト後あるいは次の授業で講評（解説）を行います。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%					
	平常評価		100%		平常点（授業への参加度、小テスト等）、授業内期末試験等を踏まえ、総合的に判断します。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	年度を問わず		金星堂		Issues of Our Age		Peter Weld	
	備考							
参考書	英和辞書（電子辞書でも可）。英語文法書。 その他は授業内で適宜指示します。							
オフィスアワー	授業終了後（木曜昼休み）、講堂にて。 itakura.torull@nihon-u.ac.jp							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	上記の教科書を準備し、それに目を通して内容や英文の難易度など確認してください。また、ガイダンスの内容をメモするためルーズリーフを準備してください。（30分）
	授業内容	ガイダンス。授業内容・方法や成績評価について確認し、教科書を使いながら具体的な説明を補足します。
	事後学習	ガイダンスの説明を踏まえ、この授業についてしっかりと理解すること。（30分）
2	事前学習	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。（30分）
	授業内容	1. Seven Billion and Counting(1) 1章のエッセイの導入部を精読します。 教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法を確認して精読の仕方を理解します。
	事後学習	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。（30分）
3	事前学習	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。（30分）
	授業内容	1. Seven Billion and Counting(2) 1章のエッセイの中盤を精読します。 教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法を確認して精読の仕方を理解します。
	事後学習	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。（30分）

14	事前学習	これまでのノートを整理しながら授業内容を復習して、理解できなかった箇所を授業で確認できるようにまとめておくこと。（30分）
	授業内容	前期授業の振り返り。前回までの授業内容を補足し、振り返りながら説明します。
	事後学習	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。（30分）
15	事前学習	前期授業内容を、授業内で指摘されたポイントを中心にしっかりと復習しておくこと。（30分）
	授業内容	前期の授業のまとめ。授業内容全体の理解度を確認するためのまとめです。授業内で指摘したポイントを中心に確認します。
	事後学習	前期の授業で理解できたものと理解できなかったものをしっかりと把握し、特に理解が不十分なものについてはこれからの英語の勉強に役立てるためにしっかりと復習しておいてください。（30分）

科目名	英語A	担当者	トーマス・ロックリー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----	-----	------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	In the first semester you will learn English through hearing the stories of some interesting men and women who have helped make international history in East-Asia.			
授業目的・到達目標	You will practice English reading, writing,listening and speaking skills and be able to talk about Japanese history in English better. 関連DP／CP：3， 6			
履修条件	There are no particular conditions apart from regular attendance and a positive attitude.			
授業方法	This class follows the concept of learning content (history and modern society) through learning English.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験			
	平 常 評 価	100%	Vocabulary and reflection 20%, Semester Test 30%, Spelling tests 20%, Participation and effort 30%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	DTP出版	East Asia in Japanese History	Thomas Lockley
	備考	授業が始まる前に教科書を必ず買ってください。		
参 考 書	2 0 1 9 年 東京書籍「外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」ロックリー・トーマス			
オフィスアワー	9:30-10:30am Thursdays in my office, 1602, or email lockleyta@gmail.com			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30 minutes)
	授業内容	Theme: First Lesson and Course Introduction.
	事後学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
2	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Ancient Japan and East-Asia. Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
3	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Foreign Settlements in Japan. Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
4	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Kim Chung-son. Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)

5	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Korean Potters in Japan. Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
6	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Yamada Nagamasa. Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
7	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Tagawa Matsu. Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
8	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Zhu Shun-sui. Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
9	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Maria Guyomar de Pina Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
10	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Chinese Merchants and Smugglers in Tokugawa Japan. Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
11	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Sun Yat-sen in Japan. Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
12	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Prince Cuong De. Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
13	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: The Takasago Volunteers. Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
14	事前学習	Revise for the test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Kyaw Din. Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Revise for the test. (30 minutes)
15	事前学習	Revise for the test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Semester Test and review.
	事後学習	Reflect on the semester. (30 minutes)

科目名	英語A	担当者	佐藤 明子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	-----	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC受験のための基礎固めをします。			
授業目的・到達目標	【授業目的】 TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】 TOEICスコア450点程度の英語力を身に着けることを目標とします。 関連DPおよびCP：外国語科目領域 3、6			
履修条件	再履修クラスです。1年生の英語A（固定クラス）の単位を取得している学生は履修できません。初回のガイダンス授業に必ず出席すること。			
授業方法	演習方式。毎時間範囲を決めて小テストを実施します。授業では予習復習がきちんとされているか皆さんにあてていきます。グループワークもする予定です。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	平常評価（授業参加度、小テスト、授業内試験等）100%。授業参加度も重視されますので注意してください。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016	アルク	① TOEIC(R) TEST 英文法 出るとこだけ! 1,296円	小石 裕子
	2018	朝日新聞出版	② TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ (TOEIC TEST 特急シリーズ) 961円	TEX加藤
	備考	他にプリントを使用する予定です		
参考書	辞書（電子辞書可）を持参すること。スマートフォンの使用は禁じます。			
オフィスアワー	授業（金曜7限）前後や空き時間に対応します。事前にメールを送って時間を確認してください。email: sato.akiko01@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義全体の概観をする。TOEICの形式を調べておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、TOEICの説明。履修希望者は必ず出席すること。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 TOEICのHPで試験概要などを確認する。（30分）
2	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 （1時間）
	授業内容	TOEIC Reading の解き方とテクニックの説明。プリント。
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。（1時間）
3	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 （1時間）
	授業内容	テキスト① Day 1 - 1 テキスト② フレーズ 1-100
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。（1時間）
4	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 （1時間）
	授業内容	テキスト① Day 1 - 2 テキスト② フレーズ 101-200
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。（1時間）

5	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 (1時間)
	授業内容	テキスト① Day 2 - 1 テキスト② フレーズ 201-300
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。(1時間)
6	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 (1時間)
	授業内容	テキスト① Day 2 - 2 テキスト② フレーズ 301-400
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。(1時間)
7	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 (1時間)
	授業内容	テキスト① Day 3 - 1 テキスト② フレーズ 401-500
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。(1時間)
8	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 (1時間)
	授業内容	テキスト① Day 3 - 2 テキスト② フレーズ 501-600
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。(1時間)
9	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 (1時間)
	授業内容	テキスト① ミニ模試 Day 1 & 2 テキスト② フレーズ 601-700
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。(1時間)
10	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 (1時間)
	授業内容	テキスト① Day 4 - 1 テキスト② フレーズ 701-800
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。(1時間)
11	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 (1時間)
	授業内容	テキスト① Day 4 - 2 テキスト② フレーズ 801-900
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。(1時間)
12	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 (1時間)
	授業内容	テキスト① Day 5 - 1 テキスト② フレーズ 901-1000
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。(1時間)
13	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 (1時間)
	授業内容	テキスト① Day 5 - 2 テキスト② フレーズの復習
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。(1時間)
14	事前学習	テキストの総復習 (1時間)
	授業内容	後期授業内試験の実施および後期授業の振り返り(その1)。
	事後学習	テストの復習。わからなかったことを解き直す。(1時間)
15	事前学習	後期授業でわからなかったことをまとめておく(1時間)
	授業内容	後期授業内試験の返却・解説および後期授業の振り返り(その2)。後期わからなかったことを質問する。
	事後学習	後期授業で学んだことを総復習する(1時間)

科目名	英語B【法職課程1年生共通クラス】	担当者	原田 明子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語Aに引き続き、今までに学んだ英語の語彙や文法を復習しつつ、語彙力、読解力をさらに高め、大学での専門分野の学習や資格試験に対応できる英語力を目指す。英文の内容を正確に読み取り、的確に伝える能力を身に着ける。			
授業目的・到達目標	[授業目的]TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成すること、並びに現代の社会や文化、科学技術などについて書かれた英文のエッセイを読み、問題を解いて、様々な語彙や英語表現を身につけるとともに、英語で書かれた情報を正確、迅速に把握する能力を養成することを目的としています。 [到達目標]語彙力、文法、読解力を身につけ、テキストの英文はもちろんのこと、インターネットのニュースなど英語サイトの記事や、TOEICの読解問題の英文を、限られた時間内に正確に理解し、説明できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3， 6			
履修条件	法職課程1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Aと通年で履修してください。			
授業方法	2回の授業でひとつの単元を学ぶ。1回目はToday's Readingの内容を中心に学習する。2回目は単語テストを通じて重要な単語を定着させるとともに、テキストの問題の答え合わせを行って、英語表現の理解を深める。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業での発表、テストの結果など
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	南雲堂	SIMPLY ENGLISH:An Introduction to Today's Key Concepts	Jim Knudsen
	備考			
参考書	授業にて指示			
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は、授業終了後（月曜10：30～授業講堂にて）対応します。 e-mailにてアポイントを取ること。 e-mailには「日本大学法学部」「学籍番号」「名前」を明記してください。 あて先はharada@sakushin-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストを入手し、事前にシラバスの内容を十分に確認しておくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	テキストを見て、事前学習、授業内容、事後学習について、具体的にイメージしてみる。（30分）
2	事前学習	Lesson 1のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。（30分）
	授業内容	Lesson 1のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。
	事後学習	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。（30分）
3	事前学習	Lesson 1のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。（30分）
	授業内容	Unit 1 単語テスト Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ
	事後学習	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。（30分）
4	事前学習	Lesson 2のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。（30分）
	授業内容	Lesson 2のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。
	事後学習	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。（30分）

5	事前学習	Lesson 2のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。(30分)
	授業内容	単語テスト Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ
	事後学習	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。(30分)
6	事前学習	Lesson 3のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	Lesson 3のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。
	事後学習	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。(30分)
7	事前学習	Lesson 3のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。(30分)
	授業内容	単語テスト Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ
	事後学習	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。(30分)
8	事前学習	Lesson 4のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	Lesson 4のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。
	事後学習	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。(30分)
9	事前学習	Lesson 4のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。(30分)
	授業内容	単語テスト Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ
	事後学習	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。(30分)
10	事前学習	Lesson 5のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	Lesson 5のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。
	事後学習	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。(30分)
11	事前学習	Lesson 5のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。(30分)
	授業内容	単語テスト Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ
	事後学習	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。(30分)
12	事前学習	Lesson 6のToday's Readingに目を通し、Key Words Preview, Key Concepts Previewを解いておく。不明な語句を調べ、today's Readingの内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	Lesson 6のToday's Readingの内容を正確に理解し、Key Words Preview, Key Concepts Previewの答えを確認する。Thinking Aheadの問いに英語で答える。
	事後学習	Today's Readingを3回音読し、文中の単語を復習する。(30分)
13	事前学習	Lesson 6のReading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの問題を解いておく。(30分)
	授業内容	単語テスト Reading Comprehension, Key Words in Action, Useful Idiomatic Phrases, Making Conversationの答え合わせ
	事後学習	間違えた問題を復習し、正解が出せるようにする。(30分)
14	事前学習	現代社会を扱った指定された英文を読んでくる。(30分)
	授業内容	現代社会を扱った英文を読み、問いに答える。
	事後学習	英文に再度目を通し、重要な単語を暗記し、内容をまとめる。(30分)
15	事前学習	テキストの総復習(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。(30分)

科目名	英語B【法職課程1年生共通クラス】	担当者	水野 隆之	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験を目指すための基礎固めをします。基礎的な文法事項を身につけることを目標とするとともに、TOEICに出題される表現を多く覚えます。				
授業目的・到達目標	〔授業目的〕 TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 〔授業目標〕 TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。関連D P 及びC P：外国語科目領域3， 6				
履修条件	法職課程1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。				
授業方法	演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で返却を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	平常評価（授業参加度、小テスト、期末試験等）100%、	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	朝日出版社		STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST:Level 2	北尾泰幸
	備考				
参 考 書	各種英語辞書				
オフィスアワー	月曜日10：30～ 授業終了後の講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、TOEICの概要を説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC, TOEFL, 英検等の各種資格試験についてWEBサイト等で調べてみる。（30分）
2	事前学習	テキスト1頁、6～9頁の問題を解いてくる。 5頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit1 食事に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
3	事前学習	テキスト10頁、14～17頁の問題を解いてくる。 13頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit2 旅行に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
4	事前学習	テキスト18頁、22～25頁の問題を解いてくる。 21頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit3 娯楽に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）

5	事前学習	テキスト26頁、30`33頁の問題を解いてくる。 29頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit4 会議に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
6	事前学習	テキスト34頁、38`41頁の問題を解いてくる。 37頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit5 人事に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
7	事前学習	テキスト42頁、46`49頁の問題を解いてくる。 45頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit6 買い物に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
8	事前学習	テキスト50頁、54`57頁の問題を解いてくる。 53頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit7 広告に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
9	事前学習	テキスト58頁、62`65頁の問題を解いてくる。 61頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit8 日常生活に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
10	事前学習	テキスト66頁、70`73頁の問題を解いてくる。 69頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit9 オフィスに関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
11	事前学習	テキスト74頁、78`81頁の問題を解いてくる。 77頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit10 ビジネスに関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
12	事前学習	テキスト82頁、86`89頁の問題を解いてくる。 85頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit11 交通に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
13	事前学習	テキスト90頁、94`97頁の問題を解いてくる。 93頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit12 会計に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
14	事前学習	テキスト98頁、102`106頁の問題を解いてくる。 101頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit13 メディアに関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
15	事前学習	テキストの総復習。（30分）
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（30分）

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	井上 悦男	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC Listening & Reading テストの受験のための基礎力を養成する。				
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的とします。 TOEIC450点を獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 3, 6				
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。				
授業方法	TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行う。フィードバックは授業内において行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	試験(60%)、平常点(毎回の小テスト、発表)(40%)	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	国際ビジネスコミュニケーション協会		公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 4	Educational Testing Service
	備考				
参考書	授業時に指示する。				
オフィスアワー	質問は授業終了後の講堂、あるいはメールで受けつけます。 授業時間：月曜 4・5・6 限、水曜 1 限 inoue_etsuo4949@yahoo.co.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	既習事項の確認 (30分)
	授業内容	ガイダンス(問題構成など)、模擬問題での演習、関連事項の演習
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習 (30分)
2	事前学習	前回までの復習 (30分)
	授業内容	Test2 Part1, 2、Part5
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習 (30分)
3	事前学習	前回までの復習 (30分)
	授業内容	Test2 Part3、Part5、Test2 Part2の復習
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習 (30分)
4	事前学習	前回までの復習 (30分)
	授業内容	Test2 Part4、Test2 Part3の復習(この後適宜行う)
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習 (30分)

5	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test2 Part4の復習(この後適宜行う)、Test2 Part5(前半)
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
6	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test2 Part5(後半)、Part6
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
7	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test2 Part6の復習、Part5
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
8	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test2 Part7
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
9	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test2 Part7
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
10	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test2 Part7
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
11	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Part3、リーディングセクションの全般的な演習
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
12	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Part3の復習、リーディングセクションの全般的な演習
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
13	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Part3の復習、リーディングセクションの全般的な演習
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
14	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	リーディングセクションの全般的な演習
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
15	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	確認（30分）

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	井上 悦男	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語資格試験の受験に必要な基礎力を磨きます。語彙、表現、文法の基礎固めと、音読を中心としたリスニングの練習をします。					
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的とします。 TOEIC450点を獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域3， 6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。					
授業方法	TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行う。フィードバックは授業内において行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		試験(60%)、平常点(毎回の小テスト、発表)(40%)	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	プリント使用				
参考書	授業時に指示する。					
オフィスアワー	質問は授業終了後の講堂、あるいはメールで受けつけます。 授業時間：月曜4・5・6限、水曜1限 inoue_etsuo4949@yahoo.co.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	既習事項の復習，シラバスの確認（30分）
	授業内容	ガイダンス(問題構成など)，模擬問題での演習(TOEIC Part1)，以後毎回音読練習
	事後学習	問題構成の確認，語彙の確認（30分）
2	事前学習	前回の復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習，関連事項の演習(TOEIC Part 1)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
3	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(接続詞・前置詞)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
4	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(接続詞・前置詞)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）

5	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(TOEIC Part2)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
6	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(TOEIC Part2)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
7	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(読解穴埋め)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
8	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(読解穴埋め)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
9	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(読解内容理解)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
10	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(読解内容理解)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
11	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(TOEIC Part5)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
12	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(TOEIC Part5)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
13	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(読解穴埋め)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
14	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	模擬問題での演習(読解内容理解)，前回までの復習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
15	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	見直し（30分）

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	小倉 浩子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英文読解の授業です。使用するテキストは、ロンドン在住の著者がイギリスの文化や歴史に触れながらイギリスの今を語る英文エッセイ集です。語句や文法に留意しながら、丹念に英文を読み進める場にしたいと思います。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。					
授業方法	輪読形式。テキストのユニットごとに小テストを行う予定です。小テストや試験は次の授業で返却し、解答の確認・解説を行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業への参加度、小テストや試験の結果を総合的に評価。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018年	成美堂		鼓動するイギリス		John H. Randle、 棕平淳
	備考					
参考書	適宜紹介します。					
オフィスアワー	水曜10：30～授業終了後の講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通す。テキストの後半に目を通す。（30分）
	授業内容	ガイダンス 英語Aに照らして授業の進め方を説明。関連資料を配布して内容を確認。英語学習（特にTOEIC）について話をする。
	事後学習	ガイダンスを振り返る。（30分）
2	事前学習	テキストUnit 11のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 11 The Japanese in Britain Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
3	事前学習	テキストUnit 12のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 12 Health Matters Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
4	事前学習	テキストUnit 13のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 13 The House of Windsor：Crisis and Continuity Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）

5	事前学習	テキストUnit 14のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 14 The Changing London Skyline Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
6	事前学習	テキストUnit 15のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 15 Women's Rights : A Look through History Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
7	事前学習	テキストUnit 15までの授業の復習をする。（30分）
	授業内容	Unit 11 ～Unit 15のまとめ
	事後学習	Unit 15までの授業のまとめを振り返る。（30分）
8	事前学習	テキストUnit 16のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 16 Women in Britain Today : A Report Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
9	事前学習	テキストUnit 17のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 17 The White Rose of York Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
10	事前学習	テキストUnit 18のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 18 Charles Dickens : Childhood and Christmas Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
11	事前学習	テキストUnit 19のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 19 The Great British Bake Off Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
12	事前学習	テキストUnit 20のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 20 Brits Abroad Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
13	事前学習	テキストUnit 16以降の授業の復習をする。（30分）
	授業内容	Unit 16 ～Unit 20のまとめ
	事後学習	Unit 16以降の授業のまとめを振り返る。（30分）
14	事前学習	試験に向けて学習する。（30分）
	授業内容	授業内試験及びまとめ
	事後学習	試験への取り組みなどを反省する。（30分）
15	事前学習	テキストUnit 11 ～Unit 20の語句や内容を再確認する。（30分）
	授業内容	授業内試験後のまとめ
	事後学習	後期授業を振り返る。（30分）

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	小山 誠子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Computer, Tea, Pub... 等様々な「イギリス発祥」(Made in Britain)に関する英文の読解を通じて、一定の語彙力の増強及び構文(英文法の確認)の理解と共に、情報収集の「手段」「道具」としての英語の習得により「英語圏」という異文化を通じて国際社会への知識・「客観的」理解を深め、それらに対する「主体的」な判断・意見を涵養します。			
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 情報収集の手段としての英文の読解を習慣化し、TOEIC 500点代(意思疎通に必要な英語レベル)取得に必要な語彙及び文法の習得に努め、効率的な学習方法を身に付けます。英文の精読を通じて欧米文化の価値観への理解を深め、受講者各自の持つ自国文化との比較・対照を行うことで、批評(批判)的且つ論理的な思考を養い、自国の言語文化を相対化する視点を持ち、客観的理解・共感を得られる自身の意見を国際社会に発信できるようになることを目標としています。			
履修条件	法律学科1年生番組科目領域3止配資格試験の受験を強く奨励します。到達目標を意識して意欲的に学習に取り組む者。			
授業方法	英文を通じた知識の涵養を目標に精読(確認)を行います。文法事項は本文の文構造に関連づけ展開し、Chapter毎に指定範囲内的小テストを、最終授業日にて授業内試験(60分)及び解説/講評(30分)を行います。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常評価(発表等の授業への積極的取組状況及びテスト(毎Chap. 等)により総合的に評価する。※上記各種英語資格試験や関連情報の調査報告も推奨、評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	成美堂	Made in Britain	Anthony Sellik John Barton
	備考			
参考書	大学生/社会人レベルの辞書(電子辞書も可)を毎回携帯すること。学習記録用のノートを用意すること。 ※ PC・タブレット・携帯電話の使用は認めない。			
オフィスアワー	授業後20分間(水曜10:30~10:50) 授業講堂にて対応する。(※初回授業にて指示する。)			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキスト及び下記展開トピック(Chapter)に目を通し、気になる点をメモして授業に臨むこと。 加えて、(前期学習予定の「英語A」と併せて)「イギリス」と聞いて思いつく事柄及びそれについての各自のコメントを併せてメモしておく。(30分)
	授業内容	ガイダンス(授業の進め方を説明する。) ＋(下記展開範囲以外のChapterを用いて)展開方法のシミュレーション(前期「英語A」の復習と併せて)を行い、英文読解及び情報整理の方法を習得する。
	事後学習	次回(第2回)以降展開範囲を中心に、辞書を使わずにどの程度内容が把握できそうか現時点での「実力チェック」を各自行う。(→3か月後の学習成果を自己確認できるようにするため。)(30分)
2	事前学習	1. Chapter6全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。)
	授業内容	Chapter 6 Thinking Machines ―The Story of the Computer(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)
3	事前学習	Chapter6前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想及び記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 6 Thinking Machines ―The Story of the Computer(中盤～後半) 章全体を通じて、'Computer'の起源・歴史的変遷/国際的影響を理解・説明できる。 ※1つのChapter/2回のペースで進む予定。
	事後学習	1. Chapter6全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた、Computerの起源・変遷(歴史)に関する情報を整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)

4	事前学習	1. Chapter7全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter6 Mini Test(小テスト) Chapter 7 'I Get Around — Transport' (前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)
5	事前学習	Chapter7前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 7 'I Get Around — Transport' (中盤～後半) 章全体を通して、交通・輸送機関に関する様々なイギリス人による発明・ものづくりの歴史的変遷/国際的影響への理解し、説明できる。
	事後学習	1. Chapter7全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、イギリス人による発明・イノベーションの歴史を概観し、加えて日本の「ものづくり」の歴史と併せて考察し(必要に応じて調査し)それに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)
6	事前学習	1. Chapter8全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter 7 Mini Test Chapter 8 London — How the Centre of the Financial World Started in a Coffee Shop (前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)
7	事前学習	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/を記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 8 London — How the Centre of the Financial World Started in a Coffee Shop (中盤～後半) 章(Chap.)のタイトルの意味を本文の内容を正確に把握し、説明できる。
	事後学習	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報の確認に加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)
8	事前学習	1. Chapter3全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter 8 Mini Test Chapter 12 A Nice Cup of Tea (前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)
9	事前学習	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 12 A Nice Cup of Tea (中盤～後半) 「何故(紅)茶がイギリスの国民的飲みものなのか」「どうやってそうなったか」を説明できる。加えて、自国の「お茶文化」とも比較・対照し、コメントする。
	事後学習	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報の確認に加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)
10	事前学習	1. Chapter13全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter12 Mini Test Chapter 13 The British Pub 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)
11	事前学習	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 13 The British Pub (中盤～後半) 章全体を通して、「'Pub'の定義は何か」そして「何故そうなのか」を説明できる。
	事後学習	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報を(特に最終段落の内容を具体的に)整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)
12	事前学習	1. Chapter17全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter13 Mini Test Chapter 17 Leading the Way in News and Entertainment — The BBC(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)

13	事前学習	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 17 Leading the Way in News and Entertainment — The BBC (中盤～後半) 章全体を通して、国際的にも評価の高い報道機関とされるBBC誕生の歴史/変遷を理解/説明できる。併せて、「国際メディア」の現状について各自がコメントする。
	事後学習	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報を(タイトルにある質問への回答を中心に)整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)
14	事前学習	1. Mini Testに向けての準備に併せて、学期内展開範囲全てのMini Testを復習(特に初回にて不正解だったものを中心に)を行う。2. テキスト読解箇所全般の構文・内容についても各自確認する。(不明なものは授業にて確認すること。)(30分)
	授業内容	Chapter 17 Mini Test及び学期内展開範囲の総復習 Chapter6～8, 12, 13及び17全体の英文の中で、特に構文が複雑なものや、内容が抽象的な事柄の確認を行うことで、学習内容全般の情報の修正/補足を行い、正確に説明できる。
	事後学習	学習範囲全体を見直し、今一度各自で必要に応じて修正を行い、初回事前学習時からの成果を確認する。(30分)
15	事前学習	3か月学習内容を整理・総括する。(①「英語能力」②「英語圏文化について得た知識」の2つに関して)加えて、「異文化」との比較・対照によって得た感想・意見を整理する。(30分以上必要に応じて)
	授業内容	前期授業のまとめ(授業内試験(60分)) 解説/講評(30分):受講者各自が3か月の学習を通じて得た、異文化(欧米文化)への理解及び自国文化との比較・対照により国際社会への理解及び国際社会での自らの意見を発信できる。
	事後学習	初回事前学習からの成果を自己分析・確認するとともに、今後の課題(英語学習及び「英語」を「手段」としての情報収集及びその活用(発信するための方法/展開)に関する具体的目標)を設定する。(30分)

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	菊地 幸子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	アメリカ文化に関するさまざまな話題のエッセイを読みながら読解力の向上を目指す。				
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】英文法の知識を用いて英文の内容を正確に読み取れるようになることを目標とする。対応DP及びCP:外国語科目領域3, 6				
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Aと通年で履修すること。				
授業方法	演習方式で行う。フィードバックとして授業内試験の講評及び振り返りを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加度（30％）、小テスト（20％）、学期末試験（50％）の割合で総合的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2017年	南雲堂	English Indicator 3 [Intermediate]		Joshua Cohen他
	備考				
参考書	特に指定しない。				
オフィスアワー	授業前後の休み時間に（水曜日10：30～）講堂にて。緊急の連絡事項がある場合はメールで知らせること。 メールアドレス：kikuchi.sachiko11@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 7 Reading Extreme Weatherに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。（30分）
2	事前学習	練習問題は Listening を除いて全て答えを用意しておく。（30分）
	授業内容	Unit 7 Exercises 形容詞、副詞について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。（30分）
3	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 8 Reading Medical Tourismに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。（30分）
4	事前学習	練習問題は Listening を除いて全て答えを用意しておく。（30分）
	授業内容	Unit 8 Exercises 比較について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。（30分）

5	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 9 Reading Advertisingに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。（30分）
6	事前学習	練習問題は Listening を除いて全て答えを用意しておく。（30分）
	授業内容	Unit 9 Exercises 前置詞、接続詞について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。（30分）
7	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 10 Reading Business Travelに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。（30分）
8	事前学習	練習問題は Listening を除いて全て答えを用意しておく。（30分）
	授業内容	Unit 10 Exercises to不定詞、動名詞について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。（30分）
9	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 11 Reading E-commerceに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。（30分）
10	事前学習	練習問題は Listening を除いて全て答えを用意しておく。（30分）
	授業内容	Unit 11 Exercises 助動詞について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。（30分）
11	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語は意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 12 Reading Coffee Shopに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。（30分）
12	事前学習	練習問題は Listening を除いて全て答えを用意しておく。（30分）
	授業内容	Unit 12 Exercises 受動態について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。（30分）
13	事前学習	配布されたプリントの練習問題を全て解いておく。（30分）
	授業内容	TOEIC Reading Section 練習問題
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。（30分）
14	事前学習	試験範囲を復習する。（30分）
	授業内容	授業内試験及び後期のまとめ。
	事後学習	試験で分からなかった部分の正解を考える。（30分）
15	事前学習	テキストの総復習。（30分）
	授業内容	授業内試験の講評及び振り返り。
	事後学習	後期の学習内容を確認する。

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	北原 安治	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際文化関連のテキストを使い、各国の歴史や文化を学びながら、文法の理解と発音そして訳しかたなどの基本事項を養成することを目的とする。本文のみやり、練習問題はやらない。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身につけ、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6			
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Aと通年で履修してください。			
授業方法	学生の理解度によって速度を調整する。辞書（電子辞書可）を持ってくる。ノート検査はいつ検査されても良いようにまとめておく。ノートなきものは不可。実力テストは次の週に解説、解答をする。映像教材をみせる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常評価（授業参加度、実力テスト、学期末試験等）100%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2006	鳳書房	Major Countries in the World ～世界の主要国～	小泉和弘
	備考			
参考書	『ロイヤル英文法』1,890円（旺文社）この本は講義では使いません。辞書は毎回持ってくる。			
オフィスアワー	授業終了後（水曜日10：30～授業講堂にて）またはEメールで対応。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス、授業の進め方、ノートの取り方の説明。TOEICの概要の説明。前期の続きから始める。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
2	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第3章 フランス(1) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。冠詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
3	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第3章 フランス(1) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。不定詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
4	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第3章 フランス(1) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。動名詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）

5	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第3章 フランス(1) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。現在分詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
6	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第3章 フランス(2) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。過去分詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
7	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第3章 フランス(2) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。句と節の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
8	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第3章 フランス(2) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。接続詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
9	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第3章 フランス(2) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。前置詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
10	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第3章 フランス(2) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。助動詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
11	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第4章 イタリア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。受動態の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
12	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第4章 イタリア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。知覚動詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
13	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第4章 イタリア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。副詞的表現の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
14	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第4章 イタリア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。間接話法の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
15	事前学習	試験範囲の復習。単語、文法、訳の確認。（30分）
	授業内容	復習とまとめ
	事後学習	間違った部分の復習。単語、文法、訳の確認。（30分）

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	関戸 冬彦	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語に積極的に触れ、楽しく、自律的に学習していく姿勢を養う授業です。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】英語の文章、音声に抵抗なく触れ、積極的に自らレスポンスができることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3，6			
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。			
授業方法	教員からの一方的な講義ではなく、受講者が積極的に、時にペアで、グループで、活動するような参加型（ワークショップ）方式にします。 適宜小テストを行い、返却します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	小テスト、学期末ふりかえり、授業内課題等
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	朝日出版社	CNN 10 Vol.2	関戸冬彦ほか
	備考			
参考書	随時指示します。			
オフィスアワー	授業に関する質問、相談などは授業終了後（月曜19：30～講堂にて）またはE-mailにて対応します。 fuyuhiko@df6. so-net. ne. jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	夏休みの英語学習のふりかえり（30分）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	今学期の英語学習の自分なりの計画をまとめる（30分）
2	事前学習	自分で立てた今学期の学習計画のチェック（30分）
	授業内容	Unit 8: Ice Cream リスニング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第3回までの宿題（30分）
3	事前学習	第3回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 8: Ice Cream リーディング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第4回までの宿題（30分）
4	事前学習	第4回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 9: Nigerian Women's Bobsled Team リスニング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第5回までの宿題（30分）

5	事前学習	第5回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 9: Nigerian Women's Bobsled Team リーディング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第6回までの宿題（30分）
6	事前学習	第6回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 10: Zoo Dog リスニング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第7回までの宿題（30分）
7	事前学習	第7回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 10: Zoo Dog リーディング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第8回までの宿題（30分）
8	事前学習	第8回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 11: Google Before Google リスニング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第9回までの宿題（30分）
9	事前学習	第9回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 11: Google Before Google リーディング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第10回までの宿題（30分）
10	事前学習	第10回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 12: 3D Food Printing リスニング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第11回までの宿題（30分）
11	事前学習	第11回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 12: 3D Food Printing リーディング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第12回までの宿題（30分）
12	事前学習	第12回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 13: Bitcoin リスニング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第13回までの宿題（30分）
13	事前学習	第13回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 13: Bitcoin リーディング
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第14回までの宿題（30分）
14	事前学習	第14回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 14: Money to Soil リスニング分）
	事後学習	学習した内容のまとめ、ふりかえり、第15回までの宿題（30分）
15	事前学習	第15回までの宿題の確認、今週の学習計画チェック（30分）
	授業内容	Unit 14: Money to Soil リーディング、今学期全体のふりかえり
	事後学習	春休み、二年生以降の学習計画の確認（30分）

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	塚田 英博	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	文法項目を確認しながら、演習・英文読解を行います。			
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を磨くことを目的としています。TOEICの基礎力を身につけ、スコア450点を獲得できることを目標とします。関連DP及びCP：外国語科目領域3,6			
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く推奨します。原則、英語Aと通年で履修してください。			
授業方法	演習方式。毎回英単語を含む小テストを実施する。また、2回の課題レポート提出を課します。小テスト、課題とも次回の授業で返却を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	小テスト、レポート、確認テストの結果、授業参加度等	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	朝日出版社	読解力につなげるコア英文法	福井 慶一郎
	2016	アルク	新装版 TOEIC(R) テスト スーパー英単語	ロバート・ヒルキ、小石裕子
	備考			
参考書	英和辞典			
オフィスアワー	水曜日 12：10～13：00 授業講堂			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期文法事項の確認をする。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、レポートの書き方を確認する。
	事後学習	レポートの書き方、小テストの形式の再確認をする。（30分）
2	事前学習	Unit 13（不定詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	不定詞について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 13の復習をする（30分）
3	事前学習	単語551-600を暗記し、Unit 14（不定詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト1 不定詞（形式主語など）について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 14の復習をする。（30分）
4	事前学習	単語601-650を暗記し、Unit 17（動名詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト2 動名詞について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 17の復習をする。（30分）

5	事前学習	単語651-700を暗記し、Unit 18（動名詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト3 動名詞（時制）について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 18の復習をする。（30分）
6	事前学習	単語701-750、Unit 15（分詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト4 分詞について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 15の復習をする。（30分）
7	事前学習	単語751-800を暗記し、Unit 16（分詞構文）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト5 分詞構文について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 16の復習をする。（30分）
8	事前学習	単語801-850を暗記し、Unit 20（比較）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト6 比較について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 20の復習をする。（30分）
9	事前学習	単語851-900を暗記し、Unit 23（関係詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト7 関係代名詞について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 23の復習をする。（30分）
10	事前学習	単語901-950を暗記し、Unit 24（関係詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト8 関係副詞について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 24の復習をする。（30分）
11	事前学習	単語951-1000を暗記し、Unit 25（仮定法）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト9 仮定法について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 25の復習をする。（30分）
12	事前学習	Unit 26（仮定法）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	仮定法（仮定部分の省略）について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 26の復習をする。（30分）
13	事前学習	これまでの授業で扱った事項のチェックする。（30分）
	授業内容	これまでの授業の確認をする。
	事後学習	配布プリントの確認をする。（30分）
14	事前学習	英語圏の文化を調査を、思考形式を念頭に置いて調べる。（30分）
	授業内容	英語圏の文化を分析し、その事項を明記する。
	事後学習	英語圏の文化の確認をする。（30分）
15	事前学習	単語990 - 1005/1-200を暗記する。（30分）
	授業内容	小テスト10 英語圏の文化、これまでの授業の解説を行う。
	事後学習	後期の文法事項で理解が不十分であった箇所を確認する。（30分）

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	藤木 智子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	予習で英単語の発音や意味を確認しておきましょう。授業での発話を積極的に行いましょう。また、復習をして、授業で学習したことをきちんとノートに書きこみ、知識の基礎固めをしましょう。授業は皆さんが主役なので、積極的に取り組んでください。			
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。できる限り多くのネイティブの発音する英語に触れ、そして時事英語にも触れましょう。時事英語に触れるため、英字新聞に目を通し、BBCやCNNニュースを観ましょう。まずは目標をたてて、一年間で達成できるように挑戦しましょう。 一年生ではTOEICスコア450点を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3，6			
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。スマートフォンや携帯などの端末の利用は厳禁です。			
授業方法	本文、問題文の音読、解説および訳を学生が担当します。毎回、全員が一度は発表しますので、事前予習をしましょう。演習方式。テストを行います。返却後は間違った箇所をノートにまとめ、事後学習をしましょう。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	60%)学期末にテストをします。 40%)平常評価では授業参加度を重視します。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	19年度	朝日出版	『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』	西谷敦子
	14年度	南雲堂	『5分間 新TOEICテストリスニング 550』	片野田 浩子
	14年度	南雲堂	『5分間 新TOEICサブリメント 文法語法』	小池 直己
	備考			
参考書	英和、和英辞書両方です。電子辞書、紙媒体どちらでも構いません。例文と品詞が載っているものに限ります。授業中に携帯やスマホを辞書代わりに使用することは認めません。必ず辞書を準備してください。			
オフィスアワー	水曜日 9時～12時10分 授業講堂にて。 質問は授業の前が望ましいです。授業後の昼休みでの質問は、事前にアポイントメントを取ってください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』Unit7の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
	授業内容	Orientation 授業の方法についてレクチャーをします。授業に関する質問に答えます。オリエンテーションの後、授業をしますので、教科書および英和・和英辞書を用意してください。
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
2	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』Unit7の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
	授業内容	Unit 7 『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』、前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section4 『TOEICテストサブリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題10
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
3	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』Unit8の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
	授業内容	Unit 8 『TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル600 』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section4 『TOEICテストサブリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題11
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)

14	事前学習	事前学習として、どこがどのように分からないのかを明らかにし、備えておくこと。(30分)
	授業内容	前期授業のまとめ
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 不明な点など、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
15	事前学習	最近のニュースに関して事前に英字新聞などを読んで、時事英語に関する単語などを調べておくこと(30分) より一層理解が深まるので準備しておくこと。
	授業内容	今期のまとめをして、時事英語に関するDVDを鑑賞しましょう。
	事後学習	事後学習として、今回のDVDの内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめること。(30分)

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	堀 紳介	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業ではこれまでに習ったことがあるであろう基本的な文法事項を学びながらも、そこから英米文化を知ることを目 標とします。授業では各自に和訳を発表してもらい、どのように英文を読んだのか、どうしてそのような和訳になったの か、 を確認しながら進めていきます。英文の内容に関して問うこともあるでしょう。したがって、この授業で学生は自ら考え ながら英文を読むことが求められます。							
授業目的・ 到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング、文法の基礎力を養成する ことを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3， 6							
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。							
授業方法	グループワークを取り入れ、発表形式で行います。 レポート課題返却時、詳細なコメントを入れてフィードバックを行います。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定 期 試 験		0%					
	平 常 評 価		100%		平常評価 (Report 30% Test 50% Participation 20 %) *授業に出席することは単位を認定する上での前提条件とする。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	備考		特になし					
参 考 書	随時指示します。							
オフィス アワー	金曜2限終了後（19：30～19：40）、授業講堂で対応します。							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの確認（30分）
	授業内容	ガイダンス、前期授業内容の説明
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
2	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度1 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
3	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度1 グループワークでレポート作成
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
4	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度1 グループワークでレポート作成、単語リスト作成
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）

5	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度1 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
6	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度1 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
7	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
8	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 グループワークでレポート作成
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
9	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 グループワークでレポート作成、単語リスト作成
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
10	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
11	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
12	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
13	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	TOEIC模試：解答、解説
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
14	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	テスト準備
	事後学習	既習事項の確認、復習（60分）
15	事前学習	既習事項の確認、復習（60分）
	授業内容	前期授業のまとめ
	事後学習	前期、後期、1年を通して読んだ英文記事を改めて精読すること（60分）

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	依田 悠介	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This course develops essential knowledge and skills for learners to succeed in today's global society. Students are encouraged to work on in-and outside class activities enthusiastically.				
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 The main objective of this course is enable students to understand and respond to ideas and contents in English, by reading articles adapted for level and viewing related TED talks. 対応DP及びCP：外国語科目領域3.6				
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。				
授業方法	Read the text, solve the quizzes, view the videos and discuss the contents.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	One examination 30% plus collaborative work (group poster presentation) 40% and quizzes 30%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2015	Cengage Learning	21st Century Reading Level 3		Laurie Blass et.al
	備考				
参考書	Will be given in class				
オフィスアワー	授業（水曜1限）終了後、講堂にて。 by appointment: yusuke.yoda@tyg.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Look through the textbook (30分)
	授業内容	Introduction: Please bring the copy of syllabus and the textbook.
	事後学習	Read the passage in Unit 6 (30分)
2	事前学習	Prep. for Quizz (30分)
	授業内容	Text Generation: Linguistics
	事後学習	Review Vocabulary (30分)
3	事前学習	Prep. for Quizz (30分)
	授業内容	Text Generation: Linguistics
	事後学習	Read the passage in Unit 7 (30分)
4	事前学習	Prep. for Quizz (30分)
	授業内容	Barriers and Bridges: Sociology
	事後学習	Review Vocabulary (30分)

5	事前学習	Prep. for Quizz (30分)
	授業内容	Barriers and Bridges: Sociology
	事後学習	Read the passage in Unit 8 (30分)
6	事前学習	Prep. for Quizz (30分)
	授業内容	Personality Types: Psychology
	事後学習	Review Vocabulary (30分)
7	事前学習	Prep. for Quizz (30分)
	授業内容	Personality Types: Psychology
	事後学習	Read the passage in Unit 9 (30分)
8	事前学習	Prep. for Quizz (30分)
	授業内容	Smart Thinking: Behavior / Life Science
	事後学習	Review Vocabulary (30分)
9	事前学習	Prep. for Quizz (30分)
	授業内容	Smart Thinking: Behavior / Life Science
	事後学習	Read the passage in Unit 10 (30分)
10	事前学習	Prep. for Quizz (30分)
	授業内容	Facing Fear: Psychology / Exploration
	事後学習	Review Vocabulary (30分)
11	事前学習	Prep. for Quizz (30分)
	授業内容	Facing Fear: Psychology / Exploration
	事後学習	Review Unit 6-10 (30分)
12	事前学習	Review Unit 6-10 (30分)
	授業内容	Overview (Examination)
	事後学習	Preparation for Group Presentation (30分)
13	事前学習	Preparation for Group Presentation (30分)
	授業内容	Group discussion
	事後学習	Making a poster (30分)
14	事前学習	Finalize your poster (30分)
	授業内容	Group Presentation-1
	事後学習	Evaluate your / your friends' presentation (30分)
15	事前学習	Finalize your poster (30分)
	授業内容	Group Presentation-2 講評
	事後学習	Evaluate your/ your friends' presentation (30分)

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	G. ハイデン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	You will read, discuss and write about English texts. You will communicate in English with your teacher and your classmates.			
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。To learn about the international history of Japan through listening to, reading and discussing English texts. Student will get confident by understanding, writing and speaking English through learning about important events in Japanese history. You discuss English texts with your teacher and your classmates.			
履修条件	関連D P / C P : 3, 6 法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Aと通年で履修してください。This course is aimed at students who wish to improve their English communication skills.			
授業方法	演習方式。Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	Assessment and reflection 20%. Final test 30%. Participation and effort 30%. Weekly tests 20%.
教科書	年	出版社	書名	著者名
			後期「An International History of Japan II」(Thomas Lockley、DTP出版、1,750円＋税)	Thomas Lockley
	備考			
参 考 書	A dictionary, or a smartphone with a dictionary app.			
オフィスアワー	Email gary@garyhayden.co.uk Please ask questions after the class (Wednesday 1st period) at classroom.			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	You will be given a vocabulary test each week. So please be prepared. (30min)
	授業内容	Topic: Thomas Glover Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	You will need to learn some new vocabulary each week. There will be a small vocabulary test at the beginning of each lesson. (30min)
2	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: The Choshu Five Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
3	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Nagasawa Kanaye Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
4	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: The Iwakura Embassy Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)

5	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: The Bonin Islands Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
6	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Tsuda Umeko Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
7	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Karayukisan Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
8	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Sun Yat-sen and Japan Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
9	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Japanese emigration in the 20th century Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
10	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Immigration to Japan Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
11	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Noguchi Hideo Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
12	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Sugihara Chiune Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
13	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: International spread of Japanese culture Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Write your reflections on the course (30min)
14	事前学習	Revise all of the course vocabulary (30min)
	授業内容	Revision
	事後学習	Revise for the upcoming test (30min)
15	事前学習	Prepare for semester test (30min)
	授業内容	Semester test Review 解説
	事後学習	Review (30min)

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	河本 房子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TED Talksのコンテンツをもとに、授業内に意見交換するために内容を読み込んだ上で、自分の言葉で相手に伝える英語コミュニケーションの力をつけます。テキスト以外にも興味ある分野の文章を読み、発言できるようにします。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング、文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】国際研修や交換留学等の海外留学に必要とされる英語力を総合的に身につけ、また、TOEICやTOEFLにて高得点を獲得できるようにすることを目標とします。 対応DP及びCP: 外国語科目領域3, 6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。小テストを毎回実施します。小テストは					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業への積極的な参加。小テスト結果。期末テスト。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017	Cengage Learning		Keynote 3 ISBN-13 978 1 305 96505 8		Paul Dummett
	備考					
参考書	辞書 は毎回持参してください。参考書は必要に応じて紹介します。リスニングに慣れるため、BBC, NHK World, CNNなどの英語ニュースに普段から慣れ親しんでください。					
オフィスアワー	毎回の授業開始前、開始後（水曜10：30～）に授業が行われる講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Preview Unit 7 後期講義の全体を概観する。(30分)
	授業内容	Introduction Overview of the course
	事後学習	vocabulary note作成する。(30分)
2	事前学習	Preview Unit 7 Part identityについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 7 – Part 1 Identityのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)
3	事前学習	Preview Unit 7-Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 7 – Part 2 Where is home?のコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note global migrationの読解を確認する。(30分)
4	事前学習	Preview Unit 8 Part 1 commuteについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 8 – Part 1 Transportation solutionsのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)

5	事前学習	Preview Unit 8 Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 8 – Part 2 A skateboard, with a boostのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note unique commutesの読解を確認する。(30分)
6	事前学習	Preview Unit 9 Part language changeについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 9 – Part 1 New wordsのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)
7	事前学習	Preview Unit 9 Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 9 – Part 2 What makes a word “real”?のコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note Language changeの読解を確認する。(30分)
8	事前学習	Preview Unit 10 Part emotionとdigitalについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 10 – Part 1 understanding emotionsのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)
9	事前学習	Preview Unit 10 Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 10 – Part 2 This APP knows how you feelのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note Emotion in technologyの読解を確認する。(30分)
10	事前学習	Preview Unit 11 Part 1 entrepreneurについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 11 – Part 1 Leaders and thinkersのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)
11	事前学習	Preview Unit 11 Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 11 – Part 2 Life at 30,000 feetのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note lessons in businessの読解を確認する。(30分)
12	事前学習	Preview Unit 12 Part 1 work-life balanceについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 12 – Part 1 Well-beingのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)
13	事前学習	Preview Unit 12 Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 6 – Part 2 How to succeed? Get more sleetのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note Achieving work-life balanceの読解を確認をする。(30分)
14	事前学習	Review Unit 7~12 各設問を確認する。(30分)
	授業内容	Unit7~12の総復習。 小テストを返却し答え合わせと確認をする
	事後学習	Vocabulary note Review Unit 7~12 (30分)
15	事前学習	Review Unit 7~12 設問の間違った箇所を見直す。(30分)
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り。
	事後学習	Review Unit 7~12 (30分)

科目名	英語B【法職課程1年生共通クラス】	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験のための基礎固めをします。講師は、東進ハイスクール初代英語講師、旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送）、日本実用英語検定協会英検セミナー講師、オレゴン州立大学語学研修引率（アクト・コーポレーション主催）などの実務経験を生かした授業を展開する。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解に必要なリーディング、語彙力、文法の基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】受講生は、1100 Words You Need to Know、およびBasic Word Listの単語をすべて覚え、1分間で250語程度読めるようになることを目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域3，6					
履修条件	法職課程1年生番号指定クラス。ノート検査をする。将来的に英語が人生の重要な要素となることを自覚すること。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Aと通年で履修すること。					
授業方法	演習方式。毎時間リーディング・テストと単語テストを実施し、次の授業で返却を行う。テストの得点は加算され、順位を出す。また授業計画に変更が生じた場合には、そのつどプリントないしは口頭にて受講生に知らせる。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		諸テストの得点を加算して順位を出して評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017	Barron		Basic Word List		Brownstein
	備考	1100 Words You Need to Knowについてはプリントを使用。				
参考書	リーダーズ英和辞典					
オフィスアワー	水曜日、お昼休み、9107研究室にて（事前にメールで予約をとること）、英語全般、留学、海外の大学院進学などの相談を受け付ける。メールにての相談は随時受け付ける。morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス記載事項の熟読（30分）
	授業内容	Introduction、シラバス記載事項の確認、その他評価方法、シラバスに記載できなかった授業内容について説明する
	事後学習	配布されたプリントを熟読する（30分）
2	事前学習	1100 Words You Need to Know、およびBasic Word List、そして前期に配布されたプリントの単語を覚え、5週目からの単語テストに備える。（30分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know、Week 15、対等関係について
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（30分）
3	事前学習	1100 Words You Need to Know、およびBasic Word List、そして前期に配布されたプリントの単語を覚え、5週目からの単語テストに備える。（30分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know、Week 16、語順について
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（30分）
4	事前学習	1100 Words You Need to Know、およびBasic Word List、そして前期に配布されたプリントの単語を覚え、5週目からの単語テストに備える。（30分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know、Week 17、要約文について
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（30分）

5	事前学習	生活用語の単語（プリント）を覚える（３０分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 18、強調語について、生活用語の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）
6	事前学習	医学用語（プリント）の単語を覚える（３０分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 19、関係代名詞について、医学用語の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）
7	事前学習	政治経済用語（プリント）の単語を覚える（３０分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 20、限定用法について、政治経済用語の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）
8	事前学習	文学用語（プリント）の単語を覚える（３０分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 21、不定詞について、文学用語の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）
9	事前学習	Basic Word List（見出し語のみ）A-Hまでの単語を覚える（３０分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 22、動名詞について、Basic Word List（見出し語のみ）A-Hの単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）
10	事前学習	BWL（見出し語のみ）I-Zまでの単語を覚える（３０分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 23、仮定法について、BWL（見出し語のみ）I-Zの単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）
11	事前学習	1100 Words You Need to Know(new wordsのみ全部)の単語を覚える（３０分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 24、現在形について、1100 Words You Need to Know(new wordsのみ全部)の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）
12	事前学習	1100 Words とBWL（見出し語のみ全部)の単語を覚える（１）（３０分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 25、時制について、1100 Words とBWL（見出し語のみ全部)の単語テスト（１）
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）
13	事前学習	1100 Words とBWL（見出し語のみ全部)の単語を覚える（２）（３０分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 26、名詞について、1100 Words とBWL（見出し語のみ全部)の単語テスト（２）
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）
14	事前学習	1100 Words とBWLのすべての単語を覚える（１）（３０分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 27、動詞について、1100 Words とBWLのすべての単語テスト（１）
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）
15	事前学習	1100 Words とBWLのすべての単語を覚える（２）（３０分）
	授業内容	まとめ、1100 Words とBWLのすべての単語テスト（２）
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	アメリカでベストセラーを記録した“Chicken Soup for the Soul”の精読を通して、英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学びます。また、適宜、『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』を用いて、英文法・語法の知識を整理していきます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【授業目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。関連DP及びCP：外国語科目領域3，6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。輪読形式で教科書を読み進めていきます。指名された学生には、教科書の音読と和訳をしてもらい、その後、クラス全体で内容の確認をしていきます。また、適宜、小テストを実施し、次の授業以降で返却をします。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）100% 予習をしていない場合は、大幅に減点します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	1997	金星堂		『Chicken Soup for the Soul チキンスープをどうぞー心あたたまる17のアメリカ小話集』		Jack Canfield 他
	2018	いっいずな書店		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』		いっいずな書店編集部
	備考	『ジーニアス英和辞典 第5版』など、大学生向けの英和辞典を必ず毎回持参すること。				
参考書	使用しない。					
オフィスアワー	水曜日10:30～授業終了後の講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体像を概観しておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス 事前・事後学習の方法、成績評価等について説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。（30分）
2	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	If I Had My Life To Live Overを輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。（30分）
3	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Smileの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。（30分）
4	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Smileの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。（30分）

5	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Smileの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
6	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	A Simple Gestureの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
7	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	A Simple Gestureの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
8	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	A Simple Gestureの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
9	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Nothing but Problemsの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
10	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Nothing but Problemsの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
11	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Nothing but Problemsの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
12	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	See You in the Morningの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
13	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	See You in the Morningの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
14	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	See You in the Morningの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
15	事前学習	後期授業内容の総復習。（30分）
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り。
	事後学習	後期の授業内容について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。（30分）

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	辻岡 宏子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	海外の慣習、文化についての知識を深めるとともに、リーディングの内容を理解し正確な情報を得るための語彙や表現の習得を目指します。 グループワークやペアワークを通して、能動的に学ぶ態度やスキルの習得を目指します。			
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要リーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 リーディングの内容を理解し正確な情報を得るための語彙や表現の習得及び、外部試験のリーディング・文法のパートで高得点をとれることを目標とします。 対応D P及びC P：外国語科目領域3， 6			
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。 30分以上の遅刻は欠席とします。			
授業方法	授業に積極的に参加することが求められます。 授業内で講評、解説等のフィードバックを行います。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業参加態度、ペアワーク、グループワーク貢献度 宿題、授業課題、テスト等	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2004	Oxford University Press	Identity	Shauls, Tsujioka, Iida
	2014	Nan'undo	A Shorter Course in Expressions for Everyday Actions	
	備考			
参考書	英和、和英辞書（電子辞書可）			
オフィスアワー	授業の後に授業講堂に来て下さい。 水曜日10:30-10:40			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	課題 discovery in summer(30分)
	授業内容	communication styles 1
	事後学習	ジャーナル 1 授業振り返り (30分)
2	事前学習	課題 counseling(30分)
	授業内容	communication styles 2
	事後学習	ジャーナル 2 授業振り返り (30分)
3	事前学習	課題 daily events(30分)
	授業内容	gender and culture 1
	事後学習	ジャーナル 3 授業振り返り (30分)
4	事前学習	課題 social issues(30分)
	授業内容	gender and culture 2
	事後学習	ジャーナル 4 授業振り返り (30分)

5	事前学習	課題 news report(30分)
	授業内容	diversity 1
	事後学習	ジャーナル 5 授業振り返り(30分)
6	事前学習	課題 diversity in Japan(30分)
	授業内容	diversity 2
	事後学習	ジャーナル 6 授業振り返り (30分)
7	事前学習	課題 news report(30分)
	授業内容	social change 1
	事後学習	ジャーナル 6(30分)
8	事前学習	課題 your opinion(30分)
	授業内容	social change 2
	事後学習	ジャーナル 7 授業振り返り(30分)
9	事前学習	課題 project preparation(30分)
	授業内容	projects 1
	事後学習	ジャーナル 8 授業振り返り(30分)
10	事前学習	課題 project preparation, evaluation(30分)
	授業内容	projects 2
	事後学習	ジャーナル 9 授業振り返り(30分)
11	事前学習	課題 current events(30分)
	授業内容	global community 1
	事後学習	ジャーナル 10 授業振り返り (30分)
12	事前学習	課題 good leader(30分)
	授業内容	global community 2
	事後学習	ジャーナル 11 授業振り返り(30分)
13	事前学習	課題 grammar review(30分)
	授業内容	TOEIC test
	事後学習	ジャーナル 12 授業振り返り(30分)
14	事前学習	後期学習の復習(30分)
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	到達度の振り返り(30分)
15	事前学習	課題 vocabulary review(30分)
	授業内容	リフレクション
	事後学習	ジャーナル 13 まとめ(30分)

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	児玉 直起	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	殺人事件に関する陪審員の審議を扱ったアメリカのTVドラマ台本を基本教材とし、法廷/法律にまつわる英語に親しみながら、コンテキストを重視した読解力を身につけます。					
授業目的・到達目標	専門分野の英文原書読解や英語の資格試験（TOEIC, TOEFL, 英検等）等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することが目的です。 アメリカの陪審制度やデモクラシーについて一定の見識を持ち、英文のコンテキストを理解し、説明できるようになることが目標です。対応DP及びCP：外国語科目領域3， 6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。					
授業方法	発表やグループワーク等を中心とした参加型の授業をおこないます。適宜ビデオを使います。小テストは実施した翌週に返却。テストの講評・解説を後日ポータルシステムで配信します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		テスト40%，平常点（発表・小テスト・予習・授業参加度等）60%。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	1995/2010	開文社		Twelve Angry Men		Reginald Rose
	備考					
参考書	授業時に指示する。					
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は授業終了後教室で、または水曜日12:30-13:30に435研究室で対応する。 E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読する。（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	授業内容を振り返る。（30分）
2	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act III, pp. 29-32／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
3	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act III, pp. 32-35／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
4	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act III, pp. 35-38／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）

5	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act III, pp. 38-41／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
6	事前学習	Act III を振り返り、理解が不十分な点等を再確認する。（30分）
	授業内容	Act III のまとめ／関連ビデオを視聴する
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
7	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Selection from Act I の内容をグループで確認・理解・解釈 Casting, Rehearsal（読み合わせ）, Presentation（グループ朗読）
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
8	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Selection from Act II の内容をグループで確認・理解・解釈 Casting, Rehearsal（読み合わせ）, Presentation（グループ朗読）
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
9	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら理解を深め、疑問点を整理する。（30分）
	授業内容	グループワーク（collaboration）1 Casting, Rehearsal（読み合わせ）
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
10	事前学習	当該箇所を音読し、セリフを覚える。（30分）
	授業内容	グループワーク（collaboration）2 Rehearsal（動きを入れる）
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
11	事前学習	当該箇所を音読し、場面の理解を深め、セリフを覚える。（30分）
	授業内容	グループワーク（collaboration）3 Rehearsal（何を伝えるのか確認する）
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
12	事前学習	当該箇所を音読し、場面の理解とセリフの再確認。（30分）
	授業内容	グループ発表（presentation）／振り返りと相互評価 1
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
13	事前学習	当該箇所を音読し、場面の理解とセリフの再確認。（30分）
	授業内容	グループ発表（presentation）／振り返りと相互評価 2
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
14	事前学習	後期を振り返りながら学習内容を整理する。（30分）
	授業内容	まとめ・後期を振り返る
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
15	事前学習	後期を振り返りながら学習内容を整理し、理解を深める。（30分）
	授業内容	後期の目標到達度を確認する
	事後学習	後期で学んだことを整理する。（30分）

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	異文化コミュニケーションの諸問題を通じて言語と社会や言語と文化の関係を概観し、異文化理解において言語は社会や文化と切り離して存在し得ないことを学んでいきます。論理的思考／批判的思考の手法を習得し、かつ、従来の学校英文法の不備を指摘しつつ、手段に過ぎなかった英文法の洗い直しを試みます。			
授業目的・到達目標	[授業目的]TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的とします。 [到達目標]眼前の一文のみに気をとられることなく文章全体の流れを意識し大意を掴めるようにするためskimming力の涵養を第一目標とします。さらに、自分の考えを客観的かつ論理的に明確な英語で表現できることを最終目標とします。TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上の獲得を目指します。 対応DP及びCP：外国語科目領域3,6			
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。積極的かつ集中して授業に臨む必要があります。			
授業方法	輪読形式と演習形式を織り交ぜながら授業を展開していきます。小テストを毎回実施します。フィードバックは授業内に行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価（毎回の小テスト・課題への取り組みや授業への参加参加度、学期末試験などから総合的に評価します。）
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2010年	金星堂	Polite Fictions in Collision	坂本ナンシー 坂本示洋
	備考			
参考書	適宜、資料配布や参考文献紹介を行います。辞書必携。			
オフィスアワー	月曜日 12:20~13:00、場所は事前にアポイントメントを取った際に決めます。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期を振り返り、後期の英語学習に向けての目標を考える。指定された課題の予習をする。（30分）
	授業内容	Chapter 6 (Being Original)
	事後学習	弱点ノートを作成する。（要点の整理・理解）（30分）
2	事前学習	指定された課題の予習をする。（30分）
	授業内容	Chapter 6 (Being Original)
	事後学習	弱点ノートを作成する。（要点の整理・理解）（30分）
3	事前学習	指定された課題の予習をする。（30分）
	授業内容	Chapter 7 (Questions, Questions!)
	事後学習	弱点ノートを作成する。（要点の整理・理解）。（30分）
4	事前学習	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Chapter 7 (Questions, Questions!)
	事後学習	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。（30分）

5	事前学習	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Chapter 8 (Answer to the Point!)
	事後学習	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。（30分）
6	事前学習	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Chapter 8 (Answer to the Point!))
	事後学習	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。（30分）
7	事前学習	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Chapter 9 (Conversational Ballgames)
	事後学習	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。（30分）
8	事前学習	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Chapter 9 (Conversational Ballgames)
	事後学習	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。（30分）
9	事前学習	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Chapter 10 (Don't Apologize!)
	事後学習	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。（30分）
10	事前学習	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Chapter 10 (Don't Apologize!)
	事後学習	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。（30分）
11	事前学習	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Chapter 11 (Nobody Told Me!)
	事後学習	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。（30分）
12	事前学習	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Chapter 11 (Nobody Told Me!)
	事後学習	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。（30分）
13	事前学習	与えられた課題の準備をし、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	日英語のPolitenessの比較と授業の総括
	事後学習	内容面でわからない箇所をチェックしながら、学習内容を確認し理解を深め、理解不十分な点は質問できるようにしておく。（30分）
14	事前学習	Chapter 11までに学習した箇所の語彙や文法などを復習して学期末試験に臨む。（60分）
	授業内容	授業内試験及び振り返り
	事後学習	間違えた箇所を復習する。（30分）
15	事前学習	講義全体を確認し、復習する。（30分）
	授業内容	試験の講評と1年間の授業の振り返り
	事後学習	1年を通して学習したことを踏まえ、さらに英語の実力をつける努力しつつ、次年度の英語の授業に備える。（30分）

科目名	英語B【法律学科1年生共通クラス】	担当者	石川 太郎	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語の4技能（読み・聞く・話す・書く）を基礎から始めて出来るだけ発展させる事を目標としています。とにかく暗記中心でパターン化しやすく退屈になりがちな授業を少しでも楽しく行っていきたいと考えています。そのためになるべくクラスの皆さんで話し合いながら授業を進めていきます。また、映画等も教材として扱う予定です。楽しく頑張りましょう。					
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。これまで学習してきた英語の総復習及びその発展のため、リスニング力と読解力の養成を中心に行います。基礎力の確認から始めて、最終的にTOEFL/TOEIC等英語の資格試験で良い成績を獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域3，6					
履修条件	二部法律学科番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く推奨します。原則、英語Aと通年で履修してください。毎回の授業に出席する事はもちろん、出席しても寝ていたり、授業に参加する態度が感じられない場合は出席とカウントしない場合があります。					
授業方法	テキストの内容の文法理解に加えて、音読・シャドーイングが基本。テキストの内容に基づいた会話練習も行います。とにかく出席者が必ず英語を発音する場になります。毎回、前回の授業内容確認の小テストを行います。フィードバックは授業内に行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		年度末に試験を行います。内容は授業の復習です。（50%） 授業参加度（声の大きさ、課題提出率等）から総合的に判断します。（50%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	Kinseido		British News Update（BBC）		Timothy Knowles
	備考					
参考書	英和辞典（必ず毎回持って来てください）					
オフィスアワー	初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。 授業時間：月曜7限、土曜2～4限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の英語授業の復習（30分）
	授業内容	イントロダクション（小テスト実施予定）
	事後学習	復習（30分）
2	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 7(1)DVD映像を見ながらリスニングの練習をしてリーディング。必要に応じて文法解説
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
3	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 7(2)DVDを参考にUnit 7の内容を英語で要約してペアワーク（授業で扱った内容についてQ and A方式で質問を考えて出し合う）
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
4	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 8(1)DVDを参考にリスニングやシャドーイングの練習の練習をしてリーディング。必要に応じて文法解説
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）

5	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 8(2) DVDを参考にしながらUnit 8全体の内容をまとめてペアになり、相手に英語で説明する
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
6	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 9(1) DVDを参考にリスニングとシャドーイングの練習をしてリーディング。必要に応じて文法解説
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
7	事前学習	予習（30分）
	授業内容	いくつかのグループに別れてDVDを参考にしながらUnit 9全体を英語で要約し、ディスカッションをする練習
	事後学習	復習（30分）
8	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 10(1) DVDを参考にしながらリスニングとシャドーイングの練習をしてリーディング。必要に応じて文法解説
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
9	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 10(2) DVDを参考にUnit 10の内容を英語で要約し、クラス内で何人かの学生に内容に関して英語で質疑応答しあう
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
10	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 11(1) DVDを参考にリスニングとシャドーイングの練習をしてリーディング。必要に応じて文法解説
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
11	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 11(2) DVDを参考にUnit 11全体を英語で要約してペアワーク（内容に関して英語で質疑応答）
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
12	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 12(1) DVDを参考にリスニングとシャドーイングの練習をしてリーディング。必要に応じて文法解説
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
13	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Unit 12(2) DVDを参考にUnit 12の内容全体を英語で要約してグループワーク（授業で扱った内容に関してディスカッション）
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
14	事前学習	復習（30分）
	授業内容	これまでのまとめ及び時間が足りなくて出来なかった箇所を扱います。
	事後学習	復習DVDを参考にシャドーイング（30分）
15	事前学習	総復習（30分）
	授業内容	後期授業のまとめ
	事後学習	自己採点（30分）

科目名	英語B【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	小倉 浩子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英文読解の授業です。使用するテキストは、ロンドン在住の著者がイギリスの文化や歴史に触れながらイギリスの今を語る英文エッセイ集です。語句や文法に留意しながら、丹念に英文を読み進める場にしたいと思います					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。対応DP及びCP：外国語科目領域3,6					
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。					
授業方法	輪読形式。テキストのユニットごとに小テストを行う予定です。小テストや試験は次の授業で返却し、解答の確認・解説を行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業への参加度、小テストや試験の結果を総合的に評価。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018年	成美堂		鼓動するイギリス		John H. Randle、 棕平淳
	備考					
参考書	適宜紹介します。					
オフィスアワー	水曜12：10～授業終了後の講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通す。テキストの後半に目を通す。（30分）
	授業内容	ガイダンス 英語Aに照らして授業の進め方を説明。関連資料を配布して内容を確認。英語学習（特にTOEIC）について話をする。
	事後学習	ガイダンスを振り返る。（30分）
2	事前学習	テキストUnit 11のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 11 The Japanese in Britain Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
3	事前学習	テキストUnit 12のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 12 Health Matters Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
4	事前学習	テキストUnit 13のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 13 The House of Windsor：Crisis and Continuity Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）

5	事前学習	テキストUnit 14のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 14 The Changing London Skyline Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
6	事前学習	テキストUnit 15のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 15 Women's Rights : A Look through History Reading comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehension読み直す。（30分）
7	事前学習	テキストUnit 15までの授業の復習をする。（30分）
	授業内容	Unit 11～Unit 15のまとめ
	事後学習	Unit 15までの授業のまとめを振り返る。（30分）
8	事前学習	テキストUnit 16のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 16 Women in Britain Today : A Report Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
9	事前学習	テキストUnit 17のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 17 The White Rose of York Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
10	事前学習	テキストUnit 18のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 18 Charles Dickens : Childhood and Christmas Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
11	事前学習	テキストUnit 19のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 19 The Great British Bake Off Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
12	事前学習	テキストUnit 20のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 20 Brits Abroad Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
13	事前学習	テキストUnit 16以降の授業の復習をする。（30分）
	授業内容	Unit 16～Unit 20のまとめ
	事後学習	Unit 16以降の授業のまとめを振り返る。（30分）
14	事前学習	試験に向けて学習する。（30分）
	授業内容	授業内試験及びまとめ
	事後学習	試験への取り組みなどを反省する。（30分）
15	事前学習	テキストUnit 11～Unit 20の語句や内容を再確認する。（30分）
	授業内容	授業内試験後のまとめ
	事後学習	後期授業を振り返る。（30分）

科目名	英語B【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	小山 誠子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Computer, Tea, Pub... 等様々な「イギリス発祥」(Made in Britain)に関する英文の読解を通じて、一定の語彙力の増強及び構文(英文法の確認)の理解と共に、情報収集の「手段」「道具」としての英語の習得により「英語圏」という異文化を通じて国際社会への知識・「客観的」理解を深め、それらに対する「主体的」な判断・意見を涵養します。				
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なりーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 情報収集の手段としての英文の読解を習慣化し、TOEIC 500点代(意思疎通に必要な英語レベル)取得に必要な語彙及び文法の習得に努め、効率的な学習方法を身に付けます。英文の精読を通じて欧米文化の価値観への理解を深め、受講者各自の持つ自国文化との比較・対照を行うことで、批評(批判)的且つ論理的な思考を養い、自国の言語文化を相対化する視点を持ち、客観的理解・共感を得られる自身の意見を国際社会に発信できるようになることを目標としています。				
履修条件	政治経済学科1年国語科推薦クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。到達目標を意識して意欲的に学習に取り組む者。				
授業方法	英文を通じた知識の涵養を目標に精読(確認)を行います。文法事項は本文の文構造に関連づけ展開し、Chapter毎に指定範囲内的小テストを、最終授業日にて授業内試験(60分)及び解説/講評(30分)を行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価(発表等の授業への積極的取組状況及びテスト(毎Chap. 等)により総合的に評価する。※上記各種英語資格試験や関連情報の調査報告も推奨、評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2017	成美堂	Made in Britain		Anthony Sellik John Barton
	備考				
参考書	大学生/社会人レベルの辞書(電子辞書も可)を毎回携帯すること。学習記録用のノートを用意すること。 ※ PC・タブレット・携帯電話の使用は認めない。				
オフィスアワー	授業後20分間(水曜12:10~12:30) 授業講堂にて対応する。(※初回授業にて指示する。)				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキスト及び下記展開トピック(Chapter)に目を通し、気になる点をメモして授業に臨むこと。 加えて、(前期学習予定の「英語A」と併せて)「イギリス」と聞いて思いつく事柄及びそれについての各自のコメントを併せてメモしておく。(30分)
	授業内容	ガイダンス(授業の進め方を説明する。) ＋(下記展開範囲以外のChapterを用いて)展開方法のシミュレーション(前期「英語A」の復習と併せて)を行い、英文読解及び情報整理の方法を習得する。
	事後学習	次回(第2回)以降展開範囲を中心に、辞書を使わずにどの程度内容が把握できそうか現時点での「実力チェック」を各自行う。(→3か月後の学習成果を自己確認できるようにするため。)(30分)
2	事前学習	1. Chapter6全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s)(固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。)
	授業内容	Chapter 6 Thinking Machines ―The Story of the Computer(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)
3	事前学習	Chapter6前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想及び記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 6 Thinking Machines ―The Story of the Computer(中盤～後半) 章全体を通じて、'Computer'の起源・歴史的変遷/国際的影響を理解・説明できる。 ※1つのChapter/2回のペースで進む予定。
	事後学習	1. Chapter6全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた、Computerの起源・変遷(歴史)に関する情報を整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)

4	事前学習	1. Chapter7全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter6 Mini Test(小テスト) Chapter 7 'I Get Around — Transport' (前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)
5	事前学習	Chapter7前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 7 'I Get Around — Transport' (中盤～後半) 章全体を通して、交通・輸送機関に関する様々なイギリス人による発明・ものづくりの歴史的変遷/国際的影響への理解し、説明できる。
	事後学習	1. Chapter7全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、イギリス人による発明・イノベーションの歴史を概観し、加えて日本の「ものづくり」の歴史と併せて考察し(必要に応じて調査し)それに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)
6	事前学習	1. Chapter8全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter 7 Mini Test Chapter 8 London — How the Centre of the Financial World Started in a Coffee Shop (前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)
7	事前学習	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/を記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 8 London — How the Centre of the Financial World Started in a Coffee Shop (中盤～後半) 章 (Chap.) のタイトルの意味を本文の内容を正確に把握し、説明できる。
	事後学習	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報の確認に加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)
8	事前学習	1. Chapter3全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter 8 Mini Test Chapter 12 A Nice Cup of Tea (前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)
9	事前学習	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 12 A Nice Cup of Tea (中盤～後半) 「何故(紅)茶がイギリスの国民的飲みものなのか」「どうやってそうなったか」を説明できる。加えて、自国の「お茶文化」とも比較・対照し、コメントする。
	事後学習	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報の確認に加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)
10	事前学習	1. Chapter13全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter12 Mini Test Chapter 13 The British Pub 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)
11	事前学習	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 13 The British Pub (中盤～後半) 章全体を通して、「'Pub' の定義は何か」そして「何故そうなのか」を説明できる。
	事後学習	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報を(特に最終段落の内容を具体的に)整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)
12	事前学習	1. Chapter17全体に目を通し、事実関係を示すkeyword(s) (固有名詞、年代や場所等(5W1H)をピックアップし、全体の流れを予想する。2. 本文を声に出して読む。(不明なものは辞書の発音記号/音声機能を活用のこと。) 3. 未修の語彙を辞書にあたり、(1)品詞(2)定義・意味を確認(←文脈に合致するものを予想)し、(3)構文を予想・判断しておく。(30分)
	授業内容	Chapter13 Mini Test Chapter 17 Leading the Way in News and Entertainment — The BBC(前半～中盤) 章全体の内容理解を意識・目標とした精読(訳読)を行い、読解内容を情報整理/説明できる。
	事後学習	1. 事前学習(予習)した内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に構文理解が不十分だと判断した箇所については文法理解の確認として解説を記録する。2. 英文から得た情報を整理する。3. 併せて、Mini Test (Chapter終了翌週実施)の準備も行う。(30分)

13	事前学習	Chapter前半の内容を十分確認するとともに、後半部分についても前半同様に、語彙及び構文の予想/記録を行う。(30分)
	授業内容	Chapter 17 Leading the Way in News and Entertainment — The BBC (中盤～後半) 章全体を通して、国際的にも評価の高い報道機関とされるBBC誕生の歴史/変遷を理解/説明できる。併せて、「国際メディア」の現状について各自がコメントする。
	事後学習	1. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現等))が理解できたか、並行してテキストから得られた情報を(タイトルにある質問への回答を中心に)整理し、加えてそれに対する自身のコメントを記録する。2. Mini Test(翌週実施)の準備を行う。(30分)
14	事前学習	1. Mini Testに向けての準備に併せて、学期内展開範囲全てのMini Testを復習(特に初回にて不正解だったものを中心に)を行う。2. テキスト読解箇所全般の構文・内容についても各自確認する。(不明なものは授業にて確認すること。)(30分)
	授業内容	Chapter 17 Mini Test及び学期内展開範囲の総復習 Chapter6～8, 12, 13及び17全体の英文の中で、特に構文が複雑なものや、内容が抽象的な事柄の確認を行うことで、学習内容全般の情報の修正/補足を行い、正確に説明できる。
	事後学習	学習範囲全体を見直し、今一度各自で必要に応じて修正を行い、初回事前学習時からの成果を確認する。(30分)
15	事前学習	3か月学習内容を整理・総括する。(①「英語能力」②「英語圏文化について得た知識」の2つに関して)加えて、「異文化」との比較・対照によって得た感想・意見を整理する。(30分以上必要に応じて)
	授業内容	前期授業のまとめ(授業内試験(60分)) 解説/講評(30分):受講者各自が3か月の学習を通じて得た、異文化(欧米文化)への理解及び自国文化との比較・対照により国際社会への理解及び国際社会での自らの意見を発信できる。
	事後学習	初回事前学習からの成果を自己分析・確認するとともに、今後の課題(英語学習及び「英語」を「手段」としての情報収集及びその活用(発信するための方法/展開)に関する具体的目標)を設定する。(30分)

科目名	英語B【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	河本 房子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TED Talksのコンテンツをもとに、授業内に意見交換するために内容を読み込んだ上で、自分の言葉で相手に伝える英語コミュニケーションの力をつけます。テキスト以外にも興味ある分野の文章を読み、発言できるようにします。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング、文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】国際研修や交換留学等の海外留学に必要とされる英語力を総合的に身につけ、また、TOEICやTOEFLにて高得点を獲得できるようにすることを目標とします。 対応DP及びCP: 外国語科目領域3, 6					
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。小テストを毎回実施します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業への積極的な参加。小テスト結果。期末テスト。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017	Cengage Learning		Keynote 3 ISBN-13 978 1 305 96505 8		Paul Dummett
	備考					
参考書	辞書 は毎回持参してください。参考書は必要に応じて紹介します。リスニングに慣れるため、BBC, NHK World, CNNなどの英語ニュースに普段から慣れ親しんでください。					
オフィスアワー	毎回の授業開始前（10：30～10：40）、開始後（12：10～）に授業が行われる講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Preview Unit 7 後期講義の全体を概観する。(30分)
	授業内容	Introduction Overview of the course
	事後学習	vocabulary note作成する。(30分)
2	事前学習	Preview Unit 7 Part identityについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 7 – Part 1 Identityのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)
3	事前学習	Preview Unit 7-Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 7 – Part 2 Where is home?のコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note global migrationの読解を確認する。(30分)
4	事前学習	Preview Unit 8 Part 1 commuteについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 8 – Part 1 Transportation solutionsのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)

5	事前学習	Preview Unit 8 Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 8 – Part 2 A skateboard, with a boostのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note unique commutesの読解を確認する。(30分)
6	事前学習	Preview Unit 9 Part language changeについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 9 – Part 1 New wordsのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)
7	事前学習	Preview Unit 9 Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 9 – Part 2 What makes a word “real”?のコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note Language changeの読解を確認する。(30分)
8	事前学習	Preview Unit 10 Part emotionとdigitalについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 10 – Part 1 understanding emotionsのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)
9	事前学習	Preview Unit 10 Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 10 – Part 2 This APP knows how you feelのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note Emotion in technologyの読解を確認する。(30分)
10	事前学習	Preview Unit 11 Part 1 entrepreneurについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 11 – Part 1 Leaders and thinkersのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)
11	事前学習	Preview Unit 11 Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 11 – Part 2 Life at 30,000 feetのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note lessons in businessの読解を確認する。(30分)
12	事前学習	Preview Unit 12 Part 1 work-life balanceについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 12 – Part 1 Well-beingのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)
13	事前学習	Preview Unit 12 Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 6 – Part 2 How to succeed? Get more sleetのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note Achieving work-life balanceの読解を確認をする。(30分)
14	事前学習	Review Unit 7~12 各設問を確認する。(30分)
	授業内容	Unit7~12の総復習。 小テストを返却し答え合わせと確認をする
	事後学習	Vocabulary note Review Unit 7~12 (30分)
15	事前学習	Review Unit 7~12 設問の間違った箇所を見直す。(30分)
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り。
	事後学習	Review Unit 7~12 (30分)

科目名	英語B【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	菊地 幸子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	アメリカ文化に関するさまざまな話題のエッセイを読みながら読解力の向上を目指す。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】英文法の知識を用いて英文の内容を正確に読み取れるようになることを目標とする。対応DP及びCP:外国語科目領域3, 6			
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Aと通年で履修すること。			
授業方法	演習方式で行う。フィードバックとして最終授業で授業内試験の講評及び振り返りを行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業参加度（30%）、小テスト（20%）、学期末試験（50%）の割合で総合的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	南雲堂	English Indicator 3 [Intermediate]	Joshua Cohen 他
	備考			
参考書	特に指定しない。			
オフィスアワー	授業前後の休み時間に（水曜日12：10～）講堂にて。緊急の連絡事項がある場合はメールで知らせること。 メールアドレス：kikuchi.sachiko11@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語があれば意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 7 Reading Extreme Weatherに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。（30分）
2	事前学習	練習問題は Listening を除いて全て解いておく。（30分）
	授業内容	Unit 7 Exercises 形容詞、副詞について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。（30分）
3	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語があれば意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 8 Reading Medical Tourismに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。（30分）
4	事前学習	練習問題は Listening を除いて全て解いておく。（30分）
	授業内容	unit 8 Exercises 比較について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。（30分）

5	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語があれば意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 9 Reading Advertisingに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。（30分）
6	事前学習	練習問題は Listening を除いて全て解いておく。（30分）
	授業内容	Unit 9 Exercises 前置詞、接続詞について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。（30分）
7	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語があれば意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 10 Reading Business Travelに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。（30分）
8	事前学習	練習問題は Listening を除いて全て解いておく。（30分）
	授業内容	Unit 10 Exercises to不定詞、動名詞について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。（30分）
9	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語があれば意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 11 Reading E-commerceに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。（30分）
10	事前学習	練習問題は Listening を除いて全て解いておく。（30分）
	授業内容	Unit 11 Exercises 助動詞について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。（30分）
11	事前学習	本文を一通り読み、知らない単語があれば意味を調べ、それ以外に分からない部分があれば明確にしておき、授業中に疑問を解決できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 12 Reading Coffee Shopに関する本文の内容を理解する。
	事後学習	予習で分からなかった部分を理解できたか確認する。（30分）
12	事前学習	練習問題は Listening を除いて全て解いておく。（30分）
	授業内容	Unit 12 Exercises 受動態について理解し、それに対応する問題に解答できる。
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。（30分）
13	事前学習	配布されたプリントの練習問題を全て解いておく。（30分）
	授業内容	TOEIC Reading Sction 練習問題
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。（30分）
14	事前学習	試験範囲を復習する。（30分）
	授業内容	授業内試験及び後期のまとめ。
	事後学習	試験で分からなかった部分の正解を考える。（30分）
15	事前学習	テキストの総復習。（30分）
	授業内容	授業内試験の講評及び振り返り。
	事後学習	後期の学習内容を確認する。（30分）

科目名	英語B【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	北原 安治	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際文化関連のテキストを使い、各国の歴史や文化を学びながら、文法の理解と発音そして訳しかたなどの基本事項を養成することを目的とする。本文のみやり、練習問題はやらない。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身につけ、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6					
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Bと通年で履修してください。					
授業方法	学生の理解度によって速度を調整する。辞書（電子辞書可）を持ってくる。ノート検査はいつ検査されても良いようにまとめておく。ノートなきものは不可。実力テストは次の週に解説、解答をする。映像教材をみせる。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、実力テスト、学期末試験等）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2006	鳳書房		Major Countries in the World ～世界の主要国～		小泉和弘
	備考					
参考書	『ロイヤル英文法』1,890円（旺文社）この本は講義では使いません。辞書は毎回持ってくる。					
オフィスアワー	授業終了後（水曜日12：10～授業講堂にて）またはEメールで対応。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス、授業の進め方、ノートの取り方の説明。TOEICの概要の説明。前期の続きから始める。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
2	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第3章 フランス(1) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。冠詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
3	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第3章 フランス(1) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。不定詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
4	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第3章 フランス(1) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。動名詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）

5	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第3章 フランス(1) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。現在分詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
6	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第3章 フランス(2) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。過去分詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
7	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第3章 フランス(2) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。句と節の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
8	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第3章 フランス(2) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。接続詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
9	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第3章 フランス(2) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。前置詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
10	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第3章 フランス(2) 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。助動詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
11	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第4章 イタリア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。受動態の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
12	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第4章 イタリア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。知覚動詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
13	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第4章 イタリア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。副詞的表現の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
14	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第4章 イタリア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。間接話法の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
15	事前学習	試験範囲の復習。単語、文法、訳の確認。（30分）
	授業内容	復習とまとめ
	事後学習	間違った部分の復習。単語、文法、訳の確認。（30分）

科目名	英語B【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	塚田 英博	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	文法項目を確認しながら、演習・英文読解を行います。				
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を磨くことを目的としています。TOEICの基礎力を身につけ、スコア450点を獲得できることを目標とします。関連DP及びCP：外国語科目領域3,6				
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く推奨します。原則、英語Aと通年で履修してください。				
授業方法	演習方式。毎回英単語を含む小テストを実施する。また、2回の課題レポート提出を課します。小テスト、課題とも次回の授業で返却を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	小テスト、レポート、確認テストの結果、授業参加度等	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	朝日出版社		読解力につなげるコア英文法	福井 慶一郎
	2016	アルク		新装版 TOEIC(R)テスト スーパー英単語	ロバート・ヒルキ、小石裕子
	備考				
参考書	英和辞典				
オフィスアワー	水曜日 12：10～13：00 授業講堂				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期文法事項の確認をする。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、レポートの書き方を確認する。
	事後学習	レポートの書き方、小テストの形式の再確認をする。（30分）
2	事前学習	Unit 13（不定詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	不定詞について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 13の復習をする（30分）
3	事前学習	単語551-600を暗記し、Unit 14（不定詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト1 不定詞（形式主語など）について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 14の復習をする。（30分）
4	事前学習	単語601-650を暗記し、Unit 17（動名詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト2 動名詞について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 17の復習をする。（30分）

5	事前学習	単語651-700を暗記し、Unit 18（動名詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト3 動名詞（時制）について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 18の復習をする。（30分）
6	事前学習	単語701-750、Unit 15（分詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト4 分詞について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 15の復習をする。（30分）
7	事前学習	単語751-800を暗記し、Unit 16（分詞構文）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト5 分詞構文について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 16の復習をする。（30分）
8	事前学習	単語801-850を暗記し、Unit 20（比較）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト6 比較について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 20の復習をする。（30分）
9	事前学習	単語851-900を暗記し、Unit 23（関係詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト7 関係代名詞について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 23の復習をする。（30分）
10	事前学習	単語901-950を暗記し、Unit 24（関係詞）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト8 関係副詞について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 24の復習をする。（30分）
11	事前学習	単語951-1000を暗記し、Unit 25（仮定法）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	小テスト9 仮定法について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 25の復習をする。（30分）
12	事前学習	Unit 26（仮定法）の例文を確認する。（30分）
	授業内容	仮定法（仮定部分の省略）について理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Unit 26の復習をする。（30分）
13	事前学習	これまでの授業で扱った事項のチェックする。（30分）
	授業内容	これまでの授業の確認をする。
	事後学習	配布プリントの確認をする。（30分）
14	事前学習	英語圏の文化を調査を、思考形式を念頭に置いて調べる。（30分）
	授業内容	英語圏の文化を分析し、その事項を明記する。
	事後学習	英語圏の文化の確認をする。（30分）
15	事前学習	単語990 - 1005/1-200を暗記する。（30分）
	授業内容	小テスト10 英語圏の文化、これまでの授業の解説を行う。
	事後学習	後期の文法事項で理解が不十分であった箇所を確認する。（30分）

科目名	英語B【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	藤木 智子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	予習で英単語の発音や意味を確認しておきましょう。授業での発話を積極的に行いましょう。また、復習をして、授業で学習したことをきちんとノートに書きこみ、知識の基礎固めをしましょう。授業は皆さんが主役なので、積極的に取り組んでください。				
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。できる限り多くのネイティブの発音する英語に触れ、そして時事英語にも触れましょう。時事英語に触れるため、英字新聞に目を通し、BBCやCNNニュースを観ましょう。まずは目標をたてて、一年間で達成できるように挑戦しましょう。 一年生ではTOEICスコア450点を獲得できること目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3，6				
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。スマートフォンや携帯などの端末の利用は厳禁です。				
授業方法	本文、問題文の音読、解説および訳を学生が担当します。毎回、全員が一度は発表しますので、事前予習をしましょう。演習方式。テストを行います。返却後は間違った箇所をノートにまとめ、事後学習をしましょう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	60%)学期末にテストをします。 40%)平常評価では授業参加度を重視します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	19年	成美堂		『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』	菰 寛美 他
	14年度	南雲堂		『5分間 新TOEICテストリスニング 550』	片野田 浩子
	14年度	南雲堂		『5分間 新TOEICサブリメント 文法語法』	小池 直己
	備考				
参考書	英和、和英辞書両方です。電子辞書、紙媒体どちらでも構いません。例文と品詞が載っているものに限ります。授業中に携帯やスマホを辞書代わりに使用することは認めません。必ず辞書を準備してください。				
オフィスアワー	水曜日 9時～12時10分 授業講堂にて。 質問は授業の前が望ましいです。授業後の昼休みでの質問は、事前にアポイントメントを取ってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit 7 の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)
	授業内容	Orientation 授業の方法についてレクチャーをします。授業に関する質問に答えます。オリエンテーションの後、授業をしますので、教科書および英和・和英辞書を用意してください。
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (30分)
2	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit 7 の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)
	授業内容	Unit 7 『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』、前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section 4 『TOEICテストサブリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題1 0
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (30分)
3	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』Unit 8 の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)
	授業内容	Unit 8 『An Amazing Aproach to the TOEIC L&R Test』 前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section 4 『TOEICテストサブリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題1 1
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (30分)

14	事前学習	事前学習として、どこがどのように分からないのかを明らかにし、備えておくこと。(30分)
	授業内容	前期授業のまとめ
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 不明な点など、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
15	事前学習	最近のニュースに関して事前に英字新聞などを読んで、時事英語に関する単語などを調べておくこと(30分) より一層理解が深まるので準備しておくこと。
	授業内容	今期のまとめをして、時事英語に関するDVDを鑑賞しましょう。
	事後学習	事後学習として、今回のDVDの内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめること。(30分)

科目名	英語B【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英字新聞攻略法を身につけながら、時事英語の運用力を養成します。時事英語に特有な表現や語彙を学び、正確に意味内容を把握できる力を向上させます。また、授業で学習したことに基づき、各トピックについて自分の意見を英語で述べるようにします。				
授業目的・到達目標	[授業目的]TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的とします。 [到達目標]skimming力を身につけながら、パラグラフの論理展開を学んでいき、自分の考えを客観的かつ論理的に明確な英語で表現できるようにすることを最終目標とします。TOEICテストのための基礎力を身につけ、スコア450点以上の獲得を目指します。対応DP及びCP：外国語科目領域 3,6				
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Bと通年で履修してください。積極的かつ集中して授業に臨む必要があります。				
授業方法	critical thinking/creative thinkingの手法を下地とし、輪読形式と演習形式を織り交ぜながら授業を展開していきます。小テストを毎回実施します。フィードバックは授業内に行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価（毎回の小テスト・課題への取り組みや授業参加度（50％） 単元5つ毎に行われるテスト（50％））	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年	成美堂		Meet the World 2019 ―English through Newspapers―	若有保彦
	備考				
参考書	適宜、資料配布や参考文献紹介を行います。辞書必携。				
オフィスアワー	月曜日12:20～13:00、場所は事前にアポイントメントを取った際に決めます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	課題のニュース記事を読み、理解できない点は質問できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 13 (Language schools eyed to prep Asian workers for Japan) Reading/Grammar/Composition
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（30分）
2	事前学習	課題のニュース記事を読み、理解できない点は質問できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 14 (shopping app tested to reduce food loss) Reading/Grammar/Composition
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（30分）
3	事前学習	課題のニュース記事を読み、理解できない点は質問できるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit 15 (Saudi women score right to watch soccer in stadium) Reading/Grammar/Composition
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（30分）
4	事前学習	Unit 15までに学習した箇所の語彙や文法を復習しテストに臨む。（60分）
	授業内容	テスト及び振り返り
	事後学習	振り返りの内容を確認する。（30分）

5	事前学習	課題のニュース記事を読み、理解できない点は質問できるようにしておく。（３０分）
	授業内容	Unit 16 (Oxfam to focus on wealth gap at upcoming economic forum) Reading/Grammar/Composition
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（３０分）
6	事前学習	課題のニュース記事を読み、理解できない点は質問できるようにしておく。（３０分）
	授業内容	Unit 17 (Lack of oxygen hurting corals in world's oceans) Reading/Grammar/Composition
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（３０分）
7	事前学習	課題のニュース記事を読み、理解できない点は質問できるようにしておく。（３０分）
	授業内容	Unit 18 (Translation systems eyed for '20 reads facial expressions) Reading/Grammar/Composition
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（３０分）
8	事前学習	課題のニュース記事を読み、理解できない点は質問できるようにしておく。（３０分）
	授業内容	Unit 19 (NASA seeks skiers to measure snowpack) Reading/Grammar/Composition
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（３０分）
9	事前学習	課題のニュース記事を読み、理解できない点は質問できるようにしておく。（３０分）
	授業内容	Unit 20 (U.S. states promoting civil rights tourism) Reading/Grammar/Composition
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（３０分）
10	事前学習	Unit 20までに学習した箇所の語彙や文法を復習しテストに臨む。（６０分）
	授業内容	テスト及び振り返り
	事後学習	振り返りの内容を確認する。（３０分）
11	事前学習	各トピックについて自分の意見を英語でまとめる。（３０分）
	授業内容	プレゼンとディスカッション
	事後学習	発表した内容及び英語を訂正する。（３０分）
12	事前学習	各トピックについて自分の意見を英語でまとめる。（３０分）
	授業内容	プレゼンとディスカッション
	事後学習	発表した内容及び英語を訂正する。（３０分）
13	事前学習	各トピックについて自分の意見を英語でまとめる。（３０分）
	授業内容	プレゼンとディスカッション
	事後学習	発表した内容及び英語を訂正する。（３０分）
14	事前学習	各トピックについて自分の意見を英語でまとめる。（３０分）
	授業内容	プレゼンとディスカッション
	事後学習	発表した内容及び英語を訂正する。（３０分）
15	事前学習	1年を通して学習したニュース英語の特徴を復習する。（３０分）
	授業内容	講評と振り返り
	事後学習	1年間で学習したことを踏まえ、さらに英語の実力をつける努力しつつ、次年度の英語の授業に備える。（３０分）

科目名	英語B【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	殺人事件に関する陪審員の審議を扱ったアメリカのTVドラマ台本を基本教材とし、法廷/法律にまつわる英語に親しみながら、コンテキストを重視した読解力を身につけます。					
授業目的・到達目標	専門分野の英文原書読解や英語の資格試験（TOEIC, TOEFL, 英検等）等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することが目的です。 アメリカの陪審制度やデモクラシーについて一定の見識を持ち、英文のコンテキストを理解し、説明できるようになることが目標です。対応DP及びCP：外国語科目領域3， 6					
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。					
授業方法	発表やグループワーク等を中心とした参加型の授業をおこないます。適宜ビデオを使います。小テストは実施した翌週に返却。テストの講評・解説を後日ポータルシステムで配信します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		テスト40%，平常点（発表・小テスト・予習・授業参加度等）60%。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	1995/2010	開文社		Twelve Angry Men		Reginald Rose
	備考					
参考書	授業時に指示する。					
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は授業終了後教室で、または水曜日12:30-13:30に435研究室で対応する。 E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読する。（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	授業内容を振り返る。（30分）
2	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act III, pp. 29-32／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
3	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act III, pp. 32-35／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
4	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act III, pp. 35-38／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）

5	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Act III, pp. 38-41／英語構造・文法事項の確認
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
6	事前学習	Act III を振り返り、理解が不十分な点等を再確認する。（30分）
	授業内容	Act III のまとめ／関連ビデオを視聴する
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
7	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Selection from Act I の内容をグループで確認・理解・解釈 Casting, Rehearsal（読み合わせ）, Presentation（グループ朗読）
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
8	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら疑問点を整理し、質問事項をまとめる。（30分）
	授業内容	Selection from Act II の内容をグループで確認・理解・解釈 Casting, Rehearsal（読み合わせ）, Presentation（グループ朗読）
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
9	事前学習	当該箇所を熟読・音読しながら理解を深め、疑問点を整理する。（30分）
	授業内容	グループワーク（collaboration）1 Casting, Rehearsal（読み合わせ）
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
10	事前学習	当該箇所を音読し、セリフを覚える。（30分）
	授業内容	グループワーク（collaboration）2 Rehearsal（動きを入れる）
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
11	事前学習	当該箇所を音読し、場面の理解を深め、セリフを覚える。（30分）
	授業内容	グループワーク（collaboration）3 Rehearsal（何を伝えるのか確認する）
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
12	事前学習	当該箇所を音読し、場面の理解とセリフの再確認。（30分）
	授業内容	グループ発表（presentation）／振り返りと相互評価 1
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
13	事前学習	当該箇所を音読し、場面の理解とセリフの再確認。（30分）
	授業内容	グループ発表（presentation）／振り返りと相互評価 2
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
14	事前学習	後期を振り返りながら学習内容を整理する。（30分）
	授業内容	まとめ・後期を振り返る
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
15	事前学習	後期を振り返りながら学習内容を整理し、理解を深める。（30分）
	授業内容	後期の目標到達度を確認する
	事後学習	後期で学んだことを整理する。（30分）

科目名	英語B【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	辻岡 宏子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	海外の慣習、文化についての知識を深めるとともに、リーディングの内容を理解し正確な情報を得るための語彙や表現の習得を目指します。 グループワークやペアワークを通して、能動的に学ぶ態度やスキルの習得を目指します。					
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要リーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 リーディングの内容を理解し正確な情報を得るための語彙や表現の習得及び、外部試験のリーディング・文法のパートで高得点をとることを目標とします。 対応D P 及びC P：外国語科目領域3， 6					
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。 30分以上の遅刻は欠席とします。					
授業方法	授業に積極的に参加することが求められます。 授業内で講評、解説等のフィードバックを行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業参加態度、ペアワーク、グループワーク貢献度 宿題、授業課題、テスト等	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2004	Oxford University Press		Identity		Shauls, Tsujioka, Iida
	2014	Nan'undo		A Shorter Course in Expressions for Everyday Actions		
	備考					
参考書	英和、和英辞書（電子辞書可）					
オフィスアワー	授業の後に授業講堂に来て下さい。 水曜日12:10-12:20					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	課題 discovery in summer(30分)
	授業内容	communication styles 1
	事後学習	ジャーナル 1授業振り返り (30分)
2	事前学習	課題 counseling(30分)
	授業内容	communication styles 2
	事後学習	ジャーナル 2授業振り返り (30分)
3	事前学習	課題 daily events(30分)
	授業内容	gender and culture 1
	事後学習	ジャーナル 3授業振り返り (30分)
4	事前学習	課題 social issues(30分)
	授業内容	gender and culture 2
	事後学習	ジャーナル 4 授業振り返り (30分)

5	事前学習	課題 news report(30分)
	授業内容	diversity 1
	事後学習	ジャーナル 5 授業振り返り (30分)
6	事前学習	課題 diversity in Japan(30分)
	授業内容	diversity 2
	事後学習	ジャーナル 6 授業振り返り (30分)
7	事前学習	課題 news report(30分)
	授業内容	social change 1
	事後学習	ジャーナル 6 授業振り返り(30分)
8	事前学習	課題 your opinion(30分)
	授業内容	social change 2
	事後学習	ジャーナル 7 授業振り返り(30分)
9	事前学習	課題 project preparation(30分)
	授業内容	projects 1
	事後学習	ジャーナル 8 授業振り返り(30分)
10	事前学習	課題 project preparation, evaluation(30分)
	授業内容	projects 2
	事後学習	ジャーナル 9 授業振り返り(30分)
11	事前学習	課題 current events(30分)
	授業内容	global community 1
	事後学習	ジャーナル 10 授業振り返り (30分)
12	事前学習	課題 good leader(30分)
	授業内容	global community 2
	事後学習	ジャーナル 11 授業振り返り(30分)
13	事前学習	課題 grammar review(30分)
	授業内容	TOEIC test
	事後学習	ジャーナル 12授業振り返り (30分)
14	事前学習	後期学習の復習(30分)
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	到達度の振り返り(30分)
15	事前学習	課題 vocabulary review(30分)
	授業内容	リフレクション
	事後学習	ジャーナル 13 まとめ(30分)

科目名	英語B【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	小倉 浩子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英文読解の授業です。使用するテキストは、ロンドン在住の著者がイギリスの文化や歴史に触れながらイギリスの今を語る英文エッセイ集です。語句や文法に留意しながら、丹念に英文を読み進める場にしたいと思います。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6					
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。					
授業方法	輪読形式。テキストのユニットごとに小テストを行う予定です。小テストや試験は次の授業で返却し、解答の確認・解説を行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業への参加度、小テストや試験の結果を総合的に評価。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018年	成美堂		鼓動するイギリス		John H. Randle、 棕平淳
	備考					
参考書	適宜紹介します。					
オフィスアワー	火曜10時30～ 授業終了後の講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通す。テキストの後半に目を通す。（30分）
	授業内容	ガイドランス 英語Aに照らして授業の進め方を説明。関連資料を配布して内容を確認。英語学習（特にTOEIC）について話をする。
	事後学習	ガイドランスを振り返る。（30分）
2	事前学習	テキストUnit 11 のVocabulary in Focus で重要語を確認する。Reading Comprehension を一読する。（30分）
	授業内容	Unit 11 The Japanese in Britain Reading Comprehension の精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
3	事前学習	テキストUnit 12 のVocabulary in Focus で重要語を確認する。Reading Comprehension を一読する。（30分）
	授業内容	Unit 12 Health Matters Reading Comprehension の精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
4	事前学習	テキストUnit 13 のVocabulary in Focus で重要語を確認する。Reading Comprehension を一読する。（30分）
	授業内容	Unit 13 The House of Windsor:Crisis and Continuity Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）

5	事前学習	テキストUnit 14 のVocabulary in Focus で重要語を確認する。Reading Comprehension を一読する。 (30分)
	授業内容	Unit 14 The Changing London Skyline Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。 (30分)
6	事前学習	テキストUnit 15 のVocabulary in Focus で重要語を確認する。Reading Comprehension を一読する。 (30分)
	授業内容	Unit 15 Women's Rights:A Look through History Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。 (30分)
7	事前学習	テキストUnit 15までの授業の復習をする。 (30分)
	授業内容	Unit 11 ～Unit 15のまとめ
	事後学習	Unit 15までの授業のまとめを振り返る。 (30分)
8	事前学習	テキストUnit 16 のVocabulary in Focus で重要語を確認する。Reading Comprehension を一読する。 (30分)
	授業内容	Unit 16 Women in Britain Today : A Report Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。 (30分)
9	事前学習	テキストUnit 17 のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehension を一読する。 (30分)
	授業内容	Unit 17 The White Rose of York Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。 (30分)
10	事前学習	テキストUnit 18 のVocabulary in Focus で重要語を確認する。Reading Comprehension を一読する。 (30分)
	授業内容	Unit 18 Charles Dickens:Childhood and Christmas Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。 (30分)
11	事前学習	テキストUnit 19 のVocabulary in Focus で重要語を確認する。Reading Comprehension を一読する。 (30分)
	授業内容	Unit 19 The Great British Bake Off Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。 (30分)
12	事前学習	テキストUnit 20 のVocabulary in Focus で重要語を確認する。Reading Comprehension を一読する。 (30分)
	授業内容	Unit 20 Brits Abroad Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。 (30分)
13	事前学習	テキストUnit 16以降の授業を復習する。 (30分)
	授業内容	Unit 16 ～ Unit 20 のまとめ
	事後学習	Unit 16以降の授業のまとめを振り返る。 (30分)
14	事前学習	試験に向けて学習する。 (30分)
	授業内容	授業内試験及びまとめ
	事後学習	試験への取り組みなどを反省する。 (30分)
15	事前学習	テキストUnit 11 ～Unit 20 の語句や内容を再確認する。 (30分)
	授業内容	授業内試験後のまとめ
	事後学習	後期授業を振り返る。 (30分)

科目名	英語B【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	新聞記事を編集したテキストを使用して英字新聞の形式に慣れ、英文全体の内容を把握しながら一文ずつ正確に読めるようにします。そのため、テキスト以外の英文も授業の中で読んでいく。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】英字新聞を辞書を使わずに読めるようになることとTOEICテストのための基礎力を養い、TOEICスコア450点以上を獲得できることを目標とします。関連DP及びCP：外国語科目領域3, 6					
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。授業回数の1/3以上欠席すると単位は取得できない。英和辞書を毎回持参すること。携帯、スマホの使用は認めない。					
授業方法	授業は演習形式で行い、テキストのUnit一つを2回で終わらす。1回目はReadingの英文を中心に、2回目はExerciseを中心に学生が発表する。詳しいことは1回目の授業で説明する。 適宜小テストを行い、返却する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		学期末試験50%、小テストや授業内の発表など50%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019年	朝日出版社		15章版：ニュースメディアの英語2019年度版		高橋、他2名協調
	備考					
参考書	英和辞書 総合英語「Forest」（桐原書店）					
オフィスアワー	授業講堂：火曜日9時～12時10分/木曜日13時～14時10分					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの前期に学習したところを見直して、後期に進むテキストの範囲全体を見ておく。(30分)
	授業内容	英語Bの履修についての説明と注意、Reading、Listening練習問題
	事後学習	授業で使ったReading、Listening練習問題の復習。(30分)
2	事前学習	Unit 7 ' Van Gough's obsession with Japan':Words and Phrases/ Summary/ Readingの分からない語、語句は辞書で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 7 ' Van Gough's obsession with Japan':Words and Phrasesと Summaryの答え合わせ/ Reading-本文を段落ごとに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説
	事後学習	Unit 7 ' Van Gough's obsession with Japan': 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)
3	事前学習	Unit 7 ' Van Gough's obsession with Japan': ：英文の内容をまとめる。True or FalseとVocabularyの問題を解く。(30分)
	授業内容	Unit 7 ' Van Gough's obsession with Japan': Readingの復習/ True or FalseとVocabularyの答え合わせ
	事後学習	Unit 7 ' Van Gough's obsession with Japan':Readingの内容とTrue or FalseとVocabularyを復習(30分)
4	事前学習	Unit 8 'Fish Instead of Flamin 'Hot Cheetos, and Feeling Lost': Words and Phrases/ Summary/ Readingの分からない語、語句は辞書で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 8 'Fish Instead of Flamin 'Hot Cheetos, and Feeling Lost':Words and Phrasesと Summaryの答え合わせ/ Reading-本文を段落ごとに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説
	事後学習	Unit 8 'Fish Instead of Flamin 'Hot Cheetos, and Feeling Lost' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)

5	事前学習	Unit 8 'Fish Instead of Flamin 'Hot Cheetos, and Feeling Lost' : 英文の内容をまとめる。True or FalseとVocabularyの問 題を解く。(30分)
	授業内容	Unit 8 'Fish Instead of Flamin 'Hot Cheetas, and Feeling Lost' : Readingの復習/ True or FalseとVocabularyの答え合わせ
	事後学習	Unit 8 'Fish Instead of Flamin 'Hot Cheetas, and Feeling Lost' : Readingの内容とTrue or FalseとVocabularyを復習(30分)
6	事前学習	Unit 9 'Ohtani fans six, earns victory in MLB pitching debut' : Words and Phrases/ Summary/ Readingの分からない、語句は辞書 で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 9 'Ohtani fans six, earns victory in MLB pitching debut' :Words and Phrasesと Summaryの答え合わせ/ Reading-本文を段落ご とに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説
	事後学習	Unit 9 'Ohtani fans six, earns victory in MLB pitching debut' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)
7	事前学習	Unit 9 'Ohtani fans six, earns victory in MLB pitching debut' : 英文の内容をまとめる。True or FalseとVocabularyの問 題を解く。(30分)
	授業内容	Unit 9 'Ohtani fans six, earns victory in MLB pitching debut' Readingの復習/ True or FalseとVocabularyの答え合わせ
	事後学習	Unit 9 'Ohtani fans six, earns victory in MLB pitching debut' Readingの内容とTrue or FalseとVocabularyを復習(30分)
8	事前学習	Unit 10 'Saudi Arabia lightens up' :Words and Phrases/ Summary/ Readingの分からない語、語句は辞書 で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 10 'Saudi Arabia lightens up' : 英文の内容をまとめる。True or FalseとVocabularyの問 題を解く。:Words and Phrasesと Summaryの答え合わせ/ Reading-本文を段落ご とに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説
	事後学習	Unit 10 'Saudi Arabia lightens up' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)
9	事前学習	Unit 10 'Saudi Arabia lightens up' : 英文の内容をまとめる。True or FalseとVocabularyの問 題を解く。(30分)
	授業内容	Unit 10 'Saudi Arabia lightens up' Readingの復習/ True or FalseとVocabularyの答え合わせ
	事後学習	Unit 10 'Saudi Arabia lightens up' Readingの内容とTrue or FalseとVocabularyを復習。(30分)
10	事前学習	Unit 11 'Bitcoin comes to campus' : Words and Phrases/ Summary/ Readingの分からない語、語句は辞書 で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 11 'Bitcoin comes to campus' : :Words and Phrasesと Summaryの答え合わせ/ Reading-本文を段落ご とに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説
	事後学習	Unit 11 'Bitcoin comes to campus' : 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)
11	事前学習	Unit 11 'Bitcoin comes to campus' :英文の内容をまとめる。True or FalseとVocabularyの問 題を解く。(30分)
	授業内容	Unit 11 'Bitcoin comes to campus' : Readingの復習/ True or FalseとVocabularyの答え合わせ
	事後学習	Unit 11 'Bitcoin comes to campus' :Readingの内容とTrue or FalseとVocabularyを復習(30分)
12	事前学習	Unit 12 'Horrors still await young Rohingya' : Words and Phrases/ Summary/ Readingの分からない語、語句は辞書 で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 12 'Horrors still await young Rohingya' : :Words and Phrasesと Summaryの答え合わせ/ Reading-本文を段落ご とに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説
	事後学習	Unit 12 'Horrors still await young Rohingya' : 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)
13	事前学習	Unit 12 'Horrors still await young Rohingya' : 英文の内容をまとめる。True or FalseとVocabularyの問 題を解く。(30分)
	授業内容	Unit 12 'Horrors still await young Rohingya' : Readingの復習/ True or FalseとVocabularyの答え合わせ
	事後学習	Unit 12 'Horrors still await young Rohingya' :Readingの内容とTrue or FalseとVocabularyを復習(30分)
14	事前学習	Unit 7 ~ Unit 12までの復習して授業内試験の勉強をする。(30分)
	授業内容	授業内試験及び後期授業の振り返り
	事後学習	Unit 7 ~ Unit 12までの内容を復習をする。(30分)
15	事前学習	後期授業の総復習。(30分)
	授業内容	Readingのプリントを読んで問題を解く。英文の解説
	事後学習	授業で読んだ英文の内容をもう一度見直す。解釈を間違えたところを復習。(30分)

科目名	英語B【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	山田 潤治	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	大学生としての英語基礎力を身につける演習授業。英語Bでは文法・英文読解を中心に演習する。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身につけ、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 関連D P 及びC P：外国語科目領域3、6			
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受検を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。			
授業方法	テキストの指定された範囲の演習問題を自宅です前学習します。講義では、重要項目を説明した上で、演習問題の解答確認をしていきます。 小テストを行い、返却します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	小テストの成績（50％）。授業の予習状況（50％）	
教科書	年	出版社	書名	著者名
		Pearson	Focus on Grammar 3	Fuchs, Bonner, Westheimer
		Jリサーチ出版	TOEIC TEST必ず☆でる単スピードマスター	成重寿
	備考			
参 考 書	大学生にふさわしい辞書、参考書について、初回授業時に詳しく説明いたします。			
オフィスアワー	授業終了後（火曜：10：30～）授業講堂にて メールにてアポイントを取ることが望ましいです。 junji%y.email.ne.jp（%は、@に変換する）まで電子メールで連絡ください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	PART 4 Modals and Similar Expressions UNIT 15 Requests: Can, Could, Will, Would, Would you mind (pp.202-212) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。（30分）
	授業内容	PART 4 Modals and Similar Expressions UNIT 15 Requests: Can, Could, Will, Would, Would you mind
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 15 Review (p.213) (30分)
2	事前学習	PART 4 Modals and Similar Expressions UNIT 16 Advice: Should, Ought to, Had better (pp.214-226) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。（30分）
	授業内容	PART 4 Modals and Similar Expressions UNIT 16 Advice: Should, Ought to, Had better (pp.214-226)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 16 Review (p.227) (30分)
3	事前学習	PART 5 Nouns, Quantifiers, and Articles UNIT 17 Nouns and Quantifiers (pp.230-241) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。（30分）
	授業内容	PART 5 Nouns, Quantifiers, and Articles UNIT 17 Nouns and Quantifiers (pp.230-241)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 17 Review (p.242) (30分)
4	事前学習	PART 5 Nouns, Quantifiers, and Articles UNIT 18 Articles: Indefinite and Definite (pp.243-256) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。（30分）
	授業内容	PART 5 Nouns, Quantifiers, and Articles UNIT 18 Articles: Indefinite and Definite (pp.243-256)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 18 Review (p.257) (30分)

5	事前学習	PART 6 Adjectives and Adverbs UNIT 19 Adjectives and Adverbs (pp.260-274) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	PART 6 Adjectives and Adverbs UNIT 19 Adjectives and Adverbs (pp.260-274)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 19 Review (p.275) (30分)
6	事前学習	PART 6 Adjectives and Adverbs UNIT 20 Adjectives: Comparisons with As...as and Than (pp.276-288) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	PART 6 Adjectives and Adverbs UNIT 20 Adjectives: Comparisons with As...as and Than (pp.276-288)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 20 Review (p.289) (30分)
7	事前学習	PART 6 Adjectives and Adverbs UNIT 21 Adjectives: Superlatives (pp.290-300) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	PART 6 Adjectives and Adverbs UNIT 21 Adjectives: Superlatives (pp.290-300)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 Unit 21 Review (p.301) (30分)
8	事前学習	PART 6 Adjectives and Adverbs UNIT 22 Adverbs: As ...as, Comparatives, Superlatives (pp.302-314) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	PART 6 Adjectives and Adverbs UNIT 22 Adverbs: As ...as, Comparatives, Superlatives (pp.302-314)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。(30分) Unit 22 Review (p.315)
9	事前学習	Part 7 Gerunds and Infinitives UNIT 23 Gerunds: Subject and Object (pp.318-328) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 7 Gerunds and Infinitives UNIT 23 Gerunds: Subject and Object (pp.318-328)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 23 Review (p.329) (30分)
10	事前学習	Part 7 Gerunds and Infinitives UNIT 24 Infinitive After Certain Verbs (pp.330-340) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 7 Gerunds and Infinitives UNIT 24 Infinitive After Certain Verbs (pp.330-340)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 24 Review (p.341) (30分)
11	事前学習	Part 7 Gerunds and Infinitives UNIT 25 More Uses of Infinitives (pp.342-353) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。
	授業内容	Part 7 Gerunds and Infinitives UNIT 25 More Uses of Infinitives (pp.342-353)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 25 Review (p.354) (30分)
12	事前学習	Part 7 Gerunds and Infinitives UNIT 26 Gerunds and Infinitives (pp.355-366) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 7 Gerunds and Infinitives UNIT 26 Gerunds and Infinitives (pp.355-366)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 26 Review (p.367) (30分)
13	事前学習	Part 8 Pronouns and Phrasal Verbs UNIT 27 Reflexive and Reciprocal Pronouns (pp.370-382) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 8 Pronouns and Phrasal Verbs UNIT 27 Reflexive and Reciprocal Pronouns (pp.370-382)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 27 Review (p.383) (30分)
14	事前学習	Part 8 Pronouns and Phrasal Verbs UNIT 28 Phrasal Verbs (pp.384-364) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 4 Modals and Similar Expressions UNIT 28 Phrasal Verbs (pp.384-364)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 13 Review (p.188) (30分)
15	事前学習	これまでの学修成果を見直す (30分)
	授業内容	これまでの学修成果を振り返り、学修の進捗を自分で評価する。
	事後学習	ノートおよびテキストの管理と、今後の活用方法を決める。(30分)

科目名	英語B【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	P.カレンダー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This course will improve your speaking and listening skills through practicing conversations and listening by native speakers in different situations. Then there is simple conversation practice, usually between two students.				
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 This course is designed to help students develop their communication skills in focusing on discussion and listening skills based on structured conversation and listening exercises. 関連DP／CP：3, 6				
履修条件	新聞学科1年生学生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。				
授業方法	This course has a level of speaking, listening, pronunciation and free conversation practice.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	50% = two speaking tests of 25% each 25% = participation and effort 25% = active participation	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019	Oxford University Press	Speak Now 2 ISBN 978-0-19-403016-8		Jack C. Richards, David Bohlke
	備考	English learners dictionary or an electronic dictionary			
参考書	English learners dictionary or an electronic dictionary.				
オフィスアワー	paulkallender@gmail.com. Attention Dr. Kallender. Contact if you are going to miss a lesson, or if you have missed a lesson. Explain why. Please ask questions after the class (Tuesday 1st period) at classroom.				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please make sure to check you have your textbook in advance (30min)
	授業内容	Course outline, expectations, testing, attendance, etc. Unit 1: Where are you from?
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
2	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 2, 3 & 4: I'm tall and thin / Alice is more serious / All of my friends text
	事後学習	Please make sure to complete all the exercises up to this point. (30min)
3	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 5, 6 & 7: I've never had Thai food / First grill the bread / The service is great
	事後学習	Please make sure to complete all the exercises up to this point (30min)
4	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 8, 9 & 10: Are you ready to order? / I have a sore throat / What should I do?
	事後学習	Please make sure to complete all the exercises up to this point. (30min)

5	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 11, 12 & 13: I' d love to try that / Soccer is more exciting! / I can write poetry pretty well
	事後学習	Please make sure to complete all the exercises up to this point. (30min)
6	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 14, 15, & 16: I' d have to have... / I travel for free/ Is the manager there?
	事後学習	Please reflect on mistakes made (30min)
7	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Review exercises Units 1-4, 5-8, 9-12 and 13-16 swapping partners
	事後学習	Please make a note of mistakes(30min)
8	事前学習	Please review Units 1-16 before test (30min)
	授業内容	Mid-Term Test
	事後学習	Please review weaknesses(30min)
9	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 17, 18, & 19: That sounds fun! / I' d love to go / I' m sorry but I can' t
	事後学習	Please make sure to complete all the exercises up to this point. (30min)
10	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 20, 21, & 22: I' m sorry I' m late / Did you go alone? / Which do you prefer?
	事後学習	Please make sure to complete all the exercises up to this point. (30min)
11	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 23, 24, & 25: You must get a visa / When is the next train? / I usually wear...
	事後学習	Please make sure to complete all the exercises up to this point(30min)
12	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 26, 27, & 28: What do you think?/ Can you do me a favor? / What is it used for?
	事後学習	Please make sure to complete all the exercises up to this point(30min)
13	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 29, 30, & 31: I think it' s fun!/ I feel the same way/ What would you do?
	事後学習	Please make sure to complete all the exercises up to this point. (30min)
14	事前学習	Make sure to read the lesson beforehand (30min)
	授業内容	Unit 32: Then what happened? Review exercises Units 17-20, 21-24, 25-28 and 29-32 swapping partners
	事後学習	Please make a note of mistakes(30min)
15	事前学習	Please review Units 17-32 before test (30min)
	授業内容	End-of-Term Test Review 解説
	事後学習	Please keep your textbook for follow-up (30min)

科目名	英語B【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語のリーディング、文法を中心に学習します。					
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。英文を素早く読んで、情報を正確に読み取ることが出来るようになることを目指します。 関連DP及びCP：外国語科目領域3， 6					
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。					
授業方法	実践演習をして解説をします。 毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施します。返却後は復習しておくこと。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%		学期末授業内試験を実施します。また毎回、単語テストを行い、総合的に判断します。	
	平常評価		100%			
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	南雲堂		Global Issues Towards Peace		達川奎三、他
	備考	なし				
参考書	飛田茂雄（編）『現代英米情報辞典』研究社 参考書を購入する必要はない。適宜図書館等で参照すること。					
オフィスアワー	水曜日16：20-17：50（4号館1階） 連絡先：mizumoto.koji*nihon-u.ac.jp　、「メールする場合は*を@に変えて使って下さい」					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
2	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Atomic weapons 1-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
3	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Atomic weapons 1-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
4	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Genocide and crimes against humanity 2-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）

5	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Genocide and crimes against humanity 2-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
6	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Landmines 3-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
7	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Landmines 3-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
8	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Refugees 4-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
9	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Refugees 4-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
10	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Nelson Mandra 5-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
11	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Nelson Mandra 5-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
12	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Aung San Suu Kyi 6-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
13	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Aung San Suu Kyi 6-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
14	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	The Red Cross and Red Crescent Movement 7
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
15	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	復習、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）

科目名	英語B【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験のための基礎固めをします。講師は、東進ハイスクール初代英語講師、旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送）、日本実用英語検定協会英検セミナー講師、オレゴン州立大学語学研修引率（アクト・コーポレーション主催）などの実務経験を生かした授業を展開する。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解に必要なリーディング、語彙力、文法の基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】受講生は、1100 Words You Need to Know、およびBasic Word Listの単語をすべて覚え、1分間で250語程度読めるようになることを目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域3、6			
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。ノート検査をする。将来的に英語が人生の重要な要素となることを自覚すること。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Aと通年で履修すること。			
授業方法	演習方式。毎時間リーディング・テストと単語テストを実施し、次の授業で返却を行う。テストの得点は加算され、順位を出す。また授業計画に変更が生じた場合には、そのつどプリントないしは口頭にて受講生に知らせる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	諸テストの得点を加算して順位を出して評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	Barron	Basic Word List	Brownstein
	備考	1100 Words You Need to Knowはプリントを使用		
参考書	リーダーズ英和辞典			
オフィスアワー	水曜日、お昼休み、9107研究室にて（事前にメールで予約をとること）、英語全般、留学、海外の大学院進学などの相談を受け付ける。メールにての相談は随時受け付ける。morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス記載事項の熟読（30分）
	授業内容	Introduction、シラバス記載事項の確認、その他評価方法、シラバスに記載できなかった授業内容について説明する
	事後学習	配布されたプリントを熟読する（30分）
2	事前学習	1100 Words You Need to Know、およびBasic Word List、そして前期に配布されたプリントの単語を覚え、5週目からの単語テストに備える。（30分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know、Week 15、対等関係について
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（30分）
3	事前学習	1100 Words You Need to Know、およびBasic Word List、そして前期に配布されたプリントの単語を覚え、5週目からの単語テストに備える。（30分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know、Week 16、語順について
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（30分）
4	事前学習	1100 Words You Need to Know、およびBasic Word List、そして前期に配布されたプリントの単語を覚え、5週目からの単語テストに備える。（30分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know、Week 17、要約文について
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（30分）

5	事前学習	生活用語（プリント）の単語を覚える（３０分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 18、強調語について、生活用語の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）
6	事前学習	医学用語（プリント）の単語を覚える（３０分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 19、関係代名詞について、医学用語の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）
7	事前学習	政治経済用語（プリント）の単語を覚える（３０分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 20、限定用法について、政治経済用語の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）
8	事前学習	文学用語（プリント）の単語を覚える（３０分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 21、不定詞について、文学用語の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）
9	事前学習	Basic Word List（見出し語のみ）A-Hまでの単語を覚える（３０分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 22、動名詞について、Basic Word List（見出し語のみ）A-Hの単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）
10	事前学習	BWL（見出し語のみ）I-Zまでの単語を覚える（３０分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 23、仮定法について、BWL（見出し語のみ）I-Zの単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）
11	事前学習	1100 Words You Need to Know(new wordsのみ全部)の単語を覚える（３０分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 24、現在形について、1100 Words You Need to Know(new wordsのみ全部)の単語テスト
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）
12	事前学習	1100 Words とBWL（見出し語のみ全部)の単語を覚える（１）（３０分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 25、時制について、1100 Words とBWL（見出し語のみ全部)の単語テスト（１）
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）
13	事前学習	1100 Words とBWL（見出し語のみ全部)の単語を覚える（２）（３０分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 26、名詞について、1100 Words とBWL（見出し語のみ全部)の単語テスト（２）
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）
14	事前学習	1100 Words とBWLのすべての単語を覚える（１）（３０分）
	授業内容	1100 Words You Need to Know, Week 27、動詞について、1100 Words とBWLのすべての単語テスト（１）
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）
15	事前学習	1100 Words とBWLのすべての単語を覚える（２）（３０分）
	授業内容	まとめ、1100 Words とBWLのすべての単語テスト（２）
	事後学習	授業でやったリーディングのテストの復習、単語の暗記（３０分）

科目名	英語B【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	小倉 浩子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英文読解の授業です。使用するテキストは、ロンドン在住の著者がイギリスの文化や歴史に触れながらイギリスの今を語る英文エッセイ集です。語句や文法に留意しながら、丹念に英文を読み進める場にしたいと思います。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。対応DP及びCP：外国語科目領域3,6					
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。					
授業方法	輪読形式。テキストのユニットごとに小テストを行う予定です。小テストや試験は次の授業で返却し、解答の確認・解説を行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業への参加度、小テストや試験の結果を総合的に評価。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018年	成美堂		鼓動するイギリス		John H. Randle、 棕平淳
	備考					
参考書	適宜紹介します。					
オフィスアワー	火曜12：10～授業終了後の講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通す。テキストの後半に目を通す。（30分）
	授業内容	ガイダンス 英語Aに照らして授業の進め方を説明。関連資料を配布して内容を確認。英語学習（特にTOEIC）について話をする。
	事後学習	ガイダンスを振り返る。（30分）
2	事前学習	テキストUnit 11のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 11 The Japanese in Britain Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
3	事前学習	テキストUnit 12のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 12 Health Matters Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
4	事前学習	テキストUnit 13のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 13 The House of Windsor：Crisis and Continuity Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）

5	事前学習	テキストUnit 14のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 14 The Changing London Skyline Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
6	事前学習	テキストUnit 15のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 15 Women's Rights : A Look through History Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
7	事前学習	テキストUnit 15までの授業を復習する。（30分）
	授業内容	Unit 11 ～Unit 15のまとめ
	事後学習	Unit 15までの授業のまとめを振り返る。（30分）
8	事前学習	テキストUnit 16のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 16 Women in Britain Today : A Report Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
9	事前学習	テキストUnit 17のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 17 The White Rose of York Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
10	事前学習	テキストUnit 18のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 18 Charles Dickens : Childhood and Christmas Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
11	事前学習	テキストUnit 19のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 19 The Great British Bake Off Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
12	事前学習	テキストUnit 20のVocabulary in Focusで重要語を確認する。Reading Comprehensionを一読する。（30分）
	授業内容	Unit 20 Brits Abroad Reading Comprehensionの精読。各練習問題の解答の確認・解説など。
	事後学習	Reading Comprehensionを読み直す。（30分）
13	事前学習	テキストUnit 16以降の授業の復習をする。（30分）
	授業内容	Unit 16 ～Unit 20のまとめ
	事後学習	Unit 16以降の授業のまとめを振り返る。（30分）
14	事前学習	試験に向けて学習する。（30分）
	授業内容	授業内試験及びまとめ
	事後学習	試験への取り組みなどを反省する。（30分）
15	事前学習	テキストUnit 11 ～Unit 20の語句や内容を再確認する。（30分）
	授業内容	授業内試験後のまとめ
	事後学習	後期授業を振り返る。（30分）

科目名	英語B【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	堀 千和子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代社会の問題をトピックにした教科書を使用します。比較的わかりやすい英語を聞き取り、内容を理解し、重要語彙や表現を学びます。学んだ英語を定着させるために、シャドーイングや音読も行います。				
授業目的・到達目標	[授業目的]TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 [授業目標]TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3，6				
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修して下さい。				
授業方法	教科書のエクササイズに沿って、聴解と読解を行っていきます。文法事項や重要表現を学習した後、シャドーイングや発話練習を行って、知識を定着させます。 シャドーイングや発話練習については、都度解説・講評を行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	中間試験 30%、 期末試験 35%、提出物（読書記録表）5 %、 授業への貢献度 10%、グループ・プレゼンテーション 10%、音読のチェック 10%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	金星堂		Pleasure in Reading Aloud and Retelling	Anthony P. Newell、山口高領
	備考				
参考書	英和辞書、英英辞典				
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業終了後（火曜：昼休み。講堂にて）またはE-mailにて対応します。授業開始時にアドレスをお知らせします。授業関連の連絡は大学ポータルを使用します。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の学習を振り返り、英語の資格試験などの後期の目標を考えておく。(30分)
	授業内容	ガイダンス、語彙・文法の振り返り、英語ニュース
	事後学習	音声のダウンロードの準備をする。後期分のテキストにざっと目を通す。(30分)
2	事前学習	教科書Unit 8のパスセージに目を通し、だいたいの内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	教科書 Unit 8の1「日常生活の問題を解決するには」内容把握、文法項目の説明
	事後学習	既習事項の復習をする。課題の英作文をする。(30分)
3	事前学習	授業で学んだ英文を復習し、ワークシートを完成させる。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 8の2 「日常生活の問題を解決するには」音読の練習、グループワーク、ストーリーの再現
	事後学習	学習した英文を使用し、音声の後について発音の練習をする。(30分)
4	事前学習	教科書Unit 9の英文のだいたいの内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 9の1「異文化理解」内容把握、文法項目の説明
	事後学習	学習した英文を使用し、音声の後について発音の練習をする。(30分)

5	事前学習	授業で学んだ英文を復習し、ワークシートを完成させる。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 9の2 「異文化理解」音読の練習、グループワーク、ストーリーの再現
	事後学習	学習した教科書の英文を使用し、音声の後について発音の練習をする。(30分)
6	事前学習	教科書Unit 10の英文のだいたいの内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 10の1「グローバルゼーション」内容把握、文法項目の説明
	事後学習	学習した英文を使用し、音声の後について発音の練習をする。(30分)
7	事前学習	授業で学んだ英文を復習し、ワークシートを完成させる。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 10の2「グローバルゼーション」音読の練習、グループワーク、ストーリーの再現
	事後学習	学習した英文を使用し、音声の後について発音の練習をする。(30分)
8	事前学習	教科書Unit 11の読み物のだいたいの内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 11の1「社会の不平等」内容把握、文法項目の説明
	事後学習	ワークシートで英文の内容を復習する。課題の英作文をする。(30分)
9	事前学習	授業で学んだ英文を復習し、ワークシートを完成させる。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 11の2「社会の不平等」音読の練習、グループワーク、ストーリーの再現
	事後学習	学習した読み物のスクリプトを使用し、音声の後について発音の練習をする。(30分)
10	事前学習	教科書Unit 12の読み物のだいたいの内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 12の1「環境問題」内容把握、文法項目の説明
	事後学習	ワークシートで英文の内容を復習する。課題の英作文をする。(30分)
11	事前学習	授業で学んだ英文を復習し、ワークシートを完成させる。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 12の2「環境問題」音読の練習、グループワーク、ストーリーの再現
	事後学習	学習した英文のスクリプトを使用し、音声の後について発音の練習をする。(30分)
12	事前学習	教科書Unit 13の読み物のだいたいの内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 13の1「人間関係」内容把握、文法項目の説明
	事後学習	ワークシートで英文の内容を復習する。わからない箇所があれば、質問できるようにまとめておく。(30分)
13	事前学習	教科書の読み物を復習し、ワークシートを完成させる。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 13の2「人間関係」音読の練習、グループワーク、ストーリーの再現
	事後学習	学習した英文のスクリプトを使用し、音声の後について発音の練習をする。(30分)
14	事前学習	教科書Unit 14の読み物のだいたいの内容を把握しておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 14「法律」内容把握と音読の練習
	事後学習	ワークシートで教科書の読み物の内容を復習する。音読の練習を行う。(30分)
15	事前学習	今期の学習範囲の復習を行う。ポータルにある既習事項のまとめを必ず確認する。(60分)
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り
	事後学習	理解があやふやな箇所を見直し、次年度の学習に備える。(30分)

科目名	英語B【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	山田 潤治	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	--------------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	大学生としての英語基礎力を身につける演習授業。英語Bでは文法・英文読解を中心に演習する。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身につけ、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 関連D P及びC P：外国語科目領域3、6			
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受検を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。			
授業方法	テキストの指定された範囲の演習問題を自宅です前学習します。講義では、重要項目を説明した上で、演習問題の解答確認をしていきます。 小テストを行い、返却します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	小テストの成績（50％）。授業の予習状況（50％）	
教科書	年	出版社	書名	著者名
		Pearson	Focus on Grammar 3	Fuchs, Bonner, Westheimer
		Jリサーチ出版	TOEIC TEST必ず☆でる単スピードマスター	成重寿
	備考			
参考書	大学生にふさわしい辞書、参考書について、初回授業時に詳しく説明いたします。			
オフィスアワー	授業終了後（火曜：昼休み）授業講堂にて メールにてアポイントを取ることが望ましいです。 junji%y. email. ne. jp （%は、@に変換する）まで電子メールで連絡ください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	PART 4 Modals and Similar Expressions UNIT 15 Requests: Can, Could, Will, Would, Would you mind (pp.202-212) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。 (30分)
	授業内容	PART 4 Modals and Similar Expressions UNIT 15 Requests: Can, Could, Will, Would, Would you mind
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 15 Review (p.213) (30分)
2	事前学習	PART 4 Modals and Similar Expressions UNIT 16 Advice: Should, Ought to, Had better (pp.214-226) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。 (30分)
	授業内容	PART 4 Modals and Similar Expressions UNIT 16 Advice: Should, Ought to, Had better (pp.214-226)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 16 Review (p.227) (30分)
3	事前学習	PART 5 Nouns, Quantifiers, and Articles UNIT 17 Nouns and Quantifiers (pp.230-241) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。 (30分)
	授業内容	PART 5 Nouns, Quantifiers, and Articles UNIT 17 Nouns and Quantifiers (pp.230-241)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 17 Review (p.242) (30分)
4	事前学習	PART 5 Nouns, Quantifiers, and Articles UNIT 18 Articles: Indefinite and Definite (pp.243-256) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 (30分)
	授業内容	PART 5 Nouns, Quantifiers, and Articles UNIT 18 Articles: Indefinite and Definite (pp.243-256)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 18 Review (p.257) (30分)

5	事前学習	PART 6 Adjectives and Adverbs UNIT 19 Adjectives and Adverbs (pp.260-274) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	PART 6 Adjectives and Adverbs UNIT 19 Adjectives and Adverbs (pp.260-274)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 19 Review (p.275) (30分)
6	事前学習	PART 6 Adjectives and Adverbs UNIT 20 Adjectives: Comparisons with As...as and Than (pp.276-288) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	PART 6 Adjectives and Adverbs UNIT 20 Adjectives: Comparisons with As...as and Than (pp.276-288)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 20 Review (p.289) (30分)
7	事前学習	PART 6 Adjectives and Adverbs UNIT 21 Adjectives: Superlatives (pp.290-300) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	PART 6 Adjectives and Adverbs UNIT 21 Adjectives: Superlatives (pp.290-300)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 Unit 21 Review (p.301) (30分)
8	事前学習	PART 6 Adjectives and Adverbs UNIT 22 Adverbs: As ...as, Comparatives, Superlatives (pp.302-314) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	PART 6 Adjectives and Adverbs UNIT 22 Adverbs: As ...as, Comparatives, Superlatives (pp.302-314)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 Unit 22 Review (p.315) (30分)
9	事前学習	Part 7 Gerunds and Infinitives UNIT 23 Gerunds: Subject and Object (pp.318-328) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 7 Gerunds and Infinitives UNIT 23 Gerunds: Subject and Object (pp.318-328)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 23 Review (p.329) (30分)
10	事前学習	Part 7 Gerunds and Infinitives UNIT 24 Infinitive After Certain Verbs (pp.330-340) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 7 Gerunds and Infinitives UNIT 24 Infinitive After Certain Verbs (pp.330-340)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 24 Review (p.341) (30分)
11	事前学習	Part 7 Gerunds and Infinitives UNIT 25 More Uses of Infinitives (pp.342-353) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 7 Gerunds and Infinitives UNIT 25 More Uses of Infinitives (pp.342-353)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 25 Review (p.354) (30分)
12	事前学習	Part 7 Gerunds and Infinitives UNIT 26 Gerunds and Infinitives (pp.355-366) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 7 Gerunds and Infinitives UNIT 26 Gerunds and Infinitives (pp.355-366)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 26 Review (p.367) (30分)
13	事前学習	Part 8 Pronouns and Phrasal Verbs UNIT 27 Reflexive and Reciprocal Pronouns (pp.370-382) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 8 Pronouns and Phrasal Verbs UNIT 27 Reflexive and Reciprocal Pronouns (pp.370-382)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 27 Review (p.383) (30分)
14	事前学習	Part 8 Pronouns and Phrasal Verbs UNIT 28 Phrasal Verbs (pp.384-364) の解説を読み、演習問題の解答を作成する。 TOEIC頻出単語を覚える。(30分)
	授業内容	Part 4 Modals and Similar Expressions UNIT 28 Phrasal Verbs (pp.384-364)
	事後学習	演習の間違い直しと復習、知らなかった単語や表現をすべて覚える。 UNIT 13 Review (p.188) (30分)
15	事前学習	これまでの学修成果を見直す (30分)
	授業内容	これまでの学修成果を振り返り、学修の進捗を自分で評価する。
	事後学習	ノートおよびテキストの管理と、今後の活用方法を決める。(30分)

科目名	英語B【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	瀧野 みゆき	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	インターネットなどで使われている英語を素材とし、自然な英語を読み、理解する訓練をします。英語の読みの方法を学び、多様な方法で読みながら内容への理解を深めます。授業の前半では、テーマ性のある英語の素材を読んで理解し、表現や内容・文法等について学びます。後半では、テキストの指定されたユニットを読み、英語の質問に英語で答える練習を行います。授業計画等は、状況によって、変更する可能性があります。				
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的にしています。自然な英語を日本語に訳さずに大意を理解し、必要な情報を読み取れるようになります。継続的に英語を読む習慣を身に付けられることを目指します。対応DP及びCP: 外国語科目領域3.6				
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。				
授業方法	英語の素材を読み、内容や表現を理解する練習を多様なテーマの素材を使って行います。授業の後半で読むテキストについては、授業の前に指定されたユニットを繰り返し読み、内容を理解してきてください。ミニテストは都度返却するので、復習をしておくこと。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業の参加と貢献（30%）授業内小テスト（30%）リーディングレポート（40%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2014	アルク		究極の英語リーディングVol. 2	アルク英語出版編集部
	備考				
参考書	授業で適宜指示します。				
オフィスアワー	原則として授業終了後（火曜：昼休み）。授業講堂にて。詳細は授業で指示します。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの購入と内容の確認（30分）
	授業内容	ガイダンス：リーディング力を伸ばすには、英語の読みの練習方法、授業の進め方、事前・事後学習の説明 リーディングミニテストの練習
	事後学習	授業の進め方の確認、ミニテストの復習（30分）
2	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	海外スタディツアーに行く
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
3	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	ボランティア活動をする 1
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
4	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	ボランティア活動をする 2
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）

5	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	民泊を考える 1
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
6	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	民泊を考える 2
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
7	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	海外で友人を作る 1 リーディングレポート提出 一回目（詳細は授業で指示します）
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
8	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	海外で友人を作る 2
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
9	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	クラウドファンディング 1
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
10	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	クラウドファンディング 2
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
11	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	社会起業 1
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
12	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	社会起業 2
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
13	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	海外留学をする 1
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
14	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	海外留学をする 2 リーディングレポート提出 二回目（詳細は授業で指示します）
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）
15	事前学習	テキストの指定されたユニットの読みの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多読の練習（30分）

科目名	英語B【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	河本 房子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TED Talksのコンテンツをもとに、授業内に意見交換するために内容を読み込んだ上で、自分の言葉で相手に伝える英語コミュニケーションの力をつけます。テキスト以外にも興味ある分野の文章を読み、発言できるようにします。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング、文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】国際研修や交換留学等の海外留学に必要とされる英語力を総合的に身につけ、また、TOEICやTOEFLにて高得点を獲得できるようにすることを目標とします。 対応DP及びCP: 外国語科目領域3, 6					
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。小テストを毎回実施します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業への積極的な参加。小テスト結果。期末テスト。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017	Cengage Learning		Keynote 3 ISBN-13 978 1 305 96505 8		Paul Dummett
	備考					
参考書	辞書 は毎回持参してください。参考書は必要に応じて紹介します。リスニングに慣れるため、BBC, NHK World, CNNなどの英語ニュースに普段から慣れ親しんでください。					
オフィスアワー	毎回の授業開始前（10：30～10：40）、開始後（12：10～）に授業が行われる講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Preview Unit 7 後期講義の全体を概観する。(30分)
	授業内容	Introduction Overview of the course
	事後学習	vocabulary note作成する。(30分)
2	事前学習	Preview Unit 7 Part identityについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 7 – Part 1 Identityのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)
3	事前学習	Preview Unit 7-Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 7 – Part 2 Where is home?のコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note global migrationの読解を確認する。(30分)
4	事前学習	Preview Unit 8 Part 1 commuteについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 8 – Part 1 Transportation solutionsのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)

5	事前学習	Preview Unit 8 Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 8 – Part 2 A skateboard, with a boostのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note unique commutesの読解を確認する。(30分)
6	事前学習	Preview Unit 9 Part language changeについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 9 – Part 1 New wordsのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)
7	事前学習	Preview Unit 9 Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 9 – Part 2 What makes a word “real”?のコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note Language changeの読解を確認する。(30分)
8	事前学習	Preview Unit 10 Part emotionとdigitalについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 10 – Part 1 understanding emotionsのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)
9	事前学習	Preview Unit 10 Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 10 – Part 2 This APP knows how you feelのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note Emotion in technologyの読解を確認する。(30分)
10	事前学習	Preview Unit 11 Part 1 entrepreneurについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 11 – Part 1 Leaders and thinkersのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)
11	事前学習	Preview Unit 11 Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 11 – Part 2 Life at 30,000 feetのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note lessons in businessの読解を確認する。(30分)
12	事前学習	Preview Unit 12 Part 1 work-life balanceについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 12 – Part 1 Well-beingのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)
13	事前学習	Preview Unit 12 Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 6 – Part 2 How to succeed? Get more sleetのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note Achieving work-life balanceの読解を確認をする。(30分)
14	事前学習	Review Unit 7~12 各設問を確認する。(30分)
	授業内容	Unit7~12の総復習。 小テストを返却し答え合わせと確認をする
	事後学習	Vocabulary note Review Unit 7~12 (30分)
15	事前学習	Review Unit 7~12 設問の間違った箇所を見直す。(30分)
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り。
	事後学習	Review Unit 7~12 (30分)

科目名	英語B【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験を目指すための基礎固めをし、英文の内容を辞書を使わずに把握することが出来るようにすることと英文を正確に読めるようにする。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】英字新聞を辞書を使わずに読めるようになることとTOEICテストのための基礎力を養い、TOEICスコア450点以上を獲得できることを目標とします。関連DP及びCP：外国語科目領域3， 6			
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。授業回数 の 1/3以上欠席すると単位は取得できない。英和辞書を毎回持参すること。携帯、スマホの使用は認めない。			
授業方法	授業は演習形式で行い、テキストのUnit一つを2回で終わらす。1回目はReadingの英文を中心に、2回目はExerciseを中心に学生が発表する。詳しいことは1回目の授業で説明する。 適宜小テストを行い、返却する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験			
	平 常 評 価	100%	学期末試験 5 0 %、小テストや授業内の発表など 5 0 %	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年度	金星堂	English Stream (Intermediate)	竹内、他4名共著
	備考			
参 考 書	英和辞書 総合英語「Forest」 (桐原書店)			
オフィス アワー	授業講堂：火曜日9時～12時10分/木曜日13時～14時10分			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの前期の範囲を見直して、後期に進むところを見ておく(30分)
	授業内容	英語Bの履修についての説明と注意：ReadingまたはListeningの問題を解く
	事後学習	授業で説明を受けたことを確認して、授業でやったReadingまたはListeningの問題を復習する。(30分)
2	事前学習	Unit 7 'Know Yourself, Know the Market':Pre-reading tasksの問題を解く/ Readingの分からない語、語句 は辞書 で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく (30分)
	授業内容	Unit 7 'Know Yourself, Know the Market'': Reading-本文を段落ご とに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説。
	事後学習	Unit 7 'Know Yourself, Know the Market' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)
3	事前学習	Unit 7 'Know Yourself, Know the Market' Reading：英文の内容をまとめる。Post-reading tasksを解く。(30分)
	授業内容	Unit 7 'Know Yourself, Know the Market' Readingの復習/ Post-reading tasksの答え合わせ
	事後学習	Unit 7 'Know Yourself, Know the Market' Readingの内容と英文の分からなかったところを復習/ Post-reading tasksの復習(30分)
4	事前学習	Unit 8 'Brainstorming' :Pre-reading tasksの問題を解く/ Readingの分からない語、語句 は辞書 で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 8 'Brainstorming'': Reading-本文を段落ご とに内容を確認、重要な語や語句の意味を 確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説。
	事後学習	Unit 8 'Brainstorming' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)

5	事前学習	Unit 8 'Brainstorming' Reading : 英文の内容をまとめる。Post-reading tasksを解く。(30分)
	授業内容	Unit 8 'Brainstorming' Readingの復習/ Post-reading tasksの答え合わせ
	事後学習	Unit 8 'Brainstorming' Readingの内容と英文の分からなかったところを復習/ Post-reading tasksの復習。(30分)
6	事前学習	Unit 9 'A Good Consumer' :Pre-reading tasksの問題を解く/ Readingの分からない語、語句 は辞書 で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 9 'A Good Consumer' : Reading-本文を段落ごとに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説。
	事後学習	Unit 9 'A Good Consumer' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)
7	事前学習	Unit 9 'A Good Consumer' Reading : 英文の内容をまとめる。Post-reading tasksを解く。(30分)
	授業内容	Unit 9 'A Good Consumer' Readingの復習/ Post-reading tasksの答え合わせ
	事後学習	Unit 9 'A Good Consumer' Readingの内容と英文の分からなかったところを復習/ Post-reading tasksの復習 (30分)
8	事前学習	Unit 10 'Welcome to the Hall of Fame' :Pre-reading tasksの問題を解く/ Readingの分からない語、語句 は辞書 で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 10 'Welcome to the Hall of Fame' : Reading-本文を段落ごとに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説。
	事後学習	Unit 10 'Welcome to the Hall of Fame' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)
9	事前学習	Unit 10 'Welcome to the Hall of Fame' Reading : 英文の内容をまとめる。Post-reading tasksを解く。(30分)
	授業内容	Unit 10 'Welcome to the Hall of Fame' Readingの復習/ Post-reading tasksの答え合わせ
	事後学習	Unit 10 'Welcome to the Hall of Fame' Readingの内容と英文の分からなかったところを復習/ Post-reading tasksの復習。(30分)
10	事前学習	Unit 11 'Special Circumstances' :Pre-reading tasksの問題を解く/ Readingの分からない語、語句 は辞書 で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 11 'Special Circumstances' : Reading-本文を段落ごとに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説。
	事後学習	Unit 11 'Special Circumstances' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)
11	事前学習	Unit 11 'Special Circumstances' Reading : 英文の内容をまとめる。Post-reading tasksを解く。(30分)
	授業内容	Unit 11 'Special Circumstances' Readingの復習/ Post-reading tasksの答え合わせ
	事後学習	Unit 11 'Special Circumstances' Readingの内容と英文の分からなかったところを復習/ Post-reading tasksの復習。(30分)
12	事前学習	Unit 12 'Lies and Stastics' :Pre-reading tasksの問題を解く/ Readingの分からない語、語句 は辞書 で調べ、理解できない語句や英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	Unit 12 'Lies and Stastics' : Reading-本文を段落ごとに内容を確認、重要な語や語句の意味を確認、重要な英文、または難しい英文の和訳、解説。
	事後学習	Unit 12 'Lies and Stastics' 授業で行ったことの復習。事前学習で間違えたところをよく見なおす。(30分)
13	事前学習	Unit 12 'Lies and Stastics' Reading : 英文の内容をまとめる。Post-reading tasksを解く。(30分)
	授業内容	Unit 12 'Lies and Stastics' Readingの復習/ Post-reading tasksの答え合わせ
	事後学習	Unit 12 'Lies and Stastics' Readingの内容と英文の分からなかったところを復習/ Post-reading tasksの復習(30分)
14	事前学習	Unit 7 ~ Unit 12までの復習して授業内試験の勉強をする。(30分)
	授業内容	授業内試験及び後期授業の振り返り
	事後学習	Unit 7 ~ Unit 12までの内容を復習をする。(30分)
15	事前学習	後期授業の総復習 (30分)
	授業内容	Readingのプリントを読んで問題を解く。英文の解説
	事後学習	授業で読んだ英文の内容をもう一度見直す。解釈を間違えたところを復習(30分)

科目名	英語B【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	鈴木 京子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、学年末に受験するTOEICでどのような問題が出されるのかを学習して、TOEICの基礎的な力を培うことを演習を通じて行います。					
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 学年末に受験するTOEICの形式に慣れ、TOEICで最低でも300点を獲得できることを目標としています。 関連DP及びCP：外国語科目領域3， 6					
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く推奨します。原則英語Aと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。小テストを毎回実施し、返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業への参加度、小テスト結果、期末テスト結果等を加味	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016	CENGAGE Learning		First Time Trainer For the TOEIC TEST		ChizukoTsumatori 他3名
	備考					
参考書	英和辞書必携					
オフィスアワー	金曜昼休み、講堂にて。 授業の前後で質問してください。アポイントメントを取りたいときにも授業の前後に相談してください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	夏休みにやって特に面白かったことを考えてくる（30分）
	授業内容	夏休みにやったことのコンテンツ作成、プレゼンテーション
	事後学習	夏休みにやったことを書いてクラスで発表し提出（30分）
2	事前学習	前週末にやったことを英語で考えてくる（30分）
	授業内容	Pre-test 10頁～13頁
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
3	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Pre-test 11頁～12頁
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
4	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Pre-test 12頁～13頁
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）

5	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Pre-test 14頁～15頁
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
6	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Pre-test 14頁～16頁
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
7	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Pre-test 17頁～19頁
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
8	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Pre-test 20頁～21頁
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
9	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Post-test 118頁～121頁
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
10	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Post-test 119頁～120頁
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
11	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Post-test 121頁
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
12	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Post-test 122頁～129頁
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
13	事前学習	小テストの準備 123頁～125頁（30分）
	授業内容	Post-test 126頁～127頁
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
14	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Post-test 128頁～129頁
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
15	事前学習	総復習（30分）
	授業内容	後期授業のまとめ
	事後学習	後期授業の総復習（30分）

科目名	英語B【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	堀 紳介	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業ではこれまでに習ったことがあるであろう基本的な文法事項を学びながらも、そこから英米文化を知ること为目标とします。授業では各自に和訳を発表してもらい、どのように英文を読んだのか、どうしてそのような和訳になったのか、を確認しながら進めていきます。英文の内容に関して問うこともあるでしょう。したがって、この授業で学生は自ら考えながら英文を読むことが求められます。				
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング、文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3，6				
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Aと通年で履修してください。				
授業方法	グループワークを取り入れ、発表形式で行います。 レポート課題返却時、詳細なコメントを入れてフィードバックを行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価 (Report 30% Test 50% Participation 20 %) *授業に出席することは単位を認定する上での前提条件とする。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし			
参考書	随時指示します。				
オフィスアワー	金曜2限終了後（12：10～12：30）、授業講堂で対応します。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの確認（30分）
	授業内容	ガイダンス、前期授業内容の説明
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
2	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度1 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
3	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度1 グループワークでレポート作成
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
4	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度1 グループワークでレポート作成、単語リスト作成
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）

5	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度1 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
6	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度1 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
7	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 各自が精読を行い、分からない単語などをまとめる。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
8	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 グループワークでレポート作成
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
9	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 グループワークでレポート作成、単語リスト作成
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
10	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
11	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
12	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	英字新聞（英字新聞以外含む）講読 難易度2 英文解説：担当者に和訳を発表してもらいながら進める。
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
13	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	TOEIC模試：解答、解説
	事後学習	グループ内で英文を精読（60分）
14	事前学習	グループ内で英文を精読（60分）
	授業内容	復習、テスト準備
	事後学習	既習事項の確認、復習（60分）
15	事前学習	既習事項の確認、復習（60分）
	授業内容	後期授業のまとめ
	事後学習	前期、後期、1年を通して読んだ英文記事を改めて精読しておくこと（60分）

科目名	英語B【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	茂木 健幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	読むことで情報を得て、書くことで自分自身についての情報や意見等を表現するという流れに重点を置き、英語リーディング、ライティングの基礎力向上に取り組みます。					
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検などの資格試験や専門分野の原書理解などに必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 情報収集等に必要な英語読解力を習得し、自身の意見を表現できるようになることを目標としています。 対応DP及びCP：外国語科目領域3、6					
履修条件	公共政策学科一年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。					
授業方法	教科書に沿って授業を進めます。ユニットの終わりにあるライティングの課題はレポートとして提出してもらいます。長文読解部分の予習や、レポート作成については予習が必要となります。レポートについては、採点后返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業への参加度、レポート等により評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017	朝日出版社		コミュニケーションのための総合英語		阿野幸一
	備考					
参考書	使用せず。					
オフィスアワー	授業終了後（金曜：昼休み）講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Unit7全体を読んでくること。(30分)
	授業内容	ガイダンス、授業の進め方、評価方法などの説明 Unit 7 Science and Technology
	事後学習	授業内容の確認。(30分)
2	事前学習	Unit 7のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。(30分)
	授業内容	Unit 7 Science and Technology の読解
	事後学習	Unit 7のリーディング部分の復習(30分)
3	事前学習	Unit 7の文法解説部分を読んでおくこと。また授業内にレポート作成があるのでその準備。(30分)
	授業内容	Unit 7 Science and Technology の読解、レポート作成
	事後学習	Unit 7の文法問題の復習(30分)
4	事前学習	Unit 8のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。(30分)
	授業内容	Unit 8 Study Abroad の読解
	事後学習	Unit 8のリーディング部分の復習(30分)

5	事前学習	Unit 8の文法解説部分を読んでおくこと。また授業内にレポート作成があるのでその準備。(30分)
	授業内容	Unit 8 Study Abroad の読解、レポート作成
	事後学習	Unit 8の文法問題の復習(30分)
6	事前学習	Unit 9のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。(30分)
	授業内容	Unit 9 College Life in the U.S. の読解
	事後学習	Unit 9のリーディング部分の復習(30分)
7	事前学習	Unit 9の文法解説部分を読んでおくこと。また授業内にレポート作成があるのでその準備。(30分)
	授業内容	Unit 9 College Life in the U.S. の読解、レポート作成
	事後学習	Unit 9の文法問題の復習(30分)
8	事前学習	Unit 10のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。(30分)
	授業内容	Unit 10 Steve Jobs の読解
	事後学習	Unit 10のリーディング部分の復習(30分)
9	事前学習	Unit 10の文法解説部分を読んでおくこと。また授業内にレポート作成があるのでその準備。(30分)
	授業内容	Unit 10 Steve Jobs の読解、レポート作成
	事後学習	Unit 10の文法問題の復習(30分)
10	事前学習	Unit 11のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。(30分)
	授業内容	Unit 11 Volunteer Work の読解
	事後学習	Unit 11のリーディング部分の復習(30分)
11	事前学習	Unit 11の文法解説部分を読んでおくこと。また授業内にレポート作成があるのでその準備。(30分)
	授業内容	Unit 11 Volunteer Work の読解、レポート作成
	事後学習	Unit 11の文法問題の復習(30分)
12	事前学習	Unit 14のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。(30分)
	授業内容	Unit 14 Culture の読解
	事後学習	Unit 14のリーディング部分の復習(30分)
13	事前学習	Unit 14の文法解説部分を読んでおくこと。また授業内にレポート作成があるのでその準備。(30分)
	授業内容	Unit 14 Culture の読解、レポート作成
	事後学習	Unit 14の文法問題の復習(30分)
14	事前学習	Unit 13のリーディング部分を読み、意味を捉えておくこと。(30分)
	授業内容	Unit 13 Travel の読解
	事後学習	Unit 13のリーディング部分の復習(30分)
15	事前学習	後期授業範囲であるUnit7～13までの復習(30分)
	授業内容	後期授業のまとめ
	事後学習	授業内容の復習。(30分)

科目名	英語B【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	石川 勝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	大学生がヨーロッパを旅した経験もとにしたテキストである。内容としては学生が興味を持てるものと思われる。比較的易しい英語を的確に訳していく。					
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的とする。比較的易しい英語を的確に訳せることを目標とする。					
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域3， 6 公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。					
授業方法	学生一人一人に訳してもらい。一時間に2ページのペースで読み進めていく。 小テストを2回行い返却する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		小テストを2回行い成績をつける。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
		金星堂		ジローのヨーロッパ旅行		
	備考					
参考書	英和辞典					
オフィスアワー	金曜日9時～12時20分 授業講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの購入，事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）
	授業内容	講義計画の説明
	事後学習	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。（30分）
2	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit1 Introductoryを読む 五文型
	事後学習	訳の訂正（30分）
3	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit1 Cultureを読む
	事後学習	訳の訂正（30分）
4	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit2 Introductoryを読む that節
	事後学習	訳の訂正（30分）

5	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit2 Cultureを読む
	事後学習	訳の訂正（30分）
6	事前学習	指示された個所の予習（30分） 使役動詞
	授業内容	Unit3 Introductoryを読む
	事後学習	訳の訂正（30分）
7	事前学習	試験範囲の復習（30分）
	授業内容	Unit3 Cultureを読む 小テスト
	事後学習	訳の訂正（30分）
8	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit4 Introductoryを読む 仮定法と条件文の違い
	事後学習	訳の訂正（30分）
9	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit4 Cultureを読む
	事後学習	訳の訂正（30分）
10	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit5 Introductoryを読む 現在分詞
	事後学習	訳の訂正（30分）
11	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit5 Cultureを読む
	事後学習	訳の訂正（30分）
12	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit6 Introductryを読む
	事後学習	訳の訂正（30分）
13	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit6Cultureを読む
	事後学習	訳の訂正（30分）
14	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit7 Introductryを読む
	事後学習	訳の訂正（30分）
15	事前学習	試験範囲の復習（30分）
	授業内容	文法のまとめ 小テスト
	事後学習	間違った箇所を理解し直す。（30分）

科目名	英語B【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	トーマス・ロックリー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Welcome to English B. This semester you will learn about some of the international history of Japan in English. I hope you enjoy it.			
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要リーディング・文法の基礎力を養成することを目的としている。英語力の基礎となり、専門分野の原書理解などに必要リーディングなど、資格試験に必要なジャンルの語彙の基礎力を高める。英語を聞き取れるようになり、文字を見なくてもその内容が理解できるようになること。また、電子辞書を使いこなせるようになること。一年を通して、自身での英語トレーニング方法を身につけること。 関連DP／CP：3，6			
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則英語Aと通年で履修すること。大学生向けの電子辞書を持参すること。			
授業方法	ひとつのユニットを二回に分けて行い、リーディングの実技力を高めると同時に、読解力を高めるため、テキストを用いた文法事項の確認も行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	Semester test 30%, week test 20%, reflection & vocabulary 20%, participation 30%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	DTP出版	An International History of Japan II	Thomas Lockley
	備考			
参考書	2019年 東京書籍「外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」ロックリー・トーマス			
オフィスアワー	9:30-10:30am Thursdays in my office, 1602, or email lockleyta@gmail.com			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Read syllabus. (30 mins)
	授業内容	Theme: Thomas Glover Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
2	事前学習	Prepare texts for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Choshu Five Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
3	事前学習	Prepare texts for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Choshu Five Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
4	事前学習	Prepare texts for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Nagasawa Kanaye Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)

5	事前学習	Prepare texts for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: The Iwakura Embassy Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
6	事前学習	Prepare texts for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: The Bonin islands Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
7	事前学習	Prepare texts for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Tsuda Umeko Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
8	事前学習	Prepare texts for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Karayukisan Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
9	事前学習	Prepare texts for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Sun Yat-sen and Japan Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
10	事前学習	Prepare texts for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Japanese emigration in the 20th century Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
11	事前学習	Prepare texts for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Immigration to Japan Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
12	事前学習	Prepare texts for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Noguchi Hideo Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
13	事前学習	Prepare texts for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Sugihara Chiune Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
14	事前学習	Prepare texts for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: International spread of Japanese culture Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
15	事前学習	Prepare for test. (30 mins)
	授業内容	Semester Test 確認テスト (授業内テスト)
	事後学習	Reflect on semester. (30 mins)

科目名	英語B【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	アメリカでベストセラーを記録した“Chicken Soup for the Soul”の精読を通して、英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学びます。また、適宜、『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』を用いて、英文法・語法の知識を整理していきます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【授業目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。関連DP及びCP：外国語科目領域3，6					
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。輪読形式で教科書を読み進めていきます。指名された学生には、教科書の音読と和訳をしてもらい、その後、クラス全体で内容の確認をしていきます。また、適宜、小テストを実施し、次の授業以降で返却をします。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）100% 予習をしていない場合は、大幅に減点します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	1997	金星堂		『Chicken Soup for the Soul チキンスープをどうぞー心あたたまる17のアメリカ小話集』		Jack Canfield 他
	2018	いっずな書店		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』		いっずな書店編集部
	備考	『ジーニアス英和辞典 第5版』など、大学生向けの英和辞典を必ず毎回持参すること。				
参考書	使用しない。					
オフィスアワー	金曜日12:10～授業終了後の講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体像を概観しておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス 事前・事後学習の方法、成績評価等について説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。（30分）
2	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	If I Had My Life To Live Overを輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。（30分）
3	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Smileの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。（30分）
4	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Smileの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。（30分）

5	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Smileの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
6	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	A Simple Gestureの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
7	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	A Simple Gestureの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
8	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	A Simple Gestureの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
9	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Nothing but Problemsの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
10	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Nothing but Problemsの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
11	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Nothing but Problemsの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
12	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	See You in the Morningの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
13	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	See You in the Morningの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
14	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	See You in the Morningの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
15	事前学習	後期授業内容の総復習。（30分）
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り。
	事後学習	後期の授業内容について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。（30分）

科目名	英語B【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語のリーディング、文法を中心に学習します。			
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。英文を素早く読んで、情報を正確に読み取ることが出来るようになることを目指します。 関連DP及びCP：外国語科目領域3， 6			
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Bと通年で履修してください。			
授業方法	実践演習をして解説をします。 毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施します。返却後は復習しておくこと。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	学期末授業内試験を実施します。また毎回、単語テストを行い、総合的に判断します。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	南雲堂	Global Issues Towards Peace	達川奎三、他
	備考	なし		
参考書	飛田茂雄（編）『現代英米情報辞典』研究社 参考書を購入する必要はない。適宜図書館等で参照すること。			
オフィスアワー	水曜日16：20-17：50（4号館1階） 連絡先：mizumoto.koji*nihon-u.ac.jp　、「メールする場合は*を@に変えて使って下さい」			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
2	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Atomic weapons 1-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
3	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Atomic weapons 1-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
4	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Genocide and crimes against humanity 2-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）

5	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Genocide and crimes against humanity 2-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
6	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Landmines 3-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
7	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Landmines 3-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
8	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Refugees 4-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
9	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Refugees 4-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
10	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Nelson Mandra 5-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
11	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Nelson Mandra 5-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
12	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Aung San Suu Kyi 6-1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
13	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Aung San Suu Kyi 6-2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
14	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	The Red Cross and Red Crescent Movement 7
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
15	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	復習、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）

科目名	英語B	担当者	板倉 亨	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「人口」「貧困」「戦争」「インターネット」など様々な同時代の問題を扱っている英文エッセイを、基本的な英語の語彙と構文・文法を確認しながら精読して、英文を正確に読む力を身につけ、その上で、論の基本的な構成を理解して読む速度を上げていくクラスです。							
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。文法の基礎力を活用しより正確で速いリーディングができるようになることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6							
履修条件	2年次生以上対象。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Aと通年で履修してください。							
授業方法	演習形式。学生に音読、語彙や構文の説明、訳読等をしてもらい、それに補足や解説を加えながら授業を進めます。レポート課題、小テスト、授業内試験を実施し、テスト後あるいは次の授業で講評（解説）を行います。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%					
	平常評価		100%		平常点（授業への参加度、小テスト等）、授業内期末試験等を踏まえ、総合的に判断します。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	年度を問わず		金星堂		Issues of Our Age		Peter Weld	
	備考							
参考書	英和辞書（電子辞書でも可）。英語文法書。 その他は授業内で適宜指示します。							
オフィスアワー	授業終了後（木曜昼休み）講堂にて。 itakura.torull@nihon-u.ac.jp							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	上記の教科書を準備し、それに目を通して内容や英文の難易度など確認してください。また、ガイダンスの内容をメモするためルーズリーフを準備してください。（30分）
	授業内容	ガイダンス。授業内容・方法や成績評価について確認し、教科書を使いながら具体的な説明を補足します。
	事後学習	ガイダンスの説明を踏まえ、この授業についてしっかりと理解すること。（30分）
2	事前学習	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。（30分）
	授業内容	5. The Double-Edged Net(1) 5章のエッセイの導入部を精読します。 教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法を確認して精読の理解を深めます。
	事後学習	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。（30分）
3	事前学習	授業内で指定された予習範囲で、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめた上で、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。（30分）
	授業内容	5. The Double-Edged Net(2) 5章のエッセイの中盤を精読します。 教科書の英文に出てくる語彙や基本的な構文・文法を確認して精読の理解を深めます。
	事後学習	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。（30分）

14	事前学習	これまでのノートを整理しながら授業内容を復習して、理解できなかった箇所を授業で確認できるようにまとめておくこと。(30分)
	授業内容	後期の授業の振り返り。 前回までの授業内容を補足し、振り返りながら説明します。
	事後学習	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。(30分)
15	事前学習	後期授業内容を、授業内で指摘されたポイントを中心にしっかりと復習しておくこと。(30分)
	授業内容	後期の授業のまとめ。授業内容全体の理解度を確認するためのまとめです。授業内で指摘したポイントを中心に確認します。
	事後学習	後期の授業で理解できたものと理解できなかったものをしっかりと把握し、特に理解が不十分なものについてはこれからの英語の勉強に役立てるためにしっかりと復習しておいてください。(30分)

科目名	英語B	担当者	トーマス・ロックリー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----	-----	------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	In the second semester you will learn about multicultural Japan through the stories of (originally) non-Japanese politicians, entertainers, business people and sport stars who have helped make modern Japanese society.You will practice English reading, writing, listening and speaking skills.					
授業目的・到達目標	This is the second half of the class, following on from semester 1. You will be better able to talk about multicultural Japan in English. 関連DP／CP：3, 6					
履修条件	There are no particular conditions apart from regular attendance and a positive attitude.					
授業方法	This class follows the idea of learning content (history and modern society) through learning English.					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		Vocabulary and reflection 30%, Semester Tests 30%, Spelling tests 20%, Participation 20%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017	DTP出版		Multicultural Stories from Modern Japan		Thomas Lockley
	備考					
参考書	2019年 東京書籍「外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」ロックリー・トーマス					
オフィスアワー	9:30-10:30am Thursdays in my office, 1602, or email lockleyta@gmail.com					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please look at the syllabus. (30 mins)
	授業内容	Tei Ei-Kei
	事後学習	Learn new words for next lesson. (30 mins)
2	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Kairakutei Black
	事後学習	Learn new words for next lesson. (30 mins)
3	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Victor Starrfin
	事後学習	Learn new words for next lesson. (30 mins)
4	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Rash Behari Bose
	事後学習	Learn new words for next lesson. (30 mins)

5	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Leo Sirota
	事後学習	Learn new words for next lesson. (30 mins)
6	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Beate Sirota Gordon
	事後学習	Learn new words for next lesson. (30 mins)
7	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Chen Kenmin
	事後学習	Learn new words for next lesson. (30 mins)
8	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Rikidozan
	事後学習	Learn new words for next lesson. (30 mins)
9	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Ando Momofuku
	事後学習	Learn new words for next lesson. (30 mins)
10	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Korean food in Japan
	事後学習	Learn new words for next lesson. (30 mins)
11	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Oh Sadaharu
	事後学習	Learn new words for next lesson. (30 mins)
12	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Konishiki Yasokichi
	事後学習	Learn new words for next lesson. (30 mins)
13	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Murata Renho
	事後学習	Learn new words for next lesson. (30 mins)
14	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Son Masayoshi
	事後学習	Learn new words for next lesson. (30 mins)
15	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Revision Test
	事後学習	Reflect on this semester. (30 mins)

科目名	英語B	担当者	佐藤 明子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	-----	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC受験のための基礎固めをします。			
授業目的・到達目標	【授業目的】 TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】 TOEICスコア450点程度の英語力を身に着けることを目標とします。 関連DPおよびCP：外国語科目領域 3、6			
履修条件	再履修クラスです。1年生の英語B（固定クラス）の単位を取得している学生は履修できません。初回のガイダンス授業に必ず出席すること。			
授業方法	演習方式。毎時間範囲を決めて小テストを実施します。授業では予習復習がきちんとされているか皆さんにあてていきます。グループワークもする予定です。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	平常評価（授業参加度、小テスト、授業内試験等）100%。授業参加度も重視されますので注意してください。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	朝日新聞出版	① TOEIC L&R TEST サラリーマン特急 新形式リーディング（TOEIC TEST 特急シリーズ） 907円	八島晶
	2018	朝日新聞出版	② TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ（TOEIC TEST 特急シリーズ） 961円	TEX加藤
	備考	他にプリントを使用する予定です		
参考書	辞書（電子辞書可）を持参すること。スマートフォンの使用は禁じます。			
オフィスアワー	授業（金曜7限）前後や空き時間に対応します。事前にメールを送って時間を確認してください。email：sato.akiko01@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義全体の概観をする。TOEICの形式を調べておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、TOEICの説明。履修希望者は必ず出席すること。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 TOEICのHPで試験概要などを確認する。（30分）
2	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 （1時間）
	授業内容	TOEIC Reading の解き方とテクニックの説明。プリント。
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。（1時間）
3	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 （1時間）
	授業内容	テキスト① Part 5 定番問題と攻略法 その1 テキスト② フレーズ 1-100
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。（1時間）
4	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 （1時間）
	授業内容	テキスト① Part 5 定番問題と攻略法 その2 テキスト② フレーズ 101-200
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。（1時間）

5	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 (1時間)
	授業内容	テキスト① Part 6 定番問題と攻略法 その1 テキスト② フレーズ 201-300
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。(1時間)
6	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 (1時間)
	授業内容	テキスト① Part 6 定番問題と攻略法 その2 テキスト② フレーズ 301-400
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。(1時間)
7	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 (1時間)
	授業内容	テキスト① Part 7 定番問題と攻略法 その1 テキスト② フレーズ 401-500
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。(1時間)
8	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 (1時間)
	授業内容	テキスト① Part 7 定番問題と攻略法 その2 テキスト② フレーズ 501-600
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。(1時間)
9	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 (1時間)
	授業内容	テキスト① ミニ模試 Day 1 & 2 テキスト② フレーズ 601-700
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。(1時間)
10	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 (1時間)
	授業内容	テキスト① ミニ模試 Day 3 & 4 テキスト② フレーズ 701-800
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。(1時間)
11	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 (1時間)
	授業内容	テキスト① ミニ模試 Day 5 & 6 テキスト② フレーズ 801-900
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。(1時間)
12	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 (1時間)
	授業内容	テキスト① ミニ模試 Day 7 & 8 テキスト② フレーズ 901-1000
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。(1時間)
13	事前学習	テキスト 授業範囲の予習 (1時間)
	授業内容	テキスト① ミニ模試 Day 9 & 10 テキスト② フレーズの復習
	事後学習	新しく学んだ表現や文法事項を復習する。小テストの範囲を学習する。(1時間)
14	事前学習	テキストの総復習 (1時間)
	授業内容	後期授業内試験の実施および後期授業の振り返り(その1)。
	事後学習	テストの復習。わからなかったことを解き直す。(1時間)
15	事前学習	後期授業でわからなかったことをまとめておく(1時間)
	授業内容	後期授業内試験の返却・解説および後期授業の振り返り(その2)。後期わからなかったことを質問する。
	事後学習	後期授業で学んだことを総復習する(1時間)

科目名	英語C【法職課程1年生共通クラス】	担当者	小林 晴子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際社会において情報収集に必要な英語力を、リスニング能力に重点をおいて修得する。英語音声、テキスト、インフォグラフィックスなどの理解に基づき、各々の理論的・批判的思考力を用いて導き出した情報、思考、意見を、聞き手に理解されやすい英語音声、表現、論理的提示方法で話す訓練を行う。			
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なスピーキング・リスニングの基礎力を養成することを目的としています。英語資格試験の受験を視野に入れた、スピーキング・リスニングの基礎固めを目指します。そのために種々の発音、文法、語彙、構文、文章構造などの習得と、ディスカッション、プレゼンテーションなどの演習に取り組みます。TOEICテスト等のためのリスニング能力をさらに向上させ、リスニングパートのスコアを100点高く獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6			
履修条件	法文学科法職課程1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。演習授業なので必ず8割以上出席をすることを求めます。			
授業方法	演習方式。小テストを毎回実施。授業では、音読、シャドウイング、ディクテーション、ノートテイキング、学生のペアワーク、ディスカッション、ロールプレイング、プレゼンテーション等を行う。毎回リスニングに関する課題あり。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価：100%(授業パフォーマンス・スピーチ30%、小テスト・課題提出40%、期末テスト30%)
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年出版	ナショナルジオグラフィック	Pathways 2 - Listening, Speaking, and Critical Thinking Second Edition	Becky Tarver Chase
	備考			
参考書	英和・和英辞書は必携。その他は、適宜指示する。			
オフィスアワー	月曜日12:30~13:00 （事前にメールでアポイントを取ること）授業講堂 kobayashi.haruko11@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキスト全体に目を通しておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス。テキスト・辞書を持ってくるように。授業の進め方、テキストの使用方法、予習・復習・学習法などを説明します。オンライン資料へのアクセス方法を確認します。
	事後学習	授業ガイダンスに従い Unit 1 Lesson A を予習する。（30分）
2	事前学習	Unit 1 Lesson A Vocabulary pp. 2~5を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	小テスト。テキスト Unit 1 Healthy Lives, Lesson A: A Talk about Preventing Heart Disease のテーマについて講演を聞く。テーマに沿って会話をする。
	事後学習	課題：講演内容のノートテイキング。（1時間）
3	事前学習	Unit 1 Lesson B Vocabulary pp. 14~15 を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。小テスト。テキスト Unit 1 Lesson B: A Conversation about Allergies についての日常会話を聞く。指定された表現方法を用いて話す。
	事後学習	課題：日常会話のディクテーション。（1時間）
4	事前学習	プレゼンテーションの準備。（1時間）
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。 テキスト Unit 1 Health に関して指定されたテーマについて発表する。
	事後学習	プレゼンテーションの反省と見直し。（30分）

5	事前学習	Unit 2 Technology Today and Tomorrow, Lesson A Vocabulary pp.22~25を予習し、小テストの準備をする。。（30分）
	授業内容	小テスト。テキスト Unit 2, Lesson A: A Radio Show about AIについて話しを聞く。テーマに沿って会話をする。
	事後学習	課題：講演内容のノートテイキング。（1時間）
6	事前学習	Unit 2 Lesson B Vocabulary pp.34~35 を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。小テスト。テキスト Unit 2 Lesson B: A Conversation about Technology の日常会話を聞く。指定された表現方法を用いて話す。
	事後学習	課題：日常会話のディクテーション。（1時間）
7	事前学習	プレゼンテーションの準備。（1時間）
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。 テキスト Unit 2 Technology に関して指定されたテーマについて発表する。
	事後学習	プレゼンテーションの反省と見直し。（30分）
8	事前学習	Unit 3 Culture and Tradition, Lesson A Vocabulary pp.41~45を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	小テスト。テキスト Unit 3 Lesson A Lecture about Cowboys のテーマについて講演を聞く。テーマに沿って会話をする。
	事後学習	課題：講演内容のノートテイキング。（1時間）
9	事前学習	Unit 3 Lesson B Vocabulary pp.54~55 を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	小テスト。課題の内容、重要ポイントを確認する。テキスト Unit 3 Lesson B: An Assignment about Music についての日常会話を聞く。指定された表現方法を用いて話す。
	事後学習	課題：日常会話のディクテーション。（1時間）
10	事前学習	プレゼンテーションの準備。（1時間）
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。 テキスト Unit 3 Culture and Tradition に関して指定されたテーマについて発表する。
	事後学習	プレゼンテーションの反省と見直し。（30分）
11	事前学習	Unit 4 A Thirsty World, Lesson A Vocabulary pp.61~65 を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	小テスト。テキスト Unit 4 Lesson A: A Talk about Itaipu Dam のテーマについて講演を聞く。テーマに沿って会話をする。
	事後学習	課題：講演内容のノートテイキング。（1時間）
12	事前学習	Unit 4 Lesson B Vocabulary pp.74~75 を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	小テスト。課題の内容、重要ポイントを確認する。テキスト Unit 4 Lesson B: A Discussion aobut the Ogallala Aquifer のテーマについての日常会話を聞く。指定された表現方法を用いて話す。
	事後学習	課題：日常会話のディクテーション。（1時間）
13	事前学習	プレゼンテーションの準備。（1時間）
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。テキスト Unit 4 Water Resources に関して指定されたテーマについて発表する。
	事後学習	プレゼンテーションの反省と見直し。（30分）
14	事前学習	今学期の授業を振り返る。（2時間以上）
	授業内容	授業内試験および今学期の授業のまとめ
	事後学習	授業の見直しをする。（30分）
15	事前学習	授業内試験を振り返る。（1時間）
	授業内容	授業内試験のフィードバック。
	事後学習	授業の見直しをする。（30分）

科目名	英語C【法職課程1年生共通クラス】	担当者	G. ハイデン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	You will read, discuss and write about English texts. You will communicate in English with your teacher and your classmates.				
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。To learn about the international history of Japan through listening to, reading and discussing English texts. Student will get confident by understanding, writing and speaking English through learning about important events in Japanese history. You discuss English texts with your teacher and your classmates. 関連D P／C P : 3, 6				
履修条件	法律学科法職課程1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修してください。This course is aimed at students who wish to improve their English communication skills.				
授業方法	演習方式。Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	Assessment and reflection 20%. Final test 30%. Participation and effort 30%. Weekly tests 20%.	
教科書	年	出版社	書名		著者名
			前期「An International History of Japan I」(Thomas Lockley, DTP出版、1,700円＋税)		Thomas Lockley
	備考				
参考書	A dictionary, or a smartphone with a dictionary app.				
オフィスアワー	Email gary@garyhayden.co.uk Please ask questions after the class (Monday 2nd period) at classroom.				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	You will be given a vocabulary test each week. So please be prepared. (30min)
	授業内容	First lesson Outline of the course
	事後学習	You will need to learn some new vocabulary each week. There will be a small vocabulary test at the beginning of each lesson. (30min)
2	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Ancient international Japan Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
3	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Japan Towns Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
4	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Yasuke – the African samurai Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)

5	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: The Tensho Embassy Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
6	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: William Adams Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
7	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: International Nagasaki Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
8	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Yamada Nagamasa Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
9	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Tagawa Matsu Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
10	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: The Japanese families of European merchants Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
11	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Korean embassies to Tokugawa Japan Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
12	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Zhu Shun-sui Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
13	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Waegwan Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Write your reflections on the course. (30min)
14	事前学習	Revise all of the course vocabulary. (30min)
	授業内容	Semester revision
	事後学習	revise for the upcoming test. (30min)
15	事前学習	Prepare for semester test (30min)
	授業内容	Semester test Review 解説
	事後学習	Review (30min)

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	加賀 岳彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	これまで学んできた学習英語をベースにして、さらに大学生・社会人向けの一般英語、及び英語の資格試験への橋渡しをします。またそれに必要な思考力・リテラシーの向上も図ります。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】上記資格試験を模した授業内の各種のテストにおいて60%以上の正答率を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域 3, 6			
履修条件	法律学科 1 年生番号指定クラス。上記資格試験等の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。			
授業方法	十分な予習を前提として、演習形式の授業を行います。理解度・習得度を確認するための各種の小テストを行います。小テストは採点され、次の授業で返却されます。			
成績評価	種別		割合	
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	
教科書	年		出版社	
			書名	
			著者名	
	備考		市販の教科書は使用しません。授業用ハンドアウトを用意します。授業はすべて、このハンドアウトを使って行われます。	
参 考 書	受講生は各自の「（電子）辞書」を必ず持参して受講してください。			
オフィス アワー	月曜日12:20～12:50、授業講堂にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体を概観する。各自の英語学習を行う。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の内容・進め方を理解し、授業目的に沿った初期演習を行う。
	事後学習	ガイダンスおよび初期演習のおさらいをする。 TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験についてWEBサイトで調べてみる。（30分）
2	事前学習	ハンドアウト Unit 1-(1) の英文を精読し、問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	ハンドアウト Unit 1-(1) パッセージの大意を把握し、ポイントをつかめるようになる演習（基礎編）を行います。最後に小テストで確認します。
	事後学習	英文を再読し、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。（30分）
3	事前学習	ハンドアウト Unit 1-(2) の語彙・文法問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	ハンドアウト Unit 1-(2) パッセージの大意を把握し、ポイントをつかめるようになる演習（応用編）を行う。TOEIC, TOEFL, 英検の問題も一部使用する。最後に小テストで確認する。
	事後学習	授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。（30分）
4	事前学習	ハンドアウト Unit 2-(1) の英文を精読し、問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	ハンドアウト Unit 2-(1) パッセージの細部の情報を把握できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	英文を再読し、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。（30分）

5	事前学習	ハンドアウト Unit 2-(2) の語彙・文法問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 2-(2) パッセージの細部の情報を把握できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	細部を把握する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。(30分)
6	事前学習	ハンドアウト Unit 3-(1) の英文を精読し、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 3-(1) 英文の内容・情報のpositive / negativeの意味合いを判別できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	英文を再読し、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。(30分)
7	事前学習	ハンドアウト Unit 3-(2) の語彙・文法問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 3-(2) 英文の内容・情報のpositive / negativeの意味合いを判別できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	positive / negativeの意味合いを判別する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。(30分)
8	事前学習	ハンドアウト Unit 1～3までを総復習してくる。(60分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 1～3の総復習をテスト形式で行い、その解答・解説を通じて、ここまでの学習内容を確認する。
	事後学習	総復習および確認テストで間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
9	事前学習	ハンドアウト Unit 4-(1) の英文を精読し、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 4-(1) 英文におけるcontrast(対照性)を把握できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	英文を再読し、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。(30分)
10	事前学習	ハンドアウト Unit 4-(2) の語彙・文法問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 4-(2) 英文におけるcontrast(対照性)を把握できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	contrast(対照性)を把握する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。(30分)
11	事前学習	ハンドアウト Unit 5-(1) の英文を精読し、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 5-(1) 表現面（語彙・構文）ではsimpleなのに意外に難しい英文を理解する演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	英文を再読し、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。(30分)
12	事前学習	ハンドアウト Unit 5-(2) の語彙・文法問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 5-(2) 表現面（語彙・構文）ではsimpleなのに意外に難しい英文を理解できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	simpleなのに意外に難しい英文を理解する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。(30分)
13	事前学習	ハンドアウト Unit 6-(1) の英文を精読し、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 6-(1) 英語で表現されたparadox（逆説的表現・内容）を把握できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。(30分)
14	事前学習	ハンドアウト Unit 6-(2) の語彙・文法問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 6-(2) 英語で表現されたparadox（逆説的表現・内容）を把握できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	paradoxを理解する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。(30分)
15	事前学習	ハンドアウト Unit 4～6までを総復習してくる。(60分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 4～6の総復習をテスト形式で行い、その解答・解説を通じて、ここまでの学習内容を確認する。
	事後学習	総復習および確認テストで間違えた箇所の問題を解き直す。 今学期学んだことを踏まえ、今後の各自の英語学習の方向性を考える。(30分)

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	菊地 幸子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	世界のさまざまな英語圏に住む若者に関する映像を視聴しながら、リスニング及びスピーキングの演習を行う。				
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】まとまった英文を聞いて大まかな内容を把握し、必要な情報を得ることができる、また自分の考えを簡潔にまとめて発言できるようになることを目標とする。対応DP及びCP:外国語科目領域3, 6				
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修すること。				
授業方法	演習方式で行う。フィードバックとして最終授業で授業内試験の講評及び振り返りを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業参加度（30％）、小テスト（20％）、学期末試験（50％）の割合で総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016年	成美堂		World Wide English on DVD Volume 2	森田彰 他
	備考				
参 考 書	特に指定しない。				
オフィスアワー	授業前後の休み時間に（月曜日12：10～）講堂にて。緊急の連絡事項がある場合はメールで知らせること。 メールアドレス：kikuchi.sachiko11@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、講義全体を概観する。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、評価方法、受講上の注意事項等を説明する。
	事後学習	ガイダンスの内容を確認する。（30分）
2	事前学習	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。（30分）
	授業内容	Unit 1 New York Introduction Exercises 1 to 4
	事後学習	New Words で学習した語彙の意味を覚える。（30分）
3	事前学習	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。（30分）
	授業内容	Unit 1 New York Introduction Exercises 5 to 8
	事後学習	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。（30分）
4	事前学習	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。（30分）
	授業内容	Unit 2 New York Documentary Exercises 1 to 4
	事後学習	New Words で学習した語彙の意味を覚える。（30分）

5	事前学習	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。 (30分)
	授業内容	Unit 2 New York Documentary Exercises 5 to 8
	事後学習	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。 (30分)
6	事前学習	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。 (30分)
	授業内容	Unit 3 Australia Introduction Exercises 1 to 4
	事後学習	New Words で学習した語彙の意味を覚える。 (30分)
7	事前学習	Useful Expressions、Summaryの答えを用意しておく。 (30分)
	授業内容	Unit 3 Australia Introduction Exercises 5 to 8
	事後学習	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。 (30分)
8	事前学習	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。 (30分)
	授業内容	Unit 4 Australia Documentary Exercises 1 to 4
	事後学習	New Words で学習した語彙の意味を覚える。 (30分)
9	事前学習	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。 (30分)
	授業内容	Unit 4 Australia Documentary Exercises 5 to 8
	事後学習	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。 (30分)
10	事前学習	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。 (30分)
	授業内容	Unit 5 Northern Ireland Introduction Excercises 1 to 4
	事後学習	New Words で学習した語彙の意味を覚える。 (30分)
11	事前学習	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。 (30分)
	授業内容	Unit 5 Northern Ireland Introduction Exercises 5 to 8
	事後学習	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。 (30分)
12	事前学習	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。 (30分)
	授業内容	Unit 6 Northern Ireland Documentary Exercises 1 to 4
	事後学習	New Words で学習した語彙の意味を覚える。 (30分)
13	事前学習	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。 (30分)
	授業内容	Unit 6 Northern Ireland Documentary Exercises 5 to 8
	事後学習	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。 (30分)
14	事前学習	試験範囲を復習する。 (30分)
	授業内容	授業内試験及び前期のまとめ。
	事後学習	試験で分からなかった部分の正解を考える。 (30分)
15	事前学習	テキストの総復習。 (30分)
	授業内容	授業内試験の講評及び振り返り。
	事後学習	前期の学習内容を確認する。 (30分)

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	杉本 桂子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ますます複雑化する国際社会のなかで主体的に行動するための手段としての英語の基礎力を徹底的に鍛えることは今日の日本の大学教育に課せられた重要な課題のひとつであろう。この授業では特に日本の英語教育の弱点になっているリスニング力を重点的に訓練し、同時にいろいろな場面で使える実用的な語彙をふくむ英文を音読し、覚え、使う。多量の英文を暗記し、それを最後にテストする形の授業になる。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP:外国語科目領域3, 6			
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修してください。			
授業方法	リスニング力とスピーキング力をアップするために、オーバーラッピング、シャドーイングを徹底的に行い英語力を養う。毎回小テストを行い、次の授業で返却する。後半でプレゼンテーションを一回発表してもらう。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業への取り組み方（20％）、毎回の小テスト（30％）、最終テスト（50％）で総合的に判断する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2003	成美堂	Listen to this!(Basic)	James Bean
	2019	NHK出版	ラジオ英会話 5月号	担当者
	備考	授業の進行は下記の計画通りいかない場合があります。		
参考書	英和、和英辞書(電子辞書可、スマートフォン不可)			
オフィスアワー	月曜日、授業の行われる校舎の講師室にて12時15分～12時35分			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。英語の基礎学習。（30分）
	授業内容	ガイダンス並びにTOEICリスニング実力テスト。テストの解説と音読練習。
	事後学習	授業で配られた英文のスク립トの音読練習。（30分）
2	事前学習	テキストUnit 1 It's nice to meet you(前半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	Unit 1 It's nice to meet you(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト(5月号) Week 1-① 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキスト(5月号) Week 1-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスク립トの音読練習をしておくこと。（30分）
3	事前学習	テキストUnit 1 It's nice to meet you(後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 1 It's nice to meet you(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-② 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 1-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスク립トの音読練習をしておくこと。（30分）
4	事前学習	テキストUnit 2 That's a great hairstyle(前半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 2 That's a great hairsyle(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-③ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek1-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスク립トの音読練習をしておくこと。（30分）

5	事前学習	テキストUnit 2 That's a great hairstyle(後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。(30分)
	授業内容	小テスト Unit 2 That's a great hairstyle(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-④ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 1-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。(30分)
6	事前学習	テキストUnit 3 Shopping trip(前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。(30分)
	授業内容	小テスト Unit 3 Shopping trip(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-① 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。(30分)
7	事前学習	テキストUnit 3 Shopping trip(後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。(30分)
	授業内容	小テスト Unit 3 Shopping trip(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-② 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHK テキストWeek 2-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。(30分)
8	事前学習	テキストUnit 4 What are you doing this weekend?(前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。(30分)
	授業内容	小テスト Unit 4Unit 4 What are you doing this weekend?(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-③ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。(30分)
9	事前学習	テキストUnit 4 What are you doing this weekend?(後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。(30分)
	授業内容	小テスト Unit 4 What are you doing this weekend?(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-④ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。(30分)
10	事前学習	テキストUnit 5 Have you been to San Francisco?(前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。(30分)
	授業内容	小テスト Unit 5 Have you been to San Francisco?(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-① 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。(30分)
11	事前学習	テキストUnit 5 Have you been to San Francisco?(後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。(30分)
	授業内容	小テスト Unit 5 Have you been to San Francisco?(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-② 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。(30分)
12	事前学習	テキストUnit 6 My best friend(前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。(30分)
	授業内容	小テスト Unit 6 My best friend(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-③ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。(30分)
13	事前学習	テキストUnit 6 My best friend(後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。(30分)
	授業内容	小テスト Unit 6 My best friend(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-④ 音読練習
	事後学習	この回で学習したことを復習し、授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。(30分)
14	事前学習	プレゼンテーションの原稿を提出できるように作成し、発表の練習をしておくこと。(30分)
	授業内容	プレゼンテーション(60～70の英単語を使って決められたテーマに沿った内容の英文を発表する。)
	事後学習	前期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習をしテスト準備をすること。(30分)
15	事前学習	前期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習を行い充実した実力をつけておくこと。(30分)
	授業内容	前期授業のまとめ。
	事後学習	前期授業で学習したことを踏まえ、更に英語の実力をつける努力すること。(30分)

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	水野 隆之	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験を目指すための基礎固めをします。基礎的な文法事項を身につけることを目標とするとともに、TOEICに出題される表現を多く覚えます。					
授業目的・到達目標	〔授業目的〕 TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 〔授業目標〕 TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。関連D P及びC P：外国語科目領域3， 6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で返却を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）100%、	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017	成美堂		BEST PRACTICE FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST REVISED EDITION		吉塚 弘
	備考					
参考書	各種英語辞書					
オフィスアワー	月曜日12：10～ 授業終了後の講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、TOEICの概要を説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC, TOEFL, 英検等の各種検定視点についてWEBサイト等で調べてみる。（30分）
2	事前学習	テキスト1頁、4～7頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	Unit1 人称代名詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。（30分）
3	事前学習	テキスト8頁、11～14頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	Unit2 不定代名詞と再帰代名詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。（30分）
4	事前学習	テキスト15頁、18～21頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	Unit3 現在・過去の時制について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。（30分）

5	事前学習	テキスト22頁、25~28頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit4 現在完了について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
6	事前学習	テキスト29頁、32~35頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit5 時・期間を表す前置詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
7	事前学習	テキスト36頁、39~42頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit6 位置・場所を表す前置詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
8	事前学習	テキスト43頁、46~49頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit7 数量形容詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
9	事前学習	テキスト50頁、53~56頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit8 自動詞と他動詞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
10	事前学習	テキスト57頁、60~63頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit9 形容詞を作る接尾辞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
11	事前学習	テキスト64頁、67~70頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit10 副詞を作る接尾辞について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
12	事前学習	テキスト71頁、74~78頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit11 分詞構文について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
13	事前学習	テキスト79頁、82~86頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit12 比較について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
14	事前学習	テキスト87頁、90~94頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit13 受動態について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
15	事前学習	テキストの総復習。(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。(30分)

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	茂木 健幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	リスニング、スピーキングという日常で頻繁に必要な英語の基礎能力の向上に取り組みます。英語で話された内容を理解し、それに対し自分の意見を言えるようにすることを目標としています。					
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検などの資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 相手の話す内容を理解し、その内容に対応した質問や応答が出来るようになることを目標としています。 対応DP及びCP：外国語科目領域3、6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。					
授業方法	教科書に沿って授業を進め、問題を解いたり、自身について話す原稿を書いたりします。ペアワークやグループワークがあるので、積極的な授業参加が求められます。ユニット毎にレポートの提出があり、採点后返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業への参加度、レポート等で評価。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2015	南雲堂		New Time to Communicate		Eric Bray
	備考					
参考書	使用しない。					
オフィスアワー	授業終了後（月曜：昼休み）講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Unit 1の予習。(30分)
	授業内容	ガイダンス：授業の進め方、評価の仕方などについての説明。 Unit 1 Meeting People
	事後学習	Unit 1の復習(30分)
2	事前学習	Unit 1の予習。Model Conversation、 Useful Languageを読んてくること。(30分)
	授業内容	Unit 1 Meeting People、ペアワークでの会話、リスニング
	事後学習	Unit 1の復習。(30分)
3	事前学習	Unit 1の予習。自分のことについて話し合う (Write and Talk)ので、その準備。(30分)
	授業内容	Unit 1 Meeting People、ペアワークでの会話、レポート作成
	事後学習	Unit 1の復習。(30分)
4	事前学習	Unit 2の予習。Model Conversation、 Useful Languageを読んてくること。(30分)
	授業内容	Unit 2 Getting to Know Your Classmates、ペアワークでの会話、リスニング
	事後学習	Unit 2の復習。(30分)

5	事前学習	Unit 2の予習。自分のことについて話し合う（Write and Talk）ので、その準備。（30分）
	授業内容	Unit 2 Getting to Know Your Classmates、ペアワークでの会話、レポート作成
	事後学習	Unit 2の復習。（30分）
6	事前学習	Unit 3の予習。Model Conversation、 Useful Languageを読んてくること。（30分）
	授業内容	Unit 3 Talking About Classes、ペアワークでの会話、リスニング
	事後学習	Unit 3の復習。（30分）
7	事前学習	Unit 3の予習。自分のことについて話し合う（Write and Talk）ので、その準備。（30分）
	授業内容	Unit 3 Talking About Classes、ペアワークでの会話、レポート作成
	事後学習	Unit 3の復習。（30分）
8	事前学習	Unit 4の予習。Model Conversation、 Useful Languageを読んてくること。（30分）
	授業内容	Unit 4 Talking About Your Daily Life、ペアワークでの会話、リスニング
	事後学習	Unit 4の復習。（30分）
9	事前学習	Unit 4の予習。自分のことについて話し合う（Write and Talk）ので、その準備。（30分）
	授業内容	Unit 4 Talking About Your Daily Life、ペアワークでの会話、レポート作成
	事後学習	Unit 4の復習。（30分）
10	事前学習	Unit 5の予習。Model Conversation、 Useful Languageを読んてくること。（30分）
	授業内容	Unit 5 Talking About People – Personality、ペアワークでの会話、リスニング
	事後学習	Unit 5の復習。（30分）
11	事前学習	Unit 5の予習。自分のことについて話し合う（Write and Talk）ので、その準備。（30分）
	授業内容	Unit 5 Talking About People – Personality、ペアワークでの会話、レポート作成
	事後学習	Unit 5の復習。（30分）
12	事前学習	Unit 6の予習。Model Conversation、 Useful Languageを読んてくること。（30分）
	授業内容	Unit 6 Talking About People – Appearance、ペアワークでの会話、リスニング
	事後学習	Unit 6の復習。（30分）
13	事前学習	Unit 6の予習。自分のこ、とについて話し合う（Write and Talk）ので、その準備。（30分）
	授業内容	Unit 6 Talking About People – Appearance、ペアワークでの会話、レポート作成
	事後学習	Unit 6の復習。（30分）
14	事前学習	Unit 7の予習。Model Conversation、 Useful Languageを読んてくること。（30分）
	授業内容	Unit 7 Talking About Last Weekend、ペアワークでの会話、リスニング
	事後学習	Unit 7の復習。（30分）
15	事前学習	Unit 1～7の復習(30分)
	授業内容	前期授業のまとめ
	事後学習	授業で行った内容のまとめ(30分)

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	元氏 久美子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日常の身近なテーマやビジネスシーンで使われる表現で効率よく学習し、リスニング力を向上させることを目指しています。TOEICテストのリスニングのための戦略を身につけ、英語をたくさん聞き、直感的に理解し、音読することで基礎を固めていきます。				
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコアを450点以上獲得できることを目標とします。対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6				
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス、上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。				
授業方法	演習方式。小テストを毎回実施し、次の授業で返却を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価(授業参加度、小テスト、学期末試験等) 100%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017年	成美堂		QUICK MASTER OF THE TOEIC LISTENING TEST 『TOEICリスニングテスト速攻マスター』	松本恵美子他
	備考				
参考書	英和辞典				
オフィスアワー	月曜12:10～ 授業終了後の講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。(30分)
	授業内容	ガイダンス 前期の授業の進め方、TOEICの概要、英語学習法を説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC, TOEFL, 英検などの各種検定試験についてWEBサイト等で調べてみる。(30分)
2	事前学習	Unit 1 Warm-upを解き、「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 1 Sightseeing / Travel に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
3	事前学習	Unit 2 Warm-upを解き、「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 2 Office Technologyに関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
4	事前学習	Unit 3 Warm-upを解き、「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 3 Restaurant に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)

5	事前学習	Unit 4 Warm-upを解き、「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 4 Ordering / Report に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
6	事前学習	Unit 5 Warm-upを解き、「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 5 Personnel / Training に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
7	事前学習	Unit 1～5で学んだことを復習する。(30分)
	授業内容	Unit 6 Review 1 Unit 1～5で学んだ内容のリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(30分)
8	事前学習	Unit 7 Warm-upを解き、「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 7 Shop / Purchase に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
9	事前学習	Unit 8 Warm-upを解き、「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 8 Finance / Budget / Salary に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
10	事前学習	Unit 9 Warm-upを解き、「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 9 Seminar / Meeting に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
11	事前学習	Unit 10 Warm-upを解き、「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 10 Health に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
12	事前学習	Unit 11 Warm-upを解き、「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 11 Education / Schools に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
13	事前学習	Unit 7～11で学んだことを復習する。(30分)
	授業内容	Unit 12 Review 2 Unit 6～11で学んだ内容のリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(30分)
14	事前学習	Unit 1～12で学んだことを復習する。(30分)
	授業内容	前期授業のまとめ①
	事後学習	前期の学習内容で理解不足だった点を確認する。(30分)
15	事前学習	前期の学習内容で理解不足だった点を復習する。(30分)
	授業内容	前期授業のまとめ②
	事後学習	前期で学んだことを再確認する。(30分)

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	M. ボックス	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This course is designed to help students learn how to communicate more freely and fluently using the English that they have studied in the past using original materials designed to help them gain fluency.			
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。The main goal is for students to learn how to use the English they already know and to gain confidence in their ability to communicate in English. 関連D P／C P：3, 6			
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修してください。			
授業方法	演習方式。Students will participate in a variety of activities designed to help meet the course goals. The teacher will supervise, guide, and counsel on an individual basis as necessary.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%	No regular exam will be given, but performance will be measured on participation in each class.	
	平常評価	100%	The grade will be based 90% on in-class participation on a daily basis, and 10% on other activities.	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	None			
	備考	No text required. Printed materials will be distributed at each lesson.		
参考書	No additional reference materials are required.			
オフィスアワー	Email: micahbox@gmail.com Please ask questions after the class (Monday 2nd period) at classroom.			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Class explanation, orientation.
	事後学習	Review class rules. (30min)
2	事前学習	Prepare materials required for information cards and bring them to class. (30min)
	授業内容	Fill out information cards, class activity.
	事後学習	Review orientation materials. (30min)
3	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity based on print outs. Print outs are based on what is happening in the world at the time.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
4	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)

5	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
6	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
7	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
8	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
9	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
10	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
11	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
12	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
13	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
14	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
15	事前学習	Review class materials at home. (30min)
	授業内容	Final class evaluations. Review 解説
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	リスニング学習をしながら、英語をアウトプットする場を提供し、さらには英語を話す土台になっている文法にも目を向けるようにします。「音を聴き取ってそれを書く」というディクテーションではなく、一歩進んで「聴き取ったメモを基に英文を復元する」というディクトグロスという作業を行っていきます。リスニングによるメモ取りから意味と文法力を頼りに元の英文を復元するので、内容理解や文法知識など全てを動員することになります。					
授業目的・到達目標	[授業目標]TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 [到達目標]TOEICテストのために基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP:外国語科目領域3, 6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。					
授業方法	演習形式。毎時間、小テストを実施します。学習者参加型の授業になり、元の英文の復元作業では個人ではなくグループで行うことにより、自ら考え発信していく機会が多くなります。フィードバックは授業内に行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、毎回の小テスト、学期末試験などから総合的に評価します。）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	金星堂		Taking Action—Communication with Fluency and Accuracy—		山本成代 Kelly Kimura
	備考					
参考書	授業時に適宜指示します。辞書必携。					
オフィスアワー	月曜日 12:20~13:00、場所は事前にアポイントメントを取った際に決めます。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	これまでの自分の英語学習歴を整理する。シラバスとテキストを熟読するとともに、講義全体を概観する。大学での英語学習に向けての目標を考える。（30分）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検などの検定試験について調べる。（30分）
2	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。（30分）
	授業内容	Unit 1 Listen to the Dialogue, Practice for Fluency, Focus on Grammar (be動詞)
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（30分）
3	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。（30分）
	授業内容	Unit 1 Practice for Accuracy Unit 2 Listen to the Dialogue, Practice for Fluency
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（30分）
4	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。（30分）
	授業内容	Unit 2 Focus on Grammar (自動詞/他動詞), Practice for Accuracy Unit 3 Listen to the Dialogue
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（30分）

5	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	Unit 3 Practice for Fluency, Focus on Grammar(現在完了形) , Practice for Accuracy
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
6	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	Unit 4 Listen to the Dialogue, Practice for Fluency, Focus on Grammar (疑問詞)
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
7	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	Unit 4 Practice for Accuracy Unit 5 Listen to the Dialogue, Practice for Fluency
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
8	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	Unit 5 Focus on Grammar (可算名詞/不可算名詞) , Practice for Accuracy Unit 6 Listen to the Dialogue
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
9	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	Unit 6 Practice for Fluency, Focus on Grammar(不定詞/代名詞) , Practice for Accuracy
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
10	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	Uit 7 Listen to the Dialogue, Practice for Fluency, Focus on Grammar (現在分詞/過去分詞)
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
11	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	Uit 7 Practice for Accuracy Unit 8 Listen to the Dialogue, Practice for Fluency
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
12	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	Unit 8 Focus on Grammar(助動詞) , Practice for Accuracy Unit 9 Listen to the Dialogue
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
13	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	Unit 9 Practice for Fluency, Focus on Grammar(受動態) , Practice for Accuracy
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
14	事前学習	前期に学習した箇所の文法や語彙などを復習して学期末試験に臨む。(60分)
	授業内容	授業内試験及び振り返り
	事後学習	間違えた箇所の復習をする。(30分)
15	事前学習	前期に学習した箇所の文法や語彙などを復習する。(30分)
	授業内容	試験の講評と前期学習の振り返り
	事後学習	理解不十分な個所をチェックし、後期の授業に臨めるようにする。(30分)

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	佐藤 万里世	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	スピーキング・リスニングを中心に、英文法の基礎力の底上げを目指す授業です。比較的平易な文法事項を用いて、アウトプットの練習をたくさん行います。			
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なスピーキング・リスニングの基礎力を養成することを目的としています。 TOEIC、TOEFL、英検等受験への基礎力を身につけ、英語での表現・発信ができるようになることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3，6			
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。			
授業方法	演習方式で行います。ペアまたはグループでのアクティビティを通して、文法理解とともにアウトプットの能力向上を目指します。適宜小テストを実施し、次の授業以降で返却します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常評価（授業内試験、授業参加度、小テスト結果等）100%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011	オックスフォード大学出版	Smart Choice 2nd Edition 3 Student Book with Online Practice	K.Wilson T.Healy
	備考			
参考書	英和辞書を毎回必ず持参すること。			
オフィスアワー	授業後または月曜日12:10-13:00 講堂にて。 また、事前に知らせていただければ、授業後以外の対応も可能です。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読む。（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	シラバスを再度確認する。 英文法の参考書の基礎的な文法事項を復習する。（30分）
2	事前学習	p. 4のVocabularyの箇所の意味を調べておく。（30分）
	授業内容	Unit1 I've been running. (vocabulary, grammar)
	事後学習	p. 6のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。（30分）
3	事前学習	p. 5の会話文を日本語に直し、内容を把握する。（30分）
	授業内容	Unit1 I've been running. (activity)
	事後学習	授業時に使ったプリントの記入箇所に英作文を行う。（30分）
4	事前学習	p. 7のBefore You Listen の箇所を読んでおく。（30分）
	授業内容	Unit1 I've been running. (listening, reading)
	事後学習	現在完了進行形を再度見直し、理解を深める。 新出単語を書き出しておく。（30分）

5	事前学習	p. 10のVocabularyの箇所の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	Unit2 Do you know what it's about? (vocabulary, grammar)
	事後学習	p. 12のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。(30分)
6	事前学習	前回学習した間接疑問文について教科書を見直す。(30分)
	授業内容	Unit2 Do you know what it's about? (activity)
	事後学習	授業内で扱った間接疑問文の穴埋めを再度確認する。 またその文章を日本語に直しておく。(30分)
7	事前学習	p. 13のBefore You Listen の箇所を読んでおく。(30分)
	授業内容	Unit2 Do you know what it's about? (listening, reading)
	事後学習	p. 14のreadingを辞書を使って再度読んでおく。 新出単語を書き出しておく。(30分)
8	事前学習	p. 16のVocabularyの箇所の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	Unit3 It was painted by da Vinci. (vocabulary, grammar)
	事後学習	p. 18のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。(30分)
9	事前学習	前回学習した受動態を参考書等で再度確認し、正しい英文が書けるようにしておく。(30分)
	授業内容	Unit3 It was painted by da Vinci. (speaking testの準備)
	事後学習	グループのメンバーで協力し、発表のスクリプトについて話し合う。(30分)
10	事前学習	講師が出した発表の条件を満たしているか再度スクリプトを確認する。 スクリプトを暗記する。(30分)
	授業内容	Unit3 It was painted by da Vinci. (speaking test)
	事後学習	各自、発表メンバーで発表の自己採点を行う。(30分)
11	事前学習	p. 24のVocabularyの箇所の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	Unit4 Who's your best friend? (vocabulary, grammar)
	事後学習	p. 26のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。(30分)
12	事前学習	関係代名詞を復習し、正しく英作文ができるように理解を深めておく。(30分)
	授業内容	Unit4 Who's your best friend? (activity)
	事後学習	p. 25の文章を日本語に訳す。(30分)
13	事前学習	Unit4の新出単語をまとめておく。(30分)
	授業内容	Unit4 Who's your best friend?(reading) 前期のまとめ
	事後学習	教科書の問題を再度見直し、講師に質問できるようにしておく。(30分)
14	事前学習	前期の文法事項、英単語を見直し試験に備える。(30分)
	授業内容	前期に扱った文法の解説、授業内テスト
	事後学習	試験問題を再度見直し、問題が解けなかった個所を確認する。(30分)
15	事前学習	前期に扱った箇所を再度見直す。 夏休みの予定を英語で言えるようにしておく。(30分)
	授業内容	授業内試験の解答と解説 英作文
	事後学習	試験の解説をふまえて、後期の学習の仕方をグループで話し合う。(30分)

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	You will improve your listening and speaking skills through English-language discussion with your teacher and classmates. You will read and think about English texts.			
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 To learn about East Asia in Japanese history and multicultural stories from modern Japan through listening to, reading and discussing English texts. To be more confident and skilled in understanding and speaking English. You will learn about important events in Japanese history. You will listen to and read English texts. You will discuss those texts, in English, with your teacher and your classmates.			
履修条件	法律学科1年生が必修科目領域3上の資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。			
授業方法	Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	Assessment and reflection 20%. Final test 30%. Participation and effort 30%. Weekly vocabulary tests 20%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	DTP出版	前期 「An International History of Japan I」	Thomas Lockley
	備考			
参考書	A dictionary, or a smartphone with a dictionary app.			
オフィスアワー	You can contact me anytime for a question or to set up an appointment by email at: joe.geluso@gmail.com Office hours are after class in classroom.			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Prepare materials for course (90 minutes)
	授業内容	Course introduction and expectations. Learning language through content. All learning is language learning.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
2	事前学習	You will be given a vocabulary test each week. So please be prepared.
	授業内容	Ancient international Japan: The Jomon and Yayoi peoples and immigration to Japan. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
3	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Japan Towns: Influence of Japan across Asia and the world. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
4	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Yasuke: The African samurai Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)

5	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	The Tensho Embassy and outreach to foreign countries. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
6	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	William Adams: The first Englishman to arrive to Japan Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
7	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	International Nagasaki: The Portuguese bring much to Japan. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
8	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Yamada Nagamasa: Merchant, diplomat, and pirate. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
9	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Tagawa Matsu: The powerful woman behind two powerful men in Japanese history. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary (30 minutes)
10	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	The Japanese families of European Merchants Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
11	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Korean Embassies to Tokugawa Japan Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
12	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Zhu Shun-sui: Scholar, diplomat and refugee. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
13	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Waegwan: Influential trade partners in ancient Japan. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
14	事前学習	Review (60 minutes)
	授業内容	Revision: Using revision guide to update lesson content
	事後学習	Continue revisions (120 minutes)
15	事前学習	Prepare for final exam (120 minutes)
	授業内容	Test: Final exam covering semester's content Review
	事後学習	Reflect on semester (students are free to reflect for as long a short a time as they see fit)

科目名	英語C【法職課程1年生共通クラス】	担当者	太田 晴美	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語の生の音声を楽しみながらたくさんインプットしていきます。英語の問題を解くためのリスニングではなく、純粹に自分が聴きたいと思う題材を選びます。生の音声をそっくり真似る音読やシャドーイングを通してリスニング力を高めていきます。また選んだ題材の内容についてプレゼンをします。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に着け、スコア550点以上を獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 3， 6					
履修条件	法職課程 1 年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修してください。課題を必ず毎回提出しなくてはならない。					
授業方法	グループの演習方式で授業を進めます。リアクションペーパーをグループでシェアし、プレゼンをします。また、シャドーイング、ディクテーションの課題が課されます。授業内で実践するシャドーイングはその場で評価を受けます。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		毎回実施する小テスト及びプレゼンを評価に含めます。リアクションペーパーの提出も評価の対象に入ります。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019年4月販売予定	朝日出版社		CNNニュースリスニング		CNN English Express 編
	2016年	IIBC		TOEICテスト公式問題集		IIBC
	備考	教員作成プリントを使用します				
参 考 書	辞書を持参すること。					
オフィスアワー	火曜日15：00～16：00 電話かメールでアポイントメントをお取りください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を購入し、シラバスを読んでくる。（30分）
	授業内容	オリエンテーション & リスニング力を伸ばすための様々な学習法を知る。（プリント配布）
	事後学習	プリントで読み、学んだことを復習をする。（30分）
2	事前学習	プリントを再度おさらいをする。（30分）
	授業内容	音読・シャドーイングはどのようにリスニング力に結びつくのかを理解する。（プリント配布） シャドーイングの実践方法を理解する。
	事後学習	シャドーイング方法を復習する。（30分）
3	事前学習	CNN課題のシャドーイングを練習してくる。（30分）
	授業内容	CNN音読&シャドーイングの実践。 TED talksとは？ TED talksを使ってディクテーションをする。（プリント配布）
	事後学習	シャドーイングの復習をする。（30分）
4	事前学習	TED talksプリント課題、CNN課題のシャドーイングを練習をする。（30分）
	授業内容	TED talksを視聴する→内容を聞き取る力を身に着ける。（プリント配布）
	事後学習	プリントで復習をする。（30分）

5	事前学習	TED talksプリント課題、CNN課題のシャドーイングを練習をする。（30分）
	授業内容	CNN音読&シャドーイングテスト TED talksを視聴する→内容を聞き取る力を身に着ける。
	事後学習	TED talksプリントを復習する。（30分）
6	事前学習	TED talksを視聴し、リアクションペーパーを書く。 CNN課題のシャドーイングを練習する。（30分）
	授業内容	CNN音読&シャドーイングテスト TED talksについてgroup talk→発表
	事後学習	発表で気に入ったTED talksを自分でも視聴してみる。（30分）
7	事前学習	TED talksを視聴し、リアクションペーパーを書く / 前回TED talksの単語テストの準備をする CNN課題のシャドーイングを練習。（30分）
	授業内容	CNN音読&シャドーイングテスト TED talksについてgroup talk→発表
	事後学習	発表で気に入ったTED talksを自分でも視聴してみる。（30分）
8	事前学習	TED talksを視聴し、リアクションペーパーを書く / 前回TED talksの単語テストの準備をする CNN課題のシャドーイングを練習。（30分）
	授業内容	CNN音読&シャドーイングテスト/ TED talks単語テスト TED talksについてgroup talk→発表
	事後学習	発表で気に入ったTED talksを自分でも視聴してみる。（30分）
9	事前学習	TED talksを視聴し、リアクションペーパーを書く/ 前回TED talksの単語テストの準備をする CNN課題のシャドーイングを練習。（30分）
	授業内容	CNN音読&シャドーイングテスト TED talksについてgroup talk→発表 最終課題についての説明を理解する。
	事後学習	発表で気に入ったTED talksを自分でも視聴してみる。（30分）
10	事前学習	TED talksを視聴し、リアクションペーパーを書く/ 前回TED talksの単語テストの準備をする CNN課題のシャドーイングを練習。（30分）
	授業内容	CNN音読&シャドーイングテスト TED talksについてgroup talk→最終プレゼンについて話し合う
	事後学習	気に入ったTED talksを自分でも視聴してみる。（30分）
11	事前学習	TED talksを視聴し、リアクションペーパーを書く CNN課題のシャドーイングを練習。（30分）
	授業内容	CNN音読&シャドーイングテスト TED talksについてgroup talk→最終プレゼンについて話し合う
	事後学習	発表で気に入ったTED talksを自分でも視聴してみる。（30分）
12	事前学習	TED talksを視聴し、リアクションペーパーを書く プレゼンの準備をする。（30分）
	授業内容	最終プレゼンを行う。
	事後学習	プレゼンで気に入ったTED talksを自分でも視聴してみる。（30分）
13	事前学習	TED talksを視聴し、リアクションペーパーを書く プレゼンの準備をする。（30分）
	授業内容	最終プレゼンを行う。
	事後学習	プレゼンで気に入ったTED talksを自分でも視聴してみる。（30分）
14	事前学習	課題のCNNシャドーイングを練習する。（30分）
	授業内容	CNNシャドーイングのテストを実施。
	事後学習	もう一度シャドーイングを復習する。（30分）
15	事前学習	TED talks 単語テストに備える。（30分）
	授業内容	TED talksまとめの単語テストと解説。
	事後学習	半期の学習を振り返る。夏休みの課題のシャドーイングを練習する。（30分）

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	北村 豊	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験を目指すための基礎固めをします。TOEICに出題される表現を多く覚えます。法律、政治経済、歴史に関する基礎レベルの話題についての英語に親しむと共に、ビジネス英語の世界にも親しむ。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング、スピーキングの基礎力を養成する事を目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身につけ、スコアを450点以上獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP:外国語科目領域3, 6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修してください。					
授業方法	TOEFL的なアカデミックな話題、TOEIC的なビジネス関連の話題、法律や政治経済に関する基礎レベルの話題について英語の講義を聞き、簡単な要約をする。提出された課題の返却等のフィードバックは授業内に行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、発表、発言等による授業への貢献、授業内試験等）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	On Demand Publishing		Academic English, Business English: Beefing up the brain through...		ICC Committee
	備考					
参考書	英英辞典（初回の授業で使い方を学ぶ）					
オフィスアワー	質問等は授業の前後（月曜昼休み）講堂で受け付けます。授業外の場合は yujizo117@tcue.ac.jpまでメール送信の事。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（30分）
	授業内容	General introduction to the course 授業の進め方、TOEFL, TOEICの概要を説明する。教室英語の基本的な表現と英英辞典の使い方を習得する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 英英辞典の使い方の確認をする。 TOEIC, TOEFL, 英検等の各種資格試験についてWEBサイト等で調べてみる。（30分）
2	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 1（4-7頁）の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）
	授業内容	Unit 1: ABC of economics and world history (Part 1) 世界経済の成り立ちの基礎を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	世界経済の成り立ちの基礎を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。（30分）
3	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 1（8-9頁）の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）
	授業内容	Unit 1: ABC of economics and world history (Part 2) 世界経済の成り立ちの基礎を世界史と関連付けて理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	世界経済の成り立ちの基礎を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。（30分）
4	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 2（10-12頁）の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）
	授業内容	Unit 2: The United Nations and world history (Part 1) 国連システムの成り立ちの基礎を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	国連システムの成り立ちの基礎を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。（30分）

5	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 2 (13-15頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 2: The United Nations and world history (Part 2) 国連システムの成り立ちの基礎を世界史と関連付けて理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	国連システムの成り立ちの基礎を世界史と関連付けて説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。(30分)
6	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 3 (16-17頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 3: Living in the W-I-W system 世界経済を法律の視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	世界経済システムの基礎を法律と関連付けて説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。(30分)
7	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 4 (20-21頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 4: Japanese companies that employ English as a common language 日本企業の「社内英語公用語化」とビジネス英語の基礎について理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	日本企業の「社内英語公用語化」とビジネス英語の基礎について口頭で発言できるように準備する。(30分)
8	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストBusiness English section (74-75頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	TOEIC 問題演習を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学び、それに対応する質問・問題に回答できる。(Part 1)
	事後学習	TOEIC 問題演習で出てきたビジネス・シーンについて復習し、口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)
9	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストBusiness English section (72-73頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	TOEIC 問題演習を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学び、それに対応する質問・問題に回答できる。(Part 2)
	事後学習	TOEIC 問題演習で出てきたビジネス・シーンについて復習し、口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)
10	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 6 (24-25頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 6: Why are there so many poor communicators of English in Japan? 日本の英語教育の現状と日本人の英語によるコミュニケーション能力について意見交換をし、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	日本の英語教育の現状と日本人の英語によるコミュニケーション能力について口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)
11	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 7 (26-27頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 7: Why is homeschooling illegal in Japan? 日本の法律を世界の同様の法律と比較した上で限定的に理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	日本の法律を世界の同様の法律と比較した上で限定的に理解し、口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)
12	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 8 (28-29頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 8: Why do Japanese employees stick together after office hours? 日本の企業文化を比較文化的視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	日本の企業文化を比較文化的視点から理解し、口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)
13	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 9 (30-31頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 9: Why do Japanese people exchange business cards at private parties? ビジネス文化を比較文化と心理学の視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	ビジネス文化を比較文化と心理学の視点から理解し、口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)
14	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストActivity X-1からActivity X-4 (44-49頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	テキストActivity X-1からActivity X-4を通して経済、法律、比較文化に関する様々な話題を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	次の最終授業内試験の準備をする。今まで扱った内容についての質問に解答できるようにする。(60分)
15	事前学習	最終授業内試験の準備をする。今まで扱った内容についての質問に解答できるようにする。(60分)
	授業内容	Overall summary 前期授業の総まとめとして授業内試験を行う。前期学習内容の振り返り。
	事後学習	前期授業の学習内容を確認する。(30分)

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年次以降の発展的な学習に備え、日本人が注意すべきprosody(rhythm, stress, intonation)を習得するためのきわめて実践的なトレーニングを行う。具体的にはNews English, Business English, Colloquial Speechを扱う。							
授業目的・到達目標	[授業目的] TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的とする。 [到達目標] リスニング・スピーキング能力を向上させ、TOEICスコアを450点程度獲得できることを目標とする。 対応DPおよびCP：外国語科目領域 3, 6							
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修すること。また、勉学上の大きな負荷に耐えうる強靱な忍耐力を期待する。グループ演習を行うため、積極性、協調性を強く求める。							
授業方法	動画や音声を用いた演習方式。フィードバックは授業内において行う。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%					
	平常評価		100%		授業参加度や提出物、小テストなど多様な面から総合的に評価する。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	備考		教材プリントを配布する。					
参考書	授業時に適宜指示をする。							
オフィスアワー	担当教員研究室（本館8階1815研究室）にて金曜日3時限に対応する。							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、講義全体を概観する。（30分）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	イントロダクションの振り返りを行う。（30分）
2	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 1 Business English: Unit 1 THE INTERVIEW Pronunciation Practice: 連結
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
3	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 2 Business English: Unit 2 MY JOB DESCRIPTION Pronunciation Practice: 脱落
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
4	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、小テスト 1に備える。（30分）
	授業内容	これまでの授業内容の振り返り 1 小テスト 1（筆記試験および口頭試験）
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）

5	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 3 Business English: Unit 3 ARRIVING AT MY NEW OFFICE Pronunciation Practice: 弱化(1)
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
6	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 4 Business English: Unit 4 TALKING WITH MY NEW BOSS Pronunciation Practice: 弱化(2)
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
7	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、小テスト 2に備える。（30分）
	授業内容	これまでの授業内容の振り返り 2 小テスト 2（筆記試験および口頭試験）
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
8	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 5 Business English: Unit 5 THE OFFICE TOUR Pronunciation Practice: 短縮形
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
9	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 6 Business English: Unit 6 ANSWERING THE TELEPHONE AND TRANSFERRING A CALL Pronunciation Practice: 同化、弾音化、リズム
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
10	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、小テスト 3に備える。（30分）
	授業内容	これまでの授業内容の振り返り 3 小テスト 3（筆記試験および口頭試験）
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
11	事前学習	Presentation Contest 1の準備を行う。（30分）
	授業内容	Presentation Contest 1 (Tongue Twister)
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
12	事前学習	Presentation Contest 2の準備を行う。（30分）
	授業内容	Presentation Contest 2 (Tongue Twister)
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
13	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、TOEIC模擬試験 1（Part1～Part4）に備える。（30分）
	授業内容	TOEIC模擬試験 1（Part1～Part4）
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
14	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、TOEIC模擬試験 2（Part5～Part7）に備える。（30分）
	授業内容	TOEIC模擬試験 2（Part5～Part7）
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
15	事前学習	これまでの授業内容の振り返りを行う。（30分）
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）

科目名	英語C【法律学科1年生共通クラス】	担当者	アソニー トービン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	In this course students will learn the necessary vocabulary and phrases to engage in a wide variety of discussions.					
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。The objective of this course is to develop basic skills so that students comprehensively and conversationally communicate through authentic English materials and so that students can prepare for their certain language proficiency examination, such as TOEIC, TOEFL or Eiken test. Students will be able to get a wide range of vocabulary and language patterns which will help them communicate actively in a wide variety of situations. 関連DP／CP：3, 6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。In this course students will engage in group and whole class discussions.					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		50%:Several short tests throughout the semester 50%:Students are expected to participate in all class activities.	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2008	Cengage		Communication Strategies 1		David Paul
	備考					
参考書	An English dictionary.					
オフィスアワー	The teacher can be reached at tonymtobin@hotmail.com to arrange a consultation. Please ask questions after the class (Monday 2nd period) at classroom.					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Prepare self-introduction (30min)
	授業内容	Orientation
	事後学習	Read materials (30min)
2	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 1 Friends Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
3	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 1 Friends Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
4	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 2 Free Time Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)

5	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 2 Free Time Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
6	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 3 The Past Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit Revision for forthcoming test (30min)
7	事前学習	Read unit Revision for forthcoming test (30min)
	授業内容	Unit 3 The Past Skills: English listening and discussion skills Short Test
	事後学習	Review unit (30min)
8	事前学習	Read unit(30min)
	授業内容	Unit 4 The Family Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
9	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 4 The Family Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
10	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 5 Work Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
11	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 5 Work Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
12	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 6 City Life Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
13	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 6 City Life Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit Revision for forthcoming test (30min)
14	事前学習	Revise all units (30min)
	授業内容	Vocabulary test Review
	事後学習	Revise all units (30min)
15	事前学習	Revise all units (30min)
	授業内容	Review 解説解説
	事後学習	Revise all units (30min)

科目名	英語C【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	加賀 岳彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	これまで学んできた学習英語をベースにして、さらに大学生・社会人向けの一般英語、及び英語の資格試験への橋渡しをします。またそれに必要な思考力・リテラシーの向上も図ります。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】上記資格試験を模した授業内の各種のテストにおいて60%以上の正答率を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域 3, 6					
履修条件	政治経済学科 1 年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。					
授業方法	十分な予習を前提として、演習形式の授業を行います。理解度・習得度を確認するための各種の小テストを行います。小テストは採点され、次の授業で返却されます。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		平常評価（授業参加度、授業内の各種テスト等） 100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	市販の教科書は使用せず、授業用ハンドアウトを用意します。授業はすべて、このハンドアウトを使って行われます。				
参 考 書	受講生は各自の「（電子）辞書」を必ず持参して受講してください。					
オフィス アワー	月曜日12:20～12:50、授業講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体を概観する。各自の英語学習を行う。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の内容・進め方を理解し、授業目的に沿った初期演習を行う。
	事後学習	ガイダンスおよび初期演習のおさらいをする。 TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験についてWEBサイトで調べてみる。（30分）
2	事前学習	ハンドアウト Unit 1-(1) の英文を精読し、問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	ハンドアウト Unit 1-(1) パッセージの大意を把握し、ポイントをつかめるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	英文を再読し、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。（30分）
3	事前学習	ハンドアウト Unit 1-(2) の語彙・文法問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	ハンドアウト Unit 1-(2) パッセージの大意を把握し、ポイントをつかめるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	大意を把握する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。（30分）
4	事前学習	ハンドアウト Unit 2-(1) の英文を精読し、問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	ハンドアウト Unit 2-(1) パッセージの細部の情報を把握できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	英文を再読し、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。（30分）

5	事前学習	ハンドアウト Unit 2-(2) の語彙・文法問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 2-(2) パッセージの細部の情報を把握できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	情報の細部を把握する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。(30分)
6	事前学習	ハンドアウト Unit 3-(1) の英文を精読し、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 3-(1) 英文の内容・情報のpositive / negativeの意味合いを判別できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	英文を再読し、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。(30分)
7	事前学習	ハンドアウト Unit 3-(2) の語彙・文法問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 3-(2) 英文の内容・情報のpositive / negativeの意味合いを判別できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	positive / negativeの意味合いを判別する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。(30分)
8	事前学習	ハンドアウト Unit 1～3までを総復習してくる。(60分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 1～3の総復習をテスト形式で行い、その解答・解説を通じて、ここまでの学習内容を確認する。
	事後学習	総復習および確認テストで間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
9	事前学習	ハンドアウト Unit 4-(1) の英文を精読し、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 4-(1) 英文におけるcontrast(対照性)を把握出来るようになる演習（応用編）を行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	英文を再読し、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。(30分)
10	事前学習	ハンドアウト Unit 4-(2) の語彙・文法問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 4-(2) 英文におけるcontrast(対照性)を把握できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	contrast(対照性)を把握する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。(30分)
11	事前学習	ハンドアウト Unit 5-(1) の英文を精読し、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 5-(1) 表現面（語彙・構文）ではsimpleなのに意外に難しい英文を理解できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	英文を再読し、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。(30分)
12	事前学習	ハンドアウト Unit 5-(2) の語彙・文法問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 5-(2) 語彙・構文はsimpleに表現されているが意外に難しい英文・英語表現を理解できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	simpleだが難しい英文・英語表現を理解する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。(30分)
13	事前学習	ハンドアウト Unit 6-(1) の英文を精読し、問題を解いてくる。(30分)。
	授業内容	ハンドアウト Unit 6-(1) 英語で表現されたparadox（逆説的表現・内容）を理解できるようになる演習（基礎編）を行う。最後に小テストで確認する
	事後学習	英文を再読し、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。(30分)
14	事前学習	ハンドアウト Unit 6-(2) の語彙・文法問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 6-(2) 英語で表現されたparadox（逆説的表現・内容）を理解できるようになる演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題を一部使用しながら行う。最後に小テストで確認する。
	事後学習	paradoxを理解する追加問題を解き、授業で学んだ重要事項・構文・単語を復習する。(30分)
15	事前学習	ハンドアウト Unit 4～6までを総復習してくる。(60分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 4～6の総復習をテスト形式で行い、その解答・解説を通じて、ここまでの学習内容を確認する。
	事後学習	総復習および確認テストで間違えた箇所の問題を解き直す。 今学期学んだことを踏まえ、今後の各自の英語学習の方向性を考える。(30分)

科目名	英語C【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	北村 豊	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験を目指すための基礎固めをします。TOEICに出題される表現を多く覚えます。法律、政治経済、歴史に関する基礎レベルの話題についての英語に親しむと共に、ビジネス英語の世界にも親しむ。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング、スピーキングの基礎力を養成する事を目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身につけ、スコアを450点以上獲得できることを目標とします。関連DP及びCP:外国語科目領域3, 6					
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修してください。					
授業方法	TOEFL的なアカデミックな話題、TOEIC的なビジネス関連の話題、法律や政治経済に関する基礎レベルの話題について英語の講義を聞き、簡単な要約をする。提出された課題の返却等のフィードバックは授業内に行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、発表、発言等による授業への貢献、授業内試験等）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	On Demand Publishing		Academic English, Business English: Beefing up the brain through...		ICC Committee
	備考					
参考書	英英辞典（初回の授業で使い方を学ぶ）					
オフィスアワー	質問等は授業の前後（月曜10：30～）講堂で受け付けます。授業外の場合は yujizo117@tcue.ac.jpまでメール送信の事。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（30分）
	授業内容	General introduction to the course 授業の進め方、TOEFL, TOEICの概要を説明する。教室英語の基本的な表現と英英辞典の使い方を習得する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 英英辞典の使い方の確認をする。 TOEIC, TOEFL, 英検等の各種資格試験についてWEBサイト等で調べてみる。（30分）
2	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 1（4-7頁）の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）
	授業内容	Unit 1: ABC of economics and world history (Part 1) 世界経済の成り立ちの基礎を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	世界経済の成り立ちの基礎を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。（30分）
3	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 1（8-9頁）の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）
	授業内容	Unit 1: ABC of economics and world history (Part 2) 世界経済の成り立ちの基礎を世界史と関連付けて理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	世界経済の成り立ちの基礎を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。（30分）
4	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 2（10-12頁）の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）
	授業内容	Unit 2: The United Nations and world history (Part 1) 国連システムの成り立ちの基礎を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	国連システムの成り立ちの基礎を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。（30分）

5	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 2 (13-15頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 2: The United Nations and world history (Part 2) 国連システムの成り立ちの基礎を世界史と関連付けて理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	国連システムの成り立ちの基礎を世界史と関連付けて説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。(30分)
6	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 3 (16-17頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 3: Living in the W-I-W system 世界経済を法律の視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	世界経済システムの基礎を法律と関連付けて説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。(30分)
7	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 4 (20-21頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 4: Japanese companies that employ English as a common language 日本企業の「社内英語公用語化」とビジネス英語の基礎について理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	日本企業の「社内英語公用語化」とビジネス英語の基礎について口頭で発言できるように準備する。(30分)
8	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストBusiness English section (74-75頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	TOEIC 問題演習を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学び、それに対応する質問・問題に回答できる。(Part 1)
	事後学習	TOEIC 問題演習で出てきたビジネス・シーンについて復習し、口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)
9	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストBusiness English section (72-73頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	TOEIC 問題演習を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学び、それに対応する質問・問題に回答できる。(Part 2)
	事後学習	TOEIC 問題演習で出てきたビジネス・シーンについて復習し、口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)
10	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 6 (24-25頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 6: Why are there so many poor communicators of English in Japan? 日本の英語教育の現状と日本人の英語によるコミュニケーション能力について意見交換をし、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	日本の英語教育の現状と日本人の英語によるコミュニケーション能力について口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)
11	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 7 (26-27頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 7: Why is homeschooling illegal in Japan? 日本の法律を世界の同様の法律と比較した上で限定的に理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	日本の法律を世界の同様の法律と比較した上で限定的に理解し、口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)
12	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 8 (28-29頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 8: Why do Japanese employees stick together after office hours? 日本の企業文化を比較文化的視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	日本の企業文化を比較文化的視点から理解し、口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)
13	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 9 (30-31頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 9: Why do Japanese people exchange business cards at private parties? ビジネス文化を比較文化と心理学の視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	ビジネス文化を比較文化と心理学の視点から理解し、口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)
14	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストActivity X-1からActivity X-4 (44-49頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	テキストActivity X-1からActivity X-4を通して経済、法律、比較文化に関する様々な話題を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	次の最終授業内試験の準備をする。今まで扱った内容についての質問に解答できるようにする。(60分)
15	事前学習	最終授業内試験の準備をする。今まで扱った内容についての質問に解答できるようにする。(60分)
	授業内容	Overall summary 前期授業の総まとめとして授業内試験を行う。前期学習内容の振り返り。
	事後学習	前期授業の学習内容を確認する。(30分)

科目名	英語C【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	杉本 桂子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ますます複雑化する国際社会のなかで主体的に行動するための手段としての英語の基礎力を徹底的に鍛えることは今日の日本の大学教育に課せられた重要な課題のひとつであろう。この授業では特に日本の英語教育の弱点になっているリスニング力を重点的に訓練し、同時にいろいろな場面で使える実用的な語彙をふくむ英文を音読し、覚え、使う。多量の英文を暗記し、それを最後にテストする形の授業になる。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICのための基礎力を身に着け、スコアを450点以上獲得できることを目標とします。対応DP及びCP: 外国語科目領域3, 6					
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修してください。					
授業方法	リスニング力とスピーキング力をアップするために、オーバーラッピング、シャドーイングを徹底的に行い英語力を養う。毎回小テストを行い次の授業で返却する。後半でプレゼンテーションを一回発表してもらう。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業への取り組み方（20％）、毎回の小テスト（30％）、最終テスト（50％）で総合的に判断する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2003	成美堂		Listen to this!(Basic)		James Bean
	2019	NHK出版		ラジオ英会話 5月号		担当者
	備考	授業の進行は下記の計画通りいかない場合があります。				
参考書	英和、和英辞書(電子辞書可、スマートフォン不可)					
オフィスアワー	月曜日、授業の行われる校舎の講師室にて12時15分～12時35分					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。英語の基礎学習。（30分）
	授業内容	ガイダンスならびにTOEICリスニングの実力テスト。テストの解説並びに音読練習。
	事後学習	授業で配られた英文のスク립トの音読練習。（30分）
2	事前学習	テキスト Unit 1 It's nice to meet you（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	テキストUnit 1 It's nice to meet you（前半） リスニング練習、ペアまたはグループで会話練習 NHK テキスト（5月号） Week 1-① 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキスト（5月号）Week 1-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスク립トの音読練習をしておくこと。（30分）
3	事前学習	テキスト Unit 1 It's nice to meet you(後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。ice to meet you 後半を読み（30分）
	授業内容	小テストUnit 1 It's nice to meet you（後半） リスニング練習、ペアまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-② 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 1-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスク립トの音読練習をしておくこと。（30分）
4	事前学習	テキストThat's a great hairstyle(前半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テストUnit 2 That's a great hairsyyle（前半） リスニング練習、ペアまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-③ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 1-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスク립トの音読練習をしておくこと。（30分）

5	事前学習	テキストthat' a great hairsyyle（後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト テキストUnit 2 That'a great hairstyle（後半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-④ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 1-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。（30分）
6	事前学習	テキストUnit 3 Shopping trip（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト テキストUnit 3 Shopping trip（前半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-①音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。（30分）
7	事前学習	テキストUnit 3 Shopping trip（後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト テキストUnit 3 Shopping trip（後半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-②
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。（30分）
8	事前学習	テキストUnit 4 What are you doing this weekend?（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト テキストUnit 4 What are you doing this weekend?（前半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-③ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。（30分）
9	事前学習	テキスト Unit 4 What are you doing this weekend?(後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト テキストUnit 4 What zre you doing this weekend?（後半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-④ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。（30分）
10	事前学習	テキスト Unit 5 Have you been to San Francisco?（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト テキストUnit 5 Have you been to San Francisco?（前半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-① 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。（30分）
11	事前学習	テキスト Unit 5 Have you been to San Francisco?（後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト テキストUnit 5 Have you been to San Francisco?（後半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-② 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。（30分）
12	事前学習	テキスト Unit 6 My best friend（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト テキストUnit 6 My best friend（前半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-③ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。（30分）
13	事前学習	テキストUnit 6 My best frind（後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト テキストUnit 6 My best friend（後半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-④ 音読練習
	事後学習	前期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスキットの音読練習をしテスト準備をすること。（30分）
14	事前学習	プレゼンテーションの原稿を提出できるように作成し、発表の練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	プレゼンテーション（60～70の英単語を使って決められたテーマに沿った内容の英文を発表する。
	事後学習	前期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスキットの音読練習をしテスト準備をすること。（30分）
15	事前学習	前期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスキットの音読練習を行い充実した実力をつけておくこと。（30分）
	授業内容	前期授業のまとめ。
	事後学習	前期授業で学習したことを踏まえ、更に英語の実力をつける努力すること。（30分）

科目名	英語C【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	平岡 麻里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験を目指すための基礎固めをします。この授業ではTOEICの初学者向けテキストを使用し、英語の音声変化を学びながら、TOEICで扱われる場面やトピックで頻出する語彙や表現を学びます。授業以外にも英語音声に触れるように毎回の予習課題を設定しています。ペアやグループでの活動が課されることもあり、積極的な参加が求められます。				
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。また、これからの学生生活と卒業後の社会人生活において、独力で英語学習を継続できる「独立した学習者」となることに重点を置いた指導を行います。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコアを450以上獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP:外国語科目領域3, 6				
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラスです。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修して下さい。				
授業方法	演習形式で授業を進めます。毎時間に小テスト、単元ごとにReview Test、学期末には授業内試験を実施し、授業でフィードバックを行います。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		0%		
	平常評価		100%		毎回の小テストの結果、問題演習や授業内課題への参加状況やその成果、受講態度、Review Test、授業内試験などの授業内活動で評価を行います。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2012	成美堂		『音声変化で学ぶTOEICテストリスニング (Bottom Up Listening for the TOEIC Test) 』	Eiichi Yubune, Bill Benfield
	備考	教材音声にオンラインでアクセスできるスマートフォンやパソコンなど（大学のパソコンでも可能）が必要になります。英語Dと共通です。英語Cのみ履修する場合でも、必ず必ず教科書を購入してください。			
参考書	大学生から社会人レベルの英和辞典（電子辞書推奨）を授業時に必ず持参してください。				
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は、月曜日午前中の授業前後（10：30～／12：10～）に授業講堂で対応します。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの購入。シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（30分）
	授業内容	ガイダンス（授業スケジュールと授業方法の確認、TOEIC概要の説明） Unit 1 Sound Focus 短縮形(1)主語+be動詞、has, have, had の導入
	事後学習	ガイダンスのおさらい 予習・自習に必要な機材（スマートフォンやパソコン）とテキスト音声へのアクセスの確認 TOEIC公式サイト の閲覧、各自の過去の英語資格試験の成績確認 （30分）
2	事前学習	Unit 1 予習確認小テストの準備（Warming UpとVocabulary）（30分）
	授業内容	Unit1 短縮形(1)主語+be動詞、has, have, had の練習をし、Computers & Communicationのトピックに慣れる 予習確認テスト(Warming UpとVocabulary) 、Warming Upの発音練習、TOEIC形式の聞き取り演習 Unit 2 Sound Focus 短縮形(2)主語+will, would の導入
	事後学習	間違えた箇所の復習 Warming Upの暗記と発音練習（30分）
3	事前学習	Unit 2 予習確認小テストの準備（Warming UpとVocabulary）（30分）
	授業内容	Unit 2 短縮形(2)主語+will, would の練習をし、Musicのトピックに慣れる 予習確認テスト(Warming UpとVocabulary) 、Warming Upの発音練習、TOEIC形式の聞き取り演習 Unit 3 Sound Focus 短縮形(3)様々な形の助動詞 の導入
	事後学習	間違えた箇所の復習 Warming Upの暗記と発音練習（30分）
4	事前学習	Unit 3 予習確認小テストの準備（Warming UpとVocabulary）（30分）
	授業内容	Unit 3 短縮形(3)様々な形の助動詞 の練習をし、Advertising & Marketingのトピックに慣れる 予習確認テスト(Warming UpとVocabulary) 、Warming Upの発音練習、TOEIC形式の聞き取り演習 Units 1-3のまとめと、Unit 4 Review Test 1 短縮形 の説明
	事後学習	間違えた箇所の復習 Warming Upの暗記と発音練習（30分）

5	事前学習	Units 1-3の復習と、Unit 4 Review Test 1 の準備 (30分)
	授業内容	TOEICリスニングテスト各パートの取り組み方の説明 Unit 4 Review Test 1 短縮形 のTOEIC実戦形式の問題演習 問題解説 Unit 5 Sound Focus 連結(1)破裂音+母音 の導入
	事後学習	間違えた箇所の復習 (30分)
6	事前学習	Unit 5 予習確認小テストの準備 (Warming UpとVocabulary) (30分)
	授業内容	Unit 5 連結(1)破裂音+母音 の練習をし、Shoppingのトピックに慣れる 予習確認テスト(Warming UpとVocabulary) 、Warming Upの発音練習、TOEIC形式の聞き取り演習 Unit 6 Sound Focus 連結(2)鼻音+母音 の導入
	事後学習	間違えた箇所の復習 Warming Upの暗記と発音練習 (30分)
7	事前学習	Unit 6 予習確認小テストの準備 (Warming UpとVocabulary) (30分)
	授業内容	Unit 6 連結(2)鼻音+母音の練習をし、Entertainmentのトピックに慣れる 予習確認テスト(Warming UpとVocabulary) 、Warming Upの発音練習、TOEIC形式の聞き取り演習 Unit 7 Sound Focus 連結(3)その他の子音+母音の導入
	事後学習	間違えた箇所の復習 Warming Upの暗記と発音練習 (30分)
8	事前学習	Unit 7 予習確認小テストの準備 (Warming UpとVocabulary) (30分)
	授業内容	Unit 7 連結(3)その他の子音+母音の練習をし、Eating & Drinkingのトピックに慣れる 予習確認テスト(Warming UpとVocabulary) 、Warming Upの発音練習、TOEIC形式の聞き取り演習 Units 5-7のまとめと、Unit 8 Review Test 2 音の連結 の説明
	事後学習	間違えた箇所の復習 Warming Upの暗記と発音練習 (30分)
9	事前学習	Units 5-7の復習と、Unit 8 Review Test 2 の準備 (30分)
	授業内容	TOEICリスニングテスト各パートの取り組み方の説明 Unit 8 Review Test 2 音の連結 のTOEIC実戦形式の問題演習 問題解説 Unit 9 Sound Focus 破裂音(1)語尾・文末で の導入
	事後学習	間違えた箇所の復習 (30分)
10	事前学習	Unit 9 予習確認小テストの準備 (Warming UpとVocabulary) (30分)
	授業内容	Unit 9 破裂音(1)語尾・文末での練習をし、Sportsのトピックに慣れる 予習確認テスト(Warming UpとVocabulary) 、Warming Upの発音練習、TOEIC形式の聞き取り演習 Unit 10 Sound Focus 破裂音(2)子音の前で の導入
	事後学習	間違えた箇所の復習 Warming Upの暗記と発音練習 (30分)
11	事前学習	Unit 10 予習確認小テストの準備 (Warming UpとVocabulary) (30分)
	授業内容	Unit 10 破裂音(2)子音の前での練習をし、Lectures & Presentationsのトピックに慣れる 予習確認テスト(Warming UpとVocabulary) 、Warming Upの発音練習、TOEIC形式の聞き取り演習 Unit 11 Sound Focus 破裂音(3)様々な[t]の音 の導入
	事後学習	間違えた箇所の復習 Warming Upの暗記と発音練習 (30分)
12	事前学習	Unit 11 予習確認小テストの準備 (Warming UpとVocabulary) (30分)
	授業内容	Unit 11 破裂音(3)様々な[t]の音の練習をし、Aplying for a Jobのトピックに慣れる 予習確認テスト(Warming UpとVocabulary) 、Warming Upの発音練習、TOEIC形式の聞き取り演習 Units 9-11のまとめと、Unit 12 Review Test 3 破裂音 の説明
	事後学習	間違えた箇所の復習 Warming Upの暗記と発音練習 (30分)
13	事前学習	Units 9-11の復習と、Unit 12 Review Test 3 の準備 (30分)
	授業内容	TOEICリスニングテスト各パートの取り組み方の説明 Unit 12 Review Test 3 破裂音 のTOEIC実戦形式の問題演習 問題解説 授業内試験の説明
	事後学習	間違えた箇所の復習 (30分)
14	事前学習	Units 1-12の復習と授業内試験の準備 (30分)
	授業内容	まとめ・授業内試験
	事後学習	間違えた箇所の復習 (30分)
15	事前学習	授業内試験を含む学期全体の総復習 (30分)
	授業内容	授業内試験を含む学期全体の学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容の確認 (30分)

科目名	英語C【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	佐藤 万里世	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	スピーキング・リスニングを中心に、英文法の基礎力の底上げを目指す授業です。比較的平易な文法事項を用いて、アウトプットの練習をたくさん行います。			
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なスピーキング・リスニングの基礎力を養成することを目的としています。 TOEIC、TOEFL、英検等受験への基礎力を身につけ、英語での表現・発信ができるようになることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3，6			
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。			
授業方法	演習方式で行います。ペアまたはグループでのアクティビティを通して、文法理解とともにアウトプットの能力向上を目指します。適宜小テストを実施し、次の授業以降で返却します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常評価（授業内試験、授業参加度、小テスト結果等）100%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011	オックスフォード大学出版	Smart Choice 2nd Edition 3 Student Book with Online Practice	K.Wilson T.Healy
	備考			
参考書	英和辞書を毎回必ず持参すること。			
オフィスアワー	授業後または月曜日12:10-13:00 講堂にて。 また、事前に知らせていただければ、授業後以外の対応も可能です。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読む。（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	シラバスを再度確認する。 英文法の参考書の基礎的な文法事項を復習する。（30分）
2	事前学習	p. 4のVocabularyの箇所の意味を調べておく。（30分）
	授業内容	Unit1 I've been running. (vocabulary, grammar)
	事後学習	p. 6のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。（30分）
3	事前学習	p. 5の会話文を日本語に直し、内容を把握する。（30分）
	授業内容	Unit1 I've been running. (activity)
	事後学習	授業時に使ったプリントの記入箇所に英作文を行う。（30分）
4	事前学習	p. 7のBefore You Listen の箇所を読んでおく。（30分）
	授業内容	Unit1 I've been running. (listening, reading)
	事後学習	現在完了進行形を再度見直し、理解を深める。 新出単語を書き出しておく。（30分）

5	事前学習	p. 10のVocabularyの箇所の意味を調べておく。（30分）
	授業内容	Unit2 Do you know what it's about? (vocabulary, grammar)
	事後学習	p. 12のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。（30分）
6	事前学習	前回学習した間接疑問文について教科書を見直す。（30分）
	授業内容	Unit2 Do you know what it's about? (activity)
	事後学習	授業内で扱った間接疑問文の穴埋めを再度確認する。 またその文章を日本語に直しておく。（30分）
7	事前学習	p. 13のBefore You Listen の箇所を読んでおく。（30分）
	授業内容	Unit2 Do you know what it's about? (listening, reading)
	事後学習	p. 14のreadingを辞書を使って再度読んでおく。 新出単語を書き出しておく。（30分）
8	事前学習	p. 16のVocabularyの箇所の意味を調べておく。（30分）
	授業内容	Unit3 It was painted by da Vinci. (vocabulary, grammar)
	事後学習	p. 18のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。（30分）
9	事前学習	前回学習した受動態を参考書等で再度確認し、正しい英文が書けるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit3 It was painted by da Vinci. (speaking testの準備)
	事後学習	グループのメンバーで協力し、発表のスクリプトについて話し合う。（30分）
10	事前学習	講師が出した発表の条件を満たしているか再度スクリプトを確認する。（30分） スクリプトを暗記する。
	授業内容	Unit3 It was painted by da Vinci. (speaking test)
	事後学習	各自、発表メンバーで発表の自己採点を行う。（30分）
11	事前学習	p. 24のVocabularyの箇所の意味を調べておく。（30分）
	授業内容	Unit4 Who's your best friend? (vocabulary, grammar)
	事後学習	p. 26のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。（30分）
12	事前学習	関係代名詞を復習し、正しく英作文ができるように理解を深めておく。（30分）
	授業内容	Unit4 Who's your best friend? (activity)
	事後学習	p. 25の文章を日本語に訳す。（30分）
13	事前学習	Unit4の新出単語をまとめておく。（30分）
	授業内容	Unit4 Who's your best friend?(reading) 前期のまとめ
	事後学習	教科書の問題を再度見直し、講師に質問できるようにしておく。（30分）
14	事前学習	前期の文法事項、英単語を見直し試験に備える。（30分）
	授業内容	前期に扱った文法の解説、授業内テスト
	事後学習	試験問題を再度見直し、問題が解けなかった個所を確認する。（30分）
15	事前学習	前期に扱った箇所を再度見直す。 夏休みの予定を英語で言えるようにしておく。（30分）
	授業内容	授業内試験の解答と解説 英作文
	事後学習	試験の解説をふまえて、後期の学習の仕方をグループで話し合う。（30分）

科目名	英語C【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	You will improve your listening and speaking skills through English-language discussion with your teacher and classmates. You will read and think about English texts.				
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 To learn about East Asia in Japanese history and multicultural stories from modern Japan through listening to, reading and discussing English texts. To be more confident and skilled in understanding and speaking English. You will learn about important events in Japanese history. You will listen to and read English texts. You will discuss those texts, in English, with your teacher and your classmates.				
履修条件	政治経済学科1年生必修科目領域3。6上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。				
授業方法	Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	Assessment and reflection 20%. Final test 30%. Participation 30%. Weekly vocabulary tests 20%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	DTP出版		前期 「An International History of Japan I」	Thomas Lockley
	備考				
参考書	A dictionary, or a smartphone with a dictionary app.				
オフィスアワー	You can contact me anytime for a question or to set up an appointment by email at: joe.geluso@gmail.com Office hours are after class in classroom. (Monday 10:30～)				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Prepare materials for course (60 minutes)
	授業内容	Course introduction and expectations. Learning language through content. All learning is language learning.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
2	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Ancient international Japan: The Jomon and Yayoi peoples and immigration to Japan. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
3	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Japan Towns: Influence of Japan across Asia and the world. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
4	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Yasuke: The African samurai Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)

5	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	The Tensho Embassy and outreach to foreign countries. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
6	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	William Adams: The first Englishman to arrive to Japan Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
7	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	International Nagasaki: The Portuguese bring much to Japan. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
8	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Yamada Nagamasa: Merchant, diplomat, and pirate. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
9	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Tagawa Matsu: The powerful woman behind two powerful men in Japanese history. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
10	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	The Japanese families of European Merchants Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
11	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Korean Embassies to Tokugawa Japan Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
12	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Zhu Shun-sui: Scholar, diplomat and refugee. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
13	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Waegwan: Influential trade partners in ancient Japan. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
14	事前学習	Review book for revision areas (40 minutes)
	授業内容	Revision: Using revision guide to update lesson content
	事後学習	Continue revisions (60 minutes)
15	事前学習	Prep for final exam (120 minutes)
	授業内容	Test: Final exam covering semester's content Review
	事後学習	Reflect on course (Students are free to invest as much time as they like on this)

科目名	英語C【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	M. ボックス	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This course is designed to help students learn how to communicate more freely and fluently using the English that they have studied in the past using original materials designed to help them gain fluency.					
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野でのコミュニケーションに必要なスピーキング・リスニングの基礎力を養成することを目的としています。The main goal is for students to learn how to use the English they already know and to gain confidence in their ability to communicate in English. 関連D P／C P：3, 6					
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。Students will participate in a variety of activities designed to help meet the course goals. The teacher will supervise, guide, and counsel on an individual basis as necessary.					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%		No regular exam will be given, but performance will be measured on participation in each class.	
	平常評価		100%		The grade will be based 90% on in-class participation on a daily basis, and 10% on other activities.	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	None					
	備考	No text required. Printed materials will be distributed at each lesson.				
参考書	No additional reference materials are required.					
オフィスアワー	Email: micahbox@gmail.com Please ask questions after the class (Monday 1st period) at classroom.					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Class explanation, orientation.
	事後学習	Review class rules. (30min)
2	事前学習	Prepare materials required for information cards and bring them to class. (30min)
	授業内容	Fill out information cards, class activity.
	事後学習	Review orientation materials. (30min)
3	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
4	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)

5	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
6	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
7	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
8	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
9	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
10	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
11	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
12	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
13	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
14	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
15	事前学習	Review class materials at home. (30min)
	授業内容	Final class evaluations. Review
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)

科目名	英語C【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	菊地 幸子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEICのリスニングセクションと頻出語彙に特化したテキストを用い、問題形式に慣れ、語彙力を強化することによりTOEICのスコアを高めると共に全般的な聴解力の向上を目指す。				
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア600点以上を獲得できることを目標とする。対応DP及びCP: 外国語科目領域3, 6				
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修すること。				
授業方法	演習方式で行う。フィードバックとして最終授業で授業内試験の講評及び振り返りを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加度（20％）、小テスト（30％）、学期末試験（50％）の割合で総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年	三修社		Listening and Vocabulary Training for the TOEIC L&R Test	古家 聡 他
	備考				
参考書	特に指定しない。				
オフィスアワー	授業前後の休み時間に（月曜日10：30～）講堂にて。緊急の連絡事項がある場合はメールで知らせること。 メールアドレス：kikuchi.sachiko11@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、講義全体を概観する。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、評価方法、受講上の注意事項等を説明する。
	事後学習	ガイダンスの内容を確認する。（30分）
2	事前学習	Vocabulary Building Step1をよく読み覚える。（30分）
	授業内容	Unit 1 Step 1 注文した商品の確認
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。（30分）
3	事前学習	Vocabulary Building Step 2をよく読み覚える。（30分）
	授業内容	Unit 1 Step 2 旅行代理店からの留守番電話
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。（30分）
4	事前学習	Vocabulary Building Step 1をよく読み覚える。（30分）
	授業内容	Unit 2 Step 1 会議の延期
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。（30分）

5	事前学習	Vocabulary Building Step 2をよく読み覚える。(30分)
	授業内容	Unit 2 Step 2 輸入税の規制
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。(30分)
6	事前学習	Vocabulary Building Step 1をよく読み覚える。(30分)
	授業内容	Unit 3 Step 1 自転車の購入
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。(30分)
7	事前学習	Vocabulary Building Step 2をよく読み覚える。(30分)
	授業内容	Unit 3 Step 2 銀行の音声ガイダンス
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。(30分)
8	事前学習	Vocabulary Building Step 1をよく読み覚える。(30分)
	授業内容	Unit 4 Step 1 旅行についての会話
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。(30分)
9	事前学習	Vocabulary Building Step 2をよく読み覚える。(30分)
	授業内容	Unit 4 Step 2 ツアーガイドの説明
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。(30分)
10	事前学習	Vocabulary Building Step 1をよく読み覚える。(30分)
	授業内容	Unit 5 Step 1 職業についての悩み
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。(30分)
11	事前学習	Vocabulary Building Step 2をよく読み覚える。(30分)
	授業内容	Unit 5 Step 2 会社のコストに関するグラフ
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。(30分)
12	事前学習	Vocabulary Building Step 1をよく読み覚える。(30分)
	授業内容	Unit 6 Step 1 ミーティングについて
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。(30分)
13	事前学習	Vocabulary Building Step 2をよく読み覚える。(30分)
	授業内容	Unit 6 Step 2 退職者の挨拶
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。(30分)
14	事前学習	試験範囲を復習する。(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期のまとめ。
	事後学習	試験で分からなかった部分の正解を考える。(30分)
15	事前学習	テキストの総復習。(30分)
	授業内容	授業内試験の講評及び振り返り。
	事後学習	前期の学習内容を確認する。(30分)

科目名	英語C【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	小林 晴子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際社会において情報収集に必要な英語力を、リスニング能力に重点をおいて修得する。英語音声、テキスト、インフォグラフィックスなどの理解に基づき、各々の理論的・批判的思考力を用いて導き出した情報、思考、意見を、聞き手に理解されやすい英語音声、表現、論理的提示方法で話す訓練を行う。			
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なスピーキング・リスニングの基礎力を養成することを目的としています。英語資格試験の受験を視野に入れた、スピーキング・リスニングの基礎固めを目指します。そのために種々の発音、文法、語彙、構文、文章構造などの習得と、ディスカッション、プレゼンテーションなどの演習に取り組みます。TOEICテスト等のためのリスニング能力をさらに向上させ、リスニングパートのスコアを100点高く獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6			
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。演習授業なので必ず8割以上出席をすることを求めます。			
授業方法	演習方式。小テストを毎回実施。授業では、音読、シャドウイング、ディクテーション、ノートテイキング、学生のペアワーク、ディスカッション、ロールプレイング、プレゼンテーション等を行う。毎回リスニングに関する課題あり。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価：100%(授業パフォーマンス・スピーチ30%、小テスト・課題提出40%、期末テスト30%)
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年出版	ナショナルジオグラフィック	Pathways 2 - Listening, Speaking, and Critical Thinking Second Edition	Becky Tarver Chase
	備考			
参考書	英和・和英辞書は必携。その他は、適宜指示する。			
オフィスアワー	月曜日12:30~13:00（事前にメールでアポイントを取ること）授業講堂 kobayashi.haruko11@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキスト全体に目を通しておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス。テキスト・辞書を持ってくるように。授業の進め方、テキストの使用方法、予習・復習・学習法などを説明します。オンライン資料へのアクセス方法を確認します。
	事後学習	授業ガイダンスに従い Unit 1 Lesson A を予習する。（30分）
2	事前学習	Unit 1 Lesson A Vocabulary pp. 2~5を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	小テスト。テキスト Unit 1 Healthy Lives, Lesson A: A Talk about Preventing Heart Disease のテーマについて講演を聞く。テーマに沿って会話をする。
	事後学習	課題：講演内容のノートテイキング。（1時間）
3	事前学習	Unit 1 Lesson B Vocabulary pp. 14~15 を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。小テスト。テキスト Unit 1 Lesson B: A Conversation about Allergies についての日常会話を聞く。指定された表現方法を用いて話す。
	事後学習	課題：日常会話のディクテーション。（1時間）
4	事前学習	プレゼンテーションの準備。（1時間）
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。 テキスト Unit 1 Health に関して指定されたテーマについて発表する。
	事後学習	プレゼンテーションの反省と見直し。（30分）

5	事前学習	Unit 2 Technology Today and Tomorrow, Lesson A Vocabulary pp.22~25を予習し、小テストの準備をする。。（30分）
	授業内容	小テスト。テキスト Unit 2, Lesson A: A Radio Show about AIについて話しを聞く。テーマに沿って会話をする。
	事後学習	課題：講演内容のノートテイキング。（1時間）
6	事前学習	Unit 2 Lesson B Vocabulary pp.34~35 を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。小テスト。テキスト Unit 2 Lesson B: A Conversation about Technology の日常会話を聞く。指定された表現方法を用いて話す。
	事後学習	課題：日常会話のディクテーション。（1時間）
7	事前学習	プレゼンテーションの準備。（1時間）
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。 テキスト Unit 2 Technology に関して指定されたテーマについて発表する。
	事後学習	プレゼンテーションの反省と見直し。（30分）
8	事前学習	Unit 3 Culture and Tradition, Lesson A Vocabulary pp.41~45を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	小テスト。テキスト Unit 3 Lesson A Lecture about Cowboys のテーマについて講演を聞く。テーマに沿って会話をする。
	事後学習	課題：講演内容のノートテイキング。（1時間）
9	事前学習	Unit 3 Lesson B Vocabulary pp.54~55 を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	小テスト。課題の内容、重要ポイントを確認する。テキスト Unit 3 Lesson B: An Assignment about Music についての日常会話を聞く。指定された表現方法を用いて話す。
	事後学習	課題：日常会話のディクテーション。（1時間）
10	事前学習	プレゼンテーションの準備。（1時間）
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。 テキスト Unit 3 Culture and Tradition に関して指定されたテーマについて発表する。
	事後学習	プレゼンテーションの反省と見直し。（30分）
11	事前学習	Unit 4 A Thirsty World, Lesson A Vocabulary pp.61~65 を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	小テスト。テキスト Unit 4 Lesson A: A Talk about Itaipu Dam のテーマについて講演を聞く。テーマに沿って会話をする。
	事後学習	課題：講演内容のノートテイキング。（1時間）
12	事前学習	Unit 4 Lesson B Vocabulary pp.74~75 を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	小テスト。課題の内容、重要ポイントを確認する。テキスト Unit 4 Lesson B: A Discussion aobut the Ogallala Aquifer のテーマについての日常会話を聞く。指定された表現方法を用いて話す。
	事後学習	課題：日常会話のディクテーション。（1時間）
13	事前学習	プレゼンテーションの準備。（1時間）
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。テキスト Unit 4 Water Resources に関して指定されたテーマについて発表する。
	事後学習	プレゼンテーションの反省と見直し。（30分）
14	事前学習	今学期の授業を振り返る。（2時間以上）
	授業内容	授業内試験および今学期の授業のまとめ
	事後学習	授業の見直しをする。（30分）
15	事前学習	授業内試験を振り返る。（1時間）
	授業内容	授業内試験のフィードバック。
	事後学習	授業の見直しをする。（30分）

科目名	英語C【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	アソニートービン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	In this course students will learn the necessary vocabulary and phrases to engage in a wide variety of discussions.			
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 The objective of this course is to develop basic skills so that students comprehensively and conversationally communicate through authentic English materials and so that students can prepare for their certain language proficiency examination, such as TOEIC, TOEFL or Eiken test. Students will be able to get a wide range of vocabulary and language patterns which will help them			
履修条件	政治経済学科1年生番号指定の英語記号資格試験の後驗を関連奨励するP原則、英語Dと通年で履修してください。			
授業方法	演習方式。In this course students will engage in group and whole class discussions.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	50%:Several short tests throughout the semester. 50%:Students are expected to participate in all class activities.	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2008	Cengage	Communication Strategies 1	David Paul
	備考			
参考書	An English dictionary.			
オフィスアワー	The teacher can be reached at tonymtobin@hotmail.com to arrange a consultation. Please ask questions after the class (Monday 1st period) at classroom.			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Prepare self-introduction (30min)
	授業内容	Orientation
	事後学習	Read materials (30min)
2	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 1 Friends Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
3	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 1 Friends Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
4	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 2 Free Time Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)

5	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 2 Free Time Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
6	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 3 The Past Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit Revision for forthcoming test (30min)
7	事前学習	Read unit Revision for forthcoming test (30min)
	授業内容	Unit 3 The Past Skills: English listening and discussion skills Short Test
	事後学習	Review unit (30min)
8	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 4 The Family Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
9	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 4 The Family Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
10	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 5 Work Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
11	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 5 Work Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
12	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 6 City Life Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit Revision for forthcoming test (30min)
13	事前学習	Read unit Revision for forthcoming test (30min)
	授業内容	Unit 6 City Life Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
14	事前学習	Revise all units (30min)
	授業内容	Vocabulary test Review
	事後学習	Revise all units (30min)
15	事前学習	Revise all units (30min)
	授業内容	Review 解説
	事後学習	Revise all units (30min)

科目名	英語C【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	鬼塚 雅子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC, TOEFL、英検などの資格試験を目指すための基礎固めをします。テキストを通して海外旅行を疑似体験しながら、実生活のさまざまな場面で役立つ表現を多く学びます。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。語彙力を高め、多くの英語表現を覚え、社会の中で積極的にコミュニケーションを実践する力の基礎を身につけましょう。 【到達目標】TOEICテストのスコア450点以上を獲得あるいは英検2級以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3， 6			
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。授業時には必ず辞書（ただしスマートフォンは使用不可）を持参してください。			
授業方法	全員参加型の演習方式です。1～2回の授業でone unitの学習を目指します。語彙力チェックや暗記（ペアやグループによる発表）も実施します。授業内に実施したテストはすべてその翌週（または翌々週）に返却し、解説します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常評価（授業参加度、グループワーク、単語テスト、学年末試験など）100%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	南雲堂	Enjoy Your Trip! ― English you need abroad（旅英語の心得）	Masumi Takeuchi 他
	備考			
参考書	英和・和英辞典(小学館、大修館など)、英英辞典（オックスフォード、ロングマンなど）、百科事典など			
オフィスアワー	質問や問い合わせはできるだけ授業前後（金曜：昼休み）に講堂でお願いします。メールについては最初の授業内で説明します。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストの「はじめに」を読み、授業の流れを把握する。（30分）
	授業内容	ガイダンス：授業の進め方・評価について説明する。
	事後学習	自分で半年間の学習計画をたてる。TOEICや英検などの各種検定試験についてWEBサイトや図書館を使って調べる。（30分）
2	事前学習	テキストの7～9頁にを通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。（1～2時間）
	授業内容	Unit 1 At the airport 空港関係の単語を覚える。発音記号を学習する。
	事後学習	学習した語句を覚える。CDを聞いて発音練習をする。（30分～60分）
3	事前学習	テキストの10～12頁にを通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。（1～2時間）
	授業内容	Unit 1 At the airport 発音が難しい国名・都市名の聴解及び音読練習をする。会話表現をペアで練習する。搭乗券に書かれた英語を理解する。
	事後学習	学習した表現を覚える。CDを聞いて発音練習をする。（30分～60分）
4	事前学習	テキストの13～15頁に目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。（1～2時間）
	授業内容	Unit 2 On the plane 機内で使う単語を覚える。可算名詞と不可算名詞を理解する。
	事後学習	学習した語句を覚える。CDを聞いて発音練習をする。（30分～60分）

5	事前学習	テキストの16～18頁に目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 2 On the plane 機内アナウンスを学習する。会話表現をペアで練習し、決まった言い方を理解し、暗記する。
	事後学習	学習した会話表現を覚える。CDを聞いて発音練習をする。(30分～60分)
6	事前学習	テキストの19～21頁に目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 3 Arrival 入国審査時の会話を学習する。相手の発話が聞き取れない時の対応表現を理解する。
	事後学習	学習した語句を覚える。CDを聞いて発音練習をする。(30分～60分)
7	事前学習	テキストの22～24頁に目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 3 Arrival シャトルサービスの広告文を学習する。日付は時間を表す表現を理解する。
	事後学習	学習した会話表現を覚える。CDを聞いて発音練習をする。(30分～60分)
8	事前学習	テキストの25～27頁に目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 4 Checking in at the hotel ホテルのチェックインに関連した語句を学習する。カタカナになっている英語の注意すべき発音を学習し、理解する。
	事後学習	学習した語句を覚える。CDを聞いて発音練習をする。(30分～60分)
9	事前学習	テキストの28～30頁に目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 4 Checking in at the hotel ホテルの予約確認書の英語を学習する。何か不都合がある際に申し出、その状況を説明する表現を理解する。
	事後学習	学習した表現を覚える。CDを聞いて発音練習をする。(30分～60分)
10	事前学習	テキストの31～36頁に目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 5 Getting information and sightseeing 観光案内で使われる表現を学習する 申し出や希望を表す慣用表現を理解する。
	事後学習	学習した語句を覚える。CDを聞いて発音練習をする。(30分～60分)
11	事前学習	テキストの37～42頁に目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 6 Ordering fast food 食事を注文するときの会話やメニューの英語を学習する。分数の言い方を理解する。
	事後学習	学習した表現を覚える。CDを聞いて発音練習をする。(30分～60分)
12	事前学習	テキストの43～46頁に目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 7 Going to the theater 観劇や劇場に関連する語句を学習する。チケットに書かれた英語や座席の表し方を理解する。
	事後学習	学習した語句を覚える。CDを聞いて発音練習をする。(30分～60分)
13	事前学習	テキストの47～48頁に目を通し、練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。前期に学習した語彙(単語、熟語、発音記号)を復習する。(1～2時間)
	授業内容	語彙力チェック。前期に学習した単語・熟語・発音記号の振り返り。
	事後学習	間違えた語彙の問題をやり直し、暗記する。(30分)
14	事前学習	前期に学習した慣用句・会話表現を復習する。(1～2時間)
	授業内容	授業内試験。慣用句、会話、案内、説明などさまざまな表現についての振り返り。
	事後学習	間違えた表現を確認し、自分の弱点を把握し、克服する。(30分～60分)
15	事前学習	前期に学習した内容を総復習し、質問事項を整理する。(30分～60分)
	授業内容	前期の学習内容の振り返り。答案の返却と解説により、質問や疑問点を明らかにする。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。今後の学習方法や計画を考える。(30分～60分)

科目名	英語C【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	庭山 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験を目指すための基礎固めをします。TOEIC に出題されるボキャブラリーや表現を多く覚えます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEIC テストの基礎力を身に付け、スコアを500点以上獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 3，6					
履修条件	新聞学科 1 年生番号指定クラスです。上記資格試験の受験を強く奨励します。 原則、英語Dと通年で履修してください。					
授業方法	様々な場面の発話のディクテーションを行い、文法の確認、内容の理解を行い発話の練習をします。授業の初めに前回の授業で出てきた重要ボキャブラリーと内容理解確認の小テストを実施し、次回の授業で返却と解説をします。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末授業内試験等）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2015年	金星堂		STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING		Yukihiro Tsukada
	備考					
参 考 書	英和辞書。その他は授業の中で指示します。					
オフィスアワー	授業内容に関する質問・相談等は、 8：30 から 9：00、授業終了後、お昼休み、4 限終了後に教室で対応します。 （金曜日）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス、テキストを読み、授業の概要を把握する。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、自宅学習の進め方、評価に関する説明、TOEIC、TOEFL、英検など、資格試験のリスニングの解説を行います。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。各種資格試験について調べる。（30分）
2	事前学習	テキストにある指示に従い、テキストの音声ファイルをダウンロードする。 テキストp. 14-15の問題を解く。（30分）
	授業内容	Unit 1 Daily Life 日常生活で使われる表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次回的小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。（30分）
3	事前学習	音声を聞きp. 16-17の問題を解き、語彙を調べる。（30分）
	授業内容	Unit 2 Restaurant レストランで使われる表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次回的小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。（30分）
4	事前学習	音声を聞きp. 18-19の問題を解き、語彙を調べる。（30分）
	授業内容	Unit 3 Party パーティーに関係する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次回的小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。（30分）

5	事前学習	音声聞きp. 20-21の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 4 Airport 空港で使われる表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解ける。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
6	事前学習	音声聞きp. 22-23の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 5 Hotel ホテルに関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解ける。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し語彙を覚える。(30分)
7	事前学習	音声聞きp. 24-25の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 6 Traffic 交通に関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解ける。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
8	事前学習	音声聞きp. 26-27の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 7 Tour & Event ツアー・イベントに関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解ける。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
9	事前学習	音声聞きp. 28-29の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 8 Shopping ショッピングに関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解ける。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
10	事前学習	音声聞きp. 30-31の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 9 Service サービスに関係する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解ける。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
11	事前学習	音声聞きp. 32-33の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 10 Health 健康に関係する表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解ける。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
12	事前学習	音声聞きp. 34-35の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 11 Finance & Banking 金融に関係する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解ける。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
13	事前学習	音声聞きp. 36-37の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 12 Housing 住宅・不動産に関係する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解ける。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
14	事前学習	Unit 1 からUnit 12までの復習をする。フィードバックされた小テストを見直す。(30分)
	授業内容	Unit 1からUnit 12までのまとめ及び授業内試験を行う。
	事後学習	授業で行った箇所の再確認をすること。(30分)
15	事前学習	これまでの授業内容の学習の振り返り。(30分)
	授業内容	授業内試験のフィードバックと解説
	事後学習	間違えた箇所を解き直し、今後の学習計画を立てる。(30分)

科目名	英語C【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	山下 登子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英文法の基礎を見直しつつ、語彙力向上を目指した学習を行い、総合的な英語力向上につなげる授業です。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】できるだけ多くの語彙を習得し、基本文法の理解及びTOEICスコア450点以上を獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域3、6			
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。			
授業方法	グループ活動を中心とした演習形式の授業です。毎回単語練習の課題を出し、授業内で単語テストを実施し、次の授業で返却を行う。遅刻3回は1回分の欠席とし、欠席が全体の1/3以上を超える場合は失格とする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	単語テスト、受講状況、単語ノート提出、授業内試験などを含めて総合的に評価します。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	英宝社	『Basic English Grammar for Global Communication（やさしく詳しい 基礎からの総合英語）』	船田 秀佳ほか
	備考			
参考書	英和辞書（電子辞書可）			
オフィスアワー	授業に関する質問・相談などは、授業前後や休み時間（金曜昼休み）に、教室、教員室またはe-mailにて対応します。 yamashita.takako1@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教材の準備、シラバスを読み、講義全体を概観する。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、学習範囲、今後の予定などを説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらい、学習範囲の確認をする。（30分）
2	事前学習	教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テストについて・Unit 1（学習Unitは変更する場合があります） 現在形について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
3	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト①・Unit 2 過去形について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
4	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト②・Unit 2 過去形について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）

5	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト③・Unit 3 未来形について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
6	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト④・Unit 4 進行形について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
7	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑤・Unit 4 進行形について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
8	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑥・Unit 5 完了形について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
9	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑦・Unit 5 完了形について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
10	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑧・Unit 6 助動詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
11	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑨・Unit 6 助動詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
12	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑩・Unit 7 受動態について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
13	事前学習	単語ノート提出の準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	ノート提出・Unit 7 受動態について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。（30分）
14	事前学習	学習範囲の総復習（30分）
	授業内容	授業内試験及び学習内容の振り返り
	事後学習	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。（30分）
15	事前学習	重要箇所や分からないところの確認など（30分）
	授業内容	授業内試験の見直し及び学習内容の振り返り
	事後学習	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。（30分）

科目名	英語C【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	村松 直子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験を目指すための基礎固めをします。英語資格試験やビジネスに必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成します。TOEICに出題される表現を多く覚えます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。対応DP及びCP：外国語科目領域3,6					
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。毎時間、小テストを実施する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	KINSEIDO		The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test.		K. Hayakawa et al.
	備考					
参考書	授業では使用しない。各自の必要に応じて英文法解説書を参照してください。					
オフィスアワー	金曜日の4時限後 事前（授業後等）に講堂にて対面でアポイントメントを入れてください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（20分） 教科書12、13、17ページの問題を解き、17ページの英文の意味を把握する。（30分）
	授業内容	オリエンテーション 授業の進め方、TOEICの概要の説明を聞く。 リスニング・ストラテジー、スピーキング・ストラテジーの説明を聞く。
	事後学習	TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検などの各種検定試験についてWebサイト等で調べてみる。（30分）
2	事前学習	テキスト12ページの頻出語句を暗記する。14-16, 18-20ページの問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	Unit1 Travelに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 Who疑問文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
3	事前学習	テキスト21ページの頻出語句を暗記する。Unit2の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit2 Dining Outに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 Where疑問文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
4	事前学習	テキスト30ページの頻出語句を暗記する。Unit3の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit3 Mediaに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 When疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）

5	事前学習	テキスト39ページの頻出語句を暗記する。Unit4の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit4 Entertainmentに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 Why疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
6	事前学習	テキスト48ページの頻出語句を暗記する。Unit5の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit5 Purchasingに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 How疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
7	事前学習	テキスト58ページの頻出語句を暗記する。Unit6の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit6 Clientsに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 How + α 疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
8	事前学習	テキスト67ページの頻出語句を暗記する。Unit7の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit7 Recrutingに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 Yes/No疑問文（YesかNoで答える）の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
9	事前学習	テキスト77ページの頻出語句を暗記する。Unit8の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit8 Personnellに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 Yes/No疑問文（YesかNoで答えない）の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
10	事前学習	テキスト86ページの頻出語句を暗記する。Unit9の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit9 Advertisingに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 間接疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
11	事前学習	テキスト95ページの頻出語句を暗記する。Unit10の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit10 Meetingsに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 付加疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
12	事前学習	テキスト104ページの頻出語句を暗記する。Unit11の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit11 Financeに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 否定疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
13	事前学習	テキスト113ページの頻出語句を暗記する。Unit12の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit12 Officesに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 依頼・許可表現の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
14	事前学習	Unit11-12の学習内容を確認、復習する。（60分）
	授業内容	授業内期末試験及び振り返り
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
15	事前学習	テキスト122ページの頻出語句を暗記する。Unit13の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit13 Daily Lifeに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 提案・勧誘表現の意味を素早く理解し、応答できるようにする。 前期学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（30分）

科目名	英語C【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Improving English speaking and listening skills.					
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。We will practice speaking, listening, reading and writing English, with the focus on improving speaking and listening abilities. Students must try their best to speak English in class with the teacher and with each other.Students will be able to understand English better and communicate their thoughts and feelings better in English. 関連D P / C P : 3, 6					
履修条件	新聞学科 1 年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修すること。					
授業方法	演習方式。We will focus on speaking and listening to English in the class.					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		Evaluation will be classwork 75%, speaking/listening test 25%.	
教科書	年	出版社		書名		著者名
		Cambridge UP		English Unlimited Elementary		Tilbury & Clementson
	備考					
参 考 書	なし					
オフィスアワー	Friday, 12:10-13:00 at classroom					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction
	事後学習	Be ready to study English. (30min)
2	事前学習	Be ready to study English. (30min)
	授業内容	Unit 1A Personal Information. Talking about ourselves with other people.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
3	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 1B People. Getting along with the people around us and how they are different.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
4	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 2A Jobs. Kinds of things people do to make money and live.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)

5	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 2B Interests. What we like to do when we aren't working or studying.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
6	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 3A Requests. Getting people around you to help you do things.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
7	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 3B Free Time. Hobbies and interests in our leisure time.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
8	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 4A Habits. What we usually do, good or bad.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
9	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 4B Experiences. Things we have done in the past and learned from.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
10	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 5A Events. Important things that are happening in the world.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
11	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 5B Neighborhood. The place we live and its good and bad points.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
12	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 6A Home. The rooms and things in our homes.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
13	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 6B Shopping. Going out and buying things we need or want.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
14	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 6C Meals. Kinds of food we like and how to eat them.
	事後学習	Study for test. (30min)
15	事前学習	Study for test. (30min)
	授業内容	Test and review. 解説
	事後学習	Review. (30min)

科目名	英語C【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年次以降の発展的な学習に備え、日本人が注意すべきprosody(rhythm, stress, intonation)を習得するためのきわめて実践的なトレーニングを行う。具体的にはNews English, Business English, Colloquial Speechを扱う。				
授業目的・到達目標	[授業目的] TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的とする。 [到達目標] リスニング・スピーキング能力を向上させ、TOEICスコアを450点程度獲得できることを目標とする。 対応DPおよびCP：外国語科目領域 3, 6				
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修すること。また、勉学上の大きな負荷に耐えうる強靱な忍耐力を期待する。グループ演習を行うため、積極性、協調性を強く求める。				
授業方法	動画や音声を用いた演習方式。フィードバックは授業内において行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加度や提出物、小テストなど多様な面から総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教材プリントを配布する。			
参考書	授業時に適宜指示をする。				
オフィスアワー	担当教員研究室（本館8階1815研究室）にて金曜日3時限に対応する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、講義全体を概観する。（30分）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	イントロダクションの振り返りを行う。（30分）
2	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 1 Business English: Unit 1 THE INTERVIEW Pronunciation Practice: 連結
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
3	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 2 Business English: Unit 2 MY JOB DESCRIPTION Pronunciation Practice: 脱落
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
4	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、小テスト 1に備える。（30分）
	授業内容	これまでの授業内容の振り返り 1 小テスト 1（筆記試験および口頭試験）
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）

5	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 3 Business English: Unit 3 ARRIVING AT MY NEW OFFICE Pronunciation Practice: 弱化(1)
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
6	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 4 Business English: Unit 4 TALKING WITH MY NEW BOSS Pronunciation Practice: 弱化(2)
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
7	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、小テスト 2に備える。（30分）
	授業内容	これまでの授業内容の振り返り 2 小テスト 2（筆記試験および口頭試験）
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
8	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 5 Business English: Unit 5 THE OFFICE TOUR Pronunciation Practice: 短縮形
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
9	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 6 Business English: Unit 6 ANSWERING THE TELEPHONE AND TRANSFERRING A CALL Pronunciation Practice: 同化、弾音化、リズム
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
10	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、小テスト 3に備える。（30分）
	授業内容	これまでの授業内容の振り返り 3 小テスト 3（筆記試験および口頭試験）
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
11	事前学習	Presentation Contest 1の準備を行う。（30分）
	授業内容	Presentation Contest 1 (Tongue Twister)
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
12	事前学習	Presentation Contest 2の準備を行う。（30分）
	授業内容	Presentation Contest 2 (Tongue Twister)
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
13	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、TOEIC模擬試験 1（Part1～Part4）に備える。（30分）
	授業内容	TOEIC模擬試験 1（Part1～Part4）
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
14	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、TOEIC模擬試験 2（Part5～Part7）に備える。（30分）
	授業内容	TOEIC模擬試験 2（Part5～Part7）
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
15	事前学習	これまでの授業内容の振り返りを行う。（30分）
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）

科目名	英語C【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	鬼塚 雅子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日常生活からビジネスまで幅広いトピックを扱った教材を通して、語彙を増やし、リスニング力のレベルアップをはかります。 TOEIC, TOEFL、英検などの資格試験を目指すための基礎固めをするとともに、実生活のさまざまな場面で役立つ表現を多く学びます。			
授業目的・到達目標	【授業目的】 TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。語彙力を高め、多くの英語表現を覚え、社会の中で積極的にコミュニケーションを実践する力の基礎を身につけましょう。 【到達目標】 TOEICテストのスコア450点以上を獲得あるいは英検2級以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域 3， 6			
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。授業時には必ず辞書（ただしスマートフォンは使用不可）を持参してください。			
授業方法	全員参加型の演習方式です。1回の授業でone unitの学習を目指します。語彙力チェックや暗記（ペアやグループによる発表）も実施します。授業内に実施したテストはすべてその翌週（または翌々週）に返却し、解説します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常評価（授業参加度、グループワーク、単語テスト、学年末試験など）100%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	南雲堂	Listening Elements （大学生のための『リスニングエレメント』）	Terry O'Brien他
	備考			
参考書	英和・和英辞典(小学館、大修館など)、英英辞典（オックスフォード、ロングマンなど）、百科事典など			
オフィスアワー	質問や問い合わせはできるだけ授業前後（金曜10：30～）講堂でお願いします。メールについては最初の授業内で説明します。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの「はしがき」と「本書の使い方」を読み、「Contents」に目を通す。（30分）
	授業内容	ガイダンス：授業の進め方・評価について説明する。
	事後学習	もう一度テキストの「はしがき」と「本書の使い方」を読み、自分で半年間の学習計画をたてる。TOEICや英検などの各種検定試験についてWEBサイトや図書館を使って調べる。（30分）
2	事前学習	テキスト7～9頁に目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。（1～2時間）
	授業内容	Unit 1 My Life 単語及び会話の聞き取りを学習し、カタカナと英語の違い（発音及びアクセントの位置や意味）を理解する。
	事後学習	Unit 1 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。（30分～60分）
3	事前学習	テキスト10～12頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。（1～2時間）。
	授業内容	Unit 2 Where is it? 単語及び会話の聞き取りを学習し、つながる音の消失を理解する。
	事後学習	Unit 2 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。（30分～60分）
4	事前学習	テキスト13～15頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。（1～2時間）。
	授業内容	Unit 3 Mom and Dad's House 空所補充問題を通して慣用句を理解し、語末の-e(s)の発音を学習する。
	事後学習	Unit 3 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。（30分～60分）

5	事前学習	テキスト16～18頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)。
	授業内容	Unit 4 William Parker 人称代名詞について理解し、その聞き取りをできるようにする。
	事後学習	Unit 4 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。(30分～60分)
6	事前学習	テキスト19～21頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。(1～2時間)。
	授業内容	Unit 5 My Company 空所補充問題を通して慣用句を理解し、紛らわしい音(wantとwon'tなど)について学習する。
	事後学習	Unit 5 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。(30分～60分)
7	事前学習	テキスト22～24頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 6 My Schedule 意味が一つの場合は、複数の語がつながって聞こえることを学習し、理解する。
	事後学習	Unit 6 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。(30分～60分)
8	事前学習	テキスト25～27頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 7 When I was young … 動詞の過去・過去分詞を理解し、その語尾の発音を学習する。
	事後学習	Unit 7 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。(30分～60分)
9	事前学習	テキスト28～30頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 8 Questions 疑問詞で始まる疑問文を理解し、そのイントネーションを学習する。
	事後学習	Unit 8 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。(30分～60分)
10	事前学習	テキスト31～33頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 9 Answers ショートトークで使われる表現を学習し、二つの子音が連続した際に生じる音の弱化や消失について理解する。
	事後学習	Unit 9 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。(30分～60分)
11	事前学習	テキスト34～36頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 10 My Office 前置詞と接続詞を理解し、音の弱化(リダクション)を学習する。
	事後学習	Unit 10 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。(30分～60分)
12	事前学習	テキスト37～39頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめておく。付属のCDを聞く。(1～2時間)。
	授業内容	Unit 11 The Travel Agent ショートトークで使われる表現を学習し、破裂音と聞こえない文尾の音について理解する。
	事後学習	Unit 11 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。(30分～60分)
13	事前学習	前期に学習した語彙(単語、熟語、発音記号)を復習する。(1～2時間)
	授業内容	語彙力チェック。前期に学習した単語・熟語・発音記号についての振り返り。
	事後学習	間違えた語彙の問題をやり直し、暗記する。(30分)
14	事前学習	前期に学習した慣用句・会話表現を復習する。(1～2時間)
	授業内容	授業内試験。慣用句、会話表現、ショートトークの構成、英問英答についての振り返り。
	事後学習	間違えた表現を確認し、自分の弱点を把握し、克服する。(30分～60分)
15	事前学習	前期に自分が学習した内容を総復習し、質問事項を整理する。(60分)
	授業内容	前期の学習内容の振り返り。答案の返却と解説により、質問や疑問点を明らかにする。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。今後の学習方法や計画を考える。(30分～60分)

科目名	英語C【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	堀 紳介	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業の前半ではまず学生は基本的な英会話表現を学びます。後半では前半で学んだ表現を実際の英会話で実践する術を学びます。 そして、授業内で学んだ表現が実践できているかを確認します。 学生は授業内で積極的に発言することが求められます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング、スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】授業ではテキストを用い、基本的な英会話表現を学びますが、学生が学んだ表現を能動的に実践することが出来るようになることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3，6					
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。					
授業方法	授業は基本的に演習形式で進めます。 課題、ロールプレイングに対するフィードバックを授業内で行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価100% ＊授業に出席することは単位を認定する上での前提条件とする。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	金星堂		English First: Starter：大学英語の総合的アプローチ		Robert Hickling 臼倉美里
	備考					
参考書	随時指示します。					
オフィスアワー	金曜1限授業終了後（10：30～10：40）、授業講堂で対応します。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの確認（30分）
	授業内容	ガイダンス、前期授業内容の説明、
	事後学習	Pre-Unitの問題を授業が始まる前までに解いておくこと。（30分）
2	事前学習	Pre-Unitの問題を授業が始まるまでに解いておくこと。（30分）
	授業内容	Pre-Unit：英語の基本構造を学び（S+V+O+C）、それを会話で実践する術を理解する。
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
3	事前学習	授業が始まるまでにUnit1のリスニング部分を付属のCDで聞いておくこと。（30分）
	授業内容	Unit1リスニング問題：英語の発音の仕組み、日本語との違いを学ぶ
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
4	事前学習	Unit1文法セクションを授業が始まるまでに解いておくこと。（30分）
	授業内容	Unit1リスニング問題、文法問題：実際の英会話実践例を紹介
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）

5	事前学習	授業が始まるまでにUnit 2 のリスニング部分を付属のCDで聞いておくこと。（30分）
	授業内容	Unit 2 リスニング問題：英文のスピードに慣れる。
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
6	事前学習	Unit 2 の文法問題を授業が始まるまでに解いておくこと。（30分）
	授業内容	Unit 2 文法問題：英米文化を紹介しながら、英会話を実践
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
7	事前学習	授業が始まるまでにUnit 3 のリスニング問題を付属のCDで聞いておくこと。（30分）
	授業内容	Unit 3 リスニング問題：英文のスピードに慣れる。
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
8	事前学習	授業が始まるまでにUnit 3 の文法問題を解いておくこと。（30分）
	授業内容	Unit 3 文法問題：英米文化を紹介しながら、英会話を実践
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
9	事前学習	授業が始まるまでに発表事項をまとめておくこと。（30分）
	授業内容	ロールプレイング準備：これまでに学んだ表現を用いてロールプレイング
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
10	事前学習	授業が始まるまでに発表事項をまとめておくこと。（30分）
	授業内容	ロールプレイング準備：これまでに学んだ表現を用いてロールプレイング
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
11	事前学習	授業が始まるまでに発表事項をまとめておくこと。（30分）
	授業内容	ロールプレイング準備：これまでに学んだ表現を用いてロールプレイング
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
12	事前学習	授業が始まるまでに発表事項をまとめておくこと。（30分）
	授業内容	ロールプレイング準備：これまでに学んだ表現を用いてロールプレイング
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
13	事前学習	授業が始まるまでに発表事項をまとめておくこと。（30分）
	授業内容	ロールプレイング準備：これまでに学んだ表現を用いてロールプレイング
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
14	事前学習	授業が始まるまでに発表事項をまとめておくこと。（30分）
	授業内容	ロールプレイング準備：これまでに学んだ表現を用いてロールプレイング
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
15	事前学習	ロールプレイングに向けた準備（30分）
	授業内容	ロールプレイング総括、前期授業のまとめ（フィードバック）
	事後学習	これまでの既習事項を復習すること。（30分）

科目名	英語C【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	山下 登子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英文法の基礎を見直しつつ、語彙力向上を目指した学習を行い、総合的な英語力向上につなげる授業です。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】できるだけ多くの語彙を習得し、基本文法の理解及びTOEICスコア450点以上を獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域3、6			
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。			
授業方法	グループ活動を中心とした演習形式の授業です。毎回単語練習の課題を出し、授業内で単語テストを実施し、次の授業で返却を行う。遅刻3回は1回分の欠席とし、欠席が全体の1/3以上を超える場合は失格とする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	単語テスト、受講状況、単語ノート提出、授業内試験などを含めて総合的に評価します。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	英宝社	『Basic English Grammar for Global Communication（やさしく詳しい 基礎からの総合英語）』	船田 秀佳ほか
	備考			
参考書	英和辞書（電子辞書可）			
オフィスアワー	授業に関する質問・相談などは、授業前後や休み時間（金曜10：30～）に、教室、教員室またはe-mailにて対応します。 yamashita.takako1@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教材の準備、シラバスを読み、講義全体を概観する。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、学習範囲、今後の予定などを説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらい、学習範囲の確認ををする。（30分）
2	事前学習	教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テストについて・Unit 1（学習Unitは変更する場合があります） 現在形について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
3	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト①・Unit 2 過去形について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
4	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト②・Unit 2 過去形について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）

5	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト③・Unit 3 未来形について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
6	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト④・Unit 4 進行形について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
7	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑤・Unit 4 進行形について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
8	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑥・Unit 5 完了形について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
9	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑦・Unit 5 完了形について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
10	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑧・Unit 6 助動詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
11	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑨・Unit 6 助動詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
12	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑩・Unit 7 受動態について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
13	事前学習	単語ノート提出の準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	ノート提出・Unit 7 受動態について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。（30分）
14	事前学習	学習範囲の総復習（30分）
	授業内容	授業内試験及び学習内容の振り返り
	事後学習	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。（30分）
15	事前学習	重要箇所や分からないところの確認など（30分）
	授業内容	授業内試験の見直し及び学習内容の振り返り
	事後学習	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。（30分）

科目名	英語C【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	石川 勝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	リスニング能力を高め、日常的な表現を自然な英語で表現できるようにする。					
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 練習問題を解きながら、文法を理解したうえで日本語を英語に翻訳できるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域3、6					
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。					
授業方法	アトランダムに指名し問題の答えを言ってもらいます。しっかりと予習をしてください。2時間で1 unitのペースで読み進めていきます。フィードバックは授業内において行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		小テストを2回行い成績をつける。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
		英宝社		Power-Up Practice for the TOEIC Test		
	備考					
参考書	英和辞典					
オフィスアワー	金曜日9時～12時20分 授業講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの購入，事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）
	授業内容	講義計画の説明
	事後学習	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。（30分）
2	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit1 リスニング
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）
3	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit1 練習問題
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）
4	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit2 リスニング
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）

5	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit2 練習問題
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）
6	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit3 リスニング
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）
7	事前学習	試験範囲の復習（30分）
	授業内容	Unit3 練習問題 小テスト
	事後学習	試験の復習（30分）
8	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit4 リスニング
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）
9	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit4 練習問題
	事後学習	間違った箇所の訂正（30分）
10	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit5 リスニング
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）
11	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit5 練習問題
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）
12	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit6 リスニング
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）
13	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit6 練習問題
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）
14	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit 6 リスニング
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）
15	事前学習	試験範囲の復習（30分）
	授業内容	Unit 7 練習問題 小テスト
	事後学習	間違った箇所を理解し直す。（30分）

科目名	英語C【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	庭山 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験を目指すための基礎固めをします。TOEIC に出題されるボキャブラリーや表現を多く覚えます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEIC テストの基礎力を身に付け、スコアを500点以上獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 3，6					
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラスです。上記資格試験の受験を強く奨励します。 原則、英語Dと通年で履修してください。					
授業方法	様々な場面の発話のディクテーションを行い、文法の確認、内容の理解を行い発話の練習をします。授業の初めに前回の授業で出てきた重要ボキャブラリーと内容理解確認の小テストを実施し、次の授業で返却と解説をします。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末授業内試験等）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2015年	金星堂		STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING		Yukihiro Tsukada
	備考					
参考書	英和辞書。その他は授業の中で指示します。					
オフィスアワー	授業内容に関する質問・相談等は、8：30から9：00、授業終了後、お昼休み、4限終了後に教室で対応します。（金曜日）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス、テキストを読み、授業の概要を把握する。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、自宅学習の進め方、評価に関する説明、TOEIC、TOEFL、英検など、資格試験のリスニングの解説を行います。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。各種資格試験について調べる。（30分）
2	事前学習	テキストにある指示に従い、テキストの音声ファイルをダウンロードする。 テキストp. 14-15の問題を解く。（30分）
	授業内容	Unit 1 Daily Life 日常生活で使われる表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。（30分）
3	事前学習	音声を聞きp. 16-17の問題を解き、語彙を調べる。（30分）
	授業内容	Unit 2 Restaurant レストランで使われる表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。（30分）
4	事前学習	音声を聞きp. 18-19の問題を解き、語彙を調べる。（30分）
	授業内容	Unit 3 Party パーティーに関係する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。（30分）

5	事前学習	音声聞きp. 20-21の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 4 Airport 空港で使われる表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解ける。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
6	事前学習	音声聞きp. 22-23の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 5 Hotel ホテルに関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解ける。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し語彙を覚える。(30分)
7	事前学習	音声聞きp. 24-25の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 6 Traffic 交通に関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解ける。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
8	事前学習	音声聞きp. 26-27の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 7 Tour & Event ツアー・イベントに関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解ける。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
9	事前学習	音声聞きp. 28-29の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 8 Shopping ショッピングに関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解ける。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
10	事前学習	音声聞きp. 30-31の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 9 Service サービスに関係する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解ける。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
11	事前学習	音声聞きp. 32-33の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 10 Health 健康に関係する表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解ける。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
12	事前学習	音声聞きp. 34-35の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 11 Finance & Banking 金融に関係する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解ける。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
13	事前学習	音声聞きp. 36-37の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 12 Housing 住宅・不動産に関係する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解ける。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
14	事前学習	Unit 1 からUnit 12までの復習をする。フィードバックされた小テストを見直す。(30分)
	授業内容	Unit 1からUnit 12までのまとめ及び授業内試験を行う。
	事後学習	授業で行った箇所の再確認をすること。(30分)
15	事前学習	これまでの授業内容の学習の振り返り。(30分)
	授業内容	授業内試験のフィードバックと解説
	事後学習	間違えた箇所を解き直し、今後の学習計画を立てる。(30分)

科目名	英語C【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	村松 直子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験を目指すための基礎固めをします。英語資格試験やビジネスに必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成します。TOEICに出題される表現を多く覚えます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6					
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。毎時間、小テストを実施する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	KINSEIDO		The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test.		K. Hayakawa et al.
	備考					
参考書	授業では使用しない。各自の必要に応じて英文法解説書を参照してください。					
オフィスアワー	金曜日の4時限後 事前（授業後等）に講堂にて対面でアポイントメントを入れてください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（20分） 教科書12、13、17ページの問題を解き、17ページの英文の意味を把握しておく。（30分）
	授業内容	オリエンテーション 授業の進め方、TOEICの概要の説明を聞く。 リスニング・ストラテジー、スピーキング・ストラテジーの説明を聞く。
	事後学習	TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検などの各種検定試験についてWebサイト等で調べてみる。（30分）
2	事前学習	テキスト12ページの頻出語句を暗記する。14-16, 18-20ページの問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	Unit1 Travelに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 Who疑問文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
3	事前学習	テキスト21ページの頻出語句を暗記する。Unit2の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit2 Dining Outに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 Where疑問文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
4	事前学習	テキスト30ページの頻出語句を暗記する。Unit3の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit3 Mediaに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 When疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）

5	事前学習	テキスト39ページの頻出語句を暗記する。Unit4の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit4 Entertainmentに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 Why疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
6	事前学習	テキスト48ページの頻出語句を暗記する。Unit5の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit5 Purchasingに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 How疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
7	事前学習	テキスト58ページの頻出語句を暗記する。Unit6の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit6 Clientsに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 How + α 疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
8	事前学習	テキスト67ページの頻出語句を暗記する。Unit7の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit7 Recrutingに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 Yes/No疑問文（YesかNoで答える）の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
9	事前学習	テキスト77ページの頻出語句を暗記する。Unit8の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit8 Personnellに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 Yes/No疑問文（YesかNoで答えない）の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
10	事前学習	テキスト86ページの頻出語句を暗記する。Unit9の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit9 Advertisingに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 間接疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
11	事前学習	テキスト95ページの頻出語句を暗記する。Unit10の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit10 Meetingsに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 付加疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
12	事前学習	テキスト104ページの頻出語句を暗記する。Unit11の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit11 Financeに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 否定疑問文の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
13	事前学習	テキスト113ページの頻出語句を暗記する。Unit12の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit12 Officesに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 依頼・許可表現の意味を素早く理解し、応答できるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
14	事前学習	Unit11-12の学習内容を確認、復習する。（60分）
	授業内容	授業内期末試験及び振り返り
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
15	事前学習	テキスト122ページの頻出語句を暗記する。Unit13の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit13 Daily Lifeに関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 提案・勧誘表現の意味を素早く理解し、応答できるようにする。前期学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（30分）

科目名	英語C【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	藤木 智子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語の基礎力を養成することを目的としています。 予習で英単語の発音や意味を確認しておきましょう。授業での発話を積極的に行いましょう。また、復習をして、授業で学習したことをきちんとノートに書きこみ、知識の基礎固めをしましょう。授業は皆さんが主役なので、積極的に取り組んでください。				
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 できる限り、毎日英語に触れる時間を持ちましょう。時事英語に触れるため、英字新聞に目を通し、BBCやCNNニュースを観ましょう。具体的な目標をたてて、一年間で達成できるように挑戦しましょう。一年生で、TOEICスコア450点を獲得できることを目標とします。対応DP及びCP：外国語科目領域3，6				
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。授業中の、携帯やスマートフォンの使用は固く禁止します。				
授業方法	本文や問題文の音読、解説、訳を求めます。毎回、全員が一度は発表をしますので事前学習をしましょう。演習方式。テストを実施します。テスト返却後は間違えた箇所やあやふやな箇所は、ノートに書いて事後学習をしてください。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	60%)学期末にテストをします。 40%)平常評価では授業参加度を重視します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	18年度	松柏社		『ブラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語	Aline Brosh MaKenna
	14年度	南雲堂		『5分間 新TOEICテストリスニング 550』	片野田 浩子
	14年度	南雲堂		『5分間 新TOEICテストサプリメント 文法語法』	小池直己
	備考				
参考書	英和、和英辞書両方です。電子辞書、紙媒体どちらでも構いません。例文と品詞が載っているものに限ります。授業中に携帯やスマホを辞書代わりに使用することは認めません。必ず辞書を準備してください。				
オフィスアワー	水曜日 9時～12時10分 授業講堂にて。 質問は授業の前が望ましいです。授業後の昼休みでの質問は、事前にアポイントメントを取ってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容		
1	事前学習	(1) <事前学習>1時間。シラバスを事前によく読んでおくこと。『ブラダを着た悪魔』Unit1の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)	
	授業内容	成績評価の方法、出席のとりかた、持ち物、予習の方法について説明します。 <事後学習>ガイダンスでの説明をメモを取っておき、説明通り、復習しておくこと。次週の事前学習に方法を確認しておくこと。	
	事後学習	オリエンテーションの内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (30分)	
2	事前学習	(1) 事前学習として、テキスト『ブラダを着た悪魔』Unit1の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)	
	授業内容	Unit 1『ブラダを着た悪魔』、前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題1 『5分間 新TOEICテストサプリメント 文法語法』Section1	
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (30分)	
3	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『ブラダを着た悪魔』Unit2のテーマ、単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。 (30分)	
	授業内容	Unit 2『ブラダを着た悪魔』前回箇所を復習し、該当箇所の問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストサプリメント 文法語法』Section1 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題2	
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。 (30分)	

4	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『ブラダを着た悪魔』Unit2のテーマ、単語、表現、文法事項などを調べながら読むこと(2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
	授業内容	Uni 2『ブラダを着た悪魔』前回箇所を復習し、該当箇所問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題3 『5分間 新TOEICテストサプリメント 文法語法』Section1
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
5	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『ブラダを着た悪魔』Unit3の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと(2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
	授業内容	Uni 3『ブラダを着た悪魔』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題4 『5分間 新TOEICテストサプリメント 文法語法』Section1
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
6	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『ブラダを着た悪魔』Unit3のテーマ、単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと(2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
	授業内容	Uni 3『ブラダを着た悪魔』前回箇所を復習し、該当箇所の問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題5 『5分間 新TOEICテストサプリメント 文法語法』Section2
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
7	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『ブラダを着た悪魔』Unit4のテーマ、単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと(2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
	授業内容	Uni 4『ブラダを着た悪魔』前回箇所を復習して、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題6 『5分間 新TOEICテストサプリメント 文法語法』Section2
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
8	事前学習	TOEICの過去問をしますので、事前にネットや図書館などで、問題傾向を知るために目をとおしておく、授業時の備えになります。(30分)
	授業内容	TOEICのリスニングのテストを本番と同じ条件で行います。
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
9	事前学習	TOEICの過去問をしますので、事前にネットや図書館などで、問題傾向を知るために目をとおしておく、授業時の備えになります。(30分)
	授業内容	TOEICのリーディングのテストを本番と同じ条件で行います。
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
10	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『ブラダを着た悪魔』Unit4の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと(2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
	授業内容	Unit4『ブラダを着た悪魔』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題7 『5分間 新TOEICテストサプリメント 文法語法』Section2
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
11	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『ブラダを着た悪魔』Unit5のテーマ、単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと(2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
	授業内容	Unit5『ブラダを着た悪魔』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題8 『5分間 新TOEICテストサプリメント 文法語法』Section2
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
12	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『ブラダを着た悪魔』Unit5の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと(2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
	授業内容	Unit5『ブラダを着た悪魔』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストサプリメント 文法語法』Section3 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題9
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
13	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『ブラダを着た悪魔』Unit6の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと(2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
	授業内容	unit 6 『ブラダを着た悪魔』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 『5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題9 『5分間 新TOEICテストサプリメント 文法語法』Section3
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)

14	事前学習	事前学習として、どこがどのように分からないのかを明らかにし、備えておくこと。テスト後の質問も遠慮なくしてください。（30分）
	授業内容	前期授業のまとめ
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。（30分）
15	事前学習	最近のニュースに関して事前に英字新聞などを読んで、時事英語に関する単語などを調べておくにより一層理解が深まるので準備しておくこと。（30分）
	授業内容	今期のまとめをして、時事英語に関するDVDを鑑賞しましょう。
	事後学習	事後学習として、今回のDVDの内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめること。（30分）

科目名	英語C【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	元氏 久美子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日常の身近なテーマやビジネスシーンで使われる表現で効率よく学習し、リスニング力を向上させることを目指しています。TOEICテストのリスニングのための戦略を身につけ、英語をたくさん聞き、直感的に理解し、音読することで基礎を固めていきます。				
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコアを450点以上獲得できることを目標とします。対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6				
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス、上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。				
授業方法	演習方式。小テストを毎回実施し、次の授業で返却を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	平常評価(授業参加度、小テスト、学期末試験等) 100%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017年	成美堂		QUICK MASTER OF THE TOEIC LISTENING TEST 『TOEICリスニングテスト速攻マスター』	松本恵美子他
	備考				
参 考 書	英和辞典				
オフィスアワー	火曜10:30～ 授業終了後の講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。(30分)
	授業内容	ガイダンス 前期の授業の進め方、TOEICの概要、英語学習法を説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC, TOEFL, 英検などの各種検定試験についてWEBサイト等で調べてみる。(30分)
2	事前学習	Unit 1 Warm-upを解き、「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 1 Sightseeing / Travel に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
3	事前学習	Unit 2 Warm-upを解き、「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 2 Office Technologyに関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
4	事前学習	Unit 3 Warm-upを解き、「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 3 Restaurant に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)

5	事前学習	Unit 4 Warm-upを解き、「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 4 Ordering / Report に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
6	事前学習	Unit 5 Warm-upを解き、「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 5 Personnel / Training に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
7	事前学習	Unit 1～5で学んだことを復習する。(30分)
	授業内容	Unit 6 Review 1 Unit 1～5で学んだ内容のリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(30分)
8	事前学習	Unit 7 Warm-upを解き、「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 7 Shop / Purchase に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
9	事前学習	Unit 8 Warm-upを解き、「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 8 Finance / Budget / Salary に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
10	事前学習	Unit 9 Warm-upを解き、「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 9 Seminar / Meeting に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
11	事前学習	Unit 10 Warm-upを解き、「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 10 Health に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
12	事前学習	Unit 11 Warm-upを解き、「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 11 Education / Schools に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
13	事前学習	Unit 7～11で学んだことを復習する。(30分)
	授業内容	Unit 12 Review 2 Unit 6～11で学んだ内容のリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(30分)
14	事前学習	Unit 1～12で学んだことを復習する。(30分)
	授業内容	前期授業のまとめ①
	事後学習	前期の学習内容で理解不足だった点を確認する。(30分)
15	事前学習	前期の学習内容で理解不足だった点を復習する。(30分)
	授業内容	前期授業のまとめ②
	事後学習	前期で学んだことを再確認する。(30分)

科目名	英語C【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	杉本 桂子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ますます複雑化する国際社会のなかで主体的に行動するための手段としての英語の基礎力を徹底的に鍛えることは今日の日本の大学教育に課せられた重要な課題のひとつであろう。この授業では特に日本の英語教育の弱点になっているリスニング力を重点的に訓練し、同時にいろいろな場面で使える実用的な語彙をふくむ英文を音読し、覚え、使う。多量の英文を暗記し、それを最後にテストする形の授業になる。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICのための基礎力を身に付け、スコアを450点以上獲得できること目標とします。対応DP及びCP:外国語科目領域3, 6					
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Dと通年で履修してください。					
授業方法	リスニング力とスピーキング力をアップするために、オーバーラッピング、シャドーイングを徹底的に行い英語力を養う。毎回小テストを行い、次の授業で返却する。後半でプレゼンテーションを一回発表してもらう。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業への取り組み方（20％）、毎回の小テスト（30％）、最終テスト（50％）で総合的に判断する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2003	成美堂		Listen to this(Basic)		James Bean
	2019	NHK出版		ラジオ英会話5月号		担当者
	備考	授業の進行は下記の計画通りいかない場合があります。				
参考書	英和、和英辞書(電子辞書可、スマートフォン不可)					
オフィスアワー	火曜日、授業の行われる校舎の講師室にて12時15分～12時35分					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。英語の基礎学習。（30分）
	授業内容	ガイダンス並びにTOEICリスニング実力テスト。テストの解説と音読練習。
	事後学習	授業で配られた英文のスク립トの音読練習。（30分）
2	事前学習	テキスト Unit 1 It's nice to meet you（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	テキストUnit 1 It's nice to meet you（前半） リスニング練習、ペアまたはグループで会話練習 NHK テキスト（5月号） Week 1-① 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキスト（5月号）Week 1-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスク립トの音読練習をしておくこと。（30分）
3	事前学習	テキスト Unit 1 It's nice to meet you(後半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。ice to meet you 後半を読み（30分）
	授業内容	小テストUnit 1 It's nice to meet you（後半） リスニング練習、ペアまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-② 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 1-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスク립トの音読練習をしておくこと。（30分）
4	事前学習	テキストThat's a great hairstyle(前半)を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テストUnit 2 That's a great hairsyyle（前半） リスニング練習、ペアまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-③ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 1-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスク립トの音読練習をしておくこと。（30分）

5	事前学習	テキストthat' a great hairsyyle（後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト テキストUnit 2 That'a great hairstyle（後半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-④ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 1-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。（30分）
6	事前学習	テキストUnit 3 Shopping trip（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト テキストUnit 3 Shopping trip（前半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-①音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。（30分）
7	事前学習	テキストUnit 3 Shopping trip（後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト テキストUnit 3 Shopping trip（後半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-②
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。（30分）
8	事前学習	テキストUnit 4 What are you doing this weekend?（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト テキストUnit 4 What are you doing this weekend?（前半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-③ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。（30分）
9	事前学習	テキスト Unit 4 What are you doing this weekend?(後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト テキストUnit 4 What zre you doing this weekend?（後半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-④ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。（30分）
10	事前学習	テキスト Unit 5 Have you been to San Francisco?（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト テキストUnit 5 Have you been to San Francisco?（前半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-① 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。（30分）
11	事前学習	テキスト Unit 5 Have you been to San Francisco?（後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト テキストUnit 5 Have you been to San Francisco?（後半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-② 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。（30分）
12	事前学習	テキスト Unit 6 My best friend（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト テキストUnit 6 My best friend（前半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-③ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配った英語のスキットの音読練習をしておくこと。（30分）
13	事前学習	テキストUnit 6 My best frind（後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト テキストUnit 6 My best friend（後半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-④ 音読練習
	事後学習	前期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスキットの音読練習をしテスト準備をすること。（30分）
14	事前学習	プレゼンテーションの原稿を提出できるように作成し、発表の練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	プレゼンテーション（60～70の英単語を使って決められたテーマに沿った内容の英文を発表する。
	事後学習	前期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスキットの音読練習をしテスト準備をすること。（30分）
15	事前学習	前期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスキットの音読練習を行い充実した実力をつけておくこと。（30分）
	授業内容	前期授業のまとめ。
	事後学習	前期授業で学習したことを踏まえ、更に英語の実力をつける努力すること。（30分）

科目名	英語C【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	瀧野 みゆき	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	インターネットなどで使われている英語を素材とし、自然なスピードの英語を聴き取り、理解する訓練をします。英語の聴き取りの方法を学び、繰り返し聴きながら内容への理解を深めます。授業の前半では、テーマ性のある英語の素材を聴いて理解し、表現や内容について学びます。後半では、テキストの指定されたユニットを聴き、英語の質問に英語で答える練習を行います。授業計画等は、状況によって、変更する可能性があります。					
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。自然な英語を日本語に訳さずに大意を理解し、必要な情報を聴き取れるようになります。継続的に英語を聴く習慣を身に付けられることを目指します。対応DP及びCP: 外国語科目領域3.6					
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。					
授業方法	英語の素材を聴き、内容を理解する練習を多様なテーマの素材を使って行います。授業の後半で聴くテキストについては、授業の前に指定されたユニットを繰り返し聴き、内容を理解してきてください。ミニテストは都度返却するので、復習をしておくこと。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業の参加と貢献（30%）授業内小テスト（30%）リスニングレポート（40%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2008年	株式会社アルク		究極の英語リスニング Vol.1 CD付		英語出版編集部（編集）
	備考					
参考書	授業で適宜指示します。					
オフィスアワー	原則として授業終了後（火曜：昼休み）。授業講堂にて。詳細は授業で指示します。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの購入と内容の確認 (30分)
	授業内容	ガイダンス：リスニング力を伸ばすには、英語聴き取りの練習方法、授業の進め方、事前・事後学習の説明 リスニングミニテストの練習
	事後学習	授業の進め方の確認、ミニテストの復習 (30分)
2	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解 (30分)
	授業内容	自己紹介：映画を聴く 1
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習 (30分)
3	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解 (30分)
	授業内容	映画を聴く 2
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習 (30分)
4	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解 (30分)
	授業内容	ニュースを聴く 1
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習 (30分)

5	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	ニュースを聴く 2
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
6	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	プレゼンを聴く 1
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
7	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	プレゼンを聴く 2 リスニングレポート提出 一回目（詳細は授業で指示します）
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
8	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	音楽を聴く
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
9	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	映画を聴く 3
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
10	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	映画を聴く 4
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
11	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	ニュースを聴く 3
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
12	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	ニュースを聴く 4
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
13	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	プレゼンを聴く 3
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
14	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	プレゼンを聴く 4 リスニングレポート提出 二回目（詳細は授業で指示します）
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
15	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）

科目名	英語C【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	堀 千和子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	学生の皆さんが遭遇する場面で使用できる英語表現を身に着けることが、この授業の目的です。英語の音声を取り、理解し、文法と英語表現を学習し、定着させます。その際に、ディクテーションを通して、インプットからアウトプットの活動を行っていきます。					
授業目的・到達目標	[授業目的] TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 [授業目標] TOEICテストのための基礎力を身につけ、スコア 5 5 0 点以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域 3， 6					
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修して下さい。					
授業方法	授業のはじめに英語ニュースを使ったウォームアップをします。ディクテーション、ペアワークをしながら、リスニング力と表現力を高めていきます。TOEICの問題や映像教材など副教材も取り入れます。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		中間試験 25%、期末試験 35%、スピーチ (Self-Introduction) 25%、授業への貢献度 5%。会話の暗唱 5%、レポート 5%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016	成美堂		Let' s Read Aloud More! (音読で極める基礎英語)		角山 照彦, Simon Capper
	備考					
参考書	英和辞典、英英辞典					
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業終了後（火曜：昼休み。講堂にて）またはE-mailにて対応します。授業開始時にアドレスをお知らせします。授業関連の連絡は大学ポータルを使用します。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	これまでの自分の英語学習の履歴をまとめておく。使用した英語辞書、単語集、教材などを振り返る。大学での英語学習に向けての目標を考えておく。(30分)
	授業内容	ガイダンス、プレゼンテーションの説明
	事後学習	教科書を購入する。音声をダウンロードしておく。(30分)
2	事前学習	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	英字新聞や英語ニュースを使用して、テキスト Unit 1 ビジネスのスマールトーク
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
3	事前学習	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 2 海外出張の会話 挨拶（現在形・過去形）
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
4	事前学習	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 3 海外出張2、予定を確認する（進行形・未来形）
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。(30分)

5	事前学習	これまで学んだ英語表現を使用し、プレゼンテーションができるように原稿と視聴覚資料を作成する。複数回、練習する。(60分)
	授業内容	プレゼンテーション 1 (パワーポイントを使用し、2分間で自己紹介をする) 講評
	事後学習	自分のプレゼンテーションの手直しを行う。(60分)
6	事前学習	これまで学んだ英語表現を使用し、プレゼンテーションができるように原稿と視聴覚資料を作成する。複数回、練習する。(60分)
	授業内容	プレゼンテーション 2 講評
	事後学習	自分のプレゼンテーションを振り返り、改善点を挙げる。他の人の発表を振り返り、いい点を挙げる。(30分)
7	事前学習	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 4 出張報告 (現在完了形)
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
8	事前学習	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 4 その2 疑問文の作り方
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
9	事前学習	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 5 ビジネスでのプレゼン準備 (助動詞)
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
10	事前学習	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 5 ビジネスで依頼する・助言する
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
11	事前学習	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 6 電話の応対 (受動態)
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
12	事前学習	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 6 電話で説明する
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
13	事前学習	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 7 製品の説明 (不定詞)
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
14	事前学習	前期に学習した会話文などのディクテーションができるようにしておく。(30分)
	授業内容	聞き取りの振り返り
	事後学習	聞き取れなかった箇所を復習する。(30分)
15	事前学習	前期に学習した箇所の文法や語彙などを復習して期末試験に臨む。(60分)
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	事後学習	理解があやふやな箇所をチェックし、後期の授業に臨めるようにする。(30分)

科目名	英語C【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	河本 房子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TED Talksのコンテンツをもとに、授業内に意見交換するために内容を読み込んだ上で、自分の言葉で相手に伝える英語コミュニケーションの力をつけます。テキスト以外にも興味ある分野の文章を読み、発言できるようにします。				
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング、スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 国際研修や交換留学等の海外留学に必要とされる英語力を総合的に身につけ、また、TOEICやTOEFLで高得点を獲得できるようになることを目標とします。 対応DP及びCP: 外国語科目領域3, 6				
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Dと通年で履修してください。				
授業方法	演習方式。小テストを毎回実施します。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		0%		
	平常評価		100%		授業への積極的な参加。小テスト結果。期末テスト。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	Cengage Learning		Keynote 3 ISBN-13 978 1 305 96505 8	Paul Dummett
	備考				
参考書	辞書 は毎回持参してください。参考書は必要に応じて紹介します。リスニングに慣れるため、BBC, NHK World, CNNなどの英語ニュースに普段から慣れ親しんでください。				
オフィスアワー	毎回の授業開始前、開始後（火曜10：30～）に授業が行われる講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Preview Unit1 (30分)
	授業内容	Introduction Overview of the course
	事後学習	vocabulary noteを作成 教科書の使い方、学習の進め方について確認する。(30分)
2	事前学習	Preview Unit 1 Part 1 volunteer firefighterについて調べる(30分)
	授業内容	Unit 1 – Part 1 Making a differenceのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)
3	事前学習	Preview Unit 1 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 1 – Part 2 A life Lesson from a volunteer firefighterのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
4	事前学習	Preview Unit 2 Part 1世の中のtrendについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 2 – Part 1 Trendsのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 教科書の文法事項について確認する。(30分)

5	事前学習	Preview Unit 2 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 2 – Part 2 How to start a movementのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
6	事前学習	Preview Unit 3 Part 1 health careについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 3 – Part 1 Improving livesのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)
7	事前学習	Preview Unit 3 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 3 – Part 2 My simple invention, designed to keep my grandfather sageのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
8	事前学習	Preview Unit 4 Part 1 web designについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 4 – Part 1 Designing the webのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)
9	事前学習	Preview Unit 4 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 4 – Part 2 How giant websites design for youのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
10	事前学習	Preview Unit 5 Part 1 community artについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 5 – Part 1 Community buildersのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)
11	事前学習	Preview Unit 5 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 5 – Part 2 How painting can transform communitiesのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
12	事前学習	Preview Unit 6 Part 1 communication styleについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 6 – Part 1 Clear communicationのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書の文法事項について確認する。(30分)
13	事前学習	Preview Unit 6 Part 2リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 6 – Part 2 Talk nerdy to meのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note学習 教科書のリーディングパートについて確認する。(30分)
14	事前学習	Review Unit 1`6の問題とリーディングパートを確認する。(30分)
	授業内容	Review Unit1-6の内容、リスニングを理解する。 小テストを返却し答え合わせと確認をする。
	事後学習	Vocabulary note学習 Review Unit 1`6を確認する。(30分)
15	事前学習	Review Unit 1`6 (30分)
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	事後学習	Review Unit 1`6の確認。(30分)

科目名	英語C【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	セトグチ・エリック	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Developing English communication skills				
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 The aim of the class is to prepare students for English language academic environments. Students will participate in class activities to raise their awareness about select topics, such as current social and global issues, while developing language abilities to complete tasks commonly required of students in international settings.				
履修条件	関連政策学科1年生の英語能力が、6.0以上であること。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。				
授業方法	Group work conducted in or mostly in English, class discussions, and projects.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	Classwork 50% Projects/Assignments 25% Oral Communication Test 25%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	-		Instructor provided materials	Setoguchi, E
	備考				
参考書	なし				
オフィスアワー	火曜10：30～授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction Class questionnaire Practice activity
	事後学習	Be ready to study English. (30min)
2	事前学習	Discuss results of questionnaire (30min)
	授業内容	Unit 1A Family and Society 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
3	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 1B Family and Society 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
4	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 2A Community 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)

5	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 2B Community 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
6	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 3A Travel 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
7	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 3B Travel 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
8	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 4A Health 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
9	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 4B Health 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
10	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 5A The Environment 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
11	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 5B The Environment 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
12	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 6A Advertising 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
13	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 6B Advertising 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
14	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Final Project Introduction
	事後学習	Recap and Review. (30min)
15	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Test and review. 解説
	事後学習	Recap and Review. (30min)

科目名	英語C	担当者	加藤 行夫	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
-----	-----	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	英語表現の基礎的演習			
授業目的・到達目標	英語の基礎的な文法力を養成することを目的とする。 初歩的な英語が書けるようにすることを目指す。 関連DP及びCP：外国語科目領域 3， 6			
履修条件	中学程度の文法を理解していること			
授業方法	文法事項を確認し、続いて演習を行なう。黒板での添削および個人添削に十分時間をかける。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験	0%		
	平 常 評 価	100%	演習の成果 20%、期末試験 80%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	金星堂	Expressions for Everyday Life	根間弘海
	備考			
参 考 書	各自英和辞典を必ず（必要とする者は和英辞典も）持参すること			
オフィスアワー	金曜日午後 6 時～ 授業講堂にて 事前にメールで連絡のこと kiokato@yahoo.co.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	授業方法、年間計画、成績評価などの説明
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
2	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	主語とは何か
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
3	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	演習および添削
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
4	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	補語とは何か
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）

5	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	演習および添削
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
6	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	目的語とは何か
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
7	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	演習および添削
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
8	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	修飾について
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
9	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	演習および添削
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
10	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	時間表現
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
11	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	演習および添削
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
12	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	否定表現
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
13	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	演習および添削
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
14	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	比較表現
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
15	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	演習および添削
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）

科目名	英語C	担当者	高田 宣子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	映画や音楽、ニュースなどで使われる英語表現に着目し、その背景を考えながら授業を進めていきます。					
授業目的・到達目標	比較的内容の易しい英文ニュースやスピーチを聞き取る技術を養成することを目的とします。 また、英語の運用力を高め、英語による創作会話や短いスピーチ、ミニプレゼンテーションができるようになることを目標とします。関連DP及びCP：外国語科目領域3，6					
履修条件	初回の授業に必ず出席できる学生。WordとPower Pointを使用できる学生のみ履修可。					
授業方法	演習方式。毎回コメントを執筆あるいは発表してもらいます。小テストならびに発表についてはすべて講評を行い、解説を行った上で質疑応答の時間を授業内で設けます。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		毎週授業内ペーパー提出、英語スピーチ、ミニプレゼンテーション、その他	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	プリント使用				
参考書	開講時に説明します。					
オフィスアワー	休み時間（金曜16：10～）、教室にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新聞を読んでおく（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ガイダンスプリントの確認を行う。（30分）
2	事前学習	プリントの確認を行う。（30分）
	授業内容	英文聞き取り、創作会話 その1 英語表現の確認 文法プリント演習
	事後学習	表現法と文法確認の確認を行う。（30分）
3	事前学習	表現法の確認を行う。（30分）
	授業内容	英文聞き取り 創作会話 その2 文法プリント 文法プリント演習
	事後学習	プリントの確認（30分）
4	事前学習	プリントの確認とスピーチのテーマを考える。（30分）
	授業内容	文法テスト 英語スピーチの原案作り
	事後学習	英語スピーチの原案修正を行う。（30分）

5	事前学習	英語スピーチの原案修正を行う。（30分）
	授業内容	英語スピーチ その1 コメント 英文聞き取り
	事後学習	英語スピーチの原案修正を行う。（30分）
6	事前学習	英語スピーチの原案修正を行う。（30分）
	授業内容	英語スピーチ その2 コメント 英文聞き取り
	事後学習	英語スピーチの原案修正を行う。（30分）
7	事前学習	英語スピーチの原稿修正を行う。（30分）
	授業内容	英語スピーチ その3 コメント 英文聞き取り
	事後学習	英語スピーチの原稿修正を行う。（30分）
8	事前学習	プリントの見直しを行う。（30分）
	授業内容	復習テスト タイピング練習
	事後学習	タイピング練習を行う。（30分）
9	事前学習	英語ミニプレゼンテーション 原稿作を作成する（30分）
	授業内容	英語ミニプレゼンテーション 原稿修正
	事後学習	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。（30分）
10	事前学習	英語ミニプレゼンテーション 原稿を確認する。（30分）
	授業内容	英語ミニプレゼンテーション 原稿推敲 文法確認
	事後学習	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。（30分）
11	事前学習	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。（30分）
	授業内容	英語ミニプレゼンテーション 1 コメント
	事後学習	英語ミニプレゼンテーション 原稿を修正する。（30分）
12	事前学習	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。（30分）
	授業内容	英語ミニプレゼンテーション 2 コメント
	事後学習	英語ミニプレゼンテーション 原稿を修正する。（30分）
13	事前学習	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。（30分）
	授業内容	英語ミニプレゼンテーション 3 コメント
	事後学習	英語ミニプレゼンテーション 原稿を修正する。（30分）
14	事前学習	英語ミニプレゼンテーション 原稿を改良する。（30分）
	授業内容	英語ミニプレゼンテーション 4 コメント
	事後学習	英語ミニプレゼンテーション 原稿を修正する。（30分）
15	事前学習	原稿の確認を行う。（30分）
	授業内容	まとめと復習テスト レポート提出
	事後学習	テスト問題と解答の確認を行う。（30分）

科目名	英語D【法職課程1年生共通クラス】	担当者	小林 晴子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際社会において情報収集に必要な英語力を、リスニング能力に重点をおいて修得する。英語音声、テキスト、インフォグラフィックスなどの理解に基づき、各々の理論的・批判的思考力を用いて導き出した情報、思考、意見を、聞き手に理解されやすい英語音声、表現、論理的提示方法で話す訓練を行う。			
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なスピーキング・リスニングの基礎力を養成することを目的としています。英語資格試験の受験を視野に入れた、スピーキング・リスニングの基礎固めを目指します。そのために種々の発音、文法、語彙、構文、文章構造などの習得と、ディスカッション、プレゼンテーションなどの演習に取り組みます。TOEICテスト等のためのリスニング能力をさらに向上させ、リスニングパートのスコアを100点高く獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6			
履修条件	法文学科法職課程1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。演習授業なので必ず8割以上出席をすることを求めます。			
授業方法	演習方式。小テストを毎回実施。授業では、音読、シャドウイング、ディクテーション、ノートテイキング、学生のペアワーク、ディスカッション、ロールプレイング、プレゼンテーション等を行う。毎回リスニングに関する課題あり。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価：100%(授業パフォーマンス・スピーチ30%、小テスト・課題提出40%、期末テスト30%)
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年出版	ナショナルジオグラフィック	Pathways 2 - Listening, Speaking, and Critical Thinking Second Edition	Becky Tarver Chase
	備考			
参考書	英和・和英辞書は必携。その他は、適宜指示する。			
オフィスアワー	月曜日12:30~13:00（事前にメールでアポイントを取ること）授業講堂 kobayashi.haruko11@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Unit 5 Lesson A Vocabulary pp. 81~85を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	小テスト。テキスト Unit 5 Inside the Brain, Lesson A: A Podcast about Exercise and the のテーマについて講演を聞く。テーマに沿って会話をする。
	事後学習	課題：講演内容のノートテイキング。（1時間）
2	事前学習	Unit 5 Lesson B Vocabulary pp. 94~95 を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。小テスト。テキスト Unit 5 Lesson B: A Discussion about Memory, Learning and Emotions についての会話を聞く。指定された表現方法を用いて話す。
	事後学習	課題：会話のディクテーション。（1時間）
3	事前学習	プレゼンテーションの準備。（1時間）
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。 テキスト Unit 5 Development of Brain に関して指定されたテーマについて発表する。
	事後学習	プレゼンテーションの反省と見直し。（30分）
4	事前学習	Unit 6 Let's Eat! Vocabulary pp. 101~105を予習し、小テストの準備をする。。（30分）
	授業内容	小テスト。テキスト Unit 6, Lesson A: A Presentation about the Korean Dietついて話しを聞く。テーマに沿って会話をする。
	事後学習	課題：講演内容のノートテイキング。（1時間）

5	事前学習	Unit 6 Lesson B Vocabulary pp.114~115 を予習し、小テストの準備をする。。（30分）
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。小テスト。テキスト Unit 6 Lesson B: A Discussion about Food Psychology の会話を聞く。指定された表現方法を用いて話す。
	事後学習	課題：会話のディクテーション。（1時間）
6	事前学習	プレゼンテーションの準備。（1時間）
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。 テキスト Unit 6 Food に関して指定されたテーマについて発表する。
	事後学習	プレゼンテーションの反省と見直し。（30分）
7	事前学習	Unit 7 Our Active Earth, Lesson A Vocabulary pp.121~125を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	小テスト。テキスト Unit 7 Lesson A: An Earth Science Lecture のテーマについて講演を聞く。 テーマに沿って会話をする。
	事後学習	課題：講演内容のノートティキнг。（1時間）
8	事前学習	Unit 7 Lesson B Vocabulary pp.134~135 を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	小テスト。課題の内容、重要ポイントを確認する。テキスト Unit 7 Lesson B: A Discussion about Volcanoes についての会話を聞く。指定された表現方法を用いて話す。
	事後学習	課題：会話のディクテーション。（1時間）
9	事前学習	プレゼンテーションの準備。（1時間）
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。 テキスト Unit 7 Earth and Geology に関して指定されたテーマについて発表する。
	事後学習	プレゼンテーションの反省と見直し。（30分）
10	事前学習	Unit 8 Wonders from the Past, Lesson A Vocabulary pp.141~145 を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	小テスト。テキスト Unit 8 Lesson A: A Guided Tour of Uxmal のテーマについて講演を聞く。テーマに沿って会話をする。
	事後学習	課題：講演内容のノートティキング。（1時間）
11	事前学習	Unit 8 Lesson B Vocabulary pp.154~155 を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	小テスト。課題の内容、重要ポイントを確認する。テキスト Unit 8 Lesson B: A Conversation about an Assignment のテーマについての会話を聞く。指定された表現方法を用いて話す。
	事後学習	課題：会話のディクテーション。（1時間）
12	事前学習	プレゼンテーションの準備。（1時間）
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。テキスト Unit 8 Archeology and History に関して指定されたテーマについて発表する。
	事後学習	プレゼンテーションの反省と見直し。（30分）
13	事前学習	Unit 9 Species Survival, Lesson A Vocabulary pp.161~165 を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	小テスト。テキスト Unit 9 Lesson A: A Talk about Birds のテーマについて講演を聞く。テーマに沿って会話を する。
	事後学習	課題：講演内容のノートティキング。（1時間）
14	事前学習	今学期の授業を振り返る。（2時間以上）
	授業内容	授業内試験および今学期の授業のまとめ
	事後学習	授業の見直しをする。（30分）
15	事前学習	授業内試験を振り返る。（1時間）
	授業内容	授業内試験のフィードバック。
	事後学習	授業の見直しをする。（30分）

科目名	英語D【法職課程1年生共通クラス】	担当者	G. ハイデン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	You will read, discuss and write about English texts. You will communicate in English with your teacher and your classmates.				
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。To learn about the international history of Japan through listening to, reading and discussing English texts. Student will get confident by understanding, writing and speaking English through learning about important events in Japanese history. You discuss English texts with your teacher and your classmates. 関連D P / C P : 3, 6				
履修条件	法律学科法職課程1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修してください。This course is aimed at students who wish to improve their English communication skills.				
授業方法	演習方式。Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	Assessment and reflection 20%. Final test 30%. Participation and effort 30%. Weekly tests 20%.	
教科書	年	出版社		書名	著者名
				後期「An International History of Japan II」(Thomas Lockley, DTP出版、1,750円＋税)	Thomas Lockley
	備考				
参 考 書	A dictionary, or a smartphone with a dictionary app.				
オフィスアワー	Email gary@garyhayden.co.uk Please ask questions after the class (Monday 2nd period) at classroom.				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	You will be given a vocabulary test each week. So please be prepared. (30min)
	授業内容	Topic: Thomas Glover Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	You will need to learn some new vocabulary each week. There will be a small vocabulary test at the beginning of each lesson. (30min)
2	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: The Choshu Five Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
3	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Nagasawa Kanaye Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
4	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: The Iwakura Embassy Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)

5	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: The Bonin Islands Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
6	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Tsuda Umeko Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
7	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Karayukisan Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
8	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Sun Yat-sen and Japan Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
9	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Japanese emigration in the 20th century Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
10	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Immigration to Japan Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
11	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Noguchi Hideo Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
12	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Sugihara Chiune Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
13	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: International spread of Japanese culture Skills: Reading and discussing an English text. Writing in English about what you have learned.
	事後学習	Write your reflections on the course (30min)
14	事前学習	Revise all of the course vocabulary (30min)
	授業内容	Revision
	事後学習	Revise for the upcoming test (30min)
15	事前学習	Prepare for semester test (30min)
	授業内容	Semester test Review 解説
	事後学習	Review (30min)

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	加賀 岳彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	これまで学んできた学習英語をベースにして、さらに大学生・社会人向けの一般英語、及び英語の資格試験への橋渡しをします。今学期では特に一般社会、ビジネス等における実用・実務の英語、及びその隣接領域の英語を学びます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】上記資格試験を模した授業内の各種のテストにおいて60%以上の正答率を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域 3, 6					
履修条件	法律学科 1 年生番号指定クラス。上記資格試験等の受験を強く奨励します。原則、英語 C と通年で履修してください。					
授業方法	十分な予習を前提として、演習形式の授業を行います。理解度・習得度を確認するための各種の小テストを行います。小テストは採点され、次の授業で返却されます。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		平常評価（授業参加度、授業内の各種テスト等） 100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	市販の教科書は使用せず、授業用ハンドアウトを用意します。授業はすべて、このハンドアウトを使って行われます。				
参 考 書	受講生は各自の「（電子）辞書」を必ず持参して受講してください。					
オフィスアワー	月曜日 12:20～12:50、授業講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体を概観する。各自の英語学習を行う。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の内容・進め方を理解し、授業目的に向けた英語の初期演習を行う。
	事後学習	ガイダンスおよび初期演習のおさらいをする。（30分）
2	事前学習	ハンドアウト Unit 1-(1)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	ハンドアウト Unit 1-(1) 自己の「経験・経歴・スキル・キャリア」に関する英語表現（基礎編）を習得する。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	英文を再読・復習し、授業で学習した重要語句・重用表現・構文を再復習する。（30分）
3	事前学習	ハンドアウト Unit 1-(2)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	ハンドアウト Unit 1-(2) 自己の「経験・経歴・スキル・キャリア」に関する英語表現の演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題などを一部取り入れながら行う。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	「経験・経歴・スキル・キャリア」に関する英語表現の追加問題を解き、授業で重要とされた単語、疑問文、表現を再復習する。（30分）
4	事前学習	ハンドアウト Unit 2-(1)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	ハンドアウト Unit 2-(1) 「求職・求人」および「丁寧表現」に関する英語表現（基礎編）を習得する。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	英文を再読・復習し、基礎的な重要単語、及び丁寧表現を再復習し、例文を覚える。（30分）

5	事前学習	ハンドアウト Unit 2-(2)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 2-(2) 「求職・求人」および「丁寧表現」に関する英語表現の演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題などを一部取り入れながら行う。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	「求職・求人」および「丁寧表現」に関する英語表現の追加問題を解き、この領域で用いられる重要単語・表現を念入りに再復習する。(30分)
6	事前学習	ハンドアウト Unit 3-(1)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 3-(1) 「面談・面接」等に関する英語表現（基礎編）を習得する。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	英文を再読・復習し、特に英語での「面談・面接」によく用いられる疑問文を復習する。(30分)
7	事前学習	ハンドアウト Unit 3-(2)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 3-(2) 「面談・面接」等に関する英語表現の演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題などを一部取り入れながら行う。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	この時間に学んだ、一般社会で常識的に用いられる英語表現をよく復習する。(30分)
8	事前学習	ハンドアウト Unit 1～3までを総復習してくる。(60分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 1～3の総復習をテスト形式で行い、その解答・解説を通じて、これまでの学習内容を確認する。
	事後学習	総復習および確認テストで間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
9	事前学習	ハンドアウト Unit 4-(1)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 4-(1) 「実業・実務・ビジネス」に関する英語表現（基礎編）を学ぶ。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	重要語彙の復習を念入りに行う。(30分)
10	事前学習	ハンドアウトUnit 4-(2)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 4-(2) 「実業・実務・ビジネス」に関する英語表現の演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題などを一部取り入れながら学ぶ。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	この時間に学んだ重要な表現と構文を再復習し、覚える。(30分)
11	事前学習	ハンドアウト Unit 5-(1)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 5-(1) 「福祉・政策」に関する英語表現（基礎編）を習得する。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	英文を再読・復習し、出てきた重要語句を覚える。(30分)
12	事前学習	ハンドアウト Unit 5-(2)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 5-(2) 「福祉・政策」に関する英語表現の演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題などを一部取り入れながら行う。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	「福祉・政策」に関する英語表現の追加問題を解き、授業で学習した重要語句・重用表現・構文を再復習する。(30分)
13	事前学習	ハンドアウト Unit 6-(1)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 6-(1) 「効率・生産性」に関する英語表現（基礎編）を習得する。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	英文をもう一度熟読・復習し、出てきた重要語句・表現を復習する。(30分)
14	事前学習	ハンドアウト Unit 6-(2)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 6-(2) 「効率・生産性」に関する英語表現の演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題などを一部取り入れながら行う。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	「効率・生産性」に関する英語表現の追加問題を解き、この領域で用いられる重要単語を念入りに再復習する。(30分)
15	事前学習	ハンドアウト Unit 4～6までを総復習してくる。(60分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 4～6の総復習をテスト形式で行い、その解答・解説を通じて、これまでの学習内容を確認する。
	事後学習	総復習および上記テストで間違えた箇所の問題を解き直す。 今学期学んだことを踏まえ、今後の各自の英語学習の方向性を考える。(30分)

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	菊地 幸子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	世界のさまざまな英語圏に住む若者に関する映像を視聴しながら、リスニング及びスピーキングの演習を行う。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野必に要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】まとまった英文を聞いて大まかな内容を把握し、必要な情報を得ることができる、また自分の考えを簡潔にまとめて発言できるようになることを目標とする。対応DP及びCP:外国語科目領域3, 6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修すること。					
授業方法	演習方式で行う。フィードバックとして最終授業で授業内試験の講評及び振り返りを行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		授業参加度（30％）、小テスト（20％）、学期末試験（50％）の割合で総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016年	成美堂		World Wide English on DVD Volume 2		森田彰 他
	備考					
参 考 書	特に指定しない。					
オフィスアワー	授業前後の休み時間に（月曜日12：10～）講堂にて。緊急の連絡事項がある場合はメールで知らせること。 メールアドレス：kikuchi.sachiko11@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。（30分）
	授業内容	Unit 8 South Africa Introduction Exercise 1 to 4
	事後学習	New Words で学習した語彙の意味を覚える。（30分）
2	事前学習	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。（30分）
	授業内容	Unit 8 South Africa Introduction Exercise 5 to 8
	事後学習	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。（30分）
3	事前学習	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。（30分）
	授業内容	Unit 9 South Africa Documentary Exercise 1 to 4
	事後学習	New Words で学習した語彙の意味を覚える。（30分）
4	事前学習	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。（30分）
	授業内容	Unit 9 South Africa Documentary Exercise 5 to 8
	事後学習	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。（30分）

5	事前学習	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。 (30分)
	授業内容	Unit 10 Wales Introduction Exercise 1 to 4
	事後学習	New Words で学習した語彙の意味を覚える。 (30分)
6	事前学習	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。 (30分)
	授業内容	Unit 10 Wales Introduction Exercise 5 to 8
	事後学習	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。 (30分)
7	事前学習	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。 (30分)
	授業内容	Unit 11 Wales Documentary Exercise 1 to 4
	事後学習	New Words で学習した語彙の意る味を覚える。 (30分)
8	事前学習	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。 (30分)
	授業内容	Unit 11 Wales Documentary Exercise 5 to 8
	事後学習	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。 (30分)
9	事前学習	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。 (30分)
	授業内容	Unit 12 India Introduction Exercise 1 to 4
	事後学習	New Words で学習した語彙の意味を覚える。 (30分)
10	事前学習	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。 (30分)
	授業内容	Unit 12 India Introduction Exercise 5 to 8
	事後学習	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。 (30分)
11	事前学習	Opening Quizzes、New Words の答えを用意しておく。 (30分)
	授業内容	Unit 13 India Documentary Exercise 1 to 4
	事後学習	New Words で学習した語彙の意味を覚える。 (30分)
12	事前学習	Useful Expressions、Summary の答えを用意しておく。 (30分)
	授業内容	Unit 13 India Documentary Exercise 5 to 8
	事後学習	授業中に聞き取れなかった部分に特に注意して映像を何度も視聴し、内容を完全に理解する。 (30分)
13	事前学習	これまで授業で学んだTOEIC頻出表現を復習しておく。 (30分)
	授業内容	TOEIC Listening Section 練習問題
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。 (30分)
14	事前学習	試験範囲を復習する。 (30分)
	授業内容	授業内試験及び後期のまとめ。
	事後学習	試験で分からなかった部分の正解を考える。 (30分)
15	事前学習	テキストの総復習する。 (30分)
	授業内容	授業内試験の講評及び振り返り。
	事後学習	後期の学習内容を確認する。 (30分)

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	杉本 桂子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ますます複雑化する国際社会のなかで主体的に行動するための手段としての英語の基礎力を徹底的に鍛えることは今日の日本の大学教育に課せられた重要な課題のひとつであろう。この授業では特に日本の英語教育の弱点になっているリスニング力を重点的に訓練し、同時にいろいろな場面で使える実用的な語彙をふくむ英文を音読し、覚え、使う。多量の英文を暗記し、それを最後にテストする形の授業になる。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICのための基礎力を身に付け、スコアを450点以上獲得できること目標とします。対応DP及びCP:外国語科目領域3, 6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修してください。					
授業方法	リスニング力とスピーキング力をアップするために、オーバーラッピング、シャドーイングを徹底的に行い英語力を養う。毎回小テストを行い、次の授業で返却する。後半でプレゼンテーションを一回発表してもらう。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業への取り組み方（20％）、毎回の小テスト（30％）、最終テスト（50％）で総合的に判断する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2003	成美堂		Listen to this!(Basic)		James Bean
	2019	NHK出版		ラジオ英会話 10月号		担当者
	備考	授業の進行は下記の計画通りいかない場合があります。				
参考書	英和、和英辞書(電子辞書可、スマートフォン不可)					
オフィスアワー	月曜日、授業の行われる校舎の講師室にて12時15分～12時35分					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストUnit 7 I'm taller than you(前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	Unit 7 I'm taller than you(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト(10月号) Week 1-① 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキスト(10月号)Week 1-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
2	事前学習	テキストUnit 7 I'm taller than you(後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 7 I'm taller than you(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-② 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 1-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
3	事前学習	テキストUnit 8 Where shall we eat?(前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 8 Where shall we eat?(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-③ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキスト Week 1-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
4	事前学習	テキストUnit Where shall we eat?(後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 8 Where shall we eat?(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-④ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek1-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）

5	事前学習	テキストUnit 9 Going to the movies(前半)) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくこと。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくこと。(30分)
	授業内容	小テスト Unit 9 Going to the movies(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-① 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek2-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。(30分)
6	事前学習	テキストUnit 9 Going to the movies(後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくこと。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくこと。(30分)
	授業内容	小テスト Unit 9 Going to the movies(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-② 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek2-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。(30分)
7	事前学習	テキストUnit 10 Shopping for the perfect gift(前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくこと。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくこと。(30分)
	授業内容	小テスト Unit 10 Shopping for the perfect gift(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-③ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek2-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。(30分)
8	事前学習	テキストUnit 10 Shopping for the perfect gift(後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくこと。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくこと。(30分)
	授業内容	小テスト Unit 10 Shopping for the perfect gift(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-④ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek2-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。(30分)
9	事前学習	テキストUnit 11 What's your favorite?(前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくこと。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくこと。(30分)
	授業内容	小テスト Unit 11 What's your favorite?(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-① 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。(30分)
10	事前学習	テキストUnit 11 What's your favorite?(後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくこと。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくこと。(30分)
	授業内容	小テスト Unit 11 What's your favorite?(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-② 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。(30分)
11	事前学習	テキストUnit 12 Hard work(前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくこと。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくこと。(30分)
	授業内容	小テスト Unit 12 Hard work(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-③ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。(30分)
12	事前学習	テキストUnit 12 Hard work(後半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくこと。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくこと。(30分)
	授業内容	小テスト Unit 12 Hard work(後半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-④ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek3-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。(30分)
13	事前学習	テキストUnit 13 I was so embarrassed(前半) を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくこと。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくこと。(30分)
	授業内容	小テスト Unit 13 I was so embarrassed(前半) リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 TOEIC リスニング練習
	事後学習	この回で学習したことは最終テストに出題されるので復習しておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。(30分)
14	事前学習	プレゼンテーションの原稿を提出できるように作成し、発表の練習をしておくこと。(30分)
	授業内容	プレゼンテーション(60～70の英単語を使って決められたテーマに沿った内容の英文を発表する。)
	事後学習	後期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習を行い実力をつけておくこと。(30分)
15	事前学習	後期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習を行い充実した実力をつけておくこと。(30分)
	授業内容	後期授業のまとめ。
	事後学習	前期授業で学習したことを踏まえ、更に英語の実力をつける努力すること。(30分)

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	水野 隆之	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験を目指すための基礎固めをします。基礎的な文法事項を身につけることを目標とするとともに、TOEICに出題される表現を多く覚えます。					
授業目的・到達目標	授業目的] TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 [授業目標] TOEICテストのための基礎力を身に着け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。関連D P及びC P：外国語科目領域3， 6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で返却を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、期末試験等）100%、	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017	朝日出版社		STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST:Level 2		北尾泰幸
	備考					
参 考 書	各種英語辞書					
オフィスアワー	月曜日12：10～ 授業終了後の講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、TOEICの概要を説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC, TOEFL, 英検等の各種資格試験についてWEBサイト等で調べてみる。（30分）
2	事前学習	テキスト1頁、6～9頁の問題を解いてくる。 5頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit1 食事に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
3	事前学習	テキスト10頁、14～17頁の問題を解いてくる。 13頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit2 旅行に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
4	事前学習	テキスト18頁、22～25頁の問題を解いてくる。 21頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit3 娯楽に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）

5	事前学習	テキスト26頁、30`33頁の問題を解いてくる。 29頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit4 会議に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
6	事前学習	テキスト34頁、38`41頁の問題を解いてくる。 37頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit5 人事に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
7	事前学習	テキスト42頁、46`49頁の問題を解いてくる。 45頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit6 買い物に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
8	事前学習	テキスト50頁、54`57頁の問題を解いてくる。 53頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit7 広告に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
9	事前学習	テキスト58頁、62`65頁の問題を解いてくる。 61頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit8 日常生活に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
10	事前学習	テキスト66頁、70`73頁の問題を解いてくる。 69頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit9 オフィスに関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
11	事前学習	テキスト74頁、78`81頁の問題を解いてくる。 77頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit10 ビジネスに関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
12	事前学習	テキスト82頁、86`89頁の問題を解いてくる。 85頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit11 交通に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
13	事前学習	テキスト90頁、94`97頁の問題を解いてくる。 93頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit12 会計に関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
14	事前学習	テキスト98頁、102`106頁の問題を解いてくる。 101頁の解説を熟読する。（30分）
	授業内容	Unit13 メディアに関する表現について理解し、それに対応するTOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Vocabulary, Useful Expression を暗記する。（30分）
15	事前学習	テキストの総復習。（30分）
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（30分）

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	茂木 健幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	リスニング、スピーキングという日常で頻繁に必要なとなる英語の基礎能力の向上に取り組む。英語で話された内容を理解し、それに対し自分の意見を言えるようにすることを目標としている。			
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検などの資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 相手の話す内容を理解し、その内容に対応した質問や応答が出来るようになることを目標としています。 対応DP及びCP：外国語科目領域3、6			
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。			
授業方法	教科書に沿って授業を進め、問題を解いたり、自身について話す原稿を書いたりします。ペアワークやグループワークがあるので、積極的な授業参加が求められます。ユニット毎にレポートの提出があり、採点后返却します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業への参加度、レポート等で評価。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015	南雲堂	New Time to Communicate	Eric Bray
	備考			
参考書	使用しない。			
オフィスアワー	授業終了後（月曜：昼休み）講堂にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Unit 7後半の予習。(30分)
	授業内容	ガイダンス：授業の進め方、評価の仕方などについての説明。 Unit 7 Talking About Last Weekend
	事後学習	Unit 7の復習(30分)
2	事前学習	Unit 8の予習。Model Conversation、 Useful Languageを読んてくること。(30分)
	授業内容	Unit 8 Talking About the Vacation、ペアワークでの会話、リスニング
	事後学習	Unit 8の復習。(30分)
3	事前学習	Unit 8の予習。自分のことについて話し合う (Write and Talk)ので、その準備。(30分)
	授業内容	Unit 8 Talking About the Vacation、ペアワークでの会話、レポート作成
	事後学習	Unit 8の復習。(30分)
4	事前学習	Unit 9の予習。Model Conversation、 Useful Languageを読んてくること。(30分)
	授業内容	Unit 9 Talking About Going Out on the Town、ペアワークでの会話、リスニング
	事後学習	Unit 9の復習。(30分)

5	事前学習	Unit 9の予習。自分のことについて話し合う（Write and Talk）ので、その準備。（30分）
	授業内容	Unit 9 Talking About Going Out on the Town、ペアワークでの会話、レポート作成
	事後学習	Unit 9の復習。（30分）
6	事前学習	Unit 10の予習。Model Conversation、 Useful Languageを読んてくること。（30分）
	授業内容	Unit 10 Talking About Foods and Recipes、ペアワークでの会話、リスニング
	事後学習	Unit 10の復習。（30分）
7	事前学習	Unit 10の予習。自分のことについて話し合う（Write and Talk）ので、その準備。（30分）
	授業内容	Unit 10 Talking About Foods and Recipes、ペアワークでの会話、レポート作成
	事後学習	Unit 10の復習。（30分）
8	事前学習	Unit 11の予習。Model Conversation、 Useful Languageを読んてくること。（30分）
	授業内容	Unit 11 Talking About Travel、ペアワークでの会話、リスニング
	事後学習	Unit 11の復習。（30分）
9	事前学習	Unit 11の予習。自分のことについて話し合う（Write and Talk）ので、その準備。（30分）
	授業内容	Unit 11 Talking About Travel、ペアワークでの会話、レポート作成
	事後学習	Unit 11の復習。（30分）
10	事前学習	Unit 12の予習。Model Conversation、 Useful Languageを読んてくること。（30分）
	授業内容	Unit 12 Talking About Hometowns、ペアワークでの会話、リスニング
	事後学習	Unit 12の復習。（30分）
11	事前学習	Unit 12の予習。自分のことについて話し合う（Write and Talk）ので、その準備。（30分）
	授業内容	Unit 12 Talking About Hometowns、ペアワークでの会話、レポート作成
	事後学習	Unit 12の復習。（30分）
12	事前学習	Unit 13の予習。Model Conversation、 Useful Languageを読んてくること。（30分）
	授業内容	Unit 13 Talking About Your Opinions、ペアワークでの会話、リスニング
	事後学習	Unit 13の復習。（30分）
13	事前学習	Unit 13の予習。自分のことについて話し合う（Write and Talk）ので、その準備。（30分）
	授業内容	Unit 13 Talking About Your Opinions、ペアワークでの会話、レポート作成
	事後学習	Unit 13の復習。（30分）
14	事前学習	Unit 14の予習。Model Conversation、 Useful Languageを読んてくること。（30分）
	授業内容	Unit 14 Talking About Future Plans、ペアワークでの会話、リスニング
	事後学習	Unit 14の復習。（30分）
15	事前学習	Unit 8～14の復習(30分)
	授業内容	後期授業のまとめ
	事後学習	授業で行った内容の復習(30分)

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	元氏 久美子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日常の身近なテーマやビジネスシーンで使われる表現で効率よく学習し、リスニング力を向上させることを目指しています。TOEICテストのリスニングのための戦略を身につけ、英語をたくさん聞き、直感的に理解し、音読することで基礎を固めていきます。				
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目指すとしています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコアを450点以上獲得できることを目標とします。対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6				
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス、上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。				
授業方法	演習方式。小テストを毎回実施し、次の授業で返却を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	平常評価(授業参加度、小テスト、学期末試験等) 100%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018年	成美堂		QUICK MASTER OF THE TOEIC LISTENING TEST 『TOEICリスニングテスト速攻マスター』	松本恵美子他
	備考				
参 考 書	英和辞典				
オフィスアワー	月曜12:10～ 授業終了後の講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期で学んだことの確認。(30分)
	授業内容	ガイダンス 後期の授業の進め方、前期の復習など。
	事後学習	後期の英語学習計画を立てる。(30分)
2	事前学習	Unit 13 Warm-upを解いてくる。「解答のカギ」を読んでもくる。(15分)
	授業内容	Unit 13 Product development / Service に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。頻出単語を暗記する。(45分)
3	事前学習	Unit 14 Warm-upを解いてくる。「解答のカギ」を読んでもくる。(15分)
	授業内容	Unit 14 Employment / Job Hunting に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。頻出単語を暗記する。(45分)
4	事前学習	Unit 15 Warm-upを解いてくる。「解答のカギ」を読んでもくる。(15分)
	授業内容	Unit 15 Sports / Hobby に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。頻出単語を暗記する。(45分)

5	事前学習	Unit 16 Warm-upを解いてくる。「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 16 Announcement / Presentatiopn に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
6	事前学習	Unit 17 Warm-upを解いてくる。「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 17 Transportation に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
7	事前学習	Unit 13～17で学んだことを復習する。(30分)
	授業内容	Unit 18 Unit 13～17で学んだ内容のリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(30分)
8	事前学習	Unit 19 Warm-upを解いてくる。「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 19 Housing / Building に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
9	事前学習	Unit 20 Warm-upを解いてくる。「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 20 Advertisements に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
10	事前学習	Unit 21 Warm-upを解いてくる。「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 21 Airport に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
11	事前学習	Unit 22 Warm-upを解いてくる。「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 22 Music / Art に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
12	事前学習	Unit 23 Warm-upを解いてくる。「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 23 Weather に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
13	事前学習	Unit 19～23で学んだことを復習する。(30分)
	授業内容	Unit 24 Unit 19～23で学んだ内容のリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(30分)
14	事前学習	Unit 13～24で学んだことを復習する。(30分)
	授業内容	後期授業のまとめ①
	事後学習	後期の学習内容で理解不足だった点を確認する。(30分)
15	事前学習	後期の学習内容で理解不足だった点を復習する。(30分)
	授業内容	後期授業のまとめ②
	事後学習	後期で学んだことを再確認する。(30分)

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	M. ボックス	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This course is designed to help students learn how to communicate more freely and fluently using the English that they have studied in the past using original materials designed to help them gain fluency.			
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野でのコミュニケーションに必要なスピーキング・リスニングの基礎力を養成することを目的としています。The main goal is for students to learn how to use the English they already know and to gain confidence in their ability to communicate in English. 関連D P／C P：3, 6			
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修してください。			
授業方法	演習方式。Students will participate in a variety of activities designed to help meet the course goals. The teacher will supervise, guide, and counsel on an individual basis as necessary.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%	No regular exam will be given, but performance will be measured on participation in each class.	
	平常評価	100%	The grade will be based 90% on in-class participation on a daily basis, and 10% on other activities.	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	None			
	備考	No text required. Printed materials will be distributed at each lesson.		
参考書	No additional reference materials are required.			
オフィスアワー	micahbox@gmail.com Please ask questions after the class (Monday 2nd period) at classroom.			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Class explanation, orientation.
	事後学習	Review class rules. (30min)
2	事前学習	Prepare materials required for information cards and bring them to class. (30min)
	授業内容	Fill out information cards, class activity.
	事後学習	Review orientation materials. (30min)
3	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
4	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)

5	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
6	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
7	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
8	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
9	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
10	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
11	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
12	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
13	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
14	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
15	事前学習	Review class materials at home. (30min)
	授業内容	Final class evaluations. Review
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	リスニング学習をしながら、英語をアウトプットする場を提供し、さらには英語を話す土台になっている文法にも目を向けるようにします。単なるディクテーションではなく、「聴き取ったメモを基に英文を復元する」というディクトグロスという作業を行っていきます。リスニングによるメモ取りから意味と文法力を頼りに元の英文を復元し、内容を把握していきます。テキスト終了後は英語ニュースを使ってリスニング力と表現力を高めます。			
授業目的・到達目標	[授業目標]TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 [到達目標]TOEICテストのために基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP:外国語科目領域3, 6			
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。			
授業方法	演習形式。毎時間、小テストを実施します。学習者参加型の授業になり、元の英文の復元作業では個人ではなくグループで行うことにより、自ら考え発信していく機会が多くなります。フィードバックは授業内に行います。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	平常評価（授業参加度、毎回の小テスト、学期末試験などから総合的に評価します。）	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	金星堂	Taking Action—Communication with Fluency and Accuracy—	山本成代 Kelly Kimura
	備考	テキスト終了後はプリント教材で英語ニュースを学習します。		
参考書	授業時に適宜指示します。辞書必携。			
オフィスアワー	月曜日 12:20~13:00、場所は事前にアポイントメントを取った際に決めます。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期を振り返って、後期の英語学習に向けて目標を考える。（30分）
	授業内容	前期の振り返りをする。後期授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検などの検定試験について調べる。（30分）
2	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。（30分）
	授業内容	Unit 10 Listen to the Dialogue, Practice for Fluency, Focus on Grammar(前置詞)
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（30分）
3	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。（30分）
	授業内容	Unit 10 Practice for Accuracy Unit 11 Listen to the Dialogue, Practice for Fluency
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（30分）
4	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。（30分）
	授業内容	Unit 11 Focus on Grammar(will/be going to) , Practice for Accuracy Unit 12 Listen to the Dialogue
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。（30分）

5	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	Unit 12 Practice for Fluency, Focus on Grammar(比較級/最上級) , Practice for Accuracy
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
6	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	Unit 13 Listen to the Dialogue, Practice for Fluency, Focus on Grammar (関係代名詞)
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
7	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	Unit 13 Practice for Accuracy Unit 14 Listen to the Dialogue, Practice for Fluency
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
8	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	Unit 14 Focus on Grammar (関係副詞) , Practice for Accuracy Unit 15 Listen to the Dialogue
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
9	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	Unit 15 Practice for Fluency, Focus on Grammar(仮定法) , Practice for Accuracy
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
10	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	時事英語に特有な語彙・表現や文法を学ぶ。
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
11	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	ニュース英語を聴いて内容をチャックで捉えられるようになるノウハウを身に付ける。
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
12	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	ニュース英語を聴いて内容をチャックで捉えられるようになるノウハウを身に付ける。
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
13	事前学習	授業で触れる範囲のわからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	ニュース英語を聴いて内容をチャックで捉えられるようになるノウハウを身に付ける。
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容面でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
14	事前学習	後期に学習した箇所の文法や語彙などを復習して学期末試験に臨む。(60分)
	授業内容	授業内試験及び振り返り
	事後学習	間違えた箇所の復習をする。(30分)
15	事前学習	後期に学習した箇所の文法や語彙などを復習する。(30分)
	授業内容	試験の講評と1年間の学習の振り返り
	事後学習	1年を通して学習したことを踏まえ、さらに英語の実力をつける努力しつつ、次年度の英語の授業に備える。(30分)

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	佐藤 万里世	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	スピーキング・リスニングを中心に、英文法の基礎力の底上げを目指す授業です。比較的平易な文法事項を用いて、アウトプットの練習をたくさん行います。			
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なスピーキング・リスニングの基礎力を養成することを目的としています。 TOEIC、TOEFL、英検等受験への基礎力を身につけ、英語での表現・発信ができるようになることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3，6			
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。			
授業方法	演習方式で行います。ペアまたはグループでのアクティビティを通して、文法理解とともにアウトプットの能力向上を目指します。適宜小テストを実施し、次の授業以降で返却します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常評価（授業内試験、授業参加度、小テスト結果等）100%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011	オックスフォード大学出版	Smart Choice 2nd Edition 3 Student Book with Online Practice	K.Wilson T.Healy
	備考			
参考書	英和辞書を毎回必ず持参すること。			
オフィスアワー	授業後または月曜日12:10-13:00 講堂にて。 また、事前に知らせていただければ、授業後以外の対応も可能です。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読む。（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	シラバスを再度確認する。 英文法の参考書の基礎的な文法事項を復習する。（30分）
2	事前学習	p. 36のVocabularyの箇所の意味を調べておく。（30分）
	授業内容	Unit6 He'd never been abroad. (vocabulary, grammar)
	事後学習	p. 38のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。（30分）
3	事前学習	p. 40を辞書を使って読んでおく。（30分）
	授業内容	Unit6 He'd never been abroad. (reading, listening)
	事後学習	参考書等を用いて、現在完了形と過去完了形の違いを確認する。（30分）
4	事前学習	前回学習した受動態を参考書等で再度確認し、正しい英文が書けるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit6 He'd never been abroad. (speaking testの準備)
	事後学習	グループのメンバーで協力し、発表のスクリプトについて話し合う。（30分）

5	事前学習	講師が出した発表の条件を満たしているか再度スクリプトを確認する。（30分） スクリプトを暗記する。
	授業内容	Unit6 He'd never been abroad. (speaking test)
	事後学習	各自、発表メンバーで発表の自己採点を行う。（30分）
6	事前学習	p. 44のVocabularyの箇所の意味を調べておく。（30分）
	授業内容	Unit7 Time for a makeover! (vocabulary, grammar)
	事後学習	p. 46のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。（30分）
7	事前学習	使役の文法構造を理解し、与えられた表題に従って実際に英作文をしておく。（30分）
	授業内容	Unit7 Time for a makeover! (activity)
	事後学習	activityの内容を見直し、ほかの文章も暗記しておく。（30分）
8	事前学習	p. 47のBefore You Listen の箇所を読んでおく。（30分）
	授業内容	Unit7 Time for a makeover! (listening, reading)
	事後学習	p. 48のreadingを辞書を使って再度読んでおく。 新出単語を書き出しておく。（30分）
9	事前学習	p. 50のVocabularyの箇所の意味を調べておく。（30分）
	授業内容	Unit8 My life would be great! (vocablary, grammar)
	事後学習	p. 52のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。（30分）
10	事前学習	仮定法と直説法の違いを確認しておく。（30分）
	授業内容	Unit8 My life would be great! (listening activity)
	事後学習	授業時に配られたプリントを再度読み、辞書等を使って全体の内容を理解する。（30分）
11	事前学習	仮定法を理解し、activityに使う事柄についてアイディアを出しておく。（30分）
	授業内容	Unit8 My life would be great! (reading, activityの準備)
	事後学習	p. 54のreadingを辞書を使って再度読んでおく。 新出単語を書き出しておく。（30分）
12	事前学習	activityに使うペンネームを考えておく。 授業で使う文章を簡単に英語に直しておく。（30分）
	授業内容	Unit8 My life would be great! (activity)
	事後学習	授業中にもらった「返信」を辞書等を使って日本語に直す。（30分）
13	事前学習	後期で学んだ文法事項を確認する。 覚えられていない英単語をまとめる。（30分）
	授業内容	Unit6, 7, 8のまとめ 英文法の総復習
	事後学習	教科書の問題を再度見直し、講師に質問できるようにしておく。（30分）
14	事前学習	後期の文法事項、英単語を見直し試験に備える。（30分）
	授業内容	後期に扱った文法の解説、授業内テスト
	事後学習	試験問題を再度見直し、問題が解けなかった個所を確認する。（30分）
15	事前学習	前期に扱った箇所を再度見直す。 冬休みの思い出を英語で言えるようにしておく。（30分）
	授業内容	授業内試験の解答と解説 英作文
	事後学習	試験の解説をふまえて、今後の英語学習につてグループで話し合う。（30分）

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	You will improve your listening and speaking skills through English-language discussion with your teacher and classmates. You will read and think about English texts.				
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 To learn about East Asia in Japanese history and multicultural stories from modern Japan through listening to, reading and discussing English texts. To be more confident and skilled in understanding and speaking English. You will learn about important events in Japanese history. You will listen to and read English texts. You will discuss those texts, in English, with your teacher and your classmates.				
履修条件	法律学科1年生が履修する領域 3上 英語資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。				
授業方法	Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	Assessment and reflection 20%. Final test 30%. Participation and effort 30%. Weekly tests 20%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	DTP出版		後期 「An International History of Japan II」	Thomas Lockley
	備考				
参考書	A dictionary, or a smartphone with a dictionary app.				
オフィスアワー	You can contact me anytime for a question or to set up an appointment by email at: joe.geluso@gmail.com Office hours are after class in classroom.				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Prepare for course (90 minutes)
	授業内容	Thomas Glover: Scottish Business man who arrives to Japan Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
2	事前学習	You will be given a vocabulary test each week. So please be prepared. (20 minutes)
	授業内容	The Choshu Five: Group of Japanese who went abroad to learn more to benefit Japan Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
3	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Nagasawa Kanaye: Going abroad to learn more. Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
4	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	The Iwakura Embassy: A Japanese diplomatic journey Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)

5	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	The Bonin Islands Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
6	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Tsuda Umeko: A young diplomat Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
7	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Karayukisan Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
8	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Sun Yat-san and Japan: Coming to Japan to learn Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
9	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Japanese Emigration in the 20th Century Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
10	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Early 20th Century Immigration to Japan Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
11	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Noguchi Hideo: A doctor, scientist, and researcher Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
12	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Sugihara Chiune: Jewish people in Japan Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
13	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	International Spread of Japanese Culture Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
14	事前学習	Review (90 minutes)
	授業内容	Revision: Using revision guide to update lesson content
	事後学習	Continue revisions (90 minutes)
15	事前学習	Prepare for final exam (120 minutes)
	授業内容	Test: Final exam covering semester's content Review
	事後学習	Reflect on semester (Student choice for how long they wish to think about this)

科目名	英語D【法職課程1年生共通クラス】	担当者	太田 晴美	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語の生の音声を楽しみながらたくさんインプットしていきます。生の音声をそっくり真似る音読やシャドーイングを通してリスニング力を高めていきます。年度末のTOEICテスト対策も実施します。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に着け、スコア550点以上を獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域3，6			
履修条件	法職課程1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修してください。課題を必ず毎回提出しなくてはならない。			
授業方法	グループの演習方式で授業を進めます。リアクションペーパーをグループでシェアし、プレゼンをします。また、シャドーイング、ディクテーションの課題が課されます。授業内で実践するシャドーイングはその場で評価を受けます。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	毎回実施する小テスト及びプレゼンを評価に含めます。リアクションペーパーの提出も評価の対象に入ります。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年4月販売予定	朝日出版社	CNNニュースリスニング	CNN English Express 編
	2016年	IIBC	TOEICテスト公式問題集	IIBC
	備考	教員作成プリントを使用します		
参考書	辞書を持参すること。			
オフィスアワー	火曜日15：00～16：00 電話かメールでアポイントメントをお取りください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでくる。(30分)
	授業内容	TOEICテストについて学ぶ。(プリント配布)
	事後学習	プリントで読み、学んだことを復習をする。(30分)
2	事前学習	プリントを再度おさらいをする。(30分)
	授業内容	TOEICテストのリスニングパートの解き方を学ぶ。(プリント配布) Part 1を使ってディクテーションをする。
	事後学習	プリントを利用して復習をする。(30分)
3	事前学習	課題のディクテーションをする。(30分)
	授業内容	Part 2 の解き方を学ぶ。 プリントを使用して音読練習をする。(プリント配布)
	事後学習	プリントを利用して復習をする。(30分)
4	事前学習	Part 2 課題のディクテーションをする (30分)
	授業内容	Part 3 & 4 の解き方を学ぶ。 プリントを使用して音読練習をする。(プリント配布)
	事後学習	プリントを使って音読し、復習をする。(30分)

5	事前学習	プリントの音読テストに備える。（30分）
	授業内容	TOEIC Part 3 & 4 音読テストの実施。
	事後学習	間違えた箇所をよく音読する。（30分）
6	事前学習	TED talksを視聴し、リアクションペーパーを書く TOEICリスニングテストを復習する。（30分）
	授業内容	TOEICテストのリスニングパート全体を解いてみる。 TED talksについてgroup talk→発表
	事後学習	テストで間違えた箇所を復習する。（30分）
7	事前学習	TED talksを視聴し、リアクションペーパーを書く。 前回TED talksの単語テストの準備をする。（30分）
	授業内容	TED talks単語テスト TED talksについてgroup talk→発表
	事後学習	発表で気に入ったTED talksを自分でも視聴してみる。（30分）
8	事前学習	TED talksを視聴し、リアクションペーパーを書く 前回TED talksの単語テストの準備をする。（30分）
	授業内容	TED talks単語テスト TED talksについてgroup talk→発表
	事後学習	発表で気に入ったTED talksを自分でも視聴してみる。（30分）
9	事前学習	TED talksを視聴し、リアクションペーパーを書く。 前回TED talksの単語テストの準備をする。（30分）
	授業内容	TED talks単語テスト・TED talksについてgroup talk→発表 最終課題についての説明。
	事後学習	発表で気に入ったTED talksを自分でも視聴してみる。（30分）
10	事前学習	TED talksを視聴し、リアクションペーパーを書く/ 前回TED talksの単語テストの準備をする CNN課題のシャドーイングを練習。（30分）
	授業内容	TED talks単語テスト・CNN音読&シャドーイングテスト。 最終プレゼンについて話し合う。
	事後学習	最終プレゼンについて考える。（30分）
11	事前学習	最終プレゼンを準備する。（30分）
	授業内容	最終プレゼンについて話し合う。
	事後学習	最終プレゼンについて考える。（30分）
12	事前学習	TED talksを視聴し、リアクションペーパーを書く プレゼンの準備をする。（30分）
	授業内容	最終プレゼンを行う。
	事後学習	今日のふりかえり。（30分）
13	事前学習	プレゼンの準備をする。（30分）
	授業内容	最終プレゼンを行う。
	事後学習	今日のふりかえり。（30分）
14	事前学習	課題のCNNシャドーイングを練習する。（30分）
	授業内容	CNNシャドーイングテストを実施する。
	事後学習	シャドーイングテストで間違えた箇所をよく音読する。（30分）
15	事前学習	リスニング復習テストに備える。（30分）
	授業内容	復習テストと解説。
	事後学習	テストで間違えた箇所を復習し、学期末のTOEICテスト対策をする。（30分）

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	北村 豊	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験を目指すための基礎固めをします。TOEICに出題される表現を多く覚えます。法律、政治経済、歴史に関する基礎レベルの話題についての英語に親しむと共に、ビジネス英語の世界にも親しむ。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング、スピーキングの基礎力を養成する事を目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身につけ、スコアを450点以上獲得できることを目標とします。関連DP及びCP:外国語科目領域3, 6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修してください。					
授業方法	TOEFL的なアカデミックな話題、TOEIC的なビジネス関連の話題、法律や政治経済に関する基礎レベルの話題について英語の講義を聞き、簡単な要約をする。提出された課題の返却等のフィードバックは授業内に行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常点（授業参加度、発表、発言等による授業への貢献、授業内試験等）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017	On Demand Publishing		English as a communication and survival tool (2)		Yutaka
	備考					
参考書	英英辞典（上級の使い方を授業で学ぶ）					
オフィスアワー	質問等は授業の前後（月曜昼休み）講堂で受け付けます。授業外の場合はyu.jizo117@tcue.ac.jpまでメール送信の事。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（30分）
	授業内容	General introduction to the course 授業の進め方、TOEFL, TOEICの概要を説明する。教室英語の基本的な表現と英英辞典の使い方を習得する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 英英辞典の使い方の確認をする。 TOEIC, TOEFL, 英検等の各種資格試験についてWEBサイト等で調べてみる。（30分）
2	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 10 (2-7頁)の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）
	授業内容	Unit 10: On listening リスニング活動の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	リスニング活動の基礎を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。（30分）
3	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 11 (8-9頁)の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）
	授業内容	Unit 11: ABC of economics and Japanese business customs 日本のビジネス習慣の基礎を法律と関連付けて理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	日本のビジネス習慣の基礎を法律と関連付けて説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。（30分）
4	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 12 (10-11頁)の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）
	授業内容	Unit 12: Human communication and non-verbal behavior 人間のコミュニケーション活動の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	人間のコミュニケーション活動の基礎を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。（30分）

5	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 13 (12-13頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 13: Religions and cultures 文化の背景にある宗教の影響を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	文化の背景にある宗教の影響を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。(30分)
6	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 14 (14-15頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 14: On gender issues 男女平等に関する様々な問題を比較文化と法律の視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	男女平等に関する様々な問題を比較文化と法律の視点から説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。(30分)
7	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 15 (16-17頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 15: ABC of psychology and cultural factors (Part 1) 心理学の基礎と人間心理への文化の影響について理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	心理学の基礎と人間心理への文化の影響について口頭で発言できるように準備する。(30分)
8	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 16 (20-21頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 16: ABC of psychology and cultural factors (Part 2) 心理学の基礎と人間心理への文化の影響について理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	心理学の基礎と人間心理への文化の影響について口頭で発言できるように準備する。(30分)
9	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 17 (23-24頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 17: Why are there so many unhappy people who commit suicide? 心理学・社会学の基礎と人間心理への文化の影響について理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	心理学・社会学の基礎と人間心理への文化の影響について口頭で発言できるように準備する。(30分)
10	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 18 (24-25頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 8: Why are there so many youngsters who have withdrawn from society? 不登校・ひきこもりの問題を比較文化的視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	不登校・ひきこもりの問題を比較文化的視点から理解し、口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)
11	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 19 (26-27頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 19: Introducing Japanese culture to the world 日本文化を比較文化の視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	日本文化を比較文化の視点から理解し、口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)
12	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストActivity X-1からActivity X-3 (84-86頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	テキストActivity X-1からActivity X-3を通して経済、法律、比較文化に関する様々な話題を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	最終回の最終授業内試験の準備をする。今まで扱った内容についての質問に解答できるようにする。(60分)
13	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストBusiness English section (73-76頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	TOEIC 問題演習を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学び、それに対応する質問・問題に回答できる。 (Part 1)
	事後学習	TOEIC 問題演習で出てきたビジネス・シーンについて復習し、口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)
14	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストBusiness English section (77-79頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	TOEIC 問題演習を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学び、それに対応する質問・問題に回答できる。 (Part 2)
	事後学習	TOEIC 問題演習で出てきたビジネス・シーンについて復習し、口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)
15	事前学習	最終授業内試験の準備をする。今まで扱った内容についての質問に解答できるようにする。(60分)
	授業内容	Overall summary 後期授業の総まとめとして授業内試験を行う。前期学習内容の振り返り。
	事後学習	後期授業の学習内容を確認する。(30分)

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年次以降の発展的な学習に備え、日本人が注意すべきprosody(rhythm, stress, intonation)を習得するためのきわめて実践的なトレーニングを行う。具体的にはNews English, Business English, Colloquial Speechを扱う。					
授業目的・到達目標	[授業目的] TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的とする。 [到達目標] リスニング・スピーキング能力を向上させ、TOEICスコアを450点程度獲得できることを目標とする。 対応DPおよびCP：外国語科目領域 3, 6					
履修条件	法律学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修すること。また、勉学上の大きな負荷に耐えうる強靱な忍耐力を期待する。グループ演習を行うため、積極性、協調性を強く求める。					
授業方法	動画や音声を用いた演習方式。フィードバックは授業内において行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業参加度や提出物、小テストなど多様な面から総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	教材プリントを配布する。				
参考書	授業時に適宜指示をする。					
オフィスアワー	担当教員研究室（本館8階1815研究室）にて金曜日3時限に対応する。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、講義全体を概観する。（30分）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	イントロダクションの振り返りを行う。（30分）
2	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 1 Business English: Unit 1 PLEASED TO MEET YOU Pronunciation Practice: 母音～[I]
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
3	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 2 Business English: Unit 2 WHY DON'T YOU JOIN US? Pronunciation Practice: 母音 [U]～[OU]
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
4	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、小テスト 1に備える。（30分）
	授業内容	これまでの授業内容の振り返り 1 小テスト 1（筆記試験および口頭試験）
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）

5	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 3 Business English: Unit 3 GETTING ACQUAINTED Pronunciation Practice: 母音 [OU]～
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
6	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 4 Business English: Unit 4 ANY OTHER BUSINESS? Pronunciation Practice: 子音 [l]～[z]
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
7	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、小テスト 2に備える。（30分）
	授業内容	これまでの授業内容の振り返り 2 小テスト 2（筆記試験および口頭試験）
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
8	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 5 Business English: Unit 5 HEAR! HEAR! Pronunciation Practice: 子音 [ʃ]～[b]
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
9	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 6 Business English: Unit 6 WHAT ARE THE OPTIONS? Pronunciation Practice: 子音 [t]～[h]
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
10	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、小テスト 3に備える。（30分）
	授業内容	これまでの授業内容の振り返り 3 小テスト 3（筆記試験および口頭試験）
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
11	事前学習	Presentation Contest 1の準備を行う。（30分）
	授業内容	Presentation Contest 1 (Chants)
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
12	事前学習	Presentation Contest 2の準備を行う。（30分）
	授業内容	Presentation Contest 2 (Chants)
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
13	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、TOEIC模擬試験 1（Part1～Part4）に備える。（30分）
	授業内容	TOEIC模擬試験 1（Part1～Part4）
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
14	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、TOEIC模擬試験 2（Part5～Part7）に備える。（30分）
	授業内容	TOEIC模擬試験 2（Part5～Part7）
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
15	事前学習	これまでの授業内容の振り返りを行う。（30分）
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）

科目名	英語D【法律学科1年生共通クラス】	担当者	アンソニー トービン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	In this course students will learn the necessary vocabulary and phrases to engage in a wide variety of discussions.			
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 The objective of this course is to develop basic skills so that students comprehensively and conversationally communicate through authentic English materials and so that students can prepare for their certain language proficiency examination, such as TOEIC, TOEFL or Eiken test. Students will be able to get a wide range of vocabulary and language patterns which will help them			
履修条件	法律学科1年生番号指定の英語Dと上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修してください。			
授業方法	演習方式。In this course students will engage in group and whole class discussions.			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	50%:Several short tests throughout the semester 50%:Students are expected to participate in all class activities
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2008	Cengage	Communication Strategies 1	David Paul
	備考			
参考書	An English dictionary.			
オフィスアワー	The teacher can be reached at tonymtobin@hotmail.com to arrange a consultation. Please ask questions after the class (Monday 2nd period) at classroom.			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 7 Beliefs Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
2	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 7 Beliefs Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
3	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 8 The Future Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
4	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 8 The Future Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)

5	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 9 Transportation Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit Revision for forthcoming test (30min)
6	事前学習	Read unit Revision for forthcoming test (30min)
	授業内容	Unit 9 Transportation Skills: English listening and discussion skills Short test
	事後学習	Review unit (30min)
7	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 10 Vices Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
8	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 10 Vices Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
9	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 11 Marriage Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
10	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 11 Marriage Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
11	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 12 Animals Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
12	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 12 Animals Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
13	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 13 Computers Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Revise all units Revision for forthcoming test (30min)
14	事前学習	Revise all units (30min)
	授業内容	Vocabulary test Review
	事後学習	Revise all units (30min)
15	事前学習	Revise all units (30min)
	授業内容	Review 解説
	事後学習	Revise all units (30min)

科目名	英語D【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	加賀 岳彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	これまで学んできた学習英語をベースにして、さらに大学生・社会人向けの一般英語、及び英語の資格試験への橋渡しをします。今学期では特に一般社会、ビジネス等における実用・実務の英語、及びその隣接領域の英語を学びます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検などの資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】上記資格試験を模した授業内の各種のテストにおいて60%以上の正答率を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域 3, 6					
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。					
授業方法	十分な予習を前提として、演習形式の授業を行います。理解度・習得度を確認するための各種の小テストを行います。小テストは採点され、次の授業で返却されます。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、授業内の各種テスト等）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	授業用ハンドアウトを用意します。授業はすべて、このハンドアウトを使って行われます。				
参考書	受講生は各自の「（電子）辞書」を必ず持参して受講してください。					
オフィスアワー	月曜日12:20～12:50、授業講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体を概観する。各自の英語学習を行う。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の内容・進め方を理解し、授業目的に向けた英語の初期演習を行う。
	事後学習	ガイダンスおよび初期演習のおさらいをする。（30分）
2	事前学習	ハンドアウト Unit 1-(1)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	ハンドアウト Unit 1-(1) 自己の「経験・経歴・スキル・キャリア」に関する英語表現（基礎編）を習得する。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	英文を再読・復習し、授業で学習した重要語句・重用表現・構文を再復習する。（30分）
3	事前学習	ハンドアウト Unit 1-(2)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	ハンドアウト Unit 1-(2) 自己の「経験・経歴・スキル・キャリア」に関する英語表現を習得する演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題などを一部取り入れながら行う。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	「経験・経歴・スキル・キャリア」に関する追加問題を解き、授業で重要とされた単語、疑問文、表現を再復習する。（30分）
4	事前学習	ハンドアウト Unit 2-(1)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	ハンドアウト Unit 2-(1) 「求職・求人」および「丁寧表現」に関する英語表現（基礎編）を習得する。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	基礎的かつ重要な単語を再復習し、丁寧表現の例文を覚える。（30分）

5	事前学習	ハンドアウト Unit 2-(2)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 2-(2) 「求職・求人」および「丁寧表現」に関する英語表現の演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題などを一部取り入れながら行う。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	「求職・求人」「丁寧表現」の追加問題を解き、この領域で用いられる重要単語を念入りに再復習する。(30分)
6	事前学習	ハンドアウト Unit 3-(1)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 3-(1) 「面談・面接」等に関する英語表現（基礎編）を学ぶ。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	英文を再読・復習し、特に英語での「面談・面接」によく用いられる疑問文を復習する。(30分)
7	事前学習	ハンドアウト Unit 3-(2)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 3-(2) 「面談・面接」等に関する英語表現の演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題などを一部取り入れながら行う。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	「面談・面接」等に関する追加問題を解き、この時間に学んだ、一般社会で常識的に用いられる英語表現を復習し、覚える。(30分)
8	事前学習	ハンドアウト Unit 1～3までを総復習してくる。(60分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 1～3の総復習をテスト形式で行い、その解答・解説を通して、これまでの学習内容を確認する。
	事後学習	総復習および確認テストで間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
9	事前学習	ハンドアウト Unit 4-(1)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 4-(1) 「実業・実務・ビジネス」に関する英語表現（基礎編）を学ぶ。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	英文を再読・復習し、特に重要語彙の復習を念入りに行う。(30分)
10	事前学習	ハンドアウト Unit 4-(2)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 4-(2) 「実業・実務・ビジネス」に関する英語表現の演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題などを一部取り入れながら行う。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	「実業・実務・ビジネス」に関する英語表現の追加問題を解き、この時間に学んだ重要な表現と構文を再復習し、覚える。(30分)
11	事前学習	ハンドアウト Unit 5-(1)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 5-(1)「福祉・政策」に関する英語表現（基礎編）を習得する。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	英文を再読・復習し、重要語句を覚える。(30分)
12	事前学習	ハンドアウト Unit 5-(2)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 5-(2) 「福祉・政策」に関する英語表現の演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題などを一部取り入れながら行う。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	「福祉・政策」に関する英語表現の追加問題を解き、授業で学習した重要語句・表現・構文を覚える。(30分)
13	事前学習	ハンドアウト Unit 6-(1)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 6-(1)「効率・生産性」に関する英語表現（基礎編）を習得する。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	英文をもう一度熟読しながら、重要語句・表現をノートにまとめ、覚える。(30分)
14	事前学習	ハンドアウト Unit 6-(2)の英文を読み、単語を調べ、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 6-(2) 「効率・生産性」に関する英語表現の演習（応用編）を、TOEIC, TOEFL, 英検の問題などを一部取り入れながら行う。授業の最後に小テストを行う。
	事後学習	この領域で用いられる重要単語を念入りに再復習する。(30分)
15	事前学習	ハンドアウト Unit 4～6までを総復習してくる。(60分)
	授業内容	ハンドアウト Unit 4～6の総復習をテスト形式で行い、その解答・解説を通して、これまでの学習内容を確認する。
	事後学習	総復習および確認テストで間違えた箇所の問題を解き直す。 今学期に学んだことを踏まえ、今後の各自の英語学習の方向性を考える。(30分)

科目名	英語D【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	北村 豊	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験を目指すための基礎固めをします。TOEICに出題される表現を多く覚えます。法律、政治経済、歴史に関する基礎レベルの話題についての英語に親しむと共に、ビジネス英語の世界にも親しむ。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング、スピーキングの基礎力を養成する事を目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身につけ、スコアを450点以上獲得できることを目標とします。関連DP及びCP:外国語科目領域3, 6					
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修してください。					
授業方法	TOEFL的なアカデミックな話題、TOEIC的なビジネス関連の話題、法律や政治経済に関する基礎レベルの話題について英語の講義を聞き、簡単な要約をする。提出された課題の返却等のフィードバックは授業内に行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常点（授業参加度、発表、発言等による授業への貢献、授業内試験等）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017	On Demand Publishing		English as a communication and survival tool (2)		Yutaka
	備考					
参考書	英英辞典（上級の使い方を授業で学ぶ）					
オフィスアワー	質問等は授業の前後（月曜10：30～）講堂で受け付けます。授業外のはyujizo117@tcue.ac.jpまでメール送信の事。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（30分）
	授業内容	General introduction to the course 授業の進め方、TOEFL, TOEICの概要を説明する。教室英語の基本的な表現と英英辞典の使い方を習得する。
	事後学習	ガイドランスのおさらいをする。 英英辞典の使い方の確認をする。 TOEIC, TOEFL, 英検等の各種資格試験についてWEBサイト等で調べてみる。（30分）
2	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 10 (2-7頁)の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）
	授業内容	Unit 1: On listening リスニング活動の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	リスニング活動の基礎を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように練習する。（30分）
3	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 11 (8-9頁)の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）
	授業内容	Unit 11: ABC of economics and Japanese business customs 日本のビジネス習慣の基礎を法律と関連付けて理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	日本のビジネス習慣の基礎を法律と関連付けて説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。（30分）
4	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 12 (10-11頁)の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）
	授業内容	Unit 12: Human communication and non-verbal behavior 人間のコミュニケーション活動の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	人間のコミュニケーション活動の基礎を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。（30分）

5	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 13 (12-13頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 13: Religions and cultures 文化の背景にある宗教の影響を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	文化の背景にある宗教の影響を説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。(30分)
6	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 14 (14-15頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 14: On gender issues 男女平等に関する様々な問題を比較文化と法律の視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	男女平等に関する様々な問題を比較文化と法律の視点から説明するための英語表現を暗記し、口頭で発表できるように準備する。(30分)
7	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 15 (16-17頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 15: ABC of psychology and cultural factors (Part 1) 心理学の基礎と人間心理への文化の影響について理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	心理学の基礎と人間心理への文化の影響について口頭で発言できるように準備する。(30分)
8	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 16 (20-21頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 16: ABC of psychology and cultural factors (Part 2) 心理学の基礎と人間心理への文化の影響について理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	心理学の基礎と人間心理への文化の影響について口頭で発言できるように準備する。(30分)
9	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 17 (23-24頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 17: Why are there so many unhappy people who commit suicide? 心理学・社会学の基礎と人間心理への文化の影響について理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	心理学・社会学の基礎と人間心理への文化の影響について口頭で発言できるように準備する。(30分)
10	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 18 (24-25頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 8: Why are there so many youngsters who have withdrawn from society? 不登校・ひきこもりの問題を比較文化的視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	不登校・ひきこもりの問題を比較文化的視点から理解し、口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)
11	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストUnit 19 (26-27頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	Unit 19: Introducing Japanese culture to the world 日本文化を比較文化の視点から理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	日本文化を比較文化の視点から理解し、口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)
12	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストActivity X-1からActivity X-3 (84-86頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	テキストActivity X-1からActivity X-3を通して経済、法律、比較文化に関する様々な話題を理解し、それに対応する質問・問題に回答できる。
	事後学習	最終回の最終授業内試験の準備をする。今まで扱った内容についての質問に解答できるようにする。(60分)
13	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストBusiness English section (73-76頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	TOEIC 問題演習を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学び、それに対応する質問・問題に回答できる。 (Part 1)
	事後学習	TOEIC 問題演習で出てきたビジネス・シーンについて復習し、口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)
14	事前学習	教室英語の内容を確認し、教室内での発言の準備をする。 テキストBusiness English section (77-79頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	TOEIC 問題演習を通して企業文化とビジネス英語の基礎について学び、それに対応する質問・問題に回答できる。 (Part 2)
	事後学習	TOEIC 問題演習で出てきたビジネス・シーンについて復習し、口頭で説明・発言できるように準備する。(30分)
15	事前学習	最終授業内試験の準備をする。今まで扱った内容についての質問に解答できるようにする。(60分)
	授業内容	Overall summary 後期授業の総まとめとして授業内試験を行う。後期学習内容の振り返り。
	事後学習	後期授業の学習内容を確認する。(30分)

科目名	英語D【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	杉本 桂子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ますます複雑化する国際社会のなかで主体的に行動するための手段としての英語の基礎力を徹底的に鍛えることは今日の日本の大学教育に課せられた重要な課題のひとつであろう。この授業では特に日本の英語教育の弱点になっているリスニング力を重点的に訓練し、同時にいろいろな場面で使える実用的な語彙をふくむ英文を音読し、覚え、使う。多量の英文を暗記し、それを最後にテストする形の授業になる。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICのための基礎力を身に付け、スコアを450点以上獲得できることを目標とします。対応DP及びCP: 外国語科目領域3, 6					
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修してください。					
授業方法	リスニング力とスピーキング力をアップするために、オーバーラッピング、シャドーイングを徹底的に行い英語力を養う。毎回小テストを行い、次の授業で返却する。後半でプレゼンテーションを一回発表してもらう。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業への取り組み方（20％）、毎回の小テスト（30％）、最終テスト（50％）で総合的に判断する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2003	成美堂		Listen to this!(Basic)		James Bean
	2019	NHK出版		ラジオ英会話 10月号		担当者
	備考	授業の進行は下記の計画通りいかない場合があります。				
参考書	英和、和英辞書(電子辞書可、スマートフォン不可)					
オフィスアワー	月曜日、授業の行われる校舎の講師室にて12時15分～12時35分					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストUnit 7 I'm taller than you 前半を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	Unit 7 I'm taller than you（前半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト(10月号) Week 1-① 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキスト(10月号)Week 1-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
2	事前学習	テキストUnit 7 I'm taller than you（後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 7 I'm taller than you（後半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-② 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキスト Week 1-② に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
3	事前学習	テキストUnit 8 Where shall we eat?（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 8 Where shall we eat?（前半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-③ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキスト Week 1-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
4	事前学習	テキストUnit 8 Where shall we eat?（後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 8 Where shall we eat?（後半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-④ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容 NHKテキスト Week 1-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。

5	事前学習	テキストUnit 9 Going to the movies（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 9 Going to the movies（前半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-① 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキスト Week 2-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
6	事前学習	テキストUnit 9 Going to the movies（後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 9 Going to the movies（後半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-② 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキスト Week 2-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
7	事前学習	テキストUnit 10 Shopping for the perfect gift（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 10 Shopping for the perfect gift（前半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-③ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
8	事前学習	テキストUnit 10 Shopping for the perfect gift（後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 10 Shopping for the perfect gift（後半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-④ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
9	事前学習	テキストUnit 11 What's your favorite?（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 11 What's your favorite?（前半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-① 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
10	事前学習	テキストUnit 11 What's your favorite?（後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 11 What's your favorite?（後半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-② 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
11	事前学習	テキストUnit 12 Hard work（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 12 Hard work（前半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-③ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
12	事前学習	テキストUnit 12 Hard work（後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 12Unit 12Hard work（後半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-④ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
13	事前学習	テキストUnit 13 I was so embarrassed（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 13 I was so embarrassed（前半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 TOEIC リスニング練習
	事後学習	この回で学習したことを復習し、スクリプトの音読練習を行うこと。（30分）
14	事前学習	プレゼンテーションの原稿を提出できるように作成し、発表の練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	プレゼンテーション（60～70の英単語を使って決められたテーマに沿った内容の英文を発表する。
	事後学習	後期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習を行い力を磨いておくこと。（30分）
15	事前学習	後期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習を行い充実した実力をつけておくこと。（30分）
	授業内容	後期授業のまとめ。
	事後学習	後期授業で学習したことを踏まえ、更に英語の実力をつける努力すること。（30分）

科目名	英語D【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	平岡 麻里	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験を目指すための基礎固めをします。この授業ではTOEICの初学者向けテキストを使用し、英語の音声変化を学びながら、TOEICで扱われる場面やトピックで頻出する語彙や表現を学びます。授業以外にも英語音声に触れるように毎回の予習課題を設定しています。ペアやグループでの活動が課されることもあり、積極的な参加が求められます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。また、これからの学生生活と卒業後の社会人生活において、独力で英語学習を継続できる「独立した学習者」となることに重点を置いた指導を行います。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコアを450以上獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP:外国語科目領域3, 6					
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラスです。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修して下さい。					
授業方法	演習形式で授業を進めます。毎時間に小テスト、単元ごとにReview Test、学期末には授業内試験を実施し、次の授業でフィードバックを行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		毎回の小テストの結果、問題演習や授業内課題への参加状況やその成果、受講態度、Review Test、授業内試験などの授業内活動で評価を行います。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2012	成美堂		『音声変化で学ぶTOEICテストリスニング (Bottom Up Listening for the TOEIC Test) 』		Eiichi Yubune, Bill Benfield
	備考	教材音声にオンラインでアクセスできるスマートフォンやパソコンなど（大学のパソコンでも可能）が必要になります。英語Cと共通です。英語Dのみ履修する場合でも、必ず必ず教科書を購入してください。				
参考書	大学生から社会人レベルの英和辞典（電子辞書推奨）を授業時に必ず持参してください。					
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は、月曜日午前中の授業前後（10：30～／12：10～）に授業講堂で対応します。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	必要に応じてテキストの購入。シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（30分）
	授業内容	ガイダンス（授業スケジュールと授業方法の確認、TOEIC概要の説明、前期の振り返り） Unit 13 Sound Focus 同化(1) [t, d]+[j] の導入
	事後学習	ガイダンスのおさらい 予習・自習に必要な機材（スマートフォンやパソコン）とテキスト音声へのアクセスの確認 TOEIC公式サイト閲覧、各自の過去の英語資格試験の成績確認 （30分）
2	事前学習	Unit 13 予習確認小テストの準備（Warming UpとVocabulary） （30分）
	授業内容	Unit 13 同化(1) [t, d]+[j] の練習をし、Housingのトピックに慣れる 予習確認テスト(Warming UpとVocabulary) 、Warming Upの発音練習、TOEIC形式の聞き取り演習 Unit 14 Sound Focus 同化(2) [s, z]+[j] の導入
	事後学習	間違えた箇所の復習 Warming Upの暗記と発音練習（30分）
3	事前学習	Unit 14 予習確認小テストの準備（Warming UpとVocabulary） （30分）
	授業内容	Unit 14 同化(2) [s, z]+[j] の練習をし、Commutingのトピックに慣れる 予習確認テスト(Warming UpとVocabulary) 、Warming Upの発音練習、TOEIC形式の聞き取り演習 Unit 15 Sound Focus 同化(3) [n+t, n+ð, l+ð] の導入
	事後学習	間違えた箇所の復習 Warming Upの暗記と発音練習（30分）
4	事前学習	Unit 3 予習確認小テストの準備（Warming UpとVocabulary） （30分）
	授業内容	Unit 15 同化(3) [n+t, n+ð, l+ð] の練習をし、Seminars & Trainingのトピックに慣れる 予習確認テスト(Warming UpとVocabulary) 、Warming Upの発音練習、TOEIC形式の聞き取り演習 Units 13-15のまとめと、Unit 16 Review Test 4 様々な同化 の説明
	事後学習	間違えた箇所の復習 Warming Upの暗記と発音練習（30分）

5	事前学習	Units 13-15の復習と、Unit 16 Review Test 4 の準備 (30分)
	授業内容	TOEICリスニングテスト各パートの取り組み方の説明 Unit 16 Review Test 4 様々な同化 のTOEIC実戦形式の問題演習 問題解説 Unit 17 Sound Focus リズムの谷間で弱くなる音(1)代名詞 の導入
	事後学習	間違えた箇所の復習 (30分)
6	事前学習	Unit 17 予習確認小テストの準備 (Warming UpとVocabulary) (30分)
	授業内容	Unit 17 リズムの谷間で弱くなる音(1)代名詞 の練習をし、Familyのトピックに慣れる 予習確認テスト(Warming UpとVocabulary) 、Warming Upの発音練習、TOEIC形式の聞き取り演習 Unit18 Sound Focus リズムの谷間で弱くなる音(2)be動詞、助動詞 の導入
	事後学習	間違えた箇所の復習 Warming Upの暗記と発音練習 (30分)
7	事前学習	Unit 18 予習確認小テストの準備 (Warming UpとVocabulary) (30分)
	授業内容	Unit18 リズムの谷間で弱くなる音(2)be動詞、助動詞の練習をし、Moneyのトピックに慣れる 予習確認テスト(Warming UpとVocabulary) 、Warming Upの発音練習、TOEIC形式の聞き取り演習 Unit 19 Sound Focus リズムの谷間で弱くなる音(3)冠詞、前置詞、接続詞、関係詞などの導入
	事後学習	間違えた箇所の復習 Warming Upの暗記と発音練習 (30分)
8	事前学習	Unit 19 予習確認小テストの準備 (Warming UpとVocabulary) (30分)
	授業内容	Unit 19 リズムの谷間で弱くなる音(3)冠詞、前置詞、接続詞、関係詞などの練習をし、Figures & Resultsのトピックに慣れる 予習確認テスト(Warming UpとVocabulary) 、Warming Upの発音練習、TOEIC形式の聞き取り演習 Units 17-19のまとめと、Unit 20 Review Test 5 リズムの谷間で弱くなる音 の説明
	事後学習	間違えた箇所の復習 Warming Upの暗記と発音練習 (30分)
9	事前学習	Units 17-19の復習と、Unit 20 Review Test 5 の準備 (30分)
	授業内容	TOEICリスニングテスト各パートの取り組み方の説明 Unit 20 Review Test 5 リズムの谷間で弱くなる音 のTOEIC実戦形式の問題演習 問題解説 Unit 21 Sound Focus 英語発音のバラエティー(1)アメリカ・カナダの母音 の導入
	事後学習	間違えた箇所の復習 (30分)
10	事前学習	Unit 21 予習確認小テストの準備 (Warming UpとVocabulary) (30分)
	授業内容	Unit 21 英語発音のバラエティー(1)アメリカ・カナダの母音の練習をし、Traveling Overseasのトピックに慣れる 予習確認テスト(Warming UpとVocabulary) 、Warming Upの発音練習、TOEIC形式の聞き取り演習 Unit 22 Sound Focus 英語発音のバラエティー(2)イギリス・オーストラリアの母音 の導入
	事後学習	間違えた箇所の復習 Warming Upの暗記と発音練習 (30分)
11	事前学習	Unit 22 予習確認小テストの準備 (Warming UpとVocabulary) (30分)
	授業内容	Unit 22 英語発音のバラエティー(2)イギリス・オーストラリアの母音の練習をし、Charity Activitiesのトピックに慣れる 予習確認テスト(Warming UpとVocabulary) 、Warming Upの発音練習、TOEIC形式の聞き取り演習 Unit 23 Sound Focus 英語発音のバラエティー(3)イギリス・オーストラリアの母音の後の[r] の導入
	事後学習	間違えた箇所の復習 Warming Upの暗記と発音練習 (30分)
12	事前学習	Unit 23 予習確認小テストの準備 (Warming UpとVocabulary) (30分)
	授業内容	Unit 23 英語発音のバラエティー(3)イギリス・オーストラリアの母音の後の[r]の練習をし、Negotiatingのトピックに慣れる 予習確認テスト(Warming UpとVocabulary) 、Warming Upの発音練習、TOEIC形式の聞き取り演習 Units 21-23のまとめと、Unit 24 Review Test 6 英語発音のバラエティー の説明
	事後学習	間違えた箇所の復習 Warming Upの暗記と発音練習 (30分)
13	事前学習	Units 21-23の復習と、Unit 24 Review Test 6 の準備 (30分)
	授業内容	TOEICリスニングテスト各パートの取り組み方の説明 Unit 24 Review Test 6 英語発音のバラエティー のTOEIC実戦形式の問題演習 問題解説 授業内試験の説明
	事後学習	間違えた箇所の復習 (30分)
14	事前学習	Units 13-24の復習と授業内試験の準備 (30分)
	授業内容	まとめ・授業内試験
	事後学習	間違えた箇所の復習 (30分)

15	事前学習	授業内試験を含む学期全体の総復習（30分）
	授業内容	授業内試験を含む学期全体の学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容の確認（30分）

科目名	英語D【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	佐藤 万里世	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	スピーキング・リスニングを中心に、英文法の基礎力の底上げを目指す授業です。比較的平易な文法事項を用いて、アウトプットの練習をたくさん行います。			
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なスピーキング・リスニングの基礎力を養成することを目的としています。 TOEIC、TOEFL、英検等受験への基礎力を身につけ、英語での表現・発信ができるようになることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3，6			
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。			
授業方法	演習方式で行います。ペアまたはグループでのアクティビティを通して、文法理解とともにアウトプットの能力向上を目指します。適宜小テストを実施し、次の授業以降で返却します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常評価（授業内試験、授業参加度、小テスト結果等）100%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011	オックスフォード大学出版	Smart Choice 2nd Edition 3 Student Book with Online Practice	K.Wilson T.Healy
	備考			
参考書	英和辞書を毎回必ず持参すること。			
オフィスアワー	授業後または月曜日12:10-13:00 講堂にて。 また、事前に知らせていただければ、授業後以外の対応も可能です。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読む。（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	シラバスを再度確認する。 英文法の参考書の基礎的な文法事項を復習する。（30分）
2	事前学習	p. 36のVocabularyの箇所の意味を調べておく。（30分）
	授業内容	Unit6 He'd never been abroad. (vocabulary, grammar)
	事後学習	p. 38のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。（30分）
3	事前学習	p. 40を辞書を使って読んでおく。（30分）
	授業内容	Unit6 He'd never been abroad. (reading, listening)
	事後学習	参考書等を用いて、現在完了形と過去完了形の違いを確認する。（30分）
4	事前学習	前回学習した受動態を参考書等で再度確認し、正しい英文が書けるようにしておく。（30分）
	授業内容	Unit6 He'd never been abroad. (speaking testの準備)
	事後学習	グループのメンバーで協力し、発表のスクリプトについて話し合う。（30分）

5	事前学習	講師が出した発表の条件を満たしているか再度スクリプトを確認する。（30分） スクリプトを暗記する。
	授業内容	Unit6 He'd never been abroad. (speaking test)
	事後学習	各自、発表メンバーで発表の自己採点を行う。（30分）
6	事前学習	p. 44のVocabularyの箇所の意味を調べておく。（30分）
	授業内容	Unit7 Time for a makeover! (vocabulary, grammar)
	事後学習	p. 46のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。（30分）
7	事前学習	使役の文法構造を理解し、与えられた表題に従って実際に英作文をしておく。（30分）
	授業内容	Unit7 Time for a makeover! (activity)
	事後学習	activityの内容を見直し、ほかの文章も暗記しておく。（30分）
8	事前学習	p. 47のBefore You Listen の箇所を読んでおく。（30分）
	授業内容	Unit7 Time for a makeover! (listening, reading)
	事後学習	p. 48のreadingを辞書を使って再度読んでおく。 新出単語を書き出しておく。（30分）
9	事前学習	p. 50のVocabularyの箇所の意味を調べておく。（30分）
	授業内容	Unit8 My life would be great! (vocablary, grammar)
	事後学習	p. 52のLanguage Practiceの新出文法の箇所を再度確認する。（30分）
10	事前学習	仮定法と直説法の違いを確認しておく。（30分）
	授業内容	Unit8 My life would be great! (listening activity)
	事後学習	授業時に配られたプリントを再度読み、辞書等を使って全体の内容を理解する。（30分）
11	事前学習	仮定法を理解し、activityに使う事柄についてアイディアを出しておく。（30分）
	授業内容	Unit8 My life would be great! (reading, activityの準備)
	事後学習	p. 54のreadingを辞書を使って再度読んでおく。 新出単語を書き出しておく。（30分）
12	事前学習	activityに使うペンネームを考えておく。 授業で使う文章を簡単に英語に直しておく。（30分）
	授業内容	Unit8 My life would be great! (activity)
	事後学習	授業中にもらった「返信」を辞書等を使って日本語に直す。（30分）
13	事前学習	後期で学んだ文法事項を確認する。 覚えられていない英単語をまとめる。（30分）
	授業内容	Unit6, 7, 8のまとめ 英文法の総復習
	事後学習	教科書の問題を再度見直し、講師に質問できるようにしておく。（30分）
14	事前学習	後期の文法事項、英単語を見直し試験に備える。（30分）
	授業内容	後期に扱った文法の解説、授業内テスト
	事後学習	試験問題を再度見直し、問題が解けなかった個所を確認する。（30分）
15	事前学習	前期に扱った箇所を再度見直す。 冬休みの思い出を英語で言えるようにしておく。（30分）
	授業内容	授業内試験の解答と解説 英作文
	事後学習	試験の解説をふまえて、今後の英語学習につてグループで話し合う。（30分）

科目名	英語D【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	You will improve your listening and speaking skills through English-language discussion with your teacher and classmates. You will read and think about English texts.				
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。To learn about East Asia in Japanese history and multicultural stories from modern Japan through listening to, reading and discussing English texts. To be more confident and skilled in understanding and speaking English. You will learn about important events in Japanese history. You will listen to and read English texts. You will discuss those texts, in English, with your teacher and your classmates. 関連DP及びCP：外国語科目領域3, 6				
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。				
授業方法	Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	Assessment and reflection 20%. Final test 30%. Participation and effort 30%. Weekly vocabulary tests 20%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	DTP出版		後期 「An International History of Japan II」	Thomas Lockley
	備考				
参 考 書	A dictionary, or a smartphone with a dictionary app.				
オフィスアワー	You can contact me anytime for a question or to set up an appointment by email at: joe.geluso@gmail.com Office hours are after class in classroom.				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Prepare for course (90 minutes)
	授業内容	Thomas Glover: Scottish Business man who arrives to Japan Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
2	事前学習	You will be given a vocabulary test each week. So please be prepared. (20 minutes)
	授業内容	The Choshu Five: Group of Japanese who went abroad to learn more to benefit Japan Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
3	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Nagasawa Kanaye: Going abroad to learn more. Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
4	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	The Iwakura Embassy: A Japanese diplomatic journey Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)

5	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	The Bonin Islands Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
6	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Tsuda Umeko: A young diplomat Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
7	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Karayukisan Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
8	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Sun Yat-san and Japan: Coming to Japan to learn Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
9	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Japanese Emigration in the 20th Century Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
10	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Early 20th Century Immigration to Japan Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
11	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Noguchi Hideo: A doctor, scientist, and researcher Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
12	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Sugihara Chiune: Jewish people in Japan Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
13	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	International Spread of Japanese Culture Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
14	事前学習	Review (60 minutes)
	授業内容	Revision: Using revision guide to update lesson content
	事後学習	Continue revisions (60 minutes)
15	事前学習	Prepare for final exam (120 minutes)
	授業内容	Test: Final exam covering semester's content Review
	事後学習	Reflect on course (as much time as the student wishes)

科目名	英語D【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	M. ボックス	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This course is designed to help students learn how to communicate more freely and fluently using the English that they have studied in the past using original materials designed to help them gain fluency.					
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。The main goal is for students to learn how to use the English they already know and to gain confidence in their ability to communicate in English. 関連DP／CP：3, 6					
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。Students will participate in a variety of activities designed to help meet the course goals. The teacher will supervise, guide, and counsel on an individual basis as necessary.					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%		No regular exam will be given, but performance will be measured on participatio in each class.	
	平常評価		100%		The grade will be based 90% on in-class participation on a daily basis, and 10% on other activities.	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	none					
	備考	No text required. Printed materials will be distributed at each lesson.				
参考書	No additional reference materials are required.					
オフィスアワー	micahbox@gmail.com Please ask questions after the class (Monday 1st period) at classroom.					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Class explanation, orientation.
	事後学習	Review class rules. (30min)
2	事前学習	Prepare materials required for information cards and bring them to class. (30min)
	授業内容	Fill out information cards, class activity.
	事後学習	Review orientation materials. (30min)
3	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
4	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)

5	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
6	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
7	事前学習	Prepare homework.
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
8	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
9	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
10	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
11	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
12	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
13	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
14	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Class activity will focus a specific English speaking target. Print outs and language targets will be specifically geared to the needs of the class and the progress they make each lesson.
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)
15	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Final class evaluations. Review 解説
	事後学習	Review lesson and practice target skills from class materials. (30min)

科目名	英語D【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	菊地 幸子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEICのリスニングセクションと頻出語彙に特化したテキストを用い、問題形式に慣れ頻出語彙を強化することによりTOEICのスコアを高めると共に全般的な聴解力の向上を目指す。				
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア600点以上を獲得できることを目標とする。対応DP及びCP: 外国語科目領域3, 6				
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修すること。				
授業方法	演習方式で行う。フィードバックとして最終授業で授業内試験の講評及び振り返りを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加度（20％）、小テスト（30％）、学期末試験（50％）の割合で総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年	三修社		Listening and Vocabulary Training for the TOEIC L&R Test	古家 聡 他
	備考				
参考書	特に指定しない。				
オフィスアワー	授業前後の休み時間に（月曜日10：30～）講堂にて。緊急の連絡事項がある場合はメールで知らせること。 メールアドレス：kikuchi.sachiko11@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Vocabulary Building Step 1をよく読み覚える（30分）
	授業内容	Unit 7 Step 1 券売機の使い方
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。（30分）
2	事前学習	Vocabulary Building Setp 2をよく読み覚える。（30分）
	授業内容	Unit 7 Step 2 オススメのコーヒー
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。（30分）
3	事前学習	Vocabulary Building Step 1をよく読み覚える。（30分）
	授業内容	Unit 8 Step 1 会議室の利用
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。（30分）
4	事前学習	Vocabulary Building Step 2をよく読み覚える。（30分）
	授業内容	Unit 8 Step 2 ネット広告
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。（30分）

5	事前学習	Vocabulary Building Step 1をよく読み覚える。(30分)
	授業内容	Unit 9 Step 1 会社の合併吸収
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。(30分)
6	事前学習	Vocabulary Building Step 2をよく読み覚える。(30分)
	授業内容	Unit 9 Step 2 雇用契約の延長
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。(30分)
7	事前学習	Vocabulary Building Step 1をよく読み覚える。(30分)
	授業内容	Unit 10 Step 1 フライトチケットの間違い
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。(30分)
8	事前学習	Vocabulary Building Step 2をよく読み覚える。(30分)
	授業内容	Unit 10 Step 2 会社の規模縮小
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。(30分)
9	事前学習	Vocabulary Building Step 1をよく読み覚える。(30分)
	授業内容	Unit 11 Step 1 製品の国別売上
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。(30分)
10	事前学習	Vocabulary Building Step 2をよく読み覚える。(30分)
	授業内容	Unit 11 Step 2 電車の遅延の案内
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。(30分)
11	事前学習	Vocabulary Building Step 1をよく読み覚える。(30分)
	授業内容	Unit 12 Step 1 契約の見直し
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。(30分)
12	事前学習	Vocabulary Building Step 2をよく読み覚える。(30分)
	授業内容	Unit 12 Step 2 大手企業破産のニュース
	事後学習	学習した語彙を正しく発音できるようにする。また、リスニングのエクササイズで聞き取れなかった部分に特に注意して音声を何度も聞いて確認する。(30分)
13	事前学習	これまで授業で学んだTOEIC頻出表現を復習する。(30分)
	授業内容	Review 2 (Unit 7-12) TOEICの試験形式での練習及び解説
	事後学習	間違えた部分はなぜ間違えたのか、また正解に至る考え方が理解できたか確認する。(30分)
14	事前学習	試験範囲を復習する。(30分)
	授業内容	授業内試験及び後期のまとめ
	事後学習	試験で分からなかった部分の正解を考える。(30分)
15	事前学習	テキストの総復習。(30分)
	授業内容	授業内試験の講評及び振り返り。
	事後学習	後期の学習内容を確認する。(30分)

科目名	英語D【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	小林 晴子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際社会において情報収集に必要な英語力を、リスニング能力に重点をおいて修得する。英語音声、テキスト、インフォグラフィックスなどの理解に基づき、各々の理論的・批判的思考力を用いて導き出した情報、思考、意見を、聞き手に理解されやすい英語音声、表現、論理的提示方法で話す訓練を行う。			
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なスピーキング・リスニングの基礎力を養成することを目的としています。英語資格試験の受験を視野に入れた、スピーキング・リスニングの基礎固めを目指します。そのために種々の発音、文法、語彙、構文、文章構造などの習得と、ディスカッション、プレゼンテーションなどの演習に取り組みます。TOEICテスト等のためのリスニング能力をさらに向上させ、リスニングパートのスコアを100点高く獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6			
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。演習授業なので必ず8割以上出席をすることを求めます。			
授業方法	演習方式。小テストを毎回実施。授業では、音読、シャドウイング、ディクテーション、ノートテイキング、学生のペアワーク、ディスカッション、ロールプレイング、プレゼンテーション等を行う。毎回リスニングに関する課題あり。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価：100%(授業パフォーマンス・スピーチ30%、小テスト・課題提出40%、期末テスト30%)
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年出版	ナショナルジオグラフィック	Pathways 2 - Listening, Speaking, and Critical Thinking Second Edition	Becky Tarver Chase
	備考			
参考書	英和・和英辞書は必携。その他は、適宜指示する。			
オフィスアワー	月曜日12:30~13:00（事前にメールでアポイントを取ること）授業講堂 kobayashi.haruko11@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Unit 5 Lesson A Vocabulary pp. 81~85を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	小テスト。テキスト Unit 5 Inside the Brain, Lesson A: A Podcast about Exercise and the のテーマについて講演を聞く。テーマに沿って会話をする。
	事後学習	課題：講演内容のノートテイキング。（1時間）
2	事前学習	Unit 5 Lesson B Vocabulary pp. 94~95 を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。小テスト。テキスト Unit 5 Lesson B: A Discussion about Memory, Learning and Emotions についての会話を聞く。指定された表現方法を用いて話す。
	事後学習	課題：会話のディクテーション。（1時間）
3	事前学習	プレゼンテーションの準備。（1時間）
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。 テキスト Unit 5 Development of Brain に関して指定されたテーマについて発表する。
	事後学習	プレゼンテーションの反省と見直し。（30分）
4	事前学習	Unit 6 Let's Eat! Vocabulary pp. 101~105を予習し、小テストの準備をする。（30分）
	授業内容	小テスト。テキスト Unit 6, Lesson A: A Presentation about the Korean Dietついて話しを聞く。テーマに沿って会話をする。
	事後学習	課題：講演内容のノートテイキング。（1時間）

5	事前学習	Unit 6 Lesson B Vocabulary pp.114~115 を予習し、小テストの準備をする。(30分)
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。小テスト。テキスト Unit 6 Lesson B: A Discussion about Food Psychology の会話を聞く。指定された表現方法を用いて話す。
	事後学習	課題：会話のディクテーション。(1時間)
6	事前学習	プレゼンテーションの準備。(1時間)
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。 テキスト Unit 6 Food に関して指定されたテーマについて発表する。
	事後学習	プレゼンテーションの反省と見直し。(30分)
7	事前学習	Unit 7 Our Active Earth, Lesson A Vocabulary pp.121~125を予習し、小テストの準備をする。(30分)
	授業内容	小テスト。テキスト Unit 7 Lesson A: An Earth Science Lecture のテーマについて講演を聞く。 テーマに沿って会話をする。
	事後学習	課題：講演内容のノートティキング。(1時間)
8	事前学習	Unit 7 Lesson B Vocabulary pp.134~135 を予習し、小テストの準備をする。(30分)
	授業内容	小テスト。課題の内容、重要ポイントを確認する。テキスト Unit 7 Lesson B: A Discussion about Volcanoes についての会話を聞く。指定された表現方法を用いて話す。
	事後学習	課題：会話のディクテーション。(1時間)
9	事前学習	プレゼンテーションの準備。(1時間)
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。 テキスト Unit 7 Earth and Geology に関して指定されたテーマについて発表する。
	事後学習	プレゼンテーションの反省と見直し。(30分)
10	事前学習	Unit 8 Wonders from the Past, Lesson A Vocabulary pp.141~145 を予習し、小テストの準備をする。(30分)
	授業内容	小テスト。テキスト Unit 8 Lesson A: A Guided Tour of Uxmal のテーマについて講演を聞く。テーマに沿って会話をする。
	事後学習	課題：講演内容のノートティキング。(1時間)
11	事前学習	Unit 8 Lesson B Vocabulary pp.154~155 を予習し、小テストの準備をする。(30分)
	授業内容	小テスト。課題の内容、重要ポイントを確認する。テキスト Unit 8 Lesson B: A Conversation about an Assignment のテーマについての会話を聞く。指定された表現方法を用いて話す。
	事後学習	課題：会話のディクテーション。(1時間)
12	事前学習	プレゼンテーションの準備。(1時間)
	授業内容	課題の内容、重要ポイントを確認する。テキスト Unit 8 Archeology and History に関して指定されたテーマについて発表する。
	事後学習	プレゼンテーションの反省と見直し。(30分)
13	事前学習	Unit 9 Species Survival, Lesson A Vocabulary pp.161~165 を予習し、小テストの準備をする。(30分)
	授業内容	小テスト。テキスト Unit 9 Lesson A: A Talk about Birds のテーマについて講演を聞く。テーマに沿って会話を する。
	事後学習	課題：講演内容のノートティキング。(1時間)
14	事前学習	今学期の授業を振り返る。(2時間以上)
	授業内容	授業内試験および今学期の授業のまとめ
	事後学習	授業の見直しをする。(30分)
15	事前学習	授業内試験を振り返る。(1時間)
	授業内容	授業内試験のフィードバック。
	事後学習	授業の見直しをする。(30分)

科目名	英語D【政治経済学科1年生共通クラス】	担当者	アンソニー トービン	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	------------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	In this course students will learn the necessary vocabulary and phrases to engage in a wide variety of discussions.				
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。The objective of this course is to develop basic skills so that students comprehensively and conversationally communicate through authentic English materials and so that students can prepare for their certain language proficiency examination, such as TOEIC, TOEFL or Eiken test. Students will be able to get a wide range of vocabulary and language patterns which will help them communicate actively in a wide variety of situations. 関連D P / C P : 3, 6				
履修条件	政治経済学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修してください。				
授業方法	演習方式。In this course students will engage in group and whole class discussions.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	50%: Several short tests throughout the semester 50%:Students are expected to participate in all class activities	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2008	Cengage	Communication Strategies 1		David Paul
	備考				
参 考 書	An English dictionary.				
オフィスアワー	The teacher can be reached at tonymtobin@hotmail.com to arrange a consultation. Please ask questions after the class (Monday 1st period) at classroom.				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 7 Beliefs Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
2	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 7 Beliefs Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
3	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 8 The Future Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
4	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 8 The Future Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)

5	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 9 Transportation Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit Revision for forthcoming test (30min)
6	事前学習	Read unit Revision for forthcoming test (30min)
	授業内容	Unit 9 Transportation Skills: English listening and discussion skills Short test
	事後学習	Review unit (30min)
7	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 10 Vices Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
8	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 10 Vices Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
9	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 11 Marriage Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
10	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 11 Marriage Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
11	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 12 Animals Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
12	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 12 Animals Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit Revision for forthcoming test (30min)
13	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 13 Computers Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Revise all units (30min)
14	事前学習	Revise all units (30min)
	授業内容	Vocabulary test Review
	事後学習	Revise all units (30min)
15	事前学習	Revise all units (30min)
	授業内容	Review 解説
	事後学習	Revise all units (30min)

科目名	英語D【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	鬼塚 雅子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC, TOEFL、英検などの資格試験を目指すための基礎固めをします。テキストを通して海外旅行を疑似体験しながら、実生活のさまざまな場面で役立つ表現を多く学びます。			
授業目的・到達目標	【授業目的】 TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。語彙力を高め、多くの英語表現を覚え、社会の中で積極的にコミュニケーションを実践する力の基礎を身につけましょう。 【到達目標】 TOEICテストのスコア450点以上を獲得あるいは英検2級以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域 3， 6			
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。授業時には必ず辞書（ただしスマートフォンは使用不可）を持参してください。			
授業方法	全全員参加型の演習方式です。1～2回の授業でone unitの学習を目指します。語彙力チェックや暗記（ペアやグループによる発表）も実施します。授業内に実施したテストはすべてその翌週（または翌々週）に返却し、解説します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常評価（授業参加度、グループワーク、単語テスト、学年末試験など）100%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	南雲堂	Enjoy Your Trip! ― English you need abroad （旅英語の心得）	Masumi Takeuchi 他
	備考			
参考書	英和・和英辞典(小学館、大修館など)、英英辞典（オックスフォード、ロングマンなど）、百科事典など			
オフィスアワー	質問や問い合わせはできるだけ授業前後（金曜昼休み）講堂でお願いします。メールについては授業内で説明します。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期（英語C）に学習した内容を復習する。（60分）
	授業内容	語彙力チェック、慣用句チェック、発音チェック。早口言葉や短い英詩を音読・暗唱し、発声練習をする。
	事後学習	学習した早口言葉や英詩を繰り返し音読し、暗唱する。（30分）
2	事前学習	テキストの49～51頁にを通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。（1～2時間）
	授業内容	Unit 8 At the restaurant レストランで注文や支払いの表現を学習する。ifを使った表現の内容及び時制を理解する。
	事後学習	学習した語句を覚える。CDを聞いて発音練習をする。（30分～60分）
3	事前学習	テキストの52～54頁にを通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。（1～2時間）
	授業内容	Unit 8 At the restaurant チップについて学習する。接頭辞と接尾辞を理解する。
	事後学習	学習した表現を覚える。CDを聞いて発音練習をする。（30分～60分）
4	事前学習	テキストの55～57頁にを通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。（1～2時間）
	授業内容	Unit 9 Shopping 店員とかわず会話を学習する。レシートやクーポンに使われる英語を理解する。
	事後学習	学習した語句を覚える。CDを聞いて発音練習をする。（30分～60分）

5	事前学習	テキストの58～60頁にを通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 9 Shopping 請求書の英語を学習する。willとbe going to の違いを理解する。
	事後学習	学習した表現を覚える。CDを聞いて発音練習をする。(30分～60分)
6	事前学習	テキストの61～63頁にを通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 10 Lost and found 報告書に書く英語について学習する。英語の住所表記の仕方を理解する。
	事後学習	学習した表現を覚える。CDを聞いて発音練習をする。(30分～60分)
7	事前学習	テキストの64～66頁にを通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 10 Lost and found 弱い義務や穏やかな提案を表すshould の用法と had better の用法を理解する。
	事後学習	学習した表現を覚える。CDを聞いて発音練習をする。(30分～60分)
8	事前学習	テキストの67～72頁にを通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 11 Using public transportation 電車やバスで使われる表現（行き先や乗り換えをたずねる、料金をきく）を学習する。会話文で使われる比較表現を理解する。
	事後学習	学習した表現を覚える。CDを聞いて発音練習をする。(30分～60分)
9	事前学習	テキストの73～78頁にを通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 12 Renting a bike レンタル契約書の英語を学習する。会話で使われる最上級を用いた表現を理解する。
	事後学習	学習した表現を覚える。CDを聞いて発音練習をする。(30分～60分)
10	事前学習	テキストの79～84頁にを通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 13 Finding your way around 道案内の会話表現を学習する。道順を聞くために必要な前置詞の用法を理解する。
	事後学習	学習した表現を覚える。CDを聞いて発音練習をする。(30分～60分)
11	事前学習	テキストの85～90頁にを通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 14 Medical care 身体の不調を説明する表現を学習する。薬を説明する英語を理解する。
	事後学習	学習した表現を覚える。CDを聞いて発音練習をする。(30分～60分)
12	事前学習	テキストの91～96頁にを通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 15 Leaving for home チップを支払う時に交わされる会話を学習する。アンケートの英語を理解する。
	事後学習	学習した表現を覚える。CDを聞いて発音練習をする。(30分～60分)
13	事前学習	後期に学習した語彙（単語、熟語、発音記号）を復習する。(1～2時間)
	授業内容	語彙力チェック。後期に学習した単語・熟語・発音記号の振り返り。
	事後学習	間違えた語彙の問題をやり直し、暗記する。(30分)
14	事前学習	後期に学習した慣用句・会話表現を復習する。(1時間～2時間)
	授業内容	授業内試験。慣用句、会話表現、案内、説明などのさまざまな表現についての振り返り。
	事後学習	間違えた表現を確認し、自分の弱点を把握し、理解する。(30分～60分)
15	事前学習	後期に学習した内容を総復習し、質問事項を整理する。(30分～60分)
	授業内容	後期の学習内容の振り返り。答案の返却や解説により、質問や疑問点を明らかにする。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。今後の学習方法や計画を考える。(30分～60分)

科目名	英語D【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	庭山 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験を目指すための基礎固めをします。TOEICに出題されるボキャブラリーや表現を多く覚えます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEIC テストの基礎力を身に付け、スコアを500点以上獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域3，6					
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。 原則、英語Cと通年で履修してください。					
授業方法	様々な場面の発話を聞きディクテーションを行い、文法の確認、内容の理解を行い発話の練習をします。授業の初めに前回の授業のボキャブラリーと内容理解確認の小テストを実施し、次回の授業で返却と解説をします。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末授業内試験等）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2015年	金星堂		STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING		Yukihiro Tsukada
	備考					
参考書	英和辞書。その他は授業の中で指示します。					
オフィスアワー	授業内容に関する質問・相談等は、8：30から9：00、授業終了後、お昼休み、4限終了後に教室で対応します。（金曜日）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス、テキストを読み、授業の概要を把握する。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、自宅学習の進め方、評価に関する説明、TOEIC、TOEFL、英検など、資格試験のリスニングの解説
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。各種資格試験について調べる。（30分）
2	事前学習	テキストの指示に従い、テキストの音声ファイルをダウンロードする。 テキストp. 38-39の問題を解く。（30分）
	授業内容	Unit 13 Media メディアで使用される表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。（30分）
3	事前学習	音声を聞きp. 40-41の問題を解き、語彙を調べる。（30分）
	授業内容	Unit 14 Business ビジネスの場で使用される表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。（30分）
4	事前学習	音声を聞きp. 42-43の問題を解き、語彙を調べる。（30分）
	授業内容	Unit 15 Reception Desk 受付で使用される表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。（30分）

5	事前学習	音声を聞きp. 44-45の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 16 Office Work オフィスで使用される表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を読み内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
6	事前学習	音声を読みp. 46-47の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 17 Employment & Personnel 雇用、人事に関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し語彙を覚える。(30分)
7	事前学習	音声を聞きp. 48-49の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 18 Office Announcement 社内連絡に関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
8	事前学習	音声を聞きp. 50-51の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 19 Office Talk オフィスで交わされる会話に関する表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
9	事前学習	音声を聞きp. 52-53の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 20 New Product 新製品に関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
10	事前学習	音声を聞きp. 54-55の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 21 Sales 販売戦略に関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
11	事前学習	音声を聞きp. 56-57の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 22 Seminar & Meeting 会議やセミナーに関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
12	事前学習	音声を聞きp. 58-59の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 23 Logistics 運輸・流通に関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
13	事前学習	音声を聞きp. 60-61の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 24 Construction & Production 工事・作業に関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
14	事前学習	Unit13からUnit 24までの復習をする。フィードバックされた小テストを見直す。(30分)
	授業内容	Unit 13からUnit 24までのまとめ及び授業内試験を行う。
	事後学習	授業で行った箇所の再確認をすること。(30分)
15	事前学習	これまでの授業内容の学習の振り返り。(30分)
	授業内容	授業内試験のフィードバックと解説
	事後学習	間違えた箇所を解き直し、今後の学習計画を立てる。(30分)

科目名	英語D【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	山下 登子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英文法の基礎を見直しつつ、語彙力向上を目指した学習を行い、総合的な英語力向上につなげる授業です。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】できるだけ多くの語彙を習得し、基本文法の理解及びTOEICスコア450点以上を獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域3、6			
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。			
授業方法	グループ活動を中心とした演習形式の授業です。毎回単語練習の課題を出し、授業内で単語テストを実施し、次の授業で返却を行う。遅刻3回は1回分の欠席とし、欠席が全体の1/3以上を超える場合は失格とする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	単語テスト、受講状況、単語ノート提出、授業内試験などを含めて総合的に評価します。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	英宝社	『Basic English Grammar for Global Communication（やさしく詳しい 基礎からの総合英語）』	船田 秀佳ほか
	備考			
参考書	英和辞書（電子辞書可）			
オフィスアワー	授業に関する質問・相談などは、授業前後や休み時間（金曜昼休み）に、教室、教員室またはe-mailにて対応します。 yamashita.takako1@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教材の準備、シラバスを読み、講義全体の概観をする。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、学習範囲、今後の予定、単語テストについて説明する。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
2	事前学習	単語テストの準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト①・Unit 8（学習Unitは変更する場合があります） 不定詞・動名詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
3	事前学習	単語テストの準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト②・Unit 8 不定詞・動名詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
4	事前学習	単語テストの準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト③・Unit 9 名詞・冠詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）

5	事前学習	単語テストの準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト④・Unit 10 比較について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
6	事前学習	単語テストの準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑤・Unit 10 比較について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
7	事前学習	単語テストの準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑥・Unit 11 前置詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
8	事前学習	単語テストの準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑦・Unit 12 修飾語について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
9	事前学習	単語テストの準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑧・Unit 12 修飾語について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
10	事前学習	単語テストの準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑨・Unit 13 接続詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
11	事前学習	単語テストの準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑩・Unit 14 関係詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
12	事前学習	学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	Unit 14 関係詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
13	事前学習	単語ノート提出の準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	ノート提出・Unit 15 仮定法について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。（30分）
14	事前学習	学習範囲の総復習（30分）
	授業内容	授業内試験及び学習内容の振り返り
	事後学習	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。（30分）
15	事前学習	重要箇所や分からないところの確認など（30分）
	授業内容	授業内試験の見直し及び学習内容の振り返り
	事後学習	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。（30分）

科目名	英語D【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	村松 直子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験を目指すための基礎固めをします。英語資格試験やビジネスに必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成します。TOEICに出題される表現を多く覚えます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6					
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。毎時間、小テストを実施する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	Cengage Learning		The TOEIC Test Trainer Target 650 Revised Edition.		M. Yamaguchi et al.
	備考					
参考書	授業では使用しない。英文法の復習が必要な場合は、事前学習、事後学習で英文法解説書を参照してください。英和辞書と和英辞書を持参してください。					
オフィスアワー	金曜日の4時限後 事前（授業後等）に講堂にて対面でアポイントメントを入れてください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（30分）
	授業内容	オリエンテーション 授業の進め方、TOEICの概要の説明を聞く。 リスニング・ストラテジー、スピーキング・ストラテジーの説明を聞く。
	事後学習	TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検などの各種検定試験についてWebサイト等で調べてみる。（30分）
2	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit1の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit1 「提案」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 様々な時制の文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
3	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit2の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit2 「確認」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 様々な時制の文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
4	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit3の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit3 会話を始めるための頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 助動詞を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）

5	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit4の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit4 ニュース報道に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 フレーズ・リーディングが素早く正確に行えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
6	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit5の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit5 「義務」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 代名詞を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
7	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit6の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit6 「理由」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 前置詞を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
8	事前学習	Unit1-6の学習内容を復習する。（60分）
	授業内容	復習テストと振り返り リスニング・ストラテジーの確認
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
9	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit7の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit7 「苦情」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 接続詞を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
10	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit8の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit8 交通情報に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 スキミングを素早く正確に行えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
11	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit9の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit9 Yes/Noで答える質問に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 関係詞を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
12	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit10の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit10 「意見」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 分詞構文を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
13	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit11の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit11 「意見の一致・不一致」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 仮定法を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
14	事前学習	Unit7-11の学習内容を確認、復習する。（60分）
	授業内容	授業内期末試験及び振り返り
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
15	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit12の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit12 会議に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 スキミングを素早く正確に行えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。頻出単語、頻出フレーズを暗記する。 これまでの学習内容を確認する。（40分）

科目名	英語D【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Improving English speaking and listening skills.				
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。We will practice speaking, listening, reading and writing English, with the focus on improving speaking and listening abilities. Students must try their best to speak English in class with the teacher and with each other.Students will be able to understand English better and communicate their thoughts and feelings better in English. 関連DP／CP：3, 6				
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修してください。				
授業方法	演習方式。We will focus on speaking and listening to English in the class.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	Evaluation will be classwork 75%, speaking/listening test 25%.	
教科書	年	出版社		書名	著者名
		Cambridge UP		English Unlimited Elementary	Tilbury & Clementson
	備考				
参考書	なし				
オフィスアワー	Friday, 12:10-13:00 at classroom				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction
	事後学習	Be ready to study English. (30min)
2	事前学習	Be ready to study English. (30min)
	授業内容	Unit 7A Work & Study. How we do things to learn and make money.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
3	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 7B Activities. Things we can do when we go out.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
4	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 8A Family. The people around us who are important in our lives.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)

5	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 8B Relationships. How we get along with friends and others.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
6	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 9A Traveling. Going to new places by different ways.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
7	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 9B Transportation. What we use to travel to different places, including school and work.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
8	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 10A Movies. Kinds of movies and why we like them.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
9	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 10B Arrangements. Working out how to do things that are important.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
10	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 11A Flying. Going to far away places.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
11	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 11B Stories. Things that have happened to us.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
12	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 12A Health. How we feel and what shape we are in.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
13	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 12B Advice. Helping people know how to do things.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
14	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 12C Information. Finding out important things we need to know.
	事後学習	Study for test. (30min)
15	事前学習	Study for test. (30min)
	授業内容	Test and review. 解説
	事後学習	Review. (30min)

科目名	英語D【新聞学科1年生共通クラス】	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	高等学校までに習得した英語の基本的な知識を再確認し、2年次以降の発展的な学習に備え、日本人が注意すべきprosody(rhythm, stress, intonation)を習得するためのきわめて実践的なトレーニングを行う。具体的にはNews English, Business English, Colloquial Speechを扱う。							
授業目的・到達目標	[授業目的] TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的とする。 [到達目標] リスニング・スピーキング能力を向上させ、TOEICスコアを450点程度獲得できることを目標とする。 対応DPおよびCP：外国語科目領域 3, 6							
履修条件	新聞学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修すること。また、勉学上の大きな負荷に耐えうる強靱な忍耐力を期待する。グループ演習を行うため、積極性、協調性を強く求める。							
授業方法	動画や音声を用いた演習方式。フィードバックは授業内において行う。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%					
	平常評価		100%		授業参加度や提出物、小テストなど多様な面から総合的に評価する。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	備考		教材プリントを配布する。					
参考書	授業時に適宜指示をする。							
オフィスアワー	担当教員研究室（本館8階1815研究室）にて金曜日3時限に対応する。							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、講義全体を概観する。（30分）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	イントロダクションの振り返りを行う。（30分）
2	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 1 Business English: Unit 1 PLEASED TO MEET YOU Pronunciation Practice: 母音～[I]
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
3	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 2 Business English: Unit 2 WHY DON'T YOU JOIN US? Pronunciation Practice: 母音 [U]～[OU]
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
4	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、小テスト 1に備える。（30分）
	授業内容	これまでの授業内容の振り返り 1 小テスト 1（筆記試験および口頭試験）
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）

5	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 3 Business English: Unit 3 GETTING ACQUAINTED Pronunciation Practice: 母音 [OU]～
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
6	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 4 Business English: Unit 4 ANY OTHER BUSINESS? Pronunciation Practice: 子音 [l]～[z]
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
7	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、小テスト 2に備える。（30分）
	授業内容	これまでの授業内容の振り返り 2 小テスト 2（筆記試験および口頭試験）
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
8	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 5 Business English: Unit 5 HEAR! HEAR! Pronunciation Practice: 子音 [ʃ]～[b]
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
9	事前学習	配信される音声を聴いて、ディクテーションに取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	ABC News Shower 6 Business English: Unit 6 WHAT ARE THE OPTIONS? Pronunciation Practice: 子音 [t]～[h]
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
10	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、小テスト 3に備える。（30分）
	授業内容	これまでの授業内容の振り返り 3 小テスト 3（筆記試験および口頭試験）
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
11	事前学習	Presentation Contest 1の準備を行う。（30分）
	授業内容	Presentation Contest 1 (Chants)
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
12	事前学習	Presentation Contest 2の準備を行う。（30分）
	授業内容	Presentation Contest 2 (Chants)
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
13	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、TOEIC模擬試験 1（Part1～Part4）に備える。（30分）
	授業内容	TOEIC模擬試験 1（Part1～Part4）
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
14	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、TOEIC模擬試験 2（Part5～Part7）に備える。（30分）
	授業内容	TOEIC模擬試験 2（Part5～Part7）
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）
15	事前学習	これまでの授業内容の振り返りを行う。（30分）
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	授業の振り返りを行う。（30分）

科目名	英語D【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	鬼塚 雅子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日常生活からビジネスまで幅広いトピックを扱った教材を通して、語彙を増やし、リスニングのレベルアップをはかります。 TOEIC、TOEFL、英検などのしかっく試験を目指すための基礎固めをするとともに、実生活のさまざまな場面で役立つ表現を多く学びます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。語彙力を高め、多くの英語表現を覚え、社会の中で積極的にコミュニケーションを実践する力の基礎を身につけましょう。 【到達目標】TOEICテストのスコア450点以上を獲得あるいは英検2級以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3，6					
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。授業時には必ず辞書（ただしスマートフォンは使用不可）を持参してください。					
授業方法	全員参加型の演習方式です。1回の授業でone unitの学習を目指します。語彙力チェックや暗記（ペアやグループによる発表）も実施します。授業内に実施したテストはすべてその翌週（または翌々週）に返却、解説します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、グループワーク、単語テスト、授業内試験など）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018年	南雲堂		Listening Elements （大学生のための『リスニングエレメント』）		Terry O'Brien他
	備考					
参考書	英和・和英辞典（小学館、大修館など）、英英辞典（オックスフォード、ロングマンなど）、百科事典など					
オフィスアワー	質問や問い合わせはできるだけ授業前後（金曜10：30～）講堂でお願いします。メールについては最初の授業内で説明します。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期（英語C）に学習した内容を復習する。（60分）
	授業内容	語彙力チェック、慣用句チェック、発音チェック。早口言葉や短い英詩を音読・暗唱し、発声練習をする。
	事後学習	学習した早口言葉や英詩を繰り返し音読し、暗唱する。（30分）
2	事前学習	テキスト40～42頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。（1～2時間）
	授業内容	Unit 12 At the Airpot 単語及び会話の聴き取りを学習し、英語のアクセントの規則について理解する。
	事後学習	Unit 12 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。（30分～60分）
3	事前学習	テキスト43～45頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。（1～2時間）
	授業内容	Unit 13 In the Plane 単語及び会話の聴き取りを学習し、有声子音の無声化を理解する。
	事後学習	Unit 13 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。（30分～60分）
4	事前学習	テキスト46～48頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。（1～2時間）
	授業内容	Unit 14 Hotel Check-in 会話内の慣用句を学習し、音の連結（リンキング）を理解する。
	事後学習	Unit 14 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。（30分～60分）

5	事前学習	テキスト49～51頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 15 I am not satisfied. 会話の慣用句を学習し、イギリス英語とアメリカ英語の発音の違いを理解する。
	事後学習	Unit 15 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。(30分～60分)
6	事前学習	テキスト52～54頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 16 How was it? ショートトークの構成を学習し、イギリス英語とアメリカ英語の単語の違いを理解する。
	事後学習	Unit 16 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。(30分～60分)
7	事前学習	テキスト55～57頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 17 A Business Meeting ショートトークの構成を学習し、連続子音(子音が続くと、前の音が脱落する現象)を理解する。
	事後学習	Unit 17 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。(30分～60分)
8	事前学習	テキスト58～60頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 18 An Interview 英問英答を繰り返し練習する。音の連結(リエゾン)を学習する。
	事後学習	Unit 18 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。(30分～60分)
9	事前学習	テキスト61～63頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 19 Is everything ready? 動詞の語尾(-ed)の音が聞こえなくなるケースを学習し、理解する。
	事後学習	Unit 19 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。(30分～60分)
10	事前学習	テキスト64～66頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 20 Shopping 連続した音が一つに混じり合って、別の音に変化する現象<同化>を学び、理解する。」
	事後学習	Unit 20 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。(30分～60分)
11	事前学習	テキスト67～69頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 21 Which train? 助動詞及びbe動詞が名詞、代名詞、疑問詞と結びついて短縮形になることを学び、理解する。
	事後学習	Unit 21 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。(30分～60分)
12	事前学習	テキスト70～66頁に一通り目を通し、わからない語句を辞書で調べる。練習問題を解いて、質問事項をまとめる。付属のCDを聞く。(1～2時間)
	授業内容	Unit 22 Well, hello! 同音の破裂音が連続するとき、前の子音の音が消えるケースを学び、理解する。
	事後学習	Unit 22 で学習した語句や表現を復習し、CDを聞いて繰り返し音読練習をする。(30分～60分)
13	事前学習	後期に学習した語彙(単語、熟語、発音記号)を復習する。(1～2時間)
	授業内容	語彙力チェック。後期に学習した単語・熟語・発音記号についての振り返り。
	事後学習	間違えた語彙の問題をやり直し、暗記する。(30分)
14	事前学習	後期に学習した慣用句・会話表現を復習する。(1～2時間)
	授業内容	授業内試験。慣用句、会話表現、ショートトークの構成、英問英答についての振り返り。
	事後学習	間違えた表現を確認し、自分の弱点を把握し、克服する。(30分～60分)
15	事前学習	後期に自分が学習した内容を総復習し、質問事項を整理する。(60分)
	授業内容	後期の学習内容の振り返り。答案の返却と解説により、質問や疑問点を明らかにする。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。今後の学習方法や目標を考える。(30分～60分)

科目名	英語D【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	堀 紳介	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業の前半ではまず学生は基本的な英会話表現を学びます。後半では前半で学んだ表現を実際の英会話で実践する術を学びます。 そして、授業内で学んだ表現が実践できているかを確認します。 学生は授業内で積極的に発言することが求められます。				
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング、スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】授業ではテキストを用い、基本的な英会話表現を学びますが、学生が学んだ表現を能動的に実践することが出来るようになることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3，6				
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。				
授業方法	授業は基本的に演習形式で進めます。 課題、ロールプレイングに対するフィードバックを授業内で行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価100% *授業に出席することは単位を認定する上での前提条件とする。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019	金星堂	English First: Starter：大学英語の総合的アプローチ		Robert Hickling 白倉美里
	備考				
参考書	随時指示します。				
オフィスアワー	金曜1限授業終了後（10：30～10：40）、授業講堂で対応します。 時間が足りなければ2限終了後（12：10～12：30）、講師室前で対応します。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの確認（30分）
	授業内容	ガイダンス、後期授業内容の説明、
	事後学習	Pre-Unitの問題を授業が始まる前までに解いておくこと。（30分）
2	事前学習	Unit4の問題を授業が始まるまでに解いておくこと。（30分）
	授業内容	Unit4：英語の基本構造を学び（S+V+O+C）、それを会話で実践する術を理解する。
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
3	事前学習	授業が始まるまでにUnit4のリスニング部分を付属のCDで聞いておくこと。（30分）
	授業内容	Unit4リスニング問題：英語の発音の仕組み、日本語との違いを学ぶ
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
4	事前学習	Unit4文法セクションを授業が始まるまでに解いておくこと。（30分）
	授業内容	Unit4リスニング問題、文法問題：実際の英会話実践例を紹介
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）

5	事前学習	授業が始まるまでにUnit 5 のリスニング部分を付属のCDで聞いておくこと。（30分）
	授業内容	Unit 5 リスニング問題：英文のスピードに慣れる。
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
6	事前学習	Unit 5 の文法問題を授業が始まるまでに解いておくこと。（30分）
	授業内容	Unit 5 文法問題：英米文化を紹介しながら、英会話を実践
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
7	事前学習	授業が始まるまでにUnit 6 のリスニング問題を付属のCDで聞いておくこと。（30分）
	授業内容	Unit 6 リスニング問題：英文のスピードに慣れる。
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
8	事前学習	授業が始まるまでにUnit 6 の文法問題を解いておくこと。（30分）
	授業内容	Unit 6 文法問題：英米文化を紹介しながら、英会話を実践
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
9	事前学習	授業が始まるまでに発表事項をまとめておくこと。（30分）
	授業内容	テスト準備：これまでに学んだ表現を用いて英会話発表①
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
10	事前学習	授業が始まるまでに発表事項をまとめておくこと。（30分）
	授業内容	テスト準備：これまでに学んだ表現を用いて英会話発表②
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
11	事前学習	授業が始まるまでに発表事項をまとめておくこと。（30分）
	授業内容	ロールプレイング準備：これまでに学んだ表現を用いてロールプレイング
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
12	事前学習	授業が始まるまでに発表事項をまとめておくこと。（30分）
	授業内容	ロールプレイング準備：これまでに学んだ表現を用いてロールプレイング
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
13	事前学習	授業が始まるまでに発表事項をまとめておくこと。（30分）
	授業内容	ロールプレイング準備：これまでに学んだ表現を用いてロールプレイング
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
14	事前学習	授業が始まるまでに発表事項をまとめておくこと。（30分）
	授業内容	ロールプレイング準備：これまでに学んだ表現を用いてロールプレイング
	事後学習	授業後のノート整理（ロールプレイングに備えて）（30分）
15	事前学習	ロールプレイングに向けた準備（30分）
	授業内容	ロールプレイング、一年間の授業のまとめ（フィードバック）
	事後学習	これまでの既習事項を復習すること。（30分）

科目名	英語D【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	山下 登子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英文法の基礎を見直しつつ、語彙力向上を目指した学習を行い、総合的な英語力向上につなげる授業です。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】できるだけ多くの語彙を習得し、基本文法の理解及びTOEICスコア450点以上を獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域3、6			
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。			
授業方法	グループ活動を中心とした演習形式の授業です。毎回単語練習の課題を出し、授業内で単語テストを実施し、次の授業で返却を行う。遅刻3回は1回分の欠席とし、欠席が全体の1/3以上を超える場合は失格とする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	単語テスト、受講状況、単語ノート提出、授業内試験などを含めて総合的に評価します。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	英宝社	『Basic English Grammar for Global Communication（やさしく詳しい 基礎からの総合英語）』	船田 秀佳ほか
	備考			
参考書	英和辞書（電子辞書可）			
オフィスアワー	授業に関する質問・相談などは、授業前後や休み時間（金曜10：30～）に、教室、教員室またはe-mailにて対応します。 yamashita.takako1@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教材の準備、シラバスを読み、講義全体の概観をする。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、学習範囲、今後の予定、単語テストについて説明する。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
2	事前学習	単語テストの準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト①・Unit 8（学習Unitは変更する場合があります） 不定詞・動名詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
3	事前学習	単語テストの準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト②・Unit 8 不定詞・動名詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
4	事前学習	単語テストの準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト③・Unit 9 名詞・冠詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）

5	事前学習	単語テストの準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト④・Unit 10 比較について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
6	事前学習	単語テストの準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑤・Unit 10 比較について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
7	事前学習	単語テストの準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑥・Unit 11 前置詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
8	事前学習	単語テストの準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑦・Unit 12 修飾語について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
9	事前学習	単語テストの準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑧・Unit 12 修飾語について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
10	事前学習	単語テストの準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑨・Unit 13 接続詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
11	事前学習	単語テストの準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト⑩・Unit 14 関係詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
12	事前学習	学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	Unit 14 関係詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
13	事前学習	単語ノート提出の準備、学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	ノート提出・Unit 15 仮定法について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。（30分）
14	事前学習	学習範囲の総復習（30分）
	授業内容	授業内試験及び学習内容の振り返り
	事後学習	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。（30分）
15	事前学習	重要箇所や分からないところの確認など（30分）
	授業内容	授業内試験の見直し及び学習内容の振り返り
	事後学習	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。（30分）

科目名	英語D【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	石川 勝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	リスニング能力を高め、日常的な表現を自然な英語で表現できるようにする。				
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 練習問題を解きながら、文法を理解したうえで日本語を英語に翻訳できるようになることを目標とします。				
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域3, 6 経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。				
授業方法	アトランダムに指名し問題の答えを言ってもらいます。しっかりと予習をしてください。2時間で1unitのペースで読み進めていきます。フィードバックは授業内において行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	小テストを2回行い成績をつける。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
		英宝社		Power-Up Practice for the TOEIC Test	
	備考				
参 考 書	英和辞典				
オフィスアワー	金曜日9時～12時20分 授業講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの購入，事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）
	授業内容	講義計画の説明
	事後学習	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。（30分）
2	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit8 リスニング
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）
3	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit8 練習問題
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）
4	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit9 リスニング
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）

5	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit9 練習問題
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）
6	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit10 リスニング
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）
7	事前学習	試験範囲の復習（30分）
	授業内容	Unit10 練習問題 小テスト
	事後学習	試験の復習（30分）
8	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit11 リスニング
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）
9	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit11 練習問題
	事後学習	間違った箇所の訂正（30分）
10	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit12 リスニング
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）
11	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit12 練習問題
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）
12	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit13 リスニング
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）
13	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit13 練習問題
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）
14	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit 14 リスニング
	事後学習	間違った箇所の理解（30分）
15	事前学習	試験範囲の復習（30分）
	授業内容	Unit 14 練習問題 小テスト
	事後学習	間違った箇所を理解し直す。（30分）

科目名	英語D【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	庭山 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験を目指すための基礎固めをします。TOEICに出題されるボキャブラリーや表現を多く覚えます。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEIC テストの基礎力を身に付け、スコアを500点以上獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域3，6			
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。 原則、英語Cと通年で履修してください。			
授業方法	様々な場面の発話を聞きディクテーションを行い、文法の確認、内容を理解したうえで発話の練習をします。授業の初めに前回の授業のボキャブラリーと内容理解確認の小テストを実施し、次回の授業でフィードバックします。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常評価（授業参加度、小テスト、学期末授業内試験等）100%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015年	金星堂	STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING	Yukihiro Tsukada
	備考			
参考書	英和辞書。その他は授業の中で指示します。			
オフィスアワー	授業内容に関する質問・相談等は、8：30から9：00、授業終了後、お昼休み、4限終了後に教室で対応します。（金曜日）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス、テキストを読み、授業の概要を把握する。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、自宅学習の進め方、評価に関する説明、TOEIC、TOEFL、英検など、資格試験のリスニングの解説
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。各種資格試験について調べる。（30分）
2	事前学習	テキストの指示に従い、テキストの音声ファイルをダウンロードする。 テキストp. 38-39の問題を解く。（30分）
	授業内容	Unit 13 Media メディアで使用される表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。（30分）
3	事前学習	音声を聞きp. 40-41の問題を解き、語彙を調べる。（30分）
	授業内容	Unit 14 Business ビジネスの場で使用される表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。（30分）
4	事前学習	音声を聞きp. 42-43の問題を解き、語彙を調べる。（30分）
	授業内容	Unit 15 Reception Desk 受付で使用される表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次回の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を聞き内容を理解し、語彙を覚える。（30分）

5	事前学習	音声を聞きp. 44-45の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 16 Office Work オフィスで使用される表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を読み内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
6	事前学習	音声を読みp. 46-47の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 17 Employment & Personnel 雇用、人事に関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を読み内容を理解し語彙を覚える。(30分)
7	事前学習	音声を読みp. 48-49の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 18 Office Announcement 社内連絡に関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を読み内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
8	事前学習	音声を読みp. 50-51の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 19 Office Talk オフィスで交わされる会話に関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を読み内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
9	事前学習	音声を読みp. 52-53の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 20 New Product 新製品に関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を読み内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
10	事前学習	音声を読みp. 54-55の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 21 Sales 販売戦略に関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を読み内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
11	事前学習	音声を読みp. 56-57の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 22 Seminar & Meeting 会議やセミナーに関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を読み内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
12	事前学習	音声を読みp. 58-59の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 23 Logistics 運輸・流通に関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を読み内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
13	事前学習	音声を読みp. 60-61の問題を解き、語彙を調べる。(30分)
	授業内容	Unit 24 Construction & Production 工事・作業に関する表現を理解し、それに対応する TOEIC の問題を解答できる。
	事後学習	次の小テストに備えてスクリプトを見ながら音声を読み内容を理解し、語彙を覚える。(30分)
14	事前学習	Unit13からUnit 24までの復習をする。フィードバックされた小テストを見直す。(30分)
	授業内容	Unit 13からUnit 24までのまとめ及び授業内試験を行う。
	事後学習	授業で行った箇所の再確認をすること。(30分)
15	事前学習	これまでの授業内容の学習の振り返り。(30分)
	授業内容	授業内試験のフィードバックと解説
	事後学習	間違えた箇所を解き直し、今後の学習計画を立てる。(30分)

科目名	英語D【経営法学科1年生共通クラス】	担当者	村松 直子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験を目指すための基礎固めをします。英語資格試験やビジネスに必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成します。TOEICに出題される表現を多く覚えます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6					
履修条件	経営法学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。毎時間、小テストを実施する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	Cengage Learning.		The TOEIC Test Trainer Target 650. Revised Edition.		M. Yamaguchi et al.
	備考					
参考書	授業では使用しない。英文法の復習が必要であれば、事前学習、事後学習として英文法解説書を参照してください。英和辞書と和英辞書を持参してください。					
オフィスアワー	金曜日の4時限後 事前（授業後等）に講堂にて対面でアポイントメントを入れてください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（30分）
	授業内容	オリエンテーション 授業の進め方、TOEICの概要の説明を聞く。 リスニング・ストラテジー、スピーキング・ストラテジーの説明を聞く。
	事後学習	TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検などの各種検定試験についてWebサイト等で調べてみる。（30分）
2	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit1の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit1 「提案」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 様々な時制の文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
3	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit2の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit2 「確認」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 様々な時制の文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
4	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit3の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit3 会話を始めるための頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 助動詞を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）

5	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit4の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit4 ニュース報道に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 フレーズ・リーディングが素早く正確に行えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
6	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit5の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit5 「義務」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 代名詞を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
7	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit6の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit6 「理由」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 前置詞を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
8	事前学習	Unit1-6の学習内容を復習する。（60分）
	授業内容	リスニング・ストラテジーの振り返り 復習テストと振り返り
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
9	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit7の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit7 「苦情」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 接続詞を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
10	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit8の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit8 交通情報に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 スキミングを素早く正確に行えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
11	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit9の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit9 Yes/Noで答える質問に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 関係詞を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
12	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit10の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit10 「意見」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 分詞構文を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
13	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit11の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit11 「意見の一致・不一致」に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 仮定法を使う文の意味を素早く理解し、使えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
14	事前学習	Unit7-11の学習内容を確認、復習する。（60分）
	授業内容	授業内期末試験及び振り返り
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 頻出単語、頻出フレーズを暗記する。（30分）
15	事前学習	テキストのVocabularyとTraining Pointの頻出語句、頻出表現を暗記する。Unit12の問題を解いてくる。（40分）
	授業内容	Unit12 会議に関する頻出単語、頻出表現を理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できるようにする。 スキミングを素早く正確に行えるようにする。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。頻出単語、頻出フレーズを暗記する。 これまでの学習内容を確認する。（40分）

科目名	英語D【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	藤木 智子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	リスニングおよびスピーキングを中心にTOEICの問題を解いていきます。予習で英単語の発音や意味を確認しておきましょう。授業での発話を積極的に行いましょう。また、復習をして、授業で学習したことをきちんとノートに書きこみ、知識の基礎固めをしましょう。授業は皆さんが主役なので、積極的に取り組んでください。				
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養うことを目的としています。できる限り多くのネイティブの発音する英語に触れ、そして時事英語にも触れましょう。時事英語に触れるため、英字新聞に目を通し、BBCやCNNニュースを観ましょう。まずは目標をたてて、一年間で達成できるように挑戦しましょう。一年生ではTOEICスコア450点を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域3，6				
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。スマートフォンや携帯などの端末の利用は厳禁です。				
授業方法	本文、問題文の音読、解説および訳を学生が担当します。毎回、全員が一度は発表しますので、事前予習をしましょう。演習方式。テストを行います。返却後は間違った箇所をノートにまとめ、事後学習をしましょう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	60%)学期末にテストをします。 40%)平常評価では授業参加度を重視します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	18年度	松柏社		『ブラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語	Aline Brosh McKenna
	14年度	南雲堂		『5分間 新TOEICテストリスニング 550』	片野田 浩子
	14年度	南雲堂		『5分間 新TOEICサブリメント 文法語法』	小池 直己
	備考				
参考書	英和、和英辞書両方です。電子辞書、紙媒体どちらでも構いません。例文と品詞が載っているものに限ります。授業中に携帯やスマホを辞書代わりに使用することは認めません。必ず辞書を準備してください。				
オフィスアワー	水曜日 9時～12時10分 授業講堂にて。 質問は授業の前が望ましいです。授業後の昼休みでの質問は、事前にアポイントメントを取ってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容		
1	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『ブラダを着た悪魔』Unit 7の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)	
	授業内容	Orientation 授業の方法についてレクチャーをします。授業に関する質問に答えます。オリエンテーションの後、授業をしますので、教科書および英和・和英辞書を用意してください。	
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)	
2	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『ブラダを着た悪魔』Unit 7の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)	
	授業内容	Unit 7『ブラダを着た悪魔』、前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section4 『TOEICテストサブリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題10	
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)	
3	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『ブラダを着た悪魔』Unit 8の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと (2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考えること。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておくこと。 (3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)	
	授業内容	Unit 8『ブラダを着た悪魔』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。 Section4 『TOEICテストサブリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題11	
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにまとめておくこと。(30分)	

4	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『ブラダを着た悪魔』日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考える。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておく。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
	授業内容	Uni 9『ブラダを着た悪魔』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。Section 4『TOEICテストサプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 1 2
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておく。(30分)
5	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『ブラダを着た悪魔』Unit 1 0の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと(2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考える。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておく。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
	授業内容	Uni 1 0『ブラダを着た悪魔』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。Section 5『TOEICテストサプリメント』を扱います。
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておく。(30分)
6	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『ブラダを着た悪魔』Unit 1 1の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと(2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考える。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておく。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
	授業内容	Uni 1 1『ブラダを着た悪魔』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。Section 5『TOEICテストサプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 1 3
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておく。(30分)
7	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『ブラダを着た悪魔』Unit 1 2の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと(2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考える。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておく。(30分)(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。
	授業内容	Uni 1 2『ブラダを着た悪魔』前回箇所を復習して、問題を解いていきます。Section 5『TOEICテストサプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 1 4
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておく。(30分)
8	事前学習	TOEICの過去問をしますので、事前に少し図書館などで過去問題に目をおしておくと、授業時の備えになります。(30分)
	授業内容	TOEICのリスニングのテストを本番と同じ条件で行います。
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておく。(30分)
9	事前学習	TOEICの過去問をしますので、事前に少し図書館などで過去問題に目をおしておくと、授業時の備えになります。(30分)
	授業内容	TOEICのリーディングのテストを本番と同じ条件で行います。
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 不明な点を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておく。(30分)
10	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『ブラダを着た悪魔』Unit 1 3の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと(2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考える。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておく。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
	授業内容	Unit 1 3『ブラダを着た悪魔』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。Section 5『TOEICテストサプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 1 5
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 不明な点を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておく。(30分)
11	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『ブラダを着た悪魔』Unit 1 4の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと(2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考える。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておく。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
	授業内容	Unit 1 4『ブラダを着た悪魔』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。Section 5『TOEICテストサプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 1 6
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておく。(30分)
12	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『ブラダを着た悪魔』Unit 5の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと(2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考える。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておく。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
	授業内容	Unit 5『ブラダを着た悪魔』前回箇所を復習して、問題を解いていきます。Section 5『TOEICテストサプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 1 7
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておく。(30分)
13	事前学習	(1) 事前学習として、教科書の『ブラダを着た悪魔』Unit 1 5の単語や表現、文法事項などを調べながら読むこと(2) リーディングは訳を1度で日本語で書いてみる。また、文法は教科書で扱われているテーマについて考える。分からないところは、どこがどのように分からないのかを明らかにし、授業時の質問として備えておく。(3) リスニングは事前に音読の練習を行ってください。(30分)
	授業内容	Unit 1 5『ブラダを着た悪魔』前回箇所を復習し、問題を解いていきます。Section 6『TOEICテストサプリメント』を扱います。 5分間 新TOEICテストリスニング 550』問題 1 8
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 毎回の授業内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておく。(30分)

14	事前学習	事前学習として、どこがどのように分からないのかを明らかにし、備えておくこと。(30分)
	授業内容	前期授業のまとめ
	事後学習	事後学習として、間違えた箇所を必ず復習してください。 不明な点など、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめておくこと。(30分)
15	事前学習	最近のニュースに関して事前に英字新聞などを読んで、時事英語に関する単語などを調べておくこと(30分) より一層理解が深まるので準備しておくこと。
	授業内容	今期のまとめをして、時事英語に関するDVDを鑑賞しましょう。
	事後学習	事後学習として、今回のDVDの内容を、自分で見て分かりやすいようにノートにまとめること。(30分)

科目名	英語D【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	元氏 久美子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日常の身近なテーマやビジネスシーンで使われる表現で効率よく学習し、リスニング力を向上させることを目指しています。TOEICテストのリスニングのための戦略を身につけ、英語をたくさん聞き、直感的に理解し、音読することで基礎を固めていきます。				
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目指すとしています。 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に着け、スコアを450点以上獲得できることを目標とします。対応DP及びCP：外国語科目領域3, 6				
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス、上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。				
授業方法	演習方式。小テストを毎回実施し、次の授業で返却を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	平常評価(授業参加度、小テスト、学期末試験等)100%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2018年	成美堂	QUICK MASTER OF THE TOEIC LISTENING TEST 『TOEICリスニングテスト速攻マスター』		松本恵美子他
	備考				
参 考 書	英和辞典				
オフィスアワー	火曜10:30～ 授業終了後の講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期で学んだことの確認。(30分)
	授業内容	ガイダンス 後期の授業の進め方、前期の復習など。
	事後学習	後期の英語学習計画を立てる。(30分)
2	事前学習	Unit 13 Warm-upを解いてくる。「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 13 Product development / Service に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。頻出単語を暗記する。(45分)
3	事前学習	Unit 14 Warm-upを解いてくる。「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 14 Employment / Job Hunting に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。頻出単語を暗記する。(45分)
4	事前学習	Unit 15 Warm-upを解いてくる。「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 15 Sports / Hobby に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。頻出単語を暗記する。(45分)

5	事前学習	Unit 16 Warm-upを解いてくる。「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 16 Announcement / Presentatiopn に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
6	事前学習	Unit 17 Warm-upを解いてくる。「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 17 Transportation に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
7	事前学習	Unit 13～17で学んだことを復習する。(30分)
	授業内容	Unit 18 Unit 13～17で学んだ内容のリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(30分)
8	事前学習	Unit 19 Warm-upを解いてくる。「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 19 Housing / Building に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
9	事前学習	Unit 20 Warm-upを解いてくる。「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 20 Advertisements に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
10	事前学習	Unit 21 Warm-upを解いてくる。「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 21 Airport に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
11	事前学習	Unit 22 Warm-upを解いてくる。「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 22 Music / Art に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
12	事前学習	Unit 23 Warm-upを解いてくる。「解答のカギ」を読んでくる。(15分)
	授業内容	Unit 23 Weather に関するTOEICのリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(45分)
13	事前学習	Unit 19～23で学んだことを復習する。(30分)
	授業内容	Unit 24 Unit 19～23で学んだ内容のリスニング問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす。Scriptの音読練習をする。 頻出単語を暗記する。(30分)
14	事前学習	Unit 13～24で学んだことを復習する。(30分)
	授業内容	後期授業のまとめ①
	事後学習	後期の学習内容で理解不足だった点を確認する。(30分)
15	事前学習	後期の学習内容で理解不足だった点を復習する。(30分)
	授業内容	後期授業のまとめ②
	事後学習	後期で学んだことを再確認する。(30分)

科目名	英語D【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	杉本 桂子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ますます複雑化する国際社会のなかで主体的に行動するための手段としての英語の基礎力を徹底的に鍛えることは今日の日本の大学教育に課せられた重要な課題のひとつであろう。この授業では特に日本の英語教育の弱点になっているリスニング力を重点的に訓練し、同時にいろいろな場面で使える実用的な語彙をふくむ英文を音読し、覚え、使う。多量の英文を暗記し、それを最後にテストする形の授業になる。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】TOEICのための基礎力を身に付け、スコアを450点以上獲得できることを目標とします。対応DP及びCP: 外国語科目領域3, 6			
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励する。原則、英語Cと通年で履修してください。			
授業方法	リスニング力とスピーキング力をアップするために、オーバーラッピング、シャドーイングを徹底的に行い英語力を養う。毎回小テストを行い、次の授業で返却する。後半でプレゼンテーションを一回発表してもらう。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	授業への取り組み方（20％）、毎回の小テスト（30％）、最終テスト（50％）で総合的に判断する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2003	成美堂	Listen to this(Basic)	James Bean
	2019	NHK出版	ラジオ英会話10月号	担当者
	備考	授業の進行は下記の計画通りいかない場合があります。		
参考書	英和、和英辞書(電子辞書可、スマートフォン不可)			
オフィスアワー	火曜日、授業の行われる校舎の講師室にて12時15分～12時35分			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストUnit 7 I'm taller than you 前半を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	Unit 7 I'm taller than you（前半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト(10月号) Week 1-① 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキスト(10月号)Week 1-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
2	事前学習	テキストUnit 7 I'm taller than you（後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 7 I'm taller than you（後半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-② 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキスト Week 1-② に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
3	事前学習	テキストUnit 8 Where shall we eat?（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 8 Where shall we eat?（前半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-③ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキスト Week 1-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
4	事前学習	テキストUnit 8 Where shall we eat?（後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくること。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくること。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 8 Where shall we eat?（後半） リスニング練習、ペアーまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 1-④ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容 NHKテキスト Week 1-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。

5	事前学習	テキストUnit 9 Going to the movies（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくこと。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくこと。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 9 Going to the movies（前半） リスニング練習、ペアまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-① 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキスト Week 2-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
6	事前学習	テキストUnit 9 Going to the movies（後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくこと。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくこと。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 9 Going to the movies（後半） リスニング練習、ペアまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-② 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキスト Week 2-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
7	事前学習	テキストUnit 10 Shopping for the perfect gift（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくこと。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくこと。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 10 Shopping for the perfect gift（前半） リスニング練習、ペアまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-③ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
8	事前学習	テキストUnit 10 Shopping for the perfect gift（後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくこと。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくこと。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 10 Shopping for the perfect gift（後半） リスニング練習、ペアまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 2-④ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 2-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
9	事前学習	テキストUnit 11 What’s your favorite?（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくこと。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくこと。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 11 What's your favorite?（前半） リスニング練習、ペアまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-① 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-①に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
10	事前学習	テキストUnit 11 What’s your favorite?（後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくこと。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくこと。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 11 What's your favorite?（後半） リスニング練習、ペアまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-② 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-②に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
11	事前学習	テキストUnit 12 Hard work（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくこと。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくこと。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 12 Hard work（前半） リスニング練習、ペアまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-③ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業内容NHKテキストWeek 3-③に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
12	事前学習	テキストUnit 12 Hard work（後半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくこと。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくこと。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 12Unit 12Hard work（後半） リスニング練習、ペアまたはグループで会話練習 NHK テキスト Week 3-④ 音読練習
	事後学習	最初に前回授業最業内容NHKテキストWeek 3-④に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。授業で配られたスクリプトの音読練習をしておくこと。（30分）
13	事前学習	テキストUnit 13 I was so embarrassed（前半）を読みテキストに付いているCDを使ってリスニングの問題を解いてくこと。授業で行われるトピックの会話をイメージし準備してくこと。（30分）
	授業内容	小テスト Unit 13 I was so embarrassed（前半） リスニング練習、ペアまたはグループで会話練習 TOEIC リスニング練習
	事後学習	この回で学習したことを復習し、スクリプトの音読練習を行うこと。（30分）
14	事前学習	プレゼンテーションの原稿を提出できるように作成し、発表の練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	プレゼンテーション（60～70の英単語を使って決められたテーマに沿った内容の英文を発表する。）
	事後学習	後期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習を行い力を磨いておくこと。（30分）
15	事前学習	後期に学習したことを徹底的に確認すること。特にNHKテキストのスキットの暗記と配られたスクリプトの音読練習を行い充実した実力をつけておくこと。（30分）
	授業内容	後期授業のまとめ。
	事後学習	後期授業で学習したことを踏まえ、更に英語の実力をつける努力すること。（30分）

科目名	英語D【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	瀧野 みゆき	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	--------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	インターネットなどで使われている英語を素材とし、自然なスピードの英語を聴き取り、理解する訓練をします。また、関連の情報を読みあわせ、評価したり、意見を考え英語で表現する練習をします。授業の前半では、テーマ性のある英語の素材を理解し、表現や内容について学び、意見を考えます。後半では、テキストの指定されたユニットを聴き、英語の質問に英語で答える練習を行います。授業計画等は、状況によって、変更する可能性があります。			
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。自然な英語を日本語に訳さずに大意を理解し、必要な情報を聴き取れるようになります。自分の考えを英語で考え、伝える基礎を身に着けます。継続的に英語を聴く習慣を身に着けられることを目指します。 対応DP及びCP： 外国語科目領域3.6			
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Cと通年で履修してください。			
授業方法	英語の素材を聴き、その内容を理解し、考察する練習を、多様なテーマの素材を使って行います。授業の後半で聴くテキストは、授業前に指定されたユニットを繰り返し聴き、内容を理解してきてください。ミニテストは都度返却するので、復習をしておくこと。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業の参加と貢献（30%）授業内小テスト（30%）リスニングレポート（40%）	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2008年	アルク出版社	究極の英語リスニング Vol.1.2 CD付き	英語出版編集部（編集）
	備考			
参考書	授業で適宜指示します。			
オフィスアワー	原則として授業終了後（火曜：昼休み）。授業講堂にて。詳しくは授業で指示します。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前学習：テキストの購入と内容の確認（30分）
	授業内容	ガイダンス：共通語としての英語、英語リスニング・スピーキングの練習方法、授業の進め方、事前・事後学習の説明 リスニングミニテストの練習
	事後学習	授業の進め方の確認、ミニテストの復習（30分）
2	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	海外スタディツアーに行く
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
3	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	ボランティア活動をする 1
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
4	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	ボランティア活動をする 2
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）

5	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	民泊を考える 1
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
6	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	民泊を考える 2
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
7	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	海外で友人を作る 1 リスニングレポート提出 一回目（詳細は授業で指示します）
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
8	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	海外で友人を作る 2
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
9	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	クラウドファンディング 1
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
10	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	クラウドファンディング 2
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
11	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	社会起業 1
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
12	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	社会起業 2
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
13	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	海外留学をする 1
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
14	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	海外留学をする 2 リスニングレポート提出 二回目（詳細は授業で指示します）
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）
15	事前学習	テキストの指定されたユニットの聴き取りの練習・内容の理解（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	授業で学んだ表現やミニテストの復習、多聴の練習（30分）

科目名	英語D【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	堀 千和子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	学生の皆さんが遭遇する場面で使用できる英語表現を身に着けることが、この授業の目的です。英語の音声を取り、理解し、文法と英語表現を学習し、定着させます。その際に、ディクテーションを通して、インプットからアウトプットの活動を行っていきます。					
授業目的・到達目標	[授業目的] TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 [授業目標] TOEICテストのための基礎力を身につけ、スコア 5 5 0 点以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域 3， 6					
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修して下さい。					
授業方法	授業のはじめに英語ニュースを使ったウォームアップをします。ディクテーション、ペアワークをしながら、リスニング力と表現力を高めていきます。TOEICの問題や映像教材など副教材も取り入れます。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		中間試験 25%、期末試験 30%、スピーチ(ニュースの解説) 25%、授業への貢献度 5%。 会話の暗唱 5%、 レポート 5%、グループワーク 5%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016	成美堂		Let’ s Read Aloud More! (音読で極める基礎英語)		角山 照彦、 Simon Capper
	備考					
参考書	英和辞典、英英辞典					
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業終了後（火曜：昼休み。講堂にて）またはE-mailにて対応します。授業開始時にアドレスをお知らせします。授業関連の連絡は大学ポータルを使用します。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期を振り返って、後期での英語学習に向けての目標を考えておく。プレゼンテーションのトピックを考える。(30分)
	授業内容	ガイダンス、後期のプレゼンテーションの説明、英語ニュース
	事後学習	ユニット8からの音声をダウンロードしておく。(30分)
2	事前学習	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	英字新聞や英語ニュースを使用して、テキスト Unit 8 オフィストーク1（比較する）
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
3	事前学習	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 9 ヘッドハンティング（動名詞）
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
4	事前学習	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 10 会議で（形容詞・副詞）
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。(30分)

5	事前学習	これまで学んだ英語表現を使用し、プレゼンテーションができるように原稿と視聴覚資料を作成する。複数回、練習する。(60分)
	授業内容	プレゼンテーション 1 (パワーポイントを使用し、2分間でニュースを解説する) 講評
	事後学習	自分のプレゼンテーションの手直しを行う。(60分)
6	事前学習	これまで学んだ英語表現を使用し、プレゼンテーションができるように原稿と視聴覚資料を作成する。複数回、練習する。(60分)
	授業内容	プレゼンテーション 2 (グループでのプレゼンテーション) 講評
	事後学習	自分のプレゼンテーションを振り返り、改善点を挙げる。他の人の発表を振り返り、いい点を挙げる。(30分)
7	事前学習	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 1 1 プレゼンテーション準備2 (関係詞)
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
8	事前学習	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 1 2 プレゼンを取り先です (分詞)
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
9	事前学習	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 1 3 オフィストーク2 (比較)
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
10	事前学習	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 1 4 人事面接 (仮定法)
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
11	事前学習	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	テキスト Unit 1 5 送別会 (接続詞・前置詞)
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
12	事前学習	ダウンロードした聴覚教材で会話文を聞いておく。わからない英単語は調べておく。(30分)
	授業内容	教科書の内容の振り返り、TOEIC練習問題
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
13	事前学習	宿題のTOEICの練習問題をする。(30分)
	授業内容	TOEICの練習問題、会話文のペアでの暗唱
	事後学習	授業で学習した英単語、表現を復習する。内容でわからない箇所がないかチェックする。(30分)
14	事前学習	今期に学習した会話文のディクテーションができるようにしておく。(30分)
	授業内容	聞き取りの振り返り
	事後学習	聞き取れなかった箇所を復習する。(30分)
15	事前学習	後期に学習した文法や語彙などを復習して期末試験に臨む。(60分)
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り
	事後学習	理解があやふやな箇所をチェックし、次年度の授業に臨めるようにする。(30分)

科目名	英語D【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	河本 房子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TED Talksのコンテンツをもとに、授業内に意見交換するために内容を読み込んだ上で、自分の言葉で相手に伝える英語コミュニケーションの力をつけます。テキスト以外にも興味ある分野の文章を読み、発言できるようにします。					
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング、スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。国際研修や交換留学等の海外留学に必要とされる英語力を総合的に身につけ、また、TOEICやTOEFLで高得点を獲得できるようにすることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域3, 6					
履修条件	公共政策学科1年生番号指定クラス。上記資格試験の受験を強く奨励します。原則、英語Cと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。小テストを毎回実施します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業への積極的な参加。小テスト結果。期末テスト。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017	Cengage Learning		Keynote 3 ISBN-13 978 1 305 96505 8		Paul Dummett
	備考					
参考書	辞書 は毎回持参してください。参考書は必要に応じて紹介します。リスニングに慣れるため、BBC, NHK World, CNNなどの英語ニュースに普段から慣れ親しんでください。					
オフィスアワー	毎回の授業開始前、開始後（火曜10：30～）に授業が行われる講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Preview Unit 7 後期講義の全体を概観する。(30分)
	授業内容	Introduction Overview of the course
	事後学習	vocabulary note作成する。(30分)
2	事前学習	Preview Unit 7 Part identityについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 7 – Part 1 Identityのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)
3	事前学習	Preview Unit 7-Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 7 – Part 2 Where is home?のコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note global migrationの読解を確認する。(30分)
4	事前学習	Preview Unit 8 Part 1 commuteについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 8 – Part 1 Transportation solutionsのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)

5	事前学習	Preview Unit 8 Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 8 – Part 2 A skateboard, with a boostのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note unique commutesの読解を確認する。(30分)
6	事前学習	Preview Unit 9 Part language changeについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 9 – Part 1 New wordsのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)
7	事前学習	Preview Unit 9 Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 9 – Part 2 What makes a word “real”?のコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note Language changeの読解を確認する。(30分)
8	事前学習	Preview Unit 10 Part emotionとdigitalについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 10 – Part 1 understanding emotionsのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)
9	事前学習	Preview Unit 10 Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 10 – Part 2 This APP knows how you feelのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note Emotion in technologyの読解を確認する。(30分)
10	事前学習	Preview Unit 11 Part 1 entrepreneurについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 11 – Part 1 Leaders and thinkersのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)
11	事前学習	Preview Unit 11 Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 11 – Part 2 Life at 30,000 feetのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note lessons in businessの読解を確認する。(30分)
12	事前学習	Preview Unit 12 Part 1 work-life balanceについて調べる。(30分)
	授業内容	Unit 12 – Part 1 Well-beingのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note 文法事項の確認をする。(30分)
13	事前学習	Preview Unit 12 Part 2 リーディングパートを読解する。(30分)
	授業内容	Unit 6 – Part 2 How to succeed? Get more sleetのコンテンツを理解する。
	事後学習	Vocabulary note Achieving work-life balanceの読解を確認をする。(30分)
14	事前学習	Review Unit 7~12 各設問を確認する。(30分)
	授業内容	Unit7~12の総復習。 小テストを返却し答え合わせと確認をする
	事後学習	Vocabulary note Review Unit 7~12 (30分)
15	事前学習	Review Unit 7~12 設問の間違った箇所を見直す。(30分)
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り。
	事後学習	Review Unit 7~12 (30分)

科目名	英語D【公共政策学科1年生共通クラス】	担当者	セトグチ・エリック	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Developing English communication skills				
授業目的・到達目標	TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野に必要なリスニング・スピーキングの基礎力を養成することを目的としています。 The aim of the class is to prepare students for English language academic environments. Students will participate in class activities to raise their awareness about select topics, such as current social and global issues, while developing language abilities to complete tasks commonly required of students in international settings.				
履修条件	関連政策学科1年生の英語Dに属する領域3。6上記資格試験の受験を強く奨励します。原則英語Dと通年で履修してください。				
授業方法	Group work conducted in or mostly in English, class discussions, and projects.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	Classwork 50% Projects/Assignments 25% Oral Communication Test 25%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	-		Instructor provided materials	Setoguchi, E
	備考				
参考書	なし				
オフィスアワー	火曜10：30～授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction Class questionnaire Practice activity
	事後学習	Be ready to study English. (30min)
2	事前学習	Discuss results of questionnaire (30min)
	授業内容	Unit 7A Current Event (Describe Text) 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
3	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 7B Current Event (Describe Text) 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
4	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 7C Current Event (Describe Text) 3
	事後学習	Recap and Review. (30min)

5	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 8A Current Event (Synthesize Texts) 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
6	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 8B Current Event (Synthesize Texts) 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
7	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 8C Current Event (Synthesize Texts) 3
	事後学習	Recap and Review. (30min)
8	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 9A Social Issue (Synthesize Texts) 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
9	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 9B Social Issue (Synthesize Texts) 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
10	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 9C Social Issue (Synthesize Texts) 3
	事後学習	Recap and Review. (30min)
11	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 10A Opinion Piece (Evaluate Texts) 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
12	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 10B Opinion Piece (Evaluate Texts) 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
13	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 10C Opinion Piece (Evaluate Texts) 3
	事後学習	Recap and Review. (30min)
14	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Final Project Introduction
	事後学習	Recap and Review. (30min)
15	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Test and review. 解説
	事後学習	Recap and Review. (30min)

科目名	英語D	担当者	加藤 行夫	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
-----	-----	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	英語の基礎的な表現演習			
授業目的・到達目標	英語の基礎的な文法力を養成することを目的とする。 初歩的な英語が書けるようにすることを目指す。 関連DP及びCP：外国語科目領域 3， 6			
履修条件	中学生程度の基本的な文法を理解していること。			
授業方法	文法事項を確認し、続いて演習を行なう。黒板での添削および個人添削に十分時間をかける。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	演習の成果 20%、期末試験 80%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	金星堂	Expressions for Everyday Life	根間弘海
	備考			
参考書	各自英和辞典を必ず（必要とする者は和英辞典も）持参すること			
オフィスアワー	金曜日午後 6 時～ 授業講堂にて 事前にメールで連絡のこと kiokato@yahoo.co.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	不定詞・分詞
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
2	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	演習および添削
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
3	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	動名詞
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
4	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	演習および添削
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）

5	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	態について
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
6	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	演習および添削
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
7	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	仮定法
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
8	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	演習および添削
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
9	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	前置詞
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
10	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	演習および添削
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
11	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	接続詞
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
12	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	演習および添削
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
13	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	さまざまな表現方法
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
14	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	演習および添削
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）
15	事前学習	テキストの該当箇所を読み、疑問点を整理する（30分）
	授業内容	試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	授業を振り返り、学習内容を整理する（30分）

科目名	英語D	担当者	高田 宣子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期に引き続き、映画や音楽、ニュースなどで使われる応用的な英語表現に着目し、その背景を考えながら授業を進めていきます。 また、英語による創作会話やスピーチ、プレゼンテーションなどを行うことで、英語の運用力を高めます。					
授業目的・到達目標	TVニュースや映画で使われるテーマ性のある英文内容を聞き取る技術を養成することを目的とします。 また、英語の運用力を高め、英語による創作会話や短いスピーチ、ミニプレゼンテーションができるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 3， 6					
履修条件	初回の授業に必ず出席できる学生。WordとPower Pointを使用できる学生のみ履修可。					
授業方法	演習方式。毎回コメントを執筆あるいは発表してもらいます。小テストならびに発表についてはすべて講評を行い、解説を行った上で質疑応答の時間を授業内で設けます。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		毎回の小テストあるいは、コメント、英語スピーチ、プレゼンテーションの合計による	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	プリント使用				
参考書	開講時に説明します。					
オフィスアワー	休み時間（金曜16：10～）、教室にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新聞を読んでおく。（30分）
	授業内容	ガイドンス 英文聞き取り 文法確認
	事後学習	プリントを確認する。（30分）
2	事前学習	プリントを確認する。（30分）
	授業内容	英語表現の確認 英語プレゼンテーションのグループ分け
	事後学習	プリントを確認する。（30分）
3	事前学習	プリントを確認する。（30分）
	授業内容	文法テスト タイピング練習英文聞き取り
	事後学習	タイピングの練習を行う。（30分）
4	事前学習	スピーチの原稿を作成する。（30分）
	授業内容	英語スピーチ その1 コメント 英文聞き取り
	事後学習	スピーチの原稿を修正する。（30分）

5	事前学習	スピーチの原稿を修正する。（30分）
	授業内容	英語スピーチ その2 コメント 英文聞き取り
	事後学習	スピーチの原稿を修正する。（30分）
6	事前学習	スピーチの原稿を修正する。（30分）
	授業内容	英語スピーチ その3 コメント 英文聞き取り
	事後学習	スピーチの原稿を修正する。（30分）
7	事前学習	プレゼンテーションテーマを考える。（30分）
	授業内容	プレゼンテーションのワークシート作成 英文聞き取り
	事後学習	ワークシートの修正を行う。 タイピング練習を行う。（30分）
8	事前学習	ワークシートの修正を行う。（30分）
	授業内容	復習テスト タイピング練習
	事後学習	英語プレゼンテーション パワーポイント作成。（30分）
9	事前学習	英語プレゼンテーション パワーポイント修正。（30分）
	授業内容	英語プレゼンテーション ワークシート修正
	事後学習	英語プレゼンテーション ワークシートの修正を行う。（30分）
10	事前学習	プレゼンテーションの予行演習（30分）
	授業内容	英語プレゼンテーション 1 コメント
	事後学習	英語プレゼンテーション パワーポイントの修正を行う。（30分）
11	事前学習	プレゼンテーションの予行演習（30分）
	授業内容	英語プレゼンテーション 2 コメント
	事後学習	英語プレゼンテーション パワーポイントの修正を行う。（30分）
12	事前学習	プレゼンテーションの予行演習（30分）
	授業内容	英語プレゼンテーション 3 コメント
	事後学習	英語プレゼンテーション パワーポイントの修正を行う。（30分）
13	事前学習	プリントを確認する。（30分）
	授業内容	英文コメント作成の技術について
	事後学習	コメントを確認する。（30分）
14	事前学習	プリントを確認する。（30分）
	授業内容	英文コメントの作成技術について 応用
	事後学習	プリントを確認する。（30分）
15	事前学習	プリントを確認する。（30分）
	授業内容	まとめと復習テスト
	事後学習	テスト解答の確認を行う。（30分）

科目名	英語E	担当者	トーマス・ロックリー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----	-----	------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	In 2020 the Olympic Games come to Tokyo. Millions of people will come to Japan. But how much do they know about Japan? Can you explain Japanese culture and history in English? Learn how in this class!				
授業目的・到達目標	You will practice English reading, writing, listening and discussion skills and be able to explain Japanese history and culture in English better. 関連DP／CP：3， 5， 6				
履修条件	A positive attitude!				
授業方法	This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	Spelling tests 30%, Presentation 50%, Participation and effort 20%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年	東京書籍		「外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」	ロックリー・トーマス
	備考	授業が始まる前に教科書を必ず買ってください。			
参考書	なし				
オフィスアワー	9:30-10:30am Thursdays in my office, 1602, or email lockleyta@gmail.com				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30 minutes)
	授業内容	Theme: First Lesson and Course Introduction.
	事後学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
2	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: From Edo to Tokyo - The Making of a Global City Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
3	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Kimono: Elegant Symbols of Japan Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
4	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Kabuki - Pop Culture of the Past Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)

5	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Sumo - Far More Than Fat Men Posing Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
6	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Shinkansen - The Bullet Train Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
7	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Manga - Global storytelling from Japan Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
8	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Arts and Crafts - How the Word Discovered Japan Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
9	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Cinema - Moving Art Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
10	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: How to do a presentation Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Think of a topic for the semester presentation. (30 minutes)
11	事前学習	Think of a topic for the semester presentation. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Presentation Making Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
12	事前学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Presentation Making Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
13	事前学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Presentation Practice Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
14	事前学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Presentations
	事後学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
15	事前学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Presentations
	事後学習	Reflect on the semester. (30 minutes)

科目名	英語F	担当者	トーマス・ロックリー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----	-----	------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	In 2020 the Olympic Games come to Tokyo. Millions of people will come to Japan. But how much do they know about Japan? Can you explain Japanese culture and history in English? Learn how in this class!			
授業目的・到達目標	You will practice English reading, writing, listening and discussion skills and be able to better explain Japanese culture and history in English. 関連DP／CP：3，5，6			
履修条件	A positive attitude!			
授業方法	This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	Spelling tests 30%, Presentation 50%, Participation and effort 20%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年	東京書籍	「外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」	ロックリー・トーマス
	備考	授業が始まる前に教科書を必ず買ってください。		
参考書	なし			
オフィスアワー	9:30-10:30am Thursdays in my office, 1602, or email lockleyta@gmail.com			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Samurai - Legendary Warriors of Japan
	事後学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
2	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Korean Samurai: Fighting for Peace Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
3	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Samurai of California - Nagasawa Kanaye Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
4	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Wako - Terrors and Darlings of the Seas Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)

5	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Knights of Japan and Rome: The Tensho Embassy Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
6	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: A Bittersweet Roman Journey - Hasekura Tsunenaga Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
7	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Yasuke: The Strongest Man in Medieval Japan Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
8	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: An English Japanese Lord - William Adams Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
9	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Yamada Nagamasa - A Japanese King in Thailand Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
10	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: A Chinese Revolution Built in Japan Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Think of a topic for the semester presentation. (30 minutes)
11	事前学習	Think of a topic for the semester presentation. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Presentation Making Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
12	事前学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Presentation Making Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
13	事前学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Presentation Practice Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
14	事前学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Presentations
	事後学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
15	事前学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Presentations
	事後学習	Reflect on the semester. (30 minutes)

科目名	英語G	担当者	トーマス・ロックリー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----	-----	------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	In 2020 the Olympic Games come to Tokyo. Millions of people will come to Japan. But how much do they know about Japan? Can you explain Japanese culture and history in English? Learn how in this class!			
授業目的・到達目標	You will practice English reading, writing, listening and discussion skills and be able to explain Japanese history and culture in English better. 関連DP／CP：3，5，6			
履修条件	A positive attitude!			
授業方法	This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	Spelling tests 30%, Presentation 50%, Participation and effort 20%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年	東京書籍	「外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」	ロックリー・トーマス
	備考	授業が始まる前に教科書を必ず買ってください。		
参考書	なし			
オフィスアワー	9:30-10:30am Thursdays in my office, 1602, or email lockleyta@gmail.com			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30 minutes)
	授業内容	Theme: First Lesson and Course Introduction.
	事後学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
2	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: From Edo to Tokyo - The Making of a Global City Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
3	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Kimono: Elegant Symbols of Japan Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
4	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Kabuki - Pop Culture of the Past Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)

5	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Sumo - Far More Than Fat Men Posing Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
6	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Shinkansen - The Bullet Train Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
7	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Manga - Global storytelling from Japan Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
8	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Arts and Crafts - How the Word Discovered Japan Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
9	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Cinema - Moving Art Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
10	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: How to do a presentation Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Think of a topic for the semester presentation. (30 minutes)
11	事前学習	Think of a topic for the semester presentation. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Presentation Making Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
12	事前学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Presentation Making Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
13	事前学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Presentation Practice Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
14	事前学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Presentations
	事後学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
15	事前学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Presentations
	事後学習	Reflect on the semester. (30 minutes)

科目名	英語H	担当者	トーマス・ロックリー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----	-----	------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	In 2020 the Olympic Games come to Tokyo. Millions of people will come to Japan. But how much do they know about Japan? Can you explain Japanese culture and history in English? Learn how in this class!			
授業目的・到達目標	You will practice English reading, writing, listening and discussion skills and be able to better explain Japanese culture and history in English. 関連DP／CP：3，5，6			
履修条件	A positive attitude!			
授業方法	This class follows the conceptual framework Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	Spelling tests 30%, Presentation 50%, Participation and effort 20%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年	東京書籍	「外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」	ロックリー・トーマス
	備考	授業が始まる前に教科書を必ず買ってください。		
参考書	なし			
オフィスアワー	9:30-10:30am Thursdays in my office, 1602, or email lockleyta@gmail.com			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Samurai - Legendary Warriors of Japan
	事後学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
2	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Korean Samurai: Fighting for Peace Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
3	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Samurai of California - Nagasawa Kanaye Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
4	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Wako - Terrors and Darlings of the Seas Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)

5	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Knights of Japan and Rome: The Tensho Embassy Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
6	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: A Bittersweet Roman Journey - Hasekura Tsunenaga Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
7	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Yasuke: The Strongest Man in Medieval Japan Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
8	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: An English Japanese Lord - William Adams Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
9	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Yamada Nagamasa - A Japanese King in Thailand Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary. (30 minutes)
10	事前学習	Learn new vocabulary for the short test. (30 minutes)
	授業内容	Theme: A Chinese Revolution Built in Japan Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Think of a topic for the semester presentation. (30 minutes)
11	事前学習	Think of a topic for the semester presentation. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Presentation Making Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
12	事前学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Presentation Making Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
13	事前学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Presentation Practice Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
14	事前学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Presentations
	事後学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
15	事前学習	Continue with Presentations. (30 minutes)
	授業内容	Theme: Presentations
	事後学習	Reflect on the semester. (30 minutes)

科目名	英語演習A	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	煩雑で混沌としたように捉えられる言語現象を理解するには、何らかの理論的枠組みが必要である。本授業では、言語と社会が密接に関連しているとみなす社会言語学の枠組みを通して、日英語の様々な言語現象についてみていく。言語と社会、言語と文化の関係を概観しながら異文化間コミュニケーションの諸問題を探り、社会言語学の社会的意義を考察する。後半は認知言語学の基本概念を体系的に身に付ける。				
授業目的・到達目標	[授業目的] 言語の本質と働きに関わる考察力を養い、ことばに関する様々な現象への洞察力や発展的探究心を養成することが本授業の目的である。言語は社会や文化と切り離して存在し得ないことを認識することをねらいとする。 [到達目標] 常に当然のように使っていながら実は理解不十分なことばの語りは卒業して、知識体系・思考の基盤や論理的・批判的思考力を身に付け、様々な言語現象を説明できることを目標とする。 対応DP及びCP:1, 3, 6				
履修条件	遅刻・欠席をせず、授業に積極的かつ集中して臨むこと。				
授業方法	英語で書かれた文献のプリント教材も併用し、演習形式で授業を展開していく。随時質疑応答の機会を設け、ディスカッションを行いながら理解度を高める。毎回小テストを実施する。フィードバックは授業内で行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	毎回の確認テスト・課題への取り組みや授業への参加度（５０％） 学期末試験（５０％）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	プリント教材使用。			
参考書	『新編 認知言語学キーワード事典』 辻幸夫編 研究社 2013 上記のほか、適宜英語の文献などの資料配布や参考文献紹介を行う。				
オフィスアワー	月曜日 12:20~13:00、場所は事前にアポイントメントを取った際に決めます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、講義全体を概観する。（30分）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、講義全体の説明について理解を深める。（３０分）
2	事前学習	指定された範囲を予め読む。（30分）
	授業内容	言語と社会の関わり
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）（３０分）
3	事前学習	指定された課題の準備をする。（30分）
	授業内容	言語の多様性
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）（30分）
4	事前学習	指定された課題に取り組む。（３０分）
	授業内容	言語のバリエーション
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）（３０分）

5	事前学習	指定された課題の準備をする。（３０分）
	授業内容	言語とジェンダー、若者言葉
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）（３０分）
6	事前学習	指定された課題に取り組む。（３０分）
	授業内容	言語とアイデンティティ、ポライトネス
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）（３０分）
7	事前学習	指定された課題の準備をする。（３０分）
	授業内容	認知言語学への導入
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）（３０分）
8	事前学習	指定された課題に取り組む。（３０分）
	授業内容	カテゴリー化、プロトタイプ
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）（３０分）
9	事前学習	指定された課題の準備をする。（３０分）
	授業内容	スキーマ、意味のネットワーク
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）（３０分）
10	事前学習	指定された課題に取り組む。（３０分）
	授業内容	意味拡張の仕組みと多様性
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）（３０分）
11	事前学習	指定された課題の準備をする。（３０分）
	授業内容	認知能力としてのメタファー
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）（３０分）
12	事前学習	指定された課題に取り組む。（３０分）
	授業内容	認知能力としてのメタファー
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）（３０分）
13	事前学習	指定された課題に取り組む。（３０分）
	授業内容	日英語対照
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）（３０分）
14	事前学習	弱点ノートの見直しをして学期末試験に臨む。（３０分）
	授業内容	授業内試験及び振り返り
	事後学習	間違えた箇所の復習をし、講義全体の確認をする。（３０分）
15	事前学習	振り返りの内容の確認をする。（３０分）
	授業内容	試験の講評と授業の総括
	事後学習	理解不十分な個所をチェックし、講義全体の確認をする。（３０分）

科目名	英語演習A	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今年度のテーマは「英語で読んで考える西洋哲学・思想」とする。				
授業目的・到達目標	[授業目的] 対話力、判断力、思考力の養成、および社会における「よき市民」を育成することを目的とする。 [到達目標] 西洋哲学・思想を十分に理解して批判的に解釈できる。知識のない聴衆に対しても、複雑な内容を自信を持ってはっきりとわかりやすく口頭で伝えることができることを目標とする。 対応DPおよびCP： 外国語科目領域 1, 3, 6				
履修条件	「考える」、「分析する」ことが重要となる演習であるため、真摯に学ぶ真面目な受講生を求める。授業内外においてグループ活動を行うため、積極性、協調性が強く求められる。シラバスを熟読してオリエンテーションに臨むこと。				
授業方法	入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。半期に複数回、グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）に過ぎない。フィードバックは授業内において行う。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験				
	平常評価		100%		プレゼンテーション、レポート、授業参加度などをもとに総合的に評価する。詳細はオリエンテーションで説明する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	プリント教材を配布する。			
参考書	授業時に適宜指示をする。				
オフィスアワー	担当教員研究室（本館8階1815研究室）にて金曜日3時限に対応する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読して授業に臨む。（30分）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	イントロダクションの振り返りを行う。（30分）
2	事前学習	「Wittgenstein」を読む。（30分）
	授業内容	プレゼンテーションの手法を学ぶ 「Wittgenstein」のモデルプレゼンテーション グループミーティング
	事後学習	「Wittgenstein」を読み直し、担当の章との関連について考える。（30分）
3	事前学習	自分の担当箇所の和訳に取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（グループで担当章の和訳を完成させる）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り（30分）
4	事前学習	グループの担当章の和訳を練り直す。要提出。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（図書館蔵書やPCを使って解説資料を収集し、発表資料を作成する）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り（30分）

5	事前学習	「Mill」、「What do you see?」を読む。（30分）
	授業内容	「Mill」、「What do you see?」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Mill」、「What do you see?」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
6	事前学習	「Kant」、「What makes you act the way you do?」を読む。（30分）
	授業内容	「Kant」、「What makes you act the way you do?」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Kant」、「What makes you act the way you do?」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
7	事前学習	「Zeno」、「Setting priorities」を読む。（30分）
	授業内容	「Zeno」、「Setting priorities」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Zeno」、「Setting priorities」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
8	事前学習	「Descartes」、「Are you right-brained or left-brained?」を読む。（30分）
	授業内容	「Descartes」、「Are you right-brained or left-brained?」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Descartes」、「Are you right-brained or left-brained?」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
9	事前学習	自分の担当箇所の和訳に取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（グループで担当章の和訳を完成させる）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り（30分）
10	事前学習	グループの担当章の和訳を練り直す。要提出。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（図書館蔵書やPCを使って解説資料を収集し、発表資料を作成する）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り（30分）
11	事前学習	「Is Shakespeare better than The Simpsons?」を読む。（30分）
	授業内容	「Is Shakespeare better than The Simpsons?」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Is Shakespeare better than The Simpsons?」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
12	事前学習	「I know I shouldn't - but could you pass that last piece of cake?」を読む。（30分）
	授業内容	「I know I shouldn't - but could you pass that last piece of cake?」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「I know I shouldn't - but could you pass that last piece of cake?」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
13	事前学習	「I ran over my neighbor's dog, avoiding another car...should I feel guilty?」を読む。（30分）
	授業内容	「I ran over my neighbor's dog, avoiding another car...should I feel guilty?」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「I ran over my neighbor's dog, avoiding another car...should I feel guilty?」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
14	事前学習	「I keep looking at my phone every few minutes. Why can't I concentrate?」を読む。（30分）
	授業内容	「I keep looking at my phone every few minutes. Why can't I concentrate?」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「I keep looking at my phone every few minutes. Why can't I concentrate?」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
15	事前学習	前期に授業内で扱われた章を読み直す。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（前期のまとめレポート作成）
	事後学習	前期の振り返り（30分）

科目名	英語演習A	担当者	水本 孝二	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「言語、哲学」に関する文献を読んで行きます。英語演習はゼミナール形式で授業を進めます。					
授業目的・到達目標	英語テキストを介して、学生たちが自らものを考えられる力を養成することを目的とし、学生たちが与えられた課題を検討し、意見交換する場を提供できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 1， 3， 6					
履修条件	特にありませんが、前学期に英語演習 A を履修した場合は後学期に英語演習 B を履修することが望ましいです。					
授業方法	実践演習をして解説をします。 毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施します。返却後は復習しておくこと。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		学期末授業内試験を実施します。また毎回、単語テストを行い、総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	南雲堂		Looking around England (Revised edition)		Terry O' Brien, 他
	備考	なし				
参考書	飛田茂雄（編）『現代英米情報辞典』研究社 参考書は購入する必要はない。適宜、図書館等で参照すること					
オフィスアワー	水曜日 16：20-17：50（4号館1階） 連絡先：mizumoto.koji*nihon-u.ac.jp　、「メールする場合は*を@に変えて使って下さい」					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
2	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	London-the House of Parliament
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
3	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	London-Horse guards
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
4	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	London-Bakerstreet
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）

5	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	London-Victoria and Albert
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
6	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Palaces
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
7	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Brighton
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
8	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Stonehenge
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
9	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Oxbridge
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
10	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Stratford-upon-Avon
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
11	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Robin Hood
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
12	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Lincoln
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
13	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	York
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
14	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Yorkshire-Haworth Village
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
15	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	復習、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）

科目名	英語演習B	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	煩雑で混沌としたように捉えられる言語現象を理解するには、何らかの理論的枠組みが必要である。本授業では、物事の捉え方とことばの仕組みが密接に関連しているとみなす認知言語学の枠組みを通して、日英語の様々な言語現象についてみていく。英語と日本語の相違点や類似点を探り、その理由を認知言語学的アプローチから説明した上で、「英語らしさ」・「日本語らしさ」を追究する。				
授業目的・到達目標	[授業目的] 言語の本質と働きに関わる考察力を養い、ことばに関する様々な現象への洞察力や発展的探究心を養成することが本授業の目的である。日常言語に潜むことばの不思議を科学的思考で見出す知的発見の興奮を共有することをねらいとする。 [到達目標] 常に当然のように使っていながら実は理解不十分なことばの語りは卒業して、知識体系・思考の基盤や論理的・批判的思考力を身に付け、様々な言語現象を説明できることを目標とする。 対応DP及びCP:1, 3, 6				
履修条件	遅刻・欠席をせず、授業に積極的かつ集中して臨むこと。				
授業方法	英語で書かれた文献のプリント教材も併用し、演習形式で授業を展開していく。随時質疑応答の機会を設け、ディスカッションを行いながら理解度を高める。毎回確認テストを実施する。フィードバックは授業内で行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	毎回の確認テスト・課題への取り組みや授業への参加参加度（50%） 学期末試験（50%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	開拓社		『事態の捉え方と述語のかたち—英語から見た日本語（仮題）』	黒滝真理子
	備考				
参考書	『新編 認知言語学キーワード事典』 辻幸夫編 研究社 2013 上記のほか、適宜英語の文献などの資料配布や参考文献紹介を行う。				
オフィスアワー	月曜日 12:20~13:00、場所は事前にアポイントメントを取った際に決めます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を揃え、シラバスを熟読し、講義全体を概観する。（30分）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、講義全体の説明について理解を深める。（30分）
2	事前学習	指定された範囲の予習をする。（30分）
	授業内容	ことばのダイナミズム
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）。（30分）
3	事前学習	指定された課題の準備をする。（30分）
	授業内容	ことばの意味変化
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）。（30分）
4	事前学習	指定された課題に取り組む。（30分）
	授業内容	文法化と主体化
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）。（30分）

5	事前学習	指定された課題の準備をする。（３０分）
	授業内容	日英語対照研究
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）。（３０分）
6	事前学習	指定された課題に取り組む。（３０分）
	授業内容	日英語の好まれる事態把握
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）。（３０分）
7	事前学習	指定された課題の準備をする。（３０分）
	授業内容	主観的把握・客観的把握
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）。（３０分）
8	事前学習	指定された課題に取り組む。（３０分）
	授業内容	日英語の受身授受表現
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）。（３０分）
9	事前学習	指定された課題の準備をする。（３０分）
	授業内容	「する」と「なる」
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）。（３０分）
10	事前学習	指定された課題に取り組む。（３０分）
	授業内容	「英語らしさ」「日本語らしさ」
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）。（３０分）
11	事前学習	指定された課題の準備をする。（３０分）
	授業内容	「英語らしさ」「日本語らしさ」
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）。（３０分）
12	事前学習	指定された課題に取り組む。（３０分）
	授業内容	「英語らしさ」「日本語らしさ」
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）。（３０分）
13	事前学習	指定された課題に取り組む。（３０分）
	授業内容	言語と文化
	事後学習	弱点ノートの作成（要点の整理・理解）。（３０分）
14	事前学習	弱点ノートの見直しをして学期末試験に臨む。（３０分）
	授業内容	授業内試験及び振り返り
	事後学習	間違えた箇所を復習し、講義全体の確認をする。（３０分）
15	事前学習	振り返りの内容の確認をする。（３０分）
	授業内容	試験の講評と授業の総括
	事後学習	理解不十分な箇所をチェックし、講義全体の確認をする。（３０分）

科目名	英語演習B	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今年度のテーマは「英語で読んで考える西洋哲学・思想」とする。				
授業目的・到達目標	[授業目的] 対話力、判断力、思考力の養成、および社会における「よき市民」を育成することを目的とする。 [到達目標] 西洋哲学・思想を十分に理解して批判的に解釈できる。知識のない聴衆に対しても、複雑な内容を自信を持ってはっきりとわかりやすく口頭で伝えることができることを目標とする。 対応DPおよびCP： 外国語科目領域 1, 3, 6				
履修条件	「考える」、「分析する」ことが重要となる演習であるため、真摯に学ぶ真面目な受講生を求める。授業内外においてグループ活動を行うため、積極性、協調性が強く求められる。シラバスを熟読してオリエンテーションに臨むこと。				
授業方法	入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。半期に複数回、グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）に過ぎない。フィードバックは授業内において行う。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験				
	平常評価		100%		プレゼンテーション、レポート、授業参加度などをもとに総合的に評価する。詳細はオリエンテーションで説明する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	プリント教材を配布する。			
参考書	授業時に適宜指示をする。				
オフィスアワー	担当教員研究室（本館8階1815研究室）にて金曜日3時限に対応する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読して授業に臨む。（30分）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	イントロダクションの振り返りを行う。（30分）
2	事前学習	「Plato」を読む。（30分）
	授業内容	プレゼンテーションの手法を学ぶ 「Plato」のモデルプレゼンテーション グループミーティング
	事後学習	「Plato」を読み直し、担当の章との関連について考える。（30分）
3	事前学習	自分の担当箇所の和訳に取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（グループで担当章の和訳を完成させる）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り（30分）
4	事前学習	グループの担当章の和訳を練り直す。要提出。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（図書館蔵書やPCを使って解説資料を収集し、発表資料を作成する）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り（30分）

5	事前学習	「Russel」、「What's your C.Q. ?」を読む。（30分）
	授業内容	「Russel」、「What's your C.Q. ?」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Russel」、「What's your C.Q. ?」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
6	事前学習	「Aquinas」、「How's your memory?」を読む。（30分）
	授業内容	「Aquinas」、「How's your memory?」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Aquinas」、「How's your memory?」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
7	事前学習	「Locke」、「Do you use selective attention?」を読む。（30分）
	授業内容	「Locke」、「Do you use selective attention?」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Locke」、「Do you use selective attention?」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
8	事前学習	「Hegel」、「Do you have ESP?」を読む。（30分）
	授業内容	「Hegel」、「Do you have ESP?」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Hegel」、「Do you have ESP?」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
9	事前学習	自分の担当箇所の和訳に取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（グループで担当章の和訳を完成させる）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り（30分）
10	事前学習	グループの担当章の和訳を練り直す。要提出。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（図書館蔵書やPCを使って解説資料を収集し、発表資料を作成する）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り（30分）
11	事前学習	「I'm as mad as hell with this government. What can I do to make them listen to me?」を読む。（30分）
	授業内容	「I'm as mad as hell with this government. What can I do to make them listen to me?」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「I'm as mad as hell with this government. What can I do to make them listen to me?」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
12	事前学習	「Why can't I find Mr./Mrs. Right?」を読む。（30分）
	授業内容	「Why can't I find Mr./Mrs. Right?」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Why can't I find Mr./Mrs. Right?」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
13	事前学習	「With all the trouble in the world today, how can I believe in God? I'm scared of dying. Is that normal?」を読む。（30分）
	授業内容	「With all the trouble in the world today, how can I believe in God? I'm scared of dying. Is that normal?」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「With all the trouble in the world today, how can I believe in God? I'm scared of dying. Is that normal?」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
14	事前学習	「Should I work for love or money?」を読む。（30分）
	授業内容	「Should I work for love or money?」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Should I work for love or money?」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
15	事前学習	後期に授業内で扱われた章を読み直す。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（後期のまとめレポート作成）
	事後学習	後期の振り返り（30分）

科目名	英語演習B	担当者	水本 孝二	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「言語、哲学」に関する文献を読んで行きます。英語演習はゼミナール形式で授業を進めます。					
授業目的・到達目標	英語テキストを介して、学生たちが自らものを考えられる力を養成することを目的とし、学生たちが与えられた課題を検討し、意見交換する場を提供できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 1， 3， 6					
履修条件	特にありませんが、前学期に英語演習 A を履修した場合は後学期に英語演習 B を履修することが望ましいです。					
授業方法	実践演習をして解説をします。 毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施します。返却後は復習しておくこと。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		学期末授業内試験を実施します。また毎回、単語テストを行い、総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	南雲堂		Looking around England (Revised edition)		Terry O'Brien, 他
	備考	なし				
参考書	飛田茂雄（編）『現代英米情報辞典』研究社 参考書は購入する必要はない。適宜、図書館等で参照すること					
オフィスアワー	水曜日 16：20-17：50（4号館1階） 連絡先：mizumoto.koji*nihon-u.ac.jp　、「メールする場合は*を@に変えて使って下さい」					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
2	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	The Lake District
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
3	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Liverpool
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
4	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	The Peak National Park
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）

5	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	A Wedding
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
6	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Dover
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
7	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	The Cotswolds
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
8	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	People
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
9	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	London-The Tower of London
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
10	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	London-Westminster Abbey
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
11	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	London-The Globe Theatre
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
12	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	London-Covent Garden
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
13	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	London-The Millennium Bridge 1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
14	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	London-The Millennium Bridge 2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
15	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	復習、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）

科目名	英語演習C	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語学習の応用として英詩を読みます。取り上げる作品は、イギリスロマン主義の比較的短い詩です。英語といえば「実用的な手段」のイメージが支配的ですが、ここでは、それとは「別の英語」に触れることになります。作品から読み取れることに集中し、作品を読まなくても言える時代背景や詩人の伝記的事項等は最小限にとどめます。詩の言葉/英語に傾注する為です。							
授業目的・到達目標	目的は、いまとは異なる時代、自分たちのものとは異なる文化で生まれた詩歌を通じて、多様な価値観や世界観を理解する力（態度）を養成すること。 目標は、上記の理解や解釈を他者に説明することができるようになること。対応CP及びDP：外国語領域 1， 3， 6							
履修条件	一定の英語読解力（英詩読解に文法の基礎知識は必須）と発言する意志を持っていること。							
授業方法	演習形式で進めます。テストの講評・解説を後日ポータルシステムで配信します。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定 期 試 験		0%					
	平 常 評 価		100%		前期テスト40%，平常点（発表・発言・授業への取り組み等）60%。欠席を繰り返した場合，その時点で履修資格を失う。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	備考		プリントを使用					
参 考 書	平井正徳 編『イギリス名詩選』岩波文庫など							
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は授業終了後教室で、または水曜日12:30-13:30に435研究室で対応する。 E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読する。（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	この授業で何を学びたいのか、確認する。（30分）
2	事前学習	「詩とは何か」自分なりに考えてみる。（30分）
	授業内容	プリント配付・英詩の読み方について・輪読の分担等
	事後学習	プリント全体を見渡し、詩の解釈をメモするためのノートを用意する。（30分）
3	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	Robert Burns, “O my love’s like a red, red rose”を読む
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）
4	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	William Blake, “The Sick Rose”を読む
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）

5	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	William Blake, “The Fly” を読む
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）
6	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	William Wordsworth, “She dwelt among the untrodden ways” を読む
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）
7	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	William Wordsworth, “A slumber did my spirit seal” を読む
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）
8	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	William Wordsworth, “We are seven” を読む 1
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）
9	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	William Wordsworth, “We are seven” を読む 2
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）
10	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	S. T. Coleridge, “Something Childish, But Very Natural” を読む
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）
11	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	P. B. Shelley, “To ---” (Song) を読む
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）
12	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	Lord Byron, “So, we’ ll go on no more a roving” を読む
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）
13	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	John Keats, “Stanzas” (In a drear-nighted December) を読む
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）
14	事前学習	これまで読んだ詩作品を振り返り、どの詩が心に残ったか、それはなぜか、メモしておく。（30分）
	授業内容	前期の授業を振り返る 1
	事後学習	授業内容を振り返り、気づいたことをメモする。（30分）
15	事前学習	心に残った詩を暗唱する。（30分）
	授業内容	前期の授業を振り返る 2
	事後学習	前期の授業で何が得られたか、あらためて考えてみる。（30分）

科目名	英語演習C	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今年度のテーマは「英米文学作品の原著に触れる」とする。					
授業目的・到達目標	[授業目的] 対話力、判断力、思考力の養成、および社会における「よき市民」を育成することを目的とする。 [到達目標] 西洋哲学・思想を十分に理解して批判的に解釈できる。知識のない聴衆に対しても、複雑な内容を自信を持ってはっきりとわかりやすく口頭で伝えることができることを目標とする。 対応DPおよびCP： 外国語科目領域 1, 3, 6					
履修条件	「考える」、「分析する」ことが重要となる演習であるため、真摯に学ぶ真面目な受講生を求める。授業内外においてグループ活動を行うため、積極性、協調性が強く求められる。シラバスを熟読してオリエンテーションに臨むこと。					
授業方法	演習方式。入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。半期に複数回、グループごとのプレゼンテーションが課せられる。担当教員の役割はfacilitator（進行役）に過ぎない。フィードバックは授業内で行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		プレゼンテーション、レポート、授業参加度などをもとに総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	プリント教材を配布する。				
参考書	授業時に適宜指示をする。					
オフィスアワー	担当教員研究室（本館8階1815研究室）にて金曜日3時限に対応する。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読して授業に臨む。（30分）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	イントロダクションの振り返りを行う。（30分）
2	事前学習	「Pygmalion」(George Bernard Shaw)を読む。（30分）
	授業内容	プレゼンテーションの手法を学ぶ 「Pygmalion」(George Bernard Shaw)のモデルプレゼンテーション グループミーティング
	事後学習	「Pygmalion」(George Bernard Shaw)を読み直し、担当の章との関連について考える。（30分）
3	事前学習	自分の担当箇所の和訳に取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（グループで担当章の和訳を完成させる）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り（30分）
4	事前学習	グループの担当章の和訳を練り直す。要提出。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（図書館蔵書やPCを使って解説資料を収集し、発表資料を作成する）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り（30分）

5	事前学習	「A Scandal in Bohemia」(Conan Doyle)を読む。(30分)
	授業内容	「A Scandal in Bohemia」(Conan Doyle)のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「A Scandal in Bohemia」(Conan Doyle)を読み直し、次の章との関連について考える。(30分)
6	事前学習	「Great Expectations」(Charles Dickens)を読む。(30分)
	授業内容	「Great Expectations」(Charles Dickens)のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Great Expectations」(Charles Dickens)を読み直し、次の章との関連について考える。(30分)
7	事前学習	「Gulliver's Travels」(Jonathan Swift)を読む。(30分)
	授業内容	「Gulliver's Travels」(Jonathan Swift)のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Gulliver's Travels」(Jonathan Swift)を読み直し、次の章との関連について考える。(30分)
8	事前学習	「Tess of the d'Urbervilles」(Thomas Hardy)を読む。(30分)
	授業内容	「Tess of the d'Urbervilles」(Thomas Hardy)のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Tess of the d'Urbervilles」(Thomas Hardy)を読み直し、次の章との関連について考える。(30分)
9	事前学習	自分の担当箇所の和訳に取り組む。要提出。(30分)
	授業内容	グループディスカッション（グループで担当章の和訳を完成させる）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り(30分)
10	事前学習	グループの担当章の和訳を練り直す。要提出。(30分)
	授業内容	グループディスカッション（図書館蔵書やPCを使って解説資料を収集し、発表資料を作成する）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り(30分)
11	事前学習	「Romeo and Juliet」(William Shakespeare)を読む。(30分)
	授業内容	「Romeo and Juliet」(William Shakespeare)のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Romeo and Juliet」(William Shakespeare)を読み直し、次の章との関連について考える。(30分)
12	事前学習	「Richard III」(William Shakespeare)を読む。(30分)
	授業内容	「Richard III」(William Shakespeare)のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Richard III」(William Shakespeare)を読み直し、次の章との関連について考える。(30分)
13	事前学習	「Hamlet」(William Shakespeare)を読む。(30分)
	授業内容	「Hamlet」(William Shakespeare)のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Hamlet」(William Shakespeare)を読み直し、次の章との関連について考える。(30分)
14	事前学習	「Macbeth」(William Shakespeare)を読む。(30分)
	授業内容	「Macbeth」(William Shakespeare)のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Macbeth」(William Shakespeare)を読み直す。(30分)
15	事前学習	前期に授業内で扱われた章を読み直す。(30分)
	授業内容	グループディスカッション（前期のまとめレポート作成）
	事後学習	前期の振り返り(30分)

科目名	英語演習D	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語学習の応用として英詩を読みます。取り上げる作品は、イギリス・アメリカ・アイルランドにおける近現代の比較的短い詩です。英語といえば「実用的な手段」のイメージが支配的ですが、ここでは、それとは「別の英語」に触れることになります。作品から読み取れることに集中し、作品を読まなくても言える時代背景や詩人の伝記的事項等は最小限にとどめます。詩の言葉/英語に傾注する為です。							
授業目的・到達目標	目的は、いまとは異なる時代、自分たちのものとは異なる文化で生まれた詩歌を通じて、多様な価値観や世界観を理解する力（態度）を養成すること。 目標は、上記の理解や解釈を他者に説明することができるようになること。対応CP及びDP：外国語領域 1， 3， 6							
履修条件	一定の英語読解力（英詩読解に文法の基礎知識は必須）と発言する意志を持っていること。							
授業方法	演習形式で進めます。小論文の講評・解説を後日ポータルシステムで配信します。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%					
	平常評価		100%		小論文40%，平常点（発表・発言・授業への取り組み等）60%。欠席を繰り返した場合，その時点で履修資格を失う。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	備考		プリントを使用					
参考書	平井正徳 編『イギリス名詩選』岩波文庫、亀井俊介ほか 編『アメリカ名詩選』岩波文庫など							
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は授業終了後教室で、または水曜日12:30-13:30に435研究室で対応する。 E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の授業内容を振り返る。（30分）
	授業内容	近現代のイギリス・アメリカ・アイルランドの詩について／輪読の分担等
	事後学習	この授業で何を学びたいのか、再確認する。（30分）
2	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	E. A. Poe, “Annabel Lee” を読む
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）
3	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	E. Dickinson, “Success is counted sweetest” / “My life closed twice before its close” を読む
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）
4	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	Thomas Hardy, “The Walk” を読む
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）

5	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	Thomas Hardy, “The Voice” を読む
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）
6	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	W. B. Yeats, “He Wishes for the Cloths of Heaven” を読む
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）
7	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	W. B. Yeats, “Leda and the Swan” を読む
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）
8	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	Robert Frost, “The Pasture” / “Stopping by Woods on a Snowy Evening” を読む
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）
9	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	D. H. Lawrence, “Snake” を読む 1
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）
10	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	D. H. Lawrence, “Snake” を読む 2
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）
11	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	T. S. Eliot, “La Figlia Che Piange” を読む
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）
12	事前学習	当該の詩作品を熟読・音読し、自分の解釈（どう読み理解したか）についてメモする。（30分）
	授業内容	Edmund Blunden, “Report on Experience” を読む
	事後学習	授業を振り返り、当該作品についての自分の考えを整理する。（30分）
13	事前学習	これまで読んだ詩作品を振り返り、どの詩が心に残ったか、それはなぜか、メモしておく。（30分）
	授業内容	後期の授業を振り返る 1
	事後学習	授業内容を振り返り、気づいたことをメモする。（30分）
14	事前学習	心に残った詩のテーマについて考える。（30分）
	授業内容	小論文の書き方について・受講者による授業評価
	事後学習	授業内容（小論文の書き方）について整理する。（30分）
15	事前学習	後期に読んだ詩のなかから任意に選んだものについて作品論を書いてみる。（30分）
	授業内容	後期の授業を振り返る 2
	事後学習	この授業で学んだことを整理する。（30分）

科目名	英語演習D	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今年度のテーマは「英米文学の原著に触れる」とする。					
授業目的・到達目標	[授業目的] 対話力、判断力、思考力の養成、および社会における「よき市民」を育成することを目的とする。 [到達目標] 西洋哲学・思想を十分に理解して批判的に解釈できる。知識のない聴衆に対しても、複雑な内容を自信を持ってはっきりとわかりやすく口頭で伝えることができることを目標とする。 対応DPおよびCP： 外国語科目領域 1, 3, 6					
履修条件	「考える」、「分析する」ことが重要となる演習であるため、真摯に学ぶ真面目な受講生を求める。授業内外においてグループ活動を行うため、積極性、協調性が強く求められる。シラバスを熟読してオリエンテーションに臨むこと。					
授業方法	演習方式。入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。半期に複数回、グループごとのプレゼンテーションが課せられる。担当教員の役割はfacilitator（進行役）に過ぎない。フィードバックは授業内で行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		プレゼンテーション、レポート、授業参加度などをもとに総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	プリント教材を配布する。				
参考書	授業時に適宜指示をする。					
オフィスアワー	担当教員研究室（本館8階1815研究室）にて金曜日3時限に対応する。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読して授業に臨む。（30分）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	イントロダクションの振り返りを行う。（30分）
2	事前学習	「Gone With the Wind」(Margaret Mitchell)を読む。（30分）
	授業内容	プレゼンテーションの手法を学ぶ 「Gone With the Wind」(Margaret Mitchell)のモデルプレゼンテーション グループミーティング
	事後学習	「Gone With the Wind」(Margaret Mitchell)を読み直し、次の章との関連について考えること。（30分）
3	事前学習	自分の担当箇所の和訳に取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（グループで担当章の和訳を完成させる）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り（30分）
4	事前学習	グループの担当章の和訳を練り直す。要提出。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（図書館蔵書やPCを使って解説資料を収集し、発表資料を作成する）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り（30分）

5	事前学習	「The Last of the Mohicans」(James Fenimore Cooper)を読む。(30分)
	授業内容	「The Last of the Mohicans」(James Fenimore Cooper)のプレゼンテーション グループディスカッション(プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成)
	事後学習	「The Last of the Mohicans」(James Fenimore Cooper)を読み直し、次の章との関連について考える。(30分)
6	事前学習	「The Scarlet Letter」(Nathaniel Hawthorne)を読む。(30分)
	授業内容	「The Scarlet Letter」(Nathaniel Hawthorne)のプレゼンテーション グループディスカッション(プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成)
	事後学習	「The Scarlet Letter」(Nathaniel Hawthorne)を読み直し、次の章との関連について考える。(30分)
7	事前学習	「Adventures of Huckleberry Finn」(Mark Twain)を読む。(30分)
	授業内容	「Adventures of Huckleberry Finn」(Mark Twain)のプレゼンテーション グループディスカッション(プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成)
	事後学習	「Adventures of Huckleberry Finn」(Mark Twain)を読み直し、次の章との関連について考える。(30分)
8	事前学習	「The Great Gatsby」(F. Scott Fitzgerald)を読む。(30分)
	授業内容	「The Great Gatsby」(F. Scott Fitzgerald)のプレゼンテーション グループディスカッション(プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成)
	事後学習	「The Great Gatsby」(F. Scott Fitzgerald)を読み直し、次の章との関連について考える。(30分)
9	事前学習	自分の担当箇所の和訳に取り組む。要提出。(30分)
	授業内容	グループディスカッション(グループで担当章の和訳を完成させる)
	事後学習	グループディスカッションの振り返り(30分)
10	事前学習	グループの担当章の和訳を練り直す。要提出。(30分)
	授業内容	グループディスカッション(図書館蔵書やPCを使って解説資料を収集し、発表資料を作成する)
	事後学習	グループディスカッションの振り返り(30分)
11	事前学習	「The Merchant of Venice」(William Shakespeare)を読む。(30分)
	授業内容	「The Merchant of Venice」(William Shakespeare)のプレゼンテーション グループディスカッション(プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成)
	事後学習	「The Merchant of Venice」(William Shakespeare)を読み直し、次の章との関連について考える。(30分)
12	事前学習	「Titus Andronicus」(William Shakespeare)を読む。(30分)
	授業内容	「Titus Andronicus」(William Shakespeare)のプレゼンテーション グループディスカッション(プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成)
	事後学習	「Titus Andronicus」(William Shakespeare)を読み直し、次の章との関連について考える。(30分)
13	事前学習	「Othello」(William Shakespeare)を読む。(30分)
	授業内容	「Othello」(William Shakespeare)のプレゼンテーション グループディスカッション(プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成)
	事後学習	「Othello」(William Shakespeare)を読み直し、次の章との関連について考える。(30分)
14	事前学習	「A Midsummer Night's Dream」(William Shakespeare)を読む。(30分)
	授業内容	「A Midsummer Night's Dream」(William Shakespeare)のプレゼンテーション グループディスカッション(プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成)
	事後学習	「A Midsummer Night's Dream」(William Shakespeare)を読み直す。(30分)
15	事前学習	後期に授業内で扱われた章を読み直す。(30分)
	授業内容	グループディスカッション(後期のまとめレポート作成)
	事後学習	後期の振り返り(30分)

科目名	英語演習E	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	戯曲（演劇台本）を読みます。セリフとト書き（役者の動きや場面の説明等）から成る戯曲を対象に、コンテキストを読みとる“読解力”の向上を図ります。教材は、第二次世界大戦下のドイツを舞台に、戦時の芸術（音楽）家のあり方を問うた作品。作者は南アフリカ生まれのユダヤ系イギリス人で、映画『戦場のピアニスト』の脚本も手がけた劇作家です。					
授業目的・到達目標	戯曲一冊を一年で読み切り、読解力・想像力・思考力を養成することが目的です。 言葉の背後にある文化的・社会的なコンテキスト（文脈・背景）を読みとり、説明できるようになることが目標です。					
履修条件	中級以上の英語読解力と、発言する意志を持っていること。上記の通り一冊を一年で読み切るため、なるべく英語演習Fと合わせて通年で履修するのが望ましい。					
授業方法	登場人物を履修者でcastingし、ドラマ仕立ての“読み合わせ”を英語と日本語（各自が訳した）で実践しながら意見交換します。テストの講評を後日ポータルシステムで配信します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		テスト40％，発表・発言・授業参加度等60％。欠席を繰り返した場合，その時点で履修資格を失う。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	プリント（Ronald Harwood, TAKING SIDES）を配布します				
参考書	授業内で適宜紹介します。					
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は授業終了後教室で、または水曜日12:30-13:30に435研究室で対応する。 E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読する。（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	この授業で何を学ぶのか、整理する。（30分）
2	事前学習	戯曲（演劇）と小説の違いについて調べておく。（30分）
	授業内容	戯曲（演劇台本）について／輪読／役の分担（casting）等
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
3	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	前書き，“Characters,” “Set,” pp. 3-6を読む
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
4	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第一幕（Act One）pp. 7- を読む
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）

5	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第一幕（Act One）を読む
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
6	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第一幕（Act One）を読む
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
7	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第一幕（Act One）
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
8	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第一幕（Act One）
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
9	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第一幕（Act One）
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
10	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第一幕（Act One）
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
11	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第一幕（Act One）
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
12	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第一幕（Act One）
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
13	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第一幕（Act One） pp. -41
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
14	事前学習	第一幕を読み返し、疑問点等があれば質問の準備をする。（30分）
	授業内容	まとめ・関連ビデオやCDを視聴する
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
15	事前学習	第一幕の内容を再確認する。（30分）
	授業内容	前期の学習内容を振り返る
	事後学習	前期で学んだことを整理する。（30分）

科目名	英語演習E	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今年度のテーマは「英語で読んで考えるカルチュラル・スタディーズ」とする。					
授業目的・到達目標	[授業目的] 対話力、判断力、思考力の養成、および社会における「よき市民」を育成することを目的とする。 [到達目標] 西洋哲学・思想を十分に理解して批判的に解釈できる。知識のない聴衆に対しても、複雑な内容を自信を持ってはっきりとわかりやすく口頭で伝えることができることを目標とする。 対応DPおよびCP： 外国語科目領域 1, 4, 6					
履修条件	「考える」、「分析する」ことが重要となる演習であるため、真摯に学ぶ真面目な受講生を求める。授業内外においてグループ活動を行うため、積極性、協調性が強く求められる。シラバスを熟読してオリエンテーションに臨むこと。					
授業方法	入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。半期に複数回、グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）に過ぎない。 フィードバックは授業内において行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		プレゼンテーション、レポート、授業参加度などをもとに総合的に評価する。詳細はオリエンテーションで説明する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	プリント教材を配布する。				
参考書	授業時に適宜指示をする。					
オフィスアワー	担当教員研究室（本館8階1815研究室）にて金曜日3時限に対応する。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読してくること。（30分）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	イントロダクションの振り返りを行う。（30分）
2	事前学習	「Frozen」を読む。（30分）
	授業内容	プレゼンテーションの手法を学ぶ 「Frozen」のプレゼンテーション グループミーティング
	事後学習	「Frozen」を読み直し、担当の章との関連について考える。（30分）
3	事前学習	自分の担当箇所の和訳に取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（グループで担当章の和訳を完成させる）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り（30分）
4	事前学習	グループの担当章の和訳を練り直す。要提出。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（図書館蔵書やPCを使って解説資料を収集し、発表資料を作成する）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り（30分）

5	事前学習	「Harry Potter and the Philosopher's Stone」を読む。（30分）
	授業内容	「Harry Potter and the Philosopher's Stone」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Harry Potter and the Philosopher's Stone」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
6	事前学習	「The Remains of the Day」を読む。（30分）
	授業内容	「The Remains of the Day」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「The Remains of the Day」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
7	事前学習	「The Full Monty」を読む。（30分）
	授業内容	「The Full Monty」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「The Full Monty」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
8	事前学習	「Bridget Jones's Diary」を読む。（30分）
	授業内容	「Bridget Jones's Diary」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Bridget Jones's Diary」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
9	事前学習	自分の担当箇所の和訳に取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（グループで担当章の和訳を完成させる）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り（30分）
10	事前学習	グループの担当章の和訳を練り直す。要提出。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（図書館蔵書やPCを使って解説資料を収集し、発表資料を作成する）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り（30分）
11	事前学習	「Braveheart」を読む。（30分）
	授業内容	「Braveheart」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Braveheart」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
12	事前学習	「The Crying Game」を読む。（30分）
	授業内容	「The Crying Game」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「The Crying Game」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
13	事前学習	「Billy Elliot」、「Brassed Off」を読む。（30分）
	授業内容	「Billy Elliot」、「Brassed Off」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Billy Elliot」、「Brassed Off」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
14	事前学習	「Notting Hill」、「Trainspotting」を読む。（30分）
	授業内容	「Notting Hill」、「Trainspotting」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Notting Hill」、「Trainspotting」を読み直すこと。（30分）
15	事前学習	前期に授業内で扱われた章を読み直す。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（前期のまとめレポート作成）
	事後学習	前期の振り返り（30分）

科目名	英語演習F	担当者	児玉 直起	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	戯曲（演劇台本）を読みます。セリフとト書き（役者の動きや場面の説明等）から成る戯曲を対象に、コンテキストを読みとる“読解力”の向上を図ります。教材は、第二次世界大戦下のドイツを舞台に、戦時の芸術（音楽）家のあり方を問うた作品。作者は南アフリカ生まれのユダヤ系イギリス人で、映画『戦場のピアニスト』の脚本も手がけた劇作家です。				
授業目的・到達目標	戯曲一冊を一年で読み切り、読解力・想像力・思考力を養成することが目的です。 言葉の背後にある文化的・社会的なコンテキスト（文脈・背景）を読みとり、説明できるようになることが目標です。				
履修条件	中級以上の英語読解力と、発言する意志を持っていること。後期（演習F）から履修する場合、前期（演習E）で読み終えた第1幕（約40頁）を第二週目までに読み切ること。				
授業方法	登場人物を履修者でcastingし、ドラマ仕立ての“読み合わせ”を英語と日本語（各自が訳した）で実践しながら意見交換します。小論文の講評を後日ポータルシステムで配信します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	小論文40％，発表・発言・授業参加度等60％。欠席を繰り返した場合，その時点で履修資格を失う。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	プリント（Ronald Harwood, TAKING SIDES）を配布します			
参考書	授業内で適宜紹介します。				
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は授業終了後教室で、または水曜日12:30-13:30に435研究室で対応する。 E-mail: kodama.naoki@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	第一幕の内容を再確認しておく。（30分）
	授業内容	前期内容の振り返り／輪読／役の分担（casting）等
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
2	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第二幕（Act Two）・第一場（Scene One）pp. 42- を読む
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
3	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第二幕（Act Two）を読む
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
4	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第二幕（Act Two）を読む
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）

5	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第二幕（Act Two）・第二場（Scene Two）pp. 49- を読む
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
6	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第二幕（Act Two）を読む
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
7	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第二幕（Act Two）を読む
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
8	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第二幕（Act Two）を読む
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
9	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第二幕（Act Two）を読む
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
10	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第二幕（Act Two）
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
11	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第二幕（Act Two）
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
12	事前学習	該当箇所を熟読・音読し、内容についてのコメントと語学上の質問事項を準備する。（30分）
	授業内容	第二幕（Act Two）pp. -76
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
13	事前学習	第二幕を読み返し、疑問点等があれば質問の準備をする。（30分）
	授業内容	第二幕を振り返り、資料映像・音源を視聴する
	事後学習	授業内容を振り返り、学んだことを整理する。（30分）
14	事前学習	作品全体を振り返り、盛り込まれたテーマや問題点を整理する。（30分）
	授業内容	小論文の作成について・受講者による授業評価
	事後学習	作品についての感想をまとめる。（30分）
15	事前学習	作品についての小論文を作成する。（30分）
	授業内容	一年間の授業を振り返る
	事後学習	授業で何を得たか、整理する。（30分）

科目名	英語演習F	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今年度のテーマは「英語で読んで考えるカルチュラル・スタディーズ」とする。				
授業目的・到達目標	[授業目的] 対話力、判断力、思考力の養成、および社会における「よき市民」を育成することを目的とする。 [到達目標] 西洋哲学・思想を十分に理解して批判的に解釈できる。知識のない聴衆に対しても、複雑な内容を自信を持ってはっきりとわかりやすく口頭で伝えることができることを目標とする。 対応DPおよびCP： 外国語科目領域 1, 4, 6				
履修条件	「考える」、「分析する」ことが重要となる演習であるため、真摯に学ぶ真面目な受講生を求める。授業内外においてグループ活動を行うため、積極性、協調性が強く求められる。シラバスを熟読してオリエンテーションに臨むこと。				
授業方法	入念な準備を必要とするグループ演習が中心となる。半期に複数回、グループごとのプレゼンテーションが課せられる。英語演習科目における担当教員の役割はfacilitator（進行役）に過ぎない。フィードバックは授業内において行う。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験				
	平常評価		100%		プレゼンテーション、レポート、授業参加度などをもとに総合的に評価する。詳細はオリエンテーションで説明する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	プリント教材を配布する。			
参考書	授業時に適宜指示をする。				
オフィスアワー	担当教員研究室（本館8階1815研究室）にて金曜日3時限に対応する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読して授業に臨む。（30分）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	イントロダクションの振り返りを行う。（30分）
2	事前学習	「My Fair Lady」を読む。（30分）
	授業内容	プレゼンテーションの手法を学ぶ 「My Fair Lady」のモデルプレゼンテーション グループミーティング
	事後学習	「My Fair Lady」を読み直し、担当の章との関連について考える。（30分）
3	事前学習	自分の担当箇所の和訳に取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（グループで担当章の和訳を完成させる）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り（30分）
4	事前学習	グループの担当章の和訳を練り直す。要提出。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（図書館蔵書やPCを使って解説資料を収集し、発表資料を作成する）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り（30分）

5	事前学習	「United Kingdom」を読む。（30分）
	授業内容	「United Kingdom」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「United Kingdom」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
6	事前学習	「The Wild West」を読む。（30分）
	授業内容	「The Wild West」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「The Wild West」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
7	事前学習	「Vietnam」を読む。（30分）
	授業内容	「Vietnam」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Vietnam」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
8	事前学習	「The American Dream」を読む。（30分）
	授業内容	「The American Dream」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「The American Dream」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
9	事前学習	自分の担当箇所の和訳に取り組む。要提出。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（グループで担当章の和訳を完成させる）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り（30分）
10	事前学習	グループの担当章の和訳を練り直す。要提出。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（図書館蔵書やPCを使って解説資料を収集し、発表資料を作成する）
	事後学習	グループディスカッションの振り返り（30分）
11	事前学習	「Historical Change」を読む。（30分）
	授業内容	「Historical Change」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「Historical Change」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
12	事前学習	「The Black Experience」を読む。（30分）
	授業内容	「The Black Experience」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「The Black Experience」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
13	事前学習	「The Female Experience」を読む。（30分）
	授業内容	「The Female Experience」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「The Female Experience」を読み直し、次の章との関連について考える。（30分）
14	事前学習	「The Gay Experience」を読む。（30分）
	授業内容	「The Gay Experience」のプレゼンテーション グループディスカッション（プレゼンテーションの振り返り、およびまとめレポート作成）
	事後学習	「The Gay Experience」を読み直すこと。（30分）
15	事前学習	後期に授業内で扱われた章を読み直す。（30分）
	授業内容	グループディスカッション（後期のまとめレポート作成）
	事後学習	後期の振り返り（30分）

科目名	英語演習G	担当者	トーマス・ロックリー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------	-----	------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This course will teach you about Britain and its relationship with Japan.				
授業目的・到達目標	This course aims to improve your ability to discuss topics in English. The class will raise quite complex topics in simple ways and help you develop discussion, questioning, reflection and presentation skills. By the end of the course, you should be more confident in your English speaking and thinking skills and have a wider knowledge of Britain and its relations with Japan. 関連DP／CP：2， 4， 6				
履修条件	Ability in conversational English above Level II. Regular attendance and preparation are required.				
授業方法	Assessment will be through presentation and feedback will be given through grading textbooks.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	Presentation 40%, Reflection and vocabulary 30%, Participation 30%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016	DTP出版		Britain and Japan in History	Thomas Lockley
	備考				
参考書	2019年 東京書籍「外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」ロックリー・トーマス				
オフィスアワー	9:30-10:30am Thursdays in my office, 1602, or email lockleyta@gmail.com				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Read the syllabus. (30 mins)
	授業内容	Theme: First Class Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Read and prepare Texts for next class. (30 mins)
2	事前学習	Read and prepare Texts for next class. (30 mins)
	授業内容	Theme: Introduction and summary writing Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Read and prepare Texts for next class. (30 mins)
3	事前学習	Read and prepare Texts for next class. (30 mins)
	授業内容	Theme: William Adams and lecture notes. Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Read and prepare Texts for next class. (30 mins)
4	事前学習	Read and prepare Texts for next class. (30 mins)
	授業内容	Theme: Edo period Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Read and prepare Texts for next class. (30 mins)

5	事前学習	Read and prepare Texts for next class. (30 mins)
	授業内容	Theme: Mid 19th century Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Read and prepare questions for next class. (30 mins)
6	事前学習	Read and prepare Texts for next class. (30 mins)
	授業内容	Theme: Choshu Five Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Read and prepare questions for next class. (30 mins)
7	事前学習	Read and prepare Texts for next class. (30 mins)
	授業内容	Theme: Choshu Five Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Read and prepare Texts for next class. (30 mins)
8	事前学習	Read and prepare Texts for next class. (30 mins)
	授業内容	Theme: Late 19th century Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Read and prepare Texts for next class
9	事前学習	Read and prepare Texts for next class. (30 mins)
	授業内容	Theme: Early 20th century Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Read and prepare Texts for next class. (30 mins)
10	事前学習	Think about presentation skills. (30 mins)
	授業内容	Theme: Presentation Skills Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Think about topics for presentation. (30 mins)
11	事前学習	Think about topics for presentation. (30 mins)
	授業内容	Theme: Presentation preparation Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Continue with preparation and research. (30 mins)
12	事前学習	Practice Presentation. (30 mins)
	授業内容	Theme: Presentation preparation Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Continue with preparation and research. (30 mins)
13	事前学習	Practice Presentation. (30 mins)
	授業内容	Theme: Presentation preparation Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Continue with preparation and research. (30 mins)
14	事前学習	Practice Presentation. (30 mins)
	授業内容	Theme: Presentations Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Practice Presentation. (30 mins)
15	事前学習	Practice Presentation. (30 mins)
	授業内容	Theme: Assessment Presentations Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Reflect on semester. (30 mins)

科目名	英語演習G	担当者	水本 孝二	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「歴史、社会」に関する文献を読んで行きます。英語演習はゼミナール形式で授業を進めます。					
授業目的・到達目標	英語テキストを介して、学生たちが自らものを考えられる力を養成することを目的とし、学生たちが与えられた課題を検討し、意見交換する場を提供できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 2， 4， 6					
履修条件	特にありませんが、前学期に英語演習Gを履修した場合は後学期に英語演習Hを履修することが望ましいです。					
授業方法	実践演習をして解説をします。 毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施します。返却後は復習しておくこと。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		学期末授業内試験を実施します。また毎回、単語テストを行い、総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	開文社		News Gallery 2019		Yoshisada Kinoshita, 他
	備考	なし				
参考書	飛田茂雄（編）『現代英米情報辞典』研究社 参考書は購入する必要はない。適宜、図書館等で参照すること					
オフィスアワー	水曜日16：20-17：50（4号館1階） 連絡先：mizumoto.koji*nihon-u.ac.jp　、「メールする場合は*を@に変えて使って下さい」					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
2	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	'We must become more diverse' and 'break down barriers': Kazuo Ishiguro in Nobel lecture 1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
3	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	'We must become more diverse' and 'break down barriers': Kazuo Ishiguro in Nobel lecture 2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
4	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Finance Ministry admits altering Moritomo land deal docs: Aki'e Abe's name erased 1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）

5	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Finance Ministry admits altering Moritomo land deal docs: Aki'e Abe's name erased 2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
6	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	N. Korea fires suspected ICBM capable of hitting US East Coast 1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
7	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	N. Korea fires suspected ICBM capable of hitting US East Coast 2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
8	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Japan-EU trade pact: a guiding light to counter protectionism 1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
9	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Japan-EU trade pact: a guiding light to counter protectionism 2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
10	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	A-bomb survivor gives powerful speech after anti-nuke treaty adopted at UN 1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
11	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	A-bomb survivor gives powerful speech after anti-nuke treaty adopted at UN 2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
12	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	String of scandals at Kobe Steel raises questions over its compliance 1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
13	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	String of scandals at Kobe Steel raises questions over its compliance 2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
14	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	China's plans for 'new Silk Road' boosting South Asian tensions
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
15	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	復習、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）

科目名	英語演習G	担当者	杉本 桂子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	世界における現代社会の人間活動や精神の基礎となっている西欧のルネサンスから始まる現代までの文明の通時的展開を学ぶ。			
授業目的・到達目標	【授業目的】我々を取り巻く事柄の由来に関心を持ち、現代社会の中で生きる力を養成することを目的とする。 【到達目標】自立した現代人としての教養を身に着けるために、原書を正確に読むことができることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 2， 4， 6			
履修条件	なし			
授業方法	学生には順番に各授業に関連した資料などを参考にしながら予習発表をしてもらう。歴史的事柄や使用されている英単語を暗記してもらい毎回小テストを行い、次の授業で返却する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験			
	平 常 評 価		100%	授業への取り組み方（20％）、毎回の小テスト（30％）、最終テスト（50％）で総合的に判断する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016	金聖堂	Triumphs of Western Civilization	Jhon Ricker Jhon saywell
	備考	授業の進行は下記の計画通りいかない場合があります。		
参 考 書	プリント			
オフィスアワー	火曜日、授業の行われる校舎の講師室にて12時15分～12時35分			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、テキストのイントロダクションを読み、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス。授業の目的、内容を説明する。テキストのイントロダクションの解説、ルネサンスのプリントを配る。
	事後学習	ガイダンスの内容の確認。テキストのnotes(pp.88-89)を読みギリシア・ローマ期 中世期 ルネサンス期の歴史を概観する。（2時間）
2	事前学習	配られたプリント(pp.3-5)The Renaissance:New Values and Ideas を読んで理解してくること。（2時間）
	授業内容	プリント（pp.3-5）The Renaissance:New Values and Ideas 解説並びに内容確認。英語の意味が分からない所の質問を受ける。
	事後学習	プリント（pp.3-5）The Renaissance:New Values and Ideas の復習。小テストに備えること。（2時間）
3	事前学習	プリント（pp.6-8）The Renaissance:Birthplace of the Renaissance を読んで理解してくること。【2時間）
	授業内容	小テスト。プリント（pp.6-8）The Renaissance :Birthplace of the Renaissance 解説並びに内容確認。英語の意味が分からない所の質問を受ける。
	事後学習	プリント（pp.6-8）The Renaissance:Birthplace of the Renaissance の復習。小テストに備えること。【2時間）
4	事前学習	プリント（pp.8-10）The Renaissance:Literature and Learning を読んで理解してくること。（2時間）
	授業内容	小テスト。プリント（pp.8-10）The Renaissance:Literature and Learning 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	プリント（pp.8-10）The Renaissance:Literature and Learning の復習。小テストに備えること。（2時間）

5	事前学習	プリント（p p. 1 0－1 3）The Renaissance:Literature and Learning を読んで理解してくること。（2 時間）
	授業内容	小テスト。プリント（p p. 1 0－1 3）The Renaissance:Literature and Learning 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	プリント（p p. 1 0－1 3）The Renaissance:Literature and Learning の復習。小テストに備えること。（2 時間）
6	事前学習	プリント（p p. 1 3－1 5）The Renaissance:The Arts and Sciences を読んで理解してくること。（2 時間）
	授業内容	小テスト。プリント（p p. 1 3－1 5）The Renaissance:The Arts and Sciences 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	プリント（p p. 1 3－1 5）The Renaissance:The Arts and Sciences の復習。小テストに備えること。（2 時間）
7	事前学習	プリント（p p. 15-18）The Renaissance:The Renaissance in Northern Europe を読んで理解してくること。（2 時間）
	授業内容	小テスト。プリント（p p. 15-18）The Renaissance:The Renaissance in Northern Europe 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	プリント（p p. 15-18）The Renaissance:The Renaissance in Northern Europe の復習。小テストに備えること。（2 時間）
8	事前学習	プリント（p p. 18-20）The Renaissance:The Renaissance in Northern Europe を読んでくこと。（2 時間）
	授業内容	小テスト。プリント（p p. 18-20）The Renaissance:The Renaissance in Northern Europe 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	プリント（p p. 18-20）The Renaissance:The Renaissance in Northern Europe の復習。小テストに備えること。（2 時間）
9	事前学習	プリント（p p. 21-22）The Renaissance:The Renaissance in Northern Europe を読んでくこと。（2 時間）
	授業内容	小テスト。プリント（p p. 21-22）The Renaissance:The Renaissance in Northern Europe 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	プリント（p p. 21-22）The Renaissance:The Renaissance in Northern Europe の復習。小テストに備えること。（2 時間）
10	事前学習	プリント（p p. 27-29）The Protestant Reformation を読んでくこと。（2 時間）
	授業内容	小テスト。プリント（p p. 27-29）The Protestant Reformation 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	プリント（p p. 27-29）The Protestant Reformation の復習。小テストに備えること。（2 時間）
11	事前学習	プリント（pp. 30-32）The Protestant Reformation:The Church on the Defensiveを読んでくこと。（2 時間）
	授業内容	小テスト。プリント（pp. 30-32）The Protestant Reformation:The Church on the Defensive 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	プリント（pp. 30-32）The Protestant Reformation:The Church on the Defensive の復習。小テストに備えること。（2 時間）
12	事前学習	プリント（pp. 32-34）The Protestant Reformation:Luther's Revolt を読んでくこと。（2 時間）
	授業内容	小テスト。プリント（pp. 32-34）The Protestant Reformation:Luther's Revolt 解説並びに内容確認。。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	プリント（pp. 32-34）The Protestant Reformation:Luther's Revolt の復習。小テストに備えること。（2 時間）
13	事前学習	プリント（pp. 35-37）The Protestant Reformation:The Revolt Spreads を読んでくこと。（2 時間）
	授業内容	小テスト。プリント（pp. 35-37）The Protestant Reformation:The Revolt Spreads 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	プリント（pp. 35-37）The Protestant Reformation:The Revolt Spreads の復習。小テストに備えること。（2 時間）
14	事前学習	プリント（pp. 37-38）The Protestant Reformation:The Revolt Spreads を読んでくこと。小テストに備えること。（2 時間）
	授業内容	小テスト。プリント（pp. 37-38）The Protestant Reformation:The Revolt Spreads 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	プリント（pp. 37-38）The Protestant Reformation:The Revolt Spreads の復習。（2 時間）
15	事前学習	前期学んだところの総復習。（2 時間）
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（2 時間）

科目名	英語演習H	担当者	水本 孝二	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「歴史、社会」に関する文献を読んで行きます。英語演習はゼミナール形式で授業を進めます。					
授業目的・到達目標	英語テキストを介して、学生たちが自らものを考えられる力を養成することを目的とし、学生たちが与えられた課題を検討し、意見交換する場を提供できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 2， 4， 6					
履修条件	特にありませんが、前学期に英語演習Gを履修した場合は後学期に英語演習Hを履修することが望ましいです。					
授業方法	実践演習をして解説をします。 毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施します。返却後は復習しておくこと。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		学期末授業内試験を実施します。また毎回、単語テストを行い、総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	開文社		News Gallery 2019		Yoshisada Kinoshita, 他
	備考	なし				
参考書	飛田茂雄（編）『現代英米情報辞典』研究社 参考書は購入する必要はない。適宜、図書館等で参照すること					
オフィスアワー	水曜日16：20-17：50（4号館1階） 連絡先：mizumoto.koji*nihon-u.ac.jp　、「メールする場合は*を@に変えて使って下さい」					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
2	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Emperor Akihito to abdicate on April 30, 2019 1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
3	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Emperor Akihito to abdicate on April 30, 2019 2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
4	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Trump flouts warnings, declares Jerusalem Israel's capital 1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）

5	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Trump flouts warnings, declares Jerusalem Israel's capital 2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
6	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Shogi phenom Fujii expresses happiness, humility after record 29th straight win 1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
7	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Shogi phenom Fujii expresses happiness, humility after record 29th straight win 2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
8	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Japan-based name 'Chibanian' set to represent geologic age 1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
9	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Japan-based name 'Chibanian' set to represent geologic age 2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
10	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	US, allies attacking Syria to stop chemical weapons 1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
11	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	US, allies attacking Syria to stop chemical weapons 2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
12	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Insagram users' quest for perfect snaps boosts economy, but will it last? 1
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
13	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Insagram users' quest for perfect snaps boosts economy, but will it last? 2
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
14	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	Myanmar refugee exodus tops 500,000 as more Rohingya flee
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
15	事前学習	毎回課題を示すので、予習しておくこと（30分）
	授業内容	復習、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）

科目名	英語演習H	担当者	杉本 桂子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	世界における現代社会の人間活動や精神の基礎となっている西欧のルネサンスから始まる現代までの文明の通時的展開を学ぶ。					
授業目的・到達目標	【授業目的】我々を取り巻く事柄の由来に関心を持ち、現代社会の中で生きる力を養成することを目的とする。 【到達目標】自立した現代人としての教養を身に着けるために、原書を正確に読むことができることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 2， 4， 6					
履修条件	なし					
授業方法	学生には順番に各授業に関連した資料などを参考にしながら予習発表をしてもらう。歴史的事柄や使用されている英単語を暗記してもらい毎回小テストを行い、次の授業で返却する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業への取り組み方（20％）、毎回の小テスト（30％）、最終テスト（50％）で総合的に判断する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016	金聖堂		Triumphs of Western Civilization		Jhon Ricker Jhon Saywell
	備考	授業の進行は下記の計画通りいかない場合があります。				
参考書	プリント					
オフィスアワー	火曜日、授業の行われる校舎の講師室にて12時15分～12時35分					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	プリント（pp. 39-40）The Catholic Counter Reformation を読んでくること。（2時間）
	授業内容	プリント（pp. 39-40）The Catholic Counter Reformation 解説並びに内容確認。 英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	プリント（pp. 39-40）The Catholic Counter Reformation の復習。小テストに備えること。（2時間）
2	事前学習	プリント（pp. 41-42）The Catholic Counter Reformation を読んでくること。（2時間）
	授業内容	小テスト。プリント（pp. 41-42）The Catholic Counter Reformation 解説並びに内容確認。 英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	プリント（pp. 41-42）The Catholic Counter Reformation の復習。小テストに備えること。（2時間）
3	事前学習	テキスト(pp. 1-3)Literature and Society:The Reign of classism を読んでくること。（2時間）
	授業内容	小テスト。テキスト(pp. 1-3)Literature and Society:The Reign of classism 解説並びに内容確認。 英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	テキスト(pp. 1-3)Literature and Society:The Reign of classism の復習。小テストに備えること。（2時間）
4	事前学習	テキスト（pp4-5)Literature and Society:The spirit of romanticism を読んでくること。（2時間）
	授業内容	小テスト。テキスト（pp4-5)Literature and Society:The spirit of romanticism 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	テキスト（pp4-5)Literature and Society:The spirit of romanticism の復習。小テストに備えること。（2時間）

5	事前学習	テキスト (pp.6-7)Literature and Society:The spirit of romanticism を読んでくること。(2時間)
	授業内容	小テスト。テキスト (pp.6-7)Literature and Society:The spirit of romanticism 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	テキスト (pp.6-7)Literature and Society:The spirit of romanticism の復習。小テストに備えること。(2時間)
6	事前学習	テキスト (pp.8-9)Literature and Society:The triumph of realism を読んでくること。(2時間)
	授業内容	小テスト。テキスト (pp.8-9)Literature and Society:The triumph of realism 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	テキスト (pp.8-9)Literature and Society:The triumph of realism の復習。小テストに備えること。(2時間)
7	事前学習	テキスト (pp.10-11)Literature and Society:The twentieth-century explosion を読んでくること。(2時間)
	授業内容	小テスト。テキスト (pp10-11)Literature and Society:The twentieth-century explosion 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	テキスト (pp.10-11)Literature and Society:The twentieth-century explosion の復習。小テストに備えること。(2時間)
8	事前学習	テキスト (pp.12-13)Literature and Society:The twentieth-century explosion を読んでくること。(2時間)
	授業内容	小テスト。テキスト (pp.12-13)Literature and Society:The twentieth-century explosion 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	テキスト (pp.12-13)Literature and Society:The twentieth-century explosion の復習。小テストに備えること。(2時間)
9	事前学習	テキスト (pp.14-15)Literature and Society:The twentieth-century explosion を読んでくること。(2時間)
	授業内容	小テスト。テキスト (pp.14-15)Literature and Society:The twentieth-century explosion 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	テキスト (pp.14-15)Literature and Society:The twentieth-century explosion の復習。小テストに備えること。(2時間)
10	事前学習	テキスト (pp.16-18)Masters of Modern Arts(Rembrandt, Watteau) を読んでくること。(2時間)
	授業内容	小テスト。テキスト (pp.16-18)Masters of Modern Arts(Rembrandt, Watteau) 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	テキスト (pp.16-18)Masters of Modern Arts(Rembrandt, Watteau) の復習。小テストに備えること。(2時間)
11	事前学習	テキスト (pp.19-21)Masters of Modern Arts(Turner, Millet, Renoir)を読んでくること。(2時間)
	授業内容	小テスト。テキスト (pp.19-21)Masters of Modern Arts(Turner, Millet, Renoir) 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	テキスト (pp.19-21)Masters of Modern Arts(Turner, Millet, Renoir) の復習。小テストに備えること。(2時間)
12	事前学習	テキスト (pp.22-24)Masters of Modern Arts(Cezanne, Van Gogh)を読んでくること。(2時間)
	授業内容	小テスト。テキスト (pp.22-24)Masters of Modern Arts(Cezanne, Van Gogh) 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	テキスト (pp.22-24)Masters of Modern Arts(Cezanne, Van Gogh) の復習。小テストに備えること。(2時間)
13	事前学習	テキスト (pp.25-27)Masters of Modern Arts(Picasso, Braque)を読んでくること。(2時間)
	授業内容	小テスト。テキスト (pp.25-27)Masters of Modern Arts(Picasso, Braque) 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	テキスト (pp.25-27)Masters of Modern Arts(Picasso, Braque) の復習。小テストに備えること。(2時間)
14	事前学習	テキスト (pp.28-30)Masters of Modern Arts(Mondrian, Vasarely)を読んでくること。(2時間)
	授業内容	小テスト。テキスト (pp.28-30)Masters of Modern Arts(Mondrian, Vasarely) 解説並びに内容確認。英語の意味がわからない所の質問を受ける。
	事後学習	テキスト (pp.28-30)Masters of Modern Arts(Mondrian, Vasarely) の復習。(2時間)
15	事前学習	後期学んだところの総復習。(2時間)
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。授業において関心を持ったテーマを自分で掘り下げ知識を深めていくこと。(2時間)

科目名	英語演習H	担当者	トーマス・ロックリー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------	-----	------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This class will teach you about Britain. Its society, history and culture.				
授業目的・到達目標	This course aims to improve your ability to discuss topics in English. The class will raise quite complex topics in simple ways and help you develop discussion, questioning, reflection and presentation skills. By the end of the course, you should be more confident in your English speaking and thinking skills and have a wider knowledge of Britain . 関連DP／CP：2、4、6				
履修条件	Ability in conversational English above Level II. Regular attendance and preparation are required.				
授業方法	Assessment will be through presentation and feedback will be given through grading textbooks.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	Presentation 40%, Reflection and vocabulary 30%, Participation 30%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016	DTP出版		Britain: Society, History and Culture	Thomas Lockley
	備考				
参考書	2019年 東京書籍「外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」ロックリー・トーマス				
オフィスアワー	9:30-10:30am Thursdays in my office, 1602, or email lockleyta@gmail.com				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Read the syllabus. (30 mins)
	授業内容	Theme: British geography Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
2	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: British History 1 Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
3	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: British History 2 Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
4	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: Britain in the 20th century Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)

5	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: The English Language Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
6	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: British Food Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
7	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: British Society Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
8	事前学習	Prepare text for lesson. (30 mins)
	授業内容	Theme: British Transport Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
9	事前学習	Think about skills necessary in presentations. (30 mins)
	授業内容	Theme: Presentation Skills Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Learn new words and complete reflections. (30 mins)
10	事前学習	Think of topic for presentation. (30 mins)
	授業内容	Theme: Presentations Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Continue research and presentation preparation. (30 mins)
11	事前学習	Continue research and presentation preparation. (30 mins)
	授業内容	Theme: Presentation preparation Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Continue research and presentation preparation. (30 mins)
12	事前学習	Continue research and presentation preparation. (30 mins)
	授業内容	Theme: Presentation preparation Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Continue research and presentation preparation. (30 mins)
13	事前学習	Practice presentation(30 mins)
	授業内容	Theme: Presentation preparation. Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Continue research and presentation preparation
14	事前学習	Practice presentation. (30 mins)
	授業内容	Theme: Presentations Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Practice presentation. (30 mins)
15	事前学習	Practice presentation. (30 mins)
	授業内容	Theme: Assessment Presentations Skills: Reading, writing, listening and speaking in English.
	事後学習	Reflect on semester. (30 mins)

科目名	英検／IELTS I A	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、高等学校までの英文法・語法の知識を総整理し、実用英語技能検定2級の取得を目指します。				
授業目的・到達目標	【授業目的】実用英語技能検定2級取得に必要な基礎力（特に、文法・リーディング・ライティングの基礎力）を養成することを目的としています。 【授業目標】実用英語技能検定2級を取得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5， 6				
履修条件	実用英語技能検定2級を取得していないこと。前期または後期中に1度実用英語検定2級を受験すること。 原則英検/IELTS IBと通年で履修してください。				
授業方法	演習方式。下記の教科書を用いて、高等学校までの英文法・語法の知識を総整理します。また、実用英語技能検定2級の過去問の演習を通して、実践的な得点力を養います。 適宜、小テストを実施し、次の授業以降で返却をします。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）100% 予習をしていない場合は、大幅に減点します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	い い ず な 書 店		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』	い い ず な 書 店 編 集 部
	備考	『ジーニアス英和辞典 第5版』など、大学生向けの英和辞典を必ず毎回持参すること。			
参 考 書	使用しない。				
オフィスアワー	金曜日14:30～授業終了後の講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体像を概観しておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス 事前・事後学習の方法、成績評価等について説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。（30分）
2	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 2～3 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 2～3 の Exercise の解説（動詞と文型（1）（2））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
3	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 13 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 13 の Exercise の解説（不定詞（1））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
4	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 14 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 14 の Exercise の解説（不定詞（2））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）

5	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 15 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 15 の Exercise の解説（不定詞（3））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
6	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 16 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 16 の Exercise の解説（不定詞（4））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
7	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 17 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 17 の Exercise の解説（動名詞（1））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
8	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 18 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 18 の Exercise の解説（動名詞（2））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
9	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 19 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 19 の Exercise の解説（分詞（1））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
10	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 20 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 20 の Exercise の解説（分詞（2））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
11	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 24 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 24 の Exercise の解説（関係詞（1））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
12	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 25 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 25 の Exercise の解説（関係詞（2））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
13	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 26 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 26 の Exercise の解説（関係詞（3））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
14	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 27 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 27 の Exercise の解説（関係詞（4））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
15	事前学習	前期授業内容の総復習。（30分）
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り。
	事後学習	前期の授業内容について、間違えた問題を中心に今一度問題を解き直す。（30分）

科目名	英検／IELTS I A	担当者	鈴木 ふさ子	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英検２級相応の基礎力をつけるため、演習問題を解きながら、文法の復習やリスニングのコツをつかんでいきます。また、ライティングの方法や二次試験の面接の練習などを実践的に行います。			
授業目的・到達目標	授業目的】英検2級合格（高校卒業程度の英語力）に必要な単語力、リーディング、文法、リスニングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】高校卒業程度の英語力を身に付け、英検2級に合格できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域5，6			
履修条件	１．指定された範囲の予習・課題を行うこと ２．やる気があること ３．英検２級を受験すること			
授業方法	毎回指定範囲の小テスト、リスニング、ライティングの解説、授業内にテキストを使い、リスニングや文法を中心に勉強をする。英検の試験日程に合わせ、模擬試験、面接対策を行う。その他、映画や洋楽の聞き取りなども適宜行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	平常評価（受賞参加度、小テスト、授業内復習テスト、英検受験の有無と結果）100%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	金星堂	『英検２級マスターコース』	Hiromi Imamura
	2012年	旺文社	『英検２級 出る順パス単』	
	備考			
参 考 書	『英検2級全問題集』（旺文社）授業では使用しないので自宅用として活用すること。			
オフィスアワー	授業終了後（火曜17：50～）に対応する。事前に質問内容や相談内容を伝え、アポイントメントを取ること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を把握する。英検2級がどのようなテストなのかWEBサイト等で調べておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、英検2級の概要を説明する。
	事後学習	英検2級についてWEBサイト等で調べ、各パートの問題形式を頭に入れる。 ガイダンスのおさらいをする。（30分）
2	事前学習	英検２級のテスト形式を把握し、それぞれのパートの問題を解いてみる。（30分）
	授業内容	英検２級の概要と特徴を簡潔に説明する。 模擬試験（過去問）を受け、合格点に達するか現時点での実力を見極める。
	事後学習	どこが自分の弱点かをチェックする。頻出単語の暗記をする。（30分）
3	事前学習	模擬試験の結果を踏まえて今後どのように学習するべきか計画を立てる。（30分）
	授業内容	今後の学習法、目標を考える。基本単語のチェック、基本文法のチェックを行う。
	事後学習	間違った箇所を解き直す。自分に合った参考書や問題集を選び、具体的な計画を立てる。基本単語チェックで間違えた単語を覚え、基本文法で間違えた文法事項を復習する。（30分）
4	事前学習	小テストの該当範囲の単語を覚える。WEBサイトや対策本で英検2級のReading問題の傾向を把握する。（30分）
	授業内容	小テスト、Lesson 1 のReadingの演習問題（16-18頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	Lesson 1 のReadingの演習問題の間違った問題を解き直す。英文を訳す。問題を解く際にわからなかった単語の用例を調べ、覚える。小テストでできなかった単語の復習おする。（45分）

5	事前学習	小テストの該当範囲の単語を覚える。WEBサイトや対策本で英検２級のListening問題の傾向を把握する。（30分）
	授業内容	小テスト、Lesson１のListeningの第１部、第２部の演習問題（19頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する
	事後学習	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。問題を解いた際に知らなかった単語の用例を調べ、覚える。小テストでできなかった単語の復習をする。（45分）
6	事前学習	小テストの該当範囲の単語を覚える。（30分）
	授業内容	小テスト、Lesson２のReadingの演習問題（20-23頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	Lesson2のReadingの演習問題の間違った問題を解き直す。英文を訳す。問題を解く際にわからなかった単語の用例を調べ、覚える。小テストでできなかった単語の復習をする。（1時間）
7	事前学習	小テストの該当範囲の単語を覚える。Writingの過去問をWEBサイトや対策本などで調べる。（30分）
	授業内容	小テスト、Lesson２のWritingの問題（20頁）を解く。Writingの書き方とポイントを解説する。
	事後学習	論理的な英文の書き方（introduction/ Body(reasons&examples)/ Conclusion）を復習する。（45分）
8	事前学習	小テストの該当範囲の単語を覚える。時間をはかって過去問の各パートを部分的に解く。（30分）
	授業内容	一次試験直前の模擬テスト（過去問題）を実施し、解説を行う。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。自分の苦手な分野と得意な分野を分析し、本番の対策を練る。小テストでできなかった単語の復習をする。（30分）
9	事前学習	小テスト該当範囲の単語を覚える。（30分）
	授業内容	小テスト、Lesson２のListeningの第１部、第２部の演習問題（25頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。問題を解いた際に知らなかった単語の用例を調べ、覚える。小テストでできなかった単語の復習をする。（45分）
10	事前学習	小テスト該当範囲の単語を覚える。（30分）
	授業内容	小テスト、Lesson３のReadingの演習問題（26-29頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	Lesson３のReadingの演習問題の間違った問題を解き直す。英文を訳す。問題を解く際にわからなかった単語の用例を調べ、覚える。小テストでできなかった単語の復習をする。（1時間）
11	事前学習	小テスト該当範囲の単語を覚える。（30分）
	授業内容	小テスト、Lesson３のListeningの第１部、第２部の演習問題（30頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。問題を解いた際に知らなかった単語の用例を調べ、覚える。小テストでできなかった単語の復習をする。（45分）
12	事前学習	小テスト該当範囲の単語を覚える。二次面接がどのような問題なのかをWEBサイト等で調べる。（30分）
	授業内容	小テスト英検２次（面接）対策（１）面接試験の注意事項、Passageの音読のコツと質問への答え方とコツを身に着け、ペアを組んで実習する。
	事後学習	Passageを読む際に発音できなかった単語の発音を調べる。intonation, pause, speedに注意しながらPassageを読む。小テストでできなかった単語を覚える。（45分）
13	事前学習	小テスト該当範囲の単語を覚える。過去問のPassageの音読と質問に対する答えを考えてくる。（30分）
	授業内容	小テスト、英検２次（面接）対策（２）3コマの絵の描写の方法とコツを身に着け、ペアを組んで実習する。
	事後学習	日常の動作やよく使うものを英語で説明してみる。小テストでできなかった単語を覚える。（45分）
14	事前学習	小テストの該当範囲の単語を覚える。新聞を読み、社会問題について自分なりの意見を持つようにし、それを英語で平易に表現してみる。（30分）
	授業内容	小テスト、英検２次（面接）対策（３）時事問題に対して自分の意見を英語で表現するためのコツを身に着け、ペアを組んで実習する。
	事後学習	様々な時事問題に対する自分の意見を英語で口に出してみる。小テストでできなかった単語を覚える。（45分）
15	事前学習	前期に学んだこと、テキストの総復習をする。（2時間）
	授業内容	前期の総復習のための授業内テストと解説、前期学習内容の振り返り、英検2級の問題の回答方法を理解する。
	事後学習	前期に学んだところを総復習する。（1時間）

科目名	英検／IELTS I A	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英検2級・準1級やIELTS、公務員試験取得に向けての4スキルの基礎力充実をベースに英語の言語運用能力養成をします。					
授業目的・到達目標	英検やIELTSの合格やスコア向上の為に英語4技能向上のタスクに触れ、速読力を養成することを主な目的として基礎を固め、二次試験対策も行っていきます。 また、英検2級・準1級に合格できることを目標とします。 対応DP及びCP:外国語科目領域5,6					
履修条件	目的意識を持ち、英検を受験する姿勢が望まれます。(一次試験筆記、二次試験面接まで)受験料は自己負担です。 ペーパーによる授業実践が多いので、履修者同士でのコミュニケーションを図れることが必要とされます。					
授業方法	実践的に筆記や短文の語句空所、長文の語句空所補充、内容一致選択、リスニング、 会話の応答文選択問題に慣れます。 フィードバックは授業中に行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		(単語テスト+資格試験結果+前期試験+課題提出等) 総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	金星堂		英検2級マスターコース		Hiromi Imamura 他
	2018	桐原書店		DataBase4500 第5版		
	2018	旺文社		2018年度版 英検二級 過去6回全問題集		
	備考					
参考書	使用しませんが、英和辞書は必携です。					
オフィスアワー	授業に関する質問やご相談等は、授業講堂で、授業前又は終了後（火曜16：10～18：00）に対応させていただきます。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、確認の上授業に臨む。(30分)
	授業内容	ガイダンス（授業内容・方針・英検等についての説明を聞く） ミニテスト実施内容の筆記試験 43 分、リスニングテスト 12 分の計 55 分で解答し、問題形式に慣れる。
	事後学習	ミニテストの間違った箇所を確認し、解きなおす。 ガイダンスのおさらいをし、英検の概要について、Webサイトで調べてみる。
2	事前学習	テキストを購入し、毎回実施される英単熟語「DataBase 4500」のlevel 1 の音読、暗記の準備をする。(30分)
	授業内容	ミニテスト一次試験の解説を聞き、各自の弱点部分の客観的な分析、把握をし、戦略的に計画を立てる。 英単熟語テストLevel 1 を解答する。
	事後学習	ミニテスト、英単熟語テストLevel 1 の間違えた箇所を確認し、解きなおす。(30分)
3	事前学習	テキストのUnit1の問題を解いてくる。 英単熟語level 1 の音読、暗記の準備をする。(30分)
	授業内容	Unit 1の語彙、基礎文法、長文の空所補充問題等の読解、ライティング、会話や英文のリスニング問題を理解する。 英単熟語テストlevel 1を解答する。
	事後学習	Unit 1、英単熟語テストLevel 1の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
4	事前学習	テキストのUnit2の問題を解いてくる。 英単熟語level 1 の音読、暗記の準備をする。(30分)
	授業内容	Unit 2の語彙、基礎文法、長文の空所補充問題等の読解、ライティング、会話や英文のリスニング問題を理解する。 英単熟語テストlevel 2を解答する。
	事後学習	Unit 2、英単熟語テストLevel 2の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)

5	事前学習	テキストのUnit3の問題を解いてくる。 英単熟語level 2の音読、暗記の準備をする。 (30分)
	授業内容	Unit 3の語彙、基礎文法、長文の空所補充問題等の読解、ライティング、会話や英文のリスニング問題を理解する。 英単熟語テストlevel 2を解答する。
	事後学習	Unit 3、英単熟語テストLevel 2の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
6	事前学習	テキストのUnit4の問題を解いてくる。 英単熟語level 3の音読、暗記の準備をする。 (30分)
	授業内容	Unit 4の語彙、基礎文法、長文の空所補充問題等の読解、ライティング、会話や英文のリスニング問題を理解する。 英単熟語テストlevel 3を解答する。
	事後学習	Unit 4、英単熟語テストLevel 3の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
7	事前学習	テキストのUnit5の問題を解いてくる。 英単熟語level 3の音読、暗記の準備をする。 (30分)
	授業内容	Unit 5の語彙、基礎文法、長文の空所補充問題等の読解、ライティング、会話や英文のリスニング問題を理解する。 英単熟語テストlevel 3を解答する。
	事後学習	Unit 5、英単熟語テストLevel 3の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
8	事前学習	テキストのUnit6の問題を解いてくる。 英単熟語level 4の音読、暗記の準備をする。 (30分)
	授業内容	Unit 6 の語彙、基礎文法、長文の空所補充問題等の読解、ライティング、会話や英文のリスニング問題を理解する。 英単熟語テストlevel 4を解答する。
	事後学習	Unit 6、英単熟語テストLevel 4の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
9	事前学習	テキストのUnit7の問題を解いてくる。 英単熟語level 4の音読、暗記の準備をする。 (30分)
	授業内容	Unit 7の語彙、基礎文法、長文の空所補充問題等の読解、ライティング、会話や英文のリスニング問題を理解する。 英単熟語テストlevel 4を解答する。
	事後学習	Unit 7、英単熟語テストLevel 4の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
10	事前学習	テキストのUnit8の問題を解いてくる。 英単熟語level 5の音読、暗記の準備をする。 (30分)
	授業内容	Unit 8の語彙、基礎文法、長文の空所補充問題等の読解、ライティング、会話や英文のリスニング問題を理解する。 英単熟語テストlevel 5を解答する。
	事後学習	Unit 8、英単熟語テストLevel 5の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
11	事前学習	テキストの二次試験面接テストサンプルのカード A問題を練習してくる。 英単熟語level 5の音読、暗記の準備をする。 (30分)
	授業内容	二次面接テスト合格のポイントを理解し、練習し、習得する。 英単熟語テストlevel 5を解答する。
	事後学習	英単熟語テストLevel 5の間違った箇所を確認し、解きなおす。面接テストサンプルのカードのシャドウイング練習をする。(30分)
12	事前学習	テキストの二次試験面接テストサンプルのカード B問題を練習してくる。 英単熟語level 6の音読、暗記の準備をする。 (30分)
	授業内容	英二次面接テスト合格のポイントを理解し、練習し、習得する。 単熟語テストlevel 6を解答する。
	事後学習	英単熟語テストLevel 6の間違った箇所を確認し、解きなおす。面接テストサンプルのカードのシャドウイング練習をする。(30分)
13	事前学習	テキストの二次試験面接テストサンプルのカード C問題を練習してくる。 英単熟語level 6の音読、暗記の準備をする。 (30分)
	授業内容	二次面接テスト合格のポイントを理解し、習得する。 英単熟語テストlevel 6を解答する。
	事後学習	英単熟語テストLevel 6の間違った箇所を確認し、解きなおす。面接テストサンプルのカードのシャドウイング練習をする(30分)
14	事前学習	英単熟語level 1~6のまとめのテストの準備をする。 (30分)
	授業内容	英単熟語level 1~6のまとめのテストを解答する。解説を聞いて間違えた箇所をチェックし、確認する。
	事後学習	英単熟語level 1~6のまとめのテスト間違えた箇所の問題を解きなおす。(30分)
15	事前学習	テキストのUnit1~unit8までの復習をする。 (30分)
	授業内容	前期授業内試験と解説、前期学習内容のまとめをする。
	事後学習	前期授業学習内容を確認する。 (30分)

科目名	英検／IELTS I A	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英検のための基礎固め、そして実践的な対策をする。講師は、東進ハイスクール初代英語講師、旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送）、日本実用英語検定協会英検セミナー講師、オレゴン州立大学語学研修引率（アクト・コーポレーション主催）などの実務経験を生かした授業を展開する。			
授業目的・到達目標	【授業目的】英検対策に必要なリーディング、語彙力、文法の基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】受講生は、1100 Words You Need to Know、およびBasic Word Listの単語をすべて覚え、1分間で200語程度読めるようになることを目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域5,6			
履修条件	将来的に英語が人生の重要な要素となることを自覚すること。講師の他の英検の授業とあわせて履修しないこと。原則、Bと通年で履修すること。前期のみ、後期のみの履修をしないこと。			
授業方法	演習方式。毎時間リーディング・テストと単語テストを実施し、次の授業で返却を行う。テストの得点は加算され、順位を出す。また授業計画に変更が生じた場合には、そのつどプリントないしは口頭にて受講生に知らせる。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	諸テストの得点を加算して順位を出して評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	Barron	Basic Word List	Brownstein
	備考	1100 Words You Need to Knowはプリントを使用		
参考書	リーダーズ英和辞典			
オフィスアワー	水曜日、お昼休み、9107研究室にて（事前にメールで予約をとること）、英語全般、留学、海外の大学院進学などの相談を受け付ける。メールにての相談は随時受け付ける。morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス記載事項の熟読（30分）
	授業内容	Introduction、シラバス記載事項の確認、その他評価方法、シラバスに記載できなかった授業受講上の注意について説明する
	事後学習	配布されたプリントを熟読する（30分）
2	事前学習	二つのテキストの単語ノートを作成し、単語を覚える。下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	Basic Word List(以下BWLと表記する)、v-xvi、3-10、1100 Words、Week 1、所有格について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
3	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL、11-20、1100 Words、Week 2、接続詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
4	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL、21-30、1100 Words、Week 3、挿入について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）

5	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 31-40、1100 Words, Week 4、独立節について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
6	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 41-50、1100 Words, Week 5、句読法について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
7	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 51-60、1100 Words, Week 6、数について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
8	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 61-70、1100 Words, Week 7、代名詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
9	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 71-80、1100 Words, Week 8、分詞構文について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
10	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 81-90、1100 Words, Week 9、英作文について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
11	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 91-100、1100 Words, Week 10、能動態と受動態について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
12	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 101-110、1100 Words, Week 11、否定表現について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
13	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 111-120、1100 Words, Week 12、無駄な語を削ることについて
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
14	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 121-130、1100 Words, Week 13、散列文について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
15	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 131-140、1100 Words, Week 14、文法の復習
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）

科目名	英検／IELTS I B	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、高等学校までの英文法・語法の知識を総整理し、実用英語技能検定2級の取得を目指します。			
授業目的・到達目標	【授業目的】実用英語技能検定2級取得に必要な基礎力（特に、文法・リーディング・ライティングの基礎力）を養成することを目的としています。 【授業目標】実用英語技能検定2級を取得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5， 6			
履修条件	実用英語技能検定2級を取得していないこと。前期または後期中に1度実用英語検定2級を受験すること。 原則英検/IELTS IAと通年で履修してください。			
授業方法	演習方式。下記の教科書を用いて、高等学校までの英文法・語法の知識を総整理します。また、実用英語技能検定2級の過去問の演習を通して、実践的な得点力を養います。 適宜、小テストを実施し、次の授業以降で返却をします。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）100% 予習をしていない場合は、大幅に減点します。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	いいずな書店	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』	いいずな書店編集部
	備考	『ジーニアス英和辞典 第5版』など、大学生向けの英和辞典を必ず毎回持参すること。		
参考書	使用しない。			
オフィスアワー	金曜日14:30～授業終了後の講堂にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体像を概観しておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス 事前・事後学習の方法、成績評価等について説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。（30分）
2	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 44 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 44 の Exercise の解説（前置詞（1））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
3	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 45 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 45 の Exercise の解説（前置詞（2））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
4	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 46 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 46 の Exercise の解説（接続詞（1））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）

5	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 47 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 47 の Exercise の解説（接続詞（2））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
6	事前学習	最新の実用英語検定2級の過去問（文法部分）を解いておく。（30分）
	授業内容	最新の実用英語検定2級の過去問（文法部分）の解説。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
7	事前学習	最新の実用英語検定2級の過去問（長文部分）を解いておく。（30分）
	授業内容	最新の実用英語検定2級の過去問（長文部分）の解説。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
8	事前学習	最新の実用英語検定2級の過去問（作文部分）を解いておく。（30分）
	授業内容	最新の実用英語検定2級の過去問（作文部分）の解説。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
9	事前学習	最新の実用英語検定2級の過去問（リスニング部分）を解いておく。（30分）
	授業内容	最新の実用英語検定2級の過去問（リスニング部分）の解説。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
10	事前学習	平成30年度の実用英語検定2級の過去問（文法部分）を解いておく。（30分）
	授業内容	平成30年度の実用英語検定2級の過去問（文法部分）の解説。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
11	事前学習	平成30年度の実用英語検定2級の過去問（長文部分）を解いておく。（30分）
	授業内容	平成30年度の実用英語検定2級の過去問（長文部分）の解説。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
12	事前学習	平成30年度の実用英語検定2級の過去問（作文部分）を解いておく。（30分）
	授業内容	平成30年度の実用英語検定2級の過去問（作文部分）の解説。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
13	事前学習	平成30年度の実用英語検定2級の過去問（リスニング部分）を解いておく。（30分）
	授業内容	平成30年度の実用英語検定2級の過去問（リスニング部分）の解説。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
14	事前学習	最新の実用英語検定2級の過去問（面接部分）を解いておく。（30分）
	授業内容	最新の実用英語検定2級の過去問（面接部分）の解説。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
15	事前学習	後期授業内容の総復習。（30分）
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り。
	事後学習	後期の授業内容について、間違えた問題を中心に今一度問題を解き直す。（30分）

科目名	英検／IELTS I B	担当者	鈴木 ふさ子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英検２級相応の基礎力をつけるため、演習問題を解きながら、文法の復習やリスニングのコツをつかんでいきます。また、ライティングの方法や二次試験の面接の練習などを実践的に行います。					
授業目的・到達目標	授業目的】英検2級合格（高校卒業程度の英語力）に必要な単語力、リーディング、文法、リスニングの基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】高校卒業程度の英語力を身に付け、英検2級に合格できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域5，6					
履修条件	１．指定された範囲の予習・課題を行うこと ２．やる気があること ３．英検２級を受験すること					
授業方法	毎回指定範囲の小テスト、リスニング、ライティングの解説、授業内にテキストを使い、リスニングや文法を中心に勉強をする。英検の試験日程に合わせ、模擬試験、面接対策を行う。その他、映画や洋楽の聞き取りなども適宜行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（受賞参加度、小テスト、授業内復習テスト、英検受験の有無と結果）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018年	金星堂		『英検２級マスターコース』		Hiromi Imamura
	2012年	旺文社		『英検２級 出る順パス単』		
	備考					
参考書	『英検2級全問題集』（旺文社）授業では使用しないので自宅用として活用すること。					
オフィスアワー	授業終了後（火曜17：50～）に対応する。事前に質問内容や相談内容を伝え、アポイントメントを取ること。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期に学習したことを思い出し、テキストのLesson1から4までの問題を解く。前期までの単語の小テスト範囲をチェックし、忘れた単語を覚える。英検２級の過去問を見直す。（30分）
	授業内容	ガイダンス 後期の授業の進め方を説明する。前期の反省点と対策を考える。
	事後学習	ガイダンスを振り返り、後期の学習計画を立てる。（30分）
2	事前学習	小テストの該当範囲の単語を覚える。前期に学んだ英検の特徴を復習する。（30分）
	授業内容	小テスト、Lesson4のReadingの演習問題（31-34頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	Lesson4のReadingの演習問題の間違った問題を解き直す。英文を訳す。問題を解く際にわからなかった単語の用例を調べ、覚える。小テストでできなかった単語の復習おする。（1時間）
3	事前学習	小テストの該当範囲の単語を覚える。Lesson4のWritingのテーマ（35頁）で英文を書く。（1時間）
	授業内容	小テスト、Lesson4のWritingについて解説。Lesson4のLisiteningの演習問題（36頁）を解き、解説をする。
	事後学習	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。問題を解いた際に知らなかった単語の用例を調べ、覚える。Writingで間違えた文章を書き直す。小テストでできなかった単語の復習をする。（1時間）
4	事前学習	小テストの該当範囲の単語を覚える。Lesson5のReadingの問題（37-39頁）を解く。（1時間）
	授業内容	小テスト、Lesson5のReadingの演習問題の解説、Lesson5のLiestening問題（40頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解く。
	事後学習	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。Readingの英文を訳す。問題を解いた際に知らなかった単語の用例を調べ、覚える。小テストでできなかった単語の復習をする。（1時間）

5	事前学習	小テストの該当範囲の単語を覚える。Lesson 6 のReadingの問題（41-44頁）を解く。（1時間）
	授業内容	小テスト、Lesson 6 のReadingの演習問題の解説、Lesson 6 のLiestening問題（46頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解く。
	事後学習	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。Readingの英文を訳す。問題を解いた際に知らなかった単語の用例を調べ、覚える。小テストでできなかった単語の復習をする。（1時間30分）
6	事前学習	小テストの該当範囲の単語を覚える。Lesson 6 のWritingのテーマ（45頁）で英文を書く。（1時間）
	授業内容	小テスト、Lesson 6 のWritingの書き方、簡潔で正しい英語を書く方法を身に着け、過去問のテーマで英文を書く。
	事後学習	Writingで間違えた文章を書き直す。小テストでできなかった単語の復習をする。（45分）
7	事前学習	小テストの該当範囲の単語を覚える。Lesson 7 のReadingの問題（47-50頁）を解く。（1時間）
	授業内容	小テスト、Lesson 7 のReadingの演習問題の解説、Lesson 7 のLiestening問題（51頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解く。
	事後学習	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。Readingの英文を訳す。問題を解いた際に知らなかった単語の用例を調べ、覚える。小テストでできなかった単語の復習をする。（1時間）
8	事前学習	小テストの該当範囲の単語を覚える。Lesson 8 のReadingの問題（52-55頁）を解く。（1時間）
	授業内容	小テスト、Lesson 8 のReadingの演習問題の解説、Lesson 8 のLiestening問題（57頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解く
	事後学習	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。Readingの英文を訳す。問題を解いた際に知らなかった単語の用例を調べ、覚える。小テストでできなかった単語の復習をする。（1時間）
9	事前学習	小テストの該当範囲の単語を覚える。Lesson 8 のWritingのテーマ（56頁）で英文を書く。（1時間）
	授業内容	小テスト、Lesson 6 のWritingの書き方、論理的な英語を書く方法を身に着け、過去問のテーマで英文を書く。
	事後学習	Writingで間違えた文章を書き直す。時事問題のトピックでまとまった英文を書く。小テストでできなかった単語の復習をする。（1時間）
10	事前学習	小テストの該当範囲の単語を覚える。英検 2 級の問題の傾向と対策を考える。（40分）
	授業内容	総括的に時間配分や傾向への対策を身に着けた上でテキストの実践問題（58-76頁）を解く。解説を聞き、自分のできなかった問題の解き方を身に着ける。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。小テストで間違えた単語を覚える。（40分）
11	事前学習	小テスト該当範囲の単語を覚える。二次面接の過去問を対策本やWEBサイト等で調べる。（30分）
	授業内容	小テスト英検 2 次（面接）対策（1）面接試験の注意事項、Passageの音読のコツと質問への答え方とコツを身に着け、ペアを組んで実習する。
	事後学習	Passageを読む際に発音できなかった単語の発音を調べる。intonation, pause, speedに注意しながらPassageを読む。小テストでできなかった単語を覚える。（45分）
12	事前学習	小テスト該当範囲の単語を覚える。過去問のPassageの音読と質問に対する答えを考えてくる。（30分）
	授業内容	小テスト、英検 2 次（面接）対策（2）3コマの絵の描写の方法とコツを身に着け、ペアを組んで実習する。
	事後学習	日常の動作やよく使うものを英語で説明してみる。小テストでできなかった単語を覚える。（45分）
13	事前学習	小テストの該当範囲の単語を覚える。新聞を読み、社会問題について自分なりの意見を持つようにし、それを英語で平易に表現してみる。（45分）
	授業内容	小テスト、英検 2 次（面接）対策（3）時事問題に対して自分の意見を英語で表現するためのコツを身に着け、ペアを組んで実習する。
	事後学習	様々な時事問題に対する自分の意見を英語で口に出してみる。小テストでできなかった単語を覚える。（45分）
14	事前学習	後期で学習したことを復習し、Listening, Reading, Writingそれぞれの注意点を頭に入れる。（30分）
	授業内容	実力テスト（過去問）の実施と解説。後期に学習したことに気をつけて問題を解けるようにする。
	事後学習	間違った問題を解き直し、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。自分の苦手な分野と得意な分野を分析し、今後の対策を考える。（30分）
15	事前学習	後期に学んだこと、テキストの総復習をする。（2時間）
	授業内容	後期の総復習のための授業内テストと解説、後期学習内容の振り返り。
	事後学習	後期に学んだところを総復習する。（1時間）

科目名	英検／IELTS I B	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英検2級・準1級やIELTS、公務員試験取得に向けての4スキルの基礎力充実をベースに英語の言語運用能力養成をします。					
授業目的・到達目標	英検やIELTSの合格やスコア向上の為に英語4技能向上のタスクに触れ、速読力を養成することを主な目的として基礎を固め、二次試験対策も行っていきます。 また、英検2級・準1級に合格できることを目標とします。 対応DP及びCP:外国語科目領域5,6					
履修条件	目的意識を持ち、英検を受験する姿勢が望まれます。(一次試験筆記、二次試験面接まで)受験料は自己負担です。 ペアによる授業実践が多いので、履修者同士でのコミュニケーションを図れることが必要とされます。					
授業方法	実践的に筆記や短文の語句空所、長文の語句空所補充、内容一致選択、リスニング、 会話の応答文選択問題に慣れます。 フィードバックは授業中に行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		(単語テスト+資格試験結果+後期試験+課題提出) 総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
		金星堂		『English Sounds, English Minds』		杉森幹彦
	2018	Japan Times		『出る順で最短合格 英検準一級英単熟語EX』		
	備考					
参考書	使用しませんが、英和辞書は必携です。					
オフィスアワー	授業に関する質問やご相談等は、授業講堂で、授業前又は終了後（火曜16：10～18：00）に対応させていただきます。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、確認の上授業に臨む。(30分)
	授業内容	ガイダンス（授業内容・方針・英検等についての説明を聞く） 過去問試験1実施及び解説を聞く。
	事後学習	過去問試験1の間違った箇所を確認し、解きなおす。
2	事前学習	テキストを購入し、毎回実施される英単熟語「出る順で最短合格 英検準一級英単熟語EX」のUnit1 #1～#216 のCDを聞き音読、暗記の準備をする。(30分)
	授業内容	過去問試験2実施及び解説を聞き、各自の弱点部分の客観的把握をする。 英単熟語「出る順で最短合格 英検準一級英単熟語EX」のUnit1のテストをする。
	事後学習	過去問試験2、英単熟語テストUnit1の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
3	事前学習	英単熟語 Unit2 #217～#432 のCDを聞き音読、暗記の準備をする。例文を速読速聴しつつシャドウイングしながら、各単語、熟語及び構文を覚える。(30分)
	授業内容	過去問試験3実施及び解説を聞き、各自の弱点部分の客観的把握をする。 英単熟語Unit2のテストをする。
	事後学習	過去問試験3、英単熟語テストUnit2の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
4	事前学習	英単熟語Unit3#433～648のCDを聞き音読、暗記の準備をする。例文を速読速聴しつつシャドウイングしながら、各単語、熟語及び構文を覚える。(30分)
	授業内容	テキストのUnit 1&2 英語のアクセント（単語） 英語のリズム（内容語と機能語）の内容把握と実践的な問題にあたり、理解する。 英単熟語Unit3のテストをする。
	事後学習	テキストのUnit 1&2 英語のアクセント（単語） 英語のリズム（内容語と機能語）のスク립トを音読する。英単熟語テストUnit3の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)

5	事前学習	英単熟語Unit4のCDを聞き音読、暗記の準備をする。例文を速読速聴しつつシャドウイングしながら、各単語、熟語及び構文を覚える。(30分)
	授業内容	テキストのUnit 3&4 紛らわしい母音の内容把握と実践的な問題にあたり、理解する。 英単熟語Unit4のテストをする。
	事後学習	テキストのUnit 3&4 紛らわしい母音のスク립トを音読する。英単熟語テストUnit4の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
6	事前学習	英単熟語Unit5のCDを聞き音読、暗記の準備をする。例文を例文を速読速聴しつつシャドウイングしながら、各単語、熟語及び構文を覚える。(30分)
	授業内容	テキストのUnit 5 紛らわしい子音 Unit 6 紛らわしい子音 (2)の内容把握と実践的な問題にあたり、理解する。 英単熟語Unit5のテストをする。
	事後学習	テキストのUnit 5 紛らわしい子音 Unit 6 紛らわしい子音 (2)のスク립トを音読する。英単熟語テストUnit5の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
7	事前学習	英単熟語Unit6のCDを聞き音読、暗記の準備をする。例文を例文を速読速聴しつつシャドウイングしながら、各単語、熟語及び構文を覚える。(30分)
	授業内容	テキストのUnit 7 紛らわしい子音 (3)と半母音 Unit 8 つながって聞こえる音の内容把握と実践的な問題にあたり、理解する。 英単熟語Unit6のテストをする。
	事後学習	テキストのUnit 7 紛らわしい子音 (3)と半母音 Unit 8 つながって聞こえる音のスク립トを音読する。英単熟語テストUnit6の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
8	事前学習	英単熟語Unit7のCDを聞き音読、暗記の準備をする。例文を速読速聴しつつシャドウイングしながら、各単語、熟語及び構文を覚える。英検模擬面接手順配布資料を読む。(30分)
	授業内容	英検二次面接テスト合格のポイントを理解し、練習し、習得する。 英単熟語Unit7のテストをする。
	事後学習	面接テスト過去問カードのシャドウイング練習をする。英単熟語テストUnit7の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
9	事前学習	英単熟語Unit8のCDを聞き音読、暗記の準備をする。例文を速読速聴しつつシャドウイングしながら、各単語、熟語及び構文を覚える。(30分)
	授業内容	英検二次面接テスト合格のポイントを理解し、練習し、習得する。 英単熟語Unit8のテストをする。
	事後学習	面接テスト過去問カードのシャドウイング練習をする。英単熟語テストUnit8の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
10	事前学習	英単熟語Unit9のCDを聞き音読、暗記の準備をする。例文を速読速聴しつつシャドウイングしながら、各単語、熟語及び構文を覚える。(30分)
	授業内容	テキストのUnit9 変化して聞こえる音 (同化) Unit 10 聞こえなくなる音 (1) 単語間の脱落の内容把握と実践的な問題にあたり、理解する。 英単熟語Unit10のテストをする。
	事後学習	テキストのUnit9 変化して聞こえる音 (同化) Unit 10 聞こえなくなる音 (1) 単語間の脱落のスク립トのスク립トを音読する。英単熟語テストUnit9の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
11	事前学習	英単熟語Unit10のCDを聞き音読、暗記の準備をする。例文を速読速聴しつつシャドウイングしながら、各単語、熟語及び構文を覚える。(30分)
	授業内容	テキストのUnit 11 聞こえなくなる音 (2) 単語内の脱落・短縮形 Unit 12 英語のイントネーションの内容把握と実践的な問題にあたり、理解する。 英単熟語Unit10のテストをする。
	事後学習	テキストのUnit 11 聞こえなくなる音 (2) 単語内の脱落・短縮形 Unit 12 英語のイントネーションのスク립トを音読する。英単熟語テストUnit10の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
12	事前学習	テキストのUnit 13 英語のイントネーションの内容把握をし、問題を解く。(30分)
	授業内容	テキストのUnit 13 英語のイントネーションの内容把握と実践的な問題にあたり、理解する。
	事後学習	テキストのUnit 13 英語のイントネーションのスク립トを音読する。(30分)
13	事前学習	テキストのUnit 14 World Englishes スクリプト内容把握をし、問題を解く。(30分)
	授業内容	テキストのUnit 14 World Englishes の内容把握と実践的な問題にあたり、理解する。
	事後学習	テキストのUnit 14 World Englishes のスク립トを音読する。(30分)
14	事前学習	テキストのUnit 15 数量表現スク립ト内容把握をし、問題を解く。(30分)
	授業内容	テキストのUnit 15 数量表現の内容把握と実践的な問題にあたり、理解する。
	事後学習	テキストのUnit 15 数量表現のスク립トを音読する。(30分)
15	事前学習	テキストのUnit1~unit15までの復習をする。(30分)
	授業内容	後期授業内試験と解説、前期学習内容のまとめをする。
	事後学習	後期授業学習内容を確認する。(30分)

科目名	英検／IELTS I B	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英検のための基礎固め、そして実践的な対策をする。講師は、東進ハイスクール初代英語講師、旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送）、日本実用英語検定協会英検セミナー講師、オレゴン州立大学語学研修引率（アクト・コーポレーション主催）などの実務経験を生かした授業を展開する。			
授業目的・到達目標	【授業目的】英検対策に必要なリーディング、語彙力、文法の基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】受講生は、1100 Words You Need to Know、およびBasic Word Listの単語をすべて覚え、1分間で200語程度読めるようになることを目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域5,6			
履修条件	将来的に英語が人生の重要な要素となることを自覚すること。講師の他の英検の授業とあわせて履修しないこと。原則、Aと通年で履修すること。前期のみ、後期のみの履修をしないこと。			
授業方法	演習方式。毎時間リーディング・テストと単語テストを実施し、次の授業で返却を行う。テストの得点は加算され、順位を出す。また授業計画に変更が生じた場合には、そのつどプリントないしは口頭にて受講生に知らせる。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	諸テストの得点を加算して順位を出して評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	Barron	Basic Word List	Brownstein
	備考	1100 Words You Need to Knowはプリントを使用		
参考書	リーダーズ英和辞典			
オフィスアワー	水曜日、お昼休み、9107研究室にて（事前にメールで予約をとること）、英語全般、留学、海外の大学院進学などの相談を受け付ける。メールにての相談は随時受け付ける。morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス記載事項の熟読（30分）
	授業内容	Introduction、シラバス記載事項の確認、その他評価方法、シラバスに記載できなかった授業受講上の注意について説明する
	事後学習	配布されたプリントを熟読する（30分）
2	事前学習	二つのテキストの単語ノートを作成し、単語を覚える。下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	Basic Word List(以下BWLと表記する)、141-150、1100 Words、Week 15、対等関係について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
3	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL、151-160、1100 Words、Week 16、語順について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
4	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL、161-170、1100 Words、Week 17、要約文について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）

5	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 171-180、1100 Words, Week 18、強調語について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
6	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 181-190、1100 Words, Week 19、関係代名詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
7	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 191-200、1100 Words, Week 20、限定用法について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
8	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 201-210、1100 Words, Week 21、不定詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
9	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 211-220、1100 Words, Week 22、動名詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
10	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 221-230、1100 Words, Week 23、仮定法について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
11	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 231-240、1100 Words, Week 24、現在形について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
12	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 241-250、1100 Words, Week 25、時制について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
13	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 251-260、1100 Words, Week 26、名詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
14	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 261-270、1100 Words, Week 27、動詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
15	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 271-280、1100 Words, Week 28、まとめ
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）

科目名	英検／IELTS II A	担当者	町田 純子	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	英検2級・準1級やIELTS、公務員試験取得に向けての4スキルの基礎力充実をベースに英語の言語運用能力養成をします。				
授業目的・到達目標	英検やIELTSの合格やスコア向上の為に英語4技能向上のタスクに触れ、速読力を養成することを主な目的として基礎を固め、二次試験対策も行っていきます。 また、英検2級・準1級に合格できることを目標とします。 対応DP及びCP:外国語科目領域5,6				
履修条件	目的意識を持ち、英検を受験する姿勢が望まれます。(一次試験筆記、二次試験面接まで)受験料は自己負担です。 ペーパーによる授業実践が多いので、履修者同士でのコミュニケーションを図れることが必要とされます。				
授業方法	実践的に筆記や短文の語句空所、長文の語句空所補充、内容一致選択、リスニング、 会話の応答文選択問題に慣れます。 フィードバックは授業中に行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	(単語テスト+資格試験結果+前期試験+課題提出等) 総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	金星堂		英検2級マスターコース	Hiromi Imamura 他
	2018	桐原書店		DataBase4500 第5版	
	2018	旺文社		2018年度版 英検二級 過去6回全問題集	
	備考				
参考書	使用しませんが、英和辞書は必携です。				
オフィスアワー	授業に関する質問やご相談等は、授業講堂で、授業前又は終了後（月曜14：30～18：00）に対応させていただきます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、確認の上授業に臨む。(30分)
	授業内容	ガイダンス（授業内容・方針・英検等についての説明を聞く） ミニテスト実施内容の筆記試験 43 分、リスニングテスト 12 分の計 55 分で解答し、問題形式に慣れる。
	事後学習	ミニテストの間違った箇所を確認し、解きなおす。 ガイダンスのおさらいをし、英検の概要について、Webサイトで調べてみる。(30分)
2	事前学習	テキストを購入し、毎回実施される英単熟語「DataBase 4500」のlevel 1 の音読、暗記の準備をする。(30分)
	授業内容	ミニテスト一次試験の解説を聞き、各自の弱点部分の客観的な分析、把握をし、戦略的に計画を立てる。 英単熟語テストLevel 1 を解答する。
	事後学習	ミニテスト、英単熟語テストLevel 1 の間違えた箇所を確認し、解きなおす。(30分)
3	事前学習	テキストのUnit1の問題を解いてくる。 英単熟語level 1 の音読、暗記の準備をする。(30分)
	授業内容	Unit 1の語彙、基礎文法、長文の空所補充問題等の読解、ライティング、会話や英文のリスニング問題を理解する。 英単熟語テストlevel 1を解答する。
	事後学習	Unit 1、英単熟語テストLevel 1の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
4	事前学習	テキストのUnit2の問題を解いてくる。 英単熟語level 1 の音読、暗記の準備をする。(30分)
	授業内容	Unit 2の語彙、基礎文法、長文の空所補充問題等の読解、ライティング、会話や英文のリスニング問題を理解する。 英単熟語テストlevel 2を解答する。
	事後学習	Unit 2、英単熟語テストLevel 2の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)

5	事前学習	テキストのUnit3の問題を解いてくる。 英単熟語level 2の音読、暗記の準備をする。 （30分）
	授業内容	Unit 3の語彙、基礎文法、長文の空所補充問題等の読解、ライティング、会話や英文のリスニング問題を理解する。 英単熟語テストlevel 2を解答する。
	事後学習	Unit 3、英単熟語テストLevel 2の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
6	事前学習	テキストのUnit4の問題を解いてくる。 英単熟語level 3の音読、暗記の準備をする。 （30分）
	授業内容	Unit 4の語彙、基礎文法、長文の空所補充問題等の読解、ライティング、会話や英文のリスニング問題を理解する。 英単熟語テストlevel 3を解答する。
	事後学習	Unit 4、英単熟語テストLevel 3の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
7	事前学習	テキストのUnit5の問題を解いてくる。 英単熟語level 3の音読、暗記の準備をする。 （30分）
	授業内容	Unit 5の語彙、基礎文法、長文の空所補充問題等の読解、ライティング、会話や英文のリスニング問題を理解する。 英単熟語テストlevel 3を解答する。
	事後学習	Unit 5、英単熟語テストLevel 3の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
8	事前学習	テキストのUnit6の問題を解いてくる。 英単熟語level 4の音読、暗記の準備をする。 （30分）
	授業内容	Unit 6 の語彙、基礎文法、長文の空所補充問題等の読解、ライティング、会話や英文のリスニング問題を理解する。 英単熟語テストlevel 4を解答する。
	事後学習	Unit 6、英単熟語テストLevel 4の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
9	事前学習	テキストのUnit7の問題を解いてくる。 英単熟語level 4の音読、暗記の準備をする。 （30分）
	授業内容	Unit 7の語彙、基礎文法、長文の空所補充問題等の読解、ライティング、会話や英文のリスニング問題を理解する。 英単熟語テストlevel 4を解答する。
	事後学習	Unit 7、英単熟語テストLevel 4の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
10	事前学習	テキストのUnit8の問題を解いてくる。 英単熟語level 5の音読、暗記の準備をする。 （30分）
	授業内容	Unit 8の語彙、基礎文法、長文の空所補充問題等の読解、ライティング、会話や英文のリスニング問題を理解する。 英単熟語テストlevel 5を解答する。
	事後学習	Unit 8、英単熟語テストLevel 5の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
11	事前学習	テキストの二次試験面接テストサンプルのカード A問題を練習してくる。 英単熟語level 5の音読、暗記の準備をする。 （30分）
	授業内容	二次面接テスト合格のポイントを理解し、練習し、習得する。 英単熟語テストlevel 5を解答する。
	事後学習	英単熟語テストLevel 5の間違った箇所を確認し、解きなおす。面接テストサンプルのカードのシャドウイング練習をする。(30分)
12	事前学習	テキストの二次試験面接テストサンプルのカード B問題を練習してくる。 英単熟語level 6の音読、暗記の準備をする。 （30分）
	授業内容	英二次面接テスト合格のポイントを理解し、練習し、習得する。 単熟語テストlevel 6を解答する。
	事後学習	英単熟語テストLevel 6の間違った箇所を確認し、解きなおす。面接テストサンプルのカードのシャドウイング練習をする。(30分)
13	事前学習	テキストの二次試験面接テストサンプルのカード C問題を練習してくる。 英単熟語level 6の音読、暗記の準備をする。 （30分）
	授業内容	二次面接テスト合格のポイントを理解し、習得する。 英単熟語テストlevel 6を解答する。
	事後学習	英単熟語テストLevel 6の間違った箇所を確認し、解きなおす。面接テストサンプルのカードのシャドウイング練習をする(30分)
14	事前学習	英単熟語level 1~6のまとめのテストの準備をする。 （30分）
	授業内容	英単熟語 level 1~6のまとめのテストを解答する。解説を聞いて間違えた箇所をチェックし、確認する。
	事後学習	英単熟語level 1~6のまとめのテスト間違えた箇所の問題を解きなおす。 （30分）
15	事前学習	テキストのUnit1~unit8までの復習をする。 （30分）
	授業内容	前期授業内試験と解説、前期学習内容のまとめをする。
	事後学習	前期授業学習内容を確認する。 （30分）

科目名	英検／IELTS II A	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英検のための基礎固め、そして実践的な対策をする。講師は、東進ハイスクール初代英語講師、旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送）、日本実用英語検定協会英検セミナー講師、オレゴン州立大学語学研修引率（アクト・コーポレーション主催）などの実務経験を生かした授業を展開する。							
授業目的・到達目標	【授業目的】英検対策に必要なリーディング、語彙力、文法の基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】受講生は、1100 Words You Need to Know、およびBasic Word Listの単語をすべて覚え、1分間で200語程度読めるようになることを目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域5,6							
履修条件	将来的に英語が人生の重要な要素となることを自覚すること。講師の他の英検の授業とあわせて履修しないこと。原則、Bと通年で履修すること。前期のみ、後期のみの履修をしないこと。							
授業方法	演習方式。毎時間リーディング・テストと単語テストを実施し、次の授業で返却を行う。テストの得点は加算され、順位を出す。また授業計画に変更が生じた場合には、そのつどプリントないしは口頭にて受講生に知らせる。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%					
	平常評価		100%		諸テストの得点を加算して順位を出して評価する。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	2017		Barron		Basic Word List		Brownstein	
	備考		1100 Words You Need to Knowはプリントを使用					
参考書	リーダーズ英和辞典							
オフィスアワー	水曜日、お昼休み、9107研究室にて（事前にメールで予約をとること）、英語全般、留学、海外の大学院進学などの相談を受け付ける。メールにての相談は随時受け付ける。morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス記載事項の熟読（30分）
	授業内容	Introduction、シラバス記載事項の確認、その他評価方法、シラバスに記載できなかった授業受講上の注意について説明する
	事後学習	配布されたプリントを熟読する（30分）
2	事前学習	二つのテキストの単語ノートを作成し、単語を覚える。下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	Basic Word List(以下BWLと表記する)、v-xvi、3-10、1100 Words、Week 1、所有格について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
3	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL、11-20、1100 Words、Week 2、接続詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
4	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL、21-30、1100 Words、Week 3、挿入について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）

5	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 31-40、1100 Words, Week 4、独立節について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
6	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 41-50、1100 Words, Week 5、句読法について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
7	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 51-60、1100 Words, Week 6、数について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
8	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 61-70、1100 Words, Week 7、代名詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
9	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 71-80、1100 Words, Week 8、分詞構文について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
10	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 81-90、1100 Words, Week 9、英作文について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
11	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 91-100、1100 Words, Week 10、能動態と受動態について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
12	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 101-110、1100 Words, Week 11、否定表現について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
13	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 111-120、1100 Words, Week 12、無駄な語を削ることについて
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
14	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 121-130、1100 Words, Week 13、散列文について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
15	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 131-140、1100 Words, Week 14、文法の復習
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）

科目名	英検／IELTS II A	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語資格試験対策のクラスです。就職の履歴書には英検の級を資格として書くことができます。可能な限り高い級を取るようにしましょう。					
授業目的・到達目標	英検1-2級試験及び国家公務員Ⅱ種試験の「専門科目英語（基礎）（一般）」の受験に対応した英語力を養成することを目的とした授業です（地方公務員、教員採用試験も含みます）。英検の問題は4技能（読む、書く、聞く、話す）が総合的に高いレベルであることを要求するものなので、英検対応の勉強をすることはそのまま先の公務員試験等の対策にもなります。英検準1級に合格できることを目指します。関連DP及びCP：外国語科目領域 5， 6					
履修条件	履修年次に英検1-2級またはTOEFL／TOEICのどれかの試験を1回受験して成績を教員に提出すること。「話す・聞く」力をつけるために、ネイティブの教員の授業も併せて受講することを望みます。					
授業方法	演習形式。英検問題及び国家公務員Ⅱ種試験等の英語問題を扱うことで実践的な学習をします。毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施します。返却後は復習をしておくこと。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		学期末授業内試験を実施します。また毎回、単語テストを行い、総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	南雲堂		Eiken 2: Sure to Succeed		坂部俊行、他
	備考	なし				
参考書	飛田茂雄（編）『現代英米情報辞典』研究社 参考書は購入する必要はない。適宜、図書館等で参照すること。					
オフィスアワー	水曜日16：20-17：50（4号館1階） 連絡先：mizumoto.koji@nihon-u.ac.jp　、「メールする場合は*を@に変えて使って下さい」					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
2	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 1-1 語彙、熟語、文法問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
3	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 1-2 語彙、熟語、文法問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
4	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 2-1 整序作文問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）

5	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 2-2 整序作文問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
6	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 3-1 長文読解問題－語句空所補充
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
7	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 3-2 長文読解問題－語句空所補充
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
8	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 4-1 長文読解問題－内容一致選択
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
9	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 4-2 長文読解問題－内容一致選択
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
10	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 5-1 語彙、熟語、文法問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
11	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 5-2 語彙、熟語、文法問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
12	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 6-1 整序作文問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
13	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 6-2 整序作文問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
14	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 6-3 整序作文問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
15	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	復習、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）

科目名	英検／IELTS II B	担当者	町田 純子	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	英検2級・準1級やIELTS、公務員試験取得に向けての4スキルの基礎力充実をベースに英語の言語運用能力養成をします。					
授業目的・到達目標	英検やIELTSの合格やスコア向上の為に英語4技能向上のタスクに触れ、速読力を養成することを主な目的として基礎を固め、二次試験対策も行っていきます。 また、英検2級・準1級に合格できることを目標とします。 対応DP及びCP:外国語科目領域5,6					
履修条件	目的意識を持ち、英検を受験する姿勢が望まれます。(一次試験筆記、二次試験面接まで)受験料は自己負担です。 ペアによる授業実践が多いので、履修者同士でのコミュニケーションを図れることが必要とされます。					
授業方法	実践的に筆記や短文の語句空所、長文の語句空所補充、内容一致選択、リスニング、 会話の応答文選択問題に慣れます。 フィードバックは授業中に行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		(単語テスト+資格試験結果+後期試験+課題提出) 総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
		金星堂		『English Sounds, English Minds』		杉森幹彦
	2018	Japan Times		『出る順で最短合格 英検準一級英単熟語EX』		
	備考					
参考書	使用しませんが、英和辞書は必携です。					
オフィスアワー	授業に関する質問やご相談等は、授業講堂で、授業前又は終了後（月曜14：30～18：00）に対応させていただきます。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、確認の上授業に臨む。(30分)
	授業内容	ガイダンス（授業内容・方針・英検等についての説明を聞く） 過去問試験1実施及び解説を聞く。
	事後学習	過去問試験1の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
2	事前学習	テキストを購入し、毎回実施される英単熟語「出る順で最短合格 英検準一級英単熟語EX」のUnit1 #1～#216 のCDを聞き音読、暗記の準備をする。(30分)
	授業内容	過去問試験2実施及び解説を聞き、各自の弱点部分の客観的把握をする。 英単熟語「出る順で最短合格 英検準一級英単熟語EX」のUnit1のテストをする。
	事後学習	過去問試験2、英単熟語テストUnit1の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
3	事前学習	英単熟語 Unit2 #217～#432 のCDを聞き音読、暗記の準備をする。例文を速読速聴しつつシャドウイングしながら、各単語、熟語及び構文を覚える。(30分)
	授業内容	過去問試験3実施及び解説を聞き、各自の弱点部分の客観的把握をする。 英単熟語Unit2のテストをする。
	事後学習	過去問試験3、英単熟語テストUnit2の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
4	事前学習	英単熟語Unit3#433～648のCDを聞き音読、暗記の準備をする。例文を速読速聴しつつシャドウイングしながら、各単語、熟語及び構文を覚える。(30分)
	授業内容	テキストのUnit 1&2 英語のアクセント（単語） 英語のリズム（内容語と機能語）の内容把握と実践的な問題にあたり、理解する。 英単熟語Unit3のテストをする。
	事後学習	テキストのUnit 1&2 英語のアクセント（単語） 英語のリズム（内容語と機能語）のスク립トを音読する。英単熟語テストUnit3の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)

5	事前学習	英単熟語Unit4のCDを聞き音読、暗記の準備をする。例文を速読速聴しつつシャドウイングしながら、各単語、熟語及び構文を覚える。(30分)
	授業内容	テキストのUnit 3&4 紛らわしい母音の内容把握と実践的な問題にあたり、理解する。 英単熟語Unit4のテストをする。
	事後学習	テキストのUnit 3&4 紛らわしい母音のスク립トを音読する。英単熟語テストUnit4の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
6	事前学習	英単熟語Unit5のCDを聞き音読、暗記の準備をする。例文を例文を速読速聴しつつシャドウイングしながら、各単語、熟語及び構文を覚える。(30分)
	授業内容	テキストのUnit 5 紛らわしい子音 Unit 6 紛らわしい子音 (2)の内容把握と実践的な問題にあたり、理解する。 英単熟語Unit5のテストをする。
	事後学習	テキストのUnit 5 紛らわしい子音 Unit 6 紛らわしい子音 (2)のスク립トを音読する。英単熟語テストUnit5の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
7	事前学習	英単熟語Unit6のCDを聞き音読、暗記の準備をする。例文を例文を速読速聴しつつシャドウイングしながら、各単語、熟語及び構文を覚える。(30分)
	授業内容	テキストのUnit 7 紛らわしい子音 (3)と半母音 Unit 8 つながって聞こえる音の内容把握と実践的な問題にあたり、理解する。 英単熟語Unit6のテストをする。
	事後学習	テキストのUnit 7 紛らわしい子音 (3)と半母音 Unit 8 つながって聞こえる音のスク립トを音読する。英単熟語テストUnit6の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
8	事前学習	英単熟語Unit7のCDを聞き音読、暗記の準備をする。例文を速読速聴しつつシャドウイングしながら、各単語、熟語及び構文を覚える。英検模擬面接手順配布資料を読む。(30分)
	授業内容	英検二次面接テスト合格のポイントを理解し、練習し、習得する。 英単熟語Unit7のテストをする。
	事後学習	面接テスト過去問カードのシャドウイング練習をする。英単熟語テストUnit7の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
9	事前学習	英単熟語Unit8のCDを聞き音読、暗記の準備をする。例文を速読速聴しつつシャドウイングしながら、各単語、熟語及び構文を覚える。(30分)
	授業内容	英検二次面接テスト合格のポイントを理解し、練習し、習得する。 英単熟語Unit8のテストをする。
	事後学習	面接テスト過去問カードのシャドウイング練習をする。英単熟語テストUnit8の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
10	事前学習	英単熟語Unit9のCDを聞き音読、暗記の準備をする。例文を速読速聴しつつシャドウイングしながら、各単語、熟語及び構文を覚える。(30分)
	授業内容	テキストのUnit9 変化して聞こえる音 (同化) Unit 10 聞こえなくなる音 (1) 単語間の脱落の内容把握と実践的な問題にあたり、理解する。 英単熟語Unit10のテストをする。
	事後学習	テキストのUnit9 変化して聞こえる音 (同化) Unit 10 聞こえなくなる音 (1) 単語間の脱落のスク립トのスク립トを音読する。英単熟語テストUnit9の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
11	事前学習	英単熟語Unit10のCDを聞き音読、暗記の準備をする。例文を速読速聴しつつシャドウイングしながら、各単語、熟語及び構文を覚える。(30分)
	授業内容	テキストのUnit 11 聞こえなくなる音 (2) 単語内の脱落・短縮形 Unit 12 英語のイントネーションの内容把握と実践的な問題にあたり、理解する。 英単熟語Unit10のテストをする。
	事後学習	テキストのUnit 11 聞こえなくなる音 (2) 単語内の脱落・短縮形 Unit 12 英語のイントネーションのスク립トを音読する。英単熟語テストUnit10の間違った箇所を確認し、解きなおす。(30分)
12	事前学習	テキストのUnit 13 英語のイントネーションの内容把握をし、問題を解く。(30分)
	授業内容	テキストのUnit 13 英語のイントネーションの内容把握と実践的な問題にあたり、理解する。
	事後学習	テキストのUnit 13 英語のイントネーションのスク립トを音読する。(30分)
13	事前学習	テキストのUnit 14 World Englishes スクリプト内容把握をし、問題を解く。(30分)
	授業内容	テキストのUnit 14 World Englishes の内容把握と実践的な問題にあたり、理解する。
	事後学習	テキストのUnit 14 World Englishes のスク립トを音読する。(30分)
14	事前学習	テキストのUnit 15 数量表現スク립ト内容把握をし、問題を解く。(30分)
	授業内容	テキストのUnit 15 数量表現の内容把握と実践的な問題にあたり、理解する。
	事後学習	テキストのUnit 15 数量表現のスク립トを音読する。(30分)
15	事前学習	テキストのUnit1~unit15までの復習をする。(30分)
	授業内容	後期授業内試験と解説、前期学習内容のまとめをする。
	事後学習	後期授業学習内容を確認する。(30分)

科目名	英検／IELTS II B	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英検のための基礎固め、そして実践的な対策をする。講師は、東進ハイスクール初代英語講師、旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送）、日本実用英語検定協会英検セミナー講師、オレゴン州立大学語学研修引率（アクト・コーポレーション主催）などの実務経験を生かした授業を展開する。			
授業目的・到達目標	【授業目的】英検対策に必要なリーディング、語彙力、文法の基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】受講生は、1100 Words You Need to Know、およびBasic Word Listの単語をすべて覚え、1分間で200語程度読めるようになることを目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域5,6			
履修条件	将来的に英語が人生の重要な要素となることを自覚すること。講師の他の英検の授業とあわせて履修しないこと。原則、Aと通年で履修すること。前期のみ、後期のみの履修をしないこと。			
授業方法	演習方式。毎時間リーディング・テストと単語テストを実施し、次の授業で返却を行う。テストの得点は加算され、順位を出す。また授業計画に変更が生じた場合には、そのつどプリントないしは口頭にて受講生に知らせる。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	諸テストの得点を加算して順位を出して評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	Barron	Basic Word List	Brownstein
	備考	1100 Words You Need to Knowはプリントを使用		
参考書	リーダーズ英和辞典			
オフィスアワー	水曜日、お昼休み、9107研究室にて（事前にメールで予約をとること）、英語全般、留学、海外の大学院進学などの相談を受け付ける。メールにての相談は随時受け付ける。morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス記載事項の熟読（30分）
	授業内容	Introduction、シラバス記載事項の確認、その他評価方法、シラバスに記載できなかった授業受講上の注意について説明する
	事後学習	配布されたプリントを熟読する（30分）
2	事前学習	二つのテキストの単語ノートを作成し、単語を覚える。下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	Basic Word List(以下BWLと表記する)、141-150、1100 Words、Week 15、対等関係について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
3	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL、151-160、1100 Words、Week 16、語順について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
4	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL、161-170、1100 Words、Week 17、要約文について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）

5	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 171-180、1100 Words, Week 18、強調語について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
6	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 181-190、1100 Words, Week 19、関係代名詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
7	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 191-200、1100 Words, Week 20、限定用法について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
8	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 201-210、1100 Words, Week 21、不定詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
9	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 211-220、1100 Words, Week 22、動名詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
10	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 221-230、1100 Words, Week 23、仮定法について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
11	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 231-240、1100 Words, Week 24、現在形について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
12	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 241-250、1100 Words, Week 25、時制について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
13	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 251-260、1100 Words, Week 26、名詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
14	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 261-270、1100 Words, Week 27、動詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
15	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 271-280、1100 Words, Week 28、まとめ
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）

科目名	英検／IELTS II B	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語資格試験対策のクラスです。就職の履歴書には英検の級を資格として書くことができます。可能な限り高い級を取るようにしましょう。					
授業目的・到達目標	英検1-2級試験及び国家公務員Ⅱ種試験の「専門科目英語（基礎）（一般）」の受験に対応した英語力を養成することを目的とした授業です（地方公務員、教員採用試験も含みます）。英検の問題は4技能（読む、書く、聞く、話す）が総合的に高いレベルであることを要求するものなので、英検対応の勉強をすることはそのまま先の公務員試験等の対策にもなります。英検準1級に合格できることを目指します。関連DP及びCP：外国語科目領域 5， 6					
履修条件	履修年次に英検1-2級またはTOEFL／TOEICのどれかの試験を1回受験して成績を教員に提出すること。「話す・聞く」力をつけるために、ネイティブの教員の授業も併せて受講することを望みます。					
授業方法	演習形式。英検問題及び国家公務員Ⅱ種試験等の英語問題を扱うことで実践的な学習をします。毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施します。返却後は復習をしておくこと。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		学期末授業内試験を実施します。また毎回、単語テストを行い、総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019			Eiken 2: Sure to Succeed		坂部俊行、他
	備考	なし				
参考書	飛田茂雄（編）『現代英米情報辞典』研究社 参考書は購入する必要はない。適宜、図書館等で参照すること。					
オフィスアワー	水曜日16：20-17：50（4号館1階） 連絡先：mizumoto.koji*nihon-u.ac.jp　、「メールする場合は*を@に変えて使って下さい」					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
2	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 7-1 長文読解問題一語句空所補充
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
3	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 7-2 長文読解問題一語句空所補充
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
4	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 8-1 長文読解問題一内容一致選択
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）

5	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 8-2 長文読解問題―内容一致選択
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
6	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 9-1 語彙、熟語、文法問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
7	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと
	授業内容	Lesson 9-2 語彙、熟語、文法問題（30分）
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
8	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 10-1 整序作文問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
9	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 10-2 整序作文問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
10	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 11-1 長文読解問題―語句空所補充
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
11	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 11-2 長文読解問題―語句空所補充
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
12	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 12-1 長文読解問題―内容一致選択
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
13	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 12-2 長文読解問題―内容一致選択
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
14	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lesson 12-3 長文読解問題―内容一致選択
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
15	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	復習、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）

科目名	英検／IELTS ⅢA	担当者	平岡 麻里	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この授業ではIELTSのアカデミック・モジュールに向けた対策を中心に、アカデミックな場で必要とされる語彙や表現を学びます。IELTSは主に英国への留学に用いられる英語能力検定試験で、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4セクションからなっていますが、この授業では語彙とリーディングを中心に演習を行います。その他のセクションおよびジェネラル・モジュールについても問題形式の紹介を行う予定です。					
授業目的・到達目標	【授業目的】、IELTS特有の問題形式に慣れ、IELTS受験やアカデミックな場で必要とされる語彙力や読解力を養成することを目的としています。また、将来も独力で英語学習を継続できる「独立した学習者」となることに重点を置いた指導を行います。 【到達目標】IELTSバンド5～6（英検2級～準1級レベル）程度の総合的な英語力をつけ、高得点を獲得できることを目標としています。対応DP及びCP：外国語科目領域5， 6					
履修条件	IELTSの受験を強く奨励します。履修者は35～40名を厳守します。IELTSは日本人には大変難解に感じられる試験です。覚悟を持って履修してください。					
授業方法	演習形式で授業を進めます。また、授業外課題が課され。毎時間に語彙を中心とした小テスト、学期末には授業内試験を実施し、授業でフィードバックを行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		毎回の小テスト、授業内演習、授業外課題、授業内試験などで評価を行います。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2008	Cambridge University Press		Cambridge Vocabulary for IELTS Book with Answers and Audio CD		Pauline Cullen
	備考	同じ担当者の英検/IELTS ⅢBと共通です。英検/IELTS ⅢAのみ履修する場合でも、必ず教科書を購入してください。（ISBN：9780521709750）				
参考書	セーラ森川， ルーク・ハリントン， 平岡麻里 (2014) 『IELTS完全対策&トリプル模試』 DHC出版。 大学生から社会人レベルの英和辞典（電子辞書推奨）を授業時に必ず持参してください。					
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は、月曜日午前中の授業前後（10：30～／12：10～）に授業講堂で対応します。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体を概観する（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業スケジュールを確認する 授業方法とIELTS概要を説明する
	事後学習	ガイダンスのおさらい IELTS公式サイトを見て、基本情報を確認する 各自の過去の英語資格試験の成績を確認する（30分）
2	事前学習	Unit 21 小テストの準備をする（Unit内単語の予習）（30分）
	授業内容	Unit 21 Language building 1 英英辞典の使い方とワードファミリーについて学ぶ
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
3	事前学習	Unit 22 小テストの準備をする（Unit内単語の予習）（30分）
	授業内容	Unit 22 Language building 2 語彙の増やし方とコロケーションについて学ぶ
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
4	事前学習	Unit 1 小テストの準備をする（巻末のWordlist）（30分）
	授業内容	Unit 1 Growing up 人間関係や家族、幼児教育に関する語彙や表現を学ぶ リスニング・セクション1の問題形式を確認する
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）

5	事前学習	Unit 2 小テストの準備をする（巻末のWordlist）（30分）
	授業内容	Unit 2 Mental and physical development 身体と精神に関する語彙や表現を学ぶ スピーキング・パート2の問題形式を確認する
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
6	事前学習	Unit 3 小テストの準備をする（巻末のWordlist）（30分）
	授業内容	Unit 3 Keeping fit 食事や健康、エクササイズに関する語彙や表現を学ぶ アカデミック・リーディングに慣れる
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
7	事前学習	Unit 4 小テストの準備をする（巻末のWordlist）（30分）
	授業内容	Unit 4 Lifestyles 生活や娯楽に関する語彙や表現を学ぶ リスニング・セクション2の問題形式を確認する
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
8	事前学習	Unit 5 小テストの準備をする（巻末のWordlist）（30分）
	授業内容	Unit 5 Student life 勉学や教育、研究に関する語彙や表現を学ぶ ジェネラル・モジュール・リーディング2の問題形式を確認する
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
9	事前学習	Unit 6 小テストの準備をする（巻末のWordlist）（30分）
	授業内容	Unit 6 Effective communication 言語や言語学に関する語彙や表現を学ぶ アカデミック・リーディングに慣れる
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
10	事前学習	Unit 7 小テストの準備をする（巻末のWordlist）（30分）
	授業内容	Unit 7 On the move 観光や旅行に関する語彙や表現を学ぶ ジェネラル・モジュール・リーディング1の問題形式を確認する
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
11	事前学習	Unit 8 小テストの準備をする（巻末のWordlist）（30分）
	授業内容	Unit 8 Through the ages 時間や歴史に関する語彙や表現を学ぶ リスニング・セクション4の問題形式を確認する
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
12	事前学習	Unit 9 小テストの準備をする（巻末のWordlist）（30分）
	授業内容	Unit 9 The natural world 動植物と農業に関する語彙や表現を学ぶ アカデミック・リーディングに慣れる/ジェネラル・モジュール・リーディング3の問題形式を確認する
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
13	事前学習	Unit 10 小テストの準備をする（巻末のWordlist）（30分）
	授業内容	Unit 10 Reaching for the skies 宇宙や惑星に関する語彙や表現を学ぶ リスニング・セクション4の問題形式を確認する
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
14	事前学習	Units 1-10, 21, 22の復習と授業内試験を準備する（30分）
	授業内容	まとめ・授業内試験
	事後学習	間違えた箇所を復習する（30分）
15	事前学習	授業内試験を含む学期全体の総復習をする（30分）
	授業内容	授業内試験を含む学期全体の学習内容を振り返る
	事後学習	これまでの学習内容を確認する（30分）

科目名	英検／IELTS ⅢA	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語資格試験対策のクラスです。就職の履歴書には英検の級を資格として書くことができます。可能な限り高い級を取るようにしましょう。					
授業目的・到達目標	英検1-2級試験及び国家公務員Ⅱ種試験の「専門科目英語（基礎）（一般）」の受験に対応した英語力を養成することを目的とした授業です（地方公務員、教員採用試験も含みます）。英検の問題は4技能（読む、書く、聞く、話す）が総合的に高いレベルであることを要求するものなので、英検対応の勉強をすることはそのまま先の公務員試験等の対策にもなります。英検準1級に合格できることを目指します。関連DP及びCP：外国語科目領域 5， 6					
履修条件	履修年次に英検1-2級またはTOEFL／TOEICのどれかの試験を1回受験して成績を教員に提出すること。「話す・聞く」力をつけるために、ネイティブの教員の授業も併せて受講することを望みます。					
授業方法	演習形式。英検問題及び国家公務員Ⅱ種試験等の英語問題を扱うことで実践的な学習をします。毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施します。返却後は復習をしておくこと。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		学期末試験を実施します。また毎回、単語テストを行い、総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	金星堂		大学生の英検対策総合演習		John Joseph、他
	備考	なし				
参考書	飛田茂雄（編）『現代英米情報辞典』研究社 参考書は購入する必要はない。適宜、図書館等で参照すること。					
オフィスアワー	水曜日16：20-17：50（4号館1階） 連絡先：mizumoto.koji@nihon-u.ac.jp　、「メールする場合は*を@に変えて使って下さい」					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
2	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 1-1 語彙、熟語、文法問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
3	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 1-2 語彙、熟語、文法問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
4	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 2-1 整序作文問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）

5	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 2-2 整序作文問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
6	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 3-1 長文読解問題－語句空所補充
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
7	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 3-2 長文読解問題－語句空所補充
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
8	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 4-1 長文読解問題－内容一致選択
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
9	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 4-2 長文読解問題－内容一致選択
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
10	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 5-1 語彙、熟語、文法問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
11	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 5-2 語彙、熟語、文法問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
12	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 6-1 整序作文問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
13	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 6-2 整序作文問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
14	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 7 整序作文問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
15	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	復習、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）

科目名	英検／IELTS ⅢB	担当者	平岡 麻里	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この授業ではIELTSのアカデミック・モジュールに向けた対策を中心に、アカデミックな場で必要とされる語彙や表現を学びます。IELTSは主に英国への留学に用いられる英語能力検定試験で、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4セクションからなっていますが、この授業では語彙とリーディングを中心に演習を行います。その他のセクションおよびジェネラル・モジュールについても問題形式の紹介を行う予定です。					
授業目的・到達目標	【授業目的】、IELTS特有の問題形式に慣れ、IELTS受験やアカデミックな場で必要とされる語彙力や読解力を養成することを目的としています。また、将来も独力で英語学習を継続できる「独立した学習者」となることに重点を置いた指導を行います。 【到達目標】IELTSバンド5～6（英検2級～準1級レベル）程度の総合的な英語力をつけ、高得点を獲得できることを目標としています。対応DP及びCP：外国語科目領域5， 6					
履修条件	IELTSの受験を強く奨励します。履修者は35～40名を厳守します。IELTSは日本人には大変難解に感じられる試験です。覚悟を持って履修してください。					
授業方法	演習形式で授業を進めます。また、授業外課題が課され。毎時間に語彙を中心とした小テスト、学期末には授業内試験を実施し、授業でフィードバックを行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		毎回の小テスト、授業内演習、授業外課題、授業内試験などで評価を行います。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2008	Cambridge University Press		Cambridge Vocabulary for IELTS Book with Answers and Audio CD		Pauline Cullen
	備考	同じ担当者の英検/IELTS ⅢAと共通です。英検/IELTS ⅢBのみ履修する場合でも、必ず教科書を購入してください。（ISBN：9780521709750）				
参考書	セーラ森川，ルーク・ハリントン，平岡麻里(2014)『IELTS完全対策&トリプル模試』DHC出版。 大学生から社会人レベルの英和辞典（電子辞書推奨）を授業時に必ず持参してください。					
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は、月曜日午前中の授業前後（10：30～／12：10～）に授業講堂で対応します。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体を概観する 前期授業を振り返る（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業スケジュールを確認する 授業方法とIELTS概要を説明する
	事後学習	ガイダンスのおさらい IELTS公式サイトを見て、基本情報を確認する 各自の過去の英語資格試験の成績を確認する（30分）
2	事前学習	Unit 11 小テストの準備をする（巻末のWordlist）（30分）
	授業内容	Unit 11 Design and innovation 建築や工学に関する語彙や表現を学ぶ アカデミック・リーディングに慣れる
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
3	事前学習	Unit 12 小テストの準備をする（巻末のWordlist）（30分）
	授業内容	Unit 12 Information technology ITやコンピューターに関する語彙や表現を学ぶ スピーキング・パート1，2，3の問題形式を確認する
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
4	事前学習	Unit 13 小テストの準備をする（巻末のWordlist）（30分）
	授業内容	Unit 13 The modern world グローバル化や世相の変化に関する語彙や表現を学ぶ アカデミック・ライティング・タスク1（表）の問題形式を確認する
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）

5	事前学習	Unit 14 小テストの準備をする（巻末のWordlist）（30分）
	授業内容	Unit 14 Urbanisation 大都市の問題とその解決策に関する語彙や表現を学ぶ アカデミック・リーディングに慣れる/ジェネラル・モジュール・リーディング・セクション3の問題形式を確認する
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
6	事前学習	Unit 15 小テストの準備をする（巻末のWordlist）（30分）
	授業内容	Unit 15 The green revolution 環境や気候変動、人口に関する語彙や表現を学ぶ アカデミック・ライティング・タスク1（過程）の問題形式を確認する
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
7	事前学習	Unit 16 小テストの準備をする（巻末のWordlist）（30分）
	授業内容	Unit 16 The energy crisis 天然資源や代替燃料に関する語彙や表現を学ぶ アカデミック・リーディングに慣れる
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
8	事前学習	Unit 17 小テストの準備をする（巻末のWordlist）（30分）
	授業内容	Unit 17 Talking business 雇用やマネージメント、マーケティングに関する語彙や表現を学ぶ ジェネラル・モジュール・ライティング・タスク1/アカデミック・ライティング・タスク2の問題形式を確認する
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
9	事前学習	Unit 18 小テストの準備をする（巻末のWordlist）（30分）
	授業内容	Unit 18 The law 犯罪や刑罰に関する語彙や表現を学ぶ ジェネラル・モジュール・ライティング・タスク2の問題形式を確認する
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
10	事前学習	Unit 19 小テストの準備をする（巻末のWordlist）（30分）
	授業内容	Unit 19 The media ニュースや評判に関する語彙や表現を学ぶ アカデミック・ライティング・タスク2の問題形式を確認する
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
11	事前学習	Unit 20 小テストの準備をする（巻末のWordlist）（30分）
	授業内容	Unit 20 The arts 芸術鑑賞や舞台芸能に関する語彙や表現を学ぶ アカデミック・リーディングに慣れる
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
12	事前学習	Unit 23 小テストの準備をする（Unit内単語の予習）（30分）
	授業内容	Unit 23 Academic Writing Task 1 データやグラフ、図表、過程の扱い方について学ぶ
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
13	事前学習	Unit 24 小テストの準備をする（Unit内単語の予習）（30分）
	授業内容	Unit 24 Academic Writing Task 2 つながり言葉、意見の述べ方、レジスターについて学ぶ
	事後学習	間違えた箇所の問題を解きなおす 重要単語を暗記する（30分）
14	事前学習	Units 11-20, 23, 24の復習と授業内試験を準備する（30分）
	授業内容	まとめ・授業内試験
	事後学習	間違えた箇所を復習する（30分）
15	事前学習	授業内試験を含む学期全体の総復習をする（30分）
	授業内容	授業内試験を含む学期全体の学習内容を振り返る
	事後学習	これまでの学習内容を確認する（30分）

科目名	英検／IELTS ⅢB	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語資格試験対策のクラスです。就職の履歴書には英検の級を資格として書くことができます。可能な限り高い級を取るようにしましょう。					
授業目的・到達目標	英検1-2級試験及び国家公務員Ⅱ種試験の「専門科目英語（基礎）（一般）」の受験に対応した英語力を養成することを目的とした授業です（地方公務員、教員採用試験も含みます）。英検の問題は4技能（読む、書く、聞く、話す）が総合的に高いレベルであることを要求するものなので、英検対応の勉強をすることはそのまま先の公務員試験等の対策にもなります。英検準1級に合格できることを目指します。関連DP及びCP：外国語科目領域5，6					
履修条件	履修年次に英検1-2級またはTOEFL／TOEICのどれかの試験を1回受験して成績を教員に提出すること。「話す・聞く」力をつけるために、ネイティブの教員の授業も併せて受講することを望みます。					
授業方法	演習形式。英検問題及び国家公務員Ⅱ種試験等の英語問題を扱うことで実践的な学習をします。毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施します。返却後は復習をしておくこと。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		学期末授業内試験を実施します。また毎回、単語テストを行い、総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	金星堂		大学生の英検対策総合演習		John Joseph、他
	備考	なし				
参考書	飛田茂雄（編）『現代英米情報辞典』研究社 参考書は購入する必要はない。適宜、図書館等で参照すること。					
オフィスアワー	水曜日16：20-17：50（4号館1階） 連絡先：mizumoto.koji@nihon-u.ac.jp　、「メールする場合は*を@に変えて使って下さい」					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
2	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 8-1 長文読解問題一語句空所補充
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
3	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 8-2 長文読解問題一語句空所補充
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
4	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 9-1 長文読解問題一内容一致選択
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）

5	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 9-2 長文読解問題―内容一致選択
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
6	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 10-1 語彙、熟語、文法問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
7	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 10-2 語彙、熟語、文法問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
8	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 11-1 整序作文問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
9	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 11-2 整序作文問題
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
10	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 12-1 長文読解問題―語句空所補充
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
11	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 12-2 長文読解問題―語句空所補充
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
12	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 13 長文読解問題―内容一致選択
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
13	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 14 長文読解問題―内容一致選択
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
14	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Chapter 15 長文読解問題―内容一致選択
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと（30分）
15	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	復習、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）

科目名	英検／IELTS IVA	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英検のための基礎固め、そして実践的な対策をする。講師は、東進ハイスクール初代英語講師、旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送）、日本実用英語検定協会英検セミナー講師、オレゴン州立大学語学研修引率（アクト・コーポレーション主催）などの実務経験を生かした授業を展開する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】英検対策に必要なリーディング、語彙力、文法の基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】受講生は、1100 Words You Need to Know、およびBasic Word Listの単語をすべて覚え、1分間で200語程度読めるようになることを目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域5,6				
履修条件	将来的に英語が人生の重要な要素となることを自覚すること。講師の他の英検の授業とあわせて履修しないこと。原則、Bと通年で履修すること。前期のみ、後期のみの履修をしないこと。				
授業方法	演習方式。毎時間リーディング・テストと単語テストを実施し、次の授業で返却を行う。テストの得点は加算され、順位を出す。また授業計画に変更が生じた場合には、そのつどプリントないしは口頭にて受講生に知らせる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	諸テストの得点を加算して順位を出して評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2017	Barron	Basic Word List		Brownstein
	備考	1100 Words You Need to Knowはプリントを使用			
参考書	リーダーズ英和辞典				
オフィスアワー	水曜日、お昼休み、9107研究室にて（事前にメールで予約をとること）、英語全般、留学、海外の大学院進学などの相談を受け付ける。メールにての相談は随時受け付ける。morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス記載事項の熟読（30分）
	授業内容	Introduction、シラバス記載事項の確認、その他評価方法、シラバスに記載できなかった授業受講上の注意について説明する
	事後学習	配布されたプリントを熟読する（30分）
2	事前学習	二つのテキストの単語ノートを作成し、単語を覚える。下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	Basic Word List(以下BWLと表記する)、v-xvi、3-10、1100 Words、Week 1、所有格について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
3	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL、11-20、1100 Words、Week 2、接続詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
4	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL、21-30、1100 Words、Week 3、挿入について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）

5	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 31-40、1100 Words, Week 4、独立節について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
6	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 41-50、1100 Words, Week 5、句読法について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
7	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 51-60、1100 Words, Week 6、数について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
8	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 61-70、1100 Words, Week 7、代名詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
9	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 71-80、1100 Words, Week 8、分詞構文について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
10	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 81-90、1100 Words, Week 9、英作文について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
11	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 91-100、1100 Words, Week 10、能動態と受動態について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
12	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 101-110、1100 Words, Week 11、否定表現について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
13	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 111-120、1100 Words, Week 12、無駄な語を削ることについて
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
14	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 121-130、1100 Words, Week 13、散列文について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
15	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL, 131-140、1100 Words, Week 14、文法の復習
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）

科目名	英検／IELTS IVB	担当者	諸坂 成利	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英検のための基礎固め、そして実践的な対策をする。講師は、東進ハイスクール初代英語講師、旺文社大学受験ラジオ講座講師（文化放送）、日本実用英語検定協会英検セミナー講師、オレゴン州立大学語学研修引率（アクト・コーポレーション主催）などの実務経験を生かした授業を展開する。			
授業目的・到達目標	【授業目的】英検対策に必要なリーディング、語彙力、文法の基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】受講生は、1100 Words You Need to Know、およびBasic Word Listの単語をすべて覚え、1分間で200語程度読めるようになることを目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域5,6			
履修条件	将来的に英語が人生の重要な要素となることを自覚すること。講師の他の英検の授業とあわせて履修しないこと。原則、Aと通年で履修すること。前期のみ、後期のみの履修をしないこと。			
授業方法	演習方式。毎時間リーディング・テストと単語テストを実施し、次の授業で返却を行う。テストの得点は加算され、順位を出す。また授業計画に変更が生じた場合には、そのつどプリントないしは口頭にて受講生に知らせる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	諸テストの得点を加算して順位を出して評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	Barron	Basic Word List	Brownstein
	備考	1100 Words You Need to Knowはプリントを使用		
参考書	リーダーズ英和辞典			
オフィスアワー	水曜日、お昼休み、9107研究室にて（事前にメールで予約をとること）、英語全般、留学、海外の大学院進学などの相談を受け付ける。メールにての相談は随時受け付ける。morosaka.shigetoshi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス記載事項の熟読（30分）
	授業内容	Introduction、シラバス記載事項の確認、その他評価方法、シラバスに記載できなかった授業受講上の注意について説明する
	事後学習	配布されたプリントを熟読する（30分）
2	事前学習	二つのテキストの単語ノートを作成し、単語を覚える。下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	Basic Word List(以下BWLと表記する)、141-150、1100 Words、Week 15、対等関係について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
3	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL、151-160、1100 Words、Week 16、語順について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）
4	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（30分）
	授業内容	BWL、161-170、1100 Words、Week 17、要約文について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（30分）

5	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 171-180、1100 Words, Week 18、強調語について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
6	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 181-190、1100 Words, Week 19、関係代名詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
7	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 191-200、1100 Words, Week 20、限定用法について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
8	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 201-210、1100 Words, Week 21、不定詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
9	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 211-220、1100 Words, Week 22、動名詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
10	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 221-230、1100 Words, Week 23、仮定法について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
11	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 231-240、1100 Words, Week 24、現在形について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
12	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 241-250、1100 Words, Week 25、時制について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
13	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 251-260、1100 Words, Week 26、名詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
14	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 261-270、1100 Words, Week 27、動詞について
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）
15	事前学習	下記授業内容範囲の単語を覚え、テストに備える（３０分）
	授業内容	BWL, 271-280、1100 Words, Week 28、まとめ
	事後学習	リーディングテストの復習、単語の暗記（３０分）

科目名	TOEFL I A	担当者	高田 宣子	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEFL試験対策を中心とし、問題の傾向と対策を分析しながら、毎回演習を行います。また、映画や音楽、ニュースなどを素材にしながら、英語表現の特色や文化的背景について楽しく学びます。				
授業目的・到達目標	やさしい英語で文章を作成する秘訣や、相手に効果的に伝わる英語表現を紹介しながら、自分でも活用できるような英語力を養成することを目的とします。 基礎的な英語の4技能を習得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域5，6				
履修条件	WordとPower Pointを使用できる学生は履修可能です。				
授業方法	TOEFLに出題された問題を解きながら、各自の弱点をチェックします。また、英語スピーチやプレゼンテーションあるいは異文化問題をテーマとする視覚教材を分析しながら、テーマや展開の工夫について実践的に学んでいきます。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	毎週行う小テストリアクションペーパー、英語スピーチおよびプレゼンテーションの合計点で評価を決定します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	プリント使用			
参考書	開講時に指示いたします。				
オフィスアワー	休み時間（金曜19：30～）、教室にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新聞を読んでおく。（30分）
	授業内容	はじめに―辞書と参考文献の紹介、評価基準について
	事後学習	プリントを確認する。（30分）
2	事前学習	プリントを確認する。（30分）
	授業内容	リスニング対策、リーディングの傾向と対策、ボキャブラリー・チェック
	事後学習	プリントを確認する。（30分）
3	事前学習	プリントを確認する。（30分）
	授業内容	リスニング対策、リーディング演習、会話表現、
	事後学習	プリントを確認する。（30分）
4	事前学習	プリントを確認する。（30分）
	授業内容	リスニング対策、文法復習チェック、ボキャブラリー・チェック
	事後学習	プリントを確認する。（30分）

5	事前学習	英語 1 分間スピーチのテーマを考える。(30分)
	授業内容	英語 1 分間スピーチとコメント その 1
	事後学習	英語 1 分間スピーチ原稿を修正する。(30分)
6	事前学習	英語 1 分間スピーチ原稿を修正する。(30分)
	授業内容	英語 1 分間スピーチとコメント その 2
	事後学習	英語 1 分間スピーチ原稿を修正する。(30分)
7	事前学習	プリントを確認する。(30分)
	授業内容	ライティング対策 パラグラフとは？ エッセイ・ライティング分析 会話表現
	事後学習	プリントを確認する。(30分)
8	事前学習	プリントを確認する。(30分)
	授業内容	ライティング演習 説得性とは？
	事後学習	プリントを確認する。(30分)
9	事前学習	英語プレゼンテーションのテーマを考える。(30分)
	授業内容	英語グループ・プレゼンテーション準備 ワークシートその 1
	事後学習	英語プレゼンテーションのテーマを修正する。(30分)
10	事前学習	英語プレゼンテーションのテーマを修正する。(30分)
	授業内容	英語グループ・プレゼンテーション準備 ワークシートその 2
	事後学習	英語プレゼンテーションのワークシートを修正する。(30分)
11	事前学習	英語プレゼンテーションのワークシートを修正する。(30分)
	授業内容	英語英語グループ・プレゼンテーション準備 ワークシートその 3
	事後学習	英語プレゼンテーションのワークシートを修正する。(30分)
12	事前学習	パワーポイントを作成する。(30分)
	授業内容	英語プレゼンテーションとコメント 1
	事後学習	パワーポイントを作成する。(30分)
13	事前学習	パワーポイントを作成する。(30分)
	授業内容	英語プレゼンテーションとコメント 2
	事後学習	パワーポイントを修正する。(30分)
14	事前学習	パワーポイントを修正する。(30分)
	授業内容	英語プレゼンテーションとコメント
	事後学習	パワーポイントを修正する。(30分)
15	事前学習	パワーポイントを修正する。(30分)
	授業内容	総まとめと復習テスト
	事後学習	テスト解答を確認する。(30分)

科目名	TOEFL I A	担当者	庭山 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEFLの基礎を養成するクラスです。TOEFLの出題傾向に準拠した多種多様な内容の英文を教材として、基本的な文法事項を確認しながら、ボキャブラリーを増強するとともに、内容の予測、トピックの見つけ方、メイン・アイディアの把握、パラグラフ構造の理解、要約などのスキルの習得を行います。教材として、TED Talks、VOA、英字新聞等を使用します。					
授業目的・到達目標	【授業目的】国際研修や交換留学に必要とされる基礎的な英語力を養成することを目的とします。 【到達目標】英語力を養成しTOEFL－ITPで高得点を獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP:外国語科目領域5、6					
履修条件	TOEFL－ITP の受験が履修・評価の必要条件です。（受験料は自己負担です） 毎回辞書を持ってくるください。					
授業方法	予習課題として配布した英文の語彙、文法事項、構文等を演習方式で確認します。毎回ボキャブラリー・テスト・文法事項・内容理解確認のテストを行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、テスト50%、TOEFL-ITP のスコア50%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	プリントを配布します。				
参考書	授業の中で適宜指示します。					
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は、8：30から9：00、授業終了後、お昼休み、4限終了後に、教室または教員室で対応します。（金曜日）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、これまでの英語学習についてまとめておくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス、TOEFLとはどのような試験なのかを他の資格試験と比較しながら解説します。 プリントを配布し、問題を解き、解答と解説を行い各自の英語力の確認をします。
	事後学習	英語学習の計画を立てる。（30分）
2	事前学習	プリントの語彙を覚え、文法事項を理解する。（30分）
	授業内容	TOEFLの解説①（§1 Listenin） リスニングの問題の傾向を知りそれに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今回のリスニング演習の語彙・内容理解のテストを行う。
	事後学習	今回配布されたプリントの語彙・文法事項を復習する。（30分）
3	事前学習	配布されたプリント1（心理学関連の英文）の語彙を調べる。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする TOEFL の解説②（§2 Structure and Written Expression）：TOEFLの文法問題の傾向を理解する。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	今回配布されたプリントの語彙を覚え、文法事項の復習をする。（30分）
4	事前学習	プリント1（心理学関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておく。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 TOEFLの解説③（§3 Reading）：プリント1（心理学）演習①：語彙・イディオム、専門用語を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）

5	事前学習	プリント1（心理学）の文の構造を予習しておく。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング：Part A の傾向（キーワードの聞き取り）を理解しそれに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント1（心理学）の演習②：文の構造を理解する。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をする。（30分）
6	事前学習	プリント1（心理学）の内容のバックグラウンドを調べる。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング：Part B の傾向（設問の予想）を理解しそれに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント1（心理学）の演習③：バックグラウンドを理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
7	事前学習	プリント2（文法問題1：品詞）の語彙・文法事項を予習しておく。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング：Part C の傾向（繰り返し返しの情報）を理解しそれに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント2（文法問題1）の演習を行い、品詞を理解しそれに対応するTOEFLの文法問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
8	事前学習	プリント3（経済学関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておく。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする リスニング：Part A の問題の傾向（会話内の出来事）を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント3（経済学）の演習①：語彙・イディオム、専門用語を理解しそれに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
9	事前学習	プリント3（経済学）の文の構造を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング：Part B の傾向（問題と解決策）を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント3（経済学）の演習②：文の構造を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
10	事前学習	プリント3（経済学）のバックグラウンドを調べる。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング：Part C の傾向（推測と暗示）を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント3（経済学）の演習③：バックグラウンドをより深く理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をする。（30分）
11	事前学習	プリント4（文法問題2：5文型）の語彙・文法事項を調べる。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング：Part A の傾向（賛成と反対）を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント4（文法問題2）の演習を行い、5文型を理解しそれに対応するTOEFLの文法問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をする。（30分）
12	事前学習	プリント5（アメリカ史関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておく。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング：Part B の傾向（話者の意図）を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント5（アメリカ史）演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われているの用語を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
13	事前学習	プリント5（アメリカ史）の文の構造について予習しておく。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング：Part C の傾向（専門分野）を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント5（アメリカ史）演習②：文の構造を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をする。（30分）
14	事前学習	プリント5（アメリカ史）の内容のバックグラウンドを調べる（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 プリント5（アメリカ史）演習③：バックグラウンドをより深く理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）

15	事前学習	これまでの授業で理解できなかった事項の確認をする。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説。 分からない箇所の質問をし、理解できる。
	事後学習	前期の授業の総括をする。（30分）

科目名	TOEFL I A	担当者	藤木 智子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEFLのスコアアップを目的としたクラスです。TOEFLでは短時間で相当量の英文を読むというリーディングの力を試されます。本授業は、速読に力をいれていきます。交換留学、ケンブリッジ大学のサマースクールにも参加できるレベルに到達することも視野にいて、一年間で目標を達成できるようにしましょう。				
授業目的・到達目標	国際研修や交換留学等の海外留学に必要とされる英語力を養成することを目的としています。リーディングの精読を重点的に行い、TOEFL-ITP450点以上の獲得を目指します。 リスニング、文法は基礎を理解して、説明できるようになることを目標とします。多読をしましょう。そして時事英語にも触れましょう。 対応DP及びCP：外国語科目領域 5， 6				
履修条件	TOEFL-ITPを前期に一回以上受験すること、評価に反映します。英和和英辞書は必須です。 電子辞書も可。携帯、スマートフォンの使用は固く禁じます。				
授業方法	長文を速読して英語の速読力をつけていきましょう。TOEFL-ITPの過去問を本番と同じ条件で半期に一度行います。解いた過去問は返却し、解説を行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	60%)筆記試験で、授業で講義した内容の基本的事項についてよく理解できているかを判定します。40%)授業参加度を重視します。積極的に参加しましょう。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	17	成美堂		『Read, Read, Read 英文速読と理解のための実践演習』	宮崎充保
	14	南雲堂		『5分間 TOEIC テストサプリメント 文法・語法』	小池直己
	備考				
参考書	英和・和英辞書。電子辞書でも紙媒体でも構いません。スマートフォンを使用することは禁止しています。 辞書は例文と品詞が載っているものにしてください。				
オフィスアワー	水曜日 9時～12時10分 授業講堂にて。 質問は授業の前が望ましいです。授業後の昼休みでの質問は、事前にアポイントメントを取ってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業の予習の仕方について説明しますので、教科書を準備してください。シラバスに事前に目を通して、質問があれば準備しておいてください。所要時間30分間。
	授業内容	オリエンテーション 重要な説明をしますので、必ず出席してください。 Placement Test、est1、Test2、Test3。授業の予習について、TOEFLの特徴と種類について TOEICとの違いについて確認、成績に着け方についての説明。様々な留学の方法について紹介。
	事後学習	今後のTOEFLITPテスト日を確認しておくこと。教科書を準備して、事前にシラバスと照らし合わせて確認してください。 TOEFLとTOEICの違いや、留学に必要な条件についても確認しましょう。所要時間30分間。
2	事前学習	Placement Test、1, 2, 3の重要表現の確認 事前に単語を調べないで臨んでください。単語力に自信の無い方は事前に調べても大丈夫です。＜事前学習＞所要時間30分間。該当Unitの要点や目標を読んでください。
	授業内容	Unit 1 Register What It Looks Like Test1、Test2、Test3の重要表現の確認をします。 Unit1 Warm Upの復習。
	事後学習	Unit 1 Register What It Looks Like の単語を復習してください。＜事後学習＞所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。
3	事前学習	Unit 1 Register What It Looks Like の単語を復習してください。＜事前学習＞所要時間30分間。該当Unitの要点や目標を読んでください。単語は事前に調べなくてもよいです。初見でどのくらい読めるか、速読できるかを調べます。4
	授業内容	Unit 1 Register What It Looks Like Unit 2 Eye Movement (1): “Move Your Eyes from Left to Right”
	事後学習	Unit1 P16-P20の練習1-6を復習すること。＜事後学習＞所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。

4	事前学習	Unit1のまとめをすること。＜事前学習＞所要時間1時間。Unit 1 の要点や目標を読んでおいてください。
	授業内容	Unit 2 Eye Movement (1): “Move Your Eyes from Left to Right” 自分がどのくらいの速度で読めるのかを確認しましょう。
	事後学習	前回の復習, Today’s passageの重要表現の確認 Unit 2 重要表現をまとめること。＜事後学習＞所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。
5	事前学習	Unit 2 重要表現をまとめること。＜事前学習＞所要時間30分間。該当Unit 2 の要点や目標を読んでおいてください。
	授業内容	Unit 2 Eye Movement (1): “Move Your Eyes from Left to Right” Unit 3 Expand Your Eye: “Eye Span” 速度に着目して速読します。
	事後学習	Develop Your Vocabulary Unit3 Warm Up, ＜事後学習＞所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。
6	事前学習	Unit2 P26-P28の練習1-6を復習すること＜事前学習＞所要時間30分間。該当Unitの要点や目標を読んでおいてください。
	授業内容	Unit 3 Expand Your Eye: “Eye Span” Unit 4 Eye Movement 速度に注目して速読します。
	事後学習	Today’s passage, Today’s passageの重要表現の確認＜事後学習＞所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。
7	事前学習	前回の復習 Today’s passage, Today’s passageの重要表現の確認＜事前学習＞所要時間30分間。該当Unit 4 の要点や目標を読んでおいてください。
	授業内容	Unit 4 Eye Movement (2): “by Skipping Words with Little ” 速読するうえで、重要なテクニックを学びます。単語を固まりとしてとらえる練習をしていきます。
	事後学習	Unit3 P34-P38の練習1-9を復習すること。＜事後学習＞所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。
8	事前学習	Today’s passage, Today’s passageの重要表現の確認＜事前学習＞所要時間30分間。該当Unit 4 の要点や目標を読んでおいてください。
	授業内容	Unit 4、Unit 5 Find it Quickly: “Scanning” 速読するうえで、重要なテクニックを学びます。単語を固まりとしてとらえる練習をしていきます。
	事後学習	Develop Your Vocabularyの確認＜事後学習＞所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。
9	事前学習	Develop Your Vocabularyの確認＜事前学習＞所要時間30分間。該当Unit 5 の要点や目標を読んでおいてください。
	授業内容	Unit 5 Find it Quickly: “Scanning” 速読するうえで、重要なテクニックを学びます。単語を固まりとしてとらえる練習をしていきます。
	事後学習	Unit4 P46-P51の練習1-6を復習すること＜事後学習＞所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。
10	事前学習	P68-77 理解度に応じて練習1-9のいくつかをpick upしておくので、練習してください。Develop Your Vocabularyを見て、単語を確認しておくこと。＜事前学習＞所要時間30分間。該当Unit 7 の要点や目標を読んでおいてください。
	授業内容	Unit 6 Get It Chunk by Chunk Unit7 Warm Up 速度を落とさず、一定のスピードで読み進めることを練習していきます。
	事後学習	Unit 5 の重要単語の確認＜事後学習＞所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。
11	事前学習	Unit 5 の重要表現の確認＜事前学習＞所要時間30分間。該当Unit 6 の要点や目標を読んでおいてください。
	授業内容	Unit 6 Get It Chunk by Chunk 速度を落とさず、一定のスピードで読み進めることを練習していきます。
	事後学習	練習問題1-6, Develop Your Vocabulary をまとめておくこと。＜事後学習＞所要時間1時間。授業内で指示した単語を覚えてください。
12	事前学習	事前にTOEFL ITPの過去問に目をとしておくと良いです。所要時間30分間。 ネットや図書館で事前に頻出単語を確認しておきましょう。
	授業内容	TOEFLのリーディングの過去問を行います。
	事後学習	わからなかった点などは、書きとめて置き、今後の対策をねること。＜事後学習＞所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。
13	事前学習	事前にTOEFL ITPの過去問に目をとしておくと良いです。所要時間30分間。 ネットや図書館で事前に頻出単語を確認しておきましょう。
	授業内容	TOEFLのリスニングの過去問を行います。
	事後学習	わからなかった点などは、書きとめておき、今後の対策を練ること。＜事後学習＞所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。
14	事前学習	これまでの授業の復習をすること。所要時間30分間。 質問事項があればこの日までにまとめておきましょう。
	授業内容	TESTおよびまとめ
	事後学習	わからなかった点は、教科書を確認しましょう。間違えた箇所やあやふやな箇所はノートにまとめておきましょう。 所要時間30分間。
15	事前学習	これまでの授業の成果を見る為にネイティブの英語に触れてみましょう。あらかじめBBCやCNNなどのニュースを見ておきましょう。所要時間30分間。
	授業内容	時事英語に関するDVDを見聞きましょう。
	事後学習	重要表現はまとめておきましょう。所要時間30分間。

科目名	TOEFL I A	担当者	堀 千和子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	海外大学への留学、公務員試験、ロースクール等だけでなく、全般的な英語力のアップを目標とする人のために、TOEFLの演習問題をしながら勉強していきます。				
授業目的・到達目標	[授業目的]国際研修や交換留学等の海外留学に必要とされる英語力を養成することを目的とし、TOEFLのスコア・アップを目指す。 [到達目標]TOEFL ITPのための基礎力を身につけ、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域5, 6				
履修条件	TOEFLの受験を考えている学生。基礎的な英語力をつけたい学生。毎時の単語テストに備えて勉強できる学生。 第一回目の授業には必ず出席のこと。				
授業方法	授業のはじめに毎時、ボキャブラリーの小テストを行います。授業ではビデオ教材を使って語彙、リスニング、読解、英作文、発話練習を行い、英語の基礎力アップを目指します。TOEFLの演習も適宜行ってITP試験に備えます。 適宜小テストを行い、返却します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	小テスト 30%、 TOEFL ITPのスコア 30%、 期末試験 25%、教科書本文の暗唱・シャドーイング 5%、授業への貢献度 5%、 提出物（読書記録表）5%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2017	成美堂	VOA News Plus（見て学ぶVOAニュース）		安浪 誠祐、 Richard S. Lavin
	備考				
参考書	受講生の学力、授業の進度によって適宜指示します。				
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業終了後（火曜：14：30～講堂にて）またはE-mailにて対応します。授業開始時にアドレスをお知らせします。 授業関連の連絡は大学ポータルを使用します。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	TOEFLを勉強する目標をたてておく。(30分)
	授業内容	ガイダンス、ウォームアップ、読解力のチェック
	事後学習	教科書を準備する。音声をダウンロードする。ニュースのビデオを見る。(30分)
2	事前学習	教科書の単元のビデオを見る。教科書のリーディングに目を通す。新出単語を調べておく。(30分)
	授業内容	語彙力のチェック、TOEFLとは？ 教科書 Unit 1「宇宙開発」内容把握と文法事項の確認、本文のシャドーイング
	事後学習	リスニングの問題を復習し、シャドーイングの練習をする。(30分)
3	事前学習	教科書の単元のビデオを見る。教科書のリーディングに目を通す。新出単語を調べておく。(30分)
	授業内容	教科書 Unit 2「医療」内容把握と文法事項の確認、本文のシャドーイング
	事後学習	リスニングの問題を復習し、シャドーイングの練習をする。(30分)
4	事前学習	教科書の単元のビデオを見る。教科書のリーディングに目を通す。新出単語を調べておく。(30分)
	授業内容	教科書 Unit 3「ペットの役割」内容把握と文法事項の確認、本文のシャドーイング
	事後学習	リスニングの問題を復習し、シャドーイングの練習をする。(30分)

5	事前学習	教科書の単元のビデオを見る。教科書のリーディングに目を通す。新出単語を調べておく。(30分)
	授業内容	教科書 Unit 4「SNSと社会」内容把握と文法事項の確認、本文のシャドーイング
	事後学習	リスニングの問題を復習し、シャドーイングの練習をする。(30分)
6	事前学習	教科書の単元のビデオを見る。教科書のリーディングに目を通す。新出単語を調べておく。(30分)
	授業内容	教科書 Unit 5「急成長する中国とインド」内容把握と文法事項の確認、本文のシャドーイング
	事後学習	リスニングの問題を復習し、シャドーイングの練習をする。(30分)
7	事前学習	教科書の単元のビデオを見る。教科書のリーディングに目を通す。新出単語を調べておく。(30分)
	授業内容	教科書 Unit 6「食糧の将来」内容把握と文法事項の確認、本文のシャドーイング
	事後学習	リスニングの問題を復習し、シャドーイングの練習をする。(30分)
8	事前学習	教科書の単元のビデオを見る。教科書のリーディングに目を通す。新出単語を調べておく。(30分)
	授業内容	教科書 Unit 7「社会の不平等」内容把握と文法事項の確認、本文のシャドーイング
	事後学習	リスニングの問題を復習し、シャドーイングの練習をする。(30分)
9	事前学習	教科書の単元のビデオを見る。教科書のリーディングに目を通す。新出単語を調べておく。(30分)
	授業内容	TOEFL ITPに向けて練習問題（リスニングを中心として）Part A, B, C
	事後学習	リスニングの問題を復習する。(30分)
10	事前学習	これまでのTOEFLの演習問題を復習する。VOAの記事をインターネットで探し、一つは読む。(30分)
	授業内容	ITPに向けて練習問題（文法問題を中心として）
	事後学習	できなかった箇所を復習し、ITP試験に活かせるようにする。(30分)
11	事前学習	VOA (Voice of America) の読み物、少なくとも一つは読んでおく。(30分)
	授業内容	ITPに向けて練習問題（読解問題を中心として）
	事後学習	授業で扱った文章を復習し、その他の文章も読んでみる。(30分)
12	事前学習	これまでに学習したTOEFLの練習問題を復習する。(30分)
	授業内容	TOEFL模擬テスト解説
	事後学習	3つの分野で自分の不得意なところを念入りに復習してITP試験に備える。(30分)
13	事前学習	これまで出てきた教科書の本文を復習する。ビデオを見る。(30分)
	授業内容	教科書Unit 1から8までの振り返り、その他の英語ニュース
	事後学習	英語ニュースの特徴を復習する。英字新聞の見出しを10個 挙げてノートに書きだす。(30分)
14	事前学習	前回の学習した箇所の語彙を中心に復習して、小テストに備える。(30分)
	授業内容	教科書以外の英語ニュースを映像で見る。内容把握とシャドーイング。
	事後学習	語彙と文法事項を中心に復習する。シャドーイングの練習。(30分)
15	事前学習	教科書を中心に、今期に学習した内容を振り返る。(60分)
	授業内容	授業内試験及び前期の学習内容の振り返り
	事後学習	理解があやふやな箇所を振り返り、後期の学習につなげられるようにする。(30分)

科目名	TOEFL I A	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、TOEFL ITP 450点以上の取得を目指します。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEFL ITP 450点以上の取得に必要な基礎力（特に、文法・リーディング・リスニングの基礎力）を養成することを目的としています。 【授業目標】TOEFL ITP 450点以上を取得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5， 6			
履修条件	TOEFL ITP 450点以上を取得していないこと。前期中に1度TOEFL ITPを受験すること。原則TOEFL IBと通年で履修してください。			
授業方法	演習方式。下記の教科書を用いて、高等学校までの英文法・語法の知識を総整理します。また、TOEFL-ITP関連の教材の演習を通して、実践的な得点を養います。適宜、小テストを実施し、次の授業以降で返却をします。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）100% 予習をしていない場合は、大幅に減点します。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2010	センテージ ラーニング	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』	Mark D. Stafford 他
	2018	いっずな書店	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』	いっずな書店編集部
	備考	『ジーニアス英和辞典 第5版』など、大学生向けの英和辞典を必ず毎回持参すること。		
参考書	使用しない。			
オフィスアワー	火曜日16:10～授業終了後の講堂にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体像を概観しておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス TOEFL ITP の概要、事前・事後学習の方法、成績評価等について説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。（30分）
2	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 2～3 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 2～3 の Exercise の解説（動詞と文型（1）（2））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
3	事前学習	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のPre-TestのSection2～3を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のPre-TestのSection2～3の解説（文法・読解）。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
4	事前学習	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit01のTaskを解いておくこと。（30分）
	授業内容	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit01のTaskの解説（読解・語彙）。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）

5	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 46～47 の Exercise を解いておくこと。(30分)
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 46～47 の Exercise の解説（接続詞（1）（2））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。(30分)
6	事前学習	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit01のTaskを解いておくこと。(30分)
	授業内容	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit01のTaskの解説（文法）。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。(30分)
7	事前学習	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit02のTaskを解いておくこと。(30分)
	授業内容	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit02のTaskの解説（リスニング・スピーキング・語彙）。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。(30分)
8	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 38 の Exercise を解いておくこと。(30分)
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 38 の Exercise の解説（名詞）。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。(30分)
9	事前学習	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit02のTaskを解いておくこと。(30分)
	授業内容	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit02のTaskの解説（文法）。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。(30分)
10	事前学習	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit03のTaskを解いておくこと。(30分)
	授業内容	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit03のTaskの解説（読解・語彙）。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。(30分)
11	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 28～30 の Exercise を解いておくこと。(30分)
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 28～30 の Exercise の解説（仮定法）。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。(30分)
12	事前学習	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit03のTaskを解いておくこと。(30分)
	授業内容	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit03のTaskの解説（文法）。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。(30分)
13	事前学習	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit04のTaskを解いておくこと。(30分)
	授業内容	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit04のTaskの解説（リスニング・スピーキング・語彙）。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。(30分)
14	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 8～10 の Exercise を解いておくこと。(30分)
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 8～10 の解説（助動詞（1）（2）（3））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。(30分)
15	事前学習	前期授業内容の総復習。(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り。
	事後学習	前期の授業内容について、間違えた問題を中心に今一度問題を解き直す。(30分)

科目名	TOEFL I B	担当者	高田 宣子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEFL対策の基本を押さえた上で、実践的に問題を解いていきます。時事的なニュースなどを素材にしながら、英語表現の特色や文化的背景について楽しく学びます。 やさしい英語で文章を作成する秘訣や、相手に効果的に伝わる英語表現を紹介しながら、自分でも活用できるような英語力を身につけるよう指導します。				
授業目的・到達目標	TOEFLで出題されるような内容に対応できる英語力を養成することを目的とします。 基礎的な英語の4技能を習得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5， 6				
履修条件	WordとPower Pointを使用できる学生は履修可能です。				
授業方法	過去問を解きながら、各自の弱点をチェックします。また、英語プレゼンテーションあるいは異文化問題をテーマとする視覚教材を分析し、テーマや展開の工夫について学んでいきます。TOEFLタイプのライティングの練習を行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	小テストあるいはコメントペーパー、短い英語スピーチおよびミニプレゼンテーションの合計点で評価を決定します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	プリント使用。映画や音楽などもテキストに使用します。			
参考書	開講時に指示いたします。				
オフィスアワー	休み時間（金曜19：30～）、教室にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新聞を読んでおく。（30分）
	授業内容	TOEFL出題の問題傾向についてのガイダンス
	事後学習	プリントを見直す。（30分）
2	事前学習	プリントの確認を行う。（30分）
	授業内容	創作会話、TOEFL文法の復習と確認。
	事後学習	テストとプリントの確認を行う。（30分）
3	事前学習	プリントの予習を行う。（30分）
	授業内容	創作会話、TOEFU I 文法も分析 スト
	事後学習	プリントの確認を行う。（30分）
4	事前学習	プリントの予習を行う。（30分）
	授業内容	表現分析、ヒアリング、プレゼンテーション分析 その1
	事後学習	プリントの確認を行う。（30分）

5	事前学習	プリントの予習を行う。（30分）
	授業内容	表現分析、ヒアリング、英語プレゼンテーション分析その2
	事後学習	プリントの確認を行う。（30分）
6	事前学習	プリントの予習を行う。（30分）
	授業内容	表現分析、ヒアリング、英語プレゼンテーション分析　その3
	事後学習	プリントの確認を行う。 タイピング練習（30分）
7	事前学習	プリントの予習を行う。（30分）
	授業内容	復習テスト タイピング練習
	事後学習	英語プレゼンテーションのテーマを考える。（30分）
8	事前学習	英語プレゼンテーションのテーマを考える。（30分）
	授業内容	英語プレゼンテーション準備　1
	事後学習	ワークシートの修正を行う。（30分）
9	事前学習	ワークシートの修正を行う。（30分）
	授業内容	英語プレゼンテーション準備　2
	事後学習	パワーポイントを作成する。（30分）
10	事前学習	パワーポイントを作成する。（30分）
	授業内容	英語プレゼンテーション準備　3
	事後学習	パワーポイントを改良する。 プレゼンテーションのリハーサルを行う。（30分）
11	事前学習	プレゼンテーションのリハーサル（30分）
	授業内容	英語プレゼンテーションとコメント
	事後学習	パワーポイントを修正する。（30分）
12	事前学習	プレゼンテーションのリハーサル（30分）
	授業内容	英語プレゼンテーションとコメント
	事後学習	パワーポイントを修正する。（30分）
13	事前学習	プレゼンテーションのリハーサル（30分）
	授業内容	英語プレゼンテーションとコメント
	事後学習	パワーポイントを修正する。（30分）
14	事前学習	プリントを見直す。（30分）
	授業内容	英文ライティング　TOEFL対策　パラグラフライティングの確認
	事後学習	コメントとプリントを見直す。（30分）
15	事前学習	配布されたすべてのプリントを見直す。（30分）
	授業内容	総まとめと復習テスト・解説
	事後学習	テスト解答を確認する。（30分）

科目名	TOEFL I B	担当者	庭山 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEFLの基礎養成クラスです。TOEFLの出題傾向に準拠した多種多様な内容の英文を教材として、基本的文法事項を確認しながらボキャブラリーを増強するとともに、内容の予測、トピックの見つけ方、メイン・アイディアの把握、パラグラフ構造の理解、要約などのスキルの習得を行います。教材として、TED Talks、VOA、英字新聞等を使用します。					
授業目的・到達目標	【授業目的】国際研修や交換留学に必要とされる基礎的な英語力を養成することを目的とします。 【到達目標】英語力を養成しTOEFL－ITPで高得点を獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP:外国語科目領域5、6					
履修条件	TOEFL－ITPの受験が履修・評価の必要条件です。（受験料は自己負担です） 毎回辞書を持ってくるください。					
授業方法	予習課題として配布した英文の語彙、文法事項、構文等を演習方式で確認します。毎回ボキャブラリー・テスト・文法事項・内容理解確認のテストを行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、テスト50%、TOEFL-ITPのスコア50%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	プリントを配布します。				
参考書	授業の中で適宜指示します。					
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は、8：30から9：00、授業終了後、お昼休み、4限終了後に、教室または教員室で対応します。（金曜日）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、これまでの英語学習についてまとめておくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス、TOEFLとはどのような試験なのかを他の資格試験と比較しながら解説します。 プリントを配布し、問題を解き、解答と解説を行い各自の英語力の確認をします。
	事後学習	英語学習の計画を立てる。（30分）
2	事前学習	プリントの語彙を覚え、文法事項を理解する。（30分）
	授業内容	TOEFLの解説①（§1 Listenin） リスニングの問題の傾向を知りそれに対応する TOEFL の問題を解答できる。 今回のリスニング演習の語彙・内容理解のテストを行う。
	事後学習	今回配布されたプリントの語彙・文法事項を復習する。（30分）
3	事前学習	配布されたプリント1（社会学関連の英文）の語彙を調べる。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする TOEFLの解説②（§2 Structure and Written Expression）：TOEFLの文法問題の傾向を理解する。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	今回配布されたプリントの語彙を覚え、文法事項の復習をする。（30分）
4	事前学習	プリント1（社会学関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 TOEFLの解説③（§3 Reading）：プリント1（社会学）演習①：語彙・イディオム、専門用語を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）

5	事前学習	プリント1（社会学）の文の構造を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング：Part A の傾向（疑問詞を聞き取る）を理解しそれに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント1（社会学）の演習②：文の構造を理解する。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
6	事前学習	プリント1（社会学）の内容のバックグラウンドを調べる。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング：Part B の傾向（繰り返される情報）を理解しそれに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント1（社会学）の演習③：バックグラウンドを理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
7	事前学習	プリント2（文法問題：接続詞）の語彙・文法事項を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング：Part C の傾向（トピックの聞き取り）を理解しそれに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント2（文法問題：接続詞）の演習を行い、それに対応するTOEFLの文法問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
8	事前学習	プリント3（医学・健康問題関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする リスニング：Part A の傾向（イントネーションの特徴）を理解しTOEFLの問題を解答できる。 プリント3（医学・健康）の演習①：語彙・イディオム、専門用語を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
9	事前学習	プリント3（医学・健康）の文の構造を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング：Part B の傾向（話者の意図）を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント3（医学・健康）の演習③：バックグラウンドを理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
10	事前学習	プリント4（文法問題2：時制）の語彙・文法事項を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング：Part C の傾向（数字の聞き取り）を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント4（文法問題2：時制）の演習を行い、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
11	事前学習	プリント5（環境問題に関連する英文）の語彙・文法事項を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング：Part A の傾向（過去の思い込み）を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント5（環境問題）演習①：語彙・イディオム、専門用語を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
12	事前学習	プリント5（環境問題）の文の構造を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング：Part B の傾向（繰り返される情報）を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント5（環境問題）演習③：バックグラウンドを理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
13	事前学習	プリント6（文法問題3：疑問詞）の語彙・文法事項を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング：Part C の傾向（話者の提案）を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント6（文法問題3：疑問詞）の演習を行い、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
14	事前学習	これまでのプリントとテストの総復習（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 今までの演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）

15	事前学習	これまでの授業で理解できなかった事項の確認をする。（30分）
	授業内容	旋回のテストの返却と解説。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）

科目名	TOEFL I B	担当者	藤木 智子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	TOEFLのスコアアップを目的としたクラスです。TOEFLでは短時間で相当量の英文を読むというリーディングの力を試されます。本授業は、速読に力をいれていきます。交換留学、ケンブリッジ大学のサマースクールにも参加できるレベルに到達することも視野にいて、一年間で目標を達成できるようにしましょう。			
授業目的・到達目標	国際研修や交換留学等の海外留学に必要とされる英語力を養成することを目的としています。リーディングの精読を重点的に行い、TOEFL-ITP450点以上の獲得を目指します。 リスニング、文法は基礎を理解して、説明できるようになることを目標とします。多読をしましょう。そして時事英語にも触れましょう。 対応DP及びCP：外国語科目領域 5， 6			
履修条件	TOEFL-ITPを後期に一回以上受験することが履修の条件です。評価に反映しますので必ず受験して下さい。英和和英辞書は必須です。電子辞書も可。携帯、スマートフォンの使用は固く禁じます。			
授業方法	演習形式で長文を速読して英語の速読力をつけていきましょう。単語を敢えて調べず初見で英語を速読することになれましょう。単語力に自信のない人は、事前に単語を調べても構いません。TOEFL-ITPの過去問を本番と同じ条件で半期に一度行います。解いた過去問は返却し、解説を行います。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	60%)筆記試験で、授業で講義した内容の基本的事項についてよく理解できているかを判定します。40%)授業参加度を重視します。積極的に参加しましょう。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	17	成美堂	『Read, Read, Read 英文速読と理解のための実践演習』	宮崎充保
	14	南雲堂	『5分間 TOEIC テストサプリメント 文法・語法』	小池直己
	備考			
参考書	英和・和英辞書。電子辞書でも紙媒体でも構いません。スマートフォンを使用することは禁止しています。辞書は例文と品詞が載っているものにしてください。			
オフィスアワー	水曜日 9時～12時10分 授業講堂にて。 質問は授業の前が望ましいです。授業後の昼休みでの質問は、事前にアポイントメントを取ってください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業の予習の仕方について説明しますので、教科書を準備してください。シラバスを事前に目をとおして教科書の該当箇所を確認しておきましょう。所要時間30分間。
	授業内容	授業の予習について、TOEFLの特徴と種類についてTOEICとの違いについて確認、成績に着け方についての説明。様々な留学の方法について紹介。
	事後学習	今後のTOEFLITPテスト日を確認しておくこと。＜事後学習＞所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。TOEFL、TOEICの違いを確認しておきましょう。所要時間30分間。
2	事前学習	Placement Test、1, 2, 3の重要表現の確認 事前に単語を調べないで臨んでください。単語力に自信の無い方は事前に調べても大丈夫です。＜事前学習＞該当Unit 7の要点や目標を読んでおいてください。所要時間30分間。
	授業内容	Unit 7 Find What Will Come After: “Prediction” 様々な文章を初見で読みましょう。
	事後学習	Unit 7 Find What Will Come After: “Prediction” の重要単語の復習をしてください。＜事後学習＞所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。
3	事前学習	Unit 7 Find What Will Come After: “Prediction” の重要単語の復習をしてください。＜事前学習＞所要時間30分間。該当Unit 8の要点や目標を読んでおいてください。
	授業内容	Unit 7 Find What Will Come After: “Prediction” Unit 8 Imagine What Will Come After: “Anticipation” 様々な文章を初見で読みましょう。
	事後学習	Unit 7 Find What Will Come After: “Prediction” の復習をしてください。＜事後学習＞所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。
4	事前学習	Unit 7 Find What Will Come After: “Prediction” ＜事前学習＞所要時間30分間。該当Unit 8の要点や目標を読んでおいてください。 の復習をしてください。
	授業内容	Unit 8 Imagine What Will Come After: “Anticipation” 速読に慣れてきたところで、WPSを確認しましょう。
	事後学習	前回の復習、Today’s passageの確認 Unit 8のまとめをすること＜事後学習＞所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。

5	事前学習	Unit 8 Imagine What Will Come After: “Anticipation” のまとめをすること<事前学習>所要時間30分間。該当Unit 9 の要点や目標を読んでおいてください。
	授業内容	Unit 8 Imagine What Will Come After: “Anticipation” Unit 9Read On and On without Turning Back: “Go Back Only When You’ re Lost”
	事後学習	Develop you vocabularyの確認 Unit8の復習<事後学習>所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。
6	事前学習	Unit8の復習および<事前学習>所要時間30分間。該当Unit 9 の要点や目標を読んでおいてください。
	授業内容	Unit 9 Read On and On without Turning Back: “Go Back Only When You’ re Lost” 英文を読む速度を速めていくようにしましょう。
	事後学習	前回の復習,Today’ s passage, Today’ s passageの重要表現の確認<事後学習>所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。
7	事前学習	<事前学習>所要時間30分間。該当Unit 9 の要点や目標を読んでおいてください。 前回の復習,Today’ s passage, Today’ s passageの重要表現の確認
	授業内容	Unit 9 Read On and On without Turning Back: “Go Back Only When You’ re Lost” 多読をすることで、英文を読む速度を上げていきます。
	事後学習	Unit 9 Read On and On without Turning Back: “Go Back Only When You’ re Lost” を復習すること<事後学習>所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。
8	事前学習	Today’ s passage, Today’ s passageの重要表現の確認<事前学習>所要時間30分間。該当Unit 1 0 の要点や目標を読んでおいてください。
	授業内容	Unit 10 Read at Speed and Get the General Idea: “Skimming” 意味を大まかにとらえ、スピードを速める練習をしましょう。
	事後学習	Unit 10のDevelop Your Vocabularyの確認<事後学習>所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。
9	事前学習	<事前学習>所要時間30分間。該当Unit 1 0 の要点や目標を読んでおいてください。Develop Your Vocabularyの確認
	授業内容	Unit 10 Read at Speed and Get the General Idea: “Skimming” p151－121練習問題1－11、Develop Your vocaburaly 読解スピードを速める練習をしましょう。
	事後学習	Unit10を復習すること<事後学習>所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。
10	事前学習	<事前学習>所要時間30分間。該当Unitの要点や目標を読んでおいてください。Develop Your Vocabularyの確認
	授業内容	Unit11 意味を正確にとらえているか、演習形式で演習を通して確認しましょう。読む速度を確認し、これまでの達成度を確認しましょう。
	事後学習	Unit 11のDevelop Your Vocabularyをまとめておくこと。<事後学習>所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。
11	事前学習	事前にTOEFL ITPの過去問に目をとっておくと良いです。ネットや図書館などで頻出単語を確認しておきましょう。 所要時間30分間。
	授業内容	TOEFLのリーディングの過去問を行います。
	事後学習	わからなかった点などは、書きとめておき、今後の対策を練ること。所要時間30分間。
12	事前学習	事前にTOEFL ITPの過去問に目をとっておくと良いです。所要時間30分間。ネットや図書館などで頻出単語を確認しておきましょう。
	授業内容	TOEFLのリスニングの過去問を行います。
	事後学習	わからなかった点などは、書きとめておき、今後の対策を練ること。所要時間30分間。
13	事前学習	これまでの授業の復習をして準備すること。所要時間30分間。
	授業内容	問題演習。前期の授業を総復習するため、問題を解いていきます。達成度をみてきましょう。
	事後学習	わからなかった点は、教科書を確認しましょう。<事後学習>所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください
14	事前学習	これまでの授業の復習をして準備すること。所要時間30分間。
	授業内容	前期授業のまとめ。テストの解説および総括をします。
	事後学習	不明な点を解説しますので、確認しましょう。<事後学習>所要時間30分間。授業内で指示した単語を覚えてください。
15	事前学習	これまでの授業の成果を見る為にネイティブの英語に触れてみましょう。所要時間30分間。 事前にBBCやCNNニュースを見ておくといいでしょう。
	授業内容	これまでの授業の成果をみるために、時事英語のDVDを見聞きましょう。
	事後学習	重要表現はまとめておきましょう。所要時間30分間。

科目名	TOEFL I B	担当者	堀 千和子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	海外大学への留学、公務員試験、ロースクール等だけでなく、全般的な英語力のアップを目標とする人のために、英語ニュースを見たり、TOEFLの演習問題をして勉強していきます。			
授業目的・到達目標	[授業目的] 国際研修や交換留学等の海外留学に必要とされる英語力を養成することを目的とし、TOEFLのスコア・アップを目指す。 [到達目標] TOEFL ITPのための基礎力を身につけ、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域5, 6			
履修条件	TOEFLの受験を考えている学生。基礎的な英語力をつけたい学生。毎時の単語テストに備えて勉強できる学生。 第一回目の授業には必ず出席のこと。			
授業方法	授業のはじめに毎時、ボキャブラリーの小テストを行います。授業ではビデオ教材を使って語彙、リスニング、読解、英作文、発話練習を行い、英語の基礎力アップを目指します。TOEFLの演習も適宜行ってITP試験に備えます。 適宜小テストを行い、返却します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	語彙の小テスト 30%、TOEFL ITPのスコア 30%、期末試験 25%、教科書本文の暗唱・シャドーイング 5%、授業への貢献度 5%、提出物（読書記録表）5%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	成美堂	VOA News Plus（見て学ぶVOAニュース）	安浪 誠祐、 Richard S. Lavin
	備考	1度は必ずTOEFL ITP試験を受験してスコアを提出してもらいます。		
参考書	受講生の学力、授業の進度によって適宜指示します。			
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業終了後（火曜：14：30～講堂にて）またはE-mailにて対応します。授業開始時にアドレスをお知らせします。 授業関連の連絡は大学ポータルを使用します。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の復習をし、後期の学習の目標を立てる。(30分)
	授業内容	ガイダンス、ウォームアップ、英語ニュース
	事後学習	教科書を準備する。音声ダウンロードする。(30分)
2	事前学習	教科書のリーディングに目を通す。新出単語を調べておく。(30分)
	授業内容	教科書 Unit 8「ハンディキャップを乗り越える」内容把握と文法事項の確認、本文のシャドーイング
	事後学習	リスニングの問題を復習し、シャドーイングの練習をする。(30分)
3	事前学習	教科書のリーディングに目を通す。新出単語を調べておく。(30分)
	授業内容	教科書 Unit 9「進化する医療」内容把握と文法事項の確認、本文のシャドーイング
	事後学習	リスニングの問題を復習し、シャドーイングの練習をする。(30分)
4	事前学習	教科書のリーディングに目を通す。新出単語を調べておく。(30分)
	授業内容	教科書 Unit 10「良い読書」内容把握と文法事項の確認、本文のシャドーイング
	事後学習	リスニングの問題を復習し、シャドーイングの練習をする。(30分)

5	事前学習	教科書のリーディングに目を通す。新出単語を調べておく。(30分)
	授業内容	教科書 Unit 1 1「アフリカの野生動物」内容把握と文法事項の確認、本文のシャドーイング
	事後学習	リスニングの問題を復習し、シャドーイングの練習をする。(30分)
6	事前学習	教科書のリーディングに目を通す。新出単語を調べておく。(30分)
	授業内容	教科書 Unit 1 2「環境にやさしい乗り物」内容把握と文法事項の確認、本文のシャドーイング
	事後学習	リスニングの問題を復習し、シャドーイングの練習をする。(30分)
7	事前学習	教科書のリーディングに目を通す。新出単語を調べておく。(30分)
	授業内容	教科書 Unit 1 3「コンピューター・エンジニアリング」内容把握と文法事項の確認、本文のシャドーイング
	事後学習	リスニングの問題を復習し、シャドーイングの練習をする。(30分)
8	事前学習	教科書のリーディングに目を通す。新出単語を調べておく。(30分)
	授業内容	教科書 Unit 1 4「驚くべき宇宙」内容把握と文法事項の確認、本文のシャドーイング
	事後学習	リスニングの問題を復習し、シャドーイングの練習をする。(30分)
9	事前学習	教科書のリーディングに目を通す。新出単語を調べておく。(30分)
	授業内容	教科書 Unit 1 5「注目を集めるデザイン」内容把握と文法事項の確認、本文のシャドーイング
	事後学習	リスニングの問題を復習し、シャドーイングの練習をする。(30分)
10	事前学習	教科書のリスニングの復習をする。発話練習を行う。(30分)
	授業内容	ITPに向けて練習問題（リスニングを中心に）
	事後学習	できなかった箇所を復習し、ITP試験に活かせるようにする。(30分)
11	事前学習	VOAの読み物、少なくとも一つは読んでおく。(30分)
	授業内容	ITP試験に向けて練習問題（文法を中心に）
	事後学習	授業で扱った文章を復習し、宿題の文法問題をする。(30分)
12	事前学習	VOAの読み物、少なくとも一つは読んでおく。(30分)
	授業内容	ITP試験に向けて練習問題（リーディングを中心に）
	事後学習	授業で扱った文章を復習し、宿題の読解問題をする。(30分)
13	事前学習	これまでのTOEFLの演習問題を復習する。(30分)
	授業内容	TOEFL模擬テスト（3つの分野）解説
	事後学習	できなかった箇所を復習し、ITP試験に備える。(30分)
14	事前学習	これまで教科書で学習した問題を語彙を中心に復習する。(30分)
	授業内容	教科書以外のVOAニュースを映像で見る。英字新聞を読む。
	事後学習	できなかった箇所を復習する。(30分)
15	事前学習	教科書を中心に、今期に学習した内容を振り返り期末試験に備える。(60分)
	授業内容	授業内試験及び後期の学習内容の振り返り
	事後学習	理解があやふやな箇所を振り返り、次年度の学習につなげられるようにする。(30分)

科目名	TOEFL I B	担当者	佐藤 健児	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この授業では、TOEFL ITP 450点以上の取得を目指します。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEFL ITP 450点以上の取得に必要な基礎力（特に、文法・リーディング・リスニングの基礎力）を養成することを目的としています。 【授業目標】TOEFL ITP 450点以上を取得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5， 6			
履修条件	TOEFL ITP 450点以上を取得していないこと。後期中に1度TOEFL ITPを受験すること。原則TOEFL IBと通年で履修してください。			
授業方法	演習方式。下記の教科書を用いて、高等学校までの英文法・語法の知識を総整理します。また、TOEFL-ITP関連の教材の演習を通して、実践的な得点を養います。適宜、小テストを実施し、次の授業以降で返却をします。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）100% 予習をしていない場合は、大幅に減点します。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2010	センゲージ ラーニング	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』	Mark D. Stafford 他
	2018	いっずな書店	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』	いっずな書店編集部
	備考	『ジーニアス英和辞典 第5版』など、大学生向けの英和辞典を必ず毎回持参すること。		
参考書	使用しない。			
オフィスアワー	火曜日16:10～授業終了後の講堂にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体像を概観しておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス TOEFL ITP の概要、事前・事後学習の方法、成績評価等について説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。（30分）
2	事前学習	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit04のTaskを解いておくこと。（30分）
	授業内容	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit04のTaskの解説（文法）。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
3	事前学習	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit05のTaskを解いておくこと。（30分）
	授業内容	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit05のTaskの解説（読解・語彙）。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
4	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 21～23 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 21～23 の Exercise の解説（比較（1）（2）（3））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）

5	事前学習	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit05のTaskを解いておくこと。（30分）
	授業内容	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit05のTaskの解説（文法）。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
6	事前学習	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit06のTaskを解いておくこと。（30分）
	授業内容	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit06のTaskの解説（リスニング・スピーキング・語彙）。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
7	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 43 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 43 の Exercise の解説（副詞）。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
8	事前学習	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit06のTaskを解いておくこと。（30分）
	授業内容	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit06のTaskの解説（文法）。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
9	事前学習	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit07のTaskを解いておくこと。（30分）
	授業内容	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit07のTaskの解説（読解・語彙）。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
10	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 24～26 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 24～26 の Exercise の解説（関係詞（1）（2）（3））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
11	事前学習	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit07のTaskを解いておくこと。（30分）
	授業内容	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit07のTaskの解説（文法）。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
12	事前学習	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit08のTaskを解いておくこと。（30分）
	授業内容	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit08のTaskの解説（リスニング・スピーキング・語彙）。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
13	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 13, 17, 19 の Exercise を解いておくこと。（30分）
	授業内容	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 13, 17, 19 の Exercise の解説（不定詞（1）動名詞（1）分詞（1））。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
14	事前学習	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit08のTaskを解いておくこと。（30分）
	授業内容	『Power-up Trainer for the TOEFL ITP』のUnit08のTaskの解説（文法）。
	事後学習	授業内容の復習。事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
15	事前学習	後期授業内容の総復習。（30分）
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り。
	事後学習	後期の授業内容について、間違えた問題を中心に今一度問題を解き直す。（30分）

科目名	TOEFL II A	担当者	加賀 岳彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、TOEFLを主たる対象としつつ、英語の正確な理解力の向上・語彙力の強化・英語のリテラシーの養成を図ります。授業では演習形式で英文を「精読」します。また重要な単語・構文・表現の意味・用法を広く学びます。受講生は「継続的学習」が強く望まれます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEFL（および各種の英語資格試験）のスコアを向上させるのに必要な語彙力・読解力・思考力、そして学習継続力の養成を目的とします。 【到達目標】上記の目的に向けて、毎回TOEFL形式の小テストを行い、学期を通して60%以上の正答率を獲得できることを目標とします。対応DPおよびCP:外国語科目領域 5, 6					
履修条件	TOEFL（および各種の英語資格試験）の受験を強く奨励します。学期内にTOEFL-ITP（受験料は受講者負担）を1回は受験してください。					
授業方法	テキストの指定された箇所の予習を前提として、毎回TOEFL形式の小テストを行い、解答・解説をします。小テストはすべて採点され、次の授業で返却されます。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		平常点（授業参加度、毎回のTOEFL形式の小テスト）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2013	金星堂		Issues of Our Age		Peter Weld
	備考					
参考書	受講生は毎回必ず各自の「（電子）辞書」を持参してください。なお、授業中の携帯電話・スマートフォン等の使用は固く禁じます。					
オフィスアワー	月曜日12:20～12:50、授業講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、授業の全体を概観する。(30分)
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、TOEFLについて、英語学習法について説明する。 授業目的に向けた初期演習を行う。
	事後学習	ガイダンス、および初期演習の復習を行う。(30分)
2	事前学習	Chapter 1: Seven Billion and Counting（前半）を予習してくる。(60分)
	授業内容	Chapter 1: Seven Billion and Counting（前半）を正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 TOEFLに頻出する「多義語」の意味を判別できるようになる演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した「多義語」の意味を復習し、覚える。(30分)
3	事前学習	Chapter 1: Seven Billion and Counting（後半）を予習してくる。(60分)
	授業内容	Chapter 1: Seven Billion and Counting（後半）を正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 TOEFLに頻出する「重要単語」の意味・用法の理解を深める演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した「重要単語」の復習を行う。(30分)
4	事前学習	Chapter 2: Who Wants to be a Millionaire?（前半）を予習してくる。(60分)
	授業内容	Chapter 2: Who Wants to be a Millionaire?(前半)を正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 TOEFLに頻出する重要な「前置詞の用法」の知識を広げる演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した「前置詞の用法」の復習を行う。(30分)

5	事前学習	Chapter 2: Who Wants to be a Millionaire? (後半) を予習してくる。(60分)
	授業内容	Chapter 2: Who Wants to be a Millionaire?(後半) を正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 接頭辞から語彙を増やす演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した接頭辞、および新しい語彙を復習し、覚える。(30分)
6	事前学習	Chapter 1～2を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。(60分)
	授業内容	Chapter 1～2の総復習のTOEFL形式小テスト、その解答・解説を通じて、学習内容の振り返りを行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。(30分)
7	事前学習	Chapter 3: Poverty's Partner: Hunger (前半) を予習してくる。(60分)
	授業内容	Chapter 3: Poverty's Partner: Hunger (前半) を正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 TOEFLにおける word formに関連した問題を解けるようになる演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。TOEFLの word formの問題をもう一度解いてみる。(30分)
8	事前学習	Chapter 3: Poverty's Partner: Hunger (後半) を予習してくる。(60分)
	授業内容	Chapter 3: Poverty's Partner: Hunger (後半) を正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 TOEFLに頻出する「重要単語」の意味・用法を理解する演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した単語の意味・用法を復習し、覚える。(30分)
9	事前学習	Chapter 4: Of Terror and Tantrums (前半) を予習してくる。(60分)
	授業内容	Chapter 4: Of Terror and Tantrums (前半) を正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 TOEFLの読解において重要な「多義語」の意味を判別できるようになる演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した多義語の意味を復習し、覚える。(30分)
10	事前学習	Chapter 4: Of Terror and Tantrums (後半) を予習してくる。(60分)
	授業内容	Chapter 4: Of Terror and Tantrums (後半) を正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 TOEFLの読解において重要な「多義語」の知識を増やす演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した多義語を復習し、覚える。(30分)
11	事前学習	Chapter 3～4を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。(60分)
	授業内容	Chapter 3～4の総復習のTOEFL形式小テスト、、その解答・解説を通じて、学習内容の振り返りを行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。(30分)
12	事前学習	Chapter 5: Double Edged Net (前半) を予習してくる。(60分)
	授業内容	Chapter 5: Double Edged Net (前半) を正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 TOEFLの読解において重要な「多義語」の意味を判別できるようになる演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した多義語の意味を復習し、覚える。(30分)
13	事前学習	Chapter 5: Double Edged Net (後半) を予習してくる。(60分)
	授業内容	Chapter 5: Double Edged Net (後半) のを正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 TOEFLに頻出する「重要単語」の意味・用法の知識を広げる演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した単語の意味・用法を復習し、覚える。(30分)
14	事前学習	Chapter 6: The Issues of Oceansを予習してくる。(60分)
	授業内容	Chapter 6: The Issues of Oceansを正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 TOEFLに頻出する重要な「前置詞の意味・用法」の知識を広げる演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した「前置詞の用法」の復習を行う。(30分)
15	事前学習	Chapter 5～6を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。(60分)
	授業内容	Chapter 5～6の総復習のTOEFL形式小テスト、その解答・解説を通じて、学習内容の振り返りを行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。 今学期の学習を踏まえて、各自の弱点等を認識し、今後の英語学習の方向性を考える。(30分)

科目名	TOEFL II A	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業は、国際研修や交換留学などの海外留学に必要な英語力を総合的に身につけ、TOEFLのスコア・アップをはかるものです。アカデミックなテキストの読解、聴き取り、さらにはエッセイ等を書く際にも役立つアカデミック・ライティングのスキルを総合的に身に付けます。					
授業目的・到達目標	〔授業目的〕 TOEFL-ITPで必要な基礎力を総合的に養うことは勿論、一貫した考えを文法的に正確にかつ説得力のある英文で論理的にまとめられるよう、論理的思考法を養成することを目的とします。 〔到達目標〕 留学先で即戦力として通用するような実効性のある英語力の向上を目指し、英語を駆使する運用能力を確実に養い、ITP-TOEFL450（iBT45）以上を取得できることを目標とします。 関連DP及びCP:外国語科目領域 5, 6					
履修条件	ITP-TOEFL400 以上を取得している学生が望ましいです。学期内にITP-TOEFL（受験料は受講者負担）を1回は受験してください。					
授業方法	前半はListening, Structure and Reading能力を総合的に養い、後半はコンピューターを使用しアカデミック・ライティングスキルを実践的に学びます。確認テストのフィードバックは授業内に行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		課題への取り組み・毎回の確認テストや授業への参加度（50%） クライテリオンとTOEFLのスコア（50%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2010	金星堂		Writing Frontiers		熊本、大井、上村、Sano、松本
	備考	随時プリント教材を使用する。 クライテリオン受験料(5回で1200円) は受講者負担。				
参考書	適宜、資料配布や参考文献紹介を行います。					
オフィスアワー	月曜日12:20~13:00、場所は事前にアポイントメントを取った際に決めます。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、講義全体を概観する。授業に関する質問を考えてくる。（30分）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、講義全体の説明について理解を深める。（30分）
2	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング、TOEFL-ITP文法問題対策
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
3	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング、TOEFL-ITP文法問題対策
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
4	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング、TOEFL-ITP文法問題対策
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）

5	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング、TOEFL-ITP文法問題対策
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
6	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング、TOEFL-ITP文法問題対策
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
7	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング、TOEFL-ITP文法問題対策
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
8	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	リスニング、ITP対策
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
9	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	リスニング、ITP対策
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
10	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
11	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	アカデミック・ライティング手法、クライテリオン1
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
12	事前学習	クライテリオン1を完成度の高いエッセイになるよう修正する。（30分）
	授業内容	アカデミック・ライティング手法、クライテリオン2 (revise)
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
13	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	アカデミック・ライティング手法、クライテリオン3
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
14	事前学習	クライテリオン3を完成度の高いエッセイになるよう修正する。（30分）
	授業内容	アカデミック・ライティング手法、クライテリオン4 (revise)
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
15	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	アカデミック・ライティング手法、クライテリオン5、総括
	事後学習	講義全体の確認をする。（30分）

科目名	TOEFL II A	担当者	岡部 玲子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	文法・語彙知識の習得、リスニング力の向上、英文を的確に把握する読解力の養成を、TOEFL-ITPに準拠したテキストを使いながら行う。				
授業目的・到達目標	【授業目的】すでにTOEFLを受験した経験のある学生を主な対象とし、TOEFLのスコア・アップを目指す。ただし、テストのための学習ではなく、将来英語を使いこなせるようになるために必要な総合的な英語運用力を養成することを目的とする。 【到達目標】英語の4技能（読む・聞く・書く・話す）をバランス良く向上させ、国内外で活躍できるような英語を使いこなせるようになることを目標とする。 （対応DP及びCP：外国語科目領域5・6）				
履修条件	意欲的な学生の履修を期待する。毎回必ず予習・復習をして積極的な態度で授業に臨むこと。学期中に少なくとも1回TOEFL-ITPを受験すること。				
授業方法	テキストの該当箇所を予習してきていることを前提として、その内容を確認したり、読んだり聞いたりする練習を行う。また、授業内容の理解度を測るために毎週授業前に小テストを行う。フィードバックは授業内において行う。授業には必ず使い慣れた辞書を持参すること。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	小テスト：50% 学期末テスト：30% 授業態度等：20%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	成美堂		Get Ready for the TOEFL Test	萱忠義・Bill Benfield
	備考				
参考書	適宜指示します。				
オフィスアワー	月曜日2限（授業時間）の前後に授業講堂で受け付けます。それ以外の場合には事前にアポイントメントを取ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス（テキスト・授業の進め方・評価方法などについての説明）
	事後学習	テキストを購入し、その構成や形式などを確認しておく。（30分）
2	事前学習	英語を使って何がしたいのか、なぜ英語を学習するのか等、自分の英語学習の動機について考える。（30分）
	授業内容	海外研修・留学、TOEFLについての概要説明。 Pre-Unit（TOEFLについて）
	事後学習	授業内容を踏まえて、これまでの自分の英語学習について見直す。（30分）
3	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。（30分）
	授業内容	Unit 1: Campus Life (Reading Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。（30分）
4	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。（30分）
	授業内容	Unit 1: Campus Life (Listening Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。（30分）

5	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Unit 2: Music, Arts, and Literature (Reading Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
6	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Unit 2: Music, Arts, and Literature (Listening Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
7	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Unit 3: Medicine and Health (Reading Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
8	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Unit 3: Medicine and Health (Listening Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
9	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Unit 4: Environment (Reading Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
10	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Unit 4: Environment (Listening Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
11	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Unit 5: Botany (Reading Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
12	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Unit 5: Botany (Listening Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
13	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Unit 6: Education (Reading Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
14	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Unit 6: Education (Listening Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習する。(30分)
15	事前学習	前学期で学習した範囲について総復習し、学期末テストに備える。(30分)
	授業内容	学期末テストと総括
	事後学習	前学期の学習を踏まえ、夏休み中の英語学習の計画を立てる。(30分)

科目名	TOEFL II B	担当者	加賀 岳彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、TOEFLを主たる対象としつつ、英語の正確な理解力の向上・語彙力の強化・英語のリテラシーの養成を図ります。授業では演習形式で英文を「精読」します。また重要な単語・構文・表現の意味・用法を広く学びます。受講生は「継続的学習」が強く望まれます。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEFL（および各種の英語資格試験）のスコアを向上させるのに必要な語彙力・読解力・思考力、そして学習継続力の養成を目的とします。 【到達目標】上記の目的に向けて、毎回TOEFL形式の小テストを行い、学期を通して60%以上の正答率を獲得できることを目標とします。対応DPおよびCP:外国語科目領域 5, 6			
履修条件	TOEFL（および各種の英語資格試験）の受験を強く奨励します。学期内にTOEFL-ITP（受験料は受講者負担）を1回は受験してください。			
授業方法	テキストの指定された箇所の予習を前提として、毎回TOEFL形式の小テストを行い、解答・解説をします。小テストはすべて採点され、次の授業で返却されます。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	平常点（授業参加度、毎回のTOEFL形式の小テスト）100%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2013	金星堂	Issues of Our Age	Peter Weld
	備考			
参考書	受講生は毎回必ず各自の「（電子）辞書」を持参してください。なお、授業中の携帯電話・スマートフォン等の使用は固く禁じます。			
オフィスアワー	月曜日12:20～12:50、授業講堂にて受け付けます。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、授業の全体を概観する。(30分)
	授業内容	授業の進め方、TOEFLについて、英語学習法について説明する。 授業目的に向けた初期演習を行う。
	事後学習	ガイダンス、および初期演習の復習を行う。(30分)
2	事前学習	Chapter 7: Water, Water, Everywhere（前半）の予習を行う。
	授業内容	Chapter 7: Water, Water, Everywhere（前半）を正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 TOEFLに頻出する「重要構文」を見抜き、理解できるようになる演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した「重要構文」の復習を行う。(30分)
3	事前学習	Chapter 7: Water, Water, Everywhere（後半）の予習を行う。
	授業内容	Chapter 7: Water, Water, Everywhere（後半）を正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 TOEFLに頻出する「多義語」の知識を広げる演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した「多義語」の復習を行う。(30分)
4	事前学習	Chapter 8: An Obsession with Possessionの予習を行う。
	授業内容	Chapter 8: An Obsession with Possessionを正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 英語の文体的特徴（並列法、パラレリズム等）を理解する演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した文体的特徴の復習を行う。(30分)

5	事前学習	Chapter 7～8を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。(60分)
	授業内容	Chapter 7～8の総復習のTOEFL形式小テスト、その解答・解説を通じて、学習内容の振り返りを行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。(30分)
6	事前学習	6 Chapter 9: Heading for a Crashの予習を行う。(60分)
	授業内容	Chapter 9: Heading for a Crashを正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 TOEFLに頻出する「熟語の多義」を判別する演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した熟語の多義を復習する。(30分)
7	事前学習	Chapter 10: Survival of the Most Flexible (前半) の予習を行う。(60分)
	授業内容	Chapter 10: Survival of the Most Flexible (前半) を正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 TOEFLに頻出する「多義語」の意味を判別する演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した「多義語」の復習を行う。(30分)
8	事前学習	Chapter 10: Survival of the Most Flexible (後半) の予習を行う。(60分)
	授業内容	Chapter 10: Survival of the Most Flexible (後半) を正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 TOEFLに頻出する「多義語」を習得する演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した「多義語」の復習を行う。(30分)
9	事前学習	Chapter 9～10を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。(60分)
	授業内容	Chapter 9～10の総復習のTOEFL形式小テスト、その解答・解説を通じて、学習内容の振り返りを行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。(30分)
10	事前学習	Chapter 11: Teach Your Children Well (前半) の予習を行う。(60分)
	授業内容	Chapter 11: Teach Your Children Well (前半) を正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 TOEFLに頻出する「多義語」の意味を判別する演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した「多義語」の復習を行う。(30分)
11	事前学習	Chapter 11: Teach Your Children Well (後半) の予習を行う。(60分)
	授業内容	Chapter 11: Teach Your Children Well (後半) を正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 英文において注意すべき「否定構文」を理解できるようになる演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した「否定構文」の復習を行う。(30分)
12	事前学習	Chapter 12: The Other Precious Liquidの予習を行う。(60分)
	授業内容	Chapter 12: The Other Precious Liquid を正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 英文において解釈に注意すべき表現形式を理解する習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した「解釈に注意すべき表現形式」の復習を行う。(30分)
13	事前学習	Chapter 11～12を再読し、単語・構文・内容を総復習してくる。(60分)
	授業内容	Chapter 11～12の総復習のTOEFL形式小テスト、その解答・解説を通じて、学習内容の振り返りを行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。(30分)
14	事前学習	Chapter 14: Good Help, Bad Helpの予習を行う。(60分) (*Chapter 13は飛ばします。)
	授業内容	Chapter 12: The Other Precious Liquidを正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 TOEFLにおいて注意すべき「熟語表現」の理解を深める演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した「熟語表現」の復習を行う。(30分)
15	事前学習	Chapter 15: Are You Happy?の予習を行う。(60分)
	授業内容	Chapter 15: Are You Happy? を正確に読み、それに関するTOEFL形式の問題を解答できるようになる。 日本人が誤解しやすい「慣用表現・熟語表現」の演習を行う。
	事後学習	各自誤答した箇所を復習する。学習した「慣用表現・熟語表現」の復習を行う。 今学期学習した内容を振り返り、今後の自分の学習の方向性を考える。(30分)

科目名	TOEFL II B	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業は、国際研修や交換留学などの海外留学に必要な英語力を総合的に身につけ、TOEFLのスコア・アップをはかるものです。アカデミックなテキストの読解、聴き取り、さらにはエッセイ等を書く際にも役立つアカデミック・ライティングのスキルを総合的に身に付けます。					
授業目的・到達目標	〔授業目的〕 TOEFL-ITPで必要な基礎力を総合的に養うことは勿論、一貫した考えを文法的に正確にかつ説得力のある英文で論理的にまとめられるよう、論理的思考法を養成することを目的とします。 〔到達目標〕 留学先で即戦力として通用するような実効性のある英語力の向上を目指し、英語を駆使する運用能力を確実に養い、ITP-TOEFL450（iBT45）以上取得できることを目標とします。 関連DP及びCP:外国語科目領域 5, 6					
履修条件	ITP-TOEFL400 以上を取得している学生が望ましいです。学期内にITP-TOEFL（受験料は受講者負担）を1回は受験してください。					
授業方法	前半はListening, Structure and Reading能力を総合的に養い、後半はコンピューターを使用しアカデミック・ライティングスキルを実践的に学びます。確認テストのフィードバックは授業内に行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		課題への取り組み・毎回の確認テストや授業への参加度（50%） クライテリオンとTOEFLのスコア（50%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2010	金星堂		Writing Frontiers		熊本、大井、上村、Sano、松本
	備考	随時プリント教材を使用する。 クライテリオン受験料(5回で1200円) は受講者負担。				
参考書	適宜、資料配布や参考文献紹介を行います。					
オフィスアワー	月曜日 12:20～13:00、場所は事前にアポイントメントを取った際に決めます。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、講義全体を概観する。授業に関する質問を考えてくる。（30分）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、講義全体の説明について理解を深める。（30分）
2	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング、TOEFL-ITP文法問題対策
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
3	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング、TOEFL-ITP文法問題対策
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
4	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング、TOEFL-ITP文法問題対策
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）

5	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング、TOEFL-ITP文法問題対策
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
6	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング、TOEFL-ITP文法問題対策
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
7	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング、TOEFL-ITP文法問題対策
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
8	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	リスニング、ITP対策
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
9	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	リスニング、ITP対策
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
10	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
11	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	アカデミック・ライティング手法、クライテリオン1
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
12	事前学習	クライテリオン1を完成度の高いエッセイになるよう修正する。（30分）
	授業内容	アカデミック・ライティング手法、クライテリオン2 (revise)
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
13	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	アカデミック・ライティング手法、クライテリオン3
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
14	事前学習	クライテリオン3を完成度の高いエッセイになるよう修正する。（30分）
	授業内容	アカデミック・ライティング手法、クライテリオン4 (revise)
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
15	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	アカデミック・ライティング手法、クライテリオン5、総括
	事後学習	講義全体の確認をする。（30分）

科目名	TOEFL II B	担当者	岡部 玲子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	文法・語彙知識の習得、リスニング力の向上、英文を的確に把握する読解力の養成を、TOEFL-ITPに準拠したテキストを使いながら行う。				
授業目的・到達目標	【授業目的】すでにTOEFLを受験した経験のある学生を主な対象とし、TOEFLのスコア・アップを目指す。ただし、テストのための学習ではなく、将来英語を使いこなせるようになるために必要な総合的な英語運用力を養成することを目的とする。 【到達目標】英語の4技能（読む・聞く・書く・話す）をバランス良く向上させ、国内外で活躍できるような英語を使いこなせるようになることを目標とする。 （対応DP及びCP：外国語科目領域5・6）				
履修条件	意欲的な学生の履修を期待する。毎回必ず予習・復習をして積極的な態度で授業に臨むこと。学期中に少なくとも1回TOEFL-ITPを受験すること。				
授業方法	テキストの該当箇所を予習してきていることを前提として、その内容を確認したり、読んだり聞いたりする練習を行う。また、授業内容の理解度を測るために毎週授業前に小テストを行う。フィードバックは授業内において行う。授業には必ず使い慣れた辞書を持参すること。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	小テスト：50% 学期末テスト：30% 授業態度等：20%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	成美堂		Get Ready for the TOEFL Test	萱忠義・Bill Benfield
	備考				
参考書	適宜指示します。				
オフィスアワー	月曜日2限（授業時間）の前後に授業講堂で受け付けます。それ以外の場合には事前にアポイントメントを取ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前学期の復習（30分）
	授業内容	ガイダンス（前学期の復習など）
	事後学習	授業を踏まえて、後学期の学習の計画を立てる。（30分）
2	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。（30分）
	授業内容	Unit 7: Global Climate (Reading Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。（30分）
3	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。（30分）
	授業内容	Unit 7: Global Climate (Listening Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。（30分）
4	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。（30分）
	授業内容	Unit 8: Earth Science (Reading Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。（30分）

5	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Unit 8: Earth Science (Listening Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
6	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Unit 9: Astronomy (Reading Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
7	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Unit 9: Astronomy (Listening Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
8	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Unit 10: History (Reading Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
9	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Unit 10: History (Listening Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
10	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Unit 11: Anthropology and Archaeology (Reading Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
11	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Unit 11: Anthropology and Archaeology (Listening Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
12	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Unit 12: Philosophy (Reading Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
13	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Unit 12: Philosophy (Listening Section)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
14	事前学習	後学期の学習内容を確認し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	後学期の復習とまとめ
	事後学習	後学期で学習した範囲について総復習し、学期末テストに備える。(30分)
15	事前学習	後学期で学習した範囲について総復習し、学期末テストに備える。(30分)
	授業内容	学期末テストと総括
	事後学習	次年度以降の英語学習について計画を立てる。(30分)

科目名	TOEFL ⅢA	担当者	岡部 玲子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	文法・語彙知識の習得、リスニング力の向上、英文を的確に把握する読解力の養成を、TOEFL-ITPに準拠したテキストを使いながら行う。				
授業目的・到達目標	【授業目的】すでにTOEFLを受験した経験のある学生を主な対象とし、TOEFLのスコア・アップを目指す。ただし、テストのための学習ではなく、将来英語を使いこなせるようになるために必要な総合的な英語運用力を養成することを目的とする。 【到達目標】英語の4技能（読む・聞く・書く・話す）をバランス良く向上させ、国内外で活躍できるような英語を使いこなせるようになることを目標とする。 （対応DP及びCP：外国語科目領域5・6）				
履修条件	意欲的な学生の履修を期待する。毎回必ず予習・復習をして積極的な態度で授業に臨むこと。学期中に少なくとも1回TOEFL-ITPを受験すること。				
授業方法	テキストの該当箇所を予習してきていることを前提として、その内容を確認したり、読んだり聞いたりする練習を行う。また、授業内容の理解度を測るために毎週授業前に小テストを行う。フィードバックは授業内で行う。授業には必ず使い慣れた辞書を持参すること。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		0%		
	平常評価		100%		小テスト：50% 学期末テスト：30% 授業態度等：20%
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2010	成美堂		Boost Your English 1 -Practice for TOEFL ITP-	宋戸真ほか
	備考				
参考書	適宜指示します。				
オフィスアワー	月曜日4限（授業時間）の前後に授業講堂で受け付けます。それ以外の場合には事前にアポイントメントを取ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス（テキスト・授業の進め方・評価方法などについての説明）
	事後学習	テキストを購入し、その形式などを確認しておく。（30分）
2	事前学習	英語を使って何がしたいのか、なぜ英語を学習するのか等、自分の英語学習の動機について考える。（30分）
	授業内容	海外研修・留学について。TOEFLの概要説明
	事後学習	授業内容を踏まえて、これまでの自分の英語学習について見直す。（30分）
3	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。（30分）
	授業内容	Module 1: Lesson 1 Listening (Understanding agreement and disagreement)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。（30分）
4	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。（30分）
	授業内容	Module 1: Lesson 2 Listening (Understanding gist)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。（30分）

5	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Module 1: Lesson 3 Structure (Verb tenses)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
6	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Module 1: Lesson 4 Structure (Verb tenses)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
7	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Module 1: Lesson 5 Reading (Understanding gist)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
8	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Module 1: Lesson 6 Reading (Understanding purpose)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
9	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Module 2: Lesson 1 Listening (Understanding negatives)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
10	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Module 2: Lesson 2 Listening (Understanding specific information)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
11	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Module 2: Lesson 3 Structure (Articles)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
12	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Module 2: Lesson 4 Structure (Comparatives and superlatives)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
13	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Module 2: Lesson 5 Reading (Understanding specific information)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
14	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Module 2: Lesson 6 Reading (Understanding pronoun reference)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習する。(30分)
15	事前学習	前学期で学習した範囲について総復習し、学期末テストに備える。(30分)
	授業内容	学期末テストと総括
	事後学習	前学期の学習を踏まえ、夏休み中の英語学習の計画を立てる。(30分)

科目名	TOEFL ⅢA	担当者	庭山 泰子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	TOEFLの出題傾向に準拠した多種多様な内容の英文を教材として、ボキャブラリーを増強するとともに、内容の予測、トピックの見つけ方、メイン・アイディアの把握、パラグラフ構造の理解、要約などのスキルの習得を行います。教材として、TED Talks、VOA、英字新聞等を使用します。					
授業目的・到達目標	【授業目的】国際研修や交換留学に必要とされる英語力を養成することを目的とします。 【到達目標】TOEFL－ITPのための力をさらに伸ばし、スコア500点以上を獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP:外国語科目領域5、6					
履修条件	TOEFL－ITP の受験が履修・評価の必要条件です。（受験料は自己負担です） 毎回辞書を持ってきてください。					
授業方法	予習課題として配布した英文の語彙、文法事項、構文等を演習方式で確認します。毎回ボキャブラリー・テスト・文法事項・内容理解確認のテストを行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、テスト50%、TOEFL-ITP のスコア50%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	プリントを配布します。				
参考書	授業の中で適宜指示します。					
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は、8：30から9：00、授業終了後、お昼休み、4限終了後に、教室または教員室で対応します。（金曜日）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、これまでの英語学習についてまとめておくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス、TOEFLとはどのような試験なのかを他の資格試験と比較しながら解説します。 プリントを配布し、問題を解き、解答と解説を行い各自の英語力の確認をします。
	事後学習	英語学習の計画を立てる。（30分）
2	事前学習	プリントの語彙を覚え、文法事項を理解する。（30分）
	授業内容	TOEFLの解説①（§1 Listening） リスニングの問題の傾向を知りそれに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今回のリスニング演習の語彙・内容理解のテストを行う。
	事後学習	授業で使用されたプリントの語彙・文法事項を復習する。（30分）
3	事前学習	配布されたプリント1（心理学関連の英文）の語彙を調べる。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説により間違えた個所の理解が出来る。 TOEFL の解説②（§2 Structure and Written Expression） TOEFL の文法問題の傾向を理解する。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	プリント1の語彙を覚え、文法事項の復習をする。（30分）

4	事前学習	プリント1（心理学関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておく。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説。 TOEFLの解説③（ §3 Reading ） プリント1（心理学）演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われているの用語を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
5	事前学習	プリント1（心理学）の文の構造を予習しておく。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説。 リスニング：Part A の傾向（話の核となるキーワード）を理解しそれに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント1（心理学）の演習②：文の構造を理解する。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をする。（30分）
6	事前学習	プリント1（心理学）の内容のバックグラウンドを調べる。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説。 リスニング：Part B の傾向（設問の予想）を理解しそれに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント1（心理学）の演習③：バックグラウンドを理解でき、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
7	事前学習	プリント2（文法問題1）の語彙・文法事項を予習しておく。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説。 リスニング：Part C の傾向（繰り返される情報）を理解しそれに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント2（文法問題1）の演習を行い、それに対応するTOEFLの文法問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
8	事前学習	プリント3（経済学関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておく。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説。 リスニング Part A の傾向（会話内の出来事）を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント3（経済学）の演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われているの用語を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
9	事前学習	プリント3（経済学）の文の構造を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説。 リスニング：Part B の傾向（問題点と解決策）を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント3（経済学）の演習②：文の構造を理解し、それに対応する TOEFL の問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
10	事前学習	プリント3（経済学）のバックグラウンドを調べる。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説。 リスニング：Part C の傾向（推測と暗示）を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント3（経済学）の演習③：バックグラウンドを理解でき、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をする。（30分）
11	事前学習	プリント4（文法問題2）の語彙・文法事項を調べる。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説。 リスニング：Part A の傾向（賛成と反対）を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント4（文法問題2）の演習を行い、それに対応する TOEFL の文法問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をする。（30分）
12	事前学習	プリント5（アメリカ史関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておく。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説。 リスニング：Part B の傾向（イントネーション）を理解しそれに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント5（アメリカ史）演習①：語彙・イディオム、専門用語を理解しそれに対応する TOEFLの問題を解答できる。今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
13	事前学習	プリント5（アメリカ史）の文の構造について予習しておく。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング：Part C の傾向（問題の予測）を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント5（アメリカ史）演習②：文の構造を理解し、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をする。（30分）

14	事前学習	プリント5（アメリカ史）の内容のバックグラウンドを調べる（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 プリント5（アメリカ史）演習③：バックグラウンドを理解でき、それに対応するTOEFLの問題を解答できる。 今までの演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
15	事前学習	これまでの授業で理解できなかった事項の確認をする。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説。 分からない箇所の質問をし、理解できる。
	事後学習	前期の授業の総括をする。（30分）

科目名	TOEFL ⅢB	担当者	岡部 玲子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	文法・語彙知識の習得、リスニング力の向上、英文を的確に把握する読解力の養成を、TOEFL-ITPに準拠したテキストを使いながら行う。			
授業目的・到達目標	【授業目的】すでにTOEFLを受験した経験のある学生を主な対象とし、TOEFLのスコア・アップを目指す。ただし、テストのための学習ではなく、将来英語を使いこなせるようになるために必要な総合的な英語運用力を養成することを目的とする。 【到達目標】英語の4技能（読む・聞く・書く・話す）をバランス良く向上させ、国内外で活躍できるような英語を使いこなせるようになることを目標とする。 （対応DP及びCP：外国語科目領域5・6）			
履修条件	意欲的な学生の履修を期待する。毎回必ず予習・復習をして積極的な態度で授業に臨むこと。学期中に少なくとも1回TOEFL-ITPを受験すること。			
授業方法	テキストの該当箇所を予習してきていることを前提として、その内容を確認したり、読んだり聞いたりする練習を行う。また、授業内容の理解度を測るために毎週授業前に小テストを行う。フィードバックは授業内で行う。授業には必ず使い慣れた辞書を持参すること。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	小テスト：50% 学期末テスト：30% 授業態度等：20%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2010	成美堂	Boost Your English 1 -Practice for TOEFL ITP-	宍戸真ほか
	備考			
参考書	適宜指示します。			
オフィスアワー	月曜日4限（授業時間）の前後に授業講堂で受け付けます。それ以外の場合には事前にアポイントメントを取ること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前学期の復習（30分）
	授業内容	ガイダンス（前学期の復習など）
	事後学習	授業を踏まえて、後学期の学習の計画を立てる。（30分）
2	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。（30分）
	授業内容	Module 3: Lesson 1 Listening (Understanding idiomatic expressions)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。（30分）
3	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。（30分）
	授業内容	Module 3: Lesson 2 Listening (Understanding implication)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。（30分）
4	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。（30分）
	授業内容	Module 3: Lesson 3 Structure (Participles)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。（30分）

5	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Module 3: Lesson 4 Structure (Prepositions)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
6	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Module 3: Lesson 5 Reading (Understanding unfamiliar words)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
7	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Module 3: Lesson 6 Reading (Understanding implication)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
8	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Module 4: Lesson 1 Listening (Understanding wishes and the conditional)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
9	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Module 4: Lesson 2 Listening (Integrating listening skills)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
10	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Module 4: Lesson 3 Structure (Plurals)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
11	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Module 4: Lesson 4 Structure (Present modals)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
12	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Module 4: Lesson 5 Reading (Understanding attitude)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
13	事前学習	テキストの該当箇所について、知らない単語や表現を辞書で調べ、問題に目を通し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	Module 4: Lesson 6 Reading (Integrating reading skills)
	事後学習	学習した内容を復習・反復練習し、次週の小テストに備える。(30分)
14	事前学習	後学期の学習内容を確認し、分からない箇所を明確にしておく。(30分)
	授業内容	後学期の復習とまとめ
	事後学習	後学期で学習した範囲について総復習し、学期末テストに備える。(30分)
15	事前学習	後学期で学習した範囲について総復習し、学期末テストに備える。(30分)
	授業内容	学期末テストと総括
	事後学習	次年度以降の英語学習について計画を立てる。(30分)

科目名	TOEFL ⅢB	担当者	庭山 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEFLの出題傾向に準拠した多種多様な内容の英文を教材として、ボキャブラリーを増強するとともに、内容の予測、トピックの見つけ方、メイン・アイディアの把握、パラグラフ構造の理解、要約などのスキルの習得を行います。教材として、TED Talks、VOA、英字新聞等を使用します。					
授業目的・到達目標	【授業目的】国際研修や交換留学に必要とされる英語力を養成することを目的とします。 【到達目標】TOEFL-ITPのための力をさらに伸ばし、スコア500点以上を獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP:外国語科目領域5、6					
履修条件	TOEFL-ITPの受験が履修・評価の必要条件です。（受験料は自己負担です） 毎回辞書を持ってくるください。					
授業方法	予習課題として配布した英文の語彙、文法事項、構文等を演習方式で確認します。毎回ボキャブラリー・テスト・文法事項・内容理解確認のテストを行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%		平常評価（授業参加度、テスト50%、TOEFL-ITPのスコア50%）	
	平常評価		100%			
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	プリントを配布します。				
参考書	授業の中で適宜指示します。					
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は、8：30から9：00、授業終了後、お昼休み、4限終了後に、教室または教員室で対応します。（金曜日）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、これまでの英語学習についてまとめておくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス、TOEFLとはどのような試験なのかを他の資格試験と比較しながら解説します。 プリントを配布し、問題を解き、解答と解説を行い各自の英語力の確認をします。
	事後学習	英語学習の計画を立てる。（30分）
2	事前学習	プリントの語彙を覚え、文法事項を理解する。（30分）
	授業内容	TOEFLの解説①（§1 Listenin） TOEFLのリスニングの問題の傾向を知りそれに対応する TOEFL の問題を解答できる。 今回のリスニング演習の語彙・内容理解のテストを行う。
	事後学習	今回配布されたプリントの語彙・文法事項を復習する。（30分）
3	事前学習	配布されたプリント1（社会学関連の英文）の語彙を調べる。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする TOEFL の解説②（§2 Structure and Written Expression）：TOEFL の文法問題の傾向を理解する。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	今回配布されたプリントの語彙を覚え、文法事項の復習をする。（30分）
4	事前学習	プリント1（社会学関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 TOEFLの解説③（§3 Reading）：プリント1（社会学）演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われているの用語を理解し、それに対応する TOEFL の問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）

5	事前学習	プリント1（社会学）の文の構造を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング Part A の傾向（キーワードの聞き取り）を理解しそれに対応するTOEFLの問題を解答できる。 プリント1（社会学）の演習②：文の構造を理解する。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
6	事前学習	プリント1（社会学）の内容のバックグラウンドを調べる。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング Part B の傾向（疑問詞）を理解しそれに対応する TOEFL の問題を解答できる。 プリント1（社会学）の演習③：バックグラウンドを理解し、それに対応する TOEFL の問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
7	事前学習	プリント2（文法問題）の語彙・文法事項を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 TOEFLのリスニング Part C（数字の聞き取り）の傾向を理解しそれに対応する TOEFL の問題を解答できる。 プリント2（文法問題）の演習を行い、それに対応する TOEFL の文法問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
8	事前学習	プリント3（医学・健康問題関連の英文）の語彙・文法事項を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする リスニングPart A の傾向（否定の表現）を理解し、それに対応する TOEFL の問題を解答できる。 プリント3（医学・健康）の演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われているの用語を理解し、それに対応する TOEFLの問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
9	事前学習	プリント3（医学・健康）の文の構造を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング Part B の傾向（時系列の聞き取り）を理解し、それに対応する TOEFL の問題を解答できる。 プリント3（医学・健康）の演習③：バックグラウンドを理解し、それに対応する TOEFL の問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
10	事前学習	プリント4（文法問題2）の語彙・文法事項を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング Part C の傾向（専門用語と説明）を理解し、それに対応する TOEFL の問題を解答できる。 プリント4（文法問題2）の演習を行い、それに対応する TOEFL の問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
11	事前学習	プリント5（環境問題に関連する英文）の語彙・文法事項を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 TOEFLのリスニング Part A の傾向（同調の表現）を理解し、それに対応する TOEFL の問題を解答できる。 プリント5（環境問題）演習①：語彙・イディオム、専門分野に使われているの用語を理解し、それに対応する TOEFLの問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
12	事前学習	プリント5（環境問題）の文の構造を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング Part B の傾向を理解し、それに対応する TOEFL の問題を解答できる。 プリント5（環境問題）演習③：バックグラウンドを理解し、それに対応する TOEFL の問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
13	事前学習	プリント6（文法問題3）の語彙・文法事項を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 リスニング Part C の傾向（まとまった意味の聴解）を理解し、それに対応する TOEFL の問題を解答できる。 プリント6（文法問題3）の演習を行い、それに対応する TOEFL の問題を解答できる。 今回の演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）
14	事前学習	これまでのプリントとテストの総復習（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説をする。 今までの演習の理解度確認テストを行う。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）

15	事前学習	これまでの授業で理解できなかった事項の確認をする。（30分）
	授業内容	前回のテストの返却と解説。
	事後学習	返却されたテストの復習をして、不明なところの質問の準備をすること。（30分）

科目名	TOEFL IVA	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業は留学する最終段階で必須のTOEFL-iBTに対応するものです。アカデミックなリーディング素材を読解し、大量の問題を短時間で解けるような訓練を重ねていきます。さらには、iBTで高得点を得るカギを握っているライティング対策として、基本的なパラグラフ・ライティングからアカデミック・ライティングへの応用に至るまでを実践対応方式で習得していきます。				
授業目的・到達目標	〔授業目的〕 英文を構造で捉え、その論理的展開を掴むような構造理解力とエッセイ等を書く際に役立つライティングスキルを身につけ、英語の運用能力を養成することを目的とします。論理的思考力を養うことがねらいです。 〔到達目標〕 留学先で即戦力として通用するような実効性のある英語力の育成を目指し、英語を駆使する運用能力を確実に養うことを目標とします。結果的に従来型のITPに必要な基礎力を総合的に養うことに繋がります。ITP-TOEFL550 (iBT79) 以上を取得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域：5, 6				
履修条件	ITP-TOEFL450 以上を取得している学生が望ましいです。学期中にITP-TOEFL（受験料は受講者負担）を1回は受験してください。				
授業方法	前半は文構造、語彙やリーディング能力を総合的に養い、後半はコンピューターを使用しアカデミック・ライティングスキルを実践的に学びます。確認テストのフィードバックは授業内に行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	課題への取り組み・毎回の確認テストや授業参加度（50%） クライテリオンとTOEFLのスコア（50%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2015年	南雲堂		Skills for Better Reading －Structures and Strategies－(Advanced)	石谷由美子
	備考	プリント教材も併用する。 クライテリオン受験料（5回で1200円）は受講者負担。			
参考書	授業の展開や進度に合わせ、必要に応じて授業中に適宜指示します。				
オフィスアワー	月曜日12:20～13:00、場所は事前にアポイントメントを取った際に決めます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、講義全体を概観する。授業に関する質問を考えてくる。（30分）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、講義全体の説明について理解を深める。（30分）
2	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング (Unit 1 Conclusion/Reasons)、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
3	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング (Unit 1 Conclusion/Reasons)、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
4	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング (Unit 2 Social Phenomenon)、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）

5	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング（Unit 2 Social Phenomenon）、アカデミック・ライティング手法、
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
6	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング（Unit 3 Result/Cause）、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
7	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング（Unit 3 Result/Cause）、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
8	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	リスニング、ITP対策
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
9	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	リスニング、ITP対策
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
10	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング（Unit 4 Several Explanations）、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく（30分）
11	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング（Unit 4 Several Explanations）、クライテリオン1
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
12	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン1をより完成度の高いエッセイになるよう修正する。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング（Unit 5 Comparison）、クライテリオン2 (revise)
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
13	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング（Unit 5 Comparison）、クライテリオン3
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
14	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン3をより完成度の高いエッセイになるよう修正する。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング（Unit 6 For and against）、クライテリオン4 (revise)
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
15	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング（Unit 6 For and against）、クライテリオン5
	事後学習	講義全体の復習をし、後期の授業に備える。（30分）

科目名	TOEFL IVB	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業は留学する最終段階で必須のTOEFL-iBTに対応するものです。アカデミックなリーディング素材を読解し、大量の問題を短時間で解けるような訓練を重ねていきます。さらには、iBTで高得点を得るカギを握っているライティング対策として、基本的なパラグラフ・ライティングからアカデミック・ライティングへの応用に至るまでを実践対応方式で習得していきます。			
授業目的・到達目標	〔授業目的〕 英文を構造で捉え、その論理的展開を掴むような構造理解力とエッセイ等を書く際に役立つライティングスキルを身につけ、英語の運用能力を養成することを目的とします。論理的思考力を養うことがねらいです。 〔到達目標〕 留学先で即戦力として通用するような実効性のある英語力の育成を目指し、英語を駆使する運用能力を確実に養うことを目標とします。結果的に従来型のITPに必要な基礎力を総合的に養うことに繋がります。ITP-TOEFL550 (iBT79) 以上を取得できることを目標とします。 関連DP及びCP:外国語科目領域5, 6			
履修条件	ITP-TOEFL450 以上を取得している学生が望ましいです。学期中にITP-TOEFL（受験料は受講者負担）を1回は受験してください。			
授業方法	前半は文構造、語彙やリーディング能力を総合的に養い、後半はコンピューターを使用しアカデミック・ライティングスキルを実践的に学びます。確認テストのフィードバックは授業内に行います。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	課題への取り組み・毎回の確認テストや授業参加度（50%） クワイテリオンとTOEFLのスコア（50%）	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015年	南雲堂	Skills for Better Reading －Structures and Strategies－(Advanced)	石谷由美子
	備考	プリント教材も併用する。 クワイテリオン受験料（5回で1200円）は受講者負担。		
参考書	授業の展開や進度に合わせ、必要に応じて授業中に適宜指示します。			
オフィスアワー	月曜日12:20～13:00、場所は事前にアポイントメントを取った際に決めます。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、講義全体を概観する。授業に関する質問を考えてくる。（30分）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、講義全体の説明について理解を深める。（30分）
2	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング (Unit 7 Classification)、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
3	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング (Unit 7 Classification)、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
4	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Integrated Task、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）

5	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Integrated Task、アカデミック・ライティング手法、
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
6	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング（Unit 8 History）、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
7	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング（Unit 9 Process）、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
8	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	リスニング、ITP対策、パラグラフリーディング（Unit 10 Cause and effect）
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
9	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	リスニング、ITP対策、パラグラフリーディング（Unit 10 Cause and effect）
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
10	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング（Unit 11 Problem Solving）、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
11	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング（Unit 12 Definition of a new world）、クライテリオン1
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
12	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン1をより完成度の高いエッセイになるよう修正する。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング（Unit 13 Experiment）、クライテリオン2（revise）
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
13	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	パラグラフリーディング（Unit 14 New product）、クライテリオン3
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
14	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン3をより完成度の高いエッセイになるよう修正する。（30分）
	授業内容	ライティング手法の総括、クライテリオン4（revise）
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
15	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	ライティング手法の総括、クライテリオン5
	事後学習	講義全体の確認をする。（30分）

科目名	国際研修(英) I A	担当者	トーマス・ロックリー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------	-----	------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	The aim of this class in to prepare you for studying and working abroad. You will learn about your destination country, study and presentation skills and finally cultural skills.			
授業目的・到達目標	You will feel more prepared to go abroad and this should ensure that your experience will be as smooth as possible. 関連DP／CP：5，6，7，8			
履修条件	You should be aiming to study or work abroad this year or in the future.			
授業方法	This will be a student centred class, the teacher will support you in independent learning and peer teaching.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	Essay 30%, Homework 30%,Presentation 30% Participation and effort 10%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	None	None	None	None
	備考	You will need a dictionary or smartphone dictionary app and an A4 folder for class materials.		
参考書	2019年 東京書籍「外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」ロックリー・トーマス			
オフィスアワー	9:30-10:30am Thursdays in my office 1602, or email lockleyta@gmail.com			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30 mins)
	授業内容	First Lesson. Introduction to the course.
	事後学習	Finish reflection and learn new words. (30 mins)
2	事前学習	Prepare A4 folder for lesson materials. (30 mins)
	授業内容	Theme: Some Shared Histories. Skills: Summary writing
	事後学習	Homework - News Report and Discussion. (30 mins)
3	事前学習	Prepare summary and discussion questions for news discussion. (30 mins)
	授業内容	Theme: University Systems in Different Countries. Skills: Discussion and critical thinking.
	事後学習	Homework - News Report and Discussion. (30 mins)
4	事前学習	Prepare summary and discussion questions for news discussion. (30 mins)
	授業内容	Theme: Expectation Management Skills: Discussion and critical thinking.
	事後学習	Homework - News Report and Discussion. (30 mins)

5	事前学習	Prepare summary and discussion questions for news discussion. (30 mins)
	授業内容	Theme: Cross-cultural Understanding - Note Taking. Skills: Discussion and critical thinking and note taking in English.
	事後学習	Homework - News Report and Discussion. (30 mins)
6	事前学習	Prepare summary and discussion questions for news discussion. (30 mins)
	授業内容	Theme: Essay Writing. Skills: Essay writing in English.
	事後学習	Homework - News Report and Discussion. (30 mins)
7	事前学習	Prepare summary and discussion questions for news discussion. (30 mins)
	授業内容	Theme: Essay Writing. Skills: Essay writing in English.
	事後学習	Homework - News Report and Discussion. (30 mins)
8	事前学習	Prepare summary and discussion questions for news discussion. (30 mins)
	授業内容	Theme: Essay Writing. Skills: Essay writing in English.
	事後学習	Homework - News Report and Discussion. (30 mins) Prepare for essay assessment. (30 mins)
9	事前学習	Prepare summary and discussion questions for news discussion. (30 mins)
	授業内容	Theme: Essay assessment. Skills: Essay writing in English.
	事後学習	Homework - News Report and Discussion. (30 mins) Finish essay assessment. (30 mins)
10	事前学習	Prepare summary and discussion questions for news discussion. (30 mins)
	授業内容	Theme: How to Present. Skills: Presentation skills in English.
	事後学習	Think of theme for presentation assessment. (30 mins)
11	事前学習	Prepare useful materials for presentation. (30 mins)
	授業内容	Theme: Presentation Preparation Skills: Research
	事後学習	Continue research. (30 mins)
12	事前学習	Prepare to make powerpoint. (30 mins)
	授業内容	Theme: Presentation Preparation Skills: Research and powerpoint construction.
	事後学習	Continue powerpoint construction. (1 hour)
13	事前学習	Continue powerpoint construction. (1 hour)
	授業内容	Theme: Presentation Preparation. Skills: Powerpoint construction and scripts writing.
	事後学習	Continue powerpoint construction.Practice speech. (1 hour)
14	事前学習	Continue powerpoint construction.Practice speech. (1 hour)
	授業内容	Theme: Presentation Preparation.Final group practice. Skills: Public speaking
	事後学習	Practice assessment presentation. (1 hour)
15	事前学習	Practice assessment presentation. (1 hour)
	授業内容	Theme: Assessment Presentation.
	事後学習	Reflect on semester. (1 hour)

科目名	国際研修(英) I B	担当者	トーマス・ロックリー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------	-----	------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	The aim of this class in to prepare you for studying and working abroad. You will learn about your destination country, study and presentation skills and finally cultural skills.			
授業目的・到達目標	You will feel more prepared to go abroad and this should ensure that your experience will be as smooth as possible. 関連DP／CP：5，6，7，8			
履修条件	You should be aiming to study or work abroad this year or in the future.			
授業方法	This will be a student centred class, the teacher will support you in independent learning.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	Website 30%, Homework 30%,Presentation 30% Participation and effort 10%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	None	None	None	None
	備考	You will need a dictionary or Smartphone dictionary app and an A4 folder for class materials.		
参考書	2019年 東京書籍「外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」ロックリー・トーマス			
オフィスアワー	My office hour is 9:30-10:30am on Thursdays in my office 1602, or you can contact me by email at any time. lockleyta@gmail.com			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Reflect on summer use of English (30min)
	授業内容	Introduction: Summer study abroad trip presentation overview
	事後学習	Make presentation (30min)
2	事前学習	Make presentation (30min)
	授業内容	Presentation preparation
	事後学習	Make presentation (30min)
3	事前学習	Make presentation (30min)
	授業内容	Presentation preparation
	事後学習	Make presentation (30min)
4	事前学習	Practice presentation (30min)
	授業内容	Present
	事後学習	Reflect on presentation. (30min)

5	事前学習	Prepare for lesson materials. (30min)
	授業内容	Writing emails to a specific audience: Audience identification and communicative goals
	事後学習	Reflect on lesson. (30min)
6	事前学習	Prepare for lesson materials. (30min)
	授業内容	Writing emails to a specific audience: Presenting email drafts and peer review
	事後学習	Reflect on lesson. (30min)
7	事前学習	Prepare for lesson materials. (30min)
	授業内容	Language acquisition: first and second language acquisition
	事後学習	Reflect on lesson. (30min)
8	事前学習	Prepare for lesson materials. (30min)
	授業内容	Language acquisition: first and second language acquisition
	事後学習	Reflect on lesson. (30min)
9	事前学習	Prepare for lesson materials. (30min)
	授業内容	Coherence in writing: Theme and Rheme
	事後学習	Reflect on lesson. (30min)
10	事前学習	Prepare for lesson materials. (30min)
	授業内容	Coherence in writing: Theme and Rheme
	事後学習	Reflect on lesson. (30min)
11	事前学習	Prepare for lesson materials. (30min)
	授業内容	Rhetorical analysis of a website perusing websites: platforms and visual appeal
	事後学習	Reflect on lesson. (30min)
12	事前学習	Prepare for lesson materials. (30min)
	授業内容	Goals for your web presence (e.g., potential employers, sharing your international experiences). Creating your website
	事後学習	Start to make website. (1 hour)
13	事前学習	Make website. (1 hour)
	授業内容	Building your website: platforms, visual rhetoric
	事後学習	Make website. (1 hour)
14	事前学習	Make website. (1 hour)
	授業内容	Building your website: finalizing your site
	事後学習	Make website. (1 hour)
15	事前学習	Practice presentation. (1 hour)
	授業内容	Presenting your site
	事後学習	Reflect on semester (1 hour)

科目名	TOEIC I A	担当者	石川 太郎	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	TOEICのような資格試験の授業は退屈なものになりがちです。ただ問題を解いて正解を得ることはもちろん大事ですが、それ以外にも日常生活に役立つ英語学習の一環としてTOEICの授業を考えています。つまり、読む・聞く以外にも書く・話す能力開発に役立つような授業にしたいと思います。また、ビジネス英語入門としての役割も視野に入れてTOEICの英語を頑張りましょう。					
授業目的・到達目標	初めてTOEICを受験する学生、または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEIC試験の内容、対策をパート別に解説し、TOEICの受験に必要な基礎力を養成することを目的とします。TOEICスコア750点台を獲得できることを目標にするクラスです。（TOEIC I と II は同レベルです）前学期では、英語の聞き取りの力を向上させることを目標として授業を進めてゆきます。					
履修条件	学期内にTOEICを1回受験し、ClassMATE(Online Training)をやっていただきます。（受験料及び教材費は自己負担）。 注：TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えます。					
授業方法	実践演習をして解説をします。必要に応じて補足の教材を配布します。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行います。フィードバックは授業内に行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		TOEICスコア、小テスト、ClassMATEポイント、等を総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	Nan-Un-Do		TOEIC Test: On Target (Book 1) Listening & Reading		Rie Ohga
	備考					
参考書	特に指定はないが、必ず文法の参考書を1冊用意すること。高校時代に使用したもので十分です。					
オフィスアワー	初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。 授業時間：月曜7限、土曜2～4限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前年度の授業の復習（30分）
	授業内容	ガイダンス（小テスト実施予定）
	事後学習	小テストの復習（30分）
2	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	TOEICテストの概要（実際に問題を解いてもらう）
	事後学習	授業の復習（30分）
3	事前学習	前2回の授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 1: Companies and Organisations 1:リスニングセッション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
4	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 1: Companies and Organizations 2: リーディングセッション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）

5	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 2: Work Routines 1:リスニングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
6	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 2: Work Routines 2:リーディングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
7	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 3: Travel and Entertainment 1:リスニングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
8	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 3: Travel and Entertainment 2:リーディングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
9	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 4: Human Resources 1:リスニングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
10	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 4: Human Resources 2:リーディングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
11	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 5: Manufacturing 1:リスニングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
12	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 5: Manufacturing 2:リーディングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
13	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 6: Office Technology 1:リスニングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
14	事前学習	前回までの授業内容の復習（30分）
	授業内容	これまでの授業中で扱いきれなかった項目を扱う集中授業
	事後学習	全体の復習（30分）
15	事前学習	総復習（30分）
	授業内容	前期授業のまとめ
	事後学習	自己採点（30分）

科目名	TOEIC I A	担当者	板倉 亨	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEICに必要な英語の基礎（語彙と構文・文法）をしっかりと確認し、それを活用しながら実践的なTOEICの問題の解き方を学びます。ただTOEICの問題を解くだけでなく、英語の基礎をしっかりと固めて、それをTOEICのスコア向上につなげていくクラスです。					
授業目的・到達目標	TOEIC初心者または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEICテストの出題形式に慣れながら、スコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とします。 また、TOEICスコア500点以上を獲得できることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域5，6					
履修条件	TOEICを1回以上受験し、ClassMATE(Online Training)を受講してもらいます。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。					
授業方法	英語の基礎（語彙や構文・文法等）を確認し、それを踏まえてTOEICの実践演習をして解説をします。毎回小テストを行い、返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		TOEICスコア、小テスト、ClassMATEポイント、前期試験等を総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017年第2刷	朝日出版社		STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST:Level 2 -Intermediate-		北尾泰幸 他
	備考					
参考書	英和辞書、英語文法書。 その他は授業内で適宜指示します。					
オフィスアワー	授業終了後（水曜・木曜14：30～）講堂にて。 itakura.toru11@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	上記の教科書を準備し、それに目を通して内容や英文の難易度など確認してください。また、ガイダンスの内容をメモするためルーズリーフを準備してください。（30分）
	授業内容	ガイダンス。授業内容・方法や成績評価について確認し、教科書を使いながら具体的な説明を補足します。
	事後学習	ガイダンスの説明を踏まえ、この授業についてしっかりと理解すること。（30分）
2	事前学習	授業内で指定された予習範囲の音声聞き回答したうえで、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめ、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語や聞き取りの小テストを実施することがあるので、まとめた単語やリスニングの書き取りをしっかりと見直しておくこと。（30分）
	授業内容	TOEICについての説明。基礎英文法の復習・確認。 Unit1 listening section 小テストをして、それからスクリプトを見ながら答え合わせと解説をします。
	事後学習	リスニングのスクリプトを見ながら音声を聞き直し、聞き取れなかったり知らなかった単語を調べ直してルーズリーフに補足・追加しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。（30分）
3	事前学習	授業内で指定された予習範囲の問題に解答し、その上で必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめ、英文の構文や訳等を準備してください。また、何となくではなく、なぜそれが答えだと思ったかの自分なりの説明をできるだけメモをしておいてください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語しっかりと見直しておくこと。（30分）
	授業内容	基礎英文法の復習・確認。 Unit1 Reading section (part5,6) 小テストをして、それから答え合わせと解説をします。
	事後学習	授業での答え合わせや説明を踏まえ、ノートを整理しながら、誤答した問題を中心にしっかりと復習しておいてください。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。（30分）

13	事前学習	授業内で指定された予習範囲の問題に解答し、その上で必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめ、英文の構文や訳等を準備してください。また、何となくではなく、なぜそれが答えだと思ったかの自分なりの説明をできるだけメモをしておいてください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語しっかり見直しておくこと。(30分)
	授業内容	基礎英文法の復習・確認。 Unit4 Reading section (part7) 小テストをして、それから答え合わせと解説をします。
	事後学習	授業での答え合わせや説明を踏まえ、ノートを整理しながら、誤答した問題を中心にしっかりと復習しておいてください。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。(30分)
14	事前学習	これまでのノートを整理しながら授業内容を復習して、理解できなかった箇所を授業で確認できるようにまとめておくこと。(30分)
	授業内容	前期復習。前回までの授業内容を補足し、振り返りながら説明します。
	事後学習	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。(30分)
15	事前学習	前期授業内容を、授業内で指摘されたポイントを中心にしっかりと復習しておくこと。(30分)
	授業内容	前期の授業のまとめ。授業内容全体の理解度を確認するためのまとめです。授業内で指摘したポイントを中心に確認します。
	事後学習	前期の授業で理解できたものと理解できなかったものをしっかりと把握し、特に理解が不十分なものについては後期の英語の勉強に役立てるためにしっかりと復習しておいてください。(30分)

科目名	TOEIC I A	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC テストのスコアを伸ばすため、語彙力、Listening、Reading両方の力をを向上させる。授業では テキスト、オンライン教材を中心に他の問題集の問題を数多く解く。授業以外でも英語を読んだり、聞いたりするための 課題を解く。				
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC初心者、またはTOEIC450点未満の学生を対象とするクラスです。TOEICテストの出題形式に慣れながら、スコア向上のための英語力を養成することを目的とします。 【目標】TOEICスコア 500点以上を獲得できることを目標とします。対応DP及びCP:外国語科目領域 5， 6				
履修条件	TOEICを1回以上受験し、ClassMATE（Online Training）をやっていただきます。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。				
授業方法	毎回単語テストやテキストを使ってミニテストを行いTOEICの形式に慣れるようにする。その後答え合わせと解説を行ってから、復習をします。授業時間以外で行う課題を必ず提出すること。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	TOEICスコア、小テスト、ClassMATEポイント、課題等を総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018年(第1版)	朝日出版社		Step-up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test	北尾・西田他2名
	2015年	アルク		改訂版 TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子
	備考				
参 考 書	英和辞書/「TOEICテスト速読WPMトレーニング」西村恵美著（ベレ出版、1,500円） 「TOEIC TEST リスニング（TARGET 600）」 森田鉄也著（Jリサーチ出版、1、200円）				
オフィスアワー	授業講堂(火曜日：9：00～12：10 / 木曜日13:00～16：10)				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	TOEIC L&Rテストについて試験の構成などについて調べておく/ シラバスをよく読んでおく。(30分)
	授業内容	ガイダンス(必要があればクラス選抜テスト)：履修条件、授業の進め方、評価方法、TOEIC L&Rテストの必要性についての説明
	事後学習	ガイダンスで聞いた説明をよく考えてクラスを履修するかどうか検討する。TOEIC、TOEFL、IELTS、英検など資格試験が社会のどのような状況で使われているのか、インターネットなどで調べてみる。(30分)
2	事前学習	単語のテキストを使って単語をランダムに覚える。TOEICテストについての説明を参考書やインターネットを使って調べて読んでおく。(30分)
	授業内容	TOEIC テストの概要について説明 /Pre-test (TOEIC ミニ模擬テスト)
	事後学習	Pre-testのReading Partの復習(30分)
3	事前学習	第1回英単語試験の範囲の単語を覚える/テキストunit 1:Warm-upを予習する。(30分)
	授業内容	第1回英単語試験(No.1－45)/テキスト Unit 1(Eating Out):Par5~7の復習/Part 5の問題の解き方、TOEICの練習問題:Warm-up/ Part1~7のミニテスト/ Part 1~4の復習(音読練習、dictation,等)
	事後学習	テキスト Unit 1 のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習/単語の復習(30分)
4	事前学習	第2回英単語試験の範囲の単語を覚える。/テキスト Unit 1 (Eating Out):Par5~7の復習/Part 5の問題の解き方、TOEICの練習問題のReading Partの英文をよく読んでお く。分からない 単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	第2回英単語試験(No.46－90)/テキスト Unit 1(Eating Out):Par5~7の復習/Part 5の問題の解き方、TOEICの練習問題
	事後学習	テキスト Unit 1(Eating Out):Par5~7の復習/Part 5の問題の解き方、TOEICの練習問題と Reading Partの復習：特にPart 6、Part 7の間違ったところを中心に復習。(30分)

5	事前学習	第3回英単語試験の範囲の単語を覚える/テキストunit 2:Warm-upを予習する。(30分)
	授業内容	第3回英単語試験(No. 91 - 143)/テキストUnit 2(Travel): Warm-up /Part1~7のミニテスト/ Part 1~4の復習(音読練習、dictation, 等)
	事後学習	テキストUnit 2(Travel) のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習(30分)
6	事前学習	第4回英単語試験の範囲の単語を覚える。/テキスト Unit 2 (Travel) のReading Partの英文をよく読んでおく。分からない単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	第4回英単語試験(No. 144 - 195)/テキストUnit 2(Travel) 復習/TOEIC練習問題
	事後学習	テキスト Unit 2 (Travel) Reading Partの復習: 特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。(30分)
7	事前学習	第5回英単語試験の範囲の単語を覚える/ unit 3:Warm-upを予習する。/(30分)
	授業内容	第5回英単語試験(No. 196 - 248)/テキスト unit 3(Amusement): Warm-up/ ミニテスト/ Part 1~4の復習(音読練習、dictation, 等)
	事後学習	テキスト Unit 3 (Amusement)のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習(30分)
8	事前学習	第6回英単語試験の範囲の単語を覚える。/テキスト Unit 3(Amusement)のReading Partの英文をよく読んでおく。分からない単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	第6回英単語試験(No. 249 - 300)/テキスト Unit 3(Amusement) 復習/TOEIC練習問題
	事後学習	テキスト Unit 3(Amusement) Reading Partの復習: 特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。(30分)
9	事前学習	第7回英単語試験の範囲の単語を覚える/ unit 4:Warm-upを予習する。(30分)
	授業内容	第7回英単語試験(No. 301 - 345)/テキストunit 4(Meetings)Warm-up/ミニテスト/TOEIC練習問題
	事後学習	テキスト unit 4(Meetings)のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習(30分)
10	事前学習	第8回英単語試験の範囲の単語を覚える。/テキスト unit 4(Meetings)のReading Partの英文をよく読んでおく。分からない単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。unit 5:Warm-upを予習する。(30分)
	授業内容	第8回英単語試験(No. 346 - 398)/テキストunit 4(Meetings) 復習、 テキストunit 5(Personnel) Warm-up/ミニテスト/ TOEIC練習問題
	事後学習	テキスト unit 4(Meetings) Reading Partの復習: 特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。テキスト unit 5(Personnel) のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習(30分)
11	事前学習	第9回英単語試験の範囲の単語を覚える/ テキストunit 6(Shopping)Warm-upを予習する。(30分)
	授業内容	第9回英単語試験(No. 399 - 450)/テキストunit 5(Personnel) 復習 / テキストunit 6(Shopping)Warm-up/ミニテスト/ TOEIC練習問題
	事後学習	テキスト Unit 6 のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習/単語の復習(30分)
12	事前学習	第10回英単語試験の範囲の単語を覚える/ Class MATEをPart 1からPART 7まで問題の形式を意識しながら復習(30分)
	授業内容	第10回英単語試験(No. 451 - 495) /TOEIC模擬試験: 解答と解説
	事後学習	TOEIC模擬試験の復習(30分)
13	事前学習	第11回英単語試験の範囲の単語を覚える/テキスト unit 6(Shopping) のReading Part単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておくReading Partの英文をよく読んでおく。(30分)
	授業内容	第11回英単語試験(No. 496 - 548)/ TOEIC模擬試験の復習/テキストUnit 6(Shopping)の復習
	事後学習	テキスト unit 6(Shopping): Reading Partの復習: 特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習(30分)
14	事前学習	第12回英単語試験の範囲の単語を覚える/Unit 7(Advertisement):Warm-upを予習する。(30分)
	授業内容	第12回英単語試験(No. 549-600)/Unit 7(Advertisement)Warm-up/ミニテストと復習
	事後学習	TOEIC模擬試験の復習/ Unit 7(Advertisement)ミニテストの復習、リーディングの英文を読み直す。(30分)
15	事前学習	テキストUnit 1 ~ Unit 7の単語等を覚える(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期の内容の振り返り
	事後学習	テキストUnit 1 ~ Unit 7の復習(30分)

科目名	TOEIC I A	担当者	鈴木 京子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEICでよりよい得点を目指すことができるように、教科書を使用して毎回演習を行います。教科書のそれぞれの課はListeningとReadingのセクションがあり、毎回授業内で問題を解きます。Listeningの場合には問題を解いた後にスクリプトを使用して、どんな問題を聞いたのかを耳と目を使って確認していきます。Readingの場合には問題を解いた後に文法などの解説を行います。					
授業目的・到達目標	TOEIC450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEIC受験に必要な基礎力を養成することを目的とします。 TOEICスコア500点台を獲得できることを目標とするクラスです。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5、 6					
履修条件	TOEIC 1 回受験と、オンライン教材のClassMATEが義務づけられます。受験料と教材費は自己負担です。（TOEICを複数履修すると、教材費がその分増えます。）原則 I Bとともに通年で履修してください。					
授業方法	実践演習をして解説をします。毎回小テストを行い、返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		TOEICスコア、小テスト、ClassMATE ポイント等を総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	CENGAGE Learning		Before-After Practice for the TOEIC L&R TEST		Jonathan Lunch他2名
	備考					
参 考 書	英和辞書必携					
オフィスアワー	金曜16：10～講堂にて。 授業の前後で質問してください。アポイントメントを取る場合にも授業の前後で相談してください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	自己紹介文を考える（30分）
	授業内容	ガイダンス。Pre-test
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
2	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Pre-test復習①
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
3	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Pre-test復習②
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
4	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Pre-testの復習③
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）

5	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 1 Listening 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
6	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 1 Listening 問題復習
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
7	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 2 Reading 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
8	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 2 Reading 問題復習
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
9	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 3 Listening 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
10	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 3 Listening 問題復習
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
11	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 4 Reading 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
12	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 4 Reading 問題復習
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
13	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 5 Listening 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
14	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 5 Listening 問題復習
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
15	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	前期の授業のまとめ
	事後学習	前期の授業の総復習（30分）

科目名	TOEIC I A	担当者	鈴木 ふさ子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	--------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	TOEICがどのようなテストなのかを理解し、授業ではテキストの演習問題を解き、解説を聞くことで問題に慣れていただきます。解説では単に答え合わせをするのではなく、どのようにその解答に至ったのかを答えていただき、英語の基礎力をブラッシュアップします。自宅ではオンライン教材や授業の復習をしっかり行い、その成果を小テストや期末テストなどで確認していきます。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC初心者または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEICテストに必要なリーディング、文法、リスニングの基礎力を養成し、短い時間の中で正確に英語を読む力を養うことを目的としています。、 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に着け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域5，6			
履修条件	年度内にTOEICを2回以上受験し、ClassMATE(Online Training)をやっていただきます。（受験料及び教材費は自己負担）。注：TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えます。			
授業方法	実践演習をして解説をします。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行い、次の授業で返却を行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価（授業参加度、小テスト、授業内復習テスト、Class MATEのポイント）100%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2006年	金星堂	『Kick Off for the TOEIC TEST』	Noboru Matsuda
	備考			
参考書	『新TOEIC Test 英文法出るところだけ』（アルク出版）授業では使用しないので自宅用として活用すること。			
オフィスアワー	授業終了後（火曜14：30～／16：10～）、前の週の授業終了時に質問内容や相談内容を伝え、アポイントメントを取ること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を把握する。TOEICがどのようなテストなのかWEBサイト等で調べておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、TOEICの概要を説明する。
	事後学習	TOEICテストについてWEBサイト等で調べ、各パートの問題形式を頭に入れる。 ガイダンスのおさらいをする。（30分）
2	事前学習	テキストのiv頁からx頁までに掲載されているTOEICの各パートの模擬問題を解いて、解説を読む。（30分）
	授業内容	TOEICテストの概要を簡潔に説明する。 ミニ模擬試験（公開試験の約半分の量）を受け、スコアレンジの算出をする。
	事後学習	どこが自分の弱点かをチェックする。頻出単語の暗記をする。（30分）
3	事前学習	ミニ模擬試験の結果を踏まえて今後どのように学習するべきか計画を立てる。（30分）
	授業内容	今後の学習法、目標を考える。基本単語のチェック、基本文法のチェックを行う。
	事後学習	間違った箇所を解き直す。自分に合った参考書や問題集を選び、具体的な計画を立てる。基本単語チェックで間違えた単語を覚え、基本文法で間違えた文法事項を復習する。（30分）
4	事前学習	テキストのUnit1の単語（2頁）、空港に関する単語を調べ、覚えてくる。（30分）
	授業内容	小テスト、Unit1のListeningのPart1，Part4の演習問題（3頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。知らなかった空港に関する単語の用例や表現を調べ、覚える。（30分）

5	事前学習	テキストUnit1の単語を覚えて、文型（２頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。（30分）
	授業内容	小テスト、文型について理解し、Unit1のReadingのWarm-Up、Part5、Part6の演習問題（4、5頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	文型について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）
6	事前学習	テキストのUnit2の単語（6頁）、ホテルや宿泊に関する単語を調べ、覚えてくる。（30分）
	授業内容	小テスト、Unit2のListeningのPart2、Part4の演習問題（7頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。ホテルに関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）
7	事前学習	テキストUnit2の単語を覚えて、名詞の修飾（6頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit2の単語を覚える。オンライン教材を行う。（30分）
	授業内容	小テスト、名詞の修飾について理解し、Unit2のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（8、9頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	名詞の修飾について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）
8	事前学習	テキストのUnit3の単語（10頁）、道の聞き方や道路、自動車に関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit3の単語を調べる。オンライン教材を行う。（30分）
	授業内容	小テスト、Unit3のListeningのPart3、Part4の演習問題（11頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。道の聞き方や道路に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）
9	事前学習	テキストUnit3の単語を覚えて、文と文の接続（10頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit3の単語を覚える。オンライン教材を行う。（30分）
	授業内容	小テスト、文と文の接続について理解し、Unit3のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（12、13頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	文と文の接続について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）
10	事前学習	テキストのUnit4の単語（14頁）、レストランに関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit4の単語を調べる。オンライン教材を行う。（30分）
	授業内容	小テスト、Unit4のListeningのPart1、Part4の演習問題（15、16頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。レストランや食に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）
11	事前学習	テキストUnit4の単語を覚えて、知覚動詞と使役動詞（14頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit4の単語を覚える。オンライン教材を行う。（30分）
	授業内容	小テスト、知覚動詞と使役動詞について理解し、Unit4のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（15、16頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	知覚動詞と使役動詞について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）
12	事前学習	テキストのUnit5の単語（18頁）、ショッピングに関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit5の単語を調べる。オンライン教材を行う。（30分）
	授業内容	小テスト、Unit5のListeningのPart2、Part4の演習問題（19、20頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。ショッピングに関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）
13	事前学習	テキストUnit5の単語を覚えて、助動詞（18頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit5の単語を覚える。オンライン教材を行う。（30分）
	授業内容	小テスト、助動詞について理解し、Unit5のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（20—22頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	助動詞について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）
14	事前学習	前期で学習したことを復習し、各Partの注意点を頭に入れる。（30分）
	授業内容	実力テスト（各Partのミニテスト）の実施と解説。
	事後学習	間違った問題を解き直し、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。自分の苦手なPartと得意なPartを分析し、今後の対策を考える。（30分）
15	事前学習	前期に学んだこと、テキストの総復習をする。（30分）
	授業内容	前期の総復習のための授業内テストと解説、前期学習内容の振り返り。
	事後学習	前期に学んだところを総復習する。（30分）

科目名	TOEIC I A	担当者	藤本 淳史	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。まずTOEICテストの形式に慣れることなら始めましょう。			
授業目的・到達目標	TOEIC初心者または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEICテストにおける自身の課題を把握し、スコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とします。 TOEICスコアを500点以上獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5、6			
履修条件	TOEICを1回以上受験し、ClassMATE（Online Training）をやっていただきます。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。			
授業方法	TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回小テストを行います。授業内で試験のフィードバックを行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	TOEICスコア、小テスト、ClassMATEポイント等を総合的に判断します。 前期試験等を総合的に判断します。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	桐原書店	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC(R) L&R TEST All in One [New Edition]	早川 幸治
	備考			
参 考 書	追って指示します。			
オフィスアワー	水曜16：10／17：50～ 講堂にて 質問がある場合にはfujimoto.atsushi11@nihon-u.ac.jp までメールをしてください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	オリエンテーション Unit 01 人物の動作と状態（Part 1） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
2	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 01 表・用紙（Part 7） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
3	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 02 疑問詞を使った疑問文（Part 2） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
4	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 02 広告（Part 7） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）

5	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 03 日常場面での会話（Part 3） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
6	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 03 品詞（Part 5） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
7	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 04 アナウンス・ツアー（Part 4） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
8	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 04 動詞（Part 5） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
9	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 05 物の状態と位置（Part 1） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
10	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 05 チャット（Part 7） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
11	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 06 基本構文（依頼／提案・勧誘／申し出）と応答の決まり文句（Part 2） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
12	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 06 手紙・Eメール（Part 7） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
13	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 07 電話での会話（Part 3） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
14	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 07 代名詞・関係代名詞（Part 5） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
15	事前学習	これまでの内容を復習して前期授業のまとめに備えること。（30分）
	授業内容	前期授業のまとめ
	事後学習	前期授業のまとめの内容を解説したところを復習しておくこと。（30分）

科目名	TOEIC I A	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC公開テスト模擬演習に加え、ディクテーションやペアによるボキャブラリーチェックなどのエクササイズにより、受け身ではないTOEIC対策授業を行う。				
授業目的・到達目標	[授業目的] TOEIC初心者または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラス。TOEICテストの出題形式に慣れながら、スコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とする。 [到達目標] TOEICスコア500点以上を獲得できることを目標とする。 対応DPおよびCP：外国語科目領域 5, 6				
履修条件	TOEICを1回以上受験し、ClassMATE（Online Training）の受講を義務付ける（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEIC科目を2科目以上受講した場合には教材費がその分増えるので注意すること。				
授業方法	演習形式。オンラインによるペア演習を含む実践演習および解説を行う。フィードバックは授業で行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加度、TOEICスコア、小テスト、ClassMATEポイント、期末試験等を総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2015	金星堂		LIGHTING UP THE TOEIC TEST	Brent Cotsworth 他
	備考				
参 考 書	授業内において適宜指示する。				
オフィスアワー	担当教員研究室（本館8階1815研究室）にて金曜日3時限に対応する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読する。（30分）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	イントロダクションの振り返りを行う。（30分）
2	事前学習	Unit 1 Travelingの単語・熟語学習（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	Unit 1 Traveling：ペアやグループで実践的な演習を行う
	事後学習	Unit 1 Travelingの振り返り（30分）
3	事前学習	Unit 2 Daily Life & Shoppingの単語・熟語学習（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	Unit 2 Daily Life & Shopping：ペアやグループで実践的な演習を行う
	事後学習	Unit 2 Daily Life & Shoppingの振り返り（30分）
4	事前学習	これまでの授業の振り返り（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	TOEICリスニング演習 1 TOEIC文法演習 1 小テスト 1
	事後学習	授業の振り返り（30分）

5	事前学習	Unit 3 At Restaurantsの単語・熟語学習（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	Unit 3 At Restaurants：ペアやグループで実践的な演習を行う
	事後学習	Unit 3 At Restaurantsの振り返り（30分）
6	事前学習	Unit 4 Job Huntingの単語・熟語学習（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	Unit 4 Job Hunting：ペアやグループで実践的な演習を行う
	事後学習	Unit 4 Job Huntingの振り返り（30分）
7	事前学習	これまでの授業の振り返り（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	TOEICリスニング演習 2 TOEIC文法演習 2 小テスト 2
	事後学習	授業の振り返り（30分）
8	事前学習	Unit 5 At the Office 1の単語・熟語学習（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	Unit 5 At the Office 1：ペアやグループで実践的な演習を行う
	事後学習	Unit 5 At the Office 1の振り返り（30分）
9	事前学習	Unit 6 At the Office 2の単語・熟語学習（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	Unit 6 At the Office 2：ペアやグループで実践的な演習を行う
	事後学習	Unit 6 At the Office 2の振り返り（30分）
10	事前学習	これまでの授業の振り返り（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	TOEICリスニング演習 3 TOEIC文法演習 3 小テスト 3
	事後学習	授業の振り返り（30分）
11	事前学習	Unit 7 Review Test 1の単語・熟語学習（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	Unit 7 Review Test 1：ペアやグループで実践的な演習を行う
	事後学習	Unit 7 Review Test 1の振り返り（30分）
12	事前学習	Unit 8 Doing Business Onlineの単語・熟語学習（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	Unit 8 Doing Business Online：ペアやグループで実践的な演習を行う
	事後学習	Unit 8 Doing Business Onlineの振り返り（30分）
13	事前学習	TOEIC模擬試験の単語・熟語学習（30分）
	授業内容	TOEIC模擬試験 解説
	事後学習	TOEIC模擬試験の振り返り（30分）
14	事前学習	前期の単語・熟語学習（30分）
	授業内容	前期のまとめ 1：ペアやグループで実践的な演習を行う 前期期末試験
	事後学習	前期のまとめ 1の振り返り（30分）
15	事前学習	前期の単語・熟語学習（30分）
	授業内容	前期のまとめ 2：ペアやグループで実践的な演習を行う 前期期末試験返却・解説
	事後学習	前期の振り返り（30分）

科目名	TOEIC I A	担当者	山下 登子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	教科書やオンライン教材を使用し、TOEICの学力向上を目指す授業です。				
授業目的・到達目標	TOEIC初心者または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEICテストの出題形式に慣れながら、スコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とします。また、TOEICスコア500点以上を獲得できることを目標とします。対応DP及びCP：外国語科目領域5、6				
履修条件	TOEICテストを1回以上受験し、ClassMATE（Online Training）が義務付けられます。受験料とClassMATE教材費は自己負担です。（TOEICを2科目以上受講した場合は教材費がその分増えますのでご注意ください）				
授業方法	グループ活動を中心とした演習形式の授業です。毎回Online Training教材からの単語テストを行い、次の授業で返却を行う。遅刻3回は1回分の欠席とし、欠席が全体の1/3以上を超える場合は失格とする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	TOEICスコア、単語テスト、ClassMATEポイント、受講状況、単語ノート提出、授業内試験などを含めて総合的に評価します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	桐原書店		『Mastery Drills For the TOEIC L&R Test All in One [New Edition]（TOEIC L&R テスト マスタリードリル [全パート編]）』	早川 幸治
	備考				
参考書	英和辞書（電子辞書可）				
オフィスアワー	授業に関する質問・相談などは、授業前後や休み時間（金曜14：30～）に、教室・教員室またはe-mailにて対応します。 yamashita.takako1@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教材の準備、シラバスを読み、講義全体の概観をする。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、学習範囲、今後の予定などを説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらい、学習範囲の確認をする。（30分）
2	事前学習	教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テストについて・Unit 1（学習Unitは変更する場合があります） 人物の動作と状態について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
3	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 1 表・用紙について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
4	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 2 疑問詞を使った疑問文について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）

5	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 2 広告について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所を見直しをする。（40分）
6	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 3 日常場面での会話について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所を見直しをする。（40分）
7	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 3 品詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所を見直しをする。（40分）
8	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 4 アナウンス・ツアーについて理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所を見直しをする。（40分）
9	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 4 動詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所を見直しをする。（40分）
10	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 5 物の状態と位置について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所を見直しをする。（40分）
11	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 5 チャットについて理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所を見直しをする。（40分）
12	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 6 基本構文と応答の決まり文句について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所を見直しをする。（40分）
13	事前学習	単語ノート提出の準備、単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語ノート提出・Unit 6 手紙・Eメールについて理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。（30分）
14	事前学習	学習範囲の総復習（30分）
	授業内容	授業内試験及び学習内容の振り返り
	事後学習	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。（30分）
15	事前学習	重要箇所や分からないところの確認など（30分）
	授業内容	授業内試験の見直し及び学習内容の振り返り
	事後学習	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。（30分）

科目名	TOEIC I A	担当者	依田 悠介	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	In this course students work on listening, grammar and reading practices to improve TOEIC score.			
授業目的・到達目標	TOEIC初心者、または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEICテストの出題形式に慣れながら、スコア向上のための英語力を養成することを目的とします。また、TOEICスコア500点以上を獲得できることを目標とします。対応DP及びCP:外国語5.6			
履修条件	学期内にTOEIC(R)を1回以上受験しClass-MATE (Online Training)をやっていただきます。(受験料及びClassMate教材費は自己負担)。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。			
授業方法	実践演習をして解説をします。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行なう。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	TOEIC(R)スコア、小テスト、Class-Mateポイント、前期・後期試験等を総合的に判断します。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	アスク	TOEIC L&Rテスト 文法問題 での1000問	TEX加藤
	備考			
参考書	provided in each class			
オフィスアワー	授業（水曜2限）終了後、講堂にて。 by appointment: yusuke.yoda@tyg.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Read the syllabus (30分)
	授業内容	Guidance: Bring the copy of this syllabus and textbook
	事後学習	Planning your study (30分)
2	事前学習	Prep. for pre-test (30分)
	授業内容	Pre-test 解説
	事後学習	Review your score (30分)
3	事前学習	Prep. of vocabulary: computer and communication (30分)
	授業内容	Computers and Communication
	事後学習	Review the sounds/vocabulary of the material(s) provided in the class. (30分)
4	事前学習	Prep. of vocabulary: music (30分)
	授業内容	Music
	事後学習	Review the sounds/vocabulary of the material(s) provided in the class. (30分)

5	事前学習	Prep. of vocabulary:advertising and marketing (30分)
	授業内容	Advertising and Marketing
	事後学習	Review the sounds/vocabulary of the material(s) provided in the class. (30分)
6	事前学習	Prep. of vocabulary: shopping (30分)
	授業内容	Shopping
	事後学習	Review the sounds/vocabulary of the material(s) provided in the class. (30分)
7	事前学習	Prep. of vocabulary: entertainment (30分)
	授業内容	Entertainment
	事後学習	Review the sounds/vocabulary of the material(s) provided in the class. (30分)
8	事前学習	Prep. of vocabulary: eating and drinking (30分)
	授業内容	Eating and Drinking
	事後学習	Review the sounds/vocabulary of the material(s) provided in the class. (30分)
9	事前学習	Prep. of vocabulary: sports (30分)
	授業内容	Sports
	事後学習	Review the sounds/vocabulary of the material(s) provided in the class. (30分)
10	事前学習	Prep. of vocabulary: lectures and presentations (30分)
	授業内容	Lectures and Presentations
	事後学習	Review the sounds/vocabulary of the material(s) provided in the class. (30分)
11	事前学習	Prep. of vocabulary: job (30分)
	授業内容	Applying for Job
	事後学習	Review the sounds/vocabulary of the material(s) provided in the class. (30分)
12	事前学習	Review the words and vocabulary used in this semester (30分)
	授業内容	Review-1
	事後学習	Review the sounds/vocabulary of the material(s) provided in the class. (30分)
13	事前学習	Review the sound mechanisms (30分)
	授業内容	Review 2
	事後学習	Review the sounds/vocabulary of the material(s) provided in the class. (30分)
14	事前学習	Prep. for post-test (30分)
	授業内容	Post-test Review 解説
	事後学習	Review the sounds/vocabulary of the material(s) provided in the class. (30分)
15	事前学習	Prep. for next class/Review your achievement (30分)
	授業内容	Review-3
	事後学習	Review your achievement (30分)

科目名	TOEIC I B	担当者	石川 太郎	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	TOEICのような資格試験の授業は退屈なものになりがちです。ただ問題を解いて正解を得ることはもちろん大事ですが、それ以外にも日常生活に役立つ英語学習の一環としてTOEICの授業を考えています。つまり、読む・聞く以外にも書く・話す能力開発に役立つような授業にしたいと思います。また、ビジネス英語入門としての役割も視野に入れてTOEICの英語を頑張りましょう。							
授業目的・到達目標	初めてTOEICを受験する学生、または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEIC試験の内容、対策をパート別に解説し、TOEICの受験に必要な基礎力を養成することを目的とします。TOEICスコア750点台を獲得できることを目標にするクラスです。（TOEIC I と II は同レベルです）後学期では英文の読解力を向上させることを目標として授業を進めてゆきます。							
履修条件	関連DP及びCP：外国語領域科目 5， 6 学期内にTOEICを1回受験し、ClassMATE(Online Training)をやっていただきます。（受験料及び教材費は自己負担）。 注：TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えます。							
授業方法	実践演習をして解説をします。必要に応じて補足の教材を配布します。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行います。フィードバックは授業内に行います。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%					
	平常評価		100%		TOEICスコア、小テスト、ClassMATEポイント、等を総合的に判断します。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	2019		nan-un-do		TOEIC Test: On Target (Book 1) Listening & Reading		Rie Ohga	
	備考							
参考書	特に指定はないが、必ず文法の参考書を1冊用意すること。高校時代に使用したもので十分です。							
オフィスアワー	初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。 授業時間：月曜7限、土曜2～4限							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期授業の復習（30分）
	授業内容	前期授業の確認と復習
	事後学習	授業の復習（30分）
2	事前学習	Unit 6の予習（30分）
	授業内容	Unit 6: Office Technology 2:リーディングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
3	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 7: Purchasing 1:リスニングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
4	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 7: Purchasing 2:リーディングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）

5	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 8: Health Care 1: リスニングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
6	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 8: Health Care 2: リーディングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
7	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 9: Housing and Property 1: リスニングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
8	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 9: Housing and Property 2: リーディングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
9	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 10: Banking and Finance 1: リスニングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
10	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 10: Banking and Finance 2: リーディングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
11	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Test演習1（リスニングセクション中心）
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
12	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Test演習2（リーディング中心）
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
13	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Test演習3（文法項目中心）
	事後学習	文法事項の復習（30分）
14	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	3回の演習及び授業で扱いきれなかった項目を扱う
	事後学習	単語、熟語、文法の復習（30分）
15	事前学習	総復習（30分）
	授業内容	後期授業のまとめ
	事後学習	自己採点（30分）

科目名	TOEIC I B	担当者	板倉 亨	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEICに必要な英語の基礎（語彙と構文・文法）をしっかりと確認し、それを活用しながら実践的なTOEICの問題の解き方を学びます。ただTOEICの問題を解くだけでなく、英語の基礎をしっかりと固めて、それをTOEICのスコア向上につなげていくクラスです。					
授業目的・到達目標	TOEIC初心者または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEICテストの出題形式に慣れながら、スコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とします。また、TOEICスコア500点以上を獲得できることを目標とします。対応DP及びCP：外国語科目領域5，6					
履修条件	TOEICを1回以上受験し、ClassMATE(Online Training)を受講してもらいます。(受験料及びClassMATE教材費は自己負担)。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。					
授業方法	英語の基礎（語彙や構文・文法等）を確認し、それを踏まえてTOEICの実践演習をして解説をします。毎回小テストを行い、返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		TOEICスコア、小テスト、ClassMATEポイント、後期試験等を総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017年第2刷	朝日出版社		STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST:Level 2 -Intermediate-		北尾泰幸 他
	備考					
参考書	英和辞書、英語文法書。 その他は授業内で適宜指示します。					
オフィスアワー	授業終了後（水曜・木曜14：30～）講堂にて。 itakura.torull@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	上記の教科書を準備し、それに目を通して内容や英文の難易度など確認してください。また、ガイダンスの内容をメモするためルーズリーフを準備してください。（30分）
	授業内容	ガイダンス。授業内容・方法や成績評価について確認し、教科書を使いながら具体的な説明を補足します。
	事後学習	ガイダンスの説明を踏まえ、この授業についてしっかりと理解すること。（30分）
2	事前学習	授業内で指定された予習範囲の音声聞き回答したうえで、必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめ、英文の構文や訳等を準備してください。授業開始時に予習範囲から単語や聞き取りの小テストを実施することがあるので、まとめた単語やリスニングの書き取りをしっかりと見直しておくこと。（30分）
	授業内容	TOEICについての説明。基礎英文法の復習・確認。 Unit5 listening section 小テストをして、それからスクリプトを見ながら答え合わせと解説をします。
	事後学習	リスニングのスクリプトを見ながら音声を聞き直し、聞き取れなかったり知らなかった単語を調べ直してルーズリーフに補足・追加しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。（30分）
3	事前学習	授業内で指定された予習範囲の問題に解答し、その上で必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめ、英文の構文や訳等を準備してください。また、何となくではなく、なぜそれが答えだと思ったかの自分なりの説明をできるだけメモをしておいてください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語をしっかりと見直しておくこと。（30分）
	授業内容	基礎英文法の復習・確認。 Unit5 Reading section (part5.6) 小テストをして、それから答え合わせと解説をします。
	事後学習	授業での答え合わせや説明を踏まえ、ノートを整理しながら、誤答した問題を中心にしっかりと復習しておいてください。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。（30分）

13	事前学習	授業内で指定された予習範囲の問題に解答し、その上で必要な単語を調べ品詞と意味をルーズリーフにまとめ、英文の構文や訳等を準備してください。また、何となくではなく、なぜそれが答えだと思ったかの自分なりの説明をできるだけメモをしておいてください。授業開始時に予習範囲から単語の小テストを実施することがあるので、まとめた単語しっかり見直しておくこと。(30分)
	授業内容	基礎英文法の復習・確認。 Unit8 Reading section (part7) 小テストをして、それから答え合わせと解説をします。
	事後学習	授業での答え合わせや説明を踏まえ、ノートを整理しながら、誤答した問題を中心にしっかりと復習しておいてください。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。(30分)
14	事前学習	これまでのノートを整理しながら授業内容を復習して、理解できなかった箇所を授業で確認できるようにまとめておくこと。(30分)
	授業内容	後期の復習。前回までの授業内容を補足し、振り返りながら説明します。
	事後学習	授業内で指摘された英単語や英語表現を調べ直して補足しながら、授業内容を復習しておくこと。また、構文・文法に関して課題が示され、それが自分にとって必要だと感じた場合には、その項目について文法書等を参照して補足しまとめながら、授業内で説明された構文・文法の理解を自分で確認しておくこと。(30分)
15	事前学習	後期授業内容を、授業内で指摘されたポイントを中心にしっかりと復習しておくこと。(30分)
	授業内容	後期の授業のまとめ。授業内容全体の理解度を確認するためのまとめです。授業内で指摘したポイントを中心に確認します。
	事後学習	後期の授業で理解できたものと理解できなかったものをしっかりと把握し、特に理解が不十分なものについてはこれからの英語の勉強に役立てるためにしっかりと復習しておいてください。(30分)

科目名	TOEIC I B	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC テストのスコアを伸ばすため、語彙力、Listening、Reading両方の力を向上させる。授業では テキスト、オンライン教材を中心に他の問題集の問題を数多く解く。授業以外でも英語を読んだり、聞いたりするための 課題を解く。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC初心者、またはTOEIC450点未満の学生を対象とするクラスです。TOEICテストの出題形式に慣れながら、スコア向上のための英語力を養成することを目的とします。 【目標】TOEICスコア 500点以上を獲得できることを目標とします。対応DP及びCP:外国語科目領域 5, 6			
履修条件	TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。(受験料及びClassMATE教材費は自己負担)。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。			
授業方法	毎回単語テストやテキストを使ってミニテストを行いTOEICの形式に慣れるようにする。その後答え合わせと解説を行ってから、復習をします。授業時間以外で行う課題を必ず提出すること。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	TOEICスコア、小テスト、ClassMATEポイント、課題等を総合的に判断します。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年(第1版)	朝日出版社	Step-up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test	北尾・西田他2名
	2015年	アルク	改訂版 TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子
	備考			
参 考 書	英和辞書/「TOEICテスト速読WPMトレーニング」西村恵美著 (ベレ出版、1,500円) 「TOEIC TEST リスニング (TARGET 600)」 森田鉄也著 (Jリサーチ出版、1、200円)			
オフィスアワー	授業講堂(火曜日：9：00～12：10 / 木曜日13:00～16：10) オフィス			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前に英語の音声を聴き、Listeningの練習をする。(30分)
	授業内容	IBについてのガイダンス：履修条件、授業の進め方、評価方法についての説明/ Listening練習問題
	事後学習	本日聴いた Listening練習を復習(30分)
2	事前学習	第13回英単語試験の範囲の単語を覚える/unit 8:Warm-upを予習する。(30分)
	授業内容	第13回英単語試験(No. 601 - 630/1~15)/ テキストUnit 8(Daily Life):Warm-up/ミニテスト /TOEIC練習 問題
	事後学習	テキストUnit 8(Daily Life)のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習(30分)
3	事前学習	第14回英単語試験の範囲の単語を覚える。/テキスト Unit 8(Daily Life):のReading Partの英文をよく読んでおく。分からない単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。Unit 9(Office work)Warm-upを予習する。(30分)
	授業内容	第14回英単語試験(No. 16 - 60)/テキストUnit 8(Daily Life):の復習/Unit 9(Office work)Warm-up/ミニテスト
	事後学習	Unit 8(Daily Life)のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習、Unit 9(Office work)Warm-upの復習(30分)
4	事前学習	第15回英単語試験の範囲の単語を覚える。/テキストUnit 9(Office work)のReading Partの英文をよく読んでおく。分からない単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。 Unit 10(Business)Warm-upを予習する。(30分)
	授業内容	第15回英単語試験(No. 61 - 113)/ Unit 9(Office work)の復習/ Unit 10(Business)Warm-up/ミニテスト と復習 / TOEIC練習問題
	事後学習	テキスト Unit 9(Office work)の復習：特に Part 6, Part 7の間違えたところを中心に復習。 Unit 10(Business)のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習(30分)

5	事前学習	第16回英単語試験の範囲の単語を覚える。/テキスト Unit 10(Business)のReading Partの英文をよく読んでおく。分からない単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	第16回英単語試験(No. 114 - 165)/テキストUnit 10(Business)の復習 / TOEIC練習問題
	事後学習	テキストUnit 11(Traffic) のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習/テキストUnit 10(Business)Reading Partの復習：特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。(30分)
6	事前学習	第17回英単語試験の範囲の単語を覚える。/テキスト Unit 11(Traffic) Warm-upを予習する。(30分)
	授業内容	第17回英単語試験(No. 166 - 218)/Unit 11(Traffic) Warm-up/ミニテスト / TOEIC 練習問題
	事後学習	テキスト Unit 11(Traffic)のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習(30分)
7	事前学習	第18回英単語試験の範囲の単語を覚え。/テキストUnit 11 (Traffic) のReading Partの英文をよく読んでおく。分からない単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	第18回英単語試験(No. 219 - 263)/テキストUnit 11 (Traffic) の復習 /TOEIC練習問題
	事後学習	テキストUnit 11 (Traffic) をスクリプトを見ながら音読練習 /Reading Partの復習：特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。(30分)
8	事前学習	第19回英単語試験の範囲の単語を覚える/模擬問題のために Class MATEをPart 1からPART 7まで問題の形式を意識しながら復習(30分)
	授業内容	第19回英単語試験(No. 264 - 315)/TOEIC模擬試験/ 解答と解説
	事後学習	TOEIC模擬試験の復習(30分)
9	事前学習	第20回英単語試験の範囲の単語を覚える Unit 12 (Finance and Baking) Warm-upの予習(30分)
	授業内容	第20回英単語試験(No. 316-360)//TOEIC模擬試験テキストの復習。Unit 12 (Finance and Baking) Warm-up/ミニテストと復習
	事後学習	テキスト Unit 12(Finance and Baking)のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習/テキスト(30分)
10	事前学習	第21回英単語試験の範囲の単語を覚える。/テキストUnit 12(Finance and Baking) のReading Partの英文をよく読んでおく。 分からない単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	第21回英単語試験(No. 361-413)/テキストUnit 12 (Finance and Baking)の復習/Unit 13 (Media) Warm-up ミニテスト
	事後学習	テキスト Unit 13 (Media) のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習/テキスト Unit 12 : Reading Partの復習：特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。(30分)
11	事前学習	第22回英単語試験の範囲の単語を覚える Unit 13 (Media) Reading Partの英文を読んでおく(30分)
	授業内容	第22回英単語試験(No. 414-465)/テキストUnit 13 (Media) の復習/ TOEIC練習問題
	事後学習	テキスト Unit 13 (Media)のReading Partの復習：特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。(30分)
12	事前学習	第23回英単語試験の範囲の単語を覚える Unit 14 (Health and Welfare) Warm-upの予習(30分)
	授業内容	第23回英単語試験(No. 466-518) テキストUnit 14 (Health and Welfare) Warm-up/ミニテストと復習/TOEIC 練習問題
	事後学習	テキスト Unit 14 (Health and Welfare)Listening Partをスクリプトを見ながら音読練習/テキスト (30分)
13	事前学習	第24回英単語試験の範囲の単語を覚える(30分)
	授業内容	第24回英単語試験(No. 519-570) /テキストUnit 14 (Health and Welfare) 復習
	事後学習	テキストUnit 14 (Health and Welfare) のReading PartParwtを復習(30分)
14	事前学習	Class MATEをPart 1からPART 7まで問題の形式を意識しながら復習(30分)
	授業内容	Class MATEの復習/TOEIC 練習問題
	事後学習	授業で解いた練習問題で間違えたところを復習する。(30分)
15	事前学習	テキストUnit 8 ～ Unit 14の単語等を覚えてテキストの復習/ Class MATE (Online Training) の問題の復習(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期の内容の振り返り
	事後学習	テキストUnit 8 ～ Unit 14を復習する(30分)

科目名	TOEIC I B	担当者	鈴木 京子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEICでよりよい得点を目指すことができるように、教科書を使用して毎回演習を行います。教科書のそれぞれの課は、Listening ととReading のセクションがあり、毎回授業内で問題を解きます。Listeningの場合には問題を解いた後にスクリプトを使用して、どんな問題を聞いたのかを耳と目を使って確認していきます。Readingの場合には、問題を解いた後に文法等の解説を行います。					
授業目的・到達目標	TOEIC450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEIC受験に必要な基礎力を養成することを目的とします。 TOEICスコア500点台を獲得できることを目標とするクラスです。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5、 6					
履修条件	TOEIC 1 回受験と、オンライン教材のClassMATEが義務づけられます。受験料と教材費は自己負担です。（TOEICを複数履修すると、教材費がその分増えます。）原則 I Aとともに通年で履修してください。					
授業方法	実践演習をして解説をします。毎回小テストを行い、返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		TOEICスコア、小テスト、ClassMATEポイント等を総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	CENGAGE Learning		Before-After Practice for the TOEIC L&R TEST		Jonathan Lynch他 2名
	備考					
参 考 書	英和辞書必携					
オフィスアワー	金曜16：10～講堂にて。 授業の前後で質問してください。アポイントメントを取る場合にも授業の前後で相談してください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	夏休みのプレゼン準備（30分）
	授業内容	Unit 6 Reading 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
2	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 6 Reading 問題復習
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
3	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 7 Listening 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
4	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 7 Listening 問題復習
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）

5	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 8 Reading 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
6	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 8 Reding 問題復習
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
7	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 9 Listening 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
8	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 9 Listening 問題復習
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
9	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 10 Reading 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
10	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 10 Reading 問題復習
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
11	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 11 Listening 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
12	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 11 Listening 問題復習
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
13	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 12 Reading 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
14	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 12 Reading 問題復習
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
15	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	後期授業のまとめ
	事後学習	後期授業の総復習（30分）

科目名	TOEIC I B	担当者	鈴木 ふさ子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	--------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	TOEICがどのようなテストなのかを理解し、授業ではテキストの演習問題を解き、解説を聞くことで問題に慣れteいただきます。解説では単に答え合わせをするのではなく、どのようにその解答に至ったのかを答えていただき、英語の基礎力をブラッシュアップします。自宅ではオンライン教材や授業の復習をしっかり行い、その成果を小テストや期末テストなどで確認していきます。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC初心者または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEICテストに必要なリーディング、文法、リスニングの基礎力を養成し、短い時間の中で正確に英語を読む力を養うことを目的としています。、 【到達目標】TOEICテストのための基礎力を身に着け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域5，6			
履修条件	年度内にTOEICを2回以上受験し、ClassMATE(Online Training)をやっていただきます。（受験料及び教材費は自己負担）。注：TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えます。			
授業方法	実践演習をして解説をします。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行い、次の授業で返却を行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価（授業参加度、小テスト、授業内復習テスト、Class MATEのポイント）100%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2006年	金星堂	『Kick Off for the TOEIC TEST』	Noboru Matsuda
	備考			
参考書	『新TOEIC Test 英文法出るところだけ』（アルク出版）授業では使用しないので自宅用として活用すること。			
オフィスアワー	授業終了後（火曜14：30～／16：10～）、前の週の授業終了時に質問内容や相談内容を伝え、アポイントメントを取ること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期に学習したことを思い出し、テキストのUnit1から5までの各Partの問題を解く。間違えた所をもう一度解き、各Unitの場面に関する単語を覚える。（30分）
	授業内容	ガイダンス 後期の授業の進め方を説明する。前期の反省点と対策を考える。
	事後学習	ガイダンスを振り返り、後期の学習計画を立てる。（30分）
2	事前学習	テキストのUnit6の単語（24頁）、銀行に関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit6の単語を調べる。オンライン教材を行う。（30分）
	授業内容	小テスト、Unit6のListeningのPart3，Part4の演習問題（25頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。銀行に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）
3	事前学習	テキストUnit6の単語を覚えて、その他の助動詞（24頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit6の単語を覚える。オンライン教材を行う。（30分）
	授業内容	小テスト、その他の助動詞について理解し、Unit6のReadingのWarm-Up、Part5，Part6の演習問題（26—27頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	その他の助動詞について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）
4	事前学習	テキストのUnit7の単語（28頁）、旅行に関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit7の単語を調べる。オンライン教材を行う。（30分）
	授業内容	小テスト、Unit7のListeningのPart1，Part4の演習問題（29-30頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。旅行に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）

5	事前学習	テキストUnit7の単語を覚えて、時制（28頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit7の単語を覚える。オンライン教材を行う。（30分）
	授業内容	小テスト、時制について理解し、Unit7のReadingのWarm-Up、Part5、Part6の演習問題（30—31頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	時制について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）
6	事前学習	テキストのUnit8の単語（32頁）、医療に関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit8の単語を調べる。オンライン教材を行う。（30分）
	授業内容	小テスト、Unit8のListeningのPart2、Part4の演習問題（33頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。医療に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）
7	事前学習	テキストUnit8の単語を覚えて、現在完了（32頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit8の単語を覚える。オンライン教材を行う。（30分）
	授業内容	小テスト、現在完了について理解し、Unit8のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（34—35頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	現在完了について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）
8	事前学習	テキストのUnit9の単語（36頁）、不動産と賃貸に関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit9の単語を調べる。オンライン教材を行う。（30分）
	授業内容	小テスト、Unit9のListeningのPart3、Part4の演習問題（37頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。不動産と賃貸に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）
9	事前学習	テキストUnit9の単語を覚えて、前置詞（36頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit9の単語を覚える。オンライン教材を行う。（30分）
	授業内容	小テスト、前置詞について理解し、Unit9のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（38—39頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	前置詞について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）
10	事前学習	テキストのUnit10の単語（40頁）、スポーツに関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit10の単語を調べる。オンライン教材を行う。（30分）
	授業内容	小テスト、Unit10のListeningのPart1、Part4の演習問題（41頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。スポーツに関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）
11	事前学習	テキストUnit10の単語を覚えて、to不定詞（40頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit10の単語を覚える。オンライン教材を行う。（30分）
	授業内容	小テスト、to不定詞について理解し、Unit10のReadingのWarm-Up、Part5、Part7の演習問題（42—44頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	to不定詞について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）
12	事前学習	テキストのUnit11の単語（46頁）、就職、人事に関する単語を調べ、覚えてくる。テキストUnit11の単語を調べる。オンライン教材を行う。（30分）
	授業内容	小テスト、Unit11のListeningのPart2、Part4の演習問題（47頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	授業で扱った問題の英文を聞き、書きとる。授業で板書した英文と照らし合わせ、聞けなかった音のチェックをし、音読をする。就職・人事に関する単語や表現、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）
13	事前学習	テキストUnit11の単語を覚えて、仮定法過去（46頁）の部分を読み、例文の穴埋めをする。テキストUnit11の単語を覚える。オンライン教材を行う。（30分）
	授業内容	小テスト、仮定法過去について理解し、Unit11のReadingのWarm-Up、Part5、Part6の演習問題（48—49頁）の解き方を理解し、それに対応する問題を解答する。
	事後学習	仮定法過去について復習し、間違った問題を解き直す。出てきた単語で知らなかった単語の用例を調べ、覚える。（30分）
14	事前学習	前期で学習したことを復習し、各Partの注意点を頭に入れる。（30分）
	授業内容	実力テスト（各Partのミニテスト）の実施と解説。
	事後学習	間違った問題を解き直し、知らなかった単語の用例を調べ、覚える。自分の苦手なPartと得意なPartを分析し、今後の対策を考える。（30分）
15	事前学習	後期に学んだこと、テキストの総復習をする。（30分）
	授業内容	後期の総復習のための授業内テストと解説、後期学習内容の振り返り。
	事後学習	後期に学んだところを総復習する。（30分）

科目名	TOEIC I B	担当者	藤本 淳史	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。まずTOEICテストの形式に慣れることなら始めましょう。 (TOEIC IAからの続き)			
授業目的・到達目標	TOEIC初心者または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEICテストにおける自身の課題を把握し、スコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とします。 TOEICスコアを500点以上獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5、 6			
履修条件	TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。(受験料及びClassMATE教材費は自己負担)。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。			
授業方法	TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回小テストを行います。授業内で試験のフィードバックを行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	TOEICスコア、小テスト、ClassMATEポイント等を総合的に判断します。 後期試験等を総合的に判断します。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	桐原書店	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC(R) L&R TEST All in One [New Edition]	早川 幸治
	備考			
参 考 書	追って指示します。			
オフィスアワー	水曜16：10／17：50～ 講堂にて 質問がある場合にはfujimoto.atsushi11@nihon-u.ac.jp までメールをしてください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)
	授業内容	Unit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)
2	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)
	授業内容	Unit 08 接続詞・前置詞 (Part 5) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)
3	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)
	授業内容	Unit 09 Yes/No疑問文 (Part 2) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)
4	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。(30分)
	授業内容	Unit 09 ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。(30分)

5	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 10 オフィスでの会話 ① (Part 3) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
6	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 10 Part 5の復習 (Part 5) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
7	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 11 留守番電話 (Part 4) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
8	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 11 トリプルパッセージ（3つの文書） (Part 7) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
9	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 12 オフィスでの会話 ② (Part 3) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
10	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 12 Part 7の復習 (Part 7) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
11	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 13 Part 1とPart 2の復習 (Part 1, Part 2) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
12	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 13 時制・代名詞・語い問題 (Part 6) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
13	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部 (Part 4) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
14	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 14 つなぎ言葉・文の挿入 (Part 6) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
15	事前学習	これまでの内容を復習して後期授業のまとめに備えること。（30分）
	授業内容	後期授業のまとめ
	事後学習	後期授業のまとめの内容を解説したところを復習しておくこと。（30分）

科目名	TOEIC I B	担当者	松山 博樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC公開テスト模擬演習に加え、ディクテーションやペアによるボキャブラリーチェックなどのエクササイズにより、受け身ではないTOEIC対策授業を行う。				
授業目的・到達目標	[授業目的] TOEIC初心者または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラス。TOEICテストの出題形式に慣れながら、スコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とする。 [到達目標] TOEICスコア500点以上を獲得できることを目標とする。 対応DPおよびCP：外国語科目領域 5, 6				
履修条件	TOEICを1回以上受験し、ClassMATE（Online Training）の受講を義務付ける（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEIC科目を2科目以上受講した場合には教材費がその分増えるので注意すること。				
授業方法	演習形式。オンラインによるペア演習を含む実践演習および解説を行う。フィードバックは授業で行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業参加度、TOEICスコア、小テスト、ClassMATEポイント、期末試験等を総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2015	金星堂		LIGHTING UP THE TOEIC TEST	Brent Cotsworth 他
	備考				
参 考 書	授業内において適宜指示する。				
オフィスアワー	担当教員研究室（本館8階1815研究室）にて金曜日3時限に対応する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読する。（30分）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	イントロダクションの振り返りを行う。（30分）
2	事前学習	Unit 9 Housingの単語・熟語学習（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	Unit 9 Housing：ペアやグループで実践的な演習を行う
	事後学習	Unit 9 Housingの振り返り（30分）
3	事前学習	Unit 10 Making Deals & Contractsの単語・熟語学習（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	Unit 10 Making Deals & Contracts：ペアやグループで実践的な演習を行う
	事後学習	Unit 10 Making Deals & Contractsの振り返り（30分）
4	事前学習	これまでの授業の振り返り（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	TOEICリスニング演習 1 TOEIC文法演習 1 小テスト 1
	事後学習	授業の振り返り（30分）

5	事前学習	Unit 11 Public Serviceの単語・熟語学習（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	Unit 11 Public Service：ペアやグループで実践的な演習を行う
	事後学習	Unit 11 Public Serviceの振り返り（30分）
6	事前学習	Unit 12 Banking & Financeの単語・熟語学習（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	Unit 12 Banking & Finance：ペアやグループで実践的な演習を行う
	事後学習	Unit 12 Banking & Financeの振り返り（30分）
7	事前学習	これまでの授業の振り返り（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	TOEICリスニング演習 2 TOEIC文法演習 2 小テスト 2
	事後学習	授業の振り返り（30分）
8	事前学習	Unit 13 At Seminars & Workshopsの単語・熟語学習（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	Unit 13 At Seminars & Workshops：ペアやグループで実践的な演習を行う
	事後学習	Unit 13 At Seminars & Workshopsの振り返り（30分）
9	事前学習	Unit 14 News & Mediaの単語・熟語学習（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	Unit 14 News & Media：ペアやグループで実践的な演習を行う
	事後学習	Unit 14 News & Mediaの振り返り（30分）
10	事前学習	これまでの授業の振り返り（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	TOEICリスニング演習 3 TOEIC文法演習 3 小テスト 3
	事後学習	授業の振り返り（30分）
11	事前学習	Unit 15 Review Test 2の単語・熟語学習（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	Unit 15 Review Test 2：ペアやグループで実践的な演習を行う
	事後学習	Unit 15 Review Test 2の振り返り（30分）
12	事前学習	これまでの授業の振り返り（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	TOEICリスニング演習 4 TOEIC文法演習 4 小テスト 4
	事後学習	授業の振り返り（30分）
13	事前学習	TOEIC模擬試験の単語・熟語学習（15分） オンライントレーニング（15分）
	授業内容	TOEIC模擬試験 解説
	事後学習	TOEIC模擬試験の振り返り（30分）
14	事前学習	後期の単語・熟語学習（30分）
	授業内容	後期のまとめ 1：ペアやグループで実践的な演習を行う 後期期末試験
	事後学習	後期のまとめ 1の振り返り（30分）
15	事前学習	後期の単語・熟語学習（30分）
	授業内容	後期のまとめ 2：ペアやグループで実践的な演習を行う 後期期末試験返却・解説
	事後学習	後期の振り返り（30分）

科目名	TOEIC I B	担当者	山下 登子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	教科書やオンライン教材を使用し、TOEICの学力向上を目指す授業です。				
授業目的・到達目標	TOEIC初心者または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEICテストの出題形式に慣れながら、スコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とします。また、TOEICスコア500点以上を獲得できることを目標とします。対応DP及びCP：外国語科目領域5、6				
履修条件	TOEICテストを1回以上受験し、ClassMATE（Online Training）が義務付けられます。受験料とClassMATE教材費は自己負担です。（TOEICを2科目以上受講した場合は教材費がその分増えますのでご注意ください）				
授業方法	グループ活動を中心とした演習形式の授業です。毎回Online Training教材からの単語テストを行い、次の授業で返却を行う。遅刻3回は1回分の欠席とし、欠席が全体の1/3以上を超える場合は失格とする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	TOEICスコア、単語テスト、ClassMATEポイント、受講状況、単語ノート提出、授業内試験などを含めて総合的に評価します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	桐原書店		『Mastery Drills For the TOEIC L&R Test All in One [New Edition]（TOEIC L&R テスト マスタリードリル [全パート編]）』	早川 幸治
	備考				
参考書	英和辞書（電子辞書可）				
オフィスアワー	授業に関する質問・相談などは、授業前後や休み時間（金曜14：30～）に、教室・教員室またはe-mailにて対応します。 yamashita.takako1@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教材の準備、シラバスを読み、講義全体の概観をする。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、学習範囲、今後の予定、単語テストについてなどを説明する。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
2	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 7（学習Unitは変更する場合があります） 電話での会話について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
3	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 7 代名詞・関係代名詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）
4	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 8 ラジオ放送・宣伝について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所の見直しをする。（40分）

5	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 8 接続詞・前置詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所を見直しをする。（40分）
6	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 9 Yes/No 疑問文について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所を見直しをする。（40分）
7	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 9 ダブルパッセージについて理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所を見直しをする。（40分）
8	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 10 オフィスでの会話について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所を見直しをする。（40分）
9	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 11 留守番電話について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所を見直しをする。（40分）
10	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 11 トリプルパッセージについて理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所を見直しをする。（40分）
11	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 12 オフィスでの会話について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所を見直しをする。（40分）
12	事前学習	単語テストの準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	単語テスト・Unit 13 時制・代名詞・語い問題について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	単語ノート作成、学習範囲の復習、間違えた箇所を見直しをする。（40分）
13	事前学習	単語ノート提出の準備、教科書の学習範囲の確認、分からない単語を調べる、問題を解く。（30分）
	授業内容	ノート提出・Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。（30分）
14	事前学習	学習範囲の総復習（30分）
	授業内容	授業内試験及び学習内容の振り返り
	事後学習	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。（30分）
15	事前学習	重要箇所や分からないところの確認など（30分）
	授業内容	授業内試験の見直し及び学習内容の振り返り
	事後学習	学習範囲の復習、間違えた箇所を見直す。（30分）

科目名	TOEIC I B	担当者	依田 悠介	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	In this course students work on listening, grammar and reading practices to improve TOEIC score.			
授業目的・到達目標	TOEIC初心者、または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEICテストの出題形式に慣れながら、スコア向上のための英語力を養成することを目的とします。また、TOEICスコア500点以上を獲得できることを目標とします。対応DP及びCP:外国語5.6			
履修条件	学期内にTOEIC(R)を1回以上受験しClass-MATE (Online Training)をやっていただきます。(受験料及びClassMate教材費は自己負担)。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。			
授業方法	実践演習をして解説をします。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行なう。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	TOEIC(R)スコア、小テスト、Class-Mateポイント、前期・後期試験等を総合的に判断します。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	アスク	TOEIC L&Rテスト 文法問題 での1000問	TEX加藤
	備考			
参考書	provided in each class			
オフィスアワー	授業（水曜2限）終了後、講堂にて。 by appointment: yusuke.yoda@tyg.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Read the syllabus (30分)
	授業内容	Guidance: Bring the copy of this syllabus and textbook
	事後学習	Planning your study (30分)
2	事前学習	Prep. for pre-test (30分)
	授業内容	Pre-test Review 解説
	事後学習	Review your score (30分)
3	事前学習	Prep. of vocabulary: housing (30分)
	授業内容	Housing
	事後学習	Review the sounds used in housing (30分)
4	事前学習	Prep. of vocabulary: commuting (30分)
	授業内容	Commuting
	事後学習	Review the sounds of English (30分)

5	事前学習	Prep. of vocabulary: seminars and training (30分)
	授業内容	Seminars and Trainnig
	事後学習	Review the sounds of English (30分)
6	事前学習	Prep. of vocabulary: family (30分)
	授業内容	Family
	事後学習	Review the sounds of English (30分)
7	事前学習	Prep. of vocabulary: money (30分)
	授業内容	Money
	事後学習	Review the sounds of English (30分)
8	事前学習	Prep. of vocabulary: figures and results (30分)
	授業内容	Figures and Results
	事後学習	Review the sounds of English (30分)
9	事前学習	Prep. of vocabulary: traveling overseas (30分)
	授業内容	Traveling Overseas
	事後学習	Review the sounds of English (30分)
10	事前学習	Prep. of vocabulary: charity activities (30分)
	授業内容	Charity Activities
	事後学習	Review the sounds of English (30分)
11	事前学習	Prep. of vocabulary: negotiating (30分)
	授業内容	Negotiating
	事後学習	Review the sounds of English (30分)
12	事前学習	Vocabulary Review (30分)
	授業内容	Review-1
	事後学習	Review the sounds of English (30分)
13	事前学習	English sound review (30分)
	授業内容	Review 2
	事後学習	Review the sounds of English (30分)
14	事前学習	Prep. for post-test (30分)
	授業内容	Post-test Review 解説
	事後学習	check your achievement (30分)
15	事前学習	plan your future study (30分)
	授業内容	Review-3
	事後学習	plan your future schedule to achieve your next goal. (30分)

科目名	TOEIC II A	担当者	石川 太郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEICのような資格試験の授業は退屈なものになりがちです。ただ問題を解いて正解を得ることはもちろん大事ですが、それ以外にも日常生活に役立つ英語学習の一環としてTOEICの授業を考えています。つまり、読む・聞く以外にも書く・話す能力開発に役立つような授業にしたいと思います。また、ビジネス英語入門としての役割も視野に入れてTOEICの英語を頑張りましょう。					
授業目的・到達目標	初めてTOEICを受験する学生、または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEIC試験の内容、対策をパート別に解説し、TOEICの受験に必要な基礎力を養成することを目的とします。TOEICスコア750点台を獲得できることを目標にするクラスです。（TOEIC I と II は同レベルです）前学期では、英語の聞き取りの力を向上させることを目標として授業を進めてゆきます。					
履修条件	関連DP及びCP：外国語領域科目 5， 6 学期内にTOEICを1回受験し、ClassMATE(Online Training)をやっていただきます。（受験料及び教材費は自己負担）。注：TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えます。					
授業方法	実践演習をして解説をします。必要に応じて補足の教材を配布します。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行います。フィードバックは授業内に行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		TOEICスコア、小テスト、ClassMATEポイント、等を総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	National Geographic Learning		Fast Pass for the TOEIC L&R Test		Ritsuko Uenaka Seiko Korechika
	備考					
参考書	特に指定はないが、必ず文法の参考書を1冊用意すること。高校時代に使用したもので十分です。					
オフィスアワー	初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。 授業時間：月曜7限、土曜2～4限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前年度の授業の復習（30分）
	授業内容	ガイダンス（小テスト実施予定）
	事後学習	小テストの復習（30分）
2	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	TOEICテストの概要（実際に問題を解いてもらう）
	事後学習	授業の復習（30分）
3	事前学習	前2回の授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 1: Food & Restaurant 1: リスニングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
4	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 1: Food & Restaurant 2: リーディングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）

5	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 2: Entertainment 1:リスニングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
6	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 2: Entertainment 2:リーディングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
7	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 3: Travel 1:リスニングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
8	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 3: Travel 2:リーディングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
9	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 4: Sports & Health 1:リスニングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
10	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 4: Sports & Health 2:リーディングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
11	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 5: Purchasing 1:リスニングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
12	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 5: Purchasing 2:リーディングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
13	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 6: Housing & Accommodations 1:リスニングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
14	事前学習	前回までの授業内容の復習（30分）
	授業内容	これまでの授業中で扱いきれなかった項目を扱う集中授業
	事後学習	全体の復習（30分）
15	事前学習	総復習（30分）
	授業内容	前期授業のまとめ
	事後学習	自己採点（30分）

科目名	TOEIC II A	担当者	井上 悦男	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC Listening & Reading テストの受験のための基礎力を養成する。				
授業目的・到達目標	TOEICを初めて受験する学生、または450点未満のスコアを持つ学生を対象とする。500点の取得に必要な基礎力を養成することを目的とする。 TOEICスコア500点台を獲得できることを目標とするクラスです。 関連DP及びCP：外国語領域科目 5， 6				
履修条件	TOEIC 1 回受験と、Online Trainingが義務付けられます。受験料と教材費は自己負担です。(TOEIC演習を複数履修すると、教材費がその分増えます) 原則、II Bとともに通年で履修してください。				
授業方法	TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行う。フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	期末試験 (35%)、TOEICスコア(30%)、平常点 (毎回の小テスト、発表) (30%)、ClassMATEポイント (5%)	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	国際ビジネスコミュニケーション協会		公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 4	Educational Testing Service
	備考				
参 考 書	授業時に指示する。				
オフィスアワー	質問は授業終了後の講堂、あるいはメールで受けつけます。 授業時間：月曜 4・5・6 限、水曜 1 限 inoue_etsuo4949@yahoo.co.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	既習事項の確認 (30分)
	授業内容	ガイダンス(問題構成など)、模擬問題での演習、関連事項の演習
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習 (30分)
2	事前学習	前回までの復習 (30分)
	授業内容	Part2, Part5、関連事項の演習、音読練習
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習 (30分)
3	事前学習	前回までの復習 (30分)
	授業内容	Part2, 5
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習 (30分)
4	事前学習	前回までの復習 (30分)
	授業内容	サンプル問題(listening)、Part2, 5
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習 (30分)

5	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	サンプル問題(reading)、Part2, 5
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
6	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test1 Part1, 2、Part5
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
7	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test1 Part3、Part2
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
8	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test1 Part5(前半)、Test1 Part3の復習(この後適宜行う)
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
9	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test1 Part4、Test1 Part5(後半)
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
10	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test1 Part4の復習(この後適宜行う)、Test1 Part6
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
11	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Part 2, 5、Test1 Part6の復習
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
12	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Part2, 5
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
13	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test1 Part7
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
14	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test1 Part7
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習（30分）
15	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	確認（30分）

科目名	TOEIC II A	担当者	大住 有里子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	--------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	TOEIC公式問題集を使い、TOEICに慣れ、文法的説明、オーバーラッピング、シャドウイングで英語力アップを図ります。語彙を増やすため、授業のウォーミングアップとして、『出る単』を読み上げ、毎授業繰り返しながら語彙数を増やしていきます。授業時間だけでは英語力をつけるには不十分。授業で紹介する勉強の仕方を参考に、自分で毎日英語の勉強を生活に組み込みTOEICスコアアップに繋げて下さい。				
授業目的・到達目標	TOEIC初心者または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。 TOEICテストの出題形式に慣れながら、スコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とします。 また、TOEICスコアを500点以上獲得できることを目標とします。 対応D P 及びC P：外国語科目領域 5， 6				
履修条件	TOEIC前期1回の受験と、Online Trainingが義務付けられます。受験料と教材費は自己負担です。(TOEIC演習を複数履修すると教材費がその分増えます。)				
授業方法	演習形式：『出る単・銀フレ』、公式問題集Test1の解答確認、解説、オーバーラッピング、シャドウイングを実施。Online Trainingが6回小テストを実施し翌週返却。読後ノートも都度提出、翌週返却します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	TOEICスコア（1回分）、小テスト、ClassMATEポイント、授業参加状況等を総合的に判断しますが、主たる判断材料はTOEICスコアです。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	IiBC		公式TOEIC Listening & Reading 問題集 4	E. T. S
	2018	朝日出版		TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ	TEX加藤
	備考				
参考書	授業で紹介します：NHKラジオ講座、図書館にある英語速読教材：Penguin Readers, Macmillan Readers, Oxford Readers				
オフィスアワー	授業の時間内（金曜2限）、前後に質問にお答えします。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	NHKラジオ講座を聞き、自分に合った講座を見つける。（30分）
	授業内容	授業の説明
	事後学習	テキストを購入し予習する。 図書館6階へ行き速読教材を借りて読み、読後ノートを作成。（60分）
2	事前学習	出る単 1-100語までを音声聞きながら覚える。 TOEIC公式問題集 TEST 1 Part 1 & Part 5 101-109 速読教材を読みノート作成 （60分）
	授業内容	出る単 1-100語確認 TOEIC公式問題集 TEST 1 Part 1 & Part 5 101-109
	事後学習	出る単 1-100語までを音声聞きながら再確認。 TOEIC公式問題集 TEST 1 Part 1 & Part 5 授業の復習 （60分）
3	事前学習	出る単 101-200語を音声聞きながら覚える。 TOEIC公式問題集 Part2 7-15, Part 5 110-121 速読教材を読みノート作成 （60分）
	授業内容	出る単 101-200語を確認 TOEIC公式問題集 Part2 7-15, Part 5 110-121 解説
	事後学習	出る単 101-200語を音声聞きながら再確認 TOEIC公式問題集 Part2 & Part 5 授業復習 （60分）
4	事前学習	出る単 201-300語までを音声聞きながら覚える。 TOEIC公式問題集 Part2 16-23, Part 5 121-130 速読教材を読みノート作成 （60分）
	授業内容	出る単 201-300語を確認 TOEIC公式問題集 Part2 16-23, Part 5 121-130 解説
	事後学習	出る単 201-300語までを音声聞きながら再確認 TOEIC公式問題集 Part2 & Part 5 授業復習 （60分）

5	事前学習	出る単 301-400語を音声聞きながら覚える。 TOEIC公式問題集 Part 2 24-31, Part 6 131-138 速読教材を読みノート作成 (60分)
	授業内容	出る単 301-400語確認 TOEIC公式問題集 Part 2 24-31, Part 6 131-138 解説
	事後学習	出る単 301-400語を音声聞きながら再確認 TOEIC公式問題集 Part 2 & Part 6 復習 (60分)
6	事前学習	出る単 Supplement 25語を読み、1-400復習。 Online Training: Class Mate Week 1 開始 TOEIC公式問題集 Part 3 32-40 & Part 6 139-146 (60分)
	授業内容	出る単 Supplement 25語を確認 Class MateWeek 1 小テスト TOEIC公式問題集 Part 3 32-40 & Part 6 139-146
	事後学習	出る単 Supplement 25語を音声聞きながら再確認 Class Mate Week 1 復習 TOEIC公式問題集 Part 3 & Part 6 復習 (60分)
7	事前学習	出る単 Supplement 2 50語と1-400復習 Class Mate Week 2 TOEIC公式問題集 Part 3 41~49 & Part 7 147-152 (60分)
	授業内容	出る単 Supplement 2 50語確認 Class Mate Week 2 小テスト TOEIC公式問題集 Part 3 41-49 & Part 7 147-152 解説
	事後学習	出る単 Supplement 2 50語を音声聞きながら再確認 Class Mate Week 2 復習 TOEIC公式問題集 Part 3 & 7 復習 (60分)
8	事前学習	出る単 401-500語を音声聞きながら覚える。 Class Mate Week 3 TOEIC公式問題集 Part 3 50-61 & Part 7 153-160 (60分)
	授業内容	出る単 401-500語を確認 Class Mate Week 3 小テスト TOEIC公式問題集 Part 3 50-61 & Part 7 153-160 解説
	事後学習	出る単 401-500語を音声聞きながら再確認 Class Mate Week 3 復習 TOEIC公式問題集 Part 3 & 7 復習 (60分)
9	事前学習	出る単 501-600語を音声聞きながら覚える。 Class Mate Week 4 TOEIC公式問題集 Part 3 62-70 & Part 7 161-171 (60分)
	授業内容	出る単 501-600語を確認 Class Mate Week 4 小テスト TOEIC公式問題集 Part 3 62-70 & Part 7 161-171 解説
	事後学習	出る単 501-600語を音声聞きながら再確認 Class Mate Week 4 復習 TOEIC公式問題集 Part 3 62-70 & Part 7 161-171 復習 (60分)
10	事前学習	出る単 601-700& Supplement 3を音声聞きながら覚える。 Class Mate Week 5 TOEIC公式問題集 Part 4 71-79 & Part 7 172-180 (60分)
	授業内容	出る単 601-700& Supplement 3 の確認 Class Mate Week 5 小テスト TOEIC公式問題集 Part 4 71-79 & Part 7 172-180 解説
	事後学習	出る単 601-700& Supplement 3 を音声聞きながら再確認 Class Mate Week 5 復習 TOEIC公式問題集 Part 4 71-79 & Part 7 172-180 復習 (60分)
11	事前学習	出る単 701-800語& Supplement 4 を音声聞きながら覚える Class Mate Week 6 TOEIC公式問題集 Part 4 80-88 & Part 7 181-185 (60分)
	授業内容	出る単 701-800語 & Supplement 4を確認 Calss Mate Week 6 小テスト TOEIC公式問題集 Part 4 80-88 & Part 7 181-185 解説
	事後学習	出る単 701-800語 & Supplement 4を音声と共に再確認 Class Mate Week 6 復習 TOEIC公式問題集 Part 4 80-88 & Part 7 181-185 復習 (60分)
12	事前学習	出る単 801-900語を音声聞きながら覚える。 Class Mate TOEIC模試 TOEIC公式問題集 Part 4 89-100 & Part 7 186-190 (60分)
	授業内容	出る単 801-900語を確認 TOEIC公式問題集 Part 4 89-100 & Part 7 186-190 解説
	事後学習	出る単 801-900語を音声聞きながら再確認 TOEIC公式問題集 Part 4 89-100 & Part 7 186-190 (60分)
13	事前学習	出る単 901-1000語を音声聞きながら覚える TOEIC公式問題集 Part 7 191-200 速読教材を読みノート作成 (60分)
	授業内容	出る単 901-1000語確認 TOEIC公式問題集 Part 7 191-200 解説
	事後学習	出る単 901-1000語を音声聞きながら再確認 TOEIC公式問題集 Part 7 191-200 復習 (60分)
14	事前学習	出る単 Supplement 6 速読教材を読みノート作成 (60分)
	授業内容	出る単 Supplement 6 確認 TOEIC公式問題集 Part 4 & 7
	事後学習	出る単 Supplement 6 再確認 TOEIC公式問題集TEST1総復習 (60分)

15	事前学習	出る単とTOEIC公式問題集の総復習 速読教材を読みノート作成 (60分)
	授業内容	TOEIC公式問題集 それぞれのパートから問題を恣意的に選び復習 英語の自習勉強方法の紹介(映画、NHKサイト、TED Talkなど)
	事後学習	自分に合った勉強方法を探す。(60分)

科目名	TOEIC II A	担当者	高城 えり子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際化時代かつ情報化時代において必要とされる幅広い英語力や英語コミュニケーション能力を養います。TOEICに出題されるメディア、ビジネス場面などの実用的な生きた英語を学びながら、TOEICテストスコアアップのための基礎固めをします。				
授業目的・到達目標	TOEIC初心者または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。 TOEICテストの出題形式に慣れながら、スコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とします。 また、TOEICスコアを500点以上獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5、 6				
履修条件	TOEICを1回以上受験し、ClassMATE(Online Training)をやって頂きます。（受験料とClass MATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には、教材費がその分増えますのでご注意ください。				
授業方法	実践演習をして解説をする。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行う。フィードバックは授業内において行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	期末の最終授業時にそれまでやった教科書の範囲のテストを行う。（60％）TOEICスコア、ClassMATEスコア、単語のテスト、（40％）などで総合評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	成美堂		Perfect Practice For The TOEIC L&R Test (Revised Edition)	石井隆之
	備考				
参考書	英和辞書				
オフィスアワー	授業に関する質問、相談などは授業後（木曜14：30～／16：10～）のほか、毎回配る” My Record”の質問欄またはE-mailにて対応します。 授業内にメールアドレスを伝える。 前もってアポイントを取ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	TOEICの予備知識。 テキストの音声ファイルをダウンロードする。 シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。 （30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、TOEICの概要を説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 TOEICについてWEBサイトなどで調べてみる。 （30分）
2	事前学習	Unit1 Part1～Part4の音声聞く。 聞き取れない部分は繰り返し聞く。 分からない単語は辞書で調べる。 （30分）
	授業内容	演習と解説 Unit1 Studying Abroad Part1-Part4 問題を解く。 スクリプトで、間違えた部分の確認と音読。 内容把握。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。 音読をする。（特にPart3） （30分）
3	事前学習	Unit1 Part5～Part7の予習をする。 問題を解き、分からない単語は辞書で調べる。 （30分）
	授業内容	演習と解説 Unit1 Studying Abroad Part5-Part7 動詞の時制について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。 （30分）
4	事前学習	Unit2 Part1-Part4の音声聞く。 聞き取れない部分は繰り返し聞く。 分からない単語は辞書で調べる。 （30分）
	授業内容	演習と解説 Unit2 International Conference Part1-Part4 問題を解く。 スクリプトで、間違えた部分の確認と音読。 内容把握。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。 音読をする。（特にPart3） （30分）

5	事前学習	Unit2 Part5-Part7の予習をする。問題を解き、分からない単語は辞書で調べる。(30分)
	授業内容	演習と解説 Unit2 International Conference 自動詞と他動詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解きなおす。 頻出単語を暗記する。(30分)
6	事前学習	Unit3 Part1-Part4の音声聞く。聞き取れない部分は繰り返し聞く。 分からない単語は辞書で調べる。(30分)
	授業内容	演習と解説 Unit3 Holiday 問題を解く。スクリプトで、間違えた部分の確認と音読。内容把握。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。頻出単語を暗記する。音読をする。(特にPart3)(30分)
7	事前学習	Unit3 Part5-Part7の予習をする。(30分)
	授業内容	演習と解説 Unit3 Holiday 主語と動詞の一致について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
8	事前学習	Unit4 Part1-Part4の音声聞く。聞き取れない部分は繰り返し聞く。 分からない単語は辞書で調べる。(30分)
	授業内容	演習と解説 Unit4 Leisure 問題を解く。スクリプトで、間違えた部分の確認と音読。内容把握。
	事後学習	間違えた問題を解きなおす。頻出単語を暗記する。音読をする。(特にPart3)(30分)
9	事前学習	Unit4 Part5-Part7の予習をする。(30分)
	授業内容	演習と解説 Unit4 Leisure 動名詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
10	事前学習	Unit5 Part1-Part4の音声聞く。聞き取れない部分は繰り返し聞く。 分からない単語は辞書で調べる。(30分)
	授業内容	演習と解説 Unit5 Restaurant 問題を解く。スクリプトで、間違えた部分の確認と音読。内容把握。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。頻出単語を暗記する。音読をする。(特にPart3)(30分)
11	事前学習	Unit5 Part5-Part7の予習をする。(30分)
	授業内容	演習と解説 Unit5 Restaurant 不定詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
12	事前学習	Unit6 Part1-Part4の音声聞く。聞き取れない部分は繰り返し聞く。 分からない単語は辞書で調べる。(30分)
	授業内容	演習と解説 Unit6 Online Shopping 問題を解く。スクリプトで、間違えた部分の確認と音読。内容把握。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。頻出単語を暗記する。音読をする。(特にPart3)(30分)
13	事前学習	Unit1-Unit6までのPart1-Part4の復習。(30分)
	授業内容	まとめ及び授業内前期 Listening 試験
	事後学習	総復習と、答えられなかった個所を教科書で確認する。(30分)
14	事前学習	Unit1-Unit6までのPart5-Part7の復習。(30分) 小テストなどの復習
	授業内容	まとめ及び授業内前期 Reading 試験
	事後学習	総復習と、答えられなかった個所を教科書で確認する。(30分)
15	事前学習	課題を解く。(30分)
	授業内容	演習と解説 問題を解く。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。頻出単語を暗記する。(30分)

科目名	TOEIC II A	担当者	高坂 映子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC受験に必要な基礎力を身につける 詳細は初回授業時に説明するので必ず出席すること。				
授業目的・到達目標	TOEIC初心者または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。 TOEICテストの出題形式に慣れながら、スコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とします。 また、TOEICスコアを500点以上獲得できることを目標とします。 対応D P 及びC P：外国語科目領域5， 6				
履修条件	TOEICを1回以上受験しClassMATE（Online Training）を受講してもらいます。受験料とClassMATE教材費は自己負担。 TOEIC2科目以上の受講は教材費がその分増えるのでご注意ください。				
授業方法	TOEICの内容、対策をパート別に実践演習し、解説します。毎回小テストを実施し、次の授業で返却します。 下記の授業内容は実際の授業状況に応じて変更する場合があります。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業参加度、ClassMATEポイント、小テスト、TOEICスコア、前期試験等による総合評価。遅刻3回で欠席1回とし、2/3以上の出席者が評価対象です。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	成美堂		ESSENTIAL APPROACH FOR THE TOEIC L&R TEST—Revised Edition—	大須賀 直子 他
	2019	朝日出版社		Essential English Vocabulary 1400	語彙力向上研究会
	備考				
参 考 書	英和辞書				
オフィスアワー	木曜 10:30～10:40 12:10～12:20 授業講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス内容を確認する。（30分）
	授業内容	ガイダンス（授業の進め方、TOEICの概要の説明）等
	事後学習	ガイダンス内容とテキストの構成等を確認する。（30分）
2	事前学習	テキストp.6の問題を解く。（30分）
	授業内容	Unit 1: Listening Section Part 1とPart 2の形式理解と解答法を身につける。
	事後学習	Listening Section Part 1とPart 2の音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。（30分）
3	事前学習	VocabularyテキストSection A Unit 1&Unit 2小テスト準備（30分）
	授業内容	Unit 1: Listening Section Part 3とPart 4の形式理解と解答法を身につける。
	事後学習	Listening Section Part 3とPart 4の音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。（30分）
4	事前学習	テキストp.14の問題を解く。VocabularyテキストSection A Unit3&Unit 4小テスト準備（30分）
	授業内容	Unit 1: Reading Section Part5, Part6, Part7の形式理解と解答法を身につける。
	事後学習	Unit 1 Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要単語を暗記する。（30分）

5	事前学習	テキストp.15の問題を解く。VocabularyテキストSection A Unit5&Unit 6小テスト準備（30分）
	授業内容	Unit 2: Listening Section 子音と母音の連結を意識し、聞き取れる。
	事後学習	Unit 2 Listening Section の音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。（30分）
6	事前学習	テキストp.23の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。（30分）
	授業内容	Unit 2: Reading Section 形容詞と冠詞について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 2: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要単語を暗記する。（30分）
7	事前学習	テキストp.24の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。（30分）
	授業内容	Unit 3: Listening Section [r][m][n]以外の子音と母音の連結を意識し、聞き取れる。
	事後学習	Unit 3: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。（30分）
8	事前学習	テキストp.32の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。（30分）
	授業内容	Unit 3: Reading Section 副詞について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 3: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要単語を暗記する。（30分）
9	事前学習	テキストp.34の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。（30分）
	授業内容	Unit 4: Listening Section 音の混合を意識し、聞き取れる。
	事後学習	Unit 4: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。（30分）
10	事前学習	テキストp.41の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。（30分）
	授業内容	Unit 4: Reading Section 比較について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 4: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要単語を暗記する。（30分）
11	事前学習	テキストp.42の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。（30分）
	授業内容	Unit 5: Listening Section t音の変化を意識し、聞き取れる。
	事後学習	Unit 5: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。（30分）
12	事前学習	テキストp.50の問題を解く。Vocabularyテキストの小テスト準備（30分）
	授業内容	Unit 5: Reading Section 動詞と時制について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 5: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要単語を暗記する。（30分）
13	事前学習	テキストp.51の問題を解く。Vocabularyテキストの小テスト準備（30分）
	授業内容	Unit 6: Listening Section 数字に慣れ、聞き取れる。
	事後学習	Unit 6: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。（30分）
14	事前学習	テキストUnit 1 ～Unit 6 及びVocabularyテキスト Section A Unit1～Unit30の復習
	授業内容	授業内試験及び前期授業内容の振り返り等
	事後学習	前期の授業内容を確認する。
15	事前学習	前期の学習内容の復習
	授業内容	前期の学習内容の総まとめ及び講評
	事後学習	前期の学習内容を確認し、後期に向けての学習計画を立てる。

科目名	TOEIC II A	担当者	塚田 英博	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC対策として基礎項目の復習と演習を行います。					
授業目的・到達目標	TOEICを初めて受験する学生、または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。テストの内容、対策をパート別に解説し、TOEICの受験に必要な基礎力を養成することを目的とする。TOEICスコア500点台を獲得できることを目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域5, 6					
履修条件	TOEICを1回以上受験し、ClassMATE（Online Training）を実施します。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。					
授業方法	実践演習をして解説をします。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行い、次回授業時に返却します。質問の回答時には、理由を尋ねながら巡回します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		TOEICスコア、小テスト、レポート、ClassMATEポイント、授業参加度等を総合的に判断します	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	金星堂		SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST PRE-INTERMEDIATE		溝口 優美子
	2016	アルク		新装版 TOEIC(R)テスト スーパー英単語		ロバート・ヒルキ、小石裕子
	備考					
参考書	英和辞典					
オフィスアワー	水曜日 12：10～13：00 授業講堂					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの目次の確認と音声ファイルのダウンロードを行う。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、TOEICの概要を説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 TOEICに関する情報をWEBサイト等で調べる。（30分）
2	事前学習	テキストpp. 14―16. の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	写真問題について理解し、TOEICのPART1の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Step1の単語を暗記する。（30分）
3	事前学習	単語1-50を暗記する。 テキストpp. 17―18. pp. 19のStep3、PART1. 2を解いてくる。（30分）
	授業内容	小テスト1 質疑応答問題と名詞について理解し、TOEICのPART2の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
4	事前学習	単語51-100を暗記する。 テキストpp. 20-21. pp. 19のStep3、PART3. 4を解いてくる。（30分）
	授業内容	小テスト2 会話問題について理解し、TOEICのPART3の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）

5	事前学習	単語101-150を暗記する。 テキストpp. 22-26. pp. 27のStep3、PART1. 2を解いてくる。(30分)
	授業内容	小テスト3 トーク問題と形容詞について理解し、TOEICのPART4の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Step1 の単語を暗記する。(30分)
6	事前学習	単語151-200を暗記する。 テキストpp. 28-29. pp. 27のStep3、PART3. 4を解いてくる。(30分)
	授業内容	小テスト4 レストラン等に関するの表現について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
7	事前学習	単語201-250を暗記する。 テキストpp. 30-34. pp. 35のStep3、PART1. 2を解いてくる。(30分)
	授業内容	小テスト5 副詞について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Step1 の単語を暗記する。(30分)
8	事前学習	単語251-300を暗記する。 テキストpp. 36-37. pp. 35のStep3、PART3. 4を解いてくる。(30分)
	授業内容	小テスト6 メディアに関する表現について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
9	事前学習	単語301-350を暗記する。 テキストpp. 38-42 pp. 43のStep3、PART1. 2を解いてくる。(30分)
	授業内容	小テスト7 時制について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Step1 の単語を暗記する。(30分)
10	事前学習	単語351-400を暗記する。 テキストpp. 44-45. pp. 43のStep3、PART3. 4を解いてくる。(30分)
	授業内容	小テスト8 エンターテイメントに関する表現について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
11	事前学習	単語401-450を暗記する。 テキストpp. 46-50. pp. 51のStep3、PART1. 2を解いてくる。(30分)
	授業内容	小テスト9 主語と動詞の一致について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Step1 の単語を暗記する。(30分)
12	事前学習	テキストpp. 52-54. pp. 51のStep3、PART3. 4を解いてくる。(30分)
	授業内容	買い物に関する表現について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
13	事前学習	単語小テスト1-10とUnit1-5の確認をする。(30分)
	授業内容	授業のまとめとしてTOEIC問題を解答できる。
	事後学習	配布プリントの復習 (30分)
14	事前学習	英語圏の思考形式に関する調査をWEBなどを活用し調べる。(30分)
	授業内容	英語圏の思考形式を理解し、ディクテーションにより実際使用される英会話を理解できる。
	事後学習	英語圏人々のの思考形式を確認する。(30分)
15	事前学習	単語451-550を暗記する。(30分)
	授業内容	小テスト10 英語圏と日本での人々の思考形式の相違を理解し、その形式をTOEIC問題と関連付けられる。
	事後学習	TOEIC形式の確認をする。(30分)

科目名	TOEIC II A	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEICの出題問題の傾向を探り慣れることで、戦略的に又実践的にリーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得します。又同時に最低限の基礎文法知識の確認と定着や、語彙力増強、頻出会話表現を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップできます。			
授業目的・到達目標	TOEIC初心者または450点未満のスコアをもつ学生を対象とするクラスです。TOEICテストの出題形式に慣れながらスコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とします。また、TOEICスコアを500点以上獲得できることを目標とします。対応DP及びCP:外国語科目領域5,6			
履修条件	TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。(受験料及びClassMATE教材費は自己負担)。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。			
授業方法	TOEIC問題形式テキストに沿い基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、音声の基礎知識を整理しつつ話し言葉に慣れ、基礎からTOEIC範囲の単語熟語力テストを行います。フィードバックは毎回の授業内に行います。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	TOEICスコア、小テスト、ClassMATEポイント、前期試験等を総合的に判断します。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	センゲージラーニング	『PRIMARY TRAINER FOR THE TOEIC L&R TEST』 ゼロから始めるTOEIC L&R テスト対策	濱崎潤之輔
	2005	南雲堂	『Word Builder』	近畿大学語学教育 教材開発研究会
	備考			
参考書	使用しませんが、英和辞書は必携です。			
オフィスアワー	授業に関する質問やご相談等は、授業講堂にて授業前、終了後（火曜14：30～16：20）に対応させてください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認する。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、評価方法、TOEIC概要説明をする。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 TOEICの概要についてWebサイトで調べてみる。（30分）
2	事前学習	テキストを購入し、p10`19 Preliminary Lesson (Pre-test) の問題を解いてみる。（30分） 12回実施予定の英単熟語確認テストの準備として、初回講義前にテキストを購入してテストに備える。
	授業内容	Preliminary Lesson (Pre-test) の問題を理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Preliminary Lesson (Pre-test) の間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
3	事前学習	Unit 1 p21`28の問題を解いてくる。 12回実施予定の英単熟語確認テスト1の音読、暗記の準備をする。（30分）
	授業内容	Unit 1 TOEIC L&Rの全体像や特徴を理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト1の内容を解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。（30分）
4	事前学習	Unit2 p29`36の問題を解いてくる。 語彙テスト2の準備をする。（30分）
	授業内容	Unit2、を人物の動作に注目する、を理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト2を解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。（30分）

5	事前学習	Unit3 p37～46の問題を解いてくる。 語彙テスト3、CMの準備をする。(30分)
	授業内容	Unit3疑問詞を聞き取るを理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト3 CMを解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。(30分)
6	事前学習	Unit4 P47～54の問題を解いてくる。 語彙テスト4、CMの準備をする。(30分)
	授業内容	Unit4 物の位置や状態を表す表現を身に付ける、を理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト4、CMを解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。(30分)
7	事前学習	Unit5 p55～62の問題を解いてくる。 語彙テスト5、CMの準備をする。(30分)
	授業内容	Unit 5 話がかみ合う応答を選ぶ、を理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト5、CMを解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。(30分)
8	事前学習	Unit6 p63～72の問題を解いてくる。 語彙テスト6、CMの準備をする。(30分)
	授業内容	Unit 6 設問を先読みする、を理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト6、CMを解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。(30分)
9	事前学習	Unit7 p73～80の問題を解いてくる。 語彙テスト7、CMの準備をする。(30分)
	授業内容	Unit7 文脈を意識する、を理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト7、CMを解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。(30分)
10	事前学習	Unit8 p81～90の問題を解いてくる。(30分) 語彙テスト8、CMの準備をする
	授業内容	Unit8 動名詞とTO不定詞を理解する、を理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト8を解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。(30分)
11	事前学習	Unit9 p91～100の問題を解いてくる。(30分) CM、語彙テスト9、CMの準備をする。
	授業内容	Unit9 手紙の特徴を理解するを理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト9、CMを解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。(30分)
12	事前学習	Unit10 p101～109の問題を解いてくる。 語彙テスト10の準備をする。(30分)
	授業内容	Unit10 代名詞を理解する、を理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト10を解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。(30分)
13	事前学習	Unit11 p110～119の問題を解いてくる。 語彙テスト11の準備をする。(30分)
	授業内容	Unit11 意図問題を攻略する、を理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト11を解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。(60分)
14	事前学習	Unit12 p120～129の問題を解いてくる。 語彙テスト12の準備をする。(30分)
	授業内容	Unit12 複数パッセージを攻略する、を理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト12を解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。(30分)
15	事前学習	Unit1～Unit12までの復習をする。(30分)
	授業内容	前期授業内試験と解説、前期学習内容のまとめ
	事後学習	前期授業の学習内容を確認する。(30分)

科目名	TOEIC II A	担当者	堤 裕美子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEICの問題を通して英語表現を学び、スコアアップを目指します。授業では、単熟語の習得、文法理解、リスニング強化を目指します。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC初心者または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEICテストの出題形式に慣れながら、スコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とします。 【到達目標】スコアを500点以上獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5， 6			
履修条件	TOEIC前期 1 回の受験と、Online Trainingが義務付けられます。受験料と教材費は自己負担です。(TOEIC演習を複数履修すると、教材費がその分増えます。)			
授業方法	TOEICの内容、対策をパート別に実践演習し、解説します。毎回小テストを行い、次回以降に返却します。 下記の授業内容は実際の授業状況に応じて変更する場合があります。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	授業参加状況、ClassMATEポイント、小テスト、TOEICスコア(1回)、まとめ試験等による総合評価。遅刻 3 回で欠席 1 回とし、2/3以上の出席者が評価対象です。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	センゲージラーニング	FAST PASS FOR THE TOEIC L&R TEST	Ritsuko Uenaka Seiko Korechika
	備考			
参 考 書	授業内で適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜2時限～6時限 授業終了後の講堂にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。(30分)
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、TOEICの概要を説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 テキストの音声ダウンロード、Quizletが使えるように準備を行う。(30分)
2	事前学習	Quizletに挑戦する。(30分)
	授業内容	Pre-testを受けてみる。 自分の英語コミュニケーション能力を試してみる。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)
3	事前学習	Unit 1 p.24, 25, 27の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit 1 p.26,28 Part 1とPart 5の解き方のコツを身に付ける。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)
4	事前学習	Quizletに挑戦する。(30分)
	授業内容	Unit 1 MINI TEST 食べ物、レストランの場面に関連するTOEIC問題を解く。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)

5	事前学習	Unit 2 p. 34, 35, 37を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit 2 p. 36, 38 Part 2とPart 6の解き方のコツを身に付ける。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)
6	事前学習	Quizletに挑戦する。(30分)
	授業内容	Unit 2 MINI TEST 娯楽がテーマになったTOEIC問題を解く。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。 頻出単語を暗記する。
7	事前学習	Unit 3 p. 44、45、47を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit 3 p. 46, 48 Part 3、Part 7の解き方のコツを身に付ける。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)
8	事前学習	Quizletに挑戦する。(30分)
	授業内容	Unit 3 MIMI TEST 旅行が題材になったTOEIC問題を解く。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。 頻出単語を暗記する。
9	事前学習	Unit 4 p. 54, 55, 57を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit 4 p. 56, 58 Part 4、Part 5の解き方のコツを身に付ける。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)
10	事前学習	Quizletに挑戦する。(30分)
	授業内容	Unit 4 MINI TEST スポーツ、健康がテーマになったTOEIC問題を解く。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。 頻出単語を暗記する。
11	事前学習	Unit 5 p. 64, 65, 67を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit 5 p. 66, 68 Part 4、Part 1、Part 6の解き方のコツを身に付ける。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。 頻出単語を暗記する。
12	事前学習	Quizletに挑戦する。(30分)
	授業内容	Unit 5 MINI TEST 物を購入することがテーマになったTOEIC問題を解く。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)
13	事前学習	Unit 6 p. 74, 75, 77を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit 6 p. 76, 78 Part 4、Part 2、Part 7の解き方のコツを身に付ける。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)
14	事前学習	Quizletに挑戦する。(30分)
	授業内容	Unit 6 MINI TEST 住宅購入や賃貸がテーマになったTOEIC問題を解く。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。 頻出単語を暗記する。(30分)
15	事前学習	テキストの総復習。(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。(30分)

科目名	TOEIC II A	担当者	間山 伸	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC Lisetenig & Speaking Testについての理解を深め、テストスコアを伸ばすための英語語彙力・表現力、リスニング力、読解力を養う。					
授業目的・到達目標	初めてTOEIC Testを受験する学生、または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。 TOEIC Testの受験に必要な基礎力を養成することを目的とします。 TOEIC Testスコア500点台を獲得できることを目標にするクラスです。 メディアや、ビジネスシーンなどの実用的な生きた英語を学びながら、就職に活かせるTOEICスコアを目指します。 対応DP及びCP:外国語科目領域5, 6					
履修条件	TOEIC Testの受験と、Online Training(Class MATE)が義務付けられます。受験料と教材費は自己負担です。TOEIC演習を複数履修すると、教材費がその分増えますので注意してください。					
授業方法	TOEIC Testの問題実践演習をして解説をします。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行い、授業内で解説・講評等を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		TOEIC Testスコア、授業内小テスト、ClassMATEポイント、授業参加度等を総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	英光社		Comprehensive Reading Practice for the TOEIC L&R Test		浦部尚志
	備考					
参 考 書	英和辞書					
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は授業終了後(水曜日2時限目終了後)またはE-mailにて対応します。 E-mailアドレスは授業初日に知らせます。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを事前に確認し、学習内容を把握しておく (30分)
	授業内容	授業ガイダンス及びTOEIC Testのテスト形式についての説明
	事後学習	授業ガイダンスをもとに履修の検討をし、履修を決めた場合にはテキストを購入して「まえがき」を読み学習内容を確認しておく。(30分)
2	事前学習	Chapter I Unit 1 pp.2-3(accommodation, allowance, arrest, burglar等の語彙の確認)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter III Unit 1 pp.46-47 名詞に関する問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
3	事前学習	Chapter I Unit 2 pp.3-4(accumulate, applaud, cooperate, corporate等の語彙の確認)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter III Unit 2 pp.47-48 冠詞／代名詞に関する問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
4	事前学習	Chapter I Unit 3 pp.5-6(cab, courtesy, culprit, disclose等の語彙の確認)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter III Unit 3 pp.49-50 動詞に関する問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)

5	事前学習	Chapter I Unit 4 pp.6-7(bearish, bullish, budget, certificate等の語彙の確認)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter III Unit 4 pp.50-51 形容詞に関する問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
6	事前学習	Chapter I Unit 5 pp.8-9(commodity, compensation, expenditure, in the red等の語彙の確認)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter III Unit 5 pp.52-53 副詞に関する問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
7	事前学習	Chapter I Unit 6 pp.9-10(abuse, bankrupt, capture, competent等の語彙の確認)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter III Unit 6 pp.53-54 前置詞／接続詞に関する問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
8	事前学習	Chapter I Unit 7 pp.11-12(alter, circumstances, criticize, declare等の語彙の確認)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter III Unit 7 pp.55-56 品詞の区別に関する問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
9	事前学習	Chapter I Unit 8 pp.12-13(administrative, Congress, Diet, constitution等の語彙の確認)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter III Unit 8 pp.56-57 比較／否定に関する問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
10	事前学習	Chapter I Unit 9 pp.14-15(app, apply, compromise, contribute等の語彙の確認)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter III Unit 9 pp.58-59 不定詞／動名詞に関する問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
11	事前学習	Chapter I Unit 10 pp.15-16(demand, merger, outlook, overlook等の語彙の確認)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter III Unit 10 pp.59-60 分詞／分詞構文に関する問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
12	事前学習	Chapter I Unit 11 pp.17-18(adapt, adopt, appreciate, architecture等の語彙の確認)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter III Unit 11 pp.61-62 時制／仮定法に関する問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
13	事前学習	Chapter I Unit 12 pp.18-19(ascend, assemble, conceal, conservation等の語彙の確認)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter III Unit 12 pp.62-63 関係詞に関する問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
14	事前学習	Chapter I コラムA 名詞編(その1) I 「可算名詞と不可算名詞」 p.20を読み、確認してくる (30分)
	授業内容	Chapter III p.64 知っておくべき初歩の英会話表現(1):「相手の名前を聞く」「相手の言ったことが分からない」等
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
15	事前学習	Chapter I コラム(1) 名詞編(その1) II 「意外な意味を持つ名詞」 p.20を読み、確認してくる (30分)
	授業内容	第1回目-14回目までの授業で学習した内容のまとめ
	事後学習	授業で見直した箇所以身に付いていなかった部分を再確認する (30分)

科目名	TOEIC II A	担当者	藤本 淳史	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。まずTOEICテストの形式に慣れることなら始めましょう。				
授業目的・到達目標	TOEIC初心者または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。 TOEICテストの出題形式に慣れながら、スコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とします。 また、TOEICスコアを500点以上獲得できることを目標とします。 対応D P及びC P：外国語科目領域 5， 6				
履修条件	TOEICを1回以上受験し、ClassMATE（Online Training）をやっていただきます。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。				
授業方法	TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回小テストを行います。授業内で試験のフィードバックを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	TOEICスコア、小テスト、ClassMATEポイント等を総合的に判断します。 前期試験等を総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	桐原書店		MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC(R) L&R TEST All in One [New Edition]	早川 幸治
	備考				
参 考 書	追って指示します。				
オフィスアワー	水曜19：30～ 講堂にて 質問がある場合にはfujimoto.atsushi11@nihon-u.ac.jp までメールをしてください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	オリエンテーション Unit 01 人物の動作と状態（Part 1） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
2	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 01 表・用紙（Part 7） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
3	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 02 疑問詞を使った疑問文（Part 2） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
4	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 02 広告（Part 7） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）

5	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 03 日常場面での会話（Part 3） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
6	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 03 品詞（Part 5） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
7	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 04 アナウンス・ツアー（Part 4） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
8	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 04 動詞（Part 5） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
9	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 05 物の状態と位置（Part 1） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
10	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 05 チャット（Part 7） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
11	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 06 基本構文（依頼／提案・勧誘／申し出）と応答の決まり文句（Part 2） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
12	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 06 手紙・Eメール（Part 7） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
13	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 07 電話での会話（Part 3） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
14	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 07 代名詞・関係代名詞（Part 5） 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
15	事前学習	これまでの内容を復習して前期授業のまとめに備えること。（30分）
	授業内容	前期授業のまとめ
	事後学習	前期授業のまとめの内容を解説したところを復習しておくこと。（30分）

科目名	TOEIC II B	担当者	石川 太郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEICのような資格試験の授業は退屈なものになりがちです。ただ問題を解いて正解を得ることはもちろん大事ですが、それ以外にも日常生活に役立つ英語学習の一環としてTOEICの授業を考えています。つまり、読む・聞く以外にも書く・話す能力開発に役立つような授業にしたいと思います。また、ビジネス英語入門としての役割も視野に入れてTOEICの英語を頑張りましょう。					
授業目的・到達目標	初めてTOEICを受験する学生、または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEIC試験の内容、対策をパート別に解説し、TOEICの受験に必要な基礎力を養成することを目的とします。TOEICを750点台を獲得できることを目標にするクラスです。（TOEIC I と II は同レベルです）後学期では英文の読解力を向上させることを目標として授業を進めてゆきます。					
履修条件	関連DP及びCP：外国語領域科目 5， 6 学期内にTOEICを1回受験し、ClassMATE(Online Training)をやっていただきます。（受験料及び教材費は自己負担）。 注：TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えます。					
授業方法	実践演習をして解説をします。必要に応じて補足の教材を配布します。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行います。フィードバックは授業内に行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		TOEICスコア、小テスト、ClassMATEポイント、等を総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	National Geographic Learninfg		Fast Pass for the TOEIC Test		Ritsuko Uenaka Seiko Korechika
	備考					
参考書	特に指定はないが、必ず文法の参考書を1冊用意すること。高校時代に使用したもので十分です。					
オフィスアワー	初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。 授業時間：月曜7限、土曜2～4限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期授業の復習（30分）
	授業内容	前期授業の確認と復習
	事後学習	授業の復習（30分）
2	事前学習	Unit 6の予習（30分）
	授業内容	Unit 6: Housing & Accommodations 2:リーディングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
3	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 7: Office Work (1) 1:リスニングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
4	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 7: Office Work (1) 2:リーディングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）

5	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 8: Office Work (2) 1: リスニングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
6	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 8: Office Work (2) 2:リーディングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
7	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 9: Employment 1:リスニングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
8	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 9: Employment 2:リーディングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
9	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 10: Lectures & Presentations 1:リスニングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
10	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 10: Lectures & Presentations 2:リーディングセクション
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
11	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Test演習1（リスニングセクション中心）
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
12	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Test演習2（リーディング中心）
	事後学習	単語、熟語の復習（30分）
13	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	Test演習3（文法項目中心）
	事後学習	文法事項の復習（30分）
14	事前学習	前回授業の復習（30分）
	授業内容	3回の演習及び授業で扱いきれなかった項目を扱う
	事後学習	単語、熟語、文法の復習（30分）
15	事前学習	総復習（30分）
	授業内容	後期授業のまとめ
	事後学習	自己採点（30分）

科目名	TOEIC II B	担当者	井上 悦男	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC Listening & Reading テストの受験のための基礎力を養成する。			
授業目的・到達目標	TOEICを初めて受験する学生、または450点未満のスコアを持つ学生を対象とする。500点の取得に必要な基礎力を養成することを目的とする。TOEICスコア500点台を獲得できることを目標とするクラスです。 関連DP及びCP：外国語領域科目 5， 6			
履修条件	TOEIC 1 回受験と、Online Trainingが義務付けられます。受験料と教材費は自己負担です。(TOEIC演習を複数履修すると、教材費がその分増えます) 原則、IIAとともに通年で履修してください。			
授業方法	TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行う。フィードバックは授業内に行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	期末試験(35%)、TOEICスコア(30%)、平常点(毎回の小テスト、発表)(30%)、ClassMATEポイント(5%)
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	国際ビジネスコミュニケーション協会	公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 4	Educational Testing Service
	備考			
参考書	授業時に指示する。			
オフィスアワー	質問は授業終了後の講堂、あるいはメールで受けつけます。 授業時間：月曜 4・5・6 限、水曜 1 限 inoue_etsuo4949@yahoo.co.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	既習事項の確認 (30分)
	授業内容	ガイダンス(問題構成など)、模擬問題での演習、関連事項の演習
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習 (30分)
2	事前学習	前回までの復習 (30分)
	授業内容	Test2 Part1, 2、Part5
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習 (30分)
3	事前学習	前回までの復習 (30分)
	授業内容	Test2 Part3、Part5、Test2 Part2の復習
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習 (30分)
4	事前学習	前回までの復習 (30分)
	授業内容	Test2 Part4、Test2 Part3の復習(この後適宜行う)
	事後学習	語彙の確認、文法事項の確認、音読練習 (30分)

5	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test2 Part4の復習(この後適宜行う)、Test2 Part5(前半)
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
6	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test2 Part5(後半)、Part6
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
7	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test2 Part6の復習、Part5
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
8	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test2 Part7
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
9	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test2 Part7
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
10	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Test2 Part7
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
11	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Part3、リーディングセクションの全般的な演習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
12	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Part3の復習、リーディングセクションの全般的な演習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
13	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	Part3の復習、リーディングセクションの全般的な演習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
14	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	リーディングセクションの全般的な演習
	事後学習	語彙の確認，文法事項の確認，音読練習（30分）
15	事前学習	前回までの復習（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	確認（30分）

科目名	TOEIC II B	担当者	大住 有里子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC公式問題集を使い、TOEICに慣れ、文法的説明、オーバーラッピング、シャドウイングで英語力アップを図ります。語彙を増やすため、授業のウォーミングアップとして、『出る単』を読み上げ、毎授業繰り返しながら語彙数を増やしていきます。授業時間だけでは英語力をつけるには不十分。授業で紹介する勉強の仕方を参考に、自分で毎日英語の勉強を生活に組み込みTOEICスコアアップに繋げて下さい。			
授業目的・到達目標	TOEIC初心者または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。 TOEICテストの出題形式に慣れながら、スコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とします。 また、TOEICスコアを500点以上獲得できることを目標とします。 対応D P 及びC P：外国語科目領域 5， 6			
履修条件	TOEIC後期1回の受験と、Online Trainingが義務付けられます。受験料と教材費は自己負担です。(TOEIC演習を複数履修すると教材費がその分増えます。)			
授業方法	演習形式：『出る単・金フレ』、公式問題集Test 2 の解答確認、解説、オーバーラッピング、シャドウイングをします。Online Training小テストを実施し翌週返却。読後ノートは都度提出し翌週返却。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	TOEICスコア（1回分）、小テスト、ClassMATEポイント、授業参加状況（読後ノート含む）等を総合的に判断しますが、主たる判断材料はTOEICスコアです。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	IiBC	公式TOEIC Listening & Reading 問題集 4	E. T. S
	2017	朝日出版	TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ	TEX加藤
	備考			
参考書	授業で紹介します：NHKラジオ講座、図書館にある英語速読教材：Penguin Readers, Macmillan Readers, Oxford Readers 他			
オフィスアワー	授業の時間内（金曜2限）、前後に質問にお答えします。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	出る単『銀フレ』の復習 TOEIC公式問題集 Test 1 の復習（60分）
	授業内容	授業の進め方の確認 夏休み課題の読後ノートの回収
	事後学習	図書館で速読教材を借りて読み、読後ノートを作成。（60分）
2	事前学習	出る単金フレ 1-50語までを音声聞きながら覚える。 TOEIC公式問題集 TEST2 Part 1 &Part 5 101-109 速読教材を読みノート作成（60分）
	授業内容	出る単 1-50語確認 TOEIC公式問題集 TEST2 Part 1 &Part 5 101-109
	事後学習	出る単 1-50語までを音声聞きながら再確認。 TOEIC公式問題集 TEST2 Part 1 &Part 5 授業の復習（60分）
3	事前学習	出る単 51-100語を音声聞きながら覚える。 TOEIC公式問題集 Part2 7-15, Part 5 110-121 速読教材を読みノート作成（60分）
	授業内容	出る単 51-100語を確認 TOEIC公式問題集 Part2 7-15, Part 5 110-121 解説
	事後学習	出る単 51-100語を音声聞きながら再確認 TOEIC公式問題集 Part2 & Part 5 授業復習（60分）
4	事前学習	出る単 101-150語までを音声聞きながら覚える。 TOEIC公式問題集 Part2 16-23, Part 5 121-130 速読教材を読みノート作成（60分）
	授業内容	出る単 101-150語を確認 TOEIC公式問題集 Part2 16-23, Part 5 121-130 解説
	事後学習	出る単 101-150語までを音声聞きながら再確認 TOEIC公式問題集 Part2 & Part 5 授業復習（60分）

5	事前学習	出る単 151-200語を音声聞きながら覚える。 TOEIC公式問題集 Part 2 24-31, Part 6 131-138 速読教材を読みノート作成 (60分)
	授業内容	出る単 151-200語確認 TOEIC公式問題集 Part 2 24-31, Part 6 131-138 解説
	事後学習	出る単 151-200語を音声聞きながら再確認 TOEIC公式問題集 Part 2 & Part 6 復習 (60分)
6	事前学習	出る単 201-250語を音声聞きながら覚える Online Training: Class Mate Week 1 開始 TOEIC公式問題集 Part 3 32-40 & Part 6 139-146 (60分)
	授業内容	出る単 201-250語を確認 Class MateWeek 1 小テスト TOEIC公式問題集 Part 3 32-40 & Part 6 139-146
	事後学習	出る単 201-250語を音声聞きながら再確認 Class Mate Week 1 復習 TOEIC公式問題集 Part 3 & Part 6 復習 (60分)
7	事前学習	出る単 251-300語を音声聞きながら覚える Class Mate Week 2 TOEIC公式問題集 Part 3 41~49 & Part 7 147-152 (60分)
	授業内容	出る単 251-300語確認 Class Mate Week 2 小テスト TOEIC公式問題集 Part 3 41-49 & Part 7 147-152 解説
	事後学習	出る単 251-300語を音声聞きながら再確認 Class Mate Week 2 復習 TOEIC公式問題集 Part 3 & 7 復習 (60分)
8	事前学習	出る単 301-350語を音声聞きながら覚える。 Class Mate Week 3 TOEIC公式問題集 Part 3 50-61 & Part 7 153-160 (60分)
	授業内容	出る単 301-350語を確認 Class Mate Week 3 小テスト TOEIC公式問題集 Part 3 50-61 & Part 7 153-160 解説
	事後学習	出る単 301-350語を音声聞きながら再確認 Class Mate Week 3 復習 TOEIC公式問題集 Part 3 & 7 復習 (60分)
9	事前学習	出る単 351-400語を音声聞きながら覚える。 Class Mate Week 4 TOEIC公式問題集 Part 3 62-70 & Part 7 161-171 (60分)
	授業内容	出る単 351-400語を確認 Class Mate Week 4 小テスト TOEIC公式問題集 Part 3 62-70 & Part 7 161-171 解説
	事後学習	出る単 351-400語を音声聞きながら再確認 Class Mate Week 4 復習 TOEIC公式問題集 Part 3 62-70 & Part 7 161-171 復習 (60分)
10	事前学習	出る単 1-100 再確認 & Supplement 1 を音声聞きながら覚える。 Class Mate Week 5 TOEIC公式問題集 Part 4 71-79 & Part 7 172-180 (60分)
	授業内容	出る単 1-100& Supplement 1 の確認 Class Mate Week 5 小テスト TOEIC公式問題集 Part 4 71-79 & Part 7 172-180 解説
	事後学習	出る単 1-100& Supplement 1 を音声聞きながら再確認 Class Mate Week 5 復習 TOEIC公式問題集 Part 4 71-79 & Part 7 172-180 復習 (60分)
11	事前学習	出る単 101-200語 & Supplement 1 を音声聞きながら再確認 Class Mate Week 6 TOEIC公式問題集 Part 4 80-88 & Part 7 181-185 (60分)
	授業内容	出る単 101-200語 & Supplement 1を再確認 Calss Mate Week 6 小テスト TOEIC公式問題集 Part 4 80-88 & Part 7 181-185 解説
	事後学習	出る単 101-200語 & Supplement 1を音声と共に再確認 Class Mate Week 6 復習 TOEIC公式問題集 Part 4 80-88 & Part 7 181-185 復習 (60分)
12	事前学習	出る単 201-300語を音声聞きながら再確認 Class Mate TOEIC模試 TOEIC公式問題集 Part 4 89-100 & Part 7 186-190 (60分)
	授業内容	出る単 201-300語を再確認 TOEIC公式問題集 Part 4 89-100 & Part 7 186-190 解説
	事後学習	出る単 201-300語を音声聞きながら再確認 TOEIC公式問題集 Part 4 89-100 & Part 7 186-190 (60分)
13	事前学習	出る単 301-400語を音声聞きながら再確認 TOEIC公式問題集 Part 7 191-200 速読教材を読みノート作成 (60分)
	授業内容	出る単 301-400語再確認 TOEIC公式問題集 Part 7 191-200 解説
	事後学習	出る単 301-400語を音声聞きながら再確認 TOEIC公式問題集 Part 7 191-200 復習 (60分)
14	事前学習	出る単 401-450語を音声聞きながら覚える 速読教材を読みノート作成 (60分)
	授業内容	出る単 401-450語 確認 TOEIC公式問題集 Part 4 & 7
	事後学習	出る単 401-450語 再確認 TOEIC公式問題集TEST 2 総復習 (60分)

15	事前学習	出る単 451-500語を音声聞きながら覚える 速読教材を読みノート作成 (60分)
	授業内容	TOEIC公式問題集 Test 2 それぞれのパートから問題を恣意的に選び復習 映画、NHKサイト、TED Talkなどを使った英語の自習勉強方法の紹介
	事後学習	自分に合った勉強方法を探す。(毎日30分以上)

科目名	TOEIC II B	担当者	高城 えり子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際化時代かつ情報化時代において必要とされる幅広い英語力や英語コミュニケーション能力を養います。TOEICに出題されるメディア、ビジネス場面などの実用的な生きた英語を学びながら、TOEICテストスコアアップのための基礎固めをします。				
授業目的・到達目標	TOEIC初心者または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。 TOEICテストの出題形式に慣れながら、スコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とします。 また、TOEICスコアを500点以上獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5、6				
履修条件	TOEICを1回以上受験し、ClassMATE(Online Training)をやって頂きます。（受験料とClass MATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には、教材費がその分増えますのでご注意ください。				
授業方法	実践演習をして解説をする。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行う。フィードバックは授業内において行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	後期の最終授業時にそれまでやった教科書の範囲のテストを行う。（60％）、TOEICスコア、ClassMATEスコア、単語のテスト、（40％）などで総合評価する	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	成美堂		Perfect Practice For The TOEIC L&R Test (Revised Edition)	石井隆之
	備考				
参考書	英和辞書				
オフィスアワー	授業に関する質問、相談などは授業後（木曜14：30～／16：10～）のほか、毎回配る” My Record”の質問欄またはE-mailにて対応します。 授業内にメールアドレスを伝える。前もってアポイントを取ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Unit7 Part1～Part4の音声を聞く。聞き取れない部分は繰り返し聞く。 分からない単語は辞書で調べる。（30分）
	授業内容	演習と解説 Unit7 Global Warming Part1-Part4 問題を解く。 スクリプトで、間違えた部分の確認と音読。 内容把握。 間違えた問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。 音読をする。（特にPart3） （30分）
	事後学習	
2	事前学習	Unit7 Part5～Part7の予習をする。 問題を解き、分からない単語は辞書で調べる。 （30分）
	授業内容	演習と解説 Unit7 Global Warming Part5-Part7 分詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 間違えた問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。 （30分）
	事後学習	
3	事前学習	Unit8 Part1～Part4の音声を聞く。聞き取れない部分は繰り返し聞く。 分からない単語は辞書で調べる。（30分）
	授業内容	演習と解説 Unit8 Global Websites Part1-Part4 問題を解く。 スクリプトで、間違えた部分の確認と音読。 内容把握。 間違えた問題を解きなおす。 頻出単語を暗記する。 音読をする。（特にPart3） （30分）
	事後学習	
4	事前学習	Unit8 Part5～Part7の予習をする。 問題を解き、分からない単語は辞書で調べる。 （30分）
	授業内容	演習と解説 Unit8 Global Websites Part5-Part7 名詞の可算、不可算について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。 間違えた問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。 （30分）
	事後学習	

5	事前学習	Unit9 Part1～Part4の音声聞く。聞き取れない部分は繰り返し聞く。 分からない単語は辞書で調べる。(30分)
	授業内容	Unit9 Global Workplace Part1-Part4 問題を解く。 スクリプトで、間違えた部分の確認と音読。 内容把握。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。 音読をする。(特にPart3) スクリプトで、間違えた部分の確認と音読。 内容把握。(30分)
6	事前学習	Unit9 Part5～Part7の予習をする。 問題を解き、分からない単語は辞書で調べる。(30分)
	授業内容	演習と解説 Unit9 Global Workplace Part5-Part7 代名詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
7	事前学習	Unit10 Part1～Part4の音声聞く。聞き取れない部分は繰り返し聞く。 分からない単語は辞書で調べる。(30分)
	授業内容	演習と解説 Unit10 Nursing Care Part1-Part4 問題を解く。 スクリプトで、間違えた部分の確認と音読。 内容把握。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。 音読をする。(特にPart3) (30分)
8	事前学習	Unit10 Part5～Part7の予習をする。 問題を解き、分からない単語は辞書で調べる。(30分)
	授業内容	演習と解説 Unit10 Nursing Care Part5-Part7 接続詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
9	事前学習	Unit11 Part1～Part4の音声聞く。聞き取れない部分は繰り返し聞く。 分からない単語は辞書で調べる。(30分)
	授業内容	演習と解説 Unit11 Global Trading Part1-Part4 問題を解く。 スクリプトで、間違えた部分の確認と音読。 内容把握。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。 音読をする。(特にPart3) (30分)
10	事前学習	Unit11 Part5～Part7の予習をする。 問題を解き、分からない単語は辞書で調べる。(30分)
	授業内容	演習と解説 Unit11 Global Trading Part5-Part7 受動態と使役について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
11	事前学習	Unit12 Part1～Part4の音声聞く。聞き取れない部分は繰り返し聞く。 分からない単語は辞書で調べる。(30分)
	授業内容	問題を解く。 スクリプトで、間違えた部分の確認と音読。 内容把握。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。 音読をする。(特にPart3) (30分)
12	事前学習	Unit12 Part5～Part7の予習をする。 問題を解き、分からない単語は辞書で調べる。(30分)
	授業内容	演習と解説 Unit12 Global Trading Part5-Part7 関係詞について理解し、それに対応するTOEICの問題を解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。(30分)
13	事前学習	Unit7-Unit12までのPart1-Part4の復習。(30分)
	授業内容	まとめ及び授業内後期 Listening 試験
	事後学習	総復習と、答えられなかった個所を教科書で確認する。(30分)
14	事前学習	Unit7-Unit12までのPart5-Part7の復習。(30分) 小テストなどの復習
	授業内容	まとめ及び授業内後期 Reading 試験
	事後学習	総復習と、答えられなかった個所を教科書で確認する。(30分)
15	事前学習	Unit13 Part1～Part4の音声聞く。聞き取れない部分は繰り返し聞く。 分からない単語は辞書で調べる。(30分)
	授業内容	演習と解説 Unit13 Business Trip Part1-Part4 問題を解く。 スクリプトで、間違えた部分の確認と音読。 内容把握。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。 頻出単語を暗記する。 音読をする。(特にPart3) (30分)

科目名	TOEIC II B	担当者	高坂 映子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEICの受験に必要な基礎力を身につける。 詳細は初回授業時に説明するので必ず出席すること。				
授業目的・到達目標	TOEIC初心者または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。 TOEICテストの出題形式に慣れながら、スコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とします。 また、TOEICスコアを500点以上獲得できることを目標とします。 対応D P 及びC P：外国語科目領域 5， 6				
履修条件	TOEICを1回以上受験しClassMATE（Online Training）を受講してもらいます。受験料とClassMATE教材費は自己負担。 TOEIC2科目以上の受講は教材費がその分増えるのでご注意ください。				
授業方法	TOEICの内容、対策をパート別に実践演習し、解説します。毎回小テストを実施し、次の授業で返却します。 下記の授業内容は実際の授業状況に応じて変更する場合があります。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業参加度、ClassMATEポイント、小テスト、TOEICスコア、後期試験等による総合評価。遅刻3回で欠席1回とし、2/3以上の出席者が評価対象です。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	成美堂		ESSENTIAL APPROACH FOR THE TOEIC L&R TEST—Revised Edition—	大須賀 直子 他
	2019	朝日出版社		Essential English Vocabulary 1400	語彙力向上研究会
	備考				
参 考 書	英和辞書				
オフィスアワー	木曜 10:30～10:40 12:10～12:20 授業講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス内容に目を通し、後期の学習スケジュールをたてる。（30分）
	授業内容	ガイダンス等 / Unit 6: Reading Section 未来表現等について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 6: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要単語を暗記する。（30分）
2	事前学習	テキストp.60の問題を解く。VocabularyテキストSection B Unit1&Unit 2小テスト準備（30分）
	授業内容	Unit 7: Listening Section カタカナ発音から脱却する。
	事後学習	Unit 7: の音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。（30分）
3	事前学習	テキストp.68の問題を解く。VocabularyテキストSection B Unit3&Unit 4小テスト準備（30分）
	授業内容	Unit 7: Reading Section 主語と動詞の呼応、時制の一致について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 7: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要単語を暗記する。（30分）
4	事前学習	テキストp.69の問題を解く。VocabularyテキストSection B Unit5&Unit 6小テスト準備（30分）
	授業内容	Unit 8: Listening Section キーワードからトピックを把握する。
	事後学習	Unit 8: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。（30分）

5	事前学習	テキストp.77の問題を解く。VocabularyテキストSection B Unit7&Unit 8小テスト準備（30分）
	授業内容	Unit 8: Reading Section 能動態と受動態について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 8: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要単語を暗記する。（30分）
6	事前学習	テキストp.78の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。（30分）
	授業内容	Unit 9: Listening Section キーワードから状況を把握する。
	事後学習	Unit 9: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。（30分）
7	事前学習	テキストp.86の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。（30分）
	授業内容	Unit 9: Reading Section 不定詞と動名詞について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 9: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要単語を暗記する。（30分）
8	事前学習	テキストp.87の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。（30分）
	授業内容	Unit 10: Listening Section 英単語からイメージを描く。
	事後学習	Unit 10: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。（30分）
9	事前学習	テキストp.95の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。（30分）
	授業内容	Unit 10: Reading Section 分詞について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 10: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要単語を暗記する。（30分）
10	事前学習	テキストp.96の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。（30分）
	授業内容	Unit 11: Listening Section 英語の話の展開の特徴を知る。
	事後学習	Unit 11: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。（30分）
11	事前学習	テキストp.104の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。（30分）
	授業内容	Unit 11: Reading Section 助動詞について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 11: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要単語を暗記する。（30分）
12	事前学習	テキストp.105の問題を解く。ClassMATEでのオンライントレーニング。（30分）
	授業内容	Unit 12: Listening Section 必要な情報のみを聞き取る。
	事後学習	Unit 12: Listening Sectionの音声を繰り返し聞き、間違えた箇所を解き直す。（30分）
13	事前学習	テキストp.114の問題を解く。VocabularyテキストSection B 小テスト準備（30分）
	授業内容	Unit 12: Reading Section 接続詞について理解し、それに対応するTOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 12: Reading Sectionで間違えた箇所を解き直し、重要単語を暗記する。（30分）
14	事前学習	テキストUnit 6 ～Unit 12及びvocabularyテキストSection B Unit1～Unit30 までの復習
	授業内容	授業内試験及び後期授業内容の振り返り等
	事後学習	後期の授業内容を確認する。
15	事前学習	後期の学習内容の復習
	授業内容	後期の学習内容の総まとめ及び講評
	事後学習	後期学習内容を確認し、今後のTOEIC対策または英語学習の計画を立てる。

科目名	TOEIC II B	担当者	塚田 英博	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC対策として基礎項目の復習と演習を行います。			
授業目的・到達目標	TOEICを初めて受験する学生、または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。テストの内容、対策をパート別に解説し、TOEICの受験に必要な基礎力を養成することを目的とする。TOEICスコア500点台を獲得できることを目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域5,6			
履修条件	TOEICを1回以上受験し、ClassMATE（Online Training）を実施します。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。			
授業方法	実践演習をして解説をします。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行い、次回授業時に返却します。質問の回答時には、理由を尋ねながら巡回します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	TOEICスコア、小テスト、レポート、ClassMATEポイント、授業参加度等を総合的に判断します
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	金星堂	SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST PRE-INTERMEDIATE	溝口 優美子
	2016	アルク	新装版 TOEIC(R)テスト スーパー英単語	ロバート・ヒルキ、小石裕子
	備考			
参 考 書	英和辞典			
オフィスアワー	水曜日 12：10～13：00 授業講堂			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	各パートの対策を前期のノート等を使用し確認する。（30分）
	授業内容	授業の進め方、TOEICの概要を説明し、TOEICの解法を再確認できる。
	事後学習	パートごとの対策方法を確認する。（30分）
2	事前学習	PART5. 6の形式や使用時間を確認する。（30分）
	授業内容	PART5. 6の解法について理解し、TOEIC問題を解答できる。（問題配布）
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
3	事前学習	単語501-550を暗記する。 テキストpp. 56-60. pp. 61のStep3、PART1. 2を解いてくる。（30分）
	授業内容	小テスト1 PART7の解法と能動態、受動態について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Step1 の単語を暗記する。（30分）
4	事前学習	単語551-600を暗記する。 テキストpp. 62-63. pp. 61のStep3、PART3. 4を解いてくる。（30分）
	授業内容	小テスト2 顧客とのやり取りに関するについて理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）

5	事前学習	単語601-650を暗記する。 テキストpp. 64-68. pp. 69のStep3、PART1. 2を解いてくる。(30分)
	授業内容	小テスト3 不定詞、動名詞について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Step1 の単語を暗記する。(30分)
6	事前学習	単語651-700を暗記する。 テキストpp. 70-71. pp. 69のStep3、PART3. 4を解いてくる。(30分)
	授業内容	小テスト4 求人、採用に関する表現について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
7	事前学習	単語701-750を暗記する。 テキストpp. 72-76. pp. 77のStep3、PART1. 2を解いてくる。(30分)
	授業内容	小テスト5 代名詞について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Step1 の単語を暗記する。(30分)
8	事前学習	単語751-800を暗記する。 テキストpp. 78-81. pp. 77のStep3、PART3. 4を解いてくる。(30分)
	授業内容	小テスト6 人事に関する表現について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
9	事前学習	単語801-850を暗記する。 テキストpp. 82-86. pp. 87のStep3、PART1. 2を解いてくる。(30分)
	授業内容	小テスト7 比較について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Step1 の単語を暗記する。(30分)
10	事前学習	単語851-900を暗記する。 テキストpp. 88-89. pp. 87のStep3、PART3. 4を解いてくる。(30分)
	授業内容	小テスト8 広告、宣伝に関する表現について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
11	事前学習	単語901-950を暗記する。 テキストpp. 90-94. pp. 95のStep3、PART1. 2を解いてくる。(30分)
	授業内容	小テスト9 前置詞について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Step1 の単語を暗記する。(30分)
12	事前学習	テキストpp. 96-97. pp. 95のStep3、PART3. 4を解いてくる。(30分)
	授業内容	会議に関する表現について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
13	事前学習	単語小テスト11-19とUnit6-10の確認をする。(30分)
	授業内容	授業のまとめとしてTOEIC問題を解答できる。
	事後学習	配布プリントの復習をする。(30分)
14	事前学習	英語圏の思考形式に関する調査を行う。(30分)
	授業内容	英語圏の思考形式をメディアを通して理解することができる。
	事後学習	英語圏と日本での人々の思考形式の相違を確認する。(30分)
15	事前学習	単語951 - 1005を暗記する。(30分)
	授業内容	小テスト10 英語圏と日本での人々の思考形式の相違を理解し、その形式をTOEIC問題と関連付けられる。
	事後学習	TOEICの解法と英語圏の人々の思考形式の関連付けを行う。(30分)

科目名	TOEIC II B	担当者	町田 純子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEICの出題問題の傾向を探り慣れることで、戦略的に又実践的にリーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得します。又同時に最低限の基礎文法知識の確認と定着や、語彙力増強、頻出会話表現を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をブラッシュアップできます。			
授業目的・到達目標	TOEIC初心者または450点未満のスコアをもつ学生を対象とするクラスです。TOEICテストの出題形式に慣れながらスコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とします。また、TOEICスコアを500点以上獲得できることを目標とします。対応DP及びCP:外国語科目領域5,6			
履修条件	TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。(受験料及びClassMATE教材費は自己負担)。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。			
授業方法	TOEIC問題形式テキストに沿い基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図り、音声の基礎知識を整理しつつ話し言葉に慣れ、基礎からTOEIC範囲の単語熟語力テストを行います。フィードバック方法は毎回の授業内に行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	TOEICスコア、小テスト、ClassMATEポイント、後期試験等を総合的に判断します。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	センゲージラーニング	『Fast PASS FOR THE TOEIC L&R TEST』	上仲律子他
	2005	南雲堂	『WORD BUILDER』	近畿大学語学教育教材開発研究会
	備考			
参考書	使用しませんが、英和辞書は必携です。			
オフィスアワー	授業に関する質問やご相談等は、授業講堂にて、授業前、終了後に対応させていただきます。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認する。(30分)
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、評価方法、TOEIC概要説明をする。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 TOEICの概要についてWebサイトで調べてみる。(30分)
2	事前学習	テキストを購入し、p12`23 Preliminary Lesson (Pre-test) の問題を解いてみる。(30分) 12回実施予定の英単熟語確認テストの準備として、初回講義前にテキストを購入してテストに備える。
	授業内容	Preliminary Lesson (Pre-test) の問題を理解し、問題を解答できる。
	事後学習	Preliminary Lesson (Pre-test) の間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
3	事前学習	Unit1 p24`33の問題を解いてくる。(30分) 12回実施予定の英単熟語確認テスト1の音読、暗記の準備をする。(30分)
	授業内容	Unit 1 Food & Restaurantを理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト1の内容を解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。(60分)
4	事前学習	Unit2 p34`43の問題を解いてくる。 語彙テスト2の準備をする。(30分)
	授業内容	Unit2 Entertainmentを理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト2を解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。(30分)

5	事前学習	Unit3 p44~53の問題を解いてくる。 語彙テスト3、CM（ClassMATE）の手続きを完了し、準備をする。（30分）
	授業内容	Unit3 Travelを理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト3、CMを解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。（30分）
6	事前学習	Unit4 P54~63の問題を解いてくる。 語彙テスト4、CMを準備する。（30分）
	授業内容	Unit4 Sports &Healthを理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト4、CMを解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。（30分）
7	事前学習	Unit5 p64~73の問題を解いてくる。 語彙テスト5、CMの準備をする。（30分）
	授業内容	Unit 5 Purchasingを理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト5、CMを解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。（30分）
8	事前学習	Unit6 p74~83の問題を解いてくる。 語彙テスト6、CMの準備をする。（30分）
	授業内容	Unit 6 Housing &Accommodationsを理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト6、CMを解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。（30分）
9	事前学習	Unit7 p84~93の問題を解いてくる。 語彙テスト7、CMの準備をする。（30分）
	授業内容	Unit7 Office Work(1)を理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト7、CMを解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。（30分）
10	事前学習	Unit8 p94~104の問題を解いてくる。（30分） 語彙テスト8、CMの準備をする。
	授業内容	Unit8 Office Work(2)を理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト8、CMを解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。（30分）
11	事前学習	Unit9 p104~113の問題を解いてくる。（30分） 語彙テスト9、CMの準備をする。
	授業内容	Unit9 Employmentを理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト9、CMを解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。（30分）
12	事前学習	Unit10 p114~123の問題を解いてくる。 語彙テスト10の準備をする。（30分）
	授業内容	Unit10 Lectures &Presentationsを理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト10を解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。（30分）
13	事前学習	Unit11 p124~133の問題を解いてくる。 語彙テスト11の準備をする。（30分）
	授業内容	Unit11 Business Affairs(1)を理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト11を解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。（30分）
14	事前学習	Unit12 p134~144の問題を解いてくる。 語彙テスト12の準備をする。（30分）
	授業内容	Unit12 Business Affairs(2)を理解し、それに対応する問題を解答できる。 語彙テスト12を解答できる。
	事後学習	間違えた問題を解き直す。（30分）
15	事前学習	Unit1~Unit12までの復習をする。（30分）
	授業内容	後期授業内試験と解説、学習内容のまとめ
	事後学習	後期授業の学習内容を確認する。（30分）

科目名	TOEIC II B	担当者	堤 裕美子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	前期のTOEIC IIAに続き、TOEICの問題を通じて英語表現を学び、スコアアップを目指します。授業では、単熟語の習得、文法理解、リスニング強化を目指します。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC初心者または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEICテストの出題形式に慣れながら、スコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とします。 【到達目標】スコアを500点以上獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5， 6			
履修条件	TOEIC後期1回の受験と、Online Trainingが義務付けられます。受験料と教材費は自己負担です。(TOEIC演習を複数履修すると、教材費がその分増えます。)			
授業方法	TOEICの内容、対策をパート別実践演習し、解説します。毎回小テストを行い、次回以降返却します。 下記の授業内容は実際の授業状況に応じて変更する場合があります。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業参加状況、ClassMATEポイント、小テスト、TOEICスコア(1回)、まとめ試験等による総合平常評価評価。遅刻3回で欠席1回とし、2/3以上の出席者が評価対象です。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	センゲージラーニング	FAST PASS FOR THE TOEIC L&R TEST	Ritsuko Uenaka Seiko Korechika
	備考			
参考書	授業内で適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜2時限～6時限 授業終了後の講堂にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。(30分)
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方を確認する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 Quizletが問題なく使えるか確認する。(30分)
2	事前学習	Quizletに挑戦する。(30分)
	授業内容	Pre-testに再度チャレンジする。 自分の英語コミュニケーション能力を試してみる。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)
3	事前学習	Unit 7 p.84, 85, 87の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit 7 p.86,88 Part 3とPart 5の解き方のコツを身に付ける。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)
4	事前学習	Quizletに挑戦する。(30分)
	授業内容	Unit 7 MINI TEST ビジネス(日常業務・販売)の場面に関連するTOEIC問題を解く。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)

5	事前学習	Unit 8 p. 94, 95, 97を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit 8 p. 96, 98 Part 3とPart 6の解き方のコツを身に付ける。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)
6	事前学習	Quizletに挑戦する。(30分)
	授業内容	Unit 8 MINI TEST ビジネス(クレーム処理、出荷)がテーマになったTOEIC問題を解く。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)
7	事前学習	Unit 9 p. 104, 105, 107を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit 9 p. 106, 108 Part 4, Part 7の解き方のコツを身に付ける。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)
8	事前学習	Quizletに挑戦する。(30分)
	授業内容	Unit 9 MINI TEST 雇用が題材になったTOEIC問題を解く。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)
9	事前学習	Unit 10 p. 114, 115, 117を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit 10 p. 116, 118 Part 1, Part 5の解き方のコツを身に付ける。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)
10	事前学習	Quizletに挑戦する。(30分)
	授業内容	Unit 10 MINI TEST 講義やプレゼンテーションがテーマになったTOEIC問題を解く。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)
11	事前学習	Unit 11 p. 124, 125, 127を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit 11 p. 126, 128 Part 2, Part 6の解き方のコツを身に付ける。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)
12	事前学習	Quizletに挑戦する。(30分)
	授業内容	Unit 11 MINI TEST 交渉・契約がテーマになったTOEIC問題を解く。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)
13	事前学習	Unit 12 p. 134, 135, 137を解いてくる。(30分)
	授業内容	Unit 12 p. 136, 138 Part 3, Part 7の解き方のコツを身に付ける。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)
14	事前学習	Quizletに挑戦する。(30分)
	授業内容	Unit 12 MINI TEST 市場調査、売り込みがテーマになったTOEIC問題を解く。
	事後学習	間違えた箇所を解きなおす。頻出単語を暗記する。(30分)
15	事前学習	テキストの総復習。(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。(30分)

科目名	TOEIC II B	担当者	間山 伸	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC Lisetenig & Speaking Testについての理解を深め、テストスコアを伸ばすための英語語彙力・表現力、リスニング力、読解力を養う。					
授業目的・到達目標	初めてTOEIC Testを受験する学生、または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。 TOEIC Testの受験に必要な基礎力を養成することを目的とします。 TOEIC Testスコア500点台を獲得できることを目標にするクラスです。 メディアや、ビジネスシーンなどの実用的な生きた英語を学びながら、就職に活かせるTOEICスコアを目指します。 対応DP及びCP:外国語科目領域5, 6					
履修条件	TOEIC Testの受験と、Online Training(Class MATE)が義務付けられます。受験料と教材費は自己負担です。TOEIC演習を複数履修すると、教材費がその分増えますので注意してください。					
授業方法	TOEIC Testの問題実践演習をして解説をします。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行い、授業内で解説・講評等を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		TOEIC Testスコア、授業内小テスト、ClassMATEポイント、授業参加度等を総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	英光社		Comprehensive Reading Practice for the TOEIC L&R Test		浦部尚志
	備考					
参考書	英和辞書					
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は授業終了後(水曜日2時限目終了後)またはE-mailにて対応します。 E-mailアドレスは授業初日に知らせます。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Chapter II Unit 1 pp.22-23基本英文解釈 (I couldn't be better., She cannot be ill., Did you have it cut?等)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter IV Unit 1 pp.66-67 Mock Test for the TOEIC part7: Online Instant Messages問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
2	事前学習	Chapter II Unit 2 pp.23-25基本英文解釈 (～is the last person, not～very much, not～all等)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter IV Unit 2 pp.68-69 Mock Test for the TOEIC part7: Online Instant Messages問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
3	事前学習	Chapter II Unit 3 pp.25-26基本英文解釈 (mind doing, mind one's doing, used to do等)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter IV Unit 3 pp.70-72 Mock Test for the TOEIC part7: Online Instant Messages問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
4	事前学習	Chapter II Unit 4 pp.27-28基本英文解釈 (forget to do, remember doing, regret not to do等)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter IV Unit 4 pp.72-74 Mock Test for the TOEIC part7: Online Instant Messages問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)

5	事前学習	Chapter Ⅱ Unit 5 pp.28-30基本英文解釈 (look for, find work, be finding等)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter Ⅳ Unit 5 pp.74-76 Mock Test for the TOEIC part7 : Online Instant Messages問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
6	事前学習	Chapter Ⅱ Unit 6 pp.30-31基本英文解釈 (not try to do, try not to do, try doing等)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter Ⅳ Unit 6 pp.76-78 Mock Test for the TOEIC part7 : Online Instant Messages問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
7	事前学習	Chapter Ⅱ Unit 7 pp.32-33基本英文解釈 (what～used to be, not as～as , which(関係代名詞)等)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter Ⅴ Unit 1 pp.82-83 Mock Test for the TOEIC part7 : Single Passage問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
8	事前学習	Chapter Ⅱ Unit 8 pp.33-35基本英文解釈 (little information, a little hope, quite a little money等)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter Ⅴ Unit 2 pp.84-86 Mock Test for the TOEIC part7 : Single Passage問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
9	事前学習	Chapter Ⅱ Unit 9 pp.35-36基本英文解釈 (keep oneself fit, call on , help oneself等)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter Ⅴ Unit 3 pp.86-88 Mock Test for the TOEIC part7 : Double Passage問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
10	事前学習	Chapter Ⅱ Unit 10 pp.37-38基本英文解釈 (have gone to, have been to, stop to do , stop doing等)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter Ⅴ Unit 4 pp.89-91 Mock Test for the TOEIC part7 : Double Passage問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
11	事前学習	Chapter Ⅱ Unit 11 pp.38-40基本英文解釈 (try and fix, watch as, look in the device for等)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter Ⅴ Unit 5 pp.92-94 Mock Test for the TOEIC part7 : Triple Passage問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
12	事前学習	Chapter Ⅱ Unit 12 pp.40-41基本英文解釈 (should have done, would not do, would do等)の問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Chapter Ⅴ Unit 6 pp.95-97 Mock Test for the TOEIC part7 : Triple Passage問題練習
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
13	事前学習	Chapter Ⅱ コラム(2) 名詞編(その2) Ⅰ 「料金やお金を表す名詞」 p.42を読み、確認してくる (30分)
	授業内容	Chapter Ⅳ p.79 知っておくべき初歩の英会話表現(2) : 「少し緊張しています」「大丈夫ですか」「どうなさいましたか」等
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
14	事前学習	Chapter Ⅱ コラム(2) 名詞編(その2) Ⅱ 「意味が紛らわしい名詞」 pp.42-43を読み、確認してくる (30分)
	授業内容	Chapter Ⅴ p.98 知っておくべき英語のことわざ・格言集 : 「溺れる者は藁をもつかむ」「終わり良ければ全て良し」等
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
15	事前学習	第1回目―第14回目までの授業で学習した内容の確認 (30分)
	授業内容	第1回目―第14回目までの授業で学習した内容のまとめ
	事後学習	授業で見直した箇所以身に付いていなかった部分を再確認する (30分)

科目名	TOEIC II B	担当者	藤本 淳史	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。まずTOEICテストの形式に慣れることなら始めましょう。 (TOEIC IAからの続き)			
授業目的・到達目標	TOEIC初心者または450点未満のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。 TOEICテストの出題形式に慣れながら、スコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とします。 また、TOEICスコアを500点以上獲得できることを目標とします。 対応D P及びC P：外国語科目領域5， 6			
履修条件	TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。(受験料及びClassMATE教材費は自己負担)。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。			
授業方法	TOEICの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。毎回小テストを行います。フィードバックは授業内において行います。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	TOEICスコア、小テスト、ClassMATEポイント等を総合的に判断します。 後期試験等を総合的に判断します。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	桐原書店	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC(R) L&R TEST All in One [New Edition]	早川 幸治
	備考			
参考書	追って指示します。			
オフィスアワー	水曜19：30～ 講堂にて 質問がある場合にはfujimoto.atsushi11@nihon-u.ac.jp までメールをしてください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
2	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 08 接続詞・前置詞 (Part 5) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
3	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 09 Yes/No疑問文 (Part 2) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
4	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 09 ダブルパッセージ（2つの文書） (Part 7) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）

5	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 10 オフィスでの会話 ① (Part 3) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
6	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 10 Part 5の復習 (Part 5) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
7	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 11 留守番電話 (Part 4) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
8	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 11 トリプルパッセージ（3つの文書） (Part 7) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
9	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 12 オフィスでの会話 ② (Part 3) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
10	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 12 Part 7の復習 (Part 7) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
11	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 13 Part 1とPart 2の復習 (Part 1, Part 2) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
12	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 13 時制・代名詞・語い問題 (Part 6) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
13	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部 (Part 4) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
14	事前学習	授業で行う予定の箇所を読んでおくこと。（30分）
	授業内容	Unit 14 つなぎ言葉・文の挿入 (Part 6) 演習と解説をします。
	事後学習	演習と解説をしたところを丹念に復習すること。（30分）
15	事前学習	これまでの内容を復習して後期授業のまとめに備えること。（30分）
	授業内容	後期授業のまとめ
	事後学習	後期授業のまとめの内容を解説したところを復習しておくこと。（30分）

科目名	TOEIC ⅢA	担当者	北村 豊	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC受験に向けての準備の仕方、日頃の学習方法、自宅でのトレーニング方法等を学ぶ。			
授業目的・到達目標	TOEIC受験の経験があり、すでにTOEICで450点以上取得している学生を対象とするクラスです。TOEICテストにおける自身の課題を把握し、スコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とします。TOEICスコアを600点以上獲得できることを目標とします。対応DP及びCP：外国語科目領域5, 6			
履修条件	学期内にTOEICを1回以上受験し、ClassMATE(Online Training)を受講してもらいます。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。			
授業方法	実践演習をして解説をします。定期的に単語テストや指定範囲の小テストを行います。小テストは次の授業で返却を行う。授業内試験は、試験の講評（解説）を後日ポータルにて配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	TOEICスコア、小テスト、ClassMateポイント、前期試験等を総合的に判断します。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	On Demand Publishing	Ivan's Adventure in the business world (1)	Yutaka Kitamura
	備考			
参考書	適宜ハンドアウトをお渡しします。また、英英辞典の使い方も学びます。			
オフィスアワー	質問等は授業の前後（月曜14：30～）講堂で受け付けます。授業外の場合は yujizo117@tcue.ac.jpまでメール送信の事。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（30分）
	授業内容	General introduction to the course 授業の進め方、TOEICの概要を説明する。英英辞典の使い方を習得する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 英英辞典の使い方の確認をする。 TOEICについてWEBサイト等で調べてみる。（30分）
2	事前学習	リスニング第1部問題演習の準備、テキスト(10-17頁)の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）
	授業内容	リスニング第1部：演習と解説 TOEICリスニング第1部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。
	事後学習	リスニング第1部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。（30分）
3	事前学習	リスニング第2部問題演習の準備、テキスト(18-25頁)の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）
	授業内容	リスニング第2部：演習と解説 TOEICリスニング第2部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。
	事後学習	リスニング第2部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。（30分）
4	事前学習	リスニング第3部問題演習の準備、テキスト(18-25頁)の内容に関するリサーチをしてくる。（30分）
	授業内容	リスニング第3部：演習と解説 TOEICリスニング第2部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。
	事後学習	リスニング第3部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。（30分）

5	事前学習	リスニング第4部問題演習の準備、テキスト(27-29頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	リスニング第4部：演習と解説 TOEICリスニング第2部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。
	事後学習	リスニング第4部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)
6	事前学習	リーディング第5部問題演習の準備、テキスト(84-85頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	リーディング第5部：演習と解説 TOEICリーディング第5部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。
	事後学習	リーディング第5部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)
7	事前学習	リーディング第6部問題演習の準備、テキスト(86-87頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	リーディング第6部：演習と解説 TOEICリーディング第6部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。
	事後学習	リーディング第6部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)
8	事前学習	リーディング第7部問題演習の準備、テキスト(88-94頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	リーディング第7部（その1、前半部分）：演習と解説 TOEICリーディング第7部前半部分の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。
	事後学習	リーディング第7部前半部分問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)
9	事前学習	リーディング第7部問題演習の準備、テキスト(94-97頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	リーディング第7部（その2、後半部分）：演習と解説 TOEICリーディング第7部後半部分の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。
	事後学習	リーディング第7部後半部分問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)
10	事前学習	リスニング第1－2部問題演習の準備、テキスト(10-25頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	リスニング問題演習（第1部～第2部）と解説。 自宅トレーニング方法の紹介。 TOEICリスニング第1－2部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。
	事後学習	リスニング第1－2部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)
11	事前学習	リスニング問題演習（第3部～第4部）と解説。 自宅トレーニング方法の紹介。 TOEICリスニング第3－4部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。
	授業内容	リスニング問題演習（第3部～第4部）と解説 自宅トレーニング方法の紹介
	事後学習	リスニング第3－4部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)
12	事前学習	リーディング第5－6部問題演習の準備、テキスト(30-41頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	リーディング問題演習（第5部～第6部）と解説 自宅トレーニング方法の紹介 TOEICリーディング第5－6部の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。
	事後学習	リーディング第5－6部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)
13	事前学習	リーディング第7部（前半）問題演習の準備、テキスト(51-59頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	リーディング問題演習（第7部前半）と解説 自宅トレーニング方法の紹介 TOEICリーディング第7部後半の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。
	事後学習	リーディング第7部前半問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)
14	事前学習	リーディング第7部（後半）問題演習の準備、テキスト(51-59頁)の内容に関するリサーチをしてくる。(30分)
	授業内容	リーディング問題演習（第7部後半）と解説 自宅トレーニング方法の紹介 TOEICリーディング第7部後半の基礎を理解し、それに対応する質問・問題に解答できる。
	事後学習	リーディング第7部後半問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、問題にもう一度取り組む。頻出単語を暗記する。(30分)
15	事前学習	「前期のまとめ」準備。授業内試験に向けて準備する。これまでの問題演習の復習をする。(30分)
	授業内容	前期授業の総まとめとして授業内試験を行う。前期学習内容の振り返り。
	事後学習	「前期のまとめ」の内容の復習。前期授業の学習内容を確認する。(30分)

科目名	TOEIC ⅢA	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今までに獲得したTOEIC L&Rテストのスコアを更に伸ばすため、語彙力、リスニング力、読解力を向上させる。授業ではテキスト、オンライン教材を中心に他の問題集の問題を数多く解く。授業以外でも英語を読んだり、聞いたりするための課題を解く。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC受験の経験があり、すでにTOEICで450点取得している学生を対象とするクラスです。TOEICテストにおける自身の課題を把握し、スコア向上のための英語力を養成することを目的とします。 【目標】TOEICスコア600点以上の獲得を目標とします。対応DP及びCP:外国語科目領域 5, 6			
履修条件	TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。(受験料及びClassMATE教材費は自己負担)。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。			
授業方法	毎回単語・熟語の試験、オンライン教材の復習テストを行う。テキストは予め自分で解いたものを答え合わせし、解説を行う。詳しいことは第1回目の授業で説明します。辞書は毎時間持参すること。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	TOEICテストのスコア、Class MATEポイント、単語の試験、TOEICミニテスト、課題等の結果等を総合的に評価
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年(第4版)	桐原書店	SUCCESSFUL KEYS TO TOEIC LESTENING AND READING TEST 3	M. D. Stafford
	2015年	アルク	改訂版 TOEIC TEST 英単語出るとこだけ！	小石裕子
	備考	SUCCESSFUL KEYS TO TOEIC LESTENING AND READING TEST 3(Goal 700) 4th Edition M. D. Stafford著		
参考書	「TOEICテスト速読WPMトレーニング」西村恵美著 (ベレ, 500円) 「TOEIC TEST リスニング (TARGET 600)」 森田鉄也著 (Jリサーチ出版、1、200円)			
オフィスアワー	授業講堂(火曜日：9：00～12：10 / 木曜日13:00～16：10)			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	TOEIC L&Rテストについて試験の構成などについて調べておく。(30分)
	授業内容	ガイダンス(必要があればクラス選抜テスト)：履修条件、授業の進め方、評価方法、TOEIC L&Rテストの必要性についての説明
	事後学習	ガイダンスで聞いた説明をよく考えてクラスを履修するかどうか検討する。(30分)
2	事前学習	単語のテキストの説明をよく読んで問題を解いておく。(30分)
	授業内容	TOEIC テストの概要について説明 /Pre-test
	事後学習	Pre-testのReading Partの復習(30分)
3	事前学習	第1回英単語試験の範囲の単語を覚える(30分)
	授業内容	第1回英単語試験(No.1 - 45)/テキスト Unit 1'Daily Life' ミニテスト/ TOEIC練習問題
	事後学習	テキスト Unit 1 'Daily Life' のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習(30分)
4	事前学習	第2回英単語試験の範囲の単語を覚える。/テキストUnit 1'Daily Life' のReading Partの英文をよく読んでおく。分からない単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	第2回英単語試験(No..46 - 90)/テキスト Unit 1'Daily Life' 復習 /TOEIC練習問題/
	事後学習	テキスト Unit 1'Daily Life' Reading Partの復習：特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。(30分)

5	事前学習	第3回英単語試験の範囲の単語を覚える(30分)
	授業内容	第3回英単語試験(No. 91 - 143)/テキストUnit 2 'Places':ミニテスト/TOEIC練習問題
	事後学習	テキスト Unit 2 'Places'のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習(30分)
6	事前学習	第4回英単語試験の範囲の単語を覚える。/テキスト Unit 2 'Places'のReading Partの英文をよく読んでおく。分からない単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	第4回英単語試験(No. 144 - 195)/テキストUnit 2 'Places':復習/TOEIC練習問題
	事後学習	テキスト Unit 2 'Places': Reading Partの復習:特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。(30分)
7	事前学習	第5回英単語試験の範囲の単語を覚える(30分)
	授業内容	第5回英単語試験(No. 196 - 248)/テキスト Unit 3 'People':ミニテスト/TOEIC練習問題
	事後学習	テキスト Unit 3 'People'のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習(30分)
8	事前学習	第6回英単語試験の範囲の単語を覚える。/テキスト Unit 3 'People'のReading Partの英文をよく読んでおく。分からない単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	第6回英単語試験(No. 249 - 300)/テキスト Unit 3 'People' 復習 /TOEIC練習問題
	事後学習	テキスト Unit 3 'People': Reading Partの復習:特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。(30分)
9	事前学習	第7回英単語試験の範囲の単語を覚える(30分)
	授業内容	第7回英単語試験(No. 301 - 345)/テキストUnit 4 'Travel' ミニテスト/TOEIC練習問題
	事後学習	テキスト Unit 4 'Travel'のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習(30分)
10	事前学習	第8回英単語試験の範囲の単語を覚える。/テキスト Unit 4 'Travel'のReading Partの英文をよく読んでおく。分からない単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	第8回英単語試験(No. 346 - 398)/テキストUnit 4 'Travel' 復習 / TOEIC練習問題
	事後学習	テキスト Unit 4 'Travel' Reading Partの復習:特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。(30分)
11	事前学習	第9回英単語試験の範囲の単語を覚える(30分)
	授業内容	第9回英単語試験(No. 399 - 450)/テキストUnit 5 'Business' ミニテスト/ TOEIC練習問題
	事後学習	テキスト Unit 5 'Business'のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習(30分)
12	事前学習	第10回英単語試験の範囲の単語を覚える/ Class MATEをPart 1からPART 7まで問題の形式を意識しながら復習(30分)
	授業内容	第10回英単語試験(No. 451 - 495)/TOEIC模擬試験
	事後学習	TOEIC模擬試験の復習(30分)
13	事前学習	第11回英単語試験の範囲の単語を覚える/テキスト Unit 5 'Business'のReading Partの英文をよく読んでおく。分からない単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	第11回英単語試験(No. 496 - 548)/ テキストUnit 5 'Business' 復習 /テキストUnit 6 'Office' ミニテスト
	事後学習	テキスト Unit 5 'Business':Reading Partの復習:特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。/テキスト Unit 6 'Office'のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習(30分)
14	事前学習	第12回英単語試験の範囲の単語を覚える(30分)
	授業内容	第12回英単語試験(No. 549-600)/テキストUnit 6 'Office' 復習 / テキストUnit 7 'Technology' ミニテスト
	事後学習	テキスト Unit 6 'Office' Reading Partの復習:特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。/テキスト Unit 7 'Technology'のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習(30分)
15	事前学習	テキストUnit 1 ~ Unit 7の単語等を覚える(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期の内容の振り返り
	事後学習	テキストUnit 1 ~ Unit 7の復習(30分)

科目名	TOEIC ⅢA	担当者	鈴木 京子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEICでさらに高得点を目指すことができるように、教科書を使用して毎回演習を行います。教科書のそれぞれの課は、ListeningとReading のセクションがあり、毎回授業内で問題を解きます。Listening の場合には問題を解いた後に問題のスク립トを使用して、どんな問題を聞いたのかを耳と目を使って確認していきます。Readingの場合には問題を解いた後に文法などの解説を行います。					
授業目的・到達目標	TOEIC受験の経験があり、TOEIC450点以上のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEICテストにおける自身の課題を把握し、スコア向上のための英語力を養成することを目的とします。TOEICテストの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。 TOEICスコア600点台を獲得できることを目標にするクラスです。					
履修条件	対応D P 及びC P：外国語科目領域 5， 6 TOEICを1回以上受験し、ClassMATEを受講してください。受験料とClassMATE教材費は自己負担です。TOEICを2科目以上受講した場合には、教材費が増えます。原則TOEICⅢBも履修してください。					
授業方法	実践演習をして解説をします。毎回小テストを行い、返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		TOEICスコア（1回分）、小テスト、ClassMATEポイント等を総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016	CENGAGE Learning		The TOEIC TEST Trainer Target 650		Masahiko Yamaguchi他3名
	備考					
参 考 書	英和辞書必携					
オフィスアワー	金曜14：30～講堂にて。 授業の前後で質問してください。アポイントメントを取る場合にも授業の前後に相談してください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	自己紹介文の準備（30分）
	授業内容	ガイダンス。Pre-test
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
2	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Pre-testの復習①
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
3	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Pre-testの復習②
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
4	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 1 Listening 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）

5	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 1 Reading 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
6	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 2 Listening 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
7	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 2 Reading 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
8	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 3 Listening 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
9	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 3 Reading 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
10	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 4 Listening 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
11	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 4 Reading 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
12	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 5 Listening 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
13	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 5 Reading 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
14	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 6 Listening 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
15	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	前期の授業のまとめ
	事後学習	前期の授業の総復習（30分）

科目名	TOEIC ⅢA	担当者	塚田 英博	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC対策として、リスニングセクション、リーディングセクションにおいて、英語的思考形式を活用する術を常に念頭において行います。			
授業目的・到達目標	TOEIC受験の経験があり、すでにTOEICで450点以上取得している学生を対象とするクラスです。 TOEICテストの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。 TOEIC受験対策に終始することなく、総合的英語運用能力を養成することを目的とし、さらなるスコアアップをめざします。 TOEICスコア600点台以上を獲得できることを目標にします。 関連DP及びCP：外国語科目領域5,6			
履修条件	TOEICを1回以上受験し、ClassMATE（Online Training）を実施します。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。 TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。			
授業方法	実践演習をして解説をします。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行い、次回授業時に返却します。質問の回答時には、理由を尋ねながら巡回します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	TOEICスコア、小テスト、レポート、ClassMATEポイント、授業参加度等を総合的に判断します
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	朝日出版社	STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC Level 3 Advanced	北尾 泰幸
	2017	アルク	キクタンTOEIC TEST SCORE 800	一杉武史 編集
	備考			
参考書	英和辞典			
オフィスアワー	水曜日 12：10～13：00 授業講堂			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの目次の確認と音声ファイルのダウンロードを行う。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、TOEICの概要を説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらい。 TOEICに関する情報をWEBサイト等で調べる。（30分）
2	事前学習	PART1.2の問題形式を確認する。（30分）
	授業内容	PART1.2の解法を理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の解き直しとPART1.2の解法の確認をする。（30分）
3	事前学習	単語1-48を暗記する。 テキストpp.2.5-7.を解いてくる。（30分）
	授業内容	小テスト1 動詞について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 1 Part1.2の復習と間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
4	事前学習	単語49-96を暗記する。 テキストpp.6-9.と配布問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	小テスト2 リーディング問題のポイントを理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 1 Part3.4の復習の復習と間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）

5	事前学習	単語97-144を暗記する。 テキストpp. 10. 13-15. を解いてくる。 (30分)
	授業内容	小テスト3 時制について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 2 Part1. 2の復習の復習と間違えた箇所の問題を解き直す。 (30分)
6	事前学習	単語145-192を暗記する。 テキストpp. 16-17. と配布問題を解いてくる。 (30分)
	授業内容	小テスト4 リーディング問題のポイントを理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 2 Part3. 4の復習の復習と間違えた箇所の問題を解き直す。 (30分)
7	事前学習	単語193-240を暗記する。 テキストpp. 18. 21-23. を解いてくる。 (30分)
	授業内容	小テスト5 品詞について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 3 Part1. 2の復習の復習と間違えた箇所の問題を解き直す。 (30分)
8	事前学習	単語241-288を暗記する。 テキストpp. 24-25. と配布問題を解いてくる。 (30分)
	授業内容	小テスト6 リーディング問題のポイントを理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 3 Part3. 4の復習の復習と間違えた箇所の問題を解き直す。 (30分)
9	事前学習	単語289-336を暗記する。 テキストpp. 26. 29-31. を解いてくる。 (30分)
	授業内容	小テスト7 分詞について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 4 Part1. 2の復習の復習と間違えた箇所の問題を解き直す。 (30分)
10	事前学習	単語337-384を暗記する。 テキストpp. 32-33. と配布問題を解いてくる。 (30分)
	授業内容	小テスト8 リーディング問題のポイントを理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 4 Part3. 4の復習の復習と間違えた箇所の問題を解き直す。 (30分)
11	事前学習	単語385-432を暗記する。 テキストpp. 34. 38-39. を解いてくる。 (30分)
	授業内容	小テスト9 不定詞、動名詞について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 5 Part1. 2の復習の復習と間違えた箇所の問題を解き直す。 (30分)
12	事前学習	テキストpp. 35-36. 40-41. と配布問題を解いてくる。 (30分)
	授業内容	リーディング問題のポイントを理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 5 Part3. 4の復習の復習と間違えた箇所の問題を解き直す。 (30分)
13	事前学習	単語小テスト1-9とUnit1-5の確認をする。 (30分)
	授業内容	授業のまとめとしてTOEIC問題を解答できる。
	事後学習	配布プリントの復習をする。 (30分)
14	事前学習	英語圏の思考形式に関する調査をWEBサイトなどを活用し調べる。 (30分)
	授業内容	英語圏の思考形式を考慮しながら、ディクテーションができる。
	事後学習	英語圏の人々の思考形式を確認する。 (30分)
15	事前学習	単語433-528を暗記する。 (30分)
	授業内容	小テスト10 英語圏の人々と日本人との思考形式の相違を理解できる。
	事後学習	英語を通して思考形式を確認する。 (30分)

科目名	TOEIC ⅢA	担当者	辻岡 宏子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEICテストの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。 ペアワークやグループワークを通して、能動的に学ぶ態度やスキルの習得を目指します。			
授業目的・到達目標	TOEIC受験の経験があり、すでにTOEICで450点以上取得している学生を対象とするクラスです。 TOEICテストにおける自身の課題を把握し、スコア向上を行っていくことを目的とします。 TOEICスコア600点台以上の獲得を目標とします。 対応DP及びCP:外国語科目領域 5, 6			
履修条件	TOEIC を1回以上受験し、ClassMATE (Online Training)の受講が必須 (受験料及びClassMATE教材費は自己負担)。 TOEIC演習を2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。			
授業方法	毎回、小テストを行います。遅刻30分以上は欠席とします。 授業内で講評、解説等のフィードバックを行います。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	TOEICスコア、小テスト、Class MATEポイント、授業参加態度、試験等を総合的に判断します	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	南雲堂	Totally TOEIC L&R Test Challenge 500-600	Kitzman
	備考			
参考書	英和、和英辞書 (電子辞書可)			
オフィスアワー	授業の後に授業講堂に来て下さい。 水曜日14:30-14:40			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	TOEIC目標の設定 (30分)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ジャーナルの書き方 (30分)
2	事前学習	語彙復習 (30分)
	授業内容	TOEIC診断テスト
	事後学習	ジャーナル1 授業振り返り (30分)
3	事前学習	課題 文法復習 1 (30分)
	授業内容	TOEIC演習1 R&L shopping
	事後学習	ジャーナル 2 授業振り返り (30分)
4	事前学習	課題 文法復習 2 (30分)
	授業内容	TOEIC演習2 R&L entertainment
	事後学習	ジャーナル 3 授業振り返り (30分)

5	事前学習	課題 リーディング(30分)
	授業内容	TOEIC演習 3 R&L eating out
	事後学習	ジャーナル 4 授業振り返り(30分)
6	事前学習	課題 問題分析(30分)
	授業内容	TOEIC演習 4 R&L travel
	事後学習	ジャーナル 5 授業振り返り(30分)
7	事前学習	課題 問題作成(30分)
	授業内容	TOEIC演習 5 R&L health
	事後学習	ジャーナル 6 授業振り返り(30分)
8	事前学習	課題 発表準備(30分)
	授業内容	発表、演習、解説
	事後学習	ジャーナル 7 授業振り返り (30分)
9	事前学習	課題 発表準備(30分)
	授業内容	発表、演習、解説
	事後学習	ジャーナル 8 授業振り返り(30分)
10	事前学習	課題 リフレクションシート(30分)
	授業内容	TOEIC演習 6 R&L housing
	事後学習	ジャーナル 9 授業振り返り (30分)
11	事前学習	課題 語彙(30分)
	授業内容	TOEIC演習 7 R&L employment
	事後学習	ジャーナル 1 0 授業振り返り(30分)
12	事前学習	課題 表現(30分)
	授業内容	TOEIC演習 8 R&L workplaces
	事後学習	ジャーナル 1 1 授業振り返り(30分)
13	事前学習	課題 文法(30分)
	授業内容	TOEIC演習 9 R&L making deals
	事後学習	ジャーナル 1 2 授業振り返り(30分)
14	事前学習	課題 総復習(30分)
	授業内容	TOEIC Review Test
	事後学習	ジャーナル 1 3 授業振り返り(30分)
15	事前学習	課題 到達度振り返り(30分)
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	ジャーナル まとめ 1 4

科目名	TOEIC ⅢA	担当者	間山 伸	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC Lisetenig & Speaking Testをこれまでに受験したことのある学生のテストスコアを、更に伸ばすための英語語彙力・表現力、リスニング力、読解力を養う。 TOEIC Testの受験に必要な対策をパート別に解説し、問題の演習を行います。			
授業目的・到達目標	これまでにTOEIC Testを受験した経験がある学生で、Listening & Reading Testで既に450点以上のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEIC Lisetenig & Speaking Testをこれまでに受験したことのある学生のテストスコアを、更に伸ばすための英語語彙力・表現力、リスニング力、読解力を養成することを目的とします。 TOEIC Listening & Reading Testスコア600点台以上を獲得できることを目標にするクラスです。 対応DP及びCP:外国語科目領域5, 6			
履修条件	TOEIC Testの受験と、Online Training(Class MATE)が義務付けられます。受験料と教材費は自己負担です。TOEIC演習を複数履修すると、教材費がその分増えますので注意してください。			
授業方法	TOEIC Testの問題実践演習をして解説をします。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行い、授業内で解説・講評等を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験			
	平 常 評 価		100%	TOEIC Testスコア、授業内小テスト、ClassMATEポイント、授業参加度等を総合的に判断します。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	金星堂	Score Booster for the TOEIC L & R Test Intermediate	番場直之・小山克明
	備考			
参 考 書	英和辞書			
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は授業終了後(水曜日1時限目終了後)またはE-mailにて対応します。 E-mailアドレスは授業初日に知らせます。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを事前に確認し、学習内容を把握しておく (30分)
	授業内容	授業ガイダンス及びTOEIC Testのテストについての説明
	事後学習	授業ガイダンスをもとに履修の検討をし、履修を決めた場合にはテキストを購入して「まえがき」を読み、音声ファイル無料ダウンロードの仕方や、オンライン学習支援ツールCheckLinkの使い方を確認しておく。(30分)
2	事前学習	インターネットを用いて音声ファイルをダウンロードし、Unit 1 TOEIC Listening Practice (Question-Response / Conversation)及びTOEIC Reading Practiceの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 1 Travel (1) 旅行に関する語句・表現 旅行会社や係員との会話、機内や列車内でのアナウンスのリスニング練習：Step1 / Step2 / 事前学習内容のTOEIC Listening Practice及び、TOEIC Reading Practiceの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
3	事前学習	Unit 1 Step 3 TOEIC Mini Testの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 1 Travel (2) 名詞(数えられる名詞、数えられない名詞)、旅行会社やホテルからのEメールなどのリーディング練習：事前学習内容のTOEIC Mini Testの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
4	事前学習	インターネットを用いて音声ファイルをダウンロードし、Unit 2 TOEIC Listening Practice (Question-Response / Conversation)及びTOEIC Reading Practiceの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 2 Dining Out(2) レストランや食事・料理に関する語句・表現 レストランに関する会話、レストランからのメッセージや宣伝などのリスニング練習：Step1 / Step2 / 事前学習内容のTOEIC Listening Practice及び、TOEIC Reading Practiceの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)

5	事前学習	Unit 2 Step 3 TOEIC Mini Testの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 2 Dining Out (2) 形容詞 (名詞を修飾する、補語になる)、レストランの宣伝、予約や注文の確認のEメールなどのリーディング練習: 事前学習内容のUnit2 TOEIC Mini Testの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
6	事前学習	インターネットを用いて音声ファイルをダウンロードし、Unit 3 TOEIC Listening Practice (Question-Response / Conversation) 及びTOEIC Reading Practiceの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 3 Media (1) メディアに関する語句・表現 新聞・雑誌・番組に関する会話、交通情報・天気予報・地域ニュースなどのリスニング練習: Step1 / Step2 / 事前学習内容のTOEIC Listening Practice及び、TOEIC Reading Practiceの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
7	事前学習	Unit 3 Step 3 TOEIC Mini Testの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 3 Media (2) 副詞 (動詞・形容詞を修飾する)、新聞・雑誌記事、ラジオ局や出版社へのコメントやEメールなどリーディング練習: 事前学習内容のTOEIC Mini Testの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
8	事前学習	事前学習 インターネットを用いて音声ファイルをダウンロードし、Unit 4 TOEIC Listening Practice (Question-Response / Conversation) 及びTOEIC Reading Practiceの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 4 Entertainment (1) エンターテインメントに関する語句・表現 チケット売り場での会話、美術館・博物館のアナウンス、出演者の紹介などのリスニング練習: Step1 / Step2 / 事前学習内容のTOEIC Listening Practice及び、TOEIC Reading Practiceの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
9	事前学習	Unit 4 Step 3 TOEIC Mini Testの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 4 Entertainment (2) 時制 (現在・過去・未来・現在進行形)、展覧会・演劇・音楽に関するお知らせや記事、書評などのリーディング練習: 事前学習内容のTOEIC Mini Testの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
10	事前学習	インターネットを用いて音声ファイルをダウンロードし、Unit 5 TOEIC Listening Practice (Question-Response / Conversation) 及びTOEIC Reading Practiceの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 5 Purchasing (1) 買い物に関する語句・表現 店員と客との会話、店からの確認の電話メッセージなどのリスニング練習: Step1 / Step2 / 事前学習内容のTOEIC Listening Practice及び、TOEIC Reading Practiceの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
11	事前学習	Unit 5 Step 3 TOEIC Mini Testの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 5 Purchasing (2) 主語と動詞の一致 (3単元のs)、店からのお知らせ、商品の注文・確認返品に関するEメールなどのリーディング練習: 事前学習内容のTOEIC Mini Testの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
12	事前学習	事前学習 インターネットを用いて音声ファイルをダウンロードし、Unit 6 TOEIC Listening Practice (Question-Response / Conversation) 及びTOEIC Reading Practiceの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 6 Clients (1) 顧客との取引に関する語句・表現 顧客に関する会話や仕事の依頼、進捗状況についての説明、会議の一部などのリスニング練習: Step1 / Step2 / 事前学習内容のTOEIC Listening Practice及び、TOEIC Reading Practiceの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
13	事前学習	Unit 6 Step 3 TOEIC Mini Testの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 6 Clients (2) 能動態・受動態 (感情を表す表現)、顧客とのEメールのやり取り、顧客に関するチャットなどのリーディング練習: 事前学習内容のTOEIC Mini Testの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
14	事前学習	インターネットを用いて音声ファイルをダウンロードし、Unit 7 TOEIC Listening Practice (Question-Response / Conversation) 及びTOEIC Reading Practiceの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 7 Recruiting (1) 求人・採用に関する語句・表現 求人・採用に関する会話、採用者からの連絡などのリスニング練習: Step1 / Step2 / 事前学習内容のTOEIC Listening Practice及び、TOEIC Reading Practiceの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
15	事前学習	コラム (1) 効果的な英文の聞き方を読み、確認してくる (30分)
	授業内容	第1回目～14回目までの授業で学習した内容のまとめ
	事後学習	授業で見直した箇所 で身に付いていなかった部分を再確認する (30分)

科目名	TOEIC ⅢB	担当者	北村 豊	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC受験に向けての準備の仕方、日頃の学習方法、自宅でのトレーニング方法等を学ぶ。					
授業目的・到達目標	TOEIC受験の経験があり、すでにTOEICで450点以上取得している学生を対象とするクラスです。TOEICテストにおける自身の課題を把握し、スコア向上に繋がる英語力を養成することを目的とします。TOEICスコアを600点以上獲得できることを目標とします。対応D P 及びC P：外国語科目領域5，6					
履修条件	学期内にTOEICを1回以上受験し、ClassMATE(Online Training)をやっていただきます。（受験料及び教材費は自己負担）。注：TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えます。					
授業方法	実践演習をして解説をします。定期的に単語テストや指定範囲の小テストを行います。小テストは次の授業で返却を行う。授業内試験は、試験の講評（解説）を後日ポータルにて配信する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		TOEICスコア、小テスト、ClassMateポイント、後期試験等を総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017	On Demand Publishing		Ivan's Adventure in the business world (2)		Yutaka Kitamura
	備考					
参考書	適宜ハンドアウトをお渡しします。また、英英辞典の使い方も学びます。					
オフィスアワー	質問等は授業の前後（月曜14：30～）講堂で受け付けます。授業外の場合は yujizo117@tcue.ac.jpまでメール送信の事。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業の概要を大学のHPで確認する。（30分）
	授業内容	General introduction to the course 授業の進め方、TOEICの概要を説明する。英英辞典の応用的な使い方を習得する。
	事後学習	ガイドンスのおさらいをする。 英英辞典の使い方の確認をする。 TOEICについてWEBサイト等で調べてみる。（30分）
2	事前学習	リスニング第1部問題演習の準備、テキスト(1-5頁)に取り組む。（30分）
	授業内容	リスニング第1部：演習と解説 TOEICリスニング第1部を理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。
	事後学習	リスニング第1部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行う。頻出単語を暗記する。（30分）
3	事前学習	リスニング第2部問題演習の準備、テキスト(6-11頁)に取り組む。（30分）
	授業内容	リスニング第2部：演習と解説 TOEICリスニング第2部を理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。
	事後学習	リスニング第2部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行う。頻出単語を暗記する。（30分）
4	事前学習	リスニング第3部問題演習の準備、テキスト(12-19頁)に取り組む。（30分）
	授業内容	リスニング第3部：演習と解説 TOEICリスニング第3部を理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。
	事後学習	リスニング第3部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行う。頻出単語を暗記する。（30分）

5	事前学習	リスニング第4部問題演習の準備、テキスト(20-28頁)に取り組む。(30分)
	授業内容	リスニング第4部：演習と解説 TOEICリスニング第4部を理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。
	事後学習	リスニング第4部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行う。頻出単語を暗記する。(30分)
6	事前学習	リーディング第5部問題演習の準備、テキスト(29-38頁)に取り組む。(30分)
	授業内容	リーディング第5部：演習と解説 リーディング第5部を理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。
	事後学習	リーディング第5部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行う。頻出単語を暗記する。(30分)
7	事前学習	リーディング第6部問題演習の準備、テキスト(29-38頁)に取り組む。(30分)
	授業内容	リーディング第6部：演習と解説 リーディング第6部を理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。
	事後学習	リーディング第6部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行う。頻出単語を暗記する。(30分)
8	事前学習	リーディング第7部前半問題演習の準備、テキスト(39-47頁)に取り組む。(30分)
	授業内容	リーディング第7部(1)：演習と解説 リーディング第7部前半を理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。
	事後学習	リーディング第7部前半問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行う。頻出単語を暗記する。(30分)
9	事前学習	リーディング第7部後半問題演習の復習、テキスト(47-58頁)に取り組む。(30分)
	授業内容	リーディング第7部(2)：演習と解説 リーディング第7部前半を理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。
	事後学習	リーディング第7部後半問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行う。頻出単語を暗記する。(30分)
10	事前学習	リスニング第1-2部問題演習の準備。テキスト(59-63頁)に取り組む。(30分)
	授業内容	リスニング問題演習(第3部～第4部)と解説 リスニング第1-2部を理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。
	事後学習	リスニング第1-2部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行う。頻出単語を暗記する。(30分)
11	事前学習	リスニング第3-4部問題演習の準備。テキスト(64-67頁)に取り組む。(30分)
	授業内容	リスニング問題演習(第3部～第4部)と解説 リスニング第3-4部を理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。
	事後学習	リスニング第3-4部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行う。頻出単語を暗記する。(30分)
12	事前学習	リーディング第5-6部問題演習の準備。テキスト(5-22頁)に取り組む。(30分)
	授業内容	リーディング問題演習(第5部～第6部)と解説 リーディング第5-6部を理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。
	事後学習	リーディング第5-6部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行う。頻出単語を暗記する。(30分)
13	事前学習	リーディング第7部前半問題演習の準備。テキスト(68-72頁)に取り組む。(30分)
	授業内容	リーディング問題演習(第7部前半)と解説 リーディング第7部を理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。
	事後学習	リーディング第7部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行う。頻出単語を暗記する。(30分)
14	事前学習	リーディング第7部後半問題演習の準備。テキスト(78-89頁)に取り組む。(30分)
	授業内容	リーディング問題演習(第7部後半)と解説 リーディング第7部を理解し、それに対応する高度な質問・問題に解答できる。
	事後学習	リーディング第7部問題演習の復習。自己の課題となる部分を把握し、主体的にトレーニングを行う。頻出単語を暗記する。(30分)授業内最終テストに備える。
15	事前学習	「後期のまとめ」準備。授業内試験に向けて準備する。これまでの問題演習の復習をする。(30分)
	授業内容	Overall summary 後期授業の総まとめとして授業内試験を行う。後期学習内容の振り返り。
	事後学習	「後期のまとめ」の内容の復習。後期授業の学習内容を確認する。(30分)

科目名	TOEIC ⅢB	担当者	桑山 啓子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今までに獲得したTOEIC L&Rテストのスコアを更に伸ばすため、語彙力、リスニング力、読解力を向上させる。授業ではテキスト、オンライン教材を中心に他の問題集の問題を数多く解く。授業以外でも英語を読んだり、聞いたりするための課題を行う。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC受験の経験があり、すでにTOEICで450点取得している学生を対象とするクラスです。TOEICテストにおける自身の課題を把握し、スコア向上のための英語力を養成することを目的とします。 【目標】TOEICスコア600点以上を獲得できることを目標とします。対応DP及びCP:外国語科目領域5, 6			
履修条件	TOEICを1回以上受験し、ClassMATE (Online Training) をやっていただきます。(受験料及びClassMATE教材費は自己負担)。TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。			
授業方法	毎回単語・熟語の試験、オンライン教材の復習テストを毎週行う。テキストや練習問題のプリントをミニテスト形式で行い、解説をします。詳しいことは第1回目の授業で説明します。辞書は毎時間持参すること。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	TOEICテストのスコア、Class MATEポイント、単語の試験、TOEICミニテスト、課題等の結果等を総合的に評価	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年(第4版)	朝日出版社	SUCCESSFUL KEYS TO TOEIC LESTENING AND READING TEST 3 4th Ed.	M. D. Stafford
	2015年	アルク	改訂版 TOEIC TEST 英単語出るところだけ	小石裕子
	備考	SUCCESSFUL KEYS TO TOEIC LESTENING AND READING TEST 3(Goal 700) 4th Edition, Stafford著 (朝日出版)		
参考書	「TOEICテスト速読WPMトレーニング」西村恵美著 (ベレ出版、1,500円) 「TOEIC TEST リスニング (TARGET 600)」 森田鉄也著 (Jリサーチ出版、1、200円)			
オフィスアワー	授業講堂(火曜日：9：00～12：10 / 木曜日13:00～16：10)			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前に英語の音声を聴き、 Listeningの練習をする。(30分)
	授業内容	IIIBについてのガイダンス：履修条件、授業の進め方、評価方法についての説明/ Listening練習問題
	事後学習	本日聴いた Listening練習を復習(30分)
2	事前学習	第13回英単語試験の範囲の単語を覚える(30分)
	授業内容	第13回英単語試験(No. 601 - 630/1-15)/テキスト Unit 8 'Personnel' ミニテスト /TOEIC練習問題
	事後学習	テキスト Unit 8 'Personnel' のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習(30分)
3	事前学習	第14回英単語試験の範囲の単語を覚える。/テキスト Unit 8 'Personnel' のReading Partの英文をよく読んでおく。分からない単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	第14回英単語試験(No. 16 - 60)/テキスト Unit 8'Personnel' Reading Partの復習 /Unit 9 'Management' ミニテスト / TOEIC練習問題
	事後学習	テキスト Unit 9 のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習/テキスト Unit 8 'Personnel' Reading Partの復習：特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。(30分)
4	事前学習	第15回英単語試験の範囲の単語を覚える。/テキスト Unit 9 'Management' のReading Partの英文をよく読んでおく。分からない単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	第15回英単語試験(No. 61 - 113)/テキスト Unit 9'Management' Reading Partの復習 /Unit 10 'Purchasing' ミニテスト / TOEIC練習問題
	事後学習	テキスト Unit 10 'Purchasing' のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習/テキスト Unit 9 'Management' :Reading Partの復習：特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。(30分)

5	事前学習	第16回英単語試験の範囲の単語を覚える。/テキストUnit 10'Purchasing'のReading Partの英文をよく読んでおく。分からない単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	第16回英単語試験(No. 114 - 165)/テキストUnit 10'Purchasing' Reading Partの復習 /Unit 11 'Finances' ミニテスト/ TOEIC練習問題
	事後学習	テキストUnit 11 'Finances'のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習/テキストUnit 10 Reading Partの復習：特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。(30分)
6	事前学習	第17回英単語試験の範囲の単語を覚える。/テキストUnit 11 'Finances'のReading Partの英文をよく読んでおく。分からない単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	第17回英単語試験(No. 166 - 218)/テキストUnit 11'Finances' Reading Partの復習 /Unit 12 'Media' ミニテスト/TOEIC練習問題
	事後学習	テキストUnit 12 'Media'のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習/テキストUnit 11 'Finances' :Reading Partの復習：特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。(30分)
7	事前学習	第18回英単語試験の範囲の単語を覚え。/テキストUnit 12 'Media'のReading Partの英文をよく読んでおく。分からない単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	第18回英単語試験(No. 219 - 263)/テキストUnit 12 'Media' : Reading Partの復習 /TOEIC練習問題
	事後学習	テキストUnit 12 'Media':Reading Partの復習：特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。(30分)
8	事前学習	第19回英単語試験の範囲の単語を覚える/模擬問題のために Class MATEをPart 1からPART 7まで問題の形式を意識しながら復習(30分)
	授業内容	第19回英単語試験(No. 264 - 315)/TOEIC模擬試験/ 解答と解説(30分)
	事後学習	TOEIC模擬試験の復習
9	事前学習	第20回英単語試験の範囲の単語を覚える(30分)/模擬問題のリーディングパートの英文を辞書を使って読んでおく。
	授業内容	第20回英単語試験(No. 316-360)/TOEIC模擬試験の復習/ テキストUnit 13 'Entertainment' ミニテスト/TOEIC練習問題
	事後学習	テキストUnit 13 'Entertainment'のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習(30分)
10	事前学習	第21回英単語試験の範囲の単語を覚える。/テキストUnit 13 'Entertainment'のReading Partの英文をよく読んでおく。分からない単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	第21回英単語試験(No. 361-413)/テキストUnit 13 'Entertainment' 復習 /TOEIC練習問題
	事後学習	テキストUnit 13 'Entertainment' : Reading Partの復習：特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。(30分)
11	事前学習	第22回英単語試験の範囲の単語を覚える(30分)
	授業内容	第22回英単語試験(No. 414-465)/unit 14 'Health' ミニテスト / TOEIC練習問題
	事後学習	テキストUnit 14 'Health'のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習 (30分)
12	事前学習	第23回英単語試験の範囲の単語を覚える/ Unit 14 'Health'のReading Partの英文をよく読んでおく。分からない単語を調べ、理解できない英文を抜き出しておく。(30分)
	授業内容	第23回英単語試験(No. 466-518) テキストUnit 14 'Health' 復習 /TOEIC 練習問題
	事後学習	テキストUnit 14 'Health':Reading Partの復習：特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。(30分)
13	事前学習	第24回英単語試験の範囲の単語を覚える(30分)
	授業内容	第24回英単語試験(No. 519-570) /テキストUnit 15 'Restaurants' ミニテスト
	事後学習	テキストUnit 15 のListening Partをスクリプトを見ながら音読練習/Reading Partの復習：特にPart 6, Part 7の間違ったところを中心に復習。(30分)
14	事前学習	Class MATEをPart 1からPART 7まで問題の形式を意識しながら復習(30分)
	授業内容	TOEIC 練習問題解答と解説 / Class MATE (Online Training) の問題の復習
	事後学習	授業で解いた練習問題で間違えたところを復習する。(30分)
15	事前学習	テキストUnit 8 ～ Unit 15の単語等を覚えてテキストの復習(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期の内容の振り返り
	事後学習	テキストUnit 8 ～ Unit 15を復習する(30分)

科目名	TOEIC ⅢB	担当者	鈴木 京子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEICでさらに高得点を目指すことができるように、教科書を使用して毎回演習を行います。教科書のそれぞれの課はListening とReading のセクションがあり、毎回授業内で問題を解きます。Listeningの場合には問題を解いた後に問題のスク립トを使用して、どんな問題を聞いたのかを耳と目を使って確認していきます。Readingの場合には問題を解いた後に文法の解説を行います。					
授業目的・到達目標	TOEIC受験の経験があり、TOEIC450点以上のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEICテストにおける自身の課題を把握し、スコア向上のための英語力を養成することを目的とします。TOEICテストの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。 TOEICスコア600点台を獲得できることを目標にするクラスです。					
履修条件	対応DP及びCP：外国語科目領域5，6 TOEICテスト1回受験と、ClassMATEが義務づけられます。受験料と教材費は自己負担です。（TOEICを複数履修すると、教材費がその分増えます。）原則TOEICⅢAと共に通年で履修してください。					
授業方法	実践演習をして解説をします。毎回小テストを行い、返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		TOEICスコア（1回分）、小テスト、ClassMATEポイント等を総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016	CENGAGE Learning		The TOEIC TEST Trainer Target 650		Masahiko Yamaguchi他3名
	備考					
参考書	英和辞書必携					
オフィスアワー	金曜14：30～講堂にて。 授業の前後で質問してください。アポイントメントを取る場合にも授業の前後で相談してください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	夏休みのプレゼン準備（30分）
	授業内容	Unit 6 Reading 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
2	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 7 Listening 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
3	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 7 Reading 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
4	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 8 Listening 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）

5	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 8 Reading 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
6	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 9 Listening 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
7	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 9 Reading 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
8	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 10 Listening 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
9	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 10 Reading 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
10	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 11 Listening 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
11	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 11 Reading 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
12	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 12 listening 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
13	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Unit 12 Reading 問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
14	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	Post-test問題
	事後学習	授業で学習したことの復習（30分）
15	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	後期の授業のまとめ
	事後学習	後期の授業の総復習（30分）

科目名	TOEIC ⅢB	担当者	塚田 英博	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC対策として、リスニングセクション、リーディングセクションにおいて、英語的思考形式を活用する術を常に念頭において行います。			
授業目的・到達目標	TOEIC受験の経験があり、すでにTOEICで450点以上取得している学生を対象とするクラスです。 TOEICテストの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。 TOEIC受験対策に終始することなく、総合的英語運用能力を養成することを目的とし、さらなるスコアアップをめざします。 TOEICスコア600点台以上を獲得できることを目標にします。 関連DP及びCP：外国語科目領域5,6			
履修条件	TOEICを1回以上受験し、ClassMATE（Online Training）を実施します。（受験料及びClassMATE教材費は自己負担）。 TOEICを2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。			
授業方法	実践演習をして解説をします。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行い、次回授業時に返却します。質問の回答時には、理由を尋ねながら巡回します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	TOEICスコア、小テスト、レポート、ClassMATEポイント、授業参加度等を総合的に判断します
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	朝日出版社	STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC Level 3 Advanced	北尾 泰幸
	2017	アルク	キクタンTOEIC TEST SCORE 800	一杉武史 編集
	備考			
参考書	英和辞典			
オフィスアワー	水曜日 12：10～13：00 授業講堂			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	各パートの対策を前期のノート等を使用し確認する。（30分）
	授業内容	授業の進め方、TOEICの概要を説明し、TOEICの解法を再確認できる。
	事後学習	パートごとの対策方法を確認する。（30分）
2	事前学習	テキストpp. 42-49. を解いてくる。（30分）
	授業内容	Unit6 PART1-4のデクテーションとPART5-7の問題を解答できる。
	事後学習	Unit6で、間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
3	事前学習	単語529-576を暗記する。 テキストpp. 50. 54-55. を解いてくる。（30分）
	授業内容	小テスト1 仮定法について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 7 Part1.2の復習の復習と間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
4	事前学習	単語577-624を暗記する。 テキストpp. 56-57. と配布問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	小テスト2 リーディング問題のポイントを理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 7 Part3.4の復習の復習と間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）

5	事前学習	単語625-672を暗記する。 テキストpp. 58. 61-63. を解いてくる。 (30分)
	授業内容	小テスト3 受動態について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 8 Part1. 2の復習の復習と間違えた箇所の問題を解き直す。 (30分)
6	事前学習	単語673-720を暗記する。 テキストpp. 64-65. と配布問題を解いてくる。 (30分)
	授業内容	小テスト4 リーディング問題のポイントを理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 8 Part3. 4の復習の復習と間違えた箇所の問題を解き直す。 (30分)
7	事前学習	単語721-768を暗記する。 テキストpp. 66. 69-71. を解いてくる。 (30分)
	授業内容	小テスト5 代名詞について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 9 Part1. 2の復習の復習と間違えた箇所の問題を解き直す。 (30分)
8	事前学習	単語769-816を暗記する。 テキストpp. 72-75. と配布問題を解いてくる。 (30分)
	授業内容	小テスト6 リーディング問題のポイントを理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 9 Part3. 4の復習の復習と間違えた箇所の問題を解き直す。 (30分)
9	事前学習	単語817-880を暗記する。 テキストpp. 76. 79-81. を解いてくる。 (30分)
	授業内容	小テスト7 数量詞について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 10 Part1. 2の復習の復習と間違えた箇所の問題を解き直す。 (30分)
10	事前学習	単語881-944を暗記する。 テキストpp. 82-85. と配布問題を解いてくる。 (30分)
	授業内容	小テスト8 リーディング問題のポイントを理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 10 Part3. 4の復習の復習と間違えた箇所の問題を解き直す。 (30分)
11	事前学習	単語945-1008を暗記する。 テキストpp. 86. 89-91. を解いてくる。 (30分)
	授業内容	小テスト9 接続詞について理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 11 Part1. 2の復習の復習と間違えた箇所の問題を解き直す。 (30分)
12	事前学習	テキストpp. 87-88. 92-93. と配布問題を解いてくる。 (30分)
	授業内容	リーディング問題のポイントを理解し、TOEIC問題を解答できる。
	事後学習	Unit 11 Part3. 4の復習の復習と間違えた箇所の問題を解き直す。 (30分)
13	事前学習	単語小テスト11-19とUnit7-11の確認をする。 (30分)
	授業内容	授業のまとめとしてTOEIC問題を解答できる。
	事後学習	配布プリントの復習する。 (30分)
14	事前学習	英語圏の思考形式と文体に関する調査をWEBサイト等を活用し調べる。 (30分)
	授業内容	英語圏の思考形式と文体に関して理解し、その表現を明記できる。
	事後学習	英語圏の思考形式と文体のバリエーションを確認する。 (30分)
15	事前学習	単語1009-1120を暗記する。 (30分)
	授業内容	小テスト20 TOEICに見られる英語表現を理解し、明記できる。
	事後学習	TOEIC形式と文体表現の確認をする。 (30分)

科目名	TOEIC ⅢB	担当者	辻岡 宏子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEICテストの内容、対策をパート別に解説し、演習を行います。 ペアワークやグループワークを通して、能動的に学ぶ態度やスキルの習得を目指します。					
授業目的・到達目標	TOEIC受験の経験があり、すでにTOEICで450点以上取得している学生を対象とするクラスです。 TOEICテストにおける自身の課題を把握し、スコア向上を行っていくことを目的とします。 TOEICスコア600点台以上の獲得を目標とします。 対応DP及びCP:外国語科目領域 5, 6					
履修条件	TOEIC を1回以上受験し、ClassMATE (Online Training)の受講が必須 (受験料及びClassMATE教材費は自己負担)。 TOEIC演習を2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。					
授業方法	毎回、小テストを行います。遅刻30分以上は欠席とします。 授業内で講評、解説等のフィードバックを行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		TOEICスコア、小テスト、Class MATEポイント、授業参加態度等を総合的に判断します	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	金星堂		Score booster for the TOEIC L&R Test : Intermediate		Bamba & Oyama
	備考					
参考書	英和、和英辞書（電子辞書可）					
オフィスアワー	授業の後に授業講堂に来て下さい。 水曜日14:30-14:40					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	TOEIC目標の設定(30分)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ジャーナルの書き方(30分)
2	事前学習	語彙復習(30分)
	授業内容	TOEIC診断テスト
	事後学習	ジャーナル1 授業振り返り(30分)
3	事前学習	課題 文法復習 1(30分)
	授業内容	TOEIC演習1 R&L travel
	事後学習	ジャーナル 2 授業振り返り (30分)
4	事前学習	課題 文法復習 2(30分)
	授業内容	TOEIC演習2 R&L dining out
	事後学習	ジャーナル 3 授業振り返り(30分)

5	事前学習	課題 リーディング(30分)
	授業内容	TOEIC演習 3 R&L media
	事後学習	ジャーナル 4 授業振り返り(30分)
6	事前学習	課題 問題分析(30分)
	授業内容	TOEIC演習 4 R&L entertainment
	事後学習	ジャーナル 5 授業振り返り(30分)
7	事前学習	課題 問題作成(30分)
	授業内容	TOEIC演習 5 R&L purchasing
	事後学習	ジャーナル 6 授業振り返り(30分)
8	事前学習	課題 発表準備(30分)
	授業内容	発表、演習、解説
	事後学習	ジャーナル 7 授業振り返り(30分)
9	事前学習	課題 発表準備(30分)
	授業内容	発表、演習、解説
	事後学習	ジャーナル 8 (30分)
10	事前学習	課題 リフレクションシート(30分)
	授業内容	TOEIC演習 6 R&L clients
	事後学習	ジャーナル 9 授業振り返り(30分)
11	事前学習	課題 語彙(30分)
	授業内容	TOEIC演習 7 R&L recruiting
	事後学習	ジャーナル 10 授業振り返り(30分)
12	事前学習	課題 表現(30分)
	授業内容	TOEIC演習 8 R&L personnel
	事後学習	ジャーナル 11 授業振り返り(30分)
13	事前学習	課題 文法(30分)
	授業内容	TOEIC演習 9 R&L advertising
	事後学習	ジャーナル 12 授業振り返り(30分)
14	事前学習	課題 総復習(30分)
	授業内容	TOEIC Review Test
	事後学習	ジャーナル 13 授業振り返り(30分)
15	事前学習	課題 到達度振り返り(30分)
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	ジャーナル 14 まとめ(30分)

科目名	TOEIC ⅢB	担当者	間山 伸	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC Lisetenig & Speaking Testをこれまでに受験したことのある学生のテストスコアを、更に伸ばすための英語語彙力・表現力、リスニング力、読解力を養う。 TOEIC Testの受験に必要な対策をパート別に解説し、問題の演習を行います。			
授業目的・到達目標	これまでにTOEIC Testを受験した経験がある学生で、Listening & Reading Testで既に450点以上のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEIC Lisetenig & Speaking Testをこれまでに受験したことのある学生のテストスコアを、更に伸ばすための英語語彙力・表現力、リスニング力、読解力を養成することを目的とします。 TOEIC Listening & Reading Testスコア600点台以上を獲得できることを目標にするクラスです。 対応DP及びCP:外国語科目領域5, 6			
履修条件	TOEIC Testの受験と、Online Training(Class MATE)が義務付けられます。受験料と教材費は自己負担です。TOEIC演習を複数履修すると、教材費がその分増えますので注意してください。			
授業方法	TOEIC Testの問題実践演習をして解説をします。毎回単語テストや指定範囲の小テストを行い、授業内で解説・講評等を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験			
	平 常 評 価		100%	TOEIC Testスコア、授業内小テスト、ClassMATEポイント、授業参加度等を総合的に判断します。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	金星堂	Score Booster for the TOEIC L & R Test Intermediate	番場直之・小山克明
	備考			
参 考 書	英和辞書			
オフィスアワー	授業に関する質問・相談等は授業終了後(水曜日1時限目終了後)またはE-mailにて対応します。 E-mailアドレスは授業初日に知らせます。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストUnit 1ーUnit 7のVocabulary &PhrasesとGrammarを見なおして、身に付いていないものを確認する (30分)
	授業内容	TOEIC ⅢAの学習内容の振り返り
	事後学習	授業で見直した箇所です身に付いていなかった部分を再確認する (30分)
2	事前学習	Unit 7 Step 3 TOEIC Mini Testの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 7 (2) 動名詞・不定詞(動詞・前置詞の後ろに続く場合、定型表現)、求人広告、求人に関するEメールのやりとりなどのリーディング練習：事前学習内容のTOEIC Mini Testの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
3	事前学習	インターネットを用いて音声ファイルをダウンロードし、Unit 8 TOEIC Listening Practice (Question-Response / Conversation)及びTOEIC Reading Practiceの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 8 Personnel (1) 人事に関する語句・表現 昇進・退職・異動・研修など人事に関する会話やお知らせなどのリスニング練習：Step1 / Step2 / 事前学習内容のTOEIC Listening Practice及び、TOEIC Reading Practiceの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
4	事前学習	Unit 8 Step 3 TOEIC Mini Testの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 8 Personnel (2) 代名詞(主格・所有格・目的格・所有代名詞)、昇進・退職・異動など人事に関するお知らせやEメールなどのリーディング練習：事前学習内容のTOEIC Mini Testの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)

5	事前学習	インターネットを用いて音声ファイルをダウンロードし、Unit 9 TOEIC Listening Practice (Question-Response / Conversation) 及びTOEIC Reading Practiceの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 9 Advertising (1) 広告に関する語句・表現 広告・宣伝に関する会話、商品・サービスのコマーシャルなどのリスニング練習：Step1 / Step2 / 事前学習内容のTOEIC Listening Practice及び、TOEIC Reading Practiceの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
6	事前学習	Unit 9 Step 3 TOEIC Mini Testの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 9 Advertising (2) 比較 (比較級、最上級、as～as)、商品・サービス・店舗の広告・宣伝などのリーディング練習：事前学習内容のTOEIC Mini Testの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
7	事前学習	インターネットを用いて音声ファイルをダウンロードし、Unit 10 TOEIC Listening Practice (Question-Response / Conversation) 及びTOEIC Reading Practiceの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 10 Meetings (1) 会議に関する語句・表現 会議の予定に関する会話、会議の一部などのリスニング練習：Step1 / Step2 / 事前学習内容のTOEIC Listening Practice及び、TOEIC Reading Practiceの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
8	事前学習	Unit 10 Step 3 TOEIC Mini Testの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 10 Meetings (2) 前置詞 (理由・譲歩・時、定型表現)、会議のお知らせやオンライン・ディスカッションなどのリーディング練習：事前学習内容のTOEIC Mini Testの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
9	事前学習	インターネットを用いて音声ファイルをダウンロードし、Unit 11 TOEIC Listening Practice (Question-Response / Conversation) 及びTOEIC Reading Practiceの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 11 Finance (1) 予算・費用に関する語句・表現 予算・費用に関する同僚同士の会話や電話メッセージなどのリスニング練習：Step1 / Step2 / 事前学習内容のTOEIC Listening Practice及び、TOEIC Reading Practiceの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
10	事前学習	Unit 11 Step 3 TOEIC Mini Testの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 11 Finance (2) 接続詞 (理由・譲歩・時)、経済記事、請求書などのリーディング練習：事前学習内容のTOEIC Mini Testの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
11	事前学習	インターネットを用いて音声ファイルをダウンロードし、Unit 12 TOEIC Listening Practice (Question-Response / Conversation) 及びTOEIC Reading Practiceの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 12 Offices (1) オフィスに関する語句・表現 機械の故障や備品の手配などオフィスでの同僚同士の会話、業務連絡などのリスニング練習：Step1 / Step2 / 事前学習内容のTOEIC Listening Practice及び、TOEIC Reading Practiceの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
12	事前学習	Unit 12 Step 3 TOEIC Mini Testの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 12 Offices (2) 前置詞と接続詞の違い、業務連絡の社内文書やEメールなどのリーディング練習：事前学習内容のTOEIC Mini Testの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
13	事前学習	インターネットを用いて音声ファイルをダウンロードし、Unit 13 TOEIC Listening Practice (Question-Response / Conversation) 及びTOEIC Reading Practiceの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 13 Daily Life (1) 日常生活に関する語句・表現 不動産・医療・工事・公共機関に関する会話やメッセージ、アナウンスなどのリスニング練習：Step1 / Step2 / 事前学習内容のTOEIC Listening Practice及び、TOEIC Reading Practiceの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
14	事前学習	Unit 13 Step 3 TOEIC Mini Testの問題を解いてくる (30分)
	授業内容	Unit 13 Daily Life (2) 関係代名詞 (主格・目的格・所有格)、不動産・医療・工事・公共機関に関する告知やEメールなどのリーディング練習：事前学習内容のTOEIC Mini Testの解説
	事後学習	授業で学習した語彙、表現を再確認する (30分)
15	事前学習	第1回目―第14回目までの授業で学習した内容の確認 (30分)
	授業内容	第1回目―第14回目までの授業で学習した内容のまとめ
	事後学習	授業で見直した箇所です身に付いていなかった部分を再確認する (30分)

科目名	TOEIC IVA	担当者	太田 晴美	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC受験の経験があり、TOEIC500点以上のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEIC受験対策に終始することなく、総合的英語運用能力の強化を図り、さらなるスコアアップをめざします。					
授業目的・到達目標	【授業目的】 演習を重ね、更なるスコア向上のための英語力を養成することを目的とします。 【到達目標】 就職や資格試験で有利となるTOEICテストにおいて、スコアを最低730点獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5, 6					
履修条件	TOEICテストを1回以上受験しオンライン・トレーニングを受講します。テスト受験料及びオンライン教材費は受講者負担になります。TOEIC2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。					
授業方法	事前学習をしてきた内容に関して授業内で小テストやシャドーイングをしてもらいます。小テストは授業内で解説をし、シャドーイングはその場で教員が評価をします。グループワーク、ペアワークを中心に進めていきます。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		小テスト、毎週の課題、期末テスト、オンライン教材の達成度、TOEICテストスコア1回分を評価に入れます。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019年発行予定	朝日出版社		CNNニュースリスニング		CNN English Express
	2016年	IIBC		TOEICテスト公式問題集新形式問題対応編		IIBC
	備考	教員作成プリント				
参考書	適宜紹介する					
オフィスアワー	火曜日15：00～16：00 電話かメールでアポイントメントをお取りください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読む。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方・TOEICを受験する目的
	事後学習	今日の振り返り。 配布されたプリントを読む。（30分）
2	事前学習	教科書を購入し、配布されたプリントを読む。（30分）
	授業内容	TOEICテスト対策と学習法を学ぶ。 教科書の使用方法を知る（プリント配布）。 オンライン教材の実践方法を理解する。
	事後学習	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。（30分）
3	事前学習	プリントを使い、指定された範囲の課題を準備する。
	授業内容	Reading Partの概要と解き方を理解する。 Part 5 の解き方を学ぶ（プリント配布）。
	事後学習	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。（30分）
4	事前学習	配布プリントを使い、テストに備える。
	授業内容	CALL教室の使い方を知る。 Listening Partの概要と解き方を理解する。 音読・シャドーイングの方法について学ぶ（プリント配布）。
	事後学習	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。 オンライン教材を開始する。（30分）

5	事前学習	音読とシャドーイングテストの練習をする。 オンライン教材のクイズに備える。（30分）
	授業内容	Part 1 & 2の解き方とディクテーションの方法を学ぶ。 音読とシャドーイングの実践する。 文法プリント配布。
	事後学習	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。（30分）
6	事前学習	文法プリントを完成させる。 オンライン教材のクイズに備える。（30分）
	授業内容	Part 5 & 6 の解き方と学習法を学ぶ（プリント配布）。
	事後学習	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。（30分）
7	事前学習	文法プリントを完成させる。 オンライン教材のクイズに備える。（30分）
	授業内容	Part 7の解き方を学ぶ（プリント配布）。
	事後学習	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。（30分）
8	事前学習	課題の音読とシャドーイングの練習をする。 文法プリントを完成させる。 オンライン教材のクイズに備える。（30分）
	授業内容	Part 3 & 4 の解き方を学ぶ。 音読、シャドーイングの実践をする。
	事後学習	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。（30分）
9	事前学習	文法プリントを完成させる。 オンライン教材のクイズに備える。（30分）
	授業内容	Part 7 の解き方を学ぶ（プリント配布）。
	事後学習	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。（30分）
10	事前学習	文法プリントを完成させる。 オンライン教材のクイズに備える。（30分）
	授業内容	Reading Part全体を解ける方法を復習し、理解する。
	事後学習	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。（30分）
11	事前学習	文法プリントを完成させる。（30分）
	授業内容	Listening Part全体を解ける方法を復習し、理解する。
	事後学習	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。（30分）
12	事前学習	復習テストに備える。（30分）
	授業内容	復習テスト。解説を聞き間違った部分を確認する。 最終課題について理解する。
	事後学習	学習した内容を復習し、間違った箇所をもう一度解く。（30分）
13	事前学習	最終課題の準備をする。（30分）
	授業内容	最終課題の添削を受け、加筆修正をする。
	事後学習	学習した内容を復習し、音読の練習をする。次週の課題を準備する。（30分）
14	事前学習	最終課題の準備をしてくる。（30分）
	授業内容	最終課題のプレゼンテーション。
	事後学習	オンライン教材が完成しているかを確認する。（30分）
15	事前学習	最終シャドーイング課題の練習をする。（30分）
	授業内容	シャドーイング課題を実践する。
	事後学習	これまでの振り返り。音読の練習を続け、夏休み後のTOEICテストに向けて計画を立てる。（30分）

科目名	TOEIC IVB	担当者	太田 晴美	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	TOEIC受験の経験があり、TOEIC500点以上のスコアを持つ学生を対象とするクラスです。TOEIC受験対策に終始することなく、総合的英語運用能力の強化を図り、さらなるスコアアップをめざします。					
授業目的・到達目標	【授業目的】 演習を重ね、更なるスコア向上のための英語力を養成することを目的とします。 【到達目標】 就職や資格試験で有利となるTOEICテストにおいて、スコアを最低730点獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5, 6					
履修条件	TOEICテストを1回以上受験しオンライン・トレーニングを受講します。テスト受験料及びオンライン教材費は受講者負担になります。TOEIC2科目以上受講した場合には教材費がその分増えますのでご注意ください。					
授業方法	事前学習をしてきた内容に関して授業内で小テストやシャドーイングをしてもらいます。小テストは授業内で解説をし、シャドーイングはその場で教員が評価をします。グループワーク、ペアワークを中心に進めていきます。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		小テスト、毎週の課題、期末テスト、オンライン教材の達成度、TOEICテストスコア1回分を評価に入れます。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019年発行予定	朝日出版社		CNNニュースリスニング		CNN English Express
	2016年	IIBC		TOEICテスト公式問題集新形式問題対応編		IIBC
	備考	教員作成プリント				
参考書	適宜紹介する					
オフィスアワー	火曜日15：00～16：00 電話かメールでアポイントメントをお取りください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読む。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方・TOEICを受験する目的
	事後学習	今日の振り返り。 配布されたプリントを読む。（30分）
2	事前学習	教科書を購入し、配布されたプリントを読む。（30分）
	授業内容	TOEICテスト対策と学習法を学ぶ。 教科書の使用方法を知る（プリント配布）。 オンライン教材の実践方法を理解する。
	事後学習	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。（30分）
3	事前学習	プリントを使い、指定された範囲の課題を準備する。（30分）
	授業内容	Reading Partの概要と解き方を理解する。 Part 5 の解き方を学ぶ（プリント配布）。
	事後学習	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。（30分）
4	事前学習	配布プリントを使い、テストに備える。（30分）
	授業内容	CALL教室の使い方を知る。 Listening Partの概要と解き方を理解する。 音読・シャドーイングの方法について学ぶ（プリント配布）。
	事後学習	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。 オンライン教材を開始する。（30分）

5	事前学習	音読とシャドーイングテストの練習をする。 オンライン教材のクイズに備える。（30分）
	授業内容	Part 1 & 2の解き方とディクテーションの方法を学ぶ。 音読とシャドーイングの実践する。 文法プリント配布。
	事後学習	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。（30分）
6	事前学習	文法プリントを完成させる。 オンライン教材のクイズに備える。（30分）
	授業内容	Part 5 & 6 の解き方と学習法を学ぶ（プリント配布）。
	事後学習	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。（30分）
7	事前学習	文法プリントを完成させる。 オンライン教材のクイズに備える。（30分）
	授業内容	Part 7の解き方を学ぶ（プリント配布）。
	事後学習	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。（30分）
8	事前学習	課題の音読とシャドーイングの練習をする。 文法プリントを完成させる。 オンライン教材のクイズに備える。（30分）
	授業内容	Part 3 & 4 の解き方を学ぶ。 音読、シャドーイングの実践をする。
	事後学習	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。（30分）
9	事前学習	文法プリントを完成させる。 オンライン教材のクイズに備える。（30分）
	授業内容	Part 7 の解き方を学ぶ（プリント配布）。
	事後学習	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。（30分）
10	事前学習	文法プリントを完成させる。 オンライン教材のクイズに備える。（30分）
	授業内容	Reading Part全体を解ける方法を復習し、理解する。
	事後学習	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。（30分）
11	事前学習	文法プリントを完成させる。（30分）
	授業内容	Listening Part全体を解ける方法を復習し、理解する。
	事後学習	学習した内容を復習し、次週の課題を準備する。（30分）
12	事前学習	復習テストに備える。（30分）
	授業内容	復習テスト。解説を聞き間違った部分を確認する。 最終課題について理解する。
	事後学習	学習した内容を復習し、間違った箇所をもう一度解く。（30分）
13	事前学習	最終課題の準備をする。（30分）
	授業内容	最終課題の添削を受け、加筆修正をする。
	事後学習	学習した内容を復習し、音読の練習をする。次週の課題を準備する。（30分）
14	事前学習	最終課題の準備をしてくる。（30分）
	授業内容	最終課題のプレゼンテーション。
	事後学習	オンライン教材が完成しているかを確認する。（30分）
15	事前学習	最終シャドーイング課題の練習をする。（30分）
	授業内容	シャドーイング課題を実践する。
	事後学習	これまでの振り返り。音読の練習を続け、今後のTOEICテストに向けて計画を立てる。（30分）

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	アンソニー・トビン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	In this course students will learn the necessary vocabulary and phrases to engage in a wide variety of discussions.				
授業目的・到達目標	The purpose of this course is to expand students' vocabulary and to improve their speaking and listening skills. Students will get a wide range of vocabulary and language patterns which will help them communicate actively in a wide variety of situations. 関連DP／CP：5, 6				
履修条件	Open to all students.				
授業方法	In this course students will engage in group and whole class discussions.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	50%:short tests 50%: Participation and effort	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2012	Oxford		English File Pre-Intermediate Student's Book 3rd Edition	Latham-Koenig Oxenden
	備考				
参 考 書	An English dictionary.				
オフィス アワー	The teacher can be reached at tonymtobin@hotmail.com to arrange a consultation. Please ask questions after the class (Monday 3rd period) at classroom.				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Prepare self-introduction (30min)
	授業内容	Orientation
	事後学習	Read materials (30min)
2	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 1A Where are you from? Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
3	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 1B Charlotte's Choice Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
4	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 1C Mr and Mrs Clark and Percy Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)

5	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 2A Right place, wrong person Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
6	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 2B The story behind the photo Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit Revision for forthcoming test (30min)
7	事前学習	Read unit Revision for forthcoming test (30min)
	授業内容	Unit 2C One dark October evening Skills: English listening and discussion skills Short Test
	事後学習	Review unit (30min)
8	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 3A Plans and dreams Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
9	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 3B Let's meet again Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
10	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 3C What's the word? Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
11	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 4A Parents and teenagers Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
12	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 4B Fashion and shopping Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
13	事前学習	Read unit Revision for forthcoming test (30min)
	授業内容	Unit 4C Lost weekend Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
14	事前学習	Revise all units Revision for forthcoming test (30min)
	授業内容	End of term test Review
	事後学習	Revise all units (30min)
15	事前学習	Revise all units (30min)
	授業内容	Review 解説
	事後学習	Revise all units (30min)

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	P.カレンダー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	his course will improve your speaking and listening skills through practicing conversations and listening by native speakers in different situations. Then there is simple conversation practice, usually between two students.			
授業目的・到達目標	This course is designed to help students develop their communication skills in focusing on discussion and listening skills based on structured conversation and listening exercises. 関連DP／CP : 5, 6			
履修条件	This course is for first year students.			
授業方法	The 32 lessons have warmup talking, listening, pronunciation and free conversation practice.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	50% = two speaking tests of 25% each 25% = participation and effort 25% = active participation	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	Oxford University Press	Speak Now 2 ISBN 978-0-19-403016-8	Jack C. Richards, David Bohlke
	備考			
参考書	English learners dictionary or an electronic dictionary			
オフィスアワー	paulkallender@gmail.com. Attention Dr. Kallender. Contact if you are going to miss a lesson, or if you have missed a lesson. Explain why. Please ask questions after the class (Tuesday 3rd or 4th period) at classroom.			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please make sure to check you have your textbook in advance (30min)
	授業内容	Course outline, expectations, testing, attendance, etc. Unit 1: How are you?
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
2	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 2, 3 & 4: Nice to meet you / Can you say that again? / Nice weather isn't it?
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
3	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 5, 6 & 7: I love hip hop! / My favorite movie is... / What time is it?
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
4	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 8, 9 & 10: Would you like to try kayaking? / Do you have any brothers? / She's pretty smart.
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)

5	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 11, 12 & 13: I love your shirt! / What is she wearing? / When do you get up?
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
6	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 14, 15, & 16: When do you get there? / What do you do first? /What are you doing?
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
7	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Review exercises Units 1-4, 5-8, 9-12 and 13-16 swapping partners
	事後学習	Make a note of major mistakes made. (30min)
8	事前学習	Please review Units 1-16 before test (30min)
	授業内容	Mid-Term Test
	事後学習	Make a note of major mistakes made. (30min)
9	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 17, 18, & 19: What's your place like? / Where can I get a lamp? / Where is the mall?
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
10	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 20, 21, & 22: Take a left / How much is the coffee? / Will you take \$20?
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
11	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 23, 24, & 25: Do you ever buy books? / Your phone is so cool / Do you eat much fruit?
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
12	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 26, 27, & 28: We need onions / Do you eat a big lunch? / How does it taste?
	事後学習	Please make sure to complete all the exercises up to this point. (30min)
13	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 29, 30, & 31: I had a great weekend/ What time did you call?/ You won't believe this!
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
14	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Unit 32: What are your plans? Review exercises Units 17-20, 21-24, 25-28 and 29-32 swapping partners
	事後学習	Please make a note of mistakes(30min)
15	事前学習	Please review Units 17-32 before test (30min)
	授業内容	End-of-Term Test Review 解説
	事後学習	Please keep your textbook for follow-up (30min)

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	B. ダム	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This course will help students improve their communicative language skills, especially their listening comprehension and speaking ability.			
授業目的・到達目標	This course will focus on communicative speaking and listening skills. Students will practice and gain confidence in introducing themselves, asking for and giving personal information, and discussing various topics of interests. The focus of this course will be to improve the students English listening and speaking skills. 関連DP／CP : 5, 6			
履修条件	Good attendance (75% minimum), active participation, textbook.			
授業方法	Pair work, small group work, class discussions.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	Midterm and final speaking tests (50%), active participation in class (25%), homework (25%).	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018-2019	Macmillan Education	Breakthrough Plus 1, 2nd Edition	Miles Craven
	備考			
参考書	Textbook, notebook, dictionary, pens/pencils.			
オフィスアワー	Students can contact me at: bjdamm@yahoo.com Please ask questions after the class (Saturday 3rd period or 4th period) at classroom.			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Come to class well rested and ready to participate. (30min)
	授業内容	Instructor & course introduction
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
2	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Introducing yourself/ Personal information
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
3	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Daily life / A typical day
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
4	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson.
	授業内容	Free time
	事後学習	Reflection and review of lesson.

5	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Social activities you enjoy
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
6	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Hometowns: Our neighborhood
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
7	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Neighborhood facilities
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
8	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Directions & locations
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
9	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Directions & locations 2
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
10	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Shopping habits
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
11	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Shopping preferences
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
12	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Whats' happening?
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
13	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Review
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
14	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Speaking Test Review
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
15	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Speaking Test Review 解説
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)

科目名	Listening & Speaking I A(金曜5時限)	担当者	J. B. タロフスキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------------------	-----	--------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	In this course the main focus of study will be on the skills of listening and speaking and note taking .				
授業目的・到達目標	Goals : The purpose of this class is to increase the motivation of students to want to communicate in English by giving them something interesting to study and talk about in class By the end of this class students will be able to take notes in English while listening to a lecture in English and ask and answer questions about the content of the lecture. 関連D P / C P : 5, 6				
履修条件	Students should come to class with an open mind about how they can learn a language and be willing to work hard to achieve their own personal best.				
授業方法	Excerpts from classic American Western films serve as the basis of lectures and discussions				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	five to seven short tests account for 80% of the grade. Active, motivated and cooperative student participation counts for 20% of the grade.	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	There is no textbook for this class. Handouts are provided by the instructor.			
参 考 書	Students should be ready to use their smartphones to access the internet during class time.				
オフィス アワー	Questions about the content of lectures and discussions should be asked during class. Questions regrading attendance, grades or other personal matters should be asked after 17:50 on (M, W, F)				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	30 mins prep: Review the syllabus and course description. Introductions: the instructor, method, topic, class, syllabus, rules and grading
	授業内容	Introduction to The West: A time and place . How The West Was Won (1962), Land Rush from Cimarron (1931) . Placement test
	事後学習	30 mins HW: Reading: Boundaries of the American West Buy: A 40 page A4 size clear file notebook and put all handouts in it in a neat and organized fashion
2	事前学習	30 mins prep: Organize your notebooks and be ready to show them to the instructor.
	授業内容	Lecture on and excerpts from Cimarron (black and white hats) Pre-screening activity on Stagecoach (1939) : Taking notes about each character in the film , Screening Part One (00:00-21:00).
	事後学習	HW. Match each character to the description (30min)
3	事前学習	30 mins prep: Review homework to prepare for first quiz
	授業内容	Quiz #1 followed by questions and correction Lecture on Part One of Stagecoach: East Vs West Screening Part two of Stagecoach (21:00 - 50:00)
	事後学習	HW: Reading: John Ford (30min)
4	事前学習	30 min prep : Review homework reading
	授業内容	Lecture On Part Two of Stagecoach: Social Prejudice and Outcasts. Screening Part Three of Stagecoach (50:00-96:00)
	事後学習	HW: The Search for Redemption In John Ford' s Stagecoach (30min)

5	事前学習	30 min prep: Get ready for Quiz by reviewing all notes
	授業内容	Quiz #2 followed by questions and correction Lecture on Part Three of Stagecoach :
	事後学習	HW : Reading : Wagon Trains (30min)
6	事前学習	30 min prep review homework reading
	授業内容	Lecture : Wagons West! Excerpts from A Bend In The River (1952) and Wagon Master (1950)
	事後学習	HW : Cattle Culture and Cattle Drives (30min)
7	事前学習	30 min prep: Get ready for Quiz by reviewing all notes
	授業内容	Quiz #3 followed by questions and correction Introduction to Howard Hawk' s Red River (1947) Screening Part One of Red River (1:00-36:00).
	事後学習	HW: Reading : Cattle Drives and Cowboys
8	事前学習	30 minuet prep: Find at least five different images of cowboys on line and print them out for your notes.
	授業内容	Lecture on Part One of Red River : Cowboys, Ranchers and the Brand Screening Part Two of Red River (33:00-83:00)
	事後学習	HW : Reading : Cowboys : The Clothes They Wore, The Food They Ate and What They Drank (30min)
9	事前学習	30 min prep: Review reading
	授業内容	Lecture on Part Two of Red River: "I am the Law" Screening Part Three of Red River (81:00-133:00)
	事後学習	HW. Reading : John Wayne
10	事前学習	30 min prep: Get ready for Quiz by reviewing all notes
	授業内容	Quiz #4 followed by questions and correction Lecture on part Three of Red River : Viewing between the lines:
	事後学習	HW. Reading: Homo-eroticism in the West and Westerns. (30min)
11	事前学習	30 min prep: Review reading
	授業内容	Lecture on Gunfighters: excerpts from The Left Handed Gun (1958) and The Gunfighter (1950).
	事後学習	HW Reading : Legends; Billy the kid and Johnny Ringo (30min)
12	事前学習	30 min prep: Get ready for Quiz by reviewing all notes
	授業内容	Quiz #5 followed by questions and correction Introduction to Shane and the range wars(1953) Screening Part One Shane
	事後学習	HW : Reading ; The Range Wars (30min)
13	事前学習	30 min prep: review reading
	授業内容	Lecture on Part One of Shane : through a Child' s Eyes Screening Part Two of Shane (1953).
	事後学習	HW: Reading : The Old vs The New
14	事前学習	30 min prep: review reading
	授業内容	Lecture on Part Two of Shane : "You in the right!" Screening Part Three of Shane (1953)
	事後学習	HW: Shane' s Search for Redemption (30min)
15	事前学習	30 min prep: Get ready for Quiz by reviewing all notes
	授業内容	Quiz #6 followed by questions and correction. Lecture on Part Three of Shane : A man and his shadow. 解説
	事後学習	Review (30min)

科目名	Listening & Speaking I A(月曜5時限・水曜5時限)	担当者	J. B. タロフスキー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------------------------	-----	--------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	In this course the main focus of study will be on the skills of listening and speaking and note taking .				
授業目的・到達目標	Goals : The purpose of this class is to increase the motivation of students to want to communicate in English by giving them something interesting to study and talk about in class By the end of this class students will be able to take notes in English while listening to a lecture in English and ask and answer questions about the content of the lecture. 関連D P / C P : 5, 6				
履修条件	Students should come to class with an open mind about how they can learn a language and be willing to work hard to achieve their own personal best.				
授業方法	Excerpts from classic American Western films serve as the basis of lectures and discussions				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	five to seven short tests account for 80% of the grade. Active, motivated and cooperative student participation counts for 20% of the grade.	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	There is no textbook for this class. Handouts are provided by the instructor.			
参 考 書	Students should be ready to use their smartphones to access the internet during class time.				
オフィスアワー	Questions about the content of lectures and discussions should be asked during class. Questions regrading attendance, grades or other personal matters should be asked after 17:50 on (M, W, F)				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	30 mins prep: Review the syllabus and course description. Introductions: the instructor, method, topic, class, syllabus, rules and grading
	授業内容	Introduction to The West: A time and place . How The West Was Won (1962), Land Rush from Cimarron (1931) . Placement test
	事後学習	30 mins HW: Reading: Boundaries of the American West Buy: A 40 page A4 size clear file notebook and put all handouts in it in a neat and organized fashion
2	事前学習	30 mins prep: Organize your notebooks and be ready to show them to the instructor.
	授業内容	Lecture on and excerpts from Cimarron (black and white hats) Pre-screening activity on Stagecoach (1939) : Taking notes about each character in the film , Screening Part One (00:00-21:00).
	事後学習	HW. Match each character to the description (30min)
3	事前学習	30 mins prep: Review homework to prepare for first quiz
	授業内容	Quiz #1 followed by questions and correction Lecture on Part One of Stagecoach: East Vs West Screening Part two of Stagecoach (21:00 - 50:00)
	事後学習	HW: Reading: John Ford (30min)
4	事前学習	30 min prep : Review homework reading
	授業内容	Lecture On Part Two of Stagecoach: Social Prejudice and Outcasts. Screening Part Three of Stagecoach (50:00-96:00)
	事後学習	HW: The Search for Redemption In John Ford' s Stagecoach (30min)

5	事前学習	30 min prep: Get ready for Quiz by reviewing all notes
	授業内容	Quiz #2 followed by questions and correction Lecture on Part Three of Stagecoach :
	事後学習	HW : Reading : Wagon Trains (30min)
6	事前学習	30 min prep review homework reading
	授業内容	Lecture : Wagons West! Excerpts from A Bend In The River (1952) and Wagon Master (1950)
	事後学習	HW : Cattle Culture and Cattle Drives (30min)
7	事前学習	30 min prep: Get ready for Quiz by reviewing all notes
	授業内容	Quiz #3 followed by questions and correction Introduction to Howard Hawk' s Red River (1947) Screening Part One of Red River (1:00-36:00).
	事後学習	HW: Reading : Cattle Drives and Cowboys (30min)
8	事前学習	30 minuet prep: Find at least five different images of cowboys on line and print them out for your notes.
	授業内容	Lecture on Part One of Red River : Cowboys, Ranchers and the Brand Screening Part Two of Red River (33:00-83:00)
	事後学習	HW : Reading : Cowboys : The Clothes They Wore, The Food They Ate and What They Drank (30min)
9	事前学習	30 min prep: Review reading
	授業内容	Lecture on Part Two of Red River: "I am the Law" Screening Part Three of Red River (81:00-133:00)
	事後学習	HW. Reading : John Wayne (30min)
10	事前学習	30 min prep: Get ready for Quiz by reviewing all notes
	授業内容	Quiz #4 followed by questions and correction Lecture on part Three of Red River : Viewing between the lines:
	事後学習	HW. Reading: Homo-eroticism in the West and Westerns. (30min)
11	事前学習	30 min prep: Review reading
	授業内容	Lecture on Gunfighters: excerpts from The Left Handed Gun (1958) and The Gunfighter (1950).
	事後学習	HW Reading : Legends; Billy the kid and Johnny Ringo (30min)
12	事前学習	30 min prep: Get ready for Quiz by reviewing all notes
	授業内容	Quiz #5 followed by questions and correction Introduction to Shane and the range wars(1953) Screening Part One Shane
	事後学習	HW : Reading ; The Range Wars (30min)
13	事前学習	30 min prep: review reading
	授業内容	Lecture on Part One of Shane : through a Child' s Eyes Screening Part Two of Shane (1953).
	事後学習	HW: Reading : The Old vs The New (30min)
14	事前学習	30 min prep: review reading
	授業内容	Lecture on Part Two of Shane : "You in the right!" Screening Part Three of Shane (1953)
	事後学習	HW: Shane' s Search for Redemption (30min)
15	事前学習	30 min prep: Get ready for Quiz by reviewing all notes
	授業内容	Quiz #6 followed by questions and correction. Lecture on Part Three of Shane : A man and his shadow. 解説
	事後学習	Review (30min)

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	You will improve your listening and speaking skills through English-language discussion with your teacher and classmates. You will read and think about English texts.				
授業目的・到達目標	To learn about East Asia in Japanese history and multicultural stories from modern Japan through listeningto, reading and discussing English texts. To be more confident and skilled in understanding and speaking English. You will learn about important events in Japanese history. You will listen to and read English texts. You will discuss those texts, in English, with your teacher and your classmates.関連DP及びCP：外国語科目領域5, 6				
履修条件	None				
授業方法	Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	Assessment and reflection 20%. Final test 30%. Participation 30%. Weekly vocabulary tests 20%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	DTP出版		前期 「An International History of Japan I」	Thomas Lockley
	備考				
参 考 書	なし				
オフィスアワー	Please email me at joe.geluso@gmail.com Office hours are after class in classroom.				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Prepare for course (90 minutes)
	授業内容	Course introduction and expectations. Learning language through content. All learning is language learning.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
2	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Ancient international Japan: The Jomon and Yayoi peoples and immigration to Japan. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
3	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Japan Towns: Influence of Japan across Asia and the world. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
4	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Yasuke: The African samurai Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)

5	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	The Tensho Embassy and outreach to foreign countries. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
6	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	William Adams: The first Englishman to arrive to Japan Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
7	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	International Nagasaki: The Portuguese bring much to Japan. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
8	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Yamada Nagamasa: Merchant, diplomat, and pirate. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
9	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Tagawa Matsu: The powerful woman behind two powerful men in Japanese history. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
10	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	The Japanese families of European Merchants Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
11	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Korean Embassies to Tokugawa Japan Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
12	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Zhu Shun-sui: Scholar, diplomat and refugee. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
13	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Waegwan: Influential trade partners in ancient Japan. Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
14	事前学習	Prepare for vocabulary test (20 minutes)
	授業内容	Revision: Using revision guide to update lesson content
	事後学習	Continue revisions (60 minutes)
15	事前学習	Prep for midterm (120 minutes)
	授業内容	Test: Midterm exam covering semester's content
	事後学習	Reflect on semester (students can decide how much time to invest in this)

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	セトグチ・エリック	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Developing English communication skills			
授業目的・到達目標	The aim of the class is to prepare students for English language academic environments. Students will participate in class activities to raise their awareness about select topics, such as current social and global issues, while developing language abilities to complete tasks commonly required of students in international settings.			
履修条件	関連DP／CP：外国語科目領域5, 6 なし。			
授業方法	Group work conducted in or mostly in English, class discussions, and projects.			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	Classwork 50% Projects/Assignments 25% Oral Communication Test 25%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	-	Instructor provided materials	Setoguchi, E
	備考			
参 考 書	なし			
オフィスアワー	火曜16：10～授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction Class questionnaire Practice activity
	事後学習	Be ready to study English. (30min)
2	事前学習	Discuss results of questionnaire (30min)
	授業内容	Unit 1A Family and Society 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
3	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 1B Family and Society 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
4	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 2A Community 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)

5	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 2B Community 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
6	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 3A Travel 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
7	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 3B Travel 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
8	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 4A Health 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
9	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 4B Health 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
10	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 5A The Environment 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
11	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 5B The Environment 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
12	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 6A Advertising 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
13	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 6B Advertising 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
14	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Final Project Introduction
	事後学習	Recap and Review. (30min)
15	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Test and review. 解説
	事後学習	Recap and Review. (30min)

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	A.チャーンサイド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This class is designed to give students maximum opportunity to both acquire and practice English speaking and listening skills. All students will speak and listen to English in every class.			
授業目的・到達目標	The principal learning objective of this class is the acquisition of English skills enough to allow successful communication with non-Japanese. Student will be able get to think critically and logically, to face new challenges without giving up, to work efficiently as part of a group, and to reflect on one's own strengths and weaknesses. 関連DP／CP：外国語科目領域5，6			
履修条件	University streaming system dictates who is able to take this class			
授業方法	Class will be based on active learning principles with working in pairs or groups.			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	Individual speaking test and whole-class listening test, each contributing half of final test 10% total Continuous assessment: Active participation 30%, Quizzes 30%, Vocabulary development project 15%, Homework 15%
教科書	年	出版社	書名	著者名
		EFL Press	Topic Talk Second Edition	David Martin
	備考			
参考書	No reference books			
オフィスアワー	Wednesday 10:30 - 16:20 Classroom to be decided			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Prepare to introduce yourself in English. Prepare possible questions to ask teacher about himself (30min)
	授業内容	Getting to know each other. Self-introductions. Interrogation of teacher. Explanation of yes/no questions
	事後学習	Review grammar rules of yes/no questions (30min)
2	事前学習	Prepare at least 20 yes/no questions to ask teacher (30min)
	授業内容	Yes/no question activity. Explanation of wh questions
	事後学習	Review grammar rules of wh questions. Read General Service List 1-970 (30min)
3	事前学習	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 1, Family. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice
	事後学習	Review Family vocabulary and question structures. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
4	事前学習	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 20 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 1, Family listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.
	事後学習	Review structure of newly created questions. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)

5	事前学習	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 30 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 2, Food. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice
	事後学習	Review Food vocabulary and question structures. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
6	事前学習	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 40 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 2, Food listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.
	事後学習	Review structure of newly created questions. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
7	事前学習	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 50 words. Prepare for vocabulary test GSL 1-500. Prepare for Topics 1 and 2 test. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 1, GSL 1-500. Topics 1 and 2 test
	事後学習	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
8	事前学習	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 60 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 3, Time. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice
	事後学習	Review Time vocabulary and question structures. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
9	事前学習	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 70 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 3, Time listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.
	事後学習	Review structure of newly created questions. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
10	事前学習	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 80 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 4, House and Home. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice
	事後学習	Review House and Home vocabulary and question structures. (30min)
11	事前学習	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 90 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 4 House and Home listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.
	事後学習	Review structure of newly created questions. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
12	事前学習	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 100 words. Prepare for vocabulary test GSL 1-500. Prepare for Topics 3 and 4 test (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 2, GSL 501-970. Topics 3 and 4 test
	事後学習	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
13	事前学習	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 110 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook Topic 5 Music, mixed-up questions, sample answers, listening activity, conversation practice
	事後学習	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Think of a good topic (not one in text book) (30min)
14	事前学習	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 120 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. In groups select a new topic. Make five topic -related questions. Write on board. Teacher checks .Make five more questions. Write on board. Teacher checks. Practice conversation.
	事後学習	Review structure of new questions and reflect on mistakes made. Make sure vocabulary notebooks are up to date. (30min)
15	事前学習	Review all semester work to prepare for listening and speaking tests (30min)
	授業内容	Whole class listening test. Individual speaking tests, Submission of new vocabulary notebooks. 解説
	事後学習	Review semesters work and prepare a summer break study plan. (30min)

科目名	Listening & Speaking I A	担当者	J. ウッド	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Improving English listening and speaking skills.				
授業目的・到達目標	We will practice speaking, listening, reading and writing English, with the focus on improving speaking and listening abilities. Students must try their best to speak English in class with the teacher and with each other. Students will be able to understand English better and communicate their thoughts and feelings better in English. 関連DP／CP : 5, 6				
履修条件	No conditions. If too many students apply, 4th-year students will have priority.				
授業方法	We will focus on speaking and listening to English in this class.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	Evaluation will be classwork 75% and speaking/listening test 25%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
		Oxford UP		American Headway Starter Second Edition	Liz&John Soars
	備考				
参考書	None				
オフィスアワー	Friday, 12:10-13:00 at classroom				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction
	事後学習	Be ready to study English. (30min)
2	事前学習	Be ready to study English. (30min)
	授業内容	Unit 1, Hello! Meeting and greeting people.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
3	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 2A, Countries. Talking about different countries in the world.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
4	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 2B, Numbers. Learning about numbers and how to use them.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)

5	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 3A, Ourselves. Talking about ourselves and who we are.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
6	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 3B, Jobs. Different kinds of work that people do.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
7	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 4A, Family. The people in our families and how we feel about them.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
8	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 4B, Friends. The people we like to spend time with, beside our families.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
9	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 5A, Activities. Things we like to do in our spare time.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
10	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 5B, Money. Using money to buy things.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
11	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 6A, Time. Expressions of time and when we do things during the day.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
12	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 6B, Daily Actions. What we do every day.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
13	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 7A, Describing Things. Talking about how things look and act.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
14	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 7B, Abilities. Things we can and cannot do.
	事後学習	Study for test. (30min)
15	事前学習	Study for test. (30min)
	授業内容	Test and review. 解説
	事後学習	Review (30min)

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	アンソニー・トビン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	In this course students will learn the necessary vocabulary and phrases to engage in a wide variety of discussions.				
授業目的・到達目標	The purpose of this course is to expand students' vocabulary and to improve their speaking and listening skills. Students will get a wide range of vocabulary and language patterns which will help them communicate actively in a wide variety of situations. 関連DP／CP：5, 6				
履修条件	Open to all students.				
授業方法	In this course students will engage in group and whole class discussions.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	50%:short tests 50%:Participation and effort	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2012	Oxford		English File Pre-Intermediate Student's Book 3rd Edition	Latham-Koenig Oxenden
	備考				
参 考 書	An English dictionary.				
オフィス アワー	The teacher can be reached at tonymtobin@hotmail.com to arrange a consultation. Please ask questions after the class (Monday 3rd period) at classroom.				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 5A No time for anything Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
2	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 5B Superlative cities Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
3	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 5C How much is too much? Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
4	事前学習	Read unit(30min)
	授業内容	Unit 6A Are you pessimist? Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)

5	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 6B I'll never forget you Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit Revision for forthcoming test (30min)
6	事前学習	Read unit Revision for forthcoming test(30min)
	授業内容	Unit 6C The meaning of dreaming Skills: English listening and discussion skills Short test
	事後学習	Review unit (30min)
7	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 7A How to... Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
8	事前学習	Read unit(30min)
	授業内容	Unit 7B Being happy Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
9	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 7C Learn a language in a month! Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
10	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 7C Learn a language in a month! Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
11	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 8B If something can go wrong... Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
12	事前学習	Read unit (30min)
	授業内容	Unit 8C You must be mine Skills: English listening and discussion skills
	事後学習	Review unit (30min)
13	事前学習	Revise all units (30min)
	授業内容	Review
	事後学習	Revise all units Revision for forthcoming test (30min)
14	事前学習	Revise all units (30min)
	授業内容	End of term test (30min) Review
	事後学習	Revise all units
15	事前学習	Revise all units (30min)
	授業内容	Review 解説
	事後学習	Revise all units (30min)

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	P.カレンダー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This course will improve your speaking and listening skills through practicing conversations and listening by native speakers in different situations. Then there is simple conversation practice, usually between two students.			
授業目的・到達目標	This course is designed to help students develop their communication skills in focusing on discussion and listening skills based on structured conversation and listening exercises. 関連DP／CP : 5, 6			
履修条件	This course is designed for first year students			
授業方法	The 32 lessons have warmup talking, listening, pronunciation and free conversation practice.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	50% = two speaking tests of 25% each 25% = participation and effort 25% = active participation	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	Oxford University Press	Speak Now 2 ISBN 978-0-19-403016-8	Jack C. Richards, David Bohlke
	備考			
参考書	A dictionary or a Smartphone with a dictionary app.			
オフィスアワー	paulkallender@gmail.com. Attention Dr. Kallender. Contact if you are going to miss a lesson, or if you have missed a lesson. Explain why. Please ask questions after the class (Tuesday 3rd or 4th period) at classroom.			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please make sure to check you have your textbook in advance (30min)
	授業内容	Course outline, expectations, testing, attendance, etc. Unit 1: Where are you from?
	事後学習	Not required, but please make sure to read the first lesson before the next lesson (30min)
2	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson(30min)
	授業内容	Units 2, 3 & 4: I' m tall and thin / Alice is more serious / All of my friends text
	事後学習	Please review your exercises (30min)
3	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson(30min)
	授業内容	Units 5, 6 & 7: I' ve never had Thai food / First grill the bread / The service is great
	事後学習	Please review your exercises (30min)
4	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson(30min)
	授業内容	Units 8, 9 & 10: Are you ready to order? / I have a sore throat / What should I do?
	事後学習	Please review your exercises (30min)

5	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson(30min)
	授業内容	Units 11, 12 & 13: I' d love to try that / Soccer is more exciting! / I can write poetry pretty well
	事後学習	Please review your exercises (30min)
6	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson(30min)
	授業内容	Units 14, 15, & 16: I' d have to have... / I travel for free/ Is the manager there?
	事後学習	Please review your exercises (30min)
7	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson(30min)
	授業内容	Review exercises Units 1-4, 5-8, 9-12 and 13-16 swapping partners
	事後学習	Please practice your weak points, make a note of major mistakes made(30min)
8	事前学習	Please review Units 1-16 before test (30min)
	授業内容	Mid-Term Test
	事後学習	Make a note of major mistakes made(30min)
9	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson(30min)
	授業内容	Units 17, 18, & 19: That sounds fun! / I' d love to go / I' m sorry but I can' t
	事後学習	Please review your exercises (30min)
10	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson(30min)
	授業内容	Units 20, 21, & 22: I' m sorry I' m late / Did you go alone? / Which do you prefer?
	事後学習	Please review your exercises (30min)
11	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson(30min)
	授業内容	Units 23, 24, & 25: You must get a visa / When is the next train? / I usually wear...
	事後学習	Please review your exercises (30min)
12	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson(30min)
	授業内容	Units 26, 27, & 28: What do you think?/ Can you do me a favor? / What is it used for?
	事後学習	Please review your exercises (30min)
13	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson(30min)
	授業内容	Units 29, 30, & 31: I think it' s fun!/ I feel the same way/ What would you do?
	事後学習	Please review your exercises (30min)
14	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson(30min)
	授業内容	Unit 32: Then what happened? Review exercises Units 17-20, 21-24, 25-28 and 29-32 swapping partners
	事後学習	Please make a note of mistakes and weaknesses(30min)
15	事前学習	Please review Units 17-32 before test (30min)
	授業内容	Test and Review 解説
	事後学習	Keep your textbook for the future (30min)

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	B. ダム	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This course will help students improve their communicative abilities, especially their listening comprehension and speaking ability.			
授業目的・到達目標	This course will focus on communicative speaking and listening skills. Students will practice and gain confidence in introducing themselves, asking for and giving personal information, and discussing various topics of interestsThe focus of this course will be to improve the students English listening and speaking skills. 関連DP／CP : 5, 6			
履修条件	Good attendance (75% minimum), active participation, textbook.			
授業方法	Pair work, small group work, class discussions.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	Midterm and final speaking tests (50%) Active participation in class (25%), homework (25%).	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018-2019	Macmillan Education	Breakthrough Plus 1, 2nd Edition.	Miles Craven
	備考			
参考書	Textbook, notebook, dictionary, pens/pencils.			
オフィスアワー	Students can contact me at: bjdamm@yahoo.com Please ask questions after the class (Saturday 3rd period, 4th period) at classroom.			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Come to class well rested and ready to participate. (30min)
	授業内容	House hold chores and everyday tasks
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
2	事前学習	Completion of homework and review of lesson. (30min)
	授業内容	Talking about what's happening in your life
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
3	事前学習	Completion of homework and review of lesson. (30min)
	授業内容	Describing people
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
4	事前学習	Completion of homework and review of lesson. (30min)
	授業内容	Future arrangements
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)

5	事前学習	Completion of homework and review of lesson. (30min)
	授業内容	Life stories
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
6	事前学習	Completion of homework and review of lesson. (30min)
	授業内容	Describing people
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
7	事前学習	Completion of homework and review of lesson. (30min)
	授業内容	Making future arrangements
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
8	事前学習	Completion of homework and review of lesson. (30min)
	授業内容	Talking about hopes and dreams
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
9	事前学習	Completion of homework and review of lesson. (30min)
	授業内容	English through movies
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
10	事前学習	Completion of homework and review of lesson. (30min)
	授業内容	Talking about after graduation
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
11	事前学習	Completion of homework and review of lesson. (30min)
	授業内容	Holidays around the world
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
12	事前学習	Completion of homework and review of lesson. (30min)
	授業内容	Sophie's Dilemma
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
13	事前学習	Completion of homework and review of lesson. (30min)
	授業内容	Review
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
14	事前学習	Completion of homework and review of lesson. (30min)
	授業内容	Speaking Test Review
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
15	事前学習	Completion of homework and review of lesson. (30min)
	授業内容	Speaking Test Review 解説
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)

科目名	Listening & Speaking I B(金曜5時限)	担当者	J. B. タロフスキー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------------------	-----	--------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	In this course the main focus of study will be on the skills of listening and speaking and note taking .				
授業目的・到達目標	Goals : The purpose of this class is to increase the motivation of students to want to communicate in English by giving them something interesting to study and talk about in class By the end of this class students will be able to take notes in English while listening to a lecture in English and ask and answer questions about the content of the lecture. 関連D P / C P : 5, 6				
履修条件	Students should come to class with an open mind about how they can learn a language and be willing to work hard to achieve their own personal best.				
授業方法	Excerpts from classic American Western films serve as the basis of lectures and discussions				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	five to seven short tests account for 80% of the grade. Active, motivated and cooperative student participation counts for 20% of the grade.	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	There is no textbook for this class. Handouts are provided by the instructor.			
参 考 書	Students should be ready to use their smartphones to access the internet during class time.				
オフィスアワー	Questions about the content of lectures and discussions should be asked during class. Questions regrading attendance, grades or other personal matters should be asked after 17:50 on (M, W, F)				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	30 min prep: Review Syllabus for the Fall semester
	授業内容	Lecture : The Lawless Lawman: Little Bill Dagget in Unforgiven (1992), Judge Bean in The Westerner (1940) and Pop in One Eyed Jacks (1960)
	事後学習	HW Reading : Lawmen of the Old West (30min)
2	事前学習	30 min prep: Review Reading
	授業内容	Introduction to and Screening Part 1 of The Man Who Shot Liberty Valance (1962)
	事後学習	HW Reading : Aging Icons (30min)
3	事前学習	30 min prep: Review notes to get ready for Quiz
	授業内容	Quiz #1 questions and correction Lecture on Part One of The Man Who Shot Liberty Valance : Law Vs Lawlessness Screening Part two of The Man Who Shot Liberty Valance (1962)
	事後学習	HW Reading: Going to school with Ransom Stoddard. (30min)
4	事前学習	30 min prep: Review Reading
	授業内容	Lecture on Part two of The Man Who Shot Liberty Valance. Screening Part 3 of The Man Who Shot Liberty Valance (1962)
	事後学習	HW Reading: Why Did the Western Change? (30min)

5	事前学習	30 min prep: Review notes to get ready for Quiz
	授業内容	Quiz #2 questions and correction Lecture on Part Three of The Man Who Shot Liberty Valance .
	事後学習	HW: Reading; Recapitulating The Western (30min)
6	事前学習	30 min prep: Review reading
	授業内容	Screening High Noon (1952)
	事後学習	HW Reading: The Western Code of Honor (30min)
7	事前学習	30 min prep: Review reading
	授業内容	Lecture on High Noon : When Symbolism Becomes Empty
	事後学習	HW Reading : The Hollywood Witch Hunts (30min)
8	事前学習	30 min prep: Review notes to get ready for Quiz
	授業内容	Quiz #3 questions and correction Lecture: Early images of the American Indian: Excerpts from Stagecoach and Drums Along the Mohawk (1939).
	事後学習	HW Reading: Early Images of the American Indian (30min)
9	事前学習	30 min prep: review reading
	授業内容	Lecture: The Evolving Image ; From torturer and rapist to noble savage . Excerpts from She Wore A Yellow Ribbon (1949), Winchester ' 73 (1950), Broken Arrow (1950)
	事後学習	HW Reading: Weapons and Warriors (30min)
10	事前学習	30 min prep: Review Reading
	授業内容	Lecture: The Transformation of John Ford: excerpts from The Searchers (1956) and Cheyenne Autumn (1964).
	事後学習	HW Reading; The Genre Fades (30min)
11	事前学習	30 min prep: Review notes to get ready for Quiz
	授業内容	Quiz #4 questions and correction Lecture: The Genre fades: John Wayne' s farewell; The Shootist , Sam Peckinpah' s Ride the High Country as farewell to the Western hero
	事後学習	HW Reading : The Revisionist Western (30min)
12	事前学習	30 min prep : Review Reading
	授業内容	Lecture: Laughter in the face of Evil; Excerpts from Little Big Man (1970).
	事後学習	HW Screening : Watch Akira Kurosawa' s Seven Samurai (1954) and answer questions on worksheet. (30min)
13	事前学習	30 min prep: Review worksheets and notes to get ready for Quiz.
	授業内容	Quiz #5 questions and correction Lecture: The Japanese Gidai Geki and the Renewal of the Western: John Sturges' Magnificent Seven.
	事後学習	HW Screening : Watch Akira Kurosawa' s Yojimbo (1961), answer questions on worksheet. (30min)
14	事前学習	30 min prep: Review worksheets and notes to get ready for Quiz.
	授業内容	Quiz #6 questions and correction Lecture: Sergio Leone' s “Dollar Trilogy” ; excerpts from A Fistful or Dollars (1964) and For A Few Dollars More (1965).
	事後学習	HW Reading: Putting it all together (30min)
15	事前学習	30 minute prep ; Review Reading
	授業内容	The Third part of the Trilogy: The Good The Bad and The Ugly (1966). 解説
	事後学習	Review (30min)

科目名	Listening & Speaking I B(月曜5時限・水曜5時限)	担当者	J. B. タロフスキー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------------------------	-----	--------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	In this course the main focus of study will be on the skills of listening and speaking and note taking .				
授業目的・到達目標	Goals : The purpose of this class is to increase the motivation of students to want to communicate in English by giving them something interesting to study and talk about in class By the end of this class students will be able to take notes in English while listening to a lecture in English and ask and answer questions about the content of the lecture. 関連D P / C P : 5, 6				
履修条件	Students should come to class with an open mind about how they can learn a language and be willing to work hard to achieve their own personal best.				
授業方法	Excerpts from classic American Western films serve as the basis of lectures and discussions				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	five to seven short tests account for 80% of the grade. Active, motivated and cooperative student participation counts for 20% of the grade.	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	There is no textbook for this class. Handouts are provided by the instructor.			
参 考 書	Students should be ready to use their smartphones to access the internet during class time.				
オフィスアワー	Questions about the content of lectures and discussions should be asked during class. Questions regrading attendance, grades or other personal matters should be asked after 17:50 on (M, W, F)				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	30 min prep: Review Syllabus for the Fall semester
	授業内容	Lecture : The Lawless Lawman: Little Bill Dagget in Unforgiven (1992), Judge Bean in The Westerner (1940) and Pop in One Eyed Jacks (1960)
	事後学習	HW Reading : Lawmen of the Old West (30min)
2	事前学習	30 min prep: Review Reading
	授業内容	Introduction to and Screening Part 1 of The Man Who Shot Liberty Valance (1962)
	事後学習	HW Reading : Aging Icons (30min)
3	事前学習	30 min prep: Review notes to get ready for Quiz
	授業内容	Quiz #1 questions and correction Lecture on Part One of The Man Who Shot Liberty Valance : Law Vs Lawlessness Screening Part two of The Man Who Shot Liberty Valance (1962)
	事後学習	HW Reading: Going to school with Ransom Stoddard. (30min)
4	事前学習	30 min prep: Review Reading
	授業内容	Lecture on Part two of The Man Who Shot Liberty Valance. Screening Part 3 of The Man Who Shot Liberty Valance (1962)
	事後学習	HW Reading: Why Did the Western Change? (30min)

5	事前学習	30 min prep: Review notes to get ready for Quiz
	授業内容	Quiz #2 questions and correction Lecture on Part Three of The Man Who Shot Liberty Valance .
	事後学習	HW: Reading; Recapitulating The Western (30min)
6	事前学習	30 min prep: Review reading
	授業内容	Screening High Noon (1952)
	事後学習	HW Reading: The Western Code of Honor (30min)
7	事前学習	30 min prep: Review reading
	授業内容	Lecture on High Noon : When Symbolism Becomes Empty
	事後学習	HW Reading : The Hollywood Witch Hunts (30min)
8	事前学習	30 min prep: Review notes to get ready for Quiz
	授業内容	Quiz #3 questions and correction Lecture: Early images of the American Indian: Excerpts from Stagecoach and Drums Along the Mohawk (1939).
	事後学習	HW Reading: Early Images of the American Indian (30min)
9	事前学習	30 min prep: review reading
	授業内容	Lecture: The Evolving Image ; From torturer and rapist to noble savage . Excerpts from She Wore A Yellow Ribbon (1949), Winchester ' 73 (1950), Broken Arrow (1950)
	事後学習	HW Reading: Weapons and Warriors (30min)
10	事前学習	30 min prep: Review Reading
	授業内容	Lecture: The Transformation of John Ford: excerpts from The Searchers (1956) and Cheyenne Autumn (1964).
	事後学習	HW Reading; The Genre Fades (30min)
11	事前学習	30 min prep: Review notes to get ready for Quiz
	授業内容	Quiz #4 questions and correction Lecture: The Genre fades: John Wayne' s farewell; The Shootist , Sam Peckinpah' s Ride the High Country as farewell to the Western hero
	事後学習	HW Reading : The Revisionist Western (30min)
12	事前学習	30 min prep : Review Reading
	授業内容	Lecture: Laughter in the face of Evil; Excerpts from Little Big Man (1970).
	事後学習	HW Screening : Watch Akira Kurosawa' s Seven Samurai (1954) and answer questions on worksheet. (30min)
13	事前学習	30 min prep: Review worksheets and notes to get ready for Quiz.
	授業内容	Quiz #5 questions and correction Lecture: The Japanese Gidai Geki and the Renewal of the Western: John Sturges' Magnificent Seven.
	事後学習	HW Screening : Watch Akira Kurosawa' s Yojimbo (1961), answer questions on worksheet. (30min)
14	事前学習	30 min prep: Review worksheets and notes to get ready for Quiz.
	授業内容	Quiz #6 questions and correction Lecture: Sergio Leone' s “Dollar Trilogy” ; excerpts from A Fistful or Dollars (1964) and For A Few Dollars More (1965).
	事後学習	HW Reading: Putting it all together (30min)
15	事前学習	30 minute prep ; Review Reading
	授業内容	The Third part of the Trilogy: The Good The Bad and The Ugly (1966). 解説
	事後学習	Review (30min)

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	You will improve your listening and speaking skills through English-language discussion with your teacher and classmates. You will read and think about English texts.				
授業目的・到達目標	To learn about East Asia in Japanese history and multicultural stories from modern Japan through listening to, reading and discussing English texts. To be more confident and skilled in understanding and speaking English. You will learn about important events in Japanese history. You will listen to and read English texts. You will discuss those texts, in English, with your teacher and your classmates.関連DP及びCP：外国語科目領域5, 6				
履修条件	None				
授業方法	Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	Assessment and reflection 20%. Final test 30%. Participation 30%. Weekly vocabulary tests 20%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2017	DTP出版	前期 「An International History of Japan II」		Thomas Lockley
	備考				
参考書	なし				
オフィスアワー	Please email me at joe.geluso@gmail.com Office hours are after class in classroom.				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Prepare for new semester (60 minutes)
	授業内容	Thomas Glover: Scottish Business man who arrives to Japan Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
2	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	The Choshu Five: Group of Japanese who went abroad to learn more to benefit Japan Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
3	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Nagasawa Kanaye: Going abroad to learn more. Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
4	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	The Iwakura Embassy: A Japanese diplomatic journey Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)

5	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	The Bonin Islands Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
6	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Tsuda Umeko: A young diplomat Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
7	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Karayukisan Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
8	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Sun Yat-san and Japan: Coming to Japan to learn Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
9	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Japanese Emigration in the 20th Century Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
10	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Early 20th Century Immigration to Japan Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
11	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Noguchi Hideo: A doctor, scientist, and researcher Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
12	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	Sugihara Chiune: Jewish people in Japan Skills: Listening, reading, writing, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 minutes)
13	事前学習	Prepare for vocabulary test. (20 minutes)
	授業内容	International Spread of Japanese Culture Skills: Reading, writing, listening, and speaking
	事後学習	Learn new vocabulary. (30 min)
14	事前学習	Review textbook for areas for revisions (60 minutes)
	授業内容	Revision: Using revision guide to update lesson content
	事後学習	Continue revisions (60 minutes)
15	事前学習	Prepare for final exam (120 minutes)
	授業内容	Test: Final exam covering semester's content
	事後学習	Reflect on semester (Students are free to choose how much time to put into this)

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	セトグチ・エリック	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Developing English communication skills			
授業目的・到達目標	The aim of the class is to prepare students for English language academic environments. Students will participate in class activities to raise their awareness about select topics, such as current social and global issues, while developing language abilities to complete tasks commonly required of students in international settings.			
履修条件	関連DP／CP：外国語科目領域5, 6 なし。			
授業方法	Group work conducted in or mostly in English, class discussions, and projects.			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	Classwork 50% Projects/Assignments 25% Oral Communication Test 25%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	－	Instructor provided materials	Setoguchi, E
	備考			
参 考 書	なし			
オフィスアワー	火曜16：10～授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction Class questionnaire Practice activity
	事後学習	Be ready to study English. (30min)
2	事前学習	Discuss results of questionnaire (30min)
	授業内容	Unit 7A Current Event (Describe Text) 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
3	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 7B Current Event (Describe Text) 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
4	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 7C Current Event (Describe Text) 3
	事後学習	Recap and Review. (30min)

5	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 8A Current Event (Synthesize Texts) 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
6	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 8B Current Event (Synthesize Texts) 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
7	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 8C Current Event (Synthesize Texts) 3
	事後学習	Recap and Review. (30min)
8	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 9A Social Issue (Synthesize Texts) 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
9	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 9B Social Issue (Synthesize Texts) 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
10	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 9C Social Issue (Synthesize Texts) 3
	事後学習	Recap and Review. (30min)
11	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 10A Opinion Piece (Evaluate Texts) 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
12	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 10B Opinion Piece (Evaluate Texts) 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
13	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 10C Opinion Piece (Evaluate Texts) 3
	事後学習	Recap and Review. (30min)
14	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Final Project Introduction
	事後学習	Recap and Review. (30min)
15	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Test and review. 解説
	事後学習	Recap and Review. (30min)

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	A.チャーンサイド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This class is designed to give students maximum opportunity to both acquire and practice English speaking and listening skills. All students will speak and listen to English in every class.					
授業目的・到達目標	The principal learning objective of this class is the acquisition of English skills enough to allow successful communication with non-Japanese. Student will be able get to think critically and logically, to face new challenges without giving up, to work efficiently as part of a group, and to reflect on one's own strengths and weaknesses. 関連DP／CP：外国語科目領域5，6					
履修条件	University streaming system dictates who is able to take this class					
授業方法	Class will be based on active learning principles with working in pairs or groups.					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		Individual speaking test and whole-class listening test, each contributing half of final test 10% total Continuous assessment: Active participation 30%, Quizzes 30%, Vocabulary development project 15%, Homework 15%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
		EFL Press		Topic Talk Second Edition		David Martin
	備考					
参考書	No reference books					
オフィスアワー	Wednesday 12:30 - 13:00 Classroom to be decided					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Prepare to talk about your summer break in English. Prepare possible questions to ask teacher about his break (30min)
	授業内容	Getting to know each other, again. Talking about summer break in groups, then in front of class. Interrogation of teacher. Explanation of any grammar or vocabulary issues that arise.
	事後学習	Reflect on speaking performance in today's class. Could it have been better? How? (30min)
2	事前学習	Prepare at least 20 yes/no and wh questions about summer break to ask teacher (30min)
	授業内容	In groups compare questions, make a list of the ten best questions by group. Predict answers. Ask teacher questions, compare his answers to your predictions.
	事後学習	Review new questions learned today. Read General Service List 1000-2000 (30min)
3	事前学習	Select 10 words from 1000-1500, write on vocabulary cards (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 6, Transportation. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice
	事後学習	Review Transportation vocabulary and question structures. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
4	事前学習	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 20 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 6, Transportation listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.
	事後学習	Review structure of newly created questions. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)

5	事前学習	Select 10 words from GSL 1000–1500, write on vocabulary cards. Total 30 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 7, Sports. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice
	事後学習	Review Sports vocabulary and question structures. Check GSL 1000–1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
6	事前学習	Select 10 words from GSL 1000–1500, write on vocabulary cards. Total 40 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 7, Sports listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.
	事後学習	Review structure of newly created questions. Check GSL 1000–1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
7	事前学習	Select 10 words from GSL 1000–1500, write on vocabulary cards. Total 50 words. Prepare for vocabulary test GSL 1000–1500. Prepare for Topics 6 and 7 test. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 3, GSL 1000–1500. Topics 6 and 7 test
	事後学習	Check GSL 1501–2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
8	事前学習	Select 10 words from GSL 1501–2000, write on vocabulary cards. Total 60 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 8, Numbers. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice
	事後学習	Review Numbers vocabulary and question structures. Check GSL 1501–2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
9	事前学習	Select 10 words from GSL 1501–2000, write on vocabulary cards. Total 70 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 8, Numbers listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.
	事後学習	Review structure of newly created questions. Check GSL 1501–2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Watch The Simpsons on YouTube (30min)
10	事前学習	Select 10 words from GSL 1501–2000, write on vocabulary cards. Total 80 words. Watch The Roadrunner on YouTube (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 10, TV. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice
	事後学習	Review TV vocabulary and question structures. (30min)
11	事前学習	Select 10 words from GSL 1501–2000, write on vocabulary cards. Total 90 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 10 TV listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.
	事後学習	Review structure of newly created questions. Check GSL 1501–2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
12	事前学習	Select 10 words from GSL 1501–2000, write on vocabulary cards. Total 100 words. Prepare for vocabulary test GSL 1500–2000. Prepare for Topics 8 and 10 test (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 4, GSL 1501–2000. Topics 8 and 10 test
	事後学習	Check GSL 1501–2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
13	事前学習	Select 10 words from GSL 1501–2000, write on vocabulary cards. Total 110 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook Topic 13 School, mixed-up questions, sample answers, listening activity, conversation practice
	事後学習	Check GSL 1501–2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Think of a good topic (not one in text book) (30min)
14	事前学習	Select 10 words from GSL 1501–2000, write on vocabulary cards. Total 120 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. In groups select a new topic. Make five topic -related questions. Write on board. Teacher checks .Make five more questions. Write on board. Teacher checks. Practice conversation.
	事後学習	Review structure of new questions and reflect on mistakes made. Make sure vocabulary notebooks are up to date. (30min)
15	事前学習	Review all semester work to prepare for listening and speaking tests (30min)
	授業内容	Whole class listening test. Individual speaking tests, Submission of new vocabulary notebooks. 解説
	事後学習	Review semester's work and prepare a winter break study plan. (30min)

科目名	Listening & Speaking I B	担当者	J. ウッド	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Improving English listening and speaking skills.				
授業目的・到達目標	We will practice speaking, listening, reading and writing English, with the focus on improving speaking and listening abilities. Students must try their best to speak English in class with the teacher and with each other. Students will be able to understand English better and communicate their thoughts and feelings better in English. 関連DP／CP : 5, 6				
履修条件	No conditions. If too many students apply, 4th-year students will have priority.				
授業方法	We will focus on speaking and listening to English in this class.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	Evaluation will be classwork 75%, speaking/listening test 25%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
		Oxford UP		American Headway Starter Second Edition	Liz&John Soars
	備考				
参 考 書	None				
オフィスアワー	Friday, 12:10-13:00 at classroom				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction
	事後学習	Be ready to study English. (30min)
2	事前学習	Be ready to study English. (30min)
	授業内容	Unit 8A, House. Talking about where we live.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
3	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 8B, Directions. How to tell someone where to go.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
4	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 9A, Past. Talking about things in the past.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)

5	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 9B, Months and dates. When we do things and saying the dates in months.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
6	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 10A, Weekend. What we like to do on weekends.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
7	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 10B, Seasons. Doing things at different times of the year.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
8	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 11A, Requests. Asking people to help us do things.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
9	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 11B, Internet. Things people like doing on the Internet.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
10	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 12A, Shopping. Going out and buying things.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
11	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 12B, Restaurant. Ordering food in a restaurant.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
12	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 13A, Now. Doing things right now.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
13	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 13B, Feelings. Talking about how we feel, including illness.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
14	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 14, Future. Talking about what will happen in the future.
	事後学習	Study for test. (30min)
15	事前学習	Study for test. (30min)
	授業内容	Test and review. 解説
	事後学習	Review (30min)

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Improving English listening and speaking skills.				
授業目的・到達目標	We will practice speaking, listening, reading and writing English, with the focus on improving speaking and listening abilities. Students must try their best to speak English in class with the teacher and with each other. Students will be able to understand English better and communicate their thoughts and feelings better in English. 関連DP／CP : 5, 6				
履修条件	No conditions. If too many students apply, 4th-year students will have priority.				
授業方法	We will focus on speaking and listening to English in this class.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	Evaluation will be classwork 75% and speaking/listening test 25%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
		Oxford UP		American Headway Book 1 Second Edition	Liz&John Soars
	備考				
参 考 書	None				
オフィスアワー	Friday, 12:10-13:00 at classroom				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction
	事後学習	Be ready to study English. (30min)
2	事前学習	Be ready to study English. (30min)
	授業内容	Unit 1, Hello! Meeting and greeting people.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
3	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 2A, Countries. Talking about different countries in the world.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
4	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 2B, Numbers. Learning about numbers and how to use them.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)

5	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 3A, Ourselves. Talking about ourselves and who we are.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
6	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 3B, Jobs. Different kinds of work that people do.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
7	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 4A, Family. The people in our families and how we feel about them.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
8	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 4B, Friends. The people we like to spend time with, beside our families.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
9	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 5A, Activities. Things we like to do in our spare time.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
10	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 5B, Money. Using money to buy things.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
11	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 6A, Time. Expressions of time and when we do things during the day.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
12	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 6B, Daily Actions. What we do every day.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
13	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 7A, Describing Things. Talking about how things look and act.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
14	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 7B, Abilities. Things we can and cannot do.
	事後学習	Study for test. (30min)
15	事前学習	Study for test. (30min)
	授業内容	Test and review. 解説
	事後学習	Review. (30min)

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	J. ウッド	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Improving English listening and speaking skills.					
授業目的・到達目標	We will practice speaking, listening, reading and writing English, with the focus on improving speaking and listening abilities. Students must try their best to speak English in class with the teacher and with each other. Students will be able to understand English better and communicate their thoughts and feelings better in English. 関連DP／CP : 5, 6					
履修条件	No conditions. If too many students apply, 4th-year students will have priority.					
授業方法	We will focus on speaking and listening to English in this class.					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		Evaluation will be classwork 75% and speaking/listening test 25%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
		Oxford UP		American Headway Book 1 Second Edition		Liz&John Soars
	備考					
参 考 書	None					
オフィスアワー	Friday, 12:10-13:00 at classroom					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction
	事後学習	Be ready to study English. (30min)
2	事前学習	Be ready to study English. (30min)
	授業内容	Unit 1, Hello! Meeting and greeting people.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
3	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 2A, Countries. Talking about different countries in the world.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
4	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 2B, Numbers. Learning about numbers and how to use them.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)

5	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 3A, Ourselves. Talking about ourselves and who we are.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
6	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 3B, Jobs. Different kinds of work that people do.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
7	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 4A, Family. The people in our families and how we feel about them.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
8	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 4B, Friends. The people we like to spend time with, beside our families.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
9	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 5A, Activities. Things we like to do in our spare time.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
10	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 5B, Money. Using money to buy things.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
11	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 6A, Time. Expressions of time and when we do things during the day.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
12	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 6B, Daily Actions. What we do every day.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
13	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 7A, Describing Things. Talking about how things look and act.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
14	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 7B, Abilities. Things we can and cannot do.
	事後学習	Study for test. (30min)
15	事前学習	Study for test. (30min)
	授業内容	Test and review. 解説
	事後学習	Review. (30min)

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	ダイアン ホーリー ナ ガトモ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------------	-----	--------------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This class is for serious students who want to improve their English. It is a topic based listening and speaking course. Students will exchange opinions and share ideas. on a variety of topics.					
授業目的・到達目標	Students will learn to communicate confidently in English by listening to and talking about a variety of topics such as social media, urban art, and lifestyles. Students will increase their English vocabulary and improve their grammar as well. Students who are interested in improving their English are welcome! 関連DP及びCP：外国語科目領域5, 6					
履修条件	Pair and group work, listening activities, watching short movie clips.					
授業方法	Attendance (no more than 3 absences permitted), pair work, group discussion, homework, quizzes, exam.					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		Exams at the end of each semester (50%) Attendance and participation (50%)	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016	National Geographic/Cengage		World Link 1 Developing English Fluency Third Edition		Douglas and Morgan
	備考	Students MUST have textbook and MUST participate. Attendance is mandatory.				
参 考 書	Textbook, notebook, pens, paper, dictionary					
オフィスアワー	hawley.diane.edla@ocha.ac.jp Wednesdays: 12:10-12:30 immediately after class					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Introduction to the class (30分)
	授業内容	Orientation: Communicating in English. Pair work, listening, and self introductions
	事後学習	Students will understand the criteria for this course. (30分)
2	事前学習	Getting to know each other, making introductions (30分)
	授業内容	Unit 1A People
	事後学習	Students can introduce themselves. (30分)
3	事前学習	Talking about appearances (30分)
	授業内容	Unit 1B People
	事後学習	Students can ask about occupations. (30分)
4	事前学習	Talking about actions (30分)
	授業内容	Unit 2A Behavior
	事後学習	Students will be able to greet people and ask how they are. (30分)

5	事前学習	Talking about feelings, making gestures (30分)
	授業内容	Unit 2B Behavior
	事後学習	Students will be able to talk about how they feel. (30分)
6	事前学習	Shopping at the supermarket, talking about food (30分)
	授業内容	Unit 3A Shopping
	事後学習	Students will be able to talk about things that they need. (30分)
7	事前学習	Shopping for ordinary items (30分)
	授業内容	Unit 3B Shopping
	事後学習	Students will be able to talk about shopping. (30分)
8	事前学習	Talking about the weather (30分)
	授業内容	Unit 4A Vacation
	事後学習	Students will be able to give advice and talk about weather. (30分)
9	事前学習	Talking about traveling (30分)
	授業内容	Unit 4B Vacation
	事後学習	Students will be able to learn necessary phrases for traveling. (30分)
10	事前学習	Talking about pioneers (30分)
	授業内容	Unit 5A Heroes
	事後学習	Students will be able to learn how to agree or disagree with someone. (30分)
11	事前学習	Talking about personal heroes (30分)
	授業内容	Unit 5B Heroes
	事後学習	Students will be able to talk about people they admire. (30分)
12	事前学習	Talking about memory (30分)
	授業内容	Unit 6A The mind
	事後学習	Students will be able to talk about things they remember. (30分)
13	事前学習	Talking about sleep (30分)
	授業内容	Unit 6B The mind
	事後学習	Students can talk about sleep and dreams. (30分)
14	事前学習	Review of units 1-6 (30分)
	授業内容	Review
	事後学習	Students will work in groups. (30分)
15	事前学習	Students will be tested on Units 1-7 (30分)
	授業内容	Semester Test Students will be given a test on Units 1-7 Review
	事後学習	Students will demonstrate knowledge and understanding of Units 1-7 (30分)

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	B. ダム	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This course will help students improve their English skills, especially listening comprehension and their speaking abilities. Vocabulary building and grammar instruction will also be part of the lesson.			
授業目的・到達目標	Students will enjoy improving their language skills through the study of a variety of interesting topics. Through active participation in pair work and small group discussions, students will be able to improve their fluency and confidence in English. Funny stories, movies, and music will also be an important part of the class. The aim of this course will be to improve the student's English speaking and listening skills. 関連DP／CP : 5, 6			
履修条件	Good attendance (75% minimum), active participation, textbook.			
授業方法	Pair work, small group work, class discussions.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%	.	
	平常評価	100%	There will be a midterm and final speaking exam (50%) , active in-class participation, homework. (50%).	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018-2019	Macmillan Education	Breakthrough Plus 2, 2nd Edition	Miles Craven
	備考			
参考書	Textbook, notebook, dictionary, pens/pencils.			
オフィスアワー	Students can contact me at: bjdamm@yahoo.com Please ask questions after the class (Saturday 2nd period) at classroom.			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Come to class well rested and prepared to participate. (30min)
	授業内容	Instructor and course introduction
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
2	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Introducing yourself / Introducing a friend
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
3	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Lifestyles
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
4	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Leisure: hobbies & interests
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)

5	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Likes and dislikes
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
6	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Getting along: requests & permission
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
7	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Celebrations & Holidays
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
8	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Favorite hobbies and interests
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
9	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Storytelling 1
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
10	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Storytelling 2
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
11	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Future plans and decisions
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
12	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Summer fun
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
13	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Review
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
14	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Speaking Test Review
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
15	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Speaking Test Review 解説
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	G. ハイデン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	You will improve your listening and speaking skills through English-language discussion with your teacher and classmates. You will read and think about English texts.			
授業目的・到達目標	To learn about East Asia in Japanese history through listening to, reading and discussing English texts.To be more confident and skilled in understanding and speaking English. To learn about important events in East Asian and Japanese history, you will be able to listen to and read English texts. You will discuss those texts, in English, with your teacher and your classmates.			
履修条件	関連DP・CP: 5, 6			
授業方法	Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	Assessment and reflection 20%. Final test 30%. Participation and effort 30%. Weekly tests 20%.	
教科書	年	出版社	書名	著者名
			前期 「East Asia in Japanese history」 (Thomas Lockley、DTP出版、1,700円＋税)	Thomas Lockley
	備考			
参考書	A dictionary, or a smartphone with a dictionary app.			
オフィスアワー	Email gary@garyhayden.co.uk Please ask questions after the class (Wednesday 2nd period, 3rd period) at classroom.			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	First lesson Outline of the course
	事後学習	Please make sure to read the first lesson before the next lesson. (30min)
2	事前学習	You will be given a vocabulary test each week. So please be prepared. (30min)
	授業内容	Topic: Ancient Japan and East Asia Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	You will need to learn some new vocabulary each week. There will be a small vocabulary test at the beginning of each lesson. (30min)
3	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Foreign settlements in Japan Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
4	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Kim Chung-son Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)

5	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Korean potters in Japan Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
6	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Yamada Nagamasa Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
7	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Tagawa Matsu Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
8	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Zhu Shun-sui Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
9	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Chinese merchants and smugglers in Tokugawa Japan Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
10	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Sun Yat-sen in Japan Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
11	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Prince Cuong De Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
12	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: The Takasago volunteers Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
13	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Kyaw Din Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Write your reflections on the course. (30min)
14	事前学習	Revise all of the course vocabulary. (30min)
	授業内容	Revision
	事後学習	Revise for the upcoming test. (30min)
15	事前学習	Prepare for semester test. (30min)
	授業内容	Test Review 解説
	事後学習	Review (30min)

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	セトグチ・エリック	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Developing English communication skills			
授業目的・到達目標	The aim of the class is to prepare students for English language academic environments. Students will participate in class activities to raise their awareness about select topics, such as current social and global issues, while developing language abilities to complete tasks commonly required of students in international settings.			
履修条件	関連DP／CP：外国語科目領域5, 6 なし。			
授業方法	Group work conducted in or mostly in English, class discussions, and projects.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	Classwork 50% Projects/Assignments 25% Oral Communication Test 25%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	-	Instructor provided materials	Setoguchi, E
	備考			
参考書	なし			
オフィスアワー	火曜昼休み。授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction Class questionnaire Practice activity
	事後学習	Be ready to study English. (30min)
2	事前学習	Discuss results of questionnaire (30min)
	授業内容	Unit 1A Family and Society 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
3	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 1B Family and Society 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
4	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 2A Community 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)

5	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 2B Community 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
6	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 3A Travel 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
7	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 3B Travel 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
8	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 4A Health 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
9	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 4B Health 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
10	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 5A The Environment 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
11	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 5B The Environment 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
12	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 6A Advertising 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
13	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 6B Advertising 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
14	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Final Project Introduction
	事後学習	Recap and Review. (30min)
15	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Test and review. 解説
	事後学習	Recap and Review. (30min)

科目名	Listening & Speaking II A	担当者	M. ボックス	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This course is designed to give students the freedom to develop their English speaking ability and fluency by studying and discussing topics of interest in small, independent study groups using the textbook.			
授業目的・到達目標	This class is oriented toward developing good communication skills. Emphasis will be placed on using English to effectively understand and convey ideas, needs, and information rather than on developing traditional grammar-based skills. The main goal is for students to learn how to use the English they already know and to gain confidence in their ability to communicate in English. 関連DP／CP : 5, 6			
履修条件	Students who enroll in this class must be willing and able to actively participate in class activities and be interested in improving their ability to use the English they already know			
授業方法	Students will work independently in small groups, and work at their own pace. The teacher will supervise, guide, and counsel each group on an individual basis.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%	No regular exam will be given, but performance will be measured each class.	
	平常評価	100%	The grade will be based 90% on in-class participation on a daily basis, and 10% on other activities.	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2, 3, 4	Heinle ELT	The Non-Stop Discussion Workbook	George Rooks
	備考			
参考書	No additional reference materials are required.			
オフィスアワー	micahbox@gmail.com Please ask questions after the class (Monday 3rd period) at classroom.			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Class explanation, orientation.
	事後学習	Review class rules. (30min)
2	事前学習	Review class rules. (30min)
	授業内容	Class explanation, orientation, part two, and "get to know your classmates" activity so that students will be able to form study groups with like-minded classmates.
	事後学習	Review class rules and consider who they would like to form a study group with. (30min)
3	事前学習	Consider potential study group partners. Prepare materials to make information cards. (30min)
	授業内容	Fill out information cards, and "get to know your classmates" activity so that students will be able to form study groups with like-minded classmates.
	事後学習	Form independent study groups. (30min)
4	事前学習	Make sure to purchase and bring textbooks. (30min)
	授業内容	Each study group will select a chapter of interest from the text and study independently as a group. The instructor will meet with each group during the class for guidance. When the group finishes a chapter, they will pick another and then proceed to study that one.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)

5	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
6	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
7	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
8	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
9	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
10	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
11	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
12	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
13	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
14	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
15	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Review and end of term evaluations. 解説
	事後学習	Review lessons from this class. (30min)

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Improving English listening and speaking skills.				
授業目的・到達目標	We will practice speaking, listening, reading and writing English, with the focus on improving speaking and listening abilities. Students must try their best to speak English in class with the teacher and with each other. Students will be able to understand English better and communicate their thoughts and feelings better in English. 関連DP／CP : 5, 6				
履修条件	No conditions. If too many students apply, 4th-year students will have priority.				
授業方法	We will focus on speaking and listening to English in this class.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	Evaluation will be classwork 75%, speaking/listening test 25%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
		Oxford UP		American Headway Book 1 Second Edition	Liz&John Soars
	備考				
参 考 書	None				
オフィスアワー	Friday, 12:10-13:00 at classroom				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction
	事後学習	Be ready to study English. (30min)
2	事前学習	Be ready to study English. (30min)
	授業内容	Unit 8A, House. Talking about where we live.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
3	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 8B, Directions. How to tell someone where to go.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
4	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 9A, Past. Talking about things in the past.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)

5	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 9B, Months and dates. When we do things and saying the dates in months.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
6	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 10A, Weekend. What we like to do on weekends.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
7	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 10B, Seasons. Doing things at different times of the year.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
8	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 11A, Requests. Asking people to help us do things.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
9	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 11B, Internet. Things people like doing on the Internet.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
10	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 12A, Shopping. Going out and buying things.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
11	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 12B, Restaurant. Ordering food in a restaurant.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
12	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 13A, Now. Doing things right now.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
13	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 13B, Feelings. Talking about how we feel, including illness.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
14	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 14, Future. Talking about what will happen in the future.
	事後学習	Study for test. (30min)
15	事前学習	Study for test. (30min)
	授業内容	Test and review. 解説
	事後学習	Review. (30min)

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	J. ウッド	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Improving English listening and speaking skills.				
授業目的・到達目標	We will practice speaking, listening, reading and writing English, with the focus on improving speaking and listening abilities. Students must try their best to speak English in class with the teacher and with each other. Students will be able to understand English better and communicate their thoughts and feelings better in English. 関連DP／CP : 5, 6				
履修条件	No conditions. If too many students apply, 4th-year students will have priority.				
授業方法	We will focus on speaking and listening to English in this class.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	Evaluation will be classwork 75%, speaking/listening test 25%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
		Oxford UP		American Headway Book 1 Second Edition	Liz&John Soars
	備考				
参 考 書	None				
オフィスアワー	Friday, 12:10-13:00 at classroom				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction
	事後学習	Be ready to study English. (30min)
2	事前学習	Be ready to study English. (30min)
	授業内容	Unit 8A, House. Talking about where we live.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
3	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 8B, Directions. How to tell someone where to go.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
4	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 9A, Past. Talking about things in the past.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)

5	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 9B, Months and dates. When we do things and saying the dates in months.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
6	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 10A, Weekend. What we like to do on weekends.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
7	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 10B, Seasons. Doing things at different times of the year.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
8	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 11A, Requests. Asking people to help us do things.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
9	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 11B, Internet. Things people like doing on the Internet.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
10	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 12A, Shopping. Going out and buying things.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
11	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 12B, Restaurant. Ordering food in a restaurant.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
12	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 13A, Now. Doing things right now.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
13	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 13B, Feelings. Talking about how we feel, including illness.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
14	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 14, Future. Talking about what will happen in the future.
	事後学習	Study for test. (30min)
15	事前学習	Study for test. (30min)
	授業内容	Test and review. 解説
	事後学習	Review. (30min)

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	ダイアン ホーリー ナ ガトモ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------------	-----	--------------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This class is for serious students who want to improve their English. It is a topic based listening and speaking course. Students will exchange opinions and share ideas on a variety of topics.					
授業目的・到達目標	Students will learn to communicate confidently in English by listening to and talking about a variety of topics such as social media, urban art, and lifestyles. Students will increase their English vocabulary and improve their grammar as well. Students who are interested in improving their English are welcome!関連DP及びCP：外国語科目領域5, 6					
履修条件	Pair and group work, listening activities, watching short movie clips.					
授業方法	Attendance (less than 3 absences allowed), textbook, pair work, group discussion, homework, quizzes, exam.					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		Exam on units 7-12 (50%) Attendance and participation (50%)	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016	Nat.Geographic		World Link 1 Developing English Fluency Third Edition		Douglas and Morgan
	備考	Students MUST be on time, have textbook, and participate. Attendance is mandatory.				
参 考 書	Attendance (less than 3 absences allowed), textbook, pair work, group discussion, homework, quizzes, exam.					
オフィスアワー	hawley.diane.edla@ocha.ac.jp Wednesdays: 12:10-12:30 immediately after class					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Talking about the course (30分)
	授業内容	Introduction to first semester
	事後学習	Students can understand the criteria of the course (30分)
2	事前学習	Talking about your own city (30分)
	授業内容	Unit 7A City Life
	事後学習	Students can ask for and give directions. (30分)
3	事前学習	Talking about big cities (30分)
	授業内容	Unit 7B City Life
	事後学習	Students can describe with their city is like. (30分)
4	事前学習	Talking about sports (30分)
	授業内容	Unit 8A All about you
	事後学習	Students can invite people to do something, such as play sports. (30分)

5	事前学習	Talking about personality (30分)
	授業内容	Unit 8B All about you
	事後学習	Students can talk about personality traits. (30分)
6	事前学習	Talking about habits (30分)
	授業内容	Unit 9A Change
	事後学習	Students can respond to requests. (30分)
7	事前学習	Talking about goals (30分)
	授業内容	Unit 9B Change
	事後学習	Students can talk about post graduation goals. (30分)
8	事前学習	Talking about the body (30分)
	授業内容	Unit 10 A Health
	事後学習	Students can talk about health problems. (30分)
9	事前学習	Talking about stress (30分)
	授業内容	Unit 10 B Health
	事後学習	Students can talk about stress. (30分)
10	事前学習	Talking about what students can and cannot do (30分)
	授業内容	Unit 11A Achievement
	事後学習	Students can talk about what they can and cannot do. (30分)
11	事前学習	Talking about dangerous activities. (30分)
	授業内容	Unit 11B Achievement
	事後学習	Students can talk about being adventurous. (30分)
12	事前学習	Talking about types of movies (30分)
	授業内容	Unit 12 A Movies
	事後学習	Students can talk about various kinds of movies. (30分)
13	事前学習	Talking about movie reviews (30分)
	授業内容	Unit 12 B Movies
	事後学習	Students can review a movie. (30分)
14	事前学習	Review of Units 7-12 (30分)
	授業内容	Review of Units 7-12
	事後学習	Students can review what they have learned throughout the semester. (30分)
15	事前学習	Testing students' knowledge of Units 7-12 (30分)
	授業内容	Exam on Units 7-12
	事後学習	Students can show what they have learned from Units 7-12. (30分)

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	B. ダム	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This course will help students improve their English skills, especially their listening comprehension and speaking abilities.			
授業目的・到達目標	Students will enjoy improving their language skills through the study of a variety of interesting topics. Through active participation in pair work and small group discussions; students will be able to improve both their fluency and confidence in English. Funny stories, movies, and music will also be an important part of the class. The aim of this course is to help students greatly improve their English speaking and listening skills. 関連DP／CP：5, 6			
履修条件	Good attendance (75% minimum), active participation, textbook.			
授業方法	Pair work, small group work, class discussions.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%	.	
	平常評価	100%	Midterm and final speaking test (50%) ,active in-class participation (25%), homework (25%).	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018-2019	Macmillan Education	Breakthrough Plus 2, 2nd Edition	Miles Craven
	備考			
参考書	Textbook, notebook, dictionary, pens/pencils.			
オフィスアワー	Students can contact me at: bjdamm@yahoo.com Please ask questions after the class (Saturday 2nd period) at classroom.			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Come to every class well rested and ready to participate. (30min)
	授業内容	Food and Drinks
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
2	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Rules in your life
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
3	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Health: Giving advice and suggestions
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
4	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Comparatives & Superlatives
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)

5	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Talking about rules in your life
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
6	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Adventure activities
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
7	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Advice and suggestions about health
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
8	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	English through movies
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
9	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Part-time jobs
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
10	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Technology in your life
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
11	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Holidays around the world
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
12	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	The Cultural and Spiritual meaning of Christmas
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
13	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Review
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
14	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Speaking test Review
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)
15	事前学習	Completion of any assigned homework and review of previous lesson. (30min)
	授業内容	Speaking test Review 解説
	事後学習	Reflection and review of lesson. (30min)

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	G. ハイデン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	You will improve your listening and speaking skills through English-language discussion with your teacher and classmates. You will read and think about English texts.			
授業目的・到達目標	To learn about multicultural stories from modern Japan through listening to, reading and discussing English texts. To be more confident and skilled in understanding and speaking English. To learn about important events in modern Japanese history; you will be able to listen to and read English texts. You will discuss those texts, in English, with your teacher and your classmates.			
履修条件	関連DP／CP： 5, 6			
授業方法	Listening, reading and brief writing tasks. Pair-, group- and class-discussion. Weekly vocabulary tests.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	Assessment and reflection 20%. Final test 30%. Participation and effort 30%. Weekly tests 20%.	
教科書	年	出版社	書名	著者名
			前期 「Multicultural Stories from Modern Japan」 (Thomas Lockley、DTP出版、1,700円＋税	Thomas Lockley
	備考			
参考書	A dictionary, or a smartphone with a dictionary app.			
オフィスアワー	Email gary@garyhayden.co.uk Please ask questions after the class, (Wednesday 2nd period or 3rd period) at classroom.			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	You will be given a vocabulary test each week. So please be prepared. (30min)
	授業内容	Topic: Tei Ei-kei Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	You will need to learn some new vocabulary each week. There will be a small vocabulary test at the beginning of each lesson. (30min)
2	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Kairakutei Black Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
3	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Victor Starrfin Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
4	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Rash Behari Bose Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)

5	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Leo Sirota Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
6	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Chen Kenmin Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
7	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Rikidozan Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
8	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Ando Momofuku Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
9	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Korean food in Japan Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
10	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Oh Sadaharu Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
11	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Konishiki Yasokichi Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
12	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Murata Renho Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Learn new vocabulary. (30min)
13	事前学習	Prepare for vocabulary test. (30min)
	授業内容	Topic: Son Masayoshi Skills: Listening and speaking skills in English. Reading and understanding an English text.
	事後学習	Write your reflections on the course (30min)
14	事前学習	Revise all of the course vocabulary (30min)
	授業内容	Revision
	事後学習	Revise for the upcoming test (30min)
15	事前学習	Prepare for semester test (30min)
	授業内容	Test Review 解説
	事後学習	Review (30min)

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	セトグチ・エリック	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Developing English communication skills			
授業目的・到達目標	The aim of the class is to prepare students for English language academic environments. Students will participate in class activities to raise their awareness about select topics, such as current social and global issues, while developing language abilities to complete tasks commonly required of students in international settings.			
履修条件	関連DP／CP：外国語科目領域5, 6 なし。			
授業方法	Group work conducted in or mostly in English, class discussions, and projects.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	Classwork 50% Projects/Assignments 25% Oral Communication Test 25%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	-	Instructor provided materials	Setoguchi, E
	備考			
参考書	なし			
オフィスアワー	火曜昼休み。授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction Class questionnaire Practice activity
	事後学習	Be ready to study English. (30min)
2	事前学習	Discuss results of questionnaire (30min)
	授業内容	Unit 7A Current Event (Describe Text) 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
3	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 7B Current Event (Describe Text) 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
4	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 7C Current Event (Describe Text) 3
	事後学習	Recap and Review. (30min)

5	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 8A Current Event (Synthesize Texts) 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
6	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 8B Current Event (Synthesize Texts) 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
7	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 8C Current Event (Synthesize Texts) 3
	事後学習	Recap and Review. (30min)
8	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 9A Social Issue (Synthesize Texts) 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
9	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 9B Social Issue (Synthesize Texts) 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
10	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 9C Social Issue (Synthesize Texts) 3
	事後学習	Recap and Review. (30min)
11	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 10A Opinion Piece (Evaluate Texts) 1
	事後学習	Recap and Review. (30min)
12	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 10B Opinion Piece (Evaluate Texts) 2
	事後学習	Recap and Review. (30min)
13	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Unit 10C Opinion Piece (Evaluate Texts) 3
	事後学習	Recap and Review. (30min)
14	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Final Project Introduction
	事後学習	Recap and Review. (30min)
15	事前学習	Review and Topic Introduction. (30min)
	授業内容	Test and review. 解説
	事後学習	Recap and Review. (30min)

科目名	Listening & Speaking II B	担当者	M. ボックス	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This course is designed to give students the freedom to develop their English speaking ability and fluency by studying and discussing topics of interest in small, independent study groups using the textbook.			
授業目的・到達目標	This class is oriented toward developing good communication skills. Emphasis will be placed on using English to effectively understand and convey ideas, needs, and information rather than on developing traditional grammar-based skills. The main goal is for students to learn how to use the English they already know and to gain confidence in their ability to communicate in English. 関連DP／CP : 5, 6			
履修条件	Students who enroll in this class must be willing and able to actively participate in class activities and be interested in improving their ability to use the English they already know.			
授業方法	Students will work independently in small groups, and work at their own pace. The teacher will supervise, guide, and counsel each group on an individual basis.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%	No regular exam will be given, but performance will be measured each class.	
	平常評価	100%	The grade will be based 90% on in-class participation on a daily basis, and 10% on other activities.	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2, 3, 4	Heinle ELT	The Non-Stop Discussion Workbook	George Rooks
	備考			
参考書	No additional reference materials are required.			
オフィスアワー	micahbox@gmail.com Please ask questions after the class (Monday 3rd period) at classroom.			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Class explanation, orientation.
	事後学習	Review class rules. (30min)
2	事前学習	Review class rules. (30min)
	授業内容	Class explanation, orientation, part two, and “get to know your classmates” activity so that students will be able to form study groups with like-minded classmates.
	事後学習	Review class rules and consider who they would like to form a study group with. (30min)
3	事前学習	Consider potential study group partners. Prepare materials to make information cards. (30min)
	授業内容	Fill out information cards, and “get to know your classmates” activity so that students will be able to form study groups with like-minded classmates.
	事後学習	Form independent study groups. (30min)
4	事前学習	Make sure to purchase and bring textbooks. (30min)
	授業内容	Each study group will select a chapter of interest from the text and study independently as a group. The instructor will meet with each group during the class for guidance. When the group finishes a chapter, they will pick another and then proceed to study that one.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)

5	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
6	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
7	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
8	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
9	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
10	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
11	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
12	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
13	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
14	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
15	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Review and end of term evaluations. 解説
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)

科目名	Listening & Speaking ⅢA(火曜3時限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Improving English speaking and listening abilities.				
授業目的・到達目標	We will practice speaking, listening, reading and writing English, with the focus on improving speaking and listening abilities. Students must try their best to speak English in class with the teacher and with each other. Students will be able to understand English better and communicate their thoughts and feelings better in English 関連D P / C P : 5, 6				
履修条件	No conditions. If too many students apply, 4th-year students will have priority.				
授業方法	We will focus on speaking and listening to English in the class.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	Evaluation will be classwork 75% speaking/listening test 25%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
		Longman/Pearson	New Total English Elementary		Foley/Hall
	備考				
参 考 書	なし				
オフィスアワー	Friday, 12:10-13:00 at classroom				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction
	事後学習	Be ready for next class. (30min)
2	事前学習	Start thinking in English. (30min)
	授業内容	Lesson 1 Nationalities. Where people come from and what their countries are like.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
3	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 2 Favorite Things. What we have and what we like to do with them.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
4	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 3 Celebrations. Holidays from around the world.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)

5	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 4 Modern World. The latest in technology and useful items.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
6	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 5 Traveling. Getting around from one place to another.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
7	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 6 Possessions. What we have and how we use them.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
8	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 7 Sports. Activities that we like to watch and do.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
9	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 8 Shopping. Buying what we like and different kinds of shops.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
10	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 9 Places. Areas that are interesting to see.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
11	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 10 Weekend. Leisure activities that we can do in our free time.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
12	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 11 Office. The workplace and the kinds of jobs available.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
13	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 12 Family. The people we are related to, their looks and personalities.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
14	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Review
	事後学習	Study for test. (30min)
15	事前学習	Study for test. (30min)
	授業内容	Listening and Speaking Test and review. 解説
	事後学習	Review. (30min)

科目名	Listening & Speaking ⅢA(火曜 4時限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------------------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Improving English speaking and listening skills.					
授業目的・到達目標	This is a high-level class. Students must be willing to speak English eagerly! We will practice speaking, listening, reading and writing English, with the focus on improving speaking and listening ability.Students will be able to understand English better and communicate their thoughts and feelings better in English. 関連D P／C P : 5, 6					
履修条件	No conditions. If too many students apply, 4th-year students will have priority.					
授業方法	We will focus on speaking and listening to English in the class.					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		Evaluation will be classwork 75%, Speaking/Listening Test 25%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
		Pearson/Longman		New Total English Pre-intermediate		Crace/Acklam
	備考					
参 考 書	なし					
オフィスアワー	Friday, 12:10-13:00 at classroom					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction
	事後学習	Be ready to study English. (30min)
2	事前学習	Be ready to study English. (30min)
	授業内容	Unit 1 Personalities. What people are like.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
3	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 2 Home. Where we live, including our houses and neighborhoods.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
4	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 3 Memories. What we most recall about when we were young.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)

5	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 4 Money. How to spend it and save it.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
6	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 5 Obligation. Things we must do for ourselves and others.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
7	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 6 Holiday. What we can do when we have the time and money to do it.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
8	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 7 Childhood. Our lives when we were younger.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
9	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 8 Services. Things that we can use where we live.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
10	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 9 Imagination. How to think in creative ways.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
11	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 10 Description. Saying what things are really like.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
12	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 11 Predictions. Talking about what we think will happen in the future.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
13	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 12 Accidents. Things that we don't expect to happen.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
14	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Review
	事後学習	Study for test. (30min)
15	事前学習	Study for test. (30min)
	授業内容	Test and review. 解説
	事後学習	Review. (30min)

科目名	Listening & Speaking ⅢA	担当者	M. ボックス	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This course is designed to give students the freedom to develop their English speaking ability and fluency by studying and discussing topics of interest in small, independent study groups using the textbook.				
授業目的・到達目標	This class is oriented toward developing good communication skills. Emphasis will be placed on using English to effectively understand and convey ideas, needs, and information rather than on developing traditional grammar-based skills. The main goal is for students to learn how to use the English they already know and to gain confidence in their ability to communicate in English. 関連DP／CP : 5, 6				
履修条件	Students who enroll in this class must be willing and able to actively participate in class activities and be interested in improving their ability to use the English they already know				
授業方法	Students will work independently in small groups, and work at their own pace. The teacher will supervise, guide, and counsel each group on an individual basis.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	No regular exam will be given, but performance will be measured each class.	
	平常評価		100%	The grade will be based 90% on in-class participation on a daily basis, and 10% on other activities.	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2, 3, 4	Heinle ELT	The Non-Stop Discussion Workbook		George Rooks
	備考				
参考書	No additional reference materials are required.				
オフィスアワー	micahbox@gmail.com Please ask questions after the class (Monday 4th period) at classroom.				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Class explanation, orientation.
	事後学習	Review class rules. (30min)
2	事前学習	Review class rules. (30min)
	授業内容	Class explanation, orientation, part two, and "get to know your classmates" activity so that students will be able to form study groups with like-minded classmates.
	事後学習	Review class rules and consider who they would like to form a study group with. (30min)
3	事前学習	Consider potential study group partners. Prepare materials to make information cards. (30min)
	授業内容	Fill out information cards, and "get to know your classmates" activity so that students will be able to form study groups with like-minded classmates.
	事後学習	Form independent study groups. (30min)
4	事前学習	Make sure to purchase and bring textbooks. (30min)
	授業内容	Each study group will select a chapter of interest from the text and study independently as a group. The instructor will meet with each group during the class for guidance. When the group finishes a chapter, they will pick another and then proceed to study that one.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)

5	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
6	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
7	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
8	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
9	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
10	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
11	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
12	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
13	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
14	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
15	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Review and end of term evaluations. 解説
	事後学習	Review lessons from this class. (30min)

科目名	Listening & Speaking ⅢA	担当者	P.カレンダー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This course will improve your speaking and listening skills through practicing conversations and listening by native speakers in different situations. Then there is simple conversation practice, usually between two students.					
授業目的・到達目標	This course is designed to help students develop their communication skills in focusing on discussion and listening skills based on structured conversation and listening exercises. 関連DP／CP：5, 6					
履修条件	This course is for level 3 students					
授業方法	The 32 lessons have warmup talking, listening, pronunciation and free conversation pr					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		50% = two speaking tests of 25% each 25% = participation and effort 25% = active participation	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	Oxford University Press		Speak Now 3 ISBN: 978-0-19-403017-5		Jack C. Richards, David Bohlke
	備考					
参 考 書	English learners dictionary or an electronic dictionary					
オフィスアワー	paulkallender@gmail.com. Attention Dr. Kallender. Contact if you are going to miss a lesson, or if you have missed a lesson. Explain why. Please ask questions after the class (Tuesday 2nd period) at classroom.					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please make sure to check you have your textbook in advance (30min)
	授業内容	Course outline, expectations, testing, attendance, etc. Unit 1: I' m an only child
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
2	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 2, 3 & 4: She' s a born leader / We' re both reliable / As I was saying...
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
3	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 5, 6 & 7: I' d like to check in / Here are some rules / There are some problems
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
4	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 8, 9 & 10: That would be great / Do you know.../ Sorry. My mistake
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)

5	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 11, 12 & 13: I spend too much time... / You have a point, but... / My short-term goal is...
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
6	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 14, 15, & 16: She said she was sorry / I read an unusual story / When did they release it?
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
7	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Review exercises Units 1-4, 5-8, 9-12 and 13-16 swapping partners
	事後学習	Make a note of major mistakes made (30min)
8	事前学習	Please review Units 1-16 before test (30min)
	授業内容	Mid-Term Test
	事後学習	Please review weaknesses (30min)
9	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 17, 18, & 19: You didn't know? / A good friend is loyal / I could do that
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
10	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 20, 21, & 22: I wish I'd remembered / I'd rather not say / I could be an ad for...
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
11	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 23, 24, & 25: The main reason is / It needs a good location / You're expected to...
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
12	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 26, 27, & 28: What does it mean? / What will happen if...? / It must have been
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
13	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 29, 30, & 31: Cars will most likely fly / That's a really good idea! / I'll pick you up
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
14	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Unit 32: What do you hope to do? Review exercises Units 17-20, 21-24, 25-28 and 29-32 swapping partners
	事後学習	Please make a note of mistakes (30min)
15	事前学習	Please review Units 17-32 before test (30min)
	授業内容	End-of-Term Test Review 解説
	事後学習	Please keep your textbook for follow-up (30min)

科目名	Listening & Speaking ⅢA	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	In 2020 the Olympic Games come to Tokyo. Millions of people will come to Japan, but how much do they know about Japan? Can you explain Japanese culture and history in English? Learn how in this class!				
授業目的・到達目標	You will practice English reading, writing, listening, and discussion skills. 関連DP及びCP：外国語科目領域5, 6				
履修条件	None				
授業方法	This class follows the conceptual framework of Content and Language Integrated Learning.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	Spelling tests 30%, Presentation 50%, Participation and effort 20%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	東京書籍		「外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」	ロックリー トーマス
	備考	授業が始まる前に教科書を必ず買ってください。			
参 考 書	なし				
オフィスアワー	Students can email anytime to joe.geluso@gmail.com Office hours are after class in classroom.				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the content of syllabus and prepare for the first class (60 minutes)
	授業内容	Theme: First Lesson and Course Introduction.
	事後学習	Learn new vocabulary for short test. (30 minutes)
2	事前学習	Review vocabulary for short test. (20 minutes)
	授業内容	Theme: From Edo to Tokoyo – The Making of a Global City Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary (30 minutes)
3	事前学習	Review vocabulary for short test. (20 minutes)
	授業内容	Theme: Kimono: Elegant Symbols of Japan Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary (30 minutes)
4	事前学習	Review vocabulary for short test. (20 minutes)
	授業内容	Theme: Kabuki – Pop Culture of the Past Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary (30 minutes)

5	事前学習	Review vocabulary for short test. (20 minutes)
	授業内容	Theme: Sumo – Far more than Fat Men Posing Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary (30 minutes)
6	事前学習	Review vocabulary for short test. (20 minutes)
	授業内容	Theme:Shinkansen – The Bullet Train Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary (30 minutes)
7	事前学習	Review vocabulary for short test. (20 minutes)
	授業内容	Theme: Manga – Global Storytelling from Japan Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary (30 minutes)
8	事前学習	Review vocabulary for short test. (20 minutes)
	授業内容	Theme: Arts and Crafts – How the World Discovered Japan Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary (30 minutes)
9	事前学習	Review vocabulary for short test. (20 minutes)
	授業内容	Theme: Cinema – Moving Art Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary (30 minutes)
10	事前学習	Review vocabulary for short test. (20 minutes)
	授業内容	Theme: How to do a Presentation Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary (30 minutes)
11	事前学習	Think of a topic for the semester presentation (45 minutes)
	授業内容	Theme: Presentation Making Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary (30 minutes)
12	事前学習	Continue work with presentations (60 minutes)
	授業内容	Theme: Presentation Making Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Continue with presentations (60 minutes)
13	事前学習	Continue with presentations (60 minutes)
	授業内容	Theme: Presentation Practice Theme: Presentation Making Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Continue with presentations (60 minutes)
14	事前学習	Continue with presentations (60 minutes)
	授業内容	Theme: Presentations
	事後学習	Continue with presentations (60 minutes)
15	事前学習	Continue with presentations (60 minutes)
	授業内容	Theme: Presentations
	事後学習	Reflect on the semester (60 minutes)

科目名	Listening & Speaking ⅢA	担当者	ダイアン・ナガトモ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This class is for serious students who want to improve their English. It is a topic based listening and speaking course. Students will exchange opinions and share ideas on a variety of topics.			
授業目的・到達目標	Only serious and hardworking students are welcome. This class will give you confidence to communicate and give your opinion in English. Focus will be on vocabulary expansion, speaking, and listening. This class will help you achieve higher scores on IELTS, TOEIC, and so on while improving your actual English speaking and listening skills. 関連DP及びCP：外国語科目領域5, 6			
履修条件	Pair and group work, listening activities, watching short movie clips, making presentations.			
授業方法	Attendance (fewer than 3 absences), textbook, pair work, group discussion, homework, presentations.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験			
	平 常 評 価	100%	Attendance and participation 60% Presentations 40%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	Nat. Geographic	21st Century Communication: Listening, Speaking, Book 1	Baker and Blass
	備考	Textbook and class participation is mandatory.		
参 考 書	Students MUST be on time, have textbook, and participate. Attendance is mandatory.			
オフィス アワー	Hawley.diane.edla@ocha.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Introduction to the class (30分)
	授業内容	Introduction to first semester
	事後学習	Students can understand the criteria of the class. (30分)
2	事前学習	Listening for numbers and statistics (30分)
	授業内容	Unit 1 Small Actions Big Results
	事後学習	Students can listen to and discuss about problems related to water. (30分)
3	事前学習	Predicting, interpreting, reflecting, synthesizing. (30分)
	授業内容	Unit 1 Small Actions Big Results
	事後学習	Students can listen to and discuss about conserving paper. (30分)
4	事前学習	Review Unit 1 (30分)
	授業内容	Unit 1 Small Actions Big Results
	事後学習	Students can listen to and discuss about tips on how not to waste resources. (30分)

5	事前学習	Recognizing a speakers' tone and feeling (30分)
	授業内容	Unit 2 Connecting to Nature
	事後学習	Students can listen to and discuss about endangered animals. (30分)
6	事前学習	Predict, reflect, interpret, infer (30分)
	授業内容	Unit 2 Connecting to Nature PRESENTATIONS
	事後学習	Students can listen to and discuss about storm chasers. (30分)
7	事前学習	Review Unit 2 (30分)
	授業内容	Unit 2 Connecting to Nature
	事後学習	Students can listen to and discuss about nature. (30分)
8	事前学習	Listen for signposts (30分)
	授業内容	Unit 3 Going Places
	事後学習	Students can listen to and discuss about transportation problems. (30分)
9	事前学習	Use listing signals (30分)
	授業内容	Unit 3 Going Places
	事後学習	Students can listen to and discuss about unusual transportation. (30分)
10	事前学習	Review Unit 3 (30分)
	授業内容	Unit 3 Going Places
	事後学習	Students can listen to and discuss about different modes of transportation. (30分)
11	事前学習	Listen for reasons (30分)
	授業内容	Unit 4 Music, Music Everywhere
	事後学習	Students can listen to and discuss about music. (30分)
12	事前学習	Give reasons (30分)
	授業内容	Unit 4 Music, Music Everywhere
	事後学習	Students can listen to and discuss about classical music. (30分)
13	事前学習	Review Unit 4 (30分)
	授業内容	Unit 4 Music, Music Everywhere
	事後学習	Students can listen to and discuss about individual music listening styles. (30分)
14	事前学習	Develop presentation skills (30分)
	授業内容	PRESENTATIONS
	事後学習	Students can make and watch presentations. (30分)
15	事前学習	Develop presentation skills (30分)
	授業内容	PRESENTATIONS
	事後学習	Students can make and watch presentations. (30分)

科目名	Listening & Speaking ⅢA	担当者	A.チャーンサイド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This class is designed to give students maximum opportunity to both acquire and practice English speaking and listening skills. All students will speak and listen to English in every class.					
授業目的・到達目標	The principal learning objective of this class is the acquisition of English skills enough to allow successful communication with non-Japanese. Student will be able get to think critically and logically, to face new challenges without giving up, to work efficiently as part of a group, and to reflect on one's own strengths and weaknesses. 関連DP／CP：外国語科目領域5，6					
履修条件	University streaming system dictates who is able to take this class					
授業方法	Class will be based on active learning principles with working in pairs or groups.					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		Individual speaking test and whole-class listening test, each contributing half of final test 10% total Continuous assessment: Active participation 30%, Quizzes 30%, Vocabulary development project 15%, Homework 15%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
		EFL Press		Topic Talk Second Edition		David Martin
	備考					
参考書	No reference books					
オフィスアワー	Wednesday 10:30 - 16:20 Classroom to be decided					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Prepare to introduce yourself in English. Prepare possible questions to ask teacher about himself (30min)
	授業内容	Getting to know each other. Self-introductions. Interrogation of teacher. Explanation of yes/no questions
	事後学習	Review grammar rules of yes/no questions (30min)
2	事前学習	Prepare at least 20 yes/no questions to ask teacher (30min)
	授業内容	Yes/no question activity. Explanation of wh questions
	事後学習	Review grammar rules of wh questions. Read General Service List 1-970 (30min)
3	事前学習	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 1, Family. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice
	事後学習	Review Family vocabulary and question structures. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
4	事前学習	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 20 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 1, Family listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.
	事後学習	Review structure of newly created questions. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)

5	事前学習	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 30 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 2, Food. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice
	事後学習	Review Food vocabulary and question structures. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
6	事前学習	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 40 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 2, Food listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.
	事後学習	Review structure of newly created questions. Check GSL 1-500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
7	事前学習	Select 10 words from GSL 1-500, write on vocabulary cards. Total 50 words. Prepare for vocabulary test GSL 1-500. Prepare for Topics 1 and 2 test. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 1, GSL 1-500. Topics 1 and 2 test
	事後学習	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
8	事前学習	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 60 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 3, Time. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice
	事後学習	Review Time vocabulary and question structures. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
9	事前学習	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 70 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 3, Time listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.
	事後学習	Review structure of newly created questions. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
10	事前学習	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 80 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 4, House and Home. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice
	事後学習	Review House and Home vocabulary and question structures. (30min)
11	事前学習	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 90 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 4 House and Home listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.
	事後学習	Review structure of newly created questions. Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
12	事前学習	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 100 words. Prepare for vocabulary test GSL 1-500. Prepare for Topics 3 and 4 test (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 2, GSL 501-970. Topics 3 and 4 test
	事後学習	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
13	事前学習	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 110 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook Topic 5 Music, mixed-up questions, sample answers, listening activity, conversation practice
	事後学習	Check GSL 501-970 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Think of a good topic (not one in text book) (30min)
14	事前学習	Select 10 words from GSL 501-970, write on vocabulary cards. Total 120 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. In groups select a new topic. Make five topic -related questions. Write on board. Teacher checks .Make five more questions. Write on board. Teacher checks. Practice conversation.
	事後学習	Review structure of new questions and reflect on mistakes made. Make sure vocabulary notebooks are up to date. (30min)
15	事前学習	Review all semester work to prepare for listening and speaking tests (30min)
	授業内容	Whole class listening test. Individual speaking tests, Submission of new vocabulary notebooks. 解説
	事後学習	Review semesters work and prepare a summer break study plan. (30min)

科目名	Listening & Speaking ⅢB(火曜 3時限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------------------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Improving English listening and speaking skills.				
授業目的・到達目標	We will practice speaking, listening, reading and writing English, with the focus on improving speaking and listening abilities. Students must try their best to speak English in class with the teacher and with each other. Students will be able to understand English better and communicate their thoughts and feelings better in English 関連D P / C P : 5, 6				
履修条件	No conditions. If too many students apply, 4th-year students will have priority.				
授業方法	We will focus on speaking and listening to English in the class.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	Evaluation will be classwork 75% speaking/listening test 25%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
		Longman/Pearson		New Total English Elementary	Foley/Hall
	備考				
参 考 書	なし				
オフィス アワー	Friday, 12:10-13:00 at classroom				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction
	事後学習	Be ready to think in English. (30min)
2	事前学習	Please make sure to read the first lesson before the next lesson (30min)
	授業内容	Lesson 14 Love Story. Relationships with the people around us.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
3	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 15 Memories. Things that were important to us when we were young.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
4	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 16 Life. What we like to do in our current lives.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)

5	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 17 Numbers. Dates and other things we use numbers for.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
6	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 18 Food. What kinds of food we like to eat and what's healthy.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
7	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 19 Plans. Deciding what to do in the future.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
8	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 20 Weather. How to talk about the ways the weather affects us.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
9	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 21 Requests. How to get others to do things for you.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
10	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 22 Pets. The animals we live our lives with.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
11	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 23 Restaurants. Places to eat out and how to order food.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
12	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 24 Future. What the world will be like many years from now.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
13	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Lesson 25 Lifestyle. How to live our lives so that we can enjoy them.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
14	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Review
	事後学習	Study for test. (30min)
15	事前学習	Study for test. (30min)
	授業内容	Test and review. 解説
	事後学習	Review (30min)

科目名	Listening & Speaking ⅢB(火曜 4時限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------------------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Improving English speaking and listening skills.					
授業目的・到達目標	This is a high-level class. Students must be willing to speak English eagerly! We will practice speaking, listening, reading and writing English, with the focus on improving speaking and listening ability.Students will be able to understand English better and communicate their thoughts and feelings better in English. 関連DP／CP : 5, 6					
履修条件	No conditions. If too many students apply, 4th-year students will have priority.					
授業方法	We will focus on speaking and listening to English in the class.					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		Evaluation will be classwork 75%, Speaking/Listening Test 25%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
		Pearson/Longman		New Total English Pre-intermediate		Crace/Acklam
	備考					
参考書	なし					
オフィスアワー	Friday, 12:10-13:00 at classroom					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction
	事後学習	Please make sure to read the first lesson before the next lesson (30min)
2	事前学習	Be ready to study English. (30min)
	授業内容	Unit 14 Media. How we get information in our daily lives.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
3	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 15 Recent Events. Things that have happened in the world recently.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
4	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 16 Learning. How to improve our lives by getting knowledge.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)

5	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 17 Stories. Interesting things that happen to all of us.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
6	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 18 Crime. When people do bad things.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
7	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 19 Favorites. What we like most in our lives.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
8	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 20 Life. What we see around us every day and how to make the most of it.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
9	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 21 Information. Finding out helpful ideas from around us.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
10	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 22 Feelings. How we relate to ourselves and what our emotions are.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
11	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 23 If. Making predictions about what will happen next.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
12	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 24 Environment. All the world around us and how to take care of it.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
13	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 25 Memory. How we decide what to remember and how it changes.
	事後学習	Remember English vocabulary and phrases. (30min)
14	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Review
	事後学習	Study for test. (30min)
15	事前学習	Study for test. (30min)
	授業内容	Test and review. 解説
	事後学習	Review (30min)

科目名	Listening & Speaking ⅢB	担当者	M. ボックス	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This course is designed to give students the freedom to develop their English speaking ability and fluency by studying and discussing topics of interest in small, independent study groups using the textbook.							
授業目的・到達目標	This class is oriented toward developing good communication skills. Emphasis will be placed on using English to effectively understand and convey ideas, needs, and information rather than on developing traditional grammar-based skills. The main goal is for students to learn how to use the English they already know and to gain confidence in their ability to communicate in English. 関連DP／CP : 5, 6							
履修条件	Students who enroll in this class must be willing and able to actively participate in class activities and be interested in improving their ability to use the English they already know.							
授業方法	Students will work independently in small groups, and work at their own pace. The teacher will supervise, guide, and counsel each group on an individual basis.							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%		No regular exam will be given, but performance will be measured each class.			
	平常評価		100%		The grade will be based 90% on in-class participation on a daily basis, and 10% on other activities.			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	2, 3, 4		Heinle ELT		The Non-Stop Discussion Workbook		George Rooks	
	備考							
参考書	No additional reference materials are required.							
オフィスアワー	micahbox@gmail.com Please ask questions after the class (Monday 4th period) at classroom.							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Class explanation, orientation.
	事後学習	Review class rules. (30min)
2	事前学習	Review class rules. (30min)
	授業内容	Class explanation, orientation, part two, and “get to know your classmates” activity so that students will be able to form study groups with like-minded classmates.
	事後学習	Review class rules and consider who they would like to form a study group with. (30min)
3	事前学習	Consider potential study group partners. Prepare materials to make information cards. (30min)
	授業内容	Fill out information cards, and “get to know your classmates” activity so that students will be able to form study groups with like-minded classmates.
	事後学習	Form independent study groups. (30min)
4	事前学習	Make sure to purchase and bring textbooks. (30min)
	授業内容	Each study group will select a chapter of interest from the text and study independently as a group. The instructor will meet with each group during the class for guidance. When the group finishes a chapter, they will pick another and then proceed to study that one.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)

5	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
6	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
7	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
8	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
9	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
10	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
11	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
12	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
13	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
14	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Continue studying from where left off the week before. When a chapter is finished, choose another, and begin work on that chapter.
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)
15	事前学習	Prepare any necessary materials for consideration during group study. (30min)
	授業内容	Review and end of term evaluations. 解説
	事後学習	Review and prepare for next lesson. (30min)

科目名	Listening & Speaking ⅢB	担当者	P.カレンダー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This course will improve your speaking and listening skills through practicing conversations and listening by native speakers in different situations. Then there is simple conversation practice, usually between two students.			
授業目的・到達目標	This course is designed to help students develop their communication skills in focusing on discussion and listening skills based on structured conversation and listening exercises. 関連DP／CP：5, 6			
履修条件	This course is for level 3 students			
授業方法	The 32 lessons have warmup talking, listening, pronunciation and free conversation practice.			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	50% = two speaking tests of 25% each 25% = participation and effort 25% = active participation	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	Oxford University Press	Speak Now 4 ISBN 978-0-19-403041-0	Mari Vago
	備考			
参考書	English learners dictionary or an electronic dictionary			
オフィスアワー	paulkallender@gmail.com. Attention Dr. Kallender. Contact if you are going to miss a lesson, or if you have missed a lesson. Explain why. Please ask questions after the class (Tuesday 2nd period) at classroom.			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please make sure to check you have your textbook in advance (30min)
	授業内容	Course outline, expectations, testing, attendance, etc. Unit 1: I learned a lot from...
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
2	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 2, 3 & 4: Did you hear about...? I can't stand it when... You put up with a lot
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
3	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 5, 6 & 7: How do you know...? Are you up for...? / I had thought she was...
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
4	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 8, 9 & 10: It's just not my thing / What exactly is a ...? / I decided to...
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)

5	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 11, 12 & 13: I spend too much time.../ You have a point, but... / My short-term goal is...
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
6	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 14, 15, & 16: I' m very organized / The first thing you need... / I' m here to talk about...
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
7	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Review exercises Units 1-4, 5-8, 9-12 and 13-16 swapping partners
	事後学習	Make a note of major mistakes made (30min)
8	事前学習	Please review Units 1-16 before test (30min)
	授業内容	Mid-Term Test
	事後学習	Please review weaknesses (30min)
9	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 17, 18, & 19: Are you afraid of...? / I' m overworked / If I could go anywhere...
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
10	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 20, 21, & 22: I wish I had.../ It started out kind of slow / It has a really good beat
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
11	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 23, 24, & 25: Did you hear about...? / Have you heard? / Is the flight on time?
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
12	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 26, 27, & 28: I' m afraid.../ Do you think...? / It' s important to...
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
13	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Units 29, 30, & 31: Did you see the game? / Hold on / Studies have shown...
	事後学習	Please make sure to complete exercises in the book (30min)
14	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	Unit 32: What' s your opinion? Review exercises Units 17-20, 21-24, 25-28 and 29-32 swapping partners
	事後学習	Please make a note of mistakes(30min)
15	事前学習	Please make sure to read the next units before the next lesson (30min)
	授業内容	End-of-Term Test Review 解説
	事後学習	Please keep your textbook for follow-up (30min)

科目名	Listening & Speaking ⅢB	担当者	J.ジェルソ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	In 2020 the Olympic Games come to Tokyo. Millions of people will come to Japan, but how much do they know about Japan? Can you explain Japanese culture and history in English? Learn how in this class!				
授業目的・到達目標	You will practice English reading, writing, listening, and discussion skills. 関連DP及びCP：外国語科目領域5, 6				
履修条件	None				
授業方法	This class follows the conceptual framework of Content and Language Integrated Learning.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	Spelling tests 30%, Presentation 50%, Participation and effort 20%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	東京書籍		「外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」	ロックリー トーマス
	備考	授業が始まる前に教科書を必ず買ってください。			
参考書	なし				
オフィスアワー	Students can email anytime to joe.geluso@gmail.com Office hours are after class in classroom.				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Prepare for beginning of semester (60 minutes)
	授業内容	Theme: Samurai – Legendary Warriors of Japan Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Learn new vocabulary for short test. (30 minutes)
2	事前学習	Review vocabulary for short test. (20 minutes)
	授業内容	Theme: Korean Samurai: Fighting for Peace Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary (30 minutes)
3	事前学習	Review vocabulary for short test. (20 minutes)
	授業内容	Theme: Samurai of California – Nagasawa Kanaye Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary (30 minutes)
4	事前学習	Review vocabulary for short test. (20 minutes)
	授業内容	Theme: Wako – Terrors and DArlings of the Seas Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary (30 minutes)

5	事前学習	Review vocabulary for short test. (20 minutes)
	授業内容	Theme: Kinghts of Japanand Rome: The Tensho Embassy Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary (30 minutes)
6	事前学習	Review vocabulary for short test. (20 minutes)
	授業内容	Theme: A BittersweetRoman Journey – Hasekura Tsunenaga Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary (30 minutes)
7	事前学習	Review vocabulary for short test. (20 minutes)
	授業内容	Theme: Yasuke: The Strongest Man in Medieval Japan Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary (30 minutes)
8	事前学習	Review vocabulary for short test. (20 minutes)
	授業内容	Theme: An English Japanese Lord – William Adams Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary (30 minutes)
9	事前学習	Review vocabulary for short test. (20 minutes)
	授業内容	Theme: Yamada Nagasama – A Japanese King in Thailand Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary (30 minutes)
10	事前学習	Review vocabulary for short test. (20 minutes)
	授業内容	Theme: A Chinese Revolution Built in Japan Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary (30 minutes)
11	事前学習	Review vocabulary for short test. (20 minutes)
	授業内容	Theme: Presentation Making Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Finish reflection and learn new vocabulary (30 minutes)
12	事前学習	Think of a topic for the semester presentation (45 minutes)
	授業内容	Theme: Presentation Making Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Continue with presentations (60 minutes)
13	事前学習	Continue with presentations (60 minutes)
	授業内容	Theme: Presentation Making Skills: Reading, writing, listening, and speaking in English
	事後学習	Continue with presentations (60 minutes)
14	事前学習	Continue with presentations (60 minutes)
	授業内容	Theme: Presentations
	事後学習	Continue with presentations (60 minutes)
15	事前学習	Continue with presentations (60 minutes)
	授業内容	Theme: Presentations
	事後学習	Reflect on the semester (students can decide how much time to invest into this activity)

科目名	Listening & Speaking ⅢB	担当者	ダイアン・ナガトモ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This class is for serious students who want to improve their English. It is a topic based listening and speaking course. Students will exchange opinions and share ideas on a variety of topics.					
授業目的・到達目標	Only serious and hardworking students are welcome. This class will give you confidence to communicate and give your opinion in English. Focus will be on vocabulary expansion, speaking, and listening. This class will help you achieve higher scores on IELTS, TOEIC, and so on while improving your actual English speaking and listening skills. 関連DP及びCP：外国語科目領域5, 6					
履修条件	Attendance (fewer than 3 absences), textbook, pair work, group discussion, homework, presentations.					
授業方法	Attendance and participation 60% Presentations 40%					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		Attendance and participation 60% Presentations 40%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017	Nat. Geographic		21st Century Communication: Listening, Speaking, Book 1		Baker and Blass
	備考	Textbook and class participation is mandatory.				
参 考 書	Students MUST be on time, have textbook, and participate. Attendance is mandatory.					
オフィスアワー	hawley.diane.edla@ocha.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Orientation to the class (30分)
	授業内容	Introduction to second semester
	事後学習	Students will understand the class's criteria (30分)
2	事前学習	Listen for key words and phrases (30分)
	授業内容	Unit 5 Give Thanks
	事後学習	Students can listen to and discuss about gratitude. (30分)
3	事前学習	Support ideas with examples (30分)
	授業内容	Unit 5 Give Thanks
	事後学習	Students can listen to and discuss about people who make a difference. (30分)
4	事前学習	Review Unit 5 (30分)
	授業内容	Unit 5 Give Thanks
	事後学習	Students can listen to and discuss about different ways to show gratitude. (30分)

5	事前学習	Make inferences (30分)
	授業内容	Unit 6 Tell me why
	事後学習	Students can listen to and discuss about curiosity. (30分)
6	事前学習	Show interest (30分)
	授業内容	Unit 6 Tell me why
	事後学習	Students can listen to and discuss about how interest is sparked. (30分)
7	事前学習	Review Unit 6 (30分)
	授業内容	Unit 6 Tell me why
	事後学習	Students can listen to and discuss about something that was very interesting for them. (30分)
8	事前学習	Listen for problems and solutions (30分)
	授業内容	Unit 7 The livable city
	事後学習	Students can listen to and discuss about what makes a city livable. (30分)
9	事前学習	Talk about solutions (30分)
	授業内容	Unit 7 The livable city
	事後学習	Students can listen to and discuss about how to reinvent the apartment building. (30分)
10	事前学習	Review Unit 7 (30分)
	授業内容	Unit 7 The livable city
	事後学習	Unit 7 The livable city Students can listen to and discuss about the most livable cities in the world. (30分)
11	事前学習	Listen for listing words and phrasesas (30分)
	授業内容	Unit 8 Life Lessons
	事後学習	Students can listen to and discuss about different life' s lessons. (30分)
12	事前学習	Rephrase key idea (30分)
	授業内容	Unit 8 Life Lessons
	事後学習	Students can listen to and discuss about what can be learned in a dangerous situation. (30分)
13	事前学習	Review Unit 8 (30分)
	授業内容	Unit 8 Life Lessons
	事後学習	Students can listen to and discuss about things they want to do with their lives. (30分)
14	事前学習	Develop presentation skills (30分)
	授業内容	PRESENTATIONS
	事後学習	Students can make and watch presentations. (30分)
15	事前学習	Develop presentation skills (30分)
	授業内容	PRESENTATIONS
	事後学習	Students can make and watch presentations. (30分)

科目名	Listening & Speaking ⅢB	担当者	A.チャーンサイド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	This class is designed to give students maximum opportunity to both acquire and practice English speaking and listening skills. All students will speak and listen to English in every class.			
授業目的・到達目標	The principal learning objective of this class is the acquisition of English skills enough to allow successful communication with non-Japanese. Student will be able get to think critically and logically, to face new challenges without giving up, to work efficiently as part of a group, and to reflect on one's own strengths and weaknesses. 関連DP／CP：外国語科目領域5，6			
履修条件	University streaming system dictates who is able to take this class			
授業方法	Class will be based on active learning principles with working in pairs or groups.			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	Individual speaking test and whole-class listening test, each ontributing half of final test 10% total Continuous assessment:Active participation 30%, Quizzes 30%, Vocabulary development project 15%, Homework 15%
教科書	年	出版社	書名	著者名
		EFL Press	Topic Talk Second Edition	David Martin
	備考			
参考書	No reference books			
オフィスアワー	Wednesday 12:30 - 13:00 Classroom to be decided			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Prepare to talk about your summer break in English. Prepare possible questions to ask teacher about his break (30min)
	授業内容	Getting to know each other, again. Talking about summer break in groups, then in front of class. Interrogation of teacher. Explanation of any grammar or vocabulary issues that arise.
	事後学習	Reflect on speaking performance in today's class. Could it have been better? How? (30min)
2	事前学習	Prepare at least 20 yes/no and wh questions about summer break to ask teacher (30min)
	授業内容	In groups compare questions, make a list of the ten best questions by group. Predict answers. Ask teacher questions, compare his answers to your predictions.
	事後学習	Review new questions learned today. Read General Service List 1000-2000 (30min)
3	事前学習	Select 10 words from 1000-1500, write on vocabulary cards (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 6, Transportation. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice
	事後学習	Review Transportation vocabulary and question structures. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
4	事前学習	Select 10 words from GSL 1000-1500, write on vocabulary cards. Total 20 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 6, Transportation listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.
	事後学習	Review structure of newly created questions. Check GSL 1000-1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)

5	事前学習	Select 10 words from GSL 1000–1500, write on vocabulary cards. Total 30 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 7, Sports. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice
	事後学習	Review Sports vocabulary and question structures. Check GSL 1000–1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
6	事前学習	Select 10 words from GSL 1000–1500, write on vocabulary cards. Total 40 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 7, Sports listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.
	事後学習	Review structure of newly created questions. Check GSL 1000–1500 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
7	事前学習	Select 10 words from GSL 1000–1500, write on vocabulary cards. Total 50 words. Prepare for vocabulary test GSL 1000–1500. Prepare for Topics 6 and 7 test. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 3, GSL 1000–1500. Topics 6 and 7 test
	事後学習	Check GSL 1501–2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
8	事前学習	Select 10 words from GSL 1501–2000, write on vocabulary cards. Total 60 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 8, Numbers. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice
	事後学習	Review Numbers vocabulary and question structures. Check GSL 1501–2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
9	事前学習	Select 10 words from GSL 1501–2000, write on vocabulary cards. Total 70 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 8, Numbers listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.
	事後学習	Review structure of newly created questions. Check GSL 1501–2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Watch The Simpsons on YouTube (30min)
10	事前学習	Select 10 words from GSL 1501–2000, write on vocabulary cards. Total 80 words. Watch The Roadrunner on YouTube (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 10, TV. Mixed-up questions, sample answers and conversation practice
	事後学習	Review TV vocabulary and question structures. (30min)
11	事前学習	Select 10 words from GSL 1501–2000, write on vocabulary cards. Total 90 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook topic 10 TV listening activity. Conversation practice and question formation activity where new topic-focused questions are created in groups.
	事後学習	Review structure of newly created questions. Check GSL 1501–2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
12	事前学習	Select 10 words from GSL 1501–2000, write on vocabulary cards. Total 100 words. Prepare for vocabulary test GSL 1500–2000. Prepare for Topics 8 and 10 test (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Vocabulary test 4, GSL 1501–2000. Topics 8 and 10 test
	事後学習	Check GSL 1501–2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings (30min)
13	事前学習	Select 10 words from GSL 1501–2000, write on vocabulary cards. Total 110 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. Textbook Topic 13 School, mixed-up questions, sample answers, listening activity, conversation practice
	事後学習	Check GSL 1501–2000 words in dictionary, looking out for multiple meanings. Think of a good topic (not one in text book) (30min)
14	事前学習	Select 10 words from GSL 1501–2000, write on vocabulary cards. Total 120 words. (30min)
	授業内容	Vocabulary quiz in pairs. In groups select a new topic. Make five topic -related questions. Write on board. Teacher checks .Make five more questions. Write on board. Teacher checks. Practice conversation.
	事後学習	Review structure of new questions and reflect on mistakes made. Make sure vocabulary notebooks are up to date. (30min)
15	事前学習	Review all semester work to prepare for listening and speaking tests (30min)
	授業内容	Whole class listening test. Individual speaking tests, Submission of new vocabulary notebooks. 解説
	事後学習	Review semester's work and prepare a winter break study plan. (30min)

科目名	Listening & Speaking IVA(金曜3限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Improving English listening and speaking skills.					
授業目的・到達目標	This is a high-level class. Students must be willing to speak English eagerly! We will practice speaking, listening, reading and writing English, with the focus on improving speaking and listening ability.Students will be able to understand English better and communicate their thoughts and feelings better in English. 関連D P／C P : 5, 6					
履修条件	Students must be able to speak English well.					
授業方法	We will focus on speaking English in the class, as well as listening and reading.					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		Evaluation will be classwork 100%.	
教科書	年	出版社		書名		著者名
		Heinle		Life Intermediate		Stephenson, Dummett, Hughes
	備考					
参 考 書	なし					
オフィスアワー	Friday, 12:10-13:00 at classroom					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction
	事後学習	Be ready to study English. (30min)
2	事前学習	Be ready to study English. (30min)
	授業内容	Unit 1.1 Color. The way color works and how it affects us.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
3	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 1.2 Routine. What we do in our daily lives and why it's important.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
4	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 2.1 Performance. Actions to show to others about ourselves.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)

5	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 2.2 Globalization. The world gets smaller as we learn more about people in other countries.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
6	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 3.1 Water. How important it is for the earth and all of us.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
7	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 3.2 Experiences. Things we've done in the past and what we've learned from them.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
8	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 4.1 Opportunities. Chances to improve things in our lives.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
9	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 4.2 Future. What will happen in the years ahead.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
10	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 5.1 Travel. Being able to see different places anywhere in the world.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
11	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 5.2 Conservation. Saving important parts of the the earth and living things around us.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
12	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 6.1 Wellbeing. Being healthy and taking care of our bodies.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
13	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 6.2 Lifestyle. The things we like to do in our daily lives.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
14	事前学習	Prepare for review. (30min)
	授業内容	Review
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
15	事前学習	Prepare for review. (30min)
	授業内容	Review 解説
	事後学習	Review (30min)

科目名	Listening & Speaking IVA(金曜4限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Improving English listening and speaking skills.				
授業目的・到達目標	Students must be willing to speak English eagerly! We will practice speaking, listening, reading and writing English, with the focus on improving speaking and listening ability.Students will be able to understand English better and communicate their thoughts and feelings better in English. 関連D P／C P : 5, 6				
履修条件	Students must be able to speak English well.				
授業方法	We will focus on speaking English in the class, as well as listening and reading.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	Evaluation will be classwork 100%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
		Heinle		Life Upper-intermediate	Dummett, Stephenson, Hughes
	備考				
参 考 書	なし				
オフィスアワー	Friday, 12:10-13:00 at classroom				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction
	事後学習	Be ready to study English. (30min)
2	事前学習	Be ready to study English. (30min)
	授業内容	Unit 1.1 Relationships. How we get along with the people around us, but inside and outside our families.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
3	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 1.2 Friendship. What makes people become friends and how they stay friends.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
4	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 2.1 Storytelling. Relating events that have happened to us in our lives.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)

5	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 2.2 Movies. Different kinds of movies and what we get out of watching them.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
6	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 3.1 Science. One way to learn about the world around us.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
7	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 3.2 Technology. Using machines to improve our lives, but also make them more complicated.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
8	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 4.1 Art. Seeing things around us for the pleasure of enjoying them.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
9	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 4.2 Creativity. Being able to make new things and come up with new ideas.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
10	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 5.1 Development. Building new concepts into real things.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
11	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 5.2 Society. The way people interact with one another in the world.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
12	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 6.1 Alternative Travel. New and interesting ways to go places.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
13	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 6.2 Vacations. What we do when we have some free time, especially in summer or winter.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
14	事前学習	Prepare for review. (30min)
	授業内容	Review
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
15	事前学習	Prepare for review. (30min)
	授業内容	Review 解説
	事後学習	Review (30min)

科目名	Listening & Speaking IVB(金曜4限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Improving English listening and speaking skills.				
授業目的・到達目標	Students must be willing to speak English eagerly! We will practice speaking, listening, reading and writing English, with the focus on improving speaking and listening ability.Students will be able to understand English better and communicate their thoughts and feelings better in English. 関連D P／C P : 5, 6				
履修条件	Students must be able to speak English well.				
授業方法	We will focus on speaking English in the class, as well as listening and reading.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	Evaluation will be classwork 100%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
		Heile		Life Upper-intermediate	Dummett, Stephenson, Hughes
	備考				
参 考 書	なし				
オフィスアワー	Friday, 12:10-13:00 at classroom				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction
	事後学習	Be ready to study Englihs. (30min)
2	事前学習	Be ready to study English. (30min)
	授業内容	Unit 7.1 Natural Resources. Parts of nature and the earth that we use in our daily lives.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
3	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 7.2 Water. How important is it in the world and how we have to be careful about it.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
4	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 8.1 News. Current events that are happening around us.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)

5	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 8.2 Media. The way we learn about things that occur in the world every day.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
6	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 9.1 Talent. Special abilities to do things that others enjoy.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
7	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 9.2 Career. Jobs and how we decide what we want to do or be in the future.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
8	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 10.1 Customs. Things that we grow up doing because they have always been done that way.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
9	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 10.2 Behavior. Actions that we do in our lives, for better or worse.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
10	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 11.1 Knowledge. What we find out in school that we can then use in our lives.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
11	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 11.2 Learning. Being able to find out new information that we can remember and use.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
12	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 12.1 Economy. How business and finance work together to make our lives run smoothly.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
13	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 12.2 Exchange Systems. Ways of trading information in order to improve things.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
14	事前学習	Prepare for the review. (30min)
	授業内容	Review
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
15	事前学習	Prepare for the review. (30min)
	授業内容	Review 解説
	事後学習	Review (30min)

科目名	Listening & Speaking IVB(金曜3限)	担当者	J. ウッド	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Improving English listening and speaking skills.					
授業目的・到達目標	This is a high-level class. Students must be willing to speak English eagerly! We will practice speaking, listening, reading and writing English, with the focus on improving speaking and listening ability.Students will be able to understand English better and communicate their thoughts and feelings better in English. 関連D P／C P : 5, 6					
履修条件	Students must be able to speak English well.					
授業方法	We will focus on speaking English in the class, as well as listening and reading.					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		Evaluation will be classwork 100%.	
教科書	年	出版社		書名		著者名
		Heinle		Life Intermediate		Stephenson, Dummett, Hughes
	備考					
参 考 書	なし					
オフィスアワー	Friday, 12:10-13:00 at classroom					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please read the contents of syllabus. (30min)
	授業内容	Introduction
	事後学習	Be ready to study English. (30min)
2	事前学習	Be ready to study English. (30min)
	授業内容	Unit 7.1 Living Space. How we use the rooms and items in our houses.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
3	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 7.2 Homes. Different kinds of places to live and how they affect us.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
4	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 8.1 Weird News. Strange and interesting things that happen around the world.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)

5	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 8.2 Mysteries. Things that are hard to explain why they happen.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
6	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 9.1 Trade. Business and how things are bought and sold.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
7	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 9.2 Finance. The use of money in business and also in our own lives.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
8	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 10.1 No Limits. Extreme sports and actions for people who want challenges.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
9	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 10.2 Medicine. How science is working to heal people and make us healthier.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
10	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 11.1 Connections. The people and things around us and how we relate to them.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
11	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 11.2 Social Media. Communicating with friends by using technology.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
12	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 12.1 Experts. People who know a lot about their special fields and what we can learn from them.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
13	事前学習	Prepare homework. (30min)
	授業内容	Unit 12.2 Predicting. Thinking about what might happen in the future.
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
14	事前学習	Prepare for review. (30min)
	授業内容	Review
	事後学習	Remember English words and phrases. (30min)
15	事前学習	Prepare for review. (30min)
	授業内容	Review 解説
	事後学習	Review (30min)

科目名	Reading I A	担当者	太田 晴美	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では英語の多読をマラソンに例えて、目標キロ数（語数）を達成します。図書館で自分が選んだ英文の本を楽しみながら読み進めていきます。簡単な絵本のようなものでも継続してたくさん読んでいるうちに英語の基礎力が定着し、日本語の介入なしに、英語が英語として頭に入ってくるようになります。同時に何冊も読み終える達成感も味わえます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】英文の多読を通じて英語の苦手意識を克服し、英文の速読力を養成することを目的とします。 【授業目標】1000語をおよそ4分で読み終わらせるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 1、3、6					
履修条件	授業外で毎週必ず定められたキロ数・冊数を読み、そしてリアクションペーパーを書くことができる学生のみ履修してください。リアクションを入力するIRCサイトは半期510円です。					
授業方法	学生主体の授業です。グループで一週間で読んだものについてbook talkをします。毎回多読の進行状況やリアクションペーパーに関して教員がコメントをします。IRCサイトを利用して、感想を入力します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		毎週の目標ページ数を読み、最終目標ゴールを達成すること。感想文を毎回提出すること。最終課題も含めて総合的に評価をします。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	法学部図書館 6 階の洋書多読本を使用します				
参考書	多聴多読マガジン（コスモピア）					
オフィスアワー	火曜日15：00～16：00 電話かメールでアポイントメントをお取りください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでくる。（30分）
	授業内容	授業の概要を説明 Reading Marathonとは？ Graded Readers他、多読本の種類について
	事後学習	履修を決めた人は配布資料を読む。（30分）
2	事前学習	法学部図書館 6 階で本を借り、読み始める。（30分）
	授業内容	法学部図書館 6 階で各出版社多読本の特徴と種類の説明を受ける。 IRCの説明と登録。 多読本を読んでみる。
	事後学習	図書館で本を借り、IRCに感想を入れてみる。（30分）
3	事前学習	図書館で本を借り、IRCに感想を入れる。（30分） 2，3 冊授業に持参する。
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。
	事後学習	図書館で本を借りて読み進める。（30分）
4	事前学習	最低 2 冊を読み、IRCにリアクションを入れる。（30分）
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 グループメンバーにコメントをつける。
	事後学習	図書館で本を借りて読み進める。（30分）

5	事前学習	最低2冊を読み、IRCにリアクションを入れる。（30分）
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 聞かせ読みを体験する。
	事後学習	図書館で本を借りて読み進める。（30分）
6	事前学習	最低2冊を読み、IRCにリアクションを入れる。（30分）
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 リアクションを英語を発表する表現を学ぶ。
	事後学習	図書館で本を借りて読み進める。（30分）
7	事前学習	最低2冊を読み、IRCにリアクションを入れる。 英語でリアクションを書く。（30分）
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表 リアクションを英語で発表する。
	事後学習	図書館で本を借りて読み進める。（30分）
8	事前学習	最低2冊を読み、IRCにリアクションを入れる。 英語でリアクションを書く。（30分）
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表（日本語&英語）。
	事後学習	図書館で本を借りて読み進める。（30分）
9	事前学習	最低2冊を読み、IRCにリアクションを入れる。（30分）
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表（日本語&英語）。 英語の本を音読する方法を学ぶ。。
	事後学習	図書館で本を借りて読み進める。（30分）
10	事前学習	最低2冊を読み、IRCにリアクションを入れる。 音読を練習する。（30分）
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表（日本語&英語）。 グループで音読をする。
	事後学習	図書館で本を借りて読み進める。（30分）
11	事前学習	最低2冊を読み、IRCにリアクションを入れる。 音読を練習する。（30分）
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表（日本語&英語） グループで音読をする。
	事後学習	図書館で本を借りて読み進める。（30分）
12	事前学習	最低2冊を読み、IRCにリアクションを入れる。 音読を練習する。（30分）
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表（日本語&英語） グループで音読をする。 最終課題の説明。
	事後学習	図書館で本を借りて読み進める。（30分）
13	事前学習	最低2冊を読み、IRCにリアクションを入れる。 最終課題をグループで準備する。（30分）
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表（日本語&英語） グループで最終課題の練習。
	事後学習	各自のキロ数と冊数を確認して読み進める。（30分）
14	事前学習	各自のキロ数と冊数を確認して読み進め、IRCにリアクションを入れる。 最終課題を練習する。（30分）
	授業内容	各グループで最終課題を発表する。
	事後学習	各自のキロ数と冊数を最終確認して読み進める。（30分）
15	事前学習	各自のキロ数と冊数を最終確認してIRCにリアクションを入れる。（30分）
	授業内容	最終課題プレゼンと目標到達キロ数について教員からフィードバックを受ける。 前期top runners 発表&表彰。
	事後学習	前期各自が読んだ本のリアクション・ペーパーをIRCサイトで読み返す。グループメンバーのリアクションも読んでみる。 夏休み期間も多読を継続する。（30分）

科目名	Reading I A	担当者	小山 誠子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	'Football','Royal Family','gentlemen','tea'等の歴史や伝統、加えて現在は'Brexit'で注目される「イギリス」「英国」について書かれた英文を、既習の文法事項の確認しながら知識を得るための手段として精読する。加えて、授業内/外の英語の「多読」(学習者各自による。初回にて指示)により英文の情報を正確に読み取り、一定量以上の英文(語数)の読書を行う。					
授業目的・到達目標	英文の精読を通じて欧米文化の価値観への理解を深め、多様で国際的な倫理観を涵養することを目的とします。受講者各自の持つ自国文化との比較・対照を行うことで、批評(批判)的且つ論理的な思考を養い、自国の言語文化を相対化する視点を持ち国際社会に発信し、客観的理解・共感を得られるようになることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域1，3，6					
履修条件	授業概要及び到達目的・目標(授業内/外の「多読」活動=読書量に応じて成績評価)を意識し、興味を持って主体的・積極的かつ他の受講者と協力し合って授業に取り組む者。引き続きReading I Bを受講する予定の者。					
授業方法	英文精読(訳読)及び関連資料及び映像を使って情報の確認を行う。更にChapter毎に小テスト(単語)を行う。(開始15分前後は別教材で「多読」実施。)最終授業日は授業内試験(60分)+解説/講評(30分)を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価(発表(テキスト精読)等授業への積極的取組/テスト)+「多読」による読書量(履修期間のtotal)を総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	音羽書房鶴見書店		Welcome to Britain【Revised Edition】英国の(いま)を知りたい [改訂新版]		Tim Knight
	2008	MACMILLAN		King Arthur and the Knights of the Round Table		Stephen Colbourn
	備考			2冊とも授業にて使用するので必ず購入すること。		
参考書	大学生/社会人レベルの辞書(電子辞書も可)を毎回携帯すること。学習記録用のノートを用意すること。 ※ PC・タブレット・携帯電話の使用は認めない。					
オフィスアワー	授業後20分間(水曜14:30~14:50, 16:10~16:30) 授業講堂にて対応する。(※初回授業にて指示する。)					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	(事前にテキストが入手可能な場合)テキスト全体に目を通し、気になる点をメモして授業に臨む。加えて、テキスト以外に「イギリス」関連で興味のあることも併せてメモする。(30分)
	授業内容	ガイドランス+初回reading(“King Arthur and the Knights of the Round Table”について)所謂「アーサー王伝説」に関する一般的な情報を把握し、説明できる。
	事後学習	テキスト全体を概観し、次回(第2回)展開範囲(Chapter 1)を中心に、まずは辞書を使わずにどの程度内容が把握できそうか現時点での「実力チェック」を各自行う。(→学期末の学習成果を自己評価できるようにするため。)(30分)
2	事前学習	1.“King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。2. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。(30分)
	授業内容	1.(毎回開始時に全体にて)「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。2. Chapter 1 The United Kingdom? (前半)演習と解説(※1chapter/2classesペースの予定。)個々の英文の構造・内容を理解し、読解内容全体の情報整理・説明できる。
	事後学習	1.“King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。)2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。(30分)
3	事前学習	1.“King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。(30分)
	授業内容	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。2. Chapter 1 The United Kingdom? (後半)演習と解説「イギリス」の定義及び「連合王国」の実情を理解し、説明できる。
	事後学習	1.“King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。)2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。(30分)

4	事前学習	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想/記録する。(30分)
	授業内容	1. Mini Test(Chapter1) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter 2 Multicultural Britain (前半)個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。(30分)
5	事前学習	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。(30分)
	授業内容	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 2 Multicultural Britain (後半) 演習と解説：「多民族/多文化国家」の実情及びその問題点を把握し、説明できる。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。(30分)
6	事前学習	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。(30分)
	授業内容	1. Mini Test(Chapter 2) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter 14 Language (前半) 演習と解説：個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。(30分)
7	事前学習	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。(30分)
	授業内容	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 14 Language (後半) 演習と解説：「英語」'English'を通して、イギリス人(的)価値観を理解し、説明できる。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。(30分)
8	事前学習	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。(30分)
	授業内容	1. Mini Test(Chapter 14) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter 3 The UK and the EU (前半) 演習と解説：個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。(30分)
9	事前学習	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。(30分)
	授業内容	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 3 The UK and the EU (後半) 演習と解説：'Brexit'をめぐる、イギリスとEUとの関係性の現状及び問題点を把握し、説明できる。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。(30分)
10	事前学習	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。(30分)
	授業内容	1. Mini Test(Chapter3) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter 5 Social class (前半) 演習と解説：個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。(30分)
11	事前学習	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。(30分)
	授業内容	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter 6 Social class (後半) 演習と解説：「階級」'Social class'とはどういうものか、加えてその現状(イギリス社会の構造及びその歴史的変遷)について理解し、説明できる。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。(30分)
12	事前学習	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。(30分)
	授業内容	1. Mini Test(Chapter 6) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter○(前半) ※受講者の要望/選択によるもの。但し、(Chapter1, 2, 3, 4-7, 10, 14以外) ※何れのChapterにおいても、第11回迄と同様に個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。(30分)
13	事前学習	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。(30分)
	授業内容	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter○(第12回の続き)(後半) 演習と解説：Chapterのテーマから問題点を摘出・解明し、説明できる。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。(30分)

14	事前学習	Mini Testに向けての準備と併せて、学期内展開範囲全てのMini Testを復習(特に不正解問題を中心に)する。テキスト展開箇所全般の構文・内容についても各自見直しを行う。(不明なものは授業にて確認すること。)(30分)
	授業内容	1. Mini Test(Chapter O(第12-13回展開範囲)) 2. 「多読」(“King Arthur”練習(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. 学期内展開範囲の総復習:学習内容全般を見直し、今一度必要に応じて修正/補足を行い、正確に把握し説明できる。+ ((受講者による) Book report 等を予定)
	事後学習	学習内容全体を見直し、必要に応じて修正・確認を行うことで、正確に学習内容を記録する。(30分)
15	事前学習	3か月の学習内容を次の3点に関して整理・分析する。(1)習得された語彙や基本的文法事項理解の確認、(2)“King Arthur”のストーリー展開/(3)関連情報を含め「イギリス」について得た情報、(4)「英語圏」=「異文化」を通じて得た受講者各自の意見・感想を記録する。(30分以上必要に応じて)
	授業内容	まとめ(試験を含む):授業内試験(60分)+解説/講評(30分)を行う。 3か月の学習を通じた、各自の「イギリス観」及び自国文化との比較・対照を行い、説明できる。
	事後学習	初回事前学習からの学習成果を自己分析・確認にもとづき、今後の課題(英語学習に関する具体的目標)を設定する。 (受講者各自の専門分野に関する英文(文献やニュース等最新のWeb情報など)どれくらい読めるようになったかを確認)

科目名	Reading I A	担当者	北原 安治	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	各国の歴史や文化を学びながら、文法の理解と発音そして訳しかたなどの基本事項を学ぶ。本文のみやり練習問題はやらない。			
授業目的・到達目標	【授業目的】多読により速読力を養成し、基礎文法を養成することを目的とする。 【到達目標】基礎的な英文の構造を理解して、正しい発音と訳ができることを目標とする。 対応DP及びCP：外国語科目領域1， 3， 6			
履修条件	とくに履修条件はない。			
授業方法	学生の理解度によって速度を調整する。辞書（電子辞書可）を持ってくる。ノート検査をするのでいつ検査を受けても良いようにまとめておく。ノートなきものは不可。映像教材をみせる。実力テストは次の週に解説、解答をする。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	平常評価（授業参加度、実力テスト、学期末試験等）100%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2006	鳳書房	Major Countries in the World ～世界の主要国～	小泉和弘
	備考			
参 考 書	『ロイヤル英文法』1,890円（旺文社）この本は講義では使いません。辞書は毎回持ってくる。			
オフィス アワー	授業終了後（水曜日17：50～授業講堂にて）またはEメールで対応。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス、授業の進め方、ノートの取り方などの説明。TOEICの説明。第6章から始める。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
2	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。基本文型の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
3	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。文の種類の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
4	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。自動詞と他動詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）

5	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。補語と目的語の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
6	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。二重目的語の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
7	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。現在進行形の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
8	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。過去進行形の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
9	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。未来進行形の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
10	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第6章 カナダ 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。現在完了形の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
11	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。過去完了形の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
12	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。未来完了形の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
13	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。関係代名詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
14	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第7章 ロシア 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。関係副詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
15	事前学習	試験範囲の復習。単語、文法、訳の確認。（30分）
	授業内容	復習とまとめ
	事後学習	間違った部分の復習。単語、文法、訳の確認。（30分）

科目名	Reading I A	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	アメリカでベストセラーを記録した“Chicken Soup for the Soul”の精読を通して、英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学びます。また、適宜、『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』を用いて、英文法・語法の知識を整理していきます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【授業目標】TOEICテストのための基礎力を身に着け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。関連DP及びCP：外国語科目領域1，3，6					
履修条件	上記資格試験の受験を強く奨励します。原則Reading IBと通年で履修してください。					
授業方法	演習方式。輪読形式で教科書を読み進めていきます。指名された学生には、教科書の音読と和訳をしてもらい、その後、クラス全体で内容の確認をしていきます。また、適宜、小テストを実施し、次の授業以降で返却をします。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）100% 予習をしていない場合は、大幅に減点します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	1997	郁文堂		『ショート・ショート・ストーリーズ II』		高橋潔 編
	2018	いいずな書店		『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』		いいずな書店編集部
	備考	『ジーニアス英和辞典 第5版』など、大学生向けの英和辞典を必ず毎回持参すること。				
参考書	使用しない。					
オフィスアワー	金曜日16:10～授業終了後の講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体像を概観しておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス 事前・事後学習の方法、成績評価等について説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。（30分）
2	事前学習	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』のLesson 2～3 の Exercise を解いておく。（30分）
	授業内容	英文読解に必要な品詞と文型、句と節について学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に間違えた問題を解き直す。（30分）
3	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Flowerの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。（30分）
4	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Flowerの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。（30分）

5	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Flowerの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
6	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Bopsyの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
7	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Bopsyの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
8	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Bopsyの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
9	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Power of Determinationの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
10	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Power of Determinationの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
11	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Power of Determinationの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
12	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Ultimate Sacrificeの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
13	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Ultimate Sacrificeの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
14	事前学習	辞書や文法書，註などを参照しながら英文を精読し，和訳しておくこと。その際，どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Ultimate Sacrificeの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
15	事前学習	前期授業内容の総復習。（30分）
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り。
	事後学習	前期の授業内容について，授業ノートを基に今一度解釈を試みる。（30分）

科目名	Reading I A	担当者	堤 裕美子	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	このテキストは、英語教育を専門とする大学教員と、法学部で英米法を専門とする教員によって作られたテキストです。アメリカやイギリスの法律を理解するために極めて重要で基本的な15の判例を読んでいます。英文を丁寧に正しく読むだけでなく、判決について意見を述べる問題、リスニングや内容把握といった練習問題によって英語力の定着を図ります。				
授業目的・到達目標	訴状や召喚状、上訴趣意書などを英文で読みながら、司法英語などの語彙力を養成することを目的とし、文法を正しく理解しながら文の構造を確認し、英文の内容を理解する力を身につけます。将来、辞書を用いて英文の専門書や文学作品、一般の雑誌などを読める読解力を身につけられることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域1， 3， 6				
履修条件	次回の学習範囲の予習を怠らないこと。授業内ではグループ・ワークやペア・ワークに積極的に参加できること。				
授業方法	受講者の予習を前提とし、英文精読(訳読)を行う。前回の授業で学習した英文を正しく理解しているか、和訳の小テストを毎回実施し、次回以降返却する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	小テスト、授業中の発言、授業内テスト結果等	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2014	金星堂	Legal Minds 15 Journeys in Law		鳥飼慎一郎、溜箭雅之
	備考				
参 考 書	授業内で指示します				
オフィスアワー	水曜日2時限～6時限 授業後の講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの「本書の使い方」「目次」に目を通し、テキストの目的を認識すること。(30分)
	授業内容	ガイダンス。受講希望者は必ず出席して下さい。授業のルーティン、英文の読み方やノートの取り方、評価について説明します。
	事後学習	音声ファイルをダウンロードし、予習復習に使えるか確認をすること。(30分)
2	事前学習	Case 1「訴訟社会アメリカ？ホットコーヒーやけど裁判の真実」 p.9, 10, 11を解いてくる。意味の分からない単語は調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 1「訴訟社会アメリカ？ホットコーヒーやけど裁判の真実」 p.9, 10の精読と11の答え合わせ。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
3	事前学習	Case 1「訴訟社会アメリカ？ホットコーヒーやけど裁判の真実」 p.12, 13, 14の意味の分からない単語を調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 1「訴訟社会アメリカ？ホットコーヒーやけど裁判の真実」 p.12, 13, 14の問題演習と解説。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
4	事前学習	Case 2「知らなかったでは済まされない？！配達遅れで被った損害への支払い」 p.15, 16, 17を解いてくる。意味の分からない単語は調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 2「知らなかったでは済まされない？！配達遅れで被った損害への支払い」 p.15, 16の精読とp.17の答え合わせ。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)

5	事前学習	Case 2「知らなかったでは済まされない?! 配達遅れで被った損害への支払い」 p. 18, 19, 20の分からない単語は調べてくる。
	授業内容	Case 2「知らなかったでは済まされない?! 配達遅れで被った損害への支払い」 p. 18, 19, 20の問題演習と解説。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
6	事前学習	Case 3「高すぎる勉強代? 顧客がBMW社に求めた一罰百戒」 p. 21, 22, 23を解いてくる。意味の分からない単語は調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 3「高すぎる勉強代? 顧客がBMW社に求めた一罰百戒」 p. 21, 22の精読とp. 23の答え合わせ。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
7	事前学習	Case 3「高すぎる勉強代? 顧客がBMW社に求めた一罰百戒」 p. 24, 25, 26の意味の分からない単語を調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 3「高すぎる勉強代? 顧客がBMW社に求めた一罰百戒」 p. 24, 25, 26の問題演習と解説。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
8	事前学習	Case 4「アメリカ中が熱狂した有名人の逃亡劇と世紀の裁判」 p. 27, 28, 29を解いてくる。意味の分からない単語は調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 4「アメリカ中が熱狂した有名人の逃亡劇と世紀の裁判」 p. 27, 28の精読とp. 29の答え合わせ。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
9	事前学習	Case 4「アメリカ中が熱狂した有名人の逃亡劇と世紀の裁判」 p. 30, 31, 32の意味の分からない単語を調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 4「アメリカ中が熱狂した有名人の逃亡劇と世紀の裁判」 p. 30, 31, 32の問題演習と解説。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
10	事前学習	Case 5「スピード違反のドライバーと警官のカーチェイスが生んだ悲劇」 p. 33, 34, 35を解いてくる。意味の分からない単語は調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 5「スピード違反のドライバーと警官のカーチェイスが生んだ悲劇」 p. 33, 34の精読とp. 35の答え合わせ。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
11	事前学習	Case 5「スピード違反のドライバーと警官のカーチェイスが生んだ悲劇」 p. 36, 37, 38を解いてくる。意味の分からない単語は調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 5「スピード違反のドライバーと警官のカーチェイスが生んだ悲劇」 p. 36, 37, 38の問題演習と解説。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
12	事前学習	Case 6「CIA工作員の身元暴露事件—国家機密の漏えいと報道の自由」 p. 41, 42, 43を解いてくる。意味の分からない単語は調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 6「CIA工作員の身元暴露事件—国家機密の漏えいと報道の自由」 p. 41, 42の精読とp. 43の答え合わせ。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
13	事前学習	Case 6「CIA工作員の身元暴露事件—国家機密の漏えいと報道の自由」 p. 44, 45, 46を解いてくる。意味の分からない単語は調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 6「CIA工作員の身元暴露事件—国家機密の漏えいと報道の自由」 p. 44, 45, 46の問題演習と解説。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
14	事前学習	小テスト箇所の復習。(30分)
	授業内容	知っておきたい司法の英単語 (p. 6. 7, 8)
	事後学習	重要語彙を覚える。(30分)
15	事前学習	今学期の授業を振り返る (30分)
	授業内容	今学期の授業のまとめ (試験を含む)
	事後学習	授業の見直しをする (30分)

科目名	Reading I A	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語のリーディング、文法を中心に学習します。英語学修と部活動の両立に困難を感じている2年生以上を主な対象として指導を行います。				
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。英文を素早く読んで、情報を正確に読み取ることが出来るようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域1， 3， 6				
履修条件	特にありません。				
授業方法	実践演習をして解説をします。小テストやレポートの返却等を行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	レポート提出	
教科書	年	出版社		書名	著者名
				プリントおよび視聴覚教材使用	
	備考	なし			
参考書	飛田茂雄（編）『現代英米情報辞典』研究社 参考書を購入する必要はない。適宜図書館等で参照すること。				
オフィスアワー	水曜日16：20-17：50（4号館1階） 連絡先：mizumoto.koji*nihon-u.ac.jp　、「メールする場合は*を@に変えて使ってください」				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
2	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	The letter
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
3	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Not from Captain Hasting's personal narrative
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
4	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Andover
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）

5	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Mrs. Ascher
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
6	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Mary Drower
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
7	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	The scene of the crime
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
8	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Mr. Partridge and Mr. Riddell
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
9	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	The second letter
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
10	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	The Bexhill-on-Sea murder
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
11	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	The Barnards
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
12	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Megan Barnard
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
13	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Donald Fraser
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
14	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	A conference
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
15	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	復習、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）

科目名	Reading I B	担当者	太田 晴美	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では英語の多読をマラソンに例えて、目標キロ数（語数）を達成します。図書館で自分が選んだ英文の本を楽しみながら読み進めていきます。簡単な絵本のようなものでも継続してたくさん読んでいるうちに英語の基礎力が定着し、日本語の介入なしに、英語が英語として頭に入ってくるようになります。同時に何冊も読み終える達成感も味わえます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】英文の多読を通じて英語の苦手意識を克服し、英文の速読力を養成することを目的とします。 【授業目標】1000語をおよそ4分で読み終わられるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 1、3、6					
履修条件	授業外で毎週必ず定められたキロ数・冊数を読み、そしてリアクションペーパーを書くことができる学生のみ履修してください。リアクションを入力するIRCサイトは半期510円です。					
授業方法	学生主体の授業です。グループで一週間で読んだものについてbook talkをします。毎回多読の進行状況やリアクションペーパーに関して教員がコメントをします。IRCサイトを利用して、感想を入力します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		毎週の目標ページ数を読み、最終目標ゴールを達成すること。感想文を毎回提出すること。最終課題も含めて総合的に評価をします。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	法学部図書館 6 階の洋書多読本を使用します				
参考書	多聴多読マガジン（コスモピア）					
オフィスアワー	火曜日15：00～16：00 電話かメールでアポイントメントをお取りください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでくる。（30分）
	授業内容	授業の概要を説明 Reading Marathonとは？ Graded Readers他、多読本の種類について
	事後学習	履修を決めた人は配布資料を読む。（30分）
2	事前学習	法学部図書館 6 階で本を借り、読み始める。（30分）
	授業内容	法学部図書館 6 階で各出版社多読本の特徴と種類の説明を受ける。 IRCの説明と登録。 多読本を読んでみる。
	事後学習	図書館で本を借り、IRCに感想を入れてみる。（30分）
3	事前学習	図書館で本を借り、IRCに感想を入れる。（30分） 2，3 冊授業に持参する。
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。
	事後学習	図書館で本を借りて読み進める。（30分）
4	事前学習	最低 2 冊を読み、IRCにリアクションを入れる。（30分）
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 グループメンバーにコメントをつける。
	事後学習	図書館で本を借りて読み進める。（30分）

5	事前学習	最低2冊を読み、IRCにリアクションを入れる。（30分）
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。
	事後学習	図書館で本を借りて読み進める。（30分）
6	事前学習	最低2冊を読み、IRCにリアクションを入れる。（30分）
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表。 リアクションを英語を発表する表現を学ぶ。
	事後学習	図書館で本を借りて読み進める。（30分）
7	事前学習	最低2冊を読み、IRCにリアクションを入れる。 英語でリアクションを書く。（30分）
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表 リアクションを英語で発表する。
	事後学習	図書館で本を借りて読み進める。（30分）
8	事前学習	最低2冊を読み、IRCにリアクションを入れる。 英語でリアクションを書く。（30分）
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表（日本語&英語）。
	事後学習	図書館で本を借りて読み進める。（30分）
9	事前学習	最低2冊を読み、IRCにリアクションを入れる。（30分）
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表（日本語&英語）。 英語の本を音読する方法を学ぶ。
	事後学習	図書館で本を借りて読み進める。（30分）
10	事前学習	最低2冊を読み、IRCにリアクションを入れる。 音読を練習する。（30分）
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表（日本語&英語）。 グループで音読をする。
	事後学習	図書館で本を借りて読み進める。（30分）
11	事前学習	最低2冊を読み、IRCにリアクションを入れる。 音読を練習する。（30分）
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表（日本語&英語） グループで音読をする。
	事後学習	図書館で本を借りて読み進める。（30分）
12	事前学習	最低2冊を読み、IRCにリアクションを入れる。 音読を練習する。（30分）
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表（日本語&英語） グループで音読をする。 最終課題の説明。
	事後学習	図書館で本を借りて読み進める。（30分）
13	事前学習	最低2冊を読み、IRCにリアクションを入れる。 最終課題をグループで準備する。（30分）
	授業内容	本を読む→IRCでリアクションを入れる→Group Book Talk & 発表（日本語&英語） グループで最終課題の練習。
	事後学習	各自のキロ数と冊数を確認して読み進める。（30分）
14	事前学習	各自のキロ数と冊数を確認して読み進め、IRCにリアクションを入れる。 最終課題を練習する。（30分）
	授業内容	各グループで最終課題を発表する。
	事後学習	各自のキロ数と冊数を最終確認して読み進める。（30分）
15	事前学習	各自のキロ数と冊数を最終確認してIRCにリアクションを入れる。（30分）
	授業内容	最終課題プレゼンと目標到達キロ数について教員からフィードバックを受ける。 前期top runners 発表&表彰。
	事後学習	前期各自が読んだ本のリアクション・ペーパーをIRCサイトで読み返す。グループメンバーのリアクションも読んでみる。 春休み期間も多読を継続する。（30分）

科目名	Reading I B	担当者	小山 誠子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	'Football','Royal Family','gentlemen','tea'等の歴史や伝統、加えて現在は'Brexit'で注目される「イギリス」「英国」について書かれた英文を、既習の文法事項の確認しながら知識を得るための手段として精読する。加えて、授業内/外の英語の「多読」(学習者各自による。初回にて指示)により英文の情報を正確に読み取り、一定量以上の英文(語数)の読書を行う。					
授業目的・到達目標	英文の精読を通じて欧米文化の価値観への理解を深め、多様で国際的な倫理観を涵養することを目的とします。受講者各自の持つ自国文化との比較・対照を行うことで、批評(批判)的且つ論理的な思考を養い、自国の言語文化を相対化する視点を持ち国際社会に発信し、客観的理解・共感を得られるようになることを目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域1，3，6					
履修条件	授業概要及び到達目的・目標(授業内/外の「多読」活動=読書量に応じて成績評価)を意識し、興味を持って主体的・積極的かつ他の受講者と協力し合って授業に取り組む者。					
授業方法	英文精読(訳読)及び関連資料及び映像を使って情報の確認を行う。更にChapter毎に小テスト(単語)を行う。(開始15分前後は別教材で「多読」実施。)最終授業日は授業内試験(60分)+解説/講評(30分)を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価(発表(テキスト精読)等授業への積極的取組/テスト)+「多読」による読書量(履修期間のtotal)を総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	音羽書房鶴見書店		Welcome to Britain【Revised Edition】英国の(いま)を知りたい[改訂新版]		Tim Knight
	2008	MACMILLAN		King Arthur and the Knights of the Round Table		Stephen Colbourn
	備考			2冊とも授業にて使用するので必ず購入すること。		
参考書	大学生/社会人レベルの辞書(電子辞書も可)を毎回携帯すること。学習記録用のノートを用意すること。 ※ PC・タブレット・携帯電話の使用は認めない。					
オフィスアワー	授業後20分間(水曜14:30~14:50, 16:10~16:30) 授業講堂にて対応する。(※初回授業にて指示する。)					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	(前期Reading I Aでの学習を踏まえて)テキスト全体に目を通し、気になる点をメモして授業に臨む。加えて、テキスト以外に「イギリス」関連で興味のあることも併せてメモする。(30分)
	授業内容	ガイダンス+初回授業 (前期Reading I Aでの展開範囲)「アーサー王伝説」の登場人物及びストーリー展開を説明できる。 +本科目での展開範囲関連情報を把握し、説明できる。
	事後学習	テキスト全体を概観し、次回(第2回)展開範囲(Chapter 6)を中心に、まずは辞書を使わずにどの程度内容が把握できそうか現時点での「実力チェック」を各自行う。(→学期末の学習成果を自己評価できるようにするため。)(30分)
2	事前学習	1. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。2. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。(30分)
	授業内容	1. (毎回開始時に全体にて)「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。2. Chapter6 Schools and education (前半)演習と解説(※1chapter/2classesペースの予定。)
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。)
3	事前学習	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。(30分)
	授業内容	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。2. Chapter6 Schools and education (後半) 演習と解説 イギリスの教育システムを理解(大学入試(相当)のものを含めた)し、説明できるようにすると共に、日本との比較・対照を行う。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。)

4	事前学習	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想/記録する。(30分)
	授業内容	1. Mini Test(Chapter6) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter7 University students and higher education (前半) 個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。(30分)
5	事前学習	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。(30分)
	授業内容	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter7 University students and higher education (後半) 演習と解説：イギリスの大学の実情及びその問題点を把握し、説明できる。併せて、日本人大学生との比較・対照を行う。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。(30分)
6	事前学習	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。(30分)
	授業内容	1. Mini Test(Chapter 7) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter 4 7Tea (前半) 演習と解説：個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。(30分)
7	事前学習	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。(30分)
	授業内容	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter4 Tea (後半) 演習と解説：Teaを通して、イギリス人(的)価値観を理解し、説明できる。併せて日本の「茶(の湯)」文化との比較・考察を行う。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。(30分)
8	事前学習	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。(30分)
	授業内容	1. Mini Test(Chapter 4) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter11 Food (前半) 演習と解説：個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。(30分)
9	事前学習	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。(30分)
	授業内容	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter11 Food (後半) 演習と解説：イギリスの食文化及び食に対する価値観(宗教を含めて)を理解し、説明できるようにすると共に、日本との比較・対照を行う。 とEUとの関係性の現状及び問題点を把握し、説明できる。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。(30分)
10	事前学習	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。(30分)
	授業内容	1. Mini Test(Chapter11) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter10 Politics and government (前半) 演習と解説：個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。(30分)
11	事前学習	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。(30分)
	授業内容	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter10 Politics and government (後半) 演習と解説：「議会政治」の国イギリスの政治システム及び現状を理解し、説明できる。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。(30分)
12	事前学習	1. Mini Testの準備をする。2. “King Arthur”(「多読」用教材)：指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。3. テキストも同様にkeywordsをチェックしながら、声に出して読み(必要に応じ発音記号や辞書の音声機能を活用)、未修の語彙は辞書にあたり、各文の構文・大体の意味を予想する。(30分)
	授業内容	1. Mini Test(Chapter 10) 2. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. Chapter〇 (前半) ※受講者の要望/選択によるもの。(未習のもの) ※何れのChapterにおいても、第11回迄と同様に個々の英文の構造・内容を理解し、情報整理・説明できる。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. 事前学習(予習)内容と照合し、必要に応じて修正を行う。特に(1)文脈に合う語彙の定義・意味の選択であったか、(2)構文理解が不十分であった箇所は詳細に解説を記録する。(3)知り得た「イギリス」情報(事実関係)も整理・記録する。(30分)

13	事前学習	1. “King Arthur”については指定範囲を辞書を引かずにkeywords(固有名詞を含む5W1H)を中心に概観する。 2. Chapter前半の内容を確認するとともに、後半部分についても同様に、語彙の発音、品詞、定義/意味(文脈に合致しそうなものを複数記録)、構文を予想し、授業に臨む。(30分)
	授業内容	1. 「多読」(“King Arthur”(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 2. Chapter○(第12回の続き)(後半) 演習と解説: Chapterのテーマから問題点を摘出・解明し、説明できる。
	事後学習	1. “King Arthur”のストーリー展開を整理する。(学期末に纏める予定。) 2. Chapter全体の英文(語彙・構文(文法/表現)が理解できたか、並行して英文から得た「イギリス」情報を整理し、コメントも併せて記録する。(30分)
14	事前学習	Mini Testに向けての準備と併せて、学期内展開範囲全てのMini Testを復習(特に不正解問題を中心に)する。テキスト展開箇所全般の構文・内容についても各自見直しを行う。(不明なものは授業にて確認すること。)(30分)
	授業内容	1. Mini Test(Chapter ○(第12-13回展開範囲)) 2. 「多読」(“King Arthur”練習(15分程度))登場人物・ストーリー展開を整理し、説明できる。 3. 学期内展開範囲の総復習: 学習内容全般を見直し、今一度必要に応じて修正/補足を行い、正確に把握し説明できる。+ ((受講者による) Book report 等を予定)
	事後学習	学習内容全体を見直し、必要に応じて修正・確認を行うことで、正確に学習内容を記録する。(30分)
15	事前学習	3か月の学習内容を次の3点に関して整理・分析する。(1)習得された語彙や基本的文法事項理解の確認、(2)“King Arthur”のストーリー展開/(3)関連情報を含め「イギリス」について得た情報、(4)「英語圏」=「異文化」を通じて得た受講者各自の意見・感想を記録する。(30分以上必要に応じて)
	授業内容	まとめ(試験を含む): 授業内試験(60分)+解説/講評(30分)を行う。 3か月の学習を通じた、各自の「イギリス観」及び自国文化との比較・対照を行い、説明できる。
	事後学習	初回事前学習からの学習成果を自己分析・確認にもとづき、今後の課題(英語学習に関する具体的目標)を設定する。 (受講者各自の専門分野に関する英文(文献やニュース等最新のWeb情報など)どれくらい読めるようになったかを確認

科目名	Reading I B	担当者	北原 安治	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	各国の歴史や文化を学びながら、文法の理解と発音そして訳しかたなどの基本事項を学ぶ。本文のみやり練習問題はやらない。				
授業目的・到達目標	【授業目的】多読により速読力を養成し、基礎文法を養成することを目的とする。 【到達目標】基礎的な英文の構造を理解して、正しい発音と訳ができることを目標とする。 対応DP及びCP：外国語科目領域1，3，6				
履修条件	とくに履修条件はない。				
授業方法	学生の理解度によって速度を調整する。辞書（電子辞書可）を持ってくる。ノート検査をするのでいつ検査を受けても良いようにまとめておく。ノートなきものは不可。映像教材をみせる。実力テストは次の週に解説、解答をする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価（授業参加度、実力テスト、学期末試験等）100%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2006	鳳書房		Major Countries in the World ～世界の主要国～	小泉和弘
	備考				
参考書	『ロイヤル英文法』1,890円（旺文社）この本は講義では使いません。辞書は毎回持ってくる。				
オフィスアワー	授業終了後（水曜日17：50～授業講堂にて）またはEメールで対応。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス、授業の進め方、ノートの取り方などの説明。TOEICの説明。前期の続きから始める。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
2	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。助動詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
3	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。知覚動詞の基本理解の確認
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
4	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。使役動詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）

5	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。能動態と受動態の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
6	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。副詞句、形容詞句の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
7	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第8章 中国 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。接続詞の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
8	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第9章 日本 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。付加疑問文の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
9	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第9章 日本 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。比較構文の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
10	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第9章 日本 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。部分否定の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
11	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第9章 日本 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。二重否定の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
12	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第9章 日本 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。直接話法の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
13	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第9章 日本 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。間接話法の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
14	事前学習	該当部分の予習。単語を調べて自分なりの訳をしておく。（30分）
	授業内容	第9章 日本 発音、文法、和訳、文化と歴史について学ぶ。文法全体の基本理解の確認。
	事後学習	該当部分の復習。予習で間違った部分の確認。（30分）
15	事前学習	試験範囲の復習。単語、文法、訳の確認。（30分）
	授業内容	復習とまとめ
	事後学習	間違った部分の復習。単語、文法、訳の確認。（30分）

科目名	Reading I B	担当者	佐藤 健児	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	アメリカでベストセラーを記録した“Chicken Soup for the Soul”の精読を通して、英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学びます。また、適宜、『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』を用いて、英文法・語法の知識を整理していきます。			
授業目的・到達目標	【授業目的】TOEIC, TOEFL, 英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【授業目標】TOEICテストのための基礎力を身に付け、スコア450点以上を獲得できることを目標とします。関連DP及びCP：外国語科目領域1，3，6			
履修条件	上記資格試験の受験を強く奨励します。原則Reading IAと通年で履修してください。			
授業方法	演習方式。輪読形式で教科書を読み進めていきます。指名された学生には、教科書の音読と和訳をしてもらい、その後、クラス全体で内容の確認をしていきます。また、適宜、小テストを実施し、次の授業以降で返却をします。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）100% 予習をしていない場合は、大幅に減点します。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	1997	郁文堂	『ショート・ショート・ストーリーズ II』	高橋潔 編
	2018	いっずな書店	『総合英語 Evergreen English Grammar 47 Lessons updated』	いっずな書店編集部
	備考	『ジーニアス英和辞典 第5版』など、大学生向けの英和辞典を必ず毎回持参すること。		
参考書	使用しない。			
オフィスアワー	金曜日16:10～授業終了後の講堂にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体像を概観しておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス 事前・事後学習の方法、成績評価等について説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。（30分）
2	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Puppies For Saleを輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。（30分）
3	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Ultimate Sacrificeの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。（30分）
4	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Ultimate Sacrificeの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。音読。（30分）

5	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	The Ultimate Sacrificeの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
6	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	What Happened?の前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
7	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	What Happened?の中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
8	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	What Happened?の後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
9	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	A Legacy of Loveの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
10	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	A Legacy of Loveの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
11	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	A Legacy of Loveの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
12	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Yes, You Canの前半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
13	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Yes, You Canの中盤を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
14	事前学習	辞書や文法書、註などを参照しながら英文を精読し、和訳しておくこと。その際、どこが理解できなかったのかを明らかにしておくこと。（30分）
	授業内容	Yes, You Canの後半を輪読形式で読み進める。英文法・語法の知識に基づいた読解の方法を学ぶ。
	事後学習	事前学習の際に理解できなかった箇所について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。 音読。（30分）
15	事前学習	後期授業内容の総復習。（30分）
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り。
	事後学習	後期の授業内容について、授業ノートを基に今一度解釈を試みる。（30分）

科目名	Reading I B	担当者	堤 裕美子	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	このテキストは、英語教育を専門とする大学教員と、法学部で英米法を専門とする教員によって作られたテキストです。Reading IAに引き続き、アメリカやイギリスの法律を理解するために極めて重要で基本的な15の判例を読んでいきます。英文を丁寧に正しく読むだけでなく、判決について意見を述べる問題、リスニングや内容把握といった練習問題によって英語力の定着を図ります。					
授業目的・到達目標	訴状や召喚状、上訴趣意書などを英文で読みながら、司法英語などの語彙力を養成することを目的とし、文法を正しく理解しながら文の構造を確認し、英文の内容を理解する力を身につけます。将来、辞書を用いて英文の専門書や文学作品、一般の雑誌などを読める読解力を身につけられることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域1， 3， 6					
履修条件	次回の学習範囲の予習を怠らないこと。授業内ではグループ・ワークやペア・ワークに積極的に参加できること。					
授業方法	受講者の予習を前提とし、英文精読(訳読)を行う。前回の授業で学習した英文を正しく理解しているか、和訳の小テストを毎回実施し、次回以降返却する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		小テスト、授業中の発言、授業内テスト結果等	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2014	金星堂		Legal Minds 15 Journeys in Law		鳥飼慎一郎、溜箭雅之
	備考					
参考書	授業内で指示します					
オフィスアワー	水曜日2時限～6時限 授業後の講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの「本書の使い方」「目次」に目を通し、テキストの目的を認識すること。(30分)
	授業内容	ガイダンス。受講希望者は必ず出席して下さい。授業のルーティン、英文の読み方やノートの取り方、評価について説明します。
	事後学習	音声ファイルの保存先を確認し、予習復習に使えるか確認をすること。(30分)
2	事前学習	Case 7「なぜこんなことに？陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった」 p. 47, 48, 49を解いてくる。意味の分からない単語は調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 7「なぜこんなことに？陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった」 p. 47, 48の精読とp. 49の答え合わせ。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
3	事前学習	Case 7「なぜこんなことに？陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった」 p. 50, 51, 52の意味の分からない単語を調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 7「なぜこんなことに？陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった」 p. 50, 51, 52の問題演習と解説。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
4	事前学習	Case 8「プロに徹して公平に裁けるか―当事者からの献金を受けた裁判官」 p. 53, 54, 55を解いてくる。意味の分からない単語は調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 8「プロに徹して公平に裁けるか―当事者からの献金を受けた裁判官」 p. 53, 54精読とp. 55の答え合わせ。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)

5	事前学習	Case 8「プロに徹して公平に裁けるか―当事者からの献金を受けた裁判官」 p. 56, 57, 58の分からない単語は調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 8「プロに徹して公平に裁けるか―当事者からの献金を受けた裁判官」 p. 56, 57, 58の問題演習と解説。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
6	事前学習	Case 9「戦時中の強制収容と闘った日系アメリカ人フレッド・コレマツ」 p. 59, 60, 61を解いてくる。意味の分からない単語は調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 9「戦時中の強制収容と闘った日系アメリカ人フレッド・コレマツ」 p. 59, 60の精読とp. 61の答え合わせ。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
7	事前学習	Case 9「戦時中の強制収容と闘った日系アメリカ人フレッド・コレマツ」 p. 62, 63, 64の意味の分からない単語を調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 9「戦時中の強制収容と闘った日系アメリカ人フレッド・コレマツ」 p. 62, 63, 64の問題演習と解説。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
8	事前学習	Case 10「人種差別の壁をなくすために裁判に挑んだ、父親の想い」 p. 65, 66, 67を解いてくる。意味の分からない単語は調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 10「人種差別の壁をなくすために裁判に挑んだ、父親の想い」 p. 65, 66の精読とp. 67の答え合わせ。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
9	事前学習	Case 10「人種差別の壁をなくすために裁判に挑んだ、父親の想い」 p. 68, 69, 70の意味の分からない単語を調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 10「人種差別の壁をなくすために裁判に挑んだ、父親の想い」 p. 68, 69, 70の問題演習と解説。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
10	事前学習	Case 11「白人だから不合格?!人種の是正措置と大学入学判定」 p. 73, 74, 75を解いてくる。意味の分からない単語は調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 11「白人だから不合格?!人種の是正措置と大学入学判定」 p. 73, 74の精読とp. 75の答え合わせ。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
11	事前学習	を解いてくCase 11「白人だから不合格?!人種の是正措置と大学入学判定」 p. 76, 77, 78を解いてくる。意味の分からない単語は調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 11「白人だから不合格?!人種の是正措置と大学入学判定」 p. 76, 77, 78の問題演習と解説。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
12	事前学習	Case 12「市有地のクリスマスツリーが引き起こした政治と宗教の問題」 p. 79, 80, 81を解いてくる。意味の分からない単語は調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 12「市有地のクリスマスツリーが引き起こした政治と宗教の問題」 p. 79, 80の精読とp. 81の答え合わせ。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
13	事前学習	Case 12「市有地のクリスマスツリーが引き起こした政治と宗教の問題」 p. 82, 83, 84を解いてくる。意味の分からない単語は調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 12「市有地のクリスマスツリーが引き起こした政治と宗教の問題」 p. 82, 83, 84の問題演習と解説。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
14	事前学習	Case 13「アップル対サムスン―特許を侵害したのはどちらの企業か」 p. 85, 86, 87を解いてくる。意味の分からない単語は調べてくる。(30分)
	授業内容	Case 13「アップル対サムスン―特許を侵害したのはどちらの企業か」 p. 85, 86の精読とp. 87の答え合わせ。
	事後学習	正しく読めなかった英文の復習と重要語彙を覚える。(30分)
15	事前学習	今学期の授業を振り返る (30分)
	授業内容	今学期の授業のまとめ (試験を含む)
	事後学習	授業の見直しをする (30分)

科目名	Reading I B	担当者	水本 孝二	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語のリーディング、文法を中心に学習します。英語学修と部活動の両立に困難を感じている2年生以上を主な対象として指導を行います。				
授業目的・到達目標	TOEIC、TOEFL、英検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要なリーディング・文法の基礎力を養成することを目的としています。英文を素早く読んで、情報を正確に読み取ることが出来るようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域1， 3， 6				
履修条件	特にありません。				
授業方法	実践演習をして解説をします。小テストやレポートの返却等を行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	レポート提出	
教科書	年	出版社		書名	著者名
				プリントおよび視聴覚教材使用	
	備考	なし			
参考書	飛田茂雄（編）『現代英米情報辞典』研究社 参考書を購入する必要はない。適宜図書館等で参照すること。				
オフィスアワー	水曜日16：20-17：50（4号館1階） 連絡先：mizumoto.koji*nihon-u.ac.jp　、「メールする場合は*を@に変えて使って下さい」				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
2	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	The third letter
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
3	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Making time
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
4	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Poirot makes a speech
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）

5	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	By way of Sweden
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
6	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Lady Clarke
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
7	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Description of a murderer
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
8	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	September 11th, Doncaster
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
9	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	The Doncaster murder
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
10	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	At Scotland Yard
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
11	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Hercule Poirot asks questions
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
12	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	And catch a fox
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
13	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Alexnder Onaparte Cust
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
14	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	Poirot explains, Finale
	事後学習	毎回、最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習しておくこと（30分）
15	事前学習	毎回課題を示すので、予習をしておくこと（30分）
	授業内容	復習、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）

科目名	Reading II A	担当者	石川 勝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ヨーロッパの歴史と文化について詳しく説明しているテキストである。内容としては学生が興味を持てるものだと思う。 中級レベルの英語を的確に訳していく。				
授業目的・到達目標	文法を理解しながら英文を正確に読解する力を養成ことを目的とし、テキストを通してヨーロッパの文化を学ぶ。 基本的な文法事項を理解したうえで、長文読解ができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 1， 3， 6				
履修条件	特になし。				
授業方法	学生一人一人に訳してもらう。一時間に2ページのペースで読み進めていく。 フィードバックは授業内において行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	小テストを2回行い成績をつける。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
		金星堂		ヨーロッパの国と人々	
	備考				
参考書	英和辞典				
オフィスアワー	木曜日13時～18時				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの購入，事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）
	授業内容	講義計画の説明
	事後学習	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。（30分）
2	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit 1Europeを読む 五文型の説明
	事後学習	訳の訂正（30分）
3	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit1 前回の続きから和訳
	事後学習	訳の訂正（30分）
4	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit1 前回の続きから和訳 不定詞の説明
	事後学習	訳の訂正（30分）

5	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit1 前回の続きから和訳
	事後学習	訳の訂正（30分）
6	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit2 Itaryを読むingの説明
	事後学習	訳の訂正（30分）
7	事前学習	試験範囲の復習（30分）
	授業内容	Unit2 前回の続きから和訳小テスト
	事後学習	訳の訂正（30分）
8	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit2 前回の続きから和訳条件文と仮定法の違い
	事後学習	訳の訂正（30分）
9	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit2 前回の続きから和訳
	事後学習	訳の訂正（30分）
10	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit3 Franceを読むthat節の説明
	事後学習	訳の訂正（30分）
11	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit3 前回の続きから和訳
	事後学習	訳の訂正（30分）
12	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit3 前回の続きから和訳
	事後学習	訳の訂正（30分）
13	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit3 前回の続きから和訳
	事後学習	訳の訂正（30分）
14	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit3 前回の続きから和訳
	事後学習	訳の訂正（30分）
15	事前学習	試験範囲の復習（30分）
	授業内容	Unit 3 前回の続きから和訳小テスト
	事後学習	間違った箇所を理解し直す。（30分）

科目名	Reading II A	担当者	元氏 久美子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	人類共通の課題である環境問題を英語で考えながらテキストの多彩なアクティビティを通して、英語の読解力を育成します。					
授業目的・到達目標	【授業目的】環境問題を取り上げたテキストを読みながら、語彙力・文法力を養い、文の構造を確認し、英文の内容を理解する力を養成することを目的としています。 【到達目標】辞書さえあれば英文の専門書や文学作品、一般の雑誌などを読めるようになることを目標とします。 対応DP及びPC：外国語科目領域1, 3, 6					
履修条件	中学・高校で学んだ基本的文法知識があることを前提に授業を行います。					
授業方法	演習方式。小テストを毎回実施し、返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		平常評価(授業参加度、小テスト、学期末試験等)100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018年	南雲堂		Our World Today 『英語で考えよう！地球の未来』		Adam Murray, Anderson Passos
	備考					
参考書	英和辞典					
オフィスアワー	火曜14:30～ 授業終了後の講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。(30分)
	授業内容	ガイダンス 前期の授業の進め方、TOEICの概要、英語学習法を説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 TOEIC, TOEFL, 英検などの各種検定試験についてWEBサイト等で調べてみる。(30分)
2	事前学習	Unit 1 Vocabulary Focus, Writing Sentencesの問題を解答する。 本文を読み、単語調べをする。(30分)
	授業内容	Unit 1 Introduction to Environmental Issues の本文を読んで内容を理解する。
	事後学習	本文の内容を確認し、音読練習する。(30分)
3	事前学習	Unit 1 Understanding, Listeningの問題を解答する。(30分)
	授業内容	Unit 1 本文の内容を復習しながらUnderstanding, Listeningの問題の解答を確認。
	事後学習	Discussing, Reviewingに解答する。(30分)
4	事前学習	Unit 2 Vocabulary Focus, Writing Sentencesの問題を解答する。 本文を読み、単語調べをする。(30分)
	授業内容	Unit 2 Climate Change の本文を読んで内容を理解する。
	事後学習	本文の内容を確認し、音読練習する。(30分)

5	事前学習	Unit 2 Understanding, Listeningの問題を解答する。(30分)
	授業内容	Unit 2 本文の内容を復習しながらUnderstanding, Listeningの問題の解答を確認。
	事後学習	Discussing, Reviewingに解答する。(30分)
6	事前学習	Unit 3 Vocabulary Focus, Writing Sentencesの問題を解答する。 本文を読み、単語調べをする。(30分)
	授業内容	Unit 3 Energy の本文を読んで内容を理解する。
	事後学習	本文の内容を確認し、音読練習する。(30分)
7	事前学習	Unit 3 Understanding, Listeningの問題を解答する。(30分)
	授業内容	Unit 3 本文の内容を復習しながらUnderstanding, Listeningの問題の解答を確認。
	事後学習	Discussing, Reviewingに解答する。(30分)
8	事前学習	Unit 4 Vocabulary Focus, Writing Sentencesの問題を解答する。 本文を読み、単語調べをする。(30分)
	授業内容	Unit 4 Waste の本文を読んで内容を理解する。
	事後学習	本文の内容を確認し、音読練習する。(30分)
9	事前学習	Unit 4 Understanding, Listeningの問題を解答する。(30分)
	授業内容	Unit 4 本文の内容を復習しながらUnderstanding, Listeningの問題の解答を確認。
	事後学習	Discussing, Reviewingに解答する。(30分)
10	事前学習	Unit 1-4で学んだ内容を復習する。(30分)
	授業内容	Unit 5 Unit 1-4 Review Unit 1-4で学んだ内容に対応するTOEICの問題を解答する。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Scriptの音読をする。(30分)
11	事前学習	Unit 6 Vocabulary Focus, Writing Sentencesの問題を解答する。 本文を読み、単語調べをする。(30分)
	授業内容	Unit 6 Population Growth の本文を読んで内容を理解する。
	事後学習	本文の内容を確認し、音読練習する。(30分)
12	事前学習	Unit 6 Understanding, Listeningの問題を解答する。(30分)
	授業内容	Unit 6 本文の内容を復習しながらUnderstanding, Listeningの問題の解答を確認。
	事後学習	Discussing, Reviewingに解答する。(30分)
13	事前学習	Unit 7 Vocabulary Focus, Writing Sentencesの問題を解答する。 本文を読み、単語調べをする。(30分)
	授業内容	Unit 7 Pollution の本文を読んで内容を理解する。
	事後学習	本文の内容を確認し、音読練習する。(30分)
14	事前学習	Unit 7 Understanding, Listeningの問題を解答する。(30分)
	授業内容	Unit 7 本文の内容を復習しながらUnderstanding, Listeningの問題の解答を確認。
	事後学習	Discussing, Reviewingに解答する。(30分)
15	事前学習	前期の学習内容を復習する。(30分)
	授業内容	前期授業のまとめ
	事後学習	前期で学んだことを再確認する。

科目名	Reading II A	担当者	トーマス・ロックリー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------	-----	------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Welcome to Reading IIa ※英語学修と部活動の両立に困難を感じている2年生以上を主な対象として指導を行う。					
授業目的・到達目標	英語力の基礎となり、専門分野の原書理解などに必要なリーディングなど、資格試験に必要なジャンルの語彙の基礎力を高めることを目的とする。英語を聞き取れるようになり、文字を見なくてもその内容が理解できるようになること。また、電子辞書を使いこなせるようになること。一年を通して、自身での英語トレーニング方法を身につけること目標とする。 関連DP／CP：1，3，6					
履修条件	上記資格試験の受験を強く奨励する。大学生向けの電子辞書を持参すること。					
授業方法	本物のニュース、生の英語に触れることでリスニング力を鍛える。ひとつのユニットを二回に分けて行い、リスニングの実技力を高めると同時に、読解力を高めるため、テキストを用いた文法事項の確認も行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		Semester test 30%, Weekly vocabulary tests 20%, Reflection and vocabulary 20%, Participation 30%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017	DTP出版		An International History of Japan I		Thomas Lockley
	備考					
参考書	2019年 東京書籍「外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」ロックリー・トーマス					
オフィスアワー	9:30-10:30am Thursdays at classroom or email lockleyta@gmail.com					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please make sure to read the first lesson before the next lesson (30min)
	授業内容	First Lesson
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30min)
2	事前学習	Prepare text for lesson (30min)
	授業内容	Ancient International Japan
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30min)
3	事前学習	Prepare text for lesson (30min)
	授業内容	Japan Towns
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30min)
4	事前学習	Prepare text for lesson (30min)
	授業内容	Yasuke the African Samurai
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30min)

5	事前学習	Prepare text for lesson (30min)
	授業内容	Tensho Embassy
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30min)
6	事前学習	Prepare text for lesson (30min)
	授業内容	William Adams
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30min)
7	事前学習	Prepare text for lesson (30min)
	授業内容	International Nagasaki
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30min)
8	事前学習	Prepare text for lesson (30min)
	授業内容	Yamada Nagamasa
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30min)
9	事前学習	Prepare text for lesson (30min)
	授業内容	Tagawa Matsu
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30min)
10	事前学習	Prepare text for lesson (30min)
	授業内容	Japanese Families of European Merchants
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30min)
11	事前学習	Prepare text for lesson (30min)
	授業内容	Korean Embassies to Tokugawa Japan
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30min)
12	事前学習	Prepare text for lesson (30min)
	授業内容	Zhu Shun Sui
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30min)
13	事前学習	Prepare text for lesson (30min)
	授業内容	Waegwan
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30min)
14	事前学習	Prepare text for lesson (30min)
	授業内容	Semester 1 Revision
	事後学習	Learn new vocabulary and complete reflections. (30min)
15	事前学習	Prepare text for lesson (30min)
	授業内容	Revision 確認テスト（授業内テスト） 解説
	事後学習	Review (30min)

科目名	Reading II A	担当者	石川 太郎	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Reading I A, Bで学んだ知識を生かして英語力を中心に英文読解力を発展させる訓練をします。基本的に英文読解中心ですが、ペアワークやグループワークを沢山行い、英語を聞き、また口にする機会を増やすようにしています。このような活動を通じて自力で英語を理解する能力を養成することを目指しています。					
授業目的・到達目標	英文読解で使われていた英語を様々な作業を通じてアウトプットし、語彙や表現や英文を自分のものにする事を目標とします。授業は黙読よりは音読やシャドーイングを優先させ、リスニングやスピーキングの機会を設定します。結果として本文中で使われていた主要な語彙・表現・センテンスがすらすらと口をついて出るようになり、授業で扱った英文内容を簡単な英語で要約し、テーマについて自分の意見がある程度英語で言えて書けるようになる事を目指します。 関連DP及びCP：外国語領域科目 1, 3, 6					
履修条件	Reading II Bと合わせて履修することが望ましい。積極的な授業参加が望まれます。居眠りやスマホに夢中な学生は欠席扱いになる事もあります。					
授業方法	予習は必ずして来て下さい。授業中はペアワークやグループワーク、音読などずっと座っているよりは常に口や体を動かす機会の方が多くなる予定です。フィードバックは授業内に行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		60%) 7月最後の授業でペーパーテストを行う予定。40%) 大きな声で音読、シャドーイングをする等、積極的な授業参加が評価されます。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	kinseido		Reading in Action		Tetsuhito Shizuka
	備考					
参考書	辞書は必ず用意して下さい。授業中も積極的に使用して下さい。高校までに使用した文法の参考書があればそれも持って来て授業中に参照するのが望ましいです。					
オフィスアワー	初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。 授業時間：月曜7限、土曜2～4限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	高校までの英語の総復習（30分）
	授業内容	イントロダクション：授業の進め方や予習、復習の仕方
	事後学習	Unit 1の予習（30分）
2	事前学習	Unit 1の予習（30分）
	授業内容	Unit 1（1）：本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説
	事後学習	授業の復習（30分）
3	事前学習	授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 1（2）：ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）
	事後学習	授業の復習（30分）
4	事前学習	Unit 2の予習（30分）
	授業内容	Unit 2（1）：本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説
	事後学習	授業の復習（30分）

5	事前学習	授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 2（2）:ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）
	事後学習	授業の復習（30分）
6	事前学習	Unit 3の予習（30分）
	授業内容	Unit 3（1）:本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説
	事後学習	授業の復習（30分）
7	事前学習	授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 3（2）:ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）
	事後学習	授業の復習（30分）
8	事前学習	Unit 4の予習（30分）
	授業内容	Unit 4（1）:本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説
	事後学習	授業の復習（30分）
9	事前学習	授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 4（2）:ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）
	事後学習	授業の復習（30分）
10	事前学習	Unit 5の予習（30分）
	授業内容	Unit 5（1）:本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説
	事後学習	授業の復習（30分）
11	事前学習	授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 5（2）:ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）
	事後学習	授業の復習（30分）
12	事前学習	Unit 6の予習（30分）
	授業内容	Unit 6（1）:本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説
	事後学習	授業の復習（30分）
13	事前学習	授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 6（2）:ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）
	事後学習	授業の復習（30分）
14	事前学習	総復習（30分）
	授業内容	これまでの授業で扱えなかった箇所を集中して扱う。質疑応答
	事後学習	授業の復習（30分）
15	事前学習	総復習（30分）
	授業内容	試験&解説
	事後学習	試験で出題された箇所の確認（30分）

科目名	Reading II B	担当者	石川 勝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ヨーロッパの歴史と文化について詳しく説明しているテキストである。内容としては学生が興味を持てるものだと思う。 中級レベルの英語を的確に訳していく。				
授業目的・到達目標	文法を理解しながら英文を正確に読解する力を養成ことを目的とし、テキストを通してヨーロッパの文化を学ぶ。 基本的な文法事項を理解したうえで、長文読解ができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 1， 3， 6				
履修条件	特になし。				
授業方法	学生一人一人に訳してもらう。一時間に2ページのペースで読み進めていく。 フィードバックは授業内において行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	小テストを2回行い成績をつける。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
		金星堂		ヨーロッパの国と人々	
	備考				
参 考 書	英和辞典				
オフィス アワー	木曜日13時～18時				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの購入，事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）
	授業内容	講義計画の説明
	事後学習	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。（30分）
2	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit 4 Spainを読む 五文型の説明
	事後学習	訳の訂正（30分）
3	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit4 前回の続きから和訳
	事後学習	訳の訂正（30分）
4	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit4 前回の続きから和訳 不定詞の説明
	事後学習	訳の訂正（30分）

5	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit4 前回の続きから和訳
	事後学習	訳の訂正（30分）
6	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit5 Britishを読む ingの説明
	事後学習	訳の訂正（30分）
7	事前学習	試験範囲の復習（30分）
	授業内容	Unit5 前回の続きから和訳 小テスト
	事後学習	訳の訂正（30分）
8	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit5 前回の続きから和訳 条件文と仮定法の違い
	事後学習	訳の訂正（30分）
9	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit5 前回の続きから和訳
	事後学習	訳の訂正（30分）
10	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit6 Beneluxを読む that節の説明
	事後学習	訳の訂正（30分）
11	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit6 前回の続きから和訳
	事後学習	訳の訂正（30分）
12	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit6 前回の続きから和訳
	事後学習	訳の訂正（30分）
13	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit6 前回の続きから和訳
	事後学習	訳の訂正（30分）
14	事前学習	指示された個所の予習（30分）
	授業内容	Unit6 前回の続きから和訳
	事後学習	訳の訂正（30分）
15	事前学習	試験範囲の復習（30分）
	授業内容	Unit 6 前回の続きから和訳 小テスト
	事後学習	間違った箇所を理解し直す。（30分）

科目名	Reading II B	担当者	元氏 久美子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	人類共通の課題である環境問題を英語で考えながらテキストの多彩なアクティビティを通して、英語の読解力を育成します。					
授業目的・到達目標	【授業目的】環境問題を取り上げたテキストを読みながら、語彙力・文法力を養い、文の構造を確認し、英文の内容を理解する力を養成することを目的としています。 【到達目標】辞書さえあれば英文の専門書や文学作品、一般の雑誌などを読めるようになることを目標とします。 対応DP及びPC：外国語科目領域1, 3, 6					
履修条件	中学・高校で学んだ基本的文法知識があることを前提に授業を行います。					
授業方法	演習方式。小テストを毎回実施し、返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		平常評価(授業参加度、小テスト、学期末試験等)100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018年	南雲堂		Our World Today 『英語で考えよう！地球の未来』		Adam Murray, Anderson Passos
	備考					
参考書	英和辞典					
オフィスアワー	火曜14:30～ 授業終了後の講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期で学んだ内容の確認。(30分)
	授業内容	ガイダンス 後期の授業の進め方、前期の復習など。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 後期の英語学習計画を立てる。(30分)
2	事前学習	Unit 8 Vocabulary Focus, Writing Sentencesの問題を解答する。 本文を読み、単語調べをする。(30分)
	授業内容	Unit 8 Water の本文を読んで内容を理解する。
	事後学習	本文の内容を確認し、音読練習する。(30分)
3	事前学習	Unit 8 Understanding, Listeningの問題を解答する。(30分)
	授業内容	Unit 8 本文の内容を復習しながらUnderstanding, Listeningの問題の解答を確認。
	事後学習	Discussing, Reviewingに解答する。(30分)
4	事前学習	Unit 9 Vocabulary Focus, Writing Sentencesの問題を解答する。 本文を読み、単語調べをする。(30分)
	授業内容	Unit 9 Deforestation の本文を読んで内容を理解する。
	事後学習	本文の内容を確認し、音読練習する。(30分)

5	事前学習	Unit 9 Understanding, Listeningの問題を解答する。(30分)
	授業内容	Unit 9 本文の内容を復習しながらUnderstanding, Listeningの問題の解答を確認。
	事後学習	Discussing, Reviewingに解答する。(30分)
6	事前学習	Unit 6-9で学んだ内容を復習する。(30分)
	授業内容	Unit 10 Unit 6-9 Review Unit 6-9で学んだ内容に対応するTOEICの問題を解答する。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 Scriptの音読をする。(30分)
7	事前学習	Unit 11 Vocabulary Focus, Writing Sentencesの問題を解答する。 本文を読み、単語調べをする。(30分)
	授業内容	Unit 11 Hydroelectricity の本文を読んで内容を理解する。
	事後学習	本文の内容を確認し、音読練習する。(30分)
8	事前学習	Unit 11 Understanding, Listeningの問題を解答する。(30分)
	授業内容	Unit 11 本文の内容を復習しながらUnderstanding, Listeningの問題の解答を確認。
	事後学習	Discussing, Reviewingに解答する。(30分)
9	事前学習	Unit 12 Vocabulary Focus, Writing Sentencesの問題を解答する。 本文を読み、単語調べをする。(30分)
	授業内容	Unit 12 Solar Panels の本文を読んで内容を理解する。
	事後学習	本文の内容を確認し、音読練習する。(30分)
10	事前学習	Unit 12 Understanding, Listeningの問題を解答する。(30分)
	授業内容	Unit 12 本文の内容を復習しながらUnderstanding, Listeningの問題の解答を確認。
	事後学習	Discussing, Reviewingに解答する。(30分)
11	事前学習	Unit 13 Vocabulary Focus, Writing Sentencesの問題を解答する。 本文を読み、単語調べをする。(30分)
	授業内容	Unit 13 Wind Turbines の本文を読んで内容を理解する。
	事後学習	本文の内容を確認し、音読練習する。(30分)
12	事前学習	Unit 13 Understanding, Listeningの問題を解答する。(30分)
	授業内容	Unit 13 本文の内容を復習しながらUnderstanding, Listeningの問題の解答を確認。
	事後学習	Discussing, Reviewingに解答する。(30分)
13	事前学習	Unit 14 Vocabulary Focus, Writing Sentencesの問題を解答する。 本文を読み、単語調べをする。(30分)
	授業内容	Unit 14 Nuclear Energy の本文を読んで内容を理解する。
	事後学習	本文の内容を確認し、音読練習する。(30分)
14	事前学習	Unit 14 Understanding, Listeningの問題を解答する。(30分)
	授業内容	Unit 14 本文の内容を復習しながらUnderstanding, Listeningの問題の解答を確認。
	事後学習	Discussing, Reviewingに解答する。(30分)
15	事前学習	後期の学習内容を復習する。(30分)
	授業内容	後期授業のまとめ
	事後学習	後期で学んだことを再確認する。

科目名	Reading II B	担当者	トーマス・ロックリー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Welcome to Reading IIb ※英語学修と部活動の両立に困難を感じている2年生以上を主な対象として指導を行う。			
授業目的・到達目標	英語力の基礎となり、専門分野の原書理解などに必要なリーディングなど、資格試験に必要なジャンルの語彙の基礎力を高めることを目的とする。英語を聞き取れるようになり、文字を見なくてもその内容が理解できるようになること、また、電子辞書を使いこなせるようになり、一年を通して、自身での英語トレーニング方法を身につけることを目標とする。 関連DP／CP：1，3，6			
履修条件	上記資格試験の受験を強く奨励する。大学生向けの電子辞書を持参すること。			
授業方法	ひとつのユニットを二回に分けて行い、リーディングの実技力を高めると同時に、読解力を高めるため、テキストを用いた文法事項の確認も行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	Semester test 30%, week test 20%, reflection & vocabulary 20%, participation 30%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	DTP出版	An International History of Japan II	Thomas Lockley
	備考			
参考書	2019年 東京書籍「外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」ロックリー・トーマス			
オフィスアワー	9:30-10:30am Thursdays at classroom or email lockleyta@gmail.com			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Please make sure to read the first lesson before the next lesson (30min)
	授業内容	Thomas Glover
	事後学習	Learn new words and complete reflections (30min)
2	事前学習	Prepare texts for lesson (30min)
	授業内容	Choshu Five
	事後学習	Learn new words and complete reflections (30min)
3	事前学習	Prepare texts for lesson (30min)
	授業内容	Choshu Five
	事後学習	Learn new words and complete reflections (30min)
4	事前学習	Prepare texts for lesson (30min)
	授業内容	Nagasawa Kanaye
	事後学習	Learn new words and complete reflections (30min)

5	事前学習	Prepare texts for lesson (30min)
	授業内容	The Iwakura Embassy
	事後学習	Learn new words and complete reflections (30min)
6	事前学習	Prepare texts for lesson (30min)
	授業内容	The Bonin islands
	事後学習	Learn new words and complete reflections (30min)
7	事前学習	Prepare texts for lesson (30min)
	授業内容	Tsuda Umeko
	事後学習	Learn new words and complete reflections (30min)
8	事前学習	Prepare texts for lesson (30min)
	授業内容	Karayukisan
	事後学習	Learn new words and complete reflections (30min)
9	事前学習	Prepare texts for lesson (30min)
	授業内容	Sun Yat-sen and Japan
	事後学習	Learn new words and complete reflections (30min)
10	事前学習	Prepare texts for lesson (30min)
	授業内容	Japanese emigration in the 20th century
	事後学習	Learn new words and complete reflections (30min)
11	事前学習	Prepare texts for lesson (30min)
	授業内容	Immigration to Japan
	事後学習	Learn new words and complete reflections (30min)
12	事前学習	Prepare texts for lesson (30min)
	授業内容	Noguchi Hideo
	事後学習	Learn new words and complete reflections (30min)
13	事前学習	Prepare texts for lesson (30min)
	授業内容	Sugihara Chiune
	事後学習	Learn new words and complete reflections (30min)
14	事前学習	Prepare texts for lesson (30min)
	授業内容	International spread of Japanese culture
	事後学習	Learn new words and complete reflections (30min)
15	事前学習	Prepare for test (30min)
	授業内容	Revision 確認テスト（授業内テスト） 解説
	事後学習	Review (30min)

科目名	Reading II B	担当者	石川 太郎	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期に引き続き英語力を中心に英文読解力を発展させる訓練をします。基本的に英文読解中心ですが、ペアワークやグループワークを沢山行い、英語を聞き、また口にする機会を増やすようにしています。このような活動を通じて自力で英語を理解する能力を養成することを目指しています。							
授業目的・到達目標	英文読解で使われていた英語を様々な作業を通じてアウトプットし、語彙や表現や英文を自分のものにする事を目標とします。授業は黙読よりは音読やシャドーイングを優先させ、リスニングやスピーキングの機会を設定します。結果として本文中で使われていた主要な語彙・表現・センテンスがすらすらと口をついて出るようになり、授業で扱った英文内容を簡単な英語で要約し、テーマについて自分の意見がある程度英語で言えて書けるようになる事を目指します。 関連DP及びCP：外国語領域科目 1， 3， 6							
履修条件	ReadingⅡAと合わせて履修することが望ましい。積極的な授業参加が望まれます。居眠りやスマホに夢中な学生は欠席扱いになる事もあります。							
授業方法	予習は必ずして来て下さい。授業中はペアワークやグループワーク、音読などずっと座っているよりは常に口や体を動かす機会の方が多くなる予定です。フィードバックは授業内に行います。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%					
	平常評価		100%		60%) 1月最後の授業でペーパーテストを行う予定。40%) 大きな声で音読、シャドーイングをする等、積極的な授業参加が評価されます。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	2019		kinseido		Reading in Action		Tetsuhito Shizuka	
	備考							
参考書	辞書は必ず用意して下さい。授業中も積極的に使用して下さい。高校までに使用した文法の参考書があればそれも持って来て授業中に参照するのが望ましいです。							
オフィスアワー	初回の授業でメールアドレスを伝える。授業の前後、教員控室で。要予約（メールで）。 授業時間：月曜7限、土曜2～4限							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の授業内容の総復習（30分）
	授業内容	イントロダクション：前期の授業のまとめと後期の授業進め方や予習、復習の仕方
	事後学習	Unit 7の予習（30分）
2	事前学習	Unit 7の予習（30分）
	授業内容	Unit 7 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説
	事後学習	授業の復習（30分）
3	事前学習	授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 7 (2):ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）
	事後学習	授業の復習（30分）
4	事前学習	Unit 8の予習（30分）
	授業内容	Unit 8 (1):本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説
	事後学習	授業の復習（30分）

5	事前学習	授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 8（2）:ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）
	事後学習	授業の復習（30分）
6	事前学習	Unit 9の予習（30分）
	授業内容	Unit 9（1）:本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説
	事後学習	授業の復習（30分）
7	事前学習	授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 9（2）:ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）
	事後学習	授業の復習（30分）
8	事前学習	Unit 10の予習（30分）
	授業内容	Unit 10（1）:本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説
	事後学習	授業の復習（30分）
9	事前学習	授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 10（2）:ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）
	事後学習	授業の復習（30分）
10	事前学習	Unit 11の予習（30分）
	授業内容	Unit 11（1）:本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説
	事後学習	授業の復習（30分）
11	事前学習	授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 11（2）:ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）
	事後学習	授業の復習（30分）
12	事前学習	Unit 12の予習（30分）
	授業内容	Unit 12（1）:本文の読解、音読、シャドーイング、文法解説
	事後学習	授業の復習（30分）
13	事前学習	授業の復習（30分）
	授業内容	Unit 12（2）:ペアワーク（内容の要約、質疑応答を英語で行う）グループワーク（英語でディスカッションを目指す）
	事後学習	授業の復習（30分）
14	事前学習	総復習（30分）
	授業内容	これまでの授業で扱えなかった箇所を集中して扱う。質疑応答
	事後学習	授業の復習（30分）
15	事前学習	総復習（30分）
	授業内容	試験&解説
	事後学習	試験で出題された箇所の確認（30分）

科目名	Reading ⅢA	担当者	小林 晴子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この講座では、英語圏のマスコミが発信するニュースを読み、独力で理解できるよう学習する。main mediaと呼ばれるThe New York Times, The Washington Post, 等の新聞記事、The Economist, The Time 等の週刊記事を取り上げ、BBC, ABC, CBS, NBC 等のTVニュースの画像も見て国際社会、世界情勢の現状を理解できるよう学習する。				
授業目的・到達目標	学生諸君が独力で、英語のニュースを情報収集のために使いこなすための英語力を養成することが本コースの目的です。英語メディアによって、世界のあらゆる地域、分野の情報が発信されています。それを使いこなせることは、皆さんの知識・教養をさらに深め、問題の発見、そして解決を探るための強力な助けとなるでしょう。また同じ出来事でも日本と外国ではとらえ方が異なることがあります。英米・EU圏の政治、経済、外交、軍事、などの背景を理解し、文化・習慣の違いも理解できることも、目標としています。 関連DP及びCP：外国語科目領域1, 3, 6				
履修条件	(1) 日常的にニュースに興味をもっている学生であること。(2) 英字新聞を読む基礎英語力があること。(3) インターネットにアクセスして課題のニュースを視聴できること。(4) 学習意欲があること。				
授業方法	演習形式。(1)テキストの内容確認。(2)テキストの内容に関連し、授業を行っている時点で報道されているニュースを読んで、インターネット上のニュースの視聴も行う。(他) 授業資料配布や連絡を大学のネットを通して行う。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		0%		
	平常評価		100%		(1)授業中の発表などパフォーマンス：30% (2)課題：40% (3)期末試験：30%
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年出版	朝日出版社		English for Mass Communication (2019 Edition) 時事英語の総合演習-2019年度版-	堀江洋文、加藤香織、ほか
	備考				
参考書	適宜、授業中に指示する。世界年鑑（共同通信社）。必要に応じてプリントを配布する。				
オフィスアワー	月曜日 12:30~13:00（事前にメールでアポイントを取ること）授業講堂 kobayashi.haruko11@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキスト全体に目を通しておく。（30分）
	授業内容	オリエンテーション。テキストの使用方法、ネットでニュースを視聴する。授業資料の確認の仕方。
	事後学習	授業資料を見直す。（30分）
2	事前学習	テキスト Chapter 1 国内政治の記事の予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 1 国内政治 Victory of LDP-backed candidate in Niigata gubernatorial race likely to give boost to Abe and key ally
	事後学習	テキスト Chapter 1 関連ビデオ再視聴（1時間）
3	事前学習	テキスト Chapter 1 国内政治関連の最新ニュース記事を予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 1 国内政治関連の最新ニュース
	事後学習	テキスト Chapter 1 国内政治関連の最新ニュースビデオ再視聴（1時間）
4	事前学習	テキスト Chapter 14 スポーツ(1)の記事の予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 14 スポーツ(1) Japan knocked out of World Cup after Belgium surges back in final moments to win 3-2
	事後学習	テキスト Chapter 14 スポーツ(1)関連ビデオ再視聴（1時間）

5	事前学習	テキスト Chapter 14 スポーツ(1)関連の最新ニュース記事を予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 14 スポーツ(1)関連の最新ニュース
	事後学習	テキスト Chapter 14 スポーツ(1)関連の最新ニュースビデオ再視聴（1時間）
6	事前学習	テキスト Chapter 2 経済・ビジネス(1)の記事の予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 2 経済・ビジネス(1) Japan's longest stretch of economic growth in 28 years ends
	事後学習	テキスト Chapter 2 経済・ビジネス(1)関連ビデオ再視聴（1時間）
7	事前学習	テキスト Chapter 2 経済・ビジネス(1)関連の最新ニュース記事を予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 2 経済・ビジネス(1)関連の最新ニュース
	事後学習	テキスト Chapter 2 経済・ビジネス(1)関連の最新ニュースビデオ再視聴（1時間）
8	事前学習	テキスト Chapter 11 気象・災害の記事の予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 11 気象・災害 Japan quake: Strong tremor shakes Osaka, killing at least 5
	事後学習	テキスト Chapter 11 気象・災害関連ビデオ再視聴（1時間）
9	事前学習	テキスト Chapter 11 気象・災害関連の最新ニュース記事を予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 11 気象・災害関連の最新ニュース
	事後学習	テキスト Chapter 11 気象・災害関連の最新ニュースビデオ再視聴（1時間）
10	事前学習	テキスト Chapter 4 外交・国際会議の記事の予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 4 外交・国際会議 One 'rant,' rough talks sour G7 mood in confrontations with Trump
	事後学習	テキスト Chapter 4 外交・国際会議関連ビデオ再視聴（1時間）
11	事前学習	テキスト Chapter 4 外交・国際会議関連の最新ニュース記事を予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 4 外交・国際会議関連の最新ニュース
	事後学習	テキスト Chapter 4 外交・国際会議関連の最新ニュースビデオ再視聴（1時間）
12	事前学習	テキスト Chapter 13 テクノロジーの記事の予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 13 テクノロジー Toyota halts self-driving car tests after Uber-related death
	事後学習	テキスト Chapter 13 テクノロジー関連ビデオ再視聴（1時間）
13	事前学習	テキスト Chapter 13 テクノロジー関連の最新ニュース記事を予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 13 テクノロジー関連の最新ニュース
	事後学習	テキスト Chapter 13 テクノロジー関連の最新ニュースビデオ再視聴（1時間）
14	事前学習	今学期の授業を振り返る。テキスト、新聞記事のプリント、TVニュースのスクリプトなど総復習。（2時間以上）
	授業内容	今学期の授業のまとめと授業内試験。
	事後学習	授業内試験を振り返る（1時間）
15	事前学習	授業内試験を振り返る（1時間）
	授業内容	授業内試験のフィードバック。
	事後学習	試験の見直しをする（1時間）

科目名	Reading ⅢB	担当者	小林 晴子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この講座では、英語圏のマスメディアが発信するニュースを読み、独力で理解できるよう学習する。main mediaと呼ばれるThe New York Times, The Washington Post, 等の新聞記事、The Economist, The Time 等の週刊記事を取り上げ、BBC, ABC, CBS, NBC 等のTVニュースの画像も見て国際社会、世界情勢の現状を理解できるよう学習する。				
授業目的・到達目標	学生諸君が独力で、英語のニュースを情報収集のために使いこなすことができるようにすることが本コースの目的です。英語メディアによって、世界のあらゆる地域、分野の情報が発信されています。それを使いこなせることは、皆さんの知識・教養をさらに深め、問題の発見、そして解決を探るための強力な助けとなるでしょう。また同じ出来事でも日本と外国ではとらえ方が異なることがあります。英米・EU圏の政治、経済、外交、軍事、などの背景を理解し、文化・習慣の違いも理解できることも、目標としています。 関連DP及びCP：外国語科目領域1, 3, 6				
履修条件	(1) 日常的にニュースに興味をもっている学生であること。(2) 英字新聞を読む基礎英語力があること。(3) インターネットにアクセスして課題のニュースを視聴できること。(4) 学習意欲があること。				
授業方法	演習形式。(1)テキストの内容確認。(2)テキストの内容に関連し、授業を行っている時点で報道されているニュースを読んで、インターネット上のニュースの視聴も行う。(他) 授業資料配布や連絡を大学のネットを通して行う。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		0%		
	平常評価		100%		(1)授業中の発表などパフォーマンス：30% (2)課題：40% (3)期末試験：30%
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年出版	朝日出版社		English for Mass Communication (2019 Edition) 時事英語の総合演習-2019年度版-	堀江洋文、加藤香織、ほか
	備考				
参考書	適宜、授業中に指示する。世界年鑑（共同通信社）。必要に応じてプリントを配布する。				
オフィスアワー	月曜日 12:30~13:00（事前にメールでアポイントを取ること）授業講堂 kobayashi.haruko1@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキスト全体に目を通しておく。（30分）
	授業内容	オリエンテーション。テキストの使用方法、ネットでニュースを視聴する。授業資料の確認の仕方。
	事後学習	授業資料を見直す。
2	事前学習	テキスト Chapter 5 軍事の記事の予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 5 軍事 US rebrands Pacific Command amid tensions with China
	事後学習	テキスト Chapter 5 関連ビデオ再視聴（1時間）
3	事前学習	テキスト Chapter 5 軍事関連の最新ニュース記事を予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 5 軍事関連の最新ニュース
	事後学習	テキスト Chapter 5 軍事関連の最新ニュースビデオ再視聴（1時間）
4	事前学習	テキスト Chapter 15 スポーツ(2)の記事の予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 15 スポーツ(2) Rugby - Dynamic Japanese attack piles misery on Italy
	事後学習	テキスト Chapter 15 スポーツ(2)14 スポーツ(1)関連ビデオ再視聴（1時間）

5	事前学習	テキスト Chapter 15 スポーツ(2)関連の最新ニュース記事を予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 15 スポーツ(2)関連の最新ニュース
	事後学習	テキスト Chapter 15 スポーツ(2)関連の最新ニュースビデオ再視聴（1時間）
6	事前学習	テキスト Chapter 3 経済・ビジネス(2)の記事の予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 3 経済・ビジネス(2)EU and Japan sign trade deal covering a third of the world's economy
	事後学習	テキスト Chapter 3 経済・ビジネス(2)関連ビデオ再視聴（1時間）
7	事前学習	テキスト Chapter 3 経済・ビジネス(2)関連の最新ニュース記事を予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 3 経済・ビジネス(2)関連の最新ニュース
	事後学習	テキスト Chapter 3 経済・ビジネス(2)関連の最新ニュースビデオ再視聴（1時間）
8	事前学習	テキスト Chapter 6 海外政治情勢の記事の予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 6 海外政治情勢 Mahathir, 92, sworn in as Malaysia's seventh prime minister
	事後学習	テキスト Chapter 6 海外政治情勢 関連ビデオ再視聴（1時間）
9	事前学習	テキスト Chapter 6 海外政治情勢 関連の最新ニュース記事を予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 6 海外政治情勢 関連の最新ニュース
	事後学習	テキスト Chapter 6 海外政治情勢 関連の最新ニュースビデオ再視聴（1時間）
10	事前学習	テキスト Chapter 9 裁判・法令の記事の予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 9 裁判・法令 Japan introduces plea bargaining in organized crime, bribery cases
	事後学習	テキスト Chapter 9 裁判・法令 関連ビデオ再視聴（1時間）
11	事前学習	テキスト Chapter 9 裁判・法令 関連の最新ニュース記事を予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 9 裁判・法令 関連の最新ニュース
	事後学習	テキスト Chapter 9 裁判・法令 関連の最新ニュースビデオ再視聴（1時間）
12	事前学習	テキスト Chapter 12 人口・労働問題の記事の予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 12 人口・労働問題 Japan's moms stay in work in record numbers
	事後学習	テキスト Chapter 12 人口・労働問題 関連ビデオ再視聴（1時間）
13	事前学習	テキスト Chapter 12 人口・労働問題 関連の最新ニュース記事を予習（1時間）
	授業内容	テキスト Chapter 12 人口・労働問題 関連の最新ニュース
	事後学習	テキスト Chapter 12 人口・労働問題 関連の最新ニュースビデオ再視聴（1時間）
14	事前学習	今学期の授業を振り返る。テキスト、新聞記事のプリント、TVニュースのSCRIPTなど総復習。（2時間以上）
	授業内容	今学期の授業のまとめと授業内試験。
	事後学習	授業内試験を振り返る（1時間）
15	事前学習	授業内試験を振り返る（1時間）
	授業内容	授業内試験のフィードバック。
	事後学習	試験の見直しをする（1時間）

科目名	Writing I A	担当者	高田 宣子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	パラグラフの構成と展開を考えながら、一つのテーマについてやさしい英文で表現できるように、毎回実践的に指導します。					
授業目的・到達目標	英文を書くのに必要な基本的な文法や表現力を養成することを目的とします。 一つの身近なテーマについて自分の意見を明確に平易な文章構成で述べられるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 1， 3， 6					
履修条件	Power Point および Wordを使用できる学生のみ履修可能です。					
授業方法	履修人数および履修学生の英語運用力によって調整いたします。基本的には、表現実例を使用しながら、毎週実際に文章を書きます。また、作成した英文を皆の前で発表してもらいます。フィードバックは授業内において行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		小テスト、発表、中間テストなどの合計点により、決定します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	プリント配布				
参考書	開講時に説明します。					
オフィスアワー	休み時間（金曜14：30～）、教室にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読しておく（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ガイダンスの確認を行う（30分）
2	事前学習	プリントの予習を行う。（30分）
	授業内容	文法確認 英文実例（自己紹介）の表現分析 英文作成演習と発表
	事後学習	作成した英文の確認を行う（30分）
3	事前学習	プリントの予習を行う（30分）
	授業内容	文法確認 英文実例（場面説明）の表現分析 英文作成演習 グループ発表（3～5分間程度）の編成
	事後学習	英文の確認と修正を行う（30分）
4	事前学習	英文の確認を行う（30分）
	授業内容	文法確認 英文実例（状況説明）の表現分析 英文作成演習 グループ発表（2～3人で5～10分間程度）のメンバー編成確認およびテーマについて議論
	事後学習	テーマ確認を行う（30分）

5	事前学習	テーマ検討を行う（30分）
	授業内容	まとめと文法確認テスト グループ発表の決定およびテーマについての確認
	事後学習	テーマ検討と再確認を行う（30分）
6	事前学習	文法見直しを行う（30分）
	授業内容	文法確認 英文実例（意見、主張を伝える内容）の表現分析 その1 発表グループのワークシート打ち合わせ その1
	事後学習	ワークシートの検討を行う。（30分）
7	事前学習	プリントの確認を行う。（30分）
	授業内容	文法確認 英文実例（意見、主張を伝える内容）の表現分析 その2 発表グループのワークシート打ち合わせ その2
	事後学習	ワークシートについて検討する。（30分）
8	事前学習	プリントの予習を行う。（30分）
	授業内容	文法確認 英文コメント表現の実例紹介と分析 発表グループのワークシート打ち合わせ その3
	事後学習	ワークシートの検討を行う。（30分）
9	事前学習	パワーポイント作成のための資料収集を行う。（30分）
	授業内容	パワー・ポイントの英文作成演習 その1
	事後学習	パワーポイントの修正を行う。（30分）
10	事前学習	パワーポイントの修正を行う。（30分）
	授業内容	パワー・ポイントの英文作成演習 その2
	事後学習	パワーポイントの修正を行う。（30分）
11	事前学習	文法プリントの予習を行う。（30分）
	授業内容	まとめと文法確認テスト
	事後学習	文法プリントの確認を行う。（30分）
12	事前学習	英文コメントのプリントを確認する。（30分）
	授業内容	グループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その1
	事後学習	英文コメントのプリントを確認する。（30分）
13	事前学習	英文コメントのプリントを予習する。（30分）
	授業内容	グループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その2
	事後学習	英文コメントのプリントを確認する。（30分）
14	事前学習	英文コメントのプリントを予習する。（30分）
	授業内容	グループ（あるいは個人）発表および英文コメント執筆 その2
	事後学習	英文コメントのプリントを確認する。（30分）
15	事前学習	英文コメントのプリントを確認する。（30分）
	授業内容	まとめと復習テスト
	事後学習	英文コメントのプリントを確認する。（30分）

科目名	Writing I B	担当者	高田 宣子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期で学んだ基本的な文法や表現を確認し、より効果的なパラグラフの構成と展開を考えながら、一つのテーマについて英文で表現できるように、毎回実践的に指導します。					
授業目的・到達目標	英文を書くのに必要な基本的な文法や表現力を養成することを目的とします。 身近で社会的なテーマについて、自分の意見をより説得性を持って文章で伝えられるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 1， 3， 6					
履修条件	Power Point および Wordを使用できる学生のみ履修可能です。原則として、前期にWriting IAを履修した学生を対象とします。					
授業方法	履修人数にもよりますが、表現実例を参考にしながら、毎週実際に文章を書いてもらいます。 また、実際に作成した英文を皆の前で発表してもらいます。フィードバックは授業内において行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		小テスト、発表、中間テストなどの合計点により、決定します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	プリント配布				
参 考 書	開講時指示します。					
オフィス アワー	休み時間（金曜14：30～）、教室にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読する。（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ガイダンスの注意事項を確認する。（30分）
2	事前学習	文法プリントを予習する。（30分）
	授業内容	文法確認 英文実例（場面説明）の表現分析 英文作成演習
	事後学習	文法プリントを確認する。（30分）
3	事前学習	文法プリントを予習する。（30分）
	授業内容	文法確認 英文実例（状況説明）の表現分析 英文作成演習
	事後学習	英文を修正する。（30分）
4	事前学習	文法プリントを確認する。（30分）
	授業内容	文法確認 英文実例（パラグラフ構成）の表現分析 その1 英文作成演習 個人発表（3分程度）のテーマ設定
	事後学習	発表原稿を確認する。（30分）

5	事前学習	発表原稿を確認する。（30分）
	授業内容	まとめと文法確認テスト 個人発表のテーマとアプローチ方法の確認 質疑応答
	事後学習	発表原稿を確認する。（30分）
6	事前学習	プリントを予習する。（30分）
	授業内容	文法確認 英文実例（提案）の表現分析 英文ワークシート作成 その1
	事後学習	ワークシートを修正する。（30分）
7	事前学習	ワークシートを確認する（30分）
	授業内容	文法確認 英文実例（根拠や理由）の表現分析 英文ワークシート作成 その2
	事後学習	ワークシートを修正する（30分）
8	事前学習	ワークシートを確認する（30分）
	授業内容	文法確認 英文実例（まとめ）の表現分析 英文ワークシート作成 その3
	事後学習	ワークシートを改良する（30分）
9	事前学習	ワークシートを確認する（30分）
	授業内容	パワー・ポイント用 英文作成実習 その1 質疑応答
	事後学習	パワーポイントの修正を行う。（30分）
10	事前学習	パワーポイントの改良を行う。（30分）
	授業内容	パワー・ポイント用 英文作成実習 その1 質疑応答
	事後学習	パワーポイントの修正を行う。（30分）
11	事前学習	パワーポイントの改良を行う。（30分）
	授業内容	まとめと復習テスト 発表に向けての質疑応答
	事後学習	パワーポイントの修正を行う。（30分）
12	事前学習	パワーポイントの改良を行う。（30分）
	授業内容	個人発表 その1 英文コメント作成
	事後学習	発表の内容を確認する。（30分）
13	事前学習	発表の内容を確認する。（30分）
	授業内容	個人発表 その2 英文コメント作成
	事後学習	発表の内容を確認する。（30分）
14	事前学習	発表の内容を確認する。（30分）
	授業内容	個人発表 その3 英文コメントの作成
	事後学習	発表の内容を確認する。（30分）
15	事前学習	コメントを確認する。（30分）
	授業内容	まとめと復習テスト
	事後学習	コメントを確認する。（30分）

科目名	Writing II A	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	文の構成、表現スタイルや伝達内容といった3つの視点を柱とし、大学で課される授業レポートや論文などの学術文書を作成するためのアカデミック・ライティングというスキルを習得します。また、従来の学校英文法の不備を指摘しつつ、手段に過ぎなかった英文法の洗い直しを試み、日本語と英語の発想の違いを認識します。				
授業目的・到達目標	〔授業目的〕 TOEFL-iBTやTOEIC Speaking&Writingなどの資格試験に対応できるように、エッセイを書くためのライティングスキルを養成することを目的とします。 〔到達目標〕 書くプロセスを重視しながら、パラグラフ・ライティングからアカデミック・ライティングに至るまでを習得することが目標です。creative thinkingの手法を生かしつつ自分の見解を客観的かつ論理的に明確な英語で表現できると、ライティングによる的確な内容伝達ができることを最終目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域5, 6, 8				
履修条件	パソコンが駆使できること。				
授業方法	前半は様々なライティングの手法を身につけ、後半はコンピューターを使用した実践対応方式で展開し、アカデミック・ライティングの実践的なスキルを学びます。随時プリント教材を併用します。辞書必携。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	毎回の小テスト・課題への取り組みや授業への参加度（50%） クライテリオン（50%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年	金星堂		3-point Academic Writing: Organization, Content, Language	深山、幸重、尾鍋、村尾 Moore
	備考	クライテリオン受験料(5回1200円) は受講者負担			
参考書	適宜、資料配布や参考文献紹介を行います。				
オフィスアワー	月曜日 12:20~13:00、場所は事前にアポイントメントを取った際に決めます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、講義全体を概観する。授業に関する質問を考えてくる。（30分）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、講義全体の説明について理解を深める。（30分）
2	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Unit 1（エッセイの重要な特徴）、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
3	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Unit 1（エッセイの重要な特徴）、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
4	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Unit 2（タイトルの決定法）、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）

5	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Unit 2（タイトルの決定法）、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
6	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Unit 3（Introductionの役割）、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
7	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Unit 3（Introductionの役割）、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
8	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Unit 4（Bodyの構造）、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
9	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Unit 4（Bodyの構造）、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
10	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Unit 5（conclusionのまとめ方）、クライテリオン
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
11	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Unit 5（conclusionのまとめ方）、クライテリオン1
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
12	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン1を完成度の高いエッセイになるよう修正する。（30分）
	授業内容	クライテリオン2（revise）
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
13	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Unit 6（フィードバックに挑戦）、クライテリオン3
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
14	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン3を完成度の高いエッセイになるよう修正する。（30分）
	授業内容	クライテリオン4（revise）
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
15	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	クライテリオン5、振り返り
	事後学習	講義全体の確認をする。（30分）

科目名	Writing II B	担当者	黒滝 真理子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	文の構成、表現スタイルや伝達内容といった3つの視点を柱とし、大学で課される授業レポートや論文などの学術文書を作成するためのアカデミック・ライティングというスキルを習得します。また、従来の学校英文法の不備を指摘しつつ、手段に過ぎなかった英文法の洗い直しを試み、日本語と英語の発想の違いを認識します。				
授業目的・到達目標	〔授業目的〕 TOEFL-iBTやTOEIC Speaking&Writingなどの資格試験に対応できるように、エッセイを書くためのライティングスキルを養成することを目的とします。 〔到達目標〕 書くプロセスを重視しながら、パラグラフ・ライティングからアカデミック・ライティングに至るまでを習得することが目標です。creative thinkingの手法を生かしつつ自分の見解を客観的かつ論理的に明確な英語で表現できることと、ライティングによる的確な内容伝達ができることを最終目標とします。 対応DP及びCP：外国語科目領域5, 6, 8				
履修条件	パソコンが駆使できること。				
授業方法	前半は様々なライティングの手法を身につけ、後半はコンピューターを使用した実践対応方式で展開し、アカデミック・ライティングの実践的なスキルを学びます。随時プリント教材を併用します。辞書必携。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	毎回の小テスト・課題への取り組みや授業への参加姿勢（50%） クライテリオン（50%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年	金星堂		3-Point Academic Writing: Organization, Content, Language	深山、幸重、尾鍋、村尾Moore
	備考	クライテリオン受験料(5回1200円) は受講者負担			
参考書	適宜、資料配布や参考文献紹介を行います。				
オフィスアワー	月曜日 12:20~13:00、場所は事前にアポイントメントを取った際に決めます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、講義全体を概観する。授業に関する質問を考えてくる。（30分）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、学習方法について理解し、授業の準備を体系的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、講義全体の説明について理解を深める。（30分）
2	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Unit 7（エッセイの最終原稿提出）、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
3	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Unit 8（リサーチ・ペーパーの構造とIntroduction）、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
4	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Unit 9（abstractの重要な特徴）、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）

5	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Unit 10 (abstractの草稿)、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
6	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Unit 11 (abstractの最終原稿を仕上げる)、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
7	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Unit 12 (プレゼンテーションの基本的特徴)、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
8	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Unit 13 (視覚資料の作成) Unit 14 (発表原稿の完成)、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
9	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	Unit 15 (プレゼンテーションの評価)、アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
10	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	アカデミック・ライティング手法
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
11	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	クライテリオン1
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
12	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン1を完成度の高いエッセイになるよう修正する。（30分）
	授業内容	クライテリオン2 (revise)
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
13	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	クライテリオン3
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
14	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。クライテリオン3を完成度の高いエッセイになるよう修正する。（30分）
	授業内容	クライテリオン4 (revise)
	事後学習	学習内容を確認し理解を深めると同時に、理解不十分な点を質問できるようにしておく。（30分）
15	事前学習	与えられた課題を準備し、理解できない箇所をチェックしておく。（30分）
	授業内容	クライテリオン5、振り返り
	事後学習	講義全体の確認をする。（30分）

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	青木 和子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	初学者のため、ドイツ語学習を基礎から行う。 ドイツ語文法の仕組みを体系的に学ぶ。 言葉は文化である、という視点も持って取り組む。				
授業目的・到達目標	【授業目的】コミュニケーションのための簡単な会話力や読むための語学力を身に付け、現実にかつすることができるよう育成すること。 【到達目標】話すための基本表現を正しくスムーズに使いこなして、自己表現ができ、相手とコミュニケーションを取ることができるようになること。 関連DP及びCP：外国語科目領域6				
履修条件	ドイツ語学習に熱意があること。				
授業方法	各課ごとに、文法テーマをわかり易く解説した上で、練習問題等を順次当てる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業内テスト80％ 平常点（授業参加度）20％	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	朝日出版社		アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語	小野寿美子 他
	備考				
参 考 書	独和辞書が授業時に必ず必要。				
オフィスアワー	質問は、授業中いつでも受け付ける。 授業後も教室で対応する。 授業時間：金曜2限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を購入し『はじめに』を読んでおく。 教科書添付のCDでアルファベットの発音を聞いておく（30分）
	授業内容	ガイダンス、独和辞書の紹介 アルファベットの発音練習 簡単なあいさつの発音練習
	事後学習	CDで発音練習を復習する。（30分）
2	事前学習	CDでアルファベット、単語の発音を聞いておく。（30分）
	授業内容	アルファベットの発音の復習 ドイツ語の単語の発音の仕方を、母音・子音と順を追って説明しながら、発音練習をする。
	事後学習	CDを聞いて復習する。（30分）
3	事前学習	Lektion 1（第1課）の解説箇所を読んでおく。（30分）
	授業内容	動詞の現在人称変化（1）（規則動詞）
	事後学習	授業内容の復習と課題をする。（1時間）
4	事前学習	前回の未学習の箇所を予習する。（30分）
	授業内容	動詞sein・haben現在人称変化（不規則動詞） 語順 Lektion 1 Dialog
	事後学習	授業内容の復習と課題をする。（1時間）

5	事前学習	Lektion 2 の解説を読んでおく。（30分）
	授業内容	名詞の性と格変化 定冠詞と不定冠詞の格変化
	事後学習	授業内容の復習と課題を行う。（1時間）
6	事前学習	Lektion 2 の未学習の箇所を予習する。（30分）
	授業内容	疑問代名詞 並列の接続詞 Lektion 2 のDialog Lektion 3 動詞の人称変化（2）（不規則動詞）
	事後学習	授業内容の復習と課題をする。（1時間）
7	事前学習	Lektion 3 の解説を読んでおく。（30分）
	授業内容	動詞の人称変化（2）（不規則動詞） 命令形
	事後学習	授業内容の復習と課題をする。（1時間）
8	事前学習	Lektion 3 の未学習の箇所を予習する。（30分）
	授業内容	人称代名詞3格と4格 非人称のes Lektion 3 のDialog 名詞の複数形
	事後学習	授業内容の復習と課題をする。（1時間）
9	事前学習	Lektion 4 の解説を読んでおく。（30分）
	授業内容	定冠詞類・不定冠詞類の格変化 keinとnichtの使い方 Lektion 4 のDialog
	事後学習	授業内容の復習と課題をする。（1時間）
10	事前学習	Lektion 5 の解説を読んでおく。（30分）
	授業内容	前置詞の格支配
	事後学習	授業内容の復習と課題をする。（1時間）
11	事前学習	Lektion 5 の未学習の箇所を予習する。（30分）
	授業内容	前置詞と定冠詞の融合形 Lektion 5 のDialog
	事後学習	授業内容の復習と課題をする。（1時間）
12	事前学習	Lektion 6 の解説を読んでおく。（30分）
	授業内容	話法の助動詞の現在人称変化 未来形
	事後学習	授業内容の復習と課題をする。（1時間）
13	事前学習	Lektion 6 の未学習の箇所を予習する。（30分）
	授業内容	話法の助動詞の復習 従属の接続詞と副文
	事後学習	授業内容の復習と課題をする。（1時間）
14	事前学習	Lektion 6 の未学習の箇所を予習する。（30分）
	授業内容	時刻の表現 Lektion 6 のDialog 前学期の内容についての復習
	事後学習	授業内容を復習し、試験に備え十分勉強する。（2時間）
15	事前学習	前学期学習した内容を十分復習する。（2時間）
	授業内容	授業内試験 試験終了後試験内容について解説する
	事後学習	試験の出来、不出来をチェックし、反省点を出す（30分）

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	跡守 美音	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の基礎を学ぶ。				
授業目的・到達目標	【授業目的】 基本的な文法の知識と辞書を使って、ドイツ語を運用（おもに読解）する力を養成すること、また、ドイツ語の学習の中でドイツ語圏の文化についても理解を深めることを目的とする。 【到達目標】 ドイツ語の初級文法を身に付け、その文法の知識と辞書を使いながら、平易な文章を読むことができるようになることを目標とする。				
履修条件	対応DP及びCP:外国語科目領域6 ドイツ語基礎表現Aと併せて、ドイツ語基礎文法Aを履修すること（または履修済み）が望ましい。 後期のドイツ語基礎表現Bは、独検を受験することが履修条件となりますので注意して下さい。				
授業方法	教科書に沿って解説し、その後、練習問題や読解を通じて、学習した内容の定着を深めていきます。練習問題やテキストの訳は、受講生に積極的に発表してもらいます。毎回、予習をしっかりやってくるのが前提となります。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）100%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2016	朝日出版社	たいむりーAltuelles aus Deutschlandー		森田悟、川上博子 他
	備考				
参考書	独和辞典 （独和辞典については初回の授業で説明します。授業では毎回、独和辞典を使用しますので必ず持参して下さい。）				
オフィス アワー	火曜日 12:10～ 授業終了後の講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体を概観する。（30分）
	授業内容	ガイダンス（授業の進め方、評価方法、独和辞典の説明など）
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。授業で紹介された独和辞典をWEBサイトなどで調べてみる。（30分）
2	事前学習	第1回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	つづり字と発音
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
3	事前学習	第2回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	動詞の変化、動詞の位置
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
4	事前学習	第3回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	seinとhaben
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）

5	事前学習	第4回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	名詞の性、複数形
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
6	事前学習	第5回の授業時に指示された箇所を予習しておくこと。（30分）
	授業内容	冠詞、否定文[1]
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
7	事前学習	第6回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	名詞の格
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
8	事前学習	第7回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	定冠詞（類）、不定冠詞（類）
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
9	事前学習	第8回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	否定文[2]
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
10	事前学習	第9回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	不規則変化動詞、命令形
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
11	事前学習	第10回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	人称代名詞の変化、非人称のes
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
12	事前学習	第11回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	前置詞
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
13	事前学習	第12回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	接続詞
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
14	事前学習	第1回～第13回の学習内容を復習しておく。（30分）
	授業内容	授業内試験及び重要箇所の振り返り
	事後学習	授業内試験でできなかった箇所を確認する。（30分）
15	事前学習	第1回～第14回の中で理解できていないと思うところを、事前に確認しておく。（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	授業内で質疑応答したことを復習する。（30分）

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	天沼 春樹	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の初歩と、ドイツ文化理解。ドイツ語を初歩から、親しみやすくまなび、読み書き聴くバランスをとった基礎を身につけていく。視聴覚教材を利用し、ドイツ事情にもたくさん触れていく。初級のドイツ語の運用能力。読み、聞き、書けるちから。通年の目安としてドイツ語検定5級程度の能力。とくに、後期12月の独検にはチャレンジしてほしい。授業内でも過去問などを指導します。					
授業目的・到達目標	ドイツ語を初歩から、親しみやすくまなび、読み書き聴くバランスをとった基礎力を養成することを目的とする。 初歩的日常表現・日常語彙・現在形の表現を身につけることができる(文法事項も補う)ことを目標とする。 関連DP及びCP：外国語領域科目 6					
履修条件	授業参加度重視。初歩からやるので、欠席がかさなると理解不能になります。					
授業方法	講義による。視聴覚教材も適宜利用して、耳と目からもドイツ語にしたしんでもらうつもりである。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		学期末に行う教場試験による。小試験。授業内発表なども平常点として評価します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016	第三書房		『ドイツ環境問題へのアプローチ ノイ』		ヘルマン・トロール他
	備考					
参考書	独和辞書(中級)/電子辞書可					
オフィスアワー	講義時間前後、講堂にて。 授業時間：金曜 2・3 限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教材の下見。ひと通り目を通しておく。(30分)
	授業内容	ドイツ語の世界に入門。かんたんなあいさつからABCの発音。講義のすすめかた案内。教材について。
	事後学習	ノート整理・宿題 (30分)
2	事前学習	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)
	授業内容	テキストLektion1 人称代名詞・動詞sein, haben, trinken テーマ「ドイツへの到着」
	事後学習	ノート整理・宿題 (30分)
3	事前学習	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)
	授業内容	テキストLektion2/名詞の性 動詞の位置 テーマ「ライン河」
	事後学習	ノート整理・宿題 (30分)
4	事前学習	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)
	授業内容	テキストLektion2 疑問文 ja と nein
	事後学習	ノート整理・宿題 (30分)

5	事前学習	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)
	授業内容	テキストLektion3 不規則な動詞 名詞の格 1/4格 テーマ Es gibt Wein. ドイツ・ワイン!
	事後学習	ノート整理・宿題 (30分)
6	事前学習	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)
	授業内容	テキストLektion3 否定冠詞 kein 否定をふくむ疑問文のこたえ
	事後学習	ノート整理・宿題
7	事前学習	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど)
	授業内容	テキストLektion4 名詞の1/3/4格の使い方 テーマ「エネルギー問題」
	事後学習	ノート整理・宿題 (30分)
8	事前学習	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)
	授業内容	テキストLektion4 名詞の2格の使い方
	事後学習	ノート整理・宿題 (30分)
9	事前学習	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)
	授業内容	テキストLektion5 前置詞の使い方 例文 作文 テーマ「ドイツの地理」
	事後学習	ノート整理・宿題 (30分)
10	事前学習	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)
	授業内容	テキストLektion5 人称代名詞 1/3/4格の使い方
	事後学習	ノート整理・宿題 (30分)
11	事前学習	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)
	授業内容	テキストLektion6 3・4格支配の前置詞 テーマ「ドイツの環境政策・廃棄物処理など」
	事後学習	ノート整理・宿題 (30分)
12	事前学習	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)
	授業内容	テキストLektion6 3・4格支配の前置詞 テーマ「ドイツの環境政策・廃棄物処理など」
	事後学習	ノート整理・宿題 (30分)
13	事前学習	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)
	授業内容	前期の復習 和訳練習 語彙力アップ指導
	事後学習	ノート整理・宿題 (30分)
14	事前学習	前回やったところの復習。若干の予習(単語調べなど) (30分)
	授業内容	辞書を使ってかんたんな読解練習。
	事後学習	試験準備学習 (30分)
15	事前学習	試験範囲学習。 (30分)
	授業内容	前期筆記試験(予定) 内容・範囲は授業内で指示する。 まとめ、振り返り
	事後学習	試験結果の反省。 (30分)

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語を学びながら現在事情を知り、ドイツという国に興味を持ていただければと願っています。			
授業目的・到達目標	【授業目的】基礎的な文法事項を理解する力を養成することを目的とします。 【到達目標】簡単なドイツ語文を読み、聞き、書き、話せるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	特にありません。初習者も歓迎します。			
授業方法	まず文法事項を理解し、会話の内容を把握した後、練習問題と読むテキストで理解度を確認します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	20点満点の平常点（授業態度）と80点満点の筆記試験を総合し、60点以上を合格とします。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	同学者	ミュンヘンに夢中	ラーブ・石井・保阪
	備考			
参 考 書	独和辞典（電子辞書も可）			
オフィスアワー	金曜午後本館講師控室（学生は立入禁止のため、本館 1 階教務課窓口まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜 3・4 限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前に教科書を一読する（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
2	事前学習	事前に教科書を一読する（30分）
	授業内容	第 1 課 フ라우エン教会 文法と会話
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
3	事前学習	事前に教科書を一読する（30分）
	授業内容	第 1 課 フ라우エン教会 練習問題と読本
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
4	事前学習	事前に教科書を一読する（30分）
	授業内容	第 2 課 国立劇場 文法と会話
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）

5	事前学習	事前に教科書を一読する（30分）
	授業内容	第2課 国立劇場 練習問題と読本（30分）
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる
6	事前学習	事前に教科書を一読する（30分）
	授業内容	第3課 ヴィクトアーリエンマルクト 文法と会話
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
7	事前学習	事前に教科書を一読する（30分）
	授業内容	第3課 ヴィクトアーリエンマルクト 練習問題と読本
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
8	事前学習	事前に教科書を一読する（30分）
	授業内容	第4課 バイエルン料理 文法と会話
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
9	事前学習	事前に教科書を一読する（30分）
	授業内容	第4課 バイエルン料理 練習問題と読本
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
10	事前学習	事前に教科書を一読する（30分）
	授業内容	第5課 マリーエンブラッツ 文法と会話
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
11	事前学習	事前に教科書を一読する（30分）
	授業内容	第5課 マリーエンブラッツ 練習問題と読本
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
12	事前学習	事前に教科書を一読する（30分）
	授業内容	第6課 ミュンヘン大学 読本と会話
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
13	事前学習	事前に教科書を一読する（30分）
	授業内容	第6課 ミュンヘン大学 練習問題と読本
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
14	事前学習	授業で勉強したことを復習する（30分）
	授業内容	前期の力試し、まとめ
	事後学習	出題箇所を確認する（30分）
15	事前学習	不明箇所をピックアップする（30分）
	授業内容	答え合わせと解説
	事後学習	間違った箇所を確認し、クリアにする（30分）

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	大森 信明	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の基礎知識を得て、ドイツ語の基礎能力の養成をする。それは、日本語、英語を含めた言語能力の充実にもつながる。 ドイツの言語、文化、社会との触れ合いが、国際社会における日本のあり方への思索を深める。			
授業目的・到達目標	[授業目的]ドイツ語の基礎文法の理解を通して、読解力と文章作成力を養成することを目的とする。 [到達目標]ドイツ語の習得とともに、その背景にある歴史、文化、社会を知り、伝達できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP:外国語科目領域 6			
履修条件	教科書は、最近の傾向にはない本格的な重い内容です。			
授業方法	文法学習、文章講読に問題演習を加える			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	文法問題を中心とした筆記試験。80% 授業で問題演習。20%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	平成31年度	郁文堂	読むためのドイツ語文法	大川勇 他2名
	備考			
参 考 書	特になし			
オフィスアワー	水曜日昼休み 本館 2 階教員室（学生は立入禁止のため、本館 1 階教務課窓口に申し出て、声をかけてもらってください）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ドイツやドイツ語について、図書館や電子媒体等を利用してまとめてみる。(30分)
	授業内容	年間講義計画・成績評価方法・文字と発音のしくみ
	事後学習	ドイツ語学習を、この半年の学生生活に位置付けてみる。(30分)
2	事前学習	教科書添付のCDを聴き、ドイツ語の音声に親しむ。(30分)
	授業内容	発音
	事後学習	発音の要点を確認する。重要項目を声に出し、綴り字を書いて覚える。(30分)
3	事前学習	教科書の説明を読み、英語との違いを知る。(30分)
	授業内容	動詞の現在人称変化
	事後学習	ドイツ語の人称変化の基本であるから確実に覚える。(30分)
4	事前学習	英語の文の種類、それぞれの文における動詞の位置をまとめてみる。 そこで使われている文法用語も確認する。(30分)
	授業内容	定動詞の位置と枠構造
	事後学習	練習問題で、ドイツ語の語順に慣れる。(30分)

5	事前学習	教科書の説明を読み、英語と比較してみる。（30分）
	授業内容	名詞の性と格変化
	事後学習	名詞、冠詞の基本であることを理解する。（30分） 教科書の表を暗記する。
6	事前学習	英語の複数形をまとめてみる。（30分）
	授業内容	名詞の複数形・定冠詞類と不定冠詞類
	事後学習	自分の辞書の表記など確認しながら、代表例を覚える。（30分）
7	事前学習	第3回動詞の現在人称変化を復習する。（30分）
	授業内容	動詞の不規則変化
	事後学習	代表例の人称変化を覚える。（30分）
8	事前学習	英語の人称代名詞の使い方をまとめる。（30分）
	授業内容	人称代名詞の格変化
	事後学習	人称代名詞の格変化を覚える。英語の用法との違いを確認する。（30分）
9	事前学習	冠詞、名詞、代名詞の格変化を復習する。（30分）
	授業内容	前置詞
	事後学習	具体的な用例をそのまま覚えて、ドイツ語の前置詞と格支配を理解する。（30分） 英語の前置詞との対応関係を考える。
10	事前学習	ドイツ語の助動詞を、英語のそれと対応させてみる。（30分）
	授業内容	話法の助動詞
	事後学習	助動詞の人称変化を覚える。 例文で、助動詞、本動詞の語順を理解する。（30分）
11	事前学習	第5回の定冠詞、不定冠詞と名詞の格変化を復習する。（30分）
	授業内容	形容詞の格変化
	事後学習	変化語尾についての基本的考え方を理解した上で、徐々に覚えていく。（30分）
12	事前学習	英語の動詞の三基本形を振り返ってみる。（30分）
	授業内容	動詞の三基本形
	事後学習	先ず規則変化を確実に覚える。不規則変化は重要動詞から徐々に覚えていく。（30分）
13	事前学習	第3回の現在人称変化を復習する。（30分）
	授業内容	過去人称変化
	事後学習	例文、練習問題を読み直し、過去時制の判断が可能になっているか確認する。（30分）
14	事前学習	前期の学習を振り返り、疑問点をまとめる。（30分）
	授業内容	前期まとめ・質問を受けて補足説明
	事後学習	重要項目を再度確認する。（30分）
15	事前学習	重要項目を書きながら、理解と暗記を確認する。（30分）
	授業内容	試験及び解説・講評・まとめ
	事後学習	試験を自己点検し、疑問点があればまとめておく。（30分）

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	基本文法の定着を図り、辞書を使いながらドイツ語の読解力をつける。 ドイツ語の発音、基礎表現を習得する。基礎的なドイツ語会話を理解し、会話に参加できる基礎力を養成する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】基礎文法を確認するとともに、着実にドイツ語が身につくように、簡単な会話表現から複合文まで理解する読解力の養成を目的とする。またテキストを講読しながら、ドイツ語圏の人々の生活や文化についての知識や異文化への関心を深める。【到達目標】ドイツ語検定4級レベルの語学力の習得を目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域6				
履修条件	ドイツ語基礎文法A・B（ドイツ語Ⅱ）も併せて履修すること。和独辞書必携。予習は必須。欠席しないこと。				
授業方法	発音練習、基本文法の確認、辞書を使いながらのテキスト講読、簡単な表現練習を総合的に行う。確認小テストを適宜行う。小テストで出来なかった箇所はしっかり復習すること。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	学期末試験等。60% 授業参加度・小テスト・発表。40%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018年	朝日出版社		ドイツ語ナビゲーション2.0	前田良三
	備考				
参考書	必要に応じ紹介する				
オフィスアワー	授業（火曜5限もしくは木曜2限）の前後の教室で。授業中でも質問を受け付ける。 h.kawakami18@gmail.com				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容をよく読んでおくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方・成績評価の方法・検定試験・辞書について説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。教科書、辞書の準備をする。（30分）
2	事前学習	ドイツ語のアルファベットと英語のアルファベットの違いを確認してくる。（30分）
	授業内容	ドイツ語のつづり字と発音の関係について学習する。 アルファベット、発音の規則、母音の読み方理解し、発音練習する。
	事後学習	アルファベット、単語のアクセント位置、母音のつづり字の発音を繰り返し練習し、確実に覚えること。（30分）
3	事前学習	ローマ字読みで読める単語を読む練習をしてくる。（30分）
	授業内容	子音の読み方、簡単な挨拶表現、短文を音読練習する。
	事後学習	子音のつづり字の発音、挨拶表現、短文をの発音を繰り返し練習し、確実に覚えること。（30分）
4	事前学習	教科書の単語を読む練習をしてくること。（30分）
	授業内容	1課 動詞〔規則動詞〕の変化について学習する。 動詞の位置〔平叙文・疑問文〕動詞の辞書の引き方について理解する。
	事後学習	主語になる代名詞と動詞の変化と位置を復習すること。（30分）

5	事前学習	会話文練習P5の訳と発音練習をしてくること。（30分）
	授業内容	注意すべき現在人称変化、重要動詞の変化について学習する。 会話文を音読し、訳することができる。自己紹介できる。重要表現練習を行う。
	事後学習	重要表現練習を復習すること。（30分）
6	事前学習	ドイツ語の名詞と英語の名詞の違いを確認してくること。（30分）
	授業内容	2課 名詞について〔性・数・格〕定冠詞、不定冠詞について学習する。 格の用法、名詞の辞書の引き方について理解する。
	事後学習	定冠詞、不定冠詞の格変化を確実に覚えること。格の用法について復習してくること。（30分）
7	事前学習	会話文の名詞を辞書で調べてくること。（30分）
	授業内容	疑問代名詞について学習する。 会話文を音読し、訳することができる。重要表現練習を行う。
	事後学習	重要表現練習を復習すること。（30分）
8	事前学習	テキスト講読P12の訳と発音練習をしてくること。（30分）
	授業内容	テキスト講読P12ーケルンでの散策ーテキストの発音練習、訳することができる。
	事後学習	テキストの重要表現と単語を復習すること。（30分）
9	事前学習	会話文練習P15の訳と発音練習をしてくること。（30分）
	授業内容	3課 動詞〔不規則動詞〕の変化、命令形について学習する。 会話文を音読し、訳することができる。重要表現練習を行う。
	事後学習	不規則動詞の変化を確実に覚えること。命令形を復習すること。（30分）
10	事前学習	会話文練習P17の訳と発音練習をしてくること。（30分）
	授業内容	代名詞の変化、非人称のesについて学習する。 会話文を音読し、訳することができる。重要表現練習を行う。
	事後学習	代名詞の変化を確実に覚えること。非人称のesを使った表現を復習すること。（30分）
11	事前学習	名詞を辞書で調べて、複数形を調べてくること。（30分）
	授業内容	4課 定冠詞類、不定冠詞類、否定冠詞の使い方、否定文について学習する。
	事後学習	否定文の作り方を復習すること。（30分）
12	事前学習	会話文練習P23の訳と発音練習をしてくること。（30分）
	授業内容	疑問文の答え方について学習する。 会話文を音読し、訳することができる。重要表現練習を行う。
	事後学習	重要表現を復習すること。（30分）
13	事前学習	テキスト講読P24の訳と発音練習をしてくること。（30分）
	授業内容	テキスト講読P24ーベルリンへの研修旅行ーテキストの発音練習、訳することができる。
	事後学習	テキストの重要表現と単語を復習すること。（30分）
14	事前学習	前期学習した文法と重要表現を復習してくる。（30分）
	授業内容	練習プリントで、前期学習した文法事項の問題を解答できる。
	事後学習	出来なかった箇所を復習する。（30分） 重要表現と単語を覚える。
15	事前学習	今までの重要表現練習と重要単語を総復習する。（30分）
	授業内容	授業内試験及び解説 前期学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（30分）

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の文法知識を一步一步確実なものにしながら、テキストを講読することによって、独検3・4級に合格する読解力・聞き取りの力を養成できる。				
授業目的・到達目標	[授業目的] ドイツ語の基礎文法を一から記述し、その文法に基づいてドイツの風土や文化について書かれたテキストの文章を読みながら、基礎のドイツ語力を身に付けること、そしてドイツの文化、歴史などの知識を得ることを目的とする。 [到達目標] 基礎のドイツ語運用力を身につけ、ドイツ語技能検定4・3級に合格できることを目標とする。				
履修条件	関連科目及びCP：外国語科目領域6				
授業方法	演習方式。毎回小テストを実施する。その小テストの結果確認はその都度行う。授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参画度 小テスト 学期末試験等	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018年度	朝日出版社		フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann
	備考				
参考書	独和辞典が必携。携帯電話、スマホ等の独和辞典アプリの授業中の使用は認めない。具体的にはガイダンスで説明する。既に辞書を持っている場合、ガイダンスの際に持参するか、書名、出版社名、出版年度を書いて持参すること。				
オフィスアワー	授業後に授業講堂で相談のうえ受け付ける。 授業時間：金曜3・4・5限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ドイツと言えば何を連想するか考えておくこと。(30分)
	授業内容	ガイダンス(年間講義計画・成績評価の方法・辞書等の紹介)
	事後学習	授業で触れた事柄をまとめておくこと。(30分)
2	事前学習	テキストのvi頁からx頁まで目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	ドイツ語のアルファベットと発音
	事後学習	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。(30分)
3	事前学習	テキストのx頁から6頁まで目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	母音と子音の発音 規則動詞
	事後学習	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
4	事前学習	テキストの7頁の設問に回答し、8頁を訳出しておくこと。また9頁から13頁まで目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	冠詞 名詞
	事後学習	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)

5	事前学習	テキスト14頁の設問に回答し、15頁を訳出しておくこと。またテキスト16頁から19頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	不規則動詞 命令形
	事後学習	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
6	事前学習	テキスト20頁の設問に回答し、21頁を訳出しておくこと。またテキスト22頁から25頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	冠詞類 人称代名詞
	事後学習	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
7	事前学習	テキスト26頁の設問に回答し、27頁を訳出しておくこと。またテキスト28頁から32頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	前置詞
	事後学習	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
8	事前学習	テキスト32頁から34頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	接続詞 副文
	事後学習	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
9	事前学習	テキスト35頁の設問に回答し、36頁を訳出しておくこと。またテキスト37頁から39頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	話法の助動詞 zu不定詞
	事後学習	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
10	事前学習	テキスト40頁の設問に回答し、41頁を訳出しておくこと。またテキスト42頁から44頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	複合動詞
	事後学習	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
11	事前学習	テキスト44頁から46頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	再帰動詞 非人称動詞
	事後学習	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
12	事前学習	テキスト47頁の設問に回答し、48頁を訳出しておくこと。またテキスト49頁から53頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	形容詞
	事後学習	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
13	事前学習	テキスト57頁から60頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	動詞の3基本形
	事後学習	授業で扱ったテキストを再度目を通し再確認するとともに、録音教材によって発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
14	事前学習	これまでの学修を振り返り、十分に理解できていない点があれば質問できるように準備すること。(30分)
	授業内容	ドイツの社会・文化を扱った映像教材を見る。
	事後学習	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。(30分)
15	事前学習	これまでの学修を振り返り、質問に答えられるように準備すること。(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	事後学習	質問に対して、分からなかったりあやふやだった点を確認すること。(30分)

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	川尻 竜彰	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語を通してドイツならびにヨーロッパに対する知識や理解を深め、異なるものの見方や価値観、幅広い視野・思考を養います。			
授業目的・到達目標	基本的なドイツ語文法を習得し、特に平易な文章を読む事が出来る能力を育成することを目的とし、あわせてドイツ文化についての理解も深め、説明できるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	冬期ドイツ語技能検定試験を受験すること。			
授業方法	2時間に1課のペースで進んでいきますが、最初の1時間を文法の説明に、次の1時間を読章と練習問題に当てます。 【フィードバック方法】授業内で行う小テストを添削、採点したのちに返却する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	試験 70% 小テスト 10% 授業時発表 10% 授業参加度 10%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011	朝日出版	『希望のドイツ語』	小塩 節
	備考			
参考書	授業中に指示する。			
オフィスアワー	授業講堂 月曜日2:30～4:10			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	添付CDのアルファベートをよく聞いておくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、辞書の選び方について。
	事後学習	アルファベートを暗記して発音できるようにすること（30分）
2	事前学習	教科書2、3ページの単語をCDを聞きながら発音してみること（30分）
	授業内容	ドイツ語の発音。
	事後学習	ローマ字読みできない複母音を特に練習すること。（30分）
3	事前学習	教科書4ページのテキストを音読しておくこと（30分）
	授業内容	第1課 動詞の人称変化および語順について。平叙文では主語がつねに文頭に来るわけではないことを学ぶ
	事後学習	教科書6ページの練習問題で動詞の人称変化に習熟すること。（30分）
4	事前学習	教科書4ページを予習してくること（30分）
	授業内容	読章 「私たちはドイツ語を学ぶ」
	事後学習	不定代名詞manの用法を復習すること（30分）

5	事前学習	教科書8ページのテキストを音読しておくこと（30分）
	授業内容	第2課 名詞の姓・格、冠詞の変化、複数形について。
	事後学習	教科書10ページの練習問題で動詞の人称変化を復習しておくこと。（30分）
6	事前学習	教科書8ページを予習してくること（30分）
	授業内容	読章 「朝食」
	事後学習	定冠詞・不定冠詞の使い分けを整理しておくこと。（30分）
7	事前学習	格の概念について整理しておくこと。（30分）
	授業内容	第3課 冠詞類、人称代名詞の格変化について。welcherの用法に習熟する
	事後学習	教科書10ページの練習問題で冠詞類の変化に慣れておくこと。（30分）
8	事前学習	教科書12ページを予習してくること（30分）
	授業内容	読章 「労働時間」
	事後学習	動詞が特定の格の目的語をとることを理解する。（30分）
9	事前学習	2、3課の冠詞類の格変化を今一度確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第4課 前置詞、命令法について。特に頻出する3格支配、3・4格支配の前置詞について学ぶ
	事後学習	教科書19ページの練習問題で命令法に慣れること。（30分）
10	事前学習	教科書16ページを予習してくること（30分）
	授業内容	読章 「ドイツー森の国」
	事後学習	3・4格支配の前置詞の3，4格の使い分けを復習しておくこと。（30分）
11	事前学習	形容詞の語尾変化表と2、3課の格変化表を見比べておくこと。（30分）
	授業内容	第5課 形容詞の用法、付加語形容詞の語尾変化について。形容詞は副詞としても使われることを学ぶ
	事後学習	教科書22ページの練習問題を解いておくこと。（30分）
12	事前学習	教科書20ページを予習してくること（30分）
	授業内容	読章 「菩提樹」
	事後学習	名詞の複数形から単数形を導き出すことに慣れておくこと。（30分）
13	事前学習	付加語形容詞の語尾変化を復習しておくこと。（30分）
	授業内容	第6課 形容詞の名詞化、形容詞の比較変化について。多用される中性名詞化について学ぶ
	事後学習	教科書26ページの練習問題を解いておくこと。（30分）
14	事前学習	教科書24ページを予習してくること（30分）
	授業内容	読章 「整頓好き」比較の様々な用法について学ぶ。基数詞を覚える。
	事後学習	基数詞の発音、つづりを練習しておくこと。（30分）
15	事前学習	指定された範囲の文法事項を把握しておくこと（30分）
	授業内容	試験及び振り返り、まとめ
	事後学習	わからなかった問題を必ず確認して復習しておくこと（30分）

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	黒瀬 志保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の初級文法を学びながら、「読む、書く、話す、聞く」という4技能の練習を行う。また、テキストで扱われている題材をもとにドイツの文化や歴史にも触れる。			
授業目的・到達目標	【授業目的】初級文法を習得し、ドイツ語を読む、書く、話す、聞くという基本能力を養成することを目的とする。 【到達目標】辞書を使って簡単なドイツ語の文章を理解できるようになること、また基本的な文法と語彙を使って、簡単なドイツ語の表現ができるようになることを目標とする。それとともに、ドイツ語技能検定試験（独検）4級に合格するための基礎を身につけることも目標とする。			
履修条件	対応DP及びCP：外国語科目領域6 ドイツ語基礎文法A、Bを平行して履修すること（または履修済み）が望ましい。 ドイツ語技能検定試験の受験を奨励する。			
授業方法	教科書に沿って、文法説明、テキスト読解と発音練習、練習問題を行う。テキスト読解と練習問題は宿題として課し、授業時に解説を行う。基本単語を覚えるための小テストも実施し、次の授業で返却を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常点（授業参加度、小テスト、独検）30%、授業内試験70%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	白水社	プレーミエ ドイツ語総合読本	神竹道士 他
	備考			
参考書	初回授業で独和辞典について指示する。その他の参考書については授業中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜16：10および17：50～～ 授業終了後の講堂にて。 初回授業でメールアドレスを公開する。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体を概観する。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方と注意事項、ドイツ語の概要を説明する。 ドイツ語のあいさつについて学習し、発音練習を行う。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 ドイツ語のあいさつの発音練習を行う。（30分）
2	事前学習	教科書7～9ページを見ながら、音声聞いてくる。（30分）
	授業内容	ドイツ語のアルファベット・綴りと発音 ドイツ語のアルファベットの読み方を理解し、発音できる。 ドイツ語の綴りの読み方の原則と個々の文字の発音について理解し、発音できる。
	事後学習	教科書7～10ページの発音練習を行う。（30分）
3	事前学習	教科書12～13ページを読んでくる。（30分）
	授業内容	Lektion 1 規則動詞とseinの現在人称変化、決定疑問文、定動詞第2位について学習する。
	事後学習	教科書12～13ページの基本練習1～3を解く。（30分）
4	事前学習	教科書14ページのテキストを和訳し、15ページの練習問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	Lektion 1 規則動詞とseinの現在人称変化、決定疑問文、定動詞第2位について理解し、それに対応する問題を解答でき、テキストを読解できる。
	事後学習	テキストの発音練習を行う。 間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）

5	事前学習	教科書 1 6 ～ 1 7 ページを読んでくる。(30分)
	授業内容	Lektion 2 名詞の性、定冠詞と不定冠詞、habenと注意すべき動詞の現在人称変化、補足疑問文について学習する。
	事後学習	教科書 1 6 ～ 1 7 ページの基本練習 1 ～ 2 を解く。(30分)
6	事前学習	教科書 1 8 ページのテキストを和訳し、1 9 ページの練習問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Lektion 2 名詞の性、定冠詞と不定冠詞、habenと注意すべき動詞の現在人称変化、補足疑問文について理解し、それに対応する問題を解答でき、テキストを読解できる。
	事後学習	テキストの発音練習を行う。 間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
7	事前学習	教科書 2 0 ～ 2 1 ページを読んでくる。(30分)
	授業内容	Lektion 3 名詞の複数形、定冠詞類・不定冠詞類、否定文について学習する。
	事後学習	教科書 2 0 ～ 2 1 ページの基本練習 1 ～ 3 を解く。(30分)
8	事前学習	教科書 2 2 ページのテキストを和訳し、2 3 ページの練習問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Lektion 3 名詞の複数形、定冠詞類・不定冠詞類、否定文について理解し、それに対応する問題を解答でき、テキストを読解できる。
	事後学習	テキストの発音練習を行う。 間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
9	事前学習	教科書 2 4 ～ 2 5 ページを読んでくる。(30分)
	授業内容	Lektion 4 不規則動詞の現在人称変化、命令文、勧誘文について学習する。
	事後学習	教科書 2 4 ～ 2 5 ページの基本練習 1 ～ 3 を解く。(30分)
10	事前学習	教科書 2 6 ページのテキストを和訳し、2 7 ページの練習問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Lektion 4 不規則動詞の現在人称変化、命令文、勧誘文について理解し、それに対応する問題を解答でき、テキストを読解できる。
	事後学習	テキストの発音練習を行う。 間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
11	事前学習	教科書 2 8 ～ 2 9 ページを読んでくる。(30分)
	授業内容	Lektion 5 人称代名詞、前置詞、並列接続詞について学習する。
	事後学習	教科書 2 8 ～ 2 9 ページの基本練習 1 ～ 3 を解く。(30分)
12	事前学習	教科書 3 0 ページのテキストを和訳し、3 1 ページの練習問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Lektion 5 人称代名詞、前置詞、並列接続詞について理解し、それに対応する問題を解答でき、テキストを読解できる。
	事後学習	テキストの発音練習を行う。 間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
13	事前学習	教科書 3 2 ～ 3 3 ページを読んでくる。(30分)
	授業内容	Lektion 6 話法の助動詞、未来の助動詞、zu不定詞について学習する。
	事後学習	教科書 3 2 ～ 3 3 ページの基本練習 1 ～ 3 を解く。(30分)
14	事前学習	教科書 3 4 ページのテキストを和訳し、3 5 ページの練習問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Lektion 6 話法の助動詞、未来の助動詞、zu不定詞について理解し、それに対応する問題を解答でき、テキストを読解できる。
	事後学習	テキストの発音練習を行う。 間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
15	事前学習	教科書 7 ～ 3 5 ページの総復習。(30分)
	授業内容	授業内試験および前期学習内容の振り返り。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。(30分)

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	初級ドイツ語のインテンシブ・クラスです。在学中のドイツ語圏への短期研修・長期留学・将来 ドイツ語で仕事することを狙っている学生さんを対象とします。 ドイツ語通訳・翻訳経験、及びオーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験試験官の経験を授業に反映させて行きたいと思っています。				
授業目的・到達目標	ドイツ語の基礎的な4技能の運用能力養成が目的です。 CEFR A1からA2レベル、独検 4 級から 3 級を取得できることが到達目標です。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	月曜 4 時限目 ドイツ語基礎文法A（真道）を同時に受講すること。 授業に積極的に参加すること。 月曜 4 時限目 ドイツ語基礎文法A（真道）に登録すると、自動的に本授業に登録されます。				
授業方法	文法説明はできるだけわかりやすくします。練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。フィードバックは授業内において行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	検定試験の結果及び授業内試験50%、提出物20%、小テスト30%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2008	同学社		ドイツ文法・1 0 0 語の世界	清水 薫
	2005	cornelsen		studio d A1 Kurs- und Übungsbuch ISBN: 978-3464207079	Hermann Funk
	備考	ドイツ語1（月4）と共通教科書です。			
参 考 書	独和辞典（授業中に説明します） その他の参考書については、授業中に紹介します。				
オフィスアワー	火曜日 昼休み 研究室（4号館424研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp） 授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス確認 （30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	教材準備 （30分）
2	事前学習	CD確認 アルファベート予習 （30分）
	授業内容	アルファベート Start auf Deutsch
	事後学習	アルファベート・発音復習 （30分）
3	事前学習	文法事項確認 （30分）
	授業内容	1課 規則的に人称変化する動詞 Lektion 1 Café d 1
	事後学習	1課 / Lektion 1練習問題 （30分）
4	事前学習	小テスト準備 （30分）
	授業内容	小テスト1 2課 文を作る Lektion 1 Café d 3
	事後学習	3課 / Lektion 2 練習問題 （30分）

5	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト3 3課 名詞の性と格(1格・4格) seinとhaben Lektion 2 Im Sprachkurs 1
	事後学習	4課 / Lektion 2 練習問題 (30分)
6	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト5 4課 不規則に変化する動詞1 名詞の格(2格・3格) Lektion 2 Im Sprachkurs 3
	事後学習	4課 / Lektion 2 練習問題 (30分)
7	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト7 5課 冠詞類 不規則に人称変化する動詞2 Lektion 3 Städte- Länder- Sprachen 1
	事後学習	5課 / Lektion 3 練習問題 (30分)
8	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト9 6課 複数形 人称代名詞 Lektion 3 Städte- Länder- Sprachen 3
	事後学習	5課 / Lektion 3 練習問題 (30分)
9	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト11 7課 前置詞 Lektion 4 Menschen und Häuser 1
	事後学習	7課 / Lektion 4 練習問題 (30分)
10	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト13 8課 話法の助動詞 未来形 Lektion 4 Menschen und Häuser 3
	事後学習	8課 / Lektion 4 練習問題 (30分)
11	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト15 9課 形容詞の格語尾 序数 Lektion 5 Termine 2
	事後学習	9課 / Lektion 5 練習問題 (30分)
12	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト17 10課 比較級 非人称表現 不定代名詞 6 Orientierung 1
	事後学習	10課 / Lektion 6 練習問題 (30分)
13	事前学習	文法・語彙復習 (30分)
	授業内容	文法まとめ 6 Orientierung 3
	事後学習	Lektion 6 練習問題 (30分)
14	事前学習	試験準備 (30分)
	授業内容	試験 筆記試験及びまとめ、振返り
	事後学習	自己評価 (30分)
15	事前学習	試験準備 (30分)
	授業内容	試験 口述試験及びまとめ、振返り
	事後学習	自己評価 (30分)

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	鈴木 満	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「理解力」「暗記」「継続」の大切さを確認しながら、ドイツ語を学びます。				
授業目的・到達目標	ドイツ語圏の文化を客観的に調べ、理解し、説明する力の養成を目的とします。 ドイツ語を読み・書き・聞き・話すための基礎学力の養成、特に「正確に書くこと」、およびドイツ語検定試験４級に合格できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域６				
履修条件	特になし。				
授業方法	授業中に説明・解説、必要に応じて演習（練習問題）をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価（授業参加度、授業内試験）が１００パーセントです。 私語が多い、辞書がない、復習が著しく不十分、不正行為があった場合などは授業内試験の受験資格を失います。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2014	白水社		やさしいドイツ語入門	増本浩子
	備考				
参考書	授業では使用しませんが、必要だと思う人は各自用意してください。				
オフィスアワー	授業時間（木曜３限・４限・５限）後の休み時間、講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ドイツ語圏の観光情報や歴史書などを参照して、ドイツ語圏への関心を高める（30分）
	授業内容	前期ガイダンス 文字と発音
	事後学習	文字と発音の復習（30分）
2	事前学習	CD等でドイツ語の発音を聞いてみる。（10分）
	授業内容	人称代名詞 動詞の現在人称変化（規則変化） 前回授業の復習
	事後学習	2回目の授業で学習した単語・例文の暗記（50分）
3	事前学習	授業1回目～2回目の復習（15分）
	授業内容	ja/nein で答える疑問文 疑問詞を使った疑問文 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	3回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
4	事前学習	授業1回目～3回目の復習（15分）
	授業内容	nicht を使った否定文 動詞の現在人称変化（不規則変化） 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	4回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）

5	事前学習	授業1回目～4回目の復習（15分）
	授業内容	名詞の性と格 不定冠詞・否定冠詞・所有冠詞の格変化 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	5回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
6	事前学習	授業1回目～5回目の復習（15分）
	授業内容	名詞の複数形 sein と haben の現在人称変化 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	6回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
7	事前学習	授業1回目～6回目の復習（15分）
	授業内容	定冠詞（類）の格変化 mein 以外の所有冠詞 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	7回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
8	事前学習	授業1回目～7回目の復習（15分）
	授業内容	「gehören + 3格」の文型 所有を表す2格 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	8回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
9	事前学習	授業1回目～8回目の復習（15分）
	授業内容	さまざまな前置詞 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	9回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
10	事前学習	授業1回目～9回目の復習（15分）
	授業内容	命令文 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	10回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
11	事前学習	授業1回目～10回目の復習（15分）
	授業内容	人称代名詞の3格と4格 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	11回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
12	事前学習	授業1回目～11回目の復習（15分）
	授業内容	非人称の es 「es gibt + 4格」の文型 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	12回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
13	事前学習	授業1回目～12回目の復習（15分）
	授業内容	話法の助動詞 3基本形入門 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	13回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
14	事前学習	授業1回目～13回目の復習（45分）
	授業内容	授業内試験。試験の解説。
	事後学習	自分の苦手な項目の復習（15分）
15	事前学習	授業1回目～14回目の復習（15分）
	授業内容	接続詞と副文 前回までの授業の要点の復習。 場合によっては追試験を実施。
	事後学習	授業内試験で学習不足の点を重点的に復習（45分）

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語検定試験などの資格試験を目指すための基礎固めをします。CDを聞いて正しい発音を身につけ、必要な表現を覚えます。まとまった文章を読んで、ドイツ語圏の社会と日本との相違について理解し、考察します。キーセンテンスを用いて、基本的なコミュニケーションをとる練習をします。			
授業目的・到達目標	【授業目的】独検等の資格試験に必要な読解力、文法力、聞き取り力を養成することを目的としています。 【到達目標】基礎総合力を身につけ、独検4級に合格できることを目標とします。 関連DPおよびCP：外国語科目領域6			
履修条件	特になし			
授業方法	CDを用いてた演習方式。提出物は次の授業で返却し、講評を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	平常評価（授業参加度、提出物、学期末試験等）100%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年	郁文堂	フィール・シュパース！（4訂版）	橋本政義、ハイケ・ビナウ、他
	備考			
参 考 書	使用しない			
オフィスアワー	木曜日17時50分～18時20分、授業講堂			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキスト第1課「こんにちは」の4頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	ガイダンス（授業の進め方、独和辞典等についての説明） 発音の基礎を理解して、5頁の文章を正しい発音で読み、文意の解釈ができる。
	事後学習	1頁と5頁を音読して、おさらいをする。（30分）
2	事前学習	6頁と7頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	動詞を正しく現在人称変化させ、日常生活を表す文を作ることができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
3	事前学習	8頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	コミュニケーションの第1歩である挨拶表現を身につけ、自己紹介をすることができる。
	事後学習	挨拶表現を暗記し、自己紹介する文を5文作る。（30分）
4	事前学習	第2課「サッカー・ワールドカップ」の10～11頁の問題を解いてくる。（35分）
	授業内容	格について理解し、辞書で引いた名詞に、その性別と格に応じて、正しい冠詞をつけることができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（25分）

5	事前学習	9頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	冠詞の用法と名詞の複数形について理解し、それらが用いられている文の解釈をすることができる。
	事後学習	西暦の読み方に注意して、9頁の文を音読する。（30分）
6	事前学習	12～13頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	数字を使って、郵便料金と郵便物を出す宛先の国名を言うことができる。
	事後学習	数詞を音読し、パートナーを見つけて13頁の会話文を練習する。（30分）
7	事前学習	第3課「ケーキ」の15～16頁の問題を解いてくる。（35分）
	授業内容	現在形で不規則に変化する動詞と分離動詞について理解し、それらを用いた文を作ることができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（25分）
8	事前学習	14頁と17頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	ドイツの食文化を理解して説明することができ、カフェやレストランで注文することができる。
	事後学習	パートナーと17頁の会話を練習する。（30分）
9	事前学習	第4課「パン」の19～20頁の問題を解いてくる。（35分）
	授業内容	前置詞と人称代名詞について理解し、それらを使って文を作ることができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（25分）
10	事前学習	18頁と21頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	ドイツのパンと人々の食生活について理解し、日本との違いを説明することができる。
	事後学習	パートナーと、21頁のスーパーマーケットでの会話を、店員と客となって練習する。（30分）
11	事前学習	第5課「メーアヒェン」の23頁と24頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	さまざまな冠詞と形容詞の語尾について理解し、それらを用いた文章を解釈することができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
12	事前学習	22頁と25頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	グリムやアンデルセンの童話について説明することがでる。相手に意見を求めるコミュニケーションのパターンを身につけて、使うことができる。
	事後学習	「ホレおばさん」や「アップンツェル」などの童話のあらすじを調べてみる。（30分）
13	事前学習	第6課「運転に気をつけて！」の27～28頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	話法の助動詞と形容詞の比較変化について理解し、これらを用いた文を作ることができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
14	事前学習	26頁と29～30頁を読んでくる。（35分）
	授業内容	ドイツの運転免許証の取り方と高速道路について、日本との違いを説明することができる。
	事後学習	26頁と30頁を音読する。（25分）
15	事前学習	テキストの総復習。（40分）
	授業内容	前期の学習内容の振り返り、授業内試験及び講評。
	事後学習	これまでの内容を確認する。（20分）

科目名	ドイツ語基礎表現A	担当者	渡辺 徳夫	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	一年間の授業で、基礎文法を手掛かりに簡単な自己表現と原文の読解ができるように指導していきたい。 ドイツ語技能検定試験(略称：独検)の5級（入門）、4級（初級）に合格できるように指導していく。					
授業目的・到達目標	【授業目的（前期）】ドイツ語の基本的な文法と語彙を習得し、平易な文章の読解力を育成すること。 【到達目標（前期）】ドイツ語の基本的な文法と語彙を習得し、平易な文章を読解できるようになる。 関連DP/CP：外国語領域6					
履修条件	なし。					
授業方法	①中級文法や細則を避け、基礎文法にしぼって教えていく。慣れてきたら、演習形式で行う。②独和辞典を一年を通じて毎回使うので、必ず持ってくる。③確認のために、課題と小テストを実施する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業内試験（筆記試験）（90%）＋レポート課題、小テスト、独検の結果（10%） 遅刻、欠席の多い場合、評価しない。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016年	三修社		『ドイツ語ルネサンス 第3版』		本郷建治 佐藤彰
	備考					
参考書	授業時に説明する。					
オフィスアワー	①授業終了後の教室（授業時間：月曜1限） ②図書館7階ラーニング・コモンズ・スペース（事前に電子メールでアポイントメントを取る） ③国際交流センター入室時 のいずれか					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（10分）
	授業内容	ガイダンス 4年生は必ず出ること 独和辞典の紹介 アルファベット、母音
	事後学習	アルファベットを覚える。 教科書と辞書の準備をすること。（80分）
2	事前学習	前回の復習。（40分）
	授業内容	発音の原則 母音と子音の発音 人称代名詞の暗唱
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。（50分）
3	事前学習	前回の復習。 動詞の位置に注意する。（40分）
	授業内容	復習 L.1：動詞（sein, habenを含む）の人称変化 辞書の引き方
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。 課題をすること。 独文法の太原則を頭に入れておくこと。（50分）
4	事前学習	前回の復習。 小テストのために完全に暗記すること。（40分）
	授業内容	小テスト、復習 練習問題 辞書の引き方
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。（50分）

5	事前学習	前回の復習。 動詞の変化の箇所ので不明な点があれば、教員に質問し、解決しておくこと。（40分）
	授業内容	復習 L.2：名詞と冠詞 辞書の引き方
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。（50分）
6	事前学習	前回の復習。（40分）
	授業内容	復習 定冠詞と不定冠詞の格変化 複数形5タイプ
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。 課題をすること。（50分）
7	事前学習	前回の復習。 小テストのために完全に暗記すること。（40分）
	授業内容	復習、小テスト、練習問題 L.3：動詞の現在人称変化 辞書の引き方
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。 規則動詞と不規則動詞の変化を比較してみる。 課題をすること。（50分）
8	事前学習	前回の復習。（40分）
	授業内容	復習 練習問題 辞書の引き方
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。 課題をすること。（50分）
9	事前学習	前回の復習。 冠詞の変化を確認しておく。（40分）
	授業内容	復習 L.4：冠詞類、人称代名詞 辞書の引き方、練習問題
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。 冠詞と冠詞類の語尾とを比較してみる。（50分）
10	事前学習	前回の復習。 定形第2位の原則とは、何か確認しておく。（40分）
	授業内容	復習 L.5：動詞の位置の3タイプ 辞書の引き方、練習問題
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすうこと。 ドイツ語の定型の位置は、1位、2位、文末の3通りのみであることを確認すること。（50分）
11	事前学習	前回の復習。 冠詞、冠詞類の変化を確認しておく。（40分）
	授業内容	復習 L.6：前置詞 辞書の引き方
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。 課題をすること。（50分）
12	事前学習	前回の復習。（40分）
	授業内容	復習 辞書の引き方。 練習問題
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。 3・4格支配の前置詞の用法を辞書の用例を確認しておくこと。（50分）
13	事前学習	前回の復習。 読本の単語、文構造をあらかじめチェックしておく。 CDを聞いておく。（40分）
	授業内容	復習 読本1 辞書の引き方。
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。 訳文をノートに記しておく。（50分）
14	事前学習	前回の復習。 読本の単語、文構造をあらかじめチェックしておく。CDを聞いておく。 前期の単語、文法を確認しておく。（40分）
	授業内容	復習 読本2 試験について
	事後学習	訳文をノートに記しておく。前期授業の総復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。（50分）
15	事前学習	試験範囲のすべてに目を通し、意味を考えながら、CDを聞いておく。（80分）
	授業内容	授業内試験（70分、参照不可）及びまとめ、振り返り、講評。
	事後学習	間違えたところ、わからなかったところを確認し、覚える。（10分） 独検結果の報告。

科目名	ドイツ語基礎表現A(水曜3時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語を初めて学習する方を対象とした授業です。この授業は、月曜・3限の渡辺徳夫先生の「ドイツ語基礎文法」(旧カリキュラムの「ドイツ語Ⅱ」)との同時履修を前提としたもので、この授業単独での履修はできません。ドイツ語技能検定試験(独検)の5級と4級の出題内容を踏まえて、受験のアドバイスもします。				
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語の文法と基本的な語彙を習得し、平易な文章を読解する能力を育成することを目的とする。 【到達目標】ドイツ語の文法と基本的な語彙を習得し、平易な文章を読解できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP:外国語科目領域6				
履修条件	月曜3限の渡辺徳夫先生の「ドイツ語基礎文法」(旧「ドイツ語Ⅱ」)と同時に履修すること。受講の際には、私の授業に登録すること(渡辺先生の授業にも自動登録される)。授業の進度が早いため、その覚悟で受講すること。				
授業方法	文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施する試験については、授業で講評を述べる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価(授業参加度、授業内の試験等) 100%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019年	白水社	ともに学ぶドイツ語〔改訂版〕(CD付)		林久博ほか
	備考	独和辞典を準備すること。授業で指示を聞いてから購入すること。			
参考書	『新・独検合格 単語+熟語1800』(第三書房、2010年)。授業では使用しないが、自習用問題集を必要とする場合には、森泉『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』(ベレ書房、2006年)を勧めたい。				
オフィスアワー	・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。 ・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。 ・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。(30分)
	授業内容	ガイダンス、アルファベート
	事後学習	第2回の授業までに教科書を準備しておくこと。教科書にひととおり目を通しておくこと。(30分)
2	事前学習	教科書を持参して授業に参加すること。学習事項を前もって少し予習しておくこと。(30分)
	授業内容	挨拶表現、発音、数詞
	事後学習	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。(30分)
3	事前学習	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	動詞の現在人称変化・語順
	事後学習	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。(30分)
4	事前学習	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	定冠詞・不定冠詞
	事後学習	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。(30分)

5	事前学習	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	不規則変化動詞・命令形
	事後学習	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。(30分)
6	事前学習	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	人称代名詞・ja, nein dochの用法・男性弱変化名詞
	事後学習	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。(30分)
7	事前学習	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	定冠詞類・不定冠詞類
	事後学習	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。(30分)
8	事前学習	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	前置詞
	事後学習	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。(30分)
9	事前学習	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	時刻表現/曜日・月・季節・数詞を含む表現
	事後学習	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。(30分)
10	事前学習	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	これまでの復習
	事後学習	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。(30分)
11	事前学習	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	独検模試(5級)の実施と解説
	事後学習	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。(30分)
12	事前学習	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	分離動詞
	事後学習	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。(30分)
13	事前学習	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	zu不定詞
	事後学習	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。(30分)
14	事前学習	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。(30分)
	授業内容	理解度の確認、前期の学習内容の振り返り
	事後学習	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。(30分)
15	事前学習	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。(30分)
	授業内容	前期の復習
	事後学習	理解が十分でないところを重点的に復習すること。(30分)

科目名	ドイツ語基礎表現A(火曜3時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語を初めて学習する方を対象とした、ドイツ語でのさまざまな表現を学習する授業である。			
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語の基礎的な文法を確認しつつ、ドイツ語の総合的な運用能力を養成することを目的とする。 【到達目標】ドイツ語の基礎的な表現を習得し、平易なテキストの理解や簡単な会話ができるようになることを目標とする。関連DP及びCP:外国語科目領域6			
履修条件	・1年生は、今年度のうちに、「ドイツ語基礎文法」も履修すること(私以外の先生の授業でもよい)。 ・原則として、この授業はドイツ語基礎表現Bと通年で受講すること。			
授業方法	文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施する試験については、授業で講評を述べる。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価(授業参加度、授業内の試験等) 100%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年	朝日出版社	イン・ドイチュラントードイツ語インフォメーション 映像付-	秋田静雄ほか
	2010年	第三書房	新・独検合格単語+熟語1800	在間進ほか
	備考			
参考書	授業では使用しないが、自習用教材として森泉『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』(ベレ書房、2006年)を推薦したい。			
オフィスアワー	・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。 ・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。 ・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。(30分)
	授業内容	ガイダンス、アルファベート
	事後学習	第2回の授業までに教科書を準備すること。教科書の全体に目を通しておくこと。(30分)
2	事前学習	教科書を準備して授業に参加すること。アルファベートが言えるように、音声教材を活用して練習してくること。(30分)
	授業内容	つづりと発音、第0課 ドイツ語のあいさつ、数詞①
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
3	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	第1課 導入の会話、人称代名詞、動詞の現在人称変化、数詞②
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
4	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	第1課 sein、疑問詞、数詞③
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)

5	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	第2課 導入の会話、haben、名詞の性、数詞④⑤⑥⑦
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
6	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	第2課 語順、決定疑問文と答え方、数詞の復習
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
7	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	第3課 導入の会話、定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
8	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	第3課 数詞、並列の接続詞、第4課 導入の会話
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
9	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	第4課 不定冠詞、所有冠詞、否定冠詞
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
10	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	第5課 導入の会話、現在人称変化の不規則な動詞(1)、名詞の3格、人を表す疑問代名詞
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
11	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	独検(5級) 模試の実施と解説
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
12	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	第6課 導入の会話、現在人称変化の不規則な動詞(2)、人称代名詞、非人称のes
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
13	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	これまでの復習
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
14	事前学習	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。(30分)
	授業内容	理解度の確認、前期の学習内容の振り返り
	事後学習	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。(30分)
15	事前学習	これまでの学習を復習すること。(30分)
	授業内容	前期の内容の総復習
	事後学習	理解が十分でなかったところを中心に、復習すること。(30分)

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	青木 和子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	初学者のため、ドイツ語学習を基礎から行う。 ドイツ語文法の仕組みを体系的に学ぶ。 言葉は文化である、という視点も持って取り組む。			
授業目的・到達目標	【授業目的】コミュニケーションのための簡単な会話力や読むための語学力を身に付け、現実活かすことができるよう育成すること。 【到達目標】読むための基本表現を正しくスムーズに使いこなして、自己表現ができ、相手とコミュニケーションを取ることができるようになること。 関連DP及びCP：外国語科目領域6			
履修条件	ドイツ語学習に熱意があること。			
授業方法	各課ごとに、文法テーマをわかり易く解説した上で、練習問題や会話練習を順次当てる。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業内テスト80% 平常点（授業参加度）20%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	朝日出版社	アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語	小野寿美子 他
	備考			
参考書	独和辞書が授業時に必ず必要。			
オフィスアワー	質問は、授業中いつでも受け付ける。 授業後も教室等にて対応する。 授業時間：金曜2限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	夏休みの課題をしておく。 Lektion 7 の解説を読んでおく。（1時間）
	授業内容	夏休み課題の答え合わせ 形容詞の格変化
	事後学習	授業内容を復習し、課題をする（1時間）
2	事前学習	Lektion 7 の末学習の箇所を予習する。（30分）
	授業内容	形容詞・副詞の比較 Lektion 7 Dialog
	事後学習	授業内容を復習し、課題をする（1時間）
3	事前学習	Lektion 8 の解説を読んでおく。（30分）
	授業内容	分離動詞・非分離動詞
	事後学習	授業内容を復習し、課題をする（1時間）
4	事前学習	Lektion 8 の末学習の箇所を予習する。（30分）
	授業内容	分離動詞を復習する zu不定詞
	事後学習	授業内容を復習し、課題をする（1時間）

5	事前学習	Lektion 8 の未学習の箇所を予習する。（30分）
	授業内容	zu不定詞・zu不定句 Lektion8 Dialog
	事後学習	授業内容を復習し、課題をする（1時間）
6	事前学習	Lektion 9 の解説を読んでおく。（30分）
	授業内容	動詞の三基本形 現在完了形（1）
	事後学習	授業内容を復習し、課題をする（1時間）
7	事前学習	現在完了形の箇所を再度読んでおく。（30分）
	授業内容	現在完了形（2）
	事後学習	授業内容を復習し、課題をする（1時間）
8	事前学習	Lektion9の未学習の箇所を予習する。（30分）
	授業内容	現在完了形（3） Lektion9 Dialog
	事後学習	授業内容を復習し、課題をする（1時間）
9	事前学習	Lektion 1 0 の解説を読んでおく。（30分）
	授業内容	過去形
	事後学習	授業内容を復習し、課題をする（1時間）
10	事前学習	Lektion 1 0 再帰代名詞の解説を読んでおく。（30分）
	授業内容	再帰代名詞・再帰動詞
	事後学習	授業内容を復習し、課題をする（1時間）
11	事前学習	再帰動詞の箇所を再度読んでおく。（30分）
	授業内容	再帰動詞 Lektion10 Dialog
	事後学習	授業内容を復習し、課題をする（1時間）
12	事前学習	文法補足 1 関係代名詞の解説を読んでく。（30分）
	授業内容	文法補足 1 関係代名詞 2 不定関係代名詞
	事後学習	授業内容を復習する（1時間）
13	事前学習	文法補足 4 受動形の解説を読んでおく（30分）
	授業内容	文法補足 4 受動形
	事後学習	授業内容を復習する（1時間）
14	事前学習	文法補足 5 接続法の解説を読んでおく（30分）
	授業内容	文法補足 5 接続法 後学期文法内容の復習
	事後学習	後学期学習した文法事項を総復習する（2時間）
15	事前学習	後学期試験の為十分復習し勉強する（2時間）
	授業内容	後学期授業内試験 試験後、テスト内容について解説する。
	事後学習	自己の出来、不出来をチェックして1年間のドイツ語学習を総括する。（30分）

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	跡守 美音	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の基礎を学ぶ。				
授業目的・到達目標	【授業目的】基本的な文法の知識と辞書を使って、ドイツ語を運用（おもに読解）することができるようになること、また、ドイツ語の学習の中でドイツ語圏の文化についても理解を深めることを目的とする。 【到達目標】ドイツ語の初級文法を身に付け、その文法の知識と辞書を使いながら、平易な文章を読むことができるようになることを目標とする。対応DP及びCP:外国語科目領域6				
履修条件	ドイツ語基礎表現Bと併せて、ドイツ語基礎文法Bを履修すること（または履修済み）が望ましい。 独検を受験すること。				
授業方法	教科書に沿って解説し、その後、練習問題や読解を通じて、学習した内容の定着を深めていきます。練習問題やテキストの訳は、受講生に積極的に発表してもらいます。毎回、予習をしっかりとやってくるのが前提となります。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価（授業参加度、小テスト、独検の成績、学期末試験等）100%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2016	朝日出版社	たいむりーAltuelles aus Deutschlandー		森田悟、川上博子 他
	備考				
参考書	独和辞典 （授業では毎回、独和辞典を使用しますので必ず持参して下さい。）				
オフィス アワー	火曜日 12:10～ 授業終了後の講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体を概観する。（30分）
	授業内容	ガイダンス（授業の進め方、評価方法、独検についてなど）
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。（30分）
2	事前学習	第1回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	話法の助動詞
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
3	事前学習	第2回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	分離動詞・非分離動詞
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
4	事前学習	第3回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	zu不定詞
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）

5	事前学習	第4回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	形容詞の付加語的用法
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
6	事前学習	第5回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	再帰表現
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
7	事前学習	第6回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	比較表現
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
8	事前学習	第7回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	動詞の三基本形
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
9	事前学習	第8回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	過去形
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
10	事前学習	第9回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	現在完了形
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
11	事前学習	第10回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	受動態
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
12	事前学習	第11回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	関係代名詞
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
13	事前学習	第12回の授業時に指示された箇所を予習しておく。（30分）
	授業内容	接続法
	事後学習	授業で学んだ新しい事項を復習する。（30分）
14	事前学習	第1回～第13回の学習内容を復習しておく。（30分）
	授業内容	授業内試験及び重要箇所の振り返り
	事後学習	授業内試験でできなかった箇所を確認する。（30分）
15	事前学習	第1回～第14回の中で理解できていないと思うところを、事前に確認しておく。（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	授業内で質疑応答したことを復習する。（30分）

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	天沼 春樹	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の初歩と、ドイツ文化理解。ドイツ語を初歩から、親しみやすくまなび、読み書き聴くバランスをとった基礎を身につけていく。視聴覚教材を利用し、ドイツ事情にもたくさん触れていく。とくにB（後半内容）では、前期の内容をしっかりと復習したうえで、応用表現をしっかりと身につけてもらいます			
授業目的・到達目標	初級のドイツ語の運用能力。読み、聞き、書けるちから。目安としてドイツ語検定5級程度の能力を養成することを目的とする。とくに、後期12月の独検にはチャレンジしてほしい。授業内でも過去問などを指導します。いちおう初級文法は基本をすべて教えていきます。前期の内容をしっかりと復習したうえで、応用表現をしっかりと身につけられることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：外国語領域科目 6 授業参加度重視。初歩からやるので、欠席がかさなると理解不能になります。やむをえぬ事由で欠席が複数回におぶときは、事前か事後に申し出て、指導をうけてください。			
授業方法	前期教材、ドイツ語基礎表現Aの後半を使用して指導する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	授業内試験の小試験と学期末の筆記試験。ドイツ語検定の結果も平常評価として考慮します。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016	第三書房	『ドイツ環境問題へのアプローチ ノイ』	ヘルマン・トロール他
	備考	現代のドイツの環境意識をテーマに、やさしくドイツ語を学べます。		
参 考 書	独和辞書			
オフィスアワー	講義時間前後、講堂にて。 授業時間：金曜2・3限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の復習（30分）
	授業内容	前期の復習授業。
	事後学習	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）
2	事前学習	単語調べ。（30分）
	授業内容	テキストLektion7 ドイツのお城に泊まる 語法の助動詞
	事後学習	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）
3	事前学習	単語調べ。（30分）
	授業内容	テキストLektion7 ドイツのお城に泊まる 名詞の複数形
	事後学習	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）
4	事前学習	単語調べ。（30分）
	授業内容	テキストLektion8 待ち合わせはどうやって？ 時刻表現・再帰動詞
	事後学習	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）

5	事前学習	単語調べ。（30分）
	授業内容	テキストLektion8 待ち合わせはどうやって？
	事後学習	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）
6	事前学習	単語調べ。（30分）
	授業内容	テキストLektion9 旅行案内所にて 分離／非分離動詞の使い方
	事後学習	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）
7	事前学習	単語調べ。（30分）
	授業内容	テキストLektion9 旅行案内所にて 分離／非分離動詞の使い方
	事後学習	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）
8	事前学習	単語調べ。（30分）
	授業内容	テキストLektion10 誰と会ったのですか？ 完了表現
	事後学習	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）
9	事前学習	単語調べ。（30分）
	授業内容	テキストLektion10 誰と会ったのですか？ 完了表現
	事後学習	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）
10	事前学習	単語調べ。（30分）
	授業内容	テキストLektion11 過去と完了表現のちがい(1) 過去形の基本
	事後学習	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）
11	事前学習	単語調べ。（30分）
	授業内容	テキストLektion11 過去と完了表現のちがい(2) 過去形の応用
	事後学習	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）
12	事前学習	単語調べ。（30分）
	授業内容	テキストLektion12 冬時間と夏時間 形容詞の比較 付加語的用法
	事後学習	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）
13	事前学習	単語調べ。（30分）
	授業内容	接続法というもうひとつの動詞の変化（1）
	事後学習	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）
14	事前学習	前回までのまとめ学習（30分）
	授業内容	接続法というもうひとつの動詞の変化（2）
	事後学習	ノート整理。単語整理。例文整理。（30分）
15	事前学習	試験準備（30分）
	授業内容	学期末の教場筆記試験 まとめ、振り返り
	事後学習	試験の反省。（30分）

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語を学びながら現代事情を知り、ドイツという国に興味を持ていただければと願っています。			
授業目的・到達目標	【授業目的】基礎的な文法事項を理解する力を養成することを目的とします。 【到達目標】簡単なドイツ語文を読み、聞き、書き、話せるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	特にありません。初習者も歓迎します			
授業方法	まず文法事項を学習し、会話を理解した後、練習問題と読むテキストで確認します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	20点満点の平常点（授業態度）と、80点満点の筆記試験を総合し、60点以上を合格とします。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	同学社	ミュンヘンに夢中	ラーブ・石井・保阪
	備考			
参考書	独和辞典（電子辞書も可）。			
オフィスアワー	金曜午後本館講師控室（学生は立入禁止のため、本館 1 階教務課窓口まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜 3・4 限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第7課 英国庭園 文法と会話
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
2	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第7課 英国庭園 練習問題と読本
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
3	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第8課 ドイツ博物館 文法と会話
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
4	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第8課 ドイツ博物館 練習問題と読本
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）

5	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第9課 アリアンツ・アレーナ 文法と会話
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
6	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第9課 アリアンツ・アレーナ 練習問題と読本
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
7	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第10課 ピナコテーク 文法と会話
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
8	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第10課 ピナコテーク 練習問題と読本
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
9	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第11課 オクトーバーフェスト 文法と会話
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
10	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第11課 オクトーバーフェスト 練習問題と読本
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
11	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第12課 イーザル川 文法と会話
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
12	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第12課 イーザル川 練習問題と読本
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
13	事前学習	授業で勉強したことを復習する（30分）
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	不明な箇所をピックアップし、クリアにする（30分）
14	事前学習	授業で勉強したことを復習する（30分）
	授業内容	後期の力試し、まとめ
	事後学習	出題箇所を確認する（30分）
15	事前学習	不明だった箇所をピックアップする（30分）
	授業内容	答え合わせと解説
	事後学習	間違った箇所を確認し、クリアにする（30分）

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	大森 信明	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の基礎知識を得て、ドイツ語の基礎能力の養成をする。それは、日本語、英語を含めた言語能力の充実にもつながる。 ドイツの言語、文化、社会との触れ合いが、国際社会における日本のあり方への思索を深める。			
授業目的・到達目標	[授業目的]ドイツ語の基礎文法の理解を通して、読解力と文章作成力を養成することを目的とする。 [到達目標]ドイツ語の習得とともに、その背景にある歴史、文化、社会を知り、伝達できることを目標とする。 関連DP及びCP:外国語科目領域6			
履修条件	教科書は、最近にはない本格的な重い内容です。			
授業方法	文法学習、文章講読に問題演習を加える			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	文法問題を中心とした筆記試験。80% 授業で問題演習。20%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	平成31年度	郁文堂	読むためのドイツ語文法	大川勇 他2名
	備考			
参 考 書	特になし			
オフィスアワー	水曜日昼休み 本館2階教員室（学生は立入禁止のため、本館1階教務課窓口に申し出て、声をかけてもらってください）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	英語の完了時制をまとめてみる。 haben, seinの人称変化を復習する。（30分）
	授業内容	完了形
	事後学習	語順、用法について英語との違いなどを確認する。
2	事前学習	英語の熟語動詞表現をまとめてみる。（30分）
	授業内容	分離動詞
	事後学習	分離動詞の使い方を、基礎動詞、前綴りの配語法から確認する。（30分）
3	事前学習	規則動詞、不規則動詞の人称変化を復習する。（30分）
	授業内容	命令形
	事後学習	命令する相手による三つの形式を例文によって復習する。（30分）
4	事前学習	英語、日本語の再帰表現を思い起こしてみる。（30分）
	授業内容	再帰動詞
	事後学習	再帰代名詞を覚えた上で、具体的な使い方を熟語表現として練習する。（30分）

5	事前学習	動詞の位置に関して、今まで学んだことを復習する。（30分）
	授業内容	接続詞と副文
	事後学習	例文、練習問題を、接続詞を中心に読み直してみる。（30分）
6	事前学習	英語のto不定詞表現をまとめる。（30分）
	授業内容	zu不定詞句
	事後学習	句になった場合の語順、分離動詞のzu不定詞など確認する。（30分）
7	事前学習	英語の非人称表現をまとめてみる。（30分）
	授業内容	非人称動詞
	事後学習	「重要な非人称熟語」を確実に覚える。（30分）
8	事前学習	英語の形容詞の比較を振り返ってみる。（30分）
	授業内容	形容詞・副詞の比較変化
	事後学習	例文、練習問題の具体例で復習する。（30分）
9	事前学習	定冠詞の格変化の復習。 英語の関係代名詞の使い方をまとめる。（30分）
	授業内容	指示代名詞・関係代名詞（1）
	事後学習	性、数、格、動詞の位置などの観点からドイツ語の関係代名詞の使い方を復習する。（30分）
10	事前学習	先行詞の使い方を英語とドイツ語で比較する。（30分）
	授業内容	関係代名詞（2）
	事後学習	代表的例文を確認する。（30分）
11	事前学習	werden, seinの人称変化を復習する。（30分）
	授業内容	受動文
	事後学習	状態受動、時制による表現形式の違いなど例文で確かめる。（30分）
12	事前学習	英語の間接話法、仮定法を復習する。（30分）
	授業内容	接続法の形態
	事後学習	先ず接続法の人称変化を確認する。 代表的な用例を理解する。（30分）
13	事前学習	接続法の人称変化の復習。（30分）
	授業内容	非現実話法
	事後学習	代表的な用例を理解する。（30分）
14	事前学習	後期全体の復習をする。 疑問点をまとめる。（30分）
	授業内容	後期まとめ・質問を受けて補足説明。
	事後学習	理解が不十分な点を再度復習。（30分）
15	事前学習	語順を中心にして重要項目を復習する。 暗記項目の確認。（30分）
	授業内容	試験及び講評・まとめ
	事後学習	試験結果を自己点検し、学習が不十分な項目を復習する。（30分）

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	基本文法の定着を図り、辞書を使いながらドイツ語の読解力をつける。ドイツ語の発音、基礎表現を習得する。基礎的なドイツ語会話を理解し、会話に参加できる基礎力を養成する。					
授業目的・到達目標	【授業目的】基礎文法を確認するとともに、着実にドイツ語が身につくように、簡単な会話表現から複合文まで理解する読解力の養成を目的とする。またテキストを講読しながら、ドイツ語圏の人々の生活や文化についての知識や異文化への関心を深める。【到達目標】ドイツ語検定4級レベルの語学力の習得を目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域6					
履修条件	ドイツ語基礎文法B（ドイツ語Ⅱ）も併せて履修すること。和独辞書必携。予習は必須。欠席しないこと。					
授業方法	ドイツ語基礎表現Aの続き行う。発音練習、基本文法の確認、辞書を使いながらのテキスト講読、簡単な表現練習を総合的に行う。確認小テストを適宜行う。小テストで出来なかった箇所はしっかり復習すること。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		学期末試験等。40% 受講態度・積極性・小テスト・発表。20% 独検4級成績。40%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018年	朝日出版社		ドイツ語ナビゲーション2.0		前田良三
	備考					
参考書	必要に応じ紹介する					
オフィスアワー	授業（火曜5限もしくは木曜2限）の前後の教室で。授業中でも質問を受け付ける。 h.kawakami18@gmail.com					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期に練習した単語のプリントの発音を復習すること。（30分）
	授業内容	発音の復習、数字の読み方について学習、練習する。
	事後学習	数字の読み方を確実に覚えること。（30分）
2	事前学習	会話文練習P27の訳と発音練習をしてくること。（30分）
	授業内容	5課 前置詞の使い方と前置詞と定冠詞の融合形について学習する。 会話文を音読し、訳すことができる。重要表現練習を行う。
	事後学習	前置詞の格支配と使い方を復習すること。（30分）
3	事前学習	会話文練習P29の訳と発音練習をしてくること。（30分）
	授業内容	5課 動詞・形容詞の前置詞の格支配 前置詞と代名詞の融合形について学習する。 会話文を音読し、訳すことができる。重要表現練習を行う。チェックポイントの問題を解答できる。
	事後学習	重要表現練習とチェックポイントの問題を復習する。（30分）
4	事前学習	会話文練習P33の訳と発音練習をしてくること。（30分）
	授業内容	6課 語法の助動詞の変化とその構文、未来形について学習する。 会話文を音読し、訳すことができる。重要表現練習を行う。チェックポイントの問題を解答できる。
	事後学習	重要表現練習とチェックポイントの問題を復習する（30分）

5	事前学習	会話文練習P35の訳と発音練習をしてくること。（30分）
	授業内容	6課 分離動詞とその構文、接続詞について学習する。 会話文を音読し、訳すことができる。重要表現練習を行う。チェックポイントの問題を解答できる。
	事後学習	重要表現練習とチェックポイントの問題を復習する（30分）
6	事前学習	テキスト講読P36の訳と発音練習をしてくること。（30分）
	授業内容	テキスト講読P36―語学コースでの口頭発表―テキストの発音練習、訳すことができる。
	事後学習	テキストの重要単語と単語を復習すること。（30分）
7	事前学習	練習プリントやってくること。（30分）
	授業内容	疑問詞の練習
	事後学習	重要表現練習を復習してくること。（30分）
8	事前学習	会話文練習P45の訳と発音練習をしてくること。（30分）
	授業内容	8課 再帰代名詞と再帰動詞について学習する。 会話文を音読し、訳すことができる。重要表現練習を行う。チェックポイントの問題を解答できる。
	事後学習	重要表現練習とチェックポイントの問題を復習する。（30分）
9	事前学習	会話文練習P47の訳と発音練習をしてくること。（30分）
	授業内容	8課 zu不定詞について学習する。 会話文を音読し、訳すことができる。重要表現練習を行う。チェックポイントの問題を解答できる。
	事後学習	重要表現練習とチェックポイントの問題を復習する。（30分）
10	事前学習	会話文練習P39の訳と発音練習をしてくること。（30分）
	授業内容	7課 動詞の三基本形と過去形について学習する。 会話文を音読し、訳すことができる。重要表現練習を行う。チェックポイントの問題を解答できる。
	事後学習	重要表現練習とチェックポイントの問題を復習する。（30分）
11	事前学習	会話文練習P41の訳と発音練習をしてくること。（30分）
	授業内容	7課 現在完了形について学習する。 会話文を音読し、訳すことができる。重要表現練習を行う。チェックポイントの問題を解答できる。
	事後学習	重要表現練習とチェックポイントの問題を復習する。（30分）
12	事前学習	テキスト講読P48の訳と発音練習をしてくること。（30分）
	授業内容	テキスト講読P48―サッカー観戦―テキストの発音練習、訳すことができる。
	事後学習	テキストの重要単語と単語を復習すること。（30分）
13	事前学習	会話文練習P51の訳と発音練習をしてくること。（30分）
	授業内容	9課 形容詞について学習する。 会話文を音読し、訳すことができる。重要表現練習を行う。チェックポイントの問題を解答できる。
	事後学習	重要表現練習とチェックポイントの問題を復習する（30分）
14	事前学習	後期学習した文法と重要表現を復習してくること。（30分）
	授業内容	練習プリントで後期学習した文法事項の問題を解答できる。
	事後学習	出来なかった箇所を復習してくること。（30分） 重要表現と重要単語を覚える。
15	事前学習	今までの重要表現練習と重要単語を復習してくること。（30分）
	授業内容	授業内試験及び解説 後期学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（30分）

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の文法知識を一步一步確実なものにしながら、テキストを講読することによって、独検3・4級に合格する読解力・聞き取りの力を養成できる。			
授業目的・到達目標	[授業目的] ドイツ語の基礎文法を一から記述し、その文法に基づいてドイツの風土や文化について書かれたテキストの文章を読みながら、基礎のドイツ語力を身に付けること、そしてドイツの文化、歴史などの知識を得ることを目的とする。 [到達目標] 基礎のドイツ語運用力を身につけ、ドイツ語技能検定4・3級に合格できることを目標とする。			
履修条件	関連科目及びCP：外国語科目領域6			
授業方法	演習方式。毎回小テストを実施する。その小テストの結果確認はその都度行う。授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業参画度 小テスト 学期末試験等
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年度	朝日出版社	フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann
	備考			
参考書	独和辞典が必携。携帯電話、スマホ等の独和辞典アプリの授業中の使用は認めない。具体的にはガイダンスで説明する。既に辞書を持っている場合、ガイダンスの際に持参するか、書名、出版社名、出版年度を書いて持参すること。			
オフィスアワー	授業後に授業講堂で相談のうえ受け付ける。 授業時間：金曜3・4・5限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	これまでに獲得したドイツ語の文法・語彙に対して、まだあやふやな点があれば再確認しておくこと。(30分)
	授業内容	ガイダンス 前期のまとめの小テスト
	事後学習	授業によってあぶりだされたドイツ語の文法・語彙に対するあやふやな点を再確認してしっかり記憶すること。(30分)
2	事前学習	テキスト55頁の設問に回答し、56頁を訳出しておくこと。(30分)
	授業内容	比較級 最上級
	事後学習	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
3	事前学習	テキスト57頁から60頁に再び目を通し、61頁にも目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	過去形
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
4	事前学習	テキスト62頁の設問に回答し、63頁を訳出しておくこと。またテキスト64頁から66頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	複合時制
	事後学習	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)

5	事前学習	テキスト67頁の設問に回答し、68頁を訳出しておくこと。またテキスト69頁から71頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	関係代名詞
	事後学習	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
6	事前学習	テキスト71頁から73頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	受動態 分詞
	事後学習	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
7	事前学習	テキスト74頁の設問に回答し、75頁を訳出しておくこと。またテキスト76頁から77頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	接続法第1式
	事後学習	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
8	事前学習	テキスト77頁から79頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	接続法第2式
	事後学習	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
9	事前学習	テキスト80頁の設問に回答し、81頁本文13行目まで訳出しておくこと。(30分)
	授業内容	ドイツの平和について(1)
	事後学習	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
10	事前学習	テキスト81頁の最後までを訳出しておくこと。(30分)
	授業内容	ドイツの平和について(2)
	事後学習	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
11	事前学習	テキスト全体を振り返り、よく理解出来ていない箇所があれば、質問できるように準備する。(30分)
	授業内容	テキスト全体についてまとめる。
	事後学習	授業で扱った重点をまとめておく。(30分)
12	事前学習	テキスト82頁 Anhang 本文21行目まで訳出しておくこと。(30分)
	授業内容	国際連合(1)
	事後学習	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
13	事前学習	テキスト82頁 Anhang 本文22行目から最後まで訳出しておくこと。(30分)
	授業内容	国際連合(2)
	事後学習	授業で扱った発音をテキストの録音教材によって確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
14	事前学習	これまでの学修を振り返り、理解が行き届かない点があれば質問できるように準備すること。(30分)
	授業内容	ドイツの社会・文化を扱った映像教材を見る。
	事後学習	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。(30分)
15	事前学習	これまでの学修を振り返り、質問に答えられるように準備すること。(30分)
	授業内容	授業内試験及び後期の授業の振り返り
	事後学習	質問に対して、分からなかったりあやふやだった点を確認すること。(30分)

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	川尻 竜彰	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語を通してドイツならびにヨーロッパに対する知識や理解を深め、異なるものの見方や価値観、幅広い視野・思考を養います。				
授業目的・到達目標	基本的なドイツ語文法を習得し、特に平易な文章を読む事が出来る能力を育成することを目的とし、あわせてドイツ文化についての理解も深め、説明できるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	冬期ドイツ語技能検定試験を受験すること。				
授業方法	2時間に1課のペースで進んでいきますが、最初の1時間を文法の説明に、次の1時間を読章と練習問題に当てます。 【フィードバック方法】授業内で行う小テストを添削、採点したのちに返却する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	試験 70% 小テスト 10% 授業時発表 10% 授業参加度 10%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2011	朝日出版		『希望のドイツ語』	小塩 節
	備考				
参 考 書	授業中に指示する。				
オフィスアワー	授業講堂 月曜日2:30～4:10				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期範囲のテキストを音読しておくこと（30分）
	授業内容	ガイダンス 前期の復習、前期試験の総評。
	事後学習	特に定冠詞の格変化をもう一度復習しておくこと。（30分）
2	事前学習	動詞の人称変化および人称代名詞の格変化を復習しておくこと。（30分）
	授業内容	第7課 再帰動詞、非人称のes、zu不定詞について。
	事後学習	zu不定詞の様々な用法を整理しておくこと。（30分）
3	事前学習	教科書28ページを予習してくること（30分）
	授業内容	読章 「ろうそくの灯りのもとで」重要な熟語「es gibt 4格」の用法について学ぶ
	事後学習	序数の使い方を復習しておくこと。（30分）
4	事前学習	不規則動詞変化表の読み方をもう一度確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第8課 動詞の3基本形および過去人称変化について。分詞の様々な用法について学ぶ
	事後学習	課題に出された動詞の3基本形、過去人称変化を練習しておくこと。（30分）

5	事前学習	教科書32ページを予習してくること（30分）
	授業内容	読章 「トーマス・マン」 不規則動詞の過去形から不定詞を見つけ出すことに慣れる
	事後学習	規則動詞の3基本形のパターンを覚えておくこと。（30分）
6	事前学習	平叙文、疑問文の定動詞の位置を今一度確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第9課 分離動詞・非分離動詞、副文について。
	事後学習	分離動詞・非分離動詞の3基本形の作り方を練習しておくこと。（30分）
7	事前学習	教科書36ページを予習してくること（30分）
	授業内容	読章 「自分の意見」
	事後学習	主文と従属文からなる複文の構造に慣れておくこと。（30分）
8	事前学習	不定詞と定動詞の違いについて確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第10課 話法の助動詞について。sollenの様々な用法について学ぶ
	事後学習	課題に出された文章を話法の助動詞を使って書き換えてくること。（30分）
9	事前学習	教科書40ページを予習してくること（30分）
	授業内容	読章 「ドイツの手工業－マイスター制度」
	事後学習	語順の点で英語と最も違う枠構造に慣れておくこと。（30分）
10	事前学習	haben と sein の現在人称変化を復習しておくこと。（30分）
	授業内容	第11課 完了形とその用法について。特に英語と異なる現在完了の用法に習熟する
	事後学習	完了形、話法の助動詞、分離動詞はすべて枠構造であることを理解すること。（30分）
11	事前学習	教科書44ページを予習してくること（30分）
	授業内容	読章 「クリスマスツリー」
	事後学習	過去分詞から不定詞を導き出すことに慣れておくこと。（30分）
12	事前学習	従属文の定動詞の位置について確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第12課 関係代名詞について。関係文も従属文であることを学ぶ
	事後学習	教科書50ページの練習問題で関係文に慣れておくこと。（30分）
13	事前学習	教科書48ページを予習してくること（30分）
	授業内容	読章 「ウィーンのカフェ」不定関係文章について学ぶ
	事後学習	関係代名詞のえらび方を復習しておくこと。（30分）
14	事前学習	格変化に関係するもの（冠詞類、形容詞、前置詞）を特に整理しておくこと。（30分）
	授業内容	まとめ。
	事後学習	テキストに出てくる単語の変化や性別を覚えておくこと。（30分）
15	事前学習	指定された範囲の文法事項を把握しておくこと（30分）
	授業内容	試験及び振り返り、まとめ
	事後学習	わからなかった問題を必ず確認して復習しておくこと（30分）

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	黒瀬 志保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の初級文法を学びながら、「読む、書く、話す、聞く」という4技能の練習を行う。また、テキストで扱われている題材をもとにドイツの文化や歴史にも触れる。			
授業目的・到達目標	【授業目的】初級文法を習得し、ドイツ語を読む、書く、話す、聞くという基本能力を養成することを目的とする。 【到達目標】辞書を使って簡単なドイツ語の文章を理解できるようになること、また基本的な文法と語彙を使って、簡単なドイツ語の表現ができるようになることを目標とする。それとともに、ドイツ語技能検定試験（独検）4級に合格するための基礎を身につけることも目標とする。			
履修条件	対応DP及びCP：外国語科目領域6 ドイツ語基礎文法A、Bを平行して履修すること（または履修済み）が望ましい。 ドイツ語技能検定試験の受験を奨励する。			
授業方法	教科書に沿って、文法説明、テキスト読解と発音練習、練習問題を行う。テキスト読解と練習問題は宿題として課し、授業時に解説を行う。基本単語を覚えるための小テストも実施し、次の授業で返却を行う。また、独検対策も行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常点（授業参加度、小テスト、独検）30%、授業内試験70%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	白水社	プレーミエ ドイツ語総合読本	神竹道士 他
	備考			
参考書	授業中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜16：10および17：50～ 授業終了後の講堂にて。 初回授業でメールアドレスを公開する。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ドイツ語基礎表現Aの学習内容を復習しておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方と注意事項を説明する。 練習問題でドイツ語基礎表現A学習事項の復習を行う。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
2	事前学習	教科書36～37ページを読んでくる。 プリントの問題（独検過去問）を解いてくる。（30分）
	授業内容	Lektion 7 形容詞の用法・格変化・名詞化、助数詞について学習する。 ドイツ語の綴りと発音について理解し、それに対応する独検の問題を解答できる。
	事後学習	教科書37ページの基本練習1～3を解く。 間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
3	事前学習	教科書38ページのテキストを和訳してくる。 プリントの問題（独検過去問）を解いてくる。（30分）
	授業内容	Lektion 7 形容詞の用法・格変化・名詞化、助数詞について理解し、それに対応するテキストを読解できる。 動詞・助動詞の現在人称変化・命令形について理解し、それに対応する独検の問題を解答できる。
	事後学習	テキストの発音練習を行う。 間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
4	事前学習	教科書40～41ページを読んでくる。 プリントの問題（独検過去問）を解いてくる。（30分）
	授業内容	Lektion 8 形容詞・副詞の比較変化、比較の表現、esの用法について学習する。 名詞の性・数・格、冠詞類の格変化、人称代名詞について理解し、それに対応する独検の問題を解答できる。
	事後学習	教科書41ページの基本練習1～2を解く。 間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）

5	事前学習	教科書 4 2 ページのテキストを和訳してくる。 プリントの問題（独検過去問）を解いてくる。（30分）
	授業内容	Lektion 8 形容詞・副詞の比較変化、比較の表現、esの用法について理解し、それに対応するテキストを読解できる。 ドイツ語の語順について理解し、それに対応する独検の問題を解答できる。
	事後学習	テキストの発音練習を行う。 間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
6	事前学習	教科書 4 4 ～ 4 5 ページを読んでくる。 プリントの問題（独検過去問）を解いてくる。（30分）
	授業内容	Lektion 9 分離動詞と非分離動詞、動詞の3基本形、過去形について学習する。 前置詞と疑問詞について理解し、それに対応する独検の問題を解答できる。
	事後学習	教科書 4 4 ～ 4 5 ページの基本練習 1 ～ 2 を解く。 間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
7	事前学習	教科書 4 6 ページのテキストを和訳してくる。 プリントの問題（独検過去問）を解いてくる。（30分）
	授業内容	Lektion 9 分離動詞と非分離動詞、動詞の3基本形、過去形について理解し、それに対応するテキストを読解できる。 会話表現を理解し、それに対応する独検の問題を解答できる。
	事後学習	テキストの発音練習を行う。 間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
8	事前学習	教科書 4 8 ～ 4 9 ページを読んでくる。 プリントの問題（独検過去問）を解いてくる。（30分）
	授業内容	Lektion 10 現在完了形、従属接続詞、相関接続詞について学習する。 イラストや図表のついた読解問題を解答できる。
	事後学習	教科書 4 8 ～ 4 9 ページの基本練習 1 ～ 3 を解く。 間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
9	事前学習	教科書 5 0 ページのテキストを和訳してくる。 プリントの問題（独検過去問）を解いてくる。（30分）
	授業内容	Lektion 10 現在完了形、従属接続詞、相関接続詞について理解し、それに対応するテキストを読解できる。 会話文の空所補充問題を解答できる。
	事後学習	テキストの発音練習を行う。 間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
10	事前学習	教科書 5 2 ～ 5 3 ページを読んでくる。 プリントの問題（独検過去問）を解いてくる。（30分）
	授業内容	Lektion 11 再帰代名詞、再帰動詞、分詞について学習する。 長文読解問題を解答できる。
	事後学習	教科書 5 2 ～ 5 3 ページの基本練習 1 ～ 4 を解く。 間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
11	事前学習	教科書 5 4 ページのテキストを和訳してくる。（30分）
	授業内容	Lektion 11 再帰代名詞、再帰動詞、分詞について理解し、それに対応するテキストを読解できる。 聞き取り問題（会話文の応答問題）を解答できる。
	事後学習	テキストの発音練習を行う。 間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
12	事前学習	教科書 5 6 ～ 5 7 ページを読んでくる。（30分）
	授業内容	Lektion 12 定関係代名詞、指示代名詞、不定関係代名詞について学習する。 聞き取り問題（文章の聞き取り、イラスト問題）を解答できる。
	事後学習	教科書 5 6 ～ 5 7 ページの基本練習 1 ～ 3 を解く。 間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
13	事前学習	教科書 5 8 ページのテキストを和訳してくる。 教科書 6 0 ～ 6 1 ページを読んでくる。（30分）
	授業内容	Lektion 12 定関係代名詞、指示代名詞、不定関係代名詞について理解し、それに対応するテキストを読解できる。 Lektion 13 受動文について学習する。
	事後学習	テキストの発音練習を行う。 科書 6 0 ～ 6 1 ページの基本練習 1 ～ 3 を解く。（30分）
14	事前学習	教科書 6 2 ページのテキストを和訳してくる。（30分）
	授業内容	Lektion 13 受動文について理解し、それに対応するテキストを読解できる。
	事後学習	テキストの発音練習を行う。（30分）
15	事前学習	教科書 3 6 ～ 6 2 ページの総復習。（30分）
	授業内容	授業内試験および後期学習内容の振り返り。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（30分）

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	初級ドイツ語のインテンシブ・クラスです。在学中のドイツ語圏への短期研修・長期留学・将来 ドイツ語で仕事することを狙っている学生さんを対象とします。 ÖSD試験官の実務経験を生かして指導してゆきたいと思います。					
授業目的・到達目標	基礎ドイツ語の4技能運用能力の養成が目標です。 独検4級及び3級、CEFR A1, A2試験に合格できることが到達目標です。 関連DP及びCP：外国語科目領域6					
履修条件	月曜4時限目ドイツ語基礎文法 B（真道）を同時に受講すること。授業に積極的に参加すること。 月曜4時限目ドイツ語基礎文法 B（真道）に登録すると、自動的に本授業に登録されます。					
授業方法	文法説明はできるだけわかりやすくします。練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。フィードバックは授業内において行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		検定試験の結果及び授業内試験50%、提出物20%、小テスト30%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2008	同学社		ドイツ文法・100語の世界		清水 薫
	2005	cornelsen		studio d A1 Kurs- und Übungsbuch		Hermann Funk
	備考	ドイツ語1（月4）と共通教科書です。				
参考書	独和辞典（授業中に説明します） その他の参考書については、授業中に紹介します。					
オフィスアワー	火曜日 昼休み 研究室（4号館424研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp） 授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス確認 教材準備 文法・語彙復習 （30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	文法・語彙復習 （30分）
2	事前学習	独検4級・3級過去問 （60分）
	授業内容	独検4級・3級解説 11課 時刻 分離動詞 非分離動詞 Lektion 7 Berufe 2
	事後学習	11課 / Lektion 7 練習問題 （30分）
3	事前学習	小テスト準備 （30分）
	授業内容	小テスト 20 12課 再帰動詞 接続詞 Lektion 7 Berufe 4
	事後学習	12課 / Lektion 7 練習問題 （30分）
4	事前学習	小テスト準備 （30分）
	授業内容	小テスト 22 13課 動詞の3基本形 過去人称変化 Lektion 8 Berlin sehen 2
	事後学習	13課 / Lektion 8 練習問題 （30分）

5	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト 24 14課 完了形 zu不定詞 Lektion 8 Berlin sehen 4
	事後学習	14課 / Lektion 8 練習問題 (30分)
6	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト 26 15課 受動態 分詞 Lektion 9 Ferien und Urlaub 2
	事後学習	15課 / Lektion 9 練習問題 (30分)
7	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト 28 16課 関係代名詞 指示代名詞 Lektion 9 Ferien und Urlaub 4
	事後学習	16課 / Lektion 9 練習問題 (30分)
8	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト 30 17課 接続法 Lektion 10 Essen und trinken 2
	事後学習	17課 / Lektion 10 練習問題 (30分)
9	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト 32 文法復習 1 Lektion 10 Essen und trinken 4
	事後学習	Lektion 10 練習問題 (30分)
10	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト 34 文法復習 2 Lektion 11 Kleidung und Wetter 2
	事後学習	Lektion 11 練習問題 (30分)
11	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト 36 文法復習 3 Lektion 11 Kleidung und Wetter 4
	事後学習	Lektion 11 練習問題 (30分)
12	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト 38 文法復習 4 Lektion 12 Körper und Gesundheit 2
	事後学習	Lektion 12 練習問題 (30分)
13	事前学習	作文練習 (30分)
	授業内容	文法復習 5 Lektion 12 Körper und Gesundheit 4
	事後学習	Lektion 12 練習問題 (30分)
14	事前学習	期末試験準備 (60分)
	授業内容	期末試験 筆記試験及びまとめ、振返り
	事後学習	自己評価 (15分)
15	事前学習	期末試験準備 (60分)
	授業内容	期末試験 口述試験及びまとめ、振返り
	事後学習	自己評価 (15分)

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	鈴木 満	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「理解力」「暗記」「継続」の大切さを確認しながらドイツ語を学びます。			
授業目的・到達目標	ドイツ語圏の文化を客観的に調べ、理解し、説明する力の養成を目的とします。 ドイツ語を読み・書き・聞き・話すための基礎力の養成、特に「正確に書くこと」、およびドイツ語検定試験４級に合格できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域６			
履修条件	特になし。			
授業方法	授業中に説明・解説、必要に応じて演習（練習問題）をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価（授業参加度、授業内試験）が１００パーセントです。 私語が多い、辞書がない、復習が著しく不十分、不正行為があった場合などは授業内試験の受験資格を失います。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014	白水社	やさしいドイツ語入門	増本浩子
	備考			
参考書	授業では使用しませんが、必要だと思う人は各自用意してください。			
オフィスアワー	授業時間（木曜３限・４限・５限）後の休み時間、講堂にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	夏休み前の学習事項を見直しておく（45分）
	授業内容	ガイダンス 前期学習事項の復習
	事後学習	発音（単語の読み方）、定冠詞・不定冠詞、sein / haben の変化などを覚えなおす。（15分）
2	事前学習	前回の学習事項の復習（15分）
	授業内容	分離動詞 前期学習事項と前回授業の要点の復習
	事後学習	2回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
3	事前学習	授業17回目の復習（15分）
	授業内容	形容詞の比較級・最高級 形容詞の語尾変化 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	3回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
4	事前学習	授業2回目～3回目の復習（15分）
	授業内容	動詞の3基本形（前期の続き） 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	4回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）

5	事前学習	授業 2 回目～ 4 回目の復習（ 1 5 分）
	授業内容	sein / haben の過去形、話法の助動詞の過去形 否定疑問文、非分離動詞 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	5 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（ 4 5 分）
6	事前学習	授業 2 回目～ 5 回目の復習（ 1 5 分）
	授業内容	現在完了形 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	6 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（ 4 5 分）
7	事前学習	授業 2 回目～ 6 回目の復習（ 1 5 分）
	授業内容	werden の現在人称変化、未来形 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	7 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（ 4 5 分）
8	事前学習	授業 2 回目～ 7 回目の復習（ 1 5 分）
	授業内容	zu 不定詞 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	8 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（ 4 5 分）
9	事前学習	授業 2 回目～ 8 回目の復習（ 1 5 分）
	授業内容	再帰表現、man の用法 形容詞の名詞化 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	9 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（ 4 5 分）
10	事前学習	授業 2 回目～ 9 回目の復習（ 1 5 分）
	授業内容	受動態の現在と過去 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	1 0 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（ 4 5 分）
11	事前学習	授業 2 回目～ 1 0 回目の復習（ 1 5 分）
	授業内容	定関係代名詞 男性弱変化名詞 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	1 1 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（ 4 5 分）
12	事前学習	授業 2 回目～ 1 1 回目の復習（ 1 5 分）
	授業内容	接続法第II式 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	1 2 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（ 4 5 分）
13	事前学習	授業 2 回目～ 1 2 回目の復習（ 1 5 分）
	授業内容	würde を使った仮定の表現 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	1 3 回目の授業で学習した単語・例文の暗記（ 4 5 分）
14	事前学習	授業 2 回目～ 1 3 回目の復習（ 4 5 分）
	授業内容	授業内試験。試験の解説。
	事後学習	自分の苦手な事項の復習（ 1 5 分）
15	事前学習	これまでの授業の総復習（ 3 0 分）
	授業内容	これまでの授業で触れなかった参考事項の紹介。 場合によっては追試験を実施。
	事後学習	興味のわいた参考事項についての自主学習（ 3 0 分）

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語検定試験等の資格試験を目指すための基礎固めをします。CDを聞いて正しい発音を身につけ、必要な表現を覚えます。まとまった文章を読んで、ドイツ語圏の社会と日本との相違について理解し、考察します。キーセンテンスを用いて、基本的なコミュニケーションの練習をします。				
授業目的・到達目標	【授業目的】独検等の資格試験に必要な読解力、文法力、聞き取り力を養成することを目的としています。 【到達目標】基礎総合力を身につけ、独検4級に合格できることを目標とします。 関連DPおよびCP：外国語科目領域6				
履修条件	特になし				
授業方法	CDを用いた演習方式。提出物は次の授業で返却し、講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価（授業参加度、提出物、学期末試験等）100%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016年	郁文堂		フィール・シュパース！（4訂版）	橋本政義、ハイケ・ビナウ、他
	備考				
参考書	使用しない				
オフィスアワー	木曜日17時50分～18時20分、授業講堂				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んで、第7課「環境問題」の32～33頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	ガイダンス（授業の進め方等について説明） 従属の接続詞とzu不定詞について理解し、それらを用いた文に書き換えることができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
2	事前学習	31頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	アルプスにおける地球温暖化の影響とドイツの環境保護について理解し、説明することができる。
	事後学習	31頁を読み返し、日本との違いをまとめる。（30分）
3	事前学習	34頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	時刻を言うことができる。人にものを尋ねるときに、丁寧な言い方ができる。
	事後学習	パートナーを見つけて、34頁の会話を練習する。（30分）
4	事前学習	第8課「週末の過ごし方」の36～37頁の問題を解いてくる。（35分）
	授業内容	過去形と現在完了形について理解し、それらを使った文を作ることができる。
	事後学習	間違った箇所の問題を解き直す。（25分）

5	事前学習	35頁を読んでくる。（35分）
	授業内容	ドイツで週末を過ごした日本人の体験から、ドイツ人の生活の基本にあるものを説明することができる。
	事後学習	35頁を音読し、ドイツの「閉店法」について調べる。（25分）
6	事前学習	38頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	ある日をどう過ごしたか、ドイツ人がよく話題とすることに答えることができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
7	事前学習	第9課「ベルリンの壁」の40～41頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	受動態と再帰動詞について理解し、それらを用いて文を作ることができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
8	事前学習	39頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	第2次大戦後にドイツがたどった歴史について理解し、説明することができる。
	事後学習	39頁をおさらいし、1945年から現在に至るドイツの歴史を年表風にまとめる。（30分）
9	事前学習	42頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	従属の接続詞を用いて、「～かどうか」と質問したり、「もし～ならば」と人に勧める表現の文を作ることができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。キーセンテンスを暗記する。（30分）
10	事前学習	第10課「政党」の44頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	関係代名詞について理解し、それを用いた文を作ることができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
11	事前学習	43頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	ドイツの政党について理解し、説明することができる。
	事後学習	43頁の文を音読し、「ドイツ連邦首相」について調べる。
12	事前学習	45～46頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	関係代名詞を用いて、「あれはどうなりましたか？」と質問ができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
13	事前学習	第11課「クリスマス」の49～50頁の問題を解いてくる。（35分）
	授業内容	接続法の用法について理解し、それらを用いた文を作ることができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（25分）
14	事前学習	47頁を読んでくる。（35分）
	授業内容	クリスマスから新年にかけて日本人がドイツで体験したことを理解し、ドイツの習慣について説明ができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（25分）
15	事前学習	テキストの総復習。（40分）
	授業内容	後期学習内容の振り返り、授業内試験及び講評。
	事後学習	これまでの内容を確認する。（20分）

科目名	ドイツ語基礎表現B	担当者	渡辺 徳夫	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	一年間の授業で、基礎文法を手掛かりに簡単な自己表現と原文の読解ができるように指導していきたい。 ドイツ語技能検定試験(略称：独検)の5級（入門）、4級（初級）に合格できるように指導していく。					
授業目的・到達目標	【授業目的（後期）】ドイツ語の基本的な文法と語彙を習得し、平易な文章の正確かつ迅速な読解力を育成すること。 【到達目標（後期）】ドイツ語の基本的な文法と語彙を習得し、平易な文章を正確かつ迅速に読解できるようになる。 関連DP/CP 外国語領域：6					
履修条件	なし。					
授業方法	①中級文法や細則を避け、基礎文法にしぼって教えていく。慣れてきたら、演習形式で行う。②独和辞典を一年を通じて毎回使うので、必ず持ってくる。③確認ために、課題と小テストを実施する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業内試験（筆記試験）（90%）＋レポート課題、小テスト、独検の結果（10%） 遅刻、欠席の多い場合、評価しない。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016年	三修社		『ドイツ語ルネサンス 第3版』		本郷建治 佐藤彰
	備考					
参考書	授業時に説明する。					
オフィスアワー	①水曜日、昼休み。授業終了後（授業時間：月曜1限） ②図書館7階EASTラーニング・コモンズ・スペース(必ず事前に電子メールでアポイントメントを取ること) ③国際交流センター入室時 のいずれか。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の箇所を見ておく。(10分)
	授業内容	ガイダンス（前期文法の復習）
	事後学習	後期文法を概観しておく。 課題をしておく。(80分)
2	事前学習	前回の復習。 助動詞構文を観察しておく。(40分)
	授業内容	L. 7：話法の助動詞 練習問題
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。(50分)
3	事前学習	前回の復習。 現在人称語尾を確認すること。(40分)
	授業内容	復習 L. 8: 3 基本形 過去人称変化
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。 過去人称語尾と現在人称語尾とを比較してみること。(50分)
4	事前学習	前回の復習。 読本の単語、基礎文法をチェックしておくこと。(40分)
	授業内容	復習 練習問題、読本 辞書の引き方
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。 訳文をノートに記しておくこと。(50分)

5	事前学習	前回の復習。sein, habenの変化、過去分詞の作り方を確認すること。 助動詞構文を観察しておくこと。(40分)
	授業内容	復習 L. 9: 現在完了形 練習問題
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。 助動詞構文と比較してみる。 課題をすること。(50分)
6	事前学習	前回の復習。 読本の単語、基礎文法をチェックしておくこと。(40分)
	授業内容	復習 読本 辞書の引き方
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。 課題をすること。 訳文をノートに記しておくこと。(50分)
7	事前学習	前回の復習。 英語のget up, stand upのupはどういう機能を持っているか考えてみる。(40分)
	授業内容	L. 10: 分離動詞 辞書の引き方 練習問題
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。 分離動詞の文構造が、ドイツ語の文構造の特徴を示していることを確認する。(50分)
8	事前学習	前回の復習。 定冠詞類の語尾を確認しておく。(40分)
	授業内容	復習 L. 11: 形容詞の格変化 辞書の引き方
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。 課題をすること。(50分)
9	事前学習	前回の復習。 人称代名詞の3・4格の変化を確認しておく。 英語のitの用法を思い出すこと。(40分)
	授業内容	復習 練習問題、検定対策（発音、語順） L. 12: 再帰動詞・es
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。(50分)
10	事前学習	前回の復習。 werdenの変化、過去分詞の作り方を復習しておく。(40分)
	授業内容	復習 練習問題、検定対策（文法問題） 辞書の引き方
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。 課題をすること。 検定試験の傾向を考えてみる。(50分)
11	事前学習	前回の復習。 前置詞の用法と意味を確認しておくこと。(40分)
	授業内容	復習 L. 13: 受動態、検定対策（会話、図解問題） 練習問題
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。 前置詞の用法と意味を改めて覚えておくこと。(50分)
12	事前学習	前回の復習。 副文の文構造を観察しておく。(40分)
	授業内容	復習 L. 14: 関係代名詞、検定対策（聞き取り） 辞書の引き方
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。 聞き取り問題の形式に慣れること。(50分)
13	事前学習	前回の復習。 メールニュースの単語、文構造をあらかじめチェックしておく。(40分)
	授業内容	復習 L. 15: 接続法、L. 16: 分詞、zu不定詞、辞書の引き方 メールニュースを読む(日本)
	事後学習	授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。 日本語の情報でニュースの内容を確認しておく。(50分)
14	事前学習	前回の復習。 メールニュースの単語、文構造をあらかじめチェックしておく。 後期の単語、文法を確認しておく。(40分)
	授業内容	復習 メールニュースを読む(世界) 辞書の引き方
	事後学習	試験について 授業の復習。CDを聞くこと。音読と暗唱をすること。 日本語の情報でニュースの内容を確認しておく。(50分)

15	事前学習	前回の復習。 試験範囲のすべてに目を通し、意味を考えながら、CDを聞いておく。(80分)
	授業内容	試験（70分、参照不可）及び、まとめ、振り返り、講評
	事後学習	間違えたところ、わからなかったところを確認する。 独検結果の報告。(10分)

科目名	ドイツ語基礎表現B(火曜3時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語を初めて学習する方を対象とした、ドイツ語でのさまざまな表現を学習する授業である。			
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語の基礎的な文法を確認しつつ、ドイツ語の総合的な運用能力を養成することを目的とする。 【到達目標】ドイツ語の基礎的な表現を習得し、平易なテキストの理解や簡単な会話ができるようになることを目標とする。関連DP及びCP:外国語科目領域6			
履修条件	・1年生は、今年度のうちに、「ドイツ語基礎文法」も履修すること(私以外の先生の授業でもよい)。 ・原則として、この授業はドイツ語基礎表現Aと通年で受講すること。			
授業方法	文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施する試験については、授業で講評を述べる。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価(授業参加度、授業内の試験等) 100%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年	朝日出版社	イン・ドイチュラントードイツ語インフォメーション 映像付ー	秋田静雄ほか
	2010年	第三書房	新・独検合格単語+熟語1800	在間進ほか
	備考			
参考書	授業では使用しないが、自習用教材として森泉『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』(ベレ書房、2006年)を推薦したい。			
オフィスアワー	・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。 ・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。 ・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の学習内容について、あらためて十分に時間をかけて確認しておくこと。(30分)
	授業内容	前期の復習
	事後学習	理解が十分でないところを重点的に復習すること。(30分)
2	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	第7課 導入の会話、前置詞
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
3	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	第7課 前置詞、前置詞と定冠詞の融合形
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
4	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	第8課 導入の会話、話法の助動詞、話法の助動詞の現在人称変化、話法の助動詞の主な意味
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)

5	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	第9課 導入の会話、分離動詞、数詞の復習
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
6	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	第9課 命令形、時刻表現
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
7	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	独検4級 模試の実施と解説
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
8	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	第10課 導入の会話、形容詞の格変化
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
9	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	第10課 再帰代名詞と再帰動詞
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
10	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	第11課 導入の会話、動詞の三基本形、過去人称変化
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
11	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	第11課 従属接続詞
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
12	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	第12課 現在完了、分離動詞の現在完了
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
13	事前学習	新しい表現がどんどん出てくるので、前の時間に学習したことを時間をかけて復習し、消化しておくこと。(30分)
	授業内容	後期の復習
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習すること。単語は意味を覚えるだけでなく、正確に音読でき、なおかつ書けるように、練習しておくこと。(30分)
14	事前学習	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。(30分)
	授業内容	理解度の確認、後期の学習内容の振り返り
	事後学習	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。(30分)
15	事前学習	彼までの学習内容を復習すること。(30分)
	授業内容	この一年で学習したこと、これからのドイツ語の学習について
	事後学習	今後のドイツ語の学習計画について、よく考えること。(30分)

科目名	ドイツ語基礎表現B(水曜3時限)	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語を初めて学習する方を対象とした授業です。この授業は、月曜・3限の渡辺徳夫先生の「ドイツ語基礎文法」(旧カリキュラムの「ドイツ語Ⅱ」)との同時履修を前提としたもので、この授業単独での履修はできません。ドイツ語技能検定試験(独検)の5級と4級の出題内容を踏まえて、受験のアドバイスもします。			
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語の文法と基本的な語彙を習得し、平易な文章を読解する能力を育成することを目的とする。 【到達目標】ドイツ語の文法と基本的な語彙を習得し、平易な文章を読解できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP:外国語科目領域6			
履修条件	月曜3限の渡辺徳夫先生の「ドイツ語基礎文法」(旧「ドイツ語Ⅱ」)と同時に履修すること。受講の際には、私の授業に登録すること(渡辺先生の授業にも自動登録される)。授業の進度が早いため、その覚悟で受講すること。			
授業方法	文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施する試験については、授業で講評を述べる。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価(授業参加度、授業内の試験等) 100%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年	白水社	ともに学ぶドイツ語〔改訂版〕(CD付)	林久博ほか
	備考	独和辞典を準備すること。授業で指示を聞いてから購入すること。		
参考書	『新・独検合格 単語+熟語1800』(第三書房、2010年)。授業では使用しないが、自習用問題集を必要とする場合には、森泉『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』(ベレ書房、2006年)を勧めたい。			
オフィスアワー	・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。 ・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。 ・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。(30分)
	授業内容	ガイダンス、前期の復習
	事後学習	理解が十分でないところを重点的に復習すること。(30分)
2	事前学習	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	話法の助動詞・未来形
	事後学習	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。(30分)
3	事前学習	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	過去形
	事後学習	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。(30分)
4	事前学習	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	現在完了形
	事後学習	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。(30分)

5	事前学習	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	再帰代名詞・再帰動詞
	事後学習	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。(30分)
6	事前学習	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	形容詞
	事後学習	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。(30分)
7	事前学習	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	接続詞
	事後学習	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。(30分)
8	事前学習	前回の学習事項を必ず復習し、疑問点があれば授業で質問できるようにしておくこと。指示された宿題をしてくること。学習予定内容に、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	接続法
	事後学習	学習した文法事項を必ず復習すること。指示に応じて、宿題をすること。(30分)
9	事前学習	指示された独検の過去問題を自宅で解いてくこと。(30分)
	授業内容	独検模試(4級)の実施と解説
	事後学習	間違えた問題は、どうして間違えたか、よく検討すること。正解した問題についても、次に同じような問題が出て正解となるよう、繰り返し解いてみること。(30分)
10	事前学習	指示された独検の過去問題を自宅で解いてくこと。(30分)
	授業内容	独検直前対策演習
	事後学習	間違えた問題は、どうして間違えたか、よく検討すること。正解した問題についても、次に同じような問題が出て正解となるよう、繰り返し解いてみること。(30分)
11	事前学習	独検当日に使用した問題冊子を持参すること。(30分)
	授業内容	独検受験を踏まえての今後の学習指導
	事後学習	間違えた問題は、どうして間違えたか、よく検討すること。正解した問題についても、知識が確実なものとなるよう、あらためて正解となる理由をよく考えること。(30分)
12	事前学習	指示されたテキストを自宅で読んでくこと。訳文を必ず書いてくこと。(30分)
	授業内容	テキスト読解(独検3級程度のテキストを使用)①
	事後学習	予習で分からなかった部分を重点的に復習する。よく理解できた部分についても、繰り返し読み、ドイツ語の文章の正しい解釈の仕方について、きちんと習得するよう努めること。(30分)
13	事前学習	指示されたテキストを自宅で読んでくこと。訳文を必ず書いてくこと。(30分)
	授業内容	テキスト読解(独検3級程度のテキストを使用)②
	事後学習	予習で分からなかった部分を重点的に復習する。よく理解できた部分についても、繰り返し読み、ドイツ語の文章の正しい解釈の仕方について、きちんと習得するよう努めること。(30分)
14	事前学習	これまでの学習を振り返り、理解が十分でないところがどこか、確認しておくこと。(30分)
	授業内容	理解度の確認、後期の学習内容の振り返り
	事後学習	理解が十分でないところを重点的に復習すること。(30分)
15	事前学習	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。(30分)
	授業内容	後期の復習、今後のドイツ語の学習について
	事後学習	今後のドイツ語の学習計画について、よく考えること。(30分)

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	青木 和子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	初学者のため、ドイツ語学習を基礎から行う。 ドイツ語文法の仕組みを体系的に学ぶ。 言葉は文化である、という視点も持って取り組む。				
授業目的・到達目標	【授業目的】コミュニケーションのための簡単な会話力や読むための語学力を身に付け、現実活かすことができるよう育成すること。 【到達目標】話すための基本表現を正しくスムーズに使いこなして、自己表現ができ、相手とコミュニケーションを取ることができるようになること。 関連DP及びCP：外国語科目領域6				
履修条件	ドイツ語学習に熱意があること。				
授業方法	各課ごとに、文法テーマをわかり易く解説した上で、練習問題等順次当てる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業内テスト80% 平常点（授業参加度）20%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
		第三書房		ゲナウ！グラマティック ノイ	新倉真矢子他
	備考				
参 考 書	独和辞書が授業時に必ず必要。				
オフィスアワー	質問は、授業中いつでも活発にしてほしい。 授業後も教室で対応する。 授業時間：金曜3・4限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を必ず購入し持参すること。 教科書の『はじめに』の箇所を読んでおく。（30分）
	授業内容	ガイダンス。独和辞書の紹介 アルファベットの発音練習 あいさつ表現の発音練習
	事後学習	CDで発音練習をする（30分）
2	事前学習	単語の発音の箇所を読んでおく（30分）
	授業内容	アルファベット・単語の発音練習
	事後学習	CDを聞き発音の復習をする（30分）
3	事前学習	独和辞書を必ず持参する Lektion1（第1課）を読んでおく（30分）
	授業内容	Lektion1 人称代名詞と動詞の現在人称変化（1）
	事後学習	授業内容の復習と課題を行う（1時間）
4	事前学習	Lektion2を読んでおく（30分）
	授業内容	Lektion1の復習 Lektion2 動詞（sein・haben）の現在人称変化（2）
	事後学習	授業内容の復習と課題を行う（1時間）

5	事前学習	Lektion2の未学習箇所を読んでおく（30分）
	授業内容	Lektion2 werdenの人称変化 並列の接続詞
	事後学習	授業内容の復習と課題を行う（1時間）
6	事前学習	Lektion3を読んでおく（30分）
	授業内容	Lektion3 名詞の性と格 定冠詞と不定冠詞の格変化
	事後学習	授業内容の復習と課題を行う（1時間）
7	事前学習	Lektion4を読んでおく（30分）
	授業内容	Lektion4 名詞の複数形 人称代名詞
	事後学習	授業内容の復習と課題を行う（1時間）
8	事前学習	Lektion5を読んでおく（30分）
	授業内容	Lektion5 定冠詞類と不定冠詞類
	事後学習	授業内容の復習と課題を行う（1時間）
9	事前学習	Lektion5の未学習箇所・Lektion6を読んでおく（30分）
	授業内容	Lektion5の復習 Lektion6 不規則動詞の現在人称変化
	事後学習	授業内容の復習と課題を行う（1時間）
10	事前学習	Lektion6の未学習箇所・Lektion7を読んでおく（30分）
	授業内容	Lektion6 命令形 Lektion7 語法の助動詞の種類と人称変化
	事後学習	授業内容の復習と課題を行う（1時間）
11	事前学習	Lektion7の未学習箇所を読んでおく（30分）
	授業内容	Lektion7 語法の助動詞の用法 未来形の助動詞
	事後学習	授業内容の復習と課題を行う（1時間）
12	事前学習	Lektion8を読んでおく（30分）
	授業内容	Lektion8 前置詞の種類と格支配
	事後学習	授業内容の復習と課題を行う（1時間）
13	事前学習	Lektion8の未学習箇所を読んでおく（30分）
	授業内容	Lektion8 再帰代名詞と再帰動詞
	事後学習	授業内容の復習と課題を行う（1時間）
14	事前学習	前期学習した文法内容を総復習して疑問点を出しておく（30分）
	授業内容	前期の総復習
	事後学習	授業内容の復習と課題を行う（2時間）
15	事前学習	期末テスト範囲を総復習する（2時間）
	授業内容	期末テスト及びテスト内容の解説
	事後学習	テストの出来をチェックして反省点を出す。 夏期休みの課題をしておく（1時間）

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	天沼 春樹	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語文法の初歩と、ドイツ文化理解。ドイツ語を初歩から親しみやすくまなび、読み書き聴くバランスをとった基礎を身につけていく。視聴覚教材も利用し、ドイツ事情にもたくさん触れていく。初級のドイツ語の運用能力。読み、聞き、書けるちから。目安としてドイツ語検定5級程度の能力。				
授業目的・到達目標	。ドイツ語を初歩から親しみやすくまなび、読み書き聴くバランスをとった基礎力を養成することを目的とする。 ABCから過去形など、初級の文法事項をマスターできるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語領域科目 6				
履修条件	授業参加度重視。初歩からやるので、欠席がかさなると理解不能になります。				
授業方法	テキスト『ブ롬ナード やさしいドイツ語文法』（白水社）を主教材に、そのほか視聴覚教材もまじえてわかりやすく指導していく。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常授業時の小試験と学期最終日に行う試験。 授業時発表などを評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016	白水社		『ブ롬ナード やさしいドイツ語文法』	荻原耕平 他
	備考	「はじめに」などの前書きに目をとおしておいてください。			
参考書	中級独和辞書（BOOKOFFや神保町の古書街にも新品同様なのがみつかります）				
オフィスアワー	講義時間前後、講堂にて。 授業時間：金曜 2・3 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の下見。ひと通り目を通しておく。（30分）
	授業内容	ドイツとドイツ語入門・ドイツ語が話されている国ぐにアルファベット/基本的あいさつ。以後の進捗は学習成果によって多少ズレこむ可能性もある。
	事後学習	ノート整理。復習。以下同様に心がけてください。（30分）
2	事前学習	復習（30分）
	授業内容	Lektion1 ドイツ語の発音
	事後学習	ノート整理。復習。（30分）
3	事前学習	復習（30分）
	授業内容	Lektion2 人称代名詞と動詞の現在人称変化 その①
	事後学習	ノート整理。復習。（30分）
4	事前学習	復習（30分）
	授業内容	Lektion2 動詞の現在人称変化 その②
	事後学習	ノート整理。復習。（30分）

5	事前学習	復習（30分）
	授業内容	Lektion3 名詞の性と格①
	事後学習	復習・ノート整理。（30分）
6	事前学習	復習。（30分）
	授業内容	Lektion3 名詞の性と格②
	事後学習	ノート整理。（30分）
7	事前学習	復習（30分）
	授業内容	Lektion4 定冠詞類と不定冠詞類①
	事後学習	ノート整理。（30分）
8	事前学習	復習（30分）
	授業内容	Lektion4 定冠詞類と不定冠詞類②
	事後学習	ノート整理。（30分）
9	事前学習	復習（30分）
	授業内容	Lektion5 人称代名詞
	事後学習	ノート整理。（30分）
10	事前学習	復習（30分）
	授業内容	Lektion6 不規則動詞・命令形
	事後学習	ノート整理。（30分）
11	事前学習	復習（30分）
	授業内容	Lektion7 前置詞
	事後学習	ノート整理。（30分）
12	事前学習	復習（30分）
	授業内容	Lektion8 分離動詞・接続詞
	事後学習	ノート整理。（30分）
13	事前学習	復習（30分）
	授業内容	Lektion前期内容の総復習
	事後学習	ノート整理。（30分）
14	事前学習	復習（30分）
	授業内容	Lektion前期内容の総復習
	事後学習	ノート整理。（30分）
15	事前学習	復習（30分）
	授業内容	前期教場筆記試験及びまとめ、振返り
	事後学習	試験結果の反省（30分）

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	安藤 勉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この時間は、ヨーロッパ・ゲルマン語の代表的なドイツ語の成り立ちを学びます。同時に、やはりゲルマン語の代表的な英語との関連についても言及したいと思います。ドイツ語を学ぶことにより、英語構造の理解も深まると思います。およそ言語の学習には、その背後にひそむ無量の深みがあるはずです。				
授業目的・到達目標	〔授業目的〕独検などの資格試験やドイツ語文理解に必要な文法の基礎力を養成することを目的とします。 〔到達目標〕独検などのための基礎力を身につけることを目標とします。関連D P及びC P：外国語科目領域 6				
履修条件	とくにありません。				
授業方法	ごくやさしく煩雑ではない教科書を用い、辞書の引き方も学びながら、授業を進めます。 授業の冒頭で必ず前回の復習をします。第14回目に試験と解説をします。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	平常評価(授業参加度、学期末試験など)100%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	朝日出版社		新正書法による快速ドイツ文法(14課)	
	備考	間違いがないように、最初の授業時間の中で、教科書・辞書について詳しく説明します。			
参 考 書	とくに指定はしませんが、辞書などについては、そのつど説明します。				
オフィスアワー	水曜16:10～ 授業終了後の講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスと教科書を読み、講義の全体を概観してください。(30分)
	授業内容	ガイダンス。授業の進め方・成績評価などの説明
	事後学習	ガイダンスのおさらいをしてください。(30分)
2	事前学習	教科書の目次とアルファベットを見てきてください。(30分)
	授業内容	ドイツ語という言葉
	事後学習	教科書とノートに沿って復習してください。(30分)
3	事前学習	ドイツ語の文字について教科書で予習してください。(30分)
	授業内容	文字と発音（１）
	事後学習	文字と発音を復習してください。とくに英語にはない４文字について。(30分)
4	事前学習	前回の文字と発音を確認してください。(30分)
	授業内容	文字と発音（２）
	事後学習	文字と発音を復習してください。(30分)

5	事前学習	前回までの文字と発音、1から4ページまでを予習してください。
	授業内容	Lektion1 動詞の変化（1）
	事後学習	ドイツ語の動詞は英語とは異なり語尾などが変化します。その変化を復習してください。動詞はとくに重要です。(30分)
6	事前学習	前回の動詞の変化について確認してください。(30分)
	授業内容	Lektion1 動詞の変化（2）
	事後学習	動詞の変化を復習してください。(30分)
7	事前学習	名詞の性と冠詞について、9から11ページまで予習してください。(30分)
	授業内容	Lektion2 名詞と冠詞
	事後学習	名詞と冠詞の変化について復習してください。名詞も冠詞も語尾などが変化します。(30分)
8	事前学習	不規則な人称変化する動詞について、14から16ページまで予習してください。(30分)
	授業内容	Lektion3 不規則な動詞
	事後学習	不規則に人称変化する動詞について復習してください。(30分)
9	事前学習	冠詞のように語尾変化するdieserやmeinについて、19から22ページまで予習してください。(30分)
	授業内容	Lektion4 dieserとmein
	事後学習	dieser型、mein型について復習してください。(30分)
10	事前学習	助動詞について、24から26ページまでに予習してください。(30分)
	授業内容	Lektion5 助動詞
	事後学習	助動詞の変化について復習してください。(30分)
11	事前学習	分離動詞について、29から31ページまで予習してください。(30分)
	授業内容	Lektion6 分離動詞
	事後学習	分離動詞について復習してください。(30分)
12	事前学習	動詞の3基本形と完了について、33から36ページまで予習してください。(30分)
	授業内容	Lektion7 動詞の3基本形と完了
	事後学習	動詞の3基本形と完了について復習をしてください。(30分)
13	事前学習	次回は期末試験を予定しています。それに備えて疑問点を洗い出してください。(30分)
	授業内容	期末試験に備えての総復習、及び落ち穂ひろい
	事後学習	第1回目からの授業の総復習をして、試験に備えてください。(30分～)
14	事前学習	試験のための復習をしてください。(30分～)
	授業内容	試験及び解説
	事後学習	試験を振り返り、理解が十分ではなかった点について、教科書で確認してください(30分)
15	事前学習	もう一度、前期の問題点を確認してください。(30分)
	授業内容	前期の学習範囲の総復習
	事後学習	前期のまとめをしてください。(30分)

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語学習の基礎となる初級文法を体系的に学習する。簡単なドイツ語の文を作ることができるようになる。独和辞書を使いこなせるようになる。				
授業目的・到達目標	【授業目的】発音の習得、文法の基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】科目内容が通年で完結するため、後期にドイツ語基礎文法Bを続けて履修することにより、最終的にはドイツ語検定4級レベルの語学力を身につけることを目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域6				
履修条件	ドイツ語基礎表現A・Bも併せて履修すること。独和辞書必携。予習復習を怠ることなく授業への積極的な参加が求められる。欠席をしないこと。				
授業方法	身近な基本的表現を多く使って、反復練習を積み重ねながら着実に文法を身につける。特に確実に習得すべき事項に関しては習得できるまで確認の小テストを実施する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	学期末試験等。70% 受講態度・積極性・小テスト及び発表。30%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	朝日出版社		たいむりい	森田悟
	備考				
参考書	授業中指示				
オフィスアワー	授業（火曜4限もしくは木曜3限）の前後の教室で。授業中でも質問を受け付ける。 h.kawakami18@gmail.com				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容をよく読んでおくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方・成績評価の方法・検定試験・辞書について説明する。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。教科書、辞書の準備をする。（30分）
2	事前学習	ドイツ語のアルファベットと英語のアルファベットの違いを確認しておくこと。（30分）
	授業内容	1課ドイツ語のつづり字と発音の関係を学習する。
	事後学習	アルファベット、単語のアクセントの位置、母音のつづり字の発音を繰り返し練習し、確実に覚えること。（30分）
3	事前学習	ローマ字読みで読める単語を発音練習してくる。（30分）
	授業内容	子音字の読み方、簡単な挨拶表現、数字の読み方を学習する。
	事後学習	子音つづり字の発音、挨拶表現、数字を繰り返し発音練習し、確実に覚えること。（30分） 数字の小テストを実施する。
4	事前学習	教科書の単語を発音練習をしてくること。（30分）
	授業内容	2課 主語と動詞【規則動詞】の変化について学習する—動詞の形は主語の種類で決まる— 【動詞の辞書の引き方】
	事後学習	主語になる代名詞と規則変化動詞の人称変化を確実に覚えること。（30分）

5	事前学習	練習問題P8 I を予習してくること。（30分）
	授業内容	語順について：動詞の位置で文のタイプが決まる〔平叙文、疑問文の作り方〕重要動詞〔sein, haben〕の変化 練習問題P8
	事後学習	動詞の位置を復習する。小テストを実施するので、重要動詞〔sein, haben〕の変化は確実に覚えること。（30分）
6	事前学習	ドイツ語の名詞と英語の名詞の違いを確認しておくこと。（30分）
	授業内容	3課 名詞の性と数ついて学習する 一名詞には3タイプがある―〔名詞の辞書の引き方〕 複数形、定冠詞、不定冠詞、所有冠詞、否定文[1]
	事後学習	名詞の複数形、定冠詞、不定冠詞について復習すること。（30分）
7	事前学習	練習問題P12 I を辞書引きながら予習してくること。（30分）
	授業内容	練習問題P12 名詞の冠詞と代名詞の使い方を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事後学習	三人称の代名詞の使い方について復習すること。（30分） 間違えた個所の問題を解き直す。
8	事前学習	名詞の性、複数形、定冠詞、不定冠詞についてもう一度復習しておくこと。（30分）
	授業内容	4課 文中での名詞の役割を表す格変化について学習する。[1・2・3・4格]—どの名詞が主語か目的語か— 冠詞類の変化、否定冠詞—否定文[2]
	事後学習	名詞の格変化についてを復習すること。小テストを実施するので、定冠詞、不定冠詞の変化は確実に覚えること。 （30分）
9	事前学習	練習問題P16を辞書引きながら予習してくること。（30分）
	授業内容	練習問題P16 名詞の格変化を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事後学習	間違えた個所の問題を解き直す。（30分）
10	事前学習	動詞の規則変化についてもう一度復習しておくこと。（30分）
	授業内容	5課 動詞〔不規則動詞〕の変化について学習する—動詞の語幹も変化する— 命令表現、人称代名詞の変化、非人称のes
	事後学習	不規則動詞の変化、命令表現について復習すること。小テストを実施するので、人称代名詞の変化は確実に覚えること。 （30分）
11	事前学習	練習問題P20を辞書引きながら予習してくること。（30分）
	授業内容	練習問題P20 代名詞の格変化と不規則動詞の変化を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事後学習	間違えた個所の問題を解き直す。（30分）
12	事前学習	名詞、定冠詞、不定冠詞の変化についてもう一度復習しておくこと。（30分）
	授業内容	6課 前置詞と格について学習する。—前置詞によって結び付く名詞の格が決まる—
	事後学習	前置詞の格変化と意味について復習すること。（30分）
13	事前学習	練習問題P24 I を辞書引きながら予習してくること。（30分）
	授業内容	練習問題P24 I 前置詞の格変化と使い方をそれに対応する問題を解答できる。
	事後学習	間違えた個所の問題を解き直す。（30分） 前置詞の使い方を確実に覚える。
14	事前学習	前期学習した文法事項を復習してくる。（30分）
	授業内容	練習プリントで、前期学習した文法事項の問題を解答できる。
	事後学習	間違えた個所の問題を解き直す。（30分） 重要単語を覚える。
15	事前学習	前期の文法と重要単語を総復習する。（30分）
	授業内容	授業内試験及び解説 前期学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（30分）

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	川尻 竜彰	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語を通してドイツならびにヨーロッパに対する知識や理解を深め、異なるものの見方や価値観，幅広い視野・思考を養います。					
授業目的・到達目標	ドイツ語文法の大まかな基礎を固め、ドイツ語検定4級程度の実力を育成することを目的とする。 ドイツ語を通してドイツならびにヨーロッパに対する知識や理解を深め、説明できるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	冬期ドイツ語技能検定試験を受験すること。					
授業方法	2時間に1課のペースで進み、最初の1時間を文法説明、次の1時間を練習問題に当てる。【フィードバック方法】授業内で行う小テストを添削、採点したのちに返却する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		試験 70% 小テスト 10% 授業時発表 10% 授業参加度 10%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2012	同学社		『ドイツ語なんて怖くない』		西村祐子
	備考					
参考書	授業中に指示する					
オフィスアワー	授業講堂 月曜日17:50～19:40					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	添付CDのアルファベートをよく聞いておくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、辞書の選び方について。
	事後学習	アルファベートを暗記して発音できるようにすること（30分）
2	事前学習	添付CDで9、10ページの単語の発音をよく聞いておくこと。（30分）
	授業内容	第1課ドイツ語の発音。特に英語と発音が異なる子音に注意して単語の発音を学ぶ。
	事後学習	教科書11ページの単語を発音して意味を調べること。（30分）
3	事前学習	教科書15ページの人称代名詞に目を通しておくこと（30分）
	授業内容	第2課 動詞の現在人称変化、sein動詞、語順について。 動詞は人称と数に応じて語尾変化することを学ぶ。
	事後学習	教科書12ページの不定詞句を使って文章を作ってみること。（30分）
4	事前学習	教科書17ページを予習しておくこと。（30分）
	授業内容	第2課 練習問題 定動詞の位置に注意しながら問題を解いていく
	事後学習	自己紹介の仕方を練習しておくこと。（30分）

5	事前学習	教科書19～21ページに目を通しておくこと。（30分）
	授業内容	第3課 名詞の姓と格変化（単数）について。名詞には男性・女性・中性と3つの性があり、役割に応じて格変化することを学ぶ。
	事後学習	課題に出された単語を定冠詞を付けて格変化させること。（30分）
6	事前学習	教科書23ページを予習しておくこと。（30分）
	授業内容	第3課 練習問題 格の用法に注意しながら問題を解いていく
	事後学習	課題に出された単語を不定冠詞を付けて格変化させること。（30分）
7	事前学習	定冠詞の格変化を復習しておくこと。（30分）
	授業内容	第4課 名詞の複数形、人称代名詞の格変化、定冠詞類について。名詞の複数形には様々なタイプがあることを学ぶ。
	事後学習	第6回授業で課題に出した単語の複数格を格変化させること。（30分）
8	事前学習	教科書29ページを予習しておくこと。（30分）
	授業内容	第4課 練習問題 英語とは使い方が違う単数3人称の人称代名詞に注意して問題を解いていく
	事後学習	基数詞を発音し、書けるようにしておくこと。（30分）
9	事前学習	不定冠詞の格変化を復習しておくこと。（30分）
	授業内容	第5課 不定冠詞類、否定冠詞keinの用法について学ぶ。
	事後学習	与えられた文章を否定文にしてみること。（30分）
10	事前学習	教科書35ページを予習しておくこと。（30分）
	授業内容	第5課 練習問題
	事後学習	nichtとkeinの使い分けについて整理しておくこと。（30分）
11	事前学習	平叙文と疑問文の定動詞の位置を復習しておくこと。（30分）
	授業内容	第6課 不規則動詞の現在人称変化、従属文について。従属文では定動詞が後置されることを学ぶ。
	事後学習	不規則動詞変化表の見方を復習しておくこと。（30分）
12	事前学習	教科書41ページを予習しておくこと。（30分）
	授業内容	第6課 練習問題 不規則動詞の辞書での調べ方を復習しつつ問題を解いていく
	事後学習	教科書36ページの不規則動詞の変化を覚えること。（30分）
13	事前学習	定冠詞・不定冠詞の格変化をもう一度復習しておくこと（30分）
	授業内容	第7課 前置詞、非人称のesについて。前置詞は特定の格を支配することを学ぶ。
	事後学習	3・4格支配の前置詞の3格、4格の意味の違いを整理しておくこと。（30分）
14	事前学習	教科書47ページを予習しておくこと。（30分）
	授業内容	第7課 練習問題 3・4格支配の前置詞の3格、4格の意味の違いに注意して問題を解いていく
	事後学習	時刻の言い方を練習しておくこと。（30分）
15	事前学習	指定された範囲の文法事項を把握しておくこと（30分）
	授業内容	試験及び振り返りまとめ
	事後学習	わからなかった問題を必ず確認して復習しておくこと（30分）

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	河田 一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業ではドイツ語の基礎文法を学び、ドイツ語検定試験受験も視野に入れて指導を行います。					
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語学習へのモチベーションを高め、文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】ドイツ語検定5級合格のための基礎を固め、6割以上の正解率を目標とします。関連DP及びCP：外国語科目領域6					
履修条件	ドイツ語が初めての場合は、そのほかの初級文法の授業も履修してください。					
授業方法	演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で解説を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2013	三修社		ドイツ語ルネサンス【第3版】		本郷、佐藤ほか
	備考					
参考書	必要に応じて紹介する。					
オフィスアワー	土曜14:30～ 授業終了後の講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	心静かに、ガンダンスを待つこと。 シラバスを事前に確認しておくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、ドイツ語検定試験の概要を説明する。
	事後学習	ガイダンスで説明された内容を確認し、次回必要なものを準備しておくこと。（30分）
2	事前学習	前回のガイダンスで説明された内容を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	発音練習Ⅰ
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
3	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	発音練習Ⅱ・動詞の変化Ⅰ
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
4	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	発音練習Ⅲ・sein の変化
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）

5	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	haben の変化
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
6	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	名詞とは？
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
7	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	冠詞の変化
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
8	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	名詞の複数形
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
9	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	冠詞類
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
10	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	人称代名詞
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
11	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	前置詞Ⅰ
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
12	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	前置詞Ⅱ
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
13	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	接続詞
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
14	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	疑問詞
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
15	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容のまとめ。
	事後学習	心静かに、前期の学習を振り返る。（30分）

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	黒瀬 志保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の初級文法を学習する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語の文章を理解し、運用するための基礎となる初級文法を養成することを目的とする。 【到達目標】動詞の人称変化、名詞と冠詞類・代名詞の格変化、語順を覚え、ドイツ語の文を正しく理解し、また文を組み立てられるようになることを目標とする。それとともに、ドイツ語技能検定試験（独検）4級に合格するための基礎を身につけることも目標とする。				
履修条件	対応DP及びCP：外国語科目領域 6 特になし。 ドイツ語技能検定試験の受験を奨励する。				
授業方法	教科書に沿って文法説明をした後、練習問題を宿題とし、次の授業で確認する。発音練習も適宜行う。また、基本的な語形変化を覚えるための小テストも実施し、次の授業で返却を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	平常点（授業参加度、小テスト、独検）30%、授業内試験70%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019年	白水社	モルゲン 初級ドイツ語教室		吉原高志 中川浩
	備考				
参 考 書	初回授業で独和辞典について指示する。その他の参考書については授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	月曜14：30～ 授業終了後の講堂にて 初回授業でメールアドレスを公開する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体を概観する。（30分）
	授業内容	【ガイダンス】授業の進め方と注意事項、ドイツ語の概要を説明する。 【アルファベット】ドイツ語のアルファベットの読み方を説明し、発音練習を行う。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 ドイツ語のアルファベットの発音練習を行う。（30分）
2	事前学習	教科書 6～7 ページを見ながら、音声を聞いてくる。（30分）
	授業内容	【ドイツ語の文字と発音】ドイツ語の読み方の原則とドイツ語特有の注意すべきつづりと発音について説明し、発音練習を行う。
	事後学習	教科書 6～8 ページの発音練習を行う。（30分）
3	事前学習	教科書 9 ページの練習問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	【動詞の現在人称変化 1】主語になる人称代名詞、規則動詞の現在人称変化について学習する。
	事後学習	主語になる人称代名詞、規則動詞の現在人称変化を暗記する。（30分）
4	事前学習	教科書 1 3 ページの練習問題 1 を解いてくる。（30分）
	授業内容	【動詞の現在人称変化 2】sein, haben, werdenおよび不規則動詞の現在人称変化について学習する。
	事後学習	sein, haben, werdenの現在人称変化を暗記する。 教科書 1 2 ページのミニ練習を行う。（30分）

5	事前学習	教科書 1 3 ページの練習問題 2 ～ 4 を解いてくる。(30分)
	授業内容	【ドイツ語の基本的な語順】不定詞句、平叙文と疑問文の語順について学習する。
	事後学習	教科書 1 4 ・ 1 5 ページのミニ練習を行う。(30分)
6	事前学習	教科書 1 7 ページの練習問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	【名詞の性・数】名詞の性（男性名詞、女性名詞、中性名詞）と数（単数形と複数形）について学習する。
	事後学習	教科書 1 8 ページのミニ練習を行う。(30分)
7	事前学習	教科書 1 9 ページのミニ練習の単語の意味および名詞の性・数を調べてくる。(30分)
	授業内容	【名詞の格】名詞の格と定冠詞・不定冠詞の格変化について学習する。
	事後学習	定冠詞・不定冠詞の格変化を暗記する。(30分)
8	事前学習	教科書 2 1 ページの練習問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	【定冠詞類と不定冠詞類】定冠詞類と不定冠詞類について学習する。
	事後学習	教科書 2 2 ・ 2 3 ページのミニ練習を行う。(30分)
9	事前学習	教科書 2 5 ページの練習問題 1 ・ 3 ・ 4 を解いてくる。 教科書 2 4 ページのミニ練習の単語の意味および名詞の性・数を調べてくる。(30分)
	授業内容	【人称代名詞】人称代名詞の 3 格、4 格について学習する。
	事後学習	人称代名詞を暗記する。(30分)
10	事前学習	教科書 2 5 ページの練習問題 2 を解いてくる。(30分)
	授業内容	【ドイツ語の形容詞 1】形容詞の付加語的用法について学習する。
	事後学習	教科書 2 6 ～ 2 7 ページのミニ練習を行う。(30分)
11	事前学習	教科書 2 9 ページの練習問題 1 を解いてくる。(30分)
	授業内容	【ドイツ語の形容詞 2】形容詞と副詞の比較変化について学習する。
	事後学習	比較級・最上級の辞書表記を確認する。(30分)
12	事前学習	教科書 2 9 ページの練習問題 2 ・ 3 を解いてくる。 教科書 3 0 ページのミニ練習の名詞の意味と性を調べてくる。(30分)
	授業内容	【ドイツ語の前置詞 1】前置詞の格支配について学習する。
	事後学習	教科書 3 0 ～ 3 1 ページに出てくる前置詞を暗記する。(30分)
13	事前学習	教科書 3 3 ページの練習問題 1 ・ 3 を解いてくる。(30分)
	授業内容	【ドイツ語の前置詞 2】前置詞と定冠詞の融合形、前置詞と人称代名詞の融合形、動詞や形容詞と結びつく前置詞について学習する。
	事後学習	動詞や形容詞と結びつく前置詞について辞書の表記を確認する。(30分)
14	事前学習	教科書 3 3 ページの練習問題 2 ・ 4 を解いてくる。(30分)
	授業内容	【数詞】数詞および数に関する表現を説明し、発音練習を行う。
	事後学習	教科書 8 ページの数詞と授業で出てきた表現の発音練習を行う。(30分)
15	事前学習	教科書 6 ～ 3 3 ページの総復習。(30分)
	授業内容	授業内試験および前期学習内容の振り返り。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。(30分)

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語を初めて学習する方を対象とした、初級文法の授業である。ドイツ語技能検定試験(独検)の5級と4級の出題内容を踏まえて、受験のアドバイスもする。				
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語文法の基礎を習得し、ドイツ語の文章を理解するための基本的な力を養成することを目的とする。 【到達目標】ドイツ語の初級文法を理解できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP:外国語科目領域6。				
履修条件	・1年生は「ドイツ語基礎表現」も今年度中に受講すること(私以外の先生の授業でもよい)。 ・原則、ドイツ語基礎文法Bと通年でこの授業を履修すること。				
授業方法	文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施した試験については、授業内で講評を述べる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価(授業参加度、授業内での試験等) 100%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016年	朝日出版社		ドイツ語の時間<話すための文法>(web練習問題付)	清野智昭
	備考	独和辞典を準備すること。授業で指示を聞いてから購入すること。			
参考書	授業では使用しないが、自習用問題集を必要とする場合には森泉『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』(ベレ書房、2006年)、単語集が必要な場合には在間進『新・独検合格単語+熟語1800』(第三書房、2010年)を勧めたい。				
オフィスアワー	・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。 ・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。 ・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。(30分)
	授業内容	ガイダンス、文字と発音(前半)
	事後学習	第2回の授業までにテキストを準備すること。授業で習った発音練習をすること。(30分)
2	事前学習	テキストを準備して授業に来ること。前回の授業で習った発音をすること。(20分)
	授業内容	文字と発音(後半)
	事後学習	音声教材を利用し、発音練習を行うこと。前期を通じての「事後学習」として、単語を覚えることを課したい。前期末までに単語集の「超基礎」の単語をすべて覚えられるよう、計画的に学習すること(以下の「事後学習」では、各授業の後に重点的に行うべき文法事項についてのみ示すが、単語の学習も忘れずに行うこと)。(40分)
3	事前学習	前回の授業の復習を十分にしておくこと。第1課の内容について、少し目を通しておくこと。(20分)
	授業内容	第1課 動詞の現在人称変化と語順
	事後学習	第1課の内容を十分に復習し、確実に習得すること。指示された宿題をしておくこと。(40分)
4	事前学習	発音練習と、第1課の文法事項をあらためて復習しておくこと。予習する場合には、授業内容を参照し、学習する場所を間違えないこと。(20分)
	授業内容	第1課 動詞の現在人称変化と語順、第2課(前半) 名詞の性と格変化(あわせて15ページの3番と23ページの4番も扱う)
	事後学習	定冠詞・不定冠詞の格変化の表を覚えてくること。指示された宿題をしておくこと。(40分)

5	事前学習	名詞の格変化について、十分に復習しておくこと。予習する場合には、授業内容を参照し、学習する場所を間違えないこと。(20分)
	授業内容	第2課(前半) 名詞の性と格変化(あわせて15ページの2番と3番、23ページの4番も扱う)、第2課後半 重要な動詞
	事後学習	重要な動詞の人称変化を覚えてくること。指示された宿題をしておくこと。(40分)
6	事前学習	第1課の学習内容をあらためて復習しておくこと。新たに学習する不規則動詞の人称変化についても、少し目を通しておくこと。(20分)
	授業内容	第3課 不規則動詞の現在人称変化
	事後学習	第1課、第2課でも動詞に関することを学習しているので、第3課の内容とごちゃごちゃにならないよう、注意深く復習すること。(40分)
7	事前学習	前回の学習内容を復習しておくこと。今回の授業の学習内容も、あらかじめ少し目を通しておくことが望ましい(今回はテキストの後半部分の第10課の一部を扱うため、予習する場合には気をつけること)。(20分)
	授業内容	第10課(後半) 命令形
	事後学習	命令形について、よく復習すること。指示された宿題をしておくこと。(40分)
8	事前学習	定冠詞・不定冠詞の格変化について、復習しておくこと。前置詞について、あらかじめ、少し目を通しておくこと。(20分)
	授業内容	第4課(前半) 前置詞
	事後学習	前置詞について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。(40分)
9	事前学習	第1課で学習したドイツ語の語順について、復習しておくこと。(20分)
	授業内容	第4課(後半) 副文
	事後学習	副文は、英語とは語順が異なるため、十分に時間をかけて復習すること。指示された宿題をしておくこと。(40分)
10	事前学習	新たに学習する人称代名詞について、少し目を通しておくことが望ましい。(20分)
	授業内容	第5課(前半) 人称代名詞
	事後学習	人称代名詞について、十分に復習すること(表を覚えること)。指示された宿題をしておくこと。(40分)
11	事前学習	前回の学習事項が基礎となるので、復習してから授業にのぞむこと。(20分)
	授業内容	第5課(後半) 再帰動詞
	事後学習	再帰動詞について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。(40分)
12	事前学習	すでに学習した定冠詞・不定冠詞の知識が基礎となるので、よく復習して授業に来ること。第6課の内容も、前もって少し目を通しておくのが望ましい。(20分)
	授業内容	第6課 定冠詞類・不定冠詞類
	事後学習	定冠詞類・不定冠詞類について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。(40分)
13	事前学習	英語のto不定詞について、思い出しておくこと。動詞の不定詞について、復習しておくこと。(20分)
	授業内容	第7課① zu不定詞
	事後学習	英語のto不定詞と語順が異なるので、ドイツ語特有の構文をよく理解するよう、復習すること。(40分)
14	事前学習	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。(50分)
	授業内容	理解度の確認と前期のまとめ
	事後学習	理解が十分でないところを重点的に復習すること。(10分)
15	事前学習	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。(30分)
	授業内容	前期の復習
	事後学習	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。(30分)

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	佐藤 英	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語を初めて学ぶ学生が、ドイツ語文法の基礎を学習する授業である。授業では、ドイツ語技能検定試験(独検)の5級と4級の出題内容を踏まえて、受験のアドバイスも行う。				
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語文法の基礎知識を養成することを目的とする。 【到達目標】ドイツ語の初級文法を習得し、基本語彙も理解できるようになることを目標とする。関連DP及びCP:外国語科目領域6				
履修条件	・1年生は「ドイツ語基礎表現」も今年度中に受講すること。 ・この授業は原則としてドイツ語基礎文法Bと通年で履修すること。				
授業方法	文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業中に実施する試験については、授業内で講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価(授業参加度、授業内の試験等) 100%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年	白水社		ブロムナード やさしいドイツ語文法(改訂版)	荻野耕平ほか
	備考	今年度からテキストが改訂になるため、かならず大学の指定の書店で購入すること。Amazonで購入したものや、先輩から譲り受けたものは、授業で使用することはできない。			
参考書	『新・独検合格 単語+熟語1800』(第三書房、2010年)				
オフィスアワー	・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。 ・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。 ・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。(30分)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	第2回の授業までに教科書を準備し、今後、どのような学習をすることになるか、ひととおり、目を通すこと。(30分)
2	事前学習	教科書を準備して授業に参加すること。教科書を読んでくること。(30分)
	授業内容	第1課 ドイツ語の発音
	事後学習	教科書の音声教材を利用し、復習する。(30分)
3	事前学習	第2課の内容について、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第2課 代名詞と動詞の現在人称変化
	事後学習	第2課の内容を十分に復習し、確実に習得すること。(30分)
4	事前学習	前回の授業の復習を十分に行っておくこと。(30分)
	授業内容	第2課 代名詞と動詞の現在人称変化
	事後学習	第2課の内容を十分に復習し、確実に習得すること。(30分)

5	事前学習	第3課の学習事項について、少し目を通しておくこと。（30分）
	授業内容	第3課 名詞の性と格
	事後学習	第3課の内容を十分に復習し、確実に習得すること。（30分）
6	事前学習	前回の学習事項を十分に復習し、第4課の内容について少し目を通しておくこと。（30分）
	授業内容	第3課 名詞の性と格/第4課 定冠詞類と不定冠詞類
	事後学習	第4課の内容は第3課の延長上にある。第3課と第4課の復習を十分にすること。（30分）
7	事前学習	前回の学習事項を十分に復習し、第5課の内容について少し目を通しておくこと。（30分）
	授業内容	第4課 定冠詞類と不定冠詞類/第5課 人称代名詞
	事後学習	第3課と第4課の内容について、きちんと覚えること。第5課の内容についても、概要を理解できるようにしておくこと。（30分）
8	事前学習	第5課の学習内容について、少し目を通しておくこと。（30分）
	授業内容	第5課 人称代名詞
	事後学習	第5課の人称代名詞の一覧表をすべて覚えること。期末テストに備えて、第1課から第4課の学習内容についても、復習すること。（30分）
9	事前学習	第6課の不規則動詞について、少し目を通しておくこと。（30分）
	授業内容	第6課 不規則動詞、命令形
	事後学習	不規則動詞について、練習問題等も活用しながら、十分に復習すること。期末テストに備えて、第1課から第5課の学習内容についても、復習すること。（30分）
10	事前学習	前回の学習事項について、十分に復習しておくこと。（30分）
	授業内容	第6課 不規則動詞、命令形
	事後学習	命令形について、練習問題等を活用し、十分に復習すること。期末テストに備えて、第1課から第5課の学習内容についても、復習すること。（30分）
11	事前学習	第7課の学習事項について、少し目を通しておくこと。第3～5課の内容も関係してくるので、よく復習しておくこと。（30分）
	授業内容	第7課 前置詞
	事後学習	期末テストに備えて、第1課から第6課の学習内容についても、復習すること。（30分）
12	事前学習	前回の学習事項を十分に復習しておくこと。第8課の分離動詞について、少し目を通しておくこと。動詞の人称変化の知識が求められるので、あらためて復習しておくこと。（30分）
	授業内容	第7課 前置詞/第8課 分離動詞、接続詞
	事後学習	期末テストに備えて、第1課から第6課の学習内容についても、復習すること。（30分）
13	事前学習	第8課の分離動詞について、十分に復習しておくこと。接続詞について、少し目を通しておくこと。（30分）
	授業内容	第8課 分離動詞、接続詞
	事後学習	第8課の学習内容について、十分に復習すること。期末テストに備えて、第1課から第7課の学習内容についても、復習すること。（30分）
14	事前学習	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。（30分）
	授業内容	理解度の確認と前期の学習内容の振り返り
	事後学習	理解が十分でないところを重点的に復習すること。（30分）
15	事前学習	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。（30分）
	授業内容	前期の復習
	事後学習	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。（30分）

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	初級ドイツ語のインテンシブ・クラスです。在学中のドイツ語圏への短期研修・長期留学・将来 ドイツ語で仕事することを目指している学生さんを対象とします。 ドイツ語通訳・翻訳経験、及びオーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験試験官の経験を授業に反映させて行きたいと思っております。					
授業目的・到達目標	ドイツ語の基礎文法とそれに合わせた読解能力の養成が目的です。 CEFR A1からA2レベル、独検 4 級から 3 級を取得できることが到達目標です。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	木曜 1 時限目ドイツ語基礎表現A（真道）を同時に受講すること。 授業に積極的に参加すること。 木曜 1 時限目ドイツ語基礎表現A（真道）に登録すると、自動的に本授業に登録されます。					
授業方法	文法説明はできるだけわかりやすくします。練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。フィードバックは授業内において行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		検定試験の結果及び授業内試験50%、提出物20%、小テスト30%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2008	同学社		ドイツ文法・1 0 0 語の世界		清水 薫
	2005	cornelsen		studio d A1 Kurs- und Übungsbuch ISBN: 978-3464207079		Hermann Funk
	備考	ドイツ語1（木1）と共通教科書です。				
参 考 書	独和辞典（授業中に説明します） その他の参考書については、授業中に紹介します。					
オフィスアワー	火曜日 昼休み 研究室（4号館424研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp） 授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス確認 （30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	教材準備 （30分）
2	事前学習	CD確認 アルファベート予習 （30分）
	授業内容	アルファベート Start auf Deutsch
	事後学習	アルファベート・発音復習 （30分）
3	事前学習	文法事項確認 （30分）
	授業内容	1課 規則的に人称変化する動詞 Lektion 1 Café d 1
	事後学習	1課 / Lektion 1練習問題 （30分）
4	事前学習	小テスト準備 （30分）
	授業内容	小テスト1 2課 文を作る Lektion 1 Café d 3
	事後学習	3課 / Lektion 2 練習問題 （30分）

5	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト3 3課 名詞の性と格(1格・4格) seinとhaben Lektion 2 Im Sprachkurs 1
	事後学習	4課 / Lektion 2 練習問題 (30分)
6	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト5 4課 不規則に変化する動詞1 名詞の格(2格・3格) Lektion 2 Im Sprachkurs 3
	事後学習	4課 / Lektion 2 練習問題 (30分)
7	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト7 5課 冠詞類 不規則に人称変化する動詞2 Lektion 3 Städte- Länder- Sprachen 1
	事後学習	5課 / Lektion 3 練習問題 (30分)
8	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト9 6課 複数形 人称代名詞 Lektion 3 Städte- Länder- Sprachen 3
	事後学習	5課 / Lektion 3 練習問題 (30分)
9	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト11 7課 前置詞 Lektion 4 Menschen und Häuser 1
	事後学習	7課 / Lektion 4 練習問題 (30分)
10	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト13 8課 話法の助動詞 未来形 Lektion 4 Menschen und Häuser 3
	事後学習	8課 / Lektion 4 練習問題 (30分)
11	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト15 9課 形容詞の格語尾 序数 Lektion 5 Termine 2
	事後学習	9課 / Lektion 5 練習問題 (30分)
12	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト17 10課 比較級 非人称表現 不定代名詞 6 Orientierung 1
	事後学習	10課 / Lektion 6 練習問題 (30分)
13	事前学習	文法・語彙復習 (30分)
	授業内容	文法まとめ 6 Orientierung 3
	事後学習	Lektion 6 練習問題 (30分)
14	事前学習	試験準備 (30分)
	授業内容	試験 筆記試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	自己評価 (30分)
15	事前学習	試験準備 (30分)
	授業内容	試験 口述試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	自己評価 (30分)

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語基礎文法の習得と独検 5 級及び 4 級対策			
授業目的・到達目標	初級ドイツ文法の習得。 前期は独検 5 級、後期は 4 級から 3 級レベルのドイツ語能力の養成を目標とします。 簡単な日常会話の練習をしてゆく中で、基礎文法の応用ができるようになること、ドイツを読んで基礎文法について説明ができるようになることが目的です。			
履修条件	関連 DP 及び CP：外国語科目領域 6 ドイツ語基礎表現 AB を同時に受講すること。			
授業方法	文法説明はできるだけわかりやすくします。練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。フィードバックは授業内において行います。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	試験 50% 検定試験結果は加点します 平常点(授業参加態度、提出物、小テスト) 50%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2008	同学社	ドイツ文法・100語の世界	清水 薫
	備考			
参考書	独和辞典（授業中に説明します） その他の参考書については、授業中に紹介します。			
オフィスアワー	火曜日 昼休み 研究室（4号館 424 研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp） 授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR 型ドイツ語検定試験			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容を確認する 初級ドイツ文法の習得。 （30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	教材準備 （30分）
2	事前学習	アルファベート ドイツ語の発音予習 （30分）
	授業内容	アルファベート ドイツ語の発音
	事後学習	アルファベート ドイツ語の発音復習 （30分）
3	事前学習	小テスト1試験準備 （30分）
	授業内容	小テスト1 Lektion 1 規則的に変化する動詞
	事後学習	Lektion 1 練習問題 （30分）
4	事前学習	小テスト2試験準備 （30分）
	授業内容	小テスト2 Lektion 2 文を作る
	事後学習	Lektion 2 練習問題 （30分）

5	事前学習	小テスト3試験準備（30分）
	授業内容	小テスト3 Lektion 3 名詞の性と格（1格/4格） seinとhaben
	事後学習	Lektion 3 練習問題（30分）
6	事前学習	小テスト4試験準備（30分）
	授業内容	小テスト4 Lektion 4 不規則変化する動詞1 名詞の格(2格/3格)
	事後学習	Lektion 4 練習問題（30分）
7	事前学習	小テスト5試験準備（30分）
	授業内容	小テスト5 Lektion 5 冠詞類
	事後学習	Lektion 5 練習問題（30分）
8	事前学習	小テスト6試験準備（30分）
	授業内容	小テスト6 Lektion 5 不規則に人称変化する動詞2 命令形
	事後学習	Lektion 6 練習問題（30分）
9	事前学習	小テスト7試験準備（30分）
	授業内容	小テスト7 Lektion 6 複数形
	事後学習	Lektion 6 練習問題（30分）
10	事前学習	小テスト8試験準備（30分）
	授業内容	小テスト8 Lektion 6 人称代名詞
	事後学習	Lektion 6 練習問題（30分）
11	事前学習	小テスト9試験準備（30分）
	授業内容	小テスト9 Lektion 7 前置詞
	事後学習	Lektion 7 練習問題（30分）
12	事前学習	小テスト10試験準備（30分）
	授業内容	小テスト10 Lektion 8 話法の助動詞
	事後学習	Lektion 8 練習問題（30分）
13	事前学習	小テスト11試験準備（30分）
	授業内容	小テスト11 Lektion 8 未来形
	事後学習	Lektion 8 練習問題（30分）
14	事前学習	小テスト12試験準備（30分）
	授業内容	小テスト12 前期まとめ
	事後学習	文法・語彙復習（1時間）
15	事前学習	試験準備（1時間）
	授業内容	試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	自己評価（15分）

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	鈴木 満	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「理解力」「暗記」「継続」の大切さを確認しながら、ドイツ語を学びます。					
授業目的・到達目標	ドイツ語圏の文化を客観的に調べ、理解し、説明する力の養成を目的とします。 ドイツ語を読み・書き・聞き・話すための基礎力の養成、特に「正確に書くこと」、およびドイツ語検定試験４級に合格できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域６					
履修条件	特になし。					
授業方法	授業中に説明・解説、必要に応じて演習（練習問題）をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、授業内試験）が１００パーセントです。 私語が多い、辞書がない、復習が著しく不十分、不正行為があった場合などは授業内試験の受験資格を失います。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	白水社		ブロムナード やさしいドイツ語文法 【改訂版】		荻原耕平 山崎泰孝
	備考					
参考書	授業では使用しませんが、必要だと思う人は各自用意してください。					
オフィスアワー	授業時間（木曜３限・４限・５限）後の休み時間、講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ドイツ語圏の観光情報や歴史書などを参照して、ドイツ語圏への関心を高める。（30分）
	授業内容	前期ガイダンス 文字（および発音）
	事後学習	文字と発音の復習（30分）
2	事前学習	CD等でドイツ語の発音を聞いてみる。（10分）
	授業内容	ドイツ語の発音 前回授業の要点の復習
	事後学習	2回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
3	事前学習	授業1回目～2回目の復習（15分）
	授業内容	1格の人称代名詞 動詞の人称変化 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	3回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
4	事前学習	授業1回目～3回目の復習（15分）
	授業内容	sein と haben ドイツ語の語順 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	4回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）

5	事前学習	授業１回目～４回目の復習（１５分）
	授業内容	名詞の性と格 定冠詞と不定冠詞の変化 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	５回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
6	事前学習	授業１回目～５回目の復習（１５分）
	授業内容	複数形 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	６回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
7	事前学習	授業１回目～６回目の復習（１５分）
	授業内容	定冠詞類 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	７回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
8	事前学習	授業１回目～７回目の復習（１５分）
	授業内容	不定冠詞類 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	８回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
9	事前学習	授業１回目～８回目の復習（１５分）
	授業内容	人称代名詞の格変化 ３人称の人称代名詞 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	９回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
10	事前学習	授業１回目～９回目の復習（１５分）
	授業内容	３格と４格 非人称の es 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	１０回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
11	事前学習	授業１回目～１０回目の復習（１５分）
	授業内容	動詞の現在人称変化（不規則変化） 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	１１回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
12	事前学習	授業１回目～１１回目の復習（１５分）
	授業内容	重要な不規則変化動詞 命令形 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	１２回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
13	事前学習	授業１回目～１２回目の復習（１５分）
	授業内容	前置詞 ３基本形入門 前回までの授業の要点の復習
	事後学習	１３回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
14	事前学習	授業１回目～１３回目の復習（４５分）
	授業内容	授業内試験。試験の解説。
	事後学習	自分の苦手な事項の復習（１５分）
15	事前学習	授業１回目～１４回目の復習（１５分）
	授業内容	前回までの授業の補足など。 場合によっては追試験を実施。
	事後学習	授業内試験で学習不足の点を重点的に復習（４５分）

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語検定試験等の資格試験を受験するための基礎固めをします。CDを聞いて正しく発音し、必要な表現を多く覚え ます。文法項目をいくつか理解したのち、まとまった文章を読んで、ドイツ語圏の社会生活や日本との相違について理解、 考察します。キーセンテンスを覚えて、基本的なコミュニケーションの練習をします。				
授業目的・ 到達目標	【授業目的】独検等の資格試験に必要な読解力、文法力、聞き取り力を養成することを目的としています。 【到達目標】基礎総合力を身につけ、独検4級に合格できることを目標とします。 関連DPおよびCP：外国語科目領域6				
履修条件	特になし				
授業方法	CDを用いた演習形式。提出物は次の授業で返却し、講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	平常評価（授業参加度、提出物、学期末試験等）100%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2016年	三修社	CD付き 気分はドイツ		本郷建治、佐藤 彰、他
	備考				
参 考 書	使用しない				
オフィス アワー	木曜日17時50分～18時20分、授業講堂				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキスト第1課「動詞の現在人称変化(1)」の10頁を読み、講義の全体を概観する。（30分）
	授業内容	ガイダンス（授業の進め方、独和辞典、発音の概要について説明をする。） 現在人称変化について理解し、変化表を作ることができる。
	事後学習	ガイダンスと現在人称変化についておさらいをする。（30分）
2	事前学習	11頁を読んで、12頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	動詞の位置について理解し、説明することができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直し、10頁の表を暗記する。（30分）
3	事前学習	第2課「冠詞と名詞」の13～15頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	名詞の性と格、定冠詞と不定冠詞について理解し、それらを用いた文の構造を説明することができる。
	事後学習	13頁の「定冠詞と名詞の格変化」を暗記する。（30分）
4	事前学習	16頁の問題を解いてくる。（35分）
	授業内容	複数形と男性弱変化名詞について理解し、文の中でそれらを指摘し、辞書を引くことができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（25分）

5	事前学習	第3課「動詞の現在人称変化(2)」の17~18頁を読んてくる。(30分)
	授業内容	現在形で不規則に人称変化する動詞について理解し、辞書で調べて変化表を作ることができる。
	事後学習	17~18頁の例文を正しい発音で音読する。(30分)
6	事前学習	19頁の問題を解き、20頁を読んてくる。(30分)
	授業内容	数詞を使って時刻を言うことができる。コミュニケーションの基礎を形成する、自己紹介や相手を知るための質問の受け答えができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。自己紹介する文を5文作る。(30分)
7	事前学習	第4課「人称代名詞、冠詞類」の21~23ページを読んてくる。(35分)
	授業内容	さまざまな冠詞類の意味と格変化について理解し、変化表を作ることができる。
	事後学習	人称代名詞の格変化を暗記する。(25分)
8	事前学習	24頁の問題を解いてくる。(35分)
	授業内容	2格の冠詞と名詞を用いた文を作ることができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。(25分)
9	事前学習	第5課「定形の位置」の26~27頁を読み、29頁の問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	平叙文、疑問文、副文における動詞の位置について理解し、説明することができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。副文を作る「従属の接続詞」を暗記する。(30分)
10	事前学習	第6課「前置詞」の31~33頁を読んてくる。(30分)
	授業内容	前置詞の意味と格支配について理解し、冠詞を伴った名詞や人称代名詞をその格にすることができる。
	事後学習	31~32頁の前置詞を暗記する。(30分)
11	事前学習	34頁の練習問題を解いてくる。(35分)
	授業内容	前置詞と定冠詞の融合形について理解し、それを使うことができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。(25分)
12	事前学習	第7課「話法の助動詞」の35~36頁を読んてくる。(30分)
	授業内容	話法の助動詞の意味とその現在人称変化について理解し、それらを使った文を和訳することができる。
	事後学習	35頁の変化表を暗記する。(30分)
13	事前学習	37頁の問題を解いてくる。(35分)
	授業内容	話法の助動詞構文について理解し、文を作ることができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。(25分)
14	事前学習	第8課「動詞の3基本形」の39~40頁を読んで、41ページの問題を解いてくる。(35分)
	授業内容	3基本形について理解し、過去形の文を作ることができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。過去人称変化表を暗記する。(25分)
15	事前学習	テキストの総復習。(40分)
	授業内容	前期学習内容の振り返り、授業内試験及び講評。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。(20分)

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	森田 悟	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の基礎を学び、あわせてドイツ文化について知ることができる。			
授業目的・到達目標	授業目的：ドイツ語の基礎能力を養成することを目的にする。 到達目標：ドイツ文法の前半部について理解し、利用できること。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	学部の規定による。			
授業方法	講義形式ですが、毎回練習や質問ができるようにしたいと思います。フィードバックは授業内において行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	平常授業の学習、授業内試験の結果で評価します。原則として80パーセント以上の出席も必要です。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	白水社	ブロムナードやさしいドイツ語語文法	萩原耕平、山崎泰孝
	備考			
参考書	辞書（授業開始時に説明）			
オフィスアワー	授業終了時（火曜21：10～）、ただし、できる限り事前に申し出ること			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	ガイダンス、ドイツ語学習の意味と広がりを考える
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
2	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	発音、綴り字等
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
3	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	名詞の性と格
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
4	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	名詞の性と格
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）

5	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	人称代名詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
6	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	定冠詞、不定冠詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
7	事前学習	新しく学ぶ単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	定冠詞、不定冠詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
8	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	人称代名詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
9	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	人称代名詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
10	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	不規則動詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
11	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	不規則動詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
12	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	前置詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
13	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	前置詞、命令
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
14	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	まとめ及び授業内試験
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
15	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	これまでの学習の確認と補充
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	森田 悟	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の基礎を学び、あわせてドイツ文化について知る事ができる。			
授業目的・到達目標	授業目的：ドイツ語の基礎能力を養成することを目的にする。 到達目標：ドイツ文法の前半部について理解し、利用できること。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	学部の規定による。			
授業方法	講義形式ですが、毎回練習や質問ができるようにしたいと思います。フィードバックは授業内において行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	平常授業の学習、授業内試験の結果で評価します。原則として80パーセント以上の出席も必要です。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	白水社	ブロムナードやさしいドイツ語語文法	萩原耕平、山崎泰孝
	備考			
参考書	辞書（授業開始時に説明）			
オフィスアワー	授業終了時（火曜19：30～）、ただし、できる限り事前に申し出ること			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	ガイダンス、ドイツ語学習の意味と広がりを考える
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
2	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	発音、綴り字等
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
3	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	名詞の性と格
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
4	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	名詞の性と格
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）

5	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	人称代名詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
6	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	定冠詞、不定冠詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
7	事前学習	新しく学ぶ単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	定冠詞、不定冠詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
8	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	人称代名詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
9	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	人称代名詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
10	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	不規則動詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
11	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	不規則動詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
12	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	前置詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
13	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	前置詞、命令
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
14	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	授業内試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
15	事前学習	新しく学ぶ単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	これまでの学習の内容の確認と補充
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	山崎 良介	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	基本的なドイツ語文法を体系的に概観しながら、簡単な表現を自分のことばとして確実に学習できるようにする。表現練習を通じて、学習した文法事項を実践的な表現力として生かせるようにする。					
授業目的・到達目標	ドイツ語文法を基礎に「読む」「書く」「聞く」「話す」「感じる」の5技能を総合的に学習し、ドイツ語・ドイツ語圏の文化について理解を深める。確かなドイツ語文法力を養成することを目的とする。それに基づきドイツ語技能検定試験（「独検」）4級以上が合格できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	特になし					
授業方法	テキストと授業中に配布しますプリントを使って、できるだけ分かりやすく丁寧に進めていきます。授業のための積極的な学習が必要です。「検定試験対策」も行います。宿題（レポート）は添削してお返しします。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業内試験 80% レポートと小テスト 20%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2015年	郁文堂		身につくドイツ文法<Leicht>		前田良三・高木葉子
	備考					
参考書	適宜紹介する。					
オフィスアワー	授業内（授業期間：水曜2・3限）で質問を受け付ける。 yamazaki.ryosuke@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	付録のCD（テキスト8～10頁）を聞き、アルファベートを発音できるようにする。（30分）
	授業内容	ガイダンス ドイツ語を話す国々 辞書の紹介、授業の進め方を説明する。アルファベートの発音を覚え、ドイツ語単語の発音について理解し説明できる。 プリント配布。
	事後学習	アルファベートの発音を覚える。ドイツ語単語の発音について暗記する。（30分）
2	事前学習	付録のCD（テキスト11頁）を聞き、挨拶の表現を覚え、発音できるようにする。（30分）
	授業内容	発音 母音と子音 日常会話の基本的表現 Lektion 1（12～14頁）動詞の現在人称変化を理解し説明できる。プリント配布。
	事後学習	母音と子音の発音を覚える。人称代名詞と動詞の人称変化について復習する。（30分）
3	事前学習	付録のCD（テキスト12頁）を聞き、挨拶の表現を覚え、発音できるようにする。（30分）
	授業内容	復習 Lektion 1 動詞の現在人称変化について説明する。テキスト（14～16頁）を理解し、練習問題をとくことができる。 Lektion 2（18～19頁）名詞と冠詞の概要を説明する。プリント配布。
	事後学習	人称代名詞と動詞の現在人称変化について暗記する。（30分）
4	事前学習	付録のCD（18頁）を聞き、確認練習の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	復習 Lektion 2 名詞と冠詞の格変化について理解し、練習問題を解答できる。ドイツの民謡（1）を聞く。プリント配布。
	事後学習	定冠詞と不定冠詞の格変化を暗記する。（30分）

5	事前学習	付録のCD（21頁）を聞き、発展練習の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	復習 Lektion 2 名詞と冠詞の格変化について理解し説明できる。 プリント配布。
	事後学習	テキスト（23～25頁）の問題をもう一度解いてみる。（30分）
6	事前学習	日本語と英語の名詞を例にあげ、複数形について説明できるようにしておく。（30分）
	授業内容	復習 Lektion 3 （23～24頁）名詞の複数形・人称代名詞について理解し説明できる。 確認練習（1～3の問題を解く。 プリント配布。
	事後学習	テキスト（23～25頁）の問題をもう一度解いてみる。（30分）
7	事前学習	付録のCD（25～26頁）を聞き、発展練習の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	Lektion 1～3 までの復習 Lektion 4 動詞の現在人称変化（2）・命令法について理解し説明できる。規則動詞と不規則動詞について概要を理解する。
	事後学習	テキスト（28～29頁）の問題をもう一度解いてみる。（30分）
8	事前学習	付録のCD（30頁）聞き、31頁の発展練習の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	復習 Lektion 4 動詞の現在人称変化（2）・命令法（31～32頁）の問題を理解し説明できる。Lektion 5 定冠詞類・不定冠詞類について理解し説明できる。。
	事後学習	テキスト（28～29頁）の問題をもう一度解いてみる。（30分）
9	事前学習	付録のCD（32頁）を聞き、さまざまな建物・施設の名前を覚える。（30分）
	授業内容	復習 Lektion 5 定冠詞類・不定冠詞類について理解し説明できる。テキスト（34～38頁）の問題を解く
	事後学習	定冠詞と不定冠詞の格変化を暗記し、テキスト（34～38頁）のもう一度解いてみる。（30分）
10	事前学習	付録のCD（39頁）を聞き、「家族」の名詞を覚える。（30分）
	授業内容	復習 Lektion 6 前置詞について理解し説明できる。英語の前置詞をできるだけ多くあげてみる。 プリント配布。
	事後学習	さまざまな前置詞を暗記し、前置詞の格支配を理解する。（30分）
11	事前学習	付録のCD（40～41頁）を聞き、練習問題を解いてみる。（30分）
	授業内容	復習 Lektion 6 前置詞について理解し説明できる。テキスト（40～43頁）の問題を解く。
	事後学習	テキスト（40～43頁）の問題をもう一度解いてみる。付録のCDで44頁、さまざまな時を表す単語を聞き暗記する。（30分）
12	事前学習	テキスト45頁の語法の助動詞の表を見て、英語とドイツ語の助動詞構文について理解してくる。（30分）
	授業内容	復習 Lektion 7 語法の助動詞・未来形・非人称動詞について理解し説明できる。プリント配布。テキスト（46～47頁）の確認練習の問題を解く。
	事後学習	テキスト（46～47頁）の問題をもう一度解いてみる。（30分）
13	事前学習	付録のCD（48頁）を聞き、練習問題を解いてみる。（30分）
	授業内容	復習 Lektion 7 語法の助動詞・未来形・非人称動詞について理解し説明できる。さまざまな時刻の表現を理解し説明できる。「ドイツ国歌」について説明する。
	事後学習	語法の助動詞・未来形・非人称動詞についてテキストの問題をもう一度解いてみる。ドイツの環境問題について、テキストのコラムを読む。（30分）
14	事前学習	これまで学習してきたことの総復習。（30分）
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（30分）
15	事前学習	これまでの授業内容を総復習。（30分）
	授業内容	授業内試験の解説と振り返り。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（30分）

科目名	ドイツ語基礎文法A	担当者	渡邊 善和	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	一年の授業期間を通じてドイツ語の初歩的語学力が習得できたと得心できるように、言語的4技能を個別的、総合的に鍛錬する。テキストのみならず、視聴覚教材などの補助教材をフルに利用して授業を活性化していく。また終了時点で次の段階(ドイツ語科目、専門科目、他の一般教養科目など)へのステップアップへの意欲の促進を図る。					
授業目的・到達目標	ドイツ語の初歩的語学力を、言語的4技能（読む、書く、聞く、話す）通じて総合的に養成することを目的とする。一年間の学習終了時に達成感を感じ、次のドイツ語のステップへの自信、意欲がわきあがってくるようになることを目標とする。 関連D PおよびC P 番号： 6					
履修条件	ドイツ語基礎文法Bも続けて受講することを期待する。学習に当たっては謙虚に、しかし好奇心旺盛に、しかも自発的にこつこつと学んでいく姿勢を望む。途中で放棄するような弱気な人は受講を遠慮して欲しい。					
授業方法	テキストにそって講義、演習をする。毎回復習を繰り返し、既習内容の定着を図る。授業は拙速に進めることなく、解説、指導は丁寧にすることを心がける。D V D、C Dをはじめ多様な視聴覚教材を活用する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		講義の理解度、初歩的ドイツ語運用力を筆記試験で評価する。（80%） 数回のレポート（10%）、平常点（授業への参加度など）（10%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	平成31年度	同学社		『ベルリンに夢中』		石井学他
	備考					
参 考 書	中型の独和辞典以外特に用意する必要はない。参考書は要望があれば適宜紹介する。					
オフィスアワー	木曜日（8：30～8：50分）。10号館2階講師室。また特に要望のある学生には私のメールアドレスでの質問に応じる。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスおよび指定テキストを読み講義の全体を概観しておく。（30分）
	授業内容	授業ガイダンス。さらに「ドイツ」「ドイツ語」を概観する。
	事後学習	この授業の内容を踏まえて再度上記のテキストを読み直す。（30分）
2	事前学習	テキストの指定されたページを精読してくる。（30分）
	授業内容	ドイツ語のアルファベットの学習 ドイツ紹介DVD視聴1
	事後学習	アルファベットの復習をする（文字、発音を正確に習得する）。（30分） 特に発音は声を出して練習する。
3	事前学習	テキストの指定されたページを精読してくる。（30分）
	授業内容	ドイツ語のつづりと発音 1 ドイツ紹介DVD視聴2
	事後学習	授業で習った内容を復習する。（発音は綴りと関係づけて覚える。しっかり声に出して発音練習をする）（30分）
4	事前学習	再度単語の発音練習をしておく。テキストの指定されたページを精読してくる（30分）
	授業内容	前回の復習＋残りのドイツ語の単語の綴りと発音 2 第1課 動詞の現在人称変化、語順などの解説および関連練習問題をする。 ベルリン紹介DVD1とドイツ紹介DVD3を視聴する。
	事後学習	この授業で習った文法項目の復習および練習問題ページの予習をする。（30分）

5	事前学習	テキストの指定されたページを精読してくる。（３０分）
	授業内容	第１課 練習問題ページと会話文の訳をする。 第２課 名詞、冠詞類の解説および関連練習問題をする。 ベルリン紹介DVD２とスイス紹介DVD１を視聴する。
	事後学習	授業で習った内容の復習および練習問題の予習をする。（３０分）
6	事前学習	テキストの指定されたページを精読してくる。さらに前回の練習問題の事後学習のチェックをする。（３０分）
	授業内容	第２課 練習問題ページと会話文の訳をする。 第３課 複数形の解説および練習問題をする。 ベルリン紹介DVD３とスイス紹介DVD２を視聴する
	事後学習	授業で習った内容の復習および練習問題の予習をする。（３０分）
7	事前学習	テキストの指定されたページを精読してくる。さらに前回の練習問題の事後学習のチェックをする。（３０分）
	授業内容	第３課 練習問題ページと会話の訳をする。 第４課 不規則変化動詞、人称代名詞などの解説および関連練習問題をする ベルリン紹介DVD４とオーストリア紹介DVD１を視聴する
	事後学習	授業で習った内容の復習および練習問題の予習をする（３０分）
8	事前学習	テキストの指定されたページを精読してくる。さらに前回の練習問題の事後学習のチェックをする。（３０分）
	授業内容	第４課 練習問題ページと会話の訳をする。 第５課 前置詞の格支配野解説と関連練習問題をする。 ベルリン紹介DVD５＋ オーストリア紹介DVD２を視聴する。
	事後学習	授業で習った内容の復習および練習問題の予習をする。（３０分）
9	事前学習	テキストの指定されたページを精読してくる。さらに前回の練習問題の事後学習のチェックをする。（３０分）
	授業内容	第５課 練習問題ページと会話の訳をする。 これまでの総復習をする。１、練習プリントを配布する。
	事後学習	授業で習った内容の復習および練習問題の予習をする。練習プリントを自習する。（３０分）
10	事前学習	これまでの総復習をする。（３０分）
	授業内容	これまでの総復習をする。２、練習プリントを配布する ドイツ・オーストリア・スイスの世界遺産紹介DVDを視聴する。
	事後学習	総復習内容の確認をする。（３０分）練習プリントを自習する。（３０分）
11	事前学習	ドイツ語圏にかかわるテレビ番組や映画をさがして視聴する。（３０分）
	授業内容	今までの学習の成果が確認できるようなドイツ映画を鑑賞する。
	事後学習	映画の感想をメモする。映画の背景、意図を様々な角度から調べてみる。（３０分）
12	事前学習	メモ、および調べたことをまとめる。（３０分）
	授業内容	前回に引き続き同じドイツ映画の残りを鑑賞する。映画およびその時代背景などを解説する。
	事後学習	他のドイツ映画を見る。（３０分以上）
13	事前学習	テキストの指定されたページを精読してくる。（３０分）
	授業内容	第６課 冠詞類、冠詞類の格変化、nichtとkeinの解説と関連練習問題をする。練習プリントを配布する。 ベルリン紹介DVD 6 ＋ドイツ・オーストリア・スイス紹介DVD
	事後学習	授業で習った内容の復習および練習問題の予習をする。練習プリントを自習する。（３０分）
14	事前学習	これまでの総復習をする。（今までのテキストの練習問題、練習プリントの見直し、およびさまざまな変形を覚えなおす。）（３０分）
	授業内容	これまでの総復習をする。（重要文法事項の再確認、覚えるべき基礎単語を強調する。）試験要領を確認する。
	事後学習	総復習の確認をする。（３０分）
15	事前学習	前期末学力考査（授業内試験）に対する試験範囲の再チェックをする。（３０分）
	授業内容	前期末学力考査（授業内試験）及びまとめ、振り返りをする。
	事後学習	今回の試験の徹底的反省をし、次のステップへのこころの準備をする。（３０分）

科目名	ドイツ語基礎文法A(月曜2時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語を初めて学習する人を対象に、一年間でドイツ語の文法をアウトラインを学び、ドイツ語の文章の基本構造を把握する授業である。基礎文法の知識を手掛かりに、辞書を使用しながら、やや高度な文章を把握させる練習をやっている。 ドイツ語技能検定（独検）の5級と4級のレベルのドイツ語力を養成する。			
授業目的・到達目標	【授業目的（前期）】基本文法と語彙を使って、簡単な自己紹介と簡単な原文読解できる力を養成することを目的とする。 【授業目標（前期）】簡単な自己紹介と簡単な原文の読解ができる。独検5級に合格できる。 関連DP及びCP：外国語領域 6			
履修条件	特になし。			
授業方法	①中級文法や細則を避け、基礎文法にしぼって教えていく。慣れてきたら、演習形式で行う予定でいる。 ②辞書を引きながら、独訳、和訳、文法問題をやっていく。③確認のための小テスト、レポートも実施する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	年2回行う授業内（学期末）試験 基本的な問題（参照不可）（90%） 授業内・外のレポート課題、小テスト、独検の結果、授業への積極的参加（10%）	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014年	三修社	『気分はドイツ』	本郷建治 佐藤彰
	備考			
参考書	独和辞典の紹介（電子辞書を勧めない）は最初の授業時に行う。単語集、参考書も授業時に指示する。			
オフィスアワー	原則として ①授業終了後（月曜12：10～）の講堂 ②図書館7階 EAST ラーニング・コモンズ・スペース ③国際交流センター入室時 のいずれか。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読むこと。 外国語学習ガイド(『日法の外国語教育』)の「ドイツ語」の項目に目を通しておくこと。(10分)
	授業内容	ガイダンス 独和辞典の紹介 アルファベット、母音の発音
	事後学習	アルファベット、母音の発音の復習をすること。(50分)
2	事前学習	アルファベット、母音の発音。(20分)
	授業内容	アルファベット、発音の原則 主語となる人称代名詞 動詞は、主語に応じて変化、辞書の引き方
	事後学習	アルファベット、発音の原則、主語となる人称代名詞を完全に覚えること。(40分)
3	事前学習	前回の復習をしておくこと。(20分)
	授業内容	第1課：動詞の現在人称変化(1) 辞書の引き方。
	事後学習	主語となる人称代名詞と基本的な動詞の変化とを完全に覚えること。(40分) 暗記用例文を暗記しておくこと。
4	事前学習	前回の復習をし、宿題を行うこと。ドイツ語文章の動詞の位置を観察してみよう。(20分)
	授業内容	復習。seinとhaben。 辞書の引き方
	事後学習	動詞の変化の小テストを行うので、完全に書けるようになっていること。(40分)

5	事前学習	前回の復習をしておくこと。授業予定の単語を調べておくこと。（20分）
	授業内容	復習 第2課：名詞 辞書の引き方
	事後学習	復習をしておくこと。単語を書けるようにしておくこと。（40分）
6	事前学習	前回の復習をしておくこと。授業予定の単語を調べておくこと。（20分）
	授業内容	復習。定冠詞、不定冠詞。複数形5タイプ。 辞書の引き方。
	事後学習	冠詞の変化の小テストを行うので、完全に書けるようになっていること（40分）
7	事前学習	宿題をしてくること。前回の復習をしておくこと。授業予定の単語を調べておくこと。（20分）
	授業内容	復習 小テスト 辞書の引き方
	事後学習	暗記用例文を暗記しておくこと。（40分）
8	事前学習	前回の復習をしておくこと。授業予定の単語を調べておくこと。1課の動詞の変化と比較してみよう。（20分）
	授業内容	復習 第3課：不規則動詞 辞書の引き方
	事後学習	間違えた個所を確認し、覚える。復習しておくこと。単語を書けるようにしておくこと。（40分）
9	事前学習	宿題をしてくること。前回の復習をしておくこと。授業予定の単語を調べておくこと。（20分）
	授業内容	復習 wissen型動詞 辞書の引き方
	事後学習	暗記用例文を暗記しておくこと。復習しておくこと。単語を書けるようにしておくこと。
10	事前学習	前回の復習をしておくこと。授業予定の単語を調べておくこと。（20分）
	授業内容	復習 人称代名詞の3格、4格。 辞書の引き方
	事後学習	復習しておくこと。単語を書けるようにしておくこと。（40分） 人称代名詞の小テストをするので、完全に覚えておくこと。
11	事前学習	小テストをするので、前回の復習をしておくこと。授業予定の単語を調べておくこと。（40分） 冠詞と冠詞類との語尾を比較してみよう。
	授業内容	復習。小テスト。 定冠詞類・不定冠詞類の格変化。 辞書の引き方
	事後学習	暗記用例文を暗記しておくこと。理解が不十分な場合は、教員に質問すること。 間違えた個所を確認し、覚える。（20分）
12	事前学習	宿題をしてくること。前回の復習をしておくこと。授業予定の単語を調べておくこと。（20分）
	授業内容	復習。 第6課：前置詞4タイプのうち3タイプについて。 辞書の引き方。
	事後学習	復習しておくこと。単語を書けるようにしておくこと。（40分）
13	事前学習	前回の復習をしておくこと。授業予定の単語を調べておくこと。（20分）
	授業内容	復習。 3・4格支配の前置詞。 辞書の引き方
	事後学習	暗記用例文の暗記をしておくこと。復習しておくこと。単語を書けるようにしておくこと。宿題をすること。（40分）
14	事前学習	前回の復習をしておくこと。授業予定の単語を調べておくこと。（20分）
	授業内容	前期文法の復習 試験について
	事後学習	復習しておくこと。単語を書けるようにしておくこと。（40分）
15	事前学習	暗記用例文を十分に暗記しておくこと。（50分）
	授業内容	試験（70分、応用問題、参照不可）及び、まとめ、振り返り、講評。
	事後学習	独検5級の結果を報告すること。 間違えた個所を確認し、解き直し、完全に覚える。（10分）

科目名	ドイツ語基礎文法A(月曜3時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	一年の授業で基本文法、基本語彙を習得し、中級レベル（検定合格、語学研修、交換留学）への橋渡しをするための授業である。 形式としては、水曜日3時限目の佐藤英先生の「ドイツ語基礎表現」（旧カリキュラム：「ドイツ語Ⅰ」）とのセットである。					
授業目的・到達目標	【授業目的（前期）】ドイツ語の基本的な文法と語彙を習得し、平易な文章の読解力を育成すること。 【到達目標（前期）】ドイツ語の基本的な文法と語彙を習得し、平易な文章を読解できるようになる。 〔関連DP及びCP〕外国語領域6					
履修条件	①必ず水曜3時限目の佐藤英先生の「ドイツ語基礎表現」（旧カリキュラム：「ドイツ語Ⅰ」）も履修すること。 ②この授業を単独で取ることはできない。③ウェブ抽選では、必ず佐藤英先生の上記の授業に登録すること。					
授業方法	①中級文法や細則を避け、基礎文法にしぼって教えていく。慣れてきたら、演習形式で行う予定でいる。 ②辞書をを引きながら、独訳、和訳、文法問題をやっていく。③確認のための小テスト、レポートも実施する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業内試験 基本的な問題（参照不可）（90%） 授業内・外のレポート課題、小テスト、独検の結果、授業への積極的参加（10%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	白水社		『ともに学ぶドイツ語(改訂版)』		林久博・鶴田涼子
	備考					
参考書	独和辞典の紹介（電子辞書を勧めない）は最初の授業時に行う。単語集、参考書も授業時に指示する。					
オフィスアワー	①授業終了後（月曜14：30～）の教室 ②国際交流センター入室時 ③図書館7階EAST ラーニング・コモンズ・スペース（必ず事前に電子メールでアポイントメントを取る）のいずれか。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスと外国語学習ガイド(『日法の外国語教育』)のドイツ語のページを読んでおくこと。（10分）
	授業内容	ガイダンス 独和辞典の紹介 アルファベット、母音の発音
	事後学習	教科書、および、紹介された独和辞典を用意する（電子辞書は不可）。（50分）
2	事前学習	前回の復習をすること。（10分）
	授業内容	アルファベット、発音の原則 主語となる人称代名詞 動詞は、主語に応じて変化、辞書の引き方
	事後学習	復習をすること。単語を書けるようにすること。辞書を引いてみる。(50分)
3	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。（10分）
	授業内容	動詞の基本変化 重要動詞sein（英：be）とhaben(英：have)変化
	事後学習	課題を行うこと。復習をすること。単語を書けるようにすること。(50分)
4	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。（20分）
	授業内容	復習 名詞は大文字で書き始め、性は3つ、文中の役割を示す格は4つ、複数形は5タイプ 辞書の引き方
	事後学習	課題を行うこと。復習をすること。単語を書けるようにすること。(50分)

5	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。小テストために完全に暗記すること。（30分）
	授業内容	復習 小テスト 定冠詞類・不定冠詞類。辞書の引き方
	事後学習	冠詞の語尾と冠詞類の語尾を比較してみる。復習をすること。単語を書けるようにすること。（30分）
6	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。わからない点を書き記しておく。（10分）
	授業内容	復習 不規則動詞
	事後学習	課題をすること。復習をすること。単語を書けるようにすること。規則動詞の語尾と比較してみる。(50分)
7	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。（10分）
	授業内容	復習 前置詞の4種類。人称代名詞の3格と4格。 辞書の引き方
	事後学習	課題をすること。復習をすること。単語を書けるようにすること。3.4格支配の前置詞の用法を検討してみる。(50分)
8	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。助動詞の文構造について観察してみる。（10分）
	授業内容	復習 話法の助動詞、未来・推量の助動詞、zu不定詞 辞書の引き方
	事後学習	課題をすること。復習をすること。単語を書けるようにすること。zu不定句内の語順と日本語の語順の類似性を確認する。(50分)
9	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。定冠詞類の語尾を確認しておく。（10分）
	授業内容	復習 形容詞の格変化、比較 辞書の引き方
	事後学習	課題をすること。復習をすること。単語を書けるようにすること。(50分)
10	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。現在人称語尾と過去人称語尾とを比較してみる。（10分）
	授業内容	復習 動詞の3基本形、過去人称変化、分離動詞 辞書の引き方
	事後学習	課題をすること。復習をすること。単語を書けるようにすること。不規則動詞を辞書で調べておく。(50分)
11	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。sein, habenの変化を確認しておく。（10分）
	授業内容	復習 現在完了形、接続詞、定形の位置の3タイプ、副文 辞書の引き方
	事後学習	課題をすること。復習をすること。単語を書けるようにすること。ドイツ語の文章における動詞の位置を確認してみよう。(50分)
12	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。「再帰」や「分詞」の意味を調べてみよう。（10分）
	授業内容	復習 再帰代名詞、再帰動詞、非人称表現、分詞、esの用法 辞書の引き方
	事後学習	課題をすること。復習をすること。単語を書けるようにすること。(50分)
13	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。関係文の構造を観察しておく。（10分）
	授業内容	復習 関係文 辞書の引き方
	事後学習	課題をすること。復習をすること。単語を書けるようにすること。(50分) 検定の問題を自己採点してみる。
14	事前学習	前回の復習をすること。今まで習った単語の意味を覚えなおす。（10分）
	授業内容	前期文法の復習 試験について
	事後学習	試験範囲を何度も目を通し、CDを聞きながら音読をする。(80分)
15	事前学習	習った単語、文法、文章を完全に覚えたかどうか確認する。(80分)
	授業内容	試験（70分、応用問題、参照不可）及びまとめ、振り返り、講評。
	事後学習	間違えたところ、分からなかったところを確認し、覚える。 独検5級の結果を提出すること。(10分)

科目名	ドイツ語基礎文法B(月曜2時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語を初めて学習する人を対象に、一年間でドイツ語の文法をアウトラインを学び、ドイツ語の文章の基本構造を把握する授業である。基礎文法の知識を手掛かりに、辞書を使用しながら、やや高度な文章を把握させる練習をやっている。 ドイツ語技能検定（独検）の5級と4級のレベルのドイツ語力を養成する。				
授業目的・到達目標	【授業目的（後期）】基本文法に基づき、簡単な自己表現ができ、簡単なインターネット記事の情報を理解できるドイツ語力の養成を目的とする。 【授業目標（後期）】簡単な自己表現と簡単なインターネットの記事の情報を得ることができる。独検4級に合格できる。 関連DP及びCP：外国語領域 6				
履修条件	特になし。				
授業方法	①中級文法や細則を避け、基礎文法にしぼって教えていく。慣れてきたら、演習形式で行う予定でいる。 ②辞書を引きながら、独訳、和訳、文法問題をやっていく。③確認のための小テスト、レポートも実施する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業内（学期末）試験（基本的な問題、参照不可、70分）（90%） 授業内・外のレポート課題、小テスト、独検の結果、授業への積極的参加（10%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2014年	三修社		『気分はドイツ』	本郷建治 佐藤彰
	備考				
参考書	単語集、独検対策問題集、参考書については必要に応じ紹介する。				
オフィスアワー	原則として ①授業終了後（月曜12：10～）の講堂 ②図書館7階EAST ラーニング・コモンズ・スペース（必ず事前に電子メールでアポイントを取る） ③国際交流センター入室時 のいずれか				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでおくこと。（10分）
	授業内容	前期文法の復習 後期文法の概観 第7課：話法の助動詞
	事後学習	前期文法を復習しておくこと。単語を暗記しておくこと。暗記用例文を完全に暗記しておくこと。（50分）
2	事前学習	前回の復習をしておくこと。（30分） 文構造を観察してみよう。
	授業内容	復習 辞書の引き方
	事後学習	宿題をしておくこと。復習しておくこと。単語を暗記しておくこと。（30分）
3	事前学習	前回の復習をしておくこと。（30分）
	授業内容	復習 第8課：動詞の三基本形 辞書の引き方
	事後学習	宿題をしておくこと。復習しておくこと。単語を暗記しておくこと。暗記用例文を完全に暗記しておくこと。（30分）
4	事前学習	前回の復習をしておくこと。 現在人称変化の語尾と過去人称変化の語尾とを比較してみよう。（30分）
	授業内容	復習 過去人称変化 辞書の引き方
	事後学習	宿題をしておくこと。復習しておくこと。単語を暗記しておくこと。暗記用例文を完全に暗記しておくこと。（30分）

5	事前学習	前回の復習をしておくこと。 sein, habenの変化の復習をしておくこと。（30分）
	授業内容	復習 第9課：現在完了 辞書の引き方
	事後学習	宿題をしておくこと。復習しておくこと。単語を暗記しておくこと。暗記用例文を完全に暗記しておくこと。（30分）
6	事前学習	前回の復習をしておくこと。 文構造を観察してみよう。（30分）
	授業内容	復習 第10課：分離動詞 辞書の引き方
	事後学習	復習しておくこと。単語を暗記しておくこと。暗記用例文を完全に暗記しておくこと。 英語のstand up, get upと比較してみよう。（30分）
7	事前学習	前回の復習をしておくこと。 文構造を観察してみよう。 定冠詞類の格語尾を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	復習 第11課：形容詞 辞書の引き方
	事後学習	形容詞の付加語尾と定冠詞の語尾とを比較してみよう。宿題をしておくこと。復習しておくこと。単語を暗記しておくこと。暗記用例文を完全に暗記しておくこと。（30分）
8	事前学習	前回の復習をしておくこと。（30分）
	授業内容	復習 第12課：再帰代名詞、非人称表現、esの用法、zu不定詞 辞書の引き方
	事後学習	復習しておくこと。単語を暗記しておくこと。暗記用例文を完全に暗記しておくこと。（30分）
9	事前学習	前回の復習をしておくこと。 werdenの変化を復習しておくこと。過去分詞の作り方を復習しておくこと。 文構造を観察してみよう。（30分）
	授業内容	復習 第13課：受動態 辞書の引き方
	事後学習	復習しておくこと。単語を暗記しておくこと。暗記用例文を完全に暗記しておくこと。（30分）
10	事前学習	前回の復習をしておくこと。（30分） 文構造を観察してみよう。 独検の傾向をつかむ。
	授業内容	復習 第14課：関係文。辞書の引き方。 ドイツ語検定の対策
	事後学習	復習しておくこと。単語を暗記しておくこと。暗記用例文を完全に暗記しておくこと。 過去問を何度も覚えるまで反復すること。（30分）
11	事前学習	前回の復習をしておくこと。 文構造を観察してみよう。 独検の傾向をつかむ。（30分）
	授業内容	復習 第15課：接続法。辞書の引き方。 ドイツ語検定の対策（4級レベルの聞き取り）
	事後学習	復習しておくこと。単語を暗記しておくこと。暗記用例文を完全に暗記しておくこと。 過去問を何度も覚えるまで反復すること。（30分）
12	事前学習	前回の復習をしておくこと。（30分）
	授業内容	復習 インターネットのドイツ語情報（記事）を読んでみよう。 構文分析と文法解説
	事後学習	自分で決定訳を書いてみる。内容を読み込む。 独検の自己採点と間違いを確認しよう。（30分）
13	事前学習	前回の復習をしておくこと。 文構造を観察してみよう。（30分）
	授業内容	復習 インターネットのドイツ語情報（記事）を読んでみよう。 構文分析と文法解説
	事後学習	自分で決定訳を書いてみる。内容を読み込む。（30分）
14	事前学習	文法事項、文構造、暗記用例文、基本単語を完全に暗記しておくこと。過去分詞の作り方の確認（30分）
	授業内容	第16課：分詞、zu不定詞。辞書の引き方。試験について 提出後、間違いを確認すること。
	事後学習	復習しておくこと。試験範囲内の単語を書けるようにしておくこと。暗記用例文を書けるようにしておくこと。（30分）
15	事前学習	今までの基本単語、基本文法、暗記用例文をすべて暗記しておくこと。（50分）
	授業内容	試験（参照不可、70分）及びまとめ、振り返り、講評。
	事後学習	間違いを確認し、やり直し、完全に覚えること。独検の結果を報告すること。（10分）

科目名	ドイツ語基礎文法B(月曜3時限)	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	一年の授業で基本文法、基本語彙を習得し、中級レベル（検定合格、語学研修、交換留学）への橋渡しをするための授業である。 形式としては、水曜日3時限目の佐藤英先生の「ドイツ語基礎表現」（旧カリキュラム：「ドイツ語Ⅰ」）とのセットである。			
授業目的・到達目標	【授業目的（後期）】ドイツ語の基本的な文法と語彙を習得し、平易な文章を正確かつ迅速に読解する力を育成すること。 【到達目標（後期）】ドイツ語の基本的な文法と語彙を習得し、平易な文章を正確かつ迅速に読解できるようになる。 〔関連DP及びCP〕外国語領域6			
履修条件	①必ず水曜3時限目の佐藤英先生の「ドイツ語基礎表現」（旧カリキュラム：「ドイツ語Ⅰ」）も履修すること。 ②この授業を単独で取ることはできない。③ウェブ抽選では、必ず佐藤英先生の上記（水・3）の授業に登録すること。			
授業方法	①中級文法や細則を避け、基礎文法にしぼって教えていく。慣れてきたら、演習形式で行う予定でいる。 ②辞書をを引しながら、独訳、和訳、文法問題をやっていく。③確認のための小テスト、レポートも実施する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業内試験 基本的な問題（参照不可）（90%） 授業内・外のレポート課題、小テスト、独検の結果、授業への積極的参加（10%）	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	白水社	『ともに学ぶドイツ語(改訂版)』	林久博・鶴田涼子
	備考			
参考書	独和辞典の紹介（電子辞書を勧めない）は最初の授業時に行う。単語集、参考書も授業時に指示する。			
オフィスアワー	①授業終了後（月曜14：30～）の教室 ②国際交流センター入室時 ③図書館7階EASTラーニング・コモンズ・スペース（必ず事前に電子メールでアポイントメントを取る）のいずれか。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（10分）
	授業内容	ガイダンス（前期文法の復習） 後期文法の概観
	事後学習	復習をすること。（50分）
2	事前学習	前回の復習をすること。werdenの変化と過去分詞の作り方を確認しておく。（40分）
	授業内容	復習 受動文 辞書の引き方
	事後学習	復習をすること。単語を書けるようにすること。（50分）
3	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。「接続法」の「接続」とは何か調べておく。（40分）
	授業内容	復習 接続法 辞書の引き方
	事後学習	課題をすること。復習をすること。単語を書けるようにすること。現在人称変化語尾と接続法変化語尾を比較してみる。（50分）
4	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。文構造を調べておく。（40分）
	授業内容	復習 テキスト読解 辞書の引き方
	事後学習	復習をすること。単語を書けるようにすること。（50分）

5	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。文構造を調べておく。（40分）
	授業内容	テキスト読解 独作文演習（助動詞）
	事後学習	復習をすること。単語を書けるようにすること。（50分）
6	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。文構造を調べておく。（40分）
	授業内容	テキスト読解 独作文演習（過去・完了形）
	事後学習	復習をすること。単語を書けるようにすること。（50分）
7	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。文構造を調べておく。文法項目をチェックしておく。何が起ったのか、誰がそれを伝えているのかを調べておく。（40分）
	授業内容	テキスト読解 メールニュースを読む（日本）
	事後学習	復習をすること。単語を書けるようにすること。日本語の記事で内容を確認しておく。（50分）
8	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。文構造を調べておく。文法項目をチェックしておく。何が起ったのか、誰がそれを伝えているのかを調べておく。（40分）
	授業内容	テキスト読解 メールニュースを読む（日本）
	事後学習	復習をすること。単語を書けるようにすること。日本語の記事で内容を確認しておく。（50分）
9	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。文構造を調べておく。文法項目をチェックしておく。何が起ったのか、誰がそれを伝えているのかを調べておく。（40分）
	授業内容	テキスト読解 メールニュースを読む（世界）
	事後学習	復習をすること。単語を書けるようにすること。日本語の記事で内容を確認しておく。（50分）
10	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。文構造を調べておく。（40分）
	授業内容	テキスト読解 独検長文問題（5級レベル）
	事後学習	復習をすること。速読して意味を把握すること。（50分）
11	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。文構造を調べておく。文法項目をチェックしておく。（40分）
	授業内容	ドイツ語検定試験の対策 過去問（4級レベル）
	事後学習	復習をすること。単語を書けるようにすること。出題傾向を調べてみる。速読して意味を把握すること。（50分）
12	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。文構造を調べておく。（40分）
	授業内容	ドイツ語検定試験の対策 過去問（4級レベル）
	事後学習	復習をすること。単語を書けるようにすること。出題傾向を調べてみる。速読して意味を把握すること。（50分）
13	事前学習	前回の復習をすること。（40分）
	授業内容	ドイツ語検定試験の対策 過去問（4級レベル）聞き取り
	事後学習	問題の形式に習熟すること。復習をすること。単語を書けるようにすること。（50分）
14	事前学習	今まで習った、文法、単語の意味を覚えなおす。（40分）
	授業内容	試験について 文法の総復習
	事後学習	検定の問題を自己採点してみる。試験範囲を何度も目を通す。CDを聞きながら何度も音読をし、意味を取ること。（50分）
15	事前学習	試験範囲の内容を完全に覚える。（80分）
	授業内容	試験（70分、参照不可）及びまとめ、振り返り、講評。
	事後学習	間違えたところ、分からなかったところを確認し、覚える。独検の成績を提出すること。（10分）

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	青木 和子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	初学者のため、ドイツ語学習を基礎から行う。 ドイツ語文法の仕組みを体系的に学ぶ。 言葉は文化である、という視点も持って取り組む。				
授業目的・到達目標	【授業目的】コミュニケーションのための簡単な会話力や読むための語学力を身に付け、現実活かすことができるよう育成すること。 【到達目標】話すための基本表現を正しくスムーズに使いこなして、自己表現ができ、相手とコミュニケーションを取ることができるようになること。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	ドイツ語学習に熱意があること。				
授業方法	各課ごとに、文法テーマをわかり易く解説した上で、練習問題等順次当てる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業内テスト80% 平常点（授業参加度）20%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
		第三書房		ゲナウ！グラマティック ノイ	新倉真矢子他
	備考				
参 考 書	独和辞書が授業時に必ず必要。				
オフィスアワー	質問は、授業中いつでも活発に質問してほしい。 授業後も教室等で対応する。 授業時間：金曜 3・4 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	夏期課題を持参する Lektion9を読んでおく（1時間）
	授業内容	夏期課題の答え合わせ Lektion9 分離動詞
	事後学習	授業内容を復習し課題を行う（1時間）
2	事前学習	Lektion9を読んでおく（30分）
	授業内容	Lektion9 分離動詞と非分離動詞
	事後学習	授業内容を復習し課題を行う（1時間）
3	事前学習	Lektion9の未学習箇所を読んでおく（30分）
	授業内容	Lektion9 zu不定詞 従属の接続詞と副文
	事後学習	授業内容を復習し課題を行う（1時間）
4	事前学習	Lektion10を読んでおく（30分）
	授業内容	Lektion10 動詞の三基本形
	事後学習	授業内容を復習し課題を行う（1時間）

5	事前学習	Lektion10の末学習箇所を読んでおく（30分）
	授業内容	Lektion10 過去形
	事後学習	授業内容を復習し課題を行う（1時間）
6	事前学習	Lektion10の末学習箇所を読んでおく（30分）
	授業内容	Lektion10 現在完了形
	事後学習	授業内容を復習し課題を行う（1時間）
7	事前学習	Lektion11を読んでおく（30分）
	授業内容	現在完了形の復習 Lektion11 受動態
	事後学習	授業内容を復習し課題を行う（1時間）
8	事前学習	Lektion11の末学習箇所とLektion12を読んでおく（30分）
	授業内容	受動態の復習 Lektion12 形容詞の格変化
	事後学習	授業内容を復習し課題を行う（1時間）
9	事前学習	Lektion12の末学習箇所を読んでおく（30分）
	授業内容	Lektion12 形容詞・副詞の比較変化
	事後学習	授業内容を復習し課題を行う（1時間）
10	事前学習	Lektion12の関係代名詞を読んでおく（30分）
	授業内容	Lektion12 関係代名詞
	事後学習	授業内容を復習し課題を行う（1時間）
11	事前学習	Lektion12の末学習箇所を読んでおく（30分）
	授業内容	Lektion12 関係代名詞・不定関係代名詞
	事後学習	授業内容を復習し課題を行う（1時間）
12	事前学習	「ステップアップ」を読んでおく（30分）
	授業内容	接続法第Ⅰ式
	事後学習	授業内容を復習し課題を行う（1時間）
13	事前学習	「ステップアップ」の末学習箇所を読んでおく（30分）
	授業内容	接続法第Ⅱ式
	事後学習	授業内容を復習し課題を行う（1時間）
14	事前学習	後期学習範囲を総復習して疑問点を出しておく（1時間）
	授業内容	後期の総復習
	事後学習	授業内容を復習し課題を行う（2時間）
15	事前学習	期末テストに向け準備する（2時間）
	授業内容	期末テスト及びテスト内容の解説
	事後学習	テストの出来をチェックし、1年間のドイツ語学習を総括する。（30分）

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	天沼 春樹	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期ドイツ語文法Bの後半の授業です。動詞の過去形以後の内容になります。				
授業目的・到達目標	初級のドイツ語の運用能力。読み、聞き、書けるちから。目安としてドイツ語検定5級程度の能力を養成することを目的とする。とくに、後期12月の独検にはチャレンジしてほしい。授業内でも過去問などを指導します。 前期の内容をしっかりと復習したうえで、応用表現をしっかりと身につけられることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語領域科目 6				
履修条件	授業参加度重視。初歩からやるので、欠席がかさなると理解不能になります。				
授業方法	講義により文法説明・学生による発表をふくむ問題練習。視聴覚教材によって、眼と耳でドイツとドイツ語の世界に親しむ。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業内小試験＋学期末に行う授業内試験(文法問題・独文和訳) 接続法をのぞく全項目の理解を!!ドイツ語検定の結果。授業内発表など。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016	白水社		『ブロムナード やさしいドイツ文法』	荻原耕平他
	備考				
参 考 書	中級独和辞書				
オフィスアワー	講義時間前後、講堂にて。 授業時間：金曜 2・3 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の下見。ひと通り目を通しておく。（30分）
	授業内容	前期りバビリ授業。わたしたちは何をまなんできたか？復習と後期への展望。
	事後学習	復習/ノート整理。学期末にノート提出あり。（30分）
2	事前学習	教科書の下見。ひと通り目を通しておく。（30分）
	授業内容	Lektion9 助動詞
	事後学習	復習/ノート整理。学期末にノート提出あり。（30分）
3	事前学習	前回の復習（30分）
	授業内容	Lektion10 動詞の三基本形 不定詞・過去基本形・過去分詞 不規則動詞変化表の使いかた。
	事後学習	復習/ノート整理。（30分）
4	事前学習	前回の復習（30分）
	授業内容	Lektion10 不規則動詞の例文になれる。
	事後学習	復習/ノート整理。（30分）

5	事前学習	前回の復習（30分）
	授業内容	Lektion11 現在完了形
	事後学習	復習/ノート整理。（30分）
6	事前学習	前回の復習（30分）
	授業内容	Lektion11 受動文
	事後学習	復習/ノート整理。（30分）
7	事前学習	前回の復習（30分）
	授業内容	Lektion12 形容詞 比較級・最上級
	事後学習	復習/ノート整理。（30分）
8	事前学習	前回の復習（30分）
	授業内容	Lektion12 形容詞の付加語的用法
	事後学習	復習/ノート整理。（30分）
9	事前学習	前回の復習（30分）
	授業内容	Lektion13 再帰代名詞・zu 不定詞のの用法
	事後学習	復習/ノート整理。（30分）
10	事前学習	前回の復習（30分）
	授業内容	Lektion14 関係文(1)
	事後学習	復習/ノート整理。（30分）
11	事前学習	前回の復習（30分）
	授業内容	Lektion 14 関係文(2)
	事後学習	復習/ノート整理。（30分）
12	事前学習	前回の復習（30分）
	授業内容	後期内容の復習と応用練習(1) 習熟練習
	事後学習	復習/ノート整理。（30分）
13	事前学習	前回の復習（30分）
	授業内容	後期内容の復習と応用練習(2) 習熟練習
	事後学習	復習/ノート整理。（30分）
14	事前学習	前回の復習（30分）
	授業内容	後期内容の復習と応用練習(3) 模擬問題練習(予定)
	事後学習	試験準備学習のこと。（30分）
15	事前学習	試験準備学習のこと。（30分）
	授業内容	後期試験 筆記及びまとめ、振返り
	事後学習	試験結果の反省。（30分）

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	安藤 勉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この時間は、ヨーロッパ・ゲルマン語の代表的なドイツ語の成り立ちを学びます。やはりゲルマン語の代表的な英語との関連についても言及したいと思います。ドイツ語を学ぶことにより、英語構造の理解も深まると思います。およそ言語の学習には、その背後にひそむ無量の深みがあるはずです。					
授業目的・到達目標	〔授業目的〕 独検などの資格試験やドイツ語文理解に必要な文法の基礎力を養成することを目的とします。 〔到達目標〕 独検などのための基礎力を身につけることを目標とします。関連DP及びCP:外国語科目領域6					
履修条件	ドイツ語基礎文法Aを履修した学生が望ましい。					
授業方法	ごくやさしく、目でも楽しめる教科書を用い、授業を進めます。 授業の冒頭で必ず前回の復習をします。第14回目に試験・解説をします。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0 %			
	平 常 評 価		100%		平常評価(授業参加度、学期末試験など)100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	朝日出版社		新正書法による快速ドイツ文法		
	備考	間違いがないように、最初の授業時間の中で、教科書・辞書について詳しく説明します。				
参 考 書	とくに指定はしませんが、辞書などについては、そのつど説明します。					
オフィスアワー	水曜16:10～ 授業終了後の講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の総復習をしてきてください。(30分)
	授業内容	前期の学習範囲の総復習
	事後学習	前期の学習範囲の総復習をしてください。(30分)
2	事前学習	前置詞について、38から39ページまで予習してください。(30分)
	授業内容	Lektion8 前置詞
	事後学習	前置詞の格支配について復習してください。(30分)
3	事前学習	再帰動詞について、40から41ページまで予習ください。(30分)
	授業内容	Lektion8, 再帰動詞
	事後学習	再帰という現象について、その原理を復習してください。(30分)
4	事前学習	形容詞の変化について、43から44ページまで予習してください。(30分)
	授業内容	Lektion9 形容詞の語尾変化
	事後学習	形容詞の語尾変化について復習してください。(30分)

5	事前学習	形容詞の名詞化について、45から46ページまで予習してください。(30分)
	授業内容	Lektion9 形容詞の名詞化
	事後学習	形容詞が名詞に変化することを復習してください。(30分)
6	事前学習	形容詞などの比較級・最上級について、48から49ページまで予習してください。(30分)
	授業内容	Lektion10 比較のしかた
	事後学習	比較級・最上級を復習してください。(30分)
7	事前学習	命令形について、49から50ページまで予習してください。(30分)
	授業内容	Lektion10 命令形
	事後学習	命令形の変化を復習してください。
8	事前学習	関係代名詞について、52から53ページまで予習してください。(30分)
	授業内容	Lektion11 関係代名詞
	事後学習	関係代名詞の性と格について復習してください。(30分)
9	事前学習	受動形について、56から57ページまで予習してください。(30分)
	授業内容	Lektion12 受動形
	事後学習	受動形について復習してください。(30分)
10	事前学習	受動的表現について、57から58ページまで予習してください。(30分)
	授業内容	Lektion12 受動的表現
	事後学習	werdenを用いた受動形と受動的表現を復習してください。(30分)
11	事前学習	接続法の用法について、60から63ページまで予習してください。(30分)
	授業内容	Lektion13 接続法
	事後学習	接続法の意味について復習してください。(30分)
12	事前学習	間接話法について、65から66ページまで予習してください。(30分)
	授業内容	Lektion14 接続法
	事後学習	間接話法について復習してください。(30分)
13	事前学習	次回は期末試験を予定しています。それに備えて疑問点などを洗い出してください。(30分)
	授業内容	期末試験に備えての総復習、及び落ち穂ひろい
	事後学習	後期の授業の総復習して、試験に備えてください。(30分～)
14	事前学習	試験のための総復習をしてください。(30分～)
	授業内容	試験及び解説
	事後学習	試験を振り返り、理解が十分ではなかった点について、教科書で確認してください。(30分～)
15	事前学習	試験のための復習をしてください。(30分～)
	授業内容	試験及び解説
	事後学習	試験を振り返り、理解が十分ではなかった点について、教科書で確認してください。(30分)

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	川上 博子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語学習の基礎となる初級文法を体系的に学習する。簡単なドイツ語の文を作ることができるようになる。独和辞書を使いこなせるようになる。				
授業目的・到達目標	【授業目的】発音の習得、文法の基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】ドイツ語検定4級レベルの語学力を身につけることを目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域6				
履修条件	ドイツ語基礎表現Bも併せて履修すること。独和辞書必携。予習復習を怠ることなく授業への積極的な参加が求められる。欠席をしないこと。				
授業方法	ドイツ語基礎文法Aの続きの文法を学習する。身近な基本的表現を多く使って、反復練習を積み重ねながら着実に文法を身につける。特に確実に習得すべき事項に 関しては習得できるまで確認の小テストを実施する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	学期末試験等。40% 受講態度・積極性・小テスト・発表。20% 検定成績。40%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2017	朝日出版社	たいむりい		森田悟
	備考				
参考書	必要に応じ紹介する				
オフィスアワー	授業（火曜4限もしくは木曜3限）の前後の教室で。授業中でも質問を受け付ける。 h.kawakami18@gmail.com				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	単語と数字の発音を復習しておくこと。（30分）
	授業内容	20以上の数字、時刻の表現について学習、練習する。
	事後学習	数字、時刻の表現を繰り返し発音練習し、確実に覚えること。（30分）
2	事前学習	前置詞を復習しておくこと。（30分）
	授業内容	6課 接続詞について学習する。接続詞の種類と文の構造について理解し、それに対応する問題を解答できる。 練習問題P24 I / II
	事後学習	接続詞を覚えること。副文の作り方を復習する。（30分）
3	事前学習	練習問題P28 II 辞書を使って予習しておくこと。（30分）
	授業内容	7課 話法の助動詞、未来形について学習する。助動詞構文の構造について理解し、それに対応する問題を解答できる。 練習問題P28 II
	事後学習	助動詞の人称変化と意味と助動詞構文の構造を確実に覚える。（30分）
4	事前学習	練習問題P28 I 辞書を使って予習しておくこと。（30分）
	授業内容	7課 分離する動詞と分離しない動詞について学習する。ドイツ語の文の枠構造について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題P28 I
	事後学習	分離動詞を使った文の構造（助動詞構文と同じ）を確実に覚える。（30分）

5	事前学習	練習問題P32 I 辞書を使って予習しておくこと。（30分）
	授業内容	8課 zu不定詞の作り方と用法について学習する。 zu不定詞句について理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事後学習	zu不定詞の用法について復習する。（30分）
6	事前学習	定冠詞の変化を復習しておくこと。 練習問題P32 II 辞書を使って予習しておくこと。（30分）
	授業内容	8課 形容詞の付加語的用法について学習する。形容詞の変化について理解し、それに対応する問題を解答できる。 練習問題P32 II
	事後学習	形容詞の変化を復習する。（30分）
7	事前学習	練習プリントを予習してくること。（30分）
	授業内容	疑問詞、前置詞、語順、話法の助動詞、分離動詞について復習し、それに対応する問題を解答できる。
	事後学習	間違えた個所の問題を解き直す。 重要単語を覚える。（30分）
8	事前学習	これまでの練習問題を総復習する。（30分）
	授業内容	中間テスト・検定試験のための練習 9課 形容詞の比較表現について理解し、それに対応する問題を解答できる。 練習問題P33 I
	事後学習	形容詞の比較表現を復習する。（30分）
9	事前学習	人称代名詞の変化を確認しておくこと。 練習問題P36 I 辞書を使って予習しておくこと。（30分）
	授業内容	9課 再帰表現について学習する。―主語と目的語が同じものを表わす表現― 再帰代名詞と再帰動詞について理解し、それに対応する問題を解答できる。練習問題P36 I
	事後学習	再帰動詞を復習する。（30分）
10	事前学習	動詞の現在人称変化を復習しておくこと。（30分）
	授業内容	10課 動詞の三基本形と過去形について学習する。―過去のことを言うときの表現Ⅰ―
	事後学習	動詞の三基本形と過去形の人称変化を確実に覚える。動詞の三基本形の小テストを実施する。（30分）
11	事前学習	動詞の過去分詞を復習しておくこと。（30分）
	授業内容	11課 現在完了形について学習する。―過去のことを言うときの表現Ⅱ― 受動態について学習する。現在完了形と受動態について理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事後学習	現在完了形と受動態の文を復習する。（30分）
12	事前学習	動詞の三基本形を復習しておくこと。（30分）
	授業内容	過去形と現在完了形について復習し、それに対応する問題を解答できる。
	事後学習	過去形と現在完了形を復習する。（30分）
13	事前学習	定冠詞の変化を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	12課 関係代名詞について学習する。―名詞を修飾する関係文について― 接続法の作り方、使い方について学習する。
	事後学習	関係文のつくり方を復習する。（30分）
14	事前学習	後期学習した文法事項を復習してくること。（30分）
	授業内容	練習プリントで、受動態、関係文について復習し、それに対応する問題を解答できる。
	事後学習	間違えた個所の問題を解き直す。 重要単語を覚える。（30分）
15	事前学習	過去形、現在完了形、zu不定詞、受動態、関係文の総復習をすること。（30分）
	授業内容	授業内試験及び解説 後期学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（30分）

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	川尻 竜彰	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語を通してドイツならびにヨーロッパに対する知識や理解を深め、異なるものの見方や価値観、幅広い視野・思考を養います。					
授業目的・到達目標	ドイツ語文法の大まかな基礎を固め、ドイツ語検定4級程度の実力を育成することを目的とする。 ドイツ語を通してドイツならびにヨーロッパに対する知識や理解を深め、説明できるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	冬期ドイツ語技能検定試験を受験すること。					
授業方法	2時間に1課のペースで進み、最初の1時間を文法説明、次の1時間を練習問題に当てる。【フィードバック方法】授業内で行う小テストを添削、採点したのちに返却する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		試験 70% 小テスト 10% 授業時発表 10% 授業参加度 10%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2012	同学社		『ドイツ語なんて怖くない』		西村祐子
	備考					
参考書	授業中に指示する					
オフィスアワー	授業講堂 月曜日17:50～19:40					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期範囲の文法事項を整理しておくこと（30分）
	授業内容	ガイダンス 前期の復習、前期試験の総評。
	事後学習	特に定冠詞の格変化をもう一度復習しておくこと。（30分）
2	事前学習	不定詞と定動詞の違いをもう一度確認すること。（30分）
	授業内容	第8課 話法の助動詞、命令法について。話法の助動詞の人称変化と様々な意味について学ぶ
	事後学習	課題に出された文章を話法の助動詞を使って書き換えてくること。（30分）
3	事前学習	教科書53ページを予習しておくこと。（30分）
	授業内容	第8課 練習問題 助動詞構文は枠構造になることを学ぶ。
	事後学習	課題に出された文章を命令法に書き換えてくること。（30分）
4	事前学習	教科書55～56ページの表と定冠詞類の表を比べてみること。（30分）
	授業内容	第9課 形容詞の用法。複合動詞について。分離動詞は一種の枠構造を形作ることを学ぶ。
	事後学習	与えられた分離動詞を使って文章を作ってみること。（30分）

5	事前学習	教科書59ページを予習しておくこと。（30分）
	授業内容	第9課 練習問題
	事後学習	よく出てくる分離動詞前つづりの意味に習熟すること。（30分）
6	事前学習	人称代名詞を復習しておくこと （30分）
	授業内容	第10課 再帰動詞・再帰代名詞、zu不定詞（句）について。「再帰」とは何かを学ぶ。
	事後学習	zu不定詞の様々な用法を整理しておくこと。（30分）
7	事前学習	教科書65ページを予習しておくこと。（30分）
	授業内容	第10課 練習問題 3人称だけは再帰代名詞がsichになることに注意して問題を解いていく
	事後学習	教科書60ページの再帰動詞を使って文章を作ってみること。（30分）
8	事前学習	教科書55～56ページの形容詞の用法について復習しておくこと （30分）
	授業内容	第11課 形容詞と副詞の比較級について。比較の様々な用法について学ぶ。
	事後学習	よく出てくる形容詞とその反対語を覚えること。（30分）
9	事前学習	教科書69ページを予習しておくこと。（30分）
	授業内容	第11課 練習問題 比較級・最上級が付加語的に使われた場合の語尾変化に注意して問題を解いていく
	事後学習	序数を覚えておくこと。（30分）
10	事前学習	現在人称変化を復習しておくこと （30分）
	授業内容	第12課 動詞の3基本形および過去人称変化。 3基本形とは何かについて学ぶ。
	事後学習	課題に出された動詞の3基本形、過去人称変化を練習しておくこと。（30分）
11	事前学習	教科書73ページを予習しておくこと。（30分）
	授業内容	第12課 練習問題 3基本形の作り方を復習しつつ問題を解いていく
	事後学習	規則動詞の3基本形のパターンを完全に覚えておくこと。（30分）
12	事前学習	habenおよびseinの現在人称変化を復習しておくこと （30分）
	授業内容	第13課 完了形の作り方とその用法。分詞について。完了形も枠構造になることを学ぶ。
	事後学習	課題に出された文章を現在完了形に書き換えてくること。（30分）
13	事前学習	教科書79ページを予習しておくこと。（30分）
	授業内容	第13課 練習問題 過去形との違いを確認しつつ問題を解いていく
	事後学習	完了形、話法の助動詞、分離動詞はすべて枠構造であることを理解すること。（30分）
14	事前学習	格変化に関係するもの（冠詞類、形容詞、前置詞）を特に整理しておくこと。（30分）
	授業内容	まとめ。
	事後学習	問題に出てくる単語の変化や性別を覚えておくこと。（30分）
15	事前学習	指定された範囲の文法事項を把握しておくこと （30分）
	授業内容	試験及び振り返り、まとめ
	事後学習	わからなかった問題を必ず確認して復習しておくこと （30分）

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	河田 一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業ではドイツ語の基礎文法を学び、ドイツ語検定試験受験も視野に入れて指導を行います。				
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語習得のモチベーションを高め、文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】ドイツ語検定5級合格のための基礎力を身に付け、6割以上の正解率を目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域6				
履修条件	ドイツ語が初めての場合は、そのほかの初級文法の授業も履修してください。				
授業方法	演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2 0 1 3	三修社		ドイツ語ルネサンス【第3版】	本郷、佐藤ほか
	備考				
参 考 書	必要に応じて紹介する。				
オフィスアワー	土曜14:30～ 授業終了後の講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の内容を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	話法の助動詞Ⅰ
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
2	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	話法の助動詞Ⅱ
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと（30分）。
3	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	形容詞
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
4	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	副詞
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）

5	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	分離動詞
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
6	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	動詞の3基本形と過去形
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
7	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	現在完了形
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
8	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	関係代名詞
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
9	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	受動態
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
10	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	zu不定詞
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
11	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	接続法
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
12	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	総合問題Ⅰ
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
13	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	総合問題Ⅱ
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
14	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	総合問題Ⅲ
	事後学習	授業内容を確認し、ポイントを整理しておくこと。（30分）
15	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容のまとめ。
	事後学習	心静かに、一年の学習を振り返る。（30分）

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	黒瀬 志保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の初級文法を学習する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】 ドイツ語の文章を理解し、運用するための基礎となる初級文法を習得することを目的とする。 【到達目標】 動詞・助動詞の変化と語順、関係代名詞など後半の初級文法を覚えて、ドイツ語の文を正しく理解し、また文を組み立てられるようになることを目標とする。それとともに、ドイツ語技能検定試験（独検）4級に合格する能力、および3級に合格するための基礎を身につけることも目標とする。				
履修条件	対応DP及びCP：外国語科目領域 6 特になし。 ドイツ語技能検定試験の受験を奨励する。				
授業方法	教科書に沿って文法説明をした後、練習問題を宿題とし、次の授業で確認する。発音練習も適宜行う。また、基本的な語形変化を覚えるための小テストも実施し、次の授業で返却を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	平常点（授業参加度、小テスト、独検）30%、授業内試験70%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019年	白水社	モルゲン 初級ドイツ語教室		吉原高志 中川浩
	備考				
参 考 書	授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	月曜14：30～ 授業終了後の講堂にて。 初回授業でメールアドレスを公開する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ドイツ語基礎文法Aの学習内容を復習しておく。（30分）
	授業内容	【ガイダンス】授業の進め方と注意事項を説明する。 【復習】練習問題でドイツ語基礎文法A学習事項の復習を行う。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
2	事前学習	教科書 3 4 ～ 3 5 ページを読んでくる。（30分）
	授業内容	【話法の助動詞】話法の助動詞、未来時制について学習する。
	事後学習	話法の助動詞の現在人称変化を暗記する。 教科書 3 7 ページの練習問題 1 ・ 3 を行う。（30分）
3	事前学習	教科書 3 6 ページを読んでくる。（30分）
	授業内容	【esの用法】注意すべきesの用法について学習する。
	事後学習	教科書 3 6 ページのミニ練習、3 7 ページの練習問題 2 を行う。（30分）
4	事前学習	教科書 3 8 ページを読んでくる。（30分）
	授業内容	【分離動詞と非分離動詞】分離動詞と非分離動詞について学習する。
	事後学習	教科書 4 1 ページの練習問題 1 を行う。（30分）

5	事前学習	教科書 3 9 ページを読んでくる。(30分)
	授業内容	【命令形】命令形について学習する。
	事後学習	教科書 4 1 ページの練習問題 2・4 を行う。(30分)
6	事前学習	教科書 4 0 ページを読んでくる。(30分)
	授業内容	【zu不定詞句】zu不定詞句について学習する。
	事後学習	教科書 4 1 ページの練習問題 3 を行う。(30分)
7	事前学習	教科書 4 2 ～ 4 3 ページを読んでくる。(30分)
	授業内容	【動詞の三基本形・過去形】動詞の三基本形、過去形について学習する。
	事後学習	教科書 4 2 ・ 4 3 ページのミニ練習、4 5 ページの練習問題 1 を行う。(30分)
8	事前学習	教科書 4 3 ～ 4 4 ページを読んでくる。(30分)
	授業内容	【現在完了形】現在完了形について学習する。
	事後学習	教科書 4 4 ページのミニ練習、4 5 ページの練習問題 2・3 を行う。(30分)
9	事前学習	教科書 4 8 ページを読んでくる。(30分)
	授業内容	【再帰代名詞と再帰動詞】再帰代名詞と再帰動詞について学習する。
	事後学習	再帰動詞に関する辞書記述を確認する。 教科書 4 8 ページのミニ練習、4 9 ページの練習問題 2・3・4 を行う。(30分)
10	事前学習	教科書 5 0 ページを読んでくる。(30分)
	授業内容	【接続詞】並列の接続詞と従属の接続詞について学習する。
	事後学習	教科書 5 3 ページの練習問題 1・2・4 (30分)
11	事前学習	教科書 4 6 ～ 4 7 ページを読んでくる。(30分)
	授業内容	【受動】受動について学習する。
	事後学習	教科書 4 6 ページのミニ練習、4 9 ページの練習問題 1 を行う。(30分)
12	事前学習	教科書 5 1 ～ 5 2 ページを読んでくる。5 2 ページのミニ練習の文を和訳し、名詞の性を調べてくる。(30分)
	授業内容	【関係代名詞】定関係代名詞と不定関係代名詞について学習する。
	事後学習	教科書 5 3 ページの練習問題 2 を行う。(30分)
13	事前学習	教科書 5 4 ～ 5 5 ページを読んでくる。(30分)
	授業内容	【接続法第 2 式】接続法第 2 式の形と用法を学習する。
	事後学習	教科書 5 5 ページのミニ練習、5 7 ページの練習問題を行う。(30分)
14	事前学習	教科書 5 6 ページを読んでくる。(30分)
	授業内容	【接続法第 1 式】接続法第 1 式の形を用法を学習する。
	事後学習	配布プリントを読んでおく。(30分)
15	事前学習	教科書 3 4 ～ 5 7 ページの総復習。(30分)
	授業内容	授業内試験および後期学習内容の振り返り。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。(30分)

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語を初めて学習する方を対象とした、初級文法の授業である。ドイツ語技能検定試験(独検)の5級と4級の出題内容を踏まえて、受験のアドバイスもする。				
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語文法の基礎を習得し、ドイツ語の文章を理解するための基本的な力を養成することを目的とする。 【到達目標】ドイツ語の初級文法を理解できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP:外国語科目領域6。				
履修条件	・1年生は「ドイツ語基礎表現」も今年度中に受講すること(私以外の先生の授業でもよい)。 ・原則、ドイツ語基礎文法Aと通年でこの授業を履修すること。				
授業方法	文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業内で実施した試験については、授業内で講評を述べる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価(授業参加度、授業内の試験等) 100%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016年	朝日出版社		ドイツ語の時間<話すための文法>(web練習問題付)	清野智昭
	備考	独和辞典を準備すること。授業で指示を聞いてから購入すること。			
参考書	授業では使用しないが、自習用問題集を必要とする場合には森泉『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』(ベレ書房、2006年)、単語集が必要な場合には在間進『新・独検合格 単語+熟語1800』(第三書房、2010年)を勧めたい。				
オフィスアワー	・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。 ・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。 ・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の学習内容について、あらためて十分に時間をかけて確認しておくこと。(30分)
	授業内容	前期の復習
	事後学習	理解が十分でないところを重点的に復習すること。(30分)
2	事前学習	前期に学習した動詞の人称変化の知識が必要になるため、よく復習しておくこと。(20分)
	授業内容	第7課② 分離動詞
	事後学習	分離動詞は英語に無い発想なので、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。(40分)
3	事前学習	前期に学習した動詞の現在人称変化について、もう一度確かめてから授業にのぞむこと。英語の助動詞がどうだったか、思い出しておくこと。(20分)
	授業内容	第7課③ 話法の助動詞
	事後学習	助動詞について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。(40分)
4	事前学習	配布する筆記試験の問題を自宅で解いてから授業に来ること。授業では筆記の解説とリスニングの問題を扱う予定である。(20分)
	授業内容	独検4級問題に挑戦
	事後学習	間違えた問題は、どうして間違えたか、よく検討すること。正解した問題についても、次に同じような問題が出て正解となるよう、繰り返し解いてみること。(40分)

5	事前学習	新たに学ぶ第8課の内容について、あらかじめ目を通しておくこと。(20分)
	授業内容	第8課① 三基本形、過去形
	事後学習	三基本形と過去形について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。(40分)
6	事前学習	三基本形について、よく復習してから授業にのぞむこと。また、第2課で学習したhabenとseinの現在人称変化も、この授業が始まる前までに、絶対に覚えておくこと。(20分)
	授業内容	第8課② 現在完了形
	事後学習	現在完了形について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。(40分)
7	事前学習	第2課で学習したwerdenの現在人称変化を、この授業が始まる前までに、絶対に覚えておくこと。過去分詞についての知識を整理しておくこと。(20分)
	授業内容	第8課③ 受動態
	事後学習	受動態について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。(40分)
8	事前学習	定冠詞(類)・不定冠詞(類)の格変化について、十分に復習してから授業に来ること。新たな学習事項について、少し目を通しておくことが望ましい。(20分)
	授業内容	第9課(前半) 形容詞の格変化
	事後学習	形容詞の表を見て格変化ができるように、ルールをよく復習しておくこと。(40分)
9	事前学習	前回学習した形容詞の格変化語尾について、復習しておくこと。新たな学習事項について、少し目を通しておくことが望ましい。(20分)
	授業内容	第9課(後半) 比較級と最上級
	事後学習	比較級と最上級について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。(40分)
10	事前学習	定冠詞の格変化を十分に復習してから授業にのぞむこと。新たに学ぶ関係代名詞について、少し目を通しておくことが望ましい。(20分)
	授業内容	第10課(前半) 関係代名詞
	事後学習	関係代名詞について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。(40分)
11	事前学習	過去形の作り方、過去形の人称変化について、復習しておくこと。新たに学ぶ接続法について、少し目を通しておくこと。(20分)
	授業内容	第11課 接続法(前半)
	事後学習	接続法について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。(40分)
12	事前学習	過去形の作り方、過去形の人称変化について、復習しておくこと。新たに学ぶ接続法について、少し目を通しておくこと。(20分)
	授業内容	第11課 接続法(後半)
	事後学習	接続法について、十分に復習すること。指示された宿題をしておくこと。(40分)
13	事前学習	これまでの学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。(20分)
	授業内容	これまでの学習内容の復習
	事後学習	理解が十分でないところを重点的に復習すること。(40分)
14	事前学習	これまでの学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。(50分)
	授業内容	理解度の確認と後期のまとめ
	事後学習	理解が十分でないところを重点的に復習すること。(10分)
15	事前学習	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。(30分)
	授業内容	前期・後期の復習、今後の学習について
	事後学習	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。今後のドイツ語の学習について、よく考え、計画を立てること。(30分)

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	佐藤 英	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語を初めて学ぶ学生が、ドイツ語文法の基礎を学習する授業である。授業では、ドイツ語技能検定試験(独検)の5級と4級の出題内容を踏まえて、受験のアドバイスも行う。			
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語文法の基礎知識を養成することを目的とする。 【到達目標】ドイツ語の初級文法を習得し、基本語彙も理解できるようになることを目標とする。関連DP及びCP:外国語科目領域6			
履修条件	・1年生は「ドイツ語基礎表現」も今年度中に受講すること。 ・この授業は原則としてドイツ語基礎文法Aと通年で履修すること。			
授業方法	文法事項の説明、問題練習、小テスト(単語テストを含む)、例文の音読、リスニングの練習などを行う。授業中に実施する試験については、授業内で講評を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価(授業参加度、授業内の試験等) 100%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年	白水社	ブロムナード やさしいドイツ語文法(改訂版)	荻野耕平ほか
	備考	今年度からテキストが改訂になるため、かならず大学の指定の書店で購入すること。Amazonで購入したものや、先輩から譲り受けたものは、授業で使用することはできない。		
参考書	『新・独検合格 単語+熟語1800』(第三書房、2010年)			
オフィスアワー	・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。 ・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。 ・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の学習内容について、あらためて十分に時間をかけて確認しておくこと。(30分)
	授業内容	前期の復習
	事後学習	理解が十分でないところを重点的に復習すること。(30分)
2	事前学習	第9課の学習事項について、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第9課 話法の助動詞
	事後学習	助動詞の変化表とそれぞれの機能について、十分に復習すること。(30分)
3	事前学習	第10課の動詞の3基本形について、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第10課 動詞の3基本形、過去形
	事後学習	動詞の3基本形について、十分に復習すること。(30分)
4	事前学習	前回の学習事項を復習しておくこと。第10課の過去形について、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第10課 動詞の3基本形、過去形
	事後学習	第10課の学習内容について、十分に復習すること。(30分)

5	事前学習	第10課の動詞の3基本形について復習しておくこと。第11課の現在完了形について、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第11課 現在完了形、受動文
	事後学習	現在完了形について、十分に復習すること。(30分)
6	事前学習	第10課の現在完了形について復習しておくこと。第11課の受動文について、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第11課 現在完了形、受動文
	事後学習	第11課の学習内容について、十分に復習すること。(30分)
7	事前学習	前期で学習した第3課と第4課の復習をしておくこと。第12課の形容詞について、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第12課 形容詞、比較表現
	事後学習	形容詞の格変化について、一覧表の使い方がわかるようにしておくこと。(30分)
8	事前学習	第12課の比較表現について、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第12課 形容詞、比較表現
	事後学習	第12課の学習内容について、十分に復習すること。(30分)
9	事前学習	第13課の再帰代名詞について、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第13課 再帰代名詞、zu不定詞
	事後学習	再帰代名詞について、十分に復習すること。(30分)
10	事前学習	第13課のzu不定詞について、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第13課 再帰代名詞、zu不定詞
	事後学習	第13課の学習内容について、十分に復習すること。期末テストに備えて、第8課から第12課の学習内容についても、復習すること。(30分)
11	事前学習	第14課の関係代名詞について、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第14課 関係代名詞、接続法
	事後学習	関係代名詞について、十分に復習すること。期末テストに備えて、第8課から第13課の学習内容についても、復習すること。(30分)
12	事前学習	第14課の接続詞について、少し目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第14課 関係代名詞、接続法
	事後学習	第14課の学習内容について、十分に復習すること。期末テストに備えて、第8課から第13課の学習内容についても、復習すること。(30分)
13	事前学習	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。(30分)
	授業内容	これまでの復習
	事後学習	理解が十分でないところを重点的に復習すること。(30分)
14	事前学習	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。(30分)
	授業内容	理解度の確認と後期学習内容の振り返り
	事後学習	理解が十分でないところを重点的に復習すること。(30分)
15	事前学習	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認すること。(30分)
	授業内容	後期の復習と今後のドイツ語学習について
	事後学習	今後のドイツ語の学習計画についてよく考えること。(30分)

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	初級ドイツ語のインテンシブ・クラスです。在学中のドイツ語圏への短期研修・長期留学・将来 ドイツ語で仕事をする ことを目指している学生さんを対象とします。 ドイツ語通訳・翻訳経験、及びオーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験試験官の経験を授業に反映させて行きたいと 思っております。				
授業目的・ 到達目標	ドイツ語の基礎文法とそれに合わせた読解能力の養成が目的です。 CEFR A1からA2レベル、独検 4 級から 3 級を取得できることが到達目標です。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	木曜 1 時限目ドイツ語基礎表現B（真道）を同時に受講すること。 授業に積極的に参加すること。 木曜 1 時限目ドイツ語基礎表現B（真道）に登録すると、自動的に本授業に登録されます。				
授業方法	文法説明はできるだけわかりやすくします。練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できる ようにしてゆきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。フィードバックは授業内において行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	検定試験の結果及び授業内試験50%、提出物20%、小テスト30%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2008	同学社		ドイツ文法・1 0 0 語の世界	清水 薫
	2005	cornelsen		studio d A1 Kurs- und Übungsbuch ISBN: 978-3464207079	Hermann Funk
	備考	ドイツ語1（木1）と共通教科書です。			
参 考 書	独和辞典（授業中に説明します） その他の参考書については、授業中に紹介します。				
オフィス アワー	火曜日 昼休み 研究室（4号館424研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp） 授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス確認 （30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	教材準備 （30分）
2	事前学習	CD確認 アルファベート予習 （30分）
	授業内容	アルファベート Start auf Deutsch
	事後学習	アルファベート・発音復習 （30分）
3	事前学習	文法事項確認 （30分）
	授業内容	1課 規則的に人称変化する動詞 Lektion 1 Café d 1
	事後学習	1課 / Lektion 1練習問題 （30分）
4	事前学習	小テスト準備 （30分）
	授業内容	小テスト1 2課 文を作る Lektion 1 Café d 3
	事後学習	2課 / Lektion 1 練習問題 （30分）

5	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト3 3課 名詞の性と格(1格・4格) seinとhaben Lektion 2 Im Sprachkurs 1
	事後学習	3課 / Lektion 2 練習問題 (30分)
6	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト5 4課 不規則に変化する動詞1 名詞の格(2格・3格) Lektion 2 Im Sprachkurs 3
	事後学習	4課 / Lektion 2 練習問題 (30分)
7	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト7 5課 冠詞類 不規則に人称変化する動詞2 Lektion 3 Städte- Länder- Sprachen 1
	事後学習	5課 / Lektion 3 練習問題 (30分)
8	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト9 6課 複数形 人称代名詞 Lektion 3 Städte- Länder- Sprachen 3
	事後学習	6課 /Lektion 3 練習問題 (30分)
9	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト11 7課 前置詞 Lektion 4 Menschen und Häuser 1
	事後学習	7課 / Lektion 4 練習問題 (30分)
10	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト13 8課 話法の助動詞 未来形 Lektion 4 Menschen und Häuser 3
	事後学習	8課 / Lektion 4 練習問題 (30分)
11	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト15 9課 形容詞の格語尾 序数 Lektion 5 Termine 2
	事後学習	9課 / Lektion 5 練習問題 (30分)
12	事前学習	小テスト準備 (30分)
	授業内容	小テスト17 10課 比較級 非人称表現 不定代名詞 6 Orientierung 1
	事後学習	10課 / Lektion 6 練習問題 (30分)
13	事前学習	文法・語彙復習 (30分)
	授業内容	文法まとめ 6 Orientierung 3
	事後学習	Lektion 6 練習問題 (30分)
14	事前学習	学期末試験準備 (30分)
	授業内容	学期末試験 筆記試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	自己評価 (30分)
15	事前学習	学期末試験準備 (30分)
	授業内容	学期末試験 口述試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	自己評価 (30分)

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語基礎文法の習得と独検 5 級及び 4 級対策					
授業目的・到達目標	初級ドイツ文法の習得。 前期は独検 5 級、後期は4級から 3 級レベルのドイツ語能力の養成を目的とします。 簡単な日常会話の練習をしてゆく中で、基礎文法の応用ができるようになること、ドイツを読んで基礎文法について説明ができるようになることが目標です。					
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域 6 ドイツ語基礎表現ABを同時に受講すること。					
授業方法	文法説明はできるだけわかりやすくします。練習問題、会話練習等を行いながら、実際に学んだ文法の知識を実践できるようにしていきます。参加型授業です。ほぼ毎回小テストを行います。フィードバックは授業内において行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		試験50% 検定試験結果は加点します 平常点(授業参加態度、提出物、小テスト)50%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2008	同学社		ドイツ文法・100語の世界		清水 薫
	備考					
参考書	独和辞典（授業中に説明します） その他の参考書については、授業中に紹介します。					
オフィスアワー	火曜日 昼休み 研究室（4号館424研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp） 授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス確認 文法・語彙復習 （30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	教材準備 文法・語彙復習 （30分）
2	事前学習	独検 4 級過去問 （1 時間）
	授業内容	独検 4 級過去問解説 Lektion 9 形容詞の格語尾 序数
	事後学習	Lektion 9 練習問題 （30分）
3	事前学習	小テスト13試験準備 （30分）
	授業内容	小テスト13 Lektion 10 比較変化
	事後学習	Lektion 10 練習問題 （30分）
4	事前学習	小テスト14試験準備 （30分）
	授業内容	小テスト14 Lektion 10 非人称表現 不定代名詞
	事後学習	Lektion 10 練習問題 （30分）

5	事前学習	小テスト15試験準備（30分）
	授業内容	小テスト15 Lektion 11 時刻 分離動詞
	事後学習	Lektion 11 練習問題（30分）
6	事前学習	小テスト16試験準備（30分）
	授業内容	小テスト16 Lektion 11 非分離動詞
	事後学習	Lektion 11 練習問題（30分）
7	事前学習	小テスト17試験準備（30分）
	授業内容	小テスト17 Lektion 12 再帰動詞
	事後学習	Lektion 12 練習問題（30分）
8	事前学習	小テスト18試験準備（30分）
	授業内容	小テスト18 Lektion 12 接続詞
	事後学習	Lektion 12 練習問題（30分）
9	事前学習	小テスト19試験準備（30分）
	授業内容	小テスト19 Lektion 13 動詞の3基本形 過去人称変化
	事後学習	Lektion 13 練習問題（30分）
10	事前学習	小テスト20試験準備（30分）
	授業内容	小テスト20 Lektion 14 完了形 zu不定詞
	事後学習	Lektion 14 練習問題（30分）
11	事前学習	小テスト21試験準備（30分）
	授業内容	小テスト21 Lektion 15 受動 分詞
	事後学習	Lektion 15 練習問題（30分）
12	事前学習	小テスト22試験準備（30分）
	授業内容	小テスト22 Lektion 16 関係代名詞 指示代名詞
	事後学習	Lektion 16 練習問題（30分）
13	事前学習	小テスト23試験準備（30分）
	授業内容	小テスト23 Lektion 17 接続法
	事後学習	Lektion 17 練習問題（30分）
14	事前学習	小テスト24試験準備（30分）
	授業内容	小テスト24 総まとめ
	事後学習	文法・語彙復習（1時間）
15	事前学習	試験準備（1時間）
	授業内容	試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	自己評価（15分）

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	鈴木 満	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「理解力」「暗記」「継続」の大切さを確認しながらドイツ語を学びます。			
授業目的・到達目標	ドイツ語圏の文化を客観的に調べ、理解し、説明する力の養成を目的とします。 ドイツ語を読み・書き・聞き・話すための基礎力の養成、特に「正確に書くこと」、およびドイツ語検定試験４級に合格できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域６			
履修条件	特になし。			
授業方法	授業中に説明・解説、必要に応じて演習（練習問題）をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価（授業参加度、授業内試験）が１００パーセントです。 私語が多い、辞書がない、復習が著しく不十分、不正行為があった場合などは授業内試験の受験資格を失います。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	白水社	ブロムナード やさしいドイツ語文法 【改訂版】	荻原耕平 山崎泰孝
	備考			
参考書	授業では使用しませんが、必要だと思う人は各自用意してください。			
オフィスアワー	授業時間（木曜３限・４限・５限）後の休み時間、講堂にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の学習事項を見直しておく（45分）
	授業内容	後期ガイダンス 前期学習事項の復習
	事後学習	発音（単語の読み方）、定冠詞・不定冠詞、sein / haben の変化などを覚えなおす。（15分）
2	事前学習	前回の学習事項の復習（15分）
	授業内容	分離動詞・非分離動詞 従属接続詞 前回授業の復習
	事後学習	2回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
3	事前学習	授業2回目の復習（15分）
	授業内容	話法の助動詞 前回までの授業の復習
	事後学習	3回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
4	事前学習	授業2回目～3回目の復習（15分）
	授業内容	未来推量の助動詞 前回までの授業の復習
	事後学習	4回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）

5	事前学習	授業2回目～4回目の復習（15分）
	授業内容	3基本形（前期の続き） 前回までの授業の復習
	事後学習	5回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
6	事前学習	授業2回目～5回目の復習（15分）
	授業内容	過去形 前回までの授業の復習
	事後学習	6回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
7	事前学習	授業2回目～6回目の復習（15分）
	授業内容	現在完了形 前回までの授業の復習
	事後学習	7回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
8	事前学習	授業2回目～7回目の復習（15分）
	授業内容	受動文 前回までの授業の復習
	事後学習	8回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
9	事前学習	授業2回目～8回目の復習（15分）
	授業内容	形容詞の変化 前回までの授業の復習
	事後学習	9回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
10	事前学習	授業2回目～9回目の復習（15分）
	授業内容	比較表現 前回までの授業の復習
	事後学習	10回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
11	事前学習	授業2回目～10回目の復習（15分）
	授業内容	再帰表現 前回までの授業の復習
	事後学習	11回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
12	事前学習	授業2回目～11回目の復習（15分）
	授業内容	zu 不定詞 前回までの授業の復習
	事後学習	12回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
13	事前学習	授業2回目～12回目の復習（15分）
	授業内容	関係代名詞 前回までの授業の復習
	事後学習	13回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
14	事前学習	授業2回目～13回目の復習（45分）
	授業内容	授業内試験。試験の解説。
	事後学習	自分の苦手な事項の復習（15分）
15	事前学習	これまでの授業の総復習（30分）
	授業内容	接続法 これまでの授業で触れなかった参考事項の紹介。 場合によっては追試験を実施。
	事後学習	興味のわいた参考事項についての自主学習（30分）

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語検定試験等の資格試験を受験するための基礎固めをします。CDを聞いて正しく発音し、必要な表現を多く覚え ます。文法項目をいくつか理解したのち、まとまった文章を読んで、ドイツ語圏の社会生活や日本との相違について理解、 考察します。キーセンテンスを覚えて、基本的なコミュニケーションの練習をします。					
授業目的・ 到達目標	【授業目的】独検等の資格試験に必要な読解力、文法力、聞き取り力を養成することを目的としています。 【到達目標】基礎総合力を身につけ、独検4級に合格できることを目標とします。 関連DPおよびCP：外国語科目領域6					
履修条件	特になし					
授業方法	CDを用いた演習方式。提出物は次の授業で返却し、講評を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		平常評価（授業参加度、提出物、学期末試験等）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016年	三修社		CD付き 気分はドイツ		本郷建治、佐藤 彰、他
	備考					
参 考 書	使用しない					
オフィス アワー	木曜日17時50分～18時20分、授業講堂					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスと第9課「現在完了形」の42頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	ガイダンス（授業の進め方等について説明する。） habenを使った現在完了形について理解し、文を作ることができる。
	事後学習	キーセンテンスの会話を暗記する。（30分）
2	事前学習	43頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	seinを使った現在完了形について理解し、文を作ることができる。
	事後学習	学習した例文をおさらいし、過去分詞を暗記する。（30分）
3	事前学習	44頁の問題を解いてくる。（35分）
	授業内容	過去形と現在完了形の両方が用いられる会話を理解し、コミュニケーションをとることができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（25分）
4	事前学習	第10課「分離動詞」の48頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	分離動詞を用いた構文について理解し、辞書を引いて調べることができる。
	事後学習	学習した例文を音読する。（30分）

5	事前学習	49頁の練習問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	乗り物を使って目的地まで行くためのコミュニケーションが取れるようになる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
6	事前学習	第11課「形容詞」の50～52頁を読んで、53頁の問題を解いてくる。（35分）
	授業内容	形容詞の付加語的用法と比較変化について理解し、正しい形容詞の形にすることができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。50～51頁の表を使って冠詞の復習をする。（25分）
7	事前学習	第12課「再帰動詞、非人称構文」の54～55頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	再帰代名詞を使った再帰動詞について理解し、辞書で調べることができる。
	事後学習	再帰代名詞の格変化を暗記する。（30分）
8	事前学習	56頁の練習問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	esを用いた非人称表現について理解し、熟語として使うことができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
9	事前学習	第13課「関係代名詞」の57頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	定関係代名詞について理解し、適切な形にして用いることができる。
	事後学習	学習したことをおさらいし、57頁の表を暗記する。
10	事前学習	58頁の練習問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	不定関係代名詞について理解し、適切な和訳をすることができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
11	事前学習	第14課「受動」の59～60頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	受動の構文について理解し、時制（時称）を区別することができる。
	事後学習	配布プリントで、受動の助動詞の時制を復習する。（30分）
12	事前学習	61頁の練習問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	窓口でチケットを購入する時の会話を聞いて、その内容を理解することができる。
	事後学習	過去分詞のおさらいをする。62～63頁を読んで、ウィーンのカフェ文化について学ぶ。
13	事前学習	第15課「接続法」の64～66頁を読み、67頁の問題を解いてくる。（35分）
	授業内容	接続法の作り方と用法について理解し、その用法に応じて適切な和訳をすることができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（25分）
14	事前学習	第16課「分詞、zu不定詞」の68頁を読み、69頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	分詞の形容詞的及び副詞的用法と、zu不定詞について理解し、説明することができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
15	事前学習	テキストの総復習。（40分）
	授業内容	後期学習内容の振り返り、授業内試験及び講評。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（20分）

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	森田 悟	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の基礎を学び、あわせてドイツの文化について知ることができる。			
授業目的・到達目標	授業目的：ドイツ語の基礎能力を養成することを目的にする。 到達目標：ドイツ文法の後半部分について理解し、利用できること。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	学部の規定による。			
授業方法	講義形式ですが、毎回練習や質問ができるようにしたいと思います。フィードバックは授業内において行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	平常授業の学習、授業内試験の結果で評価します。原則として80パーセン以上の出席も必要です。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	白水社	ブロムナードやさしいドイツ語文法	萩原耕平、山崎泰孝
	備考			
参考書	辞書、参考書等は必要に応じて指示します。			
オフィスアワー	授業終了後（火曜21：10～）ただし、できる限り事前に申し出ること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	後半の学習のためのガイダンス、前半の確認
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
2	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	前半の学習の確認
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
3	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	分離動詞、接続詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
4	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	動詞の3基本形、過去
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）

5	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	動詞の3基本形、過去
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
6	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	現在完了、受動
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
7	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	現在完了、受動
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
8	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	形容詞、比較
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと
9	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	形容詞、比較
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
10	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	再帰代名詞、zu不定詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
11	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	再帰代名詞、zu不定詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
12	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	関係代名詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
13	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	接続法
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
14	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	授業内試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
15	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	これまでの学習の確認と補充
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	森田 悟	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の基礎を学び、あわせてドイツの文化について知ることができる。			
授業目的・到達目標	授業目的：ドイツ語の基礎能力を養成することを目的にする。 到達目標：ドイツ文法の後半部分について理解し、利用できること。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	学部の規定による。			
授業方法	講義形式ですが、毎回練習や質問ができるようにしたいと思います。フィードバックは授業内において行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験			
	平 常 評 価		100%	平常授業の学習、授業内試験の結果で評価します。原則として80パーセン以上の出席も必要です。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	白水社	ブロムナードやさしいドイツ語文法	萩原耕平、山崎泰孝
	備考			
参 考 書	辞書、参考書等は必要に応じて指示します。			
オフィスアワー	授業終了後（火曜19：30～）ただし、できる限り事前に申し出ること			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	後半の学習のためのガイダンス、前半の確認
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
2	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	前半の学習の確認
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
3	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	分離動詞、接続詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
4	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	動詞の3基本形、過去
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）

5	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	動詞の3基本形、過去
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
6	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	現在完了、受動
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
7	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	現在完了、受動
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
8	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	形容詞、比較
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
9	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	形容詞、比較
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
10	事前学習	新しい単語等を調べておくこと
	授業内容	再帰代名詞、zu不定詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと
11	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	再帰代名詞、zu不定詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
12	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	関係代名詞
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
13	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	接続法
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
14	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	授業内試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
15	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	これまでの学習の内容の確認と補充
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	山崎 良介	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	基本的なドイツ語文法の知識を体系的に概観しながら、簡単な表現を自分のことばとして確実に学習できるようにする。表現練習を通じて、学習した文法事項を実践的な表現力として生かせるようにする。					
授業目的・到達目標	ドイツ語文法を基礎に「読む」「書く」「聞く」「話す」「感じる」の5技能を総合的に学習し、ドイツ語・ドイツ語圏の文化について理解を深める。確かなドイツ語文法力を身につけることを目的とする。それに基づきドイツ語技能検定試験（「独検」）4級以上に合格できるようになることを目標とする。					
履修条件	特になし					
授業方法	テキストと授業中に配布するプリントを使って、できるだけ分かりやすく、丁寧に進めていきます。授業のための積極的な学習が必要です。「検定試験対策」も行います。宿題（レポート）は添削してお返しします。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業内試験 80% レポートと小テスト 20%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2015年	郁文堂		身につくドイツ文法<Leicht>		前田良三・高木葉子
	備考					
参考書	適宜紹介する。					
オフィスアワー	授業内で質問を受け付ける。（授業時間：水曜2・3限） yamazaki.ryosuke@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前学期の学習内容を総復習する。（30分）
	授業内容	過去問による「検定試験対策」（20分）Lektion 8 分離動詞と非分離動詞・接続詞について理解し説明できる。分離動詞の構文と用法を理解し説明できる。プリント配布。
	事後学習	授業内で配布されたプリントの練習問題を解いてみる。（30分）
2	事前学習	付録のCD（51頁）を聞き、練習問題を解いてみる。（30分）
	授業内容	「検定試験対策」（20分）Lektion 8 分離動詞と非分離動詞・接続詞について理解し説明できる。テキスト（52～55頁）の問題を解いて説明する。プリントの問題を解説する。
	事後学習	分離動詞と非分離動詞・接続詞の用法を理解する。（30分）
3	事前学習	プリント問題の小テストのための学習。（30分）
	授業内容	小テスト（7分）「検定試験対策」（20分）復習 Lektion 9 動詞の三基本形・過去人称変化について理解し説明できる。プリント配布。プリントの問題を解く。
	事後学習	テキスト（58～59頁）の問題を解いてみる。（30分）
4	事前学習	プリントの問題を理解し、練習の問題を解いてみる。（30分）
	授業内容	「検定試験対策」（20分）復習 Lektion 10 現在完了・再帰表現について理解し説明できる。プリント配布。
	事後学習	プリントの問題を解いてみる。（30分）

5	事前学習	テキスト（65～66頁）の問題を解いてみる。（30分）
	授業内容	プリントの問題解説。（10分）「検定試験対策」（20分）復習 Lektion 11 形容詞の格変化について理解し説明できる。
	事後学習	プリントの問題を解いてみる。（30分）
6	事前学習	テキスト（69～71頁）の問題を解いてみる。（30分）
	授業内容	「検定試験対策」（20分）復習 Lektion 11 形容詞の格変化について理解し説明できる。序数詞について理解し説明できる。
	事後学習	形容詞の格変化を暗記する。（30分）
7	事前学習	プリントの問題を解いてみる。（30分）
	授業内容	「検定試験対策」（20分）復習 Lektion 12 形容詞と副詞の比較表現・zu不定詞について理解し説明できる。テキスト（74～77頁）の問題を解いて説明する。プリント配布。
	事後学習	付録のCDで（78頁）を聞き、ドイツのいろいろな祝日を理解する。（30分）
8	事前学習	プリントの問題を解いてみる。（30分）
	授業内容	「検定試験対策」（20分）復習 Lektion 13 関係代名詞・指示代名詞について理解し説明できる。テキスト（80～81頁）の問題を解く。
	事後学習	定関係代名詞と指示代名詞の格変化を暗記する。（30分）
9	事前学習	プリントの問題を解いてみる。（30分）
	授業内容	「検定試験対策」（20分）復習 Lektion 13 関係代名詞・指示代名詞について理解し説明できる。テキスト（81～82頁）の問題を解く。プリント配布。
	事後学習	プリントの問題を解いてみる。（30分）
10	事前学習	付録のCDを聞き、練習問題をやっておくこと。
	授業内容	「検定試験対策」（20分）復習 Lektion 14 受動態について理解し説明できる。英語の受動態を例にあげ比較する。テキスト（84～85頁）の問題を解く。プリント配布。
	事後学習	プリントの問題を解いてみる。（30分）
11	事前学習	付録のCD（83～84頁）を聞き、練習問題を解いてみる。（30分）
	授業内容	復習 Lektion 14 受動態について理解し説明できる。プリント配布。
	事後学習	プリントの問題を解いてみる。（30分）
12	事前学習	プリントの問題を解いてみる。（30分）
	授業内容	復習 Lektion 15 接続法について理解し説明できる。プリント配布。英語の仮定法を例にあげ比較する。
	事後学習	テキスト（89～90頁）の練習問題を解いてみる。（30分）
13	事前学習	間接話法と直接話法の動詞の人称変化の違いを覚える。（30分）
	授業内容	復習 Lektion 15 接続法について理解し説明できる。これまで学習した総復習のプリント配布。
	事後学習	プリントの問題を解いてみる。（30分）
14	事前学習	これまで学習してきたことを総復習。（30分）
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（30分）
15	事前学習	テキストとプリントの総復習。（30分）
	授業内容	授業内試験の解説と振り返り。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（30分）

科目名	ドイツ語基礎文法B	担当者	渡邊 善和	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期の成果をもとにドイツ語の初歩的語学力が習得できたと得心できるように、言語的4技能の個別的、総合的鍛錬を続ける。テキストのみならず、視聴覚教材などの補助教材をフルに利用して授業を活性化していく。また終了時点で次の段階(ドイツ語科目、専門科目、他の一般教養科目など)へのステップアップへの意欲の促進を図る。				
授業目的・到達目標	ドイツ語の初歩的語学力を、言語的4技能（読む、書く、聞く、話す）を通じてさらに総合的に養成することを目的とする。 一年間の学習終了時に達成感を感じ、次のドイツ語のステップへの自信、意欲が湧き上がってくるようになることを目標とする。 関連D PおよびC P 番号：6				
履修条件	学習にあたっては、謙虚に、しかし好奇心は旺盛に、そして自発的にこつこつと学んでいく姿勢を期待する。途中で放棄しそうな人は受講を遠慮して欲しい。				
授業方法	テキストに沿って講義、演習をする。毎回復習を繰り返し、既習の内容の定着を図る。授業は拙速に進めることなく、解説、指導は丁寧にする。ドイツおよびドイツ語に関わる、DVDをはじめ多様な視聴覚教材を活用する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義の理解度、初歩的ドイツ語運用力を筆記試験で評価する。（80%）また数回のレポート（10%）、平常点（授業への参加度など）（10%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	平成31年度	同学社		『ベルリンに夢中』	石井学他
	備考				
参考書	中型の独和辞典以外特に用意する必要はない。参考書は要望があれば折に触れて紹介する。				
オフィスアワー	木曜日（8：30～8：50分）10号館2階講師室。また特に要望のある学生にはメールでの質問にも対応する				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスおよび指定テキストを読み講義の全体を概観しておく。（30分）
	授業内容	授業ガイダンス、「ドイツ」、「ドイツ語」を前期とは違った角度から概観。
	事後学習	この授業の内容を踏まえて再度上記のテキストを読み直す。（30分）
2	事前学習	テキストの指定されたページを精読してくる。（30分）
	授業内容	ドイツ語のアルファベットと単語の発音の解説と練習 C D を活用
	事後学習	授業の内容の復習。(発音は声を出して練習する)（30分）
3	事前学習	再度発音練習をする（綴りとの関わりを意識する）（30分） C D を活用
	授業内容	前回の総復習（一人ずつ発音）
	事後学習	発音の総まとめ的練習をする。（しっかり声を出して）（30分）
4	事前学習	テキストの指定されたページを精読してくる。（30分）
	授業内容	第7課 分離動詞、非分離動詞、接続詞の解説および関連練習問題をやる。 ベルリン紹介D V D 7
	事後学習	授業の内容の復習および練習問題ページの予習（30分）

5	事前学習	テキストの指定されたページを精読してくる。（３０分）	
	授業内容	第７課 練習問題ページと会話文を訳す。 第８課 話法の助動詞、未来時制の解説と関連する練習問題をする。	ベルリン紹介DVD 8 8
	事後学習	授業の内容の復習および練習問題ページの予習（３０分）	
6	事前学習	テキストの指定されたページの精読をしてくる。（３０分）	
	授業内容	第８課 練習問題ページと会話文の訳をする。 第９課 動詞の３基本形、過去の解説と関連練習問題をする。	ベルリン紹介DVD 9
	事後学習	授業の内容の復習および練習問題の予習（３０分）	
7	事前学習	テキストの指定されたページを精読してくる。（３０分）	
	授業内容	第９課 練習問題ページと会話文の訳をする。 第１０課 現在完了の解説と関連練習問題をする。	ベルリン紹介DVD 10
	事後学習	授業の内容の復習および練習問題の予習（３０分）	
8	事前学習	テキストの指定されたページを精読してくる。（３０分）	
	授業内容	第１０課 練習問題のページと会話文の訳をする。 第１１課 形容詞の解説と関連練習問題をする。	ベルリン紹介DVD 11
	事後学習	授業の内容の復習および練習問題の予習（３０分）	
9	事前学習	テキストの指定されたページを精読してくる。（３０分）	
	授業内容	第１１課 練習問題ページと会話の文の訳をする。 第１２課 受動態、再帰動詞の解説と関連練習問題をする。	ベルリン紹介DVD 12
	事後学習	授業の内容の復習および練習問題の予習（３０分）	
10	事前学習	テキストの指定されたページを精読してくる。（３０分）	
	授業内容	第１２課 練習問題ページと会話の文の訳をする。	
	事後学習	これまでの総復習（３０分）	
11	事前学習	ドイツの映画について文献で調べる。（３０分）	
	授業内容	ドイツ映画鑑賞	
	事後学習	映画の感想をメモする。（３０分）	
12	事前学習	この映画の背景、監督の意図などについて調べる。（３０分）	
	授業内容	ドイツ映画鑑賞（続き）＋「ヨーロッパのクリスマス」を紹介する短篇DVD鑑賞	
	事後学習	映画の感想の整理、提出（３０分）	
13	事前学習	後期の範囲(前半)の総復習 1（自主的に）（３０分）	
	授業内容	後期の範囲(前半)の総復習 1（教員）	
	事後学習	総復習(前半)の内容の確認（３０分）	
14	事前学習	後期の範囲(後半)の総復習 2（自主的に）（３０分）	
	授業内容	後期の範囲(後半)の総復習 2（教員）	
	事後学習	総復習(後半)の内容の確認（３０分）	
15	事前学習	後期の範囲の徹底的復習（３０分）	
	授業内容	学期末学力考査及びまとめ、振返り	
	事後学習	学力考査の反省（３０分）	

科目名	ドイツ語演習A	担当者	黒瀬 志保	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の初級文法を学び直し、「読む、書く、話す、聞く」という4技能の練習を行う。				
授業目的・到達目標	【授業目的】初級文法を復習し、ドイツ語を読む、書く、話す、聞くという4技能へと応用できる力を養成することを目的とする。 【到達目標】ドイツ語を正しく発音でき、聞き取ることができるようになること、辞書を引きながらドイツ語の文章を正確に理解できるようになること、簡単な作文ができるようになること、ドイツ語技能検定試験（独検）4級・3級に合格できることを目標とする。				
履修条件	対応基礎文法・初級文法・ドイツ語技能検定3級あるいは初級文法の知識を必要とする。 ドイツ語技能検定試験の受験を奨励する。				
授業方法	教科書に沿って、文法説明、練習問題、発音練習、テキスト読解、作文を行う。理解度を確認するための小テストも適宜実施し、次の授業で返却を行う。必要に応じて独検対策も行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常点（授業参加度、小テスト、独検）40%、授業内試験60%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019年	同学社	ドイツ語の広場		清野智昭
	備考				
参考書	授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	月曜19：30～ 授業終了後の講堂にて。 初回授業でメールアドレスを公開する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体を概観する。 これまでに学習したドイツ語を復習しておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方と注意事項を説明する。 Lektion 1 挨拶とアルファベートの発音練習を行う。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 挨拶とアルファベートの発音練習と教科書3ページの練習を行う。（30分）
2	事前学習	教科書4～5ページを見ながら、音声を聞いてくる。（30分）
	授業内容	Lektion 1 発音をつづりの読み方のポイントを理解し、発音できる。
	事後学習	教科書4～6ページの発音練習を行い、6ページの問いに答える。（30分）
3	事前学習	教科書7ページの音声を聞いてくる。 教科書8～9ページの問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	Lektion 2 動詞の現在人称変化について理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
4	事前学習	教科書10～11ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	Lektion 2 動詞の現在人称変化について理解し、それに対応するテキストを読解でき、作文できる。
	事後学習	教科書10～12ページの発音練習を行い、12ページの問いに答える。（30分）

5	事前学習	教科書 1 3 ～ 1 5 ページの問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Lektion 3 sein と haben の現在人称変化について理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
6	事前学習	教科書 1 6 ～ 1 7 ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Lektion 3 sein と haben の現在人称変化について理解し、それに対応するテキストを読解でき、作文できる。
	事後学習	教科書 1 6 ～ 1 7 ページの発音練習を行い、1 8 ページの問題を解く。(30分)
7	事前学習	教科書 1 9 ～ 2 1 ページの問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Lektion 4 名詞の性、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の 1 格と 4 格、名詞の複数形について理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
8	事前学習	教科書 2 2 ～ 2 3 ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Lektion 4 名詞の性、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の 1 格と 4 格、名詞の複数形について理解し、それに対応するテキストを読解でき、作文できる。
	事後学習	教科書 2 2 ～ 2 3 ページの発音練習を行い、2 4 ページの問題を解く。(30分)
9	事前学習	教科書 2 5 ページの音声を聞いてくる。 教科書 2 6 ～ 2 7 ページの問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Lektion 5 不規則動詞、名詞の 3 格、所有冠詞について理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
10	事前学習	教科書 2 8 ～ 2 9 ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Lektion 5 不規則動詞、名詞の 3 格、所有冠詞について理解し、それに対応するテキストを読解でき、会話ができる。
	事後学習	教科書 2 8 ～ 2 9 ページの発音練習を行い、3 0 ページの問題を解く。(30分)
11	事前学習	教科書 3 1 ページの音声を聞いてくる。 教科書 3 2 ～ 3 3 ページの問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Lektion 6 前置詞について理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
12	事前学習	教科書 3 4 ～ 3 5 ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Lektion 6 前置詞について理解し、それに対応するテキストを読解でき、会話や作文ができる。
	事後学習	教科書 3 4 ～ 3 5 ページの発音練習を行い、3 6 ページの問題を解く。(30分)
13	事前学習	教科書 3 7 ～ 3 9 ページの問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Lektion 7 人称代名詞の 3 ・ 4 格、再帰代名詞と再帰動詞について理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
14	事前学習	教科書 4 1 ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。 教科書 4 2 ページの問題を解いてくる。(30分)
	授業内容	Lektion 7 人称代名詞の 3 ・ 4 格、再帰代名詞と再帰動詞について理解し、それに対応するテキストを読解でき、問題を解答できる。 時刻の表現を理解し、それに対応する聴き取りや会話ができる。
	事後学習	教科書 4 0 ～ 4 1 ページの発音練習を行う。間違えた箇所の問題を解き直す。(30分)
15	事前学習	教科書 1 ～ 3 6 ページの総復習。(30分)
	授業内容	授業内試験および前期学習内容の振り返り。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。(30分)

科目名	ドイツ語演習A	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語圏へ短期及び長期留学を希望している、あるいは仕事でドイツ語を使うことを目標にしている学生さん対象のインテンシブクラスです。 月曜1時間目ドイツ語スピーキング・リスニングⅢ（レントス先生）と同一教科書を用いたペア授業です。 アクティブ・ラーニング方式を用い、学生さんの到達度に合わせて授業を進めてゆきます。					
授業目的・到達目標	CEFR B1レベルのドイツ語長文読解と作文ができる力を養成することを目的とします。 独検3級から2級、CEFRA2からB1資格が取得できることが目的です。 関連DP及びCP：外国語科目領域1、3、6					
履修条件	ドイツ語基礎表現AB及びドイツ語基礎文法ABを履修していること。あるいは、独検4級及びCEFRA1レベル以上のドイツ語力を有していること。					
授業方法	参加型の授業です。ペア・ワークやグループ・ワークをしながら会話・読解・作文のトレーニングをしてゆきます。 フィードバックは授業内において行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		期末試験・検定試験の結果50%、授業態度・提出物50%、	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2005	cornelsen		studio d A2 Kurs- und Übungsbuch ISBN: 978-3464207123		Hermann Funk
	備考	月1ドイツ語スピーキング・リスニングⅢ（レントス先生）と共通教科書				
参考書	独和辞典（電子辞書不可） その他授業中に適宜紹介します。					
オフィスアワー	火曜日 昼休み 研究室（4号館424研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp） 授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス確認（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	文法復習（30分）
2	事前学習	Einheit 1 Sprachen und Biographien 1 長文読解翻訳（60分）
	授業内容	Einheit 1 Sprachen und Biographien 1
	事後学習	Einheit 1 Sprachen und Biographien 1練習問題・作文（60分）
3	事前学習	Einheit 1 Sprachen und Biographien 2 長文読解翻訳（60分）
	授業内容	Einheit 1 Sprachen und Biographien 2
	事後学習	Einheit 1 Sprachen und Biographien 2練習問題・作文（60分）
4	事前学習	Einheit 2 Familienalbum 1 長文読解翻訳（60分）
	授業内容	Einheit 2 Familienalbum 1
	事後学習	Einheit 2 Familienalbum 1 練習問題・作文（60分）

5	事前学習	Einheit 2 Familienalbum 2 長文読解翻訳 (60分)
	授業内容	Einheit 2 Familienalbum 2
	事後学習	Einheit 2 Familienalbum 2 練習問題・作文 (60分)
6	事前学習	Einheit 3 Reisen und Mobilität 1 長文読解翻訳 (60分)
	授業内容	Einheit 3 Reisen und Mobilität 1
	事後学習	Einheit 3 Reisen und Mobilität 1 練習問題・作文 (60分)
7	事前学習	Einheit 3 Reisen und Mobilität 2 長文読解翻訳 (60分)
	授業内容	Einheit 3 Reisen und Mobilität 2
	事後学習	Einheit 3 Reisen und Mobilität 2 練習問題・作文 (60分)
8	事前学習	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 1 長文読解翻訳 (60分)
	授業内容	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 1
	事後学習	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 1 練習問題・作文 (60分)
9	事前学習	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 2 長文読解翻訳 (60分)
	授業内容	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 2
	事後学習	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 2 練習問題・作文 (60分)
10	事前学習	Einheit 5 Medien 1 長文読解翻訳 (60分)
	授業内容	Einheit 5 Medien 1
	事後学習	Einheit 5 Medien 1 練習問題。作文 (60分)
11	事前学習	Einheit 5 Medien 2 長文読解翻訳 (60分)
	授業内容	Einheit 5 Medien 2
	事後学習	Einheit 5 Medien 2 練習問題・作文 (60分)
12	事前学習	Einheit 6 Ausgehen 1 長文読解翻訳 (60分)
	授業内容	Einheit 6 Ausgehen 1
	事後学習	Einheit 6 Ausgehen 1 練習問題・作文 (60分)
13	事前学習	Einheit 6 Ausgehen 2 長文読解翻訳 (60分)
	授業内容	Einheit 6 Aufgehen 2
	事後学習	Einheit 6 Ausgehen 2 練習問題・作文 (60分)
14	事前学習	作文課題 (60分)
	授業内容	総まとめ
	事後学習	練習問題総まとめ (60分)
15	事前学習	試験準備 (60分)
	授業内容	中間試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	自己評価 (15分)

科目名	ドイツ語演習A	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語検定試験等の資格試験を目指すための基礎固めをします。異なったテーマを持つまとまった文章の読解練習を重ね、さまざまなタイプの練習問題を解いていきます。ドイツ語圏の社会についての理解を深め、日本との相違を考察します。					
授業目的・到達目標	【授業目的】独検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要な理解力や文法力、判断力、コミュニケーション力を強化して、養成することを目標としています。 【到達目標】独検3級のための基礎力を身につけ、合格できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域1, 3, 6					
履修条件	特になし					
授業方法	演習方式。提出物は次の授業で返却し、講評を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、提出物、学期末試験等）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	同学社		ドイツ語、次のステップへ！		伊藤、シンチンガー、木村
	備考					
参考書	使用しない					
オフィスアワー	木曜日17時50分～18時20分、授業講堂					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスと第1課「ドイツと周辺諸国」の2頁と5頁を読んでくる。（35分）
	授業内容	ガイダンス（授業の進め方等の説明） 前置詞について理解し、文章中の登場人物についてドイツ語で説明することができる。
	事後学習	ガイダンス及び読んだ文章をおさらいし、2頁を音読する。（25分）
2	事前学習	3頁を読んでくる。（35分）
	授業内容	ドイツ連邦共和国の成立過程と周辺諸国について、説明することができる。
	事後学習	3頁をおさらいして、音読する。（25分）
3	事前学習	5頁の問題を解いてくる。（35分）
	授業内容	再帰動詞について理解し、それらが用いられた文章を正しく解釈できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（25分）
4	事前学習	第2課「旅行計画」の6頁と8頁を読んでくる。（35分）
	授業内容	分離動詞と非分離動詞の3基本形について理解し、それらを用いた文章の解釈ができる。
	事後学習	6頁をおさらいし、音読する。（25分）

5	事前学習	7頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	オーストリアとスイスについて、その国々の特徴を述べ、読んだ文章の内容についてドイツ語で答えることができる。
	事後学習	7頁をおさらいし、音読する。（30分）
6	事前学習	9頁の問題を解いてくる。（35分）
	授業内容	分離動詞と非分離動詞を区別し、適切な動詞を正しく使って文を作ることができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（25分）
7	事前学習	第3課「ドイツ到着」の10頁と12頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	命令形について理解し、それを用いた文を解釈できる。
	事後学習	10頁をおさらいし、音読する。（30分）
8	事前学習	11頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	フランクフルト・アム・マイン市のザクセンハウゼン地区について、ドイツ語で説明することができる。
	事後学習	11頁をおさらいし、出てきた料理について調べる。（30分）
9	事前学習	13頁の問題を解いてくる。（35分）
	授業内容	従属の接続詞を用いて、文の前半と後半を正しく繋いで、コミュニケーションを成立させることができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（25分）
10	事前学習	第4課「フランクフルト・アム・マイン」の14頁と16頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	形容詞の付加語的用法について理解し、形容詞を多用した文を解釈できる。
	事後学習	14頁をおさらいし、音読する。（30分）
11	事前学習	15頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	ドイツを代表する作家、ヨーハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテについて説明することができる。
	事後学習	15頁をおさらいし、作品「ファウスト」について調べる。（30分）
12	事前学習	17頁の問題を解いてくる。（35分）
	授業内容	ドイツを代表する音楽家、ヨーハン・ゼバスティアン・バッハについて説明できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（25分）
13	事前学習	第5課「ミュンヘン」の18～20頁を読んでくる。（35分）
	授業内容	話法の助動詞について理解し、それらを用いた文を解釈できる。
	事後学習	18～19頁をおさらいし、音読する。（25分）
14	事前学習	21頁の問題を解いてくる。（35分）
	授業内容	時刻の表現を用いて、ドイツ語の質問に答えることができる。
	事後学習	パートナーを見つけて、会話の練習をする。（25分）
15	事前学習	テキストの総復習。（40分）
	授業内容	前期学習内容の振り返り、授業内試験及び講評。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（20分）

科目名	ドイツ語演習B	担当者	黒瀬 志保	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の初級文法を学び直し、「読む、書く、話す、聞く」という4技能の練習を行う。				
授業目的・到達目標	【授業目的】初級文法を復習し、ドイツ語を読む、書く、話す、聞くという4技能へと応用できる力を養成することを目指す。 【到達目標】ドイツ語を正しく発音でき、聞き取ることができるようになること、辞書を引きながらドイツ語の文章を正確に理解できるようになること、簡単な作文ができるようになること、ドイツ語技能検定試験（独検）4級・3級に合格できることを目標とする。				
履修条件	対応基礎文法教科書履修済み3あるいは初級文法の知識を必要とする。 ドイツ語技能検定試験の受験を奨励する。				
授業方法	教科書に沿って、文法説明、練習問題、発音練習、テキスト読解、作文を行う。理解度を確認するための小テストも適宜実施し、次の授業で返却を行う。必要に応じて独検対策も行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常点（授業参加度、小テスト、独検）40%、授業内試験60%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年	同学社		ドイツ語の広場	清野智昭
	備考				
参考書	授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	月曜19：30～ 授業終了後の講堂にて。 初回授業でメールアドレスを公開する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書42ページまで、もしくはこれまでに学習したドイツ語を復習しておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方と注意事項を説明する。 Lektion 8 電車の発車時刻、番線、到着時刻に関する表現について理解し、それに対応する会話ができる。
	事後学習	ガイダンスのおさらいをする。 音声を聞いて、教科書43ページの発音練習を行う。（30分）
2	事前学習	教科書44～45ページの問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	Lektion 8 分離動詞、副文、zu不定詞について理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
3	事前学習	教科書46～47ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	Lektion 8 分離動詞、副文、zu不定詞について理解し、それに対応するテキストを読解でき、作文できる。
	事後学習	教科書46～47ページの発音練習を行い、48ページの問題を解く。（30分）
4	事前学習	教科書49ページの音声を聞いてくる。 教科書50～51ページの問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	Lektion 9 話法の助動詞について理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）

5	事前学習	教科書 5 2 ～ 5 3 ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。 (30分)
	授業内容	Lektion 9 話法の助動詞について理解し、それに対応するテキストを読解でき、作文できる。
	事後学習	教科書 5 2 ～ 5 3 ページの発音練習を行い、5 4 ページの問題を解く。 (30分)
6	事前学習	教科書 5 5 ページの音声を聞いてくる。 教科書 5 6 ～ 5 7 ページの問題を解いてくる。 (30分)
	授業内容	Lektion 10 定冠詞類、形容詞の語尾について理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 (30分)
7	事前学習	教科書 5 8 ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。 (30分)
	授業内容	Lektion 10 定冠詞類、形容詞の語尾について理解し、それに対応する会話ができる。
	事後学習	教科書 5 8 ページの発音練習を行う。 (30分)
8	事前学習	教科書 5 9 ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。 (30分)
	授業内容	Lektion 10 定冠詞類、形容詞の語尾について理解し、それに対応するテキストを読解でき、作文できる。
	事後学習	教科書 5 9 ページの発音練習を行い、6 0 ページの問題を解く。 (30分)
9	事前学習	教科書 6 1 ～ 6 3 ページの問題を解いてくる。 (30分)
	授業内容	Lektion 11 過去形、現在完了形について理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 (30分)
10	事前学習	数字の言い方を復習してくる。 (30分)
	授業内容	Lektion 11 序数と日付について理解し、それに対応する聞き取り、会話ができる。
	事後学習	教科書 6 4 ページの発音練習を行う。 (30分)
11	事前学習	教科書 6 5 ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。 (30分)
	授業内容	Lektion 11 過去形、現在完了形について理解し、それに対応するテキストを読解でき、作文できる。
	事後学習	教科書 6 5 ページの発音練習を行い、6 6 ページの問題を解く。 (30分)
12	事前学習	教科書 6 7 ページの音声を聞いてくる。 教科書 6 8 ～ 6 9 ページの問題を解いてくる。 (30分)
	授業内容	Lektion 12 接続法第 2 式について理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。 7 2 ページの問題を解く。 (30分)
13	事前学習	教科書 7 0 ページの音声を聞き、テキストを和訳し、問題を解いてくる。 (30分)
	授業内容	Lektion 12 接続法第 2 式について理解し、それに対応する会話ができる。
	事後学習	教科書 7 0 ページの発音練習を行う。 (30分)
14	事前学習	教科書 7 1 ページの音声を聞き、テキストを和訳してくる。 (30分)
	授業内容	Lektion 12 接続法第 2 式について理解し、それに対応するテキストを読解できる。
	事後学習	教科書 7 1 ページの発音練習を行い、問いについて考える。 (30分)
15	事前学習	教科書 4 3 ～ 7 2 ページの総復習。 (30分)
	授業内容	授業内試験および後期学習内容の振り返り。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。 (30分)

科目名	ドイツ語演習B	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語圏へ短期及び長期留学を希望している、あるいは仕事でドイツ語を使うことを目標にしている学生さん対象のインテンシブクラスです。 月曜1時間目ドイツ語スピーキング・リスニングⅢ（レントス先生）と同一教科書を用いたペア授業です。 アクティブ・ラーニング方式を用い、学生さんの到達度に合わせて授業を進めてゆきます。					
授業目的・到達目標	CEFR B1レベルのドイツ語長文読解と作文ができる力を養成することを目的とします。 独検3級から2級、CEFRA2からB1資格が取得できることが目的です。 関連DP及びCP：外国語科目領域1、3、6					
履修条件	ドイツ語基礎表現AB及びドイツ語基礎文法ABを履修していること。あるいは、独検4級及びCEFRA1レベル以上のドイツ語力を有していること。					
授業方法	参加型の授業です。ペア・ワークやグループ・ワークをしながら会話・読解・作文のトレーニングをしてゆきます。 フィードバックは授業内において行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		期末試験・検定試験の結果50%、授業態度・提出物50%、	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2005	cornelsen		studio d A2 Kurs- und Übungsbuch ISBN: 978-3464207123		Hermann Funk
	備考	月1ドイツ語スピーキング・リスニングⅢ（レントス先生）と共通教科書				
参考書	独和辞典（電子辞書不可） その他授業中に適宜紹介します。					
オフィスアワー	火曜日 昼休み 研究室（4号館424研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp） 授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス確認（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	文法復習（30分）
2	事前学習	Einheit 1 Sprachen und Biographien 1 長文読解翻訳（60分）
	授業内容	Einheit 1 Sprachen und Biographien 1
	事後学習	Einheit 1 Sprachen und Biographien 1練習問題・作文（60分）
3	事前学習	Einheit 1 Sprachen und Biographien 2 長文読解翻訳（60分）
	授業内容	Einheit 1 Sprachen und Biographien 2
	事後学習	Einheit 1 Sprachen und Biographien 2練習問題・作文（60分）
4	事前学習	Einheit 2 Familienalbum 1 長文読解翻訳（60分）
	授業内容	Einheit 2 Familienalbum 1
	事後学習	Einheit 2 Familienalbum 1 練習問題・作文（60分）

5	事前学習	Einheit 2 Familienalbum 2 長文読解翻訳 (60分)
	授業内容	Einheit 2 Familienalbum 2
	事後学習	Einheit 2 Familienalbum 2 練習問題・作文 (60分)
6	事前学習	Einheit 3 Reisen und Mobilität 1 長文読解翻訳 (60分)
	授業内容	Einheit 3 Reisen und Mobilität 1
	事後学習	Einheit 3 Reisen und Mobilität 1 練習問題・作文 (60分)
7	事前学習	Einheit 3 Reisen und Mobilität 2 長文読解翻訳 (60分)
	授業内容	Einheit 3 Reisen und Mobilität 2
	事後学習	Einheit 3 Reisen und Mobilität 2 練習問題・作文 (60分)
8	事前学習	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 1 長文読解翻訳 (60分)
	授業内容	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 1
	事後学習	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 1 練習問題・作文 (60分)
9	事前学習	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 2 長文読解翻訳 (60分)
	授業内容	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 2
	事後学習	Einheit 4 Aktiv in der Freizeit 2 練習問題・作文 (60分)
10	事前学習	Einheit 5 Medien 1 長文読解翻訳 (60分)
	授業内容	Einheit 5 Medien 1
	事後学習	Einheit 5 Medien 1 練習問題・作文 (60分)
11	事前学習	Einheit 5 Medien 2 長文読解翻訳 (60分)
	授業内容	Einheit 5 Medien 2
	事後学習	Einheit 5 Medien 2 練習問題・作文 (60分)
12	事前学習	Einheit 6 Ausgehen 1 長文読解翻訳 (60分)
	授業内容	Einheit 6 Ausgehen 1
	事後学習	Einheit 6 Ausgehen 1 練習問題・作文 (60分)
13	事前学習	Einheit 6 Ausgehen 2 長文読解翻訳 (60分)
	授業内容	Einheit 6 Aufgehen 2
	事後学習	Einheit 6 Ausgehen 2 練習問題 (60分)
14	事前学習	作文課題 (60分)
	授業内容	総まとめ
	事後学習	練習問題総まとめ (60分)
15	事前学習	試験準備 (60分)
	授業内容	中間試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	自己評価 (15分)

科目名	ドイツ語演習B	担当者	三浦 美紀子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語検定試験等の資格試験を目指すための基礎固めをします。異なったテーマを持つまとまった文章の読解練習を重ね、さまざまなタイプの練習問題を解いていきます。ドイツ語圏の社会についての理解を深め、日本との相違を考察します。					
授業目的・到達目標	【授業目的】独検等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要な理解力や文法力、判断力、コミュニケーション力を強化して、養成することを目標としています。 【到達目標】独検3級のための基礎力を身につけ、合格できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域1, 3, 6					
履修条件	特になし					
授業方法	演習方式。提出物は次の授業で返却し、講評を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、提出物、学期末試験等）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	同学社		ドイツ語、次のステップへ！		伊藤、シンチンガー、木村
	備考					
参考書	使用しない					
オフィスアワー	木曜日17時50分～16時20分、授業講堂					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスと第6課「ミュンヘンと美術館」の22～24頁を読んでくる。（35分）
	授業内容	ガイダンス（授業の進め方等の説明） 受動態について理解し、それらを用いた文章を解釈できる。
	事後学習	22～23頁のおさらいをし、画家のデューラーとクラナッハについて調べる。（25分）
2	事前学習	25頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	形容詞の名詞化について理解し、それらを用いた文章を解釈できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
3	事前学習	第7課「山へ」の26頁、27頁後半～28頁を読んでくる。（35分）
	授業内容	関係代名詞について理解し、それらを用いた文章を解釈できる。
	事後学習	26頁のおさらいをする。（25分）
4	事前学習	27頁の前半を読んでくる。（30分）
	授業内容	モーツァルトの生地ザルツブルクで行われる文化的イベントについて理解し、説明することができる。
	事後学習	27頁のおさらいをし、ザルツカンマーグート地方について調べる。（30分）

5	事前学習	29頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	デパートの売り場案内表示を理解し、ドイツ語で案内することができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。パートナーを見つけて、会話の練習をする。（30分）
6	事前学習	第8課「ベルリンと壁」の30～32頁を読んでくる。（35分）
	授業内容	第2次大戦後のドイツ分断の歴史について理解し、説明することができる。
	事後学習	30～31頁のおさらいをし、チェックポイントチャーリーと壁博物館について調べる。（25分）
7	事前学習	33頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	形容詞の比較変化について理解し、それらを用いた文章の解釈ができる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。（30分）
8	事前学習	第9課「ベルリンの大学」の34～35頁を読んでくる。（35分）
	授業内容	ベルリンにある二つの大学について、及び、ドイツ再統一の過程について説明することができる。
	事後学習	34～35頁のおさらいをする。（25分）
9	事前学習	37頁の問題を解いてくる。（35分）
	授業内容	zu不定詞について理解し、それを用いた文を解釈できる。
	事後学習	間違えた箇所の問題を解き直す。生年月日と生まれた地について、パートナーと会話練習をする。（25分）
10	事前学習	第10課「ドレースデン」の38頁を読んでくる。（35分）
	授業内容	定動詞の位置について理解し、文中の定動詞を指摘することができる。ドレースデンが第2次大戦後にたどった道について説明できる。
	事後学習	38頁のおさらいをする。（25分）
11	事前学習	39頁を読んでくる。（30分）
	授業内容	ナチス時代の焚書やユダヤ教会堂破壊について理解し、説明することができる。
	事後学習	作家エーリヒ・ケストナーの作品とドレースデン大空襲について調べる。（30分）
12	事前学習	41頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	与えられた語を正しい語順に並べ、さまざまな構造を持つ文を作ることができる。
	事後学習	ハインリヒ・ハイネの詩を音読し、ハイネについて調べる。（30分）
13	事前学習	第11課「別れの前に」の42～44頁を読んでくる。（35分）
	授業内容	接続法第2式の作り方と用法について理解し、それらを用いた文章を解釈できる。
	事後学習	42頁をおさらいし、二人の登場人物が持っている将来の希望をまとめる。（25分）
14	事前学習	45頁の問題を解いてくる。（30分）
	授業内容	接続法を用いた慣用表現を使って、ドイツ語の文を作ることができる。
	事後学習	間違った箇所の問題を解き直す。（30分）
15	事前学習	テキストの総復習。（40分）
	授業内容	後期学習内容の振り返り、授業内試験及び講評。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（20分）

科目名	ドイツ語演習C	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	グリム童話を、初級文法を確認しながら読み進める。関連した映像なども参考にしながら、ドイツ語圏の音楽など、文化についての知識を広げてゆくことも目指す。特に、文化に関する情報については、朝日カルチャーセンターの講座に関わった経験に基づき、解説を行う。			
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語の読解力を強化するとともに、ドイツ語圏の文化について見識を深め、説明できる能力を養成することを目的とする。 【到達目標】ドイツ語で書かれた平易なテキストを読み解けるようになることを目標とする。また、テキストの理解を通じて、ドイツ語圏の文化について見聞を広めることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP:外国語科目領域1,3,6 ドイツ語の初級文法を習得していること。初回の授業には必ず出席すること。ドイツ語をたくさん読むので、その覚悟で授業を履修すること。			
授業方法	ドイツ語のテキストの音読や訳読、文法の要点の説明が授業の中心である。必要に応じて、映像等も参照する。授業内の試験については、授業中に講評を述べる。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価(授業参加度、授業内試験) 100%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2002年	郁文堂	グリム童話で学ぶドイツ語	シュテファン・ヴント、本橋右京
	備考	独和辞典を準備すること。毎回、持参することが望ましい。		
参考書	必要に応じて、授業内に指示する。			
オフィスアワー	・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。 ・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。 ・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。(10分)
	授業内容	ガイダンス。必ず参加すること。
	事後学習	第2回の授業までに、テキストを準備し、第1課の予習をしておくこと。(50分)
2	事前学習	テキストを準備し、第1課の予習をしてくること。(20分)
	授業内容	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft①
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。(40分)
3	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft②
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
4	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft③
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。(30分)

5	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft④
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
6	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Katze und Maus in Gesellschaft⑤
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
7	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Der gestiefelte Kater①
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
8	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Der gestiefelte Kater②
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
9	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Der gestiefelte Kater③
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
10	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Der gestiefelte Kater④
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
11	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Der gestiefelte Kater⑤
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
12	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Der gestiefelte Kater⑥
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
13	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Der gestiefelte Kater⑦
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 (30分)
14	事前学習	テキスト全体を通読し、前期に読んだテキストの感想をまとめておくこと。(30分)
	授業内容	理解度の確認と前期の学習の振り返り
	事後学習	できないと思った部分を改めてテキストで確認すること。(30分)
15	事前学習	理解が十分ではない部分を改めてテキストで学習すること。(30分)
	授業内容	前期の復習
	事後学習	前期の学習内容に目を通すこと。(30分)

科目名	ドイツ語演習C	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	初級文法を振り返りながら、日本の小説のドイツ語訳を読んでいく。その際、文法に従いながら、逐語的に意味を取っていく。 グローバル教育は、何も英会話の習得とは限らない。外国語を学びながら、同時に、名作と言われる自国の文学作品を学ぶこともグローバル時代の外国語教育の一つであろう。					
授業目的・到達目標	【授業目的（前期）】ドイツ語中級レベルの語学力を養成すること。 【到達目標（前期）】ドイツ語を通して日本の有名な文学作品を深く理解できること。毎回1頁ずつ文法的に意味を取りながら読み、8頁まで進むことを目標にする。 関連CP/DP:外国語領域1, 3, 6					
履修条件	①テキストの文章は独検2級レベルで、きわめて難解であるため、最低限基本文法の知識を備えていなければならない。 ②必ず予習をしてくること。④必ず独和辞典を持ってくること。					
授業方法	文法・構文分析をまず行い、そのあと辞書を丹念に引き、一語一語丁寧に文を解釈する。前期は、ゆっくり進むが、後期にはテンポよく読み進めていく予定でいる。また何度か独⇄日を往復して、テキストを比較することも考えている。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業内試験90%+平常点（小テスト、授業参加度、授業内・外レポート、独検の結果）10% 遅刻と欠席の多い場合、評価しない。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	1983年	同学社		RASHŌMON（芥川龍之介「羅生門」）		Ryūnosuke Akutagawa
	備考					
参考書	授業時に指示する。					
オフィスアワー	①授業後（月曜16：10～）の教室 ②図書館7階EAST ラーニング・コモンズ・スペース（必ず事前に電子メールで連絡すること） ③5号館国際交流センター入室時 いずれか。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	1年次の教科書を読んでおく。 芥川龍之介の小説「羅生門」について調べておく。（10分）
	授業内容	1 頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格のチェックし、訳をつける。
	事後学習	ノートに直訳を書いておく。（80分）
2	事前学習	辞書を引くこと。 平安京について調べておく。（60分）
	授業内容	1 頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、関係文、過去完了をチェックし、訳をつける。
	事後学習	ノートに直訳を書いておく。 過去完了の効果を訳に反映させる。（30分）
3	事前学習	辞書を引くこと。 合成名詞の構成をとらえておく。（60分）
	授業内容	2頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、合成名詞、zu不定詞をチェックし、訳をつける。
	事後学習	ノートに直訳を書いておく。 2 ページの独文は、複雑であるので、整理しながら、和訳する。（30分）
4	事前学習	辞書を引くこと。（60分）
	授業内容	2頁の構文分析。改めて動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、合成名詞、zu不定詞を再チェックする。
	事後学習	もう一度辞書を引きなおして、意味を点検すること。 ノートに直訳を書いておく。（30分）

5	事前学習	辞書を引くこと。 関連語句に気を付ける。(60分)
	授業内容	3頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、合成名詞、zu不定詞、現在分詞をチェックする。
	事後学習	文章構造がかなり入り組んでいるので、整理して、ノートに直訳を書いておく。(30分)
6	事前学習	文法の知識を駆使して、辞書を引くこと。(60分)
	授業内容	3頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、合成名詞、zu不定詞、現在分詞をチェックする。
	事後学習	ノートに直訳を書いておく。(30分)
7	事前学習	文法の知識を駆使して辞書を引くこと。(60分)
	授業内容	3頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、合成名詞、zu不定詞、現在分詞をチェックする。
	事後学習	文章構造がかなり入り組んでいるので、整理して、ノートに直訳を書いておく。(30分)
8	事前学習	辞書を引くこと。 接続法 2 式の外交話法について調べておく。(60分)
	授業内容	4頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、合成名詞、接続法 2 式、副文をチェックする。
	事後学習	外交話法を訳に反映させて、ノートに直訳を書いておく。(30分)
9	事前学習	辞書を引くこと。(60分)
	授業内容	4頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、合成名詞、接続法 2 式、副文をチェックする。
	事後学習	接続法、副文を確認して、ノートに直訳を書いておく。(30分)
10	事前学習	辞書を引くこと。(60分)
	授業内容	5頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、合成名詞、wennの省略、es gibtの用法をチェックする。
	事後学習	ノートに直訳を書いておく。(30分)
11	事前学習	辞書を引くこと。(60分)
	授業内容	5-6頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、合成名詞、再帰動詞の用法をチェックする。
	事後学習	文章構造が複雑なので、整理して、ノートに直訳を書いておく。(30分)
12	事前学習	辞書を引くこと。(60分)
	授業内容	6頁までの前期の授業外レポートの提出を求める
	事後学習	ノートに直訳を書いておく。(30分)
13	事前学習	辞書を引くこと。(60分)
	授業内容	後期の授業外レポートの提出。期限厳守。 答え合わせ。
	事後学習	ノートに加筆修正部分を書いておく。(30分)
14	事前学習	辞書を引くこと。(60分)
	授業内容	7頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、wieの用法、再帰動詞の用法をチェックする。
	事後学習	ノートに直訳を書いておく。(30分)
15	事前学習	辞書を引く練習をしておくこと。 文法事項を確認しておくこと。(80分)
	授業内容	授業内試験、独和辞典参照可。70分 フィードバック（まとめ、振り返り、解説）20分
	事後学習	芥川龍之介の原文を読み直してみる。(10分)

科目名	ドイツ語演習C	担当者	渡辺 徳夫	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今まで初級向きの教科書や検定試験の問題ばかりやってきたと思うので、この授業ではまとまったドイツ語の読み物を読んでもみる。					
授業目的・到達目標	【授業目的（前期）】習得したドイツ語の基礎文法を土台にして、ドイツ語の読み物を正確、迅速に読解する力を育成すること。 【授業目標（前期）】習得したドイツ語の基礎文法を土台にして、ドイツ語の読み物を正確、迅速に読解できるようになること。 関連DP/CP外国語領域1.3.6					
履修条件	基本文法の知識を前提としている。					
授業方法	短編なので、1ページ1ページ丁寧に読んでいく。その際、教科書の文法表を参照する。必ず辞書を持参すること。3回おきに課題、レポートを課す。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業参加度やレポート、出席を考慮して評価。遅刻と欠席の多い場合、評価しない。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	1996年	朝日出版社		『フォン・ブラウン物語』		飯吉光夫編
	2016年	三修社		『気分はドイツ』		本郷・佐藤著
	備考					
参考書	授業時に指示します。					
オフィスアワー	①授業終了後（火曜21：10～）の教室 ②図書館7階EASTラーニング・コモンズ（事前に電子メールで申し込むこと） ③国際交流センター入室時 のいずれか					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書2冊準備する。辞書も持参すること。（10分）
	授業内容	ガイダンス ロケットの父、ヴェルンヘル・フォン・ブラウンについて
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。（50分）
2	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。 アポロ11号について調べてみる。（50分）
	授業内容	第1章
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。（40分）
3	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。 冠詞の格変化、用法を確認しておく。（50分）
	授業内容	第1章 歴史的現在の文体と和訳の仕方について
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。（40分）
4	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。 2格の用法、前置詞の用法について教科書で確認しておく。（50分）
	授業内容	第1章 当時のニュースフィルムを見る。
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。（40分）

5	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。 年号の読み方を確認しておく。 zu不定詞の用法を教科書で調べておく。(50分)
	授業内容	第2章
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。(40分)
6	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。 esの用法を教科書で調べておく。(50分)
	授業内容	第2章
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。
7	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。 話法の助動詞の用法を教科書で調べておく。(50分)
	授業内容	第2章 無声映画『月世界の女』を観る。
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。(40分)
8	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。(50分)
	授業内容	第2章 無声映画『月世界の女』を観る。
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。(40分)
9	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。(50分)
	授業内容	第3章
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。 文章が長い場合には、文を切って、訳出する工夫をすること。(40分)
10	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。(50分)
	授業内容	第3章 無声映画『月世界の女』の内容との関係について
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。 文章が長い場合には、文を切って、訳出する工夫をすること。(40分)
11	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。(50分)
	授業内容	第3章
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。 文章が長い場合には、文を切って、訳出する工夫をすること。(40分)
12	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。 未来形の用法を教科書で調べておく。(50分)
	授業内容	第3章
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。 文章が長い場合には、文を切って、訳出する工夫をすること。(40分)
13	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておく。 間接疑問文について教科書で調べておく。(50分)
	授業内容	第4章
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。 文章が長い場合には、文を切って、訳出する工夫をすること。(40分)
14	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。 今まで学んだことを復習し、もう一度訳を点検すること。(50分)
	授業内容	第4章
	事後学習	手書きでレポートを作成すること。 提出上の注意点を厳守すること。(40分)
15	事前学習	提出上の注意点を確認すること。(80分)
	授業内容	第4章 レポート課題提出。振り返り、まとめ、講評。
	事後学習	提出した自分のレポートのコピーを読み直す。(10分) 独検の結果を提出すること。

科目名	ドイツ語演習D	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	グリム童話を、初級文法を確認しながら読み進める。関連した映像なども参考にしながら、ドイツ語圏の音楽など、文化についての知識を広げてゆくことも目指す。特に、文化に関する情報については、朝日カルチャーセンターの講座に関わった経験に基づき、解説を行う。				
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語の読解力を強化するとともに、ドイツ語圏の文化について見識を深め、説明できる能力を養成することを目的とする。 【到達目標】ドイツ語で書かれた平易なテキストを読み解けるようになることを目標とする。また、テキストの理解を通じて、ドイツ語圏の文化について見聞を広めることを目標とする。				
履修条件	関連科目の初級外国語科目領域1.3.3。初回の授業には必ず出席すること。ドイツ語をたくさん読むので、その覚悟で授業を履修すること。				
授業方法	ドイツ語のテキストの音読や訳読、文法の要点の説明が授業の中心である。必要に応じて、映像等も参照する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価(授業参加度、授業内試験) 100%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2002年	郁文堂		グリム童話で学ぶドイツ語	シュテファン・ヴント、本橋右京
	備考	独和辞典を準備すること。毎回、持参することが望ましい。			
参考書	必要に応じて、授業内に指示する。				
オフィスアワー	・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。 ・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。 ・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期で読んだ部分をあらためて通読し、夏休み後の授業に備える。後期からの参加者は、後期の初回の授業に必ず参加すること。(20分)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(40分)
2	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Haensel und Gretel①
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
3	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Haensel und Gretel②
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
4	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Haensel und Gretel③
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。(30分)

5	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Haensel und Gretel④
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
6	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Haensel und Gretel⑤
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
7	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Haensel und Gretel⑥
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
8	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Der Eisenofen①
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
9	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Der Eisenofen②
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
10	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Der Eisenofen③前半
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
11	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Der Eisenofen③後半
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
12	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Der Eisenofen④前半
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
13	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・Der Eisenofen④後半
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
14	事前学習	テキスト全体を通読し、後期に読んだテキストの感想をまとめておくこと。(30分)
	授業内容	理解度の確認と後期の学習内容の振り返り
	事後学習	できないと思った部分を改めてテキストで確認すること。(30分)
15	事前学習	後期の学習内容を復習してくること。(30分)
	授業内容	後期の復習と今後のドイツ語学習について
	事後学習	今後のドイツ語の学習についてよく考えること。(30分)

科目名	ドイツ語演習D	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	初級文法を振り返りながら、日本の小説のドイツ語訳を読んでいく。その際、文法に従いながら、逐語的に意味を取っていく。 グローバル教育は、何も英会話の習得とは限らない。外国語を学びながら、同時に、名作と言われる自国の文学作品を学ぶこともグローバル時代の外国語教育の一つであろう。							
授業目的・到達目標	【授業目的（後期）】ドイツ語中級レベルの語学力を養成すること。 【到達目標（後期）】ドイツ語を通して日本の有名な文学作品を深く理解できること。毎回1頁ずつ文法的に意味を取りながら読み、最後まで進むことを目標にする。独訳を熟読した後で、原作を読み直し、比較してみる。 関連DP/CP：外国語領域1.3.6							
履修条件	①テキストの文章は独検2級レベルで、きわめて難解あるため、最低限基本文法の知識を備えていなければならない。②必ず予習をしてくること。④必ず独和辞典を持ってくること。							
授業方法	文法・構文分析をまず行い、そのあと辞書を丹念に引き、一語一語丁寧に文を解釈する。前期は、ゆっくり進むが、後期にはテンポよく読み進めていく予定でいる。また何度か独⇄日を往復して、テキストを比較することも考えている。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%					
	平常評価		100%		授業内試験90%+平常点（小テスト、授業参加度、授業内・外レポート、独検の結果）10% 遅刻と欠席の多い場合、評価しない。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	1983年		同学社		RASHŌMON（芥川龍之介「羅生門」）		Ryūnosuke Akutagawa	
	備考							
参考書	授業時に指示する。							
オフィスアワー	①授業後（月曜16：10～）の教室 ②図書館7階EAST ラーニング・コモンズ・スペース（必ず事前に電子メールで連絡すること） ③5号館国際交流センター入室時 いずれか。							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	辞書を引くこと。 前期までのテキストを読み直してみる。（10分）
	授業内容	後期のガイダンス 8頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、als obの用法、関係文を含む副文、使役動詞の用法をチェックする。
	事後学習	ノートに直訳を書いておく。（80分）
2	事前学習	辞書を引くこと。 lassenの用法を調べておく。（70分）
	授業内容	8頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、関係文を含む副文、使役動詞の用法をチェックする。
	事後学習	ノートに直訳を書いておく。 関係文の訳し方を工夫する。（20分）
3	事前学習	辞書を引くこと。 過去分詞の用法を調べておく。（70分）
	授業内容	9頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、関係文を含む副文、分詞構文の用法をチェックする。
	事後学習	ノートに直訳を書いておく。（20分）
4	事前学習	辞書を引くこと。 分詞構文の用法について調べておく。（70分）
	授業内容	9頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、関係文を含む副文、分詞構文の用法をチェックする。
	事後学習	ノートに直訳を書いておく。 分詞構文を工夫して訳す。（20分）

5	事前学習	辞書を引くこと。(70分)
	授業内容	10 - 11頁の構文分析。後期の授業外レポートの提出を求める。
	事後学習	ノートに直訳を書いておく。 レポートの範囲の文法事項に注意しながら、作成すること。(20分)
6	事前学習	辞書を引くこと。 レポートの書き方に注意。期限厳守。(70分)
	授業内容	後期の授業外レポートの提出。 答え合わせ。
	事後学習	ノートに加筆修正部分をを書いておく。(20分)
7	事前学習	ドイツ語技能検定試験（独検）について情報を得ておこう。 辞書を引くこと。(70分)
	授業内容	12頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、関係文を含む副文、形容詞の名詞化の用法をチェックする。
	事後学習	ノートに直訳を書いておく。(20分)
8	事前学習	辞書を引くこと。 過去問を繰り返し解くこと。 形容詞の名詞化について調べておく。(70分)
	授業内容	12頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、関係文を含む副文、形容詞の名詞化の用法をチェックする。
	事後学習	ノートに直訳を書いておく。 独検の過去問を反復する。(20分)
9	事前学習	辞書を引くこと。 過去問を繰り返し解くこと。(70分)
	授業内容	12頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、関係文を含む副文、形容詞の名詞化の用法をチェックする。
	事後学習	ノートに直訳を書いておく。 独検の過去問を反復する。(20分)
10	事前学習	辞書を引くこと。 過去問を繰り返し解くこと。 現在分詞の作り方を調べておく。(70分)
	授業内容	検定演習4級。過去問（長文） 13頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、関係文を含む副文、分詞構文の用法をチェックする。
	事後学習	ノートに直訳を書いておく。(20分)
11	事前学習	辞書を引くこと。 過去問を繰り返し解くこと。 sollenの用法を調べておく。(70分)
	授業内容	検定演習4級。過去問（聞き取り） 13頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、関係文を含む副文、分詞構文, sollenの用法をチェックする。
	事後学習	ノートに直訳を書いておく。 独検の過去問を反復する。(20分)
12	事前学習	辞書を引くこと。 sollenの完了形のチェックする。(70分)
	授業内容	14頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、関係文を含む副文、分詞構文, sollenの用法をチェックする。
	事後学習	ノートに直訳を書く。 独検の自己採点する。(20分)
13	事前学習	辞書を引くこと。(70分)
	授業内容	14頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、関係文を含む副文、過去完了の用法をチェックする。
	事後学習	ノートに直訳を書いておく。 過去完了の訳を工夫する。(20分)
14	事前学習	教科書の試験範囲を総復習しておくこと。(80分) 所有の3格の用法を調べてみる。
	授業内容	試験について 15頁の構文分析。動詞の不定形、前置詞の用法、名詞の格、関係文を含む副文、所有の3格の用法をチェックする。
	事後学習	ノートに直訳を書いておく。 15頁までテキストを総復習する。(10分)
15	事前学習	教科書の試験範囲を反復しておくこと。(70分)
	授業内容	授業内試験、70分、独和辞典参照可 フィードバック（まとめ、振返り、解説）
	事後学習	自分の訳と原作を読み比べて 差を確かめてみる。(20分) 独検の結果を報告すること。

科目名	ドイツ語演習D	担当者	渡辺 徳夫	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今まで初級向きの教科書や検定試験の問題ばかりやってきたと思うので、この授業ではまとまったドイツ語の読み物を読んでもみる。					
授業目的・到達目標	【授業目的（後期）】習得したドイツ語の基礎文法を土台にして、ドイツ語の読み物を正確、迅速に読解する力を育成すること。 【授業目標（後期）】習得したドイツ語の基礎文法を土台にして、ドイツ語の読み物を正確、迅速に読解できるようになること。 関連DP/CP外国語領域1.3.6					
履修条件	基本文法の知識を前提としている。					
授業方法	短編なので、1ページ1ページ丁寧に読んでいく。その際、教科書の文法表を参照する。必ず辞書を持参すること。3回おきに課題、レポートを課す。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業参加度やレポート、出席を考慮して評価。遅刻と欠席の多い場合、評価しない。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	1996年	朝日出版社		『フォン・ブラウン物語』		飯吉光夫編
	2016年	三修社		『気分はドイツ』		本郷・佐藤著
	備考					
参考書	授業時に指示します。					
オフィスアワー	①授業終了後（火曜21：10～）の教室 ②図書館7階EASTラーニング・コモンズ（事前に電子メールで申し込むこと） ③国際交流センター入室時 のいずれか					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。 定関係代名詞の用法を教科書で調べておく。（50分）
	授業内容	第5章
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。（40分）
2	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。 不定関係代名詞の用法を教科書で調べておく。（50分）
	授業内容	第5章
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。（40分）
3	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。 zu不定詞の用法を教科書で調べておく。（40分）
	授業内容	第5章
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。（50分）
4	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。（50分）
	授業内容	第6章
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。（40分）

5	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。(50分)
	授業内容	第6章
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。 文章が長い場合には、文を切って、訳出する工夫をすること。(40分)
6	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。(50分)
	授業内容	第6章
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。 文章が長い場合には、文を切って、訳出する工夫をすること。(40分)
7	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。 ペーネミュンデはどこに位置するか調べておく。(50分)
	授業内容	第6章
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。 文章が長い場合には、文を切って、訳出する工夫をすること。(40分)
8	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。(50分) 年号の読み方を確認しておく。 世界恐慌について調べておく。
	授業内容	第7章
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。 文章が長い場合には、文を切って、訳出する工夫をすること。(40分)
9	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。(50分) 年号の読み方を確認しておく。
	授業内容	第7章 当時のニュースフィルムを見る。
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。(40分)
10	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。(50分) 年号の読み方を確認しておく。
	授業内容	第7章
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。(40分)
11	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。(50分)
	授業内容	第7章 当時のニュースフィルムを見る。
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。(40分)
12	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。(50分)
	授業内容	第8章 当時のニュースフィルムを見る。
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。(40分)
13	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。 アポロ11号について調べてみる。 第1章を読んでおく。(50分)
	授業内容	第8章 第1章との関係
	事後学習	授業で学習したところを復習し、必ずノートに訳を記しておくこと。(40分)
14	事前学習	文章構造を分析した上で、必ず単語の意味を調べておくこと。 今までの箇所をもう一度読み直し、訳を点検すること。(40分)
	授業内容	第8章 レポートの提出について 小説の円環構造について
	事後学習	手書きでレポートを作成すること。 提出上の注意点を厳守すること。(50分)
15	事前学習	提出上の注意点を確認すること。(80分)
	授業内容	レポート課題提出及びまとめ、振り返り、講評。
	事後学習	提出した自分のレポートのコピーを読み直す。 独検の結果を提出すること。(10分)

科目名	ドイツ語演習E	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語圏の伝説、メルヘン、詩などを平易なドイツ語に書き改められたテキストを、初級文法を確認しながら読み進める。関連した映像なども参考にしながら、ドイツ語圏の音楽など、文化についての知識を広げてゆくことも目指す。特に、文化に関する情報については、朝日カルチャーセンターの講座に関わった経験に基づき、解説を行う。			
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語の読解力を強化するとともに、ドイツ語圏の文化について見識を深め、説明できる能力を養成することを目的とする。 【到達目標】ドイツ語で書かれた平易なテキストを読み解けるようになることを目標とする。また、テキストの理解を通じて、ドイツ語圏の文化について見聞を広めることを目標とする。 関連DP及びCP:外国語科目領域1,3,6			
履修条件	ドイツ語の初級文法を習得していること。初回の授業には必ず出席すること。ドイツ語をたくさん読むので、その覚悟で授業を履修すること。独検をなるべく受験すること。			
授業方法	ドイツ語のテキストの音読や訳読、文法の要点の説明が授業の中心である。必要に応じて、映像等も参照する。授業内の試験については、授業中に講評を述べる。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価(授業参加度、授業内試験) 100%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015年	朝日出版社	名作イージーリーダー	久保哲司
	備考	独和辞典を準備すること。毎回、持参することが望ましい。		
参考書	必要に応じて、授業内に指示する。			
オフィスアワー	・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。 ・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。 ・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。(20分)
	授業内容	ガイダンス。必ず参加すること。
	事後学習	第2回の授業までに、テキストを準備し、テキストの2ページ(最初から注の23があるところまで)の予習をしておくこと。(40分)
2	事前学習	テキストを準備し、2ページ(最初から注の23があるところまで)の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第1部第1章 Die Buergerschaft①
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
3	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第1部第1章 Die Buergerschaft②
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
4	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第1部第1章 Die Buergerschaft③
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。(30分)

5	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第1部第1章 Die Buergerschaft④
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
6	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第1部第2章 Lohengrin①
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
7	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第1部第2章 Lohengrin②
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
8	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第1部第2章 Lohengrin③
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
9	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第1部第2章 Lohengrin④
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
10	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第1部第3章 Erste Legende des RuebezahI①
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
11	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第1部第3章 Erste Legende des RuebezahI②
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
12	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第1部第3章 Erste Legende des RuebezahI③
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
13	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第1部第3章 Erste Legende des RuebezahI④
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
14	事前学習	前期に読んだ箇所を復習し、分からないところがどこかを明らかにしておくこと。前期に読んだテキストの感想をまとめておくこと。(30分)
	授業内容	理解度の確認と前期の学習内容の振り返り
	事後学習	できないと思った部分を改めてテキストで確認すること。(30分)
15	事前学習	理解が十分ではない部分を改めてテキストで学習すること。(30分)
	授業内容	前期の復習
	事後学習	前期の学習内容に目を通すこと。(30分)

科目名	ドイツ語演習E	担当者	鈴木 満	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「理解力」「暗記」「継続」の大切さを確認しながらドイツ語力を養成し、ドイツ語圏の文化を各自の興味に応じて吸収できるようにする。			
授業目的・到達目標	ドイツ語圏の文化を客観的に調べ、理解し、説明する力を発展させることを目的とします。 ドイツ語を読み・書き・聞き・話すための基礎力を発展させ、自分に応じたレベルのドイツ語検定試験に合格できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	ドイツ語の基礎をひとつとおり学習していることが前提ですが、受講資格は設けていません。			
授業方法	授業中に説明・解説、必要に応じて演習（練習問題）をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価（授業参加度、授業内試験）が100パーセントです。 私語が多い、辞書がない、復習が著しく不十分、不正行為があった場合などは授業内試験の受験資格を失います。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2008	白水社	たのしいドイツ語 読む・聞く・話す （改訂版）	片岡・小川・宮本
	備考			
参考書	授業では使用しませんが、必要だと思う人は各自用意してください。			
オフィスアワー	授業時間（木曜2限）後の休み時間、講堂にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ドイツ語圏の観光情報や歴史書などを参照して、一般に言われているドイツ語圏文化の「評判」等を考える。（30分）
	授業内容	ガイダンス 文字および発音
	事後学習	1回目授業の学習事項の要点をレポートにまとめてみる。（30分）
2	事前学習	授業第1回目の復習（10分）
	授業内容	代名詞と動詞
	事後学習	2回目の授業で学習した単語・例文の暗記（50分）
3	事前学習	授業1回目～2回目の復習（15分）
	授業内容	自己紹介のしかたを中心とした単語と文
	事後学習	3回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）
4	事前学習	授業1回目～3回目の復習（15分）
	授業内容	不規則変化動詞と命令形など
	事後学習	4回目の授業で学習した単語・例文の暗記（45分）

5	事前学習	授業１回目～４回目の復習（１５分）
	授業内容	人物紹介のしかたを中心とした単語と文
	事後学習	５回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
6	事前学習	授業１回目～５回目の復習（１５分）
	授業内容	冠詞と格を中心として、語形変化・文を学ぶ
	事後学習	６回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
7	事前学習	授業１回目～６回目の復習（１５分）
	授業内容	持ち物についての表現
	事後学習	７回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
8	事前学習	授業１回目～７回目の復習（１５分）
	授業内容	冠詞類を中心とした文法事項
	事後学習	８回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
9	事前学習	授業１回目～８回目の復習（１５分）
	授業内容	家族についての表現
	事後学習	９回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
10	事前学習	授業１回目～９回目の復習（１５分）
	授業内容	複数形・数詞など
	事後学習	１０回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
11	事前学習	授業１回目～１０回目の復習（１５分）
	授業内容	買い物をする場合の表現のいろいろ
	事後学習	１１回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
12	事前学習	授業１回目～１１回目の復習（１５分）
	授業内容	前置詞と核
	事後学習	１２回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
13	事前学習	授業１回目～１２回目の復習（１５分）
	授業内容	話法の助動詞 未来形について
	事後学習	１３回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
14	事前学習	授業１回目～１３回目の復習（５０分）
	授業内容	授業内試験。試験の解説。
	事後学習	自分の苦手な事項の復習（１０分）
15	事前学習	授業１回目～１４回目の復習（３０分）
	授業内容	前回までの授業の補足など。 場合によっては追試験を実施。
	事後学習	授業内試験で学習不足の点を重点的に復習（３０分）

科目名	ドイツ語演習E	担当者	森田 悟	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	すでにドイツ語の学習経験のある学生の皆さんと文法事項の復習（特に通常1年後期に学ぶ事項を中心にして）をしながらドイツに関連した読み物を読んでいます。			
授業目的・到達目標	授業目的：ドイツ語技能検定試験3級以上の読解力を養成することを目的にする。 到達目標：ドイツ語の基礎能力を高め、比較的易しい中級程度の文章を読めるようにすることを目指す。 関連DP及びCP：外国語科目領域：1、3、6			
履修条件	学部の規定による			
授業方法	じっくり少しずつ読み進む。ドイツ語文法については初級段階からの説明をおこなう。フィードバックは授業内において行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	平常授業の学習、授業内試験の結果で評価します。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	同学社	ドイツ語、次のステップへ	伊藤真ほか
	備考			
参考書	適宜必要に応じて指示する			
オフィスアワー	火曜日の授業時間終了後（17：50～）講堂にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ドイツ語の発音、冠詞、動詞の変化について復習しておくこと（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
2	事前学習	ドイツ語の発音、冠詞、動詞の変化について復習しておくこと（30分）
	授業内容	ドイツ語文法の復習確認
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
3	事前学習	ドイツ語文法を復習（30分）
	授業内容	ドイツ語前置詞/ドイツとその隣国
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
4	事前学習	ドイツ語文法を復習（30分）
	授業内容	ドイツ語前置詞/ドイツとその隣国
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）

5	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	ドイツ語前置詞/オーストリアとスイス
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
6	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	ドイツ語前置詞/オーストリアとスイス
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
7	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	命令形・不定代名詞/ザクセンハウゼン
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
8	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	命令形・不定代名詞/ザクセンハウゼン
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
9	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	形容詞/ ゲーテ
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
10	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	形容詞/ ゲーテ
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
11	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	助動詞/ミュンヘンとバイエルン
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
12	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	助動詞/ミュンヘンとバイエルン
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
13	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	復習
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
14	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	まとめ及び到達度の確認(授業内試験)
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
15	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	半期の振り返り
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）

科目名	ドイツ語演習F	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語圏の伝説、メルヘン、詩などを平易なドイツ語に書き改められたテキストを、初級文法を確認しながら読み進める。関連した映像なども参考にしながら、ドイツ語圏の音楽など、文化についての知識を広げてゆくことも目指す。特に、文化に関する情報については、朝日カルチャーセンターの講座に関わった経験に基づき、解説を行う。					
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語の読解力を強化するとともに、ドイツ語圏の文化について見識を深め、説明できる能力を養成することを目的とする。 【到達目標】ドイツ語で書かれた平易なテキストを読み解けるようになることを目標とする。また、テキストの理解を通じて、ドイツ語圏の文化について見聞を広めることを目標とする。					
履修条件	関連DP及びCP:外国語科目領域1, 3, 6 ドイツ語の初級文法を習得していること。初回の授業には必ず出席すること。平易なドイツ語をたくさん読むので、その覚悟で授業を履修すること。独検をなるべく受験すること。					
授業方法	ドイツ語のテキストの音読や訳読、文法の要点の説明が授業の中心である。必要に応じて、映像等も参照する。授業内の試験については、授業中に講評を述べる。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価(授業参加度、授業内試験) 100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2015年	朝日出版社		名作イーजीリーダー		久保哲司
	備考	独和辞典を準備すること。毎回、持参することが望ましい。				
参考書	必要に応じて、授業内に指示する。					
オフィスアワー	・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。 ・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。 ・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期で読んだ部分をあらためて通読し、夏休み後の授業に備える。後期からの参加者は、後期の初回の授業に必ず参加すること。(20分)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(40分)
2	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第2部第1章 Tannhaeuser①
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
3	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第2部第1章 Tannhaeuser②
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
4	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第2部第1章 Tannhaeuser③
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。授業で指示された部分の予習をすること。(30分)

5	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第2部第1章 Tannhaeuser④
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
6	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第2部第2章 Das Buch des Wan-Hu-Tschen①
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
7	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第2部第2章 Das Buch des Wan-Hu-Tschen②
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
8	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第2部第2章 Das Buch des Wan-Hu-Tschen③
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
9	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第2部第2章 Das Buch des Wan-Hu-Tschen④
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
10	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第3部 Die Gaensemagd①
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
11	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第3部 Die Gaensemagd②
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
12	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第3部 Die Gaensemagd③
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
13	事前学習	授業で指示された部分の予習をしてくること。(30分)
	授業内容	テキスト読解・第3部 Die Gaensemagd④
	事後学習	予習してきた部分と授業での学習内容を照らし合わせ、分からなかった部分が解決できたかどうか、確認すること。 授業で指示された部分の予習をすること。(30分)
14	事前学習	後期に読んだ箇所を復習し、分からないところがどこかを明らかにしておくこと。後期に読んだテキストの感想をまとめておくこと。(30分)
	授業内容	理解度の確認と後期の学習内容の振り返り
	事後学習	できないと思った部分を改めてテキストで確認すること。(30分)
15	事前学習	後期の学習内容の復習をしてくること。(30分)
	授業内容	後期の復習と今後のドイツ語学習について
	事後学習	今後のドイツ語の学習について、よく考えること。(30分)

科目名	ドイツ語演習F	担当者	鈴木 満	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「理解力」「暗記」「継続」の大切さを確認しながらドイツ語力を養成し、ドイツ語圏の文化を各自の興味に応じて吸収できるようにする。					
授業目的・到達目標	ドイツ語圏の文化を客観的に調べ、理解し、説明する力を発展させることを目的とします。 ドイツ語を読み・書き・聞き・話すための基礎力を発展させ、自分に応じたレベルのドイツ語検定試験に合格できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	ドイツ語の基礎をひととおり学習していることが前提ですが、受講資格は設けていません。					
授業方法	授業中に説明・解説、必要に応じて演習（練習問題）をするので、しっかりと復習・暗記をしてください。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、授業内試験）が100パーセントです。 私語が多い、辞書がない、復習が著しく不十分、不正行為があった場合などは授業内試験の受験資格を失います。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2008	白水社		たのしいドイツ語 読む・聞く・話す （改訂版）		片岡・小川・宮本
	備考					
参考書	授業では使用しませんが、必要だと思う人は各自用意してください。					
オフィスアワー	授業時間（木曜2限）後の休み時間、講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	夏休み前の学習事項を見直しておく。（４５分）
	授業内容	ガイダンス ドイツ語学習の基礎事項の確認と復習
	事後学習	夏休み前の学習事項で苦手な事項を復習する。（１５分）
2	事前学習	前回の授業の復習（１５分）
	授業内容	分離動詞 接続詞
	事後学習	2回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
3	事前学習	授業１回目～２回目の復習（１５分）
	授業内容	交通機関に関連した表現
	事後学習	3回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
4	事前学習	授業１回目～３回目の復習（１５分）
	授業内容	3基本形 非分離動詞
	事後学習	4回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）

5	事前学習	授業１回目～４回目の復習（１５分）
	授業内容	過去形の用法
	事後学習	５回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
6	事前学習	授業１回目～５回目の復習（１５分）
	授業内容	完了形を使った表現
	事後学習	６回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
7	事前学習	授業１回目～６回目の復習（１５分）
	授業内容	スポーツ観戦の際の表現
	事後学習	７回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
8	事前学習	授業１回目～７回目の復習（１５分）
	授業内容	再帰表現 zu不定詞
	事後学習	８回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
9	事前学習	授業１回目～８回目の復習（１５分）
	授業内容	手紙を書く際の表現
	事後学習	９回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
10	事前学習	授業１回目～９回目の復習（１５分）
	授業内容	受動表現
	事後学習	１０回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
11	事前学習	授業１回目～１０回目の復習（１５分）
	授業内容	関係詞
	事後学習	１１回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
12	事前学習	授業１回目～１１回目の復習（１５分）
	授業内容	ドイツの教育制度に関連した表現
	事後学習	１２回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
13	事前学習	授業１回目～１２回目の復習（１５分）
	授業内容	接続法
	事後学習	１３回目の授業で学習した単語・例文の暗記（４５分）
14	事前学習	授業１回目～１３回目の復習（５０分）
	授業内容	授業内試験。試験の解説。
	事後学習	自分の苦手な事項の復習（１０分）
15	事前学習	これまでの学習事項の総復習（３０分）
	授業内容	これまでの授業で触れなかった参考事項 場合によっては追試験を実施。
	事後学習	興味のわいた参考事項についての自主学習（３０分）

科目名	ドイツ語演習F	担当者	森田 悟	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	すでにドイツ語の学習経験のある学生の皆さんと文法事項の復習（特に通常１年後期に学ぶ事項を中心にして）をしながらドイツに関連した読み物を読んでいます。					
授業目的・到達目標	授業目的：ドイツ語技能検定試験３級以上の読解力を養成することを目的にする。 到達目標：ドイツ語の基礎能力を高め、比較的易しい中級程度の文章を読めるようにすることを目指す。 関連DP及びCP：外国語科目領域：１、３、６					
履修条件	学部の規定による					
授業方法	適宜、受講者に読解を求めながら、じっくりすこしずつ進む。ドイツ語文法については初級段階からの説明をおこなう。フィードバックは授業内において行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		平常授業の学習、授業内試験の結果で評価します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	同学社		ドイツ語、次のステップへ		伊藤真ほか
	備考					
参考書	適宜必要に応じて指示する					
オフィスアワー	火曜日の授業時間終了後（17：50～）講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ドイツ語の発音、冠詞、動詞の変化について復習しておくこと（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
2	事前学習	ドイツ語文法を復習（30分）（30分）
	授業内容	受動/ 絵画
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
3	事前学習	ドイツ語文法を復習（30分）
	授業内容	受動/ 絵画
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
4	事前学習	新しい単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	関係代名詞・指示代名詞/ザルツブルク
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと(30分)

5	事前学習	新しい単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	関係代名詞・指示代名詞/ザルツブルク
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
6	事前学習	新しい単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	形容詞/ベルリン
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと
7	事前学習	新しい単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	形容詞/ベルリン
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
8	事前学習	新しい単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	数詞/ ベルリン
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
9	事前学習	新しい単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	数詞/ベルリン
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
10	事前学習	新しい単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	定動詞/ ドレスデン
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
11	事前学習	新しい単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	定動詞・ドレスデン
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
12	事前学習	新しい単語等を調べておくこと（30分）
	授業内容	接続法
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
13	事前学習	新しい単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	接続法
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
14	事前学習	新しい単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	まとめ及び到達度の確認（授業内試験）
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）
15	事前学習	新しい単語等調べておくこと（30分）
	授業内容	振り返り
	事後学習	年間数回確認テストをするので復習しておくこと（30分）

科目名	ドイツ語演習G	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の基礎の文法知識を一步一步確実なものにすることによって、独検3・4級に合格する読解力・聞き取りの力が養成できる。			
授業目的・到達目標	[授業目的] ドイツ語の基礎文法を一から記述し、その文法に基づいて書かれた文化や風土について書かれたテキストの文章を読みながら、基礎のドイツ語力を身に付けること、そしてドイツの文化、歴史などの知識を得ることを目的とする。 [到達目標] 基礎のドイツ語運用力を身につけ、ドイツ語技能検定4・3級に合格できることを目標とする。			
履修条件	関連科目及びCP：外国語科目領域2， 6			
授業方法	演習方式。毎回小テストを実施する。その小テストの結果確認はその都度行う。授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業参画度 小テスト 学期末試験等	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年度	朝日出版社	フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann
	備考			
参考書	独和辞典が必携。携帯電話、スマホ等の独和辞典アプリの授業中の使用は認めない。具体的にはガイダンスで説明する。既に辞書を持っている場合、ガイダンスの際に持参するか、書名、出版社名、出版年度を書いて持参すること。			
オフィスアワー	授業後に授業講堂で相談のうえ受け付ける。 授業時間：金曜3・4・5限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ドイツと言えば何を連想するか考えておくこと。(30分)
	授業内容	ガイダンス(年間講義計画・成績評価の方法・辞書等の紹介)
	事後学習	授業で触れた事柄をまとめ、よく理解ができなかった箇所があれば次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
2	事前学習	テキストvi頁からx頁に目を通し、xi頁の発音練習をしておくこと。(30分)
	授業内容	発音
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。(30分)
3	事前学習	テキストxii頁から6頁に目を通し、よく理解ができなかった箇所があれば次回の授業で質問できるようにし、発音を録音教材で確認しておくこと。(30分)
	授業内容	規則動詞 不規則動詞(1)
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
4	事前学習	テキスト7頁の設問に回答し、8頁を訳出しておくこと。またテキスト9頁から13頁に目を通しておくこと。発音を録音教材で確認しておくこと。(30分)
	授業内容	ドイツへの旅 名詞・冠詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)

5	事前学習	テキスト14頁の設問に回答し、15頁を訳出しておくこと。またテキスト16頁から19頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	フランクフルト到着　不規則動詞(2) 命令形
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
6	事前学習	テキスト20頁の設問に回答し、21頁を訳出しておくこと。またテキスト22頁から25頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	ゲーテの家　冠詞類　人称代名詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
7	事前学習	テキスト26頁の設問に回答し、27頁を訳出しておくこと。またテキスト28頁から32頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	フランクフルトでの買い物　前置詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
8	事前学習	テキスト32頁から34頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	博物館へ行きますか　接続詞　副文
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
9	事前学習	テキスト35頁の設問に回答し、36頁を訳出しておくこと。またテキスト37頁から39頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	話法の助動詞　zu不定詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
10	事前学習	テキスト40頁の設問に回答し、41頁を訳出しておくこと。またテキスト41頁から44頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	日本とドイツの学校について　複合動詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
11	事前学習	テキスト44頁から46頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	再帰動詞　非人称動詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
12	事前学習	テキスト47頁の設問に回答し、48頁を訳出しておくこと。またテキスト49頁から53頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	形容詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
13	事前学習	テキスト57頁から60頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	動詞の3基本形
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
14	事前学習	これまでの学修を振り返り、理解が行き届かない点があれば質問できるように準備すること。(30分)
	授業内容	ドイツの社会・文化を扱った映像教材を見る。
	事後学習	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。(30分)
15	事前学習	もう一度全体を見直して、不確実なところがあればしっかりと記憶すること。(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	事後学習	質問に対して、分からなかったりあやふやだった点を確認すること。(30分)

科目名	ドイツ語演習G	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	時事問題を扱ったドイツ語のテキスト購読とその問題に関するプレゼンテーションを軸に授業を進めて行きます。 ドイツ語圏における生活・在外メディア機関における業務経験や翻訳・通訳の経験も授業に反映させて行きたいと思いま す。							
授業目的・ 到達目標	【授業目標】中級レベルの時事問題を扱ったドイツ語テキストが自律的に読めるようになる能力を育成することが本授業 の目的です。 【到達目標】上記に関する情報交換ができるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 2,6							
履修条件	ドイツ語基礎文法AB及びドイツ語基礎文法ABが履修済みである者。							
授業方法	テーマごとにドイツ語テキストを翻訳し、それを踏まえた上で、そのテーマについてのプレゼンテーションを行います。 翻訳は毎回あたります。学生さんの参加型授業です。フィードバックは授業内において行います。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定 期 試 験							
	平 常 評 価		100%		試験 5 0 % ドイツ語検定試験の結果は加点します。 平常点（授業参加態度、提出物、プレゼンテーション） 5 0 %			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	備考		プリントを使用します。					
参 考 書	独和辞典（電子辞書不可） その他の参考書は授業中に指示します。							
オフィス アワー	火曜日 昼休み 研究室（4号館424研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp） 授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスで授業の内容を確認・文法及び語彙復習（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	教材の準備・文法復習（30分）
2	事前学習	時事問題テキスト1 「メディア」 翻訳（1時間）
	授業内容	時事問題テキスト1 「メディア」
	事後学習	時事問題テキスト1 「メディア」 訳語及び文法事項まとめ（15分）
3	事前学習	時事問題テキスト2 「インターネット」 翻訳（1時間）
	授業内容	時事問題テキスト2 「インターネット」
	事後学習	時事問題テキスト2 「インターネット」 訳語及び文法事項まとめ（15分）
4	事前学習	プレゼンテーション準備（1時間）
	授業内容	時事問題テキスト1・2 プレゼンテーション
	事後学習	プレゼンテーション・ワークシートまとめ（15分）

5	事前学習	時事問題テキスト3 「政治」 翻訳 （1時間）
	授業内容	時事問題テキスト3 「政治」
	事後学習	時事問題テキスト3 「政治」 訳語及び文法事項まとめ （15分）
6	事前学習	時事問題テキスト4 「EU」 翻訳 （1時間）
	授業内容	時事問題テキスト4 「EU」
	事後学習	時事問題テキスト4 「EU」 訳語及び文法事項まとめ （15分）
7	事前学習	プレゼンテーション準備 （1時間）
	授業内容	時事問題テキスト3・4 プレゼンテーション
	事後学習	プレゼンテーション・ワークシートまとめ （15分）
8	事前学習	時事問題テキスト5 「環境問題」 翻訳 （1時間）
	授業内容	時事問題テキスト5 「環境問題」
	事後学習	時事問題テキスト5 「環境問題」 訳語及び文法事項まとめ （15分）
9	事前学習	時事問題テキスト6 「エネルギー」 翻訳 （1時間）
	授業内容	時事問題テキスト6 「エネルギー」
	事後学習	時事問題テキスト6 「エネルギー」 訳語及び文法事項まとめ （15分）
10	事前学習	プレゼンテーション準備 （1時間）
	授業内容	時事問題テキスト5・6 プレゼンテーション
	事後学習	プレゼンテーション・ワークシートまとめ （15分）
11	事前学習	時事問題テキスト7 「キャリア」 翻訳 （1時間）
	授業内容	時事問題テキスト7 「キャリア」
	事後学習	時事問題テキスト7 「キャリア」 訳語及び文法事項まとめ （15分）
12	事前学習	時事問題テキスト8 「大学」 翻訳 （1時間）
	授業内容	時事問題テキスト8 「大学」
	事後学習	時事問題テキスト8 「大学」 訳語及び文法事項まとめ （15分）
13	事前学習	プレゼンテーション準備 （1時間）
	授業内容	時事問題テキスト7・8 プレゼンテーション
	事後学習	プレゼンテーション・ワークシートまとめ （15分）
14	事前学習	レポート準備 （1時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	レポート作成 （1時間）
15	事前学習	試験準備 （1時間）
	授業内容	試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	自己評価 （15分）

科目名	ドイツ語演習G	担当者	渡辺 徳夫	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	インターネットや新聞、雑誌のドイツ語情報を読んでもみる。			
授業目的・到達目標	【授業目的（前期）】ドイツ語の基本的な文法と語彙を土台にして、4級以上の文章を迅速に読解できる力を育成すること。 【到達目標（前期）】ドイツ語の基本的な文法と語彙を土台にして、4級以上の文章を迅速に読解できるようになる。 関連DP/CP外国語領域2.6			
履修条件	初級文法を理解していること。			
授業方法	ほとんど基礎文法の復習をする。文章の音読と文章の観察の後、一語一語文法的に厳密に訳す。慣れてきたら、メールニュースのコピーを配布し、演習形式で読んでみる。そして、日本のニュースと比較する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	検定の結果、授業の参加度、レポート、学期末の試験。遅刻、欠席が多いと評価しない。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年	三修社	『気分はドイツ』	本郷・佐藤著
	備考	コピーを配布する。		
参考書	授業時に指示する。			
オフィスアワー	①授業後の教室（火曜19：30～） ②図書館7階EASTラーニング・コモンズ・スペース（必ず事前に電子メールで連絡すること） ③国際交流センター入室時 のいずれか。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書と辞書を準備する。(10分)
	授業内容	ガイダンス 4年生は必ず出ること
	事後学習	教科書の文法を概観しておくこと。 課題をやること。(80分)
2	事前学習	学習予定の単元を予習しておくこと。(50分)
	授業内容	文法の確認（動詞変化系）、sein, haben 練習 定形2位
	事後学習	課題をやること。 定形2位の原則を覚えること。(40分)
3	事前学習	学習予定の単元を予習しておくこと。 規則動詞との変化語尾を比較してみること。(50分)
	授業内容	文法の確認（動詞変化系） 練習 不規則動詞
	事後学習	課題をやること。(40分)
4	事前学習	学習予定の単元を予習しておくこと。 規則動詞との変化語尾を比較してみること。(50分)
	授業内容	文法の確認（動詞変化系） 練習 不規則動詞（2）
	事後学習	課題をやること。(40分)

5	事前学習	学習予定の単元を予習しておくこと。 wissen型の変化を確認しておくこと。(50分)
	授業内容	文法の確認（動詞変化系） 練習 助動詞
	事後学習	課題をやること。(40分)
6	事前学習	学習予定の単元を予習しておくこと。(50分)
	授業内容	文法の確認（動詞変化系） 練習 分離動詞、zu不定詞
	事後学習	課題をやること。 分離動詞とドイツの文構造との関係を考えてみること。(40分)
7	事前学習	3基本形、sein, haben, werdenの変化を確認しておく。 学習予定の単元を予習しておくこと。(50分)
	授業内容	文法の確認（動詞変化系） 練習 語順、完了形、受動態
	事後学習	課題をやること。 3通りの定型の位置を確認すること。(40分)
8	事前学習	格の用法を調べること。 学習予定の単元を予習しておくこと。(50分)
	授業内容	文法の確認（格変化系） 練習 定冠詞と不定冠詞
	事後学習	課題をやること。(40分)
9	事前学習	冠詞と冠詞類の語尾を比較すること。 学習予定の単元を予習しておくこと。(50分)
	授業内容	文法の確認（格変化系） 練習 冠詞類
	事後学習	課題をやること。(40分)
10	事前学習	定冠詞の語尾を確認しておくこと。 学習予定の単元を予習しておくこと。(50分)
	授業内容	文法の確認（格変化系） 練習 人称代名詞、疑問代名詞
	事後学習	課題をやること。(40分)
11	事前学習	学習予定の単元を予習しておくこと。(50分)
	授業内容	文法の確認（格変化系） 練習 前置詞
	事後学習	課題をやること。 3・4格支配の前置詞の用法を確認し、完全に覚えること。(40分)
12	事前学習	定冠詞類の語尾を確認しておくこと。 学習予定の単元を予習しておくこと。(50分)
	授業内容	文法の確認（格変化系） 練習 形容詞
	事後学習	課題をやること。(40分)
13	事前学習	副文の構造を確認しておくこと。 学習予定の単元を予習しておくこと。(50分)
	授業内容	文法の確認（格変化系） 練習 関係代名詞
	事後学習	課題をやること。(40分)
14	事前学習	前期文法を総復習すること。(50分)
	授業内容	試験、レポートの注意点
	事後学習	試験、レポートの注意点を厳守すること。(40分)
15	事前学習	試験、レポートの注意点の確認、点検。(80分)
	授業内容	試験（ドイツ語ニュースの和訳）。参照可。及びまとめ、振り返り、講評。 （もしくはレポート）
	事後学習	検定試験を受けた人は、結果を報告すること。また、自己採点し、間違いを確認してみる。(10分)

科目名	ドイツ語演習H	担当者	川嶋 正幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の基礎の文法知識を一步一步確実なものにすることによって、独検3・4級に合格する読解力・聞き取りの力が養成できる。			
授業目的・到達目標	[授業目的] ドイツ語の基礎文法を一から記述し、その文法に基づいて書かれた文化や風土について書かれたテキストの文章を読みながら、基礎のドイツ語力を身に付けること、そしてドイツの文化、歴史などの知識を得ることを目的とする。 [到達目標] 基礎のドイツ語運用力を身につけ、ドイツ語技能検定4・3級に合格できることを目標とする。			
履修条件	関連科目及びCP：外国語科目領域2，6			
授業方法	演習方式。毎回小テストを実施する。その小テストの結果確認はその都度行う。授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業参画度 小テスト 学期末試験等	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年度	朝日出版社	フランクフルト四重奏	川嶋正幸 中村憲治 Schlichtmann
	備考			
参考書	独和辞典が必携。携帯電話、スマホ等の独和辞典アプリの授業中の使用は認めない。具体的にはガイダンスで説明する。既に辞書を持っている場合、ガイダンスの際に持参するか、書名、出版社名、出版年度を書いて持参すること。			
オフィスアワー	授業後に授業講堂で相談のうえ受け付ける。 授業時間：金曜3・4・5限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	これまでに獲得したドイツ語の文法・語彙に対して、まだあやふやな点があれば再確認しておくこと。(30分)
	授業内容	ガイダンス 前期学習内容の小テスト
	事後学習	小テストであやふやだったり覚えていなかった点があれば、再確認して記憶しておくこと。(30分)
2	事前学習	テキスト55頁の設問に回答し、56頁を訳出しておくこと。(30分)
	授業内容	比較級 最上級
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
3	事前学習	テキスト57頁から60頁に再び目を通し、61頁にも目を通してておくこと。(30分)
	授業内容	過去形
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
4	事前学習	テキスト62頁の設問に回答し、63頁を訳出しておくこと。またテキスト64頁から66頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	日本人とドイツの歴史について 複合時制
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)

5	事前学習	テキスト67頁の設問に回答し、68頁を訳出しておくこと。またテキスト69頁から71頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	関係代名詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
6	事前学習	テキスト71頁から73頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	受動態
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
7	事前学習	テキスト74頁の設問に回答し、75頁を訳出しておくこと。またテキスト76頁から77頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	ドイツの環境問題 接続法第1式
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
8	事前学習	テキスト77頁から79頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	接続法第2式
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
9	事前学習	テキスト全体を振り返り、よく理解できていない箇所があれば、質問できるように準備する。(30分)
	授業内容	テキスト全体について重要な事項を中心に振り返る。
	事後学習	授業前に分からなかったりあいまいだった箇所が、分かるようになったか確認する。(30分)
10	事前学習	テキスト80頁の設問に回答し、81頁の13行目までを訳出しておくこと。(30分)
	授業内容	ドイツの平和について (1)
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと (30分)
11	事前学習	テキスト81頁の最後までを訳出しておくこと。(30分)
	授業内容	ドイツの平和について (2)
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと (30分)
12	事前学習	テキスト82頁 Anhang 本文21行目まで訳出しておくこと。(30分)
	授業内容	国際連合(1)
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと(30分)
13	事前学習	テキスト82頁 Anhang 本文21行目から最後まで訳出しておくこと。(30分)
	授業内容	国際連合(2)
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。(30分)
14	事前学習	これまでの学修を振り返り、理解が行き届かない点があれば質問できるように準備すること。(30分)
	授業内容	ドイツの社会・文化を扱った映像教材を見る。
	事後学習	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。(30分)
15	事前学習	これまでの学修を振り返り、質問に答えられるように準備すること。(30分)
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り
	事後学習	質問に対して、分からなかったりあやふやだった点を確認すること。(30分)

科目名	ドイツ語演習Ⅱ	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	時事問題を扱ったドイツ語のテキスト購読とその問題に関するプレゼンテーションを軸に授業を進めて行きます。 ドイツ語圏における生活・在外メディア機関における業務経験や翻訳・通訳の経験も授業に反映させて行きたいと思いま す。				
授業目的・ 到達目標	【授業目標】中級レベルの時事問題を扱ったドイツ語テキストが自律的に読めるようになる能力を育成することが本授業 の目的です。 【到達目標】上記に関する情報交換ができるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 2,6				
履修条件	ドイツ語基礎文法AB及びドイツ語基礎文法ABが履修済みである者。				
授業方法	テーマごとにドイツ語テキストを翻訳し、それを踏まえた上で、そのテーマについてのプレゼンテーションを行います。 翻訳は毎回あたります。学生さんの参加型授業です。フィードバックは授業内において行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	試験 5 0 % ドイツ語検定試験の結果は加点します。 平常点（授業参加態度、提出物、プレゼンテーション） 5 0 %	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	プリントを使用します。			
参 考 書	独和辞典（電子辞書不可） その他の参考書は授業中に指示します。				
オフィス アワー	火曜日 昼休み 研究室（4号館424研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp） 授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教材準備・文法復習（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	教材準備・文法復習（30分）
2	事前学習	時事問題テキスト9 「スポーツ」 翻訳（1時間）
	授業内容	時事問題テキスト9「スポーツ」
	事後学習	時事問題テキスト9 「スポーツ」訳語及び文法事項まとめ（15分）
3	事前学習	時事問題テキスト10 「文化」 翻訳（1時間）
	授業内容	時事問題テキスト10「文化」
	事後学習	時事問題テキスト10 「文化」訳語及び文法事項まとめ（15分）
4	事前学習	プレゼンテーション準備（1時間）
	授業内容	時事問題テキスト9・10 プレゼンテーション
	事後学習	プレゼンテーション・ワークシートまとめ（15分）

5	事前学習	時事問題テキスト１１ 「歴史」 翻訳 （１時間）
	授業内容	時事問題テキスト１１ 「歴史」
	事後学習	時事問題テキスト１１ 「歴史」 訳語及び文法事項まとめ （15分）
6	事前学習	時事問題テキスト１２ 「観光」 翻訳 （１時間）
	授業内容	時事問題テキスト１２「観光」
	事後学習	時事問題テキスト１２ 「観光」 訳語及び文法事項まとめ （15分）
7	事前学習	プレゼンテーション準備 （１時間）
	授業内容	時事問題テキスト１１・１２ プレゼンテーション
	事後学習	プレゼンテーション・ワークシートまとめ （15分）
8	事前学習	時事問題テキスト１３ 「移民」 翻訳 （１時間）
	授業内容	時事問題テキスト１３ 「移民」
	事後学習	時事問題テキスト１３ 「移民」 訳語及び文法事項まとめ （15分）
9	事前学習	時事問題テキスト１４ 「ジェンダー」 翻訳 （１時間）
	授業内容	時事問題テキスト１４ 「ジェンダー」
	事後学習	時事問題テキスト１４ 「ジェンダー」 訳語及び文法事項まとめ （15分）
10	事前学習	プレゼンテーション準備 （１時間）
	授業内容	時事問題テキスト１３・１４ プレゼンテーション
	事後学習	プレゼンテーション・ワークシートまとめ （15分）
11	事前学習	時事問題テキスト１５ 「祝祭」 翻訳 （１時間）
	授業内容	時事問題テキスト１５ 「祝祭」
	事後学習	時事問題テキスト１５ 「祝祭」 訳語及び文法事項まとめ （15分）
12	事前学習	時事問題テキスト１６ 「宗教」 翻訳 （１時間）
	授業内容	時事問題テキスト１６ 「宗教」
	事後学習	時事問題テキスト１６ 「宗教」 訳語及び文法事項まとめ （15分）
13	事前学習	プレゼンテーション準備 （１時間）
	授業内容	時事問題テキスト１５・１６ プレゼンテーション
	事後学習	プレゼンテーション・ワークシートまとめ （15分）
14	事前学習	レポート準備 （１時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	レポート作成 （１時間）
15	事前学習	試験準備 （１時間）
	授業内容	試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	自己評価 （15分）

科目名	ドイツ語演習H	担当者	渡辺 徳夫	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	インターネットや新聞、雑誌のドイツ語情報を読んでもみる。			
授業目的・到達目標	【授業目的（後期）】ドイツ語の基本的な文法と語彙を土台にして、3級レベルの文章を正確に読解できる力を育成すること。 【到達目標（後期）】ドイツ語の基本的な文法と語彙を土台にして、3級レベルの文章を正確に読解できるようになる。 関連DP/CP 外国語領域2.6			
履修条件	初級文法を理解していること。			
授業方法	ほとんど基礎文法の復習をする。文章の音読と文章の観察の後、一語一語文法的に厳密に訳す。慣れてきたら、メールニュースのコピーを配布し、演習形式で読んでみる。そして、日本のニュースと比較する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	検定の結果、授業の参加度、レポート、学期末の試験。遅刻、欠席が多いと評価しない。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年	三修社	『気分はドイツ』	本郷・佐藤著
	備考	コピーを配布する。		
参考書	授業時に指示する。			
オフィスアワー	①授業後の教室（火曜19：30～） ②図書館7階EASTラーニング・コモンズ・スペース（必ず事前に電子メールで連絡すること） ③国際交流センター入室時 のいずれか。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期文法を概観すること。（10分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	前期文法の全体を把握すること。（50分）
2	事前学習	分詞の定義、接続法の接続とは何か調べてみること。（50分）
	授業内容	文法の確認 分詞、zu不定詞、接続法（間接話法）
	事後学習	ニュース記事には間接話法が多用されることを覚えておくこと。（40分）
3	事前学習	前回の単元を復習すること。（50分）
	授業内容	文法の確認 分詞、zu不定詞、接続法（非現実）
	事後学習	間接話法で接続法2式が使用されるのはどういう場合かを覚えること。（40分）
4	事前学習	記事の文構造、文法分析、音読をすること。（50分）
	授業内容	ドイツ語の記事の音読（日本） 文構造の分析 文法の確認
	事後学習	決定訳をノートに記すこと。（40分）

5	事前学習	記事の文構造、文法分析、音読をすること。(50分)
	授業内容	和訳 日本語の記事の確認、比較
	事後学習	決定訳をノートに記すこと。(40分)
6	事前学習	記事の文構造、文法分析、音読をすること。(50分)
	授業内容	ドイツ語の記事の音読 文構造の分析 文法の確認
	事後学習	決定訳をノートに記すこと。(40分)
7	事前学習	記事の文構造、文法分析、音読をすること。(50分)
	授業内容	和訳 日本語の記事の確認、比較
	事後学習	決定訳をノートに記すこと。(40分)
8	事前学習	記事の文構造、文法分析、音読をすること。(50分)
	授業内容	ドイツ語の記事の音読(日本) 文構造の分析 文法の確認
	事後学習	決定訳をノートに記すこと。(40分)
9	事前学習	記事の文構造、文法分析、音読をすること。(50分)
	授業内容	和訳 日本語の記事の確認、比較
	事後学習	決定訳をノートに記すこと。(40分)
10	事前学習	記事の文構造、文法分析、音読をすること。(50分)
	授業内容	ドイツ語の記事の音読(日本) 文構造の分析 文法の確認
	事後学習	決定訳をノートに記すこと。 独文が長い場合には、一度切って、和訳してみること。(40分)
11	事前学習	記事の文構造、文法分析、音読をすること。(50分)
	授業内容	和訳 日本語の記事の確認、比較
	事後学習	決定訳をノートに記すこと。 独文が長い場合には、一度切って、和訳してみること。(40分)
12	事前学習	記事の文構造、文法分析、音読をすること。(50分)
	授業内容	ドイツ語の記事の音読(世界) 文構造の分析 文法の確認
	事後学習	決定訳をノートに記すこと。 独文が長い場合には、一度切って、和訳してみること。(40分)
13	事前学習	記事の文構造、文法分析、音読をすること。(50分)
	授業内容	和訳 日本語の記事の確認、比較
	事後学習	決定訳をノートに記すこと。 独文が長い場合には、一度切って、和訳してみること。(40分)
14	事前学習	記事の文構造、文法分析、音読をすること。(50分)
	授業内容	試験、レポートについて
	事後学習	注意点を厳守すること。 手書きで書くこと。(40分)
15	事前学習	訳および注意点を確認、点検。(80分)
	授業内容	レポート試験及びまとめ、振り返り、講評。
	事後学習	検定試験の結果を報告すること。また、自己採点して、間違いを確認してみる。(10分)

科目名	リーディング・ライティング(独) I A	担当者	H. トロル	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Understand and practise basic German in written and spoken form. Learn to read and write easy German. テキストとCD をつかって進みます。				
授業目的・到達目標	重要表現の練習を繰り返し、ドイツ語の基本理解を深めることを目的とする。 ドイツ語で簡単な読み書きができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	積極的な授業参加 5				
授業方法	教科書とビデオ教材を用いて重要表現の練習を繰り返します。 フィードバックは授業内において行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	2 tests (80%) and 20% class performance	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	第三書房	第三書房		さあ、ドイツ語で ISBN978-4-8086-1194-1	Hermann Troll/ Satoshi Maeda
	備考				
参 考 書	文法から学べる ドイツ語 【ナツメ社】 ISBN978-4-8163-3820-5				
オフィス アワー	授業の後（月曜17：50～）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み予習30分
	授業内容	ガイダンス First expressions
	事後学習	復習30分
2	事前学習	予習30分
	授業内容	発音練習 など
	事後学習	復習60分
3	事前学習	予習60分
	授業内容	挨拶の言葉、自己紹介
	事後学習	復習60分
4	事前学習	予習60分
	授業内容	第1課 Groß e 挨拶
	事後学習	復習60分

5	事前学習	予習60分
	授業内容	第1課 G r ü ß e 挨拶
	事後学習	復習60分
6	事前学習	予習60分
	授業内容	第2課 W i e h e i ß t d a s F e s t ? その祭りの名前は何ですか？
	事後学習	復習60分
7	事前学習	予習60分
	授業内容	第2課 W i e h e i ß t d a s F e s t ? その祭りの名前は何ですか？
	事後学習	復習60分
8	事前学習	予習60分
	授業内容	第3課 K a i b e s u c h t d i e F a m i l i e M ü l l e r カイが大家さんのミュラーさんの家を訪ねる
	事後学習	復習60分
9	事前学習	予習60分
	授業内容	第3課 K a i b e s u c h t d i e F a m i l i e M ü l l e r カイが大家さんのミュラーさんの家を訪ねる
	事後学習	復習60分
10	事前学習	予習90分
	授業内容	小テスト, ドイツの生活 (ビデオⅠ)
	事後学習	復習30分
11	事前学習	予習60分
	授業内容	第4課 D i e M i t g l i e d e r d e r F a m i l i e ミュラー家の人々
	事後学習	復習60分
12	事前学習	予習60分
	授業内容	第4課 D i e M i t g l i e d e r d e r F a m i l i e ミュラー家の人々
	事後学習	復習60分
13	事前学習	予習60分
	授業内容	第5課 A n d e r U n i v e r s i t ä t 大学で
	事後学習	復習60分
14	事前学習	予習60分
	授業内容	第5課 A n d e r U n i v e r s i t ä t 大学で
	事後学習	復習60分
15	事前学習	予習90分
	授業内容	小テスト, ドイツの生活 (ビデオⅡ) まとめ
	事後学習	復習30分

科目名	リーディング・ライティング(独) I A	担当者	V. カレンベルク	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語でビジネスに必要な最低限の書類を読み書きする訓練をする。				
授業目的・到達目標	ビジネスの現場で使えるドイツ語の基礎を育成することを目的とし、ドイツ語で履歴書が書け、Eメールの読み書きができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	ドイツ語基礎表現を履修した者				
授業方法	全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声に出して復習する。必要に応じてDVDで面接の様子を見せる。フィードバックは授業内において行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常点40%：出席を取る時のオラルテストと小テストで評価。最後の授業でテストをする。筆記試験60%：100点満点の筆記試験で評価。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし			
参考書	『ドイツ語文法へのプロローグ』岡本順治：郁文堂、『ドンと来い分離動詞』渡水久雄：駿河台ドイツ語工房、独和辞典 Wirtschaftsdeutsch für Anfänger Klettverlag, Grundwortschatz Deutsch（ドイツ基本語）独日情報研究室				
オフィスアワー	授業後15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業後、教室で担当教員のところまで来てください。 授業時間：木曜2限、土曜1・2限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（20分）
	授業内容	簡単な履歴書を書く（何歳ですか？ 何の資格をいつとりましたか？）
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
2	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	自己紹介とビジネスパートナーの紹介
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
3	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	スケジュール（時間）の書き方
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
4	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	スケジュールの（日にち）の報告
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）

5	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	電話のかけ方I
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
6	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	電話のかけ方II（断りの電話）
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
7	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	ここまでの復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
8	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	Eメールを書くI（基本） 動詞の現在完了と過去形の使い分け
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
9	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	前回の復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
10	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	Eメールを書くII（具体的なビジネスメール） 分離動詞と非分離動詞
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
11	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	Eメールを書くIII 代名詞の使い方
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
12	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	Eメールの書き方IV 再帰動詞の使い方
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
13	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	ここまでの復習I
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
14	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	ここまでの復習II
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
15	事前学習	ここまで学んだことの復習（30分）
	授業内容	まとめ・テスト
	事後学習	テストでわからなかった点の復習（40分）

科目名	リーディング・ライティング(独) I B	担当者	H. トロル	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	難しくないですけど努力が必要です。 Easy German read and write We follow our textbook				
授業目的・到達目標	重要表現の練習を繰り返し、ドイツ語の基本理解を深めることを目的とする。 ドイツ語で簡単な読み書きができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	None 積極的な態度が必要です。				
授業方法	Grammatical exercises, repetition and easy sentences 文法の復習, 分の作り方 フィードバックは授業内において行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	2 tests (80%) and 20% class performance	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	第三書房	第三書房		さあ、ドイツ語で ISBN978-4-8086-1194-1	Troll/ Ogushi
	備考				
参 考 書	文法から学べるドイツ語 (ナツメ社) I S B N 9 7 8 - 4 - 8 1 6 3 - 3 8 2 0 - 5				
オフィス アワー	授業の後 (月曜17:50～)				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	復習予習30分
	授業内容	Repetition of first semester 復習
	事後学習	復習60分
2	事前学習	予習60分
	授業内容	Lesson 6 I c h w i l l z u m F u ß b a l l サッカー観戦
	事後学習	復習60分
3	事前学習	予習60分
	授業内容	Lesson 6 I c h w i l l z u m F u ß b a l l サッカー観戦
	事後学習	復習60分
4	事前学習	予習60分
	授業内容	Lesson 7 W i e w a r d a s d a m a l s ? 当時の状況は?
	事後学習	復習60分

5	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 7 Wie war das damals? 当時の状況は?
	事後学習	復習 6 0 分
6	事前学習	予習 9 0 分
	授業内容	Short test 1 and video
	事後学習	復習 3 0 分
7	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 8 Zum Schwimmen an einen See? 湖へ泳ぎに行く?
	事後学習	復習 6 0 分
8	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 8 Zum Schwimmen an einen See? 湖へ泳ぎに行く?
	事後学習	復習 6 0 分
9	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 9 Du bist lange nicht da gewesen 久しぶりだね
	事後学習	復習 6 0 分
10	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 9 Du bist lange nicht da gewesen 久しぶりだね
	事後学習	復習 6 0 分
11	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 10 Umweltbewusste Bürger? 環境意識の強い国民?
	事後学習	復習 6 0 分
12	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 10 Umweltbewusste Bürger? 環境意識の強い国民?
	事後学習	復習 6 0 分
13	事前学習	予習 9 0 分
	授業内容	Short test and video
	事後学習	復習 3 0 分
14	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 11 Würden Sie mir helfen ? 手をかしていただけますか?
	事後学習	復習 6 0 分
15	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 11 Würden Sie mir helfen ? 手をかしていただけますか? まとめ
	事後学習	復習 6 0 分

科目名	リーディング・ライティング(独) I B	担当者	V. カレンベルク	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語でビジネスに必要な最低限の書類を読み書きする訓練をする。				
授業目的・到達目標	ビジネスの現場で使えるドイツ語の基礎を育成することを目的とし、ドイツ語で履歴書が書け、Eメールの読み書きができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	ドイツ語基礎表現を履修した者				
授業方法	全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声に出して復習する。必要に応じてDVDで面接の様子を見せる。フィードバックは授業内において行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常点40%：出席を取る時のオラルテストと小テストで評価。最後の授業でテストをする。筆記試験60%：100点満点の筆記試験で評価。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし			
参考書	『ドイツ語文法へのプロローグ』岡本順治：郁文堂、『ドンと来い分離動詞』渡水久雄：駿河台ドイツ語工房、独和辞典 Wirtschaftsdeutsch für Anfänger Klettverlag, Grundwortschatz Deutsch（ドイツ基本語）独日情報研究室				
オフィスアワー	授業後15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業後、教室で担当教員のところまで来てください。 授業時間：木曜2限、土曜1・2限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	ビジネスニュースを読む
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
2	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	前回の復習 パーセントや何分の一などの言い方
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
3	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	ミーティングで丁寧表現を使う 話法の助動詞
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
4	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	前回の復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）

5	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	ホテルバーで お客様との会話、注文の仕方
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
6	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	前回の復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
7	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	ピクトグラムと話法の助動詞
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
8	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	世界の国の名前 国民を意味する言葉の単数と複数
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
9	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	ドイツの簡単な地理 州と州都など 前置詞の 3 格と 4 格の使い分け
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
10	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	前置詞の 3 格と 4 格の使い分けの復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
11	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	道案内の仕方
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
12	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	前回の復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
13	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	ここまでの復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
14	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	ここまでの復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
15	事前学習	16回からの内容の復習（30分）
	授業内容	まとめ・テストと反省会
	事後学習	テストでわからなかった点の復習（40分）

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅠA	担当者	川嶋 正幸	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の文法・単語の知識を一步一步確実なものにすることにより、独検3・4級に合格する読解力・聞き取りの力が養成できる。			
授業目的・到達目標	[授業目的] ドイツ語の基礎文法を発音から始めて接続法に至るまで易しく解説するテキストにより、基礎のドイツ語力を身に付けることを目的とする。 [到達目標] 基礎のドイツ語運用力を身につけ、ドイツ語技能検定4・3級に合格できることを目標とする。			
履修条件	関連科目及びCP：外国語科目領域5，6			
授業方法	演習方式。毎回小テストを実施する。その小テストの結果確認はその都度行う。授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業参画度 小テスト 学期末試験等
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2010年度	三修社	らくらくドイツ文法	長谷川つとむ 他
	備考			
参考書	独和辞典が必携。携帯電話、スマホ等の独和辞典アプリの授業中の使用は認めない。具体的にはガイダンスで説明する。既に辞書を持っている場合、ガイダンスの際に持参するか書名、出版社名、出版年度を書いて持参すること。			
オフィスアワー	授業後に授業講堂で相談のうえ受け付ける。 授業時間：金曜2限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ドイツと言えば何を連想するか考えておくこと。(30分)
	授業内容	ガイダンス(年間講義計画・成績評価の方法・辞書等の紹介)
	事後学習	授業で触れた事柄をまとめておくこと。(30分)
2	事前学習	テキストの7頁から8頁まで目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	ドイツ語のアルファベットと発音
	事後学習	授業で扱った発音を録音教材によって確認し、発音練習をすること。(30分)
3	事前学習	テキストの8頁から9頁まで目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	母音と子音の発音
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
4	事前学習	テキストの10頁から12頁まで目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	単語の発音 動詞の現在人称変化
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)

5	事前学習	テキストの13頁の設問に回答し、14頁から16頁まで目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	名詞 冠詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
6	事前学習	テキストの16頁から17頁まで目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	名詞の複数形
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
7	事前学習	テキスト18頁の設問に回答し、19頁から21頁まで目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	不規則動詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
8	事前学習	テキスト21頁から22頁まで目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	命令形
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
9	事前学習	テキスト23頁の設問に回答し、24頁から26頁まで目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	冠詞類 人称代名詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
10	事前学習	テキスト27頁の設問に回答し、28頁から30頁まで目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	前置詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
11	事前学習	テキスト30頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	接続詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
12	事前学習	テキスト31頁の設問に回答し、32頁から34頁までに目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	話法の助動詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
13	事前学習	テキスト35頁の設問に回答し、テキストの36頁から37頁までに目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	分離動詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
14	事前学習	これまでの学修を振り返り、理解が行き届かない点があれば質問できるように準備すること。(30分)
	授業内容	ドイツの社会・文化を扱った映像教材を見る。
	事後学習	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。(30分)
15	事前学習	これまでの学修を振り返り、質問に答えられるように準備すること。(30分)
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	事後学習	質問に対して、分からなかったりあやふやだった点を確認すること。(30分)

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅠA	担当者	河田 一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業ではドイツ語検定試験４・５級の出題傾向を解説し、試験に合格するための指導を行います。			
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語検定等の資格試験や専門分野の原書理解等に必要な読解力・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】ドイツ語検定合格のための基礎力を身につけ、６割以上の正解率を目標とします。関連DP及びCP：外国語科目領域5,6			
履修条件	ドイツ語が初めての場合は、ドイツ語基礎表現・ドイツ語基礎文法も履修してください。			
授業方法	演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で解説を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）100%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2009	三修社	気分はドイツ	本郷、佐藤他
	備考			
参考書	必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	土曜10:30～ 授業終了後の講堂にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	心静かに、ガンダンスを待つこと。 シラバスを確認しておくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、ドイツ語検定試験の概要を説明する。
	事後学習	ガイダンスの内容を確認し、次回からの授業に必要なものを用意すること。（30分）
2	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	発音問題Ⅰ
	事後学習	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
3	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	発音問題Ⅱ・動詞の変化Ⅰ
	事後学習	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
4	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	発音問題Ⅲ・動詞の変化Ⅱ
	事後学習	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）

5	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	sein ・ habenの説明
	事後学習	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
6	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	名詞と冠詞
	事後学習	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
7	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	名詞の複数形
	事後学習	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
8	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	不規則変化動詞
	事後学習	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
9	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	冠詞類
	事後学習	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
10	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	人称代名詞
	事後学習	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
11	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	前置詞 I
	事後学習	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
12	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	前置詞 II
	事後学習	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
13	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	接続詞
	事後学習	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
14	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	ヒアリング練習 I
	事後学習	授業内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
15	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容のまとめ。
	事後学習	授業内容を確認し、後期に備えること。（30分）

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅠA	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の基本を確認しながら、ドイツ語技能検定試験(独検)の4級と3級の合格を目指す授業である。前期で4級レベル、後期で3級レベルの事項を扱う。			
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語の文法知識と基本的な語彙を習得し、ドイツ語検定試験の4級と3級に合格できるレベルの運用能力を養成することを目的とする。 【到達目標】ドイツ語の文法知識と基本的な語彙を習得し、ドイツ語検定試験の4級と3級に合格できることを目標とする。関連DP及びCP:外国語科目領域5, 6			
履修条件	独検合格を目指す授業である以上、独検は必ず受験すること。独検を受験しない者の受講は、認めない。毎回、かなりの情報を扱うため、事前学習や事後学習に記した学習時間以上に学び、知識を確実に身に着けること。			
授業方法	文法の復習、単語・熟語の知識の確認、過去問の解説、等。授業中に実施する試験については、授業内で講評を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常評価(授業参加度、独検のスコア、授業内試験等) 100%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014年	三修社	独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法	在間進ほか
	2010年	第三書房	新・独検合格 単語+熟語1800	在間進ほか
	備考	単語集は、同じ書籍を持っている場合には、あらためて購入する必要はない(2018年度に私が担当した「ドイツ語基礎文法」で使用したものと同一である)。		
参考書	授業では使用しないが、自習用問題集を必要とする場合には、森泉『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』(ベレ書房、2006年)を勧めたい。			
オフィスアワー	・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。 ・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。 ・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。(30分)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	「ドイツ語基礎文法」で学習した文法事項のうち、独検4級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。(30分)
2	事前学習	「ドイツ語基礎文法」で学習した文法事項のうち、独検4級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	独検4級 模擬試験(筆記とリスニング)
	事後学習	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を「ドイツ語基礎文法」の授業で使用した教科書で確認しておくこと。(30分)
3	事前学習	「ドイツ語基礎文法」で学習した文法事項のうち、独検4級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	前回の模擬試験の解説
	事後学習	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を「ドイツ語基礎文法」の授業で使用した教科書で確認しておくこと。(30分)
4	事前学習	教科書を準備して授業に来ること。学習予定内容について、あらかじめ教科書をよく読んでくること。(30分)
	授業内容	第1章 発音、第2章 動詞と文
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)

5	事前学習	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。単語と熟語をきちんと覚えてくること。(30分)
	授業内容	第3章 格変化(単数形)、第4章 複数形
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
6	事前学習	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。単語と熟語をきちんと覚えてくること。(30分)
	授業内容	対策学習編1(3人称の人称代名詞と疑問代名詞、疑問副詞)
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
7	事前学習	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。単語と熟語をきちんと覚えてくること。(30分)
	授業内容	第5章 冠詞類
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
8	事前学習	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。単語と熟語をきちんと覚えてくること。(30分)
	授業内容	対策学習編2(不規則変化動詞、複合的な疑問詞)
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
9	事前学習	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。単語と熟語をきちんと覚えてくること。(30分)
	授業内容	第6章 前置詞
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
10	事前学習	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。単語と熟語をきちんと覚えてくること。(30分)
	授業内容	第7章 人称代名詞、再帰代名詞
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
11	事前学習	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。単語と熟語をきちんと覚えてくること。(30分)
	授業内容	第8章 話法の助動詞、未来形
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
12	事前学習	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。単語と熟語をきちんと覚えてくること。(30分)
	授業内容	対策学習編3(分離動詞、命令形)
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
13	事前学習	これまでの学習事項を復習してくること。(30分)
	授業内容	独検4級 模擬試験
	事後学習	理解が十分ではないところを重点的に復習すること。(30分)
14	事前学習	前期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。(30分)
	授業内容	理解度の確認と前期内容の振り返り
	事後学習	理解が十分でないところを重点的に復習すること。(30分)
15	事前学習	前期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。(30分)
	授業内容	前期の復習
	事後学習	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。(30分)

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅠB	担当者	川嶋 正幸	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の文法・単語の知識を一步一步確実なものにすることにより、独検3・4級に合格する読解力・聞き取りの力が養成できる。				
授業目的・到達目標	[授業目的] ドイツ語の基礎文法を発音から始めて接続法に至るまで易しく解説するテキストにより、基礎のドイツ語力を身に付けることを目的とする。 [到達目標] 基礎のドイツ語運用力を身につけ、ドイツ語技能検定4・3級に合格できることを目標とする。				
履修条件	関連科目及びCP：外国語科目領域5，6				
授業方法	演習方式。毎回小テストを実施する。その小テストの結果確認はその都度行う。授業内試験実施時に30分のフィードバックを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参画度 小テスト 学期末試験等	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2010年度	三修社		らくらくドイツ文法	長谷川つとむ 他
	備考				
参考書	独和辞典が必携。携帯電話、スマホ等の独和辞典アプリの授業中の使用は認めない。具体的にはガイダンスで説明する。既に辞書を持っている場合、ガイダンスの際に持参するか、書名、出版社名、出版年度を書いて持参すること。				
オフィスアワー	授業後に授業講堂で相談のうえ受け付ける。 授業時間：金曜2限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	これまでに獲得したドイツ語の文法・語彙に対して、まだあやふやな点があれば再確認しておくこと。(30分)
	授業内容	ガイドンス 前期学習内容の小テスト
	事後学習	授業によってあぶりだされたドイツ語の文法・語彙に対するあやふやな点を再確認してしっかり記憶すること。(30分)
2	事前学習	テキスト37頁から38頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	分離動詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
3	事前学習	テキスト38頁から39頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	再帰動詞 非人称動詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
4	事前学習	テキスト40頁の設問に回答し、41頁から43頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	形容詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)

5	事前学習	テキスト43頁から45頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	比較級 最高級
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
6	事前学習	テキスト46頁の設問に回答し、テキスト47頁から49頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	過去形
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
7	事前学習	テキスト50頁の設問に回答し、51頁から53頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	未来形 完了形
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
8	事前学習	テキスト54頁の設問に回答し、テキスト55頁から56頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	関係代名詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
9	事前学習	テキスト56頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	不定関係代名詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
10	事前学習	テキスト57頁の設問に回答し、テキスト58頁から60頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	受動態
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
11	事前学習	テキスト60頁から61頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	zu不定詞 分詞
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
12	事前学習	テキスト62頁の設問に回答し、テキスト63頁から64頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	接続法第1式
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
13	事前学習	テキスト64頁から66頁に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	接続法第2式
	事後学習	テキストの発音を録音教材で確認し、発音練習をすること。またよく理解ができなかった箇所があれば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。(30分)
14	事前学習	これまでの学修を振り返り、理解が行き届かない点があれば質問できるように準備すること。(30分)
	授業内容	ドイツの社会・文化を扱った映像教材を見る。
	事後学習	授業で見た映像教材についての感想文を書くこと。(30分)
15	事前学習	これまでの学修を振り返り、質問に答えられるように準備すること。(30分)
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り
	事後学習	質問に対して、分からなかったりあやふやだった点を確認すること。(30分)

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅠB	担当者	河田 一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業ではドイツ語検定試験４・５級の出題傾向をピンポイントで解説し、試験に合格するための指導を行います。					
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語検定等の資格試験や専門領域の原書理解等に必要な読解力・文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】ドイツ語検定合格のための基礎力を身に着け、６割以上の正解率を目標とします。関連DP及びCP：外国語科目領域5,6					
履修条件	ドイツ語が初めての場合は、ドイツ語基礎表現・ドイツ語基礎文法も履修してください。					
授業方法	演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で解説を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2009	三修社		気分はドイツ		本郷、佐藤ほか
	備考					
参考書	必要に応じて紹介する。					
オフィスアワー	土曜10:30～ 授業終了後の講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の内容を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	話法の助動詞Ⅰ
	事後学習	授業の内容を確認し、次回的小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
2	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	話法の助動詞Ⅱ
	事後学習	授業の内容を確認し、次回的小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
3	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	ヒアリング練習Ⅱ
	事後学習	授業の内容を確認し、次回的小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
4	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	形容詞
	事後学習	授業の内容を確認し、次回的小テストに備えて準備を行うこと。（30分）

5	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	分離動詞
	事後学習	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
6	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	動詞の3基本形と過去
	事後学習	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
7	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	完了形
	事後学習	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
8	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	関係代名詞
	事後学習	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
9	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	受動態
	事後学習	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
10	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	zu 不定詞
	事後学習	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
11	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	接続法
	事後学習	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
12	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	総合問題Ⅰ
	事後学習	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
13	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	総合問題Ⅱ
	事後学習	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
14	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	総合問題Ⅲ
	事後学習	授業の内容を確認し、次回の小テストに備えて準備を行うこと。（30分）
15	事前学習	前回の授業で示された課題を行うこと。（30分）
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容のまとめ。
	事後学習	心静かに、一年の学習を振り返ること。（30分）

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅠB	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の基本を確認しながら、ドイツ語技能検定試験(独検)の4級と3級の合格を目指す授業である。前期で4級レベル、後期で3級レベルの事項を扱う。			
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語の文法知識と基本的な語彙を習得し、ドイツ語検定試験の4級と3級に合格できるレベルの運用能力を養成することを目的とする。 【到達目標】ドイツ語の文法知識と基本的な語彙を習得し、ドイツ語検定試験の4級と3級に合格できることを目標とする。関連DP及びCP:外国語科目領域5, 6			
履修条件	独検合格を目指す授業である以上、独検は必ず受験すること。独検を受験しない者の受講は、認めない。毎回、かなりの情報を扱うため、事前学習や事後学習に記した学習時間以上に学び、知識を確実に身に着けること。			
授業方法	文法の復習、単語・熟語の知識の確認、過去問の解説、等。授業中に実施する試験については、授業内で講評を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常評価(授業参加度、独検のスコア、授業内試験等) 100%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014年	三修社	独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法	在間進ほか
	2010年	第三書房	新・独検合格 単語+熟語1800	在間進ほか
	備考	単語集は、同じ書籍を持っている場合には、あらためて購入する必要はない(2018年度に私が担当した「ドイツ語基礎文法」で使用したものと同一である)。		
参考書	授業では使用しないが、自習用問題集を必要とする場合には、森泉『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』(ベレ書房、2006年)を勧めたい。			
オフィスアワー	・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。 ・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。 ・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の学習事項を復習しておくこと。(30分)
	授業内容	ガイダンス、独検4級 模擬試験(筆記)と解説
	事後学習	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を教科書で確認しておくこと。独検3級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。(30分)
2	事前学習	独検3級の出題範囲をざっと目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	独検3級 模擬試験と解説
	事後学習	現時点での実力と弱点がどこであるかを把握し、該当する文法項目を教科書で確認しておくこと。(30分)
3	事前学習	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。単語と熟語をきちんと覚えてくること。(30分)
	授業内容	準備編(三基本形)、第9章 過去形
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
4	事前学習	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。単語と熟語をきちんと覚えてくること。(30分)
	授業内容	第10章 現在完了形
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)

5	事前学習	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。単語と熟語をきちんと覚えてくること。(30分)
	授業内容	第11章 受動文
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
6	事前学習	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。単語と熟語をきちんと覚えてくること。(30分)
	授業内容	第12章 接続詞、副文、 第16章 zu不定詞
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
7	事前学習	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。単語と熟語をきちんと覚えてくること。(30分)
	授業内容	第13章 接続法
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
8	事前学習	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。単語と熟語をきちんと覚えてくること。(30分)
	授業内容	第14章 比較変化、第17章 形容詞の格変化
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
9	事前学習	学習予定内容について、あらかじめ目を通してくること。単語と熟語をきちんと覚えてくること。(30分)
	授業内容	第15章 関係文
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
10	事前学習	これまでの学習事項を復習してくること。(30分)
	授業内容	独検3級 模擬試験(筆記とリスニング)
	事後学習	理解が十分でないところを重点的に復習すること。(30分)
11	事前学習	12月に実施予定の独検の問題冊子を持ってくること。試験の内容を見直すこと。(30分)
	授業内容	独検 解説
	事後学習	理解が十分でないところを重点的に復習すること。(30分)
12	事前学習	後期の学習内容について復習し、何が理解できていないかを確認する。(30分)
	授業内容	後期の復習と発展学習
	事後学習	理解が十分でないところを重点的に復習すること。(30分)
13	事前学習	ドイツ語圏の文化について、テレビやインターネットなどを通じて、情報を得るようにすること。(30分)
	授業内容	後期の復習と発展学習
	事後学習	ドイツ語圏の文化で興味のあることについて調べること。(30分)
14	事前学習	後期の学習内容について、十分に時間をかけて確認すること。(30分)
	授業内容	理解度の確認と後期内容の振り返り
	事後学習	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。(30分)
15	事前学習	問題を解いてできないと思ったところを十分に復習すること。(30分)
	授業内容	後期の復習と今後のドイツ語学習について
	事後学習	今後のドイツ語の学習計画について、よく考えること。(30分)

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅡA	担当者	富山 典彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の初級文法を復習しながら、独検3級合格に必要な語彙や表現、それに聞き取り能力等を習得します。そのために、独検の出題形式に準じた初級文法の教科書のほかに、独検3級の過去問を適宜組み合わせ使用します。					
授業目的・到達目標	【授業目的】独検4級を取得している者は独検3級、まだ取得していない者は独検4級と独検3級合格に必要な文法知識や語彙や表現、それに聞き取り能力を養成することを目的としています。 【到達目標】独検受験のための基礎力を身につけ、独検4級・3級に合格できるようになることを目標とします。 関連D P 及びC P：外国語科目領域5，6					
履修条件	ドイツ語の基礎を習得していること。独検受験に意欲を持っていること。授業に積極的に参加すること。					
授業方法	演習形式。毎時間小テストを実施し、その時間に問題の解説を行い、次の授業で答案を返却する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		毎回小テストを実施し、その成績を100%とする。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2004	郁文堂		独検合格スーパートレーニング		高木昌史他
	備考					
参考書	ドイツ語学文学振興会編『独検過去問題集』郁文堂。					
オフィスアワー	授業終了後（金曜12：10～）講堂にて。 連絡先 tomiyama@seijo.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	これまでのドイツ語学習を振り返ってみて、疑問点などを整理しておく。（30分）
	授業内容	はじめに
	事後学習	前年度に用いたドイツ語教科書の発音の課を復習しておく。（30分）
2	事前学習	母音の読み方について整理しておく。（30分）
	授業内容	発音問題の問題演習(1)
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）
3	事前学習	子音の読み方について整理しておく。（30分）
	授業内容	発音問題の問題演習(2)
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）
4	事前学習	これまでに学んだ名詞を整理しておく。（30分）
	授業内容	名詞の性と格変化の問題演習
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）

5	事前学習	sein, haben, werdenのほか、よく使う動詞を整理しておく。（30分）
	授業内容	動詞の現在人称変化の問題演習(1)
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）
6	事前学習	代表的な不規則変化動詞とその意味を調べておく。（30分）
	授業内容	動詞の現在人称変化の問題演習(2)
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）
7	事前学習	定冠詞と不定冠詞の格変化について調べておく。（30分）
	授業内容	定冠詞・不定冠詞の格変化の問題演習
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）
8	事前学習	定冠詞類と不定冠詞類について調べておく。（30分）
	授業内容	定冠詞類・不定冠詞類の格変化の問題演習
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）
9	事前学習	格支配ごとに前置詞を調べておく（30分）
	授業内容	前置詞の問題演習(1)
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）
10	事前学習	前置詞を用いた熟語について調べておく。（30分）
	授業内容	前置詞の問題演習(2)
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）
11	事前学習	前置詞を用いた熟語について調べておく。（30分）
	授業内容	再帰動詞・非人称動詞の問題演習
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）
12	事前学習	話法の助動詞の現在人称変化について調べておく。（30分）
	授業内容	話法の助動詞の問題演習
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）
13	事前学習	未来時称の意味について調べておく。（30分）
	授業内容	未来時称の問題演習
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）
14	事前学習	おもな動詞の三基本形を覚えておく。（30分）
	授業内容	動詞の三基本形の問題演習
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）
15	事前学習	これまでに覚えた単語や表現を整理しておく。（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	前期の授業で説明された表現を使って文を作る練習をする。（30分）

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅡB	担当者	富山 典彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の初級文法を復習しながら、独検3級合格に必要な語彙や表現、それに聞き取り能力等を習得します。そのために、独検の出題形式に準じた初級文法の教科書のほかに、独検3級の過去問を適宜組み合わせ使用します。			
授業目的・到達目標	【授業目的】独検4級を取得している者は独検3級、まだ取得していない者は独検4級と独検3級合格に必要な文法知識や語彙や表現、それに聞き取り能力を養成することを目的としています。 【到達目標】独検受験のための基礎力を身につけ、独検4級・3級に合格できるようになることを目標とします。 関連D P 及びC P：外国語科目領域5， 6			
履修条件	ドイツ語の基礎を習得していること。独検受験に意欲を持っていること。授業に積極的に参加すること。			
授業方法	演習形式。毎時間小テストを実施し、その時間に問題の解説を行い、次の授業で答案を返却する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	毎回小テストを実施し、その成績を100%とする。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2004	郁文堂	独検合格スーパートレーニング	高木昌史他
	備考			
参考書	ドイツ語学文学振興会編『独検過去問題集』郁文堂。			
オフィスアワー	授業終了後（金曜12：10～）講堂にて。 連絡先 tomiyama@seijo.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前年度に用いた教科書の後半部分に載っている例文をノートする。（30分）
	授業内容	はじめに
	事後学習	前年度に用いた教科書の過去形のところを読んでおく。（30分）
2	事前学習	おもな動詞の三基本形を復習しておく。（30分）
	授業内容	過去時称の問題演習
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）
3	事前学習	sein支配とhaben支配の動詞を調べておく。（30分）
	授業内容	完了時称の問題演習
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）
4	事前学習	受動態の作り方について調べておく。（30分）
	授業内容	受動態の問題演習
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）

5	事前学習	おもな接続詞を調べておく。（30分）
	授業内容	接続詞の問題演習
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）
6	事前学習	関係代名詞の使い方について調べておく。（30分）
	授業内容	関係詞の問題演習
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）
7	事前学習	形容詞の使い方について調べておく。（30分）
	授業内容	形容詞の格変化の問題演習
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）
8	事前学習	おもな形容詞の比較級と最上級の作り方について調べておく。（30分）
	授業内容	形容詞の比較変化の問題演習
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）
9	事前学習	接続法の動詞の変化について調べておく。（30分）
	授業内容	接続法の問題演習(1)
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）
10	事前学習	接続法の使い方について調べておく。（30分）
	授業内容	接続法の問題演習(2)
	事後学習	小テストにそなえて教科書の問題をもう一度やっておく。（30分）
11	事前学習	これまでに説明された表現を整理しておく。（30分）
	授業内容	長文問題の問題演習(1)
	事後学習	長文問題の単語をもう一度調べなおす。（30分）
12	事前学習	長文の読み方について考えてみる。（30分）
	授業内容	長文問題の問題演習(2)
	事後学習	長文問題の単語をもう一度調べなおす。（30分）
13	事前学習	会話表現について考えてみる。（30分）
	授業内容	長文問題の問題演習(3)
	事後学習	長文問題の単語をもう一度調べなおす。（30分）
14	事前学習	独検の過去問題集をやってみる。（30分）
	授業内容	総合演習(1)
	事後学習	もう一度問題を解いてみる。（30分）
15	事前学習	独検の過去問題集をやってみる。（30分）
	授業内容	総合演習(2)
	事後学習	これまでの単語や表現などを整理しなおす。（30分）

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅢA	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語検定では基礎文法の知識が問われるので、文法を1からおさらいします。			
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語の基本文法をおさらいし、ドイツ語検定に合格できる語学力を養成することを目的とします。 【到達目標】ドイツ語の基本文法を網羅的に理解し、ドイツ語検定に合格できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域5、6			
履修条件	特にありません。初習者も歓迎します。			
授業方法	練習問題を解きながら、文法事項を確認します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	筆記試験：80満点の試験で、40点に満たない場合は追試となります。（80%） 受講態度で採点します。（20%）
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2001年	朝日出版社	ドイツ文法へのやさしい離陸	石井寿子
	備考			
参考書	独和辞典（電子辞書も可）。			
オフィスアワー	金曜午後本館講師控室（学生は立入禁止のため、本館1階教務課窓口まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜3・4限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第1課 発音
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
2	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第2課 数詞
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
3	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第3課 動詞の現在人称変化
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
4	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第4課 強変化動詞
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）

5	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第5課 名詞の各変化
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
6	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第6課 冠詞類
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
7	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第7課 人称代名詞
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
8	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第8課 話法の助動詞
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
9	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第9課 前置詞
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
10	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第10課 複合動詞・命令形
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
11	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第11課 形容詞の格変化
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
12	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第12課 動詞の過去人称変化
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
13	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第13課 現在完了
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
14	事前学習	授業で習ったことを復習する（30分）
	授業内容	前期の力だめし、まとめ
	事後学習	出題された箇所を確認する（30分）
15	事前学習	自己採点し、不明箇所をピックアップする（30分）
	授業内容	答え合わせ、解説
	事後学習	間違った箇所を確認し、クリアにする（30分）

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅢA	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	1年、2年の授業で習得した基本文法、基本語彙を土台にして、中級レベル（検定合格、語学研修、交換留学）に引き上げるための授業である。				
授業目的・到達目標	【授業目的（前期）】ドイツ語の基本的な文法と語彙を土台にして、4級以上の文章を迅速に読解できる力を育成すること。 【到達目標（前期）】ドイツ語の基本的な文法と語彙を土台にして、4級以上の文章を迅速に読解できるようになる。 〔関連DP及びCP〕外国語領域5・6				
履修条件	すでにドイツ語技能検定試験（独検）5級を取得していること。 ドイツ語技能検定試験（独検）4級、3級を受験すること。				
授業方法	①慣れてきたら、演習形式で行う予定でいる。②辞書をを引きながら、独訳、和訳、文法問題をやっていく。③確認のための小テスト、レポートも実施する。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		0%		
	平常評価		100%		授業内試験 基本的な問題（参照不可）（50%） レポート課題、小テスト、授業への積極的参加、独検の結果（50%）
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	白水社		『独検対策4級・3級問題集〔四訂版〕』	恒吉良隆
	備考				
参考書	独和辞典の紹介（電子辞書を勧めない）は最初の授業時に行う。単語集、参考書も授業時に指示する。				
オフィスアワー	①授業後の講堂（水曜17：50～） ②図書館7階EASTラーニング・コモンズオ・スペース（必ず事前に電子メールで連絡すること） ③国際交流センター入室時 のいずれか				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでおくこと。（10分）
	授業内容	ガイダンス アルファベート、母音の発音
	事後学習	教科書、および、紹介された独和辞典を用意する（電子辞書は不可）。（50分）
2	事前学習	前回の復習をすること。 4級の検定基準を読んでおくこと。（50分）
	授業内容	アルファベート、発音の原則 主語となる人称代名詞 動詞は、主語に応じて変化、辞書の引き方
	事後学習	復習をすること。単語を書けるようにすること。辞書を引いてみる。（40分）
3	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。（50分）
	授業内容	動詞の基本変化 重要動詞sein（英：be）とhaben(英：have)変化 人称代名詞の用法。
	事後学習	課題を行うこと。復習をすること。単語を書けるようにすること。（40分）
4	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。命令形を調べておく。（50分）
	授業内容	復習 名詞は大文字で書き始め、性は3つ、文中の役割を示す格は4つ、複数形は5タイプ、定冠詞類。 辞書の引き方
	事後学習	課題を行うこと。復習をすること。単語を書けるようにすること。（40分）

5	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。小テストために完全に暗記すること。（50分）
	授業内容	復習 小テスト 不定冠詞類。辞書の引き方
	事後学習	冠詞の語尾と冠詞類の語尾を比較してみる。復習をすること。単語を書けるようにすること。（40分）
6	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。わからない点を書き記しておく。（50分）
	授業内容	復習 keinの用法。manの用法。不規則動詞
	事後学習	課題をすること。復習をすること。単語を書けるようにすること。規則動詞の語尾と比較してみる。不定冠詞と否定冠詞の語尾を比較してみる。(40分)
7	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。（50分）
	授業内容	復習 ja, nein, doch。未来、推量の助動詞。前置詞の4種類。人称代名詞の3格と4格。 辞書の引き方
	事後学習	課題をすること。復習をすること。単語を書けるようにすること。3・4格支配の前置詞の用法を検討してみる。(40分)
8	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。助動詞の文構造について観察してみる。（50分）
	授業内容	復習 前置詞の4種類。人称代名詞の3格と4格。 辞書の引き方
	事後学習	課題をすること。復習をすること。単語を書けるようにすること。zu不定句内の語順と日本語の語順の類似性を確認する。(40分)
9	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。定冠詞類の語尾を確認しておく。（50分）
	授業内容	復習 疑問詞 辞書の引き方
	事後学習	課題をすること。復習をすること。単語を書けるようにすること。（40分）
10	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。定形の位置3通り確認する。（50分）
	授業内容	復習 並列の接続詞、数詞 辞書の引き方
	事後学習	課題をすること。復習をすること。単語を書けるようにすること。不規則動詞を辞書で調べておく。(40分)
11	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。（50分）
	授業内容	復習 分離動詞 辞書の引き方
	事後学習	課題をすること。復習をすること。単語を書けるようにすること。ドイツ語の文章における動詞の位置を確認してみよう。(40分)
12	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。「再帰」や「分詞」の意味を調べてみよう。（50分）
	授業内容	復習 再帰代名詞、再帰動詞、非人称表現、分詞、esの用法 辞書の引き方
	事後学習	課題をすること。復習をすること。単語を書けるようにすること。（40分）
13	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。（50分）
	授業内容	復習 会話文、長文、聞き取り練習。 辞書の引き方
	事後学習	課題をすること。復習をすること。単語を書けるようにすること。聞き取れるまで繰り返す。（40分）
14	事前学習	前回の復習をすること。今まで習った単語の意味を覚えなおす。（50分）
	授業内容	前期の復習 試験について
	事後学習	試験範囲を何度も目を通し、CDを聞きながら音読をする。(40分)
15	事前学習	習った単語、文法、文章を完全に覚えたかどうか確認する。（80分）
	授業内容	試験（70分、応用問題、参照可）及びまとめ、振り返り、講評。
	事後学習	検定試験の結果を自己採点しながら、振り返る。独検4級の結果を提出すること。(10分)

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅢB	担当者	石井 寿子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の文法知識を応用し、過去問題を確実に解けるようにします。				
授業目的・到達目標	【授業目的】独検3級に合格できるドイツ語力の養成を目的とします。 【到達目標】ドイツ語の文法知識を応用し、過去問題を確実に解けるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5、 6				
履修条件	特にありませんが、初級文法を既習済みであることを前提に授業を進めます。				
授業方法	2015年・2016年の春・秋季の過去問題を解きながら、傾向と対策を確認していきます。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	筆記試験：80点満点の試験で、40点未満の場合は追試となります。(80%) 受講態度で採点します。(20%)	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	初回授業の時に教材プリントを配布します。必ず出席して下さい。			
参 考 書	独和辞典（電子辞書も可）。				
オフィスアワー	金曜午後本館講師控室（学生は立入禁止のため、本館1階教務課窓口まで申し出て、声をかけてもらってください） 授業時間：金曜3・4限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第14課 接続詞
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
2	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第15課 関係代名詞
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
3	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第16課 zu 不定詞
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
4	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第17課 再帰代名詞
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）

5	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第１８課 受動
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
6	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第１９課 形容詞の比較表現
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
7	事前学習	教科書を事前に一読する（30分）
	授業内容	第２０課 接続法
	事後学習	課題となった練習問題を必ずやってくる（30分）
8	事前学習	過去問題を自力で解いてみる（30分）
	授業内容	過去問題 １・２
	事後学習	間違った箇所を確認し、クリアにする（30分）
9	事前学習	過去問題を自力で解いてみる（30分）
	授業内容	過去問題 ３・４
	事後学習	間違った箇所を確認し、クリアにする（30分）
10	事前学習	過去問題を自力で解いてみる（30分）
	授業内容	過去問題 ５・６
	事後学習	間違った箇所を確認し、クリアにする（30分）
11	事前学習	過去問題を自力で解いてみる（30分）
	授業内容	過去問題 ７
	事後学習	間違った箇所を確認し、クリアにする（30分）
12	事前学習	過去問題を自力で解いてみる（30分）
	授業内容	過去問題 ８
	事後学習	間違った箇所を確認し、クリアにする（30分）
13	事前学習	過去問題を自力で解いてみる（30分）
	授業内容	聞き取り問題
	事後学習	間違った箇所を確認し、クリアにする（30分）
14	事前学習	授業で勉強したことを復習する（30分）
	授業内容	後期の力だめし、まとめ
	事後学習	出題箇所を確認する（30分）
15	事前学習	不明だった箇所をピックアップする（30分）
	授業内容	答え合わせ・解説
	事後学習	間違った箇所を確認し、クリアにする（30分）

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅢB	担当者	渡辺 徳夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	1年、2年の授業で習得した基本文法、基本語彙を土台にして、中級レベル（検定合格、語学研修、交換留学）に引き上げるための授業である。				
授業目的・到達目標	【授業目的（後期）】ドイツ語の基本的な文法と語彙を土台にして、3級レベルの文章を正確に読解できる力を育成すること。 【到達目標（後期）】ドイツ語の基本的な文法と語彙を土台にして、3級レベルの文章を正確に読解できるようになる。 関連DP/CP：外国語領域5.6				
履修条件	すでにドイツ語技能検定試験（独検）5級を取得していること。 ドイツ語技能検定試験（独検）4級、3級を受験すること。				
授業方法	①慣れてきたら、演習形式で行う予定でいる。 ②辞書をを引きながら、独訳、和訳、文法問題をやっていく。③確認のための小テスト、レポートも実施する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内試験 基本的な問題（参照不可）（50%） レポート課題、小テスト、授業への積極的参加、独検の結果（50%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	白水社		『独検対策4級・3級問題集〔四訂版〕』	恒吉良隆
	備考				
参考書	独和辞典の紹介（電子辞書を勧めない）は最初の授業時に行う。単語集、参考書も授業時に指示する。				
オフィスアワー	①授業後の講堂 ②図書館7階EASTラーニング・コモンズオ・スペース（必ず事前に電子メールで連絡すること） ③国際交流センター入室時 のいずれか				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。 3級の検定基準を読んでおくこと。 sein habenの変化、過去分詞の確認しておくこと。（40分）
	授業内容	ガイダンス（前期文法の復習） 後期文法の概観。現在完了。
	事後学習	復習をすること。（50分）
2	事前学習	前回の復習をすること。werdenの変化と過去分詞の作り方を確認しておく。（50分）
	授業内容	復習 受動文。動詞と前置詞との結びつき。 辞書の引き方
	事後学習	復習をすること。単語を書けるようにすること。熟語を覚えること。（40分）
3	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。定形の位置3タイプと従属の接続詞を確認しておく。（50分）
	授業内容	復習 副文。 辞書の引き方
	事後学習	課題をすること。復習をすること。単語を書けるようにすること。（40分）
4	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。文構造を調べておく。（50分）
	授業内容	復習 関係文。 辞書の引き方
	事後学習	復習をすること。単語を書けるようにすること。（40分）

5	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。文構造を調べておく。（50分）
	授業内容	テキスト読解 zu不定詞。
	事後学習	復習をすること。単語を書けるようにすること。（40分）
6	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。文構造を調べておく。語法の助動詞、過去形の作り方を確認しておく。（50分）
	授業内容	テキスト読解 語法の助動詞に準ずる助動詞。過去形。
	事後学習	復習をすること。単語を書けるようにすること。（40分）
7	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。冠詞類の語尾を調べておく。 メールニュースについて何が起ったのか、誰がそれを伝えているのかを調べておく。（50分）
	授業内容	形容詞。比較級、最上級 テキスト読解 メールニュースを読む（日本）
	事後学習	復習をすること。単語を書けるようにすること。 日本語の記事で内容を確認しておく。（40分）
8	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。文構造を調べておく。文法項目をチェックしておく。 メールについて何が起ったのか、誰がそれを伝えているのかを調べておく。（50分）
	授業内容	接続法（1） テキスト読解 メールニュースを読む（日本）
	事後学習	復習をすること。単語を書けるようにすること。「接続法」の「接続」とは何か考えてみる。 日本語の記事で内容を確認しておく。（40分）
9	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。文構造を調べておく。文法項目をチェックしておく。 何が起ったのか、誰がそれを伝えているのかを調べておく。（50分）
	授業内容	接続法（2） テキスト読解 メールニュースを読む（世界）
	事後学習	復習をすること。単語を書けるようにすること。 日本語の記事で内容を確認しておく。（40分）
10	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。文構造を調べておく。（50分）
	授業内容	テキスト読解 独検会話・長文問題（5級レベル）
	事後学習	復習をすること。速読して意味を把握すること。（40分）
11	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。文構造を調べておく。文法項目をチェックしておく。（50分）
	授業内容	ドイツ語検定試験の対策 過去問（3級レベル）
	事後学習	復習をすること。単語を書けるようにすること。出題傾向を調べてみる。速読して意味を把握すること。（40分）
12	事前学習	前回の復習をすること。単語の意味を調べておく。文構造を調べておく。（50分）
	授業内容	ドイツ語検定試験の対策 過去問（3級レベル）
	事後学習	復習をすること。単語を書けるようにすること。出題傾向を調べてみる。速読して意味を把握すること。（40分）
13	事前学習	前回の復習をすること。（50分）
	授業内容	ドイツ語検定試験の対策 過去問（3級レベル）聞き取り
	事後学習	問題の形式に習熟すること。復習をすること。単語を書けるようにすること。聞き取れるまで何度も聞くこと。（40分）
14	事前学習	今まで習った、文法、単語の意味を覚えなおす。（40分）
	授業内容	試験について 文法の総復習
	事後学習	試験範囲を何度も目を通す。CDを聞きながら何度も音読をし、意味を取ること。（50分）
15	事前学習	試験範囲の内容を完全に覚える。（80分）
	授業内容	試験（70分、参照可）及びまとめ、振返り、講評
	事後学習	検定試験の結果を自己採点しながら、振り返る。独検3級の結果を提出すること。 独検の成績を提出すること。（10分）

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅣA	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	独検2級及び準1級、CEFR B1, B2用の対策講座です。長文読解、長文の聞き取り、作文、ドイツ語のプレゼンテーションを中心に総合的なドイツ語運用能力をトレーニングします。OSD試験官としての実務を活用し、授業を進めてゆきます。				
授業目的・到達目標	長文読解、長文の聞き取り、作文、ドイツ語のプレゼンテーションを中心に総合的なドイツ語運用能力を養成することを目的とします。 学生さんの到達度に合わせ、独検2級、準1級、CEFR B1, B2資格を取得できることが目標です。 関連DP及びCP：外国語科目領域5、6				
履修条件	独検定3級以上、CEFRA2レベル以上のドイツ語力を有していること。あるいは、ドイツ語圏に短期・長期留学を目指していること。				
授業方法	ドイツ語の読解及び文法トレーニング、作文トレーニング及びプレゼンテーション・ディスカッションを行います。参加型授業です。小テストを定期的に行います。フィードバックは授業内において行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	検定・CEFR試験の結果70%、課題-小テスト30%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	授業中に指示します。			
参考書	授業中に提示します。				
オフィスアワー	火曜日 昼休み 研究室（4号館424研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp） 授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス確認 （30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	文法・語彙復習 （60分）
2	事前学習	Einheit 1 長文翻訳 1 （60分）
	授業内容	Einheit 1 Zeitpunkte 1
	事後学習	Einheit 1 Übung 1 （30分）
3	事前学習	小テスト準備 Einheit 1 長文翻訳 2 （60分）
	授業内容	小テスト1 Einheit 1 Zeitpunkte 2
	事後学習	Einheit 1 Übung 2
4	事前学習	小テスト準備 Einheit 2 長文翻訳 1 （60分）
	授業内容	小テスト2 Einheit 2 Alltag 1
	事後学習	Einheit 2 Übung 1

5	事前学習	小テスト準備 Einheit 2 長文翻訳 1 (60分)
	授業内容	小テスト 3 Einheit 2 Alltag 2
	事後学習	Einheit 2 Übung 2
6	事前学習	小テスト準備 Einheit 3 長文翻訳 1 (60分)
	授業内容	小テスト 4 Einheit 3 Männer – Frauen – Paare 1
	事後学習	Einheit 3 Übung 1
7	事前学習	小テスト準備 Einheit 3 長文翻訳 2 (60分)
	授業内容	小テスト 5 Einheit 3 Männer – Frauen – Paare 2
	事後学習	Einheit 3 Übung 2
8	事前学習	小テスト準備 Einheit 4 長文翻訳 1 (60分)
	授業内容	小テスト 6 Einheit 4 Deutschlands größte Stadt 1
	事後学習	Einheit 4 Übung 1
9	事前学習	小テスト準備 Einheit 4 長文翻訳 2 (60分)
	授業内容	小テスト 7 Einheit 4 Deutschlands größte Stadt 2
	事後学習	Einheit 4 Übung 2
10	事前学習	小テスト準備 Einheit 5 長文翻訳 1 (60分)
	授業内容	小テスト 8 Einheit 5 Schule und lernen 1
	事後学習	Einheit 5 Übung 1
11	事前学習	小テスト準備 Einheit 5 長文翻訳 2 (60分)
	授業内容	小テスト 9 Einheit 5 Schule und lernen 2
	事後学習	Einheit 5 Übung 2
12	事前学習	独検過去問 1 (60分)
	授業内容	独検過去問解説 1
	事後学習	独検過去問 1 復習 (60分)
13	事前学習	独検過去問 2 (60分)
	授業内容	独検過去問解説 2
	事後学習	独検過去問復習 2 (60分)
14	事前学習	Zertifikat 模擬問題 Schreiben, Sprechen 準備 (60分)
	授業内容	Zertifikat 模擬問題Schreiben, Sprechen解説
	事後学習	Zertifikat 模擬試験Schreiben, Sprechen復習 (60分)
15	事前学習	Zertifikat 模擬試験Lesen, Hören準備 (60分)
	授業内容	Zertifikat 模擬試験Lesen, Hören解説
	事後学習	Zertifikat 模擬試験Schreiben, Sprechen復習 (60分)

科目名	ドイツ語資格試験対策ⅣB	担当者	真道 杉	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	独検2級及び準1級、CEFR B1, B2用の対策講座です。長文読解、長文の聞き取り、作文、ドイツ語のプレゼンテーションを中心に総合的なドイツ語運用能力をトレーニングします。OSD試験官としての実務を活用し、授業を進めてゆきます。							
授業目的・到達目標	長文読解、長文の聞き取り、作文、ドイツ語のプレゼンテーションを中心に総合的なドイツ語運用能力を養成することを目的とします。 学生さんの到達度に合わせ、独検2級、準1級、CEFR B1, B2資格を取得できることが目標です。 関連DP及びCP：外国語科目領域5、6							
履修条件	独検定3級以上、CEFR A2レベル以上のドイツ語力を有していること。あるいは、ドイツ語圏に短期・長期留学を目指していること。							
授業方法	ドイツ語の読解及び文法トレーニング、作文トレーニング及びプレゼンテーション・ディスカッションを行います。参加型授業です。小テストを定期的に行います。フィードバックは授業内において行います。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験							
	平常評価		100%		検定・CEFR試験の結果70%、課題-小テスト30%			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	備考		授業中に指示します。					
参考書	授業中に提示します。							
オフィスアワー	火曜日 昼休み 研究室（4号館424研究室）（shindou.sugi@nihon-u.ac.jp） 授業内容以外で受け付ける質問：ドイツ語圏留学相談、CEFR型ドイツ語検定試験							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス確認 教材準備（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	文法・語彙復習（60分）
2	事前学習	Einheit 6 長文翻訳 1（60分）
	授業内容	Einheit 6 Klima und Umwelt 1
	事後学習	Einheit 6 Übung 1（60分）
3	事前学習	小テスト準備 Einheit 6 長文翻訳 2（60分）
	授業内容	小スト 10 Einheit 6 Klima und Umwelt 2
	事後学習	Einheit 6 Übung 2（60分）
4	事前学習	小テスト準備 Einheit 7 長文翻訳 1（60分）
	授業内容	小スト 11 Einheit 7 Peinlich? Peinlich! 1
	事後学習	Einheit 7 Übung 1（60分）

5	事前学習	小テスト準備 Einheit 7 長文翻訳 2 (60分)
	授業内容	小スト 12 Einheit 7 Peinlich? Peinlich! 2
	事後学習	Einheit 7 Übung 2 (60分)
6	事前学習	小テスト準備 Einheit 8 長文翻訳 1 (60分)
	授業内容	小スト 13 Einheit 8 Generationen 1
	事後学習	Einheit 8 Übung 1 (60分)
7	事前学習	小テスト準備 Einheit 8 長文翻訳 2 (60分)
	授業内容	小スト 14 Einheit 8 Generationen 2
	事後学習	Einheit 8 Übung 2 (60分)
8	事前学習	小テスト準備 Einheit 9 長文翻訳 1 (60分)
	授業内容	小スト 15 Einheit 9 Migration 1
	事後学習	Einheit 9 Übung 1 (60分)
9	事前学習	小テスト準備 Einheit 9 長文翻訳 2 (60分)
	授業内容	小スト 16 Einheit 9 Migration 2
	事後学習	Einheit 9 Übung 2 (60分)
10	事前学習	独検過去問 1 準備 (60分)
	授業内容	独検過去問 1 解説
	事後学習	独検過去問 1 復習 (60分)
11	事前学習	独検過去問 2 準備 (60分)
	授業内容	独検過去問 2 解説
	事後学習	独検過去問 2 復習 (60分)
12	事前学習	小テスト準備 Einheit 10 長文翻訳 1独検過去問 1 準備 (60分)
	授業内容	小スト 17 Einheit 10 Europa: Politik und mehr 1独検過去問 1 解説
	事後学習	Einheit 10 Übung 1 (60分)
13	事前学習	小テスト準備 Einheit 10 長文翻訳 2 (60分)
	授業内容	小スト 17 Einheit 10 Europa: Politik und mehr 2
	事後学習	Einheit 10 Übung 2 (60分)
14	事前学習	Zertifikat 模擬問題 Schreiben, Sprechen 準備 (60分)
	授業内容	Zertifikat 模擬問題 Schreiben, Sprechen 解説
	事後学習	Zertifikat 模擬問題 Schreiben, Sprechen 復習 (60分)
15	事前学習	Zertifikat 模擬問題 Lesen, Hören 準備 (60分)
	授業内容	Zertifikat 模擬問題 Lesen, Hören 解説
	事後学習	Zertifikat 模擬問題 Lesen, Hören 復習 (60分)

科目名	国際研修(独) I A	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期は、ウィーン大学での夏期ドイツ語研修に参加する学生のための指導を目的とする。ドイツ語のみならず、ドイツの社会、文化、歴史、生活などについての情報も提供する。後期は独検対策や、法学部ならびに本部の派遣交換留学生試験についても、視野に入れた授業を行う。				
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語で簡単なコミュニケーションができる能力を養成することを目的とする。 【到達目標】ドイツ語で簡単な会話や文章が理解できることを目標とする。関連DP及びCP:外国語科目領域5, 6, 7, 8				
履修条件	ウィーン研修参加者、留学希望者のみとする。				
授業方法	DVD、CD等のAV資料を適宜利用し、ドイツ語圏での生活について、理解を深める。授業内で実施する試験については、授業中に講評を述べる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価(授業参加度、授業内の試験等) 100%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2010年	第三書房	新・独検合格 単語+熟語1800		在間進ほか
	備考				
参考書	適宜紹介します。				
オフィスアワー	・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。 ・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。 ・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。単語集の単語を覚えること。(30分)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	指示された課題を次回の授業までにしてくること。(30分)
2	事前学習	課題をきちんとしてくること。隙間の時間を使って、単語をよく覚えること。(30分)
	授業内容	挨拶表現(1)
	事後学習	毎時間、新しい表現をたくさん覚えることになるので、発音しながら何度も書くなどして、きちんと消化しておくこと。単語テストは随時行うので、単語の意味を日本語で覚えるだけでなく、表現として使えるように、きちんと発音でき、なおかつ書けるようにしておくこと。(30分)
3	事前学習	課題をきちんとしてくること。隙間の時間を使って、単語をよく覚えること。(30分)
	授業内容	挨拶表現(2)
	事後学習	毎時間、新しい表現をたくさん覚えることになるので、発音しながら何度も書くなどして、きちんと消化しておくこと。単語テストは随時行うので、単語の意味を日本語で覚えるだけでなく、表現として使えるように、きちんと発音でき、なおかつ書けるようにしておくこと。(30分)
4	事前学習	課題をきちんとしてくること。隙間の時間を使って、単語をよく覚えること。(30分)
	授業内容	趣味や職業に関する表現(1)
	事後学習	毎時間、新しい表現をたくさん覚えることになるので、発音しながら何度も書くなどして、きちんと消化しておくこと。単語テストは随時行うので、単語の意味を日本語で覚えるだけでなく、表現として使えるように、きちんと発音でき、なおかつ書けるようにしておくこと。(30分)

5	事前学習	課題をきちんとしてくること。隙間の時間を使って、単語をよく覚えること。(30分)
	授業内容	趣味や職業に関する表現（2）
	事後学習	毎時間、新しい表現をたくさん覚えることになるので、発音しながら何度も書くなどして、きちんと消化しておくこと。単語テストは随時行うので、単語の意味を日本語で覚えるだけでなく、表現として使えるように、きちんと発音でき、なおかつ書けるようにしておくこと。(30分)
6	事前学習	課題をきちんとしてくること。隙間の時間を使って、単語をよく覚えること。(30分)
	授業内容	道案内（1）
	事後学習	毎時間、新しい表現をたくさん覚えることになるので、発音しながら何度も書くなどして、きちんと消化しておくこと。単語テストは随時行うので、単語の意味を日本語で覚えるだけでなく、表現として使えるように、きちんと発音でき、なおかつ書けるようにしておくこと。(30分)
7	事前学習	課題をきちんとしてくること。隙間の時間を使って、単語をよく覚えること。(30分)
	授業内容	道案内（2）
	事後学習	毎時間、新しい表現をたくさん覚えることになるので、発音しながら何度も書くなどして、きちんと消化しておくこと。単語テストは随時行うので、単語の意味を日本語で覚えるだけでなく、表現として使えるように、きちんと発音でき、なおかつ書けるようにしておくこと。(30分)
8	事前学習	課題をきちんとしてくること。隙間の時間を使って、単語をよく覚えること。(30分)
	授業内容	食生活（1）
	事後学習	毎時間、新しい表現をたくさん覚えることになるので、発音しながら何度も書くなどして、きちんと消化しておくこと。単語テストは随時行うので、単語の意味を日本語で覚えるだけでなく、表現として使えるように、きちんと発音でき、なおかつ書けるようにしておくこと。(30分)
9	事前学習	課題をきちんとしてくること。隙間の時間を使って、単語をよく覚えること。(30分)
	授業内容	食生活（2）
	事後学習	毎時間、新しい表現をたくさん覚えることになるので、発音しながら何度も書くなどして、きちんと消化しておくこと。単語テストは随時行うので、単語の意味を日本語で覚えるだけでなく、表現として使えるように、きちんと発音でき、なおかつ書けるようにしておくこと。(30分)
10	事前学習	課題をきちんとしてくること。隙間の時間を使って、単語をよく覚えること。(30分)
	授業内容	時刻やスケジュールに関する表現（1）
	事後学習	毎時間、新しい表現をたくさん覚えることになるので、発音しながら何度も書くなどして、きちんと消化しておくこと。単語テストは随時行うので、単語の意味を日本語で覚えるだけでなく、表現として使えるように、きちんと発音でき、なおかつ書けるようにしておくこと。(30分)
11	事前学習	課題をきちんとしてくること。隙間の時間を使って、単語をよく覚えること。(30分)
	授業内容	時刻やスケジュールに関する表現（2）
	事後学習	毎時間、新しい表現をたくさん覚えることになるので、発音しながら何度も書くなどして、きちんと消化しておくこと。単語テストは随時行うので、単語の意味を日本語で覚えるだけでなく、表現として使えるように、きちんと発音でき、なおかつ書けるようにしておくこと。(30分)
12	事前学習	課題をきちんとしてくること。隙間の時間を使って、単語をよく覚えること。(30分)
	授業内容	友人たちとの時間（1）
	事後学習	毎時間、新しい表現をたくさん覚えることになるので、発音しながら何度も書くなどして、きちんと消化しておくこと。単語テストは随時行うので、単語の意味を日本語で覚えるだけでなく、表現として使えるように、きちんと発音でき、なおかつ書けるようにしておくこと。(30分)
13	事前学習	課題をきちんとしてくること。隙間の時間を使って、単語をよく覚えること。(30分)
	授業内容	友人たちとの時間（2）
	事後学習	毎時間、新しい表現をたくさん覚えることになるので、発音しながら何度も書くなどして、きちんと消化しておくこと。単語テストは随時行うので、単語の意味を日本語で覚えるだけでなく、表現として使えるように、きちんと発音でき、なおかつ書けるようにしておくこと。(30分)
14	事前学習	ウィーン研修に向けて、前期で学んだことをあらためて復習しておくこと。疑問点を整理しておくこと。(30分)
	授業内容	夏期ドイツ語研修準備
	事後学習	疑問に思っていたことを解決するよう、努力すること。(30分)
15	事前学習	ウィーン研修に向けて、前期で学んだことをあらためて復習しておくこと。疑問点を整理しておくこと。(30分)
	授業内容	前期まとめ
	事後学習	ウィーンでの生活に備え、持っていく荷物の準備を始めること。(30分)

科目名	国際研修(独) I B	担当者	佐藤 英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期は、ウィーン大学での夏期ドイツ語研修に参加する学生のための指導を目的とする。ドイツ語のみならず、ドイツの社会、文化、歴史、生活などについての情報も提供する。後期は独検対策や、法学部ならびに本部の派遣交換留学生試験についても、視野に入れた授業を行う。				
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ語で簡単なコミュニケーションができる能力を養成することを目的とする。 【到達目標】ドイツ語で簡単な会話や文章が理解できることを目標とする。関連DP及びCP:外国語科目領域5, 6, 7, 8				
履修条件	ウィーン研修参加者、留学希望者のみとする。ドイツ語検定(独検)を必ず受験すること。				
授業方法	DVD、CD等のAV資料を適宜利用し、ドイツ語圏での生活について、理解を深める。授業内で実施する試験については、授業中に講評を述べる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価(授業参加度、独検のスコア、授業内の試験等) 100%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2010年	第三書房	新・独検合格 単語+熟語1800		在間進ほか
	備考				
参考書	適宜紹介します。				
オフィスアワー	・授業期間中の水曜日の昼休み、本館7階の私の研究室とする。 ・必ず事前に、授業時間の前後やメール(sato.suguru@nihon-u.ac.jp)で、連絡すること。 ・授業内容のほか、ドイツ語圏の芸術文化に関する質問も受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ウィーンで学んだことについて、まとめておくこと。(30分)
	授業内容	夏期ドイツ語研修を振り返る
	事後学習	12月の独検の受験に向けて、単語と熟語の勉強を始めること。(30分)
2	事前学習	「ドイツ語基礎文法」やこれまでの「国際研修」の授業、それからウィーンで使用した教材をもとに、文法を一通り確認しておくこと。(30分)
	授業内容	独検模試3級(筆記とリスニング)
	事後学習	できなかったところを中心に、十分に復習すること。隙間の時間を使って、単語と熟語を覚えること。(30分)
3	事前学習	これから数回を使って、文法の概要を改めて復習するので、これまでの学習で使用してきた教科書や参考書を使って、ポイントを整理しておくこと。(30分)
	授業内容	3級対策・文法の復習(現在形、前置詞)
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
4	事前学習	文法の概要を改めて復習するので、これまでの学習で使用してきた教科書や参考書を使って、ポイントを整理しておくこと。これからの数回は、「ドイツ語基礎文法」であまり時間をかけて勉強できなかったところと思われるため、疑問点を整理しておくこと。(30分)
	授業内容	3級対策・文法の復習(過去形と現在完了形)
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)

5	事前学習	文法の概要を改めて復習するので、これまでの学習で使用してきた教科書や参考書を使って、ポイントを整理しておくこと。今回は「ドイツ語基礎文法」であまり時間をかけて勉強できなかったところと思われるため、疑問点を整理しておくこと。(30分)
	授業内容	3級対策・文法の復習(現在完了形と受動態)
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
6	事前学習	文法の概要を改めて復習するので、これまでの学習で使用してきた教科書や参考書を使って、ポイントを整理しておくこと。今回は「ドイツ語基礎文法」であまり時間をかけて勉強できなかったところと思われるため、疑問点を整理しておくこと。(30分)
	授業内容	3級対策・文法の復習(関係代名詞)
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
7	事前学習	文法の概要を改めて復習するので、これまでの学習で使用してきた教科書や参考書を使って、ポイントを整理しておくこと。今回は「ドイツ語基礎文法」であまり時間をかけて勉強できなかったところと思われるため、疑問点を整理しておくこと。(30分)
	授業内容	3級対策・文法の復習(接続法)
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
8	事前学習	指示された独検の問題を自宅で解いてくること。(30分)
	授業内容	独検対策(1) 文法問題を中心に
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
9	事前学習	指示された独検の問題を自宅で解いてくること。(30分)
	授業内容	独検対策(2) 長文読解問題を中心に
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
10	事前学習	指示された独検の問題を自宅で解いてくること。(30分)
	授業内容	独検対策(3) 長文読解問題を中心に
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
11	事前学習	指示された独検の問題を自宅で解いてくること。(30分)
	授業内容	独検対策(4) リスニングを中心に
	事後学習	毎時間、単語テストや文法の説明など、かなりの情報を扱うことになるので、確実に消化しておくこと。練習問題は、正解したものも含めて、繰り返し解くこと。(30分)
12	事前学習	12月に実施の独検の問題冊子を持ってくること。(30分)
	授業内容	独検の解説
	事後学習	できなかったところを中心に、よく復習すること。(30分)
13	事前学習	ドイツ語圏の文化について、テレビやインターネットなどを通じて、情報を得るようにすること。(30分)
	授業内容	ドイツ語圏を知る、総合編(1)
	事後学習	ドイツ語圏の文化で興味のあることについて、情報を得ること。(30分)
14	事前学習	ドイツ語圏の文化について、テレビやインターネットなどを通じて、情報を得るようにすること。(30分)
	授業内容	ドイツ語圏を知る、総合編(2)
	事後学習	ドイツ語圏の文化で興味のあることについて、情報を得ること。(30分)
15	事前学習	後期の学習事項について、時間をかけて復習すること。(30分)
	授業内容	後期まとめ、今後のドイツ語学習について
	事後学習	今後のドイツ語の学習について、よく考えること。(30分)

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	V. カレンベルク	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語でコミュニケーションをとれるようになるための文法と会話レッスンを行います。			
授業目的・到達目標	教科書を使わなくても簡単なドイツ語の会話ができるようになる能力を育成することを目的とする。具体的には、いろいろな挨拶、自己紹介、電話のかけ方、家族と友人紹介、旅行に必要な会話などができるようになる。 ドイツ語検定試験5級か4級に合格できるレベルに達することを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域6			
履修条件	ドイツ語の初学者であること。			
授業方法	全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声を出して復習する。必要に応じてDVDを見たり、CDを聞いたりする。フィードバックは授業内において行います。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常点40%：出席を取る時のオラルテストと小テストで評価。筆記試験60%：100点満点の筆記試験で評価。このうち20点は聞き取りと書き取り。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし		
参考書	『ドイツ語文法へのプロローグ』岡本順治：郁文堂、 独和辞典（3ヵ月後に必要になります。あわてて買わないでください）			
オフィスアワー	授業後の15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業の後、教室で担当教員のところまで来てください。 授業時間：木曜2限、土曜1・2限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を買う，事前にシラバスを確認しておくこと。（20分）
	授業内容	何時ですか？ いくつですか？
	事後学習	授業で配布したプリントで復習（40分）
2	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	誰ですか？ 何ですか？（所有代名詞）
	事後学習	授業で配布したプリントで復習（40分）
3	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	どういうふうですか？
	事後学習	授業で配布したプリントで復習（40分）
4	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	何が好きですか？
	事後学習	授業で配布したプリントで復習（40分）

5	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	これは・あなたは 何といますか？ これを持っていますか？
	事後学習	授業で配布したプリントで復習（40分）
6	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	ごきげんいかがですか？ 何を持っていますか？ （三格と四格の練習）
	事後学習	授業で配布したプリントで復習（40分）
7	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	どこの出身ですか？ これはどこから来ましたか？ どうしてわかるんですか？
	事後学習	授業で配布したプリントで復習（40分）
8	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	誰のものですか？ 誰のためですか？ どこにありますか？ （二格、三格、四格をとる前置詞）
	事後学習	授業で配布したプリントで復習（40分）
9	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	何をしますか？ これは何をやるものですか？ どこへ行きますか？
	事後学習	授業で配布したプリントで復習（40分）
10	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	なぜそこにいますか？ なぜそこへ行きますか？
	事後学習	授業で配布したプリントで復習（40分）
11	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	復習
	事後学習	授業で配布したプリントで復習（40分）
12	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	復習
	事後学習	授業で配布したプリントで復習（40分）
13	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	復習
	事後学習	授業で配布したプリントで復習（40分）
14	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	復習
	事後学習	授業で配布したプリントで復習（40分）
15	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	復習・まとめ
	事後学習	授業で配布したプリントで復習（40分）

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Basic daily conversation for beginners We use a new textbook from Germany to learn natural German for basic daily conversation. Photo stories with audio followed by exercises, vocabulary drills and grammar.					
授業目的・到達目標	ドイツ語会話 基礎文法 簡単な短文の読解ができるようになることを目的とする。 Basic daily conversation for beginner students,listening to dialogues and understanding situations, reading and simple writing skills.単純日常会話力・基礎文法・簡単な文章の読解力・短文を制作できる文章力、を身に付けられることを目標とする。関連D P及びC P：外国語科目領域6 listening, pronunciation, speaking, reading and writing skills					
履修条件	interest in developing communication skills in German, incl. listening					
授業方法	二人一組での練習 テキスト ノート 板書 listening to dialogues on CD, practicing dialogues in pairs, written exercises					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		70%		written test on the last day of the semester, covering grammar, vocabulary and expressions	
	平 常 評 価		30%		active participation in oral exercises, written exercises, group work	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016	Hueber		Schritte International NEU 1 , A1.1		Daniela Niebisch
	備考					
参 考 書	German dictionary iphone/smartphone application					
オフィスアワー	授業（月曜4限）後に質問を受け付ける。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Read page 9-11 (30分)
	授業内容	1. Introducing yourself and others (picture story)
	事後学習	Learn vocabulary (30分)
2	事前学習	Read page 12, 13 (30分)
	授業内容	2. greetings
	事後学習	Workbook section A, B (30分)
3	事前学習	Read page 14, 15 (30分)
	授業内容	3. self introduction, "Where do you come from?"
	事後学習	Workbook section C (30分)
4	事前学習	Read page 16, 17 (30分)
	授業内容	4. countries and languages
	事後学習	Workbook section C (30分)

5	事前学習	Read page 16, 17 (30分)
	授業内容	5. the alphabet, telephone call, business cards
	事後学習	Workbook section D, E, review alphabet and verb conjugation , test workbook p. 18 (30分)
6	事前学習	Read p. 22, 23 (30分)
	授業内容	6. family and friends (picture story)
	事後学習	Vocabulary (30分)
7	事前学習	Read p. 24, 25 (30分)
	授業内容	7. "How are you?"
	事後学習	Workbook section A, B (30分)
8	事前学習	Read page 25 (30分)
	授業内容	8. introducing family members
	事後学習	Vocabulary, workbook section B (30分)
9	事前学習	URead page 26 (30分)
	授業内容	9. introducing friends
	事後学習	Workbook section C , verb conjugation (30分)
10	事前学習	Read page 27 (30分)
	授業内容	10. numbers 1-20, personal data
	事後学習	Learn numbers 1-20, vocabulary , workbook D (30分)
11	事前学習	Read page 29 , 32 (30分)
	授業内容	11. talk about yourself
	事後学習	Review grammar on page 30, phrases p. 31 (30分)
12	事前学習	Read page 34, 35 (30分)
	授業内容	12. Food and drink (picture story)
	事後学習	Food vocabulary (30分)
13	事前学習	Read p. 36, 37 (30分)
	授業内容	13. food vocabulary, "the" and "a", plural
	事後学習	Workbook section A, B (30分)
14	事前学習	Review food vocabulary , see page 44 (30分)
	授業内容	14. grocery shopping, numbers 20-100, lunch and dinner
	事後学習	Learn numbers 20-100 (30分)
15	事前学習	Prepare test , check grammar summaries , vocabulary section , read sample phrases (30分)
	授業内容	test (written), review, 解説
	事後学習	Grammar review (30分)

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Basic daily conversation for beginners We use a new textbook from Germany to learn natural German for basic daily conversation. Photo stories with audio followed by exercises, vocabulary drills and grammar.				
授業目的・到達目標	ドイツ語会話 基礎文法 簡単な短文の読解ができるようになることを目的とする。 Basic daily conversation for beginner students,listening to dialogues and understanding situations, reading and simple writing skills.単純日常会話力・基礎文法・簡単な文章の読解力・短文を制作できる文章力、を身に付けられることを目標とする。関連D P及びC P：外国語科目領域6 listening, pronunciation, speaking, reading and writing skills				
履修条件	interest in developing communication skills in German, incl. listening				
授業方法	二人一組での練習 テキスト ノート 板書 listening to dialogues on CD, practicing dialogues in pairs, written exercises				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定 期 試 験		70%		written test on the last day of the semester, covering grammar, vocabulary and expressions
	平 常 評 価		30%		active participation in oral exercises, written exercises, group work
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016	Hueber		Schritte International NEU 1 , A1.1	Daniela Niebisch
	備考				
参 考 書	German dictionary iphone/smartphone application				
オフィスアワー	授業（月曜5限）後に質問を受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Read page 9-11 (30分)
	授業内容	1. Introducing yourself and others (picture story)
	事後学習	Learn vocabulary (30分)
2	事前学習	Read page 12, 13 (30分)
	授業内容	2. greetings
	事後学習	Workbook section A, B (30分)
3	事前学習	Read page 14, 15 (30分)
	授業内容	3. self introduction, "Where do you come from?"
	事後学習	Workbook section C (30分)
4	事前学習	Read page 16, 17 (30分)
	授業内容	4. countries and languages
	事後学習	Workbook section C (30分)

5	事前学習	Read page 16, 17 (30分)
	授業内容	5. the alphabet, telephone call, business cards
	事後学習	Workbook section D, E, review alphabet and verb conjugation , test workbook p. 18 (30分)
6	事前学習	Read p. 22, 23 (30分)
	授業内容	6. family and friends (picture story)
	事後学習	Vocabulary (30分)
7	事前学習	Read p. 24, 25 (30分)
	授業内容	7. "How are you?"
	事後学習	Workbook section A, B (30分)
8	事前学習	Read page 25 (30分)
	授業内容	8. introducing family members
	事後学習	Vocabulary, workbook section B (30分)
9	事前学習	URead page 26 (30分)
	授業内容	9. introducing friends
	事後学習	Workbook section C , verb conjugation (30分)
10	事前学習	Read page 27 (30分)
	授業内容	10. numbers 1-20, personal data
	事後学習	Learn numbers 1-20, vocabulary , workbook D (30分)
11	事前学習	Read page 29 , 32 (30分)
	授業内容	11. talk about yourself
	事後学習	Review grammar on page 30, phrases p. 31 (30分)
12	事前学習	Read page 34, 35 (30分)
	授業内容	12. Food and drink (picture story)
	事後学習	Food vocabulary (30分)
13	事前学習	Read p. 36, 37 (30分)
	授業内容	13. food vocabulary, "the" and "a", plural
	事後学習	Workbook section A, B (30分)
14	事前学習	Review food vocabulary , see page 44 (30分)
	授業内容	14. grocery shopping, numbers 20-100, lunch and dinner
	事後学習	Learn numbers 20-100 (30分)
15	事前学習	Prepare test , check grammar summaries , vocabulary section , read sample phrases (30分)
	授業内容	test (written), review, 解説
	事後学習	Grammar review (30分)

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	H. トロル	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語の基本と使い方を習う テキストとCD とビデオを使って ゆっくりと進みます。			
授業目的・ 到達目標	重要表現の練習を繰り返し、ドイツ語の基本理解を深めることを目的とする。 ドイツ語で簡単なコミュニケーションができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	積極的な授業で参加。			
授業方法	教科書とビデオ教材を用いて重要表現の練習を繰り返します。 フィードバックは授業内において行います			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験	0%		
	平 常 評 価	100%	小テスト2回：80％ 授業態度：20％	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	第三書房	第三書房	さあ, ドイツ語で！ ISBN978-4-8086-1194-1	Troll/Ogushi
	備考			
参 考 書	「文法から学べるドイツ語」 （ナツメ社） ISBN 4－8 1 6 3－3 8 2 0－9 a n d 独和辞書			
オフィス アワー	授業の後（土曜14：30～）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み予習30分
	授業内容	ガイダンス and first expressions
	事後学習	復習30分
2	事前学習	予習60分
	授業内容	発音練習 など
	事後学習	復習60分
3	事前学習	予習60分
	授業内容	挨拶の言葉、自己紹介と練習
	事後学習	復習60分
4	事前学習	予習60分
	授業内容	第1課 Groß e 挨拶
	事後学習	復習60分

5	事前学習	予習60分
	授業内容	第1課 G r ü ß e 挨拶
	事後学習	復習60分
6	事前学習	予習60分
	授業内容	第2課 W i e h e i ß t d a s F e s t ? その祭りの名前は何ですか？
	事後学習	復習60分
7	事前学習	予習60分
	授業内容	第2課 W i e h e i ß t d a s F e s t ? その祭りの名前は何ですか？
	事後学習	復習60分
8	事前学習	予習60分
	授業内容	第3課 K a i b e s u c h t d i e F a m i l i e M ü l l e r カイが大家さんのミュラーさんの家を訪ねる
	事後学習	復習60分
9	事前学習	予習60分
	授業内容	第3課 K a i b e s u c h t d i e F a m i l i e M ü l l e r カイが大家さんのミュラーさんの家を訪ねる
	事後学習	復習60分
10	事前学習	予習90分
	授業内容	小テスト, ドイツの生活 (ビデオ)
	事後学習	復習30分
11	事前学習	予習60分
	授業内容	第4課 D i e M i t g l i e d e r d e r F a m i l i e ミュラー家の人々
	事後学習	復習60分
12	事前学習	予習60分
	授業内容	第4課 D i e M i t g l i e d e r d e r F a m i l i e ミュラー家の人々
	事後学習	復習60分
13	事前学習	予習60分
	授業内容	第5課 A n d e r U n i v e r s i t ä t 大学で
	事後学習	復習60分
14	事前学習	予習60分
	授業内容	第5課 A n d e r U n i v e r s i t ä t 大学で
	事後学習	復習60分
15	事前学習	予習90分
	授業内容	小テスト, ドイツの生活 (ビデオ) まとめ
	事後学習	復習30分

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	R. ペトリック	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	DVDの主人公はベルリンで社会学を専攻している女子学生、クラウディア・シュミットです。クラウディアのミュンヘンへの旅を通して、生き生きとしたドイツ語とドイツの文化を学びます。文法知識を実際のコミュニケーションのなかで応用できるものとする。 ドイツの発音、イントネーションを特に重点的に練習する。 ドイツ語の理解をより深める。			
授業目的・到達目標	実生活で使えるドイツ語を育成することを目的とします。 相手の言葉と表現を理解でき、自主的に発話し、相手に伝えられるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	特になし。			
授業方法	小グループで、与えられた課題を練習する。フィードバックは授業内において行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	積極的な授業参加
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2010	白水社	ハロー・ミュンヘン・ノイ	関口一郎
	備考			
参 考 書	独和辞典			
オフィスアワー	授業終了後、講堂にて（授業時間：火曜3・4時限） 話し合いの必要がある場合は電話してください（電話番号：042-666-8960）。 その時、場所と時間等について決めます。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書に目を通す（30分）
	授業内容	授業についての説明
	事後学習	教科書に目を通す（30分）
2	事前学習	Lektion 1 予習（30分）
	授業内容	Lektion 1 （自己紹介、挨拶、ミュンヘンの紹介、ホテルのチェックイン）
	事後学習	CDを聞く（30分）
3	事前学習	Lektion 1 疑問点を探す（30分）
	授業内容	Lektion 1 （続き）
	事後学習	CDを聞く（30分）
4	事前学習	Lektion 2 予習（30分）
	授業内容	Lektion 2 （市内見物、道の聞き方、訪問、挨拶、お茶）
	事後学習	CDを聞く（30分）

5	事前学習	Lektion 2 疑問点を探す (30分)
	授業内容	Lektion 2 (続き)
	事後学習	CDを聞く (30分)
6	事前学習	Lektion 3 予習 (30分)
	授業内容	Lektion 3 (ヴォーンゲマインシャフト、買い物、食事の用意 食事)
	事後学習	CDを聞く (30分)
7	事前学習	Lektion 3 疑問点を探す (30分)
	授業内容	Lektion 3 (続き)
	事後学習	CDを聞く (30分)
8	事前学習	Lektion 4 予習 (30分)
	授業内容	Lektion 4 (小旅行、駅での案内、切符の購入、車中、ザルツブルク観光)
	事後学習	CDを聞く (30分)
9	事前学習	Lektion 4 疑問点を探す (30分)
	授業内容	Lektion 4 (続き)
	事後学習	CDを聞く (30分)
10	事前学習	Lektion 1-4 疑問点を探す (30分)
	授業内容	数字 (0－100)
	事後学習	CDを聞く (30分)
11	事前学習	Lektion 1-4 疑問点を探す (30分)
	授業内容	時間の言い方を学ぶ
	事後学習	CDを聞く (30分)
12	事前学習	Lektion 5 予習 (30分)
	授業内容	Lektion 5 (大学生の一日、起床、図書館、学食、デート)
	事後学習	CDを聞く (30分)
13	事前学習	Lektion 5 疑問点を探す (30分)
	授業内容	Lektion 5 (続き)
	事後学習	CDを聞く (30分)
14	事前学習	Lektion 1-5 復習 (30分)
	授業内容	復習：これまでの授業を進めてきた中で特に目についた間違いを指摘する。教科書の練習問題だけでなく、応用問題を解く
	事後学習	CDを聞く (30分)
15	事前学習	Lektion 1-5 復習 (30分)
	授業内容	特別なドイツ語の発音の練習
	事後学習	CDを聞く (30分)

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅠA	担当者	A. リープハート	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	実践ドイツ語の入門。初級ドイツ語文法や基本語彙を学習しながら、「話す」と「聞く」を重視し、日常生活に密着したドイツ語を身につける。具体的には、挨拶、数字、自己紹介などから始まって食事、買い物、家族、趣味、日常、余暇などをテーマにして、パートナーとの会話練習や聞き取り練習など、多様な応用練習や様々なシチュエーションを想定したロールプレイなどを行う。				
授業目的・到達目標	実際の場で使用できる「話す」「聞く」「読む」「書く」といった総合的なコミュニケーション能力を養成することを目的とする。 聞き取り、会話、作文などの練習を通し、日常生活で使われる身近な単語を習得しながら、初歩的な文を理解し、自ら表現できるようにする。ドイツ語の確かな運用能力を涵養し、異文化に対する対応力を高め、国際的な交流と共生に貢献できるようにすることを目標とする。				
履修条件	関連科目及び授業外国語積極的領域が重要です。				
授業方法	アクティブ　ラーニング 学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。 フィードバックは授業内において行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定　期　試　験		0%		
	平　常　評　価		100%	授業参加度、テスト。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年	朝日		Spitze! 1	新倉真矢子
	備考				
参　考　書	なし				
オフィスアワー	授業終了時 土曜日9:00-14:30				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス Lektion 1 挨拶とアルファベット
	事後学習	テキスト1～4頁 復習 （30分）
2	事前学習	テキスト1～4頁 復習 （30分）
	授業内容	Lektion 1 自己紹介
	事後学習	テキスト5～7頁 復習 （30分）
3	事前学習	テキスト5～7頁 復習 （30分）
	授業内容	Lektion 2 職業
	事後学習	テキスト9～12頁 復習 （30分）
4	事前学習	テキスト9～12頁 復習 （30分）
	授業内容	Lektion 2 出身、住所
	事後学習	テキスト13～16頁 復習 （30分）

5	事前学習	テキスト13~16頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 3 言語、専攻
	事後学習	テキスト17~19頁 復習 (30分)
6	事前学習	テキスト17~19頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 3 数字、家族関係
	事後学習	テキスト20~24頁 復習 (30分)
7	事前学習	テキスト20~24頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 4 日用品、色
	事後学習	テキスト25~28頁 復習 (30分)
8	事前学習	テキスト25~28頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 4 レストラン
	事後学習	テキスト29~30頁 復習 (30分)
9	事前学習	テキスト29~30頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 4 食事
	事後学習	テキスト31~32頁 復習 (30分)
10	事前学習	テキスト31~32頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 5 住まい
	事後学習	テキスト33~36頁 復習 (30分)
11	事前学習	テキスト33~36頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 5 家具、買い物
	事後学習	テキスト37~40頁 復習 (30分)
12	事前学習	テキスト37~40頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 6 家族
	事後学習	テキスト41~45頁 復習 (30分)
13	事前学習	テキスト41~45頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 6 自宅
	事後学習	テキスト46~47頁 復習 (30分)
14	事前学習	テスト予備 (2時間)
	授業内容	テスト予備及びまとめ、振り返り
	事後学習	テスト勉強 (1時間)
15	事前学習	テスト勉強 (1時間)
	授業内容	小テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと。(1時間)

科目名	スピーキング・リスニング(独) I B	担当者	V. カレンベルク	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語でコミュニケーションをとれるようになるための文法と会話レッスンを行います。					
授業目的・到達目標	教科書を使わなくても簡単なドイツ語の会話ができるようになる能力を育成することを目的とする。具体的には、いろいろな挨拶、自己紹介、電話のかけ方、家族と友人紹介、旅行に必要な会話などができるようになる。 ドイツ語検定試験5級か4級に合格できるレベルに達することを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	ドイツ語の初学者であること。					
授業方法	全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声を出して復習する。必要に応じてDVDを見たり、CDを聞いたりする。フィードバックは授業内において行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常点40%：出席を取る時のオラルテストと小テストで評価。筆記試験60%：100点満点の筆記試験で評価。このうち20点は聞き取りと書き取り。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	特になし				
参考書	『ドイツ語文法へのプロローグ』岡本順治：郁文堂、 独和辞典（3ヵ月後に必要になります。あわてて買わないでください）					
オフィスアワー	授業後の15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業の後、教室で担当教員のところまで来てください。 授業時間：木曜2限、土曜1・2限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	何をしたいんですか？ 何をしなくちゃいけませんか？
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
2	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	…してもいいですか？ それはできますか？
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
3	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	…してはいけません …するように言われています
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
4	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	どうして…してはいませんか？
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）

5	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	手を貸してくれますか？ …してもいいですか？ どうしたらいいですか？
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
6	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	どれが好きですか？
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
7	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	…が一番好きです。
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
8	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	いつ来ますか？
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
9	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	命令形の練習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
10	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	何をするつもりですか？
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
11	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
12	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
13	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
14	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
15	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	復習・まとめ
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）

科目名	スピーキング・リスニング(独) I B	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Basic daily conversation for beginners We use a new textbook from Germany to learn natural German for basic daily conversation. Photo stories with audio followed by exercises, vocabulary drills and grammar.			
授業目的・到達目標	ドイツ語会話 基礎文法 簡単な短文の読解ができるようになることを目的とする。 Basic daily conversation for beginner students,listening to dialogues and understanding situations, reading and simple writing skills.単純日常会話力・基礎文法・簡単な文章の読解力・短文を制作できる文章力、を身に付けられることを目標とする。関連D P及びC P：外国語科目領域6 listening, pronunciation, speaking, reading and writing skills			
履修条件	interest in developing communication skills in German, incl. listening			
授業方法	二人一組での練習 テキスト ノート 板書 listening to dialogues on CD, practicing dialogues in pairs, written exercises			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	70%	written test on the last day of the semester, covering grammar, vocabulary and expressions	
	平常評価	30%	active participation in oral exercises, written exercises, group work	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016	Hueber	Schritte International NEU 1 , A1.1	Daniela Niebisch
	備考			
参考書	German dictionary iphone/smartphone application			
オフィスアワー	授業後（月曜4限）に質問を受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Read p 46, 47 (30分)
	授業内容	16. My apartment (picture story)
	事後学習	Learn vocabulary (30分)
2	事前学習	Read p 48, 49 (30分)
	授業内容	17. rooms, houses, adjectives
	事後学習	Learn adjectives and pronouns (30分)
3	事前学習	Read p 50, 51 (30分)
	授業内容	18. furniture, household gadgets
	事後学習	Learn vocabulary (30分)
4	事前学習	Read page 52, 53 (30分)
	授業内容	19. numbers to 100- 1 million, real estate market
	事後学習	Learn numbers, workbook D, E (30分)

5	事前学習	Read p 56 (30分)
	授業内容	20. describe your apartment
	事後学習	Vocabulary review, review numbers, pronouns, articles (30分)
6	事前学習	Read page 58, 59 (30分)
	授業内容	21. My day (picture story)
	事後学習	Learn new verbs (30分)
7	事前学習	Read page 60, 61, review numbers 1-24 (30分)
	授業内容	22. the clock
	事後学習	Workbook section A, B (30分)
8	事前学習	Review the clock , verbs, read p 65 (30分)
	授業内容	23. daily activities, times of day
	事後学習	Grammar: sentence structure, word order , prepositions , p 66, 67 (30分)
9	事前学習	Read p 70, 71 (30分)
	授業内容	24. leisure (picture story)
	事後学習	Learn vocabulary (30分)
10	事前学習	Read p. 72,73 (30分)
	授業内容	25. the weather
	事後学習	Learn vocabulary , workbook A, B (30分)
11	事前学習	Read p 75 (30分)
	授業内容	26. hobbies, activities
	事後学習	Workbook D (30分)
12	事前学習	Read p 82, 83 (30分)
	授業内容	28. Learning, study (picture story
	事後学習	Vocabulary (30分)
13	事前学習	Read p 84, 85, check verb tables (30分)
	授業内容	28. culture school courses, hobbies
	事後学習	Grammar verbs, sentence structure (30分)
14	事前学習	Read page 86 (30分)
	授業内容	29. talk about what you did (perfect tense) 復習
	事後学習	Grammar perfect tense (30分)
15	事前学習	Review grammar, phrases , vocabulary (30分)
	授業内容	テスト(written), review, 解説
	事後学習	Grammar review (30分)

科目名	スピーキング・リスニング(独) I B	担当者	A. サトー	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Basic daily conversation for beginners We use a new textbook from Germany to learn natural German for basic daily conversation. Photo stories with audio followed by exercises, vocabulary drills and grammar.				
授業目的・到達目標	ドイツ語会話 基礎文法 簡単な短文の読解ができるようになることを目的とする。 Basic daily conversation for beginner students,listening to dialogues and understanding situations, reading and simple writing skills.単純日常会話力・基礎文法・簡単な文章の読解力・短文を制作できる文章力、を身に付けられることを目標とする。関連D P及びC P：外国語科目領域6 listening, pronunciation, speaking, reading and writing skills				
履修条件	interest in developing communication skills in German, incl. listening				
授業方法	二人一組での練習 テキスト ノート 板書 listening to dialogues on CD, practicing dialogues in pairs, written exercises				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		70%	written test on the last day of the semester, covering grammar, vocabulary and expressions	
	平 常 評 価		30%	active participation in oral exercises, written exercises, group work	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016	Hueber		Schritte International NEU 1 , A1.1	Daniela Niebisch
	備考				
参 考 書	German dictionary iphone/smartphone application				
オフィスアワー	授業後（月曜5限）に質問を受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Read p 46, 47 (30分)
	授業内容	16. My apartment (picture story)
	事後学習	Learn vocabulary (30分)
2	事前学習	Read p 48, 49 (30分)
	授業内容	17. rooms, houses, adjectives
	事後学習	Learn adjectives and pronouns (30分)
3	事前学習	Read p 50, 51 (30分)
	授業内容	18. furniture, household gadgets
	事後学習	Learn vocabulary (30分)
4	事前学習	Read page 52, 53 (30分)
	授業内容	19. numbers to 100- 1 million, real estate market
	事後学習	Learn numbers, workbook D, E (30分)

5	事前学習	Read p 56 (30分)
	授業内容	20. describe your apartment
	事後学習	Vocabulary review, review numbers, pronouns, articles (30分)
6	事前学習	Read page 58, 59 (30分)
	授業内容	21. My day (picture story)
	事後学習	Learn new verbs (30分)
7	事前学習	Read page 60, 61, review numbers 1-24 (30分)
	授業内容	22. the clock
	事後学習	Workbook section A, B (30分)
8	事前学習	Review the clock , verbs, read p 65 (30分)
	授業内容	23. daily activities, times of day
	事後学習	Grammar: sentence structure, word order , prepositions , p 66, 67 (30分)
9	事前学習	Read p 70, 71 (30分)
	授業内容	24. leisure (picture story)
	事後学習	Learn vocabulary (30分)
10	事前学習	Read p. 72,73 (30分)
	授業内容	25. the weather
	事後学習	Learn vocabulary , workbook A, B (30分)
11	事前学習	Read p 75 (30分)
	授業内容	26. hobbies, activities
	事後学習	Workbook D (30分)
12	事前学習	Read p 82, 83 (30分)
	授業内容	28. Learning, study (picture story
	事後学習	Vocabulary (30分)
13	事前学習	Read p 84, 85, check verb tables (30分)
	授業内容	28. culture school courses, hobbies
	事後学習	Grammar verbs, sentence structure (30分)
14	事前学習	Read page 86 (30分)
	授業内容	29. talk about what you did (perfect tense) 復習
	事後学習	Grammar perfect tense (30分)
15	事前学習	Review grammar, phrases , vocabulary (30分)
	授業内容	テスト(written), review, 解説
	事後学習	Grammar review (30分)

科目名	スピーキング・リスニング(独) I B	担当者	H. トロル	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期の復習 テキストとCDを使って進みます。			
授業目的・到達目標	重要表現の練習を繰り返し、ドイツ語の基本理解を深めることを目的とする。 ドイツ語の基本を使いこなせるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	ドイツ語に興味がある学生			
授業方法	Grammatical exercises, repetition and easy conversation 文法の復習、簡単な会話 フィードバックは授業内において行います。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	2 tests (80%) and 20% class performance	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	第三書房	第三書房	さあ、ドイツ語で！ ISBN978-4-8086-1194-1	Troll/Maeda
	備考	Repetition of what you know		
参考書	文法から学べるドイツ語 (ナツメ社) I S B N 9 7 8 - 4 - 8 1 6 3 - 3 8 2 0 - 5			
オフィス アワー	授業の後（土曜14：30～）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	復習 予習 6 0 分
	授業内容	Repetition of first semester 復習
	事後学習	復習 6 0 分
2	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 6 I c h w i l l z u m F u ß b a l l サッカー観戦
	事後学習	復習 6 0 分
3	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 6 I c h w i l l z u m F u ß b a l l サッカー観戦
	事後学習	復習 6 0 分
4	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 7 W i e w a r d a s d a m a l s ? 当時の状況は？
	事後学習	復習 6 0 分

5	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 7 Wie war das damals? 当時の状況は?
	事後学習	復習 6 0 分
6	事前学習	予習 9 0 分
	授業内容	Short test 1 and video
	事後学習	復習 3 0 分
7	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 8 Zum Schwimmen an einen See? 湖へ泳ぎに行く?
	事後学習	復習 6 0 分
8	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 8 Zum Schwimmen an einen See? 湖へ泳ぎに行く?
	事後学習	復習 6 0 分
9	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 9 Du bist lange nicht da gewesen 久しぶりだね
	事後学習	復習 6 0 分
10	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 9 Du bist lange nicht da gewesen 久しぶりだね
	事後学習	復習 6 0 分
11	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 10 Umweltbewusste Bürger? 環境意識の強い国民?
	事後学習	復習 6 0 分
12	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 10 Umweltbewusste Bürger? 環境意識の強い国民?
	事後学習	復習 6 0 分
13	事前学習	予習 9 0 分
	授業内容	Short test 2 and video
	事後学習	復習 3 0 分
14	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 11 Würden Sie mir helfen ? 手をかしてくださいませんか?
	事後学習	復習 6 0 分
15	事前学習	予習 6 0 分
	授業内容	Lesson 11 Würden Sie mir helfen ? 手をかしてくださいませんか? まとめ
	事後学習	復習 6 0 分

科目名	スピーキング・リスニング(独) I B	担当者	R. ペトリック	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	DVDの主人公はベルリンで社会学を専攻している女子学生、クラウドディア・シュミットです。クラウドディアのミュンヘンへの旅を通して、生き生きとしたドイツ語とドイツの文化を学びます。文法知識を実際のコミュニケーションのなかで応用できるものとする。 ドイツの発音、イントネーションを特に重点的に練習する。 ドイツ語の理解をより深める。			
授業目的・到達目標	実生活で使えるドイツ語を育成することを目的とします。 相手の言葉と表現を理解でき、自主的に発話し、相手に伝えられるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	特になし。			
授業方法	小グループで、与えられた課題を練習する。フィードバックは授業内において行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	積極的な授業参加
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2010	白水社	ハロー・ミュンヘン・ノイ	関口一郎
	備考			
参 考 書	独和辞典			
オフィスアワー	授業終了後、講堂にて（授業時間：火曜3・4時限） 話し合いの必要がある場合は電話してください（電話番号：042-666-8960）。 その時、場所と時間等について決めます。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書に目を通す（30分）
	授業内容	授業の紹介、説明
	事後学習	教科書に目を通す（30分）
2	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Lektion 6 （ミュンヘンのオリンピック競技場、電話、サッカー観戦）
	事後学習	CDを聞く（30分）
3	事前学習	Lektion 6 疑問点を探す（30分）
	授業内容	Lektion 6 （続き）
	事後学習	CDを聞く（30分）
4	事前学習	予習（30分）
	授業内容	Lektion 7 （ミュンヘンの街中、ファッション、洋服選び）
	事後学習	CDを聞く（30分）

5	事前学習	Lektion 7 疑問点を探す (30分)
	授業内容	Lektion 7 (続き)
	事後学習	CDを聞く (30分)
6	事前学習	予習 (30分)
	授業内容	Lektion 8 (週末、訪問、ソーセージ工場見学)
	事後学習	CDを聞く (30分)
7	事前学習	現在完了形の予習 (30分)
	授業内容	特別な現在完了形練習
	事後学習	現在完了形の復習 (30分)
8	事前学習	予習 (30分)
	授業内容	Lektion 9 (ベルリン紹介)
	事後学習	CDを聞く (30分)
9	事前学習	過去形の予習 (30分)
	授業内容	特別な過去形練習
	事後学習	過去形の復習 (30分)
10	事前学習	予習 (30分)
	授業内容	Lektion 10 (ミュンヘン紹介、音楽会、レストラン)
	事後学習	CDを聞く (30分)
11	事前学習	Lektion 10 疑問点を探す (30分)
	授業内容	Lektion 10 (続き)
	事後学習	CDを聞く (30分)
12	事前学習	予習 (30分)
	授業内容	Lektion 11 (ルードヴィッヒ2世)
	事後学習	CDを聞く (30分)
13	事前学習	関係代名詞の予習 (30分)
	授業内容	特別な関係代名詞練習
	事後学習	関係代名詞の復習 (30分)
14	事前学習	予習 (30分)
	授業内容	Lektion 12 (さようならミュンヘン)
	事後学習	CDを聞く (30分)
15	事前学習	Lektion 6-12 復習 (30分)
	授業内容	復習: プリントを配布し、今まで教科書で扱った問題を、異なる角度、または複合した角度から解いてみる
	事後学習	CDを聞く (30分)

科目名	スピーキング・リスニング(独) I B	担当者	A. リープハート	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	実践ドイツ語の入門。初級ドイツ語文法や基本語彙を学習しながら、「話す」と「聞く」を重視し、日常生活に密着したドイツ語を身につける。具体的には、挨拶、数字、自己紹介などから始まって食事、買い物、家族、趣味、日常、余暇などをテーマにして、パートナーとの会話練習や聞き取り練習など、多様な応用練習や様々なシチュエーションを想定したロールプレイなどを行う。				
授業目的・到達目標	実際の場で使用できる「話す」「聞く」「読む」「書く」といった総合的なコミュニケーション能力を養成することを目的とする。 聞き取り、会話、作文などの練習を通し、日常生活で使われる身近な単語を習得しながら、初歩的な文を理解し、自らも表現できるようにする。ドイツ語の確かな運用能力を涵養し、異文化に対する対応力を高め、国際的な交流と共生ができるようになることを目標とする。				
履修条件	関連科目及び授業外国語積極的領域が重要です。				
授業方法	アクティブ ラーニング 学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用します。 フィードバックは授業内において行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加度、テスト。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年	朝日		Spitze! 1	新倉真矢子
	備考				
参考書	なし				
オフィスアワー	授業終了時 土曜日9:00-14:30				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の内容を復習、補習（30分）
	授業内容	Lektion 7 趣味
	事後学習	テキスト49～52頁 復習（30分）
2	事前学習	テキスト49～52頁 復習（30分）
	授業内容	Lektion 7 スケジュール
	事後学習	テキスト53～55 頁 復習（30分）
3	事前学習	テキスト53～55 頁 復習（30分）
	授業内容	Lektion 8 服装
	事後学習	テキスト57～60 頁 復習（30分）
4	事前学習	テキスト57～60 頁 復習（30分）
	授業内容	Lektion 8 プレゼント
	事後学習	テキスト61～63 頁 復習（30分）

5	事前学習	テキスト61～63 頁 復習 （30分）
	授業内容	Lektion 9 休暇
	事後学習	テキスト65～67 頁 復習 （30分）
6	事前学習	テキスト65～67 頁 復習 （30分）
	授業内容	Lektion 9 宿泊
	事後学習	テキスト68～71 頁 復習 （30分）
7	事前学習	テキスト68～71 頁 復習 （30分）
	授業内容	Lektion 10 町にて
	事後学習	テキスト73～75 頁 復習 （30分）
8	事前学習	テキスト73～75 頁 復習 （30分）
	授業内容	Lektion 10 交通
	事後学習	テキスト76～79 頁 復習 （30分）
9	事前学習	テキスト76～79 頁 復習 （30分）
	授業内容	Lektion 11 時刻
	事後学習	テキスト81～83 頁 復習 （30分）
10	事前学習	テキスト81～83 頁 復習 （30分）
	授業内容	Lektion 11 日程
	事後学習	テキスト84～87 頁 復習 （30分）
11	事前学習	テキスト84～87 頁 復習 （30分）
	授業内容	Lektion 12 気候
	事後学習	テキスト89～90 頁 復習 （30分）
12	事前学習	テキスト89～90 頁 復習 （30分）
	授業内容	Lektion 12 過去
	事後学習	テキスト91～94 頁 復習 （30分）
13	事前学習	テキスト91～94 頁 復習 （30分）
	授業内容	Lektion 12 観光
	事後学習	テキスト95 頁 復習 （30分）
14	事前学習	テスト予備 （2時間）
	授業内容	テスト予備及びまとめ、振返り
	事後学習	テスト勉強 （1時間）
15	事前学習	テスト勉強 （1時間）
	授業内容	小テスト及びまとめ、振返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと （1時間）

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅡA	担当者	V. カレンベルク	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語で日常的なコミュニケーションをとれるようになるための文法と会話レッスンを行います。			
授業目的・到達目標	ドイツ語の過去形や完了形を使って文章を作る能力を育成することを目的とする。 ドイツ語検定4級か3級に合格できるレベルに達することを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	ドイツ語基礎表現を履修した者			
授業方法	全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声に出して復習する。必要に応じてDVDを見たりCDを聞いたりする。フィードバックは授業内において行います。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常点40%：出席を取る時のオラルテストと小テストで評価。筆記試験60%：100点満点の筆記試験で評価。検定試験5級か4級に合格した者は筆記試験を免除する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし		
参考書	『ドイツ語文法へのプロローグ』岡本順治：郁文堂、『ドンと来い分離動詞』渡水久雄：駿河台ドイツ語工房、独和辞典			
オフィスアワー	授業後15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業後、教室で担当教員のところまで来てください。 授業時間：木曜2限、土曜1・2限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を買う，事前にシラバスを確認しておくこと。（20分）
	授業内容	何時でしたか？ 何をしましたか？
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
2	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	誰でしたか？ 何でしたか？（所有代名詞）
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
3	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	どういうふうでしたか？
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
4	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	話法助動詞の過去形
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）

5	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	話法助動詞の過去形II
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
6	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	どこへ行きましたか？ どこにいましたか？ （三格と四格の練習）
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
7	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	どうしてそれがわかりましたか？
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
8	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	何に興味がありましたか？ （再帰動詞をつかう）
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
9	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	なぜそうしましたか？
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
10	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	ここまでの復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
11	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
12	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
13	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
14	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
15	事前学習	ここまで学んだことの復習（30分）
	授業内容	まとめ・テスト
	事後学習	テストでわからなかった点の復習（40分）

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅡA	担当者	A. リープハート	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、様々な場面における実践的なドイツ語運用力の向上を目指す。初級レベルの基礎を復習しながら、文法や基本語彙知識をさらに広げ、「話す」と「聞く」を重視し、総合的なコミュニケーション能力を養う。具体的には、パートナーとの会話練習や聞き取り練習など、多様な応用練習や様々なシチュエーションを想定したロールプレイなどを行う。			
授業目的・到達目標	実際の場で使用できる「話す」「聞く」「読む」「書く」といった総合的なコミュニケーション能力を養成することを目的とする。 聞き取り、会話、作文などの練習を通し、日常生活で使われる身近な単語を習得しながら、ドイツ語の基礎を理解し、自ら表現できるようにする。ドイツ語の確かな運用能力を涵養し、異文化に対する対応力を高め、国際的な交流と共生ができるようになることを目標とする。			
履修条件	授業出席率の確保と積極的な参加が求められる。			
授業方法	学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用する。 フィードバックは授業内において行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業参加度、会話のテスト
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	三修社	Start frei! 1	藤原 三枝子
	備考			
参考書	独和辞典			
オフィスアワー	授業終了時 土曜日9:00-14:30			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。 （30分）
	授業内容	ガイダンス Lektion 1 挨拶、地理
	事後学習	テキスト8～9頁 復習 （30分）
2	事前学習	テキスト8～9頁 復習 （30分）
	授業内容	Lektion 1 自己紹介
	事後学習	テキスト10～11頁 復習 （30分）
3	事前学習	テキスト10～11頁 復習 （30分）
	授業内容	Lektion 1 出身、言語、専攻
	事後学習	テキスト12～14頁 復習 （30分）
4	事前学習	テキスト12～14頁 復習 （30分）
	授業内容	Lektion 1 人と知り合う
	事後学習	テキスト15～17頁 復習 （30分）

5	事前学習	テキスト15～17頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 2 趣味
	事後学習	テキスト19～23頁 復習 (30分)
6	事前学習	テキスト19～23頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 2 アルファベット、数字
	事後学習	テキスト24～26頁 復習 (30分)
7	事前学習	テキスト24～26頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 2 職業
	事後学習	テキスト27～29頁 復習 (30分)
8	事前学習	テキスト27～29頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 3 時刻
	事後学習	テキスト31～33頁 復習 (30分)
9	事前学習	テキスト31～33頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 3 日常生活
	事後学習	テキスト34～36頁 復習 (30分)
10	事前学習	テキスト34～36頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 3 スケジュール
	事後学習	テキスト37～39頁 復習 (30分)
11	事前学習	テキスト37～39頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 3 一日の行動
	事後学習	テキスト40～41頁 復習 (30分)
12	事前学習	テキスト40～41頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 4 日用品
	事後学習	テキスト43～45頁 復習 (30分)
13	事前学習	テキスト43～45頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 4 持ち物
	事後学習	テキスト46～48頁 復習 (30分)
14	事前学習	テスト予備 (2時間)
	授業内容	テスト予備及びまとめ、振り返り
	事後学習	テスト勉強 (2時間)
15	事前学習	テスト勉強 (2時間)
	授業内容	小テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと。

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅡB	担当者	V. カレンベルク	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ語で日常的なコミュニケーションをとれるようになるための文法と会話レッスンをを行います。				
授業目的・到達目標	ドイツ語の過去形や完了形を使って文章を作る能力を育成することを目的とする。 ドイツ語検定4級か3級に合格できるレベルに達することを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	ドイツ語基礎表現を履修した者				
授業方法	全員に発言させる。黒板にセンテンスパターンを書くので、学生はそれをノートに書き写し、声に出して復習する。必要に応じてDVDを見たりCDを聞いたりする。フィードバックは授業内において行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常点40%：出席を取る時のオラルテストと小テストで評価。筆記試験60%：100点満点の筆記試験で評価。検定試験5級か4級に合格した者は筆記試験を免除する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし			
参考書	『ドイツ語文法へのプロローグ』岡本順治：郁文堂、『ドンと来い分離動詞』渡水久雄：駿河台ドイツ語工房、独和辞典				
オフィスアワー	授業後15分をオフィスアワーとします。質問等のある学生は授業後、教室で担当教員のところまで来てください。 授業時間：木曜2限、土曜1・2限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	動詞の受け身 彼に何をされましたか？（I）
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
2	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	動詞の受け身 （II）
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
3	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	彼は何をしましたか？ 彼女は元気でしたか？（I）
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
4	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	彼は何をしましたか？ 彼女は元気でしたか？（II）
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）

5	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	状態の受け身（I）
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
6	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	状態の受け身（II）
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
7	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	動詞の未来形（I）
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
8	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	動詞の未来形（II）
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
9	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	自分の過去と未来を語る（I）
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
10	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	自分の過去と未来を語る（II）
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
11	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	ここまでの復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
12	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
13	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
14	事前学習	前回授業で配布したプリントを予習（20分）
	授業内容	復習
	事後学習	授業で配布するプリントを復習（40分）
15	事前学習	16回からの内容の復習
	授業内容	まとめ・テスト
	事後学習	テストでわからなかった点の復習（40分）

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅡB	担当者	A. リープハート	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、様々な場面における実践的なドイツ語運用力の向上を目指す。初級レベルの基礎を復習しながら、文法や基本語彙知識をさらに広げ、「話す」と「聞く」を重視し、総合的なコミュニケーション能力を養う。具体的には、パートナーとの会話練習や聞き取り練習など、多様な応用練習や様々なシチュエーションを想定したロールプレイなどを行う。			
授業目的・到達目標	実際の場で使用できる「話す」「聞く」「読む」「書く」といった総合的なコミュニケーション能力を養成することを目的とする。 聞き取り、会話、作文などの練習を通し、日常生活で使われる身近な単語を習得しながら、ドイツ語の基礎を理解し、自ら表現できるようにする。ドイツ語の確かな運用能力を涵養し、異文化に対する対応力を高め、国際的な交流と共生ができるようになることを目標とする。			
履修条件	授業出席率の積極的参加語彙領域6			
授業方法	学生参加型の授業を中心に、対話練習やグループ学習を多用する。 フィードバックは授業内において行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業参加度、会話のテスト
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	三修社	Start frei! 1	藤原 三枝子
	備考			
参考書	独和辞典			
オフィスアワー	授業終了時 土曜日9:00-14:30			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	後期範囲の予習を行っておくこと （30分）
	授業内容	Lektion 4 部屋
	事後学習	テキスト49～50頁 復習 （30分）
2	事前学習	テキスト49～50頁 復習 （30分）
	授業内容	Lektion 4 家具
	事後学習	テキスト51頁 復習 （30分）
3	事前学習	テキスト51頁 復習 （30分）
	授業内容	Lektion 4 賃貸
	事後学習	テキスト52～53頁 復習 （30分）
4	事前学習	テキスト52～53頁 復習 （30分）
	授業内容	Lektion 5 食べ物、飲み物
	事後学習	テキスト55～57頁 復習 （30分）

5	事前学習	テキスト55～57頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 6 食事
	事後学習	テキスト58～60頁 復習 (30分)
6	事前学習	テキスト58～60頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 6 レストラン
	事後学習	テキスト61～63頁 復習 (30分)
7	事前学習	テキスト61～63頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 7 町にて
	事後学習	テキスト67～69頁 復習 (30分)
8	事前学習	テキスト67～69頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 7 買い物、値段
	事後学習	テキスト70～71頁 復習 (30分)
9	事前学習	テキスト70～71頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 8 マーケット
	事後学習	テキスト72～74頁 復習 (30分)
10	事前学習	テキスト72～74頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 8 服装
	事後学習	テキスト75～77頁 復習 (30分)
11	事前学習	テキスト75～77頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 9 家族
	事後学習	テキスト79～82頁 復習 (30分)
12	事前学習	テキスト79～82頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 9 季節、日付け
	事後学習	テキスト83～85頁 復習 (30分)
13	事前学習	テキスト83～85頁 復習 (30分)
	授業内容	Lektion 9 誕生日、招待
	事後学習	テキスト87～89頁 復習 (30分)
14	事前学習	テスト予備 (2時間)
	授業内容	テスト予備及びまとめ、振返り
	事後学習	テスト勉強 (2時間)
15	事前学習	テスト勉強 (2時間)
	授業内容	テスト及びまとめ、振返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと。

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅢA	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Sprechen und Hören. Anhand des Lehrwerkes neue Wörter erlernen und gezielte Fragen und Antworten zu geben und frei über das Textthema zu sprechen			
授業目的・到達目標	Das Deutschniveau erhoehen. Nicht nur neue Wörter, sondern auch typisch deutsche Formulierungen zu erlernen und anzuwenden. Ziel ist es sich auf Deutsch zu Alltagssituationen zu äußern. 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2			
授業方法	Dialoge üben, in kommunikative Dialoge anwenden. Durch zahlreiche Wiederholungen das Hörverstehen, das freie Sprechen meistern. Sprechmöglichkeiten in der Klasse, in Partnerarbeit und mit der Lehrerin.			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	Test (50%) aktive Teilnahme am Unterricht (50%)
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2012	Cornelsen	studio d A2, ISBN978-3-464-20712-3	Funk, Kuhn, Demme
	備考			
参 考 書	NHK Radio- und Fernsehprogramm			
オフィスアワー	授業の後、教室にて 授業時間：月曜1・2限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Deutsch lernen
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
2	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Englisch für alle?
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
3	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Rekorde
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
4	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Familienalbum
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)

5	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Geburtstag
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
6	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Einladungen
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
7	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Eine Reise
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
8	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Reisepläne
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
9	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Hobbys
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
10	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Im Verein
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
11	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Medien
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
12	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Einkaufen im Internet
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
13	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Ausgehen
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
14	事前学習	Üben (30 Minuten)
	授業内容	Test及びまとめ、振返り
	事後学習	Test überarbeiten (30 Minuten)
15	事前学習	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)
	授業内容	Video
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)

科目名	スピーキング・リスニング(独)ⅢB	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Sprechen und Hören. Anhand des Lehrwerkes neue Wörter erlernen und gezielte Fragen und Antworten zu geben und frei über das Textthema zu sprechen			
授業目的・到達目標	Das Deutschniveau erhoehen. Nicht nur neue Wörter, sondern auch typisch deutsche Formulierungen zu erlernen und anzuwenden. Ziel ist es sich auf Deutsch zu Alltagssituationen zu äußern. 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2			
授業方法	Dialoge üben, in kommunikativen Dialogen anwenden. Durch zahlreiche Wiederholungen das Hörverstehen, das freie Sprechen meistern. Sprechmöglichkeiten in der Klasse, in Partnerarbeit und mit der Lehrerin.			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	Test (50%) 5 aktive Teilnahme am Unterricht (50%)
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014	Cornelsen	studio d A2, ISBN 978-3-464-20712-3	Funk, Kuhn, Demme
	備考			
参 考 書	NHK Radio- und Fernsehprogramm			
オフィスアワー	授業の後、教室にて 授業時間：月曜1・2限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Rund ums Essen
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
2	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Ausgehen
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
3	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Stadtleben
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
4	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Wohnungssuche
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)

5	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Was machen Sie, wennn...?
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
6	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Europa
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
7	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Weimar
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
8	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Damals
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
9	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Arbeit
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
10	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Berufswunsch
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
11	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Feste
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
12	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Geschenke
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
13	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	wiederholung復習
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
14	事前学習	Üben (30 Minuten)
	授業内容	Test及びまとめ、振返り
	事後学習	Test nacharbeiten (30 Minuten)
15	事前学習	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)
	授業内容	Video
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)

科目名	リーディング・ライティング(独)ⅡA	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Umfangreiche Aussprache- und Leseübungen. Anschließend grammatikalisch richtiges Schreiben anhand zahlreicher Beispiele und Übungen				
授業目的・到達目標	Bisherige Deutschkenntnisse erweitern und vertiefen. Ziel ist es Texte flüssig zu lesen und Textinhalte zu erkennen und mit eigenen Worten wiederzugeben. 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2				
授業方法	Aussprachetraining, Leseübungen in der Klasse und mit dem Partner. Grammatik anhand von Beispielen erlernen oder vertiefen, dann selber Sätze schreiben.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	Test (50%) aktive Teilnahme am Unterricht (50%)	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	Dogakusha		Lernplatz Deutsch, ISBN978-4-8102-0746-0	Tomoaki Seino
	備考				
参 考 書	NHK Radio - und Fernsehprogramm				
オフィスアワー	授業の後、教室にて 授業時間：月曜1・2限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion1 挨拶とABC
	事後学習	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
2	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion2 動詞
	事後学習	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
3	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion3 動詞、sein, haben
	事後学習	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
4	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion3 sein, haben 動詞
	事後学習	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)

5	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion4 動詞の1と4かく、複数形
	事後学習	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
6	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion4 動詞の1と4かく、複数形
	事後学習	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
7	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion5 特別な動詞、3かく
	事後学習	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
8	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion5 特別な動詞、3かく
	事後学習	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
9	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion6 前置詞
	事後学習	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
10	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion6 前置詞
	事後学習	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
11	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion7 人称代名詞、再起動
	事後学習	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
12	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion7 人称代名詞、再起動
	事後学習	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
13	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Wiederholung
	事後学習	Gelernte Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
14	事前学習	Üben (30 Minuten)
	授業内容	Test及びまとめ、振返り
	事後学習	Test überarbeiten (30 Minuten)
15	事前学習	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)
	授業内容	Deutsche Spiele
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)

科目名	リーディング・ライティング(独)ⅡB	担当者	I. レンツ	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	Umfangreiche Aussprache- und Leseübungen. Anschließend grammatikalisch richtiges Schreiben anhand zahlreicher Beispiele und Übungen.				
授業目的・到達目標	Bisherige Deutschkenntnisse erweitern und vertiefen. Ziel ist es Texte flüssig zu lesen und Textinhalte zu erkennen und mit eigenen Worten wiederzugeben. 関連DP及びCP：外国語領域科目 6				
履修条件	Grundwissen der deutschen Grammatik , Deutschniveau A2				
授業方法	Aussprachetraining, Leseübungen in der Klasse und mit dem Partner. Grammatik anhand von Beispiel erlernen oder vertiefen, dann selber Sätze schreiben.				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	Test (50%) aktive Teilnahme am Unterricht (50%)	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	Dogakusha		Lernplatz Deutsch, ISBN978-4-8102-0746-0	Tomoaki Seino
	備考				
参 考 書	NHK Radio- und Fernsehprogramm				
オフィス アワー	授業の後、教室にて 授業時間：月曜1・2限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion8 分離動詞と副文
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
2	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion8 分離動詞と副文
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
3	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion9 特別な動詞
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
4	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion9 特別な動詞
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)

5	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion10 形容詞
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
6	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion10 形容詞
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
7	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion11 現在完了形
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
8	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion11 現在完了形
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
9	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion12 weil... wenn
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
10	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Lektion12 weil... wenn
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
11	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Wiederholung
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
12	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Test及びまとめ、振返り
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
13	事前学習	Unterricht vorbereiten, neue Wörter rausschreiben und übersetzen (30 Minuten)
	授業内容	Video
	事後学習	Neue Vokabeln regelmäßig wiederholen (30 Minuten)
14	事前学習	Üben (30 Minuten)
	授業内容	A la carte
	事後学習	Test nacharbeiten (30 Minuten)
15	事前学習	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)
	授業内容	A la carte
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと (30 Minuten)

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。			
授業目的・到達目標	授業目的:日常生活で使える基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話して、フランス語の音声的基盤を養成することを目的とします。 到達目標:知識としてのフランス語ではなくて音から入ることで実践的なフランス語を身につけ、活用できることを目標とします。			
履修条件	関連科目はCPラ外国語基礎領域Bと通年での履修が望ましい。			
授業方法	簡単なフレーズを繰り返し聞いて発音しながら、文法的解説を適宜加えていく。試験の採点・解説は試験後にその場でを行い、一人ずつ返却します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	中間小テスト50%、期末テスト50%で60点以上で合格とする。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2010	明日香出版	たったの72パターンでこんなに話せるフランス語会話	小林知子 他
	備考			
参考書	久松健一「ケータイ万能フランス語文法」駿河台出版社			
オフィスアワー	火曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	1、2課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	ガイダンス。これは～です／C'est～、私は～です①／Je suis～を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
2	事前学習	3、4課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	私は～です②／J'ai～、～します／Je＋一般動詞を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
3	事前学習	5、6課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	～しています／Je suis en train de＋動詞の原形、～すると思います／Je＋動詞の単純未来形を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
4	事前学習	7、8課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	...からずっと～しています／Je＋動詞の現在形＋depuis...、～しました／Je＋動詞の複合過去形を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)

5	事前学習	9, 10課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	～したことがあります／Je＋動詞の複合過去形＋déjà、～できます／Je peux＋動詞の原形を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
6	事前学習	11, 12課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	～しなければなりません①／Je dois＋動詞の原形、～しなければなりません②／Il faut＋動詞の原形を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
7	事前学習	13, 14課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	～したいです／Je veux＋動詞の原形、～があります／Il y a～を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
8	事前学習	1回目から7回目までの復習。(30分)
	授業内容	中間小テスト、採点、解説とまとめ。
	事後学習	答案の間違った箇所の見直し、復習。(30分)
9	事前学習	15, 16課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	～は何ですか？／Que est～？、どちらが～？／Lequel est～？ を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
10	事前学習	17, 18課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	～は誰？／Qui est～？、～はいつ？／Quand est～？を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
11	事前学習	19, 20課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	～はどこ？／Où est～？、どうして～？／Pourquoi～？を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
12	事前学習	21, 22課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	どうやって～？／Comment～？、～をいただきたいのですが／Je voudrais～を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
13	事前学習	23, 24課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	～したいのですが／Je voudrais、～してほしいな／Je veux que～を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
14	事前学習	25, 26課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	～はいかがですか？／Voudriez-vous～？、～なさいませんか？／Voudriez-vous～？を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
15	事前学習	授業の9回目から14回目までの復習。(30分)
	授業内容	期末テスト、採点、解説とまとめ。
	事後学習	答案の間違った箇所を見直し・復習。(30分)

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	初級文法知識を習得するとともに、基本単語を学習します。そのうえで、聞こえたフランス語を書くことができるように練習をし、フランス語の特性の一つである発音しない文字に慣れていきます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】初級文法を学び、それを土台にして基礎的な聴解力とフランス語を綴ることのできる力の養成を目的としています。 【授業目標】初級文法を修得して、日常会話のフランス語が聞き取れるようになること、さらに日常的なフランス語を綴ることができるようになることを目標とします。					
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域 6 特になし					
授業方法	①教科書を用いて文法を学習する。 ② 配布プリントにより、単語の意味その他について解説する。③ エクササイズを行う。毎回小テストを行う。小テスト、中間テストは授業内で返却、期末テストはポータルで解答を配信します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		中間および期末試験（50％）、授業参加度・小テスト（50％）。仏検成績も評価に含める。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2005年	第三書房		英語でわかるフランス語		滑川明彦他
	備考					
参考書	特になし。					
オフィスアワー	日時：月曜日15：00～16：00 場所：ラーニングコモンズ（イースト） 内容：フランス語学習に関する質問、留学相談、その他 メールによる問い合わせ・相談も受け付けます（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	フランスの人口、面積・緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。（30分）
	授業内容	①授業の説明 ②綴り字の読み方(1) ③フランス語の名詞/不定冠詞と定冠詞(1)
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。（30分）
2	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。（30分）
	授業内容	①フランス語のアルファベ(1) ②綴り字の読み方(2) ③フランス語の名詞/不定冠詞と定冠詞(2)
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。（30分）
3	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。（30分）
	授業内容	①フランス語のアルファベ(2) ②綴り字の読み方(3) ③主語となる代名詞と動詞 être（第1課）
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。（30分）
4	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。（30分）
	授業内容	①-er動詞（第3課） ②綴り字の読み方(4) ③ Il y a/C'est, Ce sont（第1課）
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。（30分）

5	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。（30分）
	授業内容	①動詞 avoir（第3課） ②綴り字の読み方(5) ③ Voici, Voilà（第1課）
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。（30分）
6	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。（30分）
	授業内容	①形容詞の性と数（第2課） ②語彙リスト(1)-1 ③週と月（第12課）
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。（30分）
7	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。（30分）
	授業内容	①形容詞の位置（第3課） ②語彙リスト(1)-2 ③疑問文の作り方（第5課）
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習する。（30分）
8	事前学習	前期中間試験の準備をする。（180分）
	授業内容	前期中間試験 ①語彙リスト(1)-3 ②-er動詞のヴァリエーション manger, commencer, acheter（第3課）
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。（30分）
9	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。（30分）
	授業内容	中間テストの解説 ①前置詞de, à と定冠詞の縮約（第4課） ②語彙リスト(1)-4 ③動詞 connaître（第11課）
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。（30分）
10	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。（30分）
	授業内容	①所有形容詞（第4課） ②語彙(2)-1 ③数詞1~30（第3課、第8課）
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。（30分）
11	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。（30分）
	授業内容	①人称代名詞強勢形（第7課） ②語彙リスト(2)-2 ③動詞allerと近接未来（第5課）
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。（30分）
12	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。（30分）
	授業内容	①いろいろな疑問文(1)（第5課） ②語彙リスト(2)-3 ③動詞venirと近接過去（第5課）
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。（30分）
13	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。（30分）
	授業内容	①人称代名詞（1）（第7課） ②語彙リスト(2)-4
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。（30分）
14	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。（30分）
	授業内容	①人称代名詞（2）（第7課）
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習する。（30分）
15	事前学習	前期末試験の準備をする。（180分）
	授業内容	前期末試験とまとめ
	事後学習	ポータルで公表された正解を確認する。（30分）

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	岡本 健	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語の基礎表現を基本単語をもって学ぶ。			
授業目的・到達目標	授業目的：多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質・感性・及び価値観を理解・尊重し、社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践し、自らの考えを伝達する能力を育成することを目的とする。 到達目標：フランス語の学習を通じ、自国の言語文化を相対化する視点を養い、自国の文化を世界に発信できるようになることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域 6 とくにない。			
授業方法	演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	授業内試験、５０％：基礎知識の定着度を判定する。 宿題レポート、５０％：授業の理解度を判定する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015年	白水社	ぜんぶ話して！	レナ・ジュンタ 清岡智比古
	備考			
参 考 書	必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	授業終了後の講堂にて（授業時間：火曜４・５限）、あるいは、メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	アルファベットの音声を聞く（30分）。
	授業内容	ガイダンス。
	事後学習	アルファベットの音を覚える（30分）。
2	事前学習	1 課前半の予習（30分）。
	授業内容	国籍や職業をたずね、それに答える。
	事後学習	1 課前半の単語を覚える（30分）。
3	事前学習	1 課後半の予習（30分）。
	授業内容	出身や学部をたずね、それに答える。
	事後学習	1 課後半の単語を覚える（30分）。
4	事前学習	2 課前半の予習（30分）。
	授業内容	規則動詞を肯定・否定で使う。
	事後学習	2 課前半の単語を覚える（30分）。

5	事前学習	2 課後半の予習（30分）。
	授業内容	否定疑問形でたずね、それに答える。
	事後学習	2 課後半の単語を覚える（30分）。
6	事前学習	3 課前半の予習（30分）。
	授業内容	「～が好き？」とたずね、それにニュアンスをつけて答える。
	事後学習	3 課前半の単語を覚える（30分）。
7	事前学習	3 課後半の予習（30分）。
	授業内容	形容詞を使ってコメントする。
	事後学習	3 課後半の単語を覚える（30分）。
8	事前学習	4 課前半の予習（30分）。
	授業内容	「どこで」「だれと」をたずね、それに答える。
	事後学習	4 課前半の単語を覚える（30分）。
9	事前学習	4 課後半の予習（30分）。
	授業内容	質問の答えを展開させる。
	事後学習	4 課後半の単語を覚える（30分）。
10	事前学習	5 課前半の予習（30分）。
	授業内容	「～を持っている/持っていない」を表現する。
	事後学習	5 課前半の単語を覚える（30分）。
11	事前学習	5 課後半の予習（30分）。
	授業内容	年齢や学年をたずね、それに答える。
	事後学習	5 課後半の単語を覚える（30分）。
12	事前学習	6 課前半の予習（30分）。
	授業内容	家族の名前や身分・職業をたずね、それに答える。
	事後学習	6 課前半の単語を覚える（30分）。
13	事前学習	6 課後半の予習（30分）。
	授業内容	人について好き/きらいを言い、その人がどんな風か言う。
	事後学習	6 課後半の単語を覚える（30分）。
14	事前学習	7 課の予習（30分）。
	授業内容	さまざまな活動について話す。
	事後学習	7 課の単語を覚える（30分）。
15	事前学習	事前に配布されたプリントの予習（30分）。
	授業内容	前期のまとめ。
	事後学習	プリントの単語を覚える（30分）。

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	中川 高行	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語の世界に語彙・言い回しの側面からアプローチする。				
授業目的・到達目標	仏検 5 級に余裕を持って合格できるだけの語彙、表現を養成することを目的とし、仏検 5 級に合格することを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	特にありません。文法の授業(＝フランス語Ⅱ)も同じ年度に履修するほうが効果的です。				
授業方法	教師が一方的に知識を提供するのではなくて、参加型の、受講生各人が何らかの仕事をする授業にします。 フィードバックは授業内において行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業内試験、発表・発言の回数などを総合的に勘案して評価します。仏検受験も評価の対象になります。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018年度	白水社		ボン・ジュールネ	ブレンダン・ル・ルー他
	備考				
参 考 書	必要に応じて授業の中で紹介します。				
オフィスアワー	授業の前後で対応します。 授業時間：土曜 1 限・2 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	インターネットなどで世界の言語の中にフランス語が占める位置について下調べをしておいていただけると有り難い。(30分)
	授業内容	1 課 自己紹介, アルファベット, 「～です」他
	事後学習	街角で出逢うフランス語の単語・表現を収集する。(30分)
2	事前学習	教科書付録のCDの最初の部分を繰り返し聴いてみる。(30分)
	授業内容	1 課 数字 1 ～ 1 0, 「それは～です」
	事後学習	数字 1 ～ 1 0 を暗記 (発音・スペル) する。(30分)
3	事前学習	CDの第2課前半部分を聴いておく。(30分)
	授業内容	2 課 職業, 国籍, 住所他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。(30分)
4	事前学習	CDの第2課後半の部分を聴いておく。(30分)
	授業内容	2 課 数字 1 1 ～ 2 0, 動詞habiter 他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。(30分)

5	事前学習	CDの第3課前半部分を聴いておく。(30分)
	授業内容	3 課 否定, 言語, カフェにて他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。(30分)
6	事前学習	CDの第3課後半の部分を聴いておく。(30分)
	授業内容	3 課 名詞の性数, 不定冠詞他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。(30分)
7	事前学習	CDの第4課前半部分を聴いておく。(30分)
	授業内容	4 課 身の回りのもの, 兄弟, 年齢について他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。(30分)
8	事前学習	CDの第4課後半の部分を聴いておく。(30分)
	授業内容	4 課 動詞avoir, 否定のde他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。(30分)
9	事前学習	CDの第5課前半部分を聴いておく。(30分)
	授業内容	5 課 人物描写, 国名他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。(30分)
10	事前学習	CDの第5課後半部分を聴いておく。(30分)
	授業内容	5 課 所有形容詞, 疑問詞他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。(30分)
11	事前学習	CDの第6課前半部分を聴いておく。(30分)
	授業内容	6 課 ものの位置他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。(30分)
12	事前学習	CDの第6課後半部分を聴いておく。(30分)
	授業内容	6 課 定冠詞他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。(30分)
13	事前学習	CDの第7課前半部分を聴いておく。(30分)
	授業内容	7 課 好き嫌いの表現, 形容詞他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。(30分)
14	事前学習	CDの第7課後半部分を聴いておく。(30分)
	授業内容	7 課 aimer, il y a他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。(30分)
15	事前学習	試験範囲の総まとめ。(30分)
	授業内容	試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	前期の学習項目を見直す。(30分)

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	根岸 知生	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	初めてフランス語を学ぶ人を対象に、アルファベットの発音から始めて、基礎的な文法や読解、日本とフランスの文化の違い等を学びます。			
授業目的・到達目標	フランス語の基礎的な力を養成し、日本語や英語とは異なる言語を学ぶことで、自国とは違う文化への好奇心や理解を育てることをことを目的とします。さらには日本について世界に発信できるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	特になし。			
授業方法	基礎的な文法をまとめながら、音読や和訳、書き取り、会話の練習をします。DVD教材でフランスの文化について学ぶ機会も作ります。テストは添削して返却し、必要に応じて教室で解説します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業への貢献度と、前期の最後に実施するテストの結果から総合的に判断します。 また年度内の仏検合格者には、点数を加算します。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2006年	白水社	パスカル・オ・ジャポン（CD付）	藤田祐二
	備考			
参考書	特になし。			
オフィスアワー	質問・相談がある場合は授業内や授業前後に声を掛けてください。 木曜日12:50～13:00 授業講堂			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	オリエンテーション フランス語に親しむ（1）：アルファベ・フランス語表現
	事後学習	アルファベを覚えましょう。（30分）
2	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	フランス語に親しむ（2）：綴り字の読み方
	事後学習	綴り字の発音の規則を覚えましょう。（30分）
3	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	国籍を言う：主語人称代名詞・動詞
	事後学習	基本的な動詞の活用を覚えましょう。（30分）
4	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	名前・職業を言う：形容詞の性・数の一致
	事後学習	形容詞の変化の原則を覚えましょう。（30分）

5	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	持ち物を尋ねる（1）：不定冠詞・指示代名詞
	事後学習	不定冠詞を覚えましょう。（30分）
6	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	持ち物を尋ねる（2）：形容詞の位置
	事後学習	形容詞を使った表現を自分で考えてみましょう。（30分）
7	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	趣味を語る（1）：定冠詞・疑問文
	事後学習	定冠詞を覚えましょう。また自分でも疑問文を作ってみましょう。（30分）
8	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	趣味を語る（2）：疑問形容詞
	事後学習	疑問形容詞を使った文を考えてみましょう。（30分）
9	事前学習	1 課から 4 課までに学んだ文法事項を整理しておきましょう。（30分）
	授業内容	まとめの練習問題
	事後学習	間違えたところを確認し、復習しておきましょう。（30分）
10	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	誰か尋ねる（1）：否定文
	事後学習	疑問代名詞を使った文を作ってみましょう。（30分）
11	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	誰か尋ねる（2）：疑問代名詞
	事後学習	疑問代名詞を使った文を作ってみましょう。（30分）
12	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	したいことを尋ねる：前置詞と定冠詞の縮約・疑問代名詞
	事後学習	縮約形を覚えましょう。（30分）
13	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	住んでいる所を言う：人称代名詞の強勢形・所有形容詞
	事後学習	強勢形と所有形容詞の変化をしっかりと覚えましょう。（30分）
14	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	何をしているか尋ねる：疑問代名詞・場所を表す前置詞
	事後学習	疑問代名詞を使った文を作ってみましょう。（30分）
15	事前学習	今までに学んだ文法事項や表現をまとめておきましょう。（30分）
	授業内容	前期のまとめ・期末テスト
	事後学習	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。（30分）

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	藤井 陽子	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	フランス語の基本的な表現や文法、発音を学ぶ。				
授業目的・到達目標	【授業目的】基礎的なフランス語力（フランス語検定5級相当）を身につけ、コミュニケーション力を養成することを目指す。 【到達目標】フランス語の日常的な表現を学び、簡単な会話や読み書きができるようになる。 関連DP及びCP:外国語科目領域6				
履修条件	特になし。後期科目のフランス語基礎表現Bと続けて履修することが望ましい。				
授業方法	発音・会話練習を中心に、教科書の内容にしたがってCD・DVD等を利用しながら授業を進める。 毎回小テストを行う。フィードバックは授業内またはポータルシステムにて行う。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		0%		
	平常評価		100%		授業内試験60%、授業中の小テスト20%、授業への参加態度や課題への取組20%。 フランス語検定の結果を評価に含む。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2015年	朝日出版社		『きみと話したい！フランス語』	大久保政憲
	備考				
参考書	数江譲治 『フランス語のABC』 白水社				
オフィスアワー	水曜日14：40～18：00 授業講堂にて 緊急の場合はメールにて受付（fujii.yoko11@nihon-u.ac.jp）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、講義の全体を概観する ノートを準備し、教科書の内容に目を通しておく(30分)
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方や課題等の説明 フランス語の文字と発音 アルファベ
	事後学習	ガイダンスの内容を整理する フランス語のアルファベの読みを暗記する(30分)
2	事前学習	教科書5～6ページの発音の規則に目を通す(30分)
	授業内容	アルファベの復習 フランス語の文字と発音 アクサン
	事後学習	発音規則を確認しながら単語の読みを復習する(30分)
3	事前学習	1課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す(30分)
	授業内容	Leçon 1 あいさつ 自己紹介 (主語人称代名詞)
	事後学習	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する(30分)
4	事前学習	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する(30分)
	授業内容	Leçon 1 あいさつ 自己紹介 (国籍)
	事後学習	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする(30分)

5	事前学習	2課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す(30分)
	授業内容	Leçon 2 ～があります （提示表現）
	事後学習	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する(30分)
6	事前学習	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する(30分)
	授業内容	Leçon 2 ～があります （名詞と冠詞）
	事後学習	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする(30分)
7	事前学習	3課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す(30分)
	授業内容	Leçon 3 ～を持っている （動詞avoir）
	事後学習	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する(30分)
8	事前学習	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する(30分)
	授業内容	Leçon 3 ～を持っている （疑問文・否定文）
	事後学習	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする(30分)
9	事前学習	4課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す(30分)
	授業内容	Leçon 4 どんな言葉？ （er動詞）
	事後学習	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する(30分)
10	事前学習	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する(30分)
	授業内容	Leçon 4 どんな言葉？ （形容詞）
	事後学習	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする(30分)
11	事前学習	5課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す(30分)
	授業内容	Leçon 5 買い物 （部分冠詞）
	事後学習	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する(30分)
12	事前学習	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する(30分)
	授業内容	Leçon 5 買い物 （中性代名詞en）
	事後学習	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする(30分)
13	事前学習	6課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す(30分)
	授業内容	Leçon 6 どこに？ （前置詞と定冠詞の縮約）
	事後学習	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する(30分)
14	事前学習	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する(30分)
	授業内容	Leçon 6 どこに？ （疑問副詞）
	事後学習	前期の授業内容を整理し、全体を復習する(30分)
15	事前学習	授業内容全体の総復習(30分)
	授業内容	授業内試験および前期学習内容の総復習
	事後学習	これまでの学習内容を整理する(30分)

科目名	フランス語基礎表現A	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語検定試験などの資格試験合格を目指すために、また長期的には専門分野の理解深化に関わるフランス語・フランス文化の総合的理解を目指して、表現を中心にフランス語の基礎を学習します。					
授業目的・到達目標	【授業目的】フランス語検定試験などの資格試験や、専門分野の原書理解などに必要である、フランス語の基礎力 ― 主に表現に関わる基礎力 ― を養成することを目的としています。 【到達目標】基礎力を身につけ、フランス語検定試験 5 級あるいは 4 級を取得できることを目標とします。					
履修条件	ありません。					
授業方法	演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で返却を行います。試験は次回の授業時に返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験など）：１００％	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017年	駿河台出版社		『フランス語の庭』		那波陽子
	備考					
参 考 書	授業時に指示します。					
オフィスアワー	水曜日12時20分から13時（事前にメールでアポイントメントを取ってください） 研究室（本館9階1910）yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読むこと。（３０分）
	授業内容	前期イントロダクション
	事後学習	授業内容を復習しておくこと。（３０分）
2	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	あいさつと簡単な自己紹介
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
3	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	自己紹介し合う 国籍・職業・名前を言う（１）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
4	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと（３０分）
	授業内容	自己紹介し合う 国籍・職業・名前を言う（２）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと（３０分）

5	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	カフェで コーヒーをください おいくらですか？（１）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
6	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	カフェで コーヒーをください おいくらですか？（２）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
7	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	友達を紹介する 話す言語・住んでいる所・好みを言う・否定で言う（１）
	事後学習	試験対策の勉強を行うこと。（３０分）
8	事前学習	試験対策の勉強を行うこと。（３０分）
	授業内容	前期中間試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験内容の復習を行うこと。（３０分）
9	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	友達を紹介する 話す言語・住んでいる所・好みを言う・否定で言う（２）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
10	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	持ち物を言う・説明する ～を持っている、それはなんですか、それは・それらは～です、～に～があります（１）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
11	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	持ち物を言う・説明する ～を持っている、それはなんですか、それは・それらは～です、～に～があります（２）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
12	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	人について聞く・説明する それは誰ですか、どんな人ですか（１）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
13	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	人について聞く・説明する それは誰ですか、どんな人ですか（２）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
14	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	食べるもの・飲み物を言う サラダを食べる、ワインは飲まない、何を食べる（１）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
15	事前学習	試験対策の授業を行うこと。（３０分）
	授業内容	前期末試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験内容の復習を行うこと。（３０分）

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語の音に慣れ、基本的な表現や語彙を学ぶ。					
授業目的・到達目標	授業目的:日常生活で使える基本的なフランス語の表現をフレーズを反復して聞いて、発話して、フランス語の音声的基盤を養成することを目的とします。 到達目標:知識としてのフランス語ではなくて音から入ることで実践的なフランス語を身につけ、活用できることを目標とします。					
履修条件	関連DP及諸CPで外国語技能領域味を持っていること。					
授業方法	簡単なフレーズを繰り返し聞いて発音しながら、文法的解説を適宜加えていく。試験の採点・解説は試験後にその場でいい、一人ずつ返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		中間小テスト50%、期末テスト50%で60点以上で合格とする。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2010	明日香出版		たったの72パターンでこんなに話せるフランス語会話		小林知子 他
	備考					
参考書	久松健一「ケータイ万能フランス語文法」駿河台出版社					
オフィスアワー	火曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	26, 27課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	後期ガイダンス、～したらどう?／Pourquoi ne pas～?、～しよう!／～ons!、～だと思うよ／Je pense que～を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
2	事前学習	28, 29課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	～だといいな／J' espère que～、前は～だったよ／J' avais l'habitude de～、～させて／Laisse-moi～を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
3	事前学習	30, 31課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	～をありがとう／Merci pour～、～してごめんね／Je suis désolé(e) de～を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
4	事前学習	32, 33課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	そんなに～じゃないよ／Ce n'est pas si～、～すぎるよ／C'est trop～を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)

5	事前学習	34, 35課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	～しないの?／Tu ne+動詞の現在形+pas?、～しなかったの?／Tu ne+動詞の複合過去形+pas?を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
6	事前学習	36, 37課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	～するつもりです／J'ai l'intention de～、～するはずでした／Je devais～、～すればよかった／J'aurais dû～を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
7	事前学習	38, 39課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	～するかもしれない／Peut-être que ～、～するはずだよ／Tu devrais～、～するはずがない／を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
8	事前学習	16回目から22回目までの復習。(30分)
	授業内容	中間小テスト、採点、解説とまとめ。
	事後学習	答案の間違った箇所の見直し、復習。(30分)
9	事前学習	40, 41課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	～するに違いない／Je suis sûr(e) que～、～してください／～、s'il vous plaît.を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
10	事前学習	42, 43課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	～しないで!／Ne～pas!、～してもいい?／Je peux～?、～してもいいですか?／Puis-je～?を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
11	事前学習	44, 45課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	～してもらえない?／Peux-tu～?, ～が必要です／J'ai besoin de～?を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
12	事前学習	46, 47課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	～が怖いです／J'ai peur de～?、どんな～?／Quel type de～?、よく～するの?／～souvent?を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
13	事前学習	48, 49課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	～そうだね／Ça semble～、～によるよ／Ça dépend de～、～ってこと?／Tu veux dire que～?を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
14	事前学習	50, 51課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	～だよな?／～、n'est-ce pas?、～はどんな感じ?／Comment est～?、～頑張って!／Bon courage pour～!を理解し例文を暗唱できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
15	事前学習	授業の24回目から29回までの復習。(30分)
	授業内容	期末テスト、採点、解説とまとめ。
	事後学習	答案の間違った箇所を見直し・復習。(30分)

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	初級文法知識を習得するとともに、基本単語を学習します。そのうえで、聞こえたフランス語を書くことができるように練習をし、フランス語の特性の一つである発音しない文字に慣れていきます。				
授業目的・到達目標	【授業目的】初級文法を学び、それを土台にして基礎的な聴解力とフランス語を綴ることのできる力の養成を目的としています。 【授業目標】初級文法を修得して、日常会話のフランス語が聞き取れるようになること、さらに日常的なフランス語を綴ることができるようになることを目標とします。				
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域 6 特になし				
授業方法	教科書を用いて文法を学習する。 ② 配布プリントにより、単語の意味その他について解説する。③ エクササイズを行う。毎回小テストを行う。小テスト、中間テストは授業内で返却、期末テストはポータルで解答を配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	中間および期末試験（50％）、授業参加度・小テスト（50％）。仏検成績も評価に含める。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2005年	第三書房		英語でわかるフランス語	滑川明彦他
	備考				
参 考 書	特になし。				
オフィスアワー	日時：月曜日15：00～16：00 場所：ラーニングコモンズ（イースト） 内容：フランス語学習に関する質問、留学相談、その他 メールによる問い合わせ・相談も受け付けます（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。（30分）
	授業内容	①数詞31-69（第8課） ②語彙リスト(3)-1 ③動詞se coucher（第9課）
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。（30分）
2	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。（30分）
	授業内容	①数詞70-100（第8課） ②語彙リスト(3)-2 ③さまざまな前置詞(1)（第5課）
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。（30分）
3	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。（30分）
	授業内容	①時間表現（第9課） ②語彙リスト(3)-3 ③さまざまな前置詞(2) プリント
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。（30分）
4	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。（30分）
	授業内容	①天候表現（第7課） ②語彙リスト(3)-4 ③部分冠詞
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。（30分）

5	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。(30分)
	授業内容	①動詞 prendre (第6課) ②語彙(4)-1 ③不定冠詞・部分冠詞の変形 (第6課)
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。(30分)
6	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。(30分)
	授業内容	①動詞 pouvoirとvouloir (第7課) ②語彙リスト(4)-2 ③比較級・最上級(1) (第7課)
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。(30分)
7	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。(30分)
	授業内容	①動詞 finir (第8課) ②語彙(4)-3 ③比較級・最上級(2) (第7課)
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習する。(30分)
8	事前学習	後期中間試験の準備をする。(180分)
	授業内容	後期中間試験 ①語彙(4)-4 ②比較級・最上級(3) (第7課)
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習する。
9	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。(30分)
	授業内容	前期中間テストの解説 ①動詞 faire (第9課) ②語彙リスト(5)-1 ③さまざまな否定表現(1) (第6課)
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。(30分)
10	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。(30分)
	授業内容	①動詞 sortir (第8課) ②語彙リスト(5)-2 ③さまざまな否定表現(2) (第6課)
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。(30分)
11	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。(30分)
	授業内容	①単純未来形 (第10課) ②語彙リスト (5)-3 ③いろいろな疑問文(2)-1 (第10課)
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習する。
12	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。(30分)
	授業内容	①半過去形 (第10課) ②語彙リスト(5)-4 ③いろいろな疑問文(2)-2 (第10課)
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習する。
13	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。(30分)
	授業内容	①語彙リスト(6)-1 ②複合過去形(1) (第8課)
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習し、小テストの準備をする。(30分)
14	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の項目を読んでおく。(30分)
	授業内容	①語彙リスト(6)-2 ②複合過去形(2) (第8課)
	事後学習	今週に学習した文法内容について復習する。(30分)
15	事前学習	後期末試験の準備をする。(180分)
	授業内容	後期末試験とまとめ
	事後学習	ポータルで公表された正解を確認する。(30分)

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	岡本 健	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語の基礎表現を基本単語をもって学ぶ。			
授業目的・到達目標	授業目的：多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質・感性及び価値観を理解・尊重し、社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践し、自らの考えを伝達する能力を育成することを目的とする。 到達目標：フランス語の学習を通じ、自国の言語文化を相対化する視点を養い、自国の文化を世界に発信できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	とくにない。			
授業方法	演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業内試験、５０％：基礎知識の定着度を判定する。 宿題レポート、５０％：授業の理解度を判定する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	２０１５年	白水社	ぜんぶ話して！	レナ・ジュンタ 清岡智比古
	備考			
参考書	必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	授業終了後の講堂にて（授業時間：火曜４・５限）、あるいは、メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	8 課前半の予習（30分）。
	授業内容	食事について話す。
	事後学習	8 課前半の単語を覚える（30分）。
2	事前学習	8 課後半の予習（30分）。
	授業内容	頻度を表現する。
	事後学習	8 課後半の単語を覚える（30分）。
3	事前学習	9 課前半の予習（30分）。
	授業内容	よく行く場所について話す。
	事後学習	9 課前半の単語を覚える（30分）。
4	事前学習	9 課後半の予習（30分）。
	授業内容	移動手段について話す。
	事後学習	9 課後半の単語を覚える（30分）。

5	事前学習	1 0 課前半の予習（30分）。
	授業内容	習慣についてたずね、代名詞を使って答える。
	事後学習	1 0 課前半の単語を覚える（30分）。
6	事前学習	1 0 課後半の予習（30分）。
	授業内容	代名動詞を使って習慣について話す。
	事後学習	1 0 課後半の単語を覚える（30分）。
7	事前学習	1 1 課前半の予習（30分）。
	授業内容	生活時間についてたずね、それに答える。
	事後学習	1 1 課前半の単語を覚える（30分）。
8	事前学習	1 1 課後半の予習（30分）。
	授業内容	計画についてたずね、それに答える。
	事後学習	1 1 課後半の単語を覚える（30分）。
9	事前学習	1 2 課前半の予習（30分）。
	授業内容	行きたい場所についてたずね、その土地の天候について話す。
	事後学習	1 2 課前半の単語を覚える（30分）。
10	事前学習	1 2 課後半の予習（30分）。
	授業内容	アドバイスを求める/与える。
	事後学習	1 2 課後半の単語を覚える（30分）。
11	事前学習	1 3 課前半の予習（30分）。
	授業内容	過去の出来事について質問し、それに答える。
	事後学習	1 3 課前半の単語を覚える（30分）。
12	事前学習	1 3 課後半の予習（30分）。
	授業内容	過去の表現を使って、一日の出来事・週末・ヴァカンスについて話す。
	事後学習	1 3 課後半の単語を覚える（30分）。
13	事前学習	1 4 課前半の予習（30分）。
	授業内容	代名詞を使って、過去の事柄を話す。
	事後学習	1 4 課前半の単語を覚える（30分）。
14	事前学習	1 4 課後半の予習（30分）。
	授業内容	話を組み立てて、一日の行動を話す。
	事後学習	1 4 課後半の単語を覚える（30分）。
15	事前学習	事前に配布されたプリントの予習（30分）。
	授業内容	後期のまとめ。
	事後学習	プリントの単語を覚える（30分）。

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	中川 高行	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語の世界に語彙・言い回しの側面からアプローチする。			
授業目的・到達目標	仏検４～３級レベルの語彙・表現を確実なものにするよう養成することを目標とし、仏検４～３級に合格できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	特にありません。文法の授業(＝フランス語Ⅱ)も同じ年度に履修するほうが効果的です。			
授業方法	教師が一方的に知識を提供するのではなくて、参加型の、受講生各人が何らかの仕事をする授業にします。フィードバックは授業内において行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業内試験、発表・発言の回数などを総合的に勘案して評価します。仏検受験も評価の対象になります。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年度	白水社	ボン・ジュールネ	ブレンダン・ル・ルー他
	備考			
参考書	必要に応じて授業の中で紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後で対応します。 授業時間：土曜 1 限・ 2 限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	CDの第8課前半部分を聴いておく。(30分)
	授業内容	8課 色, 衣服, 比較他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。(30分)
2	事前学習	CDの第8課後半部分を聴いておく。(30分)
	授業内容	8課 比較級, 非人称構文他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。(30分)
3	事前学習	CDの第9課前半部分を聴いておく。(30分)
	授業内容	9課 朝食, 頻度の副詞他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。(30分)
4	事前学習	CDの第9課後半部分を聴いておく。(30分)
	授業内容	9課 縮約, 部分冠詞他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。(30分)

5	事前学習	CDの第10課前半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	1 0 課 曜日，場所他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。（30分）
6	事前学習	CDの第10課後半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	1 0 課 動詞vouloir，中性代名詞y他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。（30分）
7	事前学習	CDの第11課前半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	1 1 課 時間，日常生活の表現他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。（30分）
8	事前学習	CDの第11課後半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	1 1 課 代名動詞他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。（30分）
9	事前学習	CDの第12課前半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	1 2 課 情報を得る，アルバイトについて他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。（30分）
10	事前学習	CDの第12課後半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	1 2 課 目的語人称代名詞他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。（30分）
11	事前学習	CDの第13課前半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	1 3 課 食事の流れ，注文の仕方他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。（30分）
12	事前学習	CDの第13課後半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	1 3 課 複合過去，半過去
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。（30分）
13	事前学習	CDの第14課を聴いておく。（30分）
	授業内容	1 4 課 ヴァカンスの過ごし方他
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。（30分）
14	事前学習	CDの第15課を聴いておく。（30分）
	授業内容	1 5 課 未来の計画，メールの書き方
	事後学習	学習したページの単語・表現を筆写し発音してみる。（30分）
15	事前学習	後期に学習した内容を総合的に見直しておく。（30分）
	授業内容	試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	1 年間の学習内容をまとめた冊子をお渡しします。各項目がどの程度まで身についているか、自己検証する。（30分）

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	根岸 知生	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	初めてフランス語を学ぶ人を対象に、アルファベットの発音から始めて、基礎的な文法や読解、日本とフランスの文化の違い等を学びます。			
授業目的・到達目標	フランス語の基礎的な力を養成し、日本語や英語とは異なる言語を学ぶことで、自国とは違う文化への好奇心や理解を育てることをことを目的とします。さらには日本について世界に発信できるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	特になし。			
授業方法	基礎的な文法をまとめながら、音読や和訳、書き取り、会話の練習をします。DVD教材でフランスの文化について学ぶ機会も作ります。テストは添削して返却し、必要に応じて教室で解説します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業への貢献度と、後期の最後に実施するテストの結果から総合的に判断します。 また年度内の仏検合格者には、点数を加算します。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2006年	白水社	パスカル・オ・ジャボン（CD付）	藤田祐二
	備考			
参考書	特になし。			
オフィスアワー	質問・相談がある場合は授業内や授業前後に声を掛けてください。 木曜日12:50～13:00 授業講堂			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	5 課から 8 課までに学んだ文法事項を整理しておきましょう。（30分）
	授業内容	ガイダンス まとめの練習問題
	事後学習	間違えたところを確認し、復習しておきましょう。（30分）
2	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	家族を語る：否定文における冠詞の変形・女性形容詞の特殊な形
	事後学習	形容詞の女性形をまとめてみましょう。（30分）
3	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	年齢を言う：数字（1～30）・疑問副詞
	事後学習	数字を30まで暗記しましょう。（30分）
4	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	時刻を言う：時刻の言い方・時の前置詞
	事後学習	いろんな時刻をフランス語で言う練習をしてみましょう。（30分）

5	事前学習	9 課から 1 1 課までに学んだ文法事項を整理しておきましょう。（30分）
	授業内容	まとめの練習問題
	事後学習	間違えたところを確認し、復習しておきましょう。（30分）
6	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	紹介する：補語人称代名詞・指示代名詞
	事後学習	補語人称代名詞の変化を覚えましょう。（30分）
7	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	日常生活の表現：代名動詞・近接未来と近接過去
	事後学習	近接未来と近接過去の文を作ってみましょう。（30分）
8	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	量を表す：部分冠詞・中性代名詞 en
	事後学習	部分冠詞を覚えましょう。（30分）
9	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	天候を言う：命令形・中性代名詞 y・天候の表現
	事後学習	命令形の文を作ってみましょう。（30分）
10	事前学習	1 2 課から 1 5 課までに学んだ文法事項を整理しておきましょう。（30分）
	授業内容	まとめの練習問題
	事後学習	間違えたところを確認し、復習しておきましょう。（30分）
11	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	比較する：比較級・指示代名詞
	事後学習	比較級の文を作ってみましょう。（30分）
12	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	過去のことを語る：複合過去形
	事後学習	複合過去形の文を作ってみましょう。（30分）
13	事前学習	CDであらかじめ発音の確認をしておいてください。（30分）
	授業内容	未来のことを語る：単純未来形
	事後学習	単純未来形の文を作ってみましょう。（30分）
14	事前学習	1 6 課から 1 8 課までに学んだ文法事項を整理しておきましょう。（30分）
	授業内容	まとめの練習問題
	事後学習	間違えたところを確認し、復習しておきましょう。（30分）
15	事前学習	今までに学んだ文法事項や表現をまとめておきましょう。（30分）
	授業内容	後期のまとめ・期末テスト
	事後学習	出来なかったところを確認し、復習しておきましょう。（30分）

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	藤井 陽子	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	フランス語の基本的な表現や文法、発音を学ぶ。			
授業目的・到達目標	【授業目的】基礎的なフランス語力（フランス語検定5級相当）を身につけ、コミュニケーション力を養成することを目的とする。 【到達目標】フランス語の日常的な表現を学び、簡単な会話や読み書きができるようになる。 関連DP及びCP：外国語科目領域6			
履修条件	特になし。前期科目のフランス語基礎表現Aより引き続き履修することが望ましい。			
授業方法	発音・会話練習を中心に、教科書の内容にしたがってCD・DVD等を利用しながら授業を進める。 毎回小テストを行う。フィードバックは授業内またはポータルシステムにて行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業内試験60%、授業内の小テスト20%、授業への参加態度や課題への取組20%。 フランス語検定の結果を評価に含む。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015年	朝日出版社	『きみと話したい！フランス語』	大久保政憲
	備考			
参考書	数江譲治 『フランス語のABC』 白水社			
オフィスアワー	水曜日14：40～18：00 授業講堂にて 緊急の場合はメールにて受付（fujii.yoko11@nihon-u.ac.jp）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	7課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す(30分)
	授業内容	Leçon 1～6の復習 Leçon 7 何時に？ （時刻の表現）
	事後学習	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する(30分)
2	事前学習	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する(30分)
	授業内容	Leçon 7 何時に？ （非人称構文）
	事後学習	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする(30分)
3	事前学習	8課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す(30分)
	授業内容	Leçon 8 ～をするつもり ～をしたばかり （近接未来・近接過去）
	事後学習	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する(30分)
4	事前学習	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する(30分)
	授業内容	Leçon 8 ～をするつもり ～をしたばかり （中性代名詞y）
	事後学習	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする(30分)

5	事前学習	9課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す(30分)
	授業内容	Leçon 9 比べる （比較級・最上級）
	事後学習	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する(30分)
6	事前学習	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する(30分)
	授業内容	Leçon 9 比べる （指示代名詞）
	事後学習	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする(30分)
7	事前学習	10課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す(30分)
	授業内容	Leçon 10 ～を知っている （目的語人称代名詞）
	事後学習	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する(30分)
8	事前学習	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する(30分)
	授業内容	Leçon 10 ～を知っている （疑問代名詞）
	事後学習	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする(30分)
9	事前学習	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する(30分)
	授業内容	Leçon 10 ～を知っている （フランス映画について）
	事後学習	フランス映画について授業内容を参考にまとめる(30分)
10	事前学習	11課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す(30分)
	授業内容	Leçon 11 起きる 寝る 散歩する （代名動詞）
	事後学習	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する(30分)
11	事前学習	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する(30分)
	授業内容	Leçon 11 起きる 寝る 散歩する （命令形）
	事後学習	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする(30分)
12	事前学習	12課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す(30分)
	授業内容	Leçon 12 過去のことを言う1 （複合過去）
	事後学習	授業内容を見直してノートにまとめ、疑問点を整理する(30分)
13	事前学習	前回授業で指示された課題および文法の練習問題を準備する(30分)
	授業内容	Leçon 12 過去のことを言う1 （複合過去の用法）
	事後学習	授業内で指示された本文の内容を暗記し、書けるようにする(30分)
14	事前学習	13課の本文をノートに写して新出単語を辞書で調べ、本文を日本語に訳す(30分)
	授業内容	Leçon 13 未来のことを言う （単純未来）
	事後学習	後期の授業内容を整理し、全体を復習する(30分)
15	事前学習	後期の授業内容を整理し、全体を復習する(30分)
	授業内容	授業内試験および後期学習内容の総復習
	事後学習	これまでの授業内容を整理する(30分)

科目名	フランス語基礎表現B	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語検定試験などの資格試験を目指すために、表現を中心にフランス語の基礎を学習します。					
授業目的・到達目標	【授業目的】フランス語検定試験などの資格試験や、専門分野の原書理解などに必要である、フランス語の基礎力 ― 主に表現に関わる基礎力 ― を養成することを目的としています。 【到達目標】基礎力を身につけ、フランス語検定試験 5 級乃至 4 級を取得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	ありません。					
授業方法	演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で返却を行います。試験は次回の授業時に返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験など）：１００％	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017年	駿河台出版社		『フランス語の庭』		那波陽子
	備考					
参 考 書	授業時に指示します。					
オフィスアワー	水曜日12時20分から13時（事前にメールでアポイントメントを取ってください） 研究室（本館9階1910）yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読むこと。（30分）
	授業内容	後期イントロダクション
	事後学習	授業で指示されたことを復習すること。（30分）
2	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（30分）
	授業内容	食べるもの・飲み物を言う サラダを食べる、ワインは飲まない、何を食べる（2）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（30分）
3	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（30分）
	授業内容	行きたい場所を聞く ～はどちらですか、そこへ行く（場所を言い換える代名詞） 天気を言う（1）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（30分）
4	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（30分）
	授業内容	行きたい場所を聞く ～はどちらですか、そこへ行く（場所を言い換える代名詞） 天気を言う（2）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（30分）

5	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	日程について話す　曜日・日付を言う　～が終わる・～を終える、いつ・いくつの～、感想や印象を言う（１）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
6	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	日程について話す　曜日・日付を言う　～が終わる・～を終える、いつ・いくつの～、感想や印象を言う（２）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
7	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	これからする事・したばかりの事を言う　～をする、～できる、なぜ～、なぜならば～（１）
	事後学習	試験対策の勉強を行うこと。（３０分）
8	事前学習	試験対策の勉強を行うこと。（３０分）
	授業内容	後期中間試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験内容の復習を行うこと。（３０分）
9	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	これからする事・したばかりの事を言う　～をする、～できる、なぜ～、なぜならば～（２）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
10	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	日常生活を言う　六時に起きます、朝早く出る、新聞をいつも読む（１）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
11	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	日常生活を言う　六時に起きます、朝早く出る、新聞をいつも読む（２）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
12	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	身体の状態を言う　～が痛い、熱い、寒い、ほしいもの・したいことを言う　～しなければならない（１）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
13	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	身体の状態を言う　～が痛い、熱い、寒い、ほしいもの・したいことを言う　～しなければならない（２）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
14	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	身につける物を言う　～色の洋服を着る、比較する　～より～です・最も～です、人・物を言い換える
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
15	事前学習	試験対策の勉強を行うこと。（３０分）
	授業内容	後期期末試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験内容の復習を行うこと。（３０分）

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語の文法事項の基礎を学びます。その際、いずれ使えるフランス語につながるような基礎の作り方をするため、日本語の解説の前にフランス語の音になじんでもらうことを優先し、例文を音で学びながら、文法事項を学んでいきます。				
授業目的・到達目標	授業目的:文法事項の説明に関連するフランス語のフレーズを反復して聞いて、発話して、フランス語の文法事項を音も含めて総合的に養成することを目的とします。 到達目標:知識としてのフランス語ではなくて音として使える実践的なフランス語を身につけ、活用できることを目標とします。				
履修条件	関連DP及諸CPで外国語技能領域味をもっていること。				
授業方法	文法説明と同時に、フランス語のフレーズを反復して聞いて、発話します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	中間小テスト50%、期末テスト50%の60点以上で合格です。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2014	朝日出版		フランス語ブルー 1 トリコロール 文法編	高橋信良 他
	2014	朝日出版		フランス語ブルー 2 トリコロール 文法編	高橋信良 他
	備考				
参考書	久松健一著「ケータイ 万能フランス語文法」駿河台出版社				
オフィスアワー	火曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	指定教材とポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください(30分)
	授業内容	ガイダンス。授業目的、内容、評価方法、このクラスで守るべき規則などについて説明します。導入で簡単なフランス語に触れてみます。
	事後学習	指定教材フランス語ブルー1に目を通しておいってください。(30分)
2	事前学習	0課に目を通し、知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon0: 発音、綴りを理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
3	事前学習	1課に目を通し、知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon1: 主語人称代名詞と動詞être、性・数一致、リエゾン、アンシェヌマンを理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
4	事前学習	2課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon2: 動詞avoir、不定冠詞、エリズィオンを理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)

5	事前学習	3課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon3: C'est/Ce sont, Il y aとVoici/Voilà, 形容詞を理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
6	事前学習	4課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon4: 第一群規則動詞aimer, 定冠詞と部分冠詞、否定文、疑問文を理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
7	事前学習	5課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon 5: 動詞aller, venir, 前置詞と定冠詞の縮約を理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
8	事前学習	0, 1, 2, 3, 4, 5課の復習。(30分)
	授業内容	中間小テスト、採点、解説とまとめ。
	事後学習	答案で間違えた事項の復習。(30分)
9	事前学習	6課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon 6: 動詞faire、疑問形容詞、所有形容詞を理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
10	事前学習	7課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon 7: 第二群規則動詞とpartir, 代名動詞、受動態を理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
11	事前学習	8課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon 8: 直接法複合過去、補語人称代名詞を理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
12	事前学習	9課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon9: 語幹の特殊変化 préférer、指示形容詞、指示代名詞を理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
13	事前学習	10課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon 10: 動詞pouvoir, vouloir、疑問代名詞を理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
14	事前学習	11課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon11: 比較級、最上級を理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
15	事前学習	後半6, 7, 8, 9, 10, 11課の復習。(30分)
	授業内容	期末テスト、採点、解説、まとめ。
	事後学習	採点で間違えた事項の復習。(30分)

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業は、次の①②③を考慮して進行します。 ①フランス語の初級文法を学び、簡単なフランス語の文章を読むことができるようになること。 ②フランス語実用技能検定試験（仏検）において5級を取得できる語彙力・聴解力をつけること。 ③フランスの文化や生活習慣について知ること。					
授業目的・到達目標	【授業目的】専門分野の原書理解、仏検等の資格試験の取得に必要な文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】初級文法を修得し、仏検4級程度の文章の読解ができるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域6					
履修条件	特になし。					
授業方法	①文法説明を行う。②練習問題・本文読解の答え合わせをする。③毎回、小テストを行う。④宿題として課した文化面の解説を行う。小テスト、中間テストは授業内返却。期末テストは、ポータルで解答を配信する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		①中間および期末試験（50%） ②授業参加度・小テスト・課題（宿題を含む）（仏検成績が加算される）（50%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2014	第三書房		『アレグレス』		江島泰子
	備考					
参考書	仏和辞書（宿題や本文の意味を調べるのに必要です）					
オフィスアワー	日時：月曜日15：00～16：00 場所：図書館7階ラーニングコモンズ（イースト） 内容：フランス語学習に関する質問、留学相談、その他 メールによる問い合わせ・相談も受け付けます（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	フランスの人口、面積・緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。（30分）
	授業内容	① 授業の説明 ② フランス語の挨拶(1) ③ 発音と綴り字の読み方(1)
	事後学習	授業で学んだ事項（フランス語の挨拶と綴り字の読み方）を復習し、小テストの準備をする。（30分）
2	事前学習	名詞の性数とは何か、フランス語以外でどのような言語に名詞の性数があるのか調べてくる。（30分）
	授業内容	① フランス語の挨拶(2) ① 発音と綴り字の読み方(2) ② 名詞の性・数と不定冠詞（第1課）
	事後学習	フランス語の挨拶および綴り字の読み方と名詞の性数および不定冠詞を整理して、小テストの準備をする。（30分）
3	事前学習	フランス語の形容詞の特性、英語との違いについて調べてくる。（30分）
	授業内容	① フランス語の挨拶(3) ② 発音と綴り字の読み方(3) ③ 名詞の性・数と不定冠詞/形容詞(第1課)
	事後学習	フランス語の挨拶および綴り字の読み方と形容詞の変化を整理して、小テストの準備をする。（30分）
4	事前学習	フランス語の主語を英語の主語と比較して考察する。さらに英語のbe動詞と（30分） être動詞の活用を比較する。（30分）
	授業内容	① フランス語の挨拶(4) ② 発音と綴り字の読み方(4) ③ 主語となる代名詞と動詞 être/提示の表現
	事後学習	フランス語の主語とêtre動詞の活用および提示の表現を復習して、小テストに備える。（30分）

5	事前学習	第1課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する。文化面の質問について調べる。英語とフランス語の定冠詞の違いについて確認する。英語のhave動詞とavoir動詞の活用の差について確認する。（30分）
	授業内容	① 発音と綴り字の読み方(5) ② 第1課の本文/文化面 ③ 定冠詞/動詞 avoir（第2課）
	事後学習	第1課本文のフランス語とその意味を対照させて確認する。定冠詞とavoirの活用を復習して、小テストの準備をする。（30分）
6	事前学習	教科書を見て、英語とフランス語における形容詞の位置の違いを確認する。第2課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する。文化面の質問について調べる。（30分）
	授業内容	① voici・voilà/形容詞の位置（第2課） ② 数詞 ③ 第2課の本文/文化面
	事後学習	第2課本文のフランス語とその意味を対照させて確認する。今回の授業で学んだ文法事項を覚え、小テストの準備をする。（30分）
7	事前学習	教科書を見て、フランス語の第一群規則動詞とは何か確認する。3種の疑問文について、それぞれどのように異なるのか確認する。第3課の文化面の質問を調べてくる。（30分）
	授業内容	① 第一群規則動詞/疑問文の作り方（第3課）② 曜日と月(1)（第3課）③ 第3課の文化面
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。（30分）
8	事前学習	第3課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する。フランス語疑問形容詞を英語whatと比較して、その特徴を確認する。（30分）
	授業内容	① 疑問形容詞（第3課） ② 第3課の本文 ③ 曜日と月(2)（第3課）
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習する。（30分）
9	事前学習	今までの文法等の事項を復習して、前期中間試験の準備をする。（180分）
	授業内容	前期中間試験（第1回～8回までの内容） ①動詞 faireの活用（第4課） ② 所有形容詞(1)
	事後学習	授業で学んだ文法項目等を復習して、小テストの準備をする。（30分）
10	事前学習	前回到学んだ所有形容詞の復習をする。文化面の質問について調べる。（30分）
	授業内容	中間試験テストの解説 ① 所有形容詞(2)と時間表現(1)（第4課） ③ 第4課の文化面
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。（30分）
11	事前学習	第4課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する。（30分）
	授業内容	① 時間表現(2)（第4課） ② 第4課の本文 ③Il y a...（第5課）
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習し、小テストの準備をする。（30分）
12	事前学習	フランス語の指示形容詞は、英語では何に相当するか調べる。位置を示す表現の綴り字の読み方を確認する。第5課の文化面の質問について調べてくる。（30分）
	授業内容	① 指示形容詞（第5課） ② 位置を示す表現（第5課） ③ 第5課の文化面
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。（30分）
13	事前学習	第5課の本文の意味を調べてくる。（30分）
	授業内容	① 疑問詞quiとque（1）（第5課） ② 中性代名詞 y ③ 第5課の本文
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習し、小テストの準備をする。（30分）
14	事前学習	先週学んだ疑問詞quiとqueの復習をする。（30分）
	授業内容	① 疑問詞quiとque（2）（第5課） ②前期文法項目の再確認 (30分)
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習する。（30分）
15	事前学習	前期末試験の準備をする。（180分）
	授業内容	前期末試験（第9回～第14回までの内容）とまとめ
	事後学習	ポータルで公表された前期末試験の前期末試験解答を確認して、前期の振り返りをする。（30分）

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	岡本 健	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語の基礎文法を基本単語をもって学ぶ。			
授業目的・到達目標	授業目的：多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質、感性及び価値観を理解・尊重し社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践し、自らの考えを伝達する能力を養成することを目的とする。 到達目標：フランス語の学習を通じ、自国の言語文化を相対化する視点を養い、自国の文化を世界に発信できるようになることを目標とする。			
履修条件	関連DE及びCP：外国語科目領域 6			
授業方法	演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。 受業内試験については、添削して返却することに対応する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	授業内試験、５０％：基礎知識の定着度を判定する。 宿題レポート、５０％：授業の理解度を判定する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年	白水社	ル・フランセ・クレール	清岡智比古
	備考			
参 考 書	必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	授業終了後の講堂にて（授業時間：火曜４・５限）、あるいは、メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	アルファベットの音声をCDで聞く（30分）。
	授業内容	ガイダンス。
	事後学習	アルファベットの音を覚える（30分）。
2	事前学習	1課の予習（30分）。
	授業内容	名詞と冠詞。
	事後学習	1課の単語を覚える（30分）。
3	事前学習	2課前半の予習（30分）。
	授業内容	主語代名詞と動詞「～である」の活用。
	事後学習	2課前半の単語を覚える（30分）。
4	事前学習	2課後半の予習（30分）。
	授業内容	動詞「～をもつ」の活用。
	事後学習	2課後半の単語を覚える（30分）。

5	事前学習	3 課の予習（30分）。
	授業内容	否定文の作り方と形容詞。
	事後学習	3 課の単語を覚える（30分）。
6	事前学習	4 課前半の予習（30分）。
	授業内容	規則動詞の活用。
	事後学習	4 課前半の単語を覚える（30分）。
7	事前学習	4 課後半の予習（30分）。
	授業内容	疑問文の作り方。
	事後学習	4 課後半の単語を覚える（30分）。
8	事前学習	5 課の予習（30分）。
	授業内容	指示形容詞と所有形容詞。
	事後学習	5 課の単語を覚える（30分）。
9	事前学習	6 課の予習（30分）。
	授業内容	近い未来と近い過去の言い方。
	事後学習	6 課の単語を覚える（30分）。
10	事前学習	7 課前半の予習（30分）。
	授業内容	疑問代名詞。
	事後学習	7 課前半の単語を覚える（30分）。
11	事前学習	7 課後半の予習（30分）。
	授業内容	疑問副詞。
	事後学習	7 課後半の単語を覚える（30分）。
12	事前学習	8 課の予習（30分）。
	授業内容	比較級と最上級。
	事後学習	8 課の単語を覚える（30分）。
13	事前学習	9 課の予習（30分）。
	授業内容	命令文と非人称構文。
	事後学習	9 課の単語を覚える（30分）。
14	事前学習	1 0 課の予習（30分）。
	授業内容	直接目的と間接目的。
	事後学習	1 0 課の単語を覚える（30分）。
15	事前学習	事前に配布されたプリントの予習（30分）。
	授業内容	前期のまとめ。
	事後学習	プリントの単語を覚える（30分）。

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	中川 高行	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語のシステムを主として構造の面から理解するための授業。ここで理解するという意味は、フランス語のメッセージを正確にキャッチするということだけではなく、相手に自分の考えを正確に伝えるための方法・道具を手にするということです。					
授業目的・到達目標	秋の仏検５級受験を念頭に置き、余裕を持って合格できるだけの知識を養成することを目的とし、仏検５級に合格できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	特にありません。					
授業方法	あまり先は急がず、練習問題を数多くこなして、フランス語は難しくないということを実感してもらいます。フィードバックは授業内において行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		試験、受講態度、授業への関わり方などを総合的に勘案して評価します。仏検受験も評価の対象となります。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	年度	朝日出版社		新・コンタクトABC		中川高行他
	備考					
参考書	必要な場合は授業中にお伝えします。					
オフィスアワー	授業の前後で対応します。 授業時間：土曜 1 限・ 2 限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	インターネットなどで、世界の言語の中でフランス語はどんな位置にあるかを調べておいていただけると有り難い。(30分)
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	街角で出逢うフランス語の単語・表現を収集する。(30分)
2	事前学習	教科書付属のCDの発音のページを聴いておく。(30分)
	授業内容	アルフェベ、発音のきまり
	事後学習	CDを聴き、スペルと発音の関係をチェックする。(30分)
3	事前学習	CDの第1課前半の部分を聴いておく。(30分)
	授業内容	名詞、冠詞、提示表現
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。(30分)
4	事前学習	CDの第1課後半の部分を聴いておく。(30分)
	授業内容	主語人称代名詞、動詞ETREとAVOIR
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。(30分)

5	事前学習	CDの第2課前半の部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	規則動詞PARLERとFINIR、形容詞
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
6	事前学習	CDの第2課後半の部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	指示形容詞、所有形容詞、強勢形人称代名詞
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
7	事前学習	CDの第3課前半の部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	否定文、否定のde、疑問文
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
8	事前学習	CDの第3課後半の部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	不規則動詞ALLERとVENIR、近接未来・過去、強調構文
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
9	事前学習	CDの第4課前半の部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	疑問形容詞、疑問副詞、疑問代名詞（1）
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
10	事前学習	CDの第4課後半の部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	命令法、非人称構文、疑問代名詞（2）
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
11	事前学習	CDの第5課前半の部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	比較級、最上級
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
12	事前学習	CDの第5課後半の部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	目的語人称代名詞（1）
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
13	事前学習	CDの第6課前半の部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	目的語人称代名詞（2）
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
14	事前学習	CDの第6課後半の部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	複合過去（1）
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
15	事前学習	CDの第7課前半の部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	複合過去（2）
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	畠山 達	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業はフランス語を学ぶ上での根幹をなす初級文法を一年間で学びます。フランス語を勉強する楽しみは、新しい世界が開かれることにもあります。文化的な側面なども重視して授業中に話をします。					
授業目的・到達目標	【授業目的】 フランス語の発音、基礎的なフランス語文法を養成することが授業の目的となります。 【到達目標】 フランス語の発音、基礎的なフランス語文法を理解できることが到達目標となります。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	フランス語を学びたい意欲のある人。毎回復習、テストの予習ができる人。					
授業方法	文法の説明、発音、練習問題を繰り返します。小テストは毎回実施し、確実に実力がつくことを目指します。特に復習は必須です。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		小テスト50% 前期期末テスト50% 仏検の成績は評価に加えます。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019年度	駿河台出版社		新・フランス語文法の“基礎”		太田 浩一、前田保、渡辺 仁
	備考					
参 考 書	授業で指示します。					
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける 授業時間：木曜 1 ・ 2 限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	日本で使われるフランス語とは何か、考えておく（30分）
	授業内容	ガイダンス：発音：授業の方針、辞書、参考書、成績評価の方法など説明するので参加すること
	事後学習	発音練習の復習（30分）
2	事前学習	発音練習（30分）
	授業内容	発音、アルファベ、基礎知識
	事後学習	発音、アルファベ、基礎知識の復習（30分）
3	事前学習	Leçon 1 ・ être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数の予習（30分）
	授業内容	Leçon 1 ・ être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数
	事後学習	Leçon 1 ・ être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数の復習、練習問題（30分）
4	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 1 ・ être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数の訳（30分）
	授業内容	Leçon 1 ・ être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数
	事後学習	Leçon 1 ・ être の直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数の復習、練習問題（30分）

5	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 2 ・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形の訳（30分）
	授業内容	Leçon 2 ・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形
	事後学習	Leçon 2 ・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形の復習、練習問題（30分）
6	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 2 ・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形の訳（30分）
	授業内容	Leçon 2 ・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形
	事後学習	Leçon 2 ・不定冠詞、定冠詞、avoirの直説法現在形の復習、練習問題（30分）
7	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 3 ・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞の訳（30分）
	授業内容	Leçon 3 ・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞
	事後学習	Leçon 3 ・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞の復習、練習問題（30分）
8	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 3 ・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞の訳（30分）
	授業内容	Leçon 3 ・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞
	事後学習	Leçon 3 ・第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞の復習、練習問題（30分）
9	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 4 ・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用の訳（30分）
	授業内容	Leçon 4 ・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用
	事後学習	Leçon 4 ・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用の復習、練習問題（30分）
10	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 4 ・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用の訳（30分）
	授業内容	Leçon 4 ・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用
	事後学習	Leçon 4 ・第二群規則動詞の活用、不規則動詞（faireとprendre）の活用の復習、練習問題（30分）
11	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 5 ・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去の訳（30分）
	授業内容	Leçon 5 ・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去
	事後学習	Leçon 5 ・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去の復習、練習問題（30分）
12	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 5 ・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去の訳（30分）
	授業内容	Leçon 5 ・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去
	事後学習	Leçon 5 ・allerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去の復習、練習問題（30分）
13	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 6 ・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文の訳（30分）
	授業内容	Leçon 6 ・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文
	事後学習	Leçon 6 ・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文の復習、練習問題（30分）
14	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 6 ・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文の訳（30分）
	授業内容	Leçon 6 ・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文
	事後学習	Leçon 6 ・pouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文の復習、練習問題（30分）
15	事前学習	期末テストのための事前学習（30分）
	授業内容	前期・期末テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	期末テストの復習、間違ったところの確認（30分）

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語検定試験の合格を目指して、また長期的には各々の専門分野の理解深化にも関わるフランス語・フランス文化の総合的理解を目指して、文法を中心にフランス語の基礎を学びます。					
授業目的・到達目標	【授業目標】フランス語検定試験などの資格試験や、専門分野の原書理解などに必要である、フランス語の基礎力 ― 特に文法に関わる基礎力 ― を養成することを目的としています。 【到達目標】フランス語検定試験5級、4級の取得を目標とします。					
履修条件	ありません。					
授業方法	演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で返却を行います。試験も次の授業時に返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）：100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016	白水社		『《新版》ル・フランセ・クレール』		清岡智比古
	備考					
参 考 書	授業時に指示します。					
オフィスアワー	水曜日12時20分から13時（事前にメールでアポイントメントを取ってください） 研究室（本館9階1910）yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでください。今週の授業の予習をしてください。（30分）
	授業内容	前期イントロダクション
	事後学習	次回最初に小テストを実施するので復習してください。（30分）
2	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	アルファベ、綴り字、発音
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
3	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第一課。名詞と冠詞。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
4	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第二課。主語になる代名詞など。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）

5	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第三課。否定形など。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
6	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第四課。er動詞の直説法現在形など。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
7	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第五課。指示形容詞など。
	事後学習	試験なので復習してください。（30分）
8	事前学習	試験対策の勉強をしてください。（30分）
	授業内容	前期中間テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験内容を復習してください。（30分）
9	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第六課。aller, venirの直説法現在など。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
10	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第七課。finirの直説法現在など。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
11	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第八課。voirの直説法現在など。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
12	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第九課。faireの直説法現在など。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
13	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第十課。目的語になる人称代名詞など。
	事後学習	試験なので復習してください。（30分）
14	事前学習	試験対策の勉強をしてください。（30分）
	授業内容	前期期末テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験内容を復習してください。（30分）
15	事前学習	前の回に指示した場所を予習してください。（30分）
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	今週の授業を復習してください。（30分）

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	江島 泰子	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業は次の①②③の項目を考慮して、進行します。 ①フランス語の初級文法を学び、簡単なフランス語の文章を読むことができるようになること。 ②フランス語実用技能検定試験（仏検）において5級を取得できる語彙力・聴解力をつけること。 ③フランスの文化や生活習慣について知ること。					
授業目的・到達目標	【授業目的】専門分野の原書理解、仏検等の資格試験の取得に必要な文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】初級文法を修得し、仏検4級程度の文章の読解ができるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域6					
履修条件	特になし					
授業方法	①文法説明を行う。②練習問題を解き、本文を読解する。③毎回、前回授業の内容にそった小テストを行う。④フランス文化について解説する。小テスト、中間テストは授業内返却。期末テストは、正解をポータルで配信。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		原則として ①前期の中間および期末試験（50％）、②授業参加度・小テストおよび課題提出（50％）③仏検の成績を考慮する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2005年	第三書房		英語でわかるフランス語		滑川明彦他
	備考					
参考書	なし					
オフィスアワー	日時：月曜日15：00～16：00 場所：第一回授業の際に説明します。 内容：フランス語学習に関する質問、留学相談、その他 メールによる問い合わせ・相談も受け付けます（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	フランスの人口、面積・緯度・経度、国旗、国歌、現在の大統領名とその政党、フランス語の特徴について調べてくる。（30分）
	授業内容	① 授業の説明 ② フランス語の挨拶(1) ③ 発音と綴り字の読み方(1)
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
2	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① フランス語の挨拶(2) ② 発音と綴り字の読み方(2) ② フランス語の名詞/不定冠詞と定冠詞（第1課）
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習をし、小テストの準備をする。（30分）
3	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① C'est, Ce sont/ Il y a ② 発音と綴り字の読み方(1) ③フランス人の名前
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
4	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① 会話をしましょう（第1課） ② 発音と綴り字の読み方(4) ③ 主語となる代名詞と動詞 être の活用（第2課）
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）

5	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① 発音と綴り字の読み方(5) ② 品質形容詞の性と数/否定文（第2課） ③ フランスの食事
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
6	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① avoir の活用/品質形容詞の位置（第3課） ② 数詞(1)（第3課） ③ フランスの地理(1)
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
7	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① 第一群規則動詞（第3課）/ 所有形容詞（1）（第4課） ② 数詞(2)（第3課） ③ フランスの地理(2)
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をする。（30分）
8	事前学習	前期中間試験の準備をする。（180分）
	授業内容	前期中間試験（第1回～第7回の内容） ①所有形容詞（第4課）
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
9	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	前期中間テストとの解説 ① 指示形容詞/前置詞de, à と定冠詞の縮約（第4課） ② フランスの祝祭日
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
10	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① 動詞 allerの活用/近接未来（第5課） ② 空間的位置関係の表現（第5課） ③ フランスの生活習慣
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
11	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① 動詞 venir/近接過去（第5課） ② いろいろな疑問文（第5課） ③ 世界のフランス語圏
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
12	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① 命令法/疑問文の作り方（第5課） ② 部分冠詞（第6課） ③ フランスの町々(1)
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
13	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① 動詞prendre（第6課） ② ne pas 以外の否定表現（第6課） ③ フランスの町々(2)
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
14	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	①比較級・最上級（第6課） ②前期で学んだ文法事項の確認
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
15	事前学習	前期末試験の準備（180分）
	授業内容	前期末試験（第8回～第14回までの内容）とまとめ
	事後学習	ポータルで公表された期末試験の正解を確認して、後期の復習をする。（30分）

科目名	フランス語基礎文法A	担当者	吉澤 保	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語検定試験の合格を目指して、また長期的には各々の専門分野の理解深化にも関わるフランス語・フランス文化の総合的理解を目指して、文法を中心にフランス語の基礎を学びます。					
授業目的・到達目標	【授業目標】フランス語検定試験などの資格試験や、専門分野の原書理解などに必要である、フランス語の基礎力 ― 特に文法に関わる基礎力 ― を養成することを目的としています。 【到達目標】フランス語検定試験5級、4級の取得を目標とします。					
履修条件	ありません。					
授業方法	演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で返却を行います。試験も次の授業時に返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）：100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016	白水社		『《新版》ル・フランセ・クレール』		清岡智比古
	備考					
参 考 書	授業時に指示します。					
オフィスアワー	水曜日12時20分から13時（事前にメールでアポイントメントを取ってください） 研究室（本館9階1910）yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでください。今週の授業の予習をしてください。（30分）
	授業内容	前期イントロダクション
	事後学習	次回最初に小テストを実施するので復習してください。（30分）
2	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	アルファベ、綴り字、発音
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
3	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第一課。名詞と冠詞。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
4	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第二課。主語になる代名詞など。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）

5	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第三課。否定形など。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
6	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第四課。er動詞の直説法現在形など。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
7	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第五課。指示形容詞など。
	事後学習	試験なので復習してください。（30分）
8	事前学習	試験対策の勉強をしてください。（30分）
	授業内容	前期中間テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験内容を復習してください。（30分）
9	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第六課。aller, venirの直説法現在など。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
10	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第七課。finirの直説法現在など。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
11	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第八課。voirの直説法現在など。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
12	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第九課。faireの直説法現在など。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
13	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第十課。目的語になる人称代名詞など。
	事後学習	試験なので復習してください。（30分）
14	事前学習	試験対策の勉強をしてください。（30分）
	授業内容	前期期末テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験内容を復習してください。（30分）
15	事前学習	前の回に指示する場所の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	今週の授業を復習してください。（30分）

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語の文法事項の基礎を学びます。その際、いずれ使えるフランス語につながるような基礎の作り方をするため、日本語の解説の前にフランス語の音になじんでもらうことを優先し、例文を音で学びながら、文法事項を学んでいきます。				
授業目的・到達目標	授業目的:文法事項の説明に関連するフランス語のフレーズを反復して聞いて、発話して、フランス語の文法事項を音も含めて総合的に養成することを目的とします。 到達目標:知識としてのフランス語ではなくて音として使える実践的なフランス語を身につけ、活用できることを目標とします。				
履修条件	関連DP及諸CPで外国語技能領域味をもっていること。				
授業方法	文法説明と同時に、フランス語のフレーズを反復して聞いて、発話します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	中間小テスト50%、期末テスト50%の60点以上で合格です。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2014	朝日出版		フランス語ブルー 1 トリコロール 文法編	高橋信良 他
	2014	朝日出版		フランス語ブルー 2 トリコロール 文法編	高橋信良 他
	備考				
参考書	久松健一著「ケータイ 万能フランス語文法」駿河台出版社				
オフィスアワー	火曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期教科書のフランス語ブルー1の復習をして、指定教材フランス語ブルー2とポケット版ではない学習辞書を用意してください。(30分)
	授業内容	ガイダンス。授業目的、内容、評価方法、このクラスで守るべき規則などについて説明します。
	事後学習	指定教材フランス語ブルー2に目を通しておいってください。(30分)
2	事前学習	1課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon1: 動詞connaître, savoir、関係代名詞qui, que dont, où、中性代名詞 en, y, levを理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
3	事前学習	2課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon2: 動詞mettreとprendre、補語人称代名詞の語順、命令法を理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
4	事前学習	3課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon3: 動詞devoirとrendre、非人称代名詞を理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)

5	事前学習	4課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon4: 動詞direとécrire、現在分詞、ジェロンディフを理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
6	事前学習	5課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon5: 動詞croireとvoir、知覚動詞、使役動詞を理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
7	事前学習	6課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon 6: 直接法大過去、補語人称代名詞の語順を理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
8	事前学習	1, 2, 3, 4, 5, 6課の復習。(30分)
	授業内容	中間小テスト、採点、解説とまとめ。
	事後学習	答案で間違えた事項の復習。(30分)
9	事前学習	7課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon 7: 直接法単純未来、直接法全未来を理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
10	事前学習	8課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon 8: 関係代名詞lequel、接続詞を理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
11	事前学習	9課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon 9: 条件法現在、条件法過去を理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
12	事前学習	10課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon10: 間接話法、感嘆文を理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
13	事前学習	11課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon 11: 接続法現在、接続法過去を理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
14	事前学習	12課の知らない単語を辞書で調べておくこと。(30分)
	授業内容	Leçon12: 接続法の用法を理解し練習問題を解ける。
	事後学習	音声で学んだ事項・例文を教科書で確認。(30分)
15	事前学習	後半7, 8, 9, 10, 11, 12課の復習。(30分)
	授業内容	期末テスト、採点、解説、まとめ。
	事後学習	採点で間違えた事項の復習。(30分)

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業は、次の①②③を考慮して進行します。 ①フランス語の初級文法を学び、簡単なフランス語の文章を読むことができるようになること。 ②フランス語実用技能検定試験（仏検）において5級を取得できる語彙力・聴解力をつけること。 ③フランスの文化や生活習慣について知ること。					
授業目的・到達目標	【授業目的】専門分野の原書理解、仏検等の資格試験の取得に必要な文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】初級文法を修得し、仏検4級程度の文章の読解ができるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域6					
履修条件	特になし。					
授業方法	①文法説明を行う。②練習問題・本文読解の答え合わせをする。③毎回、小テストを行う。④宿題として課した文化面の解説を行う。小テスト、中間テストは授業内返却。期末テストは、ポータルで解答を配信する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		①中間および期末試験（50%） ②授業参加度・小テスト・課題（宿題を含む）（仏検成績が加算される）（50%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2014	第三書房		『アレグレス』		江島泰子
	備考					
参考書	仏和辞書（宿題や本文の意味を調べるのに必要です）					
オフィスアワー	日時：月曜日15：00～16：00 場所：図書館7階ラーニングコモンズ（イースト） 内容：フランス語学習に関する質問、留学相談、その他 メールによる問い合わせ・相談も受け付けます（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	15回目に課した課題に解答する。後期から受講する場合は、今週に渡した課題に解答して2週間後に持参すること。（30分）
	授業内容	① 動詞 aller/近接未来（第6課） ② Bilan1-1(4, 5, 6)/Bilan1-2(5, 6)の答え合わせ（pp. 34-37）
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。（30分）
2	事前学習	動詞venirの活用表を見て、活用の特徴と読み方を確認する。フランス語の疑問副詞の綴り字の読み方を確認する。第6課の文化面の質問について調べてくる。（30分）
	授業内容	① 動詞 venir/近接過去（第6課） ② 疑問副詞（第6課） ③ 第6課の文化面
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。（30分）
3	事前学習	前置詞 a, deの意味を辞書で調べておく。定冠詞の復習をしておく。第6課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する。（30分）
	授業内容	① 前置詞 a, deと定冠詞の縮約 ② 第6課の本文
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。（30分）
4	事前学習	フランス語の部分冠詞とは何か、確認しておく。動詞pouvoirの活用の読み方を確認する。第7課の文化面の質問について調べておく。（30分）
	授業内容	① 部分冠詞/動詞 pouvoir（第7課） ② 数詞(1)（第7課） ③ 第7課の文化面
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。（30分）

5	事前学習	動詞vouloirの活用の読み方を確認する。前回到学んだ数詞の復習をする。第7課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する。(30分)
	授業内容	① 比較級・最上級/動詞 vouloir (第7課) ② 数詞(2) (第7課) ③ 第7課の本文
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。(30分)
6	事前学習	目的補語人称代名詞とは何か、英語の知識を利用して調べておく。動詞faireの復習をしておく。第8課の文化面の質問について調べておく。(30分)
	授業内容	① 目的補語人称代名詞(水)(1) (第8課) ② 天気に関する表現 (第8課) ③ 第8課の文化面
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。(30分)
7	事前学習	前回学んだ目的補語人称代名詞の復習をする。第8課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する。(30分)
	授業内容	① 目的補語主語人称代名詞(2) (第8課) ② 複合過去(1) (第8課) ③ 第8課の本文
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習する。(30分)
8	事前学習	後期中間試験の準備をする。(180分)
	授業内容	後期中間試験(第16回～22回までの内容) ①複合過去(2) (第8課) ②否定文の表現
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習する。
9	事前学習	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。(30分)
	授業内容	後記中間テストの解説 ① 代名動詞(直説法現在) (第9課) ② 関係代名詞quiとque (第10課)
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。(30分)
10	事前学習	前回学んだ代名動詞の代名詞部分と複合過去(直説法)のêtreを助動詞にとるかたちを復習しておく。第10課の文化面の質問を調べておく。(30分)
	授業内容	① 代名動詞(2)/命令法 (第9課) ② 第10課の文化面
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。(30分)
11	事前学習	avoir, faire, aller, venir, finir, vouloir, pouvoirの直説法現在形(主語がnous)の場合の活用を確認しておく。第10課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認する。(30分)
	授業内容	① ジェロンディフ (第9課) ② 半過去(直説法) (第10課) ③ 第10課の本文
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。(30分)
12	事前学習	単純未来(直説法)が表す意味について確認しておく。avoirの直説法現在形の活用を確認しておく。第11課の文化面の質問について調べる。(30分)
	授業内容	① 単純未来(直説法) (第11課) ② 第11課の文化面
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習して小テストの準備をする。(30分)
13	事前学習	半過去形(直説法)と単純未来形(直説法)の語幹と語尾を確認して覚えておく。第11課の本文の意味を調べ、綴り字の読み方を確認しておく。(30分)
	授業内容	① 条件法現在 (第11課) ②非人称表現 Il y a(第12課) ③第11課の本文
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習して、小テストの準備をする。(30分)
14	事前学習	第一群規則動詞の直説法現在の活用を確認する。第12課の文化面の質問について調べておく。(30分)
	授業内容	① 接続法現在 (第12課) ② 第12課の文化面
	事後学習	授業で学んだ文法事項等を復習する。(30分)
15	事前学習	後期末試験の準備をする。(180分)
	授業内容	後期期末試験(第24回～29回までの内容)とまとめ。
	事後学習	ポータルで公表された後期末試験の前期末試験解答を確認して、後期の振り返りをする。(30分)

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	岡本 健	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語の基礎文法を基本単語をもって学ぶ。			
授業目的・到達目標	授業目的：多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質・感性及び価値観を理解・尊重し、社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践し、自らの考えを伝達する能力を養成することを目的とする。 到達目標：フランス語の学習を通じ、自国の言語文化を相対化する視点を養い、自国の文化を世界に発信できるようになることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域 6 とくにない。			
授業方法	演習方式。数回のレポートを課し、次の授業で返却・解説を行う。授業内試験に対しては、添削して返却することで対応する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	授業内試験、５０％：基礎知識の定着度を判定する。 宿題レポート、５０％：授業の理解度を判定する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	２０１６年	白水社	ル・フランセ・クレール	清岡智比古
	備考			
参 考 書	必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	授業終了後の講堂にて（授業時間：火曜４・５限）、あるいは、メールによる質問・相談を受け付ける。kanzo-foshi@aurora.ocn.ne.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	1 1 課前半の予習（30分）。
	授業内容	複合過去の作り方。
	事後学習	1 1 課前半の単語を覚える（30分）。
2	事前学習	1 1 課後半の予習（30分）。
	授業内容	複合過去の練習。
	事後学習	1 1 課後半の単語を覚える（30分）。
3	事前学習	1 2 課の予習（30分）。
	授業内容	関係代名詞。
	事後学習	1 2 課の単語を覚える（30分）。
4	事前学習	1 3 課前半の予習（30分）。
	授業内容	代名動詞の作り方。
	事後学習	1 3 課前半の単語を覚える（30分）。

5	事前学習	1 3 課後半の予習（30分）。
	授業内容	代名動詞の練習。
	事後学習	1 3 課後半の単語を覚える（30分）。
6	事前学習	1 4 課の予習（30分）。
	授業内容	単純未来。
	事後学習	1 4 課の単語を覚える（30分）。
7	事前学習	1 5 課の予習（30分）。
	授業内容	中性代名詞。
	事後学習	1 5 課の単語を覚える（30分）。
8	事前学習	1 6 課前半の予習（30分）。
	授業内容	半過去の作り方。
	事後学習	1 6 課前半の単語を覚える（30分）。
9	事前学習	1 6 課後半の予習（30分）。
	授業内容	半過去の練習。
	事後学習	1 6 課後半の単語を覚える（30分）。
10	事前学習	1 7 課の予習（30分）。
	授業内容	現在分詞とジェロンディフ。
	事後学習	1 7 課の単語を覚える（30分）。
11	事前学習	事前に配布されたプリントの予習（30分）。
	授業内容	直説法時制のまとめ。
	事後学習	プリントの単語を覚える（30分）。
12	事前学習	1 8 課の予習（30分）。
	授業内容	条件法の作り方。
	事後学習	1 8 課の単語を覚える（30分）。
13	事前学習	1 9 課の予習（30分）。
	授業内容	接続法の作り方。
	事後学習	1 9 課の単語を覚える（30分）。
14	事前学習	事前に配布されたプリントの予習（30分）。
	授業内容	条件法と接続法の練習。
	事後学習	プリントの単語を覚える（30分）。
15	事前学習	事前に配布されたプリントの予習（30分）。
	授業内容	後期のまとめ。
	事後学習	プリントの単語を覚える（30分）。

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	中川 高行	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語のシステムを主として構造の面から理解するための授業。ここで理解するという意味は、フランス語のメッセージを正確にキャッチするというだけではなく、相手に自分の考えを正確に伝えるための方法・道具を手にするということです。			
授業目的・到達目標	年度末までに仏検４～３級レベルの知識を養成することを目的とし、仏検に合格できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	特にありません。			
授業方法	あまり先は急がず、練習問題を数多くこなして、フランス語は難しくないということを実感してもらいます。 フィードバックは授業内において行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	試験、受講態度、授業への関わり方などを総合的に勘案して評価します。仏検受験も評価の対象となります。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	年度	朝日出版社	新・コンタクトABC	中川高行他
	備考			
参考書	必要な場合は授業中にお伝えします。			
オフィスアワー	授業の前後で対応します。 授業時間：土曜 1 限・ 2 限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	付録CDの第8回前半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	代名動詞（1）
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
2	事前学習	付録CDの第8課後半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	代名動詞（2）
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
3	事前学習	付録CDの第8回前半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	中性代名詞（1）
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
4	事前学習	付録CDの第9課後半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	中性代名詞（2）
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）

5	事前学習	付録CDの第9回前半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	関係代名詞（１）
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
6	事前学習	付録CDの第10課後半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	関係代名詞（２）
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
7	事前学習	付録CDの第10回前半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	指示代名詞、所有代名詞
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
8	事前学習	付録CDの第11課後半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	半過去（１）
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
9	事前学習	付録CDの第12回前半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	半過去（２）、大過去
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
10	事前学習	付録CDの第12課後半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	単純未来、前未来
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
11	事前学習	付録CDの第13回前半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	現在分詞、ジェロンディフ
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
12	事前学習	付録CDの第13課後半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	条件法（１）
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
13	事前学習	付録CDの第14回前半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	条件法（２）、話法
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
14	事前学習	付録CDの第14課後半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	接続法（１）
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）
15	事前学習	付録CDの第15回前半部分を聴いておく。（30分）
	授業内容	接続法（２）
	事後学習	講義内容を黙読し、さらに紙に書いてみる。（30分）

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	畠山 達	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業はフランス語を学ぶ上での根幹をなす初級文法を一年間で学びます。フランス語を勉強する楽しみは、新しい世界が開かれることにもあります。文化的な側面なども重視して授業中に話をします。					
授業目的・到達目標	【授業目的】 フランス語の発音、基礎的なフランス語文法を養成することが授業の目的となります。 【到達目標】 フランス語の発音、基礎的なフランス語文法を理解できることが到達目標となります。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	フランス語を学びたい意欲のある人。毎回復習、テストの予習ができる人。					
授業方法	文法の説明、発音、練習問題を繰り返します。小テストは毎回実施し、確実に実力がつくことを目指します。特に復習は必須です。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		小テスト50% 後期期末テスト50% 仏検の成績は評価に加えます。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019年度	駿河台出版社		新・フランス語文法の“基礎”		太田 浩一、前田保、渡辺 仁
	備考					
参 考 書	授業で指示します。					
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける 授業時間：木曜 1・2 限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 7 ・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）の訳（30分）
	授業内容	Leçon 7 ・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）
	事後学習	Leçon 7 ・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）の復習、練習問題（30分）
2	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 7 ・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）の訳（30分）
	授業内容	Leçon 7 ・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）
	事後学習	Leçon 7 ・人称代名詞（直接目的、間接目的、強勢形）の復習、練習問題（30分）
3	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 8 ・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用の訳（30分）
	授業内容	Leçon 8 ・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用
	事後学習	Leçon 8 ・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用の復習、練習問題（30分）
4	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 8 ・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用の訳（30分）
	授業内容	Leçon 8 ・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用
	事後学習	Leçon 8 ・非人称構文il faut...、命令法、不規則動詞devoirの活用の復習、練習問題（30分）

5	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 9 ・代名詞動詞、関係代名詞の訳 (30分)
	授業内容	Leçon 9 ・代名詞動詞、関係代名詞
	事後学習	Leçon 9 ・代名詞動詞、関係代名詞の復習、練習問題 (30分)
6	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 9 ・代名詞動詞、関係代名詞の訳 (30分)
	授業内容	Leçon 9 ・代名詞動詞、関係代名詞
	事後学習	Leçon 9 ・代名詞動詞、関係代名詞の復習、練習問題 (30分)
7	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 10 ・複合過去の訳 (30分)
	授業内容	Leçon 10 ・複合過去
	事後学習	Leçon 10 ・複合過去の復習、練習問題 (30分)
8	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 10 ・複合過去の訳 (30分)
	授業内容	Leçon 10 ・複合過去
	事後学習	Leçon 10 ・複合過去の復習、練習問題 (30分)
9	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 11 ・半過去、受動態、指示代名詞の訳 (30分)
	授業内容	Leçon 11 ・半過去、受動態、指示代名詞
	事後学習	Leçon 11 ・半過去、受動態、指示代名詞の復習、練習問題 (30分)
10	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 11 ・半過去、受動態、指示代名詞の訳 (30分)
	授業内容	Leçon 11 ・半過去、受動態、指示代名詞
	事後学習	Leçon 11 ・半過去、受動態、指示代名詞の復習、練習問題 (30分)
11	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 12 ・中性代名詞、比較級、最上級の訳 (30分)
	授業内容	Leçon 12 ・中性代名詞、比較級、最上級
	事後学習	Leçon 12 ・中性代名詞、比較級、最上級の復習、練習問題 (30分)
12	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 12 ・中性代名詞、比較級、最上級の訳 (30分)
	授業内容	Leçon 12 ・中性代名詞、比較級、最上級
	事後学習	Leçon 12 ・中性代名詞、比較級、最上級の復習、練習問題 (30分)
13	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 13 ・単純未来、現在分詞、ジェロンディフの訳 (30分)
	授業内容	Leçon 13 ・単純未来、現在分詞、ジェロンディフ
	事後学習	Leçon 13 ・単純未来、現在分詞、ジェロンディフの復習、練習問題 (30分)
14	事前学習	練習問題に関する小テストのための事前学習 Leçon 13 ・単純未来、現在分詞、ジェロンディフの訳 (30分)
	授業内容	Leçon 13 ・単純未来、現在分詞、ジェロンディフ
	事後学習	Leçon 13 ・単純未来、現在分詞、ジェロンディフの復習、練習問題 (30分)
15	事前学習	期末テストのための事前学習 (30分)
	授業内容	後期・期末テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	後期・期末テストの復習、間違えたところの確認 (30分)

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語検定試験などの資格試験合格を目指すために、また長期的には専門分野の理解深化に関わるフランス語・フランス文化の総合的理解を目指して、表現を中心にフランス語の基礎を学習します。					
授業目的・到達目標	【授業目的】フランス語検定試験などの資格試験や、専門分野の原書理解などに必要である、フランス語の基礎力 ― 主に表現に関わる基礎力 ― を養成することを目的としています。 【到達目標】基礎力を身につけ、フランス語検定試験 5 級あるいは 4 級を取得できることを目標とします。					
履修条件	ありません。					
授業方法	演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で返却を行います。試験は次回の授業時に返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験など）：１００％	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017年	駿河台出版社		『フランス語の庭』		那波陽子
	備考					
参 考 書	授業時に指示します。					
オフィスアワー	水曜日12時20分から13時（事前にメールでアポイントメントを取ってください） 研究室（本館9階1910）yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読むこと。（30分）
	授業内容	後期イントロダクション
	事後学習	授業で指示されたことを復習すること。（30分）
2	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（30分）
	授業内容	食べるもの・飲み物を言う サラダを食べる、ワインは飲まない、何を食べる（2）
	事後学習	前回行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（30分）
3	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（30分）
	授業内容	行きたい場所を聞く ～はどちらですか、そこへ行く（場所を言い換える代名詞） 天気を言う（1）
	事後学習	前回行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（30分）
4	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（30分）
	授業内容	行きたい場所を聞く ～はどちらですか、そこへ行く（場所を言い換える代名詞） 天気を言う（2）
	事後学習	前回行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（30分）

5	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	日程について話す 曜日・日付を言う ～が終わる・～を終える、いつ・いくつの～、感想や印象を言う（１）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
6	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	日程について話す 曜日・日付を言う ～が終わる・～を終える、いつ・いくつの～、感想や印象を言う（２）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
7	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	これからする事・したばかりの事を言う ～をする、～できる、なぜ～、なぜならば～（１）
	事後学習	試験対策の勉強を行うこと。（３０分）
8	事前学習	試験対策の勉強を行うこと。（３０分）
	授業内容	後期中間試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験内容の復習を行うこと。（３０分）
9	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	これからする事・したばかりの事を言う ～をする、～できる、なぜ～、なぜならば～（２）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
10	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	日常の生活を言う 六時に起きます、朝早く出る、新聞をいつも読む（１）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
11	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	日常の生活を言う 六時に起きます、朝早く出る、新聞をいつも読む（２）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
12	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	身体の状態を言う ～が痛い、熱い、寒い、ほしいもの・したいことを言う ～しなければならない（１）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
13	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	身体の状態を言う ～が痛い、熱い、寒い、ほしいもの・したいことを言う ～しなければならない（２）
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
14	事前学習	今週行われる授業の予習を行うこと。（３０分）
	授業内容	身につける物を言う ～色の洋服を着る、比較する ～より～です・最も～です、人・物を言い換える
	事後学習	前回は行われた授業の小テストを行うので復習しておくこと。（３０分）
15	事前学習	試験対策の勉強を行うこと。（３０分）
	授業内容	後期期末試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験内容の復習を行うこと。（３０分）

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	江島 泰子	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業は次の①②③の項目を考慮して、進行します。 ①フランス語の初級文法を学び、簡単なフランス語の文章を読むことができるようになること。 ②フランス語実用技能検定試験（仏検）において5級を取得できる語彙力・聴解力をつけること。 ③フランスの文化や生活習慣について知ること。					
授業目的・到達目標	【授業目的】 専門分野の原書理解、仏検等の資格試験の取得に必要な文法の基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】 初級文法を修得し、仏検4級程度の文章の読解ができるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域6					
履修条件	特になし					
授業方法	①文法説明を行う。②練習問題を解き、本文を読解する。③毎回、前回授業の内容にそった小テストを行う。④フランス文化について解説する。小テスト、中間テストは授業内返却、期末テストは、正解をポータルで配信。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		原則として ①前期の中間および期末試験（50％）、②授業参加度・小テストおよび課題提出（50％）③仏検の成績を考慮する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2005年	第三書房		英語でわかるフランス語		滑川明彦他
	備考					
参考書	なし					
オフィスアワー	日時：月曜日15：00～16：00 場所：第一回授業の際に説明します。 内容：フランス語学習に関する質問、留学相談、その他 メールによる問い合わせ・相談も受け付けます（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① 人称代名詞(1)（第7課） ② pouvoirの活用（第7課） ③ フランスのサマータイム
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
2	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① 人称代名詞(2)（第7課） ② vouloir の活用（p.153） ③ フランスにおける結婚
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
3	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① 天候表現（第7課） ② 会話をしましょう（第7課） ③ フランスの政治
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
4	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① 中性代名詞(1)（第7課） ② 数詞(1)（第8課） ③ フランスのシャンソン(1)
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）

5	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① 中性代名詞(2)（第7課） ② 数詞(2)（第8課） ③ フランスのシャンソン(2)
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
6	事前学習	仏検事務局が公開している仏検5級の問題を解いてみる（60分）
	授業内容	仏検の解説（5級）
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
7	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① 複合過去（1）（第8課） ② 非人称の表現(1)（第9課） ③ フランスの偉人達
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をする（30分）
8	事前学習	後期中間試験の準備をする。（180分）
	授業内容	後期中間試験（第16回から第22回の内容） ①複合過去（2）（第8課）
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
9	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① 代名動詞（第9課） ② 非人称の表現(2)（第9課） ③ 『レ・ミゼラブル』
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
10	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① 動詞 faire/ジェロンディフ（第9課） ② 会話をしましょう（第9課） ③ フランスの世界遺産(1)
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
11	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① 直説法半過去（第10課） ② 関係代名詞 qui と que（第10課） ③ フランスの世界遺産(2)
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
12	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① 直説法単純未来（第10課） ② 会話をしましょう（第10課） ③ フランス語の特色
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
13	事前学習	今週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	① 条件法現在（第11課） ② vouloirの活用（第11課） ③ フランス語の特色
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をして、小テストの準備をする。（30分）
14	事前学習	週に学ぶ教科書の文法事項を読んでおく。（30分）
	授業内容	①接続法現在（第12課） ②attendreの活用（第12課）
	事後学習	今回の授業で学んだ文法事項等の復習の復習をする。（30分）
15	事前学習	後期末試験の準備（180分）
	授業内容	後期期末試験（第23回から第29回の内容）とまとめ
	事後学習	ポータルで公表された期末試験の正解を確認して、後期の復習をする。（30分）

科目名	フランス語基礎文法B	担当者	吉澤 保	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語検定試験の合格を目指して、また長期的には各々の専門分野の理解深化にも関わるフランス語・フランス文化の総合的理解を目指して、文法を中心にフランス語の基礎を学びます。			
授業目的・到達目標	【授業目標】フランス語検定試験などの資格試験や、専門分野の原書理解などに必要である、フランス語の基礎力 ― 特に文法に関わる基礎力 ― を養成することを目的としています。 【到達目標】フランス語検定試験5級、4級の取得を目標とします。			
履修条件	ありません。			
授業方法	演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で返却を行います。試験も次の授業時に返却します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験			
	平 常 評 価	100%	平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）：100%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016	白水社	『《新版》ル・フランセ・クレール』	清岡智比古
	備考			
参 考 書	授業時に指示します。			
オフィスアワー	水曜日12時20分から13時（事前にメールでアポイントメントを取ってください） 研究室（本館9階1910）yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでください。今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	後期イントロダクション
	事後学習	次回最初に授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
2	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第十一課。過去分詞など。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
3	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第十二課。関係代名詞など。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
4	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第十三課。代名動詞など。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）

5	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第十四課。pouvoirの直説法現在など。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
6	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第十五課。中性代名詞など。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
7	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第十六課。直説法半過去など。
	事後学習	試験対策の復習をしてください。（30分）
8	事前学習	試験対策の勉強を行ってください。（30分）
	授業内容	後期中間テスト及びまとめ、振返り
	事後学習	試験内容を復習してください。（30分）
9	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第十七課。現在分詞など。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
10	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	復習。直説法時制のまとめ。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
11	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第十八課。条件法現在。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
12	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	第十九課。接続法現在。
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
13	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	補遺
	事後学習	試験対策の復習をしてください。（30分）
14	事前学習	試験対策の勉強をしてください。（30分）
	授業内容	後期期末テスト及びまとめ、振返り
	事後学習	試験内容を復習してください。（30分）
15	事前学習	前の回に指示する場所の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	授業の復習をしてください。（30分）

科目名	フランス語演習C	担当者	飯島 幸夫	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語文法の後半（複合過去～受動態）を説明し、問題練習を行います。			
授業目的・到達目標	[授業目的] 文法の基礎を習得し、フランス語の理解力を養成することが授業目的です。 [到達目標] 辞書を引いて、やさしいフランス語が読めるようになることが到達目標です。 関連DPおよびCP：外国語科目領域1, 3, 6			
履修条件	なし			
授業方法	1. 発音を練習し 2. 文法の基礎を説明し 3. 問題練習を行います。 4. 小テストを実施し、返却します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	1. 期末の授業内試験 2. 授業・学習への積極的な取り組み・意欲 3. 仏検を受験した場合には考慮します。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019 または 2018	白水社	ル・フランセ	斎藤昌三
	備考	本体1,750円＋税 （音声はダウンロード）		
参考書	参考書は特に必要ありません。（授業中は使いませんが）仏和辞典を用意してください。（三省堂『クラウン仏和辞典』、白水社『ディコム和辞典』など）			
オフィスアワー	金曜日 21:10～ 授業終了後、授業講堂にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業の進め方を理解する。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方を説明する。
	事後学習	教科書と辞書を用意し、シラバスを読み、授業の進め方を理解する。（30分）
2	事前学習	音声をダウンロードし、発音を練習する。（30分）
	授業内容	1. 仏検についての説明 2. 発音の復習
	事後学習	1. 授業で渡す資料を読み、仏検について理解する。 2. 音声を聞きながら、発音を練習する。（30分）
3	事前学習	1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。（30分）
	授業内容	L.8 比較級・最上級
	事後学習	1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。（30分）
4	事前学習	練習問題をできるだけ解いてみる。（30分）
	授業内容	L.8 比較級・最上級 練習問題
	事後学習	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。（30分）

5	事前学習	L.9 複合過去 について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。(30分)
	授業内容	L.9 複合過去
	事後学習	L.9 複合過去 について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。(30分)
6	事前学習	L.9 練習問題 について、練習問題をできるだけ解いてみる。(30分)
	授業内容	L.9 複合過去 練習問題
	事後学習	L.9 練習問題 について、 1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。(30分)
7	事前学習	L.10 関係代名詞・疑問代名詞 について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。(30分)
	授業内容	L.10 関係代名詞・疑問代名詞
	事後学習	L.10 関係代名詞・疑問代名詞 について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。(30分)
8	事前学習	L.10 練習問題 について、練習問題をできるだけ解いてみる。(30分)
	授業内容	L.10 関係代名詞・疑問代名詞 練習問題
	事後学習	L.10 練習問題 について、 1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。(30分)
9	事前学習	L.11 人称代名詞 について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。(30分)
	授業内容	L.11 人称代名詞
	事後学習	L.11 人称代名詞 について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。(30分)
10	事前学習	L.11 練習問題 について、練習問題をできるだけ解いてみる。(30分)
	授業内容	L.11 人称代名詞 練習問題
	事後学習	L.11 練習問題 について、 1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。(30分)
11	事前学習	L.12 受動態・指示代名詞・強調構文 について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。(30分)
	授業内容	L.12 受動態・指示代名詞・強調構文
	事後学習	L.12 受動態・指示代名詞・強調構文 について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。(30分)
12	事前学習	L.12 練習問題 について、練習問題をできるだけ解いてみる。(30分)
	授業内容	L.12 受動態・指示代名詞・強調構文 練習問題
	事後学習	L.12 練習問題 について、 1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。(30分)
13	事前学習	該当箇所について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。(30分)
	授業内容	まとめ(進度調整)
	事後学習	該当箇所について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。(30分)
14	事前学習	該当箇所について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。(30分)
	授業内容	質疑応答
	事後学習	該当箇所について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。(30分)

15	事前学習	L. 8～L. 12について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。(30分)
	授業内容	前期のまとめ(授業内テスト)
	事後学習	L. 8～L. 12について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。(30分)

科目名	フランス語演習C	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、フランスの文学作品、議会演説や新聞記事等を扱います。思想家であるとともに政治家でもあったヴィクトル・ユゴー、ジャン・ジョレスやロベール・バダンテールなどの社会問題の議論に関する文章を読んでいます。担当者は翻訳に関する実務経験があり、そのノウハウを文献の訳の指導に関して参照しています。					
授業目的・到達目標	【授業目的】思想家であり政治家であった人々のすぐれた文章の読解を通じて論理性・批判的思考力を涵養し、専門の原書を読むことのできる読解力を養成することが、この授業の目的です。 【授業目標】読解力について、辞書を用いて新聞や雑誌の記事が読めるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域1, 3, 6					
履修条件	フランス語II（旧カリ）・フランス語基礎文法AB（新カリ）をすでに修得していること。					
授業方法	1）読解に必要な文法知識を復習する。2）内容について解説する。3）訳してきた内容を発表する。4）読解した内容に関して検討を加える。中間テストのフィードバックは授業内で、期末テストは正解をポータルで配信。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		中間・期末テスト（60％）、授業参加度（発表を含む）（40％）、仏検成績を考慮します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	プリントを用います。新聞や雑誌が読める程度の仏和辞書が必要です。				
参考書	フランス語初級文法の参考書					
オフィスアワー	日時：月曜日15:00-16:00 場所：図書館7階 ラーニングコモンズ（イースト） メールでの問い合わせも受け付けます。（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、内容を確認する。ヴィクトル・ユゴー、ジャン・ジョレス、ロベール・バダンテールについて調べておく（30分）
	授業内容	①授業の説明 ②フランス語辞書の使い方 ③綴り字の読み方
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
2	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
3	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
4	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）

5	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
6	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
7	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
8	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。中間テストの準備をする（180分）
	授業内容	①中間テスト ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
9	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
10	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
11	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
12	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
13	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
14	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討
	事後学習	後半の授業の総復習をする。（60分）
15	事前学習	期末テストの準備をする。（180分）
	授業内容	前期末テストとまとめ
	事後学習	前期の文法事項や語彙の整理をする。（30分）

科目名	フランス語演習D	担当者	飯島 幸夫	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語文法の後半（代名動詞～接続法）を説明し、問題練習を行います。			
授業目的・到達目標	[授業目的] 文法の基礎を習得し、フランス語の理解力を養成することが授業目的です。 [到達目標] 辞書を引いて、やさしいフランス語が読めるようになることが到達目標です。 関連DPおよびCP：外国語科目領域1, 3, 6			
履修条件	なし			
授業方法	1. 発音を練習し 2. 文法の基礎を説明し 3. 練習問題を行います。 4. 小テストを実施し、返却します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	1. 期末の授業内試験 2. 授業・学習への積極的な取り組み・意欲 3. 仏検を受験した場合には考慮します。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019 または 2018	白水社	ル・フランセ	斎藤昌三
	備考	本体1,750円＋税 （音声はダウンロード）		
参考書	参考書は特に必要ありません。（授業中は使いませんが）仏和辞典を用意してください。（三省堂『クラウン仏和辞典』、白水社『デイク仏和辞典』など）			
オフィスアワー	金曜日 21:10～ 授業後、授業講堂にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 （30分） 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方の説明 L.13 代名動詞・非人称構文
	事後学習	1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 （30分）
2	事前学習	練習問題をできるだけ解いてみる。 （30分）
	授業内容	L.13 代名動詞・非人称構文 練習問題
	事後学習	1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 （30分）
3	事前学習	L.14 単純未来・中性代名詞 について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 （30分） 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。
	授業内容	L.14 単純未来・中性代名詞
	事後学習	L.14 単純未来・中性代名詞 について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 （30分）

4	事前学習	L. 14 練習問題 について、練習問題をできるだけ解いてみる。 (30分)
	授業内容	L. 14 単純未来・中性代名詞 練習問題
	事後学習	L. 14 練習問題 について、 1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 (30分)
5	事前学習	L. 15 半過去・大過去 について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 (30分) 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。
	授業内容	L. 15 半過去・大過去
	事後学習	L. 15 半過去・大過去 について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 (30分)
6	事前学習	L. 15 練習問題 について、練習問題をできるだけ解いてみる。 (30分)
	授業内容	L. 15 半過去・大過去 練習問題
	事後学習	L. 15 練習問題 について、 1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 (30分)
7	事前学習	L. 16 条件法・現在分詞 について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 (30分) 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。
	授業内容	L. 16 条件法・現在分詞
	事後学習	L. 16 条件法・現在分詞 について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 (30分)
8	事前学習	L. 16 練習問題 について、練習問題をできるだけ解いてみる。 (30分)
	授業内容	L. 16 条件法・現在分詞 練習問題
	事後学習	L. 16 練習問題 について、 1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 (30分)
9	事前学習	L. 17 単純過去・話法 について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 (30分) 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。
	授業内容	L. 17 単純過去・話法
	事後学習	L. 17 単純過去・話法 について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 (30分)
10	事前学習	L. 17 練習問題 について、練習問題をできるだけ解いてみる。 (30分)
	授業内容	L. 17 単純過去・話法 練習問題
	事後学習	L. 17 練習問題 について、 1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 (30分)
11	事前学習	L. 18 接続法 について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 (30分) 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。
	授業内容	L. 18 接続法
	事後学習	L. 18 接続法 について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 (30分)
12	事前学習	L. 18 練習問題 について、練習問題をできるだけ解いてみる。 (30分)
	授業内容	L. 18 接続法 練習問題
	事後学習	L. 18 練習問題 について、 1. 練習問題を理解する。 2. 教科書を声を出して読む。 (30分)
13	事前学習	該当箇所について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 (30分) 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。
	授業内容	まとめ (進度調整)
	事後学習	該当箇所について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 (30分)

14	事前学習	該当箇所について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 （30分） 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。
	授業内容	質疑応答
	事後学習	該当箇所について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 （30分）
15	事前学習	L. 13～L. 18について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して読む。 （30分） 2. 辞書を引いて教科書の内容を理解する。
	授業内容	後期のまとめ（授業内テスト）
	事後学習	L. 13～L. 18について、 1. 音声を聞きながら、教科書を声を出して何度も読む。 2. 辞書を引いて教科書の内容を確認する。 3. 文法・動詞の活用・基本的な言い回しを覚える。 （30分）

科目名	フランス語演習D	担当者	江島 泰子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、フランスの文学作品、議会演説や新聞記事等を扱います。思想家であるとともに政治家でもあったヴィクトル・ユゴー、ジャン・ジョレスやロベール・バダンテールなどの社会問題の議論に関する文章を読んでいます。担当者は翻訳に関する実務経験があり、そのノウハウを文献の訳の指導に関して参照しています。					
授業目的・到達目標	【授業目的】思想家であり政治家であった人々のすぐれた文章の読解を通じて論理性・批判的思考力を涵養し、専門の原書を読むことのできる読解力を養成することが、この授業の目的です。 【授業目標】読解力について、辞書を用いて新聞や雑誌の記事が読めるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域1, 3, 6					
履修条件	フランス語II（旧カリ）・フランス語基礎文法AB（新カリ）をすでに修得していること。					
授業方法	1）読解に必要な文法知識を復習する。2）内容について解説する。3）訳してきた内容を発表する。4）読解した内容に関して検討を加える。中間テストのフィードバックは授業内、期末テストは正解をポータルで配信。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		中間・期末テスト（60%）、授業参加度（発表を含む）（40%）、仏検成績を考慮します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	プリントを用います。新聞や雑誌が読める程度の仏和辞書が必要です。				
参考書	フランス語初級文法の参考書					
オフィスアワー	日時：月曜日15:00-16:00 場所：図書館7階 ラーニングコモンズ（イースト） メールでの問い合わせも受け付けます。（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
2	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
3	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
4	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）

5	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
6	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
7	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
8	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。中間テストの準備をする（60分）
	授業内容	①中間テスト ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
9	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①中間テストの解説 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
10	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
11	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
12	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
13	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する。（60分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	配布されたテキストの単語の意味を調べ、文法事項を確認する。（60分）
14	事前学習	配布されたテキストを訳し、音読する（240分）
	授業内容	①綴り字の読み方 ②テキストの音読と訳の発表および内容の検討 ③次のテキストの内容説明
	事後学習	後期後半の文法事項と語彙について整理する。（60分）
15	事前学習	期末テストの準備をする（240分）
	授業内容	後期期末テストと解説
	事後学習	後期の文法事項と語彙について整理をする。（60分）

科目名	フランス語演習E	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス文化を日本人向けに紹介する少し長めのフランス語の文章を読みます。ただ辞書を引いて文法を説明しながら読み進めるのではなく、音で繰り返し聞いて、その文を口で言えるようにしてから説明に入ること、フランス語の総合力を高めます。				
授業目的・到達目標	授業目的：日本との比較的視点から書かれた、フランスの日常についての中級程度の短いフランス語のエッセイをリスニング中心に学んでいくことで、語学力向上と同時に自国文化を客観視できる柔軟な視点を養成することを目的とします。 到達目標：フランス語をフランス語で理解するということと、語学的側面よりもテキスト内容を重視するという、フランス語教育の次の段階への橋渡しの位置づけで、やや長めの文章を抵抗なく読み進められることを目標とします。 関連DP及びCP:外国語科目領域 1, 4, 6				
履修条件	初級文法を修了していることが条件となります。				
授業方法	最初はひたすら音源を聞いてもらいます。文字を見ずに発音できるようになったところで、語彙・文法説明をすこずつ進めていきます。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	中間小テスト50%、期末テスト50%の60点以上で合格です。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	別途指示する。			
参考書	久松健一著「ケータイ万能フランス語文法」駿河台出版社				
オフィスアワー	火曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	指定教材とポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください（30分）
	授業内容	ガイダンス。授業目的、内容、評価方法、このクラスで守るべき規則などについて説明します。導入で簡単なフランス語に触れてみます。
	事後学習	指定教材に目を通しておいてください。（30分）
2	事前学習	1. Qui suis-je?前半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	1. Qui suis-je? être動詞の現在、半過去の復習し、活用できる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
3	事前学習	1. Qui suis-je?後半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	1. Qui suis-je? 2 フランス・アルザス地方の歴史・文化について理解して文を読むことができる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
4	事前学習	2. Mon appartement au Japon前半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	2. Mon appartement au Japon 第一群規則動詞の現在形・受け身を復習し、活用できる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）

5	事前学習	2. Mon appartement au Japon後半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	2. Mon appartement au Japon 2 ils trouvent que, j'ai l'impressions deなどの表現を理解し、応用できる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
6	事前学習	3. Qu'est-ce qui me plaît au Japon?前半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	3. Qu'est-ce qui me plaît au Japon? On, vousの特殊な用法について理解し、応用できる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
7	事前学習	3. Qu'est-ce qui me plaît au Japon?後半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	3. Qu'est-ce qui me plaît au Japon? 2 日仏の対人関係の違いについて理解して文を読むことができる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
8	事前学習	1, 2, 3課の復習。（30分）
	授業内容	中間小テスト、採点、解説とまとめ。
	事後学習	答案で間違えた事項の復習。（30分）
9	事前学習	4. Le métro de Tokyo前半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	4. Le métro de Tokyo Grâce à, même siなどの表現を理解し、応用できる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
10	事前学習	4. Le métro de Tokyo 2後半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	4. Le métro de Tokyo 2 日仏の交通網の違いについて理解して文を読むことができる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
11	事前学習	5. Les prénoms前半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	5. Les prénoms 動詞の未来形の活用と用法を復習し、応用できる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
12	事前学習	5. Les prénoms後半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	5. Les prénoms 2 フランスの人名についての文化的背景を理解して文を読むことができる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
13	事前学習	6. La Dernière Classe前半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	6. La Dernière Classe 半過去、未来形の混在する歴史的叙述を理解できる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
14	事前学習	6. La Dernière Classe後半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	6. La Dernière Classe 2 アルザスのドイツとの関係について理解し、歴史的文脈にあてはめて文を読むことができる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
15	事前学習	後半4, 5, 6課の復習。（30分）
	授業内容	期末テスト、採点、解説、まとめ。
	事後学習	答案で間違えた事項の復習。（30分）

科目名	フランス語演習F	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス文化を日本人向けに紹介する少し長めのフランス語の文章を読みます。ただ辞書を引いて文法を説明しながら読み進めるのではなく、音で繰り返し聞いて、その文を口で言えるようにしてから説明に入ること、フランス語の総合力を高めます。				
授業目的・到達目標	授業目的：日本との比較的視点から書かれた、フランスの日常についての中級程度の短いフランス語のエッセイをリスニング中心に学んでいくことで、語学力向上と同時に自国文化を客観視できる柔軟な視点を養成することを目的とします。 到達目標：フランス語をフランス語で理解するということ、語学的側面よりもテキスト内容を重視するという、フランス語教育の次の段階への橋渡しの位置づけで、やや長めの文章を抵抗なく読み進められることを目標とします。 関連DP及びCP:外国語科目領域 1, 4, 6				
履修条件	初級文法を修了していることが条件となります。				
授業方法	最初はひたすら音源を聞いてもらいます。文字を見ずに発音できるようになったところで、語彙・文法説明をすこしずつ進めていきます。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	中間小テスト50%、期末テスト50%の60点以上で合格です。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	別途指示する。			
参考書	久松健一著「ケータイ 万能フランス語文法」駿河台出版社				
オフィスアワー	火曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	指定教材とポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください（30分）
	授業内容	後期ガイダンス。授業目的、内容、評価方法、このクラスで守るべき規則などについて説明します。導入で簡単なフランス語に触れてみます。
	事後学習	指定教材に目を通しておいてください。（30分）
2	事前学習	7. Etudier le français前半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	7. Etudier le français 非人称構文を理解し、文脈判断で主語を理解することができる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
3	事前学習	7. Etudier le français後半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	7. Etudier le français 2 日本におけるフランス語の地位を理解し、文を読むことができる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
4	事前学習	8. Tu et vous 前半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	8. Tu et vous Il est +形容詞+de+不定法の表現を理解し、応用できる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）

5	事前学習	8. Tu et vous 後半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	8. Tu et vous 2 Tutoyer, Vouvoyerを理解し応用できる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
6	事前学習	9. Les plats alsaciens 前半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	9. Les plats alsaciens 現在、半過去の混在する文章を理解できる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
7	事前学習	9. Les plats alsaciens 後半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	9. Les plats alsaciens 2 アルザス料理に対するドイツの影響を理解し、文章を読める。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
8	事前学習	7, 8, 9課の復習（30分）
	授業内容	中間小テスト、採点、解説とまとめ。
	事後学習	答案で間違えた事項の復習。（30分）
9	事前学習	10. L'hiver froid 前半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	10. L'hiver froid 大過去の用法を理解し、活用できる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
10	事前学習	10. L'hiver froid 後半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	10. L'hiver froid 2 複合過去、半過去、大過去の混在する文章の時系列を理解しながら読むことができる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
11	事前学習	11. La fête 前半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	11. La fête On, Vous の特殊な用法を復習し、応用できる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
12	事前学習	11. La fête 後半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	11. La fête 2 pourtant, doncなどの接続語を理解し応用できる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
13	事前学習	12. La pétanque 前半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	12. La pétanque 主語+permettre+de+不定法の用法を理解し、応用できる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
14	事前学習	12. La pétanque 後半の知らない単語を辞書で調べておくこと。（30分）
	授業内容	12. La pétanque 2 フランスのスポーツ事情、ペタンクの歴史を理解しながら文章を読むことができる。
	事後学習	音声で学んだテキストを文章で確認。（30分）
15	事前学習	後半10, 11, 12課の復習。（30分）
	授業内容	期末テスト、採点、解説、まとめ。
	事後学習	答案で間違えた事項の復習。（30分）

科目名	フランス語演習G	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「ひとは女に生まれるのではない、女になるのだ」。シモーヌ・ド・ボーヴォワール（1908-86）が実存主義の立場から執筆した『第二の性』（1949）は、近代女性論の到達点をなし、また、女性論の古典としてその後のフェミニズム理論に大きな影響を与えてきました。その思想が凝縮されている「序文」をこの授業で読みます。フランス語自体も古典的な名文で、フランス語を学ぶ上でもうってつけのテキストです。					
授業目的・到達目標	【授業目的】この授業は、フランス語の比較的簡単な文章を読むことによって、読解力を中心としたフランス語の総合的学力と、フランスの社会・文化に関する理解力とを養成することを目的としています。 【到達目標】専門分野の原書理解などに必要である、フランス語の総合的学力 ― 読解力を中心とした総合的学力 ― を身につけることを目標としています。					
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域 2、 6 フランス語基礎文法の単位を取得していること。					
授業方法	一般的な講読の授業を行います。テキストの訳をしてもらい、こちらが解説を行います。内容はこちらが説明するか、発表を担当してもらいます。音読も行います。試験、レポートは、授業時に返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		平常点（授業参加度、学期末試験、レポート、発表など）：１００％	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	1991	駿河台出版社		『第二の性』（Le deuxième sexe）		シモーヌ・ド・ボーヴォワール
	備考					
参 考 書	授業時に指示します。					
オフィスアワー	水曜日12時20分から13時（事前にメールでアポイントメントを取ってください） 研究室（本館9階1910）yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読むこと。（３０分）
	授業内容	前期ガイダンス
	事後学習	授業時に指示された内容を復習すること。（３０分）
2	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	１ページ、文法の復習
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。（３０分）
3	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	２ページ、文法の復習
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。（３０分）
4	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	３ページ、文法の復習
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。（３０分）

5	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	４ページ、文法の復習
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。（３０分）
6	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	５ページ、文法の復習
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。（３０分）
7	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	６ページ、文法の復習
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。またこれまで読み進めた文章（２回から７回）についてレポートを書き次回提出すること。（３０分）
8	事前学習	試験対策の勉強をすること。（３０分）
	授業内容	前期中間試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験内容を復習すること。（３０分）
9	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	７～８ページ
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。（３０分）
10	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	９～１０ページ
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。（３０分）
11	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	１１～１２ページ
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。またこれまで読み進めた文章（９，１０，１１回）について感想あるいはコメントを書くこと。（３０分）
12	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	１３～１４ページ
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。（３０分）
13	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	１５～１６ページ
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。またこれまで読み進めた文章（９から１３回）についてレポートを書くこと（３０分）
14	事前学習	試験対策の勉強をすること。（３０分）
	授業内容	前期期末試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験内容を復習すること。（３０分）
15	事前学習	前期読んだ箇所を振り返っておくこと。（３０分）
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	授業の復習をすること。（３０分）

科目名	フランス語演習H	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「ひとは女に生まれるのではない、女になるのだ」。シモーヌ・ド・ボーヴォワール（1908-86）が実存主義の立場から執筆した『第二の性』（1949）は、近代女性論の到達点をなし、また、女性論の古典としてその後のフェミニズム理論に大きな影響を与えてきました。その思想が凝縮されている「序文」をこの授業で読みます。フランス語自体も古典的な名文で、フランス語を学ぶ上でもうってつけのテキストです。					
授業目的・到達目標	【授業目的】この授業は、フランス語の比較的簡単な文章を読むことによって、読解力を中心としたフランス語の総合的学力と、フランスの社会・文化に関する理解力とを養成することを目的としています。 【到達目標】専門分野の原書理解などに必要である、フランス語の総合的学力 ― 読解力を中心とした総合的学力 ― を身につけることを目標としています。					
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域2、6 フランス語基礎文法の単位を取得していること。					
授業方法	一般的な講読の授業を行います。テキストの訳をしてもらい、こちらが解説を行います。内容はこちらが説明するか、発表を担当してもらいます。音読も行います。試験、レポートは、授業時に返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		平常点（授業参加度、学期末試験、レポート、発表など）：100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	1991	駿河台出版社		『第二の性』（Le deuxième sexe）		シモーヌ・ド・ボーヴォワール
	備考					
参考書	授業時に指示します。					
オフィスアワー	水曜日12時20分から13時（事前にメールでアポイントメントを取ってください） 研究室（本館9階1910）yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読むこと。（３０分）
	授業内容	後期ガイダンス
	事後学習	指示された内容を調べること。（３０分）
2	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	１７ページ、文法の復習
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。（３０分）
3	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	１８～１９ページ
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。（３０分）
4	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	２０～２１ページ
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。またこれまで読み進めた文章（１７，１８，１９回）について感想あるいはコメントを書くこと。（３０分）

5	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	２２～２３ページ
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。（３０分）
6	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	２４～２５ページ
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。（３０分）
7	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	２６～２７ページ
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。またこれまで読み進めた文章（１７から２２回）についてレポートを書くこと。（３０分）
8	事前学習	試験勉強をすること。（３０分）
	授業内容	後期中間試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験内容を復習すること。（３０分）
9	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	２８～２９ページ
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。（３０分）
10	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	３０～３１ページ
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。（３０分）
11	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	３２～３３ページ
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。またこれまで読み進めた文章（２４，２５，２６回）について感想あるいはコメントを書くこと。（３０分）
12	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	３４～３５ページ
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。（３０分）
13	事前学習	その回で進められる文章を読み訳してくること。（３０分）
	授業内容	３６～３７ページ
	事後学習	読み進めた文章を、構文、発音、意味など様々な点から復習すること。またこれまで読み進めた文章（２４から２８回）についてレポートを書き次回提出すること（３０分）
14	事前学習	試験勉強をすること。（３０分）
	授業内容	後期期末試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験内容を復習すること。（３０分）
15	事前学習	これまでの文章を振り返っておくこと。（３０分）
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	授業内容を復習すること。（３０分）

科目名	リーディング・ライティング(仏)ⅠA	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	書くことは、単に、自分や自分の文化について伝達することだけではなく、自分の理解力や思考力を鍛え上げることに、寄与します。この授業では、書く力を中心に、フランス語の基礎力をさらにアップすることが目指されます。フランス語基礎文法を終えた人向けの授業です。					
授業目的・到達目標	【授業目標】フランス語検定試験などの資格試験や、専門分野の原書理解などに必要である、フランス語の基礎力 ― 特に書く力に関わる基礎力 ― を養成することを目的としています。 【到達目標】フランス語検定試験4級、3級の取得を目標とします。					
履修条件	フランス語Ⅱの単位を取得していること。					
授業方法	演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で返却を行います。試験は授業時間内に返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）：100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016年	白水社		『フランス語で書こう！』		佐藤久美子 佐藤領時
	備考					
参 考 書	授業時に指示します。					
オフィスアワー	水曜日12時20分から13時（事前にメールでアポイントメントを取ってください） 研究室（本館9階1910）yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでください。今週の授業の予習をしてください。（30分）
	授業内容	前期イントロダクション
	事後学習	次回最初に小テストを実施するので復習してください。（30分）
2	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 1 êtreを使う（1）
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
3	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 2 êtreを使う（2）
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
4	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 3 avoirを使う（1）
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）

5	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 4 avoirを使う（2）
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
6	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 5 名詞と冠詞 その1
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
7	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 5 名詞と冠詞 その2
	事後学習	試験なので復習してください。（30分）
8	事前学習	試験対策の勉強をしてください。（30分）
	授業内容	前期中間テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験内容を復習してください。（30分）
9	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 6 形容詞 その1
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
10	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 6 形容詞 その2
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
11	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 7 疑問表現（1） その1
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
12	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 7 疑問表現（1） その2
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
13	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 8 疑問表現（2） その1
	事後学習	試験なので復習してください。（30分）
14	事前学習	試験対策の勉強をしてください。（30分）
	授業内容	前期期末テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験内容を復習してください。（30分）
15	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	今週の授業を復習してください。（30分）

科目名	リーディング・ライティング(仏) I B	担当者	吉澤 保	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	書くことは、単に、自分や自分の文化について伝達することだけではなく、自分の理解力や思考力を鍛え上げることにも、寄与します。この授業では、書く力を中心に、フランス語の基礎力をさらにアップすることが目指されます。フランス語基礎文法を終えた人向けの授業です。					
授業目的・到達目標	【授業目標】フランス語検定試験などの資格試験や、専門分野の原書理解などに必要である、フランス語の基礎力 ― 特に書く力に関わる基礎力 ― を養成することを目的としています。 【到達目標】フランス語検定試験4級、3級の取得を目標とします。					
履修条件	フランス語Ⅱの単位を取得していること。					
授業方法	演習方式。毎時間小テストを実施し、次の授業で返却を行います。試験は授業時間内に返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験等）：100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016年	白水社		『フランス語で書こう！』		佐藤久美子 佐藤領時
	備考					
参 考 書	授業時に指示します。					
オフィスアワー	水曜日12時20分から13時（事前にメールでアポイントメントを取ってください） 研究室（本館9階1910）yoshizawa.tamotsu@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでください。今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	後期イントロダクション
	事後学習	次回最初に授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
2	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 8 疑問表現（2） その2
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
3	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 9 否定表現 その1
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
4	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 9 否定表現 その2
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）

5	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 10 命令表現 その1
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
6	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 10 命令表現 その2
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
7	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 11 faire, prendreを使う その1
	事後学習	試験対策の復習をしてください。（30分）
8	事前学習	試験対策の勉強を行ってください。（30分）
	授業内容	後期中間テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験内容を復習してください。（30分）
9	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 11 faire, prendreを使う その2
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
10	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 12 目的語の人称代名詞 その1
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
11	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 12 目的語の人称代名詞 その2
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
12	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 13 中性代名詞 その1
	事後学習	最初に先週の授業内容に関する小テストを実施するので、復習してください。（30分）
13	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	Thème 13 中性代名詞 その2
	事後学習	試験対策の復習をしてください。（30分）
14	事前学習	試験対策の勉強をしてください。（30分）
	授業内容	後期期末テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験内容を復習してください。（30分）
15	事前学習	今週行われる授業の予習を行ってください。（30分）
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	授業の復習をしてください。（30分）

科目名	フランス語資格試験対策ⅠA	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	仏検対策の授業です。秋季での4級合格を目指します。とはいえ、検定試験はあくまでもフランス語の上達をはかる目安に過ぎません。仏検のためのフランス語ではなくて、フランス語のための仏検です。本末転倒にならないように、練習問題を解きながら、フランス語力の向上と基本文法事項の確実な定着を目指します。					
授業目的・到達目標	初級文法の習得、音声を中心としてフランス語に対する言語感覚を養成することを目的として、その結果として秋季の実用フランス語技能検定試験4級に合格できることを目標とします。 関連DP及びCP:外国語科目領域 5, 6					
履修条件	実用フランス語技能検定試験5級、4級を受けること。					
授業方法	音声の反復からフランス語を身に着けながら、そこに文法説明・練習問題の反復を加えることで、知識としてではなく言葉としてのフランス語の定着を目指します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		小テスト50%、前期期末テスト50%の合計100点で、60点以上で合格です。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2014	CLE International		Grammaire progressive du Français		Maïa Grégoire
	備考					
参考書	使用しない。					
オフィスアワー	火曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください(30分)
	授業内容	ガイダンス:授業の方針、使用教科書、参考書紹介、成績評価方法の説明、導入として簡単なフランス語練習。
	事後学習	授業で聞いたフランス語音声の綴りを書けるようにしてください。(60分)
2	事前学習	1、2課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	1,2課: La présentation, la description. フランス語で自己紹介ができる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
3	事前学習	3,4課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	3,4課: La description 2, le verbe “être”. (30分)
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
4	事前学習	5,6課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	5,6課: L'interrogation simple, les verbes en “er” 1. 第一群規則動詞の活用ができる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)

5	事前学習	7, 8課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	7, 8課: Les verbes en “er” 2, 3. 第一群規則動詞の活用を色々な動詞でできる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
6	事前学習	9, 10課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	9, 10課: Les verbes pronominaux en “er”, le nom et l'article. 再帰動詞を理解し活用できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
7	事前学習	11, 12課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	11, 12課: Singulier et pluriel des noms, l'article défini/indéfini. 名詞と冠詞の単数・複数を一致できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
8	事前学習	1課から12課までの復習。(30分)
	授業内容	中間小テスト、採点、解説・まとめ。
	事後学習	答案の間違った項目を見直し。(30分)
9	事前学習	13, 14課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	13, 14課: 前置詞と定冠詞の縮約, les possessifs. 所有形容詞と名詞を一致できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
10	事前学習	15, 16課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	15, 16課: les démonstratifs, la possession. 指示形容詞と名詞を一致できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
11	事前学習	17, 18課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	17, 18課: les caractéristiques physiques, les sensations négatives. 否定表現を理解し否定文を作れる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
12	事前学習	19, 20課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	19, 20課: le verbe “avoir”, la négation. avoir 動詞を理解し活用できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
13	事前学習	21, 22課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	21, 22課: 場所の前置詞と国. en, à, dans の違いについて理解し文を作れる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
14	事前学習	23, 24課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	23, 24課: 前置詞 “dans”, “sur”, “sous”, 非人称構文 “il y a”. 様々な前置詞の用法を理解し文を作れる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
15	事前学習	13課から24課までの復習。(30分)
	授業内容	前期末テスト、採点、解説とまとめ。
	事後学習	答案の間違った項目を見直し。(30分)

科目名	フランス語資格試験対策ⅠA	担当者	江島 泰子	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	本授業は、フランス語実用技能検定試験（仏検）等の検定試験の級を取得して ①将来の就職に役立てる ②国際人として活躍するための基礎作りをすること、を念頭に置いています。資格試験はたとえ取得級が低い場合でも、多様な興味を持っていること、学習意欲の高さなどを示すものです。また、語学学習は目標が明確であると取り組みやすくなります。					
授業目的・到達目標	【授業目的】資格試験（仏検）の5級（前期）4級（後期）に必要な文法・リーディング・聴解の能力を養成し、後期に4級を取得することを目的とする。 【授業目標】初学者は後期に仏検5級、既修者は後期に仏検4級を取得することを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5， 6					
履修条件	既習者は前期に仏検5級を、後期に仏検4級を受験すること。初学者は後期に仏検5級を受験すること。					
授業方法	①教科書にそって文法説明を行う。②仏検の練習問題を解き、解説する。③毎回、前回授業の内容にそった小テストを行う。④語彙プリントの記入、文法問題を課題として課す（不定期）。小テストは授業中に返却する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		①授業参加度、小テスト、課題提出（50%） ③仏検成績・期末テスト成績（50%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2005	第三書房		英語でわかるフランス語		滑川明彦、他
	備考					
参考書	教科書は、独習用参考書として編まれたものですので、教科書を参考書としても利用してください。					
オフィスアワー	日時：月曜日15：00～16：00 場所：図書館7階ラーニングコモンズ（イースト） 内容：フランス語学習に関する質問、留学相談、その他 メールによる問い合わせ・相談も受け付けます（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。（30分）
	授業内容	①授業の説明 ②フランス語の綴り字の読み方(1)を理解し、実際に読むことができる。 ③フランス語の名詞と不定冠詞（第1課）を理解し、問題に解答できる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。（30分）
2	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。（30分）
	授業内容	①フランス語の発音(2)を理解し、実際に読むことができる。 ②部分冠詞（第6課） ③主語となる代名詞と第一群規則動詞（第3課）を理解し、問題に解答できる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。（30分）
3	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。（30分）
	授業内容	①フランス語の発音(3)を理解し、実際に読むことができる。 ②否定文の作り方（第2課）を理解し、問題に解答できる。 ③動詞 être（第2課）を活用させることができる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。（30分）
4	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。（30分）
	授業内容	①フランス語の発音(4)を理解し、実際に読むことができる。 ②動詞 avoir（第3課）を活用させることができる。 ③不定冠詞・部分冠詞の変形（第6課）を理解し、問題に解答できる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。（30分）

5	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。（30分）
	授業内容	①数詞（1～20まで）を聞き取ることができる。 ②動詞 sortir（第8課）を活用させることができる。 ③所有形容詞・指示形容詞（第4課）を理解し、問題に解答できる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。（30分）
6	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。既修者は仏検事務局が公開している過去問5級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。（30分）
	授業内容	①いろいろな疑問文(1)（第8課）を理解し、問題に解答できる。 ②時空間の前置詞（第5課、第12課）を理解し、聞き取ることができる。 ③形容詞の変化と位置（第2課、第3課）を理解し、問題に解答できる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。（30分）
7	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること既修者は仏検事務局が公開している過去問5級（筆記、聴解）の問題を解き、疑問があれば教員に質問すること。（30分）
	授業内容	①いろいろな疑問文(2)（第8課）を理解し、問題に解答できる。 ②前置詞de, à と定冠詞の縮約（第4課）を理解し、問題に解答できる。 ③動詞aller/近接未来（第5課）を活用できる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。（30分）
8	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。（30分）
	授業内容	①4級解題 ②命令法（第5課）を理解し、問題に解答できる。 ③動詞venir/近接過去（第5課）を活用できる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。授業で扱った4級問題の復習をすること。（30分）
9	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。（30分）
	授業内容	①4級解題 ②疑問文の作り方（第5課）を理解し、問題に解答できる。 ③疑問形容詞（第9課）を理解し、問題に解答できる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。授業で扱った4級問題の復習をすること。（30分）
10	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。（30分）
	授業内容	①4級解題 ②動詞 faire（第9課）を直説法現在に活用できる。 ③天候表現（第7課）
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。授業で扱った4級問題の復習をすること。（30分）
11	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。（30分）
	授業内容	①動詞 pouvoir（第7課）を直説法現在に活用できる。 ②比較級・最上級（第9課）を理解し、問題に解答できる。 ③数詞（21～69まで）（第8課）を聴解できる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。（30分）
12	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。（30分）
	授業内容	①動詞 vouloir（第11課）を直説法現在に活用できる。 ②いろいろな疑問文(2)（第10課）を理解し、問題に解答できる。 ③数詞（70～99まで）（第8課）を聴解できる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。（30分）
13	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。（30分）
	授業内容	①代名動詞①（第9課）を直説法現在に活用できる。 ②いろいろな疑問文(3)（第10課）を理解し、問題に解答できる。 ③所有形容詞（第4課）を理解し、問題に解答できる。
	事後学習	前期末試験にそなえて、前期全体の復習をすること。（120分）
14	事前学習	前期末試験の準備をすること。（120分）
	授業内容	前期末試験 4級の内容の解説
	事後学習	既修者は4級の内容を把握し、11月の試験に向けてどのように勉強するか計画をたてる。（30分）
15	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。（30分）
	授業内容	前期末試験の解説 ①代名動詞②（第9課）を直説法現在に活用できる。 ②いろいろな疑問文(4)（第10課）を理解し、問題に解答できる。
	事後学習	前期全体の内容について、復習すること。単語練習ノートを行って、後期第1回目に提出すること（180分）

科目名	フランス語資格試験対策ⅠB	担当者	石橋 正孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	仏検対策の授業です。秋季での4級合格を目指します。とはいえ、検定試験はあくまでもフランス語の上達をはかる目安に過ぎません。仏検のためのフランス語ではなくて、フランス語のための仏検です。本末転倒にならないように、練習問題を解きながら、フランス語力の向上と基本文法事項の確実な定着を目指します。					
授業目的・到達目標	初級文法の習得、音声を中心としてフランス語に対する言語感覚を養成することを目的として、その結果として秋季の実用フランス語技能検定試験4級に合格できることを目標とします。 関連DP及びCP:外国語科目領域 5, 6					
履修条件	実用フランス語技能検定試験5級、4級を受けること。					
授業方法	音声の反復からフランス語を身に着けながら、そこに文法説明・練習問題の反復を加えることで、知識としてではなく言葉としてのフランス語の定着を目指します。試験の採点・解説は試験後にその場で行い、一人ずつ返却します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		小テスト50%、前期期末テスト50%の合計100点で、60点以上で合格です。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2014	CLE International		Grammaire progressive du Français		Maïa Grégoire
	備考					
参考書	使用しない。					
オフィスアワー	火曜日12:20～13:00 研究室 本館6階1606					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ポケット版ではない学習辞書を用意してください。シラバスを熟読し、授業のイメージを持ってください(30分)
	授業内容	ガイダンス:授業の方針、使用教科書、参考書紹介、成績評価方法の説明、導入として簡単なフランス語練習。
	事後学習	授業で聞いたフランス語の音声の綴りを書けるようにしてください。(60分)
2	事前学習	25, 26課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	25, 26課: “Qui est-ce” et “Qu'est-ce que c'est?”, “C'est” et “Il est”の用法の違いについて理解し文をつくれる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
3	事前学習	27, 28課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	27, 28課: “C'est” + adjectif, les nombres. 数字の数え方を理解し、綴りをかける。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
4	事前学習	29, 30課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	29, 30課: “Il est” + heures, le temps. 時間表現を理解し、文を作る。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)

5	事前学習	31, 32課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	31, 32課: Les partitifs et la quantité exprimée. 部分冠詞と数の概念を理解し、文をつくれる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
6	事前学習	33, 34課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	33, 34課: La comparaison et le superlatif. 比較級、最上級を理解し、問題を解ける。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
7	事前学習	35, 36課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	35, 36課: Les verbes en “-ir” à deux formes. 第二群規則動詞を活用できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
8	事前学習	25課から36課までの復習。(30分)
	授業内容	中間小テスト、採点、解説とまとめ。
	事後学習	答案の間違った項目を見直し。(30分)
9	事前学習	37, 38課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	37, 38課: Les verbes en “-re”, les cas particuliers de verbes. re動詞を様々な動詞で活用できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
10	事前学習	39, 40課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	39, 40課: Les démonstratifs, la possession. 指示詞、所有詞について問題を解ける。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
11	事前学習	41, 42課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	41, 42課: Le verbes “faire”, “aller”. 不規則動詞faire, allerを活用できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
12	事前学習	43, 44課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	43, 44課: Le futur proche, le passé composé avec “avoir”. 近接未来、複合過去を理解し活用できる。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
13	事前学習	45, 46課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	45, 46課: Le passé composé avec “avoir” et “être”. 複合過去の助動詞の区分について理解し問題を解ける。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
14	事前学習	47, 48課のわからない単語を辞書で調べてくること。(30分)
	授業内容	47, 48課: L' imparfait, le future simple. 半過去、単純未来について理解し問題を解ける。
	事後学習	音声から学んだフレーズ、文法事項を教科書・文法書で確認すること。(30分)
15	事前学習	37課から48課までの復習。(30分)
	授業内容	前期末テスト、採点、解説とまとめ。
	事後学習	答案の間違った項目を見直し。(30分)

科目名	フランス語資格試験対策ⅠB	担当者	江島 泰子	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	本授業は、フランス語実用技能検定試験（仏検）等の検定試験の級を取得して ①将来の就職に役立てる ②国際人として活躍するための基礎作りをすること、を念頭に置いています。資格試験はたとえ取得級が低い場合でも、多様な興味を持っていること、学習意欲の高さなどを示すものです。また、語学学習は目標が明確であると取り組みやすくなります。					
授業目的・到達目標	【授業目的】資格試験（仏検）の5級（前期）4級（後期）に必要な文法・リーディング・聴解の能力を養成し、後期に4級を取得することを目的とする。 【授業目標】初学者は後期に仏検5級、既修者は後期に仏検4級を取得することを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域5，6					
履修条件	既修者は前期に仏検5級を、後期に仏検4級を受験すること。初学者は後期に仏検5級を受験すること。					
授業方法	①教科書にそって文法説明を行う。②仏検の練習問題を解き、解説する。③毎回、前回授業の内容にそった小テストを行う。④語彙プリントの記入、文法問題を課題として課す（不定期）。小テストは授業中に返却する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		①授業参加度、小テスト、課題提出（50%） ③仏検成績・期末テスト成績（50%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2005	第三書房		英語でわかるフランス語		滑川明彦、他
	備考					
参考書	教科書は、独習用参考書として編まれたものですので、教科書を参考書としても利用してください。					
オフィスアワー	日時：月曜日15：00～16：00 場所：図書館7階ラーニングコモンズ（イースト） 内容：フランス語学習に関する質問、留学相談、その他 メールによる問い合わせ・相談も受け付けます（eshima.yasuko@nihon-u.ac.jp）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。（30分）
	授業内容	①4級問題解題 ②中性代名詞(1)（第7課）を理解し、問題に解答できる。 ③複合過去(1)（第8課）を理解し、問題に解答できる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。授業で扱った4級問題の復習をすること。（30分）
2	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。（30分）
	授業内容	①4級問題解題 ②中性代名詞(2)（第7課）を理解し、問題に解答できる。 ③複合過去(2)（第8課）を理解し、問題に解答できる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。授業で扱った4級問題の復習をすること。（30分）
3	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。（30分）
	授業内容	①4級問題解題 ②ne... pas以外の否定表現 ③単純未来（直説法）を理解し、問題に解答できる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。授業で扱った4級問題の復習をすること。（30分）
4	事前学習	次週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。（30分）
	授業内容	①4級問題解題 ②指示代名詞（第4課）を理解し、問題に解答できる。 ③半過去（直説法）を理解し、問題に解答できる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。授業で扱った4級問題の復習をすること。（30分）

5	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。（30分）
	授業内容	①4級問題改題 ②前置詞(1)を理解し、問題に解答できる。 ③目的補語人称代名詞（1）を理解し、問題に解答できる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。授業で扱った4級問題の復習をすること。（30分）
6	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。（30分）
	授業内容	①4級問題解題 ②前置詞(2)を理解し、問題に解答できる。 ③目的補語人称代名詞（2）を理解し、問題に解答できる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。授業で扱った4級問題の復習をすること。（30分）
7	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。（30分）
	授業内容	①4級問題改題 ②動詞prendre（第6課）を直説法現在に活用できる。 ③会話表現(1)
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。授業で扱った4級問題の復習をすること。（30分）
8	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。（30分）
	授業内容	①4級問題解題 ②動詞savoir（第11課）を直説法現在に活用できる。 ③会話表現(2)を理解し、問題に解答できる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。授業で扱った4級問題の復習をすること。（30分）
9	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。（30分）
	授業内容	①4級問題解題 ②所有代名詞・指示代名詞（第4課）を理解し、問題に解答できる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。授業で扱った4級問題の復習をすること。（30分）
10	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。（30分）
	授業内容	①条件法現在（第11課）を活用させることができる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。（30分）
11	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。（30分）
	授業内容	①関係代名詞(1)（第10課）を理解し、問題に解答できる。 ②接続法現在(1)(第12課)活用させることができる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。（30分）
12	事前学習	今週の文法事項に対応する教科書の該当箇所を読んでくること。（30分）
	授業内容	①関係代名詞(2)（第10課）を理解し、問題に解答できる。 ②接続法現在(2)(第12課)を活用させることができる。
	事後学習	授業で学んだ文法項目の復習をして、小テストの準備をすること。（30分）
13	事前学習	後期の文法事項に対応する教科書の該当箇所を再読してくること。（30分）
	授業内容	①後期の内容の復習（1）
	事後学習	後期の復習をすること。（120分）
14	事前学習	後期末試験の準備をする。（120分）
	授業内容	後期末試験とまとめ
	事後学習	試験で間違った部分の復習をする。（30分）
15	事前学習	後期に学んだ事項について、質問を準備する。（30分）
	授業内容	後期末試験の返却と解説を行う。
	事後学習	後期の復習を行う（30分）

科目名	フランス語資格試験対策ⅡA	担当者	根岸 知生	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「実用フランス語技能検定試験」4級・3級受験希望者を対象にした授業です。 年度内の仏検合格者には、成績評価で点数を加算します。					
授業目的・到達目標	仏検に合格するためには文法の知識だけでなく、単語や動詞の活用、聞き取りの力も必要です。 そのためこの授業では、フランス語の総合的な力を育成することを目的とし、仏検4級・3級合格を目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5, 6					
履修条件	今年度中に仏検を受験すること。					
授業方法	過去の問題や予想問題を解きながら、解説を加えます。 定期的に小テストも実施します。テストは添削して返却し、必要に応じて教室で解説します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		毎回実施する小テストや期末テストの結果、及び仏検の可否から総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2008年	駿河台出版社		改訂版 完全予想 仏検4級 改訂 CD付		富田正二
	備考					
参考書	特になし					
オフィスアワー	質問・相談がある場合は授業内や授業後に声を掛けてください。 木曜日12:10～12:20 授業講堂					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	今までに習った文法事項の範囲や使用したテキスト名を確認するので、あらかじめ調べてメモしておいてください (30分)
	授業内容	オリエンテーション
	事後学習	基礎的な文法事項を確認しておきましょう (30分)
2	事前学習	小テストの準備 (30分)
	授業内容	直説法現在形 (1) -er型規則動詞の活用 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください (30分)
3	事前学習	小テストの準備 (30分)
	授業内容	直説法現在形 (2) -ir型規則動詞の活用 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください (30分)
4	事前学習	小テストの準備 (30分)
	授業内容	直説法現在形 (3) 不規則動詞の活用 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください (30分)

5	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	命令形 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください（30分）
6	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	直説法複合過去形 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください（30分）
7	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	直説法単純未来形・前未来形 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください（30分）
8	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	直説法半過去形・大過去形 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください（30分）
9	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	条件法現在形 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください（30分）
10	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	ジェロンディフ 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください（30分）
11	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	接続法現在形 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください（30分）
12	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	仏検過去問題（5級） 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください（30分）
13	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	仏検過去問題（4級） 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください（30分）
14	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	仏検過去問題（3級） 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください（30分）
15	事前学習	動詞の活用をしっかりと覚えましょう（30分）
	授業内容	前期のまとめ・期末テスト
	事後学習	わからなかった事項があれば、教科書で確認しておきましょう（30分）

科目名	フランス語資格試験対策ⅡB	担当者	根岸 知生	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「実用フランス語技能検定試験」４級・３級受験希望者を対象にした授業です。 年度内の仏検合格者には、成績評価で点数を加算します。			
授業目的・到達目標	仏検に合格するためには文法の知識だけでなく、単語や動詞の活用、聞き取りの力も必要です。 そのためこの授業では、フランス語の総合的な力を育成することを目的とし、仏検４級・３級合格を目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 ５, ６			
履修条件	今年度中に仏検を受験すること。			
授業方法	過去の問題や予想問題を解きながら、解説を加えます。 定期的に小テストも実施します。テストは添削して返却し、必要に応じて教室で解説します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	毎回実施する小テストや期末テストの結果、及び仏検の合否から総合的に判断します。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2008年	駿河台出版社	改訂版 完全予想 仏検４級 改訂 CD付	富田正二
	備考			
参考書	特になし			
オフィスアワー	質問・相談がある場合は授業内や授業後に声を掛けてください。 木曜日12:10～12:20 授業講堂			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	小テストの準備 (30分)
	授業内容	ガイドダンス 強勢形人称代名詞 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください (30分)
2	事前学習	小テストの準備 (30分)
	授業内容	目的語人称代名詞 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください (30分)
3	事前学習	小テストの準備 (30分)
	授業内容	再帰代名詞 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください (30分)
4	事前学習	小テストの準備 (30分)
	授業内容	中性代名詞 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください (30分)

5	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	指示代名詞・所有代名詞 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください（30分）
6	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	疑問代名詞 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください（30分）
7	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	関係代名詞 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください（30分）
8	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	目的語人称代名詞と中性代名詞の語順 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください（30分）
9	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	複合時制と受動態 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください（30分）
10	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	形容詞と副詞の語順 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください（30分）
11	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	仏検過去問題（５級） 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください（30分）
12	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	仏検過去問題（４級） 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください（30分）
13	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	仏検過去問題（３級） 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください（30分）
14	事前学習	小テストの準備（30分）
	授業内容	仏検過去問題（準２級） 小テスト
	事後学習	授業で出た項目を復習し、疑問がある場合はそのままにしないで次回に質問してください（30分）
15	事前学習	今までに勉強したことを、しっかり復習しておきましょう（30分）
	授業内容	後期のまとめ・期末テスト
	事後学習	わからなかった事項があれば、教科書で確認しておきましょう（30分）

科目名	フランス語資格試験対策ⅢA	担当者	畠山 達	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	効率よく仏検合格を目指すために、初回の授業で目標とする級（3級以上）、一週間毎の学習ペースを設定するので参加すること。単語力は重要なので、単語帳から毎回試験をします。英語以外の資格を持つことは将来さまざまな面で有利に働きます。また自分の世界を広げるという意味でも仏検の取得は良い機会になります。是非仏検の取得を目指してください。なお【授業区分】の内容は進度によって変更の可能性もあります。					
授業目的・到達目標	【授業目的】 仏検3級以上の合格を目指し、相応のフランス語力を身に付けることが目的の授業となります。 【到達目標】 仏検3級以上のレベルのフランス語能力を身に付け、合格できることが目標になります。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5、 6					
履修条件	仏検3級以上を受験し、取得することを目標とする人。					
授業方法	毎回単語テストを行います。必ず予習してくること。読解、聞き取り、文法など毎回繰り返し練習します。一年次で使用していた教科書を持参すること。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		毎回行う小テスト50% 前期期末テスト50%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019年度	なし		プリント配布		なし
	備考	毎回、それぞれの課に合わせたプリントを配布				
参 考 書	『データ本位 での順仏検単語集—5級~2級準備レベル』久松健一、駿河台出版社					
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける 授業時間：木曜 1・2 限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	フランス語の教科書復習（30分）
	授業内容	ガイダンス：授業の方針、辞書、参考書、成績評価の方法など説明するので参加すること
	事後学習	単語テスト用準備、文法該当箇所の復習（30分）
2	事前学習	フランス語の教科書復習（30分）
	授業内容	発音、文の構成、動詞の活用
	事後学習	単語テスト準備、発音、文の構成、動詞の活用の試験準備（30分）
3	事前学習	単語テスト準備、発音、文の構成、動詞の活用の試験準備（30分）
	授業内容	名詞の使用法と特徴
	事後学習	単語テスト準備、名詞の使用法と特徴の試験準備（30分）
4	事前学習	単語テスト準備、名詞の使用法と特徴の試験準備（30分）
	授業内容	冠詞の使用法と特徴
	事後学習	単語テスト準備、冠詞の使用法と特徴の試験準備（30分）

5	事前学習	単語テスト準備、冠詞の使用法と特徴の試験準備（30分）
	授業内容	形容詞の使用法と特徴
	事後学習	単語テスト準備、形容詞の使用法と特徴の試験準備（30分）
6	事前学習	単語テスト準備、形容詞の使用法と特徴の試験準備（30分）
	授業内容	代名詞の使用法と特徴
	事後学習	単語テスト準備、代名詞の使用法と特徴の試験準備（30分）
7	事前学習	単語テスト準備、代名詞の使用法と特徴の試験準備（30分）
	授業内容	代名動詞の使用法と特徴
	事後学習	単語テスト準備、代名動詞の使用法と特徴の試験準備（30分）
8	事前学習	単語テスト準備、代名動詞の使用法と特徴の試験準備（30分）
	授業内容	仏検受験直前チェック（1）
	事後学習	単語テスト準備、仏検受験直前チェック（1）の復習（30分）
9	事前学習	単語テスト準備、仏検受験直前チェック（1）の復習（30分）
	授業内容	仏検受験直前チェック（2）
	事後学習	単語テスト準備、仏検受験直前チェック（2）の復習（30分）
10	事前学習	単語テスト準備、仏検受験直前チェック（2）の復習（30分）
	授業内容	条件法の使用法と特徴
	事後学習	単語テスト準備、条件法の使用法と特徴の復習（30分）
11	事前学習	単語テスト準備、条件法の使用法と特徴の復習（30分）
	授業内容	条件法の使用法と特徴
	事後学習	単語テスト準備、条件法の使用法と特徴の復習（30分）
12	事前学習	単語テスト準備、条件法の使用法と特徴の復習（30分）
	授業内容	接続法の使用法と特徴
	事後学習	単語テスト準備、接続法の使用法と特徴の復習（30分）
13	事前学習	単語テスト準備、接続法の使用法と特徴の復習（30分）
	授業内容	接続法の使用法と特徴
	事後学習	単語テスト準備、接続法の使用法と特徴の復習（30分）
14	事前学習	単語テスト準備、接続法の使用法と特徴の復習（30分）
	授業内容	前置詞の使用法と特徴
	事後学習	単語テスト準備、前置詞の使用法と特徴の復習（30分）
15	事前学習	単語テスト準備、前置詞の使用法と特徴の復習（30分）
	授業内容	前期・期末テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	期末テストの復習（30分）

科目名	フランス語資格試験対策ⅢB	担当者	畠山 達	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	効率よく仏検合格を目指すために、初回の授業で目標とする級（3級以上）、一週間毎の学習ペースを設定するので参加すること。単語力は重要なので、単語帳から毎回試験をします。英語以外の資格を持つことは将来さまざまな面で有利に働きます。また自分の世界を広げるという意味でも仏検の取得は良い機会になります。是非仏検の取得を目指してください。なお【授業区分】の内容は進度によって変更の可能性もあります。					
授業目的・到達目標	【授業目的】 仏検3級以上の合格を目指し、相応のフランス語力を身に付けることが目的の授業となります。 【到達目標】 仏検3級以上のレベルのフランス語能力を身に付け、合格できることが目標になります。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5、 6					
履修条件	仏検3級以上を受験し、取得することを目標とする人。					
授業方法	毎回単語テストを行います。必ず予習してくること。読解、聞き取り、文法など毎回繰り返し練習します。一年次で使用していた教科書を持参すること。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		毎回行う小テスト50% 後期期末テスト50%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019年度	なし		プリント配布		なし
	備考	毎回、それぞれの課に合わせたプリントを配布				
参 考 書	『データ本位 での順仏検単語集―5級～2級準備レベル』久松健一、駿河台出版社					
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける 授業時間：木曜 1・2 限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	期末テストの復習（30分）
	授業内容	前期の復習
	事後学習	前期末テストの復習（30分）
2	事前学習	仏検 過去問 1 の予習（30分）
	授業内容	仏検 過去問 1 解説
	事後学習	単語テスト準備、仏検 過去問 1 の復習（30分）
3	事前学習	仏検 過去問 1 の予習（30分）
	授業内容	仏検 過去問 1 解説
	事後学習	単語テスト準備、仏検 過去問 1 の復習（30分）
4	事前学習	仏検 過去問 2 の予習（30分）
	授業内容	仏検 過去問 2 解説
	事後学習	単語テスト準備、仏検 過去問 2 の復習（30分）

5	事前学習	仏検 過去問 2 の予習 (30分)
	授業内容	仏検 過去問 2 解説
	事後学習	単語テスト準備、仏検 過去問 2 の復習 (30分)
6	事前学習	仏検 過去問 3 の予習 (30分)
	授業内容	仏検 過去問 3 解説
	事後学習	単語テスト準備、仏検 過去問 3 の復習 (30分)
7	事前学習	仏検 過去問 3 の予習 (30分)
	授業内容	仏検 過去問 3 解説
	事後学習	単語テスト準備、仏検 過去問 3 の復習 (30分)
8	事前学習	仏検受験直前チェック (1) の予習 (30分)
	授業内容	仏検受験直前チェック (1) 解説
	事後学習	単語テスト準備、仏検受験直前チェック (1) の復習 (30分)
9	事前学習	仏検受験直前チェック (2) の予習 (30分)
	授業内容	仏検受験直前チェック (2) 解説
	事後学習	単語テスト準備、仏検受験直前チェック (2) の復習 (30分)
10	事前学習	仏検 過去問 4 の予習 (30分)
	授業内容	仏検 過去問 4 解説
	事後学習	単語テスト準備、仏検 過去問 4 の復習 (30分)
11	事前学習	仏検 過去問 4 の予習 (30分)
	授業内容	仏検 過去問 4 解説
	事後学習	単語テスト準備、仏検 過去問 4 の復習 (30分)
12	事前学習	仏検 過去問 5 の予習 (30分)
	授業内容	仏検 過去問 5 解説
	事後学習	単語テスト準備、仏検 過去問 5 の復習 (30分)
13	事前学習	仏検 過去問 5 の予習 (30分)
	授業内容	仏検 過去問 5 解説
	事後学習	単語テスト準備、仏検 過去問 5 の復習 (30分)
14	事前学習	仏検 過去問 6 の予習 (30分)
	授業内容	仏検 過去問 6 解説
	事後学習	単語テスト準備、期末テストのための準備 (30分)
15	事前学習	期末テストのための準備 (30分)
	授業内容	後期・期末テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	期末テストの復習 (30分)

科目名	国際研修(仏) I A	担当者	C. ルヌール	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	このクラスでは具体的な練習問題を繰り返すことによって、DELF A1試験への適応能力を見つけます。DELF (Diplôme d'Études en Langue Française) とはフランス国民教育省が認定した唯一のフランス語資格です。レベルA1は初級段階です。試験には、筆記試験（聴解・読解・文書作成）と口頭表現試験があり、4つの能力が評価されます。DELF A1の受験の予定がなくてもこのクラスを受けられます。					
授業目的・到達目標	DELF A1に必要な聴解・読解・文書作成・会話の基礎を養成することを目的としています。DELF A1で高得点を獲得できるための基礎力を身につけることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5、6、7、8					
履修条件	30人以内に限定 フランスに興味があってコミュニケーションの好きな学生を対象とした授業である。授業に積極的に参加することは評価される。					
授業方法	スキット、ヒヤリング、発音の練習など。学生のレベル、希望に合わせてプログラムの変更は可能です。授業言語はフランス語と日本語の併用。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業中のテスト：ペーパーテスト（15%）会話（15%）授業への積極的参加度（20%） 期末テスト：口頭（30%）筆記（20%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	プリント使用				
参考書	なし					
オフィスアワー	授業中やその前後、学生からの質問に対応します。 授業時間：木曜3・4限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）
	授業内容	講義計画・DELF A1の説明
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
2	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	挨拶
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
3	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	発音と文字の読み方
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
4	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	綴りを言う
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）

5	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	自己紹介
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
6	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	自己紹介
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
7	事前学習	テスト勉強（30分）
	授業内容	DELF A1の模擬試験・解説
	事後学習	わからなかったところを復習すること（30分）
8	事前学習	レッスンの単語を調べる
	授業内容	趣味
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
9	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	日付けと数字
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
10	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	家族
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
11	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	人を紹介する
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
12	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	定期的な活動
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
13	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	一日のアクティビティ
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
14	事前学習	テスト勉強（30分）
	授業内容	まとめと到達度の確認：DELF A1の過去問題：筆記試験（聴解・読解・文書作成）と口頭表現試験
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
15	事前学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）
	授業内容	レクリエーション
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）

科目名	国際研修(仏) I B	担当者	C. ルヌール	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	このクラスでは具体的な練習問題を繰り返すことによって、DEL F A1試験への適応能力を見つけます。DEL F (Diplôme d'Études en Langue Française) とはフランス国民教育省が認定した唯一のフランス語資格です。レベルA1は初級段階です。試験には、筆記試験（聴解・読解・文書作成）と口頭表現試験があり、4つの能力が評価されます。DEL F A1の受験の予定がなくてもこのクラスを受けられます。					
授業目的・到達目標	DEL F A1に必要な聴解・読解・文書作成・会話の基礎を養成することを目的としています。DEL F A1で高得点を獲得できるための基礎力を身につけることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 5、6、7、8					
履修条件	30人以内に限定 フランスに興味があってコミュニケーションの好きな学生を対象とした授業である。授業に積極的に参加することは評価される。					
授業方法	スキット、ヒヤリング、発音の練習など。学生のレベル、希望に合わせてプログラムの変更は可能です。授業言語はフランス語と日本語の併用。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業中のテスト：ペーパーテスト（15%）会話（15%）授業への積極的参加度（20%） 期末テスト：口頭（30%）筆記（20%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	プリント使用				
参考書	なし					
オフィスアワー	授業中やその前後、学生からの質問に対応します。 授業時間：木曜3・4限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	前期のレッスンの復習
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
2	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	食べ物
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
3	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	買い物
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
4	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	レシピを書く
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）

5	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	朝ご飯
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
6	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	レストランで注文する
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
7	事前学習	テスト勉強（30分）
	授業内容	DELTA A1の模擬試験・解説
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）
8	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	道案内
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
9	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	道案内
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
10	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	天気予報
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
11	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	ヴァカンスの過ごし方
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
12	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	ヴァカンスの過ごし方
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
13	事前学習	レッスンの単語を調べる（30分）
	授業内容	ハガキを書く
	事後学習	音声を聞いて、授業で習った本文を繰り返し覚えること（30分）
14	事前学習	テスト勉強（30分）
	授業内容	まとめと到達度の確認：DELTA A1の過去問題：筆記試験（聴解・読解・文書作成）と口頭表現試験
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）
15	事前学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）
	授業内容	まとめとレクリエーション
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I A	担当者	G. デルメール	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	簡単なフランス語で人とコミュニケーションが取れるような授業です。					
授業目的・到達目標	初心者向けのクラスです。理解と表現（読み・書き・聞く・話す）の調和の取れた練習を通じ、フランス語の基本的なコミュニケーション能力を養成することを目的とします。また将来の発展的学習のための基礎作りに励みます。自己紹介、好み、日常生活の説明などをフランス語で表現できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	授業への参加を重視します。 毎週宿題を出します。					
授業方法	教科書に沿って授業を進めます。 ペアの会話が多いです。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		(50%)前期終わりに試験を行います。(50%)授業への参加と宿題です。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2013	朝日出版社		Entre amis		小松祐子、Gilles Delmaire
	備考					
参考書	久松 健一 携帯く万能＞フランス語文法 出版社：駿河台出版社					
オフィスアワー	授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。 授業時間：金曜 4・5 限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。(30分)
	授業内容	Initiation
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)
2	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく(30分)
	授業内容	Leçon 1
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)
3	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)
	授業内容	Leçon 1
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)
4	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)
	授業内容	Leçon 1/2
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)

5	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 2
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
6	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 2
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
7	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 3
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
8	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 3
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
9	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 3/4
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
10	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 4
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
11	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 4
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
12	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 5
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
13	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 5
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
14	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
15	事前学習	試験のための復習する。（30分）
	授業内容	期末試験及び解説　まとめ、振返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I A	担当者	Ch. パジエス	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業は、フランス語で自己表現ができるようになることを目的とした、フランス語会話クラスです。限られた文法知識の中で、日常的な話題について話ができるようになることを目指し、自然なフランス語での会話の仕方やボキャブラリーを学びます。また、DVDを使用して、フランスの文化についても学びます。					
授業目的・到達目標	[授業目的] フランス語で日常的な会話ができる人材を育成することを目的としています。 [到達目標] 自己表現と自然なフランス語での会話ができるようになることを目標とします。 関連DP及びCP；外国語科目領域6					
履修条件	積極的な授業への参加、学生数30人まで					
授業方法	発音、基本会話の習得、会話練習、リスニングという要素で構成された授業を、教科書及びDVDを使用して行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業への積極的参加:40%/授業内での小テスト:60%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016	ALMA		Moi, je... コミュニケーション (ISBN 978-4-905343-03-5)		Vannieuwenhuyse
	備考					
参考書	使用しない					
オフィスアワー	授業内に対応する 授業時間：水曜１・２限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。(30分)
	授業内容	ガイダンス 授業の進め方、概要を説明する。
	事後学習	ガイダンスの内容を確認する。(30分)
2	事前学習	レッスン 1の予習 (30分)
	授業内容	レッスン 1 自己紹介をする
	事後学習	レッスン 1の復習 (30分)
3	事前学習	レッスン 2の予習 (30分)
	授業内容	レッスン 2 今住んでいるところや出身地について話す
	事後学習	レッスン 2の復習 (30分)
4	事前学習	レッスン 3の予習 (30分)
	授業内容	レッスン 3 交通手段について話す
	事後学習	レッスン 3の復習 (30分)

5	事前学習	レッスン 4の予習 (30分)
	授業内容	レッスン 4 アルバイトについて話す
	事後学習	レッスン 4の復習 (30分)
6	事前学習	レッスン 5の予習 (30分)
	授業内容	レッスン 5 ペットなどについて話す
	事後学習	レッスン 5の復習 (30分)
7	事前学習	レッスン 6の予習 (30分)
	授業内容	レッスン 6 科目・先生について話す
	事後学習	レッスン 6の復習 (30分)
8	事前学習	レッスン 7の予習 (30分)
	授業内容	レッスン 7 食べ物について話す
	事後学習	レッスン 7の復習 (30分)
9	事前学習	レッスン 8の予習 (30分)
	授業内容	レッスン 8 家事について話す
	事後学習	レッスン 8の復習 (30分)
10	事前学習	レッスン 9の予習 (30分)
	授業内容	レッスン 9 家族について話す
	事後学習	レッスン 9の復習 (30分)
11	事前学習	レッスン 9の予習 (30分)
	授業内容	レッスン 9(2) 数字
	事後学習	レッスン 9の復習 (30分)
12	事前学習	レッスン 10の予習 (30分)
	授業内容	レッスン 10 クラブ活動について話す
	事後学習	レッスン 10の復習 (30分)
13	事前学習	レッスン 11の予習 (30分)
	授業内容	レッスン 11 習慣について話す
	事後学習	レッスン 11の復習 (30分)
14	事前学習	レッスン 12の予習 (30分)
	授業内容	レッスン 12 週末の過ごし方について話す
	事後学習	レッスン 12の復習 (30分)
15	事前学習	前期終了したテキストの総復習 (30分)
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	事後学習	前期終了した学習内容を確認する。 (30分)

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I A	担当者	プピ ダミアン	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	基本的なフランス語およびフランスの文化に触れる授業になります。フランスと日本の共通点と相違点、ベーシックな知識を得ることを目指す。 フランス語が初めての学生にこの一年間で必要なボキャブラリーと文法を勉強する。レッスンを題材にして会話を中心にする。					
授業目的・到達目標	フランスと日本の共通点と相違点、ベーシックな知識を養成することを目的とします。 この一年間で必要なボキャブラリーと文法を理解できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	フランス語が初めてとする人も、基礎の知識を深めたい人にも対応しています。					
授業方法	授業での活動的な参加は求められている（出席だけでは参加になりません） 毎週グループで会話の作成・発表を行います。 フィードバックは授業内において行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業参加度20%、そして発表60%（表現力、文法、イントネーション、それぞれ20%） 先生との対話20%（1対1で質問のやり取りなど、理解度と表現力の評価）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	白水社		Pascal au Japon （パスカル・オ・ジャポン） ISBN 978-4-560-06083-4		
	備考					
参考書	NHK ラジオ講座及びテレビ講座を活用しましょう。					
オフィスアワー	授業後に質問を受け付ける。 授業時間：木曜 1 ・ 2 限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	早めに教科書の用意をすること。シラバスをよく読んで、授業のイメージをつかんでおくこと。不足していた場合はコピーなどを用意する。（30分）
	授業内容	授業のオリエンテーション。フランス語での基本な挨拶など（前半）。
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
2	事前学習	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	数字とアルファベット、基本な挨拶表現（後半）。
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
3	事前学習	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	国籍を言う（代名詞と名詞）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
4	事前学習	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	名前、職業を言う（名詞、形容詞）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）

5	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	発音と綴り字記号の読み方
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
6	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	持ち物を尋ねる（名詞と冠詞）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
7	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	趣味を語る（疑問文）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
8	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	好き嫌いを語る（疑問文）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
9	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	だれか尋ねる（疑問代名詞）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
10	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	したいことを尋ねる（前置詞、指示形容詞）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
11	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	住んでいるところを言う（所有形容詞）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
12	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	何をしているか尋ねる（疑問代名詞）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
13	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	行きたい場所を尋ねる（助動詞）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
14	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	自分のことを語る（所有形容詞、否定文）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
15	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	家族を語る（所有形容詞、否定文）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I A (木曜3時限)	担当者	C. ルヌール	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------------------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業はフランス語の発音、イントネーションを重点的に練習しながら日常的な会話に必要な語彙や表現を覚えていきます。					
授業目的・到達目標	初級フランス語の読み、書き、聞き、話す能力を養成することを目的とする。フランスと日本のコミュニケーションとの違いを意識するのも目的になっている。フランス語圏の人たちを知り合う時にフランス語の簡単な会話ができることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	30人以内に限定 コミュニケーションの好きな学生を対象とした授業である。授業に積極的に参加することは評価される。					
授業方法	会話テーマは日常の話題です。学習形態：まず発音練習、会話ドリル（表現を何度も繰り返し練習する）、会話練習、リスニングと最後に練習問題。時間を許す限りフランス文化を紹介します。授業言語はフランス語と日本語の併用。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業中のテスト：ペーパーテスト（15%）会話（15%）授業への積極的参加度（20%） 期末テスト：口頭（30%）筆記（20%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2012	アルマ		Moi, je... コミュニケーション		Bruno Vannieuwenhuyse
	備考					
参考書	なし					
オフィスアワー	授業中やその前後、学生からの質問に対応します。 授業時間：木曜3・4限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）
	授業内容	授業のオリエンテーション
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること （30分）
2	事前学習	レッスンの単語を調べておく （30分）
	授業内容	Leçon 0 発音練習 これはどういう意味ですか。フランス語で～何と言いますか。アルファベット。
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること （30分）
3	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること （30分）
	授業内容	Leçon 1 自己紹介をする
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること （30分）
4	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること （30分）
	授業内容	Leçon 1 自己紹介をする
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること （30分）

5	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Leçon 2 今住んでいるところや出身地について話す
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
6	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Leçon 2 今住んでいるところや出身地について話す
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
7	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Leçon 2 今住んでいるところや出身地について話す
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
8	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Leçon 3 交通手段について話す
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
9	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Leçon 3 交通手段について話す
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
10	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Leçon 3 交通手段について話す
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
11	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Leçon 4 アルバイトについて話す
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
12	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Leçon 4 アルバイトについて話す
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
13	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Leçon 4 アルバイトについて話す
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
14	事前学習	試験のための復習（60分）
	授業内容	試験及び解説 まとめ、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）
15	事前学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）
	授業内容	まとめ、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I B	担当者	G. デルメール	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	簡単なフランス語で人とコミュニケーションが取れるような授業です。				
授業目的・到達目標	初心者向けのクラスです。理解と表現（読み・書き・聞く・話す）の調和の取れた練習を通じ、フランス語の基本的なコミュニケーション能力を養成することを目的とします。また将来の発展的学習のための基礎作りに励みます。自己紹介、好み、日常生活の説明などをフランス語で表現できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	授業への参加を重視します。 毎週宿題を出します。				
授業方法	教科書に沿って授業を進めます。 ペアの会話が多いです。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	(50%)後期の終わりに試験を行います。(50%)授業への参加と宿題です。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2013	朝日出版社		Entre amis	小松祐子、Gilles Delmaire
	備考				
参 考 書	久松 健一 携帯く万能＞フランス語文法 出版社：駿河台出版社				
オフィスアワー	授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。 授業時間：金曜 4・5 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期に学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)
	授業内容	前学期の復習
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)
2	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)
	授業内容	Leçon 6
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)
3	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)
	授業内容	Leçon 6
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)
4	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)
	授業内容	Leçon 6/7
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)

5	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 7
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
6	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 7
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
7	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 8
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
8	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 8
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
9	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 8/9
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
10	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 9
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
11	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 9
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
12	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 10
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
13	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 10
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
14	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
15	事前学習	試験のための復習する。（30分）
	授業内容	期末試験及び解説　まとめ、振返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I B	担当者	Ch. パジエス	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業は、フランス語で自己表現ができるようになることを目的とした、フランス語会話クラスです。限られた文法知識の中で、日常的な話題について話ができるようになることを目指し、自然なフランス語での会話の仕方やボキャブラリーを学びます。また、DVDを使用して、フランスの文化についても学びます。					
授業目的・到達目標	[授業目的] フランス語で日常的な会話ができる人材を育成することを目的としています。 [到達目標] 自己表現と自然なフランス語での会話ができるようになることを目標とします。 関連DP及びCP；外国語科目領域6					
履修条件	積極的な授業への参加、学生数30人まで					
授業方法	発音、基本会話の習得、会話練習、リスニングという要素で構成された授業を、教科書及びDVDを使用して行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業への積極的参加:40%/授業内での小テスト:60%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016	ALMA		Moi, je... コミュニケーション (ISBN 978-4-905343-03-5)		Vannieuwenhuyse
	備考					
参考書	使用しない					
オフィスアワー	授業内に対応する 授業時間：水曜 1・2 限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の総復習 (30分)
	授業内容	前期学習内容の振り返り
	事後学習	前期終了した学習内容を確認する。(30分)
2	事前学習	レッスン 13の予習 (30分)
	授業内容	レッスン 13 時間について話す
	事後学習	レッスン 13の復習 (30分)
3	事前学習	レッスン 13の予習 (30分)
	授業内容	レッスン 13(2) 時間
	事後学習	レッスン 13の復習 (30分)
4	事前学習	レッスン 14の予習 (30分)
	授業内容	レッスン 14 休暇中の活動について話す
	事後学習	レッスン 14の復習 (30分)

5	事前学習	レッスン 15の予習 (30分)
	授業内容	レッスン 15 経験について話す
	事後学習	レッスン 15の復習 (30分)
6	事前学習	レッスン 16の予習 (30分)
	授業内容	レッスン 16 地理について話す
	事後学習	レッスン 16の復習 (30分)
7	事前学習	レッスン 17の予習 (30分)
	授業内容	レッスン 17 天候について話す
	事後学習	レッスン 17の復習 (30分)
8	事前学習	レッスン 18の予習 (30分)
	授業内容	レッスン 18 過去について話す
	事後学習	レッスン 18の復習 (30分)
9	事前学習	アクティビテ 1 ポイント1の予習 (30分)
	授業内容	アクティビテ 1 ポイント1 道を尋ねる
	事後学習	アクティビテ 1 ポイント1の復習 (30分)
10	事前学習	アクティビテ 1 ポイント2の予習 (30分)
	授業内容	アクティビテ 1 ポイント2 パリの観光名所
	事後学習	アクティビテ 1 ポイント2の復習 (30分)
11	事前学習	アクティビテ 2 ポイント1の予習 (30分)
	授業内容	アクティビテ 2 ポイント1 レストランで注文する
	事後学習	アクティビテ 2 ポイント1の復習 (30分)
12	事前学習	アクティビテ 2 ポイント2の予習 (30分)
	授業内容	アクティビテ 2 ポイント2 メニュー
	事後学習	アクティビテ 2 ポイント2の復習 (30分)
13	事前学習	アクティビテ 3 ポイント1の予習 (30分)
	授業内容	アクティビテ 3 ポイント1 お店で買い物をする
	事後学習	アクティビテ 3 ポイント1の復習 (30分)
14	事前学習	アクティビテ 3 ポイント2の予習 (30分)
	授業内容	アクティビテ 3 ポイント2 数量と値段
	事後学習	アクティビテ 3 ポイント2の復習 (30分)
15	事前学習	後期終了したテキストの総復習 (30分)
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り
	事後学習	後期終了した学習内容を確認する。(30分)

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I B	担当者	プピ ダミアン	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	基本的なフランス語およびフランスの文化に触れる授業になります。フランスと日本の共通点と相違点、ベーシックな知識を得ることを目指す。 フランス語が初めての学生にこの一年間で必要なボキャブラリーと文法を勉強する。レッスンを題材にして会話を中心にする。					
授業目的・到達目標	フランスと日本の共通点と相違点、ベーシックな知識を養成することを目的とします。 この一年間で必要なボキャブラリーと文法を理解できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	フランス語が初めてとする人も、基礎の知識を深めたい人にも対応しています。					
授業方法	授業での活動的な参加は求められている（出席だけでは参加になりません） 毎週グループで会話の作成・発表を行います。 フィードバックは授業内において行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		授業参加度20%、そして発表60%（表現力、文法、イントネーション、それぞれ20%） 先生との対話20%（1対1で質問のやり取りなど、理解度と表現力の評価）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	白水社		Pascal au Japon （パスカル・オ・ジャポン） ISBN 978-4-560-06083-4		
	備考					
参 考 書	NHK ラジオ講座及びテレビ講座を活用しましょう。					
オフィスアワー	授業後に質問を受け付ける。 授業時間：木曜 1 ・ 2 限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	一学期全体の範囲で今まで習得した会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	後期の授業のオリオンテーション。簡単な復習。
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
2	事前学習	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	家族について語る 2（指示形容詞、動詞の活用）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
3	事前学習	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	年齢を言う（数字、疑問副詞）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
4	事前学習	授業開始前、前回の会話文を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	時刻を言う（表現、数え方、前置詞）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）

5	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	人を紹介する1（補語人称代名詞）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
6	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	人を紹介する2（補語人称代名詞）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
7	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	日常生活の表現 1（代名動詞）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
8	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	日常生活の表現2（近接未来）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
9	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	量を表す（部分冠詞、中世代名詞）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
10	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	天候を言う（中世代名詞2、命令形）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
11	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	比較する（比較級、最上級）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
12	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	過去のことを語る1（複合過去形）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
13	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	過去のことを語る2（複合過去形）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
14	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	未来のことを語る1（単純未来形）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）
15	事前学習	授業開始前、前回の会話を再チェックし、発音練習を行うこと。授業開始は発表からになります。（30分）
	授業内容	未来のことを語る2（単純未来形）
	事後学習	授業で習得した表現を付属CDで再確認して発音の練習を行うこと。なお、付属問題集を指定された範囲で解答する。（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(仏) I B(木曜3時限)	担当者	C. ルヌール	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------------------	-----	---------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業はフランス語の発音、イントネーションを重点的に練習しながら日常的な会話に必要な語彙や表現を覚えていきます。					
授業目的・到達目標	初級フランス語の読み、書き、聞き、話す能力を養成することを目的とする。フランスと日本のコミュニケーションとの違いを意識するのも目的になっている。フランス語圏の人たちを知り合う時にフランス語の簡単な会話ができることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	30人以内に限定 コミュニケーションの好きな学生を対象とした授業である。授業に積極的に参加することは評価される。					
授業方法	会話テーマは日常の話題です。学習形態：まず発音練習、会話ドリル（表現を何度も繰り返し練習する）、会話練習、リスニングと最後に練習問題。時間を許す限りフランス文化を紹介します。授業言語はフランス語と日本語の併用。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業中のテスト：ペーパーテスト（15%）会話（15%）授業への積極的参加度（20%） 期末テスト：口頭（30%）筆記（20%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2012	アルマ		Moi, je... コミュニケーション		Bruno Vannieuwenhuyse
	備考					
参考書	なし					
オフィスアワー	授業中やその前後、学生からの質問に対応します。 授業時間：木曜3・4限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ウェブサイト(www.moi-je-multimedia.com)で前期の単語を聞いて、繰り返す（30分）
	授業内容	前期のレッスンの練習問題
	事後学習	ウェブサイト(www.moi-je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
2	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Leçon 5 ペット・持ち物・家族について話す
	事後学習	ウェブサイト(www.moi-je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
3	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Leçon 5 ペット・持ち物・家族について話す
	事後学習	ウェブサイト(www.moi-je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
4	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Leçon 5 ペット・持ち物・家族について話す
	事後学習	ウェブサイト(www.moi-je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）

5	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Leçon 6 科目・先生について話す
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
6	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Leçon 6 科目・先生について話す
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
7	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Leçon 6 科目・先生について話す
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
8	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Leçon 7 食べ物について話す
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
9	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Leçon 7 食べ物について話す
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
10	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Leçon 7 食べ物について話す
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
11	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Activité 2 レストランで注文する
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
12	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Activité 2 レストランで注文する
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
13	事前学習	レッスンの単語を調べて発音すること（30分）
	授業内容	Activité 2 レストランで注文する
	事後学習	ウェブサイト(www.moi je-multimedia.com)で単語を聞いて、繰り返して覚えること（30分）
14	事前学習	試験勉強（60分）
	授業内容	試験及び解説 まとめ、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）
15	事前学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）
	授業内容	まとめ、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅡA	担当者	G. デルメール	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	簡単なフランス語で人とコミュニケーションが取れるような授業です。				
授業目的・到達目標	フランス語の初歩的知識のある学習者を対象としたコースです。読む・書く・聞く・話すの四技能にわたる調和の取れたフランス語の語学力を養成することを目的としています。 簡単なフランス語で人とコミュニケーションが取れるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	授業への参加を重視します。				
授業方法	ゆっくりした進度の教科書を用い、これに沿って授業を進めます。 フィードバックは授業内において行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	(60%) 前期の終わりに学期に身に着けたフランス語を使ってテストがあります。 (40%) 授業への参加と宿題は総合評価の40%となります。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2014	Hachette	Totem 1 (livre de l'élève)		Marie-José Lopes
	備考				
参考書	久松 健一 携帯く万能＞フランス語文法 出版社：駿河台出版社				
オフィスアワー	授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。 授業時間：金曜 4・5 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読んで、授業のイメージをつかんでおくこと。(30分)
	授業内容	授業方法の説明
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)
2	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)
	授業内容	Leçon 9 : Et pour vous ? レストランで注文する
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)
3	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)
	授業内容	Leçon 9 : Et pour vous ? レストランで注文する(続き)
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)
4	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)
	授業内容	Leçon 10 : À Paris パリの観光
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)

5	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 10 : À Paris 天気の説明
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
6	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 11 Métro Odéon 約束をとる
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
7	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 11 Métro Odéon 時間
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
8	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 13 : Ça vous plait ? 服を描写する
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
9	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 13 : Ça vous plait ? ファッション
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
10	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 14 : Qu'est-ce qu'on mange ? 容量を言う
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
11	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 14 : Qu'est-ce qu'on mange ? レシピ
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
12	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 15 : Au marché 買い物
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
13	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 15 : Au marché 買い物（続き）
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
14	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
15	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(仏)ⅡB	担当者	G. デルメール	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	----------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	簡単なフランス語で人とコミュニケーションが取れるような授業です。				
授業目的・到達目標	フランス語の初歩的知識のある学習者を対象としたコースです。読む・書く・聞く・話すの四技能にわたる調和の取れたフランス語の語学力を養成することを目的としています。 簡単なフランス語で人とコミュニケーションが取れるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	授業への参加を重視します。				
授業方法	ゆっくりした進度の教科書を用い、これに沿って授業を進めます。 フィードバックは授業内において行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	(60%) 後期の終わりに学期に身に着けたフランス語を使ってテストがあります。 (40%) 授業への参加と宿題は総合評価の40%となります。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2014	Hachette		Totem 1 (livre de l'élève)	Marie-José Lopes
	備考				
参 考 書	久松 健一 携帯く万能＞フランス語文法 出版社：駿河台出版社				
オフィスアワー	授業に関する質問・相談は、授業の前後に対応する。 授業時間：金曜 4・5 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)
	授業内容	前学期の復習
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)
2	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)
	授業内容	Leçon 17 : Et une comédie ? 自分の好みを表現する
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)
3	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)
	授業内容	Leçon 17 : Et une comédie ? 未来の話をする
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)
4	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。(30分)
	授業内容	Leçon 18 : Personnalités 人を描写する(見かけ/正確)
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。(30分)

5	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 18 : Personnalités 人を描写する（見かけ/正確）（続き）
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
6	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 19 : Le livre du jour 過去の話をする
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
7	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 19 : Le livre du jour 過去の話をする（続き）
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
8	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 21 : Le lycée, c'est fini ! 専攻を説明する
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
9	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 21 : Le lycée, c'est fini ! 驚きを表現する
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
10	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 22 : les vacances 思い出を語る
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
11	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 22 : les vacances 頻度を表現する
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
12	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	Leçon 23 : Erasmus 相談する
	事後学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
13	事前学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
	授業内容	Leçon 23 : Erasmus 必要さを表現する
	事後学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
14	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）
15	事前学習	前回学んだ事項の練習問題を可能なかぎりやっておく。（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	新しく学んだ文法事項と語彙を整理して頭に入れる。（30分）

科目名	中国語基礎表現A	担当者	小林 光考	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中国語を初めて学ぶ学生を対象に、発音を中心に中国語の基礎力を固める。中国語とはどういった言語なのか？ということとをまず発音習得から開始し、後に文法、語彙の面においても合わせて習得する。中国語のコミュニケーションに必要な、書く、聞く、話すの3分野の初級基礎能力を表現(発音)を中心に身に付ける。			
授業目的・到達目標	【授業目的】中国語の発音の基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】基礎的な文法力及び語彙力を獲得し、中国語の発音をピンイン通りに読むことができることを目標とする。 関連DP及びCP:外国語科目領域 6			
履修条件	単位取得だけの為ではなく中国語を進んで学習し、習得したいという意欲を持っている事。授業に関する決まり(欠席や遅刻、私語、居眠り、授業以外の事をしないなど)を守る事。初回の授業には開始時より必ず出席している事。			
授業方法	先に文法の説明を行いその後、学生を指名して音読、本文訳をさせ、練習問題等を解いて教科書を進めて行く。また同時に中国語学習に有用な時事面、文化面などの知識も合わせて教授していく。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	学期末試験(リスニングを含む) 60%。本文音読テスト及びピンイン書き取り小テスト 20%。平常点(授業態度、宿題の履行など授業への参加度) 20%。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	白水社	はじめまして！中国語	喜多山幸子・鄭幸枝
	備考			
参考書	【参考書】『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著、東方書店刊、『完全マスター中国語文法改訂版』瀬戸口律子著、語研刊【辞典】状況によって中日辞典を使用する場合がある。具体的なものについては授業中に紹介する。			
オフィスアワー	授業開始前(教員控室)又は授業終了後(教室)にて。 授業時間：木曜1・2限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスと教科書を読んで、講義の全体をつかんでおく。中国語とはどのようなものなのかを調べておく。(30分)
	授業内容	①ガイダンス(授業の進め方等授業概要説明)②中国語について(発音・文字・方言など)の概略を説明する。
	事後学習	ガイダンス(授業の進め方等)の確認、発音、文字(簡体字)の理解確認。(30分)
2	事前学習	中国語の発音・文字(簡体字)を再度確認する。(30分)
	授業内容	発音習得 声調・単母音について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	声調、単母音の習得確認。(60分)
3	事前学習	声調、単母音について、教科書で再度確認。(60分)
	授業内容	発音習得 ①子音、有気音・無気音について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	①子音、有気音・無気音の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。(60分)
4	事前学習	①子音、有気音・無気音について、教科書で再度確認。(60分)
	授業内容	発音習得 ②子音、有気音・無気音・複合母音について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	②子音、有気音・無気音・複合母音の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。(60分)

5	事前学習	②子音、有気音・無気音・複合母音について、教科書で再度確認。（60分）
	授業内容	発音習得 鼻母音・声調の変化・er化・軽声等について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	鼻母音・声調の変化・er化・軽声等の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。（60分）
6	事前学習	鼻母音・声調の変化・er化・軽声等について、教科書で再度確認、第1回ビンイン書き取りテスト準備、第1課①校門で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（120分）
	授業内容	第1課① 校門で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。 第1回ビンイン書き取りテスト（母音部）
	事後学習	第1課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第1回ビンイン書き取りテスト見直し。（120分）
7	事前学習	第2回ビンイン書き取りテスト準備、第1課文法事項等について、教科書で再度確認、第1課② 校門で、第2課①廊下で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（120分）
	授業内容	第1課② 校門で、第2課① 廊下で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。 第2回ビンイン書き取りテスト（子音b、p、m、f部）
	事後学習	第1課全事項の習得確認、第2課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第2回ビンイン書き取りテスト見直し。（120分）
8	事前学習	第3回ビンイン書き取りテスト準備、第2課文法事項等について、教科書で再度確認、第2課② 廊下で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（120分）
	授業内容	第2課② 廊下で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。 第3回ビンイン書き取りテスト（子音d、t、n、l部）
	事後学習	第2課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第3課ビンイン書き取りテスト見直し。（120分）
9	事前学習	第4回ビンイン書き取りテスト準備、第3課① キャンパスで 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（120分）
	授業内容	第3課① キャンパスで について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。 第4回ビンイン書き取りテスト（子音g、k、h部）
	事後学習	第3課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第4回ビンイン書き取りテスト見直し。（120分）
10	事前学習	第5回ビンイン書き取りテスト準備、第3課文法事項等について、教科書で再度確認、第3課② キャンパスで、第4課① 携帯を見ながら 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（120分）
	授業内容	第3課② キャンパスで、第4課① 携帯を見ながら について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。 第5回ビンイン書き取りテスト（子音j、q、x部）
	事後学習	第3課全事項の習得確認、第4課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第5回ビンイン書き取りテスト見直し。（120分）
11	事前学習	第6回ビンイン書き取りテスト準備、第4課文法事項等について、教科書で再度確認、第4課② 携帯を見ながら 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（120分）
	授業内容	第4課② 携帯を見ながら について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。 第6回ビンイン書き取りテスト（子音zh、ch、sh、r部）
	事後学習	第4課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第6回ビンイン書き取りテスト見直し。（120分）
12	事前学習	第7回ビンイン書き取りテスト準備、第5課① 学生食堂で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（120分）
	授業内容	第5課① 学生食堂で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。 第7回ビンイン書き取りテスト（子音z、c、s部）
	事後学習	第5課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第7回ビンイン書き取りテスト見直し。（120分）
13	事前学習	第5課文法事項等について、教科書で再度確認、第5課② 学生食堂で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第5課② 学生食堂で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。 前期授業総復習、教科書本文音読テスト練習
	事後学習	第5課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、前期授業における習得の総確認、第1～7回ビンイン書き取りテスト見直し。（90分）
14	事前学習	教科書本文音読テスト準備。（120分）
	授業内容	教科書本文音読テスト及び前期学習内容の振り返り。
	事後学習	教科書本文音読テストの問題点改善。（90分）
15	事前学習	教科書の総復習、前期試験準備。（180分）
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り。
	事後学習	これまでの学習内容を確認、前期試験の問題点改善、夏休み課題。（90分）

科目名	中国語基礎表現A	担当者	篠田 幸夫	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代中国語の発音と文法の基礎を学ぶ。			
授業目的・到達目標	【授業目的】聞く・話す・読む・書くの四技能の中で特に聞く・話す能力を養成することを目的とする。 【到達目標】四声を聞き分けまた言い分けられる。母音・子音の発音の仕方を説明できる。第三声の声調変化を説明できる。「a」「i」「u」の複数ある発音について説明できる。また形容詞・動詞述語文の基本語順や、連体・連用修飾語の位置を説明できる。各課の本文を暗誦できるようになることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域 6 休まず授業に参加できる。授業以外に1回10分以上1週間に3回以上の復習を習慣化できる。授業に積極的に参加し失敗を恐れずに発音練習できる。小テストの準備ができる。私語を我慢できる。			
授業方法	学生が主体となって練習する機会を非常に多く取る。概ね以下の順に進める。重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳練習・中訳練習・暗唱対話練習・小テスト。【フィードバック方法】小テスト返却時にポイントを解説する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	期末試験50%、小テスト50%。私語・居眠り・練習しない・独自の判断で練習を終えてしまう場合は減点する。授業に出席することは大前提である。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	白水社	『はじめよう楽々中国語』	小林和代・韓軍
	備考			
参考書	『はじめての中国語』 相原茂著：講談社現代新書			
オフィスアワー	土曜日16：10～16：40（事前にメールでアポイントメントを取ること） shinoda.hanyu2019@gmail.com			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体を概観する。テキスト6・7ページを一読しておく。（20分）
	授業内容	中国語について 四声・単母音の発音練習を行う。
	事後学習	CDを使い四声・単母音の発音練習をする。（40分）
2	事前学習	CDを使い四声・単母音の発音練習をする。テキスト8～10ページを一読しておく。（15分）
	授業内容	子音の発音練習を行う。
	事後学習	CDを使い四声・単母音・子音の発音練習をする。（45分）
3	事前学習	CDを使い四声・単母音・子音の発音練習をする。テキスト11～14ページを一読しておく。（15分）
	授業内容	複合母音・鼻母音の発音練習を行う。
	事後学習	CDを使い子音・複合母音・鼻母音の発音練習をする。（45分）
4	事前学習	CDを使い子音・複合母音・鼻母音の発音練習をする。17・18ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き17・18ページの発音練習をする。（15分）
	授業内容	第3課前半 数字・月日・曜日の言い方と尋ね方を練習する。
	事後学習	18ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。数字・月日・曜日の言い方と尋ね方を何も見ないで言えるように練習する。（45分）

5	事前学習	19ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き19ページの発音練習をする。18ページの聞き取りができるように復習しておく。(15分)
	授業内容	第3課前半小テスト 第3課後半 時刻・時間の長さの言い方と尋ね方を練習する。
	事後学習	19ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。時刻・時間の長さの言い方と尋ね方を何も見ないで言えるように練習する。(45分)
6	事前学習	21・22ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き21・22ページの発音練習をする。19ページの聞き取りができるように復習しておく。(15分)
	授業内容	第3課後半小テスト 第4課前半 人称代名詞・姓名の言い方と尋ね方を練習する。
	事後学習	22ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。人称代名詞・姓名の言い方と尋ね方を何も見ないで言えるように練習する。(45分)
7	事前学習	23ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き23ページの発音練習をする。22ページの聞き取りができるように復習しておく。(15分)
	授業内容	第4課前半小テスト 第4課後半 動詞〈是〉、構造助詞〈的〉のはたらきとその前後の語順を説明できるようにする。
	事後学習	〈是〉のはたらきと語順、〈的〉のはたらきと語順を説明できるようにする。23ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。(45分)
8	事前学習	27・28ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き27・28ページの発音練習をする。23ページの聞き取りができるように復習しておく。(15分)
	授業内容	第4課後半小テスト 第5課前半 動詞述語文の語順を説明できるようにする。疑問詞〈誰〉〈什么〉の位置を説明できるようにする。
	事後学習	28ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。動詞述語文の語順を何も見ないで説明できるようにする。疑問詞〈誰〉〈什么〉の位置を何も見ないで説明できるようにする。(45分)
9	事前学習	29ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き29ページの発音練習をする。18・28ページの聞き取りができるように復習しておく。(30分)
	授業内容	第5課前半・第3課前半小テスト 第5課後半 〈這〉〈那〉の使い方を練習し、〈嗎〉がどのような疑問文で使えるか説明できるようにする。
	事後学習	29ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。(30分)
10	事前学習	31・32ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き31・32ページの発音練習をする。19・29ページの聞き取りができるように復習しておく。(30分)
	授業内容	第5課後半・第3課後半小テスト 第6課前半 六種の量詞と名詞の関係を覚える。動詞〈有〉の使い方を練習する。
	事後学習	32ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。六種の量詞と名詞の関係を何も見ないで説明できるように練習する。(30分)
11	事前学習	33ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き33ページの発音練習をする。22・32ページの聞き取りができるように復習しておく。(30分)
	授業内容	第6課前半・第4課前半小テスト 第6課後半 省略疑問文と反復疑問文とはどのような疑問文か説明できるようにする。
	事後学習	33ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。省略疑問文と反復疑問文とはどのような疑問文か説明できるようにする。(30分)
12	事前学習	37・38ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き37・38ページの発音練習をする。23・33ページの聞き取りができるように復習しておく。(30分)
	授業内容	第6課後半・第4課後半小テスト 第7課前半 場所を表す指示代名と動詞〈在〉の使い方を練習する。
	事後学習	38ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。場所を表す指示代名詞を何も見ないで言えるように練習する。動詞〈在〉の語順を説明できるように練習する。(30分)
13	事前学習	39ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き39ページの発音練習をする。28・38ページの聞き取りができるように復習しておく。(30分)
	授業内容	第7課前半・第5課前半小テスト 第7課後半 選択疑問文とはどのような疑問文か説明できるようにする。モノ・コトを表す指示代名詞を言えるように練習する。
	事後学習	39ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。モノ・コトを表す指示代名詞を何も見ないで言えるように練習する。選択疑問文とはどのような疑問文か説明できるようにする。(30分)
14	事前学習	20・24・26・30・34・36・40ページの練習問題を解いておく。(45分)
	授業内容	20・24・26・30・34・36・40ページの練習問題の解答合わせと誤答の分析をする。
	事後学習	間違えた個所の問題を解き直す。(15分)
15	事前学習	テキストの総復習(45分)
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。(15分)

科目名	中国語基礎表現A	担当者	白石 裕一	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	初級中国語。			
授業目的・到達目標	中国語を使って、簡単な日常会話をしたり、簡単な作文ができるよう、基本的な表現力を養成することを目的とする。具体的には、単語を約 200ほど覚え、それを正しく配列することができるようになることを目標とする。同時に正しい発音と中国語の正書法を学習する。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	特になし。			
授業方法	教科書に沿って進めていく。毎回単語テストを行う。 フィードバックは授業内において行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	授業内試験60% 授業内評価40%：単語テストなど40%。遅刻・早退は3回をもって1回の欠席とする。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2012	白帝社	基礎から学ぶ実践中国語	王学群・高麗貞
	備考			
参 考 書	『中日辞典 第3版』 講談社			
オフィスアワー	授業後に質問を受け付ける。 授業時間：月曜3・4限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（30分）
	授業内容	発音練習（1）単母音、声調
	事後学習	発音の復習をすること。（30分）
2	事前学習	苦手な発音を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	発音練習（2）単母音、複母音、子音、有気音、無気音
	事後学習	発音の復習をすること。（30分）
3	事前学習	苦手な発音を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	発音練習（3）そり舌音、鼻母音
	事後学習	発音の復習をすること。（30分）
4	事前学習	苦手な発音を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第1課：本文の翻訳、①人称代詞、②動詞述語文。発音練習（4）注意すべき発音
	事後学習	発音の復習をすること。（30分）

5	事前学習	苦手な発音を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第1課：③疑問を表す“ma”、④否定を表す“不”、練習問題。発音練習（5）声調の確認
	事後学習	発音の復習をすること。（30分）
6	事前学習	苦手な発音を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	発音の確認
	事後学習	発音の復習をすること（30分）
7	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第2課：本文の翻訳、①指示代詞（1）、②判断を表す“是”
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
8	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第2課：③連体修飾の“的”、④疑問詞疑問文、練習問題
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
9	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第3課：本文の翻訳、①数詞・曜日・年月日、②時刻
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
10	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第3課：③名詞述語文、④省略疑問文の“ne”、練習問題
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
11	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第4課：本文の翻訳、①指示代詞（2）、②存在文
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
12	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第4課：③形容詞述語文、④前置詞の“離”、練習問題
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
13	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第5課：本文の翻訳、①所有を表す“有”、②反復疑問文
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
14	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第5課：③ “的”の省略、家族の言い方、練習問題
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
15	事前学習	これまで学習してきた内容をすべて復習しておくこと。（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	きちんと理解していないところは再度復習しておくこと。（30分）

科目名	中国語基礎表現A	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業は中国語の発音から勉強し、語彙・表現など学生生活に密着したものを絞り、活用度の高い内容や中国の諸事情を短いセンテンスで紹介する。会話だけではなく、「別冊問題集」も付いているので、練習としても役に立つ。			
授業目的・到達目標	授業の目的：中国語の日常会話や基礎文法の習得を目的とする。 到達目標：簡単な会話や簡単な文章の読み書きと翻訳ができるようになる。中国語検定試験の準4級、4級の資格の取得が可能になる。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	なし			
授業方法	朗読、翻訳、会話、書きとりという方式で授業を進めていく。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	授業参加度（受講態度を含む）10%、平常点（宿題と授業中の小テスト）40%、前期末の授業内テスト50%。また、中国語検定試験の合格も成績の評価に加味する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2012年	白水社	（最新2訂版）中国語はじめの一步	竹島全吾 伊景春 竹島毅
	備考			
参考書	日中辞書、中日辞書			
オフィスアワー	授業の前・後、当該教室にて 授業時間：火曜 2 ～ 4 限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を購入し、目を通してください。（30分）
	授業内容	1、オリエンテーション 2、中国の概況 3、中国語の発音：短母音、声調
	事後学習	短母音、声調の復習 （30分）
2	事前学習	子音、複合母音の予習（30分）
	授業内容	発音：子音、複合母音
	事後学習	子音、複合母音の復習 （30分）
3	事前学習	鼻母音の予習 （30分）
	授業内容	発音：鼻母音、発音のトレーニング
	事後学習	発音の総復習 （30分）
4	事前学習	第1課の予習 （30分）
	授業内容	第1課 あなたは中国人ですか。 本文訳、ポイント 1. 人称代名詞 2. “是” の文
	事後学習	文法の復習 （30分）

5	事前学習	練習問題の予習（30分）
	授業内容	第1課 あなたは中国人ですか。 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習（30分）
6	事前学習	第2課の予習（30分）
	授業内容	第2課 これはなんですか。 本文訳、ポイント 1. 指示代名詞（1） 2. 疑問詞疑問文 3. “的”の用法 4. 副詞
	事後学習	文法の復習（30分）
7	事前学習	練習問題の予習（30分）
	授業内容	第2課 これはなんですか。 本文、トレーニング、
	事後学習	本文の復習（30分）
8	事前学習	第3課の予習（30分）
	授業内容	第3課 あなたはどこに行きますか。 本文訳、ポイント 1. 動詞の文 2. 「所有」を表わす“有” 3. 省略疑問の“呢”
	事後学習	文法の復習（30分）
9	事前学習	練習問題の予習（30分）
	授業内容	第3課 あなたはどこに行きますか。 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習（30分）
10	事前学習	第4課の予習（30分）
	授業内容	第4課 このバックはいくらですか。 本文訳、ポイント 1. 量詞 2. 指示代名詞（2） 3. 形容詞の文 4. “几”と“多少”
	事後学習	文法の復習（30分）
11	事前学習	練習問題の予習（30分）
	授業内容	第4課 このバックはいくらですか。 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習（30分）
12	事前学習	第5課の予習（30分）
	授業内容	第5課 あなたは夜用事がありますか。 本文訳、ポイント 1. 数字 2. 日付・時刻を表す語 3. 「動作の時点」を言う表現
	事後学習	文法の復習（30分）
13	事前学習	練習問題の予習（30分）
	授業内容	第5課 あなたは夜用事がありますか。 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習（30分）
14	事前学習	第1課～5課の復習（30分）
	授業内容	前期のまとめ（前期末授業内テスト）
	事後学習	問題点の復習（30分）
15	事前学習	前期の総復習（30分）
	授業内容	総括（前期学習内容の振りかえり）
	事後学習	これまでの学習内容の確認（30分）

科目名	中国語基礎表現A	担当者	福木 滋久	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中国語の履修、もしくは中国語学修と部活動の両立に困難を感じている者、あるいは事前抽選にあぶれてしまった者を対象に指導を行う。			
授業目的・到達目標	本授業は、中国語初心者について基礎表現を中心とした初歩的語学力を養成することを目的とする。受講者が中国語の基本的な表現を身につけ、簡単な中国語を聞き取ることができ、簡単な応答ができるようになる事を目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域6。			
履修条件	本クラスが中国語入門のクラスである事を理解し、かつ、本シラバスの内容を了解し担当者の指示に従って学修できる者。			
授業方法	簡単な会話を毎回練習して覚えてもらう（それらが期末口頭試験の課題文となる）。「成績評価欄」に記した「単位取得の最低要件」は遵守する。学期末のフィードバックは最終授業にて伝える。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業参加度（50%）、期末試験（50%：口頭試験のみ）。所定の授業参加度を満たし、前期の口頭試験に合格する事が単位取得の最低要件。詳細は授業にて	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	—	—	—	—
	備考	教科書は使用しない。学修サポートとしてインターネットサイトQuizlet にクラスを作成し、補助教材を提供する。参考書欄のURLを参照。利用には無料のユーザー登録が必要。		
参考書	書籍ではないが、Quizlet（https://quizlet.com/join/JefgDKbYC）にて補助教材を提供する。学修の参考にすること。			
オフィスアワー	月曜6限4限1033講堂（予定）。これは原則競技部所属の学生向けのオフィスアワーであり、競技部以外の学生向けのオフィスアワーは毎週火曜5限、1091講堂（予定）にて行う。いずれも、授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施する。（s-fukugi.2019@ceres.dti.ne.jp）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラパスをよく読み、Quizletに加入してA前期 予習(01)を確認（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業方法や評価方法の詳細 四声 A前期 重要例文(01)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet A前期 重要例文の(01)を練習し覚える（30分）
2	事前学習	Quizlet A前期 予習(02)で学習内容を確認（30分）
	授業内容	自分の姓名の漢字について中国語の字体・発音を調べる A前期 重要例文(02)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet A前期 重要例文の(02)を練習し覚える（30分）
3	事前学習	Quizlet A前期 予習(03)で学習内容を確認（30分）
	授業内容	A前期 重要例文(03)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet A前期 重要例文の(03)を練習し覚える（30分）
4	事前学習	Quizlet A前期 予習(04)で学習内容を確認（30分）
	授業内容	A前期 重要例文(04)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet A前期 重要例文の(04)を練習し覚える（30分）

5	事前学習	Quizlet A前期 予習(05)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	A前期 重要例文(05)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet A前期 重要例文の(05)を練習し覚える (30分)
6	事前学習	Quizlet A前期 予習(06)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	A前期 重要例文(06)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、QuizletA前期 重要例文の(06)を練習し覚える (30分)
7	事前学習	Quizlet A前期 予習(07)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	A前期 重要例文(07)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet A前期 重要例文の(07)を練習し覚える (30分)
8	事前学習	Quizlet A前期 予習(08)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	A前期 重要例文(08)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet A前期 重要例文の(08)を練習し覚える (30分)
9	事前学習	Quizlet A前期 予習(09)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	A前期 重要例文(09)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet A前期 重要例文の(09)を練習し覚える (30分)
10	事前学習	QuizletA 前期 予習(10)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	A前期 重要例文(10)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet A前期 重要例文の(10)を練習し覚える (30分)
11	事前学習	Quizlet A前期 予習(11)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	A前期 重要例文(11)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet A前期 重要例文の(11)を練習し覚える (30分)
12	事前学習	Quizlet A前期 予習(12)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	A前期 重要例文(12)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet A前期 重要例文の(12)を練習し覚える (30分)
13	事前学習	QuizletA前期 口頭試験課題文で疑問点を整理 (30分)
	授業内容	前期の復習 A前期 口頭試験課題文の練習①
	事後学習	前期の学修を振り返り、QuizletA前期 前期口頭試験課題文を繰り返し練習する (30分)
14	事前学習	Quizlet A前期口頭試験課題文の暗唱に取り組む (30分)
	授業内容	前期のまとめ A前期 口頭試験課題文の練習②
	事後学習	前期の学修を振り返り、Quizlet A前期口頭試験課題文の暗唱に取り組む (30分)
15	事前学習	Quizlet A前期 口頭試験課題文で前期口頭試験の準備、苦手部分の克服 (30分)
	授業内容	◎前期口頭試験 総括・振り返り
	事後学習	Quizlet A前期 口頭試験課題文を中心に復習する (30分)

科目名	中国語基礎表現A	担当者	吉田 雅子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	初級中国語の文章を読んで意味を理解し、聞いてわかるようにする。さらに、簡単な中国語作文が書けるようにするために、テキストを使って学ぶ。					
授業目的・到達目標	母語以外の言語を学習することで、自国の言語や文化を客観視できる能力を養い、世界に発信できる語学力を身に着け、コミュニケーション能力を養成する。具体的には、中検準4級合格に必要な力をつけることを目的とする。さらに、中検4級合格を到達目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	特に無いが、初習者対象。					
授業方法	基本的には、テキストに沿って行う。会話練習には、適宜単語を提示し練習に加える。音読と聞き取りに中心において、授業を進める。試験のフィードバックは、試験終了後に答え合わせを行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		小テストほか20%、読みテスト20%、期末筆記テスト60%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	朝日出版社		入門カレント中国語 ISBN 978 - 4 - 255 - 45313 - 2 C1087 ￥2400		遠藤光暁監修
	備考					
参 考 書	『中日辞典』小学館					
オフィスアワー	月曜日の1時間目の授業終了後、教室で、質問・相談を受け付ける。（10時30分から40分まで）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の発音篇を見ておく、講義の全体を見ておく（30分）
	授業内容	年間授業予定、授業方法、評価について 中国語とは。 単母音、声調、複母音
	事後学習	単母音6個を復習し、ローマ字の区別をする（30分）
2	事前学習	教科書の発音篇を見ておく（30分）
	授業内容	子音、鼻母音
	事後学習	子音21個の区別をする（ピンインで書いてみる）（30分）
3	事前学習	声調の区別を確認する（30分）
	授業内容	声調の組み合わせ
	事後学習	自分で組み合わせの音調を確認し、練習する（30分）
4	事前学習	テキストのポイントを見ておく（30分）
	授業内容	第1課「参観熊猫基地」名詞述語文、疑問文
	事後学習	「～である」の使い方を復習する（30分）

5	事前学習	形容詞を使った文を見ておく（30分）
	授業内容	第2課「九寨溝風景区」 形容詞文、副詞
	事後学習	形容詞の文型を整理する（30分）
6	事前学習	動詞述語文の形を見ておく（30分）
	授業内容	第3課「請客」 動詞述語文、疑問文
	事後学習	「～をしたい」の表現を復習する（30分）
7	事前学習	所有をあらわす文の形を見ておく（30分）
	授業内容	第4課「兄弟姉妹」 所有表現
	事後学習	反復疑問文の復習をする（30分）
8	事前学習	音源を聞いておく（30分）
	授業内容	復習1から4課
	事後学習	1から4の会話文を読めるようにする（30分）
9	事前学習	時間詞を確認する（30分）
	授業内容	第5課「去西藏」 前置詞、時刻
	事後学習	「時間詞」と時刻の区別をする（30分）
10	事前学習	動詞と目的語の組み合わせを復習する（30分）
	授業内容	第6課「バター茶を飲む」進行形、連動文
	事後学習	連動文の文型を考える（30分）
11	事前学習	音源を聞いておく（30分）
	授業内容	復習 5, 6課
	事後学習	5, 6課の本文を読めるようにする（30分）
12	事前学習	時間量を表わす文を見ておく（30分）
	授業内容	第7課「ブダラ宮」 主述述語文、時間量
	事後学習	時間と時間量の区別をする（30分）
13	事前学習	比較文の形を見ておく（30分）
	授業内容	第8課「旅行」 前置詞、比較文
	事後学習	比較文の文型を復習する（30分）
14	事前学習	音源を聞いておく（30分）
	授業内容	春学期の復習
	事後学習	本文を読めるようにする（30分）
15	事前学習	春学期のまとめをする（30分）
	授業内容	前期期末テスト（テキスト第1課から第8課まで） 内容確認とまとめ
	事後学習	聞き取りの問題の内容をノートに書いておく（30分）

科目名	中国語基礎表現A	担当者	何 秋平	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中国語漢字の発音、文章の簡単な読み書き、リスニング、及び会話を習得します。			
授業目的・到達目標	中国語の発音、基本の会話力を養成することを目的とする。 会話中心の授業ですので、練習を多くし、場面の設定をきちんと説明して正しく使えるように努力する。一年を通じ、覚えてほしい基本的な単語、表現を段どりを踏んで進めていく。 中国語検定試験準四級に合格できることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域6 授業参加度を重視する。訓練を重視するので、積極的な参加が必要。			
授業方法	平易な中国語を可能な限りたくさん使い、中国語に親しめるよう楽しく授業を進めたい。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業内での筆記試験（70%） 平常点（30%）
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014年02月 26日刊行	駿河台出版	改訂版「Campus漢語」	原瀬 隆司
	備考			
参考書	『中日・日中辞典』			
オフィス アワー	授業後に質問を受け付けます。 授業時間：土曜1・2限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書とシラバスに目を通してください（30分）
	授業内容	ガイダンス（年間講義計画、成績評価の方法、授業方法紹介など） 発音練習
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
2	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	発音について 練習
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
3	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第1課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
4	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第1課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）

5	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第2課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
6	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第2課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
7	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第3課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
8	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第3課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
9	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第4課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
10	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第4課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
11	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第5課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
12	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第5課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
13	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第6課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
14	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第6課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
15	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）

科目名	中国語基礎表現A	担当者	劉 秋佳	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	中国語ゼロから始める方を対象として、発音、基礎文法と基礎表現を中心として、初級レベルの中国語の知識と学力を身につける。 中国語の基礎から学ぶ。言葉の文化背景と国の一般事情もふれあい。			
授業目的・到達目標	基礎文法と基礎表現を中心として、初級レベルの中国語の知識と学力を養成することを目的とする。 1. 中国語の発音を身につけ 2. 簡単な日常会話ができる 3. 基礎文法を理解する 4. 中国歳時、時事、精神文化を理解する 5. 中国語で自己紹介ができる。以上のことを目標としている。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	3分の2以上の出席は必要。積極的に授業での練習に参加すること、出席状況、授業での態度が悪いと成績の評価ができなくなる。			
授業方法	発音と基本表現の会話練習を中心に授業を楽しく行う。授業中で一人ずつ練習をさせ、発音、口頭練習や会話練習、質問への答えなどに対して、毎回A、B、C 三つのレベルで評価します。 フィードバックは授業内において行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	この授業では授業中の発言、口頭練習の受け答えなども評価の重要な対象です。授業時の応答30%、小テスト60%、勉強姿勢と提出もの：10%になる。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	平成31年度	飛鳥文化出版	[中国語耳留学] 基礎編 CD2枚付け ¥2600＋税	陳洲拳・于曉飛・劉渴水
	備考	使用教科書は授業の時に指示します。		
参考書	中日・日中辞書 具体的には指定しない			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業後講堂にて受け付ける。 授業時間：木曜3・4・5限 (メールアドレス ryu.shukali@nihon-u.ac.jp /Wechat:koku811)			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	本授業のシラバスを事前に読んでください (1時間)
	授業内容	導 入 中国と中国語について紹介する 中国語の特徴と勉強方法、中国の歴史文化と現代社会
	事後学習	中国について、基本状況と中国語の特徴をまとめて、レポートを提出します (1時間)
2	事前学習	教科書の付けたCDの発音部分を聞き流してください (1時間)
	授業内容	第1回 (発音一) 韻母、四声、単母音、複母音(授業用語)
	事後学習	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい (1時間)
3	事前学習	発音練習CDの学習予定部分を聞き流してください (1時間)
	授業内容	第2回 (発音二) 声母(子音)と鼻母音(声調符号の付け方)、
	事後学習	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい (1時間)
4	事前学習	発音練習CDの学習予定部分を聞き流してください (1時間)
	授業内容	第3回 (発音三) 特殊発音、声調の変化 (授業用語)
	事後学習	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい (1時間)

5	事前学習	教科書の練習と配った練習問題を復習してください (1時間)
	授業内容	第4回（発音四） 発音の総合練習 発音部分の小テスト
	事後学習	練習とテストのできないところを確認して、できるまでに練習してください (1時間)
6	事前学習	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください (1時間)
	授業内容	第1課 挨拶
	事後学習	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい (1時間)
7	事前学習	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください (1時間)
	授業内容	第2課 姓名
	事後学習	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい (1時間)
8	事前学習	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください (1時間)
	授業内容	第3課 身分
	事後学習	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい (1時間)
9	事前学習	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい (1時間)
	授業内容	会話の応用練習 グループで会話練習を確認させて評価します
	事後学習	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい (1時間)
10	事前学習	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください (1時間)
	授業内容	第4課 日付
	事後学習	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい (1時間)
11	事前学習	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください (1時間)
	授業内容	第5課 時刻
	事後学習	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい (1時間)
12	事前学習	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい (1時間)
	授業内容	会話の応用練習
	事後学習	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい (1時間)
13	事前学習	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください (1時間)
	授業内容	第6課 家庭
	事後学習	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい (1時間)
14	事前学習	学習予定部分の単語と文法解釈を読んで予習してください (1時間)
	授業内容	第7課 年齢
	事後学習	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい (1時間)
15	事前学習	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください (1時間)
	授業内容	前期総復習
	事後学習	ミスした所とできない部分を確認して、今度間違いないように注意します。 (1時間)

科目名	中国語基礎表現A	担当者	汪 鴻祥	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業は初級中国語のスピーキングとリスニングを基本内容とし、正確な発音を把握し、初級の文法を理解すると同時に、「話すと聴く」の訓練を重視します。発音段階では母音や子音などのピンインをしっかりと勉強します。会話段階では毎回一つテーマを巡って関連の単語や文法を勉強し、また練習を行います。日常学習状況と期末試験結果により総合評価をします。				
授業目的・到達目標	この授業を通して、会話力と聴取力を中心とする初級中国語能力の養成を目的とします。 正確な発音を把握し、初級の文法を理解できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	中国語や中国文化に興味を持つ者を対象とします。 履修者30名に限定します。				
授業方法	指定のテキストを参照しつつ授業をしますが、中国関連の話題を取り入れ、楽しく中国語会話の練習を行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	期末テストの結果により評価します（70%） 練習、発表など日常の学習状況により評価します（30%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018年度	白帝社		大学生生活 中国語基礎 改訂版 2018年3月3刷発行	汪鴻祥 主編
	備考				
参考書	辞書が必要です。開講時指示します。				
オフィスアワー	授業中に質問を受け付ける。 授業時間：火曜1・2限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキスト 6－7 ページ（中国の基本データと中国の基本知識）と発音編の予習（30分）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	授業内容の復習（30分）
2	事前学習	発音編の予習（30分）
	授業内容	発音と練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
3	事前学習	発音編の予習（30分）
	授業内容	発音と練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
4	事前学習	発音編の予習（30分）
	授業内容	発音と練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）

5	事前学習	発音編の予習（30分）
	授業内容	発音と練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
6	事前学習	第1課：「初次面」の予習（30分）
	授業内容	第1課：「初次面」 会話と練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
7	事前学習	第2課：「迎新生」の予習（30分）
	授業内容	第2課：「迎新生」 会話と練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
8	事前学習	第3課：「我的一家」の予習（30分）
	授業内容	第3課：「我的一家」 会話と練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
9	事前学習	第4課：「生日快」の予習（30分）
	授業内容	第4課：「生日快」 会話と練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
10	事前学習	第5課：「漫学」の予習（30分）
	授業内容	第5課：「漫学」 会話と練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
11	事前学習	第6課：「参校园」の予習（30分）
	授業内容	第6課：「参校园」 会話と練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
12	事前学習	第7課：「趣好」の予習（30分）
	授業内容	第7課：「趣好」 会話と練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
13	事前学習	第8課：「学」の予習（30分）
	授業内容	第8課：「学」 会話と練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
14	事前学習	総合復習の準備（30分）
	授業内容	期末総合復習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
15	事前学習	試験の準備（30分）
	授業内容	期末総括試験及びまとめ、振返り
	事後学習	前期授業内容の復習（30分）

科目名	中国語基礎表現B	担当者	小林 光考	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期から継続する授業で、中国語基礎表現Aにおいて発音を中心に身に付けた基礎表現力を礎として、更にしっかりとした文法力や語彙力などの面における総合的な中国語基礎力の強化、完成を行っていく。			
授業目的・到達目標	【授業目的】中国語の発音の基礎力及び応用力を養成することを目的とする 【到達目標】中国語の発音をピンイン通りに読めるばかりではなく、その発音の”自然さ”も追及し、合わせて基礎的な文法力及び語彙力を獲得できることを目標とする。 関連DP及びCP:外国語科目領域 6			
履修条件	単位取得だけの為ではなく中国語を進んで学習し、習得したいという意欲を持っていること。授業に関する一般的な決まり（規定数以上の欠席や遅刻、私語、居眠り、授業以外の事をしないなど）を守ることが出来ること。			
授業方法	先に文法の説明を行いその後、学生を指名して本文訳、練習問題等を解いて教科書を進めて行く。また同時に中国語学習に有用な時事面、文化面などの知識も合わせて教授していく。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	学期末試験（リスニングを含む）60%。本文音読テスト15%。平常点（授業態度、積極性(予習や宿題の履行など授業への参加度)）25%。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	白水社	はじめまして！中国語	喜多山幸子、鄭幸枝
	備考			
参考書	【参考書】『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著、東方書店刊、『完全マスター中国語文法改訂版』瀬戸口律子著、語研刊【辞典】状況によって中日辞典を使用する場合がある。具体的なものについては授業中に紹介する。			
オフィスアワー	授業開始前（教員控室）又は授業終了後（教室）にて。 授業時間：木曜1・2限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書発音部及び第1～5課全事項について、再度確認。（60分）
	授業内容	前期授業復習、前期試験解説。
	事後学習	前期試験の問題点改善、授業の進め方の確認。（60分）
2	事前学習	第6課① 王先生の研究室で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第6課① 王先生の研究室で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第6課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）
3	事前学習	第6課文法事項等について、教科書で再度確認、第6課② 王先生の研究室で、第7課① コンビニで 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第6課② 王先生の研究室で、第7課① コンビニで について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第6課全事項の習得確認、第7課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）
4	事前学習	第7課文法事項等について、教科書で再度確認、第7課② コンビニで 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第7課② コンビニで について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第7課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）

5	事前学習	第8課① バス停で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第8課① バス停で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第8課文法事項等の習得の確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）
6	事前学習	第8課文法事項等について、教科書で再度確認、第8課② バス停で、第9課① 放課後に 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第8課② バス停で、第9課① 放課後に について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第8課全事項の習得確認、第9課文法事項等の習得の確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）
7	事前学習	第9課文法事項等について、教科書で再度確認、第9課② 放課後に 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第9課② 放課後に について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第9課全事項の習得の確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）
8	事前学習	第10課① 卓球の中継を見ながら 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第10課① 卓球の中継を見ながら について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第10課文法事項等の習得の確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）
9	事前学習	第10課文法事項等について、教科書で再度確認、第10② 卓球の中継を見ながら 、第11課① ディズニーランドで待ち合わせ 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第10課② 卓球の中継を見ながら、第11課① ディズニーランドで待ち合わせ について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第10課全事項の習得の確認、第11課文法事項等の習得の確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）
10	事前学習	第11課文法事項等について、教科書で再度確認、第11課② ディズニーランドで待ち合わせ 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第11課② ディズニーランドで待ち合わせ について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第11課全事項の習得の確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）
11	事前学習	第12課① カフェテラスで 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第12課① カフェテラスで について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第12課文法事項等の習得の確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）
12	事前学習	第12課文法事項等について、教科書で再度確認、第12課② カフェテラスで 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第12課② カフェテラスで について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第12課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）
13	事前学習	第6～12課の習得確認。（120分）
	授業内容	後期授業総復習。
	事後学習	後期授業における習得の総確認。（120分）
14	事前学習	教科書本文音読テスト準備。（120分）
	授業内容	教科書本文音読テスト及び後期学習内容の振り返り。
	事後学習	教科書本文音読テストの問題点改善。（90分）
15	事前学習	教科書の総復習、後期試験準備。（180分）
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り。
	事後学習	これまでの学習内容を確認、後期試験の問題点改善、中級に向けた春休みにおける学習。（90分）

科目名	中国語基礎表現B	担当者	篠田 幸夫	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代中国語の発音と文法の基礎を学ぶ。			
授業目的・到達目標	【授業目的】聞く・話す・読む・書くの四技能の中で特に聞く・話す能力の養成を目的とする。 【到達目標】四声を聞き分けまた言い分けられる。第三声の声調変化や「a」「i」「u」の複数ある発音について説明できる。また形容詞述語文・比較文の基本語順や、連体・連用修飾語の位置を説明できる。各課の本文を暗誦できるようになることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域 6 休まず授業に参加できる。授業以外に1回10分以上1週間に3回以上の復習を習慣化できる。授業に積極的に参加し失敗を恐れずに発音練習できる。小テストの準備ができる。私語を我慢できる。			
授業方法	学生が主体となって練習する機会を非常に多く取る。概ね以下の順に進める。重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳練習・中訳練習・暗唱対話練習・小テスト。【フィードバック方法】小テスト返却時にポイントを解説する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	期末試験50%、小テスト50%。私語・居眠り・練習しない・独自の判断で練習を終えてしまう場合は減点する。出席すること大前提である。11月の中国語検定試験4級合格者には加点する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	白水社	『はじめよう楽々中国語』	小林和代・韓軍
	備考			
参考書	『7カ国語をモノにした人の勉強法』橋本陽介著：祥伝社新書			
オフィスアワー	土曜日16：10～16：40（事前にメールでアポイントメントを取ること） shinoda.hanyu2019@gmail.com			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	CDを聞き四声・単母音・子音及び第3課から第5課までの本文とポイントの例文を正確に発音できるように復習しておく。第3課から第5課までのポイントの内容を説明できるように復習しておく。（30分）
	授業内容	総復習 四声・単母音・子音・声調の変化、5課までの発音とポイントの確認をする。
	事後学習	正確に発音できなかった場所をCDを聞き直して練習しておく。忘れている単語を覚えなおす。説明できなかったポイントを説明できるようにする。（30分）
2	事前学習	CDを聞き第6・7課の本文とポイントの例文を正確に発音できるように復習しておく。第6・7課のポイントの内容を説明できるように復習しておく。（30分）
	授業内容	総復習 第6・7課の発音とポイントの確認をする。
	事後学習	正確に発音できなかった場所をCDを聞き直して練習しておく。忘れている単語を覚えなおす。説明できなかったポイントを説明できるようにする。（30分）
3	事前学習	41・42ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き41・42ページの発音練習をする。（15分）
	授業内容	第8課前半 形容詞述語文の基本語順と前置詞〈离〉〈从～到〉を練習する。
	事後学習	42ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。形容詞述語文の基本語順、前置詞〈离〉〈从～到〉について何も見ないで説明できるように練習する。（45分）
4	事前学習	43ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き43ページの発音練習をする。42ページの聞き取りができるように復習しておく。（15分）
	授業内容	第8課前半小テスト 第8課後半 動詞〈喜歡〉とその目的語の性質を習う。連動文について説明できるように練習する。
	事後学習	43ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。動詞〈喜歡〉とその目的語の性質と連動文について何も見ないで説明できるように練習する。（45分）

5	事前学習	47・48ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き47・48ページの発音練習をする。43ページの聞き取りができるように復習しておく。（15分）
	授業内容	第8課後半小テスト 第9課前半 手段・方法の尋ね方、値段の尋ね方を練習する。
	事後学習	47・48ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（45分）
6	事前学習	49ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き49ページの発音練習をする。42・48ページの聞き取りができるように復習しておく。（30分）
	授業内容	第9課前半・第8課前半小テスト 第9課後半 比較文を練習する。
	事後学習	49ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。比較文の語順について何も見ないで説明できるように練習する。（30分）
7	事前学習	51・52ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き51・52ページの発音練習をする。43・49ページの聞き取りができるように復習しておく。（30分）
	授業内容	第9課後半・第8課後半小テスト 第10課前半 完了の〈了〉と助動詞〈想〉を練習する。
	事後学習	52ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。完了の〈了〉と助動詞〈想〉の位置について何も見ないで説明できるように練習する。（30分）
8	事前学習	53ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き53ページの発音練習をする。48・52ページの聞き取りができるように復習しておく。（30分）
	授業内容	第10課前半・第9課前半小テスト 第10課後半 変化の〈了〉と前置詞〈在〉を練習する。
	事後学習	53ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。変化の〈了〉と前置詞〈在〉（30分）
9	事前学習	57・58ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き57・58ページの発音練習をする。49・53ページの聞き取りができるように復習しておく。（30分）
	授業内容	第10課後半・第9課後半小テスト 第11課前半 助動詞〈会〉と〈能〉を練習する。
	事後学習	57・58ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。助動詞〈会〉と〈能〉について何も見ないで説明できるように練習する。（30分）
10	事前学習	59ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き59ページの発音練習をする。52・58ページの聞き取りができるように復習しておく。（30分）
	授業内容	第11課前半・第10課前半小テスト 第11課後半 助動詞〈可以〉と前置詞〈給〉を練習する。
	事後学習	59ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（助動詞〈可以〉と前置詞〈給〉について何も見ないで説明できるように練習する。（30分）
11	事前学習	61・62ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き61・62ページの発音練習をする。53・59ページの聞き取りができるように復習しておく。（30分）
	授業内容	第11課後半・第10課後半小テスト 第12課前半 進行形と禁止の言い方を練習する。
	事後学習	61・62ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。進行形と禁止の言い方について何も見ないで説明できるように練習する。（30分）
12	事前学習	63ページの単語の意味を巻末語句リストで調べておく。CDを聞き63ページの発音練習をする。58・62ページの聞き取りができるように復習しておく。（30分）
	授業内容	第12課前半・第11課前半小テスト 第12課後半 経験の〈過〉と〈是～的〉構文を練習する。
	事後学習	63ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。経験の〈過〉と〈是～的〉構文について何も見ないで説明できるように練習する。（30分）
13	事前学習	63ページの内容が聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。59・63ページの聞き取りができるように復習しておく。44・46・50・54・56ページの練習問題を解いておく。（45分）
	授業内容	第12課後半・第11課後半小テスト 第8課から第10課の復習 44・46・50・54・56ページの解答合わせと誤答の分析をする。
	事後学習	間違えた個所の問題を解き直す。（15分）
14	事前学習	60・64・66ページの練習問題を解いておく。（45分）
	授業内容	第11課・12課の復習 60・64・66ページの練習問題の解答合わせと誤答の分析をする。
	事後学習	間違えた個所の問題を解き直す。（15分）
15	事前学習	テキストの総復習（45分）
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（15分）

科目名	中国語基礎表現B	担当者	白石 裕一	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	初級中国語。				
授業目的・到達目標	中国語を使って、簡単な日常会話をしたり、簡単な作文ができるよう、基本的な表現力を養成することを目的とする。具体的には、単語を約 500ほど覚え、それを正しく配列することができるようになることを目標とする。同時に正しい発音と中国語の正書法を学習する。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	特になし。				
授業方法	教科書に沿って進めていく。毎回単語テストを行う。 フィードバックは授業内において行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業内試験60% 授業内評価40%：単語テストなど40%。遅刻・早退は3回をもって1回の欠席とする。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2012	白帝社		基礎から学ぶ実践中国語	王学群・高麗貞
	備考				
参 考 書	『中日辞典 第3版』 講談社				
オフィスアワー	授業後に質問を受け付ける。 授業時間：月曜3・4限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第6課：本文の翻訳、①連動文、②進行を表す“正在、在、ne”
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
2	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第6課：③前置詞の“在”、④助動詞の“想”、練習問題
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
3	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第7課：本文の翻訳、① “了”の用法（1）、②動詞の重ね型
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
4	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第7課：③選択疑問文、④前置詞“cong／dao”、練習問題
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）

5	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第8課：本文の翻訳、① “了”の用法（2）、②可能を表す“能”と“会”
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
6	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第8課：③経験を表す“過”、④gen/he…yiqi/yikuair、練習問題
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
7	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第9課：本文の翻訳、① “比”との比較文、② “V得＋補語”の構文
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
8	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第9課：③主述述語文、④ “有点兒”と“一点兒”、練習問題
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
9	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第10課：本文の翻訳、① “是…的”構文、②二重目的語を持つ動詞
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
10	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第10課：③限定語となる動詞と形容詞、④前置詞の“給”、練習問題
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
11	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第11課：本文の翻訳、①方位詞、②継続を表す“着”
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
12	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第11課：③概数表現、④可能を表す“可以”、練習問題
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
13	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第12課：本文の翻訳、①趨向補語、②付帯状況と方式を表す“着”
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
14	事前学習	教科書に意味が書いてある単語でも、自分の辞書で意味を確認しておくこと。（30分）
	授業内容	第12課：③禁止を表す“別／不要…（了）”、④疑問詞＋都／也…、練習問題
	事後学習	聴いて意味が理解できるまで、CDを繰り返し聞くこと。（30分）
15	事前学習	これまで学んできたことを復習しておくこと。（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	よく理解していないところを再度復習しておくこと。（30分）

科目名	中国語基礎表現B	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業は中国語の発音から勉強し、語彙・表現など学生生活に密着したものを絞り、活用度の高い内容や中国の諸事情を短いセンテンスで紹介する。会話だけではなく「別冊問題集」も付いているので、練習としても役に立つ。			
授業目的・到達目標	授業の目的：中国語の日常会話や基礎文法の習得を目的とする。 到達目標：簡単な会話や簡単な文章の読み書きと翻訳ができるようになる。中国語検定試験の準4級、4級の資格の取得が可能になる。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	なし			
授業方法	朗読、翻訳、会話、書きとりという方式で授業を進めていく。 フィードバックは授業内において行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	授業参加度（受講態度を含む）10%、平常点（宿題や授業中の小テスト）40%、後期末の授業内テスト50%。また、中国語検定試験の合格も成績の評価に加味する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2012年	白水社	（最新2訂版）中国語はじめの一步	竹島全吾 伊景春 竹島毅
	備考			
参考書	日中辞書、中日辞書			
オフィスアワー	授業の前・後、当該教室にて 授業時間：火曜 2 ～ 4 限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	第6課の予習 （30分）
	授業内容	オリエンテーション 第6課 あなたは食事をしましたか。 本文訳、ポイント 1. 「完了」を表わす"了" 2. 「所在」を表わす"在" 3. 助動詞"想"
	事後学習	文法の復習 （30分）
2	事前学習	練習問題の予習 （30分）
	授業内容	第6課 あなたは食事をしましたか。 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習 （30分）
3	事前学習	第7課の予習 （30分）
	授業内容	第7課 あなたの家族は何人ですか。 本文訳、ポイント 1. 介詞"在"，"离" 2. 「存在」を表わす"有" 3. 反復疑問文
	事後学習	文法の復習 （30分）
4	事前学習	練習問題の予習 （30分）
	授業内容	第7課 あなたの家族は何人ですか。 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習 （30分）

5	事前学習	第8課の予習 （30分）
	授業内容	第8課 あなたは何時からアルバイトを始めますか。 本文訳、ポイント 1. 「時間量」を表わす語 2. 助動詞“得” 3. 介詞（2）“从”
	事後学習	文法の復習 （30分）
6	事前学習	練習問題の予習 （30分）
	授業内容	第8課 あなたは何時からアルバイトを始めますか。 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習 （30分）
7	事前学習	第9課の予習 （30分）
	授業内容	第9課 あなたはアメリカに行ったことがありますか。 本文訳、ポイント 1. 「過去の経験」を表わす“過” 2. “是～的”の文 3. 介詞（3）“跟”，“給”
	事後学習	文法の復習 （30分）
8	事前学習	練習問題の予習 （30分）
	授業内容	第9課 あなたはアメリカに行ったことがありますか。 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習 （30分）
9	事前学習	第10課の予習 （30分）
	授業内容	第10課 あなたは歌を歌えますか。 本文訳、ポイント 1. 助動詞“能”，“会” 2. 「動作の様態」を言う表現 3. 動詞の重ね型
	事後学習	文法の復習 （30分）
10	事前学習	練習問題の予習 （30分）
	授業内容	第10課 あなたは歌を歌えますか。 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習 （30分）
11	事前学習	第11課の予習 （30分）
	授業内容	第11課 あなたは何をしているのですか。 本文訳、ポイント 1. 「動詞の進行」を表わす“在～呢” 2. 「～しに来る・～しに行く」の表し方3. “是” 4. 目的語を文頭に出す表現
	事後学習	文法の復習 （30分）
12	事前学習	練習問題の予習 （30分）
	授業内容	第11課 あなたは何をしているのですか。 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習 （30分）
13	事前学習	第12課の予習 （30分）
	授業内容	第12課 楽しい旅行を 本文訳、ポイント 1. 「比較」の表現 2. “的”の用法（2） 3. 2つの目的語をとる動詞 4. 目的語が主述句の時
	事後学習	文法の復習 （30分）
14	事前学習	練習問題の予習 （30分）
	授業内容	第12課 楽しい旅行を 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習 （30分）
15	事前学習	第6課～12課の復習 （30分）
	授業内容	後期のまとめ（後期末授業内テスト）
	事後学習	これまでの学習内容の確認 （30分）

科目名	中国語基礎表現B	担当者	福木 滋久	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中国語の履修、もしくは中国語学修と部活動の両立に困難を感じている者、あるいは事前抽選にあぶれてしまった者を対象に指導を行う。			
授業目的・到達目標	本授業は、中国語初心者について基礎表現を中心とした初歩的語学力を養成することを目的とする。基本的な部分の学びを中心とすることから、高い到達度を望む学生には向かない。 受講者が中国語の基本的な表現を身につけ、簡単な中国語を聞き取ることができ、簡単な応答ができるようになる事を目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域 6。 本クラスが中国語入門のクラスである事を理解し、かつ、本シラバスの内容を了解し担当者の指示に従って学修できる者。			
授業方法	簡単な会話を毎回練習して覚えてもらう（それらが期末口頭試験の課題文となる）。「成績評価欄」に記した「単位取得の最低要件」は遵守する。学期末のフィードバックは最終授業にて伝える。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業参加度（50%）、期末試験（50%：口頭試験のみ）。所定の授業参加度を満たし、後期の口頭試験に合格する事が単位取得の最低要件。詳細は授業にて	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	—	—	—	—
	備考	教科書は使用しない。学修サポートとしてインターネットサイトQuizlet にクラスを作成し、補助教材を提供する。参考書欄のURLを参照。利用には無料のユーザー登録が必要。		
参考書	書籍ではないが、Quizlet（https://quizlet.com/join/JefgDKbYC）にて補助教材を提供する。学修の参考にすること。			
オフィスアワー	月曜 6 限1033講堂（予定）。これは競技部所属の学生向けのオフィスアワーであり、競技部以外の学生向けのオフィスアワーは毎週火曜 5 限、1091講堂（予定）にて行う。いずれも、授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施する。（s-fukugi.2019@ceres.dti.ne.jp）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラパスをよく読み、Quizletに加入してB後期 予習 (01)を確認（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業方法や評価方法の詳細 姓名の中国語 B後期 重要例文 (01)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet B後期 重要例文の (01)を練習し覚える（30分）
2	事前学習	Quizlet B後期 予習 (02)で学習内容を確認（30分）
	授業内容	B後期 重要例文 (02)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet B後期 重要例文の (02)を練習し覚える（30分）
3	事前学習	Quizlet B後期 予習 (03)で学習内容を確認（30分）
	授業内容	B後期 重要例文 (03)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet B後期 重要例文の (03)を練習し覚える（30分）
4	事前学習	Quizlet B後期 予習 (04)で学習内容を確認（30分）
	授業内容	B後期 重要例文 (04)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet B後期 重要例文の (04)を練習し覚える（30分）

5	事前学習	Quizlet B後期 予習(05)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	B後期 重要例文(05)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet B後期 重要例文の(05)を練習し覚える (30分)
6	事前学習	Quizlet B後期 予習(06)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	B後期 重要例文(06)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet B後期 重要例文の(06)を練習し覚える (30分)
7	事前学習	Quizlet B後期 予習(07)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	B後期 重要例文(07)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet B後期 重要例文の(07)を練習し覚える (30分)
8	事前学習	Quizlet B後期 予習(08)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	B後期 重要例文(08)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet B後期 重要例文の(08)を練習し覚える (30分)
9	事前学習	Quizlet B後期 予習(09)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	B後期 重要例文(09)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet B後期 重要例文の(09)を練習し覚える (30分)
10	事前学習	Quizlet B後期 予習(10)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	B後期 重要例文(10)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet B後期 重要例文の(10)を練習し覚える (30分)
11	事前学習	Quizlet B後期 予習(11)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	B後期 重要例文(11)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet B後期 重要例文の(11)を練習し覚える (30分)
12	事前学習	Quizlet B後期 予習(12)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	B後期 重要例文(12)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet B後期 重要例文の(12)を練習し覚える (30分)
13	事前学習	Quizlet B後期 口頭試験課題文で疑問点を整理 (30分)
	授業内容	後期の復習 B後期 口頭試験課題文の練習①
	事後学習	後期の学修を振り返り、Quizlet B後期 口頭試験課題文を繰り返し練習する (30分)
14	事前学習	Quizlet B後期 口頭試験課題文の暗唱に取り組む (30分)
	授業内容	後期のまとめ B後期 口頭試験課題文の練習②
	事後学習	後期の学修を振り返り、Quizlet B後期 口頭試験課題文の暗唱に取り組む (30分)
15	事前学習	Quizlet B後期 口頭試験課題文で前期口頭試験の準備、苦手部分の克服 (30分)
	授業内容	◎後期口頭試験 総括・振り返り
	事後学習	Quizlet B後期 口頭試験課題文を中心に復習する (30分)

科目名	中国語基礎表現B	担当者	吉田 雅子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	初級中国語の文章を読んで意味を理解し、聞いてわかるようにする。さらに、簡単な中国語作文が書けるようにするために、テキストを使って学ぶ。					
授業目的・到達目標	母語以外の言語を学習することで、自国の言語や文化を客観視できる能力を養い、世界に発信できる語学力を身に着け、コミュニケーション能力を養成する。具体的には、中検準4級に合格する力をつけることを目的とする。さらに、中検4級合格を到達目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	特に無いが、初習者対象。					
授業方法	基本的には、テキストに沿って行う。会話練習には、適宜単語を提示し練習に加える。音読と聞き取りに中心において、授業を進める。試験のフィードバックは試験終了後に答え合わせをする。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		小テストほか20%、読みテスト20%、期末筆記テスト60%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	朝日出版社		入門カレント中国語 ISBN 978 - 4 - 255 - 45313 - 2 C1087 ￥2400		遠藤光暁監修
	備考					
参考書	『中日辞典』小学館					
オフィスアワー	月曜日の1時間目の授業終了後、教室で、質問・相談を受け付ける。（10時30分より10時40分まで）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の学習内容を復習しておく（30分）
	授業内容	前期期末テストの返却と解答
	事後学習	間違いの個所の確認をする（30分）
2	事前学習	「それとも」を使う文を考える（30分）
	授業内容	第9課「頤和園」 選択疑問文、結果補語
	事後学習	結果補語に使われる文体を復習する（30分）
3	事前学習	「したことがある」をイメージして、どんな文章ができるかを考える（30分）
	授業内容	第10課「骨董通り」完了態、経験態
	事後学習	「～をした」と「～をしている」の違いを復習する。（30分）
4	事前学習	したことがある」を考えてみる（30分）
	授業内容	9課、10課の復習
	事後学習	経験態の文に使える動詞を復習する（30分）

5	事前学習	できるを表わす文はどんな文かを考えてみる。（30分）
	授業内容	第11課 「中国酒」二重目的語、可能表現
	事後学習	「可能表現」の文体を整理する。（30分）
6	事前学習	評価を表わす文をイメージしてみる。（30分）
	授業内容	第12課「孔子」 前置詞、様態補語
	事後学習	レベルを表わす文の形を復習する（30分）
7	事前学習	できるを表わす文とどのくらいできるかを表わす文を比較してみる（30分）
	授業内容	11課、12課の復習
	事後学習	否定形の文体をまとめてみる（30分）
8	事前学習	「したい」を表わす文を考え、どのような動詞が使えるかを考える。（30分）
	授業内容	第13課「婚礼」 助動詞、副詞
	事後学習	「～をしたくない」の文章を作って中国語にしてみる。（30分）
9	事前学習	理由を尋ねる文と方法を尋ねる文を考えておく（30分）
	授業内容	第14課「留学生を歓迎する」どうして、なぜ
	事後学習	理由を聞くなぜと方法を聞くどのようにの違いを整理する（30分）
10	事前学習	助動詞の表現の違いを整理する（30分）
	授業内容	第13課、14課の復習
	事後学習	理由のべと説明文の整理をする（30分）
11	事前学習	「される」と「する」の文章の違いを考える（30分）
	授業内容	第15課「漢方医」使役文、受身文
	事後学習	日本語の受身文と中国語の受身文の表現の違いを復習する。（30分）
12	事前学習	程度を表わす文を考え、さらにそれができる表現を、文章にしてみる。（30分）
	授業内容	第16課「龍門大仏」可能補語、存現文
	事後学習	中国語のできるを表わす文のスタイルを分けて整理する（30分）
13	事前学習	本文を音読する（30分）
	授業内容	第15課、16課の復習
	事後学習	テキストの文章を聞きながら、日本語にする（30分）
14	事前学習	9課から16課までの文章を音源で聞く（30分）
	授業内容	秋学期の復習
	事後学習	できるを表わす文を再度まとめる（30分）
15	事前学習	秋学期の復習をする、本文を読む（30分）
	授業内容	後期期末テスト（テキスト第9課から第16課まで） 内容確認とまとめ
	事後学習	秋学期の学習内容で不明な点がないか自分で確認する（30分）

科目名	中国語基礎表現B	担当者	何 秋平	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中国語漢字の発音、文章の簡単な読み書き、リスニング、及び会話を習得します。			
授業目的・到達目標	本講座では、発音の基礎から始め、実践的な語学能力を養成することを目的としています。11月に中国語検定試験準四級に合格できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	特になし			
授業方法	平易な中国語を可能な限りたくさん使い、中国語に親しめるよう楽しく授業を進めます。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業内での筆記試験（70%） 平常点（30%）	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019・2・1 改装版	駿河台出版	改装版「Campus漢語」	原瀬 隆司
	備考			
参考書	『中日・日中辞典』			
オフィスアワー	授業後に質問を受け付けます。 授業時間：土曜 1・2 限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第7課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
2	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第7課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
3	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第8課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
4	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第8課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）

5	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第9課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
6	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第9課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
7	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第10課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
8	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第10課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
9	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第11課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
10	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第11課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
11	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第12課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
12	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第12課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
13	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	復習 1
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
14	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	復習 2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
15	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	後期試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）

科目名	中国語基礎表現B	担当者	劉 秋佳	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	中国語ゼロから始める方に対象として、発音、基礎文法と基礎表現を中心して、初級レベルの中国語の知識と学力を身につける。言葉の文化背景と国の一般事情もふれあい。			
授業目的・到達目標	基礎文法と基礎表現を中心として、初級レベルの中国語の知識と学力を養成することを目的とする。 1. 中国語の発音を身につけ 2. 簡単な日常会話ができる 3. 基礎文法を理解する 4. 中国歳時、時事、精神文化を理解する 5. 中国語で自己紹介ができる。以上のことを目標としている。			
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域 6 積極的に授業での練習に参加すること、授業参加度、授業での態度や答えおよび筆記試験により評価。3分の2以上の出席は必要。			
授業方法	発音と基本表現の会話練習を中心に授業を楽しく行う。授業中で一人ずつ練習をさせ、発音、口頭練習や会話練習、質問への答えなどに対して、毎回A、B、C 三つのレベルで評価します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	この授業では授業中の発言、口頭練習の受け答えなども評価の重要な対象です。授業時の応答30%、小テスト60%、勉強姿勢と提出もの：10%になる。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	平成30年度	飛鳥文化出版	中国語耳留学・基礎編 CD2枚つけ ￥2600円	陳洲舉など共著
	備考	使用教科書は授業の時に指示します。		
参考書	中日・日中辞書 具体的には指定しない			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業後講堂にて受け付ける。 授業時間：木曜3・4・5限 (メールアドレス ryu.shukai1@nihon-u.ac.jp /Wechat:koku811)			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	配ったプリントの記事を読んでください 事前学習時間 1 時間 (※講義1 回あたりに必要な時間)
	授業内容	中国文化事情の紹介
	事後学習	感想と見解をレポート書いて提出下さい 事後学習時間 1 時間 (※講義1 回あたりに必要な時間)
2	事前学習	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい 事前学習時間 1 時間 (※講義1 回あたりに必要な時間)
	授業内容	第8課 方位
	事後学習	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい 事後学習時間 1 時間 (※講義1 回あたりに必要な時間)
3	事前学習	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい 事前学習時間 1 時間 (※講義1 回あたりに必要な時間)
	授業内容	第9課 行為
	事後学習	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるように復習しなさい 事後学習時間 1 時間 (※講義1 回あたりに必要な時間)
4	事前学習	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい 事前学習時間 1 時間 (※講義1 回あたりに必要な時間)
	授業内容	会話の応用練習
	事後学習	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい 事後学習時間 1 時間 (※講義1 回あたりに必要な時間)

5	事前学習	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい 事前学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
	授業内容	第10課 職業
	事後学習	勉強した単語と表現を書く、読む、話することができるように復習しなさい 事後学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
6	事前学習	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい 事前学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
	授業内容	第11課 評価
	事後学習	勉強した単語と表現を書く、読む、話することができるように復習しなさい 事後学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
7	事前学習	指定した会話表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい 事前学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
	授業内容	会話の応用練習 グループで会話練習を確認させて評価します
	事後学習	慣れてない会話表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい 事後学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
8	事前学習	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい 事前学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
	授業内容	第12課 買い物
	事後学習	勉強した単語と表現を書く、読む、話することができるように復習しなさい 事後学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
9	事前学習	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい 事前学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
	授業内容	第13課 行為
	事後学習	勉強した単語と表現を書く、読む、話することができるように復習しなさい 事後学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
10	事前学習	指定した会話表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい 事前学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
	授業内容	会話応答練習
	事後学習	慣れてない会話表現を書く、読む、話することができるまで練習しなさい 事後学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
11	事前学習	配ったプリントの記事を読んでください 事前学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
	授業内容	文化事情
	事後学習	感想と見解をレポート書いて提出下さい 事後学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
12	事前学習	学習予定の単語と文法解釈を読んで予習しなさい 事前学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
	授業内容	第14課 趣味
	事後学習	勉強した単語と表現を書く、読む、話することができるように復習しなさい 事後学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
13	事前学習	例文を参考して、中国語文の語順を理解する上に作文を書きます 事前学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
	授業内容	作文練習
	事後学習	先生から訂正されたところを確認して理解しなさい 事後学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
14	事前学習	教科書の指定範囲と配った復習問題を復習してください 事前学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
	授業内容	総復習
	事後学習	ミスした所とできない部分を理解して、できるようにきちんと練習してください 事後学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
15	事前学習	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください。 事前学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）
	授業内容	小テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください 事後学習時間 1 時間（※講義1 回あたりに必要な時間）

科目名	中国語基礎表現B	担当者	汪 鴻祥	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業は初級中国語の勉強を基本内容とし、正しい発音の基礎を築き、初級の文法を理解すると同時に、会話力と聴取力の訓練を重視します。発音段階では母音や子音などのピンインをしっかりと勉強します。会話段階では毎回一つのテーマを巡って関連の単語や文法を勉強し、また練習を行います。日常学習状況と期末試験の結果により総合評価をします。				
授業目的・到達目標	この授業を通して、会話力と聴取力を中心とする初級中国語能力の養成を目的とします。 正確な発音を把握し、初級の文法を理解できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	中国語や中国文化に興味を持つ者を対象とします。 履修者40名に限定します。				
授業方法	指定のテキストを参照しつつ授業をしますが、中国関連の話題を取り入れ、楽しく中国語会話の練習を行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	70%は期末試験の結果により評価します。 30%は日常学習の状況により評価します、	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019年度	白帝社	大学生会話 中国語基礎 2019年3月新版発行		汪鴻祥 主編
	備考				
参 考 書	参考書は開講時指示します。				
オフィスアワー	授業中に質問を受け付ける。 授業時間：火曜 1 ・ 2 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	夏休み報告発表の準備（30分）
	授業内容	前期で学ばれた基本語句と基本文法の復習 夏休みの報告
	事後学習	授業内容の復習（30分）
2	事前学習	第8課：「学」の予習（30分）
	授業内容	第8課：「学」 文法、会話、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
3	事前学習	第9課：「广交朋友」の予習（30分）
	授業内容	第9課：「广交朋友」 文法、会話、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
4	事前学習	第10課：「周末活」の予習（30分）
	授業内容	第10課：「周末活」 文法、会話、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）

5	事前学習	第11課：「超市物」の予習（30分）
	授業内容	第11課：「超市物」 文法、会話、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
6	事前学習	第12課：「季化」の予習（30分）
	授業内容	第12課：「季化」 文法、会話、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
7	事前学習	第13課：「上学交通」の予習（30分）
	授業内容	第13課：「上学交通」 文法、会話、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
8	事前学習	第14課：「外活」の予習（30分）
	授業内容	第14課：「外活」 文法、会話、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
9	事前学習	第15課：「暑假旅游」の予習（30分）
	授業内容	第15課：「暑假旅游」 文法、会話、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
10	事前学習	第16課：「校活」の予習（30分）
	授業内容	第16課：「校活」 文法、会話、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
11	事前学習	第17課：「出国留学」の予習（30分）
	授業内容	第17課：「出国留学」 文法、会話、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
12	事前学習	第18課：「健康食」の予習（30分）
	授業内容	第18課：「健康食」 文法、会話、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
13	事前学習	期末発表会の準備（30分）
	授業内容	期末発表会
	事後学習	発表会内容の復習（30分）
14	事前学習	期末総合復習（30分）
	授業内容	期末総合復習 第8課～18課
	事後学習	授業内容の復習（30分）
15	事前学習	期末試験の準備（30分）
	授業内容	期末試験及び振り返り、まとめ
	事後学習	後期授業内容の復習（30分）

科目名	中国語基礎文法A	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	開始段階においては中国語の基礎発音や発音記号(ピンインツームー)に対する練習を繰り返し行い、中国語学習に入るための土台を打ち固め、その後は基礎発音練習も継続しつつ、初歩的文法表現を発音と共に学習する。。				
授業目的・到達目標	【授業目的】中国語の基礎発音練習、初歩的文法表現練習を通して、中国語会話力構築のための基礎を固めることを目的とする。 【到達目標】日本中国語検定協会が実施する中国語検定試験準4級の合格が射程範囲に入れられる程度の語学力の獲得を目標とする。関連DP及びCP:外国語科目領域6				
履修条件	継続して授業に出席すること。授業中、発音練習、読込練習の際は大声で丁寧に発音すること。				
授業方法	指定教科書の内容に沿って進める。発音練習、読込練習を重点に据え、会話力構築のための基礎を固める。授業内試験の解答、傾向等に関してはポータルシステム上で公開する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価(授業参加度、授業内試験)	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	平成31年度	白帝社	出発 中国語		本間直人、栗原千里、王熙萍
	備考	なし			
参考書	なし				
オフィスアワー	火曜昼休み(12:10～13:00)研究室等。中国語学習方法、中国語圏留学等可能な範囲で相談に応ずる。又メール連絡可、栗原千里研究室メールアドレス kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、事前にシラバス内容に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	授業説明(授業の進め方に関して詳しく紹介する)
	事後学習	教科書を出来るだけ早く揃えられる様心掛けること。更に授業内容の関連事項に関して下調べしておくこと。(30分)
2	事前学習	中国語の母音に関する教科書該当部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	基礎発音練習(中国語の母音について学ぶ)
	事後学習	習った基礎発音(母音部分)を自身で発音練習すること。(30分)
3	事前学習	中国語の子音に関する教科書該当部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	基礎発音練習(中国語の子音について学ぶ)
	事後学習	習った基礎発音(子音部分)を自身で発音練習すること。(30分)
4	事前学習	中国語の声調に関する教科書該当部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	基礎発音練習(中国語の声調について学ぶ)
	事後学習	習った基礎発音(声調部分)を自身で発音練習すること。(30分)

5	事前学習	事前に第 1 課人称代名詞、名前の聞き方と答え方の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第 1 課 人称代名詞、名前の聞き方と答え方について学ぶ。
	事後学習	人称代名詞や名前の聞き方と答え方の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
6	事前学習	事前に第 2 課動詞述語文、疑問詞「哪儿」「什麼」の部分に目を通しておくこと(30分)
	授業内容	第 2 課 動詞述語文、疑問詞「哪儿」「什麼」について学ぶ。
	事後学習	動詞述語文、疑問詞「哪儿」「什麼」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
7	事前学習	事前に第 3 課形容詞述語文、疑問詞「誰」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第 3 課 形容詞述語文、疑問詞「誰」について学ぶ。
	事後学習	形容詞述語文、疑問詞「誰」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
8	事前学習	事前に第 4 課所有等を表す「的」の用法の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第 4 課 所有等を表す「的」の用法について学ぶ。
	事後学習	所有等を表す「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
9	事前学習	事前に第 5 課数字、量詞の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第 5 課 数字、量詞について学ぶ。
	事後学習	数字、量詞の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
10	事前学習	事前に第 5 課量詞、序数の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第 5 課 量詞、序数について学ぶ。
	事後学習	量詞、序数の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
11	事前学習	事前に第 6 課完了の「了」、助動詞「想」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第 6 課 完了の「了」、助動詞「想」について学ぶ。
	事後学習	完了の「了」、助動詞「想」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
12	事前学習	事前に第 6 課疑問詞「多少」「幾」、存在を表す「有」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第 6 課 疑問詞「多少」「幾」、存在を表す「有」について学ぶ。
	事後学習	疑問詞「多少」「幾」、存在を表す「有」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
13	事前学習	事前に第 7 課時を表す語(年月日曜日時刻)の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第 7 課 時を表す語(年月日曜日時刻)について学ぶ。
	事後学習	時を表す語(年月日曜日時刻)の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
14	事前学習	事前に第 7 課時を表す語が述語となる文の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第 7 課 時を表す語が述語となる文について学ぶ。
	事後学習	時を表す語が述語となる文の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
15	事前学習	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。(30分)
	授業内容	前期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。
	事後学習	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。(30分)

科目名	中国語基礎文法A	担当者	小林 光考	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中国語を初めて学ぶ学生を対象に、文法を中心に中国語の基礎力を固める。中国語とはどういった言語なのか？ということをもまず発音習得から開始し、中国語のコミュニケーションに必要な、書く、聞く、話すの3分野の初級基礎能力を文法を中心にして、同時に発音や語彙といった総合的な中国語基礎文法能力を身に付ける。			
授業目的・到達目標	【授業目的】中国語の文法の基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】中国語の基礎的な文法力を習得し、合わせて発音力や語彙力を獲得できることを目標とする。 関連DP及びCP:外国語科目領域6			
履修条件	単位取得だけの為ではなく中国語を進んで学習し、習得したいという意欲を持っている事。授業に関する決まり(欠席や遅刻、私語、居眠り、授業以外の事をしないなど)を守る事。初回の授業には、開始時より必ず出席する事。			
授業方法	先に文法の説明を行いその後、学生を指名して本文訳、練習問題等を解いて教科書を進めて行く。また同時に中国語学習に有用な時事面、文化面などの知識も合わせて教授していく。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	学期末試験(リスニングを含む)60%。本文音読テスト及びピンイン書き取り小テスト20%。平常点(授業態度、宿題の履行など授業への参加度)20%。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	白水社	中国語1年め	緒方昭、小林光考、胡慶華著
	備考			
参考書	【参考書】『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著、東方書店刊、『完全マスター中国語文法改訂版』瀬戸口律子著、語研刊【辞典】状況によって中日辞典を使用する場合がある。具体的なものについては授業中に紹介する。			
オフィスアワー	授業開始前(教員控室)又は授業終了後(教室)にて。 授業時間:木曜1・2限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスと教科書を読んで、講義の全体をつかんでおく。中国語とはどのようなものなのかを調べておく。（30分）
	授業内容	①ガイダンス(授業の進め方等授業概要説明) ②中国語について（発音・文字・方言など）の概略を説明する。
	事後学習	ガイダンス（授業の進め方等）の確認、発音、文字（簡体字）の理解確認。（30分）
2	事前学習	発音、文字（簡体字）について、教科書で再度確認。（30分）
	授業内容	発音習得 声調・単母音について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	声調・単母音の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。（60分）
3	事前学習	声調・単母音について、教科書で再度確認。（60分）
	授業内容	発音習得 複合母音・①子音について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	複合母音、①子音の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。（60分）
4	事前学習	複合母音、①子音について、教科書で再度確認。（60分）
	授業内容	発音習得 ②子音・鼻母音について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	②子音・鼻母音の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。（60分）

5	事前学習	②子音・鼻母音について、教科書で再度確認。（60分）
	授業内容	発音習得 鼻母音・er化・声調の組合せ・軽声・声調の変化について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	鼻母音・er化・声調の組合せ・軽声・声調の変化の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す。（60分）
6	事前学習	鼻母音・er化・声調の組合せ・軽声・声調の変化について、教科書で再度確認、第1回ピンイン書き取りテスト準備、第1課① 中国人留学生と知り合う 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（120分）
	授業内容	第1課① 中国人留学生と知り合う について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。 第1回ピンイン書き取りテスト（母音部）
	事後学習	第1課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第1回ピンイン書き取りテスト見直し。（120分）
7	事前学習	第2回ピンイン書き取りテスト準備、第1課文法事項等について、教科書で再度確認、第1課② 中国人留学生と知り合う、第2課① 携帯の写真を見て 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（120分）
	授業内容	第1課② 中国人留学生と知り合う、第2課① 携帯の写真を見て について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。 第2回ピンイン書き取りテスト（子音b、p、m、f部）
	事後学習	第1課全事項の習得確認、第2課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第2回ピンイン書き取りテスト見直し。（120分）
8	事前学習	第3回ピンイン書き取り準備、第2課文法事項等について、教科書で再度確認、第2課② 携帯の写真を見て 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（120分）
	授業内容	第2課② 携帯の写真を見て について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。 第3回ピンイン書き取りテスト（子音d、t、n、l部）
	事後学習	第2課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第3回ピンイン書き取りテスト見直し。（120分）
9	事前学習	第4回ピンイン書き取りテスト準備、第3課① ファストフード店で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（120分）
	授業内容	第3課① ファストフード店で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。 第4回ピンイン書き取りテスト（子音g、k、h部）
	事後学習	第3課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第4回ピンイン書き取りテスト見直し。（120分）
10	事前学習	第5回ピンイン書き取りテスト準備、第3課文法事項等について、教科書で再度確認、第3課② いっしょに勉強しよう！、第4課① ファストフード店で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（120分）
	授業内容	第3課② いっしょに勉強しよう！、第4課① ファストフード店で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。 第5回ピンイン書き取りテスト（子音j、q、x部）
	事後学習	第3課全事項の習得確認、第4課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第5回ピンイン書き取りテスト見直し。（120分）
11	事前学習	第6回ピンイン書き取りテスト準備、第4課② ファストフード店で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（120分）
	授業内容	第4課② ファストフード店で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。 第6回ピンイン書き取りテスト（子音zh、ch、sh、r部）
	事後学習	第4課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第6回ピンイン書き取りテスト見直し。（120分）
12	事前学習	第7回ピンイン書き取りテスト準備、第5課Tシャツを買う 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（120分）
	授業内容	第5課① Tシャツを買う について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。 第7回ピンイン書き取りテスト（子音z、c、s部）
	事後学習	第5課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、第7回ピンイン書き取りテスト見直し。（120分）
13	事前学習	第5課② Tシャツを買う 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第5課② Tシャツを買う について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。 前期授業総復習。
	事後学習	第5課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記、前期授業における習得の総確認、第1～7回ピンイン書き取りテスト見直し。（90分）
14	事前学習	教科書本文音読テスト準備。（120分）
	授業内容	教科書本文音読テスト及び前期学習内容の振り返り。
	事後学習	教科書本文音読テストの問題点改善。（90分）
15	事前学習	教科書の総復習、前期試験準備。（180分）
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する、前期試験の問題点改善、夏休み課題。（90分）

科目名	中国語基礎文法A	担当者	篠田 幸夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代中国語の発音と文法の基礎を学ぶ。			
授業目的・到達目標	【授業目的】中国語の基本構文を学習し日本語とは異なる場合もある中国語の語順体系を把握し、将来文章を読解するために有効な分析方法の基礎力を養成することを目的とする。 【授業目標】中国語の正確な発音を聞き分け同時に言い分けられるようになる。四声を正確に発音できる。第三声の声調変化を説明できる。「a」「i」「u」の複数ある発音について聞き分け・言い分けられる。形容詞・動詞述語文の基本語順や、連体・連用修飾語の位置について説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	休まず授業に参加できる。授業以外に1回10分以上1週間に3回以上の復習を習慣化できる。授業に積極的に参加し失敗を恐れずに発音練習できる。毎週ドリルに取り組める。毎週小テストの準備ができる。私語を我慢できる。			
授業方法	学生が主体となって練習する機会を非常に多く取る。概ね以下の順に進める。重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳・中訳練習・ドリルの解答合わせ・小テスト。【フィードバック方法】小テスト返却時にポイントを解説する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	ドリルの取組み30%、小テスト30%、期末試験40%。私語・居眠り・練習しない・独自の判断で練習を終えてしまう場合は減点する。授業に出席することは大前提である。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015年	朝日出版社	『好きです♥中国語 文法編』	中村俊弘・吉田泰謙・郝佳璐
	備考			
参考書	相原 茂 他 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』 同友社 相原 茂『謎解き中国語文法』 講談社現代新書			
オフィスアワー	土曜日16：10～16：40（事前にメールでアポイントメントを取ること） shinoda.hanyu2019@gmail.com			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体を概観する。テキストのはじめに・7ページを一読しておく。（20分）
	授業内容	中国語について 四声・単母音の発音練習を行う。
	事後学習	CDを使い四声・単母音の発音練習をする。（40分）
2	事前学習	テキスト8ページ子音を一読し、CDを聞いておく。（15分）
	授業内容	子音の発音練習を行う。
	事後学習	CDを使い四声・単母音・子音の発音練習をする。（45分）
3	事前学習	テキスト8ページ複母音・鼻母音を一読し、CDを聞いておく。（15分）
	授業内容	複母音・鼻母音と声調の組み合わせを練習する。
	事後学習	CDを使い子音・複母音・鼻母音と声調の組み合わせを練習する。（45分）
4	事前学習	12～14ページを一読しCDを聞いておく。（15分）
	授業内容	第1課 動詞〈是〉、副詞〈也〉〈都〉を練習する。
	事後学習	12～14ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（45分）

5	事前学習	15～17ページのドリルを解いておく。18～20ページを一読しCDを聞いておく。（30分）
	授業内容	15～17ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第2課 指示代名詞、動詞述語文、連体修飾語を作る〈的〉、疑問詞疑問文の練習をする。
	事後学習	18～20ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）
6	事前学習	21～23ページのドリルを解いておく。24～26ページを一読しCDを聞いておく。12～17ページの単語と語順について復習しておく。（30分）
	授業内容	第1課小テスト 21～23ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第3課 形容詞述語文、年月日・曜日、時刻の言い方の練習をする。
	事後学習	24～26ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）
7	事前学習	27～29ページのドリルを解いておく。30～32ページを一読しCDを聞いておく。18～23ページの単語と語順について復習しておく。（30分）
	授業内容	第2課小テスト 27～29ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第4課 指示代名詞（場所）、所有・存在の〈有〉、副詞〈有点儿〉、短縮疑問文の練習をする。
	事後学習	30～32ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）
8	事前学習	33～35ページのドリルを解いておく。36～38ページを一読しCDを聞いておく。24～29ページの単語と語順について復習しておく。（30分）
	授業内容	第3課小テスト 33～35ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第5課 形容詞述語文、年月日・曜日、時刻の言い方の練習をする。
	事後学習	36～38ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）
9	事前学習	39～41ページのドリルを解いておく。42～44ページを一読しCDを聞いておく。30～35ページの単語と語順について復習しておく。（30分）
	授業内容	第4課小テスト 39～41ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第6課 所在の〈在〉、介詞〈在〉〈給〉、変化の〈了〉、年齢の言い方、金額の言い方の練習をする。
	事後学習	42～44ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）
10	事前学習	45～47ページのドリルを解いておく。48～50ページを一読しCDを聞いておく。36～41ページの単語と語順について復習しておく。（30分）
	授業内容	第5課小テスト 45～47ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第7課 疑問詞〈几〉〈多少〉〈怎么〉、助動詞〈想〉、連動文の練習をする。
	事後学習	48～50ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）
11	事前学習	51～53ページのドリルを解いておく。54～56ページを一読しCDを聞いておく。42～47ページの単語と語順について復習しておく。（30分）
	授業内容	第6課小テスト 51～53ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第8課 助動詞〈会〉〈能〉、主述述語文、進行形の練習をする。
	事後学習	54～56ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）
12	事前学習	57～59ページのドリルを解いておく。60～62ページを一読しCDを聞いておく。48～53ページの単語と語順について復習しておく。（30分）
	授業内容	第7課小テスト 57～59ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第9課 助動詞〈会〉、依頼の〈請〉、〈是…的〉構文、動詞+〈一下〉の練習をする。
	事後学習	60～62ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）
13	事前学習	63～65ページのドリルを解いておく。66～68ページを一読しCDを聞いておく。54～59ページの単語と語順について復習しておく。第1課～第4課の単語とポイントおよび関連する語順を復習しておく。（30分）
	授業内容	第8課小テスト 63～65ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 総復習 第1課から第4課までの単語を復習し、ポイントとそれ関連する語順を何も見ないで説明できるようにする。
	事後学習	忘れていた単語と説明できなかったポイントと語順を覚えなおす。（30分）
14	事前学習	60～65ページの単語と語順について復習しておく。第5課～第9課の単語とポイントおよび関連する語順を復習しておく。（30分）
	授業内容	第9課小テスト 総復習 第5課から第9課までの単語を復習し、ポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるようにする。
	事後学習	忘れていた単語と説明できなかったポイントと語順を覚えなおす。（30分）
15	事前学習	テキストの総復習（45分）
	授業内容	授業内試験及び前期学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（15分）

科目名	中国語基礎文法A	担当者	福木 滋久	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	中国語の履修、もしくは中国語学修と部活動の両立に困難を感じている者、あるいは事前抽選にあぶれてしまった者を対象に指導を行う。			
授業目的・到達目標	本授業は、中国語初心者について基礎文法を中心とした初歩的語学力を養成することを目的とする。 受講者が中国語の基本的な文法を身につけ、簡単な中国語を聞き取ることができ、簡単な応答ができるようになる事を目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域6。			
履修条件	本クラスが中国語入門のクラスである事を理解し、かつ、本シラパスの内容を了解し担当者の指示に従い学修できる者。			
授業方法	テキストに沿ったビデオストーリーを視聴し、期末口頭試験課題文の練習を中心に学習を進める。「成績評価欄」に記した「単位取得の最低要件」は遵守する。学期末のフィードバックは最終授業にて伝える。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業参加度（50%）、期末試験（50%：口頭・筆記）。所定の授業参加度を満たし、前期の筆記or口頭試験何れかに合格する事が単位取得の最低要件。詳細は授業にて。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2004年	朝日出版社	理香と王麗 話す中国語 1 CD・DVD付	董燕・遠藤光暁
	備考	教科書の各課練習問題や第10・16・22課の講読文はプリントにて解説するのみで、授業中は基本的に触れない。授業では専ら本文（会話文）の学習と口頭試験課題文に関する例文を学ぶ。		
参考書	書籍ではないが、学修サポートとしてインターネットサイトQuizletにて補助教材を提供する。学修の参考にすること。 (https://quizlet.com/join/JefgDKbYC)			
オフィスアワー	月曜6限1033講堂（予定）。これは原則競技部学生向けのオフィスアワーであり、競技部以外の学生向けのオフィスアワーは毎週火曜5限、1091講堂（予定）にて行う。 いずれも、授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施する。（s-fukugi.2019@ceres.dti.ne.jp）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラパスをよく読み、Quizletに加入して、A前期 予習(01)を確認（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業方法や評価方法の詳細 発音① A前期 重要例文(01)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet A前期 重要例文の(01)を練習し覚える（30分）
2	事前学習	Quizlet A前期 予習(02)で学習内容を確認（30分）
	授業内容	発音② 姓名の中国語 A前期 重要例文(02)を中心に学び、練習する。
	事後学習	補助プリント等を用いて復習、Quizlet A前期 重要例文の(02)を練習し覚える（30分）
3	事前学習	Quizlet A前期 予習(03)で学習内容を確認（30分）
	授業内容	○第5課「空港でタクシーに乗る」 Quizlet A前期 重要例文(03)を中心に学び、練習する。
	事後学習	第5課を復習、Quizlet A前期 重要例文の(03)を練習し覚える（30分）
4	事前学習	Quizlet A前期 予習(04)で学習内容を確認（30分）
	授業内容	○第6課「映画学院に到着」 Quizlet A前期 重要例文(04)を中心に学び、練習する。
	事後学習	第6課を復習、Quizlet A前期 重要例文の(04)を練習し覚える（30分）

5	事前学習	Quizlet A前期 予習(05)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	○第5課～第6課のまとめ Quizlet A前期 重要例文(05)を中心に学び、練習する。
	事後学習	第5課～第6課を復習、Quizlet A前期 重要例文の(05)を練習し覚える (30分)
6	事前学習	Quizlet A前期 予習(06)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	○第7課「王麗と留学生宿舍へ」 Quizlet A前期 重要例文(06)を中心に学び、練習する。
	事後学習	第7課を復習、Quizlet A前期 重要例文の(06)を練習し覚える (30分)
7	事前学習	Quizlet A前期 予習(07)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	○第8課「こちら?それともあちら?」 Quizlet A前期 重要例文(07)を中心に学び、練習する。
	事後学習	第8課を復習、Quizlet A前期 重要例文の(07)を練習し覚える (30分)
8	事前学習	Quizlet A前期 予習(08)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	○第9課「私の部屋へ遊びに来ない?」 Quizlet A前期 重要例文(08)を中心に学び、練習する。
	事後学習	第9課を復習、Quizlet A前期 重要例文の(08)を練習し覚える (30分)
9	事前学習	Quizlet A前期 予習(09)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	○第7課～第9課のまとめ Quizlet A前期 重要例文(09)を中心に学び、練習する。
	事後学習	第7課～第9課を復習、Quizlet A前期 重要例文の(09)を練習し覚える (30分)
10	事前学習	Quizlet A前期 予習(10)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	○第11課「王麗の部屋を訪ねる」 Quizlet A前期 重要例文(10)を中心に学び、練習する。
	事後学習	第11課を復習、Quizlet A前期 重要例文の(10)を練習し覚える (30分)
11	事前学習	Quizlet A前期 予習(11)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	○第12課「お茶をいただく」 Quizlet A前期 重要例文(11)を中心に学び、練習する。
	事後学習	第12課を復習、Quizlet A前期 重要例文の(11)を練習し覚える (30分)
12	事前学習	Quizlet A前期 予習(12)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	○第11課～第12課のまとめ Quizlet A前期 重要例文(12)を中心に学び、練習する。
	事後学習	第11課～第13課を復習、Quizlet A前期 重要例文の(01)を練習し覚える (30分)
13	事前学習	Quizlet A前期 口頭試験課題文で疑問点を整理 (30分)
	授業内容	前期の復習 Quizlet A前期 口頭試験課題文の練習①
	事後学習	前期の学修を振り返り、Quizlet A前期 口頭試験課題文を繰り返し練習する (30分)
14	事前学習	Quizlet A前期 口頭試験課題文の暗唱に取り組む (30分)
	授業内容	前期のまとめ Quizlet A前期 口頭試験課題文の練習②
	事後学習	前期の学修を振り返り、Quizlet A前期 口頭試験課題文の暗唱に取り組む (30分)
15	事前学習	Quizlet A前期 口頭試験課題文で口頭試験の準備、苦手部分の克服 (30分)
	授業内容	◎前期筆記試験・前期口頭試験 総括・振り返り
	事後学習	筆記試験の内容とQuizlet A前期 口頭試験課題文を中心に復習する (30分)

科目名	中国語基礎文法A	担当者	本間 直人	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中国語の入門期に習得すべき発音の原則、文法事項について学習する。なお、テキストだけでは分かりにくい点については、学習の要点をまとめたプリントなどを使って理解を深める。あわせて、最新の中国事情についても学ぶ。					
授業目的・到達目標	【授業目的】中国語入門の基本であるローマ字音、声調、有気音と無気音、そり舌音などについての理解と、中国語文法の基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】中国に対する興味と関心を深めるとともに、聞く、話す、読む、書くといった総合的な中国語の基礎作りによって、中国語検定準4級に合格できる語学力を獲得できることを目標とする。					
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域6 特になし。					
授業方法	発音練習と基本的な文法の習得に力を入れる。また、中国語に対する興味と関心を深めるために、日本の楽曲の中国語カバー曲を授業に取り入れる。1 課終了ごとに小テストを実施し、次の授業で返却を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験など）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2006	白帝社		『出発 中国語』		栗原千里・王熙萍・本間直人
	備考					
参 考 書	使用しない。					
オフィスアワー	木曜日9：00～ 授業終了後の講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（30分）
	授業内容	ガイダンス（授業の進め方などについての説明） 発音練習
	事後学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
2	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	発音練習、第1課 人称代名詞、“是”の文について学習する。
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
3	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第1課 名前の聞き方と答え方について、第2課 場所を表す指示代名詞などについて学習する。
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。（30分）
4	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第2課 疑問詞“哪儿”“什么”“什么……”、省略疑問文“……呢”について学習する。 小テスト
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。（30分）

5	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第3課 副詞“都……”について学習する。 小テスト
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
6	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第3課 形容詞述語文について学習する。
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。（30分）
7	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第4課 指示代名詞、“的”の用法について学習する。 小テスト
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
8	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第4課 所有などを表す“有”、副詞“也”について学習する。
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。（30分）
9	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第5課 数字、量詞について学習する。 小テスト
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
10	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第5課 序数、“几”を用いて数を尋ねる表現について学習する。
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。（30分）
11	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第6課 完了の“了”、助動詞“想”について学習する。 小テスト
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
12	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第6課 存在を表す“有”、“多少”と“几”の違いについて学習する。
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。（30分）
13	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第7課 時を表す語、月・日・曜日の言い方、時刻の言い方について学習する。 小テスト
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
14	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第7課 時を表す語の位置、時を表す語が述語となる文について学習する。
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
15	事前学習	テキストの本文と練習問題を中心に、よく復習しておくこと。また、授業中に配布したプリントも見直しておくこと。（30分）
	授業内容	授業内テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）

科目名	中国語基礎文法A	担当者	吉富 透	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	中国語を初めて習う学生が基礎文法を習得する科目である。ただし文法構造の理解だけでなく、発音表記ピンイン・書体の違いなど初歩の一步から学ぶ総合的中国語授業でもある。				
授業目的・到達目標	世界経済は中国抜きで語ることはできない。日本の大手企業も20代の社員を中国へ留学させ、将来的には日本人社員が中国で中国語を用いて顧客に接しなければならないとする動きがある。これは台湾においても同様である。就職のことも鑑み、初級中国語の基礎文法を習得しておくことが望まれる。ただし文法理解だけでコミュニケーションがとれるわけではない。そのため発音（ピンイン・四声）と現代中国語の簡体字に慣れ親しみ、基礎力を育成することを目的とする。初級中国語の基礎を習得し、簡単な自己紹介を中国語でできるようになることを目指す。そのためにも発音（ピンイン）と声調を正しく理解することも要求する。総合学習により中国語検定4級レベルを到達目標とする。				
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域6 積極的に取り組み、声を出すことに抵抗を感じない者、及び現代中国語の発音・意味・書体が日本語と全く違う外国語であると認識している者が望ましい。				
授業方法	学生参加形式で行う。テキストに従い、毎時間指名し中国語で答えていただく。また随時小テストも行う。フィードバックは授業内において行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	(80%)前期末の筆記試験の点数に重点をおく。 (20%)受講姿勢および授業内での小テストや発音・中国語での質問応答等を評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	郁文堂		楽しく学ぼうやさしい中国語「基礎編」	張慧絹・王武雲・朱芸 共著
	備考				
参考書	『中日辞典』 小学館・講談社 『やさしくくわしい 中国語文法の基礎』守屋宏則 東方書店				
オフィスアワー	授業終了後教室内・講師控室で受け付けます。 授業時間：月曜4限・5限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	まえがきと発音篇の説明を読み、声調とはどういうものであるのかCDを聞いておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業方針・評価方法・中国語の特徴・発音について
	事後学習	CDを聞いて声調練習をしてみる。（30分）
2	事前学習	CDを聞いて単母音・複合母音を発音してみる。 発音ローマ字ピンインを書いてみる。（30分）
	授業内容	発音練習1 中国語の声調 単母音 複合母音
	事後学習	CDを聞いて復習し、さらにピンイン表記を書いて覚える。（30分）
3	事前学習	CDを聞いて鼻母音・子音を発音してみる。 発音ローマ字ピンインを書いてみる。（30分）
	授業内容	発音練習2 中国語の鼻母音・子音とその組み合わせ
	事後学習	CDを聞いて発音の復習をし、実際の発音とピンイン表記e, iの違いを確認し覚える。 ピンインを書いて覚える。（30分）
4	事前学習	CDを聞いて鼻母音・子音を発音してみる。 発音ローマ字ピンインを書いてみる。（30分）
	授業内容	発音練習3 ピンイン表記の変化 声調の変化
	事後学習	ある母音で始まるピンイン表記が変化することを書いて確認し発音してみる。 声調の変化がある第三声と“不”“一”の変化を確認し、書いて覚える。（30分）

5	事前学習	日本語と表記が違うものをピックアップし、先に単語を覚える。 CDを聞いてピンインを見ながら発音練習してみる。(30分)
	授業内容	発音の総復習
	事後学習	日本語表記と違う単語を再確認する。 ピンイン表記を再確認し、CDを聞いて発音してみる。(30分)
6	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 自分の名前の簡体字・ピンインを中国語辞書で調べておく。(30分)
	授業内容	第1課 文法ポイント：名前の聞き方と答え方 動詞述語文（1） ドリル問題
	事後学習	自分の名前の簡体字とピンイン表記を再確認する。 「AはBです」の肯定文・否定文・疑問文を再確認する。(30分)
7	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。(30分)
	授業内容	第2課 文法ポイント：疑問詞疑問文 名詞の修飾の仕方 副詞「も」の用法 ドリル問題
	事後学習	人称代名詞・指示代名詞を確認する。 第1課と第2課の疑問文の違いを確認する。 名詞を修飾する場合の「の」に相当する“的”が不要なケースを再確認する。(30分)
8	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 形容詞述語文に“是”が用いられてないことを確認しておく。(30分)
	授業内容	第3課 文法ポイント：形容詞述語文 ドリル問題
	事後学習	場所代名詞をしっかりと覚える。 形容詞述語文の肯定文・否定文・疑問文の特徴を再確認する。特に副詞との組み合わせに注意。(30分)
9	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 時点の語句は16－17頁参照。(30分)
	授業内容	第4課 文法ポイント：動詞述語文（2） 時点を表す語句の位置 省略疑問文 ドリル問題
	事後学習	動詞述語文と時点を組み合わせた文に慣れるよう書いて覚える。(30分)
10	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。(30分)
	授業内容	第5課 文法ポイント：所在の表現 方位詞の用法 前置詞“離”を用いた表現 ドリル問題
	事後学習	英語の前置詞句と違うことを再確認する。 日本人の言語習慣上忘れやすい「中」を再確認し、日中言語の相違を再考する。(30分)
11	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 今までの否定文と違うことに着目しておく。(30分)
	授業内容	第6課 文法ポイント：所有の表現 量詞＋名詞の組み合わせ 二つの数の尋ね方 ドリル問題
	事後学習	量詞と名詞の組み合わせは一定なので、単語で覚えるよりもセットで確認する。 所有の否定文に用いられる“没”を再確認する。(30分)
12	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5課“在”と第6課“有”の違いを確認しておく。(30分)
	授業内容	第7課 文法ポイント：存在を表現する“有”の文 各種年齢の尋ね方 ドリル問題
	事後学習	短文を自分の家族構成に沿って表現できるようにする。 第5課から第7課までの“在”と“有”、場所を表す語句がどのように並び替えられるのか再確認する。(30分)
13	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 英語の前置詞句と違うことを確認しておく。(30分)
	授業内容	第8課 文法ポイント：前置詞“在”を用いた表現 連動文（1） ドリル問題
	事後学習	4つの「で」に相当する前置詞を使い分けできるよう再確認する。 場所表現が置かれる位置を確認し、中国語の基本動詞述語文の構成を再確認する。(30分)
14	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5課の前置詞句を確認しておく。(30分)
	授業内容	第9課 文法ポイント：動作の完了表現 前置詞“跟”を用いた表現 ドリル問題
	事後学習	動作の完了を表現する“了”の位置と否定文・疑問文を再確認する。 述語が形容詞の場合の前置詞句を再確認する。(30分)
15	事前学習	ピンインと簡体字が対照になるよう書いて覚える。 特に各種否定文の違いを整理して覚えること。(30分)
	授業内容	前期の総合復習
	事後学習	ピンインと簡体字が一致したか確認する。 疑問文に対する各種否定文の違いと数と量詞を用いた肯定文を再確認する。(30分)

科目名	中国語基礎文法A	担当者	徐 前	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-----	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	発音から始まり、基礎文法や表現を理解しながら、応用力を高めるため聞いて会話するトレーニングを繰り返して行う。				
授業目的・到達目標	発音から始まり、基礎文法や表現と共に、応用力を養成することを目的とする。 発音・基礎文法・表現をマスターすると同時に、言葉や表現の応用ができることを到達目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	主に1年次生(中国語の初心者)を対象とする。				
授業方法	講義と添削により指導を行い、繰り返しのトレーニングを中心に、教科書の内容に沿って授業を進めていく。携帯で教科書の音声ファイルを聞くことができる。毎回出欠を確認する。フィードバックは授業内において行う。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験				
	平常評価		100%		授業参加度 30% 小テスト 10% 期末テスト(満点 100点 合格点 60点) 60%
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年初版発行	株式会社 天天		耳から学ぶ中国語	矢野光治 他
	備考				
参考書	中日・日中辞典（版本、出版社の指定なし）				
オフィスアワー	授業後に質問を受け付ける。 授業時間：木曜 3・4 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	講義に関する要望などを考えておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス（本講義の授業計画・内容などについての説明）
	事後学習	中国語に関する基本知識を調べておく。（30分）
2	事前学習	テキストの用意。ひと通り目を通しておく。（30分）
	授業内容	中国語の発音 1 単母音、四声（声調）
	事後学習	既習した単母音、四声を復習する。（30分）
3	事前学習	教科書の音声ファイルを聴きながら複合母音、子音を予習する。（30分）
	授業内容	中国語の発音 2 複合母音、子音
	事後学習	既習した複合母音、子音を復習する。（30分）
4	事前学習	教科書の音声ファイルを聴きながら鼻母音を予習する。（30分）
	授業内容	中国語の発音 3 鼻母音 総合復習
	事後学習	既習した発音と声調を復習してまとめる。（30分）

5	事前学習	第1課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第1課 ポイント：人称代名詞 動詞“是”の使い方 疑問詞疑問文
	事後学習	教科書の音声ファイルを聴きながら、第1課の内容を練習して覚える。（30分）
6	事前学習	練習問題を予習する。（30分）
	授業内容	練習問題を解いて発表する。
	事後学習	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。（30分）
7	事前学習	第2課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第2課 ポイント：場所代名詞 形容詞文 反復疑問文
	事後学習	教科書の音声ファイルを聴きながら、第2課の内容を練習して覚える。（30分）
8	事前学習	練習問題を予習する。（30分）
	授業内容	練習問題を解いて発表する。
	事後学習	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。（30分）
9	事前学習	第3課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第3課 ポイント：指示代名詞 動詞“有”の文
	事後学習	教科書の音声ファイルを聴きながら、第3課の内容を練習して覚える。（30分）
10	事前学習	練習問題を予習する。（30分）
	授業内容	練習問題を解いて発表する。
	事後学習	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。（30分）
11	事前学習	第4課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第4課 ポイント：動詞“在”の文 因果関係の表現
	事後学習	教科書の音声ファイルを聴きながら、第4課の内容を練習して覚える。（30分）
12	事前学習	練習問題を予習する。（30分）
	授業内容	練習問題を解いて発表する。
	事後学習	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。（30分）
13	事前学習	第5課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第5課 ポイント：動詞文 時刻・日・曜日
	事後学習	教科書の音声ファイルを聴きながら、第5課の内容を練習して覚える。（30分）
14	事前学習	練習問題を予習する。（30分）
	授業内容	練習問題を解いて発表する。
	事後学習	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。（30分）
15	事前学習	前期に既習した内容を復習して覚える。（30分）
	授業内容	まとめと期末テスト
	事後学習	前期の学習についてまとめをする。（30分）

科目名	中国語基礎文法A	担当者	鄭 曉青	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中国語の発音記号、簡体字、簡単な文型を学ぶ。				
授業目的・到達目標	発音記号と基礎文法の知識を養成することを目的とします。 初歩の中国語で最も大切な発音が正しくできるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	特になし				
授業方法	初歩の中国語で最も大切な発音に特に重点を置いて指導する。二人で組んで会話の練習をする。 フィードバックは授業内において行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加度（学習の積極性）及び小テスト。40%小テストと60%前期の発音テスト	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018年	隆美出版		歩歩高	康音など
	備考				
参考書	中国語辞書必要 指定なし				
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。 授業時間：火曜 1・2 限、木曜 3 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の目次を読む（30分）
	授業内容	年間講義計画・成績評価の方法・数の読み方
	事後学習	学習の計画を考える（30分）
2	事前学習	数を暗記（30分）
	授業内容	発音Ⅰ 発音Ⅱ
	事後学習	復習 録音を聞く（30分）
3	事前学習	予習 録音を聞く（30分）
	授業内容	発音Ⅲ
	事後学習	復習 録音を聞く（30分）
4	事前学習	予習 録音を聞く（30分）
	授業内容	発音Ⅳ
	事後学習	発音のまとめ（30分）

5	事前学習	予習 本文を読む (30分)
	授業内容	第1課 お名前は
	事後学習	復習 録音を聞く (30分)
6	事前学習	単語の暗記 (30分)
	授業内容	トレーニング 文法と練習問題
	事後学習	文型の確認 (30分)
7	事前学習	予習 本文を読む (30分)
	授業内容	第2課 何人家族ですか
	事後学習	復習 録音を聞く (30分)
8	事前学習	単語の暗記 (30分)
	授業内容	トレーニング 文法と練習問題
	事後学習	文型の確認 (30分)
9	事前学習	予習 本文を読む (30分)
	授業内容	第3課 マクドナルドに行きますか
	事後学習	復習 録音を聞く (30分)
10	事前学習	単語の暗記 (30分)
	授業内容	トレーニング 文法と練習問題
	事後学習	文型の確認 (30分)
11	事前学習	予習 本文を読む (30分)
	授業内容	第4課 今日は何曜日ですか
	事後学習	復習 録音を聞く (30分)
12	事前学習	単語の暗記 (30分)
	授業内容	トレーニング 文法と練習問題
	事後学習	文型の確認 (30分)
13	事前学習	予習 本文を読む (30分)
	授業内容	第5課 いくらですか
	事後学習	復習 録音を聞く (30分)
14	事前学習	単語の暗記 (30分)
	授業内容	トレーニング 文法と練習問題
	事後学習	文型の確認 (30分)
15	事前学習	復習 録音を聞く (30分)
	授業内容	期末試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	まとめ (30分)

科目名	中国語基礎文法B	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中国語の基礎発音練習は尚も継続しつつ、初級会話表現、初級文法表現を発音と共に学習する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】中国語の初級会話表現、初級文法表現の学習を通して、初級中国語会話力の構築を目的とする。 【到達目標】日本中国語検定協会が実施する中国語検定試験準4級に合格できる程度の語学力の獲得を目標とする。関連DP及びCP:外国語科目領域6				
履修条件	継続して授業に出席すること。授業中、発音練習の際、読込の際は大声で丁寧に発音すること。				
授業方法	指定教科書の内容に沿って進める。読込練習を重点に据え、初級中国語会話力の構築を目指す。授業内試験の解答、傾向等に関してはポータルシステム上で公開する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	なし	
	平常評価		100%	平常評価(授業参加度、授業内試験)	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	平成31年度	白帝社	出発 中国語		本間直人、栗原千里、王熙萍
	備考	なし			
参考書	なし				
オフィスアワー	火曜昼休み(12:10～13:00)研究室等。中国語学習方法、中国語圏留学等可能な範囲で相談に応ずる。又メール連絡可、栗原千里研究室メールアドレス kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前に第8課時間の長さの表現、動作の回数と継続時間の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第8課 時間の長さの表現、動作の回数と継続時間について学ぶ。
	事後学習	時間の長さの表現、動作の回数と継続時間の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
2	事前学習	事前に第8課離合詞、介詞「從」「在」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第8課 離合詞、介詞「從」「在」について学ぶ。
	事後学習	離合詞、介詞「從」「在」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
3	事前学習	事前に第9課経験を表す「過」、可能を表す助動詞「会」「能」「可以」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第9課 経験を表す「過」、可能を表す助動詞「会」「能」「可以」について学ぶ。
	事後学習	経験を表す「過」、可能を表す助動詞「会」「能」「可以」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
4	事前学習	事前に第9課反復疑問文、選択疑問文「還是」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第9課 反復疑問文、選択疑問文「還是」について学ぶ。
	事後学習	反復疑問文、選択疑問文「還是」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)

5	事前学習	事前に第10課方位を表す言い方、存在を表す「有」「在」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第10課 方位を表す言い方、存在を表す「有」「在」について学ぶ。
	事後学習	方位を表す言い方、存在を表す「有」「在」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
6	事前学習	事前に第10課介詞「給」、動詞「喜歡」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第10課 介詞「給」、動詞「喜歡」について学ぶ。
	事後学習	介詞「給」、動詞「喜歡」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
7	事前学習	事前に第11課程度補語、動詞の重ね型の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第11課 程度補語、動詞の重ね型について学ぶ。
	事後学習	程度補語、動詞の重ね型の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
8	事前学習	事前に第11課介詞「離」、連動文の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第11課 介詞「離」、連動文について学ぶ。
	事後学習	介詞「離」、連動文の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
9	事前学習	事前に第12課動作進行の「在」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第12課 動作進行の「在」について学ぶ。
	事後学習	動作進行の「在」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
10	事前学習	事前に第12課禁止を表す「別」、修飾語と被修飾語を繋ぐ「的」の用法の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第12課 禁止を表す「別」、修飾語と被修飾語を繋ぐ「的」の用法について学ぶ。
	事後学習	禁止を表す「別」、修飾語と被修飾語を繋ぐ「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
11	事前学習	事前に第13課「是～的」構文部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第13課 「是～的」構文について学ぶ。
	事後学習	「是～的」構文の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
12	事前学習	事前に第13課比較表現部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第13課 比較表現について学ぶ。
	事後学習	比較表現の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
13	事前学習	事前に第14課二重目的語をとる動詞の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第14課 二重目的語をとる動詞について学ぶ。
	事後学習	二重目的語をとる動詞の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
14	事前学習	事前に第14課使役の「讓」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第14課 使役の「讓」について学ぶ。
	事後学習	使役の「讓」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
15	事前学習	後期中に学習した内容を事前に整理して頭に入れておくこと。(30分)
	授業内容	後期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。
	事後学習	休後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。(30分)

科目名	中国語基礎文法B	担当者	小林 光考	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期から継続する授業で、中国語基礎文法Aにおいて文法を中心に身に付けた基礎文法力を礎として、更にしっかりとした発音力や語彙力などの面における総合的な中国語基礎力の強化、完成を行ってゆく。					
授業目的・到達目標	【授業目的】中国語の文法の基礎力及び応用力を養成することを目的とする。 【到達目標】中国語の基礎的な文法を理解し、その基礎力を礎として更に応用的な文法力を獲得できることを目標とする。関連DP及びCP:外国語科目領域6					
履修条件	単位取得だけの為ではなく中国語を進んで学習し、習得したいという意欲を持っていること。授業に関する一般的な決まり（規定数以上の欠席や遅刻、私語、居眠り、授業以外の事をしないなど）を守ることが出来ること。					
授業方法	先に文法の説明を行いその後、学生を指名して本文訳、練習問題等を解いて教科書を進めて行く。また同時に中国語学習に有用な時事面、文化面などの知識も合わせて教授していく。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		学期末試験（リスニングを含む）65%。本文音読テスト10%。平常点(授業態度、積極性(予習や宿題の履行など授業への参加度)25%。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	白水社		中国語1年め		緒方昭・小林光考・胡慶華
	備考					
参考書	【参考書】『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著、東方書店刊、『完全マスター中国語文法改訂版』瀬戸口律子著、語研刊【辞典】状況によって中日辞典を使用する場合がある。具体的なものについては授業中に紹介する。					
オフィスアワー	授業開始前（教員控室）又は授業終了後（教室）にて。 授業時間：木曜1・2限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書発音部及び第1～5課全事項について、再度確認。（60分）
	授業内容	前期試験解説。 前期授業復習。
	事後学習	前期試験の問題点改善、授業の進め方の確認。（60分）
2	事前学習	第6課① いっしょに遊びに出かける 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第6課① いっしょに遊びに出かける について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第6課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）
3	事前学習	第6課文法事項等について、教科書で再度確認、第6課② いっしょに遊びに出かける 、第7課① 花火は何時から？ 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第6課② いっしょに遊びに出かける、第7課① 花火は何時から？ について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第6課全事項の習得確認、第7課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）
4	事前学習	第7課② 花火は何時から？ 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第7課② 花火は何時から？ について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第7課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）

5	事前学習	第8課① 学園祭 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第8課① 学園祭 について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第8課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）
6	事前学習	第8課文法事項について、教科書で再度確認、第8課② 学園祭、第9課① カラオケに行く 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第8課② 学園祭、第9課① カラオケに行く について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第8課全事項の習得確認、第9課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）
7	事前学習	第9課文法事項等について、教科書で再度確認、第9課② カラオケに行く 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第9課② カラオケに行く について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第9課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）
8	事前学習	第10課① 中国の映画を見る 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第10課① 中国の映画を見る について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第10課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）
9	事前学習	第10課文法事項等について、教科書で再度確認、第10課② 中国の映画を見る、第11課① 帰国を前にして 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第10課② 中国の映画を見る、第11課① 帰国を前にして について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第10課全事項の習得確認、第11課文法事項等の取得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）
10	事前学習	第11課文法事項等について、教科書で再度確認、第11課② 帰国を前にして 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第11課② 帰国を前にして について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第11課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）
11	事前学習	第12課① 空港で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第12課① 空港で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第12課文法事項等の習得確認及び本文訳、練習問題の解答、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）
12	事前学習	第12課文法事項等について、教科書にて再度確認、第12課② 空港で 予習（文法事項通読、新出単語及び本文発音確認）（90分）
	授業内容	第12課② 空港で について理解し、それに対応する教科書の問題を解答できる。
	事後学習	第12課全事項の習得確認、間違えた箇所の問題を解き直す、新出単語暗記。（90分）
13	事前学習	第6～12課の習得確認。（120分）
	授業内容	後期授業総復習。
	事後学習	後期授業における習得の総確認。（120分）
14	事前学習	教科書本文音読テスト準備。（120分）
	授業内容	教科書本文音読テスト後期学習内容の振り返り。
	事後学習	教科書本文音読テストの問題点改善。（90分）
15	事前学習	教科書の総復習、後期試験準備。（180分）
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り。
	事後学習	これまでの学習内容を確認、後期試験の問題点改善、中級に向けた春休みにおける学習。（90分）

科目名	中国語基礎文法B	担当者	篠田 幸夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代中国語の発音と文法の基礎を学ぶ。			
授業目的・到達目標	【授業目的】中国語の基本構文を学習し日本語とは異なる場合もある中国語の語順体系を把握し、将来文章を読解するために有効な分析方法の基礎力を養成することを目的とする。 【授業目標】中国語の正確な発音を聞き分け同時に言い分けられるようになる。四声を正確に発音できる。第三声の声調変化を説明できる。「a」「i」「u」の複数ある発音について聞き分け・言い分けられる。形容詞・動詞述語文の基本語順や、連体・連用修飾語の位置について説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	休まず授業に参加できる。授業以外に1回10分以上1週間に3回以上の復習を習慣化できる。授業に積極的に参加し失敗を恐れずに発音練習できる。毎週ドリルに取り組める。毎週小テストの準備ができる。私語を我慢できる。			
授業方法	学生が主体となって練習する機会を非常に多く取る。概ね以下の順に進める。重要事項の説明・CDを使って発音練習・和訳・中訳練習・ドリルの解答合わせ・小テスト。【フィードバック方法】小テスト返却時にポイントを解説する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	ドリルの取組み30%、小テスト30%、期末試験40%。私語・居眠り・独自の判断で練習を終えてしまう場合は減点する。11月の中国語検定試験4級合格者には加点する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015年	朝日出版社	『好きです♥中国語 文法編』	中村俊弘・吉田泰謙・郝佳璐
	備考			
参考書	相原 茂 他 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』 同友社 相原 茂『謎解き中国語文法』 講談社現代新書			
オフィスアワー	土曜日16：10～16：40（事前にメールでアポイントメントを取ること） shinoda.hanyu2019@gmail.com			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	CDを聞き四声・単母音・子音および第1課から第9課までのポイントの例文を正確に発音できるように復習しておく。第1課から第9課までのポイントの内容を説明できるように復習しておく。（45分）
	授業内容	総復習 四声・単母音・子音・声調の変化、第1課から第9課までのポイントの例文の発音とポイントの内容確認をする。
	事後学習	正確に発音できなかった場所をCDを聞き直して練習しておく。忘れていた単語を覚えなおす。説明できなかったポイントの説明できるようにする。（15分）
2	事前学習	66～68ページを一読しCDを聞いておく。（15分）
	授業内容	第10課 禁止表現、介詞〈从〉、経験の〈過〉、原因・理由を訪ねる〈怎么〉の練習をする。
	事後学習	66～68ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（45分）
3	事前学習	69～71ページのドリルを解いておく。72～74ページを一読しCDを聞いておく。（30分）
	授業内容	66～71ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第11課 介詞〈对〉〈离〉、動詞の重ね型、目的語を二つとる動詞の練習をする。
	事後学習	72・73ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）
4	事前学習	75～77ページのドリルを解いておく。78～80ページを一読しCDを聞いておく。66～71ページの単語と語順について復習しておく。（30分）
	授業内容	第10課小テスト 75～77ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第12課 比較文、助動詞〈可以〉、程度・数量の尋ね方、助動詞〈要〉の練習をする。
	事後学習	78～80ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）

5	事前学習	81～83ページのドリルを解いておく。84～86ページを一読しCDを聞いておく。72～77ページの単語と語順について復習しておく。（30分）
	授業内容	第11課小テスト 81～83ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第13課 使役文、接続詞〈因為〉〈所以〉、「もうすぐ～する」の言い方、介詞〈往〉の練習をする。
	事後学習	84～86ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）
6	事前学習	87～89ページのドリルを解いておく。90～92ページを一読しCDを聞いておく。78～83ページの単語と語順について復習しておく。（30分）
	授業内容	第12課小テスト 87～89ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第14課 結果補語、接続詞〈雖然～但是～〉、様態補語、〈是不是〉を使った疑問文の練習をする。
	事後学習	90～92ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）
7	事前学習	93～95ページのドリルを解いておく。96～98ページを一読しCDを聞いておく。84～89ページの単語と語順について復習しておく。（30分）
	授業内容	第13課小テスト 93～95ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第15課 持続の〈着〉、可能性の〈可能〉、否定疑問の〈不是～嗎？〉、副詞〈就〉の練習をする。
	事後学習	96～98ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）
8	事前学習	99～101ページのドリルを解いておく。102～104ページを一読しCDを聞いておく。90～95ページの単語と語順について復習しておく。（30分）
	授業内容	第14課小テスト 99～101ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第16課 方向補語、存現文、仮定の〈如果～就〉、介詞〈為〉〈為了〉の練習をする。
	事後学習	102～104ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）
9	事前学習	105～107ページのドリルを解いておく。108～110ページを一読しCDを聞いておく。96～101ページの単語と語順について復習しておく。（30分）
	授業内容	第15課小テスト 105～107ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第17課 処置文〈把〉、〈越～越〉、副詞〈才〉除外・補充の〈除了～以外〉の練習をする。
	事後学習	108～109ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）
10	事前学習	111～113ページのドリルを解いておく。114～116ページを一読しCDを聞いておく。102～107ページの単語と語順について復習しておく。（30分）
	授業内容	第16課小テスト 111～113ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第18課 〈又～又～〉、可能補語、仮定の〈即使～也〉、動詞〈祝〉の練習をする。
	事後学習	114～116ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）
11	事前学習	117～119ページのドリルを解いておく。120～121ページを一読しCDを聞いておく。108～113ページの単語と語順について復習しておく。（30分）
	授業内容	第17課小テスト 117～119ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第19課 受身文、〈一边～一边〉〈先～然后/再〉、〈像/跟～一樣〉の練習をする。
	事後学習	120～121ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）
12	事前学習	123～125ページのドリルを解いておく。126～128ページを一読しCDを聞いておく。114～119ページの単語と語順について復習しておく。（30分）
	授業内容	第18課小テスト 123～125ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 第20課 〈不但～而且～〉、動詞〈帮〉、評価を導く〈着〉、動詞〈打算〉の練習をする。
	事後学習	126～128ページの内容をテキストを見ずに聞き取れるようになるまでCDを繰り返し聞き、同時に正確な声調で発音できさらに漢字とピンインで書けるように練習する。（30分）
13	事前学習	129～131ページのドリルを解いておく。120～125ページの単語と語順について復習しておく。（20分）
	授業内容	第19課小テスト 129～131ページのドリルの解答合わせと誤答の分析をする。 総復習 第10課から第14課までの単語・ポイントとその語順を何も見ないで説明できるようにする。
	事後学習	忘れていた単語と説明できなかったポイントと語順を覚えなおす。（40分）
14	事前学習	126～131ページの単語と語順について復習しておく。第15課～第20課の単語とポイントおよび関連する語順を復習しておく。（30分）
	授業内容	第20課小テスト 総復習 第15課から第20課までの単語を復習し、ポイントとそれに関連する語順を何も見ないで説明できるようにする。
	事後学習	忘れていた単語と説明できなかったポイントと語順を覚えなおす。（30分）
15	事前学習	テキストの総復習（45分）
	授業内容	授業内試験及び後期学習内容の振り返り
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。（15分）

科目名	中国語基礎文法B	担当者	福木 滋久	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	中国語の履修、もしくは中国語学修と部活動の両立に困難を感じている者、あるいは事前抽選にあぶれてしまった者を対象に指導を行う。			
授業目的・到達目標	本授業は、中国語初心者について基礎文法を中心とした初歩的語学力を養成することを目的とする。基本的な部分の学びを中心とすることから、高い到達度を望む学生には向かない。 受講者が中国語の基本的な文法を身につけ、簡単な中国語を聞き取ることができ、簡単な応答ができるようになる事を目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域 6。 本クラスが中国語入門のクラスである事を理解し、かつ、本シラバスの内容を了解し担当者の指示に従い学修できる者。			
授業方法	テキストに沿ったビデオストーリーを視聴し、期末口頭試験課題文の練習を中心に学習を進める。「成績評価欄」に記した「単位取得の最低要件」は遵守する。学期末のフィードバックは最終授業にて伝える			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業参加度（50%）、期末試験（50%：口頭・筆記）。所定の授業参加度を満たし、後期の筆記or口頭試験何れかに合格する事が単位取得の最低要件。詳細は授業にて。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2004年	朝日出版社	理香と王麗 話す中国語 1 CD・DVD付	董燕・遠藤光暁
	備考	教科書の各課練習問題や第10・16・22課の講読文はプリントにて解説するのみで、授業中は基本的に触れない。授業では専ら本文（会話文）の学習と口頭試験課題文に関する例文を学ぶ。		
参考書	書籍ではないが、学修サポートとしてインターネットサイトQuizletにて補助教材を提供する。学修の参考にすること。 (https://quizlet.com/join/JefgDKbYC)			
オフィスアワー	月曜 6 限1033講堂（予定）。これは原則競技部所属の学生向けのオフィスアワーであり、競技部以外の学生向けのオフィスアワーは毎週火曜 5 限、1091講堂（予定）にて行う。いずれも、授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施する。（s-fukugi.2019@ceres.dti.ne.jp）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラパスをよく読み、QuizletのB後期 予習 (01)を確認 (30分)
	授業内容	ガイダンス 授業方法や評価方法の詳細 姓名の中国語 B後期 重要例文 (01)を中心に学び、練習する。
	事後学習	第 5 課～第12課の内容を確認、Quizlet B後期 重要例文の (01)を練習し覚える (30分)
2	事前学習	Quizlet B後期 予習 (02)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	○第13課「キャンパス案内」 B後期 重要例文 (02)を中心に学び、練習する。
	事後学習	第13課を復習、Quizlet B後期 重要例文の (02)を練習し覚える (30分)
3	事前学習	Quizlet B後期 予習 (03)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	○第14課「自己紹介」 B後期 重要例文 (03)を中心に学び、練習する。
	事後学習	第14課を復習、Quizlet B後期 重要例文の (03)を練習し覚える (30分)
4	事前学習	Quizlet B後期 予習 (04)で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	○第15課「見たいですか？」 B後期 重要例文 (04)を中心に学び、練習する。
	事後学習	第15課を復習、Quizlet B後期 重要例文の (04)を練習し覚える (30分)

5	事前学習	Quizlet B後期 予習 (05) で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	○第13課～第15課のまとめ B後期 重要例文 (05) を中心に学び、練習する。
	事後学習	第13課～第15課を復習、Quizlet B後期 重要例文の (05) を練習し覚える (30分)
6	事前学習	Quizlet B後期 予習 (06) で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	○第17課「チャイナドレスをみたい」 B後期 重要例文 (06) を中心に学び、練習する。
	事後学習	第17課を復習、Quizlet B後期 重要例文の (06) を練習し覚える (30分)
7	事前学習	Quizlet B後期 予習 (07) で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	○第18課「ここから遠いですか？」 B後期 重要例文 (07) を中心に学び、練習する。
	事後学習	第18課を復習、Quizlet B後期 重要例文の (07) を練習し覚える (30分)
8	事前学習	Quizlet B後期 予習 (08) で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	○第17課～第18課のまとめ B後期 重要例文 (08) を中心に学び、練習する。
	事後学習	第17課～第18課を復習、Quizlet B後期 重要例文の (08) を練習し覚える (30分)
9	事前学習	Quizlet B後期 予習 (09) で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	○第19課「ちょっと長いです」 B後期 重要例文 (09) を中心に学び、練習する。
	事後学習	第19課を復習、Quizlet B後期 重要例文の (09) を練習し覚える (30分)
10	事前学習	Quizlet B後期 予習 (10) で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	○第20課「いくらですか？」 B後期 重要例文 (10) を中心に学び、練習する。
	事後学習	第20課を復習、Quizlet B後期 重要例文の (10) を練習し覚える (30分)
11	事前学習	Quizlet B後期 予習 (11) で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	○第21課「ぴったりです」 B後期 重要例文 (11) を中心に学び、練習する。
	事後学習	第21課を復習、Quizlet B後期 重要例文の (11) を練習し覚える (30分)
12	事前学習	Quizlet B後期 予習 (12) で学習内容を確認 (30分)
	授業内容	○第19課～第21課のまとめ B後期 重要例文 (12) を中心に学び、練習する。
	事後学習	第19課～第21課を復習、Quizlet B後期 重要例文の (12) を練習し覚える (30分)
13	事前学習	Quizlet 後期口頭試験課題文で疑問点を整理 (30分)
	授業内容	後期の復習 B後期口頭試験課題文の練習①
	事後学習	後期の学修を振り返り、Quizlet B後期口頭試験課題文を繰り返し練習する (30分)
14	事前学習	Quizlet B後期口頭試験課題文の暗唱に取り組む (30分)
	授業内容	後期のまとめ B後期口頭試験課題文の練習②
	事後学習	後期の学修を振り返り、Quizlet B後期口頭試験課題文の暗唱に取り組む (30分)
15	事前学習	Quizlet B後期口頭試験課題文で口頭試験の準備、苦手部分の克服 (30分)
	授業内容	◎後期筆記試験・後期口頭試験 総括・振り返り
	事後学習	筆記試験の内容とQuizlet B後期口頭試験課題文を中心に復習する (30分)

科目名	中国語基礎文法B	担当者	本間 直人	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中国語の入門期に習得すべき発音の原則、文法事項について学習する。なお、テキストだけでは分かりにくい点については、学習の要点をまとめたプリントなどを使って理解を深める。あわせて、最新の中国事情についても学ぶ。					
授業目的・到達目標	【授業目的】中国語入門の基本であるローマ字音、声調、有気音と無気音、そり舌音などについての理解と、中国語文法の基礎力を養成することを目的とする。 【到達目標】中国に対する興味と関心を深めるとともに、聞く、話す、読む、書くといった総合的な中国語の基礎作りによって、中国語検定４級に合格できる語学力の獲得を目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域６					
履修条件	特になし。					
授業方法	発音練習と基本的な文法の習得に力を入れる。また、日本の楽曲の中国語カバー曲を授業に取り入れる。理解の助けのために、学習の要点をまとめたプリントなどを用意する。１課終了ごとに小テストを実施し、次の授業で返却を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、小テスト、学期末試験など）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2006	白帝社		『出発　中国語』		栗原千里・王熙萍・本間直人
	備考					
参考書	使用しない。					
オフィスアワー	木曜日9：00～　授業終了後の講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス（授業の進め方などについての説明） 第8課 時間の長さの表現、動作・行為の回数と継続時間について学習する。
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
2	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第8課 離合詞、介詞“从”“在”について学習する。
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。（30分）
3	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第9課 助動詞“会、能、可以”について学習する。 小テスト
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
4	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第9課 反復疑問文、選択疑問文について学習する。
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。（30分）

5	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第10課 方位を表す言い方、存在を表す言い方について学習する。 小テスト
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
6	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第10課 動作の対象や受益者を導く表現について学習する。
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。（30分）
7	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第11課 程度補語、動詞の重ね型について学習する。 小テスト
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
8	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第11課 介詞“离”、連動文について学習する。
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。（30分）
9	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第12課 動作進行の“在”、“的”の用法について学習する。 小テスト
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
10	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第12課 禁止表現について学習する。
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。（30分）
11	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第13課 過去の強調を表す“是……的”、“比”の比較表現について学習する。 小テスト
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
12	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第13課 “没有”の比較表現、類似を表す表現について学習する。
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。指定された例文を暗記すること。（30分）
13	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第14課 二重目的語をとる動詞、使役表現について学習する。 小テスト
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
14	事前学習	授業内容について、テキスト付属のCDを使って、発音練習をしておくこと。（30分）
	授業内容	第14課 “跟……一起”を用いた表現について学習する。
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
15	事前学習	テキストの本文と練習問題を中心に、よく復習しておくこと。また、授業中に配布したプリントも見直しておくこと。（30分）
	授業内容	授業内テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）

科目名	中国語基礎文法B	担当者	吉富 透	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	中国語基礎文法（中国語初級文法）Aを履修し単位を取得した者が、それを基に応用発展させた基礎文法を習得する科目である。				
授業目的・到達目標	前期で習得した中国語基礎文法をさらに発展・応用させた文法を中心に語学力を育成することを目的とし、併せて11月に実施される中国語検定試験準4級・4級に合格できることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	積極的に取り組み、声を出すことに抵抗を感じない者、及び現代中国語が日本語で通じるなどと安易に考えていない積極的な者が望ましい。				
授業方法	学生参加形式で行う。テキストに従い、毎時間指名し中国語で答えていただく。また随時小テストも行う。フィードバックは授業内において行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	(80%)後期末の筆記試験の点数に重点をおく。 (20%)受講姿勢および授業内での小テストや発音・中国語での質問応答等を評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	郁文堂		楽しく学ぼうやさしい中国語「基礎編」	張慧絹・王武雲・主芸 共著
	備考				
参考書	『中日辞典』 小学館・講談社 『やさしくくわしい 中国語文法の基礎』 守屋宏則 東方書店				
オフィスアワー	授業終了後教室内・講師控室で受け付けます。 授業時間：月曜 4 限・5 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。（30分）
	授業内容	第 1 0 課 文法ポイント：願望表現 選択疑問文 提案文 ドリル問題
	事後学習	助動詞文の肯定文・否定文・二種類の疑問文を確認する。 選択疑問文と提案文の構文を確認する。（30分）
2	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第5課・第8課の形容詞が述語になる時の前置詞句との違いに着目しておく。（30分）
	授業内容	第 1 1 課 文法ポイント：比較表現 「～が好きだ」の表現 副詞“越”の用法 ドリル問題
	事後学習	第5課・第8課・第11課の前置詞句の違いを再確認する。特に比較文の否定文に気を付ける。 日本人が間違えやすい“好”の意味を再確認し、中国語の「好き」「嫌い」を正しく覚える。（30分）
3	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第9課の“了”を用いた文と比較してみる。（30分）
	授業内容	第 1 2 課 文法ポイント：過去の経験表現 助動詞“打算” 状況の変化表現 ドリル問題
	事後学習	第9課“了”を用いた文との違いを再確認する。 第10課の助動詞と合わせて否定文の表現を再確認する。（30分）
4	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第9課・第12課の時制文と文構成を比較してみる。 第8課の連動文を再確認しておく。（30分）
	授業内容	第 1 3 課 文法ポイント：動作の進行表現 連動文（2） 推量と確認の表現 ドリル問題
	事後学習	3つの時制文を整理し再確認する。 第8課の連動文との違いを整理し再確認する。（30分）

5	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 助動詞使用法の違いを読んでおく。（30分）
	授業内容	第１４課 文法ポイント：３つの「できる」の表現 動詞の重ね型 依頼の表現（１） ドリル問題
	事後学習	三種類の助動詞の使用法と否定文のニュアンスの違いを再確認する。 命令形と依頼文の違いを再確認する。（30分）
6	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第５（時点）・８（場所・前置詞）・９（了）課の内容を再確認しておく。（30分）
	授業内容	第１５課 強調表現（１） お金の言い方 ドリル問題
	事後学習	第５課と第９課の語順を再確認し、強調文の構成文字の位置を再確認する。 数に慣れるようCDを聞いて発音し再確認する。（30分）
7	事前学習	ピンインと簡体字が対照になるよう書いて覚える。 時制文を覚える。特に助動詞文も含めて各種否定文の違いを整理して覚えること。（30分）
	授業内容	既習事項の確認
	事後学習	ピンインと簡体字が一致したか確認する。 疑問文に対する各種否定文の違いと時点・場所・数量表現を再確認する。（30分）
8	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第９・１５課の前置詞文を確認しておく。（30分）
	授業内容	第１６課 文法ポイント：依頼の表現（２） 結果補語の表現 前置詞“用”を用いた文 ドリル問題
	事後学習	結果補語の有無による肯定文と否定文の違いを整理し再確認する。 前置詞文の否定文が第５・９課と違うことを再確認する。（30分）
9	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 方向補語の説明文を読んでおく。動詞が述語になる前置詞文を確認しておく。（30分）
	授業内容	第１７課 文法ポイント：方向補語の表現 前置詞“給”“従”を用いた表現 ドリル問題
	事後学習	各種前置詞の用法を整理し再確認する。 方向補語のニュアンスを再確認する。（30分）
10	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第１２課の助動詞を確認しておく。（30分）
	授業内容	第１８課 文法ポイント：可能補語の表現 「それから」の表現 ドリル問題
	事後学習	第１６課の結果補語からの応用形であることを整理し再確認する。 第１２課「できる」表現との違いを整理し再確認する。（30分）
11	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第３課形容詞文と第９課の“了”を用いた文を再確認しておく。（30分）
	授業内容	第１９課 文法ポイント：様態補語の表現 時間量の表現と“了” ドリル問題
	事後学習	様態補語の肯定文は日本語表現の語順と同じであり、否定文疑問文は第３課と同じ表現であることを再確認する。 時間量の表現がある場合の“了”の位置を再確認する。（30分）
12	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 英語と同じ文構造であることと、助動詞の説明文を読んでおく。（30分）
	授業内容	第２０課 文法ポイント：二重目的語を用いる動詞 助動詞を用いた「しなければならない」の表現 ドリル問題
	事後学習	助動詞の否定文を再確認し、併せて各種助動詞を整理して覚える。（30分）
13	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第１６課の依頼文の構成を確認しておく。（30分）
	授業内容	第２１課 文法ポイント：使役の表現 副詞を用いた各種強調表現（２） ドリル問題
	事後学習	使役文の文構成を整理し、日本語の翻訳の仕方を再確認する。 各種程度副詞と併せて整理し再確認する。（30分）
14	事前学習	新出語句の意味・ピンインを調べ、CDを聞いて発音してみる。 第２１課の使役文の文構成を確認しておく。（30分）
	授業内容	第２２課 文法ポイント：受身の表現 近接未来の表現 伝聞表現 ドリル問題
	事後学習	使役文と受身文の違いを整理し再確認する。 近接未来表現にも“了”が用いられるが、第９・１２課の“了”と区分できるよう整理し再確認する。（30分）
15	事前学習	ピンインと簡体字が対照になるよう書いて覚える。 特に各種補語表現と否定文の違いを整理して覚えること。（30分）
	授業内容	一年間の基礎中国語文法総復習
	事後学習	ピンインと簡体字が一致したか確認する。 疑問文に対する各種否定文の違いと時間量を用いた肯定文・各種補語表現を再確認する。（30分）

科目名	中国語基礎文法B	担当者	徐 前	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-----	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	発音から始まり、基礎文法や表現を理解しながら、応用力を高めるため聞いて会話するトレーニングを繰り返して行う。				
授業目的・到達目標	発音から始まり、基礎文法や表現と共に、応用力を養成することを目的とする。 発音・基礎文法・表現をマスターすると同時に、言葉や表現の応用ができることを到達目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	中国語基礎文法Aを修了した学生を対象とする。				
授業方法	講義と添削により指導を行い、繰り返しのトレーニングを中心に、教科書の内容に沿って授業を進めていく。携帯で教科書の音声ファイルを聞くことができる。毎回出欠を確認する。フィードバックは授業内において行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業参加度 30% 小テスト 10% 期末テスト(満点 100点 合格点 60点)60%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年初版発行	株式会社 天天		耳から学ぶ中国語	矢野光治 他
	備考				
参考書	中日・日中辞典 (版本、出版社の指定なし)				
オフィスアワー	授業後に質問を受け付ける。 授業時間：木曜 3・4 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	第6課の単語を予習する。(30分)
	授業内容	第6課 ポイント：動詞の時態① 選択疑問文
	事後学習	教科書の音声ファイルを聞きながら、第6課の内容を練習して覚える。(30分)
2	事前学習	練習問題を予習する。(30分)
	授業内容	練習問題を解いて発表する。
	事後学習	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。(30分)
3	事前学習	第7課の単語を予習する。(30分)
	授業内容	第7課 ポイント：助動詞 “想” “打算” 動詞の時態②
	事後学習	教科書の音声ファイルを聞きながら、第7課の内容を練習して覚える。(30分)
4	事前学習	練習問題を予習する。(30分)
	授業内容	練習問題を解いて発表する。
	事後学習	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。(30分)

5	事前学習	第8課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第8課 ポイント：“是～的”の文 “又～又～”の文
	事後学習	教科書の音声ファイルを聞きながら、第8課の内容を練習して覚える。（30分）
6	事前学習	練習問題を予習する。（30分）
	授業内容	練習問題を解いて発表する。
	事後学習	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。（30分）
7	事前学習	第9課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第9課 ポイント： 時量補語 助動詞 “要”
	事後学習	教科書の音声ファイルを聞きながら、第9課の内容を練習して覚える。（30分）
8	事前学習	練習問題を予習する。（30分）
	授業内容	練習問題を解いて発表する。
	事後学習	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。（30分）
9	事前学習	第10課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第10課 ポイント：助動詞 “会” “能” “喜” 接続詞 “不但～而且～”、“除了～以外，～”
	事後学習	教科書の音声ファイルを聞きながら、第10課の内容を練習して覚える。（30分）
10	事前学習	練習問題を予習する。（30分）
	授業内容	練習問題を解いて発表する。
	事後学習	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。（30分）
11	事前学習	第11課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第11課 ポイント：様態補語・動量補語 受け身 “把”の文
	事後学習	教科書の音声ファイルを聞きながら、第11課の内容を練習して覚える。（30分）
12	事前学習	練習問題を予習する。（30分）
	授業内容	練習問題を解いて発表する。
	事後学習	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。（30分）
13	事前学習	第12課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第12課 ポイント：二重目的語 名量詞
	事後学習	教科書の音声ファイルを聞きながら、第12課の内容を練習して覚える。（30分）
14	事前学習	練習問題を予習する。（30分）
	授業内容	練習問題を解いて発表する。
	事後学習	既習した言葉や表現を使って友達と会話する。（30分）
15	事前学習	後期に既習した内容を復習して覚える。（30分）
	授業内容	まとめと期末テスト
	事後学習	一年間の学習についてのまとめをする。（30分）

科目名	中国語基礎文法B	担当者	鄭 曉青	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中国語の発音記号、簡体字、簡単な文型を学ぶ。				
授業目的・到達目標	発音記号と基礎文法の知識を養成することを目的とします。 簡単な会話と自己紹介できるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	特になし				
授業方法	初歩の中国語で最も大切な発音に特に重点を置いて指導する。二人で組んで会話の練習をする				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加度（学習の積極性）及び小テスト。40%小テストと60%前期の発音テスト	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2018年	隆美出版	歩歩高		康音など
	備考				
参考書	中国語辞書必要 指定なし				
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。 授業時間：火曜 1・2 限、木曜 3 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	予習 録音を聞く（30分）
	授業内容	第6課 料理ができますか
	事後学習	復習 本文の朗読（30分）
2	事前学習	単語の暗記（30分）
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤリング
	事後学習	文型の確認（30分）
3	事前学習	予習 練習問題（30分）
	授業内容	第7課 何時に起きますか
	事後学習	復習 本文の朗読（30分）
4	事前学習	単語の暗記（30分）
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤリング
	事後学習	文型の確認（30分）

5	事前学習	予習 録音を聞く (30分)
	授業内容	第8課 何時間寝ましたか
	事後学習	復習 本文の朗読 (30分)
6	事前学習	単語の暗記 (30分)
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤリング
	事後学習	簡体字の確認 (30分)
7	事前学習	予習 録音を聞く (30分)
	授業内容	第9課 今日は昨日より良くなりました
	事後学習	復習 本文の朗読 (30分)
8	事前学習	単語の暗記 (30分)
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤリング
	事後学習	文型の確認 (30分)
9	事前学習	予習 録音を聞く (30分)
	授業内容	第10課 中国のネットを見たことがありますか
	事後学習	復習 本文の朗読 (30分)
10	事前学習	単語の暗記 (30分)
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤリング
	事後学習	文型の確認 (30分)
11	事前学習	予習 録音を聞く (30分)
	授業内容	第11課 なにをしていますか
	事後学習	復習 本文の朗読 (30分)
12	事前学習	単語の暗記 (30分)
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤリング
	事後学習	文型の確認 (30分)
13	事前学習	予習 録音を聞く (30分)
	授業内容	第12課 もうすぐ冬休みになります
	事後学習	復習 本文の朗読 (30分)
14	事前学習	復習 録音を聞く (30分)
	授業内容	トレーニング 自己紹介を書く
	事後学習	自己紹介を書く (30分)
15	事前学習	自己紹介を読む (30分)
	授業内容	まとめと期末テスト・振り返り
	事後学習	まとめ (30分)

科目名	中国語演習A	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
-----	--------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	初めて中国語を学習する学生を対象とします。 この講義では、中国語発音の基礎を習得し、簡単な日常会話ができる能力をつける。 教科書の内容に基づき、同じ題材で応用会話を作成し、実際に会話を実演する。 それを通して、発音をチェックし、中国語の基本表現を身につける。			
授業目的・到達目標	講義の主な目的は、中国語の正しい発声の習得である。授業中では、学生一人一人の発音を丁寧に矯正する。これにより、中国語発音の基礎を身に付け、訛りのない中国語の発声ができることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 1， 3， 6			
履修条件	初めて中国語を学習する学生。			
授業方法	中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。 筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験	0%		
	平 常 評 価	100%	授業参加度と毎回授業の実績 30% 期末筆記試験70%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年5月	飛鳥文化出版	半声が導入された「中国語耳留学」基礎編CD付き（2枚）	陳洲拳、于曉飛、劉渴水
	備考	授業中に指示します。		
参 考 書	日中・中国辞書			
オフィスアワー	水曜16：10～ 授業終了後の講堂にて メールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業の全体を把握する。（30分）
	授業内容	ガイダンス：中国語とは？ 授業の進み方と注意事項を説明
	事後学習	CDを聞き、中国語の発音を耳にする（30分）
2	事前学習	C Dを聞く、発音を練習すること。（30分）
	授業内容	発音 母音、子音と声調 簡単な単語を覚えさせる。
	事後学習	勉強した発音を、C Dを聞きながら覚えること。（30分）
3	事前学習	CDを聞く、勉強した発音を繰り返し練習すること；聞いてわかる、書ける、発音できる練習（30分）
	授業内容	発音 声調変化と総合練習 簡単な挨拶言葉を発音練習
	事後学習	発音を練習する：CDを聞く。聞いてわかる、書ける、発音できる練習すること。単語を暗記すること。（30分）
4	事前学習	自分の名前を中国語で発音できる準備することと簡単な挨拶言葉を暗記する。（30分）
	授業内容	挨拶言葉と自己紹介を通して発音のチェックをする。 クラスメイトの名前を中国語で覚える。 第一課の挨拶言葉を覚えさせる。
	事後学習	正しい発音で自分の名前を言えることの練習。 挨拶言葉を使って、友人たちと会話してみる練習（30分）

5	事前学習	第2課の単語を暗記する；CDについて本文の会話を練習する。（30分）
	授業内容	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：氏名についての表現；是を用いる。
	事後学習	CDを聞き、会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。（30分）
6	事前学習	第2課の会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。
	授業内容	会話小テスト 第3課会話文の解釈 ポイント：疑問文の作り方：四つの疑問文を作り、質問と答えの説明と練習
	事後学習	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。（30分）
7	事前学習	第4課の単語と会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。
	授業内容	これまでの復習 筆記小テスト ポイント：日期の言い方：年、月、日、曜日
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
8	事前学習	CDを聞き、第5課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。
	授業内容	会話小テスト 第5課の会話文を解釈 ポイント：時刻の表現；会話練習と発音矯正する。
	事後学習	第1課～第5課の内容をまとめ、暗記した文を使って友人たちと会話をしてみること。
9	事前学習	第6課の単語と会話文をCDを聞き、発音練習を行う。
	授業内容	筆記小テスト 第6課の会話文を解釈 ポイント：家族についての紹介と親族の呼称
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；自分の家族について紹介する（30分）
10	事前学習	CDを聞き、第7課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第7課会話文について解釈 ポイント：年齢の聞き方と答え方の表現。
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
11	事前学習	CDを聞き、第8課の単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。（30分）
	授業内容	筆記小テスト 第8課の会話文を解釈 ポイント：方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
12	事前学習	第9課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備；自家の回りについて中国語で説明。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第9課会話文を解釈 ポイント：願望や希望を表す表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
13	事前学習	CDを聞き、第10課単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第10課の会話文を解釈 ポイント：職業についての表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
14	事前学習	第2課～第10課までの内容をまとめ、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。
	授業内容	発表テスト 口頭発表 講評
	事後学習	全般復習（30分）
15	事前学習	ネットで中国について調べる。（30分）
	授業内容	中国の映画を鑑賞
	事後学習	感想文を書く（30分）

科目名	中国語演習A	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中国語初中級表現の読込練習を繰り返し行い、文法表現を暗記し、会話力や読解力を伸ばす。				
授業目的・到達目標	【授業目的】初中級中国語の読込練習、文法表現練習を通して、会話力や読解力を伸ばすことを目的とする。 【到達目標】日本中国語検定協会が実施する中国語検定試験４級の合格が射程範囲に入れられる程度の語学力の獲得を目標とする。関連DP及びCP:外国語科目領域1, 3, 6				
履修条件	すでに１年間以上の中国語学習経験のある人。継続して授業に出席すること。				
授業方法	指定教科書の内容に沿って進め、授業中は繰り返し読込練習を行うので、その際は大声で丁寧に発音すること。授業内試験の解答、傾向等に関してはポータルシステム上で公開する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	平常評価(授業参加度、授業内試験)	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	平成31年度	白水社	《新版》中国語さらなる一歩		尹景春、竹島毅
	備考	なし			
参考書	なし				
オフィスアワー	火曜昼休み(12:10～13:00)研究室等。中国語学習方法、中国語圏留学等可能な範囲で相談に応ずる。又メール連絡可、栗原千里研究室メールアドレス kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、事前にシラバス内容に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	授業説明(授業の進め方に関して詳しく紹介する)
	事後学習	教科書を出来るだけ早く揃えられる様心掛けること。更に授業内容の関連事項に関して下調べしておくこと。(30分)
2	事前学習	事前に第１課助動詞「可以」「要」部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第１課 助動詞「可以」「要」について学ぶ。
	事後学習	助動詞「可以」「要」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
3	事前学習	事前に第１課主述述語文部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第１課 主述述語文について学ぶ。
	事後学習	主述述語文の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
4	事前学習	事前に第２課原因や理由を表す「因為」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第２課 原因や理由を表す「因為」について学ぶ。
	事後学習	原因や理由を表す「因為」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)

5	事前学習	事前に第2課逆接を表す「可是」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第2課 逆接を表す「可是」について学ぶ。
	事後学習	逆接を表す「可是」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
6	事前学習	事前に第3課連動文、「是～的」の文の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第3課 連動文、「是～的」の文について学ぶ。
	事後学習	連動文、「是～的」の文の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
7	事前学習	事前に第3課疑問詞「怎麼」部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第3課 疑問詞「怎麼」について学ぶ。
	事後学習	疑問詞「怎麼」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
8	事前学習	事前に第4課「了」の三つの用法の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第4課 「了」の三つの用法について学ぶ。
	事後学習	「了」の三つの用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
9	事前学習	事前に第4課副詞「就」部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第4課 副詞「就」について学ぶ。
	事後学習	副詞「就」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
10	事前学習	事前に第5課結果補語「～懂、～完、～到、～錯、～好」、副詞「有点兒」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第5課 結果補語「～懂、～完、～到、～錯、～好」、副詞「有点兒」について学ぶ。
	事後学習	結果補語「～懂、～完、～到、～錯、～好」、副詞「有点兒」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
11	事前学習	事前に第5課仮定を表す「要是」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第5課 仮定を表す「要是」について学ぶ。
	事後学習	仮定を表す「要是」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
12	事前学習	事前に第6課存現文部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第6課 存現文について学ぶ。
	事後学習	存現文の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
13	事前学習	事前に第6課主語がフレーズの時の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第6課 主語がフレーズの時について学ぶ。
	事後学習	主語がフレーズの時の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
14	事前学習	事前に第6課「又～又～」、「一辺兒～一辺兒～」の用法の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第6課 「又～又～」、「一辺兒～一辺兒～」の用法について学ぶ。
	事後学習	「又～又～」、「一辺兒～一辺兒～」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
15	事前学習	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。(30分)
	授業内容	前期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。
	事後学習	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。(30分)

科目名	中国語演習A	担当者	劉 力	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	1
-----	--------	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	発音に始まり、基本的の語彙、文型を理解し、聞いてわかり、話せるようになるための練習を行う。					
授業目的・到達目標	中国語の基礎発音のマスター、教科書の内容をマスターし、応用力を養成することを目的とする。 発音に始まり、基本的の語彙、文型を理解し、聞いてわかり、話せるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 1， 3、 6					
履修条件	初心者（スピーキング・リスニング（中）ⅡAとⅡBを同時に履修してはいけません） 携帯で教科書の音声ファイルを聞くことができるので、毎回携帯とイヤホンを用意してください。					
授業方法	指定する教科書の内容に沿って進める。出欠は毎回確認する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		授業参加度と 2 回の試験平均点で評価を下す。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019年	株式会社天々		耳から学ぶ中国語		矢野光治・徐前・植松希久磨
	備考					
参 考 書	なし					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。 授業時間：月曜 3・4・5 限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読むこと（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	教科書を用意すること（30分）
2	事前学習	発音の予習（30分）
	授業内容	発音：音節のしく・声調・声調の変化・母音・子音・アル化読み
	事後学習	発音の復習（30分）
3	事前学習	第1課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第1課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第1課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
4	事前学習	第1課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第1課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第1課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）

5	事前学習	第2課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第2課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第2課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
6	事前学習	第2課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第2課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第2課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
7	事前学習	第3課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第3課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第3課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
8	事前学習	第3課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第3課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第3課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
9	事前学習	第1課～第3課まで指定箇所の意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
	授業内容	第1回目試験及びまとめ、振返り 範囲：第一課～第三課の新出単語と本文
	事後学習	第1課～第3課の内容を復習すること（30分）
10	事前学習	第4課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第4課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第4課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
11	事前学習	第4課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第4課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第4課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
12	事前学習	第5課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第5課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第5課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
13	事前学習	第5課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第5課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第5課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
14	事前学習	第6課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第6課の新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第6課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
15	事前学習	第4課～第6課の指定箇所の意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
	授業内容	第2回目試験及びまとめ、振返り 範囲：第4課～第6課の新出単語と本文
	事後学習	第1課～第6課の内容を復習すること（30分）

科目名	中国語演習B	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	--------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	初めて中国語を学習する学生を対象とします。 この講義では、中国語発音の基礎を習得し、簡単な日常会話ができる能力をつける。 教科書の内容に基づき、同じ題材で応用会話を作成し、実際に会話を実演する。 それを通して、発音をチェックし、中国語の基本表現を身につける。			
授業目的・到達目標	講義の主な目的は、中国語の正しい発声の習得である。授業中では、学生一人一人の発音を丁寧に矯正する。これにより、中国語発音の基礎を身に付け、訛りのない中国語の発声ができることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 1， 3， 6			
履修条件	初めて中国語を学習する学生。			
授業方法	中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。 筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評をする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験	0%		
	平 常 評 価	100%	授業参加度と毎回授業の実績 30% 期末筆記試験70%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年5月	飛鳥文化出版	半声が導入された「中国語耳留学」基礎編CD付き（2枚）	陳洲拳、于曉飛、劉渴水
	備考	授業中に指示します。		
参 考 書	日中・中国辞書			
オフィスアワー	水曜16：10～ 授業終了後の講堂にて メールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業の全体を把握する。（30分） 自己紹介の準備
	授業内容	自己紹介をする 授業の進み方と注意事項を説明
	事後学習	CDを聞き、中国語の発音を復習（30分）
2	事前学習	教科書の第1課～第10課まで単語、会話文を復習、練習すること。（30分）
	授業内容	第1課～第10課までの会話について全般復習、練習
	事後学習	CDを聞き、会話文を暗記し、簡単な会話ができるように練習すること。（30分）
3	事前学習	CDを聞く、第11課の単語を暗記する；本文の会話を練習する。（30分）
	授業内容	第11課の会話文を解釈する ポイント：評価についての表現
	事後学習	CDを聞き、会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。（30分）
4	事前学習	第12課の単語を暗記する；前課の会話文を暗記し、授業中に会話小テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	挨拶言葉と自己紹介を通して発音のチェックをする。 会話小テスト 第12課会話文を解釈 ポイント：買い物するときの表現
	事後学習	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。（30分）

5	事前学習	第13課の単語を暗記する；CDについて本文の会話を練習する。（30分）
	授業内容	筆記小テスト 第13課会話文の解釈 ポイント：動態助詞；行われた動作の時間、場所、方式、行為者等を言うときの表現：是・・・的
	事後学習	CDを開き、会話文を暗記する；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。（30分）
6	事前学習	第14課の単語を暗記する；前課の会話文を暗記し、授業中に会話小テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第14課会話文の解釈 好みについての表現：～をするのが好きである；～することを好む
	事後学習	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。（30分）
7	事前学習	第15課の単語を暗記すると会話文を練習すること；14課の内容について会話小テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第15課会話文の解釈 ポイント：～したことがある表現と時間補語
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
8	事前学習	CDを開き、第16課の単語を暗記する；会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での筆記小テスト準備。（30分）
	授業内容	筆記テスト 第16課の会話文を解釈 ポイント：比較表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
9	事前学習	第17課の単語を暗記すると会話文を練習すること；16課の内容について会話小テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第17課の会話文を解釈 ポイント：動作の進行中と持続表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
10	事前学習	CDを開き、第18課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第18課会話文について解釈 ポイント：可能を表す表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
11	事前学習	CDを開き、第19課の単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での筆記小テストの準備。（30分）
	授業内容	筆記小テスト 第19課の会話文を解釈 ポイント：方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
12	事前学習	第20課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備：自家の回りについて中国語で説明。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第20課会話文を解釈 ポイント：能力についての表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
13	事前学習	勉強した表現を使って、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 期末テスト 口頭発表 講評
	事後学習	第11課～20課までの重要表現を暗記し、暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。（30分）
14	事前学習	テスト範囲で復習（30分）
	授業内容	これまでの復習 筆記テスト
	事後学習	全般復習（30分）
15	事前学習	ネットで中国について調べる。（30分）
	授業内容	中国の映画を鑑賞
	事後学習	感想文を書く（30分）

科目名	中国語演習B	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中国語中級表現の読込練習を繰り返し行い、文法表現を暗記し、会話力や読解力を更に伸ばす。				
授業目的・到達目標	【授業目的】 中級中国語の読込練習、文法表現練習を通して、会話力や読解力を更に伸ばすことを目的とする。 【到達目標】 日本中国語検定協会が実施する中国語検定試験４級に合格できる程度の語学力の獲得を目標とする。関連DP及びCP:外国語科目領域：1, 3, 6				
履修条件	すでに１年間以上の中国語学習経験のある人。継続して授業に出席すること。				
授業方法	指定教科書の内容に沿って進める。授業中は繰り返し読込練習を行うので、その際は大声で丁寧に発音すること。授業内試験の解答、傾向等に関してはポータルシステム上で公開する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	平常評価(授業参加度、授業内試験)	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	平成31年度	白水社	《新版》中国語さらなる一歩		尹景春、竹島毅
	備考	なし			
参考書	なし				
オフィスアワー	火曜昼休み(12:10～13:00)研究室等。中国語学習方法、中国語圏留学等可能な範囲で相談に応ずる。又メール連絡可、栗原千里研究室メールアドレス　kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前に第7課状態の持続を表す「着」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第7課 状態の持続を表す「着」
	事後学習	状態の持続を表す「着」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
2	事前学習	事前に第7課副詞「再」、部分否定の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第7課 副詞「再」、部分否定について学ぶ。
	事後学習	副詞「再」、部分否定の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
3	事前学習	事前に第8課方向補語、使役を表す「讓」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第8課 方向補語、使役を表す「讓」について学ぶ。
	事後学習	方向補語、使役を表す「讓」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
4	事前学習	事前に第8課疑問詞の不定用法の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第8課 疑問詞の不定用法について学ぶ。
	事後学習	疑問詞の不定用法の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)

5	事前学習	事前に第9課可能補語部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第9課 可能補語について学ぶ。
	事後学習	可能補語の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
6	事前学習	事前に第9課強調表現部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第9課 強調表現について学ぶ。
	事後学習	強調表現の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
7	事前学習	事前に第10課目的を表す「為了」、推測を表す「会」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第10課 目的を表す「為了」、推測を表す「会」について学ぶ。
	事後学習	目的を表す「為了」、推測を表す「会」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
8	事前学習	事前に第10課「～了～了」の用法の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第10課 「～了～了」の用法について学ぶ。
	事後学習	「～了～了」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
9	事前学習	事前に第11課結果補語「～到～」「～在～」部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第11課 結果補語「～到～」「～在～」について学ぶ。
	事後学習	結果補語「～到～」「～在～」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
10	事前学習	事前に第11課結果補語「～給～」部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第11課 結果補語「～給～」について学ぶ。
	事後学習	結果補語「～給～」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
11	事前学習	事前に第11課受け身を表す「被」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第11課 受け身を表す「被」について学ぶ。
	事後学習	受け身を表す「被」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
12	事前学習	事前に第12課「快～了」の用法の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第12課 「快～了」の用法について学ぶ。
	事後学習	「快～了」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
13	事前学習	事前に第12課「快要～了」の用法の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第12課 「快要～了」の用法について学ぶ。
	事後学習	「快要～了」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
14	事前学習	事前に第12課介詞「把」部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第12課 介詞「把」について学ぶ。
	事後学習	介詞「把」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
15	事前学習	後期中に学習した内容を事前に整理して頭に入れておくこと。(30分)
	授業内容	後期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。
	事後学習	後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。(30分)

科目名	中国語演習B	担当者	劉 力	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	1
-----	--------	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	第7課から始まり、基本的の語彙、文型を理解し、聞いてわかり、話せるようになるための練習を行う。				
授業目的・到達目標	中国語の基礎発音のマスター、教科書の内容をマスターし、応用力を養成することを目的とする。 発音に始まり、基本的の語彙、文型を理解し、聞いてわかり、話せるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 1， 3、 6				
履修条件	初心者（スピーキング・リスニング（中）ⅡAとⅡBを同時に履修してはいけません） 携帯で教科書の音声ファイルを聞くことができるので、毎回携帯とイヤホンを用意してください。				
授業方法	指定する教科書の内容に沿って進める。出欠は毎回確認する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	授業参加度と 2 回の試験平均点で評価を下す。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年	株式会社天々		耳から学ぶ中国語	矢野光治・徐前・植松希久磨
	備考				
参 考 書	なし				
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。 授業時間：月曜 3・4・5 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	音声ファイルを使って第1課～第3課までの発音の復習（30分）
	授業内容	第1課～第3課までのみなさんの発音を確認する
	事後学習	第1課～第3課本文などの漢字・ピンインの復習（30分）
2	事前学習	音声ファイルを使って第4課～第5課までの発音の復習（30分）
	授業内容	第1課～第3課までのみなさんの発音を確認する
	事後学習	第1課～第3課本文などの漢字・ピンインの復習（30分）
3	事前学習	第7課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第7課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第7課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
4	事前学習	第7課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第7課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第7課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）

5	事前学習	第8課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第8課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第8課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
6	事前学習	第8課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第8課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第8課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
7	事前学習	第9課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第9課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第9課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
8	事前学習	第9課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第9課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第9課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
9	事前学習	第7課～第9課まで指定箇所の意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
	授業内容	第一回目試験及びまとめ、振返り 範囲：第7課～第9課の新出単語と本文
	事後学習	第7課～第9課の内容を復習すること（30分）
10	事前学習	第10課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第10課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第10課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
11	事前学習	第10課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第10課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第10課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
12	事前学習	第11課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第11課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第11課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
13	事前学習	第11課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第11課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第11課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
14	事前学習	第12課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第12課の新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第12課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
15	事前学習	第10課～第12課の指定箇所の意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
	授業内容	第二回目試験及びまとめ、振返り 範囲：第10課～第12課の新出単語と本文
	事後学習	第7課～第12課の内容を復習すること（30分）

科目名	中国語演習C	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
-----	--------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	初めて中国語を学習する学生を対象とします。 この講義では、中国語発音の基礎を習得し、簡単な日常会話ができる能力をつける。 教科書の内容に基づき、同じ題材で応用会話を作成し、実際に会話を実演する。 それを通して、発音をチェックし、中国語の基本表現を身につける。				
授業目的・到達目標	講義の主な目的は、中国語の正しい発声の習得である。授業中では、学生一人一人の発音を丁寧に矯正する。これにより、中国語発音の基礎を身に付け、訛りのない中国語の発声ができることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 1， 3， 6				
履修条件	初めて中国語を学習する学生。				
授業方法	中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。 筆記小ですとは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業参加度と毎回授業の実績 30% 期末筆記試験70%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016年5月	飛鳥文化出版		半声が導入された「中国語耳留学」基礎編CD付き（2枚）	陳洲拳、于曉飛、劉渴水
	備考	授業中に指示します。			
参 考 書	日中・中国辞書				
オフィス アワー	水曜18：50～ 授業終了後の講堂にて メールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業の全体を把握する。（30分）
	授業内容	ガイダンス：中国語とは？ 授業の進み方と注意事項を説明
	事後学習	CDを聞き、中国語の発音を耳にする（30分）
2	事前学習	C Dを聞く、発音を練習すること。（30分）
	授業内容	発音 母音、子音と声調 簡単な単語を覚えさせる。
	事後学習	勉強した発音を、C Dを聞きながら覚えること。（30分）
3	事前学習	CDを聞く、勉強した発音を繰り返し練習すること；聞いてわかる、書ける、発音できる練習（30分）
	授業内容	発音 声調変化と総合練習 簡単な挨拶言葉を発音練習
	事後学習	発音を練習する：CDを聞く。聞いてわかる、書ける、発音できる練習すること。単語を暗記すること。（30分）
4	事前学習	自分の名前を中国語で発音できる準備することと簡単な挨拶言葉を暗記する。（30分）
	授業内容	挨拶言葉と自己紹介を通して発音のチェックをする。 クラスメイトの名前を中国語で覚える。 第一課の挨拶言葉を覚えさせる。
	事後学習	正しい発音で自分の名前を言えることの練習。 挨拶言葉を使って、友人たちと会話してみる練習（30分）

5	事前学習	第2課の単語を暗記する；CDについて本文の会話を練習する。（30分）
	授業内容	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：氏名についての表現；是を用いる。
	事後学習	CDを聞き、会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。（30分）
6	事前学習	第2課の会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第3課会話文の解釈 ポイント：疑問文の作り方：四つの疑問文を作り、質問と答えの説明と練習
	事後学習	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。（30分）
7	事前学習	第4課の単語と会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	これまでの復習 筆記小テスト ポイント：日期の言い方：年、月、日、曜日
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
8	事前学習	CDを聞き、第5課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第5課の会話文を解釈 ポイント：時刻の表現；会話練習と発音矯正する。
	事後学習	第1課～第5課の内容をまとめ、暗記した文を使って友人たちと会話をしてみること。（30分）
9	事前学習	第6課の単語と会話文をCDを聞き、発音練習を行う。（30分）
	授業内容	筆記小テスト 第6課の会話文を解釈 ポイント：家族についての紹介と親族の呼称
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；自分の家族について紹介する（30分）
10	事前学習	CDを聞き、第7課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第7課会話文について解釈 ポイント：年齢の聞き方と答え方の表現。
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
11	事前学習	CDを聞き、第8課の単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。（30分）
	授業内容	筆記小テスト 第8課の会話文を解釈 ポイント：方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
12	事前学習	第9課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備；自家の回りについて中国語で説明。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第9課会話文を解釈 ポイント：願望や希望を表す表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
13	事前学習	CDを聞き、第10課単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第10課の会話文を解釈 ポイント：職業についての表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
14	事前学習	第2課～第10課までの内容をまとめ、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	発表テスト 口頭発表 講評
	事後学習	全般復習（30分）
15	事前学習	ネットで中国について調べる。（30分）
	授業内容	中国の映画を鑑賞
	事後学習	感想文を書く（30分）

科目名	中国語演習D	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	--------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	初めて中国語を学習する学生を対象とします。 この講義では、中国語発音の基礎を習得し、簡単な日常会話ができる能力をつける。 教科書の内容に基づき、同じ題材で応用会話を作成し、実際に会話を実演する。 それを通して、発音をチェックし、中国語の基本表現を身につける。			
授業目的・到達目標	講義の主な目的は、中国語の正しい発声の習得である。授業中では、学生一人一人の発音を丁寧に矯正する。これにより、中国語発音の基礎を身に付け、訛りのない中国語の発声ができることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 1， 3， 6			
履修条件	初めて中国語を学習する学生。			
授業方法	中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。 筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験	0%		
	平 常 評 価	100%	授業参加度と毎回授業の実績 30% 期末筆記試験70%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年5月	飛鳥文化出版	半声が導入された「中国語耳留学」基礎編CD付き（2枚）	陳洲拳、于曉飛、劉渴水
	備考	授業中に指示します。		
参 考 書	日中・中国辞書			
オフィスアワー	水曜17：50～ 授業終了後の講堂にて メールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業の全体を把握する。（30分） 自己紹介の準備
	授業内容	自己紹介をする 授業の進み方と注意事項を説明
	事後学習	CDを聞き、中国語の発音を復習（30分）
2	事前学習	教科書の第1課～第10課まで単語、会話文を復習、練習すること。（30分）
	授業内容	第1課～第10課までの会話について全般復習、練習
	事後学習	CDを聞き、会話文を暗記し、簡単な会話ができるように練習すること。（30分）
3	事前学習	CDを聞く、第11課の単語を暗記する；本文の会話を練習する。（30分）
	授業内容	第11課の会話文を解釈する ポイント：評価についての表現
	事後学習	CDを聞き、会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。（30分）
4	事前学習	第12課の単語を暗記する；前課の会話文を暗記し、授業中に会話小テストの準備を行う。
	授業内容	挨拶言葉と自己紹介を通して発音のチェックをする。 会話小テスト 第12課会話文を解釈 ポイント：買い物するときの表現
	事後学習	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。（30分）

5	事前学習	第13課の単語を暗記する；CDについて本文の会話を練習する。（30分）
	授業内容	筆記小テスト 第13課会話文の解釈 ポイント：動態助詞；行われた動作の時間、場所、方式、行為者等を言うときの表現：是・・・的
	事後学習	CDを開き、会話文を暗記する；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。（30分）
6	事前学習	第14課の単語を暗記する；前課の会話文を暗記し、授業中に会話小テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第14課会話文の解釈 好みについての表現：～をするのが好きである；～することを好む
	事後学習	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。（30分）
7	事前学習	第15課の単語を暗記すると会話文を練習すること；14課の内容について会話小テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第15課会話文の解釈 ポイント：～したことがある表現と時間補語
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
8	事前学習	CDを開き、第16課の単語を暗記する；会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での筆記小テスト準備。（30分）
	授業内容	筆記テスト 第16課の会話文を解釈 ポイント：比較表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
9	事前学習	第17課の単語を暗記すると会話文を練習すること；16課の内容について会話小テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第17課の会話文を解釈 ポイント：動作の進行中と持続表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
10	事前学習	CDを開き、第18課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第18課会話文について解釈 ポイント：可能を表す表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
11	事前学習	CDを開き、第19課の単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での筆記小テストの準備。（30分）
	授業内容	筆記小テスト 第19課の会話文を解釈 ポイント：方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
12	事前学習	第20課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備：自家の回りについて中国語で説明。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第20課会話文を解釈 ポイント：能力についての表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
13	事前学習	勉強した表現を使って、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 期末テスト 口頭発表 講評
	事後学習	第11課～20課までの重要表現を暗記し、暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。（30分）
14	事前学習	テスト範囲で復習（30分）
	授業内容	これまでの復習 筆記テスト
	事後学習	全般復習（30分）
15	事前学習	ネットで中国について調べる。（30分）
	授業内容	中国の映画を鑑賞
	事後学習	感想文を書く（30分）

科目名	中国語演習E	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中国語の初中級表現の読込練習を繰り返し行い、初中級文法表現を発音と共に学習する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】初中級中国語の読込練習、文法表現練習を通して、初中級程度の中国語言語文化に対する知識及び理解を獲得することを目的とする。 【到達目標】日本中国語検定協会が実施する中国語検定試験４級の合格が射程範囲に入れられる程度の語学力の獲得を目標とする。関連DP及びCP:外国語科目領域1, 3, 6				
履修条件	すでに１年間以上の中国語学習経験がある人。継続して授業に出席すること。				
授業方法	指定教科書の内容に沿って授業を進め、中国語学習に加えて、中国文化の紹介も行っていく。授業中は読込を繰り返し行うので、大声で丁寧に発音すること。授業内試験の解答、傾向等に関してはポータルシステム上で公開する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常評価(授業参加度、授業内試験)	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	平成31年度	白水社	2年目の中国語ポイント45		本間史、孟広学
	備考	なし			
参考書	なし				
オフィスアワー	火曜昼休み(12:10～13:00)研究室等。中国語学習方法、中国語圏留学等可能な範囲で相談に応ずる。又メール連絡可、栗原千里研究室メールアドレスは kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、事前にシラバス内容に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	授業説明(授業の進め方に関して詳しく紹介する)
	事後学習	教科書を出来るだけ早く揃えられる様心掛けること。更に授業内容の関連事項に関して下調べしておくこと。(30分)
2	事前学習	事前に第１課名詞や動詞の前に置く「的」「地」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第１課 名詞や動詞の前に置く「的」「地」について学ぶ。
	事後学習	名詞や動詞の前に置く「的」「地」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
3	事前学習	事前に第１課助動詞「要」、連動文の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第１課 助動詞「要」、連動文について学ぶ。
	事後学習	助動詞「要」、連動文の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
4	事前学習	事前に第２課動態助詞、語気助詞の「了」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第２課 動態助詞、語気助詞の「了」について学ぶ。
	事後学習	動態助詞や語気助詞の「了」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)

5	事前学習	事前に第2課語気助詞「嗎」「吧」部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第2課 語気助詞「嗎」「吧」について学ぶ。
	事後学習	語気助詞「嗎」「吧」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
6	事前学習	事前に第3課経験、経過を表す「過」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第3課 経験、経過を表す「過」について学ぶ。
	事後学習	経験、経過を表す「過」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
7	事前学習	事前に第3課離合詞「聊天」「帮忙」部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第3課 離合詞「聊天」「帮忙」について学ぶ。
	事後学習	離合詞「聊天」「帮忙」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
8	事前学習	事前に第4課動作進行「在」、持続「着」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第4課 動作進行「在」、持続「着」について学ぶ。
	事後学習	動作進行「在」、持続「着」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
9	事前学習	事前に第4課動作時間と動作回数の表現の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第4課 動作時間と動作回数の表現について学ぶ。
	事後学習	動作時間と動作回数の表現に関して読んで書いて練習すること。(30分)
10	事前学習	事前に第5課近未来「要～了」「快～了」の用法の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第5課 近未来「要～了」「快～了」の用法について学ぶ。
	事後学習	近未来「要～了」「快～了」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
11	事前学習	事前に第5課副詞「就」の用法の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第5課 副詞「就」の用法について学ぶ。
	事後学習	副詞「就」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
12	事前学習	事前に第6課結果補語「～錯、～懂、～完、～到～、～在～」部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第6課 結果補語「～錯、～懂、～完、～到～、～在～」について学ぶ。
	事後学習	結果補語「～錯、～懂、～完、～到～、～在～」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
13	事前学習	事前に第6課副詞「還」の用法の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第6課 副詞「還」の用法について学ぶ。
	事後学習	副詞「還」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
14	事前学習	事前に第6課「雖然～但是～」部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第6課 「雖然～但是～」について学ぶ。
	事後学習	「雖然～但是～」の用法に関して読んで書いて練習すること。
15	事前学習	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。(30分)
	授業内容	前期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。
	事後学習	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。(30分)

科目名	中国語演習F	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中国語の中級表現の読込練習を繰り返し行い、中級文法表現を発音と共に学習する。			
授業目的・到達目標	【授業目的】中級中国語の読込練習、文法表現練習を通して、中級程度の中国語言語文化に対する知識及び理解を獲得することを目標とする。 【到達目標】日本中国語検定協会が実施する中国語検定試験４級に合格できる程度の語学力の獲得を目標とする。関連DP及びCP:外国語科目領域：1, 3, 6			
履修条件	すでに１年間以上の中国語学習経験がある人。継続して授業に出席すること。			
授業方法	指定教科書の内容に沿って進め、中国語学習に加えて、中国文化の紹介も行っていく。授業中は読込を繰り返し行うので、大声で丁寧に発音すること。授業内試験の解答、傾向等に関してはポータルシステム上で公開する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価(授業参加度、授業内試験)
教科書	年	出版社	書名	著者名
	平成31年度	白水社	2年目の中国語ポイント45	本間史、孟広学
	備考	なし		
参考書	なし			
オフィスアワー	火曜昼休み(12:10～13:00)研究室等。中国語学習方法、中国語圏留学等可能な範囲で相談に応ずる。又メール連絡可、栗原千里研究室メールアドレスは kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前に第7課様態補語(程度補語)、比較表現の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第7課 様態補語(程度補語)、比較表現について学ぶ。
	事後学習	様態補語(程度補語)、比較表現の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
2	事前学習	事前に第7課形容詞の重ね型の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第7課 形容詞の重ね型について学ぶ。
	事後学習	形容詞の重ね型の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
3	事前学習	事前に第8課方向補語、複合方向補語の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第8課 方向補語、複合方向補語について学ぶ。
	事後学習	方向補語、複合方向補語の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
4	事前学習	事前に第8課強調表現「連～也～」部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第8課 強調表現「連～也～」について学ぶ。
	事後学習	強調表現「連～也～」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)

5	事前学習	事前に第9課「把」構文部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第9課 「把」構文について学ぶ。
	事後学習	「把」構文の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
6	事前学習	事前に第9課副詞「再」「又」の用法の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第9課 副詞「再」「又」の用法について学ぶ。
	事後学習	副詞「再」「又」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
7	事前学習	事前に第10課可能補語部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第10課 可能補語について学ぶ。
	事後学習	可能補語の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
8	事前学習	事前に第10課「是～的」の構文、「只有～才～」の表現の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第10課 「是～的」の構文、「只有～才～」の表現について学ぶ。
	事後学習	「是～的」の構文、「只有～才～」の表現の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
9	事前学習	事前に第11課「～得了」「～不了」部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第11課 「～得了」「～不了」について学ぶ。
	事後学習	「～得了」「～不了」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
10	事前学習	事前に第11課兼語文部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第11課 兼語文について学ぶ。
	事後学習	兼語文の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
11	事前学習	事前に第11課「不是～而是～」部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第11課 「不是～而是～」について学ぶ。
	事後学習	「不是～而是～」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
12	事前学習	事前に第12課存現文部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第12課 存現文について学ぶ。
	事後学習	存現文の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
13	事前学習	事前に第12課同じ疑問詞の呼応の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第12課 同じ疑問詞の呼応について学ぶ。
	事後学習	同じ疑問詞の呼応の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
14	事前学習	事前に第12課「不管～都～」部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第12課 「不管～都～」について学ぶ。
	事後学習	「不管～都～」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
15	事前学習	後期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。(30分)
	授業内容	後期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。
	事後学習	後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。(30分)

科目名	中国語演習G	担当者	本間 直人	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	最新の中国事情を読み解く。テキストの内容は、現代中国の政治・経済から文化にいたるまで、多岐にわたる。そこから、今、中国では何が起きており、その何が問題かについて考える。テキストの精読により、自力で中国の新聞を読める程度の語学力を身につける。					
授業目的・到達目標	【授業目的】テキストの精読を通じて、最新の中国事情への理解と関心を深め、中国の新聞やインターネットの記事を独力で読める中国語読解力の養成を目的とする。 【到達目標】中級中国語の基礎固めをしながら、現代の中国事情とその背景を理解し、説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域2、6					
履修条件	1年以上の中国語学習歴があること。					
授業方法	本文の精読とプリントを用いた演習。2課終了ごとに、小レポートを課す。次の授業で返却を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価（授業参加度、小レポート、学期末試験など）100%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	朝日出版社		『時事中国語の教科書 ―2019年度版―』		三瀧正道・陳祖蓓・古屋順子
	備考					
参考書	使用しない。					
オフィスアワー	木曜日9：00～ 授業終了後の講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスとテキストを読み、講義の全体を概観する。（30分）
	授業内容	ガイダンス（授業の進め方などについての説明） 基本単語と基本文型の復習①（文法問題中心）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
2	事前学習	前回の授業で配布されたプリントの問題を解いておくこと。（30分）
	授業内容	基本単語と基本文型の復習②（聞き取り問題中心）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
3	事前学習	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第1課 若者よ、図書館へ、博物館へ 問題演習（絶対必要条件を示す文など）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
4	事前学習	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第1課 若者よ、図書館へ、博物館へ 問題演習（反語文など）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）

5	事前学習	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第2課 癒しのゲーム「旅かえる」 問題演習（最低必要条件を表す文など）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
6	事前学習	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第2課 癒しのゲーム「旅かえる」 問題演習（結果補語など）、小レポート
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
7	事前学習	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第3課 頭の痛い「3時間半問題」 問題演習（使役文など）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
8	事前学習	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第3課 頭の痛い「3時間半問題」 問題演習（比較表現など）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
9	事前学習	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第4課 川口市芝園団地——日中の住民、調和への取り組み 問題演習（並列の表現など）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
10	事前学習	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第4課 川口市芝園団地——日中の住民、調和への取り組み 問題演習（出現文など）、小レポート
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
11	事前学習	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第5課 僕を見て！——盲目の音楽家の物語 問題演習（論説体専用の言い回しなど）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
12	事前学習	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第5課 僕を見て！——盲目の音楽家の物語 問題演習（時を表す介詞など）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
13	事前学習	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第6課 百年前の土地が今日の宝物に 問題演習（兼語文など）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
14	事前学習	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第6課 百年前の土地が今日の宝物に 問題演習（処置文など）、小レポート
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
15	事前学習	テキストの本文を中心によく復習しておくこと。また、授業中に配布したプリントも見直しておくこと。（30分）
	授業内容	授業内テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）

科目名	中国語演習H	担当者	本間 直人	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	最新の中国事情を読み解く。テキストの内容は、現代中国の政治・経済から文化にいたるまで、多岐にわたる。そこから、今、中国では何が起きており、その何が問題かについて考える。テキストの精読により、自力で中国の新聞を読める程度の語学力を身につける。			
授業目的・到達目標	【授業目的】テキストの精読を通じて、最新の中国事情への理解と関心を深め、中国の新聞やインターネットの記事を独力で読める中国語読解力の養成を目的とする。 【到達目標】中級中国語の基礎固めをしながら、現代の中国事情とその背景を理解し、説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域2、6			
履修条件	1年以上の中国語学習歴があること。			
授業方法	本文の精読とプリントを用いた演習。2課終了ごとに、小レポートを課す。次の授業で返却を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価（授業参加度、小レポート、学期末試験など）100%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	朝日出版社	『時事中国語の教科書 ―2019年度版―』	三瀧正道・陳祖蓓・古屋順子
	備考			
参考書	使用しない。			
オフィスアワー	木曜日9：00～ 授業終了後の講堂にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス（授業の進め方などについての説明） 講読 第7課 都市こぼれ話 問題演習（方向補語の派生用法など）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
2	事前学習	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第7課 都市こぼれ話 問題演習（論説体でよく使われる言い回しなど）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
3	事前学習	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第8課 中国の「ハリウッド」、横店 問題演習（形容詞の重ね型など）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
4	事前学習	テキストの内容について、「解読の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第8課 中国の「ハリウッド」、横店 問題演習（強調構文など）、小レポート
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）

5	事前学習	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第9課 AIが治安に大活躍 問題演習（連用修飾語を導く表現など）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
6	事前学習	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第9課 AIが治安に大活躍 問題演習（並列の表現など）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
7	事前学習	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第10課 中国卓球界の強さに陰り？ 問題演習（起点の表現など）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
8	事前学習	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第10課 中国卓球界の強さに陰り？ 問題演習（主述述語文など）、小レポート
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
9	事前学習	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第11課 「2000年代生まれ」、大学入試をどう見る 問題演習（論説体の常用表現など）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
10	事前学習	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第11課 「2000年代生まれ」、大学入試をどう見る 問題演習（意外性の表現など）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
11	事前学習	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第12課 命の薬調達秘話「私は救世主じゃない！」 問題演習（可能補語など）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
12	事前学習	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第12課 命の薬調達秘話「私は救世主じゃない！」 問題演習（累加の表現など）、小レポート
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
13	事前学習	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第13課 今どきの名前に四苦八苦 問題演習（累加の表現など）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
14	事前学習	テキストの内容について、「解説の手がかり」を中心に下調べをしておくこと。（30分）
	授業内容	講読 第13課 今どきの名前に四苦八苦 問題演習（逆接の表現など）
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）
15	事前学習	テキストの本文を中心によく復習しておくこと。また、授業中に配布したプリントも見直しておくこと。（30分）
	授業内容	授業内テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	出来なかった問題を中心によく復習しておくこと。（30分）

科目名	リーディング・ライティング(中) I A	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業は発音から勉強する。大学を舞台にして、中国語を学んでいる日本人学生が、中国人の留学生に声をかけるところから始まり、日常的な生活の中でのいろんな場面をを想定した会話、練習問題はポイントを確認し理解してもらうためのものである。				
授業目的・到達目標	授業の目的：中国語の日常会話や基礎文法の養成を目的とする。 到達目標：簡単な会話や簡単な文章の読み書きと翻訳ができるようになる。中国語検定試験の準4級、4級の資格の取得が可能になる。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	なし				
授業方法	朗読、翻訳、会話、書き取り，文を作るという方式で授業を進めていく。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	授業参加度（受講態度を含む10%、平常点（宿題や授業中の小テスト）40%、前期末授業内テスト50%。また、中国語検定試験の合格も成績の評価に加味する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2016年	白水社	はじめまして！中国語		喜多山幸子 劉 幸枝
	備考				
参 考 書	日中辞書、中日辞書				
オフィスアワー	授業の前・後、当該教室にて 授業時間：火曜 2～4 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を購入して、目を通してください。 （30分）
	授業内容	1、オリエンテーション 2、中国の概況 3、中国語の発音：単母音、声調
	事後学習	単母音、声調の復習 （30分）
2	事前学習	複母音の予習 （30分）
	授業内容	1、発音：複母音 2、日常会話
	事後学習	複母音の復習 （30分）
3	事前学習	子音の予習 （30分）
	授業内容	1、発音：子音 2、声調の変化 3、挨拶言葉
	事後学習	発音の復習 （30分）
4	事前学習	第1課の予習 （30分）
	授業内容	第1課 校門で 本文訳、ポイント 1. 人称代名詞 2. 動詞“是”を使った文 3. “嗎”を使った疑問文
	事後学習	文法の復習 （30分）

5	事前学習	練習問題の予習（30分）
	授業内容	第1課 校門で 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習（30分）
6	事前学習	第2課の予習（30分）
	授業内容	第2課 廊下で 本文訳、ポイント 1. 動詞述語文 2. 疑問詞疑問文“什么”，“誰” 3. 省略疑問文“呢”
	事後学習	文法の復習（30分）
7	事前学習	練習問題の予習（30分）
	授業内容	第2課 廊下で 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習（30分）
8	事前学習	第3課の予習（30分）
	授業内容	第3課 キャンパスで 本文訳、ポイント 1. 指示代名詞 2. 形容詞述語文 3. “～的” 4. 語気助詞“吧”
	事後学習	文法の復習（30分）
9	事前学習	練習問題の予習（30分）
	授業内容	第3課 キャンパスで 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習（30分）
10	事前学習	第4課の予習（30分）
	授業内容	第4課 携帯を見ながら 本文訳、ポイント 1. 所有を表わす“有” 2. 反復疑問文 3. 数詞
	事後学習	文法の復習（30分）
11	事前学習	練習問題の予習（30分）
	授業内容	第4課 携帯を見ながら 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習（30分）
12	事前学習	第5課の予習（30分）
	授業内容	第5課 学生食堂で 本文訳、ポイント 1. 場所を表わす代名詞 2. 存在を表わす“有” 3. 副詞“也”と“都” 4. 二重目的語文
	事後学習	文法の復習（30分）
13	事前学習	練習問題の予習（30分）
	授業内容	第5課 学生食堂で 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習（30分）
14	事前学習	第1課～5課の復習（30分）
	授業内容	前期のまとめ（前期末授業内テスト）
	事後学習	問題点の復習（30分）
15	事前学習	前期の総復習（30分）
	授業内容	総括（前期学習内容の振りかえり）
	事後学習	これまでの学習内容の確認（30分）

科目名	リーディング・ライティング(中) I B	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業は発音から勉強する。大学を舞台にして、日本人学生が中国人の留学生に声をかけるところから始まり、日常生活の中でいろんな場面を想定した内容である。練習問題はポイントを確認し理解してもらうためのものである。			
授業目的・到達目標	授業の目的：中国語の日常会話や基礎文法の養成を目的とする。 到達目標：簡単な会話や簡単な文章の読み書きと翻訳ができるようになる。中国語検定試験の準4級、4級の資格の取得が可能になる。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	なし			
授業方法	朗読、翻訳、会話、書き取り、文を作るという方式で授業を進めていく。 フィードバックは授業内において行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	授業参加度（受講態度を含む）10%、平常点（宿題や授業中の小テスト）40%、後期末の授業内テスト50%、また、中国語検定試験の合格も成績の評価に加味する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年	白水社	はじめまして！中国語	喜多山幸子 鄭 幸枝
	備考			
参考書	日中辞書、中日辞書			
オフィスアワー	授業の前・後、当該教室にて 授業時間：火曜 2～4 限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	第6課の予習 （30分）
	授業内容	オリエンテーション 第6課 王先生の研究室で 本文訳、ポイント 1. 動詞“在” 2. 動詞の重ね型 3. 時を表わす語の位置
	事後学習	文法の復習 （30分）
2	事前学習	練習問題の予習 （30分）
	授業内容	第6課 王先生の研究室で 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習 （30分）
3	事前学習	第7課の予習 （30分）
	授業内容	第7課 コンビニで 本文訳、ポイント 1. 量詞 2. 実現・完了を表わす“了” 3. 助動詞“想”
	事後学習	文法の復習 （30分）
4	事前学習	練習問題の予習 （30分）
	授業内容	第7課 コンビニで 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習 （30分）

5	事前学習	第8課の予習（30分）
	授業内容	第8課 バス停で 本文訳、ポイント 1. 連動文 2. 前置詞“在” 3. 時刻の言い方 4. “是”の省略
	事後学習	文法の復習（30分）
6	事前学習	練習問題の予習（30分）
	授業内容	第8課 バス停で 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習（30分）
7	事前学習	第9課の予習（30分）
	授業内容	第9課 放課後に 本文訳、ポイント 1. 助動詞“会”，“能”，“可以” 2. 前置詞“跟”と“給” 3. 主述述語文
	事後学習	文法の復習（30分）
8	事前学習	練習問題の予習（30分）
	授業内容	第9課 放課後に 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習（30分）
9	事前学習	第10課の予習（30分）
	授業内容	第10課 卓球の中継を見ながら 本文訳、ポイント 1. 様態補語 2. 経験を表わす“過” 3. 比較を表わす“比” 4. 動詞“喜歡”
	事後学習	文法の復習（30分）
10	事前学習	練習問題の予習（30分）
	授業内容	第10課 卓球の中継を見ながら 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習（30分）
11	事前学習	第11課の予習（30分）
	授業内容	第11課 ディズニランドで待ち合わせ 本文訳、ポイント 1. 進行を表わす“在” 2. 方向補語 3. 選択疑問詞
	事後学習	文法の復習（30分）
12	事前学習	練習問題の予習（30分）
	授業内容	第11課 ディズニランドで待ち合わせ 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習（30分）
13	事前学習	第12課の予習（30分）
	授業内容	第12課 カフェテラスで 本文訳、ポイント 1. “是～的”の文 2. 結果補語 3. 時間の長さ・動作の回数を表わす語の位置
	事後学習	文法の復習（30分）
14	事前学習	練習問題の予習（30分）
	授業内容	第12課 カフェテラスで 本文、トレーニング
	事後学習	本文の復習（30分）
15	事前学習	第6課～12課の復習（30分）
	授業内容	後期のまとめ（後期末授業内テスト）
	事後学習	これまでの学習内容の確認（30分）

科目名	中国語資格試験対策 I A	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中国語未習者か初心者を対象とした語学演習。初学者を悩ませる発音を3ヶ月かけてじっくりと学び、検定試験を一目標として総合的な語学力を養う。WEB抽選で決まらなかった者も初回時座席に余裕があれば受け入れる。			
授業目的・到達目標	11月末の検定準4級合格を目標の一つとしつつ、総合的な語学力を養成することを目的とする。未習の状態から発音の基礎と語彙文法の基本を確実に身につけるとともに、11月の中国語検定試験において比較的高得点で準4級を合格でき、次の4級受験にスムーズにステップアップできるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域5・6。			
履修条件	条件1：中国語未習者か初心者で、全日程休むことなく、指示された学習について努力できる者。条件2：中国語検定過去問WEBに加入し、11月の中国語検定試験を受験できる者。条件3：このシラバスの内容を了解している者。			
授業方法	プリントを使用し、口頭練習を中心に行う。毎時間小テストを実施。終了後のフィードバックは学期末にポータルより送信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	①前期筆記試験、②授業参加度、③小テスト、④口頭試験、⑤自宅学習…の5項目を総合的に評価。授業時に評価の詳細（ルーブリック表）を発表。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は使用せず、授業時は配付教材を用いる		
参考書	受講者は、自宅学習用として、「中国語検定過去問WEB」へ加入する。（中検全級の問題を、翌年3月末まで自由に学習できるWEB教材。2000円。）申込は履修登録後に教務課にて。詳細は授業時に伝える。			
オフィスアワー	火曜5限、532講堂にて。授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施する。 s-fukugi.2019@ceres.dti.ne.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前抽選の結果を受けて受講を決めたら、シラバスを再度よく読んで、自身の学修計画を考えておく。（30分）
	授業内容	中国語とは ○発音①四声 ○次週の小テスト予告
	事後学習	配付プリントなどをもちいて四声と動詞述語文等の復習をする（60分）
2	事前学習	小テスト(前①)課題などをもちいて四声の発音等を身につけて授業にのぞむ（60分）
	授業内容	○発音②有気音・無気音 ○否定文 ○疑問文① ●小テスト(前①)
	事後学習	配付プリントなどをもちいて有気音・無気音と否定形等の復習をする（60分）
3	事前学習	小テスト(前②)課題などをもちいて有気音・無気音の発音等を身につけて授業にのぞむ（60分）
	授業内容	○発音③-n・-ng・軽声 ○請～ ○形容詞述語文 ○日 ●小テスト(前②)
	事後学習	配付プリントなどをもちいて -n・-ng・軽声、“請～”等の復習をする（60分）
4	事前学習	小テスト(前③)課題などをもちいて-n・-ng・軽声の発音等を身につけて授業にのぞむ（60分）
	授業内容	○発音④基本母音 ○疑問文② ○副詞① ●小テスト(前③)
	事後学習	配付プリントなどをもちいて基本母音、助詞等の復習をする（60分）

5	事前学習	小テスト(前④)課題などを持ちいて基本母音の発音等を身につけて授業にのぞむ (60分)
	授業内容	○発音⑤ “-ian” 等 ○～年・～日間 ○時を表す語 ●小テスト(前④)
	事後学習	配付プリントなどを持ちいて“-ian”等の発音、形容詞述語文等の復習をする (60分)
6	事前学習	小テスト(前⑤)課題などを持ちいて“-ian”等の発音等を身につけて授業にのぞむ (60分)
	授業内容	○発音⑥捲舌音 ○量詞① ○是 ○疑問詞① ○指示代詞 ●小テスト(前⑤)
	事後学習	配付プリントなどを持ちいて捲舌音の発音、“是”等の復習をする (60分)
7	事前学習	小テスト(前⑥)課題などを持ちいて捲舌音の発音等を身につけて授業にのぞむ (60分)
	授業内容	○発音⑦舌歯音 ○量詞② ○疑問詞② ○疑問文③ ●小テスト(前⑥)
	事後学習	配付プリントなどを持ちいて舌歯音の発音、疑問詞等の復習をする (60分)
8	事前学習	小テスト(前⑦)課題などを持ちいて舌歯音の発音等を身につけて授業にのぞむ (60分)
	授業内容	○発音⑧ “y-” “w-” ○動詞の重ね型 ○疑問文④⑤ ●小テスト(前⑦)
	事後学習	配付プリントなどを持ちいて“y-” “w-”の使い方、動詞の重ね型等の復習をする (60分)
9	事前学習	小テスト(前⑧)課題などを持ちいて“y-” “w-”の使い方等を身につけて授業にのぞむ (60分)
	授業内容	○発音⑨ “-iou” 等 ○～月 ○副詞② ○有① ●小テスト(前⑧)
	事後学習	配付プリントなどを持ちいて複母音“-iou”等の綴り方、“有”の使い方復習をする (60分)
10	事前学習	小テスト(前⑨)課題などを持ちいて“-iou”等の綴りを身につけて授業にのぞむ (60分)
	授業内容	○発音⑩ “児化” ○年月日曜日 ○有② ○在① ●小テスト(前⑨)
	事後学習	配付プリントなどを持ちいて“児化”、年月日曜日等の復習をする (60分)
11	事前学習	小テスト(前⑩)課題などを持ちいて“児化”の発音等を身につけて授業にのぞむ (60分)
	授業内容	○発音⑪ “前半のまとめ ○指示代詞のまとめ ●小テスト(前⑩)
	事後学習	配付プリントなどを持ちいて前期前半の復習をする。過去問WEBの課題に取り組む (60分)
12	事前学習	小テスト(前⑪)課題などを持ちいて発音の前半を復習し授業にのぞむ (60分)
	授業内容	○発音⑫後半のまとめ ○順と量 ○主述述語文 ○量詞③ ●小テスト(前⑪)
	事後学習	配付プリントなどを持ちいて前期後半の復習をする。過去問WEBの課題に取り組む (60分)
13	事前学習	口頭試験・筆記試験の準備 (120分)
	授業内容	○前期総復習 ○口頭試験練習
	事後学習	配付プリントなどを持ちいて前期全般の復習をする。過去問WEBの課題に取り組む (60分)
14	事前学習	筆記試験の準備 (120分)
	授業内容	◎前期筆記試験及びまとめ、振返り
	事後学習	筆記試験を振り返り復習する。過去問WEBの課題に取り組む (60分)
15	事前学習	口頭試験の準備 (120分)
	授業内容	◎前期口頭試験及びまとめ、振返り
	事後学習	口頭試験課題文を中心に復習する。過去問WEBの課題に取り組む (60分)

科目名	中国語資格試験対策 I B	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	すでに発音を身につけた中国語初心者を対象とする語学演習。基礎学習をベースにステップアップをはかり、検定試験を一目標として総合的な語学力を養う。WEB抽選で決まらなかった者も初回時座席に余裕があれば受け入れる。			
授業目的・到達目標	11月末の検定準4級合格を目標の一つとしつつ、総合的な語学力を養成することを目的とする。語彙文法の基本を確実に身につけるとともに、11月の中国語検定試験において比較高得点で準4級を合格でき、次の4級受験にスムーズにステップアップできるようになることを目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域5・6。			
履修条件	条件1：発音を身につけた初心者で、全日程休むことなく、指示された学習について努力できる者。条件2：中国語検定過去問WEBに加入し、11月の中国語検定試験を受験できる者。条件3：このシラバスの内容を了解している者。			
授業方法	プリントを使用し、口頭練習を中心に行う。毎時間小テストを実施。修了後のフィードバックは学期末にポータルより送信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	①中国語検定試験績、②授業参加度、③小テスト、④口頭試験、⑤自宅学習…の5項目を総合的に評価。授業時に評価の詳細（ルーブリック表）を発表。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は使用せず、授業時は配付教材を用いる		
参考書	受講者は、自宅学習用として、「中国語検定過去問WEB」へ加入する。（中検全級の問題を、翌年3月末まで自由に学習できるWEB教材。2000円。）申込は履修登録後に教務課にて。詳細は授業時に伝える。			
オフィスアワー	火曜5限、532講堂にて。授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施する。 s-fukugi.2019@ceres.dti.ne.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ネットワークドライブより小テスト(後①)課題を入手し、その内容を身につけて授業にのぞむ (60分)
	授業内容	○時点と時量① ●小テスト(後①)
	事後学習	配付プリントなどをもちいて時点と時量①等の復習をする (60分)
2	事前学習	小テスト(後②)課題などをもちいて時点と時量①等の言い方を身につけ授業にのぞむ (60分)
	授業内容	○時点と時量② ○量詞⑤ ○連動文① ●小テスト(後②)
	事後学習	配付プリントなどをもちいて時点と時量②等の復習をする。 (60分)
3	事前学習	小テスト(後③)課題などをもちいて時点と時量②等の言い方を身につけ授業にのぞむ (60分)
	授業内容	○時刻と時間①他 ○動作量 ●小テスト(後③)
	事後学習	配付プリントなどをもちいて時刻と時間①等の言い方について復習をする (60分)
4	事前学習	小テスト(後④)課題などをもちいて時刻と時間①等の言い方を身につけ授業にのぞむ (60分)
	授業内容	○時刻と時間②他 ○連動文② ●小テスト(後④)
	事後学習	配付プリントなどをもちいて時刻と時間②の言い方等について復習をする。 (60分)

5	事前学習	小テスト(後⑤)課題などを持ちいて時刻と時間②の言い方等を身につけ授業にのぞむ (60分)
	授業内容	○100以上の数①他 ○想 ○有意思 ●小テスト(後⑤)
	事後学習	配付プリントなどを持ちいて100以上の数①の言い方等について復習をする。過去問WEBの課題に取り組む (120分)
6	事前学習	小テスト(後⑥)課題などを持ちいて100以上の数について①の言い方等を身につけ授業にのぞむ (60分)
	授業内容	○100以上の数②他 ○在③④ ○場所詞 ●小テスト(後⑥)
	事後学習	配付プリントなどを持ちいて100以上の数②の言い方等について復習をする。過去問WEBの課題に取り組む (120分)
7	事前学習	小テスト(後⑦)課題などを持ちいて100以上の数について②の言い方等を身につけ授業にのぞむ (60分)
	授業内容	○金額 ○介詞 ○助動詞 ○動態助詞 ●小テスト(後⑦)
	事後学習	配付プリントなどを持ちいて金額の言い方に等ついて復習をする。過去問WEBの課題に取り組む (120分)
8	事前学習	小テスト(後⑧)課題などを持ちいて金額についての言い方等を身につけ授業にのぞむ (60分)
	授業内容	○量詞⑥ ○その他 ●小テスト(後⑧)
	事後学習	配付プリントなどを持ちいて量詞の用い方等について復習をする。過去問WEBの課題に取り組む (120分)
9	事前学習	検定試験を振り返って次の授業にのぞむ (30分)
	授業内容	○中国語検定試験準4級 解答例と解説
	事後学習	検定試験の解答と解説を受けて復習すべき部分を復習する (30分)
10	事前学習	過去問WEB 4級の過去問題の聴解問題に取り組んでみる (120分)
	授業内容	○中国語検定試験4級 解答例と解説①
	事後学習	検定試験4級の解答と解説①を受けて復習すべき部分があれば復習する (30分)
11	事前学習	過去問WEB 4級の過去問題の筆記問題に取り組んでみる (120分)
	授業内容	○中国語検定試験4級 解答例と解説②
	事後学習	検定試験4級の解答と解説②を受けて復習すべき部分があれば復習する (30分)
12	事前学習	後期の学習を振り返り疑問点を整理する (30分)
	授業内容	○後期総復習 ○後期口頭試験の練習①
	事後学習	授業の内容を受けて復習すべき部分を復習する (30分)
13	事前学習	後期口頭試験の内容、意味を確認しておく (30分)
	授業内容	○一年間のまとめ① ○後期口頭試験の練習②
	事後学習	後期口頭試験の発音について苦手な部分、問題点を整理しておく (60分)
14	事前学習	後期口頭試験課題文の発音練習を十分こなして授業にのぞむ (60分)
	授業内容	○一年間のまとめ② ○後期口頭試験の練習③
	事後学習	後期口頭試験課題文暗唱に向けて繰り返し練習する (60分)
15	事前学習	後期口頭試験の準備 (120分)
	授業内容	◎後期口頭試験及びまとめ、振返り
	事後学習	後期口頭試験の内容の課題文を中心に復習する (30分)

科目名	中国語資格試験対策ⅡA	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	すでに中国語の基礎を習得した者を対象とする初級卒業レベルの語学演習。中国語検定4級取得を希望する学生向けの指導を行い、受講者には必ず年内に検定試験（原則として4級以上）を受検してもらう。毎回の小テストはハードである。前年度のネットワークドライブを参照し、内容をあらかじめ確認、よく考えてから受講を決めてほしい。					
授業目的・到達目標	検定合格を一目標に定めつつ、学習を通して、話す・聴く・読む・書くといった総合的中国語運用能力の養成を目的とする。中国語検定の4級は、聴解と講読筆記に対して共に一定レベル以上の能力が求められる。中国語の履修が週1～2コマ程度の本学部生にとって、中検4級合格は決して容易ではない。語彙を増やし、聴解・読解の訓練を繰り返し行つて、11月末までに検定4級合格レベルに到達できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域5・6。					
履修条件	条件1：学習2年目以上で、全日程休むことなく、指示された学習について努力できる者。 条件2：中国語検定過去問題WEBに加入し、秋に中検4級以上を受験する者。 条件3：本シラバスの内容を了解している者。					
授業方法	プリントを使用し、口頭練習を中心に行う。毎時間小テストを実施。修了後のフィードバックは学期末にポータルより送信する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		①前期筆記試験、②授業参加度、③小テスト、④口頭試験、⑤自宅学習…の5項目を総合的に評価。授業時に評価の詳細（ルーブリック表）を発表。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	教科書は使用せず配付教材を用いる				
参考書	受講者は、自宅学習用として「中国語検定過去問WEB」へ加入する。（中検全級の問題を、翌年3月末まで自由に学習できるWEB教材。2000円。）申込は履修登録後に教務課にて。詳細は授業時に伝える。					
オフィスアワー	火曜5限、532講堂にて。授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施する。s-fukugi.2019@ceres.dti.ne.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	受講を決めたら、シラバスを再度よく読んで、自身の学修計画を考えておく。（30分）
	授業内容	○基礎の復習① ○次週の小テストについて（毎回の小テストは語彙・文法・講読・聴解の総合能力を問う）
	事後学習	配付プリントをもちいて基礎の復習①を振り返る（90分）
2	事前学習	小テスト(前①)課題をもちいて、基礎の復習①の内容や指定された聴解例文等を身につけ授業にのぞむ（90分）
	授業内容	○基礎の復習② ●小テスト(前①)
	事後学習	配付プリントをもちいて基礎の復習②を振り返る（90分）
3	事前学習	小テスト(前②)課題をもちいて、基礎の復習②の内容や指定された聴解例文等を身につけ授業にのぞむ（90分）
	授業内容	○基礎の復習③ ●小テスト(前②)
	事後学習	配付プリントをもちいて基礎の復習③を振り返る（90分）
4	事前学習	小テスト(前③)課題をもちいて、基礎の復習③の内容や指定された聴解例文等を身につけ授業にのぞむ（90分）
	授業内容	○介詞① ●小テスト(前③)
	事後学習	配付プリントをもちいて介詞①等の復習をおこなう（90分）

5	事前学習	小テスト(前④)課題をもちいて、介詞①の例文や指定された聴解例文等を身につけ授業にのぞむ (90分)
	授業内容	○副詞① ●小テスト(前④)
	事後学習	配付プリントをもちいて副詞①等の復習をおこなう 過去問WEBをもちいて過去問題に取り組む (120分)
6	事前学習	小テスト(前⑤)課題をもちいて、副詞①の例文や指定された聴解例文等を身につけ授業にのぞむ (90分)
	授業内容	○疑問詞① ●小テスト(前⑤)
	事後学習	配付プリントをもちいて疑問詞①等の復習をおこなう 過去問WEB (120分)
7	事前学習	小テスト(前⑥)課題をもちいて、疑問詞①の例文や指定された聴解例文等を身につけ授業にのぞむ (90分)
	授業内容	○能願動詞① ●小テスト(前⑥)
	事後学習	配付プリントをもちいて能願動詞①等の復習をおこなう 過去問WEB (120分)
8	事前学習	小テスト(前⑦)課題をもちいて、能願動詞①の例文や指定された聴解例文等を身につけ授業にのぞむ (90分)
	授業内容	○動態助詞① ●小テスト(前⑦)
	事後学習	配付プリントをもちいて動態助詞①等の復習をおこなう 過去問WEB (120分)
9	事前学習	小テスト(前⑧)課題をもちいて、動態助詞①の例文や指定された聴解例文等を身につけ授業にのぞむ (90分)
	授業内容	○離合詞・数量補語 ●小テスト(前⑧)
	事後学習	配付プリントをもちいて離合詞・数量補語等の復習をおこなう 過去問WEB (120分)
10	事前学習	小テスト(前⑨)課題をもちいて、離合詞・数量補語の例文や指定された聴解例文等を身につけ授業にのぞむ (90分)
	授業内容	○結果補語他 ●小テスト(前⑨)
	事後学習	配付プリントをもちいて結果補語等の復習をおこなう 過去問WEB (120分)
11	事前学習	小テスト(前⑩)課題をもちいて、結果補語他の例文や指定された聴解例文等を身につけ授業にのぞむ (90分)
	授業内容	○動態助詞② ●小テスト(前⑩)
	事後学習	配付プリントをもちいて動態助詞②等の復習をおこなう。動態助詞②に関する小テストは後期 過去問WEB (120分)
12	事前学習	前期の学習をまとめて定着度を確認し授業にのぞむ (90分)
	授業内容	○前期総復習① ●小テスト(前⑪)
	事後学習	配付プリントをもちいて前期総復習①を振り返る 過去問WEB (120分)
13	事前学習	前期の学習における疑問点などを整理して授業にのぞむ (90分)
	授業内容	○前期総復習② ●小テスト(前⑫) ○前期口頭試験課題文の練習①
	事後学習	配付プリントをもちいて前期総復習②を振り返る 前期口頭試験課題文の発音練習 過去問WEB (120分)
14	事前学習	前期筆記試験の準備 (120分)
	授業内容	◎前期筆記試験 ○前期口頭試験の練習②
	事後学習	前期筆記試験を振り返り、前期口頭試験課題文暗唱のための練習 (120分)
15	事前学習	前期口頭試験にむけての準備 (120分)
	授業内容	◎前期口頭試験及びまとめ、振返り
	事後学習	前期口頭試験課題文を中心とした復習 過去問WEB (30分)

科目名	中国語資格試験対策ⅡB	担当者	福木 滋久	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期中国語資格試験対策ⅡAとセットとなる後期科目。すでに中国語の基礎を習得した者を対象とする初級卒業レベルの語学演習。中国語検定4級取得を希望する学生向けの指導を行い、受講者には必ず年内に検定試験（原則として4級以上）を受検してもらう。毎回の小テストはハードである。前年度のネットワークドライブを参照し、内容をあらかじめ確認、よく考えてから受講を決めてほしい。			
授業目的・到達目標	検定合格を一目標に定めつつ、学習を通して、話す・聴く・読む・書くといった総合的中国語運用能力の養成を目的とする。中国語検定の4級は、聴解と講読筆記に対して共に一定レベル以上の能力が求められる。中国語の履修が週1～2コマ程度の本学部生にとって、中検4級合格は決して容易ではない。語彙を増やし、聴解・読解の訓練を繰り返し行って、11月末までに検定4級合格レベルに到達できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：外国語科目領域5・6。			
履修条件	条件1：学習2年目以上で、全日程休むことなく、指示された学習について努力できる者。条件2：中国語検定過去問題WEBに加入し、秋に中検4級以上を受験する者。条件3：本シラバスの内容を了解している者。			
授業方法	プリントを使用し、口頭練習を中心に行う。毎時間小テストを実施。修了後のフィードバックは学期末にポータルより送信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	①中国語検定試験の成績、②授業参加度、③小テスト、④口頭試験、⑤自宅学習…の5項目を総合的に評価。授業時に評価の詳細（ルーブリック表）を発表。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は使用せず配付教材を用いる		
参考書	受講者は、自宅学習用として「中国語検定過去問WEB」へ加入する。（中検全級の問題を、翌年3月末まで自由に学習できるWEB教材。2000円。）申込は履修登録後に教務課にて。詳細は授業時に伝える。			
オフィスアワー	火曜5限、532講堂にて。授業後やメールによる申し込みを受けてその都度実施する。s-fukugi.2019@ceres.dti.ne.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ネットワークドライブより小テスト(後①)課題を入手、動態助詞②の例文・聴解例文等を身につけ授業へ（90分）
	授業内容	○様態補語・程度補語 ●小テスト(後①)
	事後学習	配付プリントをもちいて様態補語・程度補語等の復習をおこなう 過去問WEBをもちいて過去問題（120分）
2	事前学習	小テスト(後②)課題をもちいて、様態補語・程度補語の例文や指定された聴解例文等を身につけ授業へ（90分）
	授業内容	○方向補語①・存現文 ●小テスト(後②)
	事後学習	配付プリントをもちいて方向補語①・存現文等の復習をおこなう 過去問WEB（120分）
3	事前学習	小テスト(後③)課題をもちいて、方向補語①・存現文の例文や指定された聴解例文等を身につける（90分）
	授業内容	○方向補語②・比較表現 ●小テスト(後③)
	事後学習	配付プリントをもちいて方向補語②・比較表現等の復習をおこなう 過去問WEB（120分）
4	事前学習	小テスト(後④)課題をもちいて、方向補語②・比較表現の例文や指定された聴解例文等を身につける（90分）
	授業内容	○処置式・「是～的」構文 ●小テスト(後④)
	事後学習	配付プリントをもちいて処置式・「是～的」構文等の復習をおこなう 過去問WEB（120分）

5	事前学習	小テスト(後⑤)課題をもちいて、処置式・「是～的」構文の例文や指定された聴解例文等を身につける (90分)
	授業内容	○可能補語 ●小テスト(後⑤)
	事後学習	配付プリントをもちいて可能補語等の復習をおこなう 過去問WEB (120分)
6	事前学習	小テスト(後⑥)課題をもちいて、可能補語の例文や指定された聴解例文等を身につけ授業にのぞむ (90分)
	授業内容	○使役表現・受け身表現 ●小テスト(後⑥)
	事後学習	配付プリントをもちいて使役表現・受け身表現等の復習をおこなう 過去問WEB (120分)
7	事前学習	小テスト(後⑦)課題をもちいて、使役表現・受け身表現の例文や指定された聴解例文等を身につける (90分)
	授業内容	○副詞②・能願動詞②・疑問詞② ●小テスト(後⑦)
	事後学習	配付プリントをもちいて副詞②・能願動詞②・疑問詞②等の復習をおこなう 過去問WEB (120分)
8	事前学習	小テスト(後⑧)課題をもちいて、副詞②・能願動詞②・疑問詞②の例文や指定の聴解例文等を身につける (90分)
	授業内容	○疑問詞③・呼応表現・複文他 ●小テスト(後⑧)
	事後学習	配付プリントをもちいて疑問詞③・呼応表現・複文等の復習をおこなう 過去問WEB (120分)
9	事前学習	小テスト(後⑨)課題をもちいて、疑問詞③・呼応表現・複文の例文や指定の聴解例文等を身につける (90分)
	授業内容	○これまでのまとめ ●小テスト(後⑨)
	事後学習	これまでの学習を振り返り検定試験受験の準備につなげる 過去問WEBをもちいて過去問題に取り組む (120分)
10	事前学習	検定試験の結果を振り返って授業にのぞむ (90分)
	授業内容	○検定試験当年秋期4級問題解答と解説
	事後学習	検定試験当年秋期4級問題解答と解説を振り返り復習すべき部分は復習する (90分)
11	事前学習	過去問WEBをもちいて3級の過去問題の筆記部分を確認し授業にのぞむ (120分)
	授業内容	○検定試験当年秋期3級筆記問題解答と解説
	事後学習	検定試験当年秋期3級筆記問題解答と解説を振り返り復習すべき部分は復習する (120分)
12	事前学習	過去問WEBをもちいて3級の過去問題の聴解部分を確認し授業にのぞむ (120分)
	授業内容	○検定試験当年秋期3級聴解問題解答と解説
	事後学習	検定試験当年秋期3級聴解問題解答と解説を振り返り復習すべき部分は復習する (120分)
13	事前学習	前期の学習を振り返り、疑問点を整理して授業にのぞむ (90分)
	授業内容	○後期のまとめ① ○後期口頭試験練習①
	事後学習	後期のまとめ①を復習する 後期口頭試験課題文の発音練習 (90分)
14	事前学習	後期口頭試験課題文における疑問点等を整理して授業にのぞむ (90分)
	授業内容	○後期のまとめ② ○後期口頭試験練習②
	事後学習	後期のまとめ②を復習する 後期口頭試験課題文暗唱のための練習 (90分)
15	事前学習	後期口頭試験にむけての準備 (90分)
	授業内容	◎後期口頭試験 及びまとめ、振返り
	事後学習	後期口頭試験課題文を中心とした復習 (30分)

科目名	中国語資格試験対策ⅣA	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本中国語検定協会が実施する中国語検定試験 3 級過去問に対する回答及び解説を繰り返し行う。中国語検定試験 3 級合格を望める様目指す。				
授業目的・到達目標	【授業目的】中国語検定試験 3 級過去問に対する回答及び解説を繰り返し行うことを通して、中級中国語文法の能力を伸ばし 3 級受験に備えることを目的とする。。 【到達目標】中国語検定試験 3 級の合格が射程範囲に入れられる程度の語学力の獲得を目標とする。関連DP及びCP:外国語科目領域：5, 6				
履修条件	すでに 1 年間以上の中国語学習経験のある人。日中辞典、中日辞典を毎回必ず持参すること。授業内試験の解答、傾向等に関してはポータルシステム上で公開する。				
授業方法	授業時に配付する教材の内容に従って授業を進める。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	平常評価(授業参加度、授業内試験)	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	なし	なし		なし	なし
	備考	なし			
参 考 書	日中辞典、中日辞典を毎回必ず持参すること。				
オフィスアワー	火曜昼休み(12:10～13:00)研究室等。中国語学習方法、中国語圏留学等可能な範囲で相談に応ずる。又メール連絡可、栗原千里研究室メールアドレス kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、事前にシラバス内容に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	授業説明(授業の進め方に関して詳しく紹介する)
	事後学習	授業内容の関連事項に関して下調べしておくこと。(30分)
2	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第81回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に備える。(30分)
	授業内容	第81回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に対する回答及び解説。
	事後学習	第81回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
3	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第81回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に備える。(30分)
	授業内容	第81回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に対する回答及び解説。
	事後学習	第81回中国語検定試験過去問(聞取、並替)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
4	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第82回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に備える。(30分)
	授業内容	第82回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に対する回答及び解説
	事後学習	第82回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)

5	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第82回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に備える。(30分)
	授業内容	第82回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に対する回答及び解説。
	事後学習	第82回中国語検定試験過去問(聞取、並替)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
6	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第83回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に備える。(30分)
	授業内容	第83回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に対する回答及び解説
	事後学習	第83回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)で、学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
7	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第83回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に備える。(30分)
	授業内容	第83回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に対する回答及び解説。
	事後学習	第83回中国語検定試験過去問(聞取、並替)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
8	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第84回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に備える。(30分)
	授業内容	第84回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に対する回答及び解説。
	事後学習	第84回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
9	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第84回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に備える。(30分)
	授業内容	第84回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に対する回答及び解説。
	事後学習	第84回中国語検定試験過去問(聞取、並替)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
10	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第85回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に備える。(30分)
	授業内容	第85回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に対する回答及び解説。
	事後学習	第85回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
11	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第98回中国語検定試験(6月23日実施予定)問題の授業内解説に備える。(30分)
	授業内容	第98回中国語検定試験(6月23日実施予定)問題に対する解説。
	事後学習	第98回中国語検定試験(6月23日実施予定)問題の授業内解説で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
12	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第85回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に備える。(30分)
	授業内容	第85回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に対する回答及び解説。
	事後学習	第85回中国語検定試験過去問(聞取、並替)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
13	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第86回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に備える。(30分)
	授業内容	第86回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に対する回答及び解説。
	事後学習	第86回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
14	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第86回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に備える。(30分)
	授業内容	第86回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に対する回答及び解説
	事後学習	第86回中国語検定試験過去問(聞取、並替)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
15	事前学習	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。(30分)
	授業内容	前期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。
	事後学習	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。(30分)

科目名	中国語資格試験対策ⅣB	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本中国語検定協会が実施する中国語検定試験 3 級の過去問に対する回答及び解説を繰り返し行う。中国語検定試験 3 級に合格できる様目指す。				
授業目的・到達目標	【授業目的】中国語検定試験 3 級過去問に対する回答及び解説を繰り返し行うことを通して、中国語中上級文法の能力を伸ばし、3 級合格に備えることを目的とする。 【到達目標】中国語検定試験 3 級に合格できる程度の語学力の獲得を目標とする。関連DP及びCP:外国語科目領域：5, 6				
履修条件	すでに 1 年間以上の中国語学習経験のある人。日中辞典、中日辞典を毎回必ず持参すること。中国語検定試験の受験を必須とする。授業内試験の解答、傾向等に関してはポータルシステム上で公開する。				
授業方法	授業時に配付する教材の内容に従って授業を進める。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	平常評価(授業参加度、授業内試験)	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	なし	なし		なし	なし
	備考	なし			
参 考 書	日中辞典、中日辞典を毎回必ず持参すること。				
オフィスアワー	火曜昼休み(12:10～13:00)研究室等。中国語学習方法、中国語圏留学等可能な範囲で相談に応ずる。又メール連絡可、栗原千里研究室メールアドレス：kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第87回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に備える。(30分)
	授業内容	第87回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に対する回答及び解説。
	事後学習	第87回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
2	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第87回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に備える。(30分)
	授業内容	第87回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に対する回答及び解説。
	事後学習	第87回中国語検定試験過去問(聞取、並替)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
3	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第88回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に備える。(30分)
	授業内容	第88回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に対する回答及び解説。
	事後学習	第88回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
4	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第88回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に備える。(30分)
	授業内容	第88回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に対する回答及び解説。
	事後学習	第88回中国語検定試験過去問(聞取、並替)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。

5	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第89回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に備える。(30分)
	授業内容	第89回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に対する回答及び解説。
	事後学習	第89回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
6	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第89回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に備える。(30分)
	授業内容	第89回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に対する回答及び解説
	事後学習	第89回中国語検定試験過去問(聞取、並替)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
7	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第90回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に備える。
	授業内容	第90回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に対する回答及び解説。
	事後学習	学第90回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
8	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第90回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に備える。(30分)
	授業内容	第90回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に対する回答及び解説。
	事後学習	第90回中国語検定試験過去問(聞取、並替)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて練習すること。(30分)
9	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第91回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に備える。(30分)
	授業内容	第91回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に対する回答及び解説。
	事後学習	第91回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
10	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第91回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に備える。(30分)
	授業内容	第91回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に対する解説。
	事後学習	第91回中国語検定試験過去問(聞取、並替)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
11	事前学習	第99回中国語検定試験(11月24日実施予定)問題に再度目を通し、授業内解説に備える。
	授業内容	第99回中国語検定試験(11月24日実施予定)問題に対する解説。
	事後学習	第99回中国語検定試験(11月24日実施予定)問題の授業内解説で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
12	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第92回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に備える。(30分)
	授業内容	第92回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)に対する回答及び解説。
	事後学習	第92回中国語検定試験過去問(聞取、穴埋)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
13	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第92回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に備える。(30分)
	授業内容	第92回中国語検定試験過去問(聞取、並替)に対する回答及び解説。
	事後学習	第92回中国語検定試験過去問(聞取、並替)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
14	事前学習	中国語単語等を事前に覚え込んで語彙数を増やし、第93回中国語検定試験過去問(穴埋、並替)に備える。(30分)
	授業内容	第93回中国語検定試験過去問(穴埋、並替)に対する回答及び解説。
	事後学習	第93回中国語検定試験過去問(穴埋、並替)で学習した文法事項に関する文例を読んで書いて復習すること。(30分)
15	事前学習	後期中に学習した内容を事前に整理して頭に入れること。(30分)
	授業内容	後期中に学習した内容の総復習と授業内試験。
	事後学習	後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。(30分)

科目名	国際研修(中)ⅡA	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	教科書本文及びその他文例の読込練習を繰り返し行い、中国語中級表現に慣れ、研修や留学に参加できる様目指す。但し、研修や留学に参加するか否かについては自由。					
授業目的・到達目標	【授業目的】中級中国語の読込練習、文法表現練習を通して、中国文化に対する受容能力を構築することを目的する。 【到達目標】日本中国語検定協会が実施する中国語検定試験３級の合格が射程範囲に入れられる程度の語学力の獲得を目標とする。関連DP及びCP:外国語科目領域：5, 6, 7, 8					
履修条件	すでに１年間以上の中国語学習経験がある人。研修や留学に参加するか否かについては自由。授業中は読込練習を繰り返し行うので、大声を出して丁寧に発音するよう心掛けること。					
授業方法	指定教科書の内容に沿って進める。授業中は読込を繰り返し行うので、大声で丁寧に発音すること。授業内試験の解答、傾向等に関してはポータルシステム上で公開する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価(授業参加度、授業内試験)	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	平成31年度	白水社		2冊め中国語《講読クラス》		劉穎、柴森、小澤直人
	備考	なし				
参考書	なし					
オフィスアワー	火曜昼休み(12:10～13:00)研究室等。中国語学習方法、中国語圏留学等可能な範囲で相談に応ずる。又メール連絡可、栗原千里研究室メールアドレス kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業時間や講堂番号を間違えない様しっかりと時間割を確認し、シラバス内容に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	授業説明(授業の進め方に関して詳しく紹介する)
	事後学習	教科書を出来るだけ早く揃えられる様心掛けること。更に授業内容の関連事項に関して下調べしておくこと。(30分)
2	事前学習	事前に第1課前置詞「対」、名詞の前の「的」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第1課 前置詞「対」、名詞の前の「的」について学ぶ。
	事後学習	前置詞「対」、名詞の前の「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
3	事前学習	事前に第1課「有的～有的～」、「既～又～」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第1課 「有的～有的～」、「既～又～」について学ぶ。
	事後学習	「有的～有的～」、「既～又～」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
4	事前学習	事前に第2課「每～都～」、動詞と形容詞の前の「的」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第2課 「每～都～」、動詞と形容詞の前の「的」について学ぶ。
	事後学習	「每～都～」、動詞と形容詞の前の「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)

5	事前学習	事前に第2課比較用法、「連～也～」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第2課 比較用法、「連～也～」について学ぶ。
	事後学習	比較用法、「連～也～」の「的」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
6	事前学習	事前に第3課「除了～以外～」、疑問詞の呼応表現の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第3課 「除了～以外～」、疑問詞の呼応表現について学ぶ。
	事後学習	「除了～以外～」、疑問詞の呼応表現の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
7	事前学習	事前に第3課「即使～也～」、「一点兒也～」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第3課 「即使～也～」、「一点兒也～」について学ぶ。
	事後学習	「即使～也～」、「一点兒也～」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
8	事前学習	事前に第4課持続を表す「着」、手段や状態を表す「着」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第4課 持続を表す「着」、手段や状態を表す「着」について学ぶ。
	事後学習	持続を表す「着」、手段や状態を表す「着」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
9	事前学習	事前に第4課複合方向補語、動詞の重ね型の完了形の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第4課 複合方向補語、動詞の重ね型の完了形について学ぶ。
	事後学習	複合方向補語、動詞の重ね型の完了形の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
10	事前学習	事前に第5課結果補語、存現文の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第5課 結果補語、存現文について学ぶ。
	事後学習	結果補語、存現文の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
11	事前学習	事前に第5課「因為～所以～」、「一边兒～一边兒～」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第5課 「因為～所以～」、「一边兒～一边兒～」について学ぶ。
	事後学習	「因為～所以～」、「一边兒～一边兒～」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
12	事前学習	事前に第6課可能補語、「什麼的」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第6課 可能補語、「什麼的」について学ぶ。
	事後学習	可能補語、「什麼的」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
13	事前学習	事前に第6課「只要～就～」部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第6課 「只要～就～」について学ぶ。
	事後学習	「只要～就～」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
14	事前学習	事前に第6課「一～就～」部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第6課 「一～就～」について学ぶ。
	事後学習	「一～就～」の用法に関して読んで書いて練習すること(30分)。
15	事前学習	前期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。(30分)
	授業内容	前期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。
	事後学習	前期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。(30分)

科目名	国際研修(中)ⅡB	担当者	栗原 千里	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	教科書及びその他文例の読込練習を繰り返し行い、中国語中上級表現に慣れ、研修や留学に参加できる様目指す。但し研修や留学に参加するか否かについては自由。					
授業目的・到達目標	【授業目的】中上級中国語の読込練習、文法表現練習を通して、中国文化に対する受容能力を高めることを目的とする。 【到達目標】日本中国語検定協会が実施する中国語検定試験3級に合格できる程度の語学力の獲得を目標とする。関連DP及びCP:外国語科目領域：5, 6, 7, 8					
履修条件	すでに1年間以上の中国語学習経験がある人。研修や留学に参加するか否かについては自由。授業中は読込練習を繰り返し行うので、大声を出して丁寧に発音するよう心掛けること。					
授業方法	指定教科書の内容に沿って進める。授業中は読込を繰り返し行うので、大声で丁寧に発音すること。授業内試験の解答、傾向等に関してはポータルシステム上で公開する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常評価(授業参加度、授業内試験)	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	平成31年度	白水社		2冊めの中国語《講読クラス》		劉穎、柴森、小澤直人
	備考	なし				
参考書	なし					
オフィスアワー	火曜昼休み(12:10～13:00)研究室等。中国語学習方法、中国語圏留学等可能な範囲で相談に応ずる。又メール連絡可、栗原千里研究室メールアドレス kurihara.chisato@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前に第7課「是～的」、様態補語(程度補語)の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第7課 「是～的」、様態補語(程度補語)について学ぶ。
	事後学習	「是～的」、様態補語(程度補語)の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
2	事前学習	事前に第7課「不知道～才好」、「好像～一樣」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第7課 「不知道～才好」、「好像～一樣」について学ぶ。
	事後学習	「不知道～才好」、「好像～一樣」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
3	事前学習	事前に第8課疑問詞の不定用法、可能補語の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第8課 疑問詞の不定用法、可能補語について学ぶ。
	事後学習	疑問詞の不定用法、可能補語の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
4	事前学習	事前に第8課「無論～都～」、「要是～的話，就～」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第8課 「無論～都～」、「要是～的話，就～」について学ぶ。
	事後学習	「無論～都～」、「要是～的話，就～」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)

5	事前学習	事前に第9課動詞の後の「給」、受身文の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第9課 動詞の後の「給」、受身文について学ぶ。
	事後学習	動詞の後の「給」、受身文の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
6	事前学習	事前に第9課「不是～就是～」、「再也没～過」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第9課 「不是～就是～」、「再也没～過」について学ぶ。
	事後学習	「不是～就是～」、「再也没～過」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
7	事前学習	事前に第10課動量補語、離合詞の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第10課 動量補語、離合詞について学ぶ。
	事後学習	動量補語、離合詞の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
8	事前学習	事前に第10課「雖然～但是～」、「不但～而且～」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第10課 「雖然～但是～」、「不但～而且～」について学ぶ。
	事後学習	「雖然～但是～」、「不但～而且～」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
9	事前学習	事前に第11課後置修飾語を伴う「有」の文の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第11課 後置修飾語を伴う「有」の文について学ぶ。
	事後学習	後置修飾語を伴う「有」の文の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
10	事前学習	事前に第11課使役の「讓」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第11課 使役の「讓」について学ぶ。
	事後学習	使役の「讓」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
11	事前学習	事前に第11課副詞「就」、副詞「都」の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第11課 副詞「就」、副詞「都」について学ぶ。
	事後学習	副詞「就」、副詞「都」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
12	事前学習	事前に第12課「把」の文の部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第12課 「把」の文について学ぶ。
	事後学習	「把」の文の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
13	事前学習	事前に第12課「対～來說」部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第12課 「対～來說」について学ぶ。
	事後学習	「対～來說」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
14	事前学習	事前に第12課「只有～才～」部分に目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	第12課 「只有～才～」について学ぶ。
	事後学習	「只有～才～」の用法に関して読んで書いて練習すること。(30分)
15	事前学習	後期中に学習した内容を整理して事前に頭に入れておくこと。(30分)
	授業内容	後期中に学習した内容の総復習と授業内試験を行う。
	事後学習	後期中に学習、獲得した知識を忘れない様復習に心掛けること。(30分)

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	于 晓飛	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	初めて中国語を学習する学生を対象とします。 この講義では、中国語発音の基礎を習得し、簡単な日常会話ができる能力をつける。 教科書の内容に基づき、同じ題材で応用会話を作成し、実際に会話を実演する。 それを通して、発音をチェックし、中国語の基本表現を身につける。			
授業目的・到達目標	講義の主な目的は、中国語の正しい発声の習得である。授業中では、学生一人一人の発音を丁寧に矯正する。これにより、中国語発音の基礎を身に付け、訛りのない中国語の発声ができることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	初めて中国語を学習する学生。			
授業方法	中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。 筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業参加度と毎回授業の実績 30% 期末筆記試験70%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年5月	飛鳥文化出版	半声が導入された「中国語耳留学」基礎編CD付き（2枚）	陳洲拳、于曉飛、劉渴水
	備考	授業中に指示します。		
参考書	日中・中国辞書			
オフィスアワー	木曜昼休み／火曜17：50～ 授業終了後の講堂にて メールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業の全体を把握する。（30分）
	授業内容	ガイダンス：中国語とは？ 授業の進み方と注意事項を説明
	事後学習	CDを聞き、中国語の発音を耳にする（30分）
2	事前学習	C Dを聞く、発音を練習すること。（30分）
	授業内容	発音 母音、子音と声調 簡単な単語を覚えさせる。
	事後学習	勉強した発音を、C Dを聞きながら覚えること。（30分）
3	事前学習	CDを聞く、勉強した発音を繰り返し練習すること；聞いてわかる、書ける、発音できる練習（30分）
	授業内容	発音 声調変化と総合練習 簡単な挨拶言葉を発音練習
	事後学習	発音を練習する：CDを聞く。聞いてわかる、書ける、発音できる練習すること。単語を暗記すること。（30分）
4	事前学習	自分の名前を中国語で発音できる準備することと簡単な挨拶言葉を暗記する。（30分）
	授業内容	挨拶言葉と自己紹介を通して発音のチェックをする。 クラスメイトの名前を中国語で覚える。 第一課の挨拶言葉を覚えさせる。
	事後学習	正しい発音で自分の名前を言えることの練習。 挨拶言葉を使って、友人たちと会話してみる練習（30分）

5	事前学習	第2課の単語を暗記する；CDについて本文の会話を練習する。（30分）
	授業内容	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：氏名についての表現；是を用いるた。
	事後学習	CDを聞き、会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。（30分）
6	事前学習	第2課の会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第3課会話文の解釈 ポイント：疑問文の作り方：四つの疑問文を作り、質問と答えの説明と練習
	事後学習	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。（30分）
7	事前学習	第4課の単語と会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	これまでの復習 筆記小テスト ポイント：日期の言い方：年、月、日、曜日
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
8	事前学習	CDを聞き、第5課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第5課の会話文を解釈 ポイント：時刻の表現；会話練習と発音矯正する。
	事後学習	第1課～第5課の内容をまとめ、暗記した文を使って友人たちと会話をしてみること。（30分）
9	事前学習	第6課の単語と会話文をCDを聞き、発音練習を行う。（30分）
	授業内容	筆記小テスト 第6課の会話文を解釈 ポイント：家族についての紹介と親族の呼称
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；自分の家族について紹介する（30分）
10	事前学習	CDを聞き、第7課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第7課会話文について解釈 ポイント：年齢の聞き方と答え方の表現。
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
11	事前学習	CDを聞き、第8課の単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。（30分）
	授業内容	筆記小テスト 第8課の会話文を解釈 ポイント：方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
12	事前学習	第9課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備；自家の回りについて中国語で説明。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第9課会話文を解釈 ポイント：願望や希望を表す表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
13	事前学習	CDを聞き、第10課単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第10課の会話文を解釈 ポイント：職業についての表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
14	事前学習	第2課～第10課までの内容をまとめ、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	発表テスト 口頭発表 講評
	事後学習	全般復習（30分）
15	事前学習	ネットで中国について調べる。（30分）
	授業内容	中国の映画を鑑賞
	事後学習	感想文を書く（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中) I A	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業は中国語の発音から勉強し、豊富な練習問題で基本的な表現を学ぶ。本文は日本人学生が中国人のメル友を訪ね、初めて北京に行って、出会った様々な場面での会話、また、会話に出てくる文法を簡潔にまとめている。			
授業目的・到達目標	授業の目的：中国語の日常会話や基礎文法の養成を目的とする。 到達目標：簡単な会話や簡単な文章の読み書きと翻訳ができるようになる。コミュニケーションに最も必要な基本表現を身に着けることができる。中国語検定試験の準4級、4級の資格の取得が可能になる。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	なし			
授業方法	朗読、翻訳、会話、リスニングという方式で授業を進めていく。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業参加度（受講態度を含む）10%、平常点（宿題や授業中の小テスト）40%、前期末の授業内テスト50%。また、中国語検定試験の合格も成績の評価に加味する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011年	白水社	I 冊目の中国語一会話クラス	劉 喜多山幸子 松田かの子
	備考			
参考書	日中辞書、中日辞書			
オフィスアワー	授業の前・後、当該教室にて 授業時間：火曜 2～4 限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を購入し、目を通してください。 （30分）
	授業内容	1、オリエンテーション 2、中国の概況 3、中国語の発音：単母音と声調
	事後学習	単母音と声調の復習 （30分）
2	事前学習	子音と複母音の予習 （30分）
	授業内容	発音：子音と複母音
	事後学習	子音と複母音の復習 （30分）
3	事前学習	鼻母音の予習 （30分）
	授業内容	発音：鼻母音と発音の復習
	事後学習	発音の総復習 （30分）
4	事前学習	第1課の予習 （30分）
	授業内容	第1課 楊麗さんですか。 本文訳、ポイント 1. 人称代名詞 2. 動詞“是” 3. 否定を表す“不” 4. 疑問を表す“嗎”
	事後学習	文法の復習 （30分）

5	事前学習	練習問題の予習（30分）
	授業内容	第1課 楊麗さんですか。 トレーニング、リスニング
	事後学習	本文の復習（30分）
6	事前学習	第2課の予習（30分）
	授業内容	第2課 荷物は多いですか。 本文訳、ポイント 1. 指示代名詞 2. 形容詞述語文 3. 疑問詞“怎麼樣” 4. “的”
	事後学習	文法の復習（30分）
7	事前学習	練習問題の予習（30分）
	授業内容	第2課 荷物は多いですか。 トレーニング、リスニング
	事後学習	本文の復習（30分）
8	事前学習	第3課の予習（30分）
	授業内容	第3課 明日はどこへ行きますか。 本文訳、ポイント 1. 場所代名詞 2. 動詞述語文 3. 疑問詞疑問文 4. 省略疑問文“呢” 5. 時を表すことばの位置
	事後学習	文法の復習（30分）
9	事前学習	練習問題の予習（30分）
	授業内容	第3課 明日はどこへ行きますか。 トレーニング、リスニング
	事後学習	本文の復習（30分）
10	事前学習	第4課の予習（30分）
	授業内容	第4課 ケーキを食べたいですか。 本文訳、ポイント 1. 助動詞“想” 2. 選択疑問文 3. 副詞“也” 4. 動詞の重ね型 5. 語気助詞“吧”
	事後学習	文法の復習（30分）
11	事前学習	練習問題の予習（30分）
	授業内容	第4課 ケーキを食べたいですか。 トレーニング、リスニング
	事後学習	本文の復習（30分）
12	事前学習	第5課の予習（30分）
	授業内容	第5課 これはいくらですか。 本文訳、ポイント 1. 数詞 2. 量詞の使い方 3. 反復疑問文
	事後学習	文法の復習（30分）
13	事前学習	練習問題の予習（30分）
	授業内容	第5課 これはいくらですか。 トレーニング、リスニング
	事後学習	本文の復習（30分）
14	事前学習	第1課～5課の復習
	授業内容	前期のまとめ（前期末授業内テスト）
	事後学習	問題点の復習（30分）
15	事前学習	前期の総復習（30分）
	授業内容	総括（前期学習内容の振りかえり）
	事後学習	これまでの学習内容の確認

科目名	スピーキング・リスニング(中) I A	担当者	汪 鴻祥	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業は初級中国語コミュニケーションの勉強を基本内容とし、正しい発音の基礎を築き、初級の文法を理解すると同時に、会話力と聴取力の訓練を重視します。発音段階では母音や子音などのピンインをしっかりと勉強します。会話段階では毎回一つのテーマを巡って関連の単語や文法を勉強し、また練習を行います。日常学習状況と期末試験の結果により総合評価をします。				
授業目的・到達目標	この授業を通して、会話力と聴取力を中心とする初級中国語コミュニケーション能力の養成を目的とします。 正しい発音の基礎を築き、初級の文法を理解できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	中国語や中国文化に興味を持つ者を対象とします。 履修者40名に限定します。				
授業方法	指定のテキストを参照しつつ授業をしますが、中国関連の話題を取り入れ、楽しく中国語会話の練習を行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	70%は期末試験の結果により評価します。 30%は日常学習の状況により評価します、	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年度	白帝社		大学生会話 中国語基礎 2019年3月新版発行	汪鴻祥 主編
	備考				
参 考 書	参考書は開講時指示します。				
オフィスアワー	授業中に質問を受け付ける。 授業時間：火曜 1 ・ 2 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	中国の基本データ、中国語の基本知識の予習（30分）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	授業内容の復習（30分）
2	事前学習	発音（１）の予習（30分）
	授業内容	発音（１）の勉強と練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
3	事前学習	発音（２）、（３）の予習（30分）
	授業内容	発音（２）、（３）の勉強と練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
4	事前学習	発音（４）、（５）の予習（30分）
	授業内容	発音（４）、（５）勉強と練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）

5	事前学習	発音の総合復習のための予習（30分）
	授業内容	発音（１）～（５）の総合復習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
6	事前学習	第1課：「初次面」の予習（30分）
	授業内容	第1課：「初次面」 会話、ヒヤリング、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
7	事前学習	第2課：「迎新生」の予習（30分）
	授業内容	第2課：「迎新生」 会話、ヒヤリング、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
8	事前学習	第3課：「我的一家」の予習（30分）
	授業内容	第3課：「我的一家」 会話、ヒヤリング、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
9	事前学習	第4課：「生日快」の予習（30分）
	授業内容	第4課：「生日快」 会話、ヒヤリング、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
10	事前学習	第5課：「漫学」の予習（30分）
	授業内容	第5課：「漫学」 会話、ヒヤリング、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
11	事前学習	第6課：「参校园」の予習（30分）
	授業内容	第6課：「参校园」 会話、ヒヤリング、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
12	事前学習	第7課：「趣好」の予習（30分）
	授業内容	第7課：「趣好」 会話、ヒヤリング、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
13	事前学習	期末発表会の準備（30分）
	授業内容	期末発表会、講評
	事後学習	発表会内容の復習（30分）
14	事前学習	期末総合復習（30分）
	授業内容	期末総合復習（発音、第1課～7課）
	事後学習	授業内容の復習（30分）
15	事前学習	試験の準備（30分）
	授業内容	期末試験及び振返り、まとめ
	事後学習	前期授業内容の復習（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中) I A	担当者	何 秋平	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中国語漢字の発音、文章の簡単な読み書き、リスニング、及び会話を習得します。				
授業目的・到達目標	中国語の発音、基本の会話力を養成することを目的とする。 会話中心の授業ですので、練習を多くし、場面の設定をきちんと説明して正しく使えるように努力する。一年を通じ、覚えてほしい基本的な単語、表現を段どりを踏んで進めていく。 中国語検定試験準四級に合格できることを目標とする。				
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域 6 授業参加度重視する。訓練を重視するので、積極的な参加が必要。				
授業方法	平易な中国語を可能な限りたくさん使い、中国語に親しめるよう楽しく授業を進めたい。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業内での筆記試験（70%） 平常点（30%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2014年02月 26日刊行	駿河台出版		改訂版「Campus漢語」	原瀬 隆司
	備考				
参 考 書	『中日・日中辞典』				
オフィス アワー	授業後に質問を受け付けます。 授業時間：土曜 1・2 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書とシラバスに目を通してください（30分）
	授業内容	ガイダンス（年間講義計画、成績評価の方法、授業方法紹介など） 発音練習
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
2	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	発音について 練習
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
3	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第1課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
4	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第1課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）

5	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第2課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
6	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第2課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
7	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第3課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
8	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第3課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
9	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第4課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
10	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第4課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
11	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第5課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
12	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第5課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
13	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第6課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
14	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第6課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
15	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	鄭 暁青	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中国語基礎的なものを30回を通して学ぶ。会話を中心としての授業である。					
授業目的・到達目標	基本的な日常会話を学ぶ。簡単な会話から入り、反復繰り返しにより発音になじみ、中国語の発音記号と四声を修得させることを目的とする。 発音と基本文法を身につけ、中国語で簡単な会話ができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	特になし					
授業方法	初歩の中国語で最も大切な発音に特に重点を置いて指導する。二人で組んで会話の練習をする					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		授業参加度（学習の積極性）及び小テスト。40%小テストと60%前期の発音テスト	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019年	白水社		はじめまして！中国語		喜多山幸子等著
	備考					
参 考 書	なし					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。 授業時間：火曜 1・2 限、木曜 3 限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の目次を読む（30分）
	授業内容	年間講義計画・成績評価の方法 中国語の特色と勉強について
	事後学習	学習の計画を立てる（30分）
2	事前学習	予習 教科書を読む（30分）
	授業内容	発音 単母音
	事後学習	復習 単母音の練習（30分）
3	事前学習	発音の確認（30分）
	授業内容	発音 複合母音
	事後学習	復習 母音の練習（30分）
4	事前学習	発音の確認（30分）
	授業内容	発音 声調と子音
	事後学習	復習 声調と子音の練習（30分）

5	事前学習	単語の予習（30分）
	授業内容	第1課 校門で
	事後学習	文型の確認 是の使い方（30分）
6	事前学習	単語の暗記（30分）
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤアリング
	事後学習	簡体字の確認（30分）
7	事前学習	単語の予習（30分）
	授業内容	第2課 廊下で
	事後学習	文型の確認 在の使い方（30分）
8	事前学習	単語の暗記（30分）
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤアリング
	事後学習	文型の確認 否定の使い方（30分）
9	事前学習	単語の予習（30分）
	授業内容	第3課 キャンパスで
	事後学習	簡体字の確認（30分）
10	事前学習	単語の暗記（30分）
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤアリング
	事後学習	文型の確認 有の使い方（30分）
11	事前学習	単語の予習（30分）
	授業内容	第4課 携帯を見ながら
	事後学習	簡体字の確認（30分）
12	事前学習	単語の暗記（30分）
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤアリング
	事後学習	文型の確認 副詞（30分）
13	事前学習	単語の予習（30分）
	授業内容	第5課 学生食堂で
	事後学習	簡体字の確認（30分）
14	事前学習	単語の暗記（30分）
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤアリング
	事後学習	文型の確認 疑問文の練習（30分）
15	事前学習	復習（30分）
	授業内容	期末試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	まとめ（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	萬 清華	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	入門～初級段階の中国語。話しかた、聴きかた、読みかた、書きかた中心として中国語会話の基礎を教える。教材には、朗読と理解とのし易くなるために、文章の切り取り、ピークストレスをつけた。標準的な発音から、挨拶、簡単な日常会話までの話しかた、聴きかた、読みかた、書きかたなどに必要な基礎知識を覚えやすいように一つ一つセットで丁寧に教える。（後期には、HSK漢語検定１級～２級受験、及び日本中国語検定の準４級～４級受験は、可能。）				
授業目的・到達目標	標準的な発音から、挨拶、簡単な日常会話までの話しかた、聴きかた、読みかた、書きかたなどと必要な基礎知識を教え、また、読解やヒアリング、会話の訓練、小テストを行い、総合的な中国語の言語能力の基礎を育成することを目的とする。 授業にはHSK漢語検定受験指導をし（後期にはHSK漢語検定１級～２級受験、及び日本中国語検定の準４級～４級受験は、可能）、毎年受験合格実績がある。中国語で簡単な日常会話ができるようになることを目標とする。				
履修条件	隣連域及びCP：外国語科目領域 6				
授業方法	標準的な発音と朗読や会話の基礎知識、読解や会話の訓練、小テストなどを合わせて行う。HSK漢語検定受験指導、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）』、前・後期末テスト(口頭試験、リスニング・筆記)がある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業参加度や小テスト、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）』成績(50%)、前・後期末テスト成績(50%)によって総合評価する。中検受験加点ある。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書の使用について、授業の時に指示する。			
参 考 書	指定しない				
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。 授業時間：水曜 2 ・ 4 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	筆記と書き取り練習用ノート（1）を用意する。シラバスに目を通しておく。（30分）
	授業内容	授業概要。第一課「問候」①本課概要。挨拶。標準的な中国語の発音法。会話入門。語順、語調。②挨拶語。文章の切り取り、ピークストレス。単語表、本文を読む。本文を訳す。本文と日本語訳を書く。挨拶・会話練習。③呼称・人称代名詞。二つの語気助詞と比較。中国語の語順、語調。④音節・四声・轻声・単韻母。
	事後学習	復習。第一課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
2	事前学習	教科書の第一課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
	授業内容	第一課 ①復習問題。②複韻母。③音節・変調発音訓練。④文の種類。会話1(1) - (3)。会話練習。⑤声母と韻母。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。会話1(1) - (3)を声出して読む。第一課会話1(1) - (3)と日本語訳を書く。会話文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
3	事前学習	第一課会話1(1) - (3)を声出して読む。会話文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
	授業内容	第一課 ①復習問題。②鼻韻母。③親族。四声と轻声の比較練習。④音の識別、常用単語発音練習。⑤会話2(4) - (6)。会話練習。⑥声調と鼻韻母。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。会話2(4) - (6)を声出して読む。第一課会話2(4) - (6)と日本語訳を書く。会話文の要点と発音の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第一課』。（30分）
4	事前学習	第一課会話2(4) - (6)を声出して読む。会話文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
	授業内容	第一課 ①復習問題。②アル化韻。③ローマ字綴り規則。音節表。④音の識別、朗読練習。会話練習・語調。⑤単語と会話。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。第一課常用単語と会話を声出して読む。常用単語と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第一課』。（30分）

5	事前学習	第一課会話(1) - (6)を声出して読む。第一課の要点をチェック。第二課の単語表を声出して読む。第二課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第一課』完成し、成績表のコピーを用意する。（30分）
	授業内容	第一課復習問題。第二課「我是学生」①第二課概要。名詞述語文。数を数える。疑問文(1) - (3)。会話。自己紹介。②単語表、本文を読む。本文を訳す。③「是」構文(1)。「的」。「指示代名詞」。「副詞」。④二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞。疑問文(1) - (3)。⑤本文について会話練習。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第一課』成績表を提出。
	事後学習	復習。第二課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
6	事前学習	第二課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。疑問文(1) - (3)、二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞をチェック。（30分）
	授業内容	第二課 ①復習問題。②強勢と弱勢。強勢と弱勢の変化。③疑問文(1) - (3)と会話練習(1) - (4)。④四声練習。音の識別。疑問文の語調。⑤数の数え方(1) - (3)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。数の数え方(1) - (3)を声出して読む。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第二課』。（30分）
7	事前学習	第二課疑問文(1) - (3)、二つの疑問語気助詞と六つの疑問詞をチェック。数の数え方、会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。（30分）
	授業内容	第二課 ①復習問題。②品詞一覧。③置換え会話(1) - (3)。④会話1(1) - (3)。⑤名前の聞き方。自己紹介。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1(1) - (3)を声出して読む。会話1(1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第二課』。（30分）
8	事前学習	第二課数の数え方(1) - (3)、会話1(1) - (3)を声出して読む。要点をチェック。（30分）
	授業内容	第二課 ①復習問題。②置換え会話(4) - (6)。③会話2(4) - (6)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話2(4) - (6)を声出して読む。会話2(4) - (6)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第二課』。（30分）
9	事前学習	第二課会話2(4) - (6)を声出して読む。第三課の単語表を声出して読む。第三課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第二課』完成し、成績表のコピーを用意する。（30分）
	授業内容	第二課復習問題。第三課「我的父母」①第三課概要。形容詞述語文・主述述語文・動詞述語文。副詞の種類。介詞。接続詞。助詞「的」「地」「得」。補語の種類。量詞の分類。疑問文(4)。会話。②単語表、本文を読む。本文を訳す。③程度副詞。介詞。接続詞。④本文について会話練習。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第二課』成績表を提出する。
	事後学習	復習。第三課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
10	事前学習	第三課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
	授業内容	第三課 ①復習問題。②三つの「de」。「得」つくる補語と他の補語。③量詞の分類。④疑問文(4)。会話練習(1) - (4)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。数量詞。疑問文(4)。三つの「de」。程度補語と可能補語。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第三課』。（30分）
11	事前学習	第三課会話練習(1) - (4)を声出して読む。数量詞、三つの「de」、程度補語と可能補語、疑問文(1) - (4)をチェック。（30分）
	授業内容	第三課 ①復習問題。②四声練習。音の識別。③置換え会話(1) - (3)。④会話1(1) - (3)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1(1) - (3)を声出して読む。会話1(1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第三課』。（30分）
12	事前学習	第三課会話1(1) - (3)を声出して読む。要点をチェック。（30分）
	授業内容	第三課 ①復習問題。②置換え会話(4) - (6)。③年齢の聞き方。④会話2(4) - (6)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話2(4) - (6)を声出して読む。会話2(4) - (6)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第三課』。（30分）
13	事前学習	第三課会話2(4) - (6)を声出して読む。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第三課』完成し、成績表のコピーを用意する。（30分）
	授業内容	第三課①復習問題。②第一課～第三課復習。③中国語作文。④宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第三課』成績表を提出する。
	事後学習	第一課～第三課復習。（30分）
14	事前学習	第一課～第三課復習。（30分）
	授業内容	(授業内)テスト（リスニング、筆記）。及びまとめ、振返り。
	事後学習	中国語作文を声出して読む。（30分）
15	事前学習	中国語作文を声出して読む。（30分）
	授業内容	中国語作文口頭発表会（口頭試験）及びまとめ、振返り。
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと。（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中) I A	担当者	劉 秋佳	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	正確な発音と中国語の表現力の向上を図る中国語会話授業である。中国の文化と時事も紹介する。			
授業目的・到達目標	授業目的：ピンインを正確に読め、日常会話が自由に表現できるように中国語話す能力を養成することを目的とする 到達目標：日常会話を可能にし、簡単な文章を書けることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	無断欠席しない			
授業方法	楽しいコミュニケーションの雰囲気の中で、課題によって会話を確実に掌握して練習を繰り返し、パートナーとの各課の会話発表をゴールとします。発音と基本表現の会話練習を中心に授業を楽しく行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業中の発音、会話口頭練習の受け答えなどで評価の重要な対象です。授業時の応答 30%、小テスト：30%（2回）、勉強姿勢と提出もの：10%になる。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年5月3版	飛鳥文化出版	[中国語耳留学] 基礎編 CD2枚付け	陳洲拳・于曉飛・劉渴水
	備考			
参考書	中日・日中辞書 具体的には指定しない			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業後講堂にて受け付ける。 授業時間：木曜 3・4・5 限 （メールアドレス ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp /Wechat:koku811）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでください (30分)
	授業内容	導 入 中国と中国語について紹介する 中国語の特徴と勉強方法、中国言語の歴史文化背景の概述
	事後学習	中国の一般事情をネットで調べでまとめて書いて提出します (30分)
2	事前学習	教科書の付けだCDの発音部分を聞き流してください (30分)
	授業内容	第1課 (発音一) 韻母、四声、単母音、複母音
	事後学習	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまでくり返して練習しなさい (30分)
3	事前学習	発音練習CDの学習予定部分を聞き流してください (30分)
	授業内容	第2課 (発音二) 声母(子音)有気音と無気音 (簡単な挨拶言葉)
	事後学習	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまで繰り返して練習しなさい (30分)
4	事前学習	発音練習CDの学習予定部分を聞き流してください (30分)
	授業内容	第3課 (発音三) 鼻母音(母音声調符号の付け方)、(授業用語)
	事後学習	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまで繰り返して練習しなさい (30分)

5	事前学習	発音練習CDの学習予定部分を聞き流してください（30分）
	授業内容	第4課(発音四) 特殊発音、声調の変化
	事後学習	勉強したピンインのローマ字を暗記で書き出しできるまで練習しなさい 四声慣れるまで繰り返して練習しなさい（30分）
6	事前学習	教科書の課後練習と配った練習問題を予習してください。（30分）
	授業内容	発音の総合練習 発音部分の小テスト
	事後学習	練習とテストのできないところを確認し、できるまでに練習してください（30分）
7	事前学習	配ったプリントの記事を読んでください（30分）
	授業内容	文化事情
	事後学習	感想と見解を書いて提出下さい（30分）
8	事前学習	単語の意味と文法解釈を予習してください（30分）
	授業内容	第5課
	事後学習	勉強した単語と表現を書き、読め、話せができるまで練習しなさい（30分）
9	事前学習	単語の意味と文法解釈を予習してください（30分）
	授業内容	第6課
	事後学習	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい（30分）
10	事前学習	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい（30分）
	授業内容	会話の応用練習 グループで会話練習を確認させて評価します
	事後学習	慣れてない会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい（30分）
11	事前学習	単語の意味と文法解釈を予習してください
	授業内容	第7課
	事後学習	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい（30分）
12	事前学習	単語の意味と文法解釈を予習してください（30分）
	授業内容	第8課
	事後学習	勉強した単語と表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい（30分）
13	事前学習	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい（30分）
	授業内容	会話の応用練習 グループで会話練習を確認させて評価します
	事後学習	指定した会話表現を書く、読む、話すができるまで練習しなさい（30分）
14	事前学習	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください。（30分）
	授業内容	総復習
	事後学習	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください（30分）
15	事前学習	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください。（30分）
	授業内容	小テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅠA	担当者	劉 力	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	発音に始まり、基本的の語彙、文型を理解し、聞いてわかり、話せるようになるための練習を行う。					
授業目的・到達目標	中国語の基礎発音のマスター、教科書の内容をマスターし、応用力を養成することを目的とする。 発音に始まり、基本的の語彙、文型を理解し、聞いてわかり、話せるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	初心者（スピーキング・リスニング（中）ⅡAとⅡBを同時に履修してはいけません） 携帯で教科書の音声ファイルを聞くことができるので、毎回携帯とイヤホンを用意してください。					
授業方法	指定する教科書の内容に沿って進める。出欠は毎回確認する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		授業参加度と 2 回の試験平均点で評価を下す。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019年	株式会社天々		耳から学ぶ中国語		矢野光治・徐前・植松希久磨
	備考					
参 考 書	なし					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。 授業時間：月曜 3・4・5 限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読むこと（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	教科書を用意すること（30分）
2	事前学習	発音の予習（30分）
	授業内容	発音：音節のしく・声調・声調の変化・母音・子音・アル化音み
	事後学習	発音の復習（30分）
3	事前学習	第1課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第1課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第1課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
4	事前学習	第1課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第1課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第1課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）

5	事前学習	第2課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第2課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第2課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
6	事前学習	第2課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第2課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第2課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
7	事前学習	第3課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第3課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第3課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
8	事前学習	第3課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第3課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第3課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
9	事前学習	第1課～第3課まで指定箇所の意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
	授業内容	第1回目試験及びまとめ、振返り 範囲：第一課～第三課の新出単語と本文
	事後学習	第1課～第3課の内容を復習すること（30分）
10	事前学習	第4課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第4課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第4課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
11	事前学習	第4課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第4課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第4課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
12	事前学習	第5課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第5課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第5課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
13	事前学習	第5課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第5課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第5課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
14	事前学習	第6課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第6課の新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第6課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
15	事前学習	第4課～第6課の指定箇所の意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
	授業内容	第2回目試験及びまとめ、振返り 範囲：第4課～第6課の新出単語と本文
	事後学習	第1課～第6課の内容を復習すること（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	于 晓飛	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	初めて中国語を学習する学生を対象とします。 この講義では、中国語発音の基礎を習得し、簡単な日常会話ができる能力をつける。 教科書の内容に基づき、同じ題材で応用会話を作成し、実際に会話を実演する。 それを通して、発音をチェックし、中国語の基本表現を身につける。			
授業目的・到達目標	講義の主な目的は、中国語の正しい発声の習得である。授業中では、学生一人一人の発音を丁寧に矯正する。これにより、中国語発音の基礎を身に付け、訛りのない中国語の発声ができることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 1， 3， 6			
履修条件	初めて中国語を学習する学生。			
授業方法	中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。 筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験	0%		
	平 常 評 価	100%	授業参加度と毎回授業の実績 30% 期末筆記試験70%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年5月	飛鳥文化出版	半声が導入された「中国語耳留学」基礎編CD付き（2枚）	陳洲拳、于晓飛、劉渴水
	備考	授業中に指示します。		
参 考 書	日中・中国辞書			
オフィス アワー	木曜昼休み／火曜17：50～ 授業終了後の講堂にて メールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業の全体を把握する。（30分） 自己紹介の準備
	授業内容	自己紹介をする 授業の進み方と注意事項を説明
	事後学習	CDを聞き、中国語の発音を復習（30分）
2	事前学習	教科書の第1課～第10課まで単語、会話文を復習、練習すること。（30分）
	授業内容	第1課～第10課までの会話について全般復習、練習
	事後学習	CDを聞き、会話文を暗記し、簡単な会話ができるように練習すること。（30分）
3	事前学習	CDを聞く、第11課の単語を暗記する；本文の会話を練習する。（30分）
	授業内容	第11課の会話文を解釈する ポイント：評価についての表現
	事後学習	CDを聞き、会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。（30分）
4	事前学習	第12課の単語を暗記する；前課の会話文を暗記し、授業中に会話小テストの準備を行う。
	授業内容	挨拶言葉と自己紹介を通して発音のチェックをする。 会話小テスト 第12課会話文を解釈 ポイント：買い物するときの表現
	事後学習	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。（30分）

5	事前学習	第13課の単語を暗記する；CDについて本文の会話を練習する。（30分）
	授業内容	筆記小テスト 第13課会話文の解釈 ポイント：動態助詞；行われた動作の時間、場所、方式、行為者等を言うときの表現：是・・・的
	事後学習	CDを開き、会話文を暗記する；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。（30分）
6	事前学習	第14課の単語を暗記する；前課の会話文を暗記し、授業中に会話小テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第14課会話文の解釈 好みについての表現：～をするのが好きである；～することを好む
	事後学習	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。（30分）
7	事前学習	第15課の単語を暗記すると会話文を練習すること；14課の内容について会話小テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第15課会話文の解釈 ポイント：～したことがある表現と時間補語
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
8	事前学習	CDを開き、第16課の単語を暗記する；会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での筆記小テスト準備。（30分）
	授業内容	筆記テスト 第16課の会話文を解釈 ポイント：比較表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
9	事前学習	第17課の単語を暗記すると会話文を練習すること；16課の内容について会話小テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第17課の会話文を解釈 ポイント：動作の進行中と持続表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
10	事前学習	CDを開き、第18課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第18課会話文について解釈 ポイント：可能を表す表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
11	事前学習	CDを開き、第19課の単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での筆記小テストの準備。（30分）
	授業内容	筆記小テスト 第19課の会話文を解釈 ポイント：方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
12	事前学習	第20課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備：自家の回りについて中国語で説明。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第20課会話文を解釈 ポイント：能力についての表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
13	事前学習	勉強した表現を使って、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 期末テスト 口頭発表 講評
	事後学習	第11課～20課までの重要表現を暗記し、暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。（30分）
14	事前学習	テスト範囲で復習（30分）
	授業内容	これまでの復習 筆記テスト
	事後学習	全般復習（30分）
15	事前学習	ネットで中国について調べる。（30分）
	授業内容	中国の映画を鑑賞
	事後学習	感想文を書く（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	長田 徳子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業は中国語の発音から勉強し、豊富な練習問題で基本的な表現を学ぶ。本文は日本人学生が中国人のメル友を訪ね、初めて北京に行って、出会った様々な場面での会話、また、会話に出てくる文法を簡潔にまとめている。			
授業目的・到達目標	授業の目的：中国語の日常会話や基礎文法の養成を目的とする。 到達目標：簡単な会話や簡単な文章の読み書きと翻訳ができるようになる。コミュニケーションに最も必要な基本表現を身に着けることができる。中国語検定試験の準4級、4級の資格の取得が可能になる。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	なし			
授業方法	朗読、翻訳、会話、リスニングという方式で授業を進めていく。 フィードバックは授業内において行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	授業参加度（受講態度を含む）10%、平常点（宿題や授業中の小テスト）40%、後期末の授業内テスト50%。また、中国語検定試験の合格も成績の評価に加味する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011年	白水社	I 冊目の中国語一会話クラス	劉 喜多山幸子 松田かの子
	備考			
参考書	日中辞書、中日辞書			
オフィスアワー	授業の前・後、当該教室にて 授業時間：火曜 2 ～ 4 限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	第6課の予習 （30分）
	授業内容	オリエンテーション 第6課 電子辞書を持っていますか。 本文訳、ポイント 1. 動詞“有” 2. 動詞“在” 3. 前置詞“离”
	事後学習	文法の復習 （30分）
2	事前学習	練習問題の予習 （30分）
	授業内容	第6課 電子辞書を持っていますか。 トレーニング、リスニング
	事後学習	本文を復習 （30分）
3	事前学習	第7課の予習 （30分）
	授業内容	第7課 京劇のチケットを買いました。 本文訳、ポイント 1. 連動文 2. “什么” +名詞 3. 完了の“了” 4. 疑問詞“怎么”
	事後学習	文法の復習 （30分）
4	事前学習	練習問題の予習 （30分）
	授業内容	第7課 京劇のチケットを買いました。 トレーニング、リスニング
	事後学習	本文の復習 （30分）

5	事前学習	第8課の予習 （30分）
	授業内容	第8課 ファーストフード店がありますか。 本文訳、ポイント 1. 変化を表わす“了” 2. 動詞“有” 3. 前置詞“在”
	事後学習	文法の復習 （30分）
6	事前学習	練習問題の予習 （30分）
	授業内容	第8課 ファーストフード店がありますか。 トレーニング、リスニング
	事後学習	本文の復習 （30分）
7	事前学習	第9課の予習 （30分）
	授業内容	第9課 中国の歌が歌えますか。 本文訳、ポイント 1. 助動詞“可以” “会” “能” 2. 動詞“喜歡” 3. 前置詞“給”
	事後学習	文法の復習 （30分）
8	事前学習	練習問題の予習 （30分）
	授業内容	第9課 中国の歌が歌えますか。 トレーニング、リスニング
	事後学習	本文の復習 （30分）
9	事前学習	第10課の予習 （30分）
	授業内容	第10課 長城に行ったことがありますか。 本文訳、ポイント 1. 時刻の言い方 2. 経験を表わす“過” 3. 動作の回数を表わす言い方 4. 方向補語
	事後学習	文法の復習 （30分）
10	事前学習	練習問題の予習 （30分）
	授業内容	第10課 長城に行ったことがありますか。 トレーニング、リスニング
	事後学習	本文の復習 （30分）
11	事前学習	第11課の予習 （30分）
	授業内容	第11課 お腹をこわしました。 本文訳、ポイント 1. 主述述語文 2. “有点儿” 3. “是～的” 4. 比較の表現
	事後学習	文法の復習 （30分）
12	事前学習	練習問題の予習 （30分）
	授業内容	第11課 お腹をこわしました。 トレーニング、リスニング
	事後学習	本文の復習 （30分）
13	事前学習	第12課の予習 （30分）
	授業内容	第12課 どのくらいの時間がかかりますか。 本文訳、ポイント 1. 結果補語 2. “从～到…” 3. 二つの目的語をもつ動詞
	事後学習	文法の復習 （30分）
14	事前学習	練習問題の予習 （30分）
	授業内容	第12課 どのくらいの時間がかかりますか。 トレーニング、リスニング
	事後学習	本文の復習 （30分）
15	事前学習	第6課～12課の復習 （30分）
	授業内容	後期のまとめ（後期末授業内テスト）
	事後学習	これまでの学習内容の確認 （30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	汪 鴻祥	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業は初級中国語コミュニケーションの勉強を基本内容とし、正しい発音の基礎を築き、初級の文法を理解すると同時に、会話力と聴取力の訓練を重視します。発音段階では母音や子音などのピンインをしっかりと勉強します。会話段階では毎回一つのテーマを巡って関連の単語や文法を勉強し、また練習を行います。日常学習状況と期末試験の結果により総合評価をします。				
授業目的・到達目標	この授業を通して、会話力と聴取力を中心とする初級中国語コミュニケーション能力の養成を目的とします。 正しい発音の基礎を築き、初級の文法を理解できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	中国語や中国文化に興味を持つ者を対象とします。 履修者40名に限定します。				
授業方法	指定のテキストを参照しつつ授業をしますが、中国関連の話題を取り入れ、楽しく中国語会話の練習を行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	70%は期末試験の結果により評価します。 30%は日常学習の状況により評価します、	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年度	白帝社		大学生会話 中国語基礎 2019年3月新版発行	汪鴻祥 主編
	備考				
参 考 書	参考書は開講時指示します。				
オフィスアワー	授業中に質問を受け付ける。 授業時間：火曜 1 ・ 2 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	夏休み報告発表の準備 (30分)
	授業内容	前期で学ばれた基本語句と基本文法の復習 夏休みの報告
	事後学習	授業内容の復習 (30分)
2	事前学習	第8課：「学」の予習 (30分)
	授業内容	第8課：「学」 会話、ヒヤリング、練習
	事後学習	授業内容の復習 (30分)
3	事前学習	第9課：「广交朋友」の予習 (30分)
	授業内容	第9課：「广交朋友」 会話、ヒヤリング、練習
	事後学習	授業内容の復習 (30分)
4	事前学習	第10課：「周末活」の予習 (30分)
	授業内容	第10課：「周末活」 会話、ヒヤリング、練習
	事後学習	授業内容の復習 (30分)

5	事前学習	第11課：「超市物」の予習（30分）
	授業内容	第11課：「超市物」 会話、ヒヤリング、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
6	事前学習	第12課：「季化」の予習（30分）
	授業内容	第12課：「季化」 会話、ヒヤリング、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
7	事前学習	第13課：「上学交通」の予習（30分）
	授業内容	第13課：「上学交通」 会話、ヒヤリング、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
8	事前学習	第14課：「外活」の予習（30分）
	授業内容	第14課：「外活」 会話、ヒヤリング、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
9	事前学習	第15課：「暑假旅游」の予習（30分）
	授業内容	第15課：「暑假旅游」 会話、ヒヤリング、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
10	事前学習	第16課：「校活」の予習（30分）
	授業内容	第16課：「校活」 会話、ヒヤリング、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
11	事前学習	第17課：「出国留学」の予習（30分）
	授業内容	第17課：「出国留学」 会話、ヒヤリング、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
12	事前学習	第18課：「健康食」の予習（30分）
	授業内容	第18課：「健康食」 会話、ヒヤリング、練習
	事後学習	授業内容の復習（30分）
13	事前学習	期末発表会の準備（30分）
	授業内容	期末発表会、講評
	事後学習	発表会内容の復習（30分）
14	事前学習	期末総合復習（30分）
	授業内容	期末総合復習 第8課～18課
	事後学習	授業内容の復習（30分）
15	事前学習	期末試験の準備（30分）
	授業内容	期末試験及び振り返り、まとめ
	事後学習	後期授業内容の復習（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	何 秋平	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中国語漢字の発音、文章の簡単な読み書き、リスニング、及び会話を習得します。				
授業目的・到達目標	本講座では、発音の基礎から始め、実践的な語学能力を養成することを目的としています。11月に中国語検定試験準四級に合格できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	特になし				
授業方法	平易な中国語を可能な限りたくさん使い、中国語に親しめるよう楽しく授業を進めます。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業内での筆記試験（70%） 平常点（30%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019・2・1 改装版	駿河台出版		改装版「Campus漢語」	原瀬 隆司
	備考				
参 考 書	『中日・日中辞典』				
オフィスアワー	授業後に質問を受け付けます。 授業時間：土曜 1・2 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第7課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
2	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第7課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
3	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第8課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
4	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第8課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）

5	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第9課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
6	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第9課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
7	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第10課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
8	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第10課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
9	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第11課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
10	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第11課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
11	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第12課 本文 単語、文法
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
12	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	第12課 練習 ステップ1、2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
13	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	復習 1
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
14	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	復習 2
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）
15	事前学習	教科書の内容を簡単に見ておいてください（30分）
	授業内容	後期試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	教科書の練習問題を解いてください（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	鄭 暁青	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中国語基礎的なものを30回を通して学ぶ。会話を中心としての授業である。				
授業目的・到達目標	基本的な日常会話を学ぶ。簡単な会話から入り、反復繰り返しにより発音になじみ、中国語の発音記号と四声を修得させることを目的とする。 発音と基本文法を身につけ、中国語で簡単な会話ができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	特になし				
授業方法	初歩の中国語で最も大切な発音に特に重点を置いて指導する。二人で組んで会話の練習をする				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業参加度（学習の積極性）及び小テスト。40%小テストと60%期末テスト。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019年	白水社	はじめまして！中国語		喜多山幸子等著
	備考				
参 考 書	中国語辞書必要 指定なし				
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。 授業時間：火曜 1・2 限、木曜 3 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	予習 教科書を読む（30分）
	授業内容	第6課 王先生の研究室で
	事後学習	復習 本文の朗読（30分）
2	事前学習	予習 練習問題（30分）
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤアリング
	事後学習	復習 単語と文型（30分）
3	事前学習	発音の確認（30分）
	授業内容	第7課 コンビニで
	事後学習	復習 本文の朗読（30分）
4	事前学習	発音の確認（30分）
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤアリング
	事後学習	復習 単語と文型（30分）

5	事前学習	単語の予習（30分）
	授業内容	第8課 バス停で
	事後学習	文型の確認 疑問詞と疑問文（30分）
6	事前学習	単語の暗記（30分）
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤアリング
	事後学習	簡体字の確認（30分）
7	事前学習	単語の予習（30分）
	授業内容	第9課 放課後
	事後学習	文型の確認（30分）
8	事前学習	単語の暗記（30分）
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤアリング
	事後学習	文型の確認（30分）
9	事前学習	単語の予習（30分）
	授業内容	第10課 卓球の中継を見ながら
	事後学習	簡体字の確認（30分）
10	事前学習	単語の暗記（30分）
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤアリング
	事後学習	文型の確認（30分）
11	事前学習	単語の予習（30分）
	授業内容	第11課 デイズニーランドで待ち合わせ
	事後学習	簡体字の確認（30分）
12	事前学習	単語の暗記（30分）
	授業内容	トレーニング
	事後学習	文型の確認（30分）
13	事前学習	単語の予習（30分）
	授業内容	第12課 カフェテラスで
	事後学習	簡体字の確認（30分）
14	事前学習	単語の暗記（30分）
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤアリング
	事後学習	文型の確認（30分）
15	事前学習	復習 文法のまとめ（30分）
	授業内容	期末試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	まとめ（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	萬 清華	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	入門～初級段階の中国語。話しかた、聴きかた、読みかた、書きかた中心として中国語会話の基礎を教える。教材には、朗読と理解とのし易くなるために、文章の切り取り、ピークストレスをつけた。標準的な発音から、挨拶、簡単な日常会話までの話しかた、聴きかた、読みかた、書きかたなどに必要な基礎知識を覚えやすいように一つ一つセットで丁寧に教える。（後期には、HSK漢語検定１級～２級受験、及び日本中国語検定の準４級～４級受験は、可能。）				
授業目的・到達目標	標準的な発音から、挨拶、簡単な日常会話までの話しかた、聴きかた、読みかた、書きかたなどと必要な基礎知識を教え、また、読解やヒアリング、会話の訓練、小テストを行い、総合的な中国語の言語能力の基礎を育成することを目的とする。 授業にはHSK漢語検定受験指導をし（後期にはHSK漢語検定１級～２級受験、及び日本中国語検定の準４級～４級受験は、可能）、毎年受験合格実績がある。中国語で簡単な日常会話ができるようになることを目標とする。				
履修条件	隣連域及びCP：外国語科目領域 6				
授業方法	標準的な発音と朗読や会話の基礎知識、読解や会話の訓練、小テストなどを合わせて行う。HSK漢語検定受験指導、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）』、前・後期末テスト（口頭試験、リスニング・筆記）がある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加度や小テスト、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）』成績（50%）、前後期末テスト成績（50%）によって総合評価し、HSK・中検受験加点ある。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書の使用について、授業の時に指示する。			
参考書	指定しない				
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。 授業時間：水曜 2・4 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期第一課～第三課復習。第四課の単語表を声出して読む。第四課の単語表と日本語訳を書く。（30分）
	授業内容	前期復習問題。第四課「我家有五口人」①第四課概要。「有」構文。存現文(1)。不定数。方位詞。疑問文(5) - (6)。中国の通貨—人民幣元。番号と金額の言い方。朗読短文。会話。②単語表、本文を読む。本文を訳す。本文の要点をチェック。③「有」構文。存現文(1)。不定数の使い方比較。方位詞。④本文について会話練習。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。第四課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（I）第四課』。（30分）
2	事前学習	第四課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
	授業内容	第四課 ①復習問題。②中国の通貨—人民幣元。番号と金額。③四声練習。音の識別。④疑問文(5) - (6)。会話練習(1) - (4)。⑤置換え会話(1) - (3)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（I）第四課』。（30分）
3	事前学習	第四課会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。（30分）
	授業内容	第四課 ①復習問題。②朗読短文1, 2。③置換え会話(4) - (6)。④会話1(1) - (3)。会話2(4) - (6)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1(1) - (3)、会話2(4) - (6)を声出して読む。会話1(1) - (3)、会話2(4) - (6)と日本語訳を書く。朗読短文1, 2。短文と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（I）第四課』。（30分）

4	事前学習	第四課会話1(1) - (3)、会話2(4) - (6)を声出して読む。第五課の単語表を声出して読む。第三課の単語表と日本語訳を書く。要点をチェック。完成した『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第四課』成績表のコピーを用意して提出する。（30分）
	授業内容	第四課復習問題。第五課「今天休息」①第五課概要。自動詞と他動詞。方向補語、数量補語。連動文・兼語文。使役・受身文。曜日・週と年・月・日。二つの「了」。朗読短文。会話。②単語表、本文を読む。本文を訳す。本文の要点をチェック。③連動文・兼語文。使役・受身文。六種類の疑問文。④本文について会話練習。聞き取り・書き取りテスト
	事後学習	復習。第五課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第五課』。（30分）
5	事前学習	第五課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
	授業内容	第五課 ①復習問題。②曜日・週と年・月・日。③方向補語。数量補語。④四声練習。音の識別。二つの「了」。会話練習(1) - (4)。⑤置換え会話(1) - (3)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第五課』。（30分）
6	事前学習	第五課会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。（30分）
	授業内容	第五課 ①復習問題。②朗読短文1,2。③置換え会話(4) - (6)。④会話1(1) - (3)。会話2(4) - (6)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1(1) - (3)、会話2(4) - (6)を声出して読む。会話1(1) - (3)、会話2(4) - (6)と日本語訳を書く。朗読短文1,2。短文と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第五課』。（30分）
7	事前学習	第五課会話1(1) - (3)、会話2(4) - (6)を声出して読む。要点をチェック。第六課の単語表を声出して読む。第六課の単語表と日本語訳を書く。完成した『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第五課』成績表のコピーを用意して提出する。（30分）
	授業内容	第五課復習問題。第六課「我家在横濱」①第六課概要。「在」構文。存現文(2)。二つの「在」。二つの「着」。結果補語。四種類の文。時刻・時間・時。朗読短文。会話。②単語表、本文を読む。本文を訳す。本文の要点をチェック。③「在」構文。存現文(2)。二つの「在」。結果補語。四種類の文。④本文について会話練習。聞き取り・書き取りテスト
	事後学習	復習。第六課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。要点をチェック。（30分）
8	事前学習	第六課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
	授業内容	第六課 ①復習問題。②時間点・時間段。時刻・時間・時。③二つの「着」。④四声練習。音の識別。会話練習(1) - (4)。⑤置換え会話(1) - (3)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第六課』。（30分）
9	事前学習	第六課会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。（30分）
	授業内容	第六課 ①復習問題。②朗読短文1,2。③置換え会話(4) - (6)。④会話1(1) - (3)。会話2(4) - (6)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1(1) - (3)、会話2(4) - (6)を声出して読む。会話1(1) - (3)、会話2(4) - (6)と日本語訳を書く。朗読短文1,2。短文と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第六課』。（30分）
10	事前学習	第六課会話1(1) - (3)、会話2(4) - (6)を声出して読む。要点をチェック。第七課の単語表を声出して読む。第七課の単語表と日本語訳を書く。完成した『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第六課』成績表のコピーを用意して提出する。（30分）
	授業内容	第六課復習問題。第七課「祝賀」①第七課概要。祝いと祈り常用語。方位詞の分類。五種類の補語。二つの「」。朗読短文。会話。②単語表、本文を読む。本文を訳す。本文の要点をチェック。③祝いと祈り常用語。五種類の補語。④本文について会話練習。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。第七課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第七課』。（30分）
11	事前学習	第七課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
	授業内容	第七課 ①復習問題。②方位詞の分類。「～左右」「～上下」「～前后」。③二つの「」。④四声練習。音の識別。会話練習(1) - (4)。⑤置換え会話(1) - (3)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。会話練習(1) - (4)を声出して読む。会話練習(1) - (4)と日本語訳を書く。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第七課』。（30分）
12	事前学習	第七課会話練習(1) - (4)を声出して読む。要点をチェック。（30分）
	授業内容	第七課 ①復習問題。②朗読短文1,2。③置換え会話(4) - (6)。④会話1(1) - (3)。会話2(4) - (6)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1(1) - (3)、会話2(4) - (6)を声出して読む。会話1(1) - (3)、会話2(4) - (6)と日本語訳を書く。朗読短文1,2。短文と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第七課』。（30分）
13	事前学習	第七課会話1(1) - (3)、会話2(4) - (6)を声出して読む。要点をチェック。完成した『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅰ）第七課』成績表のコピーを用意して提出する。（30分）
	授業内容	第七課①復習問題。②第四課～第七課復習。 ③第四課～第七課朗読短文復習。（口頭試験の朗読短文（Ⅰ）を選択）。
	事後学習	第四課～第七課復習。（30分）
14	事前学習	第四課～第七課復習。（30分）
	授業内容	(授業内)テスト（リスニング、筆記）及びまとめ、振り返り。
	事後学習	朗読短文を声出して読む。（30分）

15	事前学習	朗読短文を声出して読む。（30分）
	授業内容	中国語朗読短文発表会（口頭試験）及びまとめ、振り返り。
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと。（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	劉 秋佳	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	正確な発音と中国語の表現力の向上を図る中国語会話授業である。中国の文化と時事も紹介する			
授業目的・到達目標	授業目的：ピンインを正確に読め、日常会話が自由に表現できるように中国語話す能力を養成することを目的とする 到達目標：日常会話を可能にし、簡単な文章を書けることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	無断欠席しない			
授業方法	楽しいコミュニケーションの雰囲気の中で、課題によって会話を確実に掌握して練習を繰り返し、パートナーとの各課の会話発表をゴールとします。発音と基本表現の会話練習を中心に授業を楽しく行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	この授業では授業中の発言、口頭練習の受け答えなども評価の重要な対象です。授業時の応答30%、小テスト：30%（2回）、勉強姿勢と提出もの：10%になる。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年5月3版	飛鳥文化出版	[中国語耳留学] 基礎編 CD2枚付け	陳洲拳・于曉飛・劉渴水
	備考			
参考書	中日・日中辞書 具体的には指定しない			
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業後講堂にて受け付ける。 授業時間：木曜3・4・5限 （メールアドレス ryu.shuka11@nihon-u.ac.jp /Wechat:koku811）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	配ったプリントの記事を読んでください (30分)
	授業内容	中国文化の紹介 (中国の映画鑑賞)
	事後学習	感想と見解をレポート書いて提出下さい (30分)
2	事前学習	単語の意味と文法解釈を予習してください (30分)
	授業内容	第9課
	事後学習	勉強した単語と表現を書き、読め、話せができるまで練習しなさい (30分)
3	事前学習	単語の意味と文法解釈を予習してください (30分)
	授業内容	第10課
	事後学習	勉強した単語と表現を書き、読め、話せができるまで練習しなさい (30分)
4	事前学習	指定した会話表現を書き、読め、話せができるまで練習しなさい (30分)
	授業内容	会話の応用練習
	事後学習	指定した会話表現を書き、読め、話せができるまで練習しなさい (30分)

5	事前学習	単語の意味と文法解釈を予習してください（30分）
	授業内容	第11課
	事後学習	勉強した単語と表現を書き、読め、話せができるまで練習しなさい（30分）
6	事前学習	単語の意味と文法解釈を予習してください（30分）
	授業内容	第12課
	事後学習	勉強した単語と表現を書き、読め、話せができるまで練習しなさい（30分）
7	事前学習	指定した会話表現を書き、読め、話せができるまで練習しなさい
	授業内容	会話の応用練習
	事後学習	指定した会話表現を書き、読め、話せができるまで練習しなさい（30分）
8	事前学習	単語の意味と文法解釈を予習してください（30分）
	授業内容	第13課
	事後学習	勉強した単語と表現を書き、読め、話せができるまで練習しなさい（30分）
9	事前学習	単語の意味と文法解釈を予習してください（30分）
	授業内容	第14課
	事後学習	勉強した単語と表現を書き、読め、話せができるまで練習しなさい（30分）
10	事前学習	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください。 総復習（30分）
	授業内容	総合練習
	事後学習	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください（30分）
11	事前学習	配ったプリントの記事を読んでください（30分）
	授業内容	文化事情
	事後学習	感想と見解をレポート書いて提出下さい（30分）
12	事前学習	単語の意味と文法解釈を予習してください（30分）
	授業内容	第15課
	事後学習	勉強した単語と表現を書き、読め、話せができるまで練習しなさい（30分）
13	事前学習	単語の意味と文法解釈を予習してください（30分）
	授業内容	第16課
	事後学習	勉強した単語と表現を書き、読め、話せができるまで練習しなさい（30分）
14	事前学習	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください（30分）
	授業内容	総復習/作文練習
	事後学習	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください（30分）
15	事前学習	教科書の指定範囲と配った復習練習問題を復習してください（30分）
	授業内容	テスト及びまとめ、振り返り
	事後学習	ミスした所とできない部分をできるようにきちんと練習してください（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中) I B	担当者	劉 力	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	---------------------	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	第7課から始まり、基本的の語彙、文型を理解し、聞いてわかり、話せるようになるための練習を行う。					
授業目的・到達目標	中国語の基礎発音のマスター、教科書の内容をマスターし、応用力を養成することを目的とする。 発音に始まり、基本的の語彙、文型を理解し、聞いてわかり、話せるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	初心者（スピーキング・リスニング（中）ⅡAとⅡBを同時に履修してはいけません） 携帯で教科書の音声ファイルを聞くことができるので、毎回携帯とイヤホンを用意してください。					
授業方法	指定する教科書の内容に沿って進める。出欠は毎回確認する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		授業参加度と 2 回の試験平均点で評価を下す。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019年	株式会社天々		耳から学ぶ中国語		矢野光治・徐前・植松希久磨
	備考					
参 考 書	なし					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。 授業時間：月曜 3・4・5 限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	音声ファイルを使って第1課～第3課までの発音の復習（30分）
	授業内容	第1課～第3課までのみなさんの発音を確認する
	事後学習	第1課～第3課本文などの漢字・ピンインの復習（30分）
2	事前学習	音声ファイルを使って第4課～第5課までの発音の復習（30分）
	授業内容	第1課～第3課までのみなさんの発音を確認する
	事後学習	第1課～第3課本文などの漢字・ピンインの復習（30分）
3	事前学習	第7課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第7課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第7課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
4	事前学習	第7課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第7課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第7課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）

5	事前学習	第8課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第8課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第8課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
6	事前学習	第8課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第8課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第8課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
7	事前学習	第9課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第9課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第9課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
8	事前学習	第9課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第9課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第9課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
9	事前学習	第7課～第9課まで指定箇所の意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
	授業内容	第一回目試験及びまとめ、振返り 範囲：第7課～第9課の新出単語と本文
	事後学習	第7課～第9課の内容を復習すること（30分）
10	事前学習	第10課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第10課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第10課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
11	事前学習	第10課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第10課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第10課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
12	事前学習	第11課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第11課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第11課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
13	事前学習	第11課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第11課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第11課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
14	事前学習	第12課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第12課の新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第12課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
15	事前学習	第10課～第12課の指定箇所の意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
	授業内容	第二回目試験及びまとめ、振返り 範囲：第10課～第12課の新出単語と本文
	事後学習	第7課～第12課の内容を復習すること（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡA	担当者	于 晓飛	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	中国語を一年間学習した学生を対象とします。 この講義では、中国語発音の基礎を習得し、簡単な日常会話ができる能力をつける。 教科書の内容に基づき、同じ題材で応用会話を作成し、実際に会話を実演する。 それを通して、発音をチェックし、中国語の基本表現を身につける。			
授業目的・到達目標	講義の主な目的は、中国語の正しい発声の習得である。授業中では、学生一人一人の発音を丁寧に矯正する。これにより、中国語発音の基礎を身に付け、訛りのない中国語の発声ができることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	初めて中国語を学習する学生。			
授業方法	中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。 筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業参加度と毎回授業の実績 30% 期末筆記試験70%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年5月	飛鳥文化出版	半声が導入された「中国語耳留学」基礎編CD付き（2枚）	陳洲拳、于曉飛、劉渴水
	備考	授業中に指示します。		
参考書	日中・中国辞書			
オフィスアワー	火曜昼休み 授業終了後の講堂にて メールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業の全体を把握する。（30分）
	授業内容	ガイダンス：中国語とは？ 授業の進み方と注意事項を説明
	事後学習	CDを聞き、中国語の発音を耳にする（30分）
2	事前学習	C Dを聞く、発音を練習すること。（30分）
	授業内容	発音復習 母音、子音と声調 簡単な単語を覚えさせる。
	事後学習	勉強した発音を、C Dを聞きながら覚えること。（30分）
3	事前学習	CDを聞く、勉強した発音を繰り返し練習すること；聞いてわかる、書ける、発音できる練習（30分）
	授業内容	発音復習 声調変化と総合練習 簡単な挨拶言葉を発音練習
	事後学習	発音を練習する：CDを聞く。聞いてわかる、書ける、発音できる練習すること。単語を暗記すること。（30分）
4	事前学習	自分の名前を中国語で発音できる準備することと簡単な挨拶言葉を暗記する。（30分）
	授業内容	挨拶言葉と自己紹介を通して発音のチェックをする。 クラスメイトの名前を中国語で覚える。 第一課の挨拶言葉を覚えさせる。
	事後学習	正しい発音で自分の名前を言えることの練習。 挨拶言葉を使って、友人たちと会話してみる練習（30分）

5	事前学習	第2課の単語を暗記する；CDについて本文の会話を練習する。（30分）
	授業内容	会話小テスト 会話文の解釈 ポイント：氏名についての表現；是を用いるた。
	事後学習	CDを聞き、会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。（30分）
6	事前学習	第2課の会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第3課会話文の解釈 ポイント：疑問文の作り方：四つの疑問文を作り、質問と答えの説明と練習
	事後学習	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。（30分）
7	事前学習	第4課の単語と会話文を暗記することと、授業中に会話小テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	これまでの復習 筆記小テスト ポイント：日期の言い方：年、月、日、曜日
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
8	事前学習	CDを聞き、第5課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第5課の会話文を解釈 ポイント：時刻の表現；会話練習と発音矯正する。
	事後学習	第1課～第5課の内容をまとめ、暗記した文を使って友人たちと会話をしてみること。（30分）
9	事前学習	第6課の単語と会話文をCDを聞き、発音練習を行う。（30分）
	授業内容	筆記小テスト 第6課の会話文を解釈 ポイント：家族についての紹介と親族の呼称
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；自分の家族について紹介する（30分）
10	事前学習	CDを聞き、第7課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第7課会話文について解釈 ポイント：年齢の聞き方と答え方の表現。
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
11	事前学習	CDを聞き、第8課の単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。（30分）
	授業内容	筆記小テスト 第8課の会話文を解釈 ポイント：方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
12	事前学習	第9課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備；自家の回りについて中国語で説明。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第9課会話文を解釈 ポイント：願望や希望を表す表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
13	事前学習	CDを聞き、第10課単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第10課の会話文を解釈 ポイント：職業についての表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
14	事前学習	第2課～第10課までの内容をまとめ、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	発表テスト 口頭発表 講評
	事後学習	全般復習（30分）
15	事前学習	ネットで中国について調べる。（30分）
	授業内容	中国の映画を鑑賞
	事後学習	感想文を書く（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡA	担当者	徐 前	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-----	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	1年目に習った初級中国語を復習しながら、新しい語彙や表現を徐々に増やし、簡単な日常会話と作文ができることを目指す。					
授業目的・到達目標	日常会話を聞いて理解し、それを応用することができる力の養成を目的とする。 1年目に習った初級中国語を復習しながら、新しい語彙や表現を徐々に増やし、簡単な日常会話と作文ができることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域6					
履修条件	中国語の基礎を修めた2年次生を対象とする。					
授業方法	テキストに沿って、ヒアリングと会話に慣れるトレーニングを中心にして授業を進めていく。フィードバックは授業内において行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常点（受講態度・小テスト）40% 前期末テスト(満点 100点 合格点 60点) 60%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017年12月 第13刷発行	白水社		新版 中国語さらなる一歩		尹景春他
	備考					
参考書	日中・中日辞典（版本・出版社の指定なし）					
オフィスアワー	授業後に質問を受け付ける。 授業時間：木曜3・4限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	講義に関する要望などを考えておく。(30分)
	授業内容	ガイダンス(本講義の授業計画・内容についての説明)
	事後学習	1年目に習った中国語の単語を復習する。(30分)
2	事前学習	テキストの用意。ひと通り目を通しておく。(30分)
	授業内容	中国語のピンインと四声の復習
	事後学習	大きな声で発音の練習をする。(30分)
3	事前学習	1年目に習った中国語の表現を復習する。(30分)
	授業内容	中国語の基本的構文の復習
	事後学習	既習した前置詞、疑問詞、助動詞などを復習する。(30分)
4	事前学習	第1課の単語を予習する。(30分)
	授業内容	第1課 中国に行こう ポイント：主述述語文 助動詞「可以」「要」
	事後学習	形容詞文の構文を復習して覚える。(30分)

5	事前学習	前回の授業で習った会話文を朗読する。（30分）
	授業内容	トレーニング1の練習問題を解く。
	事後学習	第1課の本文の内容に基づく会話の練習をする。（30分）
6	事前学習	第2課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第2課 ウーロン茶を飲もう ポイント： 「原因・理由」を表わす「因」
	事後学習	本文を復習して、因果関係の表現を覚える。（30分）
7	事前学習	前回の授業で習った会話文を朗読する。（30分）
	授業内容	トレーニング2の練習問題を解く。
	事後学習	第2課の本文の内容に基づく会話の練習をする。（30分）
8	事前学習	第3課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第3課 友だちをつくろう ポイント： 連動文
	事後学習	本文を復習して、連動文の構文を覚える。（30分）
9	事前学習	前回の授業で習った会話文を朗読する。（30分）
	授業内容	トレーニング3の練習問題を解く。
	事後学習	第3課の本文の内容に基づく会話の練習をする。（30分）
10	事前学習	第4課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第4課 長城に登ろう ポイント： 完了を表わす「了」と変化を表わす「了」の使い方
	事後学習	完了を表わす「了」と変化を表わす「了」の違いをまとめてみる。（30分）
11	事前学習	前回の授業で習った会話文を朗読する。（30分）
	授業内容	トレーニング4の練習問題を解く。
	事後学習	第4課の本文の内容に基づく会話の練習をする。（30分）
12	事前学習	第5課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第5課 漢字を覚えよう ポイント： 結果補語
	事後学習	結果補語の構文を復習して覚える。（30分）
13	事前学習	前回の授業で習った会話文を朗読する。（30分）
	授業内容	トレーニング5の練習問題を解く。
	事後学習	第5課の本文の内容に基づく会話の練習をする。（30分）
14	事前学習	これまでに習ったことをまとめる。（30分）
	授業内容	総合復習
	事後学習	これまでに習った語彙と表現を覚える。（30分）
15	事前学習	既習した言葉や表現をじっくり復習して覚える。（30分）
	授業内容	まとめと期末テスト
	事後学習	中国語の勉強についての感想をまとめる。（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡA	担当者	鄭 暁青	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	会話とヒヤリングを中心とする授業である。				
授業目的・到達目標	初級で習った表現を繰り返し復習しながら、語彙力と表現力を養成することを目的とする。 日常会話と簡単な文章の翻訳できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	発音記号、基礎文法を履修した者。				
授業方法	初級で習った表現を繰り返し復習しながら、語彙と表現を少しずつ増やしていく。 二人で組んで会話の練習をする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業参加度（学習の積極性）及び小テスト。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年	朝日出版		コミュニケーション中国語	斎藤敏康等
	備考				
参 考 書	中国語辞書必要 指定なし				
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。 授業時間：火曜 1・2 限、木曜 3 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の目次に目を通しておく（30分）
	授業内容	年間講義計画・成績評価の方法
	事後学習	学習計画を立てる（30分）
2	事前学習	予習 教科書を読む（30分）
	授業内容	発音の復習 1
	事後学習	発音の確認 母音と四声（30分）
3	事前学習	予習 教科書を読む（30分）
	授業内容	復習 2 子音
	事後学習	発音の確認 録音を聞く（30分）
4	事前学習	予習 本文を読む（30分）
	授業内容	第1課 私は大学生です
	事後学習	復習 録音を聞く（30分）

5	事前学習	単語の暗記（30分）
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤリング
	事後学習	文型の確認（30分）
6	事前学習	予習 本文を読む（30分）
	授業内容	第2課 私は山本恵子と言います
	事後学習	復習 録音を聞く（30分）
7	事前学習	単語の暗記（30分）
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤリング
	事後学習	文型の確認（30分）
8	事前学習	予習 本文を読む（30分）
	授業内容	第3課 桜がきれいです
	事後学習	復習 録音を聞く（30分）
9	事前学習	単語の暗記（30分）
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤリング
	事後学習	文型の確認（30分）
10	事前学習	予習 本文を読む（30分）
	授業内容	第4課 王さんが寮にいます
	事後学習	復習 録音を聞く（30分）
11	事前学習	単語の暗記（30分）
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤリング
	事後学習	文型の確認（30分）
12	事前学習	予習 本文を読む（30分）
	授業内容	第5課 四川料理を食べたことがありますか
	事後学習	復習 録音を聞く（30分）
13	事前学習	単語の暗記（30分）
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤリング
	事後学習	文型の確認（30分）
14	事前学習	予習 練習問題（30分）
	授業内容	まとめ・総合練習
	事後学習	復習 録音を聞く（30分）
15	事前学習	文型の確認（30分）
	授業内容	期末試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	まとめ（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡA	担当者	萬 清華	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	初級段階の中国語。話しかた、聴きかた、読みかた、書きかた中心として中国語会話の基礎を教える。教材には、朗読と理解とのし易くなるために、文章の切り取り（句切）、ピークストレス（標峰重音）をつけた。標準的な発音から、簡単な日常会話までの話しかた、聴きかた、読みかた、書きかたなどに必要な基礎知識を覚えやすいように一つ一つセットで丁寧に教える。（後期にはHSK漢語検定1級～3級受験、日本中国語検定準4級～3級受験は、可能。）				
授業目的・到達目標	標準的な発音から、簡単な日常会話までの話しかた、聴きかた、読みかた、書きかたなどと必要な基礎知識を教え、また、読解やヒアリング、会話の訓練、小テストを行い、総合的な中国語の言語能力の基礎を育成することを目的とする。授業には、HSK漢語検定受験指導をし（後期には、HSK漢語検定の1級～3級受験、及び日本中国語検定の準4級～3級受験は、可能）、毎年受験合格実績がある。中国語で簡単な日常会話ができるようになることを目標とする。				
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域6 特になし				
授業方法	標準的な発音と朗読や会話の基礎知識、読解や会話の訓練、小テストなどを合わせて行う。HSK漢語検定受験指導、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）』、前・後期末テスト（口頭試験、リスニング・筆記）がある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加度や小テスト、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）』成績（50%）、前後期末テスト成績（50%）によって総合評価し、HSK・中検受験加点ある。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書の使用について、授業の時に指示する。			
参考書	指定しない				
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。 授業時間：水曜2・4限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	筆記と書き取り練習用ノート（1）を用意する。シラバスに目を通しておく。（30分）
	授業内容	授業概要。第一課「紹介」①本課概要。句切と標峰重音。自己紹介。挨拶復習。標準的な中国語の発音法復習。動詞、形容詞の重ね型。能願動詞。練習問題。会話。②自己紹介。挨拶復習。標準的な中国語の発音法復習。③単語表、本文(一)を読んで、訳す。本文(一)と日本語訳を書く。④自分の名前を本文に入り替え、お互いに自己紹介する。会話練習。
	事後学習	復習。第一課本文（一）と自己紹介を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
2	事前学習	教科書の第一課本文（一）と自己紹介を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
	授業内容	第一課 ①復習問題。②本文（二）を読んで、訳す。③本文の要点をチェック。動詞、形容詞の重ね型。能願動詞。ちよっとの表現を比較。副詞用法比較。三つの「de」復習。六種類の疑問文復習。④本文について聞き取り練習。⑤本文について聞き取り練習。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。本文（二）を声出して読む。本文（二）と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
3	事前学習	第一課本文（二）を声出して読む。本文（二）と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
	授業内容	第一課 ①復習問題。②置換え会話(1) - (3)。③聞き取り練習問題1 - 2。④会話1(1) - (3)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1(1) - (3)を声出して読む。会話1(1) - (3)と日本語訳を書く。会話文の要点と発音の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第一課』。（30分）

4	事前学習	第一課会話1(1) - (3)を声出して読む。会話文の要点と発音の要点をチェック。(30分)
	授業内容	第一課 ①復習問題。②置換え会話(4) - (6)。③聞き取り練習問題3。作文練習問題4。④会話2(4) - (6)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話2(4) - (6)を声出して読む。会話2(4) - (6)と日本語訳を書く。会話文の要点と発音の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第一課』。(30分)
5	事前学習	第一課会話2(4) - (6)を声出して読む。会話文の要点と発音の要点をチェック。第一課の要点と発音の要点をチェック。第二課の単語表を声出して読む。第二課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第一課』完成し、成績表のコピーを提出する。(30分)
	授業内容	第一課復習問題。第二課「吃飯」①第二課概要。日常生活と挨拶。動詞のアスペクト。語気助詞用法比較。単文と複文。接続詞。文の種類復習。連動文復習。補語復習。聞き取り練習。会話練習。②単語表、本文を読んで訳す。③本文の要点をチェック。日常生活と挨拶。接続詞。語気助詞用法比較。文の種類。連動文、補語復習。
	事後学習	復習。第二課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要点をチェック。(30分)
6	事前学習	第二課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。(30分)
	授業内容	第二課 ①復習問題。②動詞のアスペクト。単文と複文。③本文を読む。④本文について聞き取り練習。⑤本文について会話練習。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。第二課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第二課』。(30分)
7	事前学習	第二課本文(二)を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。(30分)
	授業内容	第二課 ①復習問題。②置換え会話(1) - (3)。③聞き取り練習問題1 - 2。④会話1(1) - (3)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1(1) - (3)を声出して読む。会話1(1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第二課』。(30分)
8	事前学習	第二課会話1(1) - (3)を声出して読む。会話文の要点と発音の要点をチェック。(30分)
	授業内容	第二課 ①復習問題。②置換え会話(4) - (6)。③聞き取り練習問題3。作文練習問題4。④会話2(4) - (6)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話2(4) - (6)を声出して読む。会話2(4) - (6)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第二課』。(30分)
9	事前学習	第二課会話2(4) - (6)を声出して読む。会話文の要点と発音の要点をチェック。第三課の単語表を声出して読む。第三課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第二課』完成し、成績表のコピーを提出する。(30分)
	授業内容	第二課復習問題。第三課「朋友」①第三課概要。比較文の種類。四種類の比較方式。聞き取り練習。会話練習。②単語表、本文を読んで訳す。比較文の種類。③本文の要点をチェック。
	事後学習	復習。第三課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要点をチェック。(30分)
10	事前学習	第三課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。(30分)
	授業内容	第三課 ①復習問題。②四種類の比較方式。③本文を読む。④本文について聞き取り練習。⑤本文について会話練習。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。第三課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第三課』。(30分)
11	事前学習	第三課本文(二)を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。(30分)
	授業内容	第三課 ①復習問題。②置換え会話(1) - (3)。③聞き取り練習問題1 - 2。④会話1(1) - (3)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1(1) - (3)を声出して読む。会話1(1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第三課』。(30分)
12	事前学習	第三課会話1(1) - (3)を声出して読む。会話文の要点と発音の要点をチェック。(30分)
	授業内容	第三課①復習問題。②置換え会話(4) - (6)。③聞き取り練習問題3。作文練習問題4。④会話2(4) - (6)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話2(4) - (6)を声出して読む。会話2(4) - (6)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第三課』。(30分)
13	事前学習	第三課会話2(4) - (6)を声出して読む。会話文の要点と発音の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第三課』完成し、成績表のコピーを提出する。(30分)
	授業内容	第三課①復習問題。②第一課～第三課復習。③中国語作文。④宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集(Ⅱ)第三課』成績表を提出する。
	事後学習	第一課～第三課復習。(30分)
14	事前学習	第一課～第三課復習。(30分)
	授業内容	(授業内)テスト(リスニング、筆記)及びまとめ、振り返り。
	事後学習	中国語作文を声出して読む。(30分)

15	事前学習	中国語作文を声出して読む。（30分）
	授業内容	中国語作文口頭発表会（口頭試験）及びまとめ、振返り。
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと。（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡA	担当者	劉 力	部 別	第一部	期 間	前期	単 位 数	1
-----	-------------------	-----	-----	-----	-----	-----	----	-------	---

授業概要	発音に始まり、基本的の語彙、文型を理解し、聞いてわかり、話せるようになるための練習を行う。					
授業目的・到達目標	中国語の基礎発音のマスター、教科書の内容をマスターし、応用力を養成することを目的とする。 発音に始まり、基本的の語彙、文型を理解し、聞いてわかり、話せるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	初心者（スピーキング・リスニング（中）ⅡAとⅡBを同時に履修してはいけません） 携帯で教科書の音声ファイルを聞くことができるので、毎回携帯とイヤホンを用意してください。					
授業方法	指定する教科書の内容に沿って進める。出欠は毎回確認する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		授業参加度と 2 回の試験平均点で評価を下す。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019年	株式会社天々		耳から学ぶ中国語		矢野光治・徐前・植松希久磨
	備考					
参 考 書	なし					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。 授業時間：月曜 3・4・5 限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読むこと（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	教科書を用意すること（30分）
2	事前学習	発音の予習（30分）
	授業内容	発音：音節のしく・声調・声調の変化・母音・子音・アル化音み
	事後学習	発音の復習（30分）
3	事前学習	第1課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第1課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第1課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
4	事前学習	第1課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第1課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第1課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）

5	事前学習	第2課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第2課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第2課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
6	事前学習	第2課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第2課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第2課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
7	事前学習	第3課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第3課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第3課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
8	事前学習	第3課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第3課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第3課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
9	事前学習	第1課～第3課まで指定箇所の意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
	授業内容	第1回目試験及びまとめ、振返り 範囲：第一課～第三課の新出単語と本文
	事後学習	第1課～第3課の内容を復習すること（30分）
10	事前学習	第4課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第4課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第4課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
11	事前学習	第4課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第4課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第4課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
12	事前学習	第5課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第5課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第5課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
13	事前学習	第5課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第5課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第5課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
14	事前学習	第6課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第6課の新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第6課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
15	事前学習	第4課～第6課の指定箇所の意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
	授業内容	第2回目試験及びまとめ、振返り 範囲：第4課～第6課の新出単語と本文
	事後学習	第1課～第6課の内容を復習すること（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡB	担当者	于 晓飛	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	中国語を一年間学習した学生を対象とします。 この講義では、中国語発音の基礎を習得し、簡単な日常会話ができる能力をつける。 教科書の内容に基づき、同じ題材で応用会話を作成し、実際に会話を実演する。 それを通して、発音をチェックし、中国語の基本表現を身につける。			
授業目的・到達目標	講義の主な目的は、中国語の正しい発声の習得である。授業中では、学生一人一人の発音を丁寧に矯正する。これにより、中国語発音の基礎を身に付け、訛りのない中国語の発声ができることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	初めて中国語を学習する学生。			
授業方法	中国語を発音させ、正しい発音に矯正する。例文を繰り返し発音し、置き換え練習を通して、正しい中国語発音を習得する。予習復習では、CDの発音を繰り返しまねすることが重要である。 筆記小テストは適宜返却する。会話小テストは毎回その場で講評を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験	0%		
	平 常 評 価	100%	授業参加度と毎回授業の実績 30% 期末筆記試験70%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年5月	飛鳥文化出版	半声が導入された「中国語耳留学」基礎編CD付き（2枚）	陳洲挙、于曉飛、劉渴水
	備考	授業中に指示します。		
参 考 書	日中・中国辞書			
オフィス アワー	火曜昼休み 授業終了後の講堂にて メールによる質問受付 xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階、1615室へ迎光			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業の全体を把握する。（30分） 自己紹介の準備
	授業内容	自己紹介をする 授業の進み方と注意事項を説明
	事後学習	CDを聞き、中国語の発音を復習（30分）
2	事前学習	教科書の第1課～第10課まで単語、会話文を復習、練習すること。（30分）
	授業内容	第1課～第10課までの会話について全般復習、練習
	事後学習	CDを聞き、会話文を暗記し、簡単な会話ができるように練習すること。（30分）
3	事前学習	CDを聞く、第11課の単語を暗記する；本文の会話を練習する。（30分）
	授業内容	第11課の会話文を解釈する ポイント：評価についての表現
	事後学習	CDを聞き、会話文を暗記する。置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。（30分）
4	事前学習	第12課の単語を暗記する；前課の会話文を暗記し、授業中に会話小テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	挨拶言葉と自己紹介を通して発音のチェックをする。 会話小テスト 第12課会話文を解釈 ポイント：買い物するときの表現
	事後学習	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。（30分）

5	事前学習	第13課の単語を暗記する；CDについて本文の会話を練習する。（30分）
	授業内容	筆記小テスト 第13課会話文の解釈 ポイント：動態助詞；行われた動作の時間、場所、方式、行為者等を言うときの表現：是・・・的
	事後学習	CDを聞き、会話文を暗記する；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使い、会話を練習する。（30分）
6	事前学習	第14課の単語を暗記する；前課の会話文を暗記し、授業中に会話小テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第14課会話文の解釈 好みについての表現：～をするのが好きである；～することを好む
	事後学習	会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 復習と練習をすること。（30分）
7	事前学習	第15課の単語を暗記すると会話文を練習すること；14課の内容について会話小テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第15課会話文の解釈 ポイント：～したことがある表現と時間補語
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
8	事前学習	CDを聞き、第16課の単語を暗記する；会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での筆記小テスト準備。（30分）
	授業内容	筆記テスト 第16課の会話文を解釈 ポイント：比較表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
9	事前学習	第17課の単語を暗記すると会話文を練習すること；16課の内容について会話小テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第17課の会話文を解釈 ポイント：動作の進行中と持続表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
10	事前学習	CDを聞き、第18課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第18課会話文について解釈 ポイント：可能を表す表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
11	事前学習	CDを聞き、第19課の単語と会話文を発音練習；また前課の会話文を暗記し授業での筆記小テストの準備。（30分）
	授業内容	筆記小テスト 第19課の会話文を解釈 ポイント：方位、位置、場所を示し単純方位詞に後置して用いられる表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
12	事前学習	第20課の単語と会話文を発音練習すること；また前課の会話文を暗記し授業での会話小テスト発表の準備：自家の回りについて中国語で説明。（30分）
	授業内容	会話小テスト 第20課会話文を解釈 ポイント：能力についての表現
	事後学習	単語と会話文を暗記すること；暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。 置き換え練習の単語を使って会話すること。（30分）
13	事前学習	勉強した表現を使って、自己紹介文を作り、期末発表テストの準備を行う。（30分）
	授業内容	会話小テスト 期末テスト 口頭発表 講評
	事後学習	第11課～20課までの重要表現を暗記し、暗記した会話文を紙に漢字とピンインの両方書きとる。（30分）
14	事前学習	テスト範囲で復習（30分）
	授業内容	これまでの復習 筆記テスト
	事後学習	全般復習（30分）
15	事前学習	ネットで中国について調べる。（30分）
	授業内容	中国の映画を鑑賞
	事後学習	感想文を書く（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡB	担当者	徐 前	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-----	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	一年目に習った初級中国語を復習しながら、新しい語彙や表現を徐々に増やし、聞いて会話するトレーニングを行う。					
授業目的・到達目標	日常会話を聞いて理解し、それを応用することができる力の養成を目的とする。 1年目に習った初級中国語を復習しながら、新しい語彙や表現を徐々に増やし、簡単な日常会話と作文ができることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	中国語の基礎を修めた2年次生を対象とする					
授業方法	テキストに沿って、ヒアリングと会話に慣れるトレーニングを中心に授業を進めていく。フィードバックは授業内において行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		平常点（受講態度・小テスト）40% 後期期末テスト(満点 100点 合格点 60点) 60%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017年12月 第13刷発行	白水社		新版 中国語さらなる一歩		尹景春他
	備考					
参考書	中日・日中辞典（版本・出版社の指定なし）					
オフィスアワー	授業後に質問を受け付ける。 授業時間：木曜3・4限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	第6課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第6課 街を歩こう ポイント： 存現文
	事後学習	存現文の構文を復習して覚える。（30分）
2	事前学習	前回の授業で習った会話文を朗読する。（30分）
	授業内容	トレーニング6の練習問題を解く。
	事後学習	第6課の本文の内容に基づく会話の練習をする。（30分）
3	事前学習	第7課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第7課 中国映画を見よう ポイント： 状態持続の表現
	事後学習	持続状態の表現を用いて作文する。（30分）
4	事前学習	前回の授業で習った会話文を朗読する。（30分）
	授業内容	トレーニング7の練習問題を解く。
	事後学習	第7課の本文の内容に基づく会話の練習をする。（30分）

5	事前学習	第8課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第8課 シルクを買おう ポイント： 方向補語
	事後学習	方向補語の構文を復習して覚える。（30分）
6	事前学習	前回の授業で習った会話を朗読する。（30分）
	授業内容	トレーニング8の練習問題を解く。
	事後学習	第8課の本文の内容に基づく会話の練習をする。（30分）
7	事前学習	第9課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第9課 中華を食べよう ポイント： 可能補語
	事後学習	可能補語の構文を復習して覚える。（30分）
8	事前学習	前回の授業で習った会話を朗読する。（30分）
	授業内容	トレーニング1の練習問題を解く。
	事後学習	第9課の本文の内容に基づく会話の練習をする。（30分）
9	事前学習	第10課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第10課 太極拳を習おう ポイント： 「了」などの表現
	事後学習	「了」を用いて作文する。（30分）
10	事前学習	前回の授業で習った会話を朗読する。（30分）
	授業内容	トレーニング10の練習問題を解く。
	事後学習	第10課の本文の内容に基づく会話の練習をする。（30分）
11	事前学習	第11課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第11課 「水」を楽しもう ポイント： 結果補語 2
	事後学習	結果補語の構文を復習して覚える。（30分）
12	事前学習	前回の授業で習った会話を朗読する。（30分）
	授業内容	トレーニング11の練習問題を解く。
	事後学習	第11課の本文の内容に基づく会話の練習をする。（30分）
13	事前学習	第12課の単語を予習する。（30分）
	授業内容	第12課 春節を過ごそう ポイント： 前置詞「把」の使い方
	事後学習	中国の春節について調べる（30分）
14	事前学習	前回の授業で習った会話を朗読する。（30分）
	授業内容	トレーニング12の練習問題を解く。
	事後学習	第12課の本文の内容に基づく会話の練習をする。（30分）
15	事前学習	既習した言葉や表現をじっくり復習して覚える。（30分）
	授業内容	まとめと期末テスト
	事後学習	中国語の勉強についての感想をまとめる。（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡB	担当者	鄭 暁青	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	会話とヒヤリングを中心とする授業である。				
授業目的・到達目標	初級で習った表現を繰り返し復習しながら、語彙力と表現力を養成することを目的とする。 日常会話と簡単な文章の翻訳できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	発音記号、基礎文法を履修した者。				
授業方法	初級で習った表現を繰り返し復習しながら、語彙と表現を少しずつ増やしていく。 二人で組んで会話の練習をする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業参加度（学習の積極性）及び小テスト。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年	朝日出版		コミュニケーション中国語	斎藤敏康
	備考				
参 考 書	中国語辞書必要 指定なし				
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。 授業時間：火曜 1・2 限、木曜 3 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	予習 本文を読む（30分）
	授業内容	第6課 中国語を勉強したい
	事後学習	復習 録音を聞く（30分）
2	事前学習	単語の暗記（30分）
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤリング
	事後学習	文型の確認（30分）
3	事前学習	予習 本文を読む（30分）
	授業内容	第7課 私は水泳ができます
	事後学習	復習 録音を聞く（30分）
4	事前学習	単語の暗記（30分）
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤリング
	事後学習	文型の確認（30分）

5	事前学習	予習 本文を読む (30分)
	授業内容	第8課 宿題をやっています
	事後学習	復習 録音を聞く (30分)
6	事前学習	単語の暗記 (30分)
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤリング
	事後学習	文型の確認 (30分)
7	事前学習	予習 本文を読む (30分)
	授業内容	第9課 辞書を持ってきましたか
	事後学習	復習 録音を聞く (30分)
8	事前学習	単語の暗記 (30分)
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤリング
	事後学習	文型の確認 (30分)
9	事前学習	予習 本文を読む (30分)
	授業内容	第10課 自転車が妹に乗って行かれた
	事後学習	復習 録音を聞く (30分)
10	事前学習	単語の暗記 (30分)
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤリング
	事後学習	文型の確認 (30分)
11	事前学習	予習 本文を読む (30分)
	授業内容	第11課 あなたは私より三つ年下
	事後学習	復習 録音を聞く (30分)
12	事前学習	単語の暗記 (30分)
	授業内容	トレーニング 会話とヒヤリング
	事後学習	文型の確認 (30分)
13	事前学習	予習 本文を読む (30分)
	授業内容	第12課 家で勉強するように言われた
	事後学習	復習 練習問題解く (30分)
14	事前学習	予習 短文の翻訳 (30分)
	授業内容	まとめ・総合練習
	事後学習	文型の確認 (30分)
15	事前学習	復習 練習問題解く (30分)
	授業内容	学年末試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	まとめ (30分)

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡB	担当者	萬 清華	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	初級段階の中国語。話しかた、聴きかた、読みかた、書きかた中心として中国語会話の基礎を教える。教材には、朗読と理解とのし易くなるために、文章の切り取り（句切）、ピークストレス（標峰重音）をつけた。標準的な発音から、簡単な日常会話までの話しかた、聴きかた、読みかた、書きかたなどに必要な基礎知識を覚えやすいように一つ一つセットで丁寧に教える。（後期にはHSK漢語検定1級～3級受験、日本中国語検定準4級～3級受験は、可能。）				
授業目的・到達目標	標準的な発音から、簡単な日常会話までの話しかた、聴きかた、読みかた、書きかたなどと必要な基礎知識を教え、また、読解やヒアリング、会話の訓練、小テストを行い、総合的な中国語の言語能力の基礎を育成することを目的とする。授業には、HSK漢語検定受験指導をし（後期には、HSK漢語検定の1級～3級受験、及び日本中国語検定の準4級～3級受験は、可能）、毎年受験合格実績がある。中国語で簡単な日常会話ができるようになることを目標とする。				
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域6 特になし				
授業方法	標準的な発音と朗読や会話の基礎知識、読解や会話の訓練、小テストなどを合わせて行う。HSK漢語検定受験指導、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）』、前・後期末テスト（口頭試験、リスニング・筆記）がある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加度や小テスト、宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）』成績（50％）、前後期末テスト成績（50％）によって総合評価し、HSK・中検受験加点ある。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書の使用について、授業の時に指示する。			
参考書	指定しない				
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。 授業時間：水曜2・4限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期第一課～第三課復習。第四課の単語表を声出して読む。第四課の単語表と日本語訳を書く。（30分）
	授業内容	前期復習問題。第四課「聊天」①第四課概要。常用介詞と副詞。聞き取り練習。会話練習。②単語表、本文を読んで訳す。常用介詞。③本文の要点をチェック。
	事後学習	復習。第四課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
2	事前学習	第四課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
	授業内容	第四課 ①復習問題。②常用副詞。③本文を読む。④本文について聞き取り練習。⑤本文について会話練習。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。第四課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』。（30分）
3	事前学習	第四課本文（二）を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
	授業内容	第四課 ①復習問題。②置換え会話(1) - (3)。③聞き取り練習問題1 - 2。④会話1(1) - (3)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1(1) - (3)を声出して読む。会話1(1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』。（30分）
4	事前学習	第四課会話1(1) - (3)を声出して読む。会話文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
	授業内容	第四課復習問題。②置換え会話(4) - (6)。③聞き取り練習問題3。作文練習問題4。④会話2(4) - (6)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話2(4) - (6)を声出して読む。会話2(4) - (6)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』。（30分）

5	事前学習	第四課会話2(4) - (6)を声出して読む。第五課の単語表を声出して読む。第五課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第四課』完成し、成績表のコピーを提出する。（30分）
	授業内容	第四課復習問題。第五課「客人」①第五課概要。数種類の特殊動詞述語文。聞き取り練習。会話練習。②単語表、本文を読んで訳す。特殊動詞述語文1 - 3。③本文の要点をチェック。
	事後学習	復習。第五課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
6	事前学習	第五課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
	授業内容	第五課 ①復習問題。②特殊動詞述語文4 - 5。③本文を読む。④本文について聞き取り練習。⑤本文について会話練習。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。第五課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第五課』。（30分）
7	事前学習	第五課本文（二）を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
	授業内容	第五課 ①復習問題。②置換え会話(1) - (3)。③聞き取り練習問題1 - 2。④会話1(1) - (3)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1(1) - (3)を声出して読む。会話1(1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第五課』。（30分）
8	事前学習	第五課 会話1(1) - (3)を声出して読む。会話文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
	授業内容	第五課 ①復習問題。②置換え会話(4) - (6)。③聞き取り練習問題3。作文練習問題4。④会話2(4) - (6)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話2(4) - (6)を声出して読む。会話2(4) - (6)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第五課』。（30分）
9	事前学習	第五課会話2(4) - (6)を声出して読む。第六課の単語表を声出して読む。第六課の単語表と日本語訳を書く。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第五課』完成し、成績表のコピーを提出する。（30分）
	授業内容	第五課復習問題。第六課「旅行」①第六課概要。常用複文。聞き取り練習。会話練習。②単語表、本文を読んで訳す。常用複文1 - 6。③本文の要点をチェック。
	事後学習	復習。第六課本文を声出して読む。本文と日本語訳を書く。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
10	事前学習	第六課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
	授業内容	第六課 ①復習問題。②常用複文7 - 13。③本文を読む。④本文について聞き取り練習。⑤本文について会話練習。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。第六課本文を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第六課』。（30分）
11	事前学習	第六課本文（二）を声出して読む。本文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
	授業内容	第六課 ①復習問題。②置換え会話(1) - (3)。③聞き取り練習問題1 - 2。④会話1(1) - (3)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。置換え会話(1) - (3)を声出して読む。置換え会話(1) - (3)と交替用単語と日本語訳を書く。会話1(1) - (3)を声出して読む。会話1(1) - (3)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第六課』。（30分）
12	事前学習	第六課 会話1(1) - (3)を声出して読む。会話文の要点と発音の要点をチェック。（30分）
	授業内容	第六課 ①復習問題。②置換え会話(4) - (6)。③聞き取り練習問題3。作文練習問題4。④会話2(4) - (6)。聞き取り・書き取りテスト。
	事後学習	復習。置換え会話(4) - (6)を声出して読む。置換え会話(4) - (6)と交替用単語と日本語訳を書く。会話2(4) - (6)を声出して読む。会話2(4) - (6)と日本語訳を書く。要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第六課』。（30分）
13	事前学習	第六課会話2(4) - (6)を声出して読む。会話文の要点と発音の要点をチェック。宿題『CD/DVD-ROM中国語練習問題集（Ⅱ）第六課』完成し、成績表のコピーを提出する。（30分）
	授業内容	第六課①復習問題。②第四課～第六課復習。③中国語作文。
	事後学習	第四課～第六課復習。（30分）
14	事前学習	第四課～第六課復習。（30分）
	授業内容	(授業内) テスト（リスニング、筆記）及びまとめ、振り返り。
	事後学習	中国語作文を声出して読む。（30分）
15	事前学習	中国語作文を声出して読む。（30分）
	授業内容	中国語作文発表会（口頭試験）及びまとめ、振り返り。
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと。（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅡB	担当者	劉 力	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-----	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	第7課から始まり、基本的の語彙、文型を理解し、聞いてわかり、話せるようになるための練習を行う。					
授業目的・到達目標	中国語の基礎発音のマスター、教科書の内容をマスターし、応用力を養成することを目的とする。 発音に始まり、基本的の語彙、文型を理解し、聞いてわかり、話せるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6					
履修条件	初心者（スピーキング・リスニング（中）ⅡAとⅡBを同時に履修してはいけません） 携帯で教科書の音声ファイルを聞くことができるので、毎回携帯とイヤホンを用意してください。					
授業方法	指定する教科書の内容に沿って進める。出欠は毎回確認する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		授業参加度と 2 回の試験平均点で評価を下す。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019年	株式会社天々		耳から学ぶ中国語		矢野光治・徐前・植松希久磨
	備考					
参 考 書	なし					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。 授業時間：月曜 3・4・5 限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	音声ファイルを使って第1課～第3課までの発音の復習（30分）
	授業内容	第1課～第3課までのみなさんの発音を確認する
	事後学習	第1課～第3課本文などの漢字・ピンインの復習（30分）
2	事前学習	音声ファイルを使って第4課～第5課までの発音の復習（30分）
	授業内容	第1課～第3課までのみなさんの発音を確認する
	事後学習	第1課～第3課本文などの漢字・ピンインの復習（30分）
3	事前学習	第7課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第7課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第7課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
4	事前学習	第7課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第7課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第7課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）

5	事前学習	第8課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第8課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第8課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
6	事前学習	第8課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第8課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第8課本文とポイントの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
7	事前学習	第9課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第9課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第9課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
8	事前学習	第9課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第9課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第9課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
9	事前学習	第7課～第9課まで指定箇所の意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
	授業内容	第一回目試験及びまとめ、振返り 範囲：第7課～第9課の新出単語と本文
	事後学習	第7課～第9課の内容を復習すること（30分）
10	事前学習	第10課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第10課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第10課の新出単語・本文・関連語句の漢字とピンインを見なくても書けるように練習すること（30分）
11	事前学習	第10課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第10課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第10課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
12	事前学習	第11課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第11課 新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第11課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
13	事前学習	第11課の練習問題の予習（30分）
	授業内容	第11課の練習問題の答え合わせ
	事後学習	第11課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
14	事前学習	第12課の音声ファイルを聞いて新出単語・本文・関連語句の発音練習をすること（30分）
	授業内容	第12課の新出単語・本文・関連語句・ポイントの例文のみなさんの発音を確認する
	事後学習	第12課の本文などの意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
15	事前学習	第10課～第12課の指定箇所の意味・漢字・ピンインを覚える（30分）
	授業内容	第二回目試験及びまとめ、振返り 範囲：第10課～第12課の新出単語と本文
	事後学習	第7課～第12課の内容を復習すること（30分）

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅢA	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この講座では、中国語によるコミュニケーションに必要な能力を修得する。会話では、互いの文化を理解できることが重要である。 この講座では、会話の実例をもとに日本文化と中国文化の相違を学習し、ヒヤリング能力、中国語の正しい発音での表現能力、中国語文章作成能力、会話における表現能力を修得する。			
授業目的・到達目標	中国語会話を通し、中国文化を理解し、自分を理解してもらうことが目的です。 中国文化習慣を理解するため課文の会話を暗記し、会話中の役になりきって会話を実演できる能力を修得させること目的である。このため、中国語発音矯正、発表作文文章修正、会話練習に重点をおく。 異文化への理解を深め、中国人と上手くコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域 6 中国語を一年以上履修した学生を対象とします。また、初級相当以上の学力を持つ学生も受け入れます。 この条件は、講義では、PCを利用しているため、中国語ピンインで読み書きできる能力が必要であるからです。			
授業方法	毎課のポイントを解説し、学生達に例文を暗記させ、応用練習もできる。本文の内容を理解して、粗筋を暗記させ、人に話せるようになる。その上本文に基づいて作文させ、日中文化の相違点についてコミュニケーションさせる。 提出された作文は返却する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験	0%		
	平 常 評 価	100%	授業中の会話及び作文による採点する 3 0 %。期末テスト 7 0 %。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年1月15日	朝日出版社	ことばと文化「一挙両得中級中国語」	陳淑梅、陸薇
	備考			
参 考 書	日中、中日辞書。			
オフィスアワー	水曜日昼休み 授業終了後の講堂にて質問受付 メールによる質問受付： xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階1 6 1 5 室へ 迎光			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体を把握する；簡単な中国語で自己紹介の準備（30分）
	授業内容	ガイダンス 講義の進め方と教材の説明；発音チェック：自己紹介と挨拶
	事後学習	ガイダンスのおさらい。この授業は、目的と目標を達するため、週三時間以上かけて、復習と練習をすることが必要。 (30分)
2	事前学習	第1課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。（30分）
	授業内容	ポイントについて説明：動詞+在；不～是・・・都； 除了・・・以外・・・ 本文を解釈と朗読練習
	事後学習	文型/朗読/質疑応答/リスニングなど。 ドリルと小テストも問題解いてくる；本文の粗筋をまとめ暗唱し、暗記した文章を紙に書きとる；ポイントの文型に基づき、文を作る。（30分）
3	事前学習	第1課内容の粗筋を暗唱できること。；本文1を参考に本文2について回答できる；ドリルの問題を解答。（30分）
	授業内容	①日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること ②本文2の質問について応答 ③ドリルの問題を解明する ④ 会話練習
	事後学習	本文の粗筋をまとめ暗唱する。暗記した文章を紙に書きとる。ポイントの文型に基づき、文を作る。（30分）
4	事前学習	第2課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。（30分）
	授業内容	第2課のポイントの説明：比較表見；因果関係を表す複文；アスペクス助詞“了” 本文の解釈と朗読練習
	事後学習	本文の朗読と粗筋を暗唱すること； 本文2の質問について応答；ドリルの問題を解明する。（30分）

5	事前学習	本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文 2 の質問に回答でき、ドリル問題を解答。（30分）
	授業内容	事前学習の内容について、練習と説明
	事後学習	文章を音読し暗唱する；暗記した文章を紙に書きとる；暗唱した内容を中国語できる友人たちと会話してみる。（30分）
6	事前学習	第3課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文 1 を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文 1 を日本語に翻訳してみる。（30分）
	授業内容	ポイント：累加関係を表す複文❶不但～，而且～❷；単純方向補語及び複合方向補語；文末に置く❸了❹は事態の変化や新事態の発生を表す表現。
	事後学習	本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文 2 の質問に回答でき、ドリル問題を解答。暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。（30分）
7	事前学習	本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文 2 の質問に回答でき、ドリル問題を解答。（30分）
	授業内容	第 3 課の内容について、全般できに応用練習；日中国文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文 2 の質問に答える；ドリルのチェック。
	事後学習	文章を音読し暗唱する、暗記した文章を紙に書きとる。本文の内容について中国語のできる友人たちと会話してみる。（30分）
8	事前学習	第4課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文 1 を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文 1 を日本語に翻訳してみる。（30分）
	授業内容	ポイント：同類の物事の中からある一つを取り出して説明を加える表現；事実と合わない判断を述べること；前置詞。
	事後学習	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文 2 の質問に回答でき、ドリル問題を解答。（30分）
9	事前学習	ポイントの表現に基づき、文を作り暗記する。本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文 2 の質問に回答でき、ドリル問題を解答。（30分）
	授業内容	第 4 課の内容について、一般的に応用練習；日中国文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文 2 の質問に答える；ドリルのチェック。
	事後学習	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。（30分）
10	事前学習	第 5 課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文 1 を日本語に訳してみる。（30分）
	授業内容	ポイント：～を主とする；接続詞：意味を更に一つ付加加える表現：程度が時間の推移とともに高まることを表す表現。
	事後学習	本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語のできる友人たちと会話してみる。（30分）
11	事前学習	本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文 2 の質問に回答でき、ドリル問題を解答。（30分）
	授業内容	第 5 課の内容について、一般的に応用練習；日中国文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文 2 の質問に答える；ドリルのチェック。
	事後学習	本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。日中国文化について作文：テーマ自由（200字）（60分）
12	事前学習	第 6 課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文 1 を日本語に訳してみる。（30分）
	授業内容	ポイントの説明：～までも、～さえも・・である表現；目的語を動詞の前に置いて、目的語に対する処置を強調する表現；アスペクス❶着る❷；本文の解釈；作文を提出
	事後学習	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。（30分）
13	事前学習	第 7 課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文 1 を日本語に訳してみる。（30分）
	授業内容	ポイントについて説明：全半の部分を否定して、後半の部分を強調する構文；比較表現；二つの動作を同時に行う構文：～しながら・・する；本文の解釈と朗読訓練
	事後学習	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。（30分）
14	事前学習	全面復習；テスト範囲：1 課～7 課までのポイントの例文 2 小テストの問題 3， 4
	授業内容	これまでの復習 期末テスト（筆記）
	事後学習	今まで勉強したことを復習練習すること。（30分）
15	事前学習	中国社会と中国人の生活について、ネットで調べる。（30分）
	授業内容	中国人の生活に反映されている映画を鑑賞
	事後学習	感想文を書く。夏休み宿題：暑假里的一件事（60分）

科目名	スピーキング・リスニング(中)ⅢB	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この講座では、中国語によるコミュニケーションに必要な能力を修得する。会話では、互いの文化を理解できることが重要である。 この講座では、会話の実例をもとに日本文化と中国文化の相違を学習し、ヒヤリング能力、中国語の正しい発音での表現能力、中国語文章作成能力、会話における表現能力を修得する。。			
授業目的・到達目標	中国語会話を通し、中国文化を理解し、自分を理解してもらうことが目的です。 中国文化習慣を理解するため課文の会話を暗記し、会話中の役になりきって会話を実演できる能力を修得させること目的である。このため、中国語発音矯正、発表作文文章修正、会話練習に重点をおく。 異文化への理解を深め、中国人と上手くコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域 6 中国語を一年以上履修した学生を対象とします。また、初級相当以上の学力を持つ学生も受け入れます。 この条件は、講義では、PCを利用しているため、中国語ピンインで読み書きできる能力が必要であるからです。			
授業方法	毎課のポイントを解説し、学生達に例文を暗記させ、応用練習もできる。本文の内容を理解して、粗筋を暗記させ、人に話せるようになる。その上本文に基づいて作文させ、日中文化の相違点についてコミュニケーションさせる。 提出された作文は返却する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験	0%		
	平 常 評 価	100%	授業中の会話及び作文による採点する３０％。期末テスト７０％。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年1月25日	朝日出版社	ことばと文化「一挙両得中級中国語」	陳淑梅・陸なつや 薇
	備考	前期と同じ、参加した学生のレベルにより、授業中に指示します。		
参 考 書	日中、中日辞書。			
オフィス アワー	水曜昼休み 授業終了後の講堂にて質問受け メールによる質問受け 研究室：本館1615室へ、迎光			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	夏休みの作文を完成、発表の準備する。（60分）
	授業内容	夏休み宿題の口頭発表 講評
	事後学習	修正した作文を暗記し、中国語出来る友人に話してみる。（30分）
2	事前学習	第8課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。（30分）
	授業内容	第8課のポイントについて説明と実際に応用： 断定の口調を強める表現：是・・・的 ；～もとで：在・・・下 ；ただ～にすぎない：只不 本文の解釈と朗読練習。
	事後学習	第8課の本文を熟讀し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；ドリルの問題と小テストを解答；日中文化の相違点について友人たちと会話してみること。（30分）
3	事前学習	第8課内容の粗筋を暗記して、授業での発表の準備を行う；本文2の質問について応答。 本文に関連した題材で中国語作文を行う。自作した作文を提出する準備。（30分）
	授業内容	第8課の内容について話す；ドリルのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答 ③ドリルと小テストの問題を解明する。
	事後学習	本文を熟讀し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。（30分）
4	事前学習	第9課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。（30分）
	授業内容	ポイントを説明： ～であり、～でもある：是～也是・・・；受け身文：被 ；可能性を推測、判断することを表す：会
	事後学習	第9課の本文を熟讀し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；ドリルの問題と小テストを解答；修正した自作文を暗記して友人たちと話してみること。（30分）

5	事前学習	第9課内容の粗筋を暗記して、授業で発表するの準備を行う；本文2の質問について応答；小テストを完成。（30分）
	授業内容	第9課の本文の熟読；粗筋について話しすること；本文2の質問について応答；ドリル小テストのチェック；会話練習と朗読の訓練。
	事後学習	全般的に復習、勉強した知識をすべて自分のものになることは重要である。 作文：テーマ自由（200字） （60分）
6	事前学習	第10課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。作文を提出準備（30分）
	授業内容	ポイントについて解説： ①～ほど・・・ではない；不像～那・・・；条件関係を表す複文：即使～也・・・；可能補語；本文の解釈と朗読
	事後学習	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。（30分）
7	事前学習	第10課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。（30分）
	授業内容	第10課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答；作文の問題点について説明。
	事後学習	修正した自作文を暗記して友人たちと話してみること。（30分）
8	事前学習	第11課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。（30分）
	授業内容	①ポイントについて説明： まるで～ようだ；好像～似的；ある条件が満たされさえすれば、結果は容易に実現すること；只要～就・・・； 逆接関係を表す。②本文の解説。
	事後学習	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。 （30分）
9	事前学習	第11課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。（30分）
	授業内容	第11課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。
	事後学習	第11課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。 （30分）
10	事前学習	第12課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。（30分）
	授業内容	ポイントについて説明： まず～して、それから・・・する；動詞+回数；～ごとに・・・、～たびに・・・ 本文の解釈と朗読練習
	事後学習	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。 （30分）
11	事前学習	第12課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。
	授業内容	第12課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。
	事後学習	第12課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。 （30分）
12	事前学習	第13課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。（30分）
	授業内容	ポイントについて説明： 聞くところによると、～そうだ；～するとすぐに・・・する、～するや否や・・・する；条件関係を表す。 本文を解釈と朗読
	事後学習	本文を熟読し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。 （30分）
13	事前学習	第13課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。（30分）
	授業内容	第13課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。
	事後学習	第13課の本文を熟読し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。 （30分）
14	事前学習	第13課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟読；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。（30分）
	授業内容	ポイントについて説明： 連動文 ～するのがある/いる；～にとっては；程度が高まることを表す；更 本文の解釈と朗読練習；
	事後学習	期末テスト範囲の復習をする；ポイントの例文と小テスト3、4の問題（30分）
15	事前学習	テスト範囲の復習をする（30分）
	授業内容	これまでの復習 期末テスト（筆記）
	事後学習	全ての知識を身に付け、読める、書ける、話せること！（60分）

科目名	リーディング・ライティング(中)ⅡA	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
-----	--------------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この講座では、中国語によるコミュニケーションに必要な能力を修得する。会話では、互いの文化を理解できることが重要である。 この講座では、会話の実例をもとに日本文化と中国文化の相違を学習し、ヒヤリング能力、中国語の正しい発音での表現能力、中国語文章作成能力、会話における表現能力を修得する。			
授業目的・到達目標	中国語会話を通し、中国文化を理解し、自分を理解してもらうことが目的です。 中国文化習慣を理解するため課文の会話を暗記し、会話中の役になりきって会話を実演できる能力を修得させること目的である。このため、中国語発音矯正、発表作文文章修正、会話練習に重点をおく。 異文化への理解を深め、中国人と上手くコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域 6 中国語を一年以上履修した学生を対象とします。また、初級相当以上の学力を持つ学生も受け入れます。 この条件は、講義では、PCを利用しているため、中国語ピンインで読み書きできる能力が必要であるからです。			
授業方法	毎課のポイントを解説し、学生達に例文を暗記させ、応用練習もできる。本文の内容を理解して、粗筋を暗記させ、人に話せるようになる。その上本文に基づいて作文させ、日中文化の相違点についてコミュニケーションさせる。 提出された作文は返却する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験	0%		
	平 常 評 価	100%	授業中の会話及び作文による採点する 3 0 %。期末テスト 7 0 %。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年1月15日	朝日出版社	ことばと文化「一挙両得中級中国語」	陳淑梅、陸薇
	備考			
参 考 書	日中、中日辞書。			
オフィスアワー	水曜日14：30～ 授業終了後の講堂にて質問受付 メールによる質問受付： xiaofei_yu@hotmail.com 研究室：本館6階1 6 1 5 室へ 迎光			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の全体を把握する；簡単な中国語で自己紹介の準備（30分）
	授業内容	ガイダンス 講義の進め方と教材の説明；発音チェック：自己紹介と挨拶
	事後学習	ガイダンスのおさらい。この授業は、目的と目標を達するため、週三時間以上かけて、復習と練習をすることが必要。 (30分)
2	事前学習	第1課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。（30分）
	授業内容	ポイントについて説明：動詞+在；不～是・・・都； 除了・・・以外・・・ 本文を解釈と朗読練習
	事後学習	文型/朗読/質疑応答/リスニングなど。 ドリルと小テストも問題解いてくる；本文の粗筋をまとめ暗唱し、暗記した文章を紙に書きとる；ポイントの文型に基づき、文を作る。（30分）
3	事前学習	第1課内容の粗筋を暗唱できること。；本文1を参考に本文2について回答できる；ドリルの問題を解答。（30分）
	授業内容	①日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること ②本文2の質問について応答 ③ドリルの問題を解明する ④ 会話練習
	事後学習	本文の粗筋をまとめ暗唱する。暗記した文章を紙に書きとる。ポイントの文型に基づき、文を作る。（30分）
4	事前学習	第2課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。（30分）
	授業内容	第2課のポイントの説明：比較表見；因果関係を表す複文；アスペクス助詞“了” 本文の解釈と朗読練習
	事後学習	本文の朗読と粗筋を暗唱すること； 本文2の質問について応答；ドリルの問題を解明する。（30分）

5	事前学習	本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文 2 の質問に回答でき、ドリル問題を解答。（30分）
	授業内容	事前学習の内容について、練習と説明
	事後学習	文章を音読し暗唱する；暗記した文章を紙に書きとる；暗唱した内容を中国語できる友人たちと会話してみる。（30分）
6	事前学習	第3課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文 1 を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文 1 を日本語に翻訳してみる。（30分）
	授業内容	ポイント：累加関係を表す複文❶不但～，而且～❷；単純方向補語及び複合方向補語；文末に置く❸了❹は事態の変化や新事態の発生を表す表現。
	事後学習	本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文 2 の質問に回答でき、ドリル問題を解答。暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。（30分）
7	事前学習	本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文 2 の質問に回答でき、ドリル問題を解答。（30分）
	授業内容	第 3 課の内容について、全般できに應用練習；日中国文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文 2 の質問に答える；ドリルのチェック。
	事後学習	文章を音読し暗唱する、暗記した文章を紙に書きとる。本文の内容について中国語のできる友人たちと会話してみる。（30分）
8	事前学習	第4課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文 1 を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文 1 を日本語に翻訳してみる。（30分）
	授業内容	ポイント：同類の物事の中からある一つを取り出して説明を加える表現；事実と合わない判断を述べること；前置詞。
	事後学習	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文 2 の質問に回答でき、ドリル問題を解答。（30分）
9	事前学習	ポイントの表現に基づき、文を作り暗記する。本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文 2 の質問に回答でき、ドリル問題を解答。（30分）
	授業内容	第 4 課の内容について、一般的に應用練習；日中国文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文 2 の質問に答える；ドリルのチェック。
	事後学習	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。（30分）
10	事前学習	第 5 課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文 1 を日本語に訳してみる。（30分）
	授業内容	ポイント：～を主とする；接続詞：意味を更に一つ付加加える表現：程度が時間の推移とともに高まることを表す表現。
	事後学習	本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。（30分）
11	事前学習	本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、発表の準備を行う。本文 2 の質問に回答でき、ドリル問題を解答。（30分）
	授業内容	第 5 課の内容について、一般的に應用練習；日中国文化の相違点を理解し、本文の朗読；内容について話す；本文 2 の質問に答える；ドリルのチェック。
	事後学習	本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。日中国文化について作文：テーマ自由（200字）
12	事前学習	第 6 課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文 1 を日本語に訳してみる。（30分）
	授業内容	ポイントの説明：～までも、～さえも・・である表現；目的語を動詞の前に置いて、目的語に対する処置を強調する表現；アスペクス❶着る❷；本文の解釈；作文を提出
	事後学習	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。（30分）
13	事前学習	第 7 課の新出単語を暗記する。ポイントを予習して、辞書を使い本文 1 を日本語に訳してみる。（30分）
	授業内容	ポイントについて説明：全半の部分を否定して、後半の部分を強調する構文；比較表現；二つの動作を同時に行う構文：～しながら・・する；本文の解釈と朗読訓練
	事後学習	中国語の表現を身に付け、応用できる。本文を熟讀でき、内容の粗筋を暗記し、暗記した文章を紙に書きとる。中国語できる友人たちと会話してみる。（30分）
14	事前学習	全面復習；テスト範囲：1 課～7 課までのポイントの例文 2 小テストの問題 3，4
	授業内容	これまでの復習 期末テスト（筆記）
	事後学習	今まで勉強したことを復習練習すること。（30分）
15	事前学習	中国社会と中国人の生活について、ネットで調べる。（30分）
	授業内容	中国人の生活に反映されている映画を鑑賞
	事後学習	感想文を書く。夏休み宿題：暑假里的一件事（60分）

科目名	リーディング・ライティング(中)ⅡB	担当者	于 晓飛	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	--------------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この講座では、中国語によるコミュニケーションに必要な能力を修得する。会話では、互いの文化を理解できることが重要である。 この講座では、会話の実例をもとに日本文化と中国文化の相違を学習し、ヒヤリング能力、中国語の正しい発音での表現能力、中国語文章作成能力、会話における表現能力を修得する。。			
授業目的・到達目標	中国語会話を通し、中国文化を理解し、自分を理解してもらうことが目的です。 中国文化習慣を理解するため課文の会話を暗記し、会話中の役になりきって会話を実演できる能力を修得させること目的である。このため、中国語発音矯正、発表作文文章修正、会話練習に重点をおく。 異文化への理解を深め、中国人と上手くコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：外国語科目領域 6 中国語を一年以上履修した学生を対象とします。また、初級相当以上の学力を持つ学生も受け入れます。 この条件は、講義では、PCを利用しているため、中国語ピンインで読み書きできる能力が必要であるからです。			
授業方法	毎課のポイントを解説し、学生達に例文を暗記させ、応用練習もできる。本文の内容を理解して、粗筋を暗記させ、人に話せるようになる。その上本文に基づいて作文させ、日中文化の相違点についてコミュニケーションさせる。 提出された作文は返却する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験	0%		
	平 常 評 価	100%	授業中の会話及び作文による採点する３０％。期末テスト７０％。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年1月25日	朝日出版社	ことばと文化「一挙両得中級中国語」	陳淑梅・陸なつや 薇
	備考	前期と同じ、参加した学生のレベルにより、授業中に指示します。		
参 考 書	日中、中日辞書。			
オフィス アワー	水曜14：30～ 授業終了後の講堂にて質問受け メールによる質問受け 研究室：本館1615室へ、迎光			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	夏休みの作文を完成、発表の準備する。(60分)
	授業内容	夏休み宿題の口頭発表 講評
	事後学習	修正した作文を暗記し、中国語の出来る友人に話してみる。(30分)
2	事前学習	第8課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。(30分)
	授業内容	第8課のポイントについて説明と実際に応用： 断定の口調を強める表現：是・・・的 ；～もとで：在・・・下 ；ただ～にすぎない：只不 本文の解釈と朗読練習。
	事後学習	第8課の本文を熟讀し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；ドリルの問題と小テストを解答；日中文化の相違点について友人たちと会話してみること。(30分)
3	事前学習	第8課内容の粗筋を暗記して、授業での発表の準備を行う；本文2の質問について応答。 本文に関連した題材で中国語作文を行う。自作した作文を提出する準備。(30分)
	授業内容	第8課の内容について話す；ドリルのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答 ③ドリルと小テストの問題を解明する。
	事後学習	本文を熟讀し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。(30分)
4	事前学習	第9課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。(30分)
	授業内容	ポイントを説明： ～であり、～でもある：是～也是・・・；受け身文：被 ；可能性を推測、判断することを表す：会
	事後学習	第9課の本文を熟讀し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；ドリルの問題と小テストを解答；修正した自作文を暗記して友人たちと話してみること。(30分)

5	事前学習	第9課内容の粗筋を暗記して、授業で発表するの準備を行う；本文2の質問について応答；小テストを完成。（30分）
	授業内容	第9課の本文の熟讀；粗筋について話しすること；本文2の質問について応答；ドリル小テストのチェック；会話練習と朗読の訓練。
	事後学習	全般的に復習、勉強した知識をすべて自分のものになることは重要である。 作文：テーマ自由（200字） （60分）
6	事前学習	第10課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。作文を提出準備（30分）
	授業内容	ポイントについて解説： ①～ほど・・・ではない；不像～那・・・；条件関係を表す複文：即使～也・・・；可能補語；本文の解釈と朗読
	事後学習	本文を熟讀し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。（30分）
7	事前学習	第10課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。（30分）
	授業内容	第10課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答；作文の問題点について説明。
	事後学習	修正した自作文を暗記して友人たちと話してみること。（30分）
8	事前学習	第11課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。（30分）
	授業内容	①ポイントについて説明： まるで～ようだ；好像～似的；ある条件が満たされさえすれば、結果は容易に実現すること；只要～就・・・； 逆接関係を表す。②本文の解説。
	事後学習	本文を熟讀し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。 （30分）
9	事前学習	第11課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。（30分）
	授業内容	第11課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。
	事後学習	第11課の本文を熟讀し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。 （30分）
10	事前学習	第12課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。（30分）
	授業内容	ポイントについて説明： まず～して、それから・・・する；動詞+回数；～ごとに・・・、～たびに・・・ 本文の解釈と朗読練習
	事後学習	本文を熟讀し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。 （30分）
11	事前学習	第12課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。（30分）
	授業内容	第12課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。
	事後学習	第12課の本文を熟讀し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。 （30分）
12	事前学習	第13課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。（30分）
	授業内容	ポイントについて説明： 聞くところによると、～そうだ；～するとすぐに・・・する、～するや否や・・・する；条件関係を表す。 本文を解釈と朗読
	事後学習	本文を熟讀し、粗筋を暗記、暗記した文章を紙に書きとる；ドリルと小テストの問題を解答；本文2の質問について応答。 （30分）
13	事前学習	第13課内容の粗筋を暗記でき、授業で発表するの準備を行う；各問題を解答でき、小テストを完成。（30分）
	授業内容	第13課の内容について話す；ドリルと小テストのチェック。 日中文化の相違点を理解し本文の朗読；粗筋を暗唱すること；本文2の質問について応答。
	事後学習	第13課の本文を熟讀し、粗筋を暗記する。暗記した文章を紙に書きとる；暗記したことについて友人と話してみる。 （30分）
14	事前学習	第14課の予習：新出単語を暗記する；CDを聞く本文1を熟讀；ポイントを理解し、辞書を使って本文1を日本語に翻訳してみる。（30分）
	授業内容	ポイントについて説明： 運動文 ～するのがある/いる；～にとっては；程度が高まることを表す；更 本文の解釈と朗読練習；
	事後学習	期末テスト範囲の復習：ポイントの例文と小テスト3、4の問題（30分）
15	事前学習	テスト範囲の復習（30分）
	授業内容	これまでの復習 期末テスト（筆記）
	事後学習	全ての知識を身に付け、読める、書ける、話せること！（60分）

科目名	日本語 I	担当者	杉山 俊一郎	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
-----	-------	-----	--------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この授業では、日本の漢字について学習します。漢字を数多く覚えるだけでなく、それらの漢字の実際の使われ方についても学び、語彙力、文法力、表現力などを養成します。前期は、日本の漢字をめぐるさまざまなトピックを取り上げ、日本人の漢字・漢字語の使用実態について理解を深めます。後期は、新聞・雑誌記事、論文などを読んだり、要約や感想文を書いたりして、実際に「読む」「書く」ための漢字学習を重点的に行います。			
授業目的・到達目標	【授業目的】漢字学習への意欲・関心を高めるとともに、有意義な大学生活を送るために必要な漢字力の基礎を養成することを目的とします。 【到達目標】日本語で書かれた文献に頻出する漢字・漢字語の正確な読み、理解を通して、文章を深く読み込む力(読解力)がつくこと、また、学習した漢字・漢字語を自分でも自由に使いこなせるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域1, 3, 6			
履修条件	特になし			
授業方法	講義形式。授業は、教科書の内容を事前に把握していることを前提として、配布プリントを中心に進めます。また、毎時間小テストを実施し、次の授業で返却します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常評価(各授業内で実施する小テスト、定期試験、レポート等)100%。 ただし、授業回数の3分の2以上出席しなければ、授業内試験を受けることができない。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014年	三省堂	『日本語学習のための よく使う順 漢字2200』	徳弘康代
	備考	教科書は、2015年7月10日(第2刷)発行のものが望ましい。		
参考書	山田忠雄編『新明解国語辞典 第七版』(三省堂)、『三省堂 現代新国語辞典 第六版』(三省堂)、『新明解現代漢和辞典』(三省堂)など。その他、授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日16:10～ 授業終了後の講堂にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスと教科書pp. (5)～(22)を読み、この授業の進み方と教科書の使い方についておさえておく。(30分)
	授業内容	授業の目的・方法、成績評価の方法について説明する。あわせて、教科書の使い方、学習方法などについても触れる。
	事後学習	教科書に目を通しておくこと。(30分)
2	事前学習	教科書pp. 2～11の漢字0001～0050について、意味、音読み・訓読み、単語と例文を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	日本の漢字について概観する。中国の漢字との相違や歴史、日本語の漢字表記語のバリエーションなどについて見る。
	事後学習	授業の内容をよく復習して、漢字学習上のポイントがどこにあるのかを自分なりにまとめてみる。 授業内の確認テストで間違えた問題についてはテストの例文ごと暗記する。(30分)
3	事前学習	教科書pp. 12～21の漢字0051～0100について、意味、音読み・訓読み、単語と例文を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	日本語の漢字音の特徴について説明する。特に、長音、撥音、促音の問題について学習する。
	事後学習	授業の内容をよく復習して、漢字学習上のポイントがどこにあるのかを自分なりにまとめてみる。 授業内の確認テストで間違えた問題についてはテストの例文ごと暗記する。(30分)
4	事前学習	教科書pp. 22～31の漢字0101～0150について、意味、音読み・訓読み、単語と例文を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	音読みについて説明する。特に、「行」「頭」のように音が複数あるものを中心に学習する。
	事後学習	配付プリントの内容をよく復習する。 また、授業内の確認テストで間違えた問題についてはテストの例文ごと暗記する。(30分)

5	事前学習	教科書pp. 32～41の漢字0151～0200について、意味、音読み・訓読み、単語と例文を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	訓読みについて説明する。特に、「開」「細」のように一つの漢字に二つ以上の訓読みがある場合や、「はかる」「かわる」のように同訓異字の言葉がいくつもある場合を中心に学習する。
	事後学習	配付プリントの内容をよく復習する。 また、授業内の確認テストで間違えた問題についてはテストの例文ごと暗記する。(30分)
6	事前学習	教科書pp. 42～51の漢字0201～0250について、意味、音読み・訓読み、単語と例文を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	読めると楽しい当て字・難読語について概観する。
	事後学習	配付プリントの内容をよく復習する。 また、授業内の確認テストで間違えた問題についてはテストの例文ごと暗記する。(30分)
7	事前学習	第2講～第6講において学習した漢字・漢字語をマスターしておく。 特に、授業内の確認テストで間違えた問題を中心に勉強しておくといい。(50分)
	授業内容	ここまでの内容の定着をはかるため、授業内試験およびまとめを行う。
	事後学習	試験問題で解けなかった問題について確認する。(10分)
8	事前学習	教科書pp. 452～470と、第2講～第6講の配布プリントを読み、答え合わせの時になぜ間違えたかを分析できるようにしておく。(30分)
	授業内容	テストの返却と答え合わせ、苦手な部分がどこにあるのかなどについて確認する。
	事後学習	試験問題で間違えた問題について確認し、その答えがなぜ間違いなのかをまとめる。(30分)
9	事前学習	教科書pp. 52～61の漢字0251～0300について、意味、音読み・訓読み、単語と例文を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	国字について概観する。
	事後学習	配付プリントの内容をよく復習する。 また、授業内の確認テストで間違えた問題についてはテストの例文ごと暗記する。(30分)
10	事前学習	教科書pp. 62～71の漢字0301～0350について、意味、音読み・訓読み、単語と例文を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	地名・人名と漢字表記について概観する。地図を広げて地名の由来を考えたり、名前と漢字表記のバリエーションを確認したりする。
	事後学習	配付プリントの内容をよく復習する。 また、授業内の確認テストで間違えた問題についてはテストの例文ごと暗記する。(30分)
11	事前学習	教科書pp. 72～81の漢字0351～0400について、意味、音読み・訓読み、単語と例文を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	景観文字について説明する。
	事後学習	配付プリントの内容をよく復習する。 また、授業内の確認テストで間違えた問題についてはテストの例文ごと暗記する。(30分)
12	事前学習	教科書pp. 82～91の漢字0401～0450について、意味、音読み・訓読み、単語と例文を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	漫画の漢字表記語について確認する。漫画における漢字表記のありよう、特にどのような種類の語が漢字表記されているのかについて整理する。
	事後学習	配付プリントの内容をよく復習する。 また、授業内の確認テストで間違えた問題についてはテストの例文ごと暗記する。(30分)
13	事前学習	教科書pp. 92～101の漢字0451～0500について、意味、音読み・訓読み、単語と例文を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	字幕と漢字表記について確認する。字幕における漢字表記のありよう、特にどのような種類の語が漢字表記されているのかについて整理する。
	事後学習	配付プリントの内容をよく復習する。 また、授業内の確認テストで間違えた問題についてはテストの例文ごと暗記する。(30分)
14	事前学習	第9講～第13講において学習した漢字・漢字語をマスターしておく。 特に、授業内の確認テストで間違えた問題を中心に勉強しておくといい。(50分)
	授業内容	ここまでの内容の定着をはかるため、授業内試験およびまとめを行う。
	事後学習	試験問題で解けなかった問題について確認する。(10分)
15	事前学習	前期学習分の内容を復習しておくこと。 特に、復習の中で自分がよく理解できなかった箇所を明らかにしておくといい。(30分)
	授業内容	テストの返却と答え合わせ、苦手な部分がどこにあるのかなどについて確認する。
	事後学習	試験問題で間違えた問題について確認し、その答えがなぜ間違いなのかをまとめる。(30分)

科目名	日本語 I	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本社会での積極的なコミュニケーションを日本語で実践し、自らの考えを正確に伝える基礎的能力を身につける。				
授業目的・到達目標	聞く・読む・話す・書くといった、これまで習得した日本語力をより向上させ、大学の講義を受けて学習する際、不自由のない日本語能力を養成することを目的とする。 前期は大学の講義を理解する上で必要な日本語を習得できる。後期はプレゼンテーションをする際によく使う日本語を習得し、実践することを通して流暢な日本語を使って、自らの考えを正確に伝えることができることを目標とする。 関連DP及びCP:1. 3. 6				
履修条件	毎時間漢字テストを実施し、次の授業時に採点したものを返却する。				
授業方法	授業時に配布するプリントを使用するが、ディスカッションも行う。 必ず、国語辞典（電子辞書も可）を持参すること。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	前期は授業内試験・漢字テスト、後期はプレゼンテーションとレポートで評価する。※授業回数の2／3以上は出席すること。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。必要な教材は、毎時間プリントで配布する。			
参考書	授業中に適宜指示する。				
オフィスアワー	研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	大学で必要とされる日本語とはどのようなものなのかを考えておく。（30分）
	授業内容	授業計画とその内容の説明
	事後学習	卒業後の進路を考え、4年間の学修計画を立てておく。（30分）
2	事前学習	大学とはどのような場所で、何を学ぶべきところなのかを考えておく。（30分）
	授業内容	講義の受け方とメモの取り方を理解できる。
	事後学習	他の講義で実際にメモを取り、その改善点を考える。（30分）
3	事前学習	他の講義で指定されている教科書を読み、問題点を考える。（30分）
	授業内容	教科書の情報をどのように読み取るのかを理解できる。
	事後学習	他の講義で指定されている教科書の読み取り方の改善点を考える。（30分）
4	事前学習	レポートに用いる言葉遣いを考える。（30分）
	授業内容	話し言葉と書き言葉の違いを理解でき、レポートに使う漢字を書くことができる。
	事後学習	書き言葉を使って文章を書く＋次回の授業で漢字のテストを実施するので予習しておく。（30分）

5	事前学習	読みやすい文章とはどのような文章なのかを考える。（30分）
	授業内容	明解な文章を書くにはどのようにするのかを理解でき、レポートに使う漢字を書くことができる②。
	事後学習	客観的な証拠を示すとはどのようなことかを考える＋次回の授業で漢字のテストを実施するので予習しておく。（30分）
6	事前学習	自分の言葉と他人の言葉を分けて書く方法を考える。（30分）
	授業内容	明解な文章を書くにはどのようにするのかを理解でき②、レポートに使う漢字を書くことができる②。
	事後学習	引用の方法を考える＋次回の授業で漢字のテストを実施するので予習しておく。（30分）
7	事前学習	構成とは何かを考える。（30分）
	授業内容	明解な文章を書くにはどのようにするのかを理解でき③、レポートに使う漢字を書くことができる③。
	事後学習	五つの構成要素を確認する＋次回の授業で漢字のテストを実施するので予習しておく。（30分）
8	事前学習	パラグラフとは何かを考える。（30分）
	授業内容	明解な文章を書くにはどのようにするのかを理解でき④、レポートに使う漢字を書くことができる④。
	事後学習	論理的な文章を書く＋次回の授業で漢字のテストを実施するので予習しておく。（30分）
9	事前学習	インターネットで情報を探す上での注意点を考える。（30分）
	授業内容	ストラテジーを使って文章を読む方法を理解でき①、レポートに使う漢字を書くことができる⑤。
	事後学習	インターネットを使って、実際に情報を検索する＋次回の授業で漢字のテストを実施するので予習しておく。（30分）
10	事前学習	図解から情報を読み取り方を考える。（30分）
	授業内容	ストラテジーを使って文章を読む方法を理解でき②、レポートに使う漢字を書くことができる⑥。
	事後学習	図解から情報を読み取る際の注意点を確認する＋次回の授業で漢字のテストを実施するので予習しておく。（30分）
11	事前学習	レポートの文章の特徴とは何かを考える。（30分）
	授業内容	レポートで用いるにはふさわしくない表現を理解でき①、レポートに使う漢字を書くことができる⑦。
	事後学習	文章の種類とその違いを確認する＋次回の授業で漢字のテストを実施するので予習しておく。（30分）
12	事前学習	記録文と説明文の違いを考える。（30分）
	授業内容	レポートで用いるにはふさわしくない表現を理解でき②、レポートに使う漢字を書くことができる⑧。
	事後学習	記録文と説明文の書き方の違いを確認する＋次回の授業で漢字のテストを実施するので予習しておく。（30分）
13	事前学習	自分の考えをどのように表現すればいいのか考える。（30分）
	授業内容	レポートで用いるにはふさわしくない表現を理解でき③、レポートに使う漢字を書くことができる⑨。
	事後学習	良い例と悪い例の違いを確認する。（30分）
14	事前学習	自分の考えをどのような手順で書けば良いのか考える。（30分）
	授業内容	レポートで用いるにはふさわしくない表現を理解でき④、レポートに使う漢字書くことができる⑩。
	事後学習	主帳を正確に伝えるための3つのポイントを確認する＋次回の授業で漢字のテストを実施するので予習しておく。（30分）
15	事前学習	前期授業内容を復習する。（30分）
	授業内容	前期授業の復習テストとその解説
	事後学習	理解出来なかった内容を、再度復習する。（30分）

科目名	日本語Ⅱ	担当者	杉山 俊一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、日本の漢字について学習します。漢字を数多く覚えるだけでなく、それらの漢字の実際の使われ方についても学び、語彙力、文法力、表現力などを養成します。前期は、日本の漢字をめぐるさまざまなトピックを取り上げ、日本人の漢字・漢字語の使用実態について理解を深めます。後期は、新聞・雑誌記事、論文などを読んだり、要約や感想文を書いたりして、実際に「読む」「書く」ための漢字学習を重点的に行います。			
授業目的・到達目標	【授業目的】漢字学習への意欲・関心を高めるとともに、有意義な大学生活を送るために必要な漢字力の基礎を養成することを目的とします。 【到達目標】日本語で書かれた文献に頻出する漢字・漢字語の正確な読み、理解を通して、文章を深く読み込む力(読解力)がつくこと、また、学習した漢字・漢字語を自分でも自由に使いこなせるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域1, 3, 6			
履修条件	特になし			
授業方法	講義形式。授業は、教科書の内容を事前に把握していることを前提として、配布プリントを中心に進めます。また、毎時間小テストを実施し、次の授業で返却します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常評価(各授業内で実施する小テスト、定期試験、レポート等)100%。 ただし、授業回数の3分の2以上出席しなければ、授業内試験を受けることができない。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014年	三省堂	『日本語学習のための よく使う順 漢字2200』	徳弘康代
	備考	教科書は、2015年7月10日(第2刷)発行のものが望ましい。		
参考書	山田忠雄編『新明解国語辞典 第七版』(三省堂)、『三省堂 現代新国語辞典 第六版』(三省堂)、『新明解現代漢和辞典』(三省堂)など。その他、授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日16:10～ 授業終了後の講堂にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスと教科書pp. (5)～(22)を読み、この授業の進み方と教科書の使い方についておさえておく。(30分)
	授業内容	後期の授業内容について確認する。また、成績評価の方法についてもあらためて説明する。
	事後学習	授業内で配布するプリントの内容をよく確認して、後期の授業各回でどのようなことを学習するのか把握する。(30分)
2	事前学習	教科書pp. 102～111の漢字0501～0550について、意味、音読み・訓読み、単語と例文を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	ひらがな・カタカナ・漢字の使い分けと文章中での表記のバランスについて学ぶ。 縦書きと横書き、原稿用紙の使い方についても確認する。
	事後学習	配付プリントの内容をよく復習する。 また、授業内の確認テストで間違えた問題についてはテストの例文ごと暗記する。(30分)
3	事前学習	教科書pp. 112～121の漢字0551～0600について、意味、音読み・訓読み、単語と例文を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	文体とことばの選択について説明する。特に、漢語サ変動詞や、名詞とナ形容詞の問題について重点的に説明する。
	事後学習	配付プリントの内容をよく復習する。 また、授業内の確認テストで間違えた問題についてはテストの例文ごと暗記する。(30分)
4	事前学習	教科書pp. 122～131の漢字0601～0650について、意味、音読み・訓読み、単語と例文を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	短編小説を読む。その中に使用されている語句に注意しながら、書かれている内容をおさえる。
	事後学習	配付プリントの内容をよく復習する。 また、授業内の確認テストで間違えた問題についてはテストの例文ごと暗記する。(30分)

5	事前学習	教科書pp. 132～141の漢字0651～0700について、意味、音読み・訓読み、単語と例文を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	短編小説を読む。問題を解いたり、特定の表現について深く掘り下げて考えたりして、文章表現を味わう。
	事後学習	配付プリントの内容をよく復習する。 授業内の確認テストで間違えた問題についてはテストの例文ごと暗記する。(30分)
6	事前学習	教科書pp. 142～151の漢字0701～0750について、意味、音読み・訓読み、単語と例文を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	短編小説を読む。あらすじをまとめ、感想を書く。
	事後学習	配付プリントの内容をよく復習する。 授業内の確認テストで間違えた問題についてはテストの例文ごと暗記する。(30分)
7	事前学習	第16講～第21講(後期2講～第7講)において学習した漢字・漢字語をマスターしておく。 特に、授業内の確認テストで間違えた問題を中心に勉強しておくが良い。(50分)
	授業内容	ここまでの内容の定着をはかるため、授業内試験およびまとめを行う。
	事後学習	試験問題で解けなかった問題について確認する。(10分)
8	事前学習	教科書pp. 152～161の漢字0751～0800について、意味、音読み・訓読み、単語と例文を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	テストの返却と答え合わせ、苦手な部分、注意すべき部分がどこにあるのかなどについて確認する。 また、学期末に提出レポート課題について説明する。なお、レポート課題は2000字程度で次のようなものを予定している。 「授業中に紹介した参考文献の中から1冊を選び、まずその内容がよく分かるようにまとめた上で書評を書きなさい」
	事後学習	試験問題で間違えた問題について確認し、その答えがなぜ間違いなのかをまとめる。(30分)
9	事前学習	教科書pp. 162～171の漢字0801～0850について、意味、音読み・訓読み、単語と例文を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	日本文化に関わる雑誌記事を読み、言語知識(文字・語彙・文法)・読解の問題を解く。
	事後学習	配付プリントの内容をよく復習する。 授業内の確認テストで間違えた問題についてはテストの例文ごと暗記する。(30分)
10	事前学習	教科書pp. 172～181の漢字0851～0900について、意味、音読み・訓読み、単語と例文を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	新聞の社会問題を扱った記事を読み、言語知識(文字・語彙・文法)・読解の問題を解く。 また、新聞記事の紙面構成とそれに基づいた読み方についても説明する。
	事後学習	配付プリントの内容をよく復習する。 授業内の確認テストで間違えた問題についてはテストの例文ごと暗記する。(30分)
11	事前学習	教科書pp. 182～191の漢字0901～0950について、意味、音読み・訓読み、単語と例文を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	新聞の社説を読み、言語知識(文字・語彙・文法)・読解の問題を解く。
	事後学習	配付プリントの内容をよく復習する。 授業内の確認テストで間違えた問題についてはテストの例文ごと暗記する。(30分)
12	事前学習	教科書pp. 192～201の漢字0951～1000について、意味、音読み・訓読み、単語と例文を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	評論文を読み、言語知識(文字・語彙・文法)・読解の問題を解く。 長文読解の際の速読の方法についても触れる。
	事後学習	配付プリントの内容をよく復習する。 授業内の確認テストで間違えた問題についてはテストの例文ごと暗記する。(30分)
13	事前学習	第23講～第27講(後期9講～第13講)において学習した漢字・漢字語をマスターしておく。 特に、授業内の確認テストで間違えた問題を中心に勉強しておくが良い。(50分)
	授業内容	ここまでの内容の定着をはかるため、授業内試験およびまとめを行う。
	事後学習	試験問題で解けなかった問題について確認する。(10分)
14	事前学習	後期の配布プリントと返却課題を読み返し、答え合わせの時になぜ間違えたかを分析できるようにしておく。(30分)
	授業内容	テストの返却と答え合わせ、苦手な部分がどこにあるのかなどについて確認する。 レポート提出日。
	事後学習	試験問題で間違えた問題について確認し、その答えがなぜ間違いなのかをまとめる。(30分)
15	事前学習	後期学習分の内容を復習しておくこと。 特に、復習の中で自分がよく理解できなかった箇所を明らかにしておくが良い。(30分)
	授業内容	レポート返却と講評、この講義の総まとめを行う。
	事後学習	返却されたレポート課題を確認し、授業内での講評なども踏まえて、自身の勉強課題がどこにあるのかを明らかにする。(30分)

科目名	日本語Ⅱ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本社会での積極的なコミュニケーションを日本語で実践し、自らの考えを正確に伝える基礎的能力を身につける。				
授業目的・到達目標	聞く・読む・話す・書くといった、これまで習得した日本語力をより向上させ、大学の講義を受けて学習する際、不自由のない日本語能力を養成することを目的とする。 前期は大学の講義を理解する上で必要な日本語を習得できる。後期はプレゼンテーションをする際によく使う日本語を習得し、実践することを通して流暢な日本語を使って、自らの考えを正確に伝えられるようになることを目標とする。 関連DP及びCP:1. 3. 6				
履修条件	毎時間漢字テストを実施し、次の授業時に採点したものを返却する。				
授業方法	授業時に配布するプリントを使用するが、ディスカッションも行う。 必ず、国語辞典（電子辞書も可）を持参すること。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	前期は授業内試験・漢字テスト、後期はプレゼンテーションとレポートで評価する。※授業回数の2／3以上は出席すること。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。必要な教材は、毎時間プリントで配布する。			
参考書	授業中に適宜指示する。				
オフィスアワー	研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新聞や教科書等の日本語の文章を何度も音読しておく。（30分）
	授業内容	授業計画とその内容の説明
	事後学習	正確な日本語の発音が出来るように意識する。（30分）
2	事前学習	箇条書きとは何かを考える。（30分）
	授業内容	プレゼンテーションで用いる表現を理解できる①。
	事後学習	箇条書きの注意点を確認する。（30分）
3	事前学習	図表を用いた場合の利点を考える。（30分）
	授業内容	プレゼンテーションで用いる表現を理解できる②。
	事後学習	図表を用いる際の注意点を確認する。（30分）
4	事前学習	レジュメとは何かを考える。（30分）
	授業内容	プレゼンテーションの方法を理解できる。
	事後学習	レジュメの使い方と種類を確認する。（30分）

5	事前学習	レジュメに何を書くのかを考える。（30分）
	授業内容	プレゼンテーションの構成を理解できる。
	事後学習	レジュメ作成のポイントを確認する。（30分）
6	事前学習	与えられたテーマに沿ったプレゼンテーションの準備をする。（30分）
	授業内容	15分のプレゼンテーションをする①〈テーマ〉飲料水について（指定されたデーターを用いる）
	事後学習	他学生のプレゼンテーションの改善点を確認する。（30分）
7	事前学習	与えられたテーマに沿ったプレゼンテーションの準備をする。（30分）
	授業内容	15分のプレゼンテーションをする②〈テーマ〉飲料水について（指定されたデーターを用いる）
	事後学習	他学生のプレゼンテーションの改善点を確認する。（30分）
8	事前学習	与えられたテーマに沿ったプレゼンテーションの準備をする。（30分）
	授業内容	15分のプレゼンテーションをする③〈テーマ〉飲料水について（指定されたデーターを用いる）
	事後学習	他学生のプレゼンテーションの改善点を確認する。（30分）
9	事前学習	与えられたテーマに沿ったプレゼンテーションの準備をする。（30分）
	授業内容	20分のプレゼンテーションをする④〈テーマ〉日本の文化について
	事後学習	他学生のプレゼンテーションの改善点を確認する。（30分）
10	事前学習	与えられたテーマに沿ったプレゼンテーションの準備をする。（30分）
	授業内容	20分のプレゼンテーションをする⑤〈テーマ〉日本の文化について
	事後学習	他学生のプレゼンテーションの改善点を確認する。（30分）
11	事前学習	与えられたテーマに沿ったプレゼンテーションの準備をする。（30分）
	授業内容	20分のプレゼンテーションをする⑥〈テーマ〉日本の文化について
	事後学習	他学生のプレゼンテーションの改善点を確認する。（30分）
12	事前学習	与えられたテーマに沿ったプレゼンテーションの準備をする。（30分）
	授業内容	20分のプレゼンテーションをする⑦〈テーマ〉日本の文化について
	事後学習	他学生のプレゼンテーションの改善点を確認する。（30分）
13	事前学習	プレゼンテーションの修正版を作成する。（30分）
	授業内容	レポート作成の方法を理解できる。
	事後学習	教師から指摘された改善点を修正する。（30分）
14	事前学習	プレゼンテーションの修正版を作成する。（30分）
	授業内容	レポート作成の構成、特に問題提起の重要性を理解できる。
	事後学習	教師から指摘された改善点を修正する。（30分）
15	事前学習	プレゼンテーションした内容のレポートを作成する。（60分）
	授業内容	レポート提出する。簡単な講評をする。
	事後学習	この授業で身につけたことは何かを確認する。（30分）

科目名	日本語Ⅲ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本社会での積極的なコミュニケーションを実践し、自らの考えを正確に伝える能力を身につける。				
授業目的・到達目標	単なる語彙取得の日本語の授業で終わらせない。大学での学習成果を上げ、有意義な留学生生活を過ごすために必要とされる情報をも取得しながら、実践につなげられる日本語能力を養成することを目的とする。 主に読む・書くといった、これまで習得した日本語力だけでなく、大学の講義を受けて学習する際、不自由のない日本語能力を身につけられることを目標とする。 大学で学ぶとはどのようなことなのかを知ることができる。				
履修条件	開講科目及び科目外語科講義領域いなし。従って、1年生は、必ずこの授業（月曜日・4時限目）を履修すること。				
授業方法	①漢字テストを受け②語彙プリントを解き③教科書を朗読する。漢字テストは次回の授業時に採点したものを返却し、授業内試験のフィードバックはポータルシステムで講評を公開する。必ず国語辞典（電子辞書可）を持参すること。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		0%		
	平常評価		100%		前期・後期試験・漢字テスト（80%）＋授業への参加度（20%） ※授業回数の2／3以上出席すること。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2005年	ひつじ書房		広げる地の世界 大学でのまなびのレッスン	北尾謙治ほか
	備考				
参考書	授業中に適宜指示する。				
オフィスアワー	研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	これまでの日本語学習の改善点を考える。（30分）
	授業内容	授業計画とその内容の説明
	事後学習	具体的な改善点を箇条書きにする。（30分）
2	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける+語彙問題を解く+（教科書）「大学の魅力」①を音読する 大学でよく使われる熟語が書け、大学で学ぶ意義を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字テストを実施するので、復習しておく。（30分）
3	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける+語彙問題を解く+（教科書）「大学の魅力」②を音読する 大学でよく使われる熟語が書け、大学で学ぶ意義を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字テストを実施するので、復習しておく。（30分）
4	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける+語彙問題を解く+（教科書）「有意義な大学生活と学習・研究」①を音読する 大学でよく使われる熟語が書け、大学での有意義な学びを理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字テストを実施するので、復習しておく。（30分）

5	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける+語彙問題を解く+（教科書）「有意義な大学生活と学習・研究」②を音読する 大学でよく使われる熟語が書け、大学での有意義な学びを理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字テストを実施するので、復習しておく。（30分）
6	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける+語彙問題を解く+（教科書）「大学の学習・研究の実際」①を音読する 大学でよく使われる熟語が書け、大学での学習や研究方法を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字テストを実施するので、復習しておく。（30分）
7	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける+語彙問題を解く+（教科書）「大学の学習・研究の実際」②を音読する 大学でよく使われる熟語が書け、大学での学習や研究方法を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字テストを実施するので、復習しておく。（30分）
8	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける+語彙問題を解く+（教科書）「大学の学習・研究の実際」③を音読する 大学でよく使われる熟語が書け、大学での学習や研究方法を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字テストを実施するので、復習しておく。（30分）
9	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける+語彙問題を解く+（教科書）「ノートの取り方」①を音読する 大学でよく使われる熟語が書け、講義ノートの取り方を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字テストを実施するので、復習しておく。（30分）
10	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける+語彙問題を解く+（教科書）「ノートの取り方」②を音読する 大学でよく使われる熟語が書け、講義ノートの取り方を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字テストを実施するので、復習しておく。（30分）
11	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける+語彙問題を解く+（教科書）「ノートの取り方」③を音読する 大学でよく使われる熟語が書け、講義ノートの取り方を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字テストを実施するので、復習しておく。（30分）
12	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける+語彙問題を解く+（教科書）「大学生のための読解」①を音読する 大学でよく使われる熟語が書け、様々な文章の読み方を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字テストを実施するので、復習しておく。（30分）
13	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける+語彙問題を解く+（教科書）「大学生のための読解」②を音読する 大学でよく使われる熟語が書け、様々な文章の読み方を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字テストを実施するので、復習しておく。（30分）
14	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける+語彙問題を解く+（教科書）「大学生のための読解」③を音読する 大学でよく使われる熟語が書け、様々な文章の読み方を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字テストを実施するので、復習しておく。（30分）
15	事前学習	前期授業内容を復習しておく。（30分）
	授業内容	前期授業の復習テストとその解説
	事後学習	大学では何をどのように学ぶのかを確認する。（30分）

科目名	日本語Ⅳ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本社会での積極的なコミュニケーションを実践し、自らの考えを正確に伝える能力を身につける。					
授業目的・到達目標	単なる語彙取得の日本語の授業で終わらせない。大学での学習成果を上げ、有意義な留学生生活を過ごすために必要とされる情報をも取得しながら、実践につなげられる日本語能力を養成することを目的とする。 主に読む・書くといった、これまで習得した日本語力だけでなく、大学の講義を受けて学習する際、不自由のない日本語能力を身につけられることを目標とする。 大学で学ぶとはどのようなことなのかを知ることができる。					
履修条件	開講科目及び科目外言語科目領域いなし。従って、1年生は、必ずこの授業（月曜日・4時限目）を履修すること。					
授業方法	①漢字テストを受け②語彙プリントを解き③教科書を朗読する。漢字テストは次回の授業時に採点したものを返却し、授業内試験のフィードバックはポータルシステムで講評を公開する。必ず国語辞典（電子辞書可）を持参すること。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		前期・後期試験・漢字テスト（80%）＋授業への参加度（20%） ※授業回数の2／3以上出席すること。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2005年	ひつじ書房		広げる地の世界 大学でのまなびのレッスン		北尾謙治ほか
	備考					
参考書	授業中に適宜指示する。					
オフィスアワー	研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける＋語彙問題を解く＋（教科書）「情報収集」を音読する① 大学でよく使われる熟語が書け、情報収集の方法を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字のテストを実施するので、復習しておくこと。（30分）
2	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける＋語彙問題を解く＋（教科書）「情報収集」を音読する② 大学でよく使われる熟語が書け、情報収集の方法を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字のテストを実施するので、復習しておくこと。（30分）
3	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける＋語彙問題を解く＋（教科書）「情報収集」を音読する③ 大学でよく使われる熟語が書け、情報収集の方法を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字のテストを実施するので、復習しておくこと。（30分）
4	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける＋語彙問題を解く＋（教科書）「インターネット」を音読する 大学でよく使われる熟語が書け、インターネットの利用方法を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字のテストを実施するので、復習しておくこと。（30分）

5	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける＋語彙問題を解く＋（教科書）「テーマの選び方」を音読する① 大学でよく使われる熟語が書け、研究テーマの選び方を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字のテストを実施するので、復習しておくこと。（30分）
6	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける＋語彙問題を解く＋（教科書）「テーマの選び方」を音読する② 大学でよく使われる熟語が書け、研究テーマの選び方を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字のテストを実施するので、復習しておくこと。（30分）
7	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける＋語彙問題を解く＋（教科書）「情報の整理」を音読する① 大学でよく使われる熟語が書け、情報の整理方法を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字のテストを実施するので、復習しておくこと。（30分）
8	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける＋語彙問題を解く＋（教科書）「情報の整理」を音読する② 大学でよく使われる熟語が書け、情報の整理方法を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字のテストを実施するので、復習しておくこと。（30分）
9	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける＋語彙問題を解く＋（教科書）「書くことの重要性」を音読する① 大学でよく使われる熟語が書け、文章を書く重要性を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字のテストを実施するので、復習しておくこと。（30分）
10	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける＋語彙問題を解く＋（教科書）「書くことの重要性」を音読する② 大学でよく使われる熟語が書け、文章を書く重要性を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字のテストを実施するので、復習しておくこと。（30分）
11	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける＋語彙問題を解く＋（教科書）「レポートや論文を書く」を音読する① 大学でよく使われる熟語が書け、レポートを書く方法を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字のテストを実施するので、復習しておくこと。（30分）
12	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける＋語彙問題を解く＋（教科書）「レポートや論文を書く」を音読する② 大学でよく使われる熟語が書け、論文を書く方法を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字のテストを実施するので、復習しておくこと。（30分）
13	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける＋語彙問題を解く＋（教科書）「プレゼンテーション」を音読する① 大学でよく使われる熟語が書け、プレゼンテーションの方法を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字のテストを実施するので、復習しておくこと。（30分）
14	事前学習	教科書を読んでおく。（30分）
	授業内容	漢字テストを受ける＋語彙問題を解く＋（教科書）「プレゼンテーション」を音読する② 大学でよく使われる熟語が書け、プレゼンテーションの方法を理解することができる。
	事後学習	前回の授業で音読した範囲から漢字のテストを実施するので、復習しておくこと。（30分）
15	事前学習	後期授業内容を復習しておくこと。（30分）
	授業内容	後期授業の復習テストとその解説
	事後学習	大学では何をどのように学ぶのかを確認する。（30分）

科目名	日本語Ⅴ	担当者	杉山 俊一郎	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
-----	------	-----	--------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この授業では、大学でのレポートや論文執筆に必要な基本事項の整理と、それらの知識を活かした文章作成の方法について学習します。日本語でレポートや論文を書くにあたって注意すべき点は、文法・語彙・表記などの言語知識から原稿用紙の使い方までさまざまですが、この授業では特に「書く」ための文法学習を重点的に学びます。前期は文法事項を中心に基本事項の確認を行い、後期はそれらの知識を総合させた文章作成の方法について実践的に学びます。			
授業目的・到達目標	【授業目的】文法は苦手だと思う人が多いと思います。この授業では文法への苦手意識を薄め、文法学習の意義と面白さを理解してもらうこと、また文法知識を活かして、適切な文章表現力を養成することを目的とします。 【到達目標】日本語で書かれた文献の内容を正確に理解した上で、それらに対する感想・意見・批評を、日本語のレポート・論文として適切なかたちで表現できるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域1, 4, 6			
履修条件	日本語Ⅰか日本語Ⅱを履修済みもしくは履修中の2年生以上。			
授業方法	講義形式。授業は、教科書を事前に読んできていることを前提として、配布プリントを中心に進めます。また、毎時間小テストまたは小論文の作成を実施し、添削して次の授業で返却します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	各授業での提出物50%に加え、前期は授業内試験50%で評価する。ただし、授業回数の3分の2以上出席しなければ、授業内試験を受けることができない。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年	くろしお出版	『レポート・論文を書くための日本語文法』	小森万里・三井久美子
	備考			
参考書	野田尚史『はじめての人の日本語文法』（くろしお出版）、益岡隆志『24週日本語文法ツアー』（くろしお出版）など。その他、授業中に随時紹介します。			
オフィスアワー	水曜日16:10～ 授業終了後の講堂にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	授業の目的・方法、成績評価の方法について説明する。あわせて、教科書の使い方、学習方法などについても触れる。
	事後学習	教科書に目を通しておくこと。(30分)
2	事前学習	教科書第1課pp. 1～8をよく読んで、疑問点がないか確認しておくこと。(30分)
	授業内容	書き言葉に統一する ：書き言葉の文体と表現
	事後学習	授業内で配布する補助プリントの内容を確認しておくこと。(30分)
3	事前学習	教科書第8課pp. 57～65をよく読んで、疑問点がないか確認しておくこと。(30分)
	授業内容	「は」と「が」を使い分ける ：助詞「は」と「が」の使い分け
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
4	事前学習	教科書第9課pp. 66～75をよく読んで、疑問点がないか確認しておくこと。(30分)
	授業内容	書き手の視点を示す ：他動詞・自動詞(使役形・受身形)
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)

5	事前学習	教科書第10課pp. 76～85をよく読んで、疑問点がないか確認しておくこと。(30分)
	授業内容	過去と現在のつながりを示す ：ル形・タ形・テイル形・テイタ形
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
6	事前学習	教科書第2課pp. 9～17をよく読んで、疑問点がないか確認しておくこと。(30分)
	授業内容	文の意味を明確にする ：複文の適切な使い方
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
7	事前学習	教科書第3課pp. 18～25をよく読んで、疑問点がないか確認しておくこと。(30分)
	授業内容	「こと」と「の」を使い分ける ：名詞節「こと」と「の」の使い分け
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
8	事前学習	教科書第4課pp. 26～32をよく読んで、疑問点がないか確認しておくこと。(30分)
	授業内容	文をシンプルにする ：語や節の名詞化
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
9	事前学習	教科書第5課pp. 33～40をよく読んで、疑問点がないか確認しておくこと。(30分)
	授業内容	語彙を適切に選択する ：レポート・論文でよく使う語彙の使い分け
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
10	事前学習	教科書第6課pp. 41～47をよく読んで、疑問点がないか確認しておくこと。(30分)
	授業内容	文を首尾一貫させる ：文頭と文末の呼応
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
11	事前学習	教科書第7課pp. 48～56をよく読んで、疑問点がないか確認しておくこと。(30分)
	授業内容	形が似ている表現を使い分ける ：助詞相当語の使い分け
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
12	事前学習	教科書第11課pp. 86～94をよく読んで、疑問点がないか確認しておくこと。(30分)
	授業内容	文章の中の語を指し示す ：指示詞「こ」と「そ」の使い分け
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
13	事前学習	教科書第12課pp. 95～105をよく読んで、疑問点がないか確認しておくこと。(30分)
	授業内容	前後の関係を表す ：接続詞・接続表現の使い分け
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
14	事前学習	教科書第13課・第14課pp. 106～124をよく読んで、疑問点がないか確認しておくこと。(30分)
	授業内容	前の文に関係づける・効果的に意見を述べる ：「のだ文」の使い方・意見を述べる文末表現の使い分け
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
15	事前学習	前期の学習事項について確認しておくこと。(30分)
	授業内容	ここまでの内容の定着をはかるため、授業内試験およびまとめを行う。
	事後学習	試験でできなかった箇所について復習すること。(30分)

科目名	日本語Ⅴ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本社会での積極的なコミュニケーションを日本語で実践し、自らの考えを正確に伝える能力をこれまで以上に向上させる。			
授業目的・到達目標	大学生活のみならず、社会人としての生活においても必要とされる日本語力を身につけるため、日本語検定問題を解きながら、これまで以上の表現力・語彙力・思考力を養成することを目的とする。 日本語力のトレーニングを行うことで、日本語の適切さがどのように決まるのかを知り、実践できるようになることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：外国語領域科目 1、4、6 2年生以上			
授業方法	教科書に従って進める。各回が終わるごとに復習プリントで理解度を確認する。復習プリントに対するフィードバックは、実施した授業内で行う。必ず、国語辞書（電子辞書可）を持参すること。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	前期試験・漢字テスト（80%）＋授業への参加度（20%） ※授業回数の2／3以上出席すること。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2009年	東京書籍	スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳	名古屋大学日本語研究会GK7
	備考			
参考書	日本語検定については、「日本語検定公式ホームページ」（ http://www.nihongokentei.jp ）を参照。その他の参考書については授業内で適宜指示する。			
オフィスアワー	研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	大学卒業後の進路を考え、これからの計画を立てる。（30分）
	授業内容	授業計画とその内容の説明
	事後学習	ビジネスの現場ではどのような日本語を使用しているのかを考える。（30分）
2	事前学習	ビジネス日本語とはどのようなものかを考える。（30分）
	授業内容	ビジネス日本語能力テストを解く①聴解テストと聴読解テストを受け、自分のビジネス日本語能力を確認することができる。
	事後学習	ビジネスに際してのコミュニケーションスキルを向上させるには、どのような学習が必要かを考える。（30分）
3	事前学習	電話の内容を伝言メモにする時はどうすればいいのか考える。（30分）
	授業内容	ビジネス日本語能力テストを解く②読解テストを受け、自分のビジネス日本語能力を確認することができる。
	事後学習	ビジネスコミュニケーション上の課題とは何かを考える。（30分）
4	事前学習	適切な日本語とはどのようなものかを考える。（30分）
	授業内容	（教科書）第0回「はじめに」日本語力のトレーニングを始めるにあたり、日本語の適切さがどのように決まるのか考えることができる。
	事後学習	日本語の適切さがどのように決まるのかを確認する。（30分）

5	事前学習	敬語の種類と使い分けを確認する。（３０分）
	授業内容	（教科書）第１回「敬語の種類と使い分け」①敬語の種類と使い分けを理解することができる。
	事後学習	間違いやすい敬語を確認する。（３０分）
6	事前学習	自分と相手の関係を言葉で表現する際の注意点を考える。（３０分）
	授業内容	（教科書）第１回「敬語の種類と使い分け」②敬語の種類と使い分けを理解することができる。＋復習プリント
	事後学習	敬語の使い分けにおける注意点を確認する。（３０分）
7	事前学習	尊敬語と謙譲語の混同とは何かを考える。（３０分）
	授業内容	（教科書）第２回「注意すべき敬語」①尊敬語、謙譲語の混同といった日常で間違いやすい敬語はどのようなものかを理解することができる。
	事後学習	間違いやすい敬語を確認する。（３０分）
8	事前学習	二重敬語やマニュアル敬語とは何かを考える。（３０分）
	授業内容	（教科書）第２回「注意すべき敬語」②二重敬語、マニュアル敬語といった日常で間違いやすい敬語はどのようなものかを理解することができる。＋復習プリント
	事後学習	間違いやすい敬語を確認する。（３０分）
9	事前学習	敬語を使うことが必ずしも適切ではない場合を考える。（３０分）
	授業内容	（教科書）第３回「配慮を示す言葉」①円滑な人間関係を確立、維持するための言語行動を理解することができる。
	事後学習	「忌み言葉」とは何かを確認する。（３０分）
10	事前学習	敬語を使うことが必ずしも適切ではない場合を考える。（３０分）
	授業内容	（教科書）第３回「配慮を示す言葉」②円滑な人間関係を確立、維持するための言語行動を理解することができる。＋復習プリント
	事後学習	「ほのめかし」とは何かを確認する。（３０分）
11	事前学習	ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉とは何かを考える。（３０分）
	授業内容	（教科書）第５回「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」日常よく間違っ使われているら抜き言葉、レタス言葉、さ入れ言葉とはどのような表現か理解することができる。＋復習プリント
	事後学習	間違いやすい敬語を確認する。（３０分）
12	事前学習	文のねじれとは何かを考える。（３０分）
	授業内容	（教科書）第６回「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」①長い文、あるいは構造が複雑な文の主語・述語が対応しているかどうか、理解することができる。
	事後学習	主語と述語が対応している文を書く。（３０分）
13	事前学習	「あいまい文」とは何かを考える。（３０分）
	授業内容	（教科書）第６回「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」②文が複数の意味を持つあいまい文になっていないかどうか、理解することができる。＋復習プリント
	事後学習	あいまい文を書かないようにする。（３０分）
14	事前学習	接続語・指示語とはどのような働きがあるかを考える。（３０分）
	授業内容	（教科書）第７回「接続語・指示語と文章」接続語や指示語が、意見の要点を定めたり、論の展開を考えるのにとっても大切な役割を果たす表現であることを理解することができる。＋復習プリント
	事後学習	文章の中での接続と指示語の役割を確認する。（３０分）
15	事前学習	前期授業内容を復習する。（４０分）
	授業内容	前期授業の復習テストとその解説
	事後学習	試験で間違った問題を再度復習する。（３０分）

科目名	日本語Ⅵ	担当者	杉山 俊一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、大学でのレポートや論文執筆に必要な基本事項の整理と、それらの知識を活かした文章作成の方法について学習します。日本語でレポートや論文を書くにあたって注意すべき点は、文法・語彙・表記などの言語知識から原稿用紙の使い方までさまざまですが、この授業では特に「書く」ための文法学習を重点的に学びます。前期は文法事項を中心に基本事項の確認を行い、後期はそれらの知識を総合させた文章作成の方法について実践的に学びます。			
授業目的・到達目標	【授業目的】文法は苦手だと思う人が多いと思います。この授業では文法への苦手意識を薄め、文法学習の意義と面白さを理解してもらうこと、また文法知識を活かして、適切な文章表現力を養成することを目的とします。 【到達目標】日本語で書かれた文献の内容を正確に理解した上で、それらに対する感想・意見・批評を、日本語のレポート・論文として適切なかたちで表現できるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域1, 4, 6			
履修条件	日本語Ⅰか日本語Ⅱを履修済みもしくは履修中の2年生以上。			
授業方法	講義形式。授業は、教科書を事前に読んできていることを前提として、配布プリントを中心に進めます。また、毎時間小テストまたは小論文の作成を実施し、添削して次の授業で返却します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	各授業での提出物50%に加え、後期はレポート50%で評価する。ただし、授業回数の3分の2以上出席すること。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年	くろしお出版	『レポート・論文を書くための日本語文法』	小森万里・三井久美子
	備考			
参考書	野田尚史『はじめての人の日本語文法』（くろしお出版）、益岡隆志『24週日本語文法ツアー』（くろしお出版）など。その他、授業中に随時紹介します。			
オフィスアワー	水曜日16:10～ 授業終了後の講堂にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通しておくこと。(30分)
	授業内容	前期試験の復習と後期授業内容の説明
	事後学習	返却された答案・課題を確認しておくこと。(30分)
2	事前学習	事前に配布するプリントの内容を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	自分の考えを述べる
	事後学習	原稿用紙の使い方についてよく復習しておくこと。(30分)
3	事前学習	事前に配布するプリントの内容を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	構想メモを利用した文章の作成
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
4	事前学習	事前に配布するプリントの内容を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	文章を要約する
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)

5	事前学習	事前に配布するプリントの内容を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	文章を要約して自分の意見を述べる
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
6	事前学習	事前に配布するプリントの内容を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	説得力を高める書き方
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
7	事前学習	事前に配布するプリントの内容を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	事実と意見の書き分け方
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
8	事前学習	事前に配布するプリントの内容を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	比較・対照(1)二つの社説を読み比べて相違を指摘する
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
9	事前学習	事前に配布するプリントの内容を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	比較・対照(1)二つの論文を読み比べて結論と論拠の相違を指摘する
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
10	事前学習	事前に配布するプリントの内容を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	資料の収集・整理の方法
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
11	事前学習	事前に配布するプリントの内容を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	レポート作成の実際(1)構想メモの作成
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
12	事前学習	事前に配布するプリントの内容を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	レポート作成の実際(2)資料収集と整理・分析
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
13	事前学習	事前に配布するプリントの内容を確認しておくこと。(30分)
	授業内容	レポート作成の実際(3)文章にまとめる
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
14	事前学習	授業で学んだことを中心に、レポートの内容をよりよくまとめておくこと。(30分)
	授業内容	レポート作成の実際(4)レポートの遂行から提出まで
	事後学習	返却された答案・課題の内容を確認しておくこと。(30分)
15	事前学習	実際のレポート作成を通して困った点、疑問に思った点などについて確認しておくこと。(30分)
	授業内容	レポート返却および講評、後期授業のまとめ
	事後学習	返却されたレポートを見て、今後どの部分を重点的に勉強すれば良いか確認すること。(30分)

科目名	日本語Ⅵ	担当者	野口 恵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本社会での積極的なコミュニケーションを日本語で実践し、自らの考えを正確に伝える能力をこれまで以上に向上させる。			
授業目的・到達目標	大学生活のみならず、社会人としての生活においても必要とされる日本語力を身につけるため、日本語検定問題を解きながら、これまで以上の表現力・語彙力・思考力を養成することを目的とする。 日本語力のトレーニングを行うことで、日本語の適切さがどのように決まるのかを知り、実践できるようになることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：外国語領域科目 1、4、6 2年生以上			
授業方法	教科書に従って進める。各回が終わるごとに復習プリントで理解度を確認する。復習プリントに対するフィードバックは、実施した授業内で行う。必ず、国語辞書（電子辞書可）を持参すること。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	後期試験・漢字テスト（80%）＋授業への参加度（20%） ※授業回数の2／3以上出席すること。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2009年	東京書籍	スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳	名古屋大学日本語研究会GK7
	備考			
参考書	日本語検定については、「日本語検定公式ホームページ」（ http://www.nihongokentei.jp ）を参照。その他の参考書については授業内で適宜指示する。			
オフィスアワー	研究室（9号館9307研究室）での場合は月曜日と火曜日の昼休み時間（12時20分～12時50分）、メールの場合はnoguchi.keiko@nihon-u.ac.jpで受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	これまでの日本語学習の改善点を考える。（30分）
	授業内容	授業計画とその内容の説明
	事後学習	具体的な改善点を箇条書きにする。（30分）
2	事前学習	類義語・対義語とは何かを考える。（30分）
	授業内容	（教科書）第8回「類義語・対義語」①類義語の使い分けを理解することができる。
	事後学習	類義語・対義語の使い分けを確認する。（30分）
3	事前学習	和語・漢語・外来語とは何かを考える。（30分）
	授業内容	（教科書）第8回「類義語・対義語」②対義語の使い分けを理解することができる。＋復習プリント
	事後学習	和語・漢語・外来語の意味や語感の違いを確認する。（30分）
4	事前学習	文体とは何かを考える。（30分）
	授業内容	（教科書）第10回「文体、話し言葉・書き言葉」①言語を表現する際に条件によっては整える必要がある「文体」の役割を理解することができる。
	事後学習	文体の使い分けを確認する。（30分）

5	事前学習	話し言葉・書き言葉とは何かを考える。（３０分）
	授業内容	（教科書）第１０回「文体、話し言葉・書き言葉」②言語を表現する際に条件によっては整える必要がある「文体」の使い分けについて理解することができる。＋復習プリント
	事後学習	話し言葉・書き言葉の注意点を確認する。（３０分）
6	事前学習	コロケーションとは何かを考える。（３０分）
	授業内容	（教科書）第１１回「コロケーション」①慣用的な言葉のつながりについて理解することができる。
	事後学習	慣用的な言葉のつながり方を確認する。（３０分）
7	事前学習	コロケーションとは何かを考える。（３０分）
	授業内容	（教科書）第１１回「コロケーション」②慣用的な言葉のつながりについて理解することができる。＋復習プリント
	事後学習	間違いやすいコロケーションを確認する。（３０分）
8	事前学習	部首・音訓・熟語を確認する。（３０分）
	授業内容	（教科書）第１２回「部首・音訓・熟語」①部首や読み方（音読み・訓読み）について理解することができる。
	事後学習	漢字の成り立ち、部首とは何かを確認する。（３０分）
9	事前学習	音読み・訓読みの違いは何かを確認する。（３０分）
	授業内容	（教科書）第１２回「部首・音訓・熟語」②熟語について理解することができる。＋復習プリント
	事後学習	音訓や熟語とは何かを確認する。（３０分）
10	事前学習	現代仮名遣いと送り仮名の付け方を確認する。（３０分）
	授業内容	（教科書）第１３回「仮名遣い・送り仮名」①現代仮名遣いについて理解することができる。
	事後学習	間違いやすい現代仮名遣いと送り仮名の付け方を確認する。（３０分）
11	事前学習	現代仮名遣いと送り仮名の付け方を確認する。（３０分）
	授業内容	（教科書）第１３回「仮名遣い・送り仮名」②送り仮名について理解することができる。＋復習プリント
	事後学習	間違いやすい現代仮名遣いと送り仮名の付け方を確認する。（３０分）
12	事前学習	これまでの学習を復習する。（３０分）
	授業内容	（教科書）第１４回「総合問題」①長い文章を読んで、これまで学んできたことを確認することができる。
	事後学習	総合問題で間違った問題を再度復習する。（３０分）
13	事前学習	これまでの学習を復習する。（３０分）
	授業内容	（教科書）第１４回「総合問題」②長い文章を読んで、これまで学んできたことを確認することができる。
	事後学習	総合問題で間違った問題を再度復習する。（３０分）
14	事前学習	これまでの学習を復習する。（３０分）
	授業内容	（教科書）第１４回「総合問題」③長い文章を読んで、これまで学んできたことを確認することができる。
	事後学習	総合問題で間違った問題を再度復習する。（３０分）
15	事前学習	後期授業内容を復習する。（４０分）
	授業内容	後期授業の復習テストとその解説
	事後学習	試験で間違った問題を再度復習する。（３０分）

科目名	日本語Ⅶ	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	担当者が用意したプリント資料に沿って授業を進める。授業は、（１）問題をその場で解く時間、（２）解説の時間、（３）全員で討議する時間の三つの部分に分ける。資料には、様々な書籍から、今問題となっている事項を取り出して扱う。最新の日本語が適切に読めて正しい日本語表現ができるようになることを目指す。				
授業目的・到達目標	日本語の文章を厳密に解説して筆者の言わんとするところを正しく理解するとともに、それを正しい日本語で文章化することにより、課題に対して客観的・論理的にアプローチできる能力を育成することを目的とする。併せて、積極的な授業への参加（特に日本語の文章作成、日本語に対する質問）と能動的な事前・事後学習により幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力の育成を図ることも目的とする。そして最終的には、受講生が、日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正しい日本語で自己を表現し、他者と適切なコミュニケーションが取れるようになることを目標とする。関連DP及びCP：1, 6, 8				
履修条件	国語辞典を持参すること（電子辞書可）。 なお、日本語ⅠからⅥうち、少なくとも3つ以上を履修した上で受講すること。				
授業方法	プリント教材の演習と解説。さらには全体で討論を行う。また課題を用意するので、それに関して文章を書いて提出。添削指導を行う。15回目に授業目的・到達目標の達成度確認試験を行い、併せてその解説と講評を実施する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	3分の1以上欠席したものには単位を与えない。また、提出物も評価の対象とする。詳しくは、第1回に解説する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	講義中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館8階の小野研究室にて質問・相談を受け付ける（メールで事前にアポをとること）。また、第1回の授業時に質問用メールアドレスを公表するので、それも積極的に利用し、質問などで授業への理解を深めて欲しい。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読んで、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）
	授業内容	〔１〕講義概要と成績評価に関する説明。〔２〕自己紹介文の完成と提出。
	事後学習	講義概要と成績評価に関する説明をまとめ、理解の徹底を図る。不明な点は、質問用メールアドレスを使用し、メールでの質問に慣れるようにする。（30分）
2	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「日本人の風呂好き」に関して、図書館やネットで調べておく。（30分）
	授業内容	「日本人の清潔好き」に関するコラムの解説①。
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「日本人の清潔好き」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。（30分）
3	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。母国と日本とで「入浴」に関する違いについて、図書館やネットで調べておく。（30分）
	授業内容	「日本人の清潔好き」に関するコラムの解説②。
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「日本人の清潔好き」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。（30分）
4	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「日本の社員研修」に関して、図書館やネットで調べておく。2回・3回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。（30分）
	授業内容	2回・3回授業の確認小テスト 「新入社員の心構え」に関するコラムの解説①。
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「新入社員の心構え」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。（30分）

5	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「初心忘るべからず」という言葉に関して、図書館やネットで調べておく。（30分）
	授業内容	「新入社員の心構え」に関するコラムの解読②。
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「新入社員の心構え」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。（30分）
6	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「イスラム」に関して、図書館やネットで調べておく。4回・5回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。（30分）
	授業内容	4回・5回授業の確認小テスト 「異文化の理解」に関するコラムの解読①。
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「異文化の理解」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。（30分）
7	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「ラマダン」に関して、図書館やネットで調べておく。（30分）
	授業内容	「異文化の理解」に関するコラムの解読②。
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「異文化の理解」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。（30分）
8	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「モナリザ」に関して、図書館やネットで調べておく。6回・7回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。（30分）
	授業内容	6回・7回授業の確認小テスト 「モナリザ」に関するコラムの解読①
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「モナリザ」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。（30分）
9	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「夏目漱石」に関して、図書館やネットで調べておく。（30分）
	授業内容	「モナリザ」に関するコラムの解読②
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「モナリザ」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。（30分）
10	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「日本の学校でのいじめ」に関して、図書館やネットで調べておく。8回・9回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。（30分）
	授業内容	8回・9回授業の確認小テスト 「いじめ問題」に関する社説の解読①
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「いじめ問題」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。（30分）
11	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「いじめ対策」に関して、図書館やネットで調べておく。（30分）
	授業内容	「いじめ問題」に関する社説の解読②
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「いじめ問題」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。（30分）
12	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「限界集落」に関して、図書館やネットで調べておく。10回・11回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。（30分）
	授業内容	10回・11回授業の確認小テスト 「地方の活性化」に関する社説の解読①
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「地方の活性化」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。（30分）
13	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）
	授業内容	「地方の活性化」に関する社説の解読②
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「地方の活性化」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。（30分）
14	事前学習	12回・13回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。（30分）
	授業内容	12回・13回授業の確認小テスト 半年の学習を自分の言葉でまとめる。
	事後学習	確認小テストで、間違えた個所を復習しておく。また、これまでの学習を振り返り、次の試験の対策を立てておく。（2時間）
15	事前学習	これまでのプリントと確認小テストを復習し、授業目的・到達目標の達成度確認試験の準備と対策を行う。（2時間）
	授業内容	〔1〕授業目的・到達目標の達成度確認試験。〔2〕試験の解説・講評。質疑応答。
	事後学習	試験問題を再度解きなおしてみる。他の受講者たちの質疑応答をもとに、各自の理解の至らなかった点を復習する。（1時間）

科目名	日本語Ⅶ	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	テキストを元に、日本語長文の読解・筆記を中心とした文章力を育成する。前期は特に日常的な表現やエッセイを中心とした日本語文章を扱う。			
授業目的・到達目標	文章表現を行うさいに有用な日本語の文章力を養成することを目的とする。 半期で長文の読み書きや、文章でのコミュニケーション能力を成長させられることを目標とする。 関連DP及びCP：総合領域1, 6, 8			
履修条件	特になし。			
授業方法	履修生に課題を出し、添削の上で教場にて返却する。遅刻・欠席は厳しく取り、原則として認めない。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	毎回の授業で課題として出す作文を、評価基準として重視する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015年	アルク	改訂版 大学・大学院留学生の日本語①読解編	アカデミックジャパニーズ研究会
	備考			
参考書	二通信子他『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』（東京大学出版会）			
オフィスアワー	火曜4限、本館1614研究室にて（事前に必ずアポイントメントを取ること）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	日本語についてのこれまでの知識を復習しておくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス。日本語について。
	事後学習	日本語の特徴について調べておくこと。講義内容の復習をしておくこと。（30分）
2	事前学習	テキスト第1課「言葉の役割」を事前に読んでくること。（2時間）
	授業内容	第1課「言葉の役割」
	事後学習	第1課「言葉の役割」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
3	事前学習	テキスト第2課「イルカと超音波」を事前に読んでくること。（2時間）
	授業内容	第2課「イルカと超音波」
	事後学習	第2課「イルカと超音波」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
4	事前学習	テキスト第3課「地図の分類」を事前に読んでくること。（2時間）
	授業内容	第3課「地図の分類」
	事後学習	第3課「地図の分類」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）

5	事前学習	テキスト第4課「睡眠時間」を事前に読んでくること。（2時間）
	授業内容	第4課「睡眠時間」
	事後学習	第4課「睡眠時間」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
6	事前学習	テキスト第5課「日時計」を事前に読んでくること。（2時間）
	授業内容	第5課「日時計」
	事後学習	第5課「日時計」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
7	事前学習	テキスト第6課「研究者の二つのタイプ」を事前に読んでくること。（2時間）
	授業内容	第6課「研究者の二つのタイプ」
	事後学習	第6課「研究者の二つのタイプ」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
8	事前学習	テキスト第7課「地球温暖化」を事前に読んでくること。（2時間）
	授業内容	第7課「地球温暖化」
	事後学習	第7課「地球温暖化」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
9	事前学習	テキスト第8課「風呂場の戸」を事前に読んでくること。（2時間）
	授業内容	第8課「風呂場の戸」
	事後学習	第8課「風呂場の戸」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
10	事前学習	テキスト第9課「手で数を表す」を事前に読んでくること。（2時間）
	授業内容	第9課「手で数を表す」
	事後学習	第9課「手で数を表す」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
11	事前学習	テキスト第10課「文明はどのように伝わったか1」を事前に読んでくること。（2時間）
	授業内容	第10課「文明はどのように伝わったか1」
	事後学習	第10課「文明はどのように伝わったか1」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
12	事前学習	テキスト第11課「文明はどのように伝わったか2」を事前に読んでくること。（2時間）
	授業内容	第11課「文明はどのように伝わったか2」
	事後学習	第11課「文明はどのように伝わったか2」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
13	事前学習	テキスト第12課「カラスの自動車利用行動」を事前に読んでくること。（2時間）
	授業内容	第12課「カラスの自動車利用行動」
	事後学習	第12課「カラスの自動車利用行動」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
14	事前学習	テキスト第13課「台湾南部の客家社会についての一考察」を事前に読んでくること。最終課題に向けての準備をしておくこと。（2時間）
	授業内容	第13課「台湾南部の客家社会についての一考察」
	事後学習	第13課「台湾南部の客家社会についての一考察」について、講義内容の復習をしておくこと。最終課題に向けての準備をしておくこと。（2時間）
15	事前学習	半期の内容の復習をしておくこと。最終課題に向けての準備をしておくこと。（2時間）
	授業内容	アカデミック・ライティングについて。半期の授業をふりかえり、理解の到達度を確認する。
	事後学習	アカデミック・ライティングについて調べておくこと。半期の内容を振り返り、確認すること。（2時間）

科目名	日本語Ⅷ	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	担当者が用意したプリント資料に沿って授業を進める。授業は、（１）問題をその場で解く時間、（２）解説の時間、（３）全員で討議する時間の三つの部分に分ける。資料には、様々な書籍から、今問題となっている事項を取り出して扱う。最新の日本語が適切に読めて正しい日本語表現ができるようになることを目指す。				
授業目的・到達目標	日本語の文章を厳密に解説して筆者の言わんとするところを正しく理解するとともに、それを正しい日本語で文章化することにより、課題に対して客観的・論理的にアプローチできる能力を育成することを目的とする。併せて、積極的な授業への参加（特に日本語の文章作成、日本語に対する質問）と能動的な事前・事後学習により幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力の育成を図ることも目的とする。そして最終的には、受講生が、日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正しい日本語で自己を表現し、他者と適切なコミュニケーションが取れるようになることを目標とする。関連DP及びCP：1, 6, 8				
履修条件	国語辞典を持参すること（電子辞書可）。 なお、日本語ⅠからⅥうち、少なくとも3つ以上を履修した上で受講すること。				
授業方法	プリント教材の演習と解説。さらには全体で討論を行う。また課題を用意するので、それに関して文章を書いて提出。添削指導を行う。15回目に授業目的・到達目標の達成度確認試験を行い、併せてその解説と講評を実施する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	3分の1以上欠席したものには単位を与えない。また、提出物も評価の対象とする。詳しくは、第1回に解説する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	講義中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館8階の小野研究室にて質問・相談を受け付ける（メールで事前にアポをとること）。また、第1回の授業時に質問用メールアドレスを公表するので、それも積極的に利用し、質問などで授業への理解を深めて欲しい。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読んで、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）
	授業内容	〔１〕講義概要と成績評価に関する説明。〔２〕日本と祖国との違いに関する課題文章の完成と提出。
	事後学習	講義概要と成績評価に関する説明をまとめ、理解の徹底を図る。不明な点は、質問用メールアドレスを使用し、メールでの質問に慣れるようにする。（30分）
2	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「怒る」と「叱る」の違いに関して、図書館やネットで調べておく。（30分）
	授業内容	「平尾誠二さんの叱り方」に関するコラムの解説①。
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「平尾誠二さんの叱り方」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。（30分）
3	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。効果的な「叱り方」に関して各自で考えておく。（30分）
	授業内容	「平尾誠二さんの叱り方」に関するコラムの解説②。
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「平尾誠二さんの叱り方」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。（30分）
4	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「納豆」に関して、図書館やネットで調べておく。2回・3回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。（30分）
	授業内容	2回・3回授業の確認小テスト 「納豆」に関するコラムの解説①。
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「納豆」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。（30分）

5	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「日配食品」にどのようなものがあるか、図書館やネットで調べておく。(30分)
	授業内容	「納豆」に関するコラムの解説②。
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「納豆」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。(30分)
6	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「東日本大震災」に関して、図書館やネットで調べておく。4回・5回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。(30分)
	授業内容	4回・5回授業の確認小テスト 「東日本大震災」に関するコラムの解説①。
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「東日本大震災」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。(30分)
7	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「関東大震災」に関して、図書館やネットで調べておく。(30分)
	授業内容	「東日本大震災」に関するコラムの解説②。
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「東日本大震災」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。(30分)
8	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。喫茶店の成り立ちに関して、図書館やネットで調べておく。6回・7回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。(30分)
	授業内容	6回・7回授業の確認小テスト 「喫茶店」に関するコラムの解説①
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「喫茶店」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。(30分)
9	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。各自が「喫茶店」に臨むことをまとめておく。(30分)
	授業内容	「喫茶店」に関するコラムの解説②
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「喫茶店」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。(30分)
10	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「ブラックアウト」に関して、図書館やネットで調べておく。8回・9回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。(30分)
	授業内容	8回・9回授業の確認小テスト 「ブラックアウト」に関する社説の解説①
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「ブラックアウト」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。(30分)
11	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。寺田寅彦に関して、図書館やネットで調べておく。(30分)
	授業内容	「ブラックアウト」に関する社説の解説②
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「ブラックアウト」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。(30分)
12	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。「休養」「教養」という言葉に関して図書館やネットで調べておく。10回・11回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。(30分)
	授業内容	10回・11回授業の確認小テスト 「休養と教養」に関する社説の解説①
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「休養と教養」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。(30分)
13	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。(30分)
	授業内容	「休養と教養」に関する社説の解説②
	事後学習	教材プリントの練習問題で、間違えた個所を復習しておく。また、授業内に出された「休養と教養」に関する日本語の文章を完成させて、次回提出できるようにする。(30分)
14	事前学習	12回・13回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。(30分)
	授業内容	12回・13回授業の確認小テスト 半年の学習を自分の言葉でまとめる。
	事後学習	確認小テストで、間違えた個所を復習しておく。また、これまでの学習を振り返り、次の試験の対策を立てておく。(2時間)
15	事前学習	これまでのプリントと確認小テストを復習し、授業目的・到達目標の達成度確認試験の準備と対策を行う。(2時間)
	授業内容	〔1〕授業目的・到達目標の達成度確認試験。〔2〕試験の解説・講評。質疑応答。
	事後学習	試験問題を再度解きなおしてみる。他の受講者たちの質疑応答をもとに、各自の理解の至らなかった点を復習する。(1時間)

科目名	日本語Ⅷ	担当者	宮澤 隆義	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	テキストを元に、日本語長文の読解・筆記を中心とした文章力を育成する。後期はアカデミック・ライティングの作法を念頭に置いた日本語文章を扱う。			
授業目的・到達目標	文章表現を行うさいに有用な日本語の文章力を養成することを目的とする。 アカデミック・ライティングの書き方や、論文の比較的高度な日本語の運用に関する能力を上達させることを目標とする。 関連DP及びCP：総合領域1, 6, 8			
履修条件	特になし。			
授業方法	履修生に課題を出し、添削の上で教場にて返却する。遅刻・欠席は厳しく取り、原則として認めない。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	毎回の授業で課題として出す作文を、評価基準として重視する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015年	アルク	改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編	アカデミックジャパンニーズ研究会
	備考			
参考書	二通信子他『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』（東京大学出版会）			
オフィスアワー	火曜4限、本館1614研究室にて（事前に必ずアポイントメントを取ること）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	日本語についてのこれまでの知識を復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス。日本語について。
	事後学習	日本語について書かれた書籍を図書館で調べておくこと。講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
2	事前学習	テキスト第1課「作文の基本（1）」を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	第1課「作文の基本（1）」
	事後学習	第1課「作文の基本（1）」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
3	事前学習	テキスト第2課「作文の基本（2）」を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	第2課「作文の基本（2）」
	事後学習	第2課「作文の基本（2）」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
4	事前学習	テキスト第3課「課題の提示」を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	第3課「課題の提示」
	事後学習	第3課「課題の提示」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）

5	事前学習	テキスト第4課「目的の提示」を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	第4課「目的の提示」
	事後学習	第4課「目的の提示」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
6	事前学習	テキスト第5課「定義と分類」を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	第5課「定義と分類」
	事後学習	第5課「定義と分類」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
7	事前学習	テキスト第6課「図表の提示」を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	第6課「図表の提示」
	事後学習	第6課「図表の提示」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
8	事前学習	テキスト第7課「変化の形容」を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	第7課「変化の形容」
	事後学習	第7課「変化の形容」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
9	事前学習	テキスト第8課「対比と比較」を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	第8課「対比と比較」
	事後学習	第8課「対比と比較」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
10	事前学習	テキスト第9課「原因の考察」を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	第9課「原因の考察」
	事後学習	第9課「原因の考察」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
11	事前学習	テキスト第10課「列挙」を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	第10課「列挙」
	事後学習	第10課「列挙」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
12	事前学習	テキスト第11課「引用」を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	第11課「引用」
	事後学習	第11課「引用」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
13	事前学習	テキスト第12課「同意と反論」を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	第12課「同意と反論」
	事後学習	第12課「同意と反論」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
14	事前学習	テキスト第13課「帰結」を読んでおくこと。最終課題の準備をしておくこと。（2時間）
	授業内容	第13課「帰結」
	事後学習	第13課「帰結」について、講義内容の復習をしておくこと。（2時間）
15	事前学習	最終課題の準備をしておくこと。（2時間）
	授業内容	アカデミック・ライティングと文章一般について。半期の授業をふりかえり、理解の到達度を確認する。
	事後学習	アカデミック・ライティングと文章一般について、講義内容を復習しておくこと。一年の講義内容を確認すること。（2時間）

科目名	日本語Ⅸ	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	担当者が用意したプリント資料に沿って授業を進める。授業は、（１）問題をその場で解く時間、（２）解説の時間、（３）全員で討議する時間の三つの部分に分ける。資料には、様々な書籍から、今問題となっている事項を取り出して扱う。最新の日本語が適切に読めて正しい日本語表現ができるようになることを目指す。				
授業目的・到達目標	日本語の文章を厳密に解説して筆者の言わんとするところを正しく理解するとともに、それを正しい日本語で文章化することにより、課題に対して客観的・論理的にアプローチできる能力を育成することを目的とする。併せて、積極的な授業への参加（特に日本語の文章作成、日本語に対する質問）と能動的な事前・事後学習により幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力の育成を図ることも目的とする。そして最終的には、受講生が、日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正しい日本語で自己を表現し、他者と適切なコミュニケーションが取れるようになることを目標とする。関連DP及びCP：1, 6, 8				
履修条件	「日本語Ⅰ～Ⅳ」は履修済みであることを履修条件とする。「日本語Ⅴ～Ⅷ」のうち２科目は履修済みであることが望ましい。なお、授業には「国語辞典（日本語辞典）」を持参すること。				
授業方法	教員の側が課題を用意し、その演習と解説で授業を進める。なお授業の進捗状況を見て、授業の回を適宜入れ替えたり教材の変更を行ったりする場合もある。最終の15回目に授業内試験を行い、その解説・講評と質疑応答を実施する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	3分の1以上欠席したものには単位を与えない。また、提出物も評価の対象とする。詳しくは、第1回に解説する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	講義中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館8階の小野研究室にて質問・相談を受け付ける（メールで事前にアポをとること）。また、第1回の授業時に質問用メールアドレスを公表するので、それも積極的に利用し、質問などで授業への理解を深めて欲しい。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読んで、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）
	授業内容	講義概要と成績評価に関する説明（履修希望者は必ず出席すること）
	事後学習	講義概要と成績評価に関する説明をまとめ、理解の徹底を図る。不明な点は、質問用メールアドレスを使用し、メールでの質問に慣れるようにする。（30分）
2	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）
	授業内容	文章読解と文章作成の基本1（要約の方法と実践）
	事後学習	要約の方法と実践に関する講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）
3	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）
	授業内容	文章読解と文章作成の基本2（段落構成の方法）
	事後学習	段落構成の方法に関する講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）
4	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）
	授業内容	〔1〕文章読解と文章作成の基本3（引用などのルール） 〔2〕2回・3回の授業内容の確認小テスト
	事後学習	引用などのルールに関する講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）

5	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）
	授業内容	〔1〕2回・3回の授業内容の確認小テストの返却と解説 〔2〕評論文の読解と演習1（「異文化理解」に関する文章の読解）
	事後学習	「異文化理解」に関する文章の読解に関する講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）
6	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）
	授業内容	〔1〕評論文の読解と演習2（「異文化理解」に関する文章作成と解説） 〔2〕4回・5回の授業内容の確認小テスト
	事後学習	「異文化理解」に関する文章作成と解説に関する講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）
7	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）
	授業内容	〔1〕4回・5回の授業内容の確認小テストの返却と解説 〔2〕評論文の読解と演習3（「現代日本の若者」に関する文章の読解）
	事後学習	「現代日本の若者」に関する文章の読解についての講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）
8	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）
	授業内容	〔1〕評論文の読解と演習4（「現代日本の若者」に関する文章作成と解説） 〔2〕6回・7回の授業内容の確認小テスト
	事後学習	「現代日本の若者」に関する文章作成と解説に関する講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）
9	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）
	授業内容	〔1〕6回・7回の授業内容の確認小テストの返却と解説 〔2〕評論文の読解と演習5（「科学思想史」に関する文章の読解）
	事後学習	「科学思想史」に関する文章の読解の講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）
10	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）
	授業内容	〔1〕評論文の読解と演習6（「科学思想史」に関する文章作成と解説） 〔2〕8回・9回の授業内容の確認小テスト
	事後学習	「科学思想史」に関する文章作成と解説の講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）
11	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）
	授業内容	〔1〕8回・9回の授業内容の確認小テストの返却と解説 〔2〕随筆の読解と演習1（「日本の美」に関する文章の読解）
	事後学習	「日本の美」に関する文章の読解の講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）
12	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）
	授業内容	〔1〕随筆の読解と演習2（「日本の美」に関する文章作成と解説） 〔2〕10回・11回の授業内容の確認小テスト
	事後学習	「日本の美」に関する文章作成と解説の講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）
13	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）
	授業内容	〔1〕11回・12回の授業内容の確認小テストの返却と解説 〔2〕随筆の読解と演習3（「生と死」に関する文章の読解）
	事後学習	「生と死」に関する文章の読解の講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）
14	事前学習	12回・13回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。（30分）
	授業内容	12回・13回授業の確認小テスト 半年の学習を自分の言葉でまとめる。
	事後学習	確認小テストで、間違えた個所を復習しておく。また、これまでの学習を振り返り、次回の試験の対策を立てておく。（2時間）
15	事前学習	これまでのプリントと確認小テストを復習し、授業目的・到達目標の達成度確認試験の準備と対策を行う。（2時間）
	授業内容	〔1〕授業目的・到達目標の達成度確認試験。〔2〕試験の解説・講評。質疑応答。
	事後学習	試験問題を再度解きなおしてみる。他の受講者たちの質疑応答をもとに、各自の理解の至らなかった点を復習する。（1時間）

科目名	日本語Ⅹ	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	担当者が用意したプリント資料に沿って授業を進める。授業は、（１）問題をその場で解く時間、（２）解説の時間、（３）全員で討議する時間の三つの部分に分ける。資料には、様々な書籍から、昨今問題となっている事項を取り出して扱う。最新の日本語が適切に読めて正しい日本語表現ができるようになることを目指す。			
授業目的・到達目標	日本語の文章を厳密に解説して筆者の言わんとするところを正しく理解するとともに、それを正しい日本語で文章化することにより、課題に対して客観的・論理的にアプローチできる能力を育成することを目的とする。併せて、積極的な授業への参加（特に日本語の文章作成、日本語に対する質問）と能動的な事前・事後学習により幅広い知識と教養を身につけ、それをもととした思考力・判断力・洞察力の育成を図ることも目的とする。そして最終的には、受講生が、日本語表現の特質を理解してそのスキルを身につけ、社会に出てからも正しい日本語で自己を表現し、他者と適切なコミュニケーションが取れるようになることを目標とする。関連DP及びCP：1, 6, 8			
履修条件	「日本語Ⅰ～Ⅳ」は履修済みであることを履修条件とする。「日本語Ⅴ～Ⅷ」のうち２科目は履修済みであることが望ましい。なお、授業には「国語辞典（日本語辞典）」を持参すること。			
授業方法	教員の側が課題を用意し、その演習と解説で授業を進める。なお授業の進捗状況を見て、授業の回を適宜入れ替えたり教材の変更を行ったりする場合もある。最終の15回目に授業内試験を行い、その解説・講評と質疑応答を実施する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	3分の1以上欠席したものには単位を与えない。また、提出物も評価の対象とする。詳しくは、第1回に解説する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		
参考書	講義中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館8階の小野研究室にて質問・相談を受け付ける（メールで事前にアポをとること）。また、第1回の授業時に質問用メールアドレスを公表するので、それも積極的に利用し、質問などで授業への理解を深めて欲しい。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読んで、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）
	授業内容	講義概要と成績評価に関する説明（履修希望者は必ず出席すること）
	事後学習	講義概要と成績評価に関する説明をまとめ、理解の徹底を図る。不明な点は、質問用メールアドレスを使用し、メールでの質問に慣れるようにする。（30分）
2	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）
	授業内容	文章読解と文章作成の応用1（留学生の間違いやすい日本語表現）
	事後学習	留学生の間違いやすい日本語表現に関する講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）
3	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）
	授業内容	文章読解と文章作成の応用2（推敲の方法）
	事後学習	推敲の方法に関する講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）
4	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。（30分）
	授業内容	〔1〕文章読解と文章作成の応用3（制限文字数で作文する方法） 〔2〕2回・3回の授業内容の確認小テスト
	事後学習	制限文字数で作文する方法に関する講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。（30分）

5	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。(30分)
	授業内容	〔1〕2回・3回の授業内容の確認小テストの返却と解説 〔2〕評論文の読解と演習1(「日本での日常生活と言葉遣い」に関する文章の読解)
	事後学習	「日本での日常生活と言葉遣い」に関する文章の読解に関する講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。(30分)
6	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。(30分)
	授業内容	〔1〕評論文の読解と演習2(「日本での日常生活と言葉遣い」に関する文章作成と解説) 〔2〕4回・5回の授業内容の確認小テスト
	事後学習	「日本での日常生活と言葉遣い」に関する文章作成と解説に関する講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。(30分)
7	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。(30分)
	授業内容	〔1〕4回・5回の授業内容の確認小テストの返却と解説 〔2〕評論文の読解と演習3(「ビジネス社会と敬語」に関する文章の読解)
	事後学習	「ビジネス社会と敬語」に関する文章の読解についての講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。(30分)
8	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。(30分)
	授業内容	〔1〕評論文の読解と演習4(「ビジネス社会と敬語」に関する文章作成と解説) 〔2〕6回・7回の授業内容の確認小テスト
	事後学習	「ビジネス社会と敬語」に関する文章作成と解説に関する講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。(30分)
9	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。(30分)
	授業内容	〔1〕6回・7回の授業内容の確認小テストの返却と解説 〔2〕評論文の読解と演習5(「日本の接客」に関する文章の読解)
	事後学習	「日本の接客」に関する文章の読解の講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。(30分)
10	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。(30分)
	授業内容	〔1〕評論文の読解と演習6(「日本の接客」に関する文章作成と解説) 〔2〕8回・9回の授業内容の確認小テスト
	事後学習	「日本の接客」に関する文章作成と解説の講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。(30分)
11	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。(30分)
	授業内容	〔1〕8回・9回の授業内容の確認小テストの返却と解説 〔2〕随筆の読解と演習1(「未来に向けて」に関する文章の読解)
	事後学習	「未来に向けて」に関する文章の読解の講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。(30分)
12	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。(30分)
	授業内容	〔1〕随筆の読解と演習2(「未来に向けて」に関する文章作成と解説) 〔2〕10回・11回の授業内容の確認小テスト
	事後学習	「未来に向けて」に関する文章作成と解説の講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。(30分)
13	事前学習	教材プリントを事前に読み、読めない漢字、意味の分からない言葉などを調べる。(30分)
	授業内容	〔1〕11回・12回の授業内容の確認小テストの返却と解説 〔2〕随筆の読解と演習3(「日本滞在記」に関する文章の読解)
	事後学習	「日本滞在記」に関する文章の読解の講義の内容を再確認し、難しい語句は理解して使えるようにする。また、確認小テストの対策をしておく。(30分)
14	事前学習	12回・13回授業の確認小テストを行うので、事前の復習をしておく。(30分)
	授業内容	12回・13回授業の確認小テスト 半年の学習を自分の言葉でまとめる。
	事後学習	確認小テストで、間違えた箇所を復習しておく。また、これまでの学習を振り返り、次の試験の対策を立てておく。(2時間)
15	事前学習	これまでのプリントと確認小テストを復習し、授業目的・到達目標の達成度確認試験の準備と対策を行う。(2時間)
	授業内容	〔1〕授業目的・到達目標の達成度確認試験。〔2〕試験の解説・講評。質疑応答。
	事後学習	試験問題を再度解きなおしてみる。他の受講者たちの質疑応答をもとに、各自の理解の至らなかった点を復習する。(1時間)

科目名	スペイン語ⅠA	担当者	河崎 佳代	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	指定のスペイン語初級の教科書を軸に学習します。毎回、文法の学習の後、会話練習のペアまたはグループワークをします。学習したことを定着、確認のための小テストがあります。また、スペイン語圏の文化などについても折に触れて紹介していきます。					
授業目的・到達目標	【授業目的】スペイン語文法の基礎を身につけ、挨拶、自己紹介などの簡単な会話ができる基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】スペイン語技能検定6級（入門レベル）のスペイン語力を習得できることを目標とします。 関連DP及びCP:外国語科目領域 6					
履修条件	特になし					
授業方法	テキストを中心に進めます。辞書必携。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		中間試験（30%） 期末試験（40%） 授業参加度、提出物の総合（30%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2011年初版	朝日出版		Plaza Amigos Español para hablar I		青砥清一他
	備考					
参 考 書	『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』 高垣敏博 他 小学館					
オフィスアワー	授業の前後、講堂にて。 授業時間：水曜3・4限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	スペイン語を学習したい動機、スペイン語圏で興味のある事柄について文章にできるよう、考えておく。(30分)
	授業内容	オリエンテーション・参考文献の紹介・挨拶表現、アルファベット
	事後学習	復習。授業で学んだ表現、アルファベットを覚える。(30分)
2	事前学習	第一回目の授業で配られた用紙にスペイン語を学習したい動機、スペイン語圏で興味のある事柄などについて記入する。(30分)
	授業内容	L1 スペイン語の発音
	事後学習	スペイン語の単語を正しい発音で読めるように練習する。(30分)
3	事前学習	新出単語調べ(30分)
	授業内容	L1 スペイン語の発音
	事後学習	スペイン語の単語を正しい発音で読めるように練習する。(30分)
4	事前学習	新出単語調べ(30分)
	授業内容	L2 名詞・冠詞
	事後学習	p.9 練習問題 A-1(30分)

5	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	L2 名詞・冠詞
	事後学習	p.9 練習問題 B（30分）
6	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	L3 形容詞・指示詞
	事後学習	p.13 練習問題 A-1（30分）
7	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	L3 形容詞・指示詞
	事後学習	p.13 練習問題 B（30分）
8	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	中間試験 L4 ser
	事後学習	p.17 練習問題 A-1（30分）
9	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	L4 ser
	事後学習	p.17 練習問題 B（30分）
10	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	L5 estar
	事後学習	p.21 練習問題 A-1（30分）
11	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	L5 estar
	事後学習	p.21 練習問題 B（30分）
12	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	L6 hay
	事後学習	p.25 練習問題 A-1（30分）
13	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	L6 hay
	事後学習	総復習（30分）
14	事前学習	総復習（30分）
	授業内容	まとめと期末試験
	事後学習	試験でできなかったことを確認しておく（30分）
15	事前学習	試験でできなかったことを確認しておく（30分）
	授業内容	期末テストフィードバック
	事後学習	試験のフィードバックで確認した間違えていた箇所を復習し、覚える。（30分）

科目名	スペイン語 I B	担当者	河崎 佳代	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	指定のスペイン語初級の教科書を軸に学習します。毎回、文法の学習の後、会話練習のペアまたはグループワークをします。学習したことを定着、確認のための小テストがあります。また、スペイン語圏の文化などについても折に触れて紹介していきます。				
授業目的・到達目標	【授業目的】スペイン語文法の基礎を身につけ、挨拶、自己紹介などの簡単な会話ができる基礎力を養成することを目的としています。 【到達目標】スペイン語技能検定6級（入門レベル）のスペイン語力を習得できることを目標とします。 関連DP及びCP:外国語科目領域 6				
履修条件	スペイン語IAを履修しているか、同等のレベルであること。				
授業方法	テキストを中心に進めます。辞書必携。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	中間テスト（30％）期末テスト（40％） 授業参加度、提出物の総合（30％）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2011年初版	朝日出版		Plaza Amigos Español para hablar I	青砥清一他
	備考				
参 考 書	『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』 高垣敏博 他 小学館				
オフィスアワー	授業の前後、講堂にて。 授業時間：水曜3・4限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	L7 ar動詞
	事後学習	p. 29 練習問題 A-1（30分）
2	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	L7 ar動詞
	事後学習	p. 29 練習問題 A-2（30分）
3	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	L7 ar動詞
	事後学習	p. 29 練習問題 B（30分）
4	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	L8 er動詞、ir動詞
	事後学習	p. 33 練習問題 A-1（30分）

5	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	L8 er動詞、ir動詞
	事後学習	p. 33 練習問題 B（30分）
6	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	中間試験 L9 querer,
	事後学習	p. 37 練習問題 A-1（30分）
7	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	L9 poder
	事後学習	p. 37 練習問題 B（30分）
8	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	L10 hacer
	事後学習	p. 39 練習問題 A-1（30分）
9	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	L10 tener
	事後学習	p. 39 練習問題 B（30分）
10	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	L11 ir
	事後学習	p. 45 練習問題 A-1（30分）
11	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	L11 venir
	事後学習	p. 45 練習問題 B（30分）
12	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	L12 dar
	事後学習	p. 49 練習問題 A-1（30分）
13	事前学習	新出単語調べ（30分）
	授業内容	L12 saber
	事後学習	総復習（30分）
14	事前学習	総復習（30分）
	授業内容	まとめと期末試験
	事後学習	試験でできなかった箇所を確認しておく（30分）
15	事前学習	試験でできなかった箇所を確認しておく（30分）
	授業内容	試験のフィードバック
	事後学習	試験のフィードバックで確認した間違えていた箇所を復習し、覚える。（30分）

科目名	スペイン語ⅢA	担当者	河崎 佳代	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	毎回スペイン語の歌や映画を教材としてスペイン語の文法や表現を学びます。教材を通じてスペイン語圏の文化や歴史にも触れます。			
授業目的・到達目標	【授業目的】スペイン語文法の基礎表現力を養成することを目的とします。同時に広いスペイン語圏の文化を映像や歌などを通して知ることを行います。 【到達目標】スペイン語技能検定6級（入門レベル）のスペイン語力を定着させられることを目標とします 関連DP及びCP:外国語科目領域 6			
履修条件	スペイン語I修了時（スペイン語技能検定6級程度または直説法現在形までの文法知識習得済）のレベルである、または本授業と同時にスペイン語Ⅰを履修すること。			
授業方法	毎回配布される教材を使います。辞書必携。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	中間試験（30%） 期末試験（40%） 授業参加度、提出物の総合（30%）
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	毎回プリントを配布します。テキストは使用しません。		
参考書	『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』 高垣敏博 他 小学館			
オフィスアワー	授業の前後、講堂にて。 授業時間：水曜3・4限			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	スペイン語圏の歴史、文化などについて、どのようなことを知っているか考えをまとめておくこと。(30分)
	授業内容	スペイン語圏の国々について。スペイン語の発音。
	事後学習	スペイン語を正しい発音で読めるように練習する。(30分)
2	事前学習	スペイン語を正しい発音で読めるように練習する。(30分)
	授業内容	スペイン語の歌1（タンゴ）：ser動詞の復習。 数字（1-100）
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。 学習した文法、単語を覚える。(30分)
3	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	スペイン語の歌2（サルサ1）：estar hay
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。 学習した文法、単語を覚える。(30分)
4	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	スペイン語の歌3（メキシコ民謡）：形容詞
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。 学習した文法、単語を覚える。(30分)

5	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	スペイン語の歌4(キューバ1)：規則動詞
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。 学習した文法、単語を覚える。(30分)
6	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	映画と映画音楽：代名詞
	事後学習	文法事項、単語をまとめ、覚える。(30分)
7	事前学習	文法事項、単語をまとめ、覚える。(30分)
	授業内容	中間テスト スペイン語の歌5（スペイン）：poder
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。(30分) 学習した単語を覚える。
8	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	中間テストフィードバック スペイン語の歌6（フラメンコ）：querer
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。 学習した文法、単語を覚える。(30分)
9	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	スペイン語の歌7(サルサ2)：ir a
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。 学習した文法、単語を覚える。(30分)
10	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	映画と映画音楽：オノマトペ
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。 学習した文法、単語を覚える。(30分)
11	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	スペイン語の歌8（キューバ2）：pensar, venir
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。 学習した文法、単語を覚える。(30分)
12	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	スペイン語の歌9（レゲトン）：gustar型動詞
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。 学習した文法、単語を覚える。(30分)
13	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	スペイン語の歌10（ポップス）：現在分詞、進行形
	事後学習	文法事項、単語をまとめ、覚える。(30分)
14	事前学習	文法事項、単語をまとめ、覚える。(30分)
	授業内容	まとめと期末テスト
	事後学習	できなかったところを確認、復習しておく。(30分)
15	事前学習	できなかったところを確認、復習しておく。(30分)
	授業内容	期末テストフィードバック San Fermín祭りの映像
	事後学習	できなかったところを復習しておく。(30分)

科目名	スペイン語ⅢB	担当者	河崎 佳代	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	毎回スペイン語の歌や映画を教材としてスペイン語の文法や表現を学びます。教材を通じてスペイン語圏の文化や歴史にも触れます。				
授業目的・到達目標	【授業目的】スペイン語文法の基礎表現力を養成することを目的とします。同時に広いスペイン語圏の文化を映像や歌などを通して知ること目的としています。 【到達目標】スペイン語技能検定6級（入門レベル）のスペイン語力を定着させられることを目標とします 関連DP及びCP:外国語科目領域 6				
履修条件	スペイン語I修了時（スペイン語技能検定6級程度または直説法現在形までの文法知識習得済）のレベルである、または本授業と同時にスペイン語Ⅰを履修すること。				
授業方法	毎回配布される教材を使います。辞書必携。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	中間試験（30%） 期末試験（40%） 授業参加度、提出物の総合（30%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	毎回プリントを配布します。テキストは使用しません。			
参考書	『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』 高垣敏博 他 小学館				
オフィスアワー	授業の前後、講堂にて。 授業時間：水曜3・4限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	既習の動詞の活用、単語の復習(30分)
	授業内容	スペイン語の歌1（ポップス）：過去分詞、現在完了
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。 学習した文法、単語を覚える。(30分)
2	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。
	授業内容	スペイン語の歌2（ポップス）：点過去1
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。 学習した文法、単語を覚える。(30分)
3	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	スペイン語の歌3（ポップス）：点過去2
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。 学習した文法、単語を覚える。(30分)
4	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	スペイン語の歌4（ポップス）：線過去
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。 学習した文法、単語を覚える。(30分)

5	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	スペイン語の歌5（ポップス）：点過去と線過去 1
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。 学習した文法、単語を覚える。(30分)
6	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	スペイン語の歌6（ポップス）：点過去と線過去 2
	事後学習	文法事項、単語をまとめ、覚える。(30分)
7	事前学習	文法事項、単語をまとめ、覚える。(30分)
	授業内容	中間テスト スペイン語の歌7（ポップス）：命令形 1
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。(30分) 学習した単語を覚える。
8	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	中間テストフィードバック スペイン語の歌8（ポップス）：命令形 2
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。 学習した文法、単語を覚える。(30分)
9	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	スペイン語の歌9（ポップス）：否定命令形
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。 学習した文法、単語を覚える。(30分)
10	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	映画：未来形
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。 学習した文法、単語を覚える。(30分)
11	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	映画：過去未来形
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。 学習した文法、単語を覚える。(30分)
12	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	スペイン語の歌20（クリスマスソング）：接続法 1
	事後学習	授業で聞いた曲を繰り返し聴く。 学習した文法、単語を覚える。(30分)
13	事前学習	文法事項を確認し、わからない単語の意味を調べておく。(30分)
	授業内容	年末年始の映像：接続法 2
	事後学習	文法事項、単語をまとめ、覚える。(30分)
14	事前学習	文法事項、単語をまとめ、覚える。(30分)
	授業内容	まとめと期末テスト
	事後学習	できなかったところを確認、復習しておく。(30分)
15	事前学習	できなかったところを確認、復習しておく。(30分)
	授業内容	期末テストフィードバック
	事後学習	文法事項、単語をまとめ、覚える。

科目名	韓国語 I A	担当者	鄭 長勲	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	韓国語の文字と発音を覚え、基礎的な文法と表現を学びます。言葉と関連して韓国の社会・文化に触れ、日本との差異と類似点を考えます。			
授業目的・到達目標	【授業目的】韓国語の文字の読み書き、基礎的な文法の仕組みを中心とした語学力を養成することを目的とする。 【到達目標】あいさつと自己紹介、簡単な会話ができることを目標とする。韓国の文化を理解し、多様な視点から物事を考え、説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	特になし			
授業方法	授業予定に沿って講義と演習を行う。小テストを含め、適宜習得度合の確認と補足解説を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	受講姿勢/小テスト：60% 期末試験：40%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2012	朝日出版社	韓国語へ旅しよう 初級	李昌圭
	備考			
参考書	授業中提示			
オフィスアワー	木曜12：10～、金曜14：30～ 授業終了後の講堂にて cuch1113@gmail.com			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	1課の韓国語と文字を読む。（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	復習。（30分）
2	事前学習	説明を読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	基本母音 ・韓国語の概要を理解する。 ・基本母音字と発音を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
3	事前学習	説明を読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	基本子音 ・基本子音字と発音を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
4	事前学習	説明を読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	激音、濃音 ・基本子音字と合成子音字の発音を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）

5	事前学習	説明を読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	合成母音、終声（パッチム） ・合成母音字と終声に使われる子音の発音を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
6	事前学習	説明を読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	終声（パッチム）
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
7	事前学習	説明を読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	読み方練習
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
8	事前学習	説明を読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	読み方練習
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
9	事前学習	説明を読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	第10課 私は学生です。 ・人称代名詞を覚える。 ・自己紹介の表現を学ぶ。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
10	事前学習	説明を読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	第11課 これは何ですか。 ・指示代名詞を覚える。 ・体験の否定表現を学ぶ。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
11	事前学習	説明を読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	第12課 この人は誰ですか。 ・家族名称を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
12	事前学習	読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	第13課 復習
	事後学習	CDを聞き、訳を覚える。（30分）
13	事前学習	説明を読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	第14課 教室に何がありますか。 ・位置関係の語を覚える。 ・存在の表現を学ぶ。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
14	事前学習	説明を読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	第15課 何をしますか。 ・丁寧形表現を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
15	事前学習	出題範囲の内容を覚える。（30分）
	授業内容	期末試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験問題の誤答を確認する。（30分）

科目名	韓国語 I B	担当者	鄭 長勲	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	韓国語の文字と発音を覚え、基礎的な文法と表現を学びます。言葉と関連して韓国の社会・文化に触れ、日本との差異と類似点を考えます。			
授業目的・到達目標	【授業目的】韓国語の文字の読み書き、基礎的な文法の仕組みを中心とした語学力を養成することを目的とする。 【到達目標】あいさつと自己紹介、簡単な会話ができることを目標とする。韓国の文化を理解し、多様な視点から物事を考え、説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	韓国語の文字が読めること。			
授業方法	授業予定に沿って講義と演習を行う。小テストを含め、適宜習得度合の確認と補足解説を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	受講姿勢/小テスト：60% 期末試験：40%（ハングル検定試験の5級合格者には期末試験を免除する）
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2012	朝日出版社	韓国語へ旅しよう 初級	李昌圭
	備考			
参考書	授業中提示			
オフィスアワー	木曜12：10～、金曜14：30～ 授業終了後の講堂にて cuch1113@gmail.com			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	出題範囲の単語と表現を覚える。（30分）
	授業内容	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。
	事後学習	問題で理解度を確認する。（30分）
2	事前学習	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。（30分）
	授業内容	ハングル検定対策出題語尾、慣用表現を覚える。
	事後学習	問題で理解度を確認する。（30分）
3	事前学習	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。（30分）
	授業内容	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。
	事後学習	問題で理解度を確認する。（30分）
4	事前学習	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。（30分）
	授業内容	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。
	事後学習	問題で理解度を確認する。（30分）

5	事前学習	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。（30分）
	授業内容	ハングル検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。
	事後学習	問題で理解度を確認する。（30分）
6	事前学習	説明を読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	第16課 どこへ行かれますか。 ・時間関係をの語を練習する。 ・尊敬形表現を練習する。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
7	事前学習	読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	第17課 復習
	事後学習	CDを聞き、訳を覚える（30分）
8	事前学習	説明を読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	第18課 昨日何をしましたか。 ・過去形表現を練習する。 ・連結語尾を練習する。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
9	事前学習	説明を読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	第19課 試験はいつですか。 ・漢数字を練習する。 ・年月日の言い方を練習する。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
10	事前学習	説明を読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	第20課 いま何時ですか。 ・固有数字を練習する。 ・時刻の言い方を練習する。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
11	事前学習	読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	第21課 復習
	事後学習	CDを聞き、訳を覚える（30分）
12	事前学習	説明を読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	第22課 いくらですか。 ・丁寧、尊敬形を練習する。 ・数量表現を練習する。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
13	事前学習	説明を読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	第23課 何を食べましょうか。 ・提案、勧誘の表現を練習する。 ・希望、願望の表現を練習する。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
14	事前学習	読んでCDを聞く。（30分）
	授業内容	第24課 復習
	事後学習	CDを聞き、訳を覚える（30分）
15	事前学習	出題範囲の内容を覚える。（30分）
	授業内容	期末試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験問題の誤答を確認する。（30分）

科目名	韓国語ⅡA	担当者	鄭 長勲	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	韓国語の初級後半レベルの文法と表現を学びます。日常生活に必要な基本的な表現を習得します。韓国の文化と社会を理解します。				
授業目的・到達目標	【授業目的】初級後半レベルまでの言語能力を養成することを目的とする。 【到達目標】基本的な日常会話ができる。韓国の文化を理解し、多様な視点から物事を考え、説明できるようになること、学習した知識を活用して平易な文章を読むことができ、表現できることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	20時間以上の学習を終えた人				
授業方法	授業予定に沿って講義と演習を行う。小テストを含め、適宜習得度合の確認と補足解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	受講姿勢/小テスト:60% 期末試験:40%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2013	朝日出版社		韓国語へ旅しよう 中級	李昌圭
	備考				
参考書	授業中提示				
オフィスアワー	金曜16：10～ 授業終了後の講堂にて cuch1113@gmail.com				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。(30分)
	授業内容	授業ガイダンス 1課 理由、原因の表現を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。(30分)
2	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。(30分)
	授業内容	1課 否定の表現を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。(30分)
3	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。(30分)
	授業内容	1課 決定、約束の表現を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。(30分)
4	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。(30分)
	授業内容	2課 仮定、条件の表現を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。(30分)

5	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。(30分)
	授業内容	2課 連体形の表現を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。(30分)
6	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。(30分)
	授業内容	3課 確認、状況説明の表現を覚える
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。(30分)
7	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。(30分)
	授業内容	3課 根拠、約束の表現を覚える
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。(30分)
8	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。(30分)
	授業内容	5課 前提、前置きの表現を覚える
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。(30分)
9	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。(30分)
	授業内容	5課 禁止の表現を覚える
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。(30分)
10	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。(30分)
	授業内容	6課 意図、同時進行の表現を覚える
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。(30分)
11	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。(30分)
	授業内容	6課 可能の表現を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。(30分)
12	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。(30分)
	授業内容	7課 推測の表現を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。(30分)
13	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。(30分)
	授業内容	7課 感嘆の表現を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。(30分)
14	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。(30分)
	授業内容	7課 伝聞の表現を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。(30分)
15	事前学習	出題範囲の内容を覚える。(30分)
	授業内容	期末試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験問題の誤答を確認する。(30分)

科目名	韓国語ⅡB	担当者	鄭 長勲	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	韓国語の初級後半レベルの文法と表現を学びます。日常生活に必要な基本的な表現を習得します。韓国の文化と社会を理解します。					
授業目的・到達目標	【授業目的】初級後半レベルまでの言語能力を養成することを目的とする。 【到達目標】基本的な日常会話ができる。韓国の文化を理解し、多様な視点から物事を考え、説明できるようになること、ハングル能力検定4級を取得できることを目標とする。					
履修条件	30時間以上の学習を終えた人					
授業方法	授業予定に沿って講義と演習を行う。小テストを含め、適宜習得度合の確認と補足解説を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		受講姿勢/小テスト:60% 期末試験:40%（ハングル能力検定4級合格者には免除する）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2013	朝日出版社		韓国語へ旅しよう 中級		李昌圭
	備考					
参考書	授業中提示					
オフィスアワー	金曜16：10～ 授業終了後の講堂にて cuch1113@gmail.com					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	出題範囲の単語と表現を覚える。（30分）
	授業内容	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。
	事後学習	問題で理解度を確認する。（30分）
2	事前学習	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。（30分）
	授業内容	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。
	事後学習	問題で理解度を確認する。（30分）
3	事前学習	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。（30分）
	授業内容	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。
	事後学習	問題で理解度を確認する。（30分）
4	事前学習	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。（30分）
	授業内容	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。
	事後学習	問題で理解度を確認する。（30分）

5	事前学習	出題範囲の単語と表現を覚え、過去問を聞き取る。（30分）
	授業内容	ハングル能力検定対策、出題語尾、慣用表現を覚える。
	事後学習	問題で理解度を確認する。（30分）
6	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。（30分）
	授業内容	9課 能力の有無の表現を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
7	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。（30分）
	授業内容	9課 経験の有無の表現を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
8	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。（30分）
	授業内容	9課 中断、転換の表現を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
9	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。（30分）
	授業内容	10課 当然、必要の表現を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
10	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。（30分）
	授業内容	10課 禁止、制限の表現を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
11	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。（30分）
	授業内容	10課 許容、許可の表現を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
12	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。（30分）
	授業内容	11課 資格の表現を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
13	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。（30分）
	授業内容	11課 例示の表現を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
14	事前学習	説明と例文を読み、CDを聞く。（30分）
	授業内容	11課 待遇表現の表現を覚える。
	事後学習	練習問題で理解度を確認する。（30分）
15	事前学習	出題範囲の内容を覚える。（30分）
	授業内容	期末試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験問題の誤答を確認する。（30分）

科目名	ロシア語ⅠA	担当者	加藤 栄一	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ロシア語をゼロレベルからスタートする。			
授業目的・到達目標	【授業目的】ロシア語を理解するための基礎力の養成を目的とする。 【授業目標】ロシア語理解に必須となる文法基礎知識を身につけられることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域6			
履修条件	授業に建設的に参加する態度を持つこと。			
授業方法	教科書に従って文法事項を学び、実例をビデオやプリントで検証します。小テストを実施しフィードバックは授業内で行います。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	期末に授業内試験を実施（30%）課題提出および授業内小テスト（70%）も含めた平常点により判断する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	白水社	ニューエクスプレスプラスロシア語	黒田龍之助
	2017	外研刊行会	改訂ロシア語基本問題集（電子書籍）	加藤栄一
	2015	小学館	プログレッシubroシア語辞典	中澤英彦他
	備考	「改訂ロシア語基本問題集（電子書籍）」は https://www.dlmarket.jp/products/detail/223725 にて入手し、各自プリントアウトの上持参すること。（上記サイトが閉鎖中の場合は https://gaiken-press.stores.jp/ で入手できる）		
参考書	授業中に指示します。			
オフィスアワー	授業講堂（木：14:30-）およびメールにより対応(kato.eiichi11@nihon-u.ac.jp)			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書類を購入しておくこと、事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス 言語としてのロシア語の特徴の概説
	事後学習	使用教材類を確認すること（30分）
2	事前学習	「エクスプレス」p.11-14まで目を通すこと（30分）
	授業内容	音と文字（1）
	事後学習	アルファベット大文字をすべて覚える（30分）
3	事前学習	アルファベットを覚えた後「エクスプレス」p.15-17まで目を通すこと。（30分）
	授業内容	音と文字（2）
	事後学習	アルファベット大文字・小文字と日本語のキリル文字転写を覚える（30分）
4	事前学習	「エクスプレス」第1課を読むこと。（30分）
	授業内容	A-Bの構文。簡単な疑問文とそのイントネーション
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返し返すこと。（30分）

5	事前学習	「エクスプレス」第2課を読むこと。（30分）
	授業内容	人称代名詞。簡単な否定文とそのイントネーション
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
6	事前学習	「エクスプレス」第3課を読むこと（30分）
	授業内容	名詞の性・数。所有代名詞と指示代名詞
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
7	事前学習	「エクスプレス」第4課を読むこと。（30分）
	授業内容	形容詞概要
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
8	事前学習	「エクスプレス」第5課を読むこと。（30分）
	授業内容	動詞の変化（現在形）I
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
9	事前学習	「エクスプレス」第6課を読むこと（30分）
	授業内容	動詞の変化（現在形）II
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
10	事前学習	「エクスプレス」第7課を読むこと（30分）
	授業内容	場所の表現（в/на + 前置格），-с я 動詞の現在変化
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
11	事前学習	「エクスプレス」第8課を読むこと（30分）
	授業内容	所有の表現
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
12	事前学習	「エクスプレス」第9課を読むこと（30分）
	授業内容	名詞の格変化, 直接目的語としての対格の用法
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
13	事前学習	「エクスプレス」第10課を読むこと（30分）
	授業内容	「～へゆく」の表現（移動動詞とв/на 対格
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
14	事前学習	「エクスプレス」1－10課に目を通すこと。（30分）
	授業内容	1－10課の文法まとめと整理と補足（1）
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
15	事前学習	「エクスプレス」1－10課に目を通すこと。（30分）
	授業内容	1－10課の文法まとめと整理と補足（2）
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）

科目名	ロシア語ⅠB	担当者	加藤 栄一	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ロシア語をゼロレベルからスタートする。			
授業目的・到達目標	【授業目的】ロシア語を理解するための基礎力の養成を目的とする。 【授業目標】ロシア語理解に必須となる文法基礎知識を身につけられることを目標とする。 関連DP及びCP：外国語科目領域6			
履修条件	授業に建設的に参加する態度を持つこと。			
授業方法	教科書に従って文法事項を学び、実例をビデオやプリントで検証します。小テストを実施しフィードバックは授業内で行います。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	期末に授業内試験を実施（30%）課題提出および授業内小テスト（70%）も含めた平常点により判断する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	外研刊行会	改訂ロシア語基本問題集（電子書籍）	加藤栄一
	2015	小学館	プログレッシubroシア語辞典	中澤英彦他
	2018	白水社	ニューエクスプレスプラスロシア語	黒田龍之助
	備考	「改訂ロシア語基本問題集（電子書籍）」は https://www.dlmarket.jp/products/detail/223725 にて入手し、各自プリントアウトの上持参すること。（上記サイトが閉鎖中の場合は https://gaiken-press.stores.jp/ で入手できる）		
参考書	授業中に指示します。			
オフィスアワー	授業講堂（木：14:30-）およびメールにより対応(kato.eiichi11@nihon-u.ac.jp)			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	「エクスプレス」第11課に目を通しておくこと（30分）
	授業内容	動詞の過去形
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
2	事前学習	「エクスプレス」第12課に目を通しておくこと。（30分）
	授業内容	б ы т ьの過去形・所有表現の過去
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
3	事前学習	「エクスプレス」第13課に目を通しておくこと。（30分）
	授業内容	動詞の未来。病気の表現。やや不規則な動詞変化（1）
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
4	事前学習	[準備]「エクスプレス」第14課に目を通しておくこと。（30分）
	授業内容	生格とその用法（1）やや不規則な動詞変化（2）
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）

5	事前学習	「エクスプレス」第14課に目を通しておくこと。（30分）
	授業内容	生格とその用法（2）
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
6	事前学習	「エクスプレス」第15課に目を通しておくこと。（30分）
	授業内容	与格とその用法
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
7	事前学習	「エクスプレス」第16課に目を通しておくこと。（30分）
	授業内容	造格とその用法
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
8	事前学習	「エクスプレス」第17課に目を通しておくこと。（30分）
	授業内容	人・生物を表す名詞の対格。形容詞と格変化
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
9	事前学習	「エクスプレス」第18課に目を通しておくこと。（30分）
	授業内容	動詞の体（完了体と不完了体）(1)
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
10	事前学習	「エクスプレス」第18課に目を通しておくこと。（30分）
	授業内容	動詞の体（完了体と不完了体）（2）
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
11	事前学習	「エクスプレス」第19課に目を通しておくこと。（30分）
	授業内容	完了体と不完了体の未来。禁止の表現
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
12	事前学習	「エクスプレス」第20課に目を通しておくこと。（30分）
	授業内容	仮定法
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
13	事前学習	「エクスプレス」第20課に目を通しておくこと。（30分）
	授業内容	動詞と接頭辞
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
14	事前学習	「エクスプレス」p.117に目を通しておくこと。（30分）
	授業内容	前置詞と格
	事後学習	テキストの音読と書写を最低3回繰り返すこと。（30分）
15	事前学習	「エクスプレス」11-20課を見直すこと（30分）
	授業内容	まとめ
	事後学習	動詞・名詞の不規則変化を復習すること（30分）

科目名	ロシア語ⅢA	担当者	加藤 栄一	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ロシア語で現代社会を読むための基礎作り			
授業目的・到達目標	【授業目標】 時事的な内容のロシア語の文章を読むために必要となる文法力・語彙力の養成を目的とする。 【到達目標】 辞書・インターネットなどを総合的に活用しながら、時事的なロシア語文の自発的な読解に必要な基礎能力を獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6			
履修条件	辞書・文法書を参照できる基礎文法知識があること（ロシア語IAB習得者および同等の基礎知識があれば誰でも受講可）			
授業方法	前半は練習問題を用いて文法知識を深め、後半は文章読解を行い文法知識を補強してゆく。教科書に従ってテーマ別に重要語彙を把握し、テキストの文法解析をしながら正確な読解力を身につけてゆく。フィードバックは授業内で実施。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常点（小テスト・課題提出含む）で評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016	東洋書店新社	新版 時事ロシア語	加藤栄一
	2014	外研刊行会	要点確認 ロシア語・格の諸用法 中級問題集（電子書籍）	加藤栄一
	2014	小学館	プログレッシubroシア語辞典	中澤英彦
	備考	「要点確認 ロシア語・格の諸用法 中級問題集（電子書籍）」は、以下のURLから入手しておくこと。 http://www.dlmarket.jp/products/detail/308292 （上記サイトが閉鎖中の場合は https://gaiken-press.stores.jp/ で入手できる）		
参考書	授業内で説明する。			
オフィスアワー	授業講堂（木：14:30-）およびメールにより対応(kato.eiichi11@nihon-u.ac.jp)			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	中級問題集 p.1-2 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	内政（1）選挙 文法：関係代名詞（1）
	事後学習	「時事ロシア語」1-1を読み返すこと。(30分)
2	事前学習	中級問題集 p.3-4 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	内政（2）投票 文法：関係代名詞（2）
	事後学習	「時事ロシア語」1-2を読み返すこと。(30分)
3	事前学習	中級問題集 p.5-6 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	内政（3）開票 文法：関係代名詞（3）
	事後学習	「時事ロシア語」1-3を読み返すこと。(30分)
4	事前学習	中級問題集 p.7 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	内政（4）開票 文法：分詞用法（1）現在能動分詞
	事後学習	「時事ロシア語」1-4を読み返すこと。(30分)

5	事前学習	中級問題集 p. 8 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	内政（５）就任式 文法：分詞用法（2）過去能動分詞
	事後学習	「時事ロシア語」1-5を読み返すこと。(30分)
6	事前学習	中級問題集 p. 9 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	内政（６）組閣 文法：分詞用法（3）現在受動分詞
	事後学習	「時事ロシア語」1-6を読み返すこと。(30分)
7	事前学習	中級問題集 p. 10 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	内政（７）任免 文法：分詞用法（４）過去受動分詞
	事後学習	「時事ロシア語」1-7を読み返すこと。(30分)
8	事前学習	中級問題集 p. 11-12 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	内政（８）議会 文法：格の用法（主格・１）
	事後学習	「時事ロシア語」1-8を読み返すこと。(30分)
9	事前学習	中級問題集 p. 13-14 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	内政（９）法案審議 文法：格の用法（主格・2）
	事後学習	「時事ロシア語」1-9を読み返すこと。(30分)
10	事前学習	中級問題集 p. 15-16 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	内政（１０）政党 文法：格の用法（主格・3）
	事後学習	「時事ロシア語」1-10を読み返すこと。(30分)
11	事前学習	中級問題集 p. 17 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	内政（１１）議会解散 文法：格の用法（生格・1）
	事後学習	「時事ロシア語」1-11を読み返すこと。(30分)
12	事前学習	中級問題集 p. 18 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	内政（１２）反政府運動 文法：格の用法（生格・2）
	事後学習	「時事ロシア語」1-12読み返すこと。(30分)
13	事前学習	中級問題集 p. 19 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	内政（１３）大統領職務 文法：格の用法（生格・3）
	事後学習	「時事ロシア語」1-13を読み返すこと。(30分)
14	事前学習	中級問題集 p. 20－21 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	内政（１４）地方自治 文法：格の用法（生格・4）
	事後学習	「時事ロシア語」1-14を読み返すこと。(30分)
15	事前学習	中級問題集 p. 22－23 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	内政（１５）内政補遺 文法：与格用法（１）
	事後学習	「時事ロシア語」1-15を読み返すこと。(30分)

科目名	ロシア語ⅢB	担当者	加藤 栄一	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ロシア語で現代社会を読むための基礎作り				
授業目的・到達目標	【授業目標】 時事的な内容のロシア語の文章を読むために必要となる文法力・語彙力の養成を目的とする。 【到達目標】 辞書・インターネットなどを総合的に活用しながら、時事的なロシア語文の自発的な読解に必要な基礎能力を獲得できることを目標とします。 関連DP及びCP：外国語科目領域 6				
履修条件	辞書・文法書を参照できる基礎文法知識があること（ロシア語IAB習得者および同等の基礎知識があれば誰でも受講可）				
授業方法	前半は練習問題を用いて文法知識を深め、後半は文章読解を行い文法知識を補強してゆく。教科書に従ってテーマ別に重要語彙を把握し、テキストの文法解析をしながら正確な読解力を身につけてゆく。フィードバックは授業内で実施。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常点（小テスト・課題提出含む）で評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2016	東洋書店新社	新版 時事ロシア語		加藤栄一
	2014	外研刊行会	要点確認 ロシア語・格の諸用法 中級問題集（電子書籍）		加藤栄一
	2014	小学館	プログレッシubroシア語辞典		中澤英彦
	備考	「要点確認 ロシア語・格の諸用法 中級問題集（電子書籍）」は、以下のURLから入手しておくこと。 http://www.dlmarket.jp/products/detail/308292 （上記サイトが閉鎖中の場合は https://gaiken-press.stores.jp/ で入手できる）			
参考書	授業内で説明する。				
オフィスアワー	授業講堂（木：14:30-）およびメールにより対応(kato.eiichi11@nihon-u.ac.jp)				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	中級問題集 p. 24－25 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	内政１６）内政まとめ 文法：与格用法（2）
	事後学習	「時事ロシア語」1-16を読み返すこと。(30分)
2	事前学習	中級問題集 p. 26－27 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	国際関係（１）外交団 文法：与格用法（3）
	事後学習	「時事ロシア語」2-1を読み返すこと。(30分)
3	事前学習	中級問題集 p. 28－29 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	国際関係２）外国訪問 文法：与格用法（4）
	事後学習	「時事ロシア語」2-2を読み返すこと。(30分)
4	事前学習	中級問題集 p. 30－31 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	国際関係（３）儀典 文法：与格用法（5）
	事後学習	「時事ロシア語」2-3を読み返すこと。(30分)

5	事前学習	中級問題集 p. 32－33 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	国際関係（４）首脳会談 文法：対格用法（1）
	事後学習	「時事ロシア語」2-4を読み返すこと。(30分)
6	事前学習	中級問題集 p. 34－35 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	国際関係（５）会談成果 文法：対格用法（2）
	事後学習	「時事ロシア語」2-5を読み返すこと。(30分)
7	事前学習	中級問題集 p. 36－37 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	国際関係（６）関係悪化 文法：対格用法（3）
	事後学習	「時事ロシア語」2-6を読み返すこと。(30分)
8	事前学習	中級問題集 p. 37－38 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	国際関係（７）領土問題 文法：対格用法（4）
	事後学習	「時事ロシア語」2-7を読み返すこと。(30分)
9	事前学習	中級問題集 p. 39－40 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	国際関係（８）サミット 文法：造格用法（1）
	事後学習	「時事ロシア語」2-8を読み返すこと。(30分)
10	事前学習	中級問題集 p. 41－42 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	国際関係（９）国連 文法：造格用法（2）
	事後学習	「時事ロシア語」2-9を読み返すこと。(30分)
11	事前学習	中級問題集 p. 43－44 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	国際関係（１０）意見の相違 文法：造格用法（3）
	事後学習	「時事ロシア語」2-10を読み返すこと。(30分)
12	事前学習	中級問題集 p. 44－45 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	国際関係（１１）非難 文法：造格用法（4）
	事後学習	「時事ロシア語」2-11を読み返すこと。(30分)
13	事前学習	中級問題集 p. 45－46 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	国際関係（１２）制裁措置 文法：造格用法（5）
	事後学習	「時事ロシア語」2-12を読み返すこと。(30分)
14	事前学習	中級問題集 p. 47－48 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	国際関係（１３）中国 文法：前置格用法（１）
	事後学習	「時事ロシア語」2-13を読み返すこと。(30分)
15	事前学習	中級問題集 p. 48－49 をやっておくこと。(30分)
	授業内容	国際関係（１４）国際関係まとめ 文法：前置格用法（2）
	事後学習	「時事ロシア語」2-14を読み返すこと。(30分)

IV群

体育实技科目

IV群

体育实技科目

科目名	体育実技 I A	担当者	浅野 友之	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現在大学生の体力の低下が進んでいる。体力低下によって生涯への影響が懸念される。その為、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の保持・増進の為の基礎知識の習得や態度を講義・スポーツ・トレーニングを通じて育成する。			
授業目的・到達目標	体育での身体活動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、健康(栄養・運動・休養)の保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。各種室内での軽運動・スポーツ・トレーニング等に親しみ、積極的に参加し、以下の点について学ぶことを目標とする。1) 自己の体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する 2) 生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康維持を図る 3) 実社会において活躍する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。関連DP及びCP：体育実技科目領域1, 4, 5, 6, 7			
履修条件	受講時は、必ず運動着と室内用運動靴を着用すること。健康管理に留意し、遅刻をしないように出席のこと。			
授業方法	個人の体力カード、プリント資料を用い、授業を展開する。進捗状況により授業内容の変更もある。内容によっては「多目的コート」を使用することがある。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業中の活動に対する参画状況60%、授業に対する姿勢、理解と達成度20%、トレーニングの記録やまとめのレポート内容20%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		
参考書	必要、希望に応じて紹介する			
オフィスアワー	水曜日4時限終了後16:10～ 授業講堂にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容を理解し遅刻をしないように出席すること (30分)
	授業内容	年間の授業展開、履修上の留意点及び評価方法などのガイダンス、履修カードの作成
	事後学習	次週の授業の為の運動着や提出物の準備・睡眠を取り体調を整えること (30分)
2	事前学習	提出物の作成と体力の要素について情報を得ること (30分)
	授業内容	体力カード、プリントの配布、身体ほぐし、各種トレーニング器具使用方法の説明と実践
	事後学習	配布されたプリント資料よりストレッチ方法を理解し実践に移すこと (30分)
3	事前学習	日常生活の中でストレッチを15～30分行い習慣とすること (30分)
	授業内容	ストレッチ、健医チェック、ボール運動
	事後学習	体組成の測定データより筋肉量、体水分量、骨量等の項目をチェックすること (30分)
4	事前学習	簡単な体幹トレーニングを心がけて実践すること (30分)
	授業内容	ストレッチ、ボール運動、簡単な体力チェック
	事後学習	現在の体力レベルをチェックして向上の為のトレーニング方法を計画すること (30分)

5	事前学習	筋力測定のための準備と食生活を日々チェックすること（30分）
	授業内容	最大筋力測定、卓球の基礎技術
	事後学習	測定結果を認知しトレーニング種目を構築すること（30分）
6	事前学習	有酸素運動の知識を得て適切な方法を考える、平常時の心拍数をチェックすること、卓球のゲーム方法とルールを調べること（30分）
	授業内容	前回に続き最大筋力測定、エアロバイク・エアロクライムの使用方法と実践、卓球（ゲームとルール）
	事後学習	エアロバイク・エアロクライムに於けるトレーニングを理解し、トレーニング方法を組み立てること、ゲーム結果より次回の勝利に向けてゲーム展開を整理すること（30分）
7	事前学習	筋力トレーニング種目を測定結果より5～6種目選択しメニューを作成すること、シングルスゲームの戦術を工夫すること（30分）
	授業内容	筋力トレーニングの説明と実践、卓球（シングルスゲーム）
	事後学習	実施した結果より再度メニューを検討すること、シングルスゲームで対戦した相手とコミュニケーションを取り健闘を讃える（30分）
8	事前学習	確実なトレーニングのための方法と内容を計画すること、ダブルスゲーム方法とルールを調べること（30分）
	授業内容	個々の体力に合わせたトレーニングのプログラム作成と実践、卓球（ダブルスゲーム）
	事後学習	適切なプログラム構成か確認し修正すること、ダブルスゲームのペアに感謝し次回の種目に生かすこと（30分）
9	事前学習	スムーズにトレーニングを展開する為に更にストレッチを実施すること、バドミントンの技術を調べること（30分）
	授業内容	体力診断、トレーニング、ミニバドミントン
	事後学習	効率の良いトレーニングを実施する為種目の序列を再チェック、バドミントンの技術をゲームに生かす為のイメージトレーニングをすること（30分）
10	事前学習	トレーニングの負荷量や運動量について更にチェックしメニューを増やし次に生かすこと、バドミントンのダブルスゲームのルールを調べること（30分）
	授業内容	トレーニング（筋力・エアロ）、ミニバドミントン
	事後学習	エアロバイクやエアロクライムに於けるカロリー消費率を記録し効果をチェックすること、バドミントンのゲーム展開を認識し次回のゲームに生かすこと（30分）
11	事前学習	筋力量を増やす為の食生活をチェックしバランスの良い食事を取り、体幹トレーニングを怠らないこと、フットサルのルールや技術を調べること（30分）
	授業内容	トレーニング（筋力・エアロ）、フットサル
	事後学習	体力カードをチェックし正確な記録とフットサルでチームのコミュニケートとリーダーシップを取り、満足なゲーム展開が出来たか確認すること（30分）
12	事前学習	筋力測定に向けて確立したトレーニングを再度チェックすること、フットサルでのボールコントロールについて考えること（30分）
	授業内容	トレーニング（筋力・エアロ）、フットサル
	事後学習	刺激を感じられるトレーニングであったか考え、残りのトレーニングに生かす、フットサルのゲームでのポジションが適切であったか考えること（30分）
13	事前学習	前期のトレーニング結果をまとめ後期に継続されるよう取り組むこと（30分）
	授業内容	トレーニング（筋力・エアロ）、ユニホッケー
	事後学習	トレーニングの結果より記録をまとめレポートに生かせること、ユニホッケーのスティック操作がスムーズに出来、パスワークは満足出来たか確認すること（30分）
14	事前学習	最大筋力測定の手順と結果の処理について確認すること、ダーツについての技術やゲーム方法を調べること（30分）
	授業内容	最大筋力測定、ダーツ
	事後学習	正確に測定し結果より効果のあるトレーニング内容か確認すること、ダーツの得点結果を見直し次回に生かすこと（30分）
15	事前学習	前期のまとめのレポート作成の資料をチェックし構想を練ること（30分）
	授業内容	前期のまとめ、レポート及び解説、健医チェック、質疑応答
	事後学習	積極的に参加し健康や体力の重要性を理解し、後期に向けて更に進歩したトレーニングを目指すこと（30分）

科目名	体育実技 I A	担当者	伊藤 華英	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	様々な競技を体験することと、体力測定などを通して自身の健康や、今後の生活でどのようにスポーツが活かせるかを学ぶこと。スポーツの概念のすること、見ること、支えること自身で考える授業。また普段の生活習慣や、運動習慣の現状知る機会にする。スポーツを通して、コミュニティの構築する機会にする。					
授業目的・到達目標	【授業目的】自身の健康マネジメントをできるようになることが目的。また、スポーツが生活にどのような役割を果たすかを自身で考えることが目的である。 【到達目標】生涯の健康を自身で考えること、コミュニケーション能力を養うことを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 4, 5, 6, 7					
履修条件	受講者は室内用運動靴（紐靴）、運動着（トレーニングウェア、ヨガウェア等、動き易い格好）、必要であれば水分、タオル。※1回目は不要。					
授業方法	授業開始時に出席確認、実施内容の説明。※授業内容は変更する場合あり。授業開始時にはと終了時に、ストレッチなど、準備運動を取り入れる。内容によっては、多目的コートを使用することもある。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業参加度60%、平常点20%（授業態度、意欲的であるか）、レポート20%（レポート課題 最終授業で課題あり）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	オリンピック・レガシー	ポプラ社		オリンピック・レガシー		間野義之
	備考	使用しない				
参考書	資料を配布することもある。					
オフィスアワー	金曜日、4 限終了後30分。授業講堂にて受け付けます。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	クリアファイル持参，事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業目的・方法、評価方法など、注意事項の説明
	事後学習	次の体力測定の内容を確認（30分）
2	事前学習	基本的な日本の体力測定の平均を調べる （30分）
	授業内容	身体チェック（体力測定）
	事後学習	自身がどのような結果であったのかを考える （30分）
3	事前学習	ストレッチの効果を自身で考える。または、調べる。 （30分）
	授業内容	柔軟性を高めるトレーニング（ストレッチ、体幹トレーニング等）
	事後学習	ストレッチの重要性をフィードバックする （30分）
4	事前学習	マシンを使用したトレーニング効果を調べる。 （30分）
	授業内容	体力向上トレーニングの説明と実践（マシンの使用の仕方や、今後の計画）
	事後学習	自身の授業内での計画をする （30分）

5	事前学習	今後の授業内のトレーニングを考える。授業中に提出。レポート用紙配布。(30分)
	授業内容	ピラティスを取り入れたエクササイズ、前授業で学んだことの復習 (呼吸法や、軸を感じる)
	事後学習	感想をレポート用紙に記載。(30分)
6	事前学習	ピラティスについて調べ提出。(30分)
	授業内容	授業内で計画したトレーニングの実践。 (体幹トレーニング)
	事後学習	感想を次回授業でレポートで提出。(30分)
7	事前学習	フットサルのルールを調べ、レポートで提出。(30分)
	授業内容	フットサル トレーニング(バランスボールやチューブを用いたトレーニング)
	事後学習	トレーニングの感想または、フットサルの感想 (30分)
8	事前学習	フットサルのレポートを提出。(30分)
	授業内容	フットサル トレーニング(自身で考えたトレーニング)
	事後学習	トレーニングの課題、感想レポート提出。(30分)
9	事前学習	ホッケーのルールと、楽しさや概要をレポート。(30分)
	授業内容	ホッケー(ルール説明、実践) トレーニング
	事後学習	授業の感想を提出。(30分)
10	事前学習	9回目講義と同様。(30分)
	授業内容	ホッケー(ルール説明、実践) トレーニング
	事後学習	9回目授業と同様。(30分)
11	事前学習	ソフトテニスのルールレポート。(30分)
	授業内容	ソフトテニス(ルール説明、実践) ストレッチボールEX(説明と実践)
	事後学習	授業の感想レポート。(30分)
12	事前学習	11回目と同様。(30分)
	授業内容	ソフトテニス(ルール説明、実践) ストレッチボールEX(説明と実践)
	事後学習	11回目と同様。(30分)
13	事前学習	ドッジボールのルールを調べてくる。(30分)
	授業内容	ドッジボール(ルール説明、実践) トレーニング(自身の計画に基づいた)
	事後学習	授業の感想。(30分)
14	事前学習	13回目と同様 (30分)
	授業内容	ドッジボール(ルール説明、実践) トレーニング(自身の計画に基づいた)
	事後学習	13回目と同様。また、前期最終授業日にレポート提出の準備。(30分)
15	事前学習	トレーニングの成果をまとめる。(30分)
	授業内容	まとめ、講評 (フィットネスチェック等)
	事後学習	夏休みのトレーニングの計画提出。(30分)

科目名	体育実技 I A	担当者	岩本 良裕	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	健康を支えているものは、栄養、運動、休養、ストレス管理という柱です。日常生活の中で、これらを上手にバランスよく保っていくことによって健康は維持されています。現代人にとって、特に不足がちとなる運動は、健康の維持増進に極めて重要な役割を果たしています。本授業では、その運動を日常生活に無理なく取り入れていく方法について解説し、そして実践することによって、運動を習慣化し、健康な生活を自ら作り上げていくことをねらいとします。			
授業目的・到達目標	[授業目的] この授業では、健康と体力の向上を図るために、エアロバイクやランニングマシンを使用して有酸素能力を高め、また筋力マシン等を使用して筋力を高め、そしてストレッチにより柔軟性を高めながら総合的に体力アップを行うことができる態度と実践力の育成を目的とします。 [授業目標] 自ら進んでトレーニングを実践し、トレーニングメニューについても自ら作成し、日常生活の中に運動を取り入れ、習慣化できるようにすることを目標とします。			
履修条件	関連授業や総合科目「体育実技Ⅰ」領域Ⅰと「トレーニングシューズ」が必要です。運動終了後シャワーが利用できます。			
授業方法	毎回トレーニングメニューに従い、自分のペースでトレーニングを進めます。エアロバイクやランニングマシンでトレーニングを行う際には、ウォークマン等を使用しても構いません。水分摂取も適宜行ってください。内容によっては多目的コートを使用することもあります。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業参加度（５０％）、目標到達度（３０％）、学習態度（２０％） フィードバックは授業内において行います。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		
参考書	授業時に紹介する。			
オフィスアワー	毎週金曜日４時限　２号館地下			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	体力とは何かについて調べる。（30分）
	授業内容	[ガイダンス] 授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等
	事後学習	体力についての定義について確認する。（30分）
2	事前学習	体力の構成要素について調べる。（30分）
	授業内容	体力測定 毎授業時に測定し、記録する。 ストレッチの方法と実践
	事後学習	体力測定の結果から自己の特性についてダイアグラムから確認する。（30分）
3	事前学習	体力構成要素別トレーニングの方法にはどのようなものがあるか調べる。（30分）
	授業内容	体力要素別トレーニングの方法を解説し実践する。
	事後学習	要素別トレーニング方法を確認し、理解を深める。（30分）
4	事前学習	トレーニングの記録方法について調べる。（30分）
	授業内容	各種トレーニングの記録方法を学び、トレーニング後記録する。 自分に適した運動負荷について学ぶ。
	事後学習	次回からのトレーニングメニューの作成方法を確認する。（30分）

5	事前学習	今回のトレーニングメニューを作成する。（30分）
	授業内容	シェーブアップトレーニング 1 エアロビククトレーニングの特性と方法（エアロバイク）
	事後学習	授業を振り返り、トレーニングを行う。（30分） 出来れば週 2 ～ 3 回行うことが望ましい。
6	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。（30分）
	授業内容	シェーブアップトレーニング 2 エアロビククトレーニングの方法（ランニングマシン）
	事後学習	授業を振り返り、トレーニングを行う。（30分） 出来れば週 2 ～ 3 回行うことが望ましい。
7	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。（30分）
	授業内容	シェーブアップトレーニング 3 エアロビククトレーニング （ステップマシン）
	事後学習	授業振り返り、トレーニングを行う。（30分） 出来れば週 2 ～ 3 回行うことが望ましい。
8	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。（30分）
	授業内容	シェーブアップトレーニング 4 体幹部強化メニュー（1）フロントブリッジ、サイドブリッジ
	事後学習	授業振り返り、トレーニングを行う。（30分） 出来れば週 2 ～ 3 回行うことが望ましい。
9	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のメニューを作成する。（30分）
	授業内容	シェーブアップトレーニング 5 体幹部強化メニュー（2）ヒップリフト、ダイヤゴナル
	事後学習	授業振り返り、トレーニングを行う。（30分） 出来れば週 2 ～ 3 回行うことが望ましい。
10	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のメニューを作成する。（30分）
	授業内容	シェーブアップトレーニング 6 下肢筋力強化メニュー(1) 大腿四頭筋トレーニング
	事後学習	授業を振り返り、トレーニングを行う。（30分） 出来れば週 2 ～ 3 回行うことが望ましい。
11	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のメニューを作成する。（30分）
	授業内容	シェーブアップトレーニング 7 下肢筋力強化メニュー(2) ハムストリングトレーニング
	事後学習	授業を振り返り、トレーニングを行う。（30分） 出来れば週 2 ～ 3 回行うことが望ましい。
12	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のメニューを作成する。（30分）
	授業内容	シェーブアップトレーニング 8 上肢筋力強化メニュー(1) 筋トレマシン・自重トレーニング
	事後学習	授業を振り返り、トレーニングを行う。（30分） 出来れば週 2 ～ 3 回行うことが望ましい。
13	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のメニューを作成する。（30分）
	授業内容	シェーブアップトレーニング 9 上肢筋力強化メニュー(2) ダンベルトレーニング
	事後学習	授業を振り返り、トレーニングを行う。（30分） 出来れば週 2 ～ 3 回行うことが望ましい。
14	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のメニューを作成する。（30分）
	授業内容	シェーブアップトレーニング 10 総合的トレーニング 体力測定、体脂肪測定
	事後学習	授業を振り返り、トレーニングを行う。（30分） 出来れば週 2 ～ 3 回トレーニングを行うことが望ましい。
15	事前学習	前回までの記録をまとめ、半期の授業の振り返りを行う。（30分）
	授業内容	[まとめ] トレーニングカードに基づき、授業を振り返り、講評し、今後の課題等について解説する。
	事後学習	半期の授業を振り返り、運動を日常生活に取り入れ、習慣化していくことの重要性について理解を深める。（30分）

科目名	体育実技 I A	担当者	牛来 千穂子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	--------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	現在大学生の体力の低下が進んでいる。体力低下によって生涯への影響が懸念される。そのため、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の保持・増進のための基礎知識の習得や態度を講義・スポーツ・トレーニングを通じて育成する。			
授業目的・到達目標	体育での身体活動を通して、各自が体力に対する認識を深め、健康（栄養・運動・休養）の保持増進、体力向上を図ることにより、心身ともに健康的で幸福な大学生活を送ることができるよう、自覚させたい。各種室内での軽運動・スポーツ・トレーニング等に親しみ、積極的に参加し、将来健康で豊かなライフスタイルの形成を目指すことを目的とする。 1) 自己の体力レベルを把握し、体力を向上する方法を確立する。2) 生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康維持を図る。3) 実社会において活躍する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につけることを目標とする。			
履修条件	運動やR並びのR不適合科目を優実実技科履修課は運動着と室内用運動靴を着用すること。			
授業方法	個人の体力カード、プリント資料を用い、授業を展開する。進捗状況により授業内容の変更もある。内容によっては多目的コートを使用することもある。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業中の活動に対する参画状況60%、授業に対する姿勢、理解と達成度20%、トレーニングの記録やまとめのレポート内容20%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用せず、授業時に体力カード資料を配布する。		
参考書	必要、希望に応じて紹介する。			
オフィスアワー	2限終了後12：10～の時間帯にて対応する。授業講堂にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスの内容を理解し、遅刻をしないよう出席すること（30分）
	授業内容	年間の授業展開、履修上の留意点及び評価方法などのガイダンス、履修カードの作成
	事後学習	次週の授業のための運動着や提出物の準備・睡眠を取り、体調を整えること（30分）
2	事前学習	提出物の作成と体力の要素について情報を得ること（30分）
	授業内容	体力カード、プリントの配布、身体ほぐし、各種トレーニング器具使用方法の説明と実践
	事後学習	配布されたプリント資料よりストレッチ方法を理解し実践に移すこと（30分）
3	事前学習	日常生活の中でストレッチを15~30分行い習慣とすること（30分）
	授業内容	ストレッチ、健医チェック、ボール運動
	事後学習	体組成の測定データより筋肉量、体水分量、骨量等の項目をチェックすること（30分）
4	事前学習	簡単な体幹トレーニングを心掛けて実践すること（30分）
	授業内容	ストレッチ、ボール運動、簡単な体力チェック
	事後学習	現在の体力レベルをチェックして向上のためのトレーニング方法を計画すること（30分）

5	事前学習	筋力測定のための準備と食生活を日々チェックすること（30分）
	授業内容	最大筋力測定、卓球の基礎技術
	事後学習	測定結果を認知しトレーニングを構築すること（30分）
6	事前学習	有酸素運動の知識を得て適切な方法を考える。平常時の心拍数をチェックすること。卓球のゲーム方法とルールを調べること（30分）
	授業内容	前回に続き最大筋力測定、エアロバイク・エアロクライムの使用方法と実践、卓球（ゲームとルール）
	事後学習	エアロバイク・エアロクライムにおける、トレーニングを理解し、トレーニング方法を組み立てること。ゲーム結果より次回の勝利に向けてゲーム展開を整理すること（30分）
7	事前学習	筋力トレーニング種目を測定結果より5`6種目選択し、メニューを作成すること。シングルスゲームの戦術を工夫すること（30分）
	授業内容	筋力トレーニングの説明と実践、卓球（シングルスゲーム）
	事後学習	実施した結果より再度メニューを検討すること。シングルスゲームで対戦した相手とコミュニケーションを取り健闘を讃える（30分）
8	事前学習	確実なトレーニングのための方法と内容を理解すること。ダブルスゲームの方法とルールを調べること（30分）
	授業内容	個々の体力に合わせたトレーニングのプログラム作成と実践、卓球（ダブルスゲーム）
	事後学習	適切なプログラム構成か確認し、修正すること。ダブルスゲームのペアに感謝し次回の種目に活かすこと（30分）
9	事前学習	スムーズにトレーニングを展開するために更にストレッチを実施すること。バドミントンのルール・技術を調べること（30分）
	授業内容	体力診断、トレーニング、ミニバドミントン
	事後学習	効率の良いトレーニングを実施するため種目の順序を再チェックする。バドミントンの技術をゲームに活かすためのイメージトレーニングを行うこと（30分）
10	事前学習	トレーニングの負荷量や運動量について更にチェックし、メニューを増やし次に活かすこと。バドミントンのダブルスゲームのルールを調べること（30分）
	授業内容	トレーニング（筋力・有酸素）、ミニバドミントン
	事後学習	エアロバイクやエアロクライムにおけるカロリー消費量を記録し、効果をチェックすること。バドミントンのゲーム展開を認識し、次回のゲームに活かすこと（30分）
11	事前学習	筋力量を増やすための食生活をチェックし、バランスの良い食事を取り、体幹トレーニングを怠らないこと。フットサルのルールや技術を調べること（30分）
	授業内容	トレーニング（筋力・有酸素）、フットサル
	事後学習	体力カードをチェックし正確な記録とフットサルにおけるチーム間のコミュニケーションとリーダーシップを取り、満足のいくゲーム展開ができたか確認すること（30分）
12	事前学習	筋力測定に向けて確立したトレーニングを再度チェックすること。フットサルでのボールコントロールについて考えること（30分）
	授業内容	トレーニング（筋力・有酸素）、フットサル
	事後学習	刺激を感じられるトレーニングであったか考え、残りのトレーニングに活かす。フットサルのゲームでのポジションが適切であったか考えること（30分）
13	事前学習	前期のトレーニング結果をまとめ後期に継続されるよう取り組むこと（30分）
	授業内容	トレーニング（筋力・有酸素）、ドッジビー
	事後学習	トレーニングの結果より記録をまとめレポートに活かせること。ドッジビーの操作が満足にできたか確認すること（30分）
14	事前学習	最大筋力測定の手順と結果の処理について確認すること、ダーツについての技術やゲーム方法を調べること（30分）
	授業内容	最大筋力測定、ダーツ（ハイスコア・ゼロワン）
	事後学習	正確に測定し結果より効果のあるトレーニング内容か確認すること。ダーツの得点結果を見直し次回に活かすこと（30分）
15	事前学習	前期のまとめのレポート作成の資料をチェックし構想を練ること（30分）
	授業内容	前期のまとめ、レポート、健医チェック、質疑応答、講評
	事後学習	積極的に参加し健康や体力の重要性を理解するとともに、後期に向けて更に進歩したトレーニングを目指すこと（30分）

科目名	体育実技 I A	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	体育実技に不可欠な身体運動は、体力や健康を獲得する一つの手段である。また、身体運動の一つであるスポーツ活動は、体力や健康を獲得するためだけのものではなく、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を養成する営みである。本講座では、身体運動や各種スポーツを楽しむ、体力や健康に関する理解を深め、そして主体的に健康行動を実践できるように授業を展開する。			
授業目的・到達目標	【授業目的】身体運動や各種スポーツの実践を通じて体力や健康の向上や健康行動の獲得、そして問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を養成する。 【到達目標】身体運動やスポーツの楽しさ理解し、主体的に健康行動を実践し、健康な生活習慣を身につける。 【関連するDP及びCP】総合科目・体育実技科目領域 1、4、5、6、7			
履修条件	運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。体力の維持増進のため、30分以上の連続歩行運動を週3回程度実施すること。【フィードバック方法】事前学習シート、振り返りシート、レポート課題			
授業方法	授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。 授業は2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的コートを使用する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業参画状況（50％）、平常点（50％） ※平常点は、事前学習シート及び振り返りシート、課題レポート、授業準備、受講態度等、各自の目標達成度
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	なし		
参考書	必要に応じてプリントを配付する。			
オフィスアワー	【神田三崎町キャンパス】火曜日 12：20～13：30、木曜日 12：10～13：00 連絡方法 satou.hideaki@nihon-u.ac.jp ※事前に上記メールアドレスに連絡（用件内容）をすること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業概要、授業目的、到達目標、授業方法を確認する。（30分）
	授業内容	【ガイダンス】 授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画についての説明 事前学習及び事後学習についての説明 ※第1回目は運動準備不要（履修カードに貼り付ける写真を準備） ガイダンス内容を振り返り、受講計画の確認を行う。（30分）
	事後学習	
2	事前学習	運動の身体的・精神的効果について調べてくる。フィットネスチェックの測定種目（※測定種目：握力・反復横跳び・長座体前屈・立ち幅跳び・上体起こし・閉眼片足立ち）について事前に確認してくる。 （30分）
	授業内容	【体力及び身体運動の理解】 健医・フィットネスチェックを実施し、その結果を踏まえ自らの達成課題を抽出する。軽運動、体操、ストレッチ等の実践を通じて、身体運動の理解を深める。
	事後学習	フィットネスチェックの結果を踏まえて、体力及び健康の維持増進に向けた目標を立てる。（30分）
3	事前学習	体力要素の一つである「柔軟性」とは何かを調べる。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【柔軟性を高めるエクササイズ】 身体ほぐし運動（セルフ・ペアストレッチ）、ストレッチ用具を用いて行う。ペアで意見の交換を通じてコミュニケーション、協働への理解を深める。
	事後学習	実施した運動内容を振り返り、積極的に実施する。振り返りシートを作成する（30分）

4	事前学習	自重トレーニングのメリット・デメリットについて調べる。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【自重トレーニングを知る】 クイック&スロー、スタビラゼーショントレーニングを行う。正確な動作、適切な運動量についての理解を深める。 ペアで意見の交換を通じてコミュニケーション、協働への理解を深める。
	事後学習	実施した運動内容を振り返り、積極的に実施する。振り返りシートを作成する（30分）
5	事前学習	体力要素の一つである「敏捷性」とは何かを調べる。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【敏捷性（アジリティ）を高める】 トレーニング用具（ラダー等）を用いて行う。正確な動作、適切な運動量についての理解を深める。グループで意見の交換を通じてコミュニケーション、協働への理解を深める。
	事後学習	実施した運動内容を振り返り、積極的に実施する。振り返りシートを作成する（30分）
6	事前学習	体力要素の一つである「平衡性」とは何かを調べる。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【平衡性（バランス）を高める】 平衡性を必要とする用具を用いて行う。ペアで実施し、問題発見・課題設定及び解決といった一連のコーチングを行う。 ※屋外多目的コートで実施予定
	事後学習	実施した運動内容及び、コミュニケーション方法等を振り返り、振り返りシートを作成する（30分）
7	事前学習	サーキットトレーニングのメリット・デメリットについて調べる。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【サーキットトレーニングを知る】 サーキットトレーニングの目的・方法、プログラム作成の考え方などについて学ぶ。
	事後学習	実施した運動内容を振り返り、積極的に実施する。振り返りシートを作成する（30分）
8	事前学習	既習の回転運動について、動作のコツを調べる。自宅で可能な範囲で行う。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【身体感覚の再考】 マット運動による回転動作を行う。自己の身体感覚とそれを言語化して他者に伝える。ペアで実施し、問題発見・課題設定及び解決といった一連のコーチングを行う。
	事後学習	実施した運動内容及び、コミュニケーション方法（伝え方等）について考え、振り返りシートを作成する。（30分）
9	事前学習	ダブルダッチの動作を動画視聴や関連資料を用いて事前に調べる。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【ローブスポーツ①】 ダブルダッチを行う。グループで実施し、問題発見・課題設定及び解決といった一連のコーチングを行う。※屋外多目的コートで実施予定
	事後学習	実施した運動内容及び、コミュニケーション方法（伝え方等）について考え、振り返りシートを作成する。（30分）
10	事前学習	動作の復習及びコミュニケーション方法について準備する。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【ローブスポーツ②】 技能チェックを実施する。※屋外多目的コートで実施予定
	事後学習	実施した運動内容及び、コミュニケーション方法（伝え方等）について考え、振り返りシートを作成する。（30分）
11	事前学習	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【ボールゲーム①】 少人数あるいは多人数のゲームを行う。意見の交換を通じてゲームにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。※屋外多目的コートで実施予定
	事後学習	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。（30分）
12	事前学習	実施するスポーツについての、ルール及び動作など動画視聴や関連資料を調べて準備する。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【ボールゲーム①】 少人数あるいは多人数のゲームを行う。意見の交換を通じてゲームにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。※屋外多目的コートで実施予定
	事後学習	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。（30分）
13	事前学習	ウェイトトレーニングのRM法、トレーニングの原理・原則について関連資料を調べる。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【トレーニングマシンを使った運動①】 最大筋力の測定、適切な負荷の設定を学ぶ（オーバーロードなど）
	事後学習	目的に応じた適切な負荷の設定方法について復習する。振り返りシートを作成する。（30分）
14	事前学習	前回の設定負荷値をまとめ、授業時間で実施するトレーニング種目の選定を行う。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【トレーニングマシンを使った運動②】 プログラムの作成と実施。
	事後学習	目的に応じた適切な負荷の設定方法について復習する。作成したプログラムの良い点・課題点をまとめる。振り返りシートを作成する。（30分）

15	事前学習	半期の授業内容及び目標達成度についてまとめる。（30分）
	授業内容	【フィットネスチェックとまとめ】 フィットネスチェック、振り返りシートの作成、講評
	事後学習	運動・スポーツ実施の有効性について理解を深める。課題レポートの作成（30分）

科目名	体育実技 I A	担当者	塩嶋 理恵	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	スポーツを通じて体力の向上、人とのコミュニケーション能力を高める。 また、生涯スポーツとしての習慣を身につける。				
授業目的・到達目標	◎授業目的 スポーツを通じて健康及び体力の向上を目指すとともに、コミュニケーション能力など社会性を育成することを目的とする。 ◎到達目標 個々に応じた各種目のスキルアップを目指すとともに、スポーツ活動を通じて運動習慣を身に付け実践していくことを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1，4，5，6，7				
履修条件	受講時は運動に適した服装（ジャージ等）、室内用シューズを必ず準備すること。				
授業方法	施設・人数等に応じて、各種運動と器具トレーニングを並行して展開していく。多目的コートを使用する場合がある。出席状況で授業内容を変更する場合もある。【フィードバック方法】提出されたレポート課題をもとに講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	積極的な授業への参加状況を重視（70%） 随時レポート課題、卓球実技試験を課す（30%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	必要に応じてプリント等を配布する。 DVDなども参考資料として活用する。				
オフィスアワー	木曜日8：50～9：00、12：10～12：20 授業講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業内容等の把握、シラバス参照（30分）
	授業内容	年間授業計画、評価の方法に関するガイダンス
	事後学習	ガイダンス内容を確認する（30分）
2	事前学習	体力チェックテスト測定種目について確認する（30分）
	授業内容	各施設使用方法説明 体力チェックテスト（1）
	事後学習	体力チェックテスト（2）に対応できるよう復習をする（30分）
3	事前学習	身体のゆがみはなぜ起こるのかを調べる（30分）
	授業内容	ゆがみ修正体操 二人組になり、お互いにゆがみをチェックし修正方法を参考に実施する
	事後学習	ゆがみ修正体操 ストレッチングを実施する（30分）
4	事前学習	卓球のフォア・バックの予習を行う（30分）
	授業内容	卓球 シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、フォア・バック） 器具トレーニングを並行して行う
	事後学習	卓球のフォア・バックの復習を行う（30分）

5	事前学習	卓球のカットの予習を行う（30分）
	授業内容	卓球 シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、カット） 器具トレーニングを並行して行う
	事後学習	卓球のカットの復習を行う（30分）
6	事前学習	卓球のサーブの予習を行う（30分）
	授業内容	卓球 シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、サーブ） 器具トレーニングを並行して行う
	事後学習	卓球のサーブの復習を行う（30分）
7	事前学習	卓球のサーブとレシーブの予習を行う（30分）
	授業内容	卓球 シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、サーブとレシーブ） 器具トレーニングを並行して行う
	事後学習	卓球のサーブとレシーブの復習を行う（30分）
8	事前学習	卓球シングルスゲームとルールの予習を行う（30分）
	授業内容	卓球 シングルス戦に向けてゲームとルールの説明、練習試合を行う 器具トレーニングを並行して行う
	事後学習	卓球シングルスゲームとルールの復習を行う（30分）
9	事前学習	卓球シングルスのルールとマナーの予習を行う（30分）
	授業内容	卓球 シングルス戦 リーグ戦を行う 器具トレーニングを並行して行う
	事後学習	卓球シングルスのルールとマナーの復習を行う（30分）
10	事前学習	卓球シングルスのルールとマナー、戦略を予習する（30分）
	授業内容	卓球 シングルス戦 リーグ戦2回戦目を行う 器具トレーニングを並行して行う
	事後学習	卓球シングルスのルールとマナー、戦略の復習を行う（30分）
11	事前学習	卓球ダブルスのルールとマナーの予習を行う（30分）
	授業内容	卓球 ダブルス戦 リーグ戦を行う 器具トレーニングを並行して行う
	事後学習	卓球ダブルスのルールとマナーの復習を行う（30分）
12	事前学習	卓球ダブルスのルールとマナー、戦略を予習する（30分）
	授業内容	卓球 ダブルス戦 リーグ戦2回戦目を行う 器具トレーニングを並行して行う
	事後学習	卓球ダブルスのルールとマナー、戦略の復習を行う（30分）
13	事前学習	卓球ダブルスのルールとマナー、基本スキルの再確認（30分）
	授業内容	卓球 基本スキル（サーブ・ラリー）の授業内試験およびまとめ 器具トレーニングを並行して行う
	事後学習	卓球ダブルスのルールとマナー、基本スキルの復習を行う（30分）
14	事前学習	ダーツなど軽スポーツ 各種ルールの予習を行う（30分）
	授業内容	器具トレーニング ダーツなど軽スポーツ各種実施する
	事後学習	ダーツなど軽スポーツ 各種ルールの復習を行う（30分）
15	事前学習	半期の振り返りを行う（30分）
	授業内容	【まとめ】授業の振り返り、講評
	事後学習	半期の振り返りを行い、スポーツ実施の有効性について理解を深める。 また今後の健康増進に向けた目標を立てる。（30分）

科目名	体育実技 I A	担当者	白土 男女幸	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	--------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	生涯を通して健康で豊かな生活を送るためには健康寿命を延伸することが重要です。そのためには、筋量や筋力および心肺機能の保持増進のためトレーニングを自ら実践する必要があります。この授業では、筋力および持久力トレーニングを中心に引き上げ、その科学的方法を解説した上で様々なトレーニングを実践します。また、グループ実践の中で、学生同士のコミュニケーションの促進をはじめ、協調性の向上を目的とした授業を展開します。					
授業目的・到達目標	【授業目的】身体運動やスポーツの実践を通じて健康増進及び体力の向上を図るとともに、他者との交流を通してコミュニケーション力をはじめとする社会性を養うことを目的とする。 【到達目標】健康で活力ある生活を営むために、身体運動を通じて運動習慣と実践する態度、コミュニケーション力の向上を目標とする。関連DP及びCP：総合科目体育実技科目領域1、4、5、6、7					
履修条件	運動をするうえで健康上の問題がないこと（不安のある学生は第1回目のオリエンテーション時に相談してください）。室内用運動靴、トレーニングウェア、タオルを準備すること。多目的コートを使用する場合があります。					
授業方法	主に全体指導、必要に応じてグループワークも実施します。また事後学習として、トレーニング記録や自己省察を目的とした授業省察ノートの作成をしてもらいます。【フィードバック方法】授業省察ノート講評およびレポート提出とする。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業への参画状況60%、授業省察ノート及びレポート、目標達成度等40%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない。				
参考書	必要に応じてプリントを配付する。					
オフィスアワー	基本的には授業前後の時間のみ。授業講堂にて。どうしても時間が作れない場合は授業実施期間の水曜日19：30以降に対応（要事前相談）。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	本授業のシラバスを事前に一読しておくこと。（30分）
	授業内容	オリエンテーション（授業概要等の説明、アイスブレイキングの実施、＊着替えは不要）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
2	事前学習	体力要素や体力測定方法について予習しておくこと（文部科学省HP_新体力テスト実施要項を参照）。また、ストレッチや軽いジョギングや筋力トレーニングなどで身体を慣らしておくこと。（30分）
	授業内容	体力測定①（握力、立ち幅跳び、反復横跳び、上体起こし、体前屈）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
3	事前学習	全身持久力測定のため、軽いジョギングなどで心肺機能に軽い負荷を与えておくこと。（30分）
	授業内容	体力測定②（踏み台昇降、各体力要素の評価）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
4	事前学習	筋力トレーニングについて基本的な方法や健康効果について調べておくこと。（30分）
	授業内容	トレーニングマシンによる筋力トレーニングの実践①（筋力トレーニングの方法と健康効果の解説、各種マシンの使用方法とフォームの解説、至適強度の設定）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）

5	事前学習	第4回目の配布資料を再読しておくこと。（30分）
	授業内容	トレーニングマシンによる筋力トレーニングの実践②（至適強度による筋力トレーニングの実践）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
6	事前学習	スロートレーニング（スロトレ）について調べておくこと。（30分）
	授業内容	自重負荷による筋力トレーニングの実践（自らの体重を負荷にして様々な筋力トレーニングを実践する ～スロートレーニングを中心に～）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
7	事前学習	持久力トレーニングの健康効果について調べえておくこと。（30分）
	授業内容	持久力トレーニングの解説と実践（心拍数による運動強度の確認方法とその健康効果の解説、運動と心拍数の関係を軽い運動を実践しながら体感してみる）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
8	事前学習	インターバル速歩およびTABATAメソッドについて調べておくこと。（30分）
	授業内容	持久力トレーニングの実践（心拍数を確認しながらインターバル速歩およびTABATAメソッドの実践）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
9	事前学習	エアロビクスの健康効果やステップについて調べておくこと。（30分）
	授業内容	エアロビクスの解説と実践（歴史と効果の解説、基本的なリズムとステップの実践）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
10	事前学習	第9回で紹介したステップを練習しておくこと。（30分）
	授業内容	エアロビクスの実践（基本ステップで構成したベーシックエアロビクスの実践 ～心拍数を確認しながら実践する～）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
11	事前学習	ストレッチングについて調べておくこと。（30分）
	授業内容	ストレッチングの解説と実践（種類と効果の解説、個人およびペアでストレッチングの実践～静的および動的ストレッチから簡易PNFまで～）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
12	事前学習	ヨガの歴史や健康効果について調べておくこと。（30分）
	授業内容	ヨガの解説と実践①（ヨガの歴史や効果の解説、太陽礼拝の実践）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
13	事前学習	太陽礼拝のルーティンを実践しておくこと。（30分）
	授業内容	ヨガの実践②（呼吸と自分の身体に意識を向けて太陽礼拝、各種ポーズの実践）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
14	事前学習	太陽礼拝のルーティンを実践しておくこと。（30分）
	授業内容	ヨガの実践③（太陽礼拝、各種ポーズの実践）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
15	事前学習	これまでの授業を振り返り、授業省察ノートの「全体の感想」について記述しておくこと。（30分）
	授業内容	レポートおよび授業省察ノートの提出、全体のまとめ
	事後学習	今後の健康保持増進のためのトレーニング計画を再考すること。（30分）

科目名	体育実技 I A	担当者	鈴木 由美	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	心身ともに健康な学生生活を送ることはもちろんであるが、その後の人生において充実した時間を持てるかは学生時代の健康に関する認識と運動習慣、そしてコミュニケーションスキルの獲得が大きく影響する。体育実技Iでは、それらを獲得する健康行動の実践を目的とする授業を展開する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】この授業では「健康」「体力」に関する理論的学習と、様々なエクササイズやスポーツの実践学習の融合を通して、生涯使える「身体的教養」を身につけ、各自の目的に応じた心と身体づくりの方法と生涯スポーツに取り組むためのスキルを学習、また運動することの「楽しさ」「爽快感」を体感することを目的とする。 【到達目標】健康で自己実現のための心と身体づくりに関する知識を身につけ、各自の目的に応じた運動習慣形成のための計画、実践、評価ができるようになること。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 4, 5, 6, 7				
履修条件	運動に適した服装（トレーニングウェア、屋外・屋内シューズ）タオル、水分補給用の飲み物を準備すること。※第1回目は更衣不要（履修カードに貼る写真を準備）。2号館体育場、トレーニングルーム、屋外多目的コートにて実施。				
授業方法	授業開始時に出席確認、実施内容の説明。その後、資料配布による理論学習、それらを実践するための様々なエクササイズやスポーツを実施する。【フィードバック方法】授業記録シート、トレーニングカードや課題レポートの提出。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加度、課題への積極的参加度・習熟度、授業記録ノート等を総合的に評価する	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	学習テーマに合わせて資料を配布する			
参考書	必要に応じ紹介				
オフィスアワー	金曜日 8：20～14:45 授業講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業の目的・内容をシラバスを読んで確認しておく(30分)
	授業内容	前期ガイダンス（授業方法・授業内容についての説明及び受講に際しての注意）
	事後学習	ガイダンスの内容確認する(30分)
2	事前学習	「健康の概念」と「3要素」について調べておく(30分)
	授業内容	体力測定&仲間づくりのゲーム ○健康の概念と3要素 ※ストレッチング（以降、毎回実施）
	事後学習	体力測定の結果を踏まえ、健康増進のために必要な目標を立てる。配布資料をもとに取り扱った学習内容について復習しておく(30分)
3	事前学習	筋力トレーニングの種類・方法について調べておくこと(30分)
	授業内容	マシントレーニング Max測定（間接法）① ○筋コンディショニングとは？
	事後学習	配布資料をもとに様々な筋コンディショニングの方法について復習しておくこと(30分)
4	事前学習	前回の授業記録に記載した疑問点や改善点の解決方法を明確化しておく(30分)
	授業内容	マシントレーニング Max測定（間接法）② ○トレーニング理論①
	事後学習	配布資料をもとに各自の目的に応じたトレーニング方法について復習しておくこと(30分)

5	事前学習	前回の授業記録に記載した疑問点や改善点の解決方法を明確化しておく (30分)
	授業内容	エアロビックダンス (導入) ○トレーニング理論②
	事後学習	授業で実施したストレッチングを実践し、正しいフォームやポイントを復習しておくこと。(30分)
6	事前学習	「有酸素運動」について調べておく (30分)
	授業内容	エアロビックダンス① (ローインパクト) 筋コンディショニング① (自重) ○エアロビックダンスとは?
	事後学習	授業で実施した自重トレーニングを実践し、正しいフォームやポイントを復習しておくこと。エアロビックダンスの特徴を説明できるようにしておくこと (30分)
7	事前学習	前回の授業記録に記載した疑問点や改善点の解決方法を明確化しておく (30分)
	授業内容	エアロビックダンス② (ローインパクト) 筋コンディショニング② (自重) ○有酸素運動の強度と効果
	事後学習	授業で実施した自重トレーニングを実践し、正しいフォームやポイントを復習しておくこと。配布資料をもとに有酸素運動を行う際のポイントについて復習しておくこと (30分)
8	事前学習	前回の授業記録に記載した疑問点や改善点の解決方法を明確化しておく (30分)
	授業内容	ステップエアロビクス① (踏み台を使用した有酸素運動) 筋コンディショニング③ (自重)
	事後学習	授業で実施した自重トレーニングを実践し、正しいフォームやポイントを復習しておくこと。ステップエアロビクスの特徴 (メリット) について復習しておくこと。(30分)
9	事前学習	前回の授業記録に記載した疑問点や改善点の解決方法を明確化しておく (30分)
	授業内容	ステップエアロビクス② (踏み台を使用した有酸素運動) 筋コンディショニング④ (自重)
	事後学習	授業で実施した自重トレーニングを実践し、正しいフォームやポイントを復習しておくこと。ステップエアロビクスの特徴 (メリット) について復習しておくこと。
10	事前学習	ユニバーサルホッケー関連の動画を見てルールを理解し、競技のイメージを掴んでおくこと (30分)
	授業内容	ユニバーサルホッケー① 筋コンディショニング⑤
	事後学習	授業で実施したマシントレーニングの負荷の評価を行い、正しいフォームやポイントを復習しておくこと。前回の授業記録に記載したゲームに関する各自の疑問点や改善点の解決方法を明確化しておく (30分)
11	事前学習	ユニバーサルホッケーのストロークの基本技術について調べておく (30分)
	授業内容	ユニバーサルホッケー② 筋コンディショニング⑥
	事後学習	授業で実施したマシントレーニングの負荷の評価を行い、正しいフォームやポイントを復習しておくこと。前回の授業記録に記載したゲームに関する各自の疑問点や改善点の解決方法を明確化しておく (30分)
12	事前学習	前回の授業記録に記載した技術・戦術に関する疑問点や改善点の解決方法を明確化しておく (30分)
	授業内容	ユニバーサルホッケー② 筋コンディショニング⑦
	事後学習	授業で実施したマシントレーニングの負荷の評価を行い、正しいフォームやポイントを復習しておくこと。前回の授業記録に記載したゲームに関する各自の疑問点や改善点の解決方法を明確化しておく (30分)
13	事前学習	各種ヨガに関する動画を見ておくこと (30分) ヨガの発祥について調べておく
	授業内容	ヨガ① (ヨガとは?呼吸とポーズ)
	事後学習	授業で扱ったヨガのポーズと呼吸法を復習しておく (30分)
14	事前学習	前回の各自の授業記録に記載したヨガのポーズや呼吸法の疑問点や改善点の解決方法を明確化しておく (30分)
	授業内容	ヨガ② (パワーヨガ)
	事後学習	授業で扱ったヨガのポーズや呼吸法のポイントを復習しておく (30分)
15	事前学習	これまで取り扱った各種エクササイズについて、目的に応じて効果的に行うポイントを整理しておく (30分)
	授業内容	前期扱った各エクササイズのまとめ、講評
	事後学習	前期扱った資料をもとに復習しておく (30分)

科目名	体育実技 I A	担当者	高田 佑輔	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	健康で充実した大学生活を送るためにも、普段から意識的に身体活動を行うなど心身の健康づくりが必要になる。この授業では運動やスポーツを通じて健康維持や増進を図ることと、コミュニケーション力を養うことを実践し学習する。生涯スポーツに繋がる一助になるよう、様々なスポーツに取り組む。多目的コートを使用する場合がある。				
授業目的・到達目標	【授業目的】 運動やスポーツの実践を通じて体を動かすことと健康の重要性を理解し、日常生活に運動を取り入れられるようにする。また、ルールやマナーの遵守、仲間とコミュニケーションをとるといった社会性を育成することを目的とする。 【到達目標】 運動の重要性を理解するとともに、運動を実践することによる基礎体力を向上させられることを目指す。				
履修条件	開講前運動靴、運動着、タオルを用意すること。飲み物は蓋付きのものにすること。 自他の怪我や事故を防ぐためにもアクセサリ類はすべて外し、爪の手入れをしておくこと。				
授業方法	実技形式。授業開始時に出欠確認とその日に実施する内容の説明をする。出席者数やそれまでの実施状況、または天候によって授業内容を変更する場合もある。【フィードバック方法】事前学習、事後学習や課題レポートの提出とする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	積極的な授業参画度（60%）、レポート課題や各自の努力度など（40%）を鑑みて総合的に評価します。 用具の準備や片付け、提出物や服装も評価対象です。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しません			
参考書	必要に応じて配布資料を用意します。				
オフィスアワー	授業（土曜3・4限）の前後に対応しますが、事前にポータルサイト等を用いて連絡をしてください。 E-mail：takata.yusuke@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、質問をまとめておく（30分）
	授業内容	ガイダンス（この授業の進め方（ルール）などの説明） ※集合は2号館地下202教場、更衣は不要
	事後学習	ポータルサイトで授業ルールの確認テスト（30分） 授業に必要なものを準備する
2	事前学習	ポータルサイト上の資料を読み、体力測定の方法を確認する（30分）
	授業内容	体力測定1
	事後学習	体力測定の結果を踏まえて、今後の授業の目標を立てる（30分） ポータルサイトで提出
3	事前学習	マシントレーニングについて調べておく（30分）
	授業内容	授業時に使うマシンの説明と実施方法
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） マシントレーニングの復習
4	事前学習	今までに体験したストレッチを確認しておく（30分）
	授業内容	柔軟性のトレーニング
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 柔軟性トレーニングの復習

5	事前学習	持久力が向上するトレーニングを確認しておく（30分）
	授業内容	全身持久力のトレーニング1
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 全身持久力のトレーニングの復習
6	事前学習	前回授業の反省点と注意点を事前に確認しておく（30分）
	授業内容	全身持久力のトレーニング2
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 持久的能力を向上させるために必要なことをまとめる
7	事前学習	敏捷性を高めるトレーニングを確認しておく（30分）
	授業内容	敏捷性のトレーニング1
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 敏捷性のトレーニングの復習
8	事前学習	前回授業の反省点と注意点を事前に確認しておく（30分）
	授業内容	敏捷性のトレーニング2
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 敏捷性を高めるために必要なことをまとめる
9	事前学習	体幹トレーニングを確認しておく（30分）
	授業内容	体幹のトレーニング1（スタビライゼーション）
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 体幹のトレーニングの復習
10	事前学習	前回授業の反省点を注意点を事前に確認しておく（30分）
	授業内容	体幹のトレーニング2（スタビライゼーション）
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理（30分） 体幹のトレーニングを行う際に気を付けることをまとめる
11	事前学習	今まで行ったことのあるレジスタンストレーニングを確認しておく（30分）
	授業内容	レジスタンストレーニング1
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） レジスタンストレーニングの復習
12	事前学習	前回授業の反省点と注意点を事前に確認しておく（30分）
	授業内容	レジスタンストレーニング2
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） レジスタンストレーニングを行う正しい姿勢を覚える
13	事前学習	アルティメットのルールを確認しておく（30分）
	授業内容	アルティメット
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 試合を実施して感じたことや個人とチームの改善点をまとめる
14	事前学習	ユニバーサルホッケーのルールを確認しておく（30分）
	授業内容	ユニバーサルホッケー
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 試合を実施して感じたことや個人とチームの改善点をまとめる
15	事前学習	卓球のルールを確認しておく（30分）
	授業内容	卓球
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 試合を実施して感じたことや個人とペアの改善点をまとめる

科目名	体育実技 I A	担当者	田中 雅子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	音楽に合わせて楽しくエアロビックダンスを行います。エアロビックダンスは自分のペースで行うことのできる運動です。そのため、初心者でも無理なく運動することができます。エアロビックダンスの技術を習得できるように、アニメソングやJポップなどの学生諸君に馴染みのある課題曲でエアロビックダンスを行います。それらの課題曲を行うことにより、段階的にエアロビックダンスの構成や動き方を学ぶことができます。					
授業目的・到達目標	エアロビックダンスを実践することにより、身体運動の効果を実感させることを目的とする。さらに生活習慣に運動習慣を身に付けることを、正しい食事と休養による知識を学び生涯を通じてよい生活習慣が身につけることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育科目領域：1, 4, 5, 6, 7					
履修条件	医師に運動を止められていない者。					
授業方法	実技と演習を行います。アニメソングなどを用いた振り付けのあるエアロビックダンス（フィットネスダンス）を行います。なじみのある楽曲で無理なく運動を行うことができます。多目的コートを使用する場合があります。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業態度、実技テスト、レポート	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2010年	公益社団 日本フィットネス協会		フィットネスダンス指導教本		編者 池田美知子
	備考					
参考書	該当なし					
オフィスアワー	質問、相談は毎授業後（水曜1、2限）に受け付けます。授業講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキスト第1章を読む。（30分）
	授業内容	オリエンテーション
	事後学習	テキスト第1章を読む。（30分）
2	事前学習	テキスト第1章を読む。（30分）
	授業内容	ステップシート プログラムの表記方法の読み方を学習しプログラムを視覚的に理解する。 体力測定
	事後学習	テキスト第2章のステップシート、コンビネーションの種類について確認する。（30分）
3	事前学習	授業で行ったステップをテキストのステップ辞書にて確認する。（30分）
	授業内容	コンビネーション（1） 動きの境の規則性を理解して動く。
	事後学習	授業で行ったステップをテキストのステップ辞書にて確認する。 生活習慣チェック表を記入し、自らの生活習慣を意識する。（30分）
4	事前学習	授業で行ったステップをテキストのステップ辞書にて確認する。（30分）
	授業内容	コンビネーション（2）
	事後学習	授業で行ったステップをテキストのステップ辞書にて確認する。（30分）

5	事前学習	授業で行ったステップをテキストのステップ辞書にて確認する。（30分）
	授業内容	コンビネーション（3）
	事後学習	授業で行ったステップをテキストのステップ辞書にて確認する。（30分）
6	事前学習	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。（30分）
	授業内容	フィットネスダンス（1） 振り付けのあるエアロビックダンス
	事後学習	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。（30分）
7	事前学習	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。（30分）
	授業内容	フィットネスダンス（2）
	事後学習	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。 生活習慣チェック表を記入、前回にチェックと比べ、良い習慣が身についたかを確認する。（30分）
8	事前学習	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。（30分）
	授業内容	フィットネスダンス（3）
	事後学習	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。（30分）
9	事前学習	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。（30分）
	授業内容	フィットネスダンス（4）
	事後学習	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。（30分）
10	事前学習	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。（30分）
	授業内容	コンビネーション作成
	事後学習	自分が作成したコンビネーションの練習。（30分）
11	事前学習	自分が作成したコンビネーションの練習。（30分）
	授業内容	コンビネーションとプログラム（1） 学生が作成したコンビネーションをプログラムに発展させ運動を行う。
	事後学習	自分が作成したコンビネーションの練習。（30分）
12	事前学習	自分が作成したコンビネーションの練習。（30分）
	授業内容	コンビネーションとプログラム（2）
	事後学習	自分が作成したコンビネーションの練習。（30分）
13	事前学習	自分が作成したコンビネーションの練習。（30分）
	授業内容	実技試験準備 コンビネーションの指導の練習
	事後学習	自分が作成したコンビネーションの練習。（30分）
14	事前学習	自分が作成したコンビネーションの練習。（30分）
	授業内容	実技試験 各自の動き、姿勢の矯正（教員から個別にアドバイス）
	事後学習	課題曲、全曲のステップシート確認（30分）
15	事前学習	課題曲、全曲のステップシート確認（30分）
	授業内容	まとめ、講評 課題曲を全曲続けて行う。
	事後学習	生活習慣チェック表を確認し、自らの生活習慣をもう一度見直す。そして、良い習慣が身につかなかった部分への原因と改善方法について考察しレポートを作成する。（30分）

科目名	体育実技 I A	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	スポーツは体を動かす生活文化である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、ルール、マナー、体を動かす楽しみ、コミュニケーション力を修得し、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。			
授業目的・到達目標	[授業目的] この授業では、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上を図るとともに、他者との交流や多様性を尊重しコミュニケーション力をはじめとする社会性を養うことを目的とする。 [達成目標] 健康で活力ある生活を営むために、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化を実践する態度、コミュニケーション力の向上を目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域 1, 4, 5, 6, 7			
履修条件	運動着と屋外及び屋内用運動靴（トレーニングウェア・シューズ等を準備）を準備すること。2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的施設を使用する。第1回目は準備不要(履修カードに張り付ける顔写真を準備)			
授業方法	出席・実施内容の説明をおこなう。授業開始・終了時には、ウォーミングアップとクーリングダウンを行う。 [フィードバック方法] 事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートの提出とする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業への参加度(60%) 授業関連シート及び課題レポート、受講準備、各自の目標達成度等(40%)	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。		
参考書	必要に応じてプリントの配布。			
オフィスアワー	金曜日の昼休み：12:10～13:00 メールにて事前に予約をすること tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について、自分なりの考えをまとめておく。(30分)
	授業内容	[ガイダンス] 授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等
	事後学習	ガイダンス内容を理解し、トレーニングウェア・シューズ等の準備や確認をする。(30分)
2	事前学習	ウォーミングアップ・クーリングダウンの必要性について調べる。(30分)
	授業内容	[ストレッチ体操] 適度な筋活動を行いながら柔軟性を求め、身体をほぐしていく。またストレッチ用具の使い方を学習する。
	事後学習	ストレッチ体操のポイントを理解し身体ほぐし運動を実施する。(30分)
3	事前学習	フィットネスチェック項目について確認する。握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち(30分)
	授業内容	[フィットネスチェック] フィットネスチェック(握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち)
	事後学習	フィットネスチェックの結果を踏まえ、体力及び健康の維持増進に向けたスポーツ・身体運動の計画を立てる。(30分)
4	事前学習	体力要素の1つである敏捷性：アジリティを調べる。(30分)
	授業内容	[敏捷性：アジリティトレーニングを知る] ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果を学習する。
	事後学習	敏捷性トレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。(30分)

5	事前学習	サーキットトレーニングについて調べ、そのトレーニング効果を考える。(30分)
	授業内容	[オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングを知る] 筋力と持久力を同時に向上させるサーキットトレーニングの有効性とトレーニングプログラム作成を学習する。
	事後学習	サーキットトレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。(30分)
6	事前学習	「竹馬」の乗り方について調べる。(30分)
	授業内容	[平衡性：バランスを高める] 平衡性を必要とする用具を用いて行い運動効果を学習する。
	事後学習	平衡性：バランスを高めるために必要なトレーニングを実施し理解を深める。(30分)
7	事前学習	トレーニング効果を得るための、トレーニングの原理・原則を調べる。(30分)
	授業内容	[筋力とパワーの向上：ブライオメトリックトレーニング] 難易度に応じた運動様式の分類を学習する。
	事後学習	授業内容を振り返り、ブライオメトリックトレーニングの運動様式をまとめる。(30分)
8	事前学習	ダブルダッチについて調べ、必要な体力要素や動作について考える。(30分)
	授業内容	[ロープスポーツ①] 大縄跳び・ダブルダッチを行う。＊屋外多目的施設で実施
	事後学習	ダブルダッチの動作について振り返り、理解を深める。 グループにおける仲間とお互いの良い点や課題などを共有する。(30分)
9	事前学習	前回授業における課題について、改善策を考えておく。(30分)
	授業内容	[ロープスポーツ②] 大縄跳び・ダブルダッチの技術確認を行う。＊屋外多目的施設で実施
	事後学習	ダブルダッチの動作について振り返り、理解を深める。 グループにおける仲間とお互いの良い点や課題、前回からの改善出来た点などを共有する。(30分)
10	事前学習	フットサルのルールについて調べる。(30分)
	授業内容	[球技：フットサル①] 足の使い方、基本動作について実践形式でおこない技術を習得する。＊屋外多目的施設で実施
	事後学習	足の使い方、基本動作について反復練習を実施し理解を深める。(30分)
11	事前学習	試合における個人戦術、チーム戦術について調べる。(30分)
	授業内容	[球技：フットサル②] 個人戦術、チーム戦術について実践形式でおこない技術を習得する。＊屋外多目的施設で実施
	事後学習	個人戦術、チーム戦術について分析を行う。(30分)
12	事前学習	試合におけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。(30分)
	授業内容	[球技：フットサル③] 実践形式においてのチームにおけるコミュニケーションを積極的に行う。＊屋外多目的施設で実施
	事後学習	戦略・戦術に関してのコミュニケーションを振り返り理解を深める。(30分)
13	事前学習	レジスタンストレーニングの最高反復回数と％ 1RMについて調べる。(30分)
	授業内容	[器具を使ったトレーニング①] 正しいフオーラムを学ぶ。
	事後学習	再確認と動作の反復練習を実施し理解を深める。(30分)
14	事前学習	超回復理論について調べる(30分)
	授業内容	[器具を使ったトレーニング②] 適切な負荷の設定を学ぶ。
	事後学習	目的に応じた適切な負荷の設定方法について復習する。(30分)
15	事前学習	半期の振り返りを行う。(30分)
	授業内容	[まとめ] フィットネスチェック、授業の振り返り
	事後学習	半期の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。(30分)

科目名	体育実技 I A	担当者	藤井 洋武	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	様々な運動やスポーツ・トレーニングを体験し、自分自身の健康について考える授業です おもにからだ動かすことを中心に、心身のリフレッシュや体力の向上について学びます					
授業目的・到達目標	①仲間と共にスポーツやトレーニングを行うことで一体感や楽しさを共有し、社会性やコミュニケーションスキルを向上させることを目的とします ②自分自身の身体について学び、自分に適した運動法や強度を理解することを目的とし、かつ実践できるようにすることを目標とします ③授業を通して積極的に仲間と交流し、色々なことを話し合える仲間を作ることを目標とします 関連DP及びCP：総合科目・体育科目領域：1, 4, 5, 6, 7					
履修条件	①毎回の授業への出席はもちろん、積極的に参加し、取り組むこと ②運動にふさわしい服装（ジャージ等）、靴（室内用）を必ず用意すること					
授業方法	施設、人数などに応じて各種運動を行います。また当日の出席状況によっては、シラバスの内容と違う種目を行うことがあります。 時期と天候によって、多目的コートを使用して授業を行う場合があります					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%		授業参加度を踏まえ、数回のレポート課題、授業態度、授業への取り組みで評価する	
	平常評価		100%			
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない 授業内にて資料を適宜配布する				
参考書	なし					
オフィスアワー	質問・相談については授業時間内（一部火曜5限、二部火曜2、3限）にしてください 個別に質問・相談がある学生は授業講堂に来てください 火曜日のみ16:00～ 授業間の休み時間等に対応します					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、年間のスケジュール授業概要、到達目標などをよく理解してガイダンスに臨むこと（30分）
	授業内容	年間授業計画、授業の進め方になどに関するガイダンス
	事後学習	ガイダンスの説明を振り返って授業内容、授業の進め方を理解する。また次週以降の授業に備えて体調管理に留意する（30分）
2	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	体ほぐし、ストレッチング
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
3	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	身体を使ったコミュニケーションゲーム① 体力チェック
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
4	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	身体を使ったコミュニケーションゲーム② 体力チェック
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）

5	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	サーキットトレーニング①
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
6	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	サーキットトレーニング②
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
7	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	卓球① シングルス
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
8	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	卓球② シングルス
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
9	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	ウォーキング
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
10	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	フットサル①
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
11	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	フットサル②
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
12	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	DVD鑑賞（トレーニングやエアロビクスなど）
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
13	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	ダーツ①
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
14	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	ダーツ②
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
15	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	前半のまとめ、振り返り
	事後学習	半期の授業を振り返り、授業を通して、自分自身のからだにとってどのような学びがあったのかをまとめる 今後も継続して運動やスポーツを続けるためにはどのような運動が適しているか、自己分析をおこなう（30分）

科目名	体育実技 I A	担当者	山田 美絵子	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	トレーニングとレクリエーションを半々で行う。 大学生の体力低下、運動不足を補うためのスポーツマネジメントサイクルを学び、自分で運動メニューを作り、実践し、体育の授業がなくても運動習慣を持てるように導く。				
授業目的・到達目標	身体活動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、健康の維持増進、体力の向上を図り、心身ともに健康で行動的な大学生活が送れるように自覚することを目的とする。また、他者とのコミュニケーションを取り、リーダーシップを発揮、問題解決能力などを身につけることを目標とする。関連D P及びC P：総合科目・体育科目領域：1, 4, 5, 6, 7				
履修条件	運動に適した服装、室内シューズ、タオル、筆記用具の用意				
授業方法	講義、身体チェック、トレーニングを基盤として施設や人数に合わせた用具・ルールで運動を実践する。ボールゲームやニュースポーツは「多目的コート」を使用することがあるので前の週の授業時に連絡をする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	レポート(体力・筋力測定の結果,トレーニングについて)20%,運動の実践状況,授業内容・ルールの理解,体力やトレーニングの状況理解60%,コミュニケーションやリーダーシップ等20%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用せず			
参考書	必要に応じて授業時にプリント配布する。				
オフィスアワー	木曜日13:00から18:00　2号館地下（体育教員室，体育場）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	筆記用具、写真の準備をする、事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）
	授業内容	年間の授業内容や履修上の注意点、評価方法などのガイダンス 履修カード作成
	事後学習	ガイダンス内容に従い、トレーニングウェア、シューズ、タオルなどの準備、購入をする。（30分）
2	事前学習	体調管理 前回欠席の学生は写真の準備（30分）
	授業内容	各種ストレッチ 体のチェック
	事後学習	202教室とトレーニング機器の使い方とトレーニングルームでのルールの再確認（30分）
3	事前学習	体調管理、体力測定内容の確認（30分）
	授業内容	体力カード作成 身体チェック（体力測定）
	事後学習	ストレッチなどの筋肉をフォロー 自分の体力測定の結果を確認し、高める体力をチェックする。（30分）
4	事前学習	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく（30分）
	授業内容	手具を使わないからだほぐし運動
	事後学習	初めて行うからだの使い方を復習してみる（30分）

5	事前学習	体調管理 ストレッチなど筋肉に刺激を与えておく（30分）
	授業内容	バランスボールを使ったからだほぐし運動
	事後学習	初めて行うからだの使い方を復習してみる（30分）
6	事前学習	体調管理 ボールを使ったからだほぐし運動を調べてくる（30分）
	授業内容	ボールを使ったからだほぐし運動（多目的コートor体育場）
	事後学習	初めて行うからだの使い方を復習してみる（30分）
7	事前学習	体調管理 縄跳びの様々な跳び方の情報を得る（30分）
	授業内容	縄跳びを使ったからだほぐし運動（多目的コートor体育場）
	事後学習	初めて行うからだの使い方を復習してみる（30分）
8	事前学習	体調管理、 筋力測定内容の確認（30分）
	授業内容	マシントレーニング 筋力測定（1RMをはかろう）
	事後学習	ストレッチなどの筋肉をフォロー 自分の筋力測定の結果を確認し、高める体力をチェックする（30分）
9	事前学習	マシンの使い方の確認（30分）
	授業内容	マシントレーニング 筋力測定（1RMをはかろう）
	事後学習	初めて使うマシンの使い方を復習してみる（30分）
10	事前学習	ボールの扱いを調べてくる（30分）
	授業内容	トレーニング ボールゲーム（多目的コートor体育場）
	事後学習	体力の弱点など高めるためのトレーニング方法を再確認する（30分）
11	事前学習	ボールの扱いを前回より上手にするためには、何を意識するのか考えてくる（30分）
	授業内容	トレーニング ボールゲーム（多目的コートor体育場）
	事後学習	体力の弱点など高めるためのトレーニング方法を再確認する ボールの扱いが上手くできたのか再確認（30分）
12	事前学習	インディアカという羽をコントロールするためにはどうしたらよいか調べてくる（30分）
	授業内容	トレーニング インディアカ（多目的コートor体育場）
	事後学習	羽はコントロールできたか再確認 トレーニングの負荷は適当か再調整が必要か再確認（30分）
13	事前学習	自分に合うラケットはどちらなのか調べてくる ストロークを調べてくる（30分）
	授業内容	トレーニング 卓球（シングルス）
	事後学習	トレーニングの負荷は適当か再調整が必要か再確認（30分）
14	事前学習	苦手なストロークができるようになるには何をしたらよいか調べてくる（30分）
	授業内容	トレーニング 卓球（ダブルス）
	事後学習	トレーニングの負荷は適当か再調整が必要か再確認 授業ではトレーニングが最後なので、休み中にできる内容を考える（30分）
15	事前学習	ルールの確認 休み中に行うトレーニングメニューを作成（30分）
	授業内容	卓球大会 まとめ、講評
	事後学習	筋疲労を残さないように、ストレッチを行う。（30分）

科目名	体育実技 I A	担当者	吉田 明	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業では、実技実習での理論と実践による「科学知と身体知の融和」を図り、早期から健康の保持・増進に関心を持ってもらい、生涯スポーツに対する動機づけを高めること。そして、運動とスポーツを通して他者を信頼し、ルールを厳守することなどの社会性を身につけ、そして、様々な競技の基礎技術を習得すると同時にゲームを通してコミュニケーションやリーダーシップを図り、チームワークを獲得することを目的とする。					
授業目的・到達目標	【授業目的】身体運動やスポーツの実践を通じて健康及び体力向上を図るとともに、他者との交流を通してコミュニケーション力をはじめとする社会性を養うことを目的とする。 【到達目標】健康で活力ある生活を営むために、身体運動やスポーツ活動を通じて運動習慣と実践する態度、コミュニケーション力の向上を目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育科目領域：1, 4, 5, 6, 7					
履修条件	受講時は運動に適した服装（トレーニングウェア等）、多目的コートも使用するので、シューズ（外履き、室内履き、授業内容によって準備）を必ず準備すること。＊第1回目は準備不要（履修カードに貼り付ける写真を準備）					
授業方法	施設、人数等に応じて、各種運動とトレーニングを並行して展開していく（受講人数によって授業内容を変更する場合がある）。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業参加度60%、平常点40%（受講態度、課題提出など）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	特になし。				
参考書	必要に応じて紹介する。					
オフィスアワー	三崎町キャンパス、火曜日、12：00～13：00にて対応。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	身体運動やスポーツを行うことの意義について理解しておくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス（授業の目的と内容、評価方法、諸注意について）
	事後学習	ガイダンスの内容を確認する。（30分）
2	事前学習	測定種目について確認しておくこと。（30分）
	授業内容	身体測定、体力測定
	事後学習	測定結果を踏まえて、体力向上、健康増進に向けて目標を立てる。（30分）
3	事前学習	「柔軟性」について理解しておくこと。（30分）
	授業内容	アイズブレイク、身体ほぐし運動
	事後学習	授業内容を振り返り、身体ほぐし運動を実施する。（30分）
4	事前学習	「体幹トレーニング」について理解しておくこと。（30分）
	授業内容	トレーニング（体幹、バランスボール、ストレッチング）
	事後学習	トレーニングの確認と動作の反復練習を実施する。（30分）

5	事前学習	「ウェイトトレーニング」について理解しておくこと。（30分）
	授業内容	フィジカルトレーニング（ウェイトマシン、ストレッチング）
	事後学習	目的に応じた適切な負荷の設定方法について復習する。（30分）
6	事前学習	「持久力」について理解しておくこと。（30分）
	授業内容	フィットネストレーニング（エアロバイク、ストレッチング）
	事後学習	目的に応じた適切な負荷、時間、心拍数の設定方法について復習する。（30分）
7	事前学習	「サッカー」についてのルールや方法について、事前に調べておくこと。（30分）
	授業内容	サッカー①（ルール理解と簡易ゲーム）
	事後学習	授業最初に前回授業内容に関する質問を行うので、復習しておくこと。（30分）
8	事前学習	前回授業における課題について、改善策を考えておく。（30分）
	授業内容	サッカー②（ルール理解と簡易ゲーム）
	事後学習	競技ルールの再確認と動作の反復練習を実施し理解を深める。（30分）
9	事前学習	「ポートボール」についてのルールや方法について、事前に調べておくこと。（30分）
	授業内容	ポートボール①（ルール理解と簡易ゲーム）
	事後学習	授業最初に前回授業内容に関する質問を行うので、復習しておくこと。（30分）
10	事前学習	前回授業における課題について、改善策を考えておく。（30分）
	授業内容	ポートボール②（ルール理解と簡易ゲーム）
	事後学習	競技ルールの再確認と動作の反復練習を実施し理解を深める。（30分）
11	事前学習	「タグラグビー」についてのルールや方法について、事前に調べておくこと。（30分）
	授業内容	タグラグビー①（ルール理解と簡易ゲーム）
	事後学習	授業最初に前回授業内容に関する質問を行うので、復習しておくこと（30分）
12	事前学習	前回授業における課題について、改善策を考えておく。（30分）
	授業内容	タグラグビー②（ルール理解と簡易ゲーム）
	事後学習	競技ルールの再確認と動作の反復練習を実施し理解を深める。（30分）
13	事前学習	「ラケットボール」についてのルールや方法について、事前に調べておくこと。（30分）
	授業内容	ラケットボール①（ルール理解と簡易ゲーム）
	事後学習	授業最初に前回授業内容に関する質問を行うので、復習しておくこと（30分）
14	事前学習	前回授業における課題について、改善策を考えておく。（30分）
	授業内容	ラケットボール②（ルール理解と簡易ゲーム）
	事後学習	競技ルールの再確認と動作の反復練習を実施し理解を深める。（30分）
15	事前学習	半期の振り返りを行う。（30分）
	授業内容	前期まとめ（授業の振り返り、講評）
	事後学習	半期の振り返りを行い、運動・スポーツ実施の有効性について理解を深める。（30分）

科目名	体育実技 I A	担当者	朴 鍾赫	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	近年、技術の高度化、情報化等が進展している反面、人間関係の希薄化、精神的なストレス増大や運動不足により、心身両面にわたり健康上の様々な問題を生み出してきている。学生の身体諸機能の向上ならびに体力の増進をはかり、将来の社会生活の活動基盤となる体力および生涯スポーツ実践のための方法や技術、身体運動に関する知識を学習する。				
授業目的・到達目標	運動やスポーツを通じて挑戦力、コミュニケーション力、協同力を身につけるとともに健康・体力向上に関する知識を深めることを目的とする。身体運動が日常生活に及ぼす影響について学び、それを活かしてより健康で活力ある学校生活を過ごすことができるようになることを目標とする。関連DP及びCP:総合科目・体育実技科目領域1, 4, 5, 6, 7				
履修条件	受講者は室内用運動靴（紐靴）、トレーニングウェア（自由に運動ができる服装）、タオル等を各自で準備すること。 ※ 第1回目は準備不要（履修カードに貼り付ける証明写真1枚を準備）				
授業方法	授業開始時に出席確認および実施内容の説明をする。※授業内容は変更する場合がある。 多目的コートを使用する場合がある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業への取り組み姿勢、レポート等を加え総合的に評価する。経験者・未経験者が一緒に協力し合う授業であるため、技術的レベルに関しては、評価の対象としない。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。			
参考書	必要に応じてプリントを配付する。				
オフィスアワー	授業の前後（木曜2、3限）に質問を受け付ける。授業講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	体育実技1Aに関する総合的な説明をするので、筆記用具等を持参すること（30分）
	授業内容	【ガイダンス】 授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、シラバスについて説明
	事後学習	次の種目に関するルールを調べておく（30分）
2	事前学習	体力測定種目についてチェックする（30分）
	授業内容	【体力測定】 握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足たち
	事後学習	体力測定の結果を踏まえて、1年間の体力管理の目標をたてる（30分）
3	事前学習	卓球のルールについて調べる（30分）
	授業内容	【卓球①】 基礎練習、サーブ、ラリー、シングルスゲーム
	事後学習	試合中の感覚を覚え、シングルの相手とコミュニケーションをとる（30分）
4	事前学習	ダーツゲームの種類およびルールについて確認する（30分）
	授業内容	【ダーツ①】 基礎練習、501ゲーム、01ゲーム
	事後学習	ルールを正しく理解できたか省みる（30分）

5	事前学習	フロアーカーリングのルールについて調べる（30分）
	授業内容	【フロアーカーリング①】 ルールの説明，ストーン投げ練習，ゲーム（5人組）
	事後学習	チームワークに貢献できたか振り返り，次回のゲームに活かす（30分）
6	事前学習	ハンドボールについて調べ，試合中のプレーをイメージトレーニングする（30分）
	授業内容	【ハンドボール①】 パス，シュート，ゲーム（5人組）
	事後学習	自分のプレーに満足できたか考える（30分）
7	事前学習	サッカーとフットサルの違いについて調べる（30分）
	授業内容	【フットサル①】 パス，ドリブル，ミニゲーム（4人組）※可能ならば屋外多目的施設で実施
	事後学習	個人プレーとチームプレーが両方できたか振り返る（30分）
8	事前学習	ビックルボールのゲーム方法とルールについて調べる（30分）
	授業内容	【ビックルボール①】 ルールの説明，ラリー，ゲーム（2人組）
	事後学習	他のラケット競技と異なる点について考える（30分）
9	事前学習	ドッチボールに必要な体力要素について調べる（30分）
	授業内容	【ドッチボール①】 ボールの投げ方，ゲーム（6人組）
	事後学習	チームメートとコミュニケーションをとり，次回の種目に活かす（30分）
10	事前学習	ミニバドミントンを楽しめる方法を考える（30分）
	授業内容	【ミニバドミントン①】 基礎練習，ゲーム（ダブルス）
	事後学習	試合を振り返り，バドミントン競技の理解を深める（30分）
11	事前学習	ウェイトトレーニング時の注意点について調べる（30分）
	授業内容	【ウェイトトレーニング①】 レジスタンストレーニング，体組成測定
	事後学習	十分にクールダウンを実施し，疲労回復および傷害予防に努める（30分）
12	事前学習	ユニホッケーのルールおよび技術を調べる（30分）
	授業内容	【ユニホッケー①】 パス，ドリブル，ミニゲーム（4人組）
	事後学習	ユニホッケーのスティック操作が上手にできたか確認する（30分）
13	事前学習	フロアーカーリング①と違うチームを組み，戦術を考える（30分）
	授業内容	【フロアーカーリング②】 ルールの説明，ストーン投げ練習，ゲーム（5人組）
	事後学習	フロアーカーリング①に比較し，上達できたか確認する（30分）
14	事前学習	フロアーカーリング①と違うチームを組み，戦術を考える（30分）
	授業内容	【ビックルボール②】 ルールの説明，基本練習，ゲーム（3人組）
	事後学習	試合の結果を見直し，次回の種目に活かす（30分）
15	事前学習	前期のまとめをする（30分）
	授業内容	【まとめ】 レクリエーション，講評，質疑応答
	事後学習	総合評価（30分）

科目名	体育実技 I A	担当者	深田 喜八郎	部別	第二部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	自身の健康を維持するための知識は、人生をより良く生きるための教養になっている。将来、疾病に罹患する危険性を低下させるためには、運動習慣を身に付けることが必要である。基礎的な運動トレーニングの方法を学ぶとともに、運動を通して他者と関することで、社会性を養うことを目的とする授業を展開する。					
授業目的・到達目標	【授業目的】様々なトレーニングを経験し、効果的なトレーニングの方法を修得するとともに、他者との交流を通してコミュニケーション能力を養成することを目的とする。 【到達目標】身体組成や体力水準を確認し、他者と情報交換をしながら、より自分自身に適したトレーニングプログラムを構築することができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 4, 5, 6, 7					
履修条件	室内用運動靴、トレーニングウェア、タオル等を持参して受講すること。授業は主に2号館体育場及びトレーニングルームを使用するが、多目的コートを使用する場合もある。※第1回目は準備不要(履修カードに貼り付ける写真を準備)					
授業方法	授業内容の説明、準備運動、運動実践、ディスカッションなどを人数に応じて実施する。 【フィードバック方法】作成した運動プログラムや課題レポートに対する講評、添削を実施する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業への参画状況(50%)、課題レポート及び各自の目標達成度等50%)	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない。				
参考書	必要に応じて資料を配布する。					
オフィスアワー	月曜日 17時30分～18時00分 2号館地下1F ※事前に連絡をしてください。fukada.kihachiro@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	運動の意義についてまとめる。(30分)
	授業内容	【ガイダンス】授業の目的・内容、評価方法、諸注意について説明する
	事後学習	ガイダンスの内容を確認する。(30分)
2	事前学習	ストレッチの効果について調べる。(30分)
	授業内容	【体ほぐしの運動】パートナーストレッチ等で体の柔軟性を高めるとともに、他者とのコミュニケーションを図る。
	事後学習	授業内容を振り返り、ストレッチ等を実施する。(30分)
3	事前学習	測定種目について確認する。(30分)
	授業内容	【体力テスト】身体組成、反復横跳び、上体起こし、握力、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ちのテストを実施する。
	事後学習	体力テストの結果を踏まえ、自身の目標を立てる。(30分)
4	事前学習	自重トレーニングについて調べる。(30分)
	授業内容	【自重トレーニング】自身の体重を利用した筋力トレーニングの方法を紹介し、実施する。
	事後学習	授業内容を振り返り、自重トレーニングを実施する。(30分)

5	事前学習	マシントレーニングの種類を調べる。(30分)
	授業内容	【マシントレーニング】器具を使用した筋力トレーニングの方法や注意点を解説し、実施する。
	事後学習	筋力増強のメカニズムについてまとめる。(30分)
6	事前学習	筋力トレーニングプログラムの作成(30分)
	授業内容	【筋力トレーニングの実施】各自の目的に沿った筋力トレーニングを考案し、実施する。
	事後学習	実施した内容について振り返り、まとめる。(30分)
7	事前学習	卓球の基礎技術についてまとめる。(30分)
	授業内容	【卓球(練習)】卓球台の準備や道具の取り扱いについて解説し、様々なペアで練習する。
	事後学習	練習した経験を踏まえ、卓球のコツについてまとめる。(30分)
8	事前学習	シングルのルールについて調べる。(30分)
	授業内容	【卓球(シングル)】シングルスゲームの方法を解説し、様々な相手と対戦する。
	事後学習	シングルの結果を踏まえ、反省点をまとめる。(30分)
9	事前学習	ダブルスのルールについて調べる。(30分)
	授業内容	【卓球(ダブルス)】ダブルスゲームの方法を解説し、様々な人とペアを組み対戦する。
	事後学習	ダブルスのコミュニケーションについてまとめる。(30分)
10	事前学習	有酸素運動について調べる。(30分)
	授業内容	【有酸素運動①】エアロバイクによる有酸素運動の方法を解説し、実施する。
	事後学習	エアロバイクの回転数や強度についてまとめる。(30分)
11	事前学習	安静時心拍数を確認しておく。(30分)
	授業内容	【有酸素運動②】心拍数をもとにエアロバイクの強度を設定し、有酸素運動を実施する。
	事後学習	目標とする運動中の心拍数を確認する。(30分)
12	事前学習	自分自身に適した有酸素運動を考案する。(30分)
	授業内容	【有酸素運動③】作成した有酸素運動プログラムをもとに、トレーニングを実施する。
	事後学習	実施した内容について振り返り、まとめる。(30分)
13	事前学習	総合的なトレーニングプログラムを作成する。(30分)
	授業内容	【トレーニング実践①】筋力トレーニングと有酸素運動を組み合わせたトレーニングプログラムを考案し、実施する。
	事後学習	実施した内容を振り返り、プログラムを修正する。(30分)
14	事前学習	総合的なトレーニングプログラムを再度作成する。(30分)
	授業内容	【トレーニング実践②】筋力トレーニングと有酸素運動を組み合わせたトレーニングプログラムを再度考案し、実施する。
	事後学習	実施した内容を振り返り、まとめる。(30分)
15	事前学習	これまでの内容についてまとめる。(30分)
	授業内容	【まとめ】これまでの授業内容をまとめ、得られた学習成果を確認する。
	事後学習	施設を探し、トレーニングを実践する。(30分)

科目名	体育実技 I B	担当者	浅野 友之	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現在大学生の体力の低下が進んでいる。体力低下によって生涯への影響が懸念される。その為、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の保持・増進の為の基礎知識の習得や態度を講義・スポーツ・トレーニングを通じて育成する。				
授業目的・到達目標	体育での身体活動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、健康(栄養・運動・休養)の保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活を送る態度の養成を目的とする。各種室内での軽運動・スポーツ・トレーニング等に親しみ、積極的に参加し、以下の点について学ぶことを目標とする。1) 自己の体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する 2) 生涯にわたる運動習慣を獲得し心身の健康維持を図る 3) 実社会において活躍する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける関連DP及びCP：体育実技科目領域1, 4, 5, 6, 7				
履修条件	受講時は、必ず運動着と室内用運動靴を着用すること。健康管理に留意し、遅刻をしないように出席のこと。				
授業方法	個人の体力カード、プリント資料を用い、授業を展開する。進捗状況により授業内容の変更もある。内容によっては「多目的コート」を使用することがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業中の活動に対する参画状況60%、授業に対する姿勢、理解と達成度20%、トレーニングの記録やまとめのレポート内容20%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用せず、授業時に体力カード、資料を配布する			
参考書	必要、希望に応じて紹介する				
オフィスアワー	水曜日4時限終了後16:10～ 授業講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	後期のトレーニングプログラムを作成すること（30分）
	授業内容	健医チェック、トレーニングプログラム作成、バランスボール
	事後学習	体組成結果より生活習慣をチェックし、トレーニングメニューを再確認すること（30分）
2	事前学習	筋力測定方法の確認と測定負荷量の決定と心拍数のチェックをすること、バランスボールの運動をプリントより決めること（30分）
	授業内容	最大筋力測定、エアロバイク体カテスト、バランスボール
	事後学習	正しく測定出来たか、又エアロバイクの測定結果より負荷・消費カロリー・心拍数をチェックし記録すること（30分）
3	事前学習	トレーニングのプログラムを修正しメニューを作成すること、カーリングについて調べること（30分）
	授業内容	トレーニング(筋力・エアロ)、陸上カーリング
	事後学習	トレーニング時間と内容が妥当か確認すること、カーリングのゲーム方法とルールを理解すること（30分）
4	事前学習	筋肉疲労を軽減する為ストレッチを必ず実施すること（30分）
	授業内容	トレーニング(筋力・エアロ)、陸上カーリング
	事後学習	トレーニング種目が適切か確認し、カーリングのゲームに参加しチームに貢献出来たか省みること（30分）

5	事前学習	食生活をチェックし蛋白質やビタミンの摂取を重視し、日常生活での歩行数もチェックすること（30分）
	授業内容	トレーニング(筋力・エアロ)、ミニテニス
	事後学習	筋力トレーニングの負荷量を検討し、ミニテニスの技術とルールを確認し理解すること（30分）
6	事前学習	トレーニングが4週目に入り最大筋力測定の準備をすること、ミニテニスのダブルスゲーム方法を理解すること（30分）
	授業内容	トレーニング(筋力・エアロ)、ミニテニス
	事後学習	トレーニング段階の一区切りとしてプログラムを再検討すること、ミニテニスの技術とルールについて理解し満足出来るゲームを展開出来たか省みること（30分）
7	事前学習	第2段階のトレーニングを意識し体幹トレーニングを習慣とすること、フットサルは前期のゲームと比較しよりフットワークを充実させること（30分）
	授業内容	トレーニング(筋力・エアロ)、フットサル
	事後学習	特にトレーニングの運動量を検討し意識を高めること、チームの中で充分活躍出来たか検証すること（30分）
8	事前学習	トレーニングに余裕が出来ればトレッドミルのトレーニング方法も工夫すること、卓球はルールを再確認すること（30分）
	授業内容	トレーニング(筋力・エアロ)、卓球(ゲーム)
	事後学習	有酸素トレーニング種目の確認をし次回に展開すること、シングルスゲームは前回よりも技術レベルを高めることが出来たか検証すること（30分）
9	事前学習	スキップingロープを試みること、卓球のダブルスゲームに於ける戦術を工夫すること（30分）
	授業内容	スキップingロープ、卓球(ゲーム)
	事後学習	トレーニングとしてのスキップingロープを活用することもあること、ダブルスゲームでペアとのコミュニケーションが取れ良い結果を得たか検証すること（30分）
10	事前学習	第2段階のトレーニングを検証し次の段階での体力アップを重視し、更にプログラム内容を工夫すること（30分）
	授業内容	トレーニング(筋力・エアロ)、ユニホッケー
	事後学習	体組成のチェックにより食生活や運動習慣を考えると、ユニホッケーのゲームではチームワークのもとに貢献出来たか検証すること（30分）
11	事前学習	トレーニングの結果を認識し更にトレーニングの原則を確認すること（30分）
	授業内容	トレーニング(筋力・エアロ)、フリスビー
	事後学習	正しくトレーニングを実施し記録が確実かチェックすること、フリスビーに於ける正確なパスワークが出来たか検証すること（30分）
12	事前学習	トレーニング後半に向けての記録を整理すること（30分）
	授業内容	トレーニング(筋力・エアロ)、ダーツ
	事後学習	筋力測定に向けて確立したトレーニング内容かチェックすること、ダーツは前回よりもスコアがアップ出来、ルールを正しく理解出来たか省みること（30分）
13	事前学習	後半のトレーニングをまとめレポート作成の準備をすること、希望種目を考え決定すること（30分）
	授業内容	トレーニング(筋力・エアロ)、希望種目
	事後学習	トレーニングの記録、特に有酸素運動の結果についての記録を適確に取ること、次回の希望種目を考えること（30分）
14	事前学習	効率の良い最大筋力測定の手順と結果の処理について工夫すること（30分）
	授業内容	最大筋力測定、希望種目
	事後学習	正確に測定し、その結果を処理しレポートに生かすこと（30分）
15	事前学習	後期のまとめのレポート作成の資料をチェックすること（30分）
	授業内容	後期のまとめ、レポート及び解説、健医チェック
	事後学習	到達目標を再認識し、将来に向けて健康や体力の向上を目指し運動習慣を獲得すること（30分）

科目名	体育実技 I B	担当者	伊藤 華英	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	様々な競技を体験することと、体力測定などを通して自身の健康や、今後の生活でどのようにスポーツが活かせるかを学ぶこと。スポーツの概念のすること、見ること、支えること自身で考える授業。また普段の生活習慣や、運動習慣の現状知る機会にする。スポーツを通して、コミュニティの構築する機会にする。					
授業目的・到達目標	【授業目的】自身の健康をマネジメントできるようにプログラムを考えることができるようになることが目的である。また、スポーツが生活にどのような役割を果たすことができるのか、自身で考えられるようになることが目的である。 【到達目標】生涯の自身の健康とはを考えられるまでになること。また、スポーツを通してコミュニケーション能力を養うことが目標。関連D P及びC P：総合科目・体育科目領域：1, 4, 5, 6, 7					
履修条件	受講者は室内用運動靴（紐靴）、運動着（トレーニングウェア、ヨガウェア等、動き易い格好）、必要であれば水分、タオル。※1回目は不要。					
授業方法	授業開始時に出席確認、実施内容の説明。※授業内容は変更する場合あり。授業開始時にはと終了時に、ストレッチなど、準備運動を取り入れる。内容によっては多目的コートを使用することがある。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業参加度60%、平常点20%（授業態度、意欲的であるか）、レポート20%（レポート課題 最終授業で課題あり）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2013年	ポプラ社		オリンピック・レガシー		間野義之
	備考	使用しない				
参考書	資料を配布することもある。					
オフィスアワー	金曜日、4 限終了後30分。授業講堂にて受け付けます。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	夏休みの課題をクリアファイルに入れて持参，事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）
	授業内容	ガイダンス 復習、課題確認。
	事後学習	次回の体力測定の内容を確認 （30分）
2	事前学習	今後の自身のトレーニングを考えるため、ある程度考えておく。 （30分）
	授業内容	身体チェック（体力測定）
	事後学習	自身がどのような結果であったのかを考える （30分）
3	事前学習	有酸素運動と無酸素運動の違いを調べておく （30分）
	授業内容	マシーントレーニング ボールゲーム
	事後学習	自身の行ったトレーニングを振り返る。 （30分）
4	事前学習	マシンを使用したトレーニング効果を調べる。 （30分）
	授業内容	マシーントレーニング ボールゲーム
	事後学習	自身の授業内での計画をする （30分）

5	事前学習	今後の授業内のトレーニングを考える。授業中に提出。レポート用紙配布。（30分）
	授業内容	マシントレーニング、体幹トレーニング ファンスポーツを体験または、パラスポーツ体験（シッティングバレー）
	事後学習	感想をレポート用紙に記載。（30分）
6	事前学習	前回に行ったパラスポーツについて調べる（30分）
	授業内容	マシントレーニング ファンスポーツを体験または、パラスポーツ体験（シッティングバレー）
	事後学習	感想を次回授業でレポートで提出。（30分）
7	事前学習	卓球のルール（シングルス）を調べ、レポートで提出。（30分）
	授業内容	マシントレーニング 卓球（シングルス）
	事後学習	トレーニングの感想または、卓球の感想（30分）
8	事前学習	卓球のレポートを提出。（30分）
	授業内容	マシントレーニング 卓球（前授業と同じ）
	事後学習	トレーニングの課題、感想レポート提出。（30分）
9	事前学習	卓球のダブルスについて調べておく（30分）
	授業内容	卓球（ダブルストーナメント戦） マシントレーニング
	事後学習	授業の感想を提出。（30分）
10	事前学習	卓球のダブルスについて調べる（30分）
	授業内容	卓球ダブルス続き（トーナメント） マシントレーニング
	事後学習	9回目授業と同様。（30分）
11	事前学習	ダーツのルールや種類を調べてくる。（30分）
	授業内容	ダーツ（ルール説明、実践） マシントレーニング
	事後学習	授業の感想レポート。（30分）
12	事前学習	11回目と同様。（30分）
	授業内容	ダーツ（ルール説明、実践） マシントレーニング
	事後学習	11回目と同様。（30分）
13	事前学習	ドッジビーのルールを調べてくる。（30分）
	授業内容	ドッジビー（ルール説明、実践） トレーニング（自身の計画に基づいた）
	事後学習	授業の感想。（30分）
14	事前学習	授業を振り返る。（30分）
	授業内容	身体測定、骨密度など。
	事後学習	最終課題におけるリサーチをする（30分）
15	事前学習	レポート提出。※重要なレポート（1時間）
	授業内容	まとめ、講評 （フィットネスチェック等）
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと（1時間）

科目名	体育実技 I B	担当者	岩本 良裕	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	健康を支えているものは、栄養、運動、休養、ストレス管理という柱です。日常生活の中で、これらを上手にバランスよく保っていくことによって、健康は維持されています。現代人にとって、特に不足がちとなる運動は健康の維持増進に極めて重要な役割を果たしています。本授業では、その運動を日常生活に無理なく取り入れていく方法について解説し、そして実践することによって、運動を習慣化し、健康な生活を自ら作り上げてことをねらいとします。				
授業目的・到達目標	[授業目的]この授業では、健康と体力の向上を図るために、エアロバイクやランニングマシンを使用して有酸素能力を高め、また筋力マシン等を使用して筋力を高め、そしてストレッチングにより柔軟性を高めながら総合的に体力アップを行うことができる態度と実践力の育成を目的とします。 [授業目標]自ら進んでトレーニングを実践し、トレーニングメニューについても自ら作成し、日常生活の中に運動を取り入れ、習慣化できるようにすることを目標とします。				
履修条件	関連授業や総合科目「体育実技科目領域ⅠとⅡ」の履修が必要です。運動終了後シャワーが利用できます。				
授業方法	毎回トレーニングメニューに従い、自分のペースでトレーニングを進めます。エアロバイクやランニングマシンでトレーニングを行う際には、ウォークマンを使用しても構いません。必要に応じて水分補給を行ってください。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加度（50％）、目標到達度（30％）、学習態度（20％） フィードバックは授業内において行います。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	授業時に紹介する。				
オフィスアワー	毎週金曜日4時限 2号館地下				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	体力測定の実施項目について調べる。（30分）
	授業内容	体力測定、体脂肪測定 筋力アップトレーニング方法についてのガイダンス
	事後学習	測定結果についてダイアグラムから自分の体力の特性を確認する。（30分）
2	事前学習	前回の記録に基づき、トレーニングメニューを作成する。（30分）
	授業内容	筋力アップトレーニング 1 体幹筋力アップトレーニング(1) フロントブリッジ、サイドブリッジ
	事後学習	授業を振り返り、トレーニングを行う。（30分） 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。
3	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。（30分）
	授業内容	筋力アップトレーニング 2 体幹筋力アップトレーニング(2) ヒップリフト、ダイアゴナル
	事後学習	授業を振り返り、トレーニングを行う。（30分） 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。
4	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。（30分）
	授業内容	筋力アップトレーニング 3 体幹筋力アップトレーニング(3) 腹筋・背筋トレーニング
	事後学習	授業を振り返り、トレーニングを行う。（30分） 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。

5	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。（30分）
	授業内容	筋力アップトレーニング 4 体幹筋力アップトレーニング(4)パワー腹筋・背筋トレーニング
	事後学習	授業を振り返り、トレーニングを行う。（30分） 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。
6	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。（30分）
	授業内容	筋力アップトレーニング 5 下肢筋力アップトレーニング(1)スクワット
	事後学習	授業を振り返り、トレーニングを行う。（30分） 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。
7	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。（30分）
	授業内容	筋力アップトレーニング 6 下肢筋力アップトレーニング(2)スロースクワット
	事後学習	授業を振り返り、トレーニングを行う。（30分） 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。
8	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。（30分）
	授業内容	筋力アップトレーニング 7 下肢筋力アップトレーニング(3)トレーニングマシン 1 レッグエクステンション等
	事後学習	授業を振り返り、トレーニングを行う。（30分） 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。
9	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。（30分）
	授業内容	筋力アップトレーニング 8 下肢筋力アップトレーニング(4)トレーニングマシン 2 レッグプレス等
	事後学習	授業を振り返り、トレーニングを行う。（30分） 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。
10	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。（30分）
	授業内容	筋力アップトレーニング 9 上肢筋力アップトレーニング(1)自重トレーニング
	事後学習	授業を振り返り、トレーニングを行う。（30分） 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。
11	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。（30分）
	授業内容	筋力アップトレーニング 10 上肢筋力アップトレーニング(2)ダンベルトレーニング
	事後学習	授業を振り返り、トレーニングを行う。（30分） 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。
12	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。（30分）
	授業内容	筋力アップトレーニング 11 上肢筋力アップトレーニング(3)トレーニングマシン 1
	事後学習	授業を振り返り、トレーニングを行う。（30分） 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。
13	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。（30分）
	授業内容	筋力アップトレーニング 12 上肢筋力アップトレーニング(4)トレーニングマシン 2
	事後学習	授業を振り返り、トレーニングを行う。（30分） 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。
14	事前学習	前回までの記録をまとめ、今回のトレーニングメニューを作成する。（30分）
	授業内容	筋力アップトレーニング 13 体力測定、体脂肪測定
	事後学習	授業を振り返り、トレーニングを行う。（30分） 週2回か3回ほどのトレーニングを行うことが望ましい。
15	事前学習	前回までの記録をまとめ、グラフを作成してトレーニング効果を調べる。（30分）
	授業内容	[まとめ] トレーニングカードに基づき、授業を振り返り、講評し、今後の課題等について解説する。
	事後学習	半期の授業を振り返り、運動を日常生活に取り入れ、習慣化していくことの重要性について理解を深める。（30分）

科目名	体育実技 I B	担当者	牛 来 千穂子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	---------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	現在大学生の体力の低下が進んでいる。体力低下による生涯への影響が懸念される。そのため、障害を通じて身体的・精神的・社会的な健康の保持・増進のための基礎知識の習得や態度を講義・スポーツ・トレーニングを通じて育成する。			
授業目的・到達目標	体育での身体活動を通して、各自が健康や体力に対する知識を深め、健康（栄養・運動・休養）の保持増進、体力向上を図ることにより、心身ともに健康的で幸福な大学生活を送ることができるよう自覚させたい。各種室内での軽運動・スポーツ・トレーニング当に親しみ、積極的に参加し、将来健康で豊かなライフスタイルの形成を目指すことを目的とする。1) 自己の体力レベルを把握し体力を向上する方法を確立する 2) 生涯にわたる運動習慣を獲得し、心身の健康維持を図る 3) 実社会において活躍する上で重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通してリーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につけることを目標とする。			
履修条件	運動やR及びの不適合科目を優免表技科目履修時は、必ず運動着と室内用運動靴を着用すること。			
授業方法	個人の体力カード、プリント資料を用い授業を展開する。進捗状況により授業内容の変更もある。内容によっては多目的コートを使用することもある。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業中の活動に対する参画状況60%、授業に対する姿勢、理解と達成度20%、トレーニングの記録やまとめのレポート内容20%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用せず、授業時に体力カード、資料を配布する		
参考書	必要、希望に応じて紹介する。			
オフィスアワー	2限終了後12：10～の時間帯にて対応する。授業講堂にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	後期のトレーニングプログラムを作成すること（30分）
	授業内容	健医チェック、トレーニングプログラム作成、バランスボール
	事後学習	体組成結果より生活習慣をチェックし、トレーニングメニューを再確認すること（30分）
2	事前学習	筋力測定方法の確認と測定負荷量の決定と心拍数のチェックをすること、バランスボールの運動内容を決めること（30分）
	授業内容	最大筋力測定、エアロバイク体カテスト、バランスボール
	事後学習	正しく測定できたか、また、エアロバイクの測定結果より負荷・消費カロリー・心拍数をチェックし記録すること（30分）
3	事前学習	トレーニングのプログラムを修正しメニューを作成すること、エアロビクスについて調べること（30分）
	授業内容	トレーニング（筋力・有酸素）、エアロビクス（ローインパクト）
	事後学習	トレーニング時間と内容が妥当であるか確認すること、エアロビクスの実施方法と基本動作を理解すること（30分）
4	事前学習	筋肉疲労を軽減するためストレッチを必ず実施すること（30分）
	授業内容	トレーニング（筋力・有酸素）、エアロビクス（ハイインパクト）
	事後学習	トレーニング種目が適切か確認し、エアロビクスの動作における強度変換がうまくできたか省みること（30分）

5	事前学習	食生活をチェックしタンパク質やビタミンの摂取を重視し、日常生活での歩行数もチェックすること（30分）
	授業内容	トレーニング（筋力・有酸素）、エアロビクス（ボクササイズ）
	事後学習	筋力トレーニングの負荷量を検討し、ボクササイズのフォーム・動作がうまくできたか省みること（30分）
6	事前学習	トレーニングが4週目に入り最大筋力測定の準備をすること、ヨガエクササイズについて理解すること（30分）
	授業内容	トレーニング（筋力・有酸素）、ヨガエクササイズ（呼吸と姿勢）
	事後学習	トレーニング段階の一区切りとしてプログラムを再検討すること、ヨガエクササイズの基本事項について理解し、うまくできたか省みること（30分）
7	事前学習	第二段階のトレーニングを意識し体幹トレーニングを習慣とすること、ヨガエクササイズにおける様々なポーズについて確認しておくこと（30分）
	授業内容	トレーニング（筋力・有酸素）、ヨガエクササイズ（様々なポーズ）
	事後学習	特にトレーニングの運動量を検討し意識を高めること、ヨガエクササイズの様々なポーズができたか、また、苦手なポーズがあったかなど、自分の身体について省みること（30分）
8	事前学習	トレーニングに余裕ができればトレッドミルのトレーニング方法も工夫すること、卓球はルールを再確認すること（30分）
	授業内容	トレーニング（筋力・有酸素）、卓球（シングルスゲーム）
	事後学習	有酸素トレーニング種目の確認をして次回に展開すること、シングルスゲームは前回よりも技術レベルを高めることができたか検証すること（30分）
9	事前学習	スキッピングロープを試みること、卓球のダブルスゲームにおける戦術を工夫すること（30分）
	授業内容	スキッピングロープ、卓球（ダブルスゲーム）
	事後学習	トレーニングとしてのスキッピングロープを活用することも考えること、ダブルスゲームでペアとのコミュニケーションが取れ良い結果を得たか検証すること（30分）
10	事前学習	第二段階のトレーニングを検証し次の段階での体力アップを重視し、更にプログラム内容を工夫すること（30分）
	授業内容	トレーニング（筋力・有酸素）、ファンクショナルコンディショニング
	事後学習	体組成のチェックにより食生活や運動習慣を考えること、ファンクショナルコンディショニングでは、身体の動きや仕組み・自分の身体の現状について理解できたかを省みること（30分）
11	事前学習	トレーニングの結果を認識し更にトレーニングの原則を確認すること（30分）
	授業内容	トレーニング（筋力・有酸素）、コアコンディショニング
	事後学習	正しくトレーニングを実施し記録が確実かチェックすること、コアコンディショニングでは、コンディショニングの重要性・必要性および自分の身体の変化に気づくことができたかを省みること（30分）
12	事前学習	トレーニング後半に向けての記録を整理すること（30分）
	授業内容	トレーニング（筋力・有酸素）、ダーツ
	事後学習	筋力測定に向けて確立したトレーニング内容かチェックすること、ダーツは前回よりもスコアアップすることができ、ルールを正しく理解できたか省みること（30分）
13	事前学習	後半のトレーニングをまとめレポート作成の準備をすること、希望種目を考え決定しておくこと（30分）
	授業内容	トレーニング（筋力・有酸素）、希望種目
	事後学習	トレーニングの記録、特に有酸素運動の結果についての記録を適格に取ること、次回の希望種目について考えておくこと（30分）
14	事前学習	効率の良い最大筋力測定の手順と結果の処理について工夫すること（30分）
	授業内容	最大筋力測定、希望種目
	事後学習	正確に測定し、その結果を処理しレポートに活かすこと（30分）
15	事前学習	後期のまとめのレポート作成の資料をチェックすること（30分）
	授業内容	後期のまとめ、レポート、健医チェック、講評
	事後学習	到達目標を再認識し、将来に向けて健康や体力の向上を目指し運動習慣を獲得すること（30分）

科目名	体育実技 I B	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	体育実技に不可欠な身体運動は、体力や健康を獲得する一つの手段である。また、身体運動の一つであるスポーツ活動は、体力や健康を獲得するためだけのものではなく、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を養成する営みである。本講座では、身体運動や各種スポーツを楽しみ、体力や健康に関する理解を深め、そして主体的に健康行動を実践できるように授業を展開する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】身体運動や各種スポーツの実践を通じて体力や健康の向上や健康行動の獲得、そして問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を養成する。 【到達目標】身体運動やスポーツの楽しさ理解し、主体的に健康行動を実践し、健康な生活習慣を身につける。 【関連するDP及びCP】総合科目・体育実技科目領域 1、4、5、6、7				
履修条件	運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。体力の維持増進のため、30分以上の連続歩行運動を週3回程度実施すること。【フィードバック方法】事前学習シート、振り返りシート、レポート課題				
授業方法	授業開始・終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。 授業は2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的コートを使用する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参画状況（50％）、平常点（50％） ※平常点は、事前学習シート及び振り返りシート、課題レポート、授業準備、受講態度等、各自の目標達成度	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	なし			
参考書	必要に応じてプリントを配付する。				
オフィスアワー	【神田三崎町キャンパス】火曜日 12：20～13：30、木曜日 12：10～13：00 連絡方法 satou.hideaki@nihon-u.ac.jp ※事前に上記メールアドレスに連絡（用件内容）をすること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	フィットネス測定種目を確認する（握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳、閉眼片足立ち）（30分）
	授業内容	【ガイダンス、柔軟性の運動】 授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等 身体ほぐし運動（セルフ・ペアストレッチ、ペアエクササイズ、フィットネスチェック）
	事後学習	フィットネスチェックの結果を踏まえて、体力及び健康の維持増進に向けた目標を立てる。（30分）
2	事前学習	体幹をトレーニングする重要性について調べてくる。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【体幹のエクササイズ（スタビライゼーショントレーニング）】 静的・動的スタビライゼーショントレーニングを実施する。正確な動作、適切な運動量についての理解を深める。ペアで意見の交換を通じてコミュニケーション、協働への理解を深める。
	事後学習	実施した運動内容を振り返り、積極的に実施する。振り返りシートを作成する（30分）
3	事前学習	全身持久力（心肺機能）を高めるサーキットトレーニングについて関連資料を用いて調べる。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【全身持久力向上の運動（サーキットトレーニング）】 高強度エクササイズを実施する。自分の体力に合わせた運動について学ぶ。
	事後学習	実施した運動内容を振り返り、積極的に実施する。振り返りシートを作成する（30分）
4	事前学習	フライングディスクのスロー及びキャッチについて確認する。動画を視聴し各動作を確認する。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【ディスクボーツ①】 フライングディスクのスローとキャッチを行う。ディスクを用いてゴールゲームを行う。意見の交換を通じてゲームにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。※屋外多目的コートで実施予定
	事後学習	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。（30分）

5	事前学習	フライングディスクのスロー及びキャッチについて再度確認する。動画等を視聴し各動作を確認する。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【ディスクスポーツ②】 フライングディスクのスローとキャッチを行う。柔らかい素材のディスクを用いてゲームを行う。意見の交換を通じてゲームにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。※屋外多目的コートで実施予定
	事後学習	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。（30分）
6	事前学習	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【ミニバドミントン】 当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得、楽しみ方を考える。意見の交換を通じてゲームにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。※屋外多目的コートで実施予定
	事後学習	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。（30分）
7	事前学習	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【卓球 シングルス】 親しみやすいスポーツの一つである卓球を体験する。当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得を目標とする。ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。
	事後学習	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。（30分）
8	事前学習	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【卓球 ダブルス①】 種目の特徴とルールの理解、技術の習得を目標とする。
	事後学習	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。（30分）
9	事前学習	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【卓球 ダブルス②】 ダブルスゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。意見の交換を通じてダブルスにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。
	事後学習	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。（30分）
10	事前学習	卓球（チーム戦）のルールについて調べる。動画を視聴し基本的な動作を確認する。
	授業内容	【卓球 チーム戦】 チーム戦（シングルスとダブルスの混合）を体験する。意見の交換を通じてチーム戦における役割やコミュニケーション、リーダーシップや協働への理解を深める。
	事後学習	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。（30分）
11	事前学習	ダーツ（カウントアップ）のルールを確認する。動画を視聴し投動作を確認する。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【ターゲットスポーツ①】 特徴とルールの理解、技術の習得、ゲームを通じて当該スポーツの楽しみ方を考える。
	事後学習	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。（30分）
12	事前学習	ダーツ（ゼロワン）のルールを確認する。動画を視聴し投動作を確認する。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【ターゲットスポーツ②】 特徴とルールの理解、技術の習得、ゲームを通じて当該スポーツの楽しみ方を考える。
	事後学習	実施したスポーツについての振り返りを行い、理解を深める。振り返りシートを作成する。（30分）
13	事前学習	トレーニングの原理・原則について復習する。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【トレーニングマシンを利用した運動①】 目的に応じた種目及び負荷の設定を学ぶ。
	事後学習	トレーニングの負荷設定に方法について再確認し、理解を深める。振り返りシートを作成する。（30分）
14	事前学習	強度、時間、頻度など考慮したプログラムを作成する。「超回復理論」と「フィットネス・疲労理論」について調べる。事前学習シートを作成する。（30分）
	授業内容	【トレーニングマシンを利用した運動②】 プログラムの作成と実施
	事後学習	作成したプログラムの良い点・課題点をまとめる。学びを生かし様々なプログラムの作成をしてみる。振り返りシートを作成する。（30分）
15	事前学習	授業内容及び目標達成度についてまとめる。（30分）
	授業内容	【フィットネスチェックとまとめ】 フィットネスチェック、振り返りシートの作成、講評
	事後学習	運動・スポーツ実施が自らに与えた影響についてまとめる。また、各自の様々な目標達成に必要な不可欠な体力及び健康の維持増進に向けた目標を立てる。課題レポートを作成する。（30分）

科目名	体育実技 I B	担当者	塩嶋 理恵	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	スポーツを通じて体力の向上、人とのコミュニケーション能力を高める。 また、生涯スポーツとしての習慣を身につける。			
授業目的・到達目標	◎授業目的 スポーツを通じて健康及び体力の向上を目指すとともに、コミュニケーション能力など社会性を育成することを目的とする。 ◎到達目標 個々に応じた各種目のスキルアップを目指すとともに、スポーツ活動を通じて運動習慣を身に付け実践していくことを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 4, 5, 6, 7			
履修条件	受講時は運動に適した服装（ジャージ等）、室内用シューズを必ず準備すること。			
授業方法	施設・人数等に応じて、各種運動と器具トレーニングを並行して展開していく。多目的コートを使用する場合がある。出席状況で授業内容を変更する場合もある。【フィードバック方法】提出されたレポート課題をもとに講評を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	積極的な授業への参加状況を重視（70%） 随時レポート課題、卓球実技試験を課す（30%）
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		
参考書	必要に応じてプリント等を配布する。 DVDなども参考資料として活用する。			
オフィスアワー	木曜日8：50～9：00、12：10～12：20 授業講堂にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業内容等の確認 体育実技にふさわしい服装の準備をすること（30分）
	授業内容	準備体操などストレッチングを行う
	事後学習	ガイダンス内容を確認する（30分）
2	事前学習	体力チェックテスト測定種目について確認する（30分）
	授業内容	各施設使用方法説明 体力チェックテスト（2）を行う
	事後学習	体力チェックテスト（1）との比較ができるように記入用紙を作成する（30分）
3	事前学習	ストレッチングの必要性について調べる（30分）
	授業内容	ストレッチング体操を実施する
	事後学習	ストレッチング体操実施後の振り返りを実施する（30分）
4	事前学習	バドミントンのフォア・バックの予習を行う（30分）
	授業内容	バドミントンのシングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、フォア・バック） 器具トレーニングを並行して行う
	事後学習	バドミントンのフォア・バックの復習を行う（30分）

5	事前学習	バドミントンのヘアピンの予習を行う（30分）
	授業内容	バドミントン シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、ヘアピン） 器具トレーニングを並行して行う
	事後学習	バドミントンのヘアピンの復習を行う（30分）
6	事前学習	バドミントンのサーブの予習を行う（30分）
	授業内容	バドミントン シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、サーブ） 器具トレーニングを並行して行う
	事後学習	バドミントンのサーブの復習を行う（30分）
7	事前学習	バドミントンのサーブとドライブの予習を行う（30分）
	授業内容	バドミントン シングルス戦に向けた基本練習を行う（基本練習、サーブとドライブ） 器具トレーニングを並行して行う
	事後学習	バドミントンのサーブとドライブの復習を行う（30分）
8	事前学習	バドミントン シングルスゲームとルールの予習を行う（30分）
	授業内容	バドミントン シングルス戦に向けてゲームとルールの説明、練習試合を行う 器具トレーニングを並行して行う
	事後学習	バドミントン シングルスゲームとルールの復習を行う（30分）
9	事前学習	バドミントン シングルスルールとマナーの予習を行う（30分）
	授業内容	バドミントン シングルス戦 リーグ戦を行う 器具トレーニングを並行して行う
	事後学習	バドミントン シングルスルールとマナーの復習を行う（30分）
10	事前学習	バドミントン シングルスルールとマナー、戦略を予習する（30分）
	授業内容	バドミントン シングルス戦 リーグ戦2回戦目を行う 器具トレーニングを並行して行う
	事後学習	バドミントン シングルスルールとマナー、戦略の復習を行う（30分）
11	事前学習	バドミントン ダブルスのルールとマナーの予習を行う（30分）
	授業内容	バドミントン ダブルス戦 リーグ戦を行う 器具トレーニングを並行して行う
	事後学習	バドミントン ダブルスのルールとマナーの復習を行う（30分）
12	事前学習	バドミントン ダブルスのルールとマナー、戦略を予習する（30分）
	授業内容	バドミントン ダブルス戦 リーグ戦2回戦目を行う 器具トレーニングを並行して行う
	事後学習	バドミントン ダブルスのルールとマナー、戦略の復習を行う（30分）
13	事前学習	バドミントン ダブルスのルールとマナー、基本スキルの再確認（30分）
	授業内容	バドミントン 基本スキル（サーブ・ラリー）の授業内試験およびまとめ 器具トレーニングを並行して行う
	事後学習	バドミントン ダブルスのルールとマナー、基本スキルの復習を行う（30分）
14	事前学習	ビックルボールなど軽スポーツ 各種ルールの予習を行う（30分）
	授業内容	器具トレーニング ビックルボールなど軽スポーツ各種実施する
	事後学習	ビックルボールなど軽スポーツ 各種ルールの復習を行う（30分）
15	事前学習	半期の振り返りを行う（30分）
	授業内容	【まとめ】授業の振り返り、講評
	事後学習	半期の振り返りを行い、スポーツ実施の有効性について理解を深める。 また今後の健康増進に向けた目標を立てる。（30分）

科目名	体育実技 I B	担当者	白土 男女幸	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	--------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	生涯を通して健康な生活を送るためには健康寿命を延伸することが重要です。そのためには、日常生活での身体活動量を増やし、加えてスポーツなどの運動が必要です。また、生涯スポーツを継続し健康格差を最小限にするためには仲間や社会性の広がりも大切です。この授業では、様々なスポーツ種目を実践する中で、技術やルールを理解するとともに、スポーツの楽しさや仲間とのコミュニケーションを実感し、生涯スポーツへと繋がる体育授業を展開します。			
授業目的・到達目標	【授業目的】身体運動やスポーツの実践を通じて健康増進及び体力の向上を図るとともに、他者との交流を通してコミュニケーション力をはじめとする社会性を養うことを目的とする。 【到達目標】健康で活力ある生活を営むために、身体運動やスポーツ活動を通じて運動習慣と実践する態度、コミュニケーション力の向上を目標とする。関連DP及びCP：総合科目体育実技科目領域1、4、5、6、7			
履修条件	運動をするうえで健康上の問題がないこと（不安のある学生は第1回目のオリエンテーション時に相談してください）。室内用運動靴、トレーニングウェア、タオルを準備すること。多目的コートを使用する場合もあります。			
授業方法	主に全体指導、必要に応じてグループワークも実施します。また事後学習として、トレーニング記録や自己省察を目的とした授業省察ノートの作成をしてもらいます。【フィードバック方法】授業省察ノート講評およびレポート提出とする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業への参画状況60%、授業省察ノート及びレポート、目標達成度等40%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。		
参考書	必要に応じてプリントを配付する。			
オフィスアワー	基本的には授業前後の時間のみ。授業講堂にて。どうしても時間が作れない場合は授業実施期間の水曜日19：30以降に対応（要事前相談）。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	本授業のシラバスを一読しておくこと。（30分）
	授業内容	オリエンテーション（授業概要等の説明、授業省察ノートの説明、アイスブレイキングの実施、*着替えは不要）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
2	事前学習	スポーツ実践のために、ストレッチやジョギングなどで軽く身体を動かしておくこと。卓球というスポーツについてインターネット等で歴史やルールについて調べておくこと。（30分）
	授業内容	卓球①（用具やルールの解説、グリップやスウィングの基本、簡単なラリーの実践）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
3	事前学習	配布資料を再読し用具やルールの理解をしておくこと。（30分）
	授業内容	卓球②（サーブやショットでのボールの回転を理解する、簡易ダブルスゲームの実践）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
4	事前学習	配布資料を再読しルールの理解をしておくこと。（30分）
	授業内容	卓球③（より正確でスピードのあるラリーの実践、ダブルスゲームの実践）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）

5	事前学習	配布資料を再読しルールを理解しておくこと。（30分）
	授業内容	卓球④（ダブルスゲーム団体戦の実践）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
6	事前学習	ユニバーサルホッケーというニューススポーツについて、歴史や用具およびルールについて調べておくこと。（30分）
	授業内容	ユニバーサルホッケー①（用具とルールの解説、トラップやパスワークの実践）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
7	事前学習	配布資料を再読しルールについて理解しておくこと。（30分）
	授業内容	ユニバーサルホッケー②（ディフェンスを入れた実践的なパスワークの実践、簡易ゲーム）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
8	事前学習	配布資料を再読しルールについて理解しておくこと。（30分）
	授業内容	ユニバーサルホッケー③（フロアバランスを考えたオフェンスとディフェンスの理解、ゲームの実践）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
9	事前学習	配布資料を再読しルールについて理解しておくこと。（30分）
	授業内容	ユニバーサルホッケー④（リーグ戦の実践）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
10	事前学習	フットサルというスポーツについて、歴史やルールについて調べておくこと。（30分）
	授業内容	フットサル①（用具やコートおよびルールの解説、トラップやパスワークの実践）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
11	事前学習	配布資料を再読しルールについて理解しておくこと。（30分）
	授業内容	フットサル②（対人でのボールコントロールとパスワークの実践、簡易ゲーム）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
12	事前学習	配布資料を再読しルールについて理解しておくこと。（30分）
	授業内容	フットサル③（ゲームの実践）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
13	事前学習	体力要素や測定方法について事前に予習しておくこと（文部科学省HP_新体力テスト実施要項を参照）。（30分）
	授業内容	体力測定①（握力、立ち幅跳び、反復横跳び、上体起こし、体前屈）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
14	事前学習	全身持久力測定のため、軽いジョギングなどで心肺機能に軽い負荷を与えておくこと。（30分）
	授業内容	体力測定②（踏み台昇降、各体力要素の評価および前期との比較）
	事後学習	授業省察ノートを作成しておくこと。（30分）
15	事前学習	これまでの授業を振り返り、授業省察ノートの「全体の感想」について記述しておくこと。（30分）
	授業内容	レポートおよび授業省察ノートの提出、全体のまとめ
	事後学習	今後の生涯スポーツの実践に向けて、興味のある社会人スポーツサークルについて調べ、実際に参加してみる。（30分）

科目名	体育実技 I B	担当者	鈴木 由美	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	心身ともに健康な学生生活を送ることはもちろんであるが、その後の人生において充実した時間を持てるかは学生時代の健康に関する認識と運動習慣、そしてコミュニケーションスキルの獲得が大きく影響する。体育実技Iでは、それらを獲得する健康行動の実践を目的とする授業を展開する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】この授業では「健康」「体力」に関する理論的学習と、様々なエクササイズやスポーツの実践学習の融合を通して、生涯使える「身体的教養」を身につけ、各自の目的に応じた心と身体づくりの方法と生涯スポーツに取り組むためのスキルを学習、また運動することの「楽しさ」「爽快感」を体感することを目的とする。 【到達目標】健康で自己実現のための心と身体づくりに関する知識を身につけ、各自の目的に応じた運動習慣形成のための計画、実践、評価ができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 4, 5, 6, 7				
履修条件	運動に適した服装（トレーニングウェア、屋外・屋内シューズ）タオル、水分補給用の飲み物を準備すること。※第1回目は更衣不要（履修カードに貼る写真を準備）。2号館体育場、トレーニングルーム、屋外多目的コートにて実施。				
授業方法	授業開始時に出席確認、実施内容の説明。その後、資料配布による理論学習、それらを実践するための様々なエクササイズやスポーツを実施する。【フィードバック方法】授業記録シート、トレーニングカードや課題レポートの提出。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加度、課題への積極的参加度・習熟度、授業記録ノート等を総合的に評価する	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	学習テーマに合わせて資料を配布する			
参考書	必要に応じ紹介				
オフィスアワー	金曜日 8：20～14:45 授業講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	三日分の食事記録をつけておくこと(30分)
	授業内容	後期ガイダンス（講義） ○人生を豊かにする「食行動」について
	事後学習	4群点数法、食行動、食の安全性について配布資料をもとに復習しておく。身の回りにある食品のラベル表示を確認する(30分)
2	事前学習	「インナーマッスル」について調べておく(30分)
	授業内容	エアロビックダンス（ミドルインパクト）&ストレッチング（以降毎回） 体幹・インナーマッスルを鍛えるトレーニング①
	事後学習	授業で行なった体幹トレーニングのポイントの確認と実践。配布資料をもとに取り扱った学習内容について復習しておく(30分)
3	事前学習	前回の授業記録に記載した疑問点や改善点の解決方法を明確化しておく(30分)
	授業内容	ステップエアロビクス 体幹・インナーマッスルを鍛えるトレーニング②
	事後学習	授業で行なった体幹トレーニングのポイントの確認と実践。配布資料をもとに取り扱った学習内容について復習しておく(30分)
4	事前学習	各自の筋力トレーニングの目的を設定しておく(30分)
	授業内容	マシントレーニング① & バランスボール① ○目的に応じた負荷設定
	事後学習	実施したマシントレーニングの負荷の評価を行い、配布資料をもとに取り扱った学習内容について復習しておく(30分)

5	事前学習	バランスボールの特徴と効果を明確化しておく(30分)
	授業内容	マシントレーニング② & バランスボール② ○目的に応じた負荷設定
	事後学習	実施したマシントレーニングの負荷の評価を行い、バランスボールを用いたトレーニング方法を復習しておく(30分)
6	事前学習	ストレッチボールの特徴と効果を調べておく(30分)
	授業内容	マシントレーニング③ & ストレッチボール(ベーシックセブン)
	事後学習	ベーシックセブンの動きを理解し、実施できるようにしておく。(30分)
7	事前学習	アルティメット関連の動画を見てルールを理解し、ゲームのイメージを掴んでおく(30分)
	授業内容	マシントレーニング④ アルティメット① (フライングディスクを使用したゲーム)
	事後学習	スローイング、キャッチングの基本技術を復習しておく。(30分)
8	事前学習	前回の授業記録に記載したスローイングの技術に関する疑問点や改善点の解決方法を明確化しておく(30分)
	授業内容	マシントレーニング⑤ アルティメット②
	事後学習	ゲームの戦術について(効率的な守備の配置など)調べておく。(30分)
9	事前学習	前回の授業記録に記載したチームの戦術に関する疑問点や改善点の解決方法を明確化しておく(30分)
	授業内容	マシントレーニング⑥ アルティメット③
	事後学習	アルティメットの特徴と生涯スポーツとして楽しむための要素を明確化する(30分)
10	事前学習	ゴールドッチに関する動画を視聴し、ルールやゲームのイメージを掴んでおく(30分)
	授業内容	マシントレーニング⑦ ゴールドッチ①
	事後学習	ゴールドッチの特徴とその日の実践を踏まえ、次回の個人的な課題を明確化しておく(30分)
11	事前学習	前回の授業記録に記載した疑問点や改善点の解決方法を明確化しておく(30分)
	授業内容	マシントレーニング⑧ ゴールドッチ②
	事後学習	ゴールドッチの特徴とその日の実践を踏まえ、次回の個人的な課題とチームの戦術的課題を明確化しておく。(30分)
12	事前学習	前回の授業記録に記載した個人・チームの技術的、戦術的な疑問点や改善点の解決方法を明確化しておく(30分)
	授業内容	ゴールドッチ③
	事後学習	ゴールドッチの特徴と、生涯スポーツとして楽しむための要素を明確化しておく(30分)
13	事前学習	ポートボールのルールを調べ、動画を視聴してゲームのイメージを掴んでおく(30分)
	授業内容	ボールゲーム①(ポートボール) ストレッチ&マシントレーニング
	事後学習	授業で実施したストレッチのポイントを踏まえた上で実践する(どこの筋肉を使っているか認識しながら行う)(30分)
14	事前学習	前回の授業記録に記載した疑問点や改善点の解決方法を明確化しておく(30分) 生活の中で実践可能な運動プランを具体的に考えておくこと
	授業内容	ボールゲーム②(ポートボール) ライフスタイルのチェックとプランニング
	事後学習	ライフスタイルチェックの実施と今後の運動プランを作成する(30分)
15	事前学習	生活の中で実践可能な運動プランを具体的に考えておくこと(30分)
	授業内容	リクエストウィーク・これまで扱った種目の中から実践 ライフスタイルのチェックとプランニング まとめ及び振り返り
	事後学習	1年を通して配布した資料をもとに目的に応じた運動の方法を復習しておくこと(30分)

科目名	体育実技 I B	担当者	高田 佑輔	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	健康で充実した大学生活を送るためにも、普段から意識的に身体活動を行うなど心身の健康づくりが必要になる。この授業では運動やスポーツを通じて健康維持や増進を図ることと、コミュニケーション力を養うことを実践し学習する。生涯スポーツに繋がる一助になるよう、様々なスポーツに取り組む。多目的コートを使用する場合がある。				
授業目的・到達目標	【授業目的】 運動やスポーツの実践を通じて体を動かすことと健康の重要性を理解し、日常生活に運動を取り入れられるようにする。また、ルールやマナーの遵守、仲間とコミュニケーションをとるといった社会性を育成することを目的とする。 【到達目標】 運動の重要性を理解するとともに、運動を実践することにより基礎体力を向上させられることを目指す。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 4, 5, 6, 7				
履修条件	室内用運動靴、動きやすいジャージ等の運動着やタオルを用意すること。飲み物は蓋付きのものにすること。 自他の怪我や事故を防ぐためにもアクセサリ類はすべて外し、爪の手入れをしておくこと。				
授業方法	実技形式。授業開始時に出欠確認とその日に実施する内容の説明をする。出席者数やそれまでの実施状況、または天候によって授業内容を変更する場合もある。【フィードバック方法】事前学習、事後学習や課題レポートの提出とする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	積極的な授業参画度（60%）、レポート課題や各自の努力度など（40%）を鑑みて総合的に評価します。 用具の準備や片付け、提出物や服装も評価対象です。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しません			
参考書	必要に応じて配布資料を用意します。				
オフィスアワー	授業（土曜3・4限）の前後に対応しますが、事前にポータルサイト等を用いて連絡をしてください。 E-mail：takata.yusuke@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、質問をまとめておく（30分）
	授業内容	ガイドランス（この授業の進め方（ルール）などの説明） ※集合は2号館地下202教場、更衣は不要
	事後学習	ポータルサイトで授業ルールの確認テスト（30分） 授業に必要なものを準備する
2	事前学習	フロアカーリングのルールを確認しておく（30分）
	授業内容	フロアカーリング1
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 試合を通じて感じた個人とチームの反省をまとめる
3	事前学習	前回授業の反省点と注意点を事前に確認しておく（30分）
	授業内容	フロアカーリング2
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 試合を通じて感じた個人とチームの反省をまとめる
4	事前学習	アルティメットのルールの再確認と前期の反省をまとめておく（30分）
	授業内容	アルティメット1
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 試合を通じて感じた個人とチームの反省をまとめる

5	事前学習	前回授業の反省点と注意点を事前に確認しておく（30分）
	授業内容	アルティメット2
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 試合を通じて感じた個人とチームの反省をまとめる
6	事前学習	ユニバーサルホッケーのルールを確認しておく（30分）
	授業内容	ユニバーサルホッケー1
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 試合を通じて感じた個人とチームの反省をまとめる
7	事前学習	前回授業の反省点と注意点を事前に確認しておく（30分）
	授業内容	ユニバーサルホッケー2
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 試合を通じて感じた個人とチームの反省をまとめる
8	事前学習	卓球のルールを確認しておく（30分）
	授業内容	卓球1
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 試合を通じて感じた個人とペアの反省をまとめる
9	事前学習	前回授業の反省点と注意点を事前に確認しておく（30分）
	授業内容	卓球2
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 試合を通じて感じた個人とペアの反省をまとめる
10	事前学習	バドミントンのルールを確認しておく（30分）
	授業内容	バドミントン
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 試合を通じて感じた個人とペアの反省をまとめる
11	事前学習	フットサルのルールを確認しておく（30分）
	授業内容	フットサル
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 試合を通じて感じた個人とチームの反省をまとめる
12	事前学習	ダーツのルールを確認しておく（30分）
	授業内容	ダーツ1
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 試合を通じて感じた個人とチームの反省をまとめる
13	事前学習	前回授業の反省点注意点を事前に確認しておく（30分）
	授業内容	ダーツ2
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 試合を通じて感じた個人とチームの反省をまとめる
14	事前学習	前期に行った体力測定の実施方法を復習しておく（30分）
	授業内容	体力測定
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 前期の体力測定の結果と比較し、自身の体力レベルを考察する
15	事前学習	今までの授業内容を整理する（30分）
	授業内容	レクリエーション
	事後学習	ポータルサイトで授業内容の整理をする（30分） 授業終了後も運動を継続するために必要なことをまとめる

科目名	体育実技 I B	担当者	田中 雅子	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	音楽に合わせて楽しくエアロビックダンスを行います。エアロビックダンスは自分のペースで行うことのできる運動です。そのため、初心者でも無理なく運動をすることができます。さらにエアロビックダンスの技術を習得できるように、アニメソングやJポップなど学生諸君になじみのある課題曲でエアロビックダンスを行います。それらの課題曲を行うことにより、段階的にエアロビックダンスの構成や動き方を学ぶことができます。					
授業目的・到達目標	健康体力づくりのための、エアロビックダンスプログラムの基礎知識を学びます。自分の体力に合った運動を選択、実施できる能力、知識を身に付けます。それによって、大学生活において健康的な生活を送ること、さらに、生涯を通じて運動に親しむことができるようになることが目的です。基本的なステップの習得やプログラムの構成を理解し、指導者がいなくても自ら運動できる能力を身に付けることを目標とします。関連DP及びCP：総合科目・体育科目領域：1，4，5，6，7					
履修条件	医師に運動を止められていない者。					
授業方法	実技と演習を行います。アニメソングやJポップなどを用いた振り付けのあるエアロビックダンス（フィットネスダンス）を行います。なじみのある楽曲で無理なく運動を行うことができます。多目的コートを使用する場合があります。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業態度、実技テスト、レポート	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2010年	公益社団 日本 フィットネス協会		フィットネスダンス指導教本		編者 池田美知子
	備考					
参考書	該当なし					
オフィス アワー	質問、相談は毎授業後（水曜1、2限）に受け付けます。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。（30分）
	授業内容	前期で行ったフィットネスダンスの復習。
	事後学習	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。（30分）
2	事前学習	演習ノートの課題曲のステップシートを確認する。（30分）
	授業内容	コンビネーションの復習と指導（1） 16カウント、32カウントコンビネーションをがくせいが作成し指導を行う。 体力測定
	事後学習	演習ノートの自らが作成したコンビネーションを確認する。（30分）
3	事前学習	演習ノートの自らが作成したコンビネーションを確認する。（30分）
	授業内容	コンビネーションの復習と指導（2） 64カウントコンビネーションを学生が作成し指導を行う。
	事後学習	演習ノートの自らが作成したコンビネーションを確認する。（30分）
4	事前学習	ダンス作成のための、楽曲の候補を選んでくる。（30分）
	授業内容	指導方法 キューイング
	事後学習	ダンス作成のための、楽曲の候補を選んでくる。（30分）

5	事前学習	ダンス作成のための、楽曲の候補を選んでくる。（30分）
	授業内容	フォーメーションの効果
	事後学習	ダンス作成のための、楽曲の候補を選んでくる。（30分）
6	事前学習	ダンス作成のための、楽曲の候補を選んでくる。（30分）
	授業内容	グループワーク（1） 楽曲の決定とステップシートを用いて、楽曲の分析を行う。
	事後学習	楽曲の構成をステップシートにて確認。（30分）
7	事前学習	楽曲の構成をステップシートにて確認。（30分）
	授業内容	グループワーク（2） 楽曲の構成に合ったコンビネーションを作成。
	事後学習	作成中のダンスの練習。（30分）
8	事前学習	作成中のダンスの練習。（30分）
	授業内容	グループワーク（3） 楽曲の構成に合ったコンビネーションを作成。
	事後学習	作成中のダンスの練習。（30分）
9	事前学習	作成中のダンスの練習。（30分）
	授業内容	グループワーク（4） 楽曲の構成に合ったコンビネーションを作成。
	事後学習	作成中のダンスの練習。（30分）
10	事前学習	作成中のダンスの練習。（30分）
	授業内容	グループワーク（5） イメージにあったアームスの振付。
	事後学習	作成中のダンスの練習。（30分）
11	事前学習	完成したダンスの練習。（30分）
	授業内容	グループワーク（6） フォーメーションの作成。
	事後学習	完成したダンスの練習。（30分）
12	事前学習	完成したダンスの練習。（30分）
	授業内容	グループワーク（7） グループメンバー全員が動けるように練習をする。
	事後学習	完成したダンスの練習。（30分）
13	事前学習	完成したダンスの練習。（30分）
	授業内容	発表 実技テスト
	事後学習	完成したダンスの練習（30分）
14	事前学習	完成したダンスの練習（30分）
	授業内容	学生の作成したプログラムの実施
	事後学習	ダンス作成の手順を演習ノートにまとめる。（30分）
15	事前学習	ダンス作成の手順を演習ノートにまとめる。（30分）
	授業内容	まとめ、講評 今まで学習したフィットネスダンス全曲と学生が作成したダンスを行う。
	事後学習	健康づくりのために自分たちが作成したダンスを学士同士で実施し運動習慣をつける。（30分）

科目名	体育実技 I B	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	スポーツは体を動かす生活文化である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性（社会性の育成）を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、ルール、マナー、体を動かす楽しみ、コミュニケーション力を修得し、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。				
授業目的・到達目標	[授業目的] この授業では、チームスポーツにおけるゲーム形式を多く行いながらスポーツの習慣化や健康及び体力の向上を図るとともに、他者との交流や多様性を尊重しコミュニケーション力をはじめとする社会性を養うことを目的とする。 [達成目標] 健康で活力ある生活を営むために、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化を実践する態度、コミュニケーション力の向上を目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域 1, 4, 5, 6, 7				
履修条件	運動着と屋外及び屋内用運動靴（トレーニングウェア・シューズ等を準備）を準備すること。2号館体育場及びトレーニングルーム、屋外多目的施設を使用する。第1回目は準備不要(履修カードに張り付ける顔写真を準備)				
授業方法	出席・実施内容の説明をおこなう。授業開始・終了時には、ウォーミングアップとクーリングダウンを行う。 [フィードバック方法] 事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートの提出とする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業への参加度(60%) 授業関連シート及び課題レポート、受講準備、各自の目標達成度等(40%)	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参考書	必要に応じてプリントの配布。				
オフィスアワー	金曜日の昼休み：12:10～13:00 メールにて事前に予約をすること tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	身体運動やスポーツを行うことの意義について、自分なりの考えをまとめておく。(30分)
	授業内容	[ガイダンス] 授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等
	事後学習	ガイダンス内容を理解し、トレーニングウェア・シューズ等の準備や確認をする。(30分)
2	事前学習	柔軟性を高めるトレーニングについて調べる。(30分)
	授業内容	[柔軟性を高める：ストレッチ体操] 身体ほぐし運動セルフ・ペアストレッチについて学ぶ
	事後学習	身体ほぐし運動セルフ・ペアストレッチのポイントを理解し身体ほぐし運動を実施する。(30分)
3	事前学習	フィットネスチェック項目について確認する。握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち(30分)
	授業内容	[フィットネスチェック] フィットネスチェック(握力、反復横跳び、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち)
	事後学習	フィットネスチェックの結果を踏まえ、体力及び健康の維持増進に向けたスポーツ・身体運動の計画を立てる。(30分)
4	事前学習	等張性筋収縮について調べる。(30分)
	授業内容	[自重トレーニングを知る] スタビラゼーショントレーニングを学習する。
	事後学習	体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。(30分)

5	事前学習	卓球のルールについて調べる。(30分)
	授業内容	[球技:卓球①] ラケットの使い方、基本動作について実践形式における技術を習得する。
	事後学習	卓球における体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。(30分)
6	事前学習	シングルスにおける戦略や戦術について調べる。(30分)
	授業内容	[球技:卓球②] シングルス形式においての戦略戦術を習得する。
	事後学習	シングルス形式の戦略戦術を振り返り理解を深める。(30分)
7	事前学習	ダブルスにおける戦略や戦術について調べる。(30分)
	授業内容	[球技:卓球③] ダブルス形式においての戦略戦術を習得する。
	事後学習	ダブルス形式の戦略戦術を振り返り理解を深める。(30分)
8	事前学習	後受身について考える。(30分)
	授業内容	[護身術:柔道①] 柔道の後受身を学ぶ。
	事後学習	後受身における動作について振り返り、理解を深める。(30分)
9	事前学習	横受身について考える。(30分)
	授業内容	[護身術:柔道②] 柔道の横受身を学ぶ。
	事後学習	横受身における動作について振り返り、理解を深める。(30分)
10	事前学習	前回り受身について考える。(30分)
	授業内容	[護身術:柔道③] 柔道の前回り受身を学ぶ。
	事後学習	前回り受身における動作について振り返り、理解を深める。(30分)
11	事前学習	ユニバーサルホッケーのルールについて調べる。(30分)
	授業内容	[球技:ユニバーサルホッケー①] スティックの使い方、基本動作について実践形式でおこない技術を習得する。*屋外多目的施設で実施
	事後学習	ユニバーサルホッケーにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。(30分)
12	事前学習	個人技術の強み弱みの課題について考える。(30分)
	授業内容	[球技:ユニバーサルホッケー②] 個人技術の課題に取り組み実践形式でおこない技術を習得する。*屋外多目的施設で実施
	事後学習	個人技術の課題を振り返り理解を深める。(30分)
13	事前学習	試合におけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。(30分)
	授業内容	[球技:ユニバーサルホッケー③] 実践形式においてのチームにおけるコミュニケーションを積極的に行う。*屋外多目的施設で実施
	事後学習	戦略戦術に関してのコミュニケーションを振り返り理解を深める。(30分)
14	事前学習	筋力・筋パワー・筋持久力を高める方法について調べる(30分)
	授業内容	[器具を使ったトレーニング] 適切な負荷の設定を学ぶ。
	事後学習	目的に応じた適切な負荷の設定方法について復習する。(30分)
15	事前学習	半期の振り返りを行う。(30分)
	授業内容	[まとめ] フィットネスチェック、授業の振り返り
	事後学習	半期の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。(30分)

科目名	体育実技 I B	担当者	藤井 洋武	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	様々な運動やスポーツ・トレーニングを体験し、自分自身の健康について考える授業です おもにからだ動かすことを中心に、心身のリフレッシュや体力の向上について学びます					
授業目的・到達目標	①仲間と共にスポーツやトレーニングを行うことで一体感や楽しさを共有し、社会性やコミュニケーションスキルを向上させることを目的とします ②自分自身の身体について学び、自分に適した運動法や強度を理解することを目的とし、かつ実践できるようにすることを目標とします ③授業を通して積極的に仲間と交流し、色々なことを話し合える仲間を作ることを目標とします 関連DP及びCP：総合科目・体育科目領域：1, 4, 5, 6, 7					
履修条件	①毎回の授業への出席はもちろん、積極的に参加し、取り組むこと ②運動にふさわしい服装（ジャージ等）、靴（室内用）を必ず用意すること					
授業方法	施設、人数などに応じて各種運動を行います。また当日の出席状況によっては、シラバスの内容と違う種目を行うことがあります。 時期と天候によって、多目的コートを使用して授業を行う場合があります					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%		授業参加度を踏まえ、数回のレポート課題、授業態度、授業への取り組みで評価する	
	平常評価		100%			
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない 授業内にて資料を適宜配布する				
参考書	なし					
オフィスアワー	質問・相談については授業時間内（一部火曜5限、二部火曜2、3限）にしてください 個別に質問・相談がある学生は授業講堂に来てください 火曜日のみ16:00～ 授業間の休み時間等に対応します					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、年間のスケジュール授業概要、到達目標などをよく理解してガイダンスに臨むこと（30分）
	授業内容	授業の進め方についてのガイダンス および体ほぐしとストレッチ
	事後学習	ガイダンスの説明を振り返って授業内容、授業の進め方を理解する。また次週以降の授業に備えて体調管理に留意する（30分）
2	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	卓球③ ダブルス
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
3	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	卓球④ ダブルス
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
4	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	ボートボール①
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）

5	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	ポートボール②
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
6	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	ミニバドミントン①
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
7	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	ミニバドミントン②
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
8	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	流行のトレーニングを体験（DVDなどを用いて）①
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
9	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	流行のトレーニングを体験（DVDなどを用いて）②
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
10	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	ドッジボール①
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
11	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	ドッジボール②
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
12	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	フリスビー①
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
13	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	フリスビー②
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
14	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	体力チェックテスト
	事後学習	授業後の心身の状態を振り返り、本時の内容が自身にとってどのような効果があったかを自己分析する 疲れが残るようなら、ウォーキングやストレッチなどを行い次週の授業に備える（30分）
15	事前学習	授業の進め方を振り返り、今週の内容をシラバスで確認する。 授業開始時間の確認や、服装・靴などの忘れ物が内容に留意する（30分）
	授業内容	授業の振り返りおよびまとめ
	事後学習	半期の授業を振り返り、授業を通して、自分自身のからだにとってどのような学びがあったのかをまとめる 今後も継続して運動やスポーツを続けるためにはどのような運動が適しているか、自己分析をおこなう（30分）

科目名	体育実技 I B	担当者	山田 美絵子	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	トレーニングとレクリエーションを半々で行う。 大学生の体力低下、運動不足を補うためのスポーツマネジメントサイクルを学び、自分で運動メニューを作り、実践し、体育の授業がなくても運動習慣を持てるように導く。				
授業目的・到達目標	身体活動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、健康の維持増進、体力の向上を図り、心身ともに健康で行動的な大学生活が送れるように自覚することを目的とする。また、他者とのコミュニケーションを取り、リーダーシップを発揮、問題解決能力などを身につけることを目標とする。関連D P及びC P：総合科目・体育科目領域：1, 4, 5, 6, 7				
履修条件	運動に適した服装、室内シューズ、タオル、筆記用具の用意				
授業方法	講義、身体チェック、トレーニングを基盤として施設や人数に合わせた用具・ルールで運動を実践する。ボールゲームやニュースポーツは「多目的コート」を使用することがあるので前の週の授業時に連絡をする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	レポート(体力・筋力測定の結果, トレーニングについて)20%, 運動の実践状況, 授業内容・ルールの理解, 体力やトレーニングの状況理解60%, コミュニケーションやリーダーシップ等20%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用せず			
参考書	必要に応じて授業時にプリント配布する。				
オフィスアワー	木曜日13:00から18:00　2号館地下（体育教員室，体育場）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの確認 筆記用具、スポーツウェア、シューズの準備 体調管理（30分）
	授業内容	ガイダンス 各種ストレッチ からだほぐし運動
	事後学習	授業で行ったからだほぐしを行ってみる（30分）
2	事前学習	体調管理 筋力・体力が落ちている可能性を考えて、トレーニングのペースを考えてくる（30分）
	授業内容	ダーツ
	事後学習	トレーニングメニューの見直しが必要であるか確認する（30分）
3	事前学習	体調管理 ニュースポーツにはどのような種目があるのか調べてくる（30分）
	授業内容	トレーニング ニュースポーツ（多目的コートor体育場）
	事後学習	トレーニングメニューの見直しが必要であるか確認する（30分）
4	事前学習	体調管理 行うニュースポーツはどんなものか調べてくる（30分）
	授業内容	トレーニング ニュースポーツ（多目的コートor体育場）
	事後学習	手具はコントロールできたか確認（30分）

5	事前学習	体調管理 行うニュースポーツはどんなものか調べてくる（30分）
	授業内容	トレーニング ニュースポーツ（多目的コートor体育場）
	事後学習	手具はコントロールできたか確認（30分）
6	事前学習	体調管理 行うボールゲームはどんなものか調べてくる（30分）
	授業内容	トレーニング ボールゲーム（多目的コートor体育場）
	事後学習	ボールの種類によって自分の体の使い方はコントロールできたのか確認する（30分）
7	事前学習	体調管理 行うボールゲームはどんなものか調べてくる（30分）
	授業内容	トレーニング ボールゲーム（多目的コートor体育場）
	事後学習	ボールの種類、扱い方によって自分の体の使い方はコントロールできたのか確認する（30分）
8	事前学習	体調管理 行うボールゲームはどんなものか調べてくる（30分）
	授業内容	トレーニング ボールゲーム（多目的コートor体育場）
	事後学習	ボールの種類、扱い方によって自分の体の使い方はコントロールできたのか確認する（30分）
9	事前学習	体調管理 フリスビー（ドッジビー）の特徴を調べてくる（30分）
	授業内容	トレーニング ボールゲーム（多目的コートor体育場）
	事後学習	ボールの特徴が理解できたか確認（30分）
10	事前学習	体調管理 スポンジボールの特徴を活かしたストロークを調べてくる（30分）
	授業内容	トレーニング バウンドテニス（シングルス）
	事後学習	スポンジボールは自分の思う通りにコントロールできたか確認（30分）
11	事前学習	体調管理 ペアと協力して行う動き方を調べてくる（30分）
	授業内容	トレーニング バウンドテニス（ダブルス）
	事後学習	動き方は上手くできたか、ペアと協力できたかの再確認（30分）
12	事前学習	体調管理 ルールの確認（30分）
	授業内容	トレーニング バウンドテニス（ダブルス）
	事後学習	ルールを利用したダブルスの戦い方、ペアとのコンビネーションはうまくいったのか再確認（30分）
13	事前学習	筋力測定の方法を再確認（30分）
	授業内容	筋力測定
	事後学習	結果のまとめ（30分）
14	事前学習	体力測定の方法を再確認（30分）
	授業内容	身体チェック（体力測定）
	事後学習	結果のまとめ（30分）
15	事前学習	球技大会が円滑に楽しく、良いパフォーマンスを発揮できるように調整（30分）
	授業内容	球技大会（多目的コートor体育場） まとめ（体力、筋力測定の結果をまとめて提出）、講評
	事後学習	休みに入ってから運動習慣（30分）

科目名	体育実技 I B	担当者	吉田 明	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業では、実技実習での理論と実践による「科学知と身体知の融和」を図り、早期から健康の保持・増進に関心を持ってもらい、生涯スポーツに対する動機づけを高めること。そして、運動とスポーツを通して他者を信頼し、ルールを厳守することなどの社会性を身につけ、そして、様々な競技の基礎技術を習得すると同時にゲームを通してコミュニケーションやリーダーシップを図り、チームワークを獲得することを目的とする。					
授業目的・到達目標	【授業目的】身体運動やスポーツの実践を通じて健康及び体力向上を図るとともに、他者との交流を通してコミュニケーション力をはじめとする社会性を養うことを目的とする。 【到達目標】健康で活力ある生活を営むために、身体運動やスポーツ活動を通じて運動習慣と実践する態度、コミュニケーション力の向上を目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育科目領域：1, 4, 5, 6, 7					
履修条件	受講時は運動に適した服装（トレーニングウェア等）、多目的コートも使用するので、シューズ（外履き、室内履き、授業内容によって準備）を必ず準備すること。＊第1回目は準備不要（履修カードに貼り付ける写真を準備）					
授業方法	施設、人数等に応じて、各種運動とトレーニングを並行して展開していく。（受講人数によって授業内容を変更する場合がある）					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業参加度60%、平常点40%（受講態度、課題提出など）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	特になし。				
参考書	必要に応じて紹介する。					
オフィスアワー	三崎町キャンパス、火曜日、12：00～13：00にて対応。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	身体運動やスポーツを行うことの意義について考えておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス（授業の目的と内容、評価方法、諸注意について）
	事後学習	授業目的、内容、方法などを理解しておくこと。（30分）
2	事前学習	「フットサル」についてのルールや方法について、事前に調べておくこと。（30分）
	授業内容	フットサル①（基本スキルの習得、ゲーム）
	事後学習	授業最初に前回授業内容に関する質問を行うので、復習しておくこと。（30分）
3	事前学習	前回授業における課題について、改善策を考えておく。（30分）
	授業内容	フットサル②（ゲーム）
	事後学習	競技ルールの再確認と動作の反復練習を実施し理解を深める。（30分）
4	事前学習	「グランドホッケー」についてのルールや方法について、事前に調べておくこと。（30分）
	授業内容	グランドホッケー①（基本スキルの習得、ゲーム）
	事後学習	授業最初に前回授業内容に関する質問を行うので、復習しておくこと。（30分）

5	事前学習	前回授業における課題について、改善策を考えておく。（30分）
	授業内容	グランドホッケー②（ゲーム）
	事後学習	競技ルールの再確認と動作の反復練習を実施し理解を深める。（30分）
6	事前学習	「ドッジボール」についてのルールや方法について、事前に調べておくこと。（30分）
	授業内容	ドッジボール①（ルール理解と簡易ゲーム）
	事後学習	授業最初に前回授業内容に関する質問を行うので、復習しておくこと。（30分）
7	事前学習	前回授業における課題について、改善策を考えておく。（30分）
	授業内容	ドッジボール②（ゲーム）
	事後学習	競技ルールの再確認と動作の反復練習を実施し理解を深める。（30分）
8	事前学習	「バドミントン」についてのルールや方法について、事前に調べておくこと。（30分）
	授業内容	バドミントン①（ルール理解と簡易ゲーム）
	事後学習	授業最初に前回授業内容に関する質問を行うので、復習しておくこと。（30分）
9	事前学習	前回授業における課題について、改善策を考えておく。（30分）
	授業内容	バドミントン②（ダブルスゲーム）
	事後学習	競技ルールの再確認と動作の反復練習を実施し理解を深める。（30分）
10	事前学習	「アルティメット」についてのルールや方法について、事前に調べておくこと。（30分）
	授業内容	アルティメット①（ルール理解と簡易ゲーム）
	事後学習	授業最初に前回授業内容に関する質問を行うので、復習しておくこと。（30分）
11	事前学習	前回授業における課題について、改善策を考えておく。（30分）
	授業内容	アルティメット②（ゲーム）
	事後学習	競技ルールの再確認と動作の反復練習を実施し理解を深める。（30分）
12	事前学習	「卓球」についてのルールや方法について、事前に調べておくこと。（30分）
	授業内容	卓球①（ルール理解と簡易ゲーム）
	事後学習	授業最初に前回授業内容に関する質問を行うので、復習しておくこと。（30分）
13	事前学習	前回授業における課題について、改善策を考えておく。（30分）
	授業内容	卓球②（ダブルスゲーム）
	事後学習	競技ルールの再確認と動作の反復練習を実施し理解を深める。（30分）
14	事前学習	実施される種目や内容についてのルールや方法について、事前に調べておくこと（30分）
	授業内容	ダーツ、大縄跳び、竹馬、レクリエーション
	事後学習	必要とされる体力要素、個人スキル、チームワークについて考え理解を深める。（30分）
15	事前学習	半期の振り返りを行う。（30分）
	授業内容	後期まとめ（授業の振り返り、講評）
	事後学習	半期の振り返りを行い、運動・スポーツ実施の有効性について理解を深める。（30分）

科目名	体育実技 I B	担当者	朴 鍾赫	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	近年、技術の高度化、情報化等が進展している反面、人間関係の希薄化、精神的なストレス増大や運動不足により、心身両面にわたり健康上の様々な問題を生み出してきている。学生の身体諸機能の向上ならびに体力の増進をはかり、将来の社会生活の活動基盤となる体力および生涯スポーツ実践のための方法や技術、身体運動に関する知識を学習する。			
授業目的・到達目標	運動やスポーツを通じて挑戦力、コミュニケーション力、協同力を身につけるとともに健康・体力向上に関する知識を深めることを目的とする。身体運動が日常生活に及ぼす影響について学び、それを活かしてより健康で活力ある学校生活を過ごすことができるようになることを目標とする。関連DP及びCP:総合科目・体育実技科目領域1, 4, 5, 6, 7			
履修条件	受講者は室内用運動靴（紐靴）、トレーニングウェア（自由に運動ができる服装）、タオル等を各自で準備すること。 ※ 第1回目は準備不要			
授業方法	授業開始時に出席確認及び実施内容の説明をする。※授業内容は変更する場合がある。 多目的コートを使用する場合がある。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業への取り組み姿勢、レポート等を加え総合的に評価する。経験者・未経験者が一緒に協力し合う授業であるため、技術的レベルに関しては、評価の対象としない。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。		
参考書	必要に応じてプリントを配付する。			
オフィスアワー	授業の前後（木曜2、3限）に質問を受け付ける。授業講堂にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	体育実技1Bに関する総合的な説明をするので、筆記用具等を持参すること（30分）
	授業内容	【ガイダンス】 授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、シラバスについて説明
	事後学習	次回の種目に関するルールを調べておく（30分）
2	事前学習	体組成の測定の仕方について説明する（30分）
	授業内容	【体組成の測定】 体組成測定、身体バランスチェック
	事後学習	体組成のデータをとっておき、半年後のデータと比較する（30分）
3	事前学習	フットサルに必要な要素を考える（30分）
	授業内容	【フットサル②】 パス、ドリブル、ゲーム ※可能ならば屋外多目的施設で実施
	事後学習	運動量を検討し、試合中に十分活躍できたか検証する（30分）
4	事前学習	サッカーの基礎練習を行う（30分）
	授業内容	【フットサル③】 パス、ドリブル、ゲーム ※可能ならば屋外多目的施設で実施
	事後学習	試合中に十分活躍できたか検証する（30分）

5	事前学習	卓球のダブルスのルールについて調べる（30分）
	授業内容	【卓球②】 基礎練習，サーブ，ラリー，ダブルスゲーム
	事後学習	チームメートとの連結は満足できたか考える（30分）
6	事前学習	ミニバドミントンにおける戦術を工夫する（30分）
	授業内容	【ミニバドミントン②】 基礎練習，ゲーム（ダブルス）
	事後学習	試合を振り返り，バドミントン競技の理解を深める（30分）
7	事前学習	ビククルボールの方法を確認する（30分）
	授業内容	【ビククルボール③】 ラリー練習，ゲーム（2人組）
	事後学習	試合の結果を見直し，次回の種目に活かす（30分）
8	事前学習	試合戦術を工夫する（30分）
	授業内容	【ハンドボール②】 パス，シュート，ゲーム（5人組）
	事後学習	自分のプレーに満足できたか考える（30分）
9	事前学習	フロアーカーリング戦術について調べる（30分）
	授業内容	【フロアーカーリング③】 ストーン投げ練習，ゲーム（5人組）
	事後学習	チームワークに貢献できたか振り返り，次回のゲームに活かす（30分）
10	事前学習	ミニバドミントンを楽しめる方法を考える（30分）
	授業内容	【ミニバドミントン③】 基礎練習，ゲーム（ダブルス）
	事後学習	試合を振り返り，バドミントン競技の理解を深める（30分）
11	事前学習	前週の結果を確認し，試合内容を工夫する（30分）
	授業内容	【ミニバドミントン④】 基礎練習，ゲーム（ダブルス）
	事後学習	コンビネーションが良かったか確認する（30分）
12	事前学習	ユニホッケーに必要要素を調べる（30分）
	授業内容	【ユニホッケー②】 パス，ドリブル，ミニゲーム（4人組）
	事後学習	ユニホッケーのスティック操作が上手にできたか確認する（30分）
13	事前学習	サーブから得点できる方法を考える（30分）
	授業内容	【ビククルボール④】 ゲーム（2人組）
	事後学習	運動量を確認する（30分）
14	事前学習	体組成の測定の準備をする（30分）
	授業内容	【体組成の測定】 体組成測定，身体バランスチェック
	事後学習	体組成のデータを半年前のデータと比較する（30分）
15	事前学習	後期のまとめをする（30分）
	授業内容	【まとめ】 レクリエーション，講評，質疑応答
	事後学習	総合評価（30分）

科目名	体育実技 I B	担当者	深田 喜八郎	部別	第二部	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	自身の健康を維持するための知識は、人生をより良く生きるための教養になっている。将来、疾病に罹患する危険性を低下させるためには、運動習慣を身に付けることが必要である。各種スポーツ種目の実施方法を学ぶとともに、運動を通して他者と関することで、社会性を養うことを目的とする授業を展開する。					
授業目的・到達目標	【授業目的】スポーツ種目の実施方法や技術・ルールを修得し、自主的にスポーツ種目を実践するとともに、他者との交流を通してコミュニケーション能力を養成することを目的とする。 【到達目標】スポーツ種目の運営を企画し、実践することで、他者と良好な人間関係を構築することができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 4, 5, 6, 7					
履修条件	室内用運動靴、トレーニングウェア、タオル等を持参して受講すること。授業は主に2号館体育場及びトレーニングルームを使用するが、多目的コートを使用する場合もある。※第1回目は準備不要					
授業方法	授業内容の説明、準備運動、運動実践、ディスカッションなどを人数に応じて実施する。 【フィードバック方法】実施した運動種目に対する講評や、課題レポートに対する添削を実施する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業への参画状況(50%)、課題レポート及び各自の目標達成度等50%)	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない。				
参考書	必要に応じて資料を配布する。					
オフィスアワー	月曜日 17時30分～18時00分 2号館地下1F ※事前に連絡をしてください。fukada.kihachiro@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	運動の意義についてまとめる。(30分)
	授業内容	【ガイダンス】授業の目的・内容、評価方法、諸注意について説明する
	事後学習	ガイダンスの内容を確認する。(30分)
2	事前学習	前期に実施した内容について振り返る。(30分)
	授業内容	【卓球(リーグ戦)】卓球の試合をリーグ戦形式で実施する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
3	事前学習	団体戦の特徴について調べる。(30分)
	授業内容	【卓球(団体戦)】卓球の試合を団体戦形式で実施する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
4	事前学習	ユニバーサルホッケーの基本技術について調べる。(30分)
	授業内容	【ユニバーサルホッケー(練習)】基本的な技術や戦術について解説し、練習を実施する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)

5	事前学習	ユニバーサルホッケーのルールをまとめる。(30分)
	授業内容	【ユニバーサルホッケー(試合)】ルールや注意点などを解説し、試合を実施する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
6	事前学習	バットゴルフの基本技術について調べる。(30分)
	授業内容	【バットゴルフ(練習)】設定されたコースを使用し、練習を実施する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)
7	事前学習	バットゴルフのルールについて調べる。(30分)
	授業内容	【バットゴルフ(試合)】各自で設定したコースを使用し、試合形式でゲームをする。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
8	事前学習	ダーツの基本技術について調べる。(30分)
	授業内容	【ダーツ(練習)】基本的な投げ方や点数のカウント方法を解説し、練習を実施する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)
9	事前学習	ダーツのルールについて調べる。(30分)
	授業内容	【ダーツ(試合)】ルールや注意点などを解説し、試合形式でゲームを実施する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
10	事前学習	ドッジビーの基本技術について調べる。(30分)
	授業内容	【ドッジビー①】ドッジボールゲーム形式のルールを解説し、ゲームを実施する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)
11	事前学習	ポートボールのルールについて調べる。(30分)
	授業内容	【ドッジビー②】ポートボール形式のルールを解説し、ゲームを実施する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
12	事前学習	バスケットボールの基本技術について調べる。(30分)
	授業内容	【ポートボール(練習)】ドリブルやパスなどの基本技術について解説し、練習を実施する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)
13	事前学習	バスケットボールのルールについて調べる。(30分)
	授業内容	【ポートボール(試合)】ルールや注意点を解説し、試合形式でゲームを実施する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
14	事前学習	実施したいスポーツ種目について調べる。(30分)
	授業内容	【スポーツの企画・運営】学生主体となって、実施するスポーツを決定し、実践をする。
	事後学習	実施内容を振り返り、まとめる。(30分)
15	事前学習	これまでの内容についてまとめる。(30分)
	授業内容	【まとめ】これまでの授業内容をまとめ、得られた学習成果を確認する。
	事後学習	施設を探し、スポーツを実践する。(30分)

科目名	体育実技 I C(サッカー)	担当者	坂本 宗司	部別	第一部	期間	前期 2 時限 連続	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	---------------	-----	---

授業概要	サッカーをプレーする上で必要な、個人技術・個人戦術の向上させ、チームスポーツとしてのグループ戦術・チーム戦術へと発展させる。 また、健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ。			
授業目的・到達目標	サッカーの基礎技術を習得すると同時に、ゲームを通じてコミュニケーション（メンバーシップ、リーダーシップ）を図り、チームワークを獲得することを目的とする。 サッカーを通してスポーツマンシップ、マナーを身に付けることを目標とする。 関連D P 及びC P：総合科目・体育実技領域：1, 4, 5, 6, 7			
履修条件	初級者から上級者まで誰でも可。			
授業方法	授業は技術について、様々なコートの大きさ、条件をルールにゲームの中から学べるように展開する。サッカーに適した服装とシューズを用意し、大宮キャンパスのサッカー場にて行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	平常点80% 試験 授業内においての試合・技術・試験を考慮する（20%）
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		
参 考 書	ゼロからのサッカー サッカー基本攻略法			
オフィス アワー	月曜1限、金曜1限、授業前後、授業講堂にて 初回ガイダンス時に指示することとする。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ガイダンスの注意事項に従いサッカーを行うことのできる準備をする（30分）
	授業内容	ガイダンス及び体力測定 コミュニケーション（声・アイコンタクト・ボディランゲージ・協力）
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
2	事前学習	ガイダンスの注意事項に従いサッカーを行うことのできる準備をする（30分）
	授業内容	ガイダンス及び体力測定 コミュニケーション（声・アイコンタクト・ボディランゲージ・協力）
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
3	事前学習	前回授業の内容を確認し、基本技術、サッカー専門用語を習得しておくこと（30分）
	授業内容	基礎技術 ボールフィーリング： ドリブル（見る・聞く・止める）ゲーム形式
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
4	事前学習	前回授業の内容を確認し、基本技術、サッカー専門用語を習得しておくこと（30分）
	授業内容	基礎技術 ボールフィーリング（ドリブル） ドリブル（見る・聞く・止める）ゲーム形式
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）

5	事前学習	前回授業の内容を確認し、基本技術、サッカー専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	基礎技術 パス&コントロール ゲーム形式
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
6	事前学習	前回授業の内容を確認し、基本技術、サッカー専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	基礎技術 パス&コントロール ゲーム形式
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
7	事前学習	前回授業の内容を確認し、基本技術、サッカー専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	基礎技術 フェイント&ターン（1対1の突破・攻撃）
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
8	事前学習	前回授業の内容を確認し、基本技術、サッカー専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	基礎技術 フェイント&ターン（1対1の突破・守備）
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
9	事前学習	前回授業の内容を確認し、基本技術、サッカー専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	基礎技術 スクリーンとボールキープ（1対1・チーム）
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
10	事前学習	前回授業の内容を確認し、基本技術、サッカー専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	基礎技術 スクリーンとボールキープ（1対1・チーム）
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
11	事前学習	前回授業の内容を確認し、基本技術、サッカー専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	基礎技術 シュート（ドロップ・パントキック）GK・ヘディング（スタンディング・ジャンプヘッド）
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
12	事前学習	前回授業の内容を確認し、基本技術、サッカー専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	基礎技術 シュート（ドロップ・パントキック）GK・ヘディング（スタンディング・ジャンプヘッド）
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
13	事前学習	前回授業の内容を確認し、基本技術、サッカー専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	基礎技術 リフティング（ひとり・グループ）色々な場所
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
14	事前学習	前回授業の内容を確認し、基本技術、サッカー専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	基礎技術 リフティング（ひとり・グループ）色々な場所
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
15	事前学習	前回授業の内容を確認し、基本技術、サッカー専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	基礎技術 パス&コントロール（クッション・ウェッジ）
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
16	事前学習	前回授業の内容を確認し、基本技術、サッカー専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	基礎技術 パス&コントロール（クッション・ウェッジ）
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）

29	事前学習	前回授業の内容を確認し、基本技術、サッカー専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	スモールゲーム リーグ戦形式でゲーム
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
30	事前学習	前回授業の内容を確認し、基本技術、サッカー専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	スモールゲーム リーグ戦形式でゲーム 講評
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する （３０分）

科目名	体育実技 I C(フットサル)	担当者	坂本 宗司	部別	第一部	期間	後期 2 時限 連続	単位数	2
-----	-----------------	-----	-------	----	-----	----	---------------	-----	---

授業概要	フットサルをプレーする上で必要な、個人技術・個人戦術の向上させ、チームスポーツとしてのグループ戦術・チーム戦術へと発展させる。 また、健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、フットサルの楽しさを学ぶ。 サッカーとフットサルの違いを学ぶ。				
授業目的・到達目標	チームスポーツであるフットサルを通してコミュニケーションを理解し、生涯スポーツとしてサッカー及びフットサルを楽しんでいけるように、基本的な技術及び戦術を習得することを目的とする。誰でも手軽に楽しめるスポーツとして性別・経験を問わずフットサルを楽しみ、ボールを蹴る・止める・運ぶの基本技術の習得と、試合を通じてコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。 関連D P及びC P：総合科目・体育実技領域：1, 4, 5, 6, 7				
履修条件	初級者から上級者まで誰でも可。				
授業方法	この科目は、大宮キャンパス体育館を使用して後期2時限連続で実施する授業である。 フットサルに適した服装とフットサル用のシューズを用意すること。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	平常点80% 試験 授業内においての試合・技術・試験を考慮する20%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	フットサル教本：日本フットサル連盟（監修）、松崎康裕、須田芳正（著）、大修館書店。				
オフィスアワー	金曜1限前後、授業場所にて。 初回ガイダンス時に指示することとする。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ガイダンスの注意事項に従いサッカーを行うことのできる準備をする（30分）
	授業内容	ガイダンス及び体力測定
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
2	事前学習	ガイダンスの注意事項に従いフットサルを行うことのできる準備をする（30分）
	授業内容	基本技術：ボールフィーリング(ドリブル) ゲーム
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
3	事前学習	前回授業の内容を確認し、サッカーとフットサルの違いを理解し、基本技術、専門用語を習得しておくこと（30分）
	授業内容	基本技術：ボールフィーリング(ドリブル)、ゲーム
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
4	事前学習	前回授業の内容を確認し、サッカーとフットサルの違いを理解し、基本技術、専門用語を習得しておくこと（30分）
	授業内容	基本技術：ボールフィーリング(ドリブル)、ゲーム
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）

5	事前学習	前回授業の内容を確認し、サッカーとフットサルの違いを理解し、基本技術、専門用語を習得しておくこと（30分）
	授業内容	基本技術：パス&コントロール、ゲーム
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
6	事前学習	前回授業の内容を確認し、サッカーとフットサルの違いを理解し、基本技術、専門用語を習得しておくこと（30分）
	授業内容	基本技術：パス&コントロール、ゲーム
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
7	事前学習	前回授業の内容を確認し、サッカーとフットサルの違いを理解し、基本技術、専門用語を習得しておくこと（30分）
	授業内容	基本技術：パス&コントロール、ゲーム
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
8	事前学習	前回授業の内容を確認し、サッカーとフットサルの違いを理解し、基本技術、専門用語を習得しておくこと（30分）
	授業内容	基本戦術：シュート練習、ゲーム
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
9	事前学習	前回授業の内容を確認し、サッカーとフットサルの違いを理解し、基本技術、専門用語を習得しておくこと（30分）
	授業内容	基本戦術：シュート練習、ゲーム
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
10	事前学習	前回授業の内容を確認し、サッカーとフットサルの違いを理解し、基本技術、専門用語を習得しておくこと（30分）
	授業内容	基本戦術：１対１の突破、２対２の突破、ゲーム
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
11	事前学習	前回授業の内容を確認し、サッカーとフットサルの違いを理解し、基本技術、専門用語を習得しておくこと（30分）
	授業内容	基本戦術：１対１の突破、２対２の突破、ゲーム
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
12	事前学習	前回授業の内容を確認し、サッカーとフットサルの違いを理解し、基本技術、専門用語を習得しておくこと（（30分）
	授業内容	基本戦術：１対１の突破、２対２の突破、ゲーム
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
13	事前学習	前回授業の内容を確認し、サッカーとフットサルの違いを理解し、基本技術、専門用語を習得しておくこと（30分）
	授業内容	基本戦術：４対２のボール回し、ゲーム
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
14	事前学習	前回授業の内容を確認し、サッカーとフットサルの違いを理解し、基本技術、専門用語を習得しておくこと（30分）
	授業内容	基本戦術：４対２のボール回し、ゲーム
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
15	事前学習	前回授業の内容を確認し、サッカーとフットサルの違いを理解し、基本技術、専門用語を習得しておくこと（30分）
	授業内容	基本戦術：４対２のボール回し、ゲーム
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
16	事前学習	前回授業の内容を確認し、サッカーとフットサルの違いを理解し、基本技術、専門用語を習得しておくこと（30分）
	授業内容	リーグ戦形式でゲーム
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）

29	事前学習	前回授業の内容を確認し、サッカーとフットサルの違いを理解し、基本技術、専門用語を習得しておくこと（30分）
	授業内容	リーグ戦形式でゲーム
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
30	事前学習	前回授業の内容を確認し、サッカーとフットサルの違いを理解し、基本技術、専門用語を習得しておくこと（30分）
	授業内容	リーグ戦形式でゲーム 講評
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）

科目名	体育実技 I C(ゴルフ初級)	担当者	坂本 宗司	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	羽付きボールを使用した初心者向けの実技とする。 羽付きボールを使ってコースのラウンドがスムーズに実施できるようになること。 パープレイに近づけるように努力する。					
授業目的・到達目標	ゴルフの技術を短期間で習得することは難しい。しかし、この羽付きボールを使ったバードゴルフは、ショット練習だけではなく、グラウンドのコースをラウンドする事によってゴルフを理解するのに役立ち、上達が早まる様に工夫されている。従ってルールの理解を含めたゴルフの基礎を習得することを目的とし、将来の余暇善用に役立てる事を目標とする。 関連D P 及びC P：総合科目・体育実技領域：1, 4, 5, 6, 7					
履修条件	通常の筋力があれば問題ないとする。 誰でも受講可とする。					
授業方法	大宮キャンパスにて行う。 クラブ等は学部で準備してあるものを貸与する。スポーツシューズ、運動着、ゴルフ手袋は各自で準備する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業参加度60% 実技課題点40% 意欲・技能・理解・進歩度 受講態度等の総合評価とする。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考					
参考書	指導パンフレットを配布する。					
オフィスアワー	月曜1限、授業前後、授業講堂にて 初回ガイダンス時に指示することとする。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ガイダンスの注意事項に従いゴルフを行うことのできる準備をする（30分）
	授業内容	ガイダンス及び体力測定
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
2	事前学習	ガイダンスの注意事項に従いゴルフを行うことのできる準備をする（30分）
	授業内容	ガイダンス及び体力測定
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
3	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（30分）
	授業内容	ゴルフボールを使った遊び、スイング練習
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）
4	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（30分）
	授業内容	スイングの基礎理論① （軽いボール使用）
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（30分）

5	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	スイングの基礎理論② （バードボール使用）
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
6	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	体育館内でアプローチショットの練習１ （バードボール使用）
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
7	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	体育館内でアプローチショットの練習２ （バードボール使用）
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
8	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと （３０分）
	授業内容	体育館内でアプローチショットの練習３ （バードボール使用）
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
9	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	体育館内でフルショット練習１ （バードボール使用）
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
10	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	体育館内でフルショット練習２ （バードボール使用）
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
11	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	体育館内でフルショット練習３ （バードボール使用）
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
12	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	グラウンドでフルショットとアプローチショットの練習１
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
13	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	グラウンドでフルショットとアプローチショットの練習２
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
14	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	グラウンドでフルショットとアプローチショットの練習３
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
15	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと （３０分）
	授業内容	コース設営　１８ホールラウンド練習
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
16	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと （３０分）
	授業内容	コース設営　１８ホールラウンド練習
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）

17	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	コース設営　１８ホールラウンド練習
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
18	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	コース設営　１８ホールラウンド練習
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
19	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	公式戦１　新ペリア方式で、１８ホールストロークプレイ
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
20	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	公式戦２　新ペリア方式で、１８ホールストロークプレイ
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
21	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	公式戦３　新ペリア方式で、１８ホールストロークプレイ
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
22	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	公式戦４　新ペリア方式で、１８ホールストロークプレイ
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
23	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	公式戦５　公式戦１、２、３、４のスコアーからハンディキャップ設定し１８ホール　ストロークプレイ
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
24	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	公式戦６　ハンディキャップ方式で、１８ホールストロークプレイ
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
25	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	公式戦７　ハンディキャップ方式で、１８ホールストロークプレイ
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
26	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	公式戦８　ハンディキャップ方式で、１８ホールストロークプレイ
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
27	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	公式戦９　新しいハンディキャップで１８ホールストロークプレイ
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
28	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	公式戦１０　新しいハンディキャップで１８ホールストロークプレイ
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）

29	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	公式戦１１　新しいハンディキャップで１８ホールストロークプレイ
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）
30	事前学習	前回授業の内容を確認し、ゴルフの基本技術、専門用語を習得しておくこと（３０分）
	授業内容	公式戦１２　新しいハンディキャップで１８ホールストロークプレイ 講評
	事後学習	授業内容を振り返り、基本技術や専門用語を整理する（３０分）

科目名	体育実技 I C(コンバインドスポーツ)	担当者	佐藤 秀明	部別	第一部	期間	前期 2 時限 連続	単位数	2
-----	----------------------	-----	-------	----	-----	----	---------------	-----	---

授業概要	体育実技に不可欠な身体運動は、体力や健康を獲得する一つの手段である。また、身体運動の一つであるスポーツ活動は、体力や健康の獲得だけではなく、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を養成する営みでもある。本講座では、様々なスポーツを体験し「複合的にスポーツ」を楽しむこと、体力や健康に関する理解を深めること、そして主体的に健康行動を実践できるように授業を展開する。			
授業目的・到達目標	【授業目的】様々なスポーツ種目の活動を通じて、体力や健康の獲得、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を養成する。 【到達目標】スポーツを楽しむ態度を身につけ、体力や健康に関する理解を深め主体的に健康行動を実践し、健康な生活習慣を身につけることができる。 【関連するDP及びCP】総合科目・体育実技科目領域 1、4、5、6、7			
履修条件	屋外・屋内運動靴（紐靴が望ましい）、運動着（トレーニングウェア等）、タオル、その他運動・スポーツ活動に必要な準備をすること。体力の維持増進のため、30分以上の連続歩行運動を週3回程度実施すること。			
授業方法	前学期2時限連続で実施する実技である。授業開始時と終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを行う。【フィードバック方法】事前学習シート及び振り返りシート、課題レポートの提出とする。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業参画状況（50％）、平常点（50%） ※平常点は、事前学習シート及び振り返りシート、課題レポート、授業準備、受講態度等、各自の目標達成度
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	なし		
参考書	「観る前に読む大修館スポーツルール2018」大修館書店 ISBN-10: 4469268399			
オフィスアワー	【神田三崎町キャンパス】火曜日 12：20～13：30、木曜日 12：10～13：00 【大宮キャンパス】水曜日 9：00～13：00 連絡方法 satou.hideaki@nihon-u.ac.jp ※事前に上記メールアドレスに連絡（用件内容）をすること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業概要、授業目的、到達目標、授業方法を確認する。 (30分)
	授業内容	【ガイダンス】 授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画についての説明 事前学習及び事後学習についての説明 体育実技と健康について（講義形式）
	事後学習	ガイダンス内容を振り返り、受講計画の確認を行う。 (30分)
2	事前学習	運動の身体的・精神的効果について調べてくる。フィットネスチェックの測定種目（※測定種目：握力・反復横跳び・長座体前屈・立ち幅跳び・上体起こし・閉眼片足立ち）について事前に確認してくる。こと。 (30分)
	授業内容	【体力及び身体運動への理解】 フィットネスチェックを実施し、その結果を踏まえ自らの達成課題を抽出する。 軽運動、体操、ストレッチ等の実践を通じて、身体運動への理解を深める。
	事後学習	フィットネスチェックの結果を踏まえて、体力及び健康の維持増進に向けた目標を立てる。 (30分)
3	事前学習	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。 (60分)
	授業内容	【ソフトバレーボール①】 生涯スポーツ一つである「ソフトバレーボール」を体験する。 当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得を目標とする。
	事後学習	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。（5分）

4	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【ソフトバレーボール②】 ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。また、チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。
	事後学習	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。（60分）
5	事前学習	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。（60分）
	授業内容	【インディアカ①】 多様な楽しみ方ができるスポーツの一つである「インディアカ」を体験する。 当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得を目標とする。
	事後学習	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。（5分）
6	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【インディアカ②】 ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。また、チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。
	事後学習	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。（60分）
7	事前学習	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。（60分）
	授業内容	【バドミントン①】 親しみやすいスポーツの一つである「バドミントン」を体験する。 当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得を目標とする。
	事後学習	ペアを組んだ相手と意見交換を行い課題などを共有する。（5分）
8	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【バドミントン②】 ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。また、ダブルスにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。
	事後学習	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。（60分）
9	事前学習	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。（60分）
	授業内容	【ターゲットバードゴルフ①】 生涯スポーツの一つである「ターゲットバードゴルフ」を体験する。 当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得を目標とする。
	事後学習	振り返り、課題の設定を行う。（5分）
10	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【ターゲットバードゴルフ②】 ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。また、マナーや課題への挑戦についての理解を深める。
	事後学習	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。（60分）
11	事前学習	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。（60分）
	授業内容	【チェックボール①】 怪我のないスポーツとして生まれた「チェックボール」を体験する。 当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得を目標とする。
	事後学習	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。（5分）
12	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【チェックボール②】 ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。また、チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。
	事後学習	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。（60分）
13	事前学習	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。（60分）
	授業内容	【ショートテニス】 生涯スポーツの一つであるショートテニスを体験する。 当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得を目標とする。
	事後学習	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。（5分）
14	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【ショートテニス】 ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。また、ダブルスにおける役割やコミュニケーション、協働への理解を深める。
	事後学習	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。（60分）

15	事前学習	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。 (60分)
	授業内容	【卓球 シングルス①】 親しみやすいスポーツの一つである卓球を体験する。 当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得を目標とする。
	事後学習	振り返り、課題の設定を行う。(5分)
16	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。(5分)
	授業内容	【卓球 シングルス②】 ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。
	事後学習	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。 (60分)
17	事前学習	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。 (60分)
	授業内容	【卓球 ダブルス】 ルールの理解、技術の習得を目標とする。 ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。
	事後学習	ペアを組んだ相手と意見交換を行い課題などを共有する。(5分)
18	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。(5分)
	授業内容	【卓球 チーム戦】 チーム戦（シングルスとダブルスの混合）を体験する。 試合結果を踏まえて、意見の交換を通じてリーダーシップや協働への理解を深める。
	事後学習	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。 (60分)
19	事前学習	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。 (60分)
	授業内容	【ユニバーサルホッケー①】 ニュースポーツの一つである「ユニバーサルホッケー」を体験する。 当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得を目標とする。
	事後学習	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。(5分)
20	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。(5分)
	授業内容	【ユニバーサルホッケー②】 ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。また、チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。
	事後学習	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。 (60分)
21	事前学習	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。 (60分)
	授業内容	【アルティメット①】 セルフジャッジ制を特徴とする「アルティメット」を体験する。 当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得を目標とする。
	事後学習	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。(5分)
22	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。(5分)
	授業内容	【アルティメット】 ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。また、チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。
	事後学習	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。 (60分)
23	事前学習	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。 (60分)
	授業内容	【ティーボール①】 ニュースポーツの一つである「ティーボール」を体験する。 当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得を目標とする。
	事後学習	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。(5分)
24	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。(5分)
	授業内容	【ティーボール②】 ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。また、チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。
	事後学習	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。 (60分)
25	事前学習	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。 (60分)
	授業内容	【キンボール①】 ニュースポーツの一つである「キンボール」を体験する。 当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得を目標とする。
	事後学習	チームを組んだ仲間と意見交換を行い課題などを共有する。(5分)

26	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【キンボール②】 ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。また、チームにおける役割やリーダーシップ、協働への理解を深める。
	事後学習	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。（60分）
27	事前学習	動画の視聴や関連資料を用いて、必要な技術あるいはルールについて調べる。事前学習シートを作成する。（60分）
	授業内容	【フェンシング①】 騎士道のスポーツとして有名な「フェンシング」を体験する。 当該スポーツの特徴とルールの理解、技術の習得を目標とする。
	事後学習	振り返り、課題の設定を行う。（5分）
28	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【フェンシング②】 ゲームを通じて、当該スポーツの楽しみ方を考える。
	事後学習	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。（60分）
29	事前学習	様々なスポーツ種目を概観し、誰でも楽しめるスポーツ（ルールや実施補法等）について考え事前学習シートを作成する。（60分）
	授業内容	【新スポーツ種目の提案】 既存のスポーツの実施方法を工夫することや、新たなスポーツ種目を設定し実施する。
	事後学習	実施したスポーツについての意見交換を行い、その意見をまとめる。（5分）
30	事前学習	スポーツとは何かについて、自らの経験や学びを踏まえて考えをまとめる。（5分）
	授業内容	【スポーツの価値について考える】 スポーツが及ぼす様々な影響について考え理解を深める。 授業の振り返り、各自の目標達成度を確認する。
	事後学習	スポーツ実施が自らに与えた影響についてまとめる。課題リポートを作成する。（60分）

科目名	体育実技 I C(卓球)	担当者	佐藤 秀明	部 別	第一部	期 間	後期 2 時限 連続	単 位 数	2
-----	--------------	-----	-------	-----	-----	-----	---------------	-------	---

授業概要	体育実技に不可欠な身体運動は、体力や健康を獲得する一つ的手段である。また、身体運動の一つであるスポーツ活動は、体力や健康の獲得だけではなく、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を養成する営みである。本講座では、スポーツマンシップ及びフェアプレイを踏まえ、卓球そのものを楽しむこと、体力や健康に関する理解を深めること、そして主体的に健康行動を実践できるように授業を展開する。			
授業目的・到達目標	【授業目的】卓球の技術習得、ルールの理解、マナーを学び、スポーツマンシップ（相手への尊敬、ルールの遵守、フェアプレイ等）の実践を通じて、体力や健康の獲得、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力を養成する。 【到達目標】卓球の楽しさ理解し、生涯スポーツとして発展させられる。主体的に健康行動を実践し、健康な生活習慣を身につけることができる。 【関連するDP及びCP】総合科目・体育実技科目領域 1、4、5、6、7			
履修条件	卓球経験の有無不問。運動靴、運動着、タオル、その他運動・スポーツに必要な準備をすること。用具は貸し出しするが、個人で準備しても構わない。体力の維持増進のために、各自で30分以上の連続歩行運動を週3回程度実施する。			
授業方法	後学期2時限連続（180分）の実技科目である。授業開始時と終了時に、傷害予防のためウォーミングアップとクールダウンを実施する。【フィードバック方法】事前学習シート及び振り返りシート、課題レポートの提出とする。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業参画状況（50％）、技能試験（20％）、平常点（30％） ※平常点は、課題レポート、授業準備、受講態度等、各自の目標達成度
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	なし		
参考書	日本卓球ルールブック（JTТА）			
オフィスアワー	【神田三崎町キャンパス】火曜日 12：20～13：30、木曜日 12：10～13：00 【大宮キャンパス】水曜日 9：00～13：00 連絡方法 satou.hideaki@nihon-u.ac.jp ※事前に上記メールアドレスに連絡（用件内容）をすること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業概要、授業目的、到達目標、授業方法を確認する。 (30分)
	授業内容	【ガイダンス】 授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画についての説明 事前学習及び事後学習についての説明 卓球について（ルール、用具等説明）
	事後学習	ガイダンス内容を振り返り、受講計画の確認を行う。 (30分)
2	事前学習	運動の身体的・精神的効果について調べてくる。フィットネスチェックの測定種目（※測定種目：握力・反復横跳び・長座体前屈・立ち幅跳び・上体起こし・閉眼片足立ち）について事前に確認してくる。こと。 (30分)
	授業内容	【体力及び身体運動への理解】 フィットネスチェックを実施し、その結果を踏まえ自らの達成課題を抽出する。 軽運動、体操、ストレッチ等の実践を通じて、身体運動への理解を深める。
	事後学習	フィットネスチェックの結果を踏まえて、体力及び健康の維持増進に向けた目標を立てる。 (30分)
3	事前学習	動画の視聴や関連資料を用いて動作や技術等を各自で調べてくる。事前学習シートを作成する。 (60分)
	授業内容	基本的な動作と技術（フォアハンド、バックハンド、サーブ）の習得】 基本的な動作と技術（フォアハンド、バックハンド、サーブ）を学び、技能を習得する。
	事後学習	自らの良い点や課題などを抽出する。（5分）

4	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【基本的な動作と技術（フォアハンド、バックハンド、サーブ）の実践】 実践練習とミニゲームを通じて、基本的な動作と技術の理解を深める。技能習得の過程においての問題点や課題の抽出、その解決方を各自で設定する。
	事後学習	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。（60分）
5	事前学習	動画の視聴や関連資料を用いて動作や技術等を各自で調べてくる。事前学習シートを作成する。（60分）
	授業内容	【基本的な動作と技術（ショート、ツッツキ、レシーブ、スマッシュ、カット）の習得】 基本的な動作と技術（ショート、ツッツキ、レシーブ、スマッシュ、カット）を学び、技能を習得する
	事後学習	自らの良い点や課題などを抽出する。（5分）
6	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【基本的な動作と技術（ショート、ツッツキ、レシーブ、スマッシュ、カット）の実践】 実践練習とミニゲームを通じて、基本的な動作と技術の理解を深める。技能習得の過程においての問題点や課題の抽出、その解決方を各自で設定する。
	事後学習	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。（60分）
7	事前学習	資料等を用いて各自で調べてくる。事前学習シートを作成する。（60分）
	授業内容	【審判技術（ジャッジ、カウント）を学ぶ】 フェアで円滑な卓球を実施する上で不可欠な審判技術、得点と試合の流れ学び、スポーツにおけるルールの重要性への理解を深める。ゲームにおけるマナーを学び、スポーツマンシップの理解を深める。
	事後学習	審判技術・ルールについて復習する。（5分）
8	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【技能の確認】 基本動作、審判技術の習得状況の確認を行い、問題点や課題の抽出、またその解決方を各自で設定する。
	事後学習	技術チェックの結果を踏まえ、課題を明確にし具体的な解決方をあげる。振り返りシートを作成する。（60分）
9	事前学習	試合の動画を視聴し、どのような戦術があるのかを調べてくる。初心者については疑問点を抽出し質問を考える。経験者については自らの考えを発表する準備を行う。事前学習シートを作成する。（60分）
	授業内容	【基本的な戦術を学ぶ】 習得した技術をゲームで生かすために、ミニゲームを通じて戦術について学ぶ。
	事後学習	戦術について復習する。 初心者の質問、経験者の発表内容を学生間で共有する。（5分）
10	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【シングルスゲームの実践①】 1ゲーム11点制のルールを用いて行う。経験者と初心者のゲームにおいてはハンディを付けて実施する。
	事後学習	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。（60分）
11	事前学習	ルールとゲーム時のマナーについて再度確認する。事前学習シートを作成する。（60分）
	授業内容	【シングルスゲームの実践②（リーグ戦）】 1ゲームマッチのリーグ戦を行う。 リーグ戦対戦表の作成、マッチ結果の記入方法等について学ぶ。
	事後学習	自らの良い点や課題などを抽出する。（5分）
12	事前学習	前回の課題を確認し具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【シングルスゲームの実践③（リーグ戦）】 1ゲームマッチのリーグ戦を行う。 リーグ戦の結果から、得失点の算出や順位付けの方法等について学ぶ。
	事後学習	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。（60分）
13	事前学習	トーナメント戦の進行方法等について調べてくる。事前学習シートを作成する。（60分）
	授業内容	【シングルスゲームの実践④（トーナメント戦）】 3ゲームズマッチを行う。 トーナメント戦の運営方法について学び、試合進行の管理等を実践する。
	事後学習	自らの良い点や課題などを抽出する。（5分）
14	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【シングルスゲームの実践⑤（トーナメント戦）】 3ゲームズマッチを行う。 トーナメント結果から、順位付けの方法等を学ぶ。
	事後学習	自らが設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。（60分）

15	事前学習	動画の視聴や関連資料を用いて動作や技術等を各自で調べてくる。事前学習シートを作成する。 (60分)
	授業内容	【ダブルスの基本的な動作と技術の習得】 基本的な動作と技術（交互に打つ等）を学び、技能を習得する。
	事後学習	ペアを組んだ相手と意見の交換を通じて課題などを共有する。（5分）
16	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【ダブルスの基本的な動作と技術の実践】 実践練習とミニゲームを通じて、基本的な動作と技術の理解を深める。 技能習得の過程においての問題点や課題の抽出、その解決方を各自で設定する。
	事後学習	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。 (60分)
17	事前学習	試合の動画を視聴し、どのような戦術があるのかを調べてくる。初心者については疑問点を抽出し質問を考える。経験者については自らの考えを発表する準備を行う。事前学習シートを作成する。 (60分)
	授業内容	【ダブルスの基本的な戦術を学ぶ】 習得した技術をゲームで生かすために、ミニゲームを通じて戦術について学ぶ。
	事後学習	戦術について復習する。初心者との質問、経験者の発表内容を学生間で共有する。ペアを組んだ相手と意見の交換を通じて課題などを共有する。（5分）
18	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【ダブルスゲームの実践①（リーグ戦）】 1ゲーム11点制のルールを用いて行う。技能レベルに応じてハンディを付けて実施する。
	事後学習	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。 (60分)
19	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。事前学習シートを作成する。 (60分)
	授業内容	【ダブルスゲームの実践②（リーグ戦）】 1ゲームマッチのリーグ戦を行う。 リーグ戦対戦表の作成、マッチ結果の記入方法等について学ぶ。
	事後学習	ペアを組んだ相手と意見の交換を通じて課題などを共有する。（5分）
20	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【ダブルスゲームの実践③（リーグ戦）】 1ゲームマッチのリーグ戦を行う。 リーグ戦の結果から、得失点の算出や順位付けの方法等について学ぶ。
	事後学習	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。 (60分)
21	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。事前学習シートを作成する。 (60分)
	授業内容	【ダブルスゲームの実践④（トーナメント戦）】 3ゲームズマッチを行う。 トーナメント戦の運営方法について学び、試合進行の管理等を実践する。
	事後学習	ペアを組んだ相手と意見の交換を通じて課題などを共有する。（5分）
22	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【ダブルスゲームの実践⑤（トーナメント戦）】 3ゲームズマッチを行う。 トーナメント結果から、順位付けの方法等を学ぶ。
	事後学習	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。 (60分)
23	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。事前学習シートを作成する。 (60分)
	授業内容	【技能レベルを考慮したダブルスゲームの実践①（リーグ戦）】 3ゲームズマッチを行う。 課題の抽出、その解決方を各自で設定する。
	事後学習	ペアを組んだ相手と意見の交換を通じて課題などを共有する。（5分）
24	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【技能レベルを考慮したダブルスゲームの実践②（リーグ戦）】 3ゲームズマッチを行う。 課題の抽出、その解決方を各自で設定する。
	事後学習	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。 (60分)
25	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。事前学習シートを作成する。 (60分)
	授業内容	【技能レベルを考慮したダブルスゲームの実践③（トーナメント戦）】 3ゲームズマッチを行う。 課題の抽出、その解決方を各自で設定する。
	事後学習	ペアを組んだ相手と意見の交換を通じて課題などを共有する。（5分）

26	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【技能レベルを考慮したダブルスゲームの実践④（トーナメント戦）】 3ゲームズマッチを行う。 課題の抽出、その解決方を各自で設定する。
	事後学習	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。（60分）
27	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。事前学習シートを作成する。（60分）
	授業内容	【チーム戦の実践①】 チーム戦（シングルスとダブルスの混合）を体験する。 作戦及び戦術について意見の交換を通じて、チームビルドへの理解を深める。
	事後学習	チームを組んだ仲間と意見の交換を通じて課題などを共有する。（5分）
28	事前学習	前回の課題を確認し、具体的な解決方を設定する。（5分）
	授業内容	【チーム戦の実践②】 チーム戦（シングルスとダブルスの混合）を体験する。 試合結果を踏まえて、意見の交換を通じて、リーダーシップや協働への理解を深める。
	事後学習	意見交換を通じて設定した課題及びその解決方の達成度などの振り返りを行う。振り返りシートを作成する。（60分）
29	事前学習	各自でレクリエーションとしての卓球について考える。事前学習シートを作成する。（60分）
	授業内容	【レクリエーションとしての卓球を学ぶ】 ゲーム方法を工夫して実施する。
	事後学習	様々なゲーム方法について意見の交換を通じて、卓球のプロモーションを考える。（5分）
30	事前学習	卓球のプロモーションを踏まえて、スポーツの価値について各自が意見を準備する。（5分）
	授業内容	【スポーツの価値について考える】 スポーツが及ぼす様々な影響について考え理解を深める。 授業の振り返り、各自の目標達成度を確認する。
	事後学習	スポーツ実施が自らに与えた影響についてまとめる。課題リポートを作成する。（60分）

科目名	体育実技ⅠC(バドミントン)	担当者	鈴木 功士	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	バドミントンのルール、特性、安全性を理解したうえで、基本的技術習得とゲーム実践・運営を学ぶ。 バドミントンを通じ、身体的（技術や体力）向上はもちろん、人間としてより良い生活を送るための心理的・社会的スキルを学ぶ。					
授業目的・到達目標	バドミントンのルール、特性、安全性を理解し自主的に実践することを目的とする。 自ら課題を発見し、改善方法を計画し、実行する技術を獲得することを目的とする。 バドミントンのゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築することができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目流域：1，4，5，6，7					
履修条件	経験の有無は問わない。室内用運動靴、トレーニングウェア、タオル等を持参して受講すること。 ※第1回目は準備不要					
授業方法	大宮キャンパス体育館を使用して2時限連続で実施する実技科目である。 必要に応じ、バドミントンの技能別に実施することがある。※授業内容は変更する場合がある。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業参加度50%、レポート課題、授業態度等50%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない(資料集を配布する)				
参考書	使用しない					
オフィスアワー	授業（火曜3限）の前後とする 授業講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容を確認する。（30分）
	授業内容	ガイダンス(半期授業の組み立て、授業方法、履修条件などについて説明) 三崎町キャンパスにて行う。
	事後学習	実技授業を受講するために必要な準備を確認する。（30分）
2	事前学習	自身の生活習慣について省みる。（30分）
	授業内容	エクササイズ
	事後学習	学習内容から、自身の生活習慣を改善する。（30分）
3	事前学習	大宮キャンパスで実施する実技授業の準備と安全管理について確認する。（30分）
	授業内容	基本的な動作の習得① ミニゲーム
	事後学習	大宮キャンパスの施設利用方法等の理解を再確認する。（30分）
4	事前学習	バドミントンで使用する道具について特性を調べる。（30分）
	授業内容	基本的な動作の習得② ミニゲーム
	事後学習	バドミントンの道具の理解を深める。（30分）

5	事前学習	バドミントンの基本動作について調べる。（３０分）
	授業内容	実践的な動作の習得① ミニゲーム
	事後学習	バドミントンの基本動作について理解を深める。（３０分）
6	事前学習	バドミントンの運動特性について調べる。（３０分）
	授業内容	実践的な動作の習得② ミニゲーム
	事後学習	バドミントンの運動特性について理解を深める。（３０分）
7	事前学習	バドミントンシングルのルールを調べる。（３０分）
	授業内容	ルールを学ぶ①
	事後学習	バドミントンシングルのルールについて理解を深める。（３０分）
8	事前学習	バドミントンシングルの審判法について調べる。（３０分）
	授業内容	ルールを学ぶ②
	事後学習	バドミントンシングルの審判法について理解を深める。（３０分）
9	事前学習	リーグ戦の実施方法について調べる。（３０分）
	授業内容	シングルスリーグ戦①
	事後学習	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。（３０分）
10	事前学習	シングルの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	シングルスリーグ戦②
	事後学習	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。（３０分）
11	事前学習	シングルの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	シングルスリーグ戦③
	事後学習	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。（３０分）
12	事前学習	シングルの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	シングルスリーグ戦④
	事後学習	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。（３０分）
13	事前学習	トーナメントの実施方法について調べる。（３０分）
	授業内容	シングルストーナメント①
	事後学習	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。（３０分）
14	事前学習	ゲーム前に必要なウォーミングアップについて調べる。（３０分）
	授業内容	シングルストーナメント②
	事後学習	シングルストーナメント結果から、自身のスキルについて分析し、自己理解を深める。（３０分）
15	事前学習	バドミントンダブルスのルールを調べる。（３０分）
	授業内容	ダブルス　ルールを学ぶ
	事後学習	バドミントンダブルスのルールについて理解を深める。（３０分）
16	事前学習	バドミントンダブルスの審判法を調べる。（３０分）
	授業内容	ダブルス　実践練習
	事後学習	バドミントンダブルスの審判法について理解を深める。（３０分）

17	事前学習	ダブルスの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	ダブルスリーグ戦①
	事後学習	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。（３０分）
18	事前学習	ダブルスの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	ダブルスリーグ戦②
	事後学習	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。（３０分）
19	事前学習	ダブルスの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	ダブルスリーグ戦③
	事後学習	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。（３０分）
20	事前学習	ダブルスの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	ダブルスリーグ戦④
	事後学習	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。（３０分）
21	事前学習	ダブルスの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	ダブルストーナメント①
	事後学習	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。（３０分）
22	事前学習	ダブルスの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	ダブルストーナメント②
	事後学習	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。（３０分）
23	事前学習	ダブルスの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	ダブルストーナメント③
	事後学習	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。（３０分）
24	事前学習	ダブルスの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	ダブルストーナメント④
	事後学習	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。（３０分）
25	事前学習	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。（３０分）
	授業内容	自主運営①
	事後学習	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。（３０分）
26	事前学習	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。（３０分）
	授業内容	自主運営②
	事後学習	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。（３０分）
27	事前学習	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。（３０分）
	授業内容	自主運営③
	事後学習	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。（３０分）
28	事前学習	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。（３０分）
	授業内容	自主運営④
	事後学習	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。（３０分）

29	事前学習	レクリエーションとしてのバドミントンについて調べる.
	授業内容	レクリエーションとバドミントン
	事後学習	様々なバドミントンの楽しみ方について理解を深める.
30	事前学習	授業全体を振り返り, 学んだことを整理する.
	授業内容	まとめ、講評
	事後学習	バドミントンを通じて学んだ、体力的・心理的・社会的スキルから, より良い生活を送るための方策を検討する.

科目名	体育実技ⅠC(バドミントン)	担当者	鈴木 功士	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	バドミントンのルール、特性、安全性を理解したうえで、基本的技術習得とゲーム実践・運営を学ぶ。 バドミントンを通じ、身体的（技術や体力）向上はもちろん、人間としてより良い生活を送るための心理的・社会的スキルを学ぶ。					
授業目的・到達目標	バドミントンのルール、特性、安全性を理解し自主的に実践することを目的とする。 自ら課題を発見し、改善方法を計画し、実行する技術を獲得することを目的とする。 バドミントンのゲーム運営を企画・実践することで、他者と良好な人間関係を構築することができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目流域：1，4，5，6，7					
履修条件	経験の有無は問わない。室内用運動靴、トレーニングウェア、タオル等を持参して受講すること。 ※第1回目は準備不要					
授業方法	大宮キャンパス体育館を使用して2時限連続で実施する実技科目である。 必要に応じ、バドミントンの技能別に実施することがある。※授業内容は変更する場合がある。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業参加度50%、レポート課題、授業態度等50%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない(資料集を配布する)				
参考書	使用しない					
オフィスアワー	授業（火曜3限）の前後とする 授業講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容を確認する。（30分）
	授業内容	ガイダンス(半期授業の組み立て、授業方法、履修条件などについて説明) 三崎町キャンパスにて行う。
	事後学習	実技授業を受講するために必要な準備を確認する。（30分）
2	事前学習	自身の生活習慣について省みる。（30分）
	授業内容	エクササイズ
	事後学習	学習内容から、自身の生活習慣を改善する。（30分）
3	事前学習	大宮キャンパスで実施する実技授業の準備と安全管理について確認する。（30分）
	授業内容	基本的な動作の習得① ミニゲーム
	事後学習	大宮キャンパスの施設利用方法等の理解を再確認する。（30分）
4	事前学習	バドミントンで使用する道具について特性を調べる。（30分）
	授業内容	基本的な動作の習得② ミニゲーム
	事後学習	バドミントンの道具の理解を深める。（30分）

5	事前学習	バドミントンの基本動作について調べる。（３０分）
	授業内容	実践的な動作の習得① ミニゲーム
	事後学習	バドミントンの基本動作について理解を深める。（３０分）
6	事前学習	バドミントンの運動特性について調べる。（３０分）
	授業内容	実践的な動作の習得② ミニゲーム
	事後学習	バドミントンの運動特性について理解を深める。（３０分）
7	事前学習	バドミントンシングルのルールを調べる。（３０分）
	授業内容	ルールを学ぶ①
	事後学習	バドミントンシングルのルールについて理解を深める。（３０分）
8	事前学習	バドミントンシングルの審判法について調べる。（３０分）
	授業内容	ルールを学ぶ②
	事後学習	バドミントンシングルの審判法について理解を深める。（３０分）
9	事前学習	リーグ戦の実施方法について調べる。（３０分）
	授業内容	シングルスリーグ戦①
	事後学習	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。（３０分）
10	事前学習	シングルの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	シングルスリーグ戦②
	事後学習	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。（３０分）
11	事前学習	シングルの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	シングルスリーグ戦③
	事後学習	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。（３０分）
12	事前学習	シングルの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	シングルスリーグ戦④
	事後学習	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。（３０分）
13	事前学習	トーナメントの実施方法について調べる。（３０分）
	授業内容	シングルストーナメント①
	事後学習	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。（３０分）
14	事前学習	ゲーム前に必要なウォーミングアップについて調べる。（３０分）
	授業内容	シングルストーナメント②
	事後学習	シングルストーナメント結果から、自身のスキルについて分析し、自己理解を深める。（３０分）
15	事前学習	バドミントンダブルスのルールを調べる。（３０分）
	授業内容	ダブルス　ルールを学ぶ
	事後学習	バドミントンダブルスのルールについて理解を深める。（３０分）
16	事前学習	バドミントンダブルスの審判法を調べる。（３０分）
	授業内容	ダブルス　実践練習
	事後学習	バドミントンダブルスの審判法について理解を深める。（３０分）

17	事前学習	ダブルスの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	ダブルスリーグ戦①
	事後学習	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。（３０分）
18	事前学習	ダブルスの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	ダブルスリーグ戦②
	事後学習	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。（３０分）
19	事前学習	ダブルスの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	ダブルスリーグ戦③
	事後学習	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。（３０分）
20	事前学習	ダブルスの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	ダブルスリーグ戦④
	事後学習	ゲームを振り返り、改善点と次回行う練習内容を計画する。（３０分）
21	事前学習	ダブルスの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	ダブルストーナメント①
	事後学習	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。（３０分）
22	事前学習	ダブルスの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	ダブルストーナメント②
	事後学習	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。（３０分）
23	事前学習	ダブルスの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	ダブルストーナメント③
	事後学習	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。（３０分）
24	事前学習	ダブルスの戦略について調べる。（３０分）
	授業内容	ダブルストーナメント④
	事後学習	ゲームを振り返り、次回の戦略をたてる。（３０分）
25	事前学習	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。（３０分）
	授業内容	自主運営①
	事後学習	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。（３０分）
26	事前学習	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。（３０分）
	授業内容	自主運営②
	事後学習	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。（３０分）
27	事前学習	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。（３０分）
	授業内容	自主運営③
	事後学習	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。（３０分）
28	事前学習	ゲーム運営の方法を確認する。 ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。（３０分）
	授業内容	自主運営④
	事後学習	ゲーム内容を振り返り、参加者全員が楽しめる方法について検討する。（３０分）

29	事前学習	レクリエーションとしてのバドミントンについて調べる。（30分）
	授業内容	レクリエーションとバドミントン
	事後学習	様々なバドミントンの楽しみ方について理解を深める。（30分）
30	事前学習	授業全体を振り返り，学んだことを整理する。（30分）
	授業内容	まとめ、講評
	事後学習	バドミントンを通じて学んだ、体力的・心理的・社会的スキルから，より良い生活を送るための方策を検討する。（30分）

科目名	体育実技 I C(バドミントン)	担当者	高階 曜衣	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	バドミントンの基礎技術習得とゲームを中心に授業を進め、生涯スポーツとしてバドミントンを実践することを期待する。					
授業目的・到達目標	バドミントンを楽しめるようになる。 基礎的な技術を身に付け、シングルス、ダブルスの戦略や審判法を理解し、実践できることを目標とする。 健康づくりとしての生涯スポーツを自ら実践できる能力を養うことを目的とし、体力向上を図る。また、コミュニケーション能力やリーダーシップを身に付けることも目的とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1， 4， 5， 6， 7					
履修条件	経験の有無は問わない。 室内用運動靴、運動着、タオルを準備すること。					
授業方法	この授業は、大宮キャンパスを使用して前学期2時限連続で実施する実技種目である。 授業開始時と終了時に、ウォーミングアップとクールダウンを行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		技術・ルールの理解度、受講態度などを総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	なし				
参考書	使用しない。					
オフィスアワー	授業内（木曜3限）で質問を受け付ける。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでくる（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ガイダンス内容を振り返る（30分）
2	事前学習	体力測定の種類や方法について調べてくる（30分）
	授業内容	軽運動、体力測定
	事後学習	測定結果から自身の体力について考える（30分）
3	事前学習	グリップの握り方や基本動作について調べてくる（30分）
	授業内容	基本技術 1 ラケットとシャトルに慣れる
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、理解を深める（30分）
4	事前学習	ストローク、サービス、ショットについて調べてくる（30分）
	授業内容	基本技術 2 ストローク、サービス、ショットの練習①
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、理解を深める（30分）

5	事前学習	ストローク、サービス、ショットについて調べてくる（30分）
	授業内容	基本技術3 ストローク、サービス、ショットの練習②
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、理解を深める（30分）
6	事前学習	ストローク、サービス、ショットについて調べてくる（30分）
	授業内容	基本技術4 ストローク、サービス、ショットの練習③
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、理解を深める（30分）
7	事前学習	ストローク、サービス、ショットについて調べてくる（30分）
	授業内容	基本技術5 ストローク、サービス、ショットの練習④
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、理解を深める（30分）
8	事前学習	シングルの戦略や審判法について調べてくる（30分）
	授業内容	シングルの導入（ルールの理解）、試合形式練習
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、理解を深める（30分）
9	事前学習	シングルの戦略や審判法について調べてくる（30分）
	授業内容	シングル試合形式練習
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、シングルのゲームで実践できるようにする（30分）
10	事前学習	基本技術、シングルの戦略や審判法のおさらいをしてくる（30分）
	授業内容	シングルゲーム（リーグ戦1）
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
11	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	シングルゲーム（リーグ戦2）
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
12	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	シングルゲーム（リーグ戦3）
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
13	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	シングル・グループ対抗1
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
14	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	シングル・グループ対抗2
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
15	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	シングル・グループ対抗3
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
16	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	シングル・グループ対抗4
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）

17	事前学習	ダブルスの戦略や審判法について調べてくる（30分）
	授業内容	ダブルスの導入（ルールの理解）
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、理解を深める（30分）
18	事前学習	ダブルスの戦略や審判法についておさらいしてくる（30分）
	授業内容	ダブルスの試合形式練習
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、ダブルスのゲームで実践できるようにする（30分）
19	事前学習	基本技術、ダブルスの戦略や審判法のおさらいをしてくる（30分）
	授業内容	ダブルスゲーム（リーグ戦１）
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
20	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルスゲーム（リーグ戦２）
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
21	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルスゲーム（リーグ戦３）
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
22	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルスゲーム（リーグ戦４）
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
23	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルスゲーム（トーナメント戦１）
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
24	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルスゲーム（トーナメント戦２）
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
25	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルスゲーム（トーナメント戦３）
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
26	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルスゲーム（トーナメント戦４）
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
27	事前学習	グループ対抗の戦略を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルス・グループ対抗１
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
28	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルス・グループ対抗２
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）

29	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルス・グループ対抗3
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
30	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルス・グループ対抗4 まとめ・講評
	事後学習	授業全体を振り返り、今後も運動を継続して行うようにする（30分）

科目名	体育実技 I C(テニス初級)	担当者	高階 曜衣	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	初心者を対象とする。 テニスの基礎技術習得とゲームを中心に授業を進め、生涯スポーツとしてテニスを実践することを期待する。					
授業目的・到達目標	テニスを楽しめるようになる。 基礎的な技術を身に付け、シングルス、ダブルスの戦略や審判法を理解し、実践できるようになることを目標とする。 健康づくりとしての生涯スポーツを自ら実践できる能力を養うことを目的とし、体力向上を図る。また、コミュニケーション能力やリーダーシップを身に付けることも目的とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1， 4， 5， 6， 7					
履修条件	経験の有無は問わない。 運動靴、運動着、タオルを準備すること。※雨天時は、室内用運動靴を準備すること。					
授業方法	この授業は、大宮キャンパスを使用して後学期2時限連続で実施する実技種目である。 授業開始時と終了時に、ウォーミングアップとクールダウンを行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		技術・ルールの理解度、受講態度などを総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	なし				
参考書	使用しない。					
オフィスアワー	授業内（木曜3限）で質問を受け付ける。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでくる（30分）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ガイダンス内容を振り返る（30分）
2	事前学習	体力測定の種類や方法について調べてくる（30分）
	授業内容	軽運動、体力測定
	事後学習	測定結果から自身の体力について考える（30分）
3	事前学習	ミニテニスについて調べてくる（30分）
	授業内容	ミニテニス 1
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、理解を深める（30分）
4	事前学習	前回のおさらいをしてくる（30分）
	授業内容	ミニテニス 2
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、理解を深める（30分）

5	事前学習	グリップの握り方や基本動作について調べてくる（30分）
	授業内容	基本技術1 ボールコントロール、ラケットワーク
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、理解を深める（30分）
6	事前学習	フォアハンドについて調べてくる（30分）
	授業内容	基本技術2 フォアハンドストローク
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、理解を深める（30分）
7	事前学習	フォアハンドについて調べてくる（30分）
	授業内容	基本技術3 フォアハンドストローク
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、理解を深める（30分）
8	事前学習	バックハンドについて調べてくる（30分）
	授業内容	基本技術4 バックハンドストローク
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、理解を深める（30分）
9	事前学習	バックハンドについて調べてくる（30分）
	授業内容	基本技術5 バックハンドストローク
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、理解を深める（30分）
10	事前学習	前回までのおさらいをしてくる（30分）
	授業内容	ショートラリーミニゲーム
	事後学習	授業で行った内容のポイント、問題点を把握する（30分）
11	事前学習	サービス、ボレーについて調べてくる（30分）
	授業内容	基本技術6 サービス、ボレー
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、理解を深める（30分）
12	事前学習	サービス、リターンについて調べてくる（30分）
	授業内容	基本技術7 サービス、リターン
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、理解を深める（30分）
13	事前学習	シングルの戦略や審判法について調べてくる（30分）
	授業内容	シングルの導入（ルールの理解）
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、シングルのゲームで実践できるようにする（30分）
14	事前学習	シングルの戦略や審判法のおさらいをしてくる（30分）
	授業内容	シングルスゲーム（試合形式練習）
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、シングルのゲームで実践できるようにする（30分）
15	事前学習	基本技術、シングルの戦略や審判法のおさらいをしてくる（30分）
	授業内容	シングルスゲーム（リーグ戦1）
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
16	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	シングルスゲーム（リーグ戦2）
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）

17	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	シングルスゲーム（リーグ戦 3）
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
18	事前学習	ダブルスの戦略や審判法について調べてくる（30分）
	授業内容	ダブルスの導入（ルールの理解）
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、理解を深める（30分）
19	事前学習	ダブルスの戦略や審判法のおさらいをしてくる（30分）
	授業内容	ダブルスゲーム（試合形式練習）
	事後学習	授業で行った内容のポイントをおさえ、ダブルスのゲームで実践できるようにする（30分）
20	事前学習	基本技術、ダブルスの戦略や審判法のおさらいをしてくる（30分）
	授業内容	ダブルスゲーム
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
21	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルスゲーム（リーグ戦 1）
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
22	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルスゲーム（リーグ戦 2）
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
23	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルスゲーム（リーグ戦 3）
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
24	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルスゲーム（リーグ戦 4）
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
25	事前学習	チーム戦の戦略を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルス・チーム戦 1
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
26	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルス・チーム戦 2
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
27	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルス・チーム戦 3
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
28	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルス・チーム戦 4
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）

29	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルス・チーム戦 5
	事後学習	ゲーム内容を思い出し、課題点を見つける（30分）
30	事前学習	課題点の改善策を考えてくる（30分）
	授業内容	ダブルス・チーム戦 6 まとめ・講評
	事後学習	授業全体を振り返り、今後も運動を継続して行うようにする（30分）

科目名	体育実技 I C(ソフトボール)	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	前期 2 時限 連続	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	---------------	-----	---

授業概要	スポーツは体を動かす生活文化である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、技術を高めながら、ルール、マナー、体を動かす楽しみ、コミュニケーション力を修得し、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。				
授業目的・到達目標	[授業目的] この授業では、チームスポーツにおけるゲーム形式を多く行いながらスポーツの習慣化や健康及び体力の向上を図るとともに、他者との交流や多様性を尊重しコミュニケーション力をはじめとする社会性を養うことを目的とする。 [達成目標] 健康で活力ある生活を営むために、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化を実践する態度、コミュニケーション力の向上を目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域 1, 4, 5, 6, 7				
履修条件	この科目は、大宮キャンパス(グラウンド)の施設を使用して2時限連続で実施する授業である。受講時には授業に適した運動着と運動靴を着用する。履修カードに張り付ける顔写真を準備する。				
授業方法	出席・実施内容の説明を行う。授業開始・終了時には、ウォーミングアップとクーリングダウンを行う。 [フィードバック方法] 事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートの提出とする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業の参加度(60%) 授業関連シート及び課題レポート、受講準備、各自の目標達成度等(40%)	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	必要に応じてプリントの配布			
参考書	使用しない				
オフィスアワー	金曜日の昼休み メールにて事前に予約をすること tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	身体運動やスポーツを行うことの意義について、自分なりの考えをまとめておく。(30分)
	授業内容	[ガイダンス] 授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等
	事後学習	ガイダンス内容を理解し、トレーニングウェア・シューズ等の準備や確認をする。(30分)
2	事前学習	ウォーミングアップ・クーリングダウンの必要性について調べる。(30分)
	授業内容	[ストレッチ体操] 適度な筋活動を行いながら柔軟性を求め、身体をほぐしていく。またストレッチ用具の使い方を学習する。
	事後学習	ストレッチ体操のポイントを理解し身体ほぐし運動を実施する。(30分)
3	事前学習	フィットネスチェック項目について確認する。握力、反復横跳び、上体越し、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち(30分)
	授業内容	[フィットネスチェック] フィットネスチェック(握力、反復横跳び、上体越し、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち)
	事後学習	フィットネスチェックの結果を踏まえ、体力及び健康の維持増進に向けたスポーツ・身体運動の計画を立てる。(30分)
4	事前学習	体力要素の1つである敏捷性：アジリティを調べる。(30分)
	授業内容	[敏捷性：アジリティトレーニングを知る] ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果を学習する。
	事後学習	敏捷性トレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。(30分)

5	事前学習	キャッチボールの基礎トレーニングを調べる。(30分)
	授業内容	[キャッチボールの基礎練習] キャッチボールの基礎技術を体得する。
	事後学習	キャッチボール練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。(30分)
6	事前学習	キャッチボール応用技術の練習を調べる。(30分)
	授業内容	[キャッチボール応用練習] 実践形式においてキャッチボール応用技術を体得する。
	事後学習	キャッチボール応用技術の練習を実施し理解を深める。(30分)
7	事前学習	バッティング練習の基礎トレーニングを調べる。(30分)
	授業内容	[バッティング基礎練習] バッティング基礎技術を体得する。
	事後学習	バッティング練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。(30分)
8	事前学習	バッティング応用練習を調べる。(30分)
	授業内容	[バッティング応用練習] 実践形式においてバッティング応用技術を体得する。
	事後学習	バッティング応用技術の練習を実施し理解を深める。(30分)
9	事前学習	走塁練習の基礎トレーニングを調べる。(30分)
	授業内容	[走塁の基礎練習] 走塁基礎技術を体得する。
	事後学習	走塁練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。(30分)
10	事前学習	走塁の応用練習を調べる。(30分)
	授業内容	[走塁の応用練習] 実践形式において走塁の応用技術を体得する。
	事後学習	走塁の応用技術の練習を実施し理解を深める。(30分)
11	事前学習	サーキットトレーニングについて調べ、そのトレーニング効果を考える。(30分)
	授業内容	[オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングを知る] 筋力と筋持久力を同時に向上させるサーキットトレーニングの有効性とトレーニングプログラムを作成を学習する。
	事後学習	サーキットトレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。(30分)
12	事前学習	実践に必要な体力を調べる。(30分)
	授業内容	[実践におけるオールラウンドな体力の向上] 実践において体力向上を体得する。
	事後学習	実践におけるオールラウンドな体力の向上に関して理解を深める。(30分)
13	事前学習	トレーニング効果を得るための、トレーニングの原理・原則を調べる。(30分)
	授業内容	[筋力とパワーの向上：ブライオメトリックトレーニング] 難易度に応じた運動様式の分類を学習する。
	事後学習	授業内容を振り返り、ブライオメトリックトレーニングの運動様式をまとめる。(30分)
14	事前学習	技術に必要な筋力とパワーについて調べる。(30分)
	授業内容	[実践における筋力とパワーの向上] 実践において筋力とパワーの向上を体得する。
	事後学習	実践における筋力とパワーの向上に関して理解を深める。(30分)
15	事前学習	前半期の振り返りを行う。(30分)
	授業内容	[前半期のまとめ] 体力トレーニング効果の確認、授業の振り返り
	事後学習	前半期の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。(30分)
16	事前学習	ゲームにおける戦略や戦術について調べる。(30分)
	授業内容	[実践形式：リーグ戦①] ゲームにおける戦略や戦術を体験し学習する。
	事後学習	ゲームにおける戦略や戦術を振り返り理解を深める。(30分)

17	事前学習	ゲームにおける戦略や戦術について調べる。(30分)
	授業内容	[実践形式：リーグ戦①] ゲームにおける戦略や戦術を体験し学習する。
	事後学習	ゲームにおける戦略や戦術を振り返り理解を深める。(30分)
18	事前学習	対戦チームの強み弱みを分析しておくこと。(30分)
	授業内容	[実践形式：リーグ戦①’] 対戦チームの強み弱みを学習する。
	事後学習	対戦チームの強み弱みを振り返り理解を深める。(30分)
19	事前学習	対戦チームの強み弱みを分析しておくこと。(30分)
	授業内容	[実践形式：リーグ戦①’] 対戦チームの強み弱みを学習する。
	事後学習	対戦チームの強み弱みを振り返り理解を深める。(30分)
20	事前学習	守備練習について調べる。(30分)
	授業内容	[実践形式：リーグ戦②] 守備について実践形式で学習する。
	事後学習	守備を振り返り理解を深める。(30分)
21	事前学習	守備練習について調べる。(30分)
	授業内容	[実践形式：リーグ戦②] 守備について実践形式で学習する。
	事後学習	守備を振り返り理解を深める。(30分)
22	事前学習	対戦チームの守備を分析しておくこと。(30分)
	授業内容	[実践形式：リーグ戦②’] 対戦チームの守備について実践形式で学習する。
	事後学習	対戦チームの守備を振り返り次回のリーグ戦に役立てる。(30分)
23	事前学習	対戦チームの守備を分析しておくこと。(30分)
	授業内容	[実践形式：リーグ戦②’] 対戦チームの守備について実践形式で学習する。
	事後学習	対戦チームの守備を振り返り次回のリーグ戦に役立てる。(30分)
24	事前学習	ポジションの適正能力について調べる。(30分)
	授業内容	[実践形式：リーグ戦③] ポジションの適正能力について実践形式で学習する。
	事後学習	ポジションの適正能力を振り返り理解を深める。(30分)
25	事前学習	ポジションの適正能力について調べる。(30分)
	授業内容	[実践形式：リーグ戦③] ポジションの適正能力について実践形式で学習する。
	事後学習	ポジションの適正能力を振り返り理解を深める。(30分)
26	事前学習	対戦チームのポジションの適正能力について分析を行うこと。(30分)
	授業内容	[実践形式：リーグ戦③’] 対戦チームのポジションの適正能力について実践形式で学習する。
	事後学習	対戦チームのポジションの適正能力について調べ次回の戦略に役立てる。(30分)
27	事前学習	対戦チームのポジションの適正能力について分析を行うこと。(30分)
	授業内容	[実践形式：リーグ戦③’] 対戦チームのポジションの適正能力について実践形式で学習する。
	事後学習	対戦チームのポジションの適正能力について調べ次回の戦略に役立てる。(30分)
28	事前学習	ボールゲームにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。(30分)
	授業内容	[実践形式における課題練習] 実践形式におけるチームでのコミュニケーションを積極的に行う。
	事後学習	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。(30分)

29	事前学習	ボールゲームにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。(30分)
	授業内容	[実践形式における課題練習] 実践形式におけるチームでのコミュニケーションを積極的に行う。
	事後学習	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。(30分)
30	事前学習	後半期の振り返りを行う。(30分)
	授業内容	[まとめ] フィットネスチェック、授業の振り返り
	事後学習	後半期の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。(30分)

科目名	体育実技 I C(多種目スポーツ)	担当者	田邊 陽子	部別	第一部	期間	後期 2 時限 連続	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	---------------	-----	---

授業概要	スポーツは体を動かす生活文化である。大学体育の目的は学生生活(健康の保持、増進)、社会性(社会性の育成)を豊かにすることの基礎づくりとして行われる。この授業では、自ら考え創意工夫し、技術を高めながら、ルール、マナー、体を動かす楽しみ、コミュニケーション力を修得し、生涯を通してスポーツ活動の足掛かりとなる健康、体力づくりを展開する。				
授業目的・到達目標	[授業目的] この授業では、チームスポーツにおけるゲーム形式を多く行いながらスポーツの習慣化や健康及び体力の向上を図るとともに、他者との交流や多様性を尊重しコミュニケーション力をはじめとする社会性を養うことを目的とする。 [達成目標] 健康で活力ある生活を営むために、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化を実践する態度、コミュニケーション力の向上を目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域 1,4,5,6,7 この科目は、大宮キャンパスの施設を使用して2時限連続で実施する授業である。受講時には授業に適した運動着と運動靴を着用する。履修カードに張り付ける顔写真を準備する。				
履修条件					
授業方法	出席・実施内容の説明を行う。授業開始・終了時には、ウォーミングアップとクーリングダウンを行う。 [フィードバック方法] 事前学習シート及び振り返りシート(リアクションペーパー)、課題レポートの提出とする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業の参加度(60%) 授業関連シート及び課題レポート、受講準備、各自の目標達成度等(40%)	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	必要に応じてプリントの配布			
参考書	使用しない				
オフィスアワー	金曜日の昼休み メールにて事前に予約をすること tanabe.yoko@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	身体運動やスポーツを行うことの意義について、自分なりの考えをまとめておく。(30分)
	授業内容	[ガイダンス] 授業の目的・方法、評価方法、受講時の注意、授業計画の説明等
	事後学習	ガイダンス内容を理解し、トレーニングウェア・シューズ等の準備や確認をする。(30分)
2	事前学習	ウォーミングアップ・クーリングダウンの必要性について調べる。(30分)
	授業内容	[ストレッチ体操] 適度な筋活動を行いながら柔軟性を求め、身体をほぐしていく。またストレッチ用具の使い方を学習する。
	事後学習	ストレッチ体操のポイントを理解し身体ほぐし運動を実施する。(30分)
3	事前学習	フィットネスチェック項目について確認する。握力、反復横跳び、上体越し、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち(30分)
	授業内容	[フィットネスチェック] フィットネスチェック(握力、反復横跳び、上体越し、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ち)
	事後学習	フィットネスチェックの結果を踏まえ、体力及び健康の維持増進に向けたスポーツ・身体運動の計画を立てる。(30分)
4	事前学習	体力要素の1つである敏捷性：アジリティを調べる。(30分)
	授業内容	[敏捷性：アジリティトレーニングを知る] ラダーなどを使いながら、敏捷性トレーニングの効果を学習する。
	事後学習	敏捷性トレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。(30分)

5	事前学習	竹馬の乗り方について調べる。(30分)
	授業内容	[平衡性：バランスを高める] 平衡性を必要とする用具を用いて行い運動効果を学習する。
	事後学習	平衡性：バランスを高めるために必要なトレーニングを実施し理解を深める。(30分)
6	事前学習	キャッチボール技術の練習を調べる。(30分)
	授業内容	[キャッチボール練習：ティーボール①] 実践形式においてキャッチボール技術を体得する。
	事後学習	キャッチボール技術の練習を実施し理解を深める。(30分)
7	事前学習	バッティング練習の基礎トレーニングを調べる。(30分)
	授業内容	[バッティング基礎練習：ティーボール②] 実践形式においてバッティング基礎技術を体得する。
	事後学習	バッティング練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。(30分)
8	事前学習	ティーボールのルールを調べる。(30分)
	授業内容	[バッティング応用練習：ティーボール③] 実践形式においてティーボール技術を体得する。
	事後学習	ティーボール技術の練習を実施し理解を深める。(30分)
9	事前学習	走塁練習の基礎トレーニングを調べる。(30分)
	授業内容	[走塁の基礎練習：ティーボール④] 走塁基礎技術を体得する。
	事後学習	走塁練習の基礎トレーニングを実施し理解を深める。(30分)
10	事前学習	走塁の応用練習を調べる。(30分)
	授業内容	[走塁の応用練習：ティーボール⑤] 実践形式において走塁の応用技術を体得する。
	事後学習	走塁の応用技術の練習を実施し理解を深める。(30分)
11	事前学習	サーキットトレーニングについて調べ、そのトレーニング効果を考える。(30分)
	授業内容	[オールラウンドな体力の向上：サーキットトレーニングを知る] 筋力と筋持久力を同時に向上させるサーキットトレーニングの有効性とトレーニングプログラムを作成を学習する。
	事後学習	サーキットトレーニングにおける体の使い方と動作の反復練習を実施し理解を深める。(30分)
12	事前学習	オールラウンドな体力の向上について調べる。(30分)
	授業内容	[オールラウンドな体力の向上] オールラウンドな体力向上を体得する。
	事後学習	オールラウンドな体力の向上に関して理解を深める。(30分)
13	事前学習	トレーニング効果を得るための、トレーニングの原理・原則を調べる。(30分)
	授業内容	[筋力とパワーの向上：ブライオメトリックトレーニング] 難易度に応じた運動様式の分類を学習する。
	事後学習	授業内容を振り返り、ブライオメトリックトレーニングの運動様式をまとめる。(30分)
14	事前学習	技術に必要な筋力とパワーについて調べる。(30分)
	授業内容	[実践における筋力とパワーの向上] 実践において筋力とパワーの向上を体得する。
	事後学習	実践における筋力とパワーの向上に関して理解を深める。(30分)
15	事前学習	前半期の振り返りを行う。(30分)
	授業内容	[前半期のまとめ] 体力トレーニング効果の確認、授業の振り返り
	事後学習	前半期の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。(30分)
16	事前学習	バスケットボールにおける戦略や戦術について調べる。(30分)
	授業内容	[実践形式：バスケットボール①] ゲームにおける戦略や戦術を体験し学習する。
	事後学習	ゲームにおける戦略や戦術を振り返り理解を深める。(30分)

17	事前学習	バスケットボールにおける戦略や戦術について調べる。(30分)
	授業内容	[実践形式：バスケットボール①] ゲームにおける戦略や戦術を体験し学習する。
	事後学習	ゲームにおける戦略や戦術を振り返り理解を深める。(30分)
18	事前学習	対戦チームの強み弱みを分析しておくこと。(30分)
	授業内容	[実践形式：バスケットボール②] 対戦チームの強み弱みを学習する。
	事後学習	対戦チームの強み弱みを振り返り理解を深める。(30分)
19	事前学習	対戦チームの強み弱みを分析しておくこと。(30分)
	授業内容	[実践形式：バスケットボール②] 対戦チームの強み弱みを学習する。
	事後学習	対戦チームの強み弱みを振り返り理解を深める。(30分)
20	事前学習	卓球（シングルス）ルールについて調べる。(30分)
	授業内容	[実践形式：卓球 シングルス] 卓球：シングルス形式において戦略戦術を修得する。
	事後学習	卓球：シングルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。(30分)
21	事前学習	卓球（シングルス）ルールについて調べる。(30分)
	授業内容	[実践形式：卓球 シングルス] 卓球：シングルス形式において戦略戦術を修得する。
	事後学習	卓球：シングルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。(30分)
22	事前学習	卓球（ダブルス）ルールについて調べる。(30分)
	授業内容	[実践形式：卓球 ダブルス] 卓球：ダブルス形式において戦略戦術を修得する。
	事後学習	卓球：ダブルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。(30分)
23	事前学習	卓球（ダブルス）ルールについて調べる。(30分)
	授業内容	[実践形式：卓球 ダブルス] 卓球：ダブルス形式において戦略戦術を修得する。
	事後学習	卓球：ダブルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。(30分)
24	事前学習	バドミントン（シングルス）ルールについて調べる。(30分)
	授業内容	[実践形式：バドミントン シングルス] バドミントン：シングルス形式において戦略戦術を修得する。
	事後学習	バドミントン：シングルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。(30分)
25	事前学習	バドミントン（シングルス）ルールについて調べる。(30分)
	授業内容	[実践形式：バドミントン シングルス] バドミントン：シングルス形式において戦略戦術を修得する。
	事後学習	バドミントン：シングルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。(30分)
26	事前学習	バドミントン（ダブルス）ルールについて調べる。(30分)
	授業内容	[実践形式：バドミントン ダブルス] バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術を修得する。
	事後学習	バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。(30分)
27	事前学習	バドミントン（ダブルス）ルールについて調べる。(30分)
	授業内容	[実践形式：バドミントン ダブルス] バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術を修得する。
	事後学習	バドミントン：ダブルス形式において戦略戦術を振り返り理解を深める。(30分)
28	事前学習	フットサルにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。(30分)
	授業内容	[実践形式における課題練習：フットサル] 実践形式におけるチームでのコミュニケーションを積極的に行う。
	事後学習	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。(30分)

29	事前学習	フットサルにおけるチームのコミュニケーションの取り方について調べる。(30分)
	授業内容	[実践形式における課題練習：フットサル] 実践形式におけるチームでのコミュニケーションを積極的に行う。
	事後学習	チームのコミュニケーションを振り返り理解を深める。(30分)
30	事前学習	後半期の振り返りを行う。(30分)
	授業内容	[まとめ] フィットネスチェック、授業の振り返り
	事後学習	後半期の振り返りを行い、スポーツ・身体運動の実践を通じてスポーツの習慣化や健康及び体力の向上について理解を深め、これまでの学習内容を確認する。(30分)

科目名	体育実技 I C(バドミントン)	担当者	深田 喜八郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	自身の健康を維持するための知識は、人生をより良く生きるための教養になっている。将来、疾病に罹患する危険性を低下させるためには、運動習慣を身に付けることが必要である。バドミントンの実施方法を学ぶとともに、バドミントンを通して他者と関することで、社会性を養うことを目的とする授業を展開する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】バドミントンの実施方法や技術・ルールを修得し、自主的に実践するとともに、他者との交流を通してコミュニケーション能力を養成することを目的とする。 【到達目標】バドミントンのゲーム運営を企画し、実践することで、他者と良好な人間関係を構築することができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 4, 5, 6, 7				
履修条件	経験の有無は問わない。室内用運動靴、トレーニングウェア、タオル等を持参して受講すること。大宮キャンパス体育館を使用して2時限連続で実施する実技科目である。※第1回目は準備不要(履修カードに貼り付ける写真を準備)				
授業方法	授業内容の説明、準備運動、運動実践、ディスカッションなどを人数に応じて実施する。 【フィードバック方法】バドミントンの練習、試合に対する講評や、課題レポートに対する添削を実施する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業への参画状況(50%)、課題レポート及び各自の目標達成度等50%)	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参考書	必要に応じて資料を配布する。				
オフィスアワー	金曜日 13時10分～13時40分 大宮キャンパス体育館 ※事前に連絡をしてください。fukada.kihachiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	運動の意義についてまとめる。(30分)
	授業内容	【ガイダンス】授業の目的・内容、評価方法、諸注意について説明する
	事後学習	ガイダンスの内容を確認する。(30分)
2	事前学習	ストレッチの効果について調べる。(30分)
	授業内容	【体ほぐしの運動】パートナーストレッチ等で体の柔軟性を高めるとともに、他者とのコミュニケーションを図る。
	事後学習	授業内容を振り返り、ストレッチ等を実施する。(30分)
3	事前学習	測定種目について確認する。(30分)
	授業内容	【体力テスト】身体組成、反復横跳び、上体起こし、握力、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ちのテストを実施する。
	事後学習	体力テストの結果を踏まえ、自身の目標を立てる。(30分)
4	事前学習	サーブ・ドライブについて調べる。(30分)
	授業内容	【基本的なショットの修得①】シャトルに慣れるとともに、サーブやドライブの技術を習得する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)

5	事前学習	クリアー・プッシュ・ドロップについて調べる。(30分)
	授業内容	【基本的なショットの修得②】サーブやドライブに加え、クリアー、プッシュ、ドロップの技術を習得する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)
6	事前学習	スマッシュについて調べる。(30分)
	授業内容	【基本的なショットの修得③】これまで紹介したショットを復習するとともに、スマッシュの技術を習得する。
	事後学習	これまで実施した基本技術をまとめる。(30分)
7	事前学習	半面シングルスについて調べる。(30分)
	授業内容	【半面シングルス①】コートの半面を利用し、ゲーム形式でラリーすることで、基本技術の向上をはかる。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)
8	事前学習	半面シングスルの目標を立てる。(30分)
	授業内容	【半面シングルス②】リーグ戦形式で試合を実施することで、様々な相手と対戦する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
9	事前学習	インターネット等でダブルスのゲームを視聴する。(30分)
	授業内容	【ダブルスの練習①】簡易ゲームによって、ダブルスのゲームを経験する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)
10	事前学習	ダブルスのルールについて調べる。(30分)
	授業内容	【ダブルスの練習②】サービスの順番や審判方法の解説をし、ルールに基づいた試合を実施する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)
11	事前学習	ダブルスの戦術について調べる。(30分)
	授業内容	【ダブルスの練習③】ラリー継続の練習をしながら、ダブルスの戦術を紹介する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)
12	事前学習	リーグ戦の目標を立てる。(30分)
	授業内容	【ダブルスの試合①】リーグ戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。
	事後学習	試合の結果を振り返り、まとめる。(30分)
13	事前学習	トーナメント戦の目標を立てる。(30分)
	授業内容	【ダブルスの試合②】トーナメント戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。
	事後学習	試合の結果を振り返り、まとめる。(30分)
14	事前学習	団体戦の目標を立てる。(30分)
	授業内容	【ダブルスの試合③】団体戦形式で試合を実施し、様々な人とペアを組み対戦する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)
15	事前学習	団体戦において重要と考える点をまとめる。(30分)
	授業内容	【ダブルスの試合④】団体戦形式で試合を実施し、様々な人とペアを組み対戦する。
	事後学習	試合の結果を振り返り、まとめる。(30分)
16	事前学習	インターネット等でシングスルの動画を視聴する。(30分)
	授業内容	【シングスルの練習①】フットワークの練習をし、コート全体を動きながらラリーを実施する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)

17	事前学習	シングルのルールについて調べる。(30分)
	授業内容	【シングルの練習②】審判の方法やラインの確認をし、ゲーム形式で練習を実施する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)
18	事前学習	リーグ戦の目標を立てる。(30分)
	授業内容	【シングルの試合①】リーグ戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
19	事前学習	トーナメント戦の目標を立てる。(30分)
	授業内容	【シングルの試合②】トーナメント戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
20	事前学習	団体戦の目標を立てる。(30分)
	授業内容	【シングルの試合③】団体戦形式で試合を実施し、他者と協力しながら対戦する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
21	事前学習	インターネット等でトリプルの試合を視聴する。(30分)
	授業内容	【トリプルの練習】サービスの順番や審判方法の解説をし、ルールに基づいた試合を実施する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)
22	事前学習	リーグ戦の目標を立てる。(30分)
	授業内容	【トリプルの試合①】リーグ戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
23	事前学習	トーナメント戦の目標を立てる。(30分)
	授業内容	【トリプルの試合②】トーナメント戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
24	事前学習	団体戦の目標を立てる。(30分)
	授業内容	【トリプルの試合③】団体戦形式で試合を実施し、他者と協力しながら対戦する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
25	事前学習	これまでの内容を振り返り、バドミントンに必要な基本技術、コミュニケーションについてまとめる。(30分)
	授業内容	【団体戦①】チームを固定し、3週にわたり団体戦を実施する。
	事後学習	試合結果を振り返り、次回への改善点をまとめる。(30分)
26	事前学習	チームのメンバーと目標を立てる。(30分)
	授業内容	【団体戦②】チームを固定し、3週にわたり団体戦を実施する。
	事後学習	試合結果を振り返り、次回への改善点をまとめる。(30分)
27	事前学習	チームのメンバーと目標を立てる。(30分)
	授業内容	【団体戦③】チームを固定し、3週にわたり団体戦を実施する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
28	事前学習	どのような形式でゲームを実施すべきか、個人の意見をまとめる。(30分)
	授業内容	【学生企画によるゲーム運営①】リーグ戦、トーナメント戦、団体戦など、グループごとに実施内容を考え実施する。
	事後学習	実施した内容を振り返り、次回への改善点をまとめる。(30分)

29	事前学習	改善点を踏まえ、個人の意見をまとめる。(30分)
	授業内容	【学生企画によるゲーム運営②】リーグ戦、トーナメント戦、団体戦など、グループごとに実施内容を考え実施する。
	事後学習	実施した内容を振り返り、まとめる。(30分)
30	事前学習	これまでの内容についてまとめる。(30分)
	授業内容	【まとめ】これまでの授業内容をまとめ、得られた学習成果を確認する。
	事後学習	施設を探し、バドミントンを実践する。(30分)

科目名	体育実技 I C(バドミントン)	担当者	深田 喜八郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	自身の健康を維持するための知識は、人生をより良く生きるための教養になっている。将来、疾病に罹患する危険性を低下させるためには、運動習慣を身に付けることが必要である。バドミントンの実施方法を学ぶとともに、バドミントンを通して他者と関することで、社会性を養うことを目的とする授業を展開する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】バドミントンの実施方法や技術・ルールを修得し、自主的に実践するとともに、他者との交流を通してコミュニケーション能力を養成することを目的とする。 【到達目標】バドミントンのゲーム運営を企画し、実践することで、他者と良好な人間関係を構築することができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 4, 5, 6, 7				
履修条件	経験の有無は問わない。室内用運動靴、トレーニングウェア、タオル等を持参して受講すること。大宮キャンパス体育館を使用して2時限連続で実施する実技科目である。※第1回目は準備不要(履修カードに貼り付ける写真を準備)				
授業方法	授業内容の説明、準備運動、運動実践、ディスカッションなどを人数に応じて実施する。 【フィードバック方法】バドミントンの練習、試合に対する講評や、課題レポートに対する添削を実施する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業への参画状況(50%)、課題レポート及び各自の目標達成度等50%)	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参考書	必要に応じて資料を配布する。				
オフィスアワー	金曜日 13時10分～13時40分 大宮キャンパス体育館 ※事前に連絡をしてください。fukada.kihachiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	運動の意義についてまとめる。(30分)
	授業内容	【ガイダンス】授業の目的・内容、評価方法、諸注意について説明する
	事後学習	ガイダンスの内容を確認する。(30分)
2	事前学習	ストレッチの効果について調べる。(30分)
	授業内容	【体ほぐしの運動】パートナーストレッチ等で体の柔軟性を高めるとともに、他者とのコミュニケーションを図る。
	事後学習	授業内容を振り返り、ストレッチ等を実施する。(30分)
3	事前学習	測定種目について確認する。(30分)
	授業内容	【体力テスト】身体組成、反復横跳び、上体起こし、握力、長座体前屈、立ち幅跳び、閉眼片足立ちのテストを実施する。
	事後学習	体力テストの結果を踏まえ、自身の目標を立てる。(30分)
4	事前学習	サーブ・ドライブについて調べる。(30分)
	授業内容	【基本的なショットの修得①】シャトルに慣れるとともに、サーブやドライブの技術を習得する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)

5	事前学習	クリアー・プッシュ・ドロップについて調べる。(30分)
	授業内容	【基本的なショットの修得②】サーブやドライブに加え、クリアー、プッシュ、ドロップの技術を習得する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)
6	事前学習	スマッシュについて調べる。(30分)
	授業内容	【基本的なショットの修得③】これまで紹介したショットを復習するとともに、スマッシュの技術を習得する。
	事後学習	これまで実施した基本技術をまとめる。(30分)
7	事前学習	半面シングルスについて調べる。(30分)
	授業内容	【半面シングルス①】コートの半面を利用し、ゲーム形式でラリーすることで、基本技術の向上をはかる。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)
8	事前学習	半面シングスルの目標を立てる。(30分)
	授業内容	【半面シングルス②】リーグ戦形式で試合を実施することで、様々な相手と対戦する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
9	事前学習	インターネット等でダブルスのゲームを視聴する。(30分)
	授業内容	【ダブルスの練習①】簡易ゲームによって、ダブルスのゲームを経験する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)
10	事前学習	ダブルスのルールについて調べる。(30分)
	授業内容	【ダブルスの練習②】サービスの順番や審判方法の解説をし、ルールに基づいた試合を実施する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)
11	事前学習	ダブルスの戦術について調べる。(30分)
	授業内容	【ダブルスの練習③】ラリー継続の練習をしながら、ダブルスの戦術を紹介する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)
12	事前学習	リーグ戦の目標を立てる。(30分)
	授業内容	【ダブルスの試合①】リーグ戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。
	事後学習	試合の結果を振り返り、まとめる。(30分)
13	事前学習	トーナメント戦の目標を立てる。(30分)
	授業内容	【ダブルスの試合②】トーナメント戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。
	事後学習	試合の結果を振り返り、まとめる。(30分)
14	事前学習	団体戦の目標を立てる。(30分)
	授業内容	【ダブルスの試合③】団体戦形式で試合を実施し、様々な人とペアを組み対戦する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)
15	事前学習	団体戦において重要と考える点をまとめる。(30分)
	授業内容	【ダブルスの試合④】団体戦形式で試合を実施し、様々な人とペアを組み対戦する。
	事後学習	試合の結果を振り返り、まとめる。(30分)
16	事前学習	インターネット等でシングスルの動画を視聴する。(30分)
	授業内容	【シングスルの練習①】フットワークの練習をし、コート全体を動きながらラリーを実施する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)

17	事前学習	シングルのルールについて調べる。(30分)
	授業内容	【シングルの練習②】審判の方法やラインの確認をし、ゲーム形式で練習を実施する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)
18	事前学習	リーグ戦の目標を立てる。(30分)
	授業内容	【シングルの試合①】リーグ戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
19	事前学習	トーナメント戦の目標を立てる。(30分)
	授業内容	【シングルの試合②】トーナメント戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
20	事前学習	団体戦の目標を立てる。(30分)
	授業内容	【シングルの試合③】団体戦形式で試合を実施し、他者と協力しながら対戦する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
21	事前学習	インターネット等でトリプルの試合を視聴する。(30分)
	授業内容	【トリプルの練習】サービスの順番や審判方法の解説をし、ルールに基づいた試合を実施する。
	事後学習	次回への改善点をまとめる。(30分)
22	事前学習	リーグ戦の目標を立てる。(30分)
	授業内容	【トリプルの試合①】リーグ戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
23	事前学習	トーナメント戦の目標を立てる。(30分)
	授業内容	【トリプルの試合②】トーナメント戦形式で試合を実施し、様々な相手と対戦する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
24	事前学習	団体戦の目標を立てる。(30分)
	授業内容	【トリプルの試合③】団体戦形式で試合を実施し、他者と協力しながら対戦する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
25	事前学習	これまでの内容を振り返り、バドミントンに必要な基本技術、コミュニケーションについてまとめる。(30分)
	授業内容	【団体戦①】チームを固定し、3週にわたり団体戦を実施する。
	事後学習	試合結果を振り返り、次回への改善点をまとめる。(30分)
26	事前学習	チームのメンバーと目標を立てる。(30分)
	授業内容	【団体戦②】チームを固定し、3週にわたり団体戦を実施する。
	事後学習	試合結果を振り返り、次回への改善点をまとめる。(30分)
27	事前学習	チームのメンバーと目標を立てる。(30分)
	授業内容	【団体戦③】チームを固定し、3週にわたり団体戦を実施する。
	事後学習	試合結果を振り返り、まとめる。(30分)
28	事前学習	どのような形式でゲームを実施すべきか、個人の意見をまとめる。(30分)
	授業内容	【学生企画によるゲーム運営①】リーグ戦、トーナメント戦、団体戦など、グループごとに実施内容を考え実施する。
	事後学習	実施した内容を振り返り、次回への改善点をまとめる。(30分)

29	事前学習	改善点を踏まえ、個人の意見をまとめる。(30分)
	授業内容	【学生企画によるゲーム運営②】リーグ戦、トーナメント戦、団体戦など、グループごとに実施内容を考え実施する。
	事後学習	実施した内容を振り返り、まとめる。(30分)
30	事前学習	これまでの内容についてまとめる。(30分)
	授業内容	【まとめ】これまでの授業内容をまとめ、得られた学習成果を確認する。
	事後学習	施設を探し、バドミントンを実践する。(30分)

科目名	体育実技 I C(バレーボール)	担当者	松田 有司	部別	第一部	期間	前期 2 時限 連続	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	---------------	-----	---

授業概要	生涯スポーツのひとつであるバレーボールを実施し、バレーボールの基礎的技術(パス、アタック、サーブ)やルールを習得する。授業は個人練習、全体練習、および試合からなる。試合は、受講人数に応じて男女別もしくは男女混合で行う。					
授業目的・到達目標	チームメイトとの関係から、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力、協調性などの社会的能力を育成することを目的とする。実技を実施する中で、自身の体を動かすこと楽しさや重要性を知り、体を動かす習慣を作ることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技領域：1, 4, 5, 6, 7					
履修条件	基本的筋力が必要である バレーボールに興味がありバレーボールを楽しむことができること					
授業方法	大宮キャンパス体育館を使用して前期2時限連続で実施する 男女混合の6人制バレーボールを半年間実施する					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業参加度50、実技課題50(チーム成績 理解進捗度 受講姿勢)の総合評価とする	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない				
参考書	使用しない					
オフィスアワー	月曜3限授業前後 授業講堂にて 大宮体育館事務室1時より受付					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（30分）
	授業内容	オリエンテーション授業 三崎町校舎3時限目
	事後学習	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。（30分）
2	事前学習	バレーボールの技術や動作方法について調べる（30分）
	授業内容	身体能力および技術測定 1
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと。（30分）
3	事前学習	バレーボールの技術や動作方法について調べる（30分）
	授業内容	身体能力および技術測定 2
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと。（30分）
4	事前学習	バレーボールの試合映像を見る（30分）
	授業内容	パス技術の習得
	事後学習	パス技術改善点についてまとめる（30分）

5	事前学習	バレーボールの試合映像を見る（３０分）
	授業内容	仮チーム編成での練習
	事後学習	パス技術改善点についてまとめる（３０分）
6	事前学習	バレーボールのルールを調べる（３０分）
	授業内容	アタック・サーブ技術の取得
	事後学習	自身のアタック・サーブの技術改善点についてまとめる（３０分）
7	事前学習	バレーボールのルールを調べる（３０分）
	授業内容	仮チーム編成での練習・練習試合
	事後学習	自身のアタック・サーブの技術改善点についてまとめる（３０分）
8	事前学習	フォーメーションについて調べる（３０分）
	授業内容	チーム練習(フォーメーション・ラリー)
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと。（３０分）
9	事前学習	フォーメーションについて調べる（３０分）
	授業内容	チーム練習および練習試合
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと。（３０分）
10	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第１次公式戦リーグ　１週目
	事後学習	試合での課題点(個人技術)についてまとめる（３０分）
11	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第１次公式戦リーグ　１週目
	事後学習	試合での課題点(個人技術)についてまとめる（３０分）
12	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第１次公式戦リーグ　２週目
	事後学習	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる（３０分）
13	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第１次公式戦リーグ　２週目
	事後学習	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる（３０分）
14	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第２次公式戦リーグ　１週目
	事後学習	試合での課題点(個人技術)についてまとめる（３０分）
15	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第２次公式戦リーグ　１週目
	事後学習	試合での課題点(個人技術)についてまとめる（３０分）
16	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第２次公式戦リーグ　２週目
	事後学習	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる（３０分）

17	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第２次公式戦リーグ ２週目
	事後学習	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる（３０分）
18	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	チーム変えでのチーム練習
	事後学習	チームでの課題点を抽出し、改善するための練習方法を考える（３０分）
19	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	チーム練習・練習試合
	事後学習	チームでの課題点を抽出し、改善するための練習方法を考える（３０分）
20	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第３次公式戦リーグ １週目
	事後学習	試合での課題点(個人技術)についてまとめる（３０分）
21	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第３次公式戦リーグ １週目
	事後学習	試合での課題点(個人技術)についてまとめる（３０分）
22	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第３次公式戦リーグ ２週目
	事後学習	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる（３０分）
23	事前学習	バレーボールの試合映像を見る（３０分）
	授業内容	第３次公式戦リーグ ２週目
	事後学習	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる（３０分）
24	事前学習	バレーボールの試合映像を見る（３０分）
	授業内容	チーム力向上の攻撃&守備のバリエーション
	事後学習	個人技術の改善点について調べ、今後の練習方法を考える（３０分）
25	事前学習	バレーボールの試合映像を見る（３０分）
	授業内容	攻撃・守備のフォーメーション練習
	事後学習	個人技術の改善点について調べ、今後の練習方法を考える（３０分）
26	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第４次公式戦リーグ １週目
	事後学習	試合での課題点(個人技術)についてまとめる（３０分）
27	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第４次公式戦リーグ １週目
	事後学習	試合での課題点(個人技術)についてまとめる（３０分）
28	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第４次公式戦リーグ ２週目
	事後学習	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる（３０分）

29	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（30分）
	授業内容	第3次公式戦リーグ 2週目
	事後学習	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる（30分）
30	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（30分）
	授業内容	ルール&バレーボール理論の確認 講評
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと。（30分）

科目名	体育実技 I C(バレーボール)	担当者	松田 有司	部別	第一部	期間	後期 2 時限 連続	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	---------------	-----	---

授業概要	生涯スポーツのひとつであるバレーボールを実施し、バレーボールの基礎的技術(パス、アタック、サーブ)やルールを習得する。授業は個人練習、全体練習、および試合からなる。試合は、受講人数に応じて男女別もしくは男女混合で行う。					
授業目的・到達目標	チームメイトとの関係から、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力、協調性などの社会的能力を育成することを目的とする。実技を実施する中で、自身の体を動かすこと楽しさや重要性を知り、体を動かす習慣を作ることを目標とする。関連DP及びCP：総合科目・体育実技領域：1，4，5，6，7					
履修条件	基本的筋力が必要である バレーボールに興味がありバレーボールを楽しむことができること					
授業方法	大宮キャンパス体育館を使用して前期2時限連続で実施する 男女混合の6人制バレーボールを半年間実施する					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		授業参加度50、実技課題50(チーム成績 理解進歩度 受講姿勢)の総合評価とする	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない				
参 考 書	使用しない					
オフィスアワー	月曜3限、授業前後、授業講堂にて 大宮体育館事務室1時より受付					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。(30分)
	授業内容	オリエンテーション授業 三崎町校舎3時限目
	事後学習	第二回以降の授業についてシラバスを読み概観しておくこと。(30分)
2	事前学習	バレーボールの技術や動作方法について調べる(30分)
	授業内容	身体能力および技術測定 1
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと。(30分)
3	事前学習	バレーボールの技術や動作方法について調べる(30分)
	授業内容	身体能力および技術測定 2
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと。(30分)
4	事前学習	バレーボールの試合映像を見る(30分)
	授業内容	パス技術の習得
	事後学習	パス技術改善点についてまとめる(30分)

5	事前学習	バレーボールの試合映像を見る（３０分）
	授業内容	仮チーム編成での練習
	事後学習	パス技術改善点についてまとめる（３０分）
6	事前学習	バレーボールのルールを調べる（３０分）
	授業内容	アタック・サーブ技術の取得
	事後学習	自身のアタック・サーブの技術改善点についてまとめる（３０分）
7	事前学習	バレーボールのルールを調べる（３０分）
	授業内容	仮チーム編成での練習・練習試合
	事後学習	自身のアタック・サーブの技術改善点についてまとめる（３０分）
8	事前学習	フォーメーションについて調べる（３０分）
	授業内容	チーム練習(フォーメーション・ラリー)
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと。（３０分）
9	事前学習	フォーメーションについて調べる（３０分）
	授業内容	チーム練習および練習試合
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと。（３０分）
10	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第１次公式戦リーグ　１週目
	事後学習	試合での課題点(個人技術)についてまとめる（３０分）
11	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第１次公式戦リーグ　１週目
	事後学習	試合での課題点(個人技術)についてまとめる（３０分）
12	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第１次公式戦リーグ　２週目
	事後学習	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる（３０分）
13	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第１次公式戦リーグ　２週目
	事後学習	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる（３０分）
14	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第２次公式戦リーグ　１週目
	事後学習	試合での課題点(個人技術)についてまとめる（３０分）
15	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第２次公式戦リーグ　１週目
	事後学習	試合での課題点(個人技術)についてまとめる（３０分）
16	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第２次公式戦リーグ　２週目
	事後学習	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる（３０分）

17	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第２次公式戦リーグ ２週目
	事後学習	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる（３０分）
18	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	チーム変えでのチーム練習
	事後学習	チームでの課題点を抽出し、改善するための練習方法を考える（３０分）
19	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	チーム練習・練習試合
	事後学習	チームでの課題点を抽出し、改善するための練習方法を考える（３０分）
20	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第３次公式戦リーグ １週目
	事後学習	試合での課題点(個人技術)についてまとめる（３０分）
21	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第３次公式戦リーグ １週目
	事後学習	試合での課題点(個人技術)についてまとめる（３０分）
22	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第３次公式戦リーグ ２週目
	事後学習	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる（３０分）
23	事前学習	バレーボールの試合映像を見る（３０分）
	授業内容	第３次公式戦リーグ ２週目
	事後学習	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる（３０分）
24	事前学習	バレーボールの試合映像を見る（３０分）
	授業内容	チーム力向上の攻撃&守備のバリエーション
	事後学習	個人技術の改善点について調べ、今後の練習方法を考える（３０分）
25	事前学習	バレーボールの試合映像を見る（３０分）
	授業内容	攻撃・守備のフォーメーション練習
	事後学習	個人技術の改善点について調べ、今後の練習方法を考える（３０分）
26	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第４次公式戦リーグ １週目
	事後学習	試合での課題点(個人技術)についてまとめる（３０分）
27	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第４次公式戦リーグ １週目
	事後学習	試合での課題点(個人技術)についてまとめる（３０分）
28	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（３０分）
	授業内容	第４次公式戦リーグ ２週目
	事後学習	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる（３０分）

29	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（30分）
	授業内容	第3次公式戦リーグ 2週目
	事後学習	試合での課題点(チームプレイ)についてまとめる（30分）
30	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（30分）
	授業内容	ルール&バレーボール理論の確認 講評
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと。（30分）

科目名	体育実技 I C(バスケットボール)	担当者	松本 真	部別	第一部	期間	前期 2 時限 連続	単位数	2
-----	--------------------	-----	------	----	-----	----	---------------	-----	---

授業概要	バスケットボールの戦術、個人技の習得とその対応をいくつかを学ぶことで、問題を把握し、解決する能力とコミュニケーション力、そして、できないことへん挑戦することを学ばせる。				
授業目的・到達目標	バスケットボールの技能向上と仲間とのコミュニケーション能力の育成を目的とする。 最終的に学生を主体にチームとして勝つためにコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目 1， 4， 5， 6， 7				
履修条件	バスケットボールが好きである。また、パスゲームでバスケットボールを理解したいと考える者。				
授業方法	この科目は、大宮キャンパス体育館を使用して前期 2 時限連続または後期 2 時限連続で実施する授業である。 基本ドリル（個人技、チーム戦術）を行う。その後に、ゲームをして、特に戦術的な実践を試みる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業への積極的な参加と、バスケットボールの個人技、戦術的な理解が進んだかを評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参 考 書	使用しない。				
オフィスアワー	授業（木曜 1 限）終了後に対応する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	高校までに習得したゴール型球技に対する知識を確認する。（30分）
	授業内容	履修受付・オリエンテーション授業。
	事後学習	オリエンテーションで示された授業内容の確認。（30分）
2	事前学習	高校までに習得したバスケットボールに対する知識を確認する。（30分）
	授業内容	班分けと試しのゲーム。
	事後学習	班員の確認。自分の身体の状態を確認する。（30分）
3	事前学習	バスケットボールのルールを確認する。（30分）
	授業内容	全体戦術である「側線のボール運び」を行い、試しのゲームを行う。
	事後学習	「側線のボール運び」について復習確認する。（30分）
4	事前学習	「側線のボール運び」について動き方を確認する。（30分）
	授業内容	「側線のボール運び」とパス＆ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを習得する。試しのゲームを行う。
	事後学習	パス＆ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションの復習確認をする。（30分）

5	事前学習	パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを確認をする。（30分）
	授業内容	「側線のボール運び」をゲームで行うための対応を学ぶ。パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを習得する。試しのゲームを行う。
	事後学習	戦術学習にとって、対応することの重要性を確認する。（30分）
6	事前学習	戦術学習の基本を確認する。（30分）
	授業内容	「スクエアカットからの五人のボール運び」を習得する。試しのゲームを行う。
	事後学習	「スクエアカットからの五人のボール運び」の復習確認する。試しのゲームをする。（30分）
7	事前学習	「スクエアカットからの五人のボール運び」の確認する。（30分）
	授業内容	「スクエアカットからの五人のボール運び」のバリエーションを習得する。戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを学ぶ。試しのゲームをする。
	事後学習	戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを復習する。（30分）
8	事前学習	戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを確認する。（30分）
	授業内容	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にドリブルについて。試しのゲームを行う。
	事後学習	ドリブルについて復習確認する。（30分）
9	事前学習	ドリブルについて復習確認する。（30分）
	授業内容	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にレイアップ・シュートについて。試しのゲームを行う。
	事後学習	レイアップ・シュートについて復習確認する。（30分）
10	事前学習	レイアップ・シュートについて復習確認する（30分）
	授業内容	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にワンハンドセットシュートについて。試しのゲームを行う。
	事後学習	ワンハンドセットシュートについて復習確認する。（30分）
11	事前学習	ワンハンドセットシュートについて確認する。（30分）
	授業内容	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にワンハンドの3ポイントシュートについて。試しのゲームを行う。
	事後学習	ワンハンドの3ポイントシュートについて復習確認する。（30分）
12	事前学習	ワンハンドの3ポイントシュートについて確認する。（30分）
	授業内容	部分戦術を習得する。特に、2対2のパス&ランの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。
	事後学習	2対2のパス&ランについて復習確認する。（30分）
13	事前学習	2対2のパス&ランの確認をする。（30分）
	授業内容	部分戦術を習得する。特に、ピック&ロールの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。
	事後学習	ピック&ロールの復習確認をする。（30分）
14	事前学習	ピック&ロールの確認をする。（30分）
	授業内容	部分戦術を習得する。特に、3対3のポストパターンの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。
	事後学習	3対3のポストパターンの復習確認する。（30分）
15	事前学習	3対3のポストパターンの確認をする。（30分）
	授業内容	部分戦術を習得する。特に、3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。
	事後学習	3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングについて復習確認する。（30分）
16	事前学習	3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングの確認をする。（30分）
	授業内容	部分戦術を習得する。特に、ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）についての基本と狙いについて。試しのゲームを行う。
	事後学習	ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）について復習確認する。（30分）

17	事前学習	ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）の確認をする。（30分）
	授業内容	ハーフコートオフENSESにとってのエントリーの大切さについて学ぶ。試しのゲームを行う。
	事後学習	ハーフコートオフENSESにとってのエントリーの復習確認をする。（30分）
18	事前学習	ハーフコートオフENSESにとってのエントリーの確認をする。（30分）
	授業内容	バスケットボールのマンツーマンディフェンスの基本を習得する。試しのゲームをする。
	事後学習	マンツーマンディフェンスの復習確認をする。（30分）
19	事前学習	マンツーマンディフェンスの確認をする。（30分）
	授業内容	バスケットボールのゾーンディフェンスの形式を習得する。試しのゲームをする。
	事後学習	ゾーンディフェンスの形式について復習確認する。（30分）
20	事前学習	ゾーンディフェンスの形式について確認する。（30分）
	授業内容	バスケットボールのゾーンディフェンスの考え方を習得する。試しのゲームをする。
	事後学習	ゾーンディフェンスの考え方の復習確認をする。（30分）
21	事前学習	ゾーンディフェンスの考え方の確認をする。（30分）
	授業内容	バスケットボールのゾーンディフェンスを特徴づけるために、マンツーマンディフェンスの違いを明確にすることを習得する。試しのゲームをする。
	事後学習	マンツーマンディフェンスとの違いについて復習確認する。（30分）
22	事前学習	マンツーマンディフェンスの違いについて確認する。（30分）
	授業内容	ファーストブレイクの守り方を習得する。試しのゲームをする。
	事後学習	ファーストブレイクの守り方の復習確認をする。（30分）
23	事前学習	ファーストブレイクの守り方の確認をする。（30分）
	授業内容	オールコートディフェンスの狙いと考え方を習得する。試しのゲームをする。
	事後学習	オールコートのディフェンスについて復習確認する。（30分）
24	事前学習	オールコートのディフェンスについて確認する。（30分）
	授業内容	バスケットボールのゲームについての考え方、特に攻撃回数についての考え方を学ぶ。試しのゲームをする。
	事後学習	攻撃回数についての考え方を復習確認する。（30分）
25	事前学習	攻撃回数についての考え方を確認する。（30分）
	授業内容	バスケットボールのゲームについての考え方、特に接戦でのゲームの終わり方について（勝ち逃げ）の考え方を学ぶ。試しのゲームをする。
	事後学習	ゲームの終わり方について復習確認する。（30分）
26	事前学習	リーグ戦を行うための班の方針を考える。（30分）
	授業内容	これまで学習してきた知識と習得してきた技能・戦術を確認し、各班ごとに目標を定め、リーグ戦1を行う。
	事後学習	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）
27	事前学習	前回の課題を確認する。（30分）
	授業内容	前回の課題が是正されるように、を各班ごとに目標を定め、リーグ戦2を行う。
	事後学習	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）
28	事前学習	前回の課題を確認する。（30分）
	授業内容	前回の課題が是正されるように、を各班ごとに目標を定め、リーグ戦3を行う。
	事後学習	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）

29	事前学習	前回の課題を確認する。(30分)
	授業内容	前回の課題が是正されるように、を各班ごとに目標を定め、リーグ戦4を行う。
	事後学習	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。(30分)
30	事前学習	前回の課題を確認する。(30分)
	授業内容	まとめ・講評
	事後学習	生涯学習として、バスケットボールに取り組むための指針を考える。(30分)

科目名	体育実技 I C(バスケットボール)	担当者	松本 真	部別	第一部	期間	後期 2 時限 連続	単位数	2
-----	--------------------	-----	------	----	-----	----	---------------	-----	---

授業概要	バスケットボールの戦術、個人技の習得とその対応をいくつかを学ぶことで、問題を把握し、解決する能力とコミュニケーション力、そして、できないことへん挑戦することを学ばせる。			
授業目的・到達目標	バスケットボールの技能向上と仲間とのコミュニケーション能力の育成を目的とする。 最終的に学生を主体にチームとして勝つためにコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目 1， 4， 5， 6， 7			
履修条件	バスケットボールが好きである。また、パスゲームでバスケットボールを理解したいと考える者。			
授業方法	この科目は、大宮キャンパス体育館を使用して前期 2 時限連続または後期 2 時限連続で実施する授業である。 基本ドリル（個人技、チーム戦術）を行う。その後に、ゲームをして、特に戦術的な実践を試みる。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	授業への積極的な参加と、バスケットボールの個人技、戦術的な理解が進んだかを評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。		
参 考 書	使用しない。			
オフィスアワー	授業（木曜 1 限）終了後に対応する。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	高校までに習得したゴール型球技に対する知識を確認する。（30分）
	授業内容	履修受付・オリエンテーション授業。
	事後学習	オリエンテーションで示された授業内容の確認。（30分）
2	事前学習	高校までに習得したバスケットボールに対する知識を確認する。（30分）
	授業内容	班分けと試しのゲーム。
	事後学習	班員の確認。自分の身体の状態を確認する。（30分）
3	事前学習	バスケットボールのルールを確認する。（30分）
	授業内容	全体戦術である「側線のボール運び」を行い、試しのゲームを行う。
	事後学習	「側線のボール運び」について復習確認する。（30分）
4	事前学習	「側線のボール運び」について動き方を確認する。（30分）
	授業内容	「側線のボール運び」とパス＆ランを基本としたハーフコートオフェンスのバリエーションを習得する。試しのゲームを行う。
	事後学習	パス＆ランを基本としたハーフコートオフェンスのバリエーションの復習確認をする。（30分）

5	事前学習	パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを確認をする。（30分）
	授業内容	「側線のボール運び」をゲームで行うための対応を学ぶ。パス&ランを基本としたハーフコートオフENSEスのバリエーションを習得する。試しのゲームを行う。
	事後学習	戦術学習にとって、対応することの重要性を確認する。（30分）
6	事前学習	戦術学習の基本を確認する。（30分）
	授業内容	「スクエアカットからの五人のボール運び」を習得する。試しのゲームを行う。
	事後学習	「スクエアカットからの五人のボール運び」の復習確認する。試しのゲームをする。（30分）
7	事前学習	「スクエアカットからの五人のボール運び」の確認する。（30分）
	授業内容	「スクエアカットからの五人のボール運び」のバリエーションを習得する。戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを学ぶ。試しのゲームをする。
	事後学習	戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを復習する。（30分）
8	事前学習	戦術にとって役割分担の重要性とタイミングの大切さを確認する。（30分）
	授業内容	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にドリブルについて。試しのゲームを行う。
	事後学習	ドリブルについて復習確認する。（30分）
9	事前学習	ドリブルについて復習確認する。（30分）
	授業内容	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にレイアップ・シュートについて。試しのゲームを行う。
	事後学習	レイアップ・シュートについて復習確認する。（30分）
10	事前学習	レイアップ・シュートについて復習確認する（30分）
	授業内容	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にワンハンドセットシュートについて。試しのゲームを行う。
	事後学習	ワンハンドセットシュートについて復習確認する。（30分）
11	事前学習	ワンハンドセットシュートについて確認する。（30分）
	授業内容	戦術の中で必要となる個人技について習得する。特にワンハンドの3ポイントシュートについて。試しのゲームを行う。
	事後学習	ワンハンドの3ポイントシュートについて復習確認する。（30分）
12	事前学習	ワンハンドの3ポイントシュートについて確認する。（30分）
	授業内容	部分戦術を習得する。特に、2対2のパス&ランの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。
	事後学習	2対2のパス&ランについて復習確認する。（30分）
13	事前学習	2対2のパス&ランの確認をする。（30分）
	授業内容	部分戦術を習得する。特に、ピック&ロールの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。
	事後学習	ピック&ロールの復習確認をする。（30分）
14	事前学習	ピック&ロールの確認をする。（30分）
	授業内容	部分戦術を習得する。特に、3対3のポストパターンの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。
	事後学習	3対3のポストパターンの復習確認する。（30分）
15	事前学習	3対3のポストパターンの確認をする。（30分）
	授業内容	部分戦術を習得する。特に、3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングの基本と狙いについて。試しのゲームを行う。
	事後学習	3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングについて復習確認する。（30分）
16	事前学習	3対3のポストパターンからのシザーズのタイミングの確認をする。（30分）
	授業内容	部分戦術を習得する。特に、ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）についての基本と狙いについて。試しのゲームを行う。
	事後学習	ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）について復習確認する。（30分）

17	事前学習	ヘルプサイドからの飛び込み（ボールサイドカット）の確認をする。（30分）
	授業内容	ハーフコートオフENSESにとってのエントリーの大切さについて学ぶ。試しのゲームを行う。
	事後学習	ハーフコートオフENSESにとってのエントリーの復習確認をする。（30分）
18	事前学習	ハーフコートオフENSESにとってのエントリーの確認をする。（30分）
	授業内容	バスケットボールのマンツーマンディフェンスの基本を習得する。試しのゲームをする。
	事後学習	マンツーマンディフェンスの復習確認をする。（30分）
19	事前学習	マンツーマンディフェンスの確認をする。（30分）
	授業内容	バスケットボールのゾーンディフェンスの形式を習得する。試しのゲームをする。
	事後学習	ゾーンディフェンスの形式について復習確認する。（30分）
20	事前学習	ゾーンディフェンスの形式について確認する。（30分）
	授業内容	バスケットボールのゾーンディフェンスの考え方を習得する。試しのゲームをする。
	事後学習	ゾーンディフェンスの考え方の復習確認をする。（30分）
21	事前学習	ゾーンディフェンスの考え方の確認をする。（30分）
	授業内容	バスケットボールのゾーンディフェンスを特徴づけるために、マンツーマンディフェンスの違いを明確にすることを習得する。試しのゲームをする。
	事後学習	マンツーマンディフェンスとの違いについて復習確認する。（30分）
22	事前学習	マンツーマンディフェンスの違いについて確認する。（30分）
	授業内容	ファーストブレイクの守り方を習得する。試しのゲームをする。
	事後学習	ファーストブレイクの守り方の復習確認をする。（30分）
23	事前学習	ファーストブレイクの守り方の確認をする。（30分）
	授業内容	オールコートディフェンスの狙いと考え方を習得する。試しのゲームをする。
	事後学習	オールコートのディフェンスについて復習確認する。（30分）
24	事前学習	オールコートのディフェンスについて確認する。（30分）
	授業内容	バスケットボールのゲームについての考え方、特に攻撃回数についての考え方を学ぶ。試しのゲームをする。
	事後学習	攻撃回数についての考え方を復習確認する。（30分）
25	事前学習	攻撃回数についての考え方を確認する。（30分）
	授業内容	バスケットボールのゲームについての考え方、特に接戦でのゲームの終わり方について（勝ち逃げ）の考え方を学ぶ。試しのゲームをする。
	事後学習	ゲームの終わり方について復習確認する。（30分）
26	事前学習	リーグ戦を行うための班の方針を考える。（30分）
	授業内容	これまで学習してきた知識と習得してきた技能・戦術を確認し、各班ごとに目標を定め、リーグ戦1を行う。
	事後学習	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）
27	事前学習	前回の課題を確認する。（30分）
	授業内容	前回の課題が是正されるように、を各班ごとに目標を定め、リーグ戦2を行う。
	事後学習	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）
28	事前学習	前回の課題を確認する。（30分）
	授業内容	前回の課題が是正されるように、を各班ごとに目標を定め、リーグ戦3を行う。
	事後学習	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。（30分）

29	事前学習	前回の課題を確認する。(30分)
	授業内容	前回の課題が是正されるように、を各班ごとに目標を定め、リーグ戦4を行う。
	事後学習	リーグ戦を行った結果の反省をし、次週の課題を浮き彫りにする。(30分)
30	事前学習	前回の課題を確認する。(30分)
	授業内容	まとめ・講評
	事後学習	生涯学習として、バスケットボールに取り組むための指針を考える。(30分)

科目名	体育実技 I C(ゴルフ)	担当者	水落 文夫	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	ゴルフのルール、マナー、運動特性、安全管理を理解したうえで、主にバードゴルフボールを用いた基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そしてバードゴルフコースのラウンドを楽しむように展開する。課題練習やラウンド実践・運営を通して競技スポーツおよび健康スポーツとしてのゴルフの位置づけを理解し、スポーツ活動によって得られる身体的・心理的・社会的な恩恵と課題について学ぶ。				
授業目的・到達目標	ゴルフの基本的な技術、戦術、ルール、マナーを習得して、実際のゴルフのラウンドに移行できるようになることを目的とする。この習得プロセスにおいて、適正にボールを打つことの知覚・運動の仕方を学び、自ら問題解決の方法を探って試行錯誤する態度を身につける。また、バードゴルフのラウンドを通して、技術・戦術の発揮によるスポーツの楽しさと達成感を体現し、他者とのコミュニケーションによる社会性の向上を養成する。そして、生涯にわたる適正なスポーツ活動の身体的・精神的基盤をつくるとともに、スポーツ環境に潜む健康と安全を障害する要因を理解し、説明して行動できることを目標とする。関連DP及びCP：体育実技科目領域1, 4, 5, 6, 7				
履修条件	ゴルフ初心者・初級者を対象とする。ゴルフ（運動）に相応しい服装、およびゴルフ手袋と屋外シューズを準備する。適宜に補給用の水分、汗拭き用のタオルを準備する。				
授業方法	大宮キャンパスのスポーツ施設で2時限連続の実技形式により行う。授業では、ゴルフボールやバードゴルフを用いた基本的な技術を習得するための反復練習とラウンドが中心である。雨天時も体育館のネットで同様の内容を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	ゴルフの技術獲得、ゴルフのルールとマナーの習得、技術獲得・ラウンド運営・安全管理を学ぶ意欲的態度、バードゴルフを楽しむ積極的態度などから総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない（資料集を配布する）			
参考書	使用しない				
オフィスアワー	水曜日17：00～17：30、授業施設・講堂にて メールアドレス：mizuochi.fumio@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容を確認する。（30分）
	授業内容	ガイダンス（半期授業の組み立て、授業方法、履修条件などについて説明）
	事後学習	実技授業を受講するために必要な準備を確認する。（30分）
2	事前学習	ゴルフおよびバードゴルフにおける基本的な技術の名称を確認する。（30分）
	授業内容	ゴルフの運動特性と期待される恩恵および授業における安全管理について概説する。
	事後学習	ゴルフの運動特性と健康スポーツとしてのゴルフの位置づけについて理解を深める。（30分）
3	事前学習	大宮キャンパスで実施する実技授業の準備と安全管理のための方策を確認する。（30分）
	授業内容	ゴルフおよびバードゴルフの実技授業を安全に行うための約束と授業運営への協力、クラブとゴルフボールを使った遊び、クラブの種類と名称、グリップとスイングに対する慣れ。
	事後学習	ゴルフで使うクラブの種類と名称、およびボールの特性について認識する。（30分）
4	事前学習	すでに配布されている資料を見て、ゴルフクラブの特性とスイングの重要ポイントを確認する。（30分）
	授業内容	ショートアイアンの打撃練習(1) ゴルフクラブの特性、基本的なスタンスとボールの位置、グリップのつくり方、素振りによるハーフスイング、軽いボールを使ったハーフスイングによる打撃練習。
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）

5	事前学習	配布資料を見て、スイングの重要ポイントを確認する。（30分）
	授業内容	ショートアイアンの打撃練習(2) 基本的なスタンスとボールの位置、グリップのつくり方、軽いボールを使ったハーフスイングによる打撃練習、注視点と頭の位置、テイクバック中の両腕の形状とクラブの角度、スイング中の重心移動、
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
6	事前学習	配布資料を見て、スイングの重要ポイントを確認する。（30分）
	授業内容	ショートアイアンの打撃練習(3) 軽いボールを使ったハーフスイングによる打撃練習、テイクバックの大きさと飛距離の関係、スイング中の重心移動と上半身の回転運動、クラブスイングの軌道、
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
7	事前学習	配布資料を見て、スイングの重要ポイントを確認する。（30分）
	授業内容	ショートアイアンの打撃練習(4) バードゴルフボールを使ったハーフスイングとフルスイングによる打撃（体育館で行う）、動画によるスイングのワンポイントフィードバック、
	事後学習	授業でチェックした修正ポイントを確認する。（30分）
8	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	ショートアイアンの打撃練習(5) バードゴルフボールを使ったアプローチショット（体育館で行う）、テイクバックの大きさによる飛距離の調整、
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
9	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	ショートアイアンの打撃練習(5) バードゴルフボールを使ったアプローチショット（体育館で行う）、的入れゲームによるテスト、
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
10	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	ショートアイアンの打撃練習(6) バードゴルフボールを使ったアプローチショットとフルショット（体育館で行う）、
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
11	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	様々なアイアンによる打撃練習(1) バードゴルフボールを使ったアプローチショットとフルショット（グラウンドで行う）、
	事後学習	授業でチェックされた修正ポイントを確認する。（30分）
12	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分） 配布資料をもとに、ゴルフの基本的なルールとマナーを確認する、
	授業内容	様々なアイアンによる打撃練習(2) バードゴルフボールを使ったアプローチショットとフルショット（グラウンドで行う）、 ゴルフの基本的なルールとマナーについて学び、ゴルフの発生・成立の経緯との関係について理解する、
	事後学習	ゴルフの発生・成立の経緯とルールの関係、およびゴルフ競技の普及について調査する。（30分）
13	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	様々なアイアンによる打撃練習(3) ゴルフボールを使ったアプローチショット（グラウンドで行う）、
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
14	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	様々なアイアンによる打撃練習(4) ゴルフボールを使ったアプローチショット（グラウンドで行う）、動画によるスイングのワンポイントフィードバック、
	事後学習	授業でチェックした修正ポイントを確認する。（30分）
15	事前学習	配布資料を見て、コースラウンドの方法と安全管理を確認する。（30分）
	授業内容	グラウンドにコース設営(1) バードゴルフ18ホールラウンド練習、ゴルフラウンドにおける基本的なルール、マナー、スコア、
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
16	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする、指摘されたマナーを確認する。（30分）
	授業内容	グラウンドにコース設営(2) バードゴルフ18ホールラウンド練習、ホールのまわり方、コース戦略、
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）

17	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	グラウンドにコース設営(3) バードゴルフ18ホールラウンド練習, コース戦略の基本.
	事後学習	授業でチェックしたスイング, マナーの修正ポイントを確認する。（30分）
18	事前学習	ゴルフ競技会の方法と運営について, 配布資料をもとに理解する。（30分）
	授業内容	グラウンドコースでバードゴルフ公式戦(1) 新ベリア方式による18ホールストロークプレイ. スコアの記録と確認の方法.
	事後学習	スコアから読み取れる技術獲得度と修正ポイントを認識する. アプローチショットの問題点を把握する。（30分）
19	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	グラウンドコースでバードゴルフ公式戦(2) 新ベリア方式による18ホールストロークプレイ.
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
20	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	グラウンドコースでバードゴルフ公式戦(3) 新ベリア方式による18ホールストロークプレイ.
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
21	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	グラウンドコースでバードゴルフ公式戦(4) 前回授業までのストロークプレイによる試合結果をもとにハンディキャップを設定して, 新ベリア方式による18ホールストロークプレイ.
	事後学習	授業でチェックした修正ポイントを確認する。（30分）
22	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	グラウンドコースでバードゴルフ公式戦(5) ハンディキャップ方式による18ホールストロークプレイ. ハンディキャップの意義.
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
23	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	グラウンドコースでバードゴルフ公式戦(6) ハンディキャップ方式による18ホールストロークプレイ.
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
24	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする. スポーツにおけるハンディキャップの意義を理解する。（30分）
	授業内容	グラウンドコースでバードゴルフ公式戦(7) ハンディキャップ方式（新しいHC）による18ホールストロークプレイ.
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
25	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	グラウンドコースでバードゴルフ公式戦(8) ハンディキャップ方式（新しいHC）による18ホールストロークプレイ.
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
26	事前学習	配布資料を確認し, 前回の授業でチェックされたポイントについて自分の課題を推測する。（30分）
	授業内容	グラウンドコースでバードゴルフ公式戦(9) ハンディキャップ方式（新しいHC）による18ホールストロークプレイ.
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
27	事前学習	ゴルフ競技には様々な形態があることを確認する。（30分）
	授業内容	グラウンドコースでバードゴルフ公式戦(9) 団体戦による18ホールマッチプレイ. ゴルフ競技の様々な形態.
	事後学習	アプローチショットのチェックポイントのうち苦手な部分を確認して修正ポイントをイメージする。（30分） 公式戦を通じて使った戦略的な技術を確認する.
28	事前学習	ゴルフゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。（30分）
	授業内容	グラウンドコースでゴルフ公式戦(1) ハンディキャップ方式によるゴルフ18ホールストロークプレイ. パットの構えとスイング, および方向と距離の調整.
	事後学習	ゴルフゲームの様々な楽しみ方を再考する。（30分）

29	事前学習	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。（30分）
	授業内容	グラウンドコースでゴルフ公式戦(2) ハンディキャップ方式によるゴルフ18ホールストロークプレイ.
	事後学習	ゴルフゲームの様々な楽しみ方を確認する。（30分）
30	事前学習	ゴルフの試合におけるルールとマナーについて，配布した資料をもとに確認する。（30分）
	授業内容	ゴルフのルールとマナーに関する理解度確認及び解説. アプローチショットの的入れによる打撃スキルのチェック.
	事後学習	ゴルフの健康スポーツとしての可能性とスポーツ活動によって得られる恩恵を再考する。（30分）

科目名	体育実技 I C(テニス初級)	担当者	水落 文夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	テニスのルール、運動特性、安全管理を理解したうえで、基本的な技術の反復練習から、技術をゲームで応用する練習、そしてダブルスのゲームを楽しむように展開する。課題練習やゲーム実践・運営を通して競技スポーツおよび健康スポーツとしてのテニスの位置づけを理解し、スポーツ活動によって得られる身体的・心理的・社会的な恩恵と課題について学ぶ。				
授業目的・到達目標	テニスの基本的な技術、戦術、ルール、マナーを習得することを目的とする。この習得プロセスにおいて、適正にボールを見る、追う、打つことの知覚・運動の仕方を学び、自ら問題解決の方法を探って試行錯誤する態度を養成する。また、テニスゲームの実践・運営を通して、技術・戦術の発揮によるスポーツの楽しさと達成感を体現し、他者とのコミュニケーションによる社会性の向上を促す。そして、生涯にわたる適正なスポーツ活動の身体的・精神的基盤をつくるとともに、スポーツ環境に潜む健康と安全を障害する要因を理解し、説明できることを目標とする。関連DP及びCP：体育実技科目領域1, 4, 5, 6, 7				
履修条件	テニス初心者・初級者を対象とする。テニス（運動）に相応しい服装とテニスシューズで受講する。適宜に補給用の水分、汗拭き用のタオルを準備する。				
授業方法	大宮キャンパスのスポーツ施設で2時限連続の実技形式により行う。授業ではテニスの基本的な技術・戦術を習得するための反復練習とゲーム実践・運営が中心である。雨天時も体育館のコートで同様の内容を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	テニスの技術獲得、テニスのルールとマナーの習得、技術獲得・ゲーム運営・安全管理を学ぶ意欲的態度、テニスを楽しむ積極的態度などから総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない（資料集を配布する）			
参考書	使用しない				
オフィスアワー	水曜日17:00～17:30 授業場所・講堂にて mizuochi.fumio@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容を確認する。（30分）
	授業内容	ガイダンス（半期授業の組み立て、授業方法、履修条件などについて説明） 三崎町キャンパスにて行う。
	事後学習	実技授業を受講するために必要な準備を確認する。（30分）
2	事前学習	テニスにおける基本的な技術の名称を確認する。（30分）
	授業内容	テニスの運動特性と期待される恩恵および授業における安全管理について概説する。 三崎町キャンパスにて行う。
	事後学習	テニスの運動特性と健康スポーツとしてのテニスの位置づけについて理解を深める。（30分）
3	事前学習	大宮キャンパスで実施する実技授業の準備と安全管理のための方策を確認する。（30分）
	授業内容	テニス実技授業を安全に行うための約束と授業運営への協力。 ラケットを使ったボール遊び、キャッチボール、グリップとラケット慣れ。
	事後学習	テニスで使うラケットやボールの特性について認識する。（30分）
4	事前学習	すでに配布されている資料を見て、フォアハンドのスイングの重要ポイントを確認する。（30分）
	授業内容	フォアハンドストロークの習得(1) ラケットを使ったボール遊び、ワンバウンドのラリー、フォアハンドのグリップによるスイング。
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）

5	事前学習	配布資料を見て、フォアハンドストロークの重要ポイントを確認する。（30分）
	授業内容	フォアハンドストロークの習得(2) ワンバウンドのボールのキャッチ。飛来してワンバウンドするボールの見え方とフォアハンドストロークのスタンス・打点。
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
6	事前学習	配布資料を見て、フォアハンドストロークの重要ポイントを確認する。（30分）
	授業内容	フォアハンドストロークの習得(3) スイングの準備（ステップ：前後の動き、スタンス、構え、打点の予測）。基本的なスイングフォーム。ボール軌道の知覚と予測の重要性、および初心者の課題。
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
7	事前学習	配布資料を見て、フォアハンドストロークの重要ポイントを確認する。（30分）
	授業内容	フォアハンドストロークの習得(4) サービスコートのストロークラリー。動画によるスイングのワンポイントフィードバック。
	事後学習	授業でチェックした修正ポイントを確認する。（30分）
8	事前学習	配布資料を見て、フォアハンドストロークの重要ポイントを確認する。（30分）
	授業内容	フォアハンドストロークの習得(5) サービスコートのストロークによるシングルスゲーム。フォアハンドストロークの修正ポイントをチェック。
	事後学習	授業でチェックした修正ポイントを確認する。（30分）
9	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。 配布資料をもとに、テニスのダブルスゲームのルールを確認する。（30分）
	授業内容	フォアハンドストロークの習得(6) サービスコートのストロークラリー20回以上。 ダブルスゲームのルールとマナー。ゲームの審判法。サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲーム。
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
10	事前学習	すでに配布されている資料を見て、バックハンドのスイングの重要ポイントを確認する。（30分） テニスのダブルスゲームのマナーと審判法を確認する。
	授業内容	バックハンドストロークの習得(1) バックハンドストロークのダブルハンドグリップ・スタンス・打点。基本的なスイングの準備（ステップ：左右の動き、スタンス、構え、打点の予測）。基本的なスイングフォーム。フォアハンドとの違い。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲーム。
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
11	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。 テニスのダブルスゲームのコートカバーについて確認する。（30分）
	授業内容	バックハンドストロークの習得(2) サービスコートのストロークラリー。動画によるスイングのワンポイントフィードバック。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲーム。
	事後学習	授業でチェックされた修正ポイントを確認する。（30分）
12	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	バックハンドストロークの習得(3) サービスコートのストロークラリー。バックハンドストロークの修正ポイントをチェック。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲーム。
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
13	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	バックハンドストロークの習得(4) サービスコートのストロークラリー。ベースラインからのフォアとバックのストロークラリー10回以上。 サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲーム。
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
14	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	フォアハンドおよびバックハンドストロークのテニスレイティングテスト（HCの設定） サービスラインからのアンダーサーブによるダブルスゲーム。
	事後学習	レイティングテストで評価された技術獲得度から、自らの修正ポイントを確認する。（30分）
15	事前学習	すでに配布されている資料を見て、サーブの重要ポイントを確認する。 テニスのダブルスゲームの戦略と意図を確認する。（30分）
	授業内容	サーブの習得(1) オーバーヘッドサーブの準備（グリップの握り方、構え、スイング軌道、スタンスと打点）。ラケットを担いだ小さなスイングによる打点と打球方向のコントロール。 ダブルスゲームの実践。
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）

16	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	サーブの習得(2) オーバーヘッドサーブのスイング（グリップの握り方、構え、スイング軌道、スタンスと打点）、大きなスイングによるフラットなボールコンタクト、クローズドスキルの繰り返し練習の効果、ダブルスゲームの実践。
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
17	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	サーブの習得(3) オーバーヘッドサーブの様々なグリップと球種、正確性を高めるポイント、動画によるスイングのワンポイントフィードバック、ダブルスゲームの実践。
	事後学習	授業でチェックした修正ポイントを確認する。（30分）
18	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	サーブのテニスレイティングテスト（HCの設定）ダブルスゲームの実践と審判。
	事後学習	レイティングテストで評価された技術獲得度から、自らの修正ポイントを確認する。（30分）審判における基本的なコールを振り返る。
19	事前学習	すでに配布されている資料を見て、ボレーの重要ポイントを確認する。テニスのダブルスゲームにおけるボレーの意義を確認する。（30分）
	授業内容	ボレーの習得(1) 構えとボールへの反応動作（ステップ）、ボレーを打つ位置、フォアボレーのグリップの握り方、打点の高さによるラケットの角度調整、基本的なスイング、グランドストロークとの違い、ダブルスゲームの実践と審判。
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
20	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	ボレーの習得(2) バックボレーのグリップの握り方、打点の高さによるラケットの角度調整、基本的なステップとスイング、練習で狙う地点、ダブルスゲームの実践と審判。
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
21	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	ボレーの習得(3) ボレーのラリー20回以上、動画によるボレーフォームのチェック、ダブルスゲームの実践と審判。
	事後学習	授業でチェックした修正ポイントを確認しておくこと。（30分）
22	事前学習	前回の授業でチェックされたポイントについて修正した動作をイメージする。（30分）
	授業内容	ボレーのテニスレイティングテスト（HCの設定）、グランドストロークからボレー、サーブからボレーへとつなぐ、ダブルスゲームの実践と審判。
	事後学習	レイティングテストで評価された技術獲得度から、自らの修正ポイントを確認しておくこと。（30分）
23	事前学習	すでに配布されている資料を見て、ロブとスマッシュの重要ポイントを確認する。テニスのダブルスゲームにおける戦略としてのボレーの意図を確認する。（30分）
	授業内容	ロブとスマッシュの習得(1) スマッシュのステップ、構え、打点、スマッシュの基本的なスイング、ロブのボール軌道と狙う地点、ダブルスゲームのトーナメント大会、大会運営。
	事後学習	授業で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
24	事前学習	前回の授業で紹介されたゲームにおける代表的な技術の流れを確認する。（30分）
	授業内容	ドリル練習(1) 左右のグランドストローク⇒左右のボレー、ダブルスゲームの基本的ポジションとフォーメーション、ダブルスゲームのトーナメント大会、大会運営。
	事後学習	ドリル練習で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
25	事前学習	前回の授業で紹介されたドリル練習で用いる技術の流れをイメージする。（30分）
	授業内容	ドリル練習(2) 左右のグランドストローク⇒ローボレー⇒ハイボレー⇒スマッシュ、ダブルスゲームのポジションと打球に対する動き、コートカバーの意義、ダブルスゲームのトーナメント大会、大会運営。
	事後学習	ドリル練習で指摘・観察された「うまくできたところ」と「うまくできなかったところ」を整理する。（30分）
26	事前学習	前回の授業で紹介されたドリル練習におけるポジションの変化を確認する。（30分）
	授業内容	ドリル練習(3) コートカバーを中心とした打球によるポジションの変化、ダブルスゲームのトーナメント大会、大会運営。
	事後学習	ポジショニングとコートカバーの必要性和方法を確認し、ゲームのどの場面で発揮するか考える。（30分）

27	事前学習	テニスゲームで行われる基本的なリーグ戦の方法を確認する。（30分） 審判におけるコールの仕方を確認する。
	授業内容	ダブルスゲームのリーグ戦（HC戦），大会運営。
	事後学習	ゲームで使う得意な技術と苦手な技術を確認して，苦手な技術の修正ポイントをイメージする。（30分） ゲームで使った戦略的な技術を確認する。
28	事前学習	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。（30分）
	授業内容	ダブルスゲームのリーグ戦（HC戦），大会運営。
	事後学習	テニスゲームの様々な楽しみ方を再考する。（30分）
29	事前学習	ゲームを楽しむための積極的な関わり方を考える。（30分）
	授業内容	ダブルスゲームのリーグ戦（HC戦），大会運営。
	事後学習	テニスゲームの様々な楽しみ方を確認する。（30分）
30	事前学習	テニスの試合におけるルールとマナーについて，配布した資料をもとに確認する。（30分）
	授業内容	テニスのルールとマナーに関する理解度確認及び解説。 ダブルスゲームのリーグ戦（HC戦），大会運営。
	事後学習	テニスの健康スポーツとしての可能性とスポーツ活動によって得られる恩恵を再考する。（30分）

V ~ VII群

専門科目

専門基幹・専門展開・専門演習関連

V
VII群
専門科目

科目名	コミュニケーション調査	担当者	西田 善行	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	コミュニケーションの調査とは何か、そこから何がわかるのか、実際にやってもらうことでそれを理解してもらう。具体的にはテレビ番組と番組をめぐるインターネット上のコミュニケーションを調査し、テレビは何をどのように伝え、視聴者はネットで何を語るのか、テレビを巡るテキスト生成のダイナミズムについて考えていく。							
授業目的・到達目標	[授業目的] テレビやインターネットを対象としたコミュニケーションの調査について、その能力の養成を目的とする。 [到達目標] 分析を通して、日常的に私たちが行っている（マス・）コミュニケーションについて、普段考えることのなかった見方を獲得してもらうこと、そして自分が関心を持ったコミュニケーションの内容について、客観的・批判的な観点から自分自身で分析を行い、論理的な結論を導き出せるようになることを目標とする。 対応CP及びDP:新聞学科1, 3, 4							
履修条件	テレビに関心があり、なおかつインターネット、スマートフォンを日常的に使用している人で、自分でも調査を行うことを希望している人。演習スタイルのため、授業に毎回出席すること。							
授業方法	講義と演習。映像の視聴や、PC、スマートフォンの使用を行う。グループワークとグループディスカッションも行う。フィードバックは授業内において行う。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験							
	平常評価		100%		ほぼ毎回授業時のミニレポートを提出する。また全体としての調査結果の報告をし、最終的に調査レポートを提出する。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	備考		特に指定しない					
参考書	藤田真文・岡井崇之編『プロセスが見えるメディア分析入門』（世界思想社）。他の文献は適宜授業で指示する。							
オフィスアワー	授業開始前（金曜日休み）か終了後の教室、もしくはメールで受け付ける。 nishida.yoshiyuki.teach☆gmail.com （☆を@に変換する）							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んで授業内容を理解する（2時間）
	授業内容	オリエンテーション（メディアコミュニケーションの調査方法を大まかに理解する）
	事後学習	配布プリントや授業時に指示した参考書を読んで復習する（2時間）
2	事前学習	初回プリントや参考書を読んで予習する（2時間）
	授業内容	テレビ番組の調査手法①マルチモダリティ分析
	事後学習	配布プリントや授業時に指示した参考書を読んで復習し、ミニレポートを完成させる（2時間）
3	事前学習	初回プリントや参考書を読んで予習する（2時間）
	授業内容	テレビ番組の調査手法②映像分析
	事後学習	配布プリントや授業時に指示した参考書を読んで復習し、ミニレポートを完成させる（2時間）
4	事前学習	初回プリントや参考書を読んで予習する（2時間）
	授業内容	インターネットによるテレビ視聴分析①フィールドワークを行う
	事後学習	配布プリントや授業時に指示した参考書を読んで復習し、ミニレポートを完成させる（2時間）

5	事前学習	初回プリントや参考書を読んで予習する（2時間）
	授業内容	インターネットによるテレビ視聴分析②内容分析を行う
	事後学習	配布プリントや授業時に指示した参考書を読んで復習し、ミニレポートを完成させる（2時間）
6	事前学習	初回プリントや参考書を読んで予習する（2時間）
	授業内容	インターネットによるテレビ視聴分析③テキストマイニングを行う
	事後学習	配布プリントや授業時に指示した参考書を読んで復習し、ミニレポートを完成させる（2時間）
7	事前学習	これまでの配布プリントや参考書を読んで復習する、調査対象を考えておく（2時間）
	授業内容	調査の実行①調査対象の選定（グループの決定・話し合い）
	事後学習	配布プリントや授業時に指示した参考書を読んで復習し、調査対象について調べる（2時間）
8	事前学習	これまでの配布プリントを読んで予習し、各自分担して調査対象についての資料を集める（2時間）
	授業内容	調査の実行②調査資料の収集、調査対象の記述
	事後学習	配布プリントを読んで復習し、不足した資料を再度収集、対象について記述しておく（2時間）
9	事前学習	これまでの配布プリントを読んで予習し、分析シートのデザインを考えておく（2時間）
	授業内容	調査の実行③分析シートの作成（グループで話し合い、分析シートを作成）
	事後学習	配布プリントを読んで復習し、分析シートを作成する（2時間）
10	事前学習	配布プリントを読んで復習し、分析シートを完成させておく（2時間）
	授業内容	調査の実行④番組言説・ネット言説の分析（分析シートを元に分担して分析を実行する）
	事後学習	各自分担に従い分析を進めておく（2時間）
11	事前学習	各自分担に従い分析を進めておく（2時間）
	授業内容	調査の実行⑤テキストマイニング（分析シートをもとにテキストマイニングを行う）
	事後学習	テキストマイニングを完成させる（2時間）
12	事前学習	前回までの分析を完成させておく（2時間）
	授業内容	調査結果のとりまとめ①分析データの整形（分析をもとに表やグラフを作成する）
	事後学習	分析をもとに表やグラフを完成させる（2時間）
13	事前学習	分析や表、グラフを完成させておく（2時間）
	授業内容	調査結果のとりまとめ②分析結果の提出（分析結果を文章化し、グループで提出）
	事後学習	分析結果の報告資料を作成する（2時間）
14	事前学習	分析結果の報告資料を完成させる（2時間）
	授業内容	調査結果のとりまとめ③分析結果の報告
	事後学習	グループ報告をもとに個人レポートを作成する（2時間）
15	事前学習	グループ報告をもとに個人レポートを完成する（2時間）
	授業内容	まとめ 分析レポートの提出
	事後学習	これまでの配布プリントや個人レポートを読み返し、授業内容を振り返る（2時間）

科目名	リサーチ・ペーパー（メディア史）	担当者	西田 善行	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	テレビ、新聞、雑誌、広告などのメディアの歴史について調査・研究をするための方法を学習します。メディア史を対象としたリサーチ・ペーパーの作成の手順を理解した上で、各自で事例を選び、調査・分析に必要な概念・理論を理解し、分析・調査、リサーチ・ペーパーの作成を行います。					
授業目的・到達目標	テレビ、新聞、雑誌、広告などのメディアの歴史について実際に調査・分析し、レポートが作成できるようになることを目的とします。受講者自身が関心を持つ対象を調査・分析し、レポートを作成できるようになることが到達目標となります。関連DP及びCP：新聞学科1, 4, 8					
履修条件	科目履修に関連する条件等は各自で確認してください。					
授業方法	演習形式を想定しています。受講者数が多かった場合は講義やグループワークを行うなど調整を行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		レポート（60%）と、報告・小レポート・授業姿勢（40%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	特に指定しない。				
参考書	藤田真文編（2016）『メディアの卒論——テーマ・方法・実際[第2版]』（ミネルヴァ書房）。その他の文献は適宜授業で指示する。					
オフィスアワー	授業開始前（金曜昼休み）か終了後の教室、もしくはメールで受け付ける。 nishida.yoshiyuki.teach☆gmail.com （☆を@に変換する）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	メディア史に関する事象を調べて関心を持っておく（2時間）
	授業内容	ガイダンス（メディア史の研究の仕方についておおまかに理解する）
	事後学習	配布プリントや授業時に指示した参考書を読んで復習する（2時間）
2	事前学習	配布プリントや授業時に指示した参考書を読んで予習する（2時間）
	授業内容	メディア史に関する基礎文献を取り上げ、その読み方を説明する
	事後学習	授業で取り上げた文献を収集し、読んでおく（2時間）
3	事前学習	今回取り上げる文献を読んでおく（2時間）
	授業内容	基礎文献輪読①（基礎文献の内容を報告者が報告し、議論を行う）
	事後学習	今回読んだ文献の内容を振り返り、自分の研究課題を見つける（2時間）
4	事前学習	今回取り上げる文献を読んでおく（2時間）
	授業内容	基礎文献輪読②（基礎文献の内容を報告者が報告し、議論を行う）
	事後学習	今回読んだ文献の内容を振り返り、自分の研究課題を見つける（2時間）

5	事前学習	今回取り上げる文献を読んでおく（2時間）
	授業内容	基礎文献輪読③（基礎文献の内容を報告者が報告し、議論を行う）
	事後学習	今回読んだ文献の内容を振り返り、自分の研究テーマを見つける（2時間）
6	事前学習	今回取り上げる文献を読んでおく（2時間）
	授業内容	基礎文献輪読④（基礎文献の内容を報告者が報告し、議論を行う）
	事後学習	今回読んだ文献の内容を振り返り、自分の研究テーマを見つける（2時間）
7	事前学習	自分の研究課題について確定しておく（2時間）
	授業内容	メディア史研究の収集・分析の仕方について説明し、議論をする
	事後学習	授業内容を振り返り、資料の収集と分析方法の検討を行う（2時間）
8	事前学習	資料の収集と方法の検討を行う（2時間）
	授業内容	研究テーマと方法の報告①各自の研究テーマと分析方法、その進捗について報告する
	事後学習	授業内容を振り返り、資料の収集と分析方法の検討を行う（2時間）
9	事前学習	資料の収集と方法の検討を行う（2時間）
	授業内容	研究テーマと方法の報告②各自の研究テーマと分析方法、その進捗について報告する
	事後学習	授業内容を振り返り、資料の収集と分析方法の検討を行う（2時間）
10	事前学習	集めた資料の分析・検討を行う（2時間）
	授業内容	研究テーマと方法の報告③各自の研究テーマと分析方法、その進捗について報告する
	事後学習	授業内容を振り返り、資料の収集と分析方法の検討を行う（2時間）
11	事前学習	集めた資料の分析・検討を行う（2時間）
	授業内容	資料報告と考察①収集・分析した資料の内容・特徴を報告し、その意味について議論する
	事後学習	授業内容を振り返り、資料の分析・検討を進める（2時間）
12	事前学習	集めた資料の分析・検討を行う（2時間）
	授業内容	資料報告と考察②収集・分析した資料の内容・特徴を報告し、その意味について議論する
	事後学習	授業内容を振り返り、資料の分析・検討を進める（2時間）
13	事前学習	集めた資料の分析・検討を行う（2時間）
	授業内容	資料報告と考察③収集・分析した資料の内容・特徴を報告し、その意味について議論する
	事後学習	授業内容を振り返り、資料の分析・検討を進める（2時間）
14	事前学習	これまでの進捗を踏まえてリサーチ・ペーパーの作成に取り掛かる（2時間）
	授業内容	リサーチ・ペーパーの作成①リサーチ・ペーパーの作成の際の注意事項を説明する
	事後学習	授業内容を振り返り、リサーチ・ペーパーを作成する（2時間）
15	事前学習	リサーチ・ペーパーを作成する（2時間）
	授業内容	リサーチ・ペーパーの作成②リサーチ・ペーパーを完成させ、講評を受ける
	事後学習	自分のリサーチ・ペーパーを読み返し、今後の課題を検討する（2時間）

科目名	アメリカ経済論	担当者	羽田 翔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本、欧州、中国といった主要国とアメリカが関係している分野は、政治・経済・文化・歴史など多岐にわたっており、いかにアメリカが影響力を有してきたかが理解できる。そのため、本講義においてはミクロ経済学、マクロ経済学、政治経済学等の手法を用い、主に政治と経済政策に焦点を当てる形でアメリカ経済についての理解を深めることを目的とする。その上で、他国との関係や時事問題を理解する力を養うことを心がける。				
授業目的・到達目標	アメリカ経済の発展構造と其特征を長期的な観点から学修し、現在のアメリカ経済が日本経済および世界経済に与えている影響を理解することを目的とする。また、アメリカ経済に関する記事やニュースなどの内容や問題点を理解し、世界経済との関連性を考え、解決策等を提示できる能力を養うことを到達目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科 2, 4, 6				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義資料を活用してアメリカ経済論の考え方、基礎理論などを論じる。小テストを複数回行うことで理解を促す。小テストの解説および返却を次の授業で行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	学期末の定期試験で評価する。	
	平常評価		20%	授業への積極的参加及び小テストで評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2011	文眞堂		『アメリカ経済の歩み』	榊原胖夫・加藤一誠
	備考				
参考書	『現代アメリカ経済』 河村哲二著 有斐閣アルマ 『現代アメリカ経済分析』 中本悟・宮崎礼二編著 日本評論社 その他は授業内で適宜指示します。				
オフィスアワー	月曜日12:00-13:30（事前にメールにてアポイントメントを取ること） 研究室（ ） メールアドレス：				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス及び教科書の第1章を熟読し、アメリカ経済論を学ぶためのフレームワークを理解すること。（2時間）
	授業内容	アメリカ経済論を学ぶ意味：アメリカ経済論の枠組みと授業概要について
	事後学習	講義資料を確認し、アメリカ経済を学ぶための視点をまとめること。また、それぞれの項目ごとにアメリカの特徴もまとめること。（2時間）
2	事前学習	教科書第2章を熟読しておくこと。特に、第一次世界大戦の基本的内容とアメリカ経済に与えた影響について理解すること（2時間）
	授業内容	戦後の好況とアメリカの「ルール」：第一次世界大戦後のアメリカにおける好況について
	事後学習	講義資料を確認し、第一次世界大戦後のアメリカ経済の好況及び減速の理由をそれぞれまとめること。（2時間）
3	事前学習	教科書第3章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、どのような経緯で大不況が発生したかについて理解すること（2時間）
	授業内容	大不況とニューディール政策1：大不況発生とその原因
	事後学習	講義資料を確認し、大不況が発生した原因についてまとめること。また、次回使用するケインズの有効需要の原理についてもまとめておくこと。（2時間）
4	事前学習	教科書第3章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、大不況への処方箋として登場したニューディール政策について理解すること（2時間）
	授業内容	大不況とニューディール政策2：大不況への処方箋とケインズ
	事後学習	講義資料を確認し、ニューディール政策の内容とその効果についてまとめておくこと。また、ケインズの考え方についても再度理解を深めること。（2時間）

5	事前学習	教科書第4章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、第二次世界大戦が企業及び生産システムに与えた影響について理解すること（2時間）
	授業内容	第二次世界大戦とアメリカ経済における「供給」側の変化
	事後学習	講義資料を確認し、第二次世界大戦時の「供給」システムについて理解を深めること。また、このシステムが経済成長とどのように関わっているかもまとめること。（2時間）
6	事前学習	教科書第5章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、アイゼンハワー政権時の政策について理解すること（2時間）
	授業内容	ゆたかな社会の確立へ向けて1：アイゼンハワー政権が目指した「安定」
	事後学習	講義資料を確認し、人口増加及び朝鮮戦争が経済成長に与えた影響及びアイゼンハワー政権についてまとめること。（2時間）
7	事前学習	教科書第5章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、戦後の成長がアメリカ経済「全体」に与えた影響について、その意味を理解すること（2時間）
	授業内容	ゆたかな社会の確立へ向けて2：戦後の成長及びその成長がもたらした変化
	事後学習	講義資料を確認し、戦後経済成長がアメリカに与えた影響及び解決策について、項目ごとにまとめること。（2時間）
8	事前学習	教科書第6章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、ニューフロンティアの考え方について理解すること。（2時間）
	授業内容	ニューフロンティアとその後のアメリカ経済1：ケネディとジョンソン
	事後学習	講義資料を確認し、それぞれの政策についてまとめること。（2時間）
9	事前学習	教科書第6章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、スタグフレーションと貿易赤字について確認すること。（2時間）
	授業内容	ニューフロンティアとその後のアメリカ経済2：国際的な相互依存体制の枠組みについて
	事後学習	講義資料を確認し、ニクソンショック、スタグフレーション、財政赤字など重要なキーワードについてまとめること。（2時間）
10	事前学習	教科書第7章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、カーター政権が行なった政策について確認すること。（2時間）
	授業内容	アメリカ経済と「規制」撤廃1：カーター政権と規制撤廃
	事後学習	講義資料を確認し、規制が撤廃されることによりアメリカ経済がどのような状況になったかについてまとめること。（2時間）
11	事前学習	教科書第7章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、レーガノミクスの内容について確認すること。（2時間）
	授業内容	アメリカ経済と「規制」撤廃2：レーガノミクスからブッシュ政権まで
	事後学習	講義資料を確認し、レーガノミクスが問題視した点とのレーガノミクスの効果についてまとめること。（2時間）
12	事前学習	教科書第8章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、クリントン政権が行なった政策等の内容について確認すること。（2時間）
	授業内容	繁栄が続いた1990年代のアメリカ経済：クリントン政権の活躍
	事後学習	講義資料を確認し、クリントン政権がどのように財政赤字解消等を達成したのかについてまとめること。（2時間）
13	事前学習	教科書第9章の該当箇所を熟読しておくこと。特に、ブッシュ政権及びオバマ政権が行なった政策等の内容について確認すること。（2時間）
	授業内容	21世紀のアメリカ経済：ブッシュ政権およびオバマ政権の政策
	事後学習	講義資料を確認し、それぞれの政権の政策がどのように連鎖しているかについてまとめること。（2時間）
14	事前学習	事前に配布する資料を熟読すること。特に、直近の大統領選挙及び中間選挙の結果と投票者の特徴について確認すること。（2時間）
	授業内容	現代のアメリカ経済とトランプ大統領：大統領選挙、中間選挙、そして経済政策
	事後学習	講義資料を確認し、トランプ政権がこれまで行なってきた政策について、政策ごとに経済学的な意味をまとめること。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義資料を確認し、重要と思われるポイントを確認してくる。特に政治及び経済的な要素について確認すること。（2時間）
	授業内容	アメリカ経済論のまとめ及び定期試験の説明
	事後学習	これまでの講義資料を確認し、定期試験の準備を進めること。（2時間）

科目名	アメリカ政治論	担当者	岡山 裕	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、アメリカ合衆国の政治について、3つの観点から総合的に学習する。①18世紀後半の建国から今日までの内政と外交の歴史的文脈、②連邦政府を構成する諸機関と、それらに働きかけて作動させる政党や利益団体の活動、③今日の主要な争点をめぐる政治過程。				
授業目的・到達目標	しばしば日本にとって最も重要な外国とされながら、意外に正確に理解されていないアメリカ政治について、歴史・制度・争点を横断的に検討することで全体像を把握する能力を養成することを目的とする。それにより、アメリカの政治の仕組みやそれが直面する政治的問題を読み解き、自らの力で説明できるようになることを目標とする。関連DPおよびCP：政治経済学科 2, 4, 6				
履修条件	特になし				
授業方法	授業内容の要点を記した配付資料に沿って講義を行う。スライドで図表等の映像を使用する。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		90%	筆記試験では、授業時に説明した重要事項の理解度をみる（持ち込み不可）。	
	平 常 評 価		10%	授業参加度に応じて加点する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特定の教科書は指定しない。			
参 考 書	久保文明『アメリカ政治史』（有斐閣、2018年）、岡山裕・西山隆行編『アメリカの政治』（弘文堂、2019年前半に刊行予定）、その他、授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	授業終了後（木曜5限）に教室で質問・相談に応じます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認したうえで、大統領や議会を中心に、現在のアメリカの政治がどのような課題を抱えているとみられるか、新聞報道などで調べ、この講座のどんな点と対応しているとみられるか、考えてみよう。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、アメリカ政治に関する情報の入手方法や学習の仕方について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、この学期の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	1776年の独立宣言（アメリカンセンターJAPANのウェブサイト等に翻訳がある）を読み、アメリカの植民地が18世紀後半にイギリスから独立するに際して何がどう重視され、逆に何が考慮されていなかったとみられるか、考えてみよう。（2時間）
	授業内容	【アメリカ合衆国の成立と二大政党政治の登場】イギリスの庇護を享受していた北アメリカの13植民地がどのようにして独立し、自由と平等を軸にした新たな政治体制を構築していったのかを、19世紀前半の二大政党政治の登場までについて検討する。
	事後学習	講義ノートを確認し、19世紀前半までに成立した政治体制と政党政治の性格を振り返るとともに、それがニュースなどを通じて伝わってくる今日のあり方とどのように違っていると思われるか、まとめてみよう。（2時間）
3	事前学習	今日までアメリカの民主制の制度枠組みを提供している合衆国憲法には、奴隷制の存在を踏まえた条項が複数存在する。探してみたうえで、なぜそのような規定が生まれたのか、考えてみよう。（2時間）
	授業内容	【南北戦争とその遺産】奴隷制は、廃止されて150年以上経った今日でもアメリカ政治に大きな影響を及ぼしつづけている。そこで、1860年代の凄惨な内戦につながった、奴隷制をめぐる対立から説き起こし、南北戦争を経て奴隷制が廃止された一方で、南部を中心に新たな人種隔離制度が確立する20世紀転換期までを題材に検討する。
	事後学習	講義ノートを確認し、19世紀を通じて人種観関係の何が変わり、何が変わらなかったのか、なぜそうなったのかを振り返るとともに、今日のアメリカにおける状況とのつながりを考えてみよう。（2時間）
4	事前学習	今日のアメリカ連邦政府には、どのような行政機関が存在するだろうか。また、そこには日本のそれと異なる組織形態や役割を持つものがあるだろうか。調べて考えてみよう。（2時間）
	授業内容	【20世紀における国家機構の発達】憲法上、連邦政府の役割は限定されていたものの、20世紀に入る頃から諸産業の規制、社会保障・福祉政策、そして国家安全保障の担い手としての役割を拡大していった。大統領と官僚機構を軸に、この間の変化を検討する。
	事後学習	講義ノートを確認し、アメリカ連邦政府の役割が19世紀までと20世紀以降で全体としてどのように異なるといえるか、自分でまとめてみよう。（2時間）

5	事前学習	今日アメリカの民主党と共和党は、どのような争点についてどんな立場をとって対立しているだろうか。ニュース報道等を調べてなるべく多く事例を挙げてみよう。（2時間）
	授業内容	【リベラルの優位から分極化の政治へ】1930年代から60年代まで、アメリカでは民主党が多数派を占め全体にリベラルな政策を推進したのに対して、70年代以降民主党がリベラル、共和党が保守でまとまるというイデオロギー的分極化が進み、また両党が全国的に拮抗状況に入って今日に至っている。この変動について検討する。
	事後学習	講義ノートを確認し、リベラルと保守それぞれが全体としてどのような考え方をとっているのか、またどの程度一貫した考え方といえるのか、自分で整理してみよう。（2時間）
6	事前学習	冷戦期の対外政策は、ハリー・トルーマンに始まり、冷戦の終わりを宣言したジョージ・H・W・ブッシュまで9名の大統領によって主導されました。それぞれどんな経歴の人物だったのか、調べてまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	【20世紀の対外関係】第二次世界大戦後、半世紀近く続いた冷戦は、終息から四半世紀以上経った今日でもアメリカの対外関係に大きな影響を及ぼしている。そこで、後世への遺産を軸に、大戦後超大国となったアメリカがどのように冷戦を戦い、その過程で今日に連なる対外政策の基本的な枠組みが形成されてきたのかを検討する。
	事後学習	冷戦期の対外政策は、大統領の党派による違いよりも共通性の方が目立ったと考えられています。講義ノートを確認し、それがどんなものだったのか、考えてまとめてみよう。（2時間）
7	事前学習	直近の大統領選挙であり、ドナルド・トランプが勝利した2016年の選挙がどのように戦われ、どんな結果に終わったのか、調べてまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	【政党と選挙】民主党と共和党という二大政党は日本でもお馴染みだが、アメリカの政党や選挙制度は日本のそれと大きく性格が異なる。そこで、それぞれの特徴を日本との違いを意識しつつ説明し、そうした特徴がいかなる政治過程につながっているのかを、分極化した今日の政治を題材に検討する。
	事後学習	第2回の授業の講義ノートと照らし合わせつつ、今日の政党や選挙の特徴がどういった点で政党政治の成立期と連続しているのか、またどういった点で異なるのかを、その理由を考えながら整理してみよう。（2時間）
8	事前学習	アメリカで、環境保護、銃規制（反対）、人種・ジェンダー・セクシュアリティに関するマイノリティの権利保護等、様々な分野で特定の政治的立場を掲げて活動している団体が存在することは、日本でもよく知られている。新聞などで最近の事例を調べ、どのようにして目的を達成しようとしているのか、考えてみよう。（2時間）
	授業内容	【様々な利益団体の活動】アメリカ政治の重要な特徴として、業界団体、社会運動組織、シンクタンク等を含む各種の利益団体が活発に活動し、政策的影響を及ぼしていることがある。とくに分極化の進んだ今日では、掲げる政策的立場によって一方の政党・イデオロギーに系列化されている点が特徴的であり、こうした利益団体政治のあらましを解説する。
	事後学習	事前学習で調べた団体も含め、取り上げた様々な団体やその主張が、それぞれが系列化されたイデオロギーにおいてどのように互いに親和的・整合的なのか、それとも緊張をはらんでいるのか、整理して考えてみよう。（2時間）
9	事前学習	2018年12月から、1ヶ月以上にわたり連邦政府が部分閉鎖されたが、これは期限までに予算法案が成立しなかったためであった。これは日本でも頻繁に報道されたが、なぜこのようなことが起きたのか、連邦議会の立法に関する制度や二大政党の立場に注目しながら調べてまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	【連邦議会の成り立ちと立法過程】連邦政府において最も大きな権力を持つのは、連邦議会といってよい。しかし、議員達の政党毎のまとまりが強い日本等と違い、アメリカ連邦議会は議員達が自律的に行動する点に重要な特徴があり、この点は分極化の進んだ今日でも変わらない。そこで、連邦議会の構造とそこで展開する立法過程の全体像を検討する。
	事後学習	講義ノートを確認し、二大政党のイデオロギー的分極化の前後で立法過程にどのような変化が生じたのか、整理してみよう。（2時間）
10	事前学習	アメリカの大統領は憲法上、いかなる権限を持っており、それは実際の政治過程でどのように役立てられると考えられるだろうか。逆に、（明示的に）与えられていない権限で、当然与えられていてしかるべきだと思われるようなものはあるだろうか。考えてまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	【大統領と官僚機構】アメリカの大統領は「世界の最高権力者」としばしば言われるが、その実権限の面ではかなり制約されている。また強大化した官僚機構に与えられる影響力も、実は限定的である。そこで、今日の大統領が不足する権限をどのように補って政策的目的を達しようとするのかを中心に、大統領と官僚機構の活動を検討する。
	事後学習	トランプ大統領については、「国境の壁」の建設など様々な点で政策目的を達せられていないことがしばしば話題になるが、講義の内容を踏まえて、それがどの程度トランプ自身に原因があるのか、それともそもそも大統領の権限上の制約によるものか、具体例を調べて考えてみよう。（2時間）
11	事前学習	アメリカで採用されている連邦制は、日本やフランスといった単一国家制度や、ヨーロッパ連合(EU)が成立する前のヨーロッパ共同体(EC)のような国家連合とは性格が異なるとされるが、連邦制の後二者との違いはどこにあると考えられるだろうか。調べてまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	【連邦制の作働の仕方】この授業では連邦レベルの政治を主に取り上げるが、それは州が重要でないことを全く意味しない。市民生活の多くの部分を管轄する州政府が、連邦との縦方向の関係と、他の州との横方向の関係の中で、どのように政策形成を行っているのかを中心に連邦制の作働様式を解説する。
	事後学習	関心を持った州について、今日どの政党が強いのか、どんな特徴的な政策がとられているのかを調べ、授業時に説明された連邦制の図式から説明を試みてみよう。（2時間）
12	事前学習	福祉国家関連の政策として、近年で最も重要なのがオバマ政権期の2010年に実現した健康保険改革（通称オバマケア）です。これがどんなものか、日本を含む他の先進国では皆保険が当然なのに対して、オバマケアでもそれは実現していませんが、それはなぜなのか、考えてみてください。（2時間）
	授業内容	【福祉国家の発展と停滞】アメリカでは、先進国で唯一国民皆保険が実現していないなど、福祉国家が遅れていると言われることがしばしばです。これは一般論としてはあたっていますが、実は見方によってはアメリカの福祉国家の「規模」は日本よりも大きい等、話は単純ではありません。健康保険、高齢・障害者年金、福祉（生活保護）を題材に、この分野の政策過程を検討します。
	事後学習	講義ノートを確認し、福祉国家を構成する諸政策の間で、政策過程がどのように異なり、それがいかなる政策的帰結の違いに結びついているのか、整理してみよう。（2時間）
13	事前学習	今日の保守派は、その多くが政府による規制に対して批判的ですが、例えば人工妊娠中絶については、胎児への殺人だとして規制に賛成します。これはイデオロギー的に一貫した態度だといえるでしょうか。またいえるとしたら、どのような理屈で正当化できそうか、考えてみてください。（2時間）
	授業内容	【社会文化的争点をめぐる対立】今日のイデオロギー的分極化は、税や政府による諸産業音規制といった経済的争点だけでなく、様々な差別の克服、人工妊娠中絶の是非、銃規制等、いわゆる社会文化的争点にも及んでいます。この分野の政治・政策過程が今日いかなる特徴を持っているのか、重要争点を挙げながら検討します。
	事後学習	アメリカでは政治的に重要なのに日本ではそうでない、また日本では重要なのにアメリカではそうでないと思われる社会文化的争点をそれぞれ一つずつ挙げ、いかなる政治的背景がそうした違いにつながっているのか、説明してみよう。（2時間）
14	事前学習	トランプ政権は「アメリカ第一主義」を掲げ、安全保障と経済の両面でアメリカが世界秩序を守る役割を下りるべきだといった立場をとっているようにみえますが、これはどの程度までトランプ大統領に独特のもので、どの程度国際環境とアメリカの置かれた地位に依存しているでしょうか。第6回の授業内容を踏まえて考えをまとめてください。（2時間）
	授業内容	【対外関係をめぐる諸問題】冷戦の終了によって、世界秩序のあり方やそこでアメリカの置かれた立場には大きな変化が生じた。とくに、2001年の同時多発テロ以降の非伝統的な安全保障の問題や、中国の経済的・軍事的台頭が大きな影響を及ぼしている。現在の対外政策決定のあり方を軸に、今日のアメリカの対外関係を整理してみたい。
	事後学習	講義ノートを振り返って、21世紀の諸政権の対外政策上の取り組みにいかなる違いと共通性がみられるのか、整理してまとめてみよう。（2時間）

15	事前学習	初回からの講義ノートを見直し、歴史・政治制度・政策の3つの領域にまたがって、一貫した理解ができているかどうか確認する。(2時間)
	授業内容	【講義のまとめ】
	事後学習	初回からの講義ノートを見直し、期末試験に向けて準備する。(2時間)

科目名	イノベーションと知的財産 I	担当者	金澤 良弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	イノベーションは、エネルギー・環境等地球的・社会的課題の解決，グローバル化した経済環境における企業競争力向上等経済社会の発展等に重要な役割を果たすものとして注目されている。本授業は，産業技術開発，地域経済活性化等イノベーション関連分野の政策立案・実施に行政官として携わった経験を持つ教員が，イノベーションに関する基本的な概念，企業競争力への影響，知的財産の活用方法，イノベーションを促進するための政策等について講義する。			
授業目的・到達目標	企業等における創造的な活動を推進する上での問題点や課題を発見し，解決策を考える力を養成することを目的とする。イノベーションは，新しい技術やアイデア（知的財産）が具体的な製品・サービスとして社会に提供され，それが人々に受容られ普及して初めて実現する。新しい製品・サービスと社会との関わりは多面的であり，イノベーション創出に向けた取組もまた多様にならざるを得ない。本授業においては，イノベーションの実現までに乗り越えるべき課題を理解し，説明できるとともに，イノベーションの創出に向けた方策を考える視座を獲得することを到達目標とする。関連DP及びCP：経営法学科1, 2, 4, 5			
履修条件	創造的な活動に関心を持つ学生の受講を希望する。			
授業方法	毎回配布するプリントに基づき講義を進める。また，レポートの提出を複数回求める。提出されたレポートについては，内容をとりまとめ，その後の授業において講評・解説を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業参加・貢献度（出席率が2/3未満の者は採点しない）及びレポートの内容を総合して評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		
参考書	必要な場合には授業中に指示する。			
オフィスアワー	水曜日15：00～16：00（授業講堂にて受付ける）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み，授業の概要，授業目的・到達目標，授業の進め方等を理解する。（2時間）
	授業内容	【イントロダクション】 本授業の概要，目的・到達目標，履修条件，授業方法，成績評価の方法等について説明する。また，イノベーションの例を紹介し，本授業におけるイノベーションについての共通認識を醸成する。
	事後学習	配布したプリントを再読し，自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	「イノベーションとは何か」について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【イノベーションに関する基本的な概念】 イノベーションの定義，イノベーションの特質，イノベーションへの期待等について学ぶ。
	事後学習	配布したプリントを再読し，イノベーションとは何かについて自分なりの説明をまとめる。（2週間）
3	事前学習	新しい製品・サービスの出現が企業の競争力にどのような影響を及ぼすのかについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【イノベーション・マネジメント】 イノベーション・マネジメントの重要性，企業の優位性とイノベーション，イノベーションマネジメントの視点等について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し，イノベーション・マネジメントについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
4	事前学習	新しい製品・サービスが社会に提供される場合に起こると想定されることについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【イノベーションの普及】 新しい製品・サービスが社会に受容られ，普及していく過程がイノベーション実現のために重要であることを学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し，イノベーションの普及について自分なりの説明をまとめる。（2時間）

5	事前学習	事前に配布する資料に基づき知的財産に関する基本的な知識を事前学習する。（2時間）
	授業内容	【イノベーションと知財の役割】 イノベーションにおいて知財が重要な役割を果たすことについて学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、知的財産には多様な活用方法があることについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
6	事前学習	自分が関心を持ったイノベーションの例をあげ、どのような点がイノベティブであるかについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【イノベーションの事例1】 様々なイノベーションの事例について、イノベーションが実現した経緯、成功の要因等について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、紹介した事例が実現した要因について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
7	事前学習	イノベーションが実現するために重要と考えられる事項について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【イノベーションの事例2】 様々なイノベーションの事例について、イノベーションが実現した経緯、成功の要因等について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、紹介した事例が成功した要因について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
8	事前学習	前回までの授業を踏まえ、イノベーションが実現するために重要と考えられる事項について再考する。（2時間）
	授業内容	【イノベーションの事例3】 様々なイノベーションの事例について、イノベーションが実現した経緯、成功の要因等について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、イノベーションの事例を分析する際注目すべき視点について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
9	事前学習	新しい製品・サービスの成功が企業の競争力に及ぼす影響について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【イノベーションと企業の競争力1 非連続的なイノベーション】 非連続的なイノベーションが企業の競争力に影響を及ぼし、市場における競争優位を急激に変化させることについて学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、イノベーションが企業の競争力に及ぼす影響について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
10	事前学習	新しい製品・サービスの出現が企業の競争力に多大な影響を与えた例を見つけよう。（2時間）
	授業内容	【イノベーションと企業の競争力2 破壊的イノベーション】 企業の競争力に大きな影響を及ぼすタイプのイノベーションの一つである「破壊的イノベーション」について学ぶ。
	事後学習	破壊的イノベーションについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
11	事前学習	競争力のある製品・サービスの開発を促進する方法について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【イノベーションと企業の競争力3 オープンイノベーション】 競争力のある製品・サービスを短期間に開発・上市する方法として取組が進んでいるオープンイノベーションについて学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、オープン・イノベーションへの対応の重要性について自分の説明をまとめる。（2時間）
12	事前学習	日本のイノベーション政策に関する基本的な知識について事前学習する。（2時間）
	授業内容	【イノベーション政策1 イノベーション政策の経緯】 日本におけるイノベーションを促進するための政策（イノベーション政策）がオープンイノベーションへの対応を軸に策定されてきたことについて学ぶ。また、政策の策定経緯について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、日本のイノベーション政策の経緯について自分の説明をまとめる。（2時間）
13	事前学習	日本のイノベーション政策において課題とされている点について調べてみよう。（2時間）
	授業内容	【イノベーション政策2 イノベーション政策の現況】 科学技術イノベーション政策を中心に、日本におけるイノベーション政策の現況について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、日本のイノベーション政策の現況について自分の説明をまとめる。（2時間）
14	事前学習	国が異なればそのイノベーション政策も異なることになる理由について自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【イノベーション政策3 主要国におけるイノベーション政策】 世界の主要国におけるイノベーション政策の現況について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、主要国のイノベーション政策の現況について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
15	事前学習	初回からの配布プリントを再読し、イノベーションと知的財産について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【授業のまとめ】 授業を総括する。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、イノベーションの概要、企業の競争力への影響及びイノベーションを促進するための政策について自分なりの説明をまとめる。（2時間）

科目名	イノベーションと知的財産Ⅱ	担当者	金澤 良弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	イノベーションは、エネルギー・環境等地球的・社会的課題の解決，グローバル化した経済環境における企業競争力向上等経済社会の発展等に重要な役割を果たすものとして注目されている。本授業は，産業技術開発，地域経済活性化等イノベーション関連分野の政策立案・実施に行政官として携わった経験を持つ教員が，イノベーションと知的財産Ⅰに引続き，イノベーション・マネジメント，知的財産マネジメント，イノベーションの担い手等について講義する。				
授業目的・到達目標	企業等における創造的な活動を推進する上での問題点や課題を発見し，解決策を考える力を養成することを目的とする。イノベーションは，新しい技術やアイデア（知的財産）が具体的な製品・サービスとして社会に提供され，それが人々に受容られ普及して初めて実現する。新しい製品・サービスと社会との関わりは多面的であり，イノベーション創出に向けた取組もまた多様にならざるを得ない。本授業においては，イノベーションの実現までに乗り越えるべき課題を理解し，説明できるとともに，イノベーションの創出に向けた方策を考える視座を獲得することを到達目標とする。関連DP及びCP：経営法学科1, 2, 4, 5				
履修条件	イノベーションと知的財産Ⅰを履修していることが望ましい。 創造的な活動に関心を持つ学生の受講を希望する。				
授業方法	毎回配布するプリントに基づき講義を進める。また，レポートの提出を複数回求める。提出されたレポートについては，内容をとりまとめ，その後の授業において講評・解説する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加・貢献度（出席率が2/3未満の者は採点しない）及びレポートの内容を総合して評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	備考	使用しない			
参考書	必要な場合には授業中に指示する。				
オフィスアワー	水曜日15：00～16：00（授業講堂にて受付ける）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み，授業の概要，授業目的・到達目標，授業の進め方等を理解する。（2時間）
	授業内容	【イノトロダクション】 本授業の概要，目的・到達目標，履修条件，授業方法，成績評価の方法等について説明する。また，イノベーション・マネジメントを考える際の枠組みとしてイノベーションのプロセスについて学ぶ。
	事後学習	配布したプリントを再読し，自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	新しい製品・サービスにつながる技術を開発する際に重要なことについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【研究技術開発のマネジメント1 研究技術開発段階のマネジメントの重要性】 研究技術開発段階のマネジメントの重要性，マネジメントを的確に行うための技術セクション，技術ロードマップの活用等について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し，技術セクション及び技術ロードマップについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	自らが保有未う技術を標準化することの意義について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【研究技術開発のマネジメント2 業界標準】 研究技術開発段階における標準への的確な対応の重要性について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し，イノベーションのための標準化の意義について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
4	事前学習	新しい製品・サービスを開発する段階において重要と考えられることについて自分に考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【製品開発のマネジメント1 製品開発のプロセス】 製品開発のプロセスを概観し，製品開発段階におけるマネジメントの重要性について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し，製品開発段階におけるマネジメントの重要性について自分なりの説明をまとめる。（2時間）

5	事前学習	新しい製品・サービスの開発に当たりどのような点に留意すべきかについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【製品開発のマネジメント2 製品開発段階において留意すべき事項】 製品開発段階で留意すべき事項のうち、製品アーキテクチャーの設計、研究開発に適した組織構築等について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、製品開発を的確に行うために留意すべき事項について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
6	事前学習	最近ヒットした新しい製品・サービスについて、市場の獲得や収益の確保のための工夫を探してみよう。（2時間）
	授業内容	【事業化段階のマネジメント】 事業化段階において市場の獲得と収益の確保を実現するためのビジネスモデル構築が重要であることについて学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、ビジネスモデルについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
7	事前学習	的確な組織間連携が新製品・サービスの開発を効率化することについて、産学連携を例にして自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【組織間連携のマネジメント】 イノベーションを実現するのに当たり、組織間連携を的確に行うことの重要性について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、組織間連携について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
8	事前学習	排他的独占権以外の方法で特許権を活用する方法について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【イノベーションと知財マネジメント1 的確な知財マネジメントの効果】 知財マネジメントの巧拙がイノベーション実現にもたらすメリット・デメリットについて学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、知財マネジメントの巧拙がイノベーション実現にもたらすメリット・デメリットについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
9	事前学習	知財の価値は何によって測るべきものかについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【イノベーションと知財マネジメント2 知的財産権の価値】 知的財産権の価値は、それを実施しようとする企業、市場環境等に応じて定まることについて学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、知的財産権の価値が、それが活用される状況に依存することについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
10	事前学習	企業等における特許の活用状況を調べてみよう。（2時間）
	授業内容	【イノベーションと知財マネジメント3 知的財産の活用状況】 企業等におけるイノベーション創出に向けた知的財産活用の状況等について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、知的財産活用の現況について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
11	事前学習	製品・サービスのユーザーがイノベーションに関与した例を探してみよう。（2時間）
	授業内容	【イノベーション創出への取組1 ユーザーイノベーション】 イノベーション創出に向けた取組の一つであるユーザーイノベーションについて学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、ユーザーイノベーションについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
12	事前学習	発展途上国で生まれ、先進国でもヒットした製品を探してみよう。（2時間）
	授業内容	【イノベーション創出への取組2 リバースイノベーション】 イノベーション創出に向けた取組の一つであるリバースイノベーションについて学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、リバースイノベーションについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
13	事前学習	イノベーションとデザインの関係について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【イノベーション創出への取組3 デザインドリブンイノベーション】 イノベーション創出に向けた取組の一つであるデザインドリブンイノベーションについて学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、イノベーションにおけるデザインの意義について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
14	事前学習	アントレプレナーに求められる資質について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【イノベーションの担い手】 イノベーションの担い手であるアントレプレナー、ベンチャー・ビジネス、ベンチャー・キャピタル等について、イノベーションにおいてそれぞれが果たす役割、現況等について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、イノベーションにおけるベンチャービジネスとベンチャーキャピタルの役割について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
15	事前学習	配布プリントを再読し、イノベーションの意義とそれを促進するための方策について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【授業のまとめ】 授業を総括する。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、イノベーションの意義とそれを促進するための方策について自分なりの説明をまとめる。（2時間）

科目名	異文化メディア	担当者	小林 聡明	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	人種や民族、国籍などの異なる者同士が、ともに暮らすという状況は、ごく当たり前の日常となっている。だが、そこには少数者が、多数者から、何かが「異なる」という理由でしばしば差別され、時として激しい暴力が行使されるという現実が存在している。なぜ、そうしたことが起きるのか。本授業では、国家や国民、民族、人種、メディアという観点から、この問いに向きあい、多様性を認め合う寛容な社会の実現に必要な「何か」について考えていく。			
授業目的・到達目標	本授業の目的は、①国家や国民、民族、人種が決して自明のものではなく、社会的に構築されたものであること、②そこに構造化された政治性が差別を生みだし、そのことが、国民国家を成立させる重要な資源になっていたこと、③国民国家が、近代の産物として発明され、<かたち>を帯びていく過程で、メディアが、どのような役割を果たしたのかを理解することにある。本授業の到達目標は、①差別に対する問題意識の涵養と関連知識の習得、②他者理解のための想像力の獲得と人権意識の涵養、③現代社会の構造を理解し、問題を克服するための知的体力の強化（思考の深化）におかれている。関連DP及びCP：新聞学科DP-1, 2, 6、CP-1, 2, 6			
履修条件	国際政治や海外事情、異文化交流、民族・人種問題などに興味を持つ学生を、特に歓迎する。 課題文献は、初回の授業時に提示するので、かならず出席すること。			
授業方法	原則として、毎回、受講生には論文あるいは著書1章分を読み、「同意できる点／できない点」と質問を記したペーパーの作成・提出が課題として課される。授業は、それへの教師からのフィードバックと受講者との対話で構成される。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	毎回の課題状況と最終レポートによる評価	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	なし		
参考書	国民国家論や移民論、エスニック・メディア論などの文献が考えられるが、詳しくは毎回の授業で紹介する。			
オフィスアワー	原則的には、火曜日の13時～16時。事前にメールで予約を取ってください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	初回授業時までにシラバスを読んでおくこと。 差別とは何かということについて、自分なりに思考を深めておくこと。（2時間）
	授業内容	イントロダクション： 授業の目的や進め方などの授業概要に加え、文献の「読み方」についても説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
2	事前学習	新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、差別問題に関する報道に接しておくこと。（2時間）
	授業内容	日本社会における「多文化状況」：日本の現状について、データを示しながら説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
3	事前学習	2回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	日本社会における差別：日本の現状について、ヘイト・スピーチを手がかりに考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
4	事前学習	3回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	国民国家の成立：民族＝国民という図式に注意を払いながら、国民で構成された国家の形成プロセスについて説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）

5	事前学習	4回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	「想像の共同体」とメディア：メディアが、どのように「国民」を創出していったのかについて、アンダーソンの議論の有効性と限界に注意を払いながら考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
6	事前学習	5回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	日本人の「誕生」：日本人が、どのように日本人になったのかについて近代日本の歴史的展開に着目して説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
7	事前学習	6回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	日本人の「境界」：日本人というカテゴリーが、どのように恣意的に形成されていったのかについて、沖縄に焦点をあてて説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
8	事前学習	7回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	日本人の「境界」：日本人というカテゴリーが、どのように恣意的に形成されていったのかについて、台湾と朝鮮に焦点をあてて説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
9	事前学習	8回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	「境界」を移動する人々の歴史経験(1)：産業革命と移民の出現について説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
10	事前学習	9回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	「境界」を移動する人々の歴史経験(2)：移民とメディアの関係について、エスニック・メディア論を敷衍しながら説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
11	事前学習	10回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	エスニック・メディア論：当該分野における研究蓄積について紹介し、現代社会で人種的・民族的少数者が立ち上げているメディアの有効性と限界について論じる。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
12	事前学習	11回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	アメリカにおける人種問題と公民権運動：差別との闘いとアメリカの現在について説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
13	事前学習	12回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	韓国における多文化共生政策：日本との社会構造の類似性に着目しながら、隣国の政策を比較検討する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
14	事前学習	レポートの作成（3時間）
	授業内容	日本における「移民」政策：政策内容を説明し、その問題点を浮き彫りにしたのち、課題は何かということについて検討する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
15	事前学習	参考文献などを渉猟しながら、授業の全体を通じて学んだことを整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	全体の授業を通じたまとめと、受講者に課した課題へのフィードバックを行う。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）

科目名	映像／デジタル・ジャーナリズムⅠ	担当者	米倉 律	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	映像、音声を組み合わせてメッセージが伝達される放送ジャーナリズムは、その政治的・社会的影響力の大きさゆえに、現代のジャーナリズム空間においても大きな位置を占めてきた。他方、近年のインターネットやデジタル機器の普及は、従来型の放送ジャーナリズムのあり方に大きな変更を迫っている。放送局での報道番組のディレクターとしての経験を活かしつつ、変容期の放送ジャーナリズムについて多角的に講義する。				
授業目的・到達目標	放送ジャーナリズムが置かれている現状と今後に向けた問題の所在についての認識を養成することを目的とする。 放送（映像）ジャーナリズムをめぐる現状と課題について理解し、説明できるようにすることを目標とする。 関連DP及びCP：新聞学科1，2，3				
履修条件	特になし				
授業方法	講義形式。 授業内レポートは、講評を次週以降の授業で行う。またはポータルシステムで講評を配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	期間中に2回程度のレポートを実施し、その結果で評価する	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	学文社		新 放送論	島崎哲彦・米倉律 編著
	備考				
参 考 書	授業時に適宜指示する				
オフィスアワー	毎週火曜日の昼休み。研究室は本館7階（1719） できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。 メールアドレスは、yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	入手した教科書、参考書などに目を通しておく。（2時間）
	授業内容	イントロダクション：放送メディアを取り巻く現況と課題
	事後学習	イントロダクションの内容について、実際のテレビ番組を視聴したり、資料・情報を収集するなどして確認すること。（2時間）
2	事前学習	メディア論の基本的考え方、知識について、教科書（第Ⅰ章）、参考書等で予習する。（2時間）
	授業内容	映像ジャーナリズムの特徴
	事後学習	授業ノートと配布した資料などを読み直し、知識を定着させる。（2時間）
3	事前学習	テレビのニュース番組を事前に視聴し特徴を把握しておく。（2時間）
	授業内容	テレビのニュース番組の構造とメディア特性
	事後学習	授業内容を踏まえテレビのニュース番組を分析的に視聴する。（2時間）
4	事前学習	放送法や放送の公共性について教科書（第Ⅲ章、第Ⅳ章）、参考書等で予習する。（2時間）
	授業内容	放送の公共性の論理構造
	事後学習	授業ノートと配布資料を使って復習する。（2時間）

5	事前学習	公共放送について、教科書（第Ⅷ章）、参考書、資料などで予習する。（2時間）
	授業内容	放送体制①： 公共放送の組織構造、財源
	事後学習	授業ノートと配布資料による振り返り。（2時間）
6	事前学習	公共放送について、教科書（第Ⅷ章）、参考書、資料などで予習する。（2時間）
	授業内容	放送体制②： 公共放送によるジャーナリズムの特徴と課題
	事後学習	授業ノートと配布した資料、参考書などを用いて復習する。（2時間）
7	事前学習	民放の特徴、問題点などについて教科書（第Ⅲ章）、参考書等で調べておく。（2時間）
	授業内容	放送体制③： 民放のネットワークとビジネスモデル
	事後学習	授業ノートを用いて振り返り学習する。（2時間）
8	事前学習	民放の特徴、問題点などについて教科書（第Ⅲ章）、参考書等で調べておく。（2時間）
	授業内容	放送体制④： 民放によるジャーナリズムの特徴と課題（小レポート実施）
	事後学習	授業ノートと配布した資料、参考書などを用いて復習する。（2時間）
9	事前学習	第4～8回までの授業内容を教科書、ノート、資料などを用いて復習しておく。（2時間）
	授業内容	放送体制⑤： テレビジャーナリズムの変容
	事後学習	授業ノートと配布資料による振り返り。（2時間）
10	事前学習	教科書（第Ⅹ章）、参考資料などを読んでおく。（2時間）
	授業内容	番組制作の現場①
	事後学習	授業ノートと配布資料、教科書などを用いて復習する。（2時間）
11	事前学習	教科書（第Ⅹ章）、参考資料などを読んでおく。（2時間）
	授業内容	番組制作の現場②（ゲストスピーカー）
	事後学習	授業ノートと配布資料、教科書などを用いて復習する。（2時間）
12	事前学習	メディアの影響について教科書（第Ⅰ章）、関連資料などに目を通しておく。（2時間）
	授業内容	放送番組の社会的影響～アジェンダ・セッティング機能を中心に
	事後学習	授業ノートと教科書による振り返り。（2時間）
13	事前学習	ジェンダーとは何か、日本社会のジェンダー論的特徴などについて関連資料を読んでおく。（2時間）
	授業内容	放送とジェンダー①：番組の中のジェンダー
	事後学習	授業ノート、配布資料などを用いて復習する。（2時間）
14	事前学習	日本のメディア産業におけるジェンダー論的な問題点について関連資料などを読んでおく。（2時間）
	授業内容	放送とジェンダー②：放送業界におけるジェンダー
	事後学習	授業ノート、配布資料などを用いて復習する。（2時間）
15	事前学習	授業総括したうえで小レポートを実施するので第1～14回の授業内容を復習しておく。（2時間）
	授業内容	授業総括とまとめ（小レポート実施）
	事後学習	授業ノート、教科書による振り返り（2時間）

科目名	映像／デジタル・ジャーナリズムⅡ	担当者	米倉 律	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	放送ジャーナリズムは、その政治的・社会的影響力の大きさゆえに、現代のジャーナリズム空間において大きな位置を占めているが、近年の「放送と通信の融合」の進展は、これまでの映像ジャーナリズム、テレビジャーナリズムのあり方に大きな変化を迫っている。そうした変化の諸相について、放送局におけるディレクターとしての番組制作経験を活かしながら、災害報道、海外の動向、放送と市民の関係性、アーカイブなどを中心に講義する。					
授業目的・到達目標	映像ジャーナリズム、デジタルジャーナリズムの先端的状态についての知識を身につけ、今後の方向性、可能性、課題などについての基礎的認識を養成することを目的とする。 映像ジャーナリズム、デジタルジャーナリズムの今日の条件および諸課題について理解し、説明できるようにすることを目標とする。					
履修条件	関連DP及びCP：新聞学科1, 2, 3 映像・デジタルジャーナリズムⅠを履修し、単位を取得していること					
授業方法	講義形式 授業内レポートの結果については、講評を次週以降の授業で行う、あるいはポータルシステムで配信する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		学期中に授業内小レポートを2回実施する	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	学文社		新 放送論		島崎哲彦・米倉律 編著
	備考					
参考書	授業時に適宜指示する					
オフィスアワー	毎週火曜日の昼休み。研究室は本館7階（1719） できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。 メールアドレスは、yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の内容について目を通しておく。（2時間）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	資料、ノートを用いて振り返り。（2時間）
2	事前学習	関連の情報を収集し、整理しておく。（2時間）
	授業内容	災害報道①： マス・メディアによる緊急報道の限界
	事後学習	配布資料、ノートを用いて復習する。（2時間）
3	事前学習	関連の情報を収集し、整理しておく。（2時間）
	授業内容	災害報道②： メディア間連携の可能性と課題
	事後学習	講義内容を整理してまとめておく。（2時間）
4	事前学習	教科書（第Ⅱ章）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	映像ジャーナリズムの歴史的展開①： 草創期のテレビ放送
	事後学習	配布資料、ノートを用いて復習する。（2時間）

5	事前学習	教科書（第Ⅱ、Ⅴ章）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	映像ジャーナリズムの歴史的展開②： テレビドキュメンタリーの成立と発展
	事後学習	配布資料、ノートを用いて復習する。（2時間）
6	事前学習	教科書（第Ⅵ章）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	映像ジャーナリズムの歴史的展開③： テレビドラマの誕生とその社会的機能
	事後学習	講義内容を整理してまとめておく。（2時間）
7	事前学習	教科書（第Ⅵ章）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	映像ジャーナリズムの歴史的展開④： テレビドラマの発展とその後
	事後学習	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する。（2時間）
8	事前学習	教科書（第Ⅶ章）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	海外の映像ジャーナリズム①： アメリカにおける映像ジャーナリズム
	事後学習	配布資料、ノートを用いて授業内容の振り返り。（2時間）
9	事前学習	教科書（第Ⅶ章）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	海外の映像ジャーナリズム②： メディアの多チャンネル化、デジタル化
	事後学習	講義内容を整理してまとめておく。（2時間）
10	事前学習	関連の情報を収集し整理しておく。（2時間）
	授業内容	海外の映像ジャーナリズム③： 「放送と通信の融合」と寡占化の進行（小レポート実施）
	事後学習	レポート内容について資料やノート等を用いて振り返り。（2時間）
11	事前学習	放送と通信の融合についての概要を情報収集しておく（2時間）
	授業内容	放送と通信の融合（ゲストスピーカー招聘）
	事後学習	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する。（2時間）
12	事前学習	教科書（第Ⅷ章）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	放送と市民①： パブリック・アクセス～韓国的事例～
	事後学習	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する。（2時間）
13	事前学習	教科書（第Ⅷ章）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	放送と市民②： パブリック・アクセス～日本の事例～
	事後学習	講義内容をノート、配布資料を用いて復習する。（2時間）
14	事前学習	関連の情報を収集し、整理しておく。（2時間）
	授業内容	映像ジャーナリズムと集合的記憶①： テレビにおける戦争の表象
	事後学習	授業内容について、配布資料やノートを用いて振り返る。（2時間）
15	事前学習	関連の情報を収集し、整理しておく。（2時間）
	授業内容	映像ジャーナリズムと集合的記憶②： アーカイブ時代における映像ジャーナリズム
	事後学習	講義内容を整理してまとめておく。（2時間）

科目名	会計学Ⅰ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、会計学（主として財務会計）の基礎について学修します。企業（株式会社）の作成する財務諸表（計算書類）には会計基準と呼ばれる一定の作成ルールが存在しますが、それらの基礎にある理論的考え方に触れ、実際の企業が公表する財務諸表がいかんにして作成されるのかを学びます。				
授業目的・到達目標	この授業の目的は、財務諸表の作成ルールである会計基準などの基本的考え方に対する理解を深めるとともに、会計基準が企業経営におよぼす影響を理解して、会計にまつわる論理的思考力や企業会計における課題を発見する力、会計情報を通じて企業経営を振り返る省察力を養成することにあります。授業における具体的な到達目標は、財務会計（特に資産会計）の基本的考え方について説明でき、実際の会計基準の規定に従った会計処理能力を身に付けることです。【関連DP及びCP：法律学科1,2 経営法学科1,2,3,4,5,8 公共政策学科1,3,4】				
履修条件	簿記原理Ⅰおよび簿記原理Ⅱを履修し、簿記の基礎についての学修を終えていることが望ましいです。また、会計学Ⅱを併せて履修するようにしてください。				
授業方法	毎回の授業に先立って共有フォルダを通じて授業範囲のレジュメを配布し、講義を実施します。また、電卓を持参するようにしてください。なお、定期試験へのフィードバックは、ポータルシステムを通じて行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	授業内容の理解度を確認するために、前学期末に試験を実施します。	
	平常評価		30%	授業参加態度を評価します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しません。			
参考書	『財務会計入門 第5版』 田中建二 著 中央経済社				
オフィスアワー	研究室での相談対応は、毎週火曜日の夕方（16:30頃～18:00頃）実施します。希望者は実施時間帯に担当教員の研究室（本館8階の1820研究室）まで来て下さい。ただし、都合により不在の場合もあるため、事前にメール（kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp）にてアポを取るようにしてください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	簿記手続き一巡を確認しておく。既修者は、簿記原理ⅠおよびⅡの内容を復習しておくといよい（2時間）
	授業内容	財務会計の基礎①：複式簿記の仕組み、会計とは何か
	事後学習	会計の目的について理解し、複式簿記の仕組みを把握する（2時間）
2	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	財務会計の基礎②：会計制度、会計基準
	事後学習	会計基準の必要性を理解し、我が国における会計制度の展開を把握する（2時間）
3	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	財務諸表の仕組み①：財務諸表の種類、貸借対照表
	事後学習	貸借対照表の基本的構造を理解し、その様式と役割を把握する（2時間）
4	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	財務諸表の仕組み②：損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書
	事後学習	損益計算書、株主資本等変動計算書およびキャッシュ・フロー計算書の基本的構造を理解し、それらの様式と役割を把握する（2時間）

5	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	棚卸資産の会計①：意義と範囲、取得原価、売上原価の計算
	事後学習	棚卸資産会計の基本的論点を理解し、取得原価および売上原価の算定方法を把握する（2時間）
6	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	棚卸資産の会計②：評価方法、期末評価
	事後学習	棚卸資産の期末評価に関する理論的根拠を理解し、各種評価方法を修得する（2時間）
7	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	有形固定資産の会計①：種類、設備投資、取得原価、減価償却
	事後学習	有形固定資産会計の基本的論点を理解し、各減価償却費の算定方法を修得する（2時間）
8	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	有形固定資産の会計②：減価償却の目的と効果、修繕費と改良費
	事後学習	減価償却の理論的根拠とその効果の違いを理解するとともに、修繕費と改良費の取扱いの違いを把握する（2時間）
9	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	有形固定資産の会計③：リース取引
	事後学習	リース取引の態様や割引計算の基本的考え方を理解し、現在価値の計算方法を修得する（2時間）
10	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	有形固定資産の会計④：減損会計
	事後学習	減損会計の基本的考えを理解し、一連の減損処理手続きを修得する（2時間）
11	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	無形固定資産および繰延資産の会計①：無形固定資産、繰延資産
	事後学習	無形固定資産会計および繰延資産会計の基本的論点を理解し、各種資産の会計処理方法を把握する（2時間）
12	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	無形固定資産および繰延資産の会計②：研究開発費、ソフトウェア
	事後学習	研究開発費の会計処理を理解し、ソフトウェアの会計処理（主として減価償却手続）を把握する（2時間）
13	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	金融資産の会計①：金融資産、当座資産
	事後学習	金融資産と事業用資産の違いを理解し、金銭債権に対する各種貸倒見積高の算定方法を修得する（2時間）
14	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	金融資産の会計②：有価証券
	事後学習	有価証券の保有目的別分類を理解し、それぞれの会計処理方法を把握する（2時間）
15	事前学習	前期の学修内容を概観しておく（2時間）
	授業内容	総括：会計の基礎と資産会計についての学修内容のまとめ
	事後学習	定期試験に向けて前期の学修内容を包括的に復習しておく（2時間）

科目名	会計学Ⅰ	担当者	佐藤 利光	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	本授業の主要な領域は財務会計論となります（他に管理会計論、会計監査論等があります）。財務会計論は企業経営に役立つ実学と言われています。そこで、本授業では会計実務を实践する上で必要な会計ルール等を学ぶことを目的としますが、その際、大切な点はそのルール等の背後にある論理あるいは社会的要請等を理解することです。したがって、授業はこの点から展開されます。			
授業目的・到達目標	会計実務を实践する上で必要な会計ルール等の知識を育成することを目的とします。 この授業では財務会計論の全般について概説をします。具体的には会計の史的展開過程を概観し、特に現代社会における会計の領域・目的・役割等についての学習が内容となります。さらに、金融市場の歴史的変化を取り上げて公表された財務諸表の信頼性の担保の観点から会計監査論にも言及します。ここでの到達目標は財務諸表を理解して、財務内容を把握できることにあります。 関連DP及びCP:法律学科1.2 経営法学科1.2.3.4.5.8 公共政策学科1.3.4			
履修条件	簿記の基礎的学習を終えていることが望ましい、			
授業方法	原則として講義形式。講義では毎回レジメを配布する予定。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	(50%)理解度測定のため、前期授業終了時に小テストを実施します。 (50%)毎授業の終了時に当日学習した重要項目について理解度チェックをします。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年3月	白桃書房	ケースでまなぶ財務会計（第7版）	永野則雄
	備考			
参考書	神戸大学会計学研究室編『会計学基礎論』同文館 醍醐 聡著『会計学講義』東京大学出版会 友岡 賛編『会計学』慶応義塾大学出版会 岡本治雄著『会計と財務諸表分析』唯学書房			
オフィスアワー	金曜5・6限授業終了後に講堂にて質問を受け付けます。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、講義の全体を概観して最近の新聞紙上で取り上げられた会計関連の記事を読んでほしい。（2時間）
	授業内容	授業計画とその概要
	事後学習	学習の内容を現実の社会現象と関連させること。（2時間）
2	事前学習	身近にある会計数値の意味を考えてください。（2時間）
	授業内容	社会と会計：会計の仕事
	事後学習	学習の内容を現実の社会現象と関連させること。（2時間）
3	事前学習	テキストの該当する章を読んできてください。（2時間）
	授業内容	会計の役割と規制
	事後学習	種々の会計ルールの強制性と任意性を理解すること。（2時間）
4	事前学習	会計の果たせる機能と限界を理解してほしい。（2時間）
	授業内容	財産の変動とその記録
	事後学習	取引の形態と記録の在り方を理解すること。（2時間）

5	事前学習	取引の形態と記録の在り方について。（2時間）
	授業内容	財産変動の結果の報告（貸借対照表）
	事後学習	利益の額とその貸借対照表での表れ方。（2時間）
6	事前学習	貸借対照表の簡単な理解。（2時間）
	授業内容	財産変動の原因の報告（損益計算書）
	事後学習	収益と費用の理解。（2時間）
7	事前学習	損益計算書の簡単な理解。（2時間）
	授業内容	財産の変動と「取引」
	事後学習	資産・負債・純資産・収益・費用の大まかな理解。（2時間）
8	事前学習	貸借対照表と損益計算書が伝える内容。（2時間）
	授業内容	財務諸表の体系
	事後学習	貸借対照表と損益計算書との関係。（2時間）
9	事前学習	情報源としての財務諸表について。（2時間）
	授業内容	財務諸表の読み方
	事後学習	財務諸表からの情報とその限界。（2時間）
10	事前学習	収益と費用の大まかな理解。（2時間）
	授業内容	「収入・支出」と「収益・費用」
	事後学習	「収入-支出」と「収益-費用」との違い。（2時間）
11	事前学習	「収益と費用」の測定基準としての「収入・支出」について。（2時間）
	授業内容	「見越し」と「繰り延べ」
	事後学習	損益法と貸借対照表項目。（2時間）
12	事前学習	貸借対照表に計上される勘定科目について。（2時間）
	授業内容	貸借対照表の表示方法
	事後学習	企業の財務安全分析と貸借対照表。（2時間）
13	事前学習	損益計算書に計上される勘定科目について。（2時間）
	授業内容	損益計算書の表示方法
	事後学習	企業の収益性分析と損益計算書。（2時間）
14	事前学習	「もの」の「価値」について。（2時間）
	授業内容	「原価」と「時価」：「配分」と「評価」
	事後学習	原価情報と時価情報と差異。（2時間）
15	事前学習	財務情報の限界を理解してほしい。（2時間）
	授業内容	「まとめ」と理解度測定
	事後学習	理解が十分でない項目の抽出。（2時間）

科目名	会計学Ⅱ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、会計学（主として財務会計）の基礎について学修します。企業（株式会社）の作成する財務諸表（計算書類）には会計基準と呼ばれる一定の作成ルールが存在しますが、それらの基礎にある理論的考え方に触れ、実際の企業が公表する財務諸表がいかにして作成されるのかを学びます。また、実際の企業の財務諸表を用いた財務分析も行います。				
授業目的・到達目標	この授業の目的は、財務諸表の作成ルールである会計基準などの基本的考え方に対する理解を深めるとともに、会計基準が企業経営におよぼす影響を理解して、会計にまつわる論理的思考力や企業会計における課題を発見する力、会計情報を通じて企業経営を振り返る省察力を養成することにあります。授業における具体的な到達目標は、財務会計の基本的考え方について説明でき、各種会計処理能力を身に付けるほか、基本的な財務分析ができるようになることです。【関連DP及びCP：法律学科1,2 経営法学科1,2,3,4,5,8 公共政策学科1,3,4】				
履修条件	会計学Ⅱの履修希望者は、会計学Ⅰと併せて履修するようにしてください。また、簿記原理Ⅰおよび簿記原理Ⅱを履修し、簿記の基礎についての学修を終えていることが望ましいです。				
授業方法	毎回の授業に先立って共有フォルダを通じて授業範囲のレジュメを配布し、講義を実施します。また、電卓を持参するようにしてください。なお、定期試験へのフィードバックは、ポータルシステムを通じて行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	授業内容の理解度を確認するために、後学期末に試験を実施します。	
	平常評価		30%	授業参加態度を評価します	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しません。			
参考書	『財務会計入門 第5版』 田中建二 著 中央経済社				
オフィスアワー	研究室での相談対応は、毎週火曜日の夕方（16:30頃～18:00頃）実施します。希望者は実施時間帯に担当教員の研究室（本館8階の1820研究室）まで来て下さい。ただし、都合により不在の場合もあるため、事前にメール（kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp）にてアポを取るようにしてください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期に学修した内容を確認しておく（2時間）
	授業内容	会計学Ⅰで学修した内容の復習
	事後学習	会計の基礎と資産会計の全体像を再確認する（2時間）
2	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	負債の会計①：負債概念、流動負債
	事後学習	会計学上の資産および負債の定義を理解し、負債と純資産の違いを把握する（2時間）
3	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	負債の会計②：固定負債、引当金
	事後学習	社債の仕組みや引当金の理論的根拠を理解し、社債の評価方法を修得する（2時間）
4	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	負債の会計③：退職給付
	事後学習	退職給付会計の基本的論点を理解し、退職給付引当金の会計処理方法を修得する（2時間）

5	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	純資産の会計①：純資産の部、資本と利益の区分
	事後学習	資本と利益区分の原則を理解し、純資産の部の構成を把握する（2時間）
6	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	純資産の会計②：払込資本、留保利益、剰余金の配当
	事後学習	払込資本の会計処理を理解し、剰余金の配当における分配可能額の算定方法を修得する（2時間）
7	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	収益と費用の会計①：現金主義、発生主義、実現主義
	事後学習	伝統的な収益認識に関する議論を理解し、現金主義、発生主義および実現主義それぞれにおける収益認識方法を把握する（2時間）
8	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	収益と費用の会計②：工事契約、新たな収益認識、費用収益対応の原則
	事後学習	工事契約における収益認識や、新たな会計基準による収益認識の考え方を理解し、具体的な収益認識方法を把握する（2時間）
9	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	連結財務諸表①：意義、連結の範囲、連結貸借対照表の作成
	事後学習	連結財務諸表の役割を理解し、資本連結の手続き把握する（2時間）
10	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	連結財務諸表②：連結損益計算書の作成
	事後学習	連結修正手続きの考え方を理解し、連結損益計算書の作成手順を把握する（2時間）
11	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	財務諸表の分析①：分析の意義、流動性の分析
	事後学習	財務諸表分析の基礎および流動性分析の意義を理解し、流動性分析のための各手法を修得する（2時間）
12	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	財務諸表の分析②：安全性の分析
	事後学習	安全性分析の意義を理解し、安全性分析のための各手法を修得する（2時間）
13	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	財務諸表の分析③：効率性の分析
	事後学習	効率性分析の意義を理解し、効率性分析のための各手法を修得する（2時間）
14	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	財務諸表の分析④：収益性の分析
	事後学習	収益性分析の意義を理解し、収益性分析のための各手法を修得する（2時間）
15	事前学習	後期の学修内容を概観しておく（2時間）
	授業内容	総括：負債会計、純資産会計、損益会計および財務分析についての学修内容のまとめ
	事後学習	定期試験に向けて後期の学修内容を包括的に復習しておく（2時間）

科目名	会計学Ⅱ	担当者	佐藤 利光	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	本授業の主要な領域は財務会計論となります（他に管理会計論、会計監査論等があります）。財務会計論は企業会計に役立つ実学と言われています。そこで、本授業では会計実務を实践する上で必要な会計ルールを学びますが、その際、大切な点はそのルールの背後にある論理、あるいは社会的要請を理解することです。したがって、本授業はこの観点から展開されます。			
授業目的・到達目標	会計実務を实践する上で必要な会計ルール等の知識を育成することを目的とします。 この授業では財務会計論の全般について概説をします。具体的には会計の史的展開過程を概観し、特に現代社会における会計の領域・目的・役割等についての学習が内容となります。さらに、金融市場の歴史的変化を取り上げて公表された財務諸表の信頼性の担保の観点から会計監査論の言及します。ここでの到達目標は財務諸表を理解して、財務内容を把握できることにあります。 関連DP及びCP:法律学科1.2 経営法学科1.2.3.4.5.8 公共政策学科1.3.4			
履修条件	簿記の基礎的学習を終えていること、「会計学Ⅰ」を履修していることが望ましい。			
授業方法	原則として講義形式。講義では毎回レジメを配布する予定。フィードバックは授業内において行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	(50%)理解度測定のため、後期授業終了時に小テストを実施します。 (50%)授業の終了時毎に当日学習した重要項目について理解度チェックをします。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年3月	白桃書房	ケースでまなぶ財務会計（第7版）	永野則雄
	備考			
参考書	神戸大学会計学研究室編『会計学基礎論』同文館 醍醐 聡著『会計学講義』東京大学出版会 友岡 賛編『会計学』慶応義塾大学出版会 岡本治雄著『会計と財務諸表分析』唯学書房			
オフィスアワー	金曜５・６限授業終了後に講堂にて質問を受け付けます。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、講義の全体を概観して最近の新聞紙上で取り上げられた会計関連の記事を読んできてほしい。（2時間）
	授業内容	「会計学Ⅰ」の理解度測定の結果と理解不十分項目の抽出
	事後学習	理解不十分項目の要点整理。（2時間）
2	事前学習	テキストで関連する章を読んできてほしい。（2時間）
	授業内容	基礎概念と一般原則（1）
	事後学習	計算原理を支える「基礎概念」の理解。（2時間）
3	事前学習	各「基礎概念」間の関連。（2時間）
	授業内容	基礎概念と一般原則（2）
	事後学習	「一般原則」と基礎概念の関連。（2時間）
4	事前学習	「資産」について。（2時間）
	授業内容	棚卸資産の会計
	事後学習	「仕入高」・「売上原価」・「期末棚卸商品」の理解。（2時間）

5	事前学習	「資産」について。（2時間）
	授業内容	固定資産の会計
	事後学習	固定資産の簿価と時価の認識。（2時間）
6	事前学習	「資産」について。（2時間）
	授業内容	繰延資産の会計
	事後学習	「繰延資産」の特異性。（2時間）
7	事前学習	「資産」について。（2時間）
	授業内容	金融資産の会計
	事後学習	「金融資産」の特異性。（2時間）
8	事前学習	「負債」の一般的特性。（2時間）
	授業内容	負債の会計
	事後学習	法的債務と会計上の債務（特に各種の引当金）。（2時間）
9	事前学習	「株式会社」の有限責任について。（2時間）
	授業内容	純資産の会計
	事後学習	「払込資本」と「剰余金」。（2時間）
10	事前学習	「勘定科目」の分類。（2時間）
	授業内容	数値例による貸借対照表と損益計算書の作成
	事後学習	理解不十分項目の抽出。（2時間）
11	事前学習	「発生主義」会計の特性。（2時間）
	授業内容	キャッシュ・フロー計算書の作成
	事後学習	「損益計算書」と「キャッシュ・フロー計算書」との役割の相違。（2時間）
12	事前学習	製品の価格の決め方を考えてほしい。（2時間）
	授業内容	管理会計論の概説
	事後学習	「製品原価」と「原価計算」。（2時間）
13	事前学習	最近の「会計不正」の新聞記事等を読む。（2時間）
	授業内容	会計監査論の概説
	事後学習	会計監査と会計不正。（2時間）
14	事前学習	経済のグローバル化。（2時間）
	授業内容	会計の今後：「国際財務報告基準（IFRS）」について
	事後学習	「国際会計基準」構築の必要性の可否。（2時間）
15	事前学習	会計数値の特異性を理解してほしい。（2時間）
	授業内容	全体の「まとめ」と理解度測定
	事後学習	今後の会計学のひとつの動向。（2時間）

科目名	外国ジャーナリズム史A	担当者	張 新慧	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	-------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	本講義では、中華人民共和国建国以来、最高政治指導者のジャーナリズム・メディア認識や政策を振り返ることを通じ、中国のジャーナリズム発展史を理解する。それを背景として、展開されるジャーナリズム教育、ジャーナリズム現場で働く人々等の事情を分析、考察する。							
授業目的・到達目標	時系的に中国のジャーナリズム史を概観しながら、グローバル社会の中で、中国ジャーナリズムの普遍性と独自性を理解することを目的とする。具体的に①中国のジャーナリズムの基本特徴の把握②中国のジャーナリズムの基本構造の理解③ジャーナリズム・メディアの中国モデルに関する基礎知識の習得を本講義の目標とする。関連D P 及びC P：新聞学科1, 2, 3							
履修条件	特になし。							
授業方法	毎回の授業ではPPTを使い、配布資料を参考しつつ授業を進める。同時に授業内容と関連する学者の研究成果、映像や新聞記事を活用する。授業内授業内発表やレポートに対する講評と解説を後日、ポータルシステムにて配信する。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定 期 試 験		0%					
	平 常 評 価		100%		レポート等の提出課題と授業参与度について評価する。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	備考		使用しない。					
参 考 書	大井 眞二、田村 紀雄、鈴木 雄雅（2018）『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために〔第2版〕、世界思想社 山本 賢二(2019)『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3) 本学教員共有サイト「山本賢二 教材配布」掲載。							
オフィスアワー	水曜日12：00～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること） 研究室とメールアドレスは追ってお知らせする。							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、参考文献に目を通し、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	【オリエンテーション】 ー本講義についての説明、ジャーナリズム研究概説、中国研究概説。
	事後学習	講義内容を整理し、他の履修科目との関係を考える上で、自分の学習計画を作成する。（2時間）
2	事前学習	山本賢二(2019)『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の関連するところを読む。（2時間）
	授業内容	【中国のマス・メディア構造】 ーマルクス主義を理解し、新中国建国前の新聞発展史を概観する上で、中国のマス・メディア、ジャーナリズムについての基本的理論構造に関する知識を得る。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
3	事前学習	中国の近現代史と毛沢東に関する著作とマス・メディアの報道を確認する。（2時間）
	授業内容	【毛沢東のジャーナリズム・メディア観】 ー中華人民共和国第1代指導者毛沢東のジャーナリズム・メディア観と当時の情勢を概観する。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
4	事前学習	中国の近現代史と鄧小平に関する著作とマス・メディアの報道を確認する。（2時間）
	授業内容	【鄧小平のジャーナリズム・メディア観】 ー中華人民共和国第2代指導者鄧小平のジャーナリズム・メディア観と当時の情勢を概観する。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）

5	事前学習	NHKドキュメンタリーに関係する知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	【ビデオ視聴及び議論】 －NHKドキュメンタリー『激流中国・ある雑誌編集部 60日の攻防』を視聴し、番組が伝える中国のメディア環境を考える。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
6	事前学習	中国の近現代史と江沢民に関する著作とマス・メディアの報道を確認する。（2時間）
	授業内容	【江沢民のジャーナリズム・メディア観】 －中華人民共和国第3代指導者江沢民のジャーナリズム・メディア観と当時の情勢を概観する。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
7	事前学習	中国の近現代史と胡錦濤に関する著作とマス・メディアの報道を確認する。（2時間）
	授業内容	【胡錦濤のジャーナリズム・メディア観】 －中華人民共和国第4代指導者胡錦濤のジャーナリズム・メディア観と当時の情勢を概観する。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
8	事前学習	中国の近現代史と習近平に関する著作とマス・メディアの報道を確認する。（2時間）
	授業内容	【習近平のジャーナリズム・メディア観】 －中華人民共和国第5代指導者習近平のジャーナリズム・メディア観と当時の情勢を概観する。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
9	事前学習	ロシアのマス・メディア事情に関するメディアの報道について調べる。（2時間）
	授業内容	【ビデオ視聴及び議論】 －NHKドキュメンタリー「言論を支配せよ～“プーチン帝国”とメディア～」を視聴し、日本や中国のマス・メディアの構造を比較しながら、番組が伝えるロシアのメディア環境を考える。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
10	事前学習	田村紀雄、大井眞二、林利隆 編(2004)『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』第1章、大井眞二、田村紀雄、鈴木雄雅 編(2018)『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために〔第2版〕』第3章を読む。（2時間）
	授業内容	【中国のジャーナリズム教育の変遷】 －中華人民共和国におけるジャーナリズム教育の変遷と現状について考える。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
11	事前学習	中国のジャーナリストに関するマス・メディアの報道について調べる。（2時間）
	授業内容	【中国のジャーナリストたち】 －近現代中国ジャーナリズム発展史における有名なジャーナリストをピックアップし、彼らの認識や信念、及び生存する時代のメディア環境を考える。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
12	事前学習	山本賢二(2019)『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の関連するところを読む。（2時間）
	授業内容	【中国の新聞法、新聞倫理に関する規定を考える】 －中国におけるジャーナリズムに関する法律、規定等の発展、現状及び内容を解説する。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
13	事前学習	山本賢二(2019)『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の関連するところを読む。（2時間）
	授業内容	【ネット社会における中国のジャーナリズムの現状】 －インターネットや新科学技術の発展に伴い、中国社会におけるジャーナリズムに関する新たな変化を捉え、これから歩んでいく道について議論する。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
14	事前学習	米国の憲法修正一条を確認しておく。（2時間）
	授業内容	【ビデオ視聴及び議論】 －NHKドキュメンタリー『米国のベトナム戦争報道』を視聴し、当時の米国のジャーナリズムについて考える。
	事後学習	講義内容を整理し、視聴後の感想を提出する。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義内容を整理し、学んだ知識や考えたことをまとめておく。（2時間）
	授業内容	【まとめと討論】 －これまでの講義内容を基礎にして、受講生に中国のジャーナリズムについて自分の意見や見解を述べてもらう。
	事後学習	中華人民共和国のジャーナリズム・メディアの歴史に関する知識を再確認する。（2時間）

科目名	外国ジャーナリズム史B	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズムやメディアを批判的に読み解くうえで、その特性を表面的に捉えているだけでは十分な考察はできない。それらの成り立ちから現代までに展開された歴史的経緯を把握してこそ、本質に迫る議論が可能となる。こうした視座から、本講義では、欧米におけるマス・メディアの発展過程の中から、ジャーナリズムの社会的意義について考察する。また、世界と日本との関係を視野に入れ、外国における邦字新聞の歴史にも言及する。			
授業目的・到達目標	現代の課題を考察するためのよすがとして、歴史的視座からジャーナリズムの構造と機能について根幹から理解しておくことは肝要である。本講義では、こうした歴史的事象を通して考察する力を養うことを目的とする。上記の目的を果たすため、「欧米におけるジャーナリズムの発展と変遷について、系統立てて説明することができる」ことと、「歴史的出来事の中でジャーナリズムが果たした役割について、具体例をあげて説明することができる」ことの2点を到達目標とする。【対応D P及びC P：新聞学科1～3】			
履修条件	特になし。			
授業方法	講義形式。履修者数によってはグループワークなどを実施する場合もある。受講の際は必ずノートを持参すること。到達度をはかるための小テストを実施した場合、翌週回の冒頭に解説と質問に対する回答を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	講義総数の3分の1以上の欠席があるものは評価対象としないので注意すること。進捗と理解度に応じて、小テストやレポート等を実施する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は指定しない。		
参考書	必要に応じて講義で紹介する。 一例として、佐藤卓己『現代メディア史』岩波書店、マイケル・エメリーほか『アメリカ報道史』松柏社など。			
オフィスアワー	【2019年度オフィスアワー】 前学期中・・・土曜日10:45～11:45 / 後学期中・・・月曜日14:45～15:45 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお勧めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスによく目を通してくること。 ※以下の事前学習は、時代背景を把握するために高校「世界史」レベルの振り返りを行っておいてもらいたい。 (2時間)
	授業内容	イントロダクション 新聞の起源と定義
	事後学習	ノートの整理。講義資料はCOLNet共有フォルダで確認可能。(2時間)
2	事前学習	市民社会の発展と啓蒙思想について (2時間)
	授業内容	【第1クール：欧米におけるマス・コミュニケーションの成立過程】 市民啓蒙の時代
	事後学習	ノートの整理。講義資料はCOLNet共有フォルダで確認可能。(2時間)
3	事前学習	第一次世界大戦下の組織的宣伝戦について (2時間)
	授業内容	【第1クール：欧米におけるマス・コミュニケーションの成立過程】 大衆操作の時代
	事後学習	ノートの整理。講義資料はCOLNet共有フォルダで確認可能。(2時間)
4	事前学習	第二次世界大戦以後のメディア環境の変容について (2時間)
	授業内容	【第1クール：欧米におけるマス・コミュニケーションの成立過程】 文化的消費と情報化の時代
	事後学習	ノートの整理。講義資料はCOLNet共有フォルダで確認可能。(2時間)

5	事前学習	自筆のノートの整理と復習。（2時間）
	授業内容	【第1クール：欧米におけるマス・コミュニケーションの成立過程】 第1クールのまとめと小テスト
	事後学習	ノートの整理。講義資料はCOLNet共有フォルダで確認可能。（2時間）
6	事前学習	植民地時代のアメリカと独立戦争について（2時間）
	授業内容	【第2クール：英米におけるジャーナリズムの歴史】アメリカ植民地時代の新聞 ベンジャミン・フランクリン『ペンシルベニア・ガゼット』／ゼンガー事件 独立戦争期の新聞：トーリーとホイッグ／トマス・ペイン『危機』
	事後学習	ノートの整理。講義資料はCOLNet共有フォルダで確認可能。（2時間）
7	事前学習	アメリカにおける産業革命について（2時間）
	授業内容	【第2クール：英米におけるジャーナリズムの歴史】プレス発展期 米国における日刊紙の誕生／産業革命 大衆新聞の誕生：ペニーペーパー／ベンジャミン・デイ『ニューヨーク・サン』
	事後学習	ノートの整理。講義資料はCOLNet共有フォルダで確認可能。（2時間）
8	事前学習	ハーストとビュリッツァーについて（2時間）
	授業内容	【第2クール：英米におけるジャーナリズムの歴史】戦争と新聞 南北戦争と新聞論議／イエロージャーナリズム／ハーストとビュリッツァー／米西戦争 プレスの企業化：『ニューヨーク・タイムズ』／『ロサンゼルス・タイムズ』／AP
	事後学習	ノートの整理。講義資料はCOLNet共有フォルダで確認可能。（2時間）
9	事前学習	自筆のノートの整理と復習。（2時間）
	授業内容	【第2クール：英米におけるジャーナリズムの歴史】 第2クールのまとめと小テスト
	事後学習	ノートの整理。講義資料はCOLNet共有フォルダで確認可能。（2時間）
10	事前学習	日本人が海外に移住した理由について（2時間）
	授業内容	【第3クール：外国における日本語新聞の歴史】 海外邦字新聞の概説 日本人移民と新聞発行
	事後学習	ノートの整理。講義資料はCOLNet共有フォルダで確認可能。（2時間）
11	事前学習	いわゆる排日移民法について（2時間）
	授業内容	【第3クール：外国における日本語新聞の歴史】 米国日系新聞史 桑港／羅府／布哇／紐育／その他
	事後学習	ノートの整理。講義資料はCOLNet共有フォルダで確認可能。（2時間）
12	事前学習	日清戦争・日露戦争期の対外関係について（2時間）
	授業内容	【第3クール：外国における日本語新聞の歴史】 アジアにおける邦字新聞発行 朝鮮／中国
	事後学習	ノートの整理。講義資料はCOLNet共有フォルダで確認可能。（2時間）
13	事前学習	アジア太平洋戦争期の南方進出について（2時間）
	授業内容	【第3クール：外国における日本語新聞の歴史】 アジアにおける邦字新聞発行 東南アジア／南方軍政地域新聞政策要領
	事後学習	ノートの整理。講義資料はCOLNet共有フォルダで確認可能。（2時間）
14	事前学習	自筆のノートの整理と復習。（2時間）
	授業内容	【第3クール：外国における日本語新聞の歴史】 第3クールのまとめと小テスト
	事後学習	ノートの整理。講義資料はCOLNet共有フォルダで確認可能。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、疑問点があれば具体的にまとめておくこと。（2時間）
	授業内容	総括 質疑応答
	事後学習	本講義を通して得た知見を今後の学習に活かせるように、自分がまとめたノートをいつでも見られる状態にしておくこと。（2時間）

科目名	外国法A(アジア) I	担当者	徐 瑞静	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	-------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	アジア諸国を見れば、大陸法系、英米法系、宗教法型、慣習法型、ハイブリッド型等の法体系が存在する。その他にも、社会主義法系国家が比較的に多いことが東アジア法の特色である。とりわけ、中華人民共和国法は独自の社会主義法体系を有するが、国際的には、香港、マカオ、多数の少数民族自治区等を通じて複合的な法体系を有している。本講義においては、中華人民共和国法について、その法体系の特徴、公法及び私法に亘って講義する。				
授業目的・到達目標	隣接科目の履修のために必要となる中華人民共和国法の基礎知識を養成（もしくは育成）することを目的とする。国際社会で生ずる中華人民共和国に関連する法律関係の規制に接した場合における規律に関する基礎的知識を習得すると共に、日本法と同じ大陸法系に分類される社会主義法の構造及び特質を習得し、日本法との異動について、受講生が説明できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 6 経営法学科1, 2, 6				
履修条件	特になし。なお、日本法の主要実定法の基礎知識を有していることが望ましい。				
授業方法	担当者が作成したプリントに基づいて講義する。小テストの解説をその実施後、授業において行い、レポートの解説を最終授業において行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	小テストの成績及びレポート提出によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	なし	なし		なし	なし
	備考	使用しない			
参考書	随時、指示する。				
オフィスアワー	土曜日16：10－16：40（事前にメールでアポイントメントを取ること） 教場にて行う。 メールアドレス jozuisei@yahoo.co.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	講義の進め方、配布資料、期末レポート等についてガイダンスする。
	事後学習	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）
2	事前学習	中国法の歴史のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中国法の歴史（古代から現代に至るまでの中国法の変遷）について解説する。
	事後学習	中国法の歴史のプリント及びノートを復習する。（2時間）
3	事前学習	現代中国法の体系のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	現代中国法の体系（中華人民共和国法、香港法、マカオ法、台湾法、少数民族自治区法）について解説する。
	事後学習	現代中国法の体系のプリント及びノートを復習する。（2時間）
4	事前学習	中華人民共和国司法制度のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和国司法制度（裁判所制度、法曹制度等）について解説する。
	事後学習	中華人民共和国司法制度のプリント及びノートを復習する。（2時間）

5	事前学習	中華人民共和国実定法の種類のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和国実定法の種類（公法、刑事法、私法、司法解釈等）について総説する。
	事後学習	中華人民共和国実定法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
6	事前学習	中華人民共和国憲法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和国憲法（1954年憲法、1975年憲法、1978年憲法、1982年憲法及び修正）について解説する。
	事後学習	中華人民共和国憲法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
7	事前学習	中華人民共和国行政法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和国行政法（行政組織、法治行政原則、行政法の種類等）について解説する。
	事後学習	中華人民共和国行政法プリント及びノートを復習する。（2時間）
8	事前学習	中華人民共和国行政訴訟法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和国行政訴訟法（行政救済制度の目的、対象、範囲及び整備）について解説する。
	事後学習	中華人民共和国行政訴訟法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
9	事前学習	中華人民共和国刑法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和国刑法（基本原則、適用範囲、刑罰の種類）について解説する。
	事後学習	中華人民共和国刑法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
10	事前学習	中華人民共和国刑事訴訟法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和国刑事訴訟法（基本原則、取調べ手続、公判手続、上訴手続き等）について解説する。
	事後学習	中華人民共和国刑事訴訟法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
11	事前学習	中華人民共和国民法総則のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和国民法総則（私法における位置付け、私法基本原則等）について解説する。
	事後学習	中華人民共和国民法総則のプリント及びノートを復習する。（2時間）
12	事前学習	中華人民共和国物権法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和国物権法（基本原則、所有権、区分所有、共有等）について解説する。
	事後学習	中華人民共和国物権法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
13	事前学習	中華人民共和国契約法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和国契約法（合同法の基本原則、経済法との関係、有名契約、無名契約等）について解説する。
	事後学習	中華人民共和国契約法プリント及びノートを復習する。（2時間）
14	事前学習	中華人民共和国不法行為法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和国不法行為法（侵権責任法の基本原則、一般不法行為、特殊不法行為等）について解説する。
	事後学習	中華人民共和国不法行為法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
15	事前学習	前期のプリントをすべて通読すること。（2時間）
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）

科目名	外国法A(アジア)Ⅱ	担当者	徐 瑞静	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	アジア諸国を見れば、大陸法系、英米法系、宗教法型、慣習法型、ハイブリッド型等の法体系が存在する。その他にも、社会主義法系国家が比較的に多いことが東アジア法の特色である。とりわけ、中華人民共和国法は独自の社会主義法体系を有するが、国際的には、香港、マカオ、多数の少数民族自治区等を通じて複合的な法体系を有している。本講義においては、中華人民共和国法について、その法体系の特徴、公法及び私法に亘って講義する。				
授業目的・到達目標	隣接科目の履修のために必要となる中華人民共和国法の基礎知識を養成（もしくは育成）することを目的とする。国際社会で生ずる中華人民共和国に関連する法律関係の規制に接した場合における規律に関する基礎的知識を習得すると共に、日本法と同じ大陸法系に分類される社会主義法の構造及び特質を習得し、日本法との異動について、受講生が説明できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 6 経営法学科1, 2, 6				
履修条件	特になし。なお、日本法の主要実定法の基礎知識を有していることが望ましい。				
授業方法	担当者が作成したプリントに基づいて講義する。小テストの解説をその実施後、授業において行い、レポートの解説を最終授業において行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	小テストの成績及びレポート提出によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	なし	なし		なし	なし
	備考	使用しない			
参考書	随時、指示する。				
オフィスアワー	土曜日16：10－16：40（事前にメールでアポイントメントを取ること） 教場にて行う。 メールアドレス jozuisei@yahoo.co.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス及び中華人民共和国婚姻法（基本原則、婚姻の成立、身分的効力、財産的効力、離婚の方法等）について解説する。
	事後学習	中華人民共和国婚姻法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
2	事前学習	中華人民共和国養子縁組法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和国養子縁組法（基本原則、養子縁組の成立及び効力、離縁等）について解説する。
	事後学習	中華人民共和国養子縁組法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
3	事前学習	中華人民共和国相続法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和国相続法（承法の基本原則、法定相続、遺言相続等）について解説する。
	事後学習	中華人民共和国相続法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
4	事前学習	中華人民共和国会社法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和国会社法（公司法の変遷、会社の形態、企業法務の課題）について解説する。
	事後学習	中華人民共和国会社法プリント及びノートを復習する。（2時間）

5	事前学習	中華人民共和國有価証券法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和國有価証券法（有価証券市場、有価証券の種類、株式投資の現状）について解説する。
	事後学習	中華人民共和國有価証券法プリント及びノートを復習する。（2時間）
6	事前学習	中華人民共和國民事訴訟法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和國民事訴訟法（紛争解決機関及び方法、調停主義、改正法の内容等）について解説する。
	事後学習	中華人民共和國民事訴訟法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
7	事前学習	中華人民共和國破産法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和國破産法（破産制度、手続、債権者の権利、民事再生制度等）について解説する。
	事後学習	中華人民共和國破産法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
8	事前学習	中華人民共和國仲裁法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和國仲裁法（民事訴訟との関係、手続、涉外仲裁の課題等）について解説する。
	事後学習	中華人民共和國仲裁法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
9	事前学習	中華人民共和國知的財産法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和國知的財産権法（知的財産権の種類、管轄官庁、権利行使等）について解説する。
	事後学習	中華人民共和國知的財産法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
10	事前学習	中華人民共和國労働法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和國労働法（基本理念、労働立法の種類、労働契約、労働基準等）について解説する。
	事後学習	中華人民共和國労働法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
11	事前学習	中華人民共和國経済法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和國経済法（範囲、独占禁止法、不正競争法、企業所得税法等）について解説する。
	事後学習	中華人民共和國経済法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
12	事前学習	中華人民共和國国際私法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和國国際私法（涉外民事関係法律適用法、最高人民法院司法解释、条約、区際私法等）について解説する。
	事後学習	中華人民共和國国際私法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
13	事前学習	中華人民共和國における国際公法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和國における国際公法（国際条約、二国間条約、国際慣習法、国籍法）について解説する。
	事後学習	中華人民共和國における国際公法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
14	事前学習	中華人民共和國における国際経済法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華人民共和國における国際経済法（WTOの加盟及び課題、対外貿易の規制等）について解説する。
	事後学習	中華人民共和國における国際経済法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
15	事前学習	後期のプリントをすべて通読すること。（2時間）
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）

科目名	外国法A(EU) I	担当者	庄司 克宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	超国家的な法秩序を構成するEUの憲法について、統治機構および基本的人権の観点から授業を行う。			
授業目的・到達目標	超国家的な法秩序を構成するEUの憲法について、統治機構および基本的人権の観点から知識を修得することを目的とする。第1にEU法令が誰により、どのように立法されるのか、第2にEU行政は誰により、どのように行われるのか、第3にEUにおける司法審査は誰により、どのようになされるのかについて、理解し、説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 6 経営法学科1, 2, 6			
履修条件	とくになし。			
授業方法	教科書2冊を毎回使用するので必ず持参すること。また、ポータルシステムを通じて授業用のハンドアウトを配布するので、それも毎回持参すること。時間が許せば、担当者が出演したEU関連報道番組の収録ビデオを鑑賞する。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	EU法の基礎知識が理解できているかを判定する。教科書、ノート、ハンドアウトの持込可で行う。それらにより基本的な事項を理解しておくこと。	
	平常評価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2013年	岩波書店	新EU法基礎篇	庄司克宏
	2015年	有斐閣	はじめてのEU法	庄司克宏
	備考			
参考書	『新EU法政策篇』庄司克宏、岩波書店、2014年 『欧州連合 統治の論理とゆくえ』庄司克宏、岩波書店、2007年（2016年第10刷）			
オフィスアワー	火曜授業の前後に授業講堂にて、質問、相談を受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書『はじめてのEU法』第1～2回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU法入門（1）EU法を支える原則は何か（一） ヨーロッパ統合とEU法、個人が裁判所でEU法を使えるということ
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
2	事前学習	教科書『はじめてのEU法』第3回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU法入門（2）EU法を支える原則は何か（二） EU法と国家主権の調整
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
3	事前学習	教科書『はじめてのEU法』第4～5回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU法入門（3）トランスナショナルな法空間の構築（一） トランスナショナルな法空間、物・人・サービス・資本の自由移動、
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
4	事前学習	教科書『はじめてのEU法』第6～7回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU法入門（4）トランスナショナルな法空間の構築（二） トランスナショナルな自由競争、単一通貨ユーロの仕組み
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）

5	事前学習	教科書『はじめてのEU法』第8～11回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU法入門（5）トランスナショナルな課題とEU法 EU市民権と外国人、物の自由移動と契約法、人の自由移動と刑事司法協力、域内市場と環境保護
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
6	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』序章、第1～2章、第5章、『はじめてのEU法』第12回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU法制度の発展（一） EU法制度とその発展を、EU基本条約、権限類型、法源、EU諸機関の発展に関連づけてそれぞれ説明する。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
7	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』序章、第1～2章、第5章、『はじめてのEU法』第12回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU法制度の発展（二） EU法制度とその発展を、EU基本条約、権限類型、法源、EU諸機関の発展に関連づけてそれぞれ説明する。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
8	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』第2章、第3章1～3節、6節、『はじめてのEU法』第13回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU立法（一） 通常立法手続および特別立法手続、立法手続における諸機関の役割、補完性手続による国内議会の監視について説明した後、「民主主義の赤字」という問題についても触れる。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
9	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』第2章、第3章1～3節、6節、『はじめてのEU法』第13回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU立法（二） 通常立法手続および特別立法手続、立法手続における諸機関の役割、補完性手続による国内議会の監視について説明した後、「民主主義の赤字」という問題についても触れる。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
10	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』第2章、第3章4節、『はじめてのEU法』第14回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU行政 コミッションによる委任立法、EU立法の実施におけるコミットロジーおよび補助機関についてメローニ原則を中心に解説する。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
11	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』第4章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU司法（一） 裁判所組織と訴訟の類型を概観した後、先決付託手続と国内裁判所との関係に焦点を当てる。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
12	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』第4章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU司法（二） 裁判所組織と訴訟の類型を概観した後、先決付託手続と国内裁判所との関係に焦点を当てる。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
13	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』第4章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU司法（三） 取消訴訟（先決付託手続きとの関係を含む）および違法性の抗弁、ならびに義務不履行訴訟を中心に解説する。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
14	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』第4章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU司法（四） 取消訴訟（先決付託手続きとの関係を含む）および違法性の抗弁、ならびに義務不履行訴訟を中心に解説する。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
15	事前学習	教科書『はじめてのEU法』および『新EU法基礎篇』の学習部分を再読する。（2時間）
	授業内容	総括と質疑
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容全体について復習する。（2時間）

科目名	外国法A(EU)Ⅱ	担当者	庄司 克宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	超国家的な法秩序を構成するEUの憲法について、統治機構および基本的人権の観点から授業を行う。				
授業目的・到達目標	超国家的な法秩序を構成するEUの憲法について、統治機構および基本的人権の観点から知識を修得することを目的とする。EU法秩序がいかなる原則に基づき成立しているのかを、EU司法裁判所の判例法から理解し、説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 6 経営法学科1, 2, 6				
履修条件	とくになし。				
授業方法	教科書2冊を毎回使用するので必ず持参すること。また、ポータルシステムを通じて授業用のハンドアウトを配布するので、それも毎回持参すること。時間が許せば、担当者が出演したEU関連報道番組の収録ビデオを鑑賞する。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	EU法の基礎知識が理解できているかを判定する。教科書、ノート、ハンドアウトの持込可で行う。それらにより基本的な事項を理解しておくこと。	
	平常評価		0%		
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2013年	岩波書店		新EU法基礎篇	庄司克宏
	2015年	有斐閣		はじめてのEU法	庄司克宏
	備考				
参考書	『新EU法 政策篇』庄司克宏、岩波書店、2014年 『欧州連合 統治の論理とゆくえ』庄司克宏、岩波書店、2007年（2016年第10刷）				
オフィスアワー	火曜授業の前後に授業講堂にて、質問、相談を受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書『はじめてのEU法』第2回を再読する。（2時間）
	授業内容	EU法の直接効果の概念について再確認する。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
2	事前学習	教科書『はじめてのEU法』第3回を再読する。（2時間）
	授業内容	EU法の国内法に対する優越性について再確認する。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
3	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』第6章、『はじめてのEU法』第2回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU法の直接効果と優越性（一） EU法秩序を確立した判例法として、直接効果に関するVan Gend en Loos判決および優越性に関するCosta v ENEL判決を紹介した後、EU法の直接効果の定義および要件を踏まえて、とくに「指令」の直接効果について解説する。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
4	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』第6章、『はじめてのEU法』第2回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU法の直接効果と優越性（二） EU法秩序を確立した判例法として、直接効果に関するVan Gend en Loos判決および優越性に関するCosta v ENEL判決を紹介した後、EU法の直接効果の定義および要件を踏まえて、とくに「指令」の直接効果について解説する。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）

5	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』第7章、『はじめてのEU法』第3回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU法の直接効果と優越性（三） とくに「指令」の直接効果以外の効果（国内裁判所の適合解釈義務、抵触国内法の適用排除義務、加盟国の損害賠償責任）について解説する。また、EU法の優越性の範囲と国民の一体性条項について解説する。その際、立憲的多元主義についても触れる。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
6	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』第7章、『はじめてのEU法』第3回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU法の直接効果と優越性（四） とくに「指令」の直接効果以外の効果（国内裁判所の適合解釈義務、抵触国内法の適用排除義務、加盟国の損害賠償責任）について解説する。また、EU法の優越性の範囲と国民の一体性条項について解説する。その際、立憲的多元主義についても触れる。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
7	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』第8章を通読する。（2時間）
	授業内容	EU法上の権利に対する国内的救済—加盟国の手続的自律性（一） 直接効果を有し、かつ国内法に優越するEU法規定に基づく権利が私人に付与されたとしても、その侵害に対する救済は国内裁判所において国内法に依拠して行われる。それは加盟国の手続的自律性と呼ばれる。その内容および範囲について理論的に解説する。とくに根拠および定義、要件としての同等性および実効性に焦点を当てる。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
8	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』第8章を通読する。（2時間）
	授業内容	EU法上の権利に対する国内的救済—加盟国の手続的自律性（二） 直接効果を有し、かつ国内法に優越するEU法規定に基づく権利が私人に付与されたとしても、その侵害に対する救済は国内裁判所において国内法に依拠して行われる。それは加盟国の手続的自律性と呼ばれる。その内容および範囲について理論的に解説する。とくに根拠および定義、要件としての同等性および実効性に焦点を当てる。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
9	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』第9章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU法の下における基本的人権の保護（一） EU司法裁判所が基本権保護に関する判例法をどのように形成してきたのか、また、基本権に関する審査権の範囲はどこまで及ぶのかについて概観した後、EU基本権憲章および欧州人権条約の位置づけについて解説する。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
10	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』第9章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU法の下における基本的人権の保護（二） EU司法裁判所が基本権保護に関する判例法をどのように形成してきたのか、また、基本権に関する審査権の範囲はどこまで及ぶのかについて概観した後、EU基本権憲章および欧州人権条約の位置づけについて解説する。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
11	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』第9章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU法の下における基本的人権の保護（三） EUの欧州人権条約加入問題の現状と課題について、EU司法裁判所の判例法を中心に検討する
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
12	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』第9章、『はじめてのEU法』第15回を通読する。（2時間）
	授業内容	EU法の下における基本的人権の保護（四） EUの欧州人権条約加入問題の現状と課題について、EU司法裁判所の判例法を中心に検討する
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
13	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』第10章を通読する。（2時間）
	授業内容	EU脱退手続と権利停止手続（一） Brexitとポーランド・ハンガリー問題
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
14	事前学習	教科書『新EU法基礎篇』第10章を通読する。（2時間）
	授業内容	EU脱退手続と権利停止手続（二） Brexitとポーランド・ハンガリー問題
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
15	事前学習	教科書『はじめてのEU法』および『新EU法基礎篇』の学習部分を再読する。（2時間）
	授業内容	総括と質疑
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容全体について復習する。（2時間）

科目名	外国法A(英米) I	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	アメリカでは、連邦も各州も憲法を有し、立法府、行政府、司法府が、連邦と各州にそれぞれ存在する。この状況においては、立法府の規制権や司法府の裁判管轄権の範囲が連邦と州との間で競合することが多々ある。本授業では、そのような競合を示した合衆国最高裁の判例の法的争点と法理について基本的な知識を養成する。			
授業目的・到達目標	目的：(1) 合衆国憲法下における連邦と州の二重構造とそこから生じる法的争点と法理を理解し、説明できるようになることを目的とする。(2) 英米法に属する人々のリーガル・マインド（法的思考）を理解し、説明できるようになることを目的とする。 到達目標：(1) 合衆国憲法の内容を判例に言及して説明できるようになる。(2) 判例から法的争点と法理を抽出できるようになる。(3) 英米法の法律専門用語を原文（英文）で理解しその意味を日本語で説明できるようになる。関連DP及びCP：法律学科1,6；経営法学科1,2,6.			
履修条件	・積極的に授業でのディスカッションに参加すること。			
授業方法	講義を主体として進めて行くが、配布する資料と判例を充分予習して授業ディスカッションに参加することを望む。授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業での発言と授業内試験の結果を総合的に評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2006	敬文堂	『アメリカ法総論』	山岡永知
	1989	国際書院	『対訳アメリカ合衆国憲法』	北脇敏一・山岡永知（共訳）
	備考			
参考書	『英米判例百選[第三版]』別冊ジュリスト、No. 139、有斐閣（1996）；『アメリカ法判例百選』別冊ジュリスト、No. 213、有斐閣（2012）；『英米法辞典』東京大学出版会（1991）			
オフィスアワー	日時：水曜日12:30-13:00 場所：9号館1階ロビー 備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	アメリカ合衆国の概要を調べ授業に臨む。また、大陸法系と英米法系の法制度にみられるそれぞれの特徴の相違が現代の私たちの生活に与える影響について考えをまとめておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：英米法・アメリカ合衆国概要 (1) アメリカ合衆国 (The United States of America) の概要（人口、人種構成、使用言語、法律問題、政治問題、経済問題、等）(2) 英米法 (Common Law) と大陸法 (Civil Law) の比較 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
2	事前学習	アメリカ合衆国憲法1条8節1項～18項および修正10条の条文を読み、連邦議会の規制権の対象と州の規制権の範囲を学習し考えをまとめておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：アメリカ合衆国の連邦制度 (1) アメリカ連邦政府誕生の史的背景 (2) アメリカ連邦制度における連邦の権限 (3) アメリカ連邦制度における州の権限 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
3	事前学習	アメリカ法の法源とその分類の仕方について学習し考えをまとめておく。アメリカの連邦と州の裁判制度について学習し考えをまとめておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：アメリカの法と裁判制度 (1) アメリカ法の法源（コモンロー、エクイティー、制定法、リステイトメント）(2) アメリカ法の分類（連邦法と州法、公法と私法、民法と商法、手続法と実体法）(3) アメリカ裁判制度概観 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)

4	事前学習	アメリカ合衆国憲法1条～3条を読み、違憲立法審査権を定める条文の有無を確認しておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：アメリカ合衆国憲法と三権分立（Separation of Powers） （1）立法府と行政府の間にみる抑制と均衡（2）行政府と司法院の間にみる抑制と均衡（3）司法院と立法府の間にみる抑制と均衡 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
5	事前学習	前回の授業で配布された判例（Marbury v. Madison）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：連邦司法院の連邦議会に対する違憲立法審査権 （1）連邦司法院の違憲立法審査権とその根拠（2）判例研究：Marbury v. Madison 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
6	事前学習	前回の授業で配布された判例（Fletcher v. Peck; Martin v. Hunter’ s Lessee）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：連邦司法院の州議会または州最高裁判決に対する違憲立法審査権 （1）判例研究：Fletcher v. Peck（2）判例研究：Martin v. Hunter’ s Lessee 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
7	事前学習	前回の授業で配布された判例（McCulloch v. Maryland）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：「必要かつ適當条項」に基づく連邦議会の立法権 （1）合衆国憲法1条8節18項（「必要かつ適當条項」）（2）判例研究：McCulloch v. Maryland 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
8	事前学習	前回の授業で配布された判例（Gibbons v. Ogden）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権I （1）合衆国憲法1条8節3項（「州際通商条項」）（2）合衆国憲法修正10条（「留保条項」）との関係 （3）判例研究：Gibbons v. Ogden 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
9	事前学習	前回の授業で配布された判例（Wickard v. Filburn; Cooley v. Board of Wrdens; Southern Pacific Co. v. Arizona）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権II （1）判例研究：Wickard v. Filburn（2）判例研究：Cooley v. Board of Wrdens（3）判例研究：Southern Pacific Co. v. Arizona 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
10	事前学習	前回の授業で配布された判例（Garcia v. San Antonio Metropolitan Transit Authority）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：「州際通商条項」に基づく連邦議会の立法権III （1）判例研究：Garcia v. San Antonio Metropolitan Transit Authority（2）「州際通商条項」に関する判例の流れとまとめ 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
11	事前学習	前回の授業で配布された判例（London Tramways Co. v. London County Council）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。また、配布資料（Practice Statement [1966]）を読み、イギリスの判例法主義についてまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：判例法主義I （1）イギリスの先例拘束性（2）判例研究：London Tramways Co. v. London County Council（3）Practice Statement [1966]による修正 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
12	事前学習	前回の授業で配布された判例（Flood v. Kuhn; Roe v. Wade; Planned Parenthood v. Casey）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：判例法主義II （1）アメリカの先例拘束性（2）判例研究：Flood v. Kuhn; Roe v. Wade; Planned Parenthood v. Casey 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
13	事前学習	前回の授業で配布された判例（Swift v. Tyson; Erie Railroad Co. v. Tompkins）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：連邦裁判所で適用される州法I （1）「エリー法理」の確立（2）判例研究：Swift v. Tyson（3）判例研究：Erie Railroad Co. v. Tompkins 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)

14	事前学習	前回の講義までに配布された判例の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。（3時間）
	授業内容	これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行う。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。（1時間）
15	事前学習	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事件の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。（3時間）
	授業内容	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。（1時間）

科目名	外国法A(英米) I	担当者	西山 敏夫	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単 位 数	2
-----	------------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-------	---

授業概要	本講義では、アメリカ憲法の出発点であり、その基礎となっている「連邦と州の関係」に焦点を当て、連邦の管轄の限界について検討する。 次いで、重要ではあるが誤解しやすい「違憲立法審査権」「デュー・プロセス」「大統領の権限」について判例をベースに正確な理解を目指す。 連邦制国家であるアメリカ憲法の「誤解しやすい点」をわかりやすく解説する。				
授業目的・到達目標	アメリカ憲法の本質および特殊性を理解、修得することを目的とする。 (1)連邦制国家であるアメリカ合衆国の法制度を合衆国憲法の条文、判例に遡って検証し、 (2)合衆国憲法という切り口からアメリカの社会、政治体制の特徴、発展、問題点を抽出し分析することを通して、アメリカ憲法の動態を受講生が説明できるようになることを目標とする。 関連DPおよびCP: 法律学科1, 6 経営法学科1, 2, 6				
履修条件	特になし。				
授業方法	事前に配布するレジメに基づき講義形式で説明した後、「アメリカ法判例百選」をベースにディスカッションを行なう。適宜、英文資料を配布する。 定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種 別		割 合	評 価 方 法	
	定 期 試 験		80%	講義で説明した判例の法的争点と法理を理解して説明できるようになったか。また、英米法特有の専門用語を理解して説明出来るようになったかを判定する。	
	平 常 評 価		20%	授業内で合計2回、10分程度の「クイズ」を行う。内容は、英文主要法律単語の邦訳。	
教科書	年	出版社	書 名		著 者 名
	2012年	有斐閣	アメリカ法判例百選		樋口範雄他編
	2018年	有斐閣	アメリカ憲法入門(第8版)		松井茂記
	備考				
参 考 書	「リーガル・マキシム」吉原、松嶋、西山編、三修社、2013年				
オフィスアワー	質問・相談は、以下のメール・アドレスに。 「nishtos@icloud.com」 また、水曜日:13.30-14.40 授業講堂にて質問、相談を受ける(事前にメールでアポイントを取得すること)。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前に配布するレジメを読み、英米法系と大陸法系の差異について自分なりのイメージを構成しておく(2時間)
	授業内容	アメリカ法の特徴： 英米法の別名であるコモン・ローの本質をその起源をたどることによって理解する 続いて、大陸法系と英米法系の法システムを比較し、それぞれの特徴を理解する
	事後学習	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する(2時間)
2	事前学習	事前に配布するレジメを読み、イギリス法とアメリカ法の共通点および差異について自分なりのイメージを構成しておく(2時間)
	授業内容	イギリス法とアメリカ法： アメリカとイギリスの政治体制、判例法主義の相違点を理解する
	事後学習	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する(2時間)
3	事前学習	事前に配布するレジメを読み、「連邦制」とは何かについて考えておく(2時間)
	授業内容	合衆国憲法の成立と連邦政府の誕生： 連邦政府誕生の史的背景について概観し、州が一般的な権限を留保し、連邦が限定的な権限を州から委譲されているアメリカの連邦制度を理解する
	事後学習	「州」の重要性という観点から、授業内容を整理する(2時間)
4	事前学習	事前に配布するレジメを読み、アメリカと日本の三権分立がどこまで類似し、どこが違うか考えておく(2時間)
	授業内容	合衆国憲法の特徴と三権分立：アメリカ合衆国憲法の条文を参照しながら、連邦政府の立法部、執行部、司法部の「抑制と均衡 (Checks and Balances)を確認する
	事後学習	授業内容、レジメをベースに類似点、相違点を整理する(2時間)

5	事前学習	事前に配布するレジメを読み、連邦と州の司法制度の併存に由来する問題点を考察しておく(2時間) また、連邦の裁判制度が厳密な「三審制」なのかについて考えておく
	授業内容	司法権の役割と司法制度； 連邦の司法制度と州の司法制度の概要を整理する 連邦司法部の権限と限界について検証する 連邦最高裁の役割について考察する
	事後学習	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する(2時間)
6	事前学習	判例百選# 1、Marbury v. Madisonならびに別途配布する英文資料ーを予習しておく(2時間)
	授業内容	違憲立法審査権とマーベリー判決； 違憲立法審査権の根拠となったMarbury v. Madison 判決を精読し、その論理構成を検証する
	事後学習	違憲立法審査権の根拠を探究するとともにMarbury v. Madison 判決の問題点を理解する(2時間)
7	事前学習	判例百選#2；Fletcher v. Peck, 同#11;McCulloch v. Maryland の2ケースを予習のこと(2時間)
	授業内容	連邦と州；①権限の配分、管轄； 連邦と州の権限配分における重要判例を検討し理解する。また、連邦権限拡大の根拠となった憲法条文を確認する
	事後学習	判例の争点、判旨を整理し、理解する(2時間)
8	事前学習	判例百選#13;Gibbons v. Ogden、同# 1 4；Wickard v. Filburn他、同# 1 5；Heart of Atlanta Motel v. U.S., 同# 1 6；Obama Care の4 ケースを予習のこと(2時間)
	授業内容	連邦と州；②州際通商条項； 本来連邦には予定されていなかった連邦権限の経済、社会分野への拡大について判例をベースに理解する。
	事後学習	判例の争点、判旨を整理し理解する 通商条項が連邦の権限拡大に如何に貢献したかを理解する(2時間)
9	事前学習	前回の州際通商の判例、事前に配布するレジメを読み、ニュー・ディール政策がどのような憲法上の問題を含んでいたかを考えておく(2時間)
	授業内容	ニュー・ディールと憲法革命； 大恐慌により危機に陥った国を救うため連邦政府は憲法を超えたニューディール政策を実行した。 この「憲法違反」について最高裁がどう対応したかを検証する
	事後学習	憲法改正手続きによらない、いわゆる「憲法革命」の内容を理解する(2時間)
10	事前学習	事前に配布するレジメを読み、「執行権」とは何かについて考えておく 判例百選# 8；U.S. v. NixonおよびINS v. Chadha Case(別途コピー配布)を予習しておく(2時間)
	授業内容	大統領（執行権）の役割①； 三権分立における執行権の定義、行政権との違いを確認する 連邦議会、司法との関係を検証する
	事後学習	大統領の権限の範囲、限界について整理、理解する(2時間)
11	事前学習	判例百選# 3 8；Korematsu v. U.S., 同# 7；Hamdan v. Rumsfeldを予習しておく(2時間)
	授業内容	大統領（執行権）の役割②：大統領の戦時権限について、Korematsu Case, Ramdan v. Rumsfeld Caseをベースに検証する。
	事後学習	非常時における大統領の権限について整理、理解する(2時間)
12	事前学習	事前に配布するレジメを読み、「デュー・プロセス」の概要を把握しておく 判例百選# 1 0；Goldberg v. Kelly, 同# 4 4；Lochner v. New Yorkを予習しておく(2時間)
	授業内容	デュー・プロセス；①Lockner判決； 人権の基本的規定であるデュー・プロセス条項の役割を理解する 手続的デュー・プロセスと実体的デュー・プロセスの違いを確認する 自由経済を支えたLochner 判決の意義を検討する。
	事後学習	デュー・プロセスが人権保護に果たした広範な役割について整理、理解する(2時間)
13	事前学習	判例百選# 4 7；Roe v. Wade, 同# 4 8；Planned Parenthood v. Caseyを予習しておく(2時間)
	授業内容	デュー・プロセス；②Lockner時代の終焉； ニュー・ディール期以降の判例の変更を検証する また、1970年代以降の、デュー・プロセスの復活について、プライバシーの権利に焦点を当てフォローする
	事後学習	実体的デュー・プロセスについて整理、理解する(2時間)
14	事前学習	事前に配布するレジメを読み、連邦最高裁判決の流れを把握しておく(2時間)
	授業内容	連邦最高裁の動向； 1950年代のウォーレン・コートから現在のロバーツ・コートに至る連邦最高裁の変遷を概観する
	事後学習	連邦最高裁がアメリカ社会において果たしてきた大きな役割について整理、理解する(2時間)
15	事前学習	春学期に学習した判例、レジメを整理し、疑問点を抽出する(2時間)
	授業内容	まとめおよび期末試験
	事後学習	期末試験の内容につき、ポータルサイトにて配信する解説を参照して、検証、復習する(2時間)

科目名	外国法A(英米)Ⅱ	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業では、アメリカ合衆国の司法制度と合衆国憲法に基づく基本的人権を扱った判例から抽出される法的争点と法理について基本的な知識を養成する。				
授業目的・到達目標	目的：(1) 合衆国憲法下における連邦と州の二重構造とそこから生じる法的争点と法理を理解し、説明できるようになることを目的とする。(2) 英米法に属する人々のリーガル・マインド（法的思考）を理解し、説明できるようになることを目的とする。 到達目標：(1) 合衆国憲法の内容を判例に言及して説明できるようになる。(2) 判例から法的争点と法理を抽出できるようになる。(3) 英米法の法律専門用語を原文（英文）で理解しその意味を日本語で説明できるようになる。関連DP及びCP：法律学科1,6；経営法学科1,2,6.				
履修条件	・積極的に授業でのディスカッションに参加すること。				
授業方法	講義を主体として進めて行くが、配布する資料と判例を充分予習して授業ディスカッションに参加することを望む。授業内試験のフィードバックは授業内試験当日に行う出題の趣旨と評価ポイントに関する解説をとおして行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業での発言と前期と後期の終わりに行う授業内試験の結果を総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2006	敬文堂		『アメリカ法総論』	山岡永知
	1989	国際書院		『対訳アメリカ合衆国憲法』	北脇敏一・山岡永知（共訳）
	備考				
参考書	『英米判例百選[第三版]』別冊ジュリスト、No. 139、有斐閣（1996）；『アメリカ法判例百選』別冊ジュリスト、No. 213、有斐閣（2012）；『英米法辞典』東京大学出版会（1991）				
オフィスアワー	日時：水曜日12:30-13:00 場所：9号館1階ロビー 備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	アメリカ合衆国の概要を調べ授業に臨む。また、大陸法系と英米法系の裁判制度にみられるそれぞれの特徴について法学部の図書館の書籍及びデータベースを使用して調べその相違点について自分なりの考えをまとめておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：連邦と州の裁判制度 (1) 連邦の裁判制度 (2) 州の裁判制度 (3) 裁判所の選択 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
2	事前学習	合衆国憲法3条を読み、連邦司法府の事物的管轄権の範囲を学習する。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：連邦と州の事物的管轄権 (1) 連邦裁判所の事物的管轄権 (2) 州裁判所の事物的管轄権 (3) 競合的事物的管轄権 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
3	事前学習	前回の授業で配布された判例（Pennoyer v. Neff; International Shoe Co. v. Washington; Shaffer v. Heitner）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：人的管轄権の拡張 (1) 判例研究：Pennoyer v. Neff (2) 判例研究：International Shoe Co. v. Washington (3) 判例研究：Shaffer v. Heitner 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)

4	事前学習	前回の授業で配布された判例（Sherrer v. Sherrer; Williams v. North Carolina）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。（2時間）
	授業内容	テーマ：州と州の関係 （1）他州判決の承認と執行（2）判例研究：Sherrer v. Sherrer（3）判例研究：Williams v. North Carolina 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
5	事前学習	前回の授業で配布された判例（Babcock v. Jackson）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。（2時間）
	授業内容	テーマ：裁判所における実体準拠法の選択基準 （1）契約法の準拠法の選択基準（2）不法行為法の準拠法の選択基準（3）判例研究：Babcock v. Jackson 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
6	事前学習	合衆国憲法修正6条および7条を読み、連邦が刑事事件または民事事件で保障する陪審制度を学習しまとめておく。前回の授業で配布された判例（Curtis v. Loether）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。（2時間）
	授業内容	テーマ：陪審制度I （1）連邦と州の刑事および民事陪審制度の相関関係（2）民事陪審制度におけるコモンローとエクイティーの救済（3）判例研究：Curtis v. Loether 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
7	事前学習	前回の授業で配布された判例（Apodaca v. Oregon; J.E.B. v. Alabama ex rel. TB; Williams v. Florida）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。（2時間）
	授業内容	テーマ：陪審制度II （1）判例研究：Apodaca v. Oregon（2）判例研究：J.E.B. v. Alabama ex rel. TB（3）判例研究：Williams v. Florida 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
8	事前学習	前回の授業で配布された判例（Lemon v. Kurtzman; Wisconsin v. Yoder）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。（2時間）
	授業内容	テーマ：政教分離 （1）判例研究：Lemon v. Kurtzman（2）判例研究：Wisconsin v. Yoder 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
9	事前学習	前回の授業で配布された判例（Schenck v. United States; New York Times Co. v. United States）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。（2時間）
	授業内容	テーマ：言論・出版の自由I （1）言論・出版の自由（2）判例研究：Schenck v. United States（3）判例研究：New York Times Co. v. United States 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
10	事前学習	前回の授業で配布された判例（Miller v. California; New York Times Co. v. Sullivan; Texas v. Johnson）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。（2時間）
	授業内容	テーマ：言論・出版の自由II （1）判例研究：Miller v. California（2）判例研究：New York Times Co. v. Sullivan（3）判例研究：Texas v. Johnson 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
11	事前学習	前回の授業で配布された判例（Dred Scott Case; Plessy v. Ferguson; Korematsu v. United States）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。（2時間）
	授業内容	テーマ：平等権I （1）判例研究：Dred Scott Case（2）判例研究：Plessy v. Ferguson（3）判例研究：Korematsu v. United States 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
12	事前学習	前回の授業で配布された判例（Shelley v. Kraemer; Brown v. Board of Education of Topeka; Moose Lodge No. 107 v. Irvis）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。（2時間）
	授業内容	テーマ：平等権II （1）判例研究：Shelley v. Kraemer（2）判例研究：Brown v. Board of Education of Topeka（3）判例研究：Moose Lodge No. 107 v. Irvis 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
13	事前学習	前回の授業で配布された判例（Regents of the University of California v. Bakke; Phillips v. Martin Marietta Corp.; Missouri v. Jenkins）を読み、法的争点と法理を抽出しまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。（2時間）
	授業内容	テーマ：平等権III （1）判例研究：Regents of the University of California v. Bakke（2）判例研究：Phillips v. Martin Marietta Corp.（3）判例研究：Missouri v. Jenkins 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）

14	事前学習	前回の講義までに配布された判例の流れをまとめ各事件の法的争点と法理を確認し、質問があれば授業中に発言する準備をしておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。（3時間）
	授業内容	これまでの講義の内容のまとめと質疑応答を行う。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。（1時間）
15	事前学習	前回の授業での講義内容のまとめと質疑応答を踏まえて、講義で触れた各事件の法的争点と法理を確認し、授業内試験の準備をする。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。（3時間）
	授業内容	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。（1時間）

科目名	外国法A(英米)Ⅱ	担当者	西山 敏夫	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	本学期（後期）は合衆国における、司法制度、訴訟手続、並びに人権問題について考察する。人権に関する憲法上の問題を取り扱う上で重要なのは、「連邦法と州法の関係」及び「デュー・プロセス」である。これらを手掛かりに、人種差別、性と婚姻の自由、銃器規制等を検証する。また、表現の自由、信教の自由等についても検証する。これらの判例を分析しながら、アメリカの社会、道徳について最高裁が果たす役割について考察する。				
授業目的・到達目標	アメリカ憲法の本質及び特殊性を、基本的人権に焦点を当て、理解、修得することを目的とする。 （１）連邦制の国であるアメリカにおける基本的権利を連邦憲法の条文に基づいて検証し （２）リーディング・ケースを少なくとも20以上読み分析、理解することにより 「連邦憲法」の切り口からアメリカの社会、政治体制についての特徴、問題点を受講者が具体的に説明できるようになることを目標とする。 関連DPおよびCP： 法律学科 1， 6 経営法学科 1， 2， 6				
履修条件	特になし。				
授業方法	事前に配布するレジメに基づき講義形式で説明した後、「アメリカ法判例百選」をベースにディスカッションを行なう。適宜、英文資料を配布する。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	講義で説明した判例の法的争点と法理を理解して説明できるようになったか。また、英米法特有の専門用語を理解して説明出来るようになったかを判定する。	
	平常評価		20%	授業内で合計2回、10分程度の「クイズ」を行う。内容は、法律専門英単語の邦訳。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2012年	有斐閣	アメリカ法判例百選		樋口範雄他編
	2018年	有斐閣	アメリカ憲法入門（第8版）		松井茂記
	備考				
参考書	「リーガル・マキシム」 吉原、松嶋、西山編、三修社、2013年				
オフィスアワー	質問・相談は、以下のメール・アドレスに。 「nishtos@icloud.com」 また、水曜日:13.30-14.40 授業講堂にて質問、相談を受ける(事前にメールでアポイントを取得すること)。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前に配布するレジメを読み、アメリカの司法制度のイメージをつかんでおく アメリカ法判例百選#76、International Shoe Caseを予習しておく(2時間)
	授業内容	アメリカの司法制度；裁判所と管轄、および連邦裁判所、州裁判所の併存、管轄、機能について確認する
	事後学習	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する(2時間)
2	事前学習	事前に配布するレジメを読み、アメリカの訴訟手続について自分なりのイメージを構成しておく アメリカ法判例百選#71、Matsushita Eletric v. Zenithを予習しておく(2時間)
	授業内容	訴訟制度；アメリカにおける民事訴訟手続の概要を当事者主義の観点から考察する
	事後学習	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する(2時間)
3	事前学習	事前に配布するレジメを読み、本邦の裁判員制度とアメリカの陪審制度を対比して共通点、相違点を考えておく アメリカ法判例百選#62、Apodaca v. Oregon, 同#63、Batson v. kentuckyを予習しておく(2時間)
	授業内容	陪審制度；陪審の歴史とアメリカにおける重要性を確認する
	事後学習	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する(2時間)
4	事前学習	アメリカ憲法と人権の関係について考えておく アメリカ法判例百選#43、Slaughter Caseを予習しておく(2時間)
	授業内容	基本的権利；アメリカ憲法における人権規定の根拠を検証する
	事後学習	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する(2時間)

5	事前学習	事前に配布するレジメを読み、人権に関する重要な包括規定であるデュー・プロセスについて復習しておく アメリカ法判例百選＃47、Roe v. Wadeを予習しておく(2時間)
	授業内容	デュー・プロセスとプライバシー；デュー・プロセス条項が人権擁護に果たす役割、並びに実体的デュー・プロセスの応用であるプライバシーの考え方と妊娠中絶事件の関係を検証する
	事後学習	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する(2時間)
6	事前学習	事前に配布するレジメを読み、三つの審査基準につき一応の理解をしておく アメリカ法判例百選＃22、Calorene Products、同＃38、Korematsu Caseを予習しておく(2時間)
	授業内容	平等条項と審査基準；修正14条の平等条項適用に当たり、厳格審査をはじめとする三つの判断基準について考察する
	事後学習	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する(2時間)
7	事前学習	事前に配布するレジメを読み、人種差別問題とは何かについて考えておく。 アメリカ法判例百選＃37、Plessy v. Ferguson , 同＃39, Brown v. Board of Educationsを予習しておく(2時間)
	授業内容	人種差別① Brown 判決とそれ以前； 従来の判例とブラウン判決を比較し、ブラウン判決の画期性を確認する
	事後学習	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する(2時間)
8	事前学習	事前に配布するレジメを読み、ブラウン判決以降の発展について概要を把握しておく。 アメリカ法判例百選＃41、Grutter v. Bolinger, 同＃42、Parents in Seattle Caseを予習しておく(2時間)
	授業内容	人種差別②；Brown 判決以降； 主に「逆差別」の問題について検証する
	事後学習	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する(2時間)
9	事前学習	事前に配布するレジメを読み、アメリカ社会における「表現の自由」問題の複雑性について考えておく アメリカ法判例百選＃30、Schenck Case, 同＃34、New york times v. Sullivanを予習しておく(2時間)
	授業内容	表現の自由； 憲法上、最も多岐にわたり体系化が困難と言われる修正1条の問題を概観する
	事後学習	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する(2時間)
10	事前学習	事前に配布するレジメを読み、多民族、多宗教社会であるアメリカにおける信教の自由とは何かについて考えておく アメリカ法判例百選＃27、Lemon Case, 同＃29、Smith Caseを予習しておく(2時間)
	授業内容	信教の自由；修正1条の政教分離と信教の自由について検証する
	事後学習	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する(2時間)
11	事前学習	事前に配布するレジメを読み、性差別、同性婚問題について考えておく アメリカ法判例百選＃40、Frontiero v. Richadson, 同＃50、Lawrence v. Texasを予習しておく(2時間)
	授業内容	性と婚姻の自由；女性、同性愛者への性差別、同性婚問題を検証する
	事後学習	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する(2時間)
12	事前学習	事前に配布するレジメを読み、アメリカにおける銃器規制問題について問題点を考えておく アメリカ法判例百選＃52、Heller Caeeを予習しておく(2時間)
	授業内容	銃器規制問題；賛成、反対両論の憲法上の根拠を検証する
	事後学習	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する(2時間)
13	事前学習	事前に配布するレジメを読み、第二次大戦後の最高裁の動向につき概要を把握しておく(2時間)
	授業内容	連邦最高裁の動向①；1950年代のWarrenコートからRehnquistコートに至る連邦最高裁の歴史を概観する
	事後学習	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する(2時間)
14	事前学習	事前に配布する英文資料を読み、アメリカ社会において連邦最高裁が果たす重要な役割を理解しておく(2時間)
	授業内容	連邦最高裁の動向②；現在のRobertsコートの構成、スタンス、今後の行方について考察する
	事後学習	授業内容、レジメをベースにポイントを整理する(2時間)
15	事前学習	秋学期に学習したレジメを復習し、論点、判旨、疑問点を整理しておく(2時間)
	授業内容	まとめと期末試験
	事後学習	期末試験の内容につき、ポータルサイトにて発信する解説を参照して、検証、復習する(2時間)

科目名	外国法A(独) I	担当者	玉蟲 由樹	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義は、ドイツの公法学（とりわけドイツ憲法学）に関する知見について講義するとともに、日本の公法学との異同や影響にも注目して論じるものである。 とくにドイツの基本権論および国家組織論の特徴的思考を、学説および裁判所判例から明らかにする。具体的には、基本権論の領域での三段階審査論，基本権保護義務論，国家組織論領域での憲法裁判制などに重点を置く。				
授業目的・到達目標	本講義では、ドイツ公法（憲法・行政法）に関する理論・実践を学び、ドイツ公法の特徴を理解することを目的とする。日本の憲法学・行政法学においては、近年、とくにドイツ公法学からの影響が多く見られるようになっている。そこで、本講義では、こうした点に配慮しつつ、比較法学的な検証も行い、日本法への示唆をも得る。 ドイツ基本権論および国家組織論の展開および到達点を検証し、その独自性を理解するとともに、比較法的視点から日本法への示唆を得られるようにすることが目標となる。関連DP及びCP：法律学科1，6 経営法学科1，2，6				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式で行う。配布資料を準備すること。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		100%		講義の理解，論証のプロセス等を総合的に判断する。
	平常評価				
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判例』Ⅰ～Ⅳ 信山社，村上・守矢・マルチュケ著『ドイツ法入門』（改訂第8版）有斐閣，初宿正典訳『ドイツ連邦共和国基本法』信山社				
オフィスアワー	月曜13：00～14：30 金曜13：00～14：30 事前にメール等で連絡をすること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス（講義内容の説明，資料等の取扱いなど）
	事後学習	配布資料によく目を通しておくこと。（2時間）
2	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	ドイツ基本権論概説（1）
	事後学習	ドイツにおける基本権の展開について復習しておくこと。（2時間）
3	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	ドイツ基本権論概説（2）
	事後学習	ドイツにおける基本権の性格について復習しておくこと。（2時間）
4	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	ドイツ基本権論の特徴（1）基本権の保障
	事後学習	基本法下での基本権の保障形態について復習しておくこと。（2時間）

5	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	ドイツ基本権論の特徴（2）基本権の制限と正当化
	事後学習	基本権制限についての原則的な考え方を復習しておくこと。（2時間）
6	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	三段階審査と比例原則（1）基本図式
	事後学習	三段階審査の基本図式を復習しておくこと。（2時間）
7	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	三段階審査と比例原則（2）審査尺度・審査密度
	事後学習	審査密度の決定について復習しておくこと。（2時間）
8	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	三段階審査と比例原則（3）具体例とバリエーション
	事後学習	さまざまな具体例について整理・復習しておくこと。（2時間）
9	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	基本権の客観法的理解と基本権保護義務論（1）リュート判決
	事後学習	リュート判決の意義と内容について復習しておくこと。（2時間）
10	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	基本権の客観法的理解と基本権保護義務論（2）第1次堕胎判決
	事後学習	第1次堕胎判決の構造と基本権保護の構想について復習しておくこと。（2時間）
11	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	基本権の客観法的理解と基本権保護義務論（3）その後の展開
	事後学習	基本権保護義務論の展開について復習しておくこと。（2時間）
12	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	自由と安全をめぐる（1）航空安全法判決
	事後学習	航空安全法判決の意義と内容について復習しておくこと。（2時間）
13	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	自由と安全をめぐる（2）ラスター捜査決定
	事後学習	ラスター捜査決定の意義と内容について復習しておくこと。（2時間）
14	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	社会的法治国家と最低限度の生存（1）歴史的状況
	事後学習	社会的基本権の位置づけについて復習しておくこと。（2時間）
15	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	社会的法治国家と最低限度の生存（2）ハルツIV判決以降の状況
	事後学習	ハルツIV判決の意義と内容を復習しておくこと。（2時間）

科目名	外国法A(独)Ⅱ	担当者	玉蟲 由樹	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義は、ドイツの公法学（とりわけドイツ憲法学）に関する知見について講義するとともに、日本の公法学との異同や影響にも注目して論じるものである。 とくにドイツの基本権論および国家組織論の特徴的思考を、学説および裁判所判例から明らかにする。具体的には、基本権論の領域での三段階審査論，基本権保護義務論，国家組織論領域での憲法裁判制などに重点を置く。							
授業目的・到達目標	本講義では、ドイツ公法（憲法・行政法）に関する理論・実践を学び、ドイツ公法の特徴を理解することを目的とする。日本の憲法学・行政法学においては、近年、とくにドイツ公法学からの影響が多く見られるようになっている。そこで、本講義では、こうした点に配慮しつつ、比較法学的な検証も行い、日本法への示唆をも得る。 ドイツ基本権論および国家組織論の展開および到達点を検証し、その独自性を理解するとともに、比較法的視点から日本法への示唆を得られるようにすることが目標となる。関連DP及びCP：法律学科1，6 経営法学科1，2，6							
履修条件	特になし。							
授業方法	講義形式で行う。配布資料を準備すること。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		100%		講義の理解，論証のプロセス等を総合的に判断する。			
	平常評価							
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	備考		使用しない					
参考書	ドイツ憲法判例研究会編『ドイツの憲法判例』Ⅰ～Ⅳ 信山社，村上・守矢・マルチュケ著『ドイツ法入門』（改訂第8版）有斐閣，初宿正典訳『ドイツ連邦共和国基本法』信山社							
オフィスアワー	木曜13：00～14：30金曜13：00～14：30 事前にメール等で連絡をすること。							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	ドイツ国家組織論の特徴（1）民主政原理
	事後学習	民主政原理の特徴について復習しておくこと。（2時間）
2	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	ドイツ国家組織論の特徴（2）権力分立原理
	事後学習	権力分立原理の特徴と変容について復習しておくこと。（2時間）
3	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	立法と「法律の留保」
	事後学習	法律の留保に関する基本的な思考を復習しておくこと。（2時間）
4	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	法律の留保と「本質性」理論
	事後学習	カルカー判決と本質性理論について復習しておくこと。（2時間）

5	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	執行権論（1）政府の組織
	事後学習	ドイツの議院内閣制について復習しておくこと。（2時間）
6	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	執行権論（2）執政作用をめぐって
	事後学習	執政（Regierung）の位置づけについて復習しておくこと。（2時間）
7	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	憲法裁判制（1）「法」と「政治」
	事後学習	憲法裁判制と権力分立の関係性を復習しておくこと。（2時間）
8	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	憲法裁判制（2）連邦憲法裁判所の権限と限界
	事後学習	連邦憲法裁判所の権限を整理・復習しておくこと。（2時間）
9	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	憲法裁判制（3）憲法訴訟法の問題
	事後学習	憲法訴訟法の意義と内容について復習しておくこと。（2時間）
10	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	環境国家論（1）国家の環境保護義務
	事後学習	環境保護義務論について復習しておくこと。（2時間）
11	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	環境国家論（2）基本法20a条
	事後学習	基本法20a条の成立と展開について復習しておくこと。（2時間）
12	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	防衛憲法論（1）
	事後学習	国防義務について復習しておくこと。（2時間）
13	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	防衛憲法論（2）
	事後学習	国防義務をめぐる裁判例について整理・復習しておくこと。（2時間）
14	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	憲法保障システム
	事後学習	憲法保障の体制について復習しておくこと。（2時間）
15	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	全体の関連性に留意して、これまでの講義内容をまとめておくこと。（2時間）

科目名	外国法A(仏) I	担当者	兼頭 ゆみ子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	外国法の勉強は、条文の解説に留まらず、それが制定された背景にある歴史、思想、社会を理解することが必要となります。本講義では、フランス法の歴史と現代フランスの基本的法構造を学習します。			
授業目的・到達目標	フランス法の歴史的発展過程と現代の基本的法構造についての基礎知識の習得を目的とする。これらを理解し、日本との主要な違いを説明できることを目標とする。関連DPおよびCP：法律学科1,6 経営法学科：1,2,6			
履修条件	フランスに関心があること。フランス語履修者であれば一層望ましい。			
授業方法	講義形式。資料をポータルシステムにて配信する。試験の講評を後日、同様にポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別		割合	
	定 期 試 験		100%	
	平 常 評 価		0%	
教科書	年		出版社	
			書名	
			著者名	
	備考		使用せず	
参 考 書	滝沢正『フランス法 [第5版] 』（三省堂、2018年）、大山礼子『フランスの政治制度 [改訂版] 』（東信堂、2013年） ベルトラン・マチュー著（訳：植野妙実子・兼頭ゆみ子）『フランスの事後的違憲審査制』（日本評論社、2015年）			
オフィス アワー	本授業に関する質問・相談は、金曜授業の前後に授業講堂にて対応する。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、講義全体を概観する。(2時間)
	授業内容	ガイダンス：講義概要、フランス法学習の意義
	事後学習	自らの学習計画と他の履修科目との関係について検討する。(2時間)
2	事前学習	世界史の大枠を復習しておく。(2時間)
	授業内容	フランス法の歴史（1）古法時代
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認し、歴史に沿った法的構造の変遷をまとめる。(2時間)
3	事前学習	世界史の流れを復習する。(2時間)
	授業内容	フランス法の歴史（2）古法時代—中間法時代
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認し、歴史に沿った法的構造の変遷をまとめる。(2時間)
4	事前学習	世界史（特に近代史）の流れを復習する。(2時間)
	授業内容	フランス法の歴史（3）中間法時代—近代法時代
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認し、歴史に沿った法的構造の変遷をまとめる。(2時間)

5	事前学習	世界史（近代史）の流れを復習する。（2時間）
	授業内容	フランス法の歴史（4）近代法時代
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認し、歴史に沿った法的構造の変遷をまとめる。（2時間）
6	事前学習	資料のフランス憲法の構造を確認する。（2時間）
	授業内容	第五共和制憲法の構造
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認し、フランス憲法と日本憲法の違いについて考察する。（2時間）
7	事前学習	フランス憲法2章および3章を読む。（2時間）
	授業内容	大統領と政府
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認し、大統領と政府の権限について考察する。日本法との違いを考える。（2時間）
8	事前学習	フランス憲法4章および5章を読む。（2時間）
	授業内容	国会
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認し、国会および国会と政府の関係について考察する。日本法との違いを考える。（2時間）
9	事前学習	フランス憲法12章および13章を読む。（2時間）
	授業内容	行政組織・地方自治
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認し、行政組織・地方自治について考察する。日本法との違いを考える。（2時間）
10	事前学習	フランス憲法8章を読む。（2時間）
	授業内容	裁判制度（1）司法裁判所
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認し、裁判制度の概要と司法裁判制度について考察する。日本法との違いを考える。（2時間）
11	事前学習	行政裁判制度とは何かを調べる。（2時間）
	授業内容	裁判制度（2）行政裁判所
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認し、行政裁判制度について考察する。（2時間）
12	事前学習	フランス憲法9章および10章を読む。（2時間）
	授業内容	裁判制度（3）その他の裁判所
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認し、司法・行政裁判所以外の裁判制度について考察する。（2時間）
13	事前学習	フランス憲法7章を読む。（2時間）
	授業内容	裁判制度（4）違憲審査制の発展
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認し、憲法院および違憲審査制度について考察する。（2時間）
14	事前学習	フランス憲法16章を読む。（2時間）
	授業内容	憲法改正・国民投票
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認し、憲法改正・国民投票について考察する。日本法と比較して異同をまとめる。（2時間）
15	事前学習	これまでの配布資料と講義ノートを見直し、フランスの基礎的な構造を考察する。（2時間）
	授業内容	総括
	事後学習	これまでの配布資料と講義ノートを見直し、試験へ向けて準備する。（2時間）

科目名	外国法A(仏)Ⅱ	担当者	兼頭 ゆみ子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	フランス語の法源およびフランス法の一部であり重要な関係を有する法規範（国際法・EU法）との関わりを学習します。後半は、人権保障に関する憲法判例をいくつかとりあげます。				
授業目的・到達目標	フランス法の法源およびフランス法と国際法・EU法との関わりについての基礎知識の習得を目的とする。フランスを取り巻く広義の法構造を説明できることを目標とする。関連DPおよびCP：法律学科1,6 経営法学科：1,2,6				
履修条件	外国法A（仏）Iを履修済であること。あるいは既修者と同等程度にフランスの基本的法構造を理解していること。				
授業方法	講義形式。資料をポータルシステムにて配信する。試験の講評を後日、同様にポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定 期 試 験		100%		講義の理解
	平 常 評 価		0%		
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用せず。			
参 考 書	滝沢正『フランス法〔第5版〕』（三省堂、2018年） フランス憲法判例研究会（編）『フランスの憲法判例I・II』（信山社、2002年、2013年）				
オフィス アワー	本授業に関する質問・相談は、金曜授業の前後に授業講堂にて対応する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、講義全体を概観する。(2時間)
	授業内容	ガイダンス：講義概要
	事後学習	自らの学習計画と他の履修科目との関係について検討する。(2時間)
2	事前学習	日本法の法源について復習しておく。(2時間)
	授業内容	法源（1）国内法
	事後学習	配布資料と講義ノートを見直し、フランス法の法源について考察する。(2時間)
3	事前学習	国際法の基本を調べる。(2時間)
	授業内容	法源（2）国際法の基本
	事後学習	配布資料と講義ノートを見直し、国際法の基礎について考察する。(2時間)
4	事前学習	EUとフランスの関わりを調べる。(2時間)
	授業内容	フランス法とヨーロッパ法（1）EUの歴史
	事後学習	配布資料と講義ノートを見直し、EUの歴史およびEUとフランスの関わりについて考察する。(2時間)

5	事前学習	EUの基本的構造を調べる。(2時間)
	授業内容	フランス法とヨーロッパ法 (2) EUの仕組み
	事後学習	配布資料と講義ノートを見直し、EUの仕組みについて考察する。(2時間)
6	事前学習	EUと加盟国との法的関係について調べる。(2時間)
	授業内容	フランス法とヨーロッパ法 (3) EUと加盟国の関係
	事後学習	配布資料と講義ノートを見直し、EUと加盟国の法的関係について考察する。(2時間)
7	事前学習	フランス憲法6章および15章を読む。(2時間)
	授業内容	フランス法とヨーロッパ法 (4) 憲法と国際規範
	事後学習	配布資料と講義ノートを見直し、フランス憲法における国際規範の位置づけについて考察する。(2時間)
8	事前学習	日本の法曹について考える。(2時間)
	授業内容	法学教育と法曹
	事後学習	配布資料と講義ノートを見直し、フランスにおける法学教育と法曹について考察する。(2時間)
9	事前学習	第5共和国憲法前文、人権宣言、第4共和国憲法前文を読む。(2時間)
	授業内容	フランス憲法における人権保障
	事後学習	配布資料と講義ノートを見直し、フランス憲法における人権保障について考察する。(2時間)
10	事前学習	国際人権法の基本を調べる。(2時間)
	授業内容	国際人権法とフランスの人権保障との関わり
	事後学習	配布資料と講義ノートを見直し、国際人権法とフランスの人権保障の関係について考察する。(2時間)
11	事前学習	日本憲法における平等について復習しておく。フランス憲法の平等規定を探す。(2時間)
	授業内容	人権に関する憲法判例(1) 平等
	事後学習	配布資料と講義ノートを見直し、フランス憲法における平等について考察する。日仏の異同をまとめる。(2時間)
12	事前学習	日本国憲法における思想・良心の自由および信教の自由について復習しておく。(2時間)
	授業内容	人権に関する憲法判例(2) 思想・良心・信教の自由
	事後学習	配布資料と講義ノートを見直し、フランス憲法における思想・良心・宗教の自由について考察する。日仏の異同をまとめる。(2時間)
13	事前学習	日本国憲法における表現の自由について復習しておく。(2時間)
	授業内容	人権に関する憲法判例(3) 表現の自由
	事後学習	配布資料と講義ノートを見直し、フランス憲法における表現の自由について考察する。日仏の異同をまとめる。(2時間)
14	事前学習	環境憲章を読む。(2時間)
	授業内容	人権に関する憲法判例(4) 環境憲章
	事後学習	配布資料と講義ノートを見直し、環境憲章における権利義務について考察する。(2時間)
15	事前学習	これまでの配布資料と講義ノートを見直し、フランスの基礎的な構造を考察する。(2時間)
	授業内容	総括
	事後学習	これまでの配布資料と講義ノートを見直し、試験へ向けて準備する。(2時間)

科目名	外国法B(アジア) I	担当者	徐 瑞静	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	-------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	中国文化圏における台湾（中華民国）、香港、マカオの法制度及び実定法について講義する。台湾法については日本法との関連において、香港法については英国法との関連において、マカオ法についてはポルトガル法との関連において論及する。更に、それらの地域の居住民と中華人民共和国本地居住民との間における交流についても、随時、解説する。					
授業目的・到達目標	隣接科目の履修のために必要となる台湾法、香港法、マカオ法の基礎知識を養成（もしくは育成）することを目的とする。 国際社会で生ずる台湾、香港、マカオに関連する法律関係の規制に接した場合における規律に関する基礎的知識を習得すると共に、日本法と同じ大陸法系に分類される台湾法及びマカオ法、そして、英米法系に分類される香港法の構造及び特質を習得し、日本法との異同について、受講生が説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 6 経営法学科1, 2, 3, 6					
履修条件	特になし。なお、日本法の主要実定法の基礎知識を有していることが望ましい。					
授業方法	担当者が作成したレジュメ（台湾法、香港法、マカオ法の主要法規の概要）に基づいて講義する。小テストの解説をその実施後、授業において行い、レポートの解説を最終授業において行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		小テストの成績及びレポート提出によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	なし	なし		なし		
	備考	使用しない				
参考書	随時、指示する。					
オフィスアワー	土曜日16：10－16：40（事前にメールでアポイントメントを取ること） 教場にて行う。 メールアドレス jozuisei@yahoo.co.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	前期のガイダンス。講義の進め方、配布資料、期末レポート等について説明する。
	事後学習	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）
2	事前学習	中華民国法の歴史のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華民国法の歴史について解説する。
	事後学習	中華民国法の歴史のプリント及びノートを復習する。（2時間）
3	事前学習	中華民国の法的地位のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華民国の法的地位について解説する。
	事後学習	中華民国の法的地位のプリント及びノートを復習する。（2時間）
4	事前学習	中華民国憲法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華民国憲法について解説する
	事後学習	中華民国憲法プリント及びノートを復習する。（2時間）

5	事前学習	中華民国行政法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華民国行政法について解説する
	事後学習	中華民国行政法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
6	事前学習	中華民国刑事法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華民国刑事法について解説する
	事後学習	中華民国刑事法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
7	事前学習	中華民国財産法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華民国財産法について解説する
	事後学習	中華民国財産法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
8	事前学習	中華民国家族法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華民国家族法について解説する
	事後学習	中華民国家族法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
9	事前学習	中華民国商事法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華民国商事法について解説する
	事後学習	中華民国商事法プリント及びノートを復習する。（2時間）
10	事前学習	中華民国労働法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華民国労働法について解説する
	事後学習	中華民国労働法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
11	事前学習	中華民国知的財産法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華民国知的財産法について解説する
	事後学習	中華民国知的財産法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
12	事前学習	中華民国国際私法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華民国国際私法について解説する
	事後学習	中華民国国際私法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
13	事前学習	中華民国環境法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華民国環境法について解説する
	事後学習	中華民国環境法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
14	事前学習	中華民国の紛争解決方法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	中華民国の紛争解決方法について解説する
	事後学習	中華民国の紛争解決方法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
15	事前学習	前期のプリントをすべて通読すること。（2時間）
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）

科目名	外国法B(アジア)Ⅱ	担当者	徐 瑞静	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	中国文化圏における台湾（中華民国）、香港、マカオの法制度及び実定法について講義する。台湾法については日本法との関連において、香港法については英国法との関連において、マカオ法についてはポルトガル法との関連において論及する。更に、それらの地域の居住民と中華人民共和国本地居住民との間における交流についても、随時、解説する。				
授業目的・到達目標	隣接科目の履修のために必要となる台湾法、香港法、マカオ法の基礎知識を養成（もしくは育成）することを目的とする。 国際社会で生ずる台湾、香港、マカオに関連する法律関係の規制に接した場合における規律に関する基礎的知識を習得すると共に、日本法と同じ大陸法系に分類される台湾法及びマカオ法、そして、英米法系に分類される香港法の構造及び特質を習得し、日本法との異同について、受講生が説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 6 経営法学科1, 2, 3, 6				
履修条件	特になし。なお、日本法の主要実定法の基礎知識を有していることが望ましい。				
授業方法	担当者が作成したレジュメ（台湾法、香港法、マカオ法の主要法規の概要）に基づいて講義する。小テストの解説をその実施後、授業において行い、レポートの解説を最終授業において行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	小テストの成績及びレポート提出によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	なし	なし		なし	
	備考	使用しない			
参考書	随時、指示する。				
オフィスアワー	土曜日16：10－16：40（事前にメールでアポイントメントを取ること） 教場にて行う。 メールアドレス jozusei@yahoo.co.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業の復習を行っておくこと。（2時間）
	授業内容	後期のガイダンス。講義の進め方、配布資料、期末レポート等について解説する。
	事後学習	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）
2	事前学習	香港法総説のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	香港法総説
	事後学習	香港法総説のプリント及びノートを復習する。（2時間）
3	事前学習	香港の憲法性法律のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	香港の憲法性法律について解説する
	事後学習	香港の憲法性法律のプリント及びノートを復習する。（2時間）
4	事前学習	香港行政法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	香港行政法について解説する
	事後学習	香港行政法のプリント及びノートを復習する。（2時間）

5	事前学習	香港刑事法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	香港刑事法について解説する
	事後学習	香港刑事法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
6	事前学習	香港財産法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	香港財産法について解説する
	事後学習	香港財産法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
7	事前学習	香港家族法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	香港家族法について解説する
	事後学習	香港家族法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
8	事前学習	香港企業法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	香港企業法について解説する
	事後学習	香港企業法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
9	事前学習	マカオ法総説のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	マカオ法総説
	事後学習	マカオ法総説のプリント及びノートを復習する。（2時間）
10	事前学習	マカオ民法総説のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	マカオ民法総説
	事後学習	マカオ民法総説のプリント及びノートを復習する。（2時間）
11	事前学習	マカオ債権法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	マカオ債権法について解説する
	事後学習	マカオ債権法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
12	事前学習	マカオ物権法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	マカオ物権法について解説する
	事後学習	マカオ物権法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
13	事前学習	マカオ家族法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	マカオ家族法について解説する
	事後学習	マカオ家族法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
14	事前学習	マカオ商事法のプリントを読むこと。（2時間）
	授業内容	マカオ商事法について解説する
	事後学習	マカオ商事法のプリント及びノートを復習する。（2時間）
15	事前学習	後期のプリントをすべて通読すること。（2時間）
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	配布プリント及びノートを復習する。（2時間）

科目名	外国法B(EU) I	担当者	庄司 克宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	超国家的な法秩序を構成するEUについて、単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）および競争法の観点から授業を行う。			
授業目的・到達目標	超国家的な法秩序を構成するEUについて、単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）および競争法の観点から知識を修得することを目的とする。トランスナショナルなEU域内市場法において、物・人・サービスの自由移動に関するEU司法裁判所の判例法について理解し、説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 6 経営法学科1, 2, 3, 6			
履修条件	とくになし。			
授業方法	教科書2冊を毎回使用するので必ず持参すること。また、ポータルシステムを通じて授業用のハンドアウトを配布するので、それも毎回持参すること。時間が許せば、担当者が出演したEU関連報道番組の収録ビデオを鑑賞する。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	EU法の基礎知識が理解できているかを判定する。教科書、ノート、ハンドアウトの持込可で行う。それらにより基本的な事項を理解しておくこと。	
	平常評価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014年	岩波書店	新EU法政策篇	庄司克宏
	2007年 16年10刷	岩波書店	欧州連合 統治の論理とゆくえ	庄司克宏
	備考			
参考書	『新EU法基礎篇』庄司克宏、岩波書店、2013年 『はじめてのEU法』庄司克宏、有斐閣、2015年			
オフィスアワー	火曜授業の前後に授業講堂にて、質問、相談を受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第1～3章を通読する。（2時間）
	授業内容	EUの基礎知識（一）EUの仕事、制度、拡大と深化 （1）EUはどのような仕事を行っているか。誰によりどのように運営されているか。 （2）EUはどのように拡大してきたか。どこまで拡大するのか。脱退はあるか。 （3）EUの深化にはどのような限界があるか。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
2	事前学習	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第4～7章を通読する。（2時間）
	授業内容	EUの基礎知識（二）EUの単一市場と自由移動、経済通貨同盟 （1）域内市場の統治モデルとしての市場統合アプローチにはどのようなものがあるか。 （2）EU司法裁判所は、加盟国の社会的価値や文化的多様性に対して、どのように配慮しているか。 （3）EU市民権はどのように保護されているか。 （4）経済通貨同盟における金融政策と財政政策は、どのような意味で非対称的か。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
3	事前学習	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第8～10章を通読する。（2時間）
	授業内容	EUの基礎知識（三）EUの規範形成力、安全保障、東アジアとの関係 （1）EUはどのような意味で規範形成力を行使しているか。 （2）EUはどのようにして安全保障上の役割を果たしているか。 （3）EUは東アジアのモデルとなるか。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）

4	事前学習	教科書『新EU法政策篇』序章、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第4章を通読する。（2時間）
	授業内容	域内市場（単一市場）総論 物・人・サービス・資本の自由移動および競争法を中心とする域内市場について概観する。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
5	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第2章1～3節を通読する。（2時間）
	授業内容	物の自由移動（関税・課徴金、内国税）（一） 物の自由移動のうち関税・課徴金の廃止（EU機能条約第30条）について解説する。また、物自由移動のうち差別的 内国税の禁止（EU機能条約第110条）について解説し、関税・課徴金の禁止（第30条）との関係を述べる。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
6	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第2章1～3節を通読する。（2時間）
	授業内容	物の自由移動（関税・課徴金、内国税）（二） 物の自由移動のうち関税・課徴金の廃止（EU機能条約第30条）について解説する。また、物自由移動のうち差別的 内国税の禁止（EU機能条約第110条）について解説し、関税・課徴金の禁止（第30条）との関係を述べる。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
7	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第2章1～3節を通読する。（2時間）
	授業内容	物の自由移動（関税・課徴金、内国税）（三） 物の自由移動のうち関税・課徴金の廃止（EU機能条約第30条）について解説する。また、物自由移動のうち差別的 内国税の禁止（EU機能条約第110条）について解説し、関税・課徴金の禁止（第30条）との関係を述べる。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
8	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第2章4節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第4章を通読する。（2時間）
	授業内容	物の自由移動（数量制限と同等の効果を有する措置）（一） 物の自由移動における最大の問題である数量制限と同等の効果を有する措置の禁止（EU機能条約第34－36条）に ついて、定義、明文の適用除外、相互承認と「不可避的要請」、デ・ミニミス・ルールの有無、遠隔度テスト、「一 定の販売取り決め」および市場アクセス・アプローチに関連する判例を取り上げながら解説を行う。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
9	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第2章4節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第4章を通読する。（2時間）
	授業内容	物の自由移動（数量制限と同等の効果を有する措置）（二） 物の自由移動における最大の問題である数量制限と同等の効果を有する措置の禁止（EU機能条約第34－36条）に ついて、定義、明文の適用除外、相互承認と「不可避的要請」、デ・ミニミス・ルールの有無、遠隔度テスト、「一 定の販売取り決め」および市場アクセス・アプローチに関連する判例を取り上げながら解説を行う。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
10	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第2章4節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第4章を通読する。（2時間）
	授業内容	物の自由移動（数量制限と同等の効果を有する措置）（三） 物の自由移動における最大の問題である数量制限と同等の効果を有する措置の禁止（EU機能条約第34－36条）に ついて、定義、明文の適用除外、相互承認と「不可避的要請」、デ・ミニミス・ルールの有無、遠隔度テスト、「一 定の販売取り決め」および市場アクセス・アプローチに関連する判例を取り上げながら解説を行う。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
11	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第2章5節を通読する。（2時間）
	授業内容	物の自由移動Ⅲ（知的財産権との関係） 国内法の所産としての知的財産権はEU域内市場における物の自由移動を制限する方向に働くが、EU司法裁判所はどの ようにして両者の調和を図っているかについて権利消尽理論に焦点を当て、特許、商標、著作権に関する判例を取り 上げながら説明する。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
12	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第3節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第5章を通読する。（2時間）
	授業内容	人の自由移動（労働者、開業、サービス）（一） 経済活動に従事するEU加盟国国民の自由移動について物の自由移動と比較しつつ、その範囲、明文の適用除外、相互 承認と「公益上不可欠の理由」、資格同等性原則、デ・ミニミス・ルールの有無、遠隔度テストおよび市場アクセ ス・アプローチに関連する判例を取り上げながら解説を行う。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
13	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第3節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第5章を通読する。（2時間）
	授業内容	人の自由移動（労働者、開業、サービス）（二） 経済活動に従事するEU加盟国国民の自由移動について物の自由移動と比較しつつ、その範囲、明文の適用除外、相互 承認と「公益上不可欠の理由」、資格同等性原則、デ・ミニミス・ルールの有無、遠隔度テストおよび市場アクセ ス・アプローチに関連する判例を取り上げながら解説を行う。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）

14	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第3節、『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第5章を通読する。（2時間）
	授業内容	人の自由移動（労働者、開業、サービス）（三） 経済活動に従事するEU加盟国国民の自由移動について物の自由移動と比較しつつ、その範囲、明文の適用除外、相互承認と「公益上不可欠の理由」、資格同等性原則、デ・ミニミス・ルールの有無、遠隔度テストおよび市場アクセス・アプローチに関連する判例を取り上げながら解説を行う。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
15	事前学習	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』および『新EU法政策篇』の学習部分を再読する。（2時間）
	授業内容	総括と質疑
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容全体について復習する。（2時間）

科目名	外国法B(EU)Ⅱ	担当者	庄司 克宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	超国家的な法秩序を構成するEUについて、単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）および競争法の観点から授業を行う。			
授業目的・到達目標	超国家的な法秩序を構成するEUについて、単一市場（物・人・サービス・資本の自由移動）および競争法の観点から知識を修得することを目的とする。トランスナショナルなEU域内市場法のうち、資本の自由移動および競争法全般について理解し、説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 6 経営法学科1, 2, 3, 6			
履修条件	とくになし。			
授業方法	教科書2冊を毎回使用するので必ず持参すること。また、ポータルシステムを通じて授業用のハンドアウトを配布するので、それも毎回持参すること。時間が許せば、担当者が出演したEU関連報道番組の収録ビデオを鑑賞する。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	EU法の基礎知識が理解できているかを判定する。教科書、ノート、ハンドアウトの持込可で行う。それらにより基本的な事項を理解しておくこと。	
	平常評価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014年	岩波書店	新EU法政策篇	庄司克宏
	2017年 16年10刷	岩波書店	欧州連合 統治の論理とゆくえ	庄司克宏
	備考			
参考書	『新EU法基礎篇』庄司克宏、岩波書店、2013年 『はじめてのEU法』庄司克宏、有斐閣、2015年			
オフィスアワー	火曜授業の前後に授業講堂にて、質問、相談を受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』全体を再読する。（2時間）
	授業内容	EUの基礎知識の再確認
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
2	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第4章を通読する。（2時間）
	授業内容	資本の自由移動 資本の自由移動について他の自由移動との相違を踏まえながら、その範囲および適用除外について判例の動向とともに解説する。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
3	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第6章を通読する。（2時間）
	授業内容	EU競争法（EU競争法の制度・手続）（一） まずEU競争法の枠組みおよび目的について説明し、次にEU競争法の遵守確保（enforcement）について定める規則1/2003に焦点を当て、とくにコミッション、国内裁判所、国内競争当局の関係に関して解説を行う。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
4	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第6章を通読する。（2時間）
	授業内容	EU競争法（EU競争法の制度・手続）（二） まずEU競争法の枠組みおよび目的について説明し、次にEU競争法の遵守確保（enforcement）について定める規則1/2003に焦点を当て、とくにコミッション、国内裁判所、国内競争当局の関係に関して解説を行う。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）

5	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第6章を通読する。（2時間）
	授業内容	EU競争法（EU競争法の制度・手続）（三） まずEU競争法の枠組みおよび目的について説明し、次にEU競争法の遵守確保（enforcement）について定める規則1/2003に焦点を当て、とくにコミッション、国内裁判所、国内競争当局の関係に関して解説を行う。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
6	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第7章を通読する。（2時間）
	授業内容	EU競争法（競争制限的行為の禁止）（一） EU機能条約第101条の解説を行う。まず第101条1項について、事業者、協定および協調的行為、「目的又は効果」、デ・ミニミス・ルール等の解説を行う。また、第101条3項の適用除外について、排他的流通や選択的流通などの垂直的制限に関する一括適用除外なども素材として使用しながら解説する。最後に、域外適用の問題についても取り上げる。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
7	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第7章を通読する。（2時間）
	授業内容	EU競争法（競争制限的行為の禁止）（二） EU機能条約第101条の解説を行う。まず第101条1項について、事業者、協定および協調的行為、「目的又は効果」、デ・ミニミス・ルール等の解説を行う。また、第101条3項の適用除外について、排他的流通や選択的流通などの垂直的制限に関する一括適用除外なども素材として使用しながら解説する。最後に、域外適用の問題についても取り上げる。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
8	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第7章を通読する。（2時間）
	授業内容	EU競争法（競争制限的行為の禁止）（三） EU機能条約第101条の解説を行う。まず第101条1項について、事業者、協定および協調的行為、「目的又は効果」、デ・ミニミス・ルール等の解説を行う。また、第101条3項の適用除外について、排他的流通や選択的流通などの垂直的制限に関する一括適用除外なども素材として使用しながら解説する。最後に、域外適用の問題についても取り上げる。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
9	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第8章を通読する。（2時間）
	授業内容	EU競争法（支配的地位の濫用の禁止）（一） EU機能条約第102条の解説を行う。まず支配的地位の有無に関し、産品市場および地理的市場、市場占有率および参入障壁について解説した後、濫用の態様について説明する。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
10	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第8章を通読する。（2時間）
	授業内容	EU競争法（支配的地位の濫用の禁止）（二） EU機能条約第102条の解説を行う。まず支配的地位の有無に関し、産品市場および地理的市場、市場占有率および参入障壁について解説した後、濫用の態様について説明する。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
11	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第9章を通読する。（2時間）
	授業内容	EU競争法（合併規則） EU合併規則の背景、合併規則におけるEUの管轄、手続および実体的審査について、それぞれ解説する。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
12	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第10章を通読する。（2時間）
	授業内容	EU競争法EU競争法と公共サービス まずEU法における市場と国家の関係について述べた後、公の事業者等に対するEU競争法の適用の問題、国家援助規制と公共サービスの関係、一般的経済利益を有するサービスの順に解説を行う。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
13	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第1章および『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第6章を通読する。（2時間）
	授業内容	EU市民権（一） 経済活動に従事していなくとも加盟国国民のEU市民権という基本的地位に基づいて、移動・居住することが可能となっている。EU市民権に基づく移動・居住の自由に関するEU司法裁判所の判例法の発展について解説する。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）
14	事前学習	教科書『新EU法政策篇』第1章および『欧州連合 統治の論理とゆくえ』第6章を通読する。（2時間）
	授業内容	EU市民権（二） 経済活動に従事していなくとも加盟国国民のEU市民権という基本的地位に基づいて、移動・居住することが可能となっている。EU市民権に基づく移動・居住の自由に関するEU司法裁判所の判例法の発展について解説する。
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容について復習する。（2時間）

15	事前学習	教科書『欧州連合 統治の論理とゆくえ』および『新EU法政策篇』の学習部分を再読する。(2時間)
	授業内容	総括と質疑
	事後学習	ハンドアウトに照らして、教科書を参照しながら、授業内容全体について復習する。(2時間)

科目名	外国法B(英米) I	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本科目では、ニューヨーク州弁護士（アメリカ）及び外国法事務弁護士（日本）として、英米法を準拠法とした国際契約に関わった経験を引きつつ、判例法として発展してきた英米契約法の法理をとりあげ、特に、アメリカ契約法について、大陸法との比較においてその特徴を把握することに努める。なお、受講生には、講義ごとに課される英文資料の読解に努め、授業での質疑応答に積極的に参加することが求められる。				
授業目的・到達目標	英米契約法の下での契約成立要件に関する基本的法理と法律専門用語を原文（英語）で理解し日本語で説明できるようになり、英米法系諸国の当事者との契約交渉に役立つ法的思考能力（リーガル・マインド）を養成することを目的とする。英米契約法の下での契約成立要件に関する基本的法理と法律専門用語を原文（英文）のテキストをとおして学修し、当該テキストに要約された事例と判例から抽出される法的争点と法理を理解し日本語で説明できるようになることを到達目標とする。関連DP及びCP:法律学科1, 6；経営法学科1, 2, 3, 6				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義と質疑応答を主体として進めて行く。レポートのフィードバックは提出日に出題の趣旨及び評価ポイントの解説をとおして行う。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		0%		
	平常評価		100%		授業での発言（30%）およびレポート（70%）を総合的に評価する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	1969	WEST PUBLISHING CO		『CONTRACTS』	C. H. SMITH
	備考	教科書は絶版であるため必要箇所のコピーを資料として配布する。			
参考書	『英米判例百選[第三版]』別冊ジュリスト、No. 139、有斐閣（1996）；『アメリカ法判例百選』別冊ジュリスト、No. 213、有斐閣（2012）；『英米法辞典』東京大学出版会（1991）				
オフィスアワー	日時：水曜日12:30-13:00 場所：9号館1階ロビー 備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、大陸法系と英米法系の契約法にみられるそれぞれの特徴について調べ、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：英米契約法総論Ⅰ （１）日本法との比較 （２）英米契約法の法源とその相関関係 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
2	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：英米契約法総論Ⅱ （１）コモンローとエクイティー（２）契約の定義（３）契約の成立要件 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
3	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：契約の成立要件：相互の合意の一致：申込（offer）Ⅰ （１）申込の定義（２）申込の要件（３）判例・事例研究 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)

4	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：契約の成立要件：相互の合意の一致：申込（offer）Ⅱ （1）申込撤回自由の原則（2）オプション契約（3）判例・事例研究 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
5	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：契約の成立要件：相互の合意の一致：承諾（acceptance）Ⅰ （1）承諾の定義（2）承諾の要件（3）判例・事例研究 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
6	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：契約の成立要件：相互の合意の一致：承諾（acceptance）Ⅱ （1）ミラーイメージルール（mirror image rule）（2）書式の戦い（battle of the forms）（3）メールボックスルール（mailbox rule）（4）判例・事例研究 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
7	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：契約の成立要件：約因（consideration）Ⅰ （1）約因の定義（2）約因の法理（sufficient considerationその他） 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
8	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：契約の成立要件：約因（consideration）Ⅱ （1）約因の法理（past considerationその他）（2）判例・事例研究 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
9	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：契約の成立要件：約因（consideration）Ⅲ （1）約因の法理（right of contributionその他） （2）判例・事例研究 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
10	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：契約の成立要件：約因（consideration）Ⅳ （1）約因の法理（time element, accord and satisfactionその他） （2）判例・事例研究 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
11	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：契約の成立要件：約因の代替（substitutes for consideration）Ⅰ （1）捺印証書（sealed instrument）（2）約束的禁反言（promissory estoppel）（3）判例・事例研究 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
12	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：契約の成立要件：約因の代替（substitutes for consideration）Ⅱ （1）判例・事例研究 上記について配布資料を学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
13	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：契約の成立に対する抗弁（Legal Defense to Contract Formation）Ⅰ （1）契約締結能力（capacity）の欠如（2）違法性（illegality）（3）強迫（duress） 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
14	事前学習	事前に課されたレポート課題についてレポートを作成し、これまでの授業で学んだポイントのまとめを読み、授業内での質問を考えてくる。(3時間)
	授業内容	これまでの講義の内容のまとめと質疑応答を行う。
	事後学習	講義の内容のまとめと質疑応答を踏まえレポートの作成を継続し提出する準備を整える（1時間）

15	事前学習	前回の講義の内容のまとめと質疑応答を踏まえレポートを完成させ提出する準備を整える（3時間）
	授業内容	レポートの提出。レポート課題の趣旨と評価のポイントについて解説する。
	事後学習	講義ノートを見直し、前期で学んだ英米契約法の知識を体系化する。レポート課題の趣旨と評価の視点から自らのパフォーマンスを分析する。（1時間）

科目名	外国法B(英米) I	担当者	西山 敏夫	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	アメリカ法の内、ビジネスに直接関連する基本法を概観するとともに、その根底にある英米法特有の概念が歴史的にどのような形で発生したのか、大陸法系とどのように違うのかを探求する。 また、連邦法と州法のすみわけについても考察する。前期は、ビジネス関連法の基本である、契約法、会社法、統一商事法典、証券取引法等を判例を通じて分析、理解する。				
授業目的・到達目標	アメリカ・ビジネス法の基本を理解し、本邦法と比較してアメリカ・ビジネス法の特徴、本質を理解し習得することを目的とする。 実際にアメリカ法に関連するビジネスを行う上で必要な基本的法律知識、法律用語を講義および判例の学習を通じて修得しし、説明、使用できる力をつけることを目標とする。 関連DPおよびCP： 法律学科1, 6 経営法学科1, 2, 3, 6				
履修条件	アメリカのビジネス法に関心があり、積極的に勉強する意欲があること				
授業方法	事前に配布するレジメに基づき講義形式で説明したのち、判例をベースにディスカッションを行う。 適宜英文資料を配布する。定期試験の解説を後日、ポータルサイトにて配信する。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		80%		講義で説明した内容と判例の法的争点と法理を理解して説明できるようになったか。また、英米法特有の専門用語を理解して説明出来るようになったかを判定する。
	平常評価		20%		授業内で合計2回、10分程度の「クイズ」を行う。内容は英文専門用語の和訳。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2012年	有斐閣		アメリカ法判例百選	樋口範雄他編
	備考				
参考書	「リーガル・マキシム」吉原、松嶋、西山編、三修社、2013年 「英米法総論（上）」田中英夫、東大出版会、1980年				
オフィスアワー	質問・相談は、以下のメール・アドレスに。 「nishtos@icloud.com」 また、水曜日:13.30-14.40 授業講堂にて質問、相談を受ける(事前にメールでアポイントを取得すること)。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。(2時間)
	授業内容	ガイダンス、講義の進め方および授業目的； アメリカ・ビジネス法が大陸法系と如何に異なるか
	事後学習	英米型と大陸型の相異を自分なりに整理しておく(2時間)
2	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する (2時間)
	授業内容	アメリカ・ビジネス法の概要；アメリカでビジネスを行う上で関係するビジネス法の概観
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理(2時間)
3	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する(2時間)
	授業内容	契約法:①契約法の成立、概要；英米契約法が歴史的にどのように成立したか、およびその特徴
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理(2時間)
4	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する アメリカ法判例百選#94, 同#95を予習(2時間)
	授業内容	契約法:②約因の理論；英米契約法の主要概念である約因の意味と役割
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理(2時間)

5	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する アメリカ法判例百選# 9 3を予習(2時間)
	授業内容	契約法；③契約の成立と抗弁自由；申込と承諾、抗弁自由
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理(2時間)
6	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する アメリカ法判例百選# 1 0 1、# 1 0 2、# 1 0 3を予習(2時間)
	授業内容	契約法；④契約の終結と救済；契約終結の事由、契約が履行されない場合の救済、損害賠償の範囲
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理(2時間)
7	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する(2時間)
	授業内容	統一商事法典；契約法の特別法ともいえる統一商事法典の概要、要点を把握する
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理(2時間)
8	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する(2時間)
	授業内容	会社法；①事業形態—会社とパートナーシップ；事業を始める時にどの形態を選ぶか、その利害得失
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理(2時間)
9	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する(2時間)
	授業内容	会社法； ②会社の設立、運営；会社の設立手続、会社の機関（取締役会、役員、従業員、株主）
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理(2時間)
10	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する(2時間)
	授業内容	会社法；③取締役の役割と責任；経営陣との関係、フィデュシャリー・デューティ
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理(2時間)
11	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する アメリカ法判例百選# 1 1 8、# 1 1 9、# 1 2 0を予習(2時間)
	授業内容	会社法；④取締役会の経営判断原則：取締役会は主要な経営判断につき株主の同意を得ないでどこまで独自に判断できるか
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理(2時間)
12	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する アメリカ法判例百選# 7 1、Matsushita Electric v. Zenithを予習(2時間)
	授業内容	民事訴訟と陪審；トラブル発生時の救済方法
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理(2時間)
13	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する アメリカ法判例百選# 1 2 1、# 1 2 2を予習(2時間)
	授業内容	連邦証券取引法；州法である会社法に対し、「連邦会社法」とも言える証券取引法の概要
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理(2時間)
14	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する アメリカ法判例百選# 124を予習(2時間)
	授業内容	独占禁止法；アメリカで独自の発展を遂げた独占禁止法の概要
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理(2時間)
15	事前学習	これまでに学習した判例、レジメを読み返し、要点疑問点を抽出しアメリカ・ビジネス法のまとめを作成する（2時間）
	授業内容	まとめと期末試験
	事後学習	期末試験の内容につきポータルサイトで配信する解説を参照して検証、復習する（2時間）

科目名	外国法B(英米)Ⅱ	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本科目では、ニューヨーク州弁護士（アメリカ）及び外国法事務弁護士（日本）として、英米法を準拠法とした国際契約に関わった経験を引きつつ、判例法として発展してきた英米契約法の法理をとりあげ、特に、アメリカ契約法について、大陸法との比較においてその特徴を把握することに努める。なお、受講生には、講義ごとに課される英文資料の読解に努め、授業での質疑応答に積極的に参加することが求められる。				
授業目的・到達目標	英米契約法の下での契約成立要件に関する基本的法理と法律専門用語を原文（英語）で理解し日本語で説明できるようになり、英米法系諸国の当事者との契約交渉に役立つ法的思考能力（リーガル・マインド）を養成することを目的とする。英米契約法の下での契約成立要件に関する基本的法理と法律専門用語を原文（英文）のテキストをとおして学修し、当該テキストに要約された事例と判例から抽出される法的争点と法理を理解し日本語で説明できるようになることを到達目標とする。関連DP及びCP:法律学科1, 6；経営法学科1, 2, 3, 6				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義と質疑応答を主体として進めて行く。レポートのフィードバックは提出日に出題の趣旨及び評価ポイントの解説をとおして行う。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		0%		
	平常評価		100%		授業での発言（30%）及びレポート（70%）を総合的に評価する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	1969	WEST PUBLISHING CO		『CONTRACTS』	C. H. SMITH
	備考	教科書は絶版であるため必要箇所のコピーを資料として配布する。			
参考書	『英米判例百選[第三版]』別冊ジュリスト、No. 139、有斐閣（1996）；『アメリカ法判例百選』別冊ジュリスト、No. 213、有斐閣（2012）；『英米法辞典』東京大学出版会（1991）				
オフィスアワー	日時：水曜日12:30-13:00 場所：9号館1階ロビー 備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、大陸法系と英米法系の契約法にみられるそれぞれの特徴について調べ、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。(2時間)。
	授業内容	授業の概要、授業計画、成績評価方法、参考文献の紹介を含めて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。配布資料をもとにアメリカの契約法の法源とその相関関係について学修し理解し説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
2	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：契約の成立に対する抗弁（Legal Defense to Contract Formation）Ⅰ （１）詐欺防止法（Statute of Frauds）の範囲内にある口頭契約 （２）判例・事例研究 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
3	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：契約の成立に対する抗弁（Legal Defense to Contract Formation）Ⅱ （１）詐欺防止法（Statute of Frauds）の範囲内にある口頭契約（前回から続く）（２）判例・事例研究 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
4	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：契約の成立に対する抗弁（Legal Defense to Contract Formation）Ⅲ （１）詐欺防止法の適用を免れる場合：部分履行（part performance）の法理（２）詐欺防止法の適用を免れる場合：禁反言（estoppel）の法理（３）詐欺防止法の適用を免れる場合：UCC § 2-201 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)

5	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：契約条項の解釈：パロールエヴィデンスルール (parol evidence rule) I (1) パロールエヴィデンスルール (2) パロールエヴィデンスルールの例外 (ambiguous termsその他) 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
6	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：契約条項の解釈：パロールエヴィデンスルール (parol evidence rule) II (1) パロールエヴィデンスルールの例外 (lack of considerationその他) (2) 判例・事例研究 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
7	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：履行：条件 (condition) I (1) 条件の種類と立証責任 (2) 条件と契約不履行の関係 (3) 約束と契約不履行の関係 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
8	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：履行：条件 (condition) II (1) 条件的約束 (2) 判例・事案研究 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
9	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：履行：契約不履行 (breach of contract) I (1) 契約不履行の有無の判断基準である実質的履行 (substantial performance) の法理 (コモンロー) (2) 完全履行の法理 (perfect tender rule) (UCC) (3) 判例・事例研究 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
10	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：履行：契約不履行 (breach of contract) II (1) 契約不履行を構成する履行期前の履行拒絶 (anticipatory repudiation) (2) 判例・事例研究 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
11	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：救済：類型と範囲 I (1) コモンロー上の損害賠償 (damages) (2) エクイティー上の特定履行 (specific performance) (3) エクイティー上の差止命令 (injunction) 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
12	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：救済：類型と範囲 II (1) コモンロー上の損害賠償 (damages) に関する事案・判例研究 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
13	事前学習	配布資料を読み、授業での発言に備えて考えを講義ノートにまとめておく。わからない英米法の法律専門用語を『英米法辞典』等で調べておく。(2時間)
	授業内容	テーマ：救済：類型と範囲 III (1) エクイティー上の特定履行 (specific performance) に関する判例・事例研究 (2) エクイティー上の差止命令 (injunction) に関する事案・判例研究 上記について配布資料を学修し理解し法的争点と法理を説明できるようになる。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめておく。(2時間)
14	事前学習	事前に課されたレポート課題についてレポートを作成し、これまでの授業で学んだポイントのまとめを読み、授業内での質問を考えてくる。(2時間)
	授業内容	これまでの講義の内容のまとめと質疑応答を行う。
	事後学習	講義の内容のまとめと質疑応答を踏まえレポートの作成を継続し提出する準備を整える (2時間)
15	事前学習	前回の講義の内容のまとめと質疑応答を踏まえレポートを完成させ提出する準備を整える (3時間)
	授業内容	レポートの提出。レポート課題の趣旨と評価のポイントについて解説する。
	事後学習	講義ノートを見直し、通年で学んだ英米契約法の知識を体系化する。レポート課題の趣旨と評価のポイントの観点から自らのパフォーマンスを分析する。(1時間)

科目名	外国法B(英米)Ⅱ	担当者	西山 敏夫	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	アメリカ法の内、ビジネスに直接関連する基本法を概観するとともに、その根本にある基本原理、特に「信託」「フィデューシャリー」の考え方について理解することを目的とする。その前提として、コモン・ローの根源である不動産法の基礎を解説する。秋学期後半に企業買収（M&A）契約書を読み、具体的実務に触れる機会を持つ。			
授業目的・到達目標	英米私法の内、一番わかりにくい「信託」の概念を正確に把握するとともに、実際にアメリカ法に基づいてビジネスを行う上で必要な基礎法律知識を修得することを目的とする。 本邦法と対比してアメリカ・ビジネス法の特異点、注意点を正確に把握するとともに、「信託」の延長としてのフィデューシャリー・デューティ、コーポレイト・ガバナンスの本質を受講者が正確に理解し、説明できることを目標とする。 関連DPおよびCP: 法律学科 1, 6 経営法学科 1, 2, 3, 6			
履修条件	アメリカのビジネス法に関心があり、積極的に勉強する意欲があること			
授業方法	事前に配布するレジメに基づき講義形式で説明した後、判例をベースにディスカッションを行う。 適宜、英文資料を配布する。 定期試験の解説を後日、ポータルサイトにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	講義で説明した内容と判例の法的争点、法理を理解して説明できるようになったか。また、英米法特有の専門用語を理解して説明出来るようになったかを判定する。	
	平常評価	20%	授業内で合計2回、10分程度の「クイズ」を行う。 内容は法律専門英単語の邦訳	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2012年	有斐閣	アメリカ法判例百選	樋口範雄他編
	備考			
参考書	「リーガル・マキシム」吉原、松嶋、西山編、三修社、2013年 「英米法総論（上）」田中英夫、東大出版会、1980年			
オフィスアワー	質問・相談は、以下のメール・アドレスに。 「nishtos@icloud.com」 また、水曜日:13.30-14.40 授業講堂にて質問、相談を受ける(事前にメールでアポイントを取得すること)。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する(2時間)
	授業内容	コモン・ローとエクイティ；英米法の別名であるコモン・ローとその例外としてのエクイティの理解
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理(2時間)
2	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する(2時間)
	授業内容	英米不動産法の特徴と歴史；所有権というより「占有権」的な概念
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理(2時間)
3	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する(2時間)
	授業内容	現在のイギリス不動産法： 1925年不動産法の概要
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理(2時間)
4	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する アメリカ法判例百選#105を予習する(2時間)
	授業内容	現在のアメリカ不動産法；不動産取引のプロセス、登記制度の未発達
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理(2時間)

5	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する アメリカ法判例百選＃１０７、＃１０８（２時間）
	授業内容	信託法の起源と現在のアメリカ信託法；信託の旧名は「ユース」、英米の不動産法体系を浸食
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理（２時間）
6	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する（２時間）
	授業内容	譲渡抵当と信託；信託概念の担保権への応用
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理（２時間）
7	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する（２時間）
	授業内容	信託と法人；法人格を得られない場合の団体を信託形式で設立
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理（２時間）
8	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する（２時間）
	授業内容	本邦信託法の考察；大陸法系の上での信託法の発展、現在の「信託法」の特徴
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理（２時間）
9	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する アメリカ法判例百選＃１１１を予習する（２時間）
	授業内容	フィデュシャリー・デューティ；信託概念の応用、身分から契約へ、契約から信託へ
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理（２時間）
10	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する（２時間）
	授業内容	コーポレート・ガバナンス；誰が誰を統治するのか　日本の定義との相違
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理（２時間）
11	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する（２時間）
	授業内容	知的財産法；特許権、著作権、商標権の概要
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理（２時間）
12	事前学習	事前に配布するレジメを読み、全体像をつかむとともに疑問点を抽出する（２時間）
	授業内容	契約書の読み方；英文契約書の構成、表現
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理（２時間）
13	事前学習	事前に配布するM&A契約書をできるだけ予習し授業に臨む（２時間）
	授業内容	M&A（企業買収）契約書演習
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理（２時間）
14	事前学習	アメリカ法判例百選＃１１９、１２０を予習する（２時間）
	授業内容	企業買収と会社法：ユノカル基準とレブロン基準
	事後学習	授業内容、レジメのポイントの整理（２時間）
15	事前学習	今学期に学習した判例、レジメを読み返し疑問点を抽出し、まとめを作成する（２時間）
	授業内容	まとめと期末試験
	事後学習	期末試験の内容につきポータルサイトで配信する解説を参照して検証、復習する（２時間）

科目名	外国法B(独) I	担当者	難波 岳穂	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	ドイツ連邦憲法裁判所の判例を通じて、日本の憲法の学説や判例への示唆を与えるドイツ憲法の重要性を理解し、現代ドイツの政治・社会状況を理解することを目指す。例えば、2017年の「Ehe für Alle」と2019年の「Das Gute-Kita-Gesetz」の各法律が、「Lebensgemeinschaft（生活共同体）」へ与えた影響を、「Ehe」・「Familie」・「Kindeswohl」との関係から検討する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ家族法制の中核概念である「Lebensgemeinschaft」を理解するためには、婚姻と家族に関するドイツ基本法3条と6条に基づく判例が重要な手掛かりとなる。本講義では、法律審査を担うドイツ連邦憲法裁判所（BVerfG）が、家族・婚姻・親子関係との関連で統制した民法（BGB）、扶養法、児童福祉法、社会保障法、所得税法等の内容と基本権や憲法原理の内容との一致により、どのように憲法解釈が行われてきたのかを検討することを目的とする。 【到達目標】ドイツ基本法3条と6条に基づく判例を手掛かりにし、「Lebensgemeinschaft」に係る法整備の歴史的な足跡と理論を学びドイツ家族法制の特徴を理解し説明できるようになることを目標とする。対応DP及びCP:法律学科1,6と経営経済学科1,2,6で説明を行う際にドイツ語を表記するので、受講生はドイツ語の辞書を持参してもらうことをすすめる。辞書を持ち込むことが叶わない場合を考慮し、必要に応じて日本語訳でも解説するので心配せず参加して欲しい。				
履修条件					
授業方法	講義形式を中心とするが、ミニレポートの講評も適宜採り入れ、受講生の理解度に配慮しつつ講義を行う。講義ごとにレジュメおよび配布資料等（ドイツ連邦憲法裁判所の判例ないしコメンタル、ドイツの新聞記事等）を準備する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	講義内容の理解を確認するために、ミニレポート（50%程度）及び前期1回のレポート（50%程度）の提出によって成績を判断する。出欠席に関しては評価対象としない。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	平成28年度	国会図書館		調査資料2017－2平成28年度国際政策セミナー報告書：「家族のダイバーシティ－ヨーロッパの経験から考える－」	国会図書館調査及び立法考査局
		尚学社		憲法における家族－親の人権と子どもの人権－ [2010年]	古野豊秋
		信山社		ドイツの憲法判例Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	ドイツ憲法判例研究会編
		備考		「国会図書館調査資料2017－2」はインターネットより閲覧可能。 http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_10980299_po_201711.pdf?contentNo=1	
参考書	畑尻剛他編『ドイツの憲法裁判〔第2版〕連邦憲法裁判所の組織・手続・権限－日本比較法研究所研究叢書（88）－』中央大学出版部、君塚正臣編著『比較憲法』ミネルヴァ書房、高橋和之編『〔新版〕世界憲法集 第2版』岩波書店				
オフィスアワー	木曜日10：40～12：10 事前にメール等で連絡すること。 ※なお、講義内容に関する質問等については、メールにでも対応する予定である。 nanba.takeho@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ドイツ連邦共和国について各受講生が知っている事柄（ニュース、歴史、音楽等）について説明できるようにしておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス：「ドイツ連邦共和国を再発見しよう!」】 ①講義内容の説明、資料等の取扱い、レポート等の書き方など。 ②戸田典子「すべての人のための婚姻－同性婚法施行」論究ジュリスト23号[2017年]他。
	事後学習	配布資料をよく読み、「ドイツと日本の婚姻制度の差異と類似点」について各自ミニレポートを作成する。（2時間）
2	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。（2時間）
	授業内容	【ヴァイマル憲法期と基本法の男女の権利：婚姻制度（Ehe）の改革状況を理解しよう!】 第1回目の事後学習で作成したミニレポートの見解を基にし、基本権3条・6条等との関係を中心にして憲法上の権利へと至った婚姻制度について理解する。
	事後学習	配布資料をよく読み、「ヴァイマル憲法と基本権（Grundgesetz）それぞれの『婚姻制度』の差異と類似点」についてミニレポートを作成する。（2時間）
3	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。（2時間）
	授業内容	【ドイツ基本法の男女同権：「憲法上の権利としての離婚・婚姻制度を理解しよう!」】 第1回・2回の事後学習で作成したミニレポートを基にし、基本権1条・2条・3条・6条等との関係を中心にして憲法上の権利へと変遷した「離婚・婚姻制度」について理解する。
	事後学習	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用する等。（2時間）
4	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。（2時間）
	授業内容	【ドイツ家族法制改革の概要（1）：離婚・婚姻制度の大改革】 離婚に関する苛酷条項と婚姻・家族の特別の保護 有澤知子「期限付き苛酷条項違憲決定」[1980年]【ド憲判Ⅰ】他
	事後学習	1957年施行「男女同権法」の影響に鑑みて、第4回の論点を整理すること。 例えば、法学部図書館の他、国会図書館を利用し「男女同権の歴史」に関して検討することも望ましい。（2時間）

5	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。（2時間）
	授業内容	【ドイツ家族法制改革の概要（2）：親子関係法の大改革】 ドイツ民法典（BGB）とヴァイマル憲法の理念を共に継承する基本法が、どのようにして「子ども」を「親の権利」から解放したのかについて検討する。
	事後学習	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。（2時間）
6	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。（2時間）
	授業内容	【所得税法と憲法上の「家族（Familie）」：「『婚姻家族』と『単身家族』の平等化を検討しよう!」】 小林博志「婚姻・家族の特別の保護と夫婦合算課税違憲判決」[1957年]〔ド憲判Ⅰ〕他
	事後学習	特に、第4回の講義内容と「事後学習」で推奨した「男女同権法」に関する検討と並行して第6回の議論を復習する。例えば、インターネットによる検索の他、法学部図書館と国会図書館の利用をすることも望ましい。（2時間）
7	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。（2時間）
	授業内容	【妊娠中絶の自由化と「自己決定権」：「『胎児の生命権』とは、妊婦の中絶権を超える保護の対象となり得るのか!?」】 嶋崎健太郎「胎児の生命権と妊婦の自己決定権—第一次堕胎判決—」[1975年]〔ド憲判Ⅰ〕他
	事後学習	「日本の場合、胎児の『生命保護』の観点はどうのように考えられているのか」、という問題についてミニレポートを作成しておくことが望ましい。そのために、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。（2時間）
8	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。（2時間）
	授業内容	【「Gender Gap」と両性の実質的平等（1）：両性の労働共生と労働共働】 光田督良「家事労働日州法違憲決定」[1979年]〔ド憲判Ⅰ〕他
	事後学習	特に、「性差別」に基づくBVerfGの判断枠組みとの関係で、第8回の「家事労働日州法違憲決定」も重要な判例である故、基本法3条に関するBVerfGの理論を理解するためにも第8回の内容をよく理解すること。（2時間）
9	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、第9回の判例をよく読み、関連する内容について学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索して理解を深めることが望ましい。（2時間）
	授業内容	【「Gender Gap」と両性の実質的平等（2）：離婚・婚姻法】 第8回に続き、BVerfGの判例が示した男女同権法の影響とその軌跡について、古野豊秋「夫婦財産契約における契約の自由とその限界—扶養請求権放棄契約事件—」[2001年]〔ド憲判Ⅲ〕を採りあげて確認する。
	事後学習	第8回と第9回の内容を横断的に理解し、BVerfGが説く「両性の実質的平等」を保障するための理論を理解し、各自が最も良い方法でミニレポートを作成することが望ましい。例えば、インターネットの検索の他、法学部図書館や国会図書館の利用もすすめる。（2時間）
10	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。（2時間）
	授業内容	【子どもの養育費と「子どもの福祉（Kindeswohl）」】 ①ディーター・ヘンリッヒ著＝田村五郎他訳「扶養法に関するドイツ裁判所の判例—不明確な法概念の充足の試み—」 『ドイツ現代家族法』[1993年]を読み扶養法改革を理解する。②2019年に施行した「Das Gute-Kita-Gesetz」に規定する「未就学児の養育費負担の平等化」を理解する。
	事後学習	第10回で考察した②ドイツの「未就学児の養育費負担の平等化」の方針や政策についてミニレポートを作成することが望ましい。例えば、日本の状況との比較をするために、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。（2時間）
11	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。（2時間）
	授業内容	【子どもの養育費と「家族の特別の保護」】 第10日に引き続いて「Das Gute-Kita-Gesetz」の改革内容を検討する。第11回では「社会保険費算定における教育費の考慮」に関する浮田徹「家族介護判決（Familien-Pflegeurteil）」[2001年]〔ド憲判Ⅲ〕との比較により、社会保障における「家族の特別の保護」に関するBVerfGの判断枠組みについて検討する。
	事後学習	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。（2時間）
12	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。（2時間）
	授業内容	【夫婦同氏原則と両性の実質的平等：基本法2条1項と3条】 山下威士「婚氏未決定の場合における夫の出生氏の優先適用規定の違憲性—婚氏（Ehenamen）事件—」[1991年]〔ド憲判Ⅱ〕と新村とわ「再婚時の「夫婦氏」の選択の制限」[2004]〔ド憲判Ⅲ〕の二つのBVerfGの判例を読み、これまでの講義の復習と並行し1990年、1998年、2005年の法改正による影響を確認する。
	事後学習	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。（2時間）
13	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。（2時間）
	授業内容	【「子どもの福祉（Kindeswohl）」と両性の実質的平等（1）：国籍】 第13回では、国際家族法を舞台にする事案を二つ採りあげる。①古野豊秋「国籍の異なる両親と子供の国籍—国籍事件—」[1974年]〔ド憲判Ⅰ〕の他、「Kindeswohl」の意義をより深く検討するために、②古野「両親による子供の争奪と子供の福祉」[1998年]〔ド憲判Ⅲ〕を採りあげる。
	事後学習	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。（2時間）
14	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。（2時間）
	授業内容	【憲法上の「家族（Familie）」概念の変遷（1）：「子ども」と「年齢」】 核家族と家族の特別の保護と外国人の滞在許可 横田守弘「成年養子縁組事件」[1989年]〔ド憲判Ⅱ〕他
	事後学習	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。（2時間）

15	事前学習	各自が最も良いと思う方法により「前期のレポート」の提出準備を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。(2時間)
	授業内容	【「前期レポート」の提出準備と前期の講義内容の補足等】
	事後学習	「前期のレポート」の提出に向けた準備として、これまでの復習を十分に行っておくことが望ましい。しかし、レポートの提出に懸念材料がある場合には、別途質問時間を設けるので、該当する学生は質問内容を整理しておくこと。(2時間)

科目名	外国法B(独)Ⅱ	担当者	難波 岳穂	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ドイツ連邦憲法裁判所の判例を通じて、日本の憲法の学説や判例への示唆を与えるドイツ憲法の重要性を理解し、現代ドイツの政治・社会状況を理解することを目指す。例えば、2017年の「Ehe für Alle」と2019年の「Das Gute-Kita-Gesetz」の各法律が、「Lebensgemeinschaft（生活共同体）」へ与えた影響を、「Ehe」・「Familie」・「Kindeswohl」との関係から検討する。			
授業目的・到達目標	【授業目的】ドイツ家族法制の中核概念である「Lebensgemeinschaft」を理解するためには、婚姻と家族に関するドイツ基本法3条と6条に基づく判例が重要な手掛かりとなる。本講義では、法律審査を担うドイツ連邦憲法裁判所（BVerfG）が、家族・婚姻・親子関係との関連で統制した民法（BGB）、扶養法、児童福祉法、社会保障法、所得税法等の内容と基本権や憲法原理の内容との一致により、どのように憲法解釈が行われてきたのかを検討することを目的とする。 【到達目標】ドイツ基本法3条と6条に基づく判例を手掛かりにし、「Lebensgemeinschaft」に係る法整備の歴史的な足跡と理論を学びドイツ家族法制の特徴を理解し説明できるようになることを目標とする。対応DP及びCP:法律学科1,6と経営経済学1,2,6で説明を行う際にドイツ語を表記するので、受講生はドイツ語の辞書を持参してもらうことをすすめる。辞書を持ち込むことが叶わない場合を考慮し、必要に応じて日本語訳でも解説するので心配せず参加して欲しい。			
履修条件				
授業方法	講義形式を中心とするが、ミニレポートの講評も適宜採り入れ、受講生の理解度に配慮しつつ講義を行う。講義ごとにレジュメおよび配布資料等（ドイツ連邦憲法裁判所の判例ないしコメンタル、ドイツの新聞記事等）を準備する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	講義内容の理解を確認するために、ミニレポート（50%程度）及び後期1回のレポート（50%程度）の提出によって成績を判断する。出欠席に関しては評価対象としない。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	平成28年度	国立国会図書館	調査資料2017－2平成28年度国際政策セミナー報告書：「家族のダイバーシティ－ヨーロッパの経験から考える－」	国立国会図書館調査及び立法考査局
		尚学社	憲法における家族－親の人権と子どもの人権－ [2010年]	古野豊秋
		信山社	ドイツの憲法判例Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	ドイツ憲法判例研究会編
	備考	「国会図書館調査資料2017－2」はインターネットより閲覧とダウンロードが可能である。 http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_10980299_po_201711.pdf?contentNo=1		
参考書	畑尻剛他編『ドイツの憲法裁判〔第2版〕連邦憲法裁判所の組織・手続・権限－日本比較法研究所研究叢書（88）－』中央大学出版部、君塚正臣編著『比較憲法』ミネルヴァ書房、高橋和之編『〔新版〕世界憲法集 第2版』岩波書店			
オフィスアワー	木曜日10：40～12：10 事前にメール等で連絡すること。 ※なお、講義内容に関する質問等については、メールにでも対応する予定である。 nanba.takeho@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。（2時間）
	授業内容	【「子どもの福祉（Kindeswohl）」と「教育」（1）】 横田守弘「親の教育権と『有害図書』規制と－裸体主義教育事件－」[1958年]〔ド憲判Ⅰ〕を採りあげる。
	事後学習	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。（2時間）
2	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。（2時間）
	授業内容	【「子どもの福祉（Kindeswohl）」と「教育」（2）】 柳眞弘「キリスト教的性格をもつ共同体（宗派混合学校）の憲法適合性－宗教混合学校事件－」[1975年]〔ド憲判Ⅰ〕を採りあげる。
	事後学習	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。（2時間）
3	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して活用する等。（2時間）
	授業内容	【「子どもの福祉（Kindeswohl）」と両性の実質的平等（2）：自らの出自を知る権利】 小林武「親権における父の最終決定権および単独代理を定めた男女同権法の合憲性－最終決定権（Stichentscheid）判決－」[1959年]〔ド憲判Ⅰ〕を採りあげる。
	事後学習	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。（2時間）
4	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して活用する等。（2時間）
	授業内容	【「子どもの福祉（Kindeswohl）」と婚外子差別の撤廃（1）：基本法6条5項】 渡辺中「非嫡出子の基本権と憲法委託－非嫡出子決定」[1969年]〔ド憲判Ⅰ〕を読み、「婚外子差別禁止」が憲法上の要請として徹底化した経緯について理解する。
	事後学習	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。（2時間）

5	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して活用する等。（2時間）
	授業内容	【「子どもの福祉（Kindeswohl）」と婚外子差別の撤廃（2）：自らの出自を知る権利】 1992年に114番目の「児童の権利に関する条約」の批准国となったドイツが、実際にどのように子どもの権利の拡大化を図ったのかについて、①佐々木健「ドイツ親子法における子の意志の尊重(1)」[2005年]〔立命館法学〕と②押久保倫夫「婚外子の父を知る権利と母親の人権」[1997年]〔ド憲判Ⅰ〕を読み理解する。
	事後学習	特に、佐々木 [2005年]（ http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/law/lex/05-4/sasaki.pdf ）については、「子どもの福祉（Kindeswohl）」との関係で重要な示唆を与える故、これまでの復習を行うために、よく読んで内容を理解する。（2時間）
6	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。（2時間）
	授業内容	【「子どもの福祉（Kindeswohl）」と婚外子差別の撤廃（3）：親の配慮権】 渡辺中「婚外子に対する親としての配慮権（Sorgerecht）」[1991年]〔ド憲判Ⅱ〕を採りあげる。
	事後学習	第6回は、次の第7回と関連する判例なので内容をよく読んで理解する。例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。（2時間）
7	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。（2時間）
	授業内容	【親の配慮権における両性の実質的平等と「子どもの福祉（Kindeswohl）」：婚外子差別の撤廃】 第7回では、渡辺中「婚外子に対する親としての配慮権（Sorgerecht）」の理解を踏まえて、新村とわ「婚外子に対する父母の配慮宣言と親による配慮権」[2003年]〔ド憲判Ⅲ〕を理解する。
	事後学習	第6回と第7回の内容を復習することにて、第8回の内容の理解がし易くなるので十分にこれまでの復習を行う。（2時間）
8	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。（2時間）
	授業内容	第5回で議論した「自らの出自を知る権利」とも関連する、玉蟲由樹「子の出自を知る父親の権利」[2007年]〔ド憲判Ⅳ〕を採りあげる。
	事後学習	もちろん、これまでの復習を行うために、例えば、法学部図書館の他、国会図書館の利用もすすめる。（2時間）
9	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。（2時間）
	授業内容	【「子どもの福祉（Kindeswohl）」と養子縁組制度（1）】 戸田典子「すべての人のための婚姻—同性婚法施行」論究ジュリスト23号[2017年]の他、赤坂正浩「『第三の性』—インターセクシュアルの性別登録と一般的人格権・平等権」自治研究94巻12号[2018年]を読み、養子縁組制度に必要な子どものへの配慮や子どものための最善の利益について検討する。
	事後学習	第9回で議論したテーマに関する日独の比較を行いミニレポートにまとめることが望ましい。法学部図書館、国会図書館の利用の他、「特別養子制度の見直しについて」 http://www.moj.go.jp/content/001260586.pdf もすすめる。（2時間）
10	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。（2時間）
	授業内容	【「子どもの福祉（Kindeswohl）」と養子縁組制度（2）】 「核家族と両親・里親・里子の基本権」に関して、飯田稔「里親の養育権（Sorgerecht）訴訟」[1988年]〔ド憲判Ⅱ〕を採りあげる。
	事後学習	第9回の理解を踏まえ第10回の判例を検討し、「ドイツと日本の養子縁組制度を比較したうえで、自らの見解を述べる。」についてミニレポートを作成する。（2時間）
11	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。（2時間）
	授業内容	【憲法上の「家族（Familie）」概念の変遷（2）：核家族から多世代型大家族】 近時の家族概念の拡大をめぐるBVerfGの見解となる2014年6月24日の第一法廷判決を読み、「家族の特別の保護」の対象となる「家族」概念の解釈が拡大する状況にあることを検討する。特に、「その際に基準となった『子どもの意見表明』へのBVerfGの配慮に着目し、『子どもの最善の利益』と『養育環境』の安定化」について検討する。
	事後学習	特に、第5回で参照した佐々木 [2005年]（ http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/law/lex/05-4/sasaki.pdf ）を読んで、『子どもの意見表明』についての理解を深める。（2時間）
12	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。（2時間）
	授業内容	【未就学児の養育環境に関する平等化と外国人の母親の子ども】 難波岳穂「バイエルン州育児手当の合憲性」[2012年]〔ド憲判Ⅳ〕を採りあげる。
	事後学習	特に、第5回で参照した佐々木 [2005年]（ http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/law/lex/05-4/sasaki.pdf ）を読んで、ドイツにおける「児童の権利に関する条約」の影響力についてミニレポートを作成する。（2時間）
13	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットにより検索して参考にする等。（2時間）
	授業内容	【未就学児の養育環境に関する平等化】 齋藤純子「ドイツの連邦親手当・親時間法—所得比例方式の育児手当制度への転換—」[2007年]〔国会図書館〕を読み、2006年施行の「ドイツの連邦親手当・親時間法」と2019年施行法の「Das Gute-Kita-Gesetz」の関連性ないし違いについて検討する。
	事後学習	第11回、12回と並行して第13回で検討した齋藤[2007年]を十分に復習する。（2時間）
14	事前学習	各自が最も良いと思う方法により事前学習を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。（2時間）
	授業内容	【憲法上の「家族（Familie）」概念の変遷（3）：生活パートナーシップ法をめぐるBVerfGの判例】 三宅雄彦「生活パートナーシップ法の合憲性」[2002年]〔ド憲判Ⅲ〕他
	事後学習	第14回の内容の理解を助ける、国会図書館の「家族のダイバーシティ—ヨーロッパの経験から考える—」[2017年]（ http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_10980299_po_201711.pdf?contentNo=1 ）を読むこともすすめる。
15	事前学習	各自が最も良いと思う方法により「後期のレポート」の提出準備を進める。例えば、講義内容と関連する学術的な資料ないし論文等及びニュースをインターネットで検索し活用する等。（2時間）
	授業内容	【「後期のレポート」の提出準備と後期の講義内容の補足等】
	事後学習	「後期のレポート」の提出に向けた準備として、これまでの復習を十分に行っておくことが望ましい。しかし、レポートの提出に懸念材料がある場合には、別途質問時間を設けるので、該当する学生は質問内容を整理しておくこと。（2時間）

科目名	外国法B(仏) I	担当者	兼頭 ゆみ子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前半はフランスの法的基本構造を学習します。後半は、実際のフランス憲法判例を読み、法の多様性について考えます。				
授業目的・到達目標	フランス法の基礎およびフランス法と国際法・EU法との関わりを理解することを目的とし、フランスを取り巻く広義の法構造を説明できることを目標とする。仏語で法文を読解することができる。関連DPおよびCP：法律学科1,6 経営法学科：1, 2, 3, 6				
履修条件	フランス語を履修していること。				
授業方法	前半は講義形式で、レジュメを配ります。予習課題への取り組みを含め、積極的な参加を求めます。授業計画は受講生の構成および関心によって変更する場合があります。仏和辞書を必携のこと。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	講義の理解	
	平常評価		30%	授業への取り組み	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	備考	仏和辞書を必携のこと。			
参考書	滝沢正『フランス法 [第5版] 』（三省堂、2018年） フランス憲法判例研究会（編）『フランスの憲法判例Ⅰ・Ⅱ』（信山社、2002年、2013年）				
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、金曜授業の前後に授業講堂にて対応する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、講義全体を概観する。(2時間)
	授業内容	ガイダンス：講義概要、法令等の調べ方
	事後学習	フランス法令の公式サイトを確認する。自らの学習計画と他の履修科目との関係について検討する。(2時間)
2	事前学習	世界史の流れを復習しておく。(2時間)
	授業内容	概説フランス法史
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認し、フランス法の歴史に沿った変遷をまとめる。(2時間)
3	事前学習	フランス憲法前文第1文を原語で解読する。(2時間)
	授業内容	第五共和制憲法の構造
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。配布資料と講義ノートを確認し、フランス憲法と日本憲法の違いについて考察する。(2時間)
4	事前学習	フランス憲法前文第2文を原語で解読する。フランス憲法2章および3章を読む。(2時間)
	授業内容	大統領・政府
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。配布資料と講義ノートを確認し、大統領と政府の権限について考察する。日本法との違いを考える。(2時間)

5	事前学習	フランス憲法7条1項を原語で解説する。フランス憲法4章および5章を読む。(2時間)
	授業内容	国会
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。配布資料と講義ノートを確認し、国会および国会と政府の関係について考察する。日本法との違いを考える。(2時間)
6	事前学習	フランス憲法26条2項を原語で解説する。フランス憲法12章および13章を読む。(2時間)
	授業内容	行政組織・地方自治
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。配布資料と講義ノートを確認し、行政組織・地方自治について考察する。日本法との違いを考える。(2時間)
7	事前学習	フランス憲法72条1項を原語で解説する。フランス憲法8章を読む。(2時間)
	授業内容	司法裁判
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。配布資料と講義ノートを確認し、裁判制度の概要と司法裁判制度について考察する。日本法との違いを考える。(2時間)
8	事前学習	行政裁判制度とは何かを調べる。(2時間)
	授業内容	行政裁判
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認し、行政裁判制度について考察する。(2時間)
9	事前学習	フランス憲法61条1項を原語で解説する。フランス憲法7章を読む。(2時間)
	授業内容	違憲審査制度
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。配布資料と講義ノートを確認し、憲法院および違憲審査制度について考察する。(2時間)
10	事前学習	フランス憲法38条を原語で解説する。日本法の法源について復習しておく。(2時間)
	授業内容	法源
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。配布資料と講義ノートを見直し、フランス法の法源について考察する。(2時間)
11	事前学習	フランス憲法88条の1を原語で解説する。フランス憲法6章および15章を読む。(2時間)
	授業内容	国際法・EU法とフランス法の関係
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。配布資料と講義ノートを見直し、フランス憲法における国際規範の位置づけについて考察する。(2時間)
12	事前学習	1985年5月22日憲法院判決(DC85-188号)の冒頭部分を読解する。当該箇所に出てきた法文を調べる。(2時間)
	授業内容	憲法判例：死刑廃止(1)冒頭部分
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。憲法院判決の構造について考察する。(2時間)
13	事前学習	1985年5月22日憲法院判決(DC85-188号)の判決理由1を読解する。当該箇所に出てきた法文を調べる。(2時間)
	授業内容	憲法判例：死刑廃止(2)判決理由1
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。(2時間)
14	事前学習	1985年5月22日憲法院判決(DC85-188号)の判決理由2から判決主文までを読解する。(2時間)
	授業内容	憲法判例：死刑廃止(3)判決理由2から判決主文まで
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。憲法院の法的論理について考察する。(2時間)
15	事前学習	これまでの配布資料と講義ノートを見直し、憲法裁判の役割について考察する。(2時間)
	授業内容	総括
	事後学習	これまでの配布資料と講義ノートを見直し、試験へ向けて準備する。(2時間)

科目名	外国法B(仏)Ⅱ	担当者	兼頭 ゆみ子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	同性婚、言語の多様性、環境保護、移民と博愛の原則に関するフランスの憲法判例について学習する。					
授業目的・到達目標	フランス憲法判例の学習を通じ、文化、社会、法制度の多様性について比較法的視座を獲得することを目的とする。仏語での判例読解の基礎を習得することを目標とする。関連DPおよびCP：法律学科1, 6 経営法学科：1, 2, 3, 6					
履修条件	外国法B（仏）Ⅰを履修済であること。あるいはこれと同等程度にフランスの基本的法構造を理解し、フランス法の読解ができること。					
授業方法	予習課題への取り組みを含め、積極的な参加を求めます。レポートの提出を求めます。授業計画は受講生の構成および関心によって変更する可能性があります。仏和辞書を必携のこと。レポートの講評を行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業への取り組みとレポート評価	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	仏和辞書を必携のこと。				
参考書	滝沢正『フランス法〔第5版〕』（三省堂、2018年） フランス憲法判例研究会（編）『フランスの憲法判例Ⅰ・Ⅱ』（信山社、2002年、2013年）					
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、金曜授業の前後に授業講堂にて対応する。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、講義全体を概観する。(2時間)
	授業内容	ガイダンス：講義概要、法令等の調べ方
	事後学習	フランス法令の公式サイトを確認する。自らの学習計画と他の履修科目との関係について検討する。(2時間)
2	事前学習	2013年5月17日憲法院判決(DC2013-669号)の判決理由17から19を読解する。(2時間)
	授業内容	憲法判例：同性婚(1)判決理由17から19
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。(2時間)
3	事前学習	2013年5月17日憲法院判決(DC2013-669号)の判決理由20と21を読解する。(2時間)
	授業内容	憲法判例：同性婚(2)判決理由20と21
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。(2時間)
4	事前学習	2013年5月17日憲法院判決(DC2013-669号)の判決理由22から25を読解する。(2時間)
	授業内容	憲法判例：同性婚(3)判決理由22から25
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。婚姻制度と憲法の関係について考察する。(2時間)

5	事前学習	1999年6月15日憲法院判決(DC99-412号)の判決理由1から4を読解する。(2時間)
	授業内容	憲法判例：言語の多様性(1)判決理由1から4
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。(2時間)
6	事前学習	1999年6月15日憲法院判決(DC99-412号)の判決理由5から8を読解する。(2時間)
	授業内容	憲法判例：言語の多様性(2)判決理由5から8
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。(2時間)
7	事前学習	1999年6月15日憲法院判決(DC99-412号)の判決理由10から13を読解する。(2時間)
	授業内容	憲法判例：言語の多様性(3)判決理由10から13
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。言語政策と憲法の関係について考察する。(2時間)
8	事前学習	2011年10月14日憲法院判決(QPC2011-183/184号)の冒頭から判決理由4を読解する。(2時間)
	授業内容	憲法判例：環境保護(1)冒頭から判決理由4
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。(2時間)
9	事前学習	2011年10月14日憲法院判決(QPC2011-183/184号)の判決理由5から7を読解する。(2時間)
	授業内容	憲法判例：環境保護(2)判決理由5から7
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。(2時間)
10	事前学習	2011年10月14日憲法院判決(QPC2011-183/184号)の判決理由8から11を読解する。(2時間)
	授業内容	憲法判例：環境保護(3)判決理由8から11
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。環境保護と憲法の関係について考察する。(2時間)
11	事前学習	2018年7月6日憲法院判決(QPC2018-717/718号)の判決理由2から4までを読解する。(2時間)
	授業内容	憲法判例：移民と博愛の原則(1)判決理由2から4まで
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。(2時間)
12	事前学習	2018年7月6日憲法院判決(QPC2018-717/718号)の判決理由5と6を読解する。(2時間)
	授業内容	憲法判例：移民と博愛の原則(2)判決理由5と6
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。(2時間)
13	事前学習	2018年7月6日憲法院判決(QPC2018-717/718号)の判決理由7から11を読解する。(2時間)
	授業内容	憲法判例：移民と博愛の原則(3)判決理由7から11まで
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。(2時間)
14	事前学習	2018年7月6日憲法院判決(QPC2018-717/718号)の判決理由12から15を読解する。(2時間)
	授業内容	憲法判例：移民と博愛の原則(4)判決理由12から15まで
	事後学習	読解の間違った箇所を見直す。移民政策と憲法の関係について考察する。(2時間)
15	事前学習	これまでの配布資料と講義ノートを見直し、憲法裁判の役割について考察する。(2時間)
	授業内容	総括
	事後学習	これまでの配布資料と講義ノートを見直し、日本における憲法の役割と比較して察する。(2時間)

科目名	外国法C(英米) I	担当者	坂本 力也	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	豊富な判例の蓄積をととして確立・発展してきたアメリカの不法行為法上の法的争点と法理について学修する。コモンローで確立されてきた各不法行為を扱う短い原文（英語）の仮説事案を多数検討する。事実審理における陪審と裁判官の役割を想定し、原告の主張と被告の積極的抗弁の内容の検討をととして、客観的な事実認定と判例に支持される法的根拠に基づき原告が勝訴する可能性を評価するリーガルマインドを養成する。				
授業目的・到達目標	アメリカの不法行為法の全体像を実体法的側面及び手続法的側面から理解することを目的とし、判例法主義をとる英米法に特有の帰納的アプローチをととして、判例から法的争点とその解決に適用される法理を抽出するスキルを身に付け、かかる法理の内容をコモンローの法律専門用語を正確に理解し日本語で説明できるようになることを到達目標とする。関連DP及びCP：経営法学科1, 2, 3, 4, 6				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式とディスカッション形式を併用しながらすすめていく。期末のレポートのフィードバックはその提出日にレポート課題の出題趣旨と評価のポイントの解説をととして行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義への発言による参加（30％）と期末のレポートの内容を総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。配布資料を使用する。			
参考書	田中英夫編『英米法辞典』東京大学出版会、1991年 このほかの参考書は授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	日時：水曜日12:30-13:00 場所：9号館1階ロビー 備考：休暇中は除く。講義後にアポイントメントを取ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、判例法主義(stare decisis)、不法行為法(Torts)、一応有利な事件(prima facie case)、懲罰的賠償(punitive damage)について『英米法辞典』等で調べてくる。（2時間）
	授業内容	英米不法行為法の法源と歴史的発展について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。（2時間）
2	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	不法行為訴訟：アメリカの裁判制度（陪審審理；救済の種類；判決の種類；立証責任；立証基準；積極的抗弁）について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。（2時間）
3	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	故意による不法行為：Battery（1）：要件・法的争点・法理について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。（2時間）
4	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	故意による不法行為：Battery（2）：積極的抗弁について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。（2時間）

5	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	故意による不法行為：Assault (1)：要件・法的争点・法理について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。(2時間)
6	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	故意による不法行為：Assault (2)：積極的抗弁について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。(2時間)
7	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	故意による不法行為：False Imprisonment (1)：要件・法的争点・法理について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。(2時間)
8	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	故意による不法行為：False Imprisonment (2)：積極的抗弁について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。(2時間)
9	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	故意による不法行為：Intentional Infliction of Emotional Distress (1)：要件・法的争点・法理について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。(2時間)
10	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	故意による不法行為：Intentional Infliction of Emotional Distress (2)：積極的抗弁について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。(2時間)
11	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	故意による不法行為：Trespass (1)：要件・法的争点・法理について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。(2時間)
12	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	故意による不法行為：Trespass (2)：積極的抗弁について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。(2時間)
13	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	故意による不法行為：Defamation：要件・法的争点・法理・積極的抗弁について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。(2時間)
14	事前学習	これまでの授業の内容を踏まえ、事前に課した課題についてレポートを作成し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での質疑応答に備える。(3時間)
	授業内容	これまでの授業の内容のまとめと質疑応答を行う。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。(1時間)
15	事前学習	これまでの授業の内容を踏まえ、事前に課した課題についてレポートを作成し提出に備える。(3時間)。
	授業内容	授業内レポートの提出とレポート課題の趣旨と評価のポイントについて解説する。
	事後学習	レポート課題の趣旨と評価のポイントを踏まえ自らのパフォーマンスを確認する。(1時間)

科目名	外国法C(英米)Ⅱ	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	豊富な判例の蓄積をととして確立・発展してきたアメリカの不法行為法上の法的争点と法理について学修する。コモンローで確立されてきた各不法行為を扱う短い原文（英語）の仮説事案を多数検討する。事実審理における陪審と裁判官の役割を想定し、原告の主張と被告の積極的抗弁の内容の検討をととして、客観的な事実認定と判例に支持される法的根拠に基づき原告が勝訴する可能性を評価するリーガルマインドを養成する。				
授業目的・到達目標	アメリカの不法行為法の全体像を実体法的側面及び手続法的側面から理解することを目的とし、判例法主義をとる英米法に特有の帰納的アプローチをととして、判例から法的争点とその解決に適用される法理を抽出するスキルを身に付け、かかる法理の内容をコモンローの法律専門用語を正確に理解し日本語で説明できるようになることを到達目標とする。関連DP及びCP：経営法学科1，2，3，4，6				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式とディスカッション形式を併用しながらすすめていく。期末のレポートのフィードバックはその提出日にレポート課題の出題趣旨と評価のポイントの解説をととして行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義への発言による参加（30％）とレポート（前後期1回ずつ（70％））の内容を総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。配布資料を使用する。			
参考書	田中英夫編『英米法辞典』東京大学出版会、1991年 このほかの参考書は授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	日時：水曜日12:30-13:00 場所：9号館1階ロビー 備考：休暇中は除く。講義後にアポイントメントを取ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	過失による不法行為：Negligence（1）：歴史的発展について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。（2時間）
2	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	過失による不法行為：Negligence（2）：要件・法的争点・法理について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。（2時間）
3	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	過失による不法行為：Negligence（3）：義務（a）通常の人々の義務について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。（2時間）
4	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	過失による不法行為：Negligence（4）：義務（b）専門職に就く者の義務について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。（2時間）

5	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	過失による不法行為：Negligence (5)：過失推定の法理 (Res Ipsa Loquitur)について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。(2時間)
6	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	過失による不法行為：Negligence (6)：事実上の原因と法律上の原因について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。(2時間)
7	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	過失による不法行為：Negligence (7)：積極的抗弁について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。(2時間)
8	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	厳格責任による不法行為：Wild Animals；Ultrahazardous Activities；Vicarious Liabilityについて配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。(2時間)
9	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	製造物責任法：歴史的発展について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。(2時間)
10	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	保証による製造物責任：要件・法的争点・法理について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。(2時間)
11	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	過失による製造物責任：要件・法的争点・法理について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。(2時間)
12	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	厳格責任による製造物責任：要件・法的争点・法理について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。(2時間)
13	事前学習	以下の授業内容につき、配布資料の該当箇所を予習し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での発言に備える。(2時間)
	授業内容	厳格責任による製造物責任：積極的抗弁について配布資料を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。(2時間)
14	事前学習	これまでの授業の内容を踏まえ、事前に課した課題についてレポートを作成し、わからない英米法の専門用語は『英米法辞典』等で調べ、授業での質疑応答に備える。(3時間)
	授業内容	これまでの講義の内容のまとめと質疑応答を行う。
	事後学習	講義ノートに授業で学んだポイントをまとめる。(1時間)
15	事前学習	これまでの授業の内容を踏まえ、事前に課した課題についてレポートを作成し提出に備える。(3時間)。
	授業内容	レポートの提出と課題の趣旨と評価のポイントを解説する。
	事後学習	レポート課題の趣旨と評価のポイントを踏まえ自らのパフォーマンスを確認する。(1時間)

科目名	外国法C(EU) I	担当者	鳩貝 真理	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	EU法は、事実上のグローバル・スタンダードを形成したりEU域外へも適用されるものがあつたりする等、日本にも影響を与えます。 この講義では、ますます重要性を増すインターネットの世界を切り口として、日本の企業に影響を与えるEUの個人データ保護法制について、日本法との比較をしつつ学習します。講師は実務家（弁護士、元外交官）です。				
授業目的・到達目標	EUの個人データ保護法制の学習を通じて、国際化・データ化が進む社会で役に立つよう視野を広げることを目的とします。 インターネットの世界を切り口に、日本法と比較しながら双方向的なスタイルも取り入れて検討することで、テーマに係る問題を発見、理解し、それを説明し、自らの考えを述べることを目標とします。 関連DP及びCP：法学部経営法学科 1、2、3、4、6				
履修条件	特になし。				
授業方法	テキストに即して、またはハンドアウトを配布して、講義を進めます。 授業内試験の解説をポータルシステムで配信します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		50%	授業内容を理解できているかを判定します。 教科書、ノート、ハンドアウトの持込可で行います。	
	平常評価		50%	授業で積極的に自らの考えを伝えることができているか等授業参加度を判定します。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2017年	法律文化社	インターネットの自由と不自由—ルールの視点から読み解く		庄司克宏編
	備考				
参考書	『EU一般データ保護規則』宮下紘、勁草書房、2018年				
オフィスアワー	土湯3限講義後の20分間、講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	EUに関するニュースに注目し、また、この講義に望むことについて考える。（30分）
	授業内容	講義の概要やEU法を学習する意義等この講義のガイダンスを行い、受講生がこの講義の全体像を理解できるようにする。
	事後学習	ハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、授業内容について理解を深める。（3時間30分）
2	事前学習	教科書の第1章と第3章を通読する。（30分）
	授業内容	教科書の第1章「インターネットの自由が危ない？」と第3章「個人情報は世界中どこでも保護されるか」を読み、インターネットにおける個人情報保護についての問題意識を持ち、理解を深め、自分の意見を述べられるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
3	事前学習	ハンドアウトを通読する。（30分）
	授業内容	EUの個人データ保護法制を学ぶ架け橋として、日本の個人情報保護法の概要について理解し、説明できるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
4	事前学習	ハンドアウトを通読する。（30分）
	授業内容	EU一般データ保護規則（GDPR）の概要や日本への影響について、理解し、説明できるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）

5	事前学習	教科書の第4章を通読する。（30分）
	授業内容	教科書の第4章「個人情報保護は基本的人権か」を読み、EUにおける個人情報保護について問題意識を持ち、自分の意見を述べられるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
6	事前学習	ハンドアウトを通読する。（30分）
	授業内容	前回の問題意識を踏まえ、EU一般データ保護規則（GDPR）の目的やGDPRにおける個人データ処理に関する原則等について理解し、説明できるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
7	事前学習	教科書の第6章を通読する。（30分）
	授業内容	映画「スノーデン」を鑑賞し、個人情報保護とテロ対策の監視等について問題意識を持ち、自分の意見を述べられるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
8	事前学習	教科書の第6章を通読する。（30分）
	授業内容	映画「スノーデン」の続きを鑑賞し、個人情報保護とテロ対策の監視等について問題意識を持ち、自分の意見を述べられるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
9	事前学習	教科書の第6章を通読する。（30分）
	授業内容	教科書の第6章「個人情報保護か、テロ対策の監視か」を読み、EUと米国との間の緊張関係やテロ対策等と個人情報保護のバランスについて理解し、自分の意見を述べられるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、授業内容について理解を深める。（3時間30分）
10	事前学習	教科書の第5章を通読する。（30分）
	授業内容	教科書の第5章「忘れられる権利と表現の自由」を読み、忘れられる権利について理解し、自分の意見を述べられるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
11	事前学習	ハンドアウトを通読する。（30分）
	授業内容	忘れられる権利等EU一般データ保護規則（GDPR）においてデータ主体に認められる権利について、理解し、説明できるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
12	事前学習	教科書の第7章を通読する。（30分）
	授業内容	教科書の第7章「EUの個人情報保護法は日本にまで及ぶか」を読み、個人データを国際的に移転する場合の検討点について理解し、自分の意見を述べられるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
13	事前学習	ハンドアウトを通読する。（30分）
	授業内容	EU一般データ保護規則（GDPR）における欧州域外への個人データ移転に関する規定について理解し、説明できるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
14	事前学習	ハンドアウトを通読する。（30分）
	授業内容	EU一般データ保護規則（GDPR）と日本の個人情報保護法との比較をして、その相違点を理解し、説明できるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
15	事前学習	これまでの授業内容についてポイントをまとめる。（2時間）
	授業内容	前半は、これまでの授業についてのまとめ。後半では、授業内テストを受け、この講義についての理解を示すことができるようにする。
	事後学習	これまでの授業内容について復習する。（2時間）

科目名	外国法C(EU)Ⅱ	担当者	鳩貝 真理	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、ますます重要性を増すインターネットの世界を切り口として、日本企業に影響を与えるEUの競争法について、日本法との比較をしつつ学習します。 また、実務家の講師（弁護士、元外交官）が締結に携わった日EU経済連携協定についても紹介します。				
授業目的・到達目標	EUの競争法の学習を通じて、国際化・データ化が進む社会で役に立つよう視野を広げることを目的とします。 インターネットの世界を切り口に、日本法と比較したり判例を読んだりしながら、双方向的なスタイルも取り入れて検討することで、テーマに係る問題を発見、理解し、それを説明し、自らの考えを述べることを目的とし、目標とします。 関連DP及びCP：法学部経営法学科 1、2、3、4、6				
履修条件	特に無し。				
授業方法	テキストに即して、またはハンドアウトを配布して、講義を進めます。 授業内試験の解説をポータルシステムで配信します。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		50%		授業内容を理解できているかを判定します。 教科書、ノート、ハンドアウトの持込可で行います。
	平常評価		50%		授業で積極的に自らの考えを伝えることができているか等授業参加度を判定します。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017年	法律文化社		インターネットの自由と不自由—ルールの視点から読み解く	庄司克宏編
	2014年	岩波書店		新EU法 政策編	庄司克宏
	備考				
参考書	特に無し。				
オフィスアワー	土曜3限講義後の20分間、講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	EU競争法に関するニュースに注目し、また、この講義に望むことについて考える。（30分）
	授業内容	講義の概要やEU競争法を学習する意義等この講義のガイダンスを行い、受講生がこの講義の全体像を理解できるようにする。
	事後学習	ハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、授業内容について理解を深める。（3時間30分）
2	事前学習	教科書（インターネットの自由と不自由—ルールの視点から読み解く）の第9章を通読する。（30分）
	授業内容	教科書の第9章「人工知能のカルテルは罪になるか」を読み、オンラインビジネスと競争法について問題意識を持ち、理解を深め、自分の意見を述べられるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
3	事前学習	ハンドアウトを通読する。（30分）
	授業内容	EUの競争法を学ぶ架け橋として、日本の独占禁止法の概要について理解し、説明できるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
4	事前学習	教科書（新EU法 政策編）の第6章(p200-213, 237-248)を通読する。（30分）
	授業内容	EU競争法の制度と手続きについて理解し、説明できるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）

5	事前学習	教科書（新EU法 政策編）の第6章(p214-236)を通読する。（30分）
	授業内容	EU競争法の執行について理解し、日本の企業における対応等について検討し、自分の意見を述べられるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
6	事前学習	教科書（新EU法 政策編）の第7章(p261-279)を通読する。（30分）
	授業内容	EU機能条約第101条を英語で読み、競争制限的行為の禁止について理解し、説明できるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
7	事前学習	教科書（新EU法 政策編）の第7章(p280-295)を通読する。（30分）
	授業内容	競争制限的行為の禁止について理解を深め、説明できるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
8	事前学習	教科書（新EU法 政策編）の第8章を通読する。（30分）
	授業内容	EU機能条約第102条を英語で読み、支配的地位の濫用の禁止について理解し、説明できるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
9	事前学習	教科書（インターネットの自由と不自由ルールからの視点から読み解く）の第10章を通読する。（30分）
	授業内容	教科書の第10章「ビッグデータを活用した競争は卑怯か」を読み、ビッグデータ時代における競争法について問題意識を持ち、理解を深め、自分の意見を述べられるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
10	事前学習	教科書（新EU法 政策編）の第9章を通読する。（30分）
	授業内容	合併規則について理解を深め、説明できるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
11	事前学習	判例の指定した部分を読む。（30分）
	授業内容	競争法に関するEU総合裁判所の判例を通じて、判例を原文で読む練習をし、その重要部分について理解し、説明できるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
12	事前学習	判例の指定した部分を読む。（30分）
	授業内容	前回学習した事件の上訴審における判決を通じて、判例を原文で読む練習をし、その重要部分について理解し、説明できるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
13	事前学習	ハンドアウトを通読する。（30分）
	授業内容	日EU経済連携協定の概要について理解を深め、説明できるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
14	事前学習	ハンドアウトを通読する。（30分）
	授業内容	日EU経済連携協定の競争政策章を原文で読み、理解を深め、説明できるようにする。
	事後学習	教科書とハンドアウトを参照して、要すれば学生同士でディスカッションをして、これまでの授業内容について理解を深める。（3時間30分）
15	事前学習	これまでの授業内容についてポイントをまとめる。（2時間）
	授業内容	前半はこれまでの授業についてのまとめ。後半では授業内テストを受け、この講義についての理解を示すことができるようにする。
	事後学習	これまでの授業内容について復習する。（2時間）

科目名	環境政策	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	環境問題は地球上の生きとし生けるもの全ての生死に関わる、現代社会の最も憂慮すべき課題の一つである。その点からも環境政策は、今日公共政策の個別分野の中でも特に重要な位置を占めつつある。この授業では、環境政策と環境行政の基本的事項の理解に努める。特になぜ日本では、これまで「持続可能な発展（Sustainable Development）の観点から十分な環境政策が取られてこなかったのか」という点に注目し授業を進めていく。				
授業目的・到達目標	生きていく上で環境問題を考えることがいかに重要なことであるのかを理解できる人を育成すること、また環境政策、環境行政というものが公共政策を考えていく上でいかに重要であるのかということが理解できる人を育成することを授業の目的とする。環境問題の発生、解決、及び環境政策の仕組みや機能、その果たす役割が広くかつ深く理解できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：公共政策学科1, 3, 4, 5				
履修条件	特にないが、公共政策論、行政学、地方自治論など関係の深い科目と併せて履修することで、より効果的な学習が期待できる。				
授業方法	講義形式による授業を進める。基本的に授業毎にレジュメ及び講義資料を配布する。各単元（章）の終了時に復習テストを行い、後日その解説を行うことで当該分野の理解を深める。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業への参加度、履修態度、復習テスト、レポート、授業内学習到達度テストなどを総合的に評価する。従って、前提となる出席が少ない場合は、評価の対象外となる。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参考書	倉坂秀史『環境政策論（第3版）』信山社、2014年、鈴木洋昌著『図解よくわかる自治体環境法のしくみ』学陽書房、2012年。この他、必要に応じて授業で紹介する。				
オフィスアワー	木曜日12時～13時。 また他の曜日、時間帯でも可能です。まずはメールで希望日時をご連絡下さい。 kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、参考書に挙げた書籍を参照し、環境政策（論）とはどのような授業科目であるのかを理解する。（2時間）
	授業内容	これからの授業概要、講義計画、成績評価の方法などの説明と参考文献を紹介し、受講生が授業の準備を行えるようにする。その後前提的理解として、環境問題とは何か、環境政策とは何か、環境行政とは何かについて、その意味するところについて学ぶ。
	事後学習	第1回目の授業内容をもとに環境政策論の核となる諸点（環境問題とは何か、環境政策とは何か、環境行政とは何か）を復習し、これからの自らの学習計画と他の履修科目との関連性について検討する。（2時間）
2	事前学習	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。（2時間）
	授業内容	公共政策と環境政策～環境問題、環境政策、環境行政とは何か？についてもう一度確認した上で、環境政策の政策過程について、その概要を学習する。
	事後学習	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。（2時間）
3	事前学習	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。（2時間）
	授業内容	環境省を中心とした国レベルの環境行政組織について、その制度的概要と課題について学ぶ。
	事後学習	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。（2時間）
4	事前学習	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。（2時間）
	授業内容	環境省を除いた他の中央官庁の環境行政組織と地方自治体の環境行政組織に関して、その制度的概要と課題について学ぶ。
	事後学習	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。（2時間）

5	事前学習	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。（2時間）
	授業内容	環境政策の手法(1) 環境政策は一つの手法を用いて完結するものではなく、多種多様な手法を相互有機的に用いて初めて効果的な政策実施が可能になる。この授業ではまずその多種多様な環境政策の種類について基本的な概要を学び、次にその中でも最も基本的なものとされる規制的手法について、その基本的概要と課題について学ぶ。
	事後学習	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。（2時間）
6	事前学習	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。（2時間）
	授業内容	環境政策の手法(2) 規制的手法の次に重要な位置を占めるとされる経済的手法について、その基本的概要と課題について学ぶ。
	事後学習	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。（2時間）
7	事前学習	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。（2時間）
	授業内容	環境政策の手法(3) 経済的手法に次いで重要な位置を占めるとされる情報的手法について、その基本的概要と課題について学ぶ。
	事後学習	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。（2時間）
8	事前学習	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。（2時間）
	授業内容	環境政策の手法(4) 情報的手法がグリーン・コンシューマー、グリーン・インベスターに果たす意義や役割について学ぶ。
	事後学習	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。（2時間）
9	事前学習	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。（2時間）
	授業内容	環境政策の手法(5) 情報的手法に次いで重要な位置を占めるとされる自主的取組手法について、その基本的概要と課題について学ぶ。また環境政策の手法のまとめとして、ポリシーミックスの重要性を考える。
	事後学習	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。（2時間）
10	事前学習	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。（2時間）
	授業内容	国際的な環境政策 この授業では、国際的な取り決めとしての各国協調の上での環境政策の形成、決定、実施について学習する。特に地球温暖化防止条約締結国会議（COP）を事例として取り上げ、京都議定書やパリ協定の意義と限界（課題）などについて理解を深める。
	事後学習	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。（2時間）
11	事前学習	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。（2時間）
	授業内容	環境法体系(1) 環境政策の基本をなすのは環境法と言われる環境に関する諸法である。ここではその中でも最も根幹をなす環境基本法について、その制度的概要を学ぶ。
	事後学習	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。（2時間）
12	事前学習	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。（2時間）
	授業内容	環境法体系(2) 個別の環境法について、その制度的概要、機能、役割について学ぶ。また国際的な環境に関する取り決め（条約など）と日本の国内法への作用などについても理解を深める。
	事後学習	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。（2時間）
13	事前学習	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。（2時間）
	授業内容	環境政策の歴史(1) 日本の環境政策の歴史を振り返る。この授業では、特に明治時代の開国、富国強兵、殖産興業期から高度経済成長期の前半までを取り上げて学習する。
	事後学習	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。（2時間）
14	事前学習	シラバスをもとに今回の授業の該当する部分について複数の参考文献にあたり、あらかじめ学習しておく。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから環境問題、環境政策、環境行政の当該部分に関する話題に関心を向けておく。（2時間）
	授業内容	環境政策の歴史(2) 前回に引き続き日本の環境政策の歴史を振り返る。この授業では、高度経済成長期の後半から現在までを取り上げて学習する。
	事後学習	講義ノートと参考文献を用いて授業で扱った箇所を復習し、理解に努める。参考書にあたっても分からない点は、時間の授業で質問する。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業で学んだ事柄について講義でとったノートや参考文献を見直し、全体的な理解に努める。（2時間）
	授業内容	授業のまとめとして、授業における学習到達度を測るテストを行う。
	事後学習	学習到達度を測るテストで出題された問題と自ら解答した内容を復習し直し、一層の環境問題、環境政策、環境行政の深い理解に努める。（2時間）

科目名	観光政策	担当者	小野 芳計	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	観光政策について、まず概論を講義し、その後各分野についてその現状、政策効果及び課題などを講義する。観光政策についての理解を深めるとともに、「観光」の語源をはじめ、観光振興を行う経済的意義、観光の経済効果などを学習する。					
授業目的・到達目標	観光政策について、その現状、政策効果及び課題などを学習し、観光政策の政策形成に必要な基礎的知識を身につけ、論理的かつ批判的にプロセスや政策効果を評価することができる能力を養成することを目的とする。旅の歴史、「観光」の語源をはじめ、観光産業の具体的なイメージや概念、観光に関する組織、観光の現状の具体例、観光振興を行う経済的意義、観光の経済効果が広範囲に及んでいることなどを理解し、説明できることを目標とする。対応DP及びCP:公共政策学科1, 3, 4, 5					
履修条件	2年次生以降を対象とする。					
授業方法	講義形式、スライド（パワーポイント）を使用して講義を行う。レポートの講評を後日、ポータルシステムにて配信する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		レポートによる（８０％） 授業参加度による（２０％）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	スライドを使用するので教科書は使用しない。				
参考書	講義中に適宜紹介					
オフィスアワー	金曜日 17:50～18:00 授業講堂にて メールアドレス:ono@jterc.or.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスと事前に示す資料（観光概論Ⅰ）を読み、講義の全体を概観する。（２時間）
	授業内容	観光概論Ⅰ～講義の目的・概要～
	事後学習	観光概論Ⅰのおさらいをして、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（２時間）
2	事前学習	事前に講義の資料（観光概論Ⅱ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめる。（２時間）
	授業内容	観光概論Ⅱ～観光の定義、歴史、意義、政策の概況～
	事後学習	講義終了後、観光概論Ⅱについてノートを整理し復習しておくこと（２時間）
3	事前学習	事前に講義の資料（観光産業論Ⅰ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめる。（２時間）
	授業内容	観光産業論Ⅰ～旅行業１：旅行業とは～
	事後学習	講義終了後、観光産業論Ⅰについてノートを整理し復習しておくこと（２時間）
4	事前学習	事前に講義の資料（観光産業論Ⅱ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめる。（２時間）
	授業内容	観光産業論Ⅱ～旅行業２：環境激変下の旅行業～
	事後学習	講義終了後、観光産業論Ⅱについてノートを整理し復習しておくこと（２時間）

5	事前学習	事前に講義の資料（観光産業論Ⅲ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめる。（2時間）
	授業内容	観光産業論Ⅲ～宿泊業1：宿泊業概論～
	事後学習	講義終了後、観光産業論Ⅲについてノートを整理し復習しておくこと（2時間）
6	事前学習	事前に講義の資料（観光産業論Ⅳ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめる。（2時間）
	授業内容	観光産業論Ⅳ～宿泊業2：ホテル業の仕組み～
	事後学習	講義終了後、観光産業論Ⅳについてノートを整理し復習しておくこと（2時間）
7	事前学習	事前に講義の資料（国際観光論Ⅰ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめる。（2時間）
	授業内容	国際観光論Ⅰ～外国人観光客誘致活動～
	事後学習	講義終了後、国際観光論Ⅰについてノートを整理し復習しておくこと（2時間）
8	事前学習	事前に講義の資料（国際観光論Ⅱ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめる。（2時間）
	授業内容	国際観光論Ⅱ～JNTOについて～
	事後学習	講義終了後、国際観光論Ⅱについてノートを整理し復習しておくこと（2時間）
9	事前学習	事前に講義の資料（国際観光論Ⅲ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめる。（2時間）
	授業内容	国際観光論Ⅲ～外国人受入れ体制の整備～
	事後学習	講義終了後、国際観光論Ⅲについてノートを整理し復習しておくこと（2時間）
10	事前学習	事前に講義の資料（観光コミュニティ論Ⅰ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめる。（2時間）
	授業内容	観光コミュニティ論Ⅰ～観光地域振興政策～
	事後学習	講義終了後、観光コミュニティ論Ⅰについてノートを整理し復習しておくこと（2時間）
11	事前学習	事前に講義の資料（観光コミュニティ論Ⅱ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめる。（2時間）
	授業内容	観光コミュニティ論Ⅱ～旅行需要の創出に向けて～
	事後学習	講義終了後、観光コミュニティ論Ⅱについてノートを整理し復習しておくこと（2時間）
12	事前学習	事前に講義の資料（観光コミュニティ論Ⅲ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめる。（2時間）
	授業内容	観光コミュニティ論Ⅲ～観光コミュニティのケーススタディ～
	事後学習	講義終了後、観光コミュニティ論Ⅲについてノートを整理し復習しておくこと（2時間）
13	事前学習	事前に講義の資料（観光コミュニティ論Ⅳ）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめる。（2時間）
	授業内容	観光コミュニティ論Ⅳ～テーマパーク～
	事後学習	講義終了後、観光コミュニティ論Ⅳについてノートを整理し復習しておくこと（2時間）
14	事前学習	事前に講義の資料（観光と交通の関係）を示すので、目を通し、自分の考えが述べられるようまとめる。（2時間）
	授業内容	観光と交通の関係～観光学と交通経済学～
	事後学習	講義終了後、観光と交通の関係についてノートを整理し復習しておくこと（2時間）
15	事前学習	初回からの講義資料とノートを見直し、観光政策全体を考察する。（2時間）
	授業内容	総括～概論、観光産業論、国際観光論、観光コミュニティ論を総括する～
	事後学習	初回からの講義資料とノートを見直し、レポート作成に向けて準備する。（2時間）

科目名	監査論Ⅰ	担当者	北川 道男	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	監査と社会の関係を理解する。			
授業目的・到達目標	監査と社会の関係についての知識を修得することを目的とし、法廷監査制度の基礎及び監査基準を理解し、説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：経営法学科1, 2, 3, 4, 6, 8			
履修条件	簿記原理を履修していることが望まれる。			
授業方法	教室の条件が許せばpower point授業による。授業内試験の解説を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	(70%)授業内試験。論述問題。 (30%)課題レポート。
教科書	年	出版社	書名	著者名
		同文館	ベーシック監査論	伊予田、他
	備考			
参考書	随時指示する			
オフィスアワー	金曜日12：10～ 授業講堂にて。 事前にkitagawa.michio@nihon-u.ac.jpにメールし時間を調整してください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読む（2時間）
	授業内容	講義の方法、成績評価、勉強の方法、公認会計士試験
	事後学習	勉強計画を立てる（2時間）
2	事前学習	インターネット、新聞で過去生じた企業の不正会計事件を調べる（2時間）
	授業内容	経済社会を揺るがす経済事件（1）東芝
	事後学習	事件の概要を整理（2時間）
3	事前学習	インターネット、新聞で過去生じた企業の不正会計事件を調べる（2時間）
	授業内容	経済社会を揺るがす経済事件（2）オリンパス光学
	事後学習	事件の概要を整理（2時間）
4	事前学習	インターネット、新聞で過去生じた企業の不正会計事件を調べる（2時間）
	授業内容	経済社会を揺るがす経済事件（3）大和銀行事件
	事後学習	事件の概要を整理、課題レポート（2時間）

5	事前学習	テキスト1章4項を読む（2時間）
	授業内容	Accountabilityと監査
	事後学習	監査の必要性を整理（2時間）
6	事前学習	テキスト1章を読む（2時間）
	授業内容	監査の生成と監査の種類
	事後学習	ポイントを整理（2時間）
7	事前学習	テキスト2章1項をよく読む（2時間）
	授業内容	財務諸表監査、貸借対照監査、精密監査
	事後学習	ポイントを整理（2時間）
8	事前学習	テキスト3章1校から3項をよく読む（2時間）
	授業内容	財務諸表監査とリスクアプローチ
	事後学習	なぜ導入されたかをよく整理（2時間）
9	事前学習	テキスト1章5項を読む（2時間）
	授業内容	財務諸表監査仮説
	事後学習	現代の適合性を考える（2時間）
10	事前学習	テキスト1章3項を読む（2時間）
	授業内容	会社法監査
	事後学習	会社法監査の目的と制度を整理すること（2時間）
11	事前学習	テキスト1章4項を読む（2時間）
	授業内容	金融商品取引法監査
	事後学習	証券取引法の導入からの変化を把握（2時間）
12	事前学習	公認会計士法を読んでおく（2時間）
	授業内容	公認会計士、監査法人
	事後学習	どのような制限があるのか（2時間）
13	事前学習	監査基準をよく読んで（2時間）
	授業内容	監査基準の概要
	事後学習	発展の背景をよく整理（2時間）
14	事前学習	監査基準をよく読んでおく（2時間）
	授業内容	監査基準；一般基準
	事後学習	ポイントを整理（2時間）
15	事前学習	試験勉強（2時間）
	授業内容	進度確認試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	反省（2時間）

科目名	監査論Ⅱ	担当者	北川 道男	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	監査と社会の関係を把握				
授業目的・到達目標	監査と社会の関係を把握することを目的とする。監査の基礎理論を修得するとともに、社会の変化と監査の変化を理解し、説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP；経営法学科1, 2, 3, 4, 6, 8				
履修条件	簿記原理を履修していることが望まれる。				
授業方法	教室の条件が許せばpower point授業による。 授業内試験の解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	(70%)授業内試験。論述問題。 (30%)課題レポート。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
		同文館		ベーシック監査論	伊予田、他
	備考				
参考書	随時指示する				
オフィスアワー	金曜日12：10～ 授業講堂にて。 事前にkitagawa.michio@nihon-u.ac.jpにメールし時間を調整してください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読む（2時間）
	授業内容	ガイダンス、登録
	事後学習	学習計画を立てる（2時間）
2	事前学習	テキスト4章をよく読む（2時間）
	授業内容	監査意見形成プロセス－経営者の主張と監査命題
	事後学習	監査命題のポイントを整理（2時間）
3	事前学習	テキスト4章4－6項をよく読むこと（2時間）
	授業内容	監査意見形成プロセス－監査技術と監査証拠
	事後学習	関係の整理（2時間）
4	事前学習	テキスト（2時間）
	授業内容	監査意見形成プロセス－合理的基礎と合理的保障
	事後学習	違いを整理（2時間）

5	事前学習	テキスト第6章をよく読む（2時間）
	授業内容	監査のリスクアプローチ
	事後学習	ポイント整理（2時間）
6	事前学習	テキスト7章1・2項をよく読む（2時間）
	授業内容	監査報告書の様式、監査意見の種類
	事後学習	ポイント整理（2時間）
7	事前学習	テキスト7章3項をよく読む（2時間）
	授業内容	監査意見の種類
	事後学習	各意見のポイント整理（2時間）
8	事前学習	テキスト7章3項をよく読んでおく（2時間）
	授業内容	監査意見の種類
	事後学習	課題レポート（2時間）
9	事前学習	テキスト7章4項をよく読む（2時間）
	授業内容	追記事項、継続性監査
	事後学習	監査意見との関係整理（2時間）
10	事前学習	テキスト8章1項をよく読んで（2時間）
	授業内容	中間監査と四半期報告書レビュー
	事後学習	意見の種類の整理（2時間）
11	事前学習	テキスト8章2項をよく読んでおく（2時間）
	授業内容	内部統制監査
	事後学習	制度の目的を検討する（2時間）
12	事前学習	テキスト2章・3項をよく読む（2時間）
	授業内容	監査役監査と監査委員会
	事後学習	制度の整理（2時間）
13	事前学習	内部監査基準をよく読む（2時間）
	授業内容	内部監査
	事後学習	外部監査との関係を整理（2時間）
14	事前学習	答案作成の方法の検討（2時間）
	授業内容	質問、試験説明
	事後学習	試験勉強（2時間）
15	事前学習	試験勉強（2時間）
	授業内容	授業内試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	反省（2時間）

科目名	管理会計論Ⅰ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経営管理のために行われる管理会計は、財務会計とは異なり企業内部で利用するための会計情報の提供を目的とするため、目的に応じた多様な会計情報が提供されます。この授業では、企業経営のさまざまな場面で活用される管理会計の基礎について学修します。			
授業目的・到達目標	この授業の目的は、経営意思決定における会計情報の役立ちについて理解して企業経営における課題を発見する能力や、経営トップの思考・問題意識等を理解する力を養成することにあります。授業における具体的な到達目標は、標準原価計算による製造原価の管理や、CVP分析、直接原価計算について理解し、これらを実践できることです。【関連DP及びCP：経営法学科1, 2, 3, 4, 7】			
履修条件	原価計算論Ⅰおよび原価計算論Ⅱをあらかじめ履修し、原価計算の基礎についての学修を終えていることが望ましいです。また、管理会計論Ⅱを併せて履修するようにしてください。			
授業方法	毎回の授業に先立って共有フォルダを通じて授業範囲のレジュメを配布し、講義を実施します。また、電卓を持参するようにしてください。なお、定期試験へのフィードバックは、ポータルシステムを通じて行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		70%	授業内容の理解度を確認するために、前学期末に試験を実施します。
	平常評価		30%	各回の授業の終わりに、授業内容についての理解度を問うミニテストを実施します。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しません。		
参考書	授業内で適宜指示します。			
オフィスアワー	研究室での相談対応は、毎週火曜日の夕方（16:30頃～18:00頃）実施します。希望者は実施時間帯に担当教員の研究室（本館8階の1820研究室）まで来て下さい。ただし、都合により不在の場合もあるため、事前にメール（kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp）にてアポを取るようにしてください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	原価計算の基本について確認する。既修者は、原価計算論ⅠおよびⅡの内容を復習しておくといよ（2時間）
	授業内容	管理会計とは
	事後学習	管理会計の役割を理解し、財務会計との違いを理解する（2時間）
2	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	製品原価計算の基本①：個別原価計算
	事後学習	個別原価計算の仕組みを理解し、指図書別原価計算表の作成方法を把握する（2時間）
3	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	製品原価計算の基本②：製造間接費の配賦
	事後学習	製造間接費の配賦方法に関する基本的な仕組みを理解し、公式法変動予算による差異分析を把握する（2時間）
4	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	製品原価計算の基本③：総合原価計算①（月末仕掛品の評価）
	事後学習	総合原価計算の基本的仕組みを理解し、個別原価計算との違いを認識しつつ、月末仕掛品の評価方法を把握する（2時間）

5	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	製品原価計算の基本④：総合原価計算②（先入先出法と平均法）
	事後学習	月初仕掛品が存在する場合の、先入先出法と平均法の違いを理解し、両方法による月末仕掛品の評価を把握する（2時間）
6	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	標準原価計算①：標準原価による製品原価の計算
	事後学習	標準原価の基本概念を理解し、実際原価計算との違いを認識しつつ、標準原価による月末仕掛品の評価方法を把握する（2時間）
7	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	標準原価計算②：標準原価差異分析①（直接材料費差異）
	事後学習	標準原価計算における原価差異分析の目的を理解し、直接材料費の原価差異分析方法を把握する（2時間）
8	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	標準原価計算③：標準原価差異分析②（直接労務費差異）
	事後学習	標準原価計算における原価差異分析の目的を理解し、直接労務費の原価差異分析方法を把握する（2時間）
9	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	標準原価計算④：標準原価差異分析③（製造間接費差異分析）
	事後学習	製造間接費の原価差異分析方法について、複数の方法があることを理解し、各方法における差異分析結果の相違点を把握する（2時間）
10	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	原価・営業量・利益関係の分析①：貢献（限界）利益と損益分岐点
	事後学習	CVP分析の基本となる変動費と固定費の分類や、貢献（限界）利益の概念を理解し、損益分岐点分析の基本的手法を把握する（2時間）
11	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	原価・営業量・利益関係の分析②：さまざまなCVP分析と固変分解
	事後学習	目標利益達成売上高の分析などの分析方法を理解し、CVP分析の基本となる変動費と固定費の分解方法を把握する（2時間）
12	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	直接原価計算①：直接原価計算の概要
	事後学習	直接原価計算の基本的考え方を理解し、個別・総合や実際・標準といった分類に加え、全部・直接といった原価計算の分類を把握する（2時間）
13	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	直接原価計算②：固定費調整
	事後学習	直接原価計算と全部原価計算の相違点を理解し、固定費調整による営業利益の調整方法を把握する（2時間）
14	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	問題演習による各種計算技法の確認
	事後学習	個別原価計算や総合原価計算等の各計算技法を修得する（2時間）
15	事前学習	前期の学修内容を概観しておく（2時間）
	授業内容	総括：標準原価計算・CVP分析・直接原価計算
	事後学習	定期試験に向けて前期の学修内容を包括的に復習しておく（2時間）

科目名	管理会計論Ⅱ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経営管理のために行われる管理会計は、財務会計とは異なり企業内部で利用するための会計情報の提供を目的とするため、目的に応じた多様な会計情報が提供されます。この授業では、企業経営のさまざまな場面で活用される管理会計の基礎について学修します。			
授業目的・到達目標	この授業の目的は、経営意思決定における会計情報の役立ちについて理解して企業経営における課題を発見する能力や、経営トップの思考・問題意識等を理解する力を養成することにあります。授業における具体的な到達目標は、予算実績差異分析や、差額原価収益分析等の意思決定等について理解し、これらを実践できることです。【関連DP及びCP：経営法学科1, 2, 3, 4, 7】			
履修条件	原価計算論Ⅰおよび原価計算論Ⅱをあらかじめ履修し、原価計算の基礎についての学修を終えていることが望ましいです。また、管理会計論Ⅰを併せて履修するようにしてください。			
授業方法	毎回の授業に先立って共有フォルダを通じて授業範囲のレジュメを配布し、講義を実施します。また、電卓を持参するようにしてください。なお、定期試験へのフィードバックは、ポータルシステムを通じて行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		70%	授業内容の理解度を確認するために、後学期末に試験を実施します。
	平常評価		30%	各回の授業の終わりに、授業内容についての理解度を問うミニテストを実施します。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しません。		
参考書	授業内で適宜指示します。			
オフィスアワー	研究室での相談対応は、毎週火曜日の夕方（16:30頃～18:00頃）実施します。希望者は実施時間帯に担当教員の研究室（本館8階の1820研究室）まで来て下さい。ただし、都合により不在の場合もあるため、事前にメール（kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp）にてアポを取るようにしてください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期に学修した内容を確認しておく（2時間）
	授業内容	管理会計論Ⅰで学修した内容の復習
	事後学習	製品別原価計算・標準原価計算・CVP分析・直接原価計算について再確認する（2時間）
2	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	予算実績差異分析①：貢献利益差異の分析
	事後学習	予算と実績について理解し、貢献利益差異の分析方法を把握する（2時間）
3	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	予算実績差異分析②：販売数量差異の分析
	事後学習	貢献利益差異の要素のうち、販売数量差異の細分析方法を把握する（2時間）
4	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	業務的意思決定①：意思決定の概要
	事後学習	意思決定の概要を理解し、差額収益、差額原価、埋没原価の各概念を把握する（2時間）

5	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	業務的意思決定②：差額原価収益分析を用いた意思決定①
	事後学習	差額収益および差額原価を用いた業務的意思決定を把握する（2時間）
6	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	業務的意思決定③：差額原価収益分析を用いた意思決定②
	事後学習	問題演習を通じて、差額原価収益分析を修得する（2時間）
7	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	構造的意意思決定①：構造的意意思決定の特徴、キャッシュ・フローの計算
	事後学習	設備投資をめぐる構造的意意思決定の概要を理解し、キャッシュ・フローの計算方法を把握する（2時間）
8	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	構造的意意思決定②：単純回収期間法と貨幣の時間価値
	事後学習	単純回収期間法を把握するとともに、貨幣の時間価値を考慮する必要性を理解して現在価値の計算手法を把握する（2時間）
9	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	構造的意意思決定③：正味現在価値法による意意思決定
	事後学習	正味現在価値による設備投資の意意思決定を理解し、NPV法による投資案の評価方法を把握する（2時間）
10	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	構造的意意思決定④：タックス・シールドの考慮と資本コストの計算
	事後学習	節税効果と割引率計算について理解し、タックス・シールドおよび資本コストの計算方法を把握する（2時間）
11	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	構造的意意思決定⑤：問題演習による構造的意意思決定の確認
	事後学習	総合的な演習問題によって設備投資に関する構造的意意思決定を修得し、相互排他的な投資案の評価方法を把握する（2時間）
12	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	配当割引モデルによる企業価値評価
	事後学習	今日の会計領域におけるDCF法の浸透を把握する（2時間）
13	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	ライフサイクル・コストニング
	事後学習	製品のライフサイクルを理解し、ライフサイクルの各段階で生じるコストを把握する（2時間）
14	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	原価企画
	事後学習	原価企画・原価維持・原価改善という原価管理の手法を把握する（2時間）
15	事前学習	後期の学修内容を概観しておく（2時間）
	授業内容	総括：予算実績差異分析・構造的意意思決定・LCC・原価企画
	事後学習	定期試験に向けて後期の学修内容を包括的に復習しておく（2時間）

科目名	企業会計法Ⅰ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	企業が行う財務報告は、会計基準に従って作成された財務諸表によって行われますが、財務諸表そのものの作成開示を要請しているのは、金融商品取引法や会社法といった法律です。このように企業会計は法律とも密接に結びついており、会計数値の中には法律によって測定方法が定められているものもあります。この授業では、「会計に関する法律」という視点から会計学を学びます。					
授業目的・到達目標	この授業の目的は、株式会社を取り巻く法規と会計規制についての総合的な理解を身に付け、企業会計と法との関わり合いについて論理的に思考する力や、制度の関係を批判的に思考する力、会計情報に基づいて企業経営を省察する力を養成することにあります。授業における具体的な到達目標は、会社法における各種計算規程を理解し、それらに準拠した会計処理を行えるようになることです。【関連DP及びCP：経営法学科1, 2, 3, 4, 5, 8】					
履修条件	簿記原理、会計学、財務諸表論および会社法についての履修を済ませ、これらの科目についての基本的理解が得られていることが望ましいです。また、企業会計法Ⅱを併せて履修するようにしてください。					
授業方法	毎回の授業に先立って共有フォルダを通じて授業範囲のレジュメを配布し、講義を実施します。また、電卓を持参するようにしてください。なお、定期試験へのフィードバックは、ポータルシステムを通じて行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		70%		授業内容の理解度を確認するために、前学期末に試験を実施します。	
	平常評価		30%		各回の授業の終わりに、授業内容についての理解度を問うミニテストを実施します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しません。				
参考書	授業内で適宜指示します。					
オフィスアワー	研究室での相談対応は、毎週火曜日の夕方（16:30頃～18:00頃）実施します。希望者は実施時間帯に担当教員の研究室（本館8階の1820研究室）まで来ること。 都合により不在の場合もあるため、事前にメール（kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp）にてアポを取るようにしてください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	簿記や財務会計の基礎について確認しておく（2時間）
	授業内容	企業会計にまつわる法規、会計規制の必要性
	事後学習	会計規制の必要性をめぐる各種議論について理解し、企業会計に関する法律を把握する（2時間）
2	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	金融商品取引法による会計規制の概要
	事後学習	ディスクロージャー制度の基本的考え方について理解し、金融商品取引法に基づく開示書類を把握する（2時間）
3	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	会社法による会計規制の概要
	事後学習	会社法における会計規制の基本的考え方を理解し、会社法に基づく開示書類を把握する（2時間）
4	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	貸借対照表に関する諸規定
	事後学習	貸借対照表の計上項目に関する会社計算規則の諸規定を理解し、具体的な表示方法を把握する（2時間）

5	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	損益計算書に関する諸規定
	事後学習	損益計算書の様式に関する会社計算規則の諸規定を理解し、段階的利益計算の仕組みを把握する（2時間）
6	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	株主資本等変動計算書
	事後学習	株主資本等変動計算書の様式に関する会社計算規則の諸規定を理解し、具体的な表示内容を把握する（2時間）
7	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	資産の評価①：資産評価総論
	事後学習	資産評価のための各測定値の考え方を理解し、基本的な測定方法を把握する（2時間）
8	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	資産の評価②：各種評価値による具体的な資産評価
	事後学習	資産評価のための各測定値の具体的な算定方法を把握する（2時間）
9	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	資産の評価③：現在価値による資産評価
	事後学習	現在価値計算の基本的考え方を理解し、割引現在価値による資産評価方法を把握する（2時間）
10	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	資産の評価④：リース資産の測定
	事後学習	リース取引の概要を理解し、リース取引における借手が行う一連の会計処理を修得する（2時間）
11	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	負債の評価①：負債評価総論
	事後学習	負債評価のための各測定値の考え方を理解し、具体的な測定方法を把握する（2時間）
12	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	負債の評価②：引当金会計
	事後学習	引当金の理論的根拠を理解し、引当金の分類を把握する（2時間）
13	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	負債の評価③：退職給付会計
	事後学習	退職給付会計の概要を理解し、一連の会計処理を把握する（2時間）
14	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	負債の評価④：債務性引当金と非債務性引当金
	事後学習	債務性引当金と非債務性引当金との相違を理解し、会計理論上の問題点を把握する（2時間）
15	事前学習	前期の学修内容を概観しておく（2時間）
	授業内容	総括：会社法における会計規制の概要と資産および負債の測定方法についての学修内容のまとめ
	事後学習	定期試験に向けて前期の学修内容を包括的に復習しておく（2時間）

科目名	企業会計法Ⅱ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	企業が行う財務報告は、会計基準に従って作成された財務諸表によって行われますが、財務諸表そのものの作成開示を要請しているのは、金融商品取引法や会社法といった法律です。このように企業会計は法律とも密接に結びついており、会計数値の中には法律によって測定方法が定められているものもあります。この授業では、「会計に関する法律」という視点から会計学を学びます。				
授業目的・到達目標	この授業の目的は、株式会社を取り巻く法規と会計規制についての総合的な理解を身に付け、企業会計と法との関わり合いについて論理的に思考する力や、制度の関係を批判的に思考する力、会計情報に基づいて企業経営を省察する力を養成することにあります。授業における具体的な到達目標は、会社法における各種計算規程を理解し、それらに準拠した会計処理を行えるようになることです。【関連DP及びCP：経営法学科1, 2, 3, 4, 5, 8】				
履修条件	簿記原理、会計学、財務諸表論および会社法についての履修を済ませ、これらの科目についての基本的理解が得られていることが望ましいです。また、企業会計法Ⅰを併せて履修するようにしてください。				
授業方法	毎回の授業に先立って共有フォルダを通じて授業範囲のレジュメを配布し、講義を実施します。また、電卓を持参するようにしてください。なお、定期試験へのフィードバックは、ポータルシステムを通じて行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	授業内容の理解度を確認するために、後学期末に試験を実施します。	
	平常評価		30%	各回の授業の終わりに、授業内容についての理解度を問うミニテストを実施します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しません。			
参考書	授業内で適宜指示します。				
オフィスアワー	研究室での相談対応は、毎週火曜日の夕方（16:30頃～18:00頃）実施します。希望者は実施時間帯に担当教員の研究室（本館8階の1820研究室）まで来ること。 都合により不在の場合もあるため、事前にメール（kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp）にてアポを取るようにしてください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期に学修した内容を確認しておく（2時間）
	授業内容	企業会計法Ⅰで学修した内容の復習
	事後学習	会社法における会計規制の概要と資産および負債の測定方法について再確認する（2時間）
2	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	純資産の部、資本金と資本剰余金
	事後学習	払込資本に関する会社法上の諸規定を理解し、純資産の部の構成を把握する（2時間）
3	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	資本金等の増減、利益剰余金
	事後学習	払込資本と留保利益の性格の相違を理解し、資本金等の増減についての処理方法を修得する（2時間）
4	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	剰余金の配当と分配可能額
	事後学習	剰余金の配当に関する会社法上の規定を理解し、分配可能額の算定方法を修得する（2時間）

5	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	自己株式の意義
	事後学習	自己株式の意義を理解し、自己株式の取得をめぐる諸論点を把握する（2時間）
6	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	自己株式の取得規制
	事後学習	自己株式の取得規制を理解し、取得時や処分時の会計処理方法を修得する（2時間）
7	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	新株予約権の意義
	事後学習	新株予約権の仕組みを理解し、通常の発行時の会計処理方法を修得する（2時間）
8	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	ストック・オプション会計
	事後学習	ストック・オプションの基本的考え方を理解し、報酬として付与される新株予約権の会計処理方法を把握する（2時間）
9	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	新株予約権の行使と失効
	事後学習	新株予約権行使時および失効時の会計処理方法を修得する（2時間）
10	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	連結計算書類の作成開示に関する諸規定
	事後学習	会社法における連結計算書類の作成諸規定を理解し、具体的な構成を把握する（2時間）
11	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	資本連結手続と連結貸借対照表の作成
	事後学習	資本連結手続の考え方を理解し、一連の手続きを修得する（2時間）
12	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	組織再編①：吸収合併および株式交換の会計処理
	事後学習	企業結合の基本的考え方を理解し、吸収合併や株式交換といった企業結合取引の会計処理を把握する（2時間）
13	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	組織再編②：新設合併および株式移転の会計処理
	事後学習	新設合併や株式移転といった企業結合取引の会計処理を把握する（2時間）
14	事前学習	配布レジュメの該当範囲を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	組織再編③：会社分割および営業譲渡の会計処理
	事後学習	事業分離の基本的考え方を理解し、会社分割や営業譲渡といった事業分離取引の会計処理を把握する（2時間）
15	事前学習	後期の学修内容を概観しておく（2時間）
	授業内容	総括：純資産会計および組織再編会計についての学修内容のまとめ
	事後学習	定期試験に向けて後期の学修内容を包括的に復習しておく（2時間）

科目名	企業不祥事論Ⅰ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義では、「企業不祥事とはなにか」という問いからはじめ、企業不祥事と関わりの深い企業倫理の概念を説明することで、「理論」の側面から企業が直面する倫理的ジレンマとそれを克服する方法について理解を深める。				
授業目的・到達目標	本講義では、実際に発生した企業不祥事の事例や日常で起こりうる倫理的ジレンマについて紹介する。自身が倫理的ジレンマに直面した際にどのような行動が求められるのかに関して、ケーススタディやグループワークを通じて、個人で考える能力を養うことを目的とし、多様な価値観を学ぶことの重要性の理解し、説明できること目標としている。関連DP及びCP：経営法学科1, 2, 3, 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	スライド(パワー・ポイント)を用いた講義、企業不祥事の実例を用いたケーススタディ及び受講生によるグループワークにより進める。授業内試験の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		60%	定期試験では、授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。	
	平常評価		40%	原則としてケーススタディおよびグループワークへの参加(10%×4回)とするが、その他授業への参加度により総合的に判断する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2018	有斐閣	『問いからはじめる現代企業』		小山・出見世・谷口著
	備考				
参考書	講義の際に適宜紹介する。				
オフィスアワー	火曜日 15:00～16:00(研究室にて) 研究室ならびにメールアドレスについては初回の講義の際に説明する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。(2時間)
	授業内容	【ガイダンス】 授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。(2時間)
2	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業不祥事とは何か】 企業不祥事とは何か、その定義について学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事とはどのようなものかについて、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
3	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業不祥事の歴史】 日本における企業不祥事の歴史とその内容について学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事の歴史の中で関心をもったものを具体的に調べてまとめる。(2時間)
4	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業不祥事と企業倫理1：規範倫理と企業倫理】 規範倫理(哲学や倫理学)が企業倫理とどのように関わっているのかを学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、規範倫理と企業倫理の関係について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)

5	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業不祥事と企業倫理2：コンプライアンスと企業内部制度】 企業不祥事を防止するために、企業が行っている仕組みづくりについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、企業内部制度の意義と課題について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
6	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業不祥事と企業倫理3：倫理的思考と倫理的行動】 個人の倫理的行動が企業にどのような影響を与えるのかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、個人が陥りうる倫理的ジレンマとしてどのようなものがあるのかについて、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
7	事前学習	企業不祥事の概要を調べ、まとめておく。(2時間)
	授業内容	【ケーススタディ1：個人の非倫理的行動に基づく企業不祥事】 実際に発生した企業不祥事を基に、自分が同じ立場になったらどのように行動したか、またどのようにすれば防止することができたのかを考える。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
8	事前学習	グループワークのテーマに関係する資料を調べ、まとめておく。(2時間)
	授業内容	【グループワーク1：日常にある倫理的ジレンマ】 日常にある様々な倫理的ジレンマを克服するために、どのような行動が求められるのかについてグループで議論し発表する。
	事後学習	自分のグループと他のグループの発表を基に、倫理的行動の必要性について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
9	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【組織の誠実さを理解する：企業倫理の役割】 個人ではなく、組織が倫理的であるとはどのような状態なのかについて、企業と市場の関係から学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、企業倫理の役割について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
10	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【組織の誠実さを構築する：環境づくり】 企業が誠実であるために、組織内外の主体とどのような関係を築く必要があるのかを学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、どのような環境づくりが求められるのかについて、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
11	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【組織の誠実さを維持する：倫理教育】 企業不祥事を防止するために、企業は従業員に対してどのような倫理教育を行っているのかを学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、経営者と従業員はどのような関係を築くことが求められるのかについて、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
12	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【組織の誠実さを実現する：企業の目的と責任】 企業不祥事を防止するためには、企業はどうあるべきなのかについて学習する。
	事後学習	関心のある企業を対象として、企業不祥事を防止するためにどのような取り組みをしているのかについて、調べてまとめる。(2時間)
13	事前学習	企業不祥事の概要を調べ、まとめておく。(2時間)
	授業内容	【ケーススタディ2：途上国における児童労働問題】 実際に発生した企業不祥事を基に、自分が同じ立場になったらどのように行動したか、またどのようにすれば防止することができたのかを考える。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
14	事前学習	グループワークのテーマに関係する資料を調べ、まとめておく。(2時間)
	授業内容	【グループワーク2：良い経営者とは何か】 良い経営者に求められる条件に関する様々なテーマについて、グループで議論し発表する。
	事後学習	自分のグループと他のグループの発表を基に、良い経営者に求められるものは何かについて、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
15	事前学習	定期試験に向けて、これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。(3時間)
	授業内容	【授業内試験及び解説】 授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。また、試験後に解説をする。
	事後学習	配布資料、講義ノートに加え、解説を基に授業の内容を復習する。(1時間)

科目名	企業不祥事論Ⅱ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	企業不祥事論Ⅰで学んだことを活かし、経営学における様々な概念と企業不祥事との関係について整理していく。加えて、グローバル化や技術革新(AIの普及など)によって生じる新たな倫理的課題を理解することで、企業不祥事に関して「実践」の側面からアプローチし、企業のあり方に関する理解を深める。				
授業目的・到達目標	本講義では、実際に発生した企業不祥事の事例や日常で起こりうる倫理的ジレンマについて紹介する。自身が倫理的ジレンマに直面した際にどのような行動が求められるのかに関して、ケーススタディやグループワークを通じて、個人で考える能力を養うことを目的とし、多様な価値観を学ぶことの重要性の理解し、説明できること目標としている。関連DP及びCP：経営法学科1, 2, 3, 4				
履修条件	企業不祥事論Ⅰの履修。				
授業方法	スライド(パワー・ポイント)を用いた講義、企業不祥事の事例を用いたケーススタディ及び受講生によるグループワークにより進める。授業内試験の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		60%	定期試験では、授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。	
	平常評価		40%	原則としてケーススタディおよびグループワークへの参加(10%×4回)とするが、その他授業への参加度により総合的に判断する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	有斐閣		『問いからはじめる現代企業』	小山・出見世・谷口著
	備考				
参考書	講義の際に適宜紹介する。				
オフィスアワー	火曜日 15:00～16:00(研究室にて) 研究室ならびにメールアドレスについては初回の講義の際に説明する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。(2時間)
	授業内容	【ガイダンス】 授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。(2時間)
2	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【組織と個人の関係】 組織と個人の関係における倫理的ジレンマについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、組織と個人の間にどのようなコンフリクトが生じうるのかについて、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
3	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【ステークホルダーと倫理的課題事項】 企業と外部ステークホルダーとの間における倫理的ジレンマについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、企業と外部ステークホルダーとの間にどのようなコンフリクトが生じうるのかについて、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
4	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業不祥事と企業の社会的責任】 企業の事業活動と社会貢献活動との間における倫理的ジレンマについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、企業が経済性と社会性とを両立する上での課題について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)

5	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業不祥事とコーポレート・ガバナンス】 経営者の暴走によって生じる企業不祥事をどのようにして防止するのかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、企業倫理とコーポレート・ガバナンスの関係について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
6	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業不祥事と経営戦略】 企業が戦略を企てる上で生じる倫理的ジレンマについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、経営戦略に企業倫理を組み込むことの必要性について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
7	事前学習	企業不祥事の概要を調べ、まとめておく。(2時間)
	授業内容	【ケーススタディ1：法律と倫理】 実際に発生した企業不祥事を基に、自分が同じ立場になったらどのように行動したか、またどのようにすれば防止することができたのかを考える。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
8	事前学習	グループワークのテーマに関係する資料を調べ、まとめておく。(2時間)
	授業内容	【グループワーク1：消費者に求められる倫理的責任】 健全な社会を築くために、消費者に求められる倫理的行動に関する様々なテーマについて、グループで議論し発表する。
	事後学習	自分のグループと他のグループの発表を基に、企業と消費者のあるべき関係について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
9	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業不祥事とグローバル化】 グローバル化の進展によって生じた新たな倫理的課題について学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、グローバル化の進展によって生じた企業不祥事の事例を調べてまとめる。(2時間)
10	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業不祥事と技術革新】 技術革新の進展によって生じた新たな倫理的課題について学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、技術革新の進展によって生じた企業不祥事の実例を調べてまとめる。(2時間)
11	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業不祥事と専門職倫理】 専門職とはなにか、専門職従事者独自の倫理的ジレンマとはなにかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、専門職に関わる企業不祥事の実例を調べてまとめる。(2時間)
12	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【非営利組織における不祥事】 非営利組織における不祥事は、企業不祥事とどのように異なるのかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、非営利組織における不祥事の実例を調べてまとめる。(2時間)
13	事前学習	企業不祥事の概要を調べ、まとめておく。(2時間)
	授業内容	【ケーススタディ2：非営利組織独自のジレンマに基づく不祥事】 実際に発生した企業不祥事を基に、自分が同じ立場になったらどのように行動したか、またどのようにすれば防止することができたのかを考える。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事の発生要因、発生プロセス、防止方法について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
14	事前学習	グループワークのテーマに関係する資料を調べ、まとめておく。(2時間)
	授業内容	【グループワーク2：技術革新と専門職倫理】 専門職倫理に関する様々なテーマについて、グループで議論し発表する。
	事後学習	自分のグループと他のグループの発表を基に、企業倫理と専門職倫理の関係について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
15	事前学習	定期試験に向けて、これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。(3時間)
	授業内容	【授業内試験及び解説】 授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。また、試験後に解説をする。
	事後学習	配布資料、講義ノートに加え、解説を基に授業の内容を復習する。(1時間)

科目名	企業法務 I	担当者	若林 莊太郎	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	---------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この講座では、企業（株式会社を前提に）の事業活動展開に関する、様々な法務問題について基礎理論や企業の対応について学習する。①企業経営・運営の基本的仕組み、②内部統制の考え方、③企業のリスク管理、④コンプライアンス、④契約書の意義、⑤競争法の概要、などを中心に学習する。なお、この講座で学習する内容を前提として、企業法務II（後期開講）の講座で、企業活動に関わる、他の法務問題について学習する。			
授業目的・到達目標	企業（株式会社を前提に）の事業活動展開に関する、様々な法務問題について基礎理論や企業の対応について学習することを目的とする。法で許容される企業経営の仕組み、企業環境の変化に応じ企業が遭遇する様々なリスクへの対処法、企業活動におけるコンプライアンスの意義、国内・国際取引における契約書の重要性、競争法の概要・企業活動に及ぼす影響、などについて、受講生が理解し、説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：経営法学科 1、2、3			
履修条件	特になし			
授業方法	講義とケーススタディ中心。適宜テーマのレジュメを配付、説明する。講師の一方的説明に終始せず、適宜双方向対話などで受講生の理解度を確認する。レポート採点結果は、講義中またはポータルシステム等適宜講評する予定。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	レポート（提出方法、提出期限は後日指示する）。注）レポートは引用文献を明記すること。論文等の丸写しはしないこと。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		
参考書	講義の中で適宜必要に応じて指示する。初回講義時に、講義テーマに関連する参考書籍、文献を紹介する予定。			
オフィスアワー	質問、相談は土曜日講義終了後14：30～、又はメールで受け付ける。 （講師のメールアドレスは、wkbys@c08.itscom.net）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、授業概要、目的等を理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	本講義の内容、学習の手引きのレジュメを配付し、講義方針、テーマごとの講義内容、注意事項等を説明する。
	事後学習	配付レジュメを再読・確認し、今後の授業の準備について検討する。（2時間）
2	事前学習	前回配付レジュメ中の関連部分（企業環境の変化、様々なリスク）を再読し、授業で理解すべき要点を考察する。（2時間）
	授業内容	企業を取り巻く環境の変化、様々なリスクについて、レジュメを配付し、学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、企業のリスク管理の重要性、課題について考察、検討してみる。（2時間）
3	事前学習	企業のリスク管理の意義、課題、リスク管理の観点から見た法務問題、などについて疑問点、授業で理解すべき点を考察、検討する。（2時間）
	授業内容	レジュメを配付し、企業経営、企業活動展開におけるリスク管理の重要性、課題、リスク管理の一環としての法務問題への対処、法務部門の役割、また（株式会社を前提とした）企業経営の仕組（コーポレートガバナンス）について学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容で確認した内容を踏まえて、要点を確認する。（2時間）
4	事前学習	前回配付したレジュメを再読し、要点を再確認する。（2時間）
	授業内容	レジュメを配付し、会社の仕組（コーポレートガバナンス）に関する、我が国における近時の動き（伊藤レポート、ステewardシップコード、コーポレートガバナンスコード、同改正、等）の概要について学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義の要点を確認し、コーポレートガバナンスに関する我国の近時の動きが起こった背景、欧米各国との比較などについて、考察、確認する。（2時間）

5	事前学習	初回到配付した授業内容のレジュメ中の、会社法に関する部分を再読し、講義で確認すべき要点について考察する。 (2時間)
	授業内容	レジュメを配付し、会社法制定の経緯、平成26年会社法改正、今後の改正動向、機関設計、取締役・監査役等の義務・責任、経営判断原則、内部統制システム、などについて学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義の要点を再確認する。(2時間)
6	事前学習	前回配付したレジュメを再読し、講義で確認すべき要点について考察する。(2時間)
	授業内容	レジュメを配付し、前回に引き続き会社法の重要テーマである、内部統制システム、組織再編、株主代表訴訟などについて、事例研究も含めて、概要を学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義の要点を再確認する。また理解を深めるため、適宜参考文献、資料を調査、検討する。(2時間)
7	事前学習	前回配付レジュメを再読し、講義にて確認すべき要点について考察する。(2時間)
	授業内容	前回に引き続き、内部統制システム、組織再編、株主代表訴訟など会社法の主要テーマについて学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義の要点を再確認する。また理解を深めるため、適宜参考文献、資料を調査、検討する。(2時間)
8	事前学習	初回到配付した授業内容のレジュメ中の、コンプライアンス、CSRに関する部分を読み、授業で確認すべき要点について考察する。(2時間)
	授業内容	レジュメを配付し、コンプライアンス(倫理法令遵守)の考え方、CSR、内部告発、公益通報者保護法、事例(第三者委員会報告書事例など)について、学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、企業経営におけるコンプライアンスの意義、内部通報制度の意義、授業で取り上げた事例について、要点を整理しておく。また必要に応じ、関連資料、文献の調査、検索を行う。(2時間)
9	事前学習	前回配付したレジュメを再読し、要点を再確認し、更に講義で確認すべき要点、課題について考察する。(2時間)
	授業内容	前回に引き続き、コンプライアンス(倫理法令遵守)の考え方、CSR、内部告発、公益通報者保護法、事例(第三者委員会報告書事例など)について、学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容と合わせて、要点を再確認する。また必要に応じ、関連資料、文献の調査、検索を行う。(2時間)
10	事前学習	初回到配付した授業内容のレジュメ中の、金融商品取引法に関する部分を読み、授業で確認すべき要点について、考察する。(2時間)
	授業内容	レジュメを配付し、金融商品取引法に関連する、財務報告に係る内部統制、開示規制、証券取引所規則、内部者(インサイダー)取引規制、フェアディスクロージャールール、事例研究、などの概要を学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容と合わせて、要点を再確認する。また必要に応じ、関連資料、文献の調査、検索を行う。(2時間)
11	事前学習	初回到配付した授業内容のレジュメ中の、契約書に関する説明部分を読み、講義で確認すべき要点について考察する。(2時間)
	授業内容	レジュメを配付し、企業活動における契約書の意義、国際取引における契約書の重要性、英文契約書の基礎、簡単な英文契約書について、学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容と合わせて、要点を再確認する。また必要に応じ、関連資料、文献の調査、検索を行う。(2時間)
12	事前学習	前回配付したレジュメを再読し、講義内容と合わせて、要点を再確認する。とくに英文契約書の事例は内容の吟味に努める。(2時間)
	授業内容	前回に引き続き、国際取引における契約書の重要性、英文契約書の基礎及び英文契約書見本の内容について、学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容と合わせて、要点を再確認する。また必要に応じ、関連資料、文献の調査、検索を行う。(2時間)
13	事前学習	初回到配付した授業内容のレジュメ中の、競争法・独占禁止法に関する説明部分を読み、講義で確認すべき要点について考察する。(2時間)
	授業内容	レジュメを配付し、競争法の理念・主旨、主要内容、主要国の競争法の概要、国際買収・合併などにおける競争法上の手続、国際カルテル、違反者への制裁概要、制裁減免、新たな分野への競争法適用の動き、などについて、学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容と合わせて、要点を再確認する。また必要に応じ、関連資料、文献の調査、検索を行う。(2時間)
14	事前学習	前回配付したレジュメを再読し、講義内容と合わせて、要点を再確認する。(2時間)
	授業内容	前回に引き続き、国際カルテル調査などにおける関係国当局間の協働、米、中等主要国における競争法の執行状況、情報プラットフォームに関する競争法上の懸念点などについて学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容と合わせて、要点を再確認する。また必要に応じ、関連資料、文献の調査、検索を行う。(2時間)
15	事前学習	初回到配付した授業内容のレジュメ中の、贈収賄規制に関する説明部分を読み、講義で確認すべき要点について考察する。(2時間)
	授業内容	レジュメを配付し、外国公務員贈収賄規制に関する欧米等主要国、我国のルール、国際事業展開する企業の違反事例、などについて学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容と合わせて、要点を再確認する。(2時間)

科目名	企業法務Ⅱ	担当者	若林 莊太郎	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	---------	------	-----	-----	----	-----	---

授業概要	企業活動に関連する法務問題に関して、①個人情報などデータ規制の概要、②労働関連ルールの概要、③製造物責任、製品安全、品質保証問題の概要、④買収・合併・企業再編に関するルールの概要、⑤倒産・再生手続の概要、⑥通商法、知的財産権の概要、課題、⑦紛争解決方法、⑧債権法改正の概要、などを中心に学習する。			
授業目的・到達目標	受講生が前記「授業概要」の①～⑧の内容を理解することを目的とし、説明できるレベルに達することができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：経営法学科1、2、3			
履修条件	特になし			
授業方法	講義とケーススタディ中心。適宜テーマのレジュメを配付、説明する。講師の一方的説明に終始せず、適宜双方向対話などで受講生の理解度を確認する。レポート採点結果は、講義中またはポータルシステム等適宜公表する予定。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	レポート（提出方法、提出期限は後日指示する）。注）レポートは引用文献を明記すること。論文等の丸写しはしないこと。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		
参考書	講義の中で必要に応じて指示する。企業法務Ⅰ（前期開講）の初回に配付したレジュメ「2019年度授業内容、学習の手引」に記載した参考文献を参照されたい。			
オフィスアワー	質問、相談は授業終了後又はメールで受け付ける。（講師のメールアドレスは、wbkbs@c08.itscom.net）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス及び企業法務Ⅰの初回授業で配付したレジュメ「2019年度授業内容、学習の手引」中の、情報管理関連部分の説明を読み、授業で確認すべき要点を考察する。（2時間）
	授業内容	レジュメを配付し、個人情報保護法、同改正法の概要、国際的な個人情報・プライバシー保護ルール、特にEUの個人情報保護ルール（GDPR）、ビッグデータの利活用と個人情報・プライバシー保護ルールの関係・課題などについて学習する。
	事後学習	レジュメを再読し、講義内容の確認と合わせて、要点、課題を確認する。また必要に応じ、適宜関連資料、文献を調査、検索する。（2時間）
2	事前学習	前回配付したレジュメを再読し、講義で確認すべき要点、課題について、把握する。（2時間）
	授業内容	前回に引き続き、企業のビッグデータ利活用推進ニーズと個人情報・プライバシーの保護のバランス、整合のあり方を中心に学習する。
	事後学習	レジュメを再読し、講義内容の確認と合わせて、要点、課題を確認する。また必要に応じ、適宜関連資料、文献を調査、検索する。（2時間）
3	事前学習	シラバス及び企業法務Ⅰの初回授業で配付したレジュメ「2019年度授業内容、学習の手引」中の、労働問題に関する説明を読み、授業で確認すべき要点を考察する。（2時間）
	授業内容	レジュメを配付し、我国の労働関連法制の概要、働き方改革関連法制の概要、労働契約法、労働安全衛生法の概要、労働者派遣法の概要、ハラスメント問題など、事例を含めて、学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容の確認と合わせて、要点、課題を確認する。また必要に応じ、適宜関連資料、文献を調査、検索する。（2時間）
4	事前学習	前回配付したレジュメを再読し、講義で確認すべき要点、課題について把握する。（2時間）
	授業内容	前回に引き続き、労働法制の主要課題（労働時間管理の在り方、ハラスメント防止ルールの動向、外国人労働者関連ルールなど）について、学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容の確認と合わせて、要点、課題を確認する。また必要に応じ、適宜関連資料、文献を調査、検索する。（2時間）

5	事前学習	シラバス及び企業法務Iの初回授業で配付したレジュメ「２０１９年度授業内容、学習の手引」中の、製品安全、表示関連、品質問題に関する説明を読み、授業で確認すべき要点を考察する。（２時間）
	授業内容	レジュメを配付し、製造物責任法、米国のPL訴訟の特色・リスク、リコール等製品安全問題、品質保証に関する問題、消費者契約法、景品表示法の概要などについて、学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容の確認と合わせて、要点、課題を確認する。また必要に応じ、適宜関連資料、文献を調査、検索する。（２時間）
6	事前学習	前回配付したレジュメを再読し、講義で確認すべき要点、課題を把握する。（２時間）
	授業内容	前回に引き続き、品質問題が企業経営に及ぼすリスク、問題防止体制構築策などを中心に学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容の確認と合わせて、要点、課題を確認する。また必要に応じ、適宜関連資料、文献を調査、検索する。（２時間）
7	事前学習	シラバス及び企業法務Iの初回授業で配付したレジュメ「２０１９年度授業内容、学習の手引」中の、企業再編の基礎に関する説明を読み、講義で確認すべき要点について考察する。（２時間）
	授業内容	レジュメを配付し、①買収・合併・企業再編関連の会社法上のルール、②買収・合併の手法、特徴、税務・会計上の留意点、③外国企業の買収・合併、④海外M&Aの課題、⑤海外合併事業、などの概要を学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容の確認と合わせて、要点、課題を確認する。また必要に応じ、適宜関連資料、文献を調査、検索する。（２時間）
8	事前学習	前回配付したレジュメを再読し、講義で確認すべき要点、課題を確認する。（２時間）
	授業内容	前回に引き続き、前回講義でカバーできなかった内容や買収・合併の課題（取引完了後のPMIの重要性など）について学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容の確認と合わせて、要点、課題を確認する。また必要に応じ、適宜関連資料、文献を調査、検索する。（２時間）
9	事前学習	シラバス及び企業法務Iの初回講義で配付したレジュメ「２０１９年度授業内容、学習の手引」中の、企業再生・倒産・経営破綻に関する説明を読み、講義で確認すべき要点につき考察する。（２時間）
	授業内容	レジュメを配付し、①米国及び我国の倒産、企業再生ルールの概要、②国際倒産など事例、について学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容の確認と合わせて、要点、課題を確認する。また必要に応じ、適宜関連資料、文献を調査、検索する。（２時間）
10	事前学習	シラバス及び企業法務Iの初回講義で配付したレジュメ「２０１９年度授業内容、学習の手引」中の、通商・貿易関連部分の説明を読み、講義で確認すべき要点につき考察する。（２時間）
	授業内容	レジュメを配付し、①WTOの仕組、②TPP、北米貿易協定など多国間貿易協定の概要、③EPAなど二国間貿易協定の概要、④反ダンピングルールなど通商法ルールの概要、⑤米中貿易摩擦、などについて学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容の確認と合わせて、要点、課題を確認する。また必要に応じ、適宜関連資料、文献を調査、検索する。（２時間）
11	事前学習	シラバス及び企業法務Iの初回講義で配付したレジュメ「２０１９年度授業内容、学習の手引」中の、知的財産権関連部分の説明を読み、講義で確認すべき要点につき考察する。（２時間）
	授業内容	レジュメを配付し、①知的財産権の種類、内容、②営業秘密保護ルール（不正競争防止法）の内容、改正、③著作権法の改正概要、④特許・商標侵害紛争事例などについて学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容の確認と合わせて、要点、課題を確認する。また必要に応じ、適宜関連資料、文献を調査、検索する。（２時間）
12	事前学習	シラバス及び企業法務Iの初回講義で配付したレジュメ「２０１９年度授業内容、学習の手引」中の、債権法（民法）改正の概要に関する説明を読み、講義で確認すべき要点につき考察する。（２時間）
	授業内容	レジュメを配付し、平成３２年４月施行予定の改正債権法につき、時効制度の見直し、民事法定利率の見直し、商事法定利率の廃止、定型約款規定の創設、個人保証の見直し、など改正内容の概要を学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容の確認と合わせて、要点、課題を確認する。また必要に応じ、適宜関連資料、文献を調査、検索する。（２時間）
13	事前学習	シラバス及び企業法務Iの初回講義で配付したレジュメ「２０１９年度授業内容、学習の手引」中の、紛争解決手段に関する部分の説明を読み、講義で確認すべき要点につき考察する。（２時間）
	授業内容	レジュメを配付し、①紛争解決手段の種類、裁判・仲裁の特徴と各々の利点・問題点、②米国の訴訟の特徴（証拠開示手続など）、③判決・裁定の執行、などについて学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容の確認と合わせて、要点、課題を確認する。また必要に応じ、適宜関連資料、文献を調査、検索する。（２時間）
14	事前学習	シラバス及び企業法務Iの初回講義で配付した「２０１９年度授業内容、学習の手引」中の、日本版司法取引等改正刑事訴訟法に関する部分の説明を読み、講義で確認すべき要点につき考察する。（２時間）
	授業内容	レジュメを配付し、日本版司法取引制度の概要、適用事例、企業に及ぼす影響、他の改正刑事訴訟法の概要について学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容の確認と合わせて、要点、課題を確認する。また必要に応じ、適宜関連資料、文献を調査、検索する。（２時間）
15	事前学習	シラバス及び企業法務Iの初回講義で配付したレジュメ「２０１９年度授業内容、学習の手引」中の、環境関連、サプライチェーンの人権問題に関する部分を読み、講義で確認すべき要点につき考察する。（２時間）
	授業内容	レジュメを配付し、①地球温暖化防止に関するパリ協定など世界レベルでの温室効果ガス削減に向けた取り組みの経緯、状況、②サプライチェーンの人権問題に関する動向、につき学習する。
	事後学習	配付レジュメを再読し、講義内容の確認と合わせて、要点、課題を確認する。また必要に応じ、適宜関連資料、文献を調査、検索する。（２時間）

科目名	教育政策	担当者	壽福 隆人	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今日わが国の社会問題となっている「子供の貧困」を取り上げ、教育政策のあり方がこの問題のひとつの原因となっていることを発見し、解決のための具体的政策を立案することができるような人材を育成するために、問題点を論理的に理解するとともに、教育政策を研究するための基礎理論および教育政策立案のプロセスについて学ぶ。			
授業目的・到達目標	社会人として必要な教育・教育行政・教育政策を理解するための基礎理論を習得することを目的とする。 現代社会で生じる様々な教育現象とくに教育政策・行政にアプローチするための基礎的知識を習得するとともに、現代の子どもが置かれている状況や学校教育の現状を考えるための基礎理論を習得し、社会で生じる「子供の貧困」問題の実相やその対策について、教育政策の基礎理論をもとに受講生が自らの言葉で問題点を説明できるようになること目標とする。 関連DP及びCP：公共政策学科1， 3， 4， 5			
履修条件	とくに設けないが、教育の問題をまじめに考えようとする学生の履修を求める。			
授業方法	講義形式。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験	100%	教育政策理論の重要概念が習得されているか、自らの表現で、「子供の貧困」問題の重要性を表現できるかを判定する。	
	平 常 評 価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	平成25年3月	弘文堂	教育政策・行政	安藤忠・壽福隆人 監修
	備考			
参 考 書	適宜紹介する。			
オフィス アワー	火曜日2限 9号館9106研究室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、テキストの「はじめに」を読んで、講義が対象としている「子供の貧困」についての学ぶことの必要性を理解する。（2時間）
	授業内容	講義のテーマや授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の提示方法、各自の研究方法について説明し、受講生が講義を受けるうえで準備を具体的に行えるよう指導する。
	事後学習	講義ノートを確認して自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	各自の教育歴・学校歴の中から、身近に存在するな教育問題を考える。学校で必要だった筆記用具や教科書はどのようにして取得したのか、学校以外でどのような習い事をしてきたかなど、各自の教育歴・学校歴を振り返る。（2時間）
	授業内容	【教育政策の概念について】 成長過程で、教育がどのようにかわってきたのかを明らかにし、そこに教育政策がどのようにかわっているのかを明らかにする。その過程で、「教育政策」という概念を明らかにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、「教育政策」の概念を自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
3	事前学習	日本の歴史を振り返り、明治以降の近代公教育の成立について復讐する。中学校・高等学校での学習および本学部総合科目で学んだ内容を振り返り、日本の公教育制度の発達についてまとめる。（2時間）
	授業内容	【近代日本の教育政策】 教育政策がわが国の近代化に大きく貢献したことを学ぶ中から、今日の社会において、教育政策の重要性について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、教育政策が日本の近代化で果たした役割を自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
4	事前学習	各自が感じている今日の教育問題について、同様な問題意識を持った書籍や記事を調査し、自らの問題意識を明確にする。また、それに対する解決法を提示している文献・資料を探す。（2時間）
	授業内容	【教育政策立案過程】 現代の教育問題に対して社会や行政がどのように対応しているのかを明らかにし、政策立案過程に見られる問題点を考察して、教育問題の解決が平坦な道ではなことを明らかにする。
	事後学習	なぜ、多くの教育問題が発生し、それらはなかなか改善されない状況にあるのか、今日の教育政策立案過程の問題点から考察し、その問題点を自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）

5	事前学習	各自の教育歴・学校歴の中から、これまでに各自が感じてきた学校教育の問題点を明らかにしまとめる。同時に、同様な問題意識をもった新聞記事等を検索して、問題点を明確にする。（2時間）
	授業内容	【教育政策と学習指導要領】 学習指導要領とは何かを明らかにし、現代日本の教育政策が学習指導要領にどのように反映しているかを考察する。 同時に学習指導要領が作成されていく過程について説明する。
	事後学習	各自で現行学習指導要領を読んで、現代の教育問題と学習指導要領が示している学校教育の在り方を比較し、現代の学校教育が目指すものと、実現が難しいと思われる問題とについて、各自が自分の意見を自らの言葉で表現で気るようにする。（2時間）
6	事前学習	高等学校で学んだ歴史、大学の総合科目などで学んだことの中から、教育制度・学校制度に関する問題を整理して、アジア史に見られる教育問題を整理する。（2時間）
	授業内容	【中国の歴史的教育政策と日本への影響】 アジアの歴史から教育政策の歩みを考える。中国古代の教育政策が日本の教育政策にどのように影響したかを考察し、その後の日本の教育政策への影響を考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、中国の科举制度と日本の試験制度の関係について整理し、前近代の日本の教育政策についての認識を高める。（2時間）
7	事前学習	テキスト第2章を読んで、古代ギリシャの歴史から西洋教育史上の教育政策について調べる。とくに、古代アテネとスパルタの社会構造の違いから教育政策の違いが生じたことを確認する。（2時間）
	授業内容	【古代ギリシャの教育政策】 古代アテネとスパルタの教育政策を明らかにして、その違いを社会構造の違いから探求する。その過程から、国家主義的な教育政策は継続的に発展しないという歴史的事実について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、テキスト第2章を再読して、社会構造の違いが教育政策に大きな影響を及ぼすことを確認する。また、これを各自が自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
8	事前学習	高等学校で学んだ歴史、大学の総合科目などで学んだことの中から、中世ヨーロッパから絶対主義諸国が成立していく過程を整理する。（2時間）
	授業内容	【絶対王政化の教育政策】 プロイセンの教育政策を取り上げる。プロイセンの義務教育制度に見られる教育政策とその背景となった国家観を明らかにして、近代の教育政策へとつながる教育理念を歴史的に考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、絶対主義王政下の教育政策についてまとめる。とくに、絶対王政が施行した義務教育制度の非民的性格について、各自が自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
9	事前学習	高等学校で学んだ歴史、大学の総合科目などで学んだことの中から、資本主義の発達について調べる。とくに、資本主義発達期の年少労働者の問題について記述した文献を検索する。（2時間）
	授業内容	【資本主義発達期の教育政策】 ヨーロッパの資本主義発達期の年少労働者の置かれた状況を明らかにして、近代社会が「子ども」をどのようにあつかってきたかについて説明し、「子ども」と近代社会の教育政策について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、資本主義の発達と教育政策について考察し、「子ども」が近代社会の中でどのように扱われてきたか、各自が自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
10	事前学習	高等学校で学んだ歴史、大学の総合科目などで学んだことの中から、アメリカ史の概略について調べる。とくに、19世紀末からの経済の発展について、文献を検索し、アメリカ史の基礎認識を高める。（2時間）
	授業内容	【現代アメリカの教育政策と現代日本の教育政策】 現代アメリカの教育政策につながる進歩主義教育運動について説明し、今日の日本の教育制度、教育政策の基礎となった教育理念について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、アメリカの教育理念、教育政策が今日の日本の教育政策にいかに関与しているのかについてまとめ、各自が自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
11	事前学習	「子どもの貧困」という言葉がいつ頃からどのように唱えられ始めたのかについて調べる。テキストの「はじめに」に記されている内容から、OECDの勧告について理解する。（2時間）
	授業内容	【子どもの貧困（1）】 一億総中流という意識のなかで忘れられてきた「子どもの貧困」の実態について説明する。また、OECDの勧告当時の日本社会について考察し、「子どもの貧困」問題と教育政策について考察する。
	事後学習	講義ノートやテキストを参照しながら、「子どもの貧困」問題がいかに今日の日本社会において深刻な問題であるか、各自が自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
12	事前学習	各自の教育歴・学校歴の中から健康診断に対する経験をまとめる。同時に国民皆保険制度について調査して、日本の社会保障制度の根幹について認識を高める。（2時間）
	授業内容	【子どもの貧困（2）】 国民皆保険制度を持つ日本でも、学校で実施される健康診断の結果を受けて、医療を十分に受けられない子どもの存在について説明し、「子どもの貧困」の深刻な実態について説明する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、日本の医療制度・福祉政策から置き去りにされている子どもが存在することを認識し、「子どもの貧困」に対する各自の意見を自らの言葉で表現できるようにする。
13	事前学習	各自の教育歴・学校歴をもとにして、日本の受験制度や進学率についてインターネットや文科省の白書を調査して認識を高める。とくに「選別主義教育」がもたらしている弊害について調査する。（2時間）
	授業内容	【子どもの貧困（3）】 受験制度や進学問題が貧困家庭の子どもに大きな負担となっていることについて説明し、「15の春」という言葉で表現される日本の子どもが置かれている状況から日本の教育政策の問題点を考察する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、日本の受験制度、選別主義教育の問題点をまとめ、「子どもの貧困」に対する各自の認識を高め、日本の教育政策の問題点を、自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
14	事前学習	文献・新聞・インターネットを参照して、「ストリートチルドレン」について調べる。また、インドシナ紛争について調べて、東南アジアの子どもが置かれている状況について調査する。（2時間）
	授業内容	【子どもの貧困（4）】 諸外国の子どもが置かれている状況を説明する。とくに東南アジアの教育政策について説明し、多くの子どもが貧困の状況下で十分に教育が受けられていない現状を紹介する。
	事後学習	東南アジアに見られる「子供の貧困」についてまとめるとともに、日本の「子どもの貧困」との相違点や共通点についてまとめ、各自が自らの言葉で「子どもの貧困」について表現できるようにする。（2時間）
15	事前学習	初回からのテキストと講義ノートを見直し、教育政策の重要性について考察する。（2時間）
	授業内容	講義内テスト及びまとめを実施する。
	事後学習	「子供の貧困」について今後も強く意識し、考えていくことができるように、これまでの学習をまとめる。（2時間）

科目名	行政学 I	担当者	岩井 義和	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代の社会において、行政の占める比重はさわめて高く、人々の生活環境と密接な関係をもっているだけではなく、経済・文化・教育・福祉などの分野における人間の活動や組織にも、強い影響力をもっている。そこで本講義では、行政が国民のために存在すること、また国民のために行われなければならないことを社会背景・歴史・行政活動の役割変化通じて学習する。			
授業目的・到達目標	この講義では、行政関連の上級科目の基礎を修得することを目的とする。そこで本講義では、一人ひとりが行政に関心を持ち、行政に関するニュースなどを理解し、市民としての自覚をもち、現代行政の在り方について考える力をもつことを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2 政治経済学科：2, 4, 5 新聞学科：1, 5 公共政策学科：1, 3, 4			
履修条件	特になし			
授業方法	講義ノート・教科書・資料に沿って講義を行うので、受講にあたっては必ずノートを持参し、自書すること。定期試験の解説を後日、ポータルにて配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		60%	筆記試験は、講義内容の理解しつつ行政活動の役割を修得しているかを判定し、授業進行によって行う授業内レポート、平常点を加味して総合評価する。
	平 常 評 価		40%	授業参加度及び授業態度（10％） 授業中に指摘したポイントが身に付いているかを課題レポートで判定。（30％）
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年	弘文堂	Next 教科書シリーズ 行政学第2版	外山公美編
	備考			
参 考 書	西尾勝『行政学』有斐閣			
オフィスアワー	水曜日、3時限目（13：30～14：30） 尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するするとともに、教科書の目次を見て、市民生活と行政活動について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス、国民生活と行政】授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、国民生活と行政の関連や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政活動について理解を深めること。（2時間）
2	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、歴史的側面から、行政活動の範囲を検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政サービスの範囲拡大】歴史的側面から行政活動を検討し、行政サービスの範囲拡大要因を考察する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、特に社会背景と行政の役割について理解を深めること。（2時間）
3	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、公行政の特質について検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【福祉国家の成立と課題】行政活動の拡大と共に変化した国家の役割、特に福祉国家の成立と課題を検討する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、国家の役割変化と行政活動の変化について理解を深めること。（2時間）
4	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、現代行政が国民のために存在する意義を検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政と国民】行政国家の特質を見つつ、行政と国民の関係、ならびに行政の役割と課題について学習する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、立法国家と行政国家の違いの理解を深めること。（2時間）

5	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、現代国家に必要な不可欠な体制を整えるために発展した、アメリカ行政学について検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【アメリカ行政学の展開①】現代行政学の基礎となる、アメリカ行政学の発展について歴史的に学習する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、アメリカ行政学の発達以前と比較して理解を深めること。（2時間）
6	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、社会背景の違いを見つけ出し、行政活動の違いと現代行政学の基礎を検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【アメリカ行政学の展開②】社会背景変化の中で、求められてきた行政活動と行政理論の変化を学習する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政理論の変化と社会背景を照らし合わせて理解を深めること。（2時間）
7	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、日本の行政学の歴史的発展とその構成について検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政学の構成】日本の行政学の成り立ちと、研究動向をみつつ行政学の構成を検討する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、日本の行政学の変遷の理解を深めること。（2時間）
8	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、行政活動を枠づける、政府体系と政府形態について検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【現代国家の政府体系】中央政府・地方政府関係から概観し、現代国家の政府体系と行政について学習する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政府間関係と行政について理解を深めること。（2時間）
9	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、セクショナリズムなどの用語とともに、官民の関係について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【現代国家の政府体系の課題】行政サービスの拡大を題材に、その量的・質的变化をみつつ現代国家の政府体系の課題を検討する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政サービスの変化と担い手変化の理解を深めること。（2時間）
10	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、行政が導入した、重要な概念である管理について検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政管理と行政改革】行政組織に求められた役割と、財政などの問題を関連させつつ、行政管理と行政改革を検討する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政組織のマネジメントの必要性について理解を深めること。（2時間）
11	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、行政の能率・効率について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政活動の能率】行政管理で用いられる、能率性・効率性・経済性の用語を中心に、現代で求められる公共性について検討する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、現代に求められる行政の能率について理解を深めること。（2時間）
12	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、行政組織の機能について検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政組織】組織論の変遷を見つつ、特に人間関係論の発展から行政組織について学習する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政管理論・行政組織論を比較しつつ理解を深めること。（2時間）
13	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、官僚制の特色について検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【官僚制と民主制】官僚制の特質と、行政組織における権限などを用語中心に学習し、民主主義における国民と行政を検討する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、官僚制の特質と問題点の理解を深めること。（2時間）
14	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、公務員制度について検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【現代公務員制度の構成原理①】：公務員制度の諸原理について、戦前・戦後を比較しつつ学習する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、民主主義における官僚制について理解を深めること。（2時間）
15	事前学習	指定した教科書の部分とノート必ず読み、行政活動を担う公務員の規律について検討しておき、さらに初回からのノートなどを見直し、行政学の流れを検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【現代公務員制度の構成原理② まとめ】公務員をとまく環境を検討しつつ、公務員制度を検討し、その後全体のまとめを行う。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、全体として講義の流れを理解する。（2時間）

科目名	行政学Ⅰ	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国民は「行政」との関わりなしに日常生活を営むことは無理である。「行政」はそれほど国民と密接不可分な存在だが、三権の中の他の「立法」や「司法」に比べると、漠として捉えがたいのも事実である。この授業では、この「行政とは何か」という点に答えていく。特にわが国の事例を取り上げてその機能、課題、展望について学ぶことにより、「行政」なるものの全体像について理解を促していく。				
授業目的・到達目標	積極的に「行政」に関して関心を抱き、主権者として「行政」と関わっていけるような人材を養成することをこの授業の目的とする。国家あるいは地方公務員を目指す学生においては、積極的に専門的な問題意識を育んでいけるようになることを、またそれ以外の学生においても、主権者である国民として行政との適切な関わりが保てるようになることをこの授業の到達目標とする。対応DP及びCP：法律学科1,2 政治経済学科2,4,5 新聞学科1,5 公共政策学科1,3,4				
履修条件	特にない。本講義科目と併せて、地方自治論Ⅰ、Ⅱ（地方自治論）などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。				
授業方法	教科書は用いないが、毎時間レジュメと必要に応じて資料を配布する。各単元（章）毎に復習テストを行い、後日その解説を行うことで当該分野の理解を深める。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		80%		筆記試験は行政学の主要な事柄が理解されているかを判定する。授業中に解説された基本的項目・事項について理解すること。
	平常評価		20%		授業への積極的な参加度、レポート提出等の宿題によって評価する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参考書	真淵勝『行政学』有斐閣、2009年、真淵勝『行政学案内[第2版]』慈学社、2014年、村上弘・佐藤満編『よくわかる行政学』ミネルヴァ書房、2016年。この他必要に応じて、授業の際に紹介する。				
オフィスアワー	木曜日12時～13時。 また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールでアポイントメントを取ること。 研究室：本館7階 1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、参考書の目次や各章を参照し、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	これからの授業概要、講義計画、成績評価の方法などの説明と参考文献の紹介し、受講生が受講の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	第1回目に行った授業内容や参考文献をもとに、これからの自らの学習計画と他の履修科目との関連性について検討する。（2時間）
2	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	行政組織(1) 「霞が関」とも呼ばれる中央官庁の各省及び庁の構成、仕組み、役割について学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）
3	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	行政組織(2) 中央省庁の出先機関の構成、配置、役割について学ぶ。
	事後学習	改授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）
4	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	行政組織(3) 中央省庁の再編の意味合いと再編後の省庁の特徴、課題、展望について学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）

5	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	公務員制度(1) 国及び地方公務員の任用-主として採用と昇進を対象とした-に関する諸制度について学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
6	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	公務員制度(2) 官僚の天下りに関して、その功罪を学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
7	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	公務員制度(3) 公務員は労働基本権を制約されているが、その代償としての人事院勧告を中心に学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
8	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	内閣制度 その仕組みと機能について学ぶ。また内閣総理大臣のリーダーシップについても学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
9	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	日本官僚制の特質(1) 「官僚像」の時代的変質について学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
10	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	日本官僚制の特質(2) 大部屋主義とセクショナリズムについて学ぶ
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
11	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	日本官僚制の特質(3) 行政組織の意思決定方式―稟議制神話と実際-について学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
12	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	日本官僚制の特質(4) 中央官僚の地方出向について学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
13	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	行政ネットワーク(1) グレーゾーン組織の概要と役割について学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
14	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	行政ネットワーク(2) 諮問機関と民間委託についてその概要と役割について学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
15	事前学習	前期の授業で学んだ事柄について、ノートや参考文献を見直し全体的な理解に努める。(2時間)
	授業内容	前期授業のまとめとして、この間行った主要な事柄について振り返り、より一層の理解を図る。
	事後学習	これまでに授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は教員に質問し、期末試験の準備を行う。(2時間)

科目名	行政学 I	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	行政学の基礎理論を勉強することで、行政を見る眼を養い、主権者として行政について理解し、そのあり方について考えていきたい。また、公務員試験の問題をとける実力を養成する。講義では、行政機関での審議会委員の経験を生かして行政活動の実態についても講義をおこなう。			
授業目的・到達目標	この講義は、「行政学の基礎理論」を理解することを主目的としている。講義では、「公務員のための学問」の性格を有する「行政学」の理論、歴史、特質など「現代行政を見る眼」を養うことも目的とする。現代行政のあり方や課題を理解する能力と共に国家・地方公務員試験の行政学択一及び論述問題に対応できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2 政治経済学科2, 4, 5 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	特にない。「公共政策論」、「地方自治論」などを履修済又は平行履修しているほうが望ましい。講義は積み重ねなので、出席することが可能な学生のみ履修をお願いします。また、講義中の私語は厳禁とします。			
授業方法	テキストや参考書を使用して行政学の基礎理論を講義していく。人数によっては小テストのを実施かレポートを提出してもらう。小テストやレポートの講評を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験			
	平 常 評 価		100%	論述試験を実施し、評価する。（90％、但し、履修人数によっては講義内試験が困難な場合がある。）講義中に実施する小テストなどで評価する。（10％）
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2 0 1 7	弘文堂	行政学	外山公美編
	備考			
参 考 書	西尾勝『行政学』（有斐閣）			
オフィスアワー	原則水曜日の昼休みとする。事前にメールなどでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいっていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館6階の研究室。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	行政学を受講する理由を自分なりに整理しておくこと。目的意識をもって受講すること。（2時間）
	授業内容	ガイダンス：準備学習の説明、授業内容・評価方法の確認
	事後学習	受講目的を再度整理しておくこと。（2時間）
2	事前学習	該当のページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	行政学のすすめ
	事後学習	行政学がどのような学問が整理すること。（2時間）
3	事前学習	該当のページを読んでくること。福祉国家の特徴は何か整理すること。（2時間）
	授業内容	行政サービスと福祉国家
	事後学習	行政の役割を時代ごとに整理すること。（2時間）
4	事前学習	該当のページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	行政学の起源：官房学、警察学、シュタイン行政学
	事後学習	教科書の練習問題を解いてみること。（2時間）

5	事前学習	該当のページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	アメリカ行政学の発展
	事後学習	アメリカ行政学の背景について理解すること。（2時間）
6	事前学習	該当のページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	アメリカ行政学の歴史（1）
	事後学習	行政学の誕生についてまとめておくこと。（2時間）
7	事前学習	該当のページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	アメリカ行政学の歴史（2）
	事後学習	科学的管理法についてまとめておくこと。（2時間）
8	事前学習	該当のページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	アメリカ行政学の歴史（3）
	事後学習	組織論についてまとめておくこと。（2時間）
9	事前学習	該当のページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	日本の行政学
	事後学習	日本の行政学の歴史の発展についてまとめる。（2時間）
10	事前学習	該当のページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	官僚制論（1）
	事後学習	官僚制に意義についてまとめる。（2時間）
11	事前学習	該当のページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	官僚制論（2）
	事後学習	官僚制の特徴についてまとめる。（2時間）
12	事前学習	該当のページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	官僚制論（3）
	事後学習	官僚制の課題についてまとめる。（2時間）
13	事前学習	該当のページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	行政管理論（1）
	事後学習	行政管理の歴史をまとめたうえで、テキストの練習問題をやる。（2時間）
14	事前学習	該当のページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	行政管理論（2）
	事後学習	行政管理の歴史をまとめたうえで、テキストの練習問題をやる。（2時間）
15	事前学習	該当のページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	試験とまとめ 履修人数によっては講義内試験が困難な場合がある。
	事後学習	全体を俯瞰すること。（2時間）

科目名	行政学 I	担当者	山田 光矢	部 別	第一部	期 間	前期	単 位 数	2
-----	-------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-------	---

授業概要	人類の歴史を背景に、国家や地方公共団体の存在意義や役割が激変し、それに対応する形で行財政改革が実践されてきていることから、そうした変革を導いてきた時代や社会的な背景と、改革を促進してきた理論や政策の変遷を合わせる形で、神聖ローマ帝国（ドイツ）、アメリカ、日本の行政国家化の進展に応じ国家の役割の変革と、組織や制度改革の歴史を背景に、今後の行財政改革の望まれる方向性について説明していく。			
授業目的・到達目標	行財政改革、すなわち時代に応じた行政活動を行うための組織改革や政策変更や権限と財源の再配分などがなぜ必要なのかと、そうした改革のあるべき姿や方向性などについて、人類の歴史とその中で展開されてきた人間と国家や政治や行政や経済を中心した社会全体とのかかわりについて分析することを目的とし、各時代のそれぞれの実態やそこで展開された理論や改革の結果などを手がかりに、行政そのもののあり方や改革の方向性などについて学生自身の考えが確立できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2 政治経済学科2, 4, 5 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	講義では、教科書の内容だけではなく、実際の行政も扱うので、一般紙を毎朝読んでおくことができ、かつ、教室において常識として求められている基本的なマナーやエチケットを守ることができること。			
授業方法	原則として講義形式で行う。対話のある講義にするため、質問への積極的な返答を要求するとともに、積極的な質問を歓迎します。なお、時事問題や行政上の常識や講義内容の理解などに関する小テストも時折実施します。レポートの講評を行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		60%	大きな問題1題と、項目の説明を問う小テスト4問を出題する。大問題を60%、小テストを40%で評価する。内容により加点する場合もある。
	平常評価		40%	前期レポート（2,000字以上・A4版：前期提出）と授業への参加度と小テストを総合して評価する。自主レポート（2,000字以上・A4版：試験前まで提出）は加点要素とする。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	弘文堂	政治学（第二版）	吉野篤編 山田光矢他著
	2005	日本大学法学会	「行政改革の理論と実態」『政経研究』第四一卷第四号	山田光矢
	備考	その他必要に応じて資料を配布する		
参考書	『行政学入門』 村松岐夫著 有斐閣 講義の中で必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	水曜日5限に研究室（9号館5階9505）で行います。 ※会議等のために毎週確実に対応できないことも考えられるので、相談を希望する場合には事前にメールで連絡し、私からの相談可能な連絡を受けてからきてください。（yamada.mitsuya@nihon-u.ac.jp）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	国家、政治、行政などどのようなものなのか、法律学と政治学の違いはどのようなものなのかを考えてくる（2時間）
	授業内容	ガイダンス授業：国家・政治・行政と行政学の特質 法律学と行政（三権分立論） 行政学と行政（五権分立論）
	事後学習	法律学と政治学の行政に関する考え方の違いを理解する（2時間）
2	事前学習	教科書第1章の1を読んでくる（2時間）
	授業内容	人類の歴史と文化や文明 地球の誕生や人類の歴と国家・政治・行政等の役割の変化 文明の発達と人類の生活の激変
	事後学習	人間にとっての文化と文明の働きや影響を理解する（2時間）
3	事前学習	教科書第1章の2を読んでくる（2時間）
	授業内容	人類の歴史と政治・行政：take offの原理： 時代区分と国家・政治・行政・経済社会の変質 時代の変遷と行政需要の変化：国家と行政の変質
	事後学習	時代の変化と国家・政治・行政の役割（警察国家・立法国家・行政国家）の変質を理解する（2時間）
4	事前学習	「行政学の理論と実態」の一（P123-127）を読んでくる（2時間）
	授業内容	国家の形態と政治および行政 単一国家と連邦国家、議院内閣制と大統領制 英米法系の国家と大陸法系の国家
	事後学習	イギリス、アメリカ、フランス、ドイツの国家と政治・行政の特徴を整理する（2時間）

5	事前学習	「行政学の理論と実態」の二の（P130-133）を読んてくる（2時間）
	授業内容	絶対主義王政下の政治と行政 イギリス絶対主義とチューダー朝・スチュアート朝およびエリザベス救貧法 フランス絶対主義とブルボン王朝
	事後学習	国民国家（統一国家）におけるイギリスとフランスの政治・行政の特徴を理解する（2時間）
6	事前学習	教科書第1章の3-4と「行政学の理論と実態」の二の（P133-136）を読んてくる 「行政学の理論と実態」の三を要約したレポートを提出する（2時間）
	授業内容	行政学の前史：神聖ローマ帝国（ドイツ） 三十年戦争とウェストファリア体制 官房学（前期官房学）と警察学（後期官房学）
	事後学習	三十年戦争とその後のドイツ復興理論としての官房学・警察学を理解する（2時間）
7	事前学習	「行政学の理論と実態」の三の（P136-139）を読んてくる（2時間）
	授業内容	シュタイン行政学の誕生：神聖ローマ帝国崩壊後のドイツの政治と行政 ナポレオン戦争と神聖ローマ帝国の崩壊 ドイツ帝国とシュタイン行政学
	事後学習	シュタイン行政学の特徴を理解する（2時間）
8	事前学習	教科書第3章の7A・第6章の4-6を読み合わせてアメリカ合衆国の歴史の概略を調べてくる。（2時間）
	授業内容	アメリカ行政学誕生の背景：アメリカの建国とジャクソニアンデモクラシー アメリカ植民の開始・アメリカ独立革命・1830年の革命 官職交代制、猟官制、ペンドルトン法、連邦人事委員会、資格任用制
	事後学習	アメリカ行政学誕生までの歴史を理解する（2時間）
9	事前学習	教科書第1章の3の表と「行政学の理論と実態」の三の（P139-141）を読んてくる（2時間）
	授業内容	アメリカ行政学の誕生：W. ウィルソンとアメリカ行政学 政治行政分断（二分）論、経営学の影響 take administration out of politics
	事後学習	初期のアメリカ行政学の特徴を確認する（2時間）
10	事前学習	「行政学の理論と実態」の三の（P141-144）を読んてくる（2時間）
	授業内容	アメリカ行政学の展開：官僚制擁護論と行政学 M. ウェーバー、フェイヨール、テーラー ギューリックとPOSDCoRB
	事後学習	初期アメリカ行政学と官僚制および科学的管理論の関係を理解する（2時間）
11	事前学習	「行政学の理論と実態」の四の（P144-145）を読み、ホーソン実験の内容を調べてくる（2時間）
	授業内容	アメリカ行政学の変質：行政管理論と人間関係論 刺激的管理論、強圧的管理論、科学的管理論 ホーソン実験、機能的管理論と人間関係論、集団の類型
	事後学習	ホーソン実験がアメリカ行政学の変質に与えた役割を理解する（2時間）
12	事前学習	「行政学の理論と実態」の四の（P145-146）を読み、世界大恐慌とケインズ経済学の関係を調べてくる（2時間）
	授業内容	世界大恐慌とニューディール政策および行政需要の拡大 アダム・スミス（資本主義）とケインズ（修正資本主義） 自由放任・自己責任から経済計画への転換と国家の役割の変質 小さな政府から大きな政府への転換
	事後学習	世界大恐慌後の国家の役割の変化（小さな政府論と大きな政府論）とその内容を理解する（2時間）
13	事前学習	「行政学の理論と実態」の四の（P146-148）を読んてくる（2時間）
	授業内容	戦後復興・高度経済成長・福祉国家化の進展 行政機構の肥大化 高度経済成長と福祉政策の拡充
	事後学習	小さな政府と市場の失敗、大きな政府と政府の失敗の関係を理解する（2時間）
14	事前学習	行財政改革の望ましい方向性について考えてくる（2時間）
	授業内容	時代の変遷と国家および行政の役割の変質 時代の変遷と国家および行政の役割の変化 行政学の変化からみる行政の役割の変質
	事後学習	近世から現代にいたるまでの国家と行政の役割を理解する（2時間）
15	事前学習	これまでの講義の内容を確認してくる（2時間）
	授業内容	講義の整理：概要の整理や質疑応答 学生の理解度の判断 小テストやレポート提出（必要に応じて）
	事後学習	試験に向けて講義内容を再確認する（2時間）

科目名	行政学Ⅱ	担当者	岩井 義和	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	国、地方自治体の行政機関は、我々の生活に幅広く関係する政策や計画を実施している。また、昨今では民間と協力しながらその成果を生み出す活動もなされている。そこで、本講義では、「新しい公共」「ガバナンス」「民主制」など、現代行政のキーワードを解説しつつ行政機関の内・外を検討し、現代に求められる行政とは何かについて学習していく。			
授業目的・到達目標	現在、日本における行政は、国・地方の関係を含め、行政の仕組みや運用のあり方が問われ、大規模で重要な改革が行われている。そこで本講義では、行政組織に着目し動向を捉え、行政に関連する上級科目の基礎を養成することを目的とする。そして、国民と行政が密着していることを学び、行政への関心をもってもらい、実際は行政だけにまかせるのではなく、自分たち自身も主人公であるという認識を醸成することを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1,2 政治経済学科：2,4,5 新聞学科：1,5 公共政策学科：1,3,4			
履修条件	特になし。			
授業方法	講義ノート・教科書・資料に沿って講義を行うので、受講にあたっては必ずノートを持参し、自書すること。定期試験の解説を後日、ポータルにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	60%	筆記試験は、講義内容の理解しつつ行政活動の役割を修得しているかを判定し、授業進行によって行う授業内レポート、平常点を加味して総合評価する。	
	平常評価	40%	授業への参加度及び授業態度（10%） 授業中に指摘したポイントが身に付いているかを課題レポートで判定。（30%）	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年	弘文堂	Next 教科書シリーズ 行政学第2版	外山公美編
	備考			
参考書	西尾勝『行政学』有斐閣			
オフィスアワー	水曜日、3時限目（13：30～14：30） 尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、行政組織における官僚について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【中央政府の組織編制】中央政府の組織を見つ、官僚組織を検討していく。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、日本の行政組織の理解を深めること。（2時間）
2	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、公務員制度の課題を検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政の内部過程】様々な問題に対処する行政活動について、公務員制度を中心に検討する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政組織におけるマネジメントの理解を深めること。（2時間）
3	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、政策とは何かについて理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【政策形成と立案】政策過程の理論を概説し、政策展開を学習する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政策形成と立案の理解を深めること。（2時間）
4	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、政策ごとの違いと関連について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【環境変化と政策立案①】環境変化による政策の変化を検討する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政策の時間軸的变化の理解を深めること。（2時間）

5	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、政策の違いと参加の関連について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【環境変化と政策立案②】政策ごとに進め方や、参加が異なることを学習する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、多様な政策実施について理解を深めること。（2時間）
6	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、行政裁量について、許認可・行政指導との関連を理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政裁量・許認可・行政指導】行政の執行過程における、許認可・行政指導について概観しつつ、行政裁量について学習する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政裁量の必要性と課題の理解を深めること。（2時間）
7	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、行政の効果について検討しておくように。（2時間）
	授業内容	【政策評価】政策評価の対象と基準について検討する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政策評価実施後の行政活動の在り方についての検討を深めること。（2時間）
8	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、政策過程における前段階について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【政策過程の段階①】政策過程における諸段階のうち、その前段階を学習する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、課題設定についての理解を深めること。（2時間）
9	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、政策決定・実施過程について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【政策過程の段階②】政策過程における諸段階のうち、行政が担うべき課題とその決定・実施を学習する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、政策過程を全体として理解する。（2時間）
10	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、財政制度について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【予算と会計】財政制度と予算・決算について学習する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、財政制度の理解を深めつつ、財政制度の問題点を検討しておくこと。（2時間）
11	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、三権分立における行政について、検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【議院内閣制と省庁制】行政組織を歴史的に概観し、内閣制度につて検討する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、中央省庁改革などの理解を深めること。（2時間）
12	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、地方自治について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【地方自治】戦後日本の中央地方関係を概観し、地方自治の役割と自治体行政について学習する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、身近な行政サービスと住民意識についての理解を深めること。（2時間）
13	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、行政責任の類型について理解をしておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政責任】行政責任の概念を見つつ、現代に求められる行政責任を検討する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政責任のバランスを考えること。（2時間）
14	事前学習	指定した教科書の部分を必ず読み、行政統制の類型を理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政統制】行政統制の類型を概観しつつ、行政の在り方を検討する。
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、行政内・外の存在の理解を深めること。（2時間）
15	事前学習	初回からの教科書と講義ノートを見直し、行政内・外の役割について考察する。（2時間）
	授業内容	講義のまとめ
	事後学習	講義で指示されマーカーを引いた教科書の部分と、自分で書いた講義内容のノートを照らし合わせて、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。（2時間）

科目名	行政学Ⅱ	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国民は「行政」との関わりなしに日常生活を営むことは無理である。「行政」はそれほど国民と密接不可分な存在だが、三権の中の他の「立法」や「司法」に比べると、漠として捉えがたいのも事実である。この授業では、この「行政とは何か」という点に答えていく。特にわが国の事例を取り上げてその機能、課題、展望について学ぶことにより、「行政」なるものの全体像について理解を促していく。			
授業目的・到達目標	積極的に「行政」に関して関心を抱き、主権者として「行政」と関わっていけるような人材を養成することをこの授業の目的とする。国家あるいは地方公務員を目指す学生においては、積極的に専門的な問題意識を育んでいけるようになることを、またそれ以外の学生においても、主権者である国民として行政との適切な関わりが保てるようになることをこの授業の到達目標とする。対応DP及びCP：法律学科1,2 政治経済学科2,4,5 新聞学科1,5 公共政策学科1,3,4			
履修条件	特にない。本講義科目と併せて、地方自治論Ⅰ、Ⅱ（地方自治論）などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。			
授業方法	教科書は用いないが、毎時間レジュメと必要に応じて資料を配布する。各単元（章）毎に復習テストを行い、後日その解説を行うことで当該分野の理解を深める。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	筆記試験は行政学の主要な事柄が理解されているかを判定する。授業中に解説された基本的項目・事項について理解すること。	
	平常評価	20%	授業への積極的な参加度、レポート提出等の宿題によって評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。		
参考書	真淵勝『行政学』有斐閣、2009年、真淵勝『行政学案内[第2版]』慈学社、2014年、村上弘・佐藤満編『よくわかる行政学』ミネルヴァ書房、2016年。この他必要に応じて、授業の際に紹介する。			
オフィスアワー	木曜日12時～13時。 また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールでアポイントメントを取ること。 研究室：本館7階 1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	官僚制論(1) 官僚制とは何か？マックス・ウェーバーの官僚制論について学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）
2	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	官僚制論(2) 官僚制論の中でも逆機能論について学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）
3	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	官僚制論(3) もう一つの官僚制論＝リブスキーストリートレベルの官僚制ほかについて学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）
4	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	制度的行政責任(1) 行政責任論の概要－行政責任の4類型について学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）

5	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	制度的行政責任(2) 各主体による制度的統制について学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
6	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	非制度的行政責任 各主体による非制度的統制について学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
7	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	行政責任における自律的責任を中心に学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
8	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	政策過程(1) 政策過程に関する諸理論について学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
9	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	政策過程(2) 政策過程の各過程について学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
10	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	議会と行政(1) 執政制度について学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
11	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	議会と行政(2) 立法過程について学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
12	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	利益団体と行政 利益団体が行政に及ぼす影響、利益団体と行政の関係性について学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
13	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	市民(国民)と行政(1) 行政と政策主体の多様化について学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
14	事前学習	参考文献の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	市民(国民)と行政(2) 参加の機能と役割について学ぶ。
	事後学習	授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
15	事前学習	後期の授業で学んだ事柄について、参考書やノートを見直し全体的な理解に努める。(2時間)
	授業内容	後期授業のまとめとして、この間行った主要な事柄について振り返り、より一層の理解を図る。
	事後学習	これまでに授業でとった講義ノートを使って授業の復習をし、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は教員に質問し、期末試験の準備を行う。(2時間)

科目名	行政学Ⅱ	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義は、「行政学の基礎理論」を理解することを主目的としている。講義では、「公務員のための学問」の性格を有する「行政学」の理論、歴史、特質などを学び、「現代行政を見る眼」を養うことも目的とする。講義では、行政機関での審議会委員の経験を生かして行政活動の実態についても講義をおこなう。				
授業目的・到達目標	「公務員のための学問」の性格を有する「行政学」の理論、歴史、特質などを学び、「現代行政を見る眼」を養うことを目的とする。現代行政のあり方や課題を理解する能力と共に国家・地方公務員試験の行政学択一を解けるぐらい理解し、説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2 政治経済学科2, 4, 5 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	行政学Ⅰと継続履修が望ましい。				
授業方法	テキストや参考書を使用して行政学の基礎理論を講義していく。講義中に小テストの実施か、レポートを提出してもらう。小テストやレポートの講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	論述試験を実施し、評価する。（90％，但し、履修人数によっては講義内試験が困難な場合がある。）講義中に実施する小テストなどで評価する。（10％）	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2017	弘文堂	行政学		外山公美編
	備考				
参 考 書	西尾勝『行政学』（有斐閣）				
オフィスアワー	原則水曜日の昼休みとする。事前にメールなどでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいっていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館6階の研究室。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期までの講義を復習して講義に臨む。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 講義の概要や評価方法について説明する。
	事後学習	後期のテーマの概要を復讐する。（2時間）
2	事前学習	古典的行政組織論について調べてくる。（2時間）
	授業内容	行政組織論（1）
	事後学習	古典的行政組織論の学説を整理する。（2時間）
3	事前学習	現代行政組織論について調べてくる。（2時間）
	授業内容	行政組織論（2）
	事後学習	現代行政組織論の学説を整理する。（2時間）
4	事前学習	テキストの該当ページを読んで切る。（2時間）
	授業内容	稟議制
	事後学習	稟議制の形態についてまとめる。（2時間）

5	事前学習	行政責任の類型を調べる。（2時間）
	授業内容	行政統制論と行政責任論（1）
	事後学習	現代社会における行政責任の重要性について考える。（2時間）
6	事前学習	ギルバートのマトリックスについてまとめる。（2時間）
	授業内容	行政統制論と行政責任論（2）
	事後学習	日本の行政統制手段について整理する。（2時間）
7	事前学習	地方自治の本旨について考える。（2時間）
	授業内容	地方自治論（1）
	事後学習	中央地方関係の類型について考える。（2時間）
8	事前学習	海外の中央地方関係について考える。（2時間）
	授業内容	地方自治論（2）
	事後学習	各国の地方自治のあり方を比較してみる。（2時間）
9	事前学習	テキストの該当ページを読む。（2時間）
	授業内容	行政理論の新動向（1）
	事後学習	NPMとはなにか考える。（2時間）
10	事前学習	テキストの該当ページを読む。（2時間）
	授業内容	行政理論の新動向（2）
	事後学習	行政の新傾向についてまとめる。（2時間）
11	事前学習	行政改革の必要性について勉強してくる。（2時間）
	授業内容	行政改革（1）
	事後学習	行政改革の歴史についてまとめる。（2時間）
12	事前学習	日本の行政改革についてまとめる（2時間）
	授業内容	行政改革（2）
	事後学習	日本の行政改革の成果を確認する。（2時間）
13	事前学習	閉鎖型と開放型の人事システムについて調べてくる。（2時間）
	授業内容	公務員制度（1）
	事後学習	閉鎖型と開放型の人事システムの特徴をまとめる。（2時間）
14	事前学習	キャリア・ノンキャリア制度についてまとめる。（2時間）
	授業内容	公務員制度（2）
	事後学習	各国の公務員制度についてまとめる。（2時間）
15	事前学習	いままでの学習成果をまとめておくこと。（2時間）
	授業内容	試験とまとめ 履修人数によっては学期末試験期間中に行う。履修者数が決定した後に、講義中にアナウンスする。
	事後学習	どこができなかったのか復習すること。（2時間）

科目名	行政学Ⅱ	担当者	山田 光矢	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	行財政改革の歴史と流れから、現在の日本の行財政サービスの目的と内容、並びに行財政改革のあり方を、最初は「行政改革の理論と実際」を手がかりに解説し、その後に各種資料を用いて日本を中心にした行財政改革の実態を解説することで理解してもらい、日本の行政の特徴や問題点を財政問題も含めて分析し、日本の行財政改革の目的や望ましい方向性を説明していく。			
授業目的・到達目標	国家の変遷と行政需要の変遷が、各国の行政組織や制度あるいは行政サービスの内容にどのような変革を求めてきたのかを、歴史や理論や実態から分析することを目的とし、それに合わせて日本の行財政の特徴や問題点を、各国の行財政制度との比較から理解してもらい、日本の行財政改革の流れを最初に理解してもらう。その後は資料等で日本に行財政の実態と行うべき行財政改革の課題やあり方について分析し、受講生各自の日本の行財政改革の必要性や方向性に関する考えが確立できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2 政治経済学科2, 4, 5 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	講義では、教科書の内容だけではなく実際の行政も扱うので、一般紙を毎朝読んでくること。また教室において常識として求められている基本的なマナーやエチケットを守ること。			
授業方法	原則として講義形式で行う。対話のある講義にするため、質問への積極的な返答を要求するとともに、積極的な質問を歓迎します。なお、時事問題や行政上の常識や講義内容の理解などに関する小テストも時折実施します。レポートの講評を行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		60%	大きな問題1題と、項目の説明を問う小テスト4問を出題する。大問題を60%、小テストを40%で評価する。内容により加点する場合もある。
	平常評価		40%	前期レポート（2,000字以上・A4版：前期提出）と授業への参加度と小テストを総合して評価する。自主レポート（2,000字以上・A4版：試験前まで提出）は加点要素とする。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	弘文堂	『政治学』（第二版）	吉野篤編 山田光矢他著
	2005	日本大学法学会	「行政改革の理論と実態」『政経研究』（第四一卷第4号）	山田光矢
	備考	「行政改革の理論と実態」はコピーを配布する		
参考書	『行政学入門』 村松岐夫著 有斐閣 その他は講義の中で必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	水曜日5限に研究室（9号館5階9505）で行います。 ※会議等のために毎週確実に対応できないことも考えられるので、相談を希望する場合には事前にメールで連絡し、私からの相談可能な連絡を受けてからきてください。（yamada.mitsuya@nihon-u.ac.jp）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	今年の夏休み終了までに話題となった日本の行財政改革について考えてくる（2時間）
	授業内容	ガイダンス授業：前期内容の確認 近現代の国家と行政 日本の現在の行財政改革の目的と方向性
	事後学習	夏休み終了までに話題となった日本の行財政問題を整理する（2時間）
2	事前学習	教科書第1章と「行政改革の理論と実践」のP123-148までを読んでくる（2時間）
	授業内容	前期講義の概略 近世から現在までの国家と行政 行財政改革の歴史・理論・実体
	事後学習	高度経済成長期までの行政理論と行財政改革の流れを理解する（2時間）
3	事前学習	教科書第14章の1を読んでくる（2時間）
	授業内容	明治維新と官制 三職制・太政官職制・政体書・職員令 太政官官制・内閣官制
	事後学習	明治維新と日本の行政機構の整備の歴史と内容を理解する（2時間）
4	事前学習	教科書第14章の2を読んでくる（2時間）
	授業内容	統一国家の確立と行政機構 明治維新と行政機構の整備 廃藩置県・明治六年の行政機構改革
	事後学習	明治維新以降の日本の近代国家建設職の実態を理解する（2時間）

5	事前学習	教科書第14章の3読んでくる（2時間）
	授業内容	近代的統一国家と行政機構 近代国家化と地方制度改革 内閣制度の創設・大日本帝国憲法と内閣制度整備
	事後学習	戦前の内閣制度の特質と問題点を理解する（2時間）
6	事前学習	教科書第14章の4を読んでくる（2時間）
	授業内容	公務員（官吏・吏員）制度の変遷 公務員制度改革の歴史 戦前の公務員制度・戦後の公務員制度
	事後学習	日本の公務員制度の特質や問題点を理解する（2時間）
7	事前学習	教科書第14章の5を読んでくる（2時間）
	授業内容	国家の変質と行政組織 大日本帝国憲法下の国家行政組織と日本国憲法下の国家行政組織 中央省庁の再編と行政組織
	事後学習	日本の行政組織改革の目的と方向性を理解する（2時間）
8	事前学習	内閣法、内閣府設置法、国家行政組織法に目を通してくる（2時間）
	授業内容	日本の行政システム スタッフとライン：1府12省庁制と内閣官房 国家行政組織法：省・委員会・庁・審議会
	事後学習	日本の国家行政組織の実態を理解する（2時間）
9	事前学習	教科書第14章の6を読んでくる（2時間）
	授業内容	行（財）政改革の歴史と手法 佐藤内閣と中曽根内閣の行（財）政改革 小泉内閣と行（財）制政改革
	事後学習	高度経済成長期以降の日本の行（財）政改革の歴史と内容等を理解する（2時間）
10	事前学習	教科書第14章の7を読んでくる（2時間）
	授業内容	行政機構改革と内閣府 橋本行革とその後 小泉改革と経済財政諮問会議、安倍内閣とアベノミクス
	事後学習	安倍内閣の行（財）政改革の適否について自分の考えを確立する（2時間）
11	事前学習	「行政改革の理論と実態」の四（P148-151）を読んでくる（2時間）
	授業内容	新自由主義・新保守主義と小さな政府論とNew Public Management (NPM) サッチャー改革と中曽根改革 EUと日本の行（財）政改革
	事後学習	行政機構の肥大化と財政赤字の増大に対する改革の特色を理解する（2時間）
12	事前学習	「行政改革の理論と実態」の四（P151）を読み予算制度について考えてくる（2時間）
	授業内容	行（財）政改革と予算制度改革 PPBS、MBO、ZBB スクラップ・アンド・ビルト方式・サンセット方式
	事後学習	アメリカ行（財）政改革の制度と特徴を理解する（2時間）
13	事前学習	「行政改革の理論と実態」の四（P151-158）を読んでくる（2時間）
	授業内容	NPMとガバナンス ガバメントとガバナンス 国家経営・自治体経営
	事後学習	NPMとガバナンスを通じた行（財）政改革のあるべき方向性を理解する（2時間）
14	事前学習	「行政改革の理論と実態」と配布資料を整理したレポートを作成してくる（2時間）
	授業内容	ポストモダンにおける行（財）政改革 PPP、独立行政法人（エージェンシー）、第三セクター NGO、NPO、新しい公共
	事後学習	日本の行（財）政改革のあるべき方向性について自分の考えを整理する（2時間）
15	事前学習	これまでの講義の内容について整理してくる（2時間）
	授業内容	講義の整理：概要の整理や質疑応答 学生の理解度の判断 小テストやレポート提出（必要に応じて）
	事後学習	試験に向けて講義内容を再確認する（2時間）

科目名	行政管理研究	担当者	岩井 義和	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	行政組織の業務を目的活動と区別し、目的活動を効率的に達成できるようにするための組織と維持発展をはかるためには何が必要かを検討する。具体的にはトップ・マネジメント、ミドル・マネジメント、ローアー・マネジメントを、行政活動との関連で講義し、行政管理のあり方を学習する。				
授業目的・到達目標	本講義は、国民の期待に応え、社会により貢献していく行政管理を、専門的に理解する能力を養成することを目的とする。具体的に本講義では、行政管理の基礎理論を解説しつつ、行政の効率的機能の改善・合理化を検討し、行政管理の問題点・展望を検討していく。さらに行政の目的のひとつである能率に検討を加えることで、能率よりも高い価値とされる「公益」とのバランスを学生には考えられるようになってもらうことを目標とする。関連DP及びCP:公共政策学科1, 3, 4, 5				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義ノート・教科書・資料に沿って講義するので、受講に当たっては必ずノートを持参すること。定期試験の解説を後日、ポータルにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		60%	筆記試験は、講義内容の理解しつつ行政管理の役割を修得しているかを判定し、授業進行によって行う授業内レポート、平常点を加味して総合評価する。	
	平常評価		40%	出授業への参加度及び授業態度（10％） 授業中に指摘したポイントが身に付いているかを課題レポートで判定。（30％	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし			
参考書	講義時に随時、紹介する。				
オフィスアワー	水曜日、3時限目（13：30～14：30） 尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	一般的な行政学の教科書を参照し、行政管理論について理解しておく。（2時間）
	授業内容	【行政組織と行政管理①】授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、管理の意味、研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理の意味や意義について理解を深めること。（2時間）
2	事前学習	一般的な行政学の教科書を参照し、行政組織論について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	行政組織と行政管理②管理と組織の関係について学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、組織と管理の関係について理解を深めること。（2時間）
3	事前学習	一般的な行政学の教科書を参照し、行政の意思決定過程にについて理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政の意思決定と行政管理①】行政管理に用いられる用語を解説しつつ、意思決定との関係を学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理の用語と意思決定の理解を深めること。（2時間）
4	事前学習	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、基本構想などを見ておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政の意思決定と行政管理②】行政管理に用いられる用語を解説しつつ、具体的な事例を検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、自分が住む自治体を比較し検討を加えること。（2時間）

5	事前学習	一般的な行政学の教科書を参照し、政策とは何かについて理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【政策実施と行政管理①】行政管理に用いられる用語を解説しつつ、政策との関係を学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理の用語と政策の理解を深めること。（2時間）
6	事前学習	一般的な行政学の教科書を参照し、政策実施について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【政策実施と行政管理②】行政管理に用いられる用語を解説しつつ、政策実施・行政組織との関係を学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の部署などの理解を深めること。（2時間）
7	事前学習	一般的な行政学の教科書を参照し、行政責任とは何かについて理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政責任と行政管理】行政責任の変遷と、行政管理の関係について学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政管理の考え方や変化について理解を深めること。（2時間）
8	事前学習	一般的な行政学の教科書を参照し、行政組織の階層性について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【トップ・マネジメント】行政管理における、トップ・マネジメントについて学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政におけるトップ・マネジメントの役割についての理解を深めること。（2時間）
9	事前学習	一般的な行政学の教科書を参照し、行政組織の階層性と役割について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【ミドル・マネジメント】行政管理における、ミドル・マネジメントについて学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政におけるミドル・マネジメントの役割についての理解を深めること。
10	事前学習	一般的な行政学の教科書を参照し、行政サービスの実施段階について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【ローワー・マネジメント】行政管理における、ローワー・マネジメントについて学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政におけるローワー・マネジメントの役割についての理解を深めること。（2時間）
11	事前学習	一般的な行政学の教科書を参照し、行政評価と政策評価について理解しておくこと。
	授業内容	【行政評価と行政管理】行政管理と行政評価の関連について検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政管理と行政評価を経営管理の側面から理解を深めること。（2時間）
12	事前学習	一般的な行政学の教科書を参照し、行政理論と行政管理の関係について、歴史と照らし合わせて理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政理論と行政管理】行政理論の変遷と行政管理について学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、時代の要請に基づく行政管理について理解を深めること。（2時間）
13	事前学習	一般的な行政学の教科書を参照し、管理者の意味について復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政管理における管理者の役割】歴史・社会背景を見つつ、時代に求められる管理者について検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、時代ごとの管理者の役割について理解を深めること。（2時間）
14	事前学習	一般的な行政学の教科書を参照し、NPMと行政の能率について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【NPMと行政管理】NPMを含めた、新しい行政管理について検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、現代に求められる行政管理について検討すること。（2時間）
15	事前学習	初回からの講義ノートを見直し、行政管理・行政マネジメント・経営管理などについて考察する。（2時間）
	授業内容	講義のまとめ
	事後学習	初回からの講義ノートを見直し、期末試験に向けて準備をする。（2時間）

科目名	行政管理論	担当者	岩井 義和	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代行政が多岐にわたり国民の期待にさらに応え、社会により貢献していくためには、行政を科学的・能率的に管（Managing）することが必要とされる。すなわち、行政が効率的に機能を果たすように、行政活動の改善・合理化を進め、行政機能をより一層有効に果たすことが要請されているのである。そこで本講義では、行政管理の歴史、基礎理論を解説しつつ、行政管理の問題点や展望を検討していく。				
授業目的・到達目標	行政に関連する、上級科目履修のために必要な行政管理の基礎の修得を目的とする。 現在国・地方も財政難と言われ、行政の効率化が叫ばれている。そこで、行政の目的のひとつである「能率」に検討を加えることで、能率より高い価値とされる「公益」とのバランスを、行政だけではなく国民自身がそれぞれ現在の行政活動には何が求められるかを考える力をつけることを目標とする。関連DP及びCP:公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	特になし				
授業方法	講義ノート・資料に沿って講義を行うので、受講にあたっては必ずノートを持参し、自書すること。 定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		60%	筆記試験は、講義内容の理解しつつ行政管理の役割を修得しているかを判定し、授業進行によって行う授業内レポート、平常点を加味して総合評価する。	
	平 常 評 価		40%	授業参加度及び授業態度（10%） 授業中に指摘したポイントが身に付いているかを課題レポートで判定。（30%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参 考 書	講義時に随時紹介する。				
オフィスアワー	水曜日、3時限目（13：30～14：30） 尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	一般的な行政学の教科書を参照し、行政管理論について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス、管理の考え方】授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、国民生活と行政の関連や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理の意味について理解を深めること。（2時間）
2	事前学習	様々な教科書などを読み、行政とは何かついて、調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政の概念】行政活動を見つつ、その公共性について学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、公共性・公益について検討すること。（2時間）
3	事前学習	ニュースなどを見て、関心ある行政活動について検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政の役割①】公共性に基づく、行政組織の在り方について検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の透明の必要性の理解を深めること。（2時間）
4	事前学習	身近で行われている行政活動について、ホームページなどで調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政の役割②】行政の技術性について学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の専門性と公共性のバランスに検討を加えておくこと。（2時間）

5	事前学習	官民の管理活動を調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【管理の歴史】管理という言葉を歴史的に検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、管理についての理解を深めること。（2時間）
6	事前学習	一般的な行政学の教科書を参照し、行政国家について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政国家の成立】国家の歴史的変遷を見つ、政府・官僚制などを検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政国家の成立要因についてまとめておくこと。（2時間）
7	事前学習	一般的な行政学の教科書を参照し、福祉国家ついて理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政国家の展開】福祉国家への道と、行政サービスの拡大について検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、福祉国家への道への共通認識と、行政活動について理解を深めること。（2時間）
8	事前学習	一般的な行政学の教科書を参照し、行政機能の拡大の歴史について復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政と行政管理】歴史の中で、社会背景に要請された行政活動の妥当性とは何かについて検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、社会に求められてきた行政活動を行うための行政の変化について検討しておくこと。（2時間）
9	事前学習	一般的な行政学の教科書を参照し、科学的管理法について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政管理の理念と概念①】科学的管理法と行政活動について検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、なぜ科学的管理法を行政が導入する必要性があったかを検討しておくこと。（2時間）
10	事前学習	組織における管理について検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政管理の理念と概念②】管理の理論を検討しつつ、行政における管理の必要性について検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政機能の拡大と管理を関連させて理解を深めること。（2時間）
11	事前学習	行政の効率性について、検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政管理の理念と概念③】行政組織における「管理」の意味について学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の目的と行政組織について理解を深めること。（2時間）
12	事前学習	自分が住んでいる地域の財政について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【現代行政と行政管理の役割①】行政の能率について検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、能率の考え方について検討しておくこと。（2時間）
13	事前学習	行政の効率性とは何かについて、検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【現代行政と行政管理の役割②】行政の目標を効率性・経済性を踏まえて検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、自分にとって必要な行政活動について検討しておくこと。（2時間）
14	事前学習	「公益」を中心に文献を読み、行政活動を検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【現代行政と行政管理の役割③】現代行政に求められる行政管理について検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の公共性・技術性・効率性・経済性を総合的に理解しておくこと。（2時間）
15	事前学習	初回からの講義ノートを見直し、行政管理の役割について考察する。（2時間）
	授業内容	講義のまとめ
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートを見て、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。（2時間）

科目名	行政広報研究	担当者	岩井 義和	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、社会とのコミュニケーション手段である「広聴広報」を戦略的に展開するいわば「戦略的広報」に焦点をあてる。そのため「戦略的広報」を実施していくにあたって、広聴広報行政の課題である「役割分担の明確化と連携の強化」、「PDCAサイクルのCAの強化」、及び「情報の共有化」の推進など、戦略的広報に必要な情報創造・経営意思の明確化・組織内外の情報収集などの課題を検討する。				
授業目的・到達目標	行政に関する課題を専門的に解決する能力の養成を目的とする。具体的には、行政環境の変容における現代の行政機関と地域住民とを結ぶパイプ・ラインの醸成の仕方を、行政と住民の善意友好関係を築く行政広報・広聴（Public Relations）を出発点として、広報活動を多角的に考察する。そして、市民との関係を調整する、Public Relationsの優れた機能を検討することで、行政組織におけるマネジメントとしての行政広報を理解できるようになることを目標とする。関連DP及びCP:新聞学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4, 5				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義ノート・教科書・資料に沿って講義するので、受講に当たっては必ずノートを持参すること。定期試験の解説を後日、ポータルにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		60%	筆記試験は、講義内容の理解しつつ行政広報の役割を修得しているかを判定し、授業進行によって行う授業内レポート、平常点を加味して総合評価する。	
	平常評価		40%	授業への参加度及び授業態度（10％） 授業中に指摘したポイントが身に付いているかを課題レポートで判定。（30％）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし			
参考書	講義時に随時、紹介する。				
オフィスアワー	水曜日、3時限目（13：30～14：30） 尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	広報に関する書籍を読み、その言葉に対する印象を一人一人が考えておくこと。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス、広報戦略のキーワード】授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、行政広報戦略のキーワードや研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政活動と行政広報に関連するキーワードの理解を深めること。（2時間）
2	事前学習	日本における広報の一般理解について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【広報・広聴の理論】行政広報に関する、理論などを学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、一般的に考えられている行政広報と、講義内で説明した理論を比較し理解を深めること。（2時間）
3	事前学習	自分が住んでいる自治体などの広報紙を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	【行政組織における広報・広聴の役割①（組織内）】行政経営と行政広報の役割について検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政経営の必要性について理解を深め、行政広報との関連をまとめる。（2時間）
4	事前学習	自分が住んでいる自治体のホームページを見ておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政組織における広報・広聴の役割②（組織外）】行政の基本方向と行政広報の関連について検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政の基本方向と住民の関連について理解を深めること。（2時間）

5	事前学習	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、広報課などの仕事を理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【広報・広聴制度の検討】行政組織内外の関係構築について検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政広報による協力のネットワーク作りについての理解を深めること。（2時間）
6	事前学習	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、基本構想を見ておくこと。（2時間）
	授業内容	【広報・広聴戦略立案】具体的事例を解説しつつ、行政広報と行政の方向性について検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政と住民の関係をまとめておく。（2時間）
7	事前学習	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、地域の活性化方策を見ておくこと。（2時間）
	授業内容	【広報・広聴と地域活性化】具体的事例を解説しつつ、行政広報における「選択」・「統合」・「関係」・「価値」を学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政経営と行政広報の関連をまとめる。（2時間）
8	事前学習	自分が住んでいる自治体のホームページを見て、地域の財政を見ておくこと。（2時間）
	授業内容	【地域経営と広報・広聴戦略】ハコ作りから、コト作りへの変化の要請について学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、地域財政と行政広報の役割についての理解を深めること。（2時間）
9	事前学習	どこか民間企業のホームページなど見て調べ、その活動を知っておくこと。（2時間）
	授業内容	【広報・広聴マネジメント】中枢管理機能としての行政広報を検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政マネジメントと行政広報の役割をまとめておくこと。（2時間）
10	事前学習	合意形成の必要性について、官民の活動を見ておくこと。（2時間）
	授業内容	【住民との合意形成】合意形成と行政広報の役割について学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、合意形成における行政広報の具体的実施方法について理解を深めること。（2時間）
11	事前学習	迷惑施設とは何かについて、理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【迷惑施設と合意形成①（事例研究）】合意形成における、行政対住民・住民対住民など対立関係改善の行政広報を検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、関係改善のための行政広報の役割についての理解を深めること。（2時間）
12	事前学習	民間企業における地域開発事例、地元の企業誘致活動などを調べておくように。（2時間）
	授業内容	【迷惑施設と合意形成②（事例研究）】行政広報による価値の共有の重要性について学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、従来型の行政広報との違いについて理解を深めること。（2時間）
13	事前学習	身近にある迷惑施設と、自らの関係を調べ、自分で問題意識を持つておくように。（2時間）
	授業内容	【迷惑施設と合意形成③（事例研究）】迷惑施設の建設プロセスなどの事例を解説し、課題を検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、自分なりの解決策をまとめておく。（2時間）
14	事前学習	双方向コミュニケーションについて調べておくように。（2時間）
	授業内容	【広聴と広報の連動】「双方向性」・「協働」・「コミュニケーション」・「マネジメント」と行政広報の関連について学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、協働へと導く行政広報戦略についてまとめておくこと。（2時間）
15	事前学習	初回からの講義ノートを見直し、行政広報・行政マネジメント・協働・地域経営について考察する。（2時間）
	授業内容	講義のまとめ
	事後学習	初回からの講義ノートを見直し、期末試験に向けて準備をする。（2時間）

科目名	行政広報論	担当者	岩井 義和	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今日、行政には行政環境、特に市民社会とのリレーション・シップづくりの重要性が増してきている。それは、行政を取り囲む環境が急激に変化し、多様化したからである。そこで本講義では、行政と様々な環境主体とのリレーション・シップをつくるコミュニケーション活動としての行政広報の歴史・概念・方法論を検討していく。				
授業目的・到達目標	行政活動における、市民とのコミュニケーション実践の基礎を養成することを目的する。 市民の関心を引く広報技術、さらに行政広報・広聴（Public Relations）の優れた機能を検討することで、コミュニケーション・マネジメント戦略としての行政広報を理解し、そうしたマネジメントを立案できる能力がつくことを目標とする。 関連DP及びCP:新聞学科1, 5 公共政策学科:1, 3, 4				
履修条件	特になし				
授業方法	講義ノート・資料に沿って講義を行うので、受講にあたっては必ずノートを持参し、自書すること。 定期試験の解説を後日、ポータルにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		60%	筆記試験は、講義内容の理解しつつ行政広報の役割を修得しているかを判定し、授業進行によって行う授業内レポート、平常点を加味して総合評価する。	
	平常評価		40%	授業参加度及び授業態度（10%） 授業中に指摘したポイントが身に付いているかを課題レポートで判定。（30%）	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	備考	使用しない			
参考書	講義時に随時紹介する。				
オフィスアワー	水曜日、3時限目（13：30～14：30） 尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	広報に関する書籍を読み、その言葉に対する印象を一人一人が考えておくこと。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス、広報のキーワード】授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、行政広報のキーワードや研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、広報と広聴の関係を理解しておくこと。（2時間）
2	事前学習	広報という言葉を、辞書などで調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【広報の概念】広報の概念について、その多義性・共通性について学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、広報に関する一般理解と講義での説明の違いについて理解しておくこと（2時間）
3	事前学習	自分の身の回りの広報の対象について、官民組織ごとに検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【広報の歴史】広報の歴史を見つつ、広報活動の発展と変化を学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、社会背景と広報の発展段階の理解を深めること。（2時間）
4	事前学習	広報における情報の方向性について、情報の送受信を基礎に検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【広報の理論的考察】広報とその対象を検討しつつ、理論的な変化を学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、時代・対象・理論についてまとめておくこと。（2時間）

5	事前学習	自分の住んでいる自治体の広報紙またはホームページを見ておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政広報と自治体】自治体における政策と、行政広報のかかわりについて学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、自治体の基本計画・経営方針などについて、検討しておくこと。（2時間）
6	事前学習	広報における対象とのコミュニケーション活動について、具体的活動を官民の活動を通して検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政広報の課題確認】行政広報の一般理解として認識されている、一方向性について検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政広報＝Public Relationsという理解を深めること。（2時間）
7	事前学習	広報における主体・客体について検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【アクターの相互関係】双方向コミュニケーションとしての行政広報を検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、組織における双方向コミュニケーションの必要性についての理解を深めること。（2時間）
8	事前学習	行政と民間企業の広報担当の組織の位置づけについて調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【組織的環境整備の整備】組織マネジメントにおける行政広報の位置づけについて学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、中枢管理機能と行政広報についての理解を深めること。（2時間）
9	事前学習	地域における「市民の役割」と、「市民」という言葉について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【市民との信頼関係構築】市民協働の視点と、行政広報について学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、協働と行政広報の関係についての理解を深めること。（2時間）
10	事前学習	行政組織と環境変化について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【地域社会と政策】ニーズの把握における広聴の重要性について学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、行政における広聴の重要性の理解を深めること。（2時間）
11	事前学習	行政における参加の意味について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【市民の社会参加と行政広報】行政の社会変化対応と行政広報について学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、プラン型行政の理解を深めること。（2時間）
12	事前学習	自分に身近な行政サービスなどについて調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【合意形成と行政広報】迷惑施設など、行政対応と行政広報を検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、市民とのコミュニケーションの重要性の理解を深めること。（2時間）
13	事前学習	市民と行政の協働について、具体例や必要性について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【広報戦略の組織的展開】行政広報戦略と戦術の必要性について学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、従来の一方向的な広報では、市民の理解は得られないという認識を深めること。（2時間）
14	事前学習	行政と市民のコミュニケーションの必要性とその方策について、調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【広報戦略とメディア】市民との情報ギャップを埋める、行政広報戦略と情報発信媒体であるメディア工夫について検討する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、コミュニケーションに基づく仕事への転換についての理解を深めること。（2時間）
15	事前学習	初回からの講義ノートを見直し、行政広報＝Public Relationsの役割について考察する。（2時間）
	授業内容	講義のまとめ
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートを見て、講義全体の流れを確認し、期末試験に向けての準備をする。（2時間）

科目名	行政実務演習	担当者	福島 康仁 木川 裕	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	---------------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	行政機関や非営利法人などにおいて2週間以上のインターンシップを行うことを前提とする。インターンシップによって今後の公務員等の公職への就職を希望するもののキャリア形成に資することを目的とする。本講義では、実習の前提としての理論において、審議会委員の経験を生かした指導をおこなう。					
授業目的・到達目標	インターンシップによって今後の公務員等の公職への就職を希望するもののキャリア形成に資することを目的とする。インターンシップにより行政の理論と実際を体験することで、より理論的考察を深化させ、多角的思考ができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：公共政策学科1, 4, 5, 6, 7, 8					
履修条件	①4月7日のガイダンスに出席すること。出席しないと履修ができません。②学内で行われるインターンシップ・マナー講座を受講すること。③公職につく意思があること。その他の事項について詳細はガイダンス期間中に説明する。					
授業方法	この科目は①事前調査、②インターンシップ、③事後報告、④事後レポートの作成をする。なお、インターンシップ先は、行政機関が行う公募によって決定する方法と本学部が提携する機関で行う方法（学内での選抜）を予定している。事後レポートの講評を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		事前学習20%、事後レポート提出20%、インターンシップ60%	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない				
参考書	各人にそれぞれアドバイスする。インターンシップ先について、インターネットなどをフル活用してください。					
オフィスアワー	原則水曜日の昼休みとする。事前にメールなどでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいっていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館6階の研究室。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	インターンシップガイダンスに参加していること。（2時間）
	授業内容	本講座受講に関する諸注意 インターンシップとは行政機関の公募試験の概要、学内選抜試験の概要
	事後学習	履修条件と自分の将来との関係を考える（2時間）
2	事前学習	インターンシップの行先を考えてくる（2時間）
	授業内容	インターンシップ先についての留意点、相談、決定①
	事後学習	希望先について調べる（2時間）
3	事前学習	インターンシップの行先を考えてくる（2時間）
	授業内容	インターンシップ先についての留意点、相談、決定②
	事後学習	希望先について調べる（2時間）
4	事前学習	志願書を自分で書いてみる（2時間）
	授業内容	志願書の書き方など留意点、相談
	事後学習	指摘事項を修正する（2時間）

5	事前学習	レポートの書き方を調べてくる。（2時間）
	授業内容	事前レポート①
	事後学習	アドバイスをもとにレポートを書いてみる（2時間）
6	事前学習	レポートを書いてみる（2時間）
	授業内容	事前レポート②
	事後学習	アドバイスをもとにレポートを修正する（2時間）
7	事前学習	レポートを書いてみる（2時間）
	授業内容	事前レポート③
	事後学習	アドバイスをもとにレポートを書いてみる（2時間）
8	事前学習	レポートを書いてみる（2時間）
	授業内容	事前レポート④
	事後学習	アドバイスをもとにレポートを書いてみる（2時間）
9	事前学習	レポートを書いてみる（2時間）
	授業内容	事前レポート⑤
	事後学習	アドバイスをもとにレポートを書いてみる（2時間）
10	事前学習	レポートを書いてみる（2時間）
	授業内容	事前レポート⑥
	事後学習	アドバイスをもとにレポートを修正する（2時間）
11	事前学習	先方のことをよく調べて、課題を整理して臨む（2時間）
	授業内容	インターンシップ
	事後学習	反省し課題を抽出し、改善点を考える（2時間）
12	事前学習	先方のことをよく調べて、課題を整理して臨む（2時間）
	授業内容	インターンシップ
	事後学習	反省し課題を抽出し、改善点を考える（2時間）
13	事前学習	先方のことをよく調べて、課題を整理して臨む（2時間）
	授業内容	インターンシップ
	事後学習	反省し課題を抽出し、改善点を考える（2時間）
14	事前学習	メモをまとめてレポートを作成する（2時間）
	授業内容	事後レポートの書き方
	事後学習	アドバイスをもとに修正する（2時間）
15	事前学習	レポートの総仕上げをする（2時間）
	授業内容	事後レポートの書き方
	事後学習	提出後の反省を整理する（2時間）

科目名	行政組織研究	担当者	上村 進	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	①内閣・府省組織の基本的構造の体系的把握、②我が国中央行政組織の歴史的展開の探求、③府省以外の担い手としての独立行政法人の制度の理解、を内容とする。講義に当たっては行政官としての経験に基づく素材を適宜提供する。				
授業目的・到達目標	行政の理解のためには、行政施策の決定・実施の場である行政組織の成り立ちをを正しく把握することが不可欠である。本講義では我が国中央行政組織を主な対象として、内閣・各府省の組織体制・業務内容を概観するとともに、これらが、なぜ今日見る形となっているのか、律令時代以来の歴史的経緯、理論面からの合理性、累次行政改革（省庁再編・独立行政法人化等）の経過等を通して多面的な理解に導くようにすることを目的とし、今後の学習・実社会にこれらを活かしていくことができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：公共政策学科1, 3, 4, 5				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式。定期試験の解説を後日ポータルサイトにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		90%		
	平 常 評 価		10%	授業への参加度（5%）、講義中の質問・意見等（5%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特に指定しない。			
参 考 書	必要に応じて適宜紹介する。				
オフィスアワー	水曜日2限。（休暇中を除く。事前にメールにて要アポイントメント） 研究室 本館6階 1604号室 メールアドレス kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを良く読み、授業概要、目的等を理解する（2時間）。
	授業内容	【授業の概要】 授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
2	事前学習	可能な範囲で行政法テキスト等により国家行政組織法及び総定員法の概要を学習しておく（2時間）
	授業内容	【行政組織の構造①】 行政組織法制と機構定員管理の概要を学ぶ
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
3	事前学習	内閣法の規定を読んでおくとともに、内閣官房等の公式ウェブサイトを開覧しておく（2時間）。
	授業内容	【行政組織の構造②】 内閣の組織体制を取り上げ、その中核となる内閣官房等の組織体制を分析する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
4	事前学習	国家行政組織法の内部部局等に係る諸規定に目を通しておく（2時間）
	授業内容	【行政組織の構造③】 政策企画立案の中核である本省内部部局の仕組みと実際の業務運営について学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。

5	事前学習	これまでの講義内容を踏まえて、各省の組織構造の違い（地方支分部局の有無など）はどこに由来するのか考察し、あなたの考えをまとめておく（2時間）。
	授業内容	【行政組織の構造④】 国家行政組織法の外局・附属機関等に係る諸規定を確認するとともに本省に置かれる外局・審議会・附属機関・地方支分部局等の仕組みと役割について学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
6	事前学習	各組織の公式ウェブサイトを開覧しておく（2時間）。
	授業内容	【行政コントロール機関の実際】 内閣人事局、財務省主計局、会計検査院、人事院等の組織・業務内容について学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
7	事前学習	内閣府の公式ウェブサイトを開覧しておく（2時間）。
	授業内容	【府省組織の実際①】 内閣府各部署の体制及び国家公安委員会、公正取引委員会、金融庁、消費者庁、宮内庁などについて学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
8	事前学習	可能な範囲で各省の公式ウェブサイトを開覧し、主要組織・業務等を把握しておく（2時間）。
	授業内容	【府省組織の実際②】 総務省、法務省、外務省、財務省等の組織・業務内容について学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
9	事前学習	可能な範囲で各省の公式ウェブサイトを開覧し、主要組織・業務等を把握しておく（2時間）。
	授業内容	【府省組織の実際③】 厚生労働省、文部科学省、環境省等の組織・業務内容について学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
10	事前学習	可能な範囲で各省の公式ウェブサイトを開覧し、主要組織・業務等を把握しておく（2時間）。
	授業内容	【府省組織の実際④】 農林水産省、国土交通省、防衛省等の組織・業務内容について学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
11	事前学習	独立行政法人によって担われている具体的な行政分野を調べ、そこからどのような類型化が可能かまとめておく（2時間）
	授業内容	【独立行政法人制度等】 独立行政法人の基本的な仕組みや独立行政法人評価制度について学習する。特殊法人・認可法人など他制度との異同についても考察する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
12	事前学習	日本史教科書等で大化改新～大宝律令成立時点の我が国を取り巻く国内・国際情勢を学習しておく（2時間）。
	授業内容	【行政組織の歴史的展開①】 律令時代の行政組織を学ぶ。特に古代律令の概要・二官八省の組織構造等を概観し、今日まで通底する基本的な行政構造の仕組みは何かを考察する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
13	事前学習	日本史教科書等で江戸幕府の全国支配方式について概要を把握しておく（2時間）。
	授業内容	【行政組織の歴史的展開②】 江戸幕藩体制下の行政組織、幕府官僚制、全国支配体制の特徴、文書行政の仕組みなどを学習し、今日の行政につながる所要を把握する。また、幕府行政組織が老中支配組織と若年寄支配組織に二分されていた経緯等について分析する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
14	事前学習	日本史教科書等で幕末から明治期にかけての大きな政治的イベント（王政復古、廃藩置県、西南戦争、国会開設など）の概要を把握しておく（2時間）。
	授業内容	【行政組織の歴史的展開③】 明治時代の行政組織について太政官時代から内閣制度開始を経て、今日の府省体制の原型が確立した経緯を学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
15	事前学習	日本史教科書等でGHQによる占領政策の概要を把握しておく（2時間）。
	授業内容	【行政組織の歴史的展開④】 戦後占領期の改革により、我が国行政組織が大きな変貌を遂げ、今日みるような特徴的な組織体制となってきた経緯を学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認しておく（2時間）。

科目名	行政組織論	担当者	上村 進	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	組織論の主要理論のうちから代表的なものを選択し、特に行政組織・非営利組織を特徴づける基本要素は何か、その行動原理はどのようなものかを体系的に講義する。講義に当たっては行政官としての経験に基づいた具体的な事例を素材として提供する。					
授業目的・到達目標	公共政策の担い手として重要な役割を果たす行政機関・NPO等は民間企業とどこが異なるのか、その具体的な働きの特徴は何か等を理解することを目的とし、これらアクターの機能を受講生が説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：公共政策学科1, 3, 4					
履修条件	特になし。					
授業方法	講義形式。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		90%			
	平常評価		10%		授業への参加度（5%）、講義中の質問・意見等（5%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	特に指定しない。				
参考書	外山久美・村松岐夫・西尾勝・真淵勝・曾我謙悟各氏の教科書は随時参照。他に東田親司「現代行政と行政改革」（芦書房）、田尾雅夫「組織論」「非営利組織論」（有斐閣アルマ）など。					
オフィスアワー	水曜日2限。（休暇中を除く、事前メールにて要アポイントメント）研究室（本館6階1604号室） メールアドレス：kamimura_susumu@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、授業概要、目的等を理解する(2時間)。
	授業内容	【講義の概要】 授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	広義で紹介された文献・資料等を収集する(2時間)。
2	事前学習	あなたが考える「組織」とな何か？人はなぜ「組織」を作るのか？あなたの考えをまとめ、発表できるようにする(2時間)。
	授業内容	【組織の基礎理論1】 組織と呼ばれる人間集団の本質は何か、組織における共通目標や分業はなぜ重要か、現代社会においてはなぜ組織が基本的構成要素となっているのか等につき学習する。
	事後学習	講義で紹介する事例・文献を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする(2時間)。
3	事前学習	組織の「内」と「外」はどこで分割するのが最も適切なのか？一般的に最適な解答はあり得るのか、あなたの考えをまとめる（2時間）。
	授業内容	【組織の基礎理論2】 外部環境と組織とはどのように相互に影響を与え合っているのか、そもそも組織の境界はどこに設けるのが適切なのか、組織の規模はどの程度とするのが適切なのか等につき学習する。
	事後学習	講義で紹介する事例・文献を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする(2時間)。
4	事前学習	強い組織の条件とは何か？どのように組織を構築するのが最も適切か？あなたの属している組織（学校、サークル、ゼミ、バイト先、家族）の事例から、あなたの考えをまとめる（2時間）。
	授業内容	【組織の基礎理論3】 成果を挙げる組織とそうでない組織の違いは何か、どのようにすれば強い組織を作ることができるのかなどについて学習する。
	事後学習	講義で紹介する事例・文献を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする(2時間)。

5	事前学習	組織カルチャーの重要性とモチベーション論等について可能な範囲で経営管理論・経営学等のテキスト等により学習する(2時間)。
	授業内容	【組織の基礎理論4】組織は単なる入れ物ではなく、多くの参加者が相互に影響を与え合う有機的な活動体である。このような組織が有効に機能するために重要な組織文化とは何か、良い組織文化はどのように構築されるのかなどについて学習する。
	事後学習	講義で紹介する事例・文献を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする(2時間)。
6	事前学習	組織が生き残っていく条件とは何か、成長する組織の秘訣とは何か、民間企業等の事例をもとに調べておく(2時間)。
	授業内容	【組織の基礎理論5】激変する外部環境の中で組織が存続するために必要な自己変革はどのようにして行われるのか、そのための組織マネジメントはどのように行えばよいかなどについて学習する。
	事後学習	講義で紹介する事例・文献を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする(2時間)。
7	事前学習	公共的な組織と民間組織の違いは何か、そのメルクマールはどこにあるのか、行政学のテキスト等により事前に学習する(2時間)。
	授業内容	【非営利組織論1】行政組織・NPO等の公的な組織と民間企業は同じ仕組みで構成されているのか。同じ点、違う点は何か、またはその異同が生ずる要因は何かなどについて学習する。
	事後学習	講義で紹介する事例・文献を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする(2時間)。
8	事前学習	いわゆるNPOと言われているものにどのような類型があるのか、各種文献で調べる(2時間)。
	授業内容	【非営利組織論2】近年、急速に重要性が高まっているNPO法人などはどのようなもので、現代の経済社会においてどのような役割を果たしているのか、制度面を中心に学習する。
	事後学習	講義で紹介する事例・文献を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする(2時間)。
9	事前学習	現代社会におけるNPOの役割・重要性について考えをまとめておく(2時間)。
	授業内容	【非営利組織論3】NPO法人等がその機能を十分に発揮するためには、どのようなガバナンス・マネジメントが求められるのか、それは行政組織あるいは民間企業に要求されるものとどのように違うのかについて学習する。
	事後学習	講義で紹介する事例・文献を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする(2時間)。
10	事前学習	今回以降は、具体的著作に即した講義となるので、前回までの講義内容を十分復習し、咀嚼しておく(2時間)。
	授業内容	【サイモンの組織理論1】ノーベル経済学賞を受賞したサイモンの「経営行動」を読み解き、組織の本質は何か、組織を形作る「意思決定」「コミュニケーション」の意味とは何かについて学習する。
	事後学習	講義で紹介する事例・文献を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする(2時間)。
11	事前学習	前回講義学習した内容について、具体的事例に即して自分の言葉で説明できるよう準備する(2時間)。
	授業内容	【サイモンの組織理論2】前回に引き続きサイモンの「経営行動」を学習する。今回は「満足化基準」「限定的合理性」「組織参加の誘引貢献」などのサイモン理論の鍵となる概念を中心に学ぶ。
	事後学習	講義で紹介する事例・文献を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする(2時間)。
12	事前学習	第7～8回の授業内容を復習し、非営利機関の特徴とは何か、自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。
	授業内容	【ドラッカーの非営利組織理論1】ドラッカーの有名な著作に基づき、NPO等にとって死活的に重要なミッションの意義、コミュニケーションの在り方などについて学習する。
	事後学習	講義で紹介する事例・文献を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする(2時間)。
13	事前学習	非営利機関のマネジメントに係わるる特徴的な点について、具体的な事例に即して自分の言葉で説明できるようにする(2時間)。
	授業内容	【ドラッカーの非営利組織理論2】前回講義に引き続き、ドラッカーの説くリーダーシップ論、マーケティング戦略、イノベーション論などについて学び、NPO等のマネジメントに特徴的な諸点を学習する。
	事後学習	講義で紹介する事例・文献を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする(2時間)。
14	事前学習	世界史教科書等で「キューバ危機」の概要を把握し、可能であれば米映画「13デイズ」をDVD等で視聴しておくことが望ましい(2時間)。
	授業内容	【アリソンの組織決定論1】アリソンの「決定の本質」を読み解き、冷戦下で米ソ核戦争の危機はどのように回避されたか確認するとともに、アリソンが提示した3つの主要意思決定モデルを学習する。
	事後学習	講義で紹介する事例・文献を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする(2時間)。
15	事前学習	前回講義で提示した組織決定モデルのうち、あなたが見聞する組織等に最も適合性の高いものはどれか、具体的に説明できるようにする(2時間)。
	授業内容	【アリソンの組織決定論2】前回講義の内容を基に、現代においてもアリソンの指摘した組織的意思決定の欠陥が克服されない理由は何か等について考察する。
	事後学習	講義内で紹介する事例・文献を各自で確認する(2時間)。

科目名	行政法Ⅰ	担当者	小澤 久仁男	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「犬も歩けば行政法に当たる」と言われるほど、行政法は多種多様な活動を対象としており、我々の生活に密接な関わりを持っています。それゆえ、これらを行政法という1つの枠組みの中で説明することは、とても難解なものになりがちです。本講義においては、我々にとって身近な行政を理解する前提として、行政法の一般原則および行政作用法といった行政が市民に対して何らかの活動を行う場面を中心に授業を展開していくことになります。			
授業目的・到達目標	行政法の基礎的知識を養い、行政に関わる法制度を考察する際の骨格部分の形成に寄与していくことが授業目的になります。また、行政に関する基本的な法律問題を念頭におきながら、それらが理論体系上どのように位置づけられ、どのように解決されるべきかを受講生が考えられるようになることが最終的な到達目標になります。関連D P及びC P：法律学科1, 3, 5 政治経済学科2 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	特にはありませんが、憲法や民法といった主要科目については履修済もしくは履修中が望ましい。			
授業方法	講義形式で行います。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	行政法総論に関する基本的な事項が十分に理解できているかどうかを判定します。	
	平常評価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	弘文堂	行政法（第3版）	池村正道編
	2017年	有斐閣	行政判例百選Ⅰ（第7版）	宇賀克也ほか編
	備考	本講義は、行政法総論の部分であるため行政判例百選Ⅰは必携とさせていただきますが、行政判例百選Ⅱの部分については資料として配付することになります。		
参考書	宇賀克也ほか編『行政判例百選Ⅱ』（有斐閣、2017年）			
オフィスアワー	水曜2限・3限 授業講堂にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料1を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政法の概観
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政通則法および行政法の分類については覚えるようにしてください。（2時間）
2	事前学習	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の概念と行政法の法源
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政の概念に関する学説および行政法の法源については再確認をするようにしてください。（2時間）
3	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料2を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政法の基本原理（1）；法律による行政の原理とその具体的内容①
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法律による行政の原理の意義およびこの原則の具体的内容については覚えるようにしてください。（2時間）
4	事前学習	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政法の基本原理（1）；法律による行政の原理とその具体的内容②
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法律の留保に関する学説については覚えるようにしてください。（2時間）

5	事前学習	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政法の基本原理（2・3）；法律による行政の原理の例外と法の一般原則
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、特別権力関係および法の一般原則については再確認をするようにしてください。（2時間）
6	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料3を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政法の基本原理（4）；公法私法二元論
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、いわゆる公法関係に民事法の適用の可否が問題となった判例については再確認をするようにしてください。（2時間）
7	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料4を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の活動（1）；行政基準①（法規命令）
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法規命令の種類である委任命令と執行命令といった分類および、法規命令が問題となった事例について再確認をするようにしてください。（2時間）
8	事前学習	参考資料4から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の活動（1）；行政基準②（行政規則）
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政規則が問題となった事例について再確認をするようにしてください。（2時間）
9	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料5を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の活動（2）；行政計画①（行政計画の意義と種類）
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。（2時間）
10	事前学習	参考資料5から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の活動（2）；行政計画②（行政計画の統制と権利救済）
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、（2時間）
11	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料6を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の活動（3）；行政行為①（行政行為の意義・特質①）
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政行為の定義については覚えるようにしてください。（2時間）
12	事前学習	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の活動（3）；行政行為①（行政行為の意義・特質②）
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政行為とその他の活動との差異については再確認をするようにしてください。（2時間）
13	事前学習	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の活動（3）；行政行為②（行政行為の効力）
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政行為の効力の種類については覚えるようにしてください。（2時間）
14	事前学習	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の活動（3）；行政行為③（行政行為の種類）
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、許可と特許、許可と認可の違いについては再確認をするようにしてください。（2時間）
15	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料7を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の活動（3）；行政行為④（行政行為の羁束と裁量）
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、司法審査の有無から区別される羁束裁量と自由裁量については再確認をするようにしてください。（2時間）
16	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料8を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の活動（3）；行政行為⑤（行政行為の附款）
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、附款の種類については覚えるようにしてください。（2時間）

17	事前学習	参考資料8から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の活動（3）；行政行為⑥（行政行為の瑕疵、取消しと撤回）
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、取消しうべき瑕疵ある行政行為と無効の行政行為の違い、および、取消と撤回の違いについては再確認をするようにしてください。（2時間）
18	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料9を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の活動（4）；行政契約①
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政契約の概念および行政契約が登場する場面については再確認をするようにしてください。（2時間）
19	事前学習	参考資料9から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の活動（4）；行政契約②
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政契約が問題となった事例については再確認をするようにしてください。（2時間）
20	事前学習	参考資料9から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の活動（5）；行政指導①
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政指導の概念および行政指導の種類については覚えるようにしてください。（2時間）
21	事前学習	参考資料9から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の活動（5）；行政指導②
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政指導が問題となった事例および、行政手続法における行政指導に関する規定については再確認をするようにしてください。（2時間）
22	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料10を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の実効性確保（1）；行政上の強制執行①（行政代執行）
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政強制の沿革および行政代執行の要件については再確認をするようにしてください。（2時間）
23	事前学習	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の実効性確保（1）；行政上の強制執行②（執行罰、直接強制、強制徴収）
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。（2時間）
24	事前学習	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の実効性確保（2）；即時強制
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政強制との違いについては再確認をするようにしてください。（2時間）
25	事前学習	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の実効性確保（3）；その他の義務履行確保制度（行政罰）
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政刑罰と行政上の秩序罰との異同については再確認をするようにしてください。（2時間）
26	事前学習	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政の実効性確保（4）；行政調査
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。（2時間）
27	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料11を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政手続①
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。その際に、行政手続法の規定も確認するようにしてください。（2時間）
28	事前学習	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政手続②
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。その際に、行政手続法の規定も確認するようにしてください。（2時間）

29	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料12を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	情報公開
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。その際に、情報公開法の規定も確認するようにしてください。（2時間）
30	事前学習	参考資料12から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	個人情報保護
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政機関個人情報保護法の規定も確認するようにしてください。（2時間）

科目名	行政法Ⅰ	担当者	高橋 雅夫	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	4
-----	------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	いわゆる行政法総論について学ぶ。具体的には、行政活動を担う組織に関する行政組織法、行政活動において用いられる手段に関する行政作用法、そして行政活動が行われる際の手続に関する行政手続法について学ぶ。			
授業目的・到達目標	現代行政が高度化し、行政活動において採られる手法も多様化している。したがって、行政活動をコントロールする行政法学もそれに対応することが求められている。この授業は、行政活動における典型的な活動形式を把握し、それらに対する法的コントロールの仕組みを修得することを目的とする。 現実の行政活動で生起する様々な問題点について、授業で学んだ概念を手がかりに、受講生が解決の端緒を自ら発見し説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 3, 5 政治経済学科2 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	特になし			
授業方法	講義形式 事前学習の課題及び提出レポートの解説は、授業内で行う。定期試験の解説は、後日ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		95%	行政法学の基礎概念を理解しているかを判定する。授業中に解説された基本的な項目・事項について理解すること。
	平常評価		5%	任意の提出のレポートの評価も成績評価に加味する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	弘文堂	行政法[第3版]	池村正道 編
	備考			
参考書	『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ（第7版）』（有斐閣、2017年）、その他、授業中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜日12:10～13:00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館6階1609） takahashi.masao@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、学生教員共有フォルダから第1回レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおき、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	年間講義計画・成績評価の方法についての説明と参考文献の紹介等を行い、受講生が授業の準備を行えるようにする。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討を加える。（2時間）
2	事前学習	学生教員共有フォルダから第2回レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおき、各自の住んでいる地域に空家があれば、地域住民にとってどのような影響を与えているか検討する。（2時間）
	授業内容	【行政と法1】地域の空家をどうすべきか 具体的事例として、空家問題を取り上げ、行政の行っている対策を概観し、行政活動と法の役割について学習する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、市町村レベルの対策と国レベルの対策のあり方との違いをまとめる。（2時間）
3	事前学習	学生教員共有フォルダから第3回レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおき、各自の住んでいる地域の緑化率等を調べ、わが国の緑化の問題を検討する。（2時間）
	授業内容	【行政と法2】都市の緑化を促進するにはどうすべきか 具体的事例として、緑化問題を取り上げ、都市において緑を確保する方策を概観し、市民が緑化に取り組むよう誘導する方の役割について学習する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、規制する行政のあり方と誘導する行政のあり方を理解し、それぞれにおける法の役割をまとめる。（2時間）
4	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第4回レジュメ及び教科書の第1章を読み、各自のイメージする「行政」を簡潔にまとめる。（2時間）
	授業内容	【行政とは何か】 行政法学の対象である「行政」の意義を考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、教科書の第1章関連問題を検討する。（2時間）

5	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第5回レジュメ及び教科書の第2章を読み、行政活動に関連する法規範を考察する。（2時間）
	授業内容	【行政法の法源、行政法の意義・特質】 行政法とされる法の存在形式とそれらの法規範の特質を考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、教科書の第2章関連問題を検討する。（2時間）
6	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第6回レジュメ及び教科書の第3章1～4を読み、国及び地方公共団体の行政組織の違いを考察する。（2時間）
	授業内容	【行政組織】 行政活動の担い手である行政組織について考察し、行政主体、行政機関等について考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、教科書の第3章関連問題の（1）、（2）を検討する。（2時間）
7	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第7回レジュメ及び教科書の第3章5・6を読み、行政活動を具体的に担っている公務員のあり方を考察する。（2時間）
	授業内容	【公務員・公物】 行政活動の人的資源である公務員と物的資源である公物について考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、教科書の第3章関連問題（3）を検討する。（2時間）
8	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第8回レジュメ及び教科書の第4章1を読み、行政活動の法的な流れを図式化する。（2時間）
	授業内容	【行政過程】 行政法学が従来想定してきた行政過程のモデルである、2分法3段階構造モデルについて考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、行政過程の従来のモデルの問題について検討する。（2時間）
9	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第9回レジュメ及び教科書の第4章2を読み、行政活動の法的コントロールのあり方について検討する。（2時間）
	授業内容	【法律による行政の原理（1）】 行政活動を法的にコントロールする原理である「法律による行政の原理」の基本的な概念及び主たる判例について考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、教科書の第4章関連問題の（1）を検討する。（2時間）
10	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第10回レジュメをあらかじめ読み、「法律による行政の原理」の例外的な判例を検討する。（2時間）
	授業内容	【法律による行政の原理（2）】 「法律による行政の原理」の例外について、判例を中心に考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、「法律による行政の原理」の例外が認められる理由を検討する。（2時間）
11	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第11回レジュメ及び教科書の第4章3を読み、行政活動に対する実体法によるコントロールとは異なる、手続法的コントロールの意義を検討する。（2時間）
	授業内容	【行政手続】 行政活動の手続的コントロールのあり方を、行政手続法を中心に考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、教科書の第4章関連問題の（3）を検討する。（2時間）
12	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第12回レジュメ及び教科書の第4章4・5を読み、行政活動における情報の役割を検討する。（2時間）
	授業内容	【行政情報管理】 情報公開制度、個人情報保護、公文書管理、行政調査について、行政活動における情報の重要性を考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、教科書の第4章関連問題の（2）、（4）を検討する。（2時間）
13	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第13回レジュメ及び教科書の第5章1・3を読み、私人間における法的関係の形成とは異なる、行政・私人間の法的関係の形成のあり方を検討する。（2時間）
	授業内容	【行政行為（1）】 行政活動において用いられる典型的な行為形式である、行政行為の意義と効力について考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、教科書の第5章関連問題の（1）を検討する。（2時間）
14	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第14回レジュメ及び教科書の第5章2・7を読み、実定法の中で行政行為とされる行為の特徴を検討する。（2時間）
	授業内容	【行政行為（2）】 許可、認可等、実定法の中で用いられている行政行為をいかに分類できるか考察し、あわせて附款について考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、許可・特許・認可等の違いについて検討した上で、行政行為の従来の分類が現在でも妥当するのか検討する。あわせて、教科書の第5章関連問題の（3）を検討する。（2時間）
15	事前学習	学生教員共有フォルダ中から第15回レジュメ及び教科書の第5章4を読み、なぜ行政裁量が法律による行政の原理の例外と位置づけられるのか検討する。（2時間）
	授業内容	【行政行為（3）】 行政に対して一定の判断余地を認める行政裁量の必要性及びその法的コントロールのあり方について考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、行政裁量に関連した判例の傾向について検討する。（2時間）
16	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第16回レジュメ及び教科書の第5章5・6を読み、行政行為に何らかの瑕疵があった際に、私人の側、行政の側双方から、いかに是正するのかを検討する。（2時間）
	授業内容	【行政行為（4）】 取消しと無効、取消しと撤回など、行政行為の瑕疵に対する是正のあり方を考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、教科書の第5章関連問題の（2）を検討する。（2時間）

17	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第17回レジュメ及び教科書の第6章1・2を読み、行政による規範定立のあり方を検討する。（2時間）
	授業内容	【行政立法(1)】 行政による規範定立作用である、行政立法の意義及び行政立法の一つである法規命令に対する法的コントロールを考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、教科書の第6章関連問題の（1）を検討する。（2時間）
18	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第18回レジュメ及び教科書の第6章3を読み、行政内部において用いられルールを検討する。（2時間）
	授業内容	【行政立法(2)】 行政立法の一つである行政規則に対する法的コントロールを考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、教科書の第6章関連問題の（2）を検討する。（2時間）
19	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第19回レジュメ及び教科書の第7章1～3を読み、様々な分野で用いられる行政計画について、新聞・雑誌等を利用して、どのようなものがあるか検討する。（2時間）
	授業内容	【行政計画(1)】 現代行政に特徴的な、行政計画の意義、必要性、種類等について考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、行政行為と行政計画との相違点を検討する。（2時間）
20	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第20回レジュメ及び教科書の第7章4・5を読み、行政計画により私人が不利益を被った際の救済方法を検討する。（2時間）
	授業内容	【行政計画(2)】 行政計画の手続的コントロール、司法的コントロールについて、判例を中心に考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、教科書の第7章関連問題を検討する。（2時間）
21	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第21回レジュメ及び教科書の第8章1～3を読み、事実行為である行政指導と法的行為との相違点を検討する。（2時間）
	授業内容	【行政指導(1)】 事実行為である行政指導の意義、分類等について、具体的事例を通して考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、教科書の第8章関連問題の（1）を検討する。（2時間）
22	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第22回レジュメ及び教科書の第8章4・5を読み、行政指導により私人が不利益を被った際の救済方法を検討する。（2時間）
	授業内容	【行政指導(2)】 行政指導の手続的コントロール、司法的コントロールについて、判例を中心に考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、教科書の第8章関連問題の（2）を検討する。（2時間）
23	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第23回レジュメ及び教科書の第9章1を読み、行政行為と行政契約の相違点を検討する。（2時間）
	授業内容	【行政契約(1)】 契約という行為形式を行政活動において用いる意義および行政契約の種類について考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、教科書の第9章関連問題の（1）を検討する。（2時間）
24	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第24回レジュメ及び教科書の第9章2・3を読み、公害防止協定等の法的捉え方を検討する。（2時間）
	授業内容	【行政契約(2)】 規制行政、給付行政などの各行政分野で用いられる行政契約と履行確保手段について考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、教科書の第9章関連問題の（2）、（3）を検討する。（2時間）
25	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第25回レジュメ及び教科書の第10章1・2を読み、行政上の義務が履行されない場合の問題点を検討する。（2時間）
	授業内容	【行政上の義務履行確保の手段(1)】 行政上の義務履行確保制度について、私人間の義務履行確保との相違点を考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、教科書の第10章関連問題の（2）を検討する。（2時間）
26	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第26回レジュメ及び教科書の第10章3～6を読み、行政代執行法の仕組みを検討する。（2時間）
	授業内容	【行政上の義務履行確保の手段(2)】 行政上の強制執行である行政代執行、直接強制、執行罰、金銭債権の強制徴収について考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、教科書の第10章関連問題の（1）を検討する。（2時間）
27	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第27回レジュメ及び教科書の第10章7・8を読み、行政上の強制執行以外の義務履行確保の手段が必要な理由を検討する。（2時間）
	授業内容	【行政上の義務履行確保の手段(3)】 行政罰、その他の義務履行確保の制度について考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、行政上の義務履行確保の手段について、それぞれの特色を検討する。（2時間）
28	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第28回レジュメ及び教科書の第10章9を読み、直接強制と即時強制との相違点について検討する。（2時間）
	授業内容	【行政上の義務履行確保の手段(4)】 行政上の義務づけを前提としない即時強制の意義及び直接強制に代わり多用される現状について考察する。
	事後学習	レジュメを再度読み直し、即時強制の必要性と即時強制において用いられる勧告の意義を検討する。（2時間）

29	事前学習	学生教員共有フォルダ中の第29回レジюме及びこれまでのレジюмеを概観し、現代の行政活動に対する法的コントロールのあり方をまとめる。（2時間）
	授業内容	【現代の行政活動のコントロールのあり方】 これまで検討してきた諸点から把握できる、行政活動に対する法的コントロールのあり方や問題点を考察する。
	事後学習	レジюмеを再度読み直し、行政活動に対する実体法によるコントロール、手続法によるコントロールのほかに、どのようなコントロールが考えられるか検討する。（2時間）
30	事前学習	これまでのレジюме、教科書を読み返し、現行の行政法における問題点等を考察する。（2時間）
	授業内容	講義のまとめ
	事後学習	各項目について、簡単にまとめたものを文章化し、学期末試験に向けて準備をする。（2時間）

科目名	行政法 I	担当者	西原 雄二	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	4
-----	-------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	本授業では、行政法の理論や制度についての基本的な知識や考え方を学習する。行政組織法及び行政作用法の分野を中心に重要な問題を取り上げて、簡潔に説明する。			
授業目的・到達目標	行政法の基本的構造とそれを支える基本的な概念を理解しながら、身近で重要な法律の一つである「行政法」に興味・関心をもってもらえるようにすることを目的とする。行政法の基本的な知識を身に付け、新たな知見を生み出すことができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 3, 5 政治経済学科2 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	特になし。			
授業方法	講義形式で行う。定期試験の解説を後日、ポータルサイトにて配信する。			
成績評価	種別		割合	
	定 期 試 験		100%	
	平 常 評 価		0%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	弘文堂	行政法（第3版）	池村正道編
	備考			
参 考 書	講義の中で紹介する。			
オフィス アワー	一部（月曜日12：10/土曜日12：10）、 二部（月曜日19：30/火曜日21：10）に質問を受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書を事前にざっと目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 授業のテーマや内容、成績評価の方法等を含めて、行政法の学習方法について説明し、受講者が授業を準備を具体的にできるようにする。
	事後学習	教科書をざっと目を通して、これから学ぶことを理解してみること。（2時間）
2	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政法とは何か 行政法の全体像を学習し、行政法の主要なテーマが何かを考察する。
	事後学習	授業で行った内容を教科書や講義ノートで確認し、感想をノートにまとめること。（2時間）
3	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政とは何か 行政の意義や特徴について考察する。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつぎ合わせて確認し、感想をノートにまとめること。（2時間）
4	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政法の法源（1） 行政法の法源の意義と種類について考察する。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつぎ合わせて、さらに理解を深めること。（2時間）

5	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政法の法源（2） 行政法の効力範囲、行政上の法律関係を学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、行政法の法源について自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
6	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	法律による行政の原理（1） 法律による行政の原理の意義と内容について考察する。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。（2時間）
7	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	法律による行政の原理（2） 法律の留保の妥当範囲をめぐる学説と判例について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、法律による行政の原理について自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
8	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政主体 行政主体の意義と種類について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政主体について自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
9	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政機関 行政機関の意義、種類、権限について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政機関について自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
10	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政過程と法 行政過程の意義と法との関係について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政過程について自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
11	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政行為（1） 行政行為の意義と種類について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。（2時間）
12	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政行為（2） 行政行為の効力について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。（2時間）
13	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政行為（3） 行政裁量の意義や種類について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政行為について感想をノートにまとめること。（2時間）
14	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政行為（4） 行政行為の瑕疵と付款について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政行為について感想をノートにまとめること。（2時間）
15	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政行為（5） 行政行為の取消と撤回について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政行為について自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
16	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政上の強制手段 行政上の義務履行確保の手段に関する意義や種類について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政強制について感想をノートにまとめること。（2時間）

17	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政立法 行政立法の意義や種類について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政立法について感想をノートにまとめること。（2時間）
18	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政計画 行政計画の意義や種類について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政計画について感想をノートにまとめること。（2時間）
19	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政契約 行政契約の意義や種類について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政契約について感想をノートにまとめること。（2時間）
20	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政指導（1） 行政指導の意義や種類について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。（2時間）
21	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政指導（2） 行政指導の手続的及び司法的統制について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政指導について自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
22	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政手続（1） 行政手続の意義や機能について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。（2時間）
23	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政手続（2） 行政手続法の意義や内容について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政手続について自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
24	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	情報公開 情報公開法について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、情報公開について自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
25	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	個人情報保護 個人情報保護制度の意義や内容について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、個人情報保護制度について自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
26	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政不服申立て 行政不服申立制度の意義や種類について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政不服申立制度について自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
27	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政事件訴訟 行政事件訴訟制度の意義や種類について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、行政事件訴訟について自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
28	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	国家賠償 国家賠償制度の意義や内容について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、国家賠償について自分なりの説明をまとめること。（2時間）

29	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	損失補償 損失補償制度の意義や内容について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、損失補償について自分なりの説明をまとめること。（2時間）
30	事前学習	これまでの学んだことを復習し、行政法の体系を考察すること。（2時間）
	授業内容	授業のまとめ
	事後学習	これまでの学んだことを再度復習し、定期試験に向けて準備すること。（2時間）

科目名	行政法Ⅱ	担当者	小澤 久仁男	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
-----	------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	行政法Ⅰで学んだように、行政活動は法律による行政の原理の下、法律に基づいて行われている必要があります。けれども、現実には、行政活動が違法に行われることが多くあります。そのため、国民の権利救済をどのようにして行っていくのが重要な問題となります。本講義においては、わが国の行政救済制度について概観していくことになります。				
授業目的・到達目標	本講義によって、行政救済にかかわる概要とこれらの要件・内容等について理解して貰えることが授業目的になります。また、他の行政法の講義と合わせて、行政法の基礎的知識を養い、行政に関わる法制度を考察する際の骨格部分の形成に寄与していきたいと考えています。これらによって、行政に関する基本的な法律問題を念頭におきながら、それらが理論体系上どのように位置づけられるか、またどのように解決されるべきかを考えられるようにすることを到達目標としています。関連DP及びCP：法律学科1, 2 政治経済学科2, 4, 5 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	特にはありませんが、憲法や民法といった主要科目については履修済もしくは履修中が望ましい。				
授業方法	講義形式で行います。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	行政法救済法にかかわる基本的な事項が理解できているか判定を行います。	
	平常評価				
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017年	弘文堂		行政法（第3版）	池村正道編
	2017年	有斐閣		行政判例百選Ⅱ（第7版）	宇賀克也ほか編
	備考	本講義は、行政救済法の部分であるため行政判例百選Ⅱは必携とさせていただきますが、行政判例百選Ⅰの部分については資料として配付することになります。			
参考書	宇賀克也ほか編『行政判例百選Ⅰ（第7版）』（有斐閣、2017年）				
オフィスアワー	水曜2限及び木曜1限授業後 希望者は授業講堂にて申し出ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料1を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政救済制度の概観
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政救済制度にはどのようなものがあるかは覚えるようにしてください。（2時間）
2	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料2を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政訴訟の概観と司法権
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法律上の争訟とはどのようなものかについては覚えるようにしてください。（2時間）
3	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料3を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政訴訟の類型（抗告訴訟、当事者訴訟、客観訴訟）
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政訴訟にはどのような類型があるのかについては覚えるようにしてください。（2時間）
4	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料4を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	取消訴訟（1）；訴訟要件
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、取消訴訟の訴訟要件は覚えるようにしてください。（2時間）

5	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料5を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	取消訴訟（2）；処分性①
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、ゴミ焼却場事件については再確認をしていただき、そこで示された定義については覚えるようにしてください。（2時間）
6	事前学習	参考資料5から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	取消訴訟（2）；処分性②
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、授業で取り上げた判例については再確認をするようにしてください。（2時間）
7	事前学習	参考資料5から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	取消訴訟（2）；処分性③
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、授業で取り上げた判例については再確認をするようにしてください。（2時間）
8	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料6を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	取消訴訟（3）；原告適格①
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、原告適格に関する学説については覚えるようにしてください。（2時間）
9	事前学習	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	取消訴訟（3）；原告適格②
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、2004年行訴法改正以前に行われた重要判例については再確認をするようにしてください。（2時間）
10	事前学習	参考資料6から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	取消訴訟（3）；原告適格③
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、2004年行訴法改正後に行われた重要判例については再確認をするようにしてください。（2時間）
11	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料7を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	取消訴訟（4）；訴えの利益
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、訴えの利益が無いと判断された判例については再確認をするようにしてください。（2時間）
12	事前学習	参考資料7から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	取消訴訟（5）；取消訴訟の審理
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、民事訴訟法との異同については再確認をするようにしてください。（2時間）
13	事前学習	参考資料7から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	取消訴訟（6）；取消訴訟の判決と効果、仮処分
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、取消訴訟の判決の種類、判決の効果、そして仮処分の種類と要件については覚えるようにしてください。（2時間）
14	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料8を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	その他の抗告訴訟；無効等確認の訴え、不作為の違法確認訴訟、義務付け訴訟、差止訴訟
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、その他の抗告訴訟の種類および要件については再確認をするようにしてください。（2時間）
15	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料9を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政不服審査法
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行訴法と用語が異なる部分に注意をしつつ、再確認をするようにしてください。（2時間）
16	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料10を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	国家補償法の概観
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国家賠償と損失補償の異同、については再確認をするようにしてください。（2時間）

17	事前学習	参考資料10から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	国家賠償法の概観
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国家賠償法の沿革および、国家賠償法の規定については再確認をするようにしてください。（2時間）
18	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料11を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	国賠法1条（1）；賠償責任の根拠
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、賠償責任の根拠となる学説については覚えるようにしてください。（2時間）
19	事前学習	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	国賠法1条（2）；公権力の行使①
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、公権力の行使に関する学説については覚えるようにしてください。（2時間）
20	事前学習	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	国賠法1条（2）；公権力の行使②（権限不行使）
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、権限不行使に関する判例の展開およびそこで違法へと導いた要件については再確認をするようにしてください。（2時間）
21	事前学習	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	国賠法1条（3）；職務関連性
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、職務関連性が問題となった判例については再確認をするようにしてください。（2時間）
22	事前学習	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	国賠法1条（4）；違法性①
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、違法性に関する行為不法説と結果不法性については再確認をするようにしてください。（2時間）
23	事前学習	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	国賠法1条（4）；違法性②（立法作用、司法作用と国家賠償責任）
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、特別な活動に関する判例の展開については再確認をするようにしてください。（2時間）
24	事前学習	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	国賠法1条（5）；過失①
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、過失の客観化については再確認をするようにしてください。（2時間）
25	事前学習	参考資料11から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	国賠法1条（5）；過失②
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、過失にかかわる判例の展開および組織過失については再確認をするようにしてください。（2時間）
26	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料12を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	国賠法2条（1）；公の営造物概念、瑕疵概念
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国賠法2条の要件については覚えるようにしてください。（2時間）
27	事前学習	参考資料12から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	国賠法2条（2）；道路設置管理瑕疵
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、基本となる高知落石事件を覚えつつ、その他の判例についても再確認をするようにしてください。（2時間）
28	事前学習	参考資料12から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	国賠法2条（3）；河川設置管理瑕疵
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、大東水害訴訟および多摩川水害訴訟については覚えるようにしてください。（2時間）

29	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料13を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	損失補償①—損失補償の根拠と要件
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、損失補償の法的根拠および要件については覚えるようにしてください。（2時間）
30	事前学習	参考資料13から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	損失補償②—損失補償の内容
	事後学習	授業で行った内容と教科書をつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、完全補償説と相当補償説については覚えるようにしてください。（2時間）

科目名	行政法Ⅱ	担当者	西原 雄二	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業では、行政活動に対する国民の救済手段に関する法である「行政救済法」について、主として、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法、損失補償について学習する。			
授業目的・到達目標	行政救済法の基本的構造とそれを支える基本的な概念を理解し、説明することができるようにすることを目的とする。さらには、行政法の基本的な知識を十分に身に付け、新たな知見を生み出すことができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 3, 5			
履修条件	六法を持参すること。			
授業方法	講義形式を基本とするが、適宜、質疑応答を行う。定期試験の解説を後日、ポータルサイトにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験	100%	行政救済法の基本的な事項が十分に理解できているかどうかを判定する。	
	平 常 評 価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	弘文堂	行政法（第3版）	池村正道編
	備考			
参 考 書	講義の中で紹介する。			
オフィスアワー	月曜日 2 1：1 0 / 火曜日 1 9：3 0 に質問を受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書の行政救済に関する箇所をざっと目を通してみること。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 授業のテーマや内容、成績評価の方法等を含めて、行政法の学習方法について説明し、受講者が授業を準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	教科書をざっと目を通して、これから学ぶことを理解してみること。（2時間）
2	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政救済法とは何か 行政救済法の全体像を学習し、行政救済法の主要なテーマが何かを考察する。
	事後学習	授業で行った内容を教科書や講義ノートで確認し、感想をノートにまとめること。（2時間）
3	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政争訟とは何か 行政争訟の意義や特徴について考察する。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつぎ合わせて確認し、感想をノートにまとめること。（2時間）
4	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政不服申立制度の概説 行政不服申立制度の意義と内容について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつぎ合わせて、さらに理解を深めること。（2時間）

5	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政不服審査法（1） 行政不服審査法の目的や種類について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、行政不服審査法について自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
6	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政不服審査法（2） 行政不服申立ての対象と不服申立事項について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて、さらに理解を深めること。（2時間）
7	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政不服審査法（3） 行政不服審査の審理手続について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
8	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政不服審査法（4） 教示制度とその他の問題について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
9	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	苦情処理制度 苦情処理制度の意義や内容について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
10	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政事件訴訟制度の概説 行政事件訴訟制度の意義や内容について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の感想をノートにまとめること。（2時間）
11	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政事件訴訟法（1） 行政事件訴訟法の意義と沿革について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。（2時間）
12	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政事件訴訟法（2） 行政事件訴訟法の特徴と種類について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の感想をノートにまとめること。（2時間）
13	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政事件訴訟法（3） 取消訴訟提起のための訴訟要件について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
14	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政事件訴訟法（4） 取消訴訟の審理手続について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
15	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政事件訴訟法（5） 仮の救済と教示制度について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
16	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	行政事件訴訟法（6） 取消訴訟以外の訴訟類型の訴訟要件について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、感想をノートにまとめること。（2時間）

17	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	国家補償とは何か 国家補償の意義や内容について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、感想をノートにまとめること。（2時間）
18	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	国家賠償制度の概説 国家賠償制度の特質や種類について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、感想をノートにまとめること。（2時間）
19	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	国家賠償法（1） 国家賠償法の意義や種類について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、感想をノートにまとめること。（2時間）
20	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	国家賠償法（2） 国家賠償法1条責任の意義や本質について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、感想をノートにまとめること。（2時間）
21	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	国家賠償法（2） 1条責任の要件と効果について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
22	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	国家賠償法（3） 2条責任の意義と要件について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、さらに理解を深めること。（2時間）
23	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	国家賠償法（4） 2条責任の効果について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
24	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	国家賠償法（5） 賠償責任者について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
25	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	国家賠償法（6） 民法・特別法の適用と相互保障主義について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
26	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	損失補償制度の概説 損失補償制度の意義や内容について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
27	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	損失補償（1） 損失補償の法的根拠や補償要否の基準について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分の意見をノートにまとめること。（2時間）
28	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	損失補償（2） 損失補償の内容と方法について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、自分なりの説明をまとめること。（2時間）

29	事前学習	事前に教科書の当該箇所をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	損失補償（3） 国家補償の谷間の問題点と対応策について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書とつき合わせて確認し、国家補償について自分なりの説明をまとめること。（2時間）
30	事前学習	これまでの学んだことを復習し、行政救済法の体系を考察すること。（2時間）
	授業内容	授業のまとめ
	事後学習	これまでの学んだことを再度復習し、定期試験に向けて準備すること。（2時間）

科目名	金融商品取引法Ⅰ	担当者	中曽根 玲子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	金融商品取引法は大きく分けて、①ディスクロージャー規制、②不公正な取引規制、③金融商品取引業者規制に分かれる。Ⅰでは、金融商品取引法の目的である「資本市場の機能の十全の発揮による金融商品等の公正な価格形成等を図る」ために、上場会社等に課されている①ディスクロージャー規制を取り上げる。金融商品取引法は広く有価証券を対象としているが、有価証券の典型例である株式を中心に検討をしていく予定である。				
授業目的・到達目標	【授業目的】グローバル化した企業社会において生じるさまざまな問題を法的知識に基づき論理的かつ批判的に検討する能力と、高度な職業意識を備えた人材の養成を目的とする。 【到達目標】横断的資本市場法制として重要な役割を担う金融商品取引法の目的を理解し、資本市場における公正な価格形成の必要性とそのための法規制の意義や要件・法的効果を説明できることを目標とする。対応DP及びCP：法律学科1,3 経営法学科1,3				
履修条件	・株式の知識があることが望ましいので、会社法（株式・株主総会）をすでに履修または同時並行で履修していること ・金融商品取引法全体を理解するには、金融商品取引法ⅠおよびⅡの履修が望ましい				
授業方法	金融商品取引法上の規制と密接に関連する会社法制度については適宜確認しつつ講義形式で行う。また、金融商品取引法に関係するタイムリーな事例や話題を取り上げる。定期試験の解説は、後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		75%	授業内容に基づき、金融商品取引法の基礎知識や法制度の趣旨などの理解度を論文式の問題で評価する。披見資料はない。	
	平常評価		25%	授業への参加度（発言・関心の高さ等）を評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2018	弘文堂	基礎から学べる金融商品取引法（第4版）		近藤光男ほか3名
	備考	最新の六法を携行すること。できれば金融商品取引法全文が掲載されているものが好ましいが、省略部分については、コピーでも構わない。			
参考書	黒沼悦郎「金融商品取引法入門（最新版）」（日経文庫）、近藤光男・吉原和志・黒沼悦郎「金融商品取引法入門（最新版）」（商事法務）。その他、授業において適宜紹介する。				
オフィスアワー	授業終了後（水曜日12時10分～）に授業講堂において質問を受ける				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	・シラバスをよく読み、他の履修科目との関係や自分の学習計画を考える ・教科書 第1章「Ⅰ 金融商品市場の基本的な仕組み」を読んでおく (2時間)
	授業内容	【イントロダクション】 ・講義のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法などについて説明する ・金融商品取引法Ⅰを受講するに際しての取り組み方について説明する ・金融商品取引法の全体像を概観する
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)
2	事前学習	・教科書 第1章「Ⅱ 金融商品取引法はどのようなことを規制しているか」、第4章「Ⅷ 特定投資家への適用除外」を読んでおく ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【金融商品取引法概観】 ・金融商品取引法の目的を考える ・金融商品取引法の全体像を確認する ・一般投資家、機関投資家、特定投資家の違いと規制の違いについて考える
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)
3	事前学習	・教科書 第1章「Ⅲ 金融機関はどの範囲に適用されるか」を読んでおく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書または各自の講義ノートを参照する (2時間)
	授業内容	【金融商品取引法上の有価証券（1）】 ・金融商品取引法が規制の対象とする有価証券とは、どのようなものかを概観する ・とくに株式の特色について会社法を踏まえつつ確認する
	事後学習	・教科書の該当頁や会社法を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)

4	事前学習	・教科書 第6章「Ⅰ 投資信託および集団投資スキームの経済的意義②」と「Ⅴ 集団投資スキーム持分の規制」を読んでおく ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【金融商品取引法上の有価証券（２）】 ・資産流動化法に基づく有価証券について概観する ・みなし有価証券（とくに集団投資スキーム）について説明する
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)
5	事前学習	・教科書 第2章「Ⅰ 有価証券の上場」と「Ⅱ 有価証券取引の仕組み」を読んでおく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書または各自の講義ノートを参照する ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【証券市場の役割】 ・株式の上場の意義を考える ・会社法を踏まえつつ、振替株式について確認する
	事後学習	・教科書の該当頁や会社法を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)
6	事前学習	・教科書 第2章「Ⅲ 金融商品取引所」と第4章「Ⅰ 金融商品取引業の意義」を読んでおく ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【証券市場のプレーヤー】 ・証券会社（第１種金融商品取引業者）の役割について、商法を踏まえて確認する ・証券取引所（金融商品取引所）の役割について、会社法を踏まえて確認する
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)
7	事前学習	・事前に配付した講義レジュメをよく読んでおく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書や各自の講義ノートなどを参照する ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【流通市場の情報開示（１）】 ・上場会社における会計と監査の意義とその制度について概観する ・会社法上の会計および監査制度について確認する
	事後学習	・講義レジュメや会社法を再度確認し、別途配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)
8	事前学習	・教科書 第3章「Ⅰ 開示規制の概要」と「Ⅲ 上場会社等が行う定期的な開示」を読んでおく ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【流通市場の情報開示（２）】 ・金融商品取引法が上場会社等に課す情報開示義務のうち、有価証券報告書・四半期報告書・臨時報告書について概観する
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)
9	事前学習	・教科書 第3章「Ⅳ 財務情報の正確性を確保するための制度」を読んでおく ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【流通市場の情報開示（３）】 ・金融商品取引法が上場会社等に課す情報開示義務のうち、内部統制報告書や確認書などについて概観する ・証券取引所におけるタイムリーディスクロージャーの意義について考える
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)
10	事前学習	・事前に配付した講義レジュメを読んでおく ・必要に応じ、会社法の講義で使用した教科書や各自のノートを参照する ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【発行市場の役割】 ・上場会社の資金調達方法について会社法を踏まえつつ概観する
	事後学習	・講義レジュメや会社法の講義で使用した教科書などを再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)
11	事前学習	・教科書 第3章「Ⅱ 有価証券を発行する際の開示①②」を読んでおく ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【発行市場の情報開示（１）】 ・発行市場におけるディスクロージャー規制のうち、その必要性と募集における有価証券届出書について説明する
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)
12	事前学習	・教科書 第3章「Ⅱ 有価証券を発行する際の開示③④」を読んでおく ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【発行市場の情報開示（２）】 ・発行市場におけるディスクロージャー規制のうち、目論見書と売出概念について説明する
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)

13	事前学習	・教科書第 3 章「V 虚偽の情報開示を行ったものはどのような責任を負うか①②③」を読んでおく ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【発行市場・流通市場における虚偽記載等の責任（1）】 ・発行市場における虚偽記載等の問題点について説明する ・発行会社などがどのような責任を負うか検討する
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめる (2時間)
14	事前学習	・教科書 第3章「V 虚偽の情報開示を行ったものはどのような責任を負うか④⑤」を読んでおく ・必要に応じて、会社法の講義で使用した教科書および自己の講義ノートを参照する ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【発行市場・流通市場における虚偽記載等の責任（2）】 ・流通市場における虚偽記載等の問題点について説明する ・会社法を踏まえつつ、発行会社の役員などがどのような責任を負うか検討する
	事後学習	・教科書の該当頁や会社法を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめる (2時間)
15	事前学習	・事前に配付する確認シートに沿って教科書を読み、答えをまとめる ・不正確な部分や理解が十分でない部分を整理し、質問を用意しておく (2時間)
	授業内容	【まとめ】 ・講義内容を振り返り、質問を受ける
	事後学習	・確認シートに沿って教科書と各自の講義ノートを見直し、定期試験に向けて準備する（2時間）

科目名	金融商品取引法Ⅱ	担当者	中曽根 玲子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	金融商品取引法は大きく分けて、①ディスクロージャー規制、②不公正な取引規制、③金融商品取引業者規制に分かれる。Ⅰの講義をベースに、Ⅱでは、金融商品取引法の目的である「資本市場の機能の十全の発揮による金融商品等の公正な価格形成等を図る」ために定められている公開買付け、インサイダー取引、相場操縦などの②不公正な取引規制を取り上げる。また、③資本市場を支える証券会社に対する業者規制や行為規制についても概観する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】グローバル化した企業社会において生じるさまざまな問題を法的知識に基づき論理的かつ批判的に検討する能力と高度な職業意識を備えた人材の養成を目的とする。 【到達目標】横断的資本市場法制として重要な役割を担う金融商品取引法の目的を理解し、資本市場における公正な価格形成の必要性とそのための法規制の意義や要件・法的効果を説明できることを目標とする。対応DP及びCP：法律学科1,3経営法学科1,3				
履修条件	・株式の知識があることが望ましいので、会社法（株式・株主総会）をすでに履修または同時並行で履修すること ・金融商品取引法Ⅰをベースに説明をすることが多いので、できれば金融商品取引法Ⅰを履修していること				
授業方法	金融商品取引法上の規制と密接に関連する会社法の制度については、適宜確認をしつつ講義形式で行う。金融商品取引法に關係するタイムリーな事例や話題を適宜取り上げる。定期試験の解説は、後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		75%	授業内容に基づき、金融商品取引法の基礎知識や法制度の趣旨などの理解度を論文式の問題で評価する。披見資料はない。	
	平常評価		25%	授業への参加度（発言・関心の高さ等）を評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2018	弘文堂	基礎から学べる金融商品取引法（第4版）		近藤光男ほか3名
	備考	最新の六法を携行すること。できれば金融商品取引法全文が掲載されているものが好ましいが、省略部分については、コピーでも構わない。			
参考書	黒沼悦郎「金融商品取引法入門（最新版）」（日経文庫）、近藤光男＝吉原和志＝黒沼悦郎「金融商品取引法入門（最新版）」（商事法務）。その他、適宜紹介する。				
オフィスアワー	授業終了後（水曜日12時10分～）に授業講堂において質問を受ける				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	・シラバスをよく読み、他の履修科目との関係や自分の学習計画を考える ・シラバスをよく読み、他の履修科目との関係や自分の学習計画を考える ・教科書 第1章「Ⅰ 金融商品市場の基本的な仕組み」と「Ⅱ 金融商品取引法はどのようなことを規制しているか」、第2章「Ⅰ 有価証券の上場」と「Ⅱ 有価証券取引の仕組み」を読んでおく（2時間）
	授業内容	【イントロダクション】 ・講義のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法などについて説明する ・金融商品取引法Ⅱを受講するに際しての取り組み方について説明する ・金融商品取引法の全体像を概観する
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく（2時間）
2	事前学習	・教科書 第5章「Ⅰ 公開買付け（TOB）①②」を読んでおく ・質問を用意する（2時間）
	授業内容	【公開買付制度（1）】 ・公開買付制度の意義について考える ・公開買付制度の全体像を知る
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく（2時間）
3	事前学習	・教科書 第5章「Ⅰ 公開買付け（TOB）③」を読んでおく ・質問を用意する（2時間）
	授業内容	【公開買付制度（2）】 ・公開買付けの手続規制について説明する
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく（2時間）

4	事前学習	・教科書 第5章「Ⅰ 公開買付け（TOB）④」を読んでおく ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【公開買付制度（3）】 ・公開買付けの実体的規制について説明する
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)
5	事前学習	・教科書 第5章「Ⅰ 公開買付け（TOB）④⑤」を読んでおく ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【公開買付制度（4）】 ・引き続き、公開買付けの実体的規制について説明する ・発行者による公開買付けについて概観する
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)
6	事前学習	・教科書 第5章「Ⅲ 委任状勧誘規制」を読んでおく ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【委任状勧誘制度】 ・関係する会社法の制度を確認しつつ、上場会社で行われるプロキシファイトについて概観する
	事後学習	・教科書の該当頁や会社法のテキストを再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)
7	事前学習	・教科書 第5章「Ⅱ 株券等を大量に保有する者の開示義務とは」を読んでおく ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【大量保有報告制度】 ・大量保有報告制度の規制の目的について考える ・大量保有報告制度の手続規制について説明する
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)
8	事前学習	・教科書 第7章「Ⅱ インサイダー取引（内部者取引）の規制①」を読んでおく ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【インサイダー取引規制（1）】 ・インサイダー取引規制の意義について考える ・インサイダー取引規制の全体像を概観する
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)
9	事前学習	・教科書 第7章「Ⅱ インサイダー取引（内部者取引）の規制②」を読んでおく ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【インサイダー取引規制（2）】 ・引き続き、インサイダー取引規制について説明をする
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)
10	事前学習	・教科書 第7章「Ⅱ インサイダー取引（内部者取引）の規制③⑤」を読んでおく ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【インサイダー取引規制（3）】 ・公開買付けにおけるインサイダー取引について取り上げる ・インサイダー取引を未然に防止するための制度について説明する
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)
11	事前学習	・教科書 第7章「Ⅲ 相場操縦の規制①②③」を読んでおく ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【不公正取引規制（1）】 ・相場操縦規制の意義について考える ・規制の対象となる相場操縦行為の類型を説明する
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)
12	事前学習	・教科書 第7章「Ⅲ 相場操縦の規制④⑤」と「Ⅰ 詐欺的行為を禁止する157条」を読んでおく ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【不公正取引規制（2）】 ・風説の流布や偽計取引規制について取り上げる ・金融商品取引法157条の意義について考える
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)

13	事前学習	・教科書 第4章「Ⅱ 開業の規制と登録制度」、「Ⅳ 金融商品仲介業制度」、「Ⅴ 外務員への規制」を読んでおく ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【金融商品取引業者等に対する規制（1）】 ・第1種金融商品取引業者について説明する ・金融商品取引に関わる業者について概観する
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)
14	事前学習	・教科書 第4章「Ⅵ 金融商品取引業者の誠実公正義務」と第7章「Ⅳ 金融商品取引業者による不公正取引②」を読んでおく ・質問を用意する (2時間)
	授業内容	【金融商品取引業者等に対する規制（2）】 ・金融商品取引業者の誠実公正義務（適合性原則と最良執行義務）を上げる ・金融商品取引業規制にうち、とくに損失補填を巡る法的問題点と規制の在り方について説明する
	事後学習	・教科書の該当頁を再度確認し、配付された資料をよく読んで整理しておく ・講義で取り上げた条文を確認し、その意味をまとめておく (2時間)
15	事前学習	・事前に配付する確認シートに沿って教科書を読み、答えをまとめておく ・不正確な部分や理解が十分でない部分を整理し、質問を用意しておく (2時間)
	授業内容	【まとめ】 ・講義内容を振り返り、質問を受ける
	事後学習	・確認シートに沿って教科書と各自の講義ノートを見直し、定期試験に向けて準備する（2時間）

科目名	金融マネジメント研究	担当者	輿水 清	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講座では、主として1990年代以降の大きな環境変化（バブル崩壊・金融ビッグバン・IT革命など）が金融市場や金融業界にどんな影響を与えたかを概観する。さらに、経営の健全性や競争力強化に向けて金融業界がコーポレートガバナンス体制の整備にどう取り組んできたか、今後の課題は何か、等について学習する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】金融および金融業界の歴史・現状・課題等に関する基礎的知識の習得を目的とする。 【授業目標】基礎的知識を踏まえ、経済新聞・金融機関のホームページ・ディスクロージャー誌、等を読んで理解し説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：1、3、4、5				
履修条件	特になし。				
授業方法	【講義形式】プリントを基本とし、必要に応じて新聞雑誌等の記事を配布する。 【フィードバック】レポートの講評は授業内で実施。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	期末レポート（期末）、ミニレポート（随時）。 授業参加度。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参考書	適宜紹介する。				
オフィスアワー	koshimizul219@gmail.com メールはいつでも可。 面談は授業教室にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義全体を概観し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討。（2時間）
	授業内容	授業の概要、方法、成績評価、授業計画、参考文献、参考になるホームページ、等について説明。
	事後学習	授業で紹介する金融機関等のホームページ（例、銀行、金融庁、日本銀行）を検索し、入手可能な情報等について確認。（2時間）
2	事前学習	書籍やインターネットを活用して金融自由化や市場型間接金融について概要把握。（2時間）
	授業内容	金融自由化と市場型間接金融
	事後学習	配布資料や講義ノートを確認、整理。（2時間）
3	事前学習	書籍やインターネットを活用して金融機関の種類、機能、変遷などについて概要把握。 金融庁HPを参照して金融庁に登録・届出をしている金融機関、金融会社を確認。（2時間）
	授業内容	金融機関の再編と業務 ① ～預金取扱金融機関、金融会社
	事後学習	配付資料や講義ノートを確認、整理。とくに金融会社には仮想通貨交換業者など新しい形態の金融業者が増えていることも確認。（2時間）
4	事前学習	書籍やインターネットを活用して金融商品取引業、保険業、信託会社、等の種類、機能、変遷などについて概要把握。（2時間）
	授業内容	金融機関の再編と業務 ② ～金融商品取引業、保険業、信託会社
	事後学習	配付資料や講義ノートを確認、整理。（2時間）

5	事前学習	書籍や銀行のホームページを参照して、銀行がどんな商品（預金や金融商品など）を扱っているか概要把握。（2時間）
	授業内容	預金・金融商品販売業務 ～金融サービス・顧客の利便性向上、チャネル多様化
	事後学習	配付資料や講義ノートを確認、整理。（2時間）
6	事前学習	書籍や銀行のホームページを参照して銀行が貸出業務としてどんなことをしているのか概要把握。また、ABLやノンリコースローンなどの概念確認。（2時間）
	授業内容	融資業務における変化 ～ABL、ノンリコースローン 等
	事後学習	配付資料や講義ノートを確認、整理。（2時間）
7	事前学習	書籍やインターネット等を活用してアセットファイナンス（ABS、MBS、CDO、CLO、CBO、等）の概念確認。（2時間）
	授業内容	アセットファイナンスの拡大 ～資産の流動化・証券化
	事後学習	配付資料や講義ノートを確認、整理。（2時間）
8	事前学習	書籍やインターネット等を活用してCSR、ESG、企業価値、コーポレートガバナンス、等の概念確認。（2時間）
	授業内容	CSR経営とコーポレートガバナンス ～企業価値、コーポレートガバナンスコード、スチュワードシップコード
	事後学習	配付資料や講義ノートを確認、整理。（2時間）
9	事前学習	三井住友銀行、ゆうちょ銀行、みずほ銀行のホームページを参照して、各銀行の経営体制（統治形態）が、①監査役会設置会社、②指名委員会等設置会社、③監査等委員会設置会社のどれに属するか、どう異なるのかを確認。（2時間）
	授業内容	経営体制 ～統治形態、機関設計
	事後学習	配付資料や講義ノートを確認、整理。（2時間）
10	事前学習	書籍や銀行のホームページを参照して銀行が取り組んでいる内部統制システムの概要把握。（2時間）
	授業内容	内部統制システム ～会社法と金商法
	事後学習	配付資料や講義ノートを確認、整理。（2時間）
11	事前学習	書籍や銀行のホームページを参照して銀行が取り組んでいる内部管理体制の概要把握。（2時間）
	授業内容	内部管理体制 ～コンプライアンスとリスク管理、BIS規制
	事後学習	配付資料や講義ノートを確認、整理。（2時間）
12	事前学習	書籍や銀行のホームページを参照して銀行が取り組んでいる情報開示（ディスクロージャー）の概要把握。（2時間）
	授業内容	情報開示の種類と根拠 ～法令開示と自発的開示、統合報告書
	事後学習	配付資料や講義ノートを確認、整理。（2時間）
13	事前学習	インターネットで通読：（i）「ディスクロージャー誌の見方・銀行編」（知るぼると）、（ii）「冊子やさしい銀行の読み方～銀行の財務諸表とディスクロージャー」（全銀協）（2時間）
	授業内容	ディスクロージャー誌を読む① ～銀行法21条と開示内容
	事後学習	配付資料や講義ノートを確認、整理。（2時間）
14	事前学習	インターネットで通読：（i）「ディスクロージャー誌の見方・銀行編」（知るぼると）、（ii）「冊子やさしい銀行の読み方～銀行の財務諸表とディスクロージャー」（全銀協）（2時間）
	授業内容	ディスクロージャー誌を読む② ～財務諸表 期末レポート提出
	事後学習	配付資料や講義ノートを確認、整理。（2時間）
15	事前学習	金融機関の今後の経営課題と考えられる問題（ネット・書籍・新聞・雑誌などからの引用も含む）をミニレポートにまとめる。（2時間）
	授業内容	経営課題と金融行政の動向 期末レポート講評 ミニレポート提出
	事後学習	授業目的・目標がどの程度達成できたかを自己評価し、今後の学習に活かす。（2時間）

科目名	グローバル・コミュニケーション I	担当者	小林 聡明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	アメリカは、いくたびかの戦争、そして平時を通じて、どのようにメディアを駆使し、人々の心と精神を勝ち取ろうとしたのか。本授業では、アメリカのメディア戦略と実践を学びながら、メディアと外交の絡み合いや文化の持つ政治性について考える。それは、一見すると国際政治や日米関係史を学ぶもののように思えるが、マス・コミュニケーション研究や広告研究などにも密接に繋がっており、本授業は、領域横断的な分野に立脚したものとなっている。				
授業目的・到達目標	本授業は、昨今の国際政治・外交で大きな注目を浴びている広報文化外交やパブリック・ディプロマシーの可能性や限界、課題を考えるための知識の習得と新たな視点の提供を目的としている。到達目標は、次の三点におかれている。 1. 東アジアの国際政治とメディアの関係性に対する理解 2. 広報文化外交やパブリック・ディプロマシーに関する知識の獲得 3. メディアやコミュニケーション、広告研究への新たな視座の提供 関連DP及びCP：新聞学科1, 2, 6				
履修条件	国際政治や海外メディア事情などに関心をもつ学生を、特に歓迎する。課題文献は、初回の授業時に提示するので、かならず出席すること。				
授業方法	原則として、毎回、受講生には論文あるいは著書1章分を読み、「同意できる点／できない点」と質問を記したペーパーの作成・提出が課題として課される。授業は、それへの教師からのフィードバックを中心に行われる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業内での課題およびレポートで評価する	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	備考	使用しない			
参考書	松田武『対米依存の起源』岩波書店、2015年。藤田文子『アメリカ文化外交と日本』東京大学出版会。吉見俊哉ほか編『占領する眼・占領する声』東京大学出版会。ナイ『スマート・パワー』日本経済新聞出版社、2011年				
オフィスアワー	原則的には、火曜日の13時～16時。事前にメールで予約を取ってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	初回授業時までにシラバスを読んでおくこと。 国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。（2時間）
	授業内容	イントロダクション： 授業の目的や進め方などについて説明する。 「アメリカ」を考えることの意味について、日常的な事象を取り上げながら、受講生に対して授業で扱うトピックへの関心を高める。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
2	事前学習	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。（2時間）
	授業内容	広報文化外交とは何か：外交における世論の重要性が、あらたな課題として浮上してきている現状を紹介し、広報外交研究の潮流と、その射程について説明する
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
3	事前学習	2回目の授業時に提示する課題（世論調査データ分析）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	広報文化外交と世論：受講生から提出された課題へのフィードバックを行いながら、新たな論点提示や深められる論点のあぶり出しなどを行う。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
4	事前学習	3回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	アメリカの「強さ」とは何か：ジョセフ・ナイの議論であるハード、ソフト、スマートパワーの概念について説明し、有用性と限界について検討する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）

5	事前学習	4回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	広報文化外交の理念：主として欧米での議論を中心に、その歴史的展開について説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
6	事前学習	5回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	第二次世界大戦期の心理戦：広報文化外交の前史として、第二次世界大戦期に活発に行われた心理戦の実態と、それが、どのように広報文化外交へと装いを新たにしていくのか。そのプロセスと意味について説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
7	事前学習	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に勝つようし、日常的に国際報道に接しておくこと。（2時間）
	授業内容	広報文化外交に関する研究蓄積を踏まえた時事解説および現状分析：国際政治、外交に関する時事的なトピックを取り上げ、それまでの授業で学んだことが、どのように実践できるかについての具体的な例を示すことで、受講生の視野拡大と知識の定着を目指す。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
8	事前学習	7回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	GHQ占領とアメリカの文化攻勢（1）：GHQ占領期に、アメリカが、敗戦国日本の国民から、心と精神を掴み取ろうとしたのか、その戦略と実践について説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
9	事前学習	8回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	GHQ占領とアメリカの文化攻勢（2）：心と精神を掴み取るために、どのようにメディアが利用されたのかを説明したうえで、「文化」の持つ力と政治性について考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
10	事前学習	9回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	GHQ占領期におけるメディア検閲（1）：アメリカが行ったメディア検閲の実態について説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
11	事前学習	10回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	GHQ占領期におけるメディア検閲（2）：民主主義を促進するために行われた「非民主主義」的な方法という観点から、検閲と並行して行われたメディアへの指導について考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
12	事前学習	11回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	対日広報文化外交の形成と展開（1）：1950年代のアメリカによる対日広報文化外交について、占領期とポスト占領期の連続性・不連続性の両側面に焦点をあてて説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
13	事前学習	12回目の授業時に提示する課題（著書の1章分、あるいは論文一本に対する批評）を行ってから授業にのぞむこと（3時間）
	授業内容	対日広報文化外交の形成と展開（2）：1950年代から60年代におけるアメリカの広報文化外交にとって、もっとも重要なテーマの一つが、「原子力の平和利用」であった。この点を踏まえ、この回では、日本への原子力導入と広報文化外交の関係性について説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
14	事前学習	試験に向けた準備として、課題文献だけでなく、自ら関連する有益な文献を探しだし、読んでおくこと。（3時間）
	授業内容	日本の広報文化外交の現状：日本政府が、現在、どのように広報文化外交を展開しているのか、その現状を説明し、課題について考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
15	事前学習	参考文献などを渉猟しながら、授業の全体を通じて学んだことを整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	受講生に課した課題へのフィードバックを行う。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）

科目名	グローバル・コミュニケーションⅡ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ヨーロッパ放送は公共放送を中心に発展し、一方、アメリカ放送は商業放送が中心となり発展してきました。こうした欧米各国の放送の発展過程と現状を解説します。また、一つの国や地域を超えたグローバルな視聴者を対象とした、メディアやその報道活動も考察します。					
授業目的・到達目標	時代とともに変化する放送を中心とするメディア環境を踏まえ、それらの役割を捉えることを養成することを目的とします。 放送を通じた各国およびグローバルなコミュニケーションのあり方を理解し、説明できるようなることを目標とします。 関連D P 及びC P：新聞学科1, 2, 6					
履修条件	特になし。					
授業方法	パワーポイントを使用し、講義形式で行います。また、レポートの講評を授業内で行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		授業内レポート、最終授業内での課題レポート、授業参加度で評価します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	特に指定しません。適宜、プリントを配付します。				
参 考 書	「NHKデータブック世界の放送2018」（NHK放送文化研究所編、NHK出版）					
オフィスアワー	月曜日の13:00～14:00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館 9 階1914） メールアドレス：sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	欧米には、どのような放送メディアがあるかを調べてください。（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	国営放送、公共放送、民間（商業）放送の違いについてまとめてください。（2時間）
2	事前学習	イギリスの放送局について調べてください。（2時間）
	授業内容	イギリスの放送Ⅰ：BBC、ITV、チャンネル4、Skyなど
	事後学習	BBCの特徴をまとめてください。（2時間）
3	事前学習	インターネット上の「BBC iPlayer」でどのようなコンテンツが提供されているか調べてください[日本からは映像はみられません]。（2時間）
	授業内容	イギリスの放送Ⅱ：放送局のインターネット展開
	事後学習	イギリスの放送局が積極的に動画を配信する理由をまとめてください。（2時間）
4	事前学習	ドイツの公共放送について調べてください。
	授業内容	ドイツの放送：ARD、ZDFなど
	事後学習	放送負担金制度についてまとめてください。（2時間）

5	事前学習	フランスの放送局について調べてください。（2時間）
	授業内容	フランスの放：フランステレビジョンなど
	事後学習	フランスの公共放送と政府の関係についてまとめてください。（2時間）
6	事前学習	アメリカの放送局であるABC、CBS、NBCについて調べてください。（2時間）
	授業内容	アメリカの放送の変遷Ⅰ：ラジオの誕生から3大ネットワークができるまで
	事後学習	アメリカの放送政策の特徴をまとめてください。（2時間）
7	事前学習	アメリカのケーブルテレビではどのような番組が放送されているか調べてください。
	授業内容	アメリカの放送の変遷Ⅱ：3大ネットワークの台頭からケーブルテレビ登場まで
	事後学習	シンジケーション市場ができた要因をまとめてください。（2時間）
8	事前学習	メディアコングロマリットについて調べてください。（2時間）
	授業内容	アメリカの放送の変遷Ⅲ：ケーブルテレビの台頭からメディアコングロマリットの形成まで
	事後学習	メディアコングロマリットが形成された要因をまとめてください。（2時間）
9	事前学習	アメリカで行われているインターネット動画配信サービスについて調べてください。（2時間）
	授業内容	アメリカのOTTサービスについて
	事後学習	日本で動画配信サービスが欧米ほど、普及しない理由をまとめてください。（2時間）
10	事前学習	9.11テロ、イラク戦争について調べてください。（2時間）
	授業内容	グローバルメディアとはⅠ：9.11テロ、イラク戦争、アラブの春とメディア
	事後学習	メディアの発展と情報のグローバル化についてまとめてください。（2時間）
11	事前学習	文化帝国主義について調べてください。
	授業内容	グローバルメディアとはⅡ：アメリカの多国籍企業、文化帝国主義
	事後学習	欧米主導のグローバルメディアが相対的に影響力を失っていった理由をまとめてください。（2時間）
12	事前学習	BBCワールドニュースでは、どのようなニュースが伝えられているか調べてください。（2時間）
	授業内容	国際ニュースの流れ
	事後学習	情報の「南北問題」についてまとめてください。（2時間）
13	事前学習	「国境なき記者団」の発表する「報道の自由度ランキング」について調べてください。（2時間）
	授業内容	世界の報道の自由
	事後学習	メディアシステムの3分類についてまとめてください。（2時間）
14	事前学習	アメリカで起こった「マッカーシズム」について調べてください。（2時間）
	授業内容	ネットと対抗する既存メディア
	事後学習	既存メディアの新たな取り組みについてまとめてください。（2時間）
15	事前学習	自分の授業ノート、事後学習でまとめたものをよく読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	課題レポート及び総括
	事後学習	総括を踏まえ、再度、前学期の自分の授業ノート、事後学習でまとめたものを読んでください。（2時間）

科目名	経営学Ⅰ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経営学の起源、諸理論の展開、現代経営における諸問題について体系的に講じる。とくに事業システムと組織内の機能別の役割（研究開発と生産機能）について理解を深める。			
授業目的・到達目標	ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考える抜く力を養成することを目的とし、本講義で学んだ事を説明できるようになることを目標としている。 DPならびにCP(法律学科1, 2 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3 公共政策学科1, 3, 5)			
履修条件	特になし。			
授業方法	教員による講義と受講生による討論により進める。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	60%	詳しくは第1回目の講義にて説明するため、必ず出席すること。第1回目の講義に出席できないものは受講資格を失うこともあるので注意すること。	
	平常評価	40%	40%の内訳は、原則としてグループ演習10%×3回と個人演習10%とするが、その他参加態度を加味し、総合的に判断する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	創成社	実践に学ぶ経営学	風間・松田編著
	備考	教科書の事前の購入の必要はない。講義内で詳しく説明する。		
参考書	伊丹・加護野著『ゼミナール経営学入門 第4版』日本経済新聞社 諸上・藤澤・嶋編著『国際ビジネス戦略の新機軸』同文館出版			
オフィスアワー	水曜13：30 14：30 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間およびを設定する。 usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの熟読ならびに自身の目標を認識しておく(2.0時間)
	授業内容	ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）（1.5時間）
	事後学習	ガイダンス資料に基づき、年間の学習スケジュールと目標を理解しておく(2.0時間)
2	事前学習	講義ノートの準備ならびに注目する企業を1社選んで情報を収集(2.0時間)
	授業内容	経営と経営学ー経営は学問かー（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習(2.0時間)
3	事前学習	講義ノートの準備(2.0時間)
	授業内容	事業システム1（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習(2.0時間)
4	事前学習	講義ノートの準備ならびにグループ演習課題のための2次資料の収集(2.0時間)
	授業内容	事業システム2（取引コストと企業が存在）（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理ならびにグループ演習課題のための2次資料の収集(2.0時間)

5	事前学習	講義ノートの準備ならびにグループ演習課題のための2次資料の収集（2.0時間）
	授業内容	グループ演習1とフィードバック（1.5時間） （事業システムを考案する）
	事後学習	リアクションペーパーの準備(2.0時間)
6	事前学習	講義ノートの準備(2.0時間)
	授業内容	組織構造と価値連鎖システム（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習(2.0時間)
7	事前学習	講義ノートの準備ならびにイノベーションの事例を考える（2.0時間）
	授業内容	研究開発機能とイノベーション・マネジメント1（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習(2.0時間)
8	事前学習	講義ノートの準備ならびにグループ演習課題のための2次資料の収集（2.0時間）
	授業内容	研究開発機能とイノベーション・マネジメント2（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理(2.0時間)
9	事前学習	講義ノートの準備ならびにグループ演習課題のための2次資料の収集（2.0時間）
	授業内容	グループ演習2とフィードバック（1.5時間） （イノベーションを実現する組織的仕組みを考案する）
	事後学習	リアクションペーパーの準備(2.0時間)
10	事前学習	講義ノートの準備ならびに工場経営について情報を収集する（2.0時間）
	授業内容	生産機能とアウトソーシング1（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理(2.0時間)
11	事前学習	自動車産業のサプライチェーンについて情報を収集する（2.0時間）
	授業内容	生産機能とアウトソーシング2（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理(2.0時間)
12	事前学習	講義ノートの準備ならびにグループ演習課題のための2次資料の収集（2.0時間）
	授業内容	ものづくりとアーキテクチャー論（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理(2.0時間)
13	事前学習	グループ演習課題のための2次資料の収集（2.0時間）
	授業内容	グループ演習3とフィードバック （生産技術の転換のための組織的仕組みを考案する）（1.5時間）
	事後学習	リアクションペーパーの準備(2.0時間)
14	事前学習	個人演習の準備（2.0時間）
	授業内容	個人演習とフィードバック （優れたチーム・マネジメントを考える）（1.5時間）
	事後学習	リアクションペーパーの準備(2.0時間)
15	事前学習	試験の準備（2.0時間）
	授業内容	授業内試験及びフィードバック（1.5時間）
	事後学習	試験の振り返り(2.0時間)

科目名	経営学 I	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	わたしたちが生活する社会において、企業は経済活動の担い手であると同時に、環境問題への配慮や従業員の生活の保障など様々な責任を負っている。本講義では、企業を中心に経営学における様々な概念を解説するとともに、現代企業を取り巻く諸問題とそれらに対する取り組みについて理解を深める。				
授業目的・到達目標	企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との対話・関与が重要である。このことと同様に、本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視することを目的とし、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。 関連DP及びCP：法律学科1, 2 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	スライド(パワー・ポイント)を用いた講義と受講生によるグループワークにより進める。 授業内試験の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		60%	定期試験では、授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。	
	平常評価		40%	原則としてグループワークへの参加(20%×2回)とするが、その他授業への参加度により総合的に判断する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	文真堂		『実践に学ぶ経営学』	風間、松田編
	備考				
参考書	講義の際に適宜紹介する。				
オフィスアワー	火曜日 15:00～16:00(研究室にて) 研究室ならびにメールアドレスについては初回の講義の際に説明する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。(2時間)
	授業内容	【ガイダンス】 授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。(2時間)
2	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【現代社会と経営学：経営学とは何か】 経営学とはいかなる学問なのか、現代社会においてこれを学ぶことの意義を学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、経営学とはどのようなものかについて、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
3	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業の種類】 企業の種類についての分類方法とそれぞれの特徴について学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、企業の種類について、それぞれの特徴を説明できるようにまとめる。(2時間)
4	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業と社会】 社会における企業の位置づけ・役割について学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、企業と社会との関係について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)

5	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業理念と企業文化】 企業理念と企業文化とはどのようなものなのか、その意義を学習する。
	事後学習	自分の興味ある企業のホームページなどをみて、その企業がどのような企業理念・企業文化をもっているのかをまとめる。(2時間)
6	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業文化の浸透とその逆機能】 企業文化が組織内に浸透することでどのような有効性を発揮するのか、またどのような危険性があるのかを学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、企業文化の意義と課題について、自分なりの考えをまとめる。(2時間)
7	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業の社会的責任 1：環境問題と社会的課題】 企業を取り巻く環境問題や社会的課題にはどのようなものがあるか、それに企業はどのように対応していくことが求められているのかを学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、企業の社会的課題とはいかなるものなのかについて、自分なりの考えをまとめる。(2時間)
8	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業の社会的責任 2：事業活動と社会貢献活動】 企業が事業活動と社会貢献活動を両立していくためには、どのような課題があるのかを学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、企業はなぜ事業活動と社会貢献活動を両立しなければならないのかについて、自分なりの考えをまとめる。(2時間)
9	事前学習	自分の興味ある企業のホームページなどをみて、どのような社会貢献活動を行っているのか調べておく。(2時間)
	授業内容	【グループワーク 1：企業の社会的責任】 企業はどのようにして社会的責任を果たしているのか調べ、それが社会にどのような影響を与えているのかをグループで議論し、発表する。
	事後学習	自分のグループと他のグループが発表した内容を基に、企業の社会的責任の意義と課題について、自分なりの考えをまとめる。(2時間)
10	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業戦略論 1：戦略の必要性】 企業の活動において戦略はどのような意義があるのかを学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、企業はなぜ、どのようにして戦略を企てるのかについて、自分なりの考えをまとめる。(2時間)
11	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業戦略論 2：経済性と社会性の調和】 企業が戦略を企てる上で、利益(経済性)と社会貢献(社会性)のバランスをどのようにしてとっているのかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、企業戦略における経済性と社会性の調和を図ることの必要性について、自分なりの考えをまとめる。(2時間)
12	事前学習	配布資料をよく読み、企業分析の手法について理解しておく。(2時間)
	授業内容	【グループワーク 2：企業分析】 授業内で説明した企業分析の手法を用いて、グループで興味ある企業の分析を行い発表する。
	事後学習	自分のグループと他のグループが発表した内容を基に、企業戦略の意義と課題について、自分なりの考えをまとめる。(2時間)
13	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【人的資源管理論 1：リーダーシップ論】 企業の経営者はどのようにして人的資源(人材)を有効活用しているのかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、経営者の役割と責任について、自分なりの考えをまとめる。(2時間)
14	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【人的資源管理論 2：グローバル化とダイバーシティ】 グローバル化の進展が、企業を構成するメンバー(従業員)にどのような変化をもたらしているのか、そのことによってどのような課題が生じているのかを学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、ダイバーシティとはなにか、なぜそれが重要なのかについて、自分なりの考えをまとめる。(2時間)
15	事前学習	定期試験に向けて、これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。(3時間)
	授業内容	【授業内試験及び解説】 授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。また、試験後に解説をする。
	事後学習	配布資料、講義ノートに加え、解説を基に授業の内容を復習する。(1時間)

科目名	経営学 I	担当者	築場 保行	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	経営活動、事業・商業・ビジネスの歴史を最初に学び、そして近現代の企業の経営、管理、組織の発展、さらに近年のIT技術の発展とそのビジネスでの利用について学習する。適宜、経済・ビジネス記事について解説、質問する。			
授業目的・到達目標	商業活動、企業活動の歴史を踏まえて、現代企業の構造、行動についてケース・スタディをまじえて検討し、企業社会の理解のための基礎的知識の提供が目的。適時、時事（経営）問題を解説するため、予定を変更することがある。現代のビジネスを理解し、説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1,2 新聞学科1,5 経営法学科1,2,3 公共政策学科1,3,4			
履修条件	なし			
授業方法	講義。板書必要。学生に質問する。試験後ポータルシステムで試験内容講評。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		100%	問題内容の理解度と学生自身の分析力、熟考度を評価する
	平常評価		0%	プリント、コピーについてレポートを課すことがある Q&AのAの内容、積極性を評価
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	桜門書房	経営・管理・組織の歴史・理論と現在	築場保行
	2013	文真堂	企業の国際化、情報化と日本企業革新のトレンド	築場保行
	備考	上記ほか新教科書準備中。後日指示。		
参考書	適宜紹介指示			
オフィスアワー	授業（第一部・水曜3時限）（第二部・木曜3時限）の終了後に質問を受け付ける			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキスト序文学習（2時間）
	授業内容	年間授業計画
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキスト文学習（2時間）
2	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	経営学の体系、経営学を学ぶ意義
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
3	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	商業活動の歴史と意味（1）
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
4	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	商業活動の歴史と意味（2）
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）

5	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	管理活動の歴史（1）
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
6	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	管理活動の歴史（2）
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
7	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	資本主義経営の生成、確立（1）
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
8	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	資本主義経営の生成、確立（2）
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
9	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	ビック・ビジネスの生成と確立
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
10	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	経営管理技術の発展（1）
	事後学習	授業ノート、コピーを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
11	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	経営管理技術の発展（2）
	事後学習	授業ノート、コピーを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
12	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	日本の商業活動、管理活動の歴史
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
13	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	日本の企業活動、企業管理の歴史
	事後学習	授業ノート、コピーを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
14	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	前期まとめ、質疑
	事後学習	授業ノートを読む、コピー復習 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
15	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験問題関連の授業ノート、コピー、新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）

科目名	経営学 I	担当者	若林 広二	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	「経営」を「構造」と「戦略」の組み合わせととらえ、経営現場で頻繁に活用されている理論を中心に学修する。重要な理論については、実在企業のケースを使用し、理論を経営現場に適用する方法を学ぶ。前半に組織論、後半に戦略論を配し、最後に経営全体の整合性をとる方法について触れる。			
授業目的・到達目標	組織の「経営」を取り巻く現象を理解し、組織構成員や経営トップとしてそれに対処するための理論の修得を目的とする。組織論・戦略論の主要理論を理解し、説明できるようになること目標とする。関連DP・CP：法律学科1，2 新聞学科1，5 経営法学科1，2，3 公共政策学科1，3，4			
履修条件	特になし。			
授業方法	スライド（PPT）に基づく講義、クラス討議、プレゼンテーション、グループワークで構成。提出課題・中間レポートは授業時間内に講評。期末レポートはメールで評価をフィードバック。スライド（PDF）は共有フォルダーで公開。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	クラス貢献30%、プレゼンテーション20%、中間レポート20%、期末レポート30% （注）成績評価方法は、状況に応じて変更されることがあります。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2013年	日本経済新聞出版社	経営学入門（上）第2版	榊原清則
	2012年	日本経済新聞出版社	ケースブック経営戦略の論理（全面改定版）	伊丹敬之 西野和美
	備考			
参考書	高橋伸夫『コア・テキスト経営学入門』新世社2007年、若林広二『道具としての「事業定義」』中央経済社2012年			
オフィスアワー	水曜 18：00～20：00（休暇中を除く、要事前メール連絡） 木曜 15：00～16：10、18:00～19:00（同上） 金曜 18：00～20：00（同上） 研究室（4号館2階421号室）メールアドレス：wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書「経営学入門（上）」の全体に目を通し、「経営」と「経営学」の違いについて考察する（3時間）。
	授業内容	オリエンテーション。シラバスに基づく前期授業全体の内容について説明。前年度当科目授業評価アンケート結果の報告とアクションプランシート（授業改善計画）について説明。
	事後学習	配布資料の内容を確認し、プレゼンテーション課題のテーマ選定とプレゼンテーション日程について検討（1時間）
2	事前学習	『経営学入門（上）』13～48頁、49～96頁に目を通すとともに、グループ（同じ業界に興味のある4名以内）メンバー候補を検討する（3時間）。
	授業内容	ミクロ組織論。組織行動論（個人～20名以下のグループの行動）に関する理論について学修し、その成り立ちと適用範囲について考察する。
	事後学習	配布資料の内容について復習し、ミクロ組織論の主要理論の提唱者とその概要を理解し説明できるようになる（1時間）。
3	事前学習	『経営学入門（上）』97～140頁に目を通すとともに、グループメンバーを決定する（3時間）。
	授業内容	マクロ組織論。20名以上の構成員からなる組織に関する理論（「組織論」）について学修し、その成り立ちと適用範囲について考察する。
	事後学習	配布資料の内容について復習し、マクロ組織論の主要理論の提唱者とその概要を理解し説明できるようになる（1時間）。
4	事前学習	入山章栄『世界の経営学者はいま何を考えているのか』英治出版2012年149～185頁（コピー事前配布）を熟読し、社会的ネットワーク論の主要理論について理解する（3時間）。
	授業内容	社会的ネットワーク論と柔構造組織。SNSの普及とともに社会において重要性が増している社会的ネットワーク論の主要理論について学修する。また、社会的ネットワーク論にも関連して組織の「柔構造」についても環境との関係より学修する。
	事後学習	配布資料の内容について復習し、社会的ネットワーク論の主要理論の提唱者とその概要、柔構造組織の概要について理解し説明できるようになる（1時間）。

5	事前学習	ポーター, M. E. (土岐岬他訳) 『競争優位の戦略』ダイヤモンド社1985年45～77頁 (コピー事前配布) を熟読し、業務プロセス (バリューチェーン) の概念について理解する (3 時間)。
	授業内容	業務プロセスと人事制度。企業内で従業員が日々実施している業務を分類し、各業務の内容について学修する。また、ミクロ組織論の適用としての人事制度の実際について学修する。
	事後学習	配布資料の内容について復習し、業務プロセスと人事制度の不要な構成要素について説明できるようになること (1 時間)
6	事前学習	『経営学入門 (上) 』141～152ページ、188～213ページに目を通し、経営戦略の定義と事業ドメインについて理解する (3 時間)。
	授業内容	事業定義 1 (概念)。経営戦略の中核をなす事業定義 (事業ドメイン) の背景、概念、重要性について、分析的アプローチとの対比等も踏まえて学修。
	事後学習	配布資料の内容を復習し、事業定義に概念について説明できるようになる (1 時間)。
7	事前学習	若林広二『道具としての「事業定義」』中央経済社2012年101～115ページ (コピー事前配布) に目を通す。教科書『ケースブック 経営戦略の論理』16～36ページ (AKB48) に目を通して、①AKB48の定義をCFTで表現する、②AKB 4 8の成功要因 (KFS) を従来のアイドルグループと比較して検討する (3 時間)。
	授業内容	事業定義 2 (方法)。事業定義から事業展開シナリオへの落とし込み方、組織構造への展開方法等について学修。
	事後学習	配布資料の内容を復習し、事業定義の方法について説明できるようになる (1 時間)。
8	事前学習	教科書『ケースブック 経営戦略の論理』282～301ページ (アップル) に目を通して、①2012年時点のアップルを S WOTで整理する、②SWOTの結果より2012年以降アップルのとるべき戦略について検討する (3 時間)。
	授業内容	SWOT。自社の強み、弱み、環境の中の機会、脅威を分析・統合し、企業戦略や事業戦略を導き出すという戦略構築上最も基礎的な方法について学修する。
	事後学習	配布資料の内容を復習し、SWOT の概念について説明できるようになる (1 時間)。
9	事前学習	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年47～57ページ (コピー事前配布) に目を通し、企業のケース (コピー事前配布) より、企業の主要事業のKFS (成功要因) を抽出する (3 時間)。
	授業内容	製品・市場戦略とマーケティング。製品・市場分析より特定事業の事業戦略を導き出すツールであり、マーケティングとの関連について学修。新規事業戦略についても触れる
	事後学習	配布資料の内容を復習し、製品・市場戦略の概念について説明できるようになる (1 時間)。
10	事前学習	教科書『経営学入門 (上) 』169～180ページに目を通し、教科書『ケースブック 経営戦略の論理』102～46ページ (サムスン電子) に関して、サムスン電子の液晶テレビの事業戦略は、ポーターの3つの基本戦略のどれかについて検討する (3 時間)。
	授業内容	5 フォースと競争戦略。ポーターの競争要因分析ツール5 フォースによる業界構造分析の方法について学修する。
	事後学習	配布資料の内容を復習し、5 フォースを特定業界に適用できるようになる (1 時間)。
11	事前学習	教科書『経営学入門 (上) 』152～169ページに目を通す。企業のケース (コピー事前配布) に目を通して、 成功事業 (善い方向へ変化した製品群) と失敗事業 (悪い方向に変化した製品群) を抽出する。前期中間レポート (特定事業のKFS) の作成 (4 時間)。
	授業内容	PPM。企業戦略の観点より各事業の位置付け (重点投資、収益源、撤退等) を明確にするツール。各種ポートフォリオ分析手法の背景、概念、作り方と使い方、長所・短所について学修。
	事後学習	配布資料の内容を復習し、PPM の概念について説明できるようになる (1 時間)。
12	事前学習	ブラハラード, C.K. & ハメル, G. 「コア・コンピタンス経営」『ハーバード・ビジネス・レビューBEST10論文』2014年 (コピー事前配布) に目を通し、以下の項目について検討する (ワークシートあり)。①コア・コンピタンスとは何か、②コア・コンピタンスとしての要件は何か (経営資源、技術との違い)、③各社のコア・コンピタンス (3 時
	授業内容	コア・コンピタンス。企業戦略、事業戦略の前提となるコア・コンピタンスの理論的背景、概念、使い方等について学修。
	事後学習	配布資料の内容を復習し、コア・コンピタンスの概念について説明できるようになる (1 時間)。
13	事前学習	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年159～181ページ (コピー事前配布) に目を通し、景気の先行指標と遅行指標、バランス・スコアカードの導入効果について考察する (3 時間)。
	授業内容	バランス・スコアカード。経営戦略の構築・実施の両面で今後重要とされるバランス・スコアカードの背景、概念について学修。
	事後学習	配布資料の内容を復習し、バランス・スコアカードの概念について説明できるようになる (1 時間)。
14	事前学習	若林広二「戦略プロファイリング」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 9、2016年 (コピー事前配布) に目を通す (3 時間)。
	授業内容	戦略プロファイリング。特定企業に関する情報の分析に基づいて企業の戦略の全体像について推論を行う戦略プロファイリングの概念について学修する。
	事後学習	配布資料の内容を復習し、戦略プロファイリングについて説明できるようになる (1 時間)
15	事前学習	期末レポート (特定業界に関する①業界構造の分析、②同業界の主要各社の戦略の特徴を比較分析) の作成 (4 時間)。
	授業内容	まとめ。組織と戦略に関する主要理論とその適用範囲、今後の生かし方等について学修。
	事後学習	学生教員共有フォルダーから事前配布資料 (PDF) をダウンロードし、全体を復習し、オリエンテーションで説明した授業全体の体系と各理論や専門用語が理解できたかを確認する (1 時間)。

科目名	経営学Ⅱ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経営学の起源、諸理論の展開、現代経営における諸問題について体系的に講じる。とくにマネジメントの内容（インセンティブ、経営理念と組織文化、リーダーシップなど）について理解を深める。国際経営の独自問題とその対処法についても講じる。			
授業目的・到達目標	ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考える抜く力を養成することを目的とし、本講義で学んだことを説明できるようになることを目標としている。 DPならびにCP(法律学科1, 2 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3 公共政策学科1, 3, 5)			
履修条件	特になし。			
授業方法	教員による講義と受講生による討論により進める。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	60%	詳しくは第1回目の講義にて説明するため、必ず出席すること。第1回目の講義に出席できないものは受講資格を失うこともあるので注意すること。	
	平常評価	40%	個人演習（レポート）とグループ演習、その他参加態度を加味し、総合的に判断する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	創成社	実践に学ぶ経営学	風間・松田編著
	備考	教科書の事前の購入の必要はない。講義内で詳しく説明する。		
参考書	伊丹・加護野著『ゼミナール経営学入門 第4版』日本経済新聞社 諸上・藤澤・嶋編著『国際ビジネス戦略の新機軸』同文館出版			
オフィスアワー	水曜13：30 14：30 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。 usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの熟読ならびに自身の目標を認識しておく(2.0時間)
	授業内容	ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）（1.5時間）
	事後学習	ガイダンス資料に基づき、年間の学習スケジュールと目標を理解しておく(2.0時間)
2	事前学習	講義ノートの準備(2.0時間)
	授業内容	マネジメント（経営管理）の全体像（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理(2.0時間)
3	事前学習	講義ノートの準備ならびにアルバイト先での報酬体系を理解しておく（2.0時間）
	授業内容	インセンティブシステム1（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理(2.0時間)
4	事前学習	講義ノートの準備ならびにグループ演習に向けた2次データ資料の収集（2.0時間）
	授業内容	インセンティブシステム2（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理(2.0時間)

5	事前学習	講義ノートの準備ならびにグループ演習に向けた2次データ資料の収集（2.0時間）
	授業内容	経営理念と組織文化（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理(2.0時間)
6	事前学習	講義ノートの準備ならびにグループ演習に向けた2次データ資料の収集（2.0時間）
	授業内容	グループ演習1とフィードバック（1.5時間） （中小企業におけるインセンティブ・システムのデザイン）
	事後学習	講義ノートの整理、レポートの準備(2.0時間)
7	事前学習	講義ノートならびにレポートの準備（2.0時間）
	授業内容	リーダーシップ論1（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理(2.0時間)
8	事前学習	講義ノートならびにレポートの準備（2.0時間）
	授業内容	リーダーシップ論2（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理、レポートの準備(2.0時間)
9	事前学習	講義ノートの準備ならびにグループ演習に向けた2次データ資料の収集（2.0時間）
	授業内容	グループ演習2とフィードバック（1.5時間） （中小企業におけるインセンティブ・システムのデザイン）
	事後学習	講義ノートの整理、レポートの準備(2.0時間)
10	事前学習	講義ノートならびにレポートの準備（2.0時間）
	授業内容	国際経営論—独自の経営問題—（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理、レポートの準備(2.0時間)
11	事前学習	講義ノートならびにレポートの準備（2.0時間）
	授業内容	国際経営組織（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理、レポートの準備(2.0時間)
12	事前学習	講義ノートならびにレポートの準備（2.0時間）
	授業内容	経営の現地化とグローバル人材（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理ならびに個人演習準備(2.0時間)
13	事前学習	個人演習準備ならびに試験の準備（2.0時間）
	授業内容	個人演習1とフィードバック（1.5時間） （優秀レポートのプレゼンテーション）
	事後学習	リアクションペーパーの準備(2.0時間)
14	事前学習	個人演習準備ならびに試験の準備（2.0時間）
	授業内容	個人演習2とフィードバック（1.5時間）
	事後学習	リアクションペーパーの準備(2.0時間)
15	事前学習	試験の準備（2.0時間）
	授業内容	授業内試験及びフィードバック（1.5時間）
	事後学習	試験の振り返り(2.0時間)

科目名	経営学Ⅱ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経営学Ⅰで学んだ基礎的な知識を踏まえ、急速に進展するグローバル化や技術革新が、企業の活動にどのような変化を与えているのか理解を深めるとともに、現代社会における「企業の役割」とは何かを考えていく。				
授業目的・到達目標	企業が持続的に活動していくためには、社会における他の主体(消費者、従業員、株主など)との対話・関与が重要である。このことと同様に、本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視することを目的とし、受講生が経営学に関する基礎的な知識を修得し、説明できるようになることを目標としている。 関連DP及びCP：法律学科1, 2 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	経営学Ⅰの履修。				
授業方法	スライド(パワー・ポイント)を用いた講義と受講生によるグループワークにより進める。 授業内試験の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		60%	定期試験では、授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。	
	平常評価		40%	原則としてグループワークへの参加(20%×2回)とするが、その他授業への参加度により総合的に判断する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	文眞堂		実践に学ぶ経営学』	風間、松田編
	備考				
参考書	講義の際に適宜紹介する。				
オフィスアワー	火曜日 15:00～16:00(研究室にて) 研究室ならびにメールアドレスについては初回の講義の際に説明する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。(2時間)
	授業内容	【ガイダンス】 授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。(2時間)
2	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業の組織構造】 企業はどのような組織構造によって構成されているのか、また組織構造にはどのような種類があるのかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、企業の組織構造の種類とそれぞれの特質について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
3	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【雇用と人事】 企業には、ワーク・ライフ・バランスを推進する上でなにが求められているのかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、仕事と生活を両立するためにはなにが重要なのかについて、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
4	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【合併・買収(M&A)の効果と目的】 企業はなぜ合併・買収(M&A)を推し進めるのかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、買収・合併(M&A)の効果と課題について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)

5	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【企業とイノベーション】 企業はなぜイノベーションを必要とするのかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、イノベーションとはなにかについて、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
6	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【マーケティング1：市場と顧客】 市場と顧客の関係から、企業がどのようにして顧客を見つけ出すのかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、マーケティングはどのようにして計画されるのかについて、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
7	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【マーケティング2：製品戦略と製品ライフサイクル】 企業は顧客にどのように価値を形成し、それを伝達するのかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、これからのマーケティングに求められるものについて、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
8	事前学習	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、様々なマーケティング手法について理解しておく。(2時間)
	授業内容	【グループワーク1：マーケティング】 マーケティングに関する様々なテーマに関して、グループで議論し発表する。
	事後学習	自分のグループと他のグループの発表を基に、マーケティングの意義と課題について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
9	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【生産管理論1：モノづくりの基本】 企業はどのようにしてモノづくりを行っているのかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、モノづくりの基礎とこれまでどのように発展してきたのかについて、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
10	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【生産管理論2：モノづくりの高度化】 グローバル化や技術革新の進展が、モノづくりにどのような影響を与えているのかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、モノづくりの高度化によって私たちの生活がどのように変化しているのかについて、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
11	事前学習	私たちが日々の生活で使用している製品が、技術革新によってこれまでどのように変化してきたのかを調べる。(2時間)
	授業内容	【グループワーク2：イノベーションと生産管理】 技術革新、とりわけAI技術の進展によって、私たちの生活はどのように変化するのか、その効果と課題についてグループで議論し発表する。
	事後学習	自分のグループと他のグループの発表を基に、イノベーションとモノづくりの関係について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
12	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【国際経営1：国際経営の組織モデル】 企業は海外でどのように経営しているのかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、国際経営独自の課題について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
13	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【国際経営2：グローバル化と経営の現地化】 国際経営において、経営の現地化がなぜ必要なのか、その課題とはなにかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、経営の現地化の必要性と課題について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
14	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【持続可能な社会と企業価値の向上】 社会の健全な発展と企業価値の向上を目指して、求められる企業像とはなにかを学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、現代社会における企業の役割について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
15	事前学習	定期試験に向けて、これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。(3時間)
	授業内容	【授業内試験及び解説】 授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。また、試験後に解説をする。
	事後学習	配布資料、講義ノートに加え、解説を基に授業の内容を復習する。(1時間)

科目名	経営学Ⅱ	担当者	築場 保行	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	経営活動、事業・商業・ビジネスの歴史を最初に学び、そして近現代の企業の経営、管理、組織の発展、さらに近年のIT技術の発展とそのビジネスでの利用について学習する。適時、時事（経営）問題を解説する。					
授業目的・到達目標	経営管理、経営組織、国際経営の基礎能力養成を目的とし、経営全体を俯瞰できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法率学科1,2 新聞学科1,5 経営法学科1,2,3 公共政策学科1,3,4					
履修条件	経営学Ⅰ（築場）履修が望ましい 経営学領域科目（築場）履修が望ましい					
授業方法	講義。板書必要。学生に質問する。 試験後ポータルシステムで試験内容講評。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		100%		問題内容の理解度と学生自身の分析力、熟考度を評価する	
	平常評価				授業中のQ&AのA内容、積極性評価し加点	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	桜門書房		経営・管理・組織の歴史・理論と現在		築場保行
	2013	文真堂		企業の国際化、情報化と日本企業革新のトレンド		築場保行
	備考	上記ほか新教科書準備中。後日指示。試験持込許可教材は新教科書1冊のみ 経済学部本館地下桜門書房でのみ販売				
参考書	適宜紹介指示					
オフィスアワー	授業（第一部・水曜3時限）（第二部・木曜3時限）の終了後に、質問を受け付ける					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキスト序文学習（2時間）
	授業内容	近年の主要な経済経営事件と企業経営（経営の環境）
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキスト文学習（2時間）
2	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読むテキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	近年の主要な事件と企業経営（経営の環境）
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
3	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	情報化、国際化と企業革新の必然性
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
4	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	現代企業のマーケティング：ユニクロ、セブン-イレブン、CCC等
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）

5	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	ネット広告、SNSの活用
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
6	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	業種・業態、その古今東西、事業の仕組み、
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
7	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	事業モデルを考える、その設計デザイン
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
8	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	現代企業の経営戦略
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
9	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	現代企業の経営組織：管理組織、事業組織、企業間関係、フランチャイズ
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
10	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	イノベーション、ベンチャービジネスとグーグル、テラスモーター等事例研究
	事後学習	授業ノート、コピーを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
11	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読むテキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	グローバリゼーション、企業活動の国際化
	事後学習	授業ノート、コピーを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
12	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	日本企業の国際経営
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
13	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読むテキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	アジア企業の国際化
	事後学習	授業ノート、コピーを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
14	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	後期まとめ、質疑
	事後学習	授業ノートを読む、コピー復習 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
15	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験問題関連の授業ノート、コピー、新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）

科目名	経営学Ⅱ	担当者	若林 広二	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「経営学Ⅰ」で学んだ理論を経営現場に適用するための各種コンサルティング手法について学修する。また、企業の企画部門やコンサルティング業界で働くことを目指す学生のために、コンサルティング業界やコンサルティング業務に関する知識を修得する。				
授業目的・到達目標	コンサルティング手法とその適用方法の修得を目的とする。組織論・戦略論の主要理論を経営現場に適用しながら、ある程度コンサルティングプロジェクトを企画・推進できるようになることを目標とする。関連DP・CP：法律学科1，2 新聞学科1，5 経営法学科1，2，3 公共政策学科1，3，4				
履修条件	「経営学Ⅰ」の履修。				
授業方法	スライド（PPT）に基づく講義、クラス討議、プレゼンテーション、グループワークで構成。提出課題・中間レポートは授業時間内に講評。期末レポートはメールで評価をフィードバック。スライド（PDF）は共有フォルダーで公開。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	クラス貢献30%、演習課題25%、中間レポート15%、期末レポート30% （注）成績評価方法は、状況に応じて変更されることがあります。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特に指定しない			
参考書	神川貴実彦『コンサルティングの基本』日本実業出版社2008年、神川貴実彦『コンサルティングの基本 ベストプラクティス集』日本実業出版社2013年、若林広二『道具としての「事業定義」』中央経済社2012年				
オフィスアワー	水曜 18：00～20：00（休暇中を除く、要事前メール連絡） 木曜 15：00～16：10、18:00～19:00（同上） 金曜 18：00～20：00（同上） 研究室（4号館2階421号室）メールアドレス：wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	経営学Ⅰで学修した理論について、コンサルタントとして経営現場に適用することを想定しながら復習する（2時間）。
	授業内容	オリエンテーション。シラバスに基づく後期授業全体の内容について説明。前期授業評価アンケート結果の報告とアクションプランシート（授業改善計画）について説明。
	事後学習	配布資料の内容を復習し、コンサルティング対象企業候補について検討する（2時間）。
2	事前学習	太田一樹・福田尚好『コンサルティングの基礎』同友館2013年、39～58ページ（「学生教員共有フォルダー」よりダウンロード）に目を通し、コンサルティング業界の全体像を理解する（3時間）。
	授業内容	コンサルティング業界と組織。世界と日本のコンサルティング市場（規模、分野別構成比と各分野の成長性、主要企業別収益ランキング）とコンサルティング企業の組織構造や人事評価制度について学修する。
	事後学習	配布資料の内容を復習し、コンサルティング対象企業候補について検討する（1時間）。
3	事前学習	太田一樹・福田尚好『コンサルティングの基礎』同友館2013年、13～36ページ（「学生教員共有フォルダー」よりダウンロード）に目を通し、コンサルティング業務の手順と内容を理解する（3時間）。
	授業内容	コンサルティング業務。コンサルティング業務を業務内容により分類し、手順について学修する。また、各業務分野で代表的なコンサルティング企業をあげる。
	事後学習	配布資料の内容を復習し、コンサルティング業務の手順について説明できるようになる（1時間）。
4	事前学習	経営学Ⅰ資料より、（6）事業ドメインの概念、（7）事業定義の方法を復習する。太田一樹・福田尚好『コンサルティングの基礎』同友館2013年3～12ページ（「学生教員共有フォルダー」よりダウンロード）を熟読する（3時間）。
	授業内容	事業ドメインコンサルティング1（概要）。企業において実際に事業定義（ドメイン）を設定する手順を各種分析ツールを用いながら学修する。
	事後学習	配布資料の復習し、事業ドメインコンサルティングの手順について説明できるようになる（1時間）。

5	事前学習	良品計画のホームページ（ www.muji.com/jp ）より、現在の主要製品群（事業）を10～20抽出し、それぞれについてC F T分析をする（課題①、指定様式使用）（3時間）。
	授業内容	事業ドメインコンサルティング2（演習1）。各人作成のC F T分析表（課題①）に基づいて、既存事業の機能について議論する。
	事後学習	各人作成のC F T分析表を見ながら自身のC F T分析表を修正する（1時間）。
6	事前学習	良品計画について（ひきつづき）、C F T分析の結果に基づいて、現在から将来の事業をドメインマップと事業定義・事業ドメイン対応表に基づいて定義する（課題②、指定様式使用）（3時間）。
	授業内容	事業ドメインコンサルティング3（演習2）。各人が作成したドメインマップと事業定義・事業ドメイン対応表（課題②）に基づいて、将来事業を定義する。
	事後学習	各人作成のドメインマップと事業定義・事業ドメイン対応表を全体の意見を反映させながら修正する（1時間）。
7	事前学習	森田正雄「経営者のための損得学入門」海難タイムズVol. 379・382・385・388・391・395、2012年（コピー事前配布）を熟読し、意思決定の論理を理解する（2時間）。
	授業内容	収益コンサルティング。損得学の主要理論について、演習課題により修得する。
	事後学習	配布資料の内容の復習により、損得学の同様の問題に対して正答できるようになる（2時間）。
8	事前学習	教科書『ケースブック 経営戦略の論理（全面改訂版）』日本経済新聞出版社2012年257～77ページ（アサヒビール）について、1987年（スーパードライ発売）前後のビール業界の5フォースを作成する（課題3、指定様式使用）（3時間）。
	授業内容	事業戦略コンサルティング。状況に応じて、製品・紫綬戦略、新規事業戦略、ブルー・オーシャン戦略の3つがあるが、各ツールの手順について学修する。
	事後学習	配布資料の復習により、各種事業コンサルティング手法を状況によって使い分けができるようになる（1時間）。
9	事前学習	経営学Ⅰ資料より、（3）マクロ組織論、（5）業務プロセスと人事制度 について復習する。太田一樹・福田尚好『コンサルティングの基礎』同友館2013年81～95ページ（「学生教員共有フォルダー」よりダウンロード）を熟読する（3時間）。
	授業内容	人事・組織コンサルティング。企業に人事制度を導入する際の手順、また組織構造を変える際の考え方について学修する。
	事後学習	配布資料の内容を復習し、人事制度の改定・組織改編の手順を説明できるようになる（1時間）。
10	事前学習	グループによる中間レポート（コンサルティングプロジェクトの企画提案書）の作成（3時間）。
	授業内容	ファイナンスと将来設計。大学での学修を将来への自己投資ととらえ、投資を中心としたファイナンスの基礎理論について学修する。
	事後学習	配布資料の内容を復習し、ファイナンス理論の基礎を説明できるようになる（1時間）。
11	事前学習	前回作成した中間レポートに基づいたプレゼンテーションの準備（2時間）。
	授業内容	中間レポートプレゼンテーション。各グループ作成・提出のプレゼンテーション資料（PPT）に基づいて、想定クライアントへの企画提案を行い、それについて講評する。
	事後学習	各グループへの講評を振り返り、期末レポートに結び付ける（2時間）。
12	事前学習	経営学Ⅰのバランス・スコアカード関連の資料（第13、14回）を復習する。あるいは、若林広二「戦略プロファイリング」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 9、2016年を熟読する（3時間）。
	授業内容	バランス・スコアカードコンサルティング1（概要）。前期扱ったバランス・スコアカードを実際に企業に導入する際の手順について学修。
	事後学習	配布資料の内容を復習し、バランス・スコアカードの導入手順を説明できるようになる（1時間）。
13	事前学習	㈱ファーストリテイリングのホームページ（ http://www.fastretailing.com/jp ）に基づいて、ファーストリテイリングの戦略マップを作成する（課題⑤、指定様式使用）（3時間）。
	授業内容	各人作成の戦略マップについて講評し、最適な戦略マップの構築に結び付ける。
	事後学習	各人作成の前略マップを全体の意見を反映させながら修正する（1時間）。
14	事前学習	ファーストリテイリングの戦略マップに基づいてバランス・スコアカードを作成する（課題⑤、指定様式使用）（3時間）。
	授業内容	バランス・スコアカードコンサルティング3（演習2）。各人作成のバランス・スコアカードについて講評し、最適なバランス・スコアカードの構築に結び付ける。
	事後学習	各人作成のバランス・スコアカードを全体の意見を反映させながら修正する（1時間）。
15	事前学習	期末レポート（中間レポートの企画提案書に対応した答申書）作成（3時間）。
	授業内容	まとめ。各回の内容、扱ったコンサルティングツールとそのポイント、キャリアとしての経営コンサルタント等のついで学修。
	事後学習	学生教員共有フォルダーから事前配布資料（PDF）をダウンロードし、全体を復習する（1時間）。

科目名	経営管理研究	担当者	築場 保行	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	景気循環、情報化、グローバル化など経済環境の変化と事業管理、経営管理、会社管理の動態を分析検討する。テキスト、プリント、コピー、板書により講義。適宜、予習用記事コピー配布し授業中にQ&Aをおこなう。					
授業目的・到達目標	経営管理の基礎能力養成を目的とし、学生自身が管理観を身につけられるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：経営法学科 1， 3， 4， 5					
履修条件	経営学領域科目（築場担当）学習が望ましい					
授業方法	講義。板書必要。 試験後ポータルシステムで試験内容講評。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		100%		問題内容の理解度と学生自身の分析力、熟考度を評価する	
	平常評価				授業中のQ&AのA内容、積極性評価し加点	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	桜門書房		経営・管理・組織の歴史・理論と現在		築場保行
	2013	文眞堂		企業の国際化、情報化と日本企業革新のトレンド		築場保行
	備考	テキストは経済学部本館地下桜門書房で販売。試験持込許可教材は新教科書 1 冊のみ				
参考書	適宜指示（プリント配布）					
オフィスアワー	授業（火曜 3 時限）終了後に、質問を受け付ける					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む、テキスト序文学習（2 時間）
	授業内容	なぜ学ぶか？経営管理の領域 用語の意味
	事後学習	授業ノートを読む、新聞の経済記事、ビジネス記事を読む、テキスト文学習（2 時間）
2	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む、テキストと記事の関連部分学習（2 時間）
	授業内容	管理の概念、用法、会社と管理
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む、授業内容を会社例をつうじて学習（2 時間）
3	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2 時間）
	授業内容	事業経営と管理の歴史：古代、中世、近世
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 高校時の学習内容復習（2 時間）
4	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2 時間）
	授業内容	社会的分業、工場制・工場内分業進展と管理 会社制度の歴史 共同出資と管理者・経営者の出現
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業学習内容を会社実例をつうじて学習（2 時間）

5	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	企業組織の発展と経営管理制度の歴史1：作業管理、生産管理、財務管理、経営管理の進展
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
6	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	同上2：販売管理・マーケティングの進展、事業組織の革新 管理の目的・ロジック、トップマネジメントのミッション
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 会社事例から授業内容復習（2時間）
7	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	事業経営、トップマネジメントの思想・理念：日本と欧米
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
8	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読むテキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	企業の競争戦略：価格戦略プライシング、差別化戦略ディファランシエイション
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 会社事例から授業内容復習（2時間）
9	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読むテキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	製品革新、ビジネスモデルイノベーション：カップヌードル、スマートホン、アマゾン、AKB 4 8 イノベーションの継続
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
10	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読むテキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	ビジネスモデルの輸出と国際化：日本モデルの国際化
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 会社事例から授業内容復習（2時間）
11	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読むテキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	経営管理の国際化：ヒト、モノ、カネの国際化と国際経営管理
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
12	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読むテキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	承前：国際経営の人材育成 最新経営管理事例1
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 会社事例から授業内容復習（2時間）
13	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読むテキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	承前：国際経営の人材育成 最新経営管理事例2
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
14	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読むテキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	試験内容復習
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 会社事例から授業内容復習（2時間）
15	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読むテキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	試験及びまとめ、ポイント
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）

科目名	経営管理論	担当者	築場 保行	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	景気循環、情報化、グローバル化など経済環境の変化と事業管理、経営管理、会社管理の動態を分析検討する。テキスト、プリント、コピー、板書により講義。適宜、予習用記事コピー配布し授業中にQ&Aをおこなう。				
授業目的・到達目標	経営管理の基礎能力養成を目的とし、学生自身が管理観を身につけられるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：公共政策学科1， 3， 4				
履修条件	経営学領域科目（築場担当）学習が望ましい				
授業方法	講義。板書必要。 後日、ポータルサイトで定期試験の講評を行う				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		100%	問題の説明と分析力、熟慮度を評価	
	平 常 評 価			授業中のQ&AのA内容、積極性評価し加点	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2018	桜門書房	経営・管理・組織の歴史・理論と現在		築場保行
	2013	文眞堂	企業の国際化、情報化と日本企業革新のトレンド		築場保行
	備考	試験持込許可教材は新教科書1冊のみ			
参 考 書	適宜指示（プリント配布）				
オフィスアワー	授業（火曜3時限）終了後に授業講堂にて質問を受け付ける				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む、テキスト序文学習（2時間）
	授業内容	なぜ学ぶか？経営管理の領域 用語の意味
	事後学習	授業ノートを読む、新聞の経済記事、ビジネス記事を読む、テキスト文（2時間）
2	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む、テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	管理の概念、用法、会社と管理
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む、授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
3	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	事業経営と管理の歴史：古代、中世、近世
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 高校世界史復習（2時間）
4	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	社会的分業、工場制・工場内分業進展と管理 会社制度の歴史 共同出資と管理者・経営者の出現
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）

5	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	企業組織の発展と経営管理制度の歴史1：作業管理、生産管理、財務管理、経営管理の進展
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業を検索復習（2時間）
6	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	同上2：販売管理・マーケティングの進展、事業組織の革新 管理の目的・ロジック、トップマネジメントのミッション
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
7	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	事業経営、トップマネジメントの思想・理念：日本と欧米
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業を検索復習（2時間）
8	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	企業の競争戦略：価格戦略プライシング、差別化戦略ディファランシエイション
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
9	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	製品革新、ビジネスモデルイノベーション：カップヌードル、スマートホン、アマゾン、AKB48 イノベーションの継続
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業を検索復習（2時間）
10	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	ビジネスモデルの輸出と国際化：日本モデルの国際化
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
11	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	経営管理の国際化：ヒト、モノ、カネの国際化と国際経営管理
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業を検索復習（2時間）
12	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	承前：国際経営の人材育成 最新経営管理事例1
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
13	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	承前：国際経営の人材育成 最新経営管理事例2
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業を検索復習（2時間）
14	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	復習
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
15	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 総復習（2時間）

科目名	経営情報システム論Ⅰ	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代の企業等は、「情報システム」と個々の「人間固有の情報処理能力」が相互補完的に機能することで、全体としての組織活動が展開されている。経営情報システム論の講義においては、このような見地から社会的存在としての企業その他組織体の一般的特性を理論化していく。				
授業目的・到達目標	【授業目的】今日の情報技術環境を前提にして、「情報システム」と個々の「人間固有の情報処理能力」の情動的相互作用を組織全体として整合性のあるものにする理論の構築ができ、それによって組織体の維持発展や革新のための提案ができる。 【到達目標】1. 経営情報システムについて説明できる。2. 経営情報システムと情報通信技術の関係について説明できる。 対応DP及びCP：公共政策学科1， 3， 4				
履修条件	特になし。経営情報システム論Ⅱと併せて履修することが望ましい。				
授業方法	パワーポイントとテキストを使用して授業を行い、毎回、課題を提出してもらう。所定授業数の3分の2以上出席しなければ、成績評価の対象にはしない。授業内小テストや提出物のフィードバックについては授業内で解説を実施する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる。 授業に対する姿勢・提出物等で総合的に評価（60%） 授業内テストを実施（40%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017年2月20日	有斐閣アルマ		経営情報論（新版補訂第3刷）	遠山暁・村田潔・岸真理子
	備考				
参考書	労務行政研究所編『HRテクノロジーで人事が変わる AI時代における人事のデータ分析・活用と法的リスク』（労務行政、2018年）				
オフィスアワー	火曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。） 研究室（本館6階601） メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	経営情報システムについて関心を持つ（2時間）
	授業内容	講義計画，成績評価方法
	事後学習	経営情報システムについて関心を持つ（2時間）
2	事前学習	テキストの目次に目を通してること（2時間）
	授業内容	経営情報システム論とは
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
3	事前学習	テキストの該当ページを読んでくこと（2時間）
	授業内容	経営情報論の基礎
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
4	事前学習	テキストの該当ページを読んでくこと（2時間）
	授業内容	経営情報論の基礎理論
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）

5	事前学習	テキストの該当ページを読んでくること（2時間）
	授業内容	経営情報システムの変遷
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
6	事前学習	テキストの該当ページを読んでくること（2時間）
	授業内容	情報通信技術の進展
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
7	事前学習	テキストの該当ページを読んでくること（2時間）
	授業内容	経営情報システムの設計・開発
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
8	事前学習	テキストの該当ページを読んでくること（2時間）
	授業内容	経営情報システムの管理
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
9	事前学習	テキストの該当ページを読んでくること（2時間）
	授業内容	情報通信技術とビジネス・プロセス革新
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
10	事前学習	テキストの該当ページを読んでくること（2時間）
	授業内容	ネット・ビジネス
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
11	事前学習	テキストの該当ページを読んでくること（2時間）
	授業内容	情報通信技術と組織変革
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
12	事前学習	テキストの該当ページを読んでくること（2時間）
	授業内容	情報通信技術と組織コミュニケーション
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
13	事前学習	テキストの該当ページを読んでくること（2時間）
	授業内容	情報通信技術と社会
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
14	事前学習	今までの授業ノートをまとめてくること（2時間）
	授業内容	今後の展望
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
15	事前学習	学習内容の確認（2時間）
	授業内容	総まとめ
	事後学習	授業内容の総点検（2時間）

科目名	経営情報システム論Ⅱ	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	近年、経営情報システムはICTの急激な進歩に伴って大きく変化している。ERP（Enterprise Resource Planning）やSCM（Supply Chain Management）をはじめ、クラウドやIoT、ビッグデータ、AIなど様々な環境の変化に対応し変化している。本講義では、実際に事例に当たることで、企業等で経営情報システムの構築、運用、改善できる知識を身に付けていく。				
授業目的・到達目標	【授業目的】経営情報システムの最新技術への対応を理解しシステムを体験することで、企業等で経営情報システムの構築、運用、改善について提案できる人材を育成する。 【到達目標】1. 経営情報システムの最新技術について理解している。2. 情報通信技術について理解している。3. 経営情報システムの構築、運用、改善について提案できる。対応D P及びC P：公共政策学科1， 3， 4				
履修条件	特になし。経営情報システム論Ⅰと併せて履修することが望ましい。				
授業方法	パワーポイントを使用して授業を行い、毎回、課題を提出してもらう。所定授業数の3分の2以上出席しなければ、成績評価の対象にはしない。授業内小テストや提出物のフィードバックについては授業内で解説を実施する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる。 授業に対する姿勢・提出物等で総合的に評価（60%） 授業内テストを実施（40%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。			
参考書	遠山暁ほか『経営情報論（新版補訂第3刷）』（有斐閣アルマ、2017年）、労務行政研究所編『HRテクノロジーで人事が変わる AI時代における人事のデータ分析・活用と法的リスク』（労務行政、2018年）				
オフィスアワー	火曜日12：15～12：55 ※事前にメール等で必ず連絡・予約すること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	経営情報システムについて調べる（2時間）
	授業内容	講義計画，成績評価方法
	事後学習	経営情報システムについて調べる（2時間）
2	事前学習	授業内容をネットで調べる（2時間）
	授業内容	I C Tによる地球規模でのパラダイムシフト
	事後学習	授業の復習（2時間）
3	事前学習	授業内容をネットで調べる（2時間）
	授業内容	I C Tと経営情報システム
	事後学習	授業の復習（2時間）
4	事前学習	授業内容をネットで調べる（2時間）
	授業内容	経営情報システムの変遷（M I S、D S S、S I S等）
	事後学習	授業の復習（2時間）

5	事前学習	授業内容をネットで調べる（2時間）
	授業内容	経営情報システムの変遷（C l o u d、I o T、ビッグデータ、A I）
	事後学習	授業の復習（2時間）
6	事前学習	授業内容をネットで調べる（2時間）
	授業内容	基幹業務統合システム（ERP）
	事後学習	授業の復習（2時間）
7	事前学習	授業内容をネットで調べる（2時間）
	授業内容	サプライチェーンの全体最適化（SCM）
	事後学習	授業の復習（2時間）
8	事前学習	授業内容をネットで調べる（2時間）
	授業内容	ビッグデータ概念とその戦略的活用
	事後学習	授業の復習（2時間）
9	事前学習	授業内容をネットで調べる（2時間）
	授業内容	パーソナルデータの活用とデータの適正な利用
	事後学習	授業の復習（2時間）
10	事前学習	授業内容をネットで調べる（2時間）
	授業内容	クラウドサービスの活用と問題点
	事後学習	授業の復習（2時間）
11	事前学習	授業内容をネットで調べる（2時間）
	授業内容	A Iの活用と課題
	事後学習	授業の復習（2時間）
12	事前学習	授業内容をネットで調べる（2時間）
	授業内容	H R（Human Resource）テクノロジーの現状と可能性
	事後学習	授業の復習（2時間）
13	事前学習	授業内容をネットで調べる（2時間）
	授業内容	H Rテクノロジーの活用事例
	事後学習	授業の復習（2時間）
14	事前学習	授業内容をネットで調べる（2時間）
	授業内容	情報セキュリティとサイバー攻撃
	事後学習	授業の復習（2時間）
15	事前学習	学習内容の確認（2時間）
	授業内容	総まとめ
	事後学習	授業内容の総点検（2時間）

科目名	経営組織研究	担当者	築場 保行	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経営活動、事業・商業・ビジネスの歴史を最初に学び、そして近現代の企業の経営、管理、組織の発展、さらに近年のIT技術の発展とそのビジネスでの利用について学習する。適宜、経済・ビジネス記事について解説、質問する。			
授業目的・到達目標	経営学の合理的思考を理解することを目的とし、経営組織を設計できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：経営法学科1、2 3 4 公共政策学科1、3、4、5			
履修条件	なし			
授業方法	講義。板書必要。学生に質問する。試験後ポータルシステムで試験内容講評。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		100%	問題内容の理解度と学生自身の分析力、熟考度を評価する
	平常評価		0%	Q&AのAの内容、積極性を評価し加点
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	桜門書房	経営・管理・組織の歴史・理論と現在	築場保行
	2013	文真堂	企業の国際化、情報化と日本企業革新のトレンド	築場保行
	備考	上記ほか新教科書準備中。後日指示。試験持込許可教材は新教科書1冊のみ 経済学部本館地下桜門書房でのみ販売		
参考書	適宜紹介指示			
オフィスアワー	授業（水曜2時限）終了後に質問を受け付ける			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキスト序文学習（2時間）
	授業内容	年間授業計画
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキスト文復習（2時間）
2	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	経営学の体系、経営学を学ぶ意義
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
3	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	商業活動の歴史と意味（1）
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
4	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	商業活動の歴史と意味（2）
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）

5	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	管理活動の歴史（1）
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
6	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	管理活動の歴史（2）
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
7	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	資本主義経営の生成、確立（1）
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
8	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	資本主義経営の生成、確立（2）
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
9	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	ビック・ビジネスの生成と確立
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
10	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	経営管理技術の発展（1）
	事後学習	授業ノート、コピーを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
11	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	経営管理技術の発展（2）
	事後学習	授業ノート、コピーを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
12	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	日本の商業活動、管理活動の歴史
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
13	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	日本の企業活動、企業管理の歴史
	事後学習	授業ノート、コピーを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
14	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	前期まとめ、質疑
	事後学習	授業ノートを読む、コピー復習 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
15	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験問題関連の授業ノート、コピー、新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）

科目名	経営組織論	担当者	築場 保行	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	景気循環、情報化、グローバル化など経済環境の変化と事業組織、管理組織、企業間関係の動態を分析検討する。テキスト、プリント、コピー、板書により講義。適宜、予習用記事コピー配布し授業中にQ&Aをおこなう。					
授業目的・到達目標	経営組織観の養成を目的とし、経営組織の意義を理解し、説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：経営法学科 1， 2， 3， 4 公共政策学科 1， 3， 4					
履修条件	経営学領域科目（築場担当）学習が望ましい					
授業方法	講義 板書必要。 試験後ポータルシステムで試験内容講評。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		100%		問題内容の理解度と学生自身の分析力、熟考度を評価する	
	平常評価				授業中のQ&AのA内容、積極性評価し加点	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	桜門書房		経営・管理・組織の歴史・理論と現在		築場保行
	2013	文真堂		企業の国際化、情報化と日本企業革新のトレンド		築場保行
	備考	上記ほか新教科書準備中 後日指示 試験持込許可教材は最新教科書 1 冊のみ テキストは経済学部本館地下桜門書房でのみ販売				
参考書	適宜紹介、プリント配布。					
オフィスアワー	授業（水曜 2 時限）終了後に質問を受け付ける					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキスト序文学習（2 時間）
	授業内容	経営組織研究の意義、なぜ学ぶか？
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキスト文学習（2 時間）
2	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2 時間）
	授業内容	組織の歴史：古代、中世、近世、近代
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 高校時の学習内容復習（2 時間）
3	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2 時間）
	授業内容	会社組織の生成：東インド会社の誕生、産業革命と工場制大規模組織、会社制度の発展
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 高校時の学習内容復習（2 時間）
4	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2 時間）
	授業内容	組織の理論：組織の意義、分業の意義
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業学習内容を会社実例をつうじて学習（2 時間）

5	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	承前：組織化、その設計、組織原則とモチベーション
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
6	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	資本主義経営組織の生成・発展：産業資本の生成、社会的分業の発展と企業内分業・管理組織生成
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 会社事例から授業内容復習（2時間）
7	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	大規模会社経営の発展と組織の発展：フォード・システム、スタンダード・オイル等。 その再編・発展：事業部制、企業組織の多国籍化
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
8	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	工場管理組織の変革：キャノン、パナソニック等のセル生産組織
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 会社事例から授業内容復習（2時間）
9	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	現代企業の持株会社組織、合併・買収（M&A）の意義
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
10	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	承前：その事例。NTT、メガバンク、セブン&アイ、三越・伊勢丹HD、JフロントR、日本電産等
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 会社事例から授業内容復習（2時間）
11	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	I T と生産・販売・管理組織、企業間関係、SNSの利用
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
12	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	ポイントサービスの普及と企業間関係
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 会社事例から授業内容復習（2時間）
13	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	国際経営と組織
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
14	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	復習&Q&A
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 会社事例から授業内容復習（2時間）
15	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験問題関連の授業ノート、新聞の経済記事、ビジネス記事、プリントを読む（2時間）

科目名	経営訴訟法Ⅰ	担当者	坪川 弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経営法学的観点に立脚すると、現代企業は予防法的・戦略法務的な経営を目指している。前者においてはリコールにいかに対処するか、さらにPL法紛争に対処できる内部統制システムの構築を目指している。他方、後者においてはいかに自社の知的財産権の創造、および活用を推進するかが急務となっている。そして、訴訟以外の方法による紛争解決制度の利用も増加している。これらに対する総合的学習が本講座の目的である。				
授業目的・到達目標	本講義は、経営の意思決定に際しての法的知識の育成を目的とし、さまざまな経営場面における判断基準を容易に選択できるようにすることを目標とする。関連DP及びCP：経営法学科1, 2, 3, 4				
履修条件	民法、商法、民事訴訟法、会社法などを履修していることが望ましいが、条件とはしない。				
授業方法	講義時に配布するプリント、ビデオなどを利用して、講義を進める。また、講義には、六法を持参すること。レポートの講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	前期で取り上げたテーマのレポートを作成・提出する。自身のクラス・プレゼンテーション及び他人の発表に対する評価レポートも評価対象とする。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用せず			
参考書	民法、商法、会社法、民事訴訟法、知的財産権法などのテキスト。				
オフィスアワー	講義等に関する質問および課題の提出は、下記のメール・アドレスへ講義の前日（水曜日）までにアップすること。 tubokawa@shodai.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、授業概要、目的等を理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	経営訴訟法で学ぶべき事項を事後学習で確認する。（2時間）
2	事前学習	企業経営における様々なリーガル・リスクにはどんなものがあるか考えてみること。（2時間）
	授業内容	企業経営とリーガル・リスク
	事後学習	企業の法務部の関心事項がどのようなものか確認すること。（2時間）
3	事前学習	企業は果たして訴訟をすることを好ましいと考えているかどうか自分自身で検討すること。（2時間）
	授業内容	リーガル・リスクとしての訴訟リスク
	事後学習	企業が訴訟リスクを回避するためにどのような法的観点からその是非を検討しているかを考える。（2時間）
4	事前学習	現代の企業においてはどのようなリーガル・リスクがあるかについて検討すること。（2時間）
	授業内容	企業経営におけるリーガル・リスク・マネジメント
	事後学習	講義で検討したリーガル・リスクを再確認すること。（2時間）

5	事前学習	どのような場合に企業はリコールを実行すべきかについて検討すること。（2時間）
	授業内容	企業経営におけるリコールの現代的意義
	事後学習	企業が単なるコスト的観点でリコールを回避した場合の危険性を確認すること。（2時間）
6	事前学習	リコールはあらゆる製造製品に関して発生するが、その製造製品ごとにリコール対応が変わることを確認すること。（2時間）
	授業内容	リコールの特性と企業対応
	事後学習	製造製品によってどのように企業が対応するかは、企業の日常的緊急的体制構築が必要であることを確認すること。（2時間）
7	事前学習	リコールの典型事例といわれる自動車のケースでどれくらいの頻度でリコールが行われているか調べてみること。（2時間）
	授業内容	リコール事例の検討：その1
	事後学習	自動車リコール事例の古典的ケースといえるフォード・ピント事件における企業の対応と裁判の結果について考えてみること。（2時間）
8	事前学習	食品・飲料・生活製品等の日常的に消費者が利用するものに対するリコールについて考えてみること。（2時間）
	授業内容	リコール事例の検討：その2
	事後学習	これらのものの特性に応じた各企業の対処方法について確認すること。（2時間）
9	事前学習	最近発生したリコール事例を検討してみること。（2時間）
	授業内容	リコール事例の検討：その3
	事後学習	最近のリコール事例において成功または失敗したと考えられるものを検討すること。（2時間）
10	事前学習	企業経営におけるコンプライアンスとは何か考えてみること。（2時間）
	授業内容	企業経営とコンプライアンス
	事後学習	東証の『コーポレイトガバナンスコード』がどのようなものか検討すること。（2時間）
11	事前学習	製造物責任法がどのような経緯で成立したか考えてみること。（2時間）
	授業内容	製造物責任法の構造
	事後学習	製造物責任における「製造物の範囲」・「欠陥の種類」・「責任主体」・「免責事由および消滅時効」等がP L法でどのように規定されているか確認すること。（2時間）
12	事前学習	事前に与えられたP Lケースを検討すること。（2時間）
	授業内容	製造物責任訴訟の事例：その1
	事後学習	講義で扱った事例で何が問題になったか検討すること。（2時間）
13	事前学習	事前に与えられたP Lケースを検討すること。（2時間）
	授業内容	製造物責任訴訟の事例：その2
	事後学習	講義で扱った事例で何が問題になったか検討すること。（2時間）
14	事前学習	講義で扱った事例を検討すること。（2時間）
	授業内容	製造物責任のリスク対策
	事後学習	P L対策としての平時及び緊急時体制構築の重要性を確認すること。（2時間）
15	事前学習	前期でやったことの確認をすること。（2時間）
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	今までの講義の内容を再検討すること。（2時間）

科目名	経営訴訟法Ⅱ	担当者	坪川 弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経営法学的観点に立脚すると、現代企業は予防法的・戦略法務的な経営を目指している。前者においてはリコールにいかに対処するか、さらにPL法紛争に対処できる内部統制システムの構築を目指している。他方、後者においてはいかに自社の知的財産権の創造、および活用を推進するかが急務となっている。そして、訴訟以外の方法による紛争解決制度の利用も増加している。これらに対する総合的学習が本講座の目的である。			
授業目的・到達目標	本講義は、経営の意思決定に際しての法的知識の育成を目的とし、さまざまな経営場面における判断基準を容易に選択できるようにすることを目標とする。関連DP及びCP：経営法学科1, 2, 3, 4			
履修条件	民法、商法、民事訴訟法、会社法などを履修していることが望ましいが、条件とはしない。			
授業方法	講義時に配布するプリント、ビデオなどを利用して、講義を進める。また、講義には、六法を持参すること。レポートの講評を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	後期で取り上げたテーマのレポートを作成・提出する。自身のクラス・プレゼンテーション及び他人の発表に対する評価レポートも評価対象とする。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用せず		
参考書	民法、商法、会社法、民事訴訟法、知的財産権法などのテキスト。			
オフィスアワー	講義等に関する質問および課題の提出は、下記のメール・アドレスへ講義の前日（水曜日）までにアップすること。 tubokawa@shodai.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	知的財産権にはどのような種類があるか検討すること。（2時間）
	授業内容	企業経営と知的財産権
	事後学習	個々の知的財産権の具体的な内容を検討してみること。（2時間）
2	事前学習	自社が侵害を受けた場合と他社の特許権等を侵害した場合を検討してみること。（2時間）
	授業内容	特許侵害訴訟の構造
	事後学習	特許侵害訴訟の流れを確認すること。（2時間）
3	事前学習	事前に取り上げた特許侵害訴訟を検討してみること。（2時間）
	授業内容	特許侵害訴訟の事例：その1
	事後学習	講義で取り扱った訴訟の特徴は何かを確認すること。（2時間）
4	事前学習	事前に取り上げた特許侵害訴訟を検討してみること。（2時間）
	授業内容	特許侵害訴訟の事例：その2
	事後学習	講義で取り扱った訴訟の特徴は何かを確認すること。（2時間）

5	事前学習	商標権および不正競争防止法等の事例を考察してみよう。（2時間）
	授業内容	その他の知的財産権関連訴訟：その1
	事後学習	講義で扱った訴訟の特性を確認しよう。（2時間）
6	事前学習	著作権に関する事例を検討してみよう。（2時間）
	授業内容	その他の知的財産権関連訴訟：その2
	事後学習	最近のインターネット関連の著作権問題を検討してみよう。（2時間）
7	事前学習	取締役等の企業経営者の責任を確認すること。（2時間）
	授業内容	経営者の会社に対する責任
	事後学習	講義で確認した取締役等の責任を検討すること。（2時間）
8	事前学習	なぜ株主代表訴訟が提起されるのか考えてみよう。（2時間）
	授業内容	株主代表訴訟の構造
	事後学習	株主代表訴訟の訴訟過程における問題点を確認しよう。（2時間）
9	事前学習	講義で取り扱う株主代表訴訟の事例を検討すること。（2時間）
	授業内容	株主代表訴訟の事例：その1
	事後学習	講義で検討した事例の問題点を明確にすること。（2時間）
10	事前学習	講義で取り扱う株主代表訴訟の事例を検討すること。（2時間）
	授業内容	株主代表訴訟の事例：その2
	事後学習	講義で検討した事例の問題点を明確にすること。（2時間）
11	事前学習	司法改革におけるADRの活用について検討してみよう。（2時間）
	授業内容	ADR（裁判外紛争処理）制度の現代的意義
	事後学習	訴訟とADRの手続きの相違点を確認すること。（2時間）
12	事前学習	どのようなADRがあるか考えてみよう。（2時間）
	授業内容	ADRの種類
	事後学習	様々なADR制度の特性を確認すること。（2時間）
13	事前学習	各ADRの主体と判断効力等について考えてみよう（2時間）
	授業内容	ADRの活用
	事後学習	各ADR制度の現状を確認してみよう。（2時間）
14	事前学習	司法改革以降の企業の法務部の活動を調べてみよう。（2時間）
	授業内容	企業における法務部門の位置付け
	事後学習	これからの法務部門の進展について考えてみよう。（2時間）
15	事前学習	後期の検討項目を確認しよう。（2時間）
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	今までの講義の内容を再検討すること。（2時間）

科目名	経営法学特殊講義（企業と労働）Ⅰ	担当者	若林 広二	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	多くの企業にとって、企業成長と働き方改革の両立が重要課題とされる。企業成長と働き方改革の両立の鍵が、経営戦略とイノベーションである。本講座では、実在企業のケースに基づく課題に取り組むことで、経営戦略の主要理論の適用方法・適用範囲とその限界を理解する。				
授業目的・到達目標	本講座では、組織体の戦略を策定しその実施を推進し、働き方を変えていくための実践的スキルを身につけることを目的とする。「経営学Ⅰ」で取り上げた経営戦略の主要理論の理解を前提に、より多くのケースに接することで、組織内のファシリテーターやリーダーとして戦略作りを推進できるようになることを目標とする。関連ＣＰ・ＤＰ：経営法学科３				
履修条件	「経営学Ⅰ」の履修、あるいは、経営戦略の主要理論を理解していること。				
授業方法	スライド（PPT）に基づく講義、クラス討議、プレゼンテーションで構成。課題１は授業時間中に講評を実施。課題２は希望者にメールにより評価をフィードバック。スライド（PDF）は共有フォルダーで公開。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	クラス貢献40%、課題１ 30%、課題２ 30% （注）成績評価方法は、状況に応じて変更されることがあります。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特に指定しない。			
参考書	榊原清則『経営学入門（上）第２版』日本経済新聞社2013年、伊丹敬之・西野和美『ケースブック経営戦略の論理（全面改定版）』日本経済新聞社2012年				
オフィスアワー	水曜 18：00～20：00（休暇中を除く、要事前メール連絡） 木曜 15：00～16：10、18:00～19:00（同上） 金曜 18：00～20：00（同上） 研究室（４号館２階421号室）メールアドレス：wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	経営学Ⅰの授業コンテンツの復習（２時間）。
	授業内容	オリエンテーション。シラバスに基づく授業全体の内容について説明。前年度当科目授業評価アンケート結果の報告とアクションプランシート（授業改善計画）について説明。
	事後学習	配布資料の内容の復習と、戦略プロファイリング対象企業候補を検討（２時間）。
2	事前学習	レビット、T. 「マーケティング近視眼」『ダイヤモンド・ハーバード・ビジネス』1993年2月-3月号（コピー事前配布）を熟読し、若林広二『道具としての「事業定義」』中央経済社2012年1～33頁（コピー事前配布）に目を通す（２時間）。
	授業内容	事業定義１（理論）。事業定義の重要性の再確認と事業定義手順について学修。
	事後学習	配布資料の内容の復習に基づき、事業定義を企業組織で実際に実施できるようになる（２時間）。
3	事前学習	セコムのケース（コピー事前配布）に基づく、機能の変遷と事業定義（ドメイン）のもたらす効果についてワークシートを用いた検討（３時間）。
	授業内容	事業定義２（ケース）。セコムのケースの詳細な分析に基づく事業定義（ドメイン）の変化についての学修。
	事後学習	配布資料の内容の復習と事前に作成したワークシートの修正（１時間）
4	事前学習	若林広二「戦略プロファイリング」『日本大学知財ジャーナル』Vol. 9、2016年（コピー事前配布）を熟読し、戦略プロファイリングの概念を理解する（３時間）。
	授業内容	戦略プロファイリング１（理論）。戦略プロファイリングの背景、定義、実施方法について学修。
	事後学習	配布資料の内容の復習により「戦略プロファイリング」を説明できるようになる（１時間）。

5	事前学習	大前研一『マッキンゼー現代の経営戦略』プレジデント社1979年35～74ページ（コピー事前配布）を読む（3時間）。
	授業内容	製品・市場戦略1（理論）。製品・市場戦略の概念、策定方法、適用対象について学修。
	事後学習	配布資料の内容の復習により「製品・市場戦略」の適用手順を説明できるようになる（1時間）。
6	事前学習	アスクルのケース（コピー事前配布）を読み、それに基づく製品・市場分析、K F S（成功要因）等についてワークシートを用いて検討する（3時間）。
	授業内容	製品・市場戦略2（ケース）。各人作成のワークシートに基づく現実の製品・市場戦略についての学修。
	事後学習	配布資料の内容の復習による製品・市場分析の方法と製品・市場戦略への結び付け方について説明できるようになる（1時間）。
7	事前学習	ポーター，M．E．（土岐他訳）『競争の戦略』ダイヤモンド社1982年17～54頁（コピー事前配布）を熟読する（3時間）。
	授業内容	SWO Tと業界構造分析1（理論）。外部環境と経営資源の分析に用いられるSWO Tと5フォースの適用に重点を置いた学修。
	事後学習	配布資料の内容の復習による5フォースの正しい適用方法を説明できるようになる（1時間）。
8	事前学習	アップルのケース1（P Cメーカー時代、コピー事前配布）に基づいた、ワークシートを用いたアップルのSWO T分析と5フォースによるパソコン業界の業界構造の分析（3時間）。
	授業内容	SWO Tと業界構造分析2（ケース1）。マッキントッシュ時代のアップルを通して、SWO Tと5フォースの適用方法を学修。
	事後学習	各人作成のワークシートの修正（1時間）。
9	事前学習	アップルのケース2（iPod・iPhone時代、コピー事前配布）に基づいた、ワークシートを用いたアップルのSWO T分析と5フォースによるパソコン業界の業界構造の分析（3時間）。
	授業内容	SWO Tと業界構造分析3（ケース2）。iPod・iPhone等プラットフォームへの成長過程のアップルについて、ケース1からSWO Tで導かれる戦略仮説がケース2で実際に実施されたか検証する。
	事後学習	各人作成のワークシートの修正（1時間）。
10	事前学習	課題1（個別企業の戦略プロファイリング）の作成（3時間）。
	授業内容	戦略プロファイリング2（ケース1）。各人作成の戦略プロファイリング結果（戦略マップ）について講評。
	事後学習	各人作成の戦略プロファイリング結果に対する講評を整理（1時間）。
11	事前学習	講評に基づいて戦略マップを修正（2時間）。
	授業内容	戦略プロファイリング3（ケース2）。修正後の戦略プロファイリング結果について講評。
	事後学習	修正した戦略プロファイリングへの講評内容を復習し、戦略プロファイリングのスキルを修得する（2時間）。
12	事前学習	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年85～100ページ（コピー事前配布）を熟読する（3時間）。
	授業内容	PPM 1（理論）。企業戦略の観点より各事業の位置付け（重点投資、収益源、撤退等）を明確にするツール。各種ポートフォリオ分析手法の背景、概念、作り方と使い方、長所・短所について学修。
	事後学習	配布資料の内容の復習により、PPMの概念を説明できるようになる（1時間）。
13	事前学習	GE（コピー事前配布）のケースより、花形・金のなる木・問題児・負け犬事業を選定、シャープのケース（コピー事前配布）より、成功事業・失敗事業を選定する（3時間）。
	授業内容	PPM 2（ケース）
	事後学習	配布資料の内容の復習により、PPMの結果の適用方法を修得する（1時間）。
14	事前学習	ブラハラード，C.K.&ハメル,G.「コア・コンピタンス経営」『ハーバード・ビジネス・レビューBEST10論文』2014年307～45ページ（コピー事前配布）より、コア・コンピタンス(core competencies)の定義、コア・コンピタンスの要件についてワークシートに基づいて考察した上で、セイコーエプソンのケース（コピー事前配布）を分析（3時間）。
	授業内容	コア・コンピタンス（ケース）。コア・コンピタンスの概念について復習した上で、ケースによりそれを実在企業に適用する。
	事後学習	配布資料の内容の復習により、コア・コンピタンスを説明できるようになる（1時間）。
15	事前学習	課題2：課題1と異なる企業について戦略プロファイリングの実施（3時間）。
	授業内容	まとめ（AI時代の経営戦略）。経営戦略の主要理論とその適用方法についてまとめる。今後急速な普及が予想されるAIの経営戦略プロセスへの影響についても触れる。
	事後学習	学生教員共有フォルダーから事前配布資料（PDF）をダウンロードして全体を復習し、オリエンテーションで説明した授業全体の体系と各理論や専門用語が理解できたかを確認する（1時間）。

科目名	経営法学特殊講義（企業と労働）Ⅱ	担当者	若林 広二	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	多くの企業にとって、企業成長と働き方改革の両立が重要課題とされる。企業成長と働き方改革の両立の鍵が、経営戦略とイノベーションである。本講座では、実在企業のケースに基づく課題に取り組むことで、経営戦略の主要理論の適用方法・適用範囲とその限界を理解する。また、イノベーション＝「価値創造」という認識の下、イノベーションの主要フレームワークをケースを用いながら理解する。				
授業目的・到達目標	本講座では、企業を成長させ従業員の働き方を変えるイノベーションとは何かを理解した上で、イノベーションの主要理論について学修することを目的とする。現象としてのイノベーションを、イノベーション理論で説明できるようになることを目標とする。関連ＣＰ・ＤＰ：経営法学科３				
履修条件	特になし。				
授業方法	スライド（PPT）に基づく講義、クラス討議、プレゼンテーションで構成。中間課題は授業時間中に講評を実施。期末課題は希望者に対してメールにより評価をフィードバック。スライド（PDF）は共有フォルダーで公開。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	クラス貢献40%、中間課題20%、期末課題40% （注）成績評価方法は、状況に応じて変更されることがあります。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2010	新世社		コア・テキスト イノベーション・マネジメント	近能善範 高井文子
	備考				
参考書	榊原清則『経営学入門（上）第２版』日本経済新聞社2013年、伊丹敬之・西野和美『ケースブック経営戦略の論理（全面改定版）』日本経済新聞社2012年、P.F.ドラッカー『イノベーションと企業家精神』ダイヤモンド社2015年				
オフィスアワー	水曜 18：00～20：00（休暇中を除く、要事前メール連絡） 木曜 15：00～16：10、18:00～19:00（同上） 金曜 18：00～20：00（同上） 研究室（４号館２階421号室）メールアドレス：wakabayashi.koji@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	最近の新聞記事の中から、「イノベーション」と思われる事例を２つあげる（１時間）。
	授業内容	オリエンテーション。シラバスに基づく授業全体の内容について説明。経営法学特殊講義（企業と労働）Ⅰ授業評価アンケート結果の報告とアクションプランシート（授業改善計画）について説明。
	事後学習	配布資料の復習（３時間）。
2	事前学習	教科書『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』1～17頁に目を通し、「イノベーション」とは何か（定義）について検討する（２時間）。
	授業内容	イノベーションの定義。代表的なイノベーションの定義をあげ、それらより、授業における定義を作る。また、イノベーションとそうでないものの違いより、イノベーションの意味について学修する。
	事後学習	配布資料の内容の復習により、イノベーションを説明できるようになる（２時間）。
3	事前学習	教科書『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』19～45頁を読む（３時間）。
	授業内容	イノベーションとバリューチェーン（理論）。イノベーションがバリューチェーン上を移動する上での阻害要因について学修する。
	事後学習	配布資料の内容の復習により、３つの阻害要因について説明できるようになる（１時間）。
4	事前学習	ゼロックスのケース（コピー事前配布）について、ゼロックスの事業定義の変化、P A R Cでのアルト（Alto）の商品化に向けての阻害要因等について検討（３時間）。
	授業内容	イノベーションとバリューチェーン（ケース）。ゼロックスのケースの詳細な分析より、３つの阻害要因の企業活動における実際を学修する。
	事後学習	配布資料の内容の復習により、イノベーションの３つの阻害要因について説明できるようになる（１時間）。

5	事前学習	教科書『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』47～80頁を熟読する（3時間）。
	授業内容	イノベーションのライフサイクル。イノベーションを時間軸でとらえ、その進展を曲線で表現したモデル（理論）について学修する。
	事後学習	配布資料の内容の復習により、イノベーションの時間による様々なモデルを説明できるようになる（1時間）。
6	事前学習	教科書『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』73～112頁、119～132頁を読んで、業務用カラオケにおけるイノベーションをワークシートをワークシートを用いて分析する（3時間）。
	授業内容	イノベーションの連続性。イノベーションの連続性（非連続性）を性能面、顧客価値（機能）面、経営資源面よりとらえ、相互の差について学修する。
	事後学習	配布資料の内容の復習により、イノベーションの連続性の3つの視点間の差を説明できるようになる（1時間）。
7	事前学習	教科書『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』113～8頁、191～222頁を熟読する（3時間）。
	授業内容	イノベーションとアーキテクチャ。アーキテクチャ（製品の構造・部品構成）の2つの軸（部品間特性・オープン化特性）について学修する。
	事後学習	配布資料の内容の復習により、特定のイノベーションを2軸に位置付けられるようになる（1時間）。
8	事前学習	クリステンセン, C.（玉田俊平太訳）『イノベーションのジレンマ』翔泳社2001年27～58頁（第1章）より技術一顧客価値のマトリクスにHDDにおけるイノベーションを位置付け、アップルのケース1（前期使用）より主要パソコンを部品間特性・オープン化特性の2軸に位置付ける（3時間）。
	授業内容	イノベーションの課題。これまでに扱ったいくつかの間違いやすい類似概念を、実際の例によって確認するとともに、イノベーションを起こすための理論（現象を説明するための理論ではなく）について学修する。
	事後学習	配布資料の内容の復習により、イノベーションを起こす方法について説明できるようになる（1時間）。
9	事前学習	中間課題（イノベーションのケース分析レポートの中間報告）作成（3時間）
	授業内容	中間課題プレゼンテーション。各人作成の中間報告（PPT）資料に基づく報告と、それに対する講評。
	事後学習	配布資料の内容の復習により、期末課題に向けての指針とする（1時間）。
10	事前学習	知的財産マネジメントのサイクル（モデル）について調べる（1時間）。
	授業内容	イノベーションと知的財産。イノベーションの役割を知的財産マネジメントの観点より学修する。
	事後学習	配布資料の内容の復習により、イノベーションと知的財産の相互関係について説明できるようになる（3時間）。
11	事前学習	ゴビンダラジャン, V（渡部典子訳）『リバーズ・イノベーション』ダイヤモンド社2012年247～76頁（コピー事前配布）を読み、GEのリバーズ・イノベーションの成功要因について検討する（3時間）。
	授業内容	イノベーションとBOP（ケース）。BOP（ベース・オブ・ピラミッド：新興国市場）におけるイノベーションとその展開プロセスについて学修する。
	事後学習	配布資料の内容を復習することにより、リバーズ・イノベーションの概念を説明できるようになる（1時間）。
12	事前学習	入山章栄『世界の経営学者はいま何を考えているのか』英治出版2012年、125～148頁（第7章）、149～185頁（第8、9章）を熟読し、社会的ネットワーク論とイノベーションの関係について考察する（3時間）。
	授業内容	イノベーション組織。社会的ネットワーク論の主要なものについて概説し、それらより、イノベーション組織（イノベーションが起きやすい組織）作りの方法について学修する。
	事後学習	配布資料の内容の復習により、イノベーション組織が説明できるようになる（1時間）。
13	事前学習	若林広二『戦略づくりの七つ道具』中央経済社2004年159～181頁を熟読する（3時間）。
	授業内容	イノベーションの評価。イノベーションの進展を評価するしくみとして、バランス・スコアカードが適用できる。イノベーション評価のツールとしてのバランス・スコアカードについて学修する。
	事後学習	配布資料の内容の復習により、バランス・スコアカードについて説明できるようになる（1時間）。
14	事前学習	若林広二『道具としての「事業定義」』中央経済社2012年、1～33頁（前期配布済み）を読み、イノベーション、経営戦略、企業成長の関係について考察する（3時間）。
	授業内容	イノベーションと経営戦略。「事業定義（経営戦略）→イノベーション→企業成長」という経営における一連の因果関係に直目し、本講座の意義について学修する。
	事後学習	配布資料の内容の復習により、イノベーション企業成長の関係について説明できるようになる（1時間）。
15	事前学習	期末課題（イノベーションのケース）の作成（4時間）。
	授業内容	まとめ。イノベーションの定義、イノベーションとバリューチェーン、イノベーションのライフサイクル、イノベーションの連続性、イノベーションとアーキテクチャ、イノベーションと知財、イノベーションとBOP、イノベーション組織、イノベーションの評価、イノベーションと経営戦略といった項目のポイントについて振り返る。
	事後学習	学生教員共有フォルダーから事前配布資料（PDF）をダウンロードして全体を復習し、オリエンテーションで説明した授業全体の体系と各理論や専門用語が理解できたかを確認する（1時間）。

科目名	経営法学特殊講義(ビジネス法学入門) I	担当者	石井 美緒	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	我々の日々の生活は学生であってもビジネスと大きく関わっているものであり、また、社会人になればなおさら、ビジネスと密接な関連を持つことになる。そのようなビジネスと法律や契約は切り離せない関係にあり、ビジネス法務を学ぶことは、有益であるに留まらず、これらを学ばないと様々なリスクが発生するといっても過言ではない。このような観点から、在学中にビジネス法務を学んでおくことが重要であると思われる。				
授業目的・到達目標	日々の生活と大きく関わるビジネス法務に関する知識を養成することを目的とする。 講義を通して、我々の生活と法律の関係を具体的に理解し、説明できるようになることを目標とする。さらには、講義で学ばなかった事例等についても、法務の視点からどのような要素を考察する必要があるかを考える姿勢を身につけること。				
履修条件	関連科目及び併修科目経営経済学特殊講義（ビジネス法学入門）Ⅱを引き続き履修することが望ましい）				
授業方法	原則として講義形式を取る。併せて、授業内にコメントシートを作成・提出して貰い、次回講義で参考になる内容をフィードバックする形式を取る（ただし、フィードバックにあたっては作成者個人が特定されないように配慮する）。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		60%		60%：試験（最終回授業）において、論述式による問題を出し、講義で扱った法的問題について適切に理解をしているか確認する。
	平常評価		40%		40%：講義で取り扱った内容をもとに教員が指示したテーマや事例について、授業の後半でコメントシートを作成して頂く。
教科書	年	出版社		書名	著者名
				指定なし	
	備考				
参考書	授業内で適宜紹介する。				
オフィスアワー	金曜3限授業後 希望者は授業講堂にて申し出ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ふだんの生活の中で法律問題等について疑問や関心のあるテーマや事例について確認しておく。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション
	事後学習	日常生活やメディア等を通して、様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にどのような問題があるかを意識するようにして欲しい。（2時間）
2	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えてくること。（2時間）
	授業内容	ビジネスの主体、契約とは何か、法律と契約の関係
	事後学習	日常生活やメディア等を通して、本日のテーマについて、様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
3	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えてくること。（2時間）
	授業内容	具体的取引 1－1：売買契約①
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
4	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えてくること。（2時間）
	授業内容	具体的取引 1－2：売買契約②
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）

5	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えてくること。（2時間）
	授業内容	具体的取引 2－1：賃貸借契約①
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
6	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えてくること。（2時間）
	授業内容	具体的取引 2－2：賃貸借契約②
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
7	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えてくること。（2時間）
	授業内容	具体的取引 3－1：金銭消費貸借契約①
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
8	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えてくること。（2時間）
	授業内容	具体的取引 3－2：金銭消費貸借契約②
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
9	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えてくること。（2時間）
	授業内容	具体的取引 4：委託・請負契約その他
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
10	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えてくること。（2時間）
	授業内容	債権管理・債権回収
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
11	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えてくること。（2時間）
	授業内容	知的財産の保護 1：知的財産とは、発明の保護
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
12	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えてくること。（2時間）
	授業内容	知的財産の保護 2：ブランド
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
13	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えてくること。（2時間）
	授業内容	知的財産の保護 3－1：著作物①
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
14	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えてくること。（2時間）
	授業内容	知的財産の保護 3－2：著作物②
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
15	事前学習	前回までに配布されたレジュメ等を読み、これまでの総合復習を行う。（2時間）
	授業内容	復習と試験・解説
	事後学習	試験の復習を行う。（2時間）

科目名	経営法学特殊講義(ビジネス法学入門)Ⅱ	担当者	石井 美緒	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	我々の日々の生活は学生であってもビジネスと大きく関わっているものであり、また、社会人になればなおさら、ビジネスと密接な関連を持つことになる。そのようなビジネスと法律や契約は切り離せない関係にあり、ビジネス法務を学ぶことは、有益であるに留まらず、これらを学ばないと様々なリスクが発生するといっても過言ではない。このような観点から、在学中にビジネス法務を学んでおくことが重要であると思われる。				
授業目的・到達目標	日々の生活と大きく関わるビジネス法務に関する知識を養成することを目的とする。 講義を通して、我々の生活と法律の関係を具体的に理解し、説明できるようになることを目標とする。さらには、講義で学ばなかった事例等についても、法務の視点からどのような要素を考察する必要があるかを考える姿勢を身につけること。				
履修条件	特になし（ただし、経営法学特殊講義（ビジネス法学入門Ⅰ）を履修していることが望ましい）				
授業方法	原則として講義形式を取る。併せて、授業内にコメントシートを作成・提出して貰い、次回講義で参考になる内容をフィードバックする形式を取る（ただし、フィードバックにあたっては作成者個人が特定されないように配慮する）。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		60%		60%：試験（最終回授業）において、論述式による問題を出し、講義で扱った法的問題について適切に理解をしているか確認する。
	平常評価		40%		40%：講義で取り扱った内容をもとに教員が指示したテーマや事例について、授業の後半でコメントシートを作成して頂く。
教科書	年	出版社		書名	著者名
				指定なし	
	備考				
参考書	授業内で適宜紹介する。				
オフィスアワー	金曜3限授業後 希望者は授業講堂にて申し出ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ふだんの生活の中で法律問題等について疑問や関心のあるテーマや事例について確認しておく。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション
	事後学習	日常生活やメディア等を通して、様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にどのような問題があるかを意識するようにして欲しい。（2時間）
2	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えておくこと。（2時間）
	授業内容	経営法学特殊講義Ⅰ（ビジネス法学入門）の振り返り～本講義に関係する内容の抜粋
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して、様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
3	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えておくこと。（2時間）
	授業内容	知的財産の保護１：営業秘密などの不正競争
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して、様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
4	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えておくこと。（2時間）
	授業内容	知的財産の保護２：デザインの保護
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して、様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）

5	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えておくこと。（2時間）
	授業内容	個人の情報等に関する法律 1：個人情報保護、マイナンバー
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して、様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
6	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えておくこと。（2時間）
	授業内容	個人の情報等に関する法律 2：プライバシー、肖像権、パブリシティ
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して、様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
7	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えておくこと。（2時間）
	授業内容	個人の情報等に関する法律 3：名誉毀損等
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して、様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
8	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えておくこと。（2時間）
	授業内容	消費者に関する法律：消費者契約法、景品表示法等
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して、様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
9	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えておくこと。（2時間）
	授業内容	従業者に関する法律 1：労働法①
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して、様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
10	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えておくこと。（2時間）
	授業内容	従業者に関する法律 2：労働法②
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して、様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
11	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えておくこと。（2時間）
	授業内容	従業者に関する法律 3：労働法③
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して、様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
12	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えておくこと。（2時間）
	授業内容	会社の仕組み
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して、様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
13	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えておくこと。（2時間）
	授業内容	コンプライアンス：不祥事対応、内部告発
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して、様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
14	事前学習	本講義のテーマについて、これまで得た知識や経験を通して考えておくこと。（2時間）
	授業内容	企業法務とは
	事後学習	今回の講義テーマについて、日常生活やメディア等を通して、様々な具体的事例やトピックスに触れるようにし、法的にはどのように取り扱われているか、また法的にどのような問題があるかを確認・意識するようにして欲しい。（2時間）
15	事前学習	前回までに配布されたレジュメ等を読み、これまでの総合復習を行う。（2時間）
	授業内容	復習と試験・解説
	事後学習	試験の復習を行う。（2時間）

科目名	経済学 I	担当者	川又 祐	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、経済社会のしくみを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とりわけ経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。また、各種公務員試験や資格試験において、経済学は重要科目となっている。経済学の学びを通じて、試験対策に役立つ基礎的事項を学習する。			
授業目的・到達目標	中級・上級科目及び発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の習得を目的とする。あわせて、現実社会で起こっている経済的事象を、学生自ら理解し、説明できるようになることを目的とする。 関連DP及びCP：政治経済学科 1、2、3、4 新聞学科 1、5 公共政策学科 1、3、4			
履修条件	特になし			
授業方法	教科書に沿って授業を進める。講義形式となるのでノートの整理が欠かせない。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	論述試験の成績で評価	
	平常評価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	弘文堂	経済学入門	楠谷清、川又祐編
	備考			
参考書	使用しない。			
オフィスアワー	毎週金曜日昼休み、本館8階の研究室で質問・相談に応じます。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を読み、経済学の内容を理解する。経済学が想定する「経済人」を調べる。2時間
	授業内容	第1章 経済学の基本問題と経済学の課題 1 経済と経済学 2 経済循環の構造 3 市場経済・計画経済・混合経済
	事後学習	ノートを整理して経済学の課題を整理する。2時間
2	事前学習	市場機構の仕組みや役割を予習する。また経済学の歴史や流れを概観する。2時間
	授業内容	4 市場機構の仕組み 5 経済学の歴史
	事後学習	興味ある経済学者について調べる。2時間
3	事前学習	「経済主体」、「消費者」、「効用」、「無差別曲線」の概念を予習する。2時間
	授業内容	第2章 消費者行動の理論 1 消費者行動 2 効用関数と無差別曲線
	事後学習	「経済主体」、「消費者」、「効用」、「無差別曲線」の概念を説明できるようにする。2時間
4	事前学習	消費者の合理的行動について予習する。2時間
	授業内容	3 最適消費の決定 4 所得変化と価格変化の効果
	事後学習	消費者の効用極大条件を説明できるようにする。2時間

5	事前学習	経済主体である「生産者（企業）」の概念を予習する。2時間
	授業内容	第3章 生産者行動の理論 1 生産者の行動
	事後学習	「生産者（企業）」の目的を説明できるようにする。2時間
6	事前学習	生産に必要なものは何か（生産要素）、を予習する。2時間
	授業内容	2 生産関数
	事後学習	生産要素投入量と産出量（生産量）との関係を説明できるようにする。2時間
7	事前学習	経済学における短期と長期の違いを調べる。2時間
	授業内容	3 費用関数
	事後学習	費用の概念を説明できるようにする。2時間
8	事前学習	生産者の合理的行動を調べる。2時間
	授業内容	4 最適生産の決定
	事後学習	生産者の利潤極大条件を説明できるようにする。2時間
9	事前学習	供給曲線の形状を調べる。2時間
	授業内容	5 供給曲線
	事後学習	「損益分岐点」、「操業停止点」を説明できるようにする。2時間
10	事前学習	経済学でいう「市場」の概念を予習する。2時間
	授業内容	第4章 競争市場均衡
	事後学習	需要曲線と供給曲線の関係を説明できるようにする。2時間
11	事前学習	「効用」と「利潤」の概念を確認する。2時間
	授業内容	2 余剰分析
	事後学習	消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰を説明できるようにする。2時間
12	事前学習	条件が変化したら需要曲線や供給曲線はどのように変化するかを予習する。2時間
	授業内容	3 比較静学
	事後学習	与件の変化による市場均衡の変化を説明できるようにする。2時間
13	事前学習	市場の種類を調べる。2時間
	授業内容	第5章 不完全競争市場 1 不完全競争市場とは
	事後学習	独占市場を説明できるようにする。2時間
14	事前学習	生産者の利潤極大化条件を再確認する。2時間
	授業内容	2 完全独占市場
	事後学習	独占市場における利潤極大条件を説明できるようにする。2時間
15	事前学習	有名なブランドをいくつか調べてみる。2時間
	授業内容	3 独占的競争・寡占市場
	事後学習	製品の差別化やブランドの重要性を説明できるようにする。2時間

科目名	経済学 I	担当者	楠谷 清	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することが出来るが、この講座では、主に消費者（家計）、企業の行動分析に関するミクロ理論を学習し、市場の需要曲線と供給曲線を導出し、市場における価格決定の理論を学習する。				
授業目的・到達目標	中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、ミクロ・マクロ経済学や財政学、公共経済学、国際経済学といった応用経済学の理解を深めるに初級の経済理論の修得し、社会で生じる価格決定や価格の変動について、受講生が説明できることを目標とする。関連D P及びC P：政治経済学科 1， 2， 3， 4 新聞学科 1， 5 公共政策学科 1， 3， 4				
履修条件	なし				
授業方法	テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配付する。スライド（パワー・ポイント）を使用して講義を行う。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		80%	筆記試験は経済学の重要概念が習得されているかを判定する。授業中に解説された基本的な項目・事項について理解すること。	
	平 常 評 価		20%	レポート提出、授業への参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2015年	弘文堂		『Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版』	楠谷. 川又編著
	備考				
参 考 書	伊藤元重著『入門 経済学 第2版』（日本評論社）、マンキュー著『マンキュー入門経済学（第2版）』（東洋経済新報社）、竹内靖雄著『経済思想の巨人たち』（新潮文庫）、その他、授業中に適宜紹介する。				
オフィス アワー	火曜日 15:00～16：00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読む。 教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的にできるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書 第1章の「1．経済と経済学」「2．経済循環の構造」「3．市場経済・計画経済・混合経済」の部分を再度読み、経済と経済学の関係、経済用語の概念を考察する。（2時間）
	授業内容	【経済学の基本問題と経済学の課題1】 経済と経済学の関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。経済循環の構造を学習し、消費者（家計）、企業、政府との財や金の流れから経済主体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、第1章末の問題（1）と（2）を自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書 第1章の「4．市場機構の仕組み」を読み、市場機構の大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【経済学の基本問題と経済学の課題2】 市場とは何か、財の価格と生産量はどのように決定するのか、価格が上がったり下がったりするのはなぜか、市場の需要曲線と供給曲線の意義を学習して市場機構の仕組みを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、需要曲線や供給曲線が移動すると価格と生産量はどのように変化するか、作図してみよう。（2時間）
4	事前学習	教科書 第1章の「5．経済学の歴史」を読み、歴史に残る著名な経済学者の時代的背景や学説を考察する。（2時間）
	授業内容	【経済学の基本問題と経済学の課題3】 経済学の大きな流れとして、重商主義、重農主義、アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、ワルラス、マーシャル、ケインズ、フリードマン等の学説の特徴を学習し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートや配付資料を確認して、スミス、マルクス、ケインズの経済学の特質について自分なりの説明をまとめる。（2時間）

5	事前学習	教科書 第2章の「1. 消費者行動」「2. 効用関数と無差別曲線」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【消費者行動の理論1】 消費者行動とは何か、また、消費者行動の分析に用いる効用関数と無差別曲線の概念を身近な例を挙げて学習する。
	事後学習	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題（1）と（2）を解いてみる。（2時間）
6	事前学習	教科書 第2章の「3. 最適消費の決定」「4. 所得変化と価格変化の効果」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【消費者行動の理論2】 予算制約線の概念を学習し、予算制約線と無差別曲線を用いて、予算制約の下で消費者はどのように買い物をすれば満足を最大化できるか最適消費の決定を理解する。さらに、消費者の所得が変化や財の価格が変化が、消費者の財購入にどう影響するか学習する。また、財の価格変化と消費者の購入量変化から消費者の需要曲線を導出する。
	事後学習	講義ノートや配付資料を確認して、章末にある問題（3）と（4）を解いてみる。（2時間）
7	事前学習	教科書 第3章の「1. 生産者の行動」、「2. 生産関数」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【生産者行動の理論1】 生産者の行動とは何を意味するのか学習する。また、生産要素の投入量と生産量の技術的関係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を学習する。
	事後学習	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題（1）を解いてみる。（2時間）
8	事前学習	教科書 第3章の「3. 等量曲線と費用最小化」、「4. 費用関数」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【生産者行動の理論2】 企業が生産要素を購入する費用に限りがある。その費用で購入できる生産要素の組み合わせを表す等費用線を学習する。等費用線と等量曲線から要素投入の最適条件を学習する。さらに、生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を学習する。
	事後学習	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題（2）について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書 第3章の「5. 最適生産の決定」、「6. 供給曲線」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【生産者行動の理論3】 最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について学習する。また、財の市場価格変化と企業の各種費用曲線から企業の供給曲線を導出する。
	事後学習	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題（3）を自分なりの説明でまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書 第4章の「1. 市場の分類」、「2. 市場の均衡」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【競争市場均衡1】 市場の分類と各市場の相違点を学習する。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法を学習し、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析、について学習する。
	事後学習	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題（1）と（2）を自分なりの説明でまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書 第4章「3. 余剰分析」、「4. 比較静学」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【競争市場均衡2】 経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を学習する。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト（移動）の原因を学習し、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを考察する。
	事後学習	講義ノートと配付資料を確認し、章末の問題（3）を自分なりの説明でまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書 第5章「1. 独占市場」、「2. 完全独占市場」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【不完全競争市場1】 独占市場とはどのような市場をいうのか学習する。完全独占市場における独占企業の特徴を完全競争市場における企業と比較して学習する。
	事後学習	講義ノートと配付資料を確認して、完全競争市場に在る企業の個別需要曲線と独占企業の個別需要曲線の相違について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
13	事前学習	教科書 第5章の「3. 価格差別」、「4. 独占と資源配分の効率性」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【不完全競争市場2】 価格差別の概念を学習。また、独占が資源配分の非効率をもたらし、結果として、社会に損失をもたらすことを余剰概念を用いて理論的に学習する。
	事後学習	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題（1）と（2）について自分なりの説明でまとめる。（2時間）
14	事前学習	教科書 第5章の「5. 不完全競争と独占的競争」、「6. 寡占市場とゲームの理論」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【不完全競争市場3】 不完全競争理論と独占的競争理論とはそれぞれどのような状況を想定した理論であるのか学習する。また独占度の測定理論であるラーナーの尺度を学習。さらに、寡占市場の企業戦略を分析するゲームの理論を学習する。
	事後学習	囚人のジレンマ理論が、社会的取引や国家間の取引のどのような場面の分析に応用できるか、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
15	事前学習	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、ミクロ経済学の体系を考察する。（2時間）
	授業内容	講義のまとめ
	事後学習	初回からの教科書の各章と授業ノートを見直し、期末試験に向けて準備をする。（2時間）

科目名	経済学Ⅰ	担当者	斎藤 英明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経済学の基礎部分を学び、経済学でたびたび使用される用語の意味を整理する。そして、特にミクロ経済学と分類される経済学の導入部分について学ぶ。			
授業目的・到達目標	新聞やニュースなどを通して伝えられる政治経済の諸問題は、さまざまな形で私たちの生活と関係している。経済学の授業では、日々伝えられている事柄が、どのような仕組みによって発生し、どのようにして私たちの生活に影響しているのかについて興味・関心を持つことを養成することを目的とする。 政治経済の問題に興味・関心を持ち、積極的に目を向ける習慣を身に付けることが最大の目標である。そして、さまざまな理論や考え方を学びながら、自分の意見を自分の言葉で表現できるようにすることをそれに次ぐ目標とする。対応DP及びCP：政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	特に条件は無し。経済学の基本から学ぶため、高校生の時やこれまでに政治経済を学んだことがなくても問題は無い。経済学Ⅱも継続して履修すると、より楽しく学べるだろう。			
授業方法	【授業区分】にしたがって講義形式で進める。授業の最後に質問やコメントを書いてもらい、次の授業でレスポンスするなど、双方向性を高めたいと考えている。定期試験の解説は試験終了後、ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		100%	授業で学んだ理論や考え方が身に付き、自分の言葉で説明できるようになっているかを筆記試験にて判断する。
	平常評価		0%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特に指定しません。授業で使用する教材については、毎回ポータル等を通じて配布します。		
参考書	山口正春・楠谷清編著（2015）『Next教科書シリーズ 経済学入門』弘文堂 その他、必要に応じて適宜紹介します。			
オフィスアワー	木曜授業後（12:10～）に講堂で受け付けますが、事前に下記のアドレスにメールを送ってください。 hideaki_saito318@yahoo.co.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新聞やニュース等で経済について触れましょう。（1時間）
	授業内容	ガイダンス ・履修上の注意点、成績評価の方法等の説明 ・授業でどのようなことを学ぶのか
	事後学習	授業への臨み方を確認しておきましょう。（3時間）
2	事前学習	新聞やニュース等で経済について触れましょう。（1時間）
	授業内容	経済学の見方・考え方を身に付けよう（1） ・稀少性、トレード・オフ、機会費用、限界、インセンティブ、取引
	事後学習	経済の見方・考え方を確認して、実生活での具体例を考えてみましょう。（3時間）
3	事前学習	新聞やニュース等で経済について触れましょう。（1時間）
	授業内容	経済学の見方・考え方を身に付けよう（2） ・見えざる手、政府の介入、生産性、インフレーション、失業、経済の三主体
	事後学習	経済の見方・考え方を確認して、実生活での具体例を考えてみましょう。（3時間）
4	事前学習	私たちはどのように行動をするか考えてみましょう。（1時間）
	授業内容	経済の主役は誰だろうか（1） ・家計の目的と役割
	事後学習	家計の目的と役割を確認しておきましょう。（3時間）

5	事前学習	企業の行動基準を考えてみましょう。（1時間）
	授業内容	経済の主役は誰だろうか（2） ・企業の目的と役割
	事後学習	企業の目的と役割を確認しておきましょう。（3時間）
6	事前学習	政府はどのようなことを私たちにしてくれているのか考えてみましょう。（1時間）
	授業内容	経済の主役は誰だろうか（3） ・政府の目的と役割、三主体の関係
	事後学習	政府の目的と役割を確認しておきましょう。（3時間）
7	事前学習	自分がお小遣いやアルバイト代をどのように使っているか考えてみましょう。（1時間）
	授業内容	消費者の行動を考えてみよう（1） ・無差別曲線と予算制約線
	事後学習	予算制約線と無差別曲線のグラフを自分で描いてみましょう。（3時間）
8	事前学習	最も幸せを感じられるお金の使い方を考えてみましょう。（1時間）
	授業内容	消費者の行動を考えてみよう（2） ・最適消費の決定
	事後学習	最適消費点をグラフで説明できるようにしましょう。（3時間）
9	事前学習	お小遣いやアルバイト代が増えた場合のお金の使い方の変化を考えてみましょう。（1時間）
	授業内容	消費者の行動を考えてみよう（3） ・所得効果と代替効果
	事後学習	所得効果と代替効果をグラフを使って説明してみましょう。（3時間）
10	事前学習	企業の行動基準を思い出してみましょう。（1時間）
	授業内容	生産者の行動を考えてみよう ・生産要素が1つの場合
	事後学習	生産は何によって行われているか確認しておきましょう。（3時間）
11	事前学習	どのような時に取引が行われるか考えてみましょう。（1時間）
	授業内容	価格と取引量の決まり方を知ろう（1） ・市場とは何か ・需要と供給①
	事後学習	市場、需要、供給の言葉の意味を整理しておきましょう。（3時間）
12	事前学習	何を基準にして財・サービスを購入するか考えてみましょう。（1時間）
	授業内容	価格と取引量の決まり方を知ろう（2） ・需要と供給② ・政府の政策の影響
	事後学習	政府が市場に介入した場合の影響をグラフを使って説明できるようにしましょう。（3時間）
13	事前学習	自分の住んでいる市区町村が提供しているサービスを探してみましょう。（1時間）
	授業内容	市場が上手く機能しないと何が起こるか（1） ・外部性、公共財
	事後学習	政府の存在理由を整理しましょう。（3時間）
14	事前学習	価格が一方向的に決められている財・サービスを探してみましょう。（1時間）
	授業内容	市場が上手く機能しないと何が起こるか（2） ・不完全競争市場
	事後学習	不完全市場の弊害を復習しておきましょう。（3時間）
15	事前学習	第1回～第14回の内容を思い出しておきましょう。（1時間）
	授業内容	授業のまとめと復習 ・授業の復習 ・準備のポイント説明
	事後学習	これまでの内容を復習して、試験に備えましょう。（3時間）

科目名	経済学 I	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、経済学が扱う問題を紹介した後、経済学で用いる基本的な概念と専門用語を紹介していきます。企業行動分析、消費者行動分析の基礎理論を学びます。				
授業目的・到達目標	経済学が扱おうとする問題を知ること、今後、経済学科目を履修するための基礎知識の養成を目的とします。経済学で用いる基本概念が理解できるようになることを目標とします。関連 D P 及び C P：政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	経済学をはじめて学ぶ学生を対象とします。				
授業方法	講義形式で行います。また授業中に、小テストを実施します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		70%	経済学で用いる基本概念を理解していること。 政府の役割、企業行動分析、消費者行動の基礎理論を理解していること。	
	平 常 評 価		30%	授業時間中に実施する小テストで評価します。 実施後、小テストの解説をおこないます。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019	弘文堂	経済学入門 第2版 (Next教科書シリーズ)		楠谷清・川又祐編
	備考				
参 考 書	古沢泰治・塩路悦朗(2018)『ベーシック経済学』有斐閣				
オフィスアワー	水曜日12:15～12:55(事前にアポイントメントを取ること) 研究室				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を利用する。(2時間)
	授業内容	経済学を学ぶにあたって
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する。(2時間)
2	事前学習	教科書を利用する。(2時間)
	授業内容	経済循環の構造
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する。(2時間)
3	事前学習	教科書を利用する。(2時間)
	授業内容	市場機構の仕組み
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する。(2時間)
4	事前学習	教科書を利用する。(2時間)
	授業内容	効用関数と無差別曲線
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する。(2時間)

5	事前学習	教科書を利用する。(2時間)
	授業内容	代替財と補完財
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する。(2時間)
6	事前学習	教科書を利用する。(2時間)
	授業内容	最適消費の決定
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する。(2時間)
7	事前学習	教科書を利用する。(2時間)
	授業内容	生産関数
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する。(2時間)
8	事前学習	教科書を利用する。(2時間)
	授業内容	費用関数
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する。(2時間)
9	事前学習	教科書を利用する。(2時間)
	授業内容	最適生産の決定
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する。(2時間)
10	事前学習	教科書を利用する。(2時間)
	授業内容	競争市場
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する。(2時間)
11	事前学習	教科書を利用する。(2時間)
	授業内容	余剰分析
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する。(2時間)
12	事前学習	教科書を利用する。(2時間)
	授業内容	不完全競争市場
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する。(2時間)
13	事前学習	教科書を利用する。(2時間)
	授業内容	完全独占市場
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する。(2時間)
14	事前学習	教科書を利用する。(2時間)
	授業内容	独占的競争・寡占市場
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する。(2時間)
15	事前学習	教科書を利用する。(2時間)
	授業内容	理解度の確認
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する。(2時間)

科目名	経済学Ⅱ	担当者	川又 祐	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、経済社会のしくみを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とりわけ経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。また、各種公務員試験や資格試験において、経済学は重要科目となっている。経済学の学びを通じて、試験対策に役立つ基礎的事項を学習する。					
授業目的・到達目標	中級・上級科目及び発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の習得を目的とする。あわせて、現実社会で起きている経済的事象を、学生自ら理解し、説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：政治経済学科 1、2、3、4 新聞学科 1、5 公共政策学科 1、3、4					
履修条件	経済学Ⅰを履修していることが望ましい。					
授業方法	教科書に沿って授業を進める。講義形式となるのでノートの整理が欠かせない。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		100%		論述試験の成績で評価	
	平常評価		0%			
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	弘文堂		経済学入門		楠谷清、川又祐編
	備考					
参考書	使用しない。					
オフィスアワー	毎週金曜日昼休み、本館8階の研究室で質問・相談に応じます。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	国民所得の概念を予習する。2時間
	授業内容	第6章 国民所得のさまざまな概念 1 国民所得 2 国内総生産 3 名目国内総生産（名目GDP）と実質国内総生産（実質GDP） 4 三面等価の原則
	事後学習	GDPの概念を説明できるようにする。2時間
2	事前学習	経済学におけるケインズの業績を調べる。2時間
	授業内容	第7章 均衡国民所得の決定 1 有効需要の原理
	事後学習	有効需要の原理、乗数理論を説明できるようにする。2時間
3	事前学習	自発的失業と非自発的失業を調べる。2時間
	授業内容	2 均衡国民所得の決定
	事後学習	完全雇用の概念を説明できるようにする。2時間
4	事前学習	金融の役割を調べる。2時間
	授業内容	第8章 金融論の基礎 1 金融とは
	事後学習	直接金融と間接金融の違いを調べる。2時間

5	事前学習	貨幣の機能を調べる。2時間
	授業内容	2 貨幣とは 3 利子とは
	事後学習	金融機関の役割を説明できるようにする。2時間
6	事前学習	公経済と市経済の違いを調べる。2時間
	授業内容	第9章 財政学の基礎 1 政府の経済活動
	事後学習	中央財政と地方財政の違いを説明できるようにする。2時間
7	事前学習	現代財政に期待される役割を調べる。2時間
	授業内容	2 財政
	事後学習	財政の3大機能を説明できるようにする。2時間
8	事前学習	日本の租税収入と公債収入を調べる。2時間
	授業内容	3 日本の財政問題
	事後学習	プライマリー・バランスを説明できるようにする。2時間
9	事前学習	財政学と公共経済学の関係を調べる。2時間
	授業内容	第10章 公共経済学の基礎 1 公共経済学とは何か 2 市場の機能と失敗
	事後学習	市場の役割と市場の失敗を説明できるようにする。2時間
10	事前学習	公共財の概念を予習する。2時間
	授業内容	3 公共財の供給 4 外部性 5 自然独占 6 公共経済学が扱うその他のテーマ
	事後学習	純粋公共財と準公共財を説明できるようにする。2時間
11	事前学習	経済学におけるD. リカードの業績を調べる。2時間
	授業内容	第11章 国際経済学の基礎 1 国際貿易の基礎理論
	事後学習	比較優位の原理を説明できるようにする。2時間
12	事前学習	外国為替相場のしくみを予習する。2時間
	授業内容	2 外国為替制度と国際収支①
	事後学習	外国為替制度と国際通貨制度を説明できるようにする。2時間
13	事前学習	国際収支の概念を調べる。2時間
	授業内容	2 外国為替制度と国際収支②
	事後学習	国際収支を説明できるようにする。2時間
14	事前学習	戦後日本の経済発展を調べる。2時間
	授業内容	第12章 日本経済論 1 占領政策と戦後復興 2 高度経済成長とその終焉（石油危機）
	事後学習	かつての日本経済の特徴（終身雇用と年功序列）を説明できるようにする。2時間
15	事前学習	21世紀の歴代与党のマニフェストを比較する。2時間
	授業内容	3 バブル経済とその崩壊 4 小泉構造改革とアベノミクス
	事後学習	日本経済の「失われた10年」を説明できるようにする。2時間

科目名	経済学Ⅱ	担当者	楠谷 清	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、経済社会の仕組みを理解し、さらに、社会で生起する様々な社会現象とくに経済現象にアプローチするための経済学の基礎理論を学習する。経済学理論は大きくミクロ理論とマクロ理論に分類することが出来るが、この講座では、主にマクロ経済に分類される国民所得決定に関する基礎理論を学習し、さらに、経済学の応用科目である財政学、公共経済学、国際経済学といった科の基礎理論を学習する。			
授業目的・到達目標	中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる経済学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生じる様々な経済現象にアプローチするための主に基礎的なマクロ経済理論（国民所得決定の理論）を修得するとともに、経済学の応用科目である財政学、公共経済学、国際経済学といった科目の理解を深める初級の経済理論の修得し説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科1，2，3，4 新聞学科1，5 公共政策学科 1，3，4			
履修条件	経済学Ⅰを履修していること。			
授業方法	テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配付する。スライド（パワー・ポイント）を使用して講義を行う。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	筆記試験は経済学の重要概念が習得されているかを判定する。授業中に解説された基本的な項目・事項について理解すること。	
	平常評価	20%	レポート提出、授業への参加度も評価の対象とする。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015年	弘文堂	『Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版』	楠谷・川又編著
	備考			
参考書	伊藤元重著『入門 経済学 第2版』（日本評論社）、マンキュー著『マンキュー入門経済学（第2版）』（東洋経済新報社）、竹内靖雄著『経済思想の巨人たち』（新潮文庫）、その他授業中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読む。 教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書 「第6章 国民所得のさまざまな概念」を読み、内容について考察する。（2時間）
	授業内容	【国民所得のさまざまな概念1】 マクロ経済学の分析手法の特徴点と意義を学習し、また、国民所得決定の理論とも呼ばれるマクロ経済学の基礎概念である、国民所得、国内総生産、名目GDPと実質GDP、三面等価の原則について学習し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書 第7章の「1．総需要と総供給」、「2．消費、投資と乗数効果の関係」を読み、内容について考察する。（2時間）
	授業内容	【均衡国民所得の決定1】 総需要と総供給の概念を学習し、総需要額と総供給額が等しくなるときに国民所得の額が決まることを学習する。所得と消費支出の関係を表す消費関数を学習し、さらに投資が行われると国民所得が増えること、投資が行われると投資額の数倍の国民所得が増えるという乗数効果の理論を学習する。
	事後学習	講義ノートと配付資料を確認して、章末にある問題を解いてみる。（2時間）

4	事前学習	教科書 第7章の「3. 均衡国民所得の決定」を読み、内容について考察する。（2時間）
	授業内容	【均衡国民所得の決定2】 国民所得の規模（金額）の決定を重要な恒等式と作図によって学習する。
	事後学習	教科書、講義ノート、配付資料を確認して、以下の問題を解きなさい。 $C=40+0.6Y$ （消費関数）、 $I=100$ （投資額）、 $G=50$ （政府支出額）のとき、 （問） Y （ $GDP=$ 国民所得）の金額を求めよ。（2時間）
5	事前学習	教科書 第8章の「1. 貨幣とは」、「2. 貨幣の供給と需要」を読み、内容について考察する。（2時間）
	授業内容	【貨幣と金融1】 貨幣とは何か、貨幣のもつ機能と貨幣の範囲から学習する。 貨幣供給（マネーサプライ又はマネーストック）と貨幣需要、信用創造、流動性選好説の各概念について学習する。
	事後学習	教科書、講義ノート、配付資料を確認して、章末の問題（1）と（2）について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書 第8章の「3. 金融とは」、「4. 金融機関と金融市場」を読み、内容について考察する。（2時間）
	授業内容	【貨幣と金融2】 金融とは何を意味するのか学習し、また、金融機関の分類と金融市場の分類について学習する。
	事後学習	教科書、講義ノート、配付資料を確認して、章末の問題（3）と（4）について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書 第9章の「1. $IS-LM$ 分析の意義」、「2. 財市場の均衡を表す IS 曲線」、「3. 貨幣市場の均衡を表す LM 曲線」を読み、内容について考察する。（2時間）
	授業内容	【 $IS-LM$ 分析と財政・金融政策1】 財市場と金融市場はお互いに影響を及ぼし合っている。財市場と金融市場の相互作用を同時に捉えることによって、国民所得の決定を分析する $IS-LM$ 分析について、学習する。
	事後学習	横軸に国民所得（ Y ）、縦軸に利子率（ r ）を表したとき、 IS 曲線が右下がりに表されること。また、 LM 曲線が右上がりに表されることを、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書 第9章の「4. 財市場と貨幣市場の同時均衡」、「5. 財政・金融政策」、「6. $IS-LM$ 分析による財政・金融政策の効果」を読み、内容について考察する。（2時間）
	授業内容	【 $IS-LM$ 分析と財政・金融政策2】 前回の学習を踏まえて、財市場と貨幣市場の同時均衡を作図して学習する。 財政政策の役割と手段、金融政策の目的と手段を学習し、 $IS-LM$ 分析によって、財政政策と金融政策の効果の違いを学習する。
	事後学習	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題を解いてみる。（2時間）
9	事前学習	教科書 「第10章 財政学の基礎」を読み、内容について考察する。（2時間）
	授業内容	【財政学の基礎】 経済循環の図によって、政府と民間部門（家計、企業）の繋がりを学習する。 財政の役割は何か、財政学の研究対象は何か、日本の財政の問題点は何か等について学習する。
	事後学習	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書 第11章の「1. 公共経済学とは何か」、「2. 市場の機能と失敗」を読み、内容について考察する。（2時間）
	授業内容	【公共経済学の基礎1】 市場の失敗を明らかにし、その失敗を解決するには政府はどのような調整策を採るべきかを提案する学問が公共経済学の特徴点であることを学習する。
	事後学習	市場の機能とメリットは何か、教科書、講義ノートと配付資料を確認して、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書 第11章の「3. 公共財の供給」、「4. 外部性」、「5. 自然独占」を読み、内容について考察する。（2時間）
	授業内容	【公共経済学の基礎2】 どのような場合に市場は失敗してしまうのか、つまり、最適（効率的）資源配分を実現することが出来ないのか学習し、どのような調整策があるかを考察する。
	事後学習	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題を解いてみる。（2時間）
12	事前学習	教科書 「第12章 日本経済論」を読み、内容について考察する。（2時間）
	授業内容	【日本経済論】 日本経済の歩みを、戦後から高度成長の時代を概観し、行動成長を可能とした要因を学習する。 現代のデフレーションの状態、将来に向けての日本経済の改革の現状を考察する。
	事後学習	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、章末の問題について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
13	事前学習	教科書 第13章の「1. 国際貿易の基礎理論」、「2. 外国為替制度と国際収支の構造」を読み、内容について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際経済学入門1】 国際貿易の基礎理論として、比較優位の原理、ヘクシャーオリーン定理を学習し、近代貿易理論の展開を概観する。 また、外国為替制度と国際収支の構造について、外国為替相場と国際通貨制度や国際収支の構造、経常収支の国内マクロ経済との関連、為替相場の変動と経常収支を挙げて学習する。
	事後学習	章末の問題（1）と（2）について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
14	事前学習	教科書 第13章の「3. オープンマクロと経済政策」を読み、内容について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際経済学入門2】 オープンマクロと経済政策として、マンデル＝フレミングモデルを学習し、財政政策の効果と金融政策の効果の違いを学習する。
	事後学習	章末の問題（3）について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）

15	事前学習	初回からの教科書の該当する各章と講義ノートと配付資料を見直し、マクロ経済学のポイント、財政学や公共経済学などの研究テーマを確認する。（2時間）
	授業内容	講義のまとめとして、マクロ経済学のポイント、財政学、公共経済学、日本経済論、国際経済学といった経済学の応用分野の研究テーマのポイントを整理する。
	事後学習	初回からの教科書の該当する各章と講義ノートと配付資料を見直し、期末テストの準備をする。（2時間）

科目名	経済学Ⅱ	担当者	斎藤 英明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経済学の基礎部分を学び、経済学でたびたび使用されるGDPの意味を整理する。そして、特にマクロ経済学と分類される経済学の導入部分について学ぶ。				
授業目的・到達目標	新聞やニュースなどを通して伝えられる政治経済の諸問題は、さまざまな形で私たちの生活と関係している。経済学の授業では、日々伝えられている事柄が、どのような仕組みによって発生し、どのようにして私たちの生活に影響しているのかについて興味・関心を持つことを養成することを目的とする。 政治経済の問題に興味・関心を持ち、積極的に目を向ける習慣を身に付けることが最大の目標である。そして、さまざまな理論や考え方を学びながら、自分の意見を自分の言葉で表現できるようにすることをそれに次ぐ目標とする。対応DP及びCP：政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	特に条件は無し。経済学の基本から学ぶため、高校生の時やこれまでに政治経済を学んだことがなくても問題は無い。経済学Ⅰも併せて履修すると、より楽しく学べるだろう。				
授業方法	【授業区分】にしたがって講義形式で進める。授業の最後に質問やコメントを書いてもらい、次の授業でレスポンスするなど、双方向性を高めたいと考えている。定期試験の解説は試験終了後、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	授業で学んだ理論や考え方が身に付き、自分の言葉で説明できるようになっているかを筆記試験にて判断する。	
	平常評価		0%		
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特に指定しません。授業で使用する教材については、毎回ポータル等を通じて配布します。			
参考書	山口正春・楠谷清編著（2015）『Next教科書シリーズ 経済学入門』弘文堂 その他、必要に応じて適宜紹介します。				
オフィスアワー	木曜授業後（12:10～）に講堂で受け付けますが、事前に下記のアドレスにメールを送ってください。 hideaki_saito318@yahoo.co.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新聞やニュース等で経済について触れましょう。（1時間）
	授業内容	ガイダンス ・履修上の注意点、成績評価の方法等の説明 ・授業でどのようなことを学ぶのか
	事後学習	授業への臨み方を確認しておきましょう。（3時間）
2	事前学習	財が生産される過程を考えておきましょう。（1時間）
	授業内容	国の経済規模を計ってみよう ・国民経済計算 ・産業連関表
	事後学習	産業連関表の見方を復習しておきましょう。（3時間）
3	事前学習	国内総生産の意味を調べておきましょう。（1時間）
	授業内容	「景気が良い」とはどういう状況だろう（1） ・GDPとは何か ・名目GDPと実質GDPの違い
	事後学習	名目と実質の違いを説明できるようにしておきましょう。（3時間）
4	事前学習	どんな時に景気が良いと感じるか考えてみましょう。（1時間）
	授業内容	「景気が良い」とはどういう状況だろう（2） ・国民所得が変化する理由 ・景気の移り変わり
	事後学習	景気循環を整理しておきましょう。（3時間）

5	事前学習	三面等価の原則を思い出しておきましょう。（1時間）
	授業内容	国民所得をコントロールすることは可能か ・45度線分析を使った国民所得の決定
	事後学習	45度線分析をグラフを使って説明できるようにしましょう。（3時間）
6	事前学習	GDPの構成要素を確認しておきましょう。（1時間）
	授業内容	国民所得を増やす方法を考えてみよう（1） ・財市場とIS曲線
	事後学習	IS曲線の求め方を復習しておきましょう。（3時間）
7	事前学習	政府の目的と役割を思い出しておきましょう。（1時間）
	授業内容	国民所得を増やす方法を考えてみよう（2） ・財政の仕組みと財政政策
	事後学習	財政政策の効果と弊害を確認しておきましょう。（3時間）
8	事前学習	貨幣の種類を調べておきましょう。（1時間）
	授業内容	お金の持っている機能と役割を知ろう
	事後学習	貨幣の機能を復習しておきましょう。（3時間）
9	事前学習	貨幣需要と貨幣供給を調べておきましょう。（1時間）
	授業内容	別の方法で国民所得を増やしてみよう（1） ・貨幣市場とLM曲線 ・日本銀行と金融政策
	事後学習	LM曲線の求め方を復習おきましょう。（3時間）
10	事前学習	IS曲線とLM曲線の求め方を思い出しておきましょう。（1時間）
	授業内容	別の方法で国民所得を増やしてみよう（2） ・IS曲線とLM曲線の統合
	事後学習	均衡利子率と均衡国民所得を求められるようにしましょう。（3時間）
11	事前学習	公債の種類を調べておきましょう。（1時間）
	授業内容	日本が抱えている問題を知ろう ・公債とは何か ・公債発行の弊害
	事後学習	公債は誰の負担になるか確認しておきましょう。（3時間）
12	事前学習	日本にある租税を調べてみましょう。（1時間）
	授業内容	稼いだお金はすべて自分のものか（1） ・租税とは何か
	事後学習	租税原則を確認しておきましょう。（3時間）
13	事前学習	所得とは何か調べておきましょう。（1時間）
	授業内容	稼いだお金はすべて自分のものか（2） ・所得税と住民税の仕組み
	事後学習	所得税と住民税の納税先を整理しておきましょう。（3時間）
14	事前学習	身近にある消費税がかかる財・サービスを考えてみましょう。（1時間）
	授業内容	稼いだお金はすべて自分のものか（3） ・消費税の仕組み
	事後学習	消費税の納税先を確認しておきましょう。（3時間）
15	事前学習	第1回～第14回の内容を思い出しておきましょう。（1時間）
	授業内容	授業のまとめと復習 ・授業の復習 ・試験準備のポイント説明
	事後学習	これまでの内容を復習して、試験に備えましょう。（3時間）

科目名	経済学Ⅱ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、代表的な経済指標の読み方、およびマクロ経済活動の測定や分析のための基礎理論を学びます。				
授業目的・到達目標	代表的な経済指標が読める能力を養成することを目的とし、マクロ経済活動の測定や分析のための基礎理論を理解し説明できることを目標とします。関連D P及びC P：政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	経済学Ⅰの受講を終えていることが望ましい				
授業方法	講義形式で行います。また授業中に、小テストを実施します。 小テストの解説もおこないます。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定 期 試 験		70%		代表的な経済指標が読めるか。 マクロ経済活動の測定や分析のための基礎理論を理解しているか。
	平 常 評 価		30%		授業時間中に実施する小テストで評価します。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	弘文堂		経済学入門 第2版（Next教科書シリーズ）	楠谷清・川又祐編
	備考				
参 考 書	古沢泰治・塩路悦朗著(2018)『ベーシック経済学』有斐閣				
オフィス アワー	水曜日12:15～12:55(事前にアポイントメントを取ること) 研究室				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	国民所得と国内総生産
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
2	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	三面等価の原則
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
3	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	名目GDPと実質GDP、GDPデフレーター
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
4	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	消費、投資と乗数効果
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)

5	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	均衡国民所得の決定
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
6	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	金融の役割
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
7	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	金利
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
8	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	政府の経済活動
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
9	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	財政
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
10	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	市場の機能と失敗
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
11	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	外部性
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
12	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	貿易と余剰
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
13	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	外国為替相場と国際収支
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
14	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	日本経済論
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
15	事前学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
	授業内容	理解度の確認
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)

科目名	経済行政法Ⅰ	担当者	友岡 史仁	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	世の中多くの場所で国や公共団体が規制を行っています。このような規制が、私たちの日常生活（経済活動）にどのような影響を与えているかを法的に見ようというのが、この授業の主な目的です。規制は必要と考えられるので行われますが、不要となると本当はそれをやめるべきです。しかしながら、利害関係が複雑に絡み合うのでなかなかそういうわけにはいきません。このような状態をどのように考えたらよいのかを具体例を交えながら検討します。			
授業目的・到達目標	国や公共団体が私たちの日常生活（経済活動）を規制する場合、それを「行政上の規制」と呼ぶことができます。これまで国は「公的規制」と呼んできましたが、その規制が効率的であるべきなのに非効率化したり、時代の変化で技術が各段に成長したりして、規制が不要となってきました。しかし本当のところは、非常に多くの規制が残ったり、逆に規制が生み出されたりしているのが実態です（典型例として、情報通信改革・電力改革等）。本授業では、このような「行政上の規制」の具体例を学ぶことを主な目的として、それにかかわる諸問題を法的思考（リーガルマインド）で解き明かすための能力を身につけられるようになることを目標とします。関連DP及びCP：法律学科1, 3 経営法学科1, 3 公共政策学憲法、3民統、行政法を履修していることが望ましいのですが、初めて法律科目を学ぶ履修予定者も考慮します。			
履修条件				
授業方法	講義およびケーススタディになります。担当者が執筆したテキストを中心に進めますが、最新事情を交えた時事問題にも触れます。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	説明問題（いわゆる「一行問題」）と事例問題を併せた設問を出します。これらはともに講義中に触れることばかりですので、常に聞き逃さないように出席を心がけてください。	
	平常評価	0%	ここでは0％としていますが、履修者数との兼ね合いから、レポート課題を課すこともあり、仮にその場合であれば、筆記試験とあわせてその結果を加味することがあります。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015年	弘文堂	要説経済行政法	友岡史仁
	備考			
参考書	詳細は初回講義時に提示します。			
オフィスアワー	火曜日14:30/木曜日19:30に都度質問を受け付けます。それぞれの講義後に担当者に尋ねるようにしてください。必要に応じてその時に研究室等での場所設定をします。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	本授業で用いる教科書の最初（第1部のサマリー）を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	経済行政法総論（総説）——経済行政法の位置づけ（1）経済行政とは何か？公的規制と規制緩和の関係。民間化・民営化などのキーワードを説明し、これから本授業で扱う論点などを概説します。
	事後学習	授業内容について次の回につなげられるよう、当日扱った教科書の該当箇所をもう一度読んでみましょう。次に出てくる具体例も想定してみてください。（2時間）
2	事前学習	第1回目で取り上げた授業内容から、教科書ではどのような話が登場するのかを自分なりに考えてみましょう。（2時間）
	授業内容	経済行政法の位置付け（2）経済行政上の規制のとらえ方、経済行政法の位置付け等について説明していきます。「経済行政法」という授業は、他の法律分野とは異なり位置づけが難しいところがあります。それを平易に解説します。
	事後学習	第1回目と第2回目の授業内容を比較して、自分が接した時事問題とどのように関係するかを考えよう。第3回目につなげてみましょう。（2時間）
3	事前学習	第2回目の事後学習で踏まえた時事問題がどのように法的に問題となるのかを考えるため、該当箇所の教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	経済行政法の位置付け（3）経済行政と法治主義、公的規制の機能、独禁法の適用関係などの多様な論点について、学んでいきます。
	事後学習	今回の授業内容は、本授業の中でもっともコアとなり学習するうえでも基礎的な内容を含むものですので、応用的論点に移る前に今一度その内容を復習してみましょう。（2時間）
4	事前学習	第3回目での基礎的な議論が、他の法分野とどのように関係するかを考えるため、該当箇所の教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	経済行政法の位置付け（4）経済行政の歴史と外国法のほか、隣接諸分野との関係として、憲法、民事法、経済法・独禁法、刑事法等を取り上げます。独禁法の適用関係は第3回目で触れていますが、ここで改めて触れることにします。
	事後学習	他の法分野は受講生の中にはまだ学んだことのない諸君もおられるはずですので、今回の授業の復習を兼ねて、どのような法分野が経済行政法と関わり合いがあるのかを思い描いて見ましょう。（2時間）

5	事前学習	今回の授業から、法解釈の方法について学んでいきます。本授業では特に行政法・経済法（独禁法）との接点が密接なため、その両方（または行政法を中心に）について、教科書を通じて学ぶよう心がけてください。（2時間）
	授業内容	経済行政過程論（1）経済行政の基本的前提となる二面関係・三面関係、および公法私法の関係等について取り上げます。これらは、行政法の講義でも触れる箇所ですが、経済活動を視野に入れて、具体例を織り交ぜながら検討します。
	事後学習	理論的な問題、事例的な議論が複雑に絡み合ってきますので、その整理をこの段階でしてみましょう。（2時間）
6	事前学習	第5回目の事後学習を通じて得られた概念が、どのように実際に応用されているかを学ぶ必要があり、そのことがまさにこの回の授業内容になりますので、該当箇所の教科書を一読しておきましょう。（2時間）
	授業内容	経済行政過程論（2）経済行政の政策論であり、経済行政における政策、政策過程がどのように具体的課題と接点を持つかについて検討するものです。本来、法律は条文を解釈するものと思われがちですが、経済行政の世界では政策の実現可能性を踏まえた検討が必要ですので、このことを意識することになります。
	事後学習	授業では経済政策を中心としてどのように形成されていったのかといった歴史的な過程を中心に議論の対象にしていますので、これまで学んできた歴史を中心に、自分の知識と照らし合わせてみましょう。（2時間）
7	事前学習	経済政策の形成を歴史的にとらえる前回の授業に引き続き、それが具体的にどのような形になっていくのかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	経済行政過程論（3）経済行政計画は経済政策の実現のための具体的なロードマップを示したのですが、それがどのように形作られ、それとあわせて、実現過程の中で国民の意思がどのように反映されるのか（国民参加）について、学びます。
	事後学習	難しい言葉が連続して出てきますので、授業で扱われた専門的単語を今一度復習してみましょう。（2時間）
8	事前学習	今回からは「行為形式」として、国や公の団体がどのように「規制」を行っているかという形式面について議論するものです。このため、できる限り「経済行政過程論」を扱う部分の教科書を、読むようにしておきましょう。（2時間）
	授業内容	経済行政過程論（4）経済行政における行為形式（1）として、この回では行政立法について学びます。法律では規定されていない事柄について、いったいどのような形で「規制」するのかという視点から、説明していきます。その中でも、経済行政法として最も多用されている「通達」の形式について、その機能等を学びます。
	事後学習	複雑な構造を伴う「規制」を具体例を持って説明されますので、どのようにその「規制」が機能しているのかを、時事問題を交えながら考えてみてください。（2時間）
9	事前学習	前回の授業で扱った形式以外のものを取り上げる観点から、該当箇所の教科書を読むようにしておきましょう。（2時間）
	授業内容	経済行政過程論（5）経済行政における行為形式（1）として、「行政処分」について学びます。行政法の履修者はこの表現に聞き覚えがあると思いますが、そうではない諸君に対して、ここでイメージ作りをしてもらうよう試みます。その内容としては、伝統的な整理方法のほかに、詳しい機能ごとに整理します。
	事後学習	許認可と呼ばれる行為形式を今回は学びましたので、自ら日頃接する時事問題に照らして頭にその内容を吸収しましょう。（2時間）
10	事前学習	今回は前回までに学んだ行為形式とは違い、民法などで取り上げられる「契約」をベースにした議論になります。ですので、民法を履修中または履修済の諸君は、そこで学んでいる（学んだ）内容を思い浮かべながら、該当箇所の教科書を一読しましょう。（2時間）
	授業内容	経済行政過程論（6）経済行政における行為形式（2）として、「行政契約」という内容について、経済活動への「規制」という視点にてらして論じます。通常の契約は対等な当事者間で成立しますが、ここでは一方的な義務を負う側（国・公共団体等）に関する法的問題、その他、公のサービスを民間企業が行う場合の課題について、取り上げる予定です。
	事後学習	今回は、行為形式の中でも、どのような実体があるのかという「現象面」で議論していますので、講義を通じてわかりにくいと感じる諸君については、そこで話された事実がどのように身近な場面で起きているかを思い浮かべるようにしてください。（2時間）
11	事前学習	「規制」は表面上行われても、それが実際に受け手の側で守られなければ意味がありません。なので、該当箇所の教科書を読むことで、どのような手段がそのためにあるのかについて予習してみましょう。（2時間）
	授業内容	経済行政過程論（7）経済行政上のエンフォースメント（実効性確保）を取り上げます。独禁法などでは一般的な課徴金納付命令、公共的なサービスでは問題の多い役務提供拒否（給付拒否）などが、この具体例になります。
	事後学習	ここでも専門用語がたくさん出てきますので、一つ一つの意味合い（使われ方など）に気をつけながら、疑問点を集約しておきましょう。（2時間）
12	事前学習	経済行政における行為形式に取り上げた一連の手段は、かなり政策とからみ合わさりながら実行に移されていますので、該当箇所の教科書を一読することで、それらがどのような組織により実行されているのかを意識してみましょう。（2時間）
	授業内容	経済行政過程論（8）経済行政組織という名称で、「総合調整機能」といった複雑な問題の解決に関する具体的課題、そのた組織として独任制（大臣責任制）と合議制（第三者機関制）の関係性など、多様な方法の存在を意識して解説します。
	事後学習	国や公の団体を動かすための組織に関するルールとして、今回取り上げた課題がどのような問題点をはらんでいるかについて、考えてみましょう。（2時間）
13	事前学習	前回で学んだ経済行政組織としてのルールを実際に運用する法的主体も多数存在するため、どのようなものが具体的にあるかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	経済行政過程論（9）具体的な主体として掲げられるものに、特殊法人、独立行政法人といった法的責任を負う主体があるほか、第三者機関として構成される審議会がどのように経済行政に関与しているかについて、具体例を交えながら論じます。
	事後学習	今回取り上げた法主体・機関は行政改革の議論の中でも、その存在意義が問われてきましたので、そのことを思い起こしてみましょう。（2時間）
14	事前学習	ここからは訴訟手続の議論にはいますが、そもそも裁判手続について聞き慣れない、または学んだことがない諸君がいる場合は、是非訴訟手続について書かれた書物を手に取りながら、該当箇所の教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	経済行政過程論（10）経済行政の行政救済論として、経済行政法の特有の訴訟事例を学ぶための基礎知識を身につけることになります。具体的には、全体像を眺めることと並び、行政訴訟を中心にその訴訟手続についてとりあげることにします。
	事後学習	訴訟手続が中心的な議論になりますので、頭に入ってきたにくいことは事実です。ですので、しっかりと教科書で復習などしながら、授業中に取り上げた諸事例への当てはめ方について勉強しておきましょう。（2時間）
15	事前学習	前回の授業では主に訴訟手続を中心に議論していますが、それが実際にどのように行われるのかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	経済行政過程論（11）前回の授業中には十分取り上げられなかった裁判所による国・公の団体の活動に対するコントロールの方法や、損害賠償請求、損失補償等の訴訟事例や制度設計の方法について、取り上げます。
	事後学習	今回までが経済行政法の総論部分となりますので、これまで学んだことを該当箇所の教科書を通じて自分なりにまとめるようつとめてください。（2時間）

科目名	経済行政法Ⅱ	担当者	友岡 史仁	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	世の中多くの場所で国や公共団体が規制を行っています。このような規制が、私たちの日常生活（経済活動）にどのような影響を与えているかを法的に見ようというのが、この授業の主な目的です。規制は必要と考えられるので行われますが、不要となると本当はそれをやめるべきです。しかしながら、利害関係が複雑に絡み合うのでなかなかそういうわけにはいきません。このような状態をどのように考えたらよいのかを具体例を交えながら検討します。				
授業目的・到達目標	国や公共団体が私たちの日常生活（経済活動）を規制する場合、それを「行政上の規制」と呼ぶことができます。これまで国は「公的規制」と呼んできましたが、その規制が効率的であるべきなのに非効率化したり、時代の変化で技術が各段に成長したりして、規制が不要となってきました。しかし本当のところは、非常に多くの規制が残ったり、逆に規制が生み出されたりしているのが実態です（典型例として、情報通信改革・電力改革等）。本授業では、このような「行政上の規制」の具体例を学ぶことを主な目的として、それにかかわる諸問題を法的思考（リーガルマインド）で解き明かすための能力を身につけられるようになることを目標とします。関連DP及びCP：法律学科1, 3 経営法学科1, 3 公共政策学憲法、3民法、行政法を履修していることが望ましいのですが、初めて法律科目を学ぶ履修予定者も考慮します。				
履修条件					
授業方法	講義およびケーススタディになります。担当者が執筆したテキストを中心に進めますが、最新事情を交えた時事問題にも触れます。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	説明問題（いわゆる「一行問題」）と事例問題を併せた設問を出します。これらはともに講義中に触れることばかりですので、常に聞き逃さないように出席を心がけてください。	
	平常評価		0%	ここでは0％としていますが、履修者数との兼ね合いから、レポート課題を課すこともあり、仮にその場合であれば、筆記試験とあわせてその結果を加味することがあります。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2015年	弘文堂		要説経済行政法	友岡史仁
	備考				
参考書	詳細は初回講義時に提示します。				
オフィスアワー	火曜日14:30/木曜日19:30に都度質問を受け付けます。それぞれの講義後に担当者に尋ねるようにしてください。必要に応じてその時に研究室等での場所設定をします。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	今回から経済行政法各論にはっていきます。まずはどのような内容が各論で扱われるのかを、該当箇所の教科書（とりわけ教科書第2部要旨部分）を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	経済行政法各論では、まずは「事業規制」・「業務規制」に関わる法制度について、その意味内容を理解することになります。このような用語方法は、本授業独特の側面があるので、その理解につとめます。
	事後学習	用語法の理解を通じて、各論で何が具体的に問題となりそうかについて、総論の復習も兼ねながら考えてみましょう。（2時間）
2	事前学習	今回から、本当の意味の各論がはじまります。ここで取り上げる「公益事業」とは何を意味するかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	伝統的に「公企業」とか「公共企業」と呼ばれてきたいわゆる「ネットワーク産業」に関する規制の初歩的な内容についてとりあげます。「ネットワーク産業」とは、電力・ガス、電気通信などの点と点を線で結ばなければ産業として成立しない分野ですが、これには多数の規制が存在していますので、その理解を理論的に説明します。
	事後学習	初めて聞く単語ばかりであり、「ネットワーク産業」に対する規制の理由は、経済学とも関係しますので、可能な限り、授業で扱った単語の基礎的理解を進めるよう心がけてください。（2時間）
3	事前学習	事業規制と業務規制という用語で分けた経済行政に関する「規制」について、多様な目的から成り立っていることを念頭に置き、該当箇所の教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	次回以降に触れる事業規制の具体的内容を踏まえるために、それらの諸規制に見られる共通した機能（公益性担保機能、行政監督機能、補完的機能）の意味、相関関係について取り上げます。
	事後学習	さまざまな規制にどのような機能が備わっているかをとらえることの大切さを、授業で取り上げた事例を通じて改めて検討し直してみましょう。（2時間）
4	事前学習	前回までに取り上げた内容として「市場」という言葉をキーワードとすることができることから、このキーワードがどのように事業規制と関係するのかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	事業規制の中身として、参入規制を取り上げます。ネットワーク産業では複数の事業者間で競争が生ずることにより大きな影響（消費者への悪影響等）が考えられるため、従来、そのために独占を保護する規制が存在していた点を踏まえ、それに関連した多様な規制について説明していきます。
	事後学習	具体例を交えた規制の説明ではありますが、授業内では十分に議論できないところがあるので、自らインターネットや新聞報道等で補うように努めましょう。（2時間）

5	事前学習	前回は参入規制を主としましたが、今回は事業者が本来自由に設定できる料金が規制される場合について学びますので、身近にある料金規制に関する諸事例を思い描き、該当箇所の教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	まずは規制の対象となる「料金」について学びます。その際、ネットワーク産業は私たちの生活にとって不可欠なサービスを提供するものと位置づけられることが多いのですが、それはまた、「公共料金」とも賞されることがあります。授業ではこのあたりを批判的にとらえながら、どのような規制が実際に存在しているかを上げます。
	事後学習	なぜ「公共料金」と呼ばれたり、その料金がどのように規制されているかを考えてみましょう。（2時間）
6	事前学習	料金規制は単にその種類を論ずるだけではならず、どのような手続によって規制されるかを具体的に検討する必要がありますので、その内容に関する該当箇所の教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	料金決定手続はかなり複雑ですので、総括原価主義やプライスカップ規制など、基本的な論点として整理し学びます。この場合、規制緩和と政策との関係などについても触れることにします。
	事後学習	複雑ではありますが、そこにある原理原則は外さずに記憶に残しておくことが重要です。このため、何がここで取り上げる手続の原理原則であるのかを、今一度検討してみましょう。（2時間）
7	事前学習	料金規制の最後の回ですので、前回と前々回の議論を踏まえるためにも、過去2回分の講義内容を復習して今回の授業に臨むことを期待します。（2時間）
	授業内容	料金決定原則の基本は「原価」を規制対象とすることですので、その定義が法的にどのようななされているのか、その他、参入規制と並び、事業の終了に関わる規制（退出規制）についても学びます。
	事後学習	今回は事業規制法制の総括を含む意味もありますので、第16回目以降の議論をここで頭に入れ直してみましょう。（2時間）
8	事前学習	今回は業務規制法制という新たな項目に移りますので、第16回目で取り上げた事業規制法制との区別がどのようなものだったかについて、学び直しましょう。（2時間）
	授業内容	業務規制法制を総説します。参入・料金・退出といった事業規制との違いを見据えながら、今回は役務の利用者にとって役務の提供が不可欠とされる場合に、通常の経済活動（競争）では賄えない場合にその提供を義務付けるための規制について、概念・必要性などの諸問題を扱います。
	事後学習	今回学んだ役務提供義務は、私たちが日常必要とされる公共サービスがその対象とされることが多いので、身近な場面を思い起こしながら、今回学んだ内容を思い起こすようにしましょう。（2時間）
9	事前学習	規制緩和とともに、競争が不適切と考えられてきた分野に競争が導入されることになる場合に、どのようにそのギャップを是正するかが問題となります。いかなる規制がその是正に必要とされるかについて、該当箇所の教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	競争が導入される際に、規制の撤廃とあわせて、規制の受け手（事業者）が競争しやすい環境を作り出すなどの競争促進的なさまざまな規制が登場しますので、その種類をここで学びます。
	事後学習	今回学んだ業務規制が日常接する分野においてどのように活用されているかを、インターネット・新聞報道などを通じて思い起こすようにしましょう。（2時間）
10	事前学習	前回までとは違って、個別の規制を見るのではなく、種別の隔てがない形での規制が行われている場合があるので、その一例をここで学びます。（2時間）
	授業内容	産業保護・育成法制について学んでいきます。この法制が一体何を意味するのかについて解説し、その必要性について詳述していきます。具体的には、国や公の団体から拠出される補助金などの金銭の提供を通じて、経済活動を担う企業を保護したり育成するための法制度について見ていきます。
	事後学習	他の箇所とは異なり、聞きなれない言葉遣いにはまず慣れるため、該当箇所の教科書を再読し復習してみましょう。（2時間）
11	事前学習	言葉遣いに慣れたことを前提に、どのような法制度があるかを該当箇所の教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	産業保護・育成法制には、産業助成型、競争制限型、外資規制型といった様々な手段が設けられていることから、それぞれの類型についてどのような制度が存在し、課題とされているかを見ていきます。
	事後学習	ここでは、補助金といった金銭の提供だけで産業が保護・育成されるわけではないことを確認しておきましょう。（2時間）
12	事前学習	経済行政法各論の集大成の第1回目は、エネルギー産業を取り上げます。これ以前で具体例において時折この産業が登場することはあるので、そのことの復習もかねて、どのような話がそれ以前に登場したかを思い起こしながら、該当箇所の教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	今回は、エネルギー産業を取り上げますが、それが電力やガスといった私たちの生活に密接につながっている産業であるために、常に意識せざるを得ない分野であると同時に、複雑な規制、そして規制改革の流れの中で、産業構造自体が大きく変化しています。その内容をできるだけ平易かつ具体例を出しながら、解説していきます。
	事後学習	現在、電力会社、ガス会社が複数の会社から選択できるようになっているので、履修者諸君のご家庭での実体験があればそのことが、本授業とどのように関連付けられるかを検討してみましょう。（2時間）
13	事前学習	各論集大成の第2回目は、交通産業を取り上げます。これまでの授業内でも断片的ではありますが取り上げられることがあった産業がどのような規制によって存在しているかを見ていきますので、該当箇所の教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	交通産業は、その手段に応じて自動車、鉄道、航空機および船舶の4つにわけることができますが、それぞれに特徴のある規制が存在していることも事実です。密接につながりがある一方、特徴を持つ規制もありますので、事業規制・業務規制法制で学んだ知識をここであてはめながら、その内容について解説していきます。
	事後学習	身近であるものとそうではないものとがこの産業ではありますが、いずれも経済活動を支える大動脈を担う手段ばかりですので、どのような規制が登場していたのか、それに伴いどのような訴訟などの具体的事例が登場するのかを思い起こしてみましょう。（2時間）
14	事前学習	各論集大成の第3回目は、通信産業を取り上げます。第1回目および第2回目と同様に、これまでの授業内で断片的に取り上げてきましたので、ある程度聞きなれた単語が出てきますが、ここではそれを前提にしながら応用的な問題について取り上げますので、該当箇所の教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	通信産業は、電気通信と郵便に分けて論ずることが適当と考えられます。時に電気通信は、日進月歩の技術革新によって日々発展し続けていますので、規制がそれに追いついていないこともある一方、郵便は競争とどのようになじんでいるかという問題点を抱えています。このような具体例を事例を通じて検討します。
	事後学習	通信産業はいずれも身近なもののばかりですから、その背景にある規制の構造を把握することで、身近なものの存在を意識してみましょう。（2時間）
15	事前学習	第1回目から第29回目までの議論を前提に、経済行政法の世界で何が起こっていたのかを、まとめてみましょう。（2時間）
	授業内容	第16回目以降に取り扱った経済行政法の各論にかかわる様々な課題について総括し、今後の経済活動にもたらす影響、その他国民生活への影響やその法的問題点について、ここで展望を明らかにしておきます。
	事後学習	各論で取り扱った授業内容の復習を通じて、発見できた問題がどのように法的に解決されているのか、それとも解決されていないのかについて、具体例をイメージしながら改めて復習してみましょう。（2時間）

科目名	経済刑法Ⅰ	担当者	岡西 賢治	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経済活動と刑法の関係は軽視されがちであるが、事後チェック型社会といわれるなかで今後の刑事規制の重要性を見直しつつ、現実のケースを通して経済犯罪に対する刑事制裁の機能について論じたい。経済犯罪に関する基礎的な知識を講じるだけでなく、具体的な事件や現象にそくして、経済刑法に関する理論や実務の実態をみながらそれぞれの問題点を検討する。				
授業目的・到達目標	経済犯罪といわれるものについて深い関心を持ち、自分なりの分析や意見が持てる者を養成することを目的とする。自分の関心のあるテーマや現象について、専門的知識を前提とした報告またはディスカッションができる能力が身に付けられることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5 経営法学科1, 3				
履修条件	履修人数にもよるが、5月までに報告またはディスカッションする日程を決めることとし、その時期に必ず出席し報告等の割当てを受けることを履修条件とする。なお、刑法Ⅰまたは刑法Ⅱをすでに履修しているほうが望ましい				
授業方法	事例研究を中心にディスカッションおよび報告などを取り入れて進める。 講義内での報告および発言等の講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義内での報告および発言等によって判断する。 なお、講義日数の2/3以上の出席数がなければ、成績評価の対象としない。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	講義において指定する。			
参考書	講義において指定する。				
オフィスアワー	月曜 12：00～13：00				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	経済犯罪と考えるものを調べておく。（2時間）
	授業内容	経済犯罪とは
	事後学習	経済犯罪についての概念や定義を理解する。（2時間）
2	事前学習	教科書（第1回目で指定したもの。以下同じ）または配布資料で、経済刑法に関する基礎的知識を理解しておく。（2時間）
	授業内容	経済刑法の概念と範囲
	事後学習	経済刑法に関して比較法的な観点から理解できるようにする。（2時間）
3	事前学習	教科書または配布資料で、経済刑法に関する基礎的知識を理解しておく。（2時間）
	授業内容	経済刑法の基本理念
	事後学習	経済刑法に関する基礎的概念を整理し、理解する。（2時間）
4	事前学習	教科書または配布資料で、法的制裁に関する基礎的知識を理解しておく。（2時間）
	授業内容	経済犯罪に対する法的制裁の体系
	事後学習	刑罰と法的制裁の違いについて理解する。（2時間）

5	事前学習	教科書または配布資料で、消費者犯罪・悪質商法に関する事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	消費者犯罪・悪質商法に関する事例の検討①
	事後学習	個々の事案について分析・検討をしておく。（2時間）
6	事前学習	教科書または配布資料で、消費者犯罪・悪質商法に関する事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	消費者犯罪・悪質商法に関する事例の検討②
	事後学習	個々の事案について分析・検討をしておく。（2時間）
7	事前学習	教科書または配布資料で、不当表示に関する事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	不当表示に関する事例の検討①
	事後学習	個々の事案について分析・検討をしておく。（2時間）
8	事前学習	教科書または配布資料で、不当表示に関する事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	不当表示に関する事例の検討②
	事後学習	個々の事案について分析・検討をしておく。（2時間）
9	事前学習	教科書または配布資料で、欠陥商品に関する事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	欠陥商品に関する事例の検討
	事後学習	個々の事案について分析・検討をしておく。（2時間）
10	事前学習	教科書または配布資料で、独占禁止法に関する基礎的知識を理解しておく。（2時間）
	授業内容	独占禁止法上の犯罪
	事後学習	独占禁止法の基礎的概念を理解する。（2時間）
11	事前学習	教科書または配布資料で、独占禁止法上の犯罪に関する事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	独占禁止法上の犯罪に関する事例の検討①
	事後学習	個々の事案について分析・検討をしておく。（2時間）
12	事前学習	教科書または配布資料で、独占禁止法上の犯罪に関する事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	独占禁止法上の犯罪に関する事例の検討②
	事後学習	個々の事案について分析・検討をしておく。（2時間）
13	事前学習	教科書または配布資料で、知的財産・企業秘密の侵害に関する事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	知的財産・企業秘密の侵害に関する事例の検討①
	事後学習	個々の事案について分析・検討をしておく。（2時間）
14	事前学習	教科書または配布資料で、知的財産・企業秘密の侵害に関する事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	知的財産・企業秘密の侵害に関する事例の検討②
	事後学習	個々の事案について分析・検討をしておく。（2時間）
15	事前学習	ネットワーク化に伴う新たな経済犯罪について考えておく。（2時間）
	授業内容	新しい経済犯罪の類型とその対策
	事後学習	新たな経済犯罪への対応のあり方を考える。（2時間）

科目名	経済刑法Ⅰ	担当者	西貝 吉晃	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経済刑法に関する議論を実際の事案を読みながら学ぶ。一般に経済刑法に分類されているものとしては、証券・金融犯罪（インサイダー取引，有報虚偽記載や相場操縦），著作権や不正競争防止法違反，会社関係犯罪（特別背任等），独禁法違反，消費者犯罪，サイバー犯罪等がある。				
授業目的・到達目標	経済犯罪に精通する人物を養成することを目的とし，経済犯罪に関する事件に関し，どのような犯罪が成立し得るのかにつき，具体的な規定を使いつつ，説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，2，3，5 経営法学科1，3				
履修条件	民刑法さらには商法の基本的な理解がないとついていくことができない。				
授業方法	報告者には指定する内容について報告してもらう。各回の予定は授業内容参照。授業概要に記したもののうち，学生の希望する経済事犯について議論を行う。適宜，報告内容について口頭でフィードバックする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義内での報告および発言によって判断する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	なし			
参考書	例えば，芝原邦爾＝古田佑紀＝佐伯仁志編著『経済刑法——実務と理論』，山口厚編著『経済刑法』。				
オフィスアワー	火曜日14：40～16：10				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認する。（2時間）
	授業内容	経済犯罪の規定の中から重点的に議論したい規定を決める。これらを規定１，２，３とする(第15回まで)。
	事後学習	第一回授業の復習を行っておく。（2時間）
2	事前学習	指定された判例（教員が適宜DB等を用いて学習に資する判例を決める。以下同じ）や論文の報告（教員が適宜割り当てる。以下同じ）ができるように調査し，レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定１】規定１に関して指定する判例１－１の内容を報告してもらい，議論を行う。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ，自身の報告のレビューを行い，知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
3	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し，レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定１】規定１に関して指定する判例１－２の内容を報告してもらい，議論を行う。判例が少ない場合は論文を読む。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ，自身の報告のレビューを行い，知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
4	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し，レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定１】規定１に関して指定する論文１－１の内容を報告してもらい，議論を行う。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ，自身の報告のレビューを行い，知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）

5	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し、レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定1】規定1に関して指定する論文1－2の内容を報告してもらい、議論を行う。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ、自身の報告のレビューを行い、知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
6	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し、レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定2】規定2に関して指定する判例2－1の内容を報告してもらい、議論を行う。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ、自身の報告のレビューを行い、知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
7	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し、レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定2】規定2に関して指定する判例2－2の内容を報告してもらい、議論を行う。判例が少ない場合は論文を読む。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ、自身の報告のレビューを行い、知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
8	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し、レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定2】規定2に関して指定する論文2－1の内容を報告してもらい、議論を行う。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ、自身の報告のレビューを行い、知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
9	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し、レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定2】規定2に関して指定する論文2－2の内容を報告してもらい、議論を行う。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ、自身の報告のレビューを行い、知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
10	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し、レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定3】規定3に関して指定する判例3－1の内容を報告してもらい、議論を行う。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ、自身の報告のレビューを行い、知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
11	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し、レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定3】規定3に関して指定する判例3－2の内容を報告してもらい、議論を行う。判例が少ない場合は論文を読む。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ、自身の報告のレビューを行い、知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
12	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し、レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定3】規定3に関して指定する論文3－1の内容を報告してもらい、議論を行う。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ、自身の報告のレビューを行い、知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
13	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し、レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定3】規定3に関して指定する論文3－2の内容を報告してもらい、議論を行う。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ、自身の報告のレビューを行い、知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
14	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し、レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【発展的理解】規定1から3に関して深く議論したいものにつき、指定する論文4の内容を報告してもらい、議論を行う。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ、自身の報告のレビューを行い、知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
15	事前学習	次回授業の予習を行っておく。（2時間）
	授業内容	【復習】今回の講義で行った事柄をまとめる。（報告課題の指定はなし。）
	事後学習	全体を総括して経済刑法（前期）で扱ったことを復習する。（2時間）

科目名	経済刑法Ⅱ	担当者	岡西 賢治	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経済活動と刑法の関係は軽視されがちであるが、事後チェック型社会といわれるなかで今後の刑事規制の重要性を見直しつつ、現実のケースを通して経済犯罪に対する刑事制裁の機能について論じたい。経済犯罪に関する基礎的な知識を講じるだけでなく、具体的な事件や現象にそくして、経済刑法に関する理論や実務の実態をみながらそれぞれの問題点を検討する。				
授業目的・到達目標	経済犯罪といわれるものについて深い関心を持ち、自分なりの分析や意見が持てる者を養成することを目的とする。自分の関心のあるテーマや現象について、専門的知識を前提とした報告またはディスカッションができる能力が身に付けられることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5 経営法学科1, 3				
履修条件	履修人数にもよるが、5月までに報告またはディスカッションする日程を決めることとし、その時期に必ず出席し報告等の割当てを受けることを履修条件とする。なお、刑法Ⅰまたは刑法Ⅱをすでに履修しているほうが望ましい				
授業方法	事例研究を中心にディスカッションおよび報告などを取り入れて進める。 講義内での報告および発言等の講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義内での報告および発言等によって判断する。 なお、講義日数の2/3以上の出席数がなければ、成績評価の対象としない。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	講義において指定する。			
参考書	講義において指定する。				
オフィスアワー	月曜 12：00～13：00				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	具体的な経済事犯の流れを調べておく。（2時間）
	授業内容	経済犯罪の捜査の特徴
	事後学習	犯罪捜査の流れと経済事犯の処理の特徴を理解する。（2時間）
2	事前学習	教科書または配布資料で、会社法上の犯罪に関する事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	会社法上の犯罪に関する事例の検討①
	事後学習	会社法の基礎的概念を整理し、個々の事案について分析・検討をしておく。（2時間）
3	事前学習	教科書または配布資料で、会社法上の犯罪に関する事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	会社法上の犯罪に関する事例の検討②
	事後学習	個々の事案について分析・検討をしておく。（2時間）
4	事前学習	教科書または配布資料で、会社法上の犯罪に関する事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	会社法上の犯罪に関する事例の検討③
	事後学習	個々の事案について分析・検討をしておく。（2時間）

5	事前学習	教科書または配布資料で、会社法上の犯罪に関する事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	会社法上の犯罪に関する事例の検討④
	事後学習	個々の事案について分析・検討をしておく。（2時間）
6	事前学習	教科書または配布資料で、証券等取引に関する犯罪の事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	証券等取引に関する犯罪の事例の検討①
	事後学習	証券取引に関する基本的概念を整理しながら、個々の事案について分析・検討をしておく。（2時間）
7	事前学習	教科書または配布資料で、証券等取引に関する犯罪の事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	証券等取引に関する犯罪の事例の検討②
	事後学習	個々の事案について分析・検討をしておく。（2時間）
8	事前学習	教科書または配布資料で、証券等取引に関する犯罪の事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	証券等取引に関する犯罪の事例の検討③
	事後学習	個々の事案について分析・検討をしておく。（2時間）
9	事前学習	教科書または配布資料で、証券等取引に関する犯罪の事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	証券等取引に関する犯罪の事例の検討④
	事後学習	個々の事案について分析・検討をしておく。（2時間）
10	事前学習	教科書または配布資料で、法人の刑事責任について考えておく。（2時間）
	授業内容	法人の刑事責任①
	事後学習	法人の刑事責任に関する基礎的概念を整理する。（2時間）
11	事前学習	教科書または配布資料で、法人の刑事責任について考えておく。（2時間）
	授業内容	法人の刑事責任② 事例の検討
	事後学習	個々の事案について分析・検討をしておく。（2時間）
12	事前学習	教科書または配布資料で、租税犯罪について考えておく。（2時間）
	授業内容	租税犯罪に関する事例の検討
	事後学習	個々の事案について分析・検討をしておく。（2時間）
13	事前学習	教科書または配布資料で、国際取引と犯罪の関係について考えておく。（2時間）
	授業内容	国際取引をめぐる犯罪
	事後学習	国際取引と犯罪に関して現状と問題点を整理しておく。（2時間）
14	事前学習	具体的な事例を通して、企業と犯罪の関係について考えておく。（2時間）
	授業内容	内部統制と経済犯罪①
	事後学習	社会人として、あるいは企業の中で果たすべき使命について考える。（2時間）
15	事前学習	具体的な事例を通して、企業と犯罪の関係について考えておく。（2時間）
	授業内容	内部統制と経済犯罪②
	事後学習	社会人として、あるいは企業の中で果たすべき使命について考える。（2時間）

科目名	経済刑法Ⅱ	担当者	西貝 吉晃	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経済刑法に関する議論を実際の事案を読みながら学ぶ。一般に経済刑法に分類されているものとしては、証券・金融犯罪（インサイダー取引，有報虚偽記載や相場操縦），著作権や不正競争防止法違反，会社関係犯罪（特別背任等），独禁法違反，消費者犯罪，サイバー犯罪等がある。			
授業目的・到達目標	経済犯罪に精通する人物を養成することを目的とし，経済犯罪に関する事件に関し，どのような犯罪が成立し得るのかにつき，具体的な規定を使いつつ，説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，2，3，5 経営法学科1，3			
履修条件	民刑法さらには商法の基本的な理解がないとついていくことができない。			
授業方法	報告者には指定する内容について報告してもらう。各回の予定は授業内容参照。授業概要に記したもののうち，学生の希望する経済事犯について議論を行う。適宜，報告内容について口頭でフィードバックする。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	講義内での報告および発言によって判断する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	なし		
参考書	例えば，芝原邦爾＝古田佑紀＝佐伯仁志編著『経済刑法——実務と理論』，山口厚編著『経済刑法』。			
オフィスアワー	火曜日 14：40～16：10			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	次回授業の予習を行っておく。（2時間）
	授業内容	経済犯罪の規定の中から重点的に議論したい規定を決める。これらを規定1，2，3とする。
	事後学習	これまでの復習を行っておく。（2時間）
2	事前学習	指定された判例（教員が適宜DB等を用いて学習に資する判例を決める。以下同じ）や論文の報告（教員が適宜割り当てる。以下同じ）ができるように調査し，レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定1】規定1に関して指定する判例1－1の内容を報告してもらい，議論を行う。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ，自身の報告のレビューを行い，知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
3	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し，レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定1】規定1に関して指定する判例1－2の内容を報告してもらい，議論を行う。判例が少ない場合は論文を読む。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ，自身の報告のレビューを行い，知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
4	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し，レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定1】規定1に関して指定する論文1－1の内容を報告してもらい，議論を行う。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ，自身の報告のレビューを行い，知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）

5	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し、レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定1】規定1に関して指定する論文1－2の内容を報告してもらい、議論を行う。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ、自身の報告のレビューを行い、知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
6	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し、レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定2】規定2に関して指定する判例2－1の内容を報告してもらい、議論を行う。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ、自身の報告のレビューを行い、知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
7	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し、レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定2】規定2に関して指定する判例2－2の内容を報告してもらい、議論を行う。判例が少ない場合は論文を読む。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ、自身の報告のレビューを行い、知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
8	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し、レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定2】規定2に関して指定する論文2－1の内容を報告してもらい、議論を行う。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ、自身の報告のレビューを行い、知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
9	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し、レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定2】規定2に関して指定する論文2－2の内容を報告してもらい、議論を行う。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ、自身の報告のレビューを行い、知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
10	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し、レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定3】規定3に関して指定する判例3－1の内容を報告してもらい、議論を行う。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ、自身の報告のレビューを行い、知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
11	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し、レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定3】規定3に関して指定する判例3－2の内容を報告してもらい、議論を行う。判例が少ない場合は論文を読む。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ、自身の報告のレビューを行い、知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
12	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し、レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定3】規定3に関して指定する論文3－1の内容を報告してもらい、議論を行う。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ、自身の報告のレビューを行い、知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
13	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し、レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【規定3】規定3に関して指定する論文3－2の内容を報告してもらい、議論を行う。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ、自身の報告のレビューを行い、知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
14	事前学習	指定された判例や論文の報告ができるように調査し、レジュメを作成する等する。（2時間）
	授業内容	【発展的理解】規定1から3に関して深く議論したいものにつき、指定する論文4の内容を報告してもらい、議論を行う。
	事後学習	報告者は議論内容を踏まえ、自身の報告のレビューを行い、知識を定着させる。議論参加者は報告者の報告内容を批判的に考えることで知識を定着させる。（2時間）
15	事前学習	これまでの復習を行っておく。（2時間）
	授業内容	【復習】今回の講義で行った事柄をまとめる。（報告課題の指定はなし。）
	事後学習	全体を総括して経済刑法で扱ったことを復習する。（2時間）

科目名	経済史	担当者	楠谷 清	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本経済の歩みを、戦後から最近年までを学習する。戦後70年以上が経つが、その間の経済状況に様々な現象や変化が起きた。戦後の改革と復興期、高度経済成長期、ニクソン・ショック、高度経済の終焉と経済安定期、バブル経済の発生と崩壊、デフレーションなどの現象を取り扱いながら現代の日本経済がどのように形成されたのか考察する。			
授業目的・到達目標	この講座では、欧米の経済に大きく遅れをとりながらも、短期間のうちに驚異的な発展を遂げ、欧米先進資本主義国と肩を並べる地位にまで躍進した日本経済の現代史的展開について、第二次世界大戦以降を中心に考察する。現代の日本経済がどのように形成されたのか、その歴史的過程を考察することで現代の経済の本質を分析し、また現代日本経済のかかえる問題点を歴史的に検出することを目的とする。受講生が、戦後日本経済に生じた様々な社会経済現象の要因に関する通説を修得して経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2，3 公共政策学科 1，2，3，4			
履修条件	特になし。			
授業方法	テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配付する。 スライド（パワー・ポイント）を使用しての講義の予定。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に説明できるか確認する。	
	平常評価	20%	レポート提出、授業への参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2013年	有斐閣	『現代日本経済史〔新版〕』有斐閣Sシリーズ	森・浅井・西成 田・春日・伊藤著
	備考			
参考書	沢井・谷本著『日本経済史』（有斐閣）、有沢広巳監修『昭和経済史』（日本経済新聞社）、 中村隆英著『昭和経済史』岩波セミナーブックス17（岩波書店）、野口悠紀雄著『戦後経済史』（東洋経済新報社）			
オフィス アワー	火曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読む。教科書 第1章と第2章を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて経済史の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的にできるようにする。
	事後学習	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書 第2章 改革と復興（1945～1954年）の「1. 占領下の暮らし」、「2. 戦後改革と占領政策の転換」、「3. 生産の再開と復興」を読み、終戦直後の経済状態について考察する。（2時間）
	授業内容	【改革と復興（1945～1954年）（1）】 終戦直後の「占領下の暮らし」、「戦後改革と占領政策の転換」、「生産の再開と復興」を学習し、この時期の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積のあり方を検討する。
	事後学習	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書 第2章 改革と復興（1945～1954年）の「4. 労働・農民運動の再興と資本の再編」、「5. 朝鮮戦争と日米経済協力」を読み、内容について考察する。（2時間）
	授業内容	【改革と復興（1945～1954年）（2）】 終戦直後の「労働・農民運動の再興と資本の再編」、「朝鮮戦争と日米経済協力」を学習し、この時期の経済政策の検討を通じて管理・支配の特徴を検出し、また、対外関係、国際関係を考察する。
	事後学習	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
4	事前学習	教科書 第3章 成長と「自立」（1955～1964年）の「1. 高度成長下の暮らし」、「2. 農業・重化学工業化・技術革新」、「3. 企業集団と中小企業」を読み、内容について考察する。（2時間）
	授業内容	【成長と「自立」（1955～1964年）（1）】 戦後の高度経済成長がスタートした年とされる1955年以降の時期における、「高度成長下の暮らし」、「農業・重化学工業化・技術革新」、「企業集団と中小企業」を学習し、この時期の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積のあり方を検討する。
	事後学習	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。（2時間）

5	事前学習	教科書 第3章 成長と「自立」（1955～1964年）の「4. 日本的労使関係の成立」、「5. 経済政策と権力構造」、「6. 貿易為替の自由化」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【成長と「自立」（1955～1964年）（2）】 高度経済成長期の「日本的労使関係の成立」、「経済政策と権力構造」、「貿易為替の自由化」を学習し、この時期の経済政策の検討を通じて管理・支配の特徴を検出し、また、対外関係、国際関係を考察する。
	事後学習	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書 第4章 成長と軋轢（1965～1971年）の「1. 大衆消費社会と暮らし」、「2. 長期好況と大型化投資」、「3. 〔企業主義原理〕の普及」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【成長と軋轢（1965～1971年）（1）】 後期高度経済成長期と呼ばれる1965年以降の時期における「大衆消費社会と暮らし」、「長期好況と大型化投資」、「〔企業主義原理〕の普及」を学習し、この時期の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の状態を検討する。
	事後学習	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書 第4章 成長と軋轢（1965～1971年）の「4. 高度成長政策と地域開発政策」、「5. 高度成長と対外経済関係」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【成長と軋轢（1965～1971年）（2）】 後期高度成長期の「高度成長政策と地域開発政策」、「高度成長と対外経済関係」を学習し、この時期の経済政策を検討を通じて管理・支配の特徴を検出し、また、対外関係、国際関係を考察する。
	事後学習	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書 第5章 過剰と摩擦（1971～1991年）の「1. 1980年代の暮らし」、「2. ドル・ショックと石油危機」、「3. 企業と職場の変貌」を読み、内容について考察する。（2時間）
	授業内容	【過剰と摩擦（1971～1991年）（1）】 高度経済成長の終焉と、低経済成長期、バブル経済発生とバブル経済の崩壊などが生じた時期に当たるこの時期の「1980年代の暮らし」、「ドル・ショックと石油危機」を学習し、高度成長期はなぜ終焉したのか、ドル・ショックはなぜ起きたのか、考察する。
	事後学習	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書 第5章 過剰と摩擦（1971～1991年）の「3. 企業と職場の変貌」を読み、内容について考察する。（2時間）
	授業内容	この時期に生じた「企業と職場の変貌」を学習し、管理・支配関係の特徴を検出、また、「バブル経済」と呼ばれる現象が何であったか、バブル経済の発生と原因（資産価格の上昇、経済のファンダメンタルズによる適正価格を超える市場での資産価格、消費者物価の低水準で安定下原因（プラザ合意→円高、新興国NIEs）、金融政策の失敗を考察する。
	事後学習	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書 第5章 過剰と摩擦（1971～1991年）の「4. 臨調・行革の構図―総需要管理政策の破綻と再編」、「5. 世界のなかの日本―欧米とアジア」を読み、内容について考察する。（2時間）
	授業内容	【過剰と摩擦（1971～1991年）（2）】 「臨調・行革の構図―総需要管理政策の破綻と再編」、「5. 世界のなかの日本―欧米とアジア」を学習し、1980年代の経済政策、対外関係・国際関係を考察する。
	事後学習	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書 第6章 暗転と「再生」（1992～2001年）の「1. バブル崩壊後の暮らし」、「2. 金融システム不安と〔失われた10年〕」「3. 1990年代の日本企業と仕事の現場」を読み、内容について考察する。（2時間）
	授業内容	【暗転と「再生」（1992～2001年）（1）】 1990年代の時期における「バブル崩壊後の暮らし」、「金融システム不安と〔失われた10年〕」、「1990年代の日本企業と仕事の現場」を学習し、この時期の生活構造、産業構造や生産・資本蓄積の状態を検討する。
	事後学習	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書 第6章 暗転と「再生」（1992～2001年）の「4. 橋本〔6大改革〕から小泉〔構造改革〕へ」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【暗転と「再生」（1992～2001年）（2）】 「橋本〔6大改革〕」から「小泉〔構造改革〕へ」橋本政権（1996年1月11日～1998年7月30日）および小泉政権（2001年4月26日～2006年9月26日）を学習し、経済政策のめざした経済構造改革を考察する。
	事後学習	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
13	事前学習	教科書 第6章 暗転と「再生」（1992～2001年）の「5. 21世紀の国際関係―アジアのなかの日本経済」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【暗転と「再生」（1992～2001年）（3）】 「21世紀の国際関係―アジアのなかの日本経済」と題し、この時代の対外関係・国際関係を考察する。
	事後学習	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
14	事前学習	安倍政権の経済政策に関する資料を収集し、考察してみる。（2時間）
	授業内容	日本経済の課題（2000年～） 安倍政権の経済政策、雇用状況、所得格差、財政状況を考察し、特徴を検討する。
	事後学習	教科書、講義ノートと配付資料を確認して、学習したこの時期の特徴を検出し、その要因について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
15	事前学習	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、日本経済に生じた経済現象を理解し、それを論理的に説明できるように考察する。（2時間）
	授業内容	講義のまとめ
	事後学習	初回からの教科書、授業ノート、配付資料を確認し、経済現象の歴史性を理解し、それを論理的に説明できるか確認する。 期末試験の準備をする。（2時間）

科目名	経済思想史Ⅰ	担当者	高橋 宏幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義では、各時代の経済学がどのような時代背景でどのような思想を持った経済学者によってどのように構築・展開されたかを学ぶ。経済思想史Ⅰでは、経済学の形成期から19世紀初頭頃までを主たる対象とする。			
授業目的・到達目標	本講義の目的は、経済学とその思想の歴史を学ぶことで、その通史を理解することはもとより、経済学が各時代の社会的背景や思想と結びついて生み出された時代の産物であることを理解することにある。経済学が、様々な価値判断に立脚して組み立てられていること、時代的制約性を有していることを説明できるようになること、そして現代の経済社会の改良のための新しい着想を引き出せるようになることを到達目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科1, 2, 3 公共政策学科1, 2, 3, 4			
履修条件	特になし。			
授業方法	基本的には板書とその解説を中心とした講義形式で行う。資料としてプリントを配布・使用する。毎回しっかりとノートをとることが重要である。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別		割合	
	定 期 試 験		100%	
	平 常 評 価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特に使用しない。		
参 考 書	適宜、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	金曜日 12:10～ 授業終了後の授業講堂にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通してくること（2時間）
	授業内容	講義における目標や方法、講義内容についての概説
	事後学習	今回の講義内容をノートやシラバス等で確認・復習しておくこと（2時間）
2	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	経済思想史とは？経済思想史とはどのような学問分野か
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
3	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	重商主義の概念、イギリス重商主義の政策体系
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
4	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	イギリス重商主義：経済理論および政策論
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）

5	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	フランス重商主義：コルベール主義の政策体系
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
6	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	重農主義の社会的背景・哲学的基礎
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
7	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	F・ケネーとその『経済表』、経済政策論
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
8	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	アダム・スミスの経済学体系① 生涯と著作、富の概念、分業論
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
9	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	アダム・スミスの経済学体系② 価値論、自然価格・市場価格論
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
10	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	アダム・スミスの経済学体系③ 分配論、資本蓄積論
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
11	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	アダム・スミスの経済学体系④ 投資の自然的順序、経済発展論
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
12	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	T・R・マルサス：『人口論』
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
13	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	T・R・マルサスとD・リカードの論争
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
14	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	T・R・マルサスとD・リカードの経済学の特質
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
15	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	講義全体の内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）

科目名	経済思想史Ⅱ	担当者	高橋 宏幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義では、各時代の経済学がどのような時代背景でどのような思想を持った経済学者によってどのように構築・展開されたかを学ぶ。経済思想史Ⅱでは、19世紀中頃から20世紀中頃までを主たる対象とする。				
授業目的・到達目標	本講義の目的は、経済学とその思想の歴史を学ぶことで、その通史を理解することはもとより、経済学が各時代の社会的背景や思想と結びついて生み出された時代の産物であることを理解することにある。経済学が、様々な価値判断に立脚して組み立てられていること、時代的制約性を有していることを説明できるようになること、そして現代の経済社会の改良のための新しい着想を引き出せるようになることを到達目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科1, 2, 3 公共政策学科1, 2, 3, 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	基本的には板書とその解説を中心とした講義形式で行う。資料としてプリントを配布・使用する。毎回しっかりとノートをとることが重要である。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	各時代の経済学者たちが、どのような時代背景においてどのような思想を土台とし、その経済学及び思想を展開したのかを理解しているかを判定する。	
	平常評価				
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特に使用しない。			
参考書	適宜、授業中に紹介する。				
オフィスアワー	金曜日12:10～ 授業終了時の授業講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	講義における目標や方法、講義内容についての概説
	事後学習	今回の講義内容をノートやシラバス等で確認・復習しておくこと（2時間）
2	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	J・S・ミル① 生涯と著作、思想形成過程、経済思想の特質
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
3	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	J・S・ミル② 生産論、分配論、社会主義論
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
4	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	ドイツ歴史学派① F・リストと旧歴史学派
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）

5	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	ドイツ歴史学派② 新歴史学派
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
6	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	K・マルクス① マルクスの思想と経済学
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
7	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	K・マルクス② マルクスと資本主義経済の発展方向
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
8	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	限界革命の3大学派の特質
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
9	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	A・マーシャルの経済学体系
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
10	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	J・M・ケインズ① 生涯と著作、思想形成過程
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
11	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	J・M・ケインズ② ケインズ経済学の骨格と経済政策
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
12	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	アメリカ制度学派① T・B・ヴェブレン
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
13	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	アメリカ制度学派② W・C・ミッチェル
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
14	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	アメリカ制度学派③ J・R・コモンズ
	事後学習	今回の講義内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）
15	事前学習	前回までの講義内容をノート等で確認・見直しを行っておくこと（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	講義全体の内容をノート等で確認・復習しておくこと（2時間）

科目名	刑事政策 I	担当者	尾田 清貴	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	リストは、最良の刑事政策は、社会福祉である、と言ったが、その意味を考え、人は何故犯罪を犯すのかについて犯罪原因論の変遷を踏まえて概観し、従来の刑罰制度が現代社会の犯罪抑止に十分機能しているかについて、欧米の政策との比較を通じて考察することにより、刑事政策の新たな地平について考える。			
授業目的・到達目標	【授業目的】人はなぜ犯罪や非行を犯すのか、社会はこの様な者に対してどのような処遇と教育を行い、再社会化を促しているのかについて検討するとともに、主として米国・英国の刑事司法制度と比較しながら、刑事司法の在り方を学ぶことを目的とする。 【到達目標】犯罪の成否や事件処理に必要な基本的な知識を習得すること、及び、憲法・刑法・刑事訴訟法が実際の刑事司法制度の中でどの様に運用されているか理解し、説明できるようにすることを目標とする。関連DP及びCP:法律学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4。			
履修条件	憲法・刑法・刑事訴訟法の一般的知識を持っていることが望ましい			
授業方法	教科書は事前に読んできていることを前提に、ディスカッションを含めて行う。刑事司法機関の職員による講義や施設見学の機会も考慮する。レポートは添削して返却し、定期試験実施後に、チャレンジの機会を与える。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	論文試験（80点）と書き取り試験（20点）で行うが、授業内容に依拠して行い、基本的な概念の理解を踏まえ、自説展開力が備わっているかが評価の対象となる。	
	平常評価	20%	ディベートを踏まえて課題が与えられるので、出席していないと、課題レポートを受理しない。前期、後期に各1回、課題レポートがある。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2009	弘文堂	新版 刑事政策講義	大谷 實
	備考			
参考書	平成30年版犯罪白書・警察白書			
オフィスアワー	木曜日16:10～17:00に本館9階1904号室で実施する。 ただし、メールで事前予約することが望ましい。oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	それぞれが、誰を対象とした法（制度）かについて、調べてみよう（2時間）
	授業内容	刑事政策と刑法・刑事訴訟法の違い
	事後学習	犯罪者のマグナカルタとは、何を意味するのか調べてみよう（2時間）
2	事前学習	刑事司法手続の全ての段階にどのような専門家・非専門家が関わっているのか考えてみよう（2時間）
	授業内容	刑事司法手続に関わる人々
	事後学習	相互の関係についてまとめてみよう（2時間）
3	事前学習	法務省・検察庁・裁判所のHPで調べておく（2時間）
	授業内容	刑事裁判と少年審判の違い（アメリカとの比較も踏まえて）
	事後学習	配付資料に書き込んで整理しておく（2時間）
4	事前学習	教科書の該当箇所を読む「犯罪を犯す人はどんな人～どのような人的・社会的要因で犯すのか」（2時間）
	授業内容	犯罪原因論（1）・犯罪＝環境＋素質
	事後学習	配付資料に書き込んで整理しておく（2時間）

5	事前学習	教科書の該当箇所を読む（2時間）
	授業内容	犯罪原因論（2）・犯罪＝被害者＋加害者＋物理的環境
	事後学習	配付資料に書き込んで整理しておく（2時間）
6	事前学習	教科書の該当箇所を読む（2時間）
	授業内容	同害報復から教育・治療への刑罰制度の歴史的変遷
	事後学習	配付資料に書き込んで整理しておく（2時間）
7	事前学習	教科書の該当箇所を読む、死刑制度の存廃論に関する文献を図書館で読む（2時間）
	授業内容	死刑制度とその存廃
	事後学習	ディベートを踏まえて、レポートを書き、翌週提出すること（2時間）
8	事前学習	教科書の該当箇所を読む、懲役刑と禁錮刑はどのような違いがあるのか調べておく（2時間）
	授業内容	自由刑の現状と課題
	事後学習	短期自由刑の弊害についてまとめる（2時間）
9	事前学習	教科書の該当箇所を読む、死刑・自由刑との違いについて調べておく（2時間）
	授業内容	財産刑の現状と課題
	事後学習	財産刑に代わる刑罰について考えてみる（2時間）
10	事前学習	教科書の該当箇所を読み、法務省のHPで調べておく（2時間）
	授業内容	保護観察制度の概要と現状
	事後学習	対策について、講義の内容を踏まえて考えてみよう（2時間）
11	事前学習	（1）で配付された資料を踏まえて、法務省のHPで調べてみよう（2時間）
	授業内容	保護観察制度の課題とその対策について
	事後学習	5種類の保護観察の異同についてまとめてみよう（2時間）
12	事前学習	危険な犯罪者とは、何を意味するのか考えてみよう（2時間）
	授業内容	危険な犯罪者に対する施策について
	事後学習	配付資料に書き込んで整理しておく（2時間）
13	事前学習	修復的司法とは何かについて、調べてみよう（2時間）
	授業内容	修復的司法と応報的司法の異同について、欧米の実施状況も踏まえ考察する
	事後学習	配付資料に書き込んで整理し、わが国に導入可能か検討する（2時間）
14	事前学習	テーマの意味を考えてみよう、自分が国外で犯罪を犯したとき、どの様に扱われたいかという視点で考えてみよう（2時間）
	授業内容	刑事司法制度の国際化
	事後学習	配付資料に書き込んで整理しておく（2時間）
15	事前学習	教科書の該当箇所を読み、どんな種類があるのか確認しておくこと（2時間）
	授業内容	猶予制度の現状と課題（刑の一部執行猶予を含む）
	事後学習	配付資料に書き込んで整理しておく（2時間）

科目名	刑事政策Ⅰ	担当者	西山 智之	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑事政策とは、犯罪の原因を探究し、これに基づき犯罪を予防するために行われる国または地方公共団体の施策である。この授業では、何が犯罪を生み出すのかについて事例を用いて説明したり、刑事施設について図や写真等を用いて説明するなど、イメージが湧きやすいように進行したいと考える。前期は、犯罪の起こる原因や刑罰制度の意義、犯罪者の処遇制度といった刑事政策の基本理論について講義する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】犯罪を予防・鎮圧するためには、どのような立法上、司法上、行政上の措置を行えばいいのか、そうした問題を解決する能力を身につけ、犯罪原因の分析や犯罪者の処遇制度、各種犯罪に対する対策などの現状やその歴史について説明ができるようになる。犯罪発生理由の分析や刑罰制度の意義といった刑事政策における基本的な内容を理解する力を育成することを目的とする。 【到達目標】現在の刑事司法システムがなぜこのようになっているのかを理解した上で、現在のシステムの問題点の指摘を行えることレベルになることを目標とする。対応DP及びCP：法律学科1，2，3，5，公共政策学科1，3，4				
履修条件	特になし。ただし、刑法・刑事訴訟法・少年法を履修済み、もしくは平行して履修していると授業内容の理解がしやすいと思われる。				
授業方法	講義形式を中心とするが、発言する機会を多く設ける予定であるため、積極的に発言して欲しい。毎授業終了時にリアクションペーパーを提出してもらう予定である。最終試験の内容については、試験終了後に授業内で解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	最終授業で論述式の試験をもって評価する。その他、ディベート中の発言や授業中の教員からの問いに答える等、授業への参加度を加味して総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
				特に指定しない。	
	備考	教科書は使用しない。授業で取り扱ったテーマについて最適な文献をその都度紹介する。また授業において毎回レジュメを配布する。			
参考書	平成30年版犯罪白書・警察白書、藤本哲也『刑事政策概論〔全訂第7版〕』青林書院(2015)、船山泰範 編『Next教科書シリーズ 刑事法入門』弘文堂(2014)				
オフィスアワー	月曜日16：20～19：30 事前にnishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	刑事政策もしくは犯罪学に関して、自らの関心のあるテーマを見つけて学習意欲を高めておく。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス】 刑事政策とは何か犯罪学とは何かについて刑事政策・犯罪学の歴史等を踏まえながら説明し、受講生が刑事政策の外観を把握し、次回以降の講義に備えられるようにする。
	事後学習	講義で配布したレジュメを確認し、社会において生じうる問題現象に関心を持てるよう、刑事政策及び犯罪学についてまとめておく。（2時間）
2	事前学習	犯罪がなぜ起こるのかについて、最近話題になった事件を基に考察しておく。（2時間）
	授業内容	【犯罪原因論①】 犯罪者がなぜ犯罪者になってしまうのか、生物学的要因・精神医学的要因・心理学的要因に基づいて犯罪の科学的分析の歴史を説明し、受講生が犯罪の原因について理解することができるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、犯罪の原因について生物学的要因・精神医学的要因・心理学的要因から、それぞれ説明できるようにしておく。（2時間）
3	事前学習	アノミー理論と社会解体理論の異同について調べておく。（2時間）
	授業内容	【犯罪原因論②】 犯罪者がなぜ犯罪者となったか、社会学的要因に基づいて解説をする。分化的接触理論やアノミー論等の社会的な犯罪原因論について理解することができるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、興味をもった社会学的犯罪原因論の一つを説明できるようにしておく。（2時間）
4	事前学習	犯罪の事前予防はどのようにすれば可能かについて考えておく。（2時間）
	授業内容	【犯罪機会論①】 犯罪原因論から犯罪機会論へ変遷した経緯を説明し、受講生が犯罪を事前に予防する方法の理論について理解することができるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、犯罪の事前予防理論について説明ができるようにしておく。（2時間）

5	事前学習	破れ（割れ）窓理論（Broken Windows Theory）とは何かについて調べておく。（2時間）
	授業内容	【犯罪機会論②】 破れ（割れ）窓理論、防犯環境設計（CPTED）、セーフコミュニティ等の犯罪の事前予防理論の具体例について説明し、受講生がその理論の内容を正確に理解することができるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、犯罪の事前予防理論の具体例を正確に説明できるようにする。（2時間）
6	事前学習	自分の住んでいる市町村の犯罪予防政策を調査しておく。（2時間）
	授業内容	【犯罪機会論③】 自治体が実際に行っている犯罪の事前予防策を事例を用いて説明し、受講生が実践的な犯罪予防政策を学ぶことができるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、授業で学んだ実践的な犯罪予防政策知識を将来生かせるレベルまで昇華させておく。（2時間）
7	事前学習	刑罰に犯罪の抑止効果があるのかについて考えておく。（2時間）
	授業内容	【刑罰制度① 刑罰制度総論】 刑罰の歴史、種類、意義などについて説明し、受講生が刑罰の意義について説明できるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、なぜ国家は刑罰を科すのかについて説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	近年の日本の死刑執行状況と世界の死刑執行状況を比較しつつ、調査しておく。（2時間）
	授業内容	【刑罰制度②－1 刑罰制度各論Ⅰ】 死刑制度及び不定期刑を中心に目的・意義等を説明し、受講生が死刑制度及び不定期刑の意義・問題点について説明できるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、自らの死刑制度に対する考えを論理的に説明できるようにまとめておく。（2時間）
9	事前学習	死刑制度についてディベートを行うので、前回までに学んだ死刑制度についてよく復習し、自らの立場から意見を主張できるように準備しておく。（2時間）
	授業内容	【刑罰制度②－2】 死刑制度の是非について、存置派と廃止派に分かれて全員でディベートを行う。
	事後学習	ディベートの内容を基にした死刑制度についてのレポートを、前期末までに作成し提出することを求めるので、そのための準備をしておく。（2時間）
10	事前学習	罰金刑の問題点について考えておく。（2時間）
	授業内容	【刑罰制度③ 刑罰制度各論Ⅱ】 罰金刑及び短期自由刑を中心に目的・意義等を説明し、受講生が罰金刑及び短期自由刑の意義・問題点について説明できるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、罰金刑の問題点とその解決策、短期自由刑の問題点とその解決策について説明できるようにする。（2時間）
11	事前学習	犯罪者処遇とはどのようなものがあるか調べておく。（2時間）
	授業内容	【犯罪者の処遇① 総論・処遇の担い手】 犯罪者処遇の歴史及び現状について、実際にあった中世の犯罪者処遇の例等を挙げ説明し、受講生が犯罪者処遇の歴史の変遷について理解できるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、犯罪者処遇の現状について犯罪白書（ http://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html ）で復習しておく。（2時間）
12	事前学習	警察段階・検察段階・裁判所段階ではどのような処遇が行われているか、刑事訴訟法の該当条文を調べてくる。（2時間）
	授業内容	【犯罪者の処遇② 司法的処遇】 警察段階・検察段階・裁判所段階でどのような手続きが行われているか、また各段階でのダイバージョン制度について説明し、受講生が各刑事司法手続きについて理解できるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、警察段階・検察段階・裁判所段階での処遇を理解できるようにする。（2時間）
13	事前学習	刑務所では犯罪者に対してどのような処遇を行っているか調べてくる。（2時間）
	授業内容	【犯罪者の処遇③ 刑事施設内処遇】 刑事施設内での処遇の具体的内容について解説し、受講生が刑務所等についての正しい理解ができるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、刑務所でどのような処遇が行われているかをまとめ、それに対する自己の意見を固めておく。（2時間）
14	事前学習	保護観察官とはどのような職業か調べてくる。（2時間）
	授業内容	【犯罪者の処遇④ 社会内処遇】 犯罪者は刑事施設で仮釈放が認められた場合、または裁判で執行猶予判決となり保護観察付となった場合には、社会内処遇となる。その社会内処遇の制度を説明し、受講生が保護観察制度について正確に理解できるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、保護観察の現状について犯罪白書（ http://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html ）で復習しておく。（2時間）
15	事前学習	前期の総復習を行い、試験に挑む。（2時間）
	授業内容	【試験】 授業内試験を行い、試験の解説を行う。
	事後学習	試験の解説に基づいて、試験の再検証を行う。（2時間）

科目名	刑事政策Ⅱ	担当者	尾田 清貴	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代大きな社会問題となっている事象について、その現状と対策について概観し、最新の施策や法改正の動向を踏まえ、刑事政策の役割について学ぶ。				
授業目的・到達目標	【授業目的】人はなぜ犯罪や非行を犯すのか、社会はこの様な者に対してどのような処遇と教育を行い、再社会化を促しているのかについて検討するとともに、主として米国・英国の刑事司法制度と比較しながら、刑事司法の在り方を学ぶことを目的とする。 【到達目標】犯罪の成否や事件処理に必要な基本的な知識を習得すること、及び、憲法・刑法・刑事訴訟法が実際の刑事司法制度の中でどの様に運用されているか理解し、説明できるようにすることを目標とする。関連DP及びCP:法律学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	憲法・刑法・刑事訴訟法の一般的知識を持っていることが望ましい				
授業方法	教科書は事前に読んできていることを前提に、配付資料を踏まえてディスカッションを含めて行う。刑事司法関係者の講義と施設見学の機会を考慮する。定期試験の結果を踏まえ、チャレンジの機会を設ける。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	試験は、論文試験（80点）と書き取り（20点）で行い、基本的な項目の理解と自説展開能力について評価する。	
	平常評価		20%	ディベートを踏まえて課題が与えられるので、出席していないと、課題レポートを受理しない。前期、後期に各1回、課題レポートがある。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2009	弘文堂	新版 刑事政策講義		大谷 實
	備考				
参考書	平成30年版犯罪白書・警察白書				
オフィスアワー	木曜日の16:10～17:00に本館9階1904号室で実施する。 ただし、メールで事前予約することが望ましい。oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	警察白書・新聞記事検索で調べてみよう（2時間）
	授業内容	会社・企業犯罪の現状と課題
	事後学習	配付資料に書き込んで整理しておく（2時間）
2	事前学習	警察庁のHP・新聞記事検索で調べてみよう（2時間）
	授業内容	交通犯罪（自動車運転処罰法を含む）
	事後学習	配付資料に書き込んで整理しておく（2時間）
3	事前学習	警察白書・犯罪白書で調べてみよう（2時間）
	授業内容	組織暴力犯罪
	事後学習	配付資料に書き込んで整理しておく（2時間）
4	事前学習	警察白書・犯罪白書、警察庁のHPで調べてみよう（2時間）
	授業内容	薬物犯罪
	事後学習	配付資料に書き込んで整理しておく（2時間）

5	事前学習	警察白書・犯罪白書で調べてみよう、また警察庁・厚生労働省のHP等でも調べてみよう（2時間）
	授業内容	精神障害者による犯罪（触法性精神障害者の処遇を含む）
	事後学習	医療と司法の関係について調べてみる（2時間）
6	事前学習	警察白書・犯罪白書・公務員白書、で調べてみよう（2時間）
	授業内容	公務員犯罪
	事後学習	配付資料に書き込んで整理しておく（2時間）
7	事前学習	現状については、警察白書・犯罪白書で調べてみよう。また、ミーガン法については、Web検索してみよう（2時間）
	授業内容	性犯罪と日本版ミーガン法について
	事後学習	ミーガン法の導入について、レポートにまとめて、翌週提出する（2時間）
8	事前学習	外国人の種類、どの国の人々による犯罪が増えているかについて調べてみよう（2時間）
	授業内容	外国人犯罪の現状と対策について
	事後学習	配付資料に書き込んで整理しておく（2時間）
9	事前学習	DVと児童虐待の現状について調べる、警察庁・厚生労働省のHPでも調べておこう（2時間）
	授業内容	DV及び児童虐待の現状と対策にさいて
	事後学習	防止策についてまとめる（2時間）
10	事前学習	その内容と現状について調べる（2時間）
	授業内容	セクシャルハラスメント
	事後学習	刑事特別法制定の是非について考えをまとめてみる（2時間）
11	事前学習	警察白書・犯罪白書で調べてみよう（2時間）
	授業内容	少年非行の現状と課題（1）
	事後学習	刑法犯・特別法犯 × 少年に関する年齢 = 制度の違いについて、まとめてみる（2時間）
12	事前学習	警察白書・犯罪白書で調べてみよう（2時間）
	授業内容	少年非行の現状と課題（2）
	事後学習	対策について考えてみる（2時間）
13	事前学習	犯罪被害者保護に関する法制度について調べてみよう（2時間）
	授業内容	被害者の権利と保護制度の現状と課題
	事後学習	制度設計の基本について理解できているか、考えてみよう（2時間）
14	事前学習	法定されているものだけで被害者保護になるか考えてみよう（2時間）
	授業内容	被害者の権利と保護制度の現状と課題・加害者家族も被害者か
	事後学習	制度設計の見直しをしてみよう（2時間）
15	事前学習	最高裁のHPで現状について調べておく（2時間）
	授業内容	裁判員裁判の課題
	事後学習	どう改善すれば良いか、 、まとめてみる（2時間）

科目名	刑事政策Ⅱ	担当者	西山 智之	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑事政策とは、犯罪の原因を探求し、これに基づき犯罪を予防するために行われる国または地方公共団体の施策である。この授業では、何が犯罪を生み出すのかについて事例を用いて説明したり、刑事施設について図や写真等を用いて説明するなど、イメージが湧きやすいように進行したいと考える。前期は、犯罪の起こる原因や刑罰制度の意義、犯罪者の処遇制度といった刑事政策の基本理論について講義する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】犯罪を予防・鎮圧するためには、どのような立法上、司法上、行政上の措置を行えばいいのか、そうした問題を解決する能力を身につけ、犯罪原因の分析や犯罪者の処遇制度、各種犯罪に対する対策などの現状やその歴史について説明ができるようになる。犯罪発生理由の分析や刑罰制度の意義といった刑事政策における基本的な内容を理解する力を育成することを目的とする。 【到達目標】現在の刑事司法システムがなぜこのようになっているのかを理解した上で、現在のシステムの問題点の指摘を行えることレベルになることを目標とする。対応DP及びCP：法律学科1，2，3，5，公共政策学科1，3，4				
履修条件	特になし。ただし、刑法・刑事訴訟法・少年法を履修済み、もしくは平行して履修していると授業内容の理解がしやすいと思われる。				
授業方法	講義形式を中心とするが、発言する機会を多く設ける予定であるため、積極的に発言して欲しい。毎授業終了時にリアクションペーパーを提出してもらう予定である。最終試験の内容については、試験終了後に授業内で解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	最終授業で論述式の試験をもって評価する。その他、ディベート中の発言や授業中の教員からの問いに答える等、授業への参加度を加味して総合的に評価する	
教科書	年	出版社		書名	著者名
				特に指定しない。	
	備考	教科書は使用しない。授業で取り扱ったテーマについて最適な文献をその都度紹介する。また授業において毎回レジュメを配布する。			
参考書	平成30年版犯罪白書・警察白書、藤本哲也『刑事政策概論〔全訂第7版〕』青林書院(2015)、船山泰範 編『Next教科書シリーズ 刑事法入門』弘文堂(2014)				
オフィスアワー	月曜日16：20～19：30 事前にnishiyama.tomoyuki@nihon-u.ac.jp まで連絡を入れてください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	現在の日本の犯罪の発生件数について新聞・インターネット等で調べておく。（2時間）
	授業内容	【現在の日本の犯罪情勢と分析方法】 日本の犯罪の公式統計にはどのようなものがあり、採用されている統計法はいかなるものか、また日本の犯罪情勢はどのような現状にあるのかを説明し、受講生がその分析方法について理解できるようになる。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、刑法犯認知件数と暗数の問題等の犯罪統計に関する正しい理解を確認する。（2時間）
2	事前学習	日本における犯罪被害者支援制度にはどのようなものがあるかを調べておく。（2時間）
	授業内容	【犯罪被害者の保護と支援】 犯罪被害者の置かれる状況と日本における犯罪被害者支援制度について説明し、受講生が犯罪被害者の現状について正しい理解ができるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、日本の犯罪被害者の支援制度を整理しておく。（2時間）
3	事前学習	少年法に対する意見を授業時に聞くので、自分の考えをまとめておく。（2時間）
	授業内容	【少年非行① 少年法の基本理念と少年事件の手続きの流れ】 少年法の基本的な考えや制度について説明し、受講生が少年法に対する正しい理解ができるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、少年法における手続きのながれを確認しておく。（2時間）
4	事前学習	近年発生した少年犯罪について、新聞・インターネット等で調べておく。（2時間）
	授業内容	【少年非行② 非行少年の処遇と少年非行対策の課題】 少年院における処遇制度や少年非行への対応策について説明し、受講生が少年非行の現状と対策について正しい理解ができるようにする。
	事後学習	少年法に対する自分の意見をまとめたレポートを後期末までに作成し提出することを求めるので、授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、準備をしておく。（2時間）

5	事前学習	日本における組織犯罪集団にはどのようなものがあるか、警察白書 (https://www.npa.go.jp/publications/whitepaper/index_keisatsu.html) で調べておく。(2時間)
	授業内容	【組織犯罪】 日本における組織犯罪の傾向と対策を説明し、受講生が組織犯罪がどのような手口で行われ、どのような対策を行うことが有効か理解ができるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、組織犯罪対策の方法に関して整理する。(2時間)
6	事前学習	日本の交通事故の発生件数や事故死者数について調べてくる。(2時間)
	授業内容	【交通犯罪】 日本における交通犯罪の傾向と対策を説明し、受講生が交通犯罪の罰則の変遷過程やその理由について理解することができるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、交通犯罪対策の歴史について整理を行う。(2時間)
7	事前学習	日本における薬物犯罪の現状について、新聞・インターネット等で調べておく。(2時間)
	授業内容	【薬物犯罪】 大麻・アヘン・覚せい剤等の薬物の種類と依存性について解説し、依存症対策について説明する。それにより、受講生が薬物犯罪の予防と再犯防止策について説明できるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、薬物犯罪への対応策をまとめる。(2時間)
8	事前学習	精神障害者の犯罪と言われて抱く、自分のイメージをまとめてくる。(2時間)
	授業内容	【精神障害者の犯罪】 日本における精神障害者による犯罪の件数等と対策を説明し、受講生が触法性精神障害者に対する正しい理解ができるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、精神障害者のうちどのくらいのパーセンテージの人間が犯罪を犯すのかや、精神障害者はどのような理由から犯罪を犯すのかについてまとめる。(2時間)
9	事前学習	国内の来日外国人犯罪はどのくらい起きているか調べておく。(2時間)
	授業内容	【来日外国人犯罪】 国内の来日外国人犯罪の現状と対策を解説し、受講生が来日外国人犯罪に対する正しい理解とその対策について正しい理解ができるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、来日外国人犯罪の定義や犯罪の認知件数についてまとめる。(2時間)
10	事前学習	日本における高齢者犯罪のイメージを整理しておく。(2時間)
	授業内容	【高齢者による犯罪】 かつては犯罪被害者としての面が強かった高齢者はどのような犯罪を行うのか、高齢者の社会復帰はどのようにすれば良いのかを説明し、受講者が高齢犯罪者の再犯防止策について提案ができるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、高齢者犯罪の再犯防止策について自分の考えをまとめる。(2時間)
11	事前学習	近年、日本で発生した児童虐待またはDV事件についてインターネット等を通じて調べてくる。(2時間)
	授業内容	【児童虐待・DV(ファミリーバイオレンス)】 児童虐待及びDVの現状及びその対策の難しさについて解説し、受講生がそうした難しい問題への解決策を導けるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、児童虐待及びDV対策の問題点についてまとめる。(2時間)
12	事前学習	サイバー犯罪と聞いてどのようなものをイメージするか、それについていくつか列挙してくる。(2時間)
	授業内容	【サイバー犯罪】 サイバー犯罪の種類と各種サイバー犯罪の現状と対策について説明し、受講生の高度なサイバー犯罪対策の知識を養成する。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、サイバー犯罪に対して自分でできる対策について再確認し実行しておく。(2時間)
13	事前学習	日本国内で起きた強制性交等罪・強制わいせつ罪の認知件数について調べておく。(2時間)
	授業内容	【性犯罪① 性犯罪の現状と暗数、性犯罪の再犯防止(刑事施設における性犯罪再犯防止指導)】 日本における性犯罪の認知件数と暗数の問題、性犯罪者の特徴、性犯罪者に対する再犯防止のための矯正処遇について説明する。これにより、受講生が性犯罪者の特徴とその矯正手法について理解できるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、なぜ性犯罪を起こす者が現れるのかについてまとめる。(2時間)
14	事前学習	アメリカ合衆国(どこの州を参考としても良い)の性犯罪者対策を1つ調べてくる。(2時間)
	授業内容	【性犯罪② ミーガン法、GPS監視等、性犯罪の事前予防策】 性犯罪の予防策について、アメリカ合衆国の制度を中心に様々な制度を解説し、受講生が各々の性犯罪対策の是非について検討できるようにする。
	事後学習	授業で提示した参考文献やレジュメに目を通し、どのようにすれば性犯罪を事前に予防できるかについて自分の意見をまとめる。(2時間)
15	事前学習	後期の総復習を行い、試験に挑む。(2時間)
	授業内容	【試験】 授業内試験を行い、試験の解説を行う。
	事後学習	試験の解説に基づいて、試験の再検証を行う。(2時間)

科目名	経済政策論	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経済政策とは、経済理論を背景に政策的介入や規制等の効果について検討を行うものである。本講義ではミクロ経済政策について学習する。なお、講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。			
授業目的・到達目標	経済政策について、その理論的背景を理解することで、現実の経済問題（人口減少、雇用、経済成長、規制緩和、少子化、高齢化、社会保障）に対する、その問題の所在について理解し、説明できる力を養成することを目的とする。現実の経済政策がどのような効果をもたらすかについて、理論的に理解でき、それに基づいて経済政策の効果の範囲と限界について論じることができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2，3，4，5 公共政策学科1，3，4			
履修条件	ミクロ経済学Ⅰを履修済みであることが望ましい。			
授業方法	教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。定期試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	90%	学期末試験で評価する	
	平常評価	10%	小テストの結果を考慮する	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2006年	日本経済新聞出版社	ゼミナール「経済政策入門」	岩田規久男、飯田泰之
	備考			
参考書	必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	授業期間中の毎週火曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける（予約は不要）、また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書第1章1．2．3の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【オリエンテーション・需給分析】 ミクロ経済学の基礎について学習する。
	事後学習	講義内容について確認をして、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討をする。（2時間）
2	事前学習	教科書第1章5の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【厚生分析の基礎】 消費者余剰、生産者余剰、総余剰について学習する。
	事後学習	教科書の第1章の練習問題3について説明をまとめること。（2時間）
3	事前学習	教科書第2章1．2．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【競争市場と税・規制】 税・補助金の死荷重、価格規制と参入規制の費用について学習する。
	事後学習	教科書の第2章の練習問題1について説明をまとめること。（2時間）
4	事前学習	教科書第2章3．4の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【貿易政策と産業政策】 自由貿易の利益と日本の産業政策について学習する。
	事後学習	教科書の第2章の練習問題5について説明をまとめること。（2時間）

5	事前学習	教科書第3章1の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【独占と規制】 規模の経済、独占企業の価格規制について学習する。
	事後学習	教科書の第3章の練習問題1．2について説明をまとめること。（2時間）
6	事前学習	教科書第3章2．3の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【インセンティブと規制緩和】 インセンティブ規制と公益事業の規制緩和について学習する。
	事後学習	教科書の第3章の練習問題5について説明をまとめること。（2時間）
7	事前学習	教科書第4章1の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【外部性と環境政策】 外部性、市場の失敗、コースの定理、排出権取引について学習する。
	事後学習	教科書の第4章の練習問題1について説明をまとめること。（2時間）
8	事前学習	教科書第4章2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【公共財の供給】 公共財の性質と、費用便益分析について学習する。
	事後学習	教科書の第4章の練習問題6について説明をまとめること。（2時間）
9	事前学習	教科書第5章1．2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【不完全情報とリスク】 期待効用仮説、リスク・プール、逆選択、モラル・ハザードについて学習する。
	事後学習	教科書の第5章の練習問題1について説明をまとめること。（2時間）
10	事前学習	教科書第5章3．4の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【不完全情報下の経済政策】 情報開示政策、有限責任行動、政策金融の役割について学習する。
	事後学習	教科書の第5章の練習問題4について説明をまとめること。（2時間）
11	事前学習	教科書第10章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【所得再分配政策】 効率性と公平性のトレードオフ、所得再分配政策の基準について学習する。
	事後学習	教科書の第10章の練習問題1について説明をまとめること。（2時間）
12	事前学習	教科書第11章1の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【所得税】 包括的所得税について考え方と性質について学習する。
	事後学習	教科書の第11章の練習問題1について説明をまとめること。（2時間）
13	事前学習	教科書第11章2の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【支出税】 支出税について考え方と性質について学習する。
	事後学習	教科書の第11章の練習問題2について説明をまとめること。（2時間）
14	事前学習	教科書第12章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【年金と医療】 保険原理と財政原理の違い、日本の年金制度について学習する。
	事後学習	教科書の第1章の練習問題3について説明をまとめること。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	定期試験に向けて準備しておくこと。（2時間）

科目名	経済法Ⅰ	担当者	友岡 史仁	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業で取り上げる独占禁止法（独禁法）は、「公正且つ自由な競争」の促進を目的とし日本における経済活動の基本方針を定める重要な法律であり、企業法務等では非常に重要な法律です。しかも、「経済憲法」とも呼ばれる経済活動に伴う多くの諸問題にかかわる根本規範なのですが、実際には非常に抽象的で、一度読むだけではすぐには頭に入りません。そこで本授業では独禁法の構造や基本的な事項を、具体的事例を交えながら解説していきます。			
授業目的・到達目標	経済活動は自由に行われ、そこには価格競争が成立します。しかし実際には、大企業による他の競争企業の排除であったり、秘密裏に価格を決め企業同士で競争しない協定が締結されることもしばしば行われます。そのことで利益を最大化しようとするからですが、もしこのような行為が許されれば、市場原理に反する企業によって競争がゆがめられてしまいます。このように、私たちの日常で起きうるさまざまな競争上の問題を解消する独占禁止法を本授業では取り上げ、その基本的な解釈をできるだけ忠実に条文に照らしながら学ぶことを目的とし、社会に出ても十分に対応できる法的思考（リーガルマインド）を身につけられるようになることを目標とします。関連DP及びCP：法律学科1, 3 経営法学科1, 3 公共政策学民法, 3行政法、会社法等を履修していること（既習であること）が望ましいのですが、そうではない場合も配慮する予定です。			
履修条件				
授業方法	講義およびケーススタディーになります。担当者がすでに執筆している『要説経済行政法』（弘文堂・2015年）にも関連する事例等を取り上げているので、それらを参考にしながら進めます。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	説明問題（いわゆる「一行問題」）と事例問題を併せた設問を出します。これらはともに講義中に触れることばかりですので、常に聞き逃さないように出席を心がけてください。	
	平常評価	0%	ここでは0％としていますが、履修者数との兼ね合いから、レポート課題を課することもあり、仮のその場合であれば、筆記試験とあわせてその結果を加味することがあります。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	有斐閣	経済法・第8版	岸井大太郎ほか
	2018年	有斐閣	経済法判例・審決百選〔第2版〕	金井貴嗣ほか編
	2015	弘文堂	要説経済行政法	友岡史仁
	備考			
参考書	講義の中で必要に応じて指示します。			
オフィスアワー	木曜日17:50に都度質問を受け付けます。それぞれの講義後に担当者に尋ねるようにしてください。必要に応じてその時に研究室等での場所設定をします。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	独禁法はどのような規定であるのかについて、六法を開けてざっと読んでください。（2時間）
	授業内容	序論として独占禁止法の全体を眺め、どのような規定があるかを概観します。
	事後学習	授業で話された内容を六法で確認しておきましょう。（2時間）
2	事前学習	独禁法の歴史的経緯が書かれた教科書の該当箇所を見ておきましょう。（2時間）
	授業内容	独禁法の成り立ちを説明することで、どのような適用事例があるかを学びます。ここで景表法などの成り立ちも扱います。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）
3	事前学習	独禁法の歴史的経緯が書かれた教科書の該当箇所を見ておきましょう。（2時間）
	授業内容	制定経緯から独禁法を眺めることで、その後の柱となる概念の活用を理解します。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）
4	事前学習	独禁法の実体的規定に共通する概念を六法で見えておきましょう。（2時間）
	授業内容	基礎的概念（1）「一定の取引分野」、「競争の実質的制限」、公正競争阻害性といった実体的規定の柱となる概念を学びます。
	事後学習	これらの概念がどの規定と共通するかを六法で確認しましょう。（2時間）

5	事前学習	第4回で学んだ独禁法の実体的規定がどのような場合に当てはまるのかに注意しながら、教科書の該当箇所を一読しましょう。（2時間）
	授業内容	基礎的概念（2）柱となる違反項に関する概念がどのように活用されるかを概観します。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）
6	事前学習	独禁法を適用する主体が誰であるかを教科書の該当箇所から学び取ってみましょう。（2時間）
	授業内容	公正取引委員会の組織と権限（1）独禁法を具体的に適用する行政組織に与えられる権原、その他の特殊性について取り上げます。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）
7	事前学習	公正取引委員会に与えられる諸権限を六法で確認しておきましょう。（2時間）
	授業内容	公正取引委員会の組織と権限（2）独禁法の適用事例を通じて組織上の課題を取り上げます。なお、すでに審判手続は廃止されていますが、学ぶ諸事例はこの手続にのっとり解決されているケースが多数になりますので、現在の制度と対比させながら論じます。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）
8	事前学習	公正取引委員会の諸権限がどのように六法で規定されているかを一読しておきましょう。（2時間）
	授業内容	違反事件の処理手続（1）公正取引委員会に与えられる行政上の諸権限がどのような意味を持ち、それがどのように行使されるのかについて、主に手続的な問題として取り上げます。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）
9	事前学習	公正取引委員会が定めた規則がありますので、その規則をインターネット等で調べてみましょう。（2時間）
	授業内容	違反事件の処理手続（2）公正取引委員会に与えられた特殊な権限が違反事件にいかに関与しているかを概観します。この場合、詳細な手続が委員会規則によって定められていることがあるので、事前学習で調べたものに照らし合わせることを期待します。
	事後学習	取り上げられた諸権限が具体的にどのように活用されているのかを教科書などで確認しておきましょう。（2時間）
10	事前学習	公正取引委員会の諸権限がどのように六法で規定されているかを一読しておきましょう。（2時間）
	授業内容	実効性確保手段（1）公正取引委員会による違反事件に対する行政上の措置として排除措置命令・課徴金納付命令を取り上げる。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）
11	事前学習	独禁法の中で訴訟にかかわる部分についてどのような規定があるかを、六法の中から探し出してみましょう。（2時間）
	授業内容	実効性確保手段（2）違反事件に対する民事上・刑事上の現れ方を概観します。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）
12	事前学習	独禁法の柱となる概念はどのようなものがあるかを確認するため、教科書を読んでみましょう。（2時間）
	授業内容	これまでに取り上げてきた内容について、独禁法がどのように機能するかを全体的に概観します。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）
13	事前学習	私的独占について独禁法がどのように規定しているかを六法から読み取ってみましょう。（2時間）
	授業内容	独禁法2条5項・3条前段の規定の意味を取り上げます。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）
14	事前学習	第13回で学んだ内容に照らし、排除型と支配型の違いは何であるかについて、教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	今回は、私的独占の類型のうち排除型に関する諸事例を取り上げます。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）
15	事前学習	第14回で学んだ排除型私的独占と対比させながら、何が支配型私的独占であるのかについて、教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	今回は、私的独占の類型のうち支配型に関する諸事例を取り上げます。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）

科目名	経済法Ⅱ	担当者	友岡 史仁	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業で取り上げる独占禁止法（独禁法）は、「公正且つ自由な競争」の促進を目的とし日本における経済活動の基本方針を定める重要な法律であり、企業法務等では非常に重要な法律です。しかも、「経済憲法」とも呼ばれる経済活動に伴う多くの諸問題にかかわる根本規範なのですが、実際には非常に抽象的で、一度読むだけではすぐには頭に入りません。そこで本授業では独禁法の構造や基本的な事項を、具体的事例を交えながら解説していきます。				
授業目的・到達目標	経済活動は自由に行われ、そこには価格競争が成立します。しかし実際には、大企業による他の競争企業の排除であったり、秘密裏に価格を決め企業同士で競争しない協定が締結されることもしばしば行われます。そのことで利益を最大化しようとするからですが、もしこのような行為が許されれば、市場原理に反する企業によって競争がゆがめられてしまいます。このように、私たちの日常で起きうるさまざまな競争上の問題を解消する独占禁止法を本授業では取り上げ、その基本的な解釈をできるだけ忠実に条文に照らしながら学ぶことをもくてきとし、社会に出て也十分に対応できる法的思考（リーガルマインド）を身につけられるようになることを目標とします。関連DP及びCP：法律学科1, 3 経営法学科1, 3				
履修条件	経済政策第1種履修者であることを求めます。なお、憲法、民法、行政法、会社法等を履修していること（既習であること）が望ましいのですが、そうではない場合も配慮する予定です。				
授業方法	講義およびケーススタディーになります。担当者がすでに執筆している『要説経済行政法』（弘文堂・2015年）にも関連する事例等を取り上げているので、それらを参考にしながら進めます。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	説明問題（いわゆる「一行問題」）と事例問題を併せた設問を出します。これらははともに講義中に触れることばかりですので、常に聞き逃さないように出席を心がけてください。	
	平常評価		0%	ここでは0％としていますが、履修者数との兼ね合いから、レポート課題を課することもあり、仮のその場合であれば、筆記試験とあわせてその結果を加味することがあります。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2018年	有斐閣	経済法・第8版		岸井大太郎ほか
	2018年	有斐閣	経済法判例・審決百選〔第2版〕		金井貴嗣ほか編
	2015	弘文堂	要説経済行政法		友岡史仁
	備考				
参考書	講義の中で必要に応じて指示します。				
オフィスアワー	木曜日17:50に都度質問を受け付けます。それぞれの講義後に担当者に尋ねるようにしてください。必要に応じてその時に研究室等での場所設定をします。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	今回から不当な取引制限（カルテル）について学んでいきますので、カルテルとは何かなどを、身近な事例で感じながら教科書を一読してみましょう。あわせて六法で該当する規定を読んでおきましょう。（2時間）
	授業内容	独禁法2条6項・3条後段の規定の意味を取り上げます。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）
2	事前学習	第16回で概要を理解した「不当な取引制限」がどのように活用されるのかについて、教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	多数の不当な取引制限に関する諸事例の典型的なものについて、取り上げます。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）
3	事前学習	不当な取引制限のうち、「談合」を典型として特殊な事例として行政機関が関わるものもあるので、それらが何かにについて教科書で一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	官製談合のように行政機関が関与する特殊な諸事例について検討します。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）
4	事前学習	独禁法の実効性確保手段（エンフォースメント）について、六法で該当する規定を探し出してみましょう。（2時間）
	授業内容	不当な取引制限に関する課徴金納付命令などの特殊な手続について、復習およびそれにかかわる諸手続の問題を検討します。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）

5	事前学習	構造規制がどのような意味を持つのかについて、教科書で確認してみましょう。（2時間）
	授業内容	独禁法8条の4に規定される独占的状態規制について取り上げます。
	事後学習	取り上げられた事例を教科書などで確認しておきましょう。（2時間）
6	事前学習	インターネット・新聞報道でもよく扱われるM&Aについて、どのような時事問題が登場するかを意識して教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	企業結合のうち集中規制（一般・市場）の意味について取り上げます。
	事後学習	取り上げられた事例を教科書やインターネット・新聞報道などで確認しておきましょう。（2時間）
7	事前学習	企業結合に関する独禁法の規定を六法で確認してみましょう。その際、公正取引委員会が公表している事業支配力過度集中規制ガイドラインもインターネット等で確認してみましょう。（2時間）
	授業内容	独禁法9条・11条について取り上げ、特に持株会社規制に関する問題を取り上げます。
	事後学習	取り上げられた事例を教科書などで確認しておきましょう。（2時間）
8	事前学習	第22回の授業で取り上げられなかった企業結合に関する独禁法の規定を六法で確認してみましょう。その際、公正取引委員会が公表している企業結合ガイドラインもインターネット等で確認してみましょう。（2時間）
	授業内容	独禁法10条、13条以下について取り上げ、株式保有・役員兼任・合併といった諸規制について概観します。
	事後学習	取り上げられた事例を教科書などで確認しておきましょう。（2時間）
9	事前学習	企業結合ガイドラインで触れられた内容に照らしてどのような問題が生ずるかについて、教科書を一読してみましょう。（2時間）
	授業内容	これまでの公正取引委員会による審決例などを通じて、企業結合に関する諸事例の理解を進めます。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）
10	事前学習	六法の中で不公正な取引方法はどのように規定されているかを確認してみましょう。（2時間）
	授業内容	不公正な取引方法について、私的独占・不当な取引制限とは異なる構成要件とその意味を概観します。
	事後学習	取り上げられた規定の意味を教科書などで確認しておきましょう。（2時間）
11	事前学習	不公正な取引方法に関する独禁法本体の条文および公正取引委員会が公表している流通取引慣行ガイドラインを見ておきましょう。（2時間）
	授業内容	排他条件付取引を中心に、それにかかわる他の不公正な取引方法も含めて解説します。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）
12	事前学習	不公正な取引方法に関する独禁法本体の条文および公正取引委員会が公表している流通取引慣行ガイドラインを見ておきましょう。（2時間）
	授業内容	再販売価格の拘束、拘束条件付取引について取り上げます。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）
13	事前学習	不公正な取引方法に関する独禁法本体の条文および公正取引委員会が公表している流通取引慣行ガイドラインを見ておきましょう。（2時間）
	授業内容	共同・その他の取引拒絶、差別対価等の差別的取扱いについて取り上げます。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）
14	事前学習	不公正な取引方法に関する独禁法本体の条文および公正取引委員会が公表している流通取引慣行ガイドラインを見ておきましょう。（2時間）
	授業内容	不当廉売、優越的地位の濫用、その他の不公正な取引方法について取り上げる。
	事後学習	取り上げられた事例を百選などで確認しておきましょう。（2時間）
15	事前学習	前回までに学んだ独禁法に関する諸規定の解釈と具体的な諸事例について、復習してみましょう。（2時間）
	授業内容	独禁法の総説・実体的規定を通じて学んだ諸事項を総括し、問題発見能力（リーガルマインド）が養われていることを確認します。
	事後学習	確認できたことを教科書・百選に照らして検討してみましょう。（2時間）

科目名	警察政策	担当者	金山 泰介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	治安行政は、外交及び防衛と並んで重要な国家の基本機能でありながら、我が国の大学ではあまり論じられてこなかった分野である。しかしながら、平成に入ってから犯罪急増、サイバー犯罪、振り込め詐欺、ストーカー等新たな治安への脅威の出現により、治安に対する国民の関心が高まっているところである。本科目においては、警察行政を中心に犯罪や事故等人に起因する危険から個人や社会を守るための行政政策を説明する。				
授業目的・到達目標	◎授業目的：治安行政は、平成期に入り犯罪急増等により国民の関心が高まるとともに、配偶者暴力、ストーカー、児童虐待等の新規立法が相次いで行われるなど大きく進展している。こうした治安行政の中核に担う警察行政の進展の背景、内容を理解し、社会の安全にかかわる施策の企画、立案、執行を担える人材を養成する。 ◎到達目標：近年の警察行政の進展の背景、内容について自分の言葉で説明できるようになるとともに、社会における危険に対して国、自治体、企業、個人それぞれのレベルでの対処について考察し、具体的な対策について説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：公共政策学科1， 3， 4， 5。				
履修条件	特になし。				
授業方法	パワーポイントを用いた講義形式で行うが、随時質問をするので予習しておくこと。また、講義冒頭に前回講義のポイントを質問するので復習を欠かさないこと。試験の解説は、試験終了時に行う。、				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業内試験：80% 授業参加20%（授業中の建設的質問、教員からの質問に対する適切な回答等）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	立花書房		新版警察行政概論	金山泰介
	備考				
参考書	『社会安全政策論』警察政策学会編 立花書房2018 『警察白書平成30年版』 警察庁 https://www.npa.go.jp/hakusyo/h29/index.html				
オフィスアワー	月曜日 12：50～13：00、14：30～14：40 授業講堂で受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス及びテキスト各章の冒頭の導入説明を読み講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス～社会の安全を守るための行政とは
	事後学習	講義ノートを整理し自らの学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、犯罪統計の対象を理解する。（2時間）
	授業内容	犯罪情勢の推移と変化の原因：戦後の犯罪情勢を概観するとともに犯罪統計について理解する。
	事後学習	講義ノートを整理し、犯罪統計におけるキーワードを記憶する。（2時間）
3	事前学習	事前配布資料及びテキスト該当部分を精読し、明治憲法下の警察と現行警察との違いを考察する（2時間）。
	授業内容	警察及び刑事司法制度：警察制度を中心に我が国の刑事司法制度を理解する。
	事後学習	講義ノートを整理し、旧警察法と新警察法の違いをまとめる。（2時間）
4	事前学習	事前配布資料及びテキスト該当部分を精読し、警察法第1条及び第2条の趣旨を考察する。（2時間）
	授業内容	警察権限行使の法理：警察権限の法的根拠とその執行の基本的原則を理解する。
	事後学習	講義ノートを整理し、警察権限行使の基本原則をまとめる。（2時間）

5	事前学習	事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、警察倫理と公務員倫理の違いを考察する。（2時間）
	授業内容	警察官の倫理：警察官の職務倫理について理解するとともに警察官の倫理の特徴について考察する。
	事後学習	講義ノートを整理し、警察官は一般公務員よりも高い倫理性が求められる理由についてまとめる。（2時間）
6	事前学習	事前配布資料及びテキスト該当部分を精読し、犯罪捜査の法的根拠を確認する。（2時間）
	授業内容	警察の捜査：警察の行う犯罪捜査の意義と任意捜査の原則について理解するとともに、主に英米法との比較において任意捜査の原則の意義を考察する。
	事後学習	講義ノートを整理し、警察、検察それぞれの捜査の違いをまとめる。（2時間）
7	事前学習	事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、犯罪被害者の置かれている立場に思いを寄せる。（2時間）
	授業内容	被害者対策と犯罪予防の理論：犯罪被害者対策及び犯罪理論の概要を理解する。
	事後学習	講義ノート整理し、犯罪予防の理論の発展の経緯を整理する。（2時間）
8	事前学習	事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、犯罪予防の重要性を理解する。（2時間）
	授業内容	公共空間・地域の安全：公共空間における犯罪防止政策の変遷と現状を理解するとともに、犯罪予防の理論の適用を考察する。
	事後学習	講義ノートを整理し、犯罪予防の理論に基づく各種施策をまとめる。（2時間）
9	事前学習	事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、家族間の犯罪について考察する。（2時間）
	授業内容	家庭等親密圏の安全：配偶者暴力、ストーカー、児童虐待等親密な関係にある者の間で生ずる事案への対応について考察する。
	事後学習	講義ノートを整理し、夫婦間暴力、ストーカー対策、児童虐待対策に共通する事項をまとめる。（2時間）
10	事前学習	事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、暴力団対策の歴史を考察する。（2時間）
	授業内容	反社会的勢力対策：暴力団等反社会的勢力への対処について理解する。
	事後学習	講義ノートを整理し、暴力団対策の変化と国民の意識の変化についてまとめる。（2時間）
11	事前学習	事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、サイバーセキュリティ基本法の基本条項に目を通す（2時間）。
	授業内容	サイバー空間の安全：サイバー犯罪対策の歴史と現行法制度について理解するとともに、サイバー空間の秩序構築について考察する。
	事後学習	講義ノートを整理し、サイバー空間の秩序構築のための諸施策についてまとめる。（2時間）
12	事前学習	事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分の精読し、交通事故対策の歴史について考察する。（2時間）
	授業内容	道路交通の安全：交通死亡事故防止対策について理解する。
	事後学習	講義ノートを整理し、交通死亡事故抑止に効果をもたらした諸要素をまとめる。（2時間）
13	事前学習	事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分の精読し、テロの歴史を考察する。（2時間）
	授業内容	テロ対策：テロの歴史と対策について理解する。
	事後学習	講義ノートを整理し、テロ防止のための規制の必要性和個人の自由とのバランスについてまとめる。（2時間）
14	事前学習	事前に配布する講義資料及びテキスト該当部分を精読し、「行動計画」策定の背景を検討する。（2時間）
	授業内容	犯罪対策関係会議と行動計画：犯罪対策関係会議の設置と「犯罪に強い社会の実現のための行動計画」の策定について考察する。
	事後学習	講義ノートを整理し、第1次から3次の「行動計画」の発展についてまとめる。（2時間）
15	事前学習	試験の準備（2時間）
	授業内容	授業内試験：論述式1問。テキスト、配布資料、ノート等紙媒体は持ちこみ可。 試験の解説
	事後学習	これまでの学習内容を確認する（2時間）

科目名	刑事訴訟法Ⅰ	担当者	澤田 康広	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑事訴訟法の基本的理論を条文と判例に基づき、できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的を理解し、それが刑事訴訟手続にどのように反映されているか、また、刑事訴訟の担い手である裁判官、検察官、弁護士がどのような役割を果たしているか、その問題点はどこにあるかを理解できるよう説明する。元検事の教員が、実際に担当した事件等を紹介しながら解説する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】人権保障と実体的真実発見という刑事訴訟法の目的やその担い手の果たす役割について理解するとともに、刑事訴訟手続のうち、捜査手続を中心に公訴提起に至るまでの流れを理解し、捜査手続の問題点を解決できる能力を養成することを目的とする。 【到達目標】刑事手続の基本的な流れを学び、判例や具体的事例に即して捜査手続における各種問題点を解決できるようになることを目標とする。関連ＤＰ及びＣＰ：法律学科1, 2, 3, 5 新聞学科1, 5				
履修条件	特になし				
授業方法	講義形式。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	刑事訴訟法の基礎理論を理解し、基本的知識を身につけているかを判定する。授業で説明した基本的な概念や基礎理論等を整理し、理解しておくこと。	
	平常評価				
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	弘文堂		「刑事訴訟法（Next教科書シリーズ）」	関正晴編
	備考				
参考書	刑事訴訟法判例百選（第10版）井上正仁編：有斐閣 他の参考書については、必要に応じて紹介する。				
オフィスアワー	火曜日及び水曜日１２：１０に、授業講堂で質問を受け付けます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の目次を一覧し、各章の冒頭に記載された「本章のポイント」を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス（講師の紹介、年間の講義予定、刑事訴訟法を学習する際の注意点などの説明。成績評価の方法、教科書・参考文献等の説明）
	事後学習	教科書の目次を一覧しながら、今後学ぶべき事項を確認する。（2時間）
2	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟法の歴史を学んだ上で、刑事訴訟法の意義と目的を学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
3	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事手続の概要を時系列で整理して学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文を確認する。（2時間）
4	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読み、関係する条文を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟の担い手①裁判所（裁判官）について、裁判所法を参照しながら学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文を確認する。（2時間）

5	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟の担い手②我が国の検察官制度を学びながら、刑事訴訟の担い手としての検察官について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文を確認する。（2時間）
6	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟の担い手③捜査機関（警察等）について、検察官との関係を意識しながら学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文を確認する。（2時間）
7	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟法の担い手④被告人の意義や被告人の確定について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
8	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟法の担い手⑤被告人の当事者能力、訴訟能力について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
9	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟法の担い手⑥弁護人について、弁護人選任権、弁護人の任務と権限等について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文を確認する。（2時間）
10	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	捜査の概況（捜査の意義、構造）について、学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
11	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	捜査の端緒①現行犯人の発見、変死体の検視について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
12	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	捜査の端緒②告訴について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
13	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	捜査の端緒③告発、請求、自首について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
14	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	捜査の端緒④職務質問について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
15	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	捜査の端緒⑤所持品検査、自動車検問について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
16	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	任意捜査の原則について、任意捜査の限界を意識しながら学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）

17	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	強制処分法定主義について、特に強制処分の定義を意識しながら学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
18	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	新しい強制処分（写真撮影、GPS捜査）について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
19	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	逮捕①通常逮捕について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
20	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	逮捕②緊急逮捕、現行犯逮捕について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
21	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	勾留について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
22	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	逮捕・勾留に関する諸問題①（事件単位の原則、一罪一逮捕一勾留の原則）について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
23	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	逮捕・勾留に関する諸問題②（別件逮捕）について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
24	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	令状による捜索・差押・検証①（令状請求の要件、手続）について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
25	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	令状による捜索・差押・検証②（捜索・差押え等の処分の手続、方法）について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
26	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	令状による捜索・差押・検証③（強制採尿）について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
27	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	逮捕に伴う捜索・差押・検証について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
28	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	被疑者の取調べ、被告人の取調べ、余罪の取調べについて学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）

29	事前学習	事前に出題した事例問題を検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	黙秘権，接見交通権について学習する
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所や条文，講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
30	事前学習	事前に出題した事例問題を検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	捜査の終結と検察官の事件処理（起訴便宜主義と起訴猶予処分）及びそれを適正化する制度について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所や条文を確認する。（2時間）

科目名	刑事訴訟法Ⅰ	担当者	関 正 晴	部 別	第一部	期 間	後 期	単 位 数	4
-----	--------	-----	-------	-----	-----	-----	-----	-------	---

授業概要	刑事訴訟の目的、刑事訴訟の基本構造、刑事訴訟の主体等の基本的事項を説明した後、捜査手続の概要と捜査の構造、被疑者の身柄拘束制度(逮捕・勾留)、証拠の収集保全制度(搜索・差押、検証等)、被疑者や参考人の取調べ、被疑者・被告人の黙秘権、刑事弁護制度、検察官の捜査の終結処分(起訴処分、不起訴処分、起訴猶予等)について説明し、これらについての主要な判例を説明する。				
授業目的・到達目標	刑事訴訟法の基本構造と手続の流れを習得して、刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目的とする。刑事訴訟手続のうち、捜査から公訴提起までの手続の流れと、それに関連する基本原理と解釈論、最近の改革課題等の動向について理解できる能力を養成することを目的とする。また、刑事訴訟の目的や担い手の役割について理解できる能力を養成することを目的とする。特に、基本判例の検討を通して、捜査手続の具体的な内容を理解できる能力を養成することを目的とする。これらの手続を理解するとともに、具体的な事例について条文の解釈をして解決を示すことができるようにすることを目標とする。関連D P及びC P：法律学科1, 2, 3, 5 新聞学科1, 5				
履修条件	特になし。				
授業方法	テキストに依拠しつつ刑事手続を説明し、あわせて適宜、判例百選等の事例も検討する。定期試験の解説や講評、復習するに際しての留意点の説明を、後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	刑事訴訟法の基礎理論と基礎知識が身についているかを判定する。授業で説明した基本的な概念・理論等を整理し理解しておくこと。	
	平常評価		0%		
教科書	年	出版社	書名		著者名
	平成31年	弘文堂	Next教科書シリーズ 刑事訴訟法(第2版)		関正晴編
	備考				
参考書	刑事訴訟法判例百選(第10版)井上正仁編：有斐閣 他の参考書については、初回の授業の際に具体的に説明し指示する。				
オフィスアワー	木曜日の10:30～11:30に、質問を受け付けます。質問内容によっては、授業終了後に、事前のアポイントをとってもらい相談の時間を設けます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	1年生のときに学習した法学の教科書等の「刑事裁判手続」等の該当箇所を一読するとともに、シラバスを確認して講義全体を概観する。(2時間)
	授業内容	年間の講義予定、成績評価の方法、教科書・参考文献などの説明、刑事裁判手続の一般的な説明
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、教科書の8頁の図と比べあわせて、全体としての刑事手続の流れの理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。(2時間)
2	事前学習	教科書の1頁から10頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。(2時間)
	授業内容	刑事訴訟法の意義：、刑事訴訟制度の歴史、意義、憲法や刑法との関係、刑事手続を捜査、公訴提起、公判、刑の執行等の内容を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。(2時間)
3	事前学習	法律用語辞典や各人の参考書で適正手続主義、実体的真実主義、当事者主義、職権主義という専門用語の内容を確認すること。教科書12頁から14頁を読み、近年の司法制度改革によってなされた刑事訴訟法の改正事項を確認する。(2時間)
	授業内容	刑事訴訟法の目的と構造：刑事訴訟の目的に関して、刑事訴訟法1条に表れている指導理念である適正手続主義、実体的真実主義の内容について確認し、訴訟構造に関する当事者主義の意義について、職権主義との対比で内容を説明し、刑事訴訟法の改正事項を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。(2時間)
4	事前学習	教科書の14頁から20頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。(2時間)
	授業内容	刑事訴訟の主体①(裁判所)：刑事裁判権、刑事訴訟を担当する裁判所の種類と役割、国法上の裁判所と訴訟法上の裁判所、裁判官の除斥・忌避・回避、管轄についての条文の概要、事物管轄、土地管轄、審級管轄の意義
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。(2時間)

5	事前学習	教科書の20頁から14頁から25頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟の主体②（裁判員裁判）：裁判員裁判について対象事件、裁判体の構成、裁判官と裁判員の権限及び評決方法等の内容を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
6	事前学習	教科書の26頁から33頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟の主体③（検察官、捜査機関を含む）：刑事手続における検察官の地位・役割、司法警察職員の地位・役割、捜査における検察官と司法警察職員との関係について内容を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
7	事前学習	教科書の33頁から41頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟の主体④（被告人・弁護人）：被疑者・被告人の訴訟法上の地位、当事者能力と訴訟能力、黙秘権・迅速な裁判を受ける権利、弁護人選任権、被疑者と被告人についてそれぞれの国選弁護制度の仕組み、弁護人の弁護義務と真実義務について内容を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
8	事前学習	教科書の42頁から48頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	刑事手続における被害者の地位：、被害者に対する従来の刑事手続における取扱い、犯罪被害者保護法によって新たに導入されて制度の内容について条文に即して内容を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
9	事前学習	教科書の49頁から54頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	捜査の概説（捜査の意義・構造）と捜査の端緒：、捜査の概念・定義、捜査の端緒の意義と種類、告訴・告発等の意義と内容、職務質問の法的根拠と法的性格、要件、実力行使と所持品検査の許否について内容を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
10	事前学習	教科書の54頁から56頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	任意捜査の原則：任意捜査を規制する原理（適法性の判断枠組）としての警察(捜査)比例の原則、鑑定の囑託、実況見分、任意同行に対する規制の内容等を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
11	事前学習	教科書の56頁から57頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	強制処分法定主義：強制処分法定主義の条文上の根拠、意義・趣旨、令状主義との関係・異同、任意捜査と強制捜査との区別の基準について内容等を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
12	事前学習	教科書の56頁から57頁を再度読み、また教科書84頁から57頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	新しい強制処分説と科学的捜査：科学捜査とされる写真撮影や電話傍受について任意捜査と強制捜査との区別の基準がどうように適用されるか、強制処分とされた捜査手段に対する適法性の判断方法について内容等を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
13	事前学習	教科書の58頁から63頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	逮捕：逮捕の種類とそれぞれの異同、通常逮捕の要件と手続、現行犯及び準現行犯の意義と要件、緊急逮捕の要件と手続、逮捕後の手続の流れについて、条文に則して内容等を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
14	事前学習	教科書の63頁から67頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	勾留：逮捕前置主義の条文上の根拠と趣旨、勾留の実体要件としての勾留の理由と必要性、勾留の手続(勾留質問、勾留請求権者、勾留請求の時間制限等)、勾留機関と延長、被疑者勾留の場所、勾留に対する不服申立方法について内容等を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
15	事前学習	教科書の67頁から68頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	逮捕・勾留の諸問題(1)：事件単位の原則の趣旨と意義、二重逮捕・勾留の許否、再逮捕・勾留の許否(一罪一逮捕の原則)について内容等を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
16	事前学習	教科書の68頁から69頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	逮捕・勾留の諸問題(2)：別件逮捕・勾留の問題点と主要な学説と判例、違法な別件逮捕・勾留があった場合の法的効果についてについて内容等を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）

17	事前学習	教科書の70頁から76頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。(2時間)
	授業内容	令状による搜索・差押：憲法35条の法意、搜索と差押の実体的要件(理由と必要性)、搜索差押令状の請求手続、搜索場所の特定、差押目的物の特定、搜索・差押の実施手続、令状の事前提示が要求される趣旨、搜索・差押の実施に「必要な処分」の内容等を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。(2時間)
18	事前学習	教科書の80頁から82頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。(2時間)
	授業内容	逮捕に伴う搜索・差押：逮捕に伴う搜索・差押が無令状で許される理由、逮捕に伴う搜索・差押の対象物、搜索の対象となる場所の範囲、逮捕に伴う搜索・差押が許される時間的範囲、被逮捕者の身体・所持品の搜索を実施できる場所等についての内容等を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。(2時間)
19	事前学習	教科書の76頁から78頁、84頁から87頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。(2時間)
	授業内容	科学的捜査被疑者の取調べ：強制採尿の許容性と実施の要件と手続、写真撮影と通信の傍受に対する法的規制についての内容等を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。(2時間)
20	事前学習	教科書の83頁から84頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。(2時間)
	授業内容	おとり捜査に対する法的規制：おとり捜査の意義、適法性の判断基準、違法なおとり捜査の訴訟法上の効果についての内容等を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。(2時間)
21	事前学習	教科書の88頁から904頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。(2時間)
	授業内容	身柄拘束中の被疑者やの取調べ、余罪の取調べ、被告人の取調べ：捜査構造論、被疑者の取調べ受忍義務の肯定説と否定説、余罪取調べの限界についての学説、起訴後の被告人の取調べの許否についての内容等を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。(2時間)
22	事前学習	教科書の90頁から92頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。(2時間)
	授業内容	被疑者の黙秘権：黙秘権の根拠条文と保障の趣旨、黙秘権の保障の及ぶ事項、刑事手続以外の手続における黙秘権の保障の有無についての内容等を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。(2時間)
23	事前学習	教科書の36頁から37頁、92頁から93頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。(2時間)
	授業内容	被疑者等の弁護人の援助を受ける権利：刑事弁護人制度の意義、弁護人依頼権の憲法上及び刑事訴訟法上の根拠、実質的で有効な弁護を受ける権利についての内容等を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。(2時間)
24	事前学習	教科書の92頁から94頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。(2時間)
	授業内容	被疑者等と弁護人の接見交通権(1)：接見交通権の内容と保障の趣旨、憲法34条の弁護人依頼権との関係、接見指定要件である「捜査のため必要がある」とい」の解釈についての学説と判例についての内容等を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。(2時間)
25	事前学習	教科書の92頁から94頁と各人の参考書の該当箇所を読み予習をして全体的な内容を確認する。(2時間)
	授業内容	被疑者等と弁護人の接見交通権(2)：一接見指定要件を定める刑事訴訟法39条3項の合憲性についての最高裁判例、起訴後の余罪捜査と接見指定の許否について判例の立場と学説の内容等を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。(2時間)
26	事前学習	教科書の89頁、66頁等を読み予習をして全体的な内容を確認する。(2時間)
	授業内容	被疑者の証拠保全制度と被疑者の勾留理由開示請求：証拠保全と勾留理由開示制度について、それらの意義、要件及び手続について条文に則して内容を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。(2時間)
27	事前学習	教科書の95頁から96頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。(2時間)
	授業内容	違法捜査からの救済：違法捜査に対する刑事手続の内外で講じることのできる措置(準抗告、違法収集証拠の排除法則、控訴棄却、懲戒処分、刑事罰、国家賠償等)の内容を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。(2時間)
28	事前学習	教科書の90頁から98頁を読み予習をして全体的な内容を確認う。(2時間)
	授業内容	捜査手続の終結と検察官の終局的事件処理の運用原則：検察官への事件装置手続、検察官の行う事件処理の種類(狭義の不起訴処分、起訴猶予処分、起訴処分)についての内容等を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。(2時間)

29	事前学習	教科書の102頁から102頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	公訴権の運用原則：国家訴追主義と起訴独占主義、起訴便宜主義と起訴法定主義、起訴猶予処分を行う際の考慮要素、公訴の取消制度についての内容等を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
30	事前学習	教科書の100頁から105頁を読み予習をして全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	検察官の事件処理を適正化する制度：察審査会制度、付審判請求手続、公訴権乱用論の意義と具体例についての内容等を説明する。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）

科目名	刑事訴訟法Ⅰ	担当者	緑 大輔	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	4
-----	--------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この講義では、犯罪の発生を受けて行われる刑事手続のうち、捜査から公訴提起に至る過程に関連する基本原理およびそれにかかわる解釈論、近時の改革課題と関連する動向について学びます。			
授業目的・到達目標	刑事訴訟法典のうち、捜査手続の流れを把握し、主要な条文および判例の判断枠組みを理解するとともに、学説上の主要な見解を把握することを目的とします。また、刑事訴訟の意義・目的や担い手などについても理解することも、本講義の目的とします。捜査手続および公訴提起の基本的な手続を理解するとともに、具体的な事例に即して条文の解釈を展開して自分なりの解決を示せるようになることを目標とします。関連DPおよびCP：法律学科1, 2, 3, 5 新聞学科1, 5			
履修条件	特になし。			
授業方法	テキストに沿って、講述する予定です。また、判例に関する補足のプリントを配布する予定です。なお、講義時に短いレポートないし感想を提出を求め、加点事由とする場合があります。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	(1)刑事訴訟法の基本的な知識を理解できているか否か、(2)比較的シンプルな事例について、条文を解釈・適用して解決を導くことができているか否かを問います。	
	平常評価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年刊行予定	弘文堂	NEXT刑事訴訟法(第2版)	関正晴編
	備考			
参考書	井上正仁ほか編『刑事訴訟法判例百選（第10版）』（有斐閣、2017年）、緑大輔『刑事訴訟法入門（第2版）』（日本評論社、2017年）ほか。その他は講義において紹介します。			
オフィスアワー	金曜講義前後授業講堂にて。または休憩時間（非常勤のため）。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、教科書第1章1～2を読む。(2時間)
	授業内容	講義で扱う内容および成績評価方法、参考文献の紹介などを行うガイダンスを実施する。その上で、刑事訴訟制度の意義および特色について講述する。
	事後学習	教科書第1章1～2および講義ノートの復習。(2時間)
2	事前学習	教科書第1章3～5を読むとともに、関連条文を確認する。(2時間)
	授業内容	刑事手続への関与者として、裁判所の種類や組織、裁判管轄、検察官制度と検察官の職務権限、司法警察職員の意義と検察官との関係等について学ぶ。
	事後学習	教科書第1章3～5および講義ノートの復習。(2時間)
3	事前学習	教科書第1章6～8を読むとともに、関連条文を確認する。(2時間)
	授業内容	刑事手続への関与者として、被告人の意義と訴訟能力および基本的権利、弁護人制度の意義と権限、犯罪被害者の地位について学ぶ。
	事後学習	教科書第1章6～8および講義ノートの復習。(2時間)
4	事前学習	教科書第2章1A～Bおよび第2章3Aを読むとともに、関連条文を確認する。(2時間)
	授業内容	捜査の意義および捜査の端緒(特に職務質問および所持品検査を中心として)について学ぶ。その際に、強制と任意の区別についても併せて確認する。
	事後学習	教科書第2章1A～Bおよび第2章3A、講義ノートの復習、事例問題の検討。(2時間)

5	事前学習	教科書第2章2A～Dを読むとともに、関連条文を確認する。（2時間）
	授業内容	第4講で提示した事例問題を検討・解説した上で、任意捜査の限界について、任意同行を中心に学ぶ。
	事後学習	教科書第2章2A～Dおよび講義ノートの復習の検討。（2時間）
6	事前学習	教科書第2章4A～Bを読むとともに、関連条文を確認する。（2時間）
	授業内容	おとり捜査、写真撮影・ビデオカメラ撮影の限界について学ぶ。
	事後学習	教科書第2章4A～B、講義ノートの復習、事例問題の検討。（2時間）
7	事前学習	教科書第2章3A、4Cを読むとともに、関連条文を確認する。（2時間）
	授業内容	第6講で提示した事例問題を検討・解説した上で、強制処分法定主義の意義、令状主義の意義、強制処分と任意処分の区別について学ぶ。その際に、有形力行使、GPS動静監視を素材とする。
	事後学習	教科書第2章3B、4C、講義ノートの復習。（2時間）
8	事前学習	教科書第2章3B～Cを読むとともに、関連条文を確認する。（2時間）
	授業内容	逮捕の諸類型とその要件、勾留の手続について学ぶ。
	事後学習	教科書第2章3B～C、講義ノートの復習、事例問題の検討。（2時間）
9	事前学習	教科書第2章3Dを読むとともに、関連条文を確認する。（2時間）
	授業内容	事例問題を検討するとともに、逮捕・勾留にかかわる諸問題（逮捕前置主義、別件逮捕勾留、再逮捕再勾留禁止など）について学ぶ。
	事後学習	教科書第2章3D、講義ノートの復習、事例問題の検討。（2時間）
10	事前学習	教科書第2章3Eを読むとともに、関連条文を確認する。（2時間）
	授業内容	事例問題を検討するとともに、捜索、押収の令状審査および令状発付のための要件について学ぶ。
	事後学習	教科書第2章3E、講義ノートの復習、事例問題の検討。（2時間）
11	事前学習	教科書第2章3Eを読むとともに、関連条文を確認する。（2時間）
	授業内容	捜索、押収の執行に関する諸問題について学ぶ。
	事後学習	教科書第2章3E、講義ノートの復習。（2時間）
12	事前学習	教科書第2章3Eを読むとともに、関連条文を確認する。（2時間）
	授業内容	検証、鑑定、期日外尋問について学ぶ。
	事後学習	教科書第2章3E、講義ノートの復習、事例問題の検討。（2時間）
13	事前学習	教科書第2章3Eおよび4C～Dを読むとともに、関連条文を確認する。（2時間）
	授業内容	事例問題を検討した上で、通信傍受、GPS動静監視の諸問題について学ぶ。
	事後学習	教科書第2章3E、講義ノートの復習。（2時間）
14	事前学習	教科書第2章1～4を復習として読むとともに、関連条文を確認する。（2時間）
	授業内容	对人的強制処分、任意捜査の限界に関する事例問題を検討する。
	事後学習	教科書第2章1～4、講義ノートの復習、事例問題の検討。（2時間）
15	事前学習	教科書第2章1～4を復習として読むとともに、関連条文を確認する。（2時間）
	授業内容	対物的強制処分（特に通常の捜索差押え）に関する事例問題を検討する。
	事後学習	教科書第2章1～4、講義ノートの復習、事例問題の検討。（2時間）
16	事前学習	教科書第2章1～4を復習として読むとともに、関連条文を確認する。（2時間）
	授業内容	対物的強制処分（特に無令状で行われる捜索差押え）に関する事例問題を検討する。
	事後学習	教科書第2章1～4、講義ノートの復習、事例問題の検討。（2時間）

17	事前学習	教科書第2章1～4を復習として読むとともに、関連条文を確認する。（2時間）
	授業内容	対物的強制処分（特に身体に対する措置を伴って証拠を収集する処分）に関する事例問題を検討する。
	事後学習	教科書第2章1～4、講義ノートの復習、事例問題の検討。（2時間）
18	事前学習	教科書第2章3を復習として読むとともに、関連条文を確認する。（2時間）
	授業内容	強制処分法定主義に関する事例問題を検討する。
	事後学習	教科書第2章3、講義ノートの復習、事例問題の検討。（2時間）
19	事前学習	教科書第2章5B～Cを読むとともに、関連条文を確認する。（2時間）
	授業内容	被疑者側の防御活動としてとりうる手段を学ぶとともに、被疑者取調べの諸問題について学ぶ。
	事後学習	教科書第2章5B～C、講義ノートの復習。（2時間）
20	事前学習	教科書第2章5Cを読むとともに、関連条文を確認する。（2時間）
	授業内容	被疑者取調べの録音録画とその証拠利用にかかわる諸問題について学ぶ。
	事後学習	教科書第2章5C、講義ノートの復習。（2時間）
21	事前学習	教科書第2章5Cを読むとともに、関連条文を確認する。（2時間）
	授業内容	協議合意制度（捜査協力型の司法取引）にかかわる諸問題について学ぶ。
	事後学習	教科書第2章5C、講義ノートの復習。（2時間）
22	事前学習	教科書第2章5Dを読むとともに、関連条文を確認する。（2時間）
	授業内容	被疑者と弁護人の間の接見交通権について、特に接見指定にかかわる問題を中心に学ぶ。
	事後学習	教科書第2章5D、講義ノートの復習、事例問題の検討。（2時間）
23	事前学習	教科書第2章5Dを読むとともに、関連条文を確認する。（2時間）
	授業内容	事例問題を検討するとともに、秘密交通権に関する諸問題を学ぶ。
	事後学習	教科書第2章5D、講義ノートの復習。（2時間）
24	事前学習	教科書5Eを読むとともに、関連条文を確認する（2時間）
	授業内容	違法捜査からの救済手段を整理するとともに、捜査法に関する事例問題を検討する。
	事後学習	教科書第2章5、講義ノートの復習、事例問題の検討。（2時間）
25	事前学習	教科書第2章1～5を読むとともに、関連条文を確認する。（2時間）
	授業内容	捜査法全般にかかわる問題を検討する。
	事後学習	教科書第2章1～5、講義ノートの復習。（2時間）
26	事前学習	教科書第2章6を読むとともに、関連条文を検討する。（2時間）
	授業内容	捜査の終結段階の処理として、警察官の処分、検察官送致、検察官の処分（起訴・不起訴・起訴猶予）について学ぶ。また、起訴後の捜査の実施の可否についても確認する。
	事後学習	教科書第2章6、講義ノートの復習。（2時間）
27	事前学習	教科書第2章6、第3章1を読むとともに、関連条文を検討する。（2時間）
	授業内容	検察官の公訴提起権限について学ぶ。
	事後学習	教科書第2章6、第3章1、講義ノートの復習。（2時間）
28	事前学習	教科書第1章3～5、第2章1～4の復習。（2時間）
	授業内容	捜査機関と捜査権限について、まとめを行う。
	事後学習	教科書第1章3～5、第2章1～4の復習と判例検討。（2時間）

29	事前学習	教科書第1章6～7、第2章5の復習。（2時間）
	授業内容	被疑者と弁護人の権限について、まとめを行う。
	事後学習	教科書第1章6～7、第2章5の復習と判例検討。（2時間）
30	事前学習	教科書の上記範囲の読み込みおよび関連条文の確認（2時間）
	授業内容	まとめ（時間調整予備）
	事後学習	期末試験前の学修（2時間）

科目名	刑事訴訟法Ⅰ	担当者	加藤 克佳	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑法（刑罰法令）を具体的に実現するには、犯罪事実を認定し（事実認定）、科すべき刑を量定する手続（量刑）が必要となる。この手続が刑事訴訟（刑事手続）である。この授業では、捜査、公訴、公判のうち、捜査手続について、その概略を説明するとともに、そこに生ずる重要な法的諸問題につき検討を行う。				
授業目的・到達目標	刑事訴訟法（特に捜査手続法）の基礎を修得することを目的とする。その上で、刑事手続制度をめぐる諸問題への適正な対応が図れるようにすることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5 新聞学科1, 5				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式で行う。授業には、必ず六法およびテキスト類を持参すること。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	授業で提示した基礎的な知識の理解・修得ができているかを判定する。	
	平常評価				
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	有斐閣		入門刑事手続法〔第7版〕	三井誠＝酒巻匡
	2017	有斐閣		刑事訴訟法判例百選〔第10版〕	井上正仁ほか編
	備考	教科書は予定である。必要に応じて授業の際に指示・紹介する。			
参考書	必要に応じて授業の際に指示・紹介する。				
オフィスアワー	水曜授業後12：10～ 授業講堂にて行う。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	ガイダンスとイントロダクション：講義予定、教科書等、成績評価方法など
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
2	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	刑事訴訟法の意義・特色，刑事手続の流れ
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
3	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	捜査の意義・構造，捜査の主体(1)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
4	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	捜査の意義・構造，捜査の主体(2)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）

5	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	捜査の端緒(1)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
6	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	捜査の端緒(2)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
7	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	捜査の基本原則(1)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
8	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	捜査の基本原則(2)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
9	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	被疑者の身体拘束(1)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
10	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	被疑者の身体拘束(2)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
11	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	被疑者の身体拘束(3)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
12	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	被疑者の身体拘束(4)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
13	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	被疑者の身体拘束(5)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
14	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	物的証拠の収集(1)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
15	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	物的証拠の収集(2)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
16	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	物的証拠の収集(3)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）

17	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	物的証拠の収集(4)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
18	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	物的証拠の収集(5)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
19	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	供述証拠の収集(1)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
20	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	供述証拠の収集(2)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
21	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	捜査行為の限界(1)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
22	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	捜査行為の限界(2)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
23	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	捜査行為の限界(3)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
24	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	捜査行為の限界(4)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
25	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	被疑者の防御権(1)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
26	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	被疑者の防御権(2)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
27	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	捜査の終結と検察官の事件処理(1)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
28	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	捜査の終結と検察官の事件処理(2)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）

29	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	公訴の提起(1)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）
30	事前学習	該当箇所の予習（2時間）
	授業内容	公訴の提起(2)
	事後学習	該当箇所の復習，課題（2時間）

科目名	刑事訴訟法Ⅰ	担当者	澤田 康広	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑事訴訟法の基本的理論を条文と判例に基づき、できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的を理解し、それが刑事訴訟手続にどのように反映されているか、また、刑事訴訟の担い手である裁判官、検察官、弁護士がどのような役割を果たしているか、その問題点はどこにあるかを理解できるよう説明する。元検事の教員が、実際に担当した事件等を紹介しながら解説する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】人権保障と実体的真実発見という刑事訴訟法の目的やその担い手の果たす役割について理解するとともに、刑事訴訟手続のうち、捜査手続を中心に公訴提起に至るまでの流れを理解し、捜査手続の問題点を解決できる能力を養成することを目的とする。 【到達目標】刑事手続の基本的な流れを学び、判例や具体的事例に即して捜査手続における各種問題点を解決できるようになることを目標とする。関連D P及びC P：法律学科1, 2, 3, 5 新聞学科1, 5				
履修条件	特になし				
授業方法	講義形式。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	刑事訴訟法の基礎理論を理解し、基本的知識を身につけているかを判定する。授業で説明した基本的な概念や基礎理論等を整理し、理解しておくこと。	
	平常評価				
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	弘文堂		「刑事訴訟法（Next教科書シリーズ）」	関正晴編
	備考				
参考書	刑事訴訟法判例百選（第10版）井上正仁編：有斐閣 他の参考書については、必要に応じて紹介する。				
オフィスアワー	火曜日及び木曜日１９：３０に、授業講堂で質問を受け付けます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の目次を一覧し、各章の冒頭に記載された「本章のポイント」を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス（講師の紹介、年間の講義予定、刑事訴訟法を学習する際の注意点などの説明。成績評価の方法、教科書・参考文献等の説明）
	事後学習	教科書の目次を一覧しながら、今後学ぶべき事項を確認する。（2時間）
2	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟法の歴史を学んだ上で、刑事訴訟法の意義と目的を学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
3	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事手続の概要を時系列で整理して学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文を確認する。（2時間）
4	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読み、関係する条文を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟の担い手①裁判所（裁判官）について、裁判所法を参照しながら学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文を確認する。（2時間）

5	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟の担い手②我が国の検察官制度を学びながら、刑事訴訟の担い手としての検察官について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文を確認する。（2時間）
6	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟の担い手③捜査機関（警察等）について、検察官との関係を意識しながら学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文を確認する。（2時間）
7	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟法の担い手④被告人の意義や被告人の確定について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
8	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟法の担い手⑤被告人の当事者能力、訴訟能力について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
9	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟法の担い手⑥弁護人について、弁護人選任権、弁護人の任務と権限等について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文を確認する。（2時間）
10	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	捜査の概況（捜査の意義、構造）について、学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
11	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	捜査の端緒①現行犯人の発見、変死体の検視について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
12	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	捜査の端緒②告訴について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
13	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	捜査の端緒③告発、請求、自首について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
14	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	捜査の端緒④職務質問について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
15	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	捜査の端緒⑤所持品検査、自動車検問について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
16	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	任意捜査の原則について、任意捜査の限界を意識しながら学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）

17	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	強制処分法定主義について、特に強制処分の定義を意識しながら学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
18	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	新しい強制処分（写真撮影、GPS捜査）について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
19	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	逮捕①通常逮捕について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
20	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	逮捕②緊急逮捕、現行犯逮捕について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
21	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	勾留について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
22	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	逮捕・勾留に関する諸問題①（事件単位の原則、一罪一逮捕一勾留の原則）について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
23	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	逮捕・勾留に関する諸問題②（別件逮捕）について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
24	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	令状による捜索・差押・検証①（令状請求の要件、手続）について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
25	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	令状による捜索・差押・検証②（捜索・差押え等の処分の手続、方法）について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
26	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	令状による捜索・差押・検証③（強制採尿）について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
27	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	逮捕に伴う捜索・差押・検証について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
28	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	被疑者の取調べ、被告人の取調べ、余罪の取調べについて学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所や条文、講義で紹介した判例を確認する。（2時間）

29	事前学習	事前に出題した事例問題を検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	黙秘権，接見交通権について学習する
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所や条文，講義で紹介した判例を確認する。（2時間）
30	事前学習	事前に出題した事例問題を検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	捜査の終結と検察官の事件処理（起訴便宜主義と起訴猶予処分）及びそれを適正化する制度について学習する。
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所や条文を確認する。（2時間）

科目名	刑事訴訟法Ⅱ	担当者	関 正晴	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	4
-----	--------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	公訴提起の手続、起訴状の記載事項、起訴状一本主義、検察官の公訴権行使の適法性を担保する諸制度、訴因制度、公判の準備手続、公判手続、判決宣告手続、判決の効力、証拠法概説、証拠法の基本用語の説明、証拠裁判主義、自由心象主義、挙証責任、自白法則、補強法則、伝聞法則とその例外、上訴制度（控訴、上告）、非常救済手続（再審、非常上告）等を説明する。				
授業目的・到達目標	刑事訴訟法の基本構造と手続の流れを習得して刑事裁判を進める手続の内容を理解できる能力を養成することを目的とする。刑事訴訟手続のうち、公訴、公判、上訴、非常救済手続、裁判の執行までの手続の流れと、それに関連する基本原理と解釈論、最近の改革課題等の動向について理解できる能力を養成することを目的とする。特に、基本判例の検討を通して、公判手続や証拠法の法的規制の具体的な内容を理解できる能力を養成することを目的とする。これらの手続を理解するとともに、具体的な事例について条文の解釈をして解決を示すことができるようにすることを目標とする。関連するD P及びC P：法律学科1， 2， 3， 5				
履修条件	特になし。				
授業方法	テキストに依拠しつつ刑事手続を説明し、あわせて適宜、判例百選等の事例も検討する。定期試験の解説や講評、復習するに際しての留意点の説明を、後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		100%	刑事訴訟法の基本理論と基礎知識が身についているかを判定する。授業で説明した基本的な概念・理論等を整理し理解しておくこと。	
	平 常 評 価				
教科書	年	出版社	書名		著者名
	平成31年	弘文堂	N e x t 教科書シリーズ 刑事訴訟法(第2版)		関正晴編
	備考				
参 考 書	刑事訴訟法判例百選(第10版)井上正仁編、有斐閣、他の参考書については、初回の授業の際に具体的に説明し指示する。				
オフィスアワー	木曜日の10：30～11：30に、質問を受ける。質問内容によっては、授業終了後に、事前のアポイントをとってもらい相談の時間を設けます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の7頁から10頁を読み刑事手続の全体の流れについて理解し、シラバスを確認して講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	年間の講義予定、成績費評価の方法、教科書・参考文献などの説明、刑事訴訟手続の概要、特に公訴提起と公判手続の概要についての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解に努め、授業の概要と説明内容をまとめる。（2時間）
2	事前学習	教科書の3頁から4頁、10頁から11頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	刑事裁判の原理(弾劾主義と当事者主義)：刑事訴訟法1条が規定する指導理念である適正手続主義、実体的真実主義の内容と、訴訟構造に関する当事者主義の意義を職権主義との対比で内容の説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
3	事前学習	教科書の100頁から105頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	公訴提起の総説、公訴権の運用とその規制：国家訴追主義と起訴独占主義、起訴便宜主義と起訴法定主義、検察審査会制度、付審判請求手続、公訴権乱用論の意義と具体例についての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
4	事前学習	教科書の105から109頁、134頁から135頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	公判提起の方式と効果：公訴提起の方式、不告不理の原則、条文に則した起訴状の記載事項についての説明。
	事後学習	従業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）

5	事前学習	教科書の108頁から110頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	起訴状一本主義：起訴状一本主義の趣旨、具体的事例に則した予断排除の原則違反の有無を説明、同原則違反の効果についての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
6	事前学習	教科書の110頁から115頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	訴因制度：訴因制度、訴因と公訴事実の関係、訴因の明示・特定の要請、判例の訴因が明示・特定されているか否かの基準と具体的事例の説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
7	事前学習	教科書の115頁から126頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	訴因変更制度①(訴因変更の要否)：訴因変更制度の意義、訴因の追加、撤回、狭義の変更、訴因変更の要否を判断する基準についての判例の立場と主要な学説の考え方についての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
8	事前学習	教科書の126頁から132頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	訴因変更制度②(公訴事実の同一性)：公訴事実の同一性を判断する基準についての判例の立場と主要な学説の考え方、訴因変更の時機的な限界についての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し授業の概要と説明内容をまとめる。、教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
9	事前学習	教科書の132頁から134頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	訴因変更命令と訴訟条件：裁判所は訴因変更を命じる義務を負うかについての判例の立場と主要な学説の考え方、訴因変更命令の効力についての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
10	事前学習	教科書の144頁から152頁、156頁から163頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	公判の諸原則の概説、公判準備①(事前準備手続、公判前整理手続と証拠開示)：公判の諸原則の概説、公判準備①(事前準備手続、公判前整理手続と証拠開示)：口頭主義、直接主義、公開主義等の説明、公判前整理手続の目的及び従前の準備手続との異同、公判前整理手続に組み込まれている証拠開示制度の趣旨・目的、争点を整理し立証計画を立てるシステムについての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
11	事前学習	教科書の152頁から156 頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	公判準備②(被告人の出頭を確保する手続、保釈)：公訴提起後の主要な手続きの流れ（起訴状謄本の送達、弁護士選任権の告知、第一回公判期日の指定・通知、被告人の召喚等）についての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
12	事前学習	教科書の150頁から152頁、163頁から172 頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	公判期日の手続(冒頭手続、証拠調べ、弁論、論告・求刑、判決の宣告)：第一審公判の手続きの進行(冒頭手続、証拠調べ、弁論、論告・求刑、判決の宣告)と、裁判所の訴訟指揮権及び法廷警察権についての説明。
	事後学習	従業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
13	事前学習	教科書の169頁から170頁、16頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	公判の分離・併合、公判手続の更新・停止、公判外の手続：弁論の分離・併合の意義と趣旨及び手続、公判手続を停止・更新しなければならない場合、公判期日外の証人尋問等についての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
14	事前学習	教科書の20頁から25頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	裁判員裁判概説：裁判員裁判の基本構造(対象事件、裁判体の構成、裁判官と裁判員の権限及び評決の方法)についての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
15	事前学習	教科書の172頁から177頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	簡易手続(簡易公判手続、即決裁判手続、略式手続、交通事件即決裁判手続)：簡易公判手続、即決裁判手続、略式手続、交通事件即決裁判手続の意義と内容についての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
16	事前学習	教科書の180頁から187頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	証拠法総説①(証拠の意義と種類、証拠裁判主義)：証拠の意義と種類、証拠能力と証明力、証拠裁判主義の意義、厳格な照明と自由な照明の概念、厳格な照明が必要な事実の範囲についての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）

17	事前学習	教科書の187頁から190頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	証拠法総説②(自由心証主義、挙証責任)：自由心証主義の意義と例外、挙証責任の意義、証拠提出責任、争点形成責任、挙証責任の転換が認められるかについての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
18	事前学習	教科書の193頁から196頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	自白法則：自白の意義、自白法則の趣旨についての判例の立場及び主要な学説の考え方についての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
19	事前学習	教科書の193頁から196頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	自白法則に関する裁判例：自白法則に関する裁判例を検討、約束による自白、偽計による自白、違法な手続で採取された自白等の具体的事例に則しての説明。
	事後学習	従業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
20	事前学習	教科書の196頁から199頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	補強法則：自白に補強証拠を必要とする理由、公判廷自白にも補強証拠が必要とされるか、補強証拠適格、補強証拠が必要とされる範囲、補強証拠に『必要とされる証明力の程度、共犯者の自白に補強証拠が必要とされるかについての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
21	事前学習	教科書の199頁から204頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	伝聞法則①：伝聞証拠の意義、供述証拠と伝聞法則の趣旨、伝聞法則と憲法との関係、伝聞法則が適用されない場合についての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
22	事前学習	教科書の204頁から211頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	伝聞法則②：伝聞法則の例外を認める理由と例外を認める場合の柱、伝聞書面と伝聞供述について条文に則した例外とされる場合の説明。
	事後学習	従業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
23	事前学習	教科書の212頁から215頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	伝聞法則③：任意性の調査、同意書面、合意書面、証明力を争うための証拠、写真・録音テープ・ビデオテープの証拠法上の取扱についての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
24	事前学習	教科書の215頁から218頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	違法収集証拠の排除法則①：違法収集証拠の排除法則の根拠、違法収集証拠の証拠能力が否定される要件とその判断の際に考慮する要素、判例の立場及び主要な学説の考え方についての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
25	事前学習	教科書の218頁から219頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	違法収集証拠の排除法則②：毒樹の果実の法理、違法に収集された証拠が派生して収集された証拠の取扱いと判例の事案の説明。
	事後学習	従業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
26	事前学習	教科書の222頁から237頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	裁判の効力(確定判決の内容的確定力)：裁判の種類、裁判の成立の時点、裁判の確定の意義とその効力、実体裁判の内容的確定力の意義とそれが及ぶ事件の範囲についての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
27	事前学習	教科書237頁から239頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	裁判の効力②(一事不再理効―二重の危険の禁止)：一事不再理効の意義及び根拠、一事不再理効の発生時期、一事不再理効の及ぶ客観的範囲についての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）
28	事前学習	教科書248頁から255頁、268頁から271頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。（2時間）
	授業内容	上訴総説(上訴権、不利益変更の禁止の原則、破棄判決の効力)：上訴制度の意義と種類、上訴の利益、不利益変更禁止の原則、破棄判決の拘束力についての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。（2時間）

29	事前学習	教科書255頁から267頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。(2時間)
	授業内容	控訴、上告：控訴理由の市ゆるい、控訴審の基本構造、審理手続、事実の取調べ、上告理由の種類、上告審の行う裁判の種類、職権破棄事由についての説明。
	事後学習	業業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。(2時間)
30	事前学習	教科書274頁から281頁を読み予習をし全体的な内容を確認する。(2時間)
	授業内容	非常救済手続(再審、非常上告)：再審、非常上告の手続についての概説、再審開始の要件としての証拠の新規性と明白性についての説明。
	事後学習	授業の内容をノートに整理し、授業の概要と説明内容をまとめる。教科書の該当部分と参考書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解する。(2時間)

科目名	刑事訴訟法Ⅱ	担当者	田中 優企	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業は、我が国の刑事手続の内、捜査以後、すなわち、公訴・公判・上訴・非常救済手続及び裁判の執行を中心とする講義を通して、我が国の刑事法運用制度の実際を理解すること並びにそのあるべき姿を探究します。なお、捜査についても、授業を進めるために必要な限度でお話します。公訴から裁判の執行に至る過程は、捜査と異なり、イメージを持ちにくいかもしれませんが、授業では、適宜、判例や各種統計・資料等を用いながらお話します。			
授業目的・到達目標	この授業の目的は、我が国の刑事手続の内、捜査以後の公訴・公判・上訴・非常救済手続及び裁判の執行に関する基礎知識・理論の修得を目的とします。 この授業の到達目標は、受講者各自が、１．我が国の刑事手続の流れや全体像を理解し説明できる、２．我が国の刑事手続を規律する原理・原則、基本的知識、そこで生じている問題・課題及びこれに対して示されている考え方・解決策を理解し説明できる、３．我が国の刑事法運用制度の実際や近時の動向を理解し説明できる、ことです。 関連ＤＰ及びＣＰ：法律学科１，２，３，５			
履修条件	ありません。			
授業方法	パワポを用いながら、資料等も配布しつつ、教科書を読みときます。教科書及び六法を必ず持参して下さい。授業では、受講者に質問する場合がありますので、事前・事後の学習が不可欠です。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	事例又は一行の論述問題を通じて、公訴から裁判の執行に至る過程に係る知識・理解及びこれらを説明する能力が身に付いているか否かを基準に評価します。	
	平常評価	20%	小テストを複数回実施します。なお、定期試験前にレポート（任意）を提出した者については、これを成績に加味して評価します。詳細は、初回に説明します。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年4月刊行予定	弘文堂	Next教科書シリーズ刑事訴訟法（第2版）	関正晴
	2019年5月	信山社	刑事訴訟法基本判例解説（第2版）	椎橋隆幸・柳川重規
	備考			
参考書	椎橋隆幸編『よくわかる刑事訴訟法（第2版）』ミネルヴァ書房・2016年、椎橋隆幸編『プライマリー刑事訴訟法（第6版）』不磨書房・2017年、渥美東洋『全訂刑事訴訟法（第2版）』有斐閣・2009年など			
オフィスアワー	金曜日 12：10～12：30 講堂			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書（Next教科書シリーズ刑事訴訟法。以下同じ）2～10頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（2時間）。
	授業内容	オリエンテーション（今年度の授業について、刑事訴訟法の学び方、我が国の犯罪情勢と刑事手続の概要）
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（2時間）。
2	事前学習	教科書10～12頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（2時間）。
	授業内容	刑事裁判のかたち―弾劾主義・当事者主義―
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（2時間）。
3	事前学習	教科書14～20頁、26～48頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（2時間）。
	授業内容	刑事手続に関与する機関・人とその役割①
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（2時間）。
4	事前学習	教科書14～20頁、26～48頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（2時間）。
	授業内容	刑事手続に関与する機関・人とその役割②
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（2時間）。

5	事前学習	教科書１００～１０５頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	公訴，訴追裁量の規制
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
6	事前学習	事前に配布する資料を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	捜査・公判協力型協議・合意制度，刑事免責
	事後学習	配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
7	事前学習	教科書１０５～１０８頁、１１０～１１５頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	訴因制度
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
8	事前学習	教科書１０８～１１０頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	起訴状一本主義
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
9	事前学習	教科書３６～４１頁、９２～９５頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	弁護権①
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
10	事前学習	教科書３６～４１頁、９２～９５頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	弁護権②
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
11	事前学習	教科書１５２～１５４頁、１５６～１６３頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	公判前整理手続，証拠開示①
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
12	事前学習	教科書１５２～１５４頁、１５６～１６３頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	公判前整理手続，証拠開示②
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
13	事前学習	教科書１４４～１５２頁、１６３～１７１頁、２０～２５頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	公判，裁判員制度①
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
14	事前学習	教科書１４４～１５２頁、１６３～１７１頁、２０～２５頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	公判，裁判員制度②
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
15	事前学習	教科書１８０～１９３頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	証拠法総論①
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
16	事前学習	教科書１８０～１９３頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	証拠法総論②
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。

17	事前学習	教科書１９３～１９５頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	自白法則①
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
18	事前学習	教科書１９３～１９５頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	自白法則②
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
19	事前学習	教科書１９５～１９９頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	補強法則①
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
20	事前学習	教科書１９５～１９９頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	補強法則②
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
21	事前学習	教科書２１５～２２０頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	排除法則①
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
22	事前学習	教科書２１５～２２０頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	排除法則②
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
23	事前学習	教科書１９９～２１５頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	伝聞法則①
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
24	事前学習	教科書１９９～２１５頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	伝聞法則②
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
25	事前学習	教科書１９９～２１５頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	伝聞法則③
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
26	事前学習	教科書２２２～２４０頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	裁判とその効力
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
27	事前学習	教科書２４８～２７２頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	上訴
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。
28	事前学習	教科書２４１～２４６頁、２７４～２８１頁を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（２時間）。
	授業内容	裁判の執行、非常救済手続
	事後学習	教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（２時間）。

29	事前学習	事前に配布する資料を読み、概要を把握すると共に、関連判例を確認する（2時間）。
	授業内容	刑事手続に関する法改正や近時の動向
	事後学習	配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（2時間）。
30	事前学習	これまでの学習を踏まえ、理解が不足していると思われる箇所について、教科書やノート、資料などを読み返すと共に、関連判例を確認する（2時間）。
	授業内容	まとめ
	事後学習	これまでの学習を踏まえ、教科書や配布資料などを基に、講義内容について、ノートを整理する（2時間）。

科目名	刑事法 I	担当者	岡西 賢治	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	犯罪と刑罰に関する実体法と手続法を概観する。専門的な知識の習得だけではなく、刑事司法を身近なものとしてとらえながら、犯罪等についての理論がいかに現実の現象に反映されているか、実務の実態がどのようなものなのか等、自ら考えられるような機会として講義を行う。また、教科書だけではなく、その時々犯罪にかかわるニュースを取り入れながら進める。			
授業目的・到達目標	刑法および刑事訴訟法を中心とした刑事司法に関する法についての基礎的な知識の習得できる者を養成することを目的とし、近年生じている犯罪の動向やその問題点なども指摘しながら、これからの刑事的制裁の意義あるいは機能等を論ずる。そのうえで、専門基礎知識を得ることによって、現実に行っている犯罪やその抑止のための諸政策に関して問題意識を持ち、問題解決の方策を模索するような姿勢を身につけられることを目標とする。 関連DP及びCP：政治経済学科2 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3, 5			
履修条件	特になし。			
授業方法	講義形式による。また、講義中、必要に応じて質疑応答を行う。 授業内試験終了後には内容の解説を行うとともに、講義全般のポイントについて説明する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験			
	平 常 評 価		100%	授業内試験（論述式試験）を行う。（80%） 講義内での小テストや発言等によって判断する。（20%）
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	有斐閣	基礎から学ぶ刑事法	井田良
	備考			
参 考 書	船山泰範『刑事法入門』（弘文堂） 『平成29年版犯罪白書』			
オフィスアワー	月曜 12：00～13：00			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	犯罪に関する最近のニュースを調べておく。（2時間）
	授業内容	犯罪をめぐる日本の現状を概観する。
	事後学習	犯罪とは何か、刑事司法とは何かについて自説をまとめる。（2時間）
2	事前学習	教科書の第1章、4章を読む。（2時間）
	授業内容	刑事法とは何か、刑法とは何かについて考える。 実体法と手続法、解釈論と立法論、社会学や心理学との関係などについて論じる。
	事後学習	諸概念について内容等を整理しておく。（2時間）
3	事前学習	教科書の第2章を読む。（2時間）
	授業内容	なぜ犯罪が起き、なぜ処罰されるのか。
	事後学習	犯罪の原因と対策について考える。（2時間）
4	事前学習	教科書の第3章を読む。（2時間）
	授業内容	統計から見た犯罪の動向 犯罪白書の見かた
	事後学習	犯罪の現状・実態を知る。（2時間）

5	事前学習	教科書の第5章、6章を読む。（2時間）
	授業内容	刑罰の目的 死刑制度について考える。
	事後学習	なぜ人を処罰するのかについて自説を整理しておく。（2時間）
6	事前学習	教科書の第6章を読む。（2時間）
	授業内容	刑罰の種類① 生命刑と自由刑
	事後学習	刑罰の違いを理解する。（2時間）
7	事前学習	教科書の第6章を読む。（2時間）
	授業内容	刑罰の種類② 財産刑と刑罰に関する今日的課題
	事後学習	刑罰と刑罰以外の法的制裁との関係を知る。（2時間）
8	事前学習	教科書の第17章、18章を読む。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟法とは 刑事手続の流れ① 犯罪の捜査
	事後学習	刑事手続きの全体を理解する。（2時間）
9	事前学習	教科書の第18章、19章を読む。（2時間）
	授業内容	刑事手続の流れ② 起訴と公判
	事後学習	刑事裁判の実態を知る。（2時間）
10	事前学習	教科書の第20章を読む。（2時間）
	授業内容	日本の刑事手続の特色
	事後学習	裁判の傍聴に行ってみる。（2時間）
11	事前学習	教科書248～251頁を読む。裁判所のホームページで裁判員裁判の現状を把握しておく。（2時間）
	授業内容	裁判員制度の概要
	事後学習	裁判員になった時のための準備をする。（2時間）
12	事前学習	教科書の第21章、22章を読む。（2時間）
	授業内容	犯罪者の処遇 矯正と保護
	事後学習	犯罪者の社会復帰について考える。（2時間）
13	事前学習	教科書の第21章288～297頁を読む。（2時間）
	授業内容	少年犯罪の手続と処遇
	事後学習	少年犯罪の実態を知る。（2時間）
14	事前学習	教科書の第23章を読む。（2時間）
	授業内容	比較法研究のすすめ
	事後学習	日本の現状を諸外国の制度と比較しながら考える。（2時間）
15	事前学習	刑事訴訟法と犯罪者処遇法の理論と実態を整理する。（2時間）
	授業内容	授業内試験 刑事手続の概要についてまとめる。
	事後学習	刑事司法手続の全体を把握しておく。（2時間）

科目名	刑事法Ⅰ	担当者	野村 和彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑法総論および刑法各論の内容を、よりコンパクトに学んでいく。講義回数に限りがあるので、重要な論点に照準を合わせ、かつ、社会生活と結びつきの強いテーマを取り上げ、講義を展開する。			
授業目的・到達目標	事件や社会問題を、刑法を学んだ者としての視点で考える姿勢を養うことを目的とする。そして、刑事事件について、この授業で養った姿勢を踏まえて、自分の見解を表現できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：政治経済学科2 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3, 5			
履修条件	授業内容は、刑事法Ⅰと刑事法Ⅱを統合したものである。また、事前学習として、下記に指定したテキストの箇所をあらかじめ読むことを求める。			
授業方法	もっぱら講義を中心に展開する。指定した教科書を用いつつ、レジュメでその内容を補い、講義を展開する。質問も快く承る。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		100%	刑法学の基礎的な見方が養えているかをみたい。
	平常評価		0%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	ミネルヴァ書房	『よくわかる刑法（第3版）』	井田良・佐藤拓磨
	備考			
参考書	授業の際、適宜紹介する。			
オフィスアワー	平日はほとんど研究室（本館7階1707号室）におりますので、10:30－16:30の間ならばいつでもどうぞ。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	序・基礎理論 1～3 まで読む。（2時間）
	授業内容	刑事法はいったい何のために存在するのか。
	事後学習	他の法律と刑法はどこが異なるのかを考える。（2時間）
2	事前学習	序・基礎理論 4～5 まで読む。（2時間）
	授業内容	罪刑法定主義の重要性とその背後にある思想とは。
	事後学習	罪刑法定主義と刑法の在り方はどう結びついているのかを考える。（2時間）
3	事前学習	第1部刑法総論・Ⅰ 構成要件8～10を読む。（2時間）
	授業内容	なぜ刑法は故意犯処罰の原則を採用しているのか。
	事後学習	刑法の在り方と故意犯処罰の原則がどう結びつくのかを考える。（2時間）
4	事前学習	第1部刑法総論・Ⅰ 構成要件11～13を読む（2時間）
	授業内容	組織体による過失行為に対して刑法はどう対処しようとしているのか
	事後学習	JR福知山線脱線事故や東京電力福島第一原発の事故は刑法的にどう考えるべきか。（2時間）

5	事前学習	第1部刑法総論・Ⅰ 構成要件 2 を読む。（2時間）
	授業内容	法人を処罰することの意義とは。
	事後学習	法人処罰により目指すものは何かを考える。（2時間）
6	事前学習	第1部刑法総論・Ⅰ 構成要件 5 ～ 7 を読む。（2時間）
	授業内容	犯罪行為から重い結果が生じさえすれば、その者を重罰に処してよいのか。
	事後学習	刑罰の軽重を決める際に、被害者の視点に立つことがなぜ許されないのかを、合理的に考える。（2時間）
7	事前学習	第1部刑法総論・Ⅱ 違法性 1 ～ 4， 5 を読む（2時間）
	授業内容	他者を犠牲にしてまで、自己または他者を救うことがなぜ認められているのか。
	事後学習	刑法と道徳の違いとどう関係するか、さらに法益保護とどう結びつくかを考える。（2時間）
8	事前学習	第1部刑法総論・Ⅱ 違法性 8 を読む。（2時間）
	授業内容	指を詰めてくれと依頼され、その者の指を切り落とすことは犯罪か。
	事後学習	被害者の同意が許容される範囲と許容されない範囲の線引きを考える。（2時間）
9	事前学習	第1部刑法総論・Ⅱ 違法性 9 を読む。（2時間）
	授業内容	終末期における医療に対し刑法はどうかかわるべきか。
	事後学習	この問題はおそらく身近だろうから、身近な事例を刑法的に考察する。（2時間）
10	事前学習	第1部刑法総論・Ⅲ 責任 1 および 2 を読む。（2時間）
	授業内容	刑法は、刑罰を科す前提として、刑事責任能力があることをなぜ要求しているのか。
	事後学習	刑事責任能力が問題となっている事件について考えてみる。（2時間）
11	事前学習	第1部刑法総論・Ⅳ 未遂犯 1 および 2 を読む。（2時間）
	授業内容	犯罪行為に出たものの結果が生じなかった場合、刑法はどう対応するか。
	事後学習	刑法の役割論とどう関係するか考察する。（2時間）
12	事前学習	第1部刑法総論・Ⅴ 共犯 1 ～ 4 を読む。（2時間）
	授業内容	犯罪者にも、1等（正犯）と2等（共犯）とランク付けがあるが、それはなぜか。
	事後学習	なぜランク付けするべきなのかを考える。（2時間）
13	事前学習	第1部刑法総論・Ⅴ 共犯 5 ～ 8 を読む。（2時間）
	授業内容	まずは共謀罪の意味を正しく知る。
	事後学習	賛成論や反対論はどこか感情的になっている。社会の変化との関係で共謀罪の問題を考える。（2時間）
14	事前学習	第1部刑法総論・Ⅵ 犯罪の数と量刑理論 1 および 2 を読む。（2時間）
	授業内容	死刑は本当に必要か。
	事後学習	ドイツ政府は友好国である日本が死刑を執行するたびに、抗議声明を出している。このことを考える。（2時間）
15	事前学習	これまで学んだことを自分なりに頭の中でまとめる（2時間）
	授業内容	刑法はどうあるべきか（まとめに代えて）
	事後学習	自分が考える刑法の在り方についてまとめる。（2時間）

科目名	刑事法Ⅱ	担当者	岡西 賢治	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	犯罪と刑罰に関する実体法と手続法を概観する。専門的な知識の習得だけではなく、刑事司法を身近なものとしてとらえながら、犯罪等についての理論がいかに現実の現象に反映されているか、実務の実態がどのようなものなのか等、自ら考えられるような機会として講義を行う。また、教科書だけではなく、その時々犯罪にかかわるニュースを取り入れながら進める。				
授業目的・到達目標	刑法および刑事訴訟法を中心とした刑事司法に関する法についての基礎的な知識の習得できる者を養成することを目的とし、近年生じている犯罪の動向やその問題点なども指摘しながら、これからの刑事的制裁の意義あるいは機能等を論ずる。そのうえで、専門基礎知識を得ることによって、現実に行き起きている犯罪やその抑止のための諸政策に関して問題意識を持ち、問題解決の方策を模索するような姿勢を身につけられることを目標とする。 関連DP及びCP：政治経済学科2 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3, 5				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式による。また、講義中、必要に応じて質疑応答を行う。 授業内試験終了後には内容の解説を行うとともに、講義全般のポイントについて説明する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業内試験（論述式試験）を行う。（80%） 講義内での小テストや発言等によって判断する。（20%）	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2017年	有斐閣	基礎から学ぶ刑事法		井田良
	備考				
参考書	船山泰範『刑事法入門』（弘文堂） 『平成29年版犯罪白書』				
オフィスアワー	月曜 12：00～13：00				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の第4章を読む。（2時間）
	授業内容	刑法とは
	事後学習	犯罪と刑罰に関する基礎的知識を整理する。（2時間）
2	事前学習	教科書の第8章を読む。（2時間）
	授業内容	刑法各論のあらまし①
	事後学習	犯罪の諸類型について理解し、現状を把握する。（2時間）
3	事前学習	教科書の第8章を読む。（2時間）
	授業内容	刑法各論のあらまし②
	事後学習	犯罪の諸類型について理解し、現状を把握する。とくに、交通事件について考える。（2時間）
4	事前学習	教科書の第8章を読む。（2時間）
	授業内容	刑法各論のあらまし③
	事後学習	犯罪の諸類型について理解し、現状を把握する。とくに性犯罪について考える。（2時間）

5	事前学習	教科書の第 9 章を読む。（2時間）
	授業内容	刑法各論のあらまし④
	事後学習	偽造犯罪に関する理解を深める。（2時間）
6	事前学習	教科書の第 7 章を読む。（2時間）
	授業内容	罪刑法定主義とは
	事後学習	罪刑法定主義に関する判例を理解する。（2時間）
7	事前学習	教科書の第10章、11章を読む。（2時間）
	授業内容	構成要件という概念①
	事後学習	犯罪の成立要件に関する基礎概念を整理する。（2時間）
8	事前学習	教科書の第11章を読む。（2時間）
	授業内容	構成要件という概念①
	事後学習	構成要件に関する諸概念をよく理解する。（2時間）
9	事前学習	教科書の第12章を読む。（2時間）
	授業内容	違法の本質
	事後学習	刑法における違法とその他の法領域の違法との区別を理解する。（2時間）
10	事前学習	教科書の第13章を読む。（2時間）
	授業内容	責任の概念
	事後学習	責任主義という原則について考える。（2時間）
11	事前学習	教科書の第14章を読む。（2時間）
	授業内容	故意と過失
	事後学習	個々の犯罪を通じて故意と過失の違いを理解する。（2時間）
12	事前学習	教科書の第15章を読む。（2時間）
	授業内容	未遂と共犯
	事後学習	共犯や未遂が処罰される根拠を理解する。（2時間）
13	事前学習	教科書の第16章を読む。（2時間）
	授業内容	刑の適用
	事後学習	刑が宣告されるまでの手続を整理する。（2時間）
14	事前学習	現在の犯罪の状況を調べる。（2時間）
	授業内容	犯罪に関する今日的な課題を探る。
	事後学習	犯罪に対する理解や感覚を養う。（2時間）
15	事前学習	犯罪の成立要件について確認しておく。（2時間）
	授業内容	授業内試験 犯罪論と刑罰論のまとめ
	事後学習	犯罪に関する理論を理解する。（2時間）

科目名	刑事法Ⅱ	担当者	野村 和彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑法各論（一つ一つの刑罰法規の中身を考える学問）をコンパクトにし、具体的な論点に焦点を絞り講義を展開する。刑法は自分とは無関係と考えている人が数多くおられると思う。しかし、この講義を通じて、刑法が日常生活と密接に関係していることを実感すると確信する。			
授業目的・到達目標	事件や社会問題を、刑法を学んだ者としての視点で考える姿勢を身につけることを目標とする。そして、この姿勢をふまえて、刑事事件について自分の見解を表現できるようにすることを目標とする。 関連DP及びCP：政治経済学科2 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3, 5			
履修条件	事前学習として、下記に指定したテキストの箇所をあらかじめ目を通し、理解できたところと理解できないところを明確にしたうえで授業に臨むこと。事後学習においては、各項目につき300字程度でまとめること。			
授業方法	もっぱら講義を中心に展開する。指定した教科書を用いつつ、レジュメでその内容を補い、講義を展開する。質問も快く承る。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		100%	刑法学の基礎的な見方が養えているかをみたい。
	平常評価		0%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	ミネルヴァ書房	『よくわかる刑法（第3版）』	井田良・佐藤拓磨
	備考			
参考書	授業の際、適宜紹介する。			
オフィスアワー	平日はほとんど研究室（本館7階1707号室）にありますので、10:30－16:30の間ならばいつでもどうぞ。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	刑法と自分の生活とのかかわりについて、思いつくことを5つ挙げてみる。（2時間）
	授業内容	刑法各論において何を学ぶのか。
	事後学習	殺人罪の規定を眺めながら、その背後に広がる様々な事件について想像を膨らませる。（2時間）
2	事前学習	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪1および2を読む。（2時間）
	授業内容	人の生命はどのように保護されるべきか。
	事後学習	人の始期と終期はどのように定めるべきか。（2時間）
3	事前学習	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪4および5を読む。（2時間）
	授業内容	人の身体を刑法はどう保護するべきか。
	事後学習	精神障害は刑法上の傷害概念に含みうるか。（2時間）
4	事前学習	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪10を読む。（2時間）
	授業内容	性犯罪規定はどのように改正されたか。
	事後学習	性犯罪が改正された社会的背景を考える。（2時間）

5	事前学習	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪12および13を読む。(2時間)
	授業内容	言論の自由と名誉の保護とをどう調和させるべきか。
	事後学習	いずれか一方を強調することのデメリットを考える。(2時間)
6	事前学習	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪15および16を読む。(2時間)
	授業内容	刑法は私有財産をどのように保護しようとしているか。
	事後学習	窃盗罪が保護する財産が限定的であるのはなぜか。(2時間)
7	事前学習	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪19および20を読む。(2時間)
	授業内容	財産犯が保護しようとしている法益は何か。
	事後学習	最高裁判例が保護法益を占有と解している政策的な理由を考える。(2時間)
8	事前学習	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪24～28を読む。(2時間)
	授業内容	詐欺罪が処罰される真の理由はどこにあるか。
	事後学習	この授業で取り上げた様々な事案をどう考えるべきか、整理する。(2時間)
9	事前学習	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪30～34を読む。(2時間)
	授業内容	横領と背任の共通点と相違点は何か。
	事後学習	企業トップに背任罪が問われる場合、その理由は何か。(2時間)
10	事前学習	第2部刑法各論・Ⅰ個人的法益に対する罪34および35を読む。(2時間)
	授業内容	盗まれた物を買った者は何罪にあたるのか。
	事後学習	盗品に対する罪の類型を整理する。(2時間)
11	事前学習	第2部刑法各論・Ⅱ社会的法益に対する罪1～3を読む。(2時間)
	授業内容	放火罪の処罰範囲はどうなっているか。
	事後学習	難燃性の建物に対する放火をどう評価するべきか。(2時間)
12	事前学習	第2部刑法各論・Ⅱ社会的法益に対する罪4～7を読む。(2時間)
	授業内容	文書偽造罪が処罰される理由は何か。
	事後学習	履歴書の氏名欄に虚偽の名前を書き、写真欄には自身の写真を添付する行為は、私文書偽造罪にあたるか。(2時間)
13	事前学習	第2部刑法各論・Ⅱ社会的法益に対する罪8を読む。(2時間)
	授業内容	インターネットとわいせつ罪との関係はどうあるべきか。
	事後学習	わいせつ罪の保護法益は何か。(2時間)
14	事前学習	第2部刑法各論・Ⅲ国家的法益に対する罪4および5を読む。(2時間)
	授業内容	収賄罪はいかなる構造をもつ犯罪か。
	事後学習	収賄罪の保護法益をめぐり、見解がどのように対立しているかを整理する。2時間)
15	事前学習	これまで学んだことをふまえて、あらためて、刑法と自分の行為とのかかわりについて考える。2時間)
	授業内容	刑罰法規と社会生活とのかかわりについて(特に犯罪化について)
	事後学習	社会の変化に刑法はどう対応するべきかを考える。(2時間)

科目名	刑事法特殊講義ⅠA	担当者	設楽 裕文	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	実体刑法に関する近年の裁判例を素材として、判例と理論の双方について研究する授業である。			
授業目的・到達目標	判例を通じて刑法の基礎的な事項を理解することを目的とする。刑法の判例を分析し、理解し、批判できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1，4，8			
履修条件	刑法の基礎的事項を取り扱った科目（刑法Ⅰ、刑法Ⅱなど）を履修したか、少なくとも同時に履修中であること。			
授業方法	講義の方法を用いる。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	必要な点についての確な論述がなされているか否かにより評価する。	
	平常評価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014年	八千代出版	現代の判例と刑法理論の展開	板倉宏監修・著
	備考			
参考書	『法学刑法1 総論』設楽裕文編：信山社 『法学刑法5 判例インデックス1000』設楽裕文編：信山社			
オフィスアワー	水曜日（14：30）授業講堂ないしその周辺において、授業に関係する事項について、おこなう（最大で60分）。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	現代（教科書『現代の判例と刑法理論の展開』を指す。以下同じ）の「はしがき」「あとがき」を読み、目次でどのような問題がとりあげられているか確認する。（2時間）
	授業内容	序 判例研究の視点と方法
	事後学習	現代の各章の冒頭に出てくる裁判例（以下、「冒頭判例」という）を研究する際に注意すべきことをまとめる。（2時間）
2	事前学習	現代の1～16頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	刑法の解釈と罪刑法定主義 児童ポルノ変換URL掲載事件
	事後学習	現代1頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
3	事前学習	現代の17～28頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	刑罰法規の明確性と罪刑法定主義 世田谷区清掃・リサイクル条例事件
	事後学習	現代17頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
4	事前学習	現代の29～39頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	第三者の行為の介在と因果関係 航空管制官誤指示事件
	事後学習	現代29頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）

5	事前学習	現代の41～53頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	脱線転覆事故と安全対策責任者の過失　尼崎ＪＲ脱線事件
	事後学習	現代41頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
6	事前学習	現代の55～66頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	刑事製造物責任と過失不作為犯　ハブ破損事故
	事後学習	現代55頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
7	事前学習	現代の67～92頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	早すぎた構成要件実現　クロロホルム事件
	事後学習	現代67頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
8	事前学習	現代の93～104頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	正当行為と精神鑑定を命じられた医師の秘密漏示　鑑定人秘密漏示事件
	事後学習	現代93頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
9	事前学習	現代の105～116頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	安楽死と治療行為の中止　協同病院事件
	事後学習	現代105頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
10	事前学習	現代の117～131頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	事後的過剰防衛　灰皿投げつけ事件
	事後学習	現代117頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
11	事前学習	現代の133～144頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	間接正犯　薬事法違反広告事件
	事後学習	現代133頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
12	事前学習	現代の145～166頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	共謀共同正犯　スワット事件
	事後学習	現代145頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
13	事前学習	現代の167～178頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	承継的共同正犯　傷害重篤化事件
	事後学習	現代167頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
14	事前学習	現代の179～195頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	共犯関係からの離脱　強盗着手前立去り事件
	事後学習	現代179頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
15	事前学習	現代の197～208頁を読み、問題点をメモする。今まで学んだ知識を整理する。（2時間）
	授業内容	中立的行為の幫助　ウイニー事件 授業のまとめ
	事後学習	現代197頁の冒頭判例を論評できるようにする。資料を整理し、現代の1～208頁を再読して、試験に備える。（2時間）

科目名	刑事法特殊講義 I A	担当者	角田 正紀	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑事手続の基本原則や捜査・公判の手続等を体系的に教える。個々の制度の手続全体における位置付けを意識しつつ、基礎的な知識を使いこなせるレベルまで習得させる。			
授業目的・到達目標	法曹志望者、研究者を志す者、また難易度の高い資格試験の受験を目指す者などを主な対象に、判例を重視して、生きた刑法及び刑事訴訟法の理解を得ることを目的とする。到達目標としては、判例等の判断枠組を使いこなして、簡単な事例に即して結論を導き出すことができる水準を目指す。関連DP及びCP：法律学科1，4，8			
履修条件	法曹志望者を主たる対象とするが、広く刑事法の深い理解を目指す3年生を対象とする。			
授業方法	講義を中心とするが、適宜、教員と学生との質疑応答を交えながら進行する。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	①論点の把握は的確か、②結論を導く論旨の展開は説得的か、③重要な判例や学説を十分に意識して論じているかなどを総合して判断する。	
	平常評価	20%	平常評価は、意見の発表状況や授業態度等を総合して評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	有斐閣	入門刑事手続法〔第7版〕	三井誠，酒巻匡
	備考			
参考書	後期：前田雅英・星周一郎『刑事訴訟法判例ノート』〔第2版〕弘文堂			
オフィスアワー	後期:水曜日午後4時30分～6時まで			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスの内容を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	導入講義，裁判員制度の位置付け
	事後学習	配布されたレジュメ等に基づいて，授業内容を復習する。（2時間）
2	事前学習	予め論文資料を配付するので，それを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	刑法と刑事訴訟法の関係
	事後学習	配布されたレジュメ等に基づいて，授業内容を復習する。（2時間）
3	事前学習	授業内容の項目について，教科書の該当部分を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	任意捜査と強制捜査（判例ノート1-1）
	事後学習	配布されたレジュメ等に基づいて，授業内容を復習する。（2時間）
4	事前学習	授業内容の項目について，教科書の該当部分を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	写真撮影の許容性（判例ノート1-7）
	事後学習	配布されたレジュメ等に基づいて，授業内容を復習する。（2時間）

5	事前学習	授業内容の項目について，教科書の該当部分を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	準現行犯逮捕と逮捕に伴う搜索・差押え（判例ノート1-20, 1-48）
	事後学習	配布されたレジュメ等に基づいて，授業内容を復習する。（2時間）
6	事前学習	授業内容の項目について，教科書の該当部分を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	別件逮捕・勾留と余罪取調べ（判例ノート1-29）
	事後学習	配布されたレジュメ等に基づいて，授業内容を復習する。（2時間）
7	事前学習	授業内容の項目について，教科書の該当部分を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	令状による搜索の範囲（判例ノート1-42, 1-43）
	事後学習	配布されたレジュメ等に基づいて，授業内容を復習する。（2時間）
8	事前学習	授業内容の項目について，教科書の該当部分を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	被疑者と弁護人の接見交通（判例ノート1-63）
	事後学習	配布されたレジュメ等に基づいて，授業内容を復習する。（2時間）
9	事前学習	授業内容の項目について，教科書の該当部分を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	訴因と公訴事実，訴因変更の可否（判例ノート3-11）
	事後学習	配布されたレジュメ等に基づいて，授業内容を復習する。（2時間）
10	事前学習	授業内容の項目について，教科書の該当部分を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	公判手続の構造(教科書第3章 II 1ないし4)
	事後学習	配布されたレジュメ等に基づいて，授業内容を復習する。（2時間）
11	事前学習	授業内容の項目について，教科書の該当部分を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	訴因変更の要否（判例ノート3-15）
	事後学習	配布されたレジュメ等に基づいて，授業内容を復習する。（2時間）
12	事前学習	授業内容の項目について，教科書の該当部分を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	刑事事件における事実認定
	事後学習	配布されたレジュメ等に基づいて，授業内容を復習する。（2時間）
13	事前学習	授業内容の項目について，教科書の該当部分を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	不任意自白とその派生証拠の証拠能力（判例ノート4-56）
	事後学習	配布されたレジュメ等に基づいて，授業内容を復習する。（2時間）
14	事前学習	授業内容の項目について，教科書の該当部分を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	伝聞法則とその例外〔1〕（判例ノート4-18）
	事後学習	配布されたレジュメ等に基づいて，授業内容を復習する。（2時間）
15	事前学習	授業内容の項目について，教科書の該当部分を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	伝聞法則とその例外〔2〕（判例ノート4-26）
	事後学習	配布されたレジュメ等に基づいて，授業内容を復習する。（2時間）

科目名	刑事法特殊講義ⅠB	担当者	設楽 裕文	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	実体刑法に関する近年の裁判例を素材として、判例と理論の双方について研究する授業である。			
授業目的・到達目標	判例を通じて刑法の基礎的な事項を理解することを目的とする。刑法の判例を分析し、理解し、批判できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 4, 8			
履修条件	刑法の基礎的事項を取り扱った科目（刑法Ⅰ、刑法Ⅱなど）を履修したか、少なくとも同時に履修中であること。			
授業方法	講義の方法を用いる。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	必要な点についての確な論述がなされているか否かにより評価する。	
	平常評価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014年	八千代出版	現代の判例と刑法理論の展開	板倉宏監修・著
	2019年（9月刊行予定）	八千代出版	刑法の目的と解釈	設楽裕文
	備考	『刑法の目的と解釈』は、2019年9月刊行予定である。		
参考書	『法学刑法5判例インデックス1000』設楽裕文編：信山社			
オフィスアワー	水曜日（14：30）授業講堂ないしその周辺において、授業に関係する事項について、おこなう（最大で60分）。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	目的（教科書『刑法の目的と解釈』を指す。以下同じ）の第1章～第5章を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	刑法の目的と解釈の関係 刑法の解釈と罪刑法定主義 明確性の原則と罪刑法定主義 共謀共同正犯 スワット事件最高裁決定を素材として
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
2	事前学習	目的の第6章～第15章を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	間接正犯、不真正不作為犯、因果関係、早すぎた構成要件実現、未遂犯 正当防衛と緊急避難 複数の反撃と正当防衛・過剰防衛
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
3	事前学習	目的の第17章～第21章を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	共犯の成立範囲の限定、中立的行為 共謀共同正犯、承継的共同正犯 離脱による共犯関係の解消
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）

4	事前学習	目的の第21章～第25章を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	胎児に対する加害と人に対する結果発生、名誉と秘密の保護 財産犯規定の解釈と民法解釈、盗品関与罪の本質 犯人蔵匿等罪の規定の目的と解釈
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
5	事前学習	現代（教科書『現代の判例と刑法理論の展開』を指す。以下同じ）の209～222頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	傷害について 睡眠薬混入事件最高裁決定、PTSD発症事件最高裁決定を素材として
	事後学習	現代209頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
6	事前学習	現代の223～234頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	飲酒運転と危険運転致死傷 福岡飲酒運転3児死亡事件最高裁決定をもとにする刑事政策的考慮をも加えた考察
	事後学習	現代223頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
7	事前学習	現代の235～247頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	窃盗罪の実行の着手 自動券売機への接着剤塗布事件東京高裁判決を素材として
	事後学習	現代235頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
8	事前学習	現代の248～262頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	強盗利得罪における「財産上不法の利益」の取得 家主殺害事件鹿児島地裁判決などをもとにする総合的検討
	事後学習	現代248頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
9	事前学習	現代の263～273頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	強盗致死傷罪における強盗の機会 強盗致死罪の成立を肯定した東京高裁平成23年判決などをもとにする規範的考察
	事後学習	現代263頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
10	事前学習	現代の275～286頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	詐欺罪における欺罔行為と財産的損害 搭乗券詐欺事件最高裁決定などを素材として
	事後学習	現代275頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
11	事前学習	現代の287～301頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	成年後見人による横領と244条1項 成年後見人横領事件最高裁決定を素材として
	事後学習	現代287頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
12	事前学習	現代の302～314頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	わいせつ電磁的記録等送信頒布の意義 電気通信の送信によるわいせつ電磁的記録送信頒布事件東京高裁判決を素材として
	事後学習	現代302頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
13	事前学習	現代の315～321頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	賄賂罪の諸判例（1）—職務密接関連行為を中心に 北海道開発庁汚職事件最高裁決定を素材として
	事後学習	職務密接関連行為に関する裁判例を整理する。（2時間）
14	事前学習	現代の321～327頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	賄賂罪の諸判例（2）—賄賂の意義を中心に 福島県汚職事件最高裁決定を素材として
	事後学習	現代315頁の冒頭判例を論評できるようにする。（2時間）
15	事前学習	目的、現代を読み返し、知識を整理する。（2時間）
	授業内容	授業のまとめ
	事後学習	いままでに学んだ知識を整理して、試験に備える。（2時間）

科目名	刑事法特殊講義 I B	担当者	角田 正紀	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑法総論・刑法各論の基本的知識があることを前提に、刑法のより詳しい知識の修得と、具体的事件に臨んだ場合に刑法を解釈・適用して妥当性のある結論を導きうる能力の涵養を目指す。刑法総論の分野では、特に基本的でかつ重要な問題を、刑法各論の分野では、個人的法益に対する罪、特に財産犯罪の問題を中心に授業を進める。				
授業目的・到達目標	法曹志望者、研究者を志す者、難易度の高い資格試験の合格を目指す者などを主な対象に、判例を重視して、生きた刑法の知識・思考力を涵養することを目的とする。 また、刑法の各テーマに関し、実際に活用される場面に即し、制度や理論を学ぶことによって当該問題を体系的に理解・説明できるようにし、司法試験予備試験合格の素地となる程度の学力修得を目標とする。関連DP及びCP：法律学科1・4・8				
履修条件	刑法総論・刑法各論を履修した者で、法曹志望者を主たる対象とするが、それだけではなく、より深く刑事法を理解したいと考えている3年生以上の者を対象とする。				
授業方法	講義を中心とするが、適宜教員と学生との質疑応答を交えながら進行する。また、必要に応じて講義に関連する資料を配布する。定期試験の解説を、後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		80%		①論点の把握は的確か、②結論を導く論旨の展開は説得的か、③重要な判例や学説を十分に意識して論じているか、などを総合して判断する。
	平常評価		20%		平常評価は、授業参加度等（20%）を総合して評価する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2015年	東京大学出版会		刑法総論講義第6版	前田雅英
	2015年	東京大学出版会		刑法各論講義第6版	前田雅英
	備考				
参考書	前田雅英『最新重要判例250刑法第11版』2017年（弘文堂）				
オフィスアワー	水曜日13：00～14：00、研究室（13号館〔法科大学院〕5階1354号室）で行います。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	総論の教科書（特に48～64頁）、参考書（特に事例1～4）をよく読み、大事だと思われる箇所はノートに取り、十分な予習を行って授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	【罪刑法定主義】 罪刑法定主義の意義、具体的内容、特に類推解釈の禁止について、判例を中心に学習する。
	事後学習	教科書・参考書の該当箇所の熟読、当日の授業で取ったメモ、当日配布の資料等を検討し、知識を確実にすること。（2時間）
2	事前学習	総論の教科書（特に76～99頁）、参考書（特に事例7～11）をよく読み、大事だと思われる箇所はノートに取り、十分な予習を行って授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	【実行行為・不作為犯】 実行行為とは何か、実行行為の個数と着手時期、実行行為の特定、不作為犯の成立要件、特に作為義務、作為可能性・容易性、作為との同価値性等について学習する。
	事後学習	教科書・参考書の該当箇所の熟読、当日の授業で取ったメモ、当日配布の資料等を検討し、知識を確実にすること。（2時間）
3	事前学習	総論の教科書（特に100～126頁）、参考書（特に事例12～17）をよく読み、大事だと思われる箇所はノートに取り、十分な予習を行って授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	【未遂犯】 障害未遂、中止未遂の成立要件、不能犯について学習する。
	事後学習	教科書・参考書の該当箇所の熟読、当日の授業で取ったメモ、当日配布の資料等を検討し、知識を確実にすること。（2時間）
4	事前学習	総論の教科書（特に127～148頁）、参考書（特に事例18～26）をよく読み、大事だと思われる箇所はノートに取り、十分な予習を行って授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	【因果関係】 条件関係、条件説、原因説、相当因果関係説、危険の現実化説、介入事情が存在する場合の因果関係について学習する。
	事後学習	教科書・参考書の該当箇所の熟読、当日の授業で取ったメモ、当日配布の資料等を検討し、知識を確実にすること。（2時間）

5	事前学習	総論の教科書（特に156～187頁）、参考書（特に事例27～31）をよく読み、大事だと思われる箇所はノートに取り、十分な予習を行って授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	【故意】 故意の成立要件、犯罪事実の認識・認容、違法性の意識の可能性等について学習する。
	事後学習	教科書・参考書の該当箇所の熟読、当日の授業で取ったメモ、当日配布の資料等を検討し、知識を確実にすること。（2時間）
6	事前学習	総論の教科書（特に188～201頁）、参考書（特に事例32～34）をよく読み、大事だと思われる箇所はノートに取り、十分な予習を行って授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	【錯誤】 事実の錯誤とは何か、法律の錯誤とは何か、具体的符合説、法定的符合説、抽象的符合説等について学習する。
	事後学習	教科書・参考書の該当箇所の熟読、当日の授業で取ったメモ、当日配布の資料等を検討し、知識を確実にすること。（2時間）
7	事前学習	総論の教科書（特に249～282頁）、参考書（特に事例48～59）をよく読み、大事だと思われる箇所はノートに取り、十分な予習を行って授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	【正当防衛】 正当防衛の成立要件、急迫不正の侵害、防衛の意思、防衛行為の相当性、過剰防衛、誤想防衛、誤想過剰防衛等について学習する。
	事後学習	教科書・参考書の該当箇所の熟読、当日の授業で取ったメモ、当日配布の資料等を検討し、知識を確実にすること。（2時間）
8	事前学習	総論の教科書（特に299～313頁）、参考書（特に事例65～68）をよく読み、大事だと思われる箇所はノートに取り、十分な予習を行って授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	【責任】 責任とは何か、心神耗弱、心神耗弱、原因において自由な行為の理論等について学習する。
	事後学習	教科書・参考書の該当箇所の熟読、当日の授業で取ったメモ、当日配布の資料等を検討し、知識を確実にすること。（2時間）
9	事前学習	総論の教科書（特に321～387頁）、参考書（特に事例69～98）をよく読み、大事だと思われる箇所はノートに取り、十分な予習を行って授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	【正犯と共犯】 共同正犯の成立要件、共謀共同正犯、承継的共同正犯、過失の共同正犯、教唆犯・幫助犯（従犯）の成立要件等について学習する。
	事後学習	教科書・参考書の該当箇所の熟読、当日の授業で取ったメモ、当日配布の資料等を検討し、知識を確実にすること。（2時間）
10	事前学習	各論の教科書（特に6～38頁）、参考書（特に事例111～123）をよく読み、大事だと思われる箇所はノートに取り、十分な予習を行って授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	【個人的法益に対する罪の基本、人の始期と終期、傷害】 いつ「人」となるのか、いつ「人」でなくなるのか、傷害とは何か、傷害罪は故意犯か結果的加重犯か等について学習する。
	事後学習	教科書・参考書の該当箇所の熟読、当日の授業で取ったメモ、当日配布の資料等を検討し、知識を確実にすること。（2時間）
11	事前学習	各論の教科書（特に146～162頁）、参考書（特に事例151～159）をよく読み、大事だと思われる箇所はノートに取り、十分な予習を行って授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	【財産犯の保護法益、不法領得の意思】 所有権その他の本権説、占有（所持）説、平穩占有説、不法領得の意思の要否、その内容について学習する。
	事後学習	教科書・参考書の該当箇所の熟読、当日の授業で取ったメモ、当日配布の資料等を検討し、知識を確実にすること。（2時間）
12	事前学習	各論の教科書（特に163～184頁）、参考書（特に事例160～170）をよく読み、大事だと思われる箇所はノートに取り、十分な予習を行って授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	【窃盗罪と占有】 窃盗罪における占有の概念、問題点（死者の占有等）等について学習する。
	事後学習	教科書・参考書の該当箇所の熟読、当日の授業で取ったメモ、当日配布の資料等を検討し、知識を確実にすること。（2時間）
13	事前学習	各論の教科書（特に185～218頁）、参考書（特に事例171～182）をよく読み、大事だと思われる箇所はノートに取り、十分な予習を行って授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	【強盗の罪】 強盗罪における暴行の概念、事後強盗罪・強盗致死傷罪の要件等について学習する。
	事後学習	教科書・参考書の該当箇所の熟読、当日の授業で取ったメモ、当日配布の資料等を検討し、知識を確実にすること。（2時間）
14	事前学習	各論の教科書（特に219～253頁）、参考書（特に事例183～199）をよく読み、大事だと思われる箇所はノートに取り、十分な予習を行って授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	【詐欺罪】 詐欺罪の成立要件、欺く行為・錯誤・財産的処分行為（交付）・財物・利益の移転に関する具体的問題を学習する。
	事後学習	教科書・参考書の該当箇所の熟読、当日の授業で取ったメモ、当日配布の資料等を検討し、知識を確実にすること。（2時間）
15	事前学習	各論の教科書（特に262～293頁）、参考書（特に事例203～213）をよく読み、大事だと思われる箇所はノートに取り、十分な予習を行って授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	【横領罪、背任罪】 横領罪、背任罪のそれぞれの成立要件、両罪の区別、共犯関係等について学習する。
	事後学習	教科書・参考書の該当箇所の熟読、当日の授業で取ったメモ、当日配布の資料等を検討し、知識を確実にすること。（2時間）

科目名	刑事法特殊講義ⅡA	担当者	南部 篤	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	法曹志望者，研究を志す者，また難易度の高い資格試験の受験を目ざす者などを主な対象に，刑法に関する答案やレポート，論文作成等に必要な，専門性の高い応用能力獲得を目指した授業を展開する。刑法学の実践的テーマを中心に事例問題を扱いながら授業を進める予定である。加えて，難度の高い複雑に絡み合ったテーマを整理したうえで，今日の理論刑法学が直面する重要課題への取り組みも視野に入れた授業を試みる。			
授業目的・到達目標	刑法に関する応用能力を発揮するための刑法理論に関する真の理解と論点の発見・整理・把握，及び，答案構成，表現・文章力等のスキルを涵養することを目的とする。刑法学の実践的諸テーマを取り上げ授業を進め，刑法学のテーマに関する真の理解に到達することを目指し，応用能力・問題処理能力を獲得すること，換言すれば，具体的な設例について，事実関係を読み解き，争点を抽出・整理して的確に答える力を身につけることを到達目標とする。関連D P及びC P：法律学科1, 4, 8			
履修条件	原則として，初回授業で学力チェック試験を受け合格することが条件となる。この試験の未受験者および不合格者は，履修登録を認めない。刑法の基礎を習得していない者には難度の高い事例問題への取り組み等は不可能だからである。			
授業方法	判例，設例や過去問，学術論文等を用いる。各授業前半で答案の作成または論文の読み込みをさせ，後半を検討・質疑に充てる。時間を要する問題の場合は，自宅での答案作成とし，次回授業の全部を費やして検討を行うこともある。授業内試験の解説を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	到達目標を，完璧に達成 S，十分に達成 A，概ね達成 B，最低限達成 C，不達成 D（授業内試験約80%＋その他約20%＝100%）。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
			なし（初回授業時に主な書籍等を紹介し，授業のたびに使用する教材，補足資料等を配布する。）	
	備考	六法（出版社を問わない。）は必携。		
参考書	設楽裕文編『法学刑法3演習（総論）』信山社，西田典之『刑法各論』弘文堂，山口厚『刑法各論』有斐閣（いずれも開講時点で最新の刷，版のもの。）			
オフィスアワー	土曜日，12時10分から13時まで研究室で対応する。ただし，Eメール（開講時にアドレスを開示）による事前のアポイントメントを要する。予約無しに訪れても面談は不可である。Eメールによる質問・相談も受付ける。授業内容以外で受付ける質問・相談事項は，刑事法学の研究一般について。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	刑法総論，各論について，基本書を読み返すなどして基本的理解を確かなものにした上で初回授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	受講資格確認のための試験実施（刑法総論，各論分野から出題する。）
	事後学習	出題されたテーマについて，提出した自分の答案を振り返り，自己採点，解答点検を怠らないようにする。（2時間）
2	事前学習	前回受験した試験についての復習に基づき，教員に対する質問を用意した上で授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	この授業のすすめ方，教材・参考書等の準備について，成績評価等について
	事後学習	これまでの授業をふまえ，自分なりの模範答案をもう一度作成してみる。（2時間）
3	事前学習	予定されたテーマについて，基本書，参考書，参考判例を調べ，どのような事例が出題されるかを予想し，答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は，書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	自殺関与と殺人（偽装心中と殺人の成否）
	事後学習	答案作成後の検討，教員からの指摘，質疑応答，添削内容等をふまえ，疑問点を残さないよう振り返り作業を行い，さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
4	事前学習	予定されたテーマについて，基本書，参考書，参考判例を調べ，どのような事例問題が出題されるかを予想し，答案構成を含めた準備検討作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は，書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	同時傷害の特例
	事後学習	答案作成後の検討，教員からの指摘，質疑応答，添削内容等をふまえ，疑問点を残さないよう振り返り作業を行い，さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）

5	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	傷害罪と被害者の承諾
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
6	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	監禁罪の保護法益
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
7	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	住居侵入罪の保護法益
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
8	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	名誉毀損罪と真実性の錯誤
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
9	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	刑法における占有の概念
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
10	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	不法領得の意思
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
11	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	強盗と恐喝の相違
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
12	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	事後強盗の予備
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
13	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	詐欺罪における処分行為
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
14	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	クレジットカードの不正使用と詐欺
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
15	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	不法原因給付と詐欺罪の成否
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）

科目名	刑事法特殊講義ⅡA	担当者	西貝 吉晃	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語の書籍(H. L. A. Hart, PUNISHMENT and RESPONSIBILITY, Essays in the Philosophy of Law, Second Edition)を受講者と読んでいく。英語及び法解釈の技法を学ぶ。その過程で必要であれば英語で書かれた刑事法の判例も読む。毎回、和訳の課題が課される。				
授業目的・到達目標	比較法の方法論を知る人材の要請を目的とし、我が国の刑法の考え方を相対化して説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 4, 8				
履修条件	我が国の刑法についての基本的な理解と英文法の基本的な理解が前提となる。				
授業方法	全訳を報告してもらって議論する。議論は日本語で行う。訳の添削指導も行う。進度は受講人数及び受講者の英語力に比例するものとし、過度な負担にはならないようにする。適宜、報告内容について口頭でフィードバックする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義への積極的な参加及び講義を通して得た成長の程度。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考				
参考書	強いてあげればSmith, Hogan, & Ormerod's Criminal Law (2018)(購入不要)。				
オフィスアワー	火曜日14：40～16：10				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	我が国の刑法総論についての理解を確認しておく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス。訳の割当て等。
	事後学習	ただし、次回のための訳を行う。（2時間）
2	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	PROLEGOMENON TO THE PRINCIPLES OF PUNISHMENT
	事後学習	他の受講者の訳と統合し、少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
3	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	PROLEGOMENON TO THE PRINCIPLES OF PUNISHMENT
	事後学習	他の受講者の訳と統合し、少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
4	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	PROLEGOMENON TO THE PRINCIPLES OF PUNISHMENT
	事後学習	他の受講者の訳と統合し、少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）

5	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	PROLEGOMENON TO THE PRINCIPLES OF PUNISHMENT
	事後学習	他の受講者の訳と統合し、少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
6	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	LEGAL RESPONSIBILITY AND EXCUSES
	事後学習	他の受講者の訳と統合し、少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
7	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	LEGAL RESPONSIBILITY AND EXCUSES
	事後学習	他の受講者の訳と統合し、少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
8	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	LEGAL RESPONSIBILITY AND EXCUSES
	事後学習	他の受講者の訳と統合し、少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
9	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	MURDER AND THE PRINCIPLES OF PUNISHMENT: ENGLAND AND THE UNITED STATES
	事後学習	他の受講者の訳と統合し、少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
10	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	MURDER AND THE PRINCIPLES OF PUNISHMENT: ENGLAND AND THE UNITED STATES
	事後学習	他の受講者の訳と統合し、少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
11	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	MURDER AND THE PRINCIPLES OF PUNISHMENT: ENGLAND AND THE UNITED STATES
	事後学習	他の受講者の訳と統合し、少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
12	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	ACTS OF WILL AND RESPONSIBILITY
	事後学習	他の受講者の訳と統合し、少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
13	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	ACTS OF WILL AND RESPONSIBILITY
	事後学習	他の受講者の訳と統合し、少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
14	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	ACTS OF WILL AND RESPONSIBILITY
	事後学習	他の受講者の訳と統合し、少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
15	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	ACTS OF WILL AND RESPONSIBILITY
	事後学習	他の受講者の訳と統合し、少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）

科目名	刑事法特殊講義ⅡB	担当者	南部 篤	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	法曹志望者，研究を志す者，また難易度の高い資格試験の受験を旨とする者などを主な対象に，刑法に関する答案やレポート，論文作成等に必要な，専門性の高い応用能力獲得を目指した授業を展開する。刑法学の実践的テーマを中心に事例問題を扱いながら授業を進める予定である。加えて，難度の高い複雑に絡み合ったテーマを整理したうえで，今日の理論刑法学が直面する重要課題への取り組みも視野に入れた授業を試みる。			
授業目的・到達目標	刑法に関する応用能力を発揮するための刑法理論に関する真の理解と論点の発見・整理・把握，及び，答案構成，表現・文章力等のスキルを涵養することを目的とする。刑法学の実践的諸テーマを取り上げ授業を進め，刑法学のテーマに関する真の理解に到達することを目指し，応用能力・問題処理能力を獲得すること，換言すれば，具体的な設例について，事実関係を読み解き，争点を抽出・整理して的確に答える力を身につけることを到達目標とする。関連D P及びC P：法律学科1, 4, 8			
履修条件	原則として，初回授業で学力チェック試験を受け合格することが条件となる。この試験の未受験者および不合格者は，履修登録を認めない。刑法の基礎を習得していない者には難度の高い事例問題への取り組みは不可能だからである。			
授業方法	判例，設例や過去問，学術論文等を用いる。各授業前半で答案の作成または論文の読み込みをさせ，後半を検討・質疑に充てる。時間を要する問題の場合は，自宅での答案作成とし，次回授業の全部を費やして検討を行うこともある。授業内試験の解説を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	到達目標を，完璧に達成 S，十分に達成 A，概ね達成 B，最低限達成 C，不達成 D（授業内試験約80%＋その他約20%＝100%）。
教科書	年	出版社	書名	著者名
			なし（初回授業時に主な書籍等を紹介し，授業のたびに使用する補足資料を配布する。）	
	備考	六法（出版社を問わない。）		
参考書	設楽裕文編『法学刑法4演習（各論）』信山社，西田典之『刑法各論』弘文堂，山口厚『刑法各論』有斐閣（いずれも開講時点で最新の刷，版のもの。）			
オフィスアワー	土曜日，12時10分から13時まで研究室で対応する。ただし，Eメール（開講時にアドレスを開示）による事前のアポイントメントを要する。予約無しに訪れても面談は不可である。Eメールによる質問・相談も受付ける。授業内容以外で受付ける質問・相談事項は，刑事法学の研究一般について。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	予定されたテーマについて，基本書，参考書，参考判例を調べ，どのような事例が出題されるかを予想し，答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は，書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	使途を定めて委託した金銭（いわゆる「金銭所有権」と横領）
	事後学習	答案作成後の検討，教員からの指摘，質疑応答，添削内容等をふまえ，疑問点を残さないよう振り返り作業を行い，さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
2	事前学習	予定されたテーマについて，基本書，参考書，参考判例を調べ，どのような事例が出題されるかを予想し，答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は，書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	不法原因給付物と横領
	事後学習	答案作成後の検討，教員からの指摘，質疑応答，添削内容等をふまえ，疑問点を残さないよう振り返り作業を行い，さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
3	事前学習	予定されたテーマについて，基本書，参考書，参考判例を調べ，どのような事例が出題されるかを予想し，答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は，書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	横領と背任の関係
	事後学習	答案作成後の検討，教員からの指摘，質疑応答，添削内容等をふまえ，疑問点を残さないよう振り返り作業を行い，さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
4	事前学習	予定されたテーマについて，基本書，参考書，参考判例を調べ，どのような事例が出題されるかを予想し，答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は，書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	不動産の二重売買と横領
	事後学習	答案作成後の検討，教員からの指摘，質疑応答，添削内容等をふまえ，疑問点を残さないよう振り返り作業を行い，さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）

5	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	不動産の二重抵当と背任
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
6	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	横領後の横領
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
7	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	放火罪の既遂時期
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
8	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	放火罪の客体と建造物の一体性
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
9	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	コピーと文書偽造
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
10	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	代理代表名義の冒用と文書偽造
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
11	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	作成名義人の承諾と文書偽造罪の成否
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
12	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	サイバーポルノとわいせつ物頒布等の罪
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
13	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	職務行為の適法性と公務執行妨害罪
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
14	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	職権濫用罪における「職権を濫用して」の意義
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）
15	事前学習	予定されたテーマについて、基本書、参考書、参考判例を調べ、どのような事例が出題されるかを予想し、答案作成の検討準備作業を行った上で授業に臨むこと。疑問点は、書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	わいろ罪における「職務に関し」の意義
	事後学習	答案作成後の検討、教員からの指摘、質疑応答、添削内容等をふまえ、疑問点を残さないよう振り返り作業を行い、さらに必要があれば次回教員への質問メモを作成しておく。（2時間）

科目名	刑事法特殊講義ⅡB	担当者	西貝 吉晃	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	英語の書籍(H. L. A. Hart, PUNISHMENT and RESPONSIBILITY, Essays in the Philosophy of Law, Second Edition)を受講者と読んでいく。英語及び法解釈の技法を学ぶ。その過程で必要であれば英語で書かれた刑事法の判例も読む。毎回、和訳の課題が課される。				
授業目的・到達目標	比較法の方法論を知る人材の要請を目的とし、我が国の刑法の考え方を相対化して説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 4, 8				
履修条件	我が国の刑法についての基本的な理解と英文法の基本的な理解が前提となる。				
授業方法	全訳を報告してもらって議論する。議論は日本語で行う。訳の添削指導も行う。進度は受講人数及び受講者の英語力に比例するものとし、過度な負担にはならないようにする。適宜、報告内容について口頭でフィードバックする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義への積極的な参加及び講義を通して得た成長の程度。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考				
参考書	Smith, Hogan, & Ormerod's Criminal Law (2018) (購入不要)。				
オフィスアワー	火曜日 14：40～16：10				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	我が国の刑法総論の理解を確認しておく。(2時間)
	授業内容	後期ガイダンス。前期で行った作業も説明する。
	事後学習	不要。ただし、次回のための訳を行う。(2時間)
2	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。(2時間)
	授業内容	INTENTION AND PUNISHMENT
	事後学習	他の受講者の訳と統合し、少なくとも日本語で訳の内容を理解する。(2時間)
3	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。(2時間)
	授業内容	INTENTION AND PUNISHMENT
	事後学習	他の受講者の訳と統合し、少なくとも日本語で訳の内容を理解する。(2時間)
4	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。(2時間)
	授業内容	INTENTION AND PUNISHMENT
	事後学習	他の受講者の訳と統合し、少なくとも日本語で訳の内容を理解する。(2時間)

5	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	NEGLIGENCE, MENS REA, AND CRIMINAL RESPONSIBILITY
	事後学習	他の受講者の訳と統合し，少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
6	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	NEGLIGENCE, MENS REA, AND CRIMINAL RESPONSIBILITY
	事後学習	他の受講者の訳と統合し，少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
7	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	NEGLIGENCE, MENS REA, AND CRIMINAL RESPONSIBILITY
	事後学習	他の受講者の訳と統合し，少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
8	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	PUNISHMENT AND THE ELIMINATION OF RESPONSIBILITY
	事後学習	他の受講者の訳と統合し，少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
9	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	PUNISHMENT AND THE ELIMINATION OF RESPONSIBILITY
	事後学習	他の受講者の訳と統合し，少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
10	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	PUNISHMENT AND THE ELIMINATION OF RESPONSIBILITY
	事後学習	他の受講者の訳と統合し，少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
11	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	CHANGING CONCEPTIONS OF RESPONSIBILITY
	事後学習	他の受講者の訳と統合し，少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
12	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	CHANGING CONCEPTIONS OF RESPONSIBILITY
	事後学習	他の受講者の訳と統合し，少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
13	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	CHANGING CONCEPTIONS OF RESPONSIBILITY
	事後学習	他の受講者の訳と統合し，少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
14	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	POSTSCRIPT: RESPONSIBILITY AND RETRIBUTION
	事後学習	他の受講者の訳と統合し，少なくとも日本語で訳の内容を理解する。（2時間）
15	事前学習	与えられた部分について事前に訳を作る。（2時間）
	授業内容	POSTSCRIPT: RESPONSIBILITY AND RETRIBUTION
	事後学習	他の受講者の訳と統合し，少なくとも日本語で訳の内容を理解する。まとめ。（2時間）

科目名	刑事法特殊講義ⅢA	担当者	澤田 康広	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑事訴訟法の基本的理論（捜査手続を中心に）を条文と判例に基づき、できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的を理解し、現在の刑事司法の抱える問題点はどこにあるかを理解できるよう説明する。元検事の教員が、実際に担当した事件等を紹介しながら解説する。			
授業目的・到達目標	【授業目的】 刑事訴訟法の目的や刑事訴訟の担い手が果たす役割について理解するとともに、刑事訴訟手続のうち、捜査手続を中心に公訴提起に至るまでの流れを理解し、捜査手続における問題点を解決できる能力を養成することを目的とする。 【到達目標】 捜査手続を中心として刑事手続の基本的な流れを学び、判例や具体的事例に即して各種問題点を解決できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，4，8			
履修条件	特にないが、刑事訴訟法Ⅰを履修済みであることが望ましい。			
授業方法	講義形式。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	刑事訴訟法の基礎理論を理解し、基本的知識を身につけているかを判定する。授業で説明した基本的な概念や基礎理論等を整理し、その内容を整理し理解しておくこと。	
	平常評価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	弘文堂	「刑事訴訟法（Next教科書シリーズ）第2版」	関正晴編
	備考			
参考書	刑事訴訟法判例百選（第10版）井上正仁編：有斐閣 他の参考書については、必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	水曜日14：30に質問を受け付けます。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の目次を一覧し、各章の冒頭に記載された「本章のポイント」を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス（講師の紹介、年間の講義予定、成績評価、教科書・参考文献等の説明）
	事後学習	教科書の目次を一覧しながら、今後学ぶべき事項を確認する。（2時間）
2	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟法の意義と目的、司法制度改革
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
3	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事手続の概要（捜査から公判）
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
4	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟の担い手①裁判所と裁判員裁判
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。（2時間）

5	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟の担い手②検察官，捜査機関を含む
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
6	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟の担い手③被告人（被告人の確定）
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
7	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事訴訟法の担い手④弁護士（弁護士選任権，国選弁護士制度）
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
8	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	被疑者と弁護人の接見交通権
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
9	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	捜査の端緒（職務質問，所持品検査等）
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
10	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	任意捜査の原則，強制処分法定主義（任意捜査の限界）
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
11	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	逮捕と勾留
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
12	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	捜索・差押
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
13	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	起訴独占主義と起訴便宜主義，検察審査会制度
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
14	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	起訴状一本主義と公訴の提起
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
15	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	訴因制度と訴因変更
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）

科目名	刑事法特殊講義ⅢB	担当者	澤田 康広	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑事訴訟法の基本的理論（公判手続や証拠法を中心に）を条文と判例に基づき、できるだけ具体的事例を紹介しながら説明して刑事訴訟法の目的を理解し、現在の刑事司法の抱える問題点はどこにあるかを理解できるよう説明する。元検事の教員が、実際に担当した事件等を紹介しながら解説する。			
授業目的・到達目標	【授業目的】 刑事訴訟法の目的や刑事訴訟の担い手が果たす役割について理解するとともに、刑事訴訟手続のうち、公判手続や証拠法を中心に裁判に至るまでの流れを理解し、公判手続における問題点を解決できる能力を養成することを目的とする。 【到達目標】 公判手続や証拠法を中心として刑事手続の基本的な流れを学び、判例や具体的事例に即して各種問題点を解決できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 4, 8 特にないが、刑事訴訟法Ⅰを履修済みであることが望ましい。			
履修条件				
授業方法	講義形式。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	刑事訴訟法の基礎理論を理解し、基本的知識を身につけているかを判定する。授業で説明した基本的な概念や基礎理論等を整理し、その内容を整理し理解しておくこと。	
	平常評価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	弘文堂	「刑事訴訟法（Next教科書シリーズ）第2版」	関正晴編
	備考			
参考書	刑事訴訟法判例百選（第10版）井上正仁編：有斐閣 他の参考書については、必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	水曜日14：30に質問を受け付けます。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の目次を一覧し、各章の冒頭に記載された「本章のポイント」を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス（講師の紹介、年間の講義予定、成績評価、教科書・参考文献等の説明）
	事後学習	教科書の目次を一覧しながら、今後学ぶべき事項を確認する。（2時間）
2	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	公判前整理手続，証拠開示
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
3	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	証拠裁判主義
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
4	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	自由心証主義，挙証責任
	事後学習	講義ノートを参照しながら、教科書の該当箇所を確認する。（2時間）

5	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	違法収集証拠の証拠能力
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
6	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	自白法則①
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
7	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	自白法則②
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
8	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	補強法則①
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
9	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	補強法則②
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
10	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	伝聞法則
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
11	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	伝聞法則の例外
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
12	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	伝聞証拠に関する諸問題①（書証に対する同意）
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
13	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	伝聞証拠に関する諸問題②（弾劾証拠）
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
14	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	伝聞証拠に関する諸問題③（再伝聞）
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）
15	事前学習	説明が予定されている教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	控訴審の構造
	事後学習	講義ノートを参照しながら，教科書の該当箇所を確認する。（2時間）

科目名	刑事法特殊講義ⅣA	担当者	尾田 清貴	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	警察官、検察事務官、家裁調査官、法務教官、保護観察官等を目指す者を対象として、刑事司法手続過程における実務の現状を概観し、各段階における今日的課題を分析・検討し、犯罪の背景にある様々な社会的因子を踏まえた、総合的な犯罪に対する事前・事後予防のあり方を施設参観や実務担当者の協力を得て学ぶ。				
授業目的・到達目標	憲法・刑法・刑事訴訟法・犯罪者処遇法等の関係性を理解し、犯罪者と被害者の人権保障を踏まえた刑事司法手続のあり方と運用について理解を深め、一般人に簡潔に説明しうる能力を身に付けることを目的とする。さらに、実務家が対人理解に必要とされる聴く力と観察力を身に付け、調書など書面作成能力を養うことを目標とする。関連DP及びCP:法律学科1, 4, 8				
履修条件	実務の現状を踏まえた課題について検討を加えるので、憲法31～41条、刑法、刑事訴訟法に関する基礎的な項目について理解していることが望ましい。3年以上を対象とする。				
授業方法	毎回基礎的な参考資料は配付するが、シラバスに従って事前準備をしていることを前提に、課題解決に向けたディスカッションやグループワークを行う。随時、施設参観や実務家の話を聴く機会を設ける。提出されたレポートは、コメント（講評・解説）を記載のうえ、返却する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	レポート（3回）と受講態度	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	無し				
	備考	初回授業時に参考書籍等を紹介し、授業毎に参考資料を配付する。			
参考書	大谷実編 刑事法入門（第8版）有斐閣 30年版犯罪白書・警察白書				
オフィスアワー	木曜日5限目に研究室（本館1904）において実施する。 なお、事前にメールで予約することが望ましい。 oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	犯罪の発生から刑事司法手続の終了までどの様になっているのかについて調べる。（2時間）
	授業内容	この授業の概要・目的・授業方法と成績評価、そして、参考書と資料利用方法について設計する
	事後学習	受講する際に必要な基本的知識の過不足について理解し、シラバスで検討する課題に必要な関係領域の学習計画を立てる。（2時間）
2	事前学習	住民自ら担う犯罪抑止について、住居地の都府県で実際に行われている対応について調べておく。（2時間）
	授業内容	犯罪抑止（一般犯罪）と警察活動
	事後学習	住民、自治体と警察が三位一体で効率的な犯罪抑止を行うための役割分担についてまとめる。（2時間）
3	事前学習	警察、自治体が行っている対策について調べる。（2時間）
	授業内容	特殊詐欺の抑止
	事後学習	効果的な対応方法について、自らの考えをレポートにまとめる。（2時間）
4	事前学習	適正手続について、憲法の教科書等で事前に学習しておく。（2時間）
	授業内容	犯罪捜査と適正手続の保障
	事後学習	違法収集証拠として証拠が排除される範囲と警察活動の限界についてまとめる。（2時間）

5	事前学習	犯罪被害者にとって保護が必要な項目を洗い出してみる。加害者家族も被害者か、考えておくこと。（2時間） 警察庁のHP等も見ておくことが望ましい。
	授業内容	犯罪被害者の保護（警察実務家とのコラボで実施）
	事後学習	犯罪被害者の保護に関する刑事司法制度下の諸制度とその他の制度についてまとめる。（2時間）
6	事前学習	精神疾患を有するものによって犯罪が行われた場合に、警察はどのような対応を取るのか調べておくこと。（2時間）
	授業内容	精神疾患と措置入院
	事後学習	刑事責任無能力者に対する再犯法歯のあり方についてまとめる。（2時間）
7	事前学習	微罪処分とはどのようなものか調べてみる。（2時間） 警察白書も見てみよう
	授業内容	微罪処分
	事後学習	微罪処分の果たすべき役割についてまとめる。（2時間）
8	事前学習	起訴猶予処分の現状について犯罪白書や参考書で調べておく。（2時間）
	授業内容	起訴猶予処分の新たな展開
	事後学習	起訴猶予処分を受けた者に対する再犯防止策について整理し、レポートにまとめる。（2時間）
9	事前学習	検察審査会について、参考書や犯罪白書で調べておく。（2時間）
	授業内容	検察審査会の機能
	事後学習	指定弁護士による強制起訴が効果的に運用されるための制度設計についてまとめる。（2時間）
10	事前学習	両者の違いはどこにあるのか、裁判員裁判が導入された背景に何があるのか調べてみる。（2時間） 裁判所のHPを見てみよう。
	授業内容	通常裁判と裁判員裁判
	事後学習	裁判長の訴因変更命令と裁判員裁判における検察控訴の可否についてまとめる。（2時間）
11	事前学習	憲法の教科書等を読み、公正かつ公平な裁判とはどのような内容で、どのような制度設計がなされているか調べておく。（2時間）
	授業内容	公正かつ公平な裁判
	事後学習	外国人に対する対応について、刑事司法手続を俯瞰する公正かつ公平な制度とはどのようなものかとまとめる。（2時間）
12	事前学習	執行猶予の現状と果たすべき役割について調べておく。（2時間） 参考書や犯罪白書を見てみよう。
	授業内容	執行猶予と刑の一部執行猶予
	事後学習	再犯性の高い犯罪者に対する執行猶予や刑の一部執行猶予の果たすべき役割とその限界についてまとめる。（2時間）
13	事前学習	受刑者の人権と処遇の強制について調べておく。（2時間） 参考書や犯罪白書で該当箇所を読んでおく。
	授業内容	受刑者の権利と特別改善教育
	事後学習	受刑者自らが処遇計画の策定に参加できるのか、刑罰の目的との関係で整理する。（2時間）
14	事前学習	保護観察（制度）についてその種類と概要について調べておく。（2時間） 犯罪白書や法務省のHPを見てみよう。
	授業内容	保護観察制度の改革
	事後学習	保護司の専門性と権限、そして、特別遵守事項の効果的な運用についてまとめる。（2時間）
15	事前学習	それぞれの内容について、HPで調べておく。（2時間）
	授業内容	修復的司法と治療的司法の導入
	事後学習	これらの制度を日本に導入することの是非について、レポートにまとめる。（2時間）

科目名	刑事法特殊講義ⅣA	担当者	毛利 晴光	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑事裁判官OBとして、刑事裁判実務に携わった経験を活かして、刑事訴訟の基本原則や手続の流れを、実際の刑事手続（実務）を踏まえて、通常の授業とは異なった視点から、分かりやすく教える（捜査、公判全般を扱うが、必ずしも論点中心の授業ではなく、また、網羅的に教えるものでもない。）。				
授業目的・到達目標	刑事手続法の基礎知識を修得するのみならず、刑事手続の仕組みについて、実務とのつながりを意識しつつ、幅広くかつ柔軟な見方・理解ができる能力の養成を目的とする。 刑事手続法の基礎知識を基に、刑事手続の仕組みについて、受講生が自分の言葉で説明できることを目標とする。関連DP及びCP：1，4，8				
履修条件	3年次生を主要な対象とするが、4年次生も歓迎する。司法試験の予備試験や法科大学院の入学試験等の合格を目指す者は大歓迎である。				
授業方法	指定の教科書を中心に進めるが、毎回、レジュメと参考資料を配布して、それに基づき講義をする（教科書に掲載された書式は随時活用する。）。定期試験の解説は、後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		60%	講義の基本的理解度を判定する。	
	平常評価		40%	小テスト、受講態度等を総合して評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2017年	有斐閣	入門 刑事手続法〔第7版〕		三井誠・酒巻匡
	備考				
参考書	裁判所職員総合研修所監修『刑事訴訟法講義案（4訂補訂版）』司法協会				
オフィスアワー	火曜日 16:30～17:30（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントをとること） 研究室（13号館5階 506号室） メールアドレス：mouri.harumitsu@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	六法を持参のこと、事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	はじめに 本講義のねらい、学び方 刑事訴訟法の条文、刑事手続の流れと主体
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。（2時間）
2	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	任意捜査と強制捜査
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。（2時間）
3	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	捜査の実際（殺人事件） 逮捕、勾留、取調べを中心に
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。（2時間）
4	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	捜査の実際（覚せい剤事件） 搜索差押えを中心に
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。（2時間）

5	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	被疑者の権利，捜査段階の弁護
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。（2時間）
6	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	公訴提起，公判準備（公判前整理手続を除く） 付・被告人の勾留，保釈，証拠開示など
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。（2時間）
7	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	公判期日の手続 付・訴訟指揮，訴因の変更，弁論の併合
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。（2時間）
8	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	小テスト 復習 刑事立法の動きなど 証拠法その1 総論
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。（2時間）
9	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	証拠法その2 伝聞証拠
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。（2時間）
10	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	証拠法その3 自白，違法収集証拠排除
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。（2時間）
11	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	裁判員裁判 公判前整理手続
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。（2時間）
12	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	裁判員裁判 選任手続，公判手続，評議
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。（2時間）
13	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	要通訳事件，被害者保護
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。（2時間）
14	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	情状立証，量刑
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。（2時間）
15	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	小テスト 復習 判決，準抗告・抗告など
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって，授業内容を復習する。（2時間）

科目名	刑事法特殊講義ⅣB	担当者	尾田 清貴	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑事法特殊講義ⅣAで行った事業の枠組みを維持しながら、その対象を犯罪一般から少年による非行に限定し、少年司法手続過程を巡る今日的課題を抽出し、健全育成と事件処理（再非行防止）の二面性を踏まえて、法理論の限界を実務がどの様に克服しているかについて学ぶ。			
授業目的・到達目標	非行少年の大半は、被害少年の側面を有していることから、成人と同じ目線で対応することは難しい。そこで、少年手続の特殊性を先ず理解し、少年と関わる関係者に求められる“良い聴き方”を身に付け、非行原因論の主要な理論を理解することを目的とする。さらに、少年を正しく理解するための基礎的な力を身に付け、一般人に少年事件処理過程を正しく理解できるように説明する力を養うことを目標とする。関連DP及びCP:法律学科1, 4, 8			
履修条件	実務の現状を踏まえた課題について検討を加えるので、憲法31～41条、刑法、刑事訴訟法に関する基礎的な項目について理解していることが望ましい。3年以上を対象とする。			
授業方法	毎回、基礎的な資料は配付するが、シラバスに従って、事前準備をしている前提で課題解決に向けたディスカッションやグループワークを中心に行う。随時、施設見学や実務家の話を聴く機会を設ける。提出されたレポートは、コメント（講評・解説）を記載のうえ、返却する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	レポート（3回）と授業態度	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	無し			
	備考	初回授業時に、参考書等を紹介し、授業時に参考資料を配付する。		
参考書	澤登俊雄著 少年法入門（第6版 有斐閣フックス 30年版犯罪白書・警察白書			
オフィスアワー	木曜日5限目 研究室（本館1904）にて実施。なお、事前にメールで予約することが望ましい。 oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでおくことと、憲法、刑事訴訟法、少年法、児童福祉法、少年鑑別所法、少年院法、更生保護法について、概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業概要、目的、成績評価、授業方法等について説明し、少年司法手続に関わる法律とその関係性について説明する。
	事後学習	関係法の関係性について、図解してまとめる。（2時間）
2	事前学習	健全育成と非行抑止活動の現状について、警察庁のHP等で調べておく。（2時間）
	授業内容	非行抑止と警察活動
	事後学習	家庭・学校・地域社会と警察活動の効果的な連携についてまとめる。（2時間）
3	事前学習	非行（犯罪）を犯し、警察に補導されて以降の犯罪捜査に伴う適正手続の保障がどの様に担保されているかについて、参考書等で調べておく。（2時間）いるか
	授業内容	事件処理と適正手続の保障
	事後学習	少年警察活動規則の運用と少年係警察官の機能についてまとめる。（2時間）
4	事前学習	加害者が少年であった場合の被害者の保護は成人犯罪者の場合と異なるのか調べておく。（2時間）
	授業内容	犯罪被害者保護
	事後学習	警察、検察、家庭裁判所の各手続での被害者対応について整理し、レポートにまとめる。（2時間）

5	事前学習	少年にも微罪処分が可能か、参考書等で調べておく。（2時間）
	授業内容	微罪処分と簡易送致、署限りの措置
	事後学習	相互の関係と少年係警察官の専門性についてまとめる。（2時間）
6	事前学習	全件送致主義とは何かについて、参考書や裁判所のHPで調べておく。（2時間）
	授業内容	全件送致主義と（少年係）検察官の権能
	事後学習	違法収集証拠への対応と処遇意見の添付を通じた検察官の権能についてまとめる。（2時間）
7	事前学習	それぞれの制度内容と何故導入されたのかについて、参考書等で調べておく。（2時間）
	授業内容	検察関与と裁定合議制
	事後学習	手続二分論を踏まえた検察官の権能と審判を主催する裁判官に必要とされる資質や経験について、まとめる。（2時間）
8	事前学習	審判への被害者の訴訟参加の現状について、参考書や裁判所のHPで調べておく。（2時間）
	授業内容	被害者の訴訟参加
	事後学習	詐称参加が認められる場合と認められない場合の裁判所の対応、附帯私訴についてまとめる。（2時間）
9	事前学習	逆送の種類と検察官の対応、裁判員裁判に付される少年事件の種類等について、参考書や裁判所のHPで調べておく。（2時間）
	授業内容	逆送と裁判員裁判
	事後学習	少年の刑事事件について、裁判員裁判は適しているか否かについて、レポートにまとめる。（2時間）
10	事前学習	処遇勧告とは、どのような制度か参考書等で調べておく。（2時間）
	授業内容	処遇勧告
	事後学習	処遇勧告が保護や矯正現場でどのように活かされているかについてまとめる。（2時間）
11	事前学習	保護処分としての保護観察がどのように運用されているかについて、犯罪白書や法務省のHP手調べておく。（2時間）
	授業内容	2号観察の課題
	事後学習	保護司の専門性や年齢等が、少年に対する保護観察にどのような影響を及ぼすかを踏まえて、改善点についてレポートにまとめる。（2時間）
12	事前学習	仮退院に伴う保護観察の現状について、参考書や法務省のHPで調べておく。（2時間）
	授業内容	2号観察の課題
	事後学習	特別遵守事項違反に際し、保護観察所長から家庭裁判所に対して新たな保護処分の申請が行われることの是非についてまとめる。（2時間）
13	事前学習	少年刑務所における処遇について、参考書や犯罪白書等で調べておく。（2時間）
	授業内容	少年刑務所における特別改善教育
	事後学習	何故刑務官ではなく、法務教官が処遇に当たるのか、刑罰の執行か個別処遇化について、まとめる。（2時間）
14	事前学習	交通事件処理手続について、参考書等で調べておく。（2時間）
	授業内容	交通保護事件の処理手続と処遇
	事後学習	交通短期保護観察・長期保護観察の現状と課題についてまとめる。（2時間）
15	事前学習	修復的司法についてHP等で調べておく（2時間）。
	授業内容	修復的司法
	事後学習	少年司法手続への修復的司法の導入についてまとめる。（2時間）

科目名	刑事法特殊講義ⅣB	担当者	毛利 晴光	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑事裁判官OBとして、刑事裁判実務に携わった経験を活かし、刑事裁判の事実認定に関して入門的な講義をするものであるが、証拠法についても、必要な範囲でできる限りカバーして教えるつもりである。特に、刑事法特殊講義ⅣAで取り上げることができなかった事項については、事実認定と関連づけながら、適宜授業に取り入れる。				
授業目的・到達目標	事実認定が特別なものではなく、刑事手続の各場面で問題になることを知ってもらうとともに、事実認定の仕組みについて、具体例も踏まえつつ、体得してもらうことを目的とする（単に事実認定のノウハウを身に付けてもらえばよいというようなねらいは持っていない。）。 刑事裁判の事実認定について、基礎的な理解の修得を目標とする。関連DP及びCP：法律学科1， 4， 8				
履修条件	3年次生を主要な対象とするが、4年次生も歓迎する。司法試験の予備試験や法科大学院の入学試験等の合格を目指す者は大歓迎である。刑事法特殊講義ⅣAとの継続履修が望ましいが、必ずしもそれにこだわる必要はない。				
授業方法	指定の教科書「刑事事実認定入門」を中心に進めるが、毎回、レジュメと参考資料を配布して、それに基づき講義をする。 定期試験の解説は、後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		60%	講義の基本的理解度を判定する。	
	平常評価		40%	小テスト、受講態度等を総合して評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2015年	判例タイムズ社	刑事事実認定入門〔第3版〕		石井一正
	2017年	有斐閣	入門 刑事手続法〔第7版〕		三井誠・酒巻匡
	備考				
参考書	裁判所職員総合研修所監修「刑事訴訟法講義案（4訂補訂版）」司法協会				
オフィスアワー	火曜日 16:30～17:30（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントをとること） 研究室（13号館5階 506号室） メールアドレス：mouri.harumitsu@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	できれば教科書（刑事事実認定入門）にざっと目を通しておく。（2時間）
	授業内容	はじめに 本講義のねらい、学び方 付・事実認定が問題になった事例
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。（2時間）
2	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	事実認定の基礎、資料、方法
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。（2時間）
3	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	供述証拠の信用性判断その1 一般 付・供述の証明力を争う方法（反対尋問、弾劾証拠、供述経過の立証など）
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。（2時間）
4	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	供述証拠の信用性判断その2 被害供述
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって、授業内容を復習する。（2時間）

5	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	供述証拠の信用性判断その3 目撃供述, 犯人識別供述
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって, 授業内容を復習する。（2時間）
6	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	供述証拠の信用性判断その4 共犯者の供述付・共犯者供述の証拠能力, 証明力など
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって, 授業内容を復習する。（2時間）
7	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	供述証拠の信用性判断その5 被告人の供述付・自白の補強法則など
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって, 授業内容を復習する。（2時間）
8	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	小テスト 復習 信用性判断に用いられる客観的証拠その1 実況見分調書など
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって, 授業内容を復習する。（2時間）
9	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	信用性判断に用いられる客観的証拠その2 鑑定
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって, 授業内容を復習する。（2時間）
10	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	事実認定の構造 直接証拠による認定と状況証拠による認定
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって, 授業内容を復習する。（2時間）
11	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	事実認定の具体例その1 殺意, 薬物の認識
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって, 授業内容を復習する。（2時間）
12	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	事実認定の具体例その2 共謀付・共謀をめぐる争い方
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって, 授業内容を復習する。（2時間）
13	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	事実認定の具体例その3 犯人と被告人との同一性
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって, 授業内容を復習する。（2時間）
14	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	事実認定に関わる問題 類似事実による立証, 訴因変更の要否, 択一的認定
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって, 授業内容を復習する。（2時間）
15	事前学習	教科書の指定された箇所をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	小テスト 復習 裁判員裁判における事実認定
	事後学習	配布されたレジュメと参考資料でもって, 授業内容を復習する。（2時間）

科目名	刑法Ⅰ	担当者	設楽 裕文	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	-----	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑法総論の基本的事項について講じる授業である。			
授業目的・到達目標	刑法の概要を、基礎理論、犯罪論（犯罪総論）に重点を置いて、理解することを目的とする。基本的事項を理解し、刑法を適切に解釈・適用できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，2，3，5 公共政策学科1，3，4			
履修条件	法学を履修済であること。			
授業方法	講義の方法を用いる。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	必要な点についての確に論じられているか否かにより評価する。	
	平常評価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014年	八千代出版	現代の判例と刑法理論の展開	板倉宏監修・著、沼野輝彦ほか編
	2019年（9月出版予定）	八千代出版	刑法の目的と解釈	設楽裕文
	2018年	弘文堂	N e x t教科書シリーズ刑法総論	設楽裕文＝南部篤編
	備考	『刑法の目的と解釈』は、2019年9月刊行予定である。		
参考書	『法学刑法5判例インデックス1000』設楽裕文編：信山社			
オフィスアワー	水曜日及び金曜日（16：10）授業講堂ないしその周辺において、授業に関係する事項について、おこなう（最大で60分）。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	『N e x t 教科書シリーズ刑法総論』の序論及び第1章～第2章、『刑法の目的と解釈』の第1章を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	刑の学びの必要性 刑法の基礎 刑法の目的と解釈
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
2	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	罪刑法定主義と責任主義 罪刑法定主義と刑法の解釈 児童ポルノ変換URL掲載事件（本シラバス記載の事件・事故は『現代の判例と刑法理論の展開』に掲載されている）
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	罪刑法定主義と明確性の原則 世田谷区清掃・リサイクル条例事件
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
4	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	犯罪論概説 構成要件該当性（実行行為・因果関係・結果） 違法性 責任
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）

5	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	構成要件該当性と構成要件 実行行為の意義 行為論 実行行為と危険性
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	複数の行為と実行行為 実行行為の開始と終了 実行行為の終了と所為の終了 早すぎた構成要件実現 クロロホルム事件 遅すぎた結果の発生
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	他人の行為を利用する実行と間接正犯 薬事法違反広告事件 不作為による実行と不真正不作為犯
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	因果関係の意義 条件関係の諸問題
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	相当因果関係と危険の現実化説 航空管制官の誤指示事件 被害者の同意と構成要件
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	違法性及び違法性阻却事由の本質 可罰的違法性
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	正当行為（35条） 法令行為 正当業務行為 その他の正当行為 取材活動と正当行為 鑑定人秘密漏示事件 被害者の同意 治療行為の中止 協同病院事件
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	正当防衛（36条1項） 正当防衛の要件 過剰防衛 第三者の法益の侵害と正当防衛
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
13	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	複数の反撃と正当防衛・過剰防衛 灰皿投げつけ事件
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
14	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	緊急避難（37条1項本文） 違法性阻却事由に関する錯誤 誤想防衛 誤想過剰防衛
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
15	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	責任論総説 故意の意義 意味の認識と故意 違法性の意識と故意
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
16	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	事実の錯誤の意義 事実の錯誤と違法性の錯誤 具体的事実の錯誤 抽象的事実の錯誤 法定的符合説
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）

17	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	過失の意義 予見可能性と注意義務 企業活動と過失犯 尼崎JR脱線事件 ハブ破壊事故
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
18	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	責任能力 刑事未成年 原因において自由な行為 期待可能性
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
19	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	未遂犯 実行の着手 中止未遂
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
20	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	共犯の意義・種類 共犯の処罰根拠
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
21	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	共同正犯の意義・要件 共謀共同正犯 スワット事件 過失犯の共同正犯
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
22	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	承継的共同正犯 傷害重篤化事件
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
23	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	教唆犯 従犯
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
24	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	中立的行為の幫助 ウイニー事件
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
25	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	離脱による共犯関係の解消 強盗着手前立去り事件
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
26	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	不作為と共犯 予備罪と共犯
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
27	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	共犯と身分 65条と真正身分犯・不真正身分犯 非占有者の業務上横領への関与
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
28	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	罪数 単統一罪 法条競合 包括一罪 科刑上一罪（54条1項） 併合罪
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）

29	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	刑罰の本質 刑の適用・執行・消滅
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。（2時間）
30	事前学習	教科書の該当箇所（前の回に指定）を読んで、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	刑法の適用範囲 授業のまとめ
	事後学習	授業の際にとったメモをもとに、考えをまとめる。 教科書を読み返して知識を整理し、試験にそなえる。（2時間）

科目名	刑法 I	担当者	南部 篤	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	4
-----	------	-----	------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	犯罪と刑罰に関する基本法である刑法の総論を扱う。刑法は、社会秩序維持の役割を果たすことにより社会統合を究極の目的とするが、人類の社会集団制御の技術として生成発展し洗練されてきた歴史をもつ基本的制度である。刑罰という人権とせめぎ合う統制手段特有の性格を有するものでもある。このような刑法システムの基本的原理と仕組みを考察し、その理論的側面とリアルな現実的側面に関する理解を得るべく犯罪論の諸テーマと取り組んでいく。			
授業目的・到達目標	この授業は、犯罪論・刑罰論の重要テーマを体系的に学び、刑法学の堅牢な基礎を築くことを目的とする。そのため、授業参加者は自分の頭をフルに働かせて刑法学と取り組む積極姿勢が常に必要となる。犯罪論と刑罰制度の基礎的理解、および刑法固有の法的思考能力を身につけること、および、事案を読み解き、論点を抽出・整理して法の適用を論ずる法的処理能力獲得を基礎的な到達目標とし、刑法理論が直面する今日的課題・立法論と取り組む能力獲得を発展的、最終的な到達目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	なし。			
授業方法	テキストに沿って進める。但し、テーマの重要度、難易度に応じて割愛、要約、補足説明を行うことがある。もとより、受講者の刑法総論の理解を前提に進めて行く。定期試験の解説を、後日ポータルシステム等を用いて行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		80%	到達目標の達成度に応じて、80点を上限に点数を付与する。
	平常評価		20%	授業内テスト等により20点を上限に付与。定期試験と合せ100点満点で、完璧に達成90以上、十分に達成80以上、概ね達成70以上、最低限達成60以上の基準で評価。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年発行予定	弘文堂	ネクスト教科書シリーズ・刑法総論	設楽裕文＝南部篤編
	備考	教科書の版、刷が改められた場合は、開講時現在で最新のものを準備すること。		
参考書	設楽裕文編『法学刑法3演習』信山社、山口厚『刑法総論』有斐閣、前田雅英『刑法総論講義』東大出版会			
オフィスアワー	土曜日、12時10分から13時まで研究室で対応する。ただし、Eメール（開講時にアドレスを開示）による事前のアポイントメントを要する。予約無しに訪れても面談は不可である。Eメールによる質問・相談も受付ける。授業内容以外で受付ける質問・相談事項は、刑事法学の研究一般について。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	もし、窃盗や殺人、放火などが罰せられず放任されるとしたら世界はどうか、また、どんな行為が罰せられるか、まったく分からない世界で生きていかなければならないとしたらどうか、想像してみること。（2時間）
	授業内容	刑罰制度と「刑法」の意義（刑法はどのような役割をはたしているのか、他の法分野とのちがいは）
	事後学習	法は権利や利益を保護するためにあるが、民法やその他の法分野と比べ、刑法はいかなる意味で権利・利益を保護しているのか、その特徴は何かを整理し確認する。（2時間）
2	事前学習	六法を開き、刑事法分野に属する法令をながめ、どのように分類され、体系的に整理されているか考えたうえで授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	刑事法の中の刑法の位置（刑事訴訟法や少年法、刑事収容施設法などとの関係）と刑法「総論」の意味
	事後学習	刑事実体、刑事手続法、矯正保護法の三分類に属する各種法律を確認し、刑法総則と各則の関係、刑法総則の地位について確認する。（2時間）
3	事前学習	刑罰の種類と定義に関する条文に目を通し、疑問に思った点を挙げておくこと。（2時間）
	授業内容	刑罰とは何か（刑罰制度の概要と、行政処分、損害賠償など他の法的統制手段との関係）
	事後学習	行政処分等と比べ、刑罰の最も大きな特徴は何か、また各種刑罰の性格について文章にまとめ確認する。（2時間）
4	事前学習	国家の手による刑罰も、犯人の生命・自由・財産という利益を奪う点で「法益の侵害」と共通の性格を有する。これをどう説明するか、自分なりの見解をまとめたうえで授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	刑罰制度の正当化根拠（国家はなぜ刑罰の名の下に犯罪者の生命や自由、財産を奪うことができるのか）
	事後学習	絶対的応報刑と相対的応報刑、一般予防と特別予防、との関係を整理しておく。（2時間）

5	事前学習	わが国で死刑が言い渡される件数，執行される件数を調べてみること。（2時間）
	授業内容	死刑（死刑制度の概要と現状，死刑の存廃をめぐるホットな議論状況，死刑制度の是非）
	事後学習	直観的・情緒的な議論を除き，死刑存廃に関するさまざまな意見を整理し，授業で取り上げた内容をふまえ，両論を対比し自分なりの一覧表を作成してみる。（2時間）
6	事前学習	罪刑法定主義の否定は何をもたらすか，考察した上で授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	刑法を支配する基本原則Ⅰ（罪刑法定主義，その自由主義的側面と民主主義的側面）
	事後学習	罪刑法定主義の背景にある自由主義的要求と民主主義的要求，マグナカルタ以来の歴史的沿革，各種の派生原則などにつき整理・確認を行う。（2時間）
7	事前学習	利益と法益と権利，これら三つの概念の異同を辞典，参考書等で調べ，考えてみること。（2時間）
	授業内容	刑法を支配する基本原則Ⅱ（法益保護の原則，「法益なければ処罰なし」の意義，また，責任主義の原則，「非難可能性・他行為可能性」の意味するところ）
	事後学習	結果責任主義と団体責任主義に基づく刑事責任の追及が行われた前近代と比べ，非難可能性を刑罰の不可欠の要件とし，個人責任主義の徹底を図る今日の考え方を対比し，確認しておく。（2時間）
8	事前学習	犯罪は行為者の悪い性格の一つの表れに過ぎず，未遂と既遂も本質的違いはなく，暴行，器物損壊，公務執行妨害も細かく区別して論じる必要はないとの考えをどう思うか，考察を試みること。（2時間）
	授業内容	刑法理論の発展と学説の動向（新派と古典派、現代社会と刑法理論の課題）
	事後学習	新派刑法学は，それまでの古典派の考え方に対する批判に端を発した学説であるが，どのような点で古典派は批判されたのか，まとめてみる。（2時間）
9	事前学習	さまざまな犯罪の中には，今日，あえて刑罰の対象とする必要性が乏しくなったものもあるとの指摘が行われたことがある。刑法典のなかにあるどの犯罪がそれにあたるかを考えてみる。（2時間）
	授業内容	自然犯と法定犯とは？／非犯罪化論の是非／法人の犯罪と法人の処罰
	事後学習	各種犯罪を自然犯と法定犯とに分けて論じる見解に合理性はあるか，また，自然人のみを刑罰の名宛人とする現行刑法典のあり方は妥当か，自身の見解をまとめてみる。（2時間）
10	事前学習	いかなる場合に犯罪は成立し，成立が妨げられるのか，刑法がきわめて慎重な判断をすることとしている理由は何か，考察したうえで授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	犯罪成立要件の概観（刑法学はなぜ煩雑な法解釈問題に拘り，難解な理論構築を志向するのか）
	事後学習	三分体系のメリットとデメリットについて整理し確認する。（2時間）
11	事前学習	犯罪成立要件と構成要件との関係はどうか，考えた上で授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	構成要件とは何か（犯罪成立要件の構造と特徴，他の法分野との著しい違いの意味）
	事後学習	客観的構成要件要素および主観的構成要件要素をなすものをすべて挙げ，一覧表にするなどして整理確認する。（2時間）
12	事前学習	作為とは何か，不作為とは何か，行為とは何か，考察してみること。（2時間）
	授業内容	不作為犯をめぐる諸問題（作為と不作為，行為とは何か，真正不作為犯と不真正不作為犯）
	事後学習	不作為犯，とりわけ不真正不作為犯の成立要件について整理・確認し，放火罪に関する判例を検討しておく。（2時間）
13	事前学習	自ら手を汚して犯罪を実行する場合と，他人の犯罪に間接的に関わる場合とではその罪悪性にどのような違いがあるか考えてみること。（2時間）
	授業内容	正犯とはなにか（正犯と共犯・直接正犯と間接正犯・正犯のメルクマール）
	事後学習	正犯の概念をめぐる理論刑法学上の議論を整理しておく。（2時間）
14	事前学習	ある行為と発生した被害との間に原因・結果の関係が認められなければ，その結果は行為者のしわざとはいえない，とされるのはなぜか，考えた上で授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	因果関係をめぐる諸問題（条件関係・条件説と相当因果関係・因果関係の処理に関する新しいアプローチ）
	事後学習	因果関係の有無が問題とされた最高裁判例を検討し，判例がどのような基準に立って判断しているかを整理し確認する。（2時間）
15	事前学習	法に違反する性質を意味する「違法性」とは実質的には何を意味するのか，考察した上で授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	違法性論の基礎（違法性とは何か・主観的違法性論と客観的違法性論・結果無価値論と行為無価値論）
	事後学習	形式的違法・実質的違法，主観的違法正論・客観的違法正論，行為無価値論・結果無価値論，これらの違法性の本質をめぐる議論を整理しておく。（2時間）
16	事前学習	正当防衛が認められやすい社会状況と，認められにくい状況とを対比して，どのような点がその違いをもたらすかを検討してみる。（2時間）
	授業内容	違法性阻却事由と違法性阻却の原理（正当防衛・緊急避難・法令行為・正当業務行為・超法規的違法阻却事由）
	事後学習	刑法35条を拠り所とする違法阻却の場合にはどのようなものがあるか，整理し確認しておく。（2時間）

17	事前学習	正当防衛と緊急避難の意義と要件をあげ、両者の共通点と相違点について考えた上で授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	正当防衛と緊急避難（二つの違法阻却由の共通点と相違点、それらはどこから来るのか）
	事後学習	違法性阻却事由に関する刑法35条・36条・37条の規定の意義と内容を整理し確認する。（2時間）
18	事前学習	自分の行為が原因で他人に被害が生じたとき、それが不可抗力であって自分に何の落ち度もないのに、厳しい非難にさらされた場合、どうこたえるか、熟慮してみたいうえで授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	責任論の基礎（違法評価と責任評価との関係／期待可能性論・規範的責任論の発展）
	事後学習	責任、非難可能性、他行為可能性、期待可能性のそれぞれの意味と関係、位置づけ、また心理的責任論から規範的責任論への近代的責任概念の発展、これらについて整理・検討する。（2時間）
19	事前学習	どんなに凶悪残忍な態様で多数の人命を奪う等しても、心神喪失にあたる場合は絶対に処罰できない。なぜか。自分なりの答えを見出すまで考えてみること。（2時間）
	授業内容	責任論の諸問題（故意と過失・責任能力・心神喪失と心神耗弱・刑事未成年）
	事後学習	心神喪失・心神耗弱の意義、刑事未成年の意義、原因において自由な行為、これらの意義と問題点について整理し、まとめる。（2時間）
20	事前学習	わざとやった場合＝故意の結果惹起と、うっかりやってしまった場合＝過失の結果惹起とでは、その重大性がきわめて大きく異なる、と考えるのはなぜか、考察した上で授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	故意論（故意の体系的地位・確定的故意と不確定的故意・概括的故意と択一的故意、未必的故意）
	事後学習	確定的故意と不確定的故意、概括的・択一的・未必的故意の異同、認識説と意思説、認容説と蓋然性説をめぐる議論、故意と過失との分水嶺、こうした諸点を分析整理しまとめる。（2時間）
21	事前学習	犯人が①殺そうとした人を誤って別人と取り違え撃ち殺してしまったとき、②撃った弾が逸れ物陰の別人にあたって死亡させてしまったとき、罪責に違いが生じるか、考えてみること。（2時間）
	授業内容	事実の錯誤の処理（具体的事実の錯誤と抽象的事実の錯誤・客体の錯誤と方法の錯誤、因果関係の錯誤）
	事後学習	具体的事実の錯誤と抽象的事実の錯誤のちがいが、客体・方法・因果関係の錯誤のちがいとその罪責への影響、具体的符合説と法定的符合説、故意の個数の問題、これらを整理しておく。（2時間）
22	事前学習	飼い犬を野犬だと思って撲殺してしまった場合と、飼い犬だが首輪もせず放し飼いなので処分しても罪に問われることはないと確信して撲殺した場合とで罪責は異なるか、考えてみること。（2時間）
	授業内容	法律の錯誤の処理（事実の錯誤と法律の錯誤・厳格故意説と制限故意説、故意説と責任説）
	事後学習	法律の錯誤により違法性の意識を欠いた場合のうち、錯誤に無理もない（相当な）事情があり処罰が妨げられる場合とは具体的にどんなときか、判例を挙げて論じてみる。（2時間）
23	事前学習	わざとやったわけではなくとも、過失による人の死傷等の惹起は処罰される。なぜか。考えた上で授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	過失犯をめぐる諸問題（過失犯の構造と予見可能性の内容・程度、旧過失論・新過失論・危惧感説）
	事後学習	旧過失論から新過失論、危惧感説へと発展する刑事過失理論と判例の動向を検討してみる。（2時間）
24	事前学習	犯罪が未遂に終わって被害が発生していないのに、多くの犯罪についてなぜ未遂犯として処罰する必要があるのか、考えてみること。（2時間）
	授業内容	犯罪遂行のプロセス（犯行の決意⇒陰謀⇒予備⇒実行の着手⇒未遂⇒既遂）
	事後学習	刑法は、さまざまな犯罪類型において既遂のみを罰するものから、未遂をも罰する、あるいは少数ではあるが予備をも罰する、さらに早期の段階、陰謀を捕捉するものもある。その理由を考察する。（2時間）
25	事前学習	殺人の用途でピストルを準備した段階（予備）と、それを被害者に向け引き金を引こうとした時点（未遂）とを比べると刑罰の重さに著しい違いがある。なぜかを考えてみること。（2時間）
	授業内容	未遂犯の諸問題（実行の着手の意義、障害未遂と中止未遂、中止未遂の意義と要件）
	事後学習	中止未遂が寛大に扱われる理由は何か、中止が認められる要件はどうか、整理しておく。（2時間）
26	事前学習	共犯者としての犯罪への関りにはどのような形態が考えられるか、検討したうえで授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	共犯論の基礎（必要的共犯と任意的共犯、共同正犯と狭義の共犯、教唆犯と幫助犯）
	事後学習	共犯における「一部実行、全部責任の法理」とは何か、自分で事例を挙げて説明を試みる文章を書いてみる。（2時間）
27	事前学習	盗みをするよう唆したが、唆された者が応じなかった場合、いったん窃盗を決意したが思い返し実行に出なかった場合、実行に出たが発見されて盗めなかった場合、これらの罪責はどうか、考えてみること。（2時間）
	授業内容	共犯論の諸問題（共犯独立性説と従属性説、共犯の従属性、承継的共犯、片面的共犯）
	事後学習	共犯の従属性につき、実行・罪名・要素の各従属性を説明し、それぞれ判例がどう考えているかを確認しておく。（2時間）
28	事前学習	泥棒がA宅に侵入、書斎にあったAの財布を盗り、次いで子供Bの部屋から貯金箱を、さらに居間のタンスから妻Cのヘソクリ5万円を盗んだとき、窃盗罪は何個成立するか、考えてみること。（2時間）
	授業内容	罪数（犯罪の個数はどのような基準により決するか、包括一罪、実質的数罪）
	事後学習	単純一罪、法条競合、包括一罪、科刑上一罪、併合罪、単純数罪、これらの分類・整理を確認し、体系的理解を確かなものにしておく。（2時間）

29	事前学習	窃盗罪の懲役刑の上限は10年であるが、空き巣を繰り返し計10件の窃盗について起訴された犯人に科せられる懲役刑は最長何年になるか、10年か、100年か、それとも？この点を考えてみた上で授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	併合罪（複数の犯罪の科刑処理について、科刑上一罪、併合罪加重）
	事後学習	法定刑⇒処断刑⇒宣告刑⇒執行刑という量刑と刑の宣告手続はどのように行われるか、とりわけ処断刑を導き出す処理はどうか、整理し確認しておく。（2時間）
30	事前学習	執行猶予とはどのような制度で、何のためにあるのかを考えた上で授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	その他刑罰適用上の諸問題（執行猶予・仮釈放等・刑の加重減免・刑の時効）
	事後学習	微罪処分、起訴猶予、宣告猶予（立法論）、執行猶予（一部執行猶予を含む）、仮釈放のそれぞれの意義と関係、制度の趣旨の理解を確かなものにしておく。（2時間）

科目名	刑法 I	担当者	野村 和彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑罰法規は「犯罪（構成要件）と刑罰（法定刑）」から構成されている。この刑罰法規を、いかなる理由により、どのように用いていくべきかを考究することに主眼を置く。刑法は刑罰という峻厳な制裁手段を用意している法律である。それゆえ、刑法における議論は感情的であったり大衆迎合的であったり場当たりのであってはならない。つねに刑法の存在理由を考え、直面する課題に取り組まなければならない。刑法の存在理由を徹底的に考えていきたい。			
授業目的・到達目標	刑法の存在理由を考えるということは、刑法を理論的に考えることを意味する。したがって、ある事柄がなぜ刑法総論上問題となるのかを見極める目、そして筋を通してこの課題を考え抜く姿勢、この二つを養うことを目的とする。刑法総論上の問題を、刑法理論的・体系的に考えることができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	刑法を学問することに関心のある人は、ぜひ履修していただきたい。ただし、毎回六法をもってくるのがおっくうな人、継続的に講義に参加する姿勢のない人は、履修を遠慮いただきたい。小事に忠実なことが大成につながると思う。			
授業方法	毎回、テキストおよび参考書の内容を踏まえたレジュメも用意し、その順序に従って講義する。なお、今回のシラバスから事前学習と事後学習の欄が設けられた。とくに、事前学習を受講者に強く求めたい。理由は開講時に説明する。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	刑法総論上の課題を、刑法理論的・体系的に考えているかをみたい。その論拠の説得性に応じ評価を出したい。	
	平常評価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	有斐閣	『講義刑法学総論（第2版）』	井田良
	備考			
参考書	講義の際に指示する。			
オフィスアワー	平日はほとんど研究室（本館7階1707号室）におりますので、10:30－16:30の間ならばいつでもどうぞ。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	はしがき、第1編1章を読む。（2時間）
	授業内容	刑法の存在理由と機能（①犯罪の予防、②法益保護、③比例原則）
	事後学習	行為規範を用いた法益保護の仕組みをまとめる。（2時間）
2	事前学習	第1編2章を読む。（2時間）
	授業内容	刑法の基本原則（①行為主義、②罪刑法定主義とその根拠、③責任主義）
	事後学習	罪刑法定主義の歴史的背景について考える。（2時間）
3	事前学習	第1編3章を読む。（2時間）
	授業内容	刑法、刑法典、刑罰法規（①現行刑法典の特色、②刑罰法規とその解釈、③刑法の適用範囲）
	事後学習	刑法の構造について説明できるようにする。（2時間）
4	事前学習	第2編4章を読む。（2時間）
	授業内容	犯罪論の基礎理論（①犯罪の三要素、②犯罪の本質）
	事後学習	結果無価値論と行為無価値論とはそれぞれどのような見解か。（2時間）

5	事前学習	第2編5章を読む。（2時間）
	授業内容	構成要件（①犯罪論体系における構成要件の位置、②構成要件の構造）
	事後学習	犯罪の成立要件について説明せよ。（2時間）
6	事前学習	第2編6章を読む。（2時間）
	授業内容	結果と因果関係（①構成要件要素としての因果関係、②条件関係、③刑法的因果関係）
	事後学習	刑法における因果関係を論ずるに際して、最も大切なことは何か。（2時間）
7	事前学習	第2編7章を読む。（2時間）
	授業内容	不作為犯（①作為犯と不作為犯、②不作為犯と罪刑法定主義、③保証者説）
	事後学習	不作為犯の処罰範囲が拡散することの問題は何か。（2時間）
8	事前学習	第2編8章を読む。（2時間）
	授業内容	故意（①故意犯処罰の原則、②故意における事実認識、③故意の程度及び過失犯との違い）
	事後学習	故意行為を重く処罰する理由は何か。（2時間）
9	事前学習	第2編9章1～3節を読む。（2時間）
	授業内容	具体的事実の錯誤（①故意犯処罰の原則と事実の錯誤、②具体的事実の錯誤、③因果関係の錯誤）
	事後学習	故意犯処罰の原則と錯誤論との関連性は何か。（2時間）
10	事前学習	第2編9章4節を読む。（2時間）
	授業内容	抽象的事実の錯誤（①刑法38条2項の意義、②構成要件の符合説と抽象的符合説）
	事後学習	刑法38条2項の存在理由について説明せよ。（2時間）
11	事前学習	第2編10章を読む。（2時間）
	授業内容	過失犯（①過失犯論の展開、②過失犯の構成要件、③結果の予見可能性、④結果回避義務）
	事後学習	旧過失論、新過失論、危惧感説の違いについて説明せよ。（2時間）
12	事前学習	第2編11章を読む。（2時間）
	授業内容	結果的加重犯（①問題の所在、②結果的加重犯の存在理由、③結果的加重犯の構造）
	事後学習	結果責任の問題について説明せよ。（2時間）
13	事前学習	第2編12章および13章を読む。（2時間）
	授業内容	違法性と違法性阻却（①違法性の基礎理論、②違法性阻却事由、③正当行為）
	事後学習	違法性阻却事由を論ずる意義は何か。（2時間）
14	事前学習	第2編14章を読む。（2時間）
	授業内容	正当防衛（①正当防衛の各要件、②過剰防衛）
	事後学習	公的機関による助けを求めることが可能なときに、正当防衛権は行使できるか。（2時間）
15	事前学習	第2編15章を読む。（2時間）
	授業内容	緊急避難およびその他の緊急行為（①正当防衛との違い、②緊急避難の本質、③緊急避難をめぐる諸問題、④自救行為）
	事後学習	二分説について説明せよ。（2時間）
16	事前学習	第2編16章及び17章を読む。（2時間）
	授業内容	自己決定権に基づく違法性阻却事由（①被害者の同意、②治療行為、③安楽死と尊厳死、④過失犯と違法性阻却事由）
	事後学習	被害者の同意を論ずる意義は何か。（2時間）

17	事前学習	第2編18章を読む。（2時間）
	授業内容	違法性阻却事由の錯誤（①事実の錯誤か違法性の錯誤か、②消極的構成要件の理論、③誤想防衛の諸類型）
	事後学習	誤想過剰防衛はどう処理するべきか。（2時間）
18	事前学習	第2編19章および20章1節を読む。（2時間）
	授業内容	責任論の基礎（①責任の本質、②責任と自由意思、③責任の要素、④責任能力）
	事後学習	刑事責任能力制度の存在理由について考えよ。（2時間）
19	事前学習	第2編20章2節から4節を読む。（2時間）
	授業内容	違法性の錯誤（①事実の錯誤と違法性の錯誤との違い、②違法性の錯誤の本質、③違法性の錯誤をめぐる諸問題）
	事後学習	刑法を用いた取締りの在り方について考える。（2時間）
20	事前学習	第2編21章を読む。（2時間）
	授業内容	未遂犯と実行の着手（①犯罪行為の諸段階、②結果無価値論と行為無価値論、③実行の着手時期をめぐる諸問題）
	事後学習	実行の着手時期と違法性の本質論との関係について整理する。（2時間）
21	事前学習	第2編22章を読む。（2時間）
	授業内容	不能犯（①危険判断の構造、②危険判断の基礎事情、③適用されるべき法則的知識）
	事後学習	不能犯を論ずる意義について説明せよ。（2時間）
22	事前学習	第2編23章を読む。（2時間）
	授業内容	中止犯（①障害未遂と中止未遂、②中止犯の存在理由、③中止意思の任意性と中止行為）
	事後学習	中止犯の規定が存在する理由を考える。（2時間）
23	事前学習	第2編24章を読む。（2時間）
	授業内容	正犯と共犯（①正犯概念、②正犯と共犯の区別、③間接正犯、④原因において自由な行為）
	事後学習	間接正犯をめぐる議論について説明せよ。（2時間）
24	事前学習	第2編25章を読む。（2時間）
	授業内容	共同正犯（①共謀共同正犯、②何を共同するのか、③共同正犯の成否が問題となる諸事例）
	事後学習	予備罪や過失犯、結果的加重犯、不作為犯における共同正犯について説明せよ。（2時間）
25	事前学習	第2編26章を読む。（2時間）
	授業内容	教唆犯と幫助犯（①共犯の処罰根拠、②教唆犯、③幫助犯、④共犯における因果関係）
	事後学習	共犯の処罰根拠論と違法性の本質論との関係について考えよ。（2時間）
26	事前学習	第2編27章 1 ～ 2 節を読む。（2時間）
	授業内容	共犯をめぐる諸問題（①共犯と錯誤、②共犯の中止と共犯関係からの離脱）
	事後学習	共犯と錯誤の問題を解決する道筋を説明せよ。（2時間）
27	事前学習	第2編27章3節を読む。（2時間）
	授業内容	共犯と身分（①存在理由、②同条1項と2項の関係、③65条の適用範囲）
	事後学習	事後強盗罪は身分犯か否か。（2時間）
28	事前学習	第2編28章を読む。（2時間）
	授業内容	犯罪の個数および競合（①構成要件の意義、②本来的一罪、③併合罪と科刑上一罪）
	事後学習	犯罪の個数を論ずる意義は何か。（2時間）

29	事前学習	第3編29章を読む。（2時間）
	授業内容	刑罰とその種類（①刑罰の理論、②刑罰の種類）
	事後学習	死刑存廃論について説明せよ。（2時間）
30	事前学習	第3編30章を読む。（2時間）
	授業内容	刑罰の適用および刑罰の執行（①法定刑から処断刑へ、②量刑判断、③刑罰の執行）
	事後学習	執行猶予制度の存在理由について説明せよ。（2時間）

科目名	刑法Ⅰ【法職課程】	担当者	前田 雅英	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑法総論を通して、法解釈学の基本を身に付ける。そのためにも、基本書の徹底した理解を目的とする。ただ、講義はできるだけわかりやすくし、現実には生起している犯罪現象などへのコメントも交えていきたい。併せて、日本大学の特徴である「自主創造」の力、「日本の特質を理解し伝える力」を養成する。				
授業目的・到達目標	刑法総論の基本を理解することを目的とする。そのことにより、法的思考力の基礎を身に付けることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5				
履修条件	法職課程の目的を理解し、熱心に受講する学生。開講前に、教科書の30頁までを必ず読んでおくこと。				
授業方法	教科書の指定部分を読んでくることを前提に、双方向に近い講義を行う。理解度を確認する小テストを随時行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	講義の理解度を期末試験で判定する。	
	平常評価				
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019年4月	東大出版会	刑法総論講義〔第7版〕		前田雅英
	備考				
参考書	前田雅英『最新重要判例250刑法11版』弘文堂				
オフィスアワー	月曜授業終了後14：30～ 授業講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書のはしがきと目次をよく見ておくこと。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション
	事後学習	ノートを見直しておく（2時間）
2	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	序章 刑罰と犯罪の基本的考え方
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
3	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第1章犯罪論の基本構造
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
4	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第2章客観的構成要件ⅠⅡ
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）

5	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第2章客観的構成要件ⅢⅣ
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
6	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第2章客観的構成要件Ⅵ
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
7	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第2章客観的構成要件Ⅶ
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
8	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第2章4未遂犯(1)
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
9	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第2章4未遂犯(2)
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
10	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第2章5因果関係(1)
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
11	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第2章5因果関係(2)
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
12	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第2章5因果関係(3)
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
13	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第3章1故意(1)
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
14	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第3章1故意(2)
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
15	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第3章1故意(3)
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
16	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第3章2過失(1)
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）

17	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第3章2過失(2)
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
18	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第4章 違法阻却事由 I 基本原理
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
19	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第4章 違法阻却事由 II 正当業務行為
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
20	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第4章 違法阻却事由 III 正当防衛(1)
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
21	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第4章 違法阻却事由 III 正当防衛(2)+緊急避難
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
22	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第5章 責任阻却事由 I 責任
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
23	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第5章 責任阻却事由 II 責任能力
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
24	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第5章 責任阻却事由III正当化事由の錯誤（誤想過剰防衛）
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
25	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第6章共犯 I 共犯と正犯
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
26	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第6章共犯 II 共同正犯(1)
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
27	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第6章共犯 II 共同正犯(2)
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
28	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第6章共犯 III 狭義の共犯
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）

29	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第7章 罪数論
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）
30	事前学習	教科書該当部分を必ず読んでくる。（2時間）
	授業内容	第8章 刑罰論
	事後学習	小テストに備えて復習する。（2時間）

科目名	刑法 I	担当者	野村 和彦	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑罰法規は「犯罪（構成要件）と刑罰（法定刑）」から構成されている。この刑罰法規を、いかなる理由により、どのように用いていくべきかを考究することに主眼を置く。刑法は刑罰という峻厳な制裁手段を用意している法律である。それゆえ、刑法における議論は感情的であったり大衆迎合的であったり場当たりのものであってはならない。つねに刑法の存在理由を考え、直面する課題に取り組まなければならない。刑法の存在理由を徹底的に考えていきたい。				
授業目的・到達目標	刑法の存在理由を考えるということは、刑法を理論的に考えることを意味する。したがって、ある事柄がなぜ刑法総論上問題となるのかを見極める目、そして筋を通してこの課題を考え抜く姿勢、この二つを養うことを目的とする。刑法総論上の課題を、刑法理論的・体系的に考えることができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5				
履修条件	刑法を学問することに関心のある人は、ぜひ履修していただきたい。ただし、毎回六法をもってくるのがおっくうな人、継続的に講義に参加する姿勢のない人は、履修を遠慮いただきたい。小事に忠実なことが大成につながると思う。				
授業方法	毎回、テキストおよび参考書の内容を踏まえたレジュメも用意し、その順序に従って講義する。なお、今回のシラバスから事前学習と事後学習の欄が設けられた。とくに、事前学習を受講者に強く求めたい。理由は開講時に説明する。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	刑法総論上の課題を、刑法理論的・体系的に考えているかをみたい。その論拠の説得性に応じ評価を出したい。	
	平常評価		0%		
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	有斐閣		『講義刑法学総論（第2版）』	井田良
	備考				
参考書	講義の際に指示する。				
オフィスアワー	平日はほとんど研究室（本館7階1707号室）におりますので、10:30－16:30の間ならばいつでもどうぞ。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	はしがき、第1編1章を読む。（2時間）
	授業内容	刑法の存在理由と機能（①犯罪の予防、②法益保護、③比例原則）
	事後学習	行為規範を用いた法益保護の仕組みをまとめる。（2時間）
2	事前学習	第1編2章を読む。（2時間）
	授業内容	刑法の基本原則（①行為主義、②罪刑法定主義とその根拠、③責任主義）
	事後学習	罪刑法定主義の歴史的背景について考える。（2時間）
3	事前学習	第1編3章を読む。（2時間）
	授業内容	刑法、刑法典、刑罰法規（①現行刑法典の特色、②刑罰法規とその解釈、③刑法の適用範囲）
	事後学習	刑法の構造について説明できるようにする。（2時間）
4	事前学習	第2編4章を読む。（2時間）
	授業内容	犯罪論の基礎理論（①犯罪の三要素、②犯罪の本質）
	事後学習	結果無価値論と行為無価値論とはそれぞれどのような見解か。（2時間）

5	事前学習	第2編5章を読む。（2時間）
	授業内容	構成要件（①犯罪論体系における構成要件の位置、②構成要件の構造）
	事後学習	犯罪の成立要件について説明せよ。（2時間）
6	事前学習	第2編6章を読む。（2時間）
	授業内容	結果と因果関係（①構成要件要素としての因果関係、②条件関係、③刑法的因果関係）
	事後学習	刑法における因果関係を論ずるに際して、最も大切なことは何か。（2時間）
7	事前学習	第2編7章を読む。（2時間）
	授業内容	不作為犯（①作為犯と不作為犯、②不作為犯と罪刑法定主義、③保証者説）
	事後学習	不作為犯の処罰範囲が拡散することの問題は何か。（2時間）
8	事前学習	第2編8章を読む。（2時間）
	授業内容	故意（①故意犯処罰の原則、②故意における事実認識、③故意の程度及び過失犯との違い）
	事後学習	故意行為を重く処罰する理由は何か。（2時間）
9	事前学習	第2編9章1～3節を読む。（2時間）
	授業内容	具体的事実の錯誤（①故意犯処罰の原則と事実の錯誤、②具体的事実の錯誤、③因果関係の錯誤）
	事後学習	故意犯処罰の原則と錯誤論との関連性は何か。（2時間）
10	事前学習	第2編9章4節を読む。（2時間）
	授業内容	抽象的事実の錯誤（①刑法38条2項の意義、②構成要件の符合説と抽象的符合説）
	事後学習	刑法38条2項の存在理由について説明せよ。（2時間）
11	事前学習	第2編10章を読む。（2時間）
	授業内容	過失犯（①過失犯論の展開、②過失犯の構成要件、③結果の予見可能性、④結果回避義務）
	事後学習	旧過失論、新過失論、危惧感説の違いについて説明せよ。（2時間）
12	事前学習	第2編11章を読む。（2時間）
	授業内容	結果的加重犯（①問題の所在、②結果的加重犯の存在理由、③結果的加重犯の構造）
	事後学習	結果責任の問題について説明せよ。（2時間）
13	事前学習	第2編12章および13章を読む。（2時間）
	授業内容	違法性と違法性阻却（①違法性の基礎理論、②違法性阻却事由、③正当行為）
	事後学習	違法性阻却事由を論ずる意義は何か。（2時間）
14	事前学習	第2編14章を読む。（2時間）
	授業内容	正当防衛（①正当防衛の各要件、②過剰防衛）
	事後学習	公的機関による助けを求めることが可能なときに、正当防衛権は行使できるか。（2時間）
15	事前学習	第2編15章を読む。（2時間）
	授業内容	緊急避難およびその他の緊急行為（①正当防衛との違い、②緊急避難の本質、③緊急避難をめぐる諸問題、④自救行為）
	事後学習	二分説について説明せよ。（2時間）
16	事前学習	第2編16章及び17章を読む。（2時間）
	授業内容	自己決定権に基づく違法性阻却事由（①被害者の同意、②治療行為、③安楽死と尊厳死、④過失犯と違法性阻却事由）
	事後学習	被害者の同意を論ずる意義は何か。（2時間）

17	事前学習	第2編18章を読む。（2時間）
	授業内容	違法性阻却事由の錯誤（①事実の錯誤か違法性の錯誤か、②消極的構成要件の理論、③誤想防衛の諸類型）
	事後学習	誤想過剰防衛はどう処理するべきか。（2時間）
18	事前学習	第2編19章および20章1節を読む。（2時間）
	授業内容	責任論の基礎（①責任の本質、②責任と自由意思、③責任の要素、④責任能力）
	事後学習	刑事責任能力制度の存在理由について考えよ。（2時間）
19	事前学習	第2編20章2節から4節を読む。（2時間）
	授業内容	違法性の錯誤（①事実の錯誤と違法性の錯誤との違い、②違法性の錯誤の本質、③違法性の錯誤をめぐる諸問題）
	事後学習	刑法を用いた取締りの在り方について考える。（2時間）
20	事前学習	第2編21章を読む。（2時間）
	授業内容	未遂犯と実行の着手（①犯罪行為の諸段階、②結果無価値論と行為無価値論、③実行の着手時期をめぐる諸問題）
	事後学習	実行の着手時期と違法性の本質論との関係について整理する。（2時間）
21	事前学習	第2編22章を読む。（2時間）
	授業内容	不能犯（①危険判断の構造、②危険判断の基礎事情、③適用されるべき法則的知識）
	事後学習	不能犯を論ずる意義について説明せよ。（2時間）
22	事前学習	第2編23章を読む。（2時間）
	授業内容	中止犯（①障害未遂と中止未遂、②中止犯の存在理由、③中止意思の任意性と中止行為）
	事後学習	中止犯の規定が存在する理由を考える。（2時間）
23	事前学習	第2編24章を読む。（2時間）
	授業内容	正犯と共犯（①正犯概念、②正犯と共犯の区別、③間接正犯、④原因において自由な行為）
	事後学習	間接正犯をめぐる議論について説明せよ。（2時間）
24	事前学習	第2編25章を読む。（2時間）
	授業内容	共同正犯（①共謀共同正犯、②何を共同するのか、③共同正犯の成否が問題となる諸事例）
	事後学習	予備罪や過失犯、結果的加重犯、不作為犯における共同正犯について説明せよ。（2時間）
25	事前学習	第2編26章を読む。（2時間）
	授業内容	教唆犯と幫助犯（①共犯の処罰根拠、②教唆犯、③幫助犯、④共犯における因果関係）
	事後学習	共犯の処罰根拠論と違法性の本質論との関係について考えよ。（2時間）
26	事前学習	第2編27章 1 ～ 2 節を読む。（2時間）
	授業内容	共犯をめぐる諸問題（①共犯と錯誤、②共犯の中止と共犯関係からの離脱）
	事後学習	共犯と錯誤の問題を解決する道筋を説明せよ。（2時間）
27	事前学習	第2編27章3節を読む。（2時間）
	授業内容	共犯と身分（①存在理由、②同条1項と2項の関係、③65条の適用範囲）
	事後学習	事後強盗罪は身分犯か否か。（2時間）
28	事前学習	第2編28章を読む。（2時間）
	授業内容	犯罪の個数および競合（①構成要件の意義、②本来的一罪、③併合罪と科刑上一罪）
	事後学習	犯罪の個数を論ずる意義は何か。（2時間）

29	事前学習	第3編29章を読む。(2時間)
	授業内容	刑罰とその種類 (①刑罰の理論、②刑罰の種類)
	事後学習	死刑存廃論について説明せよ。(2時間)
30	事前学習	第3編30章を読む。(2時間)
	授業内容	刑罰の適用および刑罰の執行 (①法定刑から処断刑へ、②量刑判断、③刑罰の執行)
	事後学習	執行猶予制度の存在理由について説明せよ。(2時間)

科目名	刑法Ⅱ	担当者	岡西 賢治	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
-----	-----	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑法典に規定される犯罪の成立要件について、保護法益の分類を前提にしつつ主要なものを中心にして講じる。基本となる犯罪類型や重要となる犯罪に関しては時間を割いて説明することとするため、すべての犯罪を網羅的に取り上げない。 また、判例については、可能なかぎり事実と結論や法理の関係が理解できるように説明する。				
授業目的・到達目標	刑法典上の犯罪及びそれに関連する重要な犯罪について、判例を中心に、基礎的知識を修得できる者を養成することを目的とする。個々の犯罪に関する基礎的知識を得ることによって、近年の犯罪傾向の特徴や対策について問題意識を持つようになるとともに、刑事立法や裁判員裁判に関する課題等を検討できる能力を身につけられることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式による。 授業内試験終了後は内容の解説を行うとともに、講義全般のポイントについて説明する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業内試験（論述式試験）による。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2017年	弘文堂	刑法各論（Next 教科書シリーズ）		沼野輝彦・設楽裕文編
	備考				
参考書	前田雅英『刑法各論講義〔第6版〕』（東大出版会） 前田雅英『最新重要判例250刑法』（弘文堂）				
オフィスアワー	月曜 12：00～13：00				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	近年の犯罪状況について自分なりに考えておく。（2時間）
	授業内容	刑法各論とは何か。 刑法総論との関係を理解する。 統計からみる犯罪の実態を見ながら、近年における刑事立法の動向を概観する。
	事後学習	日本における犯罪の現状を知る。（2時間）
2	事前学習	保護法益という概念を理解し、整理しておく。（2時間）
	授業内容	犯罪の分類の意義と機能について
	事後学習	保護法益の違いがいかなる意味を有しているのか理解しておく。（2時間）
3	事前学習	教科書17～21頁、30～34頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	生命に対する罪、殺人の罪 刑法における「人」の意義
	事後学習	生命に対する侵害行為の態様を整理する。（2時間）
4	事前学習	教科書30～34頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	堕胎・遺棄の罪
	事後学習	遺棄行為の今日的課題について考える。（2時間）

5	事前学習	教科書22～30頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	身体に対する罪 傷害の概念、暴行と傷害、業務上過失致死傷罪等について論じる。
	事後学習	業務上過失致死傷罪と自動車運転過失致死傷罪との違いを理解する。（2時間）
6	事前学習	教科書35～38頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	自動車運転に関する罪 近年の立法動向と保護法益について論じる。
	事後学習	危険運転致死傷罪と自動車運転過失致死傷罪との区別を理解する。（2時間）
7	事前学習	教科書39～45頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	自由に対する罪
	事後学習	刑法における「脅迫」概念について整理する。（2時間）
8	事前学習	教科書46～49頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	性犯罪 近年の立法動向やストーカー規制法等との関係についても論じる。
	事後学習	性犯罪に関する現状と課題について考えをまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書51～56頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	私的領域に対する罪 刑法における情報やプライバシー保護のあり方を考える。
	事後学習	刑法における「情報」「秘密」などの意義を理解する。（2時間）
10	事前学習	教科書57～66頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	名誉に対する罪 名誉の保護と表現の自由との関係
	事後学習	現代社会における名誉の保護のあり方について考えておく。（2時間）
11	事前学習	教科書67～73頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	信用、業務に対する罪
	事後学習	財産犯的性質を理解しながら、保護法益について考える。（2時間）
12	事前学習	教科書75～78頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	財産犯の分類と概要① 財物の概念について概観する。
	事後学習	財産侵害の客体と態様について整理する。（2時間）
13	事前学習	教科書75～78頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	財産犯の分類と概要② 利益や情報の保護のあり方について論じる。
	事後学習	財産侵害の今日的課題について考える。（2時間）
14	事前学習	教科書79～90頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	窃盗の罪 刑法における財産の保護と民事的保護の違いをみる。
	事後学習	刑法の補充性や断片性を通して、財産の刑事的保護のあり方を考える。（2時間）
15	事前学習	教科書91～99頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	強盗の罪 強盗罪の諸類型を概観する。
	事後学習	身体等に対する罪の性格を合わせて持つことを理解する。（2時間）
16	事前学習	教科書99～117頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	詐欺・恐喝の罪① 「欺く」行為の態様を類型的に整理する。
	事後学習	いわゆる悪質商法等による被害と詐欺罪の関係を理解しておく。（2時間）

17	事前学習	教科書99～117頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	詐欺・恐喝の罪②
	事後学習	強盗と恐喝の区別、詐欺と窃盗の違い等を理解する。（2時間）
18	事前学習	教科書118～133頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	横領・背任の罪 他の領得罪との関係や、横領と背任の区別を論じる。
	事後学習	会社法上の特別背任罪との関係を理解する。（2時間）
19	事前学習	教科書134～147頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	盗品等に関する罪、毀棄・隠匿の罪
	事後学習	他の財産犯との違いを整理する。（2時間）
20	事前学習	教科書151～166頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	公共の安全に対する罪 放火罪における「焼損」概念をめぐる諸問題を論じる。
	事後学習	社会的法益としての放火罪等を理解する。（2時間）
21	事前学習	教科書175～189頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	文書偽造の罪① 公文書偽造罪と私文書偽造罪の諸類型を概観する。
	事後学習	文書の意義、有形偽造と無形偽造等についての基礎的知識を得る。（2時間）
22	事前学習	教科書175～189頁、197～199頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	文書偽造の罪② 印章偽造の罪
	事後学習	電磁的記録の保護について理解する。（2時間）
23	事前学習	教科書193～196頁、199～202頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	カードに関する罪、コンピュータウイルス作成等の罪
	事後学習	財産犯との違いを理解する。（2時間）
24	事前学習	教科書205～217頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	風俗に対する罪 風俗犯罪の現状と今後の課題について論じる。
	事後学習	「被害者なき犯罪」を考える。（2時間）
25	事前学習	教科書222～227頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国家の存立に対する罪
	事後学習	これら犯罪の保護法益を考える。（2時間）
26	事前学習	教科書229～235頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国家の作用に対する罪の意義 公務の執行を害する罪
	事後学習	公務の作用や意義を整理しつつ、その保護のあり方について理解する。（2時間）
27	事前学習	教科書241～258頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	司法作用等に対する罪、職権濫用の罪
	事後学習	公務員による犯罪の類型を整理する。（2時間）
28	事前学習	教科書259～270頁を読んでおく。（2時間）
	授業内容	賄賂の罪 収賄罪の類型とこれまでの処罰範囲の拡大の沿革を概観する。
	事後学習	あつせん利得処罰法等の特別法上の犯罪の関係を整理する。（2時間）

29	事前学習	講義中に論じた判例を整理する。（2時間）
	授業内容	講義中に取り上げることができなかった重要な判例について論じる。
	事後学習	判例の法理と動向を理解する。（2時間）
30	事前学習	これまでの個々の犯罪の成立要件を理解しておく。（2時間）
	授業内容	試験を実施する。 講義中に論じた犯罪の成立要件について、特に重要な点についてあらためて講じる。
	事後学習	各論上の犯罪の成立要件を整理する。（2時間）

科目名	刑法Ⅱ	担当者	設楽 裕文	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
-----	-----	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	主に刑法典第2編（罪）の各規定につき解釈論を講じる授業である。			
授業目的・到達目標	刑法の概要を、犯罪各論に重点を置いて、理解することを目的とする。基本的な事項を理解し、刑法を適切に解釈・適用できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	刑法Ⅰを履修済であること。			
授業方法	講義の方法を用いる。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	必要な点についての確に論じられているか否かにより評価する。	
	平常評価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	弘文堂	N e x t 教科書シリーズ刑法各論	沼野輝彦＝設楽裕文編
	2014年	八千代出版	現代の判例と刑法理論の展開	板倉宏監修・著、沼野ほか編
	備考	『N e x t 教科書シリーズ刑法各論』については、補遺を弘文堂のサイトから入手して手もとにおく必要がある（ http://www.koubundou.co.jp/files/00227_1.pdf ）。		
参考書	『法学刑法5判例インデックス1000』設楽裕文編：信山社			
オフィスアワー	水曜日及び金曜日（16：10）授業講堂ないしその周辺において、授業に関係する事項について、おこなう（最大で60分）。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	以下、教科書『N e x t 教科書シリーズ刑法各論』を「N」、『現代の判例と刑法理論の展開』を「G」と略記する。 N 1～13頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	序論 総論と各論との関係、各論の学び方など
	事後学習	N13頁の問題に取り組む。（2時間）
2	事前学習	N15～22頁、G105～116頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	生命・身体に対する罪（1）
	事後学習	N38頁の問題（1）に取り組む。G105～106頁の裁判例は妥当か、考えてみる。（2時間）
3	事前学習	N22～30頁、G209～222頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	生命・身体に対する罪（2）
	事後学習	G209～210頁の裁判例は妥当か、考えてみる。（2時間）
4	事前学習	N30～38頁、G223～234頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	生命・身体に対する罪（3）
	事後学習	N38頁の問題（2）に取り組む。G223～225頁の裁判例は妥当か、考えてみる。（2時間）

5	事前学習	N39～49頁を読み、問題点をメモする。教科書・備考欄の補遺を必ず読む必要がある。（2時間）
	授業内容	自由に対する罪
	事後学習	Nの補遺50頁の問題に取り組む。（2時間）
6	事前学習	N51～56頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	私的領域に関する罪
	事後学習	N56頁の問題に取り組む。（2時間）
7	事前学習	N57～65頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	名誉に対する罪
	事後学習	N65頁の問題に取り組む。（2時間）
8	事前学習	N67～73頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	信用及び業務に対する罪
	事後学習	N73頁の問題に取り組む。（2時間）
9	事前学習	N75～86頁、G249～262頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	財産犯（財産に対する罪）（Ⅰ）総説
	事後学習	N147頁の問題（Ⅰ）に取り組む。（2時間）
10	事前学習	N86～91頁、G235～247頁、G287～300頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	財産犯（Ⅱ）窃盗の罪
	事後学習	N147頁の問題（Ⅱ）に取り組む。（2時間）
11	事前学習	N91～93頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	財産犯（Ⅲ）強盗の罪（Ⅰ）
	事後学習	強盗罪に関する諸問題につき、知識を整理する。（2時間）
12	事前学習	N94～96頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	財産犯（Ⅳ）強盗の罪（Ⅱ）
	事後学習	事後強盗罪に関する諸問題につき、知識を整理する。（2時間）
13	事前学習	N96～99頁（補遺も参照すること）、G263～273頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	財産犯（Ⅴ）強盗の罪（Ⅲ）
	事後学習	G263～265頁の裁判例は妥当か、考えてみる。（2時間）
14	事前学習	N99～113頁、G275～286頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	財産犯（Ⅵ）詐欺及び恐喝の罪（Ⅰ）
	事後学習	G275～276頁の裁判例は妥当か、考えてみる。（2時間）
15	事前学習	N113～118頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	財産犯（Ⅶ）詐欺及び恐喝の罪（Ⅱ）
	事後学習	不法原因給付、権利行使と詐欺罪・恐喝罪の成否について考えてみる。（2時間）
16	事前学習	N118～125頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	財産犯（Ⅷ）横領・背任の罪（Ⅰ）
	事後学習	不法原因給付と横領罪の成否など横領の罪に関する諸問題につき、知識を整理する。（2時間）

17	事前学習	N125～131頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	財産犯（9）横領・背任の罪（Ⅱ）
	事後学習	業務上横領罪等に関する問題につき、知識を整理する。（2時間）
18	事前学習	N131～133頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	財産犯（10）横領・背任の罪（Ⅲ）
	事後学習	横領罪・背任罪に共通する諸問題につき、知識を整理する。（2時間）
19	事前学習	N134～137頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	財産犯（11）盗品等に関する罪（Ⅰ）
	事後学習	盗品関与罪の法益等につき、知識を整理する。（2時間）
20	事前学習	N137～139頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	財産犯（12）盗品等に関する罪（Ⅱ）
	事後学習	盗品関与罪の各規定に関する諸問題につき、知識を整理する。（2時間）
21	事前学習	N139～147頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	財産犯（13）毀棄及び隠匿の罪
	事後学習	N147頁の問題（3）に取り組む。（2時間）
22	事前学習	N149～166頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	公共の安全に対する罪
	事後学習	N166頁の問題に取り組む。（2時間）
23	事前学習	N167～175頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	偽造及びその周辺の罪（1）通貨偽造罪
	事後学習	N202頁の問題（1）に取り組む。（2時間）
24	事前学習	N175～186頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	偽造及びその周辺の罪（2）文書偽造罪（Ⅰ）
	事後学習	N202頁の問題（2）に取り組む。（2時間）
25	事前学習	N186～199頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	偽造及びその周辺の罪（3）文書偽造罪（Ⅱ）、電磁的記録不正作出・供用罪
	事後学習	N202頁の問題（3）に取り組む。（2時間）
26	事前学習	N190～203頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	偽造及びその周辺の罪（4）有価証券偽造罪、印章偽造罪、支払用カード電磁的記録に関する罪、不正指令電磁的記録に関する罪
	事後学習	偽造等の概念につき、知識を整理する。（2時間）
27	事前学習	N205～217頁、G301～304頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	風俗に対する罪
	事後学習	G301～303頁の裁判例は妥当か、考えてみる。（2時間）
28	事前学習	N219～241頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	国家の存立に対する罪 国家・地方公共団体の作用に対する罪（1）公務の執行を妨害する罪
	事後学習	N270頁の問題（1）に取り組む。（2時間）

29	事前学習	N241～255頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	国家・地方公共団体の作用に対する罪（2）逃走罪、犯人蔵匿及び証拠隠滅の罪など
	事後学習	N270頁の問題（2）に取り組む。（2時間）
30	事前学習	N255～270頁、G315～327頁を読み、問題点をメモする。（2時間）
	授業内容	国家・地方公共団体の作用に対する罪（3）職権濫用罪、賄賂罪 授業のまとめ
	事後学習	N270頁の問題（3）に取り組む。 今まで学んだことを教科書を再読しつつ確認・整理し、試験に備える。（2時間）

科目名	刑法Ⅱ	担当者	南部 篤	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	4
-----	-----	-----	------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	刑法典の各則に定める罪を中心に各種犯罪定型を考察の対象とする。個々の犯罪ごとに、その意義と保護法益、構成要件の特徴・構造を論じることを通じて、各犯罪に固有の問題を浮き彫りにしそれらの解明を行う。殺人や窃盗、放火、賄賂といった具体的類型を検討する分野であるため、イメージが掴み易い一方、個別論点は詳細に亘る。そこで、ときには込み入ったデティールを解きほぐす作業に力を注ぎながら検討を進める。				
授業目的・到達目標	この授業は、各種の犯罪定型の考察を通じ、刑法がどのような利益を、どのような形態の侵害行為から保護しようとしているかの理解涵養を目的とする。総論のみならず、刑法各論の分野は、刑法システム全体の把握のため不可欠の学修内容である。そこで受講者のこうした理解獲得を、まずもって基礎的な到達目標とし、最新判例と学説の動向、理論刑法学のテーマなど発展的な課題についての理解を獲得することを最終的な到達目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1，2，3，5 公共政策学科1，3，4				
履修条件	なし。ただし、刑法Ⅰを履修済みであることがのぞましい。刑法Ⅰ＝刑法総論を学修済みであることを前提に授業を進めるからである。				
授業方法	テキストに沿って進める。ただし、テーマの重要度、難易度に応じて割愛、要約、補足説明を行うことがある。定期試験の解説を、後日ポータルシステム等を用いて行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	到達目標の達成度に応じて、80点を上限に点数を付与する。	
	平常評価		20%	授業内テスト等により20点を上限に付与。定期試験と合せ100点満点で、完璧に達成90以上、十分に達成80以上、概ね達成70以上、最低限達成60以上の基準で評価。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2017年発行	弘文堂	ネクスト教科書シリーズ・刑法各論		沼野輝彦＝設楽裕文編
	備考	版、刷があらためられた場合は、開講時現在で最新のものを準備すること。			
参考書	設楽裕文編『法学刑法4演習』信山社、山口厚『刑法各論』有斐閣、前田雅英『刑法各論講義』東大出版会				
オフィスアワー	土曜日、12時10分から13時まで研究室で対応する。ただし、Eメール（開講時にアドレスを開示）による事前のアポイントメントを要する。予約無しに訪れても面談は不可である。Eメールによる質問・相談も受付ける。授業内容以外で受付ける質問・相談事項は、刑事法学の研究一般について。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	すでに単位取得済みであっても，刑法総論全般を自身で復習し，基礎的理解を十分なものにしておく。とくに，責任主義と罪刑法定主義，構成要件要素，既遂と未遂，違法と責任分野の基本的テーマ等の理解を確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	刑法各論の基礎、「保護法益」と各則の体系
	事後学習	保護法益について，「利益」、「法益」、「権利」の意義とそれらの関係，法益の帰属主体による各種犯罪の三分類，体系的把握に関し，整理・確認を行う。（2時間）
2	事前学習	殺人とその周辺の条文に目を通しておくこと。また，さまざまな法益の中で「生命」がもっとも重要なものであるとされる理由は何か，自分なりの答えを出せるよう考えておくこと。（2時間）
	授業内容	生命に対する罪（殺人等）
	事後学習	殺人罪と自殺関与等の罪の法定刑に著しい軽重の差があるのはなぜか，試みに自分の言葉で答案を書いてみる。（2時間）
3	事前学習	刑法が，生命に次いで身体を手厚く保護しているのはなぜか，こう問われたときどう答えるか，考えておくこと。（2時間）
	授業内容	身体に対する罪（傷害等）
	事後学習	「傷害」とは何か，「心と体」に対する加害行為が傷害罪にあたる場合とあたらない場合について，判例はどう考えているか，整理しておく。（2時間）
4	事前学習	過失犯は，故意に生命を害した場合・傷害を負わせた場合と比較し，どういった点が違うのか，よく考えてみたうえで授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	生命・身体に対する過失犯（過失致死傷、交通犯罪等）
	事後学習	単純過失傷害・致死の刑が著しく軽い理由は何か，また，自動車運転に起因する死傷事故に対する刑事規制はどのように変わってきたのか，整理しておく。（2時間）

5	事前学習	人の行動の自由を奪う行為を刑罰を用いて禁圧する理由は何か、いいかえれば逮捕監禁罪は何を保護しようとしているのかを考えてみること。（2時間）
	授業内容	人身の自由に対する罪（逮捕・監禁、略取・誘拐の罪）
	事後学習	逮捕監禁罪の保護法益と、略取誘拐罪の保護法益との比較、また略取誘拐、人身売買の罪に関する法改正の内容と経緯・理由について整理しておく。（2時間）
6	事前学習	脅迫罪が保護する自由とは何か、住居侵入・秘密を侵す罪は何を保護しようとしているのか、を考えてみる。（2時間）
	授業内容	精神的自由等に対する罪（脅迫、住居侵入、秘密を侵す罪）
	事後学習	住居侵入罪の保護法益をめぐる判例と学説の動向について整理し、自分なりにまとめてみる。（2時間）
7	事前学習	名誉とは無縁の一般の人々は、刑法で保護される名誉毀損とはかかわりないのか、刑法が保護する「名誉」は何を意味するのか、考えたうえで授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	名誉に対する罪Ⅰ（名誉の保護と名誉毀損罪）
	事後学習	侮辱と名誉毀損、生者に対する名誉毀損と死者の名誉を毀損する行為、との比較対照を通じてここでの諸テーマを整理する。また、公然性が要求される理由は何かについて再確認しておく。（2時間）
8	事前学習	誰のどんな事実であっても名誉を傷つける行為全てを処罰する、すなわちどれほど公的地位にある者でも権力者でも、名誉はどこまでも刑罰で保護されるべきだ、という考え方の徹底は、何をもたらすかを考えてみる。（2時間）
	授業内容	名誉に対する罪Ⅱ（名誉の保護と言論・表現の自由）
	事後学習	名誉という個人的法益の保護と、言論・表現の自由、マスメディア等の取材・報道の自由の保護とは、どちらが優先されるか、あるいはどのように調和を図るべきか、整理しておく。（2時間）
9	事前学習	「業務」という言葉から何を連想するか、その指し示す意味内容と、なぜ刑法がそれを保護しようとしているのかを考えてみること。（2時間）
	授業内容	業務に対する罪
	事後学習	業務として保護されるものには何があるのか、公務執行妨害により保護される公務との関係はどうか、威力と偽計による業務妨害の具体的事例にはどんなものがあるか、整理しておく。（2時間）
10	事前学習	強制わいせつ罪、強制性交等罪の意義、これらの罪は、わいせつ物頒布等罪など性表現に関する罪とその犯罪としての性質がどう違うのか、考えてみること。（2時間）
	授業内容	性犯罪（性に関する自己決定の自由を保護する罪）
	事後学習	強制性交等罪を中心に近時行われた大きな法改正の内容と、立法経緯、その理由、改正前後の変更点について確認・整理をしておく。（2時間）
11	事前学習	なぜ刑法は財産を保護する必要があるのか、また財産犯罪の種類について窃盗罪以下の条文を事前に読み込んでおくこと。（2時間）
	授業内容	財産犯罪の基礎（刑法における財産の保護と財産犯の体系、財産犯の今日的課題）
	事後学習	他人の財産に対する加害的行為のうち、刑法はその一部をピックアップし、その特徴を記述することにより犯罪として規定しているが、財産犯全体の構成要件的行為と法定刑を一覧できるように整理してみる。（2時間）
12	事前学習	窃盗と強盗は、なぜ同じ章に規定されているか、また、これら二つの罪の違いはどこにあるか、条文の比較を試みること。（2時間）
	授業内容	窃盗罪と強盗罪Ⅰ
	事後学習	窃盗罪の客体たる財物の意義について、占有の意義について、保護法益について、また不法領得の意思に関して、判例と学説を整理しておく。（2時間）
13	事前学習	窃盗には財物に対する領得行為を罰する規定しかないが、強盗には財物に対する一項の規定と利益に対する二項の規定があるが、これはなぜかを考えてみること。（2時間）
	授業内容	強盗罪と強盗罪Ⅱ
	事後学習	単純強盗と事後強盗、こん睡強盗、強盗致死傷、強盗殺人と強盗致死等の関連する諸規定・諸類型の擬律（適用関係）について整理しておく。（2時間）
14	事前学習	詐欺罪が、「窃盗及び強盗の罪」とは別の章、すなわち次に扱われる恐喝罪と一緒に「詐欺及び恐喝の罪」の章に置かれてのはなぜかを考えてみること。（2時間）
	授業内容	詐欺罪
	事後学習	詐欺罪の構成要件の構造とその構成要素（人を欺く行為、錯誤、処分行為、財物・利益の移転の連鎖）、処分行為の意義についての判例と学説について整理しておく。（2時間）
15	事前学習	恐喝罪と詐欺罪との共通の性格は何か、異なる点は何かについて考えてみること。（2時間）
	授業内容	恐喝罪（詐欺と恐喝、強盗と恐喝との比較等）
	事後学習	正当な権利を有する者が、その権利行使の手段として用いた方法が脅迫行為に当たる場合、恐喝罪が成立することがあるか、あるとすればどのような場合で、どの範囲について恐喝が認められるか、解答を試みる。（2時間）
16	事前学習	横領罪に問われる典型的な行為はどのようなものであるか、テキスト等から納得いくまで読み取っておくこと。（2時間）
	授業内容	横領罪、背任罪
	事後学習	横領、業横、遺失物等横領、窃盗を比較対照し、占有侵害の有無、委託信任関係違背の点、背任との区別、占有が委託等による基礎を有するか否か、占有の業務性、など諸点の関係を各自で表を作るなどして整理しておく。（2時間）

17	事前学習	財産犯罪を抑止するために盗品等の買受行為などを厳しく処罰する必要があるのはなぜか、考えてみること。（2時間）
	授業内容	盗品等に関する罪
	事後学習	保護法益をめぐる議論、盗品等に関する各種犯罪類型の内容、本犯の共犯者による行為の取扱いについて整理し、自分の考えをまとめておく。（2時間）
18	事前学習	器物損壊は他人の物を破壊等する財産侵害行為であって、物の効用を所有者から完全に奪う点に特徴がある。しかし刑罰は最高3年の懲役で、所有者による回復可能性を残す窃盗より相当軽い。この理由を考えて授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	毀棄・隠匿の罪
	事後学習	物の破壊、隠匿等利用妨害、動物の殺傷など本罪を構成する様々な行為の態様を挙げ、分類・整理しておく。（2時間）
19	事前学習	住宅等への放火に、死刑を含む殺人と同等の重い刑罰が予定されている理由はなぜか、自己の見解を述べられるよう考察しておくこと。（2時間）
	授業内容	公共危険犯（放火罪とその他の罪）
	事後学習	客体の別により、各種放火罪が、具体的危険発生の要否、法定刑の大きな格差など細かにかき分けられていることを条文に即して確認・整理しておく。（2時間）
20	事前学習	麻薬などの規制薬物を自己に用いる行為は、直接他人向けられた加害行為とは言い難い面を持つが、それにもかかわらず処罰の対象とされるのはなぜかを考えておくこと。（2時間）
	授業内容	国民の健康を害する罪
	事後学習	薬物濫用行為の規制は、刑法典以外の法令に委ねられている部分がほとんどである。そこで、戦後の薬物規制立法の沿革と内容、現行法令の概要をまとめ、理解を深めておく。（2時間）
21	事前学習	偽札を作ったり、勝手に人の名前の領収書を作ったりすることを、なぜ重い刑罰で禁止する必要があるのか。仮に、大量の偽札が出回る事態が起こったとして、それが何をもたらすのか。こうしたことを考察してみること。（2時間）
	授業内容	偽造犯罪Ⅰ（通貨偽造罪、有価証券偽造罪等）
	事後学習	行使の目的とは何か、偽造と変造の違いは何か、偽造と模造との違いは何か、偽造と行使との関係はどうか、通貨の概念・有価証券の概念、こうしたことについて、自分自身納得がいくまで検討し、確認・整理しておく。（2時間）
22	事前学習	他人の名義の文書を勝手に作ることに、内容虚偽の自分名義の文書を作ることがとが区別され、私文書においては後者は処罰の対象とはならない理由はどこにあるか、自分なりの答えを出したうえで授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	偽造犯罪Ⅱ（文書偽造罪）
	事後学習	可視性・可読性、永続性、有形偽造と無形偽造、偽造と虚偽文書作成、公・私文書、有印・無印文書、権利・義務、事実証明に関する文書の概念等につき得心が行くまでテキスト等を読み込み、確認と整理を怠らない。（2時間）
23	事前学習	なぜ、わいせつな表現行為に刑法が介入する必要があるのか（刑罰をもって禁圧することが正当とされる理由は何か）、ポルノグラフィーなどを処罰することにより何を護ろうとしているのか、考えたうえで授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	風俗を害する罪Ⅰ（各種わいせつ表現犯罪）
	事後学習	公然わいせつ罪とわいせつ物頒布等の罪の刑罰に、大きな差異が設けられている理由は何かについて、各自、答案を書いてみる。（2時間）
24	事前学習	自分の金を賭けて賭博に参加することは、自身の財産を自己の意思で処分すること（もとより殆どの場合掛金を失うことになる）なので、刑罰をもって介入禁止する必要があるのか、考えてみた上で授業に参加すること。（2時間）
	授業内容	風俗を害する罪Ⅱ（賭博・富くじに関する罪、礼拝所・墳墓に関する罪）
	事後学習	賭博・富くじの罪、礼拝所・墳墓に関する罪の保護法益は何か、言い換えれば、これらの犯罪は誰の、どのような利益を侵害する犯罪なのか、という設問について答えを書いてみる。（2時間）
25	事前学習	職権濫用罪の被害者は誰か、同罪はなぜ「汚職の罪」として位置づけられているのか、十分に考えた上で授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	公務員を犯罪主体とする罪Ⅰ（職権濫用の罪）
	事後学習	職権濫用罪の成否が争われた事例について、そこでは何が争点とされ、裁判所はどのような判断を示したか、その判例の考え方は妥当なものかを論評してみる。（2時間）
26	事前学習	賄賂罪の被害者誰か、賄賂のやり取りは、どのような害悪をもたらすか、よく考えて自分なりの答えを得た上で授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	公務員を犯罪主体とする罪Ⅱ（賄賂の罪）
	事後学習	収賄罪構成要件の中核にある「職務関連性」をめぐる論点を整理し、わが国の判例がどのような事案について、いかなる判断を示してきたかを整理・分析しておく。（2時間）
27	事前学習	刑法は、公務執行中の公務員に暴力を振るったり脅迫を加えたりする行為を処罰しているが、これは何を保護しようとしているのか、この点について自分の考えをまとめた上で授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	公務を害する罪Ⅰ（公務執行妨害罪）
	事後学習	公務執行妨害罪成立のためには、公務の外形を有することで足りるのか、それとも適法なものでなければならないのか、適法性を要するとして、どの程度厳格に要求されるのか、業務妨害との関係はどうかを整理しておく。（2時間）
28	事前学習	勾留中の被疑者や、刑務所収容中の受刑者がそれら刑事施設から逃走することや、犯人を匿ったり証拠を消し去ったりすることが処罰されるのはなぜか、考えてみること。（2時間）
	授業内容	公務を害する罪Ⅱ（逃走の罪、犯人蔵匿・証拠隠滅、偽証等）
	事後学習	逃走、犯人蔵匿、証拠隠滅、偽証の各罪について、また捜査機関への不協力が犯人蔵匿罪に問われることがあるのか、冤罪を主張して逃走中の者の無実を信じて隠避する行為も同罪に問われるか等論点を整理し、確認する。（2時間）

29	事前学習	内乱罪は国の統治機構自体の破壊を指向する大規模な加害を想定した犯罪であるが、過去に本罪に問われた例はあるのか、調べてみること。（2時間）
	授業内容	国家の存立を脅かす罪Ⅰ（内乱・外患の罪）
	事後学習	内乱，外患の成立要件と，関連する各種の規定を整理しておく。（2時間）
30	事前学習	衆人環視の中で外国の国旗を焼いたり，外国に敵対する軍事組織に所属して攻撃する準備を行ったりする行為は，それら外国の利益を保護するためのものなのか，考察した上で授業に臨むこと。（2時間）
	授業内容	国家の存立を脅かす罪Ⅱ（国交に関する罪）
	事後学習	刑法が国益を護るために定める各種国交に関する罪を整理し，その保護法益，成立要件等を確認する。（2時間）

科目名	刑法Ⅱ【法職課程】	担当者	西貝 吉晃	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑法の判例集を丁寧に読んで、解釈論及び解釈結果の事案への当てはめを考えていく。なるべく双方向での講義を行いたい。			
授業目的・到達目標	立法及び解釈の世界で刑法を使える人材の要請を目的とし、具体的事案に基づいて刑法という法律に書いてある犯罪の成否を説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5			
履修条件	刑法総論及び民事法の理解。			
授業方法	判例の理解を確認しながら進める。具体的には教科書類に書いてある議論を知っていることを前提に判例の表現選択等を検討する。予習をしないといけない。定期試験の講評を共有ドライブにアップロードする。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		100%	定期試験結果で評価をする
	平常評価		0%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	有斐閣	判例刑法各論 第7版	西田典之ほか
	備考			
参考書	西田典之『刑法各論 第6版』，山口厚『刑法各論 第2版』，井田良『刑法講義各論』等の教科書。			
オフィスアワー	火曜日14：40～16：10			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	刑法各論を学ぶ前提知識を理解し，説明できるようにしておく。（2時間）
	授業内容	刑法各論で学ぶことの紹介及び刑法総論の復習。
	事後学習	刑法各論を学ぶ前提知識を理解し，説明できるようになる。（2時間）
2	事前学習	生命・身体に対する罪の解釈・適用法を理解し，説明できるようになることを目的とする。（2時間）
	授業内容	生命・身体に対する罪に関し，主に判例を読み解いていく。
	事後学習	生命・身体に対する罪の解釈・適用法について，自身の有していた疑問点を解決する。（2時間）
3	事前学習	生命・身体に対する罪の解釈・適用法を理解し，説明できるようになることを目的とする。（2時間）
	授業内容	生命・身体に対する罪に関し，主に判例を読み解いていく。
	事後学習	生命・身体に対する罪の解釈・適用法について，自身の有していた疑問点を解決する。（2時間）
4	事前学習	自由に対する罪の解釈・適用法を理解し，説明できるようになることを目的とする。（2時間）
	授業内容	自由に対する罪に関し，主に判例を読み解いていく。
	事後学習	自由に対する罪の解釈・適用法について，自身の有していた疑問点を解決する。（2時間）

5	事前学習	自由に対する罪の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。（2時間）
	授業内容	自由に対する罪に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	自由に対する罪の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。（2時間）
6	事前学習	私的領域に関する罪の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。（2時間）
	授業内容	私的領域に関する罪に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	私的領域に関する罪の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。（2時間）
7	事前学習	私的領域に関する罪の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。（2時間）
	授業内容	私的領域に関する罪に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	私的領域に関する罪の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。（2時間）
8	事前学習	名誉に対する罪の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。（2時間）
	授業内容	名誉に対する罪に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	名誉に対する罪の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。（2時間）
9	事前学習	信用および業務に対する罪の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。（2時間）
	授業内容	信用および業務に対する罪に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	信用および業務に対する罪の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。（2時間）
10	事前学習	財産に対する罪(総論・窃盗罪)の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	財産に対する罪(総論・窃盗罪)に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	財産に対する罪(総論・窃盗罪)の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。
11	事前学習	財産に対する罪(窃盗罪・不動産侵奪罪)の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	財産に対する罪(窃盗罪・不動産侵奪罪)に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	財産に対する罪(窃盗罪・不動産侵奪罪)の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。
12	事前学習	財産に対する罪(強盗罪・事後強盗罪)の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	財産に対する罪(強盗罪・事後強盗罪)に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	財産に対する罪(強盗罪・事後強盗罪)の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。
13	事前学習	財産に対する罪(詐欺罪)の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	財産に対する罪(詐欺罪)に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	財産に対する罪(詐欺罪)の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。
14	事前学習	財産に対する罪(詐欺罪・電子計算機使用詐欺罪・恐喝罪)の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	財産に対する罪(詐欺罪・電子計算機使用詐欺罪・恐喝罪)に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	財産に対する罪(詐欺罪・電子計算機使用詐欺罪・恐喝罪)の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。
15	事前学習	財産に対する罪(横領罪)の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	財産に対する罪(横領罪)に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	財産に対する罪(横領罪)の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。
16	事前学習	財産に対する罪(背任罪)の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	財産に対する罪(背任罪)に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	財産に対する罪(背任罪)の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。

17	事前学習	財産に対する罪(盗品等に関する罪・毀棄罪)の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	財産に対する罪(盗品等に関する罪・毀棄罪)に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	財産に対する罪(盗品等に関する罪・毀棄罪)の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。
18	事前学習	財産に対する罪の全体像を理解し、説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	財産に対する罪(まとめ)に関し、読んだ判例の復習を行う。
	事後学習	財産に対する罪(まとめ)の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。
19	事前学習	取引等の安全に対する罪の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	取引等の安全に対する罪に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	取引等の安全に対する罪の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。
20	事前学習	取引等の安全に対する罪の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	取引等の安全に対する罪に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	取引等の安全に対する罪の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。
21	事前学習	取引等の安全に対する罪の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	取引等の安全に対する罪に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	取引等の安全に対する罪の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。
22	事前学習	風俗に対する罪(わいせつ罪)の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	風俗に対する罪(わいせつ罪)に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	風俗に対する罪(わいせつ罪)の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。
23	事前学習	風俗に対する罪(わいせつ罪以外)の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	風俗に対する罪(わいせつ罪以外)に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	風俗に対する罪(わいせつ罪以外)の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。
24	事前学習	公共危険罪の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	公共危険罪に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	公共危険罪の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。
25	事前学習	公共危険罪の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	公共危険罪に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	公共危険罪の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。
26	事前学習	国家的法益に対する罪(賄賂罪)の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	国家的法益に対する罪(賄賂罪)に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	国家的法益に対する罪(賄賂罪)の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。
27	事前学習	国家的法益に対する罪(賄賂罪)の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	国家的法益に対する罪(賄賂罪)に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	国家的法益に対する罪(賄賂罪)の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。
28	事前学習	国家的法益に対する罪(それ以外)の解釈・適用法を理解し、説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	国家的法益に対する罪(それ以外)に関し、主に判例を読み解いていく。
	事後学習	国家的法益に対する罪(それ以外)の解釈・適用法について、自身の有していた疑問点を解決する。

29	事前学習	刑法各論全体を理解し，説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	刑法各論全体の総覧
	事後学習	刑法各論全体の総覧の解釈・適用法について，自身の有していた疑問点を解決する。
30	事前学習	各論の解釈論を総論のそれと接続して説明できるようになることを目的とする。
	授業内容	刑法総論との接続のための議論を行い，刑法全体の理解を確認する。
	事後学習	刑法全体の理解について，自身の有していた疑問点を解決する。

科目名	刑法Ⅱ	担当者	野村 和彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	-----	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、刑法典の第二編「罪」の規範的内容を探究していく（刑法各論）。「罪（刑罰法規）」は「構成要件と法定刑」から構成され、構成要件そのものは抽象的であり、法定刑の幅も広めにとられている。だからこそ、その具体的内容を、様々な事案と絡めながら、明らかにしていかなければならない。				
授業目的・到達目標	刑罰法規と社会において生じる事案との関係を、理論的に捉える力を養成することを目的とする。それにより、各犯罪の射程範囲を理解するとともに、この社会で起きている事件に刑罰法規を適用することによって、刑法的に問題の解決を図る力を身につけ、これを表現できるようにすることを目標とする。【関連DP及びCP】 法律学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	刑法Ⅰ（総論）を履修していることが望ましい。刑法は罪刑法定主義が支配する法律であるから、六法は必ず持参されたい。特に刑法各論ではこまめに条文にあたる。				
授業方法	担当者が作成するレジュメも併用し講義する。事前学習であらかじめ指示した箇所を必ず読み授業に臨む。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		100%	到達目標がどの程度育まれているのかをみる。	
	平 常 評 価		0%		
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016年	有斐閣		講義刑法学・各論	井田良
	備考				
参 考 書	井田・佐渡島・山野目『法を学ぶ人のための文章作法』（有斐閣、2016年）				
オフィスアワー	平日はほとんど研究室（本館7階1707号室）におりますので、10:30－16:30の間ならばいつでもどうぞ。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	はしがき、第1章を読む。（2時間）
	授業内容	刑法各論で学ぶべきこと（①刑罰法規を解釈する意義、②保護法益、③法益侵害行為、④時代の変化と刑法解釈）
	事後学習	刑罰法規を解釈する際に重要なことは何か。（2時間）
2	事前学習	第2章を読む。（2時間）
	授業内容	人の生命に対する罪（１）（①全体像、②人の始期と終期）
	事後学習	人の始期と終期について説明せよ。（2時間）
3	事前学習	第2章を読む。（2時間）
	授業内容	人の生命に対する罪（２）（①199条と202条との区別、②積極的安楽死、治療中止）
	事後学習	人を欺いて自殺させる行為は何罪に該当するか。（2時間）
4	事前学習	第3章を読む。（2時間）
	授業内容	身体に対する罪（１）（①暴行概念、②傷害概念、③精神障害の扱い、④日常生活と暴行・傷害）
	事後学習	精神障害は傷害に該当するか。（2時間）

5	事前学習	第3章を読む。(2時間)
	授業内容	身体に対する罪(2)(①結果的加重犯、②同時傷害の特例)
	事後学習	結果的加重犯について説明せよ。(2時間)
6	事前学習	第4章を読む。(2時間)
	授業内容	生命及び身体に対する危険犯(①危険犯、②墮胎罪、③遺棄罪)
	事後学習	危険犯とは何か。(2時間)
7	事前学習	第5章を読む。(2時間)
	授業内容	身体的内密領域に対する罪(①性的自己決定権、②強制性交等罪、強制わいせつ罪、③監護者による性犯罪)
	事後学習	性犯罪に関する旧規定と新規定の違いについて説明せよ。(2時間)
8	事前学習	第6章を読む。(2時間)
	授業内容	自由に対する罪(①脅迫罪、②強要罪、③逮捕・監禁罪、④略取誘拐・人身売買罪)
	事後学習	逮捕・監禁罪の保護法益は何か。(2時間)
9	事前学習	第7章を読む。(2時間)
	授業内容	個人の私的領域を侵す罪(①「私的領域」とは、②住居侵入罪、③秘密侵害罪)
	事後学習	住居侵入罪の保護法益をめぐる対立について説明せよ。(2時間)
10	事前学習	第8章を読む。(2時間)
	授業内容	社会的存在としての人の保護(1)(①名誉毀損罪、②信用毀棄罪、③業務に対する罪)
	事後学習	名誉毀損罪の保護法益は何か。(2時間)
11	事前学習	第8章を読む。(2時間)
	授業内容	社会的存在としての人の保護(2)-230条2に関する問題-
	事後学習	真実性の錯誤をどう考えるべきか。(2時間)
12	事前学習	第9章を読む。(2時間)
	授業内容	財産犯総論(1)(①財産犯の体系、②財物と財産上の利益)
	事後学習	財物と財産上の利益について説明せよ。(2時間)
13	事前学習	第9章を読む。(2時間)
	授業内容	財産犯総論(2)(①財産犯の保護法益、②不法領得の意思、③占有概念)
	事後学習	財産罪の保護法益について説明せよ。(2時間)
14	事前学習	第10章を読む。(2時間)
	授業内容	窃盗罪と不動産侵奪罪(①窃盗罪詳説、②不動産侵奪罪、③親族相盗例)
	事後学習	不動産侵奪罪の特徴について説明せよ。(2時間)
15	事前学習	第11章を読む。(2時間)
	授業内容	強盗罪(1)(①罪質、②1項強盗と2項強盗、③事後強盗罪・昏睡強盗罪)
	事後学習	強盗罪の要件について説明せよ。(2時間)
16	事前学習	第11章を読む。(2時間)
	授業内容	強盗罪(2)-240条の解釈をめぐる問題-
	事後学習	240条の適用をめぐる見解の対立について説明せよ。(2時間)

17	事前学習	第12章を読む。（2時間）
	授業内容	詐欺罪と恐喝罪（①基本構造、②詐欺罪に関する諸問題、③権利行使と恐喝罪）
	事後学習	ヤクザが、暴力団関係者の使用禁止の看板を掲げているゴルフ場を利用することは、2項詐欺罪に当たるか。（2時間）
18	事前学習	第13章を読む。（2時間）
	授業内容	横領罪と背任罪（①横領罪と背任罪の関係、②不法原因給付物と横領、③背任罪における「他人の事務」）
	事後学習	横領と背任の区別について説明せよ。（2時間）
19	事前学習	第14章を読む。（2時間）
	授業内容	盗品等に対する罪（①保護法益、②盗品関与罪の本質、③親族間の犯罪の特例）
	事後学習	盗品に対する罪の保護法益は何か。（2時間）
20	事前学習	第15章を読む。（2時間）
	授業内容	毀棄・隠匿の罪（①器物損壊罪、②文書等毀棄罪、③建造物損壊罪）
	事後学習	器物損壊罪の保護法益について説明せよ。（2時間）
21	事前学習	第16章、第17章を読む。（2時間）
	授業内容	社会的法益に対する罪・総説、騒乱の罪
	事後学習	公共危険罪とはどのような犯罪か。（2時間）
22	事前学習	第18章を読む。（2時間）
	授業内容	放火の罪（①現住建造物等放火罪、②非現住建造物等放火罪、③建造物等以外放火罪）
	事後学習	焼損概念について説明せよ。（2時間）
23	事前学習	第20章、第21章を読む。（2時間）
	授業内容	偽造罪総説、通貨偽造罪（①通貨偽造罪、②外国通貨偽造罪など、③取得後知情行使等罪）
	事後学習	取得後知情行使等罪について説明せよ。（2時間）
24	事前学習	第22章を読む。（2時間）
	授業内容	文書偽造罪（①文書偽造罪の基礎理論、②公文書偽造罪、③私文書偽造罪、④そのほかの文書偽造罪）
	事後学習	文書偽造罪の基礎理論について説明せよ。（2時間）
25	事前学習	第23章、第24章、第25章、第26章を読む。（2時間）
	授業内容	有価証券偽造罪、支払用カード電磁的記録の罪、印章偽造罪、不正指令電磁的記録に関する罪
	事後学習	ウィルス作成罪の意義について説明せよ。（2時間）
26	事前学習	第27章、第28章を読む。（2時間）
	授業内容	風俗犯総説、わいせつの罪（①わいせつ概念、②公然わいせつ罪、③わいせつ物頒布等罪）
	事後学習	芸術作品とわいせつの罪の関係について説明せよ。（2時間）
27	事前学習	第31章、第35条を読む。（2時間）
	授業内容	公務の執行を妨害する罪（①公務執行妨害罪、②職務強要罪、③その他の類型）
	事後学習	公務執行妨害罪において保護される公務とは何か。（2時間）
28	事前学習	第37章、第38章、第39章を読む。（2時間）
	授業内容	犯人蔵匿・証拠隠滅罪、偽証罪、虚偽告訴罪
	事後学習	偽証の本質について説明せよ。（2時間）

29	事前学習	第40章、第41章を読む。（2時間）
	授業内容	職権乱用罪、贈収賄罪
	事後学習	「職務に関し」の意義について説明せよ。（2時間）
30	事前学習	これまでの学びをふりかえる（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	疑問のある点について復習する（2時間）

科目名	刑法Ⅱ	担当者	野村 和彦	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
-----	-----	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、刑法典の第二編「罪」の規範的内容を探究していく（刑法各論）。「罪（刑罰法規）」は「構成要件と法定刑」から構成され、構成要件そのものは抽象的であり、法定刑の幅も広めにとられている。だからこそ、その具体的内容を、様々な事案と絡めながら、明らかにしていかなければならない。				
授業目的・到達目標	刑罰法規と社会において生じる事案との関係を、理論的に捉える力を養成することを目的とする。それにより、各犯罪の射程範囲を理解するとともに、この社会で起きている事件に刑罰法規を適用することによって、刑法的に問題の解決を図る力を身につけ、これを表現できるようにすることを目標とする。【関連DP及びCP】 法律学科1, 2, 3, 5				
履修条件	刑法Ⅰ（総論）を履修していることが望ましい。刑法は罪刑法定主義が支配する法律であるから、六法は必ず持参されたい。特に刑法各論ではこまめに条文にあたる。				
授業方法	担当者が作成するレジュメも併用し講義する。事前学習であらかじめ指示した箇所を必ず読み授業に臨む。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		100%	到達目標がどの程度育まれているのかをみる。	
	平 常 評 価		0%		
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016年	有斐閣		講義刑法学・各論	井田良
	備考				
参 考 書	井田・佐渡島・山野目『法を学ぶ人のための文章作法』（有斐閣、2016年）				
オフィス アワー	平日はほとんど研究室（本館7階1707号室）におりますので、10:30－16:30の間ならばいつでもどうぞ。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	はしがき、第1章を読む。（2時間）
	授業内容	刑法各論で学ぶべきこと（①刑罰法規を解釈する意義、②保護法益、③法益侵害行為、④時代の変化と刑法解釈）
	事後学習	刑罰法規を解釈する際に重要なことは何か。（2時間）
2	事前学習	第2章を読む。（2時間）
	授業内容	人の生命に対する罪（１）（①全体像、②人の始期と終期）
	事後学習	人の始期と終期について説明せよ。（2時間）
3	事前学習	第2章を読む。（2時間）
	授業内容	人の生命に対する罪（２）（①199条と202条との区別、②積極的安楽死、治療中止）
	事後学習	人を欺いて自殺させる行為は何罪に該当するか。（2時間）
4	事前学習	第3章を読む。（2時間）
	授業内容	身体に対する罪（１）（①暴行概念、②傷害概念、③精神障害の扱い、④日常生活と暴行・傷害）
	事後学習	精神障害は傷害に該当するか。（2時間）

5	事前学習	第3章を読む。(2時間)
	授業内容	身体に対する罪(2)(①結果的加重犯、②同時傷害の特例)
	事後学習	結果的加重犯について説明せよ。(2時間)
6	事前学習	第4章を読む。(2時間)
	授業内容	生命及び身体に対する危険犯(①危険犯、②墮胎罪、③遺棄罪)
	事後学習	危険犯とは何か。(2時間)
7	事前学習	第5章を読む。(2時間)
	授業内容	身体的内密領域に対する罪(①性的自己決定権、②強制性交等罪、強制わいせつ罪、③監護者による性犯罪)
	事後学習	性犯罪に関する旧規定と新規定の違いについて説明せよ。(2時間)
8	事前学習	第6章を読む。(2時間)
	授業内容	自由に対する罪(①脅迫罪、②強要罪、③逮捕・監禁罪、④略取誘拐・人身売買罪)
	事後学習	逮捕・監禁罪の保護法益は何か。(2時間)
9	事前学習	第7章を読む。(2時間)
	授業内容	個人の私的領域を侵す罪(①「私的領域」とは、②住居侵入罪、③秘密侵害罪)
	事後学習	住居侵入罪の保護法益をめぐる対立について説明せよ。(2時間)
10	事前学習	第8章を読む。(2時間)
	授業内容	社会的存在としての人の保護(1)(①名誉毀損罪、②信用毀棄罪、③業務に対する罪)
	事後学習	名誉毀損罪の保護法益は何か。(2時間)
11	事前学習	第8章を読む。(2時間)
	授業内容	社会的存在としての人の保護(2)-230条2に関する問題-
	事後学習	真実性の錯誤をどう考えるべきか。(2時間)
12	事前学習	第9章を読む。(2時間)
	授業内容	財産犯総論(1)(①財産犯の体系、②財物と財産上の利益)
	事後学習	財物と財産上の利益について説明せよ。(2時間)
13	事前学習	第9章を読む。(2時間)
	授業内容	財産犯総論(2)(①財産犯の保護法益、②不法領得の意思、③占有概念)
	事後学習	財産罪の保護法益について説明せよ。(2時間)
14	事前学習	第10章を読む。(2時間)
	授業内容	窃盗罪と不動産侵奪罪(①窃盗罪詳説、②不動産侵奪罪、③親族相盗例)
	事後学習	不動産侵奪罪の特徴について説明せよ。(2時間)
15	事前学習	第11章を読む。(2時間)
	授業内容	強盗罪(1)(①罪質、②1項強盗と2項強盗、③事後強盗罪・昏睡強盗罪)
	事後学習	強盗罪の要件について説明せよ。(2時間)
16	事前学習	第11章を読む。(2時間)
	授業内容	強盗罪(2)-240条の解釈をめぐる問題-
	事後学習	240条の適用をめぐる見解の対立について説明せよ。(2時間)

17	事前学習	第12章を読む。（2時間）
	授業内容	詐欺罪と恐喝罪（①基本構造、②詐欺罪に関する諸問題、③権利行使と恐喝罪）
	事後学習	ヤクザが、暴力団関係者の使用禁止の看板を掲げているゴルフ場を利用することは、2項詐欺罪に当たるか。（2時間）
18	事前学習	第13章を読む。（2時間）
	授業内容	横領罪と背任罪（①横領罪と背任罪の関係、②不法原因給付物と横領、③背任罪における「他人の事務」）
	事後学習	横領と背任の区別について説明せよ。（2時間）
19	事前学習	第14章を読む。（2時間）
	授業内容	盗品等に対する罪（①保護法益、②盗品関与罪の本質、③親族間の犯罪の特例）
	事後学習	盗品に対する罪の保護法益は何か。（2時間）
20	事前学習	第15章を読む。（2時間）
	授業内容	毀棄・隠匿の罪（①器物損壊罪、②文書等毀棄罪、③建造物損壊罪）
	事後学習	器物損壊罪の保護法益について説明せよ。（2時間）
21	事前学習	第16章、第17章を読む。（2時間）
	授業内容	社会的法益に対する罪・総説、騒乱の罪
	事後学習	公共危険罪とはどのような犯罪か。（2時間）
22	事前学習	第18章を読む。（2時間）
	授業内容	放火の罪（①現住建造物等放火罪、②非現住建造物等放火罪、③建造物等以外放火罪）
	事後学習	焼損概念について説明せよ。（2時間）
23	事前学習	第20章、第21章を読む。（2時間）
	授業内容	偽造罪総説、通貨偽造罪（①通貨偽造罪、②外国通貨偽造罪など、③取得後知情行使等罪）
	事後学習	取得後知情行使等罪について説明せよ。（2時間）
24	事前学習	第22章を読む。（2時間）
	授業内容	文書偽造罪（①文書偽造罪の基礎理論、②公文書偽造罪、③私文書偽造罪、④そのほかの文書偽造罪）
	事後学習	文書偽造罪の基礎理論について説明せよ。（2時間）
25	事前学習	第23章、第24章、第25章、第26章を読む。（2時間）
	授業内容	有価証券偽造罪、支払用カード電磁的記録の罪、印章偽造罪、不正指令電磁的記録に関する罪
	事後学習	ウィルス作成罪の意義について説明せよ。（2時間）
26	事前学習	第27章、第28章を読む。（2時間）
	授業内容	風俗犯総説、わいせつの罪（①わいせつ概念、②公然わいせつ罪、③わいせつ物頒布等罪）
	事後学習	芸術作品とわいせつの罪の関係について説明せよ。（2時間）
27	事前学習	第31章、第35条を読む。（2時間）
	授業内容	公務の執行を妨害する罪（①公務執行妨害罪、②職務強要罪、③その他の類型）
	事後学習	公務執行妨害罪において保護される公務とは何か。（2時間）
28	事前学習	第37章、第38章、第39章を読む。（2時間）
	授業内容	犯人蔵匿・証拠隠滅罪、偽証罪、虚偽告訴罪
	事後学習	偽証の本質について説明せよ。（2時間）

29	事前学習	第40章、第41章を読む。（2時間）
	授業内容	職権乱用罪、贈収賄罪
	事後学習	「職務に関し」の意義について説明せよ。（2時間）
30	事前学習	これまでの学びをふりかえる（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	疑問のある点について復習する（2時間）

科目名	計量経済学	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	計量経済学とは、データを用いてその関係性について理解するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる概念やモデル、手法について講義と演習を行う。計量経済学の手法は、政治学をはじめとする社会科学分野全般に多く用いられており、政策の現場でも「証拠に基づく政策立案（EBPM）」のための重要なツールである。 なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。			
授業目的・到達目標	経済現象を分析するための基本的な分析手法である、計量経済学の基本的な手法（最小二乗法）の基本的なモデルと考え方の基礎力を養成を目的とする。社会現象についてデータを用いて科学的に分析する手法について理解し、その結果について正しく説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科3， 4， 5			
履修条件	特になし。			
授業方法	教科書及び講義ノートに基づいた講義形式を中心として、理解を深めるため演習で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので持参すること。定期試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	70%	学期末の試験期間中に実施する。	
	平常評価	30%	課題レポートにより評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015	有斐閣	計量経済学の第一歩-実証分析のススメ -	田中隆一
	備考			
参考書	中室牧子・津川友介『原因と結果の経済学』ダイヤモンド社、2017			
オフィスアワー	授業期間中の毎週火曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける（予約は不要）、また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書の第1章を読み内容について概観する。（2時間）
	授業内容	【オリエンテーション】 計量経済学は何かについて学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、確認問題1－1と1－2を解く。 自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書第2章を読み内容について概観を理解する。（2時間）
	授業内容	【データの扱い方】 平均や分散について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、確認問題2－2を解く。（2時間）
3	事前学習	前回の講義内容について確認する。（1時間）
	授業内容	Excelを用いたデータ加工の方法（演習）
	事後学習	演習の内容について小レポートを作成する。（3時間）
4	事前学習	教科書第3章1．2を読み内容について概観を理解する。（2時間）
	授業内容	【確率の基礎】 確率論と確率分布について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、確認問題3－1と3－2を解く。（2時間）

5	事前学習	教科書第3章3．4．5を読み内容について概観を理解する。（2時間）
	授業内容	【計量経済学で用いる確率論】 同時確率分布、連続確率分布、正規分布、カイニ乗分布、t分布、F分布について学習する
	事後学習	講義ノートを確認して、実証分析問題3－Aを解く。（2時間）
6	事前学習	教科書第4章1．2．3を読み内容について概観を理解する。（2時間）
	授業内容	【統計的推論】 標本平均、不偏性、一致性、大数の法則について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、確認問題4－3を解く。（2時間）
7	事前学習	教科書第4章4を読み内容について概観を理解する。（2時間）
	授業内容	【仮説検定】 帰無仮説と対立仮説、検定の方法について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、実証分析問題4－Aを解く。（2時間）
8	事前学習	これまでの講義内容について確認する。（1時間）
	授業内容	Excelを用いた統計的実証の方法（演習）
	事後学習	演習の内容について小レポートを作成する。（3時間）
9	事前学習	教科書第5章1．2を読み内容について概観を理解する。（2時間）
	授業内容	【単回帰モデル（最小二乗法）】 最小二乗法の基本的なモデルについて学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、確認問題5－2を解く。（2時間）
10	事前学習	教科書第5章3．4．5を読み内容について概観を理解する。（2時間）
	授業内容	【分析結果の解釈】 単回帰分析の結果から、何が言えて、何が言えないのか学習する。
	事後学習	授業で提示した練習問題について自分の考えをまとめること。（2時間）
11	事前学習	教科書第6章1．2．3を読み内容について概観を理解する。（2時間）
	授業内容	【重回帰分析の基本】 外的条件の制御、多重共線性、脱落変数について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、確認問題6－1を解く。（2時間）
12	事前学習	教科書第6章4．を読み、データ処理について概観を理解する。（2時間）
	授業内容	【回帰分析後の検定】 重回帰分析の結果から、何が言えて、何が言えないのか学習する。
	事後学習	授業で提示した練習問題について自分の考えをまとめること。（2時間）
13	事前学習	これまでの講義内容について確認する。（1時間）
	授業内容	Excelを用いた単回帰・重回帰分析の方法（演習）
	事後学習	演習の内容について小レポートを作成する。（3時間）
14	事前学習	教科書第7章を読み内容について概観を理解する。（2時間）
	授業内容	【重回帰分析の応用】 今まで学んだ分析で言えること、言えないこと（その解決の方向性）について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、確認問題1－1と1－2を解く。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	期末試験に向けて準備をする。（2時間）

科目名	計量政治学	担当者	岩井 奉信	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	最近の政治学では、統計的な分析が当たり前になっており、政治学を学ぶためには、計量分析の理解が必須となっている。この授業では、現実の政治現象に関するデータを統計的な手法で分析することにより、政治を実証的に捉えようとする「計量政治分析」の基本的な知識を講義するとともに、その手法を履修者が習得できるようになることを目的としている。政治現象を計量的な分析手法を用いて理解したり、分析できるようにする。					
授業目的・到達目標	政治現象を実証的に分析する手段としての統計的方法について基本的に理解することを最低限の目的とする。数量分析に必要なデータに関する理解、分析に必要な各種の分析の手法、事例研究による具体的な分析方法などについて、基礎的な事柄を知ることを通じて、計量政治学に対する理解と関心を高めることを目標とする。 関連DP及びCP：政治経済学科 3， 4， 5					
履修条件	履修条件は特にないが、実証的な政治分析や数量データの解析に対して、一定の関心を持っていることが望ましい。					
授業方法	基本的には、講義と演習の形式で行う。必要に応じて、受講者もパソコンなどを操作して、授業を行うことがある。フィードバックは授業内に行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		受講姿勢やレポート課題により、総合的に評価を行う。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	特になし				
参 考 書	増山幹高ほか著「計量政治分析入門」東京大学出版会刊、久米郁夫著「原因を推論する」有斐閣刊、河村和徳著「政治の統計分析」共立出版刊、松田憲忠ほか著「社会科学のための計量分析入門」ミネルヴァ書房刊					
オフィスアワー	月曜日及び金曜日の昼休み					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	政治現象を数量で分析することへの関心を持って授業に臨むことが望ましい。（2時間）
	授業内容	計量政治学への招待－実証研究を軸に発展してきた現代政治学において、数量を用いた政治現象を分析する計量政治学とはどのようなものであるのかについて、現代政治学の発展を含めて解説する。
	事後学習	さまざまな政治現象を分析するにあたり、数量的な分析に適しているものは何か、適していないものは何か、そして数量分析を用いる場合、どのようなデータを利用するかなどについて、授業内容を受けて考えること。（2時間）
2	事前学習	政治現象を分析するにあたり、数量的な分析に適しているものは何か、適していないものは何か、そして数量分析を用いる場合、どのようなデータを利用するかなどについて考えておくこと。（2時間）
	授業内容	数量分析の基礎－数量政治分析を行う上で、最低限、知っていなければならないデータの性格について説明した上で、さまざまな政治分析に用いられるデータの特性について理解を深める。
	事後学習	連続量と離散量は何かを理解するために、統計学の基礎に関する書籍などを用いて、復習するところ。（2時間）
3	事前学習	政治現象を分析するにあたり、数量的な分析に適しているものは何か、適していないものは何か、そして数量分析を用いる場合、どのようなデータを利用するかなどについて考えておくこと。（2時間）
	授業内容	平均・分散・相関－計量政治学にはさまざまな方法があるが、データ分析の基礎となる平均・分散・相関などについて解説し、計量政治分析の基礎的手法を学ぶ。
	事後学習	授業で示されたデータを自らの手で改めて分析することで、平均・分散・相関などが持つ意味について考えてみること。（2時間）
4	事前学習	政治現象を分析するにあたり、数量的な分析に適しているものは何か、適していないものは何か、そして数量分析を用いる場合、どのようなデータを利用するかなどについて考えておくこと。（2時間）
	授業内容	連続量を用いた計量分析－社会統計や選挙統計などの連続量を用いた数量分析について、実際の分析事例を用いて解説すると同時に、データの特性と分析に際しての注意事項などについても説明していく。
	事後学習	授業で示された選挙データなどの分析について、そのデータからどのようなことが言えるのかを再度、考えてみること。（2時間）

5	事前学習	政治現象を分析するにあたり、数量的な分析に適しているものは何か、適していないものは何か、そして数量分析を用いる場合、どのようなデータを利用するかなどについて考えておくこと。（2時間）
	授業内容	離散量を用いた計量分析―世論調査などのカテゴリー・データを用いた数量政治分析の事例について解説する。特にカテゴリーの値と数量との関係について、重点的に説明していく。
	事後学習	授業で提示した世論調査に関するデータ分析について復習し、新聞などを用いて、実際の世論調査データを自分なりに分析してみること。（2時間）
6	事前学習	世論調査を用いた政治現象の分析にはどのようなものがあるか、身近な調査事例について、あらかじめ調べて、問題意識を育成しておくこと。（2時間）
	授業内容	世論調査の方法―カテゴリー・データの代表例である世論調査について、さまざまな方法について説明する一方で、世論調査データが持つ問題点について説明し、適切な世論調査の利用法と活用法について学ぶ。
	事後学習	授業で提示した世論調査に関するデータ分析について復習し、新聞などを用いて、実際の世論調査データを自分なりに分析してみること。（2時間）
7	事前学習	政治現象を分析するにあたり、数量的な分析に適しているものは何か、適していないものは何か、そして数量分析を用いる場合、どのようなデータを利用するかなどについて考えておくこと。（2時間）
	授業内容	非数量型データの数量化―社会統計や世論調査など数量データとして現れるものに対し、メディアの報道や政治家の演説など、一見、数量とは無関係な資料を数量化する方法について、新聞の内容分析などを事例に解説していく。
	事後学習	授業を受け、身近にある非数量型データについて、どのようなやり方で数量化すれば、何がわかるのかについて、実際に分析を試みること。（2時間）
8	事前学習	ここまでで学んだ数量政治分析の手法について振り返り、どのような方法を用いれば、何がわかるのかについて、自分なりの手法に関する問題意識を持つこと。（2時間）
	授業内容	選挙結果の数量分析―実際の選挙結果のデータを用いて、政治現象を分析する上で必要な視点や注意点について解説すると同時に、ひとつのデータから視点によって、さまざまな解釈ができることを説明する。
	事後学習	授業で示された選挙結果データから授業での説明以外に何が言えるのか、自ら考えてみること。（2時間）
9	事前学習	ここまでで学んだ数量政治分析の手法について振り返り、どのような方法を用いれば、何がわかるのかについて、自分なりの手法に関する問題意識を持つこと。（2時間）
	授業内容	世論調査の数量分析―新聞などに発表される世論調査のデータを用いて、そこから何を言うことができるか、また、調査によって異なる結果をどのように読んでいったらよいのかについて解説していく。
	事後学習	授業で示された世論調査データから授業での説明以外に何が言えるのか、自ら考えてみること。（2時間）
10	事前学習	内容分析を用いた数量分析―新聞の社説や首相の国会演説などの事例を用いて、非数量型資料の数量分析の方法と分析について学ぶ。（2時間）
	授業内容	内容分析を用いた数量分析―新聞の社説や首相の国会演説などの事例を用いて、非数量型資料の数量分析の方法と分析について学ぶ。
	事後学習	授業で示された内容分析のデータから授業での説明以外に何が言えるのか、自ら考えてみること。（2時間）
11	事前学習	ここまでで学んだ数量政治分析の手法について振り返り、どのような方法を用いれば、何がわかるのかについて、自分なりの手法に関する問題意識を持つこと。（2時間）
	授業内容	多変量解析とは何か―複数の変数を用いた分析を多変量解析というが、その多変量分析にはどのようなものがあるのか、何を知るためには、どのような方法を用いるのが適切であるのかについて解説する。
	事後学習	複雑なデータを分析する手法である多変量解析について、再度、確認し、多変量解析とはどのようなものかについて、再確認しておくこと。（2時間）
12	事前学習	多変量解析に対する基礎的な理解を前提に、複雑な政治現象を数量的に分析する方法についての関心を高めておくこと。（2時間）
	授業内容	多変量解析を用いた分析―数多い多変量解析の中から、基礎的なものとして、主成分分析を用いた政治分析について、選挙区分類などの事例を用いて説明し、多変量解析とは何かについて理解を深める。
	事後学習	主成分分析以外の多変量解析について、どのようなものがあり、そこで析出された知見にはどのようなものがあるか、インターネットなどを用いて調べてみること。（2時間）
13	事前学習	どのような政治現象を分析するためにどのような計量的手法があるのかについて、自分の問題意識にちもつて感変えてみること。（2時間）
	授業内容	学生アンケートの分析―岩井研究室のゼミ生が行った日本大学法学部学生の政治意識に関するアンケート調査をさまざまな方法を用いて分析することを通じて、計量政治学について、総合的な理解を深める。
	事後学習	授業で用いたアンケートデータを用いて、授業で説明した以外に、どのような分析が可能であるかを考えること。（2時間）
14	事前学習	どのような政治現象を分析するためにどのような計量的手法があるのかについて、自分の問題意識にちもつて感変えてみること。（2時間）
	授業内容	政界再編の分析―岩井研究室の学生が行った朝日新聞の候補者調査を利用した望ましい政界再編についての数量的分析を多変量解析を含む多面的な解析を試みる。
	事後学習	授業で用いた分析データを用いて、授業で説明した以外に、どのような分析が可能であるかを考えること。（2時間）
15	事前学習	ここまでで学んできた数量分析の手法などを用いて、どのような政治現象を明らかにできるか考えておくこと。（2時間）
	授業内容	計量政治学のススメ―授業で学んできた以外に計量政治学にはどのような可能性があるのか、また、計量政治分析を行う上で、どのような問題があるのかについて、解説する。
	事後学習	ここまで学んできた分析手法を用いて、身近にあるデータを分析することで、計量政治学に対する理解をより深めて欲しい。（2時間）

科目名	原価計算論Ⅰ	担当者	船越 洋之	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	製造業企業の製造活動について、工業簿記や原価計算の専門領域の基礎知識・計算技法を用いてその基本的な内容を学習する。日商簿記検定2級レベルの学習を念頭においている。簿記原理で学ぶ商業簿記を前提にしているが、ここでもっと専門的な知識と計算技法を学ぶので、予習復習は欠かせない。				
授業目的・到達目標	国内外の製造業企業活動の現状を貨幣数値を用いて理解し、その結果について分析や説明を行える力を養成することを目的とする。製造業企業の製造活動の成果である製品に関して、その製造コスト（製造原価）をどのように測定・計算するのかをテーマに、主として工業簿記のしくみと基本的な計算技法（日商簿記検定2級レベル）を中心に理解し、説明できることを到達目標とする。これにより、工業簿記と原価計算の基礎知識が身につくようになる。				
履修条件	関連DP及びCP：経営法学科1～4 教科書を必ず購入し、無断欠席をしない者。日商簿記検定2級に興味のある者。体育会系部活所属学生と4年生については、相当の覚悟を持って勉強をしないと単位修得は難しいと思う。簿記原理を履修していることが望ましい。				
授業方法	教科書を使用する講義形式だが、問題演習（適宜プリント配付）も行うので、教科書・ノート・電卓（8桁以上）を持参すること。スマホで板書を撮影することは絶対にしないこと。なお、続けて休むとプリントをもらえない。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		0%		
	平常評価		100%		復習をしているかの確認のために授業内ミニテストを予告なしに実施する。ミニテストと最終テストで評価する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018年	中央経済社		原価計算ガイダンス・第2版（ISBN:9784502278716）	柳田仁編著
	備考	初版は古い構成のため使用できません。第2版を必ず購入してください。			
参考書	各自の気に入った日商簿記検定2級関連テキスト				
オフィスアワー	非常勤講師ゆえ、金曜日4限授業終了後に授業講堂にて受け付ける（事前にメールでアポイントが必要）。なお、スポーツ系クラブ所属学生と就職活動に忙しい4年生については相談に乗るが、原則メールでの対応になる（すぐには返事できない場合あり）。 メールアドレス：hirofuna@musashino-u.ac.jp（本務校；武蔵野大学）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス（工業簿記と商業簿記）、簿記実務電卓カシオ・AZ-26Sの紹介
	事後学習	履修すると決めたら、テキストを購入し、電卓を用意すること。簿記実務電卓カシオ・AZ-26S購入希望者は購入方法にしたがって購入すること。（2時間）
2	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	原価計算総論（工業簿記と原価計算）
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
3	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	原価の概念と原価計算
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
4	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	工業簿記の構造
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）

5	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	材料費の基礎
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
6	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	材料費の応用
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
7	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	労務費の計算
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
8	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	労務費の予定価格法、経費の計算
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
9	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	製造間接費の計算と記帳
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
10	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	製造間接費の予定配賦
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
11	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	原価の部門別計算
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
12	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	原価の部門別計算
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
13	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	個別原価計算
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
14	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	製造原価報告書の基本
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
15	事前学習	授業内試験に向けた準備をしておくこと。（3時間）
	授業内容	授業内試験（60分）と試験の解説（25分）および後期に向けて（5分）
	事後学習	試験について自己採点し、今後の学習に役立てること。（1時間）

科目名	原価計算論Ⅱ	担当者	船越 洋之	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	製造業企業の製造活動について、原価計算論Ⅰで学習した内容を土台にして、工業簿記や原価計算の専門領域の応用知識・計算技法を用いてその発展的内容を学習する。日商簿記検定２級レベルの学習を念頭においている。簿記原理で学ぶ商業簿記を前提にしているが、ここではもっと専門的な知識と計算技法を学ぶので、予習復習は欠かせない。				
授業目的・到達目標	国内外の製造業企業活動の現状を貨幣数値を用いて理解し、その結果について分析や説明を行える力を養成することを目的とする。製造業企業の製造活動の成果である製品に関して、その製造コスト（製造原価）をどのように測定・計算するのかをテーマに、主として工業簿記のしくみと基本的な計算技法（日商簿記検定２級レベル）を中心に理解し、説明できることを到達目標とする。これにより、工業簿記と原価計算の基礎知識が身につくようになる。				
履修条件	関連DP及びCP：経営法学科1～4、 教科書を必ず購入し、無断欠席をしない者。日商簿記検定２級に興味のある者。体育会系部活所属学生と4年生については、相当の覚悟を持って勉強をしないと単位修得は難しいと思う。簿記原理を履修していることが望ましい。				
授業方法	教科書を使用する講義形式だが、問題演習（適宜プリント配付）も行うので、教科書・ノート・電卓（８桁以上）を持参すること。スマホで板書を撮影することは絶対にしないこと。なお、続けて休むとプリントをもらえない。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	復習をしているかの確認のために授業内ミニテストを予告なしに実施する。ミニテストと最終テストで評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2013年	中央経済社		原価計算ガイダンス（ISBN:9784502465802）	柳田仁編著
	備考	前期の原価計算論Ⅰで使用した教科書を引き続き使用する。			
参考書	各自の気に入った日商簿記検定２級関連テキスト				
オフィスアワー	非常勤講師ゆえ、金曜日４限授業終了後に授業講堂にて受け付ける（事前にメールでアポイントが必要）。なお、スポーツ系クラブ所属学生と就職活動に忙しい4年生については相談に乗るが、原則メールでの対応になる（すぐには返事できない場合あり）。 メールアドレス：hirofuna@musashino-u.ac.jp（本務校；武蔵野大学）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期で学んだことを復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	前期の復習、製造間接費配賦差異の細分析
	事後学習	日商簿記2級受験希望者は、勉強の計画を立てること。それ以外の学生は授業内容を復習しておくこと。（2時間）
2	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	日商簿記2級レベルの製造原価報告書、損益計算書
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
3	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	総合原価計算の基礎（単純総合原価計算）
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
4	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	総合原価計算の応用（減損・仕損）
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）

5	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	工程別総合原価計算
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
6	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	組別総合原価計算
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
7	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	等級別総合原価計算、総合原価計算のまとめ
	事後学習	配付したプリントを復習すること。（2時間）
8	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	標準原価計算の基礎、標準直接材料費差異
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
9	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	標準直接労務費差異、標準製造間接費差異
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
10	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	標準製造間接費差異、標準原価計算総合問題
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
11	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	標準原価計算の記帳（パーシャルプラン）
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
12	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	直接原価計算
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
13	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	短期利益計画とCVP分析
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
14	事前学習	テキストの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	CVP分析と原価予測の方法
	事後学習	配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
15	事前学習	試験に向けた準備をしておくこと。（3時間）
	授業内容	授業内試験（60分）、試験の解説（25分）、日商簿記2級受験のアドバイス（5分）
	事後学習	試験について自己採点し、今後の学習に役立てること。（1時間）

科目名	現代行政論Ⅰ	担当者	上村 進	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代行政は、多様な利害関係の中で、多くのアクターが互いに交渉・調整を繰り返しながら展開されるダイナミックな過程である。本講では、特に近年、行政と民間セクターの間にあって、公共的課題解決のために不可欠となっている住民参加、官民協働、NPO、ソーシャルビジネスに焦点を当てた講義を行う。講義に当たっては行政官としての経験に基づき、具体的なケースを素材として提供する。				
授業目的・到達目標	近年、民間セクターを巻き込んで、ネットワーク化が急速に進展する現代行政の特質や運営実態等を、直面する諸課題との関連の中で具体的イメージをもって把握できるようにすることを目的とし、将来の公共政策課題解決の担い手としての基礎的能力を育成することを目標とする。 関連DP及びCP：公共政策学科1, 2, 3, 4				
履修条件	特になし				
授業方法	講義形式。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		90%		
	平常評価		10%	授業への参加度（5%）、講義中の質問・意見等（5%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特に指定しない。			
参考書	テキストブックNP0 第2版-非営利組織の制度・活動・マネジメント 雨森孝悦著 東洋経済新報社2012年 その他授業内で適宜指示する。				
オフィスアワー	水曜日 2 限。（休暇中を除く。事前にメールにて要アポイントメント） 研究室 本館6階 1604号室 メールアドレス：kamimura.susumu@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	（各回共通）シラバスをよく読むこと。また日頃より新聞・ニュースの政治・行政関連記事は常にフォローしておくこと。市民としての感覚・行政者としての知見を持つことが肝要である（2時間）。
	授業内容	【ガイダンス、官民連携（PPP）総論】 現代社会において、公共課題解決の担い手が行政のみにとどまらず、民間企業、各種法人、住民等にまで広がりを見せている理由はなにか、官民はどのように連携すべきか、その政策的意義は何か等について学習し、今後の授業聴講・自習に必要な基礎的な概念を身に付ける。
	事後学習	講義で紹介された文献・資料等を収集する（2時間）。
2	事前学習	なぜ現代行政において官民連携が必要となってきたのか、その背景事情は何か？あなたの考えをまとめ、発言できるようにしておく（2時間）。
	授業内容	【官民連携の諸相①（PFIの基礎概念）】 公共的な事業に民間資金を導入するPFIの意義とは何か、なぜそれが必要なのか、民間企業等はなぜ資金を投じて公的分野に参入するのか、制度・運営の概要を学習する。
	事後学習	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
3	事前学習	刑務所の民営化は可能か？なぜ民間企業が刑務所の運営に参画できるのか？あなたの考えをまとめておく（2時間）。
	授業内容	【官民連携の諸相②（PFIの事例１：刑務所等）】 公権力行使の典型である矯正事業に民間企業が参入する意義は何か。運営の実態はどうなっているのか具体的事例に基づき学習し、PFIの本質を考察する。
	事後学習	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておくこと（2時間）。

4	事前学習	関西国際空港や仙台空港の「経営主体」はどこか？事前に調べておく（2時間）。
	授業内容	【官民連携の諸相③（PFIの事例2：空港・道路等）】 本講ではコンセッション方式など巨大インフラに対するPFI手法を学ぶ。なぜ多額の赤字を計上する空港事業等に民間企業が参入するのか、その意義・制度の仕組み・実態等を検証する。
	事後学習	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
5	事前学習	講義で扱うもの以外にPFIにどのような事例があるか最近の新聞報道等から把握し、その特徴を自分の言葉で発言出来るようにしておく（2時間）。
	授業内容	【官民連携の諸相④（PFIの事例3：上下水道・公園等）】 最近のPFI等では、住民の健康・生活に直結するライフライン関連事業等もその範囲に含まれつつある。他方で、これに対し事業運営の安定性、サービス品質等への懸念からの議論も行われているところである。本講ではこうした事業の実例を取り上げ、その実情を検証する。
	事後学習	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
6	事前学習	あなたが日常的に行政の現場で接する職員は、いわゆる「公務員」なのか、それとも「民間」の職員なのか、可能な限り事例を収集し、説明できるようにしておく（2時間）。
	授業内容	【官民連携の諸相⑤（第三セクター、指定管理者制度、市場化テスト）】 本講では、すでに定着した官民連携の各種仕組みにより自治体の施設運営等は現在、多くが公務員以外の民間主体により実施されているが、他方でその問題点も指摘されている。本講ではその実態や改善点等を考察する。
	事後学習	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。。
7	事前学習	あなたの居住自治体のHP等を調べ、あなたの意見を行政に反映させる手段としてどのようなものがあるか調べておく（2時間）
	授業内容	【官民連携の諸相⑥（住民意見の把握と社会的合意形成）】 近年の政策決定過程においては、説明責任（アカウンタビリティ）が問われるのみならず、住民等の具体的な参画の程度が重要になってきている。そのための仕組みとしてワークショップ、住民協定、パブリックコメントなどについて学ぶ。
	事後学習	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
8	事前学習	住民が政策決定・実施に直接参画する制度・手段としてどのようなものがあるか、行政学・地方自治論のテキスト等で学習しておく（2時間）。
	授業内容	【官民連携の諸相⑦（住民参加・外国事例）】 住民が実際に公共政策実施の現場に参加するとはどういう意味か、その意義・現状等について学習する。事例として住民による税金の使途決定制度、小規模工事等への直接参加などを取り上げる。併せて諸外国の官民連携事例としてドイツのシュタットベルケなどの仕組みを学ぶ。
	事後学習	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
9	事前学習	行政、民間に次ぐ第三の公共的アクターとして非営利組織等がクローズアップされてきた理由について、考えをまとめておく（2時間）。
	授業内容	【NPO論①（総論・現状）】 いわゆる非営利組織とは何か、営利組織との違いを中心にその概念・制度・機能等について学習する。特に本講ではNPO法人（特定非営利活動法人）に焦点を当てて、その意義・特徴・法制度などを学ぶ。
	事後学習	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
10	事前学習	社会福祉施設等の運営主体にはどのようなものがあるか、複数事例に当たり、その類型を把握しておく（2時間）。
	授業内容	【NPO論②（各分野でのNPOの活動1）】 NPOの主要活動領域は、「人」を対象とするいわゆるヒューマンサービス分野である。本講では、高齢者福祉、障害者支援、不登校など教育問題、子育て支援などの領域におけるNPOの活動実態と課題等について学習する。
	事後学習	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
11	事前学習	NPOの様々な活動実態を把握し、自助・共助の観点からこれらを行政の補完的活動とみなして良いのか考えをまとめる（2時間）。
	授業内容	【NPO論③（各分野でのNPOの活動2）】 災害時における避難所運営・コミュニティ再生、住民主体のまちづくり支援などの分野におけるNPOの活動実態と課題等について学習する。
	事後学習	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
12	事前学習	国際的に有名なNPO・NGOの名称を挙げられるようにしておくこと。このためにも海外のニュース番組を視聴したり政治経済雑誌などを読んでおき、日頃より情報収集しておく（2時間）。
	授業内容	【NPO論④（世界のNPO）】 米英仏の非営利組織の制度・現状等を日本と比較することによって、我が国NPOの問題点等を考察する。素材としては米国のNPO、英国のチャリティ、コミュニティ利益会社（CIC）、フランスのアソシアションなどを取り上げる。
	事後学習	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
13	事前学習	「非営利組織」において事業収益の追求は許されるか？その意義とはなにか？あなたの考えをまとめておく（2時間）。
	授業内容	【NPO⑤（ソーシャルビジネス）】 「新しい公共」分野で発展が期待されているソーシャルビジネスとは何か、NPOとは何が違うのか等について、ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行の例などに基づき学習する。併せて、近年社会的課題解決のための資金調達手段として注目を集めている「ソーシャル・インパクト・ボンド」についてその概念・仕組みを学習する。
	事後学習	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。

14	事前学習	あなたが日頃、サークル・バイト先・ゼミなどの運営・マネジメントについて感じている疑問や要改善点などについて発言できるように考えをまとめておく（2時間）。
	授業内容	【NPO論⑥（NPO等のマネジメント1）】 NPOの実際の運営に当たっては、一般の営利企業と異なる特有のマネジメント手段が要求される。本講では、そのうちミッション（使命）の重要性、リーダー論、意思決定手法、イノベーション手段などについて学習する。
	事後学習	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
15	事前学習	可能な範囲で人材マネジメント論・リーダーシップ論などの文献に目を通した上で、「自分がNPO職員だったら」という当事者意識をもって授業に参加できるようにする（2時間）。
	授業内容	【NPO論⑦（NPO等のマネジメント2）】 前講に引き続き、NPOに特有のマネジメント方策として、各種ステークホルダー（利害関係者）との対外関係管理、職員・ボランティア等に係るチーム作り、財務管理等について学習する。
	事後学習	講義内での紹介事例・文献等を各自で確認しておく（2時間）。

科目名	現代行政論Ⅱ	担当者	上村 進	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	講義前半では、公共政策を実際に担当する公務員の勤務状況の実態・問題点・改善方向などを学ぶ。 講義後半では具体的に公務員が働く現場で政治サイドと公務員がどのように関係し、影響し合うのかを歴史の変遷・立法過程における実例などを通して学び、我が国政治行政システムの特異性を明らかにする。講義に当たっては行政官としての経験に基づき、具体的なケースを素材として提供する。				
授業目的・到達目標	将来の進路に関わらず、今後社会生活を送る中で公共分野におけるアクターがどのような実態にあり、いかなる原理で機能しているのか具体的イメージを持って想起できるように育成することを目的とし、併せて将来の職業生活において本来あるべき働き方とはどのようなものなのか、自ら判断し構想できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：公共政策学科1, 2, 3, 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		90%		
	平 常 評 価		10%	授業への参加度（5%）、講義中の質問・意見等（5%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特に指定しない			
参 考 書	授業中に適宜提示する。				
オフィス アワー	水曜日2限。（休暇中を除く、事前にメールにて要アポイントメント）研究室（本館6階 1604号室）メールアドレス：kamimura_susumu@nihon-u.ac.jp)				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、授業概要、目的等を理解する(2時間)。
	授業内容	【講義の概要等】 授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義で紹介された文献・資料等を収集する（2時間）。
2	事前学習	国家公務員の種類にはどのようなものがあるか、また、それぞれにどのような特徴があるか各自で調べる（2時間）。
	授業内容	【公務員の勤務実態と働き方改革①（国家公務員１）】 近年、我が国において「働き方改革」や「ワーク・ライフ・バランス」が重要課題となった理由・背景事情を学ぶ。さらに公務員特有の事情が長時間労働・非効率な働き方に拍車をかけている状況を考察する。本講では、国家公務員に焦点を当て、その勤務実態及びこれに対する改革への取り組み経緯について学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
3	事前学習	事前配布されたレジュメを予め読み込み、授業内で積極的に発言できるようにする（2時間）。
	授業内容	【公務員の勤務実態と働き方改革②（国家公務員２）】 国家公務員の働き方改革のため取り組まれている具体的方策を考察する。特にフレックス・タイム制、テレワーク、IT化等による業務効率化、管理職の意識改革・マネジメント能力向上等について学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。

4	事前学習	事前配布されたレジュメを予め読み込み、授業内で積極的に発言できるようにする（2時間）。
	授業内容	【公務員の勤務実態と働き方改革③（地方公務員1）】 地方公務員の勤務実態、働き方改革のための取組事例を取り上げる。特に近年の人事評価制度の開始、非常勤職員の制度見直しについては詳細に学習する。さらに最近、特に深刻化が指摘される教員の長時間労働等の勤務実態について分析し、その改革方策を考察する。
	事後学習	その後の報道等を適宜フォローする（2時間）。
5	事前学習	事前配布されたレジュメを予め読み込み、授業内で積極的に発言できるようにする（2時間）。
	授業内容	【公務員の勤務実態と働き方改革④（地方公務員2）】 地方公務員に対しては長時間労働等もさることながら、彼らの「やり甲斐喪失」、「士気低下」等が、より深刻な問題として指摘されている。本講では、こうした問題が発生する背景事情として地方公務員独自の要因があることを明らかにし、これを改善するためにとるべき対策について考察する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
6	事前学習	報道等で官民それぞれの女性登用等の実態を調べる（2時間）。
	授業内容	【公務員の勤務実態と働き方改革⑤（女性活躍推進施策）】 我が国の働き方改革の中でも特に課題となっている「女性活躍」について、その意義・重要性、女性登用が遅れてきた理由、現在取り組まれている対策等について学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
7	事前学習	過去の報道等により普天間基地問題の経緯・現状を調査し、何が問題なのか授業内で発言できるようにする（2時間）。（2時間）。
	授業内容	【現代行政のトピック：普天間基地の辺野古移設問題】 本講では、講義の中間点として時事トピックを取り上げる。辺野古移設問題は、我が国行政の歴史上稀にみる国—地方の深刻な対立を招いているが、なぜこのような事態が起こったのか、経緯等を確認する。さらに国・県の双方が繰り出している不服審査、執行停止請求、国—地方係争委員会提訴などの内容を学習する。
	事後学習	その後の報道等を適宜フォローする（2時間）。
8	事前学習	憲法や内閣法で規定された立法府と行政府の関係等を把握しておく（2時間）。
	授業内容	【政治行政関係1（基礎理論）】 政治行政分離論・融合論などの様々な見解や、本人・代理人理論等の分析ツールを学び、我が国の政治行政関係をめぐる諸論点を多角的に考察する。併せて、過去に取り組まれてきた「政治主導」への試みを概観し、その功罪を探る。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
9	事前学習	授業内で指定する参考文献等により、いわゆる「官邸主導」とは何か、把握して授業に臨む（2時間）。
	授業内容	【政治行政関係2（政治任用とは何か）】 「政治任用」とは何か、その機能・問題点とは何か、我が国における政治任用の態様はどうか、昨今取り沙汰される公務員の「政治化」の問題点とは何か等を学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
10	事前学習	授業内で指定する参考文献等により、諸外国の政治体制等を把握して授業に臨む（2時間）。
	授業内容	【政治行政関係3（諸外国の状況）】 米英仏の公務員制度を概観し、それぞれの政治任用の在り方の違いについて学習する。さらに、このような政治任用形態の差異が、各国の政体・政治文化、歴史的経緯、国民意識をどのように反映して発生したものであるか確認し、これらと我が国の現行システムを比較することにより、日本官僚制の特質を浮き彫りにする。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
11	事前学習	可能な範囲で日本史の教科書等により明治期以降の我が国政治体制の変遷等を把握する（2時間）。）。
	授業内容	【政治行政関係4（戦前日本の政治任用等）】 戦前期我が国の政治任用制は現行システムと大きく異なるのみならず、絶えず制度改正・運用変化を続け大きな変遷を見せている。本講では、こうした経緯を当時の社会経済情勢・政治的文脈と関連付けて学び、今日の政治任用と比較することで、現行システムの特異性を検証する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
12	事前学習	可能な範囲で日本史の教科書等によりGHQによる戦後占領政策の概要を把握する（2時間）
	授業内容	【政治行政関係5（戦後の政治任用制と政官関係）】 我が国の現行政治任用制はGHQによる占領政策にその基本的淵源を求めることができる。本講では、その経緯・GHQの思惑、当時の関係者の立場等を跡付けることにより、なぜ我が国官僚制が今日みるような世界的・歴史的に特異な姿となったか、その原点を探る。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
13	事前学習	可能な範囲で行政学、立法過程論、国会論のテキスト等により法案提出の政府内プロセスについて把握する（2時間）。
	授業内容	【立法過程と官僚1（与党事前審査制・国会審議）】 古典的政治学・行政学にみるような「政治＝立法」、「行政＝法執行」という役割分担は我が国には全く妥当しない。現実にも効的な法案のほとんどを立案するのは官僚であり、そのプロセスで政治・関係者との調整役を担うのも官僚である。本講では、こうした官僚の「政治的」役割が典型的に顕現する与党事前審査・国会審議の実態を学ぶ。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。

14	事前学習	可能な範囲で行政法のテキスト等により個人情報保護法の概要を把握する（2時間）。
	授業内容	【立法過程と官僚2（個人情報保護法）】 前講で学んだ法案作成過程における官僚の役割について、具体的ケース（個人情報保護法制定）に即して分析する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
15	事前学習	可能な範囲で行政法のテキスト等により行政手続法・行政不服審査法の概要を把握する（2時間）。
	授業内容	【立法過程と官僚3（行政手続法・行政不服審査法）】 前講に引き続き、法案作成過程における官僚の役割について、行政手続法の制定過程及び行政不服審査法の全面改正プロセスに即して分析する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認する（2時間）。

科目名	現代政治理論	担当者	岩崎 正洋	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業は、「現代「政治学」の基本的な知識をできるだけ幅広く、体系的に、しかも正確に伝えることを企図している。そのために、講義においては、現代政治学の主要な政治学者の理論について解説し、検討を行うこととする。				
授業目的・到達目標	本講義では、現代政治学の基本的な理論の検討を通して、「政治学は現実政治を考える上で、どのように役立つのか」という問題を考える能力を養成することを目的とする。この講義で解説する現代政治学のさまざまな理論は、現実の政治を理解するための視点を提供することになるだろう。授業を通して、現実政治と政治理論との両者に目を向け、両者の間を架橋することが出来るような視点をもつことができるようにすることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1,2 政治経済学科1,3 新聞学科1,5 公共政策学科1,2,3,4				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式で行う。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	授業内容に関して、正確な理解がなされているか否か確認する。	
	平常評価				
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特定の一冊の教科書に依拠して授業を行うわけではないため、参考書や授業中に紹介する文献をよく読む必要がある。			
参考書	白鳥令編『現代政治学の理論』（上・下・続）早稲田大学出版部、1981～1985年。白鳥令・曾根泰教編『現代世界の民主主義理論』新評論、1984年。岩崎正洋『比較政治学入門』勁草書房、2015年。				
オフィスアワー	月曜日12：10～13：00 研究室（4号館2階425）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	参考書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	イントロダクション（授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
2	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	民主主義とは何か
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
3	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	古典的民主主義と現代民主主義
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
4	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	J. A. シュンペーターの競合的エリート民主主義理論
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）

5	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	G. サルトーリの選挙によるポリアーキー論
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
6	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	C. ペイトマンの参加民主主義理論
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
7	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	A. ダウンズの民主主義の経済理論
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
8	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	S. M. リブセットの社会経済発展と民主主義の理論
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
9	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	R. A. ダールの多元的民主主義理論
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
10	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	A. レイブハルトの多数代表型・合意形成型民主主義理論
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
11	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	T. ロウィの依法的民主主義理論
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
12	事前学習	教授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	S. P. ハンチントンの民主主義の統治能力論
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
13	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	J. フィシュキンの討論民主主義理論
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
14	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	P. ロザンヴァロンの対抗民主主義理論
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
15	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	今学期のまとめ
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）

科目名	現代政治理論	担当者	吉野 篤	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	政治理論とは何かを導入部分にして、主としてアメリカの政治研究の歴史的足跡をたどり、理論的発展がどのようになされたのかについて、具体的事例に沿って授業を行う。					
授業目的・到達目標	政治理論の意義・有意性などを把握できるような能力を養成することを目的とする。 政治の原理・原則などをとくに理論的また歴史的につかむことができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 2 政治経済学科1, 3 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 2, 3, 4					
履修条件	政治学原論の履修が基本的には前提となる。					
授業方法	講義形式で行う。併せて、現在の政治問題を認識するために、新聞報道を適宜素材として用いる。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		90%		問いに対して的確に答えているか、論理的な構成になっているか。	
	平 常 評 価		10%		授業への参加度	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019年度	弘文堂		N e x t 教科書シリーズ 政治学 第2版		吉野篤編
	備考					
参 考 書	授業時にその都度指示する。					
オフィスアワー	火曜日2時限→直接8階研究室を訪ねること。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	一般に理論とは何か、「政治の」理論とは何かについて自分なりに考えておくこと(2時間)
	授業内容	政治理論とは何か
	事後学習	講義の内容を踏まえて、理論についての理解度を深めること(2時間)
2	事前学習	19世紀イギリスの置かれた政治状況を調べておくこと(2時間)
	授業内容	19世紀の政治哲学：イギリス理想主義の政治哲学
	事後学習	時代の転換期に政治研究がどのように対応したのか、講義を踏まえて整理すること(2時間)
3	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、事前に問題点を頭に入れておくこと(2時間)
	授業内容	政治過程論の生成：A・ベントレーの『政治過程論』
	事後学習	講義の内容を確認してノートに改めて整理し、問題点を把握すること(2時間)
4	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、事前に問題点を頭に入れておくこと(2時間)
	授業内容	K・マンハイムの『イデオロギーとユートピア』：「政治学は科学として可能であるか」を中心に
	事後学習	講義の内容を確認してノートに改めて整理し、問題点を把握すること(2時間)

5	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、事前に問題点を頭に入れておくこと(2時間)
	授業内容	シカゴ学派の問題意識：全体的立場と具体的な成果—H・ラズウェルの政治的精神分析学を中心に
	事後学習	講義の内容を確認してノートに改めて整理し、問題点を把握すること(2時間)
6	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、事前に問題点を頭に入れておくこと(2時間)
	授業内容	行動論政治学の登場：全体的特徴と課題
	事後学習	講義の内容を確認してノートに改めて整理し、問題点を把握すること(2時間)
7	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、事前に問題点を頭に入れておくこと(2時間)
	授業内容	D・イーストンの「政治システム論」
	事後学習	講義の内容を確認してノートに改めて整理し、問題点を把握すること(2時間)
8	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、事前に問題点を頭に入れておくこと(2時間)
	授業内容	脱行動論革命の衝撃：「政治学における新しい革命」
	事後学習	講義の内容を確認してノートに改めて整理し、問題点を把握すること(2時間)
9	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、事前に問題点を頭に入れておくこと(2時間)
	授業内容	脱行動論段階の新たな研究動向
	事後学習	講義の内容を確認してノートに改めて整理し、問題点を把握すること(2時間)
10	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、事前に問題点を頭に入れておくこと(2時間)
	授業内容	政治制度研究の系譜①—プラトン・アリストテレス
	事後学習	講義の内容を確認してノートに改めて整理し、問題点を把握すること(2時間)
11	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、事前に問題点を頭に入れておくこと(2時間)
	授業内容	政治制度研究の系譜②—マキャベリ
	事後学習	講義の内容を確認してノートに改めて整理し、問題点を把握すること(2時間)
12	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、事前に問題点を頭に入れておくこと(2時間)
	授業内容	新制度論の分析枠組み総論
	事後学習	講義の内容を確認してノートに改めて整理し、問題点を把握すること(2時間)
13	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、事前に問題点を頭に入れておくこと(2時間)
	授業内容	新制度論の分析枠組み①：歴史的制度論
	事後学習	講義の内容を確認してノートに改めて整理し、問題点を把握すること(2時間)
14	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、事前に問題点を頭に入れておくこと(2時間)
	授業内容	新制度論の分析枠組み②：合理的選択制度論
	事後学習	講義の内容を確認してノートに改めて整理し、問題点を把握すること(2時間)
15	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、事前に問題点を頭に入れておくこと(2時間)
	授業内容	新制度論の分析枠組み③：社会学的制度論
	事後学習	講義の内容を確認してノートに改めて整理し、問題点を把握すること(2時間)

科目名	現代メディア社会論Ⅰ	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	メディア環境が変化し、かつて受け手や情報の消費者だった立場が、SNSによって容易に送り手・発信者となれる現状がある。 その為、送り手や作る側からの視点を織り交ぜながらWeb業界や具体的な既存メディアを業界別に研究し、メディアの現状と課題を知る。同じ「現代メディア社会論Ⅰ」と合同講義を2回行う。					
授業目的・到達目標	メディアが多様化するなかで、その環境は私たちの生活環境、社会環境と限りなく重複している。この講義では、Webや既存メディアの現状と課題を理解し、日本及び世界の法、政治、行政、経済、とジャーナリズム、メディアの仕組みを複合的にとらえ、それが直面している問題を理解し説明することができる人材を養成することを目的とする。 社会人として必要な社会科学の知識を修得、法令順守、高い倫理観に基づいて、幅広い基礎知識と認識を習得できることを目標とする。 関連DP及びCP：新聞学科1，2					
履修条件	新聞学科に在籍する者、またはメディア、コミュニケーション、ジャーナリズムに強い関心と研究心を持つ者。					
授業方法	前期は教科書中心、映像や統計資料を適宜使用する。また、授業日毎に授業の疑問点や意見、感想などを書く「リアクションペーパー」を提出させる。その内容を分析し、授業の理解度や、難しかった内容等を確認、再度受講生に示す。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業内のレポート、試験。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2012年初版	NHKブックス1196		図説 日本のメディア		藤竹 暁
	備考					
参考書	伊藤守編『よくわかるメディア・スタディーズ』ミネルヴァ書房 橋元良明『メディアと日本人』岩波新書1298 佐藤卓己『メディア社会』岩波新書1022					
オフィスアワー	水曜4限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を購入して、目次を読んでおく、また、自分の興味のある分野を読んでおく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 今後の講座の進め方、合同講義、映像使用など。
	事後学習	授業進め方を受けて今後の授業の実施予定と授業日を調べ、自分なりの計画を立てる。（2時間）
2	事前学習	テキストP15～31を読んでおく。（2時間）
	授業内容	現代メディアの多様性【テキストp.15-31】
	事後学習	この講座テキスト「図説 日本のメディア」編著者 藤竹 暁氏の研究考え方が良く出ていて藤竹氏自身が書いた文章である。「送り手と受け手」といった従来のマスメディアとオーディエンスの二分法は成り立たなくなり、Webでは誰もが発信者者になれる為、その責任も生じることを考えておく。（2時間）
3	事前学習	テキストp.236～261 を読んでおく（2時間）
	授業内容	現代メディアの利用と環境【テキストp.236-261】：メディア利用と統計と自分のメディア利用を比較する
	事後学習	様々なメディアと人々がどう接しているか統計から読み解く章であったが、今後、大学の研究ではこうした発表統計や調査結果を複数使用し、数字から読み取れる様々な事象を比較検討する事を行う。表やグラフなどからどのような事が読み取れるかを今後応用する。（2時間）
4	事前学習	テキストp.34～56 を読んでおく。また、前日、当日の新聞を読んでおく。（2時間）
	授業内容	新聞の多様性と仕組み【テキストp.34-56】
	事後学習	日本の新聞史、新聞社の組織を理解しておく。学生諸君が何故、新聞を読まなくなったか、また新聞はなくなってしまっても良いのかも考察しておく。（2時間）

5	事前学習	テキストp. 56～64を読んでおく。また、前日、当日の新聞を読んでおく。（2時間）
	授業内容	ビジネスとしての新聞【テキストp. 56-64】
	事後学習	新聞社の経営（新聞は紙面製作と販売は別々に行われる）の特徴を知る。また、Web化を進めているが、簡単にすべてWebにはならない理由を知っておく。（2時間）
6	事前学習	マスコミュニケーションが成立するためには、どのような社会状況や条件が必要か調べ、考えてみる。（2時間）
	授業内容	マス・コミュニケーションの成立と近代 レポート課題提出
	事後学習	レポート課題について、調べたことと自らの考察は、分けて書く事。（2時間）
7	事前学習	映画『薔薇の名前』について内容と中世の書物はどう扱われ、当時のどんな階層が読んでいたか調べておく。講義講堂が普段と変わる場合があるので注意する事。（2時間）
	授業内容	合同開催講座　映画『薔薇の名前』一部上映：中世と書物の世界
	事後学習	映画の中で出てくる「情報・知識」としての書物が当時どんな意味を持っていたかを考察する。また、受講生同士で映画の感想を話してみる。筋立てや、映像の写し方、セリフ回し等を含め全体の印象を討論してみる。（2時間）
8	事前学習	テキストp. 75～96について読んでおく（2時間）
	授業内容	テレビの制度と構造【テキストp. 75-96】学ぶ。
	事後学習	日本で65年以上が経つテレビ放送の歴史と発達変化、売上等の変化を知る。いままでのビジネススタイルは何故通用しなくなった来たかも合わせて知っておく。（2時間）
9	事前学習	テキストp. 96-117について読んでおく。（2時間）
	授業内容	テレビを観ること作ること【テキストp. 96-117】
	事後学習	テレビの番組編成と災害時の情報源としての放送について考える。Web、SNSの発達との関係と役割のすみわけ等による情報の効率的な取得方法も考えてみる。（2時間）
10	事前学習	映画『グッドナイト&グッドラック』について内容を調べ、「赤狩り」・レッドパージ（red purge）とは何か知っておく。講義講堂が普段と変わる場合があるので注意する事。（2時間）
	授業内容	合同開催講座　映画『グッドナイト&グッドラック』：表現の自由とニュース
	事後学習	映画の内容と、表現の自由について考察する。（2時間）
11	事前学習	テキストp. 65～74、p. 181～205を読んでおく。（2時間）
	授業内容	インターネットの普及と利用【テキストp. 181-205】 インターネットの普及とマス・メディア【テキストp. 65-74】 授業内レポート課題発表
	事後学習	新聞のデジタル化とインターネット利用について。合わせてインターネット利用の注意点と弊害も考える。（2時間）
12	事前学習	テキストp. 263～281を読んでおく。（2時間）
	授業内容	ソーシャルメディアと社会【テキストp. 263～281】
	事後学習	SNSは普段自分が使用しているものだが、落書きのように発信したものが、瞬時に世界を駆け巡る能力がある。年代別利用は若者はもちろん多いが、若者でもほとんど使わない人もおり、高齢層でも使っている人もいる。（2時間）
13	事前学習	テキストp. 119～148、p. 207～234を読んでおく。（2時間）
	授業内容	出版／広告　業界の概要　【テキストp. 119～148、p. 207～234】
	事後学習	出版、広告業界もWebの波に押されている。特に変化の激しい広告業界は、伝統的な看板からスマートフォン利用の広告まで幅広い。業界の変化が速さを増していることを知る。（2時間）
14	事前学習	これまでの授業の内容をまとめ、自分の意見を付けておく。（2時間）
	授業内容	授業内レポート執筆（60分）及びまとめ、振り返り、レポートの書き方を示す。
	事後学習	書いたレポートの内容についてもう一度確認しておく。（2時間）
15	事前学習	フェイクニュースとは何か調べておく。（2時間）
	授業内容	「フェイク・ニュース」及び本講座のまとめ
	事後学習	「現代メディアの概論」としての本講座Ⅰを今後の学習研究に役立てるためにまとめておく。（2時間）

科目名	現代メディア社会論Ⅰ	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	メディア環境が変化し、かつて受け手や情報の消費者だった立場が、SNSによって容易に送り手・発信者となれる現状がある。 その為、送り手や作る側からの視点を織り交ぜながらWeb業界や具体的な既存メディアを業界別に研究し、メディアの現状と課題を知る。同じ「現代メディア社会論Ⅰ」と合同講義を2回行う。				
授業目的・到達目標	メディアが多様化するなかで、その環境は私たちの生活環境、社会環境と限りなく重複している。この講義では、Webや既存メディアの現状と課題を理解し、日本及び世界の法、政治、行政、経済、とジャーナリズム、メディアの仕組みを複合的にとらえ、それが直面している問題を理解し説明することができる人材を養成することを目的とする。 社会人として必要な社会科学の知識を修得、法令順守、高い倫理観に基づいて、幅広い基礎知識と認識を習得できることを目標とする。 関連DP及びCP：新聞学科1，2				
履修条件	新聞学科に在籍する者、またはメディア、コミュニケーション、ジャーナリズムに強い関心と研究心を持つ者。				
授業方法	前期は教科書中心、映像や統計資料を適宜使用する。また、授業日毎に授業の疑問点や意見、感想などを書く「リアクションペーパー」を提出させる。その内容を分析し、授業の理解度や、難しかった内容等を確認、再度受講生に示す。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業内のレポート、試験。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2012年初版	NHKブックス1196		図説 日本のメディア	藤竹 暁
	備考				
参考書	伊藤守編『よくわかるメディア・スタディーズ』ミネルヴァ書房 橋元良明『メディアと日本人』岩波新書1298 佐藤卓己『メディア社会』岩波新書1022				
オフィスアワー	月曜～木曜日の13：00～18：00 授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。 対面質問も受けるが、メールで日時予約が条件。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を購入して、目次を読んでおく、また、自分の興味のある分野を読んでおく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 今後の講座の進め方、合同講義、映像使用など。
	事後学習	授業進め方を受けて今後の授業の実施予定と授業日を調べ、自分なりの計画を立てる。（2時間）
2	事前学習	テキストP15～31を読んでおく。（2時間）
	授業内容	現代メディアの多様性 [テキストp. 15-31]
	事後学習	この講座テキスト「図説 日本のメディア」編著者 藤竹 暁氏の研究考え方が良く出ていて藤竹氏自身が書いた文章である。「送り手と受け手」といった従来のマスメディアとオーディエンスの二分法は成り立たなくなり、Webでは誰もが発信者者になれる為、その責任も生じることを考えておく。（2時間）
3	事前学習	テキストp. 236～261 を読んでおく（2時間）
	授業内容	現代メディアの利用と環境 [テキストp. 236-261] ：メディア利用と統計と自分のメディア利用を比較する
	事後学習	様々なメディアと人々がどう接しているか統計から読み解く章であったが、今後、大学の研究ではこうした発表統計や調査結果を複数使用し、数字から読み取れる様々な事象を比較検討する事を行う。表やグラフなどからどのような事が読み取れるかを今後応用する。（2時間）
4	事前学習	テキストp. 34～56 を読んでおく。また、前日、当日の新聞を読んでおく。（2時間）
	授業内容	新聞の多様性と仕組み [テキストp. 34-56]
	事後学習	日本の新聞史、新聞社の組織を理解しておく。学生諸君が何故、新聞を読まなくなったか、また新聞はなくなってしまっても良いのかも考察しておく。（2時間）

5	事前学習	テキストp. 56～64を読んでおく。また、前日、当日の新聞を読んでおく。（2時間）
	授業内容	ビジネスとしての新聞【テキストp. 56-64】
	事後学習	新聞社の経営（新聞は紙面製作と販売は別々に行われる）の特徴を知る。また、Web化を進めているが、簡単にすべてWebにはならない理由を知っておく。（2時間）
6	事前学習	マスコミュニケーションが成立するためには、どういう社会状況や条件が必要か調べ、考えてみる。（2時間）
	授業内容	マス・コミュニケーションの成立と近代 レポート課題提出
	事後学習	レポート課題について、調べたことと自らの考察は、分けて書く事。（2時間）
7	事前学習	映画『薔薇の名前』について内容と中世の書物はどう扱われ、当時のどんな階層が読んでいたか調べておく。講義講堂が普段と変わる場合があるので注意する事。（2時間）
	授業内容	合同開催講座　映画『薔薇の名前』一部上映：中世と書物の世界
	事後学習	映画の中で出てくる「情報・知識」としての書物が当時どんな意味を持っていたかを考察する。また、受講生同士で映画の感想を話してみる。筋立てや、映像の写し方、セリフ回し等を含め全体の印象を討論してみる。（2時間）
8	事前学習	テキストp. 75～96について読んでおく（2時間）
	授業内容	テレビの制度と構造【テキストp. 75-96】学ぶ。
	事後学習	日本で65年以上が経つテレビ放送の歴史と発達変化、売上等の変化を知る。いままでのビジネススタイルは何故通用しなくなった来たかも合わせて知っておく。（2時間）
9	事前学習	テキストp. 96-117について読んでおく。（2時間）
	授業内容	テレビを観ること作ること【テキストp. 96-117】
	事後学習	テレビの番組編成と災害時の情報源としての放送について考える。Web、SNSの発達との関係と役割のすみわけ等による情報の効率的な取得方法も考えてみる。（2時間）
10	事前学習	映画『グッドナイト&グッドラック』について内容を調べ、「赤狩り」・レッドパージ（red purge）とは何か知っておく。講義講堂が普段と変わる場合があるので注意する事。（2時間）
	授業内容	合同開催講座　映画『グッドナイト&グッドラック』：表現の自由とニュース
	事後学習	映画の内容と、表現の自由について考察する。（2時間）
11	事前学習	テキストp. 65～74、p. 181～205を読んでおく。（2時間）
	授業内容	インターネットの普及と利用【テキストp. 181-205】 インターネットの普及とマス・メディア【テキストp. 65-74】 授業内レポート課題発表
	事後学習	新聞のデジタル化とインターネット利用について。合わせてインターネット利用の注意点と弊害も考える。（2時間）
12	事前学習	テキストp. 263～281を読んでおく。（2時間）
	授業内容	ソーシャルメディアと社会【テキストp. 263～281】
	事後学習	SNSは普段自分が使用しているものだが、落書きのように発信したものが、瞬時に世界を駆け巡る能力がある。年代別利用は若者はもちろん多いが、若者でもほとんど使わない人もおり、高齢層でも使っている人もいる。（2時間）
13	事前学習	テキストp. 119～148、p. 207～234を読んでおく。（2時間）
	授業内容	出版／広告　業界の概要　【テキストp. 119～148、p. 207～234】
	事後学習	出版、広告業界もWebの波に押されている。特に変化の激しい広告業界は、伝統的な看板からスマートフォン利用の広告まで幅広い。業界の変化が速さを増していることを知る。（2時間）
14	事前学習	これまでの授業の内容をまとめ、自分の意見を付けておく。（2時間）
	授業内容	授業内レポート執筆（60分）及びまとめ、振返り、レポートの書き方を示す。
	事後学習	書いたレポートの内容についてもう一度確認しておく。（2時間）
15	事前学習	フェイクニュースとは何か調べておく。（2時間）
	授業内容	「フェイク・ニュース」及び本講座のまとめ
	事後学習	「現代メディアの概論」としての本講座Ⅰを今後の学習研究に役立てるためにまとめておく。（2時間）

科目名	現代メディア社会論Ⅱ	担当者	米倉 律	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代社会の持つ多種多様面とWebを含むメディアの関わりについて、できるだけ具体的な論点やケースをキーワードとして参照しながら検討・考察を進めていく。学籍番号で分かれる2つの講座が同時進行するが、後学期途中で合同授業を1度開催し「ゲストスピーカー」を招聘する。					
授業目的・到達目標	本講義は、現代社会の多様な諸相とメディアの関わりについて、「情報行動」「グローバル化」「世論」「社会関係資本」などをキーワードにしながら把握・分析し、社会人として必要な社会科学の知識を修得できる人材を育成することを目的とする。 現代社会とメディアのあいだの、複雑で構造的な関係性について認識し、メディアが直面している問題を理解し説明できる事を到達目標とする。					
履修条件	新聞・政治・経済・社会・文化・メディア、コミュニケーション、ジャーナリズムに強い関心と研究心を持つ者。					
授業方法	映像や統計資料を適宜使用する。また、授業日毎に授業の疑問点や意見、感想などを書く「リアクションペーパー」を提出させる。その内容を分析し、授業の理解度や、難しかった内容等を確認、再度受講生に示す。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業期間中に数回のレポートを課す	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない				
参考書	藤竹 暁『図説 日本のメディア』NHKブックス1196 佐藤卓己『メディア社会』（岩波新書）、 橋本良明『メディアと日本人』（岩波新書）ほか、適宜、紹介・指示する。					
オフィスアワー	毎週火曜日の昼休み。研究室は本館7階（1719） できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。 メールアドレスは、yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	現代メディア社会論Ⅰでのメディアの諸問題についてまとめておく。（2時間）
	授業内容	イントロダクション。メディアとは何か、今どんなメディアで情報を得ているか、メディア研究の入り口を示す。
	事後学習	個人・社会・メディアの関わりについて考える。（2時間）
2	事前学習	既存メディアはとWebは社会でどのような位置を占めているか考える。（2時間）
	授業内容	現代社会とメディアの関係 人々とメディアの関わり。現代の特徴。
	事後学習	Webの台頭が著しいが、それに対して既存メディアはどう対処しているか。また、既存メディアの必要性はどうか考える。（2時間）
3	事前学習	マス・コミュニケーションとは何かその成立を調べておく（2時間）
	授業内容	現代人の情報行動①：メディアの大衆化
	事後学習	メディアが大衆化したことでどういう利点と欠点が生まれたかまとめる。（2時間）
4	事前学習	今、自分たちは何のために、どうメディアを利用しているか考えてみる。（2時間）
	授業内容	現代人の情報行動②：メディア利用の個人化・細分化
	事後学習	メディアの個人利用化細分化は社会に何をもたらしているか考える。（2時間）

5	事前学習	「日本人の情報行動調査」（東京大学出版）について概要を知っておく（2時間）
	授業内容	現代人の情報行動③：ネット時代の情報行動
	事後学習	自ら情報に接しているメディアとその接し方について問題点をまとめておく。（2時間）
6	事前学習	社会関係資本とは何か、社会資本との違いを調べておく。（2時間）
	授業内容	社会統合／分断とメディア①：社会関係資本とメディア
	事後学習	情報が社会に与える影響と、情報に接する方法が社会に与える影響についてを考える。（2時間）
7	事前学習	アメリカの社会学者 ロバート・D・パットナム、イギリスの経済学者 M. ブルックスのを知っておく。（2時間）
	授業内容	社会統合／分断とメディア②：R. パットナムのテレビ論 社会統合／分断とメディア③：M. ブルックスの「共有体験」論
	事後学習	社会関係資本とテレビ視聴との関係をまとめる。（2時間）
8	事前学習	授業での疑問点をまとめておく。（2時間）
	授業内容	リアクションペーパーのリアクション（授業で書いたリアクションペーパーの中の質問等をまとめて発表していく）
	事後学習	疑問点が解明されなかったら再びリアクションペーパーを出す。（2時間）
9	事前学習	政治家の発言、行動の特徴を一部で良いので、具体的個人例で調べておく。（2時間）
	授業内容	政治・世論とメディア①：「テレビ政治」の戦後史
	事後学習	有権者として政治家を正当に評価するにはどんな基準が最も必要か考える。（2時間）
10	事前学習	劇場型政治とは何か、ポピュリズムとは何か具体的に調べておく（2時間）
	授業内容	政治・世論とメディア②：政治の劇場化、ポピュリズム
	事後学習	近年の政治動向と劇場化、ポピュリズム現象についてその例をまとめておく（2時間）
11	事前学習	身近な世論調査については何があり、どんなものか調べてみる。（2時間）
	授業内容	政治・世論とメディア③：世論調査と世論のジレンマ （授業内リポートの課題を発表）
	事後学習	調査と実態の落差は何故生じるか、改めて考えておく。（2時間）
12	事前学習	ゲストスピーカーのプロフィールをよく読み予め質問を考えておく（2時間）
	授業内容	ゲストスピーカー招聘
	事後学習	ゲストスピーカー講義内容を復習し、自分の考えをまとめる。（2時間）
13	事前学習	グローバル化とは何か。概要を知っておく（2時間）
	授業内容	グローバル化とメディア①：社会のグローバル化、メディアのグローバル化 グローバル化とメディア②：多文化社会とエスニック・メディア
	事後学習	メディアのグローバル化の利点・欠点をまとめておく。（2時間）
14	事前学習	これまでの講座のノートをまとめて見やすくしておく（2時間）
	授業内容	授業内リポート及びまとめ ノート持ち込み可 リポートの書き方解説。
	事後学習	提出したリポートの内容を確認しておく。（2時間）
15	事前学習	グローバル化の所を改めて読んでおく。（2時間）
	授業内容	グローバル化とメディア③：グローバル時代におけるジャーナリズムの役割・機能 まとめ・総括
	事後学習	現代メディア社会論 I・IIで指摘されたメディアと社会と問題点をまとめ、今後の研究に生かせるようにする。 （2時間）

科目名	現代メディア社会論Ⅱ	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代社会の持つ多種多様面とWebを含むメディアの関わりについて、できるだけ具体的な論点やケースをキーワードとして参照しながら検討・考察を進めていく。学籍番号で分かれる2つの講座が同時進行するが、後学期途中で合同授業を1度開催し「ゲストスピーカー」を招聘する。			
授業目的・到達目標	本講義は、現代社会の多様な諸相とメディアの関わりについて、「情報行動」「グローバル化」「世論」「社会関係資本」などをキーワードにしながら把握・分析し、社会人として必要な社会科学の知識を修得できる人材を育成することを目的とする。 現代社会とメディアのあいだの、複雑で構造的な関係性について認識し、メディアが直面している問題を理解し説明できる事を到達目標とする。 関連DP及びCP：新聞学科1， 2			
履修条件	新聞学科に在籍する者、またはメディア、コミュニケーション、ジャーナリズムに強い関心と研究心を持つ者。			
授業方法	映像や統計資料を適宜使用する。また、授業日毎に授業の疑問点や意見、感想などを書く「リアクションペーパー」を提出させる。その内容を分析し、授業の理解度や、難しかった内容等を確認、再度受講生に示す。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	授業期間中に数回のレポートを課す
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		
参考書	藤竹 暁『図説 日本のメディア』NHKブックス1196 佐藤卓己『メディア社会』（岩波新書）、 橋本良明『メディアと日本人』（岩波新書）ほか、適宜、紹介・指示する。			
オフィスアワー	（後期：柴田先生）月曜～木曜日の13：00～18：00 授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。 対面質問も受けるが、メールで日時予約が条件。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	現代メディア社会論Ⅰでのメディアの諸問題についてまとめておく。（2時間）
	授業内容	イントロダクション。メディアとは何か、今どんなメディアで情報を得ているか、メディア研究の入り口を示す。
	事後学習	個人・社会・メディアの関わりについて考える。（2時間）
2	事前学習	既存メディアはとWebは社会でどのような位置を占めているか考える。（2時間）
	授業内容	現代社会とメディアの関係 人々とメディアの関わり。現代の特徴。
	事後学習	Webの台頭が著しいが、それに対して既存メディアはどう対処しているか。また、既存メディアの必要性はどうか考える。（2時間）
3	事前学習	マス・コミュニケーションとは何かその成立を調べておく（2時間）
	授業内容	現代人の情報行動①：メディアの大衆化
	事後学習	メディアが大衆化したことでどういう利点と欠点が生まれたかまとめる。（2時間）
4	事前学習	今、自分たちは何のために、どうメディアを利用しているか考えてみる。（2時間）
	授業内容	現代人の情報行動②：メディア利用の個人化・細分化
	事後学習	メディアの個人利用化細分化は社会に何をもたらしているか考える。（2時間）

5	事前学習	「日本人の情報行動調査」（東京大学出版）について概要を知っておく（2時間）
	授業内容	現代人の情報行動③：ネット時代の情報行動
	事後学習	自ら情報に接しているメディアとその接し方について問題点をまとめておく。（2時間）
6	事前学習	社会関係資本とは何か、社会資本との違いを調べておく。（2時間）
	授業内容	社会統合／分断とメディア①：社会関係資本とメディア
	事後学習	情報が社会に与える影響と、情報に接する方法が社会に与える影響についてを考える。（2時間）
7	事前学習	アメリカの社会学者 ロバート・D・パットナム、イギリスの経済学者 M. ブルックスのを知っておく。（2時間）
	授業内容	社会統合／分断とメディア②：R. パットナムのテレビ論 社会統合／分断とメディア③：M. ブルックスの「共有体験」論
	事後学習	社会関係資本とテレビ視聴との関係をまとめる。（2時間）
8	事前学習	授業での疑問点をまとめておく。（2時間）
	授業内容	リアクションペーパーのリアクション（授業で書いたリアクションペーパーの中の質問等をまとめて発表していく）
	事後学習	疑問点が解明されなかったら再びリアクションペーパーを出す。（2時間）
9	事前学習	政治家の発言、行動の特徴を一部で良いので、具体的個人例で調べておく。（2時間）
	授業内容	政治・世論とメディア①：「テレビ政治」の戦後史
	事後学習	有権者として政治家を正当に評価するにはどんな基準が最も必要か考える。（2時間）
10	事前学習	劇場型政治とは何か、ポピュリズムとは何か具体的に調べておく（2時間）
	授業内容	政治・世論とメディア②：政治の劇場化、ポピュリズム
	事後学習	近年の政治動向と劇場化、ポピュリズム現象についてその例をまとめておく（2時間）
11	事前学習	身近な世論調査については何があり、どんなものか調べてみる。（2時間）
	授業内容	政治・世論とメディア③：世論調査と世論のジレンマ （授業内リポートの課題を発表）
	事後学習	調査と実態の落差は何故生じるか、改めて考えておく。（2時間）
12	事前学習	ゲストスピーカーのプロフィールをよく読み予め質問を考えておく（2時間）
	授業内容	ゲストスピーカー招聘
	事後学習	ゲストスピーカー講義内容を復習し、自分の考えをまとめる。（2時間）
13	事前学習	グローバル化とは何か。概要を知っておく（2時間）
	授業内容	グローバル化とメディア①：社会のグローバル化、メディアのグローバル化 グローバル化とメディア②：多文化社会とエスニック・メディア
	事後学習	メディアのグローバル化の利点・欠点をまとめておく。（2時間）
14	事前学習	これまでの講座のノートをまとめて見やすくしておく（2時間）
	授業内容	授業内リポート及びまとめ ノート持ち込み可 リポートの書き方解説。
	事後学習	提出したリポートの内容を確認しておく。（2時間）
15	事前学習	グローバル化の所を改めて読んでおく。（2時間）
	授業内容	グローバル化とメディア③：グローバル時代におけるジャーナリズムの役割・機能 まとめ・総括
	事後学習	現代メディア社会論 I・IIで指摘されたメディアと社会と問題点をまとめ、今後の研究に生かせるようにする。（2時間）

科目名	憲法 I（人権）	担当者	池田 実	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	法の支配や立憲主義の概念をふまえ、憲法の総論的事項を学修する。次いで、各論として、日本国憲法に定める基本的人権（包括的人権、自由権、受益権、参政権、社会権）をめぐる諸問題に関し、その意義や重要判例・学説を学修する。				
授業目的・到達目標	憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することを目的とする。憲法の基本問題（人権）につき、憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるようにすることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1， 2， 3， 5				
履修条件	授業日程、補助教材、試験等に関する学生への通知は、随時、COLNetドライブ「学生教員共有」フォルダにPDFファイルをアップして配布するので、COLNetの扱いに慣れておくこと。				
授業方法	教科書に準拠し、講義形式で行う。講義で使用するパワーポイントのデータ（PDFファイル）は、COLNetドライブ「学生教員共有」フォルダにて事前配布する。定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		90%	筆記試験では、基本的人権の意義や重要判例を理解し、説明できるかどうかを判定する。	
	平常評価		10%	授業への参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016年	嵯峨野書院		憲法〔第2版〕	池田実
	備考				
参考書	授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	金曜日12:10-13:00 研究室（4号館5階454研究室） メールアドレス：ikedam.minoru61@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書pp. i-iiiを通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【授業案内・導入：憲法の学び方】 当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程、法令・判例・学説の学び方、予習・授業・復習に教科書を利用する際の注意事項などを説明し、履修者が授業の準備を行うことができるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、ノートを確認して、今後の学修計画を立てる。（2時間）
2	事前学習	教科書pp. 1-9を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【憲法総論（1）：憲法とは何か／立憲主義の展開】 憲法の前提としての国家、憲法の意味、立憲的憲法（近代憲法）の特徴、法体系における憲法の地位、立憲主義の展開を説明し、履修者が憲法とは何かを理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、憲法の意味、法体系における憲法の地位をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	教科書pp. 9-13， 23-25， 49を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【憲法総論（2）：日本憲法史／日本国憲法総論】 明治憲法の成立過程・基本原理、日本国憲法の成立過程・基本原理を説明し、履修者が日本憲法史の概要と日本国憲法の基本原理を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、日本憲法史の概略、日本国憲法前文の趣旨、日本国憲法の成立過程をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
4	事前学習	教科書pp. 13-18を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【人権総論：人権の類型／人権の私人間効力】 基本的人権の意義・類型・享有主体、人権の私人間効力（第三者効力）を説明し、履修者が基本的人権の特質を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、人権の類型、人権の享有主体、人権の私人間効力（第三者効力）をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）

5	事前学習	教科書pp. 136-145を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【精神的自由権（1）：思想・良心の自由／信教の自由】 思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例、信教の自由の意義・限界、学校教育における信教の自由の問題を説明し、履修者が内心の自由の意義を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、思想・良心の自由の意義・判例、信教の自由の意義・判例をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
6	事前学習	教科書pp. 145-150を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【精神的自由権（2）：政教分離】 制度的保障としての政教分離の意義、政教分離原則の内容、目的・効果基準を説明し、履修者が政教分離原則の特質を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、政教分離原則の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
7	事前学習	教科書pp. 150-161を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【精神的自由権（3）：政教分離をめぐる判例】 政教分離をめぐる判例（津地鎮祭訴訟、殉職自衛官合祀訴訟、箕面忠魂碑訴訟、愛媛玉串料訴訟など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、政教分離をめぐる判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	教科書pp. 161-165を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【精神的自由権（4）：学問の自由／内心の自由の総復習】 学問の自由の意義・限界、教授の自由の範囲、大学の自治の主体・範囲を説明し、履修者が学問の自由の特質を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、学問の自由の意義・判例をノートにまとめ、これまでの学修をふまえて、内心の自由の特質を説明できるようにする。（2時間）
9	事前学習	教科書pp. 165-170を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【精神的自由権（5）：表現の自由】 表現の自由の優越的地位、表現の自由に対する規制の合憲性審査基準を説明し、履修者が表現の自由の意義を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、表現の自由の意義をノートにまとめ、表現の自由に対する規制の合憲性審査基準を説明できるようにする。（2時間）
10	事前学習	教科書pp. 170-177を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【精神的自由権（6）：表現の自由をめぐる判例／知る権利】 表現の自由をめぐる判例（チャタレイ事件、タ刊和歌山時事事件、月刊ペン事件、沖縄返還阻止闘争事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、表現の自由をめぐる判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする、また、知る権利の意義をノートにまとめ、日本国憲法の下でそれがどのように実現されているかを説明できるようにする。（2時間）
11	事前学習	教科書pp. 177-186を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【精神的自由権（7）：取材・報道の自由／検閲の禁止】 取材・報道の自由の意義及びそれをめぐる判例（博多駅テレビフィルム提出命令事件、外務省秘密漏洩事件など）、検閲の禁止の意義及びそれをめぐる判例（税関検査事件、家永訴訟、北方ジャーナル事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、取材・報道の自由の意義・判例、検閲の禁止の意義・判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	教科書pp. 187-200を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【精神的自由権（8）：集会・結社の自由／通信の秘密】 集会・結社の自由の意義及びそれをめぐる判例（皇居前広場事件、泉佐野市民会館事件、東京都公安条例事件、エンタープライズ寄港阻止闘争事件、宗教団体アレフ観察処分取消し請求事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、集会・結社の自由の意義・判例、通信の秘密の意義・判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	教科書pp. 201-211を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【経済的自由権（1）：職業選択の自由】 近代初期及び現代における経済的自由権の意義、職業選択（営業）の自由の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例（小売市場距離制限事件、薬局距離制限事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、経済的自由権の意義、職業選択の自由の意義・判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。（2時間）
14	事前学習	教科書pp. 211-220を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【経済的自由権（2）：財産権】 財産権の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例（森林法共有林事件など）、条例による財産権規制の意義及びそれをめぐる判例（奈良県ため池条例事件など）、財産権の制限・損失補償の意義及びそれをめぐる判例（予防接種ワクチン禍事件、農地改革事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、財産権の意義・判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。（2時間）
15	事前学習	教科書pp. 220-224を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【経済的自由権（3）：その他の経済的自由権／経済的自由権の復習】 居住・移転の自由の意義及びそれを制約する法制度の概要、外国移住・国籍離脱の自由の意義を説明したのち、経済的自由権の総復習を行い、履修者が経済的自由権の全容を包括的に理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、経済的自由権をめぐる論点をノートにまとめ、その意義や重要判例の概要・争点・判旨、関連する法制度の趣旨を説明できるようにする。（2時間）

16	事前学習	教科書pp. 225-233を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔身体的自由権（1）：適正手続の保障〕 奴隷的拘束・苦役からの自由の意義及びそれに関連する法制度、適正手続の保障の意義及びそれに関連する法制度並びに判例（成田新法事件など）を説明し、履修者が憲法18条及び31条の解釈並びに関連する判例の概要・争点・判旨を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義、適正手続の保障の意義・判例をノートにまとめ、憲法18条及び31条の解釈並びに関連する判例の概要・争点・判旨を説明できるようにする。（2時間）
17	事前学習	教科書pp. 233-241を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔身体的自由権（2）：被疑者の権利／刑事被告人の権利〕 被疑者の権利（不法な逮捕・抑留・拘禁からの自由、住居等の不可侵）及び刑事被告人の権利（公平な裁判所の迅速な公開裁判を受ける権利）の意義を説明し、履修者が関連する法制度の趣旨を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、被疑者の権利（不法な逮捕・抑留・拘禁からの自由、住居等の不可侵）及び刑事被告人の権利（公平な裁判所の迅速な公開裁判を受ける権利）の意義をノートにまとめ、関連する法制度の趣旨を説明できるようにする。（2時間）
18	事前学習	教科書pp. 241-250を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔身体的自由権（3）：刑事被告人の権利〕 刑事被告人の権利（証人審問権・証人喚問権、弁護人依頼権・国選弁護制度、自己に不利益な供述を強要されない権利、自白の証拠能力、事後法の禁止・一事不再理、拷問・残虐刑の禁止）の意義を説明し、履修者が関連する法制度の趣旨を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、刑事被告人の権利（証人審問権・証人喚問権、弁護人依頼権・国選弁護制度、自己に不利益な供述を強要されない権利、自白の証拠能力、事後法の禁止・一事不再理、拷問・残虐刑の禁止）の意義をノートにまとめ、関連する法制度の趣旨を説明できるようにする。（2時間）
19	事前学習	教科書pp. 320-326、124-135を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔参政権：参政権と選挙制度〕 参政権の意義及びそれをめぐる判例（外国人地方参政権訴訟、在外選挙権制限違憲訴訟など）、選挙の基本原則、選挙制度の概要、議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例の動向を説明し、履修者が参政権の特質を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、「法の下での平等」原則との関連において、議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例の動向をノートにまとめ、参政権の特質を説明できるようにする。（2時間）
20	事前学習	教科書pp. 251-263を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔受益権〕 受益権（裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権、請願権）の意義を説明し、履修者が受益権を具体化する制度の概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、受益権（裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権、請願権）の意義をノートにまとめ、受益権を具体化する制度の概要を説明できるようにする。（2時間）
21	事前学習	教科書pp. 264-272を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔社会権（1）：生存権の法的性格〕 社会権の歴史的背景・意義・特質、生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を説明し、履修者が生存権の法的性格を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、社会権の意義、生存権の法的性格をめぐる諸説をノートにまとめ、生存権の法的性格を説明できるようにする。（2時間）
22	事前学習	教科書pp. 272-280を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔社会権（2）：生存権をめぐる判例／教育を受ける権利〕 生存権をめぐる判例（朝日訴訟、堀木訴訟など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。また、教育を受ける権利の内容を説明し、履修者がその特質を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、生存権をめぐる判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。また、教育を受ける権利の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
23	事前学習	教科書pp. 280-290を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔社会権（3）：労働者の権利〕 勤労の権利・義務の意義、労働基本権の内容、公務員の労働基本権に対する制約の内容・判例を説明し、履修者が労働者の権利の特質を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、勤労の権利・義務の意義、労働基本権の意義・内容、公務員の労働基本権に対する制約の内容・判例をノートにまとめ、労働者の権利の特質を説明できるようにする。（2時間）
24	事前学習	教科書pp. 107-114を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔包括的人権（1）：法の下での平等〕 「平等」思想の歴史、「平等」のさまざまな意味、憲法14条の意義を説明し、履修者が「法の下での平等」原則の特質を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、「法の下での平等」原則の意義、憲法14条の差別禁止自由列举の意義をノートにまとめ、「法の下での平等」原則の特質を説明できるようにする。（2時間）
25	事前学習	教科書pp. 115-124を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔包括的人権（2）：平等原則違反の違憲審査基準／判例〕 平等原則違反の違憲審査基準を説明し、履修者がこれを理解できるようにする。また、「法の下での平等」をめぐる判例（性別による差別に関する判例、尊属殺・尊属傷害致死重罰規定に関する判例、非嫡出子法定相続分規定に関する判例）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、平等原則違反の違憲審査基準をノートにまとめ、平等原則違反の違憲審査基準を説明できるようにする。また、「法の下での平等」をめぐる判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。（2時間）
26	事前学習	教科書pp. 77-82を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔包括的人権（3）：人権総論と「法の下での平等」の総復習／個人の尊重と幸福追求権〕 人権総論で扱った内容と「法の下での平等」を併せて復習の講義を行う。また、個人の尊重と幸福追求権の意義を説明し、履修者がこれを理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、人権総論と「法の下での平等」を包括的に復習する。また、個人の尊重と幸福追求権の意義をノートにまとめ、これを説明できるようにする。（2時間）

27	事前学習	教科書pp. 83-93を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【包括的人権（4）：プライバシー権・肖像権】 「新しい人権」の類型を説明し，履修者がこれを理解できるようにする。また，一般的人格権（プライバシー権，肖像権）の意義及びそれに関連する判例を説明し，履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り，「新しい人権」の類型をノートにまとめ，これを説明できるようにする。また，一般的人格権（プライバシー権，肖像権）の意義・判例をノートにまとめ，一般的人格権の特質を説明できるようにする。（2時間）
28	事前学習	教科書pp. 93-106を通読し，講義内容を概観したうえで，疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【包括的人権（5）：名誉権・環境（人格）権／自己決定権】 名誉権・環境（人格）権の意義・判例を説明し，履修者がその趣旨を理解できるようにする。また，自己決定権の意義・類型及びそれに関連する判例を説明し，履修者が自己決定権の特質を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り，名誉権・環境（人格）権の意義・判例をノートにまとめ，その趣旨を説明できるようにする。また，自己決定権の意義・判例をノートにまとめ，その特質を説明できるようにする。（2時間）
29	事前学習	事前配布する資料を一読し，講義内容を概観しておく。（2時間）
	授業内容	【補遺：「憲法をまもる」ことの意味】 政治的立場のいかんを問わず，すべての国民が知っておくべき「憲法の特質」のことを，「憲法をまもる」というキーワードを手がかりに説明し，履修者が憲法論議の前提を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り，憲法論議の前提を共有したうえで，自分がどのような政治的立場から憲法問題に向き合おうとしているのかを説明できるようにする。（2時間）
30	事前学習	この科目で学修したすべての内容を総復習し，疑問点・不明点をメモしておく。（2時間）
	授業内容	【総括：「憲法Ⅰ（人権）」の総復習】 本科目で学修した内容のうち，特に重要な事項につき説明を補い，履修者がこれを十分に理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り，ノートを補完しつつ，定期試験を視野に入れた総復習を行い，基本的人権の意義や重要判例を理解し，説明できるようにする。（2時間）

科目名	憲法 I（人権）	担当者	齋藤 康輝	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	憲法（人権）の基礎知識を学修する。とりわけ、憲法は国の最高法規であり、それゆえ憲法の各条項に違反する法令は違憲無効となること（法の支配・立憲主義）を理解する必要がある。この講座では、憲法（人権）の具体的な内容、つまり国民の国に対する権利（基本的人権）を詳細に論じていく。重要テーマについて学説にも言及し、判例も数多く取り上げる。なお、日本の憲法をよく知るために、世界各国の憲法にもふれる。			
授業目的・到達目標	憲法は国家権力の濫用を防ぐための装置であり、その結果として人権保障を実現している。この講座では、教科書の項目に沿って、人権に関する日本国憲法の条文解釈、学説・判例の検討を行う。できるだけわかりやすい授業を目指す。法的・論理的思考力（リーガルマインド）を養成することを目的とする。 到達目標は、人権についての基礎知識を習得し、法の支配や立憲主義というキーワードを説明できるようにすることである。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5			
履修条件	とくになし。			
授業方法	スライド（パワーポイント）を使用して講義を行う。憲法条文ミニテストは中間テストとして授業内で実施し、その答えは速やかに返却する。また、レポートの講評を後日ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	憲法条文ミニテスト（30％）とレポートの成績（70％）により評価する。なお、レポートでは、授業内容をきちんと理解し、キーワードを説明できるかどうかチェックする。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	弘文堂	『Next教科書シリーズ憲法（第2版）』	齋藤康輝・高畑英一郎編
	備考			
参考書	授業中適宜紹介する。			
オフィスアワー	時間帯：毎週水曜日の昼休み（12:10～13:00） ただし、祝日・休暇期間は除く 場所：研究室（本館1809） 必ずメール等で事前予約した上で来室すること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の「はじめに」を読んでくること。（2時間）
	授業内容	憲法の意義と立憲主義（1） 国家論 国家と国民
	事後学習	教科書（1 頁～4 頁）を復習すること。（2時間）
2	事前学習	教科書（5 頁～8 頁）を予習すること。（2時間）
	授業内容	憲法の意義と立憲主義（2） 憲法とは何か、憲法の特質
	事後学習	教科書（5 頁～8 頁）を復習すること。（2時間）
3	事前学習	教科書（9 頁～1 2 頁）を予習すること。（2時間）
	授業内容	日本憲法史（1） 明治憲法
	事後学習	教科書（9 頁～1 2 頁）を復習すること。（2時間）
4	事前学習	教科書（1 3 頁～1 6 頁）を予習すること。（2時間）
	授業内容	日本憲法史（2） 日本国憲法の成立、日本国憲法の成立における法理
	事後学習	教科書（1 3 頁～1 6 頁）を復習すること。（2時間）

5	事前学習	教科書（４０頁～４１頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	基本的人権の原理、基本的人権の保障と限界（１） 人権の歴史、観念 人権論入門
	事後学習	教科書（４０頁～４１頁）を復習すること。（２時間）
6	事前学習	教科書（４１頁～４２頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	基本的人権の原理、基本的人権の保障と限界（２） 人権の類型 人権論の光と影
	事後学習	教科書（４１頁～４２頁）を復習すること。（２時間）
7	事前学習	教科書（４３頁～４８頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	基本的人権の原理、基本的人権の保障と限界（３） 人権の享有主体
	事後学習	教科書（４３頁～４８頁）を復習すること。（２時間）
8	事前学習	教科書（４９頁～５４頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	基本的人権の原理、基本的人権の保障と限界（４） 人権の限界
	事後学習	教科書（４９頁～５４頁）を復習すること。（２時間）
9	事前学習	教科書（５６頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	包括的人権（１） 幸福追求権
	事後学習	教科書（５６頁）を復習すること。（２時間）
10	事前学習	教科書（５６頁～６８頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	包括的人権（２） 新しい人権
	事後学習	教科書（５６頁～６８頁）を復習すること。（２時間）
11	事前学習	教科書（６９頁～７１頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	平等（１） 日本国憲法における「平等」概念、憲法１４条１項の差別禁止事項
	事後学習	教科書（６９頁～７１頁）を復習すること。（２時間）
12	事前学習	教科書（７２頁～７８頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	平等（２） 判例にみる「差別」と「合理的区別」
	事後学習	教科書（７２頁～７８頁）を復習すること。（２時間）
13	事前学習	教科書（７９頁～８１頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	精神的自由（１） 思想・良心の自由
	事後学習	教科書（７９頁～８１頁）を復習すること。（２時間）
14	事前学習	教科書（８５頁～９１頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	精神的自由（２） 信教の自由、政教分離
	事後学習	教科書（８５頁～９１頁）を復習すること。（２時間）
15	事前学習	教科書（９４頁～１０５頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	精神的自由（３） 表現の自由
	事後学習	教科書（９４頁～１０５頁）を復習すること。（２時間）
16	事前学習	教科書（１０６頁～１１０頁、９２頁～９３頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	精神的自由（４） 集会・結社の自由、学問の自由
	事後学習	教科書（１０６頁～１１０頁、９２頁～９３頁）を復習すること。（２時間）

17	事前学習	教科書（１１１頁～１１６頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	人身の自由（１） 歴史的由来、居住・移転の自由、奴隷的拘束とその意に反する苦役からの自由、適正手続
	事後学習	教科書（１１１頁～１１６頁）を復習すること。（２時間）
18	事前学習	教科書（１１６頁～１２４頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	人身の自由（２） 被疑者の権利、被告人の権利、拷問・残虐な刑罰の禁止
	事後学習	教科書（１１６頁～１２４頁）を復習すること。（２時間）
19	事前学習	教科書（１２５頁～１３２頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	経済的自由（１） 経済的自由の一般的特質、職業選択の自由
	事後学習	教科書（１２５頁～１３２頁）を復習すること。（２時間）
20	事前学習	教科書（１３３頁～１４０頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	経済的自由（２） 財産権
	事後学習	教科書（１３３頁～１４０頁）を復習すること。（２時間）
21	事前学習	教科書（１４１頁～１４３頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	社会権（１） 社会権の登場背景
	事後学習	教科書（１４１頁～１４３頁）を復習すること。（２時間）
22	事前学習	教科書（１４４頁～１４７頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	社会権（２） 生存権、生活保護制度
	事後学習	教科書（１４４頁～１４７頁）を復習すること。（２時間）
23	事前学習	教科書（１４８頁～１４９頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	社会権（３） 教育を受ける権利
	事後学習	教科書（１４８頁～１４９頁）を復習すること。（２時間）
24	事前学習	教科書（１５０頁～１５４頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	社会権（４） 勤労権、労働基本権
	事後学習	教科書（１５０頁～１５４頁）を復習すること。（２時間）
25	事前学習	教科書（１５５頁～１５８頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	国務請求権
	事後学習	教科書（１５５頁～１５８頁）を復習すること。（２時間）
26	事前学習	教科書（１５９頁～１６２頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	参政権
	事後学習	教科書（１５９頁～１６２頁）を復習すること。（２時間）
27	事前学習	教科書（１６３頁～１７０頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	人権と統治の融合 人権論の新しい展望
	事後学習	教科書（１６３頁～１７０頁）を復習すること。（２時間）
28	事前学習	教科書（１７０頁～１７１頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	人権観と義務の再評価
	事後学習	教科書（１７０頁～１７１頁）を復習すること。（２時間）

29	事前学習	レポート課題に取り組むこと。(2時間)
	授業内容	人権論のまとめ(1) 個人の尊重(人間の尊厳)
	事後学習	教科書(1頁～16頁、39頁～171頁、176頁)を通読すること。(2時間)
30	事前学習	レポート課題に取り組むこと。(2時間)
	授業内容	人権論のまとめ(2) 人権教育
	事後学習	教科書(1頁～16頁、39頁～171頁、176頁)を通読すること。(2時間)

科目名	憲法 I（人権）【法職課程】	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	----------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中学の「公民」や高等学校の「現代社会」「政治・経済」で学んできた、憲法は国家の根本原則、すなわち国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方について定めた基本となる法です。憲法をよく理解した上で、よりよい社会を作り出していくことは、国民としての必須の事柄と思います。この講義では、立憲主義という近代国家に不可欠な視点から、日本国憲法の意義や内容その問題点などについて、判例・学説を素材に平易かつ具体的に解説していきます。				
授業目的・到達目標	日本国憲法の人権保障に関する基本的内容と特徴についての理解・習得を目的とします。18歳選挙権が実現したので、みなさんは有権者として憲法改正や選挙に向き合うことになります。民主主義とはなにか、なぜ政府は存在しているのか、法律を守らなければならないのはなぜか、といった問題意識を持ってもらいたいと考えています。こうした問題意識は、正しい政治判断をするためには不可欠です。そのような能力を身に着けることが、この講義の到達目標となります。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5				
履修条件	ありません。				
授業方法	指定の教科書に即して講義形式で行います。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		90%	人権規定の一般原則および各権利の内容についての理解・習得ができたのかを判定します。	
	平常評価		10%	受講態度も考慮の対象とする場合があります。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2015	岩波書店		憲法 6版	芦部信喜
	備考				
参考書	戸松秀典・初宿正典『憲法判例〔8版〕』（2018、有斐閣） 曾我部真裕ほか編『憲法論点教室』（2012、日本評論社）				
オフィスアワー	月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。 メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、授業概要及び目的を理解しておくこと（2時間）
	授業内容	オリエンテーション
	事後学習	オリエンテーションを振り返ること（2時間）
2	事前学習	教科書3-17ページを読んでくること。立憲主義という考え方や、憲法・政府・国民の関係はどのようなものかを考えてくること。（2時間）
	授業内容	【国家とは・憲法とは何か、立憲主義】憲法の一般原則や現代憲法に共通する憲法特徴についての理解を深める。国民にとっての国家・政府の存在意義を確認したうえで、立憲主義の内容を理解して、憲法・政府・国民の関係を考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、人間社会における国家の存在意義、憲法・政府・国民の関係、立憲主義の内容とその効果をまとめること。（2時間）
3	事前学習	教科書75-87ページを読んでくること。「人権保障の意義と歴史」を考察し、現代に人権保障がなかった場合を考えてくること。（2時間）
	授業内容	【人権総論(1)】人権保障の歴史と意義・分類を学習する。歴史の進展における人権意識の形成と現代的展開、人権に共通する理念、そして異なる性質をもつ人権の内容についての理解を深める。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、人権の性質と政府との関係をまとめること。（2時間）
4	事前学習	教科書87-97ページを読んでくること。人権保障の対象となる人は誰なのかについて考えてくること。（2時間）
	授業内容	【人権総論(2)】人権の享有主体について学習する。憲法上の権利を行使することのできる者について考察する。特に外国人の国内での処遇と人権保障の問題を深く考えていく。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「人権の享有主体」「平等（人種・外国人）」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）

5	事前学習	教科書110-118ページを読んでくこと。憲法というものの性質と、人権保障が及ぶ場面はどのようなものであるのかを考えてくこと。（2時間）
	授業内容	【人権総論(3)】憲法規定の私人間効力について学習する。統治権を行使する政府を生み出す法としての憲法の性質を再確認したうえで、政府の権限行使に制約を課す規定である人権規定の役割を理解し、その間隙に生じる問題への具体的解決方法を考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「私人間効力」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）
6	事前学習	教科書98-102, 106-110, 281-283ページを読んでくこと。「自由」と「勝手気まま」とは同じなのかを考えてくこと。（2時間）
	授業内容	【人権総論(4)】人権の制約原理と特別な法律関係にある者の人権問題について学習する。無制約な人権は保障されないという常識的な感覚について、それを根拠づける考えを考察する。さらには一般国民とは別に、政府と特別な法律関係を結ぶ人々に対する特異な取り扱いについての理解を深める。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、「福祉国家主義」という憲法原則の内容と「内在的制約」の内容をまとめること。また、参考書で「公務員の政治活動」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）
7	事前学習	ある法律が憲法に違反するというくことを、どのように決定するののかを考えてくこと。（2時間）
	授業内容	【人権総論(5)】人権を制約する法令の憲法適合性を判断する手法を学習する。公共の福祉による人権制約の原理を前提に、制約的な法令の合憲性を裁判所が判定する際に用いられる判断手法（「比較衡量」「比例原則」「二重の基準」）を学ぶ。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、「比較衡量」「比例原則」「二重の基準」の内容をまとめること。（2時間）
8	事前学習	教科書127-148ページを読んでくこと。何を基準にして等しいものと等しくないものを区別することができるのかを考えてくこと。（2時間）
	授業内容	【法の下の平等】平等原則の意義と内容について学習する。「等しい」とは何を意味するののか、どのような平等ならば憲法上許されるのかなどについての理解を深める。さらに、「合理的区別」による人の異なる取り扱いなぜ認められるのか、どのような事例に認められているのかなどを考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「平等（家族関係）」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）
9	事前学習	教科書119-126ページを読んでくこと。電子機器の発展とプライバシー保護との関係を考えてくこと。（2時間）
	授業内容	【幸福追求権】「新しい人権」としての幸福追求権を学習する。主に人格権、プライバシー権の内容と保障範囲についての理解を深める。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「幸福追求権の意味」「プライバシーの権利」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）
10	事前学習	教科書126-127, 271-273ページを読んでくこと。自然環境を保護するために憲法は有効なのかを考えてくこと。（2時間）
	授業内容	【環境権・自己決定権】「新しい人権」である環境権・自己決定権について学習する。環境権の意義と内容について、さらに自己決定権の保障範囲について学ぶ。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「環境権・人格権」「自己決定権・人格権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）
11	事前学習	教科書149-153ページを読んでくこと。国旗国歌に起立斉唱しなければならないのかを考えてくこと。（2時間）
	授業内容	【思想・良心の自由】内心の自由の内容と保障範囲について学習する。内面の精神活動に対する制約を検討することを通して、内心の自由が保障する中核的内容の理解に努める。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「思想・良心の自由」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）
12	事前学習	教科書153-167ページを読んでくこと。風変わりな信仰をもつ人たちは気持ちが悪いので追い出してしまうことは許されるのか、東日本大震災で犠牲になった人々を政府が追悼するのは許されるのかを考えてくこと。（2時間）
	授業内容	【信教の自由・政教分離】宗教に関わる自由と、政府と宗教との関係について学習する。内心の自由の内容と保障範囲、宗教への配慮の問題、宗教的色彩を帯びる政府活動の許容性などについて考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「信教の自由」「政教分離原則」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）
13	事前学習	教科書168-174ページを読んでくこと。人間の複製に関する研究は許されるのかを考えてくこと（2時間）
	授業内容	【学問の自由・大学の自治】学問研究の自由の内容と保障範囲について学習する。人間の欲望と倫理的制約の関係を念頭に置きつつ、学問研究の自由の限界について考察する。加えて、研究の場である大学の独自性について学ぶ。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「学問の自由と大学の自治」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）
14	事前学習	教科書175-180ページを読んでくこと。（2時間）
	授業内容	【表現の自由(1)】表現の自由の意義について学習する。表現の自由に認められる「優越的地位」について考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、表現の自由は一般に他の人権よりも「優越的地位」にあるといわれるが、その理由を考えてくこと。（2時間）
15	事前学習	教科書180-196ページを読んでくこと。（2時間）
	授業内容	【表現の自由(2)】表現内容規制について学習する。名誉毀損表現、性表現、ヘイトスピーチなどを扱う。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「扇動的言論」「わいせつ表現」「名誉毀損」「営利的言論」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）
16	事前学習	教科書196-198, 205-213ページを読んでくこと。（2時間）
	授業内容	【表現の自由(3)】表現内容中立規制について学習する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「ビラ貼り・ビラ配布」「選挙運動」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）

17	事前学習	教科書198-204ページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	【表現の自由(4)】検閲・知る権利について学習する。表現活動に不可欠な情報の入手はいかに確保できるのかについて考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「情報公開・知る権利」「事前抑制・検閲の禁止」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）
18	事前学習	教科書181-188, 221-223ページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	【表現の自由(5)】報道の自由、通信の秘密について学習する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「報道の自由・取材源秘匿権」「通信の秘密」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）
19	事前学習	教科書213-221ページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	【集会・結社の自由】集会・結社の自由について学習する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「集会・結社の自由」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）
20	事前学習	教科書242-243ページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	【人身の自由】人身の自由について学習する。日本国憲法下における徴兵制の可否についても考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、「意に反する苦役」と「強制役務」の違いをまとめること。（2時間）
21	事前学習	教科書243-246ページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	【法定（適正）手続の保障】法定（適正）手続の保障について学習する。行政手続にも求められる適正さについても考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「適正手続の原則」「行政手続」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）
22	事前学習	教科書246-249ページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	【刑事手続の保障(1)】被疑者の権利について学習する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「令状主義」「住居の不可侵」「弁護士依頼権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）
23	事前学習	教科書249-255ページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	【刑事手続の保障(2)】被告人の権利について学習する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「残虐な刑罰の禁止」「遡及処罰・事後立法の禁止」「一事不再理・二重の危険」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）
24	事前学習	教科書234-232ページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	【職業選択の自由】居住移転の自由および職業・営業の自由について学習する。営利活動に対する憲法の姿勢について考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「職業活動の自由」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）
25	事前学習	教科書233-241ページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	【財産権】財産権について学習する。憲法が「財産権の不可侵」を規定する意義を確認する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「財産権」「正当な補償」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）
26	事前学習	教科書267-271ページを読んでくること。社会的格差是正のためにどのような政策がとられているのかを考えてくること。（2時間）
	授業内容	【社会権全般・生存権】福祉国家主義の意義と生存権の内容について学習する。私的自治の内容を確認したうえで、政府による弱者保護の実態を考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「生存権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）
27	事前学習	教科書273-281ページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	【教育を受ける権利・労働権】教育を受ける権利と労働者の権利を学習する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「教育を受ける権利」「団結権・団体交渉権」「争議権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）
28	事前学習	教科書256-259ページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	【国務請求権】請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権について学習する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「裁判を受ける権利」「国家賠償請求権」「刑事補償請求権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）

29	事前学習	教科書260-262ページを読んできること。（2時間）
	授業内容	【参政権】投票権、立候補の自由について学習する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「選挙権」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。（2時間）
30	事前学習	今までの授業内容をまとめておくこと。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	ノートを確認するとともに、今までの授業内容を振り返っておくこと。（2時間）

科目名	憲法 I（人権）	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	施行から70年を越えた日本国憲法は、その間、一度も改正を経ることなく同じ姿を保っている。しかし、この70年の間に日本国憲法を取り巻く状況は大きく変化した。その中で日本国憲法も「解釈」を通じて変化してきているともいえる。この講義では、日本国憲法の解釈におけるダイナミズムに着目して、現在の日本国憲法の姿を明らかにすることを目的とする。できるかぎり具体的な素材から学生の皆さんにイメージしやすい憲法論を講義したいと思う。			
授業目的・到達目標	日本国憲法の解釈について、具体的な内容を理解することを目的とする。 日本国憲法が採用する人権保障のシステムについて、全体的な視点から理解できるようになること。 人権保障が抱える問題についても、歴史的経緯や現状を含めて正確に理解できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1，2，3，5			
履修条件	特になし。			
授業方法	講義形式で行う。 事前配布資料に沿って講義を進める。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	講義の理解，論証のプロセス等を総合的に判断する。	
	平常評価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	嵯峨野書院	基礎からわかる憲法（第2版）	武居一正（編著）
	備考			
参考書	野中俊彦ほか『憲法判例集（第11版）』（有斐閣，2016年）			
オフィスアワー	月曜13：00～14：30 金曜13：00～14：30 事前にメール等で連絡をすること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前配布資料がある場合にはそれをよく読んでおくこと。 教科書第1章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	イントロダクション～憲法とは何か～
	事後学習	「憲法」の概念についてよく整理しておくこと。（2時間）
2	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第5章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	基本的人権の歴史
	事後学習	基本的人権の歴史的展開について整理しておくこと。（2時間）
3	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第5章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	基本的人権の主体
	事後学習	基本的人権の人的保護領域について整理しておくこと。（2時間）
4	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第5章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	基本的人権の制限と正当化
	事後学習	公共の福祉に関する議論を整理しておくこと。（2時間）

5	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第5章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	私人間効力論
	事後学習	私人間における基本的人権の効力について整理をしておくこと。（2時間）
6	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第6章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	個人の尊重・幸福追求権（1）
	事後学習	幸福追求権の保護領域について整理をしておくこと。（2時間）
7	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第6章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	個人の尊重・幸福追求権（2）
	事後学習	不文の権利の保障について整理しておくこと。（2時間）
8	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第7章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	法の下の平等（1）
	事後学習	憲法上の平等概念について整理をしておくこと。（2時間）
9	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第7章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	法の下の平等（2）
	事後学習	平等原則違反が問題となった裁判例を整理しておくこと。（2時間）
10	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第8章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	思想・良心の自由（1）
	事後学習	思想・良心の自由に関する従来の議論を整理しておくこと。（2時間）
11	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第8章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	思想・良心の自由（2）
	事後学習	思想・良心の自由に関する新たな解釈傾向について整理しておくこと。（2時間）
12	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第8章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	信教の自由と政教分離原則（1）
	事後学習	信教の自由の意義と内容について整理をしておくこと。（2時間）
13	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第8章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	信教の自由と政教分離原則（2）
	事後学習	政教分離原則が問題となった裁判例を整理しておくこと。（2時間）
14	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第8章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	学問の自由
	事後学習	学問の自由および大学の自治について整理をしておくこと。（2時間）
15	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第8章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	表現の自由（1）
	事後学習	表現の自由の現代的意義について整理をしておくこと。（2時間）
16	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第8章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	表現の自由（2）
	事後学習	表現の自由が問題となった裁判例について整理しておくこと。（2時間）

17	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第8章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	集会・結社の自由
	事後学習	集会・結社の自由の意義と内容について整理をしておくこと。（2時間）
18	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第9章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	職業の自由（1）
	事後学習	職業の自由の保護領域について整理をしておくこと。（2時間）
19	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第9章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	職業の自由（2）
	事後学習	職業の自由が問題となった裁判例について整理をしておくこと。（2時間）
20	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第9章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	財産権（1）
	事後学習	財産権の保障について整理をしておくこと。（2時間）
21	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第9章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	財産権（2）
	事後学習	財産権が問題となった裁判例について整理をしておくこと。（2時間）
22	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第10章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	身体の自由（1）
	事後学習	身体の自由の意義と内容について整理をしておくこと。（2時間）
23	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第10章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	身体の自由（2）
	事後学習	適正手続条項に関する解釈を整理しておくこと。（2時間）
24	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第10章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	身体の自由（3）
	事後学習	刑事手続に関する保障について整理をしておくこと。（2時間）
25	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第11章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	参政権（1）
	事後学習	参政権の意義と内容について整理をしておくこと。（2時間）
26	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第11章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	参政権（2）
	事後学習	参政権が問題となった裁判例について整理しておくこと。（2時間）
27	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第12章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	受益権・国務請求権
	事後学習	受益権・国務請求権の意義と内容を整理しておくこと。（2時間）
28	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第13章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	社会権（1）
	事後学習	社会権の意義と内容について整理しておくこと。（2時間）

29	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第13章を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	社会権 (2)
	事後学習	とりわけ生存権が問題となった裁判例について整理をしておくこと。(2時間)
30	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	まとめ
	事後学習	全体のまとめを自分なりに考えてみること。(2時間)

科目名	憲法 I（人権）	担当者	東 裕	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	4
-----	----------	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観し、日本国憲法における人権保障について通説・判例を理解することを主とし、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。			
授業目的・到達目標	「人権」という言葉は日常生活でもよく使われるが、憲法学ではその背後にある歴史や思想を含めて考察し、各種の人権に応じた保障ないしその限界があることを理解する必要がある。安易に「人権」という言葉を振りかざすのではなく、社会の中に生きる個人として、各自がその尊厳を保持しながら生きるための人権保障の在り方を考えられるような能力を養成することを授業目的とする。主要な条文、学説、判例の知識を身につけ、人権と公共性の関係を理解し、説明できることを目標とする。対応DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5			
履修条件	特になし。			
授業方法	レジュメと教科書をもとに講義形式で行う。教科書の巻末には、日本国憲法と明治憲法の条文が掲載されているが、できるだけ六法も持参すること。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	授業で扱った条文・学説・判例に関する客観式問題（60％）と論述式問題（40％）を出題し、授業内容の理解度と到達目標の達成度を判定する。	
	平常評価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	平成31年度	嵯峨野書院	新・テキストブック日本国憲法	東裕・下條芳明ほか4名
	備考	教科書に即して授業を展開するので、授業の際には必ず持参すること。定期試験の際、教科書及び授業で配布したレジュメに限り、持ち込みを認める。		
参考書	授業で配付するレジュメの中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜日・2時限（出来るだけ事前に予約すること）。なお、これ以外の曜日・時限も可。 研究室（本館6階 1616号室） メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書第5講を読むこと。（1時間）
	授業内容	近代立憲主義と人権概念の成立
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
2	事前学習	教科書第5講を読むこと。（1時間）
	授業内容	現代立憲主義と人権概念の変容
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
3	事前学習	教科書第6講を読むこと。（1時間）
	授業内容	人権の享有主体―（1）日本国民
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
4	事前学習	教科書第6講を読むこと。（1時間）
	授業内容	人権の享有主体―（2）外国人
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）

5	事前学習	教科書第6講を読むこと。（1時間）
	授業内容	人権の享有主体―（3）法人
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
6	事前学習	教科書第6講を読むこと。（1時間）
	授業内容	人権と公共の福祉
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
7	事前学習	教科書第6講を読むこと。（1時間）
	授業内容	幸福追求権と新しい人権―（1）名誉権・プライバシー権
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
8	事前学習	教科書第6講を読むこと。（1時間）
	授業内容	幸福追求権と新しい人権―（2）自己決定権・環境権
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
9	事前学習	教科書第7講を読むこと。（1時間）
	授業内容	法の下での平等―（1）憲法14条1項の解釈
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
10	事前学習	教科書第7講を読むこと。（1時間）
	授業内容	法の下での平等―（2）尊属殺重罰規定違憲判決
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
11	事前学習	教科書第7講を読むこと。（1時間）
	授業内容	法の下での平等―（3）議員定数不均衡訴訟
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
12	事前学習	教科書第8講を読むこと。（1時間）
	授業内容	精神的自由権―（1）思想・良心の自由
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
13	事前学習	教科書第8講を読むこと。（1時間）
	授業内容	精神的自由権―（2）信教の自由
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
14	事前学習	教科書第8講を読むこと。（1時間）
	授業内容	精神的自由権―（3）表現の自由
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
15	事前学習	教科書第8講を読むこと。（1時間）
	授業内容	精神的自由権―（4）集会・結社の自由
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
16	事前学習	教科書第8講を読むこと。（1時間）
	授業内容	精神的自由権―（5）学問の自由
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）

17	事前学習	教科書第9講を読むこと。（1時間）
	授業内容	経済的自由権―（1）居住・移転の自由
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
18	事前学習	教科書第9講を読むこと。（1時間）
	授業内容	経済的自由権―（2）職業選択の自由
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
19	事前学習	教科書第10講を読むこと。（1時間）
	授業内容	人身の自由―（1）適正手続きの保障
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
20	事前学習	教科書第10講を読むこと。（1時間）
	授業内容	人身の自由―（2）被疑者・被告人の権利
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
21	事前学習	教科書第11講を読むこと。（1時間）
	授業内容	参政権―（1）選挙権と選挙制度
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
22	事前学習	教科書第11講を読むこと。（1時間）
	授業内容	参政権―（2）直接民主政の諸制度
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
23	事前学習	教科書第12講を読むこと。（1時間）
	授業内容	国務請求権―（1）請願権
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
24	事前学習	教科書第12講を読むこと。（1時間）
	授業内容	国務請求権―（2）裁判を受ける権利
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
25	事前学習	教科書第12講を読むこと。（1時間）
	授業内容	国務請求権―（1）国家賠償・刑事補償請求権
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
26	事前学習	教科書第13講を読むこと。（1時間）
	授業内容	社会権―（1）生存権
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
27	事前学習	教科書第13講を読むこと。（1時間）
	授業内容	社会権―（2）教育を受ける権利
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
28	事前学習	教科書第13講を読むこと。（1時間）
	授業内容	社会権―（3）労働基本権
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）

29	事前学習	教科書第 1 4 講を読むこと。（1 時間）
	授業内容	国民の義務
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3 時間）
30	事前学習	前回までの授業範囲を確認しておくこと。（1 時間）
	授業内容	授業全体のまとめ
	事後学習	全授業で扱った部分をすべて確認すること。（3 時間）

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	池田 実	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	憲法の基本概念を明らかにしたうえで、日本国憲法に定める統治機構（国会、内閣、裁判所、天皇、財政、地方自治）及び戦争の放棄をめぐる諸問題に関し、制度の概要や重要判例・学説を学修する。			
授業目的・到達目標	政治の法である憲法に固有の特質を理解し、日本国憲法に定める統治機構の概要を説明する能力を養成することを目的とする。 憲法の基本問題（統治機構）につき、憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるようになることを目標とする。 関連D P及びC P：法律学科1， 2， 3， 5			
履修条件	授業日程，補助教材，試験等に関する学生への通知は，随時，COLNetドライブ「学生教員共有」フォルダにPDFファイルをアップして配布するので，COLNetの扱いに慣れておくこと。			
授業方法	教科書に準拠し，講義形式で行う。講義で使用するパワーポイントのデータ（PDFファイル）は，COLNetドライブ「学生教員共有」フォルダにて事前配布する。定期試験の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	90%	筆記試験では，統治機構に関する法制度を理解し，説明できるかどうかを判定する。	
	平常評価	10%	授業への参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年	嵯峨野書院	憲法〔第2版〕	池田実
	備考			
参考書	授業中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	金曜日12:10-13:00 研究室（4号館5階454研究室） メールアドレス：iked.minoru61@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書pp. i-iiiを通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【授業案内・導入：憲法の学び方】 当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程、法令・判例・学説の学び方、予習・授業・復習に教科書を利用する際の注意事項などを説明し、履修者が授業の準備を行うことができるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、ノートを確認して、今後の学修計画を立てる。（2時間）
2	事前学習	教科書pp. 1-9を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【憲法総論（1）：憲法とは何か／立憲主義の展開】 憲法の前提としての国家、憲法の意味、立憲的憲法（近代憲法）の特徴、法体系における憲法の地位、立憲主義の展開を説明し、履修者が憲法とは何かを理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、憲法の意味、法体系における憲法の地位をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	教科書pp. 9-13, 23-25, 49を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【憲法総論（2）：日本憲法史／日本国憲法総論】 明治憲法の成立過程・基本原理、日本国憲法の成立過程・基本原理を説明し、履修者が日本憲法史の概要と日本国憲法の基本原理を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、日本憲法史の概略、日本国憲法前文の趣旨、日本国憲法の成立過程をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
4	事前学習	教科書pp. 291-299を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【国会（1）：国会の地位】 代表民主制の趣旨、国会の地位、国会議員の地位を説明し、履修者が国会の地位を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、代表民主制の趣旨、国会の地位、国会議員の地位をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）

5	事前学習	教科書pp. 300-306を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔国会（2）：国会の活動〕 会期、参議院の緊急集会、会議の諸原則を説明し、履修者が会期制の趣旨を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、国会の会期制、会期の諸原則をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
6	事前学習	教科書pp. 306-315を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔国会（3）：国会の権能と衆議院の優越〕 国会の権能（法律の議決、予算の議決、条約の承認、内閣総理大臣の指名など）及びそこに表れる衆議院の優越を説明し、履修者がかかる制度の趣旨を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、国会の権能（衆議院の優越）をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
7	事前学習	教科書pp. 315-320を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔国会（4）：議院の権能〕 議院の権能（議院の自律権、国政調査権）を説明し、これを理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、議院の権能をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	教科書pp. 320-326を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔国会（5）：参政権と選挙制度〕 参政権の意義（国民固有の権利」とされている点）と各種選挙制度（小選挙区制、大選挙区制、比例代表制）の特徴を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、参政権の意義と選挙制度の特徴をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
9	事前学習	教科書pp. 124-135を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔国会（6）：議員定数不均衡（一票の較差）問題〕 議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例を説明し、履修者が投票価値の平等の意義を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例の動向をノートにまとめ、説明できるようにするとともに、望ましい選挙制度のあり方を考察する。（2時間）
10	事前学習	教科書pp. 327-330を通読し、また、事前配布する資料を一読して、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔内閣（1）：行政権と内閣制度／衆議院解散総選挙をめぐる憲法問題〕 行政権の意義、内閣制度の変遷を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、行政権の意義、内閣制度の変遷をノートにまとめ、説明できるようにする。また、戦後日本で行われてきた衆議院解散総挙の実態を調べておく。（2時間）
11	事前学習	教科書pp. 330-337を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔内閣（2）：議院内閣制〕 権力分立制の態様と議院内閣制の本質、日本国憲法にみられる議院内閣制のしくみを説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、議院内閣制の趣旨をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	教科書pp. 337-341を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔内閣（3）：内閣の組織〕 内閣総理大臣の地位・要件、国务大臣の地位・要件、閣議の運営方法を説明し、その概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、内閣の組織をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	教科書pp. 342-348を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔内閣（4）：内閣の権能〕 内閣及び内閣総理大臣の権能を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、内閣及び内閣総理大臣の権能をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
14	事前学習	教科書pp. 23-34を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔天皇（1）：象徴天皇制〕 日本国憲法の成立過程との関連で象徴天皇制の特質を説明したうえで、天皇の地位、天皇の刑事責任・民事責任、皇位継承の原則を明らかにし、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、象徴天皇制の成立過程、天皇の地位、皇位継承の原則をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
15	事前学習	教科書pp. 34-43を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔天皇（2）：国事行為／皇室経済〕 天皇の国事行為、臨時代行・摂政の制度を説明し、その意義を理解できるようにする。また、皇室経済の原則を説明し、その意義を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、天皇の国事行為と皇室経済の原則をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
16	事前学習	教科書pp. 349-354を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔裁判所（1）：司法権〕 「法律上の争訟」の要件とそれをめぐる判例、司法権の限界に関する理論を説明し、履修者が他の二権とは異なる司法権の特質を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、司法権の意義及び限界をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）

17	事前学習	教科書pp. 354-360を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔裁判所（2）：司法権の独立〕 裁判官の職権の独立及び裁判官の身分保障に関する法制度を説明し、履修者が司法権の独立を確保する制度の概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、裁判官の身分保障に関する法制度をノートにまとめ、司法権の独立を確保する制度の概要を説明できるようにする。（2時間）
18	事前学習	教科書pp. 360-370を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔裁判所（3）：裁判所の組織・権能〕 最高裁判所及び各種下級裁判所の組織・権能、裁判手続の原則（裁判の公開、裁判員制度）を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、裁判所の組織・権能、裁判手続の原則をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
19	事前学習	教科書pp. 370-374を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔裁判所（4）：違憲審査制〕 違憲審査の意義、違憲審査制の類型、日本国憲法に定める違憲審査制の内容、憲法判断の方法についての考え方を説明し、履修者が違憲審査制の意義を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、日本国憲法に定める違憲審査制の内容、憲法判断の方法についての考え方をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
20	事前学習	教科書pp. 375-384を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔財政（1）：財政民主主義／予算〕 財政民主主義、租税法律主義を説明し、履修者が財政の基本原則を理解できるようにする。また、予算の法的性格、予算の内容、国会の予算修正権を説明し、履修者が予算とは何かを具体的に理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、財政の基本原則と予算の意義をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
21	事前学習	教科書pp. 384-389を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔財政（2）：決算／公金支出等の禁止〕 決算の意義と手続、財政状況の報告の意義を説明し、履修者がその趣旨を理解できるようにする。また、公金支出等の禁止を定めた憲法89条の意義と、とりわけ慈善・教育・博愛事業との関連で表出する論点を説明し、履修者がこの憲法規定の問題点を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、決算の意義と公金支出等の禁止の趣旨をノートにまとめ、説明できるようにするとともに、憲法89条の解釈や運用について、自分の考えをまとめる。（2時間）
22	事前学習	教科書pp. 44-48を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔戦争の放棄（1）：平和主義の理念〕 憲法に非戦規定を置く意味、国際社会における戦争違法化の経緯、現代諸国憲法の非戦規定の特徴を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、平和主義の理念と戦争違法化の経緯をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
23	事前学習	教科書pp. 49-58を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔戦争の放棄（2）：憲法9条の解釈〕 憲法9条の成立過程、平和的生存権の法的性格、憲法9条の論理構造、憲法9条の解釈をめぐる諸説及び政府解釈を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、憲法9条の解釈をめぐる諸説及び政府解釈をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
24	事前学習	教科書pp. 58-65を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔戦争の放棄（3）：自衛隊に関する判例〕 自衛隊に関する判例（恵庭事件、長沼事件、百里基地訴訟など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、自衛隊に関する判例の動向をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。（2時間）
25	事前学習	教科書pp. 65-76を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔戦争の放棄（4）：安全保障〕 在日米軍に関する判例（砂川事件）、自衛権の意義、日米安保体制と集団的自衛権の問題、戦後日本の国防法制の展開を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、日米安保条約及び自衛権をめぐる判例の動向、安全保障関連法制の経緯をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
26	事前学習	これまでに学修した国の統治機構（国会、内閣、天皇、裁判所）の総復習をするとともに、教科書pp. 390-393を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔地方自治（1）：国の統治機構の重要項目の確認／地方自治の本旨〕 国の統治機構（国会、内閣、天皇、裁判所）に関する復習的講義を行う。また、地方自治の本旨、「憲法上の地方公共団体」の意義を説明し、履修者がこれを理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、国の統治機構（国会、内閣、天皇、裁判所）を包括的に復習する。また、地方自治の本旨をノートにまとめ、これを説明できるようにする。（2時間）
27	事前学習	教科書pp. 393-404を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔地方自治（2）：地方公共団体の組織〕 地方公共団体の組織（議会、長、長と議会の関係、住民の直接的な政治参加の制度）を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、地方公共団体の組織及び諸制度をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
28	事前学習	教科書pp. 404-410を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔地方自治（3）：条例制定権〕 国の事務と地方公共団体の事務の区分、条例制定権及びそれをめぐる判例（徳島市公安条例事件、奈良県ため池条例事件、大阪市売春取締条例事件など）を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、地方公共団体の条例制定権をめぐる諸問題をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）

29	事前学習	事前配布する資料を一読し，講義内容を概観しておく。（2時間）
	授業内容	〔補遺：憲法改正〕 憲法改正の意義・限界の有無・手続を説明し，履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り，憲法改正の意義を理解したうえで，立憲主義と憲法改正の関係について，自分の考え方を説明できるようにする。（2時間）
30	事前学習	この科目で学修したすべての内容を総復習し，疑問点・不明点をメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔総括：「憲法Ⅱ（統治機構）」の総復習〕 本科目で学修した内容のうち，特に重要な事項につき説明を補い，履修者がこれを十分に理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り，ノートを補完しつつ，定期試験を視野に入れた総復習を行い，統治機構の概要を理解し，説明できるようにする。（2時間）

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	齋藤 康輝	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	憲法（統治機構）の基礎知識を学修する。とりわけ、憲法は国の最高法規であり、それゆえ憲法の各条項に違反する法令は違憲無効となること（法の支配・立憲主義）を理解する必要がある。この講座では、憲法（統治機構）の具体的な内容、つまり権力分立の仕組みについて詳細に論じていく。なお、日本の憲法をよく知るために、世界各国の憲法にもふれる。			
授業目的・到達目標	憲法は、民主主義を実現するための「国家の設計図」である。そして憲法は、国家権力の濫用を防ぐための装置である。この講座では、教科書に沿って、統治機構に関する日本国憲法の条文・学説の検討を行う。できるだけわかりやすい授業を目指す。法的・論理的思考力（リーガルマインド）を養成することを目的とする。 到達目標は、統治機構についての基礎知識を習得し、法の支配や立憲主義というキーワードを説明できるようにすることである。関連DP及びCP：法律学科1，2，3，5			
履修条件	とくになし。			
授業方法	スライド（パワーポイント）を使用して講義を行う。憲法条文ミニテストは中間テストとして授業内で実施し、その答えは速やかに返却する。また、レポートの講評を後日ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	憲法条文ミニテスト（30%）とレポートの成績（70%）により評価する。なお、レポートでは、授業内容をきちんと理解し、キーワードを説明できるかどうかチェックする。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	弘文堂	『Next教科書シリーズ憲法（第2版）』	齋藤康輝・高畑英一郎編
	備考			
参考書	授業中適宜紹介する。			
オフィスアワー	時間帯：毎週水曜日の昼休み（12:10～13:00） ただし、祝日・休暇期間は除く 場所：研究室（本館1809） 必ずメール等で事前予約した上で来室すること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の「はじめに」を読んでくること。（2時間）
	授業内容	憲法の意義と立憲主義（1） 国家論 国家と国民
	事後学習	教科書（1頁～4頁）を復習すること。（2時間）
2	事前学習	教科書（5頁～8頁）を予習すること。（2時間）
	授業内容	憲法の意義と立憲主義（2） 憲法とは何か、憲法の特質 統治論入門
	事後学習	教科書（5頁～8頁）を復習すること。（2時間）
3	事前学習	教科書（163頁～168頁）を予習すること。（2時間）
	授業内容	統治の基本原理（1） 人権と統治の融合 権力分立
	事後学習	教科書（163頁～168頁）を復習すること。（2時間）
4	事前学習	教科書（172頁～176頁）を予習すること。（2時間）
	授業内容	統治の基本原理（2） 統治制度改革
	事後学習	教科書（172頁～176頁）を復習すること。（2時間）

5	事前学習	教科書（１７頁～１８頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	統治の基本原理（３） 国民主権と象徴天皇制
	事後学習	教科書（１７頁～１８頁）を復習すること。（２時間）
6	事前学習	教科書（１９頁～２４頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	統治の基本原理（４） 天皇の行為および権能、皇室財政
	事後学習	教科書（１９頁～２４頁）を復習すること。（２時間）
7	事前学習	教科書（２５頁～２９頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	統治の基本原理（５） 平和主義（世界史の中の９条、憲法９条の成立経緯、戦争の放棄、戦力の不保持）
	事後学習	教科書（２５頁～２９頁）を復習すること。（２時間）
8	事前学習	教科書（２９頁～３８頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	統治の基本原理（６） 平和主義（自衛隊の海外派遣、自衛隊に関する判例、国民保護法制、安保法制と集団的自衛権）
	事後学習	教科書（２９頁～３８頁）を復習すること。（２時間）
9	事前学習	教科書（１７７頁～１７９頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	国会（１） 国会の地位と組織、国会の構成
	事後学習	教科書（１７７頁～１７９頁）を復習すること。（２時間）
10	事前学習	教科書（１８０頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	国会（２） 国会議員の地位と特権
	事後学習	教科書（１８０頁）を復習すること。（２時間）
11	事前学習	教科書（１８１頁～１８３頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	国会（３） 国会の運営と活動
	事後学習	教科書（１８１頁～１８３頁）を復習すること。（２時間）
12	事前学習	教科書（１８４頁～１９６頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	国会（４） 国会および議院の権能、議院の権限（自律権、国政調査権）
	事後学習	教科書（１８４頁～１９６頁）を復習すること。（２時間）
13	事前学習	教科書（１９７頁～１９９頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	内閣（１） 内閣の地位・性格
	事後学習	教科書（１９７頁～１９９頁）を復習すること。（２時間）
14	事前学習	教科書（２００頁～２０１頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	内閣（２） 内閣の組織
	事後学習	教科書（２００頁～２０１頁）を復習すること。（２時間）
15	事前学習	教科書（２０１頁～２０６頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	内閣（３） 内閣の権限・責任
	事後学習	教科書（２０１頁～２０６頁）を復習すること。（２時間）
16	事前学習	教科書（２０３頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	財政
	事後学習	教科書（２０３頁）および授業内容を復習すること。（２時間）

17	事前学習	教科書（２０７頁～２１５頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	司法（裁判所）（１） 司法権の概念、司法権の独立
	事後学習	教科書（２０７頁～２１５頁）を復習すること。（２時間）
18	事前学習	教科書（２１６頁～２２０頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	司法（裁判所）（２） 裁判所の構成と権限
	事後学習	教科書（２１６頁～２２０頁）を復習すること。（２時間）
19	事前学習	教科書（２２１頁～２２５頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	違憲審査制（１） 違憲審査制総説、違憲審査制の性格、違憲審査の主体と対象
	事後学習	教科書（２２１頁～２２５頁）を復習すること。（２時間）
20	事前学習	教科書（２２６頁～２２８頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	違憲審査制（２） 憲法判断の方法と判決の効力、違憲判決のリスト
	事後学習	教科書（２２６頁～２２８頁）を復習すること。（２時間）
21	事前学習	教科書（１７５頁、２１２頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	裁判員制度
	事後学習	教科書（１７５頁、２１２頁）を復習すること。（２時間）
22	事前学習	教科書（２２９頁～２３４頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	地方自治（１） 地方自治の基本的枠組み
	事後学習	教科書（２２９頁～２３４頁）を復習すること。（２時間）
23	事前学習	教科書（２３８頁～２４２頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	地方自治（２） 条例、住民による直接民主制的契機
	事後学習	教科書（２３８頁～２４２頁）を復習すること。（２時間）
24	事前学習	教科書（２４３頁～２４６頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	憲法の最高法規性
	事後学習	教科書（２４３頁～２４６頁）を復習すること。（２時間）
25	事前学習	教科書（２４７頁～２４８頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	世界の憲法（１） 国家と憲法
	事後学習	教科書（２４７頁～２４８頁）を復習すること。（２時間）
26	事前学習	教科書（２４８頁～２５４頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	世界の憲法（２） 各国の憲法
	事後学習	教科書（２４８頁～２５４頁）を復習すること。（２時間）
27	事前学習	教科書（２５５頁～２５６頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	日本国憲法の将来（１） 憲法改正の是非
	事後学習	教科書（２５５頁～２５６頁）を復習すること。（２時間）
28	事前学習	教科書（２５６頁～２６１頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	日本国憲法の将来（２） 護憲、改憲、加憲、創憲、憲法価値をめぐるさまざまな議論、憲法改正試案 憲法改正国民投票法
	事後学習	教科書（２５６頁～２６１頁）を復習すること。（２時間）

29	事前学習	レポート課題に取り組むこと。（2時間）
	授業内容	統治機構論のまとめ（1） 民主主義と立憲主義
	事後学習	教科書（1頁～38頁、163頁～261頁）を通読すること。（2時間）
30	事前学習	レポート課題に取り組むこと。（2時間）
	授業内容	統治機構論のまとめ（2） 国家の設計図
	事後学習	教科書（1頁～38頁、163頁～261頁）を通読すること。（2時間）

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）【法職課程】	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
-----	-----------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中学の「公民」や高等学校の「現代社会」「政治・経済」で学んできた、憲法は国家の根本原則、すなわち国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方について定めた基本となる法です。憲法をよく理解した上で、よりよい社会を作り出していくことは、国民としての必須の事柄と思います。この講義では、立憲主義という近代国家に不可欠な視点から、日本国憲法の意義や内容その問題点などについて、判例・学説を素材に平易かつ具体的に解説していきます。							
授業目的・到達目標	日本国憲法の統治機構・政府組織に関する基本理念と特徴についての理解・習得を目的とします。18歳選挙権が実現したので、みなさんは有権者として憲法改正や選挙に向き合うことになります。民主主義とはなにか、なぜ政府は存在しているのか、法律を守らなければならないのはなぜか、といった問題意識を持ってもらいたいと考えています。こうした問題意識は、正しい政治判断をするためには不可欠です。そのような能力を身に着けることが、この講義の到達目標となります。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5							
履修条件	ありません。							
授業方法	指定の教科書に即して講義形式で行います。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		90%		日本国憲法の基本理念と国家機構についての理解・習得ができたのかを判定します。			
	平常評価		10%		受講態度も考慮の対象とする場合があります。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	2015		岩波書店		憲法 6版		芦部信喜	
	備考							
参考書	戸松秀典・初宿正典『憲法判例〔8版〕』（2018、有斐閣） 曾我部真裕ほか編『憲法論点教室』（2012、日本評論社）							
オフィスアワー	月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。 メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、授業概要及び目的を理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション
	事後学習	オリエンテーションを振り返ること。（2時間）
2	事前学習	教科書3-17ページを読んでくること。立憲主義という考え方や、憲法・政府・国民の関係はどのようなものかを考えてくること。（2時間）
	授業内容	【国家とは・憲法とは何か、立憲主義】憲法の一般原則や現代憲法に共通する憲法特徴についての理解を深める。国民にとっての国家・政府の存在意義を確認したうえで、立憲主義の内容を理解して、憲法・政府・国民の関係を考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、人間社会における国家の存在意義、憲法・政府・国民の関係、立憲主義の内容とその効果をまとめること。（2時間）
3	事前学習	教科書18-34ページを読んでくること。明治維新後の日本は憲法と共にどのように発展してきたのかを考えてくること。（2時間）
	授業内容	【憲法史】明治憲法と現行憲法の歴史を学ぶ。明治政府が憲法を制定した理由を理解したうえで、明治憲法と敗戦までの日本社会の進展を考察し、そこから得られる教訓をいかに現行憲法の理解に反映させるのかを考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、明治憲法の欠陥はなんであったのか、日本国憲法の特徴は何かをまとめること。（2時間）
4	事前学習	教科書36-37，263-264，290-292ページを読んでくること。社会のルールは国民の意思に基づいて決定するが、その決定にはどのような限界があったのかを考えてくること。（2時間）
	授業内容	【統治の原理（1）】民主制と政党・選挙の原則について学習する。直接民主制、代表民主制の違いや、日本国憲法の想定する民主制の在り方を考察し、さらに政党の意義および普通選挙、直接選挙、自由投票、秘密投票の意義と内容を学ぶ。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、代表民主制において議員と国民の関係はどのようなものであるのかをまとめること。（2時間）

5	事前学習	教科書265-266, 301-307ページを読んでくこと。選挙の原則の内容を確認するとともに、なぜ「一票の格差」が問題となるのかを考えてくこと。(2時間)
	授業内容	【統治の原理(2)】平等選挙の現代的意味と現在の選挙制度について学習する。平等選挙の意義の変容の理解に努めるとともに、「一票の格差」の是正がいかに民意の反映に影響を与えるのかを考察する。またこれに関わる最高裁判例を学ぶことを通して、現行の選挙制度の内容を理解する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「選挙の平等」に関連する最高裁判例の内容をまとめること。(2時間)
6	事前学習	教科書292-295ページを読んでくこと。「国民の代表機関」「国権の最高機関」の意味を確認してくこと。(2時間)
	授業内容	【国会(1)】憲法の規定する国会の地位について学習する。国会議員に対する命令委任が禁止され、表決の自由が認められる理由や、「国権の最高機関」という規定の実質的意味を検討する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、三権分立の観点から国会の地位はどのようなものであるのかをまとめること。(2時間)
7	事前学習	教科書295-299ページを読んでくこと。「唯一の立法機関」「法規概念」の内容を確認してくこと(2時間)
	授業内容	【国会(2)】立法権について学習する。国会で制定すべき法律とはどのようなルールであるべきか、そのようなルール制定において、国会はどのような活動をするのかについて考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、法律で規定すべき内容についてまとめること。また立法手続の過程もまとめておくこと。(2時間)
8	事前学習	教科書299-301, 309-312ページを読んでくこと。参議院の存在意義と衆議院の優越が認められる理由を考えてくこと。(2時間)
	授業内容	【国会(3)】国会の組織と活動について学習する。二院制の意義、衆議院と参議院の関係、衆議院の優越の意義と内容を学ぶ。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、二院制の意義と「ねじれ国会」の問題点をまとめること。(2時間)
9	事前学習	教科書307-308ページを読んでくこと。国会議員の権能と特権の内容を確認してくこと。(2時間)
	授業内容	【国会(4)】国会議員の地位について学習する。国会議員が行使する権能および特権の内容を学ぶ。さらには、国会議員の活動を支える組織についての理解を深める。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「国会議員の特権」に関する最高裁判例の内容をまとめること。(2時間)
10	事前学習	教科書312-315ページを読んでくこと。国会に認められる権能の内容を確認すること。(2時間)
	授業内容	【国会(5)】国会の権能について学習する。立法権以外にも憲法は国会に多様な権能を認めているが、その内容を確認するとともに、法律上国会の権限として認められるものも学ぶ。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、憲法改正や条約締結における国会の役割をまとめること。(2時間)
11	事前学習	教科書315-321ページを読んでくこと。「議院自律権」の内容を確認してくこと。(2時間)
	授業内容	【国会(6)】議院自律権と国政調査権について学習する。議院自律権に関する憲法規定を確認するとともに、国政調査権の行使における様々な問題を考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「議院自律権」「国政調査権」に関する最高裁判例の内容をまとめること。(2時間)
12	事前学習	教科書330-335ページを読んでくこと。議院内閣制と大統領制にはどのような違いがあるのかを考えてくこと。(2時間)
	授業内容	【議院内閣制】議院内閣制の本質、日本における議院内閣制について学習する。憲法の想定する衆議院の解散は、政治的実例を許容するのかについて考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「衆議院の解散」に関する裁判例の内容をまとめること。(2時間)
13	事前学習	教科書325-330ページを読んでくこと。文民統制の意義について考えてくこと。(2時間)
	授業内容	【内閣(1)】内閣の組織について学習する。内閣の構成、文民統制の意義、総辞職の内容について理解を深める。さらには、内閣に求められる責任、内閣の意思決定機関である閣議についても学ぶ。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「内閣総理大臣の職務権限」に関する最高裁判例の内容をまとめること。(2時間)
14	事前学習	教科書298-299, 322-325ページを読んでくこと。行政権の内容をどのように確定することができるのかを考えてくこと。(2時間)
	授業内容	【内閣(2)】行政権と内閣の権能について学習する。行政権の定義に関する見解や内閣の権能、独立行政委員会の位置づけなどについて考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「委任命令」「行政権による立法」に関する裁判例の内容をまとめること。(2時間)
15	事前学習	教科書336-346ページを読んでくこと。「法律上の争訟」の内容とその機能はどのようなものかを考えてくこと。(2時間)
	授業内容	【司法権(1)】司法権の意味と範囲について学習する。司法権の概念を確認したうえで、法律上の争訟の内容についての理解に努める。さらに司法権の限界についての様々な論点について考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「司法権」に関する最高裁判例の内容をまとめること。(2時間)
16	事前学習	教科書347-356ページを読んでくこと。裁判員制度の意義について考えてくこと。(2時間)
	授業内容	【司法権(2)】裁判所の組織について学習する。日本の裁判所の特徴について理解する。最高裁と下級裁判所の関係や最高裁判所の権能について学ぶ。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「特別裁判所の禁止」「裁判官」「国民の司法参加」に関する最高裁判例の内容をまとめること。(2時間)

17	事前学習	教科書356-359ページを読んでくること。民意と公平な裁判の関係はどうあるべきかを考えてくること。（2時間）
	授業内容	司法権（3）（司法権の独立）
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、司法権の独立の内容をまとめること。（2時間）
18	事前学習	教科書377-392ページを読んでくること。最高裁判所は「憲法の番人」と呼ばれるが、それは正しい理解なのかを考えてくること。（2時間）
	授業内容	【違憲審査制】法律を無効にする裁判所の権能について考察する。国民の信託を受けている国会が制定した法律を、最高裁判所が憲法に照らし無効と判決することの意義と問題点を考察し、その判断に際して求められる「慎重さ」の原理の内容を学ぶ。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「違憲審査権」「憲法判断の方法」に関する裁判例の内容をまとめること。（2時間）
19	事前学習	教科書367-368ページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	【地方自治（1）】地方自治の本旨について学ぶ。我が国の国家制度に関する憲法規定を確認したうえで、単一国家における地方自治制度の意義を理解する。そして、憲法のいう「地方自治の本旨」の内容について考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、国と地方の関係はどのようなものであるのかをまとめること。（2時間）
20	事前学習	教科書368-369ページを読んでくること。住民は地方政府に対してどのような権利をもっているのかを確認してくること。（2時間）
	授業内容	【地方自治（2）】地方公共団体の組織と住民の権利について学習する。地方公共団体の種類や住民が持つ条例制定改廃請求やリコール権のみならず、近年広く認められた住民投票などについての理解を深める。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「地方公共団体」に関する裁判例の内容をまとめること。（2時間）
21	事前学習	教科書369-373ページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	【地方自治（3）】条例制定権など地方公共団体の権限について学習する。自治組織権、自治行政権、自治財政権および条例制定権について考察する。条例に関しては、法律との関係についての理解を深める。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「条例制定権とその限界」「自治体財政権」に関する裁判例の内容をまとめること。（2時間）
22	事前学習	教科書360-362ページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	【財政（1）】租税制度について学習する。租税法律主義の意義と内容を学ぶ。
	事後学習	講ノートを確認するとともに、義の内容を振り返り、参考書で「租税法律主義」に関する裁判例の内容をまとめること。（2時間）
23	事前学習	教科書362-366ページを読んでくること。私立学校への政府補助について、その必要性和問題点を考えてくること。（2時間）
	授業内容	【財政（2）】予算制度と歳出に対する制約を学習する。予算の法的性質、国会における審議、決算などを理解したうえで、歳出に対する制約、とくに公金支出の禁止規定に該当する場合を考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「公の財産」に関する裁判例の内容をまとめること。（2時間）
24	事前学習	教科書44-53ページを読んでくること。わが国における天皇の存在はなにかを考えてくること。（2時間）
	授業内容	【天皇制】憲法上の天皇の地位について学習する。国民主権と天皇制、象徴天皇、天皇の権能と公的行為、皇室財政の関わる問題を考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「天皇」に関する裁判例の内容をまとめること。（2時間）
25	事前学習	教科書54-63ページを読んでくること。現在の国際社会での自衛権の行使について考えてくること。（2時間）
	授業内容	【平和主義（1）】憲法9条と自衛権について学習する。戦争放棄規定と自衛権・安全保障体制についての理解を深めたうえで、国際社会における戦争の位置と自衛権、自衛権と憲法9条との関係について考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「日米安保条約の合憲性」に関する裁判例の内容をまとめること。（2時間）
26	事前学習	教科書63-71ページを読んでくること。自衛隊の任務について確認してくること。（2時間）
	授業内容	【平和主義（2）】自衛隊と国民保護法制について学習する。国防と自衛隊、海外協調と自衛隊などについて理解を深める。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、参考書で「自衛隊の合憲性」に関する裁判例の内容をまとめること。（2時間）
27	事前学習	教科書39-43ページを読んでくること。社会のルールは国民の意思に基づいて決定するが、その決定にはどのような限界があったのかを考えてくること。（2時間）
	授業内容	【国民主権】「主権」の含む3つの意味を確認したうえで、国民が主権を持つことの意義を考察する。さらには、国民の要件である「国籍」について考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、国民主権と立憲主義の関係をまとめること。（2時間）
28	事前学習	教科書392-399ページを読んでくること。（2時間）
	授業内容	【憲法改正の手続、国際法と憲法】憲法改正に関わる諸問題とその手続、さらには憲法および国内法と国際法との関係について考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、憲法改正の手続と、国際法と国内法の関係をまとめること。（2時間）

29	事前学習	教科書9-11, 375-377, 399-400ページを読んでくること。(2時間)
	授業内容	【憲法規範の特徴と法源】憲法というルールに特徴的な性質や、憲法が破棄された時の国民の権利、憲法の内容が移り変わることなどについて学習する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を振り返り、憲法解釈の権威となるものはなにかをまとめること。(2時間)
30	事前学習	今までの授業内容をまとめておき、質問できるように準備しておくこと。(2時間)
	授業内容	【まとめ】これまで学んだ事項について、改めて深く考える機会を設け、疑問などを教員に尋ねる。
	事後学習	ノートを確認するとともに、今までの授業内容を振り返っておくこと。(2時間)

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	玉蟲 由樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	施行から70年を越えた日本国憲法は、その間、一度も改正を経ることなく同じ姿を保っている。しかし、この70年の間に日本国憲法を取り巻く状況は大きく変化した。その中で日本国憲法も「解釈」を通じて変化してきているともいえる。この講義では、日本国憲法の解釈におけるダイナミズムに着目して、現在の日本国憲法の姿を明らかにすることを目的とする。できるかぎり具体的な素材から学生の皆さんにイメージしやすい憲法論を講義したいと思う。			
授業目的・到達目標	日本国憲法の解釈について、具体的な内容を理解することを目的とする。 日本国憲法が採用する統治のシステムについて、全体的な視点から理解できるようになること。 日本国憲法が抱える問題についても、歴史的経緯や現状を含めて正確に理解できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1，2，3，5			
履修条件	特になし。			
授業方法	講義形式で行う。 事前配布資料に沿って講義を進める。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	講義の理解，論証のプロセス等を総合的に判断する。	
	平常評価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	嵯峨野書院	基礎からわかる憲法（第2版）	武居一正（編著）
	備考			
参考書	野中俊彦ほか『憲法判例集（第11版）』（有斐閣，2016年）			
オフィスアワー	月曜13：00～14：30 金曜13：00～14：30 事前にメール等で連絡をすること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前配布資料がある場合にはそれをよく読んでおくこと。 教科書第1章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	イントロダクション～憲法とは何か～
	事後学習	「憲法」の概念についてよく整理しておくこと。（2時間）
2	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第2章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	日本憲法史（1）大日本帝国憲法
	事後学習	大日本帝国憲法の特徴および運用について整理をしておくこと。（2時間）
3	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第2章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	日本憲法史（2）日本国憲法の成立
	事後学習	日本国憲法の成立過程について整理をしておくこと。（2時間）
4	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第1章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	「統治と国家組織」総論
	事後学習	国家統治に関する基礎理論を整理しておくこと。（2時間）

5	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第1章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	法治国家原理と法の支配
	事後学習	法治国家原理と法の支配の異同について整理しておくこと。（2時間）
6	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第3章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	国民主権論
	事後学習	ナシオン主権論・プーブル主権論について整理しておくこと。（2時間）
7	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第3章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	民主政原理・天皇制（1）
	事後学習	議会制民主主義の特徴について整理しておくこと。（2時間）
8	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第3章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	民主政原理・天皇制（2）
	事後学習	日本国憲法における天皇制の位置づけについて整理しておくこと。（2時間）
9	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	権力分立原理（1）
	事後学習	権力分立の基礎的理解を整理しておくこと。（2時間）
10	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	権力分立原理（2）
	事後学習	現代の権力分立が抱える諸問題について整理しておくこと。（2時間）
11	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第14章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	国会と立法権（1）
	事後学習	実質的立法概念について整理しておくこと。（2時間）
12	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第14章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	国会と立法権（2）
	事後学習	国会・議院・議員の権限について整理しておくこと。（2時間）
13	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第15章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	内閣と行政権（1）
	事後学習	議院内閣制の意義と構造について整理しておくこと。（2時間）
14	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第15章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	内閣と行政権（2）
	事後学習	行政権の概念について整理しておくこと。（2時間）
15	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第16章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	裁判所と司法権（1）
	事後学習	司法権の概念について整理しておくこと。（2時間）
16	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第16章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	裁判所と司法権（2）
	事後学習	司法の独立について整理しておくこと。（2時間）

17	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第16章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	違憲審査制（1）
	事後学習	違憲審査の類型について整理しておくこと。（2時間）
18	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第16章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	違憲審査制（2）
	事後学習	付随的違憲審査の手法について整理しておくこと。（2時間）
19	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第16章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	違憲審査制（3）
	事後学習	法令違憲・適用違憲などの類型について整理しておくこと。（2時間）
20	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第17章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	国家と財政（1）
	事後学習	財政の基本原則について整理しておくこと。（2時間）
21	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第17章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	国家と財政（2）
	事後学習	予算・公金支出のルールなどについて整理しておくこと。（2時間）
22	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第18章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	地方自治制度（1）
	事後学習	地方自治の意義について整理しておくこと。（2時間）
23	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第18章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	地方自治制度（2）
	事後学習	条例をめぐる問題について整理しておくこと。（2時間）
24	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第19章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	憲法保障制度（1）
	事後学習	憲法改正手続について整理しておくこと。（2時間）
25	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第19章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	憲法保障制度（2）
	事後学習	憲法改正をめぐる諸問題について整理しておくこと。（2時間）
26	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第4章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	平和主義（1）
	事後学習	前文・9条の平和主義について整理しておくこと。（2時間）
27	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第4章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	平和主義（2）
	事後学習	9条をめぐる判例について整理しておくこと。（2時間）
28	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。 教科書第4章を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	平和主義（3）
	事後学習	平和主義が抱える問題について整理しておくこと。（2時間）

29	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	統治・国家組織論と人権論
	事後学習	統治・国家組織論と人権論との関係性について整理をしておくこと。(2時間)
30	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	まとめ
	事後学習	全体のまとめを自分なりに考えてみること。(2時間)

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	担当者	東 裕	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	4
-----	-----------	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立を基本とする、日本国憲法の定める統治機構について、制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら、その組織、権能、および相互関係について解説する。通説・判例を踏まえながら、適宜自説を解説する。また、比較憲法的視点からの日本国憲法の考察にも留意する。				
授業目的・到達目標	近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立を基本に、日本国憲法の統治機構について、制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら、その組織、権能、および相互関係について理解を深め、日本国憲法の統治機構を人権保障との関係で考察できる能力の養成を目的とする。日本国憲法の定める統治機構の原理と制度について説明ができ、統治機構の問題点を指摘し、その改善案を提案できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5				
履修条件	特になし。				
授業方法	レジュメと教科書をもとに講義形式で行う。教科書の巻末には、日本国憲法、明治憲法およびポツダム宣言の条文がそれぞれ掲載されているが、できるだけ六法も持参すること。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	授業で扱った条文・学説・判例に関する客観式問題（60％）と論述式問題（40％）を出題し、授業内容の理解度と到達目標の達成度を判定する。	
	平常評価		0%		
教科書	年	出版社	書名		著者名
	平成31年度	嵯峨野書院	新・テキストブック日本国憲法		東裕・下條芳明ほか4名
	備考	教科書に即して授業を展開するので、授業の際には必ず持参すること。定期試験の際、教科書と授業で配布したレジュメに限り、持ち込みを認める。			
参考書	授業で配付するレジュメの中で適宜紹介する。				
オフィスアワー	月曜日・2時限（出来るだけ事前に予約すること）。なお、これ以外の曜日・時限も可。 研究室（本館6階 1616号室） メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書第1講を読むこと。（1時間）
	授業内容	近代国家と憲法 ＊教科書：第1講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
2	事前学習	教科書第1講を読むこと。（1時間）
	授業内容	現代の国際社会と憲法 ＊教科書：第1講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
3	事前学習	教科書第1講を読むこと。（1時間）
	授業内容	現代国家における憲法の目的と機能 ＊教科書：第1講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
4	事前学習	教科書第2講を読むこと。（1時間）
	授業内容	明治憲法の「改正」と日本国憲法の「制定」 ＊教科書：第2講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）

5	事前学習	教科書第2講を読むこと。（1時間）
	授業内容	日本国憲法における権力分立 *教科書：第2講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
6	事前学習	教科書第2講を読むこと。（1時間）
	授業内容	日本国憲法の基本原理とその相互関係 *教科書：第2講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
7	事前学習	教科書第3講を読むこと。（1時間）
	授業内容	天皇（1）―天皇と国民主権 *教科書：第3講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
8	事前学習	教科書第3講を読むこと。（1時間）
	授業内容	天皇（2）―天皇と元首論 *教科書：第3講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
9	事前学習	教科書第3講を読むこと。（1時間）
	授業内容	天皇（3）―国事行為 *教科書：第3講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
10	事前学習	教科書第4講を読むこと。（1時間）
	授業内容	戦争の放棄（1）―占領下における9条解釈 *教科書：第4講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
11	事前学習	教科書第4講を読むこと。（1時間）
	授業内容	戦争の放棄（2）―独立後の9条解釈 *教科書：第4講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
12	事前学習	教科書第4講を読むこと。（1時間）
	授業内容	戦争の放棄（3）―現代国際社会と安全保障 *教科書：第4講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
13	事前学習	教科書第15講を読むこと。（1時間）
	授業内容	国会（1）―国会の地位 *教科書：第15講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
14	事前学習	教科書第15講を読むこと。（1時間）
	授業内容	国会（2）―国会の組織と選挙制度 *教科書：第15講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
15	事前学習	教科書第15講を読むこと。（1時間）
	授業内容	国会（3）―国会の権能 *教科書：第15講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
16	事前学習	教科書第15講を読むこと。（1時間）
	授業内容	国会（4）―議院の権能 *教科書：第15講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）

17	事前学習	教科書第 1 6 講を読むこと。（1時間）
	授業内容	内閣（1）—内閣の組織 *教科書：第 1 6 講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
18	事前学習	教科書第 1 6 講を読むこと。（1時間）
	授業内容	内閣（2）—内閣の権能 *教科書：第 1 6 講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
19	事前学習	教科書第 1 6 講を読むこと。（1時間）
	授業内容	内閣（3）—議院内閣制 *教科書：第 1 6 講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
20	事前学習	教科書第 1 6 講を読むこと。（1時間）
	授業内容	内閣（4）—首相公選論 *教科書：第 1 6 講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
21	事前学習	教科書第 1 7 講を読むこと。（1時間）
	授業内容	裁判所（1）—司法権と司法権の独立 *教科書：第 1 7 講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
22	事前学習	教科書第 1 7 講を読むこと。（1時間）
	授業内容	裁判所（2）—裁判所の組織と権能 *教科書：第 1 7 講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
23	事前学習	教科書第 1 7 講を読むこと。（1時間）
	授業内容	裁判所（3）—違憲審査制 *教科書：第 1 7 講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
24	事前学習	教科書第 1 8 講を読むこと。（1時間）
	授業内容	予算と財政 *教科書：第 1 8 講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
25	事前学習	教科書第 1 9 講を読むこと。（1時間）
	授業内容	地方自治の本旨 *教科書：第 1 9 講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
26	事前学習	教科書第 1 9 講を読むこと。（1時間）
	授業内容	地方公共団体の組織と権能 *教科書：第 1 9 講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
27	事前学習	教科書第 1 9 講を読むこと。（1時間）
	授業内容	条例制定権と住民投票条例 *教科書：第 1 9 講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
28	事前学習	教科書第 2 0 講を読むこと。（1時間）
	授業内容	憲法改正の手続きと限界 *教科書：第 2 0 講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）

29	事前学習	教科書第20講を読むこと。（1時間）
	授業内容	憲法保障 *教科書：第20講
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
30	事前学習	前回までの授業範囲を確認しておくこと。（1時間）
	授業内容	授業の総まとめ・定期試験についての説明
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）

科目名	憲法A(人権)	担当者	池田 実	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	法の支配や立憲主義の概念をふまえ、憲法の総論的事項を学修する。次いで、各論として、日本国憲法に定める基本的人権（包括的人権、自由権、受益権、参政権、社会権）をめぐる諸問題に関し、その意義や重要判例・学説を学修する。				
授業目的・到達目標	憲法上の権利の特質を理解し、日本国憲法に定める基本的人権の概要を説明する能力を養成することを目的とする。憲法の基本問題（人権）につき、憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるようにすることを目標とする。 関連DP及びCP：政治経済学科1， 2 新聞学科1， 5 経営法学科1， 2， 3， 5 公共政策学科1， 3， 4				
履修条件	授業日程、補助教材、試験等に関する学生への通知は、随時、COLNetドライブ「学生教員共有」フォルダにPDFファイルをアップして配布するので、COLNetの扱いに慣れておくこと。				
授業方法	教科書に準拠し、講義形式で行う。講義で使用するパワーポイントのデータ（PDFファイル）は、COLNetドライブ「学生教員共有」フォルダにて事前配布する。定期試験の解説・講評を、後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		90%	筆記試験では、基本的人権の意義や重要判例を理解し、説明できるかどうかを判定する。	
	平常評価		10%	授業への参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016年	嵯峨野書院		憲法〔第2版〕	池田実
	備考				
参考書	講義中に適宜指示する。				
オフィスアワー	金曜日12:10-13:00 研究室（4号館5階454研究室） メールアドレス：ikedam.inoru61@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書pp. i-iiiを通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【授業案内：憲法（人権）の学び方】 当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程、法令・判例・学説の学び方、予習・授業・復習に教科書を利用する際の注意事項などを説明し、履修者が授業の準備を行うことができるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、ノートを確認して、今後の学修計画を立てる。（2時間）
2	事前学習	教科書pp. 1-9を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【憲法総論：人権論へのイントロダクション】 憲法の意味、立憲的憲法（近代憲法）の特徴、法体系における憲法の地位、立憲主義の展開を説明し、履修者が憲法とは何かを理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、憲法の意味、法体系における憲法の地位をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	教科書pp. 12-18を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【人権総論：人権の種類／人権の私人間効力】 基本的人権の意義・類型・享有主体、人権の私人間効力（第三者効力）を説明し、履修者が基本的人権の特質を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、人権の種類、人権の享有主体、人権の私人間効力（第三者効力）をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
4	事前学習	教科書pp. 136-145を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	【精神的自由権（1）：思想・良心の自由／信教の自由】 思想及び良心の自由の意義・保障範囲・判例、信教の自由の意義・限界、学校教育における信教の自由の問題を説明し、履修者が内心の自由の意義を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、思想・良心の自由の意義・判例、信教の自由の意義・判例をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）

5	事前学習	教科書pp. 145-161を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔精神的自由権（2）：政教分離／表現の自由〕 制度的保障としての政教分離の意義、政教分離原則の内容、目的・効果基準を説明し、その概要を理解できるようにする。また、表現の自由の意義、表現の自由に対する規制の合憲性審査基準を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、政教分離原則の意義、目的・効果基準、表現の自由の意義、表現の自由に対する規制の合憲性審査基準をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
6	事前学習	教科書pp. 170-200, 161-170を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔精神的自由権（3）：表現の自由をめぐる判例／その他の精神的自由権〕 表現の自由をめぐる判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。また、その他の精神的自由権（学問の自由、集会・結社の自由等）を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、表現の自由をめぐる判例、その他の精神的自由権をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
7	事前学習	教科書pp. 201-211を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔経済的自由権（1）：職業選択の自由〕 近代初期及び現代における経済的自由権の意義、職業選択（営業）の自由の意義及びそれに対する規制の合憲性審査基準並びにそれをめぐる判例（小売市場距離制限事件、薬局距離制限事件など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、経済的自由権の意義、職業選択の自由の意義・判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	教科書pp. 211-224を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔経済的自由権（2）：財産権／その他の経済的自由権〕 財産権の意義・判例、その他の経済的自由権（居住・移転の自由、外国移住・国籍離脱の自由）の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、財産権の意義・判例、その他の経済的自由権の意義をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
9	事前学習	教科書pp. 225-233を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔身体的自由権（1）：適正手続の保障〕 奴隷的拘束・苦役からの自由の意義及びそれに関連する法制度、適正手続の保障の意義及びそれに関連する法制度並びに判例（成田新法事件など）を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、奴隷的拘束・苦役からの自由の意義、適正手続の保障の意義・判例をノートにまとめ、憲法18条及び31条の解釈並びに関連する判例の概要旨を説明できるようにする。（2時間）
10	事前学習	教科書pp. 233-250を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔身体的自由権（2）：被疑者の権利／刑事被告人の権利〕 被疑者の権利（不法な逮捕・抑留・拘禁からの自由、住居等の不可侵）及び刑事被告人の権利（公平な裁判所の迅速な公開裁判を受ける権利、証人審問権・証人喚問権、弁護人依頼権・国選弁護制度、自己に不利益な供述を強要されない権利、自白の証拠能力、事後法の禁止・一事不再理、拷問・残虐刑の禁止）の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、被疑者の権利及び刑事被告人の権利をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
11	事前学習	教科書pp. 251-263を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔受益権〕 受益権（裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権、請願権）の意義を説明し、履修者が受益権を具体化する制度の概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、受益権（裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権、請願権）の意義をノートにまとめ、受益権を具体化する制度の概要を説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	教科書pp. 264-272を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔社会権（1）：生存権の法的性格〕 社会権の歴史的背景・意義・特質、生存権の意義及びその法的性格をめぐる諸説を説明し、履修者が生存権の法的性格を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、社会権の意義、生存権の法的性格をめぐる諸説をノートにまとめ、生存権の法的性格を説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	教科書pp. 272-290を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔社会権（2）：生存権をめぐる判例／その他の社会権〕 生存権をめぐる判例（朝日訴訟、堀木訴訟など）を説明し、履修者が事件の概要・争点・判旨を理解できるようにする。また、その他の社会権（教育を受ける権利、勤労の権利・義務の意義、労働基本権）の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、生存権をめぐる判例をノートにまとめ、事件の概要・争点・判旨を説明できるようにする。また、その他の社会権の意義をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
14	事前学習	教科書pp. 107-124を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔包括的人権（1）：法の下での平等〕 「平等」思想の歴史、「平等」のさまざまな意味、憲法14条の意義、平等原則違反の違憲審査基準、「法の下での平等」をめぐる判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、「平等」のさまざまな意味、「法の下での平等」をめぐる判例をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
15	事前学習	教科書pp. 77-97を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔包括的人権（2）：幸福追求権と「新しい人権」〕 個人の尊重と幸福追求権の意義、「新しい人権」の類型を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。また、一般的人格権（プライバシー権、肖像権）の意義及びそれに関連する判例を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、個人の尊重と幸福追求権の意義をノートにまとめ、説明できるようにする。また、一般的人格権の意義・判例をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）

科目名	憲法A(人権)	担当者	齋藤 康輝	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	憲法（人権）の基礎知識を学修する。とりわけ、憲法は国の最高法規であり、それゆえ憲法の各条項に違反する法令は違憲無効となること（法の支配・立憲主義）を理解する必要がある。この講座では、憲法（人権）の具体的な内容、つまり国民の国に対する権利（基本的人権）を詳細に論じていく。重要テーマについて学説にも言及し、判例も数多く取り上げる。なお、日本の憲法をよく知るために、世界各国の憲法にもふれる。			
授業目的・到達目標	憲法は国家権力の濫用を防ぐための装置であり、その結果として人権保障を実現している。この講座では、教科書の項目に沿って、人権に関する日本国憲法の条文解釈、学説・判例の検討を行う。できるだけわかりやすい授業を目指す。法的・論理的思考力（リーガルマインド）を養成することを目的とする。 到達目標は、人権についての基礎知識を習得し、法の支配や立憲主義というキーワードを説明できるようにすることである。関連DP及びCP：政治経済学科1，2，新聞学科1，5 経営法学科1，2，3，5 公共政策学科1，3，4			
履修条件	とくになし。			
授業方法	テキストに沿って講義を行う。スライド（パワーポイント）を使用して講義を行う。 レポートの講評を後日ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	レポートの成績（100％）により評価する。なお、本レポートでは、授業内容をきちんと理解し、キーワードを説明できるかどうかにもチェックする。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	弘文堂	『Next教科書シリーズ憲法（第2版）』	齋藤康輝・高畑英一郎編
	備考			
参考書	授業中適宜紹介する。			
オフィスアワー	時間帯：毎週水曜日の昼休み（12:10～13:00） ただし、祝日・休暇期間は除く 場所：研究室（本館1809） 必ずメール等で事前予約した上で来室すること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の「はじめに」を読んでくること。（2時間）
	授業内容	憲法の意義と立憲主義
	事後学習	教科書（1 頁～8 頁）を復習すること。（2時間）
2	事前学習	教科書（9 頁～1 6 頁）を予習すること。（2時間）
	授業内容	日本憲法史
	事後学習	教科書（9 頁～1 6 頁）を復習すること。（2時間）
3	事前学習	教科書（3 9 頁～4 2 頁）を予習すること。（2時間）
	授業内容	基本的人権の原理 人権の歴史、人権の観念、人権の類型
	事後学習	教科書（3 9 頁～4 2 頁）を復習すること。（2時間）
4	事前学習	教科書（4 3 頁～5 4 頁）を予習すること。（2時間）
	授業内容	基本的人権の保障と限界 人権の享有主体、人権の限界
	事後学習	教科書（4 3 頁～5 4 頁）を復習すること。（2時間）

5	事前学習	教科書（５５頁～６８頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	包括的人権 幸福追求権、新しい人権
	事後学習	教科書（５５頁～６８頁）を復習すること。（２時間）
6	事前学習	教科書（６９頁～７８頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	法の下での平等 日本国憲法における「平等」概念、憲法１４条１項の差別禁止事項、判例にみる「差別」と「合理的区別」
	事後学習	教科書（６９頁～７８頁）を復習すること。（２時間）
7	事前学習	教科書（７９頁～９３頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	精神的自由（１） 思想・良心の自由、信教の自由、政教分離、学問の自由
	事後学習	教科書（７９頁～９３頁）を復習すること。（２時間）
8	事前学習	教科書（９４頁～１１０頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	精神的自由（２） 表現の自由の意味・内容・限界、集会・結社の自由、通信の秘密
	事後学習	教科書（９４頁～１１０頁）を復習すること。（２時間）
9	事前学習	教科書（１１１頁～１２４頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	人身の自由
	事後学習	教科書（１１１頁～１２４頁）を復習すること。（２時間）
10	事前学習	教科書（１２５頁～１４０頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	経済的自由
	事後学習	教科書（１２５頁～１４０頁）を復習すること。（２時間）
11	事前学習	教科書（１４１頁～１４７頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	社会権（１） 社会権の登場背景、生存権
	事後学習	教科書（１４１頁～１４７頁）を復習すること。（２時間）
12	事前学習	教科書（１４８頁～１５４頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	社会権（２） 教育を受ける権利、勤労権、労働基本権
	事後学習	教科書（１４８頁～１５４頁）を復習すること。（２時間）
13	事前学習	教科書（１５５頁～１６２頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	国務請求権・参政権
	事後学習	教科書（１５５頁～１６２頁）を復習すること。（２時間）
14	事前学習	教科書（１６３頁～１７１頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	人権と統治の融合
	事後学習	教科書（１６３頁～１７１頁）を復習すること。（２時間）
15	事前学習	レポート課題に取り組むこと。（２時間）
	授業内容	人権論のまとめ
	事後学習	教科書（１頁～１６頁、３９頁～１７１頁）を通読すること。（２時間）

科目名	憲法A(人権)	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中学の「公民」や高等学校の「現代社会」「政治・経済」で学んできた憲法は、国家の根本原則、すなわち国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方について定めた基本となる日本の最高法規です。そこで、まずは憲法の各条項に違反する法令は違憲無効となること（法の支配・立憲主義）を学び、次に憲法の具体的な内容、国民の国に対する権利（基本的人権）について学修します。あわせて日本国憲法にみられる憲法原理を学びます。				
授業目的・到達目標	日本国憲法の基本理念と特徴についての理解・習得を目的とします。18歳選挙権が実現したので、みなさんは有権者として憲法改正や選挙に向き合うことになります。目の前の政治課題にどのような問題があるのか、それがみなさんの自由や権利とどのような関係をもつのかを理解することは、正しい政治判断をするためには不可欠です。そのような能力を身に着けることを到達目標とします。関連DP及びCP：政治経済学科1, 2 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	ありません。				
授業方法	指定の教科書に即して講義形式で行います。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		90%	日本国憲法の基本理念と特徴についての理解・習得ができたのかを判定します。	
	平常評価		10%	受講態度も評価の対象とする場合があります。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	弘文堂		Next教科書シリーズ 憲法 第2版	齋藤康輝・高畑英一郎
	備考				
参考書	初回講義時に指定する。				
オフィスアワー	月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。 メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、授業概要及び目的を理解する。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション【講義の進め方の説明】
	事後学習	オリエンテーションを振り返る。（2時間）
2	事前学習	教科書40-54ページを読み、人権保障の意義について考えてくる。（2時間）
	授業内容	【人権保障の一般原則(1)】人権を憲法で保障することの意義を考察する。西欧の歴史において中世から近代へと以降する時期に、どのように自由や権利の意識が芽生え定着していったのか、。産業革命の進展とともに権利の内容はどのように拡大していったのかを考察し、人権保障に通底する理念を学習する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の中で示された「人権保障の意義と歴史」を考察し、現代に人権保障がなかった場合を想定してみよう。（2時間）
3	事前学習	教科書43-54ページを読み、憲法上の権利を主張することのできる人は誰か、人権の主張はどのような場面で可能なのかを考えてくる。（2時間）
	授業内容	【人権保障の一般原則(2)】人権の主体・私人間効力について考察する。憲法上の権利を主張することのできる人は誰かについて、国民、外国人、法人などを区分して考察する。さらに、人権の主張はどのような場面で可能なのかについては、統治権の意義と内容を確認したうえで、国民に及ぼす影響と人権との関係を学習する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、憲法と国民との関係を考えつつ自分が外国に行った時のことを想定してみる。また社会の中の格差や差別をどうやって解決すべきかを考えてみよう。（2時間）
4	事前学習	教科書49-54ページを読み、誰もが無制限に人権を主張した場合に、どのようなことは発生するのかを考えてくる。（2時間）
	授業内容	【人権の一般原則(3)】人権制約の原理について考察する。憲法上の権利は無制約に国民に認められるのか、それとも制約は必要か。どの程度までの制約ならば許されるのか。その制約はいかなる理由で正当化できるのかを学習す
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、「みなが平和に暮らす」とことと「みな同じように行動しなければダメ」は同じか、違うのかを考えてみよう。（2時間）

5	事前学習	教科書79-91ページを読み、信念を持って生きること、信仰に基づいて生活することの意義を考え、それが否定された時の感情を想像してくる。（2時間）
	授業内容	【精神的自由(1)】良心の自由・信教の自由について学習する。良心の自由を保障する意義とその範囲、そして近年の最高裁判例が示した良心の自由に対する制約の原理を学ぶ。そして信教の自由を保障し、政教分離原則を掲げる理由を考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、国旗国歌に起立斉唱しなければならないのか、風変わりな信仰をもつ人たちは気持ちが悪いので追い出してしまうことは許されるのか、東日本大震災で犠牲になった人たちを政府が追悼するのは許されるかを考えてみよう。（2時間）
6	事前学習	教科書92-105ページを読み、科学研究や表現活動がいかに人間社会を進展させたのかを考えてくる。（2時間）
	授業内容	【精神的自由(2)】学問の自由・表現の自由の意義について学習する。学問研究を保障する意義を考察するとともに、表現の自由が人間の発展にどのような影響を及ぼし、さらには民主社会にいかなる意義を持つのかを学ぶ。また表現することに必要な様々な人間の活動についても触れる。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、クローン技術やiPS細胞、AI技術のような人間の生活に大きな影響を与える研究はなぜ推進されるのか、表現の自由は「優越的地位」にあるというのが本当にそうなのかを考えてみよう。（2時間）
7	事前学習	教科書97-105ページを読み、表現の自由になぜ制約が必要なのかを考えてくる。（2時間）
	授業内容	【精神的自由(3)】表現の自由に対する制限を学習する。表現して情報を発信するにおいて、実際にどのような制約が存在しているのか、その制約はいかなる理由により正当化されているのか、その制約に対して裁判所はどのように憲法適合性を判断すべきなのかを考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、表現の自由を制約する理由はすべてにおいて同じか、それとも異なる理由づけによるのかを考えてみよう。（2時間）
8	事前学習	教科書97-105ページを読み、表現に対する制約について、どのタイミングで行われる制約が最も深刻なものとなるのかを考えてくる。（2時間）
	授業内容	【精神的自由(4)】事前抑制と検閲について考察する。検閲に対する憲法上の扱いを確認するとともに、関連する最高裁判例を学び、情報流通に対する規制の現状を理解する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、ネットやメールでの発言は完全に自由だろうか、それとも監視されているのだろうか、もしそうならどのような対策を採るべきだろうかを考えてみよう。（2時間）
9	事前学習	教科書106-108ページを読み、集会がどのように人々の政治的意見の形成にかかわるのかを考えてみる。（2時間）
	授業内容	【精神的自由(5)】集会・結社の自由について考察する。集会の自由については、公の施設を利用した場合と集団的示威行為とに分けて、最高裁判例を中心にその規制の実態を学ぶ。また結社の自由については、グループを結成して活動を継続することに政府はどのように関与することができるのかを考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、サークルやバンドを結成し参加して活動することにどのような問題があるのかを考えてみよう。（2時間）
10	事前学習	教科書126-132ページを読み、就職したり起業して営利を稼ぐことは無制限に許されるのか、あるいは何らかの制約は必要なのか、必要ならどのような制約が望ましいのかを考えてくる。（2時間）
	授業内容	【経済的自由(1)】職業選択の自由について考察する。近代市民社会の基本理念である「私的自治」を確認し、契約の自由の意味を理解したうえで、就職し起業して営利を得ることの意義を考えるとともに、営業活動における公平さはいかに確保できるのか、現状の制約は公平といえるのかを考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、人はだれでも生活のために働くが、それを選び継続する自由はどこまで認められるのかを考えてみよう。（2時間）
11	事前学習	教科書133-139ページを読み、各自の持つ服や靴、時計を「所有する」とはどういうことなのかを考えてくる。（2時間）
	授業内容	【経済的自由(2)】財産権保障について学習する。「私的自治」における所有権絶対の原則を確認したうえで、その他の財産的権利の内容とその保障の在り方を学ぶ。そして秩序や安全確保のための財産権制約と、弱者保護のための制約の理由を考察して、損失補償の実際を学習する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、財産をもつ権利にはどのような制限が及ぶのかを考えてみよう。（2時間）
12	事前学習	教科書142-148ページを読み、経済活動を放任した結果貧富の格差が著しい社会はどのようなものなのかを考えてくる。（2時間）
	授業内容	【社会権(1)】福祉国家主義・生存権について学習する。憲法が福祉国家主義を採用した理由を考察するとともに、政府による経済的社会的弱者の救済を社会権の内容を確認したうえで理解する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、社会的格差是正のためにどのような政策がとられているのかを考えてみよう。（2時間）
13	事前学習	教科書148-154ページを読み、小学校・中学校に通わなかった場合に今の日本で仕事を探すことができるのかを考え、さらに「ブラック企業」と何か調べてくる。（2時間）
	授業内容	【社会権(2)】教育権・労働基本権について学習する。教育を受ける権利の意義を考察するとともに、公教育に対する政府の関与と補助の現状を学ぶ。また労働者の権利を理解して、特に労働三権の意義を考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、国家が国民に教育を提供することの意味を考え、また労働者が集団で使用者と交渉する権利が認められるのはなぜかを考えてみよう。（2時間）
14	事前学習	教科書56-68ページを読み、憲法13条の保障する幸福を追求する権利とはどのようなものか、また憲法に明記されていない権利はどのように保障されるべきかを考えてくる。（2時間）
	授業内容	【幸福追求権】憲法13条で保障されていると理解される人格権・自己決定権について学習する。「新しい人権」を保障する原理としての「幸福追求権」を理解するとともに、その内容である人格権・自己決定権の内実を考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、自然環境を保護するために憲法は有効なのかを考えてみよう、また電子機器とプライバシー保護との関係を考えてみよう。（2時間）
15	事前学習	教科書70-76ページを読み、「等しいものは等しく扱い、等しくないものは別々に扱う」ということはどういう意味なのかを考えてくる。（2時間）
	授業内容	【平等】形式的平等と実質的平等の差異を考えつつ、平等原則の意義を学習する。社会に存在する様々な区別と差別とをいかに見分けるのかについて、最高裁判例を参照しつつ考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、何を基準にして等しいものと等しくないものを区別することができるのかを考えてみよう。（2時間）

科目名	憲法A(人権)	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	近代立憲主義の成立から現代立憲主義へと変容する中で、人権の概念がどのように変化してきたかを概観し、日本国憲法における人権保障について通説・判例を理解することを主とし、さらに人権保障の現状と課題についても言及する。人権の分野では、判例が多数あるので、重要な最高裁判例については、教科書に紹介されている判例要旨だけでなく判例の全文を取り上げ、判例の論理展開の仕方を分析する。			
授業目的・到達目標	「人権」という言葉は日常生活でもよく使われるが、憲法学ではその背後にある歴史や思想を含めて考察し、各種の人権に応じた保障ないしその限界があることを理解する必要がある。安易に「人権」という言葉を振りかざすのではなく、社会の中に生きる個人として、各自がその尊厳を保持しながら生きるための人権保障の在り方を考えられるような能力を養成することを授業目的とする。主要な条文、学説、判例の知識を身につけ、人権と公共性の関係を理解し、説明できることを目標とする。対応DP及びCP：政治経済学科1, 2 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	特になし。			
授業方法	レジュメと教科書をもとに講義形式で行う。教科書の巻末には、日本国憲法と明治憲法の条文が掲載されているが、できるだけ六法も持参すること。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	授業で扱った条文・学説・判例に関する客観式問題（60％）と論述式問題（40％）を出題し、授業内容の理解度と到達目標の達成度を判定する。	
	平常評価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	平成31年度	嵯峨野書院	新・テキストブック日本国憲法	東 裕・下條芳明ほか4名
	備考	教科書に即して授業を展開するので、授業の際には必ず持参すること。定期試験の際、教科書及び授業で配布したレジュメに限り、持ち込みを認める。		
参考書	授業で配付するレジュメの中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜日・2時限（出来るだけ事前に予約すること）。なお、これ以外の曜日・時限も可。 研究室（本館6階1616号室） メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁を読むこと。（1時間）
	授業内容	憲法と立憲主義：近代憲法の成立と基本的人権の保障、イギリスの名誉革命と権利章典、アメリカの独立革命と憲法的文書、フランス革命と人権宣言。（教科書73-85頁、授業時にレジュメ配布）
	事後学習	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）
2	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁を読むこと。（1時間）
	授業内容	人権の観念と内容：人権の性格、人間の尊厳、人権の分類。（教科書73-85頁、授業時にレジュメ配布）
	事後学習	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）
3	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁を読むこと。（1時間）
	授業内容	現代立憲主義と人権概念の変容：近代立憲主義から現代立憲主義へ、現代憲法の人権保障、人権の国際化。（教科書85-88頁）
	事後学習	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）
4	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁を読むこと。（1時間）
	授業内容	人権の分類・享有主体：人権の分類、個人の尊重の意義、人権の享有主体（日本国民・外国人・法人・未成年者）。（教科書90-96頁、授業時にレジュメ配布）
	事後学習	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）

5	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁を読むこと。（1時間）
	授業内容	人権の妥当範囲・違憲審査基準：「公共の福祉」とは何か、公共の福祉による人権制約、人権の違憲審査基準。（教科書98-99頁、授業時にレジュメ配布）
	事後学習	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）
6	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁を読むこと。（1時間）
	授業内容	幸福追求権：幸福追求権の意義と範囲、幸福追求権から導き出される人権（名誉権・プライバシー権・自己決定権・環境権）。教科書97-104頁）
	事後学習	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）
7	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁を読むこと。（1時間）
	授業内容	平等原則：平等観念の展開（市民革命期の人権宣言）、日本国憲法における平等原則（14条1項の解釈・14条1項違反とされた判例）、選挙権の平等、家庭生活および職場における男女平等。（教科書105-120頁）
	事後学習	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）
8	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁を読むこと。（1時間）
	授業内容	精神的自由権（1）―内心の自由：精神的自由権の意義、思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則、学問の自由。（教科書122-131頁、141-142頁）
	事後学習	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）
9	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁を読むこと。（1時間）
	授業内容	精神的自由権（2）―表現の自由：表現の自由の意義と内容、集会の自由、結社の自由。（教科書132-140頁）
	事後学習	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）
10	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁を読むこと。（1時間）
	授業内容	経済的自由権：経済的自由権の意義、居住・移転の自由、外国移住・国籍離脱の自由、職業選択の自由、財産権の保障。（教科書144-158頁）
	事後学習	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）
11	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁を読むこと。（1時間）
	授業内容	人身の自由：人身の自由の意義、奴隷的拘束および苦役からの自由、適正手続きの保障、被疑者の権利と被告人の権利。（教科書159-178頁）
	事後学習	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）
12	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁を読むこと。（1時間）
	授業内容	参政権：参政権の意義、選挙権の法的性質、選挙の基本原則、選挙の方法と選挙運動の規制、直接民主制方式としての参政権。（教科書180-195頁）
	事後学習	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）
13	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁を読むこと。（1時間）
	授業内容	国務請求権：国務請求権の意義、請願権、裁判を受ける権利、国家賠償請求権、刑事補償請求権。（教科書196-210頁）
	事後学習	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）
14	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁を読むこと。（1時間）
	授業内容	社会権（1）：社会権の歴史的背景、日本国憲法における社会権保障、生存権（法的性格・主要判例）、教育を受ける権利、教育権の所在と教育の自由。（教科書211-223頁）
	事後学習	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）
15	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁を読むこと。（1時間）
	授業内容	社会権（2）：勤労権、労働基本権の性格と内容、労働基本権の制限（根拠・主要判例）。（教科書223-232頁）
	事後学習	授業で扱った部分を教科書とレジュメで確認すること。（3時間）

科目名	憲法B（統治機構）	担当者	池田 実	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	憲法の基本概念を明らかにしたうえで、日本国憲法に定める統治機構（国会、内閣、裁判所、天皇、財政、地方自治）及び戦争の放棄をめぐる諸問題に関し、制度の概要や重要判例・学説を学修する。			
授業目的・到達目標	政治の法である憲法に固有の特質を理解し、日本国憲法に定める統治機構の概要を説明する能力を養成することを目的とする。 憲法の基本問題（統治機構）につき、憲法及び法律に定める制度の概要、主要な学説や判例を説明し、法的な観点から評価できるようになることを目標とする。 関連D P及びC P：政治経済学科1， 2 新聞学科1， 5 経営法学科1， 2， 3， 5 公共政策学科1， 3， 4			
履修条件	授業日程，補助教材，試験等に関する学生への通知は，随時，COLNetドライブ「学生教員共有」フォルダにPDFファイルをアップして配布するので，COLNetの扱いに慣れておくこと。			
授業方法	教科書に準拠し，講義形式で行う。講義で使用するパワーポイントのデータ（PDFファイル）は，COLNetドライブ「学生教員共有」フォルダにて事前配布する。定期試験の解説・講評を，後日，ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	90%	筆記試験では，統治機構に関する法制度を理解し，説明できるかどうかを判定する。	
	平常評価	10%	授業への参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年	嵯峨野書院	憲法〔第2版〕	池田実
	備考			
参考書	授業中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	金曜日12:10-13:00 研究室（4号館5階454研究室） メールアドレス：ikedam.minoru61@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書pp. i-iiiを通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔授業案内：憲法（統治機構）の学び方〕 当該年度の学事予定に合わせた具体的な授業日程、法令・判例・学説の学び方、予習・授業・復習に教科書を利用する際の注意事項などを説明し、履修者が授業の準備を行うことができるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、ノートを確認して、今後の学修計画を立てる。（2時間）
2	事前学習	教科書pp. 1-9を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔憲法総論（1）：憲法とは何か／立憲主義の展開〕 憲法の前提としての国家、憲法の意味、立憲的憲法（近代憲法）の特徴、法体系における憲法の地位、立憲主義の展開を説明し、履修者が憲法とは何かを理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、憲法の意味、法体系における憲法の地位をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	教科書pp. 9-13， 23-25， 49を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔憲法総論（2）：日本憲法史／日本国憲法の基本原理〕 明治憲法の成立過程・基本原理、日本国憲法の成立過程・基本原理を説明し、履修者が日本憲法史の概要と日本国憲法の基本原理を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、日本憲法史の概略、日本国憲法前文の趣旨、日本国憲法の成立過程をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
4	事前学習	教科書pp. 291-299を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔国会（1）：国会の地位〕 代表民主制の趣旨、国会の地位、国会議員の地位を説明し、履修者が国会の地位を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、代表民主制の趣旨、国会の地位、国会議員の地位をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）

5	事前学習	教科書pp. 300-306を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔国会（2）：国会の活動〕 会期、参議院の緊急集会、会議の諸原則を説明し、履修者が会期制の趣旨を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、国会の会期制、会期の諸原則をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
6	事前学習	教科書pp. 306-320を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔国会（3）：国会の権能／議院の権能〕 国会の権能（法律の議決、予算の議決、条約の承認、内閣総理大臣の指名など）及びそこに表れる衆議院の優越を説明し、履修者がかかる制度の趣旨を理解できるようにする。また、議院の権能（議院の自律権、国政調査権）を説明し、これを理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、国会の権能（衆議院の優越）、議院の権能をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
7	事前学習	教科書pp. 320-326, 124-133を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔国会（4）：参政権と選挙制度〕 参政権の意義（国民固有の権利」とされている点）と各種選挙制度（小選挙区制、大選挙区制、比例代表制）の特徴を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。また、議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例を説明し、その概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、参政権の意義と選挙制度の特徴をノートにまとめ、説明できるようにする。また、議員定数不均衡（一票の較差）問題をめぐる判例をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	教科書pp. 327-337を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔内閣（1）：行政権と内閣／議院内閣制〕 行政権の意義、議院内閣制のしくみを説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、行政権の意義、議院内閣制のしくみをノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
9	事前学習	教科書pp. 337-348を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔内閣（2）：内閣の組織・権能〕 内閣の組織、内閣及び内閣総理大臣の権能を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、内閣の組織、内閣及び内閣総理大臣の権能をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
10	事前学習	教科書pp. 23-43を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔天皇：象徴天皇制／国事行為／皇室経済〕 日本国憲法の成立過程との関連で象徴天皇制の特質を説明したうえで、天皇の地位、皇位継承の原則、天皇の国事行為、皇室経済の原則を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、天皇の地位、皇位継承の原則、天皇の国事行為、皇室経済の原則をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
11	事前学習	教科書pp. 349-360を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔裁判所（1）：司法権〕 司法権（の独立）の意義、裁判官の身分保障を説明し、履修者が他の二権とは異なる司法権の特質を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、司法権（の独立）の意義、裁判官の身分保障をノートにまとめ、説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	教科書pp. 360-370を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔裁判所（2）：裁判所の組織・権能〕 裁判所の組織・権能、違憲審査制の意義、憲法判断の方法を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、裁判所の組織・権能、違憲審査制の意義、憲法判断の方法をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	教科書pp. 44-76を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔戦争の放棄：平和主義／憲法9条／安全保障〕 憲法9条の解釈・判例、自衛権の意義、安全保障法制を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、憲法9条の解釈・判例、自衛権の意義、安全保障法制をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
14	事前学習	教科書pp. 375-389を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔財政：予算・決算／公金支出等の禁止〕 予算・決算の制度、公金支出等の禁止の意義を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、予算・決算の制度、公金支出等の禁止の意義をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）
15	事前学習	教科書pp. 300-410を通読し、講義内容を概観したうえで、疑問点をノートにメモしておく。（2時間）
	授業内容	〔地方自治：地方自治の本旨／地方公共団体の組織・運営〕 地方自治の本旨、地方公共団体の組織・運営を説明し、履修者がその概要を理解できるようにする。
	事後学習	講義を振り返り、地方自治の本旨、地方公共団体の組織・運営をノートにまとめ、その概要を説明できるようにする。（2時間）

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	齋藤 康輝	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	憲法（統治機構）の基礎知識を学修する。とりわけ、憲法は国の最高法規であり、それゆえ憲法の各条項に違反する法令は違憲無効となること（法の支配・立憲主義）を理解する必要がある。この講座では、憲法（統治機構）の具体的な内容、つまり権力分立の仕組みについて詳細に論じていく。なお、日本の憲法をよく知るために、世界各国の憲法にもふれる。				
授業目的・到達目標	憲法は、民主主義を実現することを目的とした「国家の設計図」である。そして憲法は、国家権力の濫用を防ぐための装置である。この講座では、統治機構に関する日本国憲法の条文解釈、学説の検討を行う。できるだけわかりやすい授業を目指す。法的・論理的思考力（リーガルマインド）を養成することを目的とする。 到達目標は、統治機構についての基礎知識を習得し、法の支配や立憲主義というキーワードを説明できるようにすることである。関連DP及びCP：政治経済学科1, 2, 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	とくになし。				
授業方法	テキストに沿って講義を行う。スライド（パワーポイント）を使用して講義を行う。 レポートの講評を後日ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	レポートの成績（100％）により評価する。なお、本レポートでは、授業内容をきちんと理解し、キーワードを説明できるかどうかにもチェックする。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017年	弘文堂		『Next教科書シリーズ憲法（第2版）』	齋藤康輝・高畑英一郎編
	備考				
参考書	授業中適宜紹介する。				
オフィスアワー	時間帯：毎週水曜日の昼休み（12:10～13:00） ただし、祝日・休暇期間は除く 場所：研究室（本館1809） 必ずメール等で事前予約した上で来室すること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の「はじめに」を読んでくること。（2時間）
	授業内容	憲法の意義 国家論 国家と国民
	事後学習	教科書（1 頁～8 頁）を復習すること。（2時間）
2	事前学習	教科書（1 6 3 頁～1 7 6 頁）を予習すること。（2時間）
	授業内容	統治の基本原理（1） 人権と統治の融合 権力分立
	事後学習	教科書（1 6 3 頁～1 7 6 頁）を予習すること。（2時間）
3	事前学習	教科書（1 7 頁～2 4 頁）を予習すること。（2時間）
	授業内容	統治の基本原理（2） 民主権と天皇制
	事後学習	教科書（1 7 頁～2 4 頁）を復習すること。（2時間）
4	事前学習	教科書（2 5 頁～3 8 頁）を予習すること。（2時間）
	授業内容	統治の基本原理（3） 平和主義
	事後学習	教科書（2 5 頁～3 8 頁）を復習すること。（2時間）

5	事前学習	教科書（１７７頁～１８０頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	国会（１） 国会の地位と組織、国会の構成、国会議員の地位と特権
	事後学習	教科書（１７７頁～１８０頁）を復習すること。（２時間）
6	事前学習	教科書（１８１頁～１９６頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	国会（２） 国会の運営と活動、国会および議院の権能、議院の権限（自律権、国政調査権）
	事後学習	教科書（１８１頁～１９６頁）を復習すること。（２時間）
7	事前学習	教科書（１９７頁～２００頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	内閣（１） 内閣の地位・性格、内閣の組織
	事後学習	教科書（１９７頁～２００頁）を復習すること。（２時間）
8	事前学習	教科書（２０１頁～２０６頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	内閣（２） 内閣の権限・責任、財政
	事後学習	教科書（２０１頁～２０６頁）を復習すること。（２時間）
9	事前学習	教科書（２０７頁～２１５頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	司法（裁判所）（１） 司法権の概念、司法権の独立
	事後学習	教科書（２０７頁～２１５頁）を復習すること。（２時間）
10	事前学習	教科書（２１６頁～２２８頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	司法（裁判所）（２） 裁判所の構成と権限、違憲審査制
	事後学習	教科書（２１６頁～２２８頁）を復習すること。（２時間）
11	事前学習	教科書（２２９頁～２４２頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	地方自治
	事後学習	教科書（２２９頁～２４２頁）を復習すること。（２時間）
12	事前学習	教科書（２４３頁～２４６頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	憲法の最高法規性
	事後学習	教科書（２４３頁～２４６頁）を復習すること。（２時間）
13	事前学習	教科書（２４７頁～２５４頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	世界の憲法
	事後学習	教科書（２４７頁～２５４頁）を復習すること。（２時間）
14	事前学習	教科書（２５５頁～２６１頁）を予習すること。（２時間）
	授業内容	日本国憲法の将来
	事後学習	教科書（２５５頁～２６１頁）を復習すること。（２時間）
15	事前学習	レポート課題に取り組むこと。（２時間）
	授業内容	統治機構論のまとめ
	事後学習	教科書（１頁～３８頁、１６３頁～２６１頁）を通読すること。（２時間）

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	高畑 英一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中学の「公民」や高等学校の「現代社会」「政治・経済」で学んできた憲法は、国家の根本原則、すなわち国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方について定めた基本となる日本の最高法規です。そこで、まずは憲法の各条項に違反する法令は違憲無効となること（法の支配・立憲主義）を学び、次に憲法の具体的な内容、国を治める仕組み（統治機構）について学修します。あわせて日本国憲法にみられる憲法原理を学びます。				
授業目的・到達目標	日本国憲法の基本理念と特徴についての理解・習得を目的とします。18歳選挙権が実現したので、みなさんは有権者として憲法改正や選挙に向き合うことになります。目の前の政治課題にどのような問題があるのか、それがみなさんの自由や権利とどのような関係をもつのかを理解することは、正しい政治判断をするためには不可欠です。そのような能力を身に着けることを到達目標とします。関連DP及びCP：政治経済学科1, 2 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	ありません。				
授業方法	指定の教科書に即して講義形式で行います。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		90%	日本国憲法の基本理念と特徴についての理解・習得ができたのかを判定します。	
	平常評価		10%	受講態度も評価の対象とする場合があります。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	弘文堂		Next教科書シリーズ 憲法 第2版	齋藤康輝・高畑英一郎
	備考				
参考書	初回講義時に指定する。				
オフィスアワー	月曜18:00～19:00、研究室（9号館9303）にて行います。 メールでの相談は（takahata.eiichiro@nihon-u.ac.jp）に送信してください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書164-168ページと世界史の教科書を読み、人々が政治に参加する権利を獲得してきた歴史を確認してくる。（2時間）
	授業内容	【国民主権】国民主権の意義・民主主義について学習する。まずは「主権」の含む3つの意味を確認したうえで、国民が主権を持つことの意義を考察する。そして、このことと不可分の関係にある民主主義の在り方について学ぶ。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、社会のルールは国民の意思に基づいて決定するが、その決定にはどのような限界があったのかを考えてみよう。（2時間）
2	事前学習	教科書74, 160-162ページを読み、選挙の原則の概要を理解してくる。（2時間）
	授業内容	【選挙(1)】国民の政治参加を具体化する制度、すなわち選挙の原則について学習する。普通選挙、直接選挙、自由投票、秘密投票および平等選挙の意義と内容を考察する。その際に「一票の格差」の問題に触れ、近年の最高裁判例の発展について学ぶ。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、選挙の原則の内容を確認するとともに、なぜ「一票の格差」が問題となるのかを考えてみよう。（2時間）
3	事前学習	教科書166-167ページを読み、日本の選挙制度の概要を理解してくる。（2時間）
	授業内容	【選挙(2)】現在の選挙制度について学ぶ。衆議院および参議院の選挙制度の概要を理解したうえで、小選挙区制と比例代表制の内容と問題点を考察する。さらに日本の政党に対する規制についての理解も深める。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、現行の選挙制度にはどのような問題点があるのかを考えてみよう。（2時間）
4	事前学習	教科書178-195ページを読み、国会の組織と手続の概要を理解してくる。（2時間）
	授業内容	【国会(1)】二院制・国会の審議方法について学習する。二院制、とくに参議院の存在意義について理解を深めたうえで、国会が法律を制定する際の審査過程を学ぶ。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、参議院の存在意義と衆議院の優越が認められる理由を考えてみよう。（2時間）

5	事前学習	教科書178-195ページを読み、国会議員に認められている特権の内容を確認してくる。（2時間）
	授業内容	【国会(2)】立法権・議員特権について学習する。国会が制定すべき法律とはどのようなものであるべきか、また法律を制定する国会議員の任務と特権はどのようなものかを理解する。そしてなぜ国会議員が国民には認められない特権を手にするのかを考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、国民よりも厚く保護されている国会議員に求められる役割とはどのようなものかを考えてみよう。（2時間）
6	事前学習	教科書198-206ページを読み、内閣の組織と国会との関係の概要を理解してくる。（2時間）
	授業内容	【内閣】議院内閣制・内閣の構造と権能について学習する。議会と行政府との関係につき、議院内閣制の特徴を理解する。さらには、内閣の構造と権能を学んだうえで、今日の内閣主導の政治決定のあり様について考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、議院内閣制と大統領制にはどのような違いがあるのかを考えてみよう。（2時間）
7	事前学習	教科書208-220ページを読み、裁判所の構成と裁判所の任務について理解してくる。（2時間）
	授業内容	【裁判所(1)】司法権の内容・日本の裁判所の特徴について理解する。最高裁と下級裁判所の関係を学んだうえで、裁判所が裁判する際に不可欠な条件を考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、「法律上の争訟」の内容とその機能はどのようなものかを考えてみよう。（2時間）
8	事前学習	教科書208-220ページを読み、司法権が政治部門から独立していることの重要性を理解してくる。（2時間）
	授業内容	【裁判所(2)】司法権の限界・司法の独立について学習する。裁判所が裁判できるにもかかわらず、その権限行使を回避する範囲と理由を考察し、その必要性の理解に努める。また司法の独立の意義を考察し、裁判と民意との関係について学ぶ。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、民主政と公平な裁判の関係はどうあるべきかを考えてみよう。（2時間）
9	事前学習	教科書222-228ページを読み、憲法上最高裁判所に付与された違憲立法審査権の意義について理解してくる。（2時間）
	授業内容	【違憲立法審査権】法律を無効にする裁判所の権能について考察する。国民の信託を受けている国会が制定した法律を、最高裁判所が憲法に照らし無効と判決することの意義と問題点を考察し、その判断に際して求められる「慎重さ」の原理の内容を学ぶ。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、最高裁判所は「憲法の番人」と呼ばれるが、それは正しい理解なのかを考えてみよう。（2時間）
10	事前学習	教科書230-241ページを読み、日本の国家制度としての地方自治の概要を理解してくる。（2時間）
	授業内容	【地方自治(1)】地方自治制度・地方公共団体の構造について学習する。憲法の規定する「地方自治の本旨」の理解とともに、現行の地方自治制度の概要および地方公共団体の構造を学ぶ。さらには国と地方公共団体との関係を考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、国と地方の関係はどのようなものであるのかを考えてみよう。（2時間）
11	事前学習	教科書230-241ページを読み、地方自治制度の下での住民の権利について理解を深めてくる。（2時間）
	授業内容	【地方自治(2)】住民の権利・条例制定権について学習する。条例制定改廃請求やリコール権のみならず、近年広く認められた住民投票などについての理解を深める。さらに地方公共団体の権限として条例制定権ほかを学ぶ。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、住民は地方政府に対してどのような権利をもっているのかを考えてみよう。（2時間）
12	事前学習	教科書18-24ページや日本史の教科書を読み、日本の歴史における天皇について考えてくる。（2時間）
	授業内容	【天皇】象徴としての地位・国事行為についての理解を深める。国民主権の下での天皇の存在、国事行為以外の天皇の行為の法的性質、象徴として天皇に認められる特権と制約、皇族などについて学ぶ。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、わが国における天皇の存在はなにかを考えてみよう。（2時間）
13	事前学習	教科書26-38ページと日本史の教科書を読み、憲法が平和主義を採用するようになった経緯を理解してくる。（2時間）
	授業内容	【平和主義】戦争放棄規定と自衛権・安全保障体制について学習する。国際社会における戦争の位置と自衛権、自衛権と憲法9条との関係、9条の理解、国防と自衛隊、海外協調と自衛隊などについて理解を深める。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、現在の国際社会での自衛権の行使について考えてみよう。（2時間）
14	事前学習	教科書1-8ページを読み、さらにこれまで学んだことを振り返り、国家の存在意義、国家と憲法との関係について考えてくる。（2時間）
	授業内容	【国家について・憲法とは何か、立憲主義】憲法の一般原則や現代憲法に共通する憲法特徴についての理解を深める。国民にとっての国家・政府の存在意義を確認したうえで、立憲主義の内容を理解して、憲法・政府・国民の関係を考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、立憲主義という考え方や、憲法・政府・国民の関係はどのようなものかを考えてみよう。（2時間）
15	事前学習	教科書10-16ページと日本史の教科書を読み、幕末から明治維新、条約改正から5・15事件や満州事変を経て敗戦に至る歴史と、GHQの占領、新憲法制定、高度経済成長期にかけての歴史を理解してくる。（2時間）
	授業内容	【憲法史】明治憲法と現行憲法の歴史を学ぶ。明治政府が憲法を制定した理由を理解したうえで、明治憲法と敗戦までの日本社会の進展を考察し、そこから得られる教訓をいかに現行憲法の理解に反映させるのかを考察する。
	事後学習	ノートを確認するとともに、講義の内容を思い返して、明治維新後の日本は憲法と共にどのように発展してきたのかを考えてみよう。（2時間）

科目名	憲法B(統治機構)	担当者	東 裕	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立を基本に、日本国憲法の統治機構について、制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら、その組織、権能、および相互関係について解説する。通説・判例を踏まえながら、適宜自説を解説する。また、比較憲法的視点からの日本国憲法の考察にも留意する。				
授業目的・到達目標	近代憲法の基本原理である人権保障と権力分立を基本に、日本国憲法の統治機構について、制度の目的・機能・結果という視点を踏まえながら、その組織、権能、および相互関係について理解を深め、日本国憲法の統治機構を人権保障との関係で考察できる能力の養成を目的とする。日本国憲法の定める統治機構の原理と制度について説明ができ、統治機構の問題点を指摘し、その改善案を提案できることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科1，2 新聞学科1，5 経営法学科1，2，3，5 公共政策学科1，3，4				
履修条件	特になし。				
授業方法	レジュメと教科書をもとに講義形式で行う。教科書の巻末には、日本国憲法、明治憲法およびポツダム宣言の条文がそれぞれ掲載されているが、できるだけ六法も持参すること。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	授業で扱った条文・学説・判例に関する客観式問題（60％）と論述式問題（40％）を出題し、授業内容の理解度と到達目標の達成度を判定する。	
	平常評価		0%		
教科書	年	出版社	書名		著者名
	平成31年度	嵯峨野書院	新・テキストブック日本国憲法		東 裕・下條芳明ほか4名
	備考	教科書に即して授業を展開するので、授業の際には必ず持参すること。定期試験の際、教科書及び授業で配布したレジュメに限り、持ち込みを認める。			
参 考 書	授業で配付するレジュメの中で適宜紹介する。				
オフィスアワー	月曜日・2時限（出来るだけ事前に予約すること）。なお、これ以外の曜日・時限も可。 研究室（本館6階 1616号室） メールアドレス：higashi.yutaka@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁の部分を読むこと。（1時間）
	授業内容	国家と憲法：憲法と国家、憲法の分類、憲法の分類、憲法の特質、近代憲法の基本原理、近代国家から現代国家への変容と現代憲法の展開。（教科書1-15頁）
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
2	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁の部分を読むこと。（1時間）
	授業内容	日本国憲法の成立：ボツダム宣言の意味、占領下における日本国憲法成立過程、8月革命説。（教科書17-24頁）
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
3	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁の部分を読むこと。（1時間）
	授業内容	日本国憲法の基本原理：日本国憲法の基本原理とその相互関係について。（教科書25-31頁）
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
4	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁の部分を読むこと。（1時間）
	授業内容	天皇の地位と権能：国民主権と天皇制、天皇の地位、天皇の権能と行為、皇室経済。（教科書33-46頁）
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）

5	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁の部分を読むこと。（1時間）
	授業内容	戦争の放棄：日本国憲法の平和主義の特徴、9条解釈のあり方、政府及び裁判所の9条解釈、9条解釈の学説、憲法と国家と安全保障。（教科書47-70頁）
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
6	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁の部分を読むこと。（1時間）
	授業内容	権力分立原理：権力分立の意義、権力分立の目的、権力分立の現代的変容。（教科書11-12、242、261、275頁）
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
7	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁の部分を読むこと。（1時間）
	授業内容	議院内閣制：議院内閣制の意義と本質、議院内閣制と大統領制、首相公選論。（教科書264-271頁）
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
8	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁の部分を読むこと。（1時間）
	授業内容	国会の地位：国民の代表機関、国権の最高機関、国の唯一の立法機関。（教科書241-244頁）
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
9	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁の部分を読むこと。（1時間）
	授業内容	国会の組織と権能：二院制、会期、国会の権能と議院の権能、衆議院の優越、国会議員の地位と特権、議会制民主主義と政党。（教科書241-259頁）
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
10	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁の部分を読むこと。（1時間）
	授業内容	内閣の組織と権能：行政権の意義、独立行政委員会、内閣の構成、内閣の責任、内閣の権能、内閣総理大臣の地位と権能。（教科書261-273頁）
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
11	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁の部分を読むこと。（1時間）
	授業内容	裁判所の組織と権能：司法権の意義、司法権の独立、裁判所の構成・運営・管轄、裁判員制度、最高裁判所の組織と権能。（教科書275-286頁）
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
12	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁の部分を読むこと。（1時間）
	授業内容	違憲審査制：違憲審査制の類型、違憲審査の主体と対象、違憲審査制の運用、司法権の限界（統治行為論・立法裁量・行政裁量）違憲審査の方法と効力。（教科書286-302頁）
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
13	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁の部分を読むこと。（1時間）
	授業内容	財政：財政の基本原則、予算の意義・性質・内容、予算の作成手続、決算の意義・効果、公金の支出制限。（教科書303-315頁）
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
14	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁の部分を読むこと。（1時間）
	授業内容	地方自治：地方自治の概念、わが国の地方自治制度、地方自治の本旨（住民自治・団体自治）、地方公共団体の組織、条例制定権とその限界、住民投票、直接請求。（教科書316-331頁）
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）
15	事前学習	授業内容に記載された教科書の該当頁の部分を読むこと。（1時間）
	授業内容	憲法保障と憲法改正：憲法保障の意義、国家緊急権、抵抗権、憲法改正の意義、憲法改正手続、憲法改正の限界、憲法の変遷の意義。（教科書333-346頁）
	事後学習	授業で扱った部分を確認すること。（3時間）

科目名	公共経済学Ⅰ	担当者	楠谷 清	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	公共経済学は、政府の経済行動を理論的に分析する応用経済学の一分野である。本講では、ミクロ・マクロの基本的な経済理論を公共部門に適用して、政府の経済行動を支出、収入の両面から分析するとともに、公共部門に関わる経済主体の経済行動を、政治的な側面も併せて、理論編に現実編を織り交ぜながら講義を進める。				
授業目的・到達目標	どのような状況において市場は失敗し、市場の失敗を調整するために政府（公共部門）がどのような政策を選択すれば、社会的厚生を最大化できるのか分析する能力を育成することを目的とする。また、マクロ、ミクロの基本的な経済理論を公共部門に適用して、政府の経済行動を支出、収入の両面から分析するとともに、公共部門にかかわる経済主体の行動を受講生が理論的に説明できることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科4、5 公共政策学科1、3、4				
履修条件	経済学Ⅰ・Ⅱないしミクロ・マクロ経済学を履修していることが望ましい。				
授業方法	テキスト・参考書を参照しつつ講義毎レジメと関連する資料を配付して講義を進める。 スライド（パワー・ポイント）を使用して講義を行う。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		80%		筆記試験は、公共経済学の意義と重要概念を具体的ケースにおいて習得できているかを判定する。授業で解説された各事項について、意義を踏まえて理解すること。
	平常評価		20%		レポート提出、授業への参加度によって評価する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2015年	新世社		『基礎コース 公共経済学 第2版』	井堀利宏著
	備考				
参考書	スティグリッツ著『公共経済学第2版（上・下）』（東洋経済新報社）、林正義・小川光・別所俊一郎著『公共経済学（有斐閣アルマ）』（有斐閣）、柴田弘文・柴田愛子著『公共経済学』（東洋経済新報社）、その他授業中に紹介。				
オフィスアワー	火曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス】 講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて公共経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書 第1章の「1節 市場の機能」の部分を読み、市場の機能とメリットを理解し、市場の失敗の意味を考察する。（2時間）
	授業内容	【公共経済学の意義】 市場の機能とメリットを学習、競争的市場は優れた機能を有するが、失敗するケースがあることを学習、効率性を基準に公共経済学が市場の失敗の調整を提唱することを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、市場の機能とメリット及び市場の失敗について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書 第1章の「2節 政府の役割」の部分を読み、市場の失敗と政府の役割との関係を考察する。（2時間）
	授業内容	【市場の失敗と政府の役割1】 資源配分のケースにおける市場の失敗を学習し、政府の役割（財政の三大機能）との関連を考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、資源配分のケースにおける市場の失敗と政府の役割（財政の機能）との関係について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
4	事前学習	教科書 第1章の「2節 政府の役割」の部分を読み、市場の失敗と政府の役割との関係を考察する。（2時間）
	授業内容	【市場の失敗と政府の役割2】 所得分配及び景気循環のケースにおける市場の失敗を学習し、政府の役割（財政の役割）との関連を考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、所得分配・景気循環のケースにおける市場の失敗と政府の役割（財政の役割）との関係について、自分なりの説明をまとめる。現行財政の予算配分と財政の三大機能との関連を考察する。（2時間）

5	事前学習	教科書 第2章の「1節 選挙と投票」、「2節 選挙と棄権」の部分を読み、民主主義の基本制度である投票によって、有権者の意向が適切に反映されない可能性を考察する。（2時間）
	授業内容	【国民と投票1】 中位投票者定理、投票のパラドックス、選挙区、選挙と棄権を学習し、多数決原理の意義と問題点について受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、中位投票者定理や投票のパラドックスの理論を作図して説明できるようにする。八代尚宏著『シルバー民主主義』（中公新書）を読み、感想をまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書 第2章の「3節 望ましい投票制度」の部分を読み、様々な投票制度の概念を考察する。（2時間）
	授業内容	【国民と投票2】 様々な投票制度を学習し、投票の回数を少なくしながら、有権者の意向をより適切に反映できる投票制度について、簡単な数値例を用いて考察し、受講生が各投票制度の評価を説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、節末の練習問題を解いてみる。（2時間）
7	事前学習	教科書 第2章「4節 有権者の政治行動」を読み、有権者による投票以外の政治行動について考察する。（2時間）
	授業内容	【国民と投票3】 住民投票、声による投票、圧力団体モデル、足による投票を学習し、投票以外の政治行動の意義と問題点について、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、住民投票、圧力団体、足による投票の具体例を挙げてそれらの意義と問題点についてまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書 「第3章 政党と政策」を読み、政党の行動原理、政権交代の影響、政党の数と規模の決定要因、連立政権の意味について考察する。（2時間）
	授業内容	【政党と政策】 政党の政権獲得行動と政策の収束、政権交代に伴う政治的景気循環、党派的景気循環、政党の数と規模の決定要因、連立政権の意味について学習し、政党の行動に関する理論や影響について受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、日本における政党の行動と影響に関する理論を検証してみる。（2時間）
9	事前学習	教科書 第4章の「1節 参入規制」「2節 価格規制」を読み、規制の弊害を考察する。（2時間）
	授業内容	【規制1】 政府による参入規制及び価格規制の経済的分析を学習し、公的規制が社会に損失をもたらすことを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、節末の練習問題を解く。TPPの意義と問題点について、自分なりの考えをまとめてみる。（2時間）
10	事前学習	教科書 第4章の「3節 独占と公的規制」を読み、自然独占企業の概念を考察する。（2時間）
	授業内容	【規制2】 市場の失敗するケースの1つである自然独占企業の特徴を学習し、その企業に対する規制方法を効率性基準から考察し、さらに、代表的料金規制の意義と問題点について学習し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自然独占企業の具体例を挙げて、その特徴をまとめてみる。（2時間）
11	事前学習	教科書 第5章の「1節 外部性とは何か」「2節 ピグー課税」を読み、外部性の概念とピグー課税の意味について考察する。（2時間）
	授業内容	【外部性1】 市場の失敗の代表的な例である外部性、特に外部不経済（＝公害）のケースを取り上げ、簡単な数値例を用いて超過負担の概念から市場の失敗との関連を学習し、それを解消するための政府によるピグー課税を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、地球規模での環境税設立の可能性について、囚人のジレンマの理論を踏まえて、自分なりの説明をまとめる。また、COPの会議の推移についてまとめてみる。（2時間）
12	事前学習	教科書 第5章の「3節 コースの定理」「4節 外部性対策の経済的手段」の部分を読み、コースの定理、代表的な経済的手段の意義を考察する。（2時間）
	授業内容	【外部性2】 コースの定理、汚染権の売買、リサイクル、地球環境問題、禁煙対策の複数均衡について学習し、それぞれの意義と問題点を受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、コースの定理の現実適用例を挙げてみる。（2時間）
13	事前学習	教科書 第6章の「1節 公共財の概念とただ乗りの問題」「2節 公共財の公的供給と私的供給」を読み、公共財とは、どのように定義されるのか、また、公共財はなぜ市場の失敗の原因となるのかを考察する。（2時間）
	授業内容	【公共財1】公共財という特別の概念をもつ政府支出を、資源配分の効率性の観点から学習するために、まず公共財の概念を学習し、ただ乗りの問題が重要であることを学習する。さらに、公的供給と私的供給のメカニズムを学習し、公共財の最適供給条件であるサムエルソンルールは市場で成立しないことを学習する。学習を踏まえ受講者が政府による公共財供給の意義を説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、6－2節 練習問題を解いてみる。（2時間）
14	事前学習	教科書 第6章の「3節 準公共財」を読み、純粋公共財との違いは何か、地方公共財とはどのように定義され準公共財に分類されるのかを考察する。（2時間）
	授業内容	【公共財2】 準公共財の概念、地方公共財、クラブ財の最適供給を学習し、地方公共財の最適供給の方法と地方分権の意義を受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、地方分権の意義と問題点、および日本における地方分権の状況について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
15	事前学習	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、公共経済学の扱うテーマと分析手法の特徴点を考察する。（2時間）
	授業内容	講義のまとめとして、扱ってきた公共経済学のテーマと分析手法の特徴点を学習し、同様に公共部門を研究対象とする財政学との相違点を受講生が説明できるようにする。
	事後学習	初回からの授業ノートを見直し、公共経済学の分析手法の特徴と財政学との相違点を自分なりの説明をまとめる。（2時間）

科目名	公共経済学Ⅱ	担当者	楠谷 清	部 別	第一部	期 間	後期	単 位 数	2
-----	--------	-----	------	-----	-----	-----	----	-------	---

授業概要	公共経済学は、政府の経済行動を理論的に分析する応用経済学の一分野である。本講では、ミクロ・マクロの基本的な経済理論を公共部門に適用して、政府の経済行動を支出、収入の両面から分析するとともに、公共部門に関わる経済主体の経済行動を、政治的な側面も併せて、理論編に現実編を織り交ぜながら講義を進める。				
授業目的・到達目標	どのような状況において市場は失敗し、市場の失敗を調整するために政府（公共部門）がどのような政策を選択すれば、社会的厚生を最大化できるのか分析する能力を育成することを目的とする。また、マクロ、ミクロの基本的な経済理論を公共部門に適用して、政府の経済行動を支出、収入の両面から分析するとともに、公共部門にかかわる経済主体の行動を受講生が理論的に説明できることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科4，5 公共政策学科1，3，4				
履修条件	公共経済学Ⅰを履修していることが望ましい。 経済学Ⅰ・Ⅱないしミクロ経済学Ⅰを履修していることが望ましい。				
授業方法	テキスト・参考書を参照しつつ講義毎レジメを配付して講義を進める。 スライド（パワー・ポイント）を使用して講義を行う。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	筆記試験は、公共経済学の意義と重要概念を具体的ケースにおいて習得できているかを判定する。授業で解説された各事項について、意義を踏まえて理解すること。	
	平常評価		20%	レポート提出、授業への参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2015年	新世社		『基礎コース 公共経済学 第2版』	井堀利宏著
	備考				
参考書	スティグリッツ著『公共経済学第2版（上・下）』東洋経済新報社、林正義・小川光・別所俊一郎著『公共経済学』（有斐閣アルマ）：有斐閣、柴田弘文・柴田愛子著『公共経済学』東洋経済新報社、その他適宜紹介。				
オフィスアワー	火曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読む。教科書を入手して各章の冒頭にある導入説明を読む。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス】 講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて公共経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書 第1章 市場と政府 を読み、市場の機能とメリットを理解し、市場の失敗と政府の機能との関連を考察する。（2時間）
	授業内容	【市場の機能と政府の役割】 市場の機能とメリット、市場の失敗を学習し、効率性を基準に公共経済学が市場の失敗の政府による調整方法を提唱することを学習し、受講生が同様に公共部門の研究をする財政学との相違点を説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、市場の機能と市場の失敗、および市場の失敗と政府の役割（財政の機能）との関係について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書 第7章の「1節 費用便益分析」を読み、その意義と手法を考察する。（2時間）
	授業内容	【公共支出の評価1】 公共財の最適供給を実現するための、代表的な公共支出の評価方法である費用便益分析を学習し、その意義と分析手法を受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、7－1節 練習問題を解いてみる。（2時間）

4	事前学習	教科書 第7章の「2節 最適な公共投資」を読み、その意義とテーマに対する公共経済学のアプローチ手法を考察する。（2時間）
	授業内容	【公共支出の評価2】 公共支出の役割、市場経済での公共投資の役割、公共投資の割引率を学習し、受講生が公共経済学のアプローチによって最適な公共投資を説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、日本における地域間の生産性の違いデータをネット等から取得して、どのような資源配分が効率的と言えるのか自分なりの説明をまとめる。（2時間）
5	事前学習	教科書 第7章の「3節 費用便益分析に代わる方法」を読み、代表的代替法を確認し代替法の意義を考察する。（2時間）
	授業内容	【公共支出の評価3】 費用便益分析に代わる方法として、トラベルコスト法、ヘドニック・アプローチ、仮想的市場評価法を学習し、費用便益分析との相違点と意義について受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、代替法が具現化しているケースを挙げてみる。（2時間）
6	事前学習	教科書 第8章の「1節 直接税と間接税」をよみ、相違点を考察する。（2時間）
	授業内容	【課税1】 直接税と間接税の定義、転嫁と帰着、累進税と比例税について学習し、個別間接税の経済的な負担が、税金を誰が納税するかとは無関係に、需要と供給の関係で決まることを受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、需要および供給の価格弾力性の異なる財に間接税を課すことによって生じる資源配分の攪乱を考察してみる。（2時間）
7	事前学習	教科書 第8章の「2節 課税体系の考え方」を読み、わが国の所得税の特徴を考察する。（2時間）
	授業内容	【課税2】 わが国の所得税の特徴、総合課税と分離課税、クロヨンの意味、付加価値税、一般消費税と労働所得税、税支払いのタイミング効果、包括的所得税と支出税について学習し、受講生が所得税体系の考え方を説明し、一般消費税と労働所得税の効果を比較して、その類似性を説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、現代の租税（課税）原則論を調べて、原則論の内容を考察する。（2時間）
8	事前学習	教科書 第8章の「3節 最適課税の理論」を読み、その意義を前回の事後学習で得た租税原則論を踏まえて考察する。（2時間）
	授業内容	【課税3】 一括固定税と攪乱税、最適課税のルール、複数家計の存在、支出税と最適課税、最適課税論と税制改革の理論を学習し、受講生が最適課税論の意義とその限界説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、最適課税論と公共経済学のアプローチとの共通点を自分なりの説明をまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書 第9章の「1節 財政運営の考え方」「2節 財政赤字の負担」を読み、財政運営の考え方のいろいろな立場の存在を考察し、財政赤字の負担の様々な捉え方を考察する。（2時間）
	授業内容	【財政赤字と公債】 日本の公債発行状況、公債発行の問題点、財政運営のいろいろ考え方、クラウドディング・アウト、将来世代への負担の転嫁、リカードの中立命題、、バローの中立命題を学習し、公債発行の問題点を踏まえて、日本の財政がいかに深刻であるのか受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、9－2節 練習問題を解いてみる。（2時間）
10	事前学習	教科書 第10章の「1節 公的年金制度」を読み、わが国の公的年金制度の特徴と問題点を考察する。（2時間）
	授業内容	【年金1】 公的年金制度とは何か、わが国における公的年金制度の概要、2つの年金制度、長生きのリスク、公的年金の所得再分配効果、公的年金の存在理由について学習し、私的年金とは別個の公的年金の必要とされる理由を受講者が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、10－1節 練習問題を解いてみる。（2時間）
11	事前学習	教科書 第10章の「2節 世代間の再分配政策」「3節 高齢化・少子化社会の年金改革」を読み、少子高齢化社会の進展による世代間の負担の不公平の実態を考察する。（2時間）
	授業内容	【年金2】 世代会計、世代間の不公平、老人パワーと政策、人口変化のモデル、賦課方式の年金制度、確定拠出方式への移行について学習し、確定拠出方式への移行のいぎについて受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、わが国の公的年金制度の持続可能性について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書 第11章の「1節 個人間の再分配政策」を読み、再分配政策の意義について考察する。（2時間）
	授業内容	【再分配政策1】 所得格差を是正する問題を学習し、どの程度の再分配が望ましいのか、また、それを実現するために、その程度の累進的所得税が望ましいか考察し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、11－1節 練習問題を解いてみる。（2時間）
13	事前学習	教科書 第11章の「2節 地域間の再分配政策」を読み、その意義と問題点を考察する。（2時間）
	授業内容	【再分配政策2】 地域間での再分配政策のあり方を学習し、また、地域間での人口移動や公共財の波及効果を考慮すると、公平性の観点からデメリットが有ることし、再分配政策のあり方やその問題点について受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを整理し、日本の人口移動の現状とその要因について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）

14	事前学習	教科書 第11章の2節内の地方分権を再読し、前回の事後学習で得た資料を基に、地方分権の意義を考察する。 (2時間)
	授業内容	【再分配政策3】 オーツの「地方分権定理」、ティブーの「足による投票」を学習し、地方分権の意義について、社会的厚生（経済的厚生）最大化の基準から評価し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	少子高齢化と人口減少が生じているわが国の現状を鑑みて、従来方式の再分配政策の有効性について自分なりの説明をまとめる。(2時間)
15	事前学習	講座の初回からの各章、講義ノートと配付資料を見直し、公共経済学の扱うテーマと分析手法の特徴点を考察する。 (2時間)
	授業内容	講義のまとめとして、講義内で扱ってきた公共経済学のテーマと分析手法の特徴点を学習し、各テーマについて受講生が公共経済学の立場から説明できるようにする。
	事後学習	初回からの授業ノートを見直し、公共経済学の分析手法の特徴と財政学との相違点を自分なりの説明をまとめる。期末試験の準備をする。(2時間)

科目名	公共政策基礎演習	担当者	岩井 義和	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	様々な行政の諸制度を検討することで、今後の学問的探究方法、ならびに自分自身の将来の目標である公務員試験に向けての計画を明確にする準備を行う。そのための様々な行政活動を解説し、学生同士のグループワークで発表を行う。				
授業目的・到達目標	本講義では、日本の行政組織をはじめとして、公務員制度、独立行政法人・特殊法人、地方公共団体、行政改革などを題材とすることで、行政と公務員に対する理解の養成を目的とする。そのために必要に応じて行政に関する様々なデータを取り上げ、また現役の公務員の方を招き話を聞くなど、実際の公務員に対するイメージを具体化し、学生相互の意見交換も行いつつ、自分自身の目標達成に必要なものを見つけ出すことを目標とする。関連DP及びCP:公共政策学科1, 3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	行政職課程の学生のみ（必修）				
授業方法	講義、発表、討議などを組み合わせて行う。 レポートなどの解説を後日、ポータルにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	学年末試験は行わない。	
	平常評価		100%	授業参加度（3分の2以上）・授業態度・授業内の発表などを総合評価する。また、簡単な授業内レポートで、授業のポイントを理解しているかを判定する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	必要に応じて授業内で示す。			
参考書	必要に応じて資料などを授業中に配布する。				
オフィスアワー	水曜日、3時限目（13：30～14：30） 尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	自分の志望先をある程度考えておくこと。（2時間）
	授業内容	演習の全体的な枠組み、及び演習の方法説明。
	事後学習	授業内の説明を確認し、それぞれが今後の自分の方向性と公務員試験について確認すること。（2時間）
2	事前学習	前回の講義を踏まえ、国・地方公共団体などについて調べておくこと。（2時間）
	授業内容	日本の統治機構 （統治機構の解説及びグループワーク、発表）
	事後学習	授業内の説明を確認し、それぞれが今後の自分の志望動機を確認すること。（2時間）
3	事前学習	行政組織の種類について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	日本の行政組織 （行政組織の解説及びグループワーク、発表）
	事後学習	授業内の説明を確認し、行政組織の業務を確認すること。（2時間）
4	事前学習	公務員の種類について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	公務員についてイメージづくり （公務員の解説及びグループワーク、発表）
	事後学習	授業内の説明を確認し、それぞれが今後の自分の受験する公務員の検討を行うこと。（2時間）

5	事前学習	独立行政法人・特殊法人について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	独立行政法人・特殊法人 （独立行政法人・特殊法人の解説及びグループワーク、発表）
	事後学習	授業内の説明を確認し、独立行政法人・特殊法人の業務、種類について確認すること。（2時間）
6	事前学習	地方公共団体の職務について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	地方公共団体 （地方公共団体の基本計画などの解説及びグループワーク、発表）
	事後学習	授業内の説明を確認し、それぞれが自分の自治体を確認すること。（2時間）
7	事前学習	国の行政改革について理解を深めておくこと。（2時間）
	授業内容	行政改革① （行政改革の視点解説及びグループワーク、発表）
	事後学習	授業内の説明を確認し、行政サービスの担い手についてを検討すること。（2時間）
8	事前学習	地方公共団体の行政改革について理解を深めておくこと。（2時間）
	授業内容	行政改革② （行政サービスの課題解説及びグループワーク、発表）
	事後学習	授業内の説明を確認し、それぞれが行政の効率化について検討すること。（2時間）
9	事前学習	行政評価について理解を深めておくこと。（2時間）
	授業内容	行政評価 （具体的行政評価の解説及びグループワーク、発表）
	事後学習	授業内の説明を確認し、それぞれが今後の行政の役割について確認すること。（2時間）
10	事前学習	行政情報についての理解を深めておくこと。（2時間）
	授業内容	行政情報 （行政情報の動向紹介及びグループワーク、発表）
	事後学習	授業内の説明を確認し、それぞれで行政情報の重要性を確認すること。（2時間）
11	事前学習	情報公開・個人情報保護について理解を深めておくこと。（2時間）
	授業内容	情報公開・個人情報保護 （情報公開・個人情報保護の解説及びグループワーク、発表）
	事後学習	授業内の説明を確認し、それぞれが情報関連の法律を確認すること。（2時間）
12	事前学習	国の予算について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	国の予算 （予算の仕組みなどの解説及びグループワーク、発表）
	事後学習	授業内の説明を確認し、それぞれが国の予算を確認し、その課題を抽出しておくこと。（2時間）
13	事前学習	地方公共団体の予算について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の予算 （予算の仕組み・状況説明びグループワーク、発表）
	事後学習	授業内の説明を確認し、それぞれ自分の自治体の予算を見て、その特色を確認すること。（2時間）
14	事前学習	国・地方財政について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	国・地方財政 （政府間関係の解説及びグループワーク、発表）
	事後学習	授業内の説明を確認し、日本の税制度などを調べること。（2時間）
15	事前学習	自分の目指す公務員を、再確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	演習のまとめ
	事後学習	それぞれが今後の自分の方向性を確認し、今後の具体的計画を作成すること。（2時間）

科目名	公共政策基礎演習	担当者	上村 進	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	公共政策学の代表的な教科書を使用し、今後の専門分野における学習のベースとなる基礎的な知識の確実な習得を目指す。講義・グループワークに当たっては、行政官としての経験に基づく具体的事例などを素材として提供する。			
授業目的・到達目標	本講義では受講者の積極的な学習・授業参加により公共政策学科学生が今後学習を行う上で必須の公共政策学の基礎的知識を網羅的に習得することを目的としている。これにより第2年次以降の専門科目等の履修に当たっても、基礎理論を駆使してケーススタディや分析・調査に臨むことのできる能力を育成することを目標とする。 関連DP及びCP：公共政策学科1, 3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	特になし。			
授業方法	学期前半は教科書（「入門公共政策学」）の講義。後半は個人又はグループ（履修人数による）での指定教科書の輪読・討議。学期末にはレポートを提出する（参加人数により変更あり得る）。発表・レポート等はその都度講評を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	議論への積極的参加状況（20%）、グループ・個人発表の出来映え（30%）、レポートの内容（50%）を評価対象とする。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	中央公論社	入門 公共政策学	秋吉貴雄
	2013	学陽書房	自治体の公共政策	岩崎忠
	2018	ミネルヴァ書房	公共政策学	石橋章市朗他
	備考			
参考書	授業内で適宜紹介する			
オフィスアワー	水曜日2限。（休暇中を除く、事前にメールにて要アポイントメント） 研究室 （本館6階 1604号室） メールアドレス：kamimura_susumu@nihon-u.ac.jp)			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、授業概要、目的等を理解する（2時間）。
	授業内容	【イントロダクション：公共政策学とはなにか】 授業のテーマや内容、授業スケジュールなどについて説明するとともに当日の参加人数を見て今後の授業方法を決定する。併せて成績評価の方法や参考文献の紹介を行い、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義で紹介された文献・資料等を収集する（2時間）。
2	事前学習	教科書の指定範囲を読んで、自分の考えをまとめ、授業内で積極的に発言出来るようにする（2時間）。
	授業内容	【講義①公共政策課題の発見】 あなたの身近にある様々な問題のうち、社会的解決を必要とするものは何か、そしてそれはなぜ個人や企業の努力で解決することが出来ないのかなど公共政策課題の本質について考察する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
3	事前学習	教科書の指定範囲を読むほか、行政学や立法過程論のテキストの該当部分にも目を通して、自分の考えを整理し、積極的に発表できるようにする（2時間）。
	授業内容	【講義②公共政策の設計・決定】 社会的問題の解決のために考えられる手段としてどのようなものがあるか、政策決定過程に参画する多くのアクター（政治・民間・学界・市民・官僚）はどのような相互作用を行って政策が作られるのかを学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
4	事前学習	教科書の指定範囲を読むほか、行政学や立法過程論のテキストの該当部分にも目を通して、自分の考えを整理し、積極的に発表できるようにする（2時間）。
	授業内容	【講義③公共政策の実施】 決定された政策はどのように具体化され、現場で展開されるのか、指定教科書に記載された生活保護の事例を基に具体的に学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。

5	事前学習	教科書の指定範囲を読むほか、行政学や立法過程論のテキストの該当部分にも目を通して、自分の考えを整理し、積極的に発表できるようにする（2時間）。
	授業内容	【講義④公共政策の評価・改善】 実施された政策の「善し悪し」は何をもって測るのか、また政策が社会に与える「効果」とは何なのか、公共政策を改善するために市民・専門家等は政策決定過程等にどう参画すべきかなどについて学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
6	事前学習	【発表者】自分の担当分の発表準備（6時間） 【その他の者】教科書該当部分を読み込み、積極的に質問・意見発表などができるようにしておく（2時間）。
	授業内容	【輪読①自治体の政策課題】 教科書の該当部分の輪読・意見交換により自治体における政策課題の発見、アジェンダ化の過程などについて学ぶ。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
7	事前学習	【発表者】自分の担当分の発表準備（6時間） 【その他の者】教科書該当部分を読み込み、積極的に質問・意見発表などができるようにしておく（2時間）。
	授業内容	【輪読②条例制定過程・予算編成過程】 教科書の該当部分の輪読・意見交換により自治体における政策決定過程の最重要プロセスである条例・予算がどのように作られるのか実態に即して学ぶ。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
8	事前学習	【発表者】自分の担当分の発表準備（6時間） 【その他の者】教科書該当部分を読み込み、積極的に質問・意見発表などができるようにしておく（2時間）。
	授業内容	【輪読③自治体議会・国との関係】 教科書の該当部分の輪読・意見交換により自治体が政策決定・執行するに当たって議会・国とはどのような影響を与え合っているのか、各アクターの動きを具体例に即して学ぶ。
	事後学習	発表で紹介された事例・文献等を各自で確認する（2時間）。
9	事前学習	【発表者】自分の担当分の発表準備（6時間） 【その他の者】教科書該当部分を読み込み、積極的に質問・意見発表などができるようにしておく（2時間）。
	授業内容	【輪読④政策の実施プロセス、社会資本整備など】 教科書の該当部分の輪読・意見交換により自治体における施策執行の実情を様々な具体的ケースを通して学ぶ。
	事後学習	発表で紹介された事例・文献等を各自で確認する（2時間）。
10	事前学習	【発表者】自分の担当分の発表準備（6時間） 【その他の者】教科書該当部分を読み込み、積極的に質問・意見発表などができるようにしておく（2時間）。
	授業内容	【輪読⑤（政策の概念と公共政策の歴史）】 教科書の該当部分の輪読・意見交換により学問としての公共政策学の位置付け、政策の定義・理念型、歴史的発展モデル、現代的な政策課題の諸相などについて学ぶ。
	事後学習	発表で紹介された事例・文献等を各自で確認する（2時間）。
11	事前学習	【発表者】自分の担当分の発表準備（6時間） 【その他の者】教科書該当部分を読み込み、積極的に質問・意見発表などができるようにしておく（2時間）。
	授業内容	【輪読⑥政策過程論】 教科書の該当部分の輪読・意見交換により、アジェンダ設定、政策立案過程、政策決定の各種モデル、政策実施過程、政策評価等についての基礎知識を学ぶ。
	事後学習	発表で紹介された事例・文献等を各自で確認しておくこと（2時間）。
12	事前学習	【発表者】自分の担当分の発表準備（6時間） 【その他の者】教科書該当部分を読み込み、積極的に質問・意見発表などができるようにしておく（2時間）。
	授業内容	【輪読⑦政策デザイン】 教科書の該当部分の輪読・意見交換により、政策デザインの概念、デザイン手段、政策デザインを取り巻く文脈（コンテキスト）への配慮、デザインに求められる規範などについて学ぶ。
	事後学習	発表で紹介された事例・文献等を各自で確認する（2時間）。
13	事前学習	【発表者】自分の選んだテーマについての発表準備（8時間） 【その他の者】これまでの授業内容を振り返り、積極的に質問・意見発表などができるようにしておく（2時間）。
	授業内容	【最終レポート発表①】 受講生が自ら選んだテーマについて、これまで学んだ理論・政策技法等の知識をいかしたレポートを作成し、その内容を発表する。これに基づき受講者相互間で意見交換を行い、知識・技法の展開能力を更に確かなものとする。
	事後学習	発表で紹介された事例・文献等を各自で確認する（2時間）。
14	事前学習	【発表者】自分の選んだテーマについての発表準備（8時間） 【その他の者】これまでの授業内容を振り返り、積極的に質問・意見発表などができるようにしておく（2時間）。
	授業内容	【最終レポート発表②】 受講生が自ら選んだテーマについて、これまで学んだ理論・政策技法等の知識をいかしたレポートを作成し、その内容を発表する。これに基づき受講者相互間で意見交換を行い、知識・技法の展開能力を更に確かなものとする。
	事後学習	発表で紹介された事例・文献等を各自で確認する（2時間）。
15	事前学習	【発表者】自分の選んだテーマについての発表準備（8時間） 【その他の者】これまでの授業内容を振り返り、積極的に質問・意見発表などができるようにしておく（2時間）。
	授業内容	【最終レポート発表③】 受講生が自ら選んだテーマについて、これまで学んだ理論・政策技法等の知識をいかしたレポートを作成し、その内容を発表する。これに基づき受講者相互間で意見交換を行い、知識・技法の展開能力を更に確かなものとする。
	事後学習	発表で紹介された事例・文献等を各自で確認する（2時間）。

科目名	公共政策基礎演習	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	企業が外部に情報を公表するための書類が決算書であり、企業活動を適切に評価するためには決算書を読み解く必要がある。中でも特に大切なのは財務３表であり、損益計算書（P/L）、貸借対照表（B/S）、キャッシュフロー計算書（C/F）の３つである。本講義ではいくつかの具体的ケースを参考に経営分析の基礎を身に付け、実際に財務諸表を読み解いていく。				
授業目的・到達目標	【授業目的】企業経営を適切に評価するために経営分析の基礎を理解し、正しく財務３表を読み解くことができる人材を育成する。 【到達目標】1. 財務３表（損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書）を読み解くことができる。2. 会計数値や会計指標の基礎について理解している。3. 各指標を用いて経営分析を行い、適切な企業評価ができる。対応D P及びC P：公共政策学科１，３，４，５，６，７，８				
履修条件	特になし。基礎から説明するので初学者でも可。				
授業方法	パワーポイントを使用して授業を実施、グループで経営分析を実施する。所定授業数の３分の２以上出席しなければ成績評価の対象にはしない。授業内小テストや提出物のフィードバックについては授業内で解説を実施する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる。 授業に対する姿勢・提出物等で総合的に評価（60%） 授業時に小テストを実施（40%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。			
参考書	特になし。				
オフィスアワー	火曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。） 研究室（本館6階601） メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	講義計画，成績評価方法
	事後学習	財務３表について調べる（2時間）
2	事前学習	事前配布資料を読んでくること（2時間）
	授業内容	決算書とは何か（財務３表の種類と内容）
	事後学習	授業の復習（2時間）
3	事前学習	事前配布資料を読んでくること（2時間）
	授業内容	売上高、利益、原価率（P/L）
	事後学習	授業の復習（2時間）
4	事前学習	事前配布資料を読んでくること（2時間）
	授業内容	キャッシュフロー計算書（C/F）
	事後学習	授業の復習（2時間）

5	事前学習	事前配布資料を読んでもくること（2時間）
	授業内容	有利子負債（B/S）・のれん代の減損（B/S、P/L）
	事後学習	授業の復習（2時間）
6	事前学習	事前配布資料を読んでもくること（2時間）
	授業内容	連結決算（B/S、P/L）
	事後学習	授業の復習（2時間）
7	事前学習	事前配布資料を読んでもくること（2時間）
	授業内容	ケーススタディ1
	事後学習	授業の復習（2時間）
8	事前学習	事前配布資料を読んでもくること（2時間）
	授業内容	ケーススタディ2
	事後学習	授業の復習（2時間）
9	事前学習	事前配布資料を読んでもくること（2時間）
	授業内容	ケーススタディ3
	事後学習	授業の復習（2時間）
10	事前学習	事前配布資料を読んでもくること（2時間）
	授業内容	ケーススタディ4
	事後学習	授業の復習（2時間）
11	事前学習	事前配布資料を読んでもくること（2時間）
	授業内容	ケーススタディ5
	事後学習	授業の復習（2時間）
12	事前学習	事前配布資料を読んでもくること（2時間）
	授業内容	ケーススタディ6
	事後学習	授業の復習（2時間）
13	事前学習	事前配布資料を読んでもくること（2時間）
	授業内容	ケーススタディ7
	事後学習	授業の復習（2時間）
14	事前学習	事前配布資料を読んでもくること（2時間）
	授業内容	ケーススタディ8
	事後学習	授業の復習（2時間）
15	事前学習	学習内容の確認（2時間）
	授業内容	総まとめ
	事後学習	授業内容の総点検（2時間）

科目名	公共政策基礎演習	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	我々が生活する中で個人のみでは解決できない問題が存在する。そうした問題を解決する公共政策について本講義では扱う。特に、公共政策の課題発見や形成、決定、実施、評価などについて学ぶ。さらに公共政策をめぐる課題等についても学習する。			
授業目的・到達目標	今後学習するために基礎的な知識として重要である公共政策に関し理解を深め、公共政策に係る問題を捉える視点や知識を養い、それらについての考え等を伝える能力を養うことを目的とする。政策過程に従い関係するアクターや制度など公共政策についての基礎的な知識の習得をし、公共政策の現状を分析し、問題等について自ら考え、表現する能力を身に付けることを目標とする。関連DP及びCP：公共政策学科 1, 3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	特になし。授業内容及び評価方法等について説明するため、履修予定者は初回授業に出席すること。			
授業方法	講義と演習を組み合わせで行う。レポートの解説等については授業内で行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業参加度、授業態度及び発表やレポートを通して、授業内容の理解度や表現力等について評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	中央公論新社	入門 公共政策学	秋吉貴雄
	備考			
参考書	授業内で適宜紹介する。（例えば、秋吉ほか[2015]）『公共政策学の基礎〔新版〕』有斐閣、武智秀之[2017]『政策学講義〔第2版〕』中央大学出版部など）			
オフィスアワー	火曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）。 研究室（9号館5階）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書4～11頁等を読み、公共政策について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業計画及び成績評価等について説明し、受講生が今後の授業の準備を行えるようにする。また、公共政策とは何かについて学習し、説明できるようになる。
	事後学習	授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、公共政策について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
2	事前学習	教科書11～33頁等を読み、公共政策学について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	公共政策学とは何かについて学習し、説明できるようになる。
	事後学習	授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、公共政策学について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
3	事前学習	参考書（武智[2017]）9～26頁等を読み、公共政策をめぐる社会情勢、政策過程について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	公共政策をめぐる社会情勢、政策過程について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、公共政策をめぐる社会情勢、政策過程について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
4	事前学習	教科書35～47頁等を読み、政策過程における問題の発見について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政策過程における問題の発見について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、政策過程における問題の発見について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）

5	事前学習	教科書47～65頁等を読み、課題設定について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政策過程における課題設定について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、課題設定について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書67～85頁等を読み、解決策の設計と手段について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	解決策の設計と手段について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、解決策の設計と手段について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書85～95頁等を読み、解決策の具体的検討について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	解決策の具体的検討について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、解決策の具体的検討について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書97～110頁等を読み、政策決定のための意見の集約について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政策決定のための意見の集約について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「マスメディア」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書111～130頁等を読み、政策決定のための利益等の調整について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政策決定のための利益等の調整について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	レジュメ、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、政策決定のための利益等の調整について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書131～149頁等を読み、政策実施のモデルや理論について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政策実施のモデルや理論について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	レジュメ、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、政策実施のモデルや理論について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書149～158頁等を読み、政策実施の主体について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政策実施の主体について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	レジュメ、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、政策実施の主体について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書159～170頁等を読み、日本の政治について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	評価のロジック等について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、評価のロジック等について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
13	事前学習	教科書170～185頁等を読み、政策評価の種類や機能について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政策評価の種類や機能について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、政策評価の種類や機能について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
14	事前学習	教科書187～217頁等を読み、公共政策に係る課題等について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	公共政策に係る課題等について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、公共政策に係る課題等について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
15	事前学習	初回から学習してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、公共政策に関する基礎的知識について考察する。（2時間）
	授業内容	これまでの講義の総括及びレポートの解説等
	事後学習	これまで配布したレジュメや教科書等を見直し、レポートの完成に向け取り組む。（2時間）

科目名	公共政策基礎演習	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本演習では、公共政策学科行政職課程在籍の学生を対象に、わが国の公務員制度を理解するとともに職務の特質を理解することを主眼としている。専任教員の講義の他、ゲストスピーカーを招き、実際の公務員試験の択一、面接（口述）、試験問題を教材として、演習を進めていく。理論編では審議会委員の経験を生かした講義をおこなう。				
授業目的・到達目標	わが国の公務員制度を理解するとともに職務の特質を理解することを目的とする。公務員制度について、公務員試験制度の概要、試験内容について、公務員の仕事を理解し、理想の公務員像を描くことができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：公共政策学科1, 3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	公共政策学科で行政職課程の在籍が許可された学生のみで、他のコースの学生、他学科の学生は履修できない。				
授業方法	講義および演習　レポート試験や課題レポートの講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	適宜レポート試験や課題レポートを提出すること。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参 考 書	必要に応じて担当教員が講義中に紹介する。				
オフィスアワー	原則水曜日の昼休みとする。事前にメールなどでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいついたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館6階の研究室。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	公務員とはなにかイメージを整理してくる（2時間）
	授業内容	授業内容・評価方法の説明 公務員とは
	事後学習	公務員について調べる（2時間）
2	事前学習	国家公務員の種類について調べてくる（2時間）
	授業内容	わが国の国家公務員制度の概要
	事後学習	国家公務員制度についてまとめる（2時間）
3	事前学習	地方公務員の種類について調べてくる（2時間）
	授業内容	わが国の地方公務員試験の概要
	事後学習	地方公務員制度についてまとめる（2時間）
4	事前学習	事前に周知した公務員について調べてくる（2時間）
	授業内容	公務員の仕事の実態と特質について学ぶ
	事後学習	聞いたことをまとめる（2時間）

5	事前学習	事前に周知した公務員について調べてくる（2時間）
	授業内容	公務員の仕事の特殊性について学ぶ
	事後学習	聞いたことをまとめる（2時間）
6	事前学習	事前に周知した公務員について調べてくる（2時間）
	授業内容	公務員の仕事への使命感について学ぶ
	事後学習	聞いたことをまとめる（2時間）
7	事前学習	事前に周知した公務員について調べてくる（2時間）
	授業内容	公務員の仕事の課題について認識する
	事後学習	聞いたことをまとめる（2時間）
8	事前学習	事前に周知した公務員について調べてくる（2時間）
	授業内容	公務員と社会の関係について学ぶ
	事後学習	聞いたことをまとめる（2時間）
9	事前学習	ゲストスピーカーの職務について調べてくる（2時間）
	授業内容	公務員と民間の感覚 （ゲストスピーカー）
	事後学習	聞いたことをまとめる（2時間）
10	事前学習	ゲストスピーカーの職務について調べてくる（2時間）
	授業内容	行政手法の担い手としての公務員 （ゲストスピーカー）
	事後学習	聞いたことをまとめる（2時間）
11	事前学習	事前に周知した公務員について調べてくる（2時間）
	授業内容	公務員の実際と特質
	事後学習	聞いたことをまとめ課題を抽出する。（2時間）
12	事前学習	事前に周知した公務員について調べてくる（2時間）
	授業内容	わが国の公務員選択問題について学ぶ
	事後学習	聞いたことをまとめ課題を抽出する。（2時間）
13	事前学習	地方公務員の試験について調べてくる（2時間）
	授業内容	わが国の公務員論述試験について学ぶ
	事後学習	実際の公務員試験を解いてみる（2時間）
14	事前学習	面接試験の方法について調べてくる（2時間）
	授業内容	わが国の公務員集団面接・口述試験
	事後学習	自宅で練習をしてみる（2時間）
15	事前学習	面接試験の注意点について理解したうえで練習してくる（2時間）
	授業内容	わが国の公務員個別面接・口述試験の実際
	事後学習	反省点をまとめたうえで、練習課題を整理する。（2時間）

科目名	公共政策基礎演習	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	グループワークを通じ、公共政策の形成過程、及びわが国における公共政策の現状と課題について理解を深めていきます。 本演習では、現代社会の問題や課題についての理解を深めつつ、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成します。					
授業目的・到達目標	グループディスカッションやプレゼンテーションを通じ、現代社会の問題や課題について理解することを目的とし、またその解決策を説明できるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：公共政策学科1、3、4、5、6、7、8					
履修条件	前期の公共政策論を履修していることが求められます（他学科の学生は履修できません）。またグループ学習を行うため、必ず毎回授業に出席することが必要です。※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること。					
授業方法	グループ学習を行いつつ、（グループごとの）プレゼンテーションやディベートを実施します。【フィードバック方法】 毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、コミュニケーション力の向上に努めます					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		毎回グループディスカッションに積極的に参加することが必要です。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない				
参考書	授業中に適宜指示します。					
オフィスアワー	金曜日 12：15～12：55 ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ガイダンスで示された履修条件を確認すること（2時間）
2	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	政策過程の基礎的なモデルに関する学習
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）
3	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	政策過程の基礎的なモデルに関する学習
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）
4	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	政策過程の基礎的なモデルに関する学習
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）

5	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	グループごとの予備的討議（政策過程）
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）
6	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	グループごとの予備的討議（政策過程）
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）
7	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	プレゼンテーション（政策過程）
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）
8	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	ディベート（政策過程）
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）
9	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関する学習
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）
10	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関する学習
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）
11	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	グループごとの予備的討議（現代日本の公共政策）
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）
12	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	グループごとの予備的討議（現代日本の公共政策）
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）
13	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	プレゼンテーション（現代日本の公共政策）
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）
14	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	ディベート（現代日本の公共政策）
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）
15	事前学習	指定されたテーマに関する資料を収集し、事前に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を整理し、再検討すること（2時間）

科目名	公共政策特殊講義A	担当者	矢野 聡	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	社会福祉事業史は政治・行政からの統治の歴史ばかりではなく、人々の側から制度の歴史を学ぶ学問であるとともに、社会政策の背景をなす基本的人権の具体的な発達過程を知るうえでも重要である。社会福祉制度の世界的起源とその発展過程を歴史的に掌握する。とりわけ世界で最も古く世界の公的社会福祉制度に影響を与えたイギリス救貧法の歴史について、中世から近代までのイギリス社会史を織り込みながら学ぶようにする。					
授業目的・到達目標	社会福祉事業史の履修講座は公務員就任時の社会福祉主事任用資格要件を得るための基幹講座となっている。イギリス史全体の政治経済の流れと、イギリス行政史を深く学習し、比較政治学からの学問研究的視点を醸成することを目的とする。 社会福祉事業史を政治・行政からの統治の歴史ばかりではなく、人々の側から制度の歴史を理解し、説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：公共政策学科 1， 3， 4， 5					
履修条件	学科の別を選ばない。履修を望む者に対してはそれが実現できるように配慮する。					
授業方法	シラバスに沿ってパワーポイントおよびプリントを使って講義を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		80%		学期末に行う。後日ポータルサイトに解説を配信する。	
	平常評価		20%		授業参加度	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	なし				
参考書	参考となる書籍はその都度指示する。					
オフィスアワー	木、金曜日11時30分から13時前まで					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	公務員試験やその他の国家試験での過去問題で社会福祉事業の歴史についてどのような出題があるか確認する。（2時間）
	授業内容	はじめに。リーガルマインドと行政マインド 社会福祉事業史を学ぶ意義について
	事後学習	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
2	事前学習	古代から中世までのイギリス史を文献、インターネット等によって調べる。（2時間）
	授業内容	イギリス救貧法成立以前。チューダー王朝までのイギリス社会と古典的福祉制度
	事後学習	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
3	事前学習	エリザベス一世のイギリスの時代を把握する。（2時間）
	授業内容	エリザベス救貧法の成立過程 中世封建制度の変容と重商主義体制
	事後学習	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
4	事前学習	ピューリタン(清教徒)革命の概略を把握する。（2時間）
	授業内容	定住法の成立とピューリタン革命による絶対王制による国内政治の混乱
	事後学習	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）

5	事前学習	名誉革命と議会政治の発達および救貧法体制の拡充について調べる。（2時間）
	授業内容	名誉革命による社会の安定とナッチブル法による救貧法対象者の施設収容主義の成立
	事後学習	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
6	事前学習	18世紀の経済社会変動と重商主義から産業資本主義移行期における社会政策の動きを把握する。（2時間）
	授業内容	産業資本主義の萌芽と救貧法の人道主義化　ギルバート法の成立過程
	事後学習	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
7	事前学習	18世紀末の産業革命時の急激な社会変動と社会福祉事業を把握する。（2時間）
	授業内容	産業革命と旧救貧法の行き詰まり　イーデンの貧困調査
	事後学習	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
8	事前学習	ホイッグ党による議会制改良手技による社会政策を把握する。（2時間）
	授業内容	政治経済学の誕生　救貧法廃止論と救貧法存続論　タウンゼンドとジェレミー・ベンサム
	事後学習	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
9	事前学習	資本主義の進行と近代的貧困について考察する。（2時間）
	授業内容	古典派資本主義経済理論と救貧法の改正
	事後学習	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
10	事前学習	新救貧法の内容についてあらかじめ予習をする。（2時間）
	授業内容	新救貧法の成立過程
	事後学習	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
11	事前学習	スウィングー揆、チャーチスト運動、それに友愛組合運動、COS等について把握する。（2時間）
	授業内容	労働運動と慈善組織活動
	事後学習	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
12	事前学習	ブースのロンドン調査、ラウントリのヨーク調査について把握する。（2時間）
	授業内容	失業問題とロンドン調査、ヨーク調査
	事後学習	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
13	事前学習	19世紀末から20世紀初頭の自由党、労働党の政治的動きについて把握する。（2時間）
	授業内容	自由社会改良の時代と貧困に関する王立委員会報告
	事後学習	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
14	事前学習	ロイドジョージ内閣、マクドナルド内閣、ネヴィル・チェンバレン内閣等の政治的動きを把握する。（2時間）
	授業内容	2つの世界大戦による社会保障の興隆と救貧法の解体
	事後学習	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
15	事前学習	すべての講義内容を概観し、まとめてみる。（2時間）
	授業内容	まとめ　イギリスの社会政策に見る救貧法の歴史的意義
	事後学習	プリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）

科目名	公共政策特殊講義B	担当者	矢野 聡	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	社会福祉事業史は人々の側から制度の歴史を学ぶ学問であるとともに、日本における基本的人権の具体的な発達を知るうえでも重要である。日本における社会福祉の思想及び制度の発展過程を歴史的に掌握する。奈良時代から中世および江戸期までに確立した日本の社会福祉の発達過程を考察するとともに、近代社会福祉制度の成立に関わる明治大正、昭和時代の人権思想の成立、変容・発展過程についても考察する。							
授業目的・到達目標	社会福祉事業史の履修講座は公務員の社会福祉主事任用資格要件を得るための基幹講座となっている。従来の日本社会福祉事業史とは異なった、より精緻で幅の広い学問的研究視点を醸成することを目的とする。日本における社会福祉の思想及び制度の発展過程を歴史的に掌握し、説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：公共政策学科 1， 3， 4， 5							
履修条件	学科の別を問わない。履修を望む者に対してはそれが実現できるように配慮する。							
授業方法	シラバスに沿ってパワーポイントおよびプリントを使って講義を行う。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定 期 試 験		80%		学期末に行う。後日ポータルサイトに解説を配信する。			
	平 常 評 価		20%		授業参加度			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	備考		なし					
参 考 書	参考となる書籍はその都度指示する。							
オフィス アワー	木、金曜日11時30分から13時前まで							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	今までの代表的な日本社会福祉事業史の概論に触れること。（2時間）
	授業内容	日本の社会福祉事業の概観 慈善博愛から人権思想の尊重まで
	事後学習	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
2	事前学習	施薬院、悲田院、四箇院等について調べること。（2時間）
	授業内容	日本社会福祉事業の源流 奈良時代、および鎌倉時代の仏教的博愛思想による慈善事業、奈良仏教による慈善事業、鎌倉期の真言律宗の慈善活動について
	事後学習	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
3	事前学習	徳川吉宗の時代の社会政策及び社会福祉事業について調べる。（2時間）
	授業内容	江戸期の社会福祉事業（1）享保の改革と「小石川（赤ひげ）養療院」
	事後学習	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
4	事前学習	江戸幕府老中・松平定信の社会政策、社会福祉事業について調べる。（2時間）
	授業内容	江戸期の社会福祉事業（2）寛政の改革、長谷川平蔵と石川島人足寄せ場、松平定信の七分積み金制度
	事後学習	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）

5	事前学習	明治維新前後のキリスト教の普及の状態について調べる。（2時間）
	授業内容	明治維新とキリスト教慈善普及活動。
	事後学習	配布され配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
6	事前学習	日本の最初の公的扶助立法、恤救規則について調べる。（2時間）
	授業内容	幕末から明治前半の社会福祉事業活動 恤救規則の成立
	事後学習	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
7	事前学習	明治の民間社会福祉活動について調べる。（2時間）
	授業内容	キリスト教思想の浸透と民間社会福祉活動 石井十次、留岡幸助、山室軍平、石井亮一
	事後学習	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
8	事前学習	日露戦争以降の日本の重工業化と近代的沈労働者層の形成について調べる。（2時間）
	授業内容	大正デモクラシーと低所得、貧困層への社会政策 片山潜、横山源之助の事業
	事後学習	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
9	事前学習	米騒動について調べる（2時間）
	授業内容	米騒動と政府による社会政策、民間の福祉活動 セツルメント、井上友一、賀川豊彦
	事後学習	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
10	事前学習	治安維持法と救護法について調べる。（2時間）
	授業内容	マルクス主義浸透への対処と救護法の成立
	事後学習	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
11	事前学習	第二次大戦の敗北と新しい社会福祉思想について調べる。（2時間）
	授業内容	G H Qの指令と福祉3法の時代
	事後学習	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
12	事前学習	日本の高度経済成長時代について調べる。（2時間）
	授業内容	高度経済成長と社会福祉制度の拡充、発展
	事後学習	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
13	事前学習	国際連合の社会福祉宣言について調べる。（2時間）
	授業内容	欧米福祉国家へのキャッチ・アップの時代から日本型福祉の時代へ
	事後学習	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
14	事前学習	民営化とバブル崩壊の時代背景を調べる。（2時間）
	授業内容	官庁による措置の時代から民営化による民間の契約の時代へ 社会福祉制度改革
	事後学習	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）
15	事前学習	今までのプリントを概観すること。（2時間）
	授業内容	まとめ 新たな社会福祉の充実に向けて
	事後学習	配布されたプリントに沿って講義内容を復習する。（2時間）

科目名	公共政策論	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義では、政治の表舞台・裏舞台において活動する政治的アクターの組織と機能について触れつつ、実際の公共政策を事例として取り上げ、その形成過程、及びわが国における公共政策の現状と課題について検討します。本講義では、現代の公共政策の問題と課題について自分の言葉で説明できるようになる力を養成します。							
授業目的・到達目標	現代社会を深く観察し、その問題・課題を理解しながら「政策人」としての素養を身に着けることを目的とします。同時に、社会問題の解決策を究明し、政策提案できるような人材の育成を目標とします。 関連DP及びCP：公共政策学科 1、2、3、4							
履修条件	特にありませんが、日本の公共政策に関心のある学生の履修を望みます。 ※公共政策学科の必修科目です。他学科の学生は履修できません。							
授業方法	講義 【フィードバック方法】毎回、前回の小テスト等に対する講評を行い、政策や政策過程に対する理解の向上に努めます。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定 期 試 験		80%		論述形式の試験を実施します。			
	平 常 評 価		20%		授業時間中に、毎回小テストを実施します。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	2 0 1 9		慈学社		議会政治 第3版		加藤秀治郎・水戸克典	
	備考							
参 考 書	授業中に適宜指示します。							
オフィスアワー	金曜日 12：15～12：55 ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	履修条件を説明するので、初回ガイダンスには必ず出席すること（2時間）
	授業内容	授業ガイダンスー「公共政策」とは何か
	事後学習	ガイダンスで示された履修条件を確認するとともに、教科書を用意しておくこと（2時間）
2	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	国家の役割と公共政策
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
3	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策と議会
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
4	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策と議会
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）

5	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策と政党
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
6	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	政府と官僚制
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
7	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	利益団体の圧力活動
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
8	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	政策過程のモデル
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
9	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	政策類型論
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
10	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	戦後の日本における公共政策の展開
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
11	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	戦後の日本における公共政策の諸問題
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
12	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	現代日本における公共政策の現状
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
13	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	現代日本における公共政策の諸問題
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
14	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	現代日本における公共政策の課題
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
15	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）

科目名	公共選択論	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	合理的選択論（公共選択論）と呼ばれる研究領域について、その成立の歴史や背景を述べたうえで、投票行動のパラドクス問題について説明する。				
授業目的・到達目標	第一に、政治現象を合理的な個人の行動から導き出される結果として論理的に説明する合理的選択論（公共選択論）の基礎的な方法論および理論を習得したうえで、第二に、合理的選択論の視座から投票行動のパラドクスに関する理論的モデルの習得を目的とする。受講生自らが、合理的選択論の立場から、民主主義社会において我々が直面する政治的問題を正確に理解し、それらの問題の本質に対する的確な解決策を提示できることを目標とする。関連DPおよびCP：政治経済学科2, 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式で進める。 履修者にはレジュメを配布し、説明はスライド（パワーポイント資料）を使用する。 授業内に試験を行い解説する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が成績評価対象となる。学んだ知識を正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参考書	小田中直樹『ライブ・合理的選択論』（勁草書房、2010年） 他の参考書については、授業時に適宜提示する。				
オフィスアワー	月曜日 12：15～13：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館4階9403） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。インターネットなどを通じて、日本および世界の選挙結果について、とくに投票率に注目して比較する。（2時間）
	授業内容	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法、参考文献等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	参考文献などにあたり、合理的選択論が誕生した背景にはどのような学問的・時代的要請があったのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「合理的選択論とは何か（1）」 合理的選択論と呼ばれる研究分野の黎明期にはどのような研究業績があったのか、そして合理的選択論の登場を促した学問的・時代的要請がどのようなものであったのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、合理的選択論が登場した背景要因について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
3	事前学習	参考文献などにあたり、合理的選択論が対象とする領域はどのような事象なのか、また合理的選択論の思想的背景および前提とする人間観とはどのようなものか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「合理的選択論とは何か（2）」 合理的選択論が対象とする領域は経済的事象と政治的事象のどの領域であるのか、合理的選択論の理論上の思想的背景がどのようなものであるのか、そして合理的選択論が前提とする人間観はどのようなものであるのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、合理的選択論の対象領域、理論上の思想的背景、前提とする人間観について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）

4	事前学習	参考文献などにあたり、合理的選択論が主要な研究対象とする「民主政治の欠陥」について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「合理的選択論とは何か（3）」 合理的選択論が主要な研究対象とする「民主政治の欠陥」にはどのようなものがあり、それがなぜ起きるのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、民主政治が抱える欠陥とその原因について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
5	事前学習	参考文献などにあたり、合理的選択論のアプローチがどのような特徴をもつのかについて自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「合理的選択論とは何か（4）」 合理的選択論のアプローチが有する「方法的個人主義」「利己心」「合理性」という特徴がどのようなものであるのか、また合理的選択論の分析手続きに特徴的なモデル化の作業とはどのようなものか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、合理的選択論のアプローチの特徴、およびモデル化という手続きの特徴について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
6	事前学習	参考文献などにあたり、ホテリングによる立地競争モデルとはどのようなモデルなのか、ダウنزによる中位投票者仮説とはどのようなものかについて自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「中位投票者仮説（1）」 ホテリングが提示した立地競争モデルがどのようなモデルであるのか、基本的な中位投票者仮説とはどのようなものであるのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、ホテリングの立地競争モデル、および基本的な中位投票者仮説の内容について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
7	事前学習	参考文献などにあたり、政策位置をめぐる政党間競争に関するダウنزのモデルについて自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「中位投票者仮説（2）」 有権者の選好分布により政党の政策位置がどのように変動するかに関してダウنزが提示したモデルについて、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、政党の政策位置に関するダウنزのモデルについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
8	事前学習	参考文献などにあたり、有権者の投票参加に関するダウنزのモデルについて自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「投票参加のダウنز・モデル」 有権者の投票参加に関するダウنز・モデルについて、その具体的な説明式も含めて、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、有権者の投票参加に関するダウنزのモデルについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
9	事前学習	参考文献などにあたり、有権者の投票参加に関するダウنزのモデルがどのようなパラドクスを有しているのかについて自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「投票行動のパラドクス（1）」 有権者の投票参加に関するダウنزのモデルが抱えるパラドクス、およびそのパラドクスを解消しようとするダウنزやライカー&オードシュックの試みについて、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、有権者の投票参加に関するダウنزのモデルが抱えるパラドクスがどのようなもので、そのパラドクスを解消しようとするダウنزやライカー&オードシュックの試みがどのようなものかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
10	事前学習	参考文献などにあたり、有権者の投票参加に関するダウنزのモデルのパラドクスを解消する試みについて、フェアジョン&フィオリーナがどのような議論を展開したかについて自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「投票行動のパラドクス（2）」 有権者の投票参加に関するダウنزのモデルが抱えるパラドクスに対して、フェアジョン&フィオリーナが最大後悔最小化基準にもとづいて提示したモデルについて、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、有権者の投票参加に関するダウنزのモデルが抱えるパラドクス対してフェアジョン&フィオリーナが提示したモデルがどのようなものであるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
11	事前学習	参考文献などにあたり、有権者の投票参加に関するダウنزのモデルから導かれる第2のパラドクスとはどのようなものか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「投票行動のパラドクス（3）」 有権者の投票参加に関するダウنزのモデルから導かれる第2のパラドクスとはどのようなものであるのかについて、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、有権者の投票参加に関するダウنزのモデルから導かれる第2のパラドクスがどのようなものであるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
12	事前学習	参考文献などにあたり、有権者の投票参加に関する第2のパラドクスに対して、ゲーム理論による投票参加のモデル化はどのような利点をもつのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「投票行動のパラドクス（4）」 有権者の投票参加を戦略的意思決定として捉え、そのような戦略的意思決定を分析するゲーム理論によって投票参加をモデル化することについて、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、ゲーム理論によって有権者の投票参加をモデル化する手順や利点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
13	事前学習	参考文献などにあたり、合理的選択論が政治学に及ぼしたインパクト、影響、含意、および今後の方向性について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「合理的選択論の含意と可能性」 合理的選択論が政治学に対していどのようなインパクトと影響を及ぼし、いかなる変化をもたらしたのか、また今後の政治学における合理的選択論の方向性とはどのようなものであるのかについて、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、合理的選択論が政治学に及ぼしたインパクト、影響、含意、および合理的選択論の今後の方向性について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）

14	事前学習	第2回から第13回まで講義で配布したレジュメ、自身でまとめたノートやメモ読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。（2時間）
	授業内容	「講義のまとめ」 第2回から第13回までの講義をふりかえり、各回での議論の要点について解説を行い、履修者が全体の議論の流れ、および各回で提示された理論やモデルについて説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、各回で提示された理論やモデルがどのようなものであるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げられている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
15	事前学習	第2回から第13回まで講義で配布したレジュメ、自身でまとめたノートやメモ読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。（2時間）
	授業内容	「授業内試験および解説」 この講義で説明してきた理論やモデルについて正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その解説を行う。
	事後学習	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのか確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。（2時間）

科目名	公共選択論	担当者	羽田 翔	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	公共選択論が対象とする不特定多数の人々に関わる意思決定、つまり公共選択は選挙・政党・議会といった政治活動と密接に関係しているが、公共選択論はこれらの過程を経済学的手法を使用して分析する学問である。また、これらの過程を明らかにするのみではなく、投票制度、政治資金に関する規制等、現実の政策論へと展開していくことも対象としているため、政策決定の枠組みを規定する諸制度の設計を重点的に議論する学問となっている。				
授業目的・到達目標	本講義は、公共選択論の基本的な知識および基礎理論を理解し、それらを具体的な事例に応用できる能力を養うことを、その目的としている。さらに、上記の知識および基礎理論を自身で説明することができ、現実の政策または制度に関して意見または解決策を提示できるようになることを到達目標とする。対応DP及びCP：政治経済学科 2, 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	事前に配布する講義資料を活用して公共選択論の考え方、基礎理論などを論じる。小テストを複数回行うことで理解を深める。小テストの解説および返却を次の授業で行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	学期末の定期試験で評価する。	
	平常評価		20%	議論への積極的な参加および小テスト等で評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特定の教科書は指定しないが、以下の参考書、特に(1)を熟読することが望ましい。講義日前日までに講義資料をポータルシステムにて配布する。授業内では配布しないため、必要に応じて持参すること。			
参考書	(1) 2013年 勁草書房 「テキストブック公共選択」 川野辺裕幸・中村まづる編、(2) 2009年 東京大学出版会 「公共選択の経済分析」。その他は講義内で適宜支持します。				
オフィスアワー	月曜日12:00-13:30（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（ ） メールアドレス：				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認し、「公共選択」「政治経済」といったキーワードについて自分なりに理解してくること。（2時間）
	授業内容	公共選択論とは何か？：公共選択論の射程、成績評価について
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、どの分野に興味があるかを自分なりに考え、日本での現状について調べてみること（2時間）
2	事前学習	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：経済学、政治学、政治経済学（2時間）
	授業内容	公共選択論の対象と方法論について
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、経済学及び政治学における各プレイヤーの概念を比較し、その違いをまとめること。また、公共選択の対象とその分析手法について自分なりにまとめること。（2時間）
3	事前学習	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：政府の失敗、市場の失敗（2時間）
	授業内容	政府の失敗と市場の失敗の違いについて
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、経済学における市場の失敗についてまとめること。また、公共選択論における政府の失敗についても再確認し、2つの失敗がどのように関係しているかをまとめること。（2時間）
4	事前学習	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：大きな政府、小さな政府、社会保障（2時間）
	授業内容	公共選択論における大きな政府と小さな政府の違い
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、大きな政府と小さな政府の特徴をまとめること。また、日本、アメリカ、中国などの各国政府はどちらのタイプに当てはまるかを考えてみること。（2時間）

5	事前学習	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：パレート最適、メいの定理（2時間）
	授業内容	投票ルールの考え方(1)：多数決のルールについて
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、多数決のルール設定についてまとめ、投票ルールが投票結果に与える影響をまとめること。（2時間）
6	事前学習	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：投票のパラドックス、アローの不可能性定理（2時間）
	授業内容	投票ルールの考え方(3)：投票のパラドックスとアローの不可能性定理
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、投票のパラドックスとアローの不可能性定理についてまとめること。（2時間）
7	事前学習	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：中位投票者定理（2時間）
	授業内容	投票ルールの考え方(3)：中位投票者定理の理解とその応用
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、中位投票者定理の理解及び前回の内容の再確認を行う。（2時間）
8	事前学習	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：政治家、得票最大化行動（2時間）
	授業内容	選挙時における政治家の行動に関する理論
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、選挙時に政治家が何を重視して選挙活動を行うかをまとめること。また、現実の世界ではどうなっているかも自分なりに調べてみること。（2時間）
9	事前学習	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：二大政党制、多数政党制（2時間）
	授業内容	二大政党制及び多数政党制における政党間競争
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、政党制の違いによって政党間競争がどのように異なってくるかをまとめること。（2時間）
10	事前学習	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：合理的投票者、論理的投票者（2時間）
	授業内容	合理的投票者と論理的投票者の理解
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、（2時間）
11	事前学習	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：ニスカネンモデル、ダンレヴィーモデル（2時間）
	授業内容	公共選択路における官僚制度に関する理論：ニスカネンモデル、ダンレヴィーモデル
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、合理的投票者と論理的投票者の違いについてまとめること。また、自身はどのように投票を行なっているかを考えること。（2時間）
12	事前学習	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：政治的景気循環、選挙競争、マクロ経済政策（2時間）
	授業内容	政治的景気循環について
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、政治的景気循環についてまとめること。その中でも、特にマクロ経済政策と政治の関係についてまとめること。（2時間）
13	事前学習	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：財政赤字、政治経済学（2時間）
	授業内容	公共選択論と財政赤字の問題
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、財政赤字とその解消方法についてまとめること。また、経済学と公共選択論における財政赤字への考え方の違いについてもまとめること。（2時間）
14	事前学習	事前に配布資料を、特にキーワードに注目しながら熟読すること。キーワード：社会保障制度、環境問題、国際貿易問題（2時間）
	授業内容	公共選択と現実の政策
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、現実世界で起きている問題を解決する時、公共選択論ではどの分析手法が適しているかをまとめること。また、自身の考えもまとめておくこと。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義資料を参考に講義内容を見直し、疑問点や興味を持った点等をまとめてくる。（2時間）
	授業内容	講義のまとめ：公共選択と現実世界のつながり
	事後学習	これまでの講義資料を見直し、定期試験の準備を進めること。（2時間）

科目名	広告コミュニケーションⅠ	担当者	安達 周	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	広告を幅広い視点から見ることによって、広告コミュニケーションの概要を理解する。そのため、広告の機能、広告を掲載する媒体（テレビや新聞、インターネットなど）の特徴、広告業界の構造（広告主・広告会社・広告制作会社・媒体社の関係）、マーケティングにおける広告の役割、広告計画の立案、広告表現・媒体計画の作成、評価の高いクリエイティブ事例、そしてインターネットの出現による広告コミュニケーションの変容などを学習する。			
授業目的・到達目標	広告コミュニケーションの概要を修得させることを目的とする。 私たちは毎日、テレビCM、インターネット広告、新聞広告、雑誌広告などに当然のように接しているが、これら広告は、広告業界の連携や様々な制作過程を経て私たちの目に触れることになる。そこには広告効果を高めるための工夫や理論がある。広告の基礎的知識を含め、こうした広告の私たちへのアプローチを理解し、説明できることを目標とする。 関連DP及びCP:新聞学科1, 2, 6			
履修条件	後期「広告コミュニケーションⅡ」を履修することが原則となっている。 後期「Ⅱ」のシラバスの授業計画を見ることが望ましい。			
授業方法	講義形式とする。授業ごとに資料を配布する。 教科書は使わないが、授業の中で参考書を適宜紹介する。提出レポートの解説を、後日、ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業最終日にレポートを提出（80%の評価） 授業参加度（20%の評価） レポートの詳細は授業の中で説明する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。		
参考書	岸志津江・田中洋・嶋村和恵著『現代広告論 第3版』有斐閣アルマ（2017）『広告コミュニケーションの総合講座』日経広告研究所（2015年～2018年 ※各年ごとに別売） その他、授業で適宜示す。			
オフィスアワー	金曜日3時限目の授業終了後、授業講堂にて。 次のメールアドレスmeguru@arion.ocn.ne.jpでも受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ネット広告、テレビCM、新聞広告、雑誌広告の4つについて、あなたの一日平均接触時間を調べておく。（2時間）
	授業内容	授業スケジュール、成績評価方法などを話した上で、導入として、広告コミュニケーションとは何か、企業にとってなぜ広告が必要か、広告をめぐる現状はどうなっているかなど基本的な内容を概括する。
	事後学習	配布資料やノートを確認して、授業の要点をまとめておく。（2時間）
2	事前学習	宣伝、PR、パブリシティについて調べておく。（2時間）
	授業内容	広告の発祥、広告の定義、広告の種類をはじめ、広告と混同されがちな宣伝（プロパガンダ）・PR（広報）・パブリシティについて学習する。
	事後学習	配布資料やノートを確認して、自分なりに説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	広告の諸機能について調べておく。（2時間）
	授業内容	広告の機能である情報提供機能、説得機能、関係強化機能（ブランド構築機能）、マクロ的機能としての経済的機能、社会的・文化的機能について具体的事例をもとに学習する。
	事後学習	配布資料やノートをもとに、要点を整理しておく。（2時間）
4	事前学習	マーケティングの4Pと広告との関係、マーケティングミックスを調べておく。（2時間）
	授業内容	広告は企業のマーケティングの重要な役割の一つを担っている。広告活動を理解するためには、マーケティングを理解することが必要だ。マーケティングとは何か、マーケティングにおける広告の役割とは何かを学習する。
	事後学習	ノートと配布資料をもとに、マーケティングと広告との関係を整理しておく。（2時間）

5	事前学習	PEST分析、3C分析、SWOT分析、4C、プロモーションミックス、統合型マーケティングコミュニケーション（IMC）について調べておく。（2時間）
	授業内容	マーケティングの市場分析方法（PEST分析、3C分析、SWOT分析、4C）などについて学習し、マーケティングと広告の理解をより深める。
	事後学習	配布資料やノートをもとに、企業のマーケティング活動の概要を説明できるようにしておく。（2時間）
6	事前学習	広告主・広告会社・媒体社（テレビ局、新聞社・出版社など）の役割を調べておく。（2時間）
	授業内容	広告に関わる組織について学習する。広告業界は、大きく分けて「広告主・広告会社・広告制作会社・媒体社」で成り立っている。とりわけ広告会社の役割は大きく、広告会社の機能を学ぶことによって、業界の仕組み、広告活動全体の仕組みを明らかにする。
	事後学習	配布資料やノートをもとに、広告会社の機能をまとめておく。（2時間）
7	事前学習	コミッション、フィーについて調べておく。（2時間）
	授業内容	日本の広告業界独特の広告費の流れ、主な日本の広告会社、広告会社の発展過程などを学ぶことで、業界への理解をより深める。
	事後学習	配布資料やノートをもとに、日本と欧米の広告会社の違いをまとめておく。（2時間）
8	事前学習	DAGMAR理論（モデル）とプロダクトライフサイクルについて調べておく。（2時間）
	授業内容	広告制作の基本となる「広告計画」について学習する。広告計画は、広告予算の設定⇒広告目標の設定⇒表現計画・媒体計画の立案⇒広告出稿⇒広告効果測定の手順を踏む。これらの手順について学び、広告計画を理解する。
	事後学習	配布資料やノートに基づき、自分で広告計画を立てられるようにしておく。（2時間）
9	事前学習	5I（ファイブ・アイ）の法則、3Bの法則、USPについて調べておく。（2時間）
	授業内容	広告計画の一つ「表現計画」について学ぶ。広告表現（クリエイティブ）をいかに魅力的なものにできるかは広告の訴求効果を高めるポイントであり、クリエイティブに必要な要素や法則などを具体例を交えながら学習する。
	事後学習	配布資料やノートをもとに、魅力的な広告表現作成に必要な事項をまとめる。（2時間）
10	事前学習	アカウント・プランニング、コンシューマー・インサイトについて調べておく。（2時間）
	授業内容	広告表現を制作する上で常に意識すべきは消費者の考え。広告会社の「広告表現」制作プロセスを見ることによって、消費者を理解するポイントであるアカウント・プランニング、コンシューマー・インサイトを学習する。
	事後学習	配布資料やノートをもとに、消費者理解のポイントを説明できるようにする。（2時間）
11	事前学習	主な広告媒体（テレビ、新聞、雑誌、ラジオ、インターネット、00Hの交通・屋外）の特徴、メディア・ニュートラルの考えについて調べておく。（2時間）
	授業内容	様々な広告媒体について学習する。広告メッセージを最も効果的に消費者伝えるためには、どの媒体をどのように組み合わせる使うか重要である。そのために各媒体の特徴を理解する。
	事後学習	配布資料やノートを参考に、主な媒体の特徴について理解しておく。（2時間）
12	事前学習	メディアミックス、クロスメディア、トリプルメディアについて調べておく。（2時間）
	授業内容	前回学習した媒体の特徴を踏まえ、広告計画の一つ「媒体計画」について学ぶ。そこにはメディアミックス、クロスメディア、トリプルメディアなど、現在のインターネット社会ならではの重要な概念が反映されており、これらを中心に説明する。
	事後学習	配布資料やノートをもとに、クロスメディア、トリプルメディアの具体例をいくつか考えておく。（2時間）
13	事前学習	コモディティ化、ブランド・エクイティ、ブランド・ロイヤルティについて調べておく。（2時間）
	授業内容	ブランドについて学習する。強いブランドは、広告を含むマーケティングにおいて極めて大きな力となる。コトラーは「優れたブランドは、平均以上の収益を確保するための唯一の手段である」といっている。ブランドの重要性を事例を挙げて解説する。
	事後学習	配布資料やノートを参考に、自分の好きなブランドが、自分にどんな効果を及ぼしているか書き出してみる。（2時間）
14	事前学習	過去の有名な広告キャッチコピー（テレビCMも含む）をいくつか調べ、つくられた時代背景を考察する。（2時間）
	授業内容	アメリカと日本の、評価の高い広告表現（クリエイティブ）事例を紹介することにより、クリエイティブの可能性について学ぶ。
	事後学習	著名コピーを集めた文献などに当たり、その評価理由を調べる。（2時間）
15	事前学習	前期授業の配布資料とノートをもとに各授業の要点を整理しておく。（2時間）
	授業内容	授業のまとめ 授業終了後にレポート提出
	事後学習	これまでの配布資料やノートを見直すことにより、広告コミュニケーションの概要を復習する。（2時間）

科目名	広告コミュニケーションⅡ	担当者	安達 周	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期「広告コミュニケーションⅠ」では広告コミュニケーションの概要を学んだ。後期「Ⅱ」ではその肉付けをする。影響力を増しているインターネット広告の特性と問題点、様々な広告手法、知的財産と広告、ジェンダーや人種差別の観点から問題化した広告表現、広告の法規制、媒体責任、企業の社会的責任を果たすソーシャルマーケティング、世界展開するグローバル広告などを取り上げるることにより、広告コミュニケーションの全体像を学ぶ。				
授業目的・到達目標	広告コミュニケーションの全体像を修得させることを目的とする。 インターネット広告の優れた特性と負の側面、広告とコンテンツの融合、知的財産と広告との関係、ジェンダーや人種差別の観点から批判された広告表現、広告の法規制・自主規制、媒体責任、ソーシャルマーケティング、グローバル広告について理解し、説明できることを目標とする。				
履修条件	関連DP及びCP:新聞学科1, 2, 6 この科目は「広告コミュニケーションⅠ」を履修した学生に限り履修できる。 ※「Ⅰ」を履修していない学生は選択しないこと。選択しても単位を与えることは出来ない。				
授業方法	講義形式とする。授業ごとに資料を配布する。 教科書は使わないが、適宜参考書を紹介する。提出レポートの解説を、後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業最終日にレポートを提出（80%の評価） 授業参加度（20%の評価） レポートの詳細は授業の中で説明する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参考書	岸志津江・田中洋・嶋村和恵著『現代広告論 第3版』有斐閣アルマ（2017）『広告コミュニケーションの総合講座』日経広告研究所（2015年～2018年 ※各年ごとに別売）その他、授業で適宜示す。				
オフィスアワー	金曜3時限目の授業終了後、授業講堂にて。 次のメールアドレスmeguru@arion.ocn.ne.jpでも受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	インターネット広告の特性とネット広告が広告活動に与える影響について調べておく。（2時間）
	授業内容	初めに後期授業のガイダンス。その後、インターネット広告について学ぶ。 現代の広告活動に最も大きな影響を及ぼしているのはインターネットである。従って、後期最初にインターネット広告を取り上げ、マス広告にはない特性とネット広告の発展過程を考察する。
	事後学習	配布資料とノートを確認して、授業の要点を整理しておく。（2時間）
2	事前学習	ネイティブ広告、ステルスマーケティング、広告価値の毀損問題について調べておく。（2時間）
	授業内容	インターネット広告の多様な種類とそれぞれの機能を考察する。併せて、ステルスマーケティング、やらせのクチコミ問題、不適切なサイトに広告が掲載される広告価値の毀損問題など、ネット広告の負の側面について学ぶ。
	事後学習	配布資料やノートをもとに、ネット広告の種類と負の側面について説明できるようにしておく。（2時間）
3	事前学習	ブランデッド・エンターテイメント、プロダクト・プレイスメントの考えと事例を調べる。（2時間）
	授業内容	「コンテンツと広告の融合」として、映画のようなブランデッド・エンターテイメント（ネット広告の一つ）、映画やTVドラマの一場面に商品を溶け込ませるプロダクト・プレイスメントについて事例に基づき説明する。それにより「広告を見せられている」というユーザーの抵抗感をなくし広告効果を高める工夫を学ぶ。
	事後学習	好きなブランデッド・エンターテイメントとプロダクト・プレイスメントを探し、優れている点をノートする。（2時間）
4	事前学習	インバウンド・マーケティングの概念について予習しておく。（2時間）
	授業内容	インターネットの進化、スマホの普及により、新しいマーケティング手法が登場している。その一つ「消費者に自発的に来てもらう」インバウンド・マーケティングについて考察する。また、日本では定着しにくい「比較広告」はじめ、「タイアップ広告」など様々な広告手法について学ぶ。
	事後学習	配布資料やノートをもとに、インバウンド・マーケティングの実践例を調べておく。（2時間）

5	事前学習	ソーシャルマーケティングに基づいた企業広告の事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	「ソーシャルマーケティングとその企業広告」について学ぶ。ソーシャルマーケとは、企業は利潤の追求だけを目指すのではなく、社会的責任を果たすことにより企業イメージを高める手法。社会貢献をテーマとした企業広告の事例をもとに、企業の今日的課題を探る。
	事後学習	配布資料やノートをもとに、企業が力を入れている社会的課題を整理しておく。（2時間）
6	事前学習	グローバル広告を海外の事例を含めて調べておく。（2時間）
	授業内容	「グローバルマーケティングとグローバル広告」について考察する。世界の距離が縮まるにつれ、世界展開する企業が増えている。マーケティングのグローバル化は広告のグローバル化を必要とし、各国の文化や社会制度の違いにより、広告表現、媒体計画の変更が必要となることなどを学ぶ。
	事後学習	配布資料とノートに基づき、広告戦略の「標準化」と「現地化」について整理する。（2時間）
7	事前学習	虚偽・誇大表現である「不当表示」規制の代表的法律である景品表示法について予習しておく。（2時間）
	授業内容	「広告の規制」について学習する。広告は営利的言論であるため、さまざまな規制の下にある。大きく分けて「法律規制」「業界による自主規制」「公正競争規約（法律と自主規制の中間）」がある。それぞれの規制について解説し、広告規制の意義を明らかにする。まず法律規制について学習する。
	事後学習	最近の企業の不当表示事例を消費者庁ホームページやニュースなどで調べ、まとめる。（2時間）
8	事前学習	広告主・広告会社・媒体社による「自主規制」にはどんなものがあるか調べておく。（2時間）
	授業内容	広告の規制について。「業界の自主規制」と「公正競争規約」について学ぶ。自主規制は法律による規制では不適切な、広告の社会的責任、倫理・道徳、業界固有の商習慣などを考慮してつくられる。公正競争規約は自主規制の強制力を強めたもの。これらを学ぶことにより、広告規制の意義と全体像を明らかにする。
	事後学習	配布資料やノートをもとに、広告規制の全体像を説明できるようにしておく。（2時間）
9	事前学習	新聞社の媒体責任が問われた代表的事例「日本コーポ事件」について調べておく。（2時間）
	授業内容	「媒体責任」について学ぶ。広告の責任は広告主にあるが、広告主が倒産した場合など、広告により経済的損害を被った消費者は広告を掲載した媒体社（新聞社やテレビ局）に対し損害賠償訴訟を起こす場合がある。媒体の責任をどう考えるか、最高裁判例などに基づき考察する。
	事後学習	配布資料、授業内容に基づき、あなた自身は媒体責任をどう考えるか整理しておく。（2時間）
10	事前学習	著作権法が定義する著作物にはどのようなものがあるか、また知的財産をめぐる裁判事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	「広告と知的財産」について考察する。知的財産権を権利者の許諾なく使用することはできない。広告に関係の深い知的財産権は、著作権、商標権、肖像権、不正競争防止法上の権利である。こうした知的財産権が、広告制作の上でどのように関係してくるのか、どんなところに注意すべきか、どのような事件が起こったか考察する。
	事後学習	配布資料やノートに基づき、広告と知的財産の関係を整理しておく。（2時間）
11	事前学習	「差別表現」として批判された広告（テレビCM、ネット動画CM、新聞広告など）事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	「広告に見る差別表現」について検証する。広告は時に、ジェンダーに基づく女性差別、人種差別、あるいは障害者差別などの観点から問題化し炎上することがある。批判された事例を検証し、問題点を探る。広告は「時代を映す鏡」といわれるが、その時代の社会意識が広告に浮かび上がる。
	事後学習	男女雇用機会均等法制定の経緯、ジェンダーギャップ、人種差別の歴史など、併せて学習する。（2時間）
12	事前学習	カンヌライオンズで受賞した海外と日本の受賞作品、その受賞理由について調べておく。（2時間）
	授業内容	カンヌライオンズ（世界三大広告祭の一つ）で高評価を得た内外の広告作品をいくつか取り上げ、そのクリエイティブの巧みさと切り口を学ぶ。
	事後学習	カンヌライオンズ以外の広告祭、ワンショウ（One Show）、クリオ賞の最近の受賞作品の潮流を調べる。（2時間）
13	事前学習	福沢諭吉が新聞広告の効用を説いた「商人に告ぐるの文」を読み感想をまとめる。（2時間）
	授業内容	「江戸・明治に見る広告」として、折り込み広告の起源とされる江戸時代の「越後屋の引札」の広告効果、越後屋の新商法、ブランドの利用など「世界最古のマーケティング」を学ぶ。併せて、明治時代に新しい広告媒体として登場した新聞に掲載された広告を検証することで、文明開化の息吹を感じとる。
	事後学習	当時の広告を「アドミュージアム東京」や文献などで調べ、どのような意図で作られたのかまとめる。（2時間）
14	事前学習	プロモーションメディアの特徴と日本の広告費における同メディアの広告費の割合などを調べておく。（2時間）
	授業内容	目立たないが広告媒体として重要な役割を果たしているダイレクトメール、フリーペーパー・フリーマガジン、POP、展示・映像、電話帳についてその特徴を学ぶ。新聞折込、交通、屋外を加えてプロモーションメディアと総称される。
	事後学習	どのようなプロモーションメディアを日常目にするか、また利用しているか調べてみる。（2時間）
15	事前学習	これまでの配布資料やノートをもとに、各授業の要点を整理しておく。（2時間）
	授業内容	授業のまとめ 授業終了後レポート提出
	事後学習	配布資料、ノートを整理し、広告コミュニケーションの全体像を説明できるようにしておく。（2時間）

科目名	広報広告コミュニケーション演習Ⅰ	担当者	古川 隆	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	4年次に履修可能となる広報広告演習Ⅱ・Ⅲで「卒業レポート」を作成するための準備段階の位置づけ。大きく三つの内容がある。①広報論の基礎知識（講義）②問題発見と解決力の醸成（グループワーク）③論理的な文章力の向上（新聞クリッピングレポート）これらの内容を組み合わせ総合的に取り組んでいく。広報ならびに広告は授業担当者の専門研究分野であり、本務での業務分野でもある。4年次の卒業レポート作成に向けたアドバイスが可能である。				
授業目的・到達目標	社会人として必要な広報と広告についての基本的な知識や企業活動における役割とそれぞれの違いを理解出来る能力を養成することを目標とする。ひとつのテーマについて問題発見と解決方法を考えられるようにする。自らの考えを論理的な文章で書けるようになる。本講座では、これらの目的を達成するために毎回の授業での決められた提出物を提出し、グループワークでの積極的な役割と発表ができることを目標とする。 関連DP及びCP：新聞学科1, 4, 8				
履修条件	企業における広報や広告に興味をもっていること。広報の理論と実践を理解して、社会人になった将来にそれを生かすことを希望していること。事前・事後学習における課題にきちんと取り組めること。				
授業方法	通常の講義の他、小グループによるグループワークと発表それを受けての全体討議なども取り入れる。積極的な授業参画を求める。また、受講者の理解度を勘案し、授業の方法や内容を変更することがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義内容の理解度確認テスト50%、毎回の提出物や200字作文30%、グループワークや発表などの授業参画度20%を総合的に判断する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
				特になし	
	備考	受講者の理解度を勘案して、開講後教科書（または参考書）を指定することがある。			
参考書	全国紙（日本経済新聞など）を購読すること。授業で提出が必要な新聞クリッピングレポート作成で新聞購読は必須となる。契約による購読が望ましいが、経済的な事情がある場合は大学の図書館での閲覧を利用する。				
オフィスアワー	金曜16：10～ 30分程度、その教室で受け付ける。事前にメールでアポイントを取ること。希望者が多い場合または教室が他の授業などで使用できない場合は、相談のうえ別の場所や日時を指定することがある。（メールアドレスは、正規履修者にのみ授業中に開示する） なお、オフィスアワーでの質問・相談は授業に関する内容に限定する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを概観しておく。新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション。半年間の授業計画や内容を説明し、講師の自己紹介や学生の自己紹介を行う。授業に関する事前のアンケートも実施する。今後必要となる「新聞クリッピングレポート」の作成方法を詳しく説明する。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。（2時間）
2	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）
	授業内容	前回実施した授業アンケートの結果をフィードバックする。200字作文を実施する。ケーススタディによるグループワークの方法を説明する。次回のケーススタディを配付してポイントを説明する。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。（2時間）
3	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）
	授業内容	前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。オリジナルのケーススタディ（1）を用いてグループワークを実施し、各グループの発表を行い、全体で討議を行う。その後講評と解説を行う。次回のケーススタディを配付してポイントを説明する。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。（2時間）
4	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。（2時間）
	授業内容	前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。オリジナルのケーススタディ（2）を用いてグループワークを実施し、各グループの発表を行い、全体で討議を行う。その後講評と解説を行う。次回のケーススタディを配付してポイントを説明する。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。（2時間）

5	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)
	授業内容	前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。オリジナルのケーススタディ(3)を用いてグループワークを実施し、各グループの発表を行い、全体で討議を行う。その後講評と解説を行う。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)
6	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)
	授業内容	時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義①を行う「広報の定義、基本」
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)
7	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)
	授業内容	時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義②を行う「広報の歴史：米国」
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)
8	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)
	授業内容	時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義③を行う「広報の歴史：日本」
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)
9	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)
	授業内容	時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義④を行う「企業活動と広報」
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)
10	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)
	授業内容	時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義⑤を行う「広報とメディア」
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)
11	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)
	授業内容	時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義⑥を行う「製品広報(マーケティングPR)」
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)
12	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)
	授業内容	時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義⑦を行う「IRと社内広報」
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)
13	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)
	授業内容	時事問題の検討を新聞記事をもとに行う。前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。広報論の基礎の講義⑧を行う「ネット広報と危機管理」
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)
14	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)
	授業内容	前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。理解度確認テストを実施する。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)
15	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事の一つピックアップしてノートにまとめる。その記事をもとに新聞クリッピングレポート作成する。(2時間)
	授業内容	前回提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。前回実施の理解度確認テストの回答と解説、講評を行う。本講座終了にあたり総括を行い、4年次履修可能な広報・広告コミュニケーション演習Ⅱ・Ⅲについて説明をする。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。(2時間)

科目名	広報広告コミュニケーション演習Ⅱ	担当者	古川 隆	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	卒業レポート作成のための学術的な文章の書き方、参考文献の探し方、ヒアリングや調査の方法などを“講義”にて、一つのテーマに対する問題発見と解決力を“グループワーク”を通じて、レポート作成の基礎となる文章力を“新聞クリッピングレポート”や“200字作文”にて、総合的に取り組んでいく。広報ならびに広告は授業担当者の専門研究分野であり、本務での業務分野でもある。どのようなテーマであっても歓迎する。			
授業目的・到達目標	社会人として必要な広報や広告に関する基本的な知識や企業活動におけるそれぞれの違いと役割を理解できることを目的とし、グループワーク、事前学習、事後学習、授業中の指導により広報や広告の分野における一つのテーマについて自らの論旨を卒業レポートとしてまとめることができるようになることを目標とする。本講座では、卒業レポートを作成するための「卒業レポート作成計画書」の完成が目標である。 関連DP及びCP：新聞学科1.4.8			
履修条件	演習Ⅰの履修を経て広報や広告に関するテーマを持っていることが望ましい。1年間かけてレポートを書き上げる意気込みがあること。就職活動（欠席）には配慮するが、事前・事後学習の課題に関して責任を持って取り組むこと。			
授業方法	通常の講義の他、小グループによるグループワークと発表それを受けての全体討議なども取り入れる。積極的な授業参画を求める。広報や広告に関するテーマが決まっていない学生に対しても親切に個人指導を行う予定である。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	期末に提出してもらう卒業レポート作成計画書50%、毎回の提出物や200字作文30%、グループワークや発表などの授業参画態度20%を総合的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	新聞クリッピングレポート（作成方法は授業にて指導）を毎回の授業で提出してもらうので、新聞の購読はした方がよい。広報や広告に関するテキストは各人のテーマによって個別に指導をする。		
参考書	全国紙（日本経済新聞など）を購読すること。毎回の授業で提出が必要な新聞クリッピングレポート作成で新聞購読は必須となる。契約による購読が望ましいが、経済的な事情がある場合は大学の図書館での閲覧を利用する。			
オフィスアワー	金曜14：30～ 30分程度、その教室で受け付ける。事前にメールでアポイントを取ること。希望者が多い場合または教室が他の授業などで使用できない場合は、相談のうえ別の場所や日時を指定することがある。（メールアドレスは、正規履修者にのみ授業中に開示する） なお、オフィスアワーでの質問・相談は授業に関する内容に限定する。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを概観しておく。新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション。1年間の授業計画や内容を説明し、講師の自己紹介や学生の自己紹介を行う。授業に関する事前のアンケートも実施する。2回目以降提出が必須となる新聞クリッピングレポートの作成方法を詳しく説明する。
	事後学習	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）
2	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）
	授業内容	年間目標設定(MBO)の詳細な説明をし、実際に自分のMBOを作成する。講師が教室を巡回し、作成上の個別指導を行う。前回実施した授業アンケートの結果をフィードバックする。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）
3	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）
	授業内容	ケーススタディによるグループワークの方法を説明する。オリジナルのケーススタディ（1）を用いてグループワークを実施し、各グループごとの発表行い、全体で討議を行う。全グループの発表後、講評と解説を行う。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）
4	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）
	授業内容	ケーススタディによるグループワークの方法を説明する。オリジナルのケーススタディ（2）を用いてグループワークを実施し、各グループごとの発表行い、全体で討議を行う。全グループの発表後、講評と解説を行う。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）

5	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事をつ三ピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）
	授業内容	ケーススタディによるグループワークの方法を説明する。オリジナルのケーススタディ（3）を用いてグループワークを実施し、各グループごとの発表行い、全体で討議を行う。全グループの発表後、講評と解説を行う。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）
6	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事をつ三ピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）
	授業内容	レポート作成方法の講義（1）を行う。「大石芳裕研究室 論文・レポート執筆要項」をもとに講義する。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）
7	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事をつ三ピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）
	授業内容	レポート作成方法の講義（2）を行う。「大石芳裕研究室 論文・レポート執筆要項」をもとに講義する。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）
8	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事をつ三ピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）
	授業内容	レポート作成方法の講義（3）を行う。「大石芳裕研究室 論文・レポート執筆要項」をもとに講義する。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）
9	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事をつ三ピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）
	授業内容	レポート作成方法の講義（4）を行う。「大石芳裕研究室 論文・レポート執筆要項」をもとに講義する。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）
10	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事をつ三ピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）
	授業内容	レポート作成方法（文献検索）の講義（1）を行う。「大石芳裕研究室 文献検索法」をもとに講義する。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）
11	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事をつ三ピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）
	授業内容	レポート作成方法（文献検索）の講義（2）を行う。「大石芳裕研究室 文献検索法」をもとに講義する。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。（2時間）
12	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事をつ三ピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）
	授業内容	卒業レポート作成計画書の作成方法を講義する。その後個別のテーマヒアリングと指導を行う（1名10分～20分）※履修人数により個別指導の時間は変更となることがある。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。個別指導をもとに卒業レポート作成計画書の作成を行う（2時間）
13	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事をつ三ピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）
	授業内容	卒業レポート作成計画書の作成方法を講義する。その後個別のテーマヒアリングと指導を行う（1名10分～20分）※履修人数により個別指導の時間は変更となることがある。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。個別指導をもとに卒業レポート作成計画書の作成を行う（2時間）
14	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事をつ三ピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）
	授業内容	卒業レポート作成計画書の個別発表（Aグループ）と全体での討議を行う。全員発表後、講評を行う。※履修人数により発表の予定は変更となることがある。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。
	事後学習	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。発表後の討議や講評をもとに卒業レポート作成計画書の修正を行う（2時間）
15	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事をつ三ピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする（2時間）
	授業内容	卒業レポート作成計画書の個別発表（Bグループ）と全体での討議を行う。全員発表後、講評を行う。※履修人数により発表の予定は変更となることがある。前回提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。○夏休み中の課題を発表し、説明をする・
	事後学習	授業内容の復習をし、講義ノートを整理する。発表後の討議や講評をもとに卒業レポート作成計画書の修正を行う（2時間）

科目名	広報広告コミュニケーション演習Ⅱ	担当者	湯浅 正敏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	主に広告を研究対象とした授業で、前段は主に広告研究の対象となる学問領域や広告専門分野の専門知識を習得し、後段は卒業研究レポート作成のための問いの立て方(テーマ選び)の技法について学習する。			
授業目的・到達目標	産業の変容、社会の変革期の中で広告研究を通して「創造的な課題発見・解決力」を身につけるように育成することを目的とする。 新聞学科のDP及びCPである、豊かな教養・知識に基づく高い倫理観（DP-1、CP-1）問題発見・解決力（DP-4、CP-4）と省察力（DP-8、CP-8）を踏まえて、専門性に基づく規範と高い倫理観、問いの立て方、課題発見の技法、論理的に文章化するためのロジカルライティング、社会・共同体との協業による「創造的な課題発見・解決力」を備えた人材となることを目標とする。			
履修条件	1年かけて大学4年の学びの集大成である「卒業研究レポート」を作成するため、「広報広告コミュニケーション演習Ⅱ」と「広報広告コミュニケーション演習Ⅲ」を継続して履修することが望まれる。			
授業方法	通常の講義の他、ゲストスピーカーによる講義（クリエイティブ・ディレクター黒須美彦）を予定。また、討議型授業、プレゼンテーション等アクティブ・ラーニングも取り入れる。研究レポート計画書作成の個別指導を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	期末提出の研究レポート作成計画書(70%)、その他提出物(30%)で総合的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011	三和書籍	『広告をキャリアにする人の超入門』	湯浅正敏編著
	2003	文春新書	『勝つための論文の書き方』	鹿島茂
	備考			
参考書	水野由多加・妹尾俊之・伊吹勇亮編（2015）『広告コミュニケーション研究ハンドブック』有斐閣ブックス。 ジェームス・W・ヤング（2007）『アイデアのつくり方』阪急コミュニケーションズ。			
オフィスアワー	水曜日12：20～13：00（事前にメールでアポイントメントを取ること。）研究室（9号館4階 9402室）メールアドレス：yuasa.masatoshi@nihon-u.ac.jp 講義内容、研究レポート作成の個別指導のみならず、前期は就職活動中であることを配慮して、広告会社希望者には、私からのアドバイスはもちろん、希望職種に応じて、博報堂、電通等の現職の社員を紹介することも吝かではない。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、広告について何に関心があるのか、どんな研究をしたいのかといった目的意識をもって授業に臨む。（2時間）
	授業内容	教員自己紹介（研究領域、研究実績等）並びに、シラバスの内容について一通り説明をした上で、広告研究領域の全体像を把握するための講義を行う。授業では、1）社会科学領域（経済学、経営学、法学、会計学）、2）人間科学領域（文学・社会学・心理学等）、二つに大別される点と研究領域の多様性について解説する。
	事後学習	広告研究は、「経済的側面、コミュニケーション的側面、社会・文化的側面といった多面性を持ち、広告主、生活者、メディア企業、広告会社の関係性も加わることによって、研究領域の多様性を生み出している。」ことを理解し、研究レポートのテーマを検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書『広告をキャリアにする人の超入門』1章広告とは何か「1. 広告の定義」を読み、広告のマーケティングコミュニケーション上の位置づけ、宣伝、PR（広報）、SP（販売促進）との違いを学習する。（2時間）
	授業内容	事前学習に加え、広告の3つの機能、経済的機能、社会・文化機能、コミュニケーション機能、広告の分類（主体・目的別、表現別）について講義で触れ、広告の研究領域について全体的に把握できるようにする。
	事後学習	講義ノートと教科書「1章広告とは何か」を併せておさらいし、広告の機能の多面性、一つは企業のマーケティング活動の一環としての経済的機能ともう一つは、「広告は時代を映す鏡である」という社会、文化に与える影響という側面を十分理解し、自分なりに説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	教科書「2章広告会社とそのビジネス」日米広告会社の起こりと発展、広告会社の組織と業務について読み、特に図表2-2総合広告会社の組織部門と関連会社をノートに記入して授業に臨む。（2時間）
	授業内容	事前学習に加え、日米広告会社の相違点、1）広告主とのアカウント上に違い、2）事業領域、提供サービスの違い、3）報酬制度の違いについて詳細に触れる。
	事後学習	講義ノートと教科書「2章広告会社とそのビジネス」を併せておさらいし、欧米を中心とした広告業界のグローバルスタンダードからみて、日本の特異性について考察する。（2時間）
4	事前学習	教科書「4章広告とメディア」を読み、広告媒体の分類、広告媒体の機能特性について学習する。マスコミ4媒体とは何か、テレビCMとネット広告の違い、電波媒体と印刷媒体特性について、比較考察する。（2時間）
	授業内容	事前学習に加え、メディアの多様化とコミュニケーション・ニュートラル、トリプルメディア（ペイドメディア、オーンドメディア、アーンドメディア）について触れる。
	事後学習	講義ノートと教科書「4章広告とメディア」を併せておさらいし、トリプルメディアにはそれぞれメリット、デメリットがあること、そのためには三位一体の活用が必要であることを十分理解した上で、自分なりに説明できるようにする。（2時間）

5	事前学習	各自「日本の広告費2018」（電通発表）を入手し、特に媒体別広告費について、対前年比、構成比を確認し、数字からどのようなことが言えるのか、意見や考えを持ち寄って授業に臨む。（2時間）
	授業内容	事前学習に加え、日本の広告費のほか、世界の広告費（WARC：World Advertising Research Center）および世界の広告費予測（電通イーグス・ネットワーク、英調査会社ゼニスオプティメディア）からデジタルシフトの現状を把握する。また、世界の広告会社ランキングについても触れる。
	事後学習	講義ノートと講義スライド内容（PPT）を併せておさらいし、世界の広告費、国・地域別では成長率が高い国、日本のランキング、媒体別では、テレビ広告費とインターネット広告費について確認する。（2時間）
6	事前学習	COLNETにアップした課題（広告会社のステークホルダーについて）を事前に記入し、授業に臨む。（2時間）
	授業内容	事前課題「広告会社のステークホルダー」の解答を示す。 小説やテレビドラマに取り上げられた作品を通じて、広告業界を理解する。映像題材：海外ドラマ『MADMEN』、『シリウスの道』（原作・藤原伊織 電通出身WOWOW放映）等。
	事後学習	テレビドラマを通じて、広告業界についてどのような感想を持ったのかを課題レポートとする。次回の授業で提出。（2時間）
7	事前学習	「ブランド理論とブランディング」の講義スライド内容（PPT）を予め読んで、事前課題を解いて授業に臨む。（2時間）
	授業内容	「ブランド理論」の変遷、製品とブランドの違い、ブランドの機能、ブランドの目的等基本的な説明およびブランド・コミュニケーション、ブランドコンセプトの開発については、ハーゲンダッツをケースに解説する。
	事後学習	なぜ今日ブランドが重要なのか？ 広告会社は、なぜブランド研究およびブランディングに積極的に取り組んだのか？ について説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	6の課題レポートをグループ内で発表できるように準備する。（2時間）
	授業内容	前半は6回目授業の課題レポートをもとにグループ発表を行う。後半はマーケティングについてセールスとの違い、マーケティングのフレームワーク、PEST（マクロ分析）SWOT分析、3C、4Pについて応用例を解説する。
	事後学習	発表で注意されたことを理解し、プレゼンテーション技法について次回に活かせるようにする。（2時間）
9	事前学習	最近気になった広告作品（テレビCM、新聞、雑誌広告等）について、各自選んでその作品が気に入った点を書き出し、評価する。（2時間）
	授業内容	「クリエイターの発想について」と題して、ゲストスピーカーによる講義を行う。候補は、元博報堂、シンガタのクリエイティブ・ディレクター黒須美彦氏（主なクライアント、サントリー金麦、WOWOW、PS、NTTドコモ等）
	事後学習	ゲストスピーカーの講義を聴いて、どんな点に共感を持ったのか、学んだ点をまとめておく。（2時間）
10	事前学習	広告図書館（汐留・電通本社近く）へ行き、ここ数年の広告専門誌「ブレーン」カンヌライオンズ特集号をみて、受賞作品の中で関心を持ったものを3つ挙げて授業に臨む。（2時間）
	授業内容	世界のクリエイティブのトレンドについて、カンヌライオンズ受賞作品を事例に紹介する。広告からブランDED・コンテンツへ、広告媒体力からコンテンツ伝播力へ、USPからブランド・フィロソフィーへ、ペイドメディアからオーndメディア、アードメディアへ等7つのトレンドを示す。
	事後学習	講義ノートと講義スライド内容（PPT）を併せておさらいし、カンヌライオンズのトレンドについて自分なりに考察する。（2時間）
11	事前学習	教科書「9章進化するネット広告」（190～200頁）を読み、ネット広告の歴史、基本的な広告手法およびターゲティング手法について学習する。（2時間）
	授業内容	授業では、PPTを使ってネット広告のターゲティングについて、コンテンツターゲティング、行動ターゲティング、リターゲティング等詳しく説明をする。
	事後学習	ネット広告の特性やコンテンツターゲティング、行動ターゲティングの違いについて自分なりに説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	教科書「9章4．最新アドテクノロジーの動向」（209～216頁）を読み、授業に臨む。（2時間）
	授業内容	最新アドテクノロジーの動向については、テキストの他、PPTでネット広告4つのイノベーションについて、補足説明をする。 また、卒業研究レポート計画書作成についてのガイダンスを行う。
	事後学習	プログラマティック・バイイング（RTB）と枠売りの違い、メディアデータからオーディエンスデータへの意味について、理解し、説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	教科書「勝つための論文の書き方 第一回講義（10～34頁）」を購読し、問いを立てることの重要性を確認する。（2時間）
	授業内容	論文とレポートの違い、問いの立て方（テーマの決め方）について学ぶ。 教科書をもとにPPTで補足説明をする。
	事後学習	問いの立て方、比較のフィールドの上げ方、類似性と差異について確認する。（2時間）
14	事前学習	教科書「勝つための論文の書き方 第二回講義（36～92頁）」を読み、問いの立て方のアプローチについて確認する。（2時間）
	授業内容	教科書をもとにPPTで補足説明をする。
	事後学習	歴史的時間軸（縦軸）と地理的空間軸（横軸）で比較し、差異を見つけ分析する。 自分の研究領域に当てはめて問いを発見できるようにする。（2時間）
15	事前学習	卒業研究レポート計画書を作成し、授業に臨む（2時間）
	授業内容	卒業研究レポート計画書を提出。授業では、後期に向けて計画書作成から研究レポート作成のための作業工程について解説する。
	事後学習	各自夏季休暇を利用して、研究レポート作成のための研究活動を行う。（2時間）

科目名	広報広告コミュニケーション演習Ⅲ	担当者	古川 隆	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	------------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	広報広告演習Ⅱで学んだことをもとに「卒業レポート作成計画書」に従いレポートを作成していく。参考文献をただ単に整理して並べるのではなく、自分なりの調査を設計し実施したり、有識者へのヒアリングを実施することを推奨する。その方法論は授業で説明をする。本講座では、個別のテーマに沿った個別指導を多くするつもりである。広報ならびに広告には授業担当者の専門研究分野であり、本務での業務分野でもある。どのようなテーマであっても歓迎する。				
授業目的・到達目標	社会人として必要な広報や広告に関する基本知識や企業活動におけるそれぞれの違いを理解できる能力を養成することを目的とし、事前・事後学習ならびに授業内の個別指導のもとに広報や広告における一つのテーマについて自らの論旨を卒業レポートとしてまとめることができるようになることを目標とする。本講座では卒業レポートの完成と提出が目標である。関連DP及びCP：新聞学科1.4.8				
履修条件	広報広告演習Ⅱの単位を取得していることが望ましい。1年間かけてレポートを書き上げる意気込みがあること。就職活動（欠席など）には配慮するが、事前・事後学習の課題に関しては責任を持って取り組むことが大前提である。				
授業方法	通常の講義の他、グループワークと発表、全体討議なども取り入れる。作成途中の卒業レポートも個別の発表と討議の場を設ける。講義の他に個別のレポート作成指導なども行う予定である。※履修人数により指導方法の変更がある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	期末に提出してもらう卒業レポート70%、毎回の提出物や200字作文20%、グループワークや発表などの授業への参画態度10%を総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	新聞クリッピングレポート（作成方法は授業にて指導）を毎回の授業で提出してもらうので、新聞の購読はした方がよい。広報や広告に関するテキストは各人のテーマによって個別に指導をする。			
参考書	全国紙（日本経済新聞など）を購読すること。毎回の授業での提出が必要な新聞クリッピングレポートで新聞購読は必須となる。契約による購読が望ましいが、経済的な事情がある場合は大学の図書館での閲覧を利用することになる。				
オフィスアワー	金曜14：30～ 30分程度、その教室で受け付ける。事前にメールでアポイントを取ること。希望者が多い場合または教室が他の授業などで使用できない場合は、相談のうえ別の場所や日時を指定することがある。（メールアドレスは、正規履修者にのみ授業中に開示する）なお、オフィスアワーでの質問・相談は授業に関する内容に限定する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを概観しておく。新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートの一つ以上二つ以内作成をする（2時間）
	授業内容	後期オリエンテーション。半年間の授業計画や内容を説明する。前期提出の目標設定(MBO)のレビューの方法を説明し、各自がレビューを記載する。そのうえで各自の課題の認識を促す。前期最終回に提出された新聞クリッピングレポート(添削済み)を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理解する。MBOのレビューをもとに卒業レポート作成上の現状の課題をノートにまとめ、解決方法を考える。（2時間）
2	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートの一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる（2時間）
	授業内容	卒業レポートのドラフト（夏休みの宿題）の個別発表（Aグループ）と全体での討議を行う。全員発表後、講評を行う。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理解する。発表と全体討議から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。（2時間）
3	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートの一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる（2時間）
	授業内容	卒業レポートのドラフト（夏休みの宿題）の個別発表（Bグループ）と全体での討議を行う。全員発表後、講評を行う。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理解する。発表と全体討議から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。（2時間）
4	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートの一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる（2時間）
	授業内容	卒業レポートのドラフト（夏休みの宿題）の個別発表（やり直しグループ）と全体での討議を行う。全員発表後、講評を行う。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理解する。発表と全体討議から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。（2時間）

5	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる（2時間）
	授業内容	レポートのドラフトの発表にもとづくフォローアップの授業（1）を行う。調査の基本知識に関する講義を行う。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。フォローアップ授業から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。（2時間）
6	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる（2時間）
	授業内容	レポートのドラフトの発表にもとづくフォローアップの授業（2）を行う。ヒアリング実施の基本知識に関する講義を行う。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。フォローアップ授業から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。（2時間）
7	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる（2時間）
	授業内容	卒業レポートの個別発表と全体討議 A（先着予約順）を行う。発表後、講評を行う。※先着順とするので遅い者は発表と全体討議ができない場合がある。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。発表や討議、講評から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。（2時間）
8	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる（2時間）
	授業内容	卒業レポートの個別発表と全体討議 B（先着予約順）を行う。発表後、講評を行う。※先着順とするので遅い者は発表と全体討議ができない場合がある。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。発表や討議、講評から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。（2時間）
9	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる（2時間）
	授業内容	卒業レポートの個別発表と全体討議 C（先着予約順）を行う。発表後、講評を行う。※先着順とするので遅い者は発表と全体討議ができない場合がある。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。発表や討議、講評から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。（2時間）
10	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。自身のレポートで用いる参考文献を1報探して、ノートにまとめる（2時間）
	授業内容	卒業レポートの個別発表と全体討議 D（先着予約順）を行う。発表後、講評を行う。※先着順とするので遅い者は発表と全体討議ができない場合がある。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。発表や討議、講評から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映を考える。（2時間）
11	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。卒業レポート完成に向けてた作成をする（2時間）
	授業内容	個別の学生に対するレポート作成の指導 A（先着予約順）を行う。※先着順とするので遅い者は指導できない場合がある。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。個別指導から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映させる。（2時間）
12	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。卒業レポートの完成に向けた作成をする（2時間）
	授業内容	個別の学生に対するレポート作成の指導 B（先着予約順）を行う。※先着順とするので遅い者は指導できない場合がある。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。個別指導から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映させる。（2時間）
13	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。卒業レポートの完成に向けた作成をする（2時間）
	授業内容	個別の学生に対するレポート作成の指導 C（先着予約順）を行う。※先着順とするので遅い者は指導できない場合がある。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。個別指導から学んだことをノートにまとめ各自の卒業レポートへの反映させる。（2時間）
14	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。卒業レポートの提出に向けた最終の作成をする（2時間）
	授業内容	卒業レポートの提出を行う。前回に提出された新聞クリッピングレポート（添削済み）を返却し、講評を行う。200字作文を実施する。
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。（2時間）
15	事前学習	新聞の購読と1週間以内の興味のある記事を三つピックアップしてノートにまとめる。その中から新聞クリッピングレポートを一つ以上二つ以内作成をする。卒業レポートが未提出の者は提出に向けた最終の作成をする（2時間）
	授業内容	提出された卒業レポートの講評を行う。1年間の授業の総括と社会人となる前の心構えについて講義をする。※この授業での提出が最終期限となる。いかなる理由によっても事後の提出は受け付けない。（事前提出は相談による）
	事後学習	授業内容を復習し、講義ノートを整理する。（2時間）

科目名	広報広告コミュニケーション演習Ⅲ	担当者	湯浅 正敏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	主に広告を研究対象とした授業で、前段は主に広告研究の対象となる学問領域や広告専門分野の専門知識を習得し、後段は卒業研究レポート作成のための問いの立て方(テーマ選び)や論理的な文章構成について学習する。			
授業目的・到達目標	大学4年間の学びの集大成、成果物となる「卒業研究レポート」を作成することを目標とする。産業の変容、社会の変革期の中で広告研究を通して「創造的な課題発見・解決力」を身につけるように育成することを目的とする。新聞学科のDP及びCPである、豊かな教養・知識に基づく高い倫理観（DP-1、CP-1）問題発見・解決力（DP-4、CP-4）と省察力（DP-8、CP-8）を踏まえて、専門性に基づく規範と高い倫理観、問いの立て方、課題発見の技法、論理的に文章化するためのロジカルライティング、社会・共同体との協業による「創造的な課題発見・解決力」を備えた人材となることを目標とする。			
履修条件	前期の「広報広告コミュニケーション演習Ⅱ」の単位を取得していること。研究レポートの課題に関しては、自らが決め、論述的な文章、執筆に取り組む意欲をもつことを望む。			
授業方法	「卒業研究レポート」作成のための論理的思考力、論理的文章作成力、構成力を重点に指導し、発表形式の授業とする。ゲストスピーカーによる講義は、博報堂ブランド・イノベーションデザイン局岡田庄生氏を予定。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	卒業研究レポート提出物(80%)と授業内評価（20%）で総合的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2010	ミネルヴァ書房	よくわかる卒論の書き方	白井利明・高橋一郎
	備考			
参考書	バーバラ・ミント著（2001）『新版 考える技術・書く技術 問題解決力を伸ばすピラミッド原則』ダイヤモンド社。			
オフィスアワー	水曜日（事前にメールでアポイントメントを取ること。） 研究室（9号館4階 9402室）メールアドレス：yuasa.masatoshi@nihon-u.ac.jp 質問内容については、卒業研究レポート作成に限って受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	論文「21世紀型教育論—AI時代の創造性教育導入に関する提言—」を読んで授業に臨む。（2時間）
	授業内容	「A Iと創造性」について、討議型授業を行う。
	事後学習	討議型授業の感想をレポート提出する。（2時間）
2	事前学習	COLNETの講義スライド（（7 議論の仕方、10意見の仕方について）で事前学習する。（2時間）
	授業内容	教科書『よくわかる卒論の書き方』7 議論の仕方、10意見の仕方について、解説する。
	事後学習	COLNETで演習問題を解いて、復習する。（2時間）
3	事前学習	COLNETの講義スライド（（クリティカルシンキング）で事前学習する。（2時間）
	授業内容	企画・プレゼンテーションの技法、ゲストスピーカー（博報堂ブランド・イノベーションデザイン局 岡田庄生氏）
	事後学習	ゲストスピーカーの講義を聴いて、学んだ点をまとめて提出する。（2時間）
4	事前学習	COLNETの講義スライドで事前学習する。（2時間）
	授業内容	教科書『よくわかる卒論の書き方』8論理的に書くについて、論理的な組み立て方を学習する。
	事後学習	COLNETの演習問題を解いて、復習する。（2時間）

5	事前学習	COLNETの講義スライド（水平思考と類推思考）で事前学習する。（2時間）
	授業内容	水平思考と類推思考の講義をする。
	事後学習	COLNETの演習問題を解いて、復習する。（2時間）
6	事前学習	COLNETの講義スライド（ロジカルライティング）で事前学習する。（2時間）
	授業内容	参考書『新版 考える技術・書く技術 問題解決力を伸ばすピラミッド原則』による授業。
	事後学習	COLNETの演習問題を解いて、復習する。（2時間）
7	事前学習	COLNETの講義スライド（ロジカルライティング）で事前学習する。（2時間）
	授業内容	参考書『新版 考える技術・書く技術 問題解決力を伸ばすピラミッド原則』による授業。
	事後学習	COLNETの演習問題を解いて、復習する。（2時間）
8	事前学習	COLNETの講義スライド（ロジカルライティング）で事前学習する。（2時間）
	授業内容	参考書『新版 考える技術・書く技術 問題解決力を伸ばすピラミッド原則』による授業。
	事後学習	ロジカルライティングを研究レポート計画書作成に応用する。（2時間）
9	事前学習	卒業研究レポート計画書の 発表準備。（2時間）
	授業内容	卒業研究レポート計画書の発表（第1回目）討議と評価をする。 レポートの書式とマナーの講義。
	事後学習	レポートの書式とマナーについて、演習問題を解く。（2時間）
10	事前学習	卒業研究レポート計画書 発表準備。事前学習する。（2時間）
	授業内容	卒業研究レポート計画書の発表（第2回目）討議と評価をする。 引用、参考文献の表記の講義。
	事後学習	引用、参考文献の表記について、演習問題を解く。（2時間）
11	事前学習	卒業研究レポート計画書 発表準備。事前学習する。（2時間）
	授業内容	卒業研究レポート計画書の発表（第3回目）討議と評価をする。
	事後学習	卒業研究レポート計画書の発表で指摘された点を研究レポート作成に役立てる（2時間）
12	事前学習	教科書『よくわかる卒論の書き方』Ⅶ卒論の書き進め方について、事前学習する。（2時間）
	授業内容	個別卒業研究レポート指導。
	事後学習	個別指導で指摘された点を作成に役立てる。（2時間）
13	事前学習	教科書『よくわかる卒論の書き方』Ⅶ卒論の書き進め方について、事前学習する。（2時間）
	授業内容	個別卒業研究レポート指導。
	事後学習	個別指導で指摘された点を作成に役立てる。（2時間）
14	事前学習	教科書『よくわかる卒論の書き方』Ⅷ研究の方法について、事前学習する。（2時間）
	授業内容	個別卒業研究レポート指導。
	事後学習	個別指導で指摘された点を作成に役立てる。（2時間）
15	事前学習	教科書『よくわかる卒論の書き方』Ⅷ研究の方法について、事前学習する。（2時間）
	授業内容	1年間の総括授業。社会に必要な能力・学習・スキル。
	事後学習	期日までに卒業研究レポートを提出。（2時間）

科目名	公法特殊講義 I（憲法）A	担当者	蟻川 恒正	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	憲法の権利論についての講義。				
授業目的・到達目標	憲法の権利論に関する知見を深め、判例をはじめとする現実の諸問題に接近する力を養成することを目的とする。憲法の権利論について基礎となる理解を修得、定着させ、それを踏まえて、最高裁の重要基本判例を読むことができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科 1， 4， 8				
履修条件	憲法の権利論を学ぶことに対して真摯であること、判例を読むことに対して貪欲であること、社会を知的なものに構築しようとするに対して誠実かつ主体的であること。				
授業方法	講義形式とする。ただし、受講者には、予告する主題判例を判例集等と首っ引きで読みながら受講することが毎回求められる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	期末に筆記試験を行い、講義をどれだけ理解できているかを考査する。後日ポータルサイトへ解説を配信する。	
	平常評価		0%	講義を理解するためには、格別の支障がない限り毎回の出席が必要である。したがって、固有の平常評価はしないが、平常評価が事実上定期試験に反映される恰好となる。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし。			
参考書	追って指示する。				
オフィスアワー	火曜日の13：30～14：30とします。13号館1階受付にて蟻川へ連絡するよう伝えてください。 なお、相談内容等により、改めて日時を指定する場合があります。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	憲法の権利論についての各自の先入見を言葉にしておくこと。（2時間）
	授業内容	開講の辞 憲法の権利論を学ぶことの意味を考える。
	事後学習	上記先入見が変化したか否かをひそかに見極めること。（2時間）
2	事前学習	憲法の権利論の歴史を各自で概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	憲法の権利論 憲法の権利論の歴史的概観を試みる。
	事後学習	憲法の権利論の将来を展望すること。（2時間）
3	事前学習	主題判例 1 を一通り読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	法の下の平等についての主題判例 1 の概要を把握する。
	事後学習	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）
4	事前学習	主題判例 1 を丁寧に読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 1 の「判断枠組み」を理解する。
	事後学習	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）

5	事前学習	主題判例 1 の論理展開を辿っておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 1 の全体を把握する。
	事後学習	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）
6	事前学習	主題判例 2 を丁寧に読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 2 の「判断枠組み」を理解する。
	事後学習	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）
7	事前学習	主題判例 3 を丁寧に読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 3 の「判断枠組み」を理解する。
	事後学習	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）
8	事前学習	主題判例 3 の論理展開を辿っておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 3 の全体を把握する。
	事後学習	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）
9	事前学習	主題判例 4 を丁寧に読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 4 の「判断枠組み」を理解する。
	事後学習	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）
10	事前学習	主題判例 4 の論理展開を辿っておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 4 の全体を把握する。
	事後学習	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）
11	事前学習	主題判例 5 を丁寧に読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	経済的自由についての主題判例 5 の「判断枠組み」を理解する。
	事後学習	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）
12	事前学習	主題判例 5 の論理展開を辿っておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 5 の全体を把握する。
	事後学習	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）
13	事前学習	主題判例 6 を丁寧に読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 6 の「判断枠組み」を理解する。
	事後学習	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）
14	事前学習	主題判例 7 を丁寧に読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 7 の「判断枠組み」を理解する。
	事後学習	授業内容の不明点をなくしておくこと。（2時間）
15	事前学習	言葉にしてあるはずの憲法の権利論についての各自の先入見を再度読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	閉講の辞 憲法の権利論を学ぶことの意味をあらためて考える。
	事後学習	言葉にしてあるはずの憲法の権利論についての各自の先入見を自ら論評すること。（2時間）

科目名	公法特殊講義 I（憲法）B	担当者	蟻川 恒正	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	憲法の権利論についての演習的講義。				
授業目的・到達目標	憲法の権利論について、判例をはじめとする具体的問題を素材としながら、発表・討論できる力を養成することを目的とする。憲法の権利論に関する重要な最高裁判例の事案に即して、原告ないし被告人の立場、被告ないし検察官の立場、裁判所の立場のそれぞれに立って、憲法上の見解を主張し、相互に討議ができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科 1， 4， 8				
履修条件	社会に生起する諸事象のなかに憲法問題の芽を発見し、そのことにつき考え方を共有しない他者との間で議論を交わし、議論のみによりその他者を説得し又は説得されることを、意味あることと感ずることができる者であること。				
授業方法	委細は参加者との話し合いによるが、各回の担当者が原告班・被告班・裁判官班に分かれ、事前準備の上、発表し討論するという方法。フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	演習の形式をとるため、定期試験は行わない。	
	平常評価		100%	成績評価は、担当者のときの発表・討論、担当者でないときの発言や授業態度等によって行う。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	備考	特になし			
参考書	特になし。				
オフィスアワー	火曜日の13：30～14：30とします。13号館1階受付にて蟻川へ連絡するよう伝えてください。 なお、相談内容等により、改めて日時を指定する場合があります。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	この授業について考えてみること（2時間）
	授業内容	この授業の進め方について
	事後学習	この授業の進め方について批評できるようにすること（2時間）
2	事前学習	拳法の権利論についての見通しとは何かを考え、言葉にしておくこと（2時間）
	授業内容	憲法の権利論についての見通し
	事後学習	上記見通しについて批評できるようにすること（2時間）
3	事前学習	主題判例 1 について丁寧に読んでおくこと（2時間）
	授業内容	表現の自由についての主題判例 1 の「判断枠組み」
	事後学習	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）
4	事前学習	主題判例 2 について丁寧に読んでおくこと（2時間）
	授業内容	主題判例 2 の「判断枠組み」
	事後学習	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）

5	事前学習	主題判例 3 について丁寧に読んでおくこと（2時間）
	授業内容	主題判例 3 の「判断枠組み」
	事後学習	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）
6	事前学習	主題判例 4 について丁寧に読んでおくこと（2時間）
	授業内容	主題判例 4 の「判断枠組み」の前提
	事後学習	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）
7	事前学習	主題判例 4 の「判断枠組み」の前提を批判的に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	主題判例 4 の「判断枠組み」
	事後学習	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）
8	事前学習	主題判例 4 の論理展開を辿っておくこと（2時間）
	授業内容	主題判例 4 の全体像
	事後学習	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）
9	事前学習	主題判例 5 について丁寧に読んでおくこと（2時間）
	授業内容	主題判例 5 の「判断枠組み」の前提
	事後学習	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）
10	事前学習	主題判例 5 の「判断枠組み」の前提を批判的に検討しておくこと（2時間）
	授業内容	主題判例 5 の「判断枠組み」
	事後学習	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）
11	事前学習	主題判例 5 の論理展開を辿っておくこと（2時間）
	授業内容	主題判例 5 の全体像
	事後学習	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）
12	事前学習	主題判例 5 の問題点を自分なりに検討しておくこと（2時間）
	授業内容	主題判例 5 の問題点
	事後学習	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）
13	事前学習	主題判例 6 について丁寧に読んでおくこと（2時間）
	授業内容	主題判例 6 の「判断枠組み」
	事後学習	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）
14	事前学習	主題判例 6 の論理展開を辿っておくこと（2時間）
	授業内容	主題判例 6 の全体像
	事後学習	この回の授業について1000字で表現できるようにしておくこと（2時間）
15	事前学習	憲法の権利論についての経過観察とは何かを考え、言葉にしておくこと（2時間）
	授業内容	憲法の権利論についての経過観察
	事後学習	上記経過観察について批評できるようにすること（2時間）

科目名	公法特殊講義Ⅱ（行政法）B	担当者	長谷川 福造	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講座では、行政法領域の判例の検討と事例研究を行う。 主に行政救済法の分野を取り扱う予定である。必要に応じて行政組織法や行政作用法の範囲も説明する。 履修者数や理解の進度に対応して、法律の実務に携わる専門家（現職の裁判官、検察官、弁護士等）をゲストスピーカーとして招くことも予定している。				
授業目的・到達目標	1．授業目的 法律専門職として必要な基礎知識を確認した上で、個別事案における諸事実を理解する能力、各種法令を解釈する能力、及び書面や口頭での確に表現する能力を、特に行政法・公法領域において養成することを目的とする。 2．到達目標 法学部において学習する各種法令の趣旨目的や解釈の筋道を理解した上で、司法試験予備試験、ロースクール入学試験、及び各種国家試験の合格水準を充足する程度の叙述力を実際に修得することを目標とする。対応DP及びCP：法律学科 法職課程の学生であることが望ましいが、総合法コースの学生の受講も可能である。対応する標準学年は4年生である。ロースクールへの進学希望者、司法試験予備試験受験者及び各種国家試験受験者の受講を歓迎する。				
履修条件					
授業方法	前もって検討予定の判例や事例問題を指定する。各回担当者を決めて、該当判例や事例について報告や質疑を行う。受講者は、報告を割り当てられたか否かに関わらず全員予習をしてくること。進度は人数等に応じて調整する。報告発表の講評及び解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	定期試験は実施しない。	
	平常評価		100%	講座の受講状況、報告及び授業内での質疑応答の内容等を総合評価する。 欠席理由の有無・内容を問わず、一定の限度を超えた場合は評価を行わない。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2016	有斐閣	事例から行政法を考える		北村和生ほか著
	備考	教科書と小型六法（デイリー六法（三省堂）又はポケット六法（有斐閣））を必ず毎回持参すること。六法と各書籍は、最新版を使用すること。履修者数や進度に応じて補助教材を配付する。			
参考書	（１）『行政判例百選Ⅰ（第7版）』有斐閣（2017年）、『行政判例百選Ⅱ（第7版）』有斐閣（2017年） （２）池村正道編『行政法（第3版）Next教科書シリーズ』弘文堂（2017年）				
オフィスアワー	火曜日15:00から16:00まで。事前にメールでアポイントメントを取ること。他の時間帯については必要に応じて個別に対応する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認した上で、既に各自が使用している行政法のテキストの冒頭にある総論的な導入説明を読んで、行政法分野の全体構造を再確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	後期のガイダンス 事例研究と報告に関する説明
	事後学習	ガイダンスと講義の概要、及び今後使用していくテキストを確認すること。（2時間）
2	事前学習	初回の講義で指定した事例や関連事項を調べておくこと。指示があった場合は答案構成や起案をすること。（2時間）
	授業内容	事例研究 地下水保護条例をめぐる紛争（１）
	事後学習	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。（2時間）
3	事前学習	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案構成をすること。（2時間）
	授業内容	事例研究 地下水保護条例をめぐる紛争（２）
	事後学習	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。（2時間）
4	事前学習	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案構成をすること。（2時間）
	授業内容	事例研究 公の施設の利用許可をめぐる紛争（１）
	事後学習	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。（2時間）

5	事前学習	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案構成をすること。（2時間）
	授業内容	事例研究 公の施設の利用許可をめぐる紛争（2）
	事後学習	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。（2時間）
6	事前学習	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案構成をすること。（2時間）
	授業内容	事例研究 地方公務員の懲戒処分に対する司法審査（1）
	事後学習	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。（2時間）
7	事前学習	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案構成をすること。（2時間）
	授業内容	事例研究 地方公務員の懲戒処分に対する司法審査（2）
	事後学習	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。（2時間）
8	事前学習	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案構成をすること。（2時間）
	授業内容	事例研究 老人福祉施設の民間化をめぐる利益調整のあり方（1）
	事後学習	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。（2時間）
9	事前学習	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案構成をすること。（2時間）
	授業内容	事例研究 老人福祉施設の民間化をめぐる利益調整のあり方（2）
	事後学習	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。（2時間）
10	事前学習	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案構成をすること。（2時間）
	授業内容	事例研究 社会保障給付決定とその返還をめぐる紛争（1）
	事後学習	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。（2時間）
11	事前学習	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案構成をすること。（2時間）
	授業内容	事例研究 社会保障給付決定とその返還をめぐる紛争（2）
	事後学習	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。（2時間）
12	事前学習	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案構成をすること。（2時間）
	授業内容	司法試験・予備試験の論文式試験（行政法）過去問の検討 履修者との相談に基づき必要に応じて調整を行い、補助教材等を利用して事例研究を実施する場合がある。
	事後学習	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。（2時間）
13	事前学習	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案構成をすること。（2時間）
	授業内容	司法試験・予備試験の論文式試験（行政法）過去問の検討 履修者との相談に基づき必要に応じて調整を行い、補助教材等を利用して事例研究を実施する場合がある。
	事後学習	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。（2時間）
14	事前学習	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案構成をすること。（2時間）
	授業内容	司法試験・予備試験の論文式試験（行政法）過去問の検討 履修者との相談に基づき必要に応じて調整を行い、補助教材等を利用して事例研究を実施する場合がある。
	事後学習	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。必要に応じて各自で論述集を作成すること。（2時間）
15	事前学習	前回の講義における指示に基づいて、起案や答案構成をすること。（2時間）
	授業内容	講座のまとめ。各種試験における行政法分野の設問に対して、時間内で適切な答案を作成するために必要な各種の能力について、一連の講義と演習を踏まえて総括的な説明及び講評を行う。
	事後学習	講義での説明に基づいて復習し理解を深めること。今期の講座に基づいて、必要に応じて各自で、答案作成の基盤となる各種の典型的な論述集を作成するとともに、現場で初見の事案を分析する際に必要となる視点や手順を再確認すること。（2時間）

科目名	公務員制度論	担当者	藤原 恒夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	行政を担う公務員がどのような理念・枠組みの下に管理されているのか、その実態はどうなっているのか、これからどう変化しようとしているのかについて考察し、公務員制度への理解を深めるとともに、その改善について考える。			
授業目的・到達目標	行政やその関連領域で活躍できる教養と総合的な社会科学の知識を有し、自らの役割を果たすことのできる人材を養成することを目的とする。 行政の担い手である公務員について、採用から退職までのルールや処遇、行動規範を理解した上で、論理的、多面的に説明できるようになることを到達目標とする。 関連DP及びCP：公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	定めない。			
授業方法	講義方式による。pptを用いるほか、プリントを配布する。 授業内試験のフィードバックは、後日の授業において行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業内試験（80％）、授業参加度（20％）による。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	指定しない。		
参考書	最初の講義において紹介する。			
オフィスアワー	土曜日授業終了後、於授業講堂 メールアドレス：fujiwara.tsuneo11@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	公務員白書（① http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/0-4a.html ； ② http://www.jinji.go.jp/hakusho/h11/jine200101_2_019.html ； ③ http://www.jinji.go.jp/hakusho/h11/jine200101_2_020.html ）（2時間）
	授業内容	ガイダンス、公務員の概念
	事後学習	講義ノートを確認して、公務員の種類、公務員の特質、公務員の役割について、自分なりの理解を整理し、説明できるようにする。（2時間）
2	事前学習	公務員白書（ http://www.jinji.go.jp/hakusho/h20/032.html ； http://www.jinji.go.jp/hakusho/h20/033.html ； http://www.jinji.go.jp/hakusho/h20/045.html ； http://www.jinji.go.jp/hakusho/h20/046.html ； http://www.jinji.go.jp/hakusho/h20/047.html ） http://www.jinji.go.jp/hakusho/h20/034.html ； （2時間）
	授業内容	公務員制度の発展過程(1)
	事後学習	講義ノートを確認して、明治期の官吏制度から戦後の公務員制度への変革の流れを理解し、説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	公務員白書（ http://www.jinji.go.jp/hakusho/h20/035.html ； http://www.jinji.go.jp/hakusho/h20/036.html ） 国公法：3条～25条、地公法：6条～12条（2時間）
	授業内容	公務員制度の発展過程(2) 人事行政機関
	事後学習	講義ノートを確認して、人事管理機関の役割分担について理解し、説明できるようにする。（2時間）
4	事前学習	国公法：27条～28条 地公法：13条・14条（2時間）
	授業内容	公務員制度の通則
	事後学習	講義ノートを確認して、平等取扱いの原則や情勢適応の原則について理解し、説明できるようにする。（2時間）

5	事前学習	国公法：33条、35条～38条、59条、60条　地公法：15条～22条 公務員白書（ http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-01.html ） 西尾勝「行政学　新版」pp.19-26　（2時間）
	授業内容	任用(1)
	事後学習	講義ノートを確認して、成績主義の原則の成立とその具体化の流れについて理解し、説明できるようにする。（2時間）
6	事前学習	国公法：74条～81条の5　地公法：27条～28条の5、29条の2 公務員白書（ http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-01-5.html ； http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-01-5-1.html ； http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-01-5-2.html ； http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-01-5-3.html ）（2時間）
	授業内容	任用(2)、分限
	事後学習	講義ノートを確認して、公務員の身分保障（就中、分限）について、その背景や概要を理解し、説明できるようにする。（2時間）
7	事前学習	国公法：28条、附則16条 地公法：14条、58条（2時間）公務員白書（ http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-03-1-1.html ） 国公法：28条、62条～67条、地公法：24条～26条（2時間）
	授業内容	勤務条件(1)　　<決定方式、給与>
	事後学習	講義ノートを確認して、公務員の勤務条件決定方式について、民間労働者との差異や決定基準を中心に理解し、説明できるようにする。 講義ノートを確認して、公務員給与の概要を理解し、説明できるようにする。地方公共団体給与情報等公表システム（ http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/j-k_system/ ）を利用して、出身地や居住地など縁のある団体又は関心のある団体の給与水準を比較し、給与の実態を理解する。（2時間）
8	事前学習	国公法：28条、93条～95条、地公法：26条の4 公務員白書（ http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-05-1.html ； http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-05-4-1.html ； http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-05-4-2.html ； http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-05-5.html ； http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-05-6.html ； http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-05-6-2.html ）
	授業内容	勤務条件(2)　　<勤務時間、休暇、福祉、災害補償>
	事後学習	講義ノートを確認して、給与以外の勤務条件について、民間企業との差異を中心に理解し、説明できるようにする。（2時間）
9	事前学習	国公法：96条～105条 地公法：30条～38条 公務員白書（ http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-05-8.html ； http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-05-8-3.html ）　（2時間）
	授業内容	服務
	事後学習	講義ノートを確認して、公務員の服務規制（就中、公務員に特有の規制）について理解し、説明できるようにする。（2時間）
10	事前学習	国家公務員倫理法3条～9条、国家公務員倫理規程1条～10条 公務員白書（ http://www.jinji.go.jp/hakusho/h10/jine199901_2_038.html ； http://www.jinji.go.jp/hakusho/h10/jine199901_2_039.html ； http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/2-2-1.html ； http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-05-8-2.html ） 国公法：82条～85条、地公法：29条（2時間）
	授業内容	倫理、懲戒
	事後学習	講義ノートを確認して、公務員倫理と規律違反に対する懲戒について理解し、説明できるようにする。（2時間）
11	事前学習	国公法：108条の2～108条の7、70条の2～70条の4、行政執行法人の労働関係に関する法律37条 地公法：52条～56条、23条～23条の4、地方公営企業等の労働関係に関する法律4条 公務員白書（ http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-06.html から http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-06-3-2.html まで）　（2時間）
	授業内容	労使関係、人事評価
	事後学習	講義ノートを確認して、公務員の労使関係の特殊性について理解し、説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	国公法：106条の2～106条6の4　地公法：38条の2、38条の6 公務員白書（ http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-04-1-1.html ； http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-04-1-2.html ）　（2時間）
	授業内容	退職管理、退職手当、退職年金
	事後学習	講義ノートを確認して、公務員の退職時の規制と退職時・退職後の給付について理解し、説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	国公法：86条～92条の2　地公法：46条～51条の2 公務員白書（ http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-07.html から http://www.jinji.go.jp/hakusho/h29/1-3-07-5.html まで）　（2時間）
	授業内容	苦情処理
	事後学習	講義ノートを確認して、公務員の苦情処理について理解し、説明できるようにする。（2時間）
14	事前学習	予め指定された試験範囲について、模擬答案を作成する。（3時間）
	授業内容	授業内試験及びまとめ
	事後学習	解答内容について、復習する。（1時間）

15	事前学習	内閣人事局調査 (http://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/jinjikyoku/files/h2809hjokin_chosa.pdf) 総務省調査 (http://www.soumu.go.jp/main_content/000476494.pdf ; http://www.soumu.go.jp/main_content/000476560.pdf ①から④まで) 地公法・自治法の改正 (http://www.soumu.go.jp/main_content/000472093.pdf) (2時間)
	授業内容	授業内試験の解説・講評 今後の課題 (非常勤職員)
	事後学習	講義ノートを確認して、授業内試験において記述が足りなかった部分、不正確であった部分や誤解していた部分について、再確認する。 講義ノートを確認して、非常勤職員の実態や改善の方向性について理解し、説明できるようにする。(2時間)

科目名	コーポレート・ガバナンス論Ⅰ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今日、様々な企業のトップ・マネジメントのあり方(コーポレート・ガバナンス)を問う企業不祥事が多く発生している。こうした経営学において重要な概念のひとつであるコーポレート・ガバナンスがどのような背景のもとで誕生し、これまでどのように議論が展開されてきたのか理解を深める。				
授業目的・到達目標	「良い企業とはなにか」、「良い経営者とはなにか」という問いに対する答えは決してひとつではなく、個々人によってその答えは異なる。本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視することを目的とし、受講生が様々な視点からコーポレート・ガバナンスに関する問いに取り組むことのできる知識・能力の修得を目標としている。 関連DP及びCP：経営法学科1, 2, 3, 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	スライド(パワー・ポイント)を用いた講義と受講生によるグループワークにより進める。 授業内試験の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		60%	定期試験では、授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。	
	平常評価		40%	原則としてグループワークへの参加(20%×2回)とするが、その他授業への参加度により総合的に判断する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	ミネルヴァ書房		『よくわかるコーポレート・ガバナンス』	風間編
	備考				
参考書	講義の際に適宜紹介する。				
オフィスアワー	火曜日 15:00～16:00(研究室にて) 研究室ならびにメールアドレスについては初回の講義の際に説明する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。(2時間)
	授業内容	【ガイダンス】 授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。(2時間)
2	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【コーポレート・ガバナンスとは何か】 コーポレート・ガバナンスの定義となぜこれが重要なのかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスとはどのようなものかについて、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
3	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【株式会社とは何か】 コーポレート・ガバナンスと関連の深い株式会社の発展とその背景について学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、株式会社の特徴について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
4	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【株式会社と会社機関】 株式会社はどのような機関構造を有しているのかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、株式会社における様々な会社機関について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)

5	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【株式会社と経営者支配】 コーポレート・ガバナンスにおける経営者支配論がどのように展開されてきたのかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスと経営者支配の関係について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
6	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【経済の金融化と新制度派経済学】 コーポレート・ガバナンスの新制度派経済学アプローチの内容と限界について学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、新制度派経済学アプローチとは何かについて、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
7	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【コーポレート・ガバナンスとステークホルダー論】 ステークホルダーとは何か、コーポレート・ガバナンスにおいてなぜこれが重要なのかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスとステークホルダー論の関係について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
8	事前学習	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、基本的な用語の意味と内容について理解しておく。(2時間)
	授業内容	【グループワーク1：企業とステークホルダー】 企業のステークホルダーにはどのようなものが存在し、それらに対して企業はいかなる責任を有しているのかについて、グループで議論し発表する。
	事後学習	自分のグループと他のグループの発表を基に、現代企業に求められる責任について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
9	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向1：戦後の経済発展】 戦後の経済発展と日本的経営について学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、日本的経営とは何かについて、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
10	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向2：企業不祥事との関係】 これまでの企業不祥事の歴史を基に、「企業はだれのものか」という問いについて考える。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスと企業不祥事の関係について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
11	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向3：外部監視と内部統制】 外部監視と内部統制に関する制度的展開について学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、外部監視と内部統制とは何かについて、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
12	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向4：経営者報酬】 経営者報酬の仕組みと種類について学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、世界と日本の経営者報酬の相違について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
13	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向5：同族企業】 同族企業の特徴とこれがもたらす問題について学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、同族企業の事例を調べ、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
14	事前学習	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、基本的な用語の意味と内容について理解しておく。(2時間)
	授業内容	【グループワーク2：イノベーションとコーポレート・ガバナンス】 IT企業におけるコーポレート・ガバナンスの問題について、グループで議論し発表する。
	事後学習	自分のグループと他のグループの発表を基に、イノベーションとコーポレート・ガバナンスの関係について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
15	事前学習	定期試験に向けて、これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。(3時間)
	授業内容	【授業内試験及び解説】 授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。また、試験後に解説をする。
	事後学習	配布資料、講義ノートに加え、解説を基に授業の内容を復習する。(1時間)

科目名	コーポレート・ガバナンス論Ⅰ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、我が国におけるコーポレート・ガバナンス（企業統治）の概要、理論と企業における実践について経営面、法務面など総合的な視点に立ち、基礎的なことから幅広く学習する。コンプライアンス（法令遵守）、リスクマネジメント、企業の社会的責任（CSR）、更にスチュワードシップ・コード、機関投資家との対話・エンゲージメント、ESG（環境、社会、ガバナンス）投資など近年の新しい動向についても学習する。解説していきたい。			
授業目的・到達目標	授業の目的について、アベノミクスの経済再生の鍵としてコーポレート・ガバナンスの確立が求められ、その理解はいまや不可欠であり、前期は主として企業経営の観点からコーポレートガバナンスの基礎的な知識を修得することが目的である。ケーススタディを中心に、経済・経営・法務の視点から背景、仕組み・制度の効率性の検証を修得する。コーポレート・ガバナンスに関しては、基礎的な法理論のにならず、企業経営の組織的考察など実務との接点が重要性を持つ。到達目標としては、各自がコーポレート・ガバナンスに関する理解に基づき、企業における法務や経営企画の担当になった意識を持って、企業経営に関する実践感覚を身につけることが目標となる。関連DP及びCP:経営法学科1、2、3、4			
履修条件	1年生から4年生を対象とする。学科を問わず、特定の科目の履修は前提としない。平易に解説を行う。基礎的な専門用語や概念、仕組みは就職後の企業社会において重要となり、不明な点を残さないように確実に理解を深めて欲しい。			
授業方法	政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、わかりやすく解説する。講義形式を基本とするが、一方的な授業にならないようにアクティブラーニングを組み合わせ、事例を用いて課題解決型学習により関心と理解を深める。授業内レポートについて、解説等を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	授業内レポート。授業内評価として、授業中の発言や積極的な対応などを評価したい。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	毎回レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。		
参考書	参考書などについては授業内で指示する。			
オフィスアワー	授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、水曜日授業の前後に、直接、その旨を話に来てください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、国際取引について講義全体を概観する。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	コーポレート・ガバナンス制度概論ーコーポレート・ガバナンスの新たな意義と展望ー 授業のテーマ、内容、スケジュール、成績評価方法、参考文献紹介を含めて、学習方法、研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	アベノミクスの成長戦略とガバナンス改革について、考察する。（2時間）
	授業内容	アベノミクスの第3の矢・成長戦略と新しいコーポレート・ガバナンス改革の重要性ー企業価値向上に向けて、日本再興戦略におけるコーポレート・ガバナンス改革の位置付け、成長戦略の中核としてのガバナンスー
	事後学習	講義ノートを確認して、成長戦略とガバナンス改革について復習する。（2時間）
3	事前学習	会社法改正とコーポレート・ガバナンス改革について、考察する。（2時間）
	授業内容	2014年会社法改正とコーポレート・ガバナンス改革
	事後学習	講義ノートを確認して、会社法改正とコーポレート・ガバナンス改革について復習する。（2時間）
4	事前学習	会社法上の3つのガバナンス形態について、考察する。（2時間）
	授業内容	指名委員会等設置会社（米国型）、監査役会設置会社、および新設の監査等委員会設置会社のスキームの比較考察
	事後学習	講義ノートを確認して、3つのガバナンス形態について復習する。（2時間）

5	事前学習	スチュワードシップ・コードについて、考察する。（2時間）
	授業内容	日本版スチュワードシップ・コードの策定と課題ー機関投資家と経営陣の対話・エンゲージメント作りー
	事後学習	講義ノートを確認して、スチュワードシップ・コードについて復習する。（2時間）
6	事前学習	コーポレート・ガバナンス・コードについて、考察する。（2時間）
	授業内容	日本版コーポレート・ガバナンス・コードの策定と課題
	事後学習	講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンス・コードについて復習する。（2時間）
7	事前学習	ガバナンスに関する上場企業の取り組みについて、考察する。（2時間）
	授業内容	改正法改正と2つの日本版コードによる上場企業の取り組み
	事後学習	講義ノートを確認して、ガバナンスに関する上場企業の取り組みについて復習する。（2時間）
8	事前学習	プリンシプル・ベースについて、考察する。（2時間）
	授業内容	プリンシプル（原則）・ベースとComply or Explainルール（遵守せよ、さもなければ説明せよ）
	事後学習	講義ノートを確認して、プリンシプル・ベースなどについて復習する。（2時間）
9	事前学習	ガバナンスと上場規則について、考察する。（2時間）
	授業内容	東京証券取引所上場規則、有価証券報告書とコーポレート・ガバナンス報告書の企業実務の対応
	事後学習	講義ノートを確認して、ガバナンスと上場規則などについて復習する。（2時間）
10	事前学習	日本型ガバナンス改革に関する議論について、考察する。（2時間）
	授業内容	新たなコーポレート・ガバナンス検討に当たっての視点ー旧来のガバナンス理論から日本独自の転換へ、日本型ガバナンス改革と欧米の相違、今後の展望ー
	事後学習	講義ノートを確認して、日本型ガバナンス改革に関する議論について復習する。（2時間）
11	事前学習	独立社外取締役の役割について、考察する。（2時間）
	授業内容	独立社外取締役の役割、取締役会の監督機能強化、監査役の監査機能の強化、監査委員会・監査等委員会との機能・責任の相違と企業実務の対応
	事後学習	講義ノートを確認して、独立社外取締役の役割などについて復習する。（2時間）
12	事前学習	ガバナンス改革の実例について、考察する。（2時間）
	授業内容	米国型・指名委員会設置会社、日本型・監査役会設置会社のケーススタディ、実効性あるガバナンス改革の考察ー日産自動車、三菱UFJ銀行、みずほフィナンシャルグループ、三井住友銀行、ソニー、東芝、キャノン、パナソニックなどー
	事後学習	講義ノートを確認して、ガバナンス改革の実例について復習する。（2時間）
13	事前学習	監査等委員会設置会社の理論と実践などについて、考察する。（2時間）
	授業内容	新たな監査等委員会設置会社の理論と実践の活用、およびコンプライアンス（法令順守）、リスクマネジメント、内部統制、ESG、CSRなどの概念の整理、三菱重工などの事例
	事後学習	講義ノートを確認して、監査等委員会設置会社の実例などについて復習する。（2時間）
14	事前学習	コードの改訂、コードの形式的遵守から実質化へ、などについて、考察する。（2時間）
	授業内容	2つの日本版コードの改訂、コードの実質化に向けての最新のフォローアップ状況、金融庁・経済産業省の制度設計と企業実務の対応
	事後学習	講義ノートを確認して、コードの改訂、コードの実質化などについて復習する。（2時間）
15	事前学習	最初からの講義ノートを見直し、企業のガバナンス改革全体の体系を考察する。（2時間）
	授業内容	授業内レポートについて、解説等を行う。グローバル企業のガバナンス改革について、総まとめを行い、リスクマネジメント、コンプライアンス、CSR、ESGなどを含めた体系的な学習を行う。
	事後学習	授業内レポートと解説を参考にして、グローバル企業、金融機関などのガバナンス改革について、今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。（2時間）

科目名	コーポレート・ガバナンス論Ⅱ	担当者	稲葉 陽二	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	講義形式であるが、非財務情報について外部からのゲストスピーカーも招く。受講生からの質疑応答に時間を設け、クラスコントリビューションも評価する。授業内容は企業とはなにか、法人とはなにかという問題意識のもとで、経済・経営の視点から背景、仕組み・制度の効率性の検証を行う。加えて経営者をめぐるソーシャル・キャピタル（主にネットワーク）が不祥事と業績に深く関連していること、従来型のガバナンス改革では不十分であることを実証する。			
授業目的・到達目標	経済再生の鍵としてコーポレート・ガバナンス（企業統治）の確立が求められ、その理解はいまや不可欠であり、前期は主として企業経営の観点からケーススタディを中心に、後期は企業とはなにか、法人とはなにかという問題意識のもとで、経済・経営の視点から背景、仕組み・制度の効率性の検証について、修得することを目的等する。加えて、経営者をめぐるソーシャル・キャピタル（主にネットワーク）が不祥事と業績に深く関連していること、従って従来型のガバナンス改革では不十分であることを実証する。コーポレート・ガバナンスに関しては、基礎的な法理論のほか、企業経営の組織的考察など実務との接点が重要性を持つ。現実の企業経営に関する法的感覚を修得し、説明できることを目標とする。			
履修条件	関連座及びCP単位を修得する。3、4			
授業方法	講義、レジメ配布 授業内試験の解説を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業内評価。授業内試験、レポートなど。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	中央公論新書	『企業不祥事はなぜ起きるのか ソーシャル・キャピタルから読み解く組織風土』	稲葉陽二
	備考			
参考書	吉森賢『日米欧の企業経営』、吉森賢・斎藤正章『コーポレート・ガバナンス』放送大学教育振興会、関孝哉『コーポレート・ガバナンスとアカンウタビリティ論』商事法務			
オフィスアワー	授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、水曜日授業の前後に、直接、その旨を話に来てください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書「はじめに」を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	後期授業ガイダンス 前期に学習した基本事項の確認と後期の授業計画・目標の説明
	事後学習	授業で使用したPPTを復習してください。（2時間）
2	事前学習	教科書「序章」を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	企業風土について
	事後学習	授業で使用したPPTを復習してください。（2時間）
3	事前学習	教科書「第1章」を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	日本における企業統治の制度の再確認：改革で何が変わったのか会社とはなにか、企業不祥事はなぜ起こるのか
	事後学習	授業で使用したPPTを復習してください。（2時間）
4	事前学習	PPTを確認。（2時間）
	授業内容	米国における企業統治制度の展開：一元的企業概念と多元的企業概念～フォードの変節、所有と経営の分離、キャンベーンGM
	事後学習	授業で使用したPPTを復習してください。（2時間）

5	事前学習	PPTを確認。（2時間）
	授業内容	米国における企業統治制度の展開：市場の評価とM&A、コンプライアンスと内部統制・企業のリスクマネジメント経営
	事後学習	授業で使用したPPTを復習してください。（2時間）
6	事前学習	PPTを確認。（2時間）
	授業内容	米国における企業統治制度の展開：ドイツ、イギリスとの比較
	事後学習	授業で使用したPPTを復習してください。（2時間）
7	事前学習	PPTを確認。（2時間）
	授業内容	経済学・経営学からの企業統治 エージェンシー問題への対応
	事後学習	授業で使用したPPTを復習してください。（2時間）
8	事前学習	PPTを確認。（2時間）
	授業内容	経済学・経営学からみた企業統治：株主構成の影響／債権者からの見方/市場からの規律
	事後学習	授業で使用したPPTを復習してください。（2時間）
9	事前学習	教科書「第2章」を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	それでも無くならない企業不祥事（1）企業不祥事の定義と分類
	事後学習	授業で使用したPPTを復習してください。（2時間）
10	事前学習	教科書「第3章」を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	企業不祥事が生じる背景
	事後学習	授業で使用したPPTを復習してください。（2時間）
11	事前学習	教科書「第4章」を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	企業統治のどこに問題があるのか 社会関係資本の観点の欠如
	事後学習	授業で使用したPPTを復習してください。（2時間）
12	事前学習	教科書「第5章」を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	ケーススタディから不祥事を考える 過去に多くの企業統治の仕組みを作ってきたが、肝心の経営者に関する規律づけの仕組みに瑕疵がある
	事後学習	授業で使用したPPTを復習してください。（2時間）
13	事前学習	教科書「第6章」を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	企業内社会関係資本と不祥事は密接にかかわっている。
	事後学習	授業で使用したPPTを復習してください。（2時間）
14	事前学習	教科書「第7章」「第8章」を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	不祥事を未然に防ぐためにはどうすれば良いのか、働きやす会社とはなにか、ESG投資をどう考えるのか
	事後学習	授業で使用したPPTを復習してください。（2時間）
15	事前学習	過去問を確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業内試験（持ち込み参照不可） まとめ、振り返り
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと。（2時間）

科目名	コーポレート・ガバナンス論Ⅱ	担当者	鈴木 貴大	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	コーポレート・ガバナンスの扱う問題領域は当初、経営者と株主であったが、今日ではその範囲が拡大され、株主のみならずその他の主体(消費者や従業員など)を含む複雑な概念となっている。このことを踏まえ、本講義では経営学におけるその他の概念(CSRや企業倫理など)との関係を整理することで、コーポレート・ガバナンスについて理解を深める。			
授業目的・到達目標	国・地域によってコーポレート・ガバナンスに関する取り組みが異なるように、社会に存在する様々な問いや課題に対する答えもひとつではない。本講義では、教員と受講生とのコミュニケーション、またはグループワークを通じた受講生同士の意見交換を重視することを目的とし、受講生が様々な視点からコーポレート・ガバナンスに関する問いに取り組むことのできる知識・能力の修得を目標としている。 関連DP及びCP：経営法学科1, 2, 3, 4			
履修条件	コーポレート・ガバナンス論Ⅰの履修。			
授業方法	スライド(パワー・ポイント)を用いた講義と受講生によるグループワークにより進める。 授業内試験の後に解説を配布する(ポータルシステムでも配信を行う)。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		60%	定期試験では、授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。
	平常評価		40%	原則としてグループワークへの参加(20%×2回)とするが、その他授業への参加度により総合的に判断する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	ミネルヴァ書房	『よくわかるコーポレート・ガバナンス』	風間編
	備考			
参考書	講義の際に適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日 15:00～16:00(研究室にて) 研究室ならびにメールアドレスについては初回の講義の際に説明する。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容をよく読み、講義全体を概観する。(2時間)
	授業内容	【ガイダンス】 授業のテーマや概要、授業スケジュール、成績評価の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。(2時間)
2	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【コーポレート・ガバナンスと資本コスト】 資本コストとは何か、株主や機関投資家が重視する財務諸表とは何かについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、資本コスト削減のための施策について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
3	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【コーポレート・ガバナンスと事業投資】 事業投資とは何か、事業投資の評価方法について学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、事業投資と企業価値の関係について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
4	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【コーポレート・ガバナンスと資本政策】 資本政策と株式発行、新たな種類株について学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、株主総会の役割について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)

5	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【合併・買収(M&A)とコーポレート・ガバナンス】 コーポレート・ガバナンスと企業の合併・買収(M&A)の関係について学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、合併・買収(M&A)の目的と類型について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
6	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【機関投資家とコーポレート・ガバナンス】 コーポレート・ガバナンス原則と機関投資家の関係について学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、様々な投資視点について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
7	事前学習	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、基本的な用語の意味と内容について理解しておく。(2時間)
	授業内容	【グループワーク1：グローバル化による影響と課題】 海外子会社の企業不祥事を基に、コーポレート・ガバナンスのグローバル化に関する様々なテーマについて、グループで議論し発表する。
	事後学習	自分のグループと他のグループの発表を基に、コーポレート・ガバナンスのグローバル化がもたらす問題について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
8	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【アメリカにおけるコーポレート・ガバナンスの動向】 アメリカにおけるコーポレート・ガバナンスの歴史と特徴について学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、アメリカにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
9	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【ドイツにおけるコーポレート・ガバナンスの動向】 ドイツにおけるコーポレート・ガバナンスの歴史と特徴について学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、ドイツにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
10	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【イギリスにおけるコーポレート・ガバナンスの動向】 イギリスにおけるコーポレート・ガバナンスの歴史と特徴について学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、イギリスにおけるコーポレート・ガバナンスの特徴について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
11	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任】 コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任との関係について学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任の相違について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
12	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【コーポレート・ガバナンスと社会的企業】 社会的企業や非営利組織におけるコーポレート・ガバナンスについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、株式会社と非営利組織の比較を通じて、求められるコーポレート・ガバナンスの相違について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
13	事前学習	配布資料をよく読み、わからない用語について自分で調べ理解しておく。(2時間)
	授業内容	【コーポレート・ガバナンスと企業倫理】 企業不祥事を防止するために、コーポレート・ガバナンスはどのような役割を担うのかについて学習する。
	事後学習	配布資料と講義ノートを確認して、企業不祥事を防止するための経営者や会社機関の役割について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
14	事前学習	これまでの配布資料と講義ノートをよく読み、基本的な用語の意味と内容について理解しておく。(2時間)
	授業内容	【グループワーク2：事業の繁栄と社会の繁栄】 これまでの授業内容を踏まえて、従来のコーポレート・ガバナンスの課題について、グループで議論し発表する。
	事後学習	自分のグループと他のグループの発表を基に、現代のコーポレート・ガバナンスのあり方について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
15	事前学習	定期試験に向けて、これまでの配布資料や講義ノートを再度まとめ、基本概念や事項を説明できるようにする。(3時間)
	授業内容	【授業内試験及び解説】 授業内で説明した基本的な概念・事項を理解し、説明することができるかを判定する。また、試験後に解説をする。
	事後学習	配布資料、講義ノートに加え、解説を基に授業の内容を復習する。(1時間)

科目名	国際関係史Ⅰ	担当者	喜多 義人	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本の開国から敗戦に至る国際関係の展開を解説する。日米和親条約で国際社会へ参入した日本は大陸に進出し、日清、日露戦争に勝利し、さらに第一次大戦で大国の地位を確立する。しかし、米英との協調外交が崩壊し、満州事変で国際的に孤立する。そして、日中戦争を継続しながら太平洋戦争に突入、敗戦を迎える。こうした過程を概観し、日本の外交政策に関する理解を深めたい。				
授業目的・到達目標	1854年の開国から1945年の敗戦までの90年にわたる日本外交を理解し、評価できる知識を養成することを目的とする。幕末・維新期の国際関係、大陸進出政策、第一次大戦参加に関する知識の充実をもとに、日本がなぜそうした外交政策をとるに至ったかを説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：政治経済学科1, 2 公共政策学科1, 2, 3, 4				
履修条件	なし				
授業方法	配布資料にもとづき、講義形式で行なう。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで行なう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	講義で解説した基本事項が理解できているかを判定する。答案の構成、文章表現などを総合的に評価する。	
	平常評価		20%	前学期の中間にレポートを課す。レポートはコメントを付して返却する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし			
参考書	池井優『日本外交史概説[三訂]』（慶応義塾大学出版会）、養原俊洋・奈良岡聡智編著『ハンドブック日本近代外交史』（ミネルヴァ書房）				
オフィスアワー	水曜日18：00～19：00、木曜日10：30～11：30（メールか電話で予約すること）。研究室本館7階1709号室（kita.yoshito@nihon-u.ac.jp、03-5275-8602）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、国際法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行なえるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。また、紹介した参考文献を図書館で閲覧し、その概要を把握する。（2時間）
2	事前学習	配布資料と関連図書を熟読し、当時の国際情勢とペリー来航の目的について考察する。（2時間）
	授業内容	【開国をめぐる国際環境】 欧米列強の対日接近の目的について理解したうえで、ペリー来航と日本の対応、日米和親条約の締結と開国、他の列強の来航目的について考察する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、幕府と米英露との開国をめぐる交渉について説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	配布資料と関連図書を熟読し、この時期に頻発した外国人襲撃事件と日本の対応について考察する。（2時間）
	授業内容	【幕末・明治初期の国際問題】 幕末・明治初期に発生した外国人襲撃事件、戊辰戦争の局外中立問題、キリスト教布教問題、マリア・ルース号事件等における日本政府の対応について考察する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、イギリスとフランスの対日政策について説明できるようにする。（2時間）
4	事前学習	配布資料と関連図書を熟読し、琉球の帰属をめぐる日清関係について考察する。（2時間）
	授業内容	【領土の画定】 明治初期の領土画定問題、すなわち琉球処分、小笠原の編入、北方領土の画定をめぐる日清、日米、日露関係について考察する
	事後学習	配布資料等をもとに、北方領土の境界画定を時系列で説明できるようにする。（2時間）

5	事前学習	配布資料と関連図書を熟読し、不平等条約の撤廃に至る過程について考察する。（2時間）
	授業内容	【不平等条約の改正交渉】 岩倉使節団の交渉失敗から交渉方針の度重なる変更について考察したうえで、1894年の英国との条約改正による治外法権の撤廃にはじまり、1911年の関税自主権の回復によって完成する不平等条約改正の過程について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、列強が日本で行なった領事裁判について説明できるようにする。（2時間）
6	事前学習	配布資料と関連図書を熟読し、江華島事件と日朝修好条規について考察する。（2時間）
	授業内容	【大陸進出】 最初の海外派兵となった台湾出兵、大陸進出の足場を築くための朝鮮への開国強制から、朝鮮半島の支配権をめぐる日清戦争での勝利までの外交政策について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、日清戦争後、三国干渉が行なわれた背景と日本の対応について説明できるようにする。（2時間）
7	事前学習	配布手資料と関連図書を熟読し、日英同盟の意義について考察する。（2時間）
	授業内容	【大国への道程(1)】 義和団事変後のロシアの動向を理解したうえで、ロシアとの戦争に備えての日英同盟の締結、対露交渉の決裂から日露開戦、戦後の満州経営、日韓併合へと続く大陸での日本の勢力拡大について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、日露戦争によりロシアから獲得した満州の利権について説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	配布資料と関連図書を熟読し、対華21カ条要求について考察する。（2時間）
	授業内容	【大国への道程(2)】 第一次世界大戦への参戦経緯、戦時中の対中国政策、列強との関係、ヴェルサイユ講和会議における日本の立場について考察するとともに、講和会議での人種平等提案についても学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、中国をめぐる列強との関係について説明できるようにする。（2時間）
9	事前学習	配布資料と関連図書を熟読し、国際連盟の安全保障体制について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際連盟と日本】 国際連盟ではじめて採用された集団安全保障制度について考察したうえで、国際連盟の常任理事国としての日本の活動について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、国際連盟で活躍した日本人について説明できるようにする。（2時間）
10	事前学習	配布資料と関連図書を熟読し、日米関係が悪化した原因について考察する。（2時間）
	授業内容	【対米関係の悪化と日ソ国交樹立】 第一次世界大戦後の日米関係悪化の一要因としての日本人移民の排斥問題について学習するとともに、日本によるソ連承認の背景について考察する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、国交樹立後の日ソ関係について説明できるようにする。（2時間）
11	事前学習	配布資料と関連図書を熟読し、ワシントン体制について考察する。（2時間）
	授業内容	【協調外交の時代】 欧州の国際秩序を維持するためのヴェルサイユ体制に対し、中国・太平洋地域の秩序維持の枠組として樹立されたワシントン体制をめぐる国際関係について考察するとともに、ワシントンとロンドンにおける海軍軍縮会議での日本外交について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、協調外交が崩壊した原因について説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	配布資料と関連図書を熟読し、満州事変における国際連盟の対応について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際社会からの孤立】 満州事変の勃発と経過から満州国の建国に至る日本外交を国際連盟を中心に考察するとともに、国際連盟脱退、日独防共協定締結、ロンドン海軍軍縮条約脱退と続く日本の国際的孤立への道程について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、日独防共協定締結の背景と国際社会への影響について説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	配布資料および関連図書を熟読し、政府および軍部の対中国政策について考察する。（2時間）
	授業内容	【日中全面戦争へ】 日中開戦前の中国情勢に対する理解をもとに、戦争の勃発と経過、和平工作の失敗、日本政府の対中国政策、日本軍による傀儡政権の樹立工作について学習する。
	事後学習	講義ノートや配布資料等をもとに、日中戦争中に発生した国際問題とその処理について説明できるようにする。（2時間）
14	事前学習	配布資料と関連図書を熟読し、1941年の日米交渉について考察する。（2時間）
	授業内容	【世界を敵に回して】 日中戦争の拡大と日独伊三国同盟締結による国際関係の悪化について理解したうえで、日本の南方進出から日米交渉の失敗と日米開戦、ポツダム宣言受諾に至る経緯を外交面と軍事面から考察する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、日本の終戦工作について説明できるようにする。（2時間）
15	事前学習	配布資料と関連図書を熟読し、連合国の対日占領政策について考察する。（2時間）
	授業内容	【敗戦・占領・主権回復】 降伏文書の署名からサンフランシスコ講和条約の発効まで、日本の外交権が停止されていた時期における国際関係について考察する。とくに、戦争犯罪裁判や占領政策に関する各連合国の立場、占領政策の展開と変化等を中心に考察する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、東京裁判について説明できるようにする。（2時間）

科目名	国際関係史 I	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ナイのテキストを使いながら、国際政治の成り立ちを歴史的に考察していきます。				
授業目的・到達目標	国際関係論の理論を学ぶことを目的とし、国際社会の「現実」「事実」を「理論的な立場（一般化）」から分析することができることを目標とします。関連DP及びCP：政治経済学科1，2 公共政策学科1，2，3，4				
履修条件	①講義は、全て出席して、全体の理解が届くように構成されているので、出席回数を計算してギリギリで単位を取得しようとは考えず、毎回休まず出席すること。②テキストを予習して講義に臨むこと。				
授業方法	講義形式で行います。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	基本概念が理解され、国際的な思考力が身についているかなど、総合的に判定します。	
	平常評価		30%	受講態度20%、課題提出10%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	有斐閣		『国際紛争 -- 理論と歴史 原書第10版 』	ジョセフ・ナイ
	2018	弘文堂		『国際関係論 <第3版>』 (Next教科書シリーズ)	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄(編)
	備考				
参考書	必要に応じて適宜紹介します。				
オフィスアワー	水曜日12:15～12:55(事前にアポイントメントを取ること)				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書に目を通すほか、ニュースフィード系のウェブサイトを利用して、その週の世界の主要な国際政治・経済の出来事をフォローしておこう。(2時間)
	授業内容	イントロダクション：なぜ国際関係理論が重要なのか
	事後学習	授業中に出てきた用語や内容について、理解度を確認しよう。(2時間)
2	事前学習	「第1章 世界政治における紛争と協調には一貫した論理があるか?」(p. 1-p. 32)を、国際政治の意味を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	国際政治とは何か？
	事後学習	国際政治を学ぶ意義について考えてみよう。(2時間)
3	事前学習	「第1章 世界政治における紛争と協調には一貫した論理があるか?」(p. 32-p. 48)を、国際関係における倫理的考慮や道義的義務の意味を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	倫理的問題と国際政治
	事後学習	国際関係上の倫理について、イラク戦争を例に考えてみよう。(2時間)
4	事前学習	「第2章 紛争と協調を説明する一知の技法」(p. 49-p. 69)を、出てくる概念の意味を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	国際関係における主要な概念
	事後学習	講義の中で出てきた概念を整理しておこう。(2時間)

5	事前学習	「第2章 紛争と協調を説明する一知の技法」 (p. 69-p. 101) を、パラダイムの意味を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	パラダイムと理論
	事後学習	パラダイムの特徴についてまとめてみよう。(2時間)
6	事前学習	「第3章 ウェストファリアから第一次世界大戦まで」 (p. 103-p. 115) を、勢力均衡の意味を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	大國間紛争の管理
	事後学習	ウェストファリア前後のヨーロッパについて整理しよう。(2時間)
7	事前学習	ゲストスピーカーからの課題を行う。内容については後日講義内で指示する。(2時間)
	授業内容	特別講義 第五福竜丸展示館 学芸員 市田真理氏
	事後学習	第五福竜丸事件について、自分の理解と現実の違いをまとめてみよう。(2時間)
8	事前学習	「第3章 ウェストファリアから第一次世界大戦まで」 (p. 115-p. 143) を、バランス・オブ・パワーを考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	第一次世界大戦の起源
	事後学習	第一次世界大戦が起こった要因について考えてみよう。(2時間)
9	事前学習	「第4章 集団安全保障の挫折と第二次世界大戦」 (p. 145-p. 157) を、集団安全保障の意味を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	集団安全保障の興亡
	事後学習	なぜ国際連盟が失敗したのか考えてみよう。(2時間)
10	事前学習	「第4章 集団安全保障の挫折と第二次世界大戦」 (p. 157-p. 167) を、第一次世界大戦と第二次世界大戦の違いを考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	第二次世界大戦の起源
	事後学習	第二次世界大戦において集団安全保障はどのように作用したのか考えてみよう。(2時間)
11	事前学習	「第4章 集団安全保障の挫折と第二次世界大戦」 (p. 167-p. 178) を、第二次世界大戦の意味を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	第二次世界大戦の教訓
	事後学習	第二次世界大戦は不可避だったのか考えてみよう。(2時間)
12	事前学習	「第5章 冷戦」 (p. 179-p. 201) を、冷戦の背景を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	冷戦を説明する
	事後学習	冷戦の意味について考えてみよう。(2時間)
13	事前学習	「第5章 冷戦」 (p. 201-p. 206) を、封じ込めの意味を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	封じ込めの実践
	事後学習	ヴェトナム戦争の歴史的意味について考えてみよう。(2時間)
14	事前学習	「第5章 冷戦」 (p. 207-p. 235) を、核抑止の意味を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	その後の冷戦
	事後学習	冷戦がもたらしたもの、世界情勢がどのようになったのかについて考えてみよう。(2時間)
15	事前学習	第14回までに学んだことを振り返ってみる。(2時間)
	授業内容	第1回から第14回までのまとめ
	事後学習	これまでの学習で不足している知識や理解が不十分な事項がないか確認しよう。(2時間)

科目名	国際関係史Ⅰ	担当者	信夫 隆司	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	戦後の国際関係の歴史のなかから、日本にとって重要な外交案件を紹介し、その案件が国際政治全体のなかでどのように位置づけられるのか、問題の経緯、および、今日における課題について学習する。具体的に取り上げる案件は、刑事裁判権密約、奄美返還、ジラード事件等である。また、国際政治の大きな流れも同時に理解できるようにする。			
授業目的・到達目標	この授業の目的は、国際関係の通史的な理解ではなく、個別の案件を学ぶことにより、国際政治の全体像を理解することを目的とする。また、適宜、映像資料を用い、文字や言葉だけでなく、臨場感をもって、国際関係を学習できるようにする。到達目標は、高校の世界史や日本史とは異なり、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。関連DP及びCP：政治経済学科1, 2 公共政策学科1, 2, 3, 4			
履修条件	なし。			
授業方法	講義形式を基本とする。ただし、必要に応じ、映像を紹介し、国際関係の流れ、および、日本外交について、適宜、説明を加える方法をとる。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		100%	定期試験で評価する。
	平 常 評 価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年	岩波書店	米軍基地権と日米密約	信夫隆司
	備考			
参 考 書	信夫隆司『若泉敬と日米密約』日本評論社、2012年。 信夫隆司『日米安保条約と事前協議制度』弘文堂、2014年。			
オフィスアワー	水曜日 12：20～12：50。なお、事前にメールでアポイントメントをとってください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	戦後の国際関係史の流れはどのようになっていたのかを俯瞰してみよう。（2時間）
	授業内容	前期のガイダンス。使用する教科書の紹介、講義全体の概要について説明する。
	事後学習	ガイダンスを基に、自らが関心を有するテーマについて調べてみよう。（2時間）
2	事前学習	第二次世界大戦後、いわゆる冷戦が始まる。冷戦の原因は何だったのか、初期の冷戦の経緯について調べてみよう。また、日本が主権を回復する際に締結したサンフランシスコ平和条約、日米安保条約、日米行政協定を読んでみよう。（2時間）
	授業内容	第二次世界大戦後の冷戦の勃発について講義する。同時に、この冷戦が日本の主権回復（1952年）にどのように影響を及ぼしたのかを理解できるようにする。また、サンフランシスコ平和条約、日米安保条約、日米行政協定の概要を講義する。
	事後学習	冷戦はなぜ起こったのかを整理してみよう。また、冷戦とサンフランシスコ平和条約、日米安保条約、日米行政協定の関係を理解し、日本の主権回復とはいかなる意味を持っていたのかを考えてみよう。（2時間）
3	事前学習	教科書の序章を読み、米軍基地権とは何か、また、物的・人的とはいかなる意味なのかを事前に学習しよう。（2時間）
	授業内容	「日本に米軍基地は存在しない」ということの意味を理解できるようにする。米軍基地権の物的面（基地の管理・利用）とはいかなるものかについて講義する。
	事後学習	日本に米軍基地といわれるものは、どこに、どれくらいあるのかを調べてみよう。それらの基地は、どのような機能を果たしているのか、日米安保条約との関連で考えてみよう。（2時間）
4	事前学習	教科書の序章を読み、米軍基地権とは何か、また、物的・人的とはいかなる意味なのかを事前に学習しよう。（2時間）
	授業内容	米軍基地権の人的面（刑事裁判権）について講義する。刑事裁判権とはいかなる意味か、なぜ刑事裁判権が重要なのかを理解できるようにする。
	事後学習	過去に米軍関係者が犯した罪について調べてみよう。米兵の犯罪がどのように扱われたのか、また、刑事裁判権の問題点を整理してみよう。（2時間）

5	事前学習	朝鮮戦争とはいかなるものであったのかを調べてみよう。とくに、朝鮮戦争が日本に与えた影響について考えてみよう。（2時間）
	授業内容	朝鮮戦争勃発の要因、朝鮮戦争の経緯、朝鮮戦争が日本に与えた影響を中心に講義する。とくに、朝鮮戦争と日本の主権回復との関係について焦点を絞る。
	事後学習	朝鮮戦争は、現時点でも、休戦状態である。朝鮮戦争と朝鮮半島の分断が国政政治に及ぼしている影響を整理してみよう。（2時間）
6	事前学習	第一章刑事裁判権密約の「一．刑事裁判権密約とは何か」、および、「二．国連軍暫定協定案と吉田書簡」を読み、刑事裁判権密約、国連軍暫定協定案、および、吉田書簡の内容について整理してみよう。（2時間）
	授業内容	刑事裁判権密約について、具体的に何を意味しているのかを理解してもらおう。また、これらの問題は、日本が再独立を果たした時に問題となったので、日本がおかれた当時の国際情勢について講義する。
	事後学習	刑事裁判権密約とは何かを整理してみよう。また、国連軍暫定協定案の経緯、および、吉田書簡の内容について復習しておこう。（2時間）
7	事前学習	第一章刑事裁判権密約の「三．国連軍地位協定をめぐる交渉」、および、「四．行政協定第一七条の改正」を読み、国連軍地位協定をめぐる交渉過程とは何か、行政協定第一七条はどのように改正されたのかを事前に学習しておこう。（2時間）
	授業内容	行政協定第一七条の改正前と後の違い、また、アメリカ側は刑事裁判権についてどのように考えていたのかを、NATO軍地位協定と比較してみる。
	事後学習	行政協定第一七条、改正された行政協定第一七条、さらには、NATO軍地位協定やアメリカとアイスランド、オランダ、ギリシャとの地位協定とを比較し、整理してみよう。（2時間）
8	事前学習	第一章刑事裁判権密約の「五．密約の意味」を読み、密約とはどういうものであったのか、とくに、津田総務課長による一方的陳述がなぜ密約といえるのかを考えてみよう。（2時間）
	授業内容	日米合同委員会刑事裁判権分科会の日本側代表であった津田實法務省総務課長がおこなった「一方的陳述」は、「一方的」に名を借りながらも、実は、密約であったことを明らかにする。
	事後学習	刑事裁判権密約とは何かを整理してみよう。密約がなぜ用いられるのかを考えてみよう。（2時間）
9	事前学習	第二章奄美返還の「一．特異の関係」、および、「二．奄美返還協定の締結時に交わされた文書」を読み、奄美群島の特異の関係とはいかなる意味かを考え、また、奄美返還協定の締結時に交わされた文書を整理してみよう。（2時間）
	授業内容	奄美群島の特異の関係、および、奄美返還協定の締結時に交わされた文書について講義する。とくに、奄美群島が有する特異の関係とはいかなる意味であったのか、それが、奄美返還協定の締結時に交わされた文書にどのように反映されていたのかを明らかにする。
	事後学習	特異の関係とは何だったのか、なぜこのような文言が協定の関連文書に盛り込まれたのかを考えてみよう。（2時間）
10	事前学習	第二章奄美返還の「三．アメリカが望んだ基地権」、および、「四．アメリカ案」を読み、アメリカ側は、奄美返還にあたり、基地権として何を望んでいたのかを整理してみよう。（2時間）
	授業内容	第二章奄美返還のうち、アメリカが望んだ基地権とはいかなるものであったのか、また、奄美返還交渉において、アメリカが提示した返還案について学ぶ。これにより、アメリカが基地権をどのようにとらえていたのかを明らかにする。
	事後学習	アメリカが、基地権というものをどのようにとらえていたのかを整理してみよう。アメリカの返還案とはいかなるものであったのか、また、なぜそのような返還案になったのかを考えてみよう。（2時間）
11	事前学習	第二章奄美返還の「五．奄美返還交渉」、および、「六．特異の関係の意味」を読み、返還交渉の概要をつかむとともに、特異の関係とはいかなる意味だったのかを考えてみよう。（2時間）
	授業内容	第二章奄美返還のうち、まず、奄美返還交渉はどのように行われたのかを明らかにする。そのうえで、最終的に、奄美返還協定にはどのような内容が盛り込まれたのかを学習する。また、奄美返還協定の関連文書に登場する「特異の関係」の意味を明らかにする。
	事後学習	アメリカの占領下にあった日本の領土のうち、最初に返還されたのが奄美群島であった。1953年12月に返還されている。その当時の国際情勢の中で、奄美返還が持つ意味、また、「特異の関係」について振り返ってみよう。（2時間）
12	事前学習	第三章ジラード事件の「一．ジラード事件から六〇年」を読み、ジラード事件とはいかなるものであったのかを整理してみよう。（2時間）
	授業内容	1957年1月に起ったジラード事件の概要を講義する。ジラードとはいかなる人物か、犠牲となった坂井なかさんは、なぜ、どのようにしてジラードにより銃撃されたのかを明らかにする。
	事後学習	ジラード事件とはいかなるものであったのかを整理しておこう。（2時間）
13	事前学習	第三章ジラード事件の「二．ジラードの犯罪」、および、「三．ニクルの証言」を読み、ジラード事件について、さらに詳しく調べてみよう。（2時間）
	授業内容	ジラードの犯罪とはいかなるものであったのか、ジラードの同僚で、ジラードと共に現場にいたニクルの証言を振り返り、ジラードの犯行の様子を明らかにする。
	事後学習	ジラードの犯罪を整理してみよう。また、ジラードの同僚のニクルが、裁判において、どのような証言をしていたのかを振り返ってみよう。（2時間）
14	事前学習	第三章ジラード事件の「四．ジラード事件における密約」、および、「五．ジラード事件の影響」を読み、ジラード事件における密約とはどのようなものであったのか、ジラード事件はどのような影響を及ぼしたのかを整理してみよう。（2時間）
	授業内容	ジラード事件の密約について講義する。とくに、アメリカ側に残された公文書では、密約の存在は明らかなので、まず、それら公文書に密約がどのように記されているのかを解き明かす。また、ジラード事件の影響についても講義する。
	事後学習	ジラード事件における密約、および、ジラード事件の影響について整理してみよう。また、米兵が犯した罪を日本の裁判所でさばく難しさを考えてみよう。（2時間）
15	事前学習	前期の講義を振り返り、密約について整理してみよう。（2時間）
	授業内容	前期で講義した刑事裁判権密約、奄美返還、ジラード事件をあらためて振り返り、日米間でなぜ密約が交わされるのか、その構造的問題について講義する。
	事後学習	日米間で密約が交わされるのはなぜなのかを考えてみよう。この密約という方式が妥当なのか、問題点はないのかも検討してみよう。（2時間）

科目名	国際関係史Ⅱ	担当者	河合 利修	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	近代ヨーロッパの歴史について、イギリスの拡張から第一次世界大戦まで学ぶ。			
授業目的・到達目標	世界をリードしたヨーロッパの近代史について理解することを目的とし、特に18世紀から冷戦崩壊までの近代ヨーロッパの歴史について理解することを到達目標とする。 関連DP及びCP：政治経済学科1, 2 公共政策学科1, 2, 3, 4			
履修条件	とくになし。			
授業方法	教科書に沿いながら講義する。小テストを添削して、フィードバックする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	60%	①問題に対して的確に解答している。②自分の言葉で、適切な文章で解答している。	
	平常評価	40%	小テストで評価	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2010	有斐閣	近代ヨーロッパ国際政治史	君塚直隆
	備考			
参考書	授業中、適宜、紹介する。			
オフィスアワー	月曜日13時00分―14時30分（事前にメールでアポイントメントを取る）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	国際関係史についてネット等で各自情報収集をする。（2時間）
	授業内容	はじめに：授業の概要について
	事後学習	授業で紹介された文献を各自、図書館等で探す。（2時間）
2	事前学習	教科書の該当部分（158～169頁）を読む。（2時間）
	授業内容	イギリス帝国の拡張について
	事後学習	イギリス帝国の拡張についての授業の内容を復習する。（2時間）
3	事前学習	教科書の該当部分（169～177頁）を読む。（2時間）
	授業内容	アメリカ合衆国の独立について
	事後学習	アメリカ合衆国の独立についての授業の内容を復習する。（2時間）
4	事前学習	教科書の該当部分（180～186頁）を読む。（2時間）
	授業内容	フランス革命について
	事後学習	フランス革命についての授業の内容を復習する。（2時間）

5	事前学習	教科書の該当部分（186～201頁）を読む。（2時間）
	授業内容	ナポレオン戦争について
	事後学習	ナポレオン戦争についての授業の内容を復習する。（2時間）
6	事前学習	教科書の該当部分（206～214頁）を読む。（2時間）
	授業内容	ウィーン会議について
	事後学習	ウィーン会議についての内容を復習する。（2時間）
7	事前学習	教科書の該当部分（214～227頁）を読む。（2時間）
	授業内容	ウィーン体制について
	事後学習	ウィーン体制についての内容を復習する。（2時間）
8	事前学習	教科書の該当部分（230～243頁）を読む。（2時間）
	授業内容	クリミア戦争について
	事後学習	クリミア戦争についての授業の内容を復習する。（2時間）
9	事前学習	教科書の該当部分（243～250頁）を読む。（2時間）
	授業内容	ドイツ統一と普仏戦争について
	事後学習	ドイツ統一と普仏戦争についての授業の内容を復習する。（2時間）
10	事前学習	教科書の該当部分（254～271頁）を読む。（2時間）
	授業内容	アメリカ南北戦争について
	事後学習	アメリカ南北戦争についての授業の内容を復習する。（2時間）
11	事前学習	教科書の該当部分（274～287頁）を読む。（2時間）
	授業内容	ビスマルク体制について
	事後学習	ビスマルク体制についての授業の内容を復習する。（2時間）
12	事前学習	教科書の該当部分（287～292頁）を読む。（2時間）
	授業内容	ビスマルク後のヨーロッパについて
	事後学習	ビスマルク後のヨーロッパについての授業の内容を復習する。（2時間）
13	事前学習	教科書の該当部分（296～307頁）を読む。（2時間）
	授業内容	第一次世界大戦前のヨーロッパについて
	事後学習	第一次世界大戦前のヨーロッパについての授業の内容を復習する。（2時間）
14	事前学習	教科書の該当部分（307～315頁）を読む。（2時間）
	授業内容	第一次世界大戦について
	事後学習	第一次世界大戦についての授業の内容を復習する。（2時間）
15	事前学習	前期学習した内容を確認する。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	前期学習した内容を総復習する。（2時間）

科目名	国際関係史Ⅱ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ナイのテキストを使いながら、国際政治の成り立ちを歴史的に考察していきます。			
授業目的・到達目標	国際関係論の理論を学ぶことを目的とし、国際社会の「現実」「事実」を「理論的な立場（一般化）」から分析することができることを目標とします。関連DP及びCP：政治経済学科1，2 公共政策学科1，2，3，4			
履修条件	①講義は、全て出席して、全体の理解が届くように構成されているので、出席回数を計算してギリギリで単位を取得しようとは考えず、毎回休まず出席すること。②テキストを予習して講義に臨むこと。			
授業方法	講義形式で行います。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	70%	基本概念が理解され、国際的な思考力が身についているかなど、総合的に判定します。	
	平常評価	30%	受講態度20%、課題提出10%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	有斐閣	『国際紛争 -- 理論と歴史 原書第10版 』	ジョセフ・ナイ
	2018	弘文堂	『国際関係論 <第3版>』（Next教科書シリーズ）	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄（編）
	備考			
参考書	必要に応じて適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日12:15～12:55(事前にアポイントメントを取ること)			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書に目を通すほか、ニュースフィード系のウェブサイトを利用して、その週の世界の主要な国際政治・経済の出来事をフォローしておく。(2時間)
	授業内容	イントロダクション：後期授業の進め方
	事後学習	授業中に出てきた用語や内容について、理解度を確認しよう。(2時間)
2	事前学習	「第6章 冷戦後の紛争と協調」(p. 237-p. 255)を、紛争の意味を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	紛争の管理
	事後学習	現在世界で起こっている紛争について調べてみよう。(2時間)
3	事前学習	「第6章 冷戦後の紛争と協調」(p. 256-p. 274)を、介入の意味を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	冷戦後の軍事紛争
	事後学習	国際法と国内法の違いについて考えてみよう。(2時間)
4	事前学習	「第7章 現在の引火点」(p. 276-p. 287)を、最近の東ヨーロッパ情勢を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	現在の引火点-東ヨーロッパ
	事後学習	東ヨーロッパに関する新聞記事を読んでみよう。(2時間)

5	事前学習	「第7章 現在の引火点」 (p. 288-p. 319) を、最近の中東情勢を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	近東と中東の分裂と騒乱
	事後学習	近中東に関する新聞記事を読んでみよう。(2時間)
6	事前学習	「第7章 現在の引火点」 (p. 319-p. 322) を、最近のインド、パキスタン情勢を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	危うい行き詰まり
	事後学習	インド、パキスタンに関する新聞記事を読んでみよう。(2時間)
7	事前学習	「第7章 現在の引火点」 (p. 322-p. 338) を、最近のアジア情勢を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	中国の台頭
	事後学習	アジアに関する新聞記事を読んでみよう。(2時間)
8	事前学習	「第8章 グローバリゼーションと相互依存」 (p. 339-p. 358) をグローバリゼーションの意味を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	グローバリゼーションと相互依存の概念
	事後学習	グローバリゼーションがもたらしたものを考えてみよう。(2時間)
9	事前学習	「第8章 グローバリゼーションと相互依存」 (p. 358-p. 374) をレジームの意味を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	世界経済におけるリーダーシップと制度
	事後学習	複合的相互依存について理解しよう。(2時間)
10	事前学習	「第9章 情報革命と脱国家的主体」 (p. 375-p. 396) を、インターネットの意味を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	パワーと情報革命
	事後学習	なぜインターネットが世界に大きなインパクトを与えるのか考えてみよう。(2時間)
11	事前学習	ゲストスピーカーからの課題を行う。内容については後日講義内で指示する。(2時間)
	授業内容	ゲストスピーカーによる特別講義 元戦略国際問題研究所 (Center for Strategic and International Studies, CSIS) 日本部客員研究員 日本貿易振興機構 赤平大寿氏
	事後学習	ジェトロ (日本貿易振興機構) が公表している統計資料などを見てみよう。(2時間)
12	事前学習	「第9章 情報革命と脱国家的主体」 (p. 396-p. 411) を、情報革命の意味を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	脱国家的主体
	事後学習	情報革命が世界政治に与えた影響について考えてみよう。(2時間)
13	事前学習	「第10章 未来に何を期待できるか？」 (p. 413-p. 453) を、新しい世界秩序の意味を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	世界システムと女性：世界システム論と女性、集団的人権の確立
	事後学習	新しい権利について考えてみよう。(2時間)
14	事前学習	「第10章 未来に何を期待できるか？」 (p. 413-p. 453) を、新しい世界秩序の意味を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	未来に何を期待できるか？
	事後学習	今日の世界における様々な問題を整理してみよう。(2時間)
15	事前学習	これまでに学習した内容を復習し、テストに備えよう。(2時間)
	授業内容	テスト及び振り返り
	事後学習	答案の見直しを通して、これまでの学習で不足している知識や理解が不十分な事項がないか確認しよう。(2時間)

科目名	国際関係史Ⅱ	担当者	信夫 隆司	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	戦後の国際関係の歴史のなかから、日本にとって重要な外交案件を紹介し、その案件が国際政治全体のなかでどのように位置づけられるのか、問題の経緯、および、今日における課題について学習する。具体的に取り上げる案件は、小笠原返還、沖縄返還、伊江島事件等である。また、国際政治の大きな流れも同時に理解できるようにする。			
授業目的・到達目標	この授業の目的は、国際関係の通史的な理解ではなく、個別の案件を学ぶことにより、国際政治の全体像を理解することを目的とする。また、適宜、映像資料を用い、文字や言葉だけでなく、臨場感をもって、国際関係を学習できるようにする。到達目標は、高校の世界史や日本史とは異なり、歴史というものが、なぜ、そして、どのように出来事が起こったのか、その意味を理解できるようになることである。関連DP及びCP：政治経済学科1, 2 公共政策学科1, 2, 3, 4			
履修条件	なし。			
授業方法	講義形式を基本とする。ただし、必要に応じ、映像を紹介し、国際関係の流れ、および、日本外交について、適宜、説明を加える方法をとる。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		100%	定期試験で評価する。
	平 常 評 価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年	岩波書店	米軍基地権と日米密約	信夫隆司
	備考			
参 考 書	信夫隆司『若泉敬と日米密約』日本評論社、2012年。 信夫隆司『日米安保条約と事前協議制度』弘文堂、2014年。			
オフィスアワー	水曜日12：20～12：50。なお、事前にメールでアポイントメントをとってください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の講義を振り返るとともに、後期の講義の内容を確認しよう。（2時間）
	授業内容	後期のガイダンス。後期の講義全体の概要について説明する。
	事後学習	ガイダンスを基に、自らが関心を有するテーマについて調べてみよう。（2時間）
2	事前学習	1961年8月、東西冷戦を象徴するベルリンの壁の構築が始まる。ベルリンの壁はなぜつくられたのかを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	ベルリンの壁の構築について講義する。ベルリンの壁は、どこに、なぜつくられたのかを明らかにする。さらに、東西冷戦において、ベルリンの壁が構築された意味を考える。
	事後学習	ベルリンの壁はどこにつくられたのかを確認してみよう。また、ベルリンの壁は、なんのためにつくられたのかを整理してみよう。（2時間）
3	事前学習	1962年10月に起きたキューバ危機は、第三次世界大戦にもっとも近づいた出来事として知られている。キューバ危機とはいかなるものであったのかを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	キューバ危機はなぜ起こったのか、この危機はどのような経緯をたどったのかを講義する。とくに、ケネディ大統領、フルシチョフ首相、カストロ首相はなにを考えていたのかを明らかにする。
	事後学習	キューバ危機はなぜ起こったのかを整理してみよう。また、キューバ危機の経緯についてまとめてみよう。（2時間）
4	事前学習	キューバ危機は、幸いなことに、第三次世界大戦に至らず、終結した。なぜ危機は回避されたのかを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	キューバ危機がなぜ回避されたのかを中心に講義する。また、このキューバ危機によって、結局、核兵器は使えない兵器であることが明らかになる。キューバ危機の国際政治への影響とは何だったのかも明らかにする。
	事後学習	キューバ危機はどのように回避されたのかを整理してみよう。また、キューバ危機が起こったことによって、その後の国際政治への影響を調べてみよう。（2時間）

5	事前学習	第四章小笠原返還の「一．小笠原核持ち込み密約」、および、「二．小笠原返還の経緯」を読み、小笠原返還の概要について調べてみよう。（2時間）
	授業内容	1968年の小笠原返還時に、返還後の小笠原に核を持ち込む密約が日米間で交わされたのではないかとされる。そこで、この小笠原核持ち込み密約とはなにかを明らかにする。また、小笠原の返還をめぐる日米間での交渉の経緯を講義する。
	事後学習	小笠原核持ち込み密約といわれるものは何かを整理してみよう。また、小笠原返還交渉の経緯をまとめてみよう。（2時間）
6	事前学習	第四章小笠原返還の「三．小笠原返還に関する文書」、および、「四．「討議の記録」「口頭発言」作成の経緯」を読み、とくに、「討議の記録」および「口頭発言」とは何かを整理してみよう。（2時間）
	授業内容	小笠原返還協定の締結にあたって、「討議の記録」および「口頭発言」といった文書が、日米間で作成されている。これらの文書の意味を中心に、核持ち込み問題が日米間でどのように議論されたのかを明らかにする。
	事後学習	「討議の記録」と「口頭発言」の違いは何かを明らかにしよう。小笠原核持ち込み密約は存在したのかを考えてみよう。（2時間）
7	事前学習	第四章小笠原返還の「五．三木外務大臣の国会答弁」、および、「六．小笠原返還の教訓」を読み、小笠原返還交渉にあたった当時の三木武夫外務大臣が非核三原則についてどのように考えていたのかを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	小笠原返還交渉の過程で、三木外務大臣は非核三原則をどのようにとらえていたのかを明らかにする。また、小笠原核密約は存在していたのか、沖縄返還時の核密約との関連で講義する。
	事後学習	小笠原核持ち込み密約と沖縄核持ち込み密約とを比較し、これらは本当に密約といえるのかを考えてみよう。（2時間）
8	事前学習	第五章沖縄返還の「一．沖縄返還の諸問題」、「二．施設・区域をめぐる攻防」、および、「三．那覇空港の返還とP3移転」を読み、沖縄返還にあたって、施設・区域（米軍基地）の問題点を整理してみよう。（2時間）
	授業内容	1972年5月、沖縄は本土に復帰した。沖縄には多くの施設・区域（米軍基地）が存在していた。そのため、その施設・区域を返還後も米側が使用したいとする場合、多くの問題が生じた。この施設・区域の問題点を明らかにする。
	事後学習	沖縄返還にあたって、施設・区域の問題としてどのようなものがあったのかを整理してみよう。（2時間）
9	事前学習	返還後の沖縄への核持ち込み問題について調べてみよう。この問題では、若泉敬という佐藤総理の密使が重要な役割を果たした。若泉敬は沖縄返還交渉においていかなる役割を果たしたのかを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	沖縄返還交渉において、返還後の沖縄への核持ち込み問題がどのように決着したのかを明らかにする。また、佐藤総理の密使を務めた若泉敬と、ニクソン大統領の安全保障問題担当の大統領補佐官であったキッシンジャーとの交渉の経緯もたどってみる。
	事後学習	若泉敬とキッシンジャー補佐官との交渉の経緯を整理してみよう。沖縄核持ち込み密約とはいかなるものであったのかをまとめてみよう。（2時間）
10	事前学習	第五章沖縄返還の「四．沖縄の施政権移行期」、および、「五．「了解覚書」での処理」を読み、沖縄の施政権移行期における密約とは何かを整理してみよう。（2時間）
	授業内容	1969年11月の佐藤・ニクソン会談で、1972年中の沖縄返還が決まり、沖縄は1972年5月に本土に復帰した。ただ、施政権は、同年5月に一挙に返還されたわけではなく、徐々に施政権の移行がおこなわれた。この施政権移行期における密約について明らかにする。
	事後学習	施政権移行期の密約とは何であったのか、その意味は何かを整理してみよう。（2時間）
11	事前学習	第六章伊江島事件の「一．伊江島事件の概要」、および、「二．第五空軍の決定」を読み、伊江島事件とはどのようなものであったのか、当初、信号銃を発射したロック軍曹の裁判権はどうなったのかを整理してみよう。（2時間）
	授業内容	伊江島事件の概要を明らかにするとともに、ロック軍曹が所属する第五空軍が、当初、どのような決定を下したのか、また、なぜそのような決定を下したのかを講義する。
	事後学習	伊江島事件とはどのような事件だったのかを整理してみよう。（2時間）
12	事前学習	第六章伊江島事件の「三．決定の撤回」、および、「四．日米合同委員会および刑事裁判権分科委員会」を読み、伊江島事件はどのような推移をだだったのかを整理してみよう。（2時間）
	授業内容	第五空軍は、ロック軍曹に対する裁判権を行使せずとの決定を覆し、結局、裁判権を行使する旨を日本側に伝えた。そのため、この件をめぐり、日米合同委員会および刑事裁判権分科委員会で、長期間にわたり、協議がおこなわれる。この協議の経緯を中心に講義する。
	事後学習	伊江島事件をめぐって、日米合同委員会および刑事裁判権分科委員会でどのような協議が行われたのかを整理してみよう。（2時間）
13	事前学習	第六章伊江島事件の「五．裁判権を行使せず」、および、「六．伊江島事件から今日の課題」を読み、なぜ日本側がロックに対する裁判権を行使せずとの決定にいたったのかを整理してみよう。（2時間）
	授業内容	日本側はなぜロック軍曹に対する裁判権を行使せずとの決定にいたったのかを明らかにする。また、伊江島事件とジラード事件との違いについても講義する。さらに、自衛隊の海外派兵が可能になった今日、この伊江島事件はどのような意味を持っているのかを考えてみる。
	事後学習	伊江島事件とジラード事件との違いについて整理してみよう。また、今日、日本は米軍の受入国の立場だけではなく、他国への派遣国の立場でもある。受入国と派遣国について考えてみよう。（2時間）
14	事前学習	冷戦終結を象徴するベルリンの壁崩壊はどのようにして起こったのかを調べてみよう。また、冷戦はどのようにして終結したのかも考えてみよう。（2時間）
	授業内容	1989年11月のベルリンの壁崩壊を中心として、冷戦が終結していく過程を明らかにする。また、冷戦終結が、第二次世界大戦後の国際政治において、どのような意味をもっていたのかも講義する。
	事後学習	ベルリンの壁崩壊の経緯を整理してみよう。冷戦の始まりから終結までの歴史的経緯をまとめてみよう。（2時間）
15	事前学習	後期の講義を振り返ってみよう。（2時間）
	授業内容	ベルリンの壁構築から冷戦終結までの歴史的経緯をまとめる。また、小笠原返還、沖縄返還、および、伊江島事件を振り返り、米軍基地権の全体像を明らかにする。
	事後学習	後期の講義における論点を整理してみよう。（2時間）

科目名	国際関係法〔公法系〕AⅠ	担当者	河合 利修	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	世界では、武力紛争、領土問題、環境問題、資源をめぐる争いなど、様々な問題が存在する。国際法は、これらの問題を法的に解決し、国際社会に平和と秩序をもたらすものである。本講義では、国際法の歴史、主体、法源、国家の基本的な権利義務などについて講義する。				
授業目的・到達目標	国際的な場で必要な国際法の理論を習得することを目的とする。 国際法に関する基本的な理論およびそれを応用する力を習得することを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1,6 政治経済学科2 新聞学科1,5 経営法学科1,6 公共政策学科1,2,3,4				
履修条件	なし。				
授業方法	教科書にもとづいて講義する。小テストでフィードバックを行う。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		60%		問題に対して、事例、判例、学説などを適宜引用しながら、的確に答えているかを特に重視する。
	平常評価		40%		小テストで評価する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	弘文堂		NEXT教科書シリーズ『国際法（第3版）』	渡部茂己・喜多義人
	2019	有斐閣		国際条約集2019	岩沢雄司
	備考				
参考書	授業で適宜紹介する。				
オフィスアワー	月曜日13時00分—14時30分（事前にメールでアポイントメントを取る）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	国際法に関する情報をネット等で探してみる。（2時間）
	授業内容	はじめに：講義の進め方、成績評価などの説明
	事後学習	授業で紹介した参考書等を確認する。（2時間）
2	事前学習	教科書の該当部分（第1章2―5頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際社会と国際法
	事後学習	国際社会と国際法についての授業の内容を復習する。（2時間）
3	事前学習	教科書の該当部分（第1章5―8頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	近代国際法の成立と発展
	事後学習	近代国際法の成立と発展についての授業の内容を復習する。（2時間）
4	事前学習	教科書の該当部分（第1章9―10頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際法の主体
	事後学習	国際法の主体についての授業の内容を復習する。（2時間）

5	事前学習	教科書の該当部分（第1章11-12頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際法と国内法
	事後学習	国際法と国内法についての授業の内容を復習する。（2時間）
6	事前学習	教科書の該当部分（第2章国際慣習法以外の部分）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際法の法源①：条約、法の一般原則、判例、学説、国際機関の決議
	事後学習	条約、法の一般原則、判例、学説、国際機関の決議についての授業の内容を復習する。（2時間）
7	事前学習	教科書の該当部分（第2章国際慣習法の部分）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際法の法源②：国際慣習法
	事後学習	国際慣習法についての授業の内容を復習する。（2時間）
8	事前学習	教科書の該当部分（第3章28-29頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際法と国家①：国家の成立要素
	事後学習	国家の成立要素についての授業の内容を復習する。（2時間）
9	事前学習	教科書の該当部分（第3章29-31頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際法と国家②：国家承認
	事後学習	国家承認についての授業の内容を復習する。（2時間）
10	事前学習	教科書の該当部分（第3章32-33頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際法と国家③：政府承認
	事後学習	政府承認についての授業の内容を復習する。（2時間）
11	事前学習	教科書の該当部分（第3章34-35頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際法と国家④：国家承継・政府承継
	事後学習	国家承継・政府承継についての授業の内容を復習する。（2時間）
12	事前学習	教科書の該当部分（第3章36－37頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国家の基本的権利義務①：国家主権、主権平等、主権免除
	事後学習	国家主権、主権平等、主権免除についての授業の内容を復習する。（2時間）
13	事前学習	教科書の該当部分（第3章37-39頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国家の基本的権利義務②：不干渉義務、管轄権
	事後学習	不干渉義務、管轄権についての授業の内容を復習する。（2時間）
14	事前学習	教科書の該当部分（第3章39頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国家の基本的権利義務③：自衛権
	事後学習	自衛権についての授業の内容を復習する。（2時間）
15	事前学習	前期の授業の内容を確認する。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	前記の授業の内容を復習する。（2時間）

科目名	国際関係法〔公法系〕A I	担当者	喜多 義人	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	本講義では、国際法の性質を理解したうえで、近代国際法の成立、国際法の法源、国家の成立とその権利義務、国家の領域、日本の領土問題について解説する。また、海洋に関する法制度、外交官・領事官の任務と特権免除、外国人の国際法上の地位、人権の国際的保障制度、国際犯罪とその処罰制度、国際機構の機能、条約の締結手続と効力、国家責任の成立要件と解除方法について解説し、国際法が国際社会で果している機能に関する理解を深める。				
授業目的・到達目標	国際法が国際社会の秩序維持に果たしている機能を理解することを目的とする。まず、国際法の法源、主体、国際法と国内法の関係、国家の権利義務に関する知識の充実により、国際法の基本原理を説明できる。領土取得方式の知識をもとに、日本の領土問題での双方の主張を評価できる。さらに、海洋の法的地位、人権条約の履行確保制度、国家責任などについて理解を深化させることにより、国家の行動を法的に評価できることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 6 政治経済学科2 新聞学科1, 5 経営法学科1, 6 公共政策学科1, 2, 3, 4				
履修条件	なし。				
授業方法	教科書にもとづき、講義形式で行なう。必要に応じて補足資料を配布する。指定の条約集を持参することが望ましい。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで行なう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	講義で解説した基本事項が理解できているかを判定する。答案の構成、条約や判例、学説への言及、文章表現などを総合的に評価する。	
	平常評価		20%	前学期の中間にレポートを課す。レポートはコメントを付して返却する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2018年	弘文堂	『国際法[第3版]』（Next教科書シリーズ）		渡部茂己・喜多義人編
					岩沢雄司編集代表
	備考				
参考書	岩沢雄司編集代表『国際条約集2019』（有斐閣）、浅田正彦編『国際法〔第3版〕』（東信堂）、小寺・森川・西村編『国際法判例百選[第2版]』（有斐閣）				
オフィスアワー	月曜日12：20～13：00、水曜日18：00～19：00（メールか電話で予約すること）。研究室本館7階1709号室（kita.yoshito@nihon-u.ac.jp、03-5275-8602）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、国際法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行なえるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。また、紹介した参考文献を図書館で閲覧し、その概要を把握する。（2時間）
2	事前学習	教科書2～8頁および前回の授業時に配布した資料を熟読し、国際社会における法の機能を理解するとともに、近代国際法が成立した背景について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際社会と法】 中世末期にヨーロッパで主権国家が誕生した背景を理解し、主権国家を規律する法体系として成立した近代国際法の特徴と概要を学習する。さらに、20世紀に成立した現代国際法について比較考察する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、近代国際法の成立過程とヨーロッパ以外の地域への適用、近代国際法と現代国際法の相違点について説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	配布資料を熟読し、国際社会と国家社会における法の定立・適用・執行の違いを考察する。（2時間）
	授業内容	【国際法と国内法の差異】 国家社会のような中央集権的権力機構をもたない国際社会では、国際法はどのようにして定立され、適用され、執行されるのかについて学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、国際法の定立・適用・執行において国際機構や国際裁判所が果たしている役割を説明できるようにする。（2時間）
4	事前学習	教科書9～10頁および配布資料を熟読し、国際法上の権利義務が帰属する実体は何かについて考察する。（2時間）
	授業内容	【国際法の主体】 国家は国際法の能動的な法主体で、国際法上の権利義務が完全に帰属するのに対し、受動的な法主体である国際機構と個人はいかなる範囲で権利義務を有するのかについて学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、個人の国際法上の権利義務を規定した条約について説明できるようにする。（2時間）

5	事前学習	教科書16～23頁および配布資料を熟読し、国際法の法源にはどのようなものがあるかを考察する。（2時間）
	授業内容	【国際法の法源(1)】 国際法の主要な法源である国際慣習法の成立要件を検討したうえで、国際慣習法の法典化（条約化）と漸進的発達（国際慣習法への発展を期待して、それまで規定されていなかった事項について条約を作成すること）について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等を確認し、国際慣習法成立の有無をめぐって国際裁判所で争われた事件について説明できるようにする。（2時間）
6	事前学習	教科書22～25頁および配布資料を熟読し、国際慣習法と条約の関係、法の一般原則の内容について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際法の法源(2)】 条約の定義と種類、法の一般原則が国際裁判で適用される理由、学説と判例の国際裁判における位置づけ、国際機構のいかなる決議が法源性を有するのかについて学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等を確認し、法の一般原則および判例・学説、国際機構の決議が国際裁判で裁判基準として適用された事例について説明できるようにする。（2時間）
7	事前学習	教科書11～12頁および配布資料を熟読し、国際法が国内関係に適用されるケースについて考察する。（2時間）
	授業内容	【国際法と国内法の関係】 国際関係の緊密化や国際的人権保護制度の進展により、国際法が一国内で適用されるケースが増えている。そこで、いかなる手続によって国際法が国内的に適用されるのかを考察するとともに、両者の規定内容が抵触した場合、いずれが優先されるかについて学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等を確認し、国際法が日本の裁判所で適用された事例について説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	教科書28～32頁および配布資料を熟読し、国家の種類と国家の構成要素について考察すること。（2時間）
	授業内容	【国家承認】 国家の成立に関する客観的要件と主観的要件について理解したうえで、国家承認の法的性質をめぐる学説の対立について考察する。また、新国家による先行国の権利義務や財産の承継についても学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、国家承認の法的性質と未承認国家の地位、国際機構への加盟と国家承認との関係について説明できるようにする。（2時間）
9	事前学習	教科書32～34頁および配布資料を熟読し、新政府の成立要件、政府承認の意義について考察する。（2時間）
	授業内容	【政府承認】 革命やクーデターにより成立した新政府に承認という手続がなぜ必要か、また政府承認の要件について考察したうえで、近年多くの国が採用している政府承認廃止政策についても学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、政府承認の要件と近年の国家実行、国家承認との違いについて説明できるようにする。（2時間）
10	事前学習	教科書36～37頁および配布資料を熟読し、国家の基本的権利義務にはどのようなものがあり、それはどの条約や国際文書に規定されているかについて考察する。（2時間）
	授業内容	【国家の権利義務(1)】 国家の基本的権利義務のうちで最も重要な国家主権について考察したうえで、そこから派生する（国家の）平等権と国家の行為や財産に対しては外国の裁判権が及ばないとする主権免除について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、日本の裁判所で外国の行為に対して裁判権が免除された事例について説明できるようにする。（2時間）
11	事前学習	関連図書と配布資料を熟読し、自衛権の概念および発動要件について考察する。（2時間）
	授業内容	【国家の権利義務(2)】 自衛権の一類型である個別的自衛権の概念を理解したうえで、その発動要件を検討し、さらに国連憲章51条の自衛権規定と伝統的な自衛権との関係について検討する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、自衛権と緊急非難との違いおよび日本政府の自衛権の発動要件に関する見解について説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	関連図書と配布資料を熟読し、集団的自衛権の概念とその法的性質について考察する。（2時間）
	授業内容	【国家の権利義務(3)】 集団的自衛権の概念、成立過程、発動要件について学習し、この権利が問題となったニカラグア事件国際司法裁判所判決について検討する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、日本政府の集団的自衛権に関する公式見解の変遷について説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	教科書37～38頁および配布資料を熟読し、国内問題不干渉義務において「国内問題」とされる事項の変遷について考察する（2時間）
	授業内容	【国家の権利義務(4)】 国内問題とは何かを検討したうえで、合法的干渉、とくに人道的干渉について考察し、さらに国際機構と不干渉義務との関係について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、人道的干渉を理由に行なわれた武力行使の事例を説明できるようにする。（2時間）
14	事前学習	教科書68～72頁および配布資料を熟読し、領土、領海、領空の法的地位について考察する。（2時間）
	授業内容	【国家の領域】 領域主権の法的性質、国家の領域主権に対する義務について考察したうえで、領土、領海および領空の法的地位、とくに領空の範囲と領空侵犯に対する措置について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、日本の領海と領空が侵犯された事例について説明できるようにする。（2時間）
15	事前学習	講義ノートと配布資料等をもとに、日本の領海と領空が侵犯された事例について説明できるようにする。（2時間）
	授業内容	【国家領域の取得方式】 領域権原について理解したうえで、いずれの国にも属さない無主地を自国領土に編入する手続である先占と添付、いずれかの国の領土の一部または全部を編入する割譲、併合、征服、時効について学習する。
	事後学習	講義ノートと関連図書をもとに、日本による領域取得方式の適用事例について説明できるようにする。（2時間）

科目名	国際関係法〔公法系〕AⅡ	担当者	河合 利修	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	世界では、武力紛争、領土問題、環境問題、資源をめぐる争いなど、様々な問題が存在する。国際法は、これらの問題を法的に解決し、国際社会に平和と秩序をもたらすものである。本講義では、国家の領域と海洋法などを中心に講義する。			
授業目的・到達目標	国際的な場で必要な国際法の理論を習得することを目的とする。 国際法に関する基本的な理論およびそれを応用する力を習得することを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1,6 政治経済学科2 新聞学科1,5 経営法学科1,6 公共政策学科1,2,3,4			
履修条件	なし。			
授業方法	教科書にもとづいて講義する。小テストでフィードバックを行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		60%	問題に対して、事例、判例、学説などを適宜引用しながら、的確に答えているかを特に重視する。
	平常評価		40%	小テストで評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	弘文堂	NEXT教科書シリーズ『国際法（第3版）』	渡部茂己・喜多義人
	2019	有斐閣	国際条約集2019	岩沢雄司
	備考			
参考書	授業で適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜日13時00分—14時30分（事前にメールでアポイントメントを取る）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	国際法の諸問題についてネットなどで調べておく。（2時間）
	授業内容	授業の説明
	事後学習	授業で紹介した参考書等を各自確認する。（2時間）
2	事前学習	教科書の該当部分（第6章67-76頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国家の領域①：領域主権、国家領域の構造、領域取得の方式
	事後学習	領域主権、国家領域の構造、領域取得の方式についての授業の内容を復習する。（2時間）
3	事前学習	教科書の該当部分（第6章76―81頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国家の領域②：日本の領土問題
	事後学習	日本の領土問題についての授業の内容を復習する。（2時間）
4	事前学習	教科書の該当部分（第7章84―85頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	海洋法①：歴史的展開
	事後学習	海洋法の歴史的展開についての授業の内容を復習する。（2時間）

5	事前学習	教科書の該当部分（第7章86－95頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	海洋法②：海洋法の構造
	事後学習	海洋法の構造についての授業の内容を復習する。（2時間）
6	事前学習	教科書の該当部分（第7章96－99頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	海洋法③：海洋境界の画定と紛争の解決
	事後学習	海洋境界の画定と紛争の解決についての授業の内容を復習する。（2時間）
7	事前学習	教科書の該当部分（第8章）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際公域
	事後学習	国際公域についての授業の内容を復習する。（2時間）
8	事前学習	教科書の該当部分（第4章）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	外交関係と国際法：外交使節と領事使節
	事後学習	外交関係と国際法についての授業の内容を復習する。（2時間）
9	事前学習	教科書の該当部分（第13章）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	条約法
	事後学習	条約法についての授業の内容を復習する。（2時間）
10	事前学習	教科書の該当部分（第9章）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際法と個人：人権
	事後学習	国際法と個人についての授業の内容を復習する。（2時間）
11	事前学習	教科書の該当部分（第10章）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際法と地球環境
	事後学習	国際法と地球環境についての授業の内容を復習する。（2時間）
12	事前学習	教科書の該当部分（第11章）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際法と国際経済
	事後学習	国際法と国際経済についての授業の内容を復習する。（2時間）
13	事前学習	教科書の該当部分（第12章）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際法と国際機構
	事後学習	国際法と国際機構についての授業の内容を復習する。（2時間）
14	事前学習	教科書の該当部分（第5章）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国家の国際責任
	事後学習	国家の国際責任についての授業の内容を復習する。（2時間）
15	事前学習	後期の授業の内容の確認をする。（2時間）
	授業内容	後期まとめ
	事後学習	後期の授業の総復習をする。（2時間）

科目名	国際関係法〔公法系〕AⅡ	担当者	喜多 義人	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義では、国際法の性質を理解したうえで、近代国際法の成立、国際法の法源、国家の成立とその権利義務、国家の領域、日本の領土問題について解説する。また、海洋に関する法制度、外交官・領事官の任務と特権免除、外国人の国際法上の地位、人権の国際的保障制度、国際犯罪とその処罰制度、国際機構の機能、条約の締結手続と効力、国家責任の成立要件と解除方法について解説し、国際法が国際社会で果している機能に関する理解を深める。			
授業目的・到達目標	国際法が国際社会の秩序維持に果たしている機能を理解することを目的とする。まず、国際法の法源、主体、国際法と国内法の関係、国家の権利義務に関する知識の充実により、国際法の基本原理を説明できる。領土取得方式の知識をもとに、日本の領土問題での双方の主張を評価できる。さらに、海洋の法的地位、人権条約の履行確保制度、国家責任などについて理解を深化させることにより、国家の行動を法的に評価できることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 6 政治経済学科2 新聞学科1, 5 経営法学科1, 6 公共政策学科1, 2, 3, 4			
履修条件	なし。国際関係法[公法系]AⅠを受講していることが望ましい。			
授業方法	教科書にもとづき、講義形式で行なう。必要に応じて補足資料を配布する。指定の条約集を持参することが望ましい。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで行なう。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	講義で解説した基本事項が理解できているかを判定する。答案の構成、条約や判例、学説への言及、文章表現などを総合的に評価する。	
	平常評価	20%	後学期の中間にレポートを課す。レポートはコメントを付して返却する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	弘文堂	『国際法[第3版]』（Next教科書シリーズ）	渡部茂己・喜多義人編
				岩沢雄司編集代表
	備考			
参考書	岩沢雄司編集代表『国際条約集2019』（有斐閣）、浅田正彦編『国際法〔第3版〕』（東信堂）、小寺・森川・西村編『国際法判例百選[第2版]』（有斐閣）			
オフィスアワー	月曜日12：20～13：00、水曜日18：00～19：00（メールか電話で予約すること）。研究室本館7階1709号室（kita.yoshito@nihon-u.ac.jp、03-5275-8602）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書76～78頁および配布資料を熟読し、北方領土問題の争点について考察する。（2時間）
	授業内容	【日本の領土問題(1)】 北方領土問題の歴史的経緯を確認したうえで、国際法上の争点、日露双方の主張について検討する。
	事後学習	配布資料や外務省、関係自治体のHP等をもとに、双方の主張の根拠となっている事実を説明できるようにする。（2時間）
2	事前学習	教科書78～79頁および配布資料を熟読し、尖閣諸島問題の争点について考察する。（2時間）
	授業内容	【日本の領土問題(2)】 尖閣諸島問題の歴史的経緯を確認したうえで、国際法上の争点、日中双方の主張について検討する。
	事後学習	配布資料や外務省や関係自治体のHP等をもとに、双方の主張の根拠となっている事実を説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	教科書79～81頁および配布資料を熟読し、竹島問題の争点について考察する。（2時間）
	授業内容	【日本の領土問題(3)】 竹島問題の歴史的経緯を確認したうえで、国際法上の争点、日韓双方の主張について検討する。
	事後学習	配布資料や外務省や関係自治体のHP等をもとに、双方の主張の根拠となっている事実を説明できるようにする。（2時間）
4	事前学習	教科書84～86頁および配布資料を熟読し、海洋法が形成された背景と海洋の区分について考察する。（2時間）
	授業内容	【海洋法(1)】 海洋法の形成と発展過程を考察したうえで、内水と湾、群島水域の法的地位について学習する。
	事後学習	講義ノートや配布資料等をもとに、国連海洋法条約の採択、規定内容、審議時の対立点について説明できるようにする。（2時間）

5	事前学習	教科書87～92頁および配布資料を熟読し、領海と公海の法的地位について考察する。（2時間）
	授業内容	【海洋法(2)】 領海の法的地位とくに無害通航権、公海における国家の管轄権および国際海峡の通過通航権について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、国際海峡における通航制度の変遷について説明できるようにする。（2時間）
6	事前学習	教科書92～95頁および配布資料を熟読し、排他的経済水域、大陸棚および深海底の法的地位について考察する。（2時間）
	授業内容	【海洋法(3)】 排他的経済水域、大陸棚および深海底の法的地位について理解したうえで、それぞれの水域・地域における資源開発制度について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、排他的経済水域内での漁業に関する沿岸国の権利義務について説明できるようにする。（2時間）
7	事前学習	教科書42～47頁および配布資料を熟読し、外交使節に関する国際法が形成された過程について考察する。（2時間）
	授業内容	【外交・領事関係法(1)】 外交使節の任務、階級、構成員について学習したうえで、公館の不可侵権および外交官の特権免除について考察する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、外交公館の不可侵権や外交官の特権免除が侵害された事例について説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	教科書47～51頁および配布資料を熟読し、領事機関に関する国際法が形成された過程について考察する。（2時間）
	授業内容	【外交・領事関係法(2)】 領事機関の任務、階級、構成員、領事公館の不可侵権および領事官の特権免除について考察し、さらに国家元首および外務大臣の特権免除、外国軍隊の法的地位について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、在日米軍の構成員による犯罪に対して日本の裁判権が問題となった事例について説明できるようにする。（2時間）
9	事前学習	関連図書と配布資料を熟読し、外国人の滞在国における法的地位について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際法における個人(1)】 国籍の意義と効果、国籍付与の基準、国籍が抵触した場合の措置について考察するとともに、外国人の出入国、滞在国内における権利義務、犯罪人引渡しの意義と諸原則について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、日本の裁判所で犯罪人の引渡し可否が争われた事件について説明できるようにする。（2時間）
10	事前学習	教科書124～127頁および配布資料を熟読し、難民保護制度の発展について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際法における個人(2)】 難民の定義を確認したうえで、難民条約上の締約国の義務、日本の難民政策について学習し、さらに亡命者に対する庇護権について考察する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、国連難民高等弁務官事務所の活動について説明できるようにする。（2時間）
11	事前学習	教科書114～124頁および配布資料を熟読し、人権の国際的保護の進展について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際法における個人(3)】 国際人権法の発展過程と主要な人権条約の概要を考察したうえで、人権条約の国際的履行確保制度について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、地域的人権条約とその履行確保制度について説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	関連図書と配布資料を熟読し、国際犯罪とは何か、それを防止・処罰するための条約にはどのようなものがあるかについて考察する。（2時間）
	授業内容	【国際法における個人(4)】 国際犯罪の概念と類型、国際的規制犯罪と国際法上の犯罪について理解したうえで、国際刑事裁判所の設立、対象犯罪、管轄権について学習する。
	事後学習	講義ノートや配布資料等をもとに、国際刑事裁判所の管轄権行使の条件について説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	教科書162～179頁および配布資料を熟読し、国際機構の形成と発展について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際機構】 国際機構の定義と発展過程を確認したうえで、今日最も重要な国際機構である国際連合の目的および基本原則、組織構造、権限、加盟国の権利義務、意思決定について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、国際連合の専門機関の任務と活動、日本との関係について説明できるようにする。（2時間）
14	事前学習	教科書182～196頁および配布資料を熟読し、条約の締結手続について考察する。（2時間）
	授業内容	【条約法】 条約の概念と締結手続、解釈の原則を学習したうえで、留保制度、無効原因と終了原因について考察する。
	事後学習	講義ノートや配布資料等をもとに、条約の無効および終了が主張された事例について説明できるようにする。（2時間）
15	事前学習	教科書54～66頁および配布資料を熟読し、国際法上の国家責任の意味について考察する。（2時間）
	授業内容	【国家責任法】 国家責任の発生要件、違法性阻却事由および責任解除の方法について考察し、さらに国家責任の追及方法としての外交保護権について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、会社に対する外交保護権の行使要件と関係事例について説明できるようにする。（2時間）

科目名	国際関係法〔公法系〕B I	担当者	喜多 義人	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義では、国際紛争の解決手続、国際安全保障および国際人道法に関する理解を深化める。まず、戦争違法化の過程を概観したうえで、国際紛争の平和的解決手続と強力的解決手続、国際連盟と国際連合の集団安全保障制度について解説する。また、武力紛争の被害軽減を目的とする国際人道法の基本原則、内戦への適用、害敵手段の規制、捕虜・傷病者・文民の保護、人道法の履行確保制度などについて解説する。			
授業目的・到達目標	国際紛争の解決手続、平和維持の制度、武力紛争法に関する知識の修得を目的とする。まず、国際紛争の解決手続および集団安全保障制度のもとでの国際連合の行動について理解することにより、平和を実現するための諸制度を説明することができる。さらに、国際人道法に関する理解の深化により、戦争犠牲者すなわち捕虜の資格と権利義務、傷病兵と文民に関する諸原則、害敵手段、大量破壊兵器や通常兵器の規制について説明できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 6			
履修条件	なし。国際関係法[公法系]Aを履修していることが望ましい。			
授業方法	教科書にもとづき、講義形式で行なう。必要に応じて補足資料を配布する。指定の条約集を持参することが望ましい。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで行なう。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	講義で解説した基本事項が理解できているかを判定する。答案の構成、条約や判例、学説への言及、文章表現などを総合的に評価する。	
	平常評価	20%	前学期の中間にレポートを課す。レポートはコメントを付して返却する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	弘文堂	『国際法[第3版]』（Next教科書シリーズ）	渡部茂己・喜多義人編
				岩沢雄司編集代表
	備考			
参考書	岩沢雄司編集代表『国際条約集2019』（有斐閣）、藤田久一『国連法』（有斐閣）、藤田久一『国際人道法[改訂増補]』（有信堂）			
オフィスアワー	水曜日18：00～19：00、木曜日10：30～11：30（メールか電話で予約すること）。研究室本館7階1709号室（kita.yoshito@nihon-u.ac.jp、03-5275-8602）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、国際法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行なえるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。また、紹介した参考文献を図書館で閲覧し、その概要を把握する。（2時間）
2	事前学習	教科書198～199、212～213頁および前回の授業時に配布した資料を熟読し、なぜ戦争に関する考え方が変化していったかについて考察する。（2時間）
	授業内容	【戦争の違法化】古代・中世の正戦論から近世の無差別戦争観、さらに現代の戦争違法観へ至る戦争観の変遷について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、戦争を制限または違法化した条約について説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	教科書199～201頁および配布資料を熟読し、紛争の平和的解決手続にはどのようなものがあるかを考察する。（2時間）
	授業内容	【国際紛争の平和的解決手続(1)：政治的手続①】平和的解決手続のうち政治的手続（非裁判手続）に分類される交渉、周旋、仲介、審査、調停について、関連条約と事例にもとづき学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、日本が当事者となった紛争が政治的手続によって解決された事例を説明できるようにする。（2時間）
4	事前学習	教科書201～202頁および配布資料を熟読し、国際連盟の目的と内部機関、意思決定について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際紛争の平和的解決手続(2)：政治的手続②】国際連盟総会および理事会の紛争解決手続について学習し、それらが適用された紛争について考察する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、満州事変が国際連盟でどのように処理されたかについて説明できるようにする。（2時間）

5	事前学習	教科書201～202頁および配布資料を熟読し、国際連合の目的と内部機関、意思決定について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際紛争の平和的解決手続(3)：非裁判手続③】 国際連合憲章の紛争の平和的解決義務を確認したうえで、紛争解決に関する安全保障理事会、総会および事務総長の活動について学習する。また、米州機構やアフリカ連合等の紛争解決制度についても考察する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、国連安全保障理事会と事務総長が紛争解決に果たす機能について説明できるようにする。（2時間）
6	事前学習	教科書202～204頁および配布資料を熟読し、国際裁判の特質について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際紛争の平和的解決手続(4)：裁判手続①】 国際裁判と国内裁判の差異を理解したうえで、仲裁裁判から常設仲裁裁判所、常設国際司法裁判所、国際司法裁判所に至る国際裁判の発展および国際司法裁判所の構成、裁判準則について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、国際裁判の発展過程について説明できるようにする。（2時間）
7	事前学習	教科書204～208頁および配布資料を熟読し、国際司法裁判所の管轄権について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際紛争の平和的解決手続(5)：裁判手続②】 国際社会における最高の司法機関である国際司法裁判所の裁判官資格と選任手続、特任裁判官制度、管轄権に関する選択条項制度、仮保全措置、再審制度について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、国際司法裁判所の管轄権について説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	教科書99～100頁および関係書籍を熟読し、日本と国際裁判の関係を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際紛争の平和的解決手続(6)：裁判手続③】 日本が国際裁判の当事国となったマリア・ルース号事件（仲裁裁判）、家屋税事件（常設仲裁裁判所）、みなみマグロ事件（仲裁裁判）、南極海調査捕鯨事件（国際司法裁判所）の4権について、事実関係、争点、判決の内容について検討する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、はじめて国際司法裁判所で争われた南極海調査捕鯨事件について説明できるようにする。（2時間）
9	事前学習	講義ノートと配布資料等をもとに、はじめて国際司法裁判所で争われた南極海調査捕鯨事件について説明できるようにする。（2時間）
	授業内容	【国際紛争の強力的解決手続(1)】 戦争が合法とされていた時代の開戦要件と効果について考察し、さらに戦争に至らない復仇と干渉による措置の合法化要件について検討する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、復仇と干渉の事例について説明できるようにする。（2時間）
10	事前学習	配布資料と関連図書を熟読し、自衛権の概念および発動要件について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際紛争の強力的解決手続(2)】 自衛権の一類型である個別的自衛権の概念を理解したうえで、その発動要件を検討し、さらに国連憲章51条の自衛権規定と伝統的な自衛権との関係について検討する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、自衛権と緊急避難との違いおよび日本政府の自衛権発動に関する見解について説明できるようにする。（2時間）
11	事前学習	配布資料を熟読し、集団的自衛権の概念とその法的性質に関する学説について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際紛争の強力的解決手続(3)】 集団的自衛権の概念、成立過程、発動要件について学習し、この権利が問題となったニカラグア事件国際司法裁判所判決について検討する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、日本政府の集団的自衛権に関する公式見解の変遷について説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	教科書213～216頁および配布資料を熟読し、国家がその安全保障する制度にはどのようなものがあるかを考察する。（2時間）
	授業内容	【国際安全保障制度(1)】 第一世界大戦以前の勢力均衡方式と戦後国際連盟ではじめて採用された集団安全保障制度について考察したうえで、国際連盟の集団安全保障制度とその問題点について検討する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、国際連盟に付託された紛争の事実関係と連盟の行動について説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	教科書217～228頁および配布資料を熟読し、安全保障理事会の構成と権限、国連憲章第7章のもとでの行動について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際安全保障制度(2)】 国際連合の集団安全保障制度における安全保障理事会の地位と行動、本制度の問題点、軍事的措置を実施するための国連軍と多国籍軍について考察し、さらに総会の平和維持に関する行動についても考察する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、冷戦中、国連安全保障理事会の決議にもとづいてとられた強制措置について説明できるようにする。（2時間）
14	事前学習	教科書228～233頁および配布資料を熟読し、国連平和維持活動（PKO）とは何か、そしてそれが実施されるに至った経緯について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際連合の平和維持活動(1)】 PKOの定義と種別を理解したうえで、実施経緯、法的根拠および基本原則について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、PKO、国連軍、多国籍軍の相違点とそれぞれの代表的事例について説明できるようにする。（2時間）
15	事前学習	教科書230～233頁および配布資料を熟読し、日本がPKOに参加するに至った経緯とPKO協力法について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際連合の平和維持活動(2)】 冷戦後のPKOの基本原則の変容と派遣上の問題点を理解したうえで、日本のPKO参加と問題点について考察する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、自衛隊のPKO参加にともなう憲法上の問題点およびこれまでに参加したPKOの任務について説明できるようにする。（2時間）

科目名	国際関係法〔公法系〕B I	担当者	河合 利修	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際社会には様々な問題が存在し、当事者が平和的に解決できる問題もあるが、武力紛争に至る問題もある。本講義では、紛争の平和的解決に関する法について講義する。				
授業目的・到達目標	国際的な場で必要な国際法の紛争解決の方法を習得することを目的とする。 国際法に関する基本的な理論およびそれを応用する力を習得することを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 6				
履修条件	国際法Iを履修していることが望ましい。				
授業方法	教科書にもとづいて講義する。小テストでフィードバックを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		60%	問題に対して、事例、判例、学説などを適宜引用しながら、的確に答えているかを特に重視する。	
	平常評価		40%	小テストで評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2018	弘文堂	NEXTシリーズ国際法（第3版）		渡部茂己・喜多義人
	2019	有斐閣	国際条約集2019		岩沢雄司
	備考				
参考書	授業で適宜紹介する。				
オフィスアワー	月曜日13時00分―14時30分（事前にメールでアポイントメントを取ること）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	世界で発生している戦争について調べてみる。（2時間）
	授業内容	はじめに：講義の進め方、成績評価などの説明
	事後学習	授業で紹介された参考書等を確認しておく。（2時間）
2	事前学習	教科書の該当部分（第14章198頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	戦争の違法化
	事後学習	戦争の違法化についての授業の内容を復習する。（2時間）
3	事前学習	教科書の該当部分（第3章39頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	自衛権
	事後学習	自衛権についての授業の内容を復習する。（2時間）
4	事前学習	教科書の該当部分（第14章199―202頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際紛争の平和的解決①：非裁判的手続き
	事後学習	非裁判的手続きについての授業の内容を復習する。（2時間）

5	事前学習	教科書の該当部分（第14章202－208頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際紛争の平和的解決②：裁判手続
	事後学習	裁判手続についての授業の内容を復習する。（2時間）
6	事前学習	教科書の該当部分（第7章99－100頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際紛争の平和的解決③：我が国と国際司法裁判所
	事後学習	我が国と国際司法裁判所についての授業の内容を復習する。（2時間）
7	事前学習	教科書の該当部分（第15章212-214頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際安全保障①：正戦論から集団安全保障へ
	事後学習	正戦論から集団安全保障までについての授業の内容を復習する。（2時間）
8	事前学習	教科書の該当部分（第15章214－216頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際安全保障②：国際連盟と国際連合の安全保障
	事後学習	国際連盟と国際連合の安全保障についての授業の内容を復習する。（2時間）
9	事前学習	教科書の該当部分（第15章217－228頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際安全保障③：国際連合の集団安全保障制度の変遷
	事後学習	国際連合の集団安全保障制度の変遷についての授業の内容を復習する。（2時間）
10	事前学習	教科書の該当部分（第15章228－233頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国連平和維持活動（PKO）の発生から冷戦終結まで
	事後学習	国連平和維持活動（PKO）の発生から冷戦終結までについての授業の内容を復習する。（2時間）
11	事前学習	教科書の該当部分（第15章233－237頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	軍備管理と軍縮
	事後学習	軍備管理と軍縮についての授業の内容を復習する。（2時間）
12	事前学習	教科書の該当部分（第16章240－245頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際人道法①：歴史と基本的事項
	事後学習	国際人道法の歴史と基本的事項についての授業の内容を復習する。（2時間）
13	事前学習	教科書の該当部分（第16章245－247頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際人道法②：諸原則
	事後学習	国際人道法の諸原則についての授業の内容を復習する。（2時間）
14	事前学習	教科書の該当部分（第16章243頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際人道法③：適用範囲
	事後学習	国際人道法の適用範囲についての授業の内容を復習する。（2時間）
15	事前学習	前期に行った授業の内容を確認する。（2時間）
	授業内容	前期まとめ
	事後学習	前記の授業の内容を復習する。（2時間）

科目名	国際関係法〔公法系〕BⅡ	担当者	喜多 義人	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義では、国際紛争の解決手続、国際安全保障および国際人道法に関する理解を深化める。まず、戦争違法化の過程を概観したうえで、国際紛争の平和的解決手続と強力的解決手続、国際連盟と国際連合の集団安全保障制度について解説する。また、武力紛争の被害軽減を目的とする国際人道法の基本原則、内戦への適用、害敵手段の規制、捕虜・傷病者・文民の保護、人道法の履行確保制度などについて解説する。				
授業目的・到達目標	国際紛争の解決手続、平和維持の制度、武力紛争法に関する知識の修得を目的とする。まず、国際紛争の解決手続および集団安全保障制度のもとでの国際連合の行動について理解することにより、平和を実現するための諸制度を説明することができる。さらに、国際人道法に関する理解の深化により、戦争犠牲者すなわち捕虜の資格と権利義務、傷病兵と文民に関する諸原則、害敵手段、大量破壊兵器や通常兵器の規制について説明できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 6				
履修条件	なし。国際関係法[公法系]B Iを履修していることが望ましい。				
授業方法	教科書にもとづき、講義形式で行なう。必要に応じて補足資料を配布する。指定の条約集を持参することが望ましい。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで行なう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	講義で解説した基本事項が理解できているかを判定する。答案の構成、条約や判例、学説への言及、文章表現などを総合的に評価する。	
	平常評価		20%	後学期の中間にレポートを課す。レポートはコメントを付して返却する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018年	弘文堂		『国際法[第3版]』（Next教科書シリーズ）	渡部茂己・喜多義人編
					岩沢雄司編集代表
	備考				
参考書	岩沢雄司編集代表『国際条約集2019』（有斐閣）、藤田久一『国連法』（有斐閣）、藤田久一『国際人道法[改訂増補]』（有信堂）				
オフィスアワー	水曜日18：00～19：00、木曜日10：30～11：30（メールか電話で予約すること）。研究室本館7階1709号室（kita.yoshito@nihon-u.ac.jp、03-5275-8602）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書240～242頁および配布資料を熟読し、国際人道法の目的と基本原則について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際人道法の歴史と分類】戦争の残虐化を防止し、戦争犠牲者を保護するための法規範が形成され、発展していく過程を考察するとともに、内容により分類される人道法それぞれの性質について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、jus ad bellumとjus in bello、ハーグ法とジュネーブ法という人道法の分類において、それぞれの性質と関連条約について説明できるようにする。（2時間）
2	事前学習	教科書242～244頁および配布資料を熟読し、戦争被害を軽減・極小化するために採択された条約について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際人道法の法典化、適用範囲】国際慣習法の形式で発展してきた人道法の法典化について考察したうえで、人道法の物的および時間的適用範囲について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、人道法の法典化のための開催された国際会議とその成果について説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	教科書245～248頁および配布資料を熟読し、人道法の基本原則は何かについて考察する。（2時間）
	授業内容	【国際人道法の基本原則】人道法の主要な基本原則である目標区別原則（軍事目標主義）、不必要な苦痛を与える兵器の禁止原則、均衡性の原則について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、軍事目標主義に違反する行動（戦術）について説明できるようにする。（2時間）

4	事前学習	配布資料と関連図書を熟読し、日本による人道法の受容と実践について考察する。（2時間）
	授業内容	【日本による国際人道法の実践(1)】 幕末から明治中期にかけての人道法の受容と日清戦争、日露戦争での実践について考察するとともに、大正期にヨーロッパの国家との戦争では人道法を遵守し、中国に対しては遵守しないという二重の基準が生じた原因について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、日本が日清、日露戦争で国際人道法を遵守するためにとった措置について説明できるようにする。（2時間）
5	事前学習	配布資料と関連図書を熟読し、なぜ日本が昭和期には人道法を軽視するようになったかについて考察する。（2時間）
	授業内容	【日本による国際人道法の実践(2)】 満州事変、支那事変および太平洋戦争における日本政府と軍部の国際法認識について考察するとともに、昭和期の戦争で違法行為が多発した原因について検討する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、太平洋戦争で日本が国際人道法に違反した主要事例とその原因について説明できるようにする。（2時間）
6	事前学習	配布資料と関連図書を熟読し、なぜ内戦への人道法の適用が必要か、また適用する際の問題点について考察する。（2時間）
	授業内容	【内戦と国際人道法】 内戦に人道法を適用する手続としての交戦団体の承認について考察したうえで、ジュネーブ諸条約共通第3条と同条約第2追加議定書によって適用される戦争犠牲者保護規定について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、内戦に国際人道法を適用する意義と主要事例について説明できるようにする。（2時間）
7	事前学習	教科書234～235、248～249頁および配布資料を熟読し、核兵器の製造や使用、実験を規制する条約について考察する。（2時間）
	授業内容	【害敵手段の規制(1)】 核兵器使用に関する学説の対立、国連総会での議論を理解したうえで、核兵器を違法とする法的信念が確立しているかについて検討し、さらに核実験禁止条約と非核兵器地帯について学習する。
	事後学習	講義ノートと関連図書をもとに、2017年7月に国連総会で採択された核兵器禁止条約について説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	教科書235～236、248～249頁および配布資料を熟読し、化学兵器や生物兵器を規制する条約について考察する。（2時間）
	授業内容	【害敵手段の規制(2)】 化学兵器および生物兵器の規制の歴史を概観したうえで、化学兵器禁止条約(1993年)と生物毒素兵器禁止条約(1972年)について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、化学兵器禁止条約の構造と履行確保制度について説明できるようにする。（2時間）
9	事前学習	教科書248頁および配布資料を熟読し、特定通常兵器それぞれの特徴と関連条約について考察する。（2時間）
	授業内容	【害敵手段の規制(3)】 対人地雷、焼夷兵器、レーザー兵器、クラスター爆弾等の特定通常兵器の規制について学習するとともに、どのような行為が背信行為にあたるかについても考察する。
	事後学習	関連図書をもとに、対人地雷禁止条約の採択に貢献したNGOの活動について説明できるようにする。（2時間）
10	事前学習	教科書252頁および配布資料を熟読し、捕虜に関する条約について考察する。（2時間）
	授業内容	【戦争犠牲者の保護(1)】 敵に捕えられたときに捕虜となりうる資格と捕虜の権利義務、捕獲国の義務について考察するとともに、テロリストの捕虜資格について検討する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、捕虜資格の変遷とテロリストの地位について説明できるようにする。（2時間）
11	事前学習	教科書251～253頁および関連図書を熟読し、1864年に負傷者救護に関するジュネーブが採択された背景と、日本が1886年に加盟した理由について考察する。（2時間）
	授業内容	【戦争犠牲者の保護(2)】 ジュネーブ条約の基本原則と交戦国の義務について考察するとともに、最初で唯一の文民保護条約である1949年のジュネーブ第4条約について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、ジュネーブ条約の発展について説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	教科書253～255頁および配布資料を熟読し、人道法の履行を確保するための国際法制度について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際人道法の履行確保(1)】 交戦相手国に人道法の遵守を強制するための復讐のほか、ジュネーブ諸条約および第2追加議定書が定める利益保護国制度、事実調査制度、国際人道法の教育普及義務について学習する。
	事後学習	講義ノートと関連図書をもとに、上記諸制度の具体例について説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	教科書255～257頁および配布資料を熟読し、戦争犯罪裁判所の設立根拠と活動について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際人道法の履行確保(2)】 戦争犯罪の概念と処罰制度の発展について考察したうえで、第二次大戦後のニュルンベルク裁判と東京裁判、冷戦後の旧ユーゴとルワンダの国際裁判所、さらに国際刑事裁判所の組織構造、対象犯罪、訴訟手続、実績等について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、東京裁判とBC級戦犯裁判の法的根拠、訴訟手続、問題点について説明できるようにする。（2時間）
14	事前学習	配布資料を熟読し、戦争賠償と戦後補償の違い、日本の裁判所に提訴された太平洋戦争中の違法行為に関する損害賠償事件について考察する。（2時間）
	授業内容	【日本の戦争責任と戦後補償】 戦争責任とは何かを検討したうえで、日本が戦争中のどのような行為に対して責任を問われ、賠償を請求されているのかについて考察するとともに、日本がこれまでに行った賠償と補償について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに、日本が戦後、連合国やアジア諸国に対して行った金銭賠償、役務提供などについて説明できるようにする。（2時間）

15	事前学習	教科書233～234頁および配布資料を熟読し，軍縮と軍備管理の流れについて考察する。（2時間）
	授業内容	【軍縮と軍備管理】 軍縮・軍備管理の概念と軍縮の歴史について考察したうえで，二国間および他国間の軍縮条約と軍備管理条約，さらに軍縮に関する国際機関について学習する。
	事後学習	講義ノートと配布資料等をもとに，国連軍縮委員会の組織構造，活動および成果について説明できるようにする。（2時間）

科目名	国際関係法〔公法系〕BⅡ	担当者	河合 利修	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際社会には様々な問題が存在し、当事者が平和的に解決できる問題もあるが、武力紛争に至る問題もある。本講義では、武力紛争に関する法について講義する。			
授業目的・到達目標	国際的な場で必要な武力紛争に関する法を習得することを目的とする。 国際法に関する基本的な理論およびそれを応用する力を習得することを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 6			
履修条件	国際法Iを履修していることが望ましい。			
授業方法	教科書にもとづいて講義する。小テストでフィードバックを行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	60%	問題に対して、事例、判例、学説などを適宜引用しながら、的確に答えているかを特に重視する。	
	平常評価	40%	小テストで評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	弘文堂	N E X Tシリーズ国際法（第3版）	渡部茂己・喜多義人
	2019	有斐閣	国際条約集2019	岩沢雄司
	備考			
参考書	授業で適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜日13時00分—14時30分（事前にメールでアポイントメントを取る）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前記の授業をもう一回復習する。（2時間）
	授業内容	後期授業の説明
	事後学習	授業で紹介された参考書等を確認する。（2時間）
2	事前学習	教科書の該当部分（第16章251頁の陸戦の部分）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	ジュネーブ諸条約①：陸戦における傷病者の保護
	事後学習	陸戦における傷病者の保護についての授業の内容を復習する。（2時間）
3	事前学習	教科書の該当部分（第16章251頁の海戦の部分）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	ジュネーブ諸条約②：海戦における傷病者の保護
	事後学習	海戦における傷病者の保護についての授業の内容を復習する。（2時間）
4	事前学習	教科書の該当部分（第16章252頁B）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	ジュネーブ諸条約③：捕虜の保護
	事後学習	捕虜の保護についての授業の内容を復習する。（2時間）

5	事前学習	教科書の該当部分（第16章253頁C）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	ジュネーブ諸条約④：文民の保護
	事後学習	文民の保護についての授業の内容を復習する。（2時間）
6	事前学習	教科書の該当部分（第16章251頁赤十字標章の部分）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	ジュネーブ諸条約⑤：赤十字の活動と赤十字標章
	事後学習	赤十字の活動と赤十字標章についての授業の内容を復習する。（2時間）
7	事前学習	教科書の該当部分（第16章242-243頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	ハーグ諸条約：戦闘手段の制限・禁止
	事後学習	戦闘手段の制限・禁止についての授業の内容を復習する。（2時間）
8	事前学習	教科書の該当部分（第16章248頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	兵器の使用規制・禁止①：通常兵器と生物・化学兵器
	事後学習	通常兵器と生物・化学兵器についての授業の内容を復習する。（2時間）
9	事前学習	教科書の該当部分（第16章249頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	兵器の使用規制・禁止②：核兵器
	事後学習	核兵器についての授業の内容を復習する。（2時間）
10	事前学習	教科書の該当部分（第16章253－255頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際人道法の履行確保：普及、利益保護国、人道的団体
	事後学習	普及、利益保護国、人道的団体についての授業の内容を復習する。（2時間）
11	事前学習	教科書の該当部分（第16章255頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際人道法の履行確保：重大な違反行為の処罰
	事後学習	重大な違反行為の処罰についての授業の内容を復習する。（2時間）
12	事前学習	教科書の該当部分（第16章256頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	重大な違反行為の処罰のための取組み：国内裁判と国際裁判
	事後学習	重大な違反行為の処罰のための取組みとしての国内裁判と国際裁判についての授業の内容を復習する。（2時間）
13	事前学習	教科書の該当部分（第16章256－257頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際刑事裁判所
	事後学習	国際刑事裁判所についての授業の内容を復習する。（2時間）
14	事前学習	教科書の該当部分（第16章249－250頁）を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際人道法の将来：サイバー攻撃とロボット兵器
	事後学習	サイバー攻撃とロボット兵器についての授業の内容を復習する。（2時間）
15	事前学習	後期の授業の内容を確認する。（2時間）
	授業内容	後期まとめ
	事後学習	後期の授業の内容を総復習する。（2時間）

科目名	国際関係法〔私法系〕A I	担当者	中村 進	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	国際私法と国際民事訴訟法、及び国際取引法の一部を学習するのが国際関係法〔私法系〕A及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕A」では、国際契約や国際的不法行為、国際結婚・離婚等の国際的な私的生活関係に適用される法（=準拠法）を決定する法律である国際私法を授業の対象とする。「国際関係法〔私法系〕A」のⅠでは、国際私法の必要性和基礎理論、及び「法の適用に関する通則法」（以下、通則法）の総則規定について学習する。				
授業目的・到達目標	「国際関係法〔私法系〕」の学習するするために必要となる国際私法の基本的な構造と通則法の総則規定の理解と、その実際上の適用の仕方の修得を目的とする。より具体的には、国際私法が国際的な契約や不法行為、国際的な結婚・離婚等に関する紛争が発生した場合に、どの様にしてその紛争の準拠法を選択し、私的な紛争の解決を図っているかについて理解し説明できること、また、国際私法が国際民事訴訟法や国際取引法とどの様に結び付いているのかを理解し説明できることを目標とする。関連DP及びCP:法律学科1,6 経営法学科：1,2,3,5,6				
履修条件	特になし。				
授業方法	教科書に沿って講義するが、必要に応じて講義に関連する資料を配布する。講義の一部は、パワーポイントを使用する。理解度ををはかるために授業内で行う小テストの講評・解説は、次の授業内で行う。六法を必ず持参すること。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内容の理解度を図るために、重要概念が習得されているかを判定する小テストを2回行う。その成績に、授業への参加度と質疑応答の際の貢献度を加味して平常評価を行う。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2012年	有斐閣		『国際私法（第6版）』（有斐閣Sシリーズ）	櫻田嘉章
	備考				
参考書	『国際私法判例百選[第2版]』（別冊ジュリスト）：有斐閣				
オフィスアワー	金曜日16:20~17:50（休暇中を除く。事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館2階206号）nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書やその他の国際私法のテキストを読み、国際私法がどのような役割を果たしている法律であるかについて調べる。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス】「国際関係法〔私法系〕」の中心となる国際私法の全体像と国際民事訴訟法や国際取引法との関連性について解説する。また、授業のテーマや内容、授業のスケジュール、成績評価の方法を説明し、参考文献の紹介を行う。それによって、受講生が授業の準備をできるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。また、国際私法と国際民事訴訟法・国際取引法との関連性について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
2	事前学習	教科書第1章の「国際私法の必要性」を読み、なぜ国際私法が必要とされているかについて考察する。（2時間）
	授業内容	【国際私法の必要性】 国際私法は、なぜ必要とされているか、またどのような理念に基づいて国境を越えて発生する私的紛争の解決を図っているかについて学習し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、なぜ世界中で国際私法という法律が必要とされているかについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書第2章の「国際私法の基礎的観念」読み、国際私法の基礎的観念についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際私法の基礎的観念】 国際私法の基礎的観念として、国際私法の定義、目的と方法、基本的用語について学習し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際私法の基礎的観念とその目的と規律方法、基本的用語について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
4	事前学習	教科書第3章の「国際私法の法的性質と機能」・第4章の「隣接法分野」を読み、国際私法の法的性質と機能についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際私法の法的性質・機能と隣接法分野】 国際私法の法的性質と機能を明らかにするとともに、国際私法の隣接法分野を知ることによって、国際私法がどのような法的性質と機能を持つ法律であるかについて学習し、説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際私法の法的性質と機能、及び国際私法と隣接法分野との結びつきについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）

5	事前学習	教科書第5章の「国際私法の沿革」を読み、国際私法の歴史的発展について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際私法の沿革】 国際私法が歴史的にどの様にして発生し、どの様に発達してきたか、そしてそれが現在のサヴィニの一国際私法体系にどの様につながっているかについて学習し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、現代の国際私法体系が歴史的にどの様に形成されてきたかについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書第6章の「法源」を読み、現在の国際私法がどの様な法律から構成されているかについて考察する。（2時間）
	授業内容	【国際私法の法源】 国際私法の主たる法源は通則法であるが、それ以外にも条約や他の国内法上の諸規定から国際私法が形成されてることを学習し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際私法の法源を成す条約と国内諸法の関係性について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書第7章の「法律関係の性質決定」を読み、性質決定の問題についての大枠を考察する。また、第1回～第6回の授業内で学習したことを教科書と講義ノートで確認し小テストに備える。（2時間）
	授業内容	【法律関係の性質決定】【小テスト】 国際私法規則の適用の過程で最初に問題となる「法律関係の法律決定」の問題について学習し、受講生が説明できるようにする。また、授業の後半で、第1回～第6回の授業の内容の理解度ををはかるための小テストを実施する。
	事後学習	講義ノートを確認して、法律関係の性質決定の問題について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された法律関係の性質決定に関する課題に取り組む。（2時間）
8	事前学習	教科書第8章の「連結点の確定」を読み、国際私法規則における連結点の役割についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【小テストの講評・解説】【連結点の確定】 前回の小テストの講評と解説を行う。準拠法の決定過程における連結点の確定について、連結点の中心をなす国籍、常居所を中心に学習し、受講生が説明できるようにする。また、法律回避の問題についても学習する。さらに、前回出された法律関係の性質決定に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、連結点について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された連結点の確定に関する課題に取り組む。さらに、小テストの講評・解説を受けて、教科書と講義ノートで小テストの答え合わせをする。（2時間）
9	事前学習	教科書第9章の「準拠法の指定」を読み、準拠法の指定をめぐる諸問題についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【準拠法の指定】 準拠法として指定された当事者の本国（国籍国）が地域的にまたは人的に不統一な国である場合の処理について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された連結点の確定に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、準拠法の指定をめぐる諸問題について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された準拠法の指定に関する課題に取り組む。（2時間）
10	事前学習	教科書第10章の「反致」を読み、反致のシステムについての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【反致】 反致とは何か、また準拠法決定において反致がどのような意味を有するかについて学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された準拠法の指定に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、反致について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された反致に関する課題に取り組む。（2時間）
11	事前学習	教科書第11章の「外国法の適用」を読み、外国法の適用の過程において発生する問題について考察する。（2時間）
	授業内容	【外国法の適用】 準拠法として外国法を適用することの意味、指定された外国の法規に欠陥や内容の不明があった場合の処理について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された反致に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、外国法の適用について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された外国法の適用に関する課題に取り組む。（2時間）
12	事前学習	教科書第12章の「公序」を読み、国際私法上の公序についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際私法上の公序】 準拠法として指定された外国法の適用がわが国の公序に反する場合に発動される公序則について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された外国法の適用に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際私法上の公序について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された公序に関する課題に取り組む。（2時間）
13	事前学習	教科書第13章の「先決問題と適応問題」を読み、先決問題と適応問題についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【先決問題と適応問題】 国際私法独自の問題である先決問題と適応問題について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された公序に関する課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、先決問題と適応問題について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された先決問題と適応問題に関する課題に取り組む。（2時間）
14	事前学習	教科書第14章の「自然人」を読み、自然人に関する国際私法規定についての大枠を考察する。また、第7回～第13回の授業内で学習した国際私法の総則上の基本的諸問題について教科書と講義ノートで確認し小テストに備える。（2時間）
	授業内容	【自然人】【小テスト】 自然人の権利能力、失踪宣告、行為能力、後見等の開始の審判の準拠法（国際裁判管轄権を含む）について学習し、説明できるようにする。授業の後半で、第7回～第13回までの講義内容の理解度ををはかるための小テストを実施する。また、前回出された先決問題と適応問題に関する課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、自然人の関する国際私法規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された「自然人の権利能力」に関する課題に取り組む。さらに、教科書と講義ノートで小テストの答え合わせをする。（2時間）

15	事前学習	前期の授業全体の内容を教科書と講義ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。（2時間）
	授業内容	【小テストの講評・解説】【質疑応答】 前回の小テストの講評と解説を行う。また、前期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。さらに、前回出された自然人の権利能力に関する課題の解説を行う。
	事後学習	小テストの講評・解説を受けて、教科書と講義ノートで小テストの答え合わせを行う。また、前期の授業全体の内容の見直しを行う。（2時間）

科目名	国際関係法〔私法系〕AⅡ	担当者	中村 進	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	国際私法、国際民事訴訟法、更に国際取引法の一部を学習するのが国際関係法〔私法系〕A及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕A」は、国際契約、国際的不法行為、国際結婚・離婚といった国際的な私的生活関係に適用される法（＝準拠法）を選択する法律である国際私法を中心に学習する。「国際関係法〔私法系〕A」のⅡでは、契約、不法行為、婚姻・離婚、親子関係、相続等の個々の法律関係に適用される準拠法に関する国際私法規定を学習する。					
授業目的・到達目標	国際私法の基本的な構造や主要な規定の内容の理解と、その実際の場面での適用の仕方の修得を目的とする。より具体的には、国際的な契約や不法行為、国際的な結婚・離婚等に関する紛争が発生した場合に、国際私法がどの様にしてその紛争の準拠法を選択し、解決を図っているかについて理解し、説明できることを目標とする。関連DP及びCP:法律学科1, 6 経営法学科：1, 2, 3, 5, 6					
履修条件	「国際関係法〔私法系〕AⅡ」では、同科目の「AⅠ」の学習を終了していることを前提として講義が行われるため、「AⅠ」の履修の経験者であることを履修条件とする。ただし、単位の修得に至ってなくても良い。					
授業方法	教科書に沿って講義を行うが、適宜資料等を配布する。六法を必ず持参すること。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		80%		筆記試験を行う。試験は、国際私法と国際民事訴訟法の重要概念の習得と主要規定についての理解度を判定する。	
	平常評価		20%		授業への参加度と質疑応答の際の貢献度を加味して平常評価とする。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2012年度	有斐閣		『国際私法（第6版）』（有斐閣Sシリーズ）		櫻田嘉章
	備考					
参考書	『国際私法判例百選[第2版]』（別冊ジュリスト）：有斐閣					
オフィスアワー	金曜日16:20～17:50（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館2階206号）nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書第15章の「法人」を読み、法人に関する国際私法上の規定を考察する。（2時間）
	授業内容	【法人】 法人の権利能力の準拠法の決定について、及び外国会社のわが国における権利能力の享有に関する民法等の諸規定について学習し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、法人に関する国際私法規定と外国会社の権利義務について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された法人の権利能力に関する課題に取り組む。（2時間）
2	事前学習	教科書第16章の「法律行為」を読み、法律行為の実質と方式に関する国際私法規定についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【法律行為】 法律行為全般に関する問題のうち、代理を中心とする法律行為の方式の準拠法の決定を中心に学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された法人の権利能力に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、法律行為に関する国際私法規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された法律行為に関する課題に取り組む。（2時間）
3	事前学習	教科書第17章の「物権法」を読み、物権に関する国際私法規定を考察する。（2時間）
	授業内容	【物権法】 物権の準拠法について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された法律行為に関する課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、物権に関する国際私法規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された物権に関する課題に取り組む。（2時間）
4	事前学習	教科書第18章の「債権法」Ⅰの1・2を読み、契約債権に関する当事者自治の原則を考察する。（2時間）
	授業内容	【契約(1)】 契約の準拠法につき、特に「当事者自治の原則」とその制限論について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された物権に関する課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、「当事者自治の原則」に関する議論について自分なりの説明をまとめる。（2時間）

5	事前学習	教科書第18章の「債権法」Ⅰの2・3を読み、契約債権に関する国際私法規定についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【契約(2)】 当事者による準拠法選択がない場合の契約準拠法、及び消費者契約及び労働契約の準拠法について学習し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、準拠法選択がない場合の契約準拠法、消費者契約及び労働契約に関する国際私法規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された契約債権に関する課題に取り組む。（2時間）
6	事前学習	教科書第18章の「債権法」Ⅱ・Ⅲを読み、法定債権に関する国際私法規定の大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【法定債権】 不法行為を中心とした法定債権の準拠法について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された契約債権に関する課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、法定債権に関する国際私法規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された法定債権に関する課題に取り組む。（2時間）
7	事前学習	教科書第19章の「婚姻」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを読み、婚姻の成立に関する国際私法規定についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【婚姻の成立】 婚姻の実質的成立要件と形式的成立要件（方式）の準拠法について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された法定債権に関する課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、婚姻の成立に関する国際私法規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された婚姻の成立に関する課題に取り組む。（2時間）
8	事前学習	教科書第19章の「婚姻」Ⅴ・Ⅵを読み、婚姻の効力に関する国際私法規定についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【婚姻の効力】 婚姻の身分的効力及び財産的効力（夫婦財産制）の準拠法について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された婚姻の成立に関する課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、婚姻の効力に関する国際私法規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された婚姻の効力に関する課題に取り組む。（2時間）
9	事前学習	教科書第19章の「婚姻」Ⅶ・Ⅷを読み、離婚の準拠法に関する国際私法規定についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【離婚】 離婚の国際裁判管轄権、離婚の準拠法、及び婚約と内縁の準拠法について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された婚姻の効力に関する課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、離婚の国際裁判管轄と準拠法に関する国際私法規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された離婚に関する課題に取り組む。（2時間）
10	事前学習	教科書第20章の「親子関係」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴを読み、実親子関係の成立に関する国際私法規定についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【実親子関係】 実親子関係の成立の準拠法について、嫡出親子関係と嫡出でない子の親子関係に分けて学習し、受講生が説明できるようにする。また、準正の準拠法についても学習する。さらに、前回出された離婚に関する課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、実親子関係の成立に関する国際私法規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された実親子関係に関する課題に取り組む。（2時間）
11	事前学習	教科書第20章の「親子関係」Ⅵ・Ⅶを読み、養親子関係に関する国際私法規定についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【養親子関係】 養親子関係の実質的成立要件、離縁の準拠法について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された実親子関係に関する課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、養親子に関する国際私法規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された養親子関係に関する課題に取り組む。（2時間）
12	事前学習	教科書第21章の「親族関係」・第22章の「扶養義務」・23章の「後見・保佐」を読み、それぞれの国際私法規定についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【親族関係・扶養義務・後見・保佐】 親族関係、扶養義務、後見・保佐の準拠法について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された養親子に関する課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、親族関係と扶養義務及び後見・保佐に関する国際私法規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された親族関係、扶養義務及び後見・保佐に関する課題に取り組む。（2時間）
13	事前学習	教科書第24章の「相続」・第25章の「遺言」を読み、相続と遺言に関する国際私法規定についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【相続・遺言】 相続、遺言の準拠法、及び「遺言の方式の準拠法に関する法律」の主要規定について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された親族関係、扶養義務、後見・保佐に関する課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、相続と遺言に関する国際私法規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された相続及び遺言に関する課題に取り組む。（2時間）
14	事前学習	教科書第26章の「国際民事訴訟法」を読み、国際裁判管轄と外国判決の承認・執行について考察する。（2時間）
	授業内容	【国際民事訴訟法】 国際裁判管轄権、外国判決の承認・執行等の国際民事訴訟法上の諸問題について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された相続と遺言に関する課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際裁判管轄と外国判決の承認・執行に関する民事訴訟法上の規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された国際裁判管轄及び外国判決の承認・執行に関する課題に取り組む。（2時間）
15	事前学習	後期の授業全体の内容を教科書と講義ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。（2時間）
	授業内容	前回出された国際裁判管轄と外国判決の承認・執行に関する課題の解説を行う。また、後期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。
	事後学習	教科書と講義ノートで、後期の授業全体の内容を見直し、学期末試験に向けて準備をする。（2時間）

科目名	国際関係法〔私法系〕BⅠ	担当者	中村 進	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際私法、国際民事手続法、更に国際取引法の一部を学習するのが「国際関係法〔私法系〕」のA及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕B」は、Aの講義で学んだ国際私法の実際的な適用過程を学習するとともに、国際民事手続法の主要規定と国際取引法における主要な条約・法律の内容について講ずる。「BⅠ」では、特に、国際私法を復習しながら、実際的な適用過程や問題点を学習する。			
授業目的・到達目標	国際私法の主要な法源である「法の適用に関する通則法」（以下、通則法）の主要な規定の実際上の適用過程について修得することを目的とする。 国際的な契約や不法行為、国際的な婚姻・離婚などに関する私的法律関係に適用される法（＝準拠法）が、どのような決定過程を経て選定されるかについて理解し、説明できることを到達目標とする。関連DP及びCP：法律学科1,6 経営法学科：1,2,3,5,6			
履修条件	「国際関係法〔私法系〕A」の学習を終了していること前提として講義が行われるため、同科目の履修を既に終えていること。ただし、単位の修得には至ってなくても良い。「BⅠ」と「AⅠ」の同一学期内の同時履修も認めない。			
授業方法	教科書に沿って講義を行うが、適宜資料等を配布する。パワーポイントを使用して講義を行うことがある。六法を必ず持参すること。理解度をはかるために授業内で行う小テストの講評・解説は、次の授業内で行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業の理解度をはかるため、2回程度の授業内小試験を行う。また、講義への参加度と質疑応答の際の授業への貢献度も加味して平常評価とする。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2012年	有斐閣	『国際関係私法入門（第3版）』	松岡博編
	備考			
参考書	必要に応じてパワー・ポイントを使用して講義を行うので、それを参考資料として利用すること。			
オフィスアワー	金曜日16:20～17:50（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館2階206号）nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	国際私法、国際民事手続法（国際民事訴訟法）、国際取引法がどのような役割を果たしている法律であるかについて調べる。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス】 国際私法・国際民事手続法・国際取引法の概要について学習し、受講生が説明できるようにする。また、授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。それによって、受講生が授業の準備を行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の相互関連性について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
2	事前学習	教科書第1章の「国際関係私法の学び方」を読み、国際関係私法とは何か、及びその学び方についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際関係私法の学び方】 国際関係私法とは何か、またそれを構成する国際私法、国際民事手続法及び国際取引法はどのような役割を持つ法分野かについて学習し、受講生が説明できるようにする。また、それらの学び方についても学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の学び方について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書第2章の「法選択規則」を読み、法選択規則の構造と規律方法を考察する。（2時間）
	授業内容	【法選択規則】 国際的私的紛争に適用される準拠法を選択する法である法選択規則の目的とその実現方法について学習し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、法選択規則としての国際私法の役割と規律の方法について自分なりの説明をまとめる。（2時間）

4	事前学習	教科書第3章の「準拠法の決定」を読み、準拠法の決定をめぐる諸問題についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【準拠法の決定】 準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する様々な問題のうち、法律関係の性質決定、連結点、不統一法国及び反致について学習し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する諸問題、特に法律関係の性質決定、不統一法国家の指定、反致の問題に対する国際私法規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された性質決定・連結点・反致に関する課題に取り組む。（2時間）
5	事前学習	教科書第4章の「外国法の適用」を読み、外国法の適用の過程で発生する諸問題についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【外国法の適用】 準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する様々な問題のうち、外国法の適用、公序、先決問題、適応問題について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された性質決定・連結点・反致に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する諸問題、特に外国法の適用、公序、先決問題、適応問題に対する国際私法の解決方法について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された公序・先決問題・適応問題に関する課題に取り組む。（2時間）
6	事前学習	教科書第5章の「人・法人」を読み、人・法人に関する抵触規則についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【人・法人】 人・法人に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された公序・先決問題・適応問題に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、通則法及びその他の法律中の人・法人に関する抵触規則について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された人・法人に関する課題に取り組む。（2時間）
7	事前学習	教科書第6章の「契約」を読み、契約に関する抵触規則についての大枠を考察する。また、第1回～第6回の授業内で学習したことを教科書と講義ノートで確認し、小テストに備える。（2時間）
	授業内容	【契約】【小テスト】 契約に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学習し、受講生が説明できるようにする。また、授業の後半で、第1回～第6回の授業内容の理解度ををはかるための小テストを実施する。さらに、前回出された人・法人に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、通則法中の契約に関する規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された契約に関する課題に取り組む。（2時間）
8	事前学習	教科書第7章の「不法行為・事務管理・不当利得」を読み、法定債権に関する抵触規則についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【小テストの講評・解説】【不法行為・事務管理・不当利得】 前回の小テストの講評と解説を行う。不法行為・事務管理・不当利得に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された契約に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、通則法中の不法行為・事務管理・不当利得に関する規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された不法行為に関する課題に取り組む。さらに、小テストの講評・解説を受けて、教科書と講義ノートで小テストの答え合わせをする。（2時間）
9	事前学習	教科書第8章の「債権債務関係」を読み、債権債務関係の諸問題に関する抵触規則についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【債権債務関係】 債権債務関係（金銭債権、債権の対外的効力、債権の消滅等）の準拠法の適用について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された不法行為に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、債権債務関係の準拠法の適用について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された債権債務関係に関する課題に取り組む。（2時間）
10	事前学習	教科書第9の「物権・知的財産」と第10章の「家族法の基本原則」を読み、物権・知的財産の抵触規則と国際家族法の基本理念や総論上の諸問題についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【物権・知的財産・家族関係の基本原則】 物権・知的財産に関する通則法の規定と国際私法の家族関係規定の基本原則について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された債権債務に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、通則法中の物権・知的財産に関する規定と国際私法の家族関係法の基本原則について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された物権・知的財産に関する課題に取り組む。（2時間）
11	事前学習	教科書第11章の「婚姻・離婚」を読み、婚姻・離婚に関する抵触規則についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【婚姻・離婚】 婚姻・離婚に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された物権・知的財産に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、通則法中の婚姻の成立・効力及び離婚に関する規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された婚姻・離婚に関する課題に取り組む。（2時間）
12	事前学習	教科書第12章の「親子」を読み、親子関係の成立に関する抵触規則についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【親子】 親子関係の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された婚姻・離婚に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、通則法中の親子関係に関する規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された親子関係についての課題に取り組む。（2時間）
13	事前学習	教科書第13章の「親族関係の諸問題」を読み、親族関係に関する抵触規則についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【親族関係の諸問題】 親族関係の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された親子関係についての課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、通則法中の親族関係に関する規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された親族関係について課題に取り組む。（2時間）

14	事前学習	教科書第14章の「相続・遺言」を読み、相続・遺言に関する抵触規則についての大枠を考察する。また、第7回～第13回の授業内で学習した国際私法上の主要規定について教科書と講義ノートで確認し、小テストに備える。（2時間）
	授業内容	【相続・遺言】【小テスト】 相続・遺言の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学習し、受講生が説明できるようにする。また、授業の後半で、第7～13回の授業の内容の理解度をはかるための小テストを実施する。さらに、前回出された親族関係についての課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、通則法中の相続及び遺言に関する規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された相続・遺言に関する課題に取り組む。（2時間）
15	事前学習	前期の授業全体の内容を教科書と講義ノートを確認で見直し、質問事項の有無を確認する。（2時間）
	授業内容	【小テストの講評・解説】【質疑応答】 前回の小テストの講評と解説を行う。また、前回出された相続・遺言に関する課題についての解説を行う。さらに、前期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。
	事後学習	小テストの講評・解説を受けて、教科書と講義ノートで小テストの答え合わせを行う。また、前期の授業全体の内容の見直しを行う。（2時間）

科目名	国際関係法〔私法系〕BⅠ	担当者	中村 進	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際私法、国際民事手続法、更に国際取引法の一部を学習するのが「国際関係法〔私法系〕」のA及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕B」は、Aの講義で学んだ国際私法の実的な適用過程を学習するとともに、国際民事手続法の主要規定と国際取引法における主要な条約・法律の内容について講ずる。「BⅠ」では、特に、国際私法を復習しながら、実的な適用過程や問題点を学習する。			
授業目的・到達目標	国際私法の主要な法源である「法の適用に関する通則法」（以下、通則法）の主要な規定の実上の適用過程について修得することを目的とする。 国際的な契約や不法行為、国際的な婚姻・離婚などに関する国際私的法律関係に適用される法（＝準拠法）が、どのような決定過程を経て選定されるかについて理解し、説明できることを到達目標とする。関連DP及びCP：法律学科1,6 経営法学科：1, 2, 3, 5, 6			
履修条件	「国際関係法〔私法系〕A」の学習を終了していること前提として講義が行われるため、同科目の履修を既に終えていること。ただし、単位の修得には至ってなくても良い。「BⅠ」と「AⅠ」の同一学期内の同時履修も認めない。			
授業方法	教科書に沿って講義を行うが、適宜資料等を配布する。パワーポイントを使用して講義を行うことがある。六法を必ず持参すること。理解度をはかるために授業内で行う小テストの講評・解説は、次の授業内で行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業の理解度をはかるため、2回程度の授業内小試験を行う。また、講義への参加度と質疑応答の際の授業への貢献度も加味して平常評価とする。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2012年	有斐閣	『国際関係私法入門（第3版）』	松岡博編
	備考			
参考書	必要に応じてパワー・ポイントを使用して講義を行うので、それを参考資料として利用すること。			
オフィスアワー	金曜日16:20～17:50（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館2階206号）nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	国際私法、国際民事手続法（国際民事訴訟法）、国際取引法がどのような役割を果たしている法律であるかについて調べる。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス】 国際私法・国際民事手続法・国際取引法の概要について学習し、受講生が説明できるようにする。また、授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。それによって、受講生が授業の準備を行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の相互関連性について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
2	事前学習	教科書第1章の「国際関係私法の学び方」を読み、国際関係私法とは何か、及びその学び方についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際関係私法の学び方】 国際関係私法とは何か、またそれを構成する国際私法、国際民事手続法及び国際取引法はどのような役割を持つ法分野かについて学習し、受講生が説明できるようにする。また、それらの学び方についても学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際私法、国際民事手続法及び国際取引法の学び方について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書第2章の「法選択規則」を読み、法選択規則の構造と規律方法を考察する。（2時間）
	授業内容	【法選択規則】 国際私法に適用される準拠法を選択する方法である法選択規則の目的とその実現方法について学習し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、法選択規則としての国際私法の役割と規律の方法について自分なりの説明をまとめる。（2時間）

4	事前学習	教科書第3章の「準拠法の決定」を読み、準拠法の決定をめぐる諸問題についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【準拠法の決定】 準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する様々な問題のうち、法律関係の性質決定、連結点、不統一法国及び反致について学習し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する諸問題、特に法律関係の性質決定、不統一法国法の指定、反致の問題に対する国際私法規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された性質決定・連結点・反致に関する課題に取り組む。（2時間）
5	事前学習	教科書第4章の「外国法の適用」を読み、外国法の適用の過程で発生する諸問題についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【外国法の適用】 準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する様々な問題のうち、外国法の適用、公序、先決問題、適応問題について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された性質決定・連結点・反致に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、準拠法の決定・適用のプロセスにおいて発生する諸問題、特に外国法の適用、公序、先決問題、適応問題に対する国際私法の解決方法について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された公序・先決問題・適応問題に関する課題に取り組む。（2時間）
6	事前学習	教科書第5章の「人・法人」を読み、人・法人に関する抵触規則についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【人・法人】 人・法人に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された公序・先決問題・適応問題に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、通則法及びその他の法律中の人・法人に関する抵触規則について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された人・法人に関する課題に取り組む。（2時間）
7	事前学習	教科書第6章の「契約」を読み、契約に関する抵触規則についての大枠を考察する。また、第1回～第6回の授業内で学習したことを教科書と講義ノートで確認し、小テストに備える。（2時間）
	授業内容	【契約】【小テスト】 契約に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学習し、受講生が説明できるようにする。また、授業の後半で、第1回～第6回の授業内容の理解度ををはかるための小テストを実施する。さらに、前回出された人・法人に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、通則法中の契約に関する規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された契約に関する課題に取り組む。（2時間）
8	事前学習	教科書第7章の「不法行為・事務管理・不当利得」を読み、法定債権に関する抵触規則についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【小テストの講評・解説】【不法行為・事務管理・不当利得】 前回の小テストの講評と解説を行う。不法行為・事務管理・不当利得に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された契約に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、通則法中の不法行為・事務管理・不当利得に関する規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された不法行為に関する課題に取り組む。さらに、小テストの講評・解説を受けて、教科書と講義ノートで小テストの答え合わせをする。（2時間）
9	事前学習	教科書第8章の「債権債務関係」を読み、債権債務関係の諸問題に関する抵触規則についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【債権債務関係】 債権債務関係（金銭債権、債権の対外的効力、債権の消滅等）の準拠法の適用について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された不法行為に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、債権債務関係の準拠法の適用について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された債権債務関係に関する課題に取り組む。（2時間）
10	事前学習	教科書第9の「物権・知的財産」と第10章の「家族法の基本原則」を読み、物権・知的財産の抵触規則と国際家族法の基本理念や総論上の諸問題についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【物権・知的財産・家族関係の基本原則】 物権・知的財産に関する通則法の規定と国際私法の家族関係規定の基本原則について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された債権債務に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、通則法中の物権・知的財産に関する規定と国際私法の家族関係法の基本原則について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された物権・知的財産に関する課題に取り組む。（2時間）
11	事前学習	教科書第11章の「婚姻・離婚」を読み、婚姻・離婚に関する抵触規則についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【婚姻・離婚】 婚姻・離婚に関する準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された物権・知的財産に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、通則法中の婚姻の成立・効力及び離婚に関する規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された婚姻・離婚に関する課題に取り組む。（2時間）
12	事前学習	教科書第12章の「親子」を読み、親子関係の成立に関する抵触規則についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【親子】 親子関係の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された婚姻・離婚に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、通則法中の親子関係に関する規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された親子関係についての課題に取り組む。（2時間）
13	事前学習	教科書第13章の「親族関係の諸問題」を読み、親族関係に関する抵触規則についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【親族関係の諸問題】 親族関係の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された親子関係についての課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、通則法中の親族関係に関する規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された親族関係について課題に取り組む。（2時間）

14	事前学習	教科書第14章の「相続・遺言」を読み、相続・遺言に関する抵触規則についての大枠を考察する。また、第7回～第13回の授業内で学習した国際私法上の主要規定について教科書と講義ノートで確認し、小テストに備える。（2時間）
	授業内容	【相続・遺言】【小テスト】 相続・遺言の準拠法の適用について、通則法の規定を中心に学習し、受講生が説明できるようにする。また、授業の後半で、第7～13回の授業の内容の理解度をはかるための小テストを実施する。さらに、前回出された親族関係についての課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、通則法中の相続及び遺言に関する規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された相続・遺言に関する課題に取り組む。（2時間）
15	事前学習	前期の授業全体の内容を教科書と講義ノートを確認で見直し、質問事項の有無を確認する。（2時間）
	授業内容	【小テストの講評・解説】【質疑応答】 前回の小テストの講評と解説を行う。また、前回出された相続・遺言に関する課題についての解説を行う。さらに、前期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。
	事後学習	小テストの講評・解説を受けて、教科書と講義ノートで小テストの答え合わせを行う。また、前期の授業全体の内容の見直しを行う。（2時間）

科目名	国際関係法〔私法系〕BⅡ	担当者	中村 進	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	国際私法と国際民事手続法、さらに国際取引法の一部を学習するのが「国際関係法〔私法系〕」のA及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕B」は、Aの講義で学んだ国際私法規定の実際上の適用過程と、国際民事手続法の主要規定と国際取引法の国際物品売買、国際運送、国際保険及び国際決済における主要な条約・法律の内容について学習する。「BⅡ」では、国際民事手続法上の規定及び国際取引システムと主要な条約・国内法について学習する。				
授業目的・到達目標	国際私法の主要な法源である「法の適用に関する通則法」の主要な規定の実際上の適用過程について修得し、その問題点について理解すること、及び国際民事手続法と国際取引法の主要分野に関する法システムを理解することを目的とする。国際民事手続法と国際取引に関する条約や国内法のシステムについて理解し、国際的な私的紛争がどの様に解決されているかについて説明できることを到達目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1,6 経営法学科：1,2,3,5,6				
履修条件	「国際関係法〔私法系〕A」の学習を終了していることを前提として講義が行われるため、「AⅠ・Ⅱ」の履修経験があることを条件とする。単位修得に至ってなくても良い。「BⅡ」を「BⅠ」より先に履修することも認めない。				
授業方法	教科書に沿って講義を行うが、適宜資料等を配布する。パワーポイントを使用して講義を行うことがある。六法を必ず持参すること。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		80%	国際民事手続法及び国際取引法に関する基礎的な理解度を判定する。	
	平 常 評 価		20%	講義への参加度と質疑応答の際の授業への貢献度を加味して平常評価とする。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2012	有斐閣		『国際関係私法（第3版）』	松岡博編
	備考				
参 考 書	必要に応じてパワー・ポイントを使用して講義を行うので、それを参考資料として利用すること。				
オフィスアワー	金曜日16:20~17:50（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館2階206号）nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	国際民事手続法（国際民事訴訟法）及び国際取引法がどのような役割を果たしている法律か、またそれらが国際私法とどのように結び付いてか調べる。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス】【国際民事手続法と国際取引法の役割】 後期の授業内容についてのガイダンスを行う。また、前期の授業内容を復習するとともに、それらと国際民事手続法と国際取引法との結びつきや役割について学習し、受講生が説明できるようにする。また、授業の内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。それによって、受講生が授業の準備を行えるようにする。
	事後学習	国際私法と国際民事手続法・国際取引法の結びつきと役割について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
2	事前学習	教科書第15章の「国際裁判管轄」第1節・第2節を読み、国際裁判管轄とは何か、その決定基準についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際裁判管轄(1)】 国際裁判管轄とは何か、またどのような基準に基づいて決定されるかについて学習し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際裁判管轄の基礎的観と決定基準について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書第15章の「国際裁判管轄」第3節・第4節・第5節を読み、各種の裁判管轄と国際訴訟競合についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際裁判管轄(2)】 国際裁判管轄に関する各種の規定について学習し、受講生が説明できるようにする。また、国際的な訴訟競合について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、各種の国際裁判管轄規定と国際的な訴訟競合について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された裁判管轄規定に関する課題に取り組む。（2時間）

4	事前学習	教科書第16章の「当事者・送達・証拠調べ」を読み、国際民事手続法上の当事者・送達・証拠調べに関する法システムについての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【当事者・送達・証拠調べ】 国際民事事件における当事者・送達・証拠調べに関する法システムについて学習し、受講生が説明できるようにする。前回出された裁判管轄に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際民事事件における当事者・送達・証拠調べに関する諸規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された当事者・送達・証拠調べに関する課題に取り組む。（2時間）
5	事前学習	教科書第17章の「外国判決の承認・執行」を読み、外国判決の承認と執行に関する法システムについての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【外国判決の承認・執行】 外国判決の承認・執行に関する法システムについて学習し、受講生が説明できるようにする。前回出された当事者・送達・証拠調べに関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、外国判決の承認・執行に関する規定及び論議について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された外国判決の承認・執行に関する課題に取り組む。（2時間）
6	事前学習	教科書第18章の「国際家事事件」第1節・第2節を読み、国際家事事件の特性、離婚事件の国際裁判管轄と外国判決の承認についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際家事事件(1)】 国際家事事件の特性と離婚事件の国際裁判管轄と外国離婚判決の承認について学習し、受講生が説明できるようにする。前回出された外国判決の承認・執行に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際家事事件の特性を理解するとともに、離婚事件における国際裁判管轄と外国離婚判決の承認について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された離婚事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する課題に取り組む。（2時間）
7	事前学習	教科書第18章の「国際家事事件」第3節・第4節・第5節を読み、親子事件・扶養請求事件・相続関係事件に関する国際裁判管轄についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際家事事件(2)】 親子関係事件、扶養請求事件及び相続関係事件の国際裁判管轄と外国離婚判決の承認について学習し、受講生が説明できるようにする。前回出された離婚事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、親子関係事件、扶養請求事件及び相続関係事件の国際裁判管轄と外国離婚判決の承認について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された親子事件、扶養請求事件、相続関係事件の国際裁判管轄と外国離婚判決の承認に関する課題に取り組む。（2時間）
8	事前学習	教科書第19章の「仲裁」を読み、仲裁のシステムについての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際商事仲裁】 国際商事仲裁について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された親子事件、扶養請求事件、相続関係事件の国際裁判管轄と外国離婚判決の承認に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際商事仲裁のシステムについて自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された仲裁に関する課題に取り組む。（2時間）
9	事前学習	教科書第20章の「国際取引と法」を読み、国際取引の特質と法的規律についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際取引と法】 国際取引の特質と私法的規律について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された仲裁に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際取引の基本的な特質を理解し、その私法的規律の方法について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書第21章の「国際物品売買」第1節・第2節を読み、国際物品売買に関する国際連合条約についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際物品売買(1)】 国際取引の基礎をなす国際物品売買に関する国際取引の特質と「国際物品売買契約に関する国際連合条約」の主要規定の内容について学習し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際物品売買に関する国際取引システムと「国際物品売買契約に関する国際連合条約」について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された国際物品売買契約に関する国際連合条約についての課題に取り組む。（2時間）
11	事前学習	教科書第21章の「国際物品売買」第3節を読み、インコタームズについての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際物品売買(2)】 国際物品売買に関するインコタームズについて学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された国際物品売買条約に関する国際連合条約についての課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際取引におけるインコタームズの役割について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布されたインコタームズに関する課題に取り組む。（2時間）
12	事前学習	教科書第22章の「国際運送および国際保険」を読み、国際運送と国際保険に関する法システムについての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際運送及び国際保険】 国際運送及び国際保険に関する法システムについて学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出されたインコタームズに関する課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際運送及び国際保険に関する法システムについて自分なりの説明をまとめる。また、国際運送と国際保険に関する課題に取り組む。（2時間）
13	事前学習	教科書第23章の「国際支払」を読み、国際的な決済方法についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際支払】 国際的な決済の方法と荷為替信用状について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された国際運送と国際保険に関する課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際的な決済システムについて自分なりの説明をまとめる。また、国際決済に関する課題に取り組む。（2時間）
14	事前学習	国際取引紛争に関する事例研究を行うため、教科書とこれまでの講義ノートで国際取引の仕組みと基本的な法システムについて見直す。（2時間）
	授業内容	【事例問題】 国際取引に関する紛争の事例問題について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された国際決済に関する課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際取引に関する紛争の解決方法について自分なりの説明をまとめる。（2時間）

15	事前学習	後期の授業全体の内容を教科書と講義ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。（2時間）
	授業内容	【質疑応答】 後期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。
	事後学習	教科書と講義ノートで、後期の授業全体の内容を見直し、学期末試験に向けて準備をする。（2時間）

科目名	国際関係法〔私法系〕BⅡ	担当者	中村 進	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際私法と国際民事手続法、さらに国際取引法の一部を学習するのが「国際関係法〔私法系〕」のA及びBである。その内の「国際関係法〔私法系〕B」は、Aの講義で学んだ国際私法規定の実際上の適用過程と、国際民事手続法の主要規定と国際取引法の国際物品売買、国際運送、国際保険及び国際決済における主要な条約・法律の内容について学習する。「BⅡ」では、国際民事手続法上の規定及び国際取引システムと主要な条約・国内法について学習する。				
授業目的・到達目標	国際私法の主要な法源である「法の適用に関する通則法」の主要な規定の実際上の適用過程について修得し、その問題点について理解すること、及び国際民事手続法と国際取引法の主要分野に関する法システムを理解することを目的とする。国際民事手続法と国際取引に関する条約や国内法のシステムについて理解し、国際的な私的紛争がどの様に解決されているかについて説明できることを到達目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1,6 経営法学科：1,2,3,5,6				
履修条件	「国際関係法〔私法系〕A」の学習を終了していることを前提として講義が行われるため、「AⅠ・Ⅱ」の履修経験があることを条件とする。単位修得に至ってなくても良い。「BⅡ」を「BⅠ」より先に履修することも認めない。				
授業方法	教科書に沿って講義を行うが、適宜資料等を配布する。パワーポイントを使用して講義を行うことがある。六法を必ず持参すること。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	国際民事手続法及び国際取引法に関する基礎的な理解度を判定する。	
	平常評価		20%	講義への参加度と質疑応答の際の授業への貢献度を加味して平常評価とする。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2012	有斐閣	『国際関係私法（第3版）』		松岡博編
	備考				
参考書	必要に応じてパワー・ポイントを使用して講義を行うので、それを参考資料として利用すること。				
オフィスアワー	金曜日16:20~17:50（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館2階206号） nakamura.susumu00@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	国際民事手続法（国際民事訴訟法）及び国際取引法がどのような役割を果たしている法律か、またそれらが国際私法とどのように結び付いてか調べる。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス】【国際民事手続法と国際取引法の役割】 後期の授業内容についてのガイダンスを行う。また、前期の授業内容を復習するとともに、それらと国際民事手続法と国際取引法との結びつきや役割について学習し、受講生が説明できるようにする。また、授業の内容、スケジュール、成績評価の方法について説明し、参考文献の紹介を行う。それによって、受講生が授業の準備を行えるようにする。
	事後学習	国際私法と国際民事手続法・国際取引法の結びつきと役割について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
2	事前学習	教科書第15章の「国際裁判管轄」第1節・第2節を読み、国際裁判管轄とは何か、その決定基準についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際裁判管轄(1)】 国際裁判管轄とは何か、またどのような基準に基づいて決定されるかについて学習し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際裁判管轄の基礎的観と決定基準について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書第15章の「国際裁判管轄」第3節・第4節・第5節を読み、各種の裁判管轄と国際訴訟競合についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際裁判管轄(2)】 国際裁判管轄に関する各種の規定について学習し、受講生が説明できるようにする。また、国際的な訴訟競合について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、各種の国際裁判管轄規定と国際的な訴訟競合について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された裁判管轄規定に関する課題に取り組む。（2時間）

4	事前学習	教科書第16章の「当事者・送達・証拠調べ」を読み、国際民事手続法上の当事者・送達・証拠調べに関する法システムについての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【当事者・送達・証拠調べ】 国際民事事件における当事者・送達・証拠調べに関する法システムについて学習し、受講生が説明できるようにする。前回出された裁判管轄に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際民事事件における当事者・送達・証拠調べに関する諸規定について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された当事者・送達・証拠調べに関する課題に取り組む。（2時間）
5	事前学習	教科書第17章の「外国判決の承認・執行」を読み、外国判決の承認と執行に関する法システムについての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【外国判決の承認・執行】 外国判決の承認・執行に関する法システムについて学習し、受講生が説明できるようにする。前回出された当事者・送達・証拠調べに関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、外国判決の承認・執行に関する規定及び論議について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された外国判決の承認・執行に関する課題に取り組む。（2時間）
6	事前学習	教科書第18章の「国際家事事件」第1節・第2節を読み、国際家事事件の特性、離婚事件の国際裁判管轄と外国判決の承認についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際家事事件(1)】 国際家事事件の特性と離婚事件の国際裁判管轄と外国離婚判決の承認について学習し、受講生が説明できるようにする。前回出された外国判決の承認・執行に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際家事事件の特性を理解するとともに、離婚事件における国際裁判管轄と外国離婚判決の承認について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された離婚事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する課題に取り組む。（2時間）
7	事前学習	教科書第18章の「国際家事事件」第3節・第4節・第5節を読み、親子事件・扶養請求事件・相続関係事件に関する国際裁判管轄についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際家事事件(2)】 親子関係事件、扶養請求事件及び相続関係事件の国際裁判管轄と外国離婚判決の承認について学習し、受講生が説明できるようにする。前回出された離婚事件の国際裁判管轄と外国判決の承認に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、親子関係事件、扶養請求事件及び相続関係事件の国際裁判管轄と外国離婚判決の承認について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された親子事件、扶養請求事件、相続関係事件の国際裁判管轄と外国離婚判決の承認に関する課題に取り組む。（2時間）
8	事前学習	教科書第19章の「仲裁」を読み、仲裁のシステムについての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際商事仲裁】 国際商事仲裁について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された親子事件、扶養請求事件、相続関係事件の国際裁判管轄と外国離婚判決の承認に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際商事仲裁のシステムについて自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された仲裁に関する課題に取り組む。（2時間）
9	事前学習	教科書第20章の「国際取引と法」を読み、国際取引の特質と法的規律についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際取引と法】 国際取引の特質と私法的規律について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された仲裁に関する課題についての解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際取引の基本的な特質を理解し、その私法的規律の方法について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書第21章の「国際物品売買」第1節・第2節を読み、国際物品売買に関する国際連合条約についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際物品売買(1)】 国際取引の基礎をなす国際物品売買に関する国際取引の特質と「国際物品売買契約に関する国際連合条約」の主要規定の内容について学習し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際物品売買に関する国際取引システムと「国際物品売買契約に関する国際連合条約」について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布された国際物品売買契約に関する国際連合条約についての課題に取り組む。（2時間）
11	事前学習	教科書第21章の「国際物品売買」第3節を読み、インコタームズについての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際物品売買(2)】 国際物品売買に関するインコタームズについて学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された国際物品売買条約に関する国際連合条約についての課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際取引におけるインコタームズの役割について自分なりの説明をまとめる。また、授業内で配布されたインコタームズに関する課題に取り組む。（2時間）
12	事前学習	教科書第22章の「国際運送および国際保険」を読み、国際運送と国際保険に関する法システムについての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際運送及び国際保険】 国際運送及び国際保険に関する法システムについて学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出されたインコタームズに関する課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際運送及び国際保険に関する法システムについて自分なりの説明をまとめる。また、国際運送と国際保険に関する課題に取り組む。（2時間）
13	事前学習	教科書第23章の「国際支払」を読み、国際的な決済方法についての大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際支払】 国際的な決済の方法と荷為替信用状について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された国際運送と国際保険に関する課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際的な決済システムについて自分なりの説明をまとめる。また、国際決済に関する課題に取り組む。（2時間）
14	事前学習	国際取引紛争に関する事例研究を行うため、教科書とこれまでの講義ノートで国際取引の仕組みと基本的な法システムについて見直す。（2時間）
	授業内容	【事例問題】 国際取引に関する紛争の事例問題について学習し、受講生が説明できるようにする。また、前回出された国際決済に関する課題の解説を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際取引に関する紛争の解決方法について自分なりの説明をまとめる。（2時間）

15	事前学習	後期の授業全体の内容を教科書と講義ノートで見直し、質問事項の有無を確認する。（2時間）
	授業内容	【質疑応答】 後期の授業全体の内容について疑問が残らないようにするために質疑応答を行う。
	事後学習	教科書と講義ノートで、後期の授業全体の内容を見直し、学期末試験に向けて準備をする。（2時間）

科目名	国際関係論 I	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義では、国際関係にかかわる諸問題について分析するために必要となる理論や基礎的手法を学びます。国際関係論の分析枠組みによってどのように考察すれば国際社会の現実を的確に捉えられるのか、その必要条件と十分条件を整理します。また、「学問を通じて社会を見ることの意味」を提示します。				
授業目的・到達目標	本講義では、国際関係にかかわる諸問題について分析するために必要となる理論や基礎的手法を学ぶことを目的とします。貧困がどのような結果を世界にもたらしているのか、NGOのような国家以外のアクターが国際協力の中でどのような役割を担っているのか、平和構築に何が必要なのか考えることができるようになることを目標とします。関連DP及びCP：政治経済学科1, 2, 3, 4, 5 経営法学科1, 2, 3, 4 公共政策学科1, 2, 3, 4				
履修条件	①講義は、全て出席して、全体の理解が届くように構成されているので、出席回数を計算してギリギリで単位を取得しようとは考えず、毎回休まず出席すること。②テキストを予習して講義に臨むこと。				
授業方法	講義形式で行います。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		70%	基本概念が理解され、国際的な思考力が身についているかなど、総合的に判定します。	
	平 常 評 価		30%	受講態度20%、課題提出10%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
				特定の教科書はありませんが、事前学習にあげた書籍などに目を通してください。	
	備考				
参 考 書	佐渡友 哲、 信夫 隆司、 柑本 英雄（編） 『国際関係論 <第3版>』（Next教科書シリーズ）弘文堂、2018年。				
オフィスアワー	水曜日12:15～12:55(事前にアポイントメントを取ること)				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	以下の書籍に目を通しておこう。 佐渡友 哲、信夫 隆司、 柑本 英雄（編） 『国際関係論 <第3版>』（Next教科書シリーズ）弘文堂、2018年。（2時間）
	授業内容	イントロダクション：前期講義の進め方
	事後学習	授業中に出てきた用語や内容について、理解度を確認する。（2時間）
2	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 『世界開発報告（2000/2001） 貧困との闘い』世界銀行、2002年。 西川潤『データブック 貧困（岩波ブックレット）』岩波書店、2008年。 西川潤『新版 貧困（岩波ブックレット（No.347））』岩波書店、1994年。
	授業内容	貧困とは何か
	事後学習	現在の貧困がどのような状態であるかについて、考えてみよう。（2時間）
3	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 渡辺利夫、三浦有史（著）『ODA(政府開発援助)―日本に何ができるか 』中央公論新社、2003年。
	授業内容	貧困の現実と解消への取り組み：ODAの現実
	事後学習	ODAに関するデータを探してみよう。（2時間）
4	事前学習	S Kumar”Millennium Development Goals (MDGs) to Sustainable Development Goals (SDGs): Addressing Unfinished Agenda and Strengthening Sustainable Development and Partnership” Indian journal of community med, 2016 （2時間）
	授業内容	貧困の現実と解消への取り組み：MDG s とSDG s
	事後学習	なぜ、いまSDG s が必要なのか、考えてみよう。（2時間）

5	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 自立生活サポートセンターもやい（著）『先生、貧困ってなんですか?: 日本の貧困問題レクチャーブック 』合同出版、2017年。丸山 里美（編集）『貧困問題の新天地 〈もやい〉の相談活動の軌跡』旬報社、2018年。
	授業内容	特別講義 貧困の現実と解消への取り組み：NGOの視点 認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい 加藤歩氏
	事後学習	貧困について、自分の理解と現実の違いをまとめてみよう。（2時間）
6	事前学習	グローバリゼーションに関する文献に目を通しておく。（2時間）
	授業内容	グローバリゼーション/グローバリズムとは何か
	事後学習	山田満（編）『新しい国際協力論』明石書店、2018年「第1章グローバリゼーションと貧困問題」を読んでみよう。（2時間）
7	事前学習	ダニ ロドリック（著），柴山 桂太（翻訳），大川 良文（翻訳）『グローバリゼーション・パラドクス：世界経済の未来を決める三つの道』白水社、2013年。マンフレッド・B・スティーガー、櫻井 公人、櫻井 純理、高嶋 正晴『新版 グローバリゼーション 』岩波書店、2010年。矢ヶ崎 典隆、山下 清海、加賀美 雅弘『グローバリゼーション 縮小する世界一 』（地誌トビックス1）朝倉書店、2018年。（2時間）
	授業内容	グローバリゼーションの光と影
	事後学習	グローバリゼーションの現状について考えてみる。（2時間）
8	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） ジョセフ・S・ナイ、山岡 洋一『ソフト・パワー 21世紀国際政治を制する見えざる力』日本経済新聞社、2004年。 ジョセフ・S・ナイ（著），山岡 洋一（翻訳），藤島 京子（翻訳）『スマート・パワー—21世紀を支配する新しい力』日本経済新聞出版社、2011年。
	授業内容	ソフトパワー、スマートパワー
	事後学習	これからのソフトパワーについて考えてみよう。（2時間）
9	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 池田 雅之（編集）『共生と循環のコスモロジー—日本・アジア・ケルトの基層文化への旅（学際レクチャーシリーズ（27））』成文堂、2005年。 滝澤雅彦（編集），柑本英雄（編集）『祈りと再生のコスモロジー』成文堂、2016年
	授業内容	個別と普遍
	事後学習	文化の違いによる対立と協調の方法について考えてみよう。（2時間）
10	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） ヨハン・ガルトゥング、高柳 先男『構造的暴力と平和（中央大学現代政治学双書）』中央大学出版部、1991年。 高柳 先男『戦争を知るための平和学入門（ちくまプリマーブックス）』筑摩書房、2000年。
	授業内容	構造的暴力とは何か
	事後学習	構造的暴力の意味を復習しよう。（2時間）
11	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 佐藤 幸男『開発の構造—第三世界の開発・発展の政治社会学（ポリティカル・エコノミー）』同文館出版、1989年。
	授業内容	貧困と第三世界
	事後学習	第三世界が今どのようなになっているのか調べてみよう。（2時間）
12	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 緒方 貞子『紛争と難民 緒方貞子の回想』集英社、2006年。 バスカル・ボンファス（著）『現代地政学 国際関係地図』単行本（ソフトカバー）ディスカヴァー・トゥエンティワン、2019年。
	授業内容	紛争と難民
	事後学習	難民問題への取り組みについて調べてみよう。（2時間）
13	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 木村元彦『終わらぬ「民族浄化」セルビア・モンテネグロ』集英社、2005年。 千田 善『ユーゴ紛争—多民族・モザイク国家の悲劇』講談社、1993年。
	授業内容	宗教、民族、アイデンティティ
	事後学習	なぜ、文化の違いが対立を生むのか考えてみよう。（2時間）
14	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） マルサス（著），永井 義雄（翻訳）『人口論』中央公論新社、1973年。 トーマス・クーン『科学革命の構造』みすず書房、1971年。 黒崎 剛（著），野村 俊明（著）『生命倫理の教科書：何が問題なのか』ミネルヴァ書房、2014年。
	授業内容	テクノロジー
	事後学習	人間は新しいテクノロジーとどのように共存していくべきか考えてみよう。（2時間）

15	事前学習	第14回までに学んだことを振り返ってみる。（2時間）
	授業内容	第1回から第14回までのまとめ
	事後学習	これまでの学習で不足している知識や理解が不十分な事項がないか確認しよう。（2時間）

科目名	国際関係論Ⅱ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義では、国際関係にかかわる諸問題について分析するために必要となる理論や基礎的手法を学びます。国際関係論の分析枠組みによってどのように考察すれば国際社会の現実を的確に捉えられるのか、その必要条件と十分条件を整理します。また、「学問を通じて社会を見ることの意味」を提示します。				
授業目的・到達目標	本講義では、国際関係にかかわる諸問題について分析するために必要となる理論や基礎的手法を学ぶことを目的とします。貧困がどのような結果を世界にもたらしているのか、NGOのような国家以外のアクターが国際協力の中でどのような役割を担っているのか、平和構築に何が必要なのか考えることができるようになることを目標とします。関連DP及びCP：政治経済学科1, 2, 3, 4, 5 経営法学科1, 2, 3, 4 公共政策学科1, 2, 3, 4				
履修条件	①講義は、全て出席して、全体の理解が届くように構成されているので、出席回数を計算してギリギリで単位を取得しようとは考えず、毎回休まず出席すること。②テキストを予習して講義に臨むこと。				
授業方法	講義形式で行います。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		70%	基本概念が理解され、国際的な思考力が身についているかなど、総合的に判定します。	
	平 常 評 価		30%	受講態度20%、課題提出10%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
				特定の教科書はありませんが、事前学習にあげた書籍などに目を通してください。	
	備考				
参 考 書	佐渡友 哲、 信夫 隆司、 柑本 英雄（編） 『国際関係論 <第3版>』（Next教科書シリーズ）弘文堂、2018年。				
オフィスアワー	水曜日12:15～12:55(事前にアポイントメントを取ること)				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書に目を通すほか、ニュースフィード系のウェブサイトを利用して、その週の世界の主要な国際政治・経済の出来事をフォローしておこう。（2時間）
	授業内容	後期講義の進め方 国際社会の問題群、研究の方法論
	事後学習	授業中に出てきた用語や内容について、理解度を確認しよう。（2時間）
2	事前学習	「第1章 ヨーロッパ統合の前史」（p. 20-p. 53）を、ヨーロッパの意味を考えながら読んでみよう。（2時間）
	授業内容	EUを理解するために①：主権国家とグローバリゼーション
	事後学習	間主観性とは、について考えてみよう。（2時間）
3	事前学習	「第2章 ヨーロッパ統合の胎動」（p. 54-p. 93）を、冷戦の意味を考えながら読んでみよう。（2時間）
	授業内容	EUを理解するために②：冷戦と安全保障
	事後学習	ヨーロッパが統合しなかった歴史的背景を考えてみよう。（2時間）
4	事前学習	「第3章 ヨーロッパ統合の生成 1947-50年」（p. 94-p. 130）を、統合の意味を考えながら読んでみよう。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパ統合の歴史①：ヨーロッパ統合の胎動
	事後学習	ヨーロッパが統合していく過程を考えてみよう。（2時間）

5	事前学習	「第4章 シューマン・プラン～ローマ条約へ」 (p. 131-p. 156) を、欧州統合体の意味を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	ヨーロッパ統合の歴史②：ヨーロッパ統合の生成から20世紀中旬
	事後学習	ヨーロッパ統合の意義について、今日のヨーロッパと比較して考えてみよう。(2時間)
6	事前学習	「第5章 大西洋同盟の動揺とEECの定着」 (p. 157-p. 194) をEECの意味を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	ヨーロッパ統合の歴史③：ヨーロッパ統合の再活性化
	事後学習	統合の対立軸について考えてみよう。(2時間)
7	事前学習	「第8章 冷戦後のヨーロッパ統合」 (p. 255-p. 279) を冷戦を軸に読んでみよう。(2時間)
	授業内容	ヨーロッパ統合の歴史④：冷戦後
	事後学習	冷戦がもたらしたものを考えてみよう。(2時間)
8	事前学習	欧州委員会のウェブサイト (http://eumag.jp/questions/f0417/) に目を通しておこう。(2時間)
	授業内容	EUの機構①：欧州理事会
	事後学習	欧州理事会の役割について整理してみよう。(2時間)
9	事前学習	欧州委員会のウェブサイト (http://eumag.jp/questions/f0516/) を読んでおこう。(2時間)
	授業内容	EUの機構②：欧州委員会
	事後学習	欧州委員会の組織と役割についてまとめてみよう。(2時間)
10	事前学習	ゲストスピーカーからの課題を行う。内容については後日講義内で指示する。(2時間)
	授業内容	ゲストスピーカーによる特別講義 桜美林大学 間瀬恵美准教授
	事後学習	講義で学んだ宗教多元主義を援用するとどうなるか考えてみよう。(2時間)
11	事前学習	欧州委員会のウェブサイト (http://eumag.jp/questions/f0117/) を読んでおこう。(2時間)
	授業内容	EUの機構③：欧州議会と欧州政党
	事後学習	欧州議会と欧州政党の役割と制度についてまとめてみよう。(2時間)
12	事前学習	「終章 ヨーロッパ統合とは何だったのか」 (p. 323-p. 343) を、欧州統合の意味を考えながら読んでみよう。(2時間)
	授業内容	統合理論
	事後学習	EUに関する最近の記事を読んでみよう。今起こっている問題が統合にどのような意味をもたらしたのかを考えてみよう。(2時間)
13	事前学習	駐日欧州連合代表部の公式ウェブマガジンEU MAG (http://eumag.jp/feature/b1012/) を読んでみよう。(2時間)
	授業内容	共通漁業政策
	事後学習	共通漁業政策の目的、経緯、課題をまとめてみよう。(2時間)
14	事前学習	駐日欧州連合代表部の公式ウェブマガジンEU MAG (http://eumag.jp/feature/b0912/) を読んでみよう。(2時間)
	授業内容	共通農業政策
	事後学習	共通農業政策の経緯と課題についてまとめてみよう。(2時間)
15	事前学習	これまでに学習した内容を復習し、テストに備えよう。(2時間)
	授業内容	期末テスト及び振り返り
	事後学習	答案の見直しを通して、これまでの学習で不足している知識や理解が不十分な事項がないか確認しよう。(2時間)

科目名	国際金融論 I	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では国際金融について学ぶ準備となる、金融論の基礎から、講義をすすめていきます。最近の国際金融の動向や諸問題を理解する上で、知っておくとよいと考えられる内容を中心に、金融論の基礎から学んでいきます。また、金融の理論や金融制度についての知識に加え、金融を考える上で有用な、経済学のさまざまな概念についても紹介していきます。				
授業目的・到達目標	国際金融論では国の枠を越えた金融取引を扱う。この授業では金融の理論や金融制度といった、金融論の基礎を理解し説明できる能力を養成することを目的とします。その上で、そこで理解した事柄を、国の枠を越えて取引が行われる場合に応用できるようにすることを、目標とします。関連DP及びCP：政治経済学科2, 3, 4, 5, 8 経営法学科2, 3, 4, 6, 7 公共政策学科1, 2, 3, 4				
履修条件	経済学Ⅰ,Ⅱの受講を終えていると、この授業で学ぶ内容を理解しやすくなります。				
授業方法	講義形式で授業を行います。また中間試験を実施します。 中間試験の解説もおこないます。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		65%	金融論の基礎を理解していること。	
	平常評価		35%	授業中に実施する中間試験で評価します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	中央経済社		金融論	家森信善
	備考				
参考書	高木信二著『入門国際金融』日本評論社				
オフィスアワー	水曜日12:15～12:55(事前にアポイントメントを取ること) 研究室				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	はじめに・金融論で学ぶこと
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
2	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	貨幣
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
3	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	金利
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
4	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	金融政策のための経済学
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)

5	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	金融政策と日本銀行
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
6	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	金融政策の基本手段
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
7	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	金融システムと金融仲介機関の役割
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
8	事前学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
	授業内容	中間試験とその解説
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
9	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	銀行以外の金融機関
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
10	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	金融システム安定化のための政策
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
11	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	金融機関の破綻への対応策
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
12	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	金融市場に関する規制
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
13	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	間接金融の金融商品
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
14	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	直接金融の金融商品
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
15	事前学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
	授業内容	理解度の確認
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)

科目名	国際金融論Ⅱ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では国際金融市場と国際金融制度について学びます。具体的には、外国為替市場で行われる取引(直物取引・先渡取引・通貨派生取引)について説明します。また、各種外国為替相場制度を紹介します。適宜、各種資料や統計を参照しながら国際金融取引の現状を見ていきます。またユーロ市場、金利先物取引と金利スワップ取引、クレジットデフォルトスワップ(CDS)取引についても扱います。							
授業目的・到達目標	この授業では国際金融市場と国際金融制度についての知識を養成することを目的とし、国際金融市場と国際金融制度についての基本知識を得ること、そして国際金融市場で行われる取引の仕組みを理解し、説明できるようになることを目標とします。関連DP及びCP：政治経済学科2, 3, 4, 5, 8 経営法学科2, 3, 4, 6, 7 公共政策学科1, 2, 3, 4							
履修条件	経済学Ⅰ,Ⅱ、国際経済論Ⅱ、国際金融論Ⅰの受講を終えていると、授業内容の理解が容易になります。							
授業方法	講義形式で授業を行います。また、中間試験を実施します。中間試験の解説もおこないます。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		65%		国際金融市場と制度の基本知識が身についているか。 国際金融市場で行われる取引の仕組みを理解しているか。			
	平常評価		35%		授業中に実施する中間試験で評価します。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	2018		勁草書房		新版 現代の国際金融を学ぶ		中條誠一	
	備考							
参考書	高木信二著『入門国際金融』日本評論社							
オフィスアワー	水曜日12:15～12:55(事前にアポイントメントを取ること) 研究室							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を利用する (2時間)
	授業内容	はじめに・外国為替市場
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する (2時間)
2	事前学習	教科書を利用する (2時間)
	授業内容	直物取引と先渡取引
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する (2時間)
3	事前学習	教科書を利用する (2時間)
	授業内容	ユーロ市場
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する (2時間)
4	事前学習	教科書を利用する (2時間)
	授業内容	通貨派生取引(Ⅰ)通貨先物取引
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する (2時間)

5	事前学習	教科書を利用する（2時間）
	授業内容	通貨派生取引(2)通貨オプション取引
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する（2時間）
6	事前学習	教科書を利用する（2時間）
	授業内容	企業の国際財務活動
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する（2時間）
7	事前学習	教科書を利用する（2時間）
	授業内容	為替リスクの管理
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する（2時間）
8	事前学習	教科書・ノート・参考書等を利用する（2時間）
	授業内容	中間試験・解説
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する（2時間）
9	事前学習	教科書を利用する（2時間）
	授業内容	金利先物取引
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する（2時間）
10	事前学習	教科書を利用する（2時間）
	授業内容	金利スワップ取引
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する（2時間）
11	事前学習	教科書を利用する（2時間）
	授業内容	CDS取引
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する（2時間）
12	事前学習	教科書を利用する（2時間）
	授業内容	外国為替相場の決定理論
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する（2時間）
13	事前学習	教科書を利用する（2時間）
	授業内容	様々な外国為替相場制度
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する（2時間）
14	事前学習	教科書を利用する（2時間）
	授業内容	国際協力
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する（2時間）
15	事前学習	教科書・ノート・参考書等を利用する（2時間）
	授業内容	理解度の確認
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する（2時間）

科目名	国際経営法学Ⅰ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、グローバルに展開する国際的企業を取り巻く法制度について基礎的内容などを学習する。企業経営面に関する法制度の理解に主眼を置き、後期では米国ドッド・フランク法（金融改革法）、M&A（企業買収）、リスクマネジメント、企業不祥事・コンプライアンス、国際不正取引、国際的企業やメガバンクの経営戦略と法務に焦点を当て、仮想通貨やAI（人工知能）など新しいテーマであるフィンテックに関しても事例、司法判断などを学習する。			
授業目的・到達目標	サブプライム危機など国際金融法制、アベノミクスの成長戦略のコーポレート・ガバナンス(企業統治)改革、フジテレビ事件等敵対的買収・防衛策などグローバル企業を巡る組織法、比較法的な理論と実践の修得を目的とする。基礎理論と実務の接点となる重要科目で国際ビジネス法を学び、総合的な法制・経営の一体的な理解ができ、受講生が説明できることを目標とする。パナソニック、メガバンク等最新の総合的ケーススタディを交える。新しいテーマであるフィンテック、仮想通貨などに関しても理解し、説明できることを目標とする。法律関係学科以外の学生や2年生も歓迎する。金融機関やグローバル企業の就職を目指す者も幅広く、できるだけ多く受講してほしい。関連DP及びCP：経営法学科1、2、法律科目履修を前提としない。学科を問わず、初めて法律科目を勉強する者、2年生も大歓迎。企業経営、財務分析・企業評価、金融知識も修得する。関連科目で英語力向上からも「ビジネスロー文献講読」も受講すると更によくなる。			
履修条件				
授業方法	配布物やパワーポイントなどを用いて講義を進める。授業内レポートの解説を適宜行う。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業内レポート。期末定期試験は行わない。授業への積極的な取り組み、議論への参加度などを合わせて総合的に評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	毎回レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。参考書などについては授業内で指示する。		
参考書	藤川信夫『国際経営法の新展開』文眞堂（2014年）、藤川信夫『英国Senior Management Regime(SMR)、上級管理者機能(SMFs)とコーポレート・ガバナンス・コード』文眞堂（2015年）			
オフィスアワー	授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、火曜日授業の前後に、直接、その旨を話にしてください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、各自でグローバル企業の経営について講義全体を概観する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。（2時間）
	授業内容	授業のテーマ、内容やスケジュール、生成期評価方法、参考文献の紹介を含めて国際経営邦楽の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。 国際経営法学概説－企業の国際展開と法制、国際会社法、金融理論ならびに国際金融論など－
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	サブプライム・ローン問題と米国金融危機の全般について、概要を把握し、我が国経済・金融への影響など問題意識を持って授業に臨んで下さい。関連の専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	サブプライム・ローン問題と米国金融危機（1）－問題の根源と経緯、国際金融法制の動向とわが国の金融機関経営の展望－ 米国におけるサブプライム・ローン問題について、背景となる米国経済の動き、対応する金融規制当局の動向などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業内容に関する復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
3	事前学習	サブプライム・ローン問題と米国金融危機について、証券化商品の仕組みと格付機関の関係、投資銀行の戦略の破綻のケースなどについて、概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	サブプライム・ローン問題と米国金融危機（2）－証券化商品の仕組みと格付機関、投資銀行の戦略の破綻など－ 米国におけるサブプライム・ローン問題について、サブプライム証券化商品の組成と格付機関の利益相反、リーマンブラザーズの破綻事例などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特にサブプライム証券化商品に関する復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
4	事前学習	サブプライム・ローン問題と米国金融危機について、金融規制当局の具体的な対応などを時系列的に把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	サブプライム・ローン問題と米国金融危機（3）－バーゼル銀行監督委員会の自己資本規制、オバマ政権の金融改革法など－ 米国におけるサブプライム・ローン問題について、大規模金融機関にかかるバーゼル委員会の規制の変遷、オバマ政権によるドッド・フランク法の概要と問題点などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特に金融面の規制内容に関する復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）

5	事前学習	欧州債務危機問題と国際金融に関し、問題の発端と拡散、EUの対応などなどについて、概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	欧州債務危機問題と国際金融（1）ーギリシャ危機、財政破綻とEU・ユーロ危機の関係などー 欧州債務危機問題と国際金融に関し、発端となったギリシャ財政危機、ユーロ危機などについて概要と問題点などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特にギリシャ財政危機、ユーロ危機などに関する復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
6	事前学習	欧州債務危機問題と国際金融に関し、ソブリンリスクと銀行経営問題などについて、概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	欧州債務危機問題と国際金融（2）ー国債の格付などソブリンリスク問題、欧米の国際金融法制と銀行経営ー 欧州債務危機問題と国際金融に関し、国債の格付等のソブリンリスクと銀行経営への影響について、ドイツ銀行などのケースを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特にソブリンリスク、国際金融法制と銀行経営などに関する復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
7	事前学習	グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	アベノミクスの第3の矢・成長戦略の中心となるグローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革の重要性 アベノミクスの3つの矢と成長戦略、グローバル企業によるガバナンス改革にかかる関連法制度の内容について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特に成長戦略とグローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革、関連法制度の内容関する復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
8	事前学習	グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、スチュワードシップ・コードの概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	長期的企業価値向上と日本版スチュワードシップ・コード（機関投資家向）の理論と上場企業の実践ー株主総会の対応と法的課題ー ガバナンス改革に関し、機関投資家向けのスチュワードシップ・コードの内容について、英国の規制と対比して学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特にスチュワードシップ・コードとグローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
9	事前学習	グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、コーポレートガバナンス・コードの概要を把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	車の両輪としての日本版コーポレートガバナンス・コード（経営陣向）の理論と上場企業の実践ー株主総会の対応と法的課題ー アベノミクスの成長戦略のうち、スチュワードシップ・コードと車の両輪になるコーポレートガバナンス・コードの内容を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特にコーポレートガバナンス・コードとグローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
10	事前学習	グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、プリンシプルベースの意味などを把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	スチュワードシップとコーポレート・ガバナンス・コード（1）ープリンシプル（原則）ベースとComply or Explain（遵守せよ、さもなければ説明せよ）ー 2つのコードにおいて、プリンシプルとComply or Explainについて内容を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特にプリンシプルベースとComply or Explainの復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
11	事前学習	グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、エンゲージメント・対話の形成の意味などを把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	スチュワードシップとコーポレート・ガバナンス・コード（2）ー機関投資家と経営陣のエンゲージメント・対話の形成ー 2つのコードにおいて、機関投資家と経営陣の常時からの対話の重要性とプラクティスについて学習す
	事後学習	講義ノートを確認して、特にエンゲージメント・対話の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
12	事前学習	グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、資金調達手法などを把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	コーポレート・ファイナンスと企業経営ーDES（債務の株式化）、DIPファイナンス（つなぎ資金融資）ー ガバナンス改革に関し、資金調達手段などファイナンス面の学習を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、特にファイナンス手法の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
13	事前学習	グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、米国における関連法制などを把握して授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	米国におけるコーポレート・ガバナンス（企業統治）法制ー取締役会制度、独立社外取締役、監査委員会・指名・報酬委員会ほかー 米国におけるコーポレート・ガバナンスにかかる主要な州会社法について、学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特に米国のガバナンス法制の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
14	事前学習	グローバル企業のコーポレート・ガバナンス改革に関し、米国における年金基金など機関投資家、英国のスチュワードシップ・コードについて調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	米国の機関投資家・年金基金、株主代表訴訟と取締役責任、経営判断原則、コンプライアンス（法令遵守）体制等、英国スチュワードシップ・コードと会社法改正 米国におけるコーポレート・ガバナンスにかかる取締役責任等、英国のスチュワードシップ・コードなどについて、学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特に米国における取締役責任、英国スチュワードシップ・コードなどの復習を行い、課題や問題意識を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
15	事前学習	最初からの講義ノートを見直し、グローバル企業に関するガバナンス全体の体系を考察する。（2時間）
	授業内容	授業内レポートについて、解説等を行う。グローバル企業のガバナンス改革について、総まとめを行い、リスクマネジメント、コンプライアンスを含めた体系的な学習を行う。
	事後学習	授業内レポートと解説を参考にして、グローバル企業、金融機関のガバナンス改革について今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。（2時間）

科目名	国際経営法学Ⅱ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、グローバルに展開する国際的企業を取り巻く法制度について基礎的内容などを学習する。企業経営面に関する法制度の理解に主眼を置き、後期では米国ドッド・フランク法（金融改革法）、M&A（企業買収）、リスクマネジメント、企業不祥事・コンプライアンス、国際不正取引、国際的企業やメガバンクの経営戦略と法務に焦点を当て、仮想通貨やAI（人工知能）など新しいテーマであるフィンテックに関しても事例、司法判断などを学習する。			
授業目的・到達目標	サブプライム危機など国際金融法制、アベノミクスの成長戦略のコーポレート・ガバナンス(企業統治)改革、フジテレビ事件等敵対的買収・防衛策などグローバル企業を巡る組織法、比較法的な理論と実践の修得を目的とする。基礎理論と実務の接点となる重要科目で国際ビジネス法を学び、総合的な法制・経営の一体的な理解ができ、受講生が説明できることを目標とする。パナソニック、メガバンク等最新の総合的ケーススタディを交える。新しいテーマであるフィンテック、仮想通貨などに関しても理解し、説明できることを目標とする。法律関係学科以外の学生や2年生も歓迎する。金融機関やグローバル企業の就職を目指す者も幅広く、できるだけ多く受講してほしい。関連DP及びCP：経営法学科1、2、法律科目履修を前提としない。学科を問わず、初めて法律科目を勉強する者、2年生も大歓迎。企業経営、財務分析・企業評価、金融知識も修得する。関連科目で英語力向上からも「ビジネスロー文献講読」も受講すると更によくなる。			
履修条件				
授業方法	配布物やパワーポイントなどを用いて講義を進める。授業内レポートの解説を適宜行う。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業内レポート。期末定期試験は行わない。授業への積極的な取り組み、議論への参加度などを合わせて総合的に評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	毎回レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。参考書などについては授業内で指示する。		
参考書	藤川信夫『国際経営法の新展開』文真堂（2014年）、藤川信夫『英国Senior Management Regime(SMR)、上級管理者機能(SMFs)とコーポレート・ガバナンス・コード』文真堂（2015年）			
オフィスアワー	授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、火曜日授業の前後に、直接、その旨を話にしてください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	国際金融改革に関する法制度について、内容を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。（2時間）
	授業内容	米国ドッド・フランク法（金融改革法）の概要（1）ーシステム上重要な金融機関（S I F I s）、ボルカールールによる規模・M&A・業務制限ー金融危機後の米国ドッド・フランク法（金融改革法）の概要などについて、学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特に米国のドッド・フランク法の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
2	事前学習	国際金融改革に関する法制度について、ドッド・フランク法の内容を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	米国ドッド・フランク法（金融改革法）の概要（2）ーコーポレート・ガバナンス、報酬改革、消費者保護などー金融危機後の米国ドッド・フランク法（金融改革法）について、コーポレート・ガバナンスに関連して学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特に米国のドッド・フランク法のガバナンス面の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
3	事前学習	国際的なM&A（企業買収）について、内容を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	世界のM&A（企業買収）動向-米国のM&A法制、EU企業買収指令、合併、株式交換、三角合併、株式公開買付（TOB）などー米国やEUにおけるM&A法制について概要を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特に欧米のM&A法制の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
4	事前学習	国際的なM&A（企業買収）について、米国の防衛策の内容を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	米国の敵対的企業買収防衛策に関する司法の変遷ーユノカル判決、ポイズンピル（毒薬条項）ーM&Aと防衛策について、先進国である米国の動向、判例などを中心に学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特に米国の防衛策の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）

5	事前学習	国際的なM&A（企業買収）に関連して、米国の防衛策と我が国への影響を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	M&A（企業買収）判例研究－経済産業省買収防衛策指針、ニッポン放送・フジテレビvsライブドア、ブルドックソース、UFJ信託銀行メガバンク経営統合－ 国際的なM&A（企業買収）に関連して、近時の我が国の重要な司法判断に与える影響などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特に米国の防衛策と我が国への影響の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
6	事前学習	国際的な不正会計事件について、概要を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	エンロン事件、米国COSO報告書と米国企業改革法（SOX法）、日本版SOX法（金商法） 国際的な不正会計事件について、エンロン事件、米国COSO報告書、米国企業改革法（SOX法）の内容を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特に国際的な不正会計事件の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
7	事前学習	企業経営のリスクマネジメントに関して、概要を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	グローバル企業におけるリスクマネジメントの理論と実際－内部統制・内部監査、戦略的グループ・リスクマネジメント（ERM）－ リスクマネジメントの法制度上の理論とプラクティスについて、グローバル企業に関し、学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特に国際的企業におけるリスクマネジメントの復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
8	事前学習	グローバル企業におけるコンプライアンスについて、最近の日産自動車の有価証券虚偽記等、具体的な事例を調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	企業不祥事・コンプライアンス（法令遵守）の法的研究－日産自動車事件：有価証券虚偽記等・特別背任、オリンパス事件：損失飛ばし、東芝事件：不正会計・業務監査、大王製紙事件：親子会社結合法制・子会社少数株主保護・グループ監査など－
	事後学習	講義ノートを確認して、特に国際的企業におけるコンプライアンスの復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
9	事前学習	グローバル企業におけるコンプライアンスについて、米国の規制などを調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	国際不正取引と域外適用－米国欧米汚職行為防止法（FCPA）と丸紅・日揮、ブリジストン事件など－ 国際不正取引に関する不正防止について、米国FCPAと丸紅、ブリジストンなどのケースを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特に国際不正取引の規制の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
10	事前学習	グローバル企業における企業評価・分析について、米国の規制などを調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	企業評価・財務分析手法－ROE（株主資本利益率）、LBO（借入金をしてこにした買収）、MBO（経営陣による買収）など－ 経営分析、財務分析について、グローバル企業のケースを用いて学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特に企業評価・財務分析の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
11	事前学習	国際的企業における経営法務について調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	国際的企業における経営戦略と法務・ガバナンス－パナソニック、日立製作所、ソニー、帝人、トヨタなど総合的なケーススタディー コンプライアンスやリスクマネジメント、ビジネス法務、経営・財務分析を含めてグローバル企業の総合的な事例演習を行う。日産自動車については、ルノー（仏）との国際合併会社等も取り上げる。
	事後学習	講義ノートを確認して、特にグローバル企業の総合的な事例の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
12	事前学習	巨大金融機関の経営法務、ガバナンスについて調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	メガバンクにおける経営戦略・法務・ガバナンス－三菱東京UFJ、みずほ、三井住友、三井住友信託銀行など－ ガバナンス改革を進める巨大金融機関の法務、プラクティスについて学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特にメガバンクの総合的事例の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
13	事前学習	フィンテックについて調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	フィンテックの概要と法制度（1）－フィンテックの欧米の概要、銀行法改正など－ フィンテックについて、欧米の概要と法制度などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特にフィンテック全般の復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
14	事前学習	フィンテックに関して仮想通貨などを調べ、授業に臨んで下さい。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	フィンテックの概要と法制度（2）－仮想通貨・ICOの概要、司法判断事例、各国の法制度、AI（人工知能）など－ 仮想通貨や裁判事例、各国の法制度とプラクティス、さらにAI（人工知能）にかかる法制度などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特に仮想通貨などの復習を行い、次回の授業に対する課題、問題を深めてもらいたい。一層の理解のための発展的な課題を示すので、取り組んで頂きたい。（2時間）
15	事前学習	最初からの講義ノートを見直し、グローバル企業に関するガバナンス全体の体系を考察する。（2時間）
	授業内容	授業内レポートと解説等を行う。グローバル企業のガバナンス改革、金融機関の国際金融改革について、総まとめを行い、リスクマネジメント、コンプライアンスを含めた体系的な学習を行う。
	事後学習	授業内レポートと解説を参考にして、グローバル企業、金融機関のガバナンス改革について今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。（2時間）

科目名	国際経営論 I	担当者	築場 保行	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	多国籍企業の経営の生成、発展、そしてその現代の国際経営について、その事業行動、経営が現代の世界と社会にどのような影響を与えているか考察する。テキスト、プリント、コピー、板書により講義。適宜、予習用記事コピー配布し授業中にQ&Aをおこなう。				
授業目的・到達目標	多国籍企業の研究をつうじ国際経営感覚・能力の基礎養成を目的とし、多くの多国籍企業の行動の意味を理解し、説明できるようにすることを目標とする。 関連DP及びCP： 経営法学科 1、2、3				
履修条件	経営学領域科目（築場）履修が望ましい				
授業方法	板書、講義 最終授業に試験講評				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	プリント、コピーについてレポートを課すことがある Q&Aの内容と積極性評価	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	桜門書房		経営・管理・組織の歴史・理論と現在	築場保行
	2013	文真堂		企業の国際化、情報化と日本企業革新のトレンド	築場保行
	備考	上記ほか新教科書準備中 後日指示 経済学部本館地下桜門書房でのみ販売			
参 考 書	適宜紹介（プリント配布）				
オフィスアワー	授業（第一部・水曜 3 時限）（第二部・木曜 3 時限）終了後に、質問を受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキスト序文学習（2時間）
	授業内容	国際経営の研究対象・テーマ
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキスト文学習（2時間）
2	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	企業の多国籍化・国際化の意義 多国籍企業 国際企業 国際経営の用語
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
3	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	経営管理、経営組織、経営文化の国際化 企業間国際分業 企業内国際分業
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
4	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	国際経営の前史 東インド会社による国際貿易
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）

5	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	19c後半以降のの英米欧企業の多国籍化 シェル、エクソン、シンガー、ネスレ、ユニリーバほか
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
6	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	戦前における外国企業の日本での事業展開
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
7	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	戦前日本企業の国際的活動 貿易商社、産業企業の海外活動：三井物産 日産 日窒 東洋紡 など
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
8	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	戦後日本企業の国際的活動1. ソニーほか
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
9	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	戦後日本企業の国際的活動2. 自動車、電機産業ほか
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
10	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	日本の中小企業、サービス業の国際化
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
11	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	多国籍企業の出現・成長、経営の国際化 ：20、21c大企業の多国籍化・国際化
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
12	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	国際経営の先進企業：ネスレ、GE、IBMなどの経営管理
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
13	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	多国籍企業の理論： バーノンモデル、OLIパラダイム、B&Gモデルなど
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
14	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	前期まとめ、質疑
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
15	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	試験及びまとめ、振り返り 試験後 講評
	事後学習	試験問題関連の授業ノート、新聞の経済記事、ビジネス記事、プリントを読む

科目名	国際経営論Ⅱ	担当者	築場 保行	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	多国籍企業の経営の生成、発展、そしてその現代の国際経営について、その事業行動、経営が現代の世界と社会にどのような影響を与えているか考察する。テキスト、プリント、コピー、板書により講義。適宜、予習用記事コピー配布し授業中にQ&Aをおこなう。テキスト、プリント、コピー、板書により講義。適宜、予習用記事コピー配布し授業中にQ&Aをおこなう。				
授業目的・到達目標	多国籍企業の研究をつうじ国際経営感覚・能力の基礎養成を目的とし、多くの多国籍企業の研究から行動原理を理解し、説明できるようになることが目標。 関連DP及びCP：経営法学科1． 2． 3				
履修条件	経営学領域科目（築場）履修が望ましい				
授業方法	板書、講義 最終授業に試験講評				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	プリント、コピーについてレポートを課すことがある Q&Aの内容、積極性を評価	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	桜門書房		経営・管理・組織の歴史・理論と現在	築場保行
	2013	文真堂		企業の国際化、情報化と日本企業革新のトレンド	築場保行
	備考	上記ほか新教科書準備中 後日指示 経済学部本館地下桜門書房でのみ販売			
参 考 書	適宜紹介（プリント配布）				
オフィス アワー	授業（金曜2時限）終了後に質問を受け付ける				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキスト序文学習（2時間）
	授業内容	事業国際化と国際経営の戦略
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキスト文学習（2時間）
2	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	国際経営活動の管理
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
3	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	国際経営の組織
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
4	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	国際経営の人事：採用、育成、異動 国際経営文化の形成
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）

5	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	銀行、金融企業の国際化1. ：マーチャント・バンク、投資銀行、コマーシャルバンクの業務
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
6	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	銀行、金融企業の国際化2. ：投資ファンド、買収ファンドの国際活動
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
7	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	日本の金融機関の多国籍化
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
8	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	多国籍企業の多極化・多軸化・多様化：既存英米欧企業の国際化進展＋流通企業などの多国籍化 日本企業の多国籍化
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
9	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	新興多国籍企業の登場 ：韓国、Asean企業の国際的活動 サムソン 現代
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
10	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	中国企業の多国籍活動：国有企業、民間企業の海外展開 その他の国の多国籍企業
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
11	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	新興産業、IT関連の多国籍企業の登場 ：サービス、飲食産業の多国籍化 コンチネンタルH、スターバックス、MAC等
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
12	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	多国籍企業、グローバル企業の経営文化・経営理念
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）
13	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	多国籍企業の財務、税務とタックス・ヘイブン：租税回避
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む 紹介企業の実例を検索し復習（2時間）
14	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	後期まとめ、質疑
	事後学習	授業ノートを読む 新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
15	事前学習	新聞の経済記事、ビジネス記事を読む テキストと記事の関連部分学習（2時間）
	授業内容	試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	試験問題関連の授業ノート、新聞の経済・ビジネス記事、プリントを読む 授業内容を会社例をつうじて学習（2時間）

科目名	国際経済法Ⅰ	担当者	中村 良	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現在のグローバル経済を支える大きな仕組みの一つが「WTO体制」である。この講座では、「ITO」、「GATT体制」、「WTO体制」の仕組みを理解し、それぞれの時代背景、交渉経緯、特色等を学修する。さらに、ITOの頓挫、GATTの制定経緯、そして現在のWTO体制の成立から、「WTO体制」基本原則や紛争処理手続きを学修する。				
授業目的・到達目標	「自由貿易体制」の意義を理解するための必要な国際経済法の基礎理論および「WTO体制」の基礎知識の修得を目的とする。 国際貿易紛争を「WTO体制」の枠組みにおいてどのように紛争解決を図っているのかを受講生が自らの言葉で説明できることを目標とする。関連D P及びC P：経営法学科1， 2， 3， 6				
履修条件	特にないが、経済法、国際経済法Ⅱを履修済みか、並行履修が好ましい。				
授業方法	テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。受講生間において討議することがある。小テスト、振り返りシートについては、講義中の解説・コメントで「フィードバック」する。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		0%		定期試験は行わない。
	平常評価		100%		小テスト（10点×5回）＋振り返りシート（10点×5回）＝100点
教科書	年	出版社		書名	著者名
	平成31年度	経済産業省HP		『2019年版不公正貿易報告書』	経済産業省通商政策局編
	備考	上記報告書は、 http://www.meti.go.jp/policy/trade_policy/wto_compliance_report/index.html に6月後半頃にUPされる。			
参考書	松下満雄他編『ケースブックWTO法』（有斐閣）、田村次朗著『WTOガイドブック（第2版）』（弘文堂）、その他、授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	金曜日17時50分から18時50分（事前にメールでアポイントメントを取ること） 授業講堂 メールアドレス：nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、テキストをダウンロードし、講義全体を概観する。 (120分)
	授業内容	授業の目的、授業方法、教科書、参考図書・資料、成績評価等、そして資料検索の方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に出来るようにする。
	事後学習	授業計画について確認するとともに、授業で行った資料の検索方法を用いて指定された資料を検索する。 (120分)
2	事前学習	指定されたテキストを印刷し、125-131頁を読み、「WTO体制」の全体像を確認する。 (120分)
	授業内容	WTO協定の概要 「WTO協定の基本的目的」、「WTOの基本原則」、「WTO協定の全体像」、「WTOの機構」、そして「GATTおよびWTOにおける自由化交渉の流れ」を考察し、「WTO体制」を概観する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「WTO体制」の全体像を自分の言葉で説明できるように知識を整理する。 (120分)
3	事前学習	指定されたテキスト133-140頁を読んで、「最恵国待遇」原則について制度趣旨等確認する。 (120分)
	授業内容	最恵国待遇原則 「ルールの概観」講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「最恵国待遇」原則の制度趣旨、主要ケースにおける問題点と上級委員会の判断について整理しておくこと。 (120分)
4	事前学習	指定されたテキスト141-148頁を読んで、「内国民待遇」原則について制度趣旨等確認する。 (120分)
	授業内容	内国民待遇原則 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「内国民待遇原則」の制度趣旨、主要ケースにおける問題点と上級委員会の判断について整理しておくこと。 (120分)

5	事前学習	指定されたテキスト149-155頁、156-166頁を読んで、「数量制限」に対する規制、「輸出規制」について制度趣旨等を確認する。 (120分)
	授業内容	数量制限への規制・輸出規制 「ルールの概観」、「主要ケース」について講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「数量制限」に対する規制、「輸出規制」の問題点等と上級委員会の判断について整理しておくこと。 (120分)
6	事前学習	指定されたテキスト167-189頁を読んで、紛争当事国の主張する「正当化事由」についてその趣旨について確認する。 (120分)
	授業内容	正当化事由 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、「正当化事由」の制度趣旨、主要ケースにおける問題点と上級委員会の判断について整理する。 (120分)
7	事前学習	指定されたテキスト191-201頁と配布資料を読んで、「関税制度」の概要、基礎知識を確認する。 (120分)
	授業内容	関税制度 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、関税制度の概要、基礎知識を自分の言葉で説明できるように確認する。 (120分)
8	事前学習	指定テキスト203-218頁を読んで、アンチダンピング措置について概要、基礎知識を確認する。 (120分)
	授業内容	アンチダンピング措置 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、アンチダンピング措置の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。 (120分)
9	事前学習	指定テキスト219-236頁を読んで、補助金・相殺措置の制度趣旨を確認する。 (120分)
	授業内容	補助金・相殺措置 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、補助金・相殺措置の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。 (120分)
10	事前学習	指定テキスト237-252頁を読んで、セーフガードの制度趣旨を確認する。 (120分)
	授業内容	セーフガード 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点を考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、セーフガードの制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。 (120分)
11	事前学習	指定テキスト253-256頁を読んで、貿易関連措置の基礎知識を確認する。 (120分)
	授業内容	貿易関連投資措置 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」における問題点について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、貿易関連投資措置の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。 (120分)
12	事前学習	指定テキスト257-261頁を読んで、原産地規制の概要を確認する。 (120分)
	授業内容	原産地規則 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」の問題点について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、原産地規制の制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。 (120分)
13	事前学習	指定テキスト263-283頁を読んで、基準・認証の制度趣旨を確認する。 (120分)
	授業内容	基準・認証制度 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」の問題点について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、セーフガードの制度趣旨、主要ケースにおける問題点について自分の言葉で説明できるように整理する。 (120分)
14	事前学習	指定テキスト285-305頁を読んで、WTO体制におけるサービス貿易の取扱いについて確認する。 (120分)
	授業内容	サービス貿易 「ルールの概観」を講義し、「主要ケース」の問題点について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、サービス貿易のWTO体制での取扱いについて自分の言葉で説明できるように整理する。 (120分)
15	事前学習	これまでも講義ノート、テキストを確認して、自由貿易体制における「WTO体制」の役割を自分の言葉で説明できるように確認する。 (120分)
	授業内容	これまでの講義を復習するとともに、残されているWTO体制の問題点について考察する。
	事後学習	これまでの、資料・ノートを読み、残された課題について、自分なりの見解を示せるよう考えを整理する。 (120分)

科目名	国際経済法Ⅱ	担当者	中村 良	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	国際経済法Ⅱでは、「自由貿易体制」維持の観点から、世界の主要な競争法について制度趣旨・基礎概念・特徴を理解し、特に世界の競争方法をリードするアメリカ競争法（以下、アメリカ反トラスト法という）を中心にEU、アジア（日本、韓国、中国）における競争の法の基礎理論を学修する。				
授業目的・到達目標	アメリカ反トラスト法を中心とするEU、アジア（日本、韓国、中国）における競争法の基礎理論の修得を目的とし、競争法の背後にある経済理論の展開についても留意しながら、各国競争法について学修する。そして、今後の世界の競争法の展開について自分の見解をもち、自分の言葉で説明できることを目標とする。関連DP及びCP：経営法学科1，2，3，6				
履修条件	経済法、国際経済法Ⅰを履修済みか、並行履修が望ましい。				
授業方法	授業資料を配布する。当該配布資料に沿って講義を進める。受講生間で討議することがある。小テスト・振り返りシートについては、講義中の解説・コメントで「フィードバック」する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	定期試験は行わない	
	平常評価		100%	小テスト（20点×4回）＋振り返りシート（5点×2回）＋授業参加点（10点）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	特に指定しない	特に指定しない		特に指定しない	特に指定しない
	備考				
参考書	松下＝渡邊『アメリカ独占禁止法(2版)』（有斐閣）、瀧川敏明『日米EUの独禁法と競争政策（4版）』（青林書院）、その他、授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	金曜日18：00～19：00（休学中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） 講義講堂 メールアドレス：nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	経済法を履修済の学生は、教科書・ノートを読み直しておくこと (120分)
	授業内容	授業ガイダンス（授業の目的、方法、教科書、参考図書、成績評価等について）および資料検索方法の説明をする。
	事後学習	授業ガイダンスの内容確認し、説明のあった資料検索方法を実施する。 (120分)
2	事前学習	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。 (120分)
	授業内容	アメリカにおける競争法（反トラスト法） 競争政策の成立と淵源、コモンローと反トラスト法との関係を説明し、競争法の根底にある思想的な背景を考察する。
	事後学習	今回の授業の概要を配布資料・ノートで確認し、アメリカ反トラスト法の根底にある思想的背景について復習し、自分の言葉で説明できるように整理する。
3	事前学習	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。 (120分)
	授業内容	競争法理論（競争政策の根底にある経済理論） ハーバード学派からシカゴ学派、そしてポストシカゴ学派への経済理論の変遷を講義するとともに、分析手法を考察する。
	事後学習	今回の授業の概要を配布資料・授業ノートで確認し、競争法の根底にある経済理論についてそれぞれの特色を自分の言葉で説明できるように整理する。 (120分)
4	事前学習	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。 (120分)
	授業内容	アメリカ反トラスト法の概要（条文、執行機関）について講義し、アメリカ反トラスト法の基礎理論および特色を考察する。
	事後学習	今回の授業の概要を配布資料・授業ノートで確認し、アメリカ反トラスト法の概要について、自分の言葉で説明できるように整理する。 (120分)

5	事前学習	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。 (120分)
	授業内容	アメリカ反トラスト法における「取引制限規制（カルテル規制）」について講義し、その特色を考察する。
	事後学習	配布資料、授業ノートで、アメリカ反トラスト法における「取引制限規制（カルテル規制）」について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。 (120分)
6	事前学習	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。 (120分)
	授業内容	アメリカ反トラスト法における「独占規制」および「合併規制」について講義し、その特色を考察する。
	事後学習	配布資料、授業ノートで、アメリカ反トラスト法における「独占規制」および「合併規制」について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。 (120分)
7	事前学習	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。 (120分)
	授業内容	EU EU競争法の歴史、経済理論、執行機関、手続の基礎理論を講義し、その特色を考察する。
	事後学習	配布資料、授業ノートで、EU競争法の歴史、経済理論、執行機関、手続の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。 (120分)
8	事前学習	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。 (120分)
	授業内容	EU EU競争法における「水平的制限規制」、「垂直的制限規制」について講義し、その特色を考察する。
	事後学習	配布資料、授業ノートで、EU競争法における「水平的制限規制」、「垂直的制限規制」の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。 (120分)
9	事前学習	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。 (120分)
	授業内容	EU EU競争法における「支配的企業の濫用行為に対する規制」および「企業集中規制」について講義し、その特色を考察する。
	事後学習	配布資料、授業ノートで、EU競争法における「支配的企業の濫用行為に対する規制」および「企業集中規制」の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。 (120分)
10	事前学習	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。 (120分)
	授業内容	アジア 韓国独占禁止法の基礎理論（執行機関および「市場支配的地位の濫用禁止」および「企業結合規制」）について講義し、その特色を考察する。
	事後学習	配布資料、授業ノートで、韓国独占禁止法における「市場支配的地位の濫用禁止」および「企業結合規制」の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。 (120分)
11	事前学習	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。 (120分)
	授業内容	アジア 韓国独占禁止法における「不当な共同行為」規制について講義し、その特色を考察する。
	事後学習	配布資料、授業ノートで、韓国独占禁止法における「不当な共同行為」の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。 (120分)
12	事前学習	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。 (120分)
	授業内容	アジア 中国独占禁止法の基礎理論（執行機関）を講義し、その特色を考察する。
	事後学習	配布資料、授業ノートで、中国独占禁止法の特色について、自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。 (120分)
13	事前学習	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。 (120分)
	授業内容	アジア 日本独占禁止法の基礎理論（概要、執行機関、「不当な取引制限」、および「私的独占」）について講義し、その特色について考察する。
	事後学習	配布資料、授業ノートで、日本における「執行当局」、「不当な取引制限」、および「私的独占」の特色を自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。 (120分)
14	事前学習	前回指示された資料を検索し、あらかじめ講義の概要を理解するとともに、必要に応じて参考資料を検索する。 (120分)
	授業内容	アジア 日本独占禁止法における企業結合規制、不公正な取引方法（下請代金遅延防止法、景品表示法を含む）について講義し、「競争を実質的に制限することとなる」・「公正な競争を阻害する」について考察する。
	事後学習	配布資料、授業ノートで、我が国における企業結合規制、不正競争防止法の特色を自分の言葉で説明できるように、自分の考えを整理する。 (120分)
15	事前学習	これまでの配布資料・授業ノートを読み直し、各国の競争法の特色を整理する。必要に応じて参考資料を検索する。 (120分)
	授業内容	アメリカ反トラスト法、EU競争法、日本独占禁止法、韓国独占禁止法、中国独占禁止法の特色を比較するとともに国際協力について比較し、今後の競争法の展開について考察する。
	事後学習	配布資料、授業ノートで、世界の主要な競争法の特色を確認し、これからの競争法の展開を自分の言葉で説明できるように自分の考えを整理する。 (120分)

科目名	国際経済論Ⅰ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	この国際経済論Ⅰでは貿易論を、国際経済論Ⅱでは国際マクロ経済学を学びます。貿易論では、国同士が財の交換を行うことで生じる利得から、貿易を説明します。授業では最初に、余剰の概念を用いて、貿易政策の影響について説明します。次に、基本的な貿易モデルを、具体的には交換モデル、リカード・モデル、ヘクシャー=オリーン・モデルという3つのモデルを順に紹介します。			
授業目的・到達目標	貿易政策が生産者と消費者、双方に与える影響について、及び貿易モデル(交換モデル、リカード・モデル、ヘクシャー=オリーン・モデル)について、理解し説明できる能力を養成することを目的とする。 また、二種類の生産要素(資本と労働)を使い生産した財を国同士で交換するヘクシャー=オリーン・モデルを理解することで、国を跨いだ資本と労働の移動について考える、1つの見方を手にすることができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 2 政治経済学科2, 3, 4, 5, 8 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3, 6 公共政策学科1, 2, 3, 4			
履修条件	経済学Ⅰの受講を終えていることが望ましい。または、経済学の基本的な概念(経済学の消費者行動理論で出てくる無差別曲線・限界代替率)を知っていることが望ましい。			
授業方法	講義形式で行います。また授業中に小テストを実施します。 小テストの解説もおこないます。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		70%	基本的な貿易モデル(交換モデル、リカード・モデル、ヘクシャー=オリーン・モデル)を理解していること。貿易政策の影響について理解していること。
	平常評価		30%	授業中に実施する小テストで評価します。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	新世社	コア・テキスト国際経済学 第2版	大川昌幸
	備考			
参考書	澤田康幸著『国際経済学』新世社			
オフィスアワー	水曜日12:15～12:55(事前にアポイントメントを取ること) 研究室			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	はじめに・貿易政策(1)需要曲線と消費者余剰
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
2	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	貿易政策(2)供給曲線と生産者余剰、貿易の自由化と貿易利益
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
3	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	相対価格、予算制約
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
4	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	効用・無差別曲線
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)

5	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	限界代替率
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
6	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	自給自足経済
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
7	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	交換モデル
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
8	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	リカード・モデル(1)比較優位
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
9	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	リカード・モデル(2)生産可能性フロンティア
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
10	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	リカード・モデル(3)相対価格と貿易パターン
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
11	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	リカード・モデル(4)貿易利益
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
12	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	ヘクシャー=オリーン・モデル(1)資本・労働比率、生産要素の集約性、生産可能性フロンティア
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
13	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	ヘクシャー=オリーン・モデル(2)リブチンスキー定理
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
14	事前学習	教科書を利用する(2時間)
	授業内容	ヘクシャー=オリーン・モデル(3)ストルパー=サミュエルソン定理
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
15	事前学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)
	授業内容	理解度の確認
	事後学習	教科書・ノート・参考書等を利用する(2時間)

科目名	国際経済論Ⅱ	担当者	横溝 えりか	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	この国際経済論Ⅱの授業では、国際マクロ経済学を学びます。外国との取引を取り入れたマクロ経済モデル(開放経済モデル)を扱うことになり、閉鎖経済モデルにはなかった、外国為替相場や輸出入といった新しい変数が取り入れられます。国際収支統計は、公表されている統計資料を用いて、数字の読み方についても解説します。外国為替相場決定理論の紹介の他、経済政策の効果について考察するためのマクロ経済モデルを紹介します。				
授業目的・到達目標	この授業では国際マクロ経済学を学びます。開放経済を説明する諸変数とそれらの相互関係について理解し説明出来る能力を養成することを目的とします。 さらには、外国と取引が行われている場合では経済政策の効果が、取引が行われていない場合と異なることを、その理由も含めて考えられるようになることを目標とします。関連D P及びC P：法律学科1, 2 政治経済学科2, 3, 4, 5, 8 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3, 6 公共政策学科1, 2, 3, 4				
履修条件	経済学Ⅰ、Ⅱの受講を終えていることが望ましい。				
授業方法	講義形式で授業を行います。また授業中に小テストを実施します。 小テストの解説もおこないます。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	外国為替相場や国際収支等、変数の意味と相互関係を理解しているか。 国際マクロ経済モデルを用いて、経済政策の効果を考えることができるか。	
	平常評価		30%	授業中に実施する小テストで評価します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	新世社		コア・テキスト国際経済学 第2版	大川昌幸
	備考				
参考書	澤田康幸著『国際経済学』新世社				
オフィスアワー	水曜日12:15～12:55(事前にアポイントメントを取ること) 研究室				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を利用する (2時間)
	授業内容	はじめに・国民所得勘定と対外取引
	事後学習	教科書・ノート・参考書を利用する (2時間)
2	事前学習	教科書を利用する (2時間)
	授業内容	開放経済と国際収支統計
	事後学習	教科書・ノート・参考書を利用する (2時間)
3	事前学習	教科書を利用する (2時間)
	授業内容	外国為替市場と外国為替相場
	事後学習	教科書・ノート・参考書を利用する (2時間)
4	事前学習	教科書を利用する (2時間)
	授業内容	変動相場制度と固定相場制度
	事後学習	教科書・ノート・参考書を利用する (2時間)

5	事前学習	教科書を利用する（2時間）
	授業内容	貿易と外国為替相場
	事後学習	教科書・ノート・参考書を利用する（2時間）
6	事前学習	教科書を利用する（2時間）
	授業内容	短期における外国為替相場の決定
	事後学習	教科書・ノート・参考書を利用する（2時間）
7	事前学習	教科書を利用する（2時間）
	授業内容	長期における外国為替相場の決定
	事後学習	教科書・ノート・参考書を利用する（2時間）
8	事前学習	教科書を利用する（2時間）
	授業内容	閉鎖マクロ経済モデルと開放マクロ経済モデル
	事後学習	教科書・ノート・参考書を利用する（2時間）
9	事前学習	教科書を利用する（2時間）
	授業内容	45度線図モデルの復習
	事後学習	教科書・ノート・参考書を利用する（2時間）
10	事前学習	教科書を利用する（2時間）
	授業内容	外国貿易乗数
	事後学習	教科書・ノート・参考書を利用する（2時間）
11	事前学習	教科書を利用する（2時間）
	授業内容	IS-LMモデル
	事後学習	教科書・ノート・参考書を利用する（2時間）
12	事前学習	教科書を利用する（2時間）
	授業内容	マンデル=フレミング・モデル(1) IS曲線とLM曲線
	事後学習	教科書・ノート・参考書を利用する（2時間）
13	事前学習	教科書を利用する（2時間）
	授業内容	マンデル=フレミング・モデル(2) BP線の導出
	事後学習	教科書・ノート・参考書を利用する（2時間）
14	事前学習	教科書を利用する（2時間）
	授業内容	金融政策と財政政策の効果
	事後学習	教科書・ノート・参考書を利用する（2時間）
15	事前学習	教科書・ノート・参考書を利用する（2時間）
	授業内容	理解度の確認
	事後学習	教科書・ノート・参考書を利用する（2時間）

科目名	国際契約法 I	担当者	平野 英則	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際取引が進展する中で必要とされる国際売買契約について、日本の民法と比較しながら、ウィーン売買条約における契約の成立および効力を中心に学習する。			
授業目的・到達目標	国際商取引のうち特に国際売買契約に関する基礎知識の修得を目的として、その成立、特徴的ツールおよび契約書の構成等について、ウィーン売買条約等も参考にしながら、講義を進める。国際商取引のうち売買契約に関する基礎知識および売買契約書の作成ポイントを修得し、説明できることを目標とする。 関連DPおよびCP：経営法学科1, 2, 6			
履修条件	特になし。			
授業方法	テキストおよび条文をベースに講師が講義し、それに対する受講生との質疑応答を行う方式で、授業を行う。 なお、理解度確認テストについては、次の講義時に答案を返却し、その解説を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	国際契約の基礎知識を修得していること。前期に3回の理解度確認テストを行うとともに、前期末に論述式の授業内試験を実施し、総合的に評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014年	文真堂	『現代国際商取引－よくわかる理論と実務－』	亀田尚己編著 平野英則ほか著
	備考			
参考書	新堀聰著『ウィーン売買条約と貿易契約』同文館、2009年			
オフィスアワー	講義が質疑応答方式で行われることから、学生からの質問および相談は、授業内（火曜4時限）に書面または口頭にて受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	国際商取引の概要および講義の導入
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
2	事前学習	教科書の概要箇所の精読（2時間）
	授業内容	国際取引の意義と歴史
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
3	事前学習	教科書の概要箇所の精読（2時間）
	授業内容	国際商取引のあらまし
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
4	事前学習	教科書の概要箇所の精読（2時間）
	授業内容	国際商取引のルール①国際商取引とさまざまな法
	事後学習	講義内容の復習（2時間）

5	事前学習	教科書の概要箇所の精読（2時間）
	授業内容	国際商取引のルール②国際契約法
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
6	事前学習	教科書の概要箇所の精読（2時間）
	授業内容	国際商取引のルール③国際物品売買に関する国際連合条約（CISG：ウィーン売買条約）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
7	事前学習	教科書の概要箇所の精読（2時間）
	授業内容	売買契約①売買契約とは何か
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
8	事前学習	教科書の概要箇所の精読（2時間）
	授業内容	売買契約②売買契約の成立プロセス
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
9	事前学習	教科書の概要箇所の精読（2時間）
	授業内容	売買契約③契約書の機能
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
10	事前学習	教科書の概要箇所の精読（2時間）
	授業内容	売買契約④契約書の締結
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
11	事前学習	教科書の概要箇所の精読（2時間）
	授業内容	売買契約⑤取引一般条件概説
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
12	事前学習	事前配付のケーススタディに対する事前解答の準備（2時間）
	授業内容	事例研究①売買契約の成立プロセス（申込みの誘因と申込みの違い）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
13	事前学習	事前配付のケーススタディに対する事前解答の準備（2時間）
	授業内容	事例研究②ウィーン売買条約における申込みの取止めと申込みの撤回の違い
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
14	事前学習	前期講義内容における疑問点のとりまとめ（2時間）
	授業内容	前期講義内容の総括および質疑応答
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
15	事前学習	前期講義内容の総復習（2時間）
	授業内容	前期試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	解答内容の自己検証（2時間）

科目名	国際契約法Ⅱ	担当者	平野 英則	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際取引の進展に伴い国際売買契約が締結されるが、当該契約について紛争が生じた場合の対応について、国際民事訴訟や国際商事仲裁を中心に学習する。 また、必要に応じてわが国の仲裁法やニューヨーク条約なども参考にしながら、より実践的な学習を行う。					
授業目的・到達目標	国際売買契約に関する特徴的ツールおよび紛争発生時の対応などについて、ウィーン売買条約やニューヨーク条約等も参考にしながら、主に国際商取引における紛争解決に関する基礎知識の修得を目的とする。この基礎知識の基づき、具体的な紛争発生時における実践的交渉手法の基礎を修得し説明できることを目標とする。 関連DPおよびCP：経営法学科1, 2, 6					
履修条件	国際契約法Ⅰを履修済みであることが望ましい。					
授業方法	テキストおよび条文をベースに講師が講義し、それに対する受講生との質疑応答を行う方式で、授業を進める。 なお、理解度確認テストについては、次の講義時に答案を返却し、解説を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		国際契約の基礎知識を修得していること。後期中に3回授業内理解度確認テストを実施する。また、後期末に論述式の授業内試験を実施し、総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2014年	文眞堂		『現代国際商取引－よくわかる理論と実務－』		亀田尚己編著 平野英則ほか著
	備考					
参考書	新堀聰『ウィーン売買条約と貿易契約』同文館、2009年					
オフィスアワー	講義が質疑応答方式で行われることから、学生からの質問および相談は、授業内（火曜4時限）に書面または口頭にて受け付ける。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の該当箇所の事前精読（2時間）
	授業内容	講義の導入 インコタームズ①標準的取引条件およびインコタームズ2010
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
2	事前学習	教科書の該当箇所の事前精読（2時間）
	授業内容	インコタームズ②インコタームズ2000からの主な変更点
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
3	事前学習	教科書の該当箇所の事前精読（2時間）
	授業内容	外国為替①為替変動リスクの概要
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
4	事前学習	教科書の該当箇所の事前精読（2時間）
	授業内容	外国為替②為替変動リスクの回避方法
	事後学習	講義内容の復習（2時間）

5	事前学習	教科書の該当箇所の事前精読（2時間）
	授業内容	貿易金融
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
6	事前学習	教科書の該当箇所の事前精読（2時間）
	授業内容	国際物品運送①海上物品運送および航空貨物運送
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
7	事前学習	教科書の該当箇所の事前精読（2時間）
	授業内容	国際物品運送②国際複合運送
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
8	事前学習	教科書の該当箇所の事前精読（2時間）
	授業内容	国際紛争解決：国際民事訴訟と国際商事仲裁①国際商取引紛争の解決手段と契約上の合意
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
9	事前学習	教科書の該当箇所の事前精読（2時間）
	授業内容	国際紛争解決：国際民事訴訟と国際商事仲裁②国際民事訴訟という紛争解決手段と裁判管轄条項
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
10	事前学習	教科書の該当箇所の事前精読（2時間）
	授業内容	国際紛争解決：国際民事訴訟と国際商事仲裁③国際商事仲裁という手段、その長所と短所
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
11	事前学習	教科書の該当箇所の事前精読（2時間）
	授業内容	国際紛争解決：国際民事訴訟と国際商事仲裁④国際商取引紛争における弁護士を活用
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
12	事前学習	事前配付のケーススタディについての解答の作成（2時間）
	授業内容	事例研究①運送書類の種類と関係当事者の権利義務関係
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
13	事前学習	事前配付のケーススタディについての解答の作成（2時間）
	授業内容	事例研究②国際民事訴訟と国際商事仲裁の違いおよび管轄条項の交渉方法
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
14	事前学習	後期講義内容についての疑問点の取りまとめ（2時間）
	授業内容	後期講義内容の総括および質疑応答
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
15	事前学習	後期講義内容の総復習（2時間）
	授業内容	後期試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	解答内容の自己検証（2時間）

科目名	国際政治学 I	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際政治学の理論を国際社会のさまざまな現実照射して、今、起こっている問題をどう考えればよいのかの道標を提供します。国際政治におけるパワーの概念や平和構築概念を使って、グローバル化がもたらす貧困の問題、歴史的な宗教的対立など、「格差」と「相違」の問題を論理的に把握します。本講義では、国際社会をみる上で「学問」の価値がどこにあるのかから説き起こし、社会科学的な思考の訓練をまず実施します。							
授業目的・到達目標	国際政治学の学術的基礎知識（国際社会の事実、専門用語）、基礎的理論（理論・分析枠組み）などを身に付けることを目的とし、理論の理解が、社会の現実の分析にどのように役立つのかを考えられるようになることを目標とします。関連DP及びCP：政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 2, 3, 4							
履修条件	2年生が履修ください。 1年生は山本直先生、3年生以上は信夫隆司先生の国際政治学を履修ください。							
授業方法	講義形式で行います。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		70%		基本概念が理解され、国際的な思考力が身につけているかなど、総合的に判定します。			
	平常評価		30%		受講態度20%、課題提出10%			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	2018		弘文堂		『国際関係論 <第3版>』（Next教科書シリーズ）		佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄 編	
	備考							
参考書	原彬久『国際関係学 講義（第4版）』（有斐閣、2011年）。 その他、事前学習にあげた書籍などに目を通してください。							
オフィスアワー	水曜日12:15～12:55(事前にアポイントメントを取ること)							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書に目を通すほか、ニュースフィード系のウェブサイトを利用して、その週の世界の主要な国際政治・経済の出来事をフォローしておこう。（2時間）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	授業中に出てきた用語や内容について、理解度を確認しておこう。（2時間）
2	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） ウォルツ, K. N. / 河野勝・岡垣知子訳『国際政治の理論』勁草書房, 2010年。 カー, E. H. / 原彬久訳『危機の二十年―理想と現実』岩波文庫, 2011年。
	授業内容	国際関係論はどのような学問なのか(テキスト第1章)
	事後学習	国際政治学とはどのような学問なのか確認しよう。（2時間）
3	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） ウォルツ, K. / 河野勝・岡垣知子訳『国際政治の理論』勁草書房, 2010年。
	授業内容	国際関係理論とは何か 1 (テキスト第 8 章前半)
	事後学習	国際関係理論における「理論」と自然科学における理論の違いを考えてみよう。（2時間）
4	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣, 2013年。
	授業内容	国際関係理論とは何か 2 (テキスト第 8 章後半)
	事後学習	国際関係理論における「理論」と自然科学における理論の違いを考えてみよう。（2時間）

5	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） ポーター，G.・ブラウン，J. W. / 信夫隆司訳『地球環境政治―地球環境問題の国際政治学』国際書院，1993年。
	授業内容	国際レジーム論とグローバル・ガバナンス 1（テキスト第9章前半）
	事後学習	なぜ理論が必要なのか考えてみよう。（2時間）
6	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 渡辺昭夫・土山實男編『グローバル・ガヴァナンス―政府なき秩序の模索』東京大学出版会，2001年。
	授業内容	国際レジーム論とグローバル・ガバナンス 2（テキスト第9章後半）
	事後学習	新しい国際関係論の流れをまとめてみよう。（2時間）
7	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 山本吉宣『「帝国」の国際政治学―冷戦後の国際システムとアメリカ』東信堂，2006年。
	授業内容	20世紀の国際関係をどう理解するのか 1（テキスト第2章前半）
	事後学習	2度の大戦から冷戦までの歴史を振り返ってみよう。（2時間）
8	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 石井修『国際政治史としての二〇世紀』有信堂高文社，2000年。
	授業内容	20世紀の国際関係をどう理解するのか 2（テキスト第2章後半）
	事後学習	2度の大戦と冷戦は世界に何をもたらしたのか考えてみよう。（2時間）
9	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） ウッドワード，B. / 伏見威蕃訳『ブッシュの戦争』日本経済新聞社，2003年。
	授業内容	今日の国際関係をどう読むのか 1（テキスト第3章前半）
	事後学習	「9.11」の背景について考えてみよう。（2時間）
10	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 遠藤乾『欧州複合危機―苦悶するEU，揺れる世界』中央公論新社，2016年。
	授業内容	今日の国際関係をどう読むのか 2（テキスト第3章後半）
	事後学習	なぜ今、自国第一の時代なのか考えてみよう。（2時間）
11	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） フリードマン，T. / 伏見威蕃訳『フラット化する世界―経済の大転換と人間の未来（上・下）』日本経済新聞社，2006年。
	授業内容	グローバリゼーションの時代をどう読むのか 1（テキスト第4章前半）
	事後学習	グローバリゼーションの功罪をまとめてみよう。（2時間）
12	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 重田康博『激動するグローバル市民社会―「慈善」から「公正」への発展と展開』明石書店，2017年。
	授業内容	グローバリゼーションの時代をどう読むのか 2（テキスト第4章後半）
	事後学習	グローバリゼーションに対する様々な主張をまとめてみよう。（2時間）
13	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） サックス，J. D. / 鈴木主税・野中邦子訳『貧困の終焉―2025 年までに世界を変える』早川書房，2007年。
	授業内容	南北問題をどう解決するのか 1（テキスト第11章前半）
	事後学習	21世紀の国際社会における諸問題について考えてみよう。（2時間）
14	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 田中治彦・三宅隆史・湯本浩之編『SDGs と開発教育―持続可能な開発目標のための学び』学文社，2016年。
	授業内容	南北問題をどう解決するのか 2（テキスト第11章後半）
	事後学習	国内におけるSDG'sに対する取り組みについて調べてみよう。（2時間）
15	事前学習	第14回までに学んだ事柄を振り返ってみる。（2時間）
	授業内容	第1回から第14回までのまとめ
	事後学習	世界で起こっている現在の問題を、国際関係理論を使って考えてみよう。（2時間）

科目名	国際政治学 I	担当者	信夫 隆司	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	現代の国際政治を理解するするの必要となる歴史、国際政治理論、国際政治問題を学習します。					
授業目的・到達目標	現代国際政治の理解に必要な歴史と理論の基本を学ぶことを目的とします。20世紀から21世紀にかけての国際政治を、第一次世界大戦、第二次世界大戦、冷戦、冷戦後という形で、叙述的に歴史を学ぶだけではなく、国際政治の「学」としての分析的歴史（国際政治理論）も理解できるようにします。同時に、現在の国際政治事象の理解を深めることも目的とします。日々起るさまざまな国際事象を、これまでの歴史的経緯、また、国際政治学の理論的なアプローチから理解できるようになることを到達目標とします。関連DP及びCP：政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 2, 3, 4					
履修条件	履修条件があります。この講義は、3年次以降の学生のみが履修できます。1年次・2年次の学生は、他の指定された講義を履修してください。					
授業方法	講義形式ですが、可能なかぎり、講義の理解に役立つビデオ教材、あるいは、一次史料を用います。また、その時々国際政治に関する出来事についての新聞記事を紹介しながら、国際政治学を学べるようにします。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		100%		定期試験で成績を評価します。	
	平常評価					
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	弘文堂		国際関係論（第3版）。かならず第3版を使用してください。		佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄
	備考					
参考書	講義の際、適宜、紹介します。					
オフィスアワー	水曜日12：20～12：50。なお、事前にメールでアポイントメントをとってください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	国際政治学と何か、自分でイメージしてみよう。（2時間）
	授業内容	前期のガイダンス
	事後学習	国際政治学の概要を整理してみよう。（2時間）
2	事前学習	国際政治学とはどのような学問であるのかを考えてみよう。（2時間）
	授業内容	国際政治学はどのような学問なのか（1）
	事後学習	「学」としての国際政治学とは何かを整理してみよう。（2時間）
3	事前学習	国際政治学とはどのような学問であるのかを考えてみよう。（2時間）
	授業内容	国際政治学はどのような学問なのか（2）
	事後学習	「学」としての国際政治学とは何かを整理してみよう。（2時間）
4	事前学習	20世紀の国際関係の歴史を概観してみよう。（2時間）
	授業内容	20世紀の国際関係をどう理解するか（1）
	事後学習	20世紀の国際関係の特徴を整理してみよう。（2時間）

5	事前学習	20世紀の国際関係の歴史を概観してみよう。（2時間）
	授業内容	20世紀の国際関係をどう理解するか（2）
	事後学習	20世紀の国際関係の特徴を整理してみよう。（2時間）
6	事前学習	21世紀の国際関係を調べてみよう。（2時間）
	授業内容	今日の国際関係をどう読むのか（1）
	事後学習	21世紀の国際関係の特徴を整理してみよう。（2時間）
7	事前学習	21世紀の国際関係を調べてみよう。（2時間）
	授業内容	今日の国際関係をどう読むのか（2）
	事後学習	21世紀の国際関係の特徴を整理してみよう。（2時間）
8	事前学習	トランプ政権の誕生、イギリスのEUからの離脱にみられる自国第一主義について調べてみよう。（2時間）
	授業内容	自国第一主義の時代（1）
	事後学習	自国第一主義の問題点を整理してみよう。（2時間）
9	事前学習	トランプ政権の誕生、イギリスのEUからの離脱にみられる自国第一主義について調べてみよう。（2時間）
	授業内容	自国第一主義の時代（2）
	事後学習	自国第一主義の問題点を整理してみよう。（2時間）
10	事前学習	今日におけるグローバリゼーションとは何かを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	グローバリゼーションとは何か（1）
	事後学習	グローバリゼーションの功罪について整理してみよう。（2時間）
11	事前学習	今日におけるグローバリゼーションとは何かを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	グローバリゼーションとは何か（2）
	事後学習	グローバリゼーションの功罪について整理してみよう。（2時間）
12	事前学習	現代の安全保障における問題点を調べてみよう。（2時間）
	授業内容	現代の安全保障をどう読むのか（1）
	事後学習	現代の安全保障の特徴を整理してみよう。（2時間）
13	事前学習	現代の安全保障における問題点を調べてみよう。（2時間）
	授業内容	現代の安全保障をどう読むのか（2）
	事後学習	現代の安全保障の特徴を整理してみよう。（2時間）
14	事前学習	北朝鮮、中国を中心とする北東アジアの国際関係を調べてみよう。（2時間）
	授業内容	北東アジアの政治と国際関係
	事後学習	北東アジアの国際関係を整理してみよう。（2時間）
15	事前学習	前期の講義を振り返ってみよう。（2時間）
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	本講義から得られた知見を整理してみよう。（2時間）

科目名	国際政治学 I	担当者	山本 直	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代世界で展開される国際政治を読み解くために必要な見方と考え方を身につける。			
授業目的・到達目標	現代世界で展開される国際政治を読み解くために必要な能力を養成することを目的とする。20世紀から今日に及ぶ国際関係の展開、グローバリゼーション、安全保障、北東アジアの政治と日本の位置づけを学ぶことを通じて、現代の国際政治を筋道立てて考え説明する能力を身につけることを到達目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 2, 3, 4			
履修条件	1年生のみ履修できる。スマートフォンは毎回カバンの中に片づける。時計は別に持参する。 やむをえず欠席する場合は、欠席した回の内容を出席者から確認したうえで次回出席する。			
授業方法	講義方式で進めるが、受講生にたびたびマイクを向ける。下記の教科書を初回から持参する。教科書を持参した人のみ受講を認める。必要に応じてプリントを配布する。ビデオ教材を用いる。レポートの講評を授業で行なう。			
成績評価	種別		割合	
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	
	授業の参加度、レポート、授業内試験によって評価する。			
教科書	年	出版社		書名
	2018	弘文堂		『国際関係論 [第3版] 』
				佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄
	備考	上記の教科書を各自で購入し、一読したうえで初回に持参すること。初版と第2版ではなく第3版を用いるので注意すること。		
参考書	上記の教科書の261ページから263ページにかけて参考文献がリストアップされている。図書館所蔵の文献も多く、自主的に読み進めることを推奨する。			
オフィスアワー	火曜3限。不在の場合があるので事前に連絡すること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の第1章から第7章まで（3ページ～118ページ）を一読したうえで、印象に残ったことを2-3行程度ノートに書き留める。初回に教科書を持参する。（2時間）
	授業内容	ノートに書き留めたことを発表する。授業の進め方を確認する。
	事後学習	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
2	事前学習	教科書の第1章「国際関係論はどのような学問なのか」について準備する。（2時間）
	授業内容	国際関係論はどのような学問なのかともに考える。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
3	事前学習	教科書の第1章「国際関係論はどのような学問なのか」についてあらためて準備する。（2時間）
	授業内容	前回の学習内容を補足しつつ、さらに理解を深める。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
4	事前学習	教科書の第2章「20世紀の国際関係をどう理解するのか」について準備する。（2時間）
	授業内容	20世紀の国際関係をどう理解するのかともに考える。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）

5	事前学習	教科書の第2章「20世紀の国際関係をどう理解するのか」についてあらためて準備する。（2時間）
	授業内容	前回の学習内容を補足しつつ、さらに理解を深める。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
6	事前学習	教科書の第3章「今日の国際関係をどう読むのか」について準備する。（2時間）
	授業内容	今日の国際関係をどう読むのかともに考える。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
7	事前学習	教科書の第3章「今日の国際関係をどう読むのか」についてあらためて準備する。（2時間）
	授業内容	前回の学習内容を補足しつつ、さらに理解を深める。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
8	事前学習	教科書の第4章「グローバリゼーションの時代をどう読むのか」について準備する。（2時間）
	授業内容	グローバリゼーションの時代をどう読むのかともに考える。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
9	事前学習	教科書の第4章「グローバリゼーションの時代をどう読むのか」についてあらためて準備する。（2時間）
	授業内容	前回の学習内容を補足しつつ、さらに理解を深める。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
10	事前学習	教科書の第5章「現代の安全保障をどう読むのか」について準備する。（2時間）
	授業内容	現代の安全保障をどう読むのかともに考える。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
11	事前学習	教科書の第5章「現代の安全保障をどう読むのか」についてあらためて準備する。（2時間）
	授業内容	前回の学習内容を補足しつつ、さらに理解を深める。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
12	事前学習	教科書の第6章「北東アジアの政治と国際関係をどう読むのか」について準備する。（2時間）
	授業内容	北東アジアの政治と国際関係をどう読むのかともに考える。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
13	事前学習	教科書の第7章「国際社会における日本の位置づけをどう読むのか」について準備する。（2時間）
	授業内容	国際社会における日本の位置づけをどう読むのかともに考える。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
14	事前学習	教科書の第7章「国際社会における日本の位置づけをどう読むのか」についてあらためて準備する。（2時間）
	授業内容	前回の学習内容を補足しつつ、さらに理解を深める。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業の内容をふりかえり試験に備える。（2時間）
	授業内容	学習成果を確認するための試験を実施する。
	事後学習	授業と試験の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標を達成できたか自省する。（2時間）

科目名	国際政治学Ⅱ	担当者	柑本 英雄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際政治学の理論を国際社会のさまざまな現実照射して、今、起こっている問題をどう考えればよいのかの道標を提供します。国際政治におけるパワーの概念や平和構築概念を使って、グローバル化がもたらす貧困の問題、歴史的な宗教的対立など、「格差」と「相違」の問題を論理的に把握します。本講義では、国際社会をみる上で「学問」の価値がどこにあるのかから説き起こし、社会科学的な思考の訓練をまず実施します。			
授業目的・到達目標	国際政治学の学術的基礎知識（国際社会の事実、専門用語）、基礎的理論（理論・分析枠組み）などを身に付けることを目的とし、理論の理解が、社会の現実の分析にどのように役立つのかを考えられるようになることを目標とします。関連DP及びCP：政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 2, 3, 4			
履修条件	2年生が履修ください。 1年生は山本直先生、3年生以上は信夫隆司先生の国際政治学を履修ください。			
授業方法	講義形式で行います。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		70%	基本概念が理解され、国際的な思考力が身についているかなど、総合的に判定します。
	平 常 評 価		30%	受講態度20%、課題提出10%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	弘文堂	『国際関係論 <第3版>』（Next教科書シリーズ）	佐渡友哲, 信夫隆司, 柑本英雄 編
	備考			
参 考 書	原彬久『国際関係学 講義（第4版）』（有斐閣、2011年）。 その他、事前学習にあげた書籍などに目を通してください。			
オフィスアワー	水曜日12:15～12:55(事前にアポイントメントを取ること)			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 防衛大学校安全保障学研究会編著『安全保障学入門（新訂第4 版）』亜紀書房，2009年。
	授業内容	現代の安全保障をどう読むのか1（テキスト第5章前半）
	事後学習	国際連盟や国際連合と、新しい安全保障の考え方の違いを考えてみよう。（2時間）
2	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 神保謙・東京財団「アジアの安全保障」プロジェクト編『アジア太平洋地域の安全保障アーキテクチャー―地域安全保障の三層構造』日本評論社，2011年。
	授業内容	現代の安全保障をどう読むのか2（テキスト第5章後半）
	事後学習	安全保障と地域協力について考えてみよう。（2時間）
3	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 藤原帰一・大芝亮・山田哲也編『平和構築・入門』有斐閣，2011年。
	授業内容	国際紛争・国内紛争をどう解決するのか1（テキスト第15章前半）
	事後学習	第二次世界大戦以前と「新しい戦争」の違いについて考えてみよう。（2時間）
4	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 武者小路公秀編著『人間の安全保障―国家中心主義をこえて』ミネルヴァ書房，2009年。
	授業内容	国際紛争・国内紛争をどう解決するのか2（テキスト第15章後半）
	事後学習	人間の安全保障と従来の安全保障との違いをまとめてみよう。（2時間）

5	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 小倉紀蔵・小針進編『日韓関係の争点』藤原書店，2014年。 増田弘・波多野澄雄編『アジアの中の日本と中国―友好と摩擦の現代史』山川出版社，1995年。
	授業内容	北東アジアの政治と国際関係をどう読むのか（テキスト第6章）
	事後学習	日中間の間に今起こっている問題をまとめよう。（2時間）
6	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 五百旗頭真編『戦後日本外交史（第3 版）』有斐閣，2010年。
	授業内容	国際社会における日本の位置づけをどう読むのか 1（テキスト第7章前半）
	事後学習	戦後日本がなぜ経済発展することができたのか、それがいまだのようになっているのかを考えてみよう。（2時間）
7	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 進藤榮一・水戸考道編『戦後日本政治と平和外交―21 世紀アジア共生時代の視座』法律文化社，2007年。
	授業内容	国際社会における日本の位置づけをどう読むのか 2（テキスト第7章後半）
	事後学習	日本が戦後、世界経済や安全保障にどのように対応してきたのか日米同盟との関連を考えてみよう。（2時間）
8	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 日本国際政治学会編「特集環境とグローバル・ポリティクス」『国際政治』166 号，2011年。
	授業内容	地球環境問題をどう解決するのか 1（テキスト第12章前半）
	事後学習	環境問題を、大気汚染、温暖化、生態系破壊、生物多様性、などに分類して原因と現状についてまとめてみよう。（2時間）
9	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） クライン，N. / 幾島幸子・荒井雅子訳『これがすべてを変える―資本主義vs. 気候変動（上・下）』岩波書店，2017年。
	授業内容	地球環境問題をどう解決するのか 2（テキスト第12章後半）
	事後学習	地球環境問題に関する対応とその課題についてまとめてみよう。（2時間）
10	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 中村民雄『EU とは何か―国家ではない未来の形』信山社，2016年。
	授業内容	リージョナリズムと欧州統合 1（テキスト第10章前半）
	事後学習	EU統合がなぜ必要だったのか、統合までの道のりをまとめてみよう。（2時間）
11	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 遠藤乾『欧州複合危機―苦悶するEU、揺れる世界』中公新書，2016年。
	授業内容	リージョナリズムと欧州統合 2（テキスト第10章後半）
	事後学習	今EUが抱える問題を理解しよう。（2時間）
12	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 西川潤・佐藤幸男編『NPO/NGO と国際協力』ミネルヴァ 書房，2002年。
	授業内容	非国家アクターの台頭をどう見るのか 1（テキスト第13章前半）
	事後学習	多様なアクターが存在する理由について考えてみよう。（2時間）
13	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 柑本英雄『国際的行為体とアイデンティティの変容―欧州沿岸辺境地域会議と共通漁業政策をめぐる』成文堂，2000年。
	授業内容	非国家アクターの台頭をどう見るのか 2（テキスト第13章後半）
	事後学習	国家アクターの限界と非国家アクターの可能性について考えてみよう。（2時間）
14	事前学習	以下の書籍などに目を通しておこう。（2時間） 毛利聡子『NGO から見る国際関係―グローバル市民社会への視座』法律文化社，2011年。
	授業内容	市民社会は世界を動かすことができるのか（テキスト第14章）
	事後学習	市民社会アクターの事例を探してみよう。（2時間）
15	事前学習	これまでに学習した内容を復習し、テストに備えよう。（2時間）
	授業内容	テスト及び振り返り
	事後学習	これまでの学習で不足している知識や理解が不十分な事項がないか確認しよう。（2時間）

科目名	国際政治学Ⅱ	担当者	信夫 隆司	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	現代の国際政治を理解するするの必要となる歴史、国際政治理論、国際政治問題を学習します。			
授業目的・到達目標	現代国際政治の理解に必要な歴史と理論の基本を学ぶことを目的とします。20世紀から21世紀にかけての国際政治を、第一次世界大戦、第二次世界大戦、冷戦、冷戦後という形で、叙述的に歴史を学ぶだけではなく、国際政治の「学」としての分析的歴史（国際政治理論）も理解できるようにします。同時に、現在の国際政治事象の理解を深めることも目的とします。日々起るさまざまな国際事象を、これまでの歴史的経緯、また、国際政治学の理論的なアプローチから理解できるようになることを到達目標とします。関連DP及びCP：政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 2, 3, 4			
履修条件	履修条件があります。この講義は、3年次以降の学生のみが履修できます。1年次・2年次の学生は、他の指定された講義を履修してください。			
授業方法	講義形式ですが、可能なかぎり、講義の理解に役立つビデオ教材、あるいは、一次史料を用います。また、その時々国際政治に関する出来事についての新聞記事を紹介しながら、国際政治学を学べるようにします。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		100%	定期試験で成績を評価します。
	平常評価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	弘文堂	国際関係論（第3版）。かならず第3版を使用してください。	佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄
	備考			
参考書	講義の際、適宜、紹介します。			
オフィスアワー	水曜日12：20～12：50。なお、事前にメールでアポイントメントをとってください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	後期のシラバスをよく読んでみよう。（2時間）
	授業内容	後期のガイダンス
	事後学習	後期の講義の全体像をつかもう。（2時間）
2	事前学習	国際政治理論とは何かを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	国際政治理論とは何か（1）
	事後学習	主要な国際政治理論を整理してみよう。（2時間）
3	事前学習	国際政治理論とは何かを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	国際政治理論とは何か（2）
	事後学習	主要な国際政治理論を整理してみよう。（2時間）
4	事前学習	国際政治理論とは何かを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	国際政治理論とは何か（3）
	事後学習	主要な国際政治理論を整理してみよう。（2時間）

5	事前学習	欧州統合の歴史を調べてみよう。（2時間）
	授業内容	リージョナリズムと欧州統合（1）
	事後学習	欧州統合の歴史を整理してみよう。（2時間）
6	事前学習	昨今の欧州統合の問題点を調べてみよう。（2時間）
	授業内容	リージョナリズムと欧州統合（2）
	事後学習	イギリスのEUからの離脱について考えてみよう。（2時間）
7	事前学習	南北問題とはどのようなものを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	南北問題をどう解決するのか（1）
	事後学習	南北問題の解決策を考えてみよう。（2時間）
8	事前学習	南北問題とはどのようなものを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	南北問題をどう解決するのか（2）
	事後学習	南北問題の解決策を考えてみよう。（2時間）
9	事前学習	地球環境問題にはどのようなものがあるかを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	地球環境問題をどう解決するのか（1）
	事後学習	地球環境問題の発生原因、影響、国際社会の取り組みを整理してみよう。（2時間）
10	事前学習	地球環境問題にはどのようなものがあるかを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	地球環境問題をどう解決するのか（2）
	事後学習	地球環境問題の発生原因、影響、国際社会の取り組みを整理してみよう。（2時間）
11	事前学習	地球環境問題にはどのようなものがあるかを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	地球環境問題をどう解決するのか（3）
	事後学習	地球環境問題の発生原因、影響、国際社会の取り組みを整理してみよう。（2時間）
12	事前学習	国際政治における非国家アクターとしてどのようなものがあるかを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	非国家アクターと市民社会
	事後学習	非国家アクターの役割を整理してみよう。（2時間）
13	事前学習	現代の国際紛争にはどのようなものがあるかを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	国際紛争・国内紛争をどう解決するのか（1）
	事後学習	国際紛争・国内紛争の解決策を考えてみよう。（2時間）
14	事前学習	現代の国際紛争にはどのようなものがあるかを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	国際紛争・国内紛争をどう解決するのか（2）
	事後学習	国際紛争・国内紛争の解決策を考えてみよう。（2時間）
15	事前学習	後期の講義を振り返ってみよう。（2時間）
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	後期に学んだことを整理してみよう。（2時間）

科目名	国際政治学Ⅱ	担当者	山本 直	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代世界で展開される国際政治を読み解くために必要な見方と考え方を身につける。					
授業目的・到達目標	現代世界で展開される国際政治を読み解くために必要な能力を養成することを目的とする。国際関係の理論、現代国際関係の課題を学ぶことを通じて、現代の国際政治を筋道立てて考え説明する能力を身につけることを到達目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 2, 3, 4					
履修条件	1年のみ履修できる。スマートフォンは毎回カバンの中に片づける。時計は別に持参する。やむをえず欠席する場合は、欠席した回の内容を出席者から確認したうえで次回出席する。					
授業方法	講義形式で進めるが、受講生にたびたびマイクを向ける。下記の教科書を初回から持参する。教科書を持参したのみ受講を認める。必要に応じてプリントを配布する。ビデオ教材を用いる。レポートの講評を授業で行なう。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業の参加度、レポート、授業内試験によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	弘文堂		『国際関係論 [第3版] 』		佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄
	備考	上記の教科書を各自で購入し、一読したうえで初回に持参すること。初版と第2版ではなく第3版を用いるので注意すること。				
参考書	上記の教科書の263ページから267ページにかけて参考文献がリストアップされている。図書館所蔵の文献も多く、自主的に読み進めることを推奨する。					
オフィスアワー	火曜3限。不在の場合があるので事前に連絡すること。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の第8章から第15章まで（121ページ～256ページ）を一読したうえで、印象に残ったことを2-3行程度ノートに書き留める。初回に教科書を持参する。（2時間）
	授業内容	ノートに書き留めたことを発表する。授業の進め方を確認する。
	事後学習	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
2	事前学習	教科書の第8章「国際関係理論とは何か」について準備する。（2時間）
	授業内容	国際関係理論とは何かともに考える。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
3	事前学習	教科書の第8章「国際関係理論とは何か」についてあらためて準備する。（2時間）
	授業内容	前回の学習内容を補足しつつ、さらに理解を深める。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
4	事前学習	教科書の第9章「国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論」について準備する。（2時間）
	授業内容	国際レジーム論、グローバル・ガバナンス論とは何かともに考える。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）

5	事前学習	教科書の第9章「国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論」についてあらためて準備す（2時間）
	授業内容	前回の学習内容を補足しつつ、さらに理解を深める。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
6	事前学習	教科書の第10章「リージョナリズムと欧州統合」について準備する。（2時間）
	授業内容	リージョナリズムとは何か、なぜ欧州で統合が進むのかともに考える。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
7	事前学習	教科書の第10章「リージョナリズムと欧州統合」についてあらためて準備する。（2時間）
	授業内容	前回の学習内容を補足しつつ、さらに理解を深める。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
8	事前学習	教科書の第11章「南北問題をどう解決するのか」について準備する。（2時間）
	授業内容	南北問題をどう解決するのかともに考える。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
9	事前学習	特別授業として外部講師の講演会を行う。課題は事前に告知する。（2時間）
	授業内容	講演会を開催する。移民、人の移動、難民問題についてともに考える。
	事後学習	講演会の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
10	事前学習	教科書の第12章「地球環境問題をどう解決するのか」について準備する。（2時間）
	授業内容	地球環境問題をどう解決するのかともに考える。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
11	事前学習	教科書の第13章「非国家アクターの台頭をどう見るのか」について準備する。（2時間）
	授業内容	非国家アクターの台頭をどう見るのかともに考える。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
12	事前学習	教科書の第14章「市民社会は世界を動かすことができるのか」について準備する。（2時間）
	授業内容	市民社会は世界を動かすことができるのかともに考える。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
13	事前学習	教科書の第15章「国際紛争・国内紛争をどう解決するのか」について準備する。（2時間）
	授業内容	国際紛争・国内紛争をどう解決するのかともに考える。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
14	事前学習	教科書の第15章「国際紛争・国内紛争をどう解決するのか」についてあらためて準備する。（2時間）
	授業内容	前回の学習内容を補足しつつ、さらに理解を深める。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業の内容をふりかえり試験に備える。（2時間）
	授業内容	学習成果を確認するための試験を実施する。
	事後学習	授業と試験の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標を達成できたか自省する。（2時間）

科目名	国際政治経済特殊講義A	担当者	信夫 隆司	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	地球環境問題、とりわけ大気をめぐる地球環境問題について学びます。具体的には、地球温暖化、オゾン層の破壊、長距離越境大気汚染（酸性雨）について、発生の原因、影響、国際社会の取り組み、具体的な環境条約、それら条約の効果、わたしたちの生活への影響について学習します。				
授業目的・到達目標	地球環境問題、とりわけ、地球温暖化、オゾン層の破壊、長距離越境大気汚染（酸性雨）といった大気に関する地球環境問題について、（１）なぜこれらの問題が発生したのか、（２）これらの問題に対する国際社会の対応はいかなるものか、（３）これらの問題について、具体的にどのような環境レジーム（条約）が作られているのか、（４）これらの条約の効果如何について、体系的に学ぶことを目的とします。さらに、可能なかぎり、これらの問題がわたしたちの生活にどのような影響を及ぼしているのかを実感できるようにすることを到達目標とします。関連DP及びCP：政治経済学科3，4，5，6				
履修条件	地球環境問題に関心のある学生に履修してもらいたいと思います。また、レポート作成・プレゼンが必須となりますので、意欲のある学生が履修してください。				
授業方法	特殊講義の特性をいかし、一方的な講義形式ではなく、学生参加型の授業方法とします。大気に関する地球環境問題を中心に、各自がテーマを決め、レポートを作成し、プレゼンを行う形式です。レポートの講評を行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	テーマに関する事前学習、レポート作成、プレゼンテーションを総合的に判断します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しません			
参考書	講義の際、適宜、紹介します。				
オフィスアワー	水曜日１２：２０～１２：５０。なお、事前にメールでアポイントメントをとってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	地球環境問題にはどのようなものがあるかを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	どのような地球環境問題に関心があるかを探ってみよう。（2時間）
2	事前学習	地球環境問題全般について調べてみよう。（2時間）
	授業内容	地球環境問題とは何か（１）
	事後学習	地球環境問題の特徴を明らかにしてみよう。（2時間）
3	事前学習	大気をめぐる地球環境問題にはどのようなものがあるかを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	地球環境問題とは何か（２）
	事後学習	地球環境問題の特徴を明らかにしてみよう。（2時間）
4	事前学習	地球温暖化はなぜ起るのか、および、その影響を調べてみよう。（2時間）
	授業内容	地球温暖化の基礎
	事後学習	地球温暖化の科学的知見について整理してみよう。（2時間）

5	事前学習	気候変動枠組条約とはいかなるものか、調べてみよう。（2時間）
	授業内容	気候変動枠組条約の概要
	事後学習	気候変動枠組条約の内容について整理してみよう。（2時間）
6	事前学習	京都議定書はなぜ締結されたのかを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	京都議定書の概要（1）
	事後学習	京都議定書の内容について整理してみよう。（2時間）
7	事前学習	京都議定書にはどのような特徴があるかを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	京都議定書の概要（2）
	事後学習	京都議定書の内容について整理してみよう。（2時間）
8	事前学習	ポスト京都議定書への国際社会の対応について調べてみよう。（2時間）
	授業内容	パリ協定の概要（1）
	事後学習	パリ協定の内容について整理してみよう。（2時間）
9	事前学習	パリ協定が誕生するまでの交渉過程を調べてみよう。（2時間）
	授業内容	パリ協定の概要（2）
	事後学習	京都議定書とパリ協定とを比較してみよう。（2時間）
10	事前学習	オゾン層の破壊とはいかなるものか、その原因を調べてみよう。（2時間）
	授業内容	オゾン層破壊（1）科学的知見
	事後学習	オゾン層破壊に関する科学的知見を整理してみよう。（2時間）
11	事前学習	オゾン層を保護するためのウィーン条約について調べてみよう。（2時間）
	授業内容	オゾン層破壊（2）ウィーン条約
	事後学習	ウィーン条約の内容を整理してみよう。（2時間）
12	事前学習	オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書について調べてみよう。（2時間）
	授業内容	オゾン層破壊（3）モントリオール議定書
	事後学習	モントリオール議定書の内容を整理してみよう。（2時間）
13	事前学習	長距離越境大気汚染（酸性雨）問題の発生原因を調べてみよう。（2時間）
	授業内容	長距離越境大気汚染（酸性雨）問題
	事後学習	長距離越境大気汚染（酸性雨）問題の発生原因を整理してみよう。（2時間）
14	事前学習	長距離越境大気汚染（酸性雨）問題に関する国際社会の取り組みを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	長距離越境大気汚染条約の概要
	事後学習	長距離越境大気汚染条約の内容について整理してみよう。（2時間）
15	事前学習	これまで学習した地球環境問題を整理してみよう。（2時間）
	授業内容	前期講義のまとめ
	事後学習	これらの問題がわたしたちの生活にどのように関連しているのかを考えてみよう。（2時間）

科目名	国際政治経済特殊講義B	担当者	信夫 隆司	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	地球環境問題、とりわけ自然環境・野生生物をめぐる地球環境問題について学びます。具体的には、生物多様性、野生生物の減少、森林の減少、砂漠化等について、発生の原因、影響、国際社会の取り組み、具体的な環境条約、それら条約の効果、わたしたちの生活への影響について学習します。			
授業目的・到達目標	地球環境問題、とりわけ、生物多様性、野生生物の減少、森林の減少、砂漠化といった自然環境と野生生物に関する地球環境問題について、（１）なぜこれらの問題が発生したのか、（２）これらの問題に対する国際社会の対応はいかなるものか、（３）これらの問題について、具体的にどのような環境レジーム（条約）が作られているのか、（４）これらの条約の効果如何について、体系的に学ぶことを目的とします。さらに、可能なかぎり、これらの問題がわたしたちの生活にどのような影響を及ぼしているのかを実感できるようにすることを到達目標とします。関連DP及びCP：政治経済学科2, 4, 6			
履修条件	地球環境問題に関心のある学生に履修してもらいたいと思います。また、レポート作成・プレゼンが必須となりますので、意欲のある学生が履修してください。			
授業方法	特殊講義の特性をいかし、一方的な講義形式ではなく、学生が積極的に参加する授業方法とします。自然環境・野生生物に関する地球環境問題を中心に、各自がテーマを決め、レポートを作成し、プレゼンを行う形式です。レポートの講評を行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	テーマに関する事前学習、レポート作成、プレゼンテーションを総合的に判断します。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しません		
参考書	講義の際、適宜、紹介します。			
オフィスアワー	水曜日 12：20～12：50。なお、事前にメールでアポイントメントをとってください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	自然環境・野生生物に関する地球環境問題について調べてみよう。（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	自分がどの問題に関心があるかを考えてみよう。（2時間）
2	事前学習	生物多様性とは何かを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	生物多様性とは
	事後学習	生物多様性はわたしたちの暮らしにどのような意味をもっているかを考えてみよう。（2時間）
3	事前学習	生物多様性条約とはいかなるものかを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	生物多様性条約の概要
	事後学習	生物多様性条約の内容を整理してみよう。（2時間）
4	事前学習	生物多様性の保護と利用について調べてみよう。（2時間）
	授業内容	名古屋議定書の概要
	事後学習	名古屋議定書の内容について整理してみよう。（2時間）

5	事前学習	野生生物とわたしたちの暮らしについて調べてみよう。（2時間）
	授業内容	野生生物の利用
	事後学習	野生生物の利用について整理してみよう。（2時間）
6	事前学習	野生生物がどの程度減少しているのか、調べてみよう。（2時間）
	授業内容	野生生物の減少
	事後学習	野生生物減少の原因を考えてみよう。（2時間）
7	事前学習	野生生物減少を防ぐ国際的な取り組みに何があるかを考えてみよう。（2時間）
	授業内容	ワシントン条約(CITES)の概要（1）
	事後学習	ワシントン条約の内容を整理してみよう。（2時間）
8	事前学習	野生生物減少を防ぐ国際的な取り組みに何があるかを考えてみよう。（2時間）
	授業内容	ワシントン条約(CITES)の概要（2）
	事後学習	ワシントン条約の内容を整理してみよう。（2時間）
9	事前学習	野生生物の保護に関する国内の取り組みを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	国内における野生生物保護の取り組み
	事後学習	日本国内における野生生物の保護に関する法律を調べてみよう。（2時間）
10	事前学習	なぜ森林が減少するのかを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	森林減少とは
	事後学習	森林減少の実態を整理してみよう。（2時間）
11	事前学習	森林減少を防ぐ国際社会の取り組みを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	森林原則声明とは
	事後学習	森林原則声明の内容を整理してみよう。（2時間）
12	事前学習	森林減少を防ぐ日本の取り組みについて調べてみよう。（2時間）
	授業内容	森林減少を防ぐ仕組みとは
	事後学習	わたしたちと森林とのかかわりを考えてみよう。（2時間）
13	事前学習	どうして砂漠化が起きるのかを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	砂漠化とは
	事後学習	砂漠化防止に向けた日本の取り組みを調べてみよう。（2時間）
14	事前学習	砂漠化防止に向けた国際社会の取り組みを調べてみよう。（2時間）
	授業内容	砂漠化対処条約の概要
	事後学習	砂漠化対処条約の内容を整理してみよう。（2時間）
15	事前学習	これまで学習した地球環境問題を整理してみよう。（2時間）
	授業内容	後期の講義のまとめ
	事後学習	これらの問題がわたしたちの生活にどのように関連しているのかを考えてみよう。（2時間）

科目名	国際税法Ⅰ	担当者	伊藤 悟	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際税法は、ヒト、モノ、カネ、情報にかかる国境を越えた取引に対する課税問題を検討する税法科目です。授業は、国際物流である貿易取引にかかる税、すなわち関税について行います。貿易取引において、通関手続に伴う関税の納税は、重要な問題です。通関士などの専門家ばかりでなく、国際物流に関わる者（メーカー、輸出入業者、運輸、倉庫、為替銀行、等）にとって関税・通関の知識は不可欠です。授業形式は、講義形式ですが、過去問演習もあります。				
授業目的・到達目標	国際税法は、ヒト、モノ、カネ、情報にかかる国境を越えた取引に対する課税問題を検討することを目的とする。通関士試験の科目を中心に関税・通関の基礎的知識を習得し、国際貿易の基礎、通関と関税、通関士制度などを学習し、国際的視野をもった国際物流、貿易取引の初歩的技術も修得することを目標とする。関連DP及びCP：経営法学科1，2，6				
履修条件	通関士受験者、国際物流企業への就職希望者を大いに歓迎します。				
授業方法	講義形式であるが、双方向的講義としたい。予習、復習を十分に行うように学修・講義ポートフォリオを活用する。レポートの講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	レポート提出を課す。出欠確認をするが、最終学年の就活には配慮する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016年	八千代出版		市民のための税法学	伊藤 悟
	備考				
参考書	適時指示する。				
オフィスアワー	金曜17:50～ 授業講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス：シラバス解説、貿易取引の仕組、税関の職務、貿易関係業界
	事後学習	貿易実務の基礎を学習する。（2時間）
2	事前学習	通関業法の構成を学習する。（2時間）
	授業内容	通関業法：概略、基礎的語句の定義、その他重要ポイント
	事後学習	通関業者と通関士との関係、通関士試験について復習する。通関業法に関する学習ノートを作成する。（2時間）
3	事前学習	関税法の総則、保税地域、通関手続の基礎を税関WEB（www.customs.go.jp）内の輸出入の手続きにて確認する。（2時間）
	授業内容	関税法(1)：用語、保税地域、通関前手続、通関手続の基礎、輸出申告の基本と特例
	事後学習	輸出と輸入の意義、保税地域の種類等、輸出と税関手続きを復習する。（2時間）
4	事前学習	関税と輸入との関係を調べる。（2時間）
	授業内容	関税法(2)：輸入申告基本と特例、郵便物、関税の確定等、不服申立てと訴訟、他
	事後学習	関税法に関する学習ノートを作成する。（2時間）

5	事前学習	貿易取引での取引価格についてIncotermsがあるので、これにつき調べる。（2時間）
	授業内容	関税定率法、他法令：Incotermsと課税価格、関税率、特殊関税、減免税、NACCS、コンテナー特 例、ATA特例、外国為替貿易法、他
	事後学習	通関士試験の関税法等に関する過去問にチャレンジする。（2時間）
6	事前学習	NACCSの紹介ビデオがあるので参照する。（2時間）
	授業内容	通関実務(1)：品目分類、実行関税率表、輸入申告書の記載
	事後学習	通関士試験過去問での輸入申告書の作成問題にチャレンジする。（2時間）
7	事前学習	輸出と税関の関係を知る。（2時間）
	授業内容	通関実務(2)：輸出申告書の記載、輸出入手続きと税関との関係
	事後学習	通関士試験過去問での輸出申告書の作成問題にチャレンジする。（2時間）
8	事前学習	関税申告後に発生する附帯税、更正の請求、修正申告について調べる。（2時間）
	授業内容	通関実務(3)：更正の請求、修正申告等の計算問題の検討、レポート課題の配布
	事後学習	通関実務の過去問にチャレンジする。（2時間）
9	事前学習	通関業法の知識を整理する。（2時間）
	授業内容	通関業法演習(1)：過去問に基づき演習する。
	事後学習	配布された過去問資料について数度復習する。（2時間）
10	事前学習	通関業法のほか、政令、通達についても調べる。（2時間）
	授業内容	通関業法演習(2)：過去問に基づき演習する。
	事後学習	通関業法に関するノートの完成をする。（2時間）
11	事前学習	関税法の用語定義、保税地域規定を確認する。（2時間）
	授業内容	関税法演習(1)：過去問に基づき演習する。
	事後学習	関税法について重要事項を法令、通達を基に整理する。（2時間）
12	事前学習	授業の予習を行っておくこと。（2時間）
	授業内容	関税法演習(2)：過去問に基づき演習する。
	事後学習	通関士試験関税法等についての過去問を基に、情報、知識を整理する。（2時間）
13	事前学習	授業の予習を行っておくこと。（2時間）
	授業内容	通関実務演習(1)：過去問に基づき演習する。
	事後学習	配布した過去問を数度復習する。（2時間）
14	事前学習	授業の予習を行っておくこと。（2時間）
	授業内容	通関実務演習(2)：過去問に基づき演習する。
	事後学習	配布した過去問を数度復習する。（2時間）
15	事前学習	レポート提出の締切までに必ず提出する。（2時間）
	授業内容	総括：今日の国際物流と日本の関税法制の課題
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと。（2時間）

科目名	国際税法Ⅱ	担当者	伊藤 悟	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	グローバルなヒト、モノ、カネ、情報の移動に関する国際取引が日常的に行われる今日、国際取引への課税問題があります。これが国際税法の学習研究対象です。授業は、これを所得課税、消費課税、資産課税に分けて検討します。			
授業目的・到達目標	国際取引にかかる課税問題を学習研究することを目的とし、国際人としての基礎知識を習得し、今日の国際税法の課題を法的に解決する基礎力を修得することを目標とする。関連DP及びCP：経営法学科1，2，6			
履修条件	特になし			
授業方法	講義形式であるが、双方向的講義としたい。レポートの講評を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	レポート提出を課す。出席確認をするが、最終学年の就活には配慮する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年	八千代出版	市民のための税法学	伊藤 悟
	備考			
参考書	適時指示する。			
オフィスアワー	金曜17:50～ 授業講堂にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス：国際取引と国際税法
	事後学習	国際取引関係の基本書にて国際取引概要を学習する。（2時間）
2	事前学習	租税法律主義について学習する。日本における国際法の地位について調べる。（2時間）
	授業内容	国際税法の法源：国内税法と租税条約との関連性
	事後学習	租税条約に関する情報をネット検索し確認する。（2時間）
3	事前学習	所得税法の納税義務者について調べる。（2時間）
	授業内容	所得税の国際税法(1)：納税義務者と課税範囲
	事後学習	居住者、非居住者等の概念と所得課税関係を復習する。（2時間）
4	事前学習	海外赴任する日本人が出国までにしなければならない諸手続を調べる。（2時間）
	授業内容	所得税の国際税法(2)：日本人の国際所得課税
	事後学習	所得税法の居住者課税主義を理解する。（2時間）

5	事前学習	日本における外国人にかかる基本的な義務と権利について調べる。（2時間）
	授業内容	所得税の国際税法(3)：外国人の国内源泉所得課税
	事後学習	外国人タレント、スポーツ選手などへの所得課税を整理する。（2時間）
6	事前学習	日本に外国法人が直接進出した歴史を調べる。（2時間）
	授業内容	法人税の国際税法(1)：外国法人課税
	事後学習	外国法人の法人税法上の定義を理解し、特派員、営業所、支店、完全支配子会社等の法人税課税について整理する。（2時間）
7	事前学習	内国法人が海外進出するときの基礎知識を J I C A (https://www.jica.go.jp) 情報で調べる。（2時間）
	授業内容	法人税の国際税法(2)：国際的二重課税の排除、外国税額控除
	事後学習	伝統的国際課税問題である二重課税は排除されるか理解する。（2時間）
8	事前学習	タックスヘイブンと言われている国と地域を調べ、その特質を知る。（2時間）
	授業内容	法人税の国際税法(3)：タックスヘイブン対策税制
	事後学習	租税特別措置法の規定を確認する。（2時間）
9	事前学習	国際取引の中での価格設定について調べる。（2時間）
	授業内容	法人税の国際税法(4)：移転価格税制
	事後学習	移転価格税制の結果もたらされる税制問題を整理する。（2時間）
10	事前学習	国際的租税回避問題が注目されている。関係情報を収集し、整理する。（2時間）
	授業内容	法人税の国際税法(5)：過少資本税制、等、レポート課題の配布
	事後学習	法人企業行動としての租税回避行動に対する各国や国連の対応について調べる。（2時間）
11	事前学習	消費税法の制定から今日までの消費税をめぐる問題を整理する。（2時間）
	授業内容	消費税の国際税法：消費地課税主義
	事後学習	海外との取引に対する消費課税の問題を整理する。（2時間）
12	事前学習	外国人の国内不動産取得に対する制限等の問題がある。これにつき調べる。また、日本人の海外投資についても調べる。（2時間）
	授業内容	資産税の国際税法：海外資産への課税、外国人相続課税
	事後学習	相続税法の納税義務者規定を理解し、課題を考える。（2時間）
13	事前学習	租税回避についての基礎を学習する。（2時間）
	授業内容	新たな国際的租税回避への対応
	事後学習	国際的租税回避に対する国内税法、国税庁の対応を整理する。（2時間）
14	事前学習	各自が考える国際税法の課題をまとめる。（2時間）
	授業内容	国際税法の諸課題
	事後学習	授業内での議論を整理する。（2時間）
15	事前学習	レポート提出締切までに必ずレポート提出すること。（2時間）
	授業内容	国際税法の総括
	事後学習	これまでの復習を行っておくこと。（2時間）

科目名	国際取引法A I	担当者	藤川 信夫	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この講座では、国際取引に関する法制度を基礎から理解し、さらに国際売買契約、国際運送・保険契約、国際販売代理店契約、国際的M&A（企業買収）契約、準拠法や裁判管轄、国際紛争処理・国際仲裁などについて幅広く学習する。国際取引に関する新しい動向や法制度、企業法務の対応など理論とプラクティスの双方から実践的に学習する。				
授業目的・到達目標	国際取引全般に関する基礎的な法制度の修得を目的とする。企業のグローバル化が進展し、国際取引法の修得の重要性は増加しており、国際売買契約など国際契約、国際的製造物責任、国際的M&A（企業買収）、国際投融資、国際企業結合、紛争処理、国際金融など、総論として幅広く学習し、修得することを目的とする。全くの初心者にも理解しやすいよう講義する。法律関係でない学科の学生や1年生にもできるだけ多く受講してほしい。国際取引に関する基本的な法制度を全般的に学び、理解して説明できるようになることを目標とする。さらなる専門科目の履修に向け、各自の将来展望を見据えて学習することが目標となる。関連DP及びCP：経営法学科1, 2, 6				
履修条件	学科を問わず1年生から4年生まで広く対象とし、全くの基礎から教える。法律関係科目の履修を条件としない。関連科目として民法（契約法）・商法のほか、英語力向上からも「ビジネスロー文献講読」も受講するとさらによくなる。				
授業方法	配布物やパワーポイントなどを用いて講義を進める。授業内レポートの解説を適宜行う。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内レポート。期末定期試験は行わない。授業への積極的な取り組み、議論への参加度などを合わせて評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	毎回レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。参考書などについては授業内で指示する。			
参考書	藤川信夫『国際取引法－理論と実務－』尚学社（2013年）				
オフィスアワー	授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、水曜日授業の前後に、直接、その旨を話にしてください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、国際取引について講義全体を概観する。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	国際取引法概説（1）－国際取引法の枠組み－ 授業のテーマ、内容、スケジュール、成績評価方法、参考文献紹介を含めて、国際取引法の学習方法、研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	国際取引法と関連法分野について、概要を考察する。（2時間）
	授業内容	国際取引法概説（2）－国際取引法と関連法分野－ 国際取引法概説として、国際取引法と関連法分野について、企業法務の視点も含め学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際取引法概説について内容を復習する。（2時間）
3	事前学習	国際取引法と企業の海外進出について、概要を考察する。（2時間）
	授業内容	国際取引法と企業の海外進出形態（1）－輸出、海外生産・国際合併と為替、貿易摩擦－ 国際取引法と企業の海外進出について、輸出、海外生産・国際合併と為替、貿易摩擦などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際取引法と企業の海外進出について内容を復習する。（2時間）
4	事前学習	国際取引法と企業の海外進出のさらなる展開について考察する。（2時間）
	授業内容	国際取引法と企業の海外進出形態（2）－グローバル展開・グローバル本社、多国籍企業と為替、貿易摩擦－ 国際取引法と企業の海外進出について、グローバル展開・グローバル本社、多国籍企業と為替、貿易摩擦などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際取引法と企業の海外進出のさらなる展開について内容を復習する。（2時間）

5	事前学習	国際統一規則等の概要について、学習する。（2時間）
	授業内容	国際統一規則等と国際取引法 国際統一規則等の概要について、学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際統一規則等の概要について内容を復習する。（2時間）
6	事前学習	国際通商法関係と国際取引法について考察する。（2時間）
	授業内容	国際通商法関係と国際取引法（1）－WTO、米国通商法・関税法ダンピング規制、相殺関税、セーフガード措置、原産地国問題－ 国際通商法関係と国際取引法について、WTO、米国通商法・関税法ダンピング規制、相殺関税、セーフガード措置などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際通商法関係と国際取引法について内容を復習する。（2時間）
7	事前学習	国際通商法関係と国際取引法に関し、地域統合条約について考察する。（2時間）
	授業内容	国際通商法関係と国際取引法（2）－EU、NAFTA、ASEANなど地域統合条約ほか－ 国際通商法関係と国際取引法について、EU、NAFTA、ASEANなど地域統合条約などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際通商法関係と国際取引法、地域統合条約などについて内容を復習する。（2時間）
8	事前学習	国際通商法関係と国際取引法に関し、TPP問題について考察する。（2時間）
	授業内容	国際通商法関係と国際取引法（3）－TPP問題－ 国際通商法関係と国際取引法について、TPP11などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際通商法関係と国際取引法、TPP問題などについて内容を復習する。（2時間）
9	事前学習	国際取引と知的財産権訴訟に関し、概要を考察する。（2時間）
	授業内容	国際取引と知的財産権訴訟－米国のプロパテント政策、パリ条約、WTOと中国の模倣品対策など－ 国際取引と知的財産権訴訟に関し、米国のプロパテント政策などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際取引と知的財産権訴訟について内容を復習する。（2時間）
10	事前学習	国際取引と製造物責任訴訟に関し、概要を考察する。（2時間）
	授業内容	国際取引と製造物責任訴訟（1）－PL責任と契約責任－ 国際取引と製造物責任訴訟に関して、PL責任と契約責任などの概要を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際取引と製造物責任訴訟の概要について内容を復習する。（2時間）
11	事前学習	国際取引と製造物責任訴訟に関し、米国の判例などを考察する。（2時間）
	授業内容	国際取引と製造物責任訴訟（2）－米国の厳格責任主義ほか－ 国際取引と製造物責任訴訟に関し、米国の厳格責任主義についての判例などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際取引と製造物責任訴訟について米国の判例などを復習する。（2時間）
12	事前学習	準拠法と国際裁判管轄などについて考察する。（2時間）
	授業内容	域外適用（1）－近年の域外適用問題の概要、管轄・裁判籍など－ 準拠法と国際裁判管轄に関し、域外適用問題も含めて理論と判例動向などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、準拠法と国際裁判管轄について判例などを復習する。（2時間）
13	事前学習	準拠法と国際裁判管轄に関し、域外適用問題も含めて考察を深める。（2時間）
	授業内容	域外適用（2）－米国汚職行為防止法（FCPA）、英国腐敗防止法（Bribery Act 2010）－ 準拠法と国際裁判管轄に関し、米国や英国の域外適用問題の判例、今後の展望を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、準拠法と国際裁判管轄、域外適用について復習する。（2時間）
14	事前学習	国際取引と企業法務などについて考察する。（2時間）
	授業内容	国際取引と企業法務－企業の業種と国際取引の形態、国際契約、法的リスク、グローバル内部統制とコンプライアンス・プログラム、日本企業の対応－ 国際取引と企業法務に関して、最近の動向を中心に組織形態、プラクティスを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際取引と企業法務について具体例などを復習する。（2時間）
15	事前学習	最初からの講義ノートを見直し、国際取引法全体の体系を考察する。（2時間）
	授業内容	授業内レポートについて、解説等を行う。国際取引法の総論について、前期の総まとめを行い、体系的な学習を行う。
	事後学習	授業内レポートと解説を参考にして、国際取引法の総論について今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。（2時間）

科目名	国際取引法AⅡ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、国際取引に関する法制度を基礎から理解し、さらに国際売買契約、国際運送・保険契約、国際販売代理店契約、国際的M&A（企業買収）契約、準拠法や裁判管轄、国際紛争処理・国際仲裁などについて幅広く学習する。国際取引に関する新しい動向や法制度、企業法務の対応など理論とプラクティスの双方から実践的に学習する。				
授業目的・到達目標	国際取引全般に関する基礎的な法制度の修得を目的とする。企業のグローバル化が進展し、国際取引法の修得の重要性は増加しており、国際売買契約など国際契約、国際的製造物責任、国際的M&A（企業買収）、国際投融資、国際企業結合、紛争処理、国際金融など、総論として幅広く学習し、修得することを目的とする。全くの初心者にも理解しやすいよう講義する。法律関係でない学科の学生や1年生にもできるだけ多く受講してほしい。国際取引に関する基本的な法制度を全般的に学び、理解して説明できるようになることを目標とする。さらなる専門科目の履修に向け、各自の将来展望を見据えて学習することが目標となる。関連DP及びCP：経営法学科1, 2, 6				
履修条件	学科を問わず1年生から4年生まで広く対象とし、全くの基礎から教える。法律関係科目の履修を条件としない。関連科目として民法（契約法）・商法のほか、英語力向上からも「ビジネスロー文献講読」も受講するとさらによくなる。				
授業方法	配布物やパワーポイントなどを用いて講義を進める。授業内レポートの解説を適宜行う。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内レポート。期末定期試験は行わない。授業への積極的な取り組み、議論への参加度などを合わせて評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	毎回レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。参考書などについては授業内で指示する。			
参考書	藤川信夫『国際取引法－理論と実務－』尚学社（2013年）				
オフィスアワー	授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、水曜日授業の前後に、直接、その旨を話にしてください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	国際売買契約の概要などについて、考察する。（2時間）
	授業内容	国際売買契約の概要（1）－インコタームズ2010、FOB、CIFなど引渡条件－ 国際売買契約の概要、インコタームズ2010、具体的条項例、引渡条件を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際売買契約の概要について復習する。（2時間）
2	事前学習	国際売買契約の概要、具体的条項例について考察する。（2時間）
	授業内容	国際売買契約の概要（2）－品質保証、瑕疵（かし）担保責任、不可抗力条項、契約解除など－ 国際売買契約の概要として、具体的条項例、品質保証、瑕疵（かし）担保責任などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際売買契約の概要、具体的条項例について復習する。（2時間）
3	事前学習	国際売買契約の概要、国際的資金決済について考察する。（2時間）
	授業内容	国際売買契約の概要（3）－国際的資金決済、荷為替信用状（L/C）ほか－ 国際売買契約の概要として、国際的資金決済、荷為替信用状（L/C）などを中心に学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際的資金決済について復習する。（2時間）
4	事前学習	国際運送・保険などの概要を考察する。（2時間）
	授業内容	国際運送・保険契約、国際秘密保持契約などの概要 国際運送・保険契約、国際秘密保持契約などの概要について、企業法務の視点も含めて学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際運送・保険などについて復習する。（2時間）

5	事前学習	国際的企業買収（M&A）の概要などを考察する。（2時間）
	授業内容	国際的企業買収（M&A）（1）－意義と概要－ 国際的企業買収（M&A）の概要、意義について学習する。
	事後学習	国際的企業買収（M&A）の概要などについて復習する。（2時間）
6	事前学習	国際的企業買収（M&A）について、友好的企業買収と敵対的企業買収を考察する。（2時間）
	授業内容	国際的企業買収（M&A）（2）－友好的企業買収と敵対的企業買収－ 国際的企業買収（M&A）について、友好的企業買収契約と敵対的企業買収（TOB、二段階買収）などを判例、実務などの面から学習する。
	事後学習	国際的企業買収（M&A）の友好的企業買収と敵対的企業買収について、復習する。（2時間）
7	事前学習	国際的企業買収（M&A）について、M&A契約、買収方式、企業評価方法などを考察する。（2時間）
	授業内容	国際的企業買収（M&A）（3）－M&A契約、買収方式、資金調達、企業評価方法、ケーススタディー 国際的企業買収（M&A）の具体的な法制度、手法などについて学習する。
	事後学習	国際的企業買収（M&A）の具体的な法制度、手法を復習する。（2時間）
8	事前学習	国際的企業買収（M&A）のデューディリジェンスなどを考察する。（2時間）
	授業内容	国際的企業買収（M&A）のデューディリジェンス（詳細調査）、買収後の企業運営（PAM）など企業のプラクティスを学習する。 国際的企業買収（M&A）（4）－デューディリジェンス（詳細調査）、買収後の企業運営－
	事後学習	国際的企業買収（M&A）のデューディリジェンスなどを復習する。（2時間）
9	事前学習	国際投融资、国際合弁契約などを考察する。（2時間）
	授業内容	国際投融资と国際契約（1）－国際合弁契約・ジョイント・ベンチャー・ゼネラル・パートナーシップ、国際共同開発－ 国際投融资と国際契約、国際合弁契約、国際共同開発などの企業法務を含めて学習する。
	事後学習	国際投融资、国際合弁契約などの復習を行う。（2時間）
10	事前学習	国際投融资と国際契約、新しい融資・担保契約について考察する。（2時間）
	授業内容	国際投融资と国際契約（2）－リース、プロジェクト・ファイナンスほか新しい融資・担保契約－ 国際投融资と国際契約、プロジェクト・ファイナンス（PF）などについて、具体的に事例を用いて学習する。
	事後学習	国際投融资と国際契約、プロジェクト・ファイナンスなどの復習を行う。（2時間）
11	事前学習	国際企業組織、国際代理店・販売店について考察する。（2時間）
	授業内容	国際企業組織－代理店・販売店、支店、現地法人、子会社管理など－ 国際企業組織、国際代理店・販売店契約、支店、現地法人、子会社管理など企業法務を含めて学習する。
	事後学習	国際企業組織、国際代理店・販売店契約などの復習を行う。（2時間）
12	事前学習	国際取引と紛争処理について考察する。（2時間）
	授業内容	国際取引と紛争処理（1）－国際民事訴訟と準拠法、裁判管轄ほか－ 国際取引と紛争処理、国際民事訴訟と準拠法、裁判管轄の問題を学習する。
	事後学習	国際取引と紛争処理について復習する。（2時間）
13	事前学習	国際取引と紛争処理、国際仲裁・調停などを考察する。（2時間）
	授業内容	国際取引と紛争処理（2）－国際仲裁・調停、ADR（裁判外紛争処理制度）、国際倒産ほか－ 国際取引と紛争処理に関し、国際仲裁・調停などを主に企業法務の視点も含め、学習する。
	事後学習	国際取引と紛争処理、国際仲裁・調停などを復習する。（2時間）
14	事前学習	国際取引法分野の新展開として、ウイーン売買条約と企業実務の対応などを考察する。（2時間）
	授業内容	国際取引法分野の新展開（1）－ウイーン売買条約の概要－ 国際取引法分野の新展開としてウイーン売買条約の内容、インコタームス2010との比較などを具体的に学習する。
	事後学習	ウイーン売買条約と企業実務の対応などについて復習する。（2時間）
15	事前学習	ウイーン売買条約について考察を深めるとともに、最初からの講義ノートを見直し、国際取引法全体の体系を考察する。（2時間）
	授業内容	国際取引法分野の新展開（2）－ウイーン売買条約に関する実務の対応など－ ウイーン売買条約と企業実務の対応の学習を深める。授業内レポートについて、解説等を行う。国際取引法の総論について、総まとめを行い、体系的な学習を行う。
	事後学習	授業内レポートと解説を参考にして、国際取引法の総論について今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。（2時間）

科目名	国際取引法B I	担当者	藤川 信夫	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この講座では、企業の国際取引に関する法制度を広く包括的に理解し、基礎から応用まで学習する。国際取引法各論として、重要な領域に焦点を当て、理論と企業実務も含め学習する。主として後期では、国際投融资、国際合併（ジョイントベンチャー）、国際売買契約に関してインコタームス2010やウィーン売買条約、国際金融法制などを採り上げ学習する。国際取引法総論の内容をさらに深めて、具体的な企業法務を学習する。			
授業目的・到達目標	国際取引法各論としてグローバル企業の国際業務等に関し比較法的な基礎理論と企業法務の実践の習得を目的とする。国際的M&A（企業買収）と敵対的防衛策、国際売買契約、国際販売代理店、国際投融资、国際企業結合法制などのほか、ウィーン売買条約、インコタームス2010、国際資金決済、国際不正取引、国際金融法、域外適用など最新のテーマについて、受講生が説明できることを目標とする。法律関係でない学科の学生、2年生にも多く受講してほしい。企業実務の接点として重要な科目である。基礎理論のみならず実践・専門の内容を学び、総合的な国際ビジネス法の修得を目標とする。卒業後の進路に役立つよう備えることも目標となる。関連DPおよびCP：経営法学科1、2、3、4、5、6			
履修条件	国際取引法Ⅰの履修を前提としない。できるだけ、わかりやすく解説する。学科を問わず、法律科目を初めて勉強する者も大歓迎。可能であれば民法・商法、英語力向上からも「ビジネスロー文献講読」も受講すると更に向上する。			
授業方法	配布物やパワーポイントなどを用いて講義を進める。授業内レポートの解説を適宜行う。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業内レポート提出。期末定期試験は行わない。授業への積極的な取り組み、議論への参加度などを合わせて評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	毎回レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。参考書などについては授業内で指示する。		
参考書	藤川信夫『国際取引法－理論と実務－』尚学社（2013年）			
オフィスアワー	授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、火曜日授業の前後に、直接、その旨を話にしてください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、事前に各自で授業全体の概要について把握し、概観する。専門用語、キーワードなども意味を学習する。次回の講義内容、学習・資料収集方法などは毎回事前に指示する。（2時間）
	授業内容	国際取引法概説－基礎的内容の講義－ 授業のテーマ、内容、スケジュール、成績評価方法、参考文献紹介を含めて、国際取引法の学習方法、研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	国際的M&A（企業買収）について考察して、概要を把握する。（2時間）
	授業内容	国際的M&A（企業買収）の概要 国際的M&A（企業買収）の基礎的内容を考察し、学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際的M&A（企業買収）の概要について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	企業買収（M&A）と法制度について、大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	企業買収（M&A）と法制度－合併、株式交換・移転、会社分割、MBO（経営者による買収）、三角合併など－ 企業買収（M&A）と法制度について、具体的、かつ比較法的に学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際的M&A（企業買収）と法制度の概要について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
4	事前学習	企業買収（M&A）と敵対的買収防衛策について、大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	企業買収（M&A）と敵対的買収防衛策の具体例－ライツプラン、黄金株など－ 企業買収（M&A）と敵対的買収防衛策について、具体的、かつ比較法的に学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、企業買収（M&A）と敵対的買収防衛策の概要について自分なりの説明をまとめる。（2時間）

5	事前学習	国際的企業買収（M&A）契約の概要について、大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	国際的企業買収（M&A）契約の概要（1）－意義、概要－ 国際的企業買収（M&A）契約の概要について、企業法務など具体的に学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際的企業買収（M&A）契約の概要について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
6	事前学習	国際的企業買収（M&A）契約の具体的条項例について、大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	国際的企業買収（M&A）契約の概要（2）－資産特定、負債承継、競業避止義務など具体的条項例－ 国際的企業買収（M&A）契約の具体的条項例として、企業法務など具体的に学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際的企業買収（M&A）契約のの具体的条項例について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
7	事前学習	敵対的企業買収（M&A）とTOBについて、米国法制度の大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	敵対的企業買収（M&A）とTOB（株式公開買付）ルール、国際組織再編制度（1）－米国－ 敵対的企業買収（M&A）とTOBについて、米国を中心に法制度を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、敵対的企業買収（M&A）とTOBにかかる米国法制度について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
8	事前学習	敵対的企業買収（M&A）とTOBについて、欧州の法制度の大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	敵対的企業買収（M&A）とTOB（株式公開買付）ルール、国際組織再編制度（2）－欧州－ 敵対的企業買収（M&A）とTOBについて、英国、EUを中心に法制度を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、敵対的企業買収（M&A）とTOBにかかる欧州の法制度について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
9	事前学習	日米欧における買収防衛策の動向について、主な判例など大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	日米欧における買収防衛策の新動向（1）－経営判断原則、ユノカル判決など米国の判例法理－ 日米欧における買収防衛策について、経営判断原則、ユノカル判決など米国の判例法理を主に学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、日米欧における買収防衛策の新動向について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
10	事前学習	日米欧における買収防衛策の動向について、主な判例など大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	日米欧における買収防衛策の新動向（2）－レブロン判決、ブラウシス判決など米国の判例法理の変遷と企業の対応など－ 日米欧における買収防衛策の新動向として、レブロン判決、ブラウシス判決などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、日米欧における買収防衛策の新しい判例などについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
11	事前学習	日米欧における買収防衛策の新動向について、国際的企業買収の事例の大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	日米欧における買収防衛策の新動向（3）－国際的企業買収のケーススタディ、英ボーダフォンによる独マンネスマンの敵対的買収など－ 国際的企業買収のケーススタディとして英ボーダフォンによる独マンネスマンの敵対的買収などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際的企業買収のケーススタディについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
12	事前学習	日米欧における敵対的買収・防衛策の法制の比較などについて、大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	日米欧における敵対的買収・防衛策の法制と今後の展望 日米欧における敵対的買収・防衛策の法制について、比較法的に学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、日米欧における敵対的買収・防衛策の法制について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
13	事前学習	敵対的買収・防衛策に関して、ブルドックソース事件などについて、大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	敵対的買収・防衛策と我が国の対応（1）－ブルドックソース事件、買収防衛策指針、MBO指針など－ 敵対的買収・防衛策と我が国の対応について、具体的に判例、規制当局の対応などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、敵対的買収・防衛策と我が国の対応について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
14	事前学習	中国、アジアにおけるM&A法制度などについて、大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	中国、アジアにおけるM&A法制度と企業の対応 中国、アジアにおけるM&A法制度と企業の対応について、具体的な企業法務などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、中国、アジアにおけるM&A法制度について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
15	事前学習	最初からの講義ノートを見直し、前期の国際的M&A法制度全体の体系を考察する。（2時間）
	授業内容	授業内レポートについて、解説等を行う。グローバル企業の国際的M&A法制度について、総まとめを行い体系的な学習を行う。
	事後学習	授業内レポートと解説を参考にして、今後のキャリアアップなどに生かせるように十分全体の復習を行う。（2時間）

科目名	国際取引法Ⅱ	担当者	藤川 信夫	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この講座では、企業の国際取引に関する法制度を広く包括的に理解し、基礎から応用まで学習する。国際取引法各論として、重要な領域に焦点を当て、理論と企業実務も含め学習する。主として後期では、国際投融资、国際合併（ジョイントベンチャー）、国際売買契約に関してインコタームス2010やウィーン売買条約、国際金融法制などを採り上げ学習する。国際取引法総論の内容をさらに深めて、具体的な企業法務を学習する。			
授業目的・到達目標	国際取引法各論としてグローバル企業の国際業務等に関し比較法的な基礎理論と企業法務の実践の習得を目的とする。国際的M&A（企業買収）と敵対的防衛策、国際売買契約、国際販売代理店、国際投融资、国際企業結合法制などのほか、ウィーン売買条約、インコタームス2010、国際資金決済、国際不正取引、国際金融法、域外適用など最新のテーマについて、受講生が説明できることを目標とする。法律関係でない学科の学生、2年生にも多く受講してほしい。企業実務の接点として重要な科目である。基礎理論のみならず実践・専門の内容を学び、総合的な国際ビジネス法の修得を目標とする。卒業後の進路に役立つよう備えることも目標となる。関連DPおよびCP：経営法学科1、2、3、4、5、6			
履修条件	国際取引法Ⅰの履修を前提としない。できるだけ、わかりやすく解説する。学科を問わず、法律科目を初めて勉強する者も大歓迎。可能であれば民法・商法、英語力向上からも「ビジネスロー文献講読」も受講すると更に向上する。			
授業方法	配布物やパワーポイントなどを用いて講義を進める。授業内レポートの解説を適宜行う。政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、アクティブラーニング、事例を組み合わせ、課題解決型学習により関心と理解を深める。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業内レポート提出。期末定期試験は行わない。授業への積極的な取り組み、議論への参加度などを合わせて評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	毎回レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。参考書などについては授業内で指示する。		
参考書	藤川信夫『国際取引法－理論と実務－』尚学社（2013年）			
オフィスアワー	授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、火曜日授業の前後に、直接、その旨を話に来てください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	国際投融资、企業結合法制などについて、大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	国際投融资、企業結合法制概説 国際投融资、企業結合法制について、具体的な企業法務などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際投融资、企業結合法制について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
2	事前学習	国際合併契約の概要などについて、大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	国際合併契約の概要（1）－意義、概要－ 国際合併契約の概要について、具体的な企業法務などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際合併契約の概要について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	国際合併契約の具体的条項例、株主間契約などについて、大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	国際合併契約の概要（2）－具体的条項例、株主間契約など－ 国際合併契約の具体的条項例、株主間契約などについて、具体的な企業法務などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際合併契約の具体的条項例、株主間契約について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
4	事前学習	国際合併契約の具体的条項例、譲渡制限、撤退条項などについて、大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	国際合併契約の概要（3）－譲渡制限、撤退条項など－ 国際合併契約の具体的条項例、譲渡制限、撤退条項などについて、具体的な企業法務などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際合併契約の具体的条項例、譲渡制限、撤退条項について自分なりの説明をまとめる。（2時間）

5	事前学習	国際秘密保持契約の概要などについて、大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	国際秘密保持契約の概要－具体的条項例、秘密情報遵守、返却・破棄、義務違反など－ 国際秘密保持契約の概要、具体的条項例などについて、具体的な企業法務などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際秘密保持契約の概要、具体的条項例について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
6	事前学習	国際共同開発契約、国際ライセンス契約などについて、大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	国際共同開発契約、国際ライセンス契約の概要－意義、具体的条項例、業務委託、成果物帰属・利用など－ 国際共同開発契約、国際ライセンス契約の意義、具体的条項例などについて、具体的な企業法務などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際共同開発契約、国際ライセンス契約の概要、具体的条項例について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
7	事前学習	国際売買契約の概要などについて、大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	国際売買契約の概要（1）－意義、インコタームス2010、具体的条項例、引渡条件など－ 国際売買契約に関し、意義、インコタームス2010、具体的条項例、引渡条件などについて、具体的な企業法務などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際売買契約について意義、インコタームス、具体的条項例、引渡条件について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
8	事前学習	国際売買契約の具体的条項例などについて、大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	国際売買契約の概要（2）－具体的条項例、品質保証、瑕疵（かし）担保責任など－ 国際売買契約に関し、具体的条項例、品質保証、瑕疵（かし）担保責任などについて、具体的な企業法務などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際売買契約について具体的条項例、品質保証、瑕疵（かし）担保責任について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
9	事前学習	国際売買契約の具体的条項例、裁判管轄・準拠法などについて、大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	国際売買契約の概要（3）－具体的条項例、不可抗力条項、運送・保険、契約解除、裁判管轄・準拠法など－ 国際売買契約に関し、具体的条項例、不可抗力条項、運送・保険、契約解除、裁判管轄・準拠法などについて、具体的な企業法務などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際売買契約について具体的条項例、契約解除、裁判管轄・準拠法などについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
10	事前学習	国際的資金決済の概要などについて、大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	国際的資金決済の概要－外国為替、荷為替信用状、船荷証券など－ 国際的資金決済に関し、外国為替、荷為替信用状、船荷証券などについて、具体的な企業法務などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際的資金決済に関し具体的に自分なりの説明をまとめる。（2時間）
11	事前学習	ウィーン売買条約の概要などについて、大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	ウィーン売買条約の概要(1)－基本的構成、適用範囲および総則－ ウィーン売買条約に関し、基本的構成、適用範囲および総則などについて、具体的な企業法務などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、ウィーン売買条約の概要に関し具体的に自分なりの説明をまとめる。（2時間）
12	事前学習	ウィーン売買条約の概要について、契約の成立など内容面を深く掘り下げて考察する。（2時間）
	授業内容	ウィーン売買条約の概要(2)－契約の成立、物品の売買、売主・買主の義務、危険の移転、損害賠償、解除、最終規定ほか－ ウィーン売買条約に関し、契約の成立、売主・買主の義務、危険の移転、損害賠償、解除など主要内容について、具体的な企業法務などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、ウィーン売買条約の主要内容に関し具体的に自分なりの説明をまとめる。（2時間）
13	事前学習	準拠法と国際裁判管轄、域外適用などについて、大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	準拠法と国際裁判管轄、域外適用問題－国際私法、国際不正とコンプライアンス、最新の事例研究－ 準拠法と国際裁判管轄、域外適用などについて、具体的なケーススタディを交えて学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、準拠法と国際裁判管轄、域外適用に関し具体的に自分なりの説明をまとめる。（2時間）
14	事前学習	国際金融取引について、新しい動向を中心に大枠を考察する。（2時間）
	授業内容	国際金融におけるサブプライムローン金融取引の構造と米国ドッド・フランク法など金融改革法の動向、ギリシャ危機など欧州債務危機の問題点と展望、海外金融機関のフィンテックと仮想通貨の対応 国際金融領域に関して、国際取引法の視点から最新の理論と金融機関の企業実務などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、国際金融領域に関して国際取引法の視点から具体的に自分なりの説明をまとめる。（2時間）
15	事前学習	最初からの講義ノートを見直し、国際的M&A法制度全体の体系を考察する。（2時間）
	授業内容	授業内レポートについて、解説等を行う。グローバル企業の国際的M&A法制度について、総まとめを行い体系的な学習を行う。
	事後学習	授業内レポートと解説を参考にして、今後のキャリアアップなどに生かせるように十分全体の復習を行う。（2時間）

科目名	国際民事紛争処理法Ⅰ	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ニューヨーク州弁護士（アメリカ）及び外国法事務弁護士（日本）として、国際民事訴訟の手続過程に関わった経験を引きつつ、特に、アメリカと日本の紛争当事者間の国際民事紛争事案を例としてとりあげ、国際民事事件を裁判所に提訴した際に紛争当事者が直面する特別な法的及び実務的問題点に関する基礎的な知識を学修し、そのうえで、裁判に替え調停や仲裁といった裁判外紛争解決手段(ADR)を利用した際に直面する法的及び実務的問題点を検討する。					
授業目的・到達目標	世界の法体系を大陸法系と英米法系とに分け紛争解決手段と紛争解決文化の相違点とそれらの多様性に関する基礎的な知識を養成することを目的とする。到達目標としては主に以下の3点がある：(1)国際ビジネス紛争の解決手段として日本若しくはアメリカにおいて裁判所又は裁判外紛争解決手段(ADR)を利用する際に適用される法的枠組とそれらの利用に伴う法的リスクを体系的に理解し説明できるようになること；(2)当該リスクの予防・回避方策を実務的観点に立ち自ら探求・立案・提言できるよう挑戦すること；及び(3)英米法系の特有の専門用語を正確に理解しその大陸法系との相違点を踏まえたうえで知覚しうるギャップを世界に向けて発信できるようになること。対応DP及びCP：経営法学科1, 2, 3, 4, 特になし。					
履修条件						
授業方法	配布資料(裁判例・判例・事案等)を教材として、講義形式とディスカッション形式を併用し講義を進める。授業内試験のフィードバックは、試験実施日に、その出題の趣旨と評価ポイントの解説をとおして行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業内での発言（30%）及び授業内試験（70%）を総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	授業中に配布する資料（レジュメ・裁判例・判例・事案等）を使用し、講義形式とディスカッション形式を併用しながら講義をすすめていく。教科書は使用しない。				
参考書	授業中に適宜紹介する。					
オフィスアワー	日時：水曜日12:30-13:00 場所：9号館1階ロビー 備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、日本とアメリカにおける紛争解決文化、民事事件の紛争解決方法、について本学部の図書館にある書籍や図書館の電子データベースを利用して調べてくる。（2時間）
	授業内容	授業の概要、授業計画、成績評価方法、参考書の紹介を含めて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
2	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめて授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	世界の法体系は大きく分けると大陸法系(Civil Law System)と英米法系(Common Law System)の法域に分けることができるが、これらの法体系に属する法域の裁判所における国際民事紛争解決手段の特徴とはなにか、について考察し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
3	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめて授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	訴訟社会(Litigation Society)と呼ばれ、訴訟で紛争を解決する傾向が強い(Litigiousness)と言われるアメリカ社会を支持する法制度や法理とはなにか、についてアメリカが英米法系(Common Law System)に属する法域であることと関連付けて考察し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
4	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめて授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	アメリカの裁判所における民事訴訟手続の流れを、陪審制度における略式判決(Summary Judgment)、指図評決(Directed Verdict)、及び評決無視の判決(Judgment Non Obstante Veredicto)の役割とともに概観し、アメリカにおいて日本企業が直面する国際民事訴訟のリスクとは何か、について関連法、裁判例、判例、学説を学修し理解したうえで説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）

5	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	国際民事紛争では国内外の自然人や法人のほかにも主権国家が被告となることがあることを概観し、その場合、日本やアメリカの裁判所が当該主権国家に対する裁判権の行使を認めるかどうか、また、認める場合の要件とは何か、といったいわゆる外国国家の主権免除の問題について関連法、裁判例、判例、学説を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
6	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	アメリカの裁判所の事物的管轄権 (Subject Matter Jurisdiction) と人的管轄権 (Personal Jurisdiction) が日本に所在する当事者に対して行使される要件とは何か、について合衆国憲法の関連条文と合衆国最高裁判所の重要判例を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
7	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	日本の民事訴訟法及び民事保全法に設けられた国際裁判管轄に関する明文規定（2012年4月1日施行）を読み、それをアメリカの裁判所における国際裁判管轄権の要件と比較し、アメリカと日本のいずれの裁判所で裁判が提起しやすいと言えるのか、について関連法、裁判例、判例、学説を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
8	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	アメリカの裁判所における民事訴訟の手続には、日本にはないフォーラム・ノン・コンビニエンス (Forum Non-Conveniens) (法廷地不便宜) の法理がある。この法理について合衆国最高裁の重要判例をとおして学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
9	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	アメリカの裁判所における民事事件の手続には、日本にはないクラスアクションと呼ばれる集団訴訟の制度がある。当該制度について合衆国最高裁の重要判例を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
10	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	アメリカでは訴状の送達には私人送達主義が取られており、日本では職権送達主義がとられているが、アメリカも日本もハーグ送達条約の締約国であり、両国間の有効な送達は同条約にしたがって行われる必要がある。2018年12月21日に日本はハーグ送達条約10(a)条が定める郵便による送達に拒否宣言を行ったがその効果は何か、について拒否宣言前のアメリカの裁判例・判例・学説を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
11	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	前回の授業に続き、2018年12月21日に日本はハーグ送達条約10(a)条が定める郵便による送達に拒否宣言を行ったが、実務的観点から法的問題点を想起し、その予防・回避方策について説明及び提言できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
12	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	国内訴訟と異なり、国際訴訟では、日本と外国の裁判所で同一当事者間が訴訟を提起し、各裁判所での手続きが並行して進められるといったいわゆる国際訴訟競合の問題が発生する。日本とアメリカの裁判所ではかかる問題がどのように処理されているのか、について関連法、裁判例、判例、学説を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
13	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	日本とアメリカの裁判所における外国判決の承認と執行の要件とは何か、について関連法、裁判例、判例、学説を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
14	事前学習	初回からの資料とノートを見直し、国際民事紛争処理の体系を考察し疑問点をまとめておく。（2時間）
	授業内容	これまでの講義の内容をまとめ、質疑応答を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義ノートと授業で学んだポイントを見直して第1回授業内試験の準備をしておく。（2時間）
	授業内容	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。
	事後学習	講義ノートを確認して、上記解説に基づき、第1回授業内試験での自分のパフォーマンスについて分析し、前期に身に付けた知識を体系化する。（2時間）

科目名	国際民事紛争処理法Ⅱ	担当者	坂本 力也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ニューヨーク州弁護士（アメリカ）及び外国法事務弁護士（日本）として、国際民事訴訟の手続過程に関わった経験を引きつつ、特に、アメリカと日本の紛争当事者間の国際民事紛争事案を例としてとりあげ、国際民事事件を裁判所に提訴した際に紛争当事者が直面する特別な法的及び実務的問題点に関する基礎的な知識を学修し、そのうえで、裁判に替え調停や仲裁といった裁判外紛争解決手段(ADR)を利用した際に直面する法的及び実務的問題点を検討する。				
授業目的・到達目標	世界の法体系を大陸法系と英米法系とに分け紛争解決手段と紛争解決文化の相違点とそれらの多様性に関する基礎的な知識を養成することを目的とする。到達目標としては主に以下の3点がある：(1)国際ビジネス紛争の解決手段として日本若しくはアメリカにおいて裁判所又は裁判外紛争解決手段(ADR)を利用する際に適用される法的枠組とそれらの利用に伴う法的リスクを体系的に理解し説明できるようになること；(2)当該リスクの予防・回避方策を実務的観点に立ち自ら探求・立案・提言できるよう挑戦すること；及び(3)英米法系の特有の専門用語を正確に理解しその大陸法系との相違点を踏まえたうえで知覚しうるギャップを世界に向けて発信できるようになること。対応DP及びCP：経営法学科1, 2, 3, 4, 特設なし。				
履修条件					
授業方法	配布資料(裁判例・判例・事案等)を教材として、講義形式とディスカッション形式を併用し講義を進める。授業内試験のフィードバックは、試験実施日に、その出題の趣旨と評価ポイントの解説をとおして行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内での発言（30%）及び授業内試験（70%）を総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	授業中に配布する資料（レジュメ・裁判例・判例・事案等）を使用し、講義形式とディスカッション形式を併用しながら講義をすすめていく。教科書は使用しない。			
参考書	授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	日時：水曜日12:30-13:00 場所：9号館1階ロビー 備考：休暇中を除く。授業後にアポイントメントを取ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	国際取引に従事する者のあいだで締結される契約書には、紛争が生じた場合に適用される法や当該紛争を解決する手段について予測可能性を高めるため、あらかじめ準拠法条項や管轄合意条項を設けていることがある。日本の裁判所とアメリカの裁判所において、管轄合意条項が有効とされる要件は何か、について関連法、裁判例、判例、学説を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
2	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	裁判以外の国際民事紛争解決の手段としては、交渉、調停、仲裁といった手段があるが、これらの各手段の特徴（長所と欠点）とは何か、について関連法、裁判例、判例、学説を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
3	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	国際民事紛争解決の目的においては、裁判外紛争解決手段(ADR)である調停を裁判と組み合わせたり、あるいは調停を仲裁と組み合わせることによって、裁判や仲裁を事前に回避するステップを設ける紛争解決条項（ハイブリッド条項）が存在する。日本とアメリカにおけるハイブリッド条項の有効性の要件は何か、について関連法、裁判例、判例、学説を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
4	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	前回到続き、アジア諸国におけるハイブリッド条項の有効性の要件とは何か、について関連法、裁判例、判例、学説を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）

5	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	世界の著名な国際仲裁機関における国際商事仲裁の件数を概観し、中国、香港、シンガポール、韓国といったアジア諸国や欧米においては国際仲裁が積極的に利用されている一方で、日本における国際仲裁の利用が少ない現状とその理由について分析し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
6	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	日本とアメリカの国際商事仲裁における仲裁合意の効力の範囲、について関連法、裁判例、判例、学説を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
7	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	日本とアメリカにおける国際商事仲裁の仲裁審理の特徴とは何か、について関連法、裁判例、判例、学説を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
8	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	日本とアメリカを仲裁地とした場合の国際仲裁判断の取消しの要件、について関連法、裁判例、判例、学説を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
9	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	日本とアメリカの裁判所における外国仲裁判断の承認と執行の要件、について関連法、裁判例、判例、学説を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
10	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	外国の弁護士や日本で外国法事務弁護士として登録している外国の弁護士が日本における国際仲裁において紛争当事者の代理人となること又は当該国際仲裁において仲裁人となることができる要件とは何か、について関連法、裁判例、判例、学説を学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
11	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	日本の高等教育機関における国際仲裁に関する法学教育の現況について学修し理解し説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
12	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	日本における国際仲裁の活性化について、実務家の意見や学説を学修し理解し説明できるようにし、将来に向けたさらなる活性化の可能性を検討しそのための具体策を提言できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
13	事前学習	配布資料を読み自ら理解したこと及び疑問点をまとめ授業中に発言する準備をしておく。（2時間）
	授業内容	2019年8月に署名を待つ調停による和解に執行力を付与するシンガポール調停条約の内容に関する基礎的な知識を養成し、国際民事調停による和解内容の国際的執行の要件を学修し理解し説明することができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
14	事前学習	初回の授業からの資料とノートを見直し、国際民事紛争処理の体系を考察し疑問点をまとめておく。（2時間）
	授業内容	これまでの講義の内容をまとめ、質疑応答を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業で学んだポイントをまとめておく。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義ノートと授業で学んだポイントを見直して第2回授業内試験の準備をしておく。（2時間）
	授業内容	授業内試験の実施とその出題の趣旨と評価ポイントを解説する。
	事後学習	講義ノートを確認して、上記解説に基づき、授業内試験での自分のパフォーマンスについて分析し、後期に身に付けた知識を体系化する。（2時間）

科目名	国会論	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	周知の通り、わが国の国会は「国権の最高機関」として位置付けられています。しかしその実態については、ほとんどの国民に理解されているとは言い難い状況です。本講義では、国会について指摘される様々な特質を解説しながら、その問題と課題を多面的に検討していきます。本講義を受講することにより、国会や立法過程についての基礎的な知識を修得し、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成します。					
授業目的・到達目標	国会の抱える諸問題について理解できるようになることを目的とし、その課題や改革の方向性に関して説明できるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：政治経済学科2、3、4 新聞学科1、5					
履修条件	本講義の履修登録にあたっては、前期の「立法過程論」を履修していることが必要です（後期からの履修はできません）。					
授業方法	講義 【フィードバック方法】毎回、前回の小テストに対する講評を行い、立法過程に関する理解の向上に努めます					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		80%		論述形式の試験を実施します。	
	平常評価		20%		授業内で小テストを実施します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019	慈学社		議会政治 第3版		加藤秀治郎・水戸克典
	備考					
参考書	授業中に適宜紹介します。					
オフィスアワー	金曜日12：15～12：55 ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	履修を希望する場合は、必ず初回ガイダンスに出席すること（2時間）
	授業内容	法律の立案―官僚の果たす役割とその問題点
	事後学習	ガイダンスで示された履修条件を確認すること（2時間）
2	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	法律の立案―審議会
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
3	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	法令審査―内閣法制局と衆参両院法制局
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
4	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	与党審査―政務調査会
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）

5	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	与党審査―総務会
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
6	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	族議員の登場とその役割
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
7	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	ポスト555年体制下の与党審査
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
8	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	政府手続き―事務次官等会議
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
9	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	政府手続き―閣議決定
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
10	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	予算編成と財務省の役割
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
11	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	予算編成と経済財政諮問会議
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
12	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	国会における決算機能の強化
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
13	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	国会とマス・メディア
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
14	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	国会改革の可能性と限界
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
15	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	後期まとめ
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）

科目名	コミュニケーション演習Ⅰ	担当者	浅利 光昭	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この演習では、取材や報道活動などのジャーナリズム活動の背景にあるコミュニケーション活動の背景にある基礎理論について、原典及び関連文献等を通じて学習する。具体的には「マス・コミュニケーションの効果研究」を中心に、モンタージュ理論や信頼に関する研究など、コミュニケーション理論の周辺分野の研究・知見等も扱うことで、インターネットの普及やサービスの多様ななど情報化社会におけるコミュニケーションの諸課題を整理、学習する。				
授業目的・到達目標	コミュニケーション領域の中級・上級科目及び発展科目の履修、さらには卒業論文の執筆などで必要となる先行研究の調査・探索、読解能力の深化等を通じて、コミュニケーションに係る専門的知識を学ぶ力を養成し、規範と高い倫理観を含めた汎用的能力として情報を取り扱う力を育成することを目的とする。 自らの調査・研究成果を他者と共有する経験を通じ、他者からの評価を謙虚に受け止め、課題の解決策を考える過程を通じて、受講生自らが積極的に問題解決に取り組み、説明できることを目標とする。 関連D P 及びC P：新聞学科1、4、8				
履修条件	特になし				
授業方法	コミュニケーション理論を題材としたプレゼンテーションなどの演習方式による授業を行う。基本的に毎回アクションシート（A 4 1 枚程度）の提出を求め、授業中に講評・解説等のフィードバックを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業中に行う受講生によるプレゼンテーション内容及び到達度に加え、他の受講生のプレゼンテーションに対するリアクションなど授業への参加度を含めた総合評価とする。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用せず			
参 考 書	田崎篤郎、児島和人（1992）『マス・コミュニケーション効果研究の展開』北樹出版 その他演習の進み具合を考慮し、適宜紹介する。				
オフィスアワー	月曜日10:30～10:40及び12:10～12:30 授業講堂にて実施する。 質問、相談等は事前にメールにてアポイントメントを取ること （メールアドレス：asari@mdri.co.jp）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、ポータルシステム上で配布する資料を熟読し、講義全体を俯瞰する。（1時間）
	授業内容	【コミュニケーション演習Ⅰのガイダンス】 授業のテーマやねらい、授業内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献等の紹介を含め、コミュニケーション理論の学習方法や研究方法等について解説し、受講生がこの演習の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自らの学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（3時間）
2	事前学習	ポータルシステム上で配布する各種資料及びインターネット等を活用して収集した情報等を整理、熟読し、ラジオドラマ「火星からの侵入」を事例とする一連の研究（マスコミュニケーションの弾丸理論）の概要をまとめたミニレポート（A41枚程度。授業時に提出）を作成する。（3時間）
	授業内容	【コミュニケーション研究前史 ①マスコミュニケーションの弾丸理論】 初期のコミュニケーション理論研究の一つであるキャントリル「火星からの侵入」の翻訳書の一部を読み、1930年代当時の米国におけるラジオ放送の位置付けと現代社会との相違を踏まえたうえで、現代社会における課題等をディスカッションする。
	事後学習	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。（1時間）
3	事前学習	ポータルシステム上で配布する各種資料及びインターネット等を活用して収集した情報等を整理、熟読し、劇映画「戦艦ポチョムキン」を事例とする一連の研究（モンタージュ理論）の概要をまとめたミニレポート（A41枚程度。授業時に提出）を作成する。（3時間）
	授業内容	【コミュニケーション研究前史 ②モンタージュ理論】 初期のコミュニケーション理論研究の一つであるエイゼンシュテイン『戦艦ポチョムキン』を事例とするモンタージュ理論に関する論文を閲読したうえで、モンタージュ理論から導き出される現代社会における課題等をディスカッションする。
	事後学習	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。（1時間）

4	事前学習	ポータルシステム上で配布する各種資料及びインターネット等を活用して収集した情報等を整理、熟読し、1940年の米大統領選挙におけるコミュニケーションの流れを分析した一連の研究（ピープルズ・チョイス研究）の概要をまとめたミニレポート（A4 1枚程度。授業時に提出）を作成する。（3時間）
	授業内容	【コミュニケーションの流れ ①ピープルズ・チョイス】 代表的な初期のコミュニケーション理論研究であるP. ラザーズフェルドらによる投票行動に関する研究（ピープルズ・チョイス／パーソナル・インフルエンス研究）に関する論文を閱讀したうえで、一連の研究から導き出される現代社会における課題等をディスカッションする。
	事後学習	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。（1時間）
5	事前学習	ポータルシステム上で配布する各種資料及びインターネット等を活用して収集した情報等を整理、熟読し、1950年代の米国農村部における技術革新の普及プロセスを分析した研究（イノベーション研究）の概要をまとめたミニレポート（A4 1枚程度。授業時に提出）を作成する。（3時間）
	授業内容	【コミュニケーションの流れ ②イノベーション研究】 「ピープルズ・チョイス」研究による知見を仮説として、米国農村部における技術革新の普及過程について研究したE. M. ロジャース「イノベーションの普及過程」研究に関する論文を閱讀したうえで、一連の研究から導き出された知見と現代社会の諸課題との関係性についてディスカッションする。
	事後学習	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。（1時間）
6	事前学習	「コミュニケーションの流れ」に関する一連の研究（第4回、第5回授業で実施）に関する知見を整理したうえで、ポータルシステム上で配布する各種資料及びインターネット等を活用して収集した情報等を整理、熟読し、「コミュニケーションの流れ」を踏まえた現代社会における諸課題についてまとめたミニレポート（A4 1枚程度。授業時に提出）を作成する。（3時間）
	授業内容	【コミュニケーションの流れ ③まとめ】 「ピープルズ・チョイス」「パーソナル・インフルエンス」「イノベーションの普及過程」など、コミュニケーションの流れに関する一連の研究成果・知見を再度整理したうえで、現代社会におけるコミュニケーションの多様化（インターネットの普及、サービス・デバイスの多様化等）を踏まえた関係性や今後の問題、諸課題についてディスカッションする。
	事後学習	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。（1時間）
7	事前学習	ポータルシステム上で配布する各種資料及びインターネット等を活用して収集した情報等を整理、熟読し、1940年代から1950年代にかけてメディア利用者の効用に注目した研究（「利用と満足」研究）の概要をまとめたミニレポート（A4 1枚程度。授業時に提出）を作成する。（3時間）
	授業内容	【マスメディアの「利用と満足」研究】 Berelson (1949) “What ‘Missing the Newspaper’ Means”に代表される、ラジオや書籍、新聞等のマスメディアとの利用（視聴、聴取、閲読等）がユーザーにどのような効用（満足等）をもたらすかについてまとめたマスメディアの「利用と満足」研究の知見と現代社会の諸課題との関係性についてディスカッションする。
	事後学習	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。（1時間）
8	事前学習	ポータルシステム上で配布する各種資料及びインターネット等を活用して収集した情報等を整理、熟読し、C. I. Hovlandらによる研究（コミュニケーションと説得）の概要をまとめたミニレポート（A4 1枚程度。授業時に提出）を作成する。（3時間）
	授業内容	【「説得的コミュニケーション」研究】 C. I. Hovlandらによる『コミュニケーションと説得』における一連の研究成果・知見（情報の送り手／受け手による違い、コミュニケーション内容による差異など）と現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題との関係性についてディスカッションする。
	事後学習	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。（1時間）
9	事前学習	ポータルシステム上で配布する各種資料及びインターネット等を活用して収集した情報等を整理、熟読し、L. フェスティンガーによる「認知的不協和」に関する一連の研究成果・知見の概要をまとめたミニレポート（A4 1枚程度。授業時に提出）を作成する。（3時間）
	授業内容	【認知的不協和の理論】 レオン・フェスティンガー『認知的不協和の理論 社会心理学序説』における一連の研究成果・知見と、現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題（SNSを通じた情報取得の問題、課題等）との関係性についてディスカッションする。
	事後学習	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。（1時間）
10	事前学習	ポータルシステム上で配布する各種資料及びインターネット等を活用して収集した情報等を整理、熟読し、Klapperによる“The Effect of Mass Communication”（マス・コミュニケーション効果の一般化）の概要をまとめたミニレポート（A4 1枚程度。授業時に提出）を作成する。（3時間）
	授業内容	【「限定効果論」の確立と課題】 Klapperによる“The Effect of Mass Communication”における一連の研究成果・知見（マス・コミュニケーション効果の類型化と一般化及びその要素）と現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題との関係性についてディスカッションする。
	事後学習	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。（1時間）
11	事前学習	ポータルシステム上で配布する各種資料及びインターネット等を活用して収集した情報等を整理、熟読し、「マスメディアの議題設定機能」仮説の概要をまとめたミニレポート（A4 1枚程度。授業時に提出）を作成する。（3時間）
	授業内容	【「新効果論」のアプローチ ①マスメディアの議題設定機能】 Maxwell e. McCombs & Donald L. Shawによる「マスメディアの議題設定機能」仮説に関する一連の研究成果・知見と現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題との関係性についてディスカッションする。
	事後学習	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。（1時間）
12	事前学習	ポータルシステム上で配布する各種資料及びインターネット等を活用して収集した情報等を整理、熟読し、マスメディアによる「沈黙の螺旋」仮説の概要をまとめたミニレポート（A4 1枚程度。授業時に提出）を作成する。（3時間）
	授業内容	【「新効果論」のアプローチ ②マスメディアによる「沈黙の螺旋」仮説】 E. Noelle-Neumannによる「（マスメディアによる）沈黙の螺旋」仮説に関する一連の研究成果・知見と現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題との関係性についてディスカッションする。
	事後学習	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。（1時間）

13	事前学習	ポータルシステム上で配布する各種資料及びインターネット等を活用して収集した情報等を整理、熟読し、「利用と満足」研究の知見を踏まえたスキーマ理論のコミュニケーション研究領域への応用に関する概要をまとめたミニレポート（A 4 1 枚程度。授業時に提出）を作成する。（3 時間）
	授業内容	【「新効果論」のアプローチ ③スキーマ理論の応用】レイバーンとバームグリーンによる「メディアの利用と満足に関する「予期－価値モデル（expextancy-value model）」に関する一連の研究成果・知見と現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題との関係性についてディスカッションする。
	事後学習	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。（1 時間）
14	事前学習	ポータルシステム上で配布する各種資料及びインターネット等を活用して収集した情報等を整理、熟読し、イノベーションの普及過程を踏まえた知識ギャップ仮説に関する概要をまとめたミニレポート（A 4 1 枚程度。授業時に提出）を作成する。（3 時間）
	授業内容	【「新効果論」のアプローチ ④知識ギャップ仮説】ティチナーらによる「知識ギャップ仮説」に関する一連の研究成果・知見と現代社会におけるコミュニケーションの多様化を踏まえた諸課題との関係性についてディスカッションする。
	事後学習	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、ディスカッションの成果を踏まえたミニレポートの修正版を作成する。（1 時間）
15	事前学習	ポータルシステムやインターネット等を活用して収集、整理、分類した本授業に関する資料等を改めて整理や自ら作成したレポートの見直しを通じて、コミュニケーション理論の体系を考察する。（2 時間）
	授業内容	【演習のまとめ】コミュニケーション理論に関する代表的な論文、文献等を通じて学んだ成果及び知見等を踏まえ、現代社会におけるインターネットとジャーナリズムの関係性、ジャーナリズム活動におけるインターネット（ソーシャルサービスを含む）の利活用に関する問題、諸課題についてディスカッションを行う。
	事後学習	自らの提出物及び説明等に対する指摘を含め、過去14回のディスカッションの成果を踏まえたレポートを作成し、提出する。（2 時間以上）

科目名	コミュニケーションの科学A	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	コミュニケーションの類型、シンボリック相互作用論、記号論など、コミュニケーションに関する学問的な基礎を学ぶ。					
授業目的・到達目標	コミュニケーションの仕組みを学問的な視点からとらえ、かつ、現代のコミュニケーションをめぐる現象を分析・説明する力を養うことを目的とする。近年のメディア環境の変化に合わせ、ソーシャル・ネットワークにおけるコミュニケーション状況について、その特性と問題点を理解し、概念やフレームを用いて、現象に対して説明することができることを目標とする。 関連科目DP及びCP新聞学科1, 2, 3／経営法学科1, 2, 3					
履修条件	特になし					
授業方法	現代のコミュニケーションに関わる現象、事例と理論・学説の組み合わせで講義する。 適宜、映像資料も利用する。事後学習のための用紙は、講義時に配布する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業内論述試験（60％）、小テスト（1回）および講義時の課題（40%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2010	世界思想社		コミュニケーション社会学入門		伊藤公雄
	備考					
参考書	適宜、講義で紹介する					
オフィスアワー	水曜4限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスと教科書の概要を確認すること（2時間）
	授業内容	ガイダンス：講義の概要、講義の進め方、およびコミュニケーション論のためのイントロダクション
	事後学習	第1回講義の課題を解いてくること（2時間）
2	事前学習	前回の講義で出された課題を考えてくること（2時間）
	授業内容	コミュニケーションとは何か？／コミュニケーションを分類してみる
	事後学習	講義内で示された、主要概念を辞典等で整理しておくこと（2時間）
3	事前学習	前回の講義で配布した資料を読んでくること（2時間）
	授業内容	動物のコミュニケーション／人間のコミュニケーション：信号と記号、ノンバーバルコミュニケーション
	事後学習	第2回と第3回の講義を合わせて復習すること（2時間）
4	事前学習	テキスト：「はじめに」（pp. 1-20）を読んでくること（2時間）
	授業内容	コミュニケーションが成立するとはどういうことか？
	事後学習	第4回の課題を解くこと（2時間）

5	事前学習	テキスト：第1章（pp. 21-41）を読んてくること（2時間）
	授業内容	自我とコミュニケーション
	事後学習	講義で出された課題を検討すること（2時間）
6	事前学習	テキスト：第2章（pp. 42-64）を読んてくること（2時間）
	授業内容	シンボリック相互作用論
	事後学習	第2回～第5回の講義を復習すること（2時間）
7	事前学習	第2回～第5回の講義を復習すること（2時間）
	授業内容	小テスト（前半50分）、小テスト解説
	事後学習	解説内容を復習すること（2時間）
8	事前学習	テキスト：第3章（pp. 65-88）を読んてくること（2時間）
	授業内容	役割と演技のコミュニケーション
	事後学習	テキストの内容と講義の内容を照合すること（2時間）
9	事前学習	テキスト：第3章（pp. 65-88）を読んてくること（2時間）
	授業内容	役割とジェンダーのコミュニケーション
	事後学習	テキストの内容と講義の内容を照合すること（2時間）
10	事前学習	テキスト：第3章（pp. 65-88）を読んてくること（2時間）
	授業内容	感情労働とコミュニケーション
	事後学習	テキストの内容と講義の内容を照合すること（2時間）
11	事前学習	テキスト：第5章（pp. 112-143）を読んてくること（2時間）
	授業内容	身体とコミュニケーション
	事後学習	テキストの内容と講義の内容を照合すること（2時間）
12	事前学習	テキスト：第5章（pp. 112-143）を読んてくること（2時間）
	授業内容	記号と身体表現のコミュニケーション
	事後学習	テキストの内容と講義の内容を照合すること（2時間）
13	事前学習	テキスト：第6章（pp. 144-167）を読んてくること（2時間）
	授業内容	行為としてのコミュニケーション
	事後学習	テキストの内容と講義の内容を照合すること（2時間）
14	事前学習	テキスト：第8章（pp. 195-217）を読んてくること（2時間）
	授業内容	現代社会でコミュニケーションを問うことと公共性
	事後学習	テキストの内容と講義の内容を照合すること（2時間）
15	事前学習	第1回から第14回までの講義の内容を確認すること（3時間）
	授業内容	論述試験（前半）、試験解説（後半）
	事後学習	テストをふまえ、講義全体を復習すること（2時間）

科目名	コミュニケーションの科学A	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日常生活で展開されるコミュニケーションの問題に社会科学の観点から接近し、関連する知識の修得、ならびに、現代社会を理解・説明する力を養成することを目的とします。				
授業目的・到達目標	日常生活で展開されるコミュニケーションの問題に社会科学の観点から接近し、関連する知識の修得、ならびに、現代社会を理解・説明する力を養成することを目的とします。受講者自身の日常生活におけるコミュニケーションの問題を社会科学の観点から把握し、説明できるようになることを到達目標とします。関連DP及びCP：新聞学科1, 2, 3 経営法学科1, 2, 3				
履修条件	各自で確認したうえで履修してください。 私語等の周りに迷惑をかける行為は絶対に控えてください。				
授業方法	講義形式で授業を進めます。必要に応じて、レジュメ、プレゼンテーション、映像資料を用います。 後日、定期試験の解説をポータルシステムを通じて公表します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		80%	論述形式の試験を予定しています。	
	平 常 評 価		20%	授業の進行を見ながらレポート等の課題を出す予定です。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2014	有斐閣		コミュニケーション論をつかむ	辻大介・是永論・関谷直也
	備考				
参 考 書	参考書は授業内で適宜紹介します。				
オフィスアワー	オフィスアワー：水曜日15:00～16:00（予定） 連絡先（メールアドレス）は初回の授業の際にお伝えします。 事前にアポイントをとってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス等を確認し授業に備える（2時間）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	教科書に目を通しておく（2時間）
2	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	コミュニケーションとは何か／ことばとコミュニケーション
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
3	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	ことば以前のコミュニケーション／身体とコミュニケーション
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
4	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	談話・文章を理解する／会話のダイナミクス
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）

5	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	文字のコミュニケーション／映像のコミュニケーション
	事後学習	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの準備を行う（2時間）
6	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	自己とコミュニケーション／社会関係とコミュニケーション
	事後学習	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの準備を行う（2時間）
7	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	親密性とコミュニケーション／都市空間とコミュニケーション
	事後学習	レポート作成（2時間）
8	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	説得／うわさ
	事後学習	レポート作成（2時間）
9	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	流行と普及／世論
	事後学習	レポート作成（2時間）
10	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	メディアの影響力／メディアの悪影響
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
11	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	マーケティング・コミュニケーション／コーポレート・コミュニケーション
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
12	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	スポーツ文化とコミュニケーション／バーチャル空間のコミュニケーション
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
13	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	情報社会とコミュニケーション
	事後学習	定期試験に備えて、授業内容の復習を行う（2時間）
14	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	災害とコミュニケーション
	事後学習	定期試験に備えて、授業内容の復習を行う（2時間）
15	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	授業のまとめ
	事後学習	定期試験に備えて、授業内容の復習を行う（2時間）

科目名	コミュニケーションの科学B	担当者	小林 義寛	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	インターネットとくにソーシャル・ネットワーク上のコミュニケーション現象に対して、コミュニケーション理論の枠組みでどのようにアプローチすればよいのだろうか。ネットワークやコンピュータ技術もふまえながら、そのアプローチを考える。					
授業目的・到達目標	近年のメディア環境の変化に合わせ、ソーシャル・ネットワークにおけるコミュニケーション状況をについて、その特性と問題点を理解する能力を養成することを授業目的とする。身の回りのコミュニケーション現象を理解し、説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：新聞学科1, 2, 3 経営法学科1, 2, 3					
履修条件	コミュニケーションの科学Aを先修していることが望ましい。					
授業方法	基本的には講義形式。授業資料はCo1ネット共有フォルダー(Y：小林義寛：コミュニケーションの科学B)にpdfとしておいておくので、授業時参照できるようにしておくこと。レポートの講評を授業内に授業と関連させて、おこなう。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%		期末のレポート提出（60%）、小テストおよび小レポート計2回	
	平常評価		100%			
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	とくに使用しない。授業方法で示した授業資料を参照する。				
参考書	講義中に適宜指示する。					
オフィスアワー	水曜5限 研究室					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認しておく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	授業の流れを理解しておく。（2時間）
2	事前学習	Co1ネット共有フォルダー(Y：小林義寛：コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。（2時間）
	授業内容	メディア環境の変化①
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。（2時間）
3	事前学習	Co1ネット共有フォルダー(Y：小林義寛：コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。（2時間）
	授業内容	メディア環境の変化②
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。（2時間）
4	事前学習	Co1ネット共有フォルダー(Y：小林義寛：コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。（2時間）
	授業内容	メディア環境の変化③
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。（2時間）

5	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。（2時間）
	授業内容	メディア環境の変化④
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。（2時間）
6	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。（2時間）
	授業内容	メイロウィッツの電子メディア論①
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。（2時間）
7	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。（2時間）
	授業内容	メイロウィッツの電子メディア論②
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。（2時間）
8	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。（2時間）
	授業内容	メイロウィッツの電子メディア論③
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。（2時間）
9	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。（2時間）
	授業内容	ゴッフマンとフレーム・アナリシス①
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。（2時間）
10	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。（2時間）
	授業内容	ゴッフマンとフレーム・アナリシス②
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。（2時間）
11	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。（2時間）
	授業内容	ゴッフマンとフレーム・アナリシス③
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。（2時間）
12	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。（2時間）
	授業内容	同期・非同期・擬似同期①
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。（2時間）
13	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。（2時間）
	授業内容	同期・非同期・擬似同期②
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。（2時間）
14	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。（2時間）
	授業内容	同期・非同期・擬似同期③
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。（2時間）
15	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。（2時間）
	授業内容	全体のまとめ
	事後学習	授業内容、授業資料、参考文献などをもとにレポートを作成する。（2時間）

科目名	コミュニケーションの科学B	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代社会のコミュニケーションをめぐる議論や現象に着目し、それらを学術的な観点から把握し、説明していく力を養成することを目的とします。			
授業目的・到達目標	現代社会のコミュニケーションをめぐる議論や現象に着目し、それらを学術的な観点から把握し、説明していく力を養成することを目的とします。受講者自身の日常生活の経験に即しながら問題を考察し、各種の議論や概念を織り交ぜながら論述できるようになることを到達目標とします。関連DP及びCP：新聞学科1, 2, 3 経営法学科1, 2, 3			
履修条件	各自で確認したうえで履修してください。 私語等の周りに迷惑をかける行為は絶対に控えてください。			
授業方法	講義形式で授業を進めます。必要に応じて、レジュメ、プレゼンテーション、映像資料を用います。 後日、定期試験の解説をポータルシステムを通じて公表します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		80%	論述形式の試験を予定しています。
	平 常 評 価		20%	授業の進行を見ながらレポート等の課題を出す予定です。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014	岩波ブックレット	つながりを煽られる子どもたち——ネット依存といじめ問題を考え	土井隆義
	2009	岩波ブックレット	キャラ化する／される子どもたち—排除型社会における新たな人間像	土井隆義
	備考			
参 考 書	授業内で適宜紹介します。			
オフィスアワー	オフィスアワー：水曜日15:00～16:00（予定） 連絡先（メールアドレス）は初回の授業の際にお伝えします。 事前にアポイントをとってください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス等を確認し授業に備える（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	教科書に目を通しておく（2時間）
2	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	コミュニケーションと産業構造の変容
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
3	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	コミュニケーション能力の偏重
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
4	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	コミュニケーションのフラット化
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）

5	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	つながりの社会性
	事後学習	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの準備を行う（2時間）
6	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	ケータイやSNSの普及とつながりの強化
	事後学習	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの準備を行う（2時間）
7	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	つながりと承認願望
	事後学習	レポート作成（2時間）
8	事前学習	教科書の授業内容に対応する個所を一読しておく（2時間）
	授業内容	アイデンティティから「キャラ」へ
	事後学習	レポート作成（2時間）
9	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	友人・知人関係をめぐる調査研究の展開
	事後学習	レポート作成（2時間）
10	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	趣味を通じたつながり
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
11	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	オタクとコミュニケーション
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
12	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	遊びとコミュニケーション
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
13	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	コミュニケーションと社会関係資本
	事後学習	定期試験に備えて、授業内容の復習を行う（2時間）
14	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	コミュニケーションと公共性
	事後学習	定期試験に備えて、授業内容の復習を行う（2時間）
15	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	授業のまとめ
	事後学習	定期試験に備えて、授業内容の復習を行う（2時間）

科目名	コミュニケーション調査	担当者	西田 善行	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	コミュニケーションの調査とは何か、そこから何がわかるのか、実際にやってもらうことでそれを理解してもらう。具体的にはテレビ番組と番組をめぐるインターネット上のコミュニケーションを調査し、テレビは何をどのように伝え、視聴者はネットで何を語るのか、テレビを巡るテキスト生成のダイナミズムについて考えていく。							
授業目的・到達目標	[授業目的] テレビやインターネットを対象としたコミュニケーションの調査について、その能力の養成を目的とする。 [到達目標] 分析を通して、日常的に私たちが行っている（マス・）コミュニケーションについて、普段考えることのなかった見方を獲得してもらうこと、そして自分が関心を持ったコミュニケーションの内容について、客観的・批判的な観点から自分自身で分析を行い、論理的な結論を導き出せるようになることを目標とする。							
履修条件	対応CP及びDP:新聞学科1, 3, 4 テレビに関心があり、なおかつインターネット、スマートフォンを日常的に使用している人で、自分でも調査を行うことを希望している人。演習スタイルのため、授業に毎回出席すること。							
授業方法	講義と演習。映像の視聴や、PC、スマートフォンの使用を行う。グループワークとグループディスカッションも行う。フィードバックは授業内において行う。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験							
	平常評価		100%		ほぼ毎回授業時のミニレポートを提出する。また全体としての調査結果の報告をし、最終的に調査レポートを提出する。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	備考		特に指定しない					
参考書	藤田真文・岡井崇之編『プロセスが見えるメディア分析入門』（世界思想社）。他の文献は適宜授業で指示する。							
オフィスアワー	授業開始前（金曜日休み）か終了後の教室、もしくはメールで受け付ける。 nishida.yoshiyuki.teach☆gmail.com （☆を@に変換する）							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んで授業内容を理解する（2時間）
	授業内容	オリエンテーション（メディアコミュニケーションの調査方法を大まかに理解する）
	事後学習	配布プリントや授業時に指示した参考書を読んで復習する（2時間）
2	事前学習	初回プリントや参考書を読んで予習する（2時間）
	授業内容	テレビ番組の調査手法①マルチモダリティ分析
	事後学習	配布プリントや授業時に指示した参考書を読んで復習し、ミニレポートを完成させる（2時間）
3	事前学習	初回プリントや参考書を読んで予習する（2時間）
	授業内容	テレビ番組の調査手法②映像分析
	事後学習	配布プリントや授業時に指示した参考書を読んで復習し、ミニレポートを完成させる（2時間）
4	事前学習	初回プリントや参考書を読んで予習する（2時間）
	授業内容	インターネットによるテレビ視聴分析①フィールドワークを行う
	事後学習	配布プリントや授業時に指示した参考書を読んで復習し、ミニレポートを完成させる（2時間）

5	事前学習	初回プリントや参考書を読んで予習する（2時間）
	授業内容	インターネットによるテレビ視聴分析②内容分析を行う
	事後学習	配布プリントや授業時に指示した参考書を読んで復習し、ミニレポートを完成させる（2時間）
6	事前学習	初回プリントや参考書を読んで予習する（2時間）
	授業内容	インターネットによるテレビ視聴分析③テキストマイニングを行う
	事後学習	配布プリントや授業時に指示した参考書を読んで復習し、ミニレポートを完成させる（2時間）
7	事前学習	これまでの配布プリントや参考書を読んで復習する、調査対象を考えておく（2時間）
	授業内容	調査の実行①調査対象の選定（グループの決定・話し合い）
	事後学習	配布プリントや授業時に指示した参考書を読んで復習し、調査対象について調べる（2時間）
8	事前学習	これまでの配布プリントを読んで予習し、各自分担して調査対象についての資料を集める（2時間）
	授業内容	調査の実行②調査資料の収集、調査対象の記述
	事後学習	配布プリントを読んで復習し、不足した資料を再度収集、対象について記述しておく（2時間）
9	事前学習	これまでの配布プリントを読んで予習し、分析シートのデザインを考えておく（2時間）
	授業内容	調査の実行③分析シートの作成（グループで話し合い、分析シートを作成）
	事後学習	配布プリントを読んで復習し、分析シートを完成させる（2時間）
10	事前学習	配布プリントを読んで復習し、分析シートを完成させておく（2時間）
	授業内容	調査の実行④番組言説・ネット言説の分析（分析シートを元に分担して分析を実行する）
	事後学習	各自分担に従い分析を進めておく（2時間）
11	事前学習	各自分担に従い分析を進めておく（2時間）
	授業内容	調査の実行⑤テキストマイニング（分析シートをもとにテキストマイニングを行う）
	事後学習	テキストマイニングを完成させる（2時間）
12	事前学習	前回までの分析を完成させておく（2時間）
	授業内容	調査結果のとりまとめ①分析データの整形（分析をもとに表やグラフを作成する）
	事後学習	分析をもとに表やグラフを完成させる（2時間）
13	事前学習	分析や表、グラフを完成させておく（2時間）
	授業内容	調査結果のとりまとめ②分析結果の提出（分析結果を文章化し、グループで提出）
	事後学習	分析結果の報告資料を作成する（2時間）
14	事前学習	分析結果の報告資料を完成させる（2時間）
	授業内容	調査結果のとりまとめ③分析結果の報告
	事後学習	グループ報告をもとに個人レポートを作成する（2時間）
15	事前学習	グループ報告をもとに個人レポートを完成する（2時間）
	授業内容	まとめ 分析レポートの提出
	事後学習	これまでの配布プリントや個人レポートを読み返し、授業内容を振り返る（2時間）

科目名	債権法各論	担当者	田中 夏樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業では、民法の債権法を取り扱う。人からお金を借りた場合（消費貸借契約）や人と物の売り買いを行った場合（売買契約）といった人に対する権利，すなわち，債権について，具体的な契約類型に関する規律（債権各論）について取り扱う。 担当教員は元弁護士であり，実務上の取り扱いや具体的な事例等の言及を交えながら解説を行う。				
授業目的・到達目標	債権法は，債権総論・契約・事務管理・不当利得・不法行為等に項目が分けられているが，いずれも実社会において非常に重要な役割を担っている。判例や学説の基礎理論を理解することを通じて，政治・経済の仕組みや現状を分析できる論理的思考能力を養成することを目的とする。判例等を通じて，実際の社会での債権の役割を理解し，債権法の考え方を習得し，最終的に，簡単な事例問題を通じて各問題点を正確に理解し，的確に説明する能力を身に着けることを目標とする。対応DP及びCP：政治経済学科2 新聞学科1，5				
履修条件	特に指定しないが，六法を持参すること。				
授業方法	講義形式で行う。具体的な債権をイメージしやすいように債権各論を先行して解説するまた，あらかじめパワーポイントの資料を配布する予定。最終授業にて授業内試験の講評・解説及び採点雑感を述べる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業内にて試験を行い，成績評価を行う（80％）。なお，授業に積極的に参加することを加味（20％）して評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2006	成文堂	民法講義（5）契約		近江幸治
	2019	日本経済新聞出版社	リーガルベシス民法入門 第3版		道垣内弘人
	備考	授業内にて説明するため，第一回授業までに準備する必要はない。			
参考書	特に指定しないが，授業中に紹介することがある。				
オフィスアワー	水曜日 14：30～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに，教科書の債権各論の導入部分を読み，債権各論の民法上の位置づけを理解する。(2時間)
	授業内容	授業の内容，授業スケジュール，成績評価の方法，参考文献の紹介を含め，債権総論の授業進行方法や学習方法について説明し，受講生の今後の学習準備を行う。成績評価等の質問も受け付ける。
	事後学習	授業内容で言及した学習方法を再確認し，到達度を踏まえた学習計画を検討する。(2時間)
2	事前学習	配布したパワーポイントを確認し，贈与契約の具体的な事例を踏まえ，誰がどのような利益を受ける関係にあるのかを確認しておく。(2時間)
	授業内容	贈与契約 一方当事者が他方当事者に無償で目的物を譲り渡す契約である贈与契約は，双方の当事者が負担を追う契約と比べて当事者の保護の在り方が異なっている。片務・無償契約の典型例である贈与契約の解説を通じ，当事者の利害関係の調整を解説する。
	事後学習	負担付贈与契約のように受贈者も一定の負担を追う場合，通常の贈与契約とはどのように異なった考慮の必要性があるか検討し，自分の考え方をまとめる。(2時間)
3	事前学習	配布したパワーポイントを確認し，売買契約の具体的な事例を踏まえ，贈与契約とはどのように当事者の関係が異なっているのかを確認する。(2時間)
	授業内容	売買契約1 売買契約は双務・有償契約の典型的な契約であり，多くの契約関係に規定が準用される。売買契約では買主と売主間の権利義務がどのように規定されており，どのような考慮に基づくものであるか解説する。
	事後学習	売買契約において，双務契約であるということがどのような影響を及ぼしているか，贈与契約と比べて各当事者の要保護性はどのように異なっているかをまとめる。(2時間)

4	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、売買契約における各当事者の具体的な権利義務としてどのようなものが認められているか、条文とともに確認する。(2時間)
	授業内容	売買契約2 売買契約では、権利や目的物に瑕疵が存在した場合には特別な規定を設けている。基本的には買主を保護するための規定であるが、一方的に買主を保護しているわけではなく、売主の利益にも配慮がなされており、具体的な条文を踏まえながら権利関係を解説する。
	事後学習	売買契約における瑕疵担保責任は、債権法改正によって修正されており、従来の規定と内容を比較し、変更点とその意義を検討する。(2時間)
5	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、消費貸借契約がどのような要件・効果を有しているか、条文や具体的な事例と併せて確認し、なぜそのような要件が必要なのか契約の性質から検討しておく。(2時間)
	授業内容	消費貸借契約 消費貸借契約は、主として金銭を目的とした契約であるが、実社会において融資を受ける場合などが当てはまる。その法的性質及び権利義務について具体的な事例を交え解説を行う。
	事後学習	消費貸借契約の場合でも、目的物に瑕疵が存在していた場合にはどのような処理がなされるのか、条文を確認するとともに、その条文の適用場面を理解し、説明できるようにする。(2時間)
6	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、貸貸借契約について、消費貸借契約とは要件・効果の点でどのような違いがあるかあらかじめ考え、自分なりに整理しておく。(2時間)
	授業内容	貸貸借契約1 貸貸借契約は、もともと借主よりも貸主に有利な契約であり、借主の権利を保護するために様々な立法や判例が成立してきた。借主と貸主の権利義務に関する解説を主として行い、自身が当事者となった際の権利義務について理解できるようにする。
	事後学習	授業内にて扱った立法や判例法理が誰のどのような権利を守ろうとしたものであるか、仮にそのような立法等が存在していなかった場合にはどのような権利関係となっていたかについて考察し、自分なりの考えをまとめる。(2時間)
7	事前学習	前回の授業にて扱った貸貸借契約について、現行民法でも借主の保護に関して不十分な点がないか、検討しておく。(2時間)
	授業内容	貸貸借契約2 貸貸借契約は、民法の特別法である借地借家法にて特別の規定が設けられている。多くは借主を保護するための規定であるが、借地借家法がどのような点で民法を修正し、借主の保護を図っているかを解説する。
	事後学習	借地借家法が、貸主の権利についてはどのように扱っているかを検討する。もともと借地借家法は、借主保護の趣旨が強く出ており、貸主の権利についての扱いを理解できるようにする。(2時間)
8	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、請負契約について、要件・効果がどのようなものであり、雇用契約や委任契約との要件の違いを確認しておく。(2時間)
	授業内容	請負契約 請負契約は、仕事の完成を目的とするものであるが、請負契約の要件・効果等について解説するとともに、完成した目的物に瑕疵が存在していた場合の適用関係についても解説する。
	事後学習	請負人が目的物を完成させる前に、地震等の当事者に帰責性のない原因によって目的物が滅失してしまった場合、いずれの当事者にどのような影響が生じるのかを検討する。(2時間)
9	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、委任契約及び雇用契約について、要件・効果がどのようなものであるかを確認するとともに、実際の社会ではどのような契約として存在しているかを検討する。(2時間)
	授業内容	委任契約・雇用契約 委任契約と雇用契約は類似しているものの、適用される条文や要件・効果が異なっている。それぞれの契約における当事者の地位について解説し、なぜそのような相違が生じるのかを解説する。
	事後学習	民法総則の代理人に関する規定や労働法に関する規定と債権各論の各規定がどのような関係に立つものであるかを整理し、説明できるようにする。(2時間)
10	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、法定債権としてどのような類型があり、契約とは何が異なっているのかを検討する。(2時間)
	授業内容	不当利得 不当利得は、法律上の要件を満たすと債権が発生する法定債権であるが、条文自体は多くない。そのため、判例等を適宜紹介しながら、不当利得に関してどのような論理的考察がなされているのかを解説する。
	事後学習	転用物訴権という用語を各自の教科書で確認し、不当利得とはどのような関係にある問題かを検討し、事実関係やその問題点を検討する。(2時間)
11	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、事務管理について具体例を調べ、法律上の要件・効果について確認をしておく。(2時間)
	授業内容	事務管理 事務管理は、他人のために義務なくして他人の事務処理をした際に生じる債権関係であるが、合意なく債権が生じる法定債権であり、要件が抽象的であるため、具体的な事例や判例を交えながら解説を行う。
	事後学習	事務管理は、比較的控えめな債権の成立しか認めていないが、例えば必要経費のみしか請求が認められないのでは他人の事務を積極的に処理する動機が失われることも考えられる。この点についての自分なりの考えをまとめておく。(2時間)
12	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、不法行為の具体例を調べ、どのような場合に成立する法定債権であるのか、要件・効果とともに確認する。(2時間)
	授業内容	不法行為1 不法行為は条文が少ないにもかかわらず重要な項目であり、不法行為の問題点としてどのようなものがあり、どのような考察がなされているのかを解説する。
	事後学習	債務不履行とはどのような関係に立つものであるかを確認し、債務不履行責任と不法行為責任のいずれもが成立する類型が存在することを確認し、整理する。(2時間)
13	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、不法行為の債権者の債権を制限する法理である過失相殺や損益相殺がどのような制度であるかを確認する。(2時間)
	授業内容	不法行為2 不法行為にて生じた債権は、公平の観点などから一定の制限を受けることがあり、過失相殺や損益相殺がどのような制度趣旨であり、また、その趣旨が及ぶ限界はどこであるかについて解説する。
	事後学習	過失相殺や損益相殺が債務不履行の場合にも認められるものであるか、条文を確認し、不法行為との相違を検討する。(2時間)
14	事前学習	授業内にて試験を行うため、配布したパワーポイントを復習する。(2時間)
	授業内容	授業内試験及びまとめ 授業内にて試験を行い、また、債権法総論の授業のまとめとなる解説を合わせて行う。
	事後学習	授業内試験にてわからなかった点を確認し、パワーポイント等で復習するとともに、次回の授業までに質問事項を整理しておく。(2時間)

15	事前学習	前回までの授業の復習を行い，理解できているところとできていないところを分け，不明点について考え，質問事項を検討しておく。(2時間)
	授業内容	前回までの授業にて行った授業内試験の講評・解説を行い，同時に質疑にも回答する。また，債権法と他の法領域についての関係性にも言及し，履修計画の一助にしていきたい。
	事後学習	債権法と他の法領域との関係を考え，債権法の役割について検討する。(2時間)

科目名	債権法総論	担当者	田中 夏樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業では、民法の債権総論を取り扱う。人からお金を借りた場合（消費貸借契約）や人と物の売り買いを行った場合（売買契約）のような人に対する権利、すなわち、債権について具体的な契約類型に関する規律（債権各論の分野）ではなく、債権に共通した事柄を扱うものである。担当教員は元弁護士であり、実務上の取り扱いや具体的な事例等の言及を交えながら解説を行う。			
授業目的・到達目標	債権法は、債権総論・契約・事務管理・不当利得・不法行為等に項目が分けられているが、いずれも実社会において非常に重要な役割を担っている。判例や学説の基礎理論を理解することを通じて、政治・経済の仕組みや現状を分析できる論理的思考能力を養成することを目的とする。判例等を通じて、実際の社会での債権の役割を理解し、債権法の考え方を習得し、最終的に、簡単な事例問題を通じて各問題点を正確に理解し、的確に説明する能力を身に着けることを目標とする。対応DP及びCP：政治経済学科2 新聞学科1, 5			
履修条件	特に指定しないが、六法を持参すること。			
授業方法	講義形式で行う。具体的な債権をイメージしやすいように前期に債権各論を解説し、後期に債権総論の解説を行う。予めパワーポイントの資料を配布する予定。授業内で試験を行い、最終授業にて講評・解説及び採点雑感を述べる。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	授業内にて試験を行い、成績評価を行う（80％）。なお、授業に積極的に参加すること（20％）を加味して評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2009	成文堂	民法講義〈4〉債権総論	近江幸治
	2013	岩波書店	債権総論 第三版	中田裕康
	2019	日本経済新聞出版社	リーガルベシス民法入門 第3版	道垣内弘人
	備考	教科書はあくまで参考であり、授業内（ガイダンス）にて具体的に指示するため、第1回授業開始前に準備する必要はない。		
参考書	授業中に適宜指示する。			
オフィスアワー	水曜日 14：30～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書の債権総論の導入部分を読み、債権総論の民法上の位置づけを理解する。(2時間)
	授業内容	授業の内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、債権総論の授業進行方法や学習方法について説明し、受講生の今後の学習準備を行う。成績評価等の質問も受け付ける。
	事後学習	授業内容で言及した学習方法を再確認し、到達度を踏まえた学習計画を検討する。(2時間)
2	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、債権法が同じ財産法である物権法と位置づけがどのように異なっているかを確認し、不明点を明らかにする。(2時間)
	授業内容	民法の体系と債権法の位置づけ 債権法は民法の一分野であり、債権法が民法上どのような位置づけにあり、どのような性質を有しているかを物権法等と比較しながら学習する。
	事後学習	特に物権法とどのように役割や機能が違うかについて、何故違うのか、何故そのような役割が与えられているかを自分なりに検討し、事前学習の疑問点を解消できたか確認する。(2時間)
3	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、債権の中でもどのような種類の債権が存在し、どのような性質を有しているのかを理解し、教科書の該当範囲に目を通しておく。(2時間)
	授業内容	債権の種類 債権の中にも種類物債権や特定物債権など様々な種類の債権が存在し、それぞれ性質が異なっている。これらの債権の分類と性質について解説を行う。
	事後学習	何故そのような分類をする必要があり、分類にはどのような意味があるのかについて具体的な債権と関連付けて説明ができるようにする。(2時間)
4	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、債務不履行について制度の目的や要件を理解し、教科書の該当範囲に目を通し、授業前に不明点を明らかにしておく。(2時間)
	授業内容	債務不履行I 債務不履行について、なぜそのような制度が必要であるか、制度が機能するのはどのような場面かについて解説し、債務不履行制度の概要について理解することを目的とする。
	事後学習	債務不履行制度はいくつかの類型に分類されるが、何故そのような必要があるのか、制度趣旨等と関連付けて説明ができるようにする。(2時間)

5	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、債務不履行制度について、制度の目的を踏まえ、どのような法律上の要件が求められているか、分類によって要件がどう異なるのかを確認する。(2時間)
	授業内容	債務不履行2 債務不履行について、前回の授業で扱った類型に応じて異なる要件が求められており、類型ごとの性質を踏まえてなぜそのような要件が必要となるのかを解説する。
	事後学習	債務不履行の要件について、何故そのような理解となるのか、制度趣旨や債務不履行の類型ごとの性質と関連させて説明ができるようにする。(2時間)
6	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、前回までに扱った類型や要件についての理解を確認するとともに、債務不履行の効果について、なぜそのような効果が認められるのかを検討する。(2時間)
	授業内容	債務不履行3 債務不履行について、債務不履行はその効果として契約そのものを遡及的に無効にする手段や契約が存在することを前提として損害賠償請求を行う手段など複数の手段が存在しており、各手段の性質を比較しながら説明する。
	事後学習	債務不履行の効果について、そのような効果がなぜ認められるのか、複数の効果を選択できる場合には、どのような目的の違いが認められるのかを説明できるようにする。(2時間)
7	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、一般的な債務不履行制度と受領遅滞制度がどのように異なるか、制度趣旨や目的について確認をする。(2時間)
	授業内容	受領遅滞 受領遅滞は、債権者側の責任の問題であり、一般的な債務不履行が債務者の責任であることと区別される。債務不履行制度との比較を通じて受領遅滞制度を解説する。
	事後学習	受領遅滞という概念の必要性や法的性質について、債務不履行制度との相違を説明できるか確認し、何故そのような理解が求められるのか確認する。(2時間)
8	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、責任財産とは何か、責任財産を保全する目的は何かといった概要を確認しておく。(2時間)
	授業内容	責任財産の保全1 債務者から資金を回収する際に、債務者に財産がなければ空振りしてしまうため、民法上どのような債務者の責任財産を保つ仕組みが用意されているのかを解説する。
	事後学習	責任財産を保全する必要性と債権者代位権の制度趣旨や機能について具体的な事例を念頭に説明ができるようにする。(2時間)
9	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、債権者代位権と詐害行為取消権の機能や目的の違いを予め確認し、どのような場面で機能するのかを考えてみる。(2時間)
	授業内容	責任財産の保全2 責任財産の保全には、債権者代位権と詐害行為取消権とが民法上存在しているが、それぞれ適用場面が異なっており、どのような事情があればいずれの手段を選択すべきであるのかを解説する。
	事後学習	責任財産の保全について、債権者代位権と詐害行為取消権を念頭に置き、法的な手段の区分と要件及び効果を制度趣旨と関連させて説明ができるようにする。(2時間)
10	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、連帯債務とはどのような当事者が登場し、どのような債権関係に立っているか概要を確認する。(2時間)
	授業内容	連帯債務 多数当事者の中で最も重要な概念の一つである連帯債務について、債務者が複数人存在し、かつ、連帯して債務を負っている場合にどのような影響関係があるかを解説する。
	事後学習	連帯債務は、債権者にとってどういったメリットのある制度であり、どのような制度設計が念頭に置かれているかを理解し、債権者の権利の拡張を説明できるようにする。(2時間)
11	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、保証債務の場合に、連帯債務とどのように異なるかを意識して、保証制度の機能や目的を確認しておく。(2時間)
	授業内容	保証債務 保証制度は主として債権者の債権を強化する目的で利用されるが、他方で保証人が不当に害されることを防ぐ必要がある。民法が各当事者の利害関係にどのような配慮をした制度を用意しているかを解説する。
	事後学習	保証債務について、制度趣旨の違いを踏まえ、連帯債務者の場合と比較してどのような立法的な保護がなされているのかを理解し、説明ができるようにする。(2時間)
12	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、債権譲渡の制度について、どのような目的の制度であるか、どのような場面で活用される制度であるかを確認する。(2時間)
	授業内容	債権譲渡 債権譲渡はかつては否定されていた制度であるが、近代に近づくにつれて積極的に活用されるようになった制度であり、債権譲渡を活用することの利点と不都合性としてどのようなものがあるかを解説する。
	事後学習	債権譲渡がどのような目的で行われる制度であるか、債権譲渡のやり方にはどのような類型があるのかを理解し、債務者・債権者・第三者の状況に応じてどのような手法が妥当であるかを考えられるようにする。(2時間)
13	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、債務が消滅するのはどういった類型が存在するか確認し、弁済についての該当箇所を確認する。(2時間)
	授業内容	債務消滅 発生した債権がどのようにして消滅するのかについて、総論的な解説を行う。債権の消滅に関しては、債権者と債務者の利害関係が対立するため、どのような調整がなされるのかといった観点から解説を行う。
	事後学習	債務が消滅する法制度間の差異を理解し、各制度ごとの論点や特徴としてどのようなものがあるか、なぜそのような問題が生じるのかといったことを順序立てて説明できるようにする。(2時間)
14	事前学習	授業内にて試験を行うため、配布したパワーポイントを復習する。(2時間)
	授業内容	授業内試験及びまとめ 授業内にて試験を行い、また、債権法総論の授業のまとめとなる解説を合わせて行う。
	事後学習	授業内試験にてわからなかった点を確認し、パワーポイント等で復習するとともに、次回の授業までに質問事項を整理しておく。(2時間)
15	事前学習	前回までの授業の復習を行い、理解できているところとできていないところを分け、不明点について考え、質問事項を検討しておく。(2時間)
	授業内容	前回までの授業にて行った授業内試験の講評・解説を行い、同時に質疑にも回答する。また、債権法と他の法領域についての関係性にも言及し、履修計画の一助にしていきたい。
	事後学習	債権法と他の法領域との関係を考え、債権法の役割について検討する。(2時間)

科目名	財政学Ⅰ	担当者	川又 祐	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現実社会で起こっている財政現象を適宜紹介しながら、学生自らそれらを理解し、説明できるよう授業を行う。また、各種公務員試験や資格試験では、経済学や財政学が重要科目となっている。経済学や財政学の学びを通じて、試験対策にも役立つよう授業を行う。				
授業目的・到達目標	国家の財政がどのように運営されているのかを理解出来る力を養成することをこの授業の目的とする。日本の財政が抱える問題点を自分なりに考えられるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1、2 政治経済学科3、4 公共政策学科1、3、4				
履修条件	特になし（経済学Ⅰ、Ⅱを履修していることが望ましい）。				
授業方法	テキスト中心に講義形式の授業を行う。適宜、パワポを使用する。必要な資料はYドライブを通じて配布する。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	定期試験の成績で評価する。	
	平常評価		0%		
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	八千代		財政学入門	楠谷・藪下・斎藤・川又
	備考				
参考書	使用しない				
オフィスアワー	毎週金曜日昼休み、本館8階の研究室で質問・相談に応じます。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	古典学派と官房学派及びその代表者について調べる。2時間
	授業内容	授業ガイダンス 教科書第1章 財政の3大機能 1 財政と、財政学の歴史
	事後学習	財政学の2大源流を説明できるようにする。2時間
2	事前学習	現代の財政に期待される役割を調べる。2時間
	授業内容	教科書 2 財政と資源配分機能①
	事後学習	市場の失敗を説明できるようにする。2時間
3	事前学習	公共財の概念を調べる。2時間
	授業内容	教科書 2 財政と資源配分機能②
	事後学習	純粋公共財と準公共財を説明できるようにする。2時間
4	事前学習	資本主義における所得の不平等の原因を調べる。2時間
	授業内容	教科書 3 財政と所得再分配機能①
	事後学習	絶対的貧困と相対的貧困を説明できるようにする。2時間

5	事前学習	所得再分配を実現している累進税と生活保護を調べる。2時間
	授業内容	教科書3 財政と所得再分配機能②
	事後学習	ローレンツ曲線とジニ係数を説明できるようにする。2時間
6	事前学習	J. M. ケインズの財政学界における業績について調べる。2時間
	授業内容	教科書4 財政と経済安定機能①
	事後学習	有効需要の原理、乗数理論を説明できるようにする。2時間
7	事前学習	フィスカル・ポリシー、ビルト・イン・スタビライザーを調べる。2時間
	授業内容	教科書4 財政と経済安定機能② 5 現代財政の課題
	事後学習	フィスカル・ポリシーの目標である完全雇用を説明できるようにする。2時間
8	事前学習	財政民主主義の歴史的背景を調べる。2時間
	授業内容	教科書第2章 予算制度 1 財政民主主義
	事後学習	財政民主主義の意義を説明できるようにする。2時間
9	事前学習	予算の種類を調べる。2時間
	授業内容	教科書2 予算制度
	事後学習	予算がどのような過程を経て成立するか、説明できるようにする。2時間
10	事前学習	財政民主主義と予算原則との関係を調べる。2時間
	授業内容	教科書3 予算原則
	事後学習	伝統的予算原則と現代的予算原則を説明できるようにする。2時間
11	事前学習	財政民主主義を再確認する。2時間
	授業内容	教科書4 予算制度の課題
	事後学習	財政の役割を実現するために必要な事柄を説明できるようにする。2時間
12	事前学習	フィスカル・ポリシーを再確認する。2時間
	授業内容	教科書第3章 政府支出の理論と実際 1 政府支出の理論
	事後学習	政府支出（経費）の効果を説明できるようにする。2時間
13	事前学習	アドルフ・ワグナーの財政学界における業績を調べる。2時間
	授業内容	教科書2 政府支出の膨張要因
	事後学習	経費膨張の法則を説明できるようにする。2時間
14	事前学習	政府支出（経費）の効果（乗数効果）を再確認する。2時間
	授業内容	教科書3 政府支出の構造
	事後学習	政府支出（経費）の分類を説明できるようにする。2時間
15	事前学習	今年度予算を調べる。2時間
	授業内容	教科書4 主要な経費
	事後学習	主要経費やその他の経費区分を説明できるようにする。2時間

科目名	財政学Ⅰ	担当者	楠谷 清	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	財政とは、国や地方自治体などの公共部門の経済活動のことであり、保育・教育・防衛・公共事業から年金・医療と言った社会保障、環境問題まで国民生活の広範囲にわたる。本講義では、財政制度及びその理論の理解の上に、現在の日本が直面する財政の諸問題を取り扱う。			
授業目的・到達目標	本講では、財政収支の逼迫と財政の構造転換という課題を踏まえて、現在、日本の財政が当面する諸問題を体系的に検討する。現代財政の重要課題を解明するのに必要な、財政に関する理論・制度・政策・歴史を平易に解説することによって学生諸君に理解させること、さらに、他国の財政と比較しながら現在の日本の財政システムの抱える構造問題を抽出し、それに対する学生諸君の判断力を養うことを目的とする。財政の機能、財政制度、他国の財政と比較した日本の財政状況の把握、租税制度改革等を含む財政制度改革の意義、等について、受講生が修得し説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，2 政治経済学科3，4 公共政策学科 1，3，4			
履修条件	経済学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。			
授業方法	講義毎にレジメと関連する資料を配付して講義を進める。スライド（パワーポイント）を使用して講義を行う。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	筆記試験は財政学の重要概念が習得されているかを判定する。授業中に解説された各項目・事項について理解すること。	
	平常評価	20%	レポート提出、授業への参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	八千代出版	『財政学入門』	楠谷・藪下・川又・斉藤編著
	備考			
参考書	林宜嗣著『基礎コース 財政学 第3版』（新世社）、『図説 日本の財政 平成31年度版（または平成30年度版）』（東洋経済）、『図説 日本の税制 平成31年度版（または平成30年度版）』、その他授業中に適宜紹介。			
オフィスアワー	火曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読む。教科書を入手して、「第1章 財政の三大機能」を読む。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて財政学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的にできるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書 第1章の「1. 財政と財政学の歴史」「2. 財政と資源配分機能」を読み、財政とは何か、財政学の発展過程、財政の三大機能の1つである資源配分機能の意義を考察する。（2時間）
	授業内容	【財政と財政の機能】 経済循環と政府の財政、財政学理論の発展過程、市場の機能、市場の失敗と財政の機能（役割）との関係を学習し、受講生が財政の機能の意義について説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、財政の三大機能のうち資源配分機能の意義を市場の失敗との関連づけて、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書 第1章の「3. 財政と所得再分配機能」を読み、所得分配の現状と財政の所得再分配機能の意義を考察する。（2時間）
	授業内容	【財政の所得再分配機能】 資本主義経済における所得分配の決定メカニズム、所得格差の現状、財政の所得再分配機能を学習し、受講生が財政による所得再分配機能の意義を説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、わが国における所得格差の推移データを参考に、格差を生じさせる原因は何か、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
4	事前学習	教科書 第1章の「4. 財政と経済安定機能」、「5. 現代財政の課題」を読み、経済安定機能の意義と日本の財政が抱える課題について、考察する。（2時間）
	授業内容	【財政の経済安定機能、現代財政の課題】 資本主義経済における景気循環を学習し、財政の経済安定機能の意義を学習する。また、日本の財政の現状を主要経費別分類の会計資料を基に学習し、財政の現状把握から日本の財政の抱える課題を考察し、経済安定機能と日本の財政の現状について受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、財政の経済安定機能とその意義、日本の財政が抱える課題について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）

5	事前学習	教科書 第2章の「1. 財政民主主義」、「2. 予算制度」を読み、財政民主主義の概念、税や予算などの財政活動を規定する法制度を考察する。（2時間）
	授業内容	【予算制度1】 税や予算などの財政活動を規定する法制度を学習し財政民主主義の考え方を学び、どのような法制度の枠組みの中で財政が営まれることによって財政民主主義が保証されているのか考察し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、税や予算が法律で規定されているのはなぜかについて、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書 第2章の「2. 予算制度の3）予算過程、4）財政投融资計画」を読み、予算過程の仕組み、及び財政投融资計画の機能について考察する。（2時間）
	授業内容	【予算制度2】 予算過程の仕組みと、財政投融资計画の機能を学習して、受講生がそれらを説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、予算過程の構造、財政投融资計画の意義について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書 第2章の「3. 予算原則」、「4. 予算制度の課題」を読み、予算作成の原則と予算制度の課題について考察する。（2時間）
	授業内容	【予算制度3】 予算作成の意義と予算編成に求められる原則について法規定との関連性を学習し、これらの意義について受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、伝統的予算原則の内容を整理し、予算原則の意義について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書 第3章の「1. 政府支出の理論」を読み、政府支出に求められる経済効率の意義について考察する。（2時間）
	授業内容	【政府支出の理論と実際1】 政府の支出には効率性が求められるが、どのような意味で効率的と判断されるのかを学習し、どのような条件が満たされれば、政府支出は効率的となるのか関連する経済学理論を用いて学習し、受講生が政府支出の経済的効率意義を説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、公共財の最適供給と地方分権の関係について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書 第3章の「2. 政府支出の膨張要因」を読み、その意味を考察する。（2時間）
	授業内容	【政府支出の理論と実際2】 政府支出の膨張傾向と支出膨張に関するワグナーの法則、転移効果、官僚制と経費膨張の法則等を学習し、受講生が経費膨張に関する代表的理論を説明できるようにする。
	事後学習	わが国の政府支出が、膨張する現代の具体的要因としてどのようなことが考えられるか、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書 第3章の「3. 政府支出の構造」を読み、わが国の経費の分類について考察する。（2時間）
	授業内容	【政府支出の理論と実際3】 わが国の一般会計予算における経費の分類方法、経費構造の特徴を学習し、これらを受講生が説明できるようにする。
	事後学習	わが国の政府支出の構造と歴史的な移り変わり（戦中→戦後→現在）を、予算の主要経費別分類に基づいて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書 第4章の「1. 税の役割と租税原則」を読み、その意義について考察する。（2時間）
	授業内容	【租税の原則と日本の税制1】 租税の役割、租税の分類、スミス及びワグナーの租税原則を学習し、租税の果たす役割、様々な分類方法、現代の租税原則について、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、スミスとワグナーの租税原則の相違点を指摘し、相違点を両者の活躍した時代背景から捉え、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書 第4章の「2. 公平な税とは」、「3. 課税と経済効率」を読み、その意義について考察する。（2時間）
	授業内容	【租税の原則と日本の税制2】 租税原則に関する公平な税の意味を学習し、また、租税原則の中立性原則と同義語の経済効率を学習し現行の所得税の問題点を考察し、受講生が租税原則を具体的に説明出来るようにする。
	事後学習	（レポート提出課題）1989年にわが国は消費税を導入したが、その際、物品税が廃止された。このような間接税の改革は経済効率の改善につながると言われるが、この点について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
13	事前学習	教科書 第4章の「4. 日本の租税構造」、「5. 所得税」を読み、その構造と特徴について考察する。（2時間）
	授業内容	【租税の原則と日本の税制3】 日本の租税構造を主要国のものと比較して日本の租税構造の特徴を学習する。さらに、わが国の所得税の仕組みと特徴について学習し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、わが国における所得税の特徴を税率構造、課税最低限などの点から自分なりの説明をまとめる。（2時間）
14	事前学習	教科書 第4章の「6. 消費税」を読み、その構造と特徴について考察する。（2時間）
	授業内容	【租税の原則と日本の税制4】 わが国の消費税の仕組みとメリット、デメリットを学習し、これらを受講生が説明できるようにする。
	事後学習	消費税の負担はなぜ逆進的となるのか。また、逆進性を緩和する手段と、緩和にともなう問題点について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
15	事前学習	教科書 第4章の「7. 法人税」、「8. 資産税」を読み、その構造と特徴について考察する。（2時間）
	授業内容	【租税の原則と日本の税制5】 わが国の法人税を主要国と比較して特徴点、法人税の仕組みと問題点、ボーダーレスに企業活動が営まれる中で、法人税制度に求められる改革等を学習し、これら法人税に係わる課題を受講生が説明できるようにする。
	事後学習	法人税の重複課税について、個人株主の場合と法人株主の場合の重複課税をまとめ、その対応策を日本ではどのように行っているか説明をまとめる。（2時間）

科目名	財政学Ⅱ	担当者	川又 祐	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現実社会で起こっている財政現象を適宜紹介しながら、学生自らそれらを理解し、説明できるよう授業を行う。また、各種公務員試験や資格試験では、経済学や財政学が重要科目となっている。経済学や財政学の学びを通じて、試験対策にも役立つよう授業を行う。				
授業目的・到達目標	国家の財政がどのように運営されているのかを理解出できる力を養成することをこの授業の目的とする。日本の財政が抱える問題点を自分なりに考えられるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1、2 政治経済学科3、4 公共政策学科1、3、4				
履修条件	特になし（経済学Ⅰ、Ⅱ、財政学Ⅰを履修していることが望ましい）。				
授業方法	テキスト中心に講義形式の授業を行う。適宜、パワポを使用する。必要な資料はYドライブを通じて配布する。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	定期試験の成績で評価する。	
	平常評価		0%		
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	八千代		財政学入門	楠谷・藪下・斎藤・川又
	備考				
参考書	使用しない				
オフィスアワー	毎週金曜日昼休み、本館8階の研究室で質問・相談に応じます。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	財政学Ⅰでとりあげた財政民主主義を調べる。2時間
	授業内容	教科書第4章 租税の原則と日本の税制 1 税の役割と租税原則①
	事後学習	租税の概念と課税の正義を説明できるようにする。2時間
2	事前学習	租税が果たしている役割を調べる。2時間
	授業内容	教科書 1 税の役割と租税原則②
	事後学習	スミス4原則、ワグナー4大9小原則、現代租税原則を説明できるようにする。2時間
3	事前学習	課税における公平を実現する方法を調べる。2時間
	授業内容	教科書 2 公平な税とは①
	事後学習	水平的公平と垂直的公平を説明できるようにする。2時間
4	事前学習	租税の応益原則、応能原則を調べる。2時間
	授業内容	教科書 2 公平な税とは 1) 応益原則と応能原則②
	事後学習	公平な課税といわれる累進税を犠牲説によって正当化できるようにする。2時間

5	事前学習	現代租税原則のうち中立原則を再確認する。2時間
	授業内容	教科書 2）租税の転嫁と帰着①
	事後学習	転嫁の種類を説明できるようにする。2時間
6	事前学習	経済学やミクロ経済学でとりあげられる余剰概念（消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰）を調べる。2時間
	授業内容	教科書 2）租税の転嫁と帰着②
	事後学習	租税転嫁によってひきおこされる超過負担を説明できるようにする。2時間
7	事前学習	労働供給に影響を与えるものは何か、を調べる。2時間
	授業内容	教科書 3 課税と経済効率
	事後学習	所得税と労働供給の関係を説明できるようにする。2時間
8	事前学習	今年度予算を調べる。2時間
	授業内容	教科書 4 日本の租税構造 5 所得税 6 消費税 7 法人税 8 資産課税
	事後学習	各租税の収入の大きさを説明できるようにする。2時間
9	事前学習	今年度予算を調べる。2時間
	授業内容	教科書第5章 日本の公債問題 1 租税と公債の相違
	事後学習	租税と公債の違いを説明できるようにする。2時間
10	事前学習	公債残高を調べる。2時間
	授業内容	教科書 2 公債発行の問題 3 公債の負担 4 日本の公債発行の現状
	事後学習	財政赤字を減らす方法を説明できるようにする。2時間
11	事前学習	日本の人口ピラミッドを調べる。2時間
	授業内容	教科書第6章 社会保障財政 1 超高齢社会と社会保障
	事後学習	超高齢社会における財政の役割を説明できるようにする。2時間
12	事前学習	財政学Ⅰでとりあげられる財政の所得再分配機能を調べる。2時間
	授業内容	教科書 2 年金保険制度 3 医療保険制度と財政 4 公的扶助
	事後学習	日本の年金保険制度を説明できるようにする。2時間
13	事前学習	財政学Ⅰでとりあげられる財政の経済安定機能を調べる。2時間
	授業内容	教科書第7章 財政政策の理論 1 政府の目的 2 乗数効果と45度線分析
	事後学習	均衡国民所得の決定を説明できるようにする。2時間
14	事前学習	経済学及びマクロ経済学でとりあげられる流動性選好を調べる。2時間
	授業内容	教科書 3 IS曲線とLM曲線 4 IS-LM分析
	事後学習	IS曲線とLM曲線、クラウディングアウトを説明できるようにする。2時間
15	事前学習	中央財政と地方財政の違いを調べる。2時間
	授業内容	教科書第8章 地方の財政問題
	事後学習	地方財政の役割を説明できるようにする。2時間

科目名	財政学Ⅱ	担当者	楠谷 清	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	財政とは、国や地方自治体などの公共部門の経済活動のことであり、保育・教育・防衛・公共事業から年金・医療と言った社会保障、環境問題まで国民生活の広範囲にわたる。本講義では、財政制度及びその理論の理解の上に、現在の日本が直面する財政の諸問題を取り扱う。				
授業目的・到達目標	本講では、財政収支の逼迫と財政の構造転換という課題を踏まえて、現在、日本の財政が当面する諸問題を体系的に検討する。現代財政の重要課題を解明するのに必要な、財政に関する理論・制度・政策・歴史を平易に解説することによって学生諸君に理解させること、さらに、他国の財政と比較しながら現在の日本の財政システムが抱える構造問題を抽出し、それに対する学生諸君の判断力を養うことを目的とする。財政の機能、財政制度、他国の財政と比較した日本の財政状況の把握、租税制度改革等を含む財政制度改革の意義、等について修得し、受講生が説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，2 政治経済学科3，4 公共政策学科 1，3，4				
履修条件	財政学Ⅰを履修していることが望ましい。 経済学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。				
授業方法	講義毎にレジメと関連する資料を配付して講義を進める。スライド（パワーポイント）を使用して講義を行う。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	筆記試験は財政学の重要概念が習得されているかを判定する。授業中に解説された各項目・事項について理解すること。	
	平常評価		20%	レポート提出、授業への参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2018年	八千代出版	『財政学入門』		楠谷・藪下・川又・斎藤著
	備考				
参考書	『図説 日本の財政 平成31年度版（または平成30年度版）』（東洋経済）、『図説 日本の税制 平成31年度版（または平成30年度版）』（財経詳報社）、その他授業中に適宜紹介。				
オフィスアワー	火曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読む。教科書を入手して、「第1章 財政の三大機能」を読む。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて財政学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的にできるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書 第5章の「1. 公債の定義と種類」、「2. 公債の発行方法および償還方法」を読み、財源調達手段としての租税との相違、公債の種類や発行方法について考察する。（2時間）
	授業内容	【日本の公債問題1】 公債の定義と種類、公債の発行方法および償還方法を学習し、受講生が公債の仕組みや公債の評価を説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、公債発行に関するわが国の財政規定を確認し、その財政規定の根拠を、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書 第5章の「3. 公債負担に関する考え方」を読み、負担に関する各学説を考察する。（2時間）
	授業内容	【日本の公債問題2】 公債負担の問題に関する各学説（古典派経済学、ケインズ派経済学、ブキャナンの説、ボーエン・デービス・コップ、モディリアーニの説、中立命題）を考察し、各学説の意義と相違点を明らかにし、受講生が公債負担に関する各学説を説明できるようにする。
	事後学習	中立命題の成立可能性に関する理論的論争を参考に、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
4	事前学習	教科書 第5章の「4. 公債累増の問題点」、「5. 日本の財政状況と公債発行の推移」を読み、わが国の公債発行残高の状況を踏まえて累増の問題点を考察する。（2時間）
	授業内容	【日本の公債問題3】 公債発行の累増によって、財政の硬直化、世代間の不公平、経済に損失をもたらす非効率生む大きな政府、民間経済活動への阻害、わが国の財政状況を学習し、累増による問題点を考察し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、わが国の財政再建に求められることは何か、自分なりの説明をまとめる。（2時間）

5	事前学習	教科書 第6章の「1. 超高齢社会と社会保障」を読み、社会保障の概念と意義について考察する。(2時間)
	授業内容	【社会保障財政1】 わが国の社会保障制度の意義と財政との関連を学習し、超高齢社会の進展によって、社会保障給付費が拡大していることを学習し、制度の仕組みと意義、現状を受講生が説明できるようにする。
	事後学習	(レポート提出課題) 社会保障給付費の概念と一般会計予算の社会保障関係費の概念の違いを確認し、社会保障関係費の一般会計予算に占める推移と現役世代(若年世代)の負担について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
6	事前学習	教科書 第6章の「2. 年金保険制度と財政」を読み、公的年金制度の意義と現状について考察する。(2時間)
	授業内容	【社会保障財政2】 わが国の公的年金制度の意義と体系、年金財政の危機、制度改革の方向性を学習し、超高齢社会の進展によって年金財政の破綻が危惧されること、制度改革はどのような内容で進められているか学習し、公的年金の意義と現状、制度改革の必要性と方向性を受講生が説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、年金の財政方式には2つの方式があるが、それぞれの方式の特徴と問題点について自分なりの説明をまとめる。(2時間)
7	事前学習	教科書 第6章の「3. 医療保険制度と財政」、「4. 公的扶助」を読み、医療保険制度の仕組みと現状、また、公的扶助の意義と現状について考察する。(2時間)
	授業内容	【社会保障財政3】 わが国の医療保険制度の概要、意義、課題について学習し、超高齢化の進展とともに厳しい財政状況にあること、また、どのような改革が進められているのか学習する。さらに、公的扶助の内容と現状について学習し、これらの内容を受講生が説明できるようにする。
	事後学習	「医療保険制度の存在が、医療費を増加させる原因である」とも言われる。この点について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
8	事前学習	教科書 第7章の「1. 乗数理論」を読み、財政の経済安定化機能との関係を考察する。(2時間)
	授業内容	【財政政策の理論1】 乗数理論、政府支出の乗数効果、租税の乗数効果を学習し、財政支出と課税が経済の安定化と成長にどのように影響するのか学習し、受講生が内容について理論的に説明できるようにする。
	事後学習	財政政策の効果が小さくなってきていると言われるが、その理由について自分なりの説明をまとめる。(2時間)
9	事前学習	教科書 第7章の「2. 財市場の均衡と貨幣市場の均衡」を読み、IS-LM分析の理論を考察する。(2時間)
	授業内容	【財政政策の理論2】 財市場と貨幣市場の同時均衡を分析するIS-LM分析を学習し、その分析の意義を受講生が説明できるようにする。
	事後学習	利子率を縦軸に取り国民所得を横軸に取った場合、IS曲線は右下がりに描かれ、LM曲線は右上がりに描かれることを経済学(マクロ経済学)のテキスト等を参考に学習する。(2時間)
10	事前学習	教科書 第7章の「3. IS-LM分析と財政政策・金融政策の効果」を読み、各政策の違いを考察する。(2時間)
	授業内容	【財政政策の理論3】 IS-LM分析による財政政策と金融政策の経済効果と両政策の効果の相違点を学習する。また、ケインズの財政政策とは何か学習する。受講生が内容について理論的に説明できるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、公共支出によるクラウディング・アウト発生の可能性を、IS-LM分析を用いて自分なりの説明をまとめる。(2時間)
11	事前学習	教科書 第7章の「4. ケインズの財政政策に対する批判」を読み、ケインズの財政政策に対する批判の代表的考えを考察する。(2時間)
	授業内容	【財政政策の理論4】 財政による景気対策の効果に疑問をもつ代表的な考え方として、マネタリスト、合理的期待形成学派、サプライサイド経済学、公共選択学派の主張を学習し、各考え方を受講生が説明できるようにする。
	事後学習	マンデル=フレミング効果について、自分なりに解説してみる。(2時間)
12	事前学習	教科書 第8章の「1. 地方財政の課題」、「2. 地方財政の収入」を読み、中央財政と地方財政の関係、地方財政の理論、地方の歳入構造、地方税体系を考察する。(2時間)
	授業内容	【地方の財政問題1】 中央集権と地方分権のメリット・デメリット、地方財政の機能の特徴、国と地方政府間財政関係、地方財政計画の役割、ティプーの地方財政モデルの意義、地方歳入の構造、地方税体系を学習し地方財政の特徴点や地方分権の意義について学習する。
	事後学習	地方公共財の供給において民間手法を活用すべきだという意見について、自分なりの考えをまとめる。(2時間)
13	事前学習	教科書 第8章の「3. 地方の歳出構造」を読み、歳出の分類について考察する。(2時間)
	授業内容	【地方の財政問題2】 普通会計と公営事業会計、目的別分類、性質別分類、経常収支比率を学習し、地方公共団体の会計制度について考察する。
	事後学習	地方分権時代にふさわしい地方税のあり方について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
14	事前学習	教科書 第8章の「4. 地方交付税と財政調整」、「5. 国庫支出金」を読み、各制度の仕組みを考察する。(2時間)
	授業内容	【地方の財政問題3】 地方交付税の仕組み、地方交付税の地域間再分配効果、国庫支出金意義、国庫支出金の経済効果等を学習し、地方交付税と国庫支出金の役割と問題点について、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	特定補助金と一般補助金の違いについて説明し、地方住民の厚生水準を引き上げるためには、特定補助金を一般補助金に変えるべきとする主張について、自分なりの説明をまとめる。(2時間)
15	事前学習	教科書 第8章の「6. 分権化の地方財政」を読み、分権化の意味と分権化のメリット・デメリットを考察する。初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、財政学の体系を考察する。(2時間)
	授業内容	【地方の財政問題4】 三位一体改革、分権化の推進と関連する学説「地方分権の定理」「足による投票」等を学習して、分権化のメリット・デメリットを考察する。講義のまとめ
	事後学習	高齢化や人口減少により地方消滅が心配されているわが国において、地方分権の意義と推進策について自分なりの説明をまとめる。 初回からの授業ノートや事後学習を見直して整理し、期末試験に向けた準備をする。(2時間)

科目名	サイバー法 I	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	コンピュータに関する問題やインターネット上に生ずる問題を、現行法によりどのように解決することが、社会にとって妥当なのか、それでは解決できない場合はどのような解決策を講じればよいのかを考えてみる講義である。				
授業目的・到達目標	授業目的 コンピュータやインターネットに関わる問題を特別法や現行法や条約によりいかに解決するかを学ぶ。 到達目標 コンピュータネットワークやスマートフォンを利用する際に生ずる様々な問題をどのように解決することが良いのかや、現行法上の問題点などを理解し、解決の方向性を見出せるようになること。 関連DP及びCP 経営法学科1, 3, 5, 7, 8				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式で行う。デジタル形式の資料を配布する。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定 期 試 験		0%		試験は行わない。
	平 常 評 価		100%		指定したテーマについて学期末にレポートを提出してもらい、それにより評価する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2015年	有斐閣		インターネット法	松井、鈴木、山口編
	備考				
参 考 書	「情報ネットワークの法律実務」第一法規				
オフィスアワー	授業終了後、講堂にて（授業時間：水曜2・3・4限） 事前にメールでアポイントを取ること E-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	最近話題となった、コンピュータ、インターネットに関する問題を調べておく(例えばAI)。テキスト第1章を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	コンピュータやインターネットが何をもたらすのかを考え、まとめる。(2時間)
2	事前学習	コンピュータやインターネットを利用した1日の有効利用を考える。利用できるデータベースシステムを検索する。(2時間)
	授業内容	情報の検索と収集
	事後学習	講義内容からコンピュータやインターネットを利用して1日の有効利用法を考え、試す。図書館のデータベースを利用する。ネット上の翻訳ソフトを使用する。e-GOV法令検索を利用する。(2時間)
3	事前学習	情報発信の意義を考えておく。テキスト第3章「インターネット上の名誉毀損・プライバシー侵害」部分を読んでおく。(2時間)
	授業内容	インターネット上の人権侵害
	事後学習	どのような場合に自己の情報発信が他者の人権を侵害することになるのか説明できるようにまとめる。(2時間)
4	事前学習	生体情報とは何なのか、その収集方法どのように行われるのかを調べておく。参考書「情報ネットワークの法実務第7章6(バイオメトリクス個人認証)」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	バイオメトリクス(画像検索エンジン)
	事後学習	バイオメトリクス情報の利用とプライバシー侵害の境界線を説明できるようにまとめる。(2時間)

5	事前学習	表現の自由の概念を理解しておくこと。テキスト第6章「インターネット上の差別的表現・ヘイトスピーチ」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	インターネットと表現の自由、インターネット上の差別的表現
	事後学習	表現に対する制限の基準を正しく説明できるようにまとめる。(2時間)
6	事前学習	違法なウェブサイトとはどのようなものか調べておく。テキスト第12章「サービス・プロバイダーの責任と発信者開示」部分を読んでおくこと。(2時間)を読んでおくこと。
	授業内容	プロバイダーの責任
	事後学習	プロバイダーの責任と人の権利に対する制限の境界線を理解し、説明できるようにまとめる。(2時間)
7	事前学習	他人の電子メールを読む方法を調べておく。参考書「情報ネットワークの法実務第7章15(IT機器を利用した従業員の監視の在り方)」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	電子メールの盗み読み
	事後学習	電子メールと信書の違いを説明し、電子メールを監視することの適法性を説明できるようにまとめる。(2時間)
8	事前学習	大学のコンピュータの利用の為のID、PWを友達に教えたらどうなるのか。テキスト第9章4「ネットワークセキュリティキーの保護」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	不正アクセス禁止法の問題点
	事後学習	同一の条約に基づく方でありながらドイツ法と日本法では客体に違いがあること等をまとめる。(2時間)
9	事前学習	パソコンの自動アッププログラムはウイルスソフトには該当しないのか確認する。テキスト第9章4「ネットワークセキュリティキーの保護」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	不正指令電磁的記録作成供用罪(刑165条の2)
	事後学習	「クッキー」に対する欧州と我が国の捉え方の違い等、不正指令概念の不正確さを理解し説明できるようにまとめる。(2時間)
10	事前学習	通信の秘密の意義を確認しておくこと。参考書「情報ネットワークの法実務第8章1(通信の秘密の保護とその課題)」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	通信の秘密の諸問題
	事後学習	誰でもが取得可能な情報は通信の秘密で保護できるのか否かという観点から説明できるようまとめる。(2時間)
11	事前学習	携帯電話不正利用防止法を確認しておくこと。参考書「情報ネットワークの法実務第8章26(携帯電話不正利用防止法の概要)」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	携帯電話(スマホ)の譲渡
	事後学習	今日ではチップの譲渡が対象となること、本人確認の方法という観点から問題点を指摘できるようまとめる。(2時間)
12	事前学習	青少年保護条例による有害図書 の指定とは何かを調べておく。テキスト第5章「インターネット上での青少年の保護」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	ブロッキングとフィルタリング
	事後学習	フィルタリングとブロッキングの違いを理解して説明できるようまとめる。(2時間)
13	事前学習	どのようにして子供のヌード画像が作られるか調べておくこと。テキスト第4章2「児童ポルノ」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	わいせつ、チャイルドポルノの規制
	事後学習	インターネットの使用制限の必要性まで及ぶ可能性を理解して説明できるようまとめる。(2時間)
14	事前学習	私事性的画像記録の提供等による被害の防止に関する法律の趣旨を調べておくこと。(2時間)
	授業内容	リベンジポルノ、名誉毀損
	事後学習	被害者に氏名の変更を認めるという解決方法やドイツ法のような規制と我が国の法とを比較して違いを説明できるようまとめる。(2時間)
15	事前学習	今学期のレポート課題について口頭で説明できるようにまとめる。(2時間)
	授業内容	今学期のレポート課題について解説する。
	事後学習	作成、提出したレポートが適切なものであったかを考え、不十分であった部分を補足するよう復習する。(2時間)

科目名	サイバー法Ⅱ	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	コンピュータに関する問題やインターネット上に生ずる問題を、現行法によりどのように解決することが、社会にとって妥当なのか、それでは解決できない場合はどのような解決策を講じればよいのかを考えてみる講義である。			
授業目的・到達目標	授業目的 コンピュータやインターネットに関わる問題を特別法や現行法や条約によりいかに解決するかを学ぶ。 到達目標 コンピュータネットワークやスマートフォンを利用する際に生ずる様々な問題をどのように解決することが良いのかや、現行法上の問題点などを理解し、解決の方向性を見出せるようになること。 関連DP及びCP 経営法学科1, 3, 5, 7, 8			
履修条件	特になし。			
授業方法	講義形式で行う。デジタル形式の資料を配布する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	試験は行わない。
	平 常 評 価		100%	指定したテーマについて学期末にレポートを提出してもらい、それにより評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015年	有斐閣	インターネット法	松井、鈴木、山口編
	備考			
参 考 書	「情報ネットワークの法律実務」第一法規			
オフィスアワー	授業終了後、講堂にて（授業時間：水曜2・3・4限） 事前にメールでアポイントを取ること E-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	最近話題となった、コンピュータ、インターネットに関する問題を調べておく（例えばAI）。テキスト第1章「インターネット法の発達と特色」部分を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	コンピュータやインターネットが何をもたらすのかを自ら考え、まとめる。（2時間）
2	事前学習	グーグルストリートビュー事件判決（福岡地裁平23, 3, 16）を読んでおく。日本法学81巻2号「道路周辺映像サービスの問題点」（ https://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/doc/law81_2.pdf ）を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	道路周辺映像サービスの問題点
	事後学習	米国とヨーロッパの個人情報の保護の考え方の違いを理解し、説明できるようにまとめる。（2時間）
3	事前学習	最高裁平成29年1月31日判決、欧州裁判所2014年5月13日判決、日本法学82巻1号「個人情報保護の為の検索結果に対する削除権」（ https://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/doc/law82_1.pdf ）を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	忘れられる権利（削除権）
	事後学習	我が国とEUの個人情報の保護の相違を理解し、検索エンジンの規制の是非を説明できるようまとめる。（2時間）
4	事前学習	詐欺罪（刑法246条、246条の2）の成立要件と、不正アクセス禁止法7条を確認しておくこと。テキスト第9章「インターネットと刑法」部分を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	コンピュータ、インターネットと詐欺
	事後学習	それぞれの詐欺について理解し、その違いを整理し正しく説明できるようにまとめる。（2時間）

5	事前学習	賭博罪(刑法185条)、富くじ発売等(刑法186条)の成立要件を確認する。最高裁判決昭52年12月22日を確認する。参考書「情報ネットワークの法実務12章9(国境を超える犯罪に対する刑法の適用)部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	国境のないインターネットと犯罪の成否
	事後学習	各国の固有法の適用と、グローバルスタンダードという観点から犯罪の成否を説明できるようまとめる。(2時間)
6	事前学習	ネットワークで制御されている社会インフラにはどのようなものがあるか確認する。法学部学内LAN→学生教員共有→ま→水野正→サイバー法→教材提供→サイバーテロ にある資料を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	サイバーテロ
	事後学習	テロの定義を正しく理解すること。社会インフラに対する攻撃のリスクを説明できようまとめる。(2時間)
7	事前学習	検索エンジン利用の際にブロッキングはなされているのかを調べてみる。法学部学内LAN→学生教員共有→ま→水野正→サイバー法→教材配布→検索エンジンサイトの自主規制 にある資料を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	検索エンジンサイト、プロバイダー、SNSの自主規制
	事後学習	検索エンジンのブロッキングと公益性、言論の自由、知る権利との関係を理解し、規制の是非を説明できるようまとめる。(2時間)
8	事前学習	デジタル万引きが何罪に当たるのか考えてみる。法学部学内LAN→学生教員共有→ま→水野正→サイバー法→教材配布→デジタル万引き にある資料を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	デジタル万引き
	事後学習	法律の解釈方法についてよく理解し、法条の適用を論理的に説明できるようまとめる。(2時間)
9	事前学習	いわゆるダフ屋行為とはどのようなものか理解しておくこと。不正転売規制法について検索し、その趣旨を理解しておく。(2時間)
	授業内容	ウェブサイトでの各種チケット、現金の販売の問題点
	事後学習	コンサートチケットの転売の有効な対策はあるのか、主催者側、消費者側の立場から説明できるようまとめる。(2時間)
10	事前学習	公共の場所でのスマホ利用の是非を考えてみる。刑法61条、62条、未必の故意、概括的故意について刑法のテキストを読んでおく。(2時間)
	授業内容	いわゆるポケモンGOに関わる事件の法的な検証
	事後学習	法の解釈、適用の範囲を考え、(例えば、教唆、幫助)各法条が適用できるのか説明できるようにまとめる(2時間)。
11	事前学習	いまだにスパムメールが配信されたり、ワン切りがかかってくる理由を考えてみる。参考書「情報ネットワークの法実務8章20(スパムメールの法律問題)、8章23(いわゆるワン切り対策…) 部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	スパムメールとワン切り
	事後学習	スパムメールやワン切りの新たな利用方法とその規制の成否を理解し、新たな視点での説明ができるようまとめる。(2時間)
12	事前学習	杉並区防犯カメラの設置及び利用に関する条例を確認しておく。ネットに投稿される防犯カメラ映像と設置場所の関係を把握しておく。参考書「情報ネットワークの法実務7章16(防犯カメラの法規制)部分を読んでおく。(2時間)
	授業内容	防犯カメラの法規制
	事後学習	個人による防犯カメラの設置と撮影可能範囲の境界線を理解し、説明できるようにまとめる。(2時間)
13	事前学習	情報の一局集中のメリット、デメリットを考える。テキスト11章「インターネット上の個人情報の保護」部分を読んでおく。(2時間)
	授業内容	ビックデータの利用と保護の問題点
	事後学習	経済発展を優先するのか、ブラバシーを優先するのか、そのバランスは可能なのかを考えてみる。(2時間)
14	事前学習	情報タグや情報機器からプライバシーが侵害される場合を考えてみる。法学部学内LAN→学生教員共有→ま→水野正→サイバー法→教材配布→情報タグ の資料を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	情報タグの利用とプライバシーの保護
	事後学習	配布した情報タグの目的外の使用により、プライバシーの侵害は生ずるのか考えてみる。(2時間)
15	事前学習	今学期のレポート課題について口頭で説明できるようにまとめる。(2時間)
	授業内容	今学期のレポート課題について解説する。
	事後学習	作成、提出したレポートが適切なものであったかを考え、不十分であった部分を補足するよう復習する。(2時間)

科目名	財務管理論	担当者	森 久	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	財務管理とは資金の調達と運用を総称した用語である。また、ほとんどの会社の形態は株式会社である。そこで初めに、株式会社の概要やあり方について学習する。次に、株式発行による資金調達にかかわる諸問題を学ぶ。資金の調達は他に銀行借入、社債発行、自己金融によっても行われるので、それらを順次取り上げる。資金の運用については、利益計画、運転資本・設備資本、企業評価、キャッシュフローなどについて学習する。				
授業目的・到達目標	財務管理に関する基礎的知識を修得することにより、民間企業の経営のあり方について問題を発見し解決策を提案しうる能力の育成、並びにより良い社会・共同体の創造に挑戦しうる能力の育成を目的とする。そこで、公共政策の視点からは、民間企業の経営のあり方について、特徴や問題点を把握・抽出し列挙できるようになることを目標とする。また将来、ビジネスに従事したときには、経営と法の視点から財務管理に関する業務を理解し解決しうるようになることを目標とする。関連D P及びC P：経営法学科1, 3, 4, 5 公共政策学科1, 3, 4, 5				
履修条件	関連科目であるので経営分析論の履修を推奨する。また、簿記の知識は必須ではないが、学習したことがあれば理解がさらに容易になる。				
授業方法	教科書を参照しつつ、特定のテーマについて講義する。随時、特定のテーマについての小レポートの提出を求める。採点した小レポとは次の授業で返却し、簡単に説明する。期末レポートのフィードバックは授業内で行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業参加度、小レポート、期末レポートにより判定する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2015	中央経済社		テキスト 財務管理論	坂本恒夫、鳥居陽介他
	備考				
参 考 書	森 久・関利恵子・徳山英邦・蔣飛鴻・長野史麻・平屋伸洋『財務分析からの会計学 第3版』森山書店				
オフィスアワー	木曜日 17:50～18:30（事前に授業講堂にて受け付ける）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書の「はじめに」を読み、教科書の内容と特徴とを把握する。（2時間）
	授業内容	財務管理の概念を明らかにしたうえで、授業のテーマや内容、授業の予定、授業方法、成績評価などについて説明し、履修者が授業の全般的な準備をできるようにする。
	事後学習	ノートや配付資料を確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書の第1章と第2章を読み、株式会社制度の概要を把握し、株主は有限責任であることを認識する。（2時間）
	授業内容	企業の各種の形態について説明し、株式会社が資金調達のうえで有利であることを明らかにする。また、株式会社の株主が有限責任であり、それが資金調達の視点からみて果たしている役割について考察する。
	事後学習	ノートと配付資料を確認して、企業形態と株式会社の有限責任制度について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書の第3章と第4章を読み、株式上場制度と株式保有のあり方について理解する。（2時間）
	授業内容	株式会社が規模の拡大にとって有利な仕組みであることを明らかにしたうえで、株式上場制度の概要と株主構成のあり方について説明する。
	事後学習	ノートと配付資料を確認して、資本集中と支配集中について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
4	事前学習	教科書の第5章と第6章を読み、株式の発行と種類株について理解する。（2時間）
	授業内容	株式会社が新株を発行して資金調達をする方法について説明する。また、株式にはいくつかの種類があるので、それらを解説する。
	事後学習	ノートと配付資料を確認して、増資の方法と種類株について自分なりの説明をまとめる。（2時間）

5	事前学習	教科書の第7章と第8章を読み、株主構成のあり方と配当政策について理解する。（2時間）
	授業内容	株主が法人化されている状況を明らかにしたうえで、株式会社が相互に株式を持ち合うこと、すなわち持ち合いのあり方について考察する。
	事後学習	ノートと配付資料を確認して、所有の法人化と株式持ち合いについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書の第9章と第10章を読み、自己金融の方法について理解する。（2時間）
	授業内容	自己金融の概念を明らかにしたうえで、利益留保による資金調達について説明する。また、自己金融の方策としての減価償却と長期引当金も取り上げる。
	事後学習	ノートと配付資料を確認して、利益留保、減価償却、長期引当金計上について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書の第11章と第12章を読み、自己金融の方法について理解する。（2時間）
	授業内容	社債の発行による資金調達の方法について解説する。また、社債の格付けについて説明したうえで、その資金調達上の意義を明らかにする。
	事後学習	ノートと配付資料を確認して、社債資本の調達、社債の格付けについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書の第14章と第15章を読み、銀行からの借り入れとその金利について理解する。（2時間）
	授業内容	銀行借入によって資金調達をする場合の諸形態について説明する。また、とくに証書借入の場合の金利の決定のあり方について解説する。
	事後学習	ノートと配付資料を確認して、銀行借入による資金調達と借入金利について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書の第18章と第19章を読み、経営計画と利益管理について理解する。（2時間）
	授業内容	中期経営計画、短期利益計画、予算編成のプロセスについて解説するとともに、そのプロセスのなかで財務をいかに考慮していくかについて説明する。
	事後学習	ノートと配付資料を確認して、利益計画の策定と財務について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書の第20章と第24章を読み、設備資本の管理と現在価値の計算について理解する。（2時間）
	授業内容	運転資本と設備資本の管理について説明する。設備資本管理については、割引現在価値を算出し投資案を評価することについて解説する。
	事後学習	ノートと配付資料を確認して、運転資本管理と設備資本管理について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書の第21章と第23章を読み、自社株と企業評価について理解する。（2時間）
	授業内容	自社株を取得することの財務的な意義を明らかにするとともに、資本利益率や株価収益率を取り上げ、企業評価のための各種の指標について解説する。
	事後学習	ノートと配付資料を確認して、自社株と企業評価指標について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書の第25章を読み、キャッシュフローについて理解する。（2時間）
	授業内容	キャッシュフロー計算書の概要およびその分析方法について解説したうえで、キャッシュフロー経営による資金の効率化について説明する。
	事後学習	ノートと配付資料を確認して、キャッシュフローと資金の効率化について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
13	事前学習	教科書の第29章と第30章を読み、M&A（合併と買収）について理解する。（2時間）
	授業内容	M&Aの動向、手法、形態・目的、敵対的買収、マネジメント・バイアウトなどを解説したうえで、M&A投資の特殊性について考察する。
	事後学習	ノートと配付資料を確認して、M&Aの手法と形態およびM&Aの財務について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
14	事前学習	教科書の第34章と第36章を読み、会社の財務的分析とコーポレートガバナンスについて理解する。（2時間）
	授業内容	財務比率を算出して財務諸表を分析する方法について解説する。また、コーポレートガバナンス（企業統治）のあり方について考察する。
	事後学習	ノートと配付資料を確認して、財務分析とコーポレートガバナンスについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
15	事前学習	第2回から第14回までの教科書該当賞を簡単に読み直し、財務管理の概要を把握する。（3時間）
	授業内容	第2回から第14回までの授業内容を確認し、財務管理の全体を概説する。
	事後学習	第2回から第14回までの教科書該当賞を簡単に読み直し、財務管理の全体をまとめる。（1時間）

科目名	財務諸表論Ⅰ	担当者	尾上 選哉	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	会計は、公認会計士、税理士、会社の経理担当者だけが理解すればよいものではなく、企業に関わるすべての人にとって必要不可欠な知識です。例えば、投資者はどの企業の株式を購入するかという意味決定を行う際に、会計の知識が役立ちます。また就職活動などにおいても、この会社の将来はどうか、財務データからある程度読み取ることができます。そこで本授業においては、企業の仕組みや会計の役割、会計に関わる基本的概念を理解します。			
授業目的・到達目標	企業における会計いわゆる「企業会計」をテーマとして、企業の作成する財務諸表（損益計算書および貸借対照表等）の背後にある会計制度の習得を目的とします。 受講生が、財務諸表に記載される内容を理解し、そのように記載される根拠を説明できるようになることを到達目標とします。 関連DPおよびCP：経営法学科 1、2、3、4、5			
履修条件	簿記原理を履修し、簿記の基礎を習得していることが望ましいです。			
授業方法	指定したテキストに沿って授業を進め、必要に応じて資料を配布します。スライド（パワーポイント）を使用して講義を行います。レポート課題は授業内で講評を行います。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		60%	授業内容の理解度を確認するために実施します。
	平常評価		40%	授業内に指示したレポート課題を評価します。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014	新世社	財務会計	齋藤真哉他
	備考			
参考書	中央経済社『新版 会計法規集』ないしは税務経理協会『会計諸則集』（いずれも最新版）。 森田哲彌・宮本匡章編著『会计学辞典（第5版）』中央経済社。			
オフィスアワー	木曜日授業終了後および電子メールにより対応します。 eliya.onoe★mail.o-hara.ac.jp（★を@に置き換えてください。）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通すとともに、教科書第１章から第７章までの各章の冒頭にある導入説明を読み、前期の講義全体を概観する（２時間）。
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて財務諸表論の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する（２時間）。
2	事前学習	教科書・第１章「財務会計の意義」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（２時間）。
	授業内容	【第１章 財務会計の意義】 （１）財務会計の意義と対象領域、（２）財務会計の機能と目的、（３）会計情報伝達の道具としての財務諸表について考察し、解説する。
	事後学習	講義ノートを確認して、第１章末の練習問題について、自分なりの説明をまとめる（２時間）。
3	事前学習	教科書・第２章「財務会計の基礎」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（２時間）。
	授業内容	【第２章 財務会計の基礎】 （１）財務会計の前提（会計基準）、（２）会計主体について考察し、解説する。
	事後学習	講義ノートを確認して、第２章末の練習問題について、自分なりの説明をまとめる（２時間）。
4	事前学習	教科書・第３章「複式簿記と財務諸表の構成要素」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（２時間）。
	授業内容	【第３章 複式簿記と財務諸表の構成要素（１）】 複式簿記の全体像について考察し、解説する。
	事後学習	講義ノートを確認して、第３章末の練習問題（１）について、自分なりの説明をまとめる（２時間）。

5	事前学習	教科書・第3章「複式簿記と財務諸表の構成要素」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（2時間）。
	授業内容	【第3章 複式簿記と財務諸表の構成要素（2）】 前回の複式簿記の全体像について確認した上で、財務諸表の構成要素について考察し、解説する。
	事後学習	講義ノートを確認して、第3章末の練習問題（2）および（3）について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
6	事前学習	教科書・第4章「損益計算と資産負債の関係」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（2時間）。
	授業内容	【第4章 損益計算と資産負債の関係（1）】 （1）財務会計におけるキャッシュフロー制約、（2）収益費用アプローチと資産負債アプローチについて考察し、解説する。
	事後学習	講義ノートを確認して、第4章末の練習問題（1）および（2）について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
7	事前学習	教科書・第4章「損益計算と資産負債の関係」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（2時間）。
	授業内容	【第4章 損益計算と資産負債の関係（2）】 前回の収益費用アプローチと資産負債アプローチについて確認した上で、（1）収益の費用の計算基準、（2）資産と負債の計算基準について考察し、解説する。
	事後学習	講義ノートを確認して、第4章末の練習問題（3）について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
8	事前学習	教科書・第5章「会計制度」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（2時間）。
	授業内容	【第5章 会計制度（1）】 （1）会計制度を規制する主な法律、（2）会計制度の概要、（3）会社法会計について考察し、解説する。
	事後学習	講義ノートを確認して、第5章末の練習問題（1）、（2）および（3）について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
9	事前学習	教科書・第5章「会計制度」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（2時間）。
	授業内容	【第5章 会計制度（2）】 （1）金融商品取引法会計について考察し、解説する。
	事後学習	講義ノートを確認して、第5章末の練習問題（4）について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
10	事前学習	教科書・第5章「会計制度」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（2時間）。
	授業内容	【第5章 会計制度（3）】 （1）税務会計について考察し、解説する。
	事後学習	講義ノートを確認して、第5章末の練習問題（5）について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
11	事前学習	教科書・第6章「財務諸表」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（2時間）。
	授業内容	【第6章 財務諸表（1）】 （1）財務諸表、（2）貸借対照表、（3）損益計算書および包括利益計算書について考察し、解説する。
	事後学習	講義ノートを確認して、第6章末の練習問題（1）～（4）について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
12	事前学習	教科書・第5章「会計制度」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（2時間）。
	授業内容	【第6章 財務諸表（2）】 （1）株主資本等変動計算書、（2）キャッシュ・フロー計算書について考察し、解説する。
	事後学習	講義ノートを確認して、第6章末の練習問題（5）～（9）について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
13	事前学習	教科書・第7章「会計基準」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（2時間）。
	授業内容	【第7章 会計基準（1）】 （1）企業会計原則について考察し、解説する。
	事後学習	講義ノートを確認して、第7章末の練習問題（1）および（2）について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
14	事前学習	教科書・第7章「会計基準」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（2時間）。
	授業内容	【第7章 会計基準（2）】 （1）日本版「概念フレームワーク」、（2）会計基準の適用対象について考察し、解説する。
	事後学習	講義ノートを確認して、第7章末の練習問題（3）～（5）について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
15	事前学習	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、今期に学習した財務会計の基礎を確認する（2時間）。
	授業内容	講義のまとめ
	事後学習	初回からの教科書の各章と授業ノートを見直し、定期試験に向けて準備をする（2時間）。

科目名	財務諸表論Ⅱ	担当者	尾上 選哉	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	会計は、公認会計士、税理士、会社の経理担当者だけが理解すればよいものではなく、企業に関わるすべての人にとって必要不可欠な知識です。例えば、投資者はどの企業の株式を購入するかという意味決定を行う際に、会計の知識が役立ちます。また就職活動などにおいても、この会社の将来はどうか、財務データからある程度読み取ることができます。そこで本授業においては、企業の仕組みや会計の役割、会計に関わる基本的概念を理解します。			
授業目的・到達目標	企業における会計いわゆる「企業会計」をテーマとして、企業の作成する財務諸表（損益計算書および貸借対照表等）の背後にある会計制度の習得を目的とします。 受講生が、財務諸表に記載される内容を理解し、そのように記載される根拠を説明できるようになることを到達目標とします。 関連DPおよびCP：経営法学科 1、2、3、4、5			
履修条件	簿記原理を履修し、簿記の基礎を習得していることが望ましいです。			
授業方法	指定したテキストに沿って授業を進め、必要に応じて資料を配布します。スライド（パワーポイント）を使用して講義を行います。レポート課題は授業内で講評を行います。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		60%	授業内容の理解度を確認するために実施します。
	平常評価		40%	授業内に指示したレポート課題を評価します。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014	新世社	財務会計	齋藤真哉他
	備考			
参考書	中央経済社『新版 会計法規集』ないしは税務経理協会『会計諸則集』（いずれも最新版）。 森田哲彌・宮本匡章編著『会计学辞典（第5版）』中央経済社。			
オフィスアワー	木曜日授業終了後および電子メールにより対応します。 eliya.onoe★mail.o-hara.ac.jp（★を@に置き換えてください。）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	学習予定の教科書第8章以降の各章の冒頭にある導入説明を読み、後期の講義全体を概観する（2時間）。
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて財務諸表論の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する(2時間)。
2	事前学習	教科書・第8章「金融商品に関わる取引」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べしておく（2時間）。
	授業内容	【第8章 金融商品に関わる取引（1）】 （1）金融資産・金融負債の意義と内容、（2）債権・債務について考察し、解説する。
	事後学習	講義を振り返り、自分の講義ノートをまとめ、第8章末の練習問題（1）について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
3	事前学習	教科書・第8章「金融商品に関わる取引」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べしておく（2時間）。
	授業内容	【第8章 金融商品に関わる取引（2）】 （1）有価証券について考察し、解説する。
	事後学習	講義を振り返り、自分の講義ノートをまとめ、第8章末の練習問題（2）～（4）について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
4	事前学習	教科書・第8章「金融商品に関わる取引」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べしておく（2時間）。
	授業内容	【第8章 金融商品に関わる取引（3）】 （1）デリバティブ（金融派生商品）、（2）ヘッジ取引について考察し、解説する。
	事後学習	17回から第19回の講義を振り返り、自分の講義ノートをまとめ、金融商品に関わる取引における会計処理について、自分なりに説明ができるようにする（2時間）。

5	事前学習	教科書・第9章「棚卸資産に関わる取引」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（2時間）。
	授業内容	【第9章 棚卸資産に関わる取引】 （1）棚卸資産の意義と範囲、（2）棚卸資産の取得原価、（3）棚卸資産の費用化、（4）棚卸資産の評価について考察し、解説する。
	事後学習	講義を振り返り、自分の講義ノートをまとめ、第9章末の練習問題（1）および（2）について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
6	事前学習	教科書・第10章「有形固定資産に関わる取引」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（2時間）。
	授業内容	【第10章 有形固定資産に関わる取引（1）】 （1）有形固定資産の内容と意義、（2）有形固定資産の取得原価、（3）有形固定資産の減価償却について考察し、解説する。
	事後学習	講義を振り返り、自分の講義ノートをまとめ、第10章末の練習問題（1）および（2）について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
7	事前学習	教科書・第10章「有形固定資産に関わる取引」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（2時間）。
	授業内容	【第10章 有形固定資産に関わる取引（2）】 （1）リース取引について考察し、解説する。
	事後学習	講義を振り返り、自分の講義ノートをまとめ、リース取引に関わる会計処理の経緯について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
8	事前学習	教科書・第10章「有形固定資産に関わる取引」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（2時間）。
	授業内容	【第10章 有形固定資産に関わる取引（3）】 （1）固定資産の減損、（2）資産除去債務について考察し、解説する。
	事後学習	講義を振り返り、自分の講義ノートをまとめ、第10章末の練習問題（3）について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
9	事前学習	教科書・第11章「無形固定資産に関わる取引」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（2時間）。
	授業内容	【第11章 無形固定資産に関わる取引】 （1）無形固定資産の意義と内容、（2）各種無形固定資産、（3）研究開発費などの会計処理について考察し、解説する。
	事後学習	講義を振り返り、自分の講義ノートをまとめ、第11章末の練習問題（1）～（3）について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
10	事前学習	教科書・第12章「引当金等に関わる取引」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（2時間）。
	授業内容	【第12章 引当金等に関わる取引】 （1）引当金の意義と分類、（2）退職給付に係る負債について考察し、解説する。
	事後学習	講義を振り返り、自分の講義ノートをまとめ、第12章末の練習問題（1）について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
11	事前学習	教科書・第13章「法人税等に関わる取引」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（2時間）。
	授業内容	【第13章 法人税等に関わる取引（1）】 （1）法人税等の意義と会計処理、（2）税効果会計の目的と手続き、（3）一時差異等について考察し、解説する。
	事後学習	講義を振り返り、自分の講義ノートをまとめ、法人税等の3つの会計処理について、その差異を自分なりに説明できるようにする（2時間）。
12	事前学習	教科書・第13章「法人税等に関わる取引」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（2時間）。
	授業内容	【第13章 法人税等に関わる取引（2）】 （1）資産負債法と繰延法、（2）税効果額の記録と財務諸表上の表示、（3）繰延税金資産の回収可能性と繰延税金負債の支払可能性について考察し、解説する。
	事後学習	講義を振り返り、自分の講義ノートをまとめ、第13章末の練習問題（1）および（2）について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
13	事前学習	教科書・第14章「純資産に関わる取引」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（2時間）。
	授業内容	【第14章 純資産に関わる取引（1）】 （1）純資産の意義と内容、（2）株主資本、（3）自己株式について考察し、解説する。
	事後学習	講義を振り返り、自分の講義ノートをまとめ、第14章末の練習問題（1）および（2）について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
14	事前学習	教科書・第14章「純資産に関わる取引」を読み、キーワードについて参考文献やインターネットなどを通じて調べておく（2時間）。
	授業内容	【第14章 純資産に関わる取引（2）】 （1）新株予約権、（2）評価・換算差額等について考察し、解説する。
	事後学習	講義を振り返り、自分の講義ノートをまとめ、第14章末の練習問題（3）および（4）について、自分なりの説明をまとめる（2時間）。
15	事前学習	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、財務諸表論の内容について考察する（2時間）。
	授業内容	講義のまとめ
	事後学習	初回からの教科書の各章と授業ノートを見直し、定期試験に向けて準備をする（2時間）。

科目名	産学連携と知的財産 I	担当者	金澤 良弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	産学連携は、大学及び企業双方のポテンシャルを高めることにつながることから近年活発に行われており、また、イノベーション創出の有力な手段であることから政策的に積極的に推進されている。本授業は、行政官として産学連携の推進に当たった経験及び大学の立場から産学連携の実務に携わった経験を持つ教員が、産学連携に関する基本的な概念、知的財産の役割、産学連携に関する政策制度等を講義する。				
授業目的・到達目標	イノベーションの創出を目指した産学連携活動を推進する上での問題点や課題を発見し、解決策を考える力を醸成することを目的とする。産学連携はそれ自体が目的ではなく、何らかの目的を達成するための手段と位置付けられる。産学連携により産と学が有する、異なる「強み」を組み合わせ、産・学単独では実現しない相乗効果が期待できる一方、異なるドメインに属する組織であるため、連携に伴い様々なコンフリクトが生ずることも懸念される。本授業では産学連携の現状、問題点、課題等を理解し、説明できるとともに、効果的な産学連携の推進方策を考える視座を獲得することを到達目標とする。関連DP及びCP：経営法学科1、2、4、5				
履修条件	研究の推進や技術移転などの実務に関心を持つ学生の受講を希望する。				
授業方法	毎回配布するプリントに基づき講義を進める。また、レポートの提出を複数回求める。提出されたレポートは、内容をとりまとめ、その後の授業において講評・解説する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加・貢献度（出席率2/3未満の者は採点しない）及びレポートの内容を総合して評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	必要な場合には授業中に指示する。				
オフィスアワー	水曜日15：00～16：00（授業講堂にて受付ける）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業の概要、授業目的・到達目標、授業の進め方等を理解する。（2時間）
	授業内容	【イントロダクション】 本授業の概要、目的・到達目標、履修条件、授業方法、成績評価の方法等について説明する。また、産学連携の例を紹介し、本授業における産学連携についての共通認識を醸成する。
	事後学習	配布したプリントを再読し、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	「産学連携とは何か」について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【産学連携とは何か】 産学連携に関する概念整理、産学連携による活動内容、産学連携の目的等産学連携に関する基本的な事項について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、産学連携とは何かについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	性格の異なる企業と大学が協力して事業を行うときに留意すべき点について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【産学連携に参加するプレーヤー】 産学連携の主体は企業と大学であるが、産学連携の場には大学と企業以外の様々な立場のプレーヤーが関与する場合が多い。今回はその状況及び各プレーヤーの役割について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、産学連携には企業と大学以外のプレーヤーが関与する理由について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
4	事前学習	企業、大学及び政府が産学（官）連携に取り組む理由について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【産学連携の意義】 企業はなぜ大学と連携する必要があるのか、大学はなぜ企業と連携しようとするのか、政府（官）はなぜ産学連携を推進するのか。産・学・官それぞれが産学連携に取り組む意義について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、企業、大学及び政府が産学連携に取り組む意義について自分なりの説明をまとめる。（2時間）

5	事前学習	産学連携を推進ために、どのような政策制度が有効かについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【産学連携に関する政策制度】 産学連携を政策的に推進するために講じられた政策制度について、それらの目的、制度の概要、実施状況等について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、日本の産学連携に関して講じられてきた政策制度の概要について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
6	事前学習	産学連携の事例を分析する際に、どのような点に注目すべきであるかについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【産学連携の事例1】 様々な産学連携の成功事例について、その経緯、得られた成果、成功の要因等について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、それぞれの事例の成功要因について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
7	事前学習	産学連携が成功したと考えられる事例を自分でも探してみよう。（2時間）
	授業内容	【産学連携の事例2】 様々な産学連携の成功事例について、その経緯、得られた成果、成功の要因等について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、それぞれの事例の成功要因について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
8	事前学習	自分で見出した産学連携の成功事例について、成功につながった要因を考える。（2時間）
	授業内容	【産学連携の事例3】 様々な産学連携の成功事例について、その経緯、得られた成果、成功の要因等について学ぶ。
	事後学習	紹介した事例に共通する産学連携の成功要因について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
9	事前学習	秘密保持契約を締結する際に合意しておくべき項目について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【産学連携と知的財産1 産学連携における知的財産の役割】 産学連携の成果は産と学が関与する知的財産の創出及び移転であることが大部分であり、知的財産権の取得、営業秘密としての保護、移転に関する契約等知的財産の取扱は産学連携における極めて重要な課題であることを学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、秘密保持契約を締結する際の合意しておくべき項目について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
10	事前学習	共同研究を締結する際に同意しておくべき項目について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【産学連携と知的財産2 共同研究契約】 共同研究契約を例として、契約における知的財産に関する留意点について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、共同研究を締結する際に同意しておくべき項目について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
11	事前学習	ライセンス契約を締結する際に合意しておくべき項目について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【産学連携と知的財産3 ライセンス契約】 ライセンス契約を例として、契約における知的財産に関する留意点について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、ライセンス契約を締結する際に合意しておくべき項目について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
12	事前学習	産学連携がどのようにしてイノベーション創出に寄与するのかについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【イノベーション政策における産学連携】 日本の科学技術イノベーション政策において、産学連携が推進方策の柱と位置付けられ、多彩な政策が推進されている状況について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、産学連携がどのようにしてイノベーション創出に寄与するのかについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
13	事前学習	産学連携がどのようにして地域活性化に貢献するのかについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【地域振興政策における産学連携】 ICTの発展、経済のグローバル化を背景として、国境を越えた地域間競争に打ち勝つ方策として産学連携が重視されている状況について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、産学連携がどのようにして地域活性化に貢献するのかについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
14	事前学習	いわゆるオーバードクター問題が発生している原因について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【人材育成政策における産学連携】 人材育成とりわけ高度理系人材の育成に当たり産学が連携して取り組む必要があるとの立場から様々な施策が推進されている状況について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、いわゆるオーバードクター問題が発生している原について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
15	事前学習	初回からの配布プリントを再読し、産学連携の意義とその推進方策について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【授業のまとめ】 授業を総括する。
	事後学習	産学連携の意義とその推進方策について自分の考えをまとめる。（2時間）

科目名	産学連携と知的財産Ⅱ	担当者	金澤 良弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	産学連携は、大学及び企業双方のポテンシャルを高めることにつながることから近年活発に行われており、また、イノベーション創出の有力な手段であることから政策的に積極的に推進されている。本授業は、行政官として産学連携の推進に当たった経験及び大学の立場から産学連携の実務に携わった経験を持つ教員が、産学連携と知的財産Ⅰに引き続き、産学連携の現況、産学連携に伴う実務上の課題と対応策等について講義する。				
授業目的・到達目標	イノベーションの創出を目指した産学連携活動を推進する上での問題点や課題を発見し、解決策を考える力を醸成することを目的とする。産学連携はそれ自体が目的ではなく、何らかの目的を達成するための手段と位置付けられる。産学連携により産と学が有する、異なる「強み」を組み合わせ、産・学単独では実現しない相乗効果が期待できる一方、異なるドメインに属する組織であるため、連携に伴い様々なコンフリクトが生ずることも懸念される。本授業では産学連携の現状、問題点、課題等を理解し、説明できるとともに、効果的な産学連携の推進方策を考える視座を獲得することを到達目標とする。関連DP及びCP：経営法学科1、2、4、5				
履修条件	産学連携と知的財産Ⅰを履修していることが望ましい。 研究の推進や技術移転などの実務に関心を持つ学生の受講を希望する。				
授業方法	毎回配布するプリントに基づき講義を進める。また、レポートの提出を複数回求める。提出されたレポートについては、内容をとりまとめ、その後の授業において講評・解説する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業参加・貢献度（出席率2/3未満の者は採点しない）及びレポートの内容を総合して評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	必要な場合には授業中に指示する。				
オフィスアワー	水曜日15：00～16：00（授業講堂にて受付ける）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業の概要、授業目的・到達目標、授業の進め方等を理解する。（2時間）
	授業内容	【イントロダクション】 本授業の概要、目的・到達目標、履修条件、授業方法、成績評価の方法等について説明する。また、産学連携の現況を学ぶ上で必要な産学連携に関する統計資料について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	大学が産学連携に取り組む上での問題点・課題について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【大学における産学連携活動の現況】 大学における産学連携活動の状況、問題点と課題、対応策等について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、産学連携を推進に向けた大学の取組について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	企業が産学連携を行う理由について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【企業における研究開発と産学連携】 企業における産学連携活動の現況、問題点、課題等について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、企業における産学連携の状況について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
4	事前学習	公的研究機関が産・学との連携を促進しようとする際に課題となる点について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【公的研究機関における産学との連携】 公的研究機関における産学との連携の現況、問題点、課題等について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、公的研究機関の産学との連携方策について自分なりの説明をまとめる。（2時間）

5	事前学習	最近元氣な大学発ベンチャーを見つけ、その事業の概要を調べてみよう。（2時間）
	授業内容	【大学発ベンチャーの現況】 日本における大学発ベンチャーの設立状況、問題点、課題等について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、大学発ベンチャーの現状及び課題について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
6	事前学習	産学連携に伴い、大学内部で起こることが懸念されるコンフリクト（衝突）について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【産学連携に伴うリスクマネジメント1 利益相反マネジメント等】 大学が産学連携に取り組むことは、大学がこれまで行っていた教育・研究とは異質な企業活動を大学内に取り込むことに他ならず、様々なリスクマネジメントへの対応が必要となる。今回は利益相反を中心に大学内で生じることが懸念されるリスクへの対応について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、利益相反マネジメントについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
7	事前学習	産学連携に伴い、企業と大学の間で起こることが懸念されるコンフリクトについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【産学連携に伴うリスクマネジメント2 不実施補償等】 今回は産学間においてコンフリクトが生じることが懸念される不実施補償を中心に産学間のリスクへの対応について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、不実施補償について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
8	事前学習	安全保障貿易管理について基本的な事項を事前学習しよう。（2時間）
	授業内容	【産学連携に伴うリスクマネジメント3 安全保障貿易管理等】 大学は外部との人と情報の交流が活発であり、企業とともに安全保障上のリスク管理が求められている。今回は大学における安全保障貿易管理に関する最近の対応について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、安全保障貿易管理の概要及びそれへの大学の対応策について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
9	事前学習	企業と大学の共同研究を実施する際に留意すべき点について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【産学連携の推進に向けた取組1 共同研究の活性化】 産と学との情報交換を活発に行うことにより共同研究を推進するための取組について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、企業と大学の共同研究を促進するための留意点及びそれに対応するための取組について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
10	事前学習	中小企業と大学との連携を促進する上で課題となる点について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【産学連携の推進に向けた取組2 中小企業との連携】 中小企業と大学が共同研究や技術移転を行う際の課題及びその課題を克服するために講じられている取組について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、中小企業と大学との連携を促進するための方策について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
11	事前学習	知財を集約し群として管理することのメリット・デメリットについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【産学連携の推進に向けた取組3 知財の群管理】 技術移転を促進するための取組の一つである知財の群管理について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、知財の群管理の意義及びその促進に向けた取組について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
12	事前学習	基礎的な研究成果が秘めている経済的・社会的価値を明らかにするための方法について考をまとめる。（2時間）
	授業内容	【産学連携の推進に向けた取組4 ギャップファンド】 技術移転を推進するための取組の一つであるギャップファンドについて学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、基礎的な研究成果が秘めている経済的・社会的価値を明らかにするための取組について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
13	事前学習	研究者の組織間の流動性を阻害している要因について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【産学連携の推進に向けた取組5 クロスアポイントメント制度】 産・学・官の間の研究者交流を活発にするための取組の一つであるクロスアポイントメント制度について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、クロスアポイント制度の意義とその促進に向けた課題について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
14	事前学習	コーディネータ（CDR）及びリサーチアドミニストレータ（URA）に求められる役割及びスキルについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【産学連携を支える人材】 産学連携を支えるCDR及びURAの現況、課題、対応策等について学ぶ。
	事後学習	配布されたプリントを再読し、CDR及びURAに求められる役割及びスキルについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）
15	事前学習	配布プリントを再読し、産学連携の意義とその促進策について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【授業のまとめ】 授業を総括する。
	事後学習	産学連携の意義とその促進策について自分なりの説明をまとめる。（2時間）

科目名	産業技術と知財A(情報通信) I	担当者	菅野 政孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本電信電話公社（現NTT）及びNTTデータにおける、I C T（情報通信技術）の研究・開発業務の経験を踏まえ、I C Tの全体像やI C Tの中心となるコンピュータのハードウェア、ソフトウェアについて概略を述べ、コンピュータを用いたサービスやアプリケーション、ビジネス等を概説する。				
授業目的・到達目標	世の中には情報通信機器やデジタル家電など情報・通信技術（I C T）を利用した装置やシステムが溢れている。これらの仕組みを知ることにより更に効果的かつ効率的に装置やシステムを利用できる力を養成することを目的とする。本講義では知識の修得のみでなく、世の中の発展に寄与する技術は何かといったことを考察する力も身につける。マスコミやネット等で取り上げられるI C Tの話題の内容が理解でき、またその技術が取り上げられている趣旨についても履修生が説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：経営法学科3，4，5				
履修条件	I C T（情報技術）や情報通信に興味があること [予備知識は不要]				
授業方法	プレゼンテーション図面（プロジェクタ投影）や配布資料による授業と質疑応答，レポートによる履修生からの質問への回答。最後の回で，期末レポートの解答に対する講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業内で活発に質問したり，意見を発表したりするかどうか（5%）を重視する。また，授業レポート（5%）や期末レポートの内容（40%），および授業への参加度（50%）によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特に使用せず，必要に応じ資料を配布			
参 考 書	その都度紹介				
オフィスアワー	時間帯：水曜日15：00～16：00 場所：研究室（9号館3階 9309号） 内容：学業、就職活動支援、その他諸事可 記事：メールでの相談可（sugano.masataka@nihon-u.ac.jp）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	IT(Information Technology)やICT(Information Communication Technology)といった用語の意味をWeb等で調べる．（3時間）
	授業内容	1 はじめに ・ I C T，情報通信とは何か
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習 （1時間）
2	事前学習	「情報」という言葉から自分自身が思い浮かべる内容を整理する．また，自分が利用しているP Cやスマートフォンの中にはどのような情報が入っているか抜き出してみる．（2時間）
	授業内容	2 情報 ・ 情報とは何か？
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習 （2時間）
3	事前学習	アナログとデジタルの相違を調べる．また，2進数とは何かを調べ，10進数の“1”から“10”までを2進数で表してみる．（1時間）
	授業内容	・ アナログ情報とデジタル情報 ・ 2進数，10進数，16進数 ・ 情報の表現
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習．特にアナログ情報とデジタル情報の相違については十分に理解する．（3時間）
4	事前学習	情報処理学会（国内最大の情報処理に関する学会）のホームページ「コンピュータ博物館（ http://museum.ipsj.or.jp/ ）」に目を通しておく．（3時間）
	授業内容	3 コンピュータの概要 ・ コンピュータの歴史 ・ コンピュータの種類
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習 （1時間）

5	事前学習	自分が使用しているコンピュータ（PCやタブレット，スマートフォン等）の装置の構成要素を洗い出し，リスト化する．（2時間）
	授業内容	4 コンピュータハードウェア ・コンピュータの動作の仕組み ・ハードウェアの構成
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（2時間）
6	事前学習	自分が使用しているPCやスマートフォンのOS（Operating System），アプリケーションの種別を確認し，列挙する．（1．5時間）
	授業内容	5 コンピュータソフトウェア ・ソフトウェアの構成
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習．（2．5時間）
7	事前学習	PCやスマートフォンで利用可能なアプリケーションにはどのようなものが有るか挙げてみる．（1．5時間）
	授業内容	・オペレーティングシステム（OS） ・アプリケーションプログラム
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習．特にOSの役割について十分に理解する．（2．5時間）
8	事前学習	PCやスマートフォン等で視聴する文書，音楽，画像，映像の情報形式を調べる．また，その容量を推測する．（2時間）
	授業内容	6 デジタルコンテンツ ・メディアとコンテンツ ・コンテンツの情報量とメディアの容量
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習．特にコンテンツ・メディアに容量（情報量）があること，およびその違いについて十分に理解する．（2時間）
9	事前学習	コンテンツにはどのような種類があるか調べる．また，コンテンツ産業の規模やコンテンツ産業に含まれる企業にはどのようなところがあるか調査する．（3時間）
	授業内容	・圧縮の仕組み ・コンテンツ産業
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（1時間）
10	事前学習	自分がPCやスマートフォンに保有している大量の情報（情報の種別には拘らない）の管理方法と問題点についてとりまとめる．（2時間）
	授業内容	7 データベース ・データベースの定義と分類 ・データベースの事例
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習．また，事前学習で抽出した問題点が授業において解決したかどうかを見直す．（不明点は次回の授業で質問すること）（2時間）
11	事前学習	サーバに格納されている同じ文書を複数のPCから編集できるようになっているとき，同時に複数の利用者がその文書を編集しようとする場合に気をつけなければならないことは何か．また，そのサーバが障害で故障する恐れがあることを考慮して準備しておく仕組みは何かについて考える．（2．5時間）
	授業内容	・データベースマネジメントシステム（DBMS）
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（1．5時間）
12	事前学習	スーパーマーケットやコンビニで商品を購入したときにレジで収集する情報にはどのようなものがあるか予測する．また，自分がよく利用するこれらの店舗（あるいはその企業全体）の1日の利用者数や販売物品の種類と数量，売り上げを考える．（2．5時間）
	授業内容	8 データウェアハウスとBI ・データウェアハウスの概要 ・BI（ビジネスインテリジェンス）の概要
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（1．5時間）
13	事前学習	店舗が顧客に物やサービスを売るためにどのような工夫をしていると思うか，とりわけ，ICTの機能を使うとすればどのような仕組みを取り入れれば良いかを考える．（1．5時間）
	授業内容	9 CRM(Customer Relationship Management) ・CRMの概要と用いられているICT
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習と，これまでの授業内容に関する感想と質問項目をレポートにまとめる．（次回の授業で提出）（2．5時間）
14	事前学習	「ユビキタス」という言葉の由来を事前に調べ，ユビキタスという言葉を使った様々な概念をピックアップして纏める．（2時間）
	授業内容	10 ユビキタス ・ユビキタスの概念 ・ユビキタスを実現する技術
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（2時間）
15	事前学習	今までの授業で学習した内容を復習する．（3時間）
	授業内容	今までの授業内容に関する質問項目への回答
	事後学習	回答したパワーポイント資料の復習(1時間)

科目名	産業技術と知財A(情報通信)Ⅱ	担当者	菅野 政孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本電信電話公社（現NTT）及びNTTデータにおける，ＩＣＴ（情報通信技術）の研究・開発業務の経験を踏まえ，情報通信の基礎に触れ，情報通信のサービス・アプリケーション・ビジネスを概説する．その後ＩＣＴ分野で知っておくべき法律や情報セキュリティについても概要を示す．			
授業目的・到達目標	世の中には情報通信機器やデジタル家電など情報・通信技術（ＩＣＴ）を利用した装置やシステムが溢れている．これらの仕組みを知ることにより更に効果的かつ効率的に装置やシステムを利用できる力を養成することを目的とする．本講義では知識の修得のみでなく，世の中の発展に寄与する技術は何かといったことを考察する力も身につける．マスコミやネット等で取り上げられるＩＣＴの話題の内容が理解でき，またその技術が取りあげられている趣旨についても履修生が説明できることを目標とする． 関連ＤＰ及びＣＰ：経営法学科３，４，５			
履修条件	ＩＣＴ（情報技術）や情報通信に興味があること〔予備知識は不要〕			
授業方法	プレゼンテーション図面（プロジェクタ投影）や配布資料による授業と質疑応答，レポートによる履修生からの質問への回答．最後の回で，期末レポートの解答に対する講評を行う．			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業内で活発に質問したり，意見を発表したりするかどうか（5%）を重視する．また，授業レポート（5%）や期末レポートの内容（40%），および授業への参加度（50%）によって評価する．
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特に使用せず，必要に応じ資料を配布		
参考書	その都度紹介			
オフィスアワー	時間帯：水曜日１５：００～１６：００ 場所：研究室（９号館３階 ９３０９号） 内容：学業、就職活動支援、その他諸事可 記事：メールでの相談可（sugano.masataka@nihon-u.ac.jp）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	「通信」という言葉から思い浮かべるサービスの種類，また通信を行う上で必要となる“要素”を抜き出してみる．（3時間）
	授業内容	11 情報通信の基礎 ・通信とは何か？ ・通信の歴史
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（1時間）
2	事前学習	アナログ情報とデジタル情報の違いについて前期3回目の授業内容を復習する．また，世の中で「ネットワーク」と呼ばれるものにはどのようなものがあるか列举する．（2時間）
	授業内容	・アナログ通信とデジタル通信 ・ネットワークとは
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（2時間）
3	事前学習	大学や企業などの組織の中で繋がっているネットワークはどのような仕組みであるか調べてみる．（2時間）
	授業内容	12 L A N (Local Area Network) ・L A N の概要 ・イーサネット (Ethernet)
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習．（2時間）
4	事前学習	無線L A N とよばれるものにはどのような種類があるか調査する．また，WiFiという言葉の由来を調べる．（2．5時間）
	授業内容	・無線L A N の仕組み
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（1．5時間）

5	事前学習	WANと呼ばれるものの代表的なサービスは電話であるが、電話で受話器を取ってプッシュボタンを押し、相手に繋がって話した後に受話器を置くまでにどのようなルートを通っているか想像してみる。（1時間）
	授業内容	13 WAN (Wide Area Network) ・WANの概要 ・WANの事例
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習。特に授業で習ったWANの事例以外の事例について調査する。（3時間）
6	事前学習	前回の授業で学んだ電話が繋がる仕組みを参考に、携帯電話やスマートフォンを使って相手と通話・メールをやり取りする場合の情報交換の仕組みについて考える。（1時間）
	授業内容	14 モバイル通信 ・モバイルの概要 ・携帯電話／スマートフォンの仕組み
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習。（3時間）
7	事前学習	「インターネット」とは何かについて考察する。とりわけ前回学習した「モバイル」との仕組みの違いについて考える。（2時間）
	授業内容	15 インターネット ・インターネットの歴史 ・インターネットの基礎
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（2時間）
8	事前学習	インターネットで提供されているサービスを思いつく限り列挙する。また、これらがサービス形態として類別化できるか検討する。（2. 5時間）
	授業内容	・インターネットのアプリケーション ・インターネットのアドレスの仕組み
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（1. 5時間）
9	事前学習	I C T分野でここ数年間にわたりマスコミで話題となった情報セキュリティの事件に関する記事を調査する。また、自分のP Cのセキュリティ対策についてとりまとめる。（3時間）
	授業内容	16 情報セキュリティ ・情報セキュリティの概要 ・セキュリティの脅威と対策
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（1時間）
10	事前学習	「暗号」という言葉から連想する内容について纏める。子供時代に友達同士で「暗号」を使って遊んだ経験がある履修生は、その時暗号に必要な要素は何であったかを思い出してまとめる。（2時間）
	授業内容	・暗号 ・情報及びシステム防御の技術
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（2時間）
11	事前学習	I C Tに関連する法律には何があるか列挙する。（3時間）
	授業内容	17 I C T分野における法律 ・I C Tに関連する法令等の概要 ・I C T全体に関わる法律 ・ネットワークと情報セキュリティに関わる法律
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（1時間）
12	事前学習	I C Tのビジネス種類と産業規模、及び代表的な企業について調査する。（2. 5時間）
	授業内容	18 I C Tのビジネス分野
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習と、これまでの授業内容に関する感想と質問項目をレポートにまとめる。（次回の授業で提出）（1. 5時間）
13	事前学習	I C Tに関わる知的財産と知的財産権にはどのようなものがあるか考える。（2時間）
	授業内容	19 I C Tと知財 ・I C Tにおける知財の役割
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（2時間）
14	事前学習	後期の授業の教材を復習する。（3時間）
	授業内容	後期の授業に関する質問への回答、及び全体とりまとめ
	事後学習	回答したパワーポイント資料の復習（1時間）
15	事前学習	I C Tの最新トピックや課題をネット等で調べる。（2時間）
	授業内容	20 I C Tの最新動向と課題 ・I C Tの最新動向 ・I C Tの課題と将来
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（2時間）

科目名	産業技術と知財B(機械・エネルギー) I	担当者	石塚 冬樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	近年、スーパー台風・豪雨・猛暑・干ばつ・巨大竜巻・記録的積雪など、地球温暖化の影響とみられる異常気象が世界的に頻発している。一方で化石燃料から再生可能エネルギーへのシフト、原発依存是非の議論、低炭素・脱炭素社会への移行などが進み、環境・エネルギー問題は現代社会の最重要課題の一つとなっている。本講義では環境・エネルギー問題の現状と課題、対応する最先端環境技術について学習し、日本そして世界の歩むべき方向性を考える。				
授業目的・到達目標	【授業目的】 知財人材として必要な環境・エネルギー分野の学力の習得を目的とする。 【到達目標】 環境・エネルギー分野の諸項目についての現状と見通し、国内外の最先端環境技術の開発動向や普及課題等について、企業活動や社会・経済・外交などの動きと関連付けて理解する。また環境・エネルギー分野の知的財産を取り扱うのに必要な技術的知識を習得し、関連情報（新聞・テレビ・ネット等）をその背景を含めて理解・分析する力、さらにそのテーマについて自ら情報発信する力を身に付けることを目標とする。 関連DP及びCP：経営法学科3, 4, 5				
履修条件	特になし。高校で理系科目（数学・物理・化学・生物）を履修していなくとも十分理解できるよう、「わかりやすさ」を重点に授業を行う。視覚教材（画像、ビデオ映像等）を多用することで理解を深める。				
授業方法	各回ともレジュメを配布するとともに、国内外の最新動向をビデオ映像資料により紹介する。時事的テーマを取り上げた「事例研究」（＝事件・事故の分析、下欄●印の項目）により、実践的な問題分析能力の育成を図る。 授業内レポートの講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業への参加度、授業内レポート（講義資料持ち込み可）によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参考書	必要に応じ紹介する。				
オフィスアワー	木曜日授業後に授業講堂で行う。 メールでの相談は随時受け付ける。いつでも遠慮なく連絡されたい。 メールアドレス：ishizuka.fuyuki11@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、本講義の全体像をつかむ。 「地球シミュレーター」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	1. 気候変動と人類の未来 (1) 地球シミュレーターが描く近未来の地球・・・下記の内容について学ぶ（以下、同様） スーパーコンピューターによる未来予測、大気と海洋の異変、日常化する異常気象、スーパー台風
	事後学習	気候変動や異常気象について、自分の実感や体験と照らしあわせる。（2時間）
2	事前学習	「熱帯雨林」、「永久凍土」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	(2) 生態系の異変と人類への影響 地球の肺アマゾンの危機、食料危機、熱帯病の北上、気候難民、溶解が進む永久凍土
	事後学習	生態系の異変について、現状と見通しをまとめる。（2時間）
3	事前学習	「北極」、「南極」の地理や気候について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	(3) 臨界点を迎える極地 極地氷の融解と海面上昇、氷床崩壊、近づく臨界点（ティッピングポイント、ポイントオブノーリターン）
	事後学習	「ティッピングポイント」、「ポイントオブノーリターン」とはどういう状況かまとめる。（2時間）
4	事前学習	「温室効果ガス」、「IPCC」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	(4) 温室効果ガス削減の国際的枠組み 温暖化のメカニズム、IPCC報告書、歴史的合意：パリ協定、米国トランプ政権の動き
	事後学習	「パリ協定」について、合意内容・問題点をまとめる。（2時間）

5	事前学習	「敵対的買収」、「アルセロールミタル」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	(5) 資源とエネルギー 資源高騰・暴落、資源争奪、買収の危機にさらされた新日鉄、レアメタル、シェールガス、メタンハイドレート
	事後学習	日本におけるメタンハイドレートについて、開発状況と課題をまとめる。（2時間）
6	事前学習	「固定価格買取制度」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	(6) 再生可能エネルギー（総論） 再生可能エネルギーと新エネルギー、普及の意義・状況・課題、固定価格買取制度、海外先進事例と日本の現状
	事後学習	「再生可能エネルギー」の普及の必要性和意義についてまとめる。（2時間）
7	事前学習	第1～6回の講義資料とノートを整理し、復習しておく。（2時間）
	授業内容	中間まとめ 第1回～6回の内容について授業内レポートを行う（講義資料および自ら作成したノートのみ持ち込み可）。 レポートは次回返却・解説する。
	事後学習	レポートの設問について復習する。（2時間）
8	事前学習	「原子力発電」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	2. 原子力エネルギーを考える (1) 原子力発電の仕組みと三大過酷事故 ●事例研究：スリーマイル島原発事故 東日本と西日本の異なるリスク、原発大国へ突き進む中国、日本の原子力産業の状況、安全性の高い次世代原子炉
	事後学習	原子力発電についての日本と世界の状況についてまとめる。（2時間）
9	事前学習	「チェルノブイリ原発事故」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	(2) 原子力史上最悪事故はこうして起こった ●事例研究：チェルノブイリ原発事故 軍事転用原発の危険な構造、ずさんな運転管理、果てしなく続く事故処理、悲惨な被曝労働者
	事後学習	「チェルノブイリ原発事故」の発生要因についてまとめる。（2時間）
10	事前学習	「福島第一原発事故」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	(3) 過酷事故発生が意味するもの ●事例研究：福島第一原発事故 事故の経緯と発生要因の分析、収束への遥かな道のり、首の皮1枚で助かった日本列島
	事後学習	「福島第一原発事故」の発生要因についてまとめる。（2時間）
11	事前学習	「核燃料サイクル」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	(4) 核燃料サイクル 世界を牛耳るロシアの思惑、イラン核疑惑、核施設への空爆、もんじゅ廃炉、「準」国産エネルギーへの陰しい道
	事後学習	原子力発電の今後について、自分の考えをまとめる。（2時間）
12	事前学習	「ロボットの軍事利用」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	3. 最先端技術のあり方 1 ●事例研究：ロボット技術の軍事利用（戦場に送り込まれるロボット軍団） ロボット代理戦争の現状、殺人ロボット、流出する日本の技術、グーグル・ソフトバンクの思惑
	事後学習	「ロボット」がもたらす人類への恩恵と脅威について、あなたの考えをまとめる。（2時間）
13	事前学習	「四大公害」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	4. 公害と産業事故 (1) 企業の社会的責任を考える ●事例研究：四大公害 終わらぬ被害者救済、企業論理に埋没した技術者の良心、後追いつける環境法整備
	事後学習	公害の発生に伴う日本の法規制整備についてまとめる。（2時間）
14	事前学習	第8～13回の講義資料とノートを整理し、復習しておく。（2時間）
	授業内容	まとめ 第8回～13回の内容について授業内レポートを行う（講義資料および自ら作成したノートのみ持ち込み可）。 レポートは次回返却・解説する。
	事後学習	授業内レポートの設問について復習する。（2時間）
15	事前学習	「ボパール化学工場事故」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	(2) 歴史的的重大事故はこうして起こった ●事例研究：化学工場三大事故 化学工場大爆発、ダイオキシン噴出、史上最大の企業犯罪：猛毒ガス漏洩
	事後学習	講義全体で学んだことをもとに、環境・エネルギー問題の方向性について自分の考えをまとめる。（2時間）

科目名	産業技術と知財B(機械・エネルギー)Ⅱ	担当者	石塚 冬樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	近年、スーパー台風・豪雨・猛暑・干ばつ・巨大竜巻・記録的積雪など、地球温暖化の影響とみられる異常気象が世界的に頻発している。一方で化石燃料から再生可能エネルギーへのシフト、原発依存是非の議論、低炭素・脱炭素社会への移行などが進み、環境・エネルギー問題は現代社会の最重要課題の一つとなっている。本講義では環境・エネルギー問題の現状と課題、対応する最先端環境技術について学習し、日本そして世界の歩むべき方向性を考える。				
授業目的・到達目標	【授業目的】知財人材として必要な環境・エネルギー分野の学力の習得を目的とする。 【到達目標】環境・エネルギー分野の諸項目についての現状と見通し、国内外の最先端環境技術の開発動向や普及課題等について、企業活動や社会・経済・外交などの動きと関連付けて理解する。また環境・エネルギー分野の知的財産を取り扱うのに必要な技術的知識を習得し、関連情報（新聞・テレビ・ネット等）をその背景を含めて理解・分析する力、さらにそのテーマについて自ら情報発信する力を身に付けることを目標とする。 関連DP及びCP：経営法学科3, 4, 5				
履修条件	特になし。高校で理系科目（数学・物理・化学・生物）を履修していなくとも十分理解できるよう、「わかりやすさ」を重点に授業を行う。視覚教材（画像、ビデオ映像等）を多用することで理解を深める。				
授業方法	各回ともレジュメを配布するとともに、国内外の最新動向をビデオ映像資料により紹介する。時事的テーマを取り上げた「事例研究」（＝事件・事故の分析、下欄●印の項目）により、実践的な問題分析能力の育成を図る。 授業内レポートの講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業への参加度、2回の授業内レポート（講義資料持ち込み可）によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参考書	必要に応じ紹介する。				
オフィスアワー	木曜日授業後に授業講堂で行う。 メールでの相談は随時受け付ける。いつでも遠慮なく連絡されたい。 オフィスメールアドレス：ishizuka.fuyuki11@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	「太陽光発電」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	1. 再生可能エネルギー（仕組み・現状・課題） (1)太陽エネルギー・・・下記項目について学ぶ（以下、同様） 太陽光発電・太陽熱発電・太陽熱利用、太陽光パブルの崩壊、特許に沈んだ大手メーカーの末路
	事後学習	日本の太陽光パネル大手メーカーの知財戦略における失敗についてまとめる。（2時間）
2	事前学習	「風力発電」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	(2)風力エネルギー 風力発電・洋上風力発電の仕組み、海外先進事例と日本の現状、特許出願状況からみる日本の未来
	事後学習	特許出願状況から導かれる日本における風力発電の状況についてまとめる。（2時間）
3	事前学習	「地熱発電」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	(3)地熱エネルギー ●事例研究：渋谷温泉施設爆発事故（ガス田上に住む我々） 火山と地熱、資源小国日本の豊富な資源、海外先進事例と日本の状況、福島事故後の国策大転換、普及への課題
	事後学習	日本における地熱発電が進まない要因についてまとめる。（2時間）
4	事前学習	「水力発電」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	(4)河川・海洋エネルギー 水力発電の現状、中小水力への活路、巨大な蓄電池：揚水発電、世界6位の海洋大国日本の未来
	事後学習	日本における河川・海洋エネルギー開発の方向性についてまとめる。（2時間）

5	事前学習	「バイオマス」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	(5) バイオマスエネルギー：バイオマスは「地球に優しい」か カーボンニュートラル、食糧との競合、生態系の破壊、次世代バイオマスへの期待、ミドリムシは世界を救うか
	事後学習	自動車用バイオ燃料に関する問題点と今後あるべき方向性についてまとめる。（2時間）
6	事前学習	「一般廃棄物」と「産業廃棄物」について調べ、両者の相違を理解する。（2時間）
	授業内容	(6) 一般廃棄物エネルギー 廃棄物概論（一廃と産廃）、ごみ処理の優等生日本、一廃のエネルギー利用、循環型社会への移行
	事後学習	循環型社会への移行の必要性についてまとめる。（2時間）
7	事前学習	「不法投棄」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	(7) 産業廃棄物エネルギー ●事例研究：産業廃棄物の不法投棄事件（豊島・滋賀・福岡の事例） 産廃のエネルギー利用、産廃の受け皿産業、不法投棄の発生メカニズム、不法投棄処理：巨額の税金投入
	事後学習	不法投棄が行われた理由についてまとめる。（2時間）
8	事前学習	第1～7回の講義資料とノートを整理し、復習しておく。（2時間）
	授業内容	中間まとめ 第1～7回の内容につき授業内レポートを行う（講義資料及び自ら作成したノートのみ持ち込み可）。 レポートは次回返却・解説する。
	事後学習	授業内レポートの設問について復習する。（2時間）
9	事前学習	「燃料電池」、「エコカー（環境対応自動車）」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	2. エネルギーの高度利用技術 (1) 燃料電池とエコカー 究極のエコカー燃料電池車、ハイブリッド車、電気自動車、次世代エコカーの覇者は
	事後学習	各エコカーについての特徴（長所、短所など）をまとめる。（2時間）
10	事前学習	「ヒートポンプ」、「コジェネレーション」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	(2) ヒートポンプとコジェネレーション ：あなたの家にもある高効率エネルギー供給システム 電力会社vsガス会社、六本木ヒルズ・スカイツリー・東京ドームシティー等の事例
	事後学習	「ヒートポンプ」と「コジェネレーション」の原理と応用事例についてまとめる。（2時間）
11	事前学習	「サイボーグ技術」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	3. 最先端技術のあり方2 ●事例研究：サイボーグ技術（人類にもたらす恩恵と脅威） 難病克服、スーパー兵器・兵士、許されざる人間改造、人工知能が人間を超える日、人類の後継者サイボーグ(?)
	事後学習	サイボーグ技術開発のあるべき方向性について、自分の考えをまとめる。（2時間）
12	事前学習	「低炭素社会」、「脱炭素社会」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	4. 低炭素・脱炭素社会への移行 (1) さまざまな環境問題への取り組み オゾンホール、酸性雨、自動車排ガス、山手トンネル・ノルウェー・スイス等の事例、道路トンネル天井崩落事故
	事後学習	低炭素・脱炭素社会に向けて自分ができること、するべきことについて考えをまとめる。（2時間）
13	事前学習	「スマート社会」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	(2) 低炭素・脱炭素社会への移行 経済的動機付け、世界各国の環境エネルギー政策、つまづいた日本の固定価格買取制度、スマート社会への移行
	事後学習	日本の固定価格買取制度が直面している問題点についてまとめる。（2時間）
14	事前学習	第9～13回の講義資料とノートを整理し、復習しておく。（2時間）
	授業内容	まとめ 第9～13回の内容に関する授業内レポートを行う（講義資料及び自ら作成したノートのみ持ち込み可）。 レポートは次回返却・解説する。
	事後学習	授業内レポートの設問について復習する。（2時間）
15	事前学習	「環境未来都市マスダール」について調べ、概要をつかむ。（2時間）
	授業内容	(3) 地球環境の行方 加速する地球温暖化と対策、環境ビジネス～各国の取り組み、砂漠に建つ環境未来都市、水素社会を目指す日本
	事後学習	講義全体で学んだことをもとに、環境・エネルギー問題の方向性について自分の考えをまとめる。（2時間）

科目名	産業技術と知財D(コンテンツ) I	担当者	竹内 敏夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	産業構造の変化に伴いコンテンツのデジタル化が進んでいる。このコンテンツを活用したコンテンツビジネスと著作権を中心とした知的財産権との関わりを事例などを通じて説明し、コンテンツビジネスの中で法律専門家の役割を検討する。また、授業では、AR、IoT、AIといった先端技術や、クラウド、ビッグデータの活用などの今日的な話題にも触れていく。				
授業目的・到達目標	コンテンツビジネスのビジネスモデルを理解し、知的財産制度の視点から知財戦略を考え、構築できる人材の育成を目的とする。 映画、ゲーム、TVなどそれぞれ異なるコンテンツビジネスの特徴を理解し、それぞれのビジネスについて知的財産の観点から理解し、戦略を立てられる人材となることを目標とする。 対応DP及びCP： 経営法学科3, 4, 5				
履修条件	基礎的な知的財産に関する知識があることがのぞましい。				
授業方法	必要に応じてプリントを配布する。スライド等を利用して理解を深める。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業への参加の程度（授業内で行なうグループディスカッションなど）と、授業内で行なうテストにより評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし。			
参考書	長谷川文雄・福富忠和 編「コンテンツ学」：世界思想社 刊 必要に応じて紹介する。				
オフィスアワー	金曜日 10時40分～11時30分 担当講師研究室 事前にアポイントをとること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	コンテンツの内容について調べる。（2時間）
	授業内容	ガイダンス コンテンツとは？コンテンツと知的財産の関係
	事後学習	コンテンツの内容について整理する。（2時間）
2	事前学習	クールジャパンについて調べてくる。（2時間）
	授業内容	クールジャパンとコンテンツビジネス
	事後学習	クールジャパンについて整理する。（2時間）
3	事前学習	コンテンツ産業の発展と技術進歩について調べてくる。（2時間）
	授業内容	コンテンツ産業の発展と技術進歩
	事後学習	コンテンツ産業の発展と技術進歩について整理する。（2時間）
4	事前学習	コンテンツ産業の歴史について調べてくる。（2時間）
	授業内容	コンテンツ産業の歴史と知的財産権の関係
	事後学習	コンテンツ産業の歴史と知的財産権の関係について整理する。（2時間）

5	事前学習	デジタルコンテンツとはなにか調べてくる。（2時間）
	授業内容	デジタルコンテンツの内容とコンテンツビジネス
	事後学習	デジタルコンテンツの内容とコンテンツビジネスについて整理する。（2時間）
6	事前学習	デジタルコンテンツと著作権の関係について調べてくる。（2時間）
	授業内容	デジタルコンテンツと著作権の関係
	事後学習	デジタルコンテンツと著作権の関係について整理する。（2時間）
7	事前学習	メディアの変遷（アナログからデジタルへ）について調べてくる。（2時間）
	授業内容	メディアの変遷（アナログからデジタルへ）と知的財産の保護
	事後学習	メディアの変遷（アナログからデジタルへ）と知的財産の保護について整理する。（2時間）
8	事前学習	インターネット社会と知的財産権の関わりについて調べてくる。（2時間）
	授業内容	インターネット社会と知的財産権の関わり
	事後学習	インターネット社会と知的財産権の関わりについて整理する。（2時間）
9	事前学習	クラウドとコンテンツの保管・配信サービスと知的財産権の関わりについて調べてくる。（2時間）
	授業内容	クラウドとコンテンツの保管・配信サービスと知的財産権の関わり
	事後学習	クラウドとコンテンツの保管・配信サービスと知的財産権の関わりについて整理する。（2時間）
10	事前学習	日本の映像産業の歴史（映画）について調べてくる。（2時間）
	授業内容	日本の映像産業の歴史（映画）
	事後学習	日本の映像産業の歴史（映画）について整理する。（2時間）
11	事前学習	日本の映像産業の現状と制作・配給・興業について調べてくる。（2時間）
	授業内容	日本の映像産業の現状と制作・配給・興業
	事後学習	日本の映像産業の現状と制作・配給・興業について整理する。（2時間）
12	事前学習	海外の映像産業（映画）と知的財産ビジネスについて調べてくる。（2時間）
	授業内容	海外の映像産業（映画）と知的財産ビジネス
	事後学習	海外の映像産業（映画）と知的財産ビジネスについて整理する。（2時間）
13	事前学習	日本の映像産業（TV）の歴史について調べてくる。（2時間）
	授業内容	日本の映像産業（TV）の歴史
	事後学習	日本の映像産業（TV）の歴史について整理する。（2時間）
14	事前学習	日本のコンテンツビジネスと産業の発展について調べてくる。（2時間）
	授業内容	日本のコンテンツビジネスと産業の発展（まとめ）
	事後学習	日本のコンテンツビジネスと産業の発展についてまとめる。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業のまとめを行なってくる。（2時間）
	授業内容	授業内でテスト及び解説を行なう。
	事後学習	テストで間違ったところを見直す。（2時間）

科目名	産業技術と知財D(コンテンツ)Ⅱ	担当者	竹内 敏夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	産業構造の変化に伴いコンテンツのデジタル化が進んでいる。このコンテンツを活用したコンテンツビジネスと著作権を中心とした知的財産権との関わりを事例などを通じて説明し、コンテンツビジネスの中で法律専門家の役割を検討する。また、授業では、AR、IoT、AIといった先端技術や、クラウド、ビッグデータの活用などの今日的な話題にも触れていく。				
授業目的・到達目標	コンテンツビジネスのビジネスモデルを理解し、知的財産制度の視点から知財戦略を考え、構築できる人材の育成を目的とする。 映画、ゲーム、TVなどそれぞれ異なるコンテンツビジネスの特徴を理解し、それぞれのビジネスについて知的財産の観点から理解し、戦略を立てられる人材となることを目標とする。 対応DP及びCP： 経営法学科3,4,5				
履修条件	基礎的な知的財産に関する知識があることがのぞましい。				
授業方法	必要に応じてプリントを配布する。スライド等を利用して理解を深める。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業への参加の程度（授業内で行なうグループディスカッションなど）と、授業内で行なうテストにより評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし。			
参考書	必要に応じて指定する。				
オフィスアワー	金曜日 10時40分～11時30分 担当講師研究室 事前にアポイントをとること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	コンテンツビジネスと知的財産権の関係について調べる。（2時間）
	授業内容	ガイダンス コンテンツビジネスと知的財産権の関係
	事後学習	コンテンツビジネスと知的財産権の関係について整理する。（2時間）
2	事前学習	日本のアニメ産業とその歴史について調べてくる。（2時間）
	授業内容	日本のアニメ産業とその歴史
	事後学習	日本のアニメ産業とその歴史について整理する。（2時間）
3	事前学習	日本のアニメ産業と知的財産から見たその特徴について調べてくる。（2時間）
	授業内容	日本のアニメ産業と知的財産から見たその特徴
	事後学習	日本のアニメ産業と知的財産から見たその特徴について整理する。（2時間）
4	事前学習	日本音楽産業の歴史について調べくる。（2時間）
	授業内容	日本音楽産業の歴史
	事後学習	日本音楽産業の歴史について整理する。（2時間）

5	事前学習	音楽産業と技術的イノベーションについて調べてくる。（2時間）
	授業内容	音楽産業と技術的イノベーション
	事後学習	音楽産業と技術的イノベーションについて整理する。（2時間）
6	事前学習	音楽のデジタルと知的財産権について調べてくる。（2時間）
	授業内容	音楽のデジタルと知的財産権
	事後学習	音楽のデジタルと知的財産権について整理する。（2時間）
7	事前学習	著作権管理事業と音楽ビジネスについて調べる。（2時間）
	授業内容	著作権管理事業と音楽ビジネス
	事後学習	著作権管理事業と音楽ビジネスについて整理する。（2時間）
8	事前学習	書籍とデジタル化について調べてくる。（2時間）
	授業内容	書籍とデジタル化（自炊問題など）
	事後学習	書籍とデジタル化（自炊問題など）について整理する。（2時間）
9	事前学習	ゲーム産業の変遷とコンテンツビジネスについて調べてくる。（2時間）
	授業内容	ゲーム産業の変遷とコンテンツビジネス
	事後学習	ゲーム産業の変遷とコンテンツビジネスについて整理する。（2時間）
10	事前学習	ゲーム産業と知的財産権について調べる。（2時間）
	授業内容	ゲーム産業と知的財産権
	事後学習	ゲーム産業と知的財産権について整理する。（2時間）
11	事前学習	コンテンツビジネスにおける資金調達と知的財産権について調べてくる。（2時間）
	授業内容	コンテンツビジネスにおける資金調達と知的財産権
	事後学習	コンテンツビジネスにおける資金調達と知的財産権について整理する。（2時間）
12	事前学習	広告業界におけるコンテンツビジネスについて調べる。（2時間）
	授業内容	広告業界におけるコンテンツビジネス
	事後学習	広告業界におけるコンテンツビジネスについて整理する。（2時間）
13	事前学習	知的財産権とメディアリテラシーについて調べる。（2時間）
	授業内容	知的財産権とメディアリテラシー
	事後学習	知的財産権とメディアリテラシーについて整理する。（2時間）
14	事前学習	コンテンツビジネスと知的財産について調べてくる。（2時間）
	授業内容	コンテンツビジネスと知的財産に関するまとめ
	事後学習	コンテンツビジネスと知的財産に関して整理する。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業の内容をまとめて見返す。（2時間）
	授業内容	授業内テスト及び解説
	事後学習	テストで間違ったところを見直す。（2時間）

科目名	産業技術と知財F(エレクトロニクス) I	担当者	菅野 政孝	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	エレクトロニクスとは、世の中に必須なコンピュータやスマートフォン等の情報通信機器のみでなく、自動車・エネルギー・医療・環境等の最先端産業を支える基幹技術とサービスの事である。 エレクトロニクスⅠでは日本電信電話公社（現NTT）及びNTTデータにおける、コンピュータと半導体を利用したICT産業に従事した経験から、これらの技術・サービスおよびビジネスに関する概要と関係する知的財産権との関わりについて概説する。				
授業目的・到達目標	本講義ではエレクトロニクスの基本的な技術とそのサービスについて修得し、これにより世の中の発展に寄与する技術とは何か、またその技術がどのように役立つサービスとして実現されるかと言った事を考察する力を養成することを目的とする。 エレクトロニクスの技術とサービスについて理解でき、それにより世の中の最先端産業が我々の生活にどう関わってくるかということについて常に意識を向けることが出来るようになることを目標とする。 関連DP及びCP：経営法学科3，4，5				
履修条件	エレクトロニクスに興味があること〔予備知識は不要〕				
授業方法	プレゼンテーション図面や配布資料による授業と、質疑応答（質問票の提出も含む）、レポートによる履修生からの質問への回答。最後の回で、期末レポートの解答に対する講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業内容の理解度、及び授業内での質問や意見発表、質問票の提供等の状況（10%）、期末レポート（40%）により総合的に判断する。また、授業への参加度（50%）についても評価の対象とする。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特に使用せず、必要に応じ資料を配布			
参考書	その都度紹介する。				
オフィスアワー	時間帯：水曜日15：00～16：00 場所：研究室（9号館3階 9309号） 内容：学業、就職活動支援、その他諸事可 記事：メールでの相談可（sugano.masataka@nihon-u.ac.jp）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	エレクトロニクスという用語から思いつく技術やサービスの項目を自分なりに取りまとめる。（3時間）
	授業内容	＜前期オリエンテーション＞ エレクトロニクス基礎技術とは？
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（1時間）
2	事前学習	PCがどのような装置から構成されているかを考える。また、光の3原色、色の3原色とは何かを思い出す。（2時間）
	授業内容	1. エレクトロニクス基礎技術とコンピュータ （1）コンピュータの仕組みと情報のデジタル化
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習。特にデジタルの意味について十分に理解する。（2時間）
3	事前学習	PCを利用する場合に、文書や音声・音楽、画像、映像などを格納する媒体にはどのようなものがあるか整理する。（2時間）
	授業内容	（2）デジタル情報の記録・保存の仕組み
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習。特に情報の格納媒体により記録方式が異なることを理解する。（2時間）
4	事前学習	PCを利用する場合に、情報を入力・出力したり、通信でやり取りする装置にはどのようなものがあるか整理する。（1.5時間）
	授業内容	（3）デジタル情報の入力・出力の仕組み
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（2.5時間）

5	事前学習	情報処理学会（情報処理の分野で国内最大の学会）のホームページ「コンピュータ博物館（ http://museum.ipsj.or.jp/index.html ）」に目を通しておく。（1時間）
	授業内容	（4）コンピュータ産業の誕生と発展の歴史
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習と、これまでの授業内容に関する感想と質問項目をレポートにまとめる。（次回の授業で提出）（3時間）
6	事前学習	コンピュータにはどのような知的財産権が含まれているか、また、知的財産権に関する問題点は何かについて調査する。（2.5時間）
	授業内容	（5）コンピュータ産業の将来と知財問題
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（1.5時間）
7	事前学習	「1. エレクトロニクス基礎技術とコンピュータ」の教材を復習（3時間）
	授業内容	「1. エレクトロニクス基礎技術とコンピュータ」に関する質問への回答
	事後学習	回答したパワーポイント資料の復習（1時間）
8	事前学習	3回目の授業「（2）デジタル情報の記録・保存の仕組み」を復習する。（2時間）
	授業内容	2. エレクトロニクス基礎技術と半導体 （1）トランジスタとコンピュータ素子の仕組み
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（2時間）
9	事前学習	3回目の授業の「デジタル情報の記録・保存のしくみ」で学習した高密度化技術について復習する。（2時間）
	授業内容	（2）半導体加工技術の進歩とコンピュータ性能
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習、特に半導体の仕組みについて十分理解する。（2時間）
10	事前学習	NHK高校講座のホームページ「元素の周期表（ https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/kagakukiso/archive/resume010.html ）」に目を通しておく。（2時間）
	授業内容	（3）化合物半導体と光エレクトロニクス
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習、特に発光／受光ダイオードの仕組みを理解する。（2時間）
11	事前学習	日本半導体歴史館（ http://www.shmj.or.jp/index.html ）の中の「業界動向」、「応用製品」、「集積回路」といった項目の歴史に目を通しておく。（2時間）
	授業内容	（4）半導体産業の誕生と発展の歴史
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（2時間）
12	事前学習	半導体にはどのような知的財産権が含まれているか、また、知的財産権に関する問題点は何かについて調査する。（3時間）
	授業内容	（5）半導体産業の将来と知財問題
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（1時間）
13	事前学習	エレクトロニクスの知的財産権に関する紛争やビジネス上のトピック等について調査する。（1.5時間）
	授業内容	3. ビジネス実務に関する話題 （1）ビジネス活動における知的財産権問題
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習と、これまでの授業内容に関する感想と質問項目をレポートにまとめる。（次回の授業で提出）（2.5時間）
14	事前学習	わが国が他国や地域と取り結んでいる国際協力協定等について調査する。（2.5時間）
	授業内容	（2）ビジネスのグローバル化と国際経済協力
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（1.5時間）
15	事前学習	「2. エレクトロニクス基礎技術と半導体、3. ビジネス実務に関する話題」の教材を復習する。（3時間）
	授業内容	「2. エレクトロニクス基礎技術と半導体、3. ビジネス実務に関する話題」に関する質問への回答、及び全体取りまとめ
	事後学習	回答したパワーポイント資料の復習（1時間）

科目名	産業技術と知財F(エレクトロニクス)Ⅱ	担当者	菅野 政孝	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	エレクトロニクスとは、世の中に必須なコンピュータやスマートフォン等の情報通信機器のみでなく、自動車・エネルギー・医療・環境等の最先端産業を支える基幹技術とサービスの事である。 エレクトロニクスⅡでは日本電信電話公社（現NTT）及びNTTデータにおける、情報通信産業に従事した経験から情報通信やエレクトロニクスを応用した技術・サービス及びビジネスに関する概要と関係する知的財産権との関わりについて概説する。					
授業目的・到達目標	本講義ではエレクトロニクスの基本的な技術とそのサービスについて修得し、これにより世の中の発展に寄与する技術とは何か、またその技術がどのように役立つサービスとして実現されるかと言った事を考察する力を養成することを目的とする。 エレクトロニクスの技術とサービスについて理解でき、それにより世の中の最先端産業が我々の生活にどう関わってくるかということについて常に意識を向けることが出来るようになることを目標とする。 関連DP及びCP：経営法学科3，4，5					
履修条件	エレクトロニクスに興味があること〔予備知識は不要〕					
授業方法	プレゼンテーション図面や配布資料による授業と、質疑応答（質問票の提出も含む），レポートによる履修生からの質問への回答。最後の回で，期末レポートの解答に対する講評を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業内容の理解度，及び授業内での質問や意見発表，質問票の提供等の状況（10％），期末レポート（40％）により総合的に判断する。また，授業への参加度（50％）についても評価の対象とする。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	特に使用せず，必要に応じ資料を配布				
参考書	その都度紹介する。					
オフィスアワー	時間帯：水曜日15：00～16：00 場所：研究室（9号館3階 9309号） 内容：学業、就職活動支援、その他諸事可 記事：メールでの相談可（sugano.masataka@nihon-u.ac.jp）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	エレクトロニクスの応用分野である「自動車」、「医療」、「通信」、「電力」、「環境・エコ」等で、技術・サービスに関して最近話題となったトピックをネット情報などから洗い出す。（3時間）
	授業内容	＜後期オリエンテーション＞ エレクトロニクス応用技術とは？
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（1時間）
2	事前学習	前期で学習した「デジタル情報」について復習する。（2時間）
	授業内容	4. エレクトロニクス応用技術と情報通信 （1）通信情報のデジタル化と多重通信の仕組み
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習。特にデジタル情報の多重通信の意味を理解する。（2時間）
3	事前学習	大容量光ファイバ通信で利用する光ファイバとは何かを予め調査する。（2時間）
	授業内容	（2）移動体無線通信と大容量光ファイバ通信
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（2時間）
4	事前学習	自分自身が利用しているインターネットの通信サービスにはどのようなものがあるか列挙する。 また、「ユビキタス」という言葉の由来を調べ、ユビキタスという言葉を使った様々な概念をピックアップしてまとめておく。（1. 5時間）
	授業内容	（3）インターネット通信の高度化とユビキタスネットワーク
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習と、これまでの授業内容に関する感想と質問項目をレポートにまとめる。（次回の授業で提出）（2. 5時間）

5	事前学習	自分自身の身の回りに情報通信を利用したサービスやビジネスにどのようなものがあるか列挙する。 （2時間）
	授業内容	（4）情報通信産業の発展と法的課題
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（2時間）
6	事前学習	「4．エレクトロニクス応用技術と情報通信」の教材を復習する。（2時間）
	授業内容	「4．エレクトロニクス応用技術と情報通信」に関する質問への回答
	事後学習	回答したパワーポイント資料の復習（2時間）
7	事前学習	最近最も頻繁に出てくる自動車の「自動運転」について、どのようなエレクトロニクス技術が使用されているか調べる。（2．5時間）
	授業内容	5．エレクトロニクス応用技術と応用産業 （1）カーエレクトロニクスと自動車産業
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（1．5時間）
8	事前学習	わが国の自然エネルギーにはどのようなものが有って、その比率や産業規模がどの程度かを調査する。 （2．5時間）
	授業内容	（2）パワーエレクトロニクスと電力産業
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（1．5時間）
9	事前学習	電子化された医療機器にはどのような種類があるか調査する。（2．5時間）
	授業内容	（3）メディカルエレクトロニクスと医療システム産業
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（1．5時間）
10	事前学習	地球温暖化の原因と問題となっている理由、現在の状況や対策等について調べる。（2．5時間）
	授業内容	（4）エレクトロニクスとエコ産業
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（1．5時間）
11	事前学習	3Dプリンタ、レーザ加工、光センサといった言葉がどのような意味なのか、概要を掴んでおく。 （2時間）
	授業内容	（5）光エレクトロニクスと光応用産業
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（2時間）
12	事前学習	エレクトロニクス応用技術と産業で学んだ技術・産業に関わる知的財産権には何があるか、またその権利に関する問題点は何かについて調査する。（「2時間）
	授業内容	（6）エレクトロニクス応用産業と知財問題
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（2時間）
13	事前学習	エレクトロニクス業界が関連する国際的な技術紛争について調査する。（1．5時間）
	授業内容	6．ビジネス実務に関する話題 （1）我が国のエレクトロニクス業界が体験した国際技術紛争
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習と、これまでの授業内容に関する感想と質問項目をレポートにまとめる。（次回の授業で提出）（2．5時間）
14	事前学習	エレクトロニクスの技術規格に関する標準化の事例を調査する。（2．5時間）
	授業内容	（2）技術規格の国際標準化と知的財産権
	事後学習	配布したパワーポイント教材の復習（1．5時間）
15	事前学習	「4．エレクトロニクス応用技術と情報通信、5．エレクトロニクス応用技術と応用産業、6．ビジネス実務に関する話題」の教材を復習する。（3時間）
	授業内容	「4．エレクトロニクス応用技術と情報通信、5．エレクトロニクス応用技術と応用産業、6．ビジネス実務に関する話題」に関する質問への回答
	事後学習	回答したパワーポイント資料の復習（1時間）

科目名	産業立地論	担当者	小倉 眞	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	産業立地論は各種産業の特色ある機能の下で、「空間」のどの地点にそれを置けば、最少費用を実現し最も合理的に展開できるかについて、理論的に整理することである。理論の内とくに授業で取り上げるのは古典的理論ではあるが最も基本的視点を提起した農業立地論のチューネン、工業立地論のウェーバー、クリスタラー等であり、また、最新の理論として提起したクルーグマンやポーターの産業立地論について整理し、産業立地の理論的展開について学習する。				
授業目的・到達目標	グローバル化・情報化社会にあつて、地域性や空間的展開など場所の特性を究明する研究が注目されている。そこで近年の国際的産業立地やドメスティックな立地展開について整理し、その基本的論理について学習することを目的とする。農業・工業・都市・商業などの立地法則についての基本構造について理解し、客観的に説明できるようになることを授業の目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2，3，4，5				
履修条件	特になし				
授業方法	テキストは使用せず、配布したプリント等によって授業を進める。また、適宜PC（パワーポイント）を使用する。定期試験の解説は、後日ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	授業内容を客観的に理解しているか、また論理思考がなされているかについて検証・評価する。	
	平常評価		20%	授業への積極的参加度合いを授業後の小レポート(10%)・発表小テスト(10%)などにより評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	授業中に指示する。				
オフィスアワー	(月) 12：10～13：00 14：40～16：00 (水) 12：10～13：00 14：00～16：00 研究室（4号館4階441） メールアドレス：ogura.makoto@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスで授業内容を確認すると共に、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	産業立地と立地論の歴史 産業立地論がどのように整理し、その主要論点は何であったかについて考察する。
	事後学習	ノートを見て、立地論の分析視点と経済空間の関係について整理する。（2時間）
2	事前学習	配布プリントを読み、チューネン理論の成立時期などについて確認する。（2時間）
	授業内容	チューネンの農業立地論 (1)理論の前提 現象を整理し、抽象理論化するために、諸事象を分解し、捨象して、理論化の前提となるべき内容の選択・整理の過程について考察する。
	事後学習	理論の前提となる項目を整理し、それぞれについての妥当性・問題点などをまとめる。（2時間）
3	事前学習	プリント1～7ページを読み、価格形成の内容について考察する。（2時間）
	授業内容	チューネンの農業立地論 (2)穀物価格の源泉 地代発生要因について整理すると共に、農家にとっての穀物価格とは何かについて考察する。また、地力の差や集約的農法と粗放的農法の相違・特質について検証する。
	事後学習	農産物価格は農家においては庭先価格で推し量ること、また輸送費の多寡が経営に影響を与える意味について確認する。（2時間）
4	事前学習	農業形態・肥力・市場価格について栽培圏が変化することを検証・考察する。（1時間）
	授業内容	チューネンの農業立地論 (3)理論モデルと反論 チューネン理論が与えた理論的影響（都市から外延に広がる土地利用展開）と農業立地論としての問題点について考察する。
	事後学習	チューネン理論の合理性と、理論的問題点などについて整理・検討する。与えられた課題についてのレポートを作成する。（3時間）

5	事前学習	チューーネン理論の内容について再度整理する。（2時間）
	授業内容	チューーネン理論と空間構造(4) チューーネン理論が与えた影響について、一般的土地利用との関係で具体的事例を上げながら考察する。（前回授業時の課題レポートを提出する）
	事後学習	チューーネン理論（同心円理論）が現代の土地利用空間においても、合理する部分があることを確認し、整理する。（2時間）
6	事前学習	配布プリントの9～15ページを読み、ウェーバーの理論の概要について考察する。（2時間）
	授業内容	ウェーバーの工業立地論 (1)費用と輸送費 工業立地において費用の地域的差異を形成す要素は何であるかについて、集約していく過程について詳細に整理・考察する。（4回授業時の課題レポートについての講評と討議も行う。確認学習）
	事後学習	立地因子・立地単位などの用語整理と用語の意味等について整理する。（2時間）
7	事前学習	立地因子の導出過程について、生産費の項目を整理して局地的立地因子に関わる項目を抽出してみる。（2時間）
	授業内容	ウェーバーの工業立地論 (2)工業立地モデル 費用の地域的差異として輸送費を抽出した過程について分析・考察する。
	事後学習	局地的立地因子として、輸送費、労働費が影響を与え、とくに輸送費の影響についてプリント見ながら確認・整理する。（2時間）
8	事前学習	資源調達、加工、消費の流れと立地について検証・考察する。（1時間）
	授業内容	ウェーバーの工業立地論 (3)工業立地モデル 立地三角形の内容について整理すると共に、労働費・集積のメリットなどについてもまとめ、ウェーバーの工業立地論の特色について考察する。
	事後学習	立地三角形の理論的内容（輸送費・労働費）について整理する。次回小テストの準備をする。（3時間）
9	事前学習	プリントを読み、クリスタラーの理論の概要について検証する。（2時間）
	授業内容	クリスタラーの中心地理論 (1)財の到達範囲 財の空間的到達範囲と需要範囲との関係について考察する。（ウェーバーの工業立地論に関する小テストも行う 20分）
	事後学習	空間ににおける財の到達範囲をどのように規定したか検証する。（2時間）
10	事前学習	六角形図を描き、それぞれの焦点について確認してみる。（2時間）
	授業内容	クリスタラーの中心地理論 (2)理論モデル 一次中心から五次中心までを実際に作成し、その空間的特色について考察する。（小テストの講評と討議も行う 確認学習）
	事後学習	六角形構造の内容を整理し、問題点なども列記してみる。（2時間）
11	事前学習	レッシュ、クリスタラーの理論的相違をプリントを見て整理する。（2時間）
	授業内容	レッシュの経済地域論 立地の一般均衡と市場圏 クリスターとの理論的相違などを中心として整理・考察する。
	事後学習	レッシュの理論を整理し、その特徴について整理する。（2時間）
12	事前学習	クルーグマンの産業立地論についてのプリントを見て、立地分析の主要な視点について検証する。（2時間）
	授業内容	クルーグマンの産業立地論 不完全競争下の工業立地 クルーグマンが数学的に整理した不完全競争下の企業立地の運動法則につて考察する。
	事後学習	A・Bの2地域間における立地単位と輸送費単位の関係についてついてまとめる。（2時間）
13	事前学習	ポーターの産業立地論の特色について事前に調べてみる。（2時間）
	授業内容	ポーターの産業立地論 (2)立地モデル ポーターの産業立地の理論的特色、クルーグマンとの論拠の相違などについて考察する。
	事後学習	ポーターとクルーグマンの産業立地論の特色と相違について確認・検証する。（2時間）
14	事前学習	日本の工業分布の現況・特色について調べ、工業集積の地域的展開について整理する。（2時間）
	授業内容	日本の工業立地変動 工業立地変動の過程・特徴等について整理し、受講生が調べた内容を中心に議論する。
	事後学習	経済環境の変動と立地移動について整理する。（2時間）
15	事前学習	加工貿易として臨海立地型の工業の展開について考察する。（1時間）
	授業内容	日本の工業立地の特色、（授業のまとめを）
	事後学習	市場のグローバル化の中で、日本の工業立地がどのように変容したかについて整理すると共に、期末テストに向けて準する。（3時間）

科目名	資本市場論Ⅰ	担当者	佐藤 猛	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	・資本市場について証券（市場）を中心に授業をする ・資本市場論Ⅰについては資本市場の金融プレーヤー（家計、政府、企業）を中心に学習する			
授業目的・到達目標	資本市場の金融プレーヤー（家計、政府、企業）を中心に学習することを目的とする。 日経新聞の証券記事について証券理論を通して理解できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：経営法学科2, 3, 4, 5			
履修条件	国際的経済の動向に関心を持つことが必要である同時に純粋な経済系講義なので簡単な数式に親しんでおこう			
授業方法	・基本的にパワーポイント（配布資料）とテキストで行う ・授業に関連する重要な歴史的イベントのDVDで見たり新聞で現代的なトピックスの紹介または解説もする ・コメントの解説を行う			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業中に3回程度のコメント（40点） 授業最後にまとめのコメント（60点） コメントは配布資料とテキストの使用可	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	平成28年度	税務経理協会	証券理論の新体系	佐藤猛
	備考			
参考書	平成20年 税務経理協会 『証券市場の基礎理論』佐藤猛			
オフィスアワー	水曜日16:10～ 授業講堂にて。 satou.takeshi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの「はしがき」を読んでおこう（2時間）
	授業内容	総論①-ガイダンス（体系）宗教（愛）とお金
	事後学習	学んだ用語（特にユダヤと金利）の関係性について整理しよう（2時間）
2	事前学習	テキストの第1章「証券理論の源流」を一読しておこう（2時間）
	授業内容	総論①-証券理論の歴史（フィッシャーとバッシュリエの証券理論）
	事後学習	学んだ用語（特にフィッシャー効果とフィッシャー・モデル）を正確に理解しよう（2時間）
3	事前学習	テキストの第3章の図表3-3「資金調達の方法」（40頁）の各証券について調べておこう（2時間）
	授業内容	総論②-証券の種類・内容（証券化）
	事後学習	各証券種類と内容を実際の企業の事例で確認しよう（2時間）
4	事前学習	テキスト第5章「ファンダメンタルズの資本コスト」を一読しておこう（2時間）
	授業内容	総論③-株式のファンダメンタルズ（1利益基準と2配当基準からアプローチ）と計算問題
	事後学習	授業で出題された計算問題を繰り返し練習しよう（特にROE）（2時間）

5	事前学習	テキスト第5章「債券のファンダメンタルズ（確率推移）」を一読しておこう（2時間）
	授業内容	総論④-債券のファンダメンタルズ（利回りと格付け）と計算問題
	事後学習	授業で出題された計算問題を繰り返し練習しよう（特にduration）（2時間）
6	事前学習	テキスト第6章「基本ポートフォリオ」の概念を明確にしておこう（2時間）
	授業内容	家計①-家計の資産運用（ポートフォリオ）
	事後学習	日米以外の家計の資産運用（ポートフォリオ）を調べよう（2時間）
7	事前学習	ヘッジファンドと投資信託の違いを調べておこう（2時間）
	授業内容	家計②-富裕層の家計（ヘッジファンドと投資信託）
	事後学習	年金基金のうち日米の年金制度比較を調べよう（授業中に適切な参考書を示す）（2時間）
8	事前学習	ビケティとアトキンソンについてのキャリアを調べておこう（2時間）
	授業内容	家計③-格差問題（ビケティとアトキンソン）
	事後学習	格差問題が大きくなった背景について自分自身の見解をまとめよう（2時間）
9	事前学習	国債の種類をあらかじめ調べておこう（2時間）
	授業内容	政府①-国債の歴史
	事後学習	日本国債の格付けの変遷を調べよう（2時間）
10	事前学習	EUの歴史を調べておこう（2時間）
	授業内容	政府②-財政とユーロ
	事後学習	PIGSの現状を整理しよう（2時間）
11	事前学習	企業の種類をまとめておこう（2時間）
	授業内容	企業①-企業の生成から発展
	事後学習	配布した資料から株式会社概念規定を2つに分けて整理しよう（2時間）
12	事前学習	テキスト第3章（3）「上場企業の組織論」を一読しておこう（2時間）
	授業内容	企業②-新古典派理論・契約理論
	事後学習	経営者モデル（数式）を言葉で再確認しよう（2時間）
13	事前学習	テキスト第3章1「組織的な市場とは」を一読しておこう（2時間）
	授業内容	企業③-上場制度
	事後学習	JPXの上場基準を復習しよう（2時間）
14	事前学習	テキスト第2章1「ヴェブレンと2シュンペーター」を一読しておこう（2時間）
	授業内容	企業④-ベンチャー企業
	事後学習	今年上場したベンチャー企業でAI関係の上場を調べよう（2時間）
15	事前学習	前期の配布プリンを復習しておこう（2時間）
	授業内容	総復習とコメント
	事後学習	コメントの内容を確認しよう（2時間）

科目名	資本市場論Ⅱ	担当者	佐藤 猛	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	・資本市場について特に証券（市場）を中心に授業をする ・資本市場論Ⅱについては①証券市場のシステムーマーケット・マイクロストラクチャー（MM）②証券市場の制度ー金融商品取引法（解釈論ではない）における経済活動（金商法）③歴史的クラッシュ（暴落）を中心に学習する			
授業目的・到達目標	①証券市場のシステムーマーケット・マイクロストラクチャー（MM）②証券市場の制度ー金融商品取引法（解釈論ではない）における経済活動（金商法）③歴史的クラッシュ（暴落）を中心に学習することを目的とする。 日経新聞の証券記事について証券理論を通して理解できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：経営法学科2，3，4，5			
履修条件	原則、資本市場論Ⅰの受講者			
授業方法	・基本的にパワーポイント（配布資料）とテキストで行う ・授業に関連する重要な歴史的イベントをDVDで見たり新聞で現代的なトピックスの紹介または解説もする ・コメントの解説を行う			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業中に3回程度のコメント（40点） 授業最後にまとめのコメント（60点） コメントは配布資料とテキストの使用可
教科書	年	出版社	書名	著者名
	平成28年	税務経理協会	証券理論の新体系	佐藤猛
	備考			
参考書	平成20年 税務経理協会 『証券市場の基礎理論』 佐藤猛			
オフィスアワー	水曜日16:10～ 授業講堂にて。 satou.takeshi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキスト第13章（3）バブルの歴史を一読しておこう（2時間）
	授業内容	MM①-世界証券取引所めぐりとバブルの歴史
	事後学習	you tube で世界の取引所を見よう（2時間）
2	事前学習	テキスト第3章2(3)「売買取引」と第9章2「ダブルオークション」を一読しておこう（2時間）
	授業内容	MM②-証券取引所の機能とオークション
	事後学習	授業中に与えられたオークションの例題を解いてみよう（2時間）
3	事前学習	日経平均とTPOIXを調べておこう（2時間）
	授業内容	MM③-世界の株価指数と世界的企業の紹介
	事後学習	世界の株価指数をまとめてみよう（2時間）
4	事前学習	テキスト第7章1「デリバティブ取引」を一読しておこう（2時間）
	授業内容	MM④-売買取引の種類（現物・信用からデリバティブ）
	事後学習	デリバティブ取引のペイオフを再確認しよう（2時間）

5	事前学習	テキスト第4章「効率性の複合仮説」を一読しておこう（2時間）
	授業内容	MM⑤-効率的市場仮説
	事後学習	合理性と情報の複合仮説を図表にして覚えよう（2時間）
6	事前学習	テキスト第9章「ゲームの理論」を一読しておこう（2時間）
	授業内容	MM⑥-情報の非対称性（ゲームの理論）
	事後学習	授業中に提示されたゲームの理論の問題を解こう（2時間）
7	事前学習	金融商品取引法の枠組みを調べておこう（2時間）
	授業内容	金商法①-歴史と体系
	事後学習	アメリカの証券法の体系をまとめよう（2時間）
8	事前学習	金融商品取引法のディスクロジャー制度と監査を調べておこう（2時間）
	授業内容	金商法②-ディスクロジャー制度と監査
	事後学習	実際の上場会社の監査事例をネットから調べてみよう（2時間）
9	事前学習	インサイダー取引の概念を調べておこう（2時間）
	授業内容	金商法③-インサイダー取引の実例
	事後学習	資本市場と金商法の関係を整理しよう（2時間）
10	事前学習	TOBに関する金商法の条文を調べておこう（2時間）
	授業内容	金商法④-TOBとM&A
	事後学習	資本市場と金商法の関係を整理しよう（2時間）
11	事前学習	テキスト第11章「行動ファイナンス」を一読しておこう（2時間）
	授業内容	行動ファイナンスによる投資理論
	事後学習	行動ファイナンス理論からケインズ理論をまとめよう（テキスト第2章3を利用）（2時間）
12	事前学習	テキスト第13章「レギュレーション総説」を一読しておこう（2時間）
	授業内容	クラッシュ①-レギュレーション学派の証券理論
	事後学習	配布された資料からレギュレーション学派の特有な概念を整理しよう（2時間）
13	事前学習	テキスト第13章1(2)「ブラックマンデー」を一読しておこう（2時間）
	授業内容	クラッシュ②-1929年大恐慌とブラックマンデー
	事後学習	1929年大恐慌とブラックマンデーの異同を整理しよう（2時間）
14	事前学習	テキスト第13章2&3の「サブプライム問題」を一読しておこう（2時間）
	授業内容	クラッシュ③-2008年リーマンショック
	事後学習	サブプライム問題の関連映画を見てみよう（たとえばマネーショート）（2時間）
15	事前学習	後期の配布プリントを読んでおこう（2時間）
	授業内容	総復習とコメント
	事後学習	コメントの内容を再確認しよう（2時間）

科目名	ジャーナリズム・スタディーズⅠ	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	前期	単 位 数	2
-----	-----------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-------	---

授業概要	民主主義社会において、ジャーナリズムは主権者である国民の知る権利に奉仕する重要な役割を担っている。以上のような前提のもと、本授業では、ジャーナリズムの基本的な知識と理論について講義する。そして、ジャーナリズムを理解するための観点を提供する。			
授業目的・到達目標	本授業は、①ジャーナリズムの概念、②ジャーナリズムの歴史、③ジャーナリズムの倫理、そして④ジャーナリズムの構造について講義することを通じて、学生のジャーナリズムに対するリテラシーを養成することを目的とする。以上の授業目的の達成を通じて、学生がジャーナリズムに対する総合的な理解を深め、クリティカルな視点を持つことができるようになることを到達目標とする。対応DP及びCP：新聞学科1、2、3。			
履修条件	特になし。			
授業方法	教科書をベースとして、スライドを用いて講義を実施する。その過程で、可能な限り時事的な問題を取り上げる。またそれらの問題について、随時学生と意見交換を実施する。小レポートや課題に対する講評は、後日の授業で実施する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%	実施しない。	
	平常評価	100%	授業中に実施するレポート（40%）、授業時に提示する課題（40%）、最終授業時に実施する小テスト（20%）で評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	世界思想社	『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために＜第2版＞』	大井眞二、田村紀雄、鈴木雄雅編
	備考			
参考書	『ジャーナリズム・スタディーズのフィールド』（大井眞二、2018年、学文社）。ほか、授業において随時紹介する。			
オフィスアワー	授業終了後、原則として授業講堂で対応する。 あらかじめメールでアポイントメントを取ること。 メールアドレス：naka.masaki@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	＜オリエンテーション＞ 授業概要、授業目的、到達目標、成績評価の方法等を説明し、受講生が授業準備を具体的に実施できるようにする。
	事後学習	講義ノートの内容を確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書第1章「メディア化時代のジャーナリズム」の内容を読み、ジャーナリズムの概念について自分なりの理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	＜ジャーナリズムとは何か＞ ジャーナリズムをめぐる諸概念について検討することを通じて、ジャーナリズムを学ぶ上での前提を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）
3	事前学習	ジャーナリズムの果たす役割について事前に調べ、自分なりの理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	＜ジャーナリズムの役割＞ 民主主義社会におけるジャーナリズムの存在意義について、複数の事例を参照することを通じて学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）
4	事前学習	新聞の定義について事前に調べ、自分なりに説明できるようにしておく。（2時間）
	授業内容	＜ジャーナリズムの始まり＞ ジャーナリズムの誕生から現在に至るまでの過程について、複数の事例を参照することを通じて学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）

5	事前学習	教科書第2章「ジャーナリズム史」の内容を読み、日本におけるジャーナリズムの誕生の経緯について自分なりの理解を深めておく。(2時間)
	授業内容	＜戦前の日本のジャーナリズム＞ 日本におけるジャーナリズムの誕生の経緯を考察するとともに、その性格を方向づけた要素について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。(2時間)
6	事前学習	第二次世界大戦における日本のジャーナリズムについて事前に調べ、自分なりに説明できるようにしておく。(2時間)
	授業内容	＜戦争と日本のジャーナリズム＞ 第二次世界大戦時の日本のジャーナリズムについて考察する。その際、映像資料を視聴することを通じて学習する。
	事後学習	授業終了時に提示する課題レポートに取り組む。(2時間)
7	事前学習	第二次世界大戦後のGHQのメディア政策について事前に調べ、自分なりに説明できるようにしておく。(2時間)
	授業内容	＜戦後の日本のジャーナリズム＞ 第二次世界大戦後の日本のジャーナリズムについて考察する。複数の事例を参照することを通じて学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。(2時間)
8	事前学習	教科書第3章「ジャーナリズム教育」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。(2時間)
	授業内容	＜ジャーナリズム教育＞ ジャーナリズム教育の意義と役割について考察するとともに、そのリテラシーの大切さについて学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。(2時間)
9	事前学習	教科書第4章「ジャーナリズムの法と倫理」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。(2時間)
	授業内容	＜ジャーナリズムの法と倫理＞ ジャーナリズムがどのようにして法と倫理に関わっているのか、複数の事例を参照することを通じて学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。(2時間)
10	事前学習	ドキュメンタリーの定義について事前に調べ、自分なりに説明できるようにしておく。(2時間)
	授業内容	＜ドキュメンタリーと真実＞ ドキュメンタリーの意義と問題について、映像資料を視聴しつつ学習する。
	事後学習	授業終了時に提示する課題レポートに取り組む。(2時間)
11	事前学習	教科書第5章「取材と報道」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。(2時間)
	授業内容	＜取材と報道＞ 取材と報道の仕組みについて考察する。複数の事例を参照することを通じて学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。(2時間)
12	事前学習	やらせと捏造に関する事件について事前に調べ、自分なりに説明できるようにしておく。(2時間)
	授業内容	＜やらせ・捏造・誤報＞ 問題報道が発生する背景について、複数の事例を参照することを通じて学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。(2時間)
13	事前学習	教科書第7章「プロフェッショナリズムと客観性」の内容を読み、客観報道について自分なりの理解を深めておく。(2時間)
	授業内容	＜客観報道は可能か＞ 「客観報道」の意義、歴史、そして問題点について考察する。そして、ニュースの客観性について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。(2時間)
14	事前学習	教科書第7章「プロフェッショナリズムと客観性」の内容を読み、プロフェッションについて自分なりの理解を深めておく。(2時間)
	授業内容	＜プロフェッショナリズム＞ プロフェッションとしてのジャーナリズムの意義、歴史、そして問題点について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。(2時間)
15	事前学習	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、ジャーナリズムに対する総合的な理解を深める。(2時間)
	授業内容	＜まとめ＞ 授業を総括するとともに、小テストを実施する。
	事後学習	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、小テストの内容を改めて考察する。(2時間)

科目名	ジャーナリズム・スタディーズⅡ	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	-----------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	民主主義社会において、ジャーナリズムは主権者である国民の知る権利に奉仕する重要な役割を担っている。以上のような前提のもと、本授業では、ジャーナリズムの応用的な知識と理論について講義する。そして、ジャーナリズムを理解するための観点を提供する。				
授業目的・到達目標	本授業は、①ジャーナリズムとニュース、②ジャーナリズムとメディア、③ジャーナリズムの理論、そして④ジャーナリズムと社会について講義することを通じて、学生のジャーナリズムに対するリテラシーを養成することを目的とする。以上の授業目的の達成を通じて、学生がジャーナリズムに対する総合的な理解を深め、クリティカルな視点を持つことができるようになることを到達目標とする。対応DP及びCP：新聞学科1、2、3。				
履修条件	特になし。				
授業方法	教科書をベースとして、スライドを用いて講義を実施する。その過程で、可能な限り時事的な問題を取り上げる。またそれらの問題について、随時学生と意見交換を実施する。小レポートや課題に対する講評は、後日の授業で実施する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業中に実施するレポート（40%）、授業時に提示する課題（40%）、授業時に実施する小テスト（20%）で評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	世界思想社		『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために＜第2版＞』	大井眞二、田村紀雄、鈴木雄雅編
	備考	教科書「ジャーナリズム・スタディーズの射程」（世界思想社）を準備中。			
参考書	『ジャーナリズム・スタディーズのフィールド』（大井眞二、2018年、学文社）。ほか、授業において随時紹介する。				
オフィスアワー	授業終了後、原則として授業講堂で対応する。 あらかじめメールでアポイントメントを取ること。 メールアドレス：naka.masaki@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	＜オリエンテーション＞ 授業概要、授業目的、到達目標、成績評価の方法等を説明し、受講生が授業準備を具体的に実施できるようにする。
	事後学習	講義ノートの内容を確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書第6章「『ニュースのコントロール』をめぐる相互作用過程」の内容を読み、ゲートキーピングの概念について自分なりの理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	＜ニュースの選択過程＞ ニュースの選択過程について考察する。特にその代表的な理論であるゲートキーピングの概念を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）
3	事前学習	教科書第9章「ニュース価値と選択性」の内容を読み、ニュースの価値（ニュース・バリュー）について自分なりの理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	＜ニュースの価値＞ ニュースの価値の決定過程を考察し、社会的現実がニュースによって構築・構成されていることを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）
4	事前学習	教科書第10章「ニュースのフレーム」の内容を読み、フレームについて自分なりの理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	＜ニュースのフレーム＞ 社会的現実が、ニュースを報道する枠組であるフレームによって「切り取られた」ものであることを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）

5	事前学習	教科書第11章「ニュースにおける物語／神話のゆくえ」の内容を読み、フェイクニュースについてについて自分なりの理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	＜ニュースにおける物語／神話＞ フェイクニュースの要因を考察するとともに、ニュースにおける偏向とイデオロギーが生じる構造を学習する。
	事後学習	授業終了時に提示する課題レポートに取り組む。（2時間）
6	事前学習	世論について事前に調べ、自分なりに説明できるようにしておく。（2時間）
	授業内容	＜世論とジャーナリズム＞ ジャーナリズムと世論の関係を考察する。世論が操作される可能性と、それを説明する理論について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）
7	事前学習	疑似現実についてについて事前に調べ、自分なりに説明できるようにしておく。（2時間）
	授業内容	＜メディアと疑似現実＞ 災害報道を事例として参照しつつ、私たちの知る世界とメディアの提供する疑似現実の関係を事実を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）
8	事前学習	教科書第12章「オルタナティブ・ジャーナリズム」の内容を読み、オルタナティブ・ジャーナリズムについて自分なりの理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	＜オルタナティブ・ジャーナリズム＞ オルタナティブ・ジャーナリズムの複数の事例を参照しつつ、その可能性と問題点について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）
9	事前学習	自らが普段接しているインターネット上のニュースサイトを列挙して説明できるようにしておく（2時間）
	授業内容	＜インターネットとジャーナリズム＞ インターネットがジャーナリズムの関わりについて考察し、その可能性と問題点について学習する。
	事後学習	授業終了時に提示する課題レポートに取り組む。（2時間）
10	事前学習	スポーツにおいてジャーナリズムが果たす役割について事前に調べ、自分なりに説明できるようにしておく。（2時間）
	授業内容	＜スポーツとジャーナリズム＞ スポーツとジャーナリズムの関わりについて考察し、スポーツニュースの意義と問題点を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）
11	事前学習	犯罪報道のあり方について、自分なりの理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	＜犯罪とジャーナリズム＞ 犯罪報道の複数の事例を参照しつつ、その構造についてスキャンダルリズム、ジェンダー等の観点から学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）
12	事前学習	政治報道のあり方について、自分なりの理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	＜政治とジャーナリズム＞ 政治報道の複数の事例を参照しつつ、政治とジャーナリズムの関わりが社会にもたらす影響を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）
13	事前学習	教科書第13章「グローバル化とジャーナリズム」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	＜グローバル化とジャーナリズム＞ 複数の事例を参照しつつ、グローバル時代におけるジャーナリズムのあり方について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）
14	事前学習	教科書第14章「戦争と平和のジャーナリズム」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	＜戦争と平和のジャーナリズム＞ 戦争報道の複数の事例を参照しつつ、戦争と平和にジャーナリズムがどのような影響を与えるのかを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）
15	事前学習	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、ジャーナリズムに対する総合的な理解を深める。（2時間）
	授業内容	＜まとめ＞ 授業を総括するとともに、小テストを実施する。
	事後学習	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、小テストの内容を改めて考察する。（2時間）

科目名	ジャーナリズム倫理 I	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義は、ジャーナリズム倫理学、すなわち情報発信者のための倫理学を学ぶ講義である。日本では情報発信者のための倫理学、中でもメディア関係の倫理学の場合に、法で規制しきれない部分を補うためのもののように、倫理学を扱う。それがどれだけ間違ったことであるか、それを明確にするのが本講義の主な内容である。つまり、情報発信者にとって、自身の行為に関する法を守ることと、倫理的な行為を行う事の相違について講義する。			
授業目的・到達目標	「ジャーナリズム」「メディア」「コミュニケーション」を巡る倫理的な知識を学ぶ力を養成し、規範と高い倫理観に基づいて情報を扱うことの重要性を理解できる人間の育成を目的とする。 倫理学でいうところの自律とは何かを理解し、ジャーナリスト、すなわち情報発信者が遭遇する倫理的諸問題を理解し、説明できることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：新聞学科1, 2, 3 テキストは必ず毎回持参。			
授業方法	テキストに沿って講義を進める。必要に応じて、レポート提出を求める。レポートの書き方は、予め指導する。提出されたレポートに関する講評は、講義内で行うとともに、希望者には、個人指導の時間を設ける。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	到達目標に達しているかどうかをレポート75%授業に対する取り組み方25%で判断する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2010	南窓社	ジャーナリズム倫理学試論	塚本晴二郎
	備考			
参考書	川中康弘『新聞の自由と責任』（南窓社）			
オフィスアワー	原則的に月曜日の昼休みだが、柔軟に対応したいので、必ずメールにて予約を取って欲しい。 研究室（9号館1階 9101研究室）メールアドレス tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	講義の各階のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法、レポートの書き方等の説明を行い、受講生が今後の授業準備を行いやすいようにする。
	事後学習	レポートの書き方を確実に把握する。講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。（2時間）
2	事前学習	1年次の必修科目で行われた「ニュース論」に関する講義内容を全て復習しておく。（2時間）
	授業内容	ニュースとは何か、をライトの機能目録を使って説明した後、ニュースとは相対的なものであり、送り手が作り出すものであることを理解できるようにする。それゆえのジャーナリズムの重要性を意識させ、次回で講義する内容との関連性を説明する。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。（2時間）
3	事前学習	教科書 第1章1, 2を読み専門職としてのジャーナリストという概念を考察する。（2時間）
	授業内容	ジャーナリストをニュースを扱う専門職と考えた初期の人であるジョゼフ・ピューリツァーについて説明する。その後に、専門職という概念を説明し、なぜジャーナリストに専門職教育が必要か、を理解する。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、専門職とジャーナリズムの関係をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。（2時間）
4	事前学習	教科書 序章を読み社会的責任論という概念を考察する。（2時間）
	授業内容	ジャーナリズムとは何か、の説明として『マスコミの自由に関する四理論』を紹介する。特に、社会の変遷とジャーナリズムを機械化・工業化・都市化を中心に説明して、ジャーナリズムと社会的責任論の関係を理解する。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ジャーナリズム教育の必要性をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。（2時間）

5	事前学習	教科書 第1章3を読み専門職としてのジャーナリストという概念を考察する。(2時間)
	授業内容	社会的責任論の登場背景とプレス自由委員会の位置づけというアメリカの具体例を中心にして、ジャーナリズムと専門職教育及び倫理学との関係を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、社会的責任論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
6	事前学習	教科書 第1, 2, 4章のジョン・C・メリルの社会的責任論批判に関わる内容を熟読し、理解する。(2時間)
	授業内容	社会的責任論の普及過程を『マスコミの自由に関する四理論』を中心に説明した後、ジョン・C・メリルの社会的責任論批判を紹介し、その主旨を理解する。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ジョン・C・メリルの社会的責任論批判をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
7	事前学習	教科書 第1, 2, 4章のジョン・C・メリルのリバタリアニズム的なアプローチによるジャーナリズム倫理学に関わる内容を熟読し、理解する。(2時間)
	授業内容	ジョン・C・メリルのリバタリアニズム的なアプローチによるジャーナリズム倫理学を説明し、その長所欠点を理解する。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、ジョン・C・メリルのリバタリアニズム的なアプローチによるジャーナリズム倫理学をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
8	事前学習	教科書 第1, 2章のエドモンド・B・ランベスのインターンシップ論に関わる内容を熟読し、理解する。(2時間)
	授業内容	ジョン・C・メリルのリバタリアニズム的なアプローチによるジャーナリズム倫理学に対する批判としてのエドモンド・B・ランベスのインターンシップ論を紹介し、その主旨を理解する。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、エドモンド・B・ランベスのインターンシップ論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
9	事前学習	教科書 第1, 2章のエドモンド・B・ランベスのリベラリズム的なアプローチによるジャーナリズム倫理学に関わる内容を熟読し、理解する。(2時間)
	授業内容	エドモンド・B・ランベスのリベラリズム的なアプローチによるジャーナリズム倫理学を説明し、その長所欠点を理解する。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、エドモンド・B・ランベスのリベラリズム的なアプローチによるジャーナリズム倫理学をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
10	事前学習	教科書 第1, 2, 3, 4章のクリフォード・G・クリスチャンズのトランス・フォーマティブ・ジャーナリズム論に関わる内容を熟読し、理解する。(2時間)
	授業内容	ジョン・C・メリルのリバタリアニズム的なアプローチとエドモンド・B・ランベスのリベラリズム的なアプローチによるジャーナリズム倫理学に対する批判としての、クリフォード・G・クリスチャンズのトランス・フォーマティブ・ジャーナリズム論を紹介し、その主旨を理解する。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、クリフォード・G・クリスチャンズのトランス・フォーマティブ・ジャーナリズム論をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
11	事前学習	教科書 第1, 2, 3, 4章のクリフォード・G・クリスチャンズのコミュニタリアニズム的なアプローチによるジャーナリズム倫理学に関わる内容を熟読し、理解する。(2時間)
	授業内容	クリフォード・G・クリスチャンズのコミュニタリアニズム的なアプローチによるジャーナリズム倫理学を説明し、その長所欠点を理解する。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、クリフォード・G・クリスチャンズのコミュニタリアニズム的なアプローチによるジャーナリズム倫理学をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
12	事前学習	教科書 第5章を熟読しGHQの占領政策と日本のジャーナリズム倫理学の関係を理解する。(2時間)
	授業内容	GHQの占領政策と日本のジャーナリズム及びその教育との関係を理解する。その後、日本大学法学部新聞学科がそうした関係に密接に関わることを説明し、受講生にとっての本講義の意義を明確にする。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、GHQの政策と日本大学法学部新聞学科の関係をまとめておく。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
13	事前学習	教科書 終章を熟読し、日本のジャーナリズム倫理学の状況を理解する。(2時間)
	授業内容	日本のアカウンタビリティ・システムなど、現在のジャーナリズム倫理学に関わるの諸状況を紹介し、その問題点を理解する。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、教科書の第6・7章以外の内容が体系的に理解できているかを確認する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
14	事前学習	教科書 第6, 7章を熟読しジャーナリズム倫理学とその応用の仕方を理解する。(2時間)
	授業内容	ジャーナリストの行為規範と具体的な事例とのつながりを確認し、体得する。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握し、教科書のすべての内容が体系的に理解できているかを確認し、書評的にまとめる。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
15	事前学習	初回からの教科書各章と講義ノートを見直し、ジャーナリズム倫理学を体系的に考察する。(2時間)
	授業内容	講義の総括と提出されたレポートの講評
	事後学習	初回からの教科書各章と講義ノート、及び返却されたレポートを見直し、必要であれば個人指導の時間を要望する。(2時間)

科目名	ジャーナリズム倫理Ⅱ	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「ジャーナリズム倫理Ⅰ」では、「ジャーナリズム」「メディア」「コミュニケーション」を巡る倫理的諸問題を専門的に理解し、説明する能力を培った。そのような基礎を前提に、本講義ではジャーナリズム倫理学に関連する諸問題の応用力の養成を主眼とする。具体的な事例を使用して、実際に倫理的判断ができるようにジャーナリズム倫理学の理論をブレinstーミング等を通じて学習する。							
授業目的・到達目標	本講義では、ジャーナリズム倫理学、すなわち情報発信者のための倫理学に関する諸問題の分析力、判断力を涵養し、ジャーナリズムに関する倫理的問題を、適切に分析できる素養を養成することを目的とする。 「ジャーナリズム」「メディア」「コミュニケーション」を巡る倫理的諸問題を批判的に捉え、論理的に結論を導き出せるようになることを目標とする。							
履修条件	関連DP及びCP：新聞学科1,2,3 ・ジャーナリズム倫理Ⅰの単位取得者であること。 ・テキストは必ず毎回持参。							
授業方法	「ジャーナリズム」「メディア」「コミュニケーション」を巡る倫理的諸問題に関する事例を、講義形式で解説し、それを受けて受講生は各自資料収集をして、当該事例に関するブレinstーミングを行う。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%					
	平常評価		100%		到達目標に達しているかどうかをブレinstーミングでのパフォーマンス75%、取り組み方25%で判断する。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	2010		南窓社		ジャーナリズム倫理学試論		塚本晴二郎	
	備考							
参考書	川中康弘『新聞の自由と責任』（南窓社）							
オフィスアワー	原則的に月曜日の昼休みだが、柔軟に対応したいので、必ずメールにて予約を取って欲しい。 研究室（9号館1階 9101研究室）メールアドレス tsukamoto.seihiro@nihon-u.ac.jp							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	講義の各階のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法、ブレinstーミングの進行方法及び扱う六つの事例等の説明を行い、受講生が今後の授業準備を行いやすいようにする。
	事後学習	ブレinstーミングの進行方法を確実に把握する。講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。（2時間）
2	事前学習	事例①「ハゲワシと少女」に関する資料収集とそれを使った考察を行う。（2時間）
	授業内容	事例①に関する講義後、質疑応答及び事例に関する質問等を受ける。
	事後学習	事例①の講義を受けて、収集した資料を再吟味し補足の資料収集と再考察を行う。（2時間）
3	事前学習	事例①のブレinstーミングに向けて、自らの考えをまとめておく。（2時間）
	授業内容	事例①のブレinstーミングを行った後、教員がその講評を行う。
	事後学習	教員の講評を受けて反省する。講義ノートを使用して、全受講者の発言を確認し、教員の講評も含めて、今後のブレinstーミングでの発言内容を検討する。（2時間）
4	事前学習	事例②「外務省秘密電文漏洩事件」に関する資料収集とそれを使った考察を行う。（2時間）
	授業内容	事例②に関する講義後、質疑応答及び事例に関する質問等を受ける。
	事後学習	事例②の講義を受けて、収集した資料を再吟味し補足の資料収集と再考察を行う。（2時間）

5	事前学習	事例②のブレinstoミng*に向けて、自らの考えをまとめておく。(2時間)
	授業内容	事例②のブレinstoミng*を行った後、教員がその講評を行う。
	事後学習	教員の講評を受けて反省する。講義ノートを使用して、全受講者の発言を確認し、教員の講評も含めて、今後のブレinstoミng*での発言内容を検討する。(2時間)
6	事前学習	事例③「加計学園問題と前川報道」に関する資料収集とそれを使った考察を行う。(2時間)
	授業内容	事例③に関する講義後、質疑応答及び事例に関する質問等を受ける。
	事後学習	事例③の講義を受けて、収集した資料を再吟味し補足の資料収集と再考察を行う。(2時間)
7	事前学習	事例③のブレinstoミng*に向けて、自らの考えをまとめておく。(2時間)
	授業内容	事例③のブレinstoミng*を行った後、教員がその講評を行う。
	事後学習	教員の講評を受けて反省する。講義ノートを使用して、全受講者の発言を確認し、教員の講評も含めて、今後のブレinstoミng*での発言内容を検討する。(2時間)
8	事前学習	事例④「紛争地取材：後藤健二の事例」に関する資料収集とそれを使った考察を行う。(2時間)
	授業内容	事例④に関する講義後、質疑応答及び事例に関する質問等を受ける。
	事後学習	事例④の講義を受けて、収集した資料を再吟味し補足の資料収集と再考察を行う。(2時間)
9	事前学習	事例④のブレinstoミng*に向けて、自らの考えをまとめておく。(2時間)
	授業内容	事例④のブレinstoミng*を行った後、教員がその講評を行う。
	事後学習	教員の講評を受けて反省する。講義ノートを使用して、全受講者の発言を確認し、教員の講評も含めて、今後のブレinstoミng*での発言内容を検討する。(2時間)
10	事前学習	事例⑤「記者クラブ問題」に関する資料収集とそれを使った考察を行う。(2時間)
	授業内容	事例⑤に関する講義後、質疑応答及び事例に関する質問等を受ける。
	事後学習	事例⑤の講義を受けて、収集した資料を再吟味し補足の資料収集と再考察を行う。(2時間)
11	事前学習	事例⑤のブレinstoミng*に向けて、自らの考えをまとめておく。(2時間)
	授業内容	事例⑤のブレinstoミng*を行った後、教員がその講評を行う。
	事後学習	教員の講評を受けて反省する。講義ノートを使用して、全受講者の発言を確認し、教員の講評も含めて、今後のブレinstoミng*での発言内容を検討する。(2時間)
12	事前学習	事例⑥「東電社員殺害事件」に関する資料収集とそれを使った考察を行う。(2時間)
	授業内容	事例⑥に関する講義後、質疑応答及び事例に関する質問等を受ける。
	事後学習	事例⑥の講義を受けて、収集した資料を再吟味し補足の資料収集と再考察を行う。(2時間)
13	事前学習	事例⑥のブレinstoミng*に向けて、自らの考えをまとめておく。(2時間)
	授業内容	事例⑥のブレinstoミng*を行った後、教員がその講評を行う。
	事後学習	教員の講評を受けて反省する。講義ノートを使用して、全受講者の発言を確認し、教員の講評も含めて、今後のブレinstoミng*での発言内容を検討する。(2時間)
14	事前学習	事例①～⑥を通して何が一番問題だと思ったか、自分の考えをまとめておく(2時間)
	授業内容	事例①～⑥を通して何が一番問題だと思ったか、のブレinstoミng*を行った後、教員がその講評を行う。
	事後学習	教員の講評を受けて反省する。講義ノートを使用して、全受講者の発言を確認し、教員の講評も含めて、今後のブレinstoミng*での発言内容を検討する。(2時間)
15	事前学習	初回からの講義ノートを見直し、前回のブレinstoミng*を踏まえて、日本のジャーナリズム倫理学の諸問題を体系的に考察する。(2時間)
	授業内容	総括講義
	事後学習	初回からの講義ノートを見直し、全ブレinstoミng*を踏まえて、日本のジャーナリズム倫理学の諸問題を体系的に理解し、説明できるようにまとめておく。(2時間)

科目名	社会情報システム研究	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代社会において、情報武装としてのコンピュータの知識・技術は不可欠なものといえる。特に、資料やデータを収集・加工・分析する能力は必須である。ここでは、データベースソフトを用いたデータの集計や加工、分析などの処理について扱う。				
授業目的・到達目標	【授業目的】各種データの収集・加工・分析に必要な不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、基礎的スキルとしてのAccessの基本的操作方法を学習する。Accessを用いたデータの集計や加工、分析を行うための基本的な操作を習得すると同時に、データベースを設計し、必要なデータを抽出できる。さらに、グラフや表を作成し、視覚化した資料を作成できるようにすることを目的とする。 【到達目標】1. Accessの基本的操作方法を理解し操作できる。2. グラフや表を作成し視覚的なデータに加工できる。3. データを用い、統計処理や分析ができる。対応D P及びC P：公共政策学科1， 3， 4， 5				
履修条件	Accessは比較的難解なためわかりやすい授業を心掛けているが、できればWord、Excel等の経験者が望ましい。ただし、頑張る気持ちがあればコンピュータ初心者でも対応する。				
授業方法	PC教室でコンピュータを利用した演習を行う。実技試験のフィードバックについては授業内で解答・解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる。 授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施（50%） 授業に対する姿勢・提出物等で総合的に評価（50%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料をファイル形式で事前に配付する。			
参考書	講義中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	火曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。） 研究室（本館6階601） メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ID，パスワードを事前に確認しておく，事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	法学部情報システムの利用法，講義計画，成績評価方法
	事後学習	PCの基本構造について復習する（2時間）
2	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	データベースの概略
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
3	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Access 1（リレーショナルデータベース）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
4	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Access 2（データベースの設計）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）

5	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Access 3（テーブル：主キー、データ型、フィールドプロパティ）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
6	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Access 4（テーブル：インポート、CSVファイル）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
7	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Access 5（テーブル：リレーションシップ、参照整合性）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
8	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Access 6（クエリ：選択クエリ、並べ替え、抽出条件）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
9	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Access 7（クエリ：演算フィールド、集計）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
10	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Access 8（クエリ：パラメータクエリ、Where条件）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
11	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Access 9（フォーム：ツール、プロパティシート）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
12	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Access 10（フォーム：プロパティの設定）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
13	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Access 11（レポート：レポートウィザード、宛名ラベル）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
14	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Access 12（表、グラフの作成：ピボットテーブル、ピボットグラフ）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
15	事前学習	学習内容の再確認（2時間）
	授業内容	総まとめ
	事後学習	授業内容の総点検（2時間）

科目名	社会情報システム論	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代社会において、情報武装としてのコンピュータの知識・技術は不可欠なものといえる。特に、資料やデータを収集・加工・分析する能力は必須である。ここでは、表計算ソフトを用いて、データの集計や視覚化、加工などの処理について扱う。さらに、統計処理や分析についても触れていく。				
授業目的・到達目標	【授業目的】各種データの収集・加工・分析に必要な不可欠な「情報活用能力」を身に付けるために、Excelの基本的操作方法を学習する。Excelを用いた表の作成および集計を行うための基本的な計算式や関数を習得すると同時に、ビジネスグラフを作成し視覚的なデータに加工できる。さらに、データから必要な情報を取り出し 統計処理や分析ができるようになることを目的とする。 【到達目標】1.PCの基礎的取り扱いやファイルの管理方法について理解する。2.Excelの基本的操作方法を理解する。3.ビジネスグラフを作成できる。4.データを用い、統計処理や分析ができる。対応D P及びC P：公共政策学科1， 3， 4特になし。わかりやすい授業を心掛けており、コンピュータ初心者でも可。				
履修条件					
授業方法	PC教室でコンピュータを利用した演習を行う。実技試験のフィードバックについては授業内で解答・解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる。 授業内でコンピュータを利用した実技試験を実施（50%） 授業に対する姿勢・提出物等で総合的に評価（50%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料をファイル形式で事前に配付する。			
参考書	講義中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	火曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。） 研究室（本館6階601） メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ID，パスワードを事前に確認しておく，事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	法学部情報システムの利用法，講義計画，成績評価方法
	事後学習	PCの基本構造について復習する（2時間）
2	事前学習	HP上の企業情報や官公庁の各種開示データを閲覧する（2時間）
	授業内容	インターネットによる情報検索（収集，加工，分析，評価），Eメール利用，ファイル添付
	事後学習	情報検索について復習する（2時間）
3	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Excel 1（表の作成と計算）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
4	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Excel 2（計算式の利用、セル属性とコピー）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）

5	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Excel 3（基本的な関数、SUM、AVERAGE、MAX、MIN）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
6	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Excel 4（絶対参照・相対参照、条件分岐、RANK、IF）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
7	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Excel 5（棒グラフ作成、2軸グラフ）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
8	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Excel 6（条件付き書式、データの入力規則）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
9	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Excel 7（簡易データベース機能、並べ替え、フィルタ、小計）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
10	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Excel 8（データ参照、VLOOKUP）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
11	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Excel 9（グラフの種類と特徴）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
12	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Excel 10（クロス集計）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
13	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Excel 11（基本統計量、相関分析、ヒストグラム）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
14	事前学習	事前配布ファイルを確認し、次回取り扱う内容を予習する（2時間）
	授業内容	Microsoft Excel 12（回帰分析）
	事後学習	授業内容の復習（2時間）
15	事前学習	学習内容の再確認（2時間）
	授業内容	総まとめ
	事後学習	授業内容の総点検（2時間）

科目名	社会政策論 I	担当者	矢野 聡	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	社会政策は、公共政策の中でもとりわけ人々が日常生活で遭遇する問題の解決や福祉の向上を図る目的で、日本や世界全体の政策動向と政策決定について学ぶための学問である。今日労働政策、労務管理、社会保障政策、保健医療政策、福祉政策、教育政策、住宅政策などを含む概念として理解されているが、これを人間の権利と尊厳を重視する視点から概説する。				
授業目的・到達目標	社会政策の政策目標は、産業社会の諸問題の緩和である。大きくは生活の向上と基本的人権の尊重である。これに従って学校教材の基礎、公務員試験対策、福祉行政の知識やNPO活動のための知識のほか、広く人々にとって幸福、権利、尊厳とは何か、について深く理解できるように講義を行うことを目的とする。学問としてのアプローチと分析方法を知ることによって、政府の政策に対する科学的・客観的な評価を行う力を身に着けることができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：経営法学科1, 3, 4 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	社会政策に関心がある諸君すべて受講可能である。学科、年次は問わない。（行政職課程は2年次から）				
授業方法	講義形式で行う。授業はパワーポイントとプリントを中心に行う。アンケートの結果も踏まえ、適切な受講者数であれば、ある程度討論を含む演習方式も採用したい。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		80%	期末試験	
	平 常 評 価		20%	授業参加度	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	なし			
参 考 書	特に指定しない、授業の際に指示する。				
オフィスアワー	木、金曜日11時30分から13時前まで				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	図書館等で社会政策に関する基本的文献にあたる。（2時間）
	授業内容	はじめに 社会政策とは何か
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
2	事前学習	社会政策の源流について調べる。（2時間）
	授業内容	社会政策の範囲、対象、および代表的な学説（ドイツ、イギリス）
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
3	事前学習	公共政策のうち、社会政策の特徴について調べる。（2時間）
	授業内容	秩序維持政策、経済財政政策、および社会政策
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
4	事前学習	法律、制度形成に至る社会政策の特徴について理解する。（2時間）
	授業内容	立法過程論と社会政策との違い
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）

5	事前学習	福祉国家とは何か、社会政策とのかかわりについて調べる。（2時間）
	授業内容	社会政策の到達点、福祉国家諸国の変容
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
6	事前学習	第二次世界大戦後の国際政治体制の変化と社会政策について調べる。（2時間）
	授業内容	イギリス社会政策　ブレトンウッズ体制、マーシャルプランによるベヴァリッジ計画の変容
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
7	事前学習	福祉国家イギリスの衰退と社会政策の変容過程について調べる。（2時間）
	授業内容	イギリス社会政策　大英帝国の衰退、ストップ・ゴー経済政策の矛盾、英国病、債務国への凋落
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
8	事前学習	新自由主義の登場の原因と推移について調べる。（2時間）
	授業内容	イギリス社会政策　サッチャーの登場と福祉国家、社会政策の見直し
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
9	事前学習	現代のイギリス社会政策について調べる。（2時間）
	授業内容	イギリス社会政策　イギリス社会政策の理念と現実のギャップ。ブレア、キャメロンからメイへ
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
10	事前学習	日本の社会政策の源流について調べる。（2時間）
	授業内容	日本社会政策　江戸期から明治・大正期の社会政策
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
11	事前学習	日本の産業化の黎明期と社会政策の対応について調べる。（2時間）
	授業内容	日本社会政策　労働運動、米騒動等により、政府が行った戦前、戦時期の社会政策
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
12	事前学習	日本国憲法の成立と福祉国家の歩みについて調べる。（2時間）
	授業内容	日本社会政策　戦後から現代の社会政策
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
13	事前学習	現代の社会政策の対応につて調べる。（2時間）
	授業内容	現代日本の社会政策の特徴
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
14	事前学習	現在、社会政策上で政策課題として挙げられる社会問題について調べる。（2時間）
	授業内容	社会政策が当面する課題
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
15	事前学習	今学期授業を総括し、社会政策が有する特徴についてまとめる。（2時間）
	授業内容	今学期のまとめ
	事後学習	配布されたプリントと作成したノートを基に、今学期授業の概要をまとめる。（2時間）

科目名	社会政策論Ⅱ	担当者	矢野 聡	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	社会政策は、公共政策の中でもとりわけ人々が日常生活で遭遇する問題の解決や福祉の向上を図る目的で、日本や世界全体の政策動向と政策決定について学ぶための学問である。今日労働政策、労務管理、社会保障政策、保健医療政策、福祉政策、教育政策、住宅政策などを含む概念として理解されているが、これを人間の権利と尊厳を重視する視点から概説する。				
授業目的・到達目標	社会政策の政策目標は、産業社会の諸問題の緩和である。大きくは生活の向上と基本的人権の尊重である。これにしたがって公務員試験対策、福祉行政やNPO活動のほか、人々にとって幸福、権利、尊厳とは何か、について深く理解できるように講義を行うことを目的とする。学問としてのアプローチと分析方法を知ることによって、政府の政策に対する科学的・客観的な評価を行う力を身に着けることができるようになることを目標とする。また社会政策が人々の権利や尊厳をもとに制度設計がなされる傾向にある点にも注目して講義を行う。関連DP及びCP：経営法学科1, 3, 4 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	社会政策に関心がある諸君はすべて受講可能である。学科、年次は問わない。（行政職課程は2年次から）				
授業方法	講義形式で行う。授業はパワーポイントとプリントを中心に行う。アンケートの結果も踏まえ、適切な受講者数であれば、ある程度討論を含む演習方式も採用したい。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	期末試験	
	平常評価		20%	授業参加度	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	なし			
参考書	特に指定しない、授業の際に指示する。				
オフィスアワー	木、金曜日11時30分から13時前まで				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	人間の権利の獲得について、その歴史的過程（1948年国連世界人権宣言等）を調べる。（2時間）
	授業内容	人権思想と社会政策
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
2	事前学習	人権問題の原点ともいえる「優生思想」について調べる。（2時間）
	授業内容	人間の権利に反する思想「優生思想」の発生根拠とその理論、世界的普及の過程
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
3	事前学習	かつてわが国で行われた人権問題について調べる。（2時間）
	授業内容	「血友病エイズ問題」と「らい予防法」「優生保護法」
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
4	事前学習	人権思想をどう発展させるか、について調べる。（2時間）
	授業内容	ジョン・ロールズ、マイケル・サンデルの正義論と人権思想
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）

5	事前学習	生産中心主義の社会思想と人権思想をどのように融合するか、について考察する。（2時間）
	授業内容	優生思想の残滓、知的障害者大量殺人事件と現代社会政策
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
6	事前学習	現代政治と社会政策について調べる。（2時間）
	授業内容	経済財政諮問会議と社会政策
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
7	事前学習	現代の労働、賃金、失業率について調べる。（2時間）
	授業内容	最低賃金と失業率
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
8	事前学習	社会保障国民会議の答申と福祉政策の在り方について調べる。（2時間）
	授業内容	少子高齢化と介護・福祉問題、社会保障政策の方向性
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
9	事前学習	現代の貧困問題について調べる。（2時間）
	授業内容	貧困問題とは何か。その原因と解決の方向性について。
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
10	事前学習	フリーター、ニートの定義とその実態について調べる。（2時間）
	授業内容	雇用問題　フリーター、ニートについて
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
11	事前学習	いわゆる非正規雇用問題についてその定義と実態について調べる。（2時間）
	授業内容	雇用問題　非正規雇用のメリット、デメリット
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
12	事前学習	女性雇用、障害者雇用、子供の貧困問題について調べる。（2時間）
	授業内容	雇用問題　女性労働の役割、子供の貧困問題と社会政策
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
13	事前学習	OECD、EU等の統計資料から世界各国の社会政策の動向を調べる。（2時間）
	授業内容	社会政策の国際的動向、欧米先進国の社会政策の動向と我が国への示唆
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
14	事前学習	日本の労働市場における外国人労働の実態と課題について調べる。（2時間）
	授業内容	社会保障、社会政策の問題解決のための優先順位　外国人労働の導入について
	事後学習	授業で配布されたプリントを参考にノートを整理する。（2時間）
15	事前学習	今まで配布されたプリントと作成したノートを整理する。（2時間）
	授業内容	今学期のまとめ　新たな社会政策の制度設計　生産至上主義に代わるもの
	事後学習	配布されたプリントと作成したノートを基に、今学期授業の概要をまとめる。（2時間）

科目名	社会調査概論	担当者	中 正 樹	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	社会調査は、社会のさまざまな領域で活用されている。社会の実態を知る上で、社会調査は必要不可欠のツールである。以上のような前提のもと、本授業では、社会調査の基本的な知識と方法論について講義する。			
授業目的・到達目標	本授業は、①社会調査の概念、②社会調査の歴史、③社会調査の方法について講義することを通じて、学生の社会調査に対するリテラシーを養成することを目的とする。 以上の授業目的の達成を通じて、学生は社会調査に対する総合的な理解を深め、それについて説明できるリテラシーを身につけることを目標とする。加えて、社会調査のデータを無抵抗に受け入れるのではなく、それをクリティカルに解釈できるリテラシーを身につけることを到達目標とする。対応DP及びCP：新聞学科1、3、4。			
履修条件	特になし。			
授業方法	教科書をベースとして、スライドを用いて講義を実施する。課題および小テストに対する講評は、後日ポータルサイトにおいて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%	実施しない。	
	平常評価	100%	前半と後半のまとめ時に実施する小テスト（80％）、最終授業時に提出する課題（20％）で評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	嵯峨野書院	『系譜から学ぶ社会調査』	小林多寿子
	備考			
参考書	『社会調査の実際』（島崎哲彦・大竹延幸、2017年、学文社）。			
オフィスアワー	授業終了後、原則として授業講堂で対応する。 あらかじめメールでアポイントメントを取ること。 メールアドレス：naka.masaki@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書を通して読み、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	＜オリエンテーション＞ 授業概要、授業目的、到達目標、成績評価の方法等を説明し、受講生が授業準備を具体的に実施できるようにする。
	事後学習	講義ノートの内容を確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書第1章「リサーチ力を培うための社会調査論」の内容を読み、社会調査について自分なりの理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	＜社会調査とは何か＞ 社会調査について考察する。現代が社会調査の時代であることを把握することを通じて、その意義を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）
3	事前学習	教科書第2章「社会調査のルーツとヨーロッパにおける先駆者たち」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	＜社会調査のルーツ＞ 現在の社会調査につながる調査がどのように実施されてきたのか、複数の事例を参照することを通じて学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）
4	事前学習	教科書第3章「貧困調査からの出発」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	＜古典的社会調査＞ 社会調査の原点ともいえる貧困調査について、その背景を複数の事例を参照することを通じて学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）

5	事前学習	教科書第4章「シカゴ・スタイルーシカゴ学派とアメリカにおける質的調査の出発」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	＜シカゴ学派＞ シカゴ学派における社会調査について、そこ発展した質的調査を複数の事例を参照することを通じて学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）
6	事前学習	教科書第5章「『ミドルタウン』と『ピーブルズ・チョイス』」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	＜地域調査＞ 『ミドルタウン』調査に代表される地域調査について、そのもたらした影響と階層の概念について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）
7	事前学習	教科書第5章「『ミドルタウン』と『ピーブルズ・チョイス』」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	＜メディア効果調査＞ メディアの影響力に対する認識の変化について、それを測定する調査の事例を参照することを通じて学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）
8	事前学習	教科書第11章「世論調査の発展」の内容を読み、自分なりの理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	＜世論調査＞ 世論調査の始まりと、それがもたらした影響について、複数の事例を参照することを通じて学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）
9	事前学習	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、社会調査に対する総合的な理解を深める。（2時間）
	授業内容	＜前半のまとめ＞ 前半の授業を総括するとともに、小テストを実施する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）
10	事前学習	身近にある社会調査の事例について調べ、自分なりに理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	＜社会調査の前提＞ 社会調査を実施する前提として調査の種類と得られるデータの意味、倫理などについて学習する。
	事後学習	授業終了時に提示する課題に取り組む。（2時間）
11	事前学習	社会調査の主体であるとき、どのようなテーマを選択するのか、そのテーマを選んだ理由は何なのかについて考えておく。（2時間）
	授業内容	＜社会調査の設計＞ 社会調査の設計について考察する。調査の目的、方法、概念の操作的定義、仮説の構成などについて学習する。
	事後学習	授業終了時に提示する課題に取り組む。（2時間）
12	事前学習	社会調査の主体であるとき、そのテーマに関する概念の操作的定義をどうするのか、仮説をどのように構成するのかについて考えておく。（2時間）
	授業内容	＜調査票の作成＞ サンプリングおよび調査票の作成手順について考察する。質問文の検討を通じて、調査票の作成手順を学習する。
	事後学習	授業終了時に提示する課題に取り組む。（2時間）
13	事前学習	社会調査の主体であるとき、そのテーマに関する質問文をどうするのかについて考えておく。（2時間）
	授業内容	＜調査の実施＞ 調査の実施と収集したデータについて考察する。調査の実施と回収、そしてデータの整理の方法について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）
14	事前学習	社会調査の主体であるとき、収集したデータをどのように集計し、また分析することが適切であると考え垂れるのかについて理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	＜集計と分析＞ データのエディティング、コーディング、クリーニングの方法、集計の種類、そして分析の考え方を学習する。
	事後学習	授業終了時に提示する課題に取り組む。（2時間）
15	事前学習	第10回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、社会調査に対する総合的な理解を深める。（2時間）
	授業内容	＜後半のまとめ＞ 調査結果の公表と報告書の構成について考察する。また、後半の学びをもとに、調査票を作成する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業の内容について理解を深める。（2時間）

科目名	社会保障法Ⅰ	担当者	神尾 真知子	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	社会保障法は、どのような法なのかを、その歴史、概念、体系、法理念から解明する。各論として、社会保障法Ⅰでは、社会保険を中心に上げて、代表的な判例を学び、社会保障法の法解釈を学修する。なお、社会保障法Ⅱは、社会福祉サービス、公的扶助、社会手当を中心に上げる。				
授業目的・到達目標	社会保障法の理念及び制度を理解することを目的とし、社会保障に関する判例を学ぶことによって、法解釈ができるようにする。また、社会保険の仕組みを理解し、説明できるようにすることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 3 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	静粛に授業を聞くこと。社会保障法Ⅰと社会保障法Ⅱの両方を履修して、社会保障法の全体像が理解できるので、両方履修することが望ましい。				
授業方法	講義形式。社会保障法令便覧で条文を確認しながら講義を進める。授業の理解の確認を行うアクションペーパーは次の回にコメントする。また、授業内試験のフィードバックは最終講義日に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	第14回目の講義日に筆記試験を実施し、試験の成績によって評価する。毎回の授業内容の理解を確認するアクションペーパーは、プラスにのみ評価する	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年	不磨書房		トピック社会保障法2019年版	本沢巳代子・新田秀樹編著
	2019年	労働調査会		社会保障法令便覧2019年版	社会保障法令便覧編集委員会編
	備考	上記2冊の教科書は講義に必須ですので、必ず購入してください。 判例については、適宜プリントを配布する。			
参考書	『社会保障判例百選(第5版)』有斐閣、社会保障法学会編『講座社会保障法』（全6巻）法律文化社、社会保障法学会編『新・社会保障法』（全3巻）法律文化社				
オフィスアワー	月曜日12時30分～13時（事前にメールでアポイントを取る） 研究室（4号館4階444） kamio.machiko@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書の目次を読み、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、社会保障法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的にできるようにする。
	事後学習	にはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	社会保障法はどのような歴史をたどってきたのか、法理念、法体系、法源とは何かについて考察する。（2時間）
	授業内容	社会保障法の歴史、法理念、法体系、法源
	事後学習	講義ノートを確認し、社会保障法の歴史、法理念、法体系、法源を確認し、説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	医療保険の社会保険としての仕組みを理解する。（2時間）
	授業内容	社会保険-医療保険①—社会保険としての仕組み
	事後学習	講義ノートを確認し、医療保険の社会保険としての仕組みを確認し、説明できるようにする。（2時間）
4	事前学習	医療保険の給付の仕組みを理解する。（2時間）
	授業内容	社会保険—医療保険②—給付
	事後学習	講義ノートを確認し、医療保険の給付にはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（2時間）

5	事前学習	医療保険に関連する判例を確認する。（2時間）
	授業内容	社会保険―医療保険③―判例
	事後学習	講義ノートを確認し、医療保険関連判決の判旨を確認する。（2時間）
6	事前学習	介護保険の社会保険としての仕組みと給付を理解する。（2時間）
	授業内容	社会保険―介護保険①―仕組みと給付
	事後学習	講義ノートを確認し、介護保険の社会保険としての仕組みと給付を確認して、説明できるようにする。（2時間）
7	事前学習	介護保険の立法における議論を整理する。（2時間）
	授業内容	社会保険―介護保険②―介護保険の立法過程にかかわった元厚生大臣による講演（ゲストスピーカー・予定）
	事後学習	講義ノートを確認し、介護保険の立法において何が問題とされ、どのように解決されたのかを確認し、説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	年金保険の社会保険としての仕組みを理解する。（2時間）
	授業内容	社会保険―年金保険①―社会保険としての仕組み
	事後学習	講義ノートを確認し、年金保険の社会保険としての仕組みを理解し、説明できるようにする。（2時間）
9	事前学習	年金保険の給付の仕組みを理解する。（2時間）
	授業内容	社会保険―年金保険②―給付
	事後学習	講義ノートを確認し、年金保険の給付にはどのようなものがあるのかを確認し、説明できるようにする。（2時間）
10	事前学習	年金保険に関連する判例を確認する。（2時間）
	授業内容	社会保険―年金保険③―判例
	事後学習	講義ノートを確認し、年金保険関連判決の判旨を確認する。（2時間）
11	事前学習	労災保険の社会保険としての仕組みを理解する。（2時間）
	授業内容	社会保険―労災保険①―社会保険としての仕組み 労働保険審査会委員としての経験を踏まえ、労災の認定の実務及び再審査申立制度の仕組みの説明をする。
	事後学習	講義ノートを確認し、労災保険の社会保険としての仕組みを理解し、説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	労災保険の給付の仕組みを理解する。（2時間）
	授業内容	社会保険―労災保険②―給付
	事後学習	講義ノートを確認し、労災保険の給付にはどのようなものがあるかを確認し、説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	労災保険関連の判例の判旨を理解する。（2時間）
	授業内容	社会保険―労災保険③―判例
	事後学習	講義ノートを確認し、労災保険関連の判例の判旨を確認する。（2時間）
14	事前学習	講義ノートを確認し、これまで学習したことを振り返り、授業内試験の準備をする。（2時間）
	授業内容	授業内試験及びまとめ
	事後学習	授業内試験を受けて、学習不足だった点は何かを検討する。（2時間）
15	事前学習	前学期の講義内容を振り返り、復習する。（2時間）
	授業内容	授業内試験のコメント
	事後学習	授業内試験のコメントを聞いて、前期の学習の達成度を自分なりに評価する。（2時間）

科目名	社会保障法Ⅰ	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	社会保障法制度の成り立ち、概要について示した上で、法学的な視点から社会保障について検討する。必要に応じて、判例を参照する。特に、社会保障制度の中では、医療保険、年金保険、雇用保険、労働保険等の社会保険制度を中心に学習する。その上で、社会保障法と各法とのかかわりを総論として学習する。					
授業目的・到達目標	社会保障をめぐる法律問題について理解を深め、各問題について課題を説明できる力を養成することを目的とし、それらの課題についてどのような対応策が考えられるかを提示できることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 3 公共政策学科1, 3, 4					
履修条件	なし					
授業方法	講義形式。テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。授業の最後に、授業に対する意見・質問等に関する簡単なアンケートを行い、次の授業でフィードバックする。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業内課題、レポート及び最終講義時に実施する筆記試験の総合点で評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019年度	不磨書房		トピック社会保障法		本沢巳代子・新田秀樹編著
	備考					
参考書	『社会保障判例百選（第5版）』（有斐閣）、『目で見える社会保障法教材（第5版）』（有斐閣）					
オフィスアワー	火曜日13時～14時（事前にメールにてアポイントをとること） （メールアドレスは、ポータルにて連絡）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	社会保障法の概念
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
2	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	医療保険について考える（ワークショップ）
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
3	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	医療保険制度の概要
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
4	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	医療保険制度の課題
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。

5	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	労災保険制度について考える
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
6	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	労災保険制度の概要
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
7	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	労災保険制度の課題
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
8	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	医療保険制度と労災保険制度の差異（まとめ）
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
9	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	雇用保険制度について考える
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
10	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	雇用保険制度の概要
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
11	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	雇用保険制度の課題
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
12	事前学習	教科書の該当部分を読んでお（2時間）。
	授業内容	年金制度について考える
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
13	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	年金制度の概要
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
14	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	年金制度の課題
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
15	事前学習	前学期講義内容を確認する（2時間）。
	授業内容	前学期のまとめ試験及び振り返り
	事後学習	前学期講義内容が理解できていたか確認し、不十分であった部分について復習する（2時間）。

科目名	社会保障法Ⅱ	担当者	神尾 真知子	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	社会保障法は、どのような法なのかを、その歴史、概念、体系、法理念から解明する。代表的な判例を学び、社会保障法の法解釈を学修する。社会保障法Ⅰは社会保険を中心に、社会保障法Ⅱは社会福祉サービス、公的扶助、社会手当を中心に講義する。				
授業目的・到達目標	社会保障法の理念及び制度を理解することを目的とし、社会保障に関する判例を学ぶことによって、法解釈ができるようにすることを目標とする。 関連DP及びCP： 法律学科1, 3 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	社会保障法全体を理解するために、社会保障法Ⅰ及び社会保障法Ⅱを通して履修してほしい。社会保障法Ⅱから履修する学生は、教科書の前半を読んでおくこと。				
授業方法	講義形式。社会保障法令便覧で条文を確認しながら講義を進める。授業の理解を図るアクションペーパーについては、次の回にコメントする。また、授業内試験は、最終講義時にフィードバックする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	第14回目の講義時に筆記試験を実施し、試験の成績によって評価する。毎回の講義内容の理解を確認するアクションペーパーは、プラスにのみ評価する	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年	不磨書房		トピック社会保障法2019年版	本沢巳代子・新田秀樹編著
	2019年	労働調査会		社会保障法令便覧2019年版	社会保障法令便覧編集委員会編
	備考	上記2冊の教科書は講義に必須ですので、必ず購入してください。判例はプリントを適宜配布する。			
参考書	『社会保障判例百選(第5版)』有斐閣、社会保障法学会編『講座社会保障法』（全6巻）法律文化社、社会保障法学会編『新・社会保障法』（全3巻）法律文化社				
オフィスアワー	月曜日12時30分～13時（事前にメールでアポイントを取ること） 研究室（4号館4階444） kamio.machiko@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	雇用保険の社会保険としての仕組みを理解する。（2時間）
	授業内容	社会保険-雇用保険①-社会保険としての仕組み
	事後学習	雇用保険の社会保険としての仕組みを確認し、説明できるようにする。（2時間）
2	事前学習	雇用保険関連判例をよく読み、事実の概要と判旨を確認する。（2時間）
	授業内容	社会保険-雇用保険②-判例
	事後学習	雇用保険関連判決の判旨を理解し、説明できるようにする。（2時間）
3	事前学習	社会福祉サービスとは何か、保育サービスの仕組みを確認する。（2時間）
	授業内容	社会福祉サービス-児童福祉①-保育サービス
	事後学習	保育サービスはどのような仕組みなのかを理解し、説明できるようにする。（2時間）
4	事前学習	保育関連判例をよく読み、事実の概要と判旨を確認する。（2時間）
	授業内容	社会福祉サービス-児童福祉②-判例
	事後学習	保育関連判決の判旨を理解し、説明できるようにする。（2時間）

5	事前学習	社会手当とは何か、児童手当とは何かを確認する。（2時間）
	授業内容	社会手当－児童手当①－仕組み
	事後学習	児童手当の仕組みを理解し、説明できるようにする。（2時間）
6	事前学習	フランスの子育てに関連する社会手当について確認する。（2時間）
	授業内容	社会手当－児童手当②－フランスとの比較
	事後学習	フランスの社会手当と日本の社会手当の違いを理解し、説明できるようにする。（2時間）
7	事前学習	児童扶養手当の仕組みを確認する。（2時間）
	授業内容	社会手当－児童扶養手当①－仕組み
	事後学習	児童扶養手当の仕組みを理解し、説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	児童扶養手当関連判決に関連する知識を確認する。（2時間）
	授業内容	社会手当－児童扶養手当②－判例
	事後学習	児童扶養手当関連判例をよく読み、事実の概要と判旨を確認する。（2時間）
9	事前学習	障がい者福祉サービスはどのような仕組みかを確認する。（2時間）
	授業内容	社会福祉サービス－障がい者福祉①－仕組み
	事後学習	障がい者福祉の仕組みを理解し、説明できるようにする。（2時間）
10	事前学習	障がい者福祉サービスにはどのようなものがあるのかを整理する。（2時間）
	授業内容	社会福祉サービス－障がい者福祉②－障がい者福祉に携わっている方の講演（ゲストスピーカー）
	事後学習	障がい者福祉の現状を考察する。（2時間）
11	事前学習	公的扶助とは何か、生活保護の仕組みを確認する。（2時間）
	授業内容	公的扶助－生活保護①－仕組み
	事後学習	生活保護はどのような場合にどのような手続きによって給付されるのかを理解し、説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	生活保護支給の要件を確認する。（2時間）
	授業内容	公的扶助－生活保護②－保護の補足性の原則
	事後学習	保護の補足性の原則とは何かを理解し、説明できるようにする。（2時間）
13	事前学習	生活保護関連判例をよく読み、事実の概要と判旨を確認する。（2時間）
	授業内容	公的扶助-生活保護③－判例
	事後学習	生活保護関連判決の判旨を確認する。（2時間）
14	事前学習	これまでの学習を振り返り、授業内試験の準備をする。（2時間）
	授業内容	授業内試験及びまとめ
	事後学習	授業内試験を受けて、学習不足だった点は何かを検討する。（2時間）
15	事前学習	後学期の講義内容を復習する。（2時間）
	授業内容	授業内試験のコメント。
	事後学習	授業内試験のコメントを受けて、後学期の学習の達成度を自分なりに評価する。（2時間）

科目名	社会保障法Ⅱ	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	社会保障法制度の成り立ち、概要について示した上で、法学的な視点から社会保障について検討する。必要に応じて、判例を参照する。特に、社会保障制度の中では、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉の社会福祉制度と生活保護制度を中心に学習する。その上で、社会保障法と各法とのかかわりを総論として学習する。					
授業目的・到達目標	社会保障をめぐる法律問題について理解を深め、各問題について課題を説明できる力を養成することを目的とし、それらの課題についてどのような対応策が考えられるかを提示できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 3 公共政策学科1, 3, 4					
履修条件	なし					
授業方法	講義形式。テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。授業の最後に、授業に対する意見・質問等に関する簡単なアンケートを行い、次の授業でフィードバックする。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業内課題、レポート及び最終講義時に実施する筆記試験の総合点で評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019年度	不磨書房		トピック社会保障法		本沢巳代子・新田秀樹編著
	備考					
参考書	『社会保障判例百選（第5版）』（有斐閣）、『目で見える社会保障法教材（第5版）』（有斐閣）					
オフィスアワー	火曜日13時～14時（事前にメールにてアポイントをとること） （メールアドレスは、ポータルにて連絡）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	社会福祉制度と公的扶助（生活保護）の歴史、概念
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
2	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	子育て支援をめぐる制度の概要
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
3	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	子育て支援をめぐる制度の課題
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
4	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	児童虐待をめぐる制度の概要
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。

5	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	児童虐待をめぐる制度の課題
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
6	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	障害者福祉制度について考える
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
7	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	障害者福祉制度の概要
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
8	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	障害者福祉制度の課題
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
9	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	高齢者福祉制度について考える
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
10	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	高齢者福祉制度の概要
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
11	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	高齢者福祉制度の課題
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
12	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	生活保護制度について考える
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
13	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	生活保護制度の概要
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
14	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	生活保護制度の課題
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
15	事前学習	後学期講義内容を確認する（2時間）。
	授業内容	後学期のまとめ試験及び振り返り
	事後学習	後学期講義内容が理解できていたか確認し、不十分であった部分について復習する（2時間）。

科目名	社会保障論Ⅰ	担当者	矢野 聡	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今日のわが国で最も重要な政策項目の一つである社会保障について全体的に学ぶ。前期では主に社会保障の概念、歴史を学び、その思想を理解する。				
授業目的・到達目標	社会保障の制度となる医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解できるように講義する。学生諸君が、講義が終了するころにはマスメディアや就職試験に頻繁に出てくる医療や年金、雇用・労災、介護・福祉の制度について、難なく理解するだけの知識を修得することを目的とする。さらに社会保障の今日的課題と将来の望ましい在り方について考察できるようになることを目標とする。本講義に積極的に参加して、水準の高い社会保障の理解を得ていただきたい。関連CP及びDP：法律学科1, 2 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	学科の別を選ばない。履修を望む者に対しては、それが実現できるようにする。ただ、授業内容の難易度は低くないが、就活や資格試験として一般社会に必要な知識が要求されるので、できる限り早いうちの履修が望ましい。				
授業方法	シラバスに沿って講義形式で行う。教科書は毎週持参のこと。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	期末に行う	
	平常評価		20%	授業参加度（20%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年度	労働調査会		社会保障法令便覧 2019	編集委員長 矢野聡
	備考				
参考書	社会福祉士養成講座 『社会保障論』 矢野 聡 『日本公的年金政策史研究』 中央法規出版 2019年 ミネルヴァ書房 2012年				
オフィスアワー	木、金曜日11時30分から13時前まで				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	図書館等で社会保障の概要について調べる。（2時間）
	授業内容	イントロダクション、社会保障とは何か
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）
2	事前学習	法学部における社会保障の理念、目的とは何かについて理解する。（2時間）
	授業内容	社会保障の理念 目的
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）
3	事前学習	社会保障の源流であるイギリスの歴史について調べる。（2時間）
	授業内容	社会保障の歴史（１） イギリス救貧法と公的扶助
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）
4	事前学習	ドイツの宰相ビスマルクが創始した社会保険制度について調べる。（2時間）
	授業内容	社会保障の歴史（２） ドイツ社会政策と社会保険制度
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）

5	事前学習	ルーズベルト大統領のニューデール政策と、世界最初の社会保障法について調べる。（2時間）
	授業内容	社会保障の歴史（3） 世界大恐慌とアメリカ社会保障法
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）
6	事前学習	日本の近代化とヨーロッパの社会保険制度の導入過程について調べる。（2時間）
	授業内容	日本の社会保障（1） 明治大正期の労働保険
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）
7	事前学習	健康保険制度成立の経緯について調べる。（2時間）
	授業内容	日本の社会保障（2）健康保険法の成立と展開
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）
8	事前学習	労働者年金制度の成立の経緯について調べる。（2時間）
	授業内容	日本の社会保障（3）年金制度の成立と展開
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）
9	事前学習	敗戦後の国家目標としての社会保障の確立の経緯について調べる。（2時間）
	授業内容	日本の社会保障（4）戦後社会保障の成立
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）
10	事前学習	高度経済成長と国民皆保険、皆年金児童手当、老人医療費無料化につて調べる。（2時間）
	授業内容	日本の社会保障（5）社会保障の拡大
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）
11	事前学習	政府予算に占める社会保障の比率、社会保障給付費、国民医療費等について調べる。（2時間）
	授業内容	社会保障の給付と負担
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）
12	事前学習	2000年以降の社会保障構造改革の動きについて調べる。（2時間）
	授業内容	効率と公平、新自由主義と社会保障
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）
13	事前学習	社会保障と政治動向について調べる。（2時間）
	授業内容	政治と社会保障、国家財政政策、政権交代が及ぼす影響
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）
14	事前学習	社会保障国民会議による社会保障の指針と政府の実行状況について調べる。（2時間）
	授業内容	社会保障国民会議答申と、最近の社会保障政策の動き。
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）
15	事前学習	今学期の講義概要をまとめる。（2時間）
	授業内容	今学期のまとめ
	事後学習	今学期に配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）

科目名	社会保障論Ⅰ	担当者	山村 りつ	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	社会保障とそれに関連する政策に係る現在およびこれまでの日本国内外の状況について、政治的・制度的・理念的観点から捉え、その全体像をつかむとともに、現在の社会保障政策において基礎となる概念と価値観を探究する。				
授業目的・到達目標	授業目的：現在の社会保障政策において基礎となる概念と価値観を養成し、複雑な社会保障政策のいずれか一部にでも興味を持てるようになること、および社会保障を幅広くとらえ、さまざまな分野および活動を社会保障の視点から捉えられようになることを目的とする。 到達目標：①社会保障全体およびいずれかの特定の分野について、社会保障政策の構造を図示できるようになる。DP及びCP：法律学科1,2／②社会保障全体およびいずれかの特定の分野についてその問題点を説明できるようになること。DP及びCP：法律学科1,2／③社会保障制度についての知識を以て、自分の生活における目標を1つ以上設定できるようになること。④社会保障政策の歴史について最低限の基礎的理解（どんなイメージか程度でも可）を獲得し自らの糧することについての意欲と意識をもっていること。				
履修条件					
授業方法	講義形式をとるが、学生からの意見や価値観の表明があることを大いに期待する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		60%	通常の試験を行う。	
	平常評価		40%	授業内での参加の状況および、授業後に回収するコメントに対して、内容の妥当性や表現方法の適切さを踏まえた上で評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	なし	なし		なし	なし
	備考	教科書は特に指定しません。			
参考書	特になし。ただし当該授業の参考資料をその前回の授業で随時案内していく。				
オフィスアワー	火曜3限（それ以外は要相談） ※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、社会保障制度に対する自分のイメージを言語化する。また、疑問点をリストアップする。（3時間）
	授業内容	オリエンテーション:社会保障と制度の概観
	事後学習	授業で配布する資料を確認し、不明点・疑問点を明らかにし、それについて調べる。（2時間）
2	事前学習	レジュメとともに配布される資料に目を通し、特に注意する点や疑問点をリストアップしておく。（1時間）
	授業内容	社会保障の基本的知識
	事後学習	授業で配布する資料および授業の内容を確認し、不明点・疑問点を明らかにし、それについて調べる。（3時間）
3	事前学習	レジュメとともに配布される資料に目を通し、特に注意する点や疑問点をリストアップしておく。（1時間）
	授業内容	歴史的展開:創生から拡大
	事後学習	授業で配布する資料および授業の内容を確認し、不明点・疑問点を明らかにし、それについて調べる。（3時間）
4	事前学習	レジュメとともに配布される資料に目を通し、特に注意する点や疑問点をリストアップしておく。（1時間）
	授業内容	歴史的展開:成熟と安定化
	事後学習	授業で配布する資料および授業の内容を確認し、不明点・疑問点を明らかにし、それについて調べる。（3時間）

5	事前学習	レジュメとともに配布される資料に目を通し、特に注意する点や疑問点をリストアップしておく。（1時間）
	授業内容	歴史的展開：危機と転換
	事後学習	授業で配布する資料および授業の内容を確認し、不明点・疑問点を明らかにし、それについて調べる。（3時間）
6	事前学習	レジュメとともに配布される資料に目を通し、特に注意する点や疑問点をリストアップしておく。（1時間）
	授業内容	工業化と家族の変化
	事後学習	授業で配布する資料および授業の内容を確認し、不明点・疑問点を明らかにし、それについて調べる。（3時間）
7	事前学習	レジュメとともに配布される資料に目を通し、特に注意する点や疑問点をリストアップしておく。（1時間）
	授業内容	社会保障における価値、生存権の概念
	事後学習	授業で配布する資料および授業の内容を確認し、不明点・疑問点を明らかにし、それについて調べる。（3時間）
8	事前学習	レジュメとともに配布される資料に目を通し、特に注意する点や疑問点をリストアップしておく。（1時間）
	授業内容	社会の保障の対象とマイノリティ
	事後学習	授業で配布する資料および授業の内容を確認し、不明点・疑問点を明らかにし、それについて調べる。（3時間）
9	事前学習	レジュメとともに配布される資料に目を通し、特に注意する点や疑問点をリストアップしておく。（1時間）
	授業内容	国家類型論の理解
	事後学習	授業で配布する資料および授業の内容を確認し、不明点・疑問点を明らかにし、それについて調べる。（3時間）
10	事前学習	レジュメとともに配布される資料に目を通し、特に注意する点や疑問点をリストアップしておく。（1時間）
	授業内容	世界的潮流と背景
	事後学習	授業で配布する資料および授業の内容を確認し、不明点・疑問点を明らかにし、それについて調べる。（3時間）
11	事前学習	レジュメとともに配布される資料に目を通し、特に注意する点や疑問点をリストアップしておく。（1時間）
	授業内容	社会保障制度の構造的理解
	事後学習	授業で配布する資料および授業の内容を確認し、不明点・疑問点を明らかにし、それについて調べる。（3時間）
12	事前学習	レジュメとともに配布される資料に目を通し、特に注意する点や疑問点をリストアップしておく。（1時間）
	授業内容	社会保障制度における理論
	事後学習	授業で配布する資料および授業の内容を確認し、不明点・疑問点を明らかにし、それについて調べる。（3時間）
13	事前学習	レジュメとともに配布される資料に目を通し、特に注意する点や疑問点をリストアップしておく。（1時間）
	授業内容	社会保障における「国家」と「国際化」問題
	事後学習	授業で配布する資料および授業の内容を確認し、不明点・疑問点を明らかにし、それについて調べる。（3時間）
14	事前学習	レジュメとともに配布される資料に目を通し、特に注意する点や疑問点をリストアップしておく。（1時間）
	授業内容	社会保障政策と他領域の分岐点
	事後学習	これまでの授業での疑問点を整理し、必要であれば教員に提出する。（3時間）
15	事前学習	これまでの授業のレジュメ及び資料を再度確認し、授業の総括に向けて全体像を把握しておく。（1時間）
	授業内容	前期のまとめ・講評 挙げられた質問に対するリプライ・回答
	事後学習	試験に向けて基本的知識について再度確認する。試験用の資料の作成・整理を行う。（3時間）

科目名	社会保障論Ⅱ	担当者	矢野 聡	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	今日のわが国で最も重要な政策項目の一つである社会保障について全体的に学ぶ。社会保障Ⅱでは各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解できるように講義する。				
授業目的・到達目標	学生諸君が、講義が終了するところにはマスメディアや就職試験に頻繁に出てくる医療や年金、雇用・労災、介護・福祉の制度について、難なく理解するだけの知識を修得することを目的とする。各制度、すなわち医療保険、年金、雇用保険、労災制度、介護保険、そして公的扶助制度及び社会福祉サービスについて、その制度を完全に理解し、説明できるようになることを目標とする。本講義に積極的に参加して、水準の高い社会保障の理解を得ていただきたい。 関連CP及びDP：法律学科1, 2 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	学科の別を選ばない。履修を望む者に対しては、それが実現できるようにする。ただ、授業内容の難易度は低くないが、就活や資格試験として一般社会に必要な知識が要求されるので、できる限り早いうちの履修が望ましい。				
授業方法	シラバスに沿って講義形式で行う。教科書は毎週持参のこと。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		80%	期末に行う	
	平 常 評 価		20%	授業参加度（20%）	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019年度	労働調査会	社会保障法令便覧 2018年度版		編集委員長 矢野聡
	備考				
参 考 書	社会福祉士養成講座 『社会保障論』 中央法規出版 2019年 矢野 聡 『日本公的年金政策史研究』 ミネルヴァ書房 2012年				
オフィスアワー	木、金曜日11時30分から13時前まで				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	社会保障各制度の予習をする。日本の公的年金制度について調べる。（2時間）
	授業内容	公的年金制度 国民年金制度、厚生年金制度の仕組み。保険料、財源、給付額その他について。
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）
2	事前学習	企業年金、国民年金基金、民間の個人年金について調べる。（2時間）
	授業内容	公的年金以外の年金制度
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）
3	事前学習	被用者医療保険制度について調べる。（2時間）
	授業内容	健康保険制度（協会けんぽ、健保組合、公務員共済組合）について。保険料、財源、給付額その他について。
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）
4	事前学習	その他の医療保険制度について調べる。（2時間）
	授業内容	国民健康保険制度、後期高齢者医療制度について。保険料、財源、給付額その他について。
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。（2時間）

5	事前学習	労働者災害補償保険(労災保険)制度について調べる。(2時間)
	授業内容	労働者災害補償保険制度の特徴について。保険料、財源、給付額その他について。
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。(2時間)
6	事前学習	雇用保険制度の基本手当制度について調べる。(2時間)
	授業内容	雇用保険制度の失業給付その他の仕組み。保険料、財源、給付額その他について。
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。(2時間)
7	事前学習	雇用保険の失業給付以外の制度について調べる。(2時間)
	授業内容	雇用保険の失業給付以外の各制度について。保険料、財源、給付額その他について。
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。(2時間)
8	事前学習	介護保険制度について調べる。(2時間)
	授業内容	介護保険制度の仕組みと特徴について。保険料、財源、給付額その他について。
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。(2時間)
9	事前学習	公的扶助(生活保護)制度について調べる。(2時間)
	授業内容	生活保護制度について。給付の申請、認定、保護の種類、給付内容等について。
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。(2時間)
10	事前学習	児童手当制度、児童の社会福祉給付制度について調べる。(2時間)
	授業内容	児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当について。保険料、財源、給付額その他について。。
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。(2時間)
11	事前学習	国家予算に占める社会保障の割合、社会保障給付費等について調べる。(2時間)
	授業内容	国家予算に占める社会保障の割合、社会保障給付費、国民医療費等の統計の読み方と年次推移について。
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。(2時間)
12	事前学習	欧米先進国と比較した日本の社会保障の特徴について調べる。(2時間)
	授業内容	江スピン・アンデルセンによる社会保障の分類及びOECD、EU加盟諸国等との国際比較から見たわが国の特徴。
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。(2時間)
13	事前学習	2013年から行われている税・社会保障の一体改革について調べる。(2時間)
	授業内容	政府与党が推進する税・社会保障の一体改革とその特徴について。
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。(2時間)
14	事前学習	労働・雇用と社会保障との関係について調べる。(2時間)
	授業内容	労働・雇用と社会保障との関係と望ましい在り方に関する提言。
	事後学習	配布されたプリントに沿って授業内容を復習し、ノートを作る。(2時間)
15	事前学習	今学期のまとめ。(2時間)
	授業内容	まとめ 日本の社会保障の今日的要件と将来予測
	事後学習	今学期の授業で配布されたプリント、作成したノートをもとに全体をまとめる。(2時間)

科目名	社会保障論Ⅱ	担当者	山村 りつ	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	社会保障とそれに関連する政策に係る現在およびこれまでの日本国内外の状況について、政治的・制度的・理念的観点から捉え、その全体像をつかむとともに、現在の社会保障政策において基礎となる概念と価値観を探究する。				
授業目的・到達目標	授業目的：現在の社会保障政策において基礎となる概念と価値観を養成し、複雑な社会保障政策のいずれか一部にでも興味を持てるようになること、および社会保障を幅広くとらえ、さまざまな分野および活動を社会保障の視点から捉えられようになることを目的とする。 到達目標：①社会保障全体およびいずれかの特定の分野について、社会保障政策の構造を図示できるようになる。DP及びCP：法律学科1,2／②社会保障全体およびいずれかの特定の分野についてその問題点を説明できるようになること。DP及びCP：法律学科1,2／③社会保障制度についての知識を以て、自分の生活における目標を1つ以上設定できるようになること。④社会保障政策の法的根拠について最低限の基礎的理解（どんなイメージか程度でも可）を獲得し自らの糧することについての意欲と意識をもっていること。				
履修条件					
授業方法	講義形式をとるが、学生からの意見や価値観の表明があることを大いに期待する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		60%	通常の試験を行う。	
	平常評価		40%	授業内での参加の状況および、授業後に回収するコメントに対して、内容の妥当性や表現方法の適切さを踏まえた上で評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	なし	なし	なし		なし
	備考	教科書は特に指定しません。			
参考書	特になし。ただし当該授業の参考資料をその前回の授業で随時案内していく。				
オフィスアワー	火曜3限（それ以外は要相談） ※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、自分の身の回りにある社会保障制度をリストアップする。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション・イントロダクション 社会保障論Ⅱとの違いについて
	事後学習	事前にリストアップしたものと、授業で提示されたものの違いを整理し、その理由を考察する。（2時間）
2	事前学習	事前に配布するレジュメおよび資料に目を通し、課題や疑問点をリストアップする。（2時間）
	授業内容	各論①-1：医療保障の方法論
	事後学習	事前の課題や疑問点と授業での学びを比較し、足りない部分について調べる。また自分の生活とのかかわりについて考察をする。（2時間）
3	事前学習	事前に配布するレジュメおよび資料に目を通し、課題や疑問点をリストアップする。（2時間）
	授業内容	各論①-2：医療保障政策
	事後学習	事前の課題や疑問点と授業での学びを比較し、足りない部分について調べる。また自分が実際に係る医療保障政策について説明を文章化する。（2時間）
4	事前学習	事前に配布するレジュメおよび資料に目を通し、課題や疑問点をリストアップする。（2時間）
	授業内容	各論②-1：所得保障の方法論
	事後学習	事前の課題や疑問点と授業での学びを比較し、足りない部分について調べる。また自分の生活とのかかわりについて考察をする。（2時間）

5	事前学習	事前に配布するレジュメおよび資料に目を通し、課題や疑問点をリストアップする。（2時間）
	授業内容	各論②-2: 所得保障政策と公的扶助
	事後学習	事前の課題や疑問点と授業での学びを比較し、足りない部分について調べる。また自分が実際に係る所得保障政策について説明を文章化する。（2時間）
6	事前学習	事前に配布するレジュメおよび資料に目を通し、課題や疑問点をリストアップする。（2時間）
	授業内容	各論②-3：所得保障政策と公的年金制度
	事後学習	事前の課題や疑問点と授業での学びを比較し、足りない部分について調べる。また自分が実際に係る公的年金について説明を文章化する。（2時間）
7	事前学習	事前に配布するレジュメおよび資料に目を通し、課題や疑問点をリストアップする。（2時間）
	授業内容	各論③-1：労働保障の方法論
	事後学習	事前の課題や疑問点と授業での学びを比較し、足りない部分について調べる。また自分の生活とのかかわりについて考察をする。（2時間）
8	事前学習	事前に配布するレジュメおよび資料に目を通し、課題や疑問点をリストアップする。（2時間）
	授業内容	各論③-2：労働保障政策
	事後学習	事前の課題や疑問点と授業での学びを比較し、足りない部分について調べる。また自分が実際に係る労働保障政策について説明を文章化する。（2時間）
9	事前学習	事前に配布するレジュメおよび資料に目を通し、課題や疑問点をリストアップする。（2時間）
	授業内容	各論④：教育の保障
	事後学習	事前の課題や疑問点と授業での学びを比較し、足りない部分について調べる。また自分の生活とのかかわりについて考察をする。（2時間）
10	事前学習	事前に配布するレジュメおよび資料に目を通し、課題や疑問点をリストアップする。（2時間）
	授業内容	各論⑤-1：社会サービス供給の方法論
	事後学習	事前の課題や疑問点と授業での学びを比較し、足りない部分について調べる。また自分の生活とのかかわりについて考察をする。（2時間）
11	事前学習	事前に配布するレジュメおよび資料に目を通し、課題や疑問点をリストアップする。（2時間）
	授業内容	各論⑤-2：社会サービスによる生活保障
	事後学習	事前の課題や疑問点と授業での学びを比較し、足りない部分について調べる。また自分が実際に係る社会サービス給付について説明を文章化する。（2時間）
12	事前学習	事前に配布するレジュメおよび資料に目を通し、課題や疑問点をリストアップする。（2時間）
	授業内容	我が国の社会保障財政
	事後学習	事前の課題や疑問点と授業での学びを比較し、足りない部分について調べる。また社会保障財政が自分の生活に与える影響について考察し、文章化する。（2時間）
13	事前学習	事前に配布するレジュメおよび資料に目を通し、課題や疑問点をリストアップする。（2時間）
	授業内容	社会保障財政における方法論
	事後学習	事前の課題や疑問点と授業での学びを比較し、足りない部分について調べる。また社会保障財政の課題の解決法を考察をする。（2時間）
14	事前学習	事前に配布するレジュメおよび資料に目を通す。（1時間）
	授業内容	社会保障政策の課題
	事後学習	これまでの授業を振り返り、課題や疑問点を整理し、必要であれば教員に提示する。（3時間）
15	事前学習	これまでのレジュメや資料を見直す。（1時間）
	授業内容	後期のまとめと講評 質問や疑問に対するリプライ、回答
	事後学習	試験に向けてこれまでの授業全体を振り返るとともに、試験用の資料の整理・作成を行う。（3時間）

科目名	出版メディア I	担当者	森重 良太	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	出版にまつわる様々な事象を解説し、考えてもらう。毎回、新聞記事などをもとに、大量の情報を提供するので、その中から、自分のテーマを見つけて、あとは自分の力で発展させてほしい。				
授業目的・到達目標	将来、プロの出版編集者、もしくは、出版関連業界（書店、取次、印刷会社など）で生きていける、もしくはその知識を生かして社会人生活をおくる、そのための基本知識を養成することを目的とする。 たとえば書店店頭で、なぜ、いま、このような本が話題なのか、また、そういう本はどのようにしてできたのか、おおよそ、その出自を瞬時に予想できる、そのような「出版物を見通す力」を身につけられることを目標とする。				
履修条件	関連DP及びCP：新聞学科1、2、3。 ①将来、出版関連業界（編集、書店、取次、印刷）に進みたい者、②本がなければ生きていけない「書痴」。それ以外の者、特に月1～2冊程度の読書習慣がないものには、つらいだけなので無理に受講しないでください。				
授業方法	前半は、主に新聞記事（配布します）をもとにした、最近の話題や新刊などについてライブ解説。後半は、出版にまつわる基礎知識。本に興味がないひとには、たいへんつらい授業。課題（下記参照）は、朱字添削を施して返却します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	月に一度（計3本予定）、「課題書評」を提出（書き方は指導し、添削して返却します）。1本でも欠けていたら、評価対象外。遅刻・欠席は減点対象になります。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	『一日一文 英知のことば』（木田元著、岩波文庫）を参照するので、なるべく、毎回、持参すること。				
オフィスアワー	何かあれば、講義内（毎週土曜2限、10：40～12：10）もしくは、なるべく講義開始前に訊いて下さい。わたしは、原則として10：00過ぎには教室に入っています。時間を要しそうな場合は、個別に、あらためて時間設定します。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。 (2時間)
	授業内容	ガイダンスなど。2回目から本格講義に入るので、履修予定者は必ず出席すること。 ※以下はおおよその目安です。毎回、ライブ解説に時間をとられることが多いので、下記のとおりには、まず行きません。書評の書き方、添削指導などは、適宜、行います。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 (2時間)
2	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。 (2時間)
	授業内容	出版業界の現況〜なぜ、本はこんなに売れないのか。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 (2時間)
3	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。 ◆現在読んでいる本を、1冊、持参すること。 (2時間)
	授業内容	本の構造〜なぜ、本は「16頁」の倍数でできているのか。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆書店で、本の「台割」と「奥付」を気にかける。 (2時間)

4	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。 ◆その週の木曜日に発売された「週刊文春」を持参すること。 (2時間)
	授業内容	雑誌の構造～なぜ、週刊誌は、前と後ろにグラビアがあるのか。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆週刊誌と月刊誌の「製本」のちがいを気にかける。 (2時間)
5	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。 (2時間)
	授業内容	戦後の主なベストセラー～なぜ、いまでも昔も、漱石『こころ』が文庫売り上げ第1位なのか。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆いま売れている本の「理由」を気にかける。 (2時間)
6	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。 ◆文庫か新書を、1冊、持参すること。 (2時間)
	授業内容	文庫・新書の歴史～なぜ、書店には、あんなに新書があふれているのか。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆大型書店の新書売り場を、隅々まで眺めてほしい。 (2時間)
7	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。 (2時間)
	授業内容	雑誌の歴史～なぜ、週刊新潮と週刊文春は同じ発売日なのか。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆週刊文春に目を通してほしい。 (2時間)
8	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。 (2時間)
	授業内容	図書館問題～なぜ、人々は本を買わないで、借りるのか。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆身近な公共図書館が、どのような状況になっているかを「体験」してほしい。 (2時間)
9	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。 ◆漫画雑誌、もしくはコミック本を1冊、持参すること。 (2時間)
	授業内容	コミック編集・出版の世界～なぜ、ゴルゴ13の銃口の向きは決まっているのか。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆話題の漫画に目を通してほしい。 (2時間)
10	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。 (2時間)
	授業内容	電子出版、ネット書店について～なぜ、アマゾン送料を取らずにやっていけるのか。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆青空文庫でいいので、一度、「デジタル」で本を読んでみてほしい。 (2時間)
11	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。 (2時間)
	授業内容	取次とは～なぜ、書店で本を注文すると2週間かかるのか。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆ウェブサイトでもいいので、「取次」の業態について知っておいてほしい。 (2時間)
12	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。 (2時間)
	授業内容	出版契約について～なぜ、本は3年たたないと文庫にならないのか。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆所有している「文庫」の、単行本初出時期を気にかけてほしい。 (2時間)

13	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	著作権の話～なぜ、ミッキーマウスの著作権は、いつまでも切れないのか。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆奥付にマルＣ表示がある本とない本があることを、気にかけてほしい。（2時間）
14	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	本の映像化について～なぜ、映画化すると、ほとんどがつまらなくなるのか。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆どんな作品でもいいので、原作（小説）と映画のちがいを、比較してみてほしい。（2時間）
15	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	まとめ。前期中にできなかったテーマは、後期（出版メディアⅡ）で解説する予定です。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。（2時間）

科目名	出版メディアⅡ	担当者	森重 良太	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「出版メディアⅠ」に準ずる。基本的にⅠの延長線上の講義。出版にまつわる様々な事象を解説し、考えてもらう。毎回、新聞記事などをもとに、大量の情報を提供するので、その中から、自分のテーマを見つけて、あとは自分の力で発展させてほしい。			
授業目的・到達目標	「出版メディアⅠ」に準ずる。将来、プロの出版編集者、もしくは、出版関連業界（書店、取次、印刷会社など）で生きていける、もしくはその知識を生かして社会人生活をおくる、そのための基本知識を養成することを目的とする。たとえば書店店頭で、なぜ、いま、このような本が話題なのか、また、そういう本はどのようにしてできたのか、おおよそ、その出自を瞬時に予想できる、そのような「出版物を見通す力」を身につけられることを目標とする。			
履修条件	①「出版メディアⅠ」履修者。②将来、出版関連業界（編集、書店、取次、印刷）に進みたい者、③本がなければ生きていけない「書痴」。			
授業方法	「出版メディアⅠ」に準ずるが、Ⅱでは業界専門紙の記事を配布資料に加え、前半は、ライブ解説。後半は、出版にまつわる基礎知識。Ⅰ同様、課題（下記参照）は、朱字添削を施して返却します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	Ⅰ同様、月に一度（計3本予定）、「課題書評」を提出（書き方は指導し、添削して返却します）。1本でも欠けていたら、評価対象外。遅刻・欠席は減点対象になります。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		
参考書	『一日一文 英知のことば』（木田元著、岩波文庫）を参照するので、なるべく、毎回、持参すること。履修人数にもよるが、自家製サブテキスト配布予定あり。			
オフィスアワー	何かあれば、講義内（毎週土曜2限、10：40～12：10）もしくは、なるべく講義開始前に訊いて下さい。わたしは、原則として10：00過ぎには教室に入っています。時間を要しそうな場合は、個別に、あらためて時間設定します。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	Ⅰに準ずる。前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。 参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。 (2時間)
	授業内容	ガイダンスなど。2回目から本格講義に入るので、履修予定者は必ず出席すること。 ※以下はおおよその目安です。毎回、ライブ解説に時間をとられることが多いので、下記のとおりには、まず行きません。書評の書き方、添削指導などは、適宜、行います。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 (2時間)
2	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。 参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。 (2時間)
	授業内容	新聞の書評欄、そのちがいがい。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆複数の全国紙の書評欄を見比べてほしい。 (2時間)
3	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。 参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。 (2時間)
	授業内容	週刊誌の書評欄、そのちがいがい。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。 ◆1誌でいいので、週刊誌の書評欄をつづけて読んでほしい。 (2時間)

4	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	代表的なネット書評について。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆気に入ったネット書評をブックマークして読む習慣をつけてほしい。（2時間）
5	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	ノーベル文学賞について。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆1作くらいは、ノーベル文学賞受賞作を読んでほしい。（2時間）
6	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	芥川賞、直木賞について。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆1作くらいは、芥川・直木賞受賞作を読んでほしい。（2時間）
7	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	その他の文学賞について。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆講義で紹介した文学賞の受賞作を読んでほしい。（2時間）
8	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	世界最大の古書店街・神保町について。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆実際に神保町を歩いてほしい。（2時間）
9	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	4大ミステリ・ランキングについて。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆ミステリ4冠受賞作を読んでほしい。（2時間）
10	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	出版社が製作した映画について。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆講義で紹介した映画を1作くらいは、観てほしい。（2時間）
11	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	「和本」について。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆神保町の古書店で、実際に「和本」を手にとって見てほしい。（2時間）
12	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	ブック・イベントについて。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆機会があれば、解説したブック・イベントに実際に行ってほしい。（2時間）

13	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	2019年、出版界の出来事、総まとめ。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆来年に影響を及ぼしそうな出来事を、ウォッチしつづけてほしい。（2時間）
14	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	2019年ベストセラー・ランキングの解説。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。 ◆今年のベストセラーから、1冊くらいは読んでほしい。（2時間）
15	事前学習	前週の全国紙から1紙でいいので、「書評」欄に目を通しておくこと（朝日、日経のみ土曜、ほかは日曜）。参考書（上記）から、講義前1週間分の「一日一文」に、ざっと目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	まとめ。
	事後学習	毎回の講義内で知った、あるいは新聞の書評などで知った「本」「雑誌」で興味をもったものが、実際に書店で、どのような形で置かれているかを、気にかける。時々は、購入して読んでほしい。（2時間）

科目名	上級簿記論Ⅰ	担当者	大野 智弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	上級簿記論Ⅰは簿記原理の上位科目である。この授業では、日商簿記検定2級レベルの商業簿記について、その計算原理と記帳技術を講義する。また、財務諸表の作成・公表にかかわるルールについても講義する。授業内では十分な演習時間をとることが難しい。よって、テキストの問題や他の参考書を活用し、授業外でのスキルアップに努めて欲しい。なお、この授業は日商簿記検定の受験に役立つが、合格指導を目的とした授業ではないので注意すること。				
授業目的・到達目標	この授業の目的と到達目標は次の2点である。第1の目的は、日商簿記検定2級レベルの商業簿記について、その計算原理と記帳技術を修得することである。この到達目標は、商業簿記の記帳計算スキルを実践的に活用可能なレベルにまで高めることにある。第2の目的は、財務諸表の作成・公表にかかわるルールを理解・説明できることである。この到達目標は、社会制度に関連させて財務諸表の作成・公表にかかわるルールを理解し、専門用語を適切に用いて説明できるようになることにある。関連DP及びCP：経営法学科 1、2、3、4、5				
履修条件	次の2つを履修条件とする。簿記原理の単位を修得しているか、日商簿記検定3級レベルの学習を一通り終えていること。授業に欠かさず出席し、事前事後の学習に地道に取り組めること。				
授業方法	プリントとテキストを使って講義し、授業中に随時質疑応答を行う。筆記試験を授業内に2回実施し、試験終了後ただちにフィードバック（答えあわせと質疑）を行う。電卓を持参すること。授業内のモバイルの使用は一切禁止する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	試験70%、授業内質疑など授業への参加度30%。ただし、次の場合には単位を認定しない。出席が授業回数の3分の2に満たない場合。授業内でモバイル使用を見かけた場合。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019年4月発行	森山書店	エッセンス簿記会計【第15版】		新田忠誓他著
	備考				
参考書	『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記』TAC出版（本書以外に自分で使用したいもののものがあればそれでも可）				
オフィスアワー	木曜日12:10－12:25、授業講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、日商簿記3級レベルの学習内容について、各自で理解度を確認する。（3時間）
	授業内容	授業概要、目的と目標、履修条件、授業の進め方、成績評価の方法、勉強の進め方について
	事後学習	ガイダンスプリントの内容を読み返し、自分の学習計画とあわせて履修の可否を検討する。（1時間）
2	事前学習	テキスト第4章「簿記の概観」の箇所を読み込む。分からない箇所は事前に調べる。（1.5時間）
	授業内容	簿記の目的と一巡の手続きについて
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、テキストの練習問題を解く。（2.5時間）
3	事前学習	テキスト第20章「決算書の公表」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。（1時間）
	授業内容	会社法と金融商品取引法による財務諸表の開示規則について
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、インターネット等を使って各社の財務諸表を閲覧する。（3時間）
4	事前学習	テキスト第20章「貸借対照表の例示と仕組み」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。（1時間）
	授業内容	報告式の区分貸借対照表の様式と仕組みについて
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、実際の貸借対照表を閲覧、各社の比較をする。（3時間）

5	事前学習	テキスト第20章「損益計算書の例示と仕組み」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。（1時間）
	授業内容	報告式の区分損益計算書の様式と仕組みについて
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、実際の損益計算書を閲覧、各社の比較をする。（3時間）
6	事前学習	第4回と第5回の授業プリントとテキストを確認しながら、報告式の区分貸借対照表と区分損益計算書の計算内容を予習する。（1.5時間）
	授業内容	報告式の区分貸借対照表と区分損益計算書の作成について
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、報告式の区分貸借対照表と区分損益計算書を作成できるように練習する。（2.5時間）
7	事前学習	第2回から第6回までの授業プリントとテキストを総復習し試験に備える。（3時間）
	授業内容	試験及び解答と質疑
	事後学習	間違えた箇所を授業プリントとテキストに戻って確認する。（1時間）
8	事前学習	テキスト第6章「売上原価・売上総利益の計算」と「棚卸減耗費と商品評価損」に関する箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。（1時間）
	授業内容	棚卸減耗費と商品評価損を含む売上原価・売上総利益の計算原理について
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブックと例題を解く。（3時間）
9	事前学習	テキスト第6章「消費税の処理」に関する箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。（1時間）
	授業内容	棚卸減耗費と商品評価損を含む売上原価・売上総利益の計算と財務諸表について、消費税の処理について
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。（3時間）
10	事前学習	テキスト第8章「掛取引の記録と管理」と第7章「商品保証引当金」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。（1時間）
	授業内容	貸倒れの処理と貸倒引当金について、商品保証引当金とその他の負債性引当金について
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。（3時間）
11	事前学習	テキスト第9章「手形取引の記録と資金の管理」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。（1時間）
	授業内容	手形の意義と取引の記録、手形の不渡り、手形の更改について
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。（3時間）
12	事前学習	テキストにて第10章「電子記録債権債務」と第19章「海外取引」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。（1時間）
	授業内容	電子記録債権債務の取引の仕組みと記録について、外貨取引の処理について
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。（3時間）
13	事前学習	テキスト第10章「銀行勘定調整表」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。（1時間）
	授業内容	銀行勘定調整表の意義と作成について
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。（3時間）
14	事前学習	第8回から第13回までの授業プリントとテキストを総復習し試験に備える。（3時間）
	授業内容	試験及び解答と質疑
	事後学習	間違えた箇所を授業プリントとテキストに戻って確認する。（1時間）
15	事前学習	2回の試験結果を踏まえて補足が必要な論点をみつけ、その箇所を学習する。（3時間）
	授業内容	補足すべき論点を再確認する
	事後学習	授業プリントとテキストを使って補足した論点について復習する。（1時間）

科目名	上級簿記論Ⅱ	担当者	大野 智弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	上級簿記論Ⅱは簿記原理と上級簿記論Ⅰの上位科目である。この授業では、上級簿記論Ⅰに引続き、日商簿記検定2級レベルの商業簿記について、その計算原理と記帳技術を講義するほか、決算に関する内容を講義する。授業内では十分な演習時間をとることが難しい。よって、テキストの問題や他の参考書を活用し、授業外でのスキルアップに努めて欲しい。なお、この授業は日商簿記検定の受験に役立つが、合格指導を目的とした授業ではないので注意すること。			
授業目的・到達目標	この授業の目的と到達目標は次の2点である。第一の目的は、日商簿記検定2級レベルの商業簿記について、その計算原理と記帳技術を修得することである。この到達目標は、商業簿記の記帳計算スキルを実践的に活用可能なレベルにまで高めることにある。第2の目的は、一連の決算整理手続きについて理解を深め、財務諸表を作成できるようになることである。この到達目標では、特に八桁精算表から財務諸表の作成に至る手続きを正確かつスピーディーに行えるようになることにある。関連DP及びCP：経営法学科 1、2、3、4、5			
履修条件	次の2つを履修条件とする。簿記原理の単位を修得しているか、日商簿記検定3級レベルの学習を一通り終えていること。授業に欠かさず出席し、事前事後学習に地道に取り組めること。			
授業方法	プリントとテキストを使って講義し、授業中に随時質疑応答を行う。筆記試験を授業内に2回実施し、試験終了後直ちにフィードバック（答え合わせと質疑）を行う。電卓を持参すること。授業内のモバイルの使用は一切禁止する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	試験70%、授業内質疑など授業への参加度30%。ただし、次の場合には、単位を認定しない。出席が授業回数の3分の2に満たない場合。授業内でモバイル使用を見かけた場合。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年4月発行	森山書店	エッセンス簿記会計【第15版】	新田忠誓他著
	備考			
参考書	『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記』TAC出版（本書以外に自分で使用したいものがあればそれでも可）			
オフィスアワー	木曜日12：10－12：25、授業講堂にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、日商簿記3級レベルの学習内容について、各自で理解度を確認する。また、上級簿記論Ⅰのシラバスにて、すでに学習し終えたテーマを確認する。（3時間）
	授業内容	授業概要、目的と目標、履修条件、授業の進め方、成績評価の方法、勉強の進め方について
	事後学習	ガイダンスプリントの内容を読み返し、自分の学習進度及び学習計画とあわせて履修の可否を検討する。（1時間）
2	事前学習	テキスト第20章「貸借対照表の例示と仕組み」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。（1時間）
	授業内容	貸借対照表の様式と内容及び純資産の部の詳細について
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、実際の貸借対照表を閲覧、各社の比較をする。（3時間）
3	事前学習	テキスト第3章「会社を作る」と第13章「増資」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。（1.5時間）
	授業内容	株式の発行とその処理について
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。（2.5時間）
4	事前学習	「繰延資産」と「合併」に関する簿記処理について参考書を活用して予習する。（1.5時間）
	授業内容	繰延資産と合併の処理について
	事後学習	授業プリントと参考書で復習し、参考書の練習問題を解く（2.5時間）

5	事前学習	テキスト第15章「損益勘定」と第17章「繰越利益剰余金」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。（1.5時間）
	授業内容	当期純利益の計算と利益処分に関する処理について
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブックと例題を解く。（2.5時間）
6	事前学習	テキスト第17章「株主資本等変動計算書」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。（2時間）
	授業内容	株主資本等変動計算書の作成について
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、テキストの練習問題を解く。（2時間）
7	事前学習	第2回から第6回までの授業プリントとテキスト及び参考書を総復習し試験に備える。（3時間）
	授業内容	試験及び解答と質疑
	事後学習	間違えた箇所を授業プリントとテキスト及び参考書に戻って確認する。（1時間）
8	事前学習	テキスト第13章「社債」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。（1.5時間）
	授業内容	社債の発行から償還に至る一連の処理について
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。（2.5時間）
9	事前学習	テキスト第14章「有価証券」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。（1.5時間）
	授業内容	有価証券の分類と各種有価証券の処理について
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。（2.5時間）
10	事前学習	テキスト第12章「固定資産」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。（1時間）
	授業内容	固定資産に関する一連の処理について
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブック、例題及び練習問題を解く。（3時間）
11	事前学習	テキスト第15章「棚卸表の作成と決算整理」の箇所を読み込む。決算整理に関する箇所をテキストをもとに整理する。（2時間）
	授業内容	決算整理事項と決算整理仕訳について
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、決算整理に関するテキストの例題及び練習問題を解く。（2時間）
12	事前学習	テキスト第15章「精算表の作成」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。（0.5時間）
	授業内容	八桁精算表の作成について
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、テキストのワークブックと練習問題を解く。さらに参考書を活用して問題演習をする。（3.5時間）
13	事前学習	テキスト第20章「貸借対照表と損益計算書の例示と仕組み」の箇所を読み込む。わからない箇所は事前に調べる。（0.5時間）
	授業内容	決算整理を通じて財務諸表を作成する手続きについて
	事後学習	授業プリントとテキストを復習し、参考書を活用して問題演習をする。（3.5時間）
14	事前学習	第8回から第13回までの授業プリントとテキスト及び参考書を総復習し試験に備える。（3時間）
	授業内容	試験及び解答と質疑
	事後学習	間違えた箇所を授業プリントとテキストに戻って確認する。（1時間）
15	事前学習	2回の試験結果を踏まえて補足が必要な論点をみつけ、その箇所を学習する。（3時間）
	授業内容	補足すべき論点を再確認する
	事後学習	授業プリントとテキストを使って補足した論点について復習する。（1時間）

科目名	少年法 I	担当者	尾田 清貴	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	刑法犯に占める少年の割合が半数余にのぼる今、少年事件がどの様に処理されているかについて、少年法の理念や目的を概観しつつ、刑事司法との関係についてその異同を正しく理解するために、比較法的な視点を踏まえて学習を進める。			
授業目的・到達目標	【授業目的】少年法は、刑事訴訟法の特別法という側面と少年の保護・教育を図るという機能を有していることを踏まえつつ、犯罪（非行）を犯した少年が被害者や地域社会との関係改善をどの様に進めることが、少年の改善に繋がるのかを考えることを目的とする。 【到達目標】少年法を、少年司法手続と刑事司法手続の比較を通して理解することにより、何故その様な取扱いが必要なのかを知る。また、比較法的な観点で講義が進むので、国によって法制度の差を理解し、説明できるようにすることを目標とする。関連DP及びCP:法律学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	刑事訴訟法を履修していることが望ましい。			
授業方法	教科書は事前に読んでいることを前提にし、適宜、ディベートを行う。また資料配付は随時行う。少年司法機関の職員荷による講義や施設見学の機会も考慮する。レポートは添削して返却し、定期試験後にチャレンジの機会を与える。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		80%	論文試験（80点）と書き取り試験（20点）で緒子にうが、授業内容に依拠して行い、基本的な概念の理解を踏まえ、自説展開能力が備わっているかが評価の対象となる。
	平常評価		20%	課題レポートの対象となるディベートが実施され、その際出席していないと課題レポートは受理しない。課題レポートは、1回実施する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015	有斐閣	少年法入門（第6版）	
	備考			
参考書	『少年法判例百選』有斐閣、平成30年版犯罪白書・警察白書（当方で必要箇所コピー配布）			
オフィスアワー	土曜日14:40～15:30に本館9階1904号室で実施する。 ただし、メールで事前予約することが望ましい。oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の該当箇所を読む（2時間）
	授業内容	少年法とは（歴史を含む）
	事後学習	刑事訴訟法との異同箇所を整理する（2時間）
2	事前学習	警察白書を読んだり、警察庁のHPで調べておく（2時間）
	授業内容	少年非行の現状
	事後学習	昭和23年以降現在までの傾向をまとめる（2時間）
3	事前学習	教科書の該当箇所を読む（2時間）
	授業内容	非行少年とは（不良行為少年を含む）
	事後学習	刑事上未成年を含む、少年関連年齢についてまとめる（2時間）
4	事前学習	どの範囲の専門家・非専門家が関与するかイメージしてみる（2時間）
	授業内容	少年司法手続に関わる人々
	事後学習	非行（犯罪）の発生から処遇までに関わる人について、区分してみる（2時間）

5	事前学習	犯罪白書の概略図や裁判所のHPを見ておく（2時間）
	授業内容	少年審判と刑事裁判の異同について
	事後学習	配付資料に加筆しておく（2時間）
6	事前学習	現行少年法の母法であるイギリス・アメリカの少年法について調べてみる（2時間）
	授業内容	アメリカ・イギリスの少年司法との異同
	事後学習	現行法との違いについて、何故その様な運用になっているのか考えてみる（2時間）
7	事前学習	教科書の該当箇所や警察庁のHPを読む（2時間）
	授業内容	少年警察の現状と課題
	事後学習	健全育成と事件処理についてまとめる（2時間）
8	事前学習	教科書の該当箇所や検察庁のHPを読む（2時間）
	授業内容	少年検察の現状と課題
	事後学習	検察官の役割と機能についてまとめる（2時間）
9	事前学習	教科書・刑法Ⅰの該当箇所を読む、また、ぐ犯とは何か考えてみよう（2時間）
	授業内容	触法少年と虞犯少年の処遇
	事後学習	児童福祉上の措置と少年法上の措置の異同についてまとめる（2時間）
10	事前学習	教科書の該当箇所を読み、通常の裁判所との異同について調べてみよう（2時間）
	授業内容	家庭裁判所の機能と役割
	事後学習	他の第一審裁判所との異同についてまとめる（2時間）
11	事前学習	教科書の該当箇所を読む（2時間）
	授業内容	家庭裁判所調査官の機能と役割
	事後学習	家庭裁判所調査官になるためにはどうすれば良いか調べてみる（2時間）
12	事前学習	教科書の該当箇所を読み、どんな種類があるか調べてみよう（2時間）
	授業内容	試験観察とParental Order
	事後学習	家庭裁判所の教育的機能についてまとめる（2時間）
13	事前学習	教科書の該当箇所・法務省のHPを読む（2時間）
	授業内容	少年鑑別所と観護措置
	事後学習	役割と機能についてまとめる（2時間）
14	事前学習	教科書の該当箇所を読み、職権主義構造と当事者主義構造の違いについて調べてみよう（2時間）
	授業内容	少年審判の構造と役割
	事後学習	刑事司法と少年審判廷差異についてまとめる（2時間）
15	事前学習	教科書の該当箇所、刑事訴訟法・憲法の教科書を読む（2時間）
	授業内容	少年審判と適正手続
	事後学習	適正手続がどこまで認められるのかまとめる（2時間）

科目名	少年法Ⅱ	担当者	尾田 清貴	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	家庭裁判所における終局決定後の保護処分や刑事処分の現状、及び少年による各種事案毎の概要と対応について概観しつつ、少年法の理念がどの様に反映されているかについて、比較法的な視点も踏まえて学習を進める。				
授業目的・到達目標	【授業目的】少年法の理念を踏まえた保護処分や刑事処分の現状を理解し、少年犯罪の代表的な類型についてどのような対策が取られているのか、その現状と課題について学ぶことを目的とする。 【授業目標】犯罪（非行）を犯した少年が被害者や地域社会との関係改善をどの様に進めることが、少年の更生と社会復帰に繋がるのかを刑事司法手続との比較を通して理解することにより、何故その様な取扱いが必要なのかを説明できるようにすることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4 また、比較法的な観点で講義が進むので、国によって法制度の差違を知ることができる。				
履修条件	刑事訴訟法を履修していることが望ましい。				
授業方法	教科書や参考書を事前に読んでいることを前提に、ディベートも実施する。適宜資料を配付し、少年司法機関職員の講義や施設見学も考慮する。レポートは添削して返還し、定期試験終了後にチャレンジの機会を与える。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	論文試験（80点）と書き取り試験（20点）で行うが、授業内容に依拠して行い、基本的な概念の理解を踏まえ、自説展開能力が備わっているかが評価の対象となる。	
	平常評価		20%	課題レポートの対象となるディベートが実施され、その際出席していないと課題レポートは受理しない。課題レポートは、1回実施する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2015	有斐閣		少年法入門（第6版）	澤登俊雄
	備考				
参考書	『少年法判例百選』有斐閣、平成30年版犯罪白書・警察白書（当方で必要箇所コピー配布）				
オフィスアワー	土曜日14:40～15:30に本館9階1904号室で実施する。 ただし、メールで事前予約することが望ましい。oda.kiyotaka@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の該当箇所を読む（2時間）
	授業内容	審判不開始と不処分
	事後学習	不起訴処分と無罪との差異についてまとめる（2時間）
2	事前学習	教科書の該当箇所を読むとともに、犯罪白書や法務省のHPで調べてみる（2時間）
	授業内容	保護観察（一号観察）
	事後学習	課題と対策について考えてみる（2時間）
3	事前学習	教科書の該当箇所を読むとともに、犯罪白書や法務省のHPで調べてみる（2時間）
	授業内容	少年院送致と少年院における教育
	事後学習	少年院の種類と処遇内容の違いについて、教育内容を踏まえて整理してみる（2時間）
4	事前学習	教科書の該当箇所を読み、犯罪白書や法務省のHPでしらべてみる（2時間）
	授業内容	保護観察（二号観察）
	事後学習	遵守事項とそのペナルティーについてまとめる。二重処罰の禁止に抵触しないか考えてみる（2時間）

5	事前学習	教科書の該当箇所を読み、児童相談所における触法少年への対応について調べておく（2時間）
	授業内容	児童福祉法上の措置
	事後学習	処遇内容についてまとめる（2時間）
6	事前学習	教科書の該当箇所を読むとともに、犯罪白書・裁判所のHPで調べてみる（2時間）
	授業内容	検察官送致と刑事処分（裁判員裁判を含む）
	事後学習	原則逆送と逆送の違いについて整理してみる（2時間）
7	事前学習	修復的司法について調べておく（2時間）
	授業内容	少年事件と修復的司法
	事後学習	少年事件にどの様に反映可能か考えてみる（2時間）
8	事前学習	加害者が成人である場合と少年である場合で、被害者の権利や保護の内容に違いがあるのか考えておく（2時間）
	授業内容	少年事件と被害者の権利・保護
	事後学習	配付資料に加筆して、まとめる（2時間）
9	事前学習	webで調べてみる（2時間）
	授業内容	Teen Court
	事後学習	わが国への導入の可否についてレポートにまとめて、翌週提出（2時間）
10	事前学習	教科書の該当箇所を読み、新聞記事検索でしらべてみる（2時間）
	授業内容	少年事件報道
	事後学習	少年法 6 1 条の意義と射程距離についてまとめる（2時間）
11	事前学習	教科書の該当箇所・警察庁のHPを確認しておく（2時間）
	授業内容	福祉犯と児童虐待
	事後学習	防ぐ方法について考えてみる（2時間）
12	事前学習	教科書の該当箇所を読む（2時間）
	授業内容	非行原因論
	事後学習	実際に発生している少年事件に当てはめてみる（2時間）
13	事前学習	教科書の該当箇所や犯罪白書・警察白書を調べる（2時間）
	授業内容	薬物非行とDrug Court
	事後学習	Drug Courtは、日本に導入できるか考えてみる（2時間）
14	事前学習	警察白書・警察庁のHPで現状を調べる（2時間）
	授業内容	性非行
	事後学習	対策についてまとめる（2時間）
15	事前学習	警察白書で現状を調べる（2時間）
	授業内容	交通非行とTraffic Court
	事後学習	Traffic Courtは、日本でも使えるか考えてみる（2時間）

科目名	商法Ⅰ（会社法）	担当者	梅村 悠	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	共同企業の中で支配的地位を占めている会社（とくに株式会社）の組織や運営に関するルールを定める「会社の基本法」である会社法について講義する。			
授業目的・到達目標	会社法に関する問題解決能力を養成することを目的とする。 会社法に関する重要かつ基本的な論点について、理解し、適切に説明できるようになることを目標とする。 対応DP及びCP:法律学科1, 3, 5、政治経済学科2、新聞学科1, 5、経営法学科1, 3, 5、公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	「法人」に関する特別ルールを勉強することになるため、少なくとも「民法Ⅰ（民法総則）」を履修済みであることを必要とする。			
授業方法	講義形式で実施するが、適宜、受講者に対して、授業参加を求める。また、毎回、授業時に質問（リクエスト）用紙を配布し、次週の授業時に回答する（可能な限り、学生からのフィードバックを授業に反映させる）。			
成績評価	種別		割合	
	定期試験		100%	
	平常評価		試験（正誤問題及び記述問題）の成績に基づいて評価する。なお、受講生の人数によっては、評価方法を変更する場合もあり得る（詳細は初回のガイダンス時に説明する）。 授業参加をした場合は加点事由として考慮する（授業参加以外に加点事由は考えていないので、就職活動等で授業に出席できない学生（特に4年生）は十分注意すること）。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015	中央経済社	会社法講義30講	松島隆弘（編）
	備考			
参考書	岩原伸作ほか（編）『会社法判例百選（第3版）』（有斐閣、2016年）			
オフィスアワー	授業後木曜10:30～ 質問を受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	会社の意義と会社法の目的 ※なお、授業内容は、受講生の理解度等に応じて（フィードバックの結果を踏まえて）、適宜変更する可能性がある ので、注意されたい（以下、2回目以降も同様）。
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
2	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	会社の能力
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
3	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	会社の法人格、法人格否認の法理
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
4	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式と有限責任
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）

5	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の資金調達 1
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
6	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の資金調達 2
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
7	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の資金調達 3
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
8	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の資金調達 4
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
9	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の資金調達 5
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
10	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の資金調達 6
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
11	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の資金調達 7
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
12	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の資金調達 8
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
13	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の機関構造 1
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
14	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の機関構造 2
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
15	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の機関構造 3
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
16	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の機関構造 4
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）

17	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の機関構造 5
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
18	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の機関構造 6
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
19	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の機関構造 7
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
20	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の機関構造 8
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
21	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の機関構造 9
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
22	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の機関構造 1 0
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
23	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の機関構造 1 1
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
24	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の機関構造 1 2
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
25	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	資本制度と会社の計算
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
26	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の設立 1
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
27	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	株式会社の設立 2
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
28	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	持分会社の法規制
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）

29	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	組織再編 1
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）
30	事前学習	テキストの該当部分を予め読んでおくこと（2時間）
	授業内容	組織再編 2
	事後学習	授業中に指摘したポイントを中心に、復習をすること（2時間）

科目名	商法 I（会社法）	担当者	大久保 拓也	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	-----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識の習得を目的とする。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17年に全面改正（平成18年5月1日施行）され、平成26年に重要な改正がなされた（平成27年5月1日施行）。同法は実務に与える影響が大きく、その内容を知っておく必要性が高い。本講義では、これら会社に関する法規制の理解を目的とした授業を行う。				
授業目的・到達目標	会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点の修得を目的とする。会社法は技術的で理解が難しい制度が多いので、この授業を通じて会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点について理解し、さらに会社法上の基本問題について、受講生が説明できるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考力を習得できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1、3、5 政治経済学科2 新聞学科1、5 経営法学科1、3、5 公共政策学科1、3、4				
履修条件	継続的に授業に出席し、予習・復習を行う者。				
授業方法	会社法の基本問題を講義形式で解説する。各種資格試験の過去の問題等も教材とし、授業中に解説する。ポータルシステムを利用して解説や講評を配信する場合もある。講義の進捗に合わせてシラバスの内容を変更することがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	会社法の基本問題について、論理的な解答を記述できたかどうかを判定する。講義中に示した基本事項について十分理解しておくこと。	
	平常評価		20%	授業への参加度等の平常の講義への取り組みや、授業中何度か実施する小テストの評価を加味した総合評価を行う。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2015	中央経済社		会社法講義30講	松嶋隆弘編著
	備考	六法を持参すること（民法（債権関係）、（相続関係）改正、商法（運送法等）が成立したため、最新版（2019(平成31)年版）が望ましい）			
参考書	『会社法判例百選（第3版）』岩原紳作ほか編（有斐閣、2016年）。その他必要に応じて資料を配付する。				
オフィスアワー	火曜 5 時限。事前にメールでアポイントメントをとること オフィス 研究室（9号館2階9204）ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、教科書の冒頭にある説明を読み、講義全体を概観する。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス。授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的にできるようにする。 なお、受講生と適宜相談の上決めるため、下記の授業内容は変更する場合がある。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
2	事前学習	テキストの予習（「第1講 会社の意義と会社法の目的」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第1講 会社の意義と会社法の目的」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第1講）。（2時間）
3	事前学習	テキストの予習（「第2講 会社の能力」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第2講 会社の能力」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第2講）。（2時間）
4	事前学習	テキストの予習（「第3講 会社の法人格、法人格否認の法理」「第4講 株式と有限責任」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第3講 会社の法人格、法人格否認の法理」「第4講 株式と有限責任」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第3講・第4講）。（2時間）

5	事前学習	テキストの予習（「第5講 株式会社の資金調達1:株主平等の原則とその例外」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第5講 株式会社の資金調達1:株主平等の原則とその例外」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第5講）。（2時間）
6	事前学習	テキストの予習（「第6講 株式会社の資金調達2:種類株式」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第6講 株式会社の資金調達2:種類株式」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第6講）。（2時間）
7	事前学習	テキストの予習（「第7講 株式会社の資金調達3:新株発行の手続き」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第7講 株式会社の資金調達3:新株発行の手続き」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第7講）。（2時間）
8	事前学習	テキストの予習（「第8講 株式会社の資金調達4:新株発行の差止め、無効、不存在」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第8講 株式会社の資金調達4:新株発行の差止め、無効、不存在」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第8講）。（2時間）
9	事前学習	テキストの予習（「第9講 株式会社の資金調達5:株式譲渡」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第9講 株式会社の資金調達5:株式譲渡」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第9講）。（2時間）
10	事前学習	テキストの予習（「第10講 株式会社の資金調達6:自己株式」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第10講 株式会社の資金調達6:自己株式」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第10講）。（2時間）
11	事前学習	テキストの予習（「第11講 株式会社の資金調達7:株式の分割、併合等」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第11講 株式会社の資金調達7:株式の分割、併合等」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第11講）。（2時間）
12	事前学習	テキストの予習（「第12講 株式会社の資金調達8:社債の概要」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第12講 株式会社の資金調達8:社債の概要」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第12講）。（2時間）
13	事前学習	テキストの予習（「第13講 株式会社の機関構造1:機関総論、株主総会運営の手続」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第13講 株式会社の機関構造1:機関総論、株主総会運営の手続」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第13講）。（2時間）
14	事前学習	テキストの予習（「第14講 株式会社の機関構造2:説明義務、株主提案権」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第14講 株式会社の機関構造2:説明義務、株主提案権」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第14講）。（2時間）
15	事前学習	テキストの予習（「第15講 株式会社の機関構造3:株主総会決議の瑕疵」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第15講 株式会社の機関構造3:株主総会決議の瑕疵」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第15講）。（2時間）

16	事前学習	テキストの予習（「第16講 株式会社の機関構造4：役員の選任・解任手続」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第16講 株式会社の機関構造4：役員の選任・解任手続」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第16講）。（2時間）
17	事前学習	テキストの予習（「第17講 株式会社の機関構造5：競業取引と利益相反取引」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第17講 株式会社の機関構造5：競業取引と利益相反取引」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第17講）。（2時間）
18	事前学習	テキストの予習（「第18講 株式会社の機関構造6：善管注意義務と忠実義務～経営判断と内部統制」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第18講 株式会社の機関構造6：善管注意義務と忠実義務～経営判断と内部統制」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第18講）。（2時間）
19	事前学習	テキストの予習（「第19講 株式会社の機関構造7：取締役会設置会社における取締役と取締役会の役割」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第19講 株式会社の機関構造7：取締役会設置会社における取締役と取締役会の役割」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第19講）。（2時間）
20	事前学習	テキストの予習（「第20講 株式会社の機関構造8：報酬規制」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第20講 株式会社の機関構造8：報酬規制」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第20講）。（2時間）
21	事前学習	テキストの予習（「第21講 株式会社の機関構造9：指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社の構造、検査役」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第21講 株式会社の機関構造9：指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社の構造、検査役」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第21講）。（2時間）
22	事前学習	テキストの予習（「第22講 株式会社の機関構造10：取締役の対会社責任と株主代表訴訟」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第22講 株式会社の機関構造10：取締役の対会社責任と株主代表訴訟」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第22講）。（2時間）
23	事前学習	テキストの予習（「第23講 株式会社の機関構造11：取締役の対第三者責任」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第23講 株式会社の機関構造11：取締役の対第三者責任」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第23講）。（2時間）
24	事前学習	テキストの予習（「第24講 株式会社の機関構造12：監査役、監査役会、会計監査人、会計参与」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第24講 株式会社の機関構造12：監査役、監査役会、会計監査人、会計参与」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第24講）。（2時間）
25	事前学習	テキストの予習（「第25講 資本制度と会社の計算」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第25講 資本制度と会社の計算」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第25講）。（2時間）
26	事前学習	テキストの予習（「第26講 株式会社の設立1：設立手続の概要、発起人の権限」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第26講 株式会社の設立1：設立手続の概要、発起人の権限」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第26講）。（2時間）

27	事前学習	テキストの予習（「第27講 株式会社の設立2:払込の手続と仮装払込」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第27講 株式会社の設立2:払込の手続と仮装払込」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第27講）。（2時間）
28	事前学習	テキストの予習（「第28講 持分会社の法規制」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第28講 持分会社の法規制」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第28講）。（2時間）
29	事前学習	テキストの予習（「第29講 組織再編1: 合併と分割、事業譲渡」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第29講 組織再編1: 合併と分割、事業譲渡」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第29講）。（2時間）
30	事前学習	テキストの予習（「第30講 組織再編2: 合併と分割、事業譲渡」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第30講 組織再編2: 合併と分割、事業譲渡」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。講義のまとめと復習をする。
	事後学習	p講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第30講）。授業で取り扱った重要論点を全体的に復習する。（2時間）

科目名	商法Ⅰ（会社法）	担当者	小野寺 千世	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
-----	----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	平成17年に大改正され、平成26年にも改正された会社法について概観する。 本講義では、会社の種類の中でも、主として株式会社に關する法律の基本的知識、具体的には、株式の概念と機能、株式会社の経営機構、会社の資金調達等について学習する。							
授業目的・到達目標	会社法に關する基礎的知識を修得することを目的とする。 本講義を通じて、基礎的意義としての、会社とは、株式とは、会社はどのように運営されているか等を理解し、説明できるとともに、その実際の意義の理解を深めることを目標とする。 関連D P 及びC P：法律学科1, 3, 5 政治経済学科2 新聞学科1, 5 経営法学科1, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4							
履修条件	2・3・4年次を対象とする。							
授業方法	講義形式で行う。必要に応じて講義に關連する資料を配布する。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定 期 試 験		100%		基礎的知識の習得度を評価する。			
	平 常 評 価		0%					
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	2017年		中央経済社		会社法講義30講		松嶋隆弘編	
	備考							
参 考 書	岩原紳作ほか編『会社法判例百選第3版』（有斐閣）							
オフィスアワー	火曜日12:20～13:00研究室にて（事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（9号館3階 9308号室） メールアドレス：onodera.chise@nihon-u.ac.jp							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 会社法とは
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
2	事前学習	教科書第2講を読み、社団とは何か、法人とは何かを確認しておく。（2時間）
	授業内容	会社の意義：会社の性質
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
3	事前学習	教科書第3講を読み、法人格否認の法理に關する判例を確認しておく。（2時間）
	授業内容	会社の法人格、法人格否認の法理
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
4	事前学習	教科書第4講、第5講を読み、株式の法的意義を考察する。（2時間）
	授業内容	株式の意義、株主平等原則
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）

5	事前学習	教科書第6講を読み、株式の内容について考察する。（2時間）
	授業内容	株式の内容、種類株式
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
6	事前学習	教科書第7講を読み、株式の発行手続きについて考察する。（2時間）
	授業内容	新株発行の手続き等
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
7	事前学習	教科書第8講を読み、株式発行の瑕疵に関する考察をする。（2時間）
	授業内容	募集株式発行の差止め、無効、不存在
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
8	事前学習	教科書第9講を読み、株主の変更について考察する。（2時間）
	授業内容	株式譲渡自由の原則、その例外
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
9	事前学習	教科書第10講を読み、自己株式の取得が規制される背景を考察する。（2時間）
	授業内容	自己株式の取得規制
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
10	事前学習	教科書第11講を読み、株式数に係る制度を考察する。（2時間）
	授業内容	株式の分割、併合等
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
11	事前学習	教科書第12講を読み、資金調達について考察する。（2時間）
	授業内容	新株予約権・社債発行による資金調達
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
12	事前学習	教科書第9講を読み、会社における株主としての権利行使のための制度を考察する。（2時間）
	授業内容	株主名簿制度
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
13	事前学習	教科書第13講を読み、株主総会という機関の意義、手続きを考察する。（2時間）
	授業内容	機関総論：株式会社の機関設計 株主総会の意義、招集
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
14	事前学習	教科書第14講を読み、株主総会における議決権に関して考察する。（2時間）
	授業内容	株主総会における株主の権利：株主総会における議決権等
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
15	事前学習	教科書第15講を読み、株主総会における決議に関して考察する。（2時間）
	授業内容	株主総会の決議：普通決議、特別決議、特殊な決議 株主総会決議の瑕疵
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
16	事前学習	教科書第16講を読み、取締役、取締役会という機関について考察する。（2時間）
	授業内容	取締役、取締役会の意義
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）

17	事前学習	教科書第19講を読み、取締役会における議決権、決議等について考察する。（2時間）
	授業内容	取締役会における議決権、決議
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
18	事前学習	教科書第19講を読み、代表取締役の代表権について考察する。（2時間）
	授業内容	代表取締役の意義
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
19	事前学習	教科書第17講を読み、役員の義務、一般的な義務に関して考察する。（2時間）
	授業内容	役員の義務：一般的義務 善管注意義務等
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
20	事前学習	教科書第18講を読み、役員の特別な義務に関して考察する。（2時間）
	授業内容	役員の義務：特別の義務 競業避止義務、利益相反取引における義務
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
21	事前学習	教科書第20講を読み、役員の報酬に関して考察する。（2時間）
	授業内容	役員の報酬規制
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
22	事前学習	教科書第22講を読み、役員の会社に対する責任について考察する。（2時間）
	授業内容	役員の責任：会社に対する責任
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
23	事前学習	教科書第22講を読み、株主が役員の会社に対する責任を追及する代表訴訟に関して考察する。（2時間）
	授業内容	株主代表訴訟
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
24	事前学習	教科書第23講を読み、役員の第三者に対する責任に関して考察する。（2時間）
	授業内容	役員の責任：第三者に対する責任
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
25	事前学習	教科書第24講を読み、監査役・監査役会、会計監査人に関して考察する。（2時間）
	授業内容	監査役・監査役会、会計監査人 員数、任期、選任・終任、資格等
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
26	事前学習	教科書第21講を読み、監査役会設置会社以外の機関設計に関して考察する。（2時間）
	授業内容	指名委員会設置会社、監査等委員会設置会社、会計参与
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
27	事前学習	教科書第26講、第27講を読み、会社の設立に関して考察する。（2時間）
	授業内容	会社の設立：発起設立、募集設立
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
28	事前学習	教科書第29講を読み、組織再編のうち、組織変更、合併について考察する。（2時間）
	授業内容	組織再編(1)：組織変更、合併（新設合併、吸収合併）
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）

29	事前学習	教科書第30講を読み、組織変更のうち、会社分割、株式交換・株式移転について考察する。（2時間）
	授業内容	組織再編(2)：会社分割、株式交換・株式移転
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
30	事前学習	これまでのノート等を確認。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	定期試験の準備。（2時間）

科目名	商法 I（会社法）	担当者	南 健悟	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	4
-----	-----------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この講義では会社法について扱う。現代の経済社会において、欠かすことのできない会社制度について、法的な側面から説明を行い、会社法の全体像及び法的論点について解説する。会社法は多くの利害関係者の利害を調整する法的仕組みを用意している。より具体的には、会社の法的意義、機関構造、設立手続、M&A等に関わる法的諸問題について講義を行う。				
授業目的・到達目標	この講義では、株式会社にまつわる法的紛争について、条文や判例・学説に従って解決する能力を養成することを目的とする。したがって、この講義において、受講生は、株式会社に関する法的諸問題について、条文や判例・学説を駆使し、当該法的諸問題に対して、どのように考えればよいのか、どのように解決すればよいのかについて理解し、それを適切に説明できるようになることを目標とする。対応DP及びCP:法律学科1, 3, 5、政治経済学科2、新聞学科1, 5、経営法学科1, 3, 5、公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	特になし				
授業方法	基本的にはレジュメ等を配布した講義形式によるが、場合によっては、事前の予習を踏まえての積極的な発言を求めることがある。なお、定期試験の解答・解説について、後日、ポータルシステム等にて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	定期試験において、択一・論述式による問題を出し、授業で扱った会社法上の問題について適切に理解をしているかを確認する。	
	平常評価		20%	講義内で提示される択一問題や空欄補充問題が正答しているかどうかにより、基礎的な知識が定着しているかを確認する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2015年	有斐閣	会社法（有斐閣ストゥディア）		中東正文ほか
	備考				
参考書	江頭憲治郎『株式会社法（第7版）』（有斐閣、2017年）、松嶋隆弘他編『会社法講義30講』（中央経済社、2015年）、岩原紳作他編『会社法判例百選（第3版）』（有斐閣、2016年）				
オフィスアワー	水曜日の午後1時00分～午後2時30分。ただし、在室中は原則対応する。 研究室（本館9階1919研究室） メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、教科書の「序章 会社法への誘い」の部分を読み、会社法とはどのような法律であるのかを確認する。（2時間）なお、より詳しく会社法を概観したい受講生は、神田秀樹『会社法入門（新版）』（岩波新書）を読むことをおすすめする。
	授業内容	【オリエンテーション、会社法の意義と会社法の目的】 現代の経済社会における会社とはどのような存在であるのか、それを規律する会社法とはどのような特徴、体系、機能を有しているのか講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、他の関連科目（民法、労働法、経営学、経済学等）との関係を検討する。（2時間）
2	事前学習	会社とはどのような存在であるのか、「企業」と同じであるのか、それとも異なるのかについて自分なりに検討し、さらに自分自身が身近に感じている「会社」にはどのようなものがあるのか調べておく。（2時間）
	授業内容	【会社法総論（1）一会社の法的意義・会社の種類】 会社とは、法的には、営利を目的とする社団法人であるとされるが、ここにいう営利とは、社団法人とはどのような意味を有するのかについて説明する。さらに、株式会社、合同会社、合資会社、合名会社といった会社毎の違いについて講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、自分なりに株式会社、合同会社、合資会社、合名会社の違いについて作図してみる。（2時間）
3	事前学習	教科書の「第1章 総論」を読み、株式会社の事業活動における会社法の役割について調べ、また、株式会社において最も重要な制度の一つである株主有限責任制度の意義とその問題点について考察する。（2時間）
	授業内容	【会社法総論（2）一株主有限責任制度】 株主有限責任制度とは、株主は出資した額を上限とする責任を負うのみで、それ以上の責任を負わないとするものであるが、その制度の理論的根拠や問題点について講義し、その問題点への対応策について学習する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、株主有限責任制度における問題点について、他の解決方策がないかを検討してみる。（2時間）

4	事前学習	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、「1 株式会社の機関設計」を読み、株式会社にはどのような機関があるのか、そして、なぜそのような機関が要求されるのかについて考察する。(2時間)
	授業内容	【株式会社の機関 (1) ―機関総論】 株式会社には、必置機関としての株主総会及び取締役があり、任意機関として、監査役、会計参与、会計監査人等があるが、それぞれの機関の役割や、そのような機関が置かれる理論的根拠等についてコーポレート・ガバナンスという観点から講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、株式会社における機関構成を作図してみる。(2時間)
5	事前学習	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、「2 株主総会」を読み、株主総会の権限や株主総会招集の手続等の概観を考察する。(2時間) なお、実際の株主総会がどのように開催されているのかをニュースやインターネット記事等で調べておくと、なお理解が深まるのでおすすめする。(2時間)
	授業内容	【株式会社の機関 (2) ―株主総会】 株主総会の役割や機能について講義し、株主総会を開催するに当たり、どのような招集手続がとられるのかについて講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、時系列に沿って、株主総会の招集手続がどのように進行するのかをまとめておく。(2時間)
6	事前学習	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、「株主総会決議の瑕疵」を読み、株主総会決議の瑕疵の具体的な事例についてどのようなものがあるのか調べておく。(2時間)
	授業内容	【株式会社の機関 (3) ―株主総会決議の瑕疵】 適法に開催されなかった株主総会の決議には瑕疵があるとされるが、具体的にどのような場合に、瑕疵があるとされるのか、さらに株主総会決議の瑕疵を争う訴えには、決議不存在確認の訴え、決議無効確認の訴え、決議取消しの訴えがあり、それぞれの違いについて講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、決議不存在確認の訴え、決議無効確認の訴え、決議取消しの訴えの違いについて表でまとめるなどして考察する。(2時間)
7	事前学習	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、「3 取締役、取締役会、代表取締役」を読み、取締役・取締役会・代表取締役の役割や権限について考察する。(2時間)
	授業内容	【株式会社の機関 (4) ―取締役・取締役会・代表取締役】 株式会社の機関のうち、経営や監督を担う取締役・取締役会について、その選任・終任とその職務について講義した上で、取締役会決議を欠いたままなされた取引の効力といった法的問題について学習する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、取締役・取締役会・代表取締役に関わる法的問題にはどのようなものがあり、それに対して判例や学説の立場をまとめておく。(2時間)
8	事前学習	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、「4 監査役・監査役会・会計監査人」を読み、それぞれの役割や職務の内容について考察しておく。(2時間)
	授業内容	【株式会社の機関 (5) ―監査役、監査役会、会計監査人、会計参与】 会社の監督を担当する監査役、監査役会、会計監査人と取締役と共同して会計書類を作成する会計参与の役割や職務について講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、監査役・監査役会や会計監査人の監督と取締役会の監督とはどのように異なるのか、まとめておく。(2時間)
9	事前学習	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、「5 指名委員会等設置会社」「6 監査等委員会設置会社」を読み、監査役設置会社とはどのような点で異なるのか、について考察しておく。(2時間)
	授業内容	【株式会社の機関 (6) ―指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社】 指名委員会等設置会社と平成26年会社法改正で新たに導入された監査等委員会設置会社の機関構造を概観し、監査役設置会社とはどのような点で異なるのか、導入の経緯等について講義をする。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、指名委員会等設置会社や監査等委員会設置会社である会社をニュースやインターネット記事から調べ、具体的にどのように用いられているのかを調べておく。(2時間)
10	事前学習	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、「取締役の義務」を読み、取締役の善管注意義務と忠実義務の異同について考察しておく。(2時間)
	授業内容	【株式会社の機関 (7) ―役員の責任①(役員の義務総説)】 取締役は会社に対して善管注意義務と忠実義務を負っているとされているが、それらの義務はどのような関係に立っているのか、それらの義務から、具体的に取締役はどのような義務を会社に対して負っているのかについて、判例や学説を踏まえて講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、どのような事例で取締役の会社に対する義務が問題となるのかについてまとめておく。(2時間)
11	事前学習	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、86頁以下の「忠実義務」及び「取締役の報酬」を読み、取締役の忠実義務から派生する競業避止義務、利益相反取引や取締役の報酬についてどのような規制がとられているのかについて調べておく。(2時間)
	授業内容	【株式会社の機関 (8) ―役員の責任②(競業避止義務・利益相反取引・取締役の報酬規制)】 取締役は会社に対して忠実義務を負っていることから、そこから派生する規制として、競業取引規制、利益相反取引規制、取締役の報酬規制が定められている。そこで、これらの規制の具体的な内容及びそこから生じる法的問題について講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、具体的な裁判例を素材に、どのような取引が競業取引に当たるのか、利益相反取引に当たるのかについてまとめておく。(2時間)
12	事前学習	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、79頁以下の「善管注意義務」及び「7 役員等の責任」を読み、取締役の善管注意義務が問題となる事例にはどのようなものがあるのかを確認しておく。(2時間)
	授業内容	【株式会社の機関 (9) ―役員の責任③(会社に対する責任)】 取締役は会社に対して善管注意義務を負っているが、当該義務が問題となる場面として、経営の失敗や監視義務違反があるが、そこで問題となる経営判断原則や内部統制システム構築義務とはどのような原則、義務であるのかについて講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、講義で扱った事例以外の経営の失敗ともいえる事例や企業不祥事が問題となった事例では、取締役の善管注意義務違反の有無についてどのように判断されているのかを調べてみる。(2時間)
13	事前学習	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、125頁以下の「株主代表訴訟」を読み、株主代表訴訟の手続について概観しておく。(2時間)
	授業内容	【株式会社の機関 (10) ―役員の責任④(株主代表訴訟・多重代表訴訟)】 取締役の会社に対する義務違反により会社に損害が生じた場合、通常、会社が当該取締役に對して損害賠償を求めることになるが、実際には会社と取締役が馴れ合う可能性があることから、株主が会社に代わって取締役の責任を追及する株主代表訴訟制度がある。そこで、この株主代表訴訟はどのような手続で行われるかなどについて講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、株主代表訴訟及び多重代表訴訟の手続について作図するなどしてまとめておく。(2時間)

14	事前学習	教科書の「第2章 株式会社の機関」のうち、130頁以下の「役員等の第三者に対する責任」を読み、役員等の対第三者責任の意義について考察しておく。（2時間）
	授業内容	【株式会社の機関（11）—役員の実任⑤（第三者に対する責任）】 役員は本来であれば、会社に対してのみ責任を負うが、通説によれば、会社法は第三者に対しても特別の法定責任を負わせている。この対第三者責任の趣旨は何か、どのような場面で問題となるのかについて講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、対第三者責任が問題となった裁判例を調べ、どのような判断がなされているのか、学説はそれに対してどのように評価しているかなどを調べておく。（2時間）
15	事前学習	教科書の「序章」「第1章」「第2章」を通読し、いわゆる会社法のうち、ガバナンスに関する部分について理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	【前期のまとめ】 会社法の意義、株式会社の機関構成、それぞれの機関の職務や役割を概観し、そこで問題となる法的紛争にはどのようなものがあり、判例や学説上、それに対してどのように対応しているのかについて概観する。
	事後学習	小テスト等の解答等を講義レジュメや教科書で確認し、自分自身の知識がどの程度定着しているのか、演習本等でチェックする。（2時間）
16	事前学習	教科書の「第3章 株式」のうち、「1 株式の意義」を読み、株式を保有する株主にはどのような権利が認められているのか、また実際の株式投資はどのように行われているのかを、ニュース等で調べておく。（2時間）
	授業内容	【株式制度と株主平等原則】 一般的に、株式は投資の対象としても見られているが、会社法上、株式を保有する株主には、会社に対して様々な権利を有している。そこで、株主の権利や株主は内容及び数に応じて平等に取り扱われなければならないという株主平等原則とはどのようなものなのかについて講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、株主の権利にはどのような権利があるのか、具体的に表にまとめるなどしておく。（2時間）
17	事前学習	教科書の「第3章 株式」のうち、「Column 3-1」を読み、種類株式の概観について把握しておく。（2時間）
	授業内容	【種類株式制度】 教科書ではほとんど扱われていない種類株式制度について、具体的な種類株式の内容や用途について講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、実際に発行されている種類株式についてニュース等で調べておく。（2時間）
18	事前学習	教科書の「第3章 株式」のうち、「2 株式譲渡自由の原則とその例外」を読み、株式譲渡自由の原則が認められる理論的根拠について考察しておく。（2時間）
	授業内容	【株式の譲渡（1）—株式譲渡自由の原則とその例外】 株式の譲渡は原則として自由とされているが、その理論的背景には何があるのかについて講義し、株式譲渡自由の原則の例外にはどのようなものがあるのかについて学習する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、株式譲渡自由の原則の例外に反した場合の法的問題について、どのように考えられているのかまとめておく。（2時間）
19	事前学習	教科書の「第3章 株式」のうち、「3 株式の譲渡と権利行使の方法」を読み、株式の譲渡の手続がどのように行われているのかについて概観しておく。（2時間）
	授業内容	【株式の譲渡（2）—株式の譲渡方法】 株式の譲渡方法には、大別して、株券発行会社と株券不発行会社の場合があることから、それぞれの会社に応じて、具体的にどのような手続によって株式は譲渡されるのかを講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、会社法が定める株式の譲渡方法だけではなく、振替株式制度についても教科書の該当ページを読むなどして理解しておく。（2時間）
20	事前学習	教科書の「第4章 資金調達」のうち、「1 株式会社の資金調達方法の概要」「2 募集株式の発行等」を読み、募集株式の発行手続の概要について理解しておく。（2時間）
	授業内容	【資金調達（1）—募集株式の発行手続】 募集株式の発行手続の概要について説明し、その手続の背景にある募集株式の発行によって生じる既存株主の利益への影響についても講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、なぜ募集株式の発行手続が法的に定められているのかなどについて、自分なりにノートなどを使用してまとめる。（2時間）
21	事前学習	教科書の「第4章 資金調達」のうち、「いわゆる有利発行の問題」を読み、有利発行とはそもそも何か、有利発行規制違反の募集株式の発行とは何かについて調べておく。（2時間）
	授業内容	【資金調達（2）—違法な募集株式の発行① 有利発行規制違反】 いわゆる有利発行とはどのような募集株式の発行であるのかについて説明した上で、有利発行であるにもかかわらず法定の手続に違反して募集株式が発行されてしまった場合には、どのような効果があるのかなどについて講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、有利発行規制違反の募集株式の発行が行われた場合の法的解決方法についてまとめておく。（2時間）
22	事前学習	教科書の「第4章 資金調達」のうち、「募集株式の発行等の瑕疵をめぐる争い」を読み、募集株式の発行等の瑕疵について、事前及び事後にどのような措置が可能なのかについて調べておく。（2時間）
	授業内容	【資金調達（3）—違法な募集株式の発行② 募集株式の発行の瑕疵】 募集株式の発行等が手続に違反してなされようとしている場合、もしくはなされてしまった場合に、影響を受ける株主は、事前又は事後にどのような措置をとることができるのかについて講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、新株発行の差止請求や新株発行無効の訴えについてまとめておく。（2時間）
23	事前学習	教科書の「第4章 資金調達」のうち、「3 新株予約権」「4 社債」を読み、募集株式の発行以外の資金調達手法について調べておく。（2時間）
	授業内容	【資金調達（4）—新株予約権・社債】 募集株式の発行以外にも新株予約権や社債による資金調達手法があることから、新株予約権や社債の発行手続について概観し、そこで問題となる法的問題について講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、募集株式の発行と新株予約権・社債の発行による資金調達にはどのような違いがあるのかまとめておく。（2時間）
24	事前学習	教科書の「第5章 計算」を読み、会社の計算書類や剰余金配当手続について概観しておく。なお、他に簿記や会計学の講義をとっている場合には、それらの教科書等も読んでおくこともおすすめする。（2時間）
	授業内容	【会社の計算】 会社の計算書類や剰余金の配当手続について講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、会社の計算書類の役割等についてまとめておく。（2時間）

25	事前学習	教科書の「第6章 組織再編」を読み、会社の組織再編にはどのようなものがあるのかについて確認しておく。（2時間）
	授業内容	【組織再編（1）—組織再編手続総説】 会社の組織再編には、合併、分割、株式移転、株式交換があるが、それぞれの再編の意義や手続について講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、合併、分割、株式移転、株式交換の手続の概要について、自分なりにまとめておく。（2時間）
26	事前学習	教科書の「第6章 組織再編」を読み、会社の組織再編により影響を受ける株主を保護するための手続としての株式買取請求について概観し、さらに事業の譲渡手続について概観しておく。（2時間）
	授業内容	【組織再編（2）—株式買取請求・事業譲渡】 会社が組織再編する場合、当該組織再編に反対する株主には株式買取請求が認められているが、当該株式買取請求手続について講義する。また、厳密には組織再編とはいえないが、それと類似する取引である事業譲渡手続についても講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、株式買取請求や事業譲渡手続において問題となる法的問題にはどのようなものがあるのか確認しておく。（2時間）
27	事前学習	教科書の「第7章 設立・解散」のうち、「1 設立」を読み、会社の設立手続について概観しておく。（2時間）
	授業内容	【株式会社の設立（1）—設立手続総説】 会社の設立には、実体の形成と法人格の取得という二つの側面を有することから、それぞれの側面に併せて、会社の設立手続について講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、会社の設立手続について作図して、その概要を把握しておく。（2時間）
28	事前学習	教科書の「第7章 設立・解散」のうち、「1 設立」及び「第4章 資金調達」のうち、「出資の履行」を読み、払込の手続及びその仮装行為にはどのようなものなのかを確認しておく。（2時間）
	授業内容	【株式会社の設立（2）—払込手続】 会社設立時の払込手続と払込仮装行為としての預金及び見せ金の効力について講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、払込仮装行為の効力について判例及び学説はどのように考えているのかを考察する。（2時間）
29	事前学習	教科書の「第7章 設立・解散」のうち、「2 解散・清算」を読み、会社の解散手続の概要を把握しておく。（2時間）
	授業内容	【会社の解散】 会社は株主総会決議等によって解散するが、その際の手続等について講義する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、知識の定着を図るとともに、どのような場合に会社は解散するのか、解散はどのような手続によってなされるのかを確認する。（2時間）
30	事前学習	配布された全ての講義レジュメ及び教科書を通読し、自分自身の知識を確認しておく。（2時間）
	授業内容	【全体のまとめ】 会社法の全体を概観し、コーポレート・ガバナンスやコーポレート・ファイナンスに関する先端的な法的問題を講義する。
	事後学習	小テスト等の解答等を講義レジュメや教科書で確認しつつ、演習本等を利用して、会社法上の法的諸問題についてアウトプットしてみる。（2時間）

科目名	商法Ⅰ（会社法）	担当者	大久保 拓也	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
-----	----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識の習得を目的とする。経済社会で重要な役割を担う会社について規律する会社法は、平成17年に全面改正（平成18年5月1日施行）され、平成26年に重要な改正がなされた（平成27年5月1日施行）。同法は実務に与える影響が大きく、その内容を知っておく必要性が高い。本講義では、これら会社に関する法規制の理解を目的とした授業を行う。				
授業目的・到達目標	会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点の修得を目的とする。会社法は技術的で理解が難しい制度が多いので、この授業を通じて会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点について理解し、さらに会社法上の基本問題について、受講生が説明できるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考力を習得できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1、3、5				
履修条件	継続的に授業に出席し、予習・復習を行う者。				
授業方法	会社法の基本問題を講義形式で解説する。各種資格試験の過去の問題等も教材とし、授業中に解説する。ポータルシステムを利用して解説や講評を配信する場合もある。講義の進捗に合わせてシラバスの内容を変更することがある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	会社法の基本問題について、論理的な解答を記述できたかどうかを判定する。講義中に示した基本事項について十分理解しておくこと。	
	平常評価		20%	授業への参加度等の平常の講義への取り組みや、授業中何度か実施する小テストの評価を加味した総合評価を行う。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2015	中央経済社		会社法講義30講	松嶋隆弘編著
	備考	六法を持参すること（民法（債権関係）、（相続関係）改正、商法（運送法等）が成立したため、最新版（2019(平成31)年版）が望ましい）			
参考書	『会社法判例百選（第3版）』岩原紳作ほか編（有斐閣、2016年）。その他必要に応じて資料を配付する。				
オフィスアワー	火曜 5 時限。事前にメールでアポイントメントをとること オフィス 研究室（9号館2階9204）ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、教科書の冒頭にある説明を読み、講義全体を概観する。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス。授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的にできるようにする。 なお、受講生と適宜相談の上決めるため、下記の授業内容は変更する場合がある。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
2	事前学習	テキストの予習（「第1講 会社の意義と会社法の目的」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第1講 会社の意義と会社法の目的」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第1講）。（2時間）
3	事前学習	テキストの予習（「第2講 会社の能力」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第2講 会社の能力」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第2講）。（2時間）
4	事前学習	テキストの予習（「第3講 会社の法人格、法人格否認の法理」「第4講 株式と有限責任」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第3講 会社の法人格、法人格否認の法理」「第4講 株式と有限責任」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第3講・第4講）。（2時間）

5	事前学習	テキストの予習（「第5講 株式会社の資金調達1:株主平等の原則とその例外」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第5講 株式会社の資金調達1:株主平等の原則とその例外」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第5講）。（2時間）
6	事前学習	テキストの予習（「第6講 株式会社の資金調達2:種類株式」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第6講 株式会社の資金調達2:種類株式」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第6講）。（2時間）
7	事前学習	テキストの予習（「第7講 株式会社の資金調達3:新株発行の手続き」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第7講 株式会社の資金調達3:新株発行の手続き」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第7講）。（2時間）
8	事前学習	テキストの予習（「第8講 株式会社の資金調達4:新株発行の差止め、無効、不存在」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第8講 株式会社の資金調達4:新株発行の差止め、無効、不存在」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第8講）。（2時間）
9	事前学習	テキストの予習（「第9講 株式会社の資金調達5:株式譲渡」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第9講 株式会社の資金調達5:株式譲渡」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第9講）。（2時間）
10	事前学習	テキストの予習（「第10講 株式会社の資金調達6:自己株式」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第10講 株式会社の資金調達6:自己株式」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第10講）。（2時間）
11	事前学習	テキストの予習（「第11講 株式会社の資金調達7:株式の分割、併合等」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第11講 株式会社の資金調達7:株式の分割、併合等」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第11講）。（2時間）
12	事前学習	テキストの予習（「第12講 株式会社の資金調達8:社債の概要」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第12講 株式会社の資金調達8:社債の概要」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第12講）。（2時間）
13	事前学習	テキストの予習（「第13講 株式会社の機関構造1:機関総論、株主総会運営の手続」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第13講 株式会社の機関構造1:機関総論、株主総会運営の手続」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第13講）。（2時間）
14	事前学習	テキストの予習（「第14講 株式会社の機関構造2:説明義務、株主提案権」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第14講 株式会社の機関構造2:説明義務、株主提案権」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第14講）。（2時間）
15	事前学習	テキストの予習（「第15講 株式会社の機関構造3:株主総会決議の瑕疵」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第15講 株式会社の機関構造3:株主総会決議の瑕疵」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第15講）。（2時間）

16	事前学習	テキストの予習（「第16講 株式会社の機関構造4：役員の選任・解任手続」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第16講 株式会社の機関構造4：役員の選任・解任手続」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第16講）。（2時間）
17	事前学習	テキストの予習（「第17講 株式会社の機関構造5：競業取引と利益相反取引」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第17講 株式会社の機関構造5：競業取引と利益相反取引」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第17講）。（2時間）
18	事前学習	テキストの予習（「第18講 株式会社の機関構造6：善管注意義務と忠実義務～経営判断と内部統制」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第18講 株式会社の機関構造6：善管注意義務と忠実義務～経営判断と内部統制」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第18講）。（2時間）
19	事前学習	テキストの予習（「第19講 株式会社の機関構造7：取締役会設置会社における取締役と取締役会の役割」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第19講 株式会社の機関構造7：取締役会設置会社における取締役と取締役会の役割」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第19講）。（2時間）
20	事前学習	テキストの予習（「第20講 株式会社の機関構造8：報酬規制」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第20講 株式会社の機関構造8：報酬規制」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第20講）。（2時間）
21	事前学習	テキストの予習（「第21講 株式会社の機関構造9：指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社の構造、検査役」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第21講 株式会社の機関構造9：指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社の構造、検査役」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第21講）。（2時間）
22	事前学習	テキストの予習（「第22講 株式会社の機関構造10：取締役の対会社責任と株主代表訴訟」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第22講 株式会社の機関構造10：取締役の対会社責任と株主代表訴訟」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第22講）。（2時間）
23	事前学習	テキストの予習（「第23講 株式会社の機関構造11：取締役の対第三者責任」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第23講 株式会社の機関構造11：取締役の対第三者責任」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第23講）。（2時間）
24	事前学習	テキストの予習（「第24講 株式会社の機関構造12：監査役、監査役会、会計監査人、会計参与」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第24講 株式会社の機関構造12：監査役、監査役会、会計監査人、会計参与」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第24講）。（2時間）
25	事前学習	テキストの予習（「第25講 資本制度と会社の計算」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第25講 資本制度と会社の計算」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第25講）。（2時間）
26	事前学習	テキストの予習（「第26講 株式会社の設立1：設立手続の概要、発起人の権限」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第26講 株式会社の設立1：設立手続の概要、発起人の権限」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第26講）。（2時間）

27	事前学習	テキストの予習（「第27講 株式会社の設立2:払込の手続と仮装払込」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第27講 株式会社の設立2:払込の手続と仮装払込」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第27講）。（2時間）
28	事前学習	テキストの予習（「第28講 持分会社の法規制」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第28講 持分会社の法規制」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第28講）。（2時間）
29	事前学習	テキストの予習（「第29講 組織再編1: 合併と分割、事業譲渡」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第29講 組織再編1: 合併と分割、事業譲渡」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第29講）。（2時間）
30	事前学習	テキストの予習（「第30講 組織再編2: 合併と分割、事業譲渡」）をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第30講 組織再編2: 合併と分割、事業譲渡」である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。講義のまとめと復習をする。
	事後学習	p講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第30講）。授業で取り扱った重要論点を全体的に復習する。（2時間）

5	事前学習	株式会社の設立について教科書で勉強する(2時間程度)。
	授業内容	株式会社設立の全体像。定款の絶対的記載事項を講義する(パワーポイント使用)。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間程度)。
6	事前学習	株式会社の設立(2時間程度)。
	授業内容	現物出資等の変態設立について詳細に解説し(パワーポイント使用)、増資時・新株予約権発行時との比較を行う。発起人等の責任を、後の増資時・新株予約権発行時の役員等の責任と比較しながら講義する。役員等についてもプレ講義する。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間程度)。
7	事前学習	株式会社の設立について教科書で勉強する(2時間程度)。
	授業内容	発起人等の責任を、後の増資時・新株予約権発行時の役員等の責任と比較しながら講義する。役員等についてもプレ講義する。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間程度)。
8	事前学習	株式会社の設立について教科書で勉強する(2時間程度)。
	授業内容	役員等の選任・選定。公証人の認証(パワーポイント使用)。設立まとめを講義する。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間程度)。
9	事前学習	株式について教科書で勉強する(2時間程度)。
	授業内容	株主名簿、株式の共有・質権等及び株券の現状について、公開会社・公開会社でない株式会社の株式の譲渡方法の違いを中心に講義する(パワーポイント使用)。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間程度)。
10	事前学習	株式について教科書で勉強する(2時間程度)。
	授業内容	株式の種類・種類株式・自己株式の取得について概説する(パワーポイント使用)。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間程度)。
11	事前学習	株式について教科書で勉強する(2時間程度)。
	授業内容	株式の種類・種類株式・自己株式の取得について掘り下げる。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間程度)。
12	事前学習	株式・MBOについてネット等で事前知識を得ておく(2時間程度)。
	授業内容	MBO・子会社化・企業買収・キャッシュ・アウト・相続人に対する株式の売渡請求におけるスクイーズ・アウト(少数株主の締め出し)、事業承継、自己株式の取得について2回に渡り詳細に講義する。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間程度)。
13	事前学習	MBOについてネット等で事前知識を得ておく(2時間程度)。
	授業内容	反対株主等の違法行為株主総会について講義する(パワーポイント使用)。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間程度)。
14	事前学習	株主総会及び株主総会以外の機関設置について教科書で勉強しておく(2時間程度)。
	授業内容	取締役会の機能について特に公開会社を中心に講義する。コーポレートガバナンス・コードについて概説する。検索エンジンの実演をする。レポート課題プレ発表。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間程度)。
15	事前学習	コーポレートガバナンス・コードの復習及び検索エンジンの実演をしておく(2時間程度)。
	授業内容	機関設計及び社外役員の機能を講義する。レポート課題正式発表。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間程度)。
16	事前学習	CSR(企業の社会的責任)についてネット等で知識を得ておく(2時間程度)。
	授業内容	CSR(企業の社会的責任)及び株主総会に関係する内容を少数株主権とも絡めて講義する。レポート課題正式発表。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間程度)。

17	事前学習	株主総会・有限会社についてネット等で知識を得ておく(2時間程度)。
	授業内容	株主の権利, 株主総会に関係する細かい内容を少数株主権とも絡めて詳細に講義する。特例有限会社の概説及び特例有限会社の株主の権利, 株主総会に関係する細かい内容を少数株主権とも絡めて詳細に講義する。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間程度)。
18	事前学習	総会屋等の知識をネット等で得ておく(2時間程度)。
	授業内容	株主の権利行使に関する利益供与(民事規程), 同利益供与の罪等の会社犯罪について講義する。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間程度)。
19	事前学習	社債・新株予約権について事前に知識を得ておく(2時間程度)。
	授業内容	従前の社債・新株引受権・新株引受権付社債について講義し, 基礎知識を講義する(パワーポイント・板書使用)。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間程度)。
20	事前学習	社債・新株予約権について事前に知識を得ておく(2時間程度)。
	授業内容	新株予約権・社債のシステム, 特に新株予約権の使い方のうちストック・オプション, ポイズン・ピルについて詳しく講義する。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間程度)。
21	事前学習	監査役設置会社・監査等委員会設置会社・指名委員会等設置会社について教科書で勉強しておく(2時間程度)。
	授業内容	役員等の会社に対する責任, 監査機関について2回に渡り講義する。監査役(業務監査権限の有無), 監査等委員会, 監査委員の比較を行う。また, 会計参与, 会計監査人について講義する。さらにコーポレートガバナンス・コードの規程や平成26年改正について再講義する。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間程度)。
22	事前学習	監査役設置会社・監査等委員会設置会社・指名委員会等設置会社について教科書で勉強しておく(2時間程度)。
	授業内容	監査機関について2回に渡り講義する。監査役(業務監査権限の有無), 監査等委員会, 監査委員の比較を行う。また, 会計参与, 会計監査人について講義する。さらに役員等に対する訴訟の会社代表, 違法行為差止請求権, 代表訴訟についてブレ講義する。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間程度)。
23	事前学習	会社の計算・自己株式の取得について教科書で勉強・復習しておく(2時間程度)。
	授業内容	6月中に締め切ったレポートの総括フィードバックを行う。簿記や会計とも重複する計算部分を配当可能利益や剰余金の配当等の責任を中心に講義する。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間程度)。
24	事前学習	役員等の責任について教科書で勉強しておく(2時間程度)。
	授業内容	役員等の会社に対する責任, 第三者に対する責任について講義する。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間程度)。
25	事前学習	合併・分割・株式交換・株式移転について教科書で勉強しておく(2時間程度)。
	授業内容	合併・分割・株式交換・株式移転について概説する(パワーポイント使用)。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間以上)
26	事前学習	組織再編簡易組織再編・略式組織再編について教科書で勉強しておく(2時間程度)。
	授業内容	組織再編簡易組織再編・略式組織再編について講義する。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間以上)
27	事前学習	今年の問題をネット等で勉強しておく(2時間程度)。
	授業内容	今までの勉強, レポート課題のフィードバック, リクエストのあった話題, 改正動向, テストの傾向を講義する。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間以上)
28	事前学習	全体の振り返り(2時間以上)
	授業内容	前回の続き及び講義全体の振り返り, テスト対策の講義を行う。
	事後学習	授業内容のまとめ(2時間以上)

29	事前学習	テスト勉強(30回と合わせて最低8時間程度)
	授業内容	テストの方式・解答の方法について講義した後,休憩をはさんで,授業内テストをする。
	事後学習	テスト勉強(休み時間)
30	事前学習	テスト勉強(休み時間)
	授業内容	授業内テスト続き。テスト終了後,テスト等の解説,質疑応答等の時間を設ける。
	事後学習	答案及び全体振り返り(最低6時間程度)。また,授業関連内容については,年度内後期にメール・研究室訪問等によるフィードバックにも可能な範囲で対応する(指定時期に相応な時間・内容に限る)。

科目名	商法Ⅱ（商取引法）	担当者	中村 良	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	私たちの身の回りの商取引は民法を基礎としながらも、特有な規範価値・原理に基づいた法規制がなされている。本講義においては、企業法説の立場から、民法における取引規制と対比しながら商取引について体系的に、判例に留意しながら学修する			
授業目的・到達目標	企業の営業・事業活動に必要な人的物的施設および企業の営業活動・商取引に関する商法規制の意義とその基礎知識を修得することを目的とする。そして、将来、社会人として経済生活を営む際の基本的素養として生かし、商法規制の意義とその基礎知識について自分の言葉で説明できるようにすることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，3，5 経営法学科1，3，5 公共政策学科1，3，4			
履修条件	民法Ⅴを除く民法科目を履修していることが望ましい。			
授業方法	商法総則・商行為法の重要事項につき、教科書に沿いながら平易に講義する。必要に応じ裁判事例をとりあげ、検討を加える。定期試験については、後日ポータルシステムにて解説を配信し、「フィードバック」する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	期末に論述式試験を行って成績評価する。	
	平常評価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011年	弘文堂	『Next教科書シリーズ現代商取引法』（以下、「教科書」と略記する。	藤田勝利＝工藤聡一
	備考			
参考書	別冊ジュリスト194号『商法（総則・商行為）判例百選』（第5版）江頭憲治郎・山下友信編（2008）（以下「百選」と略記する）。			
オフィスアワー	金曜日16：30～17：30（前期間中、事前にメールでアポイントメントを取ること） 授業中に紹介します。メールアドレス：nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	1. 民法の教科書を読み直してください。特に民法総則と債権各論（契約法）を中心に復習しておくといいです。2. 授業への要望を考えておく。(120分)
	授業内容	商法入門：商法を勉強する意義、勉強方法、試験対策、授業の進め方、評価方法、オフィスアワー、担当教員との連絡方法等の説明。
	事後学習	1. 授業の進め方等確認してください。(120分)
2	事前学習	1. 教科書の3頁アウトラインと4頁から21頁までを通読。最後に21頁の問題を解く。(120分)
	授業内容	商法総説：商法の意義および法の形成と展開、法源、適用対象（教科書3頁から21頁の内容）
	事後学習	1. ノートの見直し、商法の意義および法の形成と展開、法源、適用対象について自分の言葉で説明できるように検討する。(120分)
3	事前学習	1. 教科書22頁から33頁までを通読。2. 教科書33頁の問題を解く。3. 民法総則の教科書で「代理」「表見代理」制度について法律要件・法律効果を復習しておくこと。(120分)
	授業内容	1. 前回の復習及び21頁問題解説。2. 商法の民法に対する特色（教科書第1章2商取引の通則）につき、民法の規定と比較しながら解説する。特に制度趣旨を意識しながら受講してもらいたい。授業の最後で教科書33頁の問題につき解説する。
	事後学習	1. ノートの見直し。2. 教科書32頁から33頁の注に記載されている資料の中から、興味を持ったものを図書館で検索し読んでみる。(120分)
4	事前学習	1. 教科書35頁から50頁までを通読。2. 百選3事件（最判昭和33年6月19日民集12巻10号1575頁）を読んでおく。3. 教科書50頁の問題を解く。(120分)
	授業内容	1. 前回の復習及び50頁問題解説。2. 商取引の主体（教科書35頁～50頁）につき、歴史的背景に触れながら説明する。「起業」の視点からも解説する。
	事後学習	2. 授業で聞いた「エピソード」について、自分で調べてみる。(120分)

5	事前学習	1. 教科書51頁から61頁までを通読。2. 百選17事件の事実関係を確認しておくこと。(120分)
	授業内容	1. 前回の復習。2. 取引主体の表示：商号に関する規制、他人の商号の利用に関する規制（教科書51頁～61頁）を解説する。3. 百選17事件について、認定事実を詳しく説明する。
	事後学習	1. ノートの見直し。2. 授業で取り扱った百選17事件について、B to B、B to Cを意識したうえで、結果の妥当性について自分なりに考えてください。3. 教科書61頁の問題を解く。(120分)
6	事前学習	1. 教科書51頁から71頁までを通読。2. 「取締役の仕事」について、調べてみる。その上で、会社法上の「取締役の監視義務」について調べる。3. 百選10事件の事実関係を確認しておくこと。(120分)
	授業内容	1前回の復習及び教科書61頁問題解説。2. 商取引主体の開示と公示：商業登記の制度、登記の効力等（教科書62頁～71頁）を解説する。3. 百選10事件について詳しく解説する。3. 教科書72頁問題2を解説する。
	事後学習	1. ノートの見直し。2. 授業で取り扱った百選10事件について、中小企業、大企業との違いを意識したうえで、結果の妥当性について自分なりに考えてください。(120分)
7	事前学習	1. 教科書73頁から84頁までを通読。2. 教科書84頁問題1, 2を解く。(120分)
	授業内容	1. 前回の復習。2. 商取引主体による人的設備の利用（教科書73頁～84頁）について歴史的背景に触れながら解説する。
	事後学習	1. ノートの見直し、商取引主体による人的設備の利用について自分の言葉で説明できるように検討する。(120分)
8	事前学習	1. 教科書83頁のコラムを読むこと。2. 「フランチャイズ・システム」について調べる。3. 百選60事件から64事件を読む。(120分)
	授業内容	1. 前回の復習。2. 代理店、フランチャイズ方式のメリット・デメリットについて解説する。百選60事件から64事件を解説する。
	事後学習	1. ノートの見直し。2. 百選60事件～64事件の結果について自分なりの意見をまとめる。(120分)
9	事前学習	1. 『ハンドブック消費者2014』（消費者庁HPから入手可能 http://www.caa.go.jp/adjustments/pdf/2014handbook.pdf ）の162頁～183頁を読んでくこと。(120分)
	授業内容	1. 前回の復習。2. 消費者取引全般に関する政策（消費者トラブルが発生しやすい商法、クーリング・オフ制度等）を解説する。
	事後学習	1. ノートの見直し。2. 消費者救済についてまとめておく。(120分)
10	事前学習	1. 教科書127頁から137頁までを通読。2. 教科書96頁問題1, 2を解く。(120分)
	授業内容	1. 前回の復習。2. 商取引主体の金融（教科書85頁から96頁）：企業の種々の資金調達について解説する。
	事後学習	1. ノートの見直し。2. 種々の資金調達の長所・短所をまとめておく。(120分)
11	事前学習	1. 教科書139頁から152頁までを通読。民法の教科書で「売買」契約について復習する。教科書111頁問題を解く。(120分)
	授業内容	1. 前回の復習。2. 商事売買取引（教科書99頁から111頁）を民法における規制と比較しながら解説する。
	事後学習	1. ノートの見直し、商事売買取引を民法における規制と比較し、自分の言葉で説明できるように検討する。(120分)
12	事前学習	1. 教科書127頁から137頁を通読する。教科書137頁問題1, 2を解く。(120分)
	授業内容	1. 前回の復習。2. 電子売買取引（教科書127頁から137頁）の法的論点を指摘しながら解説する。
	事後学習	1. ノートの見直し、電子売買取引の法的論点について自分の言葉で説明できるように検討する。(120分)
13	事前学習	1. 教科書269頁から280頁までを通読。2. 「不動産」紹介業、「証券会社」の仕事について調べる。3. 破産手続きについて調べる。百選83事件、86事件を読む。(120分)
	授業内容	1. 前回の復習。2. 売買仲介取引（教科書140頁から152頁）を解説する。
	事後学習	1. ノートの見直し、「不動産」紹介業、「証券会社」の仕事、商法と破産法の関係について、自分の言葉で説明できるように検討する(120分)
14	事前学習	1. 教科書257頁から268頁までを通読。2. 民法の教科書で「寄託」契約について復習する。3. 教科書268頁問題を解く。(120分)
	授業内容	1. 前回までの復習。2. 倉庫取引（教科書257頁から268頁）を解説する。
	事後学習	1. ノートの見直し、倉庫取引について自分の言葉で説明できるように検討する。(120分)
15	事前学習	1. 教科書269頁から280頁までを通読。2. 民法の教科書で「寄託」契約について復習する。3. 百選108事件を読む。4. 1回目から14回目までのノートを復習し、質問を考えておく。教科書279頁問題を解く。(120分)
	授業内容	1. 前回の復習。2. 場屋取引（教科書269頁から280頁）を解説する。これまでの講義のまとめと質疑応答。
	事後学習	1. ノートの見直し、場屋取引について自分の言葉で説明できるように検討する。(120分)

科目名	商法Ⅱ（商取引法）	担当者	南 健悟	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、商法の分野のうち、総則・商行為法と呼ばれる分野について解説する。総則では、B to BやB to Cのような取引の基盤となる法制度等について学び、商行為法では各種商事取引における法規整について扱う。総則・商行為法では、商事取引の基盤となる法制度や各種商行為を説明することとなる				
授業目的・到達目標	この講義では商法総則及び商行為法に関する基礎的知識を踏まえて、商取引において生じる法的諸問題に関する知識を修得することが目的となる。そして、商法総則及び商行為法を学修するに当たっては、現行の商法の規定と商取引の実態との関連について理解することが重要となる。この講義では、商事取引の基盤となる法制度について理解した上で、そこから生じる法的諸問題について基礎的な知識を得ることも目標となる。総則及び商行為法分野において生じる法的論点について、従来の判例や学説を手がかりに考察することができるようになることが、本講義の到達目標である。関連DP及びCP：法律学科1, 3, 5 経営法学科1, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	基本的には講義形式になるが、事前の予習を踏まえた上で、積極的な発言を求めることがある。法改正に合わせて最新版の六法を使用する。なお、各回の小テスト及び期末試験につきポータルサイト等で講評・解説等を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	定期試験において、択一・論述形式により出される問題により、正確な知識等を有しているかを図る。	
	平常評価		20%	講義内で提示される択一問題や空欄補充問題が正答しているかどうかにより、基礎的な知識が定着しているかを確認する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年	法律文化社		商法総則・商行為法	北村雅史編
	備考				
参考書	江頭憲治郎『商取引法（第8版）』（弘文堂、2018年） 箱井崇史『基本講義現代海商法（第3版）』（成文堂、2018年）				
オフィスアワー	毎週水曜日午後1時00分～2時30分。ただし、在室中や事前にアポイントがある場合には、適宜対応する。 研究室本館9階1919研究室、メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書に目を通し、商法総則・商行為法と呼ばれる分野にはどのような法的な問題があるのかを確認しておく。（2時間）
	授業内容	商法とはどのような法体系を有する法分野であるのかについて、その概要を説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商法と民法の違い等を説明できるようにしておく。（2時間）
2	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第1章 商法総論」を読み、商法の意義、特徴、歴史と展開について把握しておく。（2時間）
	授業内容	商法とはどのような法律であるのか、民法とはどのような点で異なるのか、商法とはどのような歴史を有しているのかについて説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商法の特徴について確認しておく。（2時間）
3	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第2章 商人・商行為」を読み、商法の基本概念である商人と商行為について、その概要を把握しておく。（2時間）
	授業内容	商取引の主体たる商人や、商行為概念は商法の基本概念として位置づけられており、その2つの概念について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商人とはどのような存在かについて、商人資格の取得等と合わせて説明できるようにしておく。（2時間）
4	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第4章 商号」を読み、商号にはどのような機能があるのかを把握しておく。（2時間）
	授業内容	商人がその営業上自己を表す名称のことを商号というが、商号とはどのようなものか、どのように機能しているのか、どのように保護されているのかについて説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商号の基本的事項について把握したうえで、どのような場合であれば類似商号といえるのかなどについて自分なりに検討してみる。（2時間）

5	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第3章 商業登記 1 商業登記制度 2 商業登記の手続き」を読み、商業登記制度とはどのような制度なのかを把握しておく。(2時間)
	授業内容	商人情報の公示方法の一つである商業登記制度について、その制度の存在意義や特徴を不動産登記との違いを明らかにしながら、説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商業登記制度の特徴について、不動産登記との違いを意識しながら、説明できるようにしておく。(2時間)
6	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第4章 商業登記 3 商業登記の効力」を読み、商業登記にはどのような効力があるのかを確認しておく。(2時間)
	授業内容	商業登記には、一般的効力として消極的公示力と積極的公示力があるとされ、さらに不実登記の効力等も有することから、これらの効力について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商業登記の効力に関する条文操作や解釈に慣れておく。(2時間)
7	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第6章 商業帳簿」を読み、商業帳簿制度の概要について把握しておく。(2時間)
	授業内容	商人情報の公示として位置づけられる商業帳簿にはどのような機能を有しているのかなどについて説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、さらに簿記論や会計学との関係について自分なりに検討しておく。(2時間)
8	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び「第7章 商業使用人 第8章 代理商」を読み、商人の補助者についてどのような者がいるのかを把握しておく。(2時間)
	授業内容	商人の補助者としての商業使用人や代理商について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商業使用人や代理商制度の概要を踏まえたうえで、商業使用人と代理商の違いなどについて考察してみる。(2時間)
9	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第9章 商行為法総論」を読み、商行為法通則に関する規定にはどのようなものがあるのかを確認しておく。(2時間)
	授業内容	商行為の通則規定についてまずは説明したうえで、民法上の規定との違いなどについて解説する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、民法及び商法の規定との違いは何に起因しているのかなどについて説明できるようにしておく。(2時間)
10	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第10章 商事売買」を読み、また民法における債務不履行責任や解除制度等について復習しておく。(2時間)
	授業内容	商人間の売買の場合には、民法とは異なる規律を受ける場合があることから、商人間の売買である商事売買に関する特則規定について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、民法上の売買に関する規定とどのような点が異なるのか、自分なりに表にまとめるなどして説明できるようにしておく。(2時間)
11	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第11章 交互計算その他の決済手段」を読み、交互計算契約とはどのような契約であるのか、その概要を把握しておく。(2時間)
	授業内容	企業取引の決済手段の一つである交互計算契約の特殊性やその効力について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、交互計算契約の効力等について説明できるようにしておく。(2時間)
12	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第12章 匿名組合」を読み、その契約の概要を把握しておく。(2時間)
	授業内容	事業を行うに当たって用いられる匿名組合契約とはどのような契約であるのかについて説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、民法上の組合や会社制度との違いについて、自分なりにまとめておく。(2時間)
13	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第14章 仲立営業」を読み、仲立営業の意義や特徴を把握しておく。(2時間)
	授業内容	仲立営業の具体例を用いながら、仲立人の意義や民事仲立・商事仲立の区別、そして仲立人の権利義務関係について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、仲立人の特徴について説明できるようにしておく。(2時間)
14	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第14章 問屋営業」を読み、問屋営業の意義や特徴を把握しておく。(2時間)
	授業内容	問屋営業の具体例を用いながら、問屋の意義や特徴、そして問屋と委託者との関係や取引の相手方との関係について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、代理商・仲立人・問屋の異同について説明できるようにしておく。(2時間)
15	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第17章 場屋営業」を読み、場屋取引の意義や特徴を把握しておく。(2時間)
	授業内容	ホテル・旅館、レストランなどの場屋営業取引において適用される規定や営業主の責任について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、場屋営業主が責任を負う場合にはどのような場合があるのかを説明できるようにしておく。(2時間)

科目名	商法Ⅱ（商取引法）	担当者	井口 浩信	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	本講座は商法総則および商行為法を学習対象とする。「商法総則」は商事取引に関する法規範の原則を定めており、「商行為法」は主要な商事取引の基本的な取引ルールを定めている。私たちの日常取引の大半は商法の規整対象であり、本講座では、商法典が定める法規整を条文にそって学習するほか、現実の取引で利用される取引約款や裁判例等も参照して法規整の理解を深めるとともに、ビジネスの最先端における法の役割にもふれる。			
授業目的・到達目標	1. 商法総則・商行為法の役割を理解し、法的紛争へのあてはめとその説明能力を養成することを目的とする。 2. 民法と商法との規整対象や規整内容の相違を理解し、これを説明できることを目標とする。 3. 商法総則・商行為法の重要論点や重要裁判例を理解し、これを説明できることを目標とする。 4. 主要な取引における法規整と取引約款との相違を理解し、これを説明できることを目標とする。 5. ビジネス法務の最先端の議論にふれ、これらについて論理的、合理的かつ批判的に考察できることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 3, 5 経営法学科1, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	民法総則および債権法を履修済みか並行履修していることが望ましい。 必ず直近の商法改正を反映した六法（小型版六法で可）を携行のこと。			
授業方法	講義を中心とするが、講師と学生とで一問一答を実施したり、学生に発表・報告を求めることがある。 確認テストのフィードバックは授業内で、学期末の授業内試験のフィードバックはポータルシステムで実施する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	確認テストの点数と学期末授業内試験の点数の合計に、授業中の発表等の授業参加度を加味して評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年3月	有斐閣	リーガルマインド 商法総則・商行為法第3版 （2019年3月に出版予定の書籍）	弥永真生
	備考	裁判例・取引約款等の資料等を適宜配布する。		
参考書	授業では使用しないが、1. 藤田勝利＝工藤聡一編著『現代商取引法』（弘文堂）、2. 北居功＝高田晴仁『民法とつながる商法総則・商行為法』（商事法務）を参考書として推薦する。			
オフィスアワー	講義内容に関する質問等は、木曜講義終了後12:10～教室内で受け付けます。また、開講時ガイダンスでお知らせするメールアドレスあてにメール送信することも可とします。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認し、教科書第1章を通読する。（2時間）
	授業内容	本講義のガイダンス 商法総則・商行為法を学ぶ目的を説明し、本講座が対象とする法領域を説明する。
	事後学習	民事法の全体像を把握したうえで、民事法の中における商法の役割・存在意義を理解する。（2時間）
2	事前学習	商法1条～3条、同501条～503条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第2章第1節・第2節を通読する。（2時間）
	授業内容	商法の法源・適用範囲を学び、民事法の法源と商法典の役割、民法と商法の異同を検討する。
	事後学習	商法が規整する対象範囲を理解し説明できる。 民法と商法との具体的な規整内容の異同を理解し説明できる。（2時間）
3	事前学習	商法4条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第2章第2節を通読する。（2時間）
	授業内容	商人の意義と商人資格に関する裁判例を学び、商法典の規整対象を検討する。
	事後学習	商人資格に関する裁判例を熟読し、問題の所在と法律のあてはめを理解し説明できる。（2時間）
4	事前学習	商法11条～13条、15条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第4章を通読する。（2時間）
	授業内容	商号と商号登記に関する制度趣旨と法規整を検討する。
	事後学習	商号・商号登記に関する判例を熟読し、問題の所在と法律のあてはめを理解し説明できる。（2時間）

5	事前学習	商法14条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第4章第4節第7を通読する。（2時間）
	授業内容	名板貸責任の意義・要件・効果とこれに関連する法律問題を検討する。
	事後学習	名板貸責任に関する判例を熟読し、問題の所在と法律のあてはめを理解し説明できる。（2時間）
6	事前学習	商法16条～18条2を通読し条文の意味するところを考える。教科書第5章を通読する。（2時間）
	授業内容	営業譲渡の意義・要件・効果とこれに関連する法律問題を検討する。
	事後学習	営業譲渡の場合分けごとの要件・効果を理解し説明できる。（2時間）
7	事前学習	営業譲渡に関する最近の裁判例を事前に配布するので、これを熟読する。（2時間）
	授業内容	さまざまなタイプの営業譲渡について、最近の裁判例に基づいて検討する。
	事後学習	営業譲渡に関する裁判例と法規整との関係を理解し説明できる。（2時間）
8	事前学習	第1回～第7回の講義内容を振り返り、重要論点を整理・理解しておく。（2時間）
	授業内容	授業内確認テストとその解説
	事後学習	テストと自己の解答を振り返り、自分の理解度を確認する。（2時間）
9	事前学習	商法20条～26条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第7章を通読する。（2時間）
	授業内容	支配人・商業使用人に関する法規整と関連裁判例を検討する。
	事後学習	支配人・表見支配人・商業使用人に関する判例を熟読し説明できる。（2時間）
10	事前学習	商法27条～31条、543条～558条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第7章第7節を通読する。（2時間）
	授業内容	代理商に関する法規整と裁判例を検討する。
	事後学習	代理商・仲立人・問屋の異同を理解し説明できる。（2時間）
11	事前学習	商法27条～31条、543条～558条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第11章を通読する。（2時間）
	授業内容	仲立商・問屋に関する法規整と裁判例を検討する。
	事後学習	代理商・仲立人・問屋に関する判例を熟読し説明できる。（2時間）
12	事前学習	商法504条～521条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第8章を通読する。（2時間）
	授業内容	商行為法総則で規整される事項とこれに関連する裁判例を検討する。
	事後学習	特に、諾否通知義務・物品保管義務等に関する判例を熟読し説明できる。（2時間）
13	事前学習	商法524条～528条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第9章を通読する。（2時間）
	授業内容	商事売買に関する法規整とこれに関連する裁判例を検討する。
	事後学習	商事売買に関する裁判例の動向を整理し理解し説明できる。（2時間）
14	事前学習	商法593条～596条を通読し条文の意味するところを考える。教科書第13章を通読する。（2時間）
	授業内容	場屋営業者とその顧客との法律関係とこれに関連する裁判例を検討する。
	事後学習	場屋営業者に関する裁判例を整理し理解し説明できる。（2時間）
15	事前学習	これまでの復習を行っておくこと。（2時間）
	授業内容	授業内試験 フィードバックはポータルサイト等を通じて行う。
	事後学習	テストと自己の解答を振り返り、自分の理解度を確認する。（2時間）

科目名	商法Ⅱ（商取引法）	担当者	南 健悟	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この講義では、商法の分野のうち、総則・商行為法と呼ばれる分野について解説する。総則では、B to BやB to Cのような取引の基盤となる法制度等について学び、商行為法では各種商事取引における法規整について扱う。総則・商行為法では、商事取引の基盤となる法制度や各種商行為を説明することとなる				
授業目的・到達目標	この講義では商法総則及び商行為法に関する基礎的知識を踏まえて、商取引において生じる法的諸問題に関する知識を修得することが目的となる。そして、商法総則及び商行為法を学修するに当たっては、現行の商法の規定と商取引の実態との関連について理解することが重要となる。この講義では、商事取引の基盤となる法制度について理解した上で、そこから生じる法的諸問題について基礎的な知識を得ることも目標となる。総則及び商行為法分野において生じる法的論点について、従来の判例や学説を手がかりに考察することができるようになることが、本講義の到達目標である。関連DP及びCP：法律学科1, 3, 5 経営法学科1, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	基本的には講義形式になるが、事前の予習を踏まえた上で、積極的な発言を求めることがある。法改正に合わせて最新版の六法を使用する。なお、各回の小テスト及び期末試験につきポータルサイト等で講評・解説等を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	定期試験において、択一・論述形式により出される問題により、正確な知識等を有しているかを図る。	
	平常評価		20%	講義内で提示される択一問題や空欄補充問題が正答しているかどうかにより、基礎的な知識が定着しているかを確認する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019年	法律文化社	商法総則・商行為法		北村雅史編
	備考				
参考書	江頭憲治郎『商取引法（第8版）』（弘文堂、2018年） 箱井崇史『基本講義現代海商法（第3版）』（成文堂、2018年）				
オフィスアワー	毎週水曜日午後1時00分～2時30分。ただし、在室中や事前にアポイントがある場合には、適宜対応する。 研究室本館9階1919研究室、メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書に目を通し、商法総則・商行為法と呼ばれる分野にはどのような法的な問題があるのかを確認しておく。（2時間）
	授業内容	商法とはどのような法体系を有する法分野であるのかについて、その概要を説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商法と民法の違い等を説明できるようにしておく。（2時間）
2	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第1章 商法総論」を読み、商法の意義、特徴、歴史と展開について把握しておく。（2時間）
	授業内容	商法とはどのような法律であるのか、民法とはどのような点で異なるのか、商法とはどのような歴史を有しているのかについて説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商法の特徴について確認しておく。（2時間）
3	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第2章 商人・商行為」を読み、商法の基本概念である商人と商行為について、その概要を把握しておく。（2時間）
	授業内容	商取引の主体たる商人や、商行為概念は商法的基本概念として位置づけられており、その2つの概念について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商人とはどのような存在かについて、商人資格の取得等と合わせて説明できるようにしておく。（2時間）
4	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第4章 商号」を読み、商号にはどのような機能があるのかを把握しておく。（2時間）
	授業内容	商人がその営業上自己を表す名称のことを商号というが、商号とはどのようなものか、どのように機能しているのか、どのように保護されているのかについて説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商号の基本的事項について把握したうえで、どのような場合であれば類似商号といえるのかなどについて自分なりに検討してみる。（2時間）

5	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第3章 商業登記 1 商業登記制度 2 商業登記の手続き」を読み、商業登記制度とはどのような制度なのかを把握しておく。(2時間)
	授業内容	商人情報の公示方法の一つである商業登記制度について、その制度の存在意義や特徴を不動産登記との違いを明らかにしながら、説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商業登記制度の特徴について、不動産登記との違いを意識しながら、説明できるようにしておく。(2時間)
6	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第4章 商業登記 3 商業登記の効力」を読み、商業登記にはどのような効力があるのかを確認しておく。(2時間)
	授業内容	商業登記には、一般的効力として消極的公示力と積極的公示力があるとされ、さらに不実登記の効力等も有することから、これらの効力について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商業登記の効力に関する条文操作や解釈に慣れておく。(2時間)
7	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第6章 商業帳簿」を読み、商業帳簿制度の概要について把握しておく。(2時間)
	授業内容	商人情報の公示として位置づけられる商業帳簿にはどのような機能を有しているのかなどについて説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、さらに簿記論や会計学との関係について自分なりに検討しておく。(2時間)
8	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び「第7章 商業使用人 第8章 代理商」を読み、商人の補助者についてどのような者がいるのかを把握しておく。(2時間)
	授業内容	商人の補助者としての商業使用人や代理商について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、商業使用人や代理商制度の概要を踏まえたうえで、商業使用人と代理商の違いなどについて考察してみる。(2時間)
9	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第9章 商行為法総論」を読み、商行為法通則に関する規定にはどのようなものがあるのかを確認しておく。(2時間)
	授業内容	商行為の通則規定についてまずは説明したうえで、民法上の規定との違いなどについて解説する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、民法及び商法の規定との違いは何に起因しているのかなどについて説明できるようにしておく。(2時間)
10	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第10章 商事売買」を読み、また民法における債務不履行責任や解除制度等について復習しておく。(2時間)
	授業内容	商人間の売買の場合には、民法とは異なる規律を受ける場合があることから、商人間の売買である商事売買に関する特則規定について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、民法上の売買に関する規定とどのような点が異なるのか、自分なりに表にまとめるなどして説明できるようにしておく。(2時間)
11	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第11章 交互計算その他の決済手段」を読み、交互計算契約とはどのような契約であるのか、その概要を把握しておく。(2時間)
	授業内容	企業取引の決済手段の一つである交互計算契約の特殊性やその効力について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、交互計算契約の効力等について説明できるようにしておく。(2時間)
12	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第12章 匿名組合」を読み、その契約の概要を把握しておく。(2時間)
	授業内容	事業を行うに当たって用いられる匿名組合契約とはどのような契約であるのかについて説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、民法上の組合や会社制度との違いについて、自分なりにまとめておく。(2時間)
13	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第14章 仲立営業」を読み、仲立営業の意義や特徴を把握しておく。(2時間)
	授業内容	仲立営業の具体例を用いながら、仲立人の意義や民事仲立・商事仲立の区別、そして仲立人の権利義務関係について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、仲立人の特徴について説明できるようにしておく。(2時間)
14	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第14章 問屋営業」を読み、問屋営業の意義や特徴を把握しておく。(2時間)
	授業内容	問屋営業の具体例を用いながら、問屋の意義や特徴、そして問屋と委託者との関係や取引の相手方との関係について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、代理商・仲立人・問屋の異同について説明できるようにしておく。(2時間)
15	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第17章 場屋営業」を読み、場屋取引の意義や特徴を把握しておく。(2時間)
	授業内容	ホテル・旅館、レストランなどの場屋営業取引において適用される規定や営業主の責任について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、場屋営業主が責任を負う場合にはどのような場合があるのかを説明できるようにしておく。(2時間)

科目名	商法Ⅲ（支払システム法）	担当者	大久保 拓也	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
-----	--------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	個人や企業が売買代金の支払いを行う際、現金で支払うか、キャッシュ・カード、クレジットカード等で支払うか、銀行振込を利用するか等さまざまな方法が考えられる。支払決済の中心に位置するのが、銀行をはじめとする金融機関である。本講義では、これらの企業取引の決済手段に関する法知識を身に付ける者を育成することを目的とした授業を行う。			
授業目的・到達目標	企業取引の基礎知識として、手形・小切手等の支払決済の仕組みの主要な論点の修得を目的とする。決済方法には、現金をはじめとしてコンビニ決済等身近な決済方法から、手形・小切手等企業間決済のような高度なものも存在する。近年は電子マネー、仮想通貨といった新しい決済方法も登場している。その仕組みについて受講生が説明できるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考力を習得できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1、3、5 経営法学科1、3、5 公共政策学科1、3、4			
履修条件	継続的に講義に出席し、予習・復習を行う者。			
授業方法	決済に関する法規制を講義形式で解説する。各種資格試験の過去の問題等も教材とし、授業中に解説する。ポータルシステムを利用して解説や講評を配信する場合もある。講義の進捗に合わせてシラバスの内容を変更することがある。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	支払決済に関する法規制や基本問題について、論理的な解答を記述できたかどうかを判定する。講義中に示した基本事項について十分理解しておくこと。	
	平常評価	20%	授業への参加度等の平常の講義への取り組みや、授業中何度か実施する小テストの評価を加味した総合評価を行う。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	商事法務	支払決済法―手形小切手から電子マネーまで―（第3版）	小塚莊一郎＝森田果
	備考	六法を持参すること（民法（債権関係）、（相続関係）改正、商法（運送法等）が成立したため、最新版（2019(平成31)年版）が望ましい）		
参考書	『手形小切手判例百選（第7版）』神田秀樹＝神作裕之編（有斐閣、2014年）。『商法Ⅲ―手形・小切手―（第5版）』大塚龍児ほか（有斐閣、2018年）。その他必要に応じて資料を配付する。			
オフィスアワー	火曜5時限。事前にメールでアポイントメントをとること 研究室（9号館2階9204）ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、教科書の冒頭にある説明を読み、講義全体を概観する。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	講義の進捗に合わせて、以下の内容には変更がありうる。 ガイダンス、支払決済法の全体像を理解する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
2	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第1章 総論」「第1節 支払手段法の役割」「第2節 支払手段の特徴」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
3	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第1章 総論」「第3節 決済システム」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
4	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第2章 電子マネーと仮想通貨（暗号資産）」「第1節 電子マネー」「第2節 プリペイドカード」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）

5	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第2章 電子マネーと仮想通貨（暗号資産）」「第3節 仮想通貨（暗号資産）と疑似通貨」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
6	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第3章 銀行振込・資金移動業等」「第1節 銀行振込の仕組み」「第2節 預金取引」「第3節 振込の取消し・撤回」「第4節 デビット・カード」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
7	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第3章 銀行振込・資金移動業等」「第5節 銀行間資金決済システム」「第6節 資金移動業・収納代行・代引き」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
8	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第9章 有価証券理論」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
9	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第4章 小切手」「第1節 小切手の基本」「第2節 小切手の振出し」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
10	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第4章 小切手」「第4節 線引小切手」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
11	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第6章 約束手形」「第1節 約束手形とその発展形態」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
12	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第6章 約束手形」「第2節 振出し①」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
13	事前学習	シラバスを確認すると共に、教科書の冒頭にある説明を読み、講義全体を概観する。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第6章 約束手形」「第2節 振出し②」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
14	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第6章 約束手形」「第2節 振出し③」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
15	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第6章 約束手形」「第2節 振出し④」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）

27	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第7章 電子記録債権②」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
28	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第8章 クレジットカード①」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
29	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第8章 クレジットカード②」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
30	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第5章 為替手形」である。 テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。講義のまとめと復習をする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。授業で取り扱った重要論点を全体的に復習する。（2時間）

科目名	商法Ⅲ（支払システム法）	担当者	金澤 大祐	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義においては、現金、手形、小切手等従来から利用されている決済手段のみならず、電子記録債権、電子マネー等の最新の決済手段まで幅広く取り扱うことによって、広く決済法についての法的知識を得ることを目指す。また、多様な決済手段に関して生じた具体的な紛争についても取り上げることによって、より具体的に決済法について検討することとする。				
授業目的・到達目標	本講義では、多様な決済手段に関する法知識、具合的には、手形・小切手のみならず、電子記録債権、電子マネー等新しい決済手段に関する基本的な法知識を習得することを目的とする。また、多様な決済手段に関して生じた具体的な紛争について、具体的な事実関係に即して、一定の結論を論理的に説明することができることを目標とする。 関連D P 及びC P：法律学科1、3、5 経営法学科1、3、5 公共政策学科1、3、4				
履修条件	継続的に講義に出席し、予習・復習を行う者。				
授業方法	本講義は、講義形式で行い、適宜質疑応答を行い、小テストを行う。 講義の進度に合わせて、シラバスの内容を変更することがある。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		80%	支払決済に関する基本的な知識の習得と論理的な解答を記述できたか否かで判定する。	
	平 常 評 価		20%	授業への参加度や小テストの評価を加味して総合的に判断する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	商事法務		支払決済法―手形小切手から電子マネーまで―（第3版）	小塚莊一郎＝森田果
	備考	最新版の六法を持参すること。			
参 考 書	『手形小切手判例百選（第7版）』神田秀樹＝神作裕之編（有斐閣、2014年） その他必要に応じて資料を配布する。				
オフィスアワー	火曜日 12:10～12:40 授業終了後の講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、教科書の冒頭にある説明を読み、講義全体を概観する（2時間）。
	授業内容	ガイダンス、支払決済法の全体像を把握する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。（2時間）
2	事前学習	テキストを読み、テキストに記載されている条文を六法で確認し、予習する。（2時間）
	授業内容	「第1章 総論」「第1節 支払手段法の役割」「第2節 支払手段の特徴」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストに記載のある条文や制度の仕組みについて、予習して得た知識について、授業で取り扱う具体的事例を通して検討することによって、理解を深める。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。（2時間）
3	事前学習	テキストを読み、テキストに記載されている条文を六法で確認し、予習する。（2時間）
	授業内容	「第1章 総論」「第3節 決済システム」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストに記載のある条文や制度の仕組みについて、予習して得た知識について、授業で取り扱う具体的事例を通して検討することによって、理解を深める。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。（2時間）
4	事前学習	テキストを読み、テキストに記載されている条文を六法で確認し、予習する。（2時間）
	授業内容	「第2章 電子マネーと仮想通貨（暗号資産）」「第1節 電子マネー」「第2節 プリペイドカード」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストに記載のある条文や制度の仕組みについて、予習して得た知識について、授業で取り扱う具体的事例を通して検討することによって、理解を深める。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。（2時間）

27	事前学習	テキストを読み、テキストに記載されている条文を六法で確認し、予習する。（2時間）
	授業内容	「第7章 電子記録債権②」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストに記載のある条文や制度の仕組みについて、予習して得た知識について、授業で取り扱う具体的事例を通して検討することによって、理解を深める。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。（2時間）
28	事前学習	テキストを読み、テキストに記載されている条文を六法で確認し、予習する。（2時間）
	授業内容	「第8章 クレジットカード①」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストに記載のある条文や制度の仕組みについて、予習して得た知識について、授業で取り扱う具体的事例を通して検討することによって、理解を深める。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。（2時間）
29	事前学習	テキストを読み、テキストに記載されている条文を六法で確認し、予習する。（2時間）
	授業内容	「第8章 クレジットカード②」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストに記載のある条文や制度の仕組みについて、予習して得た知識について、授業で取り扱う具体的事例を通して検討することによって、理解を深める。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。（2時間）
30	事前学習	テキストを読み、テキストに記載されている条文を六法で確認し、予習する。（2時間）
	授業内容	「第5章 為替手形」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストに記載のある条文や制度の仕組みについて、予習して得た知識について、授業で取り扱う具体的事例を通して検討することによって、理解を深める。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。講義で言及された条文、制度の仕組み、判例について復習する。（2時間）

科目名	商法Ⅲ（支払システム法）	担当者	大久保 拓也	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
-----	--------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	個人や企業が売買代金の支払いを行う際、現金で支払うか、キャッシュ・カード、クレジットカード等で支払うか、銀行振込を利用するか等さまざまな方法が考えられる。支払決済の中心に位置するのが、銀行をはじめとする金融機関である。本講義では、これらの企業取引の決済手段に関する法知識を身に付ける者を育成することを目的とした授業を行う。			
授業目的・到達目標	企業取引の基礎知識として、手形・小切手等の支払決済の仕組みの主要な論点の修得を目的とする。決済方法には、現金をはじめとしてコンビニ決済等身近な決済方法から、手形・小切手等企業間決済のような高度なものも存在する。近年は電子マネー、仮想通貨といった新しい決済方法も登場している。その仕組みについて受講生が説明できるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考力を習得できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1、3、5 経営法学科1、3、5 公共政策学科1、3、4			
履修条件	継続的に講義に出席し、予習・復習を行う者。			
授業方法	決済に関する法規制を講義形式で解説する。各種資格試験の過去の問題等も教材とし、授業中に解説する。ポータルシステムを利用して解説や講評を配信する場合もある。講義の進捗に合わせてシラバスの内容を変更することがある。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	支払決済に関する法規制や基本問題について、論理的な解答を記述できたかどうかを判定する。講義中に示した基本事項について十分理解しておくこと。	
	平常評価	20%	授業への参加度等の平常の講義への取り組みや、授業中何度か実施する小テストの評価を加味した総合評価を行う。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	商事法務	支払決済法―手形小切手から電子マネーまで―（第3版）	小塚莊一郎＝森田果
	備考	六法を持参すること（民法（債権関係）、（相続関係）改正、商法（運送法等）が成立したため、最新版（2019(平成31)年版）が望ましい）		
参考書	『手形小切手判例百選（第7版）』神田秀樹＝神作裕之編（有斐閣、2014年）。『商法Ⅲ―手形・小切手―（第5版）』大塚龍児ほか（有斐閣、2018年）。その他必要に応じて資料を配付する。			
オフィスアワー	火曜5時限。事前にメールでアポイントメントをとること 研究室（9号館2階9204）ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、教科書の冒頭にある説明を読み、講義全体を概観する。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	講義の進捗に合わせて、以下の内容には変更がありうる。 ガイダンス、支払決済法の全体像を理解する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
2	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第1章 総論」「第1節 支払手段法の役割」「第2節 支払手段の特徴」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
3	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第1章 総論」「第3節 決済システム」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
4	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第2章 電子マネーと仮想通貨（暗号資産）」「第1節 電子マネー」「第2節 プリペイドカード」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）

5	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第2章 電子マネーと仮想通貨（暗号資産）」「第3節 仮想通貨（暗号資産）と疑似通貨」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
6	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第3章 銀行振込・資金移動業等」「第1節 銀行振込の仕組み」「第2節 預金取引」「第3節 振込の取消し・撤回」「第4節 デビット・カード」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
7	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第3章 銀行振込・資金移動業等」「第5節 銀行間資金決済システム」「第6節 資金移動業・収納代行・代引き」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
8	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第9章 有価証券理論」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
9	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第4章 小切手」「第1節 小切手の基本」「第2節 小切手の振出し」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
10	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第4章 小切手」「第4節 線引小切手」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
11	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第6章 約束手形」「第1節 約束手形とその発展形態」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
12	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第6章 約束手形」「第2節 振出し①」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
13	事前学習	シラバスを確認すると共に、教科書の冒頭にある説明を読み、講義全体を概観する。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第6章 約束手形」「第2節 振出し②」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
14	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第6章 約束手形」「第2節 振出し③」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
15	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第6章 約束手形」「第2節 振出し④」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）

27	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第7章 電子記録債権②」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
28	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第8章 クレジットカード①」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
29	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「第8章 クレジットカード②」 授業で取り扱うのは、テキストの上記箇所である。テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
30	事前学習	テキストの予習をする。十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第5章 為替手形」である。 テキストの内容を整理し、関連する条文を確認し、予習してきた知識と授業を通じて理解した内容の違いを明確にすることによって、制度の正確な内容は何かを考察する。講義のまとめと復習をする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。授業で取り扱った重要論点を全体的に復習する。（2時間）

科目名	商法Ⅳ（保険法）	担当者	小野寺 千世	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義は、保険契約の意義を理解し、損害保険契約および生命保険契約に関する解釈論上の問題点とこれに関する裁判例を検討し、保険法に関する法的基礎知識を学習する。				
授業目的・到達目標	保険法に関する基礎的知識を修得することを目的とする。 本講義を通じて、基礎的意義としての、保険会社はどのように運営されているか、損害保険契約とは、生命保険契約とは、傷害疾病保険契約とは何か、保険契約に特徴的な点は何かな等を理解、説明できることを目標とする。 関連ＤＰ及びＣＰ：法律学科1, 3, 5 経営法学科1, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	3，４年生を対象とする。 債権法を履修していることが望ましい。				
授業方法	講義形式で行う。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	学習した基礎的知識の取得度を評価する。	
	平常評価		20%	前半部分について小テストを行う。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2017年	有斐閣	ポイントレクチャー保険法		甘利公人、福田弥夫、遠山聡
	備考				
参考書	山下友信＝洲崎博史編『保険判例百選』（有斐閣）				
オフィスアワー	火曜日１２：２０～１３：００研究室にて（事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（９号館３階 ９３０８号室） メールアドレス：onodera.chise@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書UNIT1を読み、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 保険法とは
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
2	事前学習	教科書UNIT1 5 I～Vを読み、保険監督の仕組みを考察する。（2時間）
	授業内容	保険監督法（1） 保険監督のための法整備
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
3	事前学習	教科書UNIT1 5 VI～を読み、保険業法を概観する。（2時間）
	授業内容	保険監督法（2） 保険監督規制のあり方
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
4	事前学習	教科書UNIT1 I、IIを読み、保険制度、保険契約について考察する。（2時間）
	授業内容	保険法総論（1） 保険とは何か
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）

5	事前学習	教科書UNIT 1 Ⅲ、Ⅳを読み、保険契約における説明義務に関する裁判例を考察する。（2時間）
	授業内容	保険法総論（2） 保険法における説明義務
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
6	事前学習	教科書UNIT 2 Ⅰ～Ⅲを読み、保険契約とは何かを考察する。（2時間）
	授業内容	保険契約総論（1） 保険契約の定義、保険契約の当事者および関係者
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
7	事前学習	教科書UNIT 2 Ⅳ、Ⅴを読み、契約の履行期、契約の解除について考察する。（2時間）
	授業内容	保険契約総論（2） 保険給付の履行期、重大事由による解除、
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
8	事前学習	教科書UNIT 3 を読み、被保険利益について考察する。（2時間）
	授業内容	被保険利益
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
9	事前学習	教科書UNIT 4 Ⅰ、Ⅱを読み、告知義務に関して考察する。（2時間）
	授業内容	告知義務（1） 告知義務の意義、内容
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
10	事前学習	教科書UNIT 4 Ⅲを読み、保険契約における告知事項を考察する。（2時間）
	授業内容	告知義務（2） 告知事項
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
11	事前学習	教科書UNIT 5 Ⅰ～Ⅳを読み、保険金額、保険価額について考察する。（2時間）
	授業内容	損害保険契約総論（1） 保険金額と保険価額
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
12	事前学習	教科書UNIT 5 Ⅴ～を読み、損害保険契約における通知義務について考察する。（2時間）
	授業内容	損害保険契約総論（2） 通知義務
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
13	事前学習	教科書UNIT 5 を読み、火災保険に関して考察する。（2時間）
	授業内容	損害保険契約総論（3） 火災保険
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
14	事前学習	教科書UNIT 6 を読み、保険代位に関して考察する。（2時間）
	授業内容	保険代位
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
15	事前学習	これまでのノートを確認すること。（2時間）
	授業内容	前半のまとめ
	事後学習	これまでのまとめをとおして、分からない点を調べること。（2時間）
16	事前学習	教科書UNIT 7 を読み、損害保険契約における故意免責に関して考察する。（2時間）
	授業内容	損害保険の免責事由（1） 故意免責
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）

17	事前学習	教科書UNIT 7を読み、損害保険契約における重過失免責に関して考察する。（2時間）
	授業内容	損害保険の免責事由（2） 重過失免責
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
18	事前学習	教科書UNIT 8を読み、各専門家責任保険に関して考察する。（2時間）
	授業内容	責任保険
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
19	事前学習	教科書UNIT 9 I、IIを読み、自賠責保険に関して考察する。（2時間）
	授業内容	自動車保険－自賠責保険（1） 自賠責保険とは
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
20	事前学習	教科書UNIT 9 IIIを読み、自賠責保険にいう「運行供用者」について考察する。（2時間）
	授業内容	自動車保険－自賠責保険（2） 運行供用者の概念
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
21	事前学習	教科書UNIT 10 I、IIを読み、任意自動車保険の対人賠償責任保険、搭乗者傷害保険について考察する。（2時間）
	授業内容	自動車保険－任意保険（1） 対人賠償責任保険、搭乗者傷害保険
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
22	事前学習	教科書UNIT 10 III～を読み、任意自動車保険の人身傷害補償保険、車両保険および特約条項について考察する。（2時間）
	授業内容	自動車保険－任意保険（2） 人身傷害補償保険、車両保険、特約条項
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
23	事前学習	教科書UNIT 11 I～Vを読み、生命保険契約における保険料と保険者の責任の関係を考察する。（2時間）
	授業内容	生命保険契約（1） 保険料と保険者の責任
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
24	事前学習	教科書UNIT 11 VI～を読み、他人の生命の保険契約、第三者のためにする生命保険契約に関して考察する。（2時間）
	授業内容	生命保険契約（2） 他人の生命の保険契約、第三者のためにする生命保険契約
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
25	事前学習	教科書UNIT 12 I、IIを読み、生命保険金受取人の変更について考察する。（2時間）
	授業内容	生命保険金受取人（1） 保険金受取人の変更
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
26	事前学習	教科書UNIT 12 III～を読み、保険金受取人の権利の取得割合、介入権に関して考察する。（2時間）
	授業内容	生命保険金受取人（2） 保険金受取人の権利の取得割合、介入権
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
27	事前学習	教科書UNIT 13を読み、生命保険における免責事由を考察する。（2時間）
	授業内容	生命保険の免責事由
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
28	事前学習	教科書UNIT 14 Iを読み、傷害保険の保険事故について考察する。（2時間）
	授業内容	傷害疾病保険（1） 傷害保険の保険事故
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）

29	事前学習	教科書UNIT 1 4 IIを読み、責任開始期前発病不担保条項について考察する。（2時間）
	授業内容	傷害疾病保険（2） 責任開始期前発病不担保条項
	事後学習	ノート等を確認し、わからない点を調べること。（2時間）
30	事前学習	これまでのノート等を確認。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	定期試験の準備。（2時間）

科目名	商法Ⅳ（保険法）	担当者	井口 浩信	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	4
-----	----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	保険制度は、企業の事業活動や個人の日常生活と密接に係る重要な社会インフラであり、保険制度の安定的な運営を確保するために、この基本的な規律を定めておく必要がある。これを定めたのが保険法である。本講座では、保険法のほか、実務で利用される保険約款や裁判例等も参照して法規整の理解を深める。				
授業目的・到達目標	1. 保険法の役割を理解し、法的紛争へのあてはめとその説明能力の養成が本講座の目的である。 2. 保険法の重要論点や重要裁判例を理解し、これを説明できること。 3. 主要な保険取引における法規整と保険約款との相違を理解し、これを説明できること。 4. 保険の最先端の議論にふれ、これらについて論理的、合理的かつ批判的に考察できること。 2～4を到達目標とする。				
履修条件	関法総論秘OR法権法科履修済みか並修履修単位あること希望公共政策学科1，3，4 必ず「保険法」が記載された六法（小型版六法で可）を携行のこと。				
授業方法	講義を中心とするが、講師と学生とで一問一答を実施したり、学生に発表・報告を求めることがある。 確認テストのフィードバックは授業内で、学期末の授業内試験のフィードバックはポータルシステムで実施する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	確認テストの点数と学期末授業内試験の点数の合計に、授業中の発表等の授業参加度を加味して評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017年	有斐閣		ポイントレクチャー保険法	甘利＝福田＝遠山
	備考	裁判例・取引約款等の資料等を適宜配布する。なお、「保険法判例百選」掲載裁判例を常時参照するので、あらかじめ指定する裁判例を用意し通読すること。			
参考書	「保険法判例百選」				
オフィスアワー	講義内容に関する質問等は、講義（月曜2限）終了後に教室内で受け付けます。また、開講時ガイダンスでお知らせするメールアドレスあてにメール送信することも可とします。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認し、教科書UNIT1を通読する。（120分）
	授業内容	本講義のガイダンス 保険法を学ぶ目的を説明し、本講座が対象とする法領域を説明する。
	事後学習	民事法の全体像を把握したうえで、民事法の中における保険法の役割・存在意義を理解する。（120分）
2	事前学習	教科書UNIT1のPOINT1～4を通読する。（120分）
	授業内容	裁判例を読む際の着眼点を理解し、事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。
	事後学習	裁判所の判断に対する自らの意見を整理する。（120分）
3	事前学習	教科書UNIT2を通読する。（120分）
	授業内容	保険契約当事者の間の基本的な権利義務関係を検討する。
	事後学習	重大事由解除を理解し、説明できる。（120分）
4	事前学習	教科書UNIT2のPOINT1～6を通読する。（120分）
	授業内容	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。
	事後学習	裁判所の判断に対する自らの意見を整理する。（120分）

5	事前学習	教科書UNIT 3を通読する。(120分)
	授業内容	被保険利益に関する従来の議論を踏まえて、今日的な意義を検討する。
	事後学習	生命保険と損害保険における被保険利益の相違を説明できる。(120分)
6	事前学習	教科書UNIT 3のPOINT 1～3を通読する。(120分)
	授業内容	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。
	事後学習	裁判所の判断に対する自らの意見を整理する。(120分)
7	事前学習	教科書UNIT 4を通読する。(120分)
	授業内容	告知義務制度に内在する問題点を検討する。
	事後学習	告知義務違反の効果を説明できる。(120分)
8	事前学習	教科書UNIT 4のPOINT 1～6を通読する。(120分)
	授業内容	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。
	事後学習	裁判所の判断に対する自らの意見を整理する。(120分)
9	事前学習	教科書UNIT 5を通読する。(120分)
	授業内容	火災保険・地震保険の概要と重要な法律問題を検討する。
	事後学習	地震免責を巡る法律問題を整理し、説明できる。(120分)
10	事前学習	教科書UNIT 5のPOINT 1～5を通読する。(120分)
	授業内容	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。
	事後学習	裁判所の判断に対する自らの意見を整理する。(120分)
11	事前学習	教科書UNIT 6を通読する。(120分)
	授業内容	保険代位の概要と重要な法律問題を検討する。
	事後学習	保険代位を巡る法律問題を整理し、説明できる。(120分)
12	事前学習	教科書UNIT 6のPOINT 1～4を通読する。(120分)
	授業内容	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。
	事後学習	裁判所の判断に対する自らの意見を整理する。(120分)
13	事前学習	教科書UNIT 7を通読する。(120分)
	授業内容	保険会社が免責される場合とこれに関する重要な法律問題を検討する。
	事後学習	故意免責の射程範囲を整理し、説明できる。(120分)
14	事前学習	教科書UNIT 7のPOINT 1～7を通読する。(120分)
	授業内容	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。
	事後学習	裁判所の判断に対する自らの意見を整理する。(120分)
15	事前学習	これまでの学習内容の振り返り (120分)
	授業内容	確認テスト・解説
	事後学習	テスト結果を踏まえ、誤った点等の復習を行う。(120分)
16	事前学習	教科書UNIT 8を通読する。(120分)
	授業内容	賠償責任保険の概要と重要な法律問題を検討する。
	事後学習	賠償責任保険を巡る法律問題を整理し、説明できる。(120分)

17	事前学習	教科書UNIT 8のPOINT 1～5を通読する。(120分)
	授業内容	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。
	事後学習	裁判所の判断に対する自らの意見を整理する。(120分)
18	事前学習	教科書UNIT 9を通読する。(120分)
	授業内容	自賠責保険の概要と重要な法律問題を検討する。
	事後学習	自賠責保険と任意自動車保険との異同を整理し、説明できる。(120分)
19	事前学習	教科書UNIT 9のPOINT 1～5を通読する。(120分)
	授業内容	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。
	事後学習	裁判所の判断に対する自らの意見を整理する。(120分)
20	事前学習	教科書UNIT 10を通読する。(120分)
	授業内容	任意自動車保険の概要と重要な法律問題を検討する。
	事後学習	自賠責保険と任意自動車保険との異同を整理し、説明できる。(120分)
21	事前学習	教科書UNIT 10のPOINT 1～6を通読する。(120分)
	授業内容	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。
	事後学習	裁判所の判断に対する自らの意見を整理する。(120分)
22	事前学習	教科書UNIT 11を通読する。(120分)
	授業内容	生命保険の概要と重要な法律問題を検討する。
	事後学習	生命保険金請求権の法的性質を整理し、説明できる。(120分)
23	事前学習	教科書UNIT 11のPOINT 1～6を通読する。(120分)
	授業内容	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。
	事後学習	裁判所の判断に対する自らの意見を整理する。(120分)
24	事前学習	教科書UNIT 12を通読する。(120分)
	授業内容	保険金受取人に関する重要な法律問題を検討する。
	事後学習	保険金受取人とその他の保険契約関係者との関係を整理し、説明できる。(120分)
25	事前学習	教科書UNIT 12のPOINT 1～9を通読する。(120分)
	授業内容	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。
	事後学習	裁判所の判断に対する自らの意見を整理する。(120分)
26	事前学習	教科書UNIT 13を通読する。(120分)
	授業内容	生命保険の免責事由の概要と重要な法律問題を検討する。
	事後学習	生命保険の免責事由を整理し、説明できる。(120分)
27	事前学習	教科書UNIT 13のPOINT 1～5を通読する。(120分)
	授業内容	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。
	事後学習	裁判所の判断に対する自らの意見を整理する。(120分)
28	事前学習	教科書UNIT 14を通読する。(120分)
	授業内容	傷害疾病保険の概要と重要な法律問題を検討する。
	事後学習	生命保険と傷害疾病保険との異同を整理し、説明できる。(120分)

29	事前学習	教科書UNIT 1 4のPOINT 1～4を通読する。（120分）
	授業内容	事実関係・争点・裁判所の判断を整理して、裁判所の判断に対する賛否を検討する。
	事後学習	裁判所の判断に対する自らの意見を整理する。（120分）
30	事前学習	これまでの学習内容の振り返り（120分）
	授業内容	まとめ・授業内学年末試験
	事後学習	試験で誤った個所の再確認を行う。（120分）

科目名	商法Ⅴ（運送法）	担当者	工藤 聡一	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	民法の商化、商法の単行法化の傾向のなかで、独自の法体系として商法典に唯一残されることとなったのが運送である。本講では、生産から消費に至る製品の物理的流れを統制し合理化する企業システム、即ちロジスティクスを支える陸・海・空の各運送取引そして倉庫寄託取引についての法規制を確認する。担当教員は、2019年からモビリティやドローンを製品に含むロボット・メーカーの社外取締役をつとめており、実務上の経験と知見を活かして講義を行う。				
授業目的・到達目標	ロジスティクスを構成する運送や倉庫の取引において、取引の当事者の利益がどのように調整されているのかを理解し、その内容を適切に説明できる能力を養成することを授業の目的とする。 企業取引に関する主要法制度の機能を理解し、円滑にこれを運用するための学識を表現できること、及び、ロジスティクスに関する法規範及びその社会的背景を学識として表現できることを、到達目標とする。対応DP及びCP：法律学科1， 3， 5；経営法学科1， 3， 5；公共政策学科1， 3， 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	毎授業の最初にその日の「なぜ」を提示する。授業は講義形式のなぞ解きである。時間の最後に自分なりの「こたえ」を各自ノートに書き留めてもらう。それらが、ミニテスト、授業内テストにおける総合問題のヒントとなる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		40%	論述式問題により、授業内容の理解度をはかる。フィードバックとして、テスト終了後、模範解答を確認しつつ関連の知識をおさらいする。	
	平常評価		60%	穴埋め式、テンプレート式のミニテストにより、授業内容の理解度をはかる。フィードバックとして、テスト終了後、正答解答を確認しつつ関連の知識をおさらいする。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2011年	弘文堂		『現代商取引法』	藤田勝利・工藤聡一編
	備考	毎回、グラフィックオーガナイザー（9種）のうちの該当フォームを、授業共有ファイルからダウンロードして持参すること。第10回～第14回については、PDF教材『現代航空法論』の該当箇所を、授業共有ファイルからダウンロードして持参すること。			
参考書	藤田勝利編『新航空法講義』（信山社、2007年）。				
オフィスアワー	授業講堂にて、授業（金曜5限）の前後に質問に応じる。そこでアポイントメントとることにより、後日対応することもできる。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書『現代商取引法』（第Ⅰ編第1章、第Ⅱ編第1章）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。（120分）
	授業内容	（ガイダンス）授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法等について確認する。（イントロダクション：身近な企業取引（1）売買取引「商事売買」）企業法の体系を概観し、今後の学習内容を俯瞰する。身近な企業取引として、民事取引との対比における「商事売買」の仕組みを考察し、企業取引法への関心を育てる。
	事後学習	教科書及び講義ノートを通読したうえで、フォームA「KWLチャート（1）『商事売買』」を完成させる。（120分）
2	事前学習	教科書『現代商取引法』（第Ⅱ編第2章1）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。（120分）
	授業内容	（身近な企業取引（2）売買仲介取引「仲立」）身近な企業取引として、「仲立人」ないし「仲介業者（ブローカー）」の業務に目を向け、企業取引法への関心を育てる。また、派生論点として、バーチャル・ショッピング・モール等のプラットフォーム責任を考える。
	事後学習	教科書及び講義ノートを通読したうえで、フォームF「VENNダイアグラム『仲立人 v s 問屋』」を完成させる。（120分）
3	事前学習	教科書『現代商取引法』（第Ⅱ編第2章2）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。（120分）
	授業内容	（身近な企業取引（3）運送取引「運送人」、運送仲介取引「運送取扱人から通運業者へ」）身近な企業取引として、「フォワダー」の業務に目を向け、企業取引法への関心を育てる。
	事後学習	教科書及び講義ノートを通読したうえで、フォームG「FRAYERモデル『フォワダー』」を完成させる。（120分）
4	事前学習	教科書『現代商取引法』（第Ⅰ編第2章4、第3章1）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。（120分）
	授業内容	（一般企業設備：支配人、使用人、商号、商業帳簿、商業登記）企業取引を支える汎用的な企業設備として、「支配人」の権利義務を考察し、企業取引法への関心を育てる。担当教員の実務経験を踏まえて、企業の人的・物的設備の運用上の問題を重点的に講義する。
	事後学習	教科書及び講義ノートを通読したうえで、フォームC「KWHLAQチャート『支配人の競業避止義務』」を完成させる。（120分）

5	事前学習	教科書『現代商取引法』（第Ⅱ編第3章1、6）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。（120分）
	授業内容	（陸上運送の企業主体）陸上運送人の権利義務について考える。国際複合運送における相次運送責任の成否を検討に含める。 第1回ミニテストを実施する。解答に引き続き、出題意図、模範解答の説明を含めた問題解説を行う。
	事後学習	教科書及び講義ノートを通読したうえで、フォームB「KWLチャート（2）『コンテナ輸送』」を完成させる。（120分）
6	事前学習	教科書『現代商取引法』（第Ⅱ編第3章3）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。（120分）
	授業内容	（海上運送の企業主体と企業設備）海上運送の大資金性及び投機性が反映した、海上運送人の企業主体及び物的設備の態様を考察する。
	事後学習	教科書及び講義ノートを通読したうえで、事前学習で用いたフォームを完成させる。（120分）
7	事前学習	教科書『現代商取引法』（第Ⅱ編第3章4）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。A～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。（120分）
	授業内容	（海上運送の企業活動）内航運送と外航運送の事業内容と関連制度について考察する。
	事後学習	教科書及び講義ノートを通読したうえで、事前学習で用いたフォームを完成させる。（120分）
8	事前学習	教科書『現代商取引法』（第Ⅰ編第1章、第Ⅱ編第1章）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。A～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。（120分）
	授業内容	（海上危険への対処）海上企業活動において不可避な海上危険への対処にかかる制度を考察する。 第2回ミニテストを実施する。解答に引き続き、出題意図、模範解答の説明を含めた問題解説を行う。
	事後学習	教科書及び講義ノートを通読したうえで、事前学習で用いたフォームを完成させる。（120分）
9	事前学習	教科書『現代商取引法』（第Ⅱ編第2章2）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。A～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。（120分）
	授業内容	（運送仲介と倉庫寄託の企業活動）ロジスティクスの高度化に占める運送仲介及び倉庫寄託の役割を考察する。
	事後学習	教科書及び講義ノートを通読したうえで、事前学習で用いたフォームを完成させる。（120分）
10	事前学習	教科書『現代商取引法』（第Ⅱ編第3章5）、及びPDF教材『現代航空法論』（10）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。A～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。（120分）
	授業内容	（国際航空運送の制度インフラ）航空機の円滑な往来を可能にする国際的な法的枠組みを確認する。1929年ワルソー条約から1966年モントリオール協定までの、航空旅客責任制度の変遷を跡付ける。
	事後学習	テキスト、PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、事前学習で用いたフォームを完成させる。（120分）
11	事前学習	教科書『現代商取引法』（第Ⅱ編第3章5）、及びPDF教材『現代航空法論』（10）を再度読み、メモをとって講義ノートを準備する。A～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。（120分）
	授業内容	（航空運送の企業主体）1971年グアテラマ・シティ議定書から1999年モントリオール条約までの、航空旅客責任制度の変遷を跡付ける。
	事後学習	教科書及び講義ノートを通読したうえで、事前学習で用いたフォームを完成させる。（120分）
12	事前学習	PDF教材『現代航空法論』（6）及び（13）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。A～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。（120分）
	授業内容	（航空運送の企業設備、航空運送の企業活動）海上運送との対比において、航空企業の設備及びどう企業活動の特徴を確認する。
	事後学習	教科書及び講義ノートを通読したうえで、事前学習で用いたフォームを完成させる。（120分）
13	事前学習	PDF教材『現代航空法論』（12）及び（14）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。A～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。（120分）
	授業内容	（航空危険への対処）航空企業活動において不可避である航空危険への対処にかかる制度を考察する。今後増加が見込まれるドローン（小型無人機）の問題を考察対象に含める。担当教員の実務経験を踏まえて、ドローンの実務上の問題点を重点的に講義する。
	事後学習	教科書及び講義ノートを通読したうえで、事前学習で用いたフォームを完成させる。（120分）
14	事前学習	教科書『現代商取引法』（第Ⅱ編第1章）、及びPDF教材『現代航空法論』（15）を読み、メモをとって講義ノートを準備する。A～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。（120分）
	授業内容	（宇宙運送の可能性）海陸、空陸、海空の各複合運送の課題、及び宇宙運送の可能性を考察する。
	事後学習	教科書及び講義ノートを通読したうえで、事前学習で用いたフォームを完成させる。（120分）
15	事前学習	教科書『現代商取引法』及びPDF教材『現代航空法論』を通読する。フォームI「5ステップ・アウトライン・オーガナイザー『国際航空運送責任制度』」を準備する。（120分）
	授業内容	（サマリー）半年間の講義を総括する。授業内テストを実施し、解答に引き続き、出題意図、模範解答の説明を含めた問題解説を行う。
	事後学習	自己のキャリアプラン、興味に即して、本講で学んだ概念、手法を用いたレポートを作成してみよう。例えば、物流企業への就職を希望しており、業界の課題としての人手不足やラストワンマイルに関心がある場合に、「自律飛行ドローンで運送営業を行う際の責任問題」についてまとめる、といったことである。（120分）

科目名	商法Ⅴ（運送法）	担当者	南 健悟	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この講義では、商法の分野のうち、運送法と呼ばれる分野について解説する。より具体的にいえば、商行為法各論の一つである運送法では、運送法総論及び海商法と呼ばれる分野について扱う。運送法総論では、主として陸上運送契約の特徴や陸上運送人の責任について説明し、また海商法では海上運送に特有の法的諸問題について説明することとなる。なお、陸上運送の中でも特殊な鉄道運送及び航空運送についても解説する。				
授業目的・到達目標	この講義では運送法に関する基礎的知識を踏まえて、商取引、とりわけ運送取引において生じる法的諸問題に関する知識を修得することが目的となる。運送取引は、その運送モード（陸上運送・航空運送・海上運送）によって法的規律が異なっており、その違いを踏まえたうえでそこで生じうる法的論点について、従来の判例や学説を手がかりに考察することができるようになることが、本講義の到達目標である。関連DP及びCP：法律学科1, 3, 5 経営法学科1, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	基本的には講義形式になるが、事前の予習を踏まえた上で、積極的な発言を求めることがある。法改正に合わせて最新版の六法を使用する。なお、各回の小テスト及び期末試験につきポータルサイト等で講評・解説等を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	定期試験において、択一・論述形式により出される問題により、正確な知識等を有しているかを図る。	
	平常評価		20%	講義内で提示される択一問題や空欄補充問題が正答しているかどうかにより、基礎的な知識が定着しているかを確認する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019年	法律文化社	商法総則・商行為法		北村雅史編
	備考				
参考書	江頭憲治郎『商取引法（第8版）』（弘文堂、2018年） 箱井崇史『基本講義現代海商法（第3版）』（成文堂、2018年）				
オフィスアワー	毎週水曜日午後1時00分～2時30分。ただし、在室中や事前にアポイントがある場合には、適宜対応する。 研究室本館9階1919研究室、メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第15章 運送営業・運送取扱営業」を読み、運送法全体を把握しておく。（2時間）
	授業内容	運送法とはどのような法分野であるのか、その概要と、各種運送モードの説明を行う。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を読みながら解答し、各種運送モードによる法規整の違いを確認する。（2時間）
2	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、陸上運送の範囲や特徴について把握しておく。（2時間）
	授業内容	陸上運送の契約の性質や、陸上運送の当事者たる運送人及び荷送人との法律関係と、荷受人との関係について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、陸上運送契約の性質や特徴について、自分なりにまとめる。（2時間）
3	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、陸上物品運送人が責任を負う場合にはどのような場合があるのかを確認しておく。（2時間）
	授業内容	陸上物品運送人の責任について、民法上の債務不履行責任との違い等を踏まえたうえで、その特徴について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、陸上物品運送人の責任の特徴（特に、民法上の債務不履行責任との違い）についてまとめる。（2時間）
4	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、陸上物品運送人の損害賠償責任の特徴のうち高価品特則や損害賠償額の定型化に関する制度等について把握しておく。（2時間）
	授業内容	陸上物品運送人の損害賠償責任の特徴である、高価品特則や損害賠償額の定型化に関する規定等について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、陸上物品運送人の損害賠償責任の特徴について、特則が適用される場合とそうではない場合とを把握しておく。（2時間）

5	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、鉄道運送（鉄道物品運送及び鉄道旅客運送）の特徴について把握しておく。（2時間）
	授業内容	陸上運送のうち、鉄道運送契約の特徴について説明したうえで、それ以外の陸上運送との違いについて解説する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、鉄道運送契約の特徴を把握し、実際、自身が締結している鉄道運送契約にはどのような問題があるのか、調べておく。（2時間）
6	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、航空運送（航空物品運送及び航空旅客運送）の得ちゅおについて把握しておく。（2時間）
	授業内容	航空運送契約の特徴について説明したうえで、商法の各規定との関係や各種航空運送に係る条約について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、航空運送契約の特徴を把握しておく。（2時間）
7	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、海商法とはどのような法分野であるのか、法律上、船舶とはどのように扱われるのかについて確認しておく。（2時間）
	授業内容	海商法とはどのような法分野であるのか、そこにはどのような特徴を有しているのか、そして、海商法の基本概念である船舶とは法律上、どのような存在であるのかについて説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海商法の特異性や船舶の法律上の扱いについて確認しておく。（2時間）
8	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、船舶の運航主体である海上運送人・船舶所有者の概念、そして、海上運送人の補助者たる船員についてどのような存在であるのか把握しておく。（2時間）
	授業内容	船舶の運航主体たる海上運送人・船舶所有者や海上運送人の補助者たる船員とはどのような存在であるのかについて説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上運送人の特徴や船員について確認しておく。（2時間）
9	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、船舶所有者等の責任について確認し、そのうえで、船舶所有者の責任を一定程度制限する制度（船主責任制限制度）とは、どのような制度であるのか、その概要を確認しておく。（2時間）
	授業内容	船舶所有者等の責任を一定程度制限する船主責任制限制度について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、船主責任制限制度の概要及び特徴を確認しておく。（2時間）
10	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、海上運送人が発行する船荷証券とはどのような証券であるのかを簡単に確認しておく。（2時間）
	授業内容	海上運送人が荷送人に対して発行する船荷証券とはどのような証券であるのか、そして、どのような特徴を有するものであるのかについて説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、船荷証券の意義及び特徴について把握しておく。（2時間）
11	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、海上物品運送契約の履行過程について把握しておく。（2時間）
	授業内容	海上物品運送契約は、どのように締結され、どのように履行されて、どのように終了するのかなどについて説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上物品運送契約の履行過程について、図示するなどして、説明できるようにしておく。（2時間）
12	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、海上物品運送人の責任について、どのような特徴を有しているのかを把握しておく。（2時間）
	授業内容	海上物品運送人の責任について、陸上運送や航空運送との違いを踏まえたうえで、その特徴について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上物品運送人の責任はどのような場合に生じるのか、その責任の性質は何かについて確認しておく。（2時間）
13	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、海上物品運送人の責任制限や免責が認められる場合には、どのような場合があるのかを把握しておく。（2時間）
	授業内容	海上物品運送人がたとえ責任を負ったとしても、一定程度制限する制度や、場合によっては免責が認められる場合があるが、それはどのような場合なのか、なぜそのような制度が存在するのかを説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上物品運送人の責任制限や免責について確認し、さらに、その合理性について説明できるようにしておく。（2時間）
14	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、海商法特有の法的諸問題である、船舶衝突・海難救助・共同海損制度についてその概要を把握しておく。（2時間）
	授業内容	海は危険と隣合わせであることから、海商法上、船舶の衝突に関する規定や、海難救助や共同海損制度があるが、その制度の内容及び特徴について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、船舶衝突規定や海難救助・共同海損制度について、どのような制度なのかについて説明できるようにしておく。（2時間）
15	事前学習	配布された講義レジュメ及び教科書を通読し、運送法とはどのような法分野であるのか、また海商法とはどのような法分野で陸上運送や航空運送とはどのような異同があるのかを確認しておく。（2時間）
	授業内容	前期のまとめとして、運送法の概要及び海商法の概要について、改めてその中心的な部分を説明する。
	事後学習	小テスト等の解答等を講義レジュメや教科書で確認し、陸上運送・航空運送・海上運送の異同について、自分なりに表などにまとめて説明できるようにしておく。（2時間）

科目名	商法Ⅴ（運送法）	担当者	井口 浩信	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	本講座は運送を中心とする「他人からモノをあずかる」法律関係を学習の対象とする。運送業・倉庫業はわが国の産業の発展を支える重要な基幹産業・インフラであるとともに、私たちの日常生活にも密接な関係がある。本講座では、商法典の規整のほか、現実の運送取引等で利用される約款や裁判例等も参照して理解を深めるとともに、ビジネスの最先端における運送法の役割にもふれる。				
授業目的・到達目標	1. 「他人からモノをあずかる」法律関係を横断的に理解し、法的紛争へのあてはめとその説明能力を養成することを目的とする。 2. 運送法を中心とした商法典の規整とその規整内容を理解し、これを説明できることを目標とする。 3. 「他人からモノをあずかる」法律関係の重要論点や重要裁判例を理解し、これを説明できることを目標とする。 4. 商法典の規整と取引約款の内容との相違を理解し、これを説明できることを目標とする。 5. 運送法の最先端の議論にふれ、これらについて論理的、合理的かつ批判的に考察できることを目標とする。				
履修条件	民法総則・債権法・商法総則・商行為法・商法第3編（運送法）を履修し、商法改正を希望しない。 なお、講義には必ず直近の商法改正を反映した六法（小型版六法で可）を携行のこと。				
授業方法	講義を中心とするが、講師と学生とで一問一答を実施したり、学生に発表・報告を求めることがある。 確認テストのフィードバックは授業内で、学期末の授業内試験のフィードバックはポータルシステムで実施する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	確認テストの点数と学期末授業内試験の点数の合計に、授業中の発表等の授業参加度を加味して評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019年3月	有斐閣	リーガルマインド 商法総則・商行為法第3版 （2019年3月に出版予定の書籍）		弥永真生
	備考	裁判例・取引約款等の資料等を適宜配布する。			
参考書	授業では使用しないが、1. 藤田勝利＝工藤聡一編著『現代商取引法』（弘文堂）、2. 北居功＝高田晴仁『民法とつながる商法総則・商行為法』（商事法務）を参考書として推薦する。				
オフィスアワー	講義内容に関する質問等は、木曜講義終了後12:10～教室内で受け付けます。また、開講時ガイダンスでお知らせするメールアドレスあてにメール送信することも可とします。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認する。 「他人からモノをあずかる」法律関係の基本となる寄託契約の規整（民法657条～666条）を通読する。（2時間）
	授業内容	運送法を学ぶ目的一対象範囲と「他人からモノをあずかる」法律関係の基本的な枠組みを整理し理解する。
	事後学習	民事寄託（民法657条～666条）の法規整を理解し説明できる。（2時間）
2	事前学習	商法593条～596条と教科書第13章を通読し、場屋営業者とその顧客との法律関係の概要を把握する。（2時間）
	授業内容	商事寄託（商法593条～596条）の規整を整理し、場屋営業者の顧客に対する責任を整理し理解する。
	事後学習	さまざまな状況に応じた場屋営業者の責任を理解し説明できる。（2時間）
3	事前学習	民事寄託と商事寄託に関してあらかじめ指定した取引約款と裁判例を通読する。（2時間）
	授業内容	実際の取り引きで使用される寄託約款を参照して商法典との規整の異同を整理したうえで、重要裁判例の位置づけを理解する。
	事後学習	場屋営業者の責任に関する重要裁判例の論点と裁判所の判断を理解し説明できる。（2時間）
4	事前学習	教科書第12章の倉庫営業者の部分を通読し、倉庫営業者とその顧客との法律関係の概要を把握する。（2時間）
	授業内容	倉庫営業者に関する商法典の規整を整理し、倉庫営業者の顧客に対する責任を整理し理解する。また、商法典と倉庫約款との重要な異同について整理し理解する。
	事後学習	倉庫約款の具体的な規整内容を理解し説明できる。（2時間）

5	事前学習	倉庫営業者に関してあらかじめ指定した裁判例を通読する。（2時間）
	授業内容	倉庫営業者に関する裁判例を検討したうえで、民事寄託・商事寄託・倉庫取引を横断的に整理し理解する。
	事後学習	民事寄託・商事寄託・倉庫取引の商法典と約款の規整のそれぞれの異同を理解し説明できる。（2時間）
6	事前学習	あらかじめ指定する運送業界の資料を一読するほか、教科書第12章の運送営業の部分を通読し、商法典の運送取引に関する規整の概要を把握する。（2時間）
	授業内容	運送業界の概要と運送取引に関する商法典の基本構造を理解し、民事寄託・商事寄託・倉庫取引との異同を検討する。
	事後学習	運送取引に関する商法典の基本構造を理解し説明できる。（2時間）
7	事前学習	教科書第12章の「陸上物品運送」の部分を通読し、併せてあらかじめ指定した運送約款を一読する。（2時間）
	授業内容	陸上物品運送に関する商法典の規整と運送約款を整理し、それらの重要な異同について理解する。
	事後学習	運送取引に関する商法典の基本構造と運送約款との重要な異同を理解し説明できる。（2時間）
8	事前学習	あらかじめ指定した陸上物品運送に関する重要裁判例を一読する。（2時間）
	授業内容	商法典の規整と運送約款の重要事項を整理したうえで、論点に関する裁判所の判断を整理し理解する。
	事後学習	陸上物品運送に関して紛争となる論点を整理し、裁判例の判断を説明できる。（2時間）
9	事前学習	第1回～第8回の講義内容を振り返り、重要論点を整理・理解しておく。（2時間）
	授業内容	授業内確認テストとその解説
	事後学習	テストと自己の解答を振り返り、自分の理解度を確認する。（2時間）
10	事前学習	教科書第12章の「陸上旅客運送」の部分を通読し、併せてあらかじめ指定した旅客運送約款を一読する。（2時間）
	授業内容	陸上旅客運送に関する商法典の規整と旅客運送約款を整理し、それらの重要な異同について理解する。
	事後学習	陸上旅客運送に関する商法典の基本構造と運送約款との重要な異同を理解し説明できる。（2時間）
11	事前学習	あらかじめ指定する陸上旅客運送・航空旅客運送に関する重要裁判例を一読する。（2時間）
	授業内容	旅客運送約款や重要裁判例を通じて陸上旅客運送・航空旅客運送を整理し、それらの重要な異同について理解する。
	事後学習	陸上旅客運送・航空旅客運送の重要な異同を理解し説明できる。（2時間）
12	事前学習	海上運送（国内運送・国際運送）に関する業界資料を一読し、海上運送に関する商法典・国際海上物品運送法の規整の概要を理解する。（2時間）
	授業内容	海上運送（国内運送・国際運送）に関する近時の重要な裁判例を通じて、重要論点と裁判所の判断を整理し理解する。
	事後学習	海上運送（国内運送・国際運送）に関する重要論点と裁判所の判断を理解し説明できる。（2時間）
13	事前学習	航空運送に関する業界資料を一読し、航空運送に関する法・条約規整の概要を理解する。（2時間）
	授業内容	航空運送に関する近時の重要な裁判例を通じて、重要論点と裁判所の判断を整理し理解する。
	事後学習	航空運送に関する重要論点と裁判所の判断を理解し説明できる。（2時間）
14	事前学習	輸出入実務に関する業界資料を一読し、商法典・条約に基づく規整と実務の概要を理解する（2時間）
	授業内容	輸出入実務における多数当事者の位置づけと場面ごとの法・条約の規整を整理し、重要論点の所在と論点ごとの解決の道すじを理解する。
	事後学習	輸出入実務にそった法・条約のあてはめと多数当事者間の権利義務関係等に関する重要論点について、裁判所の判断の動向を理解し、これらを説明できる。（2時間）
15	事前学習	これまでの復習を行っておくこと。（2時間）
	授業内容	授業内試験 フィードバックはポータルサイト等を通じて行う。
	事後学習	テストと自己の解答を振り返り、自分の理解度を確認する。（2時間）

科目名	商法Ⅴ（運送法）	担当者	南 健悟	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この講義では、商法の分野のうち、運送法と呼ばれる分野について解説する。より具体的にいえば、商行為法各論の一つである運送法では、運送法総論及び海商法と呼ばれる分野について扱う。運送法総論では、主として陸上運送契約の特徴や陸上運送人の責任について説明し、また海商法では海上運送に特有の法的諸問題について説明することとなる。なお、陸上運送の中でも特殊な鉄道運送及び航空運送についても解説する。				
授業目的・到達目標	この講義では運送法に関する基礎的知識を踏まえて、商取引、とりわけ運送取引において生じる法的諸問題に関する知識を修得することが目的となる。運送取引は、その運送モード（陸上運送・航空運送・海上運送）によって法的規律が異なっており、その違いを踏まえたうえでそこで生じうる法的論点について、従来の判例や学説を手がかりに考察することができるようになることが、本講義の到達目標である。関連DP及びCP：法律学科1, 3, 5 経営法学科1, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	基本的には講義形式になるが、事前の予習を踏まえた上で、積極的な発言を求めることがある。法改正に合わせて最新版の六法を使用する。なお、各回の小テスト及び期末試験につきポータルサイト等で講評・解説等を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	定期試験において、択一・論述形式により出される問題により、正確な知識等を有しているかを図る。	
	平常評価		20%	講義内で提示される択一問題や空欄補充問題が正答しているかどうかにより、基礎的な知識が定着しているかを確認する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019年	法律文化社	商法総則・商行為法		北村雅史編
	備考				
参考書	江頭憲治郎『商取引法（第8版）』（弘文堂、2018年） 箱井崇史『基本講義現代海商法（第3版）』（成文堂、2018年）				
オフィスアワー	毎週水曜日午後1時00分～2時30分。ただし、在室中や事前にアポイントがある場合には、適宜対応する。 研究室本館9階1919研究室、メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前に配布されるレジュメ及び教科書の「第15章 運送営業・運送取扱営業」を読み、運送法全体を把握しておく。（2時間）
	授業内容	運送法とはどのような法分野であるのか、その概要と、各種運送モードの説明を行う。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を読みながら解答し、各種運送モードによる法規整の違いを確認する。（2時間）
2	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、陸上運送の範囲や特徴について把握しておく。（2時間）
	授業内容	陸上運送の契約の性質や、陸上運送の当事者たる運送人及び荷送人との法律関係と、荷受人との関係について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、陸上運送契約の性質や特徴について、自分なりにまとめる。（2時間）
3	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、陸上物品運送人が責任を負う場合にはどのような場合があるのかを確認しておく。（2時間）
	授業内容	陸上物品運送人の責任について、民法上の債務不履行責任との違い等を踏まえたうえで、その特徴について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、陸上物品運送人の責任の特徴（特に、民法上の債務不履行責任との違い）についてまとめる。（2時間）
4	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、陸上物品運送人の損害賠償責任の特徴のうち高価品特則や損害賠償額の定型化に関する制度等について把握しておく。（2時間）
	授業内容	陸上物品運送人の損害賠償責任の特徴である、高価品特則や損害賠償額の定型化に関する規定等について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、陸上物品運送人の損害賠償責任の特徴について、特則が適用される場合とそうではない場合とを把握しておく。（2時間）

5	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、鉄道運送（鉄道物品運送及び鉄道旅客運送）の特徴について把握しておく。（2時間）
	授業内容	陸上運送のうち、鉄道運送契約の特徴について説明したうえで、それ以外の陸上運送との違いについて解説する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、鉄道運送契約の特徴を把握し、実際、自身が締結している鉄道運送契約にはどのような問題があるのか、調べておく。（2時間）
6	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、航空運送（航空物品運送及び航空旅客運送）の得ちゅおについて把握しておく。（2時間）
	授業内容	航空運送契約の特徴について説明したうえで、商法の各規定との関係や各種航空運送に係る条約について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、航空運送契約の特徴を把握しておく。（2時間）
7	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、海商法とはどのような法分野であるのか、法律上、船舶とはどのように扱われるのかについて確認しておく。（2時間）
	授業内容	海商法とはどのような法分野であるのか、そこにはどのような特徴を有しているのか、そして、海商法の基本概念である船舶とは法律上、どのような存在であるのかについて説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海商法の特異性や船舶の法律上の扱いについて確認しておく。（2時間）
8	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、船舶の運航主体である海上運送人・船舶所有者の概念、そして、海上運送人の補助者たる船員についてどのような存在であるのか把握しておく。（2時間）
	授業内容	船舶の運航主体たる海上運送人・船舶所有者や海上運送人の補助者たる船員とはどのような存在であるのかについて説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上運送人の特徴や船員について確認しておく。（2時間）
9	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、船舶所有者等の責任について確認し、そのうえで、船舶所有者の責任を一定程度制限する制度（船主責任制限制度）とは、どのような制度であるのか、その概要を確認しておく。（2時間）
	授業内容	船舶所有者等の責任を一定程度制限する船主責任制限制度について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、船主責任制限制度の概要及び特徴を確認しておく。（2時間）
10	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、海上運送人が発行する船荷証券とはどのような証券であるのかを簡単に確認しておく。（2時間）
	授業内容	海上運送人が荷送人に対して発行する船荷証券とはどのような証券であるのか、そして、どのような特徴を有するものであるのかについて説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、船荷証券の意義及び特徴について把握しておく。（2時間）
11	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、海上物品運送契約の履行過程について把握しておく。（2時間）
	授業内容	海上物品運送契約は、どのように締結され、どのように履行されて、どのように終了するのかなどについて説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上物品運送契約の履行過程について、図示するなどして、説明できるようにしておく。（2時間）
12	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、海上物品運送人の責任について、どのような特徴を有しているのかを把握しておく。（2時間）
	授業内容	海上物品運送人の責任について、陸上運送や航空運送との違いを踏まえたうえで、その特徴について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上物品運送人の責任はどのような場合に生じるのか、その責任の性質は何かについて確認しておく。（2時間）
13	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、海上物品運送人の責任制限や免責が認められる場合には、どのような場合があるのかを把握しておく。（2時間）
	授業内容	海上物品運送人がたとえ責任を負ったとしても、一定程度制限する制度や、場合によっては免責が認められる場合があるが、それはどのような場合なのか、なぜそのような制度が存在するのかを説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、海上物品運送人の責任制限や免責について確認し、さらに、その合理性について説明できるようにしておく。（2時間）
14	事前学習	事前に配布されるレジュメを読み、海商法特有の法的諸問題である、船舶衝突・海難救助・共同海損制度についてその概要を把握しておく。（2時間）
	授業内容	海は危険と隣合わせであることから、海商法上、船舶の衝突に関する規定や、海難救助や共同海損制度があるが、その制度の内容及び特徴について説明する。
	事後学習	講義後に配布される小テストを講義レジュメや教科書を確認しながら解答し、船舶衝突規定や海難救助・共同海損制度について、どのような制度なのかについて説明できるようにしておく。（2時間）
15	事前学習	配布された講義レジュメ及び教科書を通読し、運送法とはどのような法分野であるのか、また海商法とはどのような法分野で陸上運送や航空運送とはどのような異同があるのかを確認しておく。（2時間）
	授業内容	前期のまとめとして、運送法の概要及び海商法の概要について、改めてその中心的な部分を説明する。
	事後学習	小テスト等の解答等を講義レジュメや教科書で確認し、陸上運送・航空運送・海上運送の異同について、自分なりに表などにまとめて説明できるようにしておく。（2時間）

科目名	情報システム論Ⅰ	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ワードやエクセルを利用して、データベースを利用して必要な情報を抽出すること等も含め情報の処理ができるように演習形式で進める講義である。ワード、エクセルの操作方法の習得が中心となる。			
授業目的・到達目標	情報は紙ベースの時代から電子データの時代へと変化している。そこで、ワード、エクセル、パワーポイントによる電子データの作成と処理方法を習得させることを目的とする。 各ソフトウェアを十分に使いこなせること、特にエクセルに関しては関数が十分に利用できることを目標とする。 関連DP及びCP 経営法学科1, 2, 3			
履修条件	演習が中心となるので、毎回出席して、説明に従ってソフトウェアを操作することが望ましい。			
授業方法	配布するデジタルデータを利用して、その処理を説明する方法で進める。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%	定期試験は実施しない。	
	平常評価	100%	学期末に習熟度を考査するための課題の処理の結果で評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2013年	FOM出版	よくわかる Microsoft Word 2013 ドリル	FOM株式会社
	2013年	FOM出版	よくわかる Microsoft Excel 2013 ドリル	FOM株式会社
	備考			
参考書	市販の様々なテキストがあるが、ビジネス系パソコン雑誌の特集記事の方がより実践的な処理方法を記述しているのでそれらを入手して利用すること。			
オフィスアワー	授業終了後、講堂にて（授業時間：水曜2・3・4限） 事前にメールでアポイントを取ること E-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	タッチキーで文字入力ができるか確認すること。タッチキー入力を練習すること。(2時間)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	「よくわかるMicrosoft Word 2013 ドリル」Lesson3を利用し、400文字以上を10分で入力できるように練習すること。(2時間)
2	事前学習	テキストLesson1～Lesson3を予習すること。特にLesson3でタッチキー入力を練習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作 1（テキストLesson1～Lesson3）」
	事後学習	特殊文字の入力には様々な方法があるので合理的な方法を活用するように復習すること。タッチキー入力の練習をすること(2時間)
3	事前学習	テキストLesson4～Lesson6を予習すること。特にLesson4、Lesson5を利用してタッチキー入力を練習する。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作 2 (テキストLesson4～Lesson6)」
	事後学習	同一の結果になる複数の操作方法があるので好みの方法で行えばよい。タッチキーの練習をすること。(2時間)
4	事前学習	テキストLesson7～Lesson10を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作 3 (テキストLesson7～Lesson10)」
	事後学習	表の作成作業は、エクセルと共通する操作方法もあるので、再度、演習問題で復習すること。(2時間)

5	事前学習	テキストLesson11～Lesson14を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作 4 (テキストLesson11～Lesson14)」
	事後学習	操作ボタンは予想がつくので、簡単に選択、操作できるようになるように、復習して覚えること。(2時間)
6	事前学習	テキストLesson15～Lesson17を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトワードの基本操作 5 (テキストLesson15～Lesson17)」
	事後学習	図形、画像の挿入、ワードアートの作成ができるよう復習して覚えてもらうこと。(2時間)
7	事前学習	テキストLesson20～Lesson22を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作 1 (テキストLesson20～Lesson22)」
	事後学習	画像の挿入とオンライン画像の挿入方法の違いについて理解し、利用できるよう復習すること。(2時間)
8	事前学習	テキストLesson23～Lesson25を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作 2 (テキストLesson23～Lesson25)」
	事後学習	様々な基本操作の組み合わせができるようになること。差し込み印刷の操作を確認し、完成できるよう復習すること。(2時間)
9	事前学習	テキストLesson26～Lesson27を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作 3 (テキストLesson26～Lesson27)」
	事後学習	差し込み印刷ⅠとⅡの違いを理解し両方の操作方法を復習する。長文の編集ができるよう復習しておく。(2時間)
10	事前学習	テキストLesson28～Lesson29を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作 4 (テキストLesson26～Lesson27)」
	事後学習	長文の作成と校閲方法を理解し、レポートの作成等に即応できるよう、復習すること。(2時間)
11	事前学習	テキストLesson31～Lesson32を予習すること。エクセルの基礎知識を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作 5 (テキストLesson31～Lesson32)」
	事後学習	エクセルデータを利用したワード文書の作成ができるよう、エクセルの基本操作も復習しておくこと。(2時間)
12	事前学習	テキストLesson33～Lesson34を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトワードの応用操作 6 (テキストLesson33～Lesson34)」
	事後学習	基本操作を正しく理解したうえで、便利な機能が使えるよう、基本操作で演習問題を完成させてみる。(2時間)
13	事前学習	テキストLesson36～Lesson37を予習すること。(2時間)
	授業内容	テキスト「マイクロソフトワードの総合演習 (テキストLesson36～Lesson37)」
	事後学習	総合演習問題でできなかった部分を確認し、できるように復習すること。(2時間)
14	事前学習	今期の講義で学んだことを復習すること。(2時間)
	授業内容	まとめ・ワードの習熟度をチェックするための試験を行う。
	事後学習	できなかった個所を確認し、できるように復習すること。(2時間)
15	事前学習	習熟度チェックでできなかったところを自ら学習しておくこと。(2時間)
	授業内容	習熟度チェックにおける問題完成に関しての解説。
	事後学習	誤っていた操作について正しく理解しワードとエクセルを利用できるよう習熟度チェック問題を再度行う。(2時間)

科目名	情報システム論Ⅱ	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ワードやエクセルを利用して、データベースを利用して必要な情報を抽出すること等も含め情報の処理ができるように演習形式で進める講義である。ワード、エクセルの操作方法の習得が中心となる。				
授業目的・到達目標	情報は紙ベースの時代から電子データの時代へと変化している。そこで、ワード、エクセル、パワーポイントによる電子データの作成と処理方法を習得させることを目的とする。 各ソフトウェアを十分に使いこなせること、特にエクセルに関しては関数が十分に利用できることを目標とする。 関連DP及びCP 経営法学科1, 2, 3				
履修条件	演習が中心となるので、毎回出席して、説明に従ってソフトウェアを操作することが望ましい。				
授業方法	配布するデジタルデータを利用して、その処理を説明する方法で進める。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		0%		定期試験は実施しない。
	平常評価		100%		学期末に習熟度を考査するための課題の処理の結果で評価する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2013年	FOM出版		よくわかる Microsoft Excel 2013 ドリル	FOM株式会社
	備考				
参考書	市販の様々なテキストがあるが、ビジネス系パソコン雑誌の特集記事の方がより実践的な処理方法を記述しているのでそれらを入手して利用すること。				
オフィスアワー	授業終了後、講堂にて（授業時間：水曜2・3・4限） 事前にメールでアポイントを取ること E-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	算数の四則計算と一次方程式、累計、割合の意味を復習すること。(2時間)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	表計算ソフトは一次方程式の計算であることを理解すること。算数の四則計算と一次方程式、累計、割合の意味を大度復習すること。(2時間)
2	事前学習	テキストLesson1～Lesson3を予習しておく。(2時間)
	授業内容	エクセルの基礎知識 データの入力(テキストLesson1～Lesson3)
	事後学習	データの入力方法、一次方程式の計算など、十分理解できたか、再度、演習問題を完成させてみること。(2時間)
3	事前学習	テキストLesson4～Lesson6を予習しておく。(2時間)
	授業内容	表の作成Ⅱ(テキストLesson4～Lesson6)
	事後学習	データの入力と数式の入力の違いについて理解すること 再度、演習問題を完成させてみること。(2時間)
4	事前学習	テキストLesson7～Lesson9を予習しておく。(2時間)
	授業内容	数式の入力 複数シートの操作(テキストLesson7～Lesson9)
	事後学習	数式の入力、関数意味とその入力、複数シートの操作方法を理解できたか、再度、演習問題を完成させてみること。(2時間)

5	事前学習	テキストLesson10～Lesson12を予習しておく。(2時間)
	授業内容	複数のシートの入力 表の印刷 (Lesson10～Lesson12)
	事後学習	複数シートの操作方法を理解できたか、再度、演習問題を完成させてみること。(2時間)
6	事前学習	テキストLesson13～Lesson14を予習しておく。(2時間)
	授業内容	グラフの作成 (Lesson13～Lesson14)
	事後学習	どのデータを利用してグラフを作成するのかよく理解し、再度、演習問題を完成させてみること。(2時間)
7	事前学習	テキストLesson15～Lesson16を予習しておく。(2時間)
	授業内容	データベースの利用 (Lesson15～Lesson16)
	事後学習	データベースから必要なデータが抽出できるよう、再度、演習問題を完成させてみること。(2時間)
8	事前学習	テキストLesson18～Lesson19を予習しておく。(2時間)
	授業内容	関数の利用 (Lesson18～Lesson19)
	事後学習	個々の関数の意味を理解し、その使い方を十分に理解すること。再度、演習問題を完成させてみること。(2時間)
9	事前学習	テキストLesson20～Lesson22を予習しておく。(2時間)
	授業内容	表作成の活用 グラフの活用 (Lesson20～Lesson22) グラフィックの利用
	事後学習	関数の利用と表作成についてよく理解すること。どのデータを利用してグラフを作成するのかよく理解すること。再度、演習問題を完成させてみること。(2時間)
10	事前学習	テキストLesson23～Lesson25を予習しておく。(2時間)
	授業内容	グラフの活用 グラフィックの利用 (Lesson23～Lesson25)
	事後学習	表作成の際のデータの利用について理解すること。ワード文書の図形を利用した文書の作成方法であり、どちらのソフトが便利か判断できるようにする。再度、演習問題を完成させてみること。(2時間)
11	事前学習	テキストLesson26～Lesson28を予習しておく。(2時間)
	授業内容	グラフィックの利用 データベースの活用 (Lesson26～Lesson28)
	事後学習	データベースの活用は、表計算ソフト、パソコンの得意とする作業であり、その使用方法をよく理解すること。再度、演習問題を完成させてみること。(2時間)
12	事前学習	テキストLesson29～Lesson30を予習しておく。(2時間)
	授業内容	ピボットテーブルとピボットグラフの作成 (Lesson29～Lesson30)
	事後学習	データベースの分析機能であり、その使用方法をよく理解すること。再度、演習問題を完成させてみること。(2時間)
13	事前学習	テキストLesson32～Lesson34を予習しておく。(2時間)
	授業内容	その他便利な機能 (Lesson32～Lesson34)
	事後学習	基本操作を熟知した上での作業の効率化の為に使える機能であり、基本操作で演習問題を完成させてみること。(2時間)
14	事前学習	今期の講義で学んだことを復習すること。(2時間以上)
	授業内容	まとめ・エクセルの習熟度をチェックするための試験を行う。
	事後学習	できなかった個所を確認し、できるように復習すること。(2時間)
15	事前学習	習熟度チェックでできなかったところを自ら学習しておくこと。(2時間)
	授業内容	習熟度チェックにおける問題完成に関しての解説。
	事後学習	誤っていた操作について正しく理解しエクセルを利用できるよう習熟度チェック問題を再度行う。(2時間)

科目名	消防政策	担当者	渡辺 剛英	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	消防は、国民の生命、身体及び財産を火災から保護するとともに、傷病者の救急・救助、地震等の災害による被害軽減など、国民の安心・安全に関する重要な役割を担っている。 本講義では、消防に関する制度、組織、主な課題と施策等について、総務省消防庁や県・市の消防防災部局における実務経験も交えながら、基礎的な知識と考え方を学習する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】消防に関する基礎的な知識を修得し、火災や自然災害等に対する自助・共助・公助に繋げていくことができる能力を育成することを目的とする。 【到達目標】消防白書や消防関連の報道内容を理解し、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を説明できることを目標とする。関連D P 及びC P：公共政策学科1, 3, 4, 5				
履修条件	2年次生以上を対象とする。				
授業方法	レジュメを配布して、各回のテーマと関連する制度、現況、主な課題と施策等について概要を説明するとともに、スライドを使用して、制度等の詳細や現場の様子等を補足する。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		90%	消防政策に関する基礎的な知識と考え方が身についているかを判定する。授業中に解説された法的枠組み、組織体制、消防統計上の傾向、主な課題と施策等を理解すること。	
	平 常 評 価		10%	授業への参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参 考 書	消防白書（平成30年）：予習・復習に使用。消防庁ホームページにてダウンロード可。				
オフィスアワー	曜日・時間：土曜日12:20～13:00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 受付場所：授業講堂 メールアドレス：watanabe.takehide11@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを精読するとともに、消防白書を概観する。（2時間）
	授業内容	【消防防災に関する概論】 消防組織法・消防法に基づく狭義の消防と、災害対策基本法・国民保護法に基づく広義の消防防災について、主な法的枠組み、組織体制、対応範囲等を学習する。
	事後学習	授業中に解説した関連法を概観する。（2時間）
2	事前学習	消防白書第1章第1節～第3節、巻頭の特集4～特集6を精読する。（2時間）
	授業内容	【消防行政（1）－消防に関する体制整備】 消防法令に基づく国・地方の消防体制について、主な法的枠組み、組織体制、財政、主な課題と施策等を学習する。
	事後学習	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。（2時間）
3	事前学習	消防白書第1章第1節「火災の現況と最近の動向」1～5、同節「火災予防行政の現況」9～10を精読する。（2時間）
	授業内容	【消防行政（2）－火災統計と火災原因調査】 消防法令に基づく火災統計と火災原因調査について、主な法的枠組み、組織体制、統計から見られる火災予防上の課題等を学習する。
	事後学習	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。（2時間）
4	事前学習	消防白書第1章第1節「火災予防行政の現況」1～8、同節「火災予防行政の課題」1～5、巻頭の特集7を精読する。（2時間）
	授業内容	【消防行政（3）－住宅や事業所の火災予防】 消防法に基づく住宅や事業所の火災予防対策について、主な法的枠組み、安全対策の概要、行政手続き、主な課題と施策等を学習する。
	事後学習	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。（2時間）

5	事前学習	消防白書第1章第2節～第3節を精読する。（2時間）
	授業内容	【消防行政（4）－危険物施設や石油コンビナートの災害対策】 消防法に基づく危険物保安、石油コンビナート等災害防止法に基づくコンビナート防災について、主な法的枠組み、安全対策の概要、行政手続き、主な課題と施策等を学習する。
	事後学習	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。（2時間）
6	事前学習	消防白書第2章第4節を精読する。（2時間）
	授業内容	【消防行政（5）－救急】 消防法令や救急救命士法に基づく救急業務について、法的枠組み、組織体制、活動の流れ、主な課題と施策等を学習する。
	事後学習	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。（2時間）
7	事前学習	消防白書第2章第5節を精読する。（2時間）
	授業内容	【消防行政（6）－救助】 消防法令に基づく救助業務について、法的枠組み、組織体制、活動事例、主な課題と施策等を学習する。
	事後学習	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。（2時間）
8	事前学習	消防白書第2章第7節を精読する。（2時間）
	授業内容	【消防行政（7）－緊急消防援助隊と消防活動の高度化】 消防組織法に基づく緊急消防援助隊の広域応援について、法的枠組み、組織体制、活動事例、主な課題と施策等を学習する。
	事後学習	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。（2時間）
9	事前学習	消防白書第1章第7節、第8節〔地下施設等の災害対策〕、同節〔ガス災害対策〕、同節〔毒物・劇物等の災害対策〕、同節〔海上災害対策〕、同節〔航空災害対策〕を精読する。（2時間）
	授業内容	【消防行政（8）－大規模な事故災害等への対応】 大規模な事故災害等について、安全対策の法的枠組み、特徴的な危険性、事故事例、主な課題と施策等を学習する。
	事後学習	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。（2時間）
10	事前学習	消防白書第5章～第6章、巻頭の特集8～特集9を精読する。（2時間）
	授業内容	【消防行政（9）－消防における国際協力と研究開発】 消防における国際協力と研究開発について、法的枠組み、ODAとの関係、国際消防救助隊の活動、主な課題と施策等を学習する。
	事後学習	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。（2時間）
11	事前学習	消防白書第2章第8節～第9節を精読する。（2時間）
	授業内容	【防災・危機管理（1）－国・地方公共団体における防災の体制】 災害対策基本法に基づく国・地方の防災体制について、法的枠組み、組織体制、最近の改正動向、主な課題と施策等を消防防災の観点から学習する。
	事後学習	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。（2時間）
12	事前学習	消防白書第1章第6節、巻頭の特集2を精読する。（2時間）
	授業内容	【防災・危機管理（2）－震災への対応】 災害対策基本法や大規模地震に関する特別措置法に基づく震災対策について、法的枠組み、災害事例、主な施策と課題等を消防防災の観点から学習する。
	事後学習	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。（2時間）
13	事前学習	消防白書第1章第5節、第8節〔雪害対策〕、巻頭の特集1を精読する。（2時間）
	授業内容	【防災・危機管理（3）－風水害・雪害への対応】 災害対策基本法に基づく風水害対策について、法的枠組み、災害事例、主な施策と課題等を消防防災の観点から学習する。
	事後学習	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。（2時間）
14	事前学習	消防白書第3章を精読する。（2時間）
	授業内容	【防災・危機管理（4）－国・地方公共団体における国民保護の体制】 国民保護法に基づく住民防護について、法的枠組み、組織体制、主な施策と課題等を消防防災の観点から学習する。
	事後学習	授業中に配布したレジュメと消防白書の該当箇所を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。（2時間）
15	事前学習	政府の事態対処・危機管理に関する業務（ https://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/fukutyoukanho.html 等）を調べる。（2時間）
	授業内容	【防災・危機管理（5）－種々の危機管理事案への対応】 種々の危機管理事案への対応について、関係法令の枠組み、共通的な考え方等を消防防災上の観点から学習する。
	事後学習	授業中に配布したレジュメ等を参照し、法的枠組み、組織体制、統計上の傾向・特徴等を復習するとともに、消防政策上の主な課題に関する背景や行政施策を整理する。（2時間）

科目名	情報通信政策	担当者	上村 進	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	情報通信は、官民を問わずあらゆる社会活動のベースとなる基礎インフラであり、これを如何に整備・活用していくかが今後の我が国経済社会の死命を制する重要課題となっている。本講義では、新産業の育成・社会活性化のため喫緊の課題となっているIoT, オープンデータなどの問題を始め、セキュリティ・個人情報保護対策等の施策を取り上げ、その現状と課題を明らかにする。講義に当たっては行政官としての経験に基づく素材を適宜提供する。					
授業目的・到達目標	官民を問わず、現代の職業・社会生活に不可欠となっている情報通信の基礎的知識や政策動向を身に付けることを目的とし、今後更に学習を深めていくためのベーシックな能力を育成することを目標とする。 関連DP及びCP：新聞学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4, 5					
履修条件	特にICTの専門知識は必要としないが、AI、クラウド、IoT等の用語になじみのない学生は、参考書として掲げた「未来を味方にする技術ーこれからのビジネスを創るITの基礎の基礎ー」を一読しておくことを勧める。					
授業方法	講義形式。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		90%			
	平 常 評 価		10%		授業への参加度（5%）、講義中の質問・意見等（5%）	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	特に指定しない。				
参 考 書	上村進他「e-ガバメント論」三恵社 2 0 1 2、総務省「情報通信白書」、「未来を味方にする技術ーこれからのビジネスを創るITの基礎の基礎ー」（斎藤 昌義著・技術評論社）2017					
オフィスアワー	水曜日2限。（休暇中を除く、事前にメールにて要アポイントメント）研究室（本館6階 1604号室）メールアドレス：kamimura_susumu@nihon-u.ac.jp)					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、授業概要、目的等を理解する（2時間）。
	授業内容	【授業の概要等】 授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義で紹介した文献・資料等を収集する（2時間）。
2	事前学習	報道等で最新のICT等に係る記事をフォローしておき、その概要を把握する（2時間）。
	授業内容	【最新ICT技術の動向と社会経済】 AI、IoT、クラウド、ブロックチェーン等の概要とこれらが社会経済にもたらす影響について学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
3	事前学習	最新の「成長戦略」「骨太の方針」等に記載された我が国中央政府の基本的なICT政策の方向性を把握しておく（2時間）。
	授業内容	【情報通信政策の概観】 Society5.0、官民データ活用など、「世界最先端IT国家」の創造をめざすため、政府が展開している各種施策を概観する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
4	事前学習	現在の主要通信キャリア各社がどのような変遷（合併・吸収・事業譲渡等）を経て現在の体制になったか確認しておく（2時間）。
	授業内容	【我が国における情報通信政策等の経緯（通信自由化等）】 独占体制であった我が国情報通信市場が、電電公社民営化、新規参入・規制緩和などの自由化を経て今日に至る経緯を学び、競争によるサービス低廉化やネットワーク高度化が多様なIT産業の創出へ結び付いた意義を考察する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。

5	事前学習	あなたが居住する自治体の「情報化推進計画」等をネット等で入手し、その特徴を確認しておく（2時間）。
	授業内容	【電子政府・電子自治体①】 行政のIT化は、業務運営の効率化、意思決定の高度化、国民本位の行政の実現、政府の透明化など多くの意義を有する重要課題である。本講ではデジタルファースト、オンライン申請、マイナンバー、クラウド化など中央政府の取り組みを中心に学ぶ。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
6	事前学習	あなたの居住する自治体の公式ウェブサイトで施設予約・許認可手続・証明書入手・意見提出等がどうすれば出来るようになっているか確認する（2時間）。
	授業内容	【電子政府・電子自治体②】 自治体クラウドの推進状況やエストニア、デンマークなど電子政府先進国と言われる諸外国の取り組み状況を学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
7	事前学習	最近の報道等で特にテレビ放送に関する論調について調べておく（2時間）。
	授業内容	【放送政策①】 現行放送法の概要を学び、憲法上の「表現の自由」の原則のもと、各種メディア中で唯一、公権力による制約が存在する放送行政の特異性とその背景を考察する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
8	事前学習	あなたが普段ニュース・エンタテインメントなどを視聴するのはテレビ・ラジオか、それともインターネットか？この両者の間にはどのような違いがあると考えられるか、あなたの考えをまとめておく（2時間）。
	授業内容	【放送政策②】 放送と通信の融合化が進む中で、変わりゆく放送業界の実態と変化の方向について学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
9	事前学習	あなたが普段の学習・研究等で使用する統計・データ等の入手先はどこが多いか？政府の提供する「e-stat」や「DATA GO JP」「RESAS」と比べてその使い勝手・充実度はどうか？実際に比較しておく（2時間）。
	授業内容	【オープンデータ・オープングバメント①（全体像、諸外国の状況）】 政府・自治体の保有する各種データは今日のデータ主導経済において極めて価値が高いとされる。これらデータの積極的提供を目的とするオープンデータの意義と諸外国での取り組み等について学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
10	事前学習	あなたの居住する自治体（都道府県及び市町村の双方）はオープンデータのためのサイトを用意しているか？していない場合その理由は何か？そのサイトの使い易さ・充実度は他自治体のサイトと比べてどうか？調べておく（2時間）。
	授業内容	【オープンデータ・オープングバメント②（我が国の状況）】 オープンデータに係る我が国政府・自治体の取り組みを概観する。中央政府についてはデータカタログ、統計情報提供システムなどのサイトを分析する。自治体については「2020年度までに、地方公共団体のオープンデータ取組率を100%とする」という政府目標の達成に向けた先進自治体の取り組み事例などを学ぶ。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
11	事前学習	あなたが実際に体験したor身近に見聞した情報セキュリティ上の脅威について、その概要を発表出来るようまとめる（2時間）。
	授業内容	【ICTセキュリティ①】 ICTはその利便性、高機能性等から経済社会・生活の向上に大きく寄与するものであるが、他方で、その特質が逆に様々な脅威となって現れる危険性も高い。本講では個人情報漏えい、サーバー攻撃などの、各種脅威の態様を概観する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
12	事前学習	近年、世界的に脅威となっているコンピュータ・ウィルス等を活用した代表的な手口について調べ、パターンごとに類型化しておく（2時間）。
	授業内容	【ICTセキュリティ②】 本講では、ウィルス感染、サイバーアタックなどの悪意ある侵入者への対策を始めとして、現下の国家的重要課題となっているサイバー防衛の各種方策を学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
13	事前学習	ICTの発展に伴って、なぜ個人情報の保護が急速にクローズアップされるようになってきたのか、あなたの考えをまとめておく（2時間）。
	授業内容	【個人情報保護①】 各種データの中でも最も有用性が高いと言われているのが個人情報であるが、他方でその扱いには漏えいの防止など最新の注意を必要とする。本講では個人情報保護法の対象となる個人情報とは何か、個人情報の取扱に当たって課せられる義務とは何か等について学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
14	事前学習	米国の情報系巨大企業（いわゆる”FANG”）の強みは、個人情報の囲い込み・活用にあると言われているが、その理由について考察し、発表出来るようにしておく（2時間）。
	授業内容	【個人情報保護②】 2017年5月から新たに導入された「匿名加工情報」の概念、データエコノミー時代におけるその意義などについて学び、個人情報の保護と活用のバランスをどのように図っていくべきかを考察する。併せてEUのGDPR（一般データ保護規則）への対応など国際的なデータ流通をめぐる課題について学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。

15	事前学習	これまでの授業内容を踏まえ、新たな情報通信技術を活用する際の課題等についてまとめておく（2時間）。
	授業内容	【最新ICTと産業・社会（医療・農業等）】 各種のICTは産業・国民生活にどのような影響を与えているのか、具体的な事例などを通じて学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認しておく（2時間）。

科目名	情報の科学 I	担当者	小林 正幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	情報をめぐる最も基礎的な考え方を講義する。情報は工学においても重要な概念ではあるが、本講義では人文社会科学、あるいは思想や哲学的に情報という概念がもつ意義について考察する。これを足がかりとして情報とメディアに関する具体的な事例を取り上げ、皆で考察していく。				
授業目的・到達目標	コンピュータとネットワークは家庭からビジネスまで全ての場面で利用されている。もちろん旧メディアも。しかしその根底となる情報なる概念がもつ意義について、われわれは理解しているとはいえない。情報は人文社会科学と自然科学両者の考え方に橋渡し可能な概念である。そこでこのような性格の情報概念について、人文社会科学の方に比重を置きつつ、基本的な理解を行い、現実の社会理解に役立つような力を身につけることが本講義の目的となる。また、情報の基礎的理解を深め、現実の社会理解や批判を行うことができるような力を身につけることを目標とする。関連DP及びCP：新聞学科1, 2, 3				
履修条件	通俗的な情報に関する理解を乗り越えること。その判断は試験において行う。 とにかく講義を聞くこと。無駄話など講義の雰囲気を損なうような行為はしないこと。				
授業方法	毎回資料を提示する予定。それをもとに講義形式で行う。受講者の理解度に応じて柔軟な運営を行う。そのうえで、時に話題となっている問題について取り上げることも行っていきたい。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	講義で関わった理論、概念等が生かされた解答	
	平常評価		20%	リアクションペーパーの内容を勘案する	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	西垣通　こころの情報学　1999年　ちくま新書 他は適宜指示				
オフィスアワー	希望者は水曜3限授業後に授業講堂にて申し出ること。メールでも質問を受けます				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	情報にかかわる人文社会学的な本を自ら選んで適度に読んでほしい。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション
	事後学習	配布プリントを読んで、その内容と自らの経験と重ね合わせて考察してほしい。（2時間）
2	事前学習	情報にかかわる人文社会学的な本を自ら選んで適度に読んでほしい。（2時間）
	授業内容	情報の基礎(1)　最も基礎的な情報の性質の捉え方、情報の表現としての記号と符号化、情報の伝達と通信についての工学的理解を人文社会科学的に解説する。
	事後学習	配布プリントを読んで、その内容と自らの経験と重ね合わせて考察してほしい。（2時間）
3	事前学習	情報にかかわる人文社会学的な本を自ら選んで適度に読んでほしい。（2時間）
	授業内容	情報の基礎(2)　情報の人間科学的理解を解説する。まず、人文社会科学と自然科学のありようについて簡単に説明を行い、両者を接続する考え方として情報を位置づける。そのうえで人間にとって情報には遺伝情報と社会情報があることを解説する。
	事後学習	配布プリントを読んで、その内容と自らの経験と重ね合わせて考察してほしい。（2時間）
4	事前学習	情報にかかわる人文社会学的な本を自ら選んで適度に読んでほしい。（2時間）
	授業内容	情報の基礎(3)　グレゴリー・ベイトソンにおける情報の定義を巡って解説する。さらにベイトソンの遊び論、フレーム論、ダブルバインド論を取り上げ、世界理解のありようについて検討する。
	事後学習	配布プリントを読んで、その内容と自らの経験と重ね合わせて考察してほしい。（2時間）

5	事前学習	情報にかかわる人文社会学的な本を自ら選んで適度に読んでいてほしい。（2時間）
	授業内容	情報とマスメディア(1) コミュニケーション科学の歴史を取り上げる。そこでノーバート・ウィーナーのコミュニケーションの数学的理解、サイバネティクスに関して説明する。
	事後学習	配布プリントを読んで、その内容と自らの経験と重ね合わせて考察してほしい。（2時間）
6	事前学習	情報にかかわる人文社会学的な本を自ら選んで適度に読んでいてほしい。（2時間）
	授業内容	情報とマスメディア(2) 上記サイバネティクスのマス・コミュニケーション論への影響を取り上げ、ハロルド・ラスウェルの宣伝効果やポール・ラザースフェルドの効果研究などの科学を取り上げる。
	事後学習	配布プリントを読んで、その内容と自らの経験と重ね合わせて考察してほしい。（2時間）
7	事前学習	情報にかかわる人文社会学的な本を自ら選んで適度に読んでいてほしい。（2時間）
	授業内容	情報とマスメディア(3) サイバネティクスは通信技術への適応に優れていたため、数量的なモデルとして理解された。しかしながら、もともとのサイバネティクスはより思想的な広がりをもっていた。その可能性をインターネット理解に適合できるか検討する。
	事後学習	配布プリントを読んで、その内容と自らの経験と重ね合わせて考察してほしい。（2時間）
8	事前学習	情報にかかわる人文社会学的な本を自ら選んで適度に読んでいてほしい。（2時間）
	授業内容	情報とシステム(1) 情報とオートポイエシス論について解説する。生物学者のウンベルト・マトゥラーナとフランシスコ・ヴァレラは生命が自己人身のあり方を自ら変化させるシステムであることを突き止めたが、この考え方をもとに情報を位置づけていく。
	事後学習	配布プリントを読んで、その内容と自らの経験と重ね合わせて考察してほしい。（2時間）
9	事前学習	情報にかかわる人文社会学的な本を自ら選んで適度に読んでいてほしい。（2時間）
	授業内容	情報とシステム(2) ニクラス・ルーマンの社会システム論は社会のモデル化を行っている。ルーマンはコミュニケーションを情報→伝達→理解というプロセスとして、メディアは世界の複雑性の縮減である。ここから情報とは何かに ついて社会学的理解を紹介する。
	事後学習	配布プリントを読んで、その内容と自らの経験と重ね合わせて考察してほしい。（2時間）
10	事前学習	情報にかかわる人文社会学的な本を自ら選んで適度に読んでいてほしい。（2時間）
	授業内容	情報とシステム(3) サイバネティクスとオートポイエシスの考え方を基礎とした社会科学にも適応可能な情報の分類学について解説する。そこで情報と生きられた世界の意味について検討する。
	事後学習	配布プリントを読んで、その内容と自らの経験と重ね合わせて考察してほしい。（2時間）
11	事前学習	情報にかかわる人文社会学的な本を自ら選んで適度に読んでいてほしい。（2時間）
	授業内容	情報と言語 ここでは言語情報について考察する。言語の機能や構造について「差異の体系」として捉え、チョムスキーの言語理論を足がかりに世界とわれわれの心的システムの関係についてわかりやすく解説する。
	事後学習	配布プリントを読んで、その内容と自らの経験と重ね合わせて考察してほしい。（2時間）
12	事前学習	情報にかかわる人文社会学的な本を自ら選んで適度に読んでいてほしい。（2時間）
	授業内容	情報と記号 ロラン・バルトの記号論から記号の理解を行う。記号がもつ一次的な意味作用、そして二次的な意味作用という意味の広がり、さらにローマン・ヤコブソンの詩的機能を取り上げ、記号情報がもつ幅広い意味のあり方について検討する。
	事後学習	配布プリントを読んで、その内容と自らの経験と重ね合わせて考察してほしい。（2時間）
13	事前学習	情報にかかわる人文社会学的な本を自ら選んで適度に読んでいてほしい。（2時間）
	授業内容	情報と身体 ミシェル・フーコーの身体論を下敷きとして、近代的な権力のあり方を身体を訓練し規律化することとして捉え、そこで情報が果たす役割について講義する。
	事後学習	配布プリントを読んで、その内容と自らの経験と重ね合わせて考察してほしい。（2時間）
14	事前学習	情報にかかわる人文社会学的な本を自ら選んで適度に読んでいてほしい。（2時間）
	授業内容	情報と都市 情報の一般的理解を乗り越える。ここでは、情報を固定した存在として、あるいは数学的な理解に留まる場合に作り出される社会観について解説し、その問題点を都市論として取り上げる。
	事後学習	配布プリントを読んで、その内容と自らの経験と重ね合わせて考察してほしい。（2時間）
15	事前学習	情報にかかわる人文社会学的な本を自ら選んで適度に読んでいてほしい。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	配布プリントを読んで、その内容と自らの経験と重ね合わせて考察してほしい。（2時間）

科目名	情報の科学 I	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	コンピュータ・ネットワークの普及と、それに伴い展開されてきた研究を概観しながら、情報とコミュニケーションの問題を科学的な観点から把握する視座を養成することを授業の目的とします。また、情報通信分野のシンクタンクの研究員として培った知識や経験をふまえながら、授業を進めていきたいと考えています。				
授業目的・到達目標	コンピュータ・ネットワークの普及と、それに伴い展開されてきた研究を概観しながら、情報とコミュニケーションの問題を科学的な観点から把握する視座を養成することを授業の目的とします。コンピュータ・ネットワークとコミュニケーションの問題を理解し、自らの経験に引き付けながら説明できるようになることを目標とします。関連DP及びCP：新聞学科1, 2, 3				
履修条件	各自で確認したうえで履修してください。 私語等の周りに迷惑をかける行為は絶対に控えてください。				
授業方法	講義形式で授業を進めます。必要に応じて、レジュメ、プレゼンテーション、映像資料を用います。 後日、定期試験の解説をポータルシステムを通じて公表します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		80%	論述試験を予定しています。	
	平 常 評 価		20%	授業の進行を見ながらレポート等の課題を出す予定です。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特に指定する予定はありません。			
参 考 書	ダナ・ボイド（2014）『つながりっぱなしの日常を生きる——ソーシャルメディアが若者にもたらしたもの』草思社 イーライ・パリサー（2016）『フィルターバブル——インターネットが隠していること』早川書房				
オフィスアワー	オフィスアワー：水曜日15:00～16:00（予定） 連絡先（メールアドレス）は初回の授業の際にお伝えします。 事前にアポイントをとってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス等を確認し授業に備える（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	参考書等を揃え、目を通しておく（2時間）
2	事前学習	参考書等を揃え、目を通しておく（2時間）
	授業内容	コンピュータ・ネットワークの歴史：インターネット、パソコン通信
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
3	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	コンピュータ・ネットワークとコミュニケーション（1）インターネット・パラドックス
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
4	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	コンピュータ・ネットワークとコミュニケーション（2）自己呈示・自己開示
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）

5	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	コンピュータ・ネットワークとコミュニケーション（3）匿名性
	事後学習	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの準備を行う（2時間）
6	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	コンピュータ・ネットワークとコミュニケーション（4）オンライン・コミュニティ
	事後学習	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの準備を行う（2時間）
7	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	コンピュータ・ネットワークの発展：ソーシャルメディアの発達、モバイル化
	事後学習	レポート作成（2時間）
8	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	ソーシャルメディアとコミュニケーション（1）ツイッターと情報ネットワーク
	事後学習	レポート作成（2時間）
9	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	ソーシャルメディアとコミュニケーション（2）ネットワークと資源
	事後学習	レポート作成（2時間）
10	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	ソーシャルメディアとコミュニケーション（3）SNSと友人関係
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
11	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	ソーシャルメディアとコミュニケーション（4）利用者の情報接触
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
12	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	ソーシャルメディアとコミュニケーション（5）うわさ（デマ、都市伝説）
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
13	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	ソーシャルメディアとコミュニケーション（6）災害における利活用
	事後学習	定期試験に備えて、授業内容の復習を行う（2時間）
14	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	情報社会論（1）情報化政策の展開、地域情報化
	事後学習	定期試験に備えて、授業内容の復習を行う（2時間）
15	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	情報社会論（2）情報社会と近代社会
	事後学習	定期試験に備えて、授業内容の復習を行う（2時間）

科目名	情報の科学Ⅱ	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	インターネットと文化、および政治・経済の関係に焦点を当て、関連する現象を社会科学の観点から読み解き、把握する知見を養うことを授業の目的とします。また、情報通信分野のシンクタンクの研究員として培った知識や経験をふまえながら、授業を進めていきたいと考えています。				
授業目的・到達目標	インターネットと文化、および政治・経済の関係に焦点を当て、関連する現象を社会科学の観点から読み解き、把握する知見を養うことを授業の目的とします。授業内で取り上げたテーマについて、自らの経験や事例に即して説明・論述できることを目標とします。関連DP及びCP：新聞学科1, 2, 3				
履修条件	各自で確認したうえで履修してください。 私語等の周りに迷惑をかける行為は絶対に控えてください。				
授業方法	講義形式で授業を進めます。必要に応じて、レジュメ、プレゼンテーション、映像資料を用います。 後日、定期試験の解説をポータルシステムを通じて公表します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	論述試験を予定しています。	
	平常評価		20%	授業の進行を見ながらレポート等の課題を出す予定です。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特に指定する予定はありません。			
参考書	ドミニク・カルドン（2012）『インターネット・デモクラシー——拡大する公共空間と代議制のゆくえ』トランスビュー 伊藤昌亮（2012）『デモのメディア論——社会運動社会のゆくえ』筑摩書房				
オフィスアワー	オフィスアワー：水曜日15:00～16:00（予定） 連絡先（メールアドレス）は初回の授業の際にお伝えします。 事前にアポイントをとってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス等を確認し授業に備える（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	参考書等を揃え、目を通しておく（2時間）
2	事前学習	参考書等を揃え、目を通しておく（2時間）
	授業内容	インターネットと文化（1）インターネットの思想
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
3	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	インターネットと文化（2）ハッカー文化
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
4	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	日本のインターネットと文化（1）電子掲示板の文化
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）

5	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	日本のインターネットと文化（2）祭り
	事後学習	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの準備を行う（2時間）
6	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	日本のインターネットと文化（3）草の根コンテンツ
	事後学習	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの準備を行う（2時間）
7	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	日本のインターネットと文化（4）ソーシャル化の進展とインターネット空間の変容
	事後学習	レポート作成（2時間）
8	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	日本のインターネットと文化（5）炎上
	事後学習	レポート作成（2時間）
9	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	インターネットと政治（1）政治とインターネットの関係
	事後学習	レポート作成（2時間）
10	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	インターネットと政治（2）ネット選挙
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
11	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	インターネットと政治（3）集合行為・社会運動
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
12	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	インターネットと政治（4）ネット右翼
	事後学習	授業内で取り上げた議論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
13	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	インターネットと政治（5）政治経済学のアプローチ
	事後学習	定期試験に備えて、授業内容の復習を行う（2時間）
14	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	インターネットと公共性（1）公共性・公共圏
	事後学習	定期試験に備えて、授業内容の復習を行う（2時間）
15	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	インターネットと公共性（2）デモクラシー
	事後学習	定期試験に備えて、授業内容の復習を行う（2時間）

科目名	情報法Ⅰ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	電気通信分野では、これまで放送と通信を明確に区分することが可能でした。しかし、インターネットの急激な発達によって、利用者から見るとその境界が曖昧になりつつあります。また、ソーシャルメディアの普及によって、だれもが容易に情報発信ができるようになる一方で、違法・有害情報が拡散するなど、新たな問題も起きています。こうした認識のもと、講義では、情報の「自由」「規制」「保護」に着目して解説します。					
授業目的・到達目標	高度情報社会の一員として、情報の取得や発信などのリテラシーを養成することを目的とする。 情報に関する法的知識と倫理についての基本的な理解ができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科 1， 4 新聞学科 1， 2， 3 経営法学科 1， 2， 3					
履修条件	特にありません。					
授業方法	パワーポイントを使用し、講義形式で行います。また、レポートの講評を授業内で行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業内レポート、最終授業内での課題レポート、授業参加度で評価します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	特に指定しません。適宜プリントを配付します。				
参考書	「情報法概説」（曾我部真裕、林秀弥、栗田昌裕、弘文堂）					
オフィスアワー	月曜日の13:00～14:00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館 9 階1914） メールアドレス：sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	アルビン・トフラーの『第三の波』について調べてください。（2時間）
	授業内容	ガイダンス「情報法と何か」
	事後学習	サイバースペース宣言の全文を読んで、特徴をまとめてください。（2時間）
2	事前学習	憲法第21条の内容を確認するとともに、大日本国憲法第29条との違いを調べてください。（2時間）
	授業内容	表現の自由Ⅰ：検閲の歴史
	事後学習	検閲の歴史についてまとめてください。（2時間）
3	事前学習	博多駅テレビフィルム提出命令事件について調べてください。（2時間）
	授業内容	表現の自由Ⅱ：自己実現と自己統治、思想の自由市場論、優越的地位
	事後学習	自己実現と自己統治の考え方についてまとめてください。（2時間）
4	事前学習	放送メディアと印刷メディアの違いについて整理してください。（2時間）
	授業内容	放送制度Ⅰ：戦前の放送法制
	事後学習	戦前の放送制度の概要をまとめてください。（2時間）

5	事前学習	G H Qが行った日本の民主化政策にはどのようなものがあつたか調べてください。（2時間）
	授業内容	放送制度Ⅱ：放送法の制定まで
	事後学習	放送法の策定過程における日本政府とG H Qの攻防についてまとめてください。（2時間）
6	事前学習	放送法第1章を読んで、どのようなことが記述されているかまとめてください。（2時間）
	授業内容	放送制度Ⅲ：放送法の構造
	事後学習	放送の規制根拠を整理してください。（2時間）
7	事前学習	1985年の通信の自由化について調べてください。（2時間）
	授業内容	電気通信事業の変遷Ⅰ：電話から携帯、インターネットへ
	事後学習	電気通信サービスの変遷についてまとめてください。（2時間）
8	事前学習	e-japan戦略について調べてください。（2時間）
	授業内容	電気通信事業の変遷Ⅱ：ブローバンドとスマートフォンの時代
	事後学習	政府の情報通信政策についてまとめてください。（2時間）
9	事前学習	C O L N e tにある資料を読んで疑問点をまとめておいてください。（2時間）
	授業内容	電気通信事業の変遷Ⅲ：通信の秘密とは
	事後学習	通信の秘密への制約についてまとめてください。（2時間）
10	事前学習	総務省ホームページで「通信・放送の在り方に関する懇談会報告書」を検索し、読んでください。（2時間）
	授業内容	情報通信法構想Ⅰ：「通信・放送の在り方に関する懇談会」での議論のポイント
	事後学習	懇談会が示したコンテンツ規制の根拠についてまとめてください。（2時間）
11	事前学習	利用者から見た、放送とインターネットの類似点と相違点を整理してください。（2時間）
	授業内容	情報通信法構想Ⅱ：コンテンツ規制に対する反対意見と2010年放送法改正
	事後学習	放送のハード・ソフト分離についてメリットとデメリットをまとめてください。（2時間）
12	事前学習	インターネットが、これまでのメディアと異なる独自の特徴について調べてみてください。（2時間）
	授業内容	インターネットとは何か
	事後学習	インターネットの光と陰についてまとめてください。（2時間）
13	事前学習	表現の自由Ⅰ、Ⅱの授業ノート、事後学習のまとめを改めて読んでください。（2時間）
	授業内容	インターネットにおける表現の自由
	事後学習	インターネットにおける表現の自由に関する新たな課題についてまとめてください。（2時間）
14	事前学習	インターネット上で問題となっている事柄について調べてください。（2時間）
	授業内容	インターネット法はどうあるべきか
	事後学習	インターネットを包括する法律が必要かどうか考えてください。（2時間）
15	事前学習	自分の授業ノート、事後学習でまとめたものをよく読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	課題レポート及び総括
	事後学習	総括を踏まえ、再度、前学期の自分の授業ノート、事後学習でまとめたものを読んでください。（2時間）

科目名	情報法Ⅱ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「情報法Ⅰ」の講義内容を踏まえ、インターネット上での名誉毀損、わいせつなど個別の問題について解説します。					
授業目的・到達目標	高度情報社会の一員として、情報の取得や発信などのリテラシーを養成することを目的とする。 情報に関する法的知識と倫理についての基本的な理解ができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1，4 新聞学科1，2，3 経営法学科1，2，3					
履修条件	情報法Ⅰの単位取得者。					
授業方法	パワーポイントを使用し、講義形式で行います。また、レポートの講評を授業内で行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業内レポート、最終授業内での課題レポート、授業参加度で評価します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	特に指定しません。適宜プリントを配付します。				
参考書	「情報法概説」（曽我部真裕、林秀弥、栗田昌裕、弘文堂）					
オフィスアワー	月曜日の13:00～14:00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館9階1914） メールアドレス：sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前学期の自分の授業ノート、事後学習でまとめたものを読んでください。（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	インターネット上での情報の送信・受信行為について「通信」もしくは「表現」となると思われる内容をそれぞれ整理してください。（2時間）
2	事前学習	名誉毀損が成立するための要件および免責要件について調べてください。（2時間）
	授業内容	名誉毀損とインターネット上の表現の自由
	事後学習	名誉毀損におけるインターネット上の特徴についてまとめてください。（2時間）
3	事前学習	COLNetにある資料を読んで疑問点をまとめておいてください。（2時間）
	授業内容	インターネットにおける名誉毀損の実例
	事後学習	ラーメンチェーン店事件の1審、2審、最高裁の判断について整理してください。（2時間）
4	事前学習	刑法によるわいせつ表現規制について調べてください。（2時間）
	授業内容	インターネットとわいせつ表現
	事後学習	授業内で出された問題をもう一度、考えてください。（2時間）

5	事前学習	「児童買春、児童ポルノに係る行為等の規制及び処罰並びに児童の保護等に関する法律」を読んで概要を把握してください。（2時間）
	授業内容	児童ポルノ規制
	事後学習	児童ポルノ法が抱える課題を整理してください。（2時間）
6	事前学習	COLNetにある資料を読んで疑問点をまとめておいてください。（2時間）
	授業内容	青少年保護と情報の取り扱いⅠ：有害図書規制
	事後学習	有害図書規制の合憲性についてまとめてください。（2時間）
7	事前学習	「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」を読んで概要を把握してください。（2時間）
	授業内容	青少年保護と情報の取り扱いⅡ：青少年インターネット環境整備法など
	事後学習	有害情報対策や青少年保護のための自主規制団体について調べてください。（2時間）
8	事前学習	部落差別について調べてください。（2時間）
	授業内容	差別表現とヘイト・スピーチ
	事後学習	インターネット上の特有の問題についてまとめてください。（2時間）
9	事前学習	自己情報コントロール権について調べてください。（2時間）
	授業内容	個人情報保護法Ⅰ：法律の成立までの過程
	事後学習	授業を踏まえ、OECD8原則内容を、再度、確認してください。（2時間）
10	事前学習	COLNetにある資料を読んで疑問点をまとめておいてください。（2時間）
	授業内容	個人情報保護法Ⅱ：法律の概要
	事後学習	授業を受けて、配布した法の抜粋部分を良く読んでください。（2時間）
11	事前学習	COLNetにある資料を読んで疑問点をまとめておいてください。（2時間）
	授業内容	個人情報保護法Ⅲ：2015年の改正とその経緯
	事後学習	2015年改正のポイントをまとめてください。（2時間）
12	事前学習	COLNetにある資料を読んで疑問点をまとめておいてください。（2時間）
	授業内容	電子取引と契約Ⅰ：ワンクリック請求、なりすまし
	事後学習	契約成立時期についてまとめてください。（2時間）
13	事前学習	Amazonや楽天などの利用規約を読んでどんなことが記述されているかまとめてください。（2時間）
	授業内容	電子取引と契約Ⅱ：モール・サイト運営者の責任
	事後学習	消費者保護の仕組みについてまとめてください。（2時間）
14	事前学習	COLNetにある資料を読んで疑問点をまとめておいてください。（2時間）
	授業内容	知的財産権のなかでの著作権位置づけ
	事後学習	違法コピーの問題についてまとめてください。（2時間）
15	事前学習	自分の授業ノート、事後学習でまとめたものをよく読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	課題レポート及びまとめ
	事後学習	総括を踏まえ、再度、前学期の自分の授業ノート、事後学習でまとめたものを読んでください。（2時間）

科目名	人材マネジメント論Ⅰ	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	企業のビジョン・ミッション・戦略を実現するために、経営資源としてのヒトをマネジメントするのが人材マネジメントである。この授業では、日本企業で行われてきた人事施策を「人材の多様化」「人材需給のグローバル化」「人材の流動化」という人材の変化に対し、どう対応すればよいのかという観点から「グローバル人事」を学習する。			
授業目的・到達目標	【授業目的】今日の「事業のグローバル化」を前提にして、「グローバル人事」とはどういうものか、また、グローバル人事における評価制度や人材配置についてその概要を理解した人材の育成を目的とする。 【到達目標】1. グローバル人事について理解し説明できる。2. グローバル人事における評価制度や人材配置について提案することができる。対応DP及びCP：経営法学科1，2，3，4 公共政策学科1，3，4			
履修条件	特になし。人材マネジメント論Ⅱと併せて履修することが望ましい。			
授業方法	パワーポイントと講義用レジュメを使用して授業を行う。所定授業数の3分の2以上出席しなければ、成績評価の対象にはしない。学期末テストや提出物のフィードバックについては授業内、またはポータルサイトで解説を実施する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	学年末の論述試験の結果を基本とするが、授業内課題や小テストにより加点する。所定授業数の3分の2以上出席しなければ、成績評価の対象にはしない。	
	平常評価	0%	受講者が少ない場合は学年末試験に代えて授業内試験を実施する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を事前に配付する。		
参考書	佐藤博樹他『新しい人事労務管理〔第5版〕』（有斐閣、2015年）、南和気『人事こそ最強の経営戦略』（かんき出版、2018年）			
オフィスアワー	火曜日12：15～12：55 ※事前にメール等で必ず連絡・予約すること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを事前に読み、成績評価方法等確認しておくこと（2時間）
	授業内容	講義計画，成績評価方法
	事後学習	ガイダンスに基づき受講計画を立てる（2時間）
2	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	人材マネジメント論とは
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
3	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	日本企業と海外企業の人事慣習の違い
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
4	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	グローバル人事の必要性
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）

5	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	人材価値の適正評価
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
6	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	ダイバーシティ・マネジメント&インクルージョン
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
7	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	グローバル・グレーティング
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
8	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	サクセッション・プランニング、人材プール管理
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
9	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	戦略的人事評価制度
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
10	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	コンピテンシー評価
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
11	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	ノーレイティング、1 on 1 ミーティング
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
12	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	組織開発とイノベーション
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
13	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	グローバル人事とICT
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
14	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	人事におけるAIの活用
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
15	事前学習	学習内容の確認（2時間）
	授業内容	総まとめ
	事後学習	授業内容の総点検（2時間）

科目名	人材マネジメント論Ⅱ	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ＩＣＴ分野の急速な発展は企業における労働形態を大きく変化させ、特に、ＡＩやＩｏＴ、ビッグデータなどの進化は働き方を大きく変えつつある。これらの技術は、人事分野では「HR（Human Resource）テクノロジー」と呼ばれ、業務効率化や採用・配置の精度向上に大きく貢献することが期待されている。この授業では、HRテクノロジーの可能性と企業人事に与える影響を解説し、日本企業におけるHRテクノロジーの役割を考察していく。					
授業目的・到達目標	【授業目的】我が国の持続的な経済成長に向けての「HRテクノロジー」の役割とはどういうものか、また、適切な「HRテクノロジー」の活用についてその概要を理解することを目的とする。 【到達目標】1. HRテクノロジーについて理解し説明できる。2. HRテクノロジーの活用方法について提案できる。対応DP及びCP：経営法学科1，2，3，4 公共政策学科1，3，4					
履修条件	特になし。人材マネジメント論Ⅰと併せて履修することが望ましい。					
授業方法	パワーポイントと講義用レジュメを使用して授業を行う。所定授業数の3分の2以上出席しなければ、成績評価の対象にはしない。学期末テストや提出物のフィードバックについては授業内、またはポータルサイトで解説を実施する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		100%		学年末の論述試験の結果を基本とするが、授業内課題や小テストにより加点する。所定授業数の3分の2以上出席しなければ、成績評価の対象にはしない。	
	平常評価		0%		受講者が少ない場合は学年末試験に代えて授業内試験を実施する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を事前に配付する。				
参考書	労務行政研究所編『HRテクノロジーで人事が変わる AI時代における人事のデータ分析・活用と法的リスク』（労務行政、2018年）					
オフィスアワー	火曜日12：15～12：55 ※事前にメール等で必ず連絡・予約すること。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを事前に読み、成績評価方法等確認しておくこと（2時間）
	授業内容	講義計画，成績評価方法
	事後学習	ガイダンスに基づき受講計画を立てる（2時間）
2	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	H R（Human Resource）テクノロジーとは
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
3	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	世界と日本におけるH Rテクノロジーの動向
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
4	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	H Rテクノロジーの現状と可能性
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）

5	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	H Rテクノロジーの事例（採用・技術的視点）
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
6	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	H Rテクノロジーの事例（採用・HRM的視点）
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
7	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	H Rテクノロジーの事例（採用・その他の視点）
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
8	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	H Rテクノロジーの事例（配置・技術的視点）
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
9	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	H Rテクノロジーの事例（配置・HRM的視点）
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
10	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	H Rテクノロジーの事例（配置・その他の視点）
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
11	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	H Rテクノロジーの事例（人材・組織開発・技術的視点）
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
12	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	H Rテクノロジーの事例（人材・組織開発・HRM的視点）
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
13	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	H Rテクノロジーの事例（人材・組織開発・その他の視点）
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
14	事前学習	授業内容についてあらかじめ調べておく（2時間）
	授業内容	H Rテクノロジーの導入
	事後学習	授業内容を復習し、十分に理解すること（2時間）
15	事前学習	学習内容の確認（2時間）
	授業内容	総まとめ
	事後学習	授業内容の総点検（2時間）

科目名	西欧政治思想史Ⅰ	担当者	杉本 竜也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	古代から近代にいたる西洋の政治思想を歴史的文脈に沿って学ぶ。具体的には、古代ギリシアの哲学者による政治学から、近代に主張された社会契約説までの政治思想を学習する。また、政治思想の適切な理解にはそれが生まれた社会的背景の把握が重要であるため、その思想が生まれた時代の政治的・社会的状況にも注目しながら学んでいく。最終的には、政治学が本来は規範的な学であり、人間の尊厳をめぐる学であることを理解する。				
授業目的・到達目標	政治思想・政治哲学に関する基本的理論や中核の概念の修得を目的とする。 政治に関する理論的・規範的考察に必要な理論などを学ぶだけでなく、受講者が政治現象を本質的に理解・考察・説明できる能力および政治に対する自分独自の考えを組み立てることができる力の修得を目標とする。また、これらの知識や能力を身につけることによって、市民・社会人として必要不可欠な資質（シティズンシップ）の養成を最終的な目標とする。 関連DPおよびCP：政治経済学科 1,3 公共政策学科 1,2,3,4				
履修条件	政治について理論的かつ論理的に考えるように努めてほしい。				
授業方法	基本的にPowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。なお、プレゼンテーション資料は印刷して配布する予定である。定期試験については、ポータル・システムを使って、後日解説を行う。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		75%		期末試験を実施する。講義内容の理解度や文章表現などを総合的に評価する。定期試験の内容や評価方法については、試験前に説明を行う。
	平常評価		25%		質疑や発言など、講義に対する積極的な姿勢は評価対象とする。自主的にレポートを提出した場合は、肯定的に評価する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2013	有斐閣		西洋政治思想史	宇野重規
	備考				
参考書	必要に応じて紹介する。				
オフィスアワー	オフィスアワーは火曜日15:00～16:00とする（研究室：本館8階1808研究室）。事前にメールで予定を確認してもらいたい（E-Mail：sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp）。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	このシラバスの内容を確認して、期中の講義内容の全体像を把握する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 講義の方針や内容、また関係科目である政治哲学との違いなどのほか、成績評価方法の概要について説明を行い、受講生が受講の準備を適切に行えるようにする。受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。
	事後学習	ガイダンス内容を再確認するとともに、この時点で可能であれば、教科書を入手の上、目を通し、全体の流れを把握しておく。（2時間）
2	事前学習	教科書を入手し、目次に目を通して全体の流れを把握しておく。（2時間）
	授業内容	「西洋政治思想の目指したもの 個人と共同体」 「自由」という概念をキーワードとして、古代から近現代にいたる西洋政治思想の全体的な流れを学習する。なお、この回の講義は、この後たびたび振り返ることになるため、受講者は必ず出席するように求める。
	事後学習	講義内容を復習するとともに、教科書の「はじめに」に目を通す。（2時間）
3	事前学習	教科書（第1章第2節）や歴史書、またインターネットなどを利用して、古代ギリシアについて簡単に調べておく。（2時間）
	授業内容	「プラトン（古代の政治思想①）」 アテナイを中心とする古代ギリシアにおける人間観・政治観・社会観について学習する。そのうえで、イデア論を中心とするプラトンの哲学を概説し、そして『国家』に代表される彼の政治思想について考察する。
	事後学習	第2回講義の内容や配布資料もあわせて参考にしながら、古代ギリシアにおける政治の意味や役割を考える。そのうえで、プラトンの政治思想の特徴をまとめる。（2時間）

4	事前学習	教科書や配付資料などを利用して、プラトンの政治思想について復習する。また、プラトンとの違いを意識しながら、アリストテレスの政治思想について教科書（第1章第3節）などを利用して簡単に確認しておく。（2時間）
	授業内容	「アリストテレス（古代の政治思想②）」 前回講義したプラトンとの違いを意識しながら、『ニコマコス倫理学』や『政治学』を中心にアリストテレスの政治思想を学ぶ。また、彼の政治思想が現代にいたるまで政治学に影響を与えている理由と、彼の政治思想の意義を考える。
	事後学習	教科書（第1章第2節・第3節）や配布資料などを使って、プラトンとアリストテレスの政治思想の違いについてまとめる。（2時間）
5	事前学習	教科書（第2章第3節・第4節および第3章）や歴史書、またインターネットなどを利用して、中世ヨーロッパについて簡単に確認しておく。その際、特にローマ・カトリックやその長であるローマ教皇（法王）に注目する。（2時間）
	授業内容	「中世社会とキリスト教（トマス・アクイナスを中心に）」 まず、草創期から中世にかけてのキリスト教の歴史とその当時のヨーロッパの政治・社会状況を学ぶ。そのうえで、 普遍論争 やトマス・アクイナスの政治思想について考察する。
	事後学習	教科書（第3章第2節）や配付資料を使用して、講義内容について復習する。 また、トマス・アクイナスについては、充実した無料のインターネット講義が開設されているため、関心があればその視聴をすすめる（サイトの情報は、講義の際に紹介する）。（2時間）
6	事前学習	教科書（第3章）や関連書籍などの資料を利用して、カトリックを中心としたキリスト教の教義や社会教説、歴史について確認しておく。（2時間）
	授業内容	「ルネサンスと宗教改革」 まず、当時のイタリアの政治状況について把握したうえで、ルネサンスとその政治的意味について考える。そして、マルティン・ルターやジャン・カルヴァンによって始められた宗教改革とそれが政治や社会に与えた影響について考察する。
	事後学習	教科書（第4章第2節・第3節）や前回の講義資料なども参考にしながらキリスト教の特徴や歴史を確認したうえで、宗教改革とその政治的影響についてまとめる。また、現代社会における政治と宗教をめぐる問題についても考えてみる。（2時間）
7	事前学習	教科書（第3章第1節）や歴史書の利用や講義内容の再確認を通して、封建制を中心とする中世ヨーロッパ社会の特徴について確認しておく。（2時間）
	授業内容	「絶対王政の政治思想（ジャン・ボダンを中心に）」 宗教改革によって生じた政治対立（コンフェッショナルリズム）やその克服を目的として打ち立てられたジャン・ボダンの主権理論、そしてボダンの理論などを根拠として成立した絶対王政について学習する。
	事後学習	封建制を中核的特徴とする中世社会とボダンが提唱した中央集権的な政治体制との違いをまとめる。（2時間）
8	事前学習	第2回講義から第4回講義までの講義内容を振り返り、古代社会の政治思想について確認しておく。また、教科書の「はじめに」および第4章第1節を読む。（2時間）
	授業内容	「ニコロ・マキアヴェリ 近代政治思想の幕開け」 『君主論』で展開されたきわめて現実的な政治思想と『ローマ史論』に見られる共和主義的な政治思想というニコロ・マキアヴェリの政治思想に見られる2つの側面を比較しながら、彼の政治思想を学び、その政治思想史的意義について考察する。
	事後学習	古代や中世の政治思想と比較しながら、マキアヴェリの政治思想の特徴と彼が後の政治に与えた影響について考えてみる。（2時間）
9	事前学習	第7回講義の資料などを利用して、絶対王政について復習する。（2時間）
	授業内容	「モンテスキュー 自由主義の源流」 『法の精神』を主要な材料として、モンテスキューの政治思想について学ぶ。彼の思想には保守主義的性質と自由主義的性質をあわせ持つ複雑な特徴があるため、具体的な政体論の理解などを通して、モンテスキューの政治思想について説明できるようになる。
	事後学習	「モンテスキューの考える『自由』とはどのようなものだったのか」という問題意識をもって、教科書（第6章第1節）や配付資料を用いて講義内容を再確認する。（2時間）
10	事前学習	「社会や国家は、個人によって形成される」という考え方を意識しながら、第2回講義の内容を再確認する。（2時間）
	授業内容	「社会契約説とは何か？（社会契約説①）」 「個人」や「擬制」（フィクション）といった概念を材料として、さまざまな思想家によって主張され、今日でも国家の成立根拠のひとつとして承認されている社会契約説という政治思想の本質的な特徴について考える。
	事後学習	社会や国家といった共同体と個人の作為との関係性に注意しながら、配布資料を使って講義内容を復習する。（2時間）
11	事前学習	前回講義の内容を再確認するとともに、教科書（第5章第2節）を使ってトマス・ホッブズの政治思想を概観する。（2時間）
	授業内容	「トマス・ホッブズ（社会契約説②）」 『リヴァイアサン』を主な材料として、「自然状態」「自然権」「自然法」などの概念を注目しながら、トマス・ホッブズの政治思想を学習する。その際、「自然状態」などの概念は社会契約説を考えるうえで重要な概念であるため、特に注意を払って内容を理解する。
	事後学習	講義内容や教科書（第5章第2節）を確認し、講義内容を理解する。特に、ホッブズのいう「自然状態」「自然権」「自然法」についてまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書（第5章第4節）などを使用して、ジョン・ロックの政治思想について確認を行う。（2時間）
	授業内容	「ジョン・ロック（社会契約説③）」 主として『統治二論』で展開されたジョン・ロックの社会契約説について学ぶ。「自然状態」「自然権」「自然法」に関するロックとトマス・ホッブズとの考え方の違いを理解するとともに、ロックの政治思想における「プロパティ」（所有権）の重要性を把握し、説明できるようにする。
	事後学習	「自然状態」「自然権」「自然法」に注目しながら、トマス・ホッブズとジョン・ロックによるそれぞれの社会契約説の特徴と違いについて考察する。（2時間）
13	事前学習	トマス・ホッブズとジョン・ロックの社会契約説をあらためて確認したうえで、教科書（第7章第1節）などを使って、ジャン＝ジャック・ルソーについて確認する。（2時間）
	授業内容	「ジャン＝ジャック・ルソー（社会契約説④）」 他の2人の社会契約論者の考え方や啓蒙思想などとの共通点と相違点に注目しながら、ジャン＝ジャック・ルソーの政治思想について学ぶ。特に、一般意志をはじめとするルソーの思想概念は独自性が高く、理解しにくいものも多いため、概念把握に注意する。
	事後学習	トマス・ホッブズ、ジョン・ロック、ジャン＝ジャック・ルソーの社会契約説を比較しながら、それぞれの思想の内容と特徴を十分に理解し、説明できるようにする。そのうえで、3人の思想に共通する要素を考えて、社会契約説が持っている政治思想史的な意義について考察する。必要なら、他の書籍や資料なども確認する。（2時間）

14	事前学習	教科書や講義資料などを利用して、トマス・ホッブズ、ジョン・ロック、ジャン＝ジャック・ルソーの社会契約説について復習を行う。（2時間）
	授業内容	「フランス革命をめぐる政治思想」 フランス革命のなかで登場してきた政治思想、具体的には急激な改革を求めたジャコバン主義や絶対王政への回帰を望んだ反動思想について学習する。さらに、政治における過激な考え方や実際の暴力といった問題について考察する。
	事後学習	講義内容を確認するとともに、テロリズムやヘイト・スピーチといった現代の政治的・社会的問題についても考えてみる。（2時間）
15	事前学習	前期の講義内容全体を再確認し、疑問点などがあれば、それらを整理しておく。（2時間）
	授業内容	前期総括 古代から近代の市民革命の時代にいたる政治思想について、総括的に考える。また、講義内容に関する質疑応答が設定されているため、必要に応じて利用する。 試験の内容や評価に関して説明を行うので、受講者はできる限り出席するようにを求める。
	事後学習	教科書や講義資料などを総復習し、期末試験の準備を行う。（2時間）

科目名	西欧政治思想史Ⅱ	担当者	杉本 竜也	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	市民革命後から現代にいたる西ヨーロッパおよびアメリカの政治思想を歴史的文脈に沿って学ぶ。具体的には、アレントまでのヨーロッパの政治思想の後に、アメリカ政治思想を学習する。また、政治思想の適切な理解にはそれが生まれた社会的背景の把握が重要であるため、その思想が生まれた時代の政治的・社会的状況にも注目しながら学んでいく。最終的には、政治学が本来は規範的な学であり、人間の尊厳をめぐる学であることを理解する。				
授業目的・到達目標	政治思想・政治哲学に関する基本的理論や中核の概念の修得を目的とする。 政治に関する理論的・規範的考察に必要な理論などを学ぶだけでなく、受講者が政治現象を本質的に理解・考察・説明できる能力および政治に対する自分独自の考えを組み立てることができる力の修得を目標とする。また、これらの知識や能力を身につけることによって、市民・社会人として必要不可欠な資質（シティズンシップ）の養成を最終的な目標とする。 関連DPおよびCP：政治経済学科 1,3 公共政策学科 1,2,3,4				
履修条件	「西欧政治思想史Ⅰ」の履修を条件とする。 政治について理論的かつ論理的に考えるように努めてほしい。				
授業方法	基本的にPowerPointのプレゼンテーションを利用した講義形式で行う。なお、プレゼンテーション資料は印刷して配布する予定である。定期試験については、ポータル・システムを使って、後日解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		75%	期末試験を実施する。講義内容の理解度や文章表現などを総合的に評価する。定期試験の内容や評価方法については、試験前に説明を行う。	
	平常評価		25%	質疑や発言など、講義に対する積極的な姿勢は評価対象とする。自主的にレポートを提出した場合は、肯定的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2013年	有斐閣	西洋政治思想史		宇野重規
	備考				
参考書	必要に応じて紹介する。				
オフィスアワー	オフィスアワーは火曜日15:00～16:00とする（研究室：本館8階1808研究室）。事前にメールで予定を確認してもらいたい（E-Mail：sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp）。また、講義に関する意見や提案なども歓迎する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	このシラバスを確認して、講義の流れを把握しておく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 「西欧政治思想史Ⅰ」の講義内容について簡単に説明したのち、後期に行う講義の方針や内容、成績評価方法の概要について説明を行い、受講生が授業の準備を行えるようにする。受講を希望する学生は、できる限り出席するように求める。
	事後学習	今期の講義内容について、教科書を使って全体の流れを把握しておく。（2時間）
2	事前学習	「保守」または「保守主義」「保守思想」といった言葉が現在一般にどのように使われているのか、インターネットなどを利用して調べてみる。そして、教科書（第7章第3節）を用いて、エドモンド・パークの保守思想について確認しておく。（2時間）
	授業内容	「エドモンド・パーク 革命に対するリアクションとしての保守主義」 「自由」をキーワードとして、エドモンド・パークの保守思想を学ぶ。講義ではパークに限定せず、ヒュームなども含めて広い視野から保守主義について説明を行うので、受講者は保守主義の本質を理解するように努める。また、イギリスとアメリカの保守主義の比較的に考察する。
	事後学習	教科書（第7章第3節）や講義資料などを参考として、「自由」という概念に注目しながら、エドモンド・パークの保守思想について復習を行う。また、現代政治や現代社会における「保守」や「保守主義」「保守思想」についても考えてみる。（2時間）
3	事前学習	今日、多様な意味で使われている「デモクラシー」という言葉について、インターネットなどを利用して調べてみる。そのうえで、教科書（第8章第2節）を利用しながら、アレクシス・ド・トクヴィルの政治思想について確認しておく。（2時間）
	授業内容	「アレクシス・ド・トクヴィル（市民革命後の政治思想①）」 主著『アメリカのデモクラシー』を材料として、アレクシス・ド・トクヴィルの政治思想について学ぶ。トクヴィルのいうデモクラシーは一般の認識よりも広い意味を持っているため、その点に注意しながら理解し、説明できるようになる。
	事後学習	まず、アレクシス・ド・トクヴィルの政治思想におけるデモクラシーの意味について、教科書（第8章第2節）や講義資料などを参考にしながら、復習を行う。そのうえで、現代のデモクラシーが抱えている問題点について考えてみる。（2時間）

4	事前学習	教科書や哲学・倫理学に関する書籍、またインターネットなどを利用して、功利主義について確認しておく。（2時間）
	授業内容	「ジョン・スチュアート・ミル（市民革命後の政治思想②）」はじめに功利主義やロマン主義について学んだうえで、ジョン・スチュアート・ミルの政治思想について学習する。ミルの思想的業績は膨大だが、この講義では主に『自由論』と『代議制統治論』について学ぶ。
	事後学習	教科書や講義資料などを利用して、「自由」というものの意味を考えながら、ジョン・スチュアート・ミルの政治思想の特徴についてまとめる。（2時間）
5	事前学習	教科書（第8章第1節）や哲学・倫理学に関する書籍、またインターネットなどを利用して、ドイツ観念論について確認しておく。詳細は講義の中で説明していくので、事前学習の段階では正確に理解していなくても構わない。（2時間）
	授業内容	「カントとヘーゲル 市民社会と国家」イマヌエル・カントとゲオルグ・ウィルヘルム・フリードリヒ・ヘーゲルの政治思想について学ぶ。彼らの哲学的業績はきわめて多く、多岐にわたるため、この講義では特にそれぞれの人間観や国家観・市民社会観について学習する。
	事後学習	教科書（第8章第1節）や講義資料、その他の文献なども利用しながら、講義の内容について再確認しておく。ドイツ観念論は抽象的な議論が多いため、把握困難な個所があればまとめておく。（2時間）
6	事前学習	18世紀末のフランス革命から19世紀初頭までのフランスの政治・社会状況について、教科書（第8章第3節）や歴史書、またはインターネットなどを利用して簡単に把握しておく。（2時間）
	授業内容	「フランス初期社会主義思想（社会主義思想①）」はじめに19世紀の急速な産業化・都市化の進展に伴って発生した、貧困をはじめとする社会問題について理解し、説明できるようにする。それを踏まえて、サン＝シモンやシャルル・フーリエ、ピエール・ジョセフ・ブルドンらによって主張されたフランス初期社会主義思想について学ぶ。
	事後学習	「社会」という概念に注目し、その意味を考えながら、それぞれの社会主義者の思想内容についてまとめる（2時間）
7	事前学習	教科書（第8章を中心に）や講義資料などを利用して、第5回講義で取り上げたドイツ観念論および第6回講義のフランス初期社会主義の内容を再確認する。（2時間）
	授業内容	「カール・マルクス（社会主義思想②）」「剰余価値」や「上部構造・下部構造」、「疎外」といったカール・マルクスの社会主義思想の基本概念を学習し、そして彼の思想が後の政治に与えた影響やその政治学的な意味について考える。あわせて、現代にも共通する、政治と経済の間に存在する摩擦や緊張に関しても考察する。
	事後学習	第5回講義や第6回講義の内容とあわせて、カール・マルクスの社会主義思想・政治思想について復習を行い、その概要をまとめる。必要であれば、各種の書籍やインターネットなども利用する。（2時間）
8	事前学習	教科書（第8章を中心に）や講義資料などを利用して、第6回講義および第7回講義で取り上げた社会主義思想について再確認しておく。（2時間）
	授業内容	「レーニン／ベルンシュタイン（社会主義思想③）」レーニンやベルンシュタインらによって実際に推進された社会主義構想に関して学習する。彼らが自らの理想の実現にあたって直面した困難に触れることを通して、政治における理論と現実の差とそれを埋める困難さについて考える。
	事後学習	教科書（第8章を中心に）や講義資料などを利用して、第6回講義から第8回講義において取り上げた社会主義思想について再確認する。（2時間）
9	事前学習	第3回講義の内容を再確認して、デモクラシーの本質的な問題点について確認しておく。（2時間）
	授業内容	「全体主義（ファシズム・ナチズム）」はじめにデモクラシーの特徴とそれを原因として生じる問題点について押さえる。そのうえで、全体主義およびファシズム、ナチズムについて、その定義や特質、発生要因などについて学ぶ。
	事後学習	「なぜデモクラシーが全体主義の原因になってしまうのか」という問いについて考え、自分なりの見解をまとめる。（2時間）
10	事前学習	前回講義の資料などを利用して全体主義の発生要因について確認したうえで、教科書（「結章」）などを利用してハンナ・アレントの政治思想について簡単に把握しておく。（2時間）
	授業内容	「ハンナ・アレント 全体主義に対する批判」第一に全体主義批判、第二に『人間の条件』で展開された理想的な政治のあり方、第三に『イェルサレムのアイヒマン』で示された時代や政治、組織の中における人間の存在に関する考察を材料として、ハンナ・アレントの政治思想を学ぶ。
	事後学習	現代の社会や政治、デモクラシーに対する批判としての性格を持っていることを認識したうえで、ハンナ・アレントの政治思想の概要をまとめる。近年、アレントに関する映画が公開されており、関心があればその視聴をすすめる。（2時間）
11	事前学習	教科書（第7章第2節）や歴史書、またインターネットなどを利用して、アメリカの歴史、とりわけ植民地成立期から独立戦争、その後の国家形成のころまでの経緯について簡単に確認しておく。なお、アメリカの歴史については、在日アメリカ大使館・アメリカンセンターのホームページが詳しく、正確である。（2時間）
	授業内容	「フェデラリストとリパブリカン（アメリカの政治思想①）」はじめに、ヨーロッパ人によるアメリカ植民の時代から独立戦争、その後のアメリカ合衆国憲法に代表される国家体制の整備の時代にいたる、政治・社会状況について学習する。そして、その経緯であらわれたフェデラリストとリパブリカンの対立を把握したうえで、アメリカという国家の原理について学ぶ。
	事後学習	教科書（第7章第2節）や講義資料などを利用して、アメリカ独立の指導者（ファウンディング・ファーザーズ）の政治思想について確認する。（2時間）
12	事前学習	教科書（「結章」）などを利用して、ジョン・ロールズの政治思想について確認しておく。（2時間）
	授業内容	「ロールズのリベラリズム（アメリカの政治思想②）」『正義論』の内容を中心に、ジョン・ロールズの政治思想についてその詳細を学ぶ。特に、「無知のヴェール」や「正義の2原理」といったロールズの基本概念に関しては、その意味を正確に理解するように努める。また、彼の政治思想が後の政治学や現実の政治に与えた影響についても学ぶ。
	事後学習	教科書（「結章」）や講義資料などを利用して、『正義論』を中心にジョン・ロールズの政治思想について復習する。特に「正義の2原理」は十分に理解するように努める。必要に応じて、他の書籍なども確認する。（2時間）
13	事前学習	教科書（「結章」）や講義資料などを利用して、ジョン・ロールズの政治思想について再確認しておく。特に、彼の重要概念については、その意味を十分に考察する。（2時間）
	授業内容	「コミュニタリアニズム（アメリカの政治思想③）」ジョン・ロールズの政治思想に対する批判の中から生まれた、アラスデア・マッキンタイアやマイケル・サンデルらによるコミュニタリアニズム（共同体主義）について学ぶ。また、アメリカの政治思想における「自由」の意味の多様さについて考える。
	事後学習	ジョン・ロールズの政治思想と比較しながら、さまざまな論者によるコミュニタリアニズムをまとめる。（2時間）

14	事前学習	さまざまな書籍や資料、インターネットなどを利用して、女性差別や人種差別、セクシュアル・マイノリティに対する差別といった社会問題について把握しておく。（2時間）
	授業内容	「近代政治思想の再検討」 フェミニズムやクイア理論、ケアの倫理、またアフリカ系アメリカ哲学などによる問題提起を参考として、「個人」や「理性」、「男性」の存在を前提に形成されてきた近代政治思想の問題点について学ぶ。
	事後学習	前回まで取り上げてきた近代政治思想と今回講義したさまざまな政治思想を比較して、それぞれの評価すべき点や功績と問題点の両方について考えてみる。（2時間）
15	事前学習	後期の講義内容全体を再確認し、疑問点などがあれば、それらを整理しておく。（2時間）
	授業内容	後期総括 市民革命後から現代にいたるまでの政治思想に関する総括的講義を行うため、近現代の政治思想全体を把握するように努める。 試験の内容や評価に関して説明を行うので、受講者はできる限り出席するようにを求める。
	事後学習	教科書や講義資料などを総復習して、期末試験を準備する。（2時間）

科目名	西欧政治思想史Ⅱ	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	近代から現代にいたる西洋の政治思想を体系的に理解することができるように講義を行う。また、政治思想史はすべての政治学領域の基礎であると共に、公務員試験等でも出題される科目であるため、その基本的知識も十分に習得させたい。政治思想や政治哲学に関する知識や理論を習得させることを通して、政治現象を表面的に捉えるのではなく、それを本質的に理解・考察する能力と政治に対する自分なりの考えを組み立てる能力を身につけさせる。			
授業目的・到達目標	【授業目的】近代から現代までの西欧政治思想史を体系的に理解することを目的とする。 【到達目標】1. 近代から現代にいたる西洋の政治思想を体系的に理解し、説明することができる。2. 政治現象を本質的に理解・考察する能力と政治に対する自分なりの考えを組み立てる能力を身につける。対応DP及びCP：政治経済学科1, 3 公共政策学科1, 2, 3, 4			
履修条件	あらかじめ各自で西洋史の大まかな流れを把握しておいた方が、より深い講義内容の理解が可能になると思われる。ただ、世界史未習者も理解が容易になるように、講義では各思想の歴史的背景について詳しく説明する予定である。			
授業方法	毎回プリントを配布すると共に、パワーポイントを用いて授業を進める。また、定期的に小テストを実施し、受講者の授業理解を確認する。フィードバックは授業内で小テストの解説を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		70%	期末に定期試験を実施する。論述式の試験により、講義内容の理解度を総合的に評価する。
	平常評価		30%	小テストを授業時間内に計3回実施する。実施日は当日決める。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2013	有斐閣	西洋政治思想史	宇野重規
	備考	教科書の入手に関する指示は初回の講義で行う。		
参考書	授業中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜日昼休み、事前にアポイントメントをとること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ニュース・新聞報道に触れる（3時間）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
2	事前学習	社会契約説について調べる（3時間）
	授業内容	近代政治思想史前史
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
3	事前学習	啓蒙思想について調べる（3時間）
	授業内容	スコットランド啓蒙
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
4	事前学習	市民革命について調べる（3時間）
	授業内容	アメリカ独立革命
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）

5	事前学習	市民革命について調べる（3時間）
	授業内容	フランス革命
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
6	事前学習	バークについて調べる（3時間）
	授業内容	保守主義の政治思想
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
7	事前学習	ロマン主義について調べる（3時間）
	授業内容	ドイツの政治思想
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
8	事前学習	功利主義について調べる（3時間）
	授業内容	ベンサムと功利主義
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
9	事前学習	『自由論』について調べる（3時間）
	授業内容	ミルと自由主義
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
10	事前学習	ユートピア思想について調べる（3時間）
	授業内容	社会主義の政治思想Ⅰ：マルクス以前
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
11	事前学習	マルクスについて調べる（3時間）
	授業内容	社会主義の政治思想Ⅱ：マルクス以後
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
12	事前学習	二つの世界大戦について調べる（3時間）
	授業内容	帝国主義の時代
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
13	事前学習	ナチズムについて調べる（3時間）
	授業内容	全体主義の時代
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
14	事前学習	冷戦について調べる（3時間）
	授業内容	戦後政治思想
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
15	事前学習	配付プリント全体の振り返り（2時間）
	授業内容	期末総括
	事後学習	授業全体の振り返り（2時間）

科目名	政策研究A	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、国家公務員（内閣府）としてNPO法人行政に関わった経験を引きつつ、新しい公共、共助社会において重要な役割が期待される非営利組織（NPO）について、理論と実証を通じて講義を行う。また、適宜ゲストスピーカーからの話題提供を通じて履修者の理解が深まるようにする。なお、講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。					
授業目的・到達目標	非営利組織の経済学に基づく理論的背景について学び、それに基づいて営利企業との違いやミッション、現状について議論できるようになる力を養成することを目的とする。非営利組織について、その背景を理解することで、現実の社会問題（人口減少、雇用、少子化、高齢化、まちづくり）解決において果たす・期待される役割について説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：公共政策学科1， 3， 4， 5					
履修条件	特になし。					
授業方法	講義ノートに基づいて講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。期末レポートについては評価のポイント・講評を学生教員フォルダにアップする。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%		期末レポート（70%）及び小課題（30%）で総合的に評価する。	
	平常評価		100%			
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	特に用いない。講義ノートに基づいて講義を行う。				
参考書	必要に応じて紹介する。					
オフィスアワー	授業期間中の毎週火曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける（予約は不要）、また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	自分の知っている、聞いたことのある非営利組織（NPO法人等）の団体をインターネット等で調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【オリエンテーション（非営利組織とは何か）】 非営利組織の定義など基礎的事項について学習する。
	事後学習	非営利組織について今まで誤解していた部分・初めて知った部分について整理すること。（2時間）
2	事前学習	ミクロ経済学の企業行動について復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	【営利企業と何が違うか（利潤最大化）】 営利企業との違いを理解するために、営利企業の行動について学習する。
	事後学習	講義内容についてミクロ経済学のテキスト等で復習を行うこと。（2時間）
3	事前学習	前回の講義内容を復習しておく。ミクロ経済学の企業行動について再復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	【営利企業と何が違うか（費用最小化）】 非営利組織の行動として費用最小化問題について学習する。
	事後学習	講義内容についてミクロ経済学のテキスト等で復習を行うこと。（2時間）
4	事前学習	インターネット等で非営利組織（NPO法人等）のミッションを調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【非営利組織は何を目的に行動をするのか（ミッションとは何か）】 非営利組織の目的としてのミッションについて学習する。
	事後学習	授業内容を踏まえ、インターネット等で非営利組織（NPO法人等）のミッションを調べ直すこと。（2時間）

5	事前学習	インターネット等で社会的インパクト評価について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【非営利組織は何で評価されるのか、何で評価されるべきか。】 社会的インパクト評価について学習する。
	事後学習	授業内容を踏まえ、インターネット等で社会的インパクトを調べ直すこと。（2時間）
6	事前学習	ロジックモデルについて調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【ロジックモデルを作成する】 実際にロジックモデルを作成する。（演習）
	事後学習	自分の関心のある分野のロジックモデルを作成してみること。（2時間）
7	事前学習	インターネット等で非営利組織の求人・雇用条件等について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【非営利組織の雇用】 非営利組織の雇用について政府統計等を用いて学習する。
	事後学習	講義内容で紹介したデータについて復習を行うこと。（2時間）
8	事前学習	インターネット等でゲストスピーカーの所属団体について調べてくること。（1時間）
	授業内容	【非営利組織で働くということ】 ゲストスピーカーを予定
	事後学習	小レポートの作成（3時間）
9	事前学習	個人の消費行動についてミクロ経済学のテキスト等で復習を行っておくこと。（2時間）
	授業内容	【寄付について考える】 寄付の経済理論について学習する。
	事後学習	授業の最後に提示する練習問題を解いておくこと。（2時間）
10	事前学習	個人の余暇行動についてミクロ経済学のテキスト等で復習を行っておくこと。（2時間）
	授業内容	【ボランティアについて考える】 ボランティアの経済理論について学習する。
	事後学習	授業の最後に提示する練習問題を解いておくこと。（2時間）
11	事前学習	インターネット等でソーシャル・ビジネスについて調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【ソーシャル・ビジネス（営利と非営利のあいだ）】 ソーシャル・ビジネスについてその定義や事例について学習する。
	事後学習	授業内容を踏まえて、ソーシャル・ビジネスについて知識を整理すること。（2時間）
12	事前学習	インターネット等で企業の社会貢献について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【営利企業の社会貢献（CSRの実態と課題）】 CSRについて、経団連の取り組みや、各企業の取り組みについて学習する。
	事後学習	授業内容を踏まえて、企業の社会貢献の類型について整理すること。（2時間）
13	事前学習	インターネット等でゲストスピーカーの所属団体について調べておくこと。（1時間）
	授業内容	【グローバルな活動について考える】 ゲストスピーカーを予定
	事後学習	小レポート。（3時間）
14	事前学習	インターネット等で行政とNPOとの協働について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【行政との協働】 指定管理者制度、ふるさと納税による支援等の実情について学習する。
	事後学習	授業内容を踏まえて、行政とNPOの協働について整理すること。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。（2時間）
	授業内容	まとめ（非営利組織を取り巻く今日的課題）
	事後学習	最終レポートの作成。（6時間）

科目名	政策評価論	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	政策過程における政策評価の意義、政策評価の実態、政策評価の理論について解説する。全体像を解説したうえで、実態面についてはより理解しやすい自治体での事例を多く説明する。講義では、行政機関での審議会委員の経験を生かして行政活動の実態についても講義をおこなう。				
授業目的・到達目標	近年、国・地方で政策評価が導入されているが、最近の動向も踏まえ政策評価について検討・分析することを目的とする。政策評価とはなにか、その制度の根幹を理解し、国、地方自治体の政策を評価できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：公共政策学科1， 3， 4				
履修条件	公共政策論を履修済みでないと講義の理解はむずかしい。履修する場合は、公共政策の基礎知識を服しておくことが必要である。				
授業方法	講義形式で行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		90%	政策評価制度のしくみについての理解を問う。	
	平 常 評 価		10%	コメントペーパーを書く機会を複数設ける。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は利用しない。			
参 考 書	必要に応じて講義のなかで紹介する。				
オフィスアワー	原則水曜日の昼休みとする。事前にメールなどでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいっていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館6階の研究室。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読んでくること。（2時間）
	授業内容	ガイダンス；概要、成績評価方法など
	事後学習	政策評価とはなにか考えてみる。（2時間）
2	事前学習	国と地方の政策評価制度とはなにかネットで調べてくる。（2時間）
	授業内容	政策評価とはなにか：意義
	事後学習	政策評価の整理を行う。（2時間）
3	事前学習	行政の説明責任について調べてくる。（2時間）
	授業内容	政策評価の導入の背景
	事後学習	政策評価が導入された背景について整理する。（2時間）
4	事前学習	政策評価の目的について国と自治体について違いがあるか考察する。（2時間）
	授業内容	政策評価の目的
	事後学習	政策評価の目的と導入の背景について合わせて考察する。（2時間）

5	事前学習	評価の手法について調べてくる。（2時間）
	授業内容	政策評価の対象と手法
	事後学習	定性的評価と定量的評価の特性についてまとめる。（2時間）
6	事前学習	政策評価は先行自治体について調べてくる。（2時間）
	授業内容	政策評価の動向（1）
	事後学習	政策評価の先行例をまとめる。（2時間）
7	事前学習	政策評価の先行事例と国への伝播について検討する。（2時間）
	授業内容	政策評価の動向（2）
	事後学習	政策評価制度の傾向についてまとめる。（2時間）
8	事前学習	政策評価の基準の必要性について考察する。（2時間）
	授業内容	政策評価の評価基準：3Eなど
	事後学習	評価基準がどのように機能するのか整理する。（2時間）
9	事前学習	自分居住する自治体の政策評価制度についてネットで調べる。（2時間）
	授業内容	政策評価シートの公開、外部評価など
	事後学習	政策評価とアカウンタビリティの確保について検討する。（2時間）
10	事前学習	政策評価の構築の障害となるものについて検討する。（2時間）
	授業内容	政策評価システムの構築過程の課題（1）
	事後学習	構築の障害がどのような影響を与えられているのか検討する。（2時間）
11	事前学習	前回の議論を理解したうえで講義に臨む。（2時間）
	授業内容	政策評価システムの構築過程の課題（2）
	事後学習	構築と様々な主体の役割について理解する。（2時間）
12	事前学習	政策評価システムの成功と地域の状況の関係について検討する。（2時間）
	授業内容	政策評価システムの成功への条件（1）
	事後学習	成功の条件について整理する。（2時間）
13	事前学習	前回の議論について理解する。（2時間）
	授業内容	政策評価システムの成功への条件（2）
	事後学習	政策評価の成功の条件について、環境整備について検討する。（2時間）
14	事前学習	政策評価の応用についての可能性について検討する。（2時間）
	授業内容	政策評価の応用
	事後学習	政策評価と政策支援について検討する。（2時間）
15	事前学習	いままでの学んだ事項を整理し試験に臨む（2時間）
	授業内容	試験とまとめ
	事後学習	試験でできなかった点を再度勉強しておくこと。（2時間）

科目名	政策法務論	担当者	牛山 久仁彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講座では、地方分権の時代にふさわしい自治体行政運営にとって求められる政策法務について講義を行う。今日の自治体において政策法務が求められていることは広く知られており、多くの自治体での実践が行われている。そこで、まず政策法務が求められてきた状況や背景について理解を進め、その意義について考える。その上で、地方分権改革が政策法務に与えた影響や効果、さらには政策法務の具体的な内容や条例論の展開などについて考えたい。				
授業目的・到達目標	本講義を通じて、政策法務とは何かを学び、地方自治の重要性を理解することを目的とする。また、条例制定や政策への取り組みの具体的な取り組みについて学ぶことで、自治体の法システムを学び、説明できるようになることを目標とする。これらは、公務員を志望する学生にとって必要な知識であるが、公務員志望者でなくとも、地域社会で暮らしていく市民としての知識として政策法務を理解する視点を持ちたい。関連DP及びCP：公共政策学科1，3，4				
履修条件	なし。				
授業方法	テキストを参照しながら、講義を実施する。関連資料は適宜配布するが、基本的には、講義内容をふまえた学生の自主的なノート作成を求めたい。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	期末に実施する定期試験により評価する。後日ポータルサイトに解説を配信する。	
	平常評価		30%	授業参加度および、講義内に実施するリアクションペーパーの内容等によって評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019（6月刊行予定）	芦書房	分権時代の地域行政（仮題・詳細は講義中に紹介する）		牛山久仁彦他編著
	備考				
参考書	講義内で適宜指示する。				
オフィスアワー	水曜12：10～ 授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容を確認すると共に、教科書の目次で、事前に全体の内容を確認する。（2時間）
	授業内容	講義の内容やスケジュール、成績評価の方法、テキストなどについて説明する。あわせて、講義の全体像を示し、学習の方法や研究姿勢などについて理解を深める。
	事後学習	講義スケジュールなどについて確認し、各自の学習計画を立てる。（2時間）
2	事前学習	地方自治とはいかなるものかについて、自分の経験や新聞等のニュースを通じて考えてくる。（2時間）
	授業内容	地方自治の必要性と自治体行政のあり方についての概略を講義する。
	事後学習	地方自治がなぜ必要かという点についての理解ができたかどうか、講義ノートを通じて振り返る。（2時間）
3	事前学習	教科書の該当箇所を事前に読み、戦前日本の国家体制と地方制度についての理解を進める。（2時間）
	授業内容	日本の地方自治の歴史について講義をする①。この回では戦前の地方行政制度について、明治憲法下での特徴を、その官治集権的な体制に着目して解説すると同時に、戦後の地方自治に引き継がれている側面にも留意したい。
	事後学習	講義ノートの内容を確認し、戦前の地方制度の特徴をまとめる。（2時間）
4	事前学習	教科書の該当箇所を事前に読み、戦後日本の地方自治制度の成立の背景などについて事前に把握する。（2時間）
	授業内容	日本の地方自治の歴史について講義をする②。日本国憲法の制定によって日本の地方自治の確立が図られ、法制度が整備された。そこで、ここでは日本国憲法における地方自治の規定について確認し、その意義を講義する。
	事後学習	講義ノートの内容を確認すると共に、憲法の該当条文を見直して講義内容を整理する。（2時間）

5	事前学習	教科書の該当箇所を事前に読み、高度成長期の自治体の政策的な取り組みについて考える。高度成長期の日本の状況について、基本的な知識を習得しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	日本の地方自治の歴史について講義をする③。高度経済成長期、日本の地域社会は大きく変貌を遂げ、自治体のあり方にもさまざまな影響を与えた。そこにおいて、自治体が問われた都市問題等への対応について概説し、自治体の政策法務が発展したことについて論じる。
	事後学習	講義ノートの内容を確認し、自治体における政策法務の芽生えについて知識を整理する。（2時間）
6	事前学習	教科書の該当箇所を事前に読み、「地方の時代」の下での自治体の状況についての事前の理解を深める。（2時間）
	授業内容	80年代における、日本の地方自治の発展と課題について講義をする。「地方の時代」と称される80年代に、自治体が直面した政策課題と、そこに生じた課題などについて論じる。
	事後学習	講義ノートの内容を確認し、80年代の日本の自治体の政策的な取り組みと直面した課題について理解する。（2時間）
7	事前学習	教科書の該当箇所を事前に読み、地方分権改革が進められた背景と状況について学習しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	1990年代に地方分権改革が進められた背景と状況について講義を行う。あわせて、日本の国と地方の関係が変化することの意味を論じる。
	事後学習	講義ノートの内容を確認し、地方分権とは何だったのかを整理する。（2時間）
8	事前学習	教科書の該当箇所を事前に読み、地王分権一括法の全体像について把握しておく。（2時間）
	授業内容	2000年4月に施行された分権一括法によって、どのように地方自治のあり方が変化したのかを解説する①。この回では、主に機関委任事務の廃止について論じ、新しい国と自治体の関係について論じる。
	事後学習	講義ノートの内容を確認し、機関委任事務の廃止がもつ意味と自治体政策の変化について整理する。（2時間）
9	事前学習	教科書の該当箇所を事前に読み、「国の関与」とは何かについての基本的な知識を事前学習しておきたい。（2時間）
	授業内容	8回目に続き、分権一括法による自治体の変化について論じる。この回では、国の関与の改革による国と自治体の関係変化について講義を行う。
	事後学習	講義ノートの内容を確認し、「国の関与」の改革を通じて、国と地方の関係がどのように変わったのかを整理しておく。（2時間）
10	事前学習	教科書の該当箇所を事前に読み、自治体条例にはどのようなものがあるかを知っておく。（2時間）
	授業内容	自治体の条例制定権について、地方自治法の規定を基に解説する。自治体独自の法創造の視点から、条例制定権についての理解を進めたい。
	事後学習	講義ノートの内容を確認し、自治体が条例制定権をもつことの意味と役割を整理する。（2時間）
11	事前学習	教科書の該当箇所を事前に読み、1970年代の自治体の「要綱行政」の取り組みについて、その歴史的背景や内容について予習しておく。（2時間）
	授業内容	自治体を取り組んだ「要綱行政」の意義と課題について講義を行う。自治体が直面した政策法務の課題と、その発展方向について、具体的な取り組みを例に論じる。
	事後学習	講義ノートの内容を確認し、「要綱行政」の意義と限界について整理する。（2時間）
12	事前学習	教科書の該当箇所を事前に読み、自治体の具体的取り組み事例について概観しておく。（2時間）
	授業内容	自治体が自主的に政策形成に取り組み、条例制定をふまえた実践を行ってきた具体的な事例について講義を行う。
	事後学習	講義ノートの内容を確認し、自治体の取り組み事例を振り返ると共に、その意義と発展方向について確認する。（2時間）
13	事前学習	教科書の該当箇所を事前に読み、自治体の政策と計画、さらには政策評価について事前の概略的な知識を習得する。（2時間）
	授業内容	自治体の政策と計画の関係について講義を行う。自治体政策を実現するためには、計画的な政策の推進と総合性が求められる。本講義では、政策法務の全体に関わる計画のあり方と政策評価について論じる。
	事後学習	講義ノートの内容を確認し、自治体にとっての政策の意味や評価のあり方について整理する。（2時間）
14	事前学習	これまでの講義内容を整理し、そこに生じている課題や問題点について考えておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	政策法務の実践を通じて生じる自治体行政の組織や体制の変化と、分権時代にふさわしい今後の自治体のあり方について考える。
	事後学習	講義ノートの内容を確認し、これからの自治体行政組織等のあり方について整理しておく。（2時間）
15	事前学習	ここまでの講義内容の全体像についてふり返り、問題意識を整理する。（2時間）
	授業内容	講義全体のまとめと今後の課題について考える。
	事後学習	講義ノートを全体的に確認し、理解を深める。（2時間）

科目名	政治学 I	担当者	荒井 祐介	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	「政治と経済」および「政治と社会」の関係に焦点を合わせながら、政治学の基礎的な概念や理論・モデル等について、現実の事例を適宜示しつつ説明する。				
授業目的・到達目標	実際の政治的な出来事に触れながら政治学の基本的な知識を習得することにより、第一に、政治的問題を自ら論理的に考える能力を身につけ、第二に、民主主義を構成する政治的市民としての意識を涵養することを目的とする。政治学の基礎的な概念や理論・モデル等を理解し、その知識に基づき自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになることを目標とする。関連DPおよびCP：政治経済学科 1, 2, 3, 4 新聞学科 1, 5 公共政策学科 1, 2, 3, 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式で進める。 履修者にはレジュメを配布し、説明はスライド（パワーポイント資料）を使用する。 授業内に試験を行い解説する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	2/3以上出席した者が成績評価対象となる。学んだ知識を正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2009年	有斐閣		『はじめて出会う政治学〔第3版〕』	北山俊哉・久米郁男・真淵勝
	備考				
参 考 書	授業時に提示する。				
オフィスアワー	月曜日 12：15～13：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館4階9403） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にに行えるようにする。
	事後学習	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書の「第1章 組織された集団」の「1 鉄の三角同盟」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「組織された集団（1）：鉄の三角同盟」 理容所と美容所の事例を参考に、業界団体、官僚、政治家の三者間で業界の利益を擁護する同盟関係が構築されている点を考察する。業界団体、官僚、政治家の三者がなぜ同盟関係を結ぶのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、改めて、業界団体、官僚、政治家の三者間の同盟関係について説明できるようにまとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書の「第1章 組織された集団」の「2 少数者たちが支配する？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「組織された集団（2）：少数者たちが支配する？」 業界団体、官僚、政治家の三者間による同盟関係（鉄の三角同盟）に関して、集団理論および多元的民主主義理論の視点から見た場合にどのように理解できるのか、また、フリー・ライダーの可能性が少数者の優位をもたらすのはなぜか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、鉄の三角同盟に関する集団理論および多元的民主主義理論の理解、およびフリー・ライダーの可能性と少数者優位の関係について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）

4	事前学習	教科書の「第2章 組織された集団」の「1 規制緩和で何が変わったか？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「官と民の関係（1）：規制緩和で何が変わったか？」 電話事業の事例を見ながら、「自然独占」による市場の失敗がなぜ起きるのか、それに対して政府がどのような介入を行うのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「自然独占」が生じる事業にはどのような特徴があり、それに対して政府の介入がどのように行われるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
5	事前学習	教科書の「第2章 組織された集団」の「2 市場の失敗・政府の失敗」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「官と民の関係（2）：市場の失敗・政府の失敗」 市場の失敗をもたらす「公共財」および「情報の非対称性」とはどのような特徴をもつのか、それに対して政府はどのような介入を行うのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「公共財」および「情報の非対称性」が生じる事業にはどのような特徴があり、それに対して政府の介入がどのように行われるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書の「第3章 大企業と政治」の「1 大企業が政治を支配している？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「大企業と政治（1）：大企業が政治を支配している？」 財界が政治に対してどのような影響力を及ぼしているのか、その反対に政治は財界をどのようにコントロールしているのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、財界と政治の相互の一般的な影響力関係について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書の「第3章 大企業と政治」の「2 大企業の構造的な影響力と政治的紛争」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「大企業と政治（2）：大企業の構造的な影響力と政治的紛争」 財界と政治の相互の影響力関係について、「製造物責任法」の制定過程や影響力の分布調査から浮かび上がるより実際の関係性について、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、財界と政治の相互のより具体的な影響力関係について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書の「第4章 選挙と政治」の「1 政策で選挙は戦えるか」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「選挙と政治（1）：政策で選挙は戦えるか」 政策投票とはどのような投票行動であり、実際に政策投票を行うことの困難さについて、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、政策投票の特徴や実際に行うことの困難さについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書の「第4章 選挙と政治」の「2 政策に代わる手がかりは」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「選挙と政治（2）：政策に代わる手がかりは」 有権者の投票行動に関して、政策以外の決定因として候補者の個人的資質や政党がどれだけ効いているのか、および戦後の日本の政党対立がどのような軸に沿って展開されてきたのか、という点について履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、候補者や政党支持に基づく投票行動モデルにはどの程度の説明能力があるのか、また戦後の日本の政党対立はどのような軸に沿って展開されてきたのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書の「第5章 地方分権」の「1 自治体には2つの役割がある」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「地方分権（1）：自治体には2つの役割がある」 パスポートの発券や沖縄米軍基地用地の代理署名などの事例を踏まえて、日本における中央と地方の間での行政事務の委任関係について、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本における機関委任事務が抱えていた長所と短所について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書の「第5章 地方分権」の「2 国と地方の相互依存」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「地方分権（2）：国と地方の相互依存」 地方自治体の権限の決め方として挙げられる「制限列举方式」と「包括授權方式」がどのような特徴を持つのか、また戦後の日本の中央地方関係ではどちらの方式が採用されどのような特徴を示していたのかについて、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、地方自治体の権限に関する「制限列举方式」と「包括授權方式」の特徴、および戦後日本の地方自治体の特徴について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書の「第6章 マスメディアと政治」の「1 マスメディアは政治を動かす？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「マスメディアと政治（1）：マスメディアは政治を動かす？」 実際の事例においてマスメディアが政治に対してどれだけの影響力を発揮したのか、また政治的中立性に関してテレビと新聞では違いがあるのかについて、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、マスメディアの政治に対する影響力がどのように発揮されたのか、また政治的中立性に関してテレビと新聞ではどのように対応しているのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）

13	事前学習	教科書の「第6章 マスメディアと政治」の「2 マスメディアは誰の味方か？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「マスメディアと政治（2）：マスメディアは誰の味方か？」マスメディアと他の政治的アクターの連携関係、およびその連携関係がもたらす正負の影響力について、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、マスメディアと他の政治的アクターの連携関係、その連携関係がもたらす影響について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
14	事前学習	教科書の第1章から第6章までを読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。（2時間）
	授業内容	「講義のまとめ」教科書の第1章から第6章までをふりかえり、各章での議論の要点について解説を行い、履修者が全体の議論の流れ、および各章で提示された理論やモデルについて説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、各章で提示された理論やモデルでどのように現実の政治的問題を説明できるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
15	事前学習	教科書の第1章から第6章までを読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。（2時間）
	授業内容	「授業内試験および解説」この講義で説明してきた理論やモデルについて正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その解説を行う。
	事後学習	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのか確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。（2時間）

科目名	政治学 I	担当者	杉本 竜也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、現実の政治を正確に理解するとともに、それらを理論的に分析・考察することを可能にする政治学の基礎的な理論や概念を学習する。また、政治学をはじめとする社会科学全般に通用する方法論も学習する。具体的には、まずは現代社会における政治と経済の関係性について考えた上で、国家観に関するさまざまな議論国家や、安全保障や富の分配をめぐる国際関係の問題、そして議会や官僚制といった国家機構・制度について学んでいく。			
授業目的・到達目標	ゼミナールをはじめとする専門的な学習・研究に必要な政治学の基礎的な理論や概念を学ぶことを目的としている。主として、国家という枠組を意識しながら、それがいかなる理由や状況に基いて成立しているのかということについて理論的・制度論的に学習・考察を行い、それらを理解し、説明できる能力の養成を目標とする。また、公務員試験などにも対応可能な政治学知識の習得も目標としている。			
履修条件	関連DPおよびCP：政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 2, 3, 4 政治をはじめとする社会現象に対して日常的に関心を持ち、それらについて理論的に考える姿勢を意識してもらいたい。			
授業方法	基本的に、PowerPointを用いたプレゼンテーションによる講義形式で行う。講義資料は配布する（配布方法は受講者数によって決める）。ポータルシステムを通した定期試験の解説によって、講義のフィードバックを行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	75%	期末試験によって、成績評価を行う。講義の理解度や文章表現力などを総合的に評価する。小テストなどは行わない。	
	平常評価	25%	授業と関連した質問や建設的な意見の表明などは評価の対象とする。また、任意のレポート提出は、成績評価の際に肯定的に取り扱う。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011	有斐閣	政治学 補訂版	久米郁男・川出良枝ほか
	備考	よりよく講義を理解するためには入手することが望ましいが、購入は義務づけない。また、他の政治学の教科書で代替できるのであれば、それを利用しても構わない。		
参考書	授業内で必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	月曜日16:20-17:00。本館8階1808研究室。必ず、事前にメールでアポイントメントを取る（メールアドレス：sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp）。なお、簡単な質疑応答であれば、授業の前後に受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認して、講義内容を概観する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 講義の取扱内容や全体の流れ、成績評価の方法などを説明し、受講生が講義受講の準備を適切に行うことができるようにする。
	事後学習	ガイダンス内容を確認して、現代において政治学を学ぶ意味について考える。（2時間）
2	事前学習	教科書第2章「政治と経済」を読み、政治と経済の関係性について考える。（2時間）
	授業内容	「政治と経済」 現代経済の中核である市場のプラス面とマイナス面を理解したうえで、それらに対する政治や政府の対応を学び、政治と経済の関係について考える。特に、「市場の失敗」が社会に与える影響やそれに対する政府の取り組みに注目して学習する。
	事後学習	講義内容や教科書（第2章）を参考として、「なぜ市場は失敗するのか」「失敗するにもかかわらず、なぜ市場は重視されるのか」「市場の失敗に対して、政治や政府は何を行うべきなのか」という問いについて考え、自分なりの見解をまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書第3章「自由と自由主義」を読み、「自由」に関してさまざまな考えがあることを理解する。（2時間）
	授業内容	「自由とは何か」 ジョン・ロックからジョン・スチュアート・ミル、そしてジョン・ロールズにいたる自由主義思想について、「自由」の意味の変化に注意を払いながら学ぶ。
	事後学習	政治・経済・社会的背景の変化を考慮しながら、「自由」の意味が変化してきた理由について考え、自分なりの見解をまとめる。（2時間）

4	事前学習	第2回講義の内容を振り返りながら、教科書第4章「福祉国家」を読む。（2時間）
	授業内容	「福祉国家の役割とその意味」福祉政策が求められるようになった背景やその基礎となっている理念、福祉国家の形式、そして福祉政策・福祉国家が直面している問題について学ぶ。
	事後学習	福祉政策が求められる理由を考えることを通して、現代の国家や政治の果たすべき役割や責任について考察し、自分なりの見解をまとめる。（2時間）
5	事前学習	教科書第5章「国家と権力」を読み、国家の役割について考えてみる。（2時間）
	授業内容	「国家とは何か」前近代の国家との違いを意識しながら近代国家の特徴について理解し、それを支えるさまざまな理念について学習する。また、国家の活動に必然的に付随する権力に関する諸理論について学ぶ。
	事後学習	教科書第5章を参考にしながら、近代国家のプラスの側面とマイナスの側面について考察し、自分なりの見解をまとめる。また、国家の「正統性」についても考える。（2時間）
6	事前学習	前回講義の内容を振り返りながら、教科書第6章「市民社会と国民国家」を読む。（2時間）
	授業内容	「『公』と『私』」政治や社会における「公」と「私」の意味について考えたうえで、市民社会のあり方やナショナリズム・民族の問題について学ぶ。また、その中で、フェミニズム研究が果たした役割についても学習する。
	事後学習	教科書第6章や講義内容を参考にしながら、現代の国家における「公（公共性）」について考えてみる。その際、「公」と民族、国家と民族の関係性についても考察を行い、自分なりの見解をまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書第7章「国内社会と国際関係」を読み、前回講義の内容も参考にしながら、国際関係と民族の問題について考える。（2時間）
	授業内容	「国際関係を考える」主権の意味と、主権国家概念形成の過程について学ぶ。そのうえで、現代の国際関係を考える際の基本的概念について学習する。
	事後学習	前回の講義内容もあわせて参考にしながら、近代国家が形成される過程で民族という概念が果たした役割と弊害の両方について考える。（2時間）
8	事前学習	教科書第8章「国際関係における安全保障」を読むとともに、近代から今日にいたる歴史の中で発生したさまざまな戦争や国際紛争を振り返る。（2時間）
	授業内容	「安全保障 何を、どのように、守るのか？」「囚人のジレンマ」や勢力均衡、民主的平和論といった安全保障に関する主な理論や概念について学んだうえで、冷戦後の国際秩序や日本の安全保障について考察する。
	事後学習	「現代の国家が取り組むべき安全保障において、守られるべきものは何なのか」という問いを意識しながら、教科書第8章を読み返し、講義内容を再確認する。（2時間）
9	事前学習	教科書第9章「国際関係における富の配分」を読んだうえで、インターネットなどを使って「グローバリゼーション」について調べる。（2時間）
	授業内容	「グローバリゼーションがもたらしたもの」グローバリゼーションのプラスとマイナスについて、特にそれによってもたらされた格差問題について学ぶ。
	事後学習	教科書第9章や講義内容を参考として、経済学的視点ではなく、政治学的視点で、「格差は仕方ないことなのか、それとも解消されなければいけないことなのか」について考え、自分なりの見解をまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書第10章「議会」を読み、世界各国の議会制度の違いについて概観する。（2時間）
	授業内容	「立法部（議会）の役割と機能」アメリカとイギリスの議会制度の比較を通して、議会の制度と特徴について学ぶ。さらに、日本の議会（国会）の特徴と問題点、そして議会に不可欠な政党の意味と役割について考える。
	事後学習	日本の議会政治（国会）に対する一般的評価は決して高くないが、それは議会政治の本質的特徴を原因としたものだろうか、それとも日本の国会特有の問題なのだろうか。教科書第10章の内容や講義内容を参考にして考察する。（2時間）
11	事前学習	教科書第11章「執政部」を読むとともに、インターネットなどを利用して日本の内閣と国会の関係をうかがえる記事を探してみる。（2時間）
	授業内容	「日本の内閣制度」戦前の内閣制度を理解したうえで、それと比較しながら現在の内閣制度の特徴について学ぶ。また、日本やイギリスのような議院内閣制とアメリカのような大統領制における執政部の性格の違いを学習し、それぞれの長所と短所について考える。
	事後学習	日本の内閣制度の変遷、とりわけ小選挙区制導入以降の変化に注目しながら、首相や内閣のリーダーシップのあり方について、自分なりの見解をまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書第12章「官僚制」を読み、官僚制の利点と欠点について把握する。（2時間）
	授業内容	「官僚制」マックス・ウェーバーによる伝統的な官僚制定義を学んだうえで、官僚制が本質的に有している問題点を把握し、それへの対策としての新たな官僚制のあり方（NPMなど）について学習する。
	事後学習	教科書第12章や講義内容を再確認して、現在の日本においてしばしば官僚制が批判されている理由について考える。（2時間）
13	事前学習	教科書第13章「中央地方関係」を読むとともに、報道などを検索して、現在地方が抱えている諸問題を洗い出す。（2時間）
	授業内容	「日本の地方自治」「中央と地方」をキーワードとして、日本の地方分権について学習する。その際、とりわけ2000年頃より進められてきた地方分権改革の内容とその現在について取り上げ、中央と地方の不均衡や格差の問題について詳しく学ぶ。
	事後学習	教科書第13章や講義内容を参考として、中央と地方の間に生じた不均衡の理由について考察する。（2時間）
14	事前学習	教科書第14章「国際制度」を読み、国内におけるガバナンスと世界規模でのガバナンスの違いについて考える。（2時間）
	授業内容	「グローバル・ガバナンス」ネオ・リアリズムや覇権安定論といったグローバル・ガバナンスに関する基本的な理論を学び、さらに環境問題に代表される世界規模の諸問題に世界や各国がどのように対処していくべきなのか考えていく。
	事後学習	第9回講義の内容もあわせて参考として、国際社会の安定に必要な制度的枠組や各国の取り組みについて考える。（2時間）

15	事前学習	これまでの講義内容や教科書の該当箇所を再確認する。また、疑問点があれば、それを明らかにしておく。(2時間)
	授業内容	期末総括 これまでの講義内容を総括的に再確認する。
	事後学習	初回からの講義内容を復習し、期末試験に向けて準備する。(2時間)

科目名	政治学 I	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	政治学の基礎的な知識を身につけるために、政治学の歴史や主要な理論、政治制度等について学ぶ。			
授業目的・到達目標	政治学上の理論や、歴史的経緯、政治制度などについて学んだ上で、自らが政治の当事者として、どのように政治の仕組みや手続を改善していくべきであるかについての知識や能力、すなわち「政治を視る眼」を養成することを目的とする。政治学の基礎的な知識を習得し、現実の政治現象を把握し、政治上の諸問題を分析して、解決策を提案することができる能力を身に付けることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科：1, 2, 3, 4 新聞学科：1, 5 公共政策学科：1, 2, 3, 4			
履修条件	特になし。ただし、私語など学習の妨げになる行為を行わないなど基本的なマナーをわかまえることを求める。			
授業方法	講義形式の授業である。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	定期試験により評価する。論理的な思考や文章表現力等を基準として評価する。	
	平常評価	20%	授業参加度や授業内のリアクションペーパー等により評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011	北樹出版	デモクラシーの政治学[増補版]	杉本稔
	備考			
参考書	吉野篤編（2018）『政治学〔第2版〕』弘文堂。その他にも、授業内で適宜紹介する。（例：吉野孝ほか編（2015）『論点日本の政治』東京法令出版など。）			
オフィスアワー	火曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）。 研究室（9号館5階）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書の34～36頁を読み、「政治」について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業計画及び成績評価等について説明し、受講生が今後の授業の準備を行えるようにする。また、政治とは何かについて学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書34～36頁を読み直し、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「政治とはなにか」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
2	事前学習	教科書20～26頁を読み、「政治学」について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	今後学んでいく政治学について、社会科学における位置づけや特質等について学習し、政治学について概説できるようになる。
	事後学習	教科書20～26頁を読み直し、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「政治学」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書27～29頁を読み、伝統的政治学や現代政治学の確立について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【政治学の歴史（1）】現代政治学を学ぶための基礎的な知識として伝統的政治学や現代政治学の確立について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書27～29頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「伝統的政治学や現代政治学の確立」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
4	事前学習	教科書30～33頁を読み、現代政治学の展開について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【政治学の歴史（2）】現代政治学を学ぶための基礎的な知識として現代政治学の展開について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書30～33頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「現代政治学の展開」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）

5	事前学習	教科書13～19頁を読み、デモクラシーについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政治学における基礎的な概念の一つであるデモクラシーについて学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書13～19頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「デモクラシー」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書34～46頁を読み、について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【権力と政治（1）】政治学における基礎的な概念の一つである政治権力について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書34～46頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「政治権力」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書46～58頁を読み、支配や権力構造について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【権力と政治（2）】政治権力の行使に関係する支配や権力構造について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書46～58頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「政治権力」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書59～68頁を読み、リーダーシップについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政治学における基礎的な概念の一つであるリーダーシップについて学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書59～68頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「リーダーシップ」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書69～80頁を読み、市民社会の誕生について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【市民革命と市民社会（1）】政治における国家の役割や政治の発展と社会状況等の変化について理解するために、市民社会の誕生について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書69～80頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「市民社会の誕生」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書81～88頁を読み、市民社会の政治とその終焉について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【市民革命と市民社会（2）】政治の発展過程の一つとして、市民社会の政治とその終焉について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書81～88頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「市民社会の政治とその終焉」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書89～93、96～98頁を読み、大衆社会の成立とその制度的特徴について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【大衆社会と大衆デモクラシー（1）】現代政治社会の基礎となる大衆社会の成立とその制度的特徴について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書89～93、96～98頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「大衆社会の成立とその制度的特徴」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書98～105頁を読み、大衆社会の構造や心理について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【大衆社会と大衆デモクラシー（2）】現代政治社会の基礎となる大衆社会の構造や心理について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書98～105頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「大衆社会の構造や心理」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
13	事前学習	教科書106～116頁を読み、権力分立や議院内閣制の生成と展開について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【政治制度（1）】政治制度について理解するために、権力分立や議院内閣制の生成と展開について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書106～116頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「権力分立や議院内閣制の生成と展開」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
14	事前学習	教科書117～124頁を読み、イギリスの議院内閣制の特徴について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【政治制度（2）】議院内閣制の代表であるイギリスの制度について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書117～124頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「イギリスの議院内閣制」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
15	事前学習	初回から学習してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、政治学の基礎的知識について考察する。（2時間）
	授業内容	これまでの講義の総括
	事後学習	これまで配布したレジュメや教科書等を見直し、期末試験に向けた準備をする。（2時間）

科目名	政治学 I	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業は、政治学に関する入門的・基礎的知識を学ぶことを目的とする。日々のニュース報道や新聞報道で見聞するように、「政治」は私たちの生活に非常に密着したものである。しかし、政治が具体的にどのような仕組み・メカニズムのもとに成り立っているかは、一見して理解しづらいかもしれない。本授業では、政治を「集合的意思決定」の行為と捉えた上で、その仕組み・メカニズムについて基礎から詳しく説明する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】政治学の基礎的知識を得ることを目的とする。 【到達目標】1. 政治学の基礎的知識を得ることができる。2. それらの知識を背景に、日々のニュース報道や新聞報道により深い理解・関心をもつことができる。対応DP及びCP：政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 2, 3, 4				
履修条件	なし				
授業方法	毎回プリントを配布すると共に、パワーポイントを用いて授業を進める。また、定期的に小テストを実施し、受講者の授業理解を確認する。フィードバックは授業内で小テストの解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	期末に定期試験を実施する。論述式の試験により、講義内容の理解度を総合的に評価する。	
	平常評価		30%	小テストを授業時間内に計3回実施する。実施日は当日決める。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2012	有斐閣	現代政治学 第4版		加茂利男他
	備考	教科書の入手に関する指示は初回の授業で行う。			
参考書	授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	月曜日昼休み、事前にアポイントメントをとること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ニュース・新聞報道に触れる（3時間）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
2	事前学習	ニュース・新聞報道に触れる（3時間）
	授業内容	「政治」とは何か？
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
3	事前学習	市場の失敗について調べる（3時間）
	授業内容	政治と経済
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
4	事前学習	自由民主主義について調べる（3時間）
	授業内容	政治体制と政治変動
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）

5	事前学習	議院内閣制について調べる（3時間）
	授業内容	議会と内閣
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
6	事前学習	日本の省庁について調べる（3時間）
	授業内容	政治と行政
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
7	事前学習	日本の選挙制度について調べる（3時間）
	授業内容	選挙と投票行動
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
8	事前学習	最近の世論調査について調べる（3時間）
	授業内容	世論とメディア
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
9	事前学習	NPOについて調べる（3時間）
	授業内容	市民の政治参加
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
10	事前学習	最近の総選挙結果について調べる（3時間）
	授業内容	政党
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
11	事前学習	無党派層について調べる（3時間）
	授業内容	政治文化
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
12	事前学習	政府の失敗について調べる（3時間）
	授業内容	官民関係
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
13	事前学習	地方財政について調べる（3時間）
	授業内容	中央と地方
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
14	事前学習	主権国家体制について調べる（3時間）
	授業内容	国内政治と国際政治
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
15	事前学習	ニュース・新聞報道に触れる（2時間）
	授業内容	期末総括
	事後学習	配付プリントを読み直す（2時間）

科目名	政治学 I	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	政治学の基礎概念や理論を説明するとともに、その知識を現実政治の分析に援用する。そのため、必要に応じて時事問題を取り上げることで、どのような分析視角から政治を理解することが可能なのかを提示していく。				
授業目的・到達目標	政治学の基礎理論を修得した上で、「現実」政治と政治「学」を結合していくことにより、政治に対して積極的に関わる人材を育成する。また、社会科学的な認識を身につけることにより、政治学のみならず、様々な事象を論理的に読み解く能力を涵養することが目的である。 社会科学が対象とする社会現象の多面性（絶対的な答えがないこと）を理解することによって、社会的多様性を尊重できるようになることを目標とする。また、市民1人1人と政治の関わりを学ぶことによって主体的に政治参加しようとする態度を身につけるようにする。関連DP及びCP：政治経済1,2,3,4 新聞学科1,5 公共政策学科1,2,3,4				
履修条件	履修条件は特に設けないが、他の学生の学習を妨げるような行為には厳しく対応する。				
授業方法	パワーポイントを用いた講義形式。講義の理解度を問う小テストに関しては、次回授業の冒頭で解説を行う。定期試験の解説は、試験実施後にポータルサイト上で行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		90%	基本的には学期末試験のみで成績評価を行う。なお、試験では文章力と論理的思考を重視して採点する。	
	平常評価		10%	適宜当該講義の理解度を問う。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2011年	北樹出版		デモクラシーの政治学【増補版】	杉本稔
	備考				
参考書	授業中に適宜、提示する。				
オフィスアワー	火曜日13:00～14:00（研究室：本館8F 1811） 担当者が不在の場合もあるので、事前にメールで予定を確認すること。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認した上で、教科書の関連部分を読むことで、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 講義の流れ（授業のテーマ、スケジュールなど）や成績評価についての説明を行う。
	事後学習	現在の政治における課題は何か、自身の問題意識に照らして考えてみる。（2時間）
2	事前学習	自身や身の回りの人が持っている政治に対するイメージを確認してみる。（2時間）
	授業内容	政治と政治「学」 政治の定義を説明するとともに、学問とは何かを考える。
	事後学習	大学における学問である政治学とは何かを確認し、その特性をまとめる。（2時間）
3	事前学習	古代ギリシアや中世ヨーロッパの歴史を確認する。（2時間）
	授業内容	政治学の展開 アリストテレスやマキャベリの政治学を説明する。
	事後学習	政治学の対象が変化していったことを確認する。（2時間）
4	事前学習	「科学」とは何を意味するのかを考えてみる。（2時間）
	授業内容	科学としての政治学 19世紀以降の政治学の対象や分析方法が変化していったことを説明する。
	事後学習	政治学の科学性とは何かを考え、自身の考えをまとめてみる。（2時間）

5	事前学習	行動論革命以後、政治学におけるイーストンの位置づけを確認する。（2時間）
	授業内容	政治システム D. イーストンの政治システム論を説明する。
	事後学習	政治システムの諸要素を確認する。（2時間）
6	事前学習	日常で使う「権力」という言葉の意味を考えてみる。（2時間）
	授業内容	政治権力 権力概念について説明する。
	事後学習	2つの権力概念を確認する。（2時間）
7	事前学習	歴史上の著名なリーダーとその業績を確認する。（2時間）
	授業内容	リーダーシップ論 政治的リーダーシップの諸類型について説明する。
	事後学習	現在の政治的リーダーのリーダーシップを考えてみる。（2時間）
8	事前学習	イギリス革命とフランス革命の歴史を確認する。（2時間）
	授業内容	市民革命と市民社会 イギリスやフランスの市民革命について説明する。
	事後学習	イギリス革命とフランス革命の類似点と相違点を確認する。（2時間）
9	事前学習	各国の市民革命の歴史を確認する。（2時間）
	授業内容	市民社会と大衆社会 市民社会と大衆社会の特質について説明する。
	事後学習	社会とその担い手が変化したことを確認する。（2時間）
10	事前学習	民主主義とは何かを考えてみる。（2時間）
	授業内容	民主主義論① 近代民主主義と現代民主主義について説明する。
	事後学習	決定の制度としての民主主義を確認する。（2時間）
11	事前学習	民主主義に必要となる政治制度を考えてみる。（2時間）
	授業内容	民主主義論② A. レイフハルトの民主主義について説明する。
	事後学習	多数代表型民主主義と多極共存型民主主義を確認する。（2時間）
12	事前学習	首相と大統領の違いについて考えてみる。（2時間）
	授業内容	執政制度① 議院内閣制、大統領制、半大統領制の制度的相違点を説明する。
	事後学習	それぞれの制度が持つ委任関係を確認する。（2時間）
13	事前学習	議院内閣制や大統領制を採用する複数の国を比較検討してみる。（2時間）
	授業内容	執政制度② 議院内閣制や大統領制の安定性とバリエーションを説明する。
	事後学習	現在の日本の執政制度の妥当性を考えてみる。（2時間）
14	事前学習	日本の官僚について考えてみる。（2時間）
	授業内容	官僚制 官僚制の機能と逆機能について説明する。
	事後学習	現代社会における官僚制の問題点を考えてみる。（2時間）
15	事前学習	これまで授業で学習してきた点で、十分に理解できなかったことを把握する。（2時間）
	授業内容	まとめ 当期授業の総括を行うとともに、受講生からの質問に答える。
	事後学習	講義資料、教科書、参考書などを用いて、本授業の最終的な確認を行う。（2時間）

科目名	政治学 I	担当者	渡邊 容一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、政治の理論と実際をマクロな観点から分析していく。具体的には、政治システム、政治制度、民主主義、国家、政治権力、政治的リーダーシップ、国際政治、ポピュリズムなどが主な講義テーマとなる。なお、受講生の理解度を確認するため、授業の最初に毎回小テスト(簡単な論述試験)を行う。				
授業目的・到達目標	現実の政治をマクロな理論と関連づけて説明できる力の養成を目的とする。そして、政治とは「多様な価値観を有する他者との共生を実現する営み」であることを理解し、それを論理的表現で説明できるようになることを目標とする。関連DPおよびCP：政治経済学科 1, 2, 3, 4 新聞学科 1, 5 公共政策学科 1, 2, 3, 4				
履修条件	なし。				
授業方法	講義形式で授業を行うので、教科書とノートは必ず持参すること。必要に応じてレジュメや資料を配布する。また、小テストについては、採点した後、講評・添削したうえで、次回授業の最初に返却指導(フィードバック)する。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		80%		論述式の筆記試験では、授業中教示したポイントが適切かつ論理的に書かれているかどうかを重視する。
	平常評価		20%		毎回行う小テストの合計点で評価する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	弘文堂		Next 教科書シリーズ 政治学 [第2版]	吉野篤編
	備考				
参考書	必要に応じて紹介する。				
オフィスアワー	水曜日 14：40～16：10 (事前にメールで予約してください) 研究室 (9号館2階 9207研究室) watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書の第11章「1 政治動態の分析枠組み」を読んで、政治システム論の全体像を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【政治システム論】シラバスに基づき政治学 I の授業計画について説明し、政治システム論を学習し、政治システムの理論と実際について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
2	事前学習	教科書の第2章「6 体制」、第6章「1 自由主義と民主主義」を読んで、政治体制論の全体像を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【政治体制論】政治システム論における政治体制の位置づけを学習し、政治体制の種類・特徴・事例について比較考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
3	事前学習	教科書の第6章「5 議院内閣制」「6 大統領制」「7 半大統領制」を読んで、政治制度の種類を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【政治制度論】政治体制論における政治制度の位置づけを学習し、政治制度の種類・特徴・事例について比較考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
4	事前学習	教科書の第2章「5 イデオロギー」を読んで、イデオロギーという概念のイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【イデオロギー論】イデオロギー論を学習し、政治体制論および現代政治におけるイデオロギーの役割・意義・評価について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)

5	事前学習	教科書の第1章「5 民主政治の発展と多様化」、第5章「デモクラシーの理論と諸相」を読んで、民主主義という概念のイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【民主主義論】 民主主義に関する代表的な理論を学習し、民主主義の性質について考察する
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
6	事前学習	教科書の第1章「2 国家の誕生と変質」「6 国家と政治」、第2章「2 主権」を読んで、国家という概念のイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【国家論】 国家に関する代表的な理論を学習し、政治と国家の関係について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
7	事前学習	教科書の第5章「2 市民社会の形成」「3 大衆社会とデモクラシー」を読んで、近代市民社会および現代大衆社会という概念のイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【現代政治論】 近代市民社会と現代大衆社会の違い、前者から後者への変質プロセスを学習し、大衆・現代大衆社会・大衆民主主義の特質と問題点について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
8	事前学習	教科書の第2章「1 権力」を読んで、権力という概念のイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【政治権力論1】 影響力・権力・権威などの概念を学習し、政治権力の特質と意義について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
9	事前学習	教科書の第2章「3 支配と服従」を読んで、支配・服従という概念のイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【政治権力論2】 政府の支配・服従を安定させる方法を学習し、実際の政策との関連について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
10	事前学習	教科書の第5章「3 大衆社会とデモクラシー」を読んで、エリートという概念のイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【政治権力論3】 政治エリート論・権力構造論を学習し、支配者の特質と構造について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
11	事前学習	教科書の第2章「7 政治的リーダーシップ」を読んで、リーダーシップという概念のイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【政治的リーダーシップ論】 権力関係とリーダーシップ関係の違い、政治的リーダーシップの種類を学習し、政治的リーダーシップの特質と意義について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
12	事前学習	教科書の第12章「1 現代国際政治の基本的特徴」を読んで、国際社会という概念のイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【国際政治論1】 国際社会の特質とアクターを学習し、国内政治と国際政治の違いについて考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
13	事前学習	教科書の第12章「2 国際政治におけるアクターとパワー」を読んで、国家の持つパワーという概念のイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【国際政治論2】 初歩的な地政学を学習し、国家間で戦争が起きる要因について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
14	事前学習	グローバリゼーションの意味について調べておく。(2時間)
	授業内容	【国際政治論3】 グローバリゼーションの特質と問題点を学習し、現代民主政治の課題について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
15	事前学習	ポピュリズムの意味について調べておく。(2時間)
	授業内容	【ポピュリズム論】 ポピュリズムの特質と問題点を学習し、グローバリゼーションとポピュリズムの関連について考察する。
	事後学習	教科書とノートを見直し、期末試験に向けて準備をする。(2時間)

科目名	政治学Ⅱ	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国内政治の仕組み、および国際関係に焦点を合わせながら、政治学の基礎的な概念や理論・モデル等について、現実の事例を適宜示しつつ説明する。			
授業目的・到達目標	実際の政治的な出来事に触れながら政治学の基本的な知識を習得することにより、第一に、政治的問題を自ら論理的に考える能力を身につけ、第二に、民主主義を構成する政治的市民としての意識を涵養することを目的とする。政治学の基礎的な概念や理論・モデル等を理解し、その知識に基づき自ら現実政治の諸問題を論理的に考え説明することができるようになることを目標とする。関連DPおよびCP：政治経済学科 1, 2, 3, 4 新聞学科 1, 5 公共政策学科 1, 2, 3, 4			
履修条件	特になし。			
授業方法	講義形式で進める。 履修者にはレジュメを配布し、説明はスライド（パワーポイント資料）を使用する。 授業内に試験を行い解説する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	2/3以上出席した者が成績評価対象となる。学んだ知識を正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2009年	有斐閣	『はじめて出会う政治学〔第3版〕』	北山俊哉・久米郁男・真淵勝
	備考			
参考書	授業時に提示する。			
オフィスアワー	月曜日 12：15～13：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館4階9403） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。教科書各章の冒頭にある導入説明を読み、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にに行えるようにする。
	事後学習	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書の「第7章 国会」の「1 ねじれ国会」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「国会（1）：ねじれ国会」議院内閣制と大統領制の制度的相違を踏まえて、日本の国会で与党に対して野党がどのような抵抗を取ってきたのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、議院内閣制と大統領制の制度的相違、および日本の国会における野党の抵抗手段について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書の「第7章 国会」の「2 国会の影響力」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「国会（2）：国会の影響力」自民党一党支配体制の時代の内閣提出法案の成立率を参照しながら、国会における野党の抵抗がなぜ可能になってきたのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、国会における野党の抵抗がなぜ可能なのか、そして与党の対抗手段である強行採決にはどのような制約があるのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）

4	事前学習	教科書の「第8章 内閣と総理大臣」の「1 総理大臣と大統領」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「内閣と総理大臣（1）：総理大臣と大統領」 議院内閣制下の首相と大統領制下の大統領は選ばれ方にどのような違いがあり、それぞれの政治的役割はどのようなものであるのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、議院内閣制下の首相と大統領制下の大統領の選ばれ方、および政治的役割の相違について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
5	事前学習	教科書の「第8章 内閣と総理大臣」の「2 総理大臣の影響力」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「内閣と総理大臣（2）：総理大臣の影響力」 議院内閣制下の首相にはどのような影響力資源があるのか、そしてその影響力資源をいかに活用できるのか、あるいはできないのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、議院内閣制下の首相がどのような影響力資源を持ち、それらの影響力資源をいかに活用できるのか、あるいは活用できないとればなぜかという点について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書の「第9章 官僚」の「1 大臣と官僚のバトル」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「官僚（1）：大臣と官僚のバトル」 日本における大臣と官僚との間にはどのような関係性が見られるのか、その関係性を規定する要因には何があるのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本における大臣と官僚の関係性を規定する要因にはどのようなものがあるのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書の「第9章 官僚」の「2 キャリア官僚のキャリア」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「官僚（2）：キャリア官僚のキャリア」 キャリア官僚と呼ばれる官僚たちはどのようなキャリアパスを経ているのか、キャリア官僚の長所と短所にはどのようなものがあるのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、キャリア官僚のキャリアパスにはどのような特徴があるのか、またその弊害にはどのようなものがあるのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書の「第10章 冷戦の終わりからテロとの戦いへ」の「1 戦後の国際環境」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「冷戦の終わりからテロとの戦いへ（1）：戦後の国際環境」 第二次世界大戦後の国際社会がどのような基本構造をもつものであったのか、そしてその基本構造はそれぞれどのような特徴をもつものであったのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、第二次世界大戦後の国際社会における基本構造である「冷戦構造」と「自由貿易体制」がどのように構築され、どのような特徴をもっていたのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書の「第10章 冷戦の終わりからテロとの戦いへ」の「2 日本の対外政策」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「冷戦の終わりからテロとの戦いへ（2）：日本の対外政策」 第二次世界大戦後の日本の体外政策がどのように形成され定着していったのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、第二次世界大戦後の日本の体外政策がどのように形成・定着していったのか、またその特徴はどのようなものであったのかについて、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書の「第11章 経済交渉」の「1 貿易は世界を幸せにするか？」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「経済交渉（1）：貿易は世界を幸せにするか？」 国際貿易の基礎にある「比較優位」の考え方、および体外政策と国内政治の連関について、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「比較優位」とはどのような考え方なのか、そして対外政策に国内政治がどのような影響を及ぼしているのかという点について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書の「第11章 経済交渉」の「2 経済交渉の行われ方」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「経済交渉（2）：経済交渉の行われ方」 日本とアメリカの経済交渉において、アメリカが日本に圧力をかけるアプローチにはどのようなものがあり、どのような特徴をもつか、実際にそれらのアプローチがとられた経済交渉にはどのような事例があるのかについて、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「構造協議アプローチ」と「管理貿易アプローチ」の特徴について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書の「第12章 国境を越える政治」の「1 ビリヤード・ゲームのような国際政治」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「国境を越える政治（1）：ビリヤード・ゲームのような国際政治」 市場の失敗の一つである「外部不経済」の特徴がどのようなものであるのか、およびその典型的事例である地球環境問題をめぐって主権国家がどのような立場に立っているのかについて、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「外部不経済」の特徴、および地球環境問題をめぐる国家の対応について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
13	事前学習	教科書の「第12章 国境を越える政治」の「2 裸になる国家」を読み、全体の説明の流れを把握したうえで、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「国境を越える政治（2）：裸になる国家」 国際社会の相互依存関係がどれだけ深化しているのか、またトランスナショナルな国際交流が国際政治にどのような影響をもたらしているのかについて、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、国際的な相互依存関係の深化、およびトランスナショナルな国際交流の国政政治に対する影響について、まとめる。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）

14	事前学習	教科書の第7章から第12章までを読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。（2時間）
	授業内容	「講義のまとめ」 教科書の第7章から第12章までをふりかえり、各章での議論の要点について解説を行い、履修者が全体の議論の流れ、および各章で提示された理論やモデルについて説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、各章で提示された理論やモデルでどのように現実の政治的問題を説明できるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、教科書の「読書案内」に掲載されている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
15	事前学習	教科書の第7章から第12章までを読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。（2時間）
	授業内容	「授業内試験および解説」 この講義で説明してきた理論やモデルについて正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その解説を行う。
	事後学習	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのか確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。（2時間）

科目名	政治学Ⅱ	担当者	杉本 竜也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、現実の政治を正確に理解するとともに、それらを理論的に分析・考察することを可能にする政治学の基礎的な理論や概念を学習する。また、政治学をはじめとする社会科学全般に通用する方法論について学ぶ。具体的には、対内的・対外的政策過程や各種制度論のほか、デモクラシーやフェミニズムに関する諸理論、また投票行動や政治心理といった政治の具体的な側面について学んでいく。			
授業目的・到達目標	ゼミナールをはじめとする専門的な学習・研究に必要な政治学の基礎的な理論や概念を学ぶことを目的としている。主として、国家という枠組を意識しながら、それがいかなる理由や状況に基いて成立しているのかということについて理論的・制度論的に学習・考察を行い、それらを理解し、説明できる能力の養成を目標とする。また、公務員試験などにも対応可能な政治学知識の習得も目標としている。			
履修条件	関連DPおよびCP：政治経済学科1,2,3,4 新聞学科1,5 公共政策学科1,2,3,4 同一講師による「政治学I」を履修していることを求める。 政治をはじめとする社会現象に対して日常的に関心を持ち、それらについて理論的に考える姿勢を意識してもらいたい。			
授業方法	基本的に、PowerPointを用いたプレゼンテーションによる講義形式で行う。講義資料は配布する（配布方法は受講者数によって決める）。ポータルシステムを通した定期試験の解説によって、講義のフィードバックを行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	75%	期末試験によって、成績評価を行う。講義の理解度や文章表現力などを総合的に評価する。小テストなどは行わない。	
	平常評価	25%	授業と関連した質問や建設的な意見の表明などは評価の対象とする。また、任意のレポート提出は、成績評価の際に肯定的に取り扱う。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011	有斐閣	政治学 補訂版	久米郁男・川出良枝ほか
	備考	よりよく講義を理解するためには入手することが望ましいが、購入は義務づけない。他の政治学の教科書で代替できるのであれば、それを利用しても構わない。		
参考書	授業内で必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	月曜日16:20-17:00。本館8階1808研究室。必ず、事前にメールでアポイントメントを取る（メールアドレス：sugimoto.tatsuya@nihon-u.ac.jp）。 なお、簡単な質疑応答であれば、授業の前後に受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の「政治学I」の講義内容および本講義の内容全体を概観する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 講義の取扱内容や全体の流れ、成績評価の方法などを説明し、受講生が講義受講の準備を適切に行うことができるようにする。
	事後学習	ガイダンス内容を確認して、現代において政治学を学ぶ意味を再確認する。（2時間）
2	事前学習	教科書第15章「政策過程」を読んで、特定の政策が具体化していくプロセスをイメージしておく。（2時間）
	授業内容	「国内政治における政策過程」 政策過程を学ぶうえで必要な基本的なモデルや分析的な枠組について学ぶ。具体的には、政治における意志決定プロセスのほか、政策課題の設定やそれへのメディアの影響、そしてこれらに関する諸研究について学習する。
	事後学習	講義内容や教科書（第15章）などを参考として、講義で取り上げた諸モデル・諸理論について整理する。（2時間）
3	事前学習	教科書第16章「対外政策の形成」を読む。そして、前回講義で取り上げた国内政治における政策過程と対外政策における政策過程の違いを考える。（2時間）
	授業内容	「対外政策における政策過程」 対外政策や国際間の意志決定に関する基本的なモデルや分析的な枠組について学ぶ。また、国内の社会や利害関係が対外政策に与える影響についても考える。
	事後学習	前回講義の内容を再確認して、あらためて国内的な政策と対外的な政策の決定過程の違いについて考察する。（2時間）
4	事前学習	教科書第17章「制度と政策」を読み、国家という存在が政治において果たしている役割や政治における制度の意味について考える。（2時間）
	授業内容	「国家と制度」 国家において制度が持つ意味について、歴史的制度論と合理的選択制度論という2つの制度論から考える。また、合理的選択制度論の学習を通して、実証的で論理的に政治現象を分析する方法を学習する。
	事後学習	講義内容や教科書第17章を参考として、今回の講義で取り上げた諸理論、特に合理的選択制度論について十分に理解する。（2時間）

5	事前学習	教科書第18章「デモクラシー」を読み、デモクラシーの歴史の変遷や地域的な違いについて簡単に把握しておく。（2時間）
	授業内容	「デモクラシー」 古代ギリシアのポリスから近代の代表制デモクラシー、そしてポリアーキーのような現代デモクラシーへといたるデモクラシーの理論的変遷を学ぶ。その他、丸山眞男に代表される日本のデモクラシー論についても学習する
	事後学習	講義内容や教科書第18章を参考として、デモクラシーに対する評価が時代によって変化してきた理由について考え、デモクラシーに対する自分なりの考えをまとめる。（2時間）
6	事前学習	前回講義の内容を振り返り、デモクラシーの歴史と主要な理論について復習する。（2時間）
	授業内容	「社会契約説とは何か」 西洋近代に理論化され、今日のリベラル・デモクラシーの理論的支柱にもなっている社会契約説に関して、代表的な理論家（ホッブズ、ロック、ルソー）の思想を中心に、その本質と意義、後世の政治への影響に考察する。
	事後学習	講義内容を参考として、政治における「個人」および「作為（人為）」の意味について考え、自分なりの見解をまとめる。（2時間）
7	事前学習	第5回および第6回講義の内容を再確認し、西洋の政治学において最も重視されてきた概念やそこでの大前提について考えてみる。（2時間）
	授業内容	「フェミニズム」 近代政治思想に関してフェミニズムの提起や告発について学び、それらの問題に対してフェミニズムがどのような批判や対案を提示してきたのか、学習する。
	事後学習	講義内容を参考として、フェミニズムによる諸批判を理解したうえで、近代政治思想が本質的に抱えている問題点を考えてまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書第19章「投票行動」を読んだうえで、インターネットなどを利用して、近年行われた日本の国政選挙のひとつを取り上げて、投票率などに現れた人々の政治行動について調べる。（2時間）
	授業内容	「投票行動」 大衆デモクラシーの成立に伴う市民像の変化が政治学に与えた影響について学習したうえで、いわゆる無党派層の投票行動を中心に近年の選挙で見られる投票行動について考える。また、その中で、行動科学的政治学が成立した背景と意味についても学ぶ。
	事後学習	なぜ特性の政党を継続的に支持しない無党派層と呼ばれる人々が現れることになったのか、講義の内容を元にして自分なりの考えをまとめる。（2時間）
9	事前学習	前回講義の内容を踏まえながら、教科書第20章「政治の心理」を概観する。（2時間）
	授業内容	「政治における心理」 人々の政治に対する意識といった非制度的要素（政治文化）が政治に与える影響について学習する。また、ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）が政治の活性化に与える影響について考える。
	事後学習	自分が投票などの政治行動をとる場合、何に基づいて、もしくは何に影響されているのか、自らの実態に沿って考えをまとめる。（2時間）
10	事前学習	近年、欧米で見られている政治現象のうち、「ポピュリズム」と呼ばれているものがあれば抽出し、インターネットなどを利用してその概要を調べる。（2時間）
	授業内容	「ポピュリズム」 近年、問題視されているポピュリズムと呼ばれる現象の意味と原因、その影響について学ぶ。特に、日本において発生したポピュリズムと呼ばれている政治現象を考察するほか、「民意」の重視とポピュリズムの違いについて考察する。
	事後学習	講義内容を参考にして、ポピュリズムとデモクラシーの違いは何なのか、自分なりの見解をまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書第21章「世論とメディア」を読み、自分が日常的に接しているメディアについて考える。（2時間）
	授業内容	「世論とメディア」 世論という言葉の本来の意味を理解したうえで、世論に対するメディアの影響や効果（フレーミング効果など）、そして市民とメディアの関係について考察する。また、世論に対するSNSや各種ネットメディアの効果についても考える。
	事後学習	現在、主に接しているメディア（テレビ・新聞・SNS・ニュースアプリなど）からどのような影響を受けているのか、特に政治や経済、社会に関する事柄に対する自分の意見の形成にそのメディアがどのように影響しているのか考え、まとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書第22章「選挙と政治参加」を読み、各種選挙制度の概要を把握する。（2時間）
	授業内容	「選挙と政治参加」 デモクラシーにおける選挙の役割を考え、そのうえで小選挙区制・中選挙区制・比例代表制といった選挙制度の仕組みについて学習する。それ以外に、住民投票やデモといった選挙以外での政治参加について学ぶ。
	事後学習	各種選挙制度を比較し、それぞれののプラスの要素とマイナスの要素についてまとめる。（2時間）
13	事前学習	教科書第23章「利益団体と政治」を読んだうえで、政治（政治家・政府）と利益団体をはじめとする特定の個人・団体との関係でその不適切性が問題視された、近年の事例をピックアップする。（2時間）
	授業内容	「政治における利益団体」 政治的意志決定に対する利益団体・圧力団体の影響、特に日本におけるこれらの団体の影響について学習する。また、多元主義やコーポラティズムといった利益政治の各種パターンについても学ぶ。
	事後学習	講義内容や教科書（教科書第23章）を参考にして、デモクラシーにおける利益団体の利益表出機能がもたらす功罪についてまとめる。（2時間）
14	事前学習	教科書第24章「政党」を読み、政党に関する諸概念やさまざまな政党システムについて概観する。（2時間）
	授業内容	「政党」 現代政治・デモクラシーにおいて政党が担っている機能のほか、政党システムやそれに関する各国の状況、デュヴェルジェの法則といった政党に関する諸理論について学習する。
	事後学習	選挙制度が政党や政党システムに与える影響（デュヴェルジェの法則）について確認したうえで、日本の政党システムについてまとめる。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義内容や教科書の該当箇所を再確認する。また、疑問点があれば、それを明らかにしておく。（2時間）
	授業内容	期末総括 これまでの講義内容を総括的に再確認する。
	事後学習	初回からの講義内容を復習し、期末試験に向けて準備する。（2時間）

科目名	政治学Ⅱ	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	政治学の基礎的な知識を身につけるために、政策形成過程やさまざまなレベルにおける政治等について学ぶ。			
授業目的・到達目標	政策形成過程やさまざまなレベルにおける政治などについて学んだ上で、自らが政治の当事者として、どのように政治の仕組みや手続を改善していくべきであるかについての知識や能力、すなわち「政治を視る眼」を養うことを目的とする。現実の政治現象を把握し、政治上の諸問題を分析して、解決策を提案することができる能力を身に付けることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科：1, 2, 3, 4 新聞学科：1, 5 公共政策学科：1, 2, 3, 4			
履修条件	特になし。ただし、私語など学習の妨げになる行為を行わないなど基本的なマナーをわかまえることを求める。			
授業方法	講義形式の授業である。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	定期試験により評価する。論理的な思考や文章表現力等を基準として評価する。	
	平常評価	20%	授業参加度や授業内のリアクションペーパー等により評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011	北樹出版	デモクラシーの政治学[増補版]	杉本稔
	備考			
参考書	吉野篤編（2018）『政治学〔第2版〕』弘文堂。その他にも、授業内で適宜紹介する。（例：吉野孝ほか編（2015）『論点日本の政治』東京法令出版など。）			
オフィスアワー	火曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）。 研究室（9号館5階）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書の147～148頁を読み、政治過程について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業計画及び成績評価等について説明し、受講生が今後の授業の準備を行えるようにする。また、政治過程について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書147～148頁を読み直し、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「政治過程」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
2	事前学習	教科書133～139頁を読み、選挙とデモクラシーの関係や選挙制度について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政治過程において重要な選挙制度や選挙とデモクラシーの関係について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書133～139頁を読み直し、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「選挙とデモクラシーの関係や選挙制度」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書150～157頁を読み、投票行動について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政治現象を理解するために、投票行動について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書150～157頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「投票行動」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
4	事前学習	教科書158～167頁を読み、政党の成立や定義、機能について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【政党（1）】政治現象を理解するために、政党の成立や定義、機能について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書158～167頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「政党の成立や定義、機能」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）

5	事前学習	教科書167～179頁を読み、政党システムに関する研究や野党について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【政党（2）】政治過程を動態的に理解するために、政党システムに関する研究や野党について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書167～179頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「政党システムに関する研究や野党」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書93～96頁を読み、官僚制について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政治過程を理解するために、官僚制について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書93～96頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「官僚制」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書187～196頁を読み、圧力団体について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政治過程を理解するために、圧力団体について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書187～196頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「圧力団体」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書155～157頁を読み、マスメディアについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政治過程を理解するために、マスメディアについて学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書155～157頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「マスメディア」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
9	事前学習	事前に提示する文献を読み、政策過程について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	実際の政治過程を理解するために、政策過程について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	レジュメ、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「政策過程」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
10	事前学習	事前に提示する文献を読み、国際政治について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	一国の政治過程にも影響を与える国際政治について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	レジュメ、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「国際政治」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
11	事前学習	事前に提示する文献を読み、地方自治について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	実際に起こる政治現象を理解するために、地方自治について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	レジュメ、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「地方自治」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書180～187頁を読み、日本の政治について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政治上の諸問題を理解するために、日本の政治について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書180～187頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「日本の政治」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
13	事前学習	事前に提示する文献を読み、日本の行政について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政治上の諸問題を理解するために、日本の行政について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	レジュメ、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「日本の行政」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
14	事前学習	教科書197～202頁を読み、日本の地方自治について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政治上の諸問題を理解するために、日本の地方自治について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書197～202頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「日本の地方自治」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
15	事前学習	初回から学習してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、政治学の基礎的知識について考察する。（2時間）
	授業内容	これまでの講義の総括
	事後学習	これまで配布したレジュメや教科書等を見直し、期末試験に向けた準備をする。（2時間）

科目名	政治学Ⅱ	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	学問としての政治学は、私たちの「政治」を様々な観点で分析することを目的とする。そのためにまず必要なことは、私たちの「政治」のあり様を大きく形作っている、近代政治原理そのものを正しく理解することである。そこで本講義では、西洋および日本における近代化の歴史的諸相に注目しながら、自由主義や民主主義、立憲主義といった近代政治原理の内実や意義について解説する。					
授業目的・到達目標	【授業目的】政治学の基礎的知識を得ることを目的とする。 【到達目標】1. 政治学の基礎的知識を得ることができる。2. それらの知識を背景に、日々のニュース報道や新聞報道により深い理解・関心をもつことができる。対応DP及びCP：政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 2, 3, 4					
履修条件	前期に開講する「政治学I」を履修済みであることが望ましい。					
授業方法	毎回プリントを配布すると共に、パワーポイントを用いて授業を進める。また、定期的に小テストを実施し、受講者の授業理解を確認する。フィードバックは授業内で小テストの解説を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		70%		期末に定期試験を実施する。論述式の試験により、講義内容の理解度を総合的に評価する。	
	平常評価		30%		小テストを授業時間内に計3回実施する。実施日は当日決める。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	なし				
参考書	授業中に適宜紹介する。					
オフィスアワー	月曜日昼休み、事前にアポイントメントをとること。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ニュース・新聞報道に触れる（3時間）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
2	事前学習	ニュース・新聞報道に触れる（3時間）
	授業内容	「政治」の意味
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
3	事前学習	中世・近世について調べる（3時間）
	授業内容	近代政治原理前史
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
4	事前学習	清教徒革命について調べる（3時間）
	授業内容	自由主義Ⅰ：個人の発見と政府の権威
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）

5	事前学習	名誉革命について調べる（3時間）
	授業内容	自由主義Ⅱ：市民的自由と経済的自由
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
6	事前学習	アメリカ独立革命について調べる（3時間）
	授業内容	立憲主義Ⅰ：自然法の観念
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
7	事前学習	三権分立について調べる（3時間）
	授業内容	立憲主義Ⅱ：権力分立の思想
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
8	事前学習	フランス革命について調べる（3時間）
	授業内容	民主主義Ⅰ：身分制議会から国民議会へ
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
9	事前学習	第二次世界大戦について調べる（3時間）
	授業内容	民主主義Ⅱ：ファシズムの経験
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
10	事前学習	自由民権運動について調べる（3時間）
	授業内容	戦前日本Ⅰ：明治維新から明治憲法まで
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
11	事前学習	大正デモクラシーについて調べる（3時間）
	授業内容	戦前日本Ⅱ：議会主義の展開と挫折
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
12	事前学習	日本国憲法について調べる（3時間）
	授業内容	戦後日本Ⅰ：近代主義と戦後憲法
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
13	事前学習	高度経済成長期について調べる（3時間）
	授業内容	戦後日本Ⅱ：市民運動の時代
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
14	事前学習	2016年米国大統領選について調べる（3時間）
	授業内容	「政治」についてどのように「学」ぶか
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
15	事前学習	配付プリント全体の振り返り（2時間）
	授業内容	期末総括
	事後学習	授業全体の振り返り（2時間）

科目名	政治学Ⅱ	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	政治学の基礎概念や理論を説明するとともに、その知識を現実政治の分析に援用する。そのため、必要に応じて時事問題を取り上げることで、どのような分析視角から政治を理解することが可能なのかを提示していく。			
授業目的・到達目標	政治学の基礎理論を修得した上で、「現実」政治と政治「学」を結合していくことにより、政治に対して積極的に関わる人材を育成する。また、社会科学的な認識を身につけることにより、政治学のみならず、様々な事象を論理的に読み解く能力を涵養することが目的である。 社会科学が対象とする社会現象の多面性（絶対的な答えがないこと）を理解することによって、社会的多様性を尊重できるようになることを目標とする。また、市民1人1人と政治の関わりを学ぶことによって主体的に政治参加しようとする態度を身につけるようにする。関連DP及びCP：政治経済1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 2, 3, 4			
履修条件	履修条件は特に設けないが、他の学生の学習を妨げるような行為には厳しく対応する。			
授業方法	パワーポイントを用いた講義形式。講義の理解度を問う小テストに関しては、次回授業の冒頭で解説を行う。定期試験の解説は、試験実施後にポータルサイト上で行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	90%	基本的には学期末の試験のみで成績評価を行う。 なお、試験では文章力と論理的思考を重視して採点する。	
	平常評価	10%	適宜当該講義の理解度を問う。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011年	北樹出版	デモクラシーの政治学【増補版】	杉本稔
	備考			
参考書	参考書は各授業で紹介していく。			
オフィスアワー	火曜日13:00～14:00（研究室：本館8F 1811） 担当者が不在の場合もあるので、事前にメールで予定を確認すること。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認した上で、教科書の関連部分を読むことで、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 講義の流れ（授業のテーマ、スケジュールなど）や成績評価についての説明を行う。
	事後学習	現在の政治には、どのようなアクターがかかわっているのかを整理してみる。（2時間）
2	事前学習	政党がどのような役割を担っているのかを考えてみる。（2時間）
	授業内容	政党 政党の定義や機能を説明する。
	事後学習	現代の政党が機能しているのかを考えてみる。（2時間）
3	事前学習	自身が考える最も性質が異なる政党を2つ以上比較し、なにが異なっているのかを考えてみる。（2時間）
	授業内容	政党組織と政党システム 政党組織とシステムの類型について説明する。
	事後学習	自身が興味を持つ政党や国がどのような類型に分類されるのかを考えてみる。（2時間）
4	事前学習	自身が関心を持つ国において、政党がいつ誕生し、どのような選挙制度が採用されているかを調べてみる。（2時間）
	授業内容	政党システム 政党システムを規定する要因について説明する。
	事後学習	日本の政党システム形成の要因を考えてみる。（2時間）

5	事前学習	イギリスにはどのような政党があり、どのような政策を掲げているかを確認する。（2時間）
	授業内容	イギリスの政党政治 イギリス二大政党制の形成と変化について説明する。
	事後学習	現在のイギリス政党システムについて確認する。（2時間）
6	事前学習	ドイツにはどのような政党があり、どのような政策を掲げているかを確認する。（2時間）
	授業内容	ドイツの政党政治 戦後ドイツ（主に西ドイツ）の政党政治を連立パターンに着目して説明する
	事後学習	現在のドイツの政党システムについて確認する。（2時間）
7	事前学習	日本にはどのような政党があり、どのような政策を掲げているかを確認する。（2時間）
	授業内容	日本の政党政治 55年体制の成立から崩壊までについて説明する。
	事後学習	現在の日本の政党システムについて考えてみる。（2時間）
8	事前学習	日本ではどのような選挙制度が用いられているかを確認する。（2時間）
	授業内容	選挙制度論 選挙制度の理論について説明する。
	事後学習	あるべき選挙制度について考えてみる。（2時間）
9	事前学習	自身の投票行動（投票に行くか否か、だれに投票するか）とそれを決める要因について考えてみる。（2時間）
	授業内容	投票行動論 投票行動研究の理論について説明する。
	事後学習	日本における若者の低投票率について考えてみる。（2時間）
10	事前学習	自身が情報収集のために、普段から利用している媒体と各媒体の違いについて考えてみる。（2時間）
	授業内容	世論とメディア マスメディアの影響力について説明する。
	事後学習	現在のマスメディアの影響力について考えてみる。（2時間）
11	事前学習	自身が政治に実現してもらいたいと考える政策は何かを考えてみる。（2時間）
	授業内容	利益団体と政治 利益団体が政治与える影響について説明する。
	事後学習	政党の機能と関連させて利益団体の意義を考えてみる。（2時間）
12	事前学習	EUが現在、どのような役割を果たし、どのような問題点に直面しているかを考えてみる。（2時間）
	授業内容	主権国家と超国家的共同体① 国家を定義するとともにヨーロッパ統合の歴史を説明する。
	事後学習	ヨーロッパ統合の意義を確認する。（2時間）
13	事前学習	EUと加盟国の関係（特に主権）がどのように変わったのかを考えてみる。（2時間）
	授業内容	主権国家と超国家的共同体② マーストリヒト条約以後のEUについて説明する。
	事後学習	ヨーロッパ統合の深化がどこまで進むのかを考えてみる。（2時間）
14	事前学習	EUにおける民主主義と加盟国における民主主義の質の違いについて考えてみる。（2時間）
	授業内容	主権国家と超国家的共同体③ EUの諸機関について説明する。
	事後学習	今後、EUが深化した場合（しない場合）、国家の在り方が変わるのか否かを考えてみる。（2時間）
15	事前学習	これまで授業で学習してきた点で、十分に理解できなかったことを把握する。（2時間）
	授業内容	まとめ 当期授業の総括を行うとともに、受講生からの質問に答える。
	事後学習	講義資料、教科書、参考書などを用いて、本授業の最終的な確認を行う。（2時間）

科目名	政治学Ⅱ	担当者	渡辺 容一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、政治の理論と実際をミクロな観点から分析していく。具体的には、政治過程、地方自治、政治学史などが主な講義テーマとなる。なお、受講生の理解度を確認するため、授業の最初に毎回小テスト(簡単な論述試験)を行う。				
授業目的・到達目標	現実の政治をミクロな理論と関連づけて説明できる力の養成を目的とする。そして、政治とは「多様な価値観を有する他者との共生を実現する営み」であることを理解し、それを論理的表現で説明できるようになることを目標とする。関連DPおよびCP：政治経済学科 1, 2, 3, 4 新聞学科 1, 5 公共政策学科 1, 2, 3, 4				
履修条件	なし。				
授業方法	講義形式で授業を行うので、教科書とノートは必ず持参すること。必要に応じてレジュメや資料を配布する。また、小テストについては、採点した後、講評・添削したうえで、次回授業の最初に返却指導(フィードバック)する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	論述式の筆記試験では、授業中教示したポイントが適切かつ論理的に書かれているかどうかを重視する。	
	平常評価		20%	毎回行う小テストの合計点で評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	弘文堂		Next 教科書シリーズ 政治学 [第2版]	吉野篤編
	備考				
参考書	必要に応じて紹介する。				
オフィスアワー	水曜日 14：40～16：10 (事前にメールで予約してください) 研究室 (9号館2階 9207研究室) watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書の第7章「1 現代民主主義における選挙」「2 選挙区制」「3 代表制」「4 デュベルジェの法則」を読んで、選挙と選挙制度の全体像を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【選挙制度論】 シラバスに基づき政治学Ⅱの授業計画について説明し、選挙のあり方を学習し、選挙の機能や、選挙制度の種類・特徴・形成要因について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
2	事前学習	教科書の第7章「5 投票行動研究の系譜」を読んで、投票行動の意味を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【投票行動論】 投票行動論の基礎を学習し、政党支持や投票行動の要因について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
3	事前学習	教科書の第8章「1 政党の概念」「2 現代政治における政党の機能」「3 政党の発達と類型」を読んで、政党の意味を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【政党論】 政党の機能・発展過程・類型などを学習し、現代政治における政党の役割と問題点について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
4	事前学習	教科書の第8章「4 政党システムの分類と理論」「5 日本の政党と政党システム」「6 欧米諸国の政党と政党システム」を読んで、政党システムの意味を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【政党システム論】 政党システムの種類・機能・事例などを学習し、政党システムと実際政治の関連について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)

5	事前学習	教科書の第9章「1 圧力団体とは何か」「2 圧力団体の類型①」「3 圧力団体の類型②」「4 圧力団体の機能」「5 圧力団体の影響力」を読んで、圧力団体の意味を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【圧力団体1】 圧力団体の種類・機能・意義などを学習し、現代政治における圧力団体の役割と影響力について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
6	事前学習	教科書の第9章「7 圧力団体の評価と批判」を読んで、圧力団体の実態を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【圧力団体2】 圧力団体の理論・評価などを学習し、圧力団体の問題点と課題について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
7	事前学習	教科書の第7章「6 マスメディアと選挙」、第10章「5 ソーシャルメディアと政治」を読んで、新旧メディアの違いを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【新旧メディアと世論】 新旧メディアの機能・影響力・問題点や現代世論などを学習し、メディアと世論の関係や、その問題点について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
8	事前学習	教科書の第14章「5 国家の変質と行政組織」を読んで、官僚制の意味を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【官僚制論】 官僚制の理論と実際について学習し、その種類・機能・問題点について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
9	事前学習	教科書の第15章「1 明治維新期の地方自治制度」「2 大日本帝国憲法下の地方制度の変遷」「3 日本国憲法と地方自治法」を読んで、日本の地方自治制度の歴史を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【地方自治論1】 日本の地方自治制度の歴史を学習し、日本の地方自治の特徴と問題点について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
10	事前学習	教科書の第1章「6 国家と政治」「7 地方自治と地方政府」を読んで、地方政治の意味を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【地方自治論2】 欧米諸国の地方政治の仕組みを学習し、地方政治のあり方や、英米型と大陸型の違いについて考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
11	事前学習	教科書の第3章「1 古代ギリシアの政治思想」を読んで、古代ギリシアの政治思想を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【政治学史1】 プラトンとアリストテレスの政治思想を学習し、政治学の起源について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
12	事前学習	教科書の第3章「2 ルネサンス期の政治思想」を読んで、近代初期の政治思想を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【政治学史2】 マキアヴェリィの政治思想を学習し、それが政治学の発展に果たした役割について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
13	事前学習	教科書の第3章「3 市民革命期の政治思想」を読んで、近代初期の政治思想を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【政治学史3】 ホッブズを事例とした社会契約国家論を学習し、それが政治学の発展に果たした役割について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
14	事前学習	教科書の第4章「1 政治と政治学」「2 伝統的政治学」「4 政治学の科学化と行動論政治学」「5 脱行動論革命」を読んで、現代政治学の流れを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【政治学史4】 現代政治学の発展過程を学習し、現代政治学の特徴と問題点について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
15	事前学習	教科書の第4章「6 政治的価値理論の復権」「7 国家論・制度論の復権」を読んで、現代政治学の課題を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【政治学史5】 現代政治学の現状と課題を学習し、政治学とは如何なる学問か、今後どうあるべきかについて考察する。
	事後学習	教科書とノートを見直し、期末試験に向けて準備をする。(2時間)

科目名	政治学原論	担当者	岩崎 正洋	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業は、現代「政治学」の基本的な知識をできるだけ幅広く、体系的に、しかも正確に伝えることを企図している。そのために、講義においては、現代政治学の主要な政治学者の理論について解説し、検討を行うこととする。				
授業目的・到達目標	本講義では、現代政治学の基本的な理論の検討を通して、「政治学は現実政治を考える上で、どのように役立つのか」という問題を考える能力を養成することを目的とする。この講義で解説する現代政治学のさまざまな理論は、現実の政治を理解するための視点を提供することになるだろう。授業を通して、現実政治と政治理論との両者に目を向け、両者の間を架橋することが出来るような視点をもつことができるようにすることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1,2 政治経済学科1,3 新聞学科1,5 公共政策学科1,2,3,4				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式で行う。定期試験の解説を後日、ポータルシステムで行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	授業内容に関して、正確な理解がなされているか否か確認する。	
	平常評価				
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2015	勁草書房		『比較政治学入門』	岩崎正洋
	備考	今学期の授業で取り扱う多くの内容を網羅した書物という意味で、『比較政治学入門』を教科書として挙げておくこととする。併せて、参考書や授業中に紹介する文献をよく読む必要がある。			
参考書	白鳥令編『現代政治学の理論』（上・下・続）早稲田大学出版会、1981～1985年。白鳥令・曾根泰教編『現代世界の民主主義理論』新評論、1984年。				
オフィスアワー	月曜日12：10～13：00 研究室（4号館2階425）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	参考書を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	イントロダクション（授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
2	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政治と政治学
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
3	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	現代政治学の対象
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
4	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	現代政治学の方法
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）

5	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政治権力と国家
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
6	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	新しい政治学と政治システム論
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
7	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政治システム
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
8	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政治システムの構造機能分析
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
9	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政治システムの発展
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
10	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政治システムと政治文化
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
11	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政党と利益集団
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
12	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政党
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
13	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政党システム
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
14	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政策決定過程
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
15	事前学習	授業内容に関連する参考書の該当部分を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	今学期のまとめ
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）

科目名	政治学原論	担当者	吉野 篤	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	政治学の学問的特質、固有の問題性などを前提としながら、政治史の具体的問題、保守主義・社会主義の出現や現代の政治過程のアクター分析を行う。				
授業目的・到達目標	政治とはどのような現象なのかを現実と理念の両面から把握できるような能力を養成することを目的とする。 政治の原理・原則、あるべき姿などを歴史的、理論的、概念的につかむことができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 2 政治経済学科1, 3 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 2, 3, 4				
履修条件	1年次に配当されている政治学を履修済みであることが望ましい。				
授業方法	講義形式で行い、出来る限り毎時間、主として新聞の論説報道を資料として取り上げ、現実に生起している政治問題について理解を深める。試験の講評および解説をポータル・システムで行う予定である。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		90%	問いに対する的確な答えになっているかどうか、学術用語をきちんと正確に理解して記述できているかどうか。	
	平常評価		10%	授業への参加度	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019年度	弘文堂	Next教科書シリーズ 政治学 第2版		吉野篤編
	備考				
参考書	授業時に指示する。				
オフィスアワー	火曜日2時限目一本館8階の研究室にて待機するので直接訪ねること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、問題点を事前に頭に入れること(2時間)
	授業内容	デモクラシー概念の歴史的変容：古典古代と近現代
	事後学習	講義の内容を確認し、ノートに改めて整理して問題点を把握すること(2時間)
2	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、問題点を事前に頭に入れること(2時間)
	授業内容	社会科学の方法論についての概説：マックス・ウェーバーの議論を中心に
	事後学習	講義の内容を確認し、ノートに改めて整理して問題点を把握すること(2時間)
3	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、問題点を事前に頭に入れること(2時間)
	授業内容	政治学の固有な学問的性格と意義について
	事後学習	講義の内容を確認し、ノートに改めて整理して問題点を把握すること(2時間)
4	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、問題点を事前に頭に入れること(2時間)
	授業内容	権力の概念と分析枠組みについて
	事後学習	講義の内容を確認し、ノートに改めて整理して問題点を把握すること(2時間)

5	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、問題点を事前に頭に入れること（2時間）
	授業内容	市民革命の政治過程①：市民革命の歴史的意義とイギリス革命
	事後学習	講義の内容を確認し、ノートに改めて整理して問題点を把握すること（2時間）
6	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、問題点を事前に頭に入れること（2時間）
	授業内容	市民革命の政治過程②：アメリカ独立革命
	事後学習	講義の内容を確認し、ノートに改めて整理して問題点を把握すること（2時間）
7	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、問題点を事前に頭に入れること（2時間）
	授業内容	市民革命の政治過程③：フランス革命
	事後学習	講義の内容を確認し、ノートに改めて整理して問題点を把握すること（2時間）
8	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、問題点を事前に頭に入れること（2時間）
	授業内容	保守主義の政治理論：E・バークの考え方を中心に
	事後学習	講義の内容を確認し、ノートに改めて整理して問題点を把握すること（2時間）
9	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、問題点を事前に頭に入れること（2時間）
	授業内容	社会主義の政治理論：K・マルクスの考え方を中心に
	事後学習	講義の内容を確認し、ノートに改めて整理して問題点を把握すること（2時間）
10	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、問題点を事前に頭に入れること（2時間）
	授業内容	現代政治過程のアクター分析①：政党の概念と機能
	事後学習	講義の内容を確認し、ノートに改めて整理して問題点を把握すること（2時間）
11	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、問題点を事前に頭に入れること（2時間）
	授業内容	現代政治過程のアクター分析②：政党システムの分析枠組み*
	事後学習	講義の内容を確認し、ノートに改めて整理して問題点を把握すること（2時間）
12	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、問題点を事前に頭に入れること（2時間）
	授業内容	現代政治過程のアクター分析③：選挙の意義と機能
	事後学習	講義の内容を確認し、ノートに改めて整理して問題点を把握すること（2時間）
13	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、問題点を事前に頭に入れること（2時間）
	授業内容	現代政治過程のアクター分析④：選挙制度の諸問題
	事後学習	講義の内容を確認し、ノートに改めて整理して問題点を把握すること（2時間）
14	事前学習	テキストの該当箇所を入念に読み、問題点を事前に頭に入れること（2時間）
	授業内容	議院内閣制の生成と展開
	事後学習	講義の内容を確認し、ノートに改めて整理して問題点を把握すること（2時間）
15	事前学習	前期全体の内容を復習して全体像を理解しておくこと（2時間）
	授業内容	総括
	事後学習	何か問題であり、争点であるかを講義内容に基づいて把握すること（2時間）

科目名	政治過程論	担当者	浅井 直哉	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	政治過程論は、政治の動態的な側面に注目し、具体的に政治がどのようなメカニズムで動いているのかについて分析を行う分野である。この授業は、政治過程を①選挙過程、②立法過程、③政策過程の三つに分けて考え、政治の「流れ」をたどっていく。授業では、政治過程を体系的に理解するのに必要な用語やモデルを取り扱うとともに、どのようにして政治を分析するのかという点に目を向ける。			
授業目的・到達目標	政治過程は、選挙過程、立法過程、政策過程というように、いくつかの段階に分けて考えることができる。この授業では、政治過程に関する知識を身につけ、現実政治の流れについて体系的に理解することを目的とする。授業を通じて、政治過程の全体像や、政治にかかわりを持つアクターについて説明することができるようになるとともに、現実政治を分析するために見方を身につけることができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2,3 公共政策学科1,3,4			
履修条件	特になし			
授業方法	講義形式で行う。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		100%	授業内容が適切に理解されているか否かを確認する。
	平 常 評 価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			
参 考 書	松田憲忠・岡田浩編（2018）『よくわかる政治過程論』ミネルヴァ書房。その他、授業中に提示する。			
オフィスアワー	水曜日14：40～16：10 研究室			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新聞やインターネットで政治のニュースについて調べておく。（2時間）
	授業内容	イントロダクション：授業内容、進行方法などについての説明をする。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
2	事前学習	政治システムについて調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政治過程とは何か：「政治過程」の捉え方を説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
3	事前学習	政治学の方法について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政治過程論のアプローチ：政治の研究に対する考え方や方法について説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
4	事前学習	新制度論について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	制度論から新制度論へ：政治過程論の歴史について説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）

5	事前学習	選挙制度について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	選挙過程と有権者：有権者の投票行動について説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
6	事前学習	利益集団について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	選挙過程と利益集団：選挙と利益集団のかかわりについて説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
7	事前学習	政治においてインターネットが使われる場面について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	選挙過程とインターネット：選挙とインターネットのかかわりについて説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
8	事前学習	政党について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	選挙過程と政党：選挙と政党のかかわりについて説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
9	事前学習	政党について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	立法過程と政党：立法過程と政党のかかわりについて説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
10	事前学習	議会について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	立法過程と議会：議会について説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
11	事前学習	利益集団について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	立法過程と利益集団：立法過程と利益集団のかかわりについて説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
12	事前学習	政策過程の段階について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政策過程の諸段階：政策過程の流れについて説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
13	事前学習	政策決定について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政策決定過程の理論的枠組み：政策決定過程を分析するための枠組みについて説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
14	事前学習	官僚の役割について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	政策過程と官僚：政策過程と官僚のかかわりについて説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
15	事前学習	前学期の内容を振り返っておく。（2時間）
	授業内容	今学期の総括
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）

科目名	政治経済原書研究A	担当者	川又 祐	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	図書館が所蔵する様々な分野の著名人手稿（封書、はがき）を翻刻して、和訳する。翻刻・和訳を毎時間の課題として提出する。			
授業目的・到達目標	印刷された活字ではなく、自筆文字を、前後の文脈から推測して翻刻する能力の養成を目的とする。あわせて、手稿は英語が多いが、一部、他の外国語のものもある。それぞれの言語の文法を再確認して、読解できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：政治経済学科　１、２、３、４、５、６、７、８			
履修条件	特になし。辞書を携行すること。			
授業方法	PCを毎時間使用する。周りの学生と協力、共同しながら翻刻・講読を行う。私物のPCを使用してもよい。翻訳業務に携わった経験から、その都度必要なアドバイスをする。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。①授業内課題提出20%、②平常評価（授業への参加度）80%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	下記のファイル（作業用PDF）を使用する。		
参 考 書	使用しない。 https://www.post.japanpost.jp/navi/e_letter.html			
オフィスアワー	毎週金曜日昼休み、本館8階の研究室で質問・相談に応じます。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。 kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	コンピュータ → 学生教員共有 (Y) → か → 川又祐 → 原書内の作業用PDFを閲覧する。2時間
	授業内容	ガイダンス 翻刻の技法
	事後学習	提出した課題を確認する。2時間
2	事前学習	コンピュータ → 学生教員共有 (Y) → か → 川又祐 → 原書内の作業用PDFを閲覧する。2時間
	授業内容	翻刻・和訳実習 発信者、宛名、発信日、切手を確認しよう（その1）
	事後学習	翻刻した手稿の著者の経歴、時代背景を調べる。2時間
3	事前学習	コンピュータ → 学生教員共有 (Y) → か → 川又祐 → 原書内の作業用PDFを閲覧する。2時間
	授業内容	翻刻・和訳実習 発信者、宛名、発信日、切手を確認しよう（その2）
	事後学習	翻刻した手稿の著者の経歴、時代背景を調べる。2時間
4	事前学習	コンピュータ → 学生教員共有 (Y) → か → 川又祐 → 原書内の作業用PDFを閲覧する。2時間
	授業内容	翻刻・和訳実習 発信者、宛名、発信日、切手を確認しよう（その3）
	事後学習	翻刻した手稿の著者の経歴、時代背景を調べる。2時間

5	事前学習	コンピュータ → 学生教員共有 (Y) → か → 川又祐 → 原書内の作業用PDFを閲覧する。2時間
	授業内容	翻刻・和訳実習 省略文字を確認しよう (その1)
	事後学習	翻刻した手稿の著者の経歴、時代背景を調べる。2時間
6	事前学習	コンピュータ → 学生教員共有 (Y) → か → 川又祐 → 原書内の作業用PDFを閲覧する。2時間
	授業内容	翻刻・和訳実習 省略文字を確認しよう (その2)
	事後学習	翻刻した手稿の著者の経歴、時代背景を調べる。2時間
7	事前学習	コンピュータ → 学生教員共有 (Y) → か → 川又祐 → 原書内の作業用PDFを閲覧する。2時間
	授業内容	翻刻・和訳実習 書簡で用いられる表現 (拝啓、敬具) を確認しよう (その1)
	事後学習	翻刻した手稿の著者の経歴、時代背景を調べる。2時間
8	事前学習	コンピュータ → 学生教員共有 (Y) → か → 川又祐 → 原書内の作業用PDFを閲覧する。2時間
	授業内容	翻刻・和訳実習 書簡で用いられる表現 (拝啓、敬具) を確認しよう (その2)
	事後学習	翻刻した手稿の著者の経歴、時代背景を調べる。2時間
9	事前学習	コンピュータ → 学生教員共有 (Y) → か → 川又祐 → 原書内の作業用PDFを閲覧する。2時間
	授業内容	翻刻・和訳実習 書簡のレイアウト (セミブロック式) を確認しよう (その1)
	事後学習	翻刻した手稿の著者の経歴、時代背景を調べる。2時間
10	事前学習	コンピュータ → 学生教員共有 (Y) → か → 川又祐 → 原書内の作業用PDFを閲覧する。2時間
	授業内容	翻刻・和訳実習 書簡のレイアウト (セミブロック式) を確認しよう (その2)
	事後学習	翻刻した手稿の著者の経歴、時代背景を調べる。2時間
11	事前学習	コンピュータ → 学生教員共有 (Y) → か → 川又祐 → 原書内の作業用PDFを閲覧する。2時間
	授業内容	翻刻・和訳実習 書簡の書式を確認しよう (その1)
	事後学習	翻刻した手稿の著者の経歴、時代背景を調べる。2時間
12	事前学習	コンピュータ → 学生教員共有 (Y) → か → 川又祐 → 原書内の作業用PDFを閲覧する。2時間
	授業内容	翻刻・和訳実習 書簡の書式を確認しよう (その2)
	事後学習	翻刻した手稿の著者の経歴、時代背景を調べる。2時間
13	事前学習	コンピュータ → 学生教員共有 (Y) → か → 川又祐 → 原書内の作業用PDFを閲覧する。2時間
	授業内容	翻刻・和訳実習 パーソナル・レターとビジネス・レターの違いを確認しよう (その1)
	事後学習	翻刻した手稿の著者の経歴、時代背景を調べる。2時間
14	事前学習	コンピュータ → 学生教員共有 (Y) → か → 川又祐 → 原書内の作業用PDFを閲覧する。2時間
	授業内容	翻刻・和訳実習 パーソナル・レターとビジネス・レターの違いを確認しよう (その2)
	事後学習	翻刻した手稿の著者の経歴、時代背景を調べる。2時間
15	事前学習	コンピュータ → 学生教員共有 (Y) → か → 川又祐 → 原書内の作業用PDFを閲覧する。2時間
	授業内容	まとめとふりかえり
	事後学習	書簡、はがきの翻刻の重要性をまとめる。2時間

科目名	政治経済原書研究A	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	アメリカの地方自治に関する基礎的な英語文献を講読する。文献の購読を通し、現代に至るアメリカ地方自治制度の確立の過程やその特徴についての理解を深める。			
授業目的・到達目標	アメリカの地方自治について理解を深めると同時に、比較考察の視点を養うことを目的とする。英語文献からの専門的な知識を習得し、分析する能力を身に付け、受講生が文献から得た知識を研究ないしは職業に生かせることを目標とする。 関連DP及びCP：政経経済学科 1、2、3、4、5、6、7、8			
履修条件	特になし。ただし、予習をした上で授業に出席すること。また、第1回授業に必ず出席すること。			
授業方法	基本的には、演習授業の形式である。期末レポートの解説は授業内で行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	出席2/3以下の場合は評価不可。評価は、①授業内の発表（45%）、②期末レポート（45%）、③内容の理解度等（リアクションペーパー等）（10%）による。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	Routledge	City Politics: The Political Economy of Urban America, 10th Edition.	Judd, D. R. and A. M. Hinze.
	備考	授業で扱う部分についてはコピーを配布する。また、適宜授業内容に応じて他の文献も使用する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）。 研究室（9号館5階）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、わが国の地方自治に関する文献を読み、アメリカの地方自治と比較ができるように、知識をまとめ、自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業計画及び成績評価等について説明し、受講生が今後の授業の準備を行えるようにする。また、本講義で用いるテキストについて確認し、内容を概説できるようになる。
	事後学習	授業で扱った文章を読み直し、興味を持った部分について調べ、感想等をまとめる。（2時間）
2	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの地方自治、都市政治について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	アメリカの地方自治、都市政治の概観について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、「アメリカの地方自治、都市政治」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
3	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの地方自治（都市政治）の発展について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	アメリカの地方自治の発展について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、アメリカの地方自治の発展について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
4	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、マシーン政治について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	アメリカの地方自治を理解する上で重要なマシーン政治について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、マシーン政治について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）

5	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、革新主義時代のアメリカの地方自治について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	アメリカの地方自治を理解する上で重要な革新主義時代のアメリカの地方自治について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、革新主義時代のアメリカの地方自治について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
6	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、20世紀前半のアメリカの地方自治について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	20世紀前半のアメリカの地方自治について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、20世紀前半のアメリカの地方自治について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
7	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカにおける国策としての都市政策について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	アメリカにおける国策としての都市政策について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、アメリカにおける国策としての都市政策について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
8	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカにおける国策としての都市政策の変化について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	都市政策の変化とアメリカの地方自治について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、アメリカにおける国策としての都市政策の変化について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
9	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、サンベルトの台頭と地方自治の変化について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	サンベルトの台頭と地方自治の変化について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、サンベルトの台頭と地方自治の変化について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
10	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、第二次世界大戦の都市圏の変化について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	第二次世界大戦の都市圏の変化について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、第二次世界大戦の都市圏の変化について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
11	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの都市圏の運営に関する新たな手法について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	アメリカの都市圏の運営に関する新たな手法について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、アメリカの都市圏の運営に関する新たな手法について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
12	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの都市圏における財政的な競争について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	アメリカの都市圏における財政的な競争について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、アメリカの都市圏における財政的な競争について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
13	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカ中心都市の再興について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	アメリカ中心都市の再興と地方自治について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、アメリカ中心都市の再興について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
14	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの都市内の多様化について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	アメリカの都市内の多様化と地方自治について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、アメリカの都市内の多様化について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
15	事前学習	初回から学習してきた資料を見直し、興味を持った内容について調べたり、日本との比較等の考察を行い、自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	これまでの授業についての総括および期末レポート等の説明及び解説
	事後学習	これまで配布した資料等を見直し、期末レポートの完成に向け取り組む。（2時間）

科目名	政治経済原書研究A	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	政治学に関する基礎的な英語文献を講読し、国家、権力、民主主義といった政治学の基礎概念についての理解を深める。また、レジュメ発表を通じて比較的丁寧に英語文献を輪読することにより、参加者の原書読解能力を養う。				
授業目的・到達目標	【授業目的】 英語文献を通じて、政治学の理解と原書読解能力を高めることを目的とする。 【到達目標】 1. 政治学の理解と原書読解能力を高めることができる。2. レジュメ発表を通じてプレゼンテーションを構成することができる。対応DP及びCP：政治経済学科1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	辞書を持参すること。				
授業方法	演習形式で進める。毎回レジュメ発表の担当者を指定する。担当者は教科書の該当部分についてのレジュメを準備し、発表する。フィードバックは授業内でレジュメの講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業に2/3以上出席した学生が評価対象となる。①授業内課題50%、②授業への参加度50%	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2015	Profile Books	Politics: Ideas in Profile		David Runciman
	備考	各自購入し、毎回の授業に持参すること。			
参考書	授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	月曜日昼休み、事前にアポイントメントをとること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（2時間）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	授業の趣旨を確認する（2時間）
2	事前学習	教科書の該当部分を読んでくる。発表者はレジュメを準備する（2時間）
	授業内容	「Consensus and coercion」のレジュメ発表、内容確認、討論
	事後学習	教科書の該当部分を読み直す（2時間）
3	事前学習	教科書の該当部分を読んでくる。発表者はレジュメを準備する（2時間）
	授業内容	「The invention of the state」のレジュメ発表、内容確認、討論
	事後学習	教科書の該当部分を読み直す（2時間）
4	事前学習	教科書の該当部分を読んでくる。発表者はレジュメを準備する（2時間）
	授業内容	「The dilemma of dirty hands」のレジュメ発表、内容確認、討論
	事後学習	教科書の該当部分を読み直す（2時間）

5	事前学習	教科書の該当部分を読んでくる。発表者はレジュメを準備する（2時間）
	授業内容	「The perils of peace」のレジュメ発表、内容確認、討論
	事後学習	教科書の該当部分を読み直す（2時間）
6	事前学習	教科書の該当部分を読んでくる。発表者はレジュメを準備する（2時間）
	授業内容	「The technology revolution」のレジュメ発表、内容確認、討論
	事後学習	教科書の該当部分を読み直す（2時間）
7	事前学習	教科書の該当部分を読んでくる。発表者はレジュメを準備する（2時間）
	授業内容	「google vs. government」のレジュメ発表、内容確認、討論
	事後学習	教科書の該当部分を読み直す（2時間）
8	事前学習	教科書の該当部分を読んでくる。発表者はレジュメを準備する（2時間）
	授業内容	「Technocracy vs. democracy」のレジュメ発表、内容確認、討論
	事後学習	教科書の該当部分を読み直す（2時間）
9	事前学習	教科書の該当部分を読んでくる。発表者はレジュメを準備する（2時間）
	授業内容	「The new aristocracy」のレジュメ発表、内容確認、討論
	事後学習	教科書の該当部分を読み直す（2時間）
10	事前学習	教科書の該当部分を読んでくる。発表者はレジュメを準備する（2時間）
	授業内容	「As bad as it gets」のレジュメ発表、内容確認、討論
	事後学習	教科書の該当部分を読み直す（2時間）
11	事前学習	教科書の該当部分を読んでくる。発表者はレジュメを準備する（2時間）
	授業内容	「Not the end of history」のレジュメ発表、内容確認、討論
	事後学習	教科書の該当部分を読み直す（2時間）
12	事前学習	教科書の該当部分を読んでくる。発表者はレジュメを準備する（2時間）
	授業内容	「Drowning children」のレジュメ発表、内容確認、討論
	事後学習	教科書の該当部分を読み直す（2時間）
13	事前学習	教科書の該当部分を読んでくる。発表者はレジュメを準備する（2時間）
	授業内容	「A government for the world」のレジュメ発表、内容確認、討論
	事後学習	教科書の該当部分を読み直す（2時間）
14	事前学習	教科書の該当部分を読んでくる。発表者はレジュメを準備する（2時間）
	授業内容	「Epilogue」のレジュメ発表、内容確認、討論
	事後学習	教科書の該当部分を読み直す（2時間）
15	事前学習	教科書全体の振り返り（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	授業全体の振り返り（2時間）

科目名	政治経済原書研究A	担当者	山本 直	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際政治学に関する基礎的な英語文献を講読する。近現代世界で展開される国際政治の性質と変化について、諸国家や国際機構の行動という観点から理解を深める。				
授業目的・到達目標	基礎的な英語文献の講読を通じて、近現代世界で展開される国際政治の性質と変化について理解を深めることを目的とする。文献についてプレゼンテーションと意見交換を行なうことにより、政治経済を主題とする英語文献の読解力を高めることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	スマートフォンは毎回カバンの中に片づける。時計は別に持参する。 やむをえず欠席する場合は、欠席した回の内容を出席者から確認したうえで次回出席する。				
授業方法	演習方式で行なう。具体的な方法は初回に説明する。レポートとグループワークの講評を授業で行なう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業への参加状況、レポート及びグループワークにおける積極性を評価する。出席が少ない場合は評価の対象とならない。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2015	Oxford UP		The United Nations, Second Edition	J. M. Hanhimaki
	備考	教科書を持参した者にかぎり授業を受けることができる。ただし教科書を事前に購入する必要はない。詳しくは初回に説明する。			
参考書	明石康『国際連合 軌跡と展望』岩波書店、2006年。 ボルクネディ（古賀林幸訳）『人類の議会』上・下、日本経済新聞出版社、2007年。ほか授業で適宜紹介する。				
オフィスアワー	火曜3限。不在の場合があるので事前に連絡すること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認する。（2時間）
	授業内容	授業の進め方を確認する。
	事後学習	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
2	事前学習	教科書のChronology（pp. 149-154）とGlossary（pp. 155-156）について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書のChronology（pp. 149-154）とGlossary（pp. 155-156）についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。（2時間）
3	事前学習	教科書のIntroductionについて準備する。（2時間）
	授業内容	教科書のIntroductionについてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。（2時間）
4	事前学習	教科書のChapter 1 “The Best hope of mankind?” 前半部について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書のChapter 1 “The Best hope of mankind?” 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。（2時間）

5	事前学習	教科書のChapter 1 “The Best hope of mankind?” 後半部について準備する。 （2時間）
	授業内容	教科書のChapter 1 “The Best hope of mankind?” 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。 （2時間）
6	事前学習	教科書のChapter 2 “An Impossible Hybrid” 前半部について準備する。 （2時間）
	授業内容	教科書のChapter 2 “An Impossible Hybrid” 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。 （2時間）
7	事前学習	教科書のChapter 2 “An Impossible Hybrid” 後半部について準備する。 （2時間）
	授業内容	教科書のChapter 2 “An Impossible Hybrid” 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。 （2時間）
8	事前学習	教科書のChapter 3 “Facing wars, confronting threats” 前半部について準備する。 （2時間）
	授業内容	教科書のChapter 3 “Facing wars, confronting threats” 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。 （2時間）
9	事前学習	教科書のChapter 3 “Facing wars, confronting threats” 後半部について準備する。 （2時間）
	授業内容	教科書のChapter 3 “Facing wars, confronting threats” 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。 （2時間）
10	事前学習	教科書のChapter 4 “Peacekeeping to peacebuilding” 前半部について準備する。 （2時間）
	授業内容	教科書のChapter 4 “Peacekeeping to peacebuilding” 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。 （2時間）
11	事前学習	教科書のChapter 4 “Peacekeeping to peacebuilding” 後半部について準備する。 （2時間）
	授業内容	教科書のChapter 4 “Peacekeeping to peacebuilding” 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。 （2時間）
12	事前学習	教科書のChapter 5 “Economic development to human development” 前半部について準備する。 （2時間）
	授業内容	教科書のChapter 5 “Economic development to human development” 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。 （2時間）
13	事前学習	教科書のChapter 5 “Economic development to human development” 後半部について準備する。 （2時間）
	授業内容	教科書のChapter 5 “Economic development to human development” 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。 （2時間）
14	事前学習	教科書のChapter 6 “Rights and responsibilities” 前半部について準備する。 （2時間）
	授業内容	教科書のChapter 6 “Rights and responsibilities” 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。 （2時間）
15	事前学習	教科書のChapter 6 “Rights and responsibilities” 後半部について準備する。 （2時間）
	授業内容	教科書のChapter 6 “Rights and responsibilities” 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえる。これまでの授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標を達成できたか自省する。 （2時間）

科目名	政治経済原書研究B	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	アメリカの地方自治に関する基礎的な英語文献を講読する。アメリカの地方自治を巡る状況の変化とその特徴について理解を深める。			
授業目的・到達目標	アメリカの地方自治を巡る状況の変化とその特徴について理解を深めると同時に、比較考察の視点を養うことも目的とする。英語文献からの専門的な知識を習得し、分析する能力を身に付け、受講生が文献から得た知識を研究ないしは職業に生かせることを目標とする。関連DP及びCP：政経経済学科 1、2、3、4、5、6、7、8			
履修条件	特になし。ただし、予習をした上で授業に出席すること。また、第1回授業に必ず出席すること。			
授業方法	基本的には、演習授業の形式である。期末レポートの解説を授業内で行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	出席2/3以下の場合は評価不可。評価は、①授業内の発表（45%）、②期末レポート（45%）、③内容の理解度等（リアクションペーパー等）（10%）による。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	Routledge	American Urban Politics in a Global Age, 8th Edition.	Kantor, Judd, et al. (eds.)
	備考	授業で扱う部分についてはコピーを配布する。また、適宜授業内容に応じて他の文献も使用する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）。 研究室（9号館5階）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、わが国の地方自治に関する文献を読み、アメリカの地方自治と比較ができるように、知識をまとめ、自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業計画及び成績評価等について説明し、受講生が今後の授業の準備を行えるようにする。また、本講義で用いるテキストについて確認し、内容を概説できるようになる。
	事後学習	授業で扱った文章を読み直し、興味を持った部分について調べ、感想等をまとめる。（2時間）
2	事前学習	事事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカの地方自治に関する研究動向について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	アメリカの地方自治に関する研究動向について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、「アメリカの地方自治に関する研究動向」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
3	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、「都市の限界（City Limits）」について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	「都市の限界（City Limits）」について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、「都市の限界（City Limits）」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
4	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、「都市レジーム（Urban Regime）」研究について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	「都市レジーム（Urban Regime）」研究について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、「都市レジーム（Urban Regime）」研究について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）

5	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカ地方自治に関する歴史研究について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	アメリカ地方自治に関する歴史研究について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、アメリカ地方自治に関する歴史研究について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
6	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカ都市政治と経済界について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	アメリカ都市政治と経済界について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、アメリカ都市政治と経済界について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
7	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、都市の開発とアメリカ地方政治について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	都市の開発とアメリカ地方政治について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、都市の開発とアメリカ地方政治について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
8	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカ地方自治における多様性について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	アメリカ地方自治における多様性について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、アメリカ地方自治における多様性について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
9	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカ地方自治とマイノリティについて自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	アメリカ地方自治とマイノリティについて学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、アメリカ地方自治とマイノリティについて自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
10	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカ地方自治における都市と郊外について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	アメリカ地方自治における都市と郊外について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、アメリカ地方自治における都市と郊外について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
11	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカ地方自治と移民について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	アメリカ地方自治と移民について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、アメリカ地方自治と移民について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
12	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカ地方自治における財政危機について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	アメリカ地方自治における財政危機について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、アメリカ地方自治における財政危機について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
13	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、について自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	現代のアメリカ都市政治（2）
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、「アメリカの地方自治に関する研究動向」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
14	事前学習	事前に配布した資料を日本語訳し、アメリカ地方自治におけるネイバーフッドについて自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	アメリカ地方自治におけるネイバーフッドについて学習し、説明できるようになる。
	事後学習	資料を読み直し、また関連文献を調べ、アメリカ地方自治におけるネイバーフッドについて自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
15	事前学習	初回から学習してきた資料を見直し、興味を持った内容について調べたり、日本との比較等の考察を行い、自分の意見を述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	これまでの授業についての総括および期末レポート等の説明及び解説
	事後学習	これまで配布した資料等を見直し、期末レポートの完成に向け取り組む。（2時間）

科目名	政治経済原書研究B	担当者	山本 直	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際政治学に関する英語文献を講読する。近現代世界で展開される国際政治の性質と変化について、諸国家や国際機構の行動という観点から理解を深める。			
授業目的・到達目標	英語文献の講読を通じて、近現代世界で展開される国際政治の性質と変化について理解を深めることを目的とする。文献についてプレゼンテーションと意見交換を行なうことにより、政治経済を主題とする英語文献の読解力を高めることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	スマートフォンは毎回カバンの中に片づける。時計は別に持参する。 やむをえず欠席する場合は、欠席した回の内容を出席者から確認したうえで次回出席する。			
授業方法	演習方式で行なう。具体的な方法は初回に説明する。レポートとグループワークの講評を授業で行なう。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	授業への参加状況、レポート及びグループワークにおける積極性を評価する。出席が少ない場合は評価の対象とならない。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016	Oxford UP	Introduction to International Relations, 6th Edition	R. Jackson and G. Sorensen
	備考	教科書を持参した者にかぎり授業を受けることができる。ただし教科書を事前に購入する必要はない。詳しくは初回に説明する。		
参 考 書	授業で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜3限。不在の場合があるので事前に連絡すること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認する。（2時間）
	授業内容	授業の進め方を確認する。
	事後学習	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
2	事前学習	教科書のChapter 1 “Why Study IR?” 前半部について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書のChapter 1 “Why Study IR?” 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。（2時間）
3	事前学習	教科書のChapter 1 “Why Study IR?” 後半部について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書のChapter 1 “Why Study IR?” 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。（2時間）
4	事前学習	教科書のChapter 1 “Why Study IR?” 結論部について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書のChapter 1 “Why Study IR?” 結論部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。（2時間）

5	事前学習	教科書のChapter 2 “IR as an Academic Subject” 前半部について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書のChapter 2 “IR as an Academic Subject” 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。（2時間）
6	事前学習	教科書のChapter 2 “IR as an Academic Subject” 後半部について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書のChapter 2 “IR as an Academic Subject” 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。（2時間）
7	事前学習	教科書のChapter 2 “IR as an Academic Subject” 結論部について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書のChapter 2 “IR as an Academic Subject” 結論部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。（2時間）
8	事前学習	教科書のChapter 3 “Realism” 導入部について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書のChapter 3 “Realism” 導入部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。（2時間）
9	事前学習	教科書のChapter 3 “Realism” 前半部について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書のChapter 3 “Realism” 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。（2時間）
10	事前学習	教科書のChapter 3 “Realism” 後半部について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書のChapter 3 “Realism” 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。（2時間）
11	事前学習	教科書のChapter 3 “Realism” 結論部について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書のChapter 3 “Realism” 結論部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。（2時間）
12	事前学習	教科書のChapter 4 “Liberalism” 導入部について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書のChapter 4 “Liberalism” 導入部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。（2時間）
13	事前学習	教科書のChapter 4 “Liberalism” 前半部について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書のChapter 4 “Liberalism” 前半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。（2時間）
14	事前学習	教科書のChapter 4 “Liberalism” 後半部について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書のChapter 4 “Liberalism” 後半部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえり、あらためて教科書を読んで理解を深める。（2時間）
15	事前学習	教科書のChapter 4 “Liberalism” 結論部について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書のChapter 4 “Liberalism” 結論部についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	プレゼンテーションとディスカッションの内容をふりかえる。これまでの授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標を達成できたか自省する。（2時間）

科目名	政治経済専門研究A	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今日の日本が直面している様々な政策課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から理解する。					
授業目的・到達目標	今日の日本が直面している様々な政策課題について、第一に、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、第二に、グループワークでの討議を通じてより広い視野から理解する力を涵養することを目的とする。日本が直面している政策課題についての基礎的知識を習得したうえで、それらの政策課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになることを目標とする。関連DPおよびCP：政治経済学科 1, 2, 3, 4					
履修条件	特になし。					
授業方法	各テーマについて講義形式とグループワーク形式を組み合わせる。グループワークでは、グループ内で意見を出し合い、その話し合った内容について発表を行う。課題レポートの講評を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		2/3以上出席した者が成績評価対象となる。グループワークでの積極性および発表内容（20％）、課題レポートの内容（80％）で評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016年	八千代出版		『日本の政策課題』		岩崎正洋（編）
	備考					
参考書	授業時に適宜提示する。					
オフィスアワー	月曜日 12：15～13：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館4階9403） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。（2時間）
	授業内容	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法、参考文献等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書の第1章を読み、日本の少子化の現状とその原因について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「少子化（1）：講義」 日本の少子化の現状、少子化の原因となっている要因、および少子化に対する政府の対策がどのようなものであるのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の少子化の現状と政府による対策の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにした点をまとめる。（2時間）
3	事前学習	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第1章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	「少子化（2）：グループワーク・発表」 履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。グループワークを通じて、履修者は自らの考えを他者に対して論理的に説明する能力を育成することができる。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の少子化の現状と政府による対策の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにした点をまとめる。（2時間）

4	事前学習	教科書の第2章を読み、日本の生殖医療の現状について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「生殖医療（1）：講義」 日本の生殖医療の現状、優生思想の系譜、および今後の生殖医療の政治的課題について、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の生殖医療の現状および政治的課題の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。（2時間）
5	事前学習	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第2章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。（2時間）
	授業内容	「生殖医療（2）：グループワーク・発表」 履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。グループワークを通じて、履修者は自らの考えを他者に対して論理的に説明する能力を育成することができる。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の生殖医療の現状および政治的課題の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書の第3章を読み、日本の医師不足の現状について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「医師不足（1）：講義」 日本の医師不足をめぐる歴史的経緯と現状、医師政策に関係するステークホルダーの主張、および今後の医師政策をめぐる政治的課題について、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の医師不足の歴史的経緯と現状、医師政策をめぐる利害関係の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。（2時間）
7	事前学習	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第3章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。（2時間）
	授業内容	「医師不足（2）：グループワーク・発表」 履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。グループワークを通じて、履修者は自らの考えを他者に対して論理的に説明する能力を育成することができる。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の医師不足の歴史的経緯と現状、医師政策をめぐる利害関係の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書の第4章を読み、日本の公務員の現状や天下りの問題点について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「公務員（1）：講義」 日本の公務員制度の構造、公務員を取り巻く現状、および公務員制度をめぐる政治的課題について、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の公務員制度の現状と政治的課題の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。（2時間）
9	事前学習	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第4章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。（2時間）
	授業内容	「公務員（2）：グループワーク・発表」 履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。グループワークを通じて、履修者は自らの考えを他者に対して論理的に説明する能力を育成することができる。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の公務員制度の現状と政治的課題の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書の第5章を読み、日本の地方創生に関する歴史的経緯と現状について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「地方創生（1）：講義」 日本の地方創生の歴史的経緯と現状、今後の地方創生に関する政治的課題について、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の地方創生に関する歴史的経緯と現状について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。（2時間）
11	事前学習	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第5章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。（2時間）
	授業内容	「地方創生（2）：グループワーク・発表」 履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。グループワークを通じて、履修者は自らの考えを他者に対して論理的に説明する能力を育成することができる。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の地方創生の歴史的経緯と現状、および今後の地方創生に関する政治的課題について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書の第6章を読み、日本社会における格差の現状について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「格差社会（1）：講義」 日本社会の格差の現状、および日本で格差が生まれる背景について、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本社会の格差の現状とその背景について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかにになった点をまとめる。（2時間）

13	事前学習	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第6章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。(2時間)
	授業内容	「格差社会(2)：グループワーク・発表」 履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。グループワークを通じて、履修者は自らの考えを他者に対して論理的に説明する能力を育成することができる。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本社会の格差の現状とその背景の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。(2時間)
14	事前学習	教科書の第7章を読み、貧困とはどのような状態を意味するのか、そして世界および日本社会における貧困の現状がどのようなものであるのかについて自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。(2時間)
	授業内容	「貧困(1)：講義」 貧困とはどのような状況を意味し、世界および日本社会において貧困の現状がどのようなものであるのか、貧困が生まれる背景にはどのような要因が存在しているのかについて、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、世界および日本社会における貧困の現状とその背景について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。(2時間)
15	事前学習	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第7章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。(2時間)
	授業内容	「貧困(2)：グループワーク・発表」 履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。グループワークを通じて、履修者は自らの考えを他者に対して論理的に説明する能力を育成することができる。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、世界および日本社会における貧困の現状とその背景について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。(2時間)

科目名	政治経済専門研究A	担当者	楠谷 清	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座は、ゼミナールに代わる科目として設定されている。従って、受講生が少ないことが望ましいが、受講生の数の状況に応じて、授業の仕方が代わってくる。この講座は演習科目であるので、研究テーマを経済学及び応用経済学（財政学、公共経済学）に関するものとし、今日のアップツーデートなテーマを選び、受動的な講義形式ではなく受講生の能動的な発表とアクティブラーニングを目指して授業を展開する。					
授業目的・到達目標	受講生が、日本の財政に関する様々な問題意識を構築しその改善策を見いだすことを目的とする。 日本の財政が抱える諸問題に対し、受講生が理論的に解決策を説明できることを目標とする。 関連D P 及びC P：政治経済学科1， 2， 3， 4					
履修条件	経済学（ミクロⅠ、マクロⅠ）および財政学を履修していること。					
授業方法	受講生各人による研究発表、ディスカッションによって授業を進める。レポートの講評を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		レポート提出、発表の内容、授業への参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	教科書の特定、参考書の選定については、受講状況に応じて決定する。				
参 考 書	楠谷・戴下・川又・斎藤著『財政学入門』（八千代出版）、林宜嗣著『基礎コース 財政学 第3版』（新世社） 神野直彦著『財政学』（有斐閣）、井堀利宏著『基礎コース 公共経済学 第2版』（新世社）					
オフィスアワー	火曜日 15:00～16:00（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） kusuya.kiyoshi@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読む。参考書を手に入れ財政に関する様々な問題意識を構築する。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業方法、成績評価の方法等についてのガイダンスを行う。
	事後学習	授業で予定された研究テーマに関する情報を、書籍・新聞・政府発表資料（各省庁のHPなど）等から収集する。（2時間）
2	事前学習	テーマA（前回の授業で指定）についての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、パワーポイントのスライド及び配付レジュメを準備する。（2時間）
	授業内容	テーマAについて、指名された学生による報告発表、発表に対する受講生間での意見感想評価を含めてディスカッション。
	事後学習	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマAに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4用紙に発表者の感想評価、テーマに対する個人の意見をまとめ、次回提出に備える。（2時間）
3	事前学習	テーマB（前回の授業で指定）についての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、パワーポイントのスライド及び配付レジュメを準備する。（2時間）
	授業内容	テーマBについて、指名された学生による報告発表、発表に対する受講生間での意見感想評価を含めてディスカッション。
	事後学習	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマBに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4用紙に発表者の感想評価、テーマに対する個人の意見をまとめ、次回提出に備える。（2時間）
4	事前学習	テーマC（前回の授業で指定）についての考察、書籍・新聞・政府発表資料等の収集と要点整理、論点の整理・考察。 発表担当者は、パワーポイントのスライド及び配付レジュメを準備する。（2時間）
	授業内容	テーマCについて、指名された学生による報告発表、発表に対する受講生間での意見感想評価を含めてディスカッション。
	事後学習	授業ノート・配付された資料等を確認して、テーマCに関して自分なりの整理・意見をまとめる。 A 4用紙に発表者の感想評価、テーマに対する個人の意見をまとめ、次回提出に備える。（2時間）

科目名	政治経済専門研究A	担当者	佐藤 高尚	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	私たちは、眼前の紛争や貧困そして難民といったグローバルな問題に、どう向き合うべきでしょうか。他方、3.11以後の日本の政治や社会の変化を、どう理解すべきなのでしょう？そうした議論を、この授業では「共感（同感）」という観点から考えていきたいと思います。特にアダム・スミスの議論を中心的に取り上げ、そこから、グローバリゼーションや労働の価値、政府の役割など、今日と共通する課題を考えていきたいと思います。					
授業目的・到達目標	グローバルな課題をアダム・スミスと関連付けて考察しうる観点の養成を目的とします。グローバリゼーションの進展下での様々な政治・経済に関わる現象を読み解くための基本的な知識を修得するとともに、諸課題がその背後にある構造・システムとどのように関連しているかを理解し、説明できるようになることを目標とします。関連DPおよびCP：政治経済学科1, 2, 3, 4					
履修条件	必要な予備知識は、特にありません。積極的に参加しうる履修者を希望します。					
授業方法	講義を中心にして、演習、集団討議、小テスト、レポート提出等も適宜実施します。人数・習熟度により弾力的な授業運営を行います。フィードバックは、課題やテスト等の形態毎に、授業内もしくはポータルサイトで適時実施します。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		70%		講義や文献資料の正確な理解を評価の対象とします。	
	平常評価		30%		小テスト、報告、授業時の発言回数と内容、課題提出、受講態度などを評価の対象とします。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	適宜紹介します。				
参考書	適宜紹介しますが差し当たり以下を参照のこと。必ずしも購入を求めるものではありません。丸山徹『アダム・スミス『国富論』を読む』（岩波セミナーブックス S13）2011年。					
オフィスアワー	講義前後の当該講堂。火曜日17：50～18：20（休暇中を除く）。事前にアポイントメントを取ること。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読しておくこと。また、既修科目のテキストやノートを手掛かりに、それらとシラバスとの関連性を検討しておくこと（2時間）。
	授業内容	ガイダンス：授業の進め方、担当者の割り当て、成績評価基準についての説明等
	事後学習	アダム・スミスの『道徳感情論』と『国富論』には、現在入手可能なものでは、どのような翻訳があるのか、調べる。また日本におけるスミスの受容史を調べておくこと（2時間）。
2	事前学習	アダム・スミスの主要著作にはどのようなものがあるのか、またそれらの版について刊行年も含め調べておくこと（2時間）。
	授業内容	アダム・スミスの生涯と著作：スミスの主要著作と、各著作間の関係
	事後学習	スミスの主張で、現代に適用可能な部分を検討し整理しておくこと（2時間）。
3	事前学習	「資本主義」とは、そもそも何を意味するのか、複数の文献にあたり、調べておくこと（2時間）。
	授業内容	スミスの思想の時代的背景とスコットランド：当時のスコットランド課題&スミスは「純粋な資本主義」の擁護者？
	事後学習	スミスの主張で、賛成できる箇所・できない箇所を自分なりに検討し、整理しておくこと（2時間）。
4	事前学習	「グローバリゼーション」の概念について、どのような人が、どのような定義づけをしているか調べておくこと。複数の定義をおさえておくことが望ましい（2時間）。
	授業内容	グローバル時代に有効な「中立な観察者」の視点
	事後学習	スミスはどのようなプロセスで「中立」を担保しようとしているのか、整理しておくこと（2時間）。

5	事前学習	「富」（豊かさ）とは何か、自分なりに定義を考えてくること。また、古今の思想家は「富」をどのように定義しているか、調べてくること（2時間）。
	授業内容	『国富論』における「富」とは何か？：スミスの富の定義、国際体系と富
	事後学習	スミスの議論のどの部分が現代に応用しうるのかを検討すること（2時間）。
6	事前学習	分業のメリットとデメリットを自分なりに考えてくること。具体的事例を用いて説明できるようにしてくること（2時間）。
	授業内容	分業とその起源：分業論の思想史的系譜と、スミスの特異性
	事後学習	事前学習で調べた事例に、授業内容で扱ったスミスの議論はどのように関連付けることができるのか検討すること（2時間）。
7	事前学習	スミスは商品の「実質価格」と「名目価格」についてどのように説明しているのか、概要を調べてくること（2時間）。
	授業内容	価格論：実質価格、名目価格、労働価格、貨幣価格；商品の価格を構成するもの
	事後学習	前半のまとめとして、これまでの内容を振り返り、整理しておくこと（2時間）。
8	事前学習	前半の内容を振り返り、疑問点や理解が不十分な点を、確認しておくこと（2時間）。
	授業内容	資本の性格、蓄積、利用：資財の分類、通貨、生産的労働と非生産的労働（小括：中間試験の可能性あり）
	事後学習	スミスは生産的労働と非生産的労働の事例としてどのようなものを挙げていたか確認するとともに、現代特有の労働の在り方を例示し、上記分類のいずれに該当するかけ検討すること（2時間）。
9	事前学習	スミスとマルクスの「資本」の考え方を調べてくること（2時間）。
	授業内容	資本の性格、蓄積、利用（2）：資本と利子、資本のさまざまな用途
	事後学習	スミスの資本観は、現代に適用できるか否か、具体例とともに検討すること（2時間）。
10	事前学習	英国のEU離脱の背景と現状を調べてくること（2時間）。
	授業内容	国による豊かさへの道筋の違い：豊かさへの自然な道筋、ローマ帝国の崩壊後に生まれたヨーロッパの旧秩序と農業への障害
	事後学習	現代の「グローバリゼーション（もしくはグローバリズム）」や、「リージョナリズム」は、スミスの観点からはどのように分析可能か、自分なりに検討しておくこと（2時間）。
11	事前学習	G7を中心とする先進国の経済状況の概要を把握するとともに、それらの相違の原因を政治との関連で説明できるように調べておくこと（2時間）。
	授業内容	国による豊かさへの道筋の違い（2）：ローマ帝国崩壊後の都市の発生と発展、農村の発展に対する都市の商業の寄与
	事後学習	スミスの都市と農村をめぐる議論の現代的意義と限界はどこに見出せるのか、自分なりにまとめておくこと（2時間）。
12	事前学習	経済的グローバリズムの問題点を調べておくこと。また「重商主義」という語の意味を確認するとともに、スミスの時代において何が問題とされていたのかを確認しておくこと（2時間）。
	授業内容	政治経済学の諸体系：スミスの貿易論と植民地観
	事後学習	「ポスト・コロニアリズム」という語の意味を確認するとともに、その観点からスミスはどう評価するのか検討すること（2時間）。
13	事前学習	事前に具体的なテーマを示すので、それについて賛否両方の立場から、立論の根拠を複数考えてくること（2時間）。
	授業内容	ディベート（1）現代世界と「共感」―紛争と平和
	事後学習	自分とは異なる立場の主張の中から、説得力のある議論を取り上げ、自分自身がそのように評価する理由を検討すること（2時間）。
14	事前学習	事前に具体的なテーマを示すので、それについて賛否両方の立場から、立論の根拠を複数考えてくること（2時間）。
	授業内容	ディベート（2）3.11後の日本と「共感」
	事後学習	自分とは異なる立場の主張の中から、説得力のある議論を取り上げ、自分自身がそのように評価する理由を検討すること。 後半のまとめとして、これまでの内容を振り返り、整理しておくこと（2時間）。
15	事前学習	後半の内容を振り返り、疑問点や理解が不十分な点を、確認しておくこと（2時間）。
	授業内容	授業内試験、まとめ、授業評価
	事後学習	授業全体のまとめとして、これまでの内容を振り返り、整理すること（2時間）。

科目名	政治経済専門研究A	担当者	山本 直	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代世界のグローバルな政治経済情勢を多面的に読み解き、かつ展望するために必要な見方と考え方を身につける。				
授業目的・到達目標	現代世界のグローバルな政治経済情勢を多面的に読み解き、かつ展望するために必要な能力を養成することを目的とする。欧州諸国間で深化した国際統合の歴史を学ぶことを通じて、近代国家の性格と変質を筋道立てて考え説明する能力を身につけることを到達目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科1, 2, 3, 4				
履修条件	スマートフォンは毎回カバンの中に片づける。時計は別に持参する。 やむをえず欠席する場合は、欠席した回の内容を出席者から確認したうえで次回出席する。				
授業方法	演習方式で行なう。具体的な方法は初回に説明する。プレゼンテーションの講評は授業で行なう。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		0%		
	平常評価		100%		授業への参加度、プレゼンテーション、授業内試験により評価する。出席が少ない場合は評価の対象とならない。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年	ミネルヴァ書房		『欧州統合史 二つの世界大戦からブレグジットまで』	益田実・山本健編著
	備考	なるべく早く購入し、初回に持参すること。教科書を持参した履修生のみが受講できる。			
参考書	辰巳浅嗣編著『EU 欧州統合の現在（第3版）』創元社、2012年。 山本直『EU共同体のゆくえ』ミネルヴァ書房、2018年ほか授業で紹介する。				
オフィスアワー	火曜3限。不在の場合があるので事前に連絡すること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を購入し持参する。シラバスを確認する。（2時間）
	授業内容	授業の進め方を確認する。
	事後学習	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
2	事前学習	教科書を大まかに読み終える。授業の進め方についてあらためて確認する。（2時間）
	授業内容	グループ報告の準備を行う。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
3	事前学習	教科書の序章「世界史の中の欧州統合」について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の序章「世界史の中の欧州統合」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
4	事前学習	教科書の第1章「超国家的統合の始動と欧州石炭鉄鋼共同体の形成」について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の第1章「超国家的統合の始動と欧州石炭鉄鋼共同体の形成」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）

5	事前学習	教科書の第2章「欧州防衛共同体の挫折と欧州経済共同体の形成」について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の第2章「欧州防衛共同体の挫折と欧州経済共同体の形成」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
6	事前学習	教科書の第3章「加盟国拡大と政治協力の起点」について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の第3章「加盟国拡大と政治協力の起点」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
7	事前学習	教科書の第4章「草創期の欧州経済共同体」について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の第4章「草創期の欧州経済共同体」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
8	事前学習	ビデオ学習について準備する。（2時間）
	授業内容	1950年代から1980年代の欧州統合を題材とするビデオを放映し、授業の理解を深める。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
9	事前学習	教科書の第5章「欧州統合の新段階」について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の第5章「欧州統合の新段階」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
10	事前学習	教科書の第6章「欧州統合の再出発」について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の第6章「欧州統合の再出発」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
11	事前学習	教科書の第7章「冷戦後世界へのダイビング」について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の第7章「冷戦後世界へのダイビング」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
12	事前学習	ビデオ学習について準備する。（2時間）
	授業内容	1990年代から2010年代の欧州統合を題材とするビデオを放映し、授業の理解を深める。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
13	事前学習	教科書の第8章「ビッグ・バン拡大からリスボン条約へ」について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の第8章「ビッグ・バン拡大からリスボン条約へ」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
14	事前学習	教科書の第9章「試練の中の欧州連合」について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の第9章「試練の中の欧州連合」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。欧州統合の全体像を理解し、グローバルな政治経済情勢を展望する。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業の内容をふりかえり、試験に向けて準備する。（2時間）
	授業内容	試験を受け、これまでの授業の内容をあらためてふりかえる。
	事後学習	授業をふりかえり、この授業の目的と到達目標を達成できたか自省する。（2時間）

科目名	政治経済専門研究B	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今日の日本が直面している様々な政策課題について、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、グループワークでの討議を通じてより広い視野から理解する。							
授業目的・到達目標	今日の日本が直面している様々な政策課題について、第一に、講義形式の授業を通じて基礎的な知識を獲得したうえで自らの意見・考えを論理的に構築し、第二に、グループワークでの討議を通じてより広い視野から理解する力を涵養することを目的とする。日本が直面している政策課題についての基礎的知識を習得したうえで、それらの政策課題について自らの考え・意見を論理的に構築することができるようになることを目標とする。関連DPおよびCP：政治経済学科 1, 2, 3, 4							
履修条件	特になし。							
授業方法	各テーマについて講義形式とグループワーク形式を組み合わせる。グループワークでは、グループ内で意見を出し合い、その話し合った内容について発表を行う。課題レポートの講評を行う。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験							
	平常評価		100%		2/3以上出席した者が成績評価対象となる。グループワークでの積極性および発表内容（20％）、課題レポートの内容（80％）で評価する。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	2016年		八千代出版		『日本の政策課題』		岩崎正洋（編）	
	備考							
参考書	授業時に提示する。							
オフィスアワー	月曜日 12：15～13：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館4階9403） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。（2時間）
	授業内容	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法、参考文献等について説明し、履修者が授業の準備を具体的にできるようにする。
	事後学習	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書の第8章を読み、日本における外国人労働者の現状、および日本の外国人労働者政策の特徴について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「外国人労働者（1）：講義」 日本の外国人労働者をめぐる問題状況、および日本の外国人労働者政策の特徴がどのようなものであるのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の外国人労働者をめぐる問題状況と政策的対応の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
3	事前学習	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第8章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	「外国人労働者（2）：グループワーク・発表」 履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。グループワークを通じて、履修者は自らの考えを他者に対して論理的に説明する能力を育成することができる。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の外国人労働者をめぐる問題状況と政府による外国人労働者政策の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）

4	事前学習	教科書の第9章を読み、世界および日本における観光をめぐる問題状況、日本の観光政策の特徴、グローバル時代の観光をめぐる功罪について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「観光立国（1）：講義」 世界および日本における観光をめぐる問題状況、日本の観光政策の特徴、グローバル時代の観光をめぐる功罪について、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、世界および日本の観光をめぐる問題状況、日本の観光政策の特徴、グローバル時代の観光をめぐる功罪について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
5	事前学習	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第9章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。（2時間）
	授業内容	「観光立国（2）：グループワーク・発表」 履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。グループワークを通じて、履修者は自らの考えを他者に対して論理的に説明する能力を育成することができる。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、世界および日本の観光をめぐる問題状況、日本の観光政策の特徴、グローバル時代の観光をめぐる功罪について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書の第10章を読み、世界および日本におけるエネルギーをめぐる問題状況、とくに石油をめぐる現状および将来の政治的課題について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「エネルギー問題（1）：講義」 世界および日本におけるエネルギーをめぐる問題状況、とくに石油をめぐる現状および将来の政治的課題について、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、世界および日本におけるエネルギーをめぐる問題状況、とくに石油をめぐる現状および将来の政治的課題について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
7	事前学習	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第10章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。（2時間）
	授業内容	「エネルギー問題（2）：グループワーク・発表」 履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。グループワークを通じて、履修者は自らの考えを他者に対して論理的に説明する能力を育成することができる。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、世界および日本におけるエネルギーをめぐる問題状況、とくに石油をめぐる現状および将来の政治的課題について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書の第11章を読み、日本における防災をめぐる政治的課題、政策的対応および地域コミュニティの活動のあり方について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「防災（1）：講義」 日本における防災をめぐる政治的課題、政策的対応および地域コミュニティの活動のあり方について、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本における防災をめぐる政治的課題、政策的対応および地域コミュニティの活動のあり方について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
9	事前学習	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第11章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。（2時間）
	授業内容	「防災（2）：グループワーク・発表」 履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。グループワークを通じて、履修者は自らの考えを他者に対して論理的に説明する能力を育成することができる。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本における防災をめぐる政治的課題、政策的対応および地域コミュニティの活動のあり方について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書の第13章を読み、ソーシャルメディアが影響力を発揮した近年の政治的変動、およびソーシャルメディアをめぐる政治的課題について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「ソーシャルメディアと政治（1）：講義」 「アラブの春」などソーシャルメディアが影響力を発揮した近年の政治的変動、およびソーシャルメディアをめぐる政治的課題について、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、ソーシャルメディアが影響力を発揮した近年の政治的変動、およびソーシャルメディアをめぐる政治的課題について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
11	事前学習	前回の授業での講義内容を踏まえて教科書の第13章を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。（2時間）
	授業内容	「ソーシャルメディアと政治（2）：グループワーク・発表」 履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。グループワークを通じて、履修者は自らの考えを他者に対して論理的に説明する能力を育成することができる。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、ソーシャルメディアが影響力を発揮した近年の政治的変動、およびソーシャルメディアをめぐる政治的課題について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
12	事前学習	事前に配布する「グローバル化が当たり前なのか？」という論考を読み、グローバル化をどのように捉えることができるのか、またグローバル化した時代における国家の役割はどのようなものかについて自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「グローバル化が当たり前なのか？（1）：講義」 グローバル化をどのように捉えることができるのか、またグローバル化した時代における国家の役割はどのようなものかについて、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、グローバル化をどのように捉えることができるのか、またグローバル化した時代における国家の役割はどのようなものかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）

13	事前学習	前回の授業での講義内容を踏まえて「グローバル化が当たり前なのか？」を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。（2時間）
	授業内容	「グローバル化が当たり前なのか？（2）：グループワーク・発表」 履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。グループワークを通じて、履修者は自らの考えを他者に対して論理的に説明する能力を育成することができる。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、グローバル化をどのように捉えることができるのか、またグローバル化した時代における国家の役割はどのようなものかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
14	事前学習	事前に配布する「国会をいかに活性化するか？」という論考を読み、日本の国会をめぐる問題状況とその背景、とくに国会における審議の形骸化をもたらした要因について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「国会をいかに活性化するか？（1）：講義」 日本の国会をめぐる問題状況とその背景、とくに国会における審議の形骸化をもたらした要因について、履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の国会をめぐる問題状況とその背景、とくに国会における審議の形骸化をもたらした要因について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
15	事前学習	前回の授業での講義内容を踏まえて「国会をいかに活性化するか？」を読み返して理解を深めると同時に、前回授業で配布したレジュメに示されているグループワークの課題について、教科書の参考文献に挙げられている書籍などを読み自分の考えを述べられるようにまとめてくる。（2時間）
	授業内容	「国会をいかに活性化するか？（2）：グループワーク・発表」 履修者をランダムに5人程度のグループに分け、グループワークの課題について意見を出し合い、最後にグループごとの発表を行う。グループワークを通じて、履修者は自らの考えを他者に対して論理的に説明する能力を育成することができる。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、およびグループワークでの討議内容をふりかえりながら、日本の国会をめぐる問題状況とその背景、とくに国会における審議の形骸化をもたらした要因について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）

科目名	政治経済専門研究B	担当者	佐藤 高尚	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	アダム・スミスを「経済学の父」として覚えている方も多いことかと思ひます。しかし彼はそれのみならず、政治に関わる議論もしています。この授業では、スミスの『法学講義』と『国富論』を手がかりに、彼における政治の問題を法や経済との関係で考察していく予定です。そこからは、近年の市場を重視する自由主義とは違つた社会像が導き出せるでしょう。スミスの政治の議論を考えることで、現在の私たちの社会のありようをも考えてみたいと思ひます。					
授業目的・到達目標	グローバルな課題をアダム・スミスと関連付けて考察しうる観点の養成を目的とします。グローバリゼーションの進展下での様々な政治・経済に関わる現象を読み解くための基本的な知識を修得するとともに、諸課題がその背後にある構造・システムとどのように関連しているかを理解し、説明できるようになることを目標とします。関連DPおよびCP：政治経済学科1, 2, 3, 4					
履修条件	必要な予備知識は、特にありません。積極的に参加しうる履修者を希望します。					
授業方法	講義を中心にして、演習、集団討議、小テスト、レポート提出等も適宜実施します。人数・習熟度により弾力的な授業運営を行います。フィードバックは、課題やテスト等の形態毎に、授業内もしくはポータルサイトで適時実施します					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		70%		講義や文献資料の正確な理解を評価の対象とします。	
	平常評価		30%		小テスト、報告、授業時の発言回数と内容、課題提出、受講態度などを評価の対象とします。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	適宜紹介します。				
参考書	適宜紹介しますが差し当たり以下を参照のこと。必ずしも購入を求めるものではありません。小川仁志『アダム・スミス 人間の本質――『道徳感情論』に学ぶよりよい生き方』、ダイヤモンド社、2014年。					
オフィスアワー	講義前後の当該講堂。火曜日17：50～18：20（休暇中を除く）。事前にアポイントメントを取ること。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読しておくこと。また、既修科目のテキストやノートを手掛かりに、それらとシラバスとの関連性を検討しておくこと（2時間）。
	授業内容	ガイダンス：授業の進め方、担当者の割り当て、成績評価基準についての説明等
	事後学習	アダム・スミスの生涯について確認しておくこと。またアダム・スミスの『法学講義』と『国富論』には、現在入手可能なものでは、どのような翻訳があるのか、調べること。加えて、日本におけるスミスの受容史を調べておくこと（2時間）
2	事前学習	スミスの『法学講義』の時代背景を調べておくこと。特に18世紀のスコットランドの状況をイングランドとの関連で把握しておくこと（2時間）。
	授業内容	『法学講義』行政論を読む意義
	事後学習	スミスを読むの現代的意義を、日本の事例とどのように関連付けることができるのか、検討すること（2時間）。
3	事前学習	LJ（A）とLJ（B）とは何か、その違いは何かを調べてくること。また、『法学講義』の「法学」と、現代の「法学」との異同を検討すること（2時間）。
	授業内容	『法学講義』行政論の成立過程と構成
	事後学習	スミスにおいて、倫理学、法学、経済学がどのように論理的に結びついているのかを整理し、そのなかで政治はどのように位置づけることができるのかを検討すること（2時間）。
4	事前学習	『道徳感情論』・『法学講義』の関係性について、著作の内容・成立史・そこで示されている政治的論点の観点から、調べてくること（2時間）。
	授業内容	『法学講義』行政論の2つの主題―富の性質と富の原因
	事後学習	『道徳感情論』・『法学講義』・『国富論』の関係性について、著作の内容・成立史・そこで示されている政治的論点の観点から、整理しておくこと（2時間）。

5	事前学習	スミスは、どのような人々を社会の担い手として考えていたか、調べておくこと。特に「商人」に対する彼のプラス・イメージとマイナス・イメージが具体的にどのようなものなのかを確認しておくこと（2時間）。
	授業内容	『法学講義』：市民社会の原理、権威の評価、統治と功利の関係性
	事後学習	スミスの主張する市民社会の原理の現代的意義を検討すること。特に21世紀の日本の事例を取り上げ、講義の内容との関連付けを試（2時間）。
6	事前学習	スミスの主張する市民社会の原理の問題点を検討しておくこと。先進国と途上国とのケースに分けて、スミスの議論の適用可能性を考察しておくこと（2時間）。
	授業内容	スミスにおける「統治」の概念とその特殊性：統治の成立と起源、統治論の政治学的意義
	事後学習	スミスと社会契約論者（ホッブズ、ロック、ルソー）との違いを確認しておくこと。社会契約論者に対するヒュームの評価とスミスの評価とを比較し、異同を調べておくこと（2時間）。
7	事前学習	君主政・共和政・民主政の違いを調べてくること。スミスの時代においては、それらがどのような評価を得ていたのか、スミスの著作を手がかりに確認しておくこと（2時間）。
	授業内容	スミスの政体論：『法学講義』における共和政・君主政・軍事的君主政の評価とその位置づけ、『国富論』における各政体の評価
	事後学習	前半のまとめとして、これまでの内容を振り返り、整理しておくこと（2時間）。
8	事前学習	当時のヨーロッパの歴史（18世紀）を、英国を中心に概観してくること。特にどのような戦争が当時行われ、それが英国政治にどのような影響をもたらしたのかを確認しておくこと（2時間）。
	授業内容	スミスのヨーロッパ観：イングランドのヨーロッパにおける位置づけ、イングランドとスコットランドとの相違（小括：中間試験の可能性あり）
	事後学習	スミスの置かれた状況の特殊性とは何かを確認しておくこと。特に議会連合前後のスコットランドのイングランドの関係の変化がなにか、それをスミスはどう理解しているのかを整理しておくこと（2時間）。
9	事前学習	スミスの主権者観を検討し、自分なりに賛否の理由を考えてくること（2時間）。
	授業内容	主権者の権利と市民権：主権者の権利、市民権、それぞれの『法学講義』・『国富論』における説明
	事後学習	スミスの市民権の議論の現代的意義を検討すること（2時間）。
10	事前学習	「安全保障」の概念について、複数調べてくること（2時間）。
	授業内容	スミスの「安全保障」観：統治の役割としての清潔と安全保障、スミスにおける多様な「安全保障」観およびそれと統治の関係
	事後学習	現代の国際政治や国際関係論の観点からは、スミスの議論をどのように評価することができるのか検討すること。特に「人間の安全保障」の議論の中でなぜスミスが取り上げられるのかを、調べてくること（2時間）。
11	事前学習	国際関係観としてのホッブズの伝統、グロティウスの伝統、カント的伝統について調べてくること。また、国際政治におけるリベラリズムとリアリズムとが、前述の伝統と結びつきうるか否かを確認すること（2時間）。
	授業内容	スミスにおける国際関係観：軍備の役割とその意義、常備軍と民兵の評価、グロティウスの国際法とスミス、ヨーロッパにおける中立国の役割
	事後学習	上記の伝統とスミスとの関係性について検討すること（2時間）。
12	事前学習	現代の国内外における財政をめぐる問題としてどのようなものがあるのか調べてくること（2時間）。
	授業内容	スミスの公共事業論：支出対象としての防衛と司法、公共事業に対するスミスの評価、「公共」の問題としての教育
	事後学習	事前学習で調べた事例に、授業内容で扱ったスミスの議論はどのように関連付けることができるのかを検討すること（2時間）。
13	事前学習	事前に具体的なテーマを示すので、それについて賛否両方の立場から、立論の根拠を複数考えてくること（2時間）。
	授業内容	ディベート（1）ネオリベラリズムへの賛否
	事後学習	自分とは異なる立場の主張の中から、説得力のある議論を取り上げ、自分自身がそのように評価する理由を検討すること（2時間）。
14	事前学習	事前に具体的なテーマを示すので、それについて賛否両方の立場から、立論の根拠を複数考えてくること（2時間）。
	授業内容	ディベート（2）ポピュリズムと排外主義
	事後学習	自分とは異なる立場の主張の中から、説得力のある議論を取り上げ、自分自身がそのように評価する理由を検討すること。後半のまとめとして、これまでの内容を振り返り、整理しておくこと（2時間）。
15	事前学習	後半の内容を振り返り、疑問点や理解が不十分な点を、確認しておくこと（2時間）。
	授業内容	授業内試験、まとめ、授業評価
	事後学習	授業全体のまとめとして、これまでの内容を振り返り、整理すること（2時間）。

科目名	政治経済専門研究B(選挙制度論)	担当者	安野 修右	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講座はゼミナールに代わる科目であると想定されている。ゆえに基本的には少人数で授業を行うことを前提としているが、受講生の数に応じた授業内容にすることが求められる。本講座は演習科目であるため、授業のテーマと文献を設定したうえで、内容の発表など受講生の能動的な参加を念頭において授業を展開する。				
授業目的・到達目標	日本の政治現象に対する問題意識を持ち、その問題に対して能動的に学習し、自分なりの結論を導き出す能力を養成することを目的としている。具体的には、研究テーマに沿って、受講生自身がテーマに関する調査を行い、そのテーマに対してどのようなことが判明したのかについて、レジュメ等を使って発表することができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：政治経済学科1，2，3，4				
履修条件	特になし。ただし授業内容は選挙制度論に関連したものを取扱う予定である。				
授業方法	原則的に受講生による発表にもとづく授業を行う。なおレジュメなどの資料配布については、主にポータルシステムを介して行う予定である。レジュメの講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	発表の内容、授業への参加度などにもとづき評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書・参考書の決定については、最終的な受講生の数などを考慮して決定する。			
参考書	大山礼子『政治を再建する、いくつかの方法：政治制度から考える』（日本経済新聞出版社、2018年）、清水真人『平成デモクラシー史』（筑摩書房、2018年）、中北浩爾『自民党政治の変容』（NHK出版、2014年）。				
オフィスアワー	火曜の昼休憩時に研究室にて。事前の予約は原則不要。だが相談内容等について予め連絡があった方が適切な対応はしやすい。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、講義の流れなどを確認する。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、参考書、授業の方針、成績評価の方法などについてのガイダンスを行う。
	事後学習	授業で決定された研究テーマに関する資料を書籍・論文・雑誌などを用い収集する。（2時間）
2	事前学習	選定された教科書を入手し、目次・内容を確認する。（2時間）
	授業内容	選定された教科書の概要について、講座担当者がレジュメなどを用い講義を行う。その後、講義の内容・意見・感想について講義担当者及び受講生間でディスカッションを行う。その後、講座全体を通しての報告の段取りを決定する。
	事後学習	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び講義内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。（2時間）
3	事前学習	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。
	事後学習	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。（2時間）
4	事前学習	受講者全体：教科書の該当部分を熟読し、自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：発表に必要な配布レジュメを作成・準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の該当部分について、担当学生による発表、発表内容に対する意見・感想について講義担当者及び受講生をふまえてディスカッションを行う。
	事後学習	受講者全体：教科書及び講義内容などを確認し、改めて当該報告に対する自分の意見をまとめる。 次回発表担当者：教科書及び報告内容などを確認し、次回報告内容に関する自身の考えを整理し、報告に備える。（2時間）

科目名	政治経済専門研究B	担当者	山本 直	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	現代世界にみられるグローバルな秩序を多面的に読み解き、かつ展望するために必要な見方と考え方を身につける。			
授業目的・到達目標	現代世界にみられるグローバルな秩序を多面的に読み解き、かつ展望するために必要な能力を養成することを目的とする。人類社会の発達、ジェンダー、貨幣、帝国、宗教を学ぶことを通じて、現代の国際秩序を筋道立てて考え説明する能力を身につけることを到達目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科1, 2, 3, 4			
履修条件	スマートフォンは毎回カバンの中に片づける。時計は別に持参する。 やむをえず欠席する場合は、欠席した回の内容を出席者から確認したうえで次回出席する。			
授業方法	演習方式で行なう。具体的な方法は初回に説明する。プレゼンテーションとレポートの講評も授業で行なう。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業への参加度、プレゼンテーション、レポートにより評価する。出席が少ない場合は評価の対象とならない。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年	河出書房新社	『サピエンス全史 文明の構造と人類の幸福』上巻	ユヴァル・ノア・ハラリ
	2016年	河出書房新社	『サピエンス全史 文明の構造と人類の幸福』下巻	ユヴァル・ノア・ハラリ
	備考	上下巻ともになるべく早く購入し、いずれも初回に持参すること。教科書を持参した履修生のみが受講できる。		
参考書	授業で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜3限（13:00-14:30）。研究室にて。不在の場合があるので事前に連絡すること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容		
1	事前学習	教科書を上下巻ともに購入し、いずれも初回に持参する。上巻の「歴史年表」（9-11ページ）を読んで印象に残ったことを2-3行程度ノートに書き留める。遅くとも2回目の授業の開始時までには大まかに読み終える。（2時間）	
	授業内容	事前学習でノートに書き留めたことを発表する。授業の進め方を確認する。	
	事後学習	シラバスと授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）	
2	事前学習	教科書の上下巻を大まかに読み終える。（2時間）	
	授業内容	グループ報告の準備を行う。	
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）	
3	事前学習	教科書の第1章「唯一生き延びた人類種」と第2章「虚構が協力を可能にした」について準備する。（2時間）	
	授業内容	教科書の第1章「唯一生き延びた人類種」と第2章「虚構が協力を可能にした」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）	
4	事前学習	教科書の第3章「狩猟採集民の豊かな暮らし」と第4章「史上最も危険な種」について準備する。（2時間）	
	授業内容	教科書の第3章「狩猟採集民の豊かな暮らし」と第4章「史上最も危険な種」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。	
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）	

5	事前学習	教科書の第5章「農耕がもたらした繁栄と悲劇」と第6章「神話による社会の拡大」について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の第5章「農耕がもたらした繁栄と悲劇」と第6章「神話による社会の拡大」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
6	事前学習	教科書の第7章「書記体系の発明」と第8章「想像上のヒエラルキーと差別」について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の第7章「書記体系の発明」と第8章「想像上のヒエラルキーと差別」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
7	事前学習	教科書の第8章「想像上のヒエラルキーと差別」についてあらためて準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の第8章「想像上のヒエラルキーと差別」について補足し、さらに理解を深める。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
8	事前学習	教科書の第9章「統一へ向かう世界」と第10章「最強の征服者、貨幣」について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の第9章「統一へ向かう世界」と第10章「最強の征服者、貨幣」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
9	事前学習	教科書の第11章「グローバル化を進める帝国のビジョン」について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の第11章「グローバル化を進める帝国のビジョン」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
10	事前学習	教科書の第12章「宗教という超人的秩序」と第13章「歴史の必然と謎めいた選択」について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の第12章「宗教という超人的秩序」と第13章「歴史の必然と謎めいた選択」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
11	事前学習	教科書の第14章「無知の発見と近代科学の成立」と第15章「科学と帝国の融合」について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の第14章「無知の発見と近代科学の成立」と第15章「科学と帝国の融合」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
12	事前学習	教科書の第16章「拡大するパイという資本主義のマジック」と第17章「産業の推進力」について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の第16章「拡大するパイという資本主義のマジック」と第17章「産業の推進力」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
13	事前学習	教科書の第18章「国家と市場経済がもたらした世界平和」について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の第18章「国家と市場経済がもたらした世界平和」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
14	事前学習	教科書の第19章「文明は人間を幸福にしたのか」について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の第19章「文明は人間を幸福にしたのか」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標をあらためて確認する。（2時間）
15	事前学習	教科書の第20章「超ホモ・サピエンスの時代へ」について準備する。（2時間）
	授業内容	教科書の第20章「超ホモ・サピエンスの時代へ」についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。
	事後学習	授業の内容をふりかえり、この授業の目的と到達目標を達成できたか自省する。（2時間）

科目名	政治コミュニケーション	担当者	三谷 文栄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	メディアが政治に関して報道することはいかなる意味があるのか。この講義では、戦後日本の政治とメディアの関係についての基礎知識を学んだ上で、メディアが様々な政治的・社会的な問題を報道することが、民主主義社会においていかなる意味を有するのかを考えていく。				
授業目的・到達目標	戦後日本の政治とメディアの関係についての基礎知識を養成することを目的とする。 政治とメディアに関する様々な議論を学ぶことを通じて、政治的・社会的問題の展開にメディアやコミュニケーションが重要な役割を果たしていることを理解できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：新聞学科1， 2， 6				
履修条件	メディア・コミュニケーションの科学A Bの履修を終えていることが望ましい。				
授業方法	授業は講義形式で行う。進行に応じて映像資料を用いる。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		80%		期末に行う試験によって評価する。後日ポータルサイトに解説を配信する。 (場合によっては定期試験は行わずレポートで評価する)
	平常評価		20%		講義内での質問によって評価する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	授業内で資料を配布する。			
参考書	適宜紹介する。				
オフィスアワー	毎週水曜日の14時半～16時 できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認すること（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	授業内で配布した資料を読むこと（2時間）
2	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーションの基本的な考え方について
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
3	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	戦後日本の政治とメディア（1）
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
4	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	戦後日本の政治とメディア（2）
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）

5	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	戦後日本の政治とメディア（3）
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
6	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	ニュースとは何か
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
7	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	世論とは何か
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
8	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	政治シンボルと儀礼
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
9	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	メディア・イベント
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
10	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	物語分析・言説分析
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
11	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	メディア・フレーム論
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
12	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	映像資料（1）
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
13	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	映像資料（2）
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
14	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	政治とメディアの今日的課題
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
15	事前学習	これまでの授業のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	これまでの授業を見直し、抱いた疑問が解消されたのかを再確認すること（2時間）

科目名	政治制度論	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	新制度論と呼ばれる一連の理論・分析枠組みについて、伝統的な制度論との対比を明確にしながら説明する。				
授業目的・到達目標	1980年代に政治学に登場した「新制度論」と呼ばれる理論的潮流について、伝統的な制度論との相違を踏まえ、そこに含まれる一連の理論や分析枠組みの習得を目的とする。伝統的制度論と新制度論との相違を明確に認識したうえで、新制度論の理論・分析枠組みを用いて、現実政治の諸問題について客観的・批判的に観察し、その本質を理解し説明することができるようになることを目標とする。関連DPおよびCP：政治経済学科 1, 2, 3 新聞学科 1, 5 公共政策学科 1, 2, 3, 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式で進める。 履修者にはレジュメを配布し、説明はスライド（パワーポイント資料）を使用する。 授業内に試験を行い解説する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	2/3以上出席した者が成績評価対象となる。学んだ知識を正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参 考 書	授業時に提示する。				
オフィスアワー	月曜日 12：15～13：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館4階9403） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。（2時間）
	授業内容	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法、参考文献等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	参考文献などにあたり、アリストテレスやホッブス、ロック、ルソー、モンテスキューがどのような議論を展開していたのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「旧制度論と新制度論（1）」 伝統的な政治制度論（旧制度論）として位置づけられる研究として、アリストテレスやホッブス、ロック、ルソー、モンテスキューの議論がどのような特徴をもつものであったのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、旧制度論として位置づけられる理論や分析枠組みの特徴について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
3	事前学習	参考文献などにあたり、政治学における旧制度論から行動論・合理的選択論への移り変わりについて自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「旧制度論と新制度論（2）」 政治学における理論的潮流の変化として、旧制度論からリアリズム、科学的政治学、そして現代政治学（行動論や合理的選択論）への移り変わりがどのようにして起きたのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、政治学における旧制度論から現代政治学への変動の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）

4	事前学習	参考文献などにあたり、現代政治学にはどのような特徴が見られるのか、新制度論と呼ばれる理論的潮流にはどのような特徴が見られるのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「旧制度論と新制度論（3）」 マーチ&オルセンが指摘した現代政治学の特徴および欠点がどのようなものであるのか、新たに登場した新制度論にはどのような理論的特徴があり、またどのような学派が存在しているのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、現代政治学の特徴と欠点、新制度論の理論的特徴と学派について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
5	事前学習	参考文献などにあたり、マーチ&オルセンの提唱する新制度論（規範的制度論）が、制度をどのように捉え、どのような立場から政治的事象の分析を行うのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「新制度論のルーツ（1）」 マーチ&オルセンの提唱する新制度論（規範的制度論）は、制度をどのように捉えているのか、そして政治的事象をどのような枠組みで理解しようとするのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、マーチ&オルセンの規範的制度論の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
6	事前学習	参考文献などにあたり、マーチ&オルセンの提唱する新制度論（規範的制度論）には、制度の変化をどのような視点から分析するのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「新制度論のルーツ（2）」 マーチ&オルセンの規範的制度論では状況の変化に対して政治制度がどのように対応すると理解しているのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、マーチ&オルセンの規範的制度論の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
7	事前学習	参考文献などにあたり、合理的選択制度論がどのような考え方に立脚しているのか、制度をどのように捉えているのかという点を自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「合理的選択論と制度論（1）」 合理的選択制度論が、どのような考え方に立脚し、どのようにして制度が形成されると理解しているのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、合理的選択制度論の基本的な考え方と制度の形成に関する要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
8	事前学習	参考文献などにあたり、本人-代理人モデル（プリンシパル・エージェント・モデル）とはどのようなモデルであるのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「合理的選択論と制度論（2）」 本人-代理人モデルの基本的な考え方がどのようなものであり、本人-代理人モデルの視点からは民主主義はどのようなシステムと理解できるのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、本人-代理人モデルに関する要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
9	事前学習	参考文献などにあたり、国家論アプローチの特徴およびアクター中心のアプローチの特徴について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「歴史的制度論（1）」 国家論とはどのような特徴をもち、なぜ登場してきたのか、そしてアクター中心のアプローチにはどのような特徴があるのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、国家論およびアクター中心のアプローチの要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
10	事前学習	参考文献などにあたり、歴史的制度論がどのようなスタンスに立ち、どのようなアプローチをとるのかについて自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「歴史的制度論（2）」 歴史的制度論の基本的なアプローチの特徴がどのようなものであるか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、歴史的制度論の基本的なアプローチの要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
11	事前学習	参考文献などにあたり、歴史的制度論の鍵概念である「経路依存性」とはどのような概念であるのか、また歴史的制度論では制度の変化をどのように捉えるのかという点について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「歴史的制度論（3）」 歴史的制度論の鍵概念である「経路依存性」とはどのような概念であるのか、歴史的制度論は制度の変化をどのように捉えるのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、経路依存性に関する要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
12	事前学習	参考文献などにあたり、社会学的制度論が制度をどのように捉えているのか、またどのような枠組みに基づいて政治的事象を分析するのかという点について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「社会学的制度論（1）」 社会学的制度論では、制度概念をどのようなもの捉えているのか、そして個人の行動に対して制度はどのような影響を及ぼすと捉えているのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、社会学的制度論の制度概念および行動に及ぼす制度の影響に関する要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
13	事前学習	参考文献などにあたり、社会学的制度論が提起する「制度の同型化」について自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「社会学的制度論（2）」 社会学的制度論が提起する「制度の同型化」とはどのようなロジックであるのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、社会学的制度論で提起される「制度の同型化」に関する要点をまとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）

14	事前学習	第2回から第13回まで講義で配布したレジュメ、自身でまとめたノートやメモ読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。（2時間）
	授業内容	「講義のまとめ」 第2回から第13回までの講義をふりかえり、各回での議論の要点について解説を行い、履修者が全体の議論の流れ、および各回で提示された理論やモデルについて説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、各回で提示された理論やモデルがどのようなものであるのかについて、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げられている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
15	事前学習	第2回から第13回まで講義で配布したレジュメ、自身でまとめたノートやメモ読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。（2時間）
	授業内容	「授業内試験および解説」 この講義で説明してきた理論やモデルについて正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その解説を行う。
	事後学習	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのか確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。（2時間）

科目名	政治哲学	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	政治哲学は政治学における「べき」論、すなわち、どのような公共政策や政治制度が望ましいかについて考える分野である。しかし、政策担当者（政治家・官僚）が抱く「べき」論は、一私人が抱くそれとは必ずから異なる。本講義では、どのような政治目的を追求すべきかという観点から、幸福、自由、平等といった政治哲学の規範的概念について議論する。また、内容に関連する歴史的事例・小説・映画なども積極的に紹介したい。				
授業目的・到達目標	【授業目的】政治哲学の諸概念について理解することを目的とする。 【到達目標】1. 政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。2. 得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。対応DP及ひCP：政治経済学科1,3 公共政策学科1,2,3,4				
履修条件	なし				
授業方法	毎回プリントを配布すると共に、パワーポイントを用いて授業を進める。また、定期的に小テストを実施し、受講者の授業理解を確認する。フィードバックは授業内で小テストの解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	期末に定期試験を実施する。論述式の試験により、講義内容の理解度を総合的に評価する。	
	平常評価		30%	小テストを授業時間内に計3回実施する。実施日は当日決める。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	なし			
参考書	授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	月曜日昼休み、事前にアポイントメントをとること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ニュース・新聞報道に触れる（3時間）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
2	事前学習	政治倫理綱領について調べる（3時間）
	授業内容	政治の倫理：政治目的
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
3	事前学習	古典古代の政治について調べる（3時間）
	授業内容	公共の利益Ⅰ：共和主義
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
4	事前学習	市場原理について調べる（3時間）
	授業内容	公共の利益Ⅱ：経済学
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）

5	事前学習	ベンサムについて調べる（3時間）
	授業内容	公共の利益Ⅲ：功利主義
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
6	事前学習	フランス人権宣言について調べる（3時間）
	授業内容	社会と個人Ⅰ：権利
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
7	事前学習	自由主義について調べる（3時間）
	授業内容	社会と個人Ⅱ：自由
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
8	事前学習	社会主義について調べる（3時間）
	授業内容	社会と個人Ⅲ：平等
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
9	事前学習	東日本大震災について調べる（3時間）
	授業内容	目的の調整Ⅰ：リスクと不確実性
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
10	事前学習	フランス革命について調べる（3時間）
	授業内容	目的の調整Ⅱ：保守主義
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
11	事前学習	南北戦争について調べる（3時間）
	授業内容	目的の調整Ⅲ：妥協
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
12	事前学習	1848年革命について調べる（3時間）
	授業内容	政治の境界Ⅰ：代表
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
13	事前学習	国連憲章について調べる（3時間）
	授業内容	政治の境界Ⅱ：国際関係
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
14	事前学習	地球環境問題について調べる（3時間）
	授業内容	政治の境界Ⅲ：世代関係
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
15	事前学習	配付プリント全体の振り返り（2時間）
	授業内容	期末総括
	事後学習	授業全体の振り返り（2時間）

科目名	政治経済理論特殊講義A	担当者	岩崎 正洋	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、比較政治学の基本的な知識をできるだけ幅広く、体系的に、しかも正確に伝えることを企図している。そのために、まず、初めて比較政治学を勉強しようとする場合に「最低限これだけ知っておくと、とりあえず、比較政治学の入門レベルをおさえることができるし、これから先の勉強にも役立つ」という内容を盛り込んでいる。			
授業目的・到達目標	本講義では、比較政治学の基本的な理論の検討を通して、「比較政治学は、現実政治を考える上で、どのように役立つのか」という問題を考える能力を養成することを目的とする。この講義でとり上げる比較政治学のさまざまな理論は、各国の政治の類似点や相違点を明らかにするための視点を提供することになるだろう。授業を通して、現実政治と政治理論との両者に目を向け、両者の間を架橋することが出来るような視点をもつことができるようにすることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2, 3, 4			
履修条件	特になし			
授業方法	講義形式で行う。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		100%	授業内容に関して、正確な理解がなされているか否か確認する。
	平常評価		0%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015年	勁草書房	『比較政治学入門』	岩崎正洋
	備考			
参考書	河野勝・岩崎正洋編『アクセス比較政治学』日本経済評論社、2002年。その他、授業中に提示する。			
オフィスアワー	月曜日12：10～13：00 研究室（4号館2階425）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の「第Ⅱ部」を通読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	イントロダクション（授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
2	事前学習	教科書の「第6章」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	民主主義：古典的民主主義と現代民主主義（民主主義democracyとは何かについて説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書の「第6章」の「6.2」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	競合的民主主義（競合的民主主義competitive democracyモデルについて説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
4	事前学習	教科書の「第6章」の「6.3」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	民主主義の二つのモデル（多数代表型majoritarianと合意形成型consensusの二つの民主主義モデルについて説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）

5	事前学習	教科書の「第7章」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	選挙制度（選挙election、とりわけ、選挙制度electoral systemを中心に説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書の「第7章」の「7.3」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	デュベルジェの法則（選挙制度と政党システムの関係について、デュベルジェの法則Duverger's lawを説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書の「第8章」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政党（政党political partyの機能や組織について説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書の「第9章」の「9.2」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政党システムの形成（政党システムparty systemの形成に関して、凍結仮説freezing hypothesisについて説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書の「第9章」の「9.3」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政党システムのタイポロジー（政党システムの類型typologyについて説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書の「第10章」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	議院内閣制と大統領制（議院内閣制parliamentalismと大統領制presidentialismについて説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書の「第10章」の「10.3」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政治の大統領制化（政治の大統領制化presidentializationについて説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書の「第11章」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政策とは何か（政策public policyとは何かについて説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
13	事前学習	教科書の「第11章」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政策過程：コーポラティズムと拒否権プレイヤー（政策過程policy processのモデルについて説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
14	事前学習	教科書の「第12章」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政策過程とガバナンス（ガバメントgovernmentとガバナンスgovernanceについて説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
15	事前学習	教科書を再読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	今学期のまとめ・質問受付
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）

科目名	政治経済理論特殊講義B	担当者	荒井 祐介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	政治制度/政治機構の基底にある政治的原理、およびそれらが政治制度/政治機構にどのように具現化されているのかを説明する。				
授業目的・到達目標	現代国家の政治制度/政治機構について深い知識を獲得するために、政治制度/政治機構の基底にある政治的原理について学び、それらの政治的原理が政治制度/政治機構にどのように具現化されているのか理解する能力の育成を目的とする。現代国家の政治制度/政治機構が、どのような政治的原理に基づくものであるのかを理解し、各国で異なる作動様式を示すことについて論理的に考えることができるようになることを目標とする。関連DPおよびCP：政治経済学科 1, 2, 3				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式で進める。 履修者にはレジュメを配布し、説明はスライド（パワーポイント資料）を使用する。 授業内に試験を行い解説する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	2/3以上出席した者が成績評価対象となる。学んだ知識を正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参 考 書	田口富久治・中谷義和編『比較政治制度論〔第3版〕』（法律文化社、2006年） 中村勝範編『主要国政治システム概論〔改訂版〕』（慶應義塾大学出版会、205年）				
オフィスアワー	月曜日 12：15～13：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（9号館4階9403） arai.yusuke@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業の目的や到達目標を理解し、授業計画にも目を通してくる。（2時間）
	授業内容	講義の内容や進め方、スケジュール、成績評価の方法、参考文献等について説明し、履修者が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	シラバスの記載内容およびガイダンスでの説明をふりかえり、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	参考文献などにあたり、政治制度/政治機構とはどのようなものであるのか、および政治制度/政治機構の基本原理のひとつである「主権」概念とはどのようなものか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「統治機構の基本原理（1）」政治制度/政治機構とは何を意味する概念であるのか、また政治制度/政治機構の基本原理のひとつである「主権」概念とはどのようなものであるのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、政治制度/政治機構および「主権」概念の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
3	事前学習	参考文献などにあたり、政治制度/政治機構の基本原理である「自由主義」と「三権分立」とはどのような概念であるのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「統治機構の基本原理（2）」政治制度/政治機構の基本原理である「自由主義」概念に関するロックとトクヴィルの議論、「三権分立」概念に関するロックとモンテスキューの議論はどのようなものであるのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「自由主義」および「三権分立」の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）

4	事前学習	参考文献などにあたり、政治制度/政治機構の基本原理解である「立憲主義」と「議会主義」とはどのような概念であるのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「統治機構の基本原理解（3）」政治制度/政治機構の基本原理解である「立憲主義」概念に関する成立の歴史的経緯と要件、「議会主義」概念に関する成立の歴史的経緯と民主主義概念との関係性がどのようなものであるのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「立憲主義」および「議会主義」の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
5	事前学習	参考文献などにあたり、政治制度/政治機構の基本原理解のひとつである「社会的公正」とはどのような概念であるのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「統治機構の基本原理解（4）」政治制度/政治機構の基本原理解のひとつである「社会的公正」概念に関するロールズの「正義論」がどのようなものであるのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、「社会的公正」に関するロールズの「正義論」の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
6	事前学習	参考文献などにあたり、大統領制、議院内閣制、半大統領制がどのような特徴をもつ執政制度であるのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「執政制度」民主主義国家の執政制度である大統領制、議院内閣制、半大統領制の制度的特徴がどのようなものであり、その制度的帰結としてどのような相違がもたらされているのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、大統領制、議院内閣制、半大統領制それぞれの制度的要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
7	事前学習	参考文献などにあたり、日本の統治機構の基本構造が憲法や法律でどのように規定されているのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「日本の統治機構（1）」日本の統治機構の基本構造が憲法や法律でどのように規定されているのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、日本の統治機構の基本構造の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
8	事前学習	参考文献などにあたり、国会および内閣が憲法や法律でどのように規定されているのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「日本の統治機構（2）」国会および内閣が憲法がどのように規定され運用されているのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、国会および内閣の制度的要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
9	事前学習	参考文献などにあたり、イギリスの統治機構の基本構造が憲法や法律でどのように規定されているのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「イギリスの統治機構（1）」イギリスの統治機構の基本構造が憲法や法律でどのように規定されているのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、イギリスの統治機構の基本構造の要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
10	事前学習	参考文献などにあたり、イギリスの議会が憲法や法律でどのように規定されているのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「イギリスの統治機構（2）」イギリスの議会が憲法や法律、慣習によってどのように規定され運用されているのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、イギリスの議会の制度的要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
11	事前学習	参考文献などにあたり、アメリカの統治機構の基本構造、および行政部が憲法や法律でどのように規定されているのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「アメリカの統治機構（1）」アメリカの統治機構の基本構造が憲法や法律でどのように規定されているのか、行政部が憲法や法律でどのように規定され運用されているのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、アメリカの統治機構の基本構造および行政部の制度的要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
12	事前学習	参考文献などにあたり、アメリカの議会が憲法や法律でどのように規定されているのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「アメリカの統治機構（2）」アメリカの議会が憲法や法律によってどのように規定され運用されているのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、アメリカの議会の制度的要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
13	事前学習	参考文献などにあたり、ドイツの統治機構の基本構造、および行政部と立法部が憲法や法律でどのように規定されているのか自分なりに調べ、理解できたところ、理解できなかったところを確認する。（2時間）
	授業内容	「ドイツの統治機構」ドイツの統治機構の基本構造が憲法や法律でどのように規定されているのか、および行政部と立法部が憲法や法律でどのように規定され運用されているのか、という点を履修者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、ドイツの統治機構の基本構造および行政部・立法部の制度的要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げる書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）

14	事前学習	第2回から第13回まで講義で配布したレジュメ、自身でまとめたノートやメモ読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。（2時間）
	授業内容	「講義のまとめ」 第2回から第13回までの講義をふりかえり、各回での議論の要点について解説を行い、履修者が、政治制度/政治機構の基本原理の要点、および日本、イギリス、アメリカ、ドイツの統治機構の制度的要点について説明できるようにする。
	事後学習	授業で配布されたレジュメ、および授業での説明をふりかえりながら、政治制度/政治機構の基本原理の要点、および日本、イギリス、アメリカ、ドイツの統治機構の制度的要点について、まとめておく。理解が不十分な点や疑問に感じた点について、参考文献に挙げられている書籍等を調べ、明らかになった点をまとめる。（2時間）
15	事前学習	第2回から第13回まで講義で配布したレジュメ、自身でまとめたノートやメモ読み返して、自分なりに理解できたところ、理解できなかったところを改めて確認する。（2時間）
	授業内容	「授業内試験および解説」 この講義で説明してきた政治制度/政治機構の基本原理の要点、および各国の統治機構の制度的要点について正確に習得できているか否か、授業内に試験を行い確認し、その解説を行う。
	事後学習	試験で問われた内容について、自分の解答がどの程度説明できていたのか確認し、十分に説明できなかった部分について改めて理解を深める。（2時間）

科目名	政治経済理論特殊講義C	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	政治哲学は政治学における「べき」論、すなわち、どのような公共政策や政治制度が望ましいかについて考える分野である。しかし、政策担当者（政治家・官僚）が抱く「べき」論は、一私人が抱くそれとは必ずから異なる。本講義では、どのような政治手段に訴えるべきかという観点から、権力、暴力、操作といった政治哲学の規範的概念について議論する。また、内容に関連する歴史的事例・小説・映画なども積極的に紹介したい。				
授業目的・到達目標	【授業目的】政治哲学の諸概念について理解することを目的とする。 【到達目標】1. 政治哲学の諸概念について適切に理解し、説明できる。2. 得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。対応DP及ひCP：政治経済学科1,3				
履修条件	前期に開講する「政治哲学」を履修済みであることが望ましい。				
授業方法	毎回プリントを配布すると共に、パワーポイントを用いて授業を進める。また、定期的に小テストを実施し、受講者の授業理解を確認する。フィードバックは授業内で小テストの解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	期末に定期試験を実施する。論述式の試験により、講義内容の理解度を総合的に評価する。	
	平常評価		30%	小テストを授業時間内に計3回実施する。実施日は当日決める。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	なし			
参考書	授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	月曜日昼休み、事前にアポイントメントをとること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ニュース・新聞報道に触れる（3時間）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
2	事前学習	ロッキード事件について調べる（3時間）
	授業内容	政治の倫理：政治手段
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
3	事前学習	抜き打ち解散について調べる（3時間）
	授業内容	目的と手段Ⅰ：次悪の論理
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
4	事前学習	権力政治について調べる（3時間）
	授業内容	目的と手段Ⅱ：政治と権力
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）

5	事前学習	ナチス・ドイツについて調べる（3時間）
	授業内容	手段の選択Ⅰ：暴力
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
6	事前学習	「四つの自由」演説について調べる（3時間）
	授業内容	手段の選択Ⅱ：操作
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
7	事前学習	ポスト真実について調べる（3時間）
	授業内容	手段の選択Ⅲ：嘘
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
8	事前学習	キューバ危機について調べる（3時間）
	授業内容	手段の選択Ⅳ：秘密
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
9	事前学習	正戦論について調べる（3時間）
	授業内容	手段の選択Ⅴ：戦争
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
10	事前学習	政治家の公約違反について調べる（3時間）
	授業内容	次悪の彼岸Ⅰ：偽善
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
11	事前学習	政治改革関連四法について調べる（3時間）
	授業内容	次悪の彼岸Ⅱ：腐敗
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
12	事前学習	フリードリヒ＝ファイナー論争について調べる（3時間）
	授業内容	責任の問題Ⅰ：政治家と官僚
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
13	事前学習	ベトナム戦争について調べる（3時間）
	授業内容	責任の問題Ⅱ：次悪の責任
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
14	事前学習	政治的無関心について調べる（3時間）
	授業内容	責任の問題Ⅲ：政治と市民
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
15	事前学習	配付プリント全体の振り返り（2時間）
	授業内容	期末総括
	事後学習	授業全体の振り返り（2時間）

科目名	税法Ⅰ（基礎理論Ⅰ）	担当者	阿部 徳幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、法律学としての税法を理解し、さらに学生諸君にとっては身近な存在であるにも拘わらず、何故か遠い存在になってしまっている「税」を規定する税法の基礎理論を学習する。また、この講座取り上げる様々なテーマについて、理論上の問題のみならず、現実の税務行政においてどのような運用がなされているかを確認し、その問題点を学習する。			
授業目的・到達目標	税法Ⅱ・Ⅲといった個別税法を扱う科目の履修のために必要となる税法学の基礎理論の修得を目的とする。 所得税法をはじめとした各個別税法は、この基礎理論のうえに構築されている。毎回の授業で提示する簡単な問題を、受講生が説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1.3 経営法学科1.3 公共政策学科1.3.4			
履修条件	特にない。この講座は法律学としての税法を扱うため計算問題は原則として扱わない。			
授業方法	毎回の授業においてレジュメを配布し、各回のテーマに関連する簡単な問題を提示する。この問題の検討を進めることにより、テーマについて学習する。なお、税理士として実際に体験した事例も紹介してみたい。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	基本的内容を問う論述試験を実施します。	
	平常評価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	清文社	『現代税法入門塾(第9版)』	石村耕治
	備考			
参考書	北野弘久編『現代税法講義（5訂版）』（法律文化社）、北野弘久編『現代税法事典（第2版）』（中央経済社）、北野弘久『税法学原論（第7版）』（勁草書房）			
オフィスアワー	月曜日・金曜日の16：00～ 事前に連絡のこと。9号館 9301研究室			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書各Part冒頭に記載のあらましを読み、講義全体を概観する。(2時間)
	授業内容	この授業で何を学ぶのか、授業スケジュール、成績評価方法、試験と勉強の仕方、資格試験についてなど、税法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。(2時間)
2	事前学習	教科書の「租税の意義と租税法の体系」該当部分を熟読し、「租税の意義」と「租税法の体系」を考察する。(2時間)
	授業内容	【基本原則（1）租税の意義と租税法の体系】 そもそも租税とは何か？なぜわれわれは税を納めなければならないのか？さらに租税法の理論上の体系と実体税法の体系などを学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題を自分なりにまとめる。(2時間)
3	事前学習	教科書の「租税法律主義と国税の納税義務」該当部分を熟読し、租税法律主義と国税の国税の関係を考察する。(2時間)
	授業内容	【基本原則（2）租税法律主義と国税の納税義務】 租税についての憲法規定である租税法律主義について、その歴史的背景、内容、目的、派生する法理などにつき学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。(2時間)
4	事前学習	教科書の「租税条例主義」、「地方税制」該当部分を熟読し、それぞれについて考察する。(2時間)
	授業内容	【基本原則（3）租税条例主義と地方税の納税義務】 地方財政権の根拠と租税条例主義の関係について学習する。さらに国の法律である地方税法の存在意義について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。(2時間)

5	事前学習	教科書の「実質課税の原則」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【基本原則（4）実質課税の原則】 税法解釈上、しばしば問題となる実質課税の原則。この原則とはどのようなものなのか、租税法律主義との関係はどうなるのかを学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書の「租税負担公平原則」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【基本原則（4）租税負担公平原則】 租税負担公平原則とは何か、税法解釈適用の問題なのか、租税立法上の問題なのか、租税法律主義との関係から学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書の「租税回避行為」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【基本原則（5）租税回避行為】 節税・租税回避行為・脱税、それぞれの違いは何か、OECDが問題とする「税源浸食と利益移転（BEPS）」とは何かなどについて学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書の「租税法律関係」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【基本原則（6）租税法律関係】 納税者と課税庁との法律関係とはどのようなものか、租税債務関係説、租税権力関係説とはなにか、両説の内容、問題点について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
9	事前学習	民法上の原則である信義誠実の原則について、私法・公法、両者の関係について考察する。（2時間）
	授業内容	【基本原則（7）税法と私法1】 民法上の原則である信義誠実の原則は、税法においても適用されるのか、この場合どのような要件を満たせば適用されるのかについて学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書の「借用概念」と「固有概念」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【基本原則（7）税法と私法2】 税法上、しばしば問題となる「借用概念」と「固有概念」。それぞれの意義は何か、またこれらは税法上、どのように適用されるのかについて学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
11	事前学習	応能負担原則とは、憲法14条の要請とされる。憲法14条についてその内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【基本原則（8）応能負担原則】 そもそも租税法律をつくるための原則とは何か、応能負担原則と応益負担原則の違いについて学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
12	事前学習	課税最低限とは、憲法25条の要請とされる。憲法25条についてその内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【基本原則（9）課税最低限】 健康で文化的な最低限度の生活を営むために必要な所得には課税できない。ではこの金額とはいったいどのくらいなのだろうか。最低生活費非課税の原則について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
13	事前学習	課税の限界とは、憲法29条の要請とされる。憲法29条についてその内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【基本原則（10）課税の限界】 課税は没収とは違うはずである。課税権とはどこまで行使できるのか。課税の限界について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
14	事前学習	教科書の「租税立法プロセスとその問題点」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【基本原則（11）租税立法プロセスとその問題点】 これまで租税立法が違憲とされた事例はない。ここでは租税立法違憲訴訟と立法裁量論について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
15	事前学習	教科書の「課税庁の仕組みと役割」「税金の専門職」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【基本原則（12）税務行政と税理士制度】 わが国の課税庁の仕組みと役割と税金の専門職についての現状と問題点について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）

科目名	税法Ⅰ（基礎理論Ⅰ）	担当者	黒川 功	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	税法は国民経済の流れを規定し、国民の現実的権利状況に決定的影響を及ぼす、現代法の中心領域に位置する法です。この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に講義し、現代を生きる者としての基礎的学識を涵養します。また、将来税法専門家を目指す場合にも、その基本となる法的思考方法をしっかり身に付けます。			
授業目的・到達目標	民主主義法学の立場から体系的、具体的に講義し、現代を生きる者としての基礎的学識を涵養することを目的とし、現代国家における税の存在の位置と意義を理解し、近代税法の基本原理と法的推論の基本を身につけられることを目標とします。租税実体法、租税手続法両域における租税問題を法的に理解し、実例を引きながら、我国税法の特徴を考察して、解釈理論を展開できるだけの学識を身につけます。これにより、現代における真の洞察眼と生きたリーガルマインドの形成を目指します。 関連DP及びCP：法律学科1，3 経営法学科1，3 公共政策学科1，3，4			
履修条件	民・商法、憲法等、法学の基礎科目の基礎知識があるか少なくともこれらとの平行学習が望ましい。簿記会計の素養は理解の助けとなります。			
授業方法	毎回の講義はなるべくテキストに沿った形で進めますが、必ずノートをとってください。その場（教室）で理解・習得できるように、濃い時間の使い方をしてもらいます。 後日試験の解説をポータルサイトににて配信します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	期末の論述式の筆記試験です。出題範囲から予想される問題や論点は、試験前の授業で改めて見直し、指摘します。	
	平常評価	20%	時折行う授業内レポートの評価を、平常点として加味します。20%を基本としますが、特に優れたものについてはこれを超えることもあります。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年9月	勁草書房	税法各原論（第7版）	北野弘久著 黒川功監修
	1981年11月	岩波新書	納税者の権利	北野弘久
	備考	授業はほぼ税法学原論の内容に従って行われる。		
参考書	北野弘久・谷山治夫編著『日本税制の総点検』（勁草書房）2008年10月。			
オフィスアワー	金曜14時40分～16時10分。事前にアポイントメントを取り、相談内容を知らせた上で訪問してください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション、年間講義計画など 租税制度と国民生活・権利
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
2	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	現代の暮らしと税金問題～国民生活と税
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
3	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	税法学の特質（1）～会計学との関係
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
4	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	税法学の特質（2）～財政学との関係
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）

5	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	税法学の特質（3）～行政法学との関係
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
6	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	租税の法的疑念
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
7	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	租税法律関係と税法体系
	事後学習	ノートをに直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
8	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	租税の分類(1)～国税・地方税、所得・資産・消費税
	事後学習	ノートをに直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
9	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	租税の分類(2)～人税・物税、直接税・間接税、他
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
10	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	租税法律主義の原則（1）～税法の根本原理とその意義
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
11	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	租税法律主義の原則（2）～具体的法理とその内容
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
12	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	租税法律主義の原則（3）～現代における機能と意義
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
13	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	本来的租税条例主義～地方財政権と地方税
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
14	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	税法学の系譜～官僚税法学vs. 民主主義税法学
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
15	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	試験説明とポイント解説
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）

科目名	税法Ⅰ（基礎理論Ⅱ）	担当者	阿部 徳幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、法律学としての税法を理解し、さらに学生諸君にとっては身近な存在であるにも拘わらず、何故か遠い存在になってしまっている「税」を規定する税法の基礎理論を学習する。また、この講座取り上げる様々なテーマについて、理論上の問題のみならず、現実の税務行政においてどのような運用がなされているかを確認し、その問題点を学習する。			
授業目的・到達目標	税法Ⅱ・Ⅲといった個別税法を扱う科目の履修のために必要となる税法学の基礎理論の修得を目的とする。 所得税法をはじめとした各個別税法は、この基礎理論のうえに構築されている。毎回の授業で提示する簡単な問題を、受講生が説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1.3 経営法学科1.3 公共政策学科1.3.4			
履修条件	税法Ⅰ（基礎理論Ⅰ）を履修していることが望ましい。なお、この講座は法律学としての税法を扱うため計算問題は、原則として扱わない。			
授業方法	毎回の授業においてレジュメを配布し、そこには各回のテーマに関連する簡単な問題を提示する。その問題の検討を進めることにより、テーマについて学習する。なお、税理士として実際に体験した事例も紹介してみたい。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	基本的内容を問う論述試験を実施します。	
	平常評価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	清文社	『現代税法入門塾(第9版)』	石村耕治
	備考			
参考書	北野弘久編『現代税法講義（5訂版）』（法律文化社）、北野弘久編『現代税法事典（第2版）』（中央経済社）、北野弘久『税法学原論（第7版）』（勁草書房）			
オフィスアワー	月曜日・金曜日の16：00～ 事前に連絡のこと。9号館 9301研究室			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書各Part冒頭に記載のあらましを読み、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	この授業で何を学ぶのか、授業スケジュール、成績評価方法、試験と勉強の仕方、資格試験についてなど、税法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書の「納税義務の成立と確定」該当部分を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【租税手続法1 納税義務の成立と確定】 納税義務の成立と確定とはどういうことか、さらに納税者からの確定と課税庁からの確定にはどのようなものがあるのか、そしてその違いは何かについて学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書の「源泉徴収と年末調整」該当部分を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【租税手続法2 源泉徴収と年末調整】 納税者のほとんどを占めるサラリーマン、このサラリーマンには原則として確定申告権がない。源泉徴収と年末調整にて課税関係が終了するからである。この源泉徴収と年末調整と、そのもたらす影響について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
4	事前学習	教科書の「税務調査」該当部分を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【租税手続法3 税務調査】 税務調査の現場では、納税者と課税庁との間でしばしばトラブルが発生する。ここではこの税務調査の法的限界を諸外国の例を交えて学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）

5	事前学習	教科書の「滞納処分」該当部分を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【租税手続法4 滞納処分】税金を強制的に取り立てる方法として滞納処分がある。この滞納処分の内容とその問題点についてここでは学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書の「納税緩和制度」該当部分を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【租税手続法5 納税緩和制度ほか】滞納処分において徴収職員には強力な権限が付与されている。その反面、いくつもの納税緩和制度が用意されている。ここではこの納税緩和制度について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書の「不服申立制度」該当部分を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【租税救済法1 不服申立制度】課税庁の処分に不満がある場合には税務争訟を提起することができる。しかし、税務争訟の場合、直接裁判所へ申し出ることはできない。不服申立を終なければならないからである。この不服申立制度について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書の「租税裁判」該当部分を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【租税救済法2 租税裁判】税務訴訟といっても様々な形態がある。主な税務訴訟のあらましについてここでは学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書の「租税裁判」と「租税救済法（2）租税裁判レジュメ」を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	租税救済法3 租税裁判 租税裁判実務では、納税者が勝訴する割合は非常に低いものとなっている。そこには何らかの制度的問題点があるように思われる。ここでは務訴訟制度の現状とその問題点について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書の「租税犯」「附帯税」該当部分を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【租税処罰法1 租税犯とは何か、附帯税とは】脱税をしてしまった場合、どのように取り扱われるのか、その際のペナルティーはどのようなになっているのかをここでは学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書の「租税犯則調査」「通告処分」該当部分を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【租税処罰法2 租税犯則調査・通告処分とは】脱税の疑いがある場合の調査とはどのようなものか、さらには間接税における脱税において登場する通告処分とはどのようなものなのか学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書の「地方税制」該当部分を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【地方税制】自治体は独自に課税できるか、その根拠はどこにあるのか。そしてそこでしばしば登場する制度的保障説と新固有権説との対立とはどのようなものなのを学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
13	事前学習	教科書の「国際税制」該当部分を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際税制1】国際税法の法源とは何か、また基本原理とはどのようなものか。近年、税法実務で問題の多い国際課税の概要について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
14	事前学習	教科書の「国際的租税回避行為」該当部分を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【国際税制2】近年、多国籍企業を中心とした国際的租税回避が問題とされている。一時期「パナマ文書」などが世間を騒がせた。ここではこの国際的租税回避とその対策について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
15	事前学習	教科書の「会計検査院」など該当部分を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【税の使途】税の問題は、その納付の場面ばかりが強調される。しかし、この税の使い方もやはり税の問題である。ここでは税の使い方の監視制度について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）

科目名	税法Ⅰ（基礎理論Ⅱ）	担当者	黒川 功	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	税法は国民経済の流れを規定し、国民の現実的権利状況に決定的影響を及ぼす、現代法の中心領域に位置する法です。この税法を、民主主義法学の立場から体系的、具体的に講義し、現代を生きる者としての基礎的学識を涵養します。また、将来税法専門家を目指す場合にも、その基本となる法的思考方法をしっかり身に付けます。				
授業目的・到達目標	民主主義法学の立場から体系的、具体的に講義し、現代を生きる者としての基礎的学識を涵養することを目的とし、現代国家における税の存在の位置と意義を理解し、近代税法の基本原理と法的推論の基本を身につけられることを目標とします。租税実体法、租税手続法両域における租税問題を法的に理解し、実例を引きながら、我国税法の特徴を考察して、解釈理論を展開できるだけの学識を身につけます。これにより、現代における真の洞察眼と生きたリーガルマインドの形成を目指します。 関連DP及びCP：法律学科1，3 経営法学科1，3 公共政策学科1，3，4				
履修条件	民・商法、憲法等、法学の基礎科目の基礎知識があるか少なくともこれらとの平行学習が望ましい。簿記会計の素養は理解の助けとなります。				
授業方法	毎回の講義はなるべくテキストに沿った形で進めますが、必ずノートをとってください。その場（教室）で理解・習得できるように、濃い時間の使い方をしてもらいます。 後日定期試験の解説をポータルサイトにて配信します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	期末の論述式の筆記試験です。出題範囲から予想される問題や論点は、試験前の授業で改めて見直し、指摘します。	
	平常評価		20%	時折行う授業内レポートの評価を、平常点として加味します。20%を基本としますが、特に優れたものについてはこれを超えることもあります。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2016年9月	勁草書房	税法各原論（第7版）		北野弘久著 黒川功監修
	1981年11月	岩波新書	納税者の権利		北野弘久
	備考	授業はほぼ税法学原論の内容に従って行われる。			
参考書	北野弘久・谷山治夫編著『日本税制の総点検』（勁草書房）2008年10月。				
オフィスアワー	金曜14時40分～16時10分。事前にアポイントメントを取り、相談内容を知らせた上で訪問してください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	応能負担原則(1)～憲法原則、公平の概念、最低生活費
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
2	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	応能負担原則(2)～担税力の理論、応益負担論、他
	事後学習	ノートをに直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
3	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	実質課税論(1)～意義と問題点、租税回避等
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
4	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	実質課税論(2)～事例分析、実質課税原則の正体
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）

5	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	税法と信義則
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
6	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	サラリーマンの税法的地位～源泉徴収と供与所得課税
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
7	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	家族税制(1)～戦前の家父長制的課税関係と今日
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
8	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	家族税制(2)～米国の家族税制と日本税制の問題
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
9	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	企業課税の構造～日米比較にみる日本税制
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
10	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	税務調査権の法的限界
	事後学習	ノートをに直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
11	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	納税者権利憲章～世界の動向と日本の現状
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
12	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	税務争訟制度の仕組みと問題点
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
13	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	租税犯の種類と犯罪構成要件
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
14	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	租税犯の処罰と法的問題点
	事後学習	ノートをに直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）
15	事前学習	テキストに目を通しておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	国際税法の概要と動向
	事後学習	ノートを見直して内容を再確認しておくことが望ましい。（2時間）

科目名	税法ⅡA(所得税法)	担当者	阿部 徳幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、法律学としての税法を理解し、さらに学生諸君にとって最も身近な税の一つである所得税法と個人住民税についての基礎理論を学習する。また、この講座取り上げる様々なテーマについて、理論上の問題のみならず、現実の税務行政においてどのような運用がなされているかを確認し、その問題点を学習する。			
授業目的・到達目標	学生諸君にとって最も身近な税の一つである所得税法と個人住民税の基礎理論の修得を目的とする。これにより自らが納付する所得税・個人住民税は、どのような理論のもと、その金額が確定するのかを習得することを目標とする。そのために、毎回の授業で提示する簡単な問題を、受講生が説明できることを目標となる。 関連DP及びCP：法律学科1.3　経営法学科1.3			
履修条件	特にない。なお、この講座は法律学としての税法を扱うため計算問題は原則として扱わない。			
授業方法	毎回の授業においてレジュメを配布し、そこには各回のテーマに関連する簡単な問題を提示する。その問題の検討を進めることにより、テーマについて学習する。なお、税理士として実際に体験した事例も紹介してみたい。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	基本的内容を問う論述試験を実施します。	
	平常評価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	清文社	『現代税法入門塾(第9版)』	石村耕治
	備考			
参考書	北野弘久編『現代税法講義（5訂版）』（法律文化社）、北野弘久編『現代税法事典（第2版）』（中央経済社）、北野弘久『税法学原論（第7版）』（勁草書房）			
オフィスアワー	月曜日・金曜日の16：00～　事前に連絡のこと。9号館　9301研究室			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書各Part冒頭に記載のあらましを読み、講義全体を概観する。(2時間)
	授業内容	この授業で何を学ぶのか、授業スケジュール、成績評価方法、試験と勉強の仕方、資格試験についてなど、税法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。(2時間)
2	事前学習	教科書の「所得概念」該当項目を熟読し、その内容を考察する。(2時間)
	授業内容	【所得税法1 所得概念】 所得税とは、個人の所得に対して課税するものである。ここではこの所得とはいったい何をいうのか、さらに実定税法のもと、具体的なその範囲とその問題点を学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。(2時間)
3	事前学習	教科書の「納税義務の範囲」該当項目を熟読し、その内容を考察する。(2時間)
	授業内容	【所得税法2 納税義務の範囲】 所得税とは、個人の所得に対して課税するものである。ここではこの個人とはいったい何をいうのか、この個人の具体的内容を、さらには非課税の分類とその範囲を学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。(2時間)
4	事前学習	教科書の「課税単位」該当項目を熟読し、その内容を考察する。(2時間)
	授業内容	【所得税法3 課税単位】 所得税とは、個人の所得に対して課税するものである。前回に続きこの個人の意義、ここではその単位について諸外国の例を交えて、その問題点とともに学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。(2時間)

5	事前学習	教科書の「所得分類」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【所得税法4 所得分類1】 所得税法は、個人に帰属する所得を、その内容に応じて10種類に分類し具体的税額計算を行う。所得税法は何故このように分類することを求めるのであろうか。ここでは所得分類の意義について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書の「所得分類」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【所得税法5 所得分類2】 前回、所得分類の意義について学習した。ここではこの10種類の所得分類の具体的内容について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書の「譲渡所得」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【所得税法6 譲渡所得】 所得分類の一つに「譲渡所得」がある。そもそもこの譲渡所得とは、何に担税力を求め課税するのであろうか。ここでは譲渡所得の具体的内容について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書の「給与所得課税」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【所得税法7 給与所得課税】 受講生諸君は卒業後、ほとんどの者がこの給与所得者となる。給与所得の場合、その税額計算は他の所得と明らかに異なる計算方法となっている。ここではこの給与所得課税における具体的税額計算方法について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書の「源泉徴収と年末調整」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【所得税法8 源泉徴収と年末調整】 給与所得者の場合、課税関係は源泉徴収と年末調整で完了することになる。ここではこの源泉徴収と年末調整について、その問題点とともに学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書の「収入金額」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【所得税法9 収入金額】 所得税における所得金額の計算は、収入金額から必要経費を控除して計算される。ここではこの所得金額計算の一要素である収入金額について、その内容と範囲を問題点を交えて学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書の「必要経費」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【所得税法10 必要経費】 所得税における所得金額の計算は、収入金額から必要経費を控除して計算される。ここではこの所得金額計算の一要素である必要経費について、その内容と範囲を問題点を交えて学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書の「人的控除」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【所得税法11 人的控除】 所得税法における所得控除に人的控除と分類されるものがある。この人的控除の本質とはいったい何なのか、あるべき人的控除の姿とはどのようなものなのか、ここで学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
13	事前学習	教科書の「その他の所得控除、税額控除」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【所得税法12 その他の所得控除】 所得税法は、人的控除のほか、いくつもの所得控除を用意する。またいくつもの税額控除がある。これらの意義とその具体的内容を、ここでは学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
14	事前学習	教科書の「所得税の計算構造」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【所得税法12 所得税の計算構造】 これまで個別論点を学習してきたが、ここでは具体的な所得税の計算方法について学習する。また、累進税率・比例税率の違い、ことさら所得税法が超過累進税率を採用する意義を学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
15	事前学習	教科書の「個人住民税」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【個人住民税】 個人所得税について、その全体像を、ことさら所得税との相違点について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）

科目名	税法ⅡB(法人税法)	担当者	伊藤 悟	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	企業課税法のうち法人所得課税法である「法人税法」を考察、授業する。法人税法の理論問題のみならず法人税額の計算法構造についても授業する。					
授業目的・到達目標	法人税の基礎的事項について理解することを目的とし、かつ企業損益から法人税課税標準である所得金額の計算過程について理解し、企業法務の一つとして法人税法を修得することを目指す。 関連DP及びCP：法律学科1, 3 経営法学科1, 3					
履修条件	税法条文の参照を総務省「法令データ提供システム」を活用することから、P C等でのネット利用できることが望ましい。					
授業方法	税法の知識・情報として、財務省や国税庁等のサイトを活用する。レポートの講評を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		就学度を知るためにレポート提出を求める。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016年	八千代出版社		市民のための税法学		伊藤悟
	備考					
参考書	国税庁WEB内の税大校本『法人税法』を副読本とする。その他、必要により授業内で指示する。					
オフィスアワー	金曜16:10～ 授業講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	カリキュラム表、シラバスの記述確認（2時間）
	授業内容	ガイダンス：シラバスの解説、国税庁WEB等の授業内活用、PC等でのノートテーク可、税法研究論と本授業、企業課税法について
	事後学習	国税庁WEB(http://www.nta.go.jp/)>税について調べる、等を閲覧（2時間）
2	事前学習	テキスト第14章「課税基礎と税制論」および第15章「所得課税法の基礎」を通読、財務省WEB内税制(http://www.mof.go.jp/tax_policy/)を閲覧（2時間）
	授業内容	法人所得課税の基礎：所得課税法としての法人税法、税分類と法人税、法人税法の本質
	事後学習	法人税法、法人税法施行令および法人税法施行規則を法令データWEBにて確認、法人税基本通達を国税庁WEBにて確認（2時間）
3	事前学習	テキスト第17章「法人税の基本構造と課題」を通読（2時間）
	授業内容	現行法人税法の基本構造
	事後学習	法人税の歴史を調べる。法人擬制説に基づく法人税の特徴を考える。（2時間）
4	事前学習	会社法に規定する会社とは何か調べる。一般社団法人とは何か。日本の法人設立はどうする。（2時間）
	授業内容	納税義務者、各事業年度所得に対する法人税の基本事項、副読本第1章
	事後学習	青色申告制度について調べる。（2時間）

5	事前学習	副読本第2章を通読する。（2時間）
	授業内容	企業損益と税務調整、法人税法22条、副読本第2章
	事後学習	税務調整の必要性和分類について考察する。（2時間）
6	事前学習	副読本第3章と第4章を通読する。（2時間）
	授業内容	益金事項：売上、受取配当金、副読本第3章・4章
	事後学習	売上計上基準についてまとめる。（2時間）
7	事前学習	副読本第5章1節を通読する。（2時間）
	授業内容	損金事項(1)：売上原価、テキスト第5章1節
	事後学習	期末棚卸商品の評価方法による売上原価と売上利益への影響をまとめる。（2時間）
8	事前学習	副読本第5章2節を通読する。（2時間）
	授業内容	損金事項(2)：減価償却費、副読本第5章2節
	事後学習	償却過不足の当期と翌期の処理を理解する。（2時間）
9	事前学習	副読本第6章を通読する。（2時間）
	授業内容	損金事項(3)：給与、交際費、副読本第6章1節、2節
	事後学習	役員給与の損金算入となる支給方法についてまとめる。（2時間）
10	事前学習	法人企業が負担する税金について検討する。（2時間）
	授業内容	損金事項(4)：租税公課、引当金、その他、副読本第6章4節、第7章、第8章
	事後学習	法人税、住民税、事業税の法人税処理を理解する。（2時間）
11	事前学習	副読本第9章、第10章を通読する。（2時間）
	授業内容	税額計算、別表4、別表5(1)等、副読本第9章、第10章
	事後学習	副読本掲載の設例に基づく処理と申告書記載を理解する。（2時間）
12	事前学習	副読本第11章、第12章を通読する。（2時間）
	授業内容	連結納税とグループ法人税制、更正等、テキスト第11章、第12章、理論演習問題
	事後学習	出題した理論演習問題を復習する。（2時間）
13	事前学習	副読本第10章末の設例を理解する。（2時間）
	授業内容	計算演習問題(1) 設例の確認、全経3級法人税法過去問演習
	事後学習	演習問題の復習をする。（2時間）
14	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（2時間）
	授業内容	計算演習問題(2) 全経2級法人税法過去問演習
	事後学習	演習問題の復習をする。（2時間）
15	事前学習	授業全体での疑問点をまとめる。（2時間）
	授業内容	総括：法人税法の課題
	事後学習	この講義を基礎とし、法人税法につき税理士試験等をめざし勉強してください。（2時間）

科目名	税法ⅢA(資産税法)	担当者	阿部 徳幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、法律学としての税法を理解し、さらに学生諸君にとって最も身近な税の一つである相続税法についての基礎理論を学習する。また、この講座取り上げる様々なテーマについて、理論上の問題のみならず、現実の税務行政においてどのような運用がなされているかを確認し、その問題点を学習する。			
授業目的・到達目標	学生諸君にとって最も身近な税の一つである相続税法の基礎理論の修得を目的とする。これにより自らが納付する相続税は、どのような理論のもと、その納税額が確定するのかを習得することを目標とする。そのために、毎回の授業で提示する簡単な問題を、受講生が説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1.3 経営法学科1.3			
履修条件	特にない。なお、この講座は法律学としての税法を扱うため計算問題は原則として扱わない。			
授業方法	毎回の授業においてレジュメを配布し、そこには各回のテーマに関連する簡単な問題を提示する。その問題の検討を進めることにより、テーマについて学習する。なお、税理士として実際に体験した事例も紹介してみたい。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	基本的内容を問う論述試験を実施します。	
	平常評価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	清文社	『現代税法入門塾(第9版)』	石村耕治
	備考			
参考書	北野弘久編『現代税法講義(5訂版)』（法律文化社）、北野弘久編『現代税法事典(第2版)』（中央経済社）、北野弘久『税法学原論(第7版)』（勁草書房)			
オフィスアワー	月曜日・金曜日の16：00～ 事前に連絡のこと。9号館 9301研究室			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書各Part冒頭に記載のあらましを読み、講義全体を概観する。(2時間)
	授業内容	この授業で何を学ぶのか、授業スケジュール、成績評価方法、試験と勉強の仕方、資格試験についてなど、税法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。(2時間)
2	事前学習	教科書の「相続税・贈与税のあらまし」該当項目を熟読し、その内容を考察する。(2時間)
	授業内容	【相続税法1 相続税・贈与税のあらまし】 相続税・贈与税は相続税法に規定される。つまり贈与税法という法律はないのである。ここでは相続税と贈与税の関係を、さらには課税方式の種類とわが国の課税方式の特徴とその問題点を学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。(2時間)
3	事前学習	教科書の「納税義務者と納税義務の範囲」該当項目を熟読し、その内容を考察する。(2時間)
	授業内容	【相続税法2 納税義務者と納税義務の範囲】 相続税・贈与税はその納税義務者の違いにより、課税財産の範囲が異なる。ここでは納税義務者の種類とその内容、さらに差それぞれの課税の範囲について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。(2時間)
4	事前学習	教科書の「相続税の課税価格」該当項目を熟読し、その内容を考察する。(2時間)
	授業内容	【相続税法3 相続税の課税価格と税額計算1】 相続税の課税財産には、本来の相続財産、みなし相続財産との区分がある。ここではことさらみなし相続財産について学習する。併せて非課税財産の意義内容についても学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。(2時間)

5	事前学習	教科書の「相続税の課税価格」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【相続税法4 相続税の課税価格と税額計算2】 相続税の課税価格を計算する場合、様々な特例が用意されている。ここではこの特例措置について、適用要件とともに学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書の「相続税の税額計算」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【相続税法5 相続税の課税価格と税額計算3】 わが国相続税における特徴的な相続税の総額計算の計算方法、さらにさまざまな税額控除の意義とその内容について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書の「贈与税の課税価格」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【相続税法6 贈与税の課税価格1】 贈与税の課税財産には、本来の相続財産、みなし相続財産との区分がある。ここではことさらみなし相続財産について学習する。併せて非課税財産の意義内容についても学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書の「贈与税の課税価格」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【相続税法7 贈与税の課税価格2】 贈与税の課税価格を計算する場合、様々な特例が用意されている。ここではこの特例措置について、適用要件とともに学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書の「相続時精算課税制度」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【相続税法8 相続時精算課税制度】 贈与税の課税方式に、暦年課税と相続時精算課税制度がある。ここではこの相続時精算課税制度の内容と、暦年課税との違いについて学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書の「贈与税の税額計算」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【相続税法9 贈与税の税額計算】 贈与税の税額計算について、暦年課税と相続時精算課税、それぞれについて学習する。また、相続時精算課税の場合の、相続税における影響についても学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書の「延納・物納・連帯納付義務」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【相続税法10 延納・物納・連帯納付義務】 相続税・贈与税は財産課税であることから、その税額の納付方法に様々な特例が用意されている。この相続税法特有の納付の特例について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書の「相続税・贈与税の納税猶予及び免除の特例」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【相続税法11 相続税・贈与税の納税猶予及び免除の特例】 相続税・贈与税においてが様々な政策から、納税猶予及び納税免除が定められている。これらの規定の存在理由とその内容について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
13	事前学習	教科書の「申告・更正及び決定」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【相続税法12 申告・更正及び決定1】 相続税・贈与税は、法定申告後の後発事象が生ずるケースが頻繁である。相続税法はこの後発事由に備えて様々な特例を用意するが、ここでは原則としての申告・更正及び決定についての学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
14	事前学習	教科書の「相続税法固有の申告・更正及び決定」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【相続税法13 申告・更正及び決定2】 相続税・贈与税は、法定申告後の後発事象が生ずるケースが頻繁である。相続税法はこの後発事由に備えて様々な特例を用意するが、ここでは特例としての申告・更正及び決定についての学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）
15	事前学習	教科書の「財産の評価」該当項目を熟読し、その内容を考察する。（2時間）
	授業内容	【相続税法14 財産の評価】 相続税・贈与税は財産課税である。在版課税において該当財産を金額で表現しなければならない。ここでは像族税法における各取材班の評価方法について学習する。
	事後学習	配布レジュメと教科書をもとに、レジュメに掲げた問題の解答を自分なりにまとめる。（2時間）

科目名	税法ⅢB(消費・諸税法)	担当者	伊藤 悟	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	所得課税および資産課税以外の消費課税に関係する税目についての税法各論の考察を行う。「消費、諸税法」ではあるが、授業の中心は「消費税法」である。企業課税法のうち消費課税法である「消費税法」を中心に授業する。消費税法に関する理論および計算につき講義する。					
授業目的・到達目標	所得課税および資産課税以外の消費課税に関係する税目についての税法各論の考察を行うことを目的とする。消費税の基礎構造を知り、また消費税の法的課題について取り組む基本的知識技能と法解釈能力を修得することを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，3 経営法学科1，3					
履修条件	税法条文の参照を総務省「法令データ提供システム」を活用することから、P C等でのネット利用できることが望ましい。					
授業方法	税法の知識・情報として、財務省や国税庁等のサイトを活用する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験		0%			
	平 常 評 価		100%		就学度を知るためにレポート提出を求める。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2016	八千代出版		市民のための税法学		伊藤悟
	備考					
参 考 書	国税庁WEB内の税大講本「消費税法」を副読本とする。その他、必要により授業内で指示する。					
オフィスアワー	金曜16:10～ 授業講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの記載を確認する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス：シラバスの解説、税法研究論と本授業
	事後学習	テキスト「はしがき」を読む（2時間）
2	事前学習	財務省WEB>税制>わが国税制>税の種類をみて、日本税制の税目を知る。（2時間）
	授業内容	課税基礎論からみた消費課税：課税基礎論、消費課税の位置・意義、消費課税目の分類
	事後学習	テキスト第14章「課税基礎と税制論」を読む（2時間）
3	事前学習	テキスト第19章「消費課税法の基礎」を読む（2時間）
	授業内容	消費課税法の諸原則等：税法原理・原則、消費課税諸原則、消費税と付加価値税、財政赤字と消費税、福祉目的税論
	事後学習	税大講本「税法入門」第4章第4節消費税、同「消費税法」（副読本）第1章を読む。消費税法を法令データベース等で確認する。（2時間）
4	事前学習	副読本第2章を通読する。（2時間）
	授業内容	事業者の取引と消費税、不課税取引と課税取引
	事後学習	不課税取引と課税取引を理解する。（2時間）

5	事前学習	副読本第3章を通読する。（2時間）
	授業内容	課税取引と非課税取引、免税取引
	事後学習	消費税に係る取引区分を理解する。（2時間）
6	事前学習	副読本第4章を通読する。（2時間）
	授業内容	消費税の納税義務者、免税事業者、納税義務の成立
	事後学習	事業者課税である消費税の特質を理解する。（2時間）
7	事前学習	副読本第5章を通読する。（2時間）
	授業内容	消費税の計算基礎、地方消費税、関税等、課税標準の計算
	事後学習	関税等と消費税の関係、消費税計算と地方消費税計算の関係を理解する。端数処理を知る。（2時間）
8	事前学習	副読本第6章仕入税額控除の節を通読する。（2時間）
	授業内容	仕入税額控除
	事後学習	原則課税における仕入税額控除の基本を知る。（2時間）
9	事前学習	副読本第6章簡易課税制度の節を通読する。（2時間）
	授業内容	簡易課税制度
	事後学習	中小企業の消費税負担のあり方を検証する。（2時間）
10	事前学習	副読本第7章、第9章を通読する。（2時間）
	授業内容	消費税の課税期間、申告・納付等、雑則
	事後学習	個人事業者・法人事業者の申告等手続を理解する。（2時間）
11	事前学習	副読本(参考)4確定申告書の作成手順を知る。（2時間）
	授業内容	一般用申告書、簡易課税用申告書
	事後学習	申告書の記載手順に従い、消費税額の計算を理解する。（2時間）
12	事前学習	副読本の記載で不明なところをチェックする。（2時間）
	授業内容	消費税演習問題(1) 基礎問題、理論問題
	事後学習	演習問題を復習する（2時間）
13	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（2時間）
	授業内容	消費税演習問題（2）総合計算問題(全経3級消費税法過去問)
	事後学習	演習問題を復習する。（2時間）
14	事前学習	次回授業の予習を行っておくこと。（2時間）
	授業内容	消費税演習問題（3）総合計算問題(全経2級消費税法過去問)
	事後学習	演習問題を復習する。（2時間）
15	事前学習	授業全体での疑問点をまとめる。（2時間）
	授業内容	総括：消費税法の課題
	事後学習	この講義を基礎とし、消費税法につき税理士試験等をめざし勉強してください。（2時間）

科目名	西洋政治史Ⅰ	担当者	渡邊 容一郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	近代の欧米政治史について、「市民的政治体制の形成と展開」をテーマとして、当時の国際関係史も含めて概観的に講義を行う。また、重要な部分については政治思想の側面からも説明を加えるが、それは政治史が政治思想と無縁には成立し得ないからである。なお、受講生の理解度を確認するため、授業の最初に毎回小テスト(簡単な論述試験)を実施する。				
授業目的・到達目標	政治現象の歴史的背景に関する知識の修得を目的とする。また、現代政治経済システムの出発点が近代欧米政治にあること、政治と経済が密接な関連を有することを理解し、それを自分の言葉で他者に分かりやすく説明できるようになることを目標とする。関連DPおよびCP：政治経済学科 2, 3, 4, 6, 8 公共政策学科 1, 2, 3, 4				
履修条件	なし。				
授業方法	講義形式で授業を行うので、教科書とノートは必ず持参すること。必要に応じてレジュメや資料を配布する。また、小テストについては、採点した後、講評・添削したうえで、次回授業の最初に返却指導(フィードバック)する。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		80%		論述式の筆記試験では、授業中教示したポイントが適切かつ論理的に書かれているかどうかを重視する。
	平常評価		20%		毎回行う小テストの合計点で評価する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2014	弘文堂		Next 教科書シリーズ 西洋政治史	杉本稔編
	備考				
参考書	必要に応じて紹介する。				
オフィスアワー	水曜日 14：40～16：10 (事前にメールで予約してください) 研究室 (9号館2階 9207研究室) watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の序「西洋政治史を学ぶために」および第1章「市民的政治体制の形成」「1 市民革命の位置づけと市民的政治体制」を読んで、西洋政治史を学ぶ意義を考えるとともに、主要欧米諸国の政治体制を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【市民革命の位置づけと市民的政治体制1】 シラバスに基づいて授業計画を説明した後、主要欧米諸国の政治体制と絶対王政を学習し、絶対主義国家の特質と意義について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
2	事前学習	教科書の第1章「1 市民革命の位置づけと市民的政治体制」を読んで、市民革命のイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【市民革命の位置づけと市民的政治体制2】 市民革命の基本的性格を学習し、近代市民社会との関係および市民的政治体制の特質について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
3	事前学習	教科書の第1章「2 イギリス革命と議会主権の確立」を読んで、ピューリタン革命のイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【イギリス革命と議会主権の確立1】 イギリス革命の前半部分を学習し、クロムウェル共和制の問題点について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
4	事前学習	教科書の第1章「2 イギリス革命と議会主権の確立」を読んで、名誉革命のイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【イギリス革命と議会主権の確立2】 イギリス革命の後半部分を学習し、王政復古の意義とイギリス革命の特質について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)

5	事前学習	教科書の第1章「3 アメリカ独立革命と合衆国の建国」を読んで、アメリカ独立戦争のイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【アメリカ独立革命と合衆国の建国】 アメリカ独立革命の展開を学習し、アメリカ独立革命の特質と意義について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
6	事前学習	教科書の第1章「4 フランス革命の展開」を読んで、旧体制とフランス革命のイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【フランス革命の展開1】 フランス革命の前半部分を学習し、その特質と意義について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
7	事前学習	教科書の第1章「4 フランス革命の展開」を読んで、恐怖政治とナポレオンのイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【フランス革命の展開2】 フランス革命の後半部分を学習し、その特質と意義について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
8	事前学習	教科書の第1章「5 ドイツ三月革命とドイツ帝国の成立」を読んで、ドイツ的性格のイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【ドイツ三月革命とドイツ帝国の成立】 ドイツ三月革命とドイツ統一の展開を学習し、ドイツ三月革命の問題点とドイツ統一プロセスの特殊性について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
9	事前学習	教科書の第2章「市民的政治体制の展開」「1 ホイッグ寡頭制の展開とトーリー党の進化」を読んで、ホイッグとトーリーのイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【ホイッグ寡頭制の展開とトーリー党の進化】 イギリス革命以後の二大政党の状況等を学習し、二大政党の発展要因について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
10	事前学習	教科書の第2章「2 イギリス議院内閣制の生成と展開」を読んで、議院内閣制のイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【イギリス議院内閣制の生成と展開】 イギリスにおける議院内閣制の発展プロセスを学習し、イギリスと日本の議院内閣制について比較考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
11	事前学習	教科書の第2章「3 市民的政治体制の展開への試練としての『ウィーン体制』」を読んで、ウィーン体制のイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【市民的政治体制の展開への試練としての「ウィーン体制」】 ウィーン体制の成立と展開を学習し、その特質と意義、問題点について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
12	事前学習	教科書の第2章「4 1848年の革命運動」を読んで、1848年という年のイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【1848年の革命運動】 フランス七月革命と二月革命、チャーティスト運動等を学習し、その特質と意義について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
13	事前学習	教科書の第2章「5 イギリス議会政治の近代化と古典的展開」を読んで、イギリス議会政治のイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【イギリス議会政治の近代化と古典的展開1】 イギリスを事例として選挙法改正と政党の組織化プロセスを学習し、前者と後者の関連について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
14	事前学習	教科書の第2章「5 イギリス議会政治の近代化と古典的展開」を読んで、大衆デモクラシーのイメージを把握しておく。(2時間)
	授業内容	【イギリス議会政治の近代化と古典的展開2】 イギリスを事例として大衆民主主義への変質プロセスとその後の展開を学習し、その特質と意義について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
15	事前学習	アメリカ二大政党とジャクソン、ビスマルクについて把握しておく。(2時間)
	授業内容	【アメリカ二大政党の成立とジャクソニアン・デモクラシー、ビスマルクのリーダーシップ】 アメリカ二大政党の起源と発展、ジャクソニアン・デモクラシーの意義、そしてビスマルクの政治を学習し、西洋政治史から見た英米型政治と大陸型政治の違いについて比較考察する。
	事後学習	教科書とノートを見直し、期末試験に向けて準備をする。(2時間)

科目名	西洋政治史Ⅱ	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	西ヨーロッパ（特にイギリス、フランス、ドイツ）の政治史に関する講義を行う。第二次世界大戦後の各国政治は、冷戦とヨーロッパ統合に影響を受けてきた。各国政治を個別に検討すると同時に、ヨーロッパ統合を説明することで、ヨーロッパ政治が重層的なアクターの産物であることを提示していく。				
授業目的・到達目標	本授業では、政治学全般にとって必要不可欠な歴史的事実の修得を目的とする。現代社会における政治現象を分析するにあたっては、正確な事実関係の把握が必須である。ヨーロッパの政治がどのように展開してきたかを理解することにより、現代の諸問題の根源がなんであるかを説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2, 3, 4, 6, 8 公共政策学科1, 2, 3, 4				
履修条件	履修条件は特に設けないが、他の学生の学習を妨げるような行為には厳しく対応する。				
授業方法	パワーポイントを用いた講義形式。講義の理解度を問う小テストに関しては、次回授業の冒頭で解説を行う。定期試験の解説は、試験実施後にポータルサイト上で行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		90%	事実関係が整理されているとともに、因果関係が正しく示されていること。	
	平常評価		10%	授業中に実施される小テストによって評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2012年	北樹出版	現代ヨーロッパ政治史【増補版】		杉本稔
	備考				
参考書	授業中に適宜、提示する。				
オフィスアワー	火曜日13:00～14:00（研究室：本館8F 1811） 担当者が不在の場合もあるので、事前にメールで予定を確認すること。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認した上で、教科書の関連部分を読むことで、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 講義の流れ（授業のテーマ、スケジュールなど）や成績評価についての説明を行う。
	事後学習	現在の政治における課題は何か、自身の問題意識に照らして考えてみる。（2時間）
2	事前学習	どのような経緯をたどって第二次世界大戦へと突入したのかを確認する。（2時間）
	授業内容	第二次世界大戦とヨーロッパ政治 第二次世界大戦の戦後処理をめぐり、どのような世界秩序が構築されていき、何が問題となったのかを説明する。
	事後学習	第二次世界大戦後の国際秩序を支えていたのは何かをまとめる。（2時間）
3	事前学習	ヤルタ会談での議論を確認する。（2時間）
	授業内容	ドイツ分断へのプロセス 分割統治されたドイツの分断が固定化されていくプロセスを説明する。
	事後学習	西ドイツ政治の特徴は何かを検討する。（2時間）
4	事前学習	第二次世界大戦中のフランス政治を確認する。（2時間）
	授業内容	ヤルタの屈辱とゴーリスム 戦後フランス政治を規定するドゴールの政治理念とその源泉を説明する。
	事後学習	第五共和制憲法の内容を確認する。（2時間）

5	事前学習	第二次世界大戦におけるチャーチルの役割を確認する。（2時間）
	授業内容	イギリス型福祉国家の建設とバツケリズム 戦後イギリス政治の基礎となる「合意の政治」を説明する。
	事後学習	「合意の政治」に当てはまらない政策分野は何かを検討する。（2時間）
6	事前学習	第一次世界大戦と第二次世界大戦の間である戦間期のヨーロッパ統合運動を確認する。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパ統合への道 戦後のヨーロッパ政治を左右することになるヨーロッパ統合がどのように始まったのかを説明する。
	事後学習	国家とECSCの関係性について考えてみる。（2時間）
7	事前学習	ヨーロッパ統合の特質を確認する。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパ統合と主要国の対応 ヨーロッパ統合を積極的に推し進めたフランスとそこに参加しなかったイギリスを取り上げて、対応の違いを説明する。
	事後学習	統合に関する複数の「プラン」があったことを整理する。（2時間）
8	事前学習	戦後、アメリカとソ連が担ってきた役割を確認する。（2時間）
	授業内容	デタントとヤルタ体制 米ソの緊張が最も高まったキューバ危機の原因と教訓、その後を説明する。
	事後学習	ソ連と東欧諸国との関係を整理する。（2時間）
9	事前学習	アデナウアー政権の外交政策を確認する。（2時間）
	授業内容	ドイツ大連立政権と東方外交 大連立をきっかけにドイツの政党政治が変容し、新たな外交政策を展開していったことを説明する。
	事後学習	社会民主党の党組織改革を確認する。（2時間）
10	事前学習	ドゴール後のボンピドゥー、ジスカールデスタン、ミッテラン大統領の政治を確認する。（2時間）
	授業内容	ドゴールなきゴリスム ドゴールの退陣以後の政権においても、ゴリスムの影響が残ったことを説明する。
	事後学習	コアピタシオンによる政治の展開を確認する。（2時間）
11	事前学習	「合意の政治」とは何かを確認する。（2時間）
	授業内容	イギリス病の進行とサッチャリズム 「合意の政治」によって規定されたイギリス政治の停滞とサッチャーによる改革を説明する。
	事後学習	サッチャリズムの特質とは何かを確認する。（2時間）
12	事前学習	関税同盟とFTAの違いを確認する。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパ統合の拡大と深化 ECSCからスタートしたヨーロッパ統合の深化と拡大について説明する。
	事後学習	ECSC、EEC、ECの違いについて整理する。（2時間）
13	事前学習	制限主権論とは何かを確認する。（2時間）
	授業内容	ベレストロイカと東欧市民革命 戦後国際秩序を支えていたソ連政治の転換と東欧諸国の市民革命を説明する。
	事後学習	民主化の波とは何かを確認する。（2時間）
14	事前学習	戦後国際秩序とは何だったのかを検討する。（2時間）
	授業内容	ドイツ統一とソ連の解体 冷戦の象徴といわれた東西ドイツの統一とソ連の崩壊について説明する。
	事後学習	現在の国際政治と戦後国際政治の違いはどこにあるのかを検討する。（2時間）
15	事前学習	これまで授業で学習してきた点で、十分に理解できなかったことを把握する。（2時間）
	授業内容	まとめ 当期授業の総括を行うとともに、受講生からの質問に答える。
	事後学習	講義資料、教科書、参考書などを用いて、本授業の最終的な確認を行う。（2時間）

科目名	西洋政治史Ⅱ	担当者	渡辺 容一郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代の欧米政治史について、「現代型政治経済システムの形成と変容」をテーマとして、現在の世界情勢も含めて概観的に講義を行う。また、重要な部分については政治思想の側面からも説明を加えるが、それは政治史が政治思想と無縁には成立し得ないからである。なお、受講生の理解度を確認するため、授業の最初に毎回小テスト(簡単な論述試験)を実施する。				
授業目的・到達目標	政治現象の歴史的背景に関する知識の修得を目的とする。また、現代政治経済システムの変容が今日の政治課題をもたらしていること、政治と経済が密接な関連を有することを理解し、それを自分の言葉で他者に分かりやすく説明できるようになることを目標とする。関連DPおよびCP：政治経済学科 2, 3, 4, 6, 8 公共政策学科 1, 2, 3, 4				
履修条件	なし。				
授業方法	講義形式で授業を行うので、教科書とノートは必ず持参すること。必要に応じてレジュメや資料を配布する。また、小テストについては、採点した後、講評・添削したうえで、次回授業の最初に返却指導(フィードバック)する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	論述式の筆記試験では、授業中教示したポイントが適切かつ論理的に書かれているかどうかを重視する。	
	平常評価		20%	毎回行う小テストの合計点で評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2014	弘文堂		Next 教科書シリーズ 西洋政治史	杉本稔編
	備考				
参考書	必要に応じて紹介する。				
オフィスアワー	水曜日 14:40～16:10 (事前にメールで予約してください) 研究室 (9号館2階 9207研究室) watanabe.yoichiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の序「西洋政治史を学ぶために」および第3章「現代政治の幕開け」「1 第一次世界大戦の勃発」を読んで、西洋政治史を学ぶ意義を考えるとともに、第一次世界大戦勃発の経緯を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【第一次世界大戦の勃発】シラバスに基づいて授業計画を説明した後、第一次世界大戦の背景や経緯を学習し、第一次世界大戦の意義について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
2	事前学習	教科書の第3章「2 総力戦体制とロシア革命」を読んで、ロシア革命の経緯を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【総力戦体制とロシア革命】第一次世界大戦の特質とロシア革命を学習し、第一次世界大戦とロシア革命の意義および問題点について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
3	事前学習	教科書の第3章「3 第一次世界大戦の終結とヴェルサイユ条約」を読んで、ドイツ11月革命とヴェルサイユ体制の全体像を把握おく。(2時間)
	授業内容	【第一次世界大戦の終結とヴェルサイユ条約】ドイツ11月革命とヴェルサイユ体制を学習し、両者の特質と意義について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
4	事前学習	教科書の第3章「4 ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ」を読んで、当時のドイツ・イギリスの状況を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ】戦間期のドイツ・イギリスの状況を学習し、民主化の要因について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)

5	事前学習	教科書の第3章「4 ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ」を読んで、当時のフランス・国際連盟の状況を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ2】 戦間期のフランス・国際連盟の状況を学習し、民主化と国際協調進展の要因について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
6	事前学習	教科書の第3章「5 世界恐慌とナチスの台頭」を読んで、当時のドイツ・イギリス・フランスの状況を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【世界恐慌とナチスの台頭】 世界恐慌とファシズム・ナチズムの関係性を学習し、政治と経済の関連、今日から見た教訓などについて考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
7	事前学習	教科書の第4章「第二次世界大戦と冷戦」「1 第二次世界大戦」を読んで、第二次世界大戦の経緯と全体像を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【第二次世界大戦】 第二次世界大戦とナチズムの関係性を学習し、政治史と政治思想の関連について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
8	事前学習	教科書の第4章「2 冷戦の始まりとヨーロッパの分断」を読んで、冷戦開始の経緯を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【冷戦の始まりとヨーロッパの分断1】 第二次世界大戦後のドイツ・フランスの変容を学習し、民主化と変革の要因について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
9	事前学習	教科書の第4章「2 冷戦の始まりとヨーロッパの分断」を読んで、福祉国家の発展とヨーロッパ統合の起源を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【冷戦の始まりとヨーロッパの分断2】 イギリスにおける福祉国家形成とヨーロッパ統合の起源を学習し、福祉国家発展とヨーロッパ統合の要因について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
10	事前学習	教科書の第4章「3 模索する西ヨーロッパ諸国」を読んで、当時のドイツ・フランスの状況を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【模索する西ヨーロッパ諸国1】 1960年代のドイツ・フランスの状況を学習し、両国が変容した要因について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
11	事前学習	教科書の第4章「3 模索する西ヨーロッパ諸国」を読んで、当時のイギリス・ヨーロッパ統合の状況を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【模索する西ヨーロッパ諸国2】 1960年代のイギリス・ヨーロッパ統合の状況を学習し、イギリスが衰退していった要因とヨーロッパ統合の問題点について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
12	事前学習	教科書の第4章「4 冷戦の緊張緩和とオイルショック」を読んで、当時のドイツ・フランス・イギリス・南欧・ヨーロッパ統合の状況を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【冷戦の緊張緩和とオイルショック】 1970年代の西欧・南欧・ヨーロッパ統合の状況を学習し、世界経済の変化が主要国の内政におよぼした影響について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
13	事前学習	教科書の第4章「5 新冷戦から冷戦の終結へ」を読んで、冷戦終結に至る経緯と福祉国家の変容を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【新冷戦から冷戦の終結へ】 1980年代のドイツ・フランス・イギリス・欧州統合・米ソ関係の状況を学習し、冷戦終結・福祉国家再編・欧州統合深化の要因について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
14	事前学習	教科書の第5章「冷戦の終焉とグローバリゼーションの時代」「1 東欧革命と民主化の第三の波」「2 ヨーロッパ統合をめぐる相克」を読んで、東欧革命やドイツ統一、ソ連崩壊の経緯と全体像を把握しておく。(2時間)
	授業内容	【ポスト冷戦期のヨーロッパ政治】 1990年代におけるヨーロッパ政治の様々な変化を学習し、冷戦終結・福祉国家再編・欧州統合深化の意義について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、次回小テストのための準備をしておく。(2時間)
15	事前学習	グローバリゼーションとポピュリズムの意味について調べておく。(2時間)
	授業内容	【経済のグローバル化と政治のポピュリズム化】 2019年現在の政治経済状況を学習し、その特質と問題点、今後の課題について考察する。
	事後学習	教科書とノートを見直し、期末試験に向けて準備をする。(2時間)

科目名	西洋法制史Ⅰ	担当者	吉原 達也	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	6世紀ローマ皇帝ユスティニアヌスによって集大成された『ローマ法大全』は、西ヨーロッパにおいて、12世紀以後、分析・研究されて、ヨーロッパ法思想・政治思想の議論の基礎を与えることになった。明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本の淵源を辿り、ヨーロッパ法文化の発展においてローマ法の果たした役割を理解する。私たちが学ぶ学問としての法律学とはいかなる営みであるかを概観する。				
授業目的・到達目標	近代日本法とは何かを考える場合、ヨーロッパ人たちのように自国の歴史的形成過程の把握のみで満足することは許されず、それを眺める態度は、今日の法律学が社会科学の重要な一翼を担う科学に発展するための分析の道具たらしめるものでなければならないのであり、日本の近代法はさまざまな意味で基本的な母胎である19世紀のドイツ法学に還ることを余儀なくされる。そのために本講義はドイツの19世紀の法学の定立する政治的経済的社会的なさらに歴史的基盤を究明することを目的とする。そのことを通じて、私たちが学ぶ学問としての法律学とはいかなる営みであるかを考えるための基礎的な能力の修得を目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 2				
履修条件	とくにありません。				
授業方法	主として、講義形式で行なう。授業内試験とその講評を通じて、講義内容の理解の深化をはかる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内試験を行う。西洋法制史に関する基礎的な知識について理解しているか、与えられた問題について自らどのように考えるかを論理的に示せるかを中心に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	ピーター・スタイン『ローマ法とヨーロッパ』ミネルヴァ書房・2003年； 勝田有恒・山内進編『近世・近代ヨーロッパの法学者たち』ミネルヴァ書房・2008年				
オフィスアワー	金曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（本館9階1908）yoshihara.tatsuya@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容		
1	事前学習	ピーター・スタイン『ローマ法とヨーロッパ』、勝田有恒・山内進編『近世・近代ヨーロッパの法学者たち』などを手がかりに、西洋法制史全般について概観しておくこと。（2時間）	
	授業内容	前学期オリエンテーション	
	事後学習	指示された参考文献を参照しつつ、西洋法制史についての理解を深めておくこと。（2時間）	
2	事前学習	事前配布資料及び日本近代法史に関する参考文献を手がかりに、明治期における西欧法継受について概観しておくこと。（2時間）	
	授業内容	日本近代における西欧的法伝統[到達目標]明治期における西欧法継受について基本的な理解を修得する。	
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、明治期における西欧法継受について基本的な理解を確認すること。（2時間）	
3	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、法の担い手としての法律家から見たヨーロッパ法史を国別比較について、基本的な事項を概観しておくこと。（2時間）	
	授業内容	ヨーロッパ法史の見方（1）法の担い手としての法律家から見たヨーロッパ法史を国別比較について基本的な理解を修得する。	
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、ヨーロッパ各国の法のあり方について基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）	
4	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、法の担い手としての法律家から見たヨーロッパ法史について、とくに英独仏諸国のあり方について基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）	
	授業内容	ヨーロッパ法史の見方（2）[到達目標]法の担い手としての法律家から見たヨーロッパ法史を国別比較を通じて概観する。	
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、ヨーロッパ各国の法のあり方について基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）	

5	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、「法律家」という観点からみたローマ法の形成について基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）
	授業内容	古代ローマ（１）[到達目標]「法律家」という観点からみたローマ法の形成について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、「法律家」という観点からみたローマ法の形成について基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）
6	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、法律家の営みとは何か、ローマ古代から共和政期について基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）
	授業内容	古代ローマ（２）[到達目標] 法律家の営みとは何か、ローマ古代から共和政期について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、法律家の営みとは何か、ローマ古代から共和政期について基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）
7	事前学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、法律家の営みとは何か、古典期ローマ法学の担い手であるローマ法学者の具体像について基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）
	授業内容	古代ローマ（３）[到達目標] 古典期におけるローマ法学成立と法学者のあり方について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、古典期におけるローマ法学成立と法学者のあり方について基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）
8	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、12世紀ルネサンスとローマ法の復活という問題について基本的事項を把握しておくこと。（2時間）
	授業内容	ユスティニアヌス法典の復活（１）[到達目標] 12世紀ルネサンスとローマ法の復活という問題について基本的理解を修得する。
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、12世紀ルネサンスとローマ法の復活という問題について基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）
9	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、注釈学派とボローニア大学法学部の歴史について基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）
	授業内容	ユスティニアヌス法典の復活（２）[到達目標] 注釈学派とボローニア大学法学部の歴史について基本的理解を修得する。
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、注釈学派とボローニア大学法学部の歴史について基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）
10	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、注釈学派の活動をめぐって帝国と立法権を中心に基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）
	授業内容	ユスティニアヌス法典の復活（３）[到達目標] 注釈学派の活動をめぐって帝国と立法権を中心に基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、注釈学派の活動をめぐって帝国と立法権を中心に基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）
11	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、注解学派の活動をめぐってその法学史的意義について基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ法と国民国家（１）[到達目標] 注解学派の活動をめぐってその法学史的意義について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、注解学派の活動をめぐってその法学史的意義について基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）
12	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、人文主義法学の活動をめぐってその法学史的意義について基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ法と国民国家（２）[到達目標] 人文主義法学の活動をめぐってその法学史的意義について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、人文主義法学の活動をめぐってその法学史的意義について基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）
13	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、ドイツにおけるローマ法の継受をめぐる諸問題について基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ法と国民国家（３）[到達目標] ドイツにおけるローマ法の継受をめぐる諸問題について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、ドイツにおけるローマ法の継受をめぐる諸問題について基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）
14	事前学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、前期の講義内容を総復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	前期のまとめ 古代ローマからローマ法継受に至る時代を通観し、修得した基本的理解の成果を再確認する。
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、古代ローマからローマ法継受に至る時代を通観し、修得した基本的理解の成果を確認しておくこと。（2時間）
15	事前学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、前期の講義内容を総復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業内試験（６０分）及び解説と講評（３０分）
	事後学習	授業内試験の結果をふまえつつ、前期の講義内容を総復習しておくこと。（2時間）

科目名	西洋法制史Ⅱ	担当者	吉原 達也	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	6世紀ローマ皇帝ユスティニアヌスによって集大成された『ローマ法大全』は、西ヨーロッパにおいて、12世紀以後、分析・研究されて、ヨーロッパ法思想・政治思想の議論の基礎を与えることになった。明治以後、ヨーロッパ法の強力な影響のもとに形成された日本の淵源を辿り、ヨーロッパ法文化の発展においてローマ法の果たした役割を理解する。私たちが学ぶ学問としての法律学とはいかなる営みであるかを概観する。			
授業目的・到達目標	近代日本法とは何かを考える場合、ヨーロッパ人たちのように自国の歴史的形成過程の把握のみで満足することは許されず、それを眺める態度は、今日の法律学が社会科学の重要な一翼を担う科学に発展するための分析の道具たらしめるものでなければならぬ。日本の近代法はさまざまな意味で基本的な母胎である19世紀のドイツ法学に還ることを余儀なくされる。それはドイツの19世紀の法学の定立する政治的経済的社会的なさらに歴史的基盤を究明することを目的とし、そのことを通じて、私たちが学ぶ学問としての法律学とはいかなる営みであるかを考えるための基礎的な能力の修得をめざすことを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 2			
履修条件	とくにありません。			
授業方法	主として、講義形式で行なう。授業内試験とその講評を通じて、講義内容の理解の深化をはかる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業内試験を行う。西洋法制史に関する基礎的な知識について理解しているか、与えられた問題について自らどのように考えるかを論理的に示せるかを中心に評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		
参考書	ピーター・スタイン『ローマ法とヨーロッパ』ミネルヴァ書房・2003年； 勝田有恒・山内進編『近世・近代ヨーロッパの法学者たち』ミネルヴァ書房・2008年			
オフィスアワー	金曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（本館9階1908）yoshihara.tatsuya@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容		
1	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、18世紀以後の主要な法学者について調べておくとともに、啓蒙絶体制期の法と政治・自然法学の成立について、基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）	
	授業内容	後学期オリエンテーション。ローマ法と法典編纂（1）[到達目標]啓蒙絶体制期の法と政治・自然法学の成立。	
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、啓蒙絶体制期の法と政治・自然法学の成立についての基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）	
2	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、継受法学の展開、自然法と法律学について基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）	
	授業内容	ローマ法と法典編纂（2）[到達目標]継受法学の展開、自然法と法律学について基本的な理解を修得する。	
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、継受法学の展開、自然法と法律学について基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）	
3	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、啓蒙的自然法論及び近代法典編纂について基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）	
	授業内容	ローマ法と法典編纂（3）[到達目標]啓蒙的自然法論及び近代法典編纂について基本的な理解を修得する。	
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、啓蒙的自然法論及び近代法典編纂について基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）	
4	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、19世紀初頭の法と政治及びその思想的背景について基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）	
	授業内容	歴史法学とその時代（1）[到達目標]19世紀初頭の法と政治及びその思想的背景について基本的な理解を修得する。	
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、19世紀初頭の法と政治及びその思想的背景について基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）	

5	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、19世紀初頭の法と政治及び法典論争の思想的背景について基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）
	授業内容	歴史法学とその時代（2）[到達目標]19世紀初頭の法と政治及び法典論争の思想的背景についてに基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、19世紀初頭の法と政治及び法典論争の思想的背景について基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）
6	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、19世紀初頭の法と政治、とくに1830年代の時代状況について基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）
	授業内容	歴史法学とその時代（3）[到達目標]19世紀初頭の法と政治、とくに1830年代の時代状況について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、19世紀初頭の法と政治、とくに1830年代の時代状況について基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）
7	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、1840年代新権力体制と歴史法学をめぐる諸問題について基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）
	授業内容	革命前の法と政治（1）[到達目標]1840年代新権力体制と歴史法学をめぐる諸問題について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、1840年代新権力体制と歴史法学をめぐる諸問題について基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）
8	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、1840年代における歴史法学の分極化をめぐる諸問題について基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）
	授業内容	革命前の法と政治（2）[到達目標]1840年代における歴史法学の分極化をめぐる諸問題について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、1840年代における歴史法学の分極化をめぐる諸問題について基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）
9	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、歴史法学、概念法学の時代に法学方法論について、基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）
	授業内容	法実証主義の時代（1）[到達目標]、歴史法学、概念法学の時代に法学方法論について、基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、歴史法学、概念法学の時代に法学方法論について、基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）
10	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、19世紀後半におけるパンデクテン法学の形成とその意義について基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）
	授業内容	法実証主義の時代（2）[到達目標]19世紀後半におけるパンデクテン法学の形成とその意義について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、19世紀後半におけるパンデクテン法学の形成とその意義について基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）
11	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、ドイツ民法典の成立の経緯及びその意義について基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）
	授業内容	法実証主義の時代（3）[到達目標]ドイツ民法典の成立の経緯及びその意義について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、ドイツ民法典の成立の経緯及びその意義について基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）
12	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、20世紀前半の法学史の一コマである自由法論について基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ法と20世紀（1）[到達目標]20世紀前半の法学史の一コマである自由法論について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、20世紀前半の法学史の一コマである自由法論について基本的な理解を確認しておくこと。（2時間）
13	事前学習	事前配布資料及び参考文献を手がかりに、20世紀ドイツ法学をめぐってとくにナチスの時代の法学について基本的な事項を把握しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ法と20世紀（2）[到達目標]20世紀ドイツ法学をめぐってとくにナチスの時代の法学について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を参照しつつ、20世紀ドイツ法学をめぐってとくにナチスの時代の法学について基本的な理解を確認しておくこと（2時間）
14	事前学習	配布資料及び指示された参考文献を手がかりに、前期の講義内容を総復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	後期のまとめ、近世自然法論、歴史法学、パンデクテン法学から20世紀に至る時代を通観し、基本的理解の成果を再確認する。
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を手がかりに、後期の講義内容を総復習しておくこと。（2時間）
15	事前学習	配布資料及び指示された参考文献を手がかりに、後期の講義内容を確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業内試験及び後期講義内容の振り返り
	事後学習	配布資料及び指示された参考文献を手がかりに、試験の結果をふまえつつ、後期の講義内容をあらためて総復習しておくこと。（2時間）

科目名	選挙制度論	担当者	小島 勇人	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	憲法は、国民主権主義を基調とした代議制民主主義をとることを明示している。この講義では、その具体的手段である選挙について、我が国の現行選挙制度のあらまし、我が国の選挙制度の沿革、諸外国の選挙制度等、多数代表制、少数代表制と比例代表制（選挙制度の類型）などとともに、現行実定法である公職選挙法からみた我が国の選挙制度の実態の理解に資するため、実務の現状や動向を踏まえ講義する。				
授業目的・到達目標	選挙は、民主政治の基礎であり基盤をなすものである。選挙の原理とともに我が国の選挙制度の実態を学び、民主政治とは何か、民主政治が発展するためには選挙制度はどうあるべきか、国民はどうあるべきか、について考える力を養成することを目的とする。我が国の選挙制度の基本的な構造とそれを支える実定法たる公職選挙法の中身を理解し、それを習得することを通じて今後の選挙制度のあり方について学生自身が自ら考えられるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2、3、4				
履修条件	特になし。				
授業方法	教科書を使用しつつ、必要に応じて講義に関連する資料を配布する。教科書や資料にない事例等を話す場合があるので、ノートへの筆記も必要となる。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	現行の我が国の選挙制度についての理解度とそれを文章で表現する力。	
	平常評価		0%	なし。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	ぎょうせい		実務と研修のためのわかりやすい公職選挙法 第15次改訂版	選挙制度研究会
	備考				
参考書	必要に応じて講義に使用する参考資料を配布する。その他、授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	質問等については、授業時間中もしくは終了後に授業講堂にて対応する。（水曜3限）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	憲法における選挙に関する基本原則を理解しておく。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション、授業概要、講義計画等の説明。 我が国の選挙制度の前提としての憲法における選挙の基本原則
	事後学習	憲法における選挙の基本原則を講義内容とともに復習し、自分なりに整理する。（2時間）
2	事前学習	教科書から我が国の現行選挙制度を概観しておく。（2時間）
	授業内容	我が国の現行選挙制度のあらまし
	事後学習	講義内容と配布資料に基づき復習し、自分なりに整理する。（2時間）
3	事前学習	教科書の該当部分を読み、理解しておく。（2時間）
	授業内容	我が国の選挙制度の沿革
	事後学習	講義内容と配布資料に基づき復習し、自分なりに整理する。（2時間）
4	事前学習	教科書の該当部分を読み、理解しておく。（2時間）
	授業内容	諸外国の選挙制度等
	事後学習	講義内容と配布資料に基づき復習し、自分なりに整理する。（2時間）

5	事前学習	教科書の該当部分を読み、理解しておく。（2時間）
	授業内容	多数代表制、少数代表制と比例代表制（選挙制度の類型）
	事後学習	講義内容と配布資料に基づき復習し、自分なりに整理する。（2時間）
6	事前学習	教科書の該当部分を読み、理解しておく。（2時間）
	授業内容	小選挙区比例代表制の種類とその仕組み
	事後学習	講義内容と配布資料に基づき復習し、自分なりに整理する。（2時間）
7	事前学習	教科書の該当部分を読み、理解しておく。（2時間）
	授業内容	定数配分と投票価値の平等
	事後学習	講義内容と配布資料に基づき復習し、自分なりに整理する。（2時間）
8	事前学習	教科書の該当部分を読み、理解しておく。（2時間）
	授業内容	選挙権と被選挙権
	事後学習	講義内容と配布資料に基づき復習し、自分なりに整理する。（2時間）
9	事前学習	教科書の該当部分を読み、理解しておく。（2時間）
	授業内容	選挙の管理と執行プロセス(1)
	事後学習	講義内容と配布資料に基づき復習し、自分なりに整理する。（2時間）
10	事前学習	教科書の該当部分を読み、理解しておく。（2時間）
	授業内容	選挙の管理と執行プロセス(2)
	事後学習	講義内容と配布資料に基づき復習し、自分なりに整理する。（2時間）
11	事前学習	教科書の該当部分を読み、理解しておく。（2時間）
	授業内容	選挙運動と政治活動
	事後学習	講義内容と配布資料に基づき復習し、自分なりに整理する。（2時間）
12	事前学習	教科書の該当部分を読み、理解しておく。（2時間）
	授業内容	選挙の管理執行に関する問題事例と選挙争訟
	事後学習	講義内容と配布資料に基づき復習し、自分なりに整理する。（2時間）
13	事前学習	教科書の該当部分を読み、理解しておく。（2時間）
	授業内容	選挙犯罪と制裁
	事後学習	講義内容と配布資料に基づき復習し、自分なりに整理する。（2時間）
14	事前学習	教科書の該当部分を読み、理解しておく。（2時間）
	授業内容	政治資金の規正
	事後学習	講義内容と配布資料に基づき復習し、自分なりに整理する。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義内容を踏まえ選挙制度の意義を考える。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	今後の選挙制度の在り方について考え、自分なりに整理する。（2時間）

科目名	選挙制度論	担当者	安野 修右	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	代議制民主主義は国民の代表である政治家のもと様々な意思決定を行う政体である。そして政治家は選挙を通じて選出される。したがって選挙に関するルール、すなわち選挙制度は代議制民主主義において根幹的な制度であるといえる。そこで本講座では、民主主義における選挙制度の役割を導入部分として、主として選挙制度の類型やその影響について政治学者の議論を解説し、検討を行うこととする。				
授業目的・到達目標	本講義では、代議制民主主義における選挙制度の役割に関する理解を通じて、選挙制度の視角から現代政治を捉える能力を養うことを目的としている。具体的には、平等選挙などの選挙に関する基本的原則やそれが重要性を持った背景、小選挙区制などの従来根幹的と考えられてきた制度に関する類型・政治的影響に関する議論、あるいは昨今重要性が指摘されている選挙管理行政に関する議論などについて習熟することで、各学生が現実で生じている政治現象をより俯瞰的に捉えることができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2，3，4				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式で行う。レジュメ等の関連資料の配布は、共有フォルダを用いて行う。また授業内あるいはポータルシステムを介し、定期的にレポートの提出を求め、授業者の理解度を確認する。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	授業内容をどの程度理解しているかについての試験を定期試験期間に行う。	
	平常評価		30%	受講者の授業参加度による評価を行う。なお授業内容の理解度に関するレポートの提出を授業実施期間中に数度求める。実施日は当日決める。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	備考	使用しない。			
参考書	必要に応じて紹介する。				
オフィスアワー	火曜の昼休憩時に研究室にて。事前の予約は原則不要。だが相談内容等について予め連絡があった方が適切な対応はしやすい。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容を確認し、講義の流れについて確認する。（2時間）
	授業内容	ガイダンスを行う。授業目的、講義の概要、成績評価の方針について説明する。また民主主義の問題について、簡単な事例を示し、以降の講義への理解度を深める。
	事後学習	シラバスの内容や講義の内容をもとに、自分なりの民主主義に対する考え方を整理しておくこと。（2時間）
2	事前学習	前回の授業で提示した参考文献などを読み、自分の考えを練っておくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	・民主主義と選挙 近代以降の社会的発展なかで民主主義及び選挙が重要性を持った歴史的背景について講義を行う。
	事後学習	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。（2時間）
3	事前学習	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	・選挙制度とは何か 選挙制度とは一体何か？選挙制度を構成する要素をふまえて、現代の民主主義体制のなかで選挙制度を持つ役割について講義を行う。
	事後学習	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。（2時間）
4	事前学習	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	・選挙の基本原則① とくにイギリスを中心として選挙の基本的原理として選挙権拡大の歴史的背景について講義を行う。
	事後学習	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。（2時間）

5	事前学習	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。(2時間)
	授業内容	・選挙の基本原則② 選挙の基本的原理として、一票の格差の問題などを取り扱う。
	事後学習	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。(2時間)
6	事前学習	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。(2時間)
	授業内容	・選挙制度の類型①：小選挙区制 狭義の「選挙制度」の類型について説明し、そのなかでも、小選挙区制及びそれから派生する制度について、諸外国の事例をふまつつ講義を行う。
	事後学習	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。(2時間)
7	事前学習	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。(2時間)
	授業内容	・選挙制度の類型②：比例代表制 選挙制度の類型のなかでも、比例代表制とその議席配分の方式の差異について、諸外国の事例をふまつつ講義を行う。
	事後学習	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。(2時間)
8	事前学習	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。(2時間)
	授業内容	・選挙制度と政党システム 選挙制度と政党システムとの関連性について既存の政治学の議論をふまえながら講義を行う。
	事後学習	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。(2時間)
9	事前学習	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。(2時間)
	授業内容	・選挙制度と政党組織 選挙制度と政党組織との関係性について既存の政治学の議論をふまえながら講義を行う。
	事後学習	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。(2時間)
10	事前学習	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。(2時間)
	授業内容	・選挙制度と政治コミュニケーション 選挙制度と政治コミュニケーションの関係性について既存の政治学の議論をふまえながら講義を行う。
	事後学習	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。(2時間)
11	事前学習	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。(2時間)
	授業内容	・政治腐敗防止に関する制度 民主主義における政治腐敗防止への試みについて、諸外国の事例をふまえながら講義を行う。
	事後学習	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。(2時間)
12	事前学習	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。(2時間)
	授業内容	・選挙ガバナンスに関する制度 民主的選挙を行ううえで欠かせない、選挙管理行政について諸外国の事例もふまえながら講義を行う。
	事後学習	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。(2時間)
13	事前学習	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。(2時間)
	授業内容	・日本の選挙制度① 55年体制下で用いられていた中選挙区制下での政治の特徴と94年の政治改革で小選挙区比例代表並立制が導入されるまでの経緯について、それまでの講義で提示した枠組みをふまつつ、講義を行う。
	事後学習	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。(2時間)
14	事前学習	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。(2時間)
	授業内容	・日本の選挙制度② 日本における選挙ガバナンスの制度や選挙運動に対する規制の抱える問題点について講義を行う。
	事後学習	配布資料及び授業に関するメモなどをもとに授業内容を復習しておくこと。(2時間)
15	事前学習	前回の授業で提示した参考文献などを事前に読んでおくこと。また授業に際し、共有フォルダからレジュメ等をダウンロードし、内容を確認しておくこと。(2時間)
	授業内容	・日本の選挙制度③ それまでの講義をふまつつ、日本の選挙に関する映画を鑑賞しつつ、日本政治に対する理解を深める
	事後学習	本講義の内容を再度確認し、期末試験に備えること。(2時間)

科目名	専門演習A	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	グループディスカッションやプレゼンテーションを行ないつつ、現代社会における諸問題についての理解を深め、同時にその解決のための政策オプションを説明できる力を養成します。					
授業目的・到達目標	現代社会を深く観察しつつ、その諸問題を理解することを目的とし、解決策を自分の言葉で説明できるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：公共政策学科1、3、4、5、6、7、8					
履修条件	授業はグループディスカッションを中心に進めるため、授業に積極的に参加することが必要です。 ※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること。					
授業方法	政策に関するグループディスカッションやプレゼンテーションを行ないます。【フィードバック方法】毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、コミュニケーション力の向上に努めます。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		政策課題に対する理解度、及びグループディスカッションのスキル等を評価します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない				
参考書	授業中に適宜紹介します。					
オフィスアワー	金曜日12：15～12：55 ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	履修を希望する場合には、初回ガイダンスに必ず出席すること（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ガイダンスで示された履修条件等を確認すること（2時間）
2	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	グループディスカッション及びプレゼンテーションに関する方法論
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
3	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
4	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）

5	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
6	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
7	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
8	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
9	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
10	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
11	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
12	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
13	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
14	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
15	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）

科目名	専門演習A	担当者	山田 正雄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	『組織』をテーマにグループワークによって企業や官公庁のHP等に公開されている各種情報を分析・考察し、ヒト・モノ・カネ・情報・その他の要素を基軸に当該組織の経営トレンドを把握して『組織』への実体的理解を深める。				
授業目的・到達目標	講義、グループワーク、プレゼンテーションの複数ループから問題の発見と間主観的な考察方法・解決方法について基礎的な能力を養成することを目的とする。 『組織』をテーマにグループワークによって企業や官公庁のHP等に公開されている各種情報を分析・考察し、ヒト・モノ・カネ・情報・その他の要素を基軸に当該組織の経営トレンドを把握して『組織』を実体的に理解できることを目標とする。				
履修条件	腸連及び履修の修得は必要ありません。 受講生のスキルに応じてMicrosoft ExcelとPowerPointやWord等へのデータ転用など基礎から学習する時間を設ける。				
授業方法	講義やグループワーク、個々の調査研究成果をもとにプレゼンテーションやレポート作成を行う。 なお受講生が提出したレポートや課題については、次の授業の冒頭かポータルサイトを通じてフィードバックを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業への参加度（50%）と 企業や官公庁等に関する分析レポート等（50%）によって行う。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。講義時に適宜資料を配付する。			
参考書	國貞克則 『財務3表図解分析法』 朝日新書 2016、その他は講義時に適宜紹介する。				
オフィスアワー	原則的には火曜日・11時～13時まで、または16時20分以降・学内某所としますが、ご希望によって日時・場所等を相談しましょう。 必ず事前に電子メールでアポイントメントを取って下さい。 → → → 【yamada.masao@nihon-u.ac.jp】 授業や就職活動、進学等キャンパスライフ全般についてご相談に応じます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	・メディア教育センターに設置されているPCの利用方法に慣れておく。 (2時間)
	授業内容	・授業ガイダンス ・法学部情報システム（COLNet）の利用方法・講義計画・課題の入手と提出方法・成績評価等について ・グループ編成
	事後学習	・インターネット上に公開された企業や官公庁の経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）に関する情報や業界・企業研究サイト等を閲覧・検討しておくこと。 (2時間)
2	事前学習	・資料（企業とは何か）を熟読し、A4一枚にまとめ、指定フォルダへ提出する。 (2時間)
	授業内容	・グループディスカッションについて ・組織（企業・官公庁）とは・・・（目的・戦略・経営行動・情報開示） ・利害関係者と情報要求、Accountability
	事後学習	・企業や官公庁等の各組織の利害関係者を挙げて情報ニーズを考察しWordにまとめる。 ・資料（Excel入門1）を熟読しておく。 (2時間)
3	事前学習	・企業や官公庁のHP等に公開されている各種情報から財務情報を中心にデータをダウンロードしておく。 (2時間)
	授業内容	・組織についてグループディスカッション
	事後学習	・収集したデータをMicrosoft ExcelやWordに整理しておく。 (2時間)
4	事前学習	・調査対象の企業や官公庁について調査範囲を広げる。 (2時間)
	授業内容	・HP上の企業（官公庁）情報の収集1（財務情報の収集・評価）
	事後学習	・収集したデータをMicrosoft ExcelやWordに整理しておく。 (2時間)

5	事前学習	・調査対象の企業や官公庁について調査範囲をさらに広げる。 (2時間)
	授業内容	・HP上の企業（官公庁）情報の収集2（その他情報の収集・評価）
	事後学習	・収集したデータをMicrosoft ExcelやWordに整理しておく。 (2時間)
6	事前学習	・資料（Excel入門2）を熟読しておく。 (2時間)
	授業内容	・Microsoft Excelによるデータ分析1（合計・平均の計算、各種グラフ作成）
	事後学習	・Excelデータの集計を指定課題で復習する。 (2時間)
7	事前学習	・Excelデータの集計結果をWordにまとめる。 (2時間)
	授業内容	・Microsoft Excelによるデータ分析2（ピボットテーブルによるクロス集計と分析）
	事後学習	・ExcelデータをMicrosoft Wordに転用する技法を課題で予習する。 (2時間)
8	事前学習	・調査・研究結果をMicrosoft Wordにまとめる。 (2時間)
	授業内容	・企業「（官公庁）研究の成果の中間発表 1
	事後学習	・発表内容を評価表に整理記入しておく。 (2時間)
9	事前学習	・調査・研究結果をMicrosoft Wordにまとめる。 (2時間)
	授業内容	・企業（官公庁）研究の成果の中間発表 2
	事後学習	・発表内容を評価表に整理記入しておく。 (2時間)
10	事前学習	・資料（利益の算出過程）を一読して損益計算書の構造を理解しておく。 (2時間)
	授業内容	・企業（官公庁）情報の分析（時系列的財務分析と企業評価）
	事後学習	・各種財務データを時系列的にExcelにセイルしておく。 (2時間)
11	事前学習	・有価証券報告書の概要や各種白書の概要についてサンプルを一読しておく。 (2時間)
	授業内容	・企業（官公庁）情報の分析（戦略的経営行動と企業評価）
	事後学習	・Excelデータの集計を課題で復習し、指定フォルダへ提出する。 (2時間)
12	事前学習	・資料（PowerPoint入門講座）を一読してプレゼン資料作成の基本を学習しておく。 (2時間)
	授業内容	・PowerPointによるプレゼンテーション方法について実習
	事後学習	・プレゼンテーション資料の作成と発表準備 (2時間)
13	事前学習	・プレゼンテーションの準備 (2時間)
	授業内容	・企業（官公庁）研究の成果発表 1
	事後学習	・プレゼンテーション内容を評価集計表にまとめておく。 (2時間)
14	事前学習	・プレゼンテーションの準備 (2時間)
	授業内容	・企業（官公庁）研究の成果発表 3
	事後学習	・プレゼンテーション内容を評価集計表にまとめておく。 (2時間)
15	事前学習	・プレゼンテーション評価集計表を各自集計しておく。 (2時間)
	授業内容	・プレゼンテーションの講評と経営トレンド分析の概要について講評
	事後学習	・各自のプレゼンテーション資料をまとめて指定フォルダへ提出する。 (2時間)

科目名	専門演習A	担当者	山村 りつ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	授業名：『マイノリティと社会政策』 『福祉政策』等の科目とリンクさせながら、福祉政策全般について理解を深めるとともに、マイノリティ政策を題材として政策策定のプロセスを学んでいく。また、プレゼンテーションを通してその理解を定着させ、さらに考察を深める。				
授業目的・到達目標	授業目的：個々の学生がマイノリティと公共政策の關係に、そこにみられる役割や課題、重要な理念について知識を養成するとともに、公共政策のあり方について各自の見解をもち、それを表現できるようになること。 到達目標：①マイノリティが生じる社会的構造について理解し、説明できるようになる。対応DP及びCP：公共政策学科1, 2／②個別のテーマについて、政策を通じた課題解決の方法について具体的に提示する。対応DP及びCP：公共政策学科2, 4, 5, 8／③公共政策の役割・機能としてのマイノリティの生活課題との關係を言語化する。対応DP及びCP：公共政策学科3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	マイノリティの社会的地位や政策に興味をもち、関連する政策策定や行政的業務に関わりたいと考える学生。【重要】2回目の授業欠席者は履修を認めない場合がある。無理な場合は1回目もしくは事前にその旨申し出ること。				
授業方法	受講生数をみて最終的に決めるが、基本的には演習形式をとりながら、そのなかで意見交換や意見表明の機会を設けている。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	定期試験は行わない。	
	平常評価		100%	最終的な成果発表を基本として、授業内での積極的な発言やコメントカードの内容を考慮に入れて評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	なし	なし		なし	なし
	備考	購入は必須ではありません			
参考書	参考となる資料については、授業内で随時紹介する。				
オフィスアワー	火曜3限（それ以外は要相談） ※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読をし、マイノリティの意味について考察をする（2時間）
	授業内容	オリエンテーション・イントロダクション
	事後学習	授業での課題設定を踏まえて、今後の自分の課題を大まかに決めておく（2時間）
2	事前学習	自分が考えるマイノリティについて考えを整理しておく（1時間）
	授業内容	・マイノリティとは（講義） ・発表のグループと日程の決定（受講生数によっては個人発表とする）
	事後学習	授業での説明を踏まえてマイノリティとは何かについて文章化する。（3時間）
3	事前学習	自分の生活を振り返り、身の回りに発生する「マイノリティ」をリストアップする（1時間）
	授業内容	・世界におけるマイノリティ問題（講義） ・グループディスカッション（自分たちのグループの対象を決める）
	事後学習	授業の学びを受けて、グループの対象のマイノリティ性について説明する。（3時間）
4	事前学習	前回の授業で示された段階までグループの課題を完成させるため、必要な情報を集め、ほかのメンバーへの説明を考える。（2時間）
	授業内容	・政策が作るマイノリティ（講義） ・グループディスカッション（自分たちの対象のマイノリティ性を図示する）
	事後学習	授業内でのグループの作業を振り返り、足りない部分をリストアップし、必要な情報を集める。（2時間）

5	事前学習	前回の授業で示された段階までグループの課題を完成させるため、必要な情報を集め、ほかのメンバーへの説明を考える。（2時間）
	授業内容	・マイノリティ政策とは（講義） ・グループディスカッション（対象の生活課題について考える）
	事後学習	授業内でのグループの作業を振り返り、足りない部分をリストアップし、必要な情報を集める。（2時間）
6	事前学習	前回の授業で示された段階までグループの課題を完成させるため、必要な情報を集め、発表の課題を精緻化するために必要なことをリストアップする。（2時間）
	授業内容	・誰のための政策か：対象設定の課題（講義） ・グループディスカッション（発表で扱う生活課題を決める）
	事後学習	授業内でのグループの作業を振り返り、中間発表に向けて必要な情報を集める。（2時間）
7	事前学習	中間発表の準備（資料収集・練習）および中間発表で指摘されそうな点について考え、その対策を練る。（3時間）
	授業内容	中間発表・講評
	事後学習	中間発表に対する講評等を参考に発表テーマを最終的に決定する。もしくは決定のために必要な情報収集を行いグループディスカッションの準備をする。（1時間）
8	事前学習	中間発表を受けて、発表までに今後必要なことをリストアップする。（1時間）
	授業内容	・事例検討①（講義） ・グループディスカッション（発表のテーマおよび内容の深化）
	事後学習	事例を踏まえてグループの発表の課題を考察し、ほかのメンバーに伝える準備をする。（3時間）
9	事前学習	前回の授業で示されたグループ発表の課題について、文章化しておく。（1時間）
	授業内容	・事例検討②（講義） ・グループディスカッション（発表のテーマおよび内容の深化）
	事後学習	事例を踏まえてグループの発表の課題を考察し、ほかのメンバーに伝える準備をする。（3時間）
10	事前学習	プレゼンテーションを完成させるために必要なことをリストアップする。（2時間）
	授業内容	・優先順位とマイノリティ（講義） ・グループディスカッション（発表の全体像の確定）
	事後学習	最終的なプレゼンテーションを想定して、課題がないかを考察する。またその課題への対策を考える。（2時間）
11	事前学習	プレゼンテーションを完成させるために必要なことをリストアップする。（2時間）
	授業内容	・グループディスカッション（発表に向けた最終準備、個別の質問やアドバイスなど）
	事後学習	発表に向けた最終準備（練習）をしておく。（2時間）
12	事前学習	発表に向けた最終確認と、他のグループ発表の講評のにむけた情報収集をしておく。（1時間）
	授業内容	課題発表1回目（2～3グループの発表）
	事後学習	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考え、それをプレゼンテーション資料に反映させる。（3時間）
13	事前学習	発表に向けた最終確認と、他のグループ発表の講評のにむけた情報収集をしておく。（1時間）
	授業内容	課題発表2回目（2～3グループの発表）
	事後学習	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考え、それをプレゼンテーション資料に反映させる。（3時間）
14	事前学習	発表に向けた最終確認と、他のグループ発表の講評のにむけた情報収集をしておく。（1時間）
	授業内容	課題発表3回目（2～3グループの発表）
	事後学習	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考え、それをプレゼンテーション資料に反映させる。（3時間）
15	事前学習	講義とプレゼンを通してグループの発表に対して自分なりの改善および修正を加えて、個人としてのプレゼンテーションを完成させる。（3時間）
	授業内容	・発表に対する個人の講評 ・教員による発表の総括と総評（講義）
	事後学習	授業を通じての学びを今後の生活にどう生かすかについての目標を1つ以上設定する。（1時間）

科目名	専門演習B	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	グループディスカッションやプレゼンテーションを行ないつつ、現代社会における諸問題についての理解を深め、同時にその解決のための政策オプションを説明できる力を養成します。				
授業目的・到達目標	現代社会を深く観察しつつ、その諸問題を理解することを目的とし、解決策を自分の言葉で説明できるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：公共政策学科1、3、4、5、6、7、8				
履修条件	授業はグループディスカッションを中心に進めるため、授業に積極的に参加することが必要です。 ※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること。				
授業方法	政策に関するグループディスカッションやプレゼンテーションを行ないます。【フィードバック方法】毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、コミュニケーション力の向上に努めます。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	政策課題に対する理解度、及びグループディスカッションのスキル等を評価します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	授業中に適宜紹介します。				
オフィスアワー	金曜日12：15～12：55 ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	履修を希望する場合には、初回ガイダンスに必ず出席すること（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ガイダンスで示された履修条件等を確認すること（2時間）
2	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	グループディスカッション及びプレゼンテーションに関する方法論
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
3	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
4	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）

5	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
6	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
7	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
8	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
9	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
10	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
11	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
12	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
13	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
14	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
15	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）

科目名	専門演習C	担当者	山村 りつ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	授業名：『企業活動と福祉』：この授業では、講義による知識・情報の提供とそれを活用してのプレゼンテーションを行う。そのプロセスを通じて、企業活動や市場といったこれまで福祉とは相容れないと思われてきた領域について、新たな視点と現在の社会政策の観点から考えていくことを目的とする。また、公共政策が与える影響または受ける影響や、公共政策との関わりについての思索を深める。				
授業目的・到達目標	授業目的：個々の学生が興味関心をもつ領域の企業による社会福祉実践と公共政策について、現状、そこにみられる関係性や課題、重要な理念を養成するとともに、公共政策のあり方について各自の見解をもち、それを表現できるようになること。到達目標：①企業による福祉実践の制度的および社会的構造について理解し、図示できるようになる。対応DP及びCP：公共政策学科1, 2／②個別のテーマについて、企業による福祉実践を通じた課題解決の方法について具体的に提示する。対応DP及びCP：公共政策学科2, 4, 5, 8／③公共政策の新たな資源としての企業活動の活用における課題を言語化する。対応DP及びCP：公共政策学科3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	【重要】第2回目の授業を欠席した者は履修を認めない可能性がある。それが難しい場合には、1回目の授業もしくは事前に受講の意思を教員に確実に伝えること。				
授業方法	受講生数をみて最終的に決めるが、基本的には講義とグループワークを中心に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	定期試験は行わない。	
	平常評価		100%	最終的な成果発表を基本として、授業内での積極的な発言やコメントカードの内容を考慮に入れて評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	なし	なし		なし	
	備考	特に教科書は指定しません。			
参考書	参考となる資料については、授業内で随時紹介する。				
オフィスアワー	火曜3限（それ以外は要相談） ※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、企業と福祉の関わりについて自分なりのイメージをまとめておく。（1時間）
	授業内容	オリエンテーション・イントロダクション 授業の進め方、課題、目的などについて説明する。
	事後学習	授業中の説明にしたがって、自分がどのようなテーマに取り組むかを考えておく。（3時間）
2	事前学習	自分が取り組みたいと考えているテーマについて、基本的な情報を集めておく。（2時間）
	授業内容	・社会政策における企業の役割（講義） ・発表のグループおよび日程を決める（受講人数によっては個人発表とする）
	事後学習	自分が取り組みたいと考えているテーマについて、グループメンバーにどのように説明するかを考えておく。（2時間）
3	事前学習	発表のテーマについてのグループでの議論のための準備をする。（3時間）
	授業内容	・社会問題と企業活動の関わり（講義） ・グループディスカッション（発表テーマの決定）
	事後学習	グループの発表テーマに対する自分の動機付けを行っておく。（1時間）
4	事前学習	グループの発表テーマについて情報を集めておく。（2時間）
	授業内容	・企業のCSRと慈善活動（講義） ・グループディスカッション（発表のテーマから最終的な課題、仮説を設定する）
	事後学習	授業での学びに引き付けてグループの発表テーマを考察する。（2時間）

5	事前学習	前回の考察を踏まえて、発表に必要な情報を集め、グループ作業の準備をする。（3時間）
	授業内容	・社会政策領域における企業の参入（講義） ・グループディスカッション（次回の中間発表の準備）
	事後学習	授業での学びに引き付けてグループの発表テーマを考察する。（1時間）
6	事前学習	中間発表の準備を整えておく。（1時間）
	授業内容	中間発表 各グループの発表の内容と現在の状況について発表を行い、それに対する講評を行う。
	事後学習	中間発表への講評を踏まえてグループの発表を改善点を考えておく。（3時間）
7	事前学習	講評とその改善点を踏まえてグループの発表に必要な情報を集める。（3時間）
	授業内容	仮説検証型の研究について、発表との関係と発表に必要な枠組み・要素（講義） グループディスカッション（発表までの計画を立てる）
	事後学習	発表までのグループの計画に従って、自分の発表に向かう計画を立てる。（1時間）
8	事前学習	グループ発表に向けて必要な情報を集める。（2時間）
	授業内容	・市場型福祉とは（講義） ・グループディスカッション（発表内容の精緻化）
	事後学習	授業での学びに引き付けてグループの発表を考察しなおす。（2時間）
9	事前学習	グループ発表に向けて必要な情報を集める。（2時間）
	授業内容	・事例検討①※企業が行う福祉活動についての事例の提示と検討（講義） ・グループディスカッション（事例を受けてグループの発表内容を再考する）
	事後学習	授業での学びに引き付けてグループの発表を自分なりに考察しなおす。（2時間）
10	事前学習	グループ発表の作業にむけて自分の考察を踏まえて準備を行う。（3時間）
	授業内容	事例検討②※企業が行う福祉活動についての事例の提示と検討（講義） ・グループディスカッション（事例を受けてグループの発表内容を再考する）
	事後学習	授業での学びに引き付けてグループの発表の最終チェックを行う。（1時間）
11	事前学習	グループの発表を完成させるために必要なものをすべて揃えて授業に臨む。（2時間）
	授業内容	・政策による誘導と規制（講義） ・グループディスカッション（発表に向けた最終準備）
	事後学習	自分のグループ発表に向けた準備と練習。（2時間）
12	事前学習	発表の準備を整えるとともに、これまでの授業内を振り返り、他グループの発表の評価に備える。（1時間）
	授業内容	成果発表①（2～3グループの発表を行う）
	事後学習	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考える。（3時間）
13	事前学習	発表の準備を整えるとともに、これまでの授業内を振り返り、他グループの発表の評価に備える。（1時間）
	授業内容	成果発表②（2～3グループの発表を行う）
	事後学習	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考える。（3時間）
14	事前学習	発表の準備を整えるとともに、これまでの授業内を振り返り、他グループの発表の評価に備える。（1時間）
	授業内容	成果発表③（2～3グループの発表を行う）
	事後学習	他のグループの発表を参考に自分の発表を改善点を考える。（3時間）
15	事前学習	これまでの授業内を振り返り、自分のグループの発表の評価を行う。（3時間）
	授業内容	まとめと振り返り 各自が自分の発表についての振り返りを行い、総評を行う。
	事後学習	授業で得た学びや成果を今後の生活においてどのように活用するかを考察し、目標を立てる。（1時間）

科目名	専門演習D	担当者	小野 美典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	小論文作成に関する理論と実践を繰り返すことにより、時間と字数に厳しい制限の付けられた状況下で、適切な文章が書けるようになることを目指す。授業では、学生の小論文作成と教員による添削・解説を繰り返すので、学生諸君は相当な量の文章を手書きで作成することになる。覚悟の上で受講して欲しい。またこの演習は、一定期間継続することで効果があらわれ授業目的が達成されるので、諸般の事情で欠席が見込まれる者は心して受講すること。				
授業目的・到達目標	文章作成に関するより高い能力、特に、時間と字数に厳しい制限の付けられた状況の中で、的確な文書作成が出来るようになることを目指す。具体的には、或るテーマに対して各自の持つ知識と教養をもとに、客観的・論理的に文章で説明できる能力を育成することを目的とする。また、与えられた資料を厳密に解説する訓練を行うことで、思考力・洞察力・問題の解決力の養成も図ることを目的とする。最終的には、社会が要求する人材に相応しい諸般の能力と見識を身につけ、それが文章表現・文書作成の中で活かせるようになることを目標とする。関連DP及びCP：1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	国語辞典（電子辞書も可）を持参すること。授業内で各自の文章の相互批評も行う。目的意識（社会人として相応しい文書作成能力、各種試験等での文章作成能力の上達）を持つ学生の履修を望む。				
授業方法	課題演習とその解説を繰り返しながら授業を進める。継続して参加することが重要なので、欠席は厳禁。完成課題の相互批評も行うので、積極的な発言も要求する。提出課題は次の時間に添削して返却し、その講評も口頭で行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	課題演習、授業への取り組み（授業内の発言など）で総合的に評価する。なお、1/3以上欠席した場合は不可。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
				使用しない。	
	備考				
参考書	授業内に出来るだけ多く紹介する。				
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12:10～13:00）に本館8階の小野研究室にて質問・相談を受け付ける（メールで事前にアポをとること）。また、第1回の授業時に質問用メールアドレスを公表するので、それも積極的に利用し、質問などで授業への理解を深めて欲しい。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	〔1〕シラバスを精読して授業の概要をつかんでおく。〔2〕国語便覧（高校の時に使用したもの）やネットで原稿用紙の使い方に関して再確認しておく。（3時間）
	授業内容	〔1〕授業概要の説明（授業計画・成績評価の方法などを詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること）。〔2〕小論文作成上の形式的留意点について。
	事後学習	授業内の配付プリントを再読し、授業の概要と計画を理解する。また、原稿用紙の使い方に関する「禁則」を理解する。（2時間）
2	事前学習	前回の授業内容と事後学習を踏まえて、小論文作成の形式上の留意点を再確認しておく。（2時間）
	授業内容	「自己を客観的に捉える」に関する文章作成（比較的短い文字数での論作文演習1）。併せて、授業内容に関連する類題の紹介とアプローチ法の解説。
	事後学習	授業内で紹介された類題での小論文作成を試み、「自己を客観的に捉える」に関する文章作成の理解の徹底を図る。（2時間）
3	事前学習	前回の授業での類題とアプローチ法の解説をもう一度復習し、各自の書いた小論文がどれくらいの出来であったかを想定した上で授業に臨む。（2時間）
	授業内容	第2回の「自己を客観的に捉える」に関する課題の添削返却と講評・概説・注意点の説明。
	事後学習	返却された各自の課題を再読し、誤字脱字・不用意な語句などを調べる。添削内容を理解し、「自己を客観的に捉える」小論文が作成できるようになることに努める。（2時間）
4	事前学習	各自のこれまでの歩みを振り返りシートとして事前に作成しておき、小論文の課題として出されたときに戸惑わないようにしておく。（2時間）
	授業内容	「自己と社会との関係」に関する文章作成（比較的短い文字数での論作文演習2）。併せて、授業内容に関連する類題の紹介とアプローチ法の解説。
	事後学習	授業内で紹介された類題での小論文作成を試み、「自己と社会との関係」に関する文章作成の理解の徹底を図る。（2時間）

5	事前学習	前回の授業での類題とアプローチ法の解説をもう一度復習し、各自の書いた小論文がどれくらいの出来であったかを想定した上で授業に臨む。（2時間）
	授業内容	第4回の「自己と社会との関係」に関する課題の添削返却と講評・概説・注意点の説明。
	事後学習	返却された各自の課題を再読し、誤字脱字・不用意な語句などを調べる。添削内容を理解し、「自己と社会との関係」に関する小論文が作成できるようになることに努める。（2時間）
6	事前学習	第2回から第5回までの授業を振り返り、比較的短い文字数での論作文作成のポイントをまとめておく。（2時間）
	授業内容	「政策課題型小論文」の作成（やや長い文字数での論作文演習1）。併せて、授業内容に関連する類題の紹介とアプローチ法の解説。
	事後学習	授業内で紹介された類題での小論文作成を試み、「政策課題型小論文」の作成の理解の徹底を図る。（2時間）
7	事前学習	前回の授業での類題とアプローチ法の解説をもう一度復習し、各自の書いた小論文がどれくらいの出来であったかを想定した上で授業に臨む。（2時間）
	授業内容	第6回の「政策課題型小論文」の添削返却と講評・概説・注意点の説明。
	事後学習	返却された各自の課題を再読し、誤字脱字・不用意な語句などを調べる。添削内容を理解し、「政策課題型小論文」が作成できるようになることに努める。（2時間）
8	事前学習	第6回の添削に書かれた注意事項に留意し、今回の文章作成に活かすようにする。（2時間）
	授業内容	「政策提言型小論文」の作成（やや長い文字数での論作文演習2）。併せて、授業内容に関連する類題の紹介とアプローチ法の解説。
	事後学習	授業内で紹介された類題での小論文作成を試み、「政策提言型小論文」の作成の理解の徹底を図る。（2時間）
9	事前学習	前回の授業での類題とアプローチ法の解説をもう一度復習し、各自の書いた小論文がどれくらいの出来であったかを想定した上で授業に臨む。（2時間）
	授業内容	第8回の「政策提言型小論文」の添削返却と講評・概説・注意点の説明。
	事後学習	返却された各自の課題を再読し、誤字脱字・不用意な語句などを調べる。添削内容を理解し、「政策提言型小論文」が作成できるようになることに努める。（2時間）
10	事前学習	第8回の添削に書かれた注意事項に留意し、今回の文章作成に活かすようにする。（2時間）
	授業内容	「公務員像に関する小論文」の作成（やや長い文字数での論作文演習3）。併せて、授業内容に関連する類題の紹介とアプローチ法の解説。
	事後学習	授業内で紹介された類題での小論文作成を試み、「公務員像に関する小論文」の作成の理解の徹底を図る。（2時間）
11	事前学習	前回の授業での類題とアプローチ法の解説をもう一度復習し、各自の書いた小論文がどれくらいの出来であったかを想定した上で授業に臨む。（2時間）
	授業内容	第10回の「公務員像に関する小論文」の添削返却と講評・概説・注意点の説明。
	事後学習	返却された各自の課題を再読し、誤字脱字・不用意な語句などを調べる。添削内容を理解し、「公務員像に関する小論文」が作成できるようになることに努める。（2時間）
12	事前学習	第10回の添削に書かれた注意事項に留意し、今回の文章作成に活かすようにする。（2時間）
	授業内容	「資料解読と立論型小論文」の作成（複雑な条件を伴う論作文演習1）。併せて、授業内容に関連する類題の紹介とアプローチ法の解説。
	事後学習	授業内で紹介された類題での小論文作成を試み、「資料解読と立論型小論文」の作成の理解の徹底を図る。（2時間）
13	事前学習	前回の授業での類題とアプローチ法の解説をもう一度復習し、各自の書いた小論文がどれくらいの出来であったかを想定した上で授業に臨む。（2時間）
	授業内容	第12回の「資料解読と立論型小論文」の添削返却と講評・概説・注意点の説明。
	事後学習	返却された各自の課題を再読し、誤字脱字・不用意な語句などを調べる。添削内容を理解し、「資料解読と立論型小論文」が作成できるようになることに努める。（2時間）
14	事前学習	第12回の添削に書かれた注意事項に留意し、今回の文章作成に活かすようにする。（2時間）
	授業内容	「資料要約と立論型小論文」の作成（複雑な条件を伴う論作文演習2）。併せて、授業内容に関連する類題の紹介とアプローチ法の解説。
	事後学習	授業内で紹介された類題での小論文作成を試み、「資料要約と立論型小論文」の作成の理解の徹底を図る。（2時間）
15	事前学習	前回の授業での類題とアプローチ法の解説をもう一度復習し、各自の書いた小論文がどれくらいの出来であったかを想定した上で授業に臨む。（2時間）
	授業内容	第14回の「資料要約と立論型小論文」の添削返却と講評・概説・注意点の説明。
	事後学習	返却された各自の課題を再読し、誤字脱字・不用意な語句などを調べる。添削内容を理解し、「資料要約と立論型小論文」が作成できるようになることに努める。（2時間）

科目名	専門演習D	担当者	藤本 知彦	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本の社会保障は，少子高齢化の進行等を背景として大きな転換期を迎えており，将来に向けた制度改革が重要な政策課題となっています。本講義では，社会保障の中心的な制度である社会保険について，その意義，基本構造及び歴史の変遷を学習します。				
授業目的・到達目標	【授業目的】社会保障としての社会保険に関する現代的課題の理解等に必要な基礎的能力を養成することを目的とします。 【到達目標】社会保険の仕組みや特徴を公的扶助，民間保険との対比において理解し，説明できること，及び社会保険制度の変遷と現状を社会的・経済的背景との関連において理解し，説明できることを目標とします。関連D P及びC P：公共政策学科1，3，4，5，6，7，8				
履修条件	特になし				
授業方法	基本的に講義形式で行います。指定テキストを参照しながら授業を進めますので，毎回持参してください。レポートについては，授業内で講評・解説を行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	原則として，授業参加度と授業内レポートにより総合的に評価します。評価に関する詳細は初回授業時に説明します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	労働調査会		社会保障法令便覧2019	社会保障法令便覧編集委員会編
	備考				
参考書	授業時に適宜紹介します。				
オフィスアワー	水曜日 17：50～ 授業講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み，講義の概要を把握する。テキストに目を通し，全体構成を把握する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス：授業計画・評価方法等，日常生活と社会保険
	事後学習	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。（2時間）
2	事前学習	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。（2時間）
	授業内容	社会保険の基礎1：医療保険，介護保険の基礎概念
	事後学習	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。（2時間）
3	事前学習	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。（2時間）
	授業内容	社会保険の基礎2：年金保険，労災保険，雇用保険の基礎概念
	事後学習	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。（2時間）
4	事前学習	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。（2時間）
	授業内容	社会保障と社会保険1：社会保障の概念と体系
	事後学習	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。（2時間）

5	事前学習	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。（2時間）
	授業内容	社会保障と社会保険2：社会保障の目的と機能
	事後学習	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。（2時間）
6	事前学習	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。（2時間）
	授業内容	社会保障と社会保険3：社会保障の保障方法
	事後学習	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。（2時間）
7	事前学習	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。（2時間）
	授業内容	社会保険の意義と基本構造1：社会保険の意義，仕組み，原理
	事後学習	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。（2時間）
8	事前学習	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。（2時間）
	授業内容	社会保険の意義と基本構造2：社会保険の特徴，メリット・デメリット，種類
	事後学習	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。（2時間）
9	事前学習	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。（2時間）
	授業内容	社会保険の意義と基本構造3：社会保険の費用負担，行政機構
	事後学習	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。（2時間）
10	事前学習	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。（2時間）
	授業内容	社会保険の意義と基本構造4：社会保険における権利救済
	事後学習	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。（2時間）
11	事前学習	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。（2時間）
	授業内容	社会保険の歴史1：社会保険の生成と発展，社会保険制度の変遷（～昭和40年代）
	事後学習	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。（2時間）
12	事前学習	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。（2時間）
	授業内容	社会保険の歴史2：社会保険制度の変遷（昭和50年代～平成10年）
	事後学習	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。（2時間）
13	事前学習	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。（2時間）
	授業内容	社会保険の歴史3：社会保険制度の変遷（平成10年代）
	事後学習	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。（2時間）
14	事前学習	テキスト・参考書等の該当箇所を読み，概要を把握する。（2時間）
	授業内容	社会保険の歴史4：社会保険制度の変遷（平成20年代）
	事後学習	授業で学んだ内容をまとめ，理解を深める。（2時間）
15	事前学習	テキスト・参考書等のこれまでの該当箇所を読み，総復習をする。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	本講義を通して学んだ内容をまとめ，理解を深める。（2時間）

科目名	専門演習D	担当者	山田 正雄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	企業や官公庁のHP等に公開されている各種情報から財務情報を中心に分析・研究することによって当該組織の経営トレンドを把握して組織への実体的理解を深める。				
授業目的・到達目標	各種企業や官公庁の経営トレンドを企業・業種間比較・官公庁間比較など多角的に分析・研究することによって組織の戦略的経営行動に関する評価能力・意思決定能力を獲得する。 関連DP及びCP：公共政策学科 1, 3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	特になし。コンピュータ・リテラシーを履修済みであることが望ましいが、受講生のスキルに応じてMicrosoft Excelによるデータ分析やグラフ化、Word等へのデータ転用など基礎から学習する時間を設ける。				
授業方法	PC教室での講義やグループワーク、個々の調査研究成果をもとにプレゼンテーションやリポート作成を行う。 なお受講生が提出したリポートや課題については、次の授業の冒頭かポータルサイトを通じてフィードバックを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業への参加度（50%）と 企業（または官公庁）等に関する分析リポート等（50%）によって行う。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。講義時に適宜資料を配付する。			
参考書	國貞克則 『財務3表図解分析法』 朝日新書 2016、その他は講義時に適宜紹介する。				
オフィスアワー	原則的には火曜日・11時～13時まで、または16時20分以降・学内某所としますが、ご希望によって日時・場所等を相談しましょう。 必ず事前に電子メールでアポイントメントを取って下さい。 → → → 【yamada.masao@nihon-u.ac.jp】 授業や就職活動、進学等キャンパスライフ全般についてご相談に応じます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	・メディア教育センターに設置されているPCの利用方法に慣れておく。 (2時間)
	授業内容	・授業ガイダンス ・法学部情報システム（COLNet）の利用方法・講義計画・課題の入手と提出方法・成績評価等について
	事後学習	・インターネット上に公開された企業や官公庁の経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）に関する情報や業界・企業研究サイト等を閲覧・検討しておくこと。 (2時間)
2	事前学習	・資料（企業とは何か）を熟読し、A4一枚にまとめ、指定フォルダへ提出する。 (2時間)
	授業内容	・組織（企業・官公庁）とは・・・（目的・戦略・経営行動・情報開示） ・利害関係者と情報要求、Accountability、CSR
	事後学習	・企業や官公庁等の各組織の利害関係者を挙げて情報ニーズを考察しWordにまとめる。 ・資料（Excel入門1）を熟読しておく。 (2時間)
3	事前学習	・企業や官公庁のHP等に公開されている各種情報から財務情報を中心にデータをダウンロードしておく。 (2時間)
	授業内容	・HP上の企業（官公庁）情報の収集1（財務情報の収集・評価）
	事後学習	・収集したデータをMicrosoft ExcelやWordに整理しておく。 (2時間)
4	事前学習	・調査対象の企業や官公庁について調査範囲を広げる。 (2時間)
	授業内容	・HP上の企業（官公庁）情報の収集2（財務情報の収集・評価）
	事後学習	・収集したデータをMicrosoft ExcelやWordに整理しておく。 (2時間)

5	事前学習	・調査対象の企業や官公庁について調査範囲をさらに広げる。 (2時間)
	授業内容	・HP上の企業（官公庁）情報の収集3（その他情報の収集・評価）
	事後学習	・収集したデータをMicrosoft ExcelやWordに整理しておく。 (2時間)
6	事前学習	・資料（Excel入門2）を熟読しておく。 (2時間)
	授業内容	・Microsoft Excelによるデータ分析1（合計・平均の計算、各種グラフ作成）
	事後学習	・Excelデータの集計を指定課題で復習する。 (2時間)
7	事前学習	・Excelデータの集計結果をWordにまとめる。 (2時間)
	授業内容	・Microsoft Excelによるデータ分析2（ピボットテーブルによるクロス集計と分析）
	事後学習	・ExcelデータをMicrosoft Wordに転用する技法を課題で予習する。 (2時間)
8	事前学習	・調査・研究結果をMicrosoft Wordにまとめる。 (2時間)
	授業内容	・企業「（官公庁）研究の成果の中間発表 1
	事後学習	・発表内容を評価表に整理記入しておく。 (2時間)
9	事前学習	・調査・研究結果をMicrosoft Wordにまとめる。 (2時間)
	授業内容	・企業（官公庁）研究の成果の中間発表 2
	事後学習	・発表内容を評価表に整理記入しておく。 (2時間)
10	事前学習	・資料（利益の算出過程）を一読して損益計算書の構造を理解しておく。 (2時間)
	授業内容	・企業（官公庁）情報の分析（時系列的財務分析と企業評価）
	事後学習	・各種財務データを時系列的にExcelにセイルしておく。 (2時間)
11	事前学習	・有価証券報告書の概要や各種白書の概要についてサンプルを一読しておく。 (2時間)
	授業内容	・企業（官公庁）情報の分析（戦略的経営行動と企業評価）
	事後学習	・Excelデータの集計を課題で復習し、指定フォルダへ提出する。 (2時間)
12	事前学習	・資料（PowerPoint入門講座）を一読してプレゼン資料作成の基本を学習しておく。 (2時間)
	授業内容	・PowerPointによるプレゼンテーション方法について実習
	事後学習	・プレゼンテーション資料の作成と発表準備 (2時間)
13	事前学習	・プレゼンテーションの準備 (2時間)
	授業内容	・企業（官公庁）研究の成果発表 1
	事後学習	・プレゼンテーション内容を評価集計表にまとめておく。 (2時間)
14	事前学習	・プレゼンテーションの準備 (2時間)
	授業内容	・企業（官公庁）研究の成果発表 3
	事後学習	・プレゼンテーション内容を評価集計表にまとめておく。 (2時間)
15	事前学習	・プレゼンテーション評価集計表を各自集計しておく。 (2時間)
	授業内容	・プレゼンテーションの講評と経営トレンド分析の概要について講評
	事後学習	・各自のプレゼンテーション資料をまとめて指定フォルダへ提出する。 (2時間)

科目名	専門演習E	担当者	岩井 義和	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、政策立案や実施段階での政府と国民との双方向性コミュニケーションや国民相互のコミュニケーションの促進が、政策の有効性を確保するために重要になってきていることを自らで調べ、グループワークによる作業を行うことで、日本におけるPublic Relations（広報・広聴）活動の実態の分析・整理・課題を発見する。				
授業目的・到達目標	本講義では、行政広報の実態を把握し、今後の行政広報在り方を専門的に検討できる能力を養成することを目的とする。具体的には、市民・組織の2WAY 関係を築き、社会が今、何を求めているかを把握し、それを実行していくこと、すなわち組織の中核管理的決定へ連動する広報・広聴活動を理論と実践をふまえて官民の活動を検討していく。そして市民との関係を調整する、広報・広聴機、特に広報メディアの機能を自らで検討することで、組織におけるマネジメントとしてのPublic Relationsを理解できるようになることを目標とする。関連DP及びCP:公共政策学科1, 3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	特になし				
授業方法	講義ノート・教科書・資料に沿って講義するので、受講に当たっては必ずノートを持参すること。発表、レポートなどの解説を後日、ポータルにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	学期末試験は行わない。	
	平常評価		100%	授業態度・授業内の発表などを総合評価する。また、簡単な授業内レポートで、授業のポイントを理解しているかを判定する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし			
参考書	講義時に随時、紹介する				
オフィスアワー	水曜日、3時限目（13：30～14：30） 尚、来訪時間の調整のため、必ず事前にメールでアポイントを取るようにしてください。 iwai.yoshikazu@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	広報・広聴・Public Relations・広報メディアという言葉に対する印象を一人一人、関連図書を読んで考えておくこと。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス、広報のキーワード】授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介しつつ、行政広報のキーワードや研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、広報について理解を深めること。（2時間）
2	事前学習	自治体の広報紙・ホームページを見ておくこと。（2時間）
	授業内容	【広報の概念】広報の概念について解説を行う。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、広報の概念と一般的な広報の考え方について、その違いをまとめておくこと。（2時間）
3	事前学習	民間企業の広報活動を調べておくこと。（2時間）
	授業内容	【広報の理論①】広報の理論について学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、広報理論を理解し、双方向性の重要性について検討しておくこと。（2時間）
4	事前学習	行政の広報と民間の広報を比較検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	【広報の理論②】広報対象について学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、様々な広報対象についての理解を深めること。（2時間）

5	事前学習	市町村と都道府県の広報の違いを見ておくこと。（2時間）
	授業内容	【広報メディアの種類①】広報メディアの種類を解説する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、広報メディアのメリット・デメリットをまとめておくこと。（2時間）
6	事前学習	一般的な行政学の教科書を読み、住民参加について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【広報メディアの種類②】メディアの種類と双方向性、住民参加について学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、住民参加における情報の重要性について理解を深めること。（2時間）
7	事前学習	一般的な行政学の教科書を読み、住民参加手法について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【住民参加と広報】住民参加手法と広報メディアの関連について学習する。
	事後学習	自分で書いた講義内容のノートと事前学習を照らし合わせて、双方向コミュニケーションの理解を深めること。（2時間）
8	事前学習	自分が調査分析したい、広報メディアについて検討しておく。（2時間）
	授業内容	【グループ・ワーク】調査対象メディア別にグループ分けを行い、調査計画をたてる。
	事後学習	自分の関心領域を、さらに深く理解しておく。（2時間）
9	事前学習	メディア別の課題の整理を行い、発表の構成をそれぞれで考える。（2時間）
	授業内容	【グループ・ワーク】研究対象メディアの調査・分析
	事後学習	それぞれのグループでの分担を確認し、自分の担当分野を調査・分析する。（2時間）
10	事前学習	自身のグループワークでの役割と、調査結果の整理。（2時間）
	授業内容	【グループ・ワーク】研究対象メディアの調査・分析
	事後学習	自分の担当分野を調査・分析する。（2時間）
11	事前学習	自分が調査・分析したことをまとめる。（2時間）
	授業内容	【グループ・ワーク】それぞれの担当部分と、他の学生の担当との整合性を図る。
	事後学習	全体の調整を図りつつ、さらなる担当部分の調査・分析。（2時間）
12	事前学習	調査分析で、足りない部分を洗い出す。（2時間）
	授業内容	【グループ・ワーク】他の学生との調整の中で、さらに必要となる部分を検討。
	事後学習	それぞれで結論部分との調整を図り、発表の検討を加える。（2時間）
13	事前学習	発表に向けての準備と確認。（2時間）
	授業内容	【グループ・ワーク】発表の流れを最終確認。
	事後学習	発表に向けての最終作業を、グループごとで行う。（2時間）
14	事前学習	発表に向けての準備。（2時間）
	授業内容	【発表】それぞれのグループの発表（各発表時間30分）
	事後学習	質疑応答における、質問や疑問点を自分自身で再度調べる。（2時間）
15	事前学習	発表に向けての準備と確認。（2時間）
	授業内容	【発表】それぞれのグループの発表（各発表時間30分）
	事後学習	質疑応答における、質問や疑問点を自分自身で再度調べる。（2時間）

科目名	専門演習E	担当者	上村 進	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	公共政策決定・実施の判断基準について学習する。その際行政官として経験した各種事例を題材とする。 ①各種の政策課題は、何をもって公共課題として認知されるのか、また、何故、公共的な解決が必要とされるのか ②解決が求められる様々な課題の優先順位はどうつけるべきか、施策遂行のための資源配分はどうあるべきか ③これらの課題解決のために公共的な介入が何故必要とされるのか、「良い」政策とは何をもって評価されるのか			
授業目的・到達目標	過去の様々な文献・理論の学習や、具体的事例に基づいた議論を通して、公共政策規範の考え方を身につけることを目的とし、政策判断の基準・方法論を具体的なケースに即して適用できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：公共政策学科1, 3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	特になし。			
授業方法	前半は講義形式。後半は、グループ単位での特定テーマに関する発表とディスカッションを行う。学期終わりには参加者が選択したテーマに基づき個人研究成果を発表する。ディスカッション・発表の都度その内容等の講評を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	議論への積極的参加状況（20%）、グループ発表（30%）及び個人発表（50%）を評価対象とする。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特に指定しない		
参考書	BASIC公共政策学2 公共政策規範 佐野亘著ミネルヴァ書房2010、公共哲学とはなんだろう 増補版：民主主義と市場のしい見方 桂木 隆夫著勁草書房2016、これかの「正義」の話をしよう マイケル・サンデル著早川書房2011			
オフィスアワー	水曜日2限。（休暇中を除く、事前にメールにて要アポイントメント）研究室 （本館6階 1604号室） メールアドレス：kamimura_susumu@nihon-u.ac.jp)			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、授業概要、目的等を理解する（2時間）。
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、ディスカッション・個人発表の方法・テーマの選び方、成績評価の方法、参考文献の紹介などの説明を行い、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義で紹介された文献・資料等を収集する（2時間）。
2	事前学習	事前配布されるレジュメを予め読み込み、授業内で積極的に発言できるようにする（2時間）。
	授業内容	【公共政策規範とはなにか】 公共課題の解決のための政策決定に当たって、なぜ規範的判断が必要となるのか。そのための判断基準は何か。これらの基準を扱う公共政策規範とは哲学・倫理学とどのように違うのか、具体的事例に即して学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
3	事前学習	参考文献欄に掲げたサンデルの著書など前回講義で指定された文献の該当部分を読み込み、授業内で積極的に発言できるようにする（2時間）。
	授業内容	【正義論の系譜①】 公共政策規範の中心概念である「正義」とは何かについて学習する。これにより、どのような場合にも通用する一般的「正義」があり得るのか。具体公共政策課題の事例に即して受講者が自分の考えをまとめられるようにする。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
4	事前学習	前回に引き続き、サンデルの著書など指定された文献のうち、特にカント、アリストテレスに言及した部分を読み込み、授業内で積極的に発言できるようにする（2時間）。
	授業内容	【正義論の系譜②】 カント、アリストテレスに代表される過去の思想家による「正義」の考え方を学習する。これにより思想的立場の違いに基づき「正義」の概念も様々であることを、具体例に沿って受講者が説明出来るようにする。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。

5	事前学習	レジュメの読み込みの他、ジョン・ロックやミルの思想などについて出来る限り、その内容を把握する（2時間）。
	授業内容	【自由主義①】 公共政策規範における自由の意義について学習する。正義論において自由が強調されるようになった歴史的背景や、古典的自由主義の3原則である価値中立原則、他者危害原則及び自己責任原則の意義、その今日的意義について考察する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
6	事前学習	リバタリアンの思想傾向について調べ、その特徴・問題点などを把握する（2時間）。
	授業内容	【自由主義②】 徹底的な自由主義者であるリバタリアンの主張を学習し、当該主張が経済政策・社会施策などに及ぼした影響について考察する。また、パタナリズム的な政府の介入を支持する立場とリバタリアンの主張とが米国政治等に深刻な亀裂を引き起こしている現状などについても学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
7	事前学習	ベンサム思想等について可能な範囲で調べ、その内容を把握する（2時間）。
	授業内容	【功利主義①】 功利主義の基礎的な概念について学習する。特に効用最大化の考え方が現代の経済・福祉政策等にどのように影響を与えているか考察する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
8	事前学習	前回授業の内容を踏まえ、功利主義の発想が現代社会科学等与えた影響等について調べ、具体例に基づいて考えをまとめ、発表出来るようにする（2時間）。
	授業内容	【功利主義②】 「最大多数の最大幸福」という原理は、少数者の権利利益の侵害につながらないか、これを防止するためにはどうすれば良いか、さまざまな思想家の言説を紹介しつつ、具体例に沿って考察する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
9	事前学習	功利主義のメリットと限界について、前回講義の内容を良く復習し、ロールズ思想が登場するバックグラウンドを理解する（2時間）。
	授業内容	【ロールズの正義論①】 近代社会科学の基礎となっている功利主義に対抗してロールズ理論が登場してきた背景事情及び同理論のエッセンスについて学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
10	事前学習	いわゆる「正義の二原理」について、具体的事例をもって自分の言葉で説明できるよう準備する（2時間）。
	授業内容	【ロールズの正義論②】 前回講義で学んだ「原初状態」、「無知のヴェール」、「格差原理」等の概念は、現実の政策課題に応用が可能であるか、具体的な政策課題に即して分析・検証を行う。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
11	事前学習	各グループ内での発表に向けた討議・準備をする（2時間）。
	授業内容	【ケーススタディ①（ディベートとグループ発表）】 公共政策分野において個人の「真の自由」はあり得るかをメインテーマとして受講者が選んだ題材についてディベートないしグループディスカッションを行う。
	事後学習	発表で紹介された事例・文献等を各自で確認する（2時間）。
12	事前学習	各グループ内での発表に向けた討議・準備をする（2時間）。
	授業内容	【ケーススタディ②（ディベートとグループ発表）】 公共政策分野における「平等」とは何を意味するか、すべての人々が「幸福」となる政策はあり得るかについて、受講者が選んだ題材を基にディベートないしグループディスカッションを行う。
	事後学習	発表で紹介された事例・文献等を各自で確認する（2時間）。
13	事前学習	各グループ内での発表に向けた討議・準備をする（2時間）。
	授業内容	【ケーススタディ③（ディベートとグループ発表）】 生まれながらの不平等（家庭環境、豊かさ、能力、容姿、性格など）をどう考えるべきか。公共政策はこれをどこまでカバーすべきか、受講者が選んだ題材を基にディベートないしグループディスカッションを行う。
	事後学習	発表で紹介された事例・文献等を各自で確認する（2時間）。
14	事前学習	発表に向けた準備。発表者以外は議論に積極的に参加できるように、過去のレジュメ・教材を見直して論点を整理する（2時間）。
	授業内容	【個人発表①】 これまでの講義・ディベートを通じて得られた公共政策規範に関する知見をベースに、受講生各人の問題意識に応じた政策課題を選択し、あるべき解決方策等をペーパーにまとめ、発表する。
	事後学習	発表で紹介された事例・文献等を各自で確認する（2時間）。
15	事前学習	発表に向けた準備。発表者以外は議論に積極的に参加できるように、過去のレジュメ・教材を見直して論点を整理する（2時間）。
	授業内容	【個人発表②】 これまでの講義・ディベートを通じて得られた公共政策規範に関する知見をベースに、受講生各人の問題意識に応じた政策課題を選択し、あるべき解決方策等をペーパーにまとめ、発表する。
	事後学習	発表で紹介された事例・文献等を各自で確認する（2時間）。

科目名	専門演習F	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	グループディスカッションやプレゼンテーションを行ないつつ、現代社会における諸問題についての理解を深め、同時にその解決のための政策オプションを説明できる力を養成します。				
授業目的・到達目標	現代社会を深く観察しつつ、その諸問題を理解することを目的とし、解決策を自分の言葉で説明できるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：公共政策学科1、3、4、5、6、7、8				
履修条件	授業はグループディスカッションを中心に進めるため、授業に積極的に参加することが必要です。 ※履修制限をかける場合があるので、初回授業には必ず出席すること。				
授業方法	政策に関するグループディスカッションやプレゼンテーションを行ないます。【フィードバック方法】毎回、前回のグループディスカッションに対する講評を行い、コミュニケーション力の向上に努めます。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	政策課題に対する理解度、及びグループディスカッションのスキル等を評価します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	授業中に適宜紹介します。				
オフィスアワー	金曜日12：15～12：55 ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	履修を希望する場合には、初回ガイダンスに必ず出席すること（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ガイダンスで示された履修条件等を確認すること（2時間）
2	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	グループディスカッション及びプレゼンテーションに関する方法論
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
3	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
4	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）

5	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
6	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
7	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
8	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
9	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
10	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
11	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
12	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
13	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するグループディスカッション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
14	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	公共政策の現状と課題に関するプレゼンテーション
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）
15	事前学習	参考資料を収集し、事前に政策課題について調べておくこと（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	授業で扱った政策の諸問題について整理し、復習すること（2時間）

科目名	専門研究B	担当者	木川 裕	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	企業活動とは経営戦略の実行であり当然これを実行した結果が決算書に表れてくる。つまりより良く企業を知るためには企業が目指す経営戦略を念頭に置いて決算書を読み解く必要がある。つまり経営分析を行うためにも経営戦略の評価が必要であり、経営分析は正しい戦略的意思決定を行うプロセスであるといえる。本講義では戦略的意思決定を行うための経営分析の知識を身に付け、実際に財務諸表を読み解くケーススタディを実施する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】企業経営を評価するための前提として経営戦略を念頭に置いた経営分析を理解し、正しい意思決定ができる人材を育成する。 【到達目標】1. 財務3表（損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書）を読み解くことができる。2. 会計数値や会計指標について理解している。3. 各指標を用いて経営分析を行い、適切な意思決定を提案することができる。対応DP及びCP：公共政策学科1，3，4，5				
履修条件	特になし。会計知識があることが望ましいが、基礎から説明するので初学者でも可。				
授業方法	パワーポイントを使用して授業を行う。授業内で小テストを数回実施する。所定授業数の3分の2以上出席しなければ、成績評価の対象にはしない。授業内小テストや提出物のフィードバックについては授業内で解説を実施する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	2/3以上出席した者が評価対象となる。 授業に対する姿勢・提出物等で総合的に評価（60%） 授業時に小テストを実施（40%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	テキストは使用しない。必要に応じて資料を事前に配付する。			
参考書	大津広一『戦略思考で読み解く経営分析入門』（ダイヤモンド社、2016年）				
オフィスアワー	火曜日12：15～12：55（事前にメール等で必ず連絡・予約すること。） 研究室（本館6階601） メールアドレス：kigawa.yutaka@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	財務3表について調べる（2時間）
	授業内容	講義計画、成績評価方法
	事後学習	ガイダンスを確認し、講義計画を立てる（2時間）
2	事前学習	配布資料を読み理解する（2時間）
	授業内容	戦略思考と経営分析（財務3表の読み方）
	事後学習	授業の復習（2時間）
3	事前学習	配布資料を読み理解する（2時間）
	授業内容	売上高総利益率
	事後学習	授業の復習（2時間）
4	事前学習	配布資料を読み理解する（2時間）
	授業内容	売上高販管費率
	事後学習	授業の復習（2時間）

5	事前学習	配布資料を読み理解する（2時間）
	授業内容	損益分岐点比率
	事後学習	授業の復習（2時間）
6	事前学習	配布資料を読み理解する（2時間）
	授業内容	EBITDAマージン
	事後学習	授業の復習（2時間）
7	事前学習	配布資料を読み理解する（2時間）
	授業内容	総資産回転率
	事後学習	授業の復習（2時間）
8	事前学習	配布資料を読み理解する（2時間）
	授業内容	キャッシュ・コンバージョン・サイクル
	事後学習	授業の復習（2時間）
9	事前学習	配布資料を読み理解する（2時間）
	授業内容	棚卸資産回転期間
	事後学習	授業の復習（2時間）
10	事前学習	配布資料を読み理解する（2時間）
	授業内容	有形固定資産回転率
	事後学習	授業の復習（2時間）
11	事前学習	配布資料を読み理解する（2時間）
	授業内容	固定長期適合率
	事後学習	授業の復習（2時間）
12	事前学習	配布資料を読み理解する（2時間）
	授業内容	DEレシオ
	事後学習	授業の復習（2時間）
13	事前学習	配布資料を読み理解する（2時間）
	授業内容	インタレスト・カバレッジ・レシオ
	事後学習	授業の復習（2時間）
14	事前学習	配布資料を読み理解する（2時間）
	授業内容	フリー・キャッシュフロー成長率
	事後学習	授業の復習（2時間）
15	事前学習	授業ノートを確認する（2時間）
	授業内容	総まとめ
	事後学習	授業内容の総点検（2時間）

科目名	ソーシャル・キャピタル論	担当者	稲葉 陽二	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	社会の絆であるソーシャル・キャピタル（SC）は社会経済活動の要である。特に、市場メカニズムが十分に機能しない健康、福祉、生活の安全、防災等の分野で重要な意味を持つ。政策的にも健康日本21にとりあげられて以来公衆衛生・福祉の分野では広くその重要性が認識され、公的な資格試験にも出題されている。本講座ではSCの内容とその影響、及びそれに影響を与える要因を分析する。適宜教員の地域開発に関する実務経験を引用して講義を行う。				
授業目的・到達目標	資本主義社会は、資源配分を市場メカニズムに依拠し、市場の失敗は政府が補完するとされている。しかし、今日では市場メカニズムの弊害が大きく、民主主義が揺らぐ事態に立ち至っている。その中において政府も失敗し、かつ財政難もあり、機能不全の状態に陥りつつある。こうした事態に対応するためには、社会の絆（ソーシャル・キャピタル）の重要性が認識されつつある。本講義では、SCの内容とその影響、及びそれに影響を与える要因を分析することを目的とし、最終的にはこのソーシャル・キャピタルの政策含意を明らかにできることを目標としている。関連DP及びCP：公共政策学科 1, 3, 4				
履修条件	なし				
授業方法	教科書、pptに基づき講義を行う。授業内試験の講評を、後日担当教員のHPで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内試験（持ち込み、参照可）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2011	中央公論新社		『ソーシャル・キャピタル入門』	稲葉陽二
	備考				
参考書	埴淵知哉『社会関係資本の地域分析』ナカニシヤ出版 稲葉陽二・吉野諒三『ソーシャル・キャピタルの世界』ミネルヴァ書房				
オフィスアワー	毎週木曜日12時から13時 事前にメールにてアポイントメントをとってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておいてください。（2時間）
	授業内容	ソーシャル・キャピタルとは何か：過去の展開と定義
	事後学習	教科書「はじめに」＋第1章を読んでおいてください。（2時間）
2	事前学習	教科書第2章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	ソーシャル・キャピタルの定義—ネットワーク、規範、信頼をめぐる議論（1）
	事後学習	授業で使用したPPT（学生教員共有ドライブにアップしてあります）で復習をお願いします。（2時間）
3	事前学習	もし可能でしたら参考文献 稲葉陽二『ソーシャル・キャピタルの世界』第2章を確認してください。（2時間）
	授業内容	ソーシャル・キャピタルの定義—ネットワーク、規範、信頼をめぐる議論（2）エリノア・オストロムの議論
	事後学習	PPT資料を復習してください。（2時間）
4	事前学習	教科書第3章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	ソーシャル・キャピタルは何の役にたつのか
	事後学習	PPT資料を復習してください。（2時間）

5	事前学習	教科書第4章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	ソーシャル・キャピタルは何によって醸成されるのか。どう測るのか（1）
	事後学習	PPT資料を復習してください。（2時間）
6	事前学習	もし可能でしたら参考文献 埴淵知哉『社会関係資本の地域分析』第2章を確認してください。（2時間）
	授業内容	ソーシャル・キャピタルは何によって醸成されるのか。どう測るのか（2） 「曖昧さへどう対処するのか」「どう数量化するのか」
	事後学習	PPT資料を復習してください。（2時間）
7	事前学習	教科書第5章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	ソーシャル・キャピタルは何に影響を与えるのか（1）健康と福祉の向上
	事後学習	PPT資料を復習してください。（2時間）
8	事前学習	教科書第6章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	ソーシャル・キャピタルと社会的孤独
	事後学習	PPT資料を復習してください。（2時間）
9	事前学習	PPT資料を復習してください。（2時間）
	授業内容	演習：信頼性とネットワーク調査
	事後学習	PPT資料を復習してください。（2時間）
10	事前学習	PPT資料を復習してください。（2時間）
	授業内容	演習：上記調査の評価
	事後学習	PPT資料を復習してください。（2時間）
11	事前学習	PPT資料を復習してください。（2時間）
	授業内容	ソーシャル・キャピタルの多面性：経済学との関連
	事後学習	PPT資料を復習してください。（2時間）
12	事前学習	PPT資料を復習してください。（2時間）
	授業内容	ソーシャル・キャピタルの多面性：社会学との関連
	事後学習	PPT資料を復習してください。（2時間）
13	事前学習	PPT資料を復習してください。（2時間）
	授業内容	ソーシャル・キャピタルの多面性：情報化の影響
	事後学習	PPT資料を復習してください。（2時間）
14	事前学習	PPT資料を復習してください。（2時間）
	授業内容	少子高齢化・情報化時代におけるソーシャル・キャピタルの政策的含意：政策にどう反映されるのか
	事後学習	PPT資料を復習してください。（2時間）
15	事前学習	1回から14回までのPPT資料を確認しておいてください。（2時間）
	授業内容	授業内試験 持ち込み、参照可 採点基準 ①基本概念を理解しているか、②基本概念を用いて論理的な論考がなされているか、③自分の意見が体験に基づき記述されているか
	事後学習	PPT資料を復習してください。（2時間）

科目名	男女共同参画論	担当者	神尾 真知子	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	--------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	男女共同参画とは、どのような理念に基づいているのか、どのようなことをめざしているのかを、女性差別撤廃条約の考え方、男女共同参画社会基本法の考え方から解明する。そして、国や地方自治体が、どのような男女共同参画政策を行っているのかを、具体的に理解するために、男女共同参画計画とそのための事業を取り上げ、学習する。なお、公務員をめざしている学生にとって、意義ある授業である				
授業目的・到達目標	男女共同参画とは何かを理解し、説明できるようになることを目標とする。そして、具体的に国や地方自治体の男女共同参画政策の仕組みと事業を学習することによって理論を具体化する政策能力を養成することや、これからの男女共同参画政策の課題に対する解決策を提示できる能力も養成することを目的とする。 関連DP及びCP：公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	静粛に授業を聞くこと。				
授業方法	講義形式を予定している。人数が少ない場合は男女共同参画にかかわる具体的な問題について議論する機会を持ちたいと考えている。毎回のアクションペーパーは次の回にコメントする。授業内試験は授業内においてコメントする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	(67%) 前学期末の最終講義時に筆記試験を実施。人数によってはレポートで評価。 (33%) 講義への参加度、毎回実施するアクションペーパーなどにより評価。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2015	信山社		ジェンダー六法（第2版）	山下・辻村・浅倉・二宮・戒能編集
	備考				
参考書	ジェンダー法学会編『講座 ジェンダーと法』全4巻日本加除出版、内藤和美・山谷清志『男女共同参画政策』晃洋書房、辻村みよ子他編『男女共同参画のためにー政策提言』東北大学出版会				
オフィスアワー	月曜日12時30分～13時（事前にメールでアポイントを取ること） 研究室（4号館4階444） kamio.machiko@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献や情報収集方法を含めて、男女共同参画論の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書「Ⅰ条約・国際基準」の説明部分を読み、女性差別撤廃条約の制定の経緯、理念、内容を概観する。（2時間）
	授業内容	男女共同参画の考え方①ー女性差別撤廃条約はなぜ制定されたのか。その理念は何か。
	事後学習	講義ノートを確認し、女性差別撤廃条約の制定の経緯と理念を考察する。（2時間）
3	事前学習	女性差別撤廃条約の条文を読んでおく。また、日本の課題となった国籍法と男女雇用機会均等法の条文も確認する。（2時間）
	授業内容	男女共同参画の考え方 ②ー女性差別撤廃条約を批准するための日本の課題
	事後学習	講義ノートを確認し、日本が女性差別撤廃条約批准のための課題をどのように法政策として解決したのかを説明できるようにする。（2時間）
4	事前学習	教科書「Ⅱ憲法と男女共同参画」の説明部分を読み、男女共同参画社会基本法の制定の経緯と理念を確認する。（2時間）
	授業内容	男女共同参画社会基本法①ー男女共同参画社会基本法はなぜ制定されたのか。その理念は何か。
	事後学習	講義ノートを確認して、男女共同参画社会基本法に基づく男女共同参画政策が、公共政策のなかでどのように位置づけられているのか、その理念は何かを確認する。（2時間）

5	事前学習	男女共同参画社会基本法は、国や地方自治体に何を求めているのか、その取り組み体制はどのようなものかを条文及び内閣府男女共同参画局にホームページで確認する。（2時間）
	授業内容	男女共同参画社会基本法②－内容と取り組み体制
	事後学習	講義ノートを確認し、日本の現在の男女共同参画政策を説明できるようにする。また、取り組み体制を説明できるようにする。（2時間）
6	事前学習	内閣府男女共同参画局ホームのページで、現在の第4次男女共同参画基本計画の内容を確認する。（2時間）
	授業内容	男女共同参画社会基本法③－男女共同参画基本計画の内容
	事後学習	講義ノートを確認し、男女共同参画基本計画の特色と課題を考察する。（2時間）
7	事前学習	内閣府男女共同参画局のホームページで男女共同参画会議の議論を確認する。（2時間）
	授業内容	男女共同参画社会基本法④－男女共同参画会議
	事後学習	講義ノートを確認し、男女共同参画会議で何がどのように議論されたのかを説明できるようにする。（2時間）
8	事前学習	目黒区役所のホームページで目黒区の男女平等・共同参画政策を概観する。（2時間）
	授業内容	地方自治体の男女共同参画政策①－目黒区の男女平等・共同参画政策の理念、仕組み、取り組み（事業） 目黒区の男女平等・共同参画条例制定にかかわった経験も講義する。
	事後学習	講義ノートを確認し、目黒区の男女平等・共同参画政策の理念、仕組み、取り組み（事業）をまとめる。（2時間）
9	事前学習	目黒区役所のホームページで目黒区の男女平等・共同参画政策の事業評価報告書を読んでおく。（2時間）
	授業内容	地方自治体の男女共同参画政策②－目黒区の男女平等・共同参画政策の事業評価 目黒区の男女平等・共同参画政策の事業評価にかかわった経験も講義する。
	事後学習	講義ノートを確認し、公共政策における事業評価の方法と意義を考察する。（2時間）
10	事前学習	ゲストスピーカーの所属する地方自治体の男女共同参画政策について、事前に学習する。（2時間）
	授業内容	地方自治体の男女共同参画政策③－実際に男女共同参画政策に携わっている地方公務員にお話をうかがう（ゲストスピーカーを予定）
	事後学習	ゲストスピーカーのお話及び講義ノートを確認し、政策立案や実施に関する課題を検討する。（2時間）
11	事前学習	男女共同参画社会を実現するための課題として、意思決定過程における男女共同参画の現状を内閣府男女共同参画局のホームページの統計から読み解く。（2時間）
	授業内容	男女共同参社会実現における課題①－意思決定過程への男女共同参画の現状と政策：日本
	事後学習	講義ノートを確認し、日本の意思決定過程への男女共同参画の政策にはどのようなものがあるのかについて、説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	フランスに関する事前配布資料を読み、フランスの政治分野の男女共同参画の法政策を概観する。（2時間）
	授業内容	男女共同参社会実現における課題②－意思決定過程への男女共同参画の現状と政策：フランス
	事後学習	講義ノートと配布資料を確認し、フランスの法政策と日本の法政策を比較し、検討する。（2時間）
13	事前学習	日本とフランスの意思決定過程への男女共同参画の法政策を復習する。（2時間）
	授業内容	男女共同参社会実現における課題③－意思決定過程への男女共同参画実現に向けて受講者間で議論を行う。
	事後学習	講義ノートや議論したことをもとに、日本の法政策の課題を発見し、その解決方法を考察する。（2時間）
14	事前学習	これまでの学習内容を振り返り、授業内試験の準備をする。（2時間）
	授業内容	授業内試験及びまとめ
	事後学習	授業内試験を受けて、前期の学習の達成度を自分なりに評価する。（2時間）
15	事前学習	これまでの学習内容を振り返り、男女共同参画の法政策を復習する。（2時間）
	授業内容	授業内試験のコメント
	事後学習	授業内試験を受けて、前期の学習の達成度を自分なりに評価する。（2時間）

科目名	地域開発論	担当者	小倉 眞	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	地域間格差形成のメカニズムについて整理した後に、地域間格差の是正、経済政策の一環として公共ファクターが主導する地域開発について学習する。具体的には地域開発政策の端緒となったアメリカのニューディールによるTVA開発の内容（点から面へ）を分析し、日本の地域開発政策としての国土開発政策の歴史的展開過程と地域問題について学習する。				
授業目的・到達目標	経済活動は地域に均等に展開するわけではなく、集中・分散を通じて不均等に現象する。地域開発はこれら経済活動の結果としての地域間不均等や地域問題との係りで政策的に実施されてきた。そこで日本の地域開発政策等をまず整理し、経済開発政策と不均等発展について理論的に理解することを目的とし、また、地域間格差と地域活性化策の展開との関係についても整理・分析し、地域開発の展開状況を客観的に把握し説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：政治経済学科2，4，5				
履修条件	特になし。				
授業方法	テキストは使用せず、配布プリント・板書等によって授業を進める。また、適宜PC（パワーポイント）を使用する。定期試験の解説は後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	授業内容を客観的に理解しているか、また論理思考がなされているかについて検証・評価する。	
	平常評価		20%	授業への積極的参加度合いを授業後の小レポート(10%)、発表・小テスト等(10%)により評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用せず、配布プリント等によって授業行う。			
参考書	参考文献については授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	(月) 12：10～13：00 14：40～16：00 (水) 12：10～13：00 14：00～16：00 研究室（4号館4階441） メールアドレス：ogura.makoto@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスで授業内容を確認する共に、講義全体を概観する。(2時間)
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、学習方法等について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートの内容を確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。(2時間)
2	事前学習	地域間格差形成の要因などについて具体的事象を取り上げて整理してみる。(2時間)
	授業内容	地域間不均等発展論の理論的整理 (1) 資本主義による生産と所得の偏在の形成について、産業構造の変容過程との関係で考察する。
	事後学習	ノートを見て産業構造と地域発展の要因となる事項について整理・検証してみる。(2時間)
3	事前学習	中央と地方の格差形成がなぜ起きるのか、またその主要な要因は何かについて事前に調べてみる。(1時間)
	授業内容	地域間不均等発展論の理論的整理 (2) 日本における地域的不均等発展論に関する既研究(島・矢田等)を取り上げ、理論の特色及びその問題点などについて考察する。
	事後学習	資本主義社会における資金の移動と地域発展との関係について整理する。(与えられた課題についての小レポート作成する)(3時間)
4	事前学習	日本の近代化期における産業構造の変化状況についてプリントに基づいて考察してみる。(2時間)
	授業内容	日本の近代化期における産業変動と地域経済 (1) 日本海側と太平洋側の経済発展格差形成過程に注目し、特に人・モノ・金の移動の側面から地域変動について考察する。(前回授業時の課題小レポートを提出する)
	事後学習	商業活動における日本海側の果たした役割と変容過程について整理する。(2時間)

5	事前学習	半島・離島などの空間的位置と経済発展の関係（離島・半島振興法）について考察・検証してみる。（2時間）
	授業内容	日本の近代化期における産業変動と地域経済（2） 鉄道施設など公共資本投資と地域に与えた影響などについて分析・考察する。（3回授業時の小レポートに対する講評と討議も行う。確認学習）
	事後学習	日本海側が裏日本と称されるようになった経緯と実態についてまとめる。（2時間）
6	事前学習	プリントを見て、地域経済圏と国土開発政策について整理する。（2時間）
	授業内容	国土利用論と地域開発政策 国土利用論について整理し、国土開発（自然災害対応も含む）と地域開発政策の関係について考察する。
	事後学習	外国の国土開発の事例や日本の地域開発について比較・検討し、その位置づけの特色について整理する。（2時間）
7	事前学習	1920年代のアメリカ経済の概要について事前に調べてみる。（2時間）
	授業内容	国民経済と地域開発（ニューディール政策）（1）：第一次世界大戦後の経済好況と国民消費 戦争経済からの転換に伴い、急速な消費経済の拡大と社会資本整備の展開について考察する
	事後学習	自動車・建設・道路等公共投資がどのように行われ、社会発展（生産と消費）にどのように繋がったかについて配布プリントを中心に整理する。（2時間）
8	事前学習	経済成長の停滞と経済破綻がなぜ起きたかについて、生産と金融の観点から整理してみる。（2時間）
	授業内容	国民経済と地域開発（ニューディール政策）（2）：投機経済化による経済破綻と経済改革 消費の一巡と投資の停滞、金融市場の活況を経て、経済の急速な減退に至った状況と経済復興策としてのニューディール政策について整理・考察する。
	事後学習	金融・産業政策を中心にニューディール政策の内容について整理する。（2時間）
9	事前学習	アメリカ南部テネシー川が置かれた地域的性格について事前に調べてみる。（1時間）
	授業内容	国民経済と地域開発（ニューディール政策）（3）：TVA施策の目的と内容、問題点 ニューディール政策政策の一環として実施されたTVAの地域開発政策の内容と、社会・経済的意義について整理・考察する。
	事後学習	TVAの具体的な開発政策の展開状況について整理する。与えられた課題についてのレポート作成をする。（3時間）
10	事前学習	戦後日本における傾斜生産方式など経済・産業政策について整理する。（2時間）
	授業内容	日本の国土開発政策と地域開発（1） 全国総合開発計画と地域経済 戦後直後の国土の荒廃と災害の多発、緊急に対策しなければならない事項（食料供給など）を整理し、国土開発計画策定に至る過程、及び全国総合開発計画の内容について考察する。（前回授業時の課題レポートを提出する）
	事後学習	特に新産業都市指定と地域開発との関係について整理する。（2時間）
11	事前学習	地域経済状況の変化、特に1970年代初期と1970年代後期の経済状況について事前に調べてみる。（2時間）
	授業内容	日本の国土開発政策と地域開発（2）新・第三次全国総合開発計画と大規模プロジェクト構想、定住圏構想の具体的内容と地域へ影響を与えた内容について検証する。（9回授業時の課題レポートについての講評と討議を行う。確認学習）
	事後学習	産業の高度化と地域経済力の低下状況の下で提案された地域定住圏やテクノポリス地域指定についての内容と問題点について整理する。（2時間）
12	事前学習	都市圏以外の地域における人口減少、産業の空洞化過程について、資料などの利用により調べる。（2時間）
	授業内容	日本の国土開発政策と地域開発（3）第四次・第五次全国総合開発計画と交通ネットワーク、多軸型国土形成政策の展開と地域開発との関係について考察する。
	事後学習	なぜ地方が衰退しているのか、地域開発との関係で検討してみる。（次回小テストの準備をする）（3時間）
13	事前学習	豊後高田市の人口規模、産業構造などについて市の広報や統計資料などから事前に調べてみる。（2時間）
	授業内容	地域活性化と町・村おこし（1） 大分県豊後高田市の例 佐賀県高田市における「昭和の町並み」展開による町おこしについての例示を挙げ、地方都市の展開状況について分析・考察する。（日本の地域開発に関する小テストを行う）
	事後学習	人口減・資金不足のため残された古い街並みを利用して行われた町おこしの内容・地域住民などについて整理する。（2時間）
14	事前学習	熊野市紀和町の位置と千枚田の分布について確認する。（2時間）
	授業内容	地域間格差と地域活性化策（3） 三重県熊野市紀和町の例 辺境地域で棚田集落という不利条件地域の開発を事例として農村の社会関係を維持しようとしている地域について分析・考察する。（13回授業時の小テストに関する講評と討議も行う。確認学習）
	事後学習	生産性・労働力不足により放棄された千枚田の再建と村おこし・地域政策について整理する。（2時間）
15	事前学習	地域開発と国・地方との関係について考える。（1時間）
	授業内容	まとめ：地域開発と地域経済との関係について整理・検証する。
	事後学習	地域経済政策について整理すると共に、期末テストに向けて準備する。（3時間）

科目名	地域コミュニケーションA	担当者	小林 聡明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	メディアを通じて、おびただしい量の韓国や北朝鮮情報が流布されている。だが、このことは、韓国を見つめるまなざしが豊かであること、あるいは知識の広がりや思考の奥行きを、かならずしも担保していない。本授業は、地域研究や国際政治学、歴史学、メディア研究の知の蓄積を援用しながら、韓国とは何かという本質的かつ根源的な問いに向かい合おうとするものである。なお、随時、北朝鮮についても触れるものとする。				
授業目的・到達目標	本授業は、韓国の歴史や文化、政治や経済などについて包括的に学び、メディア報道を批判的に読み解くための力＝リテラシーの養成を目的とする。到達目標は、次の三点である。 1. 韓国に関する知識の習得 2. 当該社会に内在する論理の把握 3 日韓（および日朝）関係を考えるための思考基盤の獲得 関連DP及びCP：新聞学科1, 2, 6				
履修条件	中国やアメリカなど、外国メディアに関する授業もあわせて受講することが望ましい。 韓国や北朝鮮、そして東アジアやアメリカについて考えるための知的体力をつけたい学生を、特に歓迎する。				
授業方法	受講者は、毎週、教員が提示する課題文献を読み、「同意できる点/できない点」と「質問」を記したメモを作成し、授業前までに提出する。授業は、それを踏まえた教員のフィードバックと受講者とのディスカッションで構成される。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	小レポートなど提出課題や授業寄与度による評価	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	なし	なし		なし	なし
	備考	使用しない			
参考書	さしあたり『戦後日韓関係史』（李鍾元、木宮正史ほか編）有斐閣、2017年、『「歴史認識」とは何か－対立の構図を超えて』（大沼保昭）、中公新書、2015年、『日韓外交史』（趙世瑛）、平凡社新書、2015年などをあげておく。				
オフィスアワー	原則的には、火曜日の13時～16時。事前にメールで予約を取ってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、朝鮮半島に関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。（2時間）
	授業内容	イントロダクション：授業のテーマや進め方を説明したうえで、受講者による韓国・北朝鮮へのイメージについてディスカッションを行う。
	事後学習	授業で紹介した参考文献について目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
2	事前学習	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、朝鮮半島に関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。（2時間）
	授業内容	日韓関係の現在：世論調査データを読み解きながら、現在の状況について把握する。
	事後学習	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、朝鮮半島に関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。（2時間）
3	事前学習	課題文献を読み、メモを作成し、ポータルサイトにアップロードしておくこと（3時間）
	授業内容	1950年代の日韓関係：植民地支配の終焉と大韓民国の成立、そして日韓関係の始まりについて考える。
	事後学習	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、朝鮮半島に関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。（2時間）
4	事前学習	課題文献を読み、メモを作成し、ポータルサイトにアップロードしておくこと（3時間）
	授業内容	分断体制の出現と朝鮮戦争：二つの相異なる政治体制によって、それぞれがそれぞれを全否定し、激しく対立する分断体制は、どのように出現し、現在にいたっているのか。朝鮮戦争のインパクトという観点から考える。
	事後学習	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、朝鮮半島に関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。（2時間）

5	事前学習	課題文献を読み、メモを作成し、ポータルサイトにアップロードしておくこと（3時間）
	授業内容	李承晩政権期の日韓関係：経済復興への模索と、日韓関係の新たな展開にむけた「前段階」について考える。
	事後学習	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、朝鮮半島に関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。（2時間）
6	事前学習	課題文献を読み、メモを作成し、ポータルサイトにアップロードしておくこと（3時間）
	授業内容	朴正熙政権期の日韓関係：日韓国交正常化のプロセスについて考える。
	事後学習	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、朝鮮半島に関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。（2時間）
7	事前学習	課題文献を読み、メモを作成し、ポータルサイトにアップロードしておくこと（3時間）
	授業内容	日韓国交正常化：その光と影について、法と歴史の文脈から考える。
	事後学習	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、朝鮮半島に関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。（2時間）
8	事前学習	課題文献を読み、メモを作成し、ポータルサイトにアップロードしておくこと（3時間）
	授業内容	全斗煥政権期の日韓関係：民主主義をめぐる闘いと韓国の冷戦外交の展開について考える。
	事後学習	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、朝鮮半島に関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。（2時間）
9	事前学習	課題文献を読み、メモを作成し、ポータルサイトにアップロードしておくこと（3時間）
	授業内容	盧泰愚政権期の日韓関係：冷戦終結・韓国の経済成長・民主化移行について考える。
	事後学習	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、朝鮮半島に関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。（2時間）
10	事前学習	課題文献を読み、メモを作成し、ポータルサイトにアップロードしておくこと（3時間）
	授業内容	金泳三政権期の日韓関係：文民政権の意味と新たな日韓関係の到来について考える。
	事後学習	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、朝鮮半島に関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。（2時間）
11	事前学習	課題文献を読み、メモを作成し、ポータルサイトにアップロードしておくこと（3時間）
	授業内容	金大中政権期の日韓関係：「日韓パートナーシップ宣言」の歴史的意味と現在への教訓について考える。
	事後学習	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、朝鮮半島に関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。（2時間）
12	事前学習	課題文献を読み、メモを作成し、ポータルサイトにアップロードしておくこと（3時間）
	授業内容	盧武鉉政権期の日韓関係：政治レベルでの困難と民間レベルでの文化交流の活性化について考える。
	事後学習	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、朝鮮半島に関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。（2時間）
13	事前学習	課題文献を読み、メモを作成し、ポータルサイトにアップロードしておくこと（3時間）
	授業内容	李明博政権期の日韓関係：「実用外交」の限界と歴史・領土問題をめぐる対立の先鋭化について考える。
	事後学習	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、朝鮮半島に関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。（2時間）
14	事前学習	課題文献を読み、メモを作成し、ポータルサイトにアップロードしておくこと（3時間）
	授業内容	朴槿恵政権期の日韓関係：歴史認識問題をめぐる困難と対立の構造について考える。
	事後学習	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、朝鮮半島に関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。（2時間）
15	事前学習	みずから有益な学術論文や学術書を探し出して、読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	文在寅政権期の日韓関係：どのようにすればよいのか。受講者とともに、こうした「難問」に挑む。
	事後学習	新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、朝鮮半島に関するニュースに触れておくこと。 日本語以外のメディアにも触れておくことを、強く薦める。（2時間）

科目名	地域コミュニケーションB	担当者	張 新慧	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	近年、中国は国際社会における存在感が増大し続け、その動向が注目されている。中国とどう付き合うべきか、日本を含めて世界の国々に対して重要な課題となっている。その基盤となるのが相互理解にあり、それを促すのは情報の共有と言える。特にマス・メディアを通じて伝えられる情報は受け手に一定の影響を与えるものと考えられる。本講義では、日本と比較する視点に立ち、中国という地域におけるマス・コミュニケーションを理解する。			
授業目的・到達目標	日中間のコミュニケーション・ギャップを考察する上で、必要な中国のジャーナリズムとマス・メディア事情に関する基本知識を得ることを目的とする。具体的に①中華人民共和国に関する知識の習得②日中両国の関係に関する理解の深化③日中両国のコミュニケーション・ギャップを解消するにあたり論理的思考力の獲得を本講義の目標とする。関連DP及びCP：新聞学科1, 2, 3			
履修条件	特になし。			
授業方法	毎回の授業ではPPTを使い、配布資料を参考しつつ授業を進める。これと同時に授業内容と関連する学者の研究成果、映像や新聞記事を活用する。授業内発表やレポートに対する講評と解説を後日、ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	レポート等の提出課題と授業参与度について評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。		
参考書	山本 賢二(2019)『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3) 本学教員共有サイト「山本賢二 教材配布」掲載。 その他は授業中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	水曜日12：00～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること） 研究室とメールアドレスは追ってお知らせします。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、参考文献に目を通し、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	【オリエンテーション】 －本講義についての説明、コミュニケーション研究概説、中国研究概説。
	事後学習	講義内容を整理し、他の履修科目との関係を考える上で、自分の学習計画を作成する。（2時間）
2	事前学習	山本賢二(2019) 『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の関連するところを読む。（2時間）
	授業内容	【現代日中関係概説】 －日本と中国の関係史を概観し、日中関係の重要性と複雑性について考える。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
3	事前学習	日中輿論調査に関するマス・メディアの報道について調べる。（2時間）
	授業内容	【日中相互イメージの構図（上）】 －世論に関する基礎概念を理解し、日中両国に関する世論調査結果について考える。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
4	事前学習	日中輿論調査に関するマス・メディアの報道について調べる。（2時間）
	授業内容	【日中相互イメージの構図（下）】 －日中輿論調査結果から見える日中相互イメージを理解し、その背景について考える。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）

5	事前学習	NHKドキュメンタリーに関係する知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	【ビデオ視聴及び議論】 －NHKドキュメンタリー『激流中国・ある雑誌編集部 60日の攻防』を視聴し、番組が伝える中国のメディア環境を考える。
	事後学習	講義内容を整理し、視聴後の感想を提出する。（2時間）
6	事前学習	自分の異文化交流経験から考えることをメモし、異文化交流に関するマス・メディアの報道について調べる。（2時間）
	授業内容	【日中コミュニケーション・ギャップを考える(上)】 －コミュニケーション・ギャップに関する基礎概念を理解し、その表現、背景について考える。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
7	事前学習	自分の異文化交流経験から考えることをメモし、異文化交流に関するマス・メディアの報道について調べる。（2時間）
	授業内容	【日中コミュニケーション・ギャップを考える(下)】 －コミュニケーション・ギャップに関する基礎概念を理解し、その表現、背景について考える。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
8	事前学習	山本賢二(2019) 『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の関連するところを読む。（2時間）
	授業内容	【中国のマス・メディアの構造】 －中国のマス・メディア、ジャーナリズムについての基本的構造についての知識を得る。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
9	事前学習	最近の中国のマス・メディア(英語版、日本語版をあわせて利用する)における日本関連報道に目を通すこと。（2時間）
	授業内容	【中国のマス・メディアにおける対日報道】 －時系列的に中国のマス・メディアに描かれる日本像について考える。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
10	事前学習	最近の日本のマス・メディアにおける中国関連報道に目を通すこと。（2時間）
	授業内容	【日本のマス・メディアにおける対中報道】 －時系列的に日本のマス・メディアに描かれる中国像について考える。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
11	事前学習	山本賢二(2019) 『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の関連するところを読む。（2時間）
	授業内容	【日中相互理解とメディアリテラシー】 －日本と中国のメディアの特質を明らかにし、我々が身につけるべきメディアリテラシーについて考える。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
12	事前学習	山本賢二(2019) 『中国メディア・ジャーナリズム論考』(1)(2)(3)の関連するところを読む。（2時間）
	授業内容	【中国のソーシャルメディア】 －変容している中国マス・メディアの中におけるソーシャルメディアの発展、現状と位置づけについて考える。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
13	事前学習	最近のアメリカのマス・メディア(日本語版をあわせて利用する)における日中両国に関する報道に目を通すこと。（2時間）
	授業内容	【アメリカのメディアにおける日中摩擦報道】 －米国の日中関係への影響を明らかにし、米国マス・メディアが伝える日中関係について考える。
	事後学習	講義内容を整理し、リアクションペーパーを作成する。（2時間）
14	事前学習	米国の憲法修正一条を確認しておく。（2時間）
	授業内容	【ビデオ視聴及び議論】 －NHKドキュメンタリー『これは正義の戦いか ～ジャーナリストたちのベトナム戦争～』を視聴し、当時の米国のジャーナリズムについて考える。
	事後学習	講義内容を整理し、視聴後の感想を提出する。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義内容を整理し、学んだ知識や考えたことをまとめておく。（2時間）
	授業内容	【まとめと討論】 －これまでの講義内容を基礎にして、受講生に中国のマス・コミュニケーションについて自分の意見や見解を述べてもらう。
	事後学習	中国のジャーナリズム・メディアの事情に関する知識を再確認する。（2時間）

科目名	地域政策	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	地方分権社会の自治体の政策について、政策展開の考え方、政策手法、他のアクターとの関係などについて学ぶ。課題の発見方法、抽出方法について検討する。講義では自治体審議会の経験を生かして現場での政策形成における問題点について解説する。				
授業目的・到達目標	地方分権一括法の施行を契機として、地域政策は国の地域振興政策の意味合いから脱し、地域主導へと転換しつつあり、地方自治体は自立のために積極的に取り組んでいるところである。本講義では、地域政策の手法と視点を学ぶことを目的とする。地域課題の抽出、課題解決手法について考えることができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：公共政策学科1, 3, 4, 5				
履修条件	地方自治論、都市政策を学んでいる方が望ましい。				
授業方法	講義形式を主とする。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		90%	地域課題の解決手法について、その手法と考え方について問う。	
	平常評価		10%	地域課題について関心をもっているか問う。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2018	弘文堂	地方自治論		福島康仁編
	備考				
参考書	本田弘ほか編著『地方分権下の地方自治』公人社、2002年。『自治体職員ハンドブック』公職研、2017年。				
オフィスアワー	原則水曜日の昼休みとする。事前にメールなどでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいっていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館6階の研究室。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	地方自治体の定義について調べてみる（2時間）
	授業内容	講義概要など
	事後学習	地方自治体の役割について考える（2時間）
2	事前学習	地方分権の自治体の役割変化について検討する（2時間）
	授業内容	地方分権化時代の地域づくり
	事後学習	地方分権法について考える（2時間）
3	事前学習	ローカルガバメントの違いについて考える（2時間）
	授業内容	ローカルガバナンス
	事後学習	ローカルガバナンスの主役はなにか考える（2時間）
4	事前学習	国土計画法について調べる（2時間）
	授業内容	国土計画と地域（1）
	事後学習	国土計画の歴史を整理する（2時間）

5	事前学習	国土計画の歴史について整理してくる（2時間）
	授業内容	国土計画と地域（2）
	事後学習	国土計画の考え方の転換点についてまとめる（2時間）
6	事前学習	公民連携の必要性について感がる（2時間）
	授業内容	地域づくりのと公民連携（1）
	事後学習	公民連携の形態について整理する（2時間）
7	事前学習	PPPとはなにか整理する（2時間）
	授業内容	地域づくりと公民連携（2）
	事後学習	PPPの種類と選択方法について整理する（2時間）
8	事前学習	定住人口と交流人口の違いについて検討する（2時間）
	授業内容	地域づくりと観光
	事後学習	交流人口政策の意義について整理する（2時間）
9	事前学習	定住人口の限界について学習する（2時間）
	授業内容	地域づくりと観光
	事後学習	観光政策の手法について整理する（2時間）
10	事前学習	日本の外国人の人数や出身国について調べる（2時間）
	授業内容	国際化と地域（1）
	事後学習	外国と自治体の関係について考える（2時間）
11	事前学習	在住外国人の生活問題について考える（2時間）
	授業内容	国際化と地域（2）
	事後学習	自治体にとって、なぜ国際化が必要なのか整理する（2時間）
12	事前学習	ICTとはなにか、その意義について検討する（2時間）
	授業内容	ICTと地域（1）
	事後学習	ICTを活用した地域づくりについて先進例を復習する（2時間）
13	事前学習	ICTの有効性について考える（2時間）
	授業内容	ICTと地域（2）
	事後学習	ICTの課題について整理する（2時間）
14	事前学習	空き家の将来推計について調べる（2時間）
	授業内容	空き家と地域
	事後学習	空き家の課題を整理する（2時間）
15	事前学習	地域政策の考え方について整理する（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	地域政策の課題を考える（2時間）

科目名	知的財産法A(特許・実用新案)Ⅰ	担当者	小川 宗一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国家が知的財産立国を目指し、企業が経営戦略を知的財産戦略とリンクさせることを必須とされる時代となっている中で、知的財産法全体の概要、特許法の基本的内容〔特許法の概要・意義・仕組み・基本原理、及び特許法上の保護客体、特許要件、特許権取得のための手続等を中心とする〕を学習する。特許庁審査官・審判官として、審査・審判・審決取消訴訟、さらには法改正作業に関わった経験を引きつつ、特許等の知的財産政策の実際にも言及する。				
授業目的・到達目標	種々の知的財産制度(法)及びその発展科目の履修のために必要となる、知的財産制度(法)全体の中核となる「特許制度(法)の基礎的知識(とりわけ、特許法上の基本原理、保護要件、手続)」を修得することを目的とする。 国家戦略及び企業の経営戦略における知的財産戦略の重要性や、知的財産法の基礎理論を修得し、特許制度(法)の仕組みについて、受講生が理解し説明できることを目標とする。 関連DP・CP：法律学科1,3 新聞学科1,5 経営法学科1,3,4 公共政策学科1,3,4				
履修条件	本授業を履修する者は、知的財産法A(特許・実用新案)Ⅱも履修することが望ましい。				
授業方法	講義形式で行う。教科書を中心とし、最新の話題・事例も適宜教材とする。特許法掲載の六法、法令集等を必ず持参のこと。毎回、授業内容の理解度確認のための小テストを行い、翌週その講評及び解説をする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内で行う小テスト及び授業への参加度等(50%)、期末試験(50%)により、特許制度(法)の基本的内容の習得度を評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2017	有斐閣	知的財産法入門 第2版(4月の授業開始時に、新版が発行されていれば、最新版を使用する)		茶園成樹編
	備考				
参考書	必要に応じ、資料を配布する。				
オフィスアワー	水曜日12:30～13:30(事前にメールでアポイントを取ること) 研究室(4号館5階452) ogawa.soichi@nihon-u.ac.jp 【授業内容以外で受け付ける質問・相談について】弁理士試験対策、大学院法学研究科私法学専攻(知的財産コース)への進学				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、授業の概要や目的を理解し、講義全体を概観する。(2時間)
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、教科書の紹介を含めて特許法の学習方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。 知的財産及び知的財産制度(法)の概要について説明する。
	事後学習	授業内容を記したノート及び配布資料等を確認して、今後の授業内容についての理解を深めた上で、自分の学習計画と他の履修科目との関係を検討し、履修の有無を決定する。(2時間)
2	事前学習	教科書の「UNIT1 イントロダクション I 知的財産法」を読み、知的財産・知的財産法とはどのようなものなのかについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	知的財産制度(法)の意義、知的財産基本法・国家の知的財産政策について学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
3	事前学習	教科書の「UNIT1 イントロダクション II 特許法・実用新案法」を読み、特許法とはどのようなものなのかについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	特許制度(法)の意義・仕組み、特許権について学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
4	事前学習	教科書の「UNIT2 特許法① 発明該当性」を読み、特許法上の「発明」とはどのようなものなのかについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	特許法の保護対象である「発明(2条1項)」について学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)

5	事前学習	教科書の「UNIT 3 特許法② 特許要件Ⅰ～Ⅲ」を読み、特許要件とは何か、また、「産業上の利用可能性」、「新規性」というのはどのような特許要件なのかについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	【特許の客体的要件(1)】「産業上の利用可能性(29条1項柱書)」、「新規性(29条1項)」に関する特許要件について学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
6	事前学習	教科書の「UNIT 3 特許法② 特許要件Ⅳ及びⅦ」を読み、「進歩性」、「不特許事由」というのはどのような特許要件なのかについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	【特許の客体的要件(2)】「進歩性(29条2項)」、「不特許事由(32条)」に関する特許要件について学習する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
7	事前学習	教科書の「UNIT 3 特許法② 特許要件Ⅴ及びⅥ」を読み、「先願」、「29条の2」というのはどのような特許要件なのかについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	【特許の客体的要件(3)】「先願(39条)」及び「29条の2」に関する特許要件について、その内容を対比して学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
8	事前学習	教科書の「UNIT 4 特許法③ 特許要件Ⅰ及びⅡ」を読み、特許を受けることができるのは誰なのかについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。 【特許の主体的要件(1)】「権利能力(民法3条、特許法25条)」、「特許を受ける権利(特許法33条、34条)」、「冒認出願(特許法49条7号)」について学習する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
9	事前学習	教科書の「UNIT 4 特許法③ Ⅲ」を読み、従業者による発明はどのように取り扱われているのかについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	【特許の主体的要件(2)】「職務発明」とは何かについて学習し、我が国の職務発明制度(35条)について考察する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
10	事前学習	教科書の「UNIT 5 特許法④ Ⅰ～Ⅲ」を読み、特許法は手続法でもあること、「審査主義」とは何か、及び特許を取得するためにはどのような手続きが必要になるのかについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	【特許取得手続(1)】「出願(36条等)」・「出願公開(第3章の2)」・「審査(第3章)」について学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
11	事前学習	教科書の「UNIT 5 特許法④ Ⅲ」を読み、実際の特許実務上、重要になってくる「補正」「分割」「変更」等の手続とはどのようなものかについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	【特許取得手続(2)】「補正(17条、17条の2等)」・「出願の分割(44条)」・「出願の変更(46条等)」・「国内優先(41条)」について学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
12	事前学習	教科書の「UNIT 5 特許法④ Ⅳ」を読み、審判制度とは何なのか、及び「拒絶査定不服審判」はどのような審判なのかについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	【審判(1)】「拒絶査定不服審判(121条)」について学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
13	事前学習	教科書の「UNIT 5 特許法④ Ⅲ及びⅣ」を読み、特許庁が行った行政処分に対して第三者が不服を申し立てる方法等について考えてくる。(2時間)
	授業内容	【審判(2)】「特許異議申立て(113条以下)」・「無効審判(123条)」・「訂正審判(126条)」等について学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
14	事前学習	教科書の「UNIT 5 特許法④ Ⅲ及びⅣ」を読み、特許庁が行った特許異議申立ての決定や審判の審決に対する不服申立てについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	【審決取消訴訟(178条)】について学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
15	事前学習	初回からの教科書の各UNITと講義ノート(毎回の小テストの解説を含む)を見直し、総復習をする。(2時間)
	授業内容	授業内試験及びその試験問題についての解説により、正しい知識を確認し、前期学習内容を振り返る。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。(2時間)

科目名	知的財産法A(特許・実用新案)Ⅰ	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特に、出願から権利化までの一連の手続き及び制度に関し、基礎的な内容について学ぶ。また、保護対象が類似なものである実用新案制度とはどこが異なるのか、区分ごとに理解する。特許出願書類（願書・クレーム・明細書・要約書）の基礎的な事項は、記載できるようになる。また、IPDLの基本的な操作も行えるようになる。					
授業目的・到達目標	特許法における特許取得要件及び特許取得手続きに関する知識の習得を目的とし、受講生は、どのようなものが法上の発明であるか、どのような発明が特許となりうるのか説明でき、最終的には、自己で特許出願できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科 1， 3 新聞学科 1， 5 経営法学科 1， 3， 4 公共政策学科 1， 3， 4					
履修条件	特に無し					
授業方法	講義を基本とするが、出願書類を作成するといった実践的な内容も取り入れた講義とする。尚、双方向の講義を行い、講義内容の理解を深める。学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に30分程度の試験解説を実施する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		70%		合格／不合格の判定は絶対評価により、90点以上(S)、80点以上(A)、70点以上(B)、60点以上(C)は、それぞれ5:25:40:30を目安とする相対評価。	
	平常評価		30%		出席率が70%に満たない者は不合格とし、レポートや受講態度を積極的に評価	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017	有斐閣		『標準 特許法 第6版』		高林龍
	備考	上記教科書は最新改正法を網羅していないので、以下の参考書①にて最新改正法をフォローアップする。				
参考書	①特許庁編『産業財産権法 逐条解説』「第20版」（発明協会 2017） ※特許庁WEBでダウンロード可					
オフィスアワー	火曜日の12:10-1:00に、9号館（9408）研究室にて対応する。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書P1-22を事前に読んでおく。知的財産権にはどのような法律があるのか理解する。（2時間）
	授業内容	総説（１）：知的財産権法の概要及び現状
	事後学習	今まで自己が考えてきた無体財産はどのような法律で守られているのか認識する。また、知財の現状を理解し、今後、日本はどのような方向に進むべきか考える。 尚、以下、特に重要な部分については特記しているが、基本的には、参考書①にて対応する講義主題を確認する。（2時間）
2	事前学習	教科書P6-8を事前に読んでおく。なぜ特許法が制定されたのか理解する。特許法が無かった場合の世界を想像する。以下のWEBを事前に読んでおき、特許成立までの流れの概略を理解する。（2時間） https://www.jpo.go.jp/system/basic/patent/
	授業内容	総説（２）：特許法の目的及び特許権成立までの概略
	事後学習	特許法 1 条の各用語の意味を再確認する。特許成立までの流れにおいて、各段階での手続きの内容を参考書①で確認する。（2時間）
3	事前学習	教科書P23-48を事前に読んでおく。一般的に使用されている「発明」と特許法で規定する「発明」の意味の相違を理解する。特許成立に必要な「産業上の利用性」を理解する。（2時間）
	授業内容	特許要件（１）：客体要件（発明、産業上の利用性）
	事後学習	授業内で、特定の分野において、特許庁に出願されているアイデアが、法上の発明にあたるか否かをレポートする宿題を実施する。（2時間）
4	事前学習	教科書P48-52、56-61を事前に読んでおく。新規であるかどうかという状況をいうのか理解する。また、新しい発明をしても、従来のものから容易に発明できるものは特許とはならないという進歩性の判断基準を理解する。（2時間）
	授業内容	特許要件（２）：客体要件（新規性、進歩性）
	事後学習	新しさの時間的・地域的基準や公然の意味など、参考書①で確認する。（2時間）

5	事前学習	教科書P53-55を事前に読んでおく。新規ではない状態となっても一定条件のもと、新規性を失わない場合はどのような場合であるか、理解をしておく。（2時間）
	授業内容	特許要件（3）：新規性喪失の例外
	事後学習	通常、新規性を喪失した発明は特許化が不可能であることは、研究者は知っているはずであるが、どのような場合に、この規定の適用を受けることになるのか、考えてみる。（2時間）
6	事前学習	教科書P67-70を事前に読んでおく。上記の要件を満足しても、特許化すべきではない発明がある。どのような発明が、特許化すべきではないのか、またその理由は何であるか、学習して置く。（2時間）
	授業内容	特許要件（4）：客体要件（不特許事由）
	事後学習	授業で取り上げていない事例なども、自己で考えて、結論を導く。（2時間）
7	事前学習	教科書P61-63を事前に読んでおく。先願主義とは何かを理解する。同一の発明が同日に時間を異にして出願された場合の取り扱いが、異日出願の場合と異なる点を十分に理解しておく。（2時間）
	授業内容	特許要件（5）：先願主義
	事後学習	先願主義と先発明主義に比べ、日本が採用する先願主義には、どのような利点があるか考える。また、先発明主義を採用していた国の制度を参考書①で確認する。（2時間）
8	事前学習	教科書P64-67を事前に読んでおく。理解が難しいきていであるため、参考書①P66も事前に読んでおき、規定の内容を理解する。（2時間）
	授業内容	特許要件（6）：拡大された先願範囲の地位
	事後学習	本規定の条文である29条の2について、授業後の再度読み返し、規定の内容と条文の文言を確認する。（2時間）
9	事前学習	教科書P128-137を事前に読んでおく。出願書類にはどのような記載をすべきであると法が規定しえているか理解する。また、1つの出願で権利の請求が行える発明の範囲について事前に学んでおく。（2時間）
	授業内容	出願・審査手続（1）：出願書類・明細書及び請求項の記載要件／発明の単一性
	事後学習	物の発明と方法の発明では、その記載方法や記載すべき内容も異なる点を参考書①②で確認する。（2時間）
10	事前学習	教科書P238-240, 67, 326-327を事前に読んでおく。外国において特許を取得する理由や取得するための手続きについて理解する。（2時間）
	授業内容	出願・審査手続（2）：優先権（パリ条約による優先権・パリ条約の例による優先権、国内優先権）
	事後学習	優先権の種類や利用場面を考える。この講義はパリ条約4条に基づく国内法であるため、WEBを利用し、パリ条約4条を読み理解を深めるとともに、参考書①の対応条文の解説を読んで理解を深める。（2時間）
11	事前学習	教科書P232-235を事前に読んでおく。手続きの補正とは何か、何故、その様な補正を行うのかについて十分理解し、そのような補正が何時、どのような範囲で行うことができるのかを学ぶ。（2時間）
	授業内容	出願・審査手続（3）：補正
	事後学習	補正は、その補正時期により、制限事項が異なることを参考書①②で確認する。（2時間）
12	事前学習	教科書①P235-237を事前に読んでおく。出願分割や変更は、どのような制度であるか、なぜ認められているのか、どのような状況での利用となるのか、理解する。（2時間）
	授業内容	出願・審査手続（4）：出願分割及び出願変更
	事後学習	出願分割は、パリ条約でも同盟国民に認められている権利であり、パリ条約4条Fについても、読んで確認する。（2時間）
13	事前学習	参考書①内の36条の2及びその解説を事前に読んでおく。日本語に加え一部の言語にて、日本では特許出願が可能であることを理解した上で、外国語出願した出願人がその後取るべき手続やその内容を理解する。（2時間）
	授業内容	出願・審査手続（5）：外国語書面出願
	事後学習	外国語書面出願の場合、翻訳ミスがあった場合の訂正は、通常の手続補正書では行わない、補正の範囲は翻訳の範囲など、通常の日本語出願とは大きく異なる点があるので、何が異なるのか、どの様に異なるのか理解する。（2時間）
14	事前学習	教科書P227-229を事前に読んでおく。出願公開の要件及び補償金請求権の要件及び内容を理解する。（2時間）
	授業内容	出願・審査手続（6）：特許庁の行為1（出願公開及び補償金請求権）
	事後学習	参考書にて講義内容を確認する。（2時間）
15	事前学習	教科書P231, 241-242を事前に読んでおく。拒絶理由通知を受けた出願人の対応手法を理解する。（2時間）
	授業内容	出願・審査手続（7）：特許庁の行為2（拒絶理由通知、査定と登録） 学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に30分程度の試験解説を実施する。
	事後学習	参考書①にて講義内容を確認する。また、試験で回答できない部分は、講評を聞き、さらに教科書で確認する。（2時間）

科目名	知的財産法A(特許・実用新案)Ⅰ	担当者	竹内 敏夫	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	特許法・実用新案について、その基礎的な知識から各制度の内容について講義を行なう。具体的には、現役の弁理士で、大手企業の知的財産部勤務の経験から、特許法・実用新案法の知識だけでなく、具体的な事例を踏まえて実践的な知識が身につくように講義を行ない、特許等に関する理解を深める。					
授業目的・到達目標	特許法等の知的財産法は、企業活動においても重要視されており、国内だけでなく国際的な重要性が高まっています。この講義では、特許法・実用新案法の概要・特許取得等の手続の理解を通じて、特許・実用新案制度の基礎理論の修得を目的とする。 また、特許法・実用新案法の基礎理論を修得し、受講生が企業の知的財産部門などで知的財産戦略の構築ができるようになることを目標とする。 対応D P及びC P：法律学科1,3 新聞学科1,5 経営法学科1,3,4 公共政策学科1,3,4					
履修条件	特になし。					
授業方法	必要に応じてレジュメを配布して講義を行い。またスライドなどを利用して知的財産に関する最新の話題や実例を通じて実践的な知識を見につけられるようにする。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業への参加度（授業態度、発言など）と、授業内テストにより評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	必要に応じてレジュメを配布				
参考書	必要に応じて紹介する。					
オフィスアワー	金曜日１０時４０分～１１時３０分に設定（事前にアポイントをとること）担当教員研究室					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み知的財産法がなぜ必要とされるかについて考えてくること（2時間）
	授業内容	ガイダンス、知的財産法及び特許法の概要
	事後学習	知的財産法の概略を整理して復習すること。（2時間）
2	事前学習	特許法に関する歴史や目的について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	特許法（１）特許法の歴史とその目的
	事後学習	特許法の目的を整理して復習すること。（2時間）
3	事前学習	特許法の保護対象について、身の回りで「特許取得」表記されているものを調べておくこと。（2時間）
	授業内容	特許法（２）特許法の保護対象について（特許になるものと特許として保護されないもの）
	事後学習	特許法の保護対象について整理し復習すること。（2時間）
4	事前学習	法目的に照らしてどのようなものが特許として保護されるべきか考えておくこと。（2時間）
	授業内容	特許法（３）特許要件（産業上の利用可能性）
	事後学習	産業上利用可能性の内容と、具体的に産業上利用可能性があるもの、ないものを整理し復習すること。（2時間）

5	事前学習	特許要件のうち新規性の内容について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	特許法（4）特許要件（新規性）
	事後学習	新規性の定義、その内容、新規性が認められない事例などを整理し復習すること。（2時間）
6	事前学習	特許要件のうち進歩性の内容について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	特許法（5）特許要件（進歩性）
	事後学習	進歩性の定義、その内容、新規性が認められない事例などを整理し復習すること。（2時間）
7	事前学習	特許出願の際に必要な書面などについて確認しておくこと（2時間）
	授業内容	特許法（6）特許要件（記載要件、出願の単一性）
	事後学習	特許出願の際に必要な書類及びその記載に仕方について整理し復習すること。（2時間）
8	事前学習	これまでの特許要件などについてまとめをしておくこと（2時間）
	授業内容	授業内で小テストを行い、その解説を行なう。またこれまでのまとめを行なう。
	事後学習	小テストで間違えた内容について復習をすること。（2時間）
9	事前学習	特許に関する手続の概略を確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	特許法（7）特許の審査に関する手続
	事後学習	特許の審査手続の流れを整理して復習すること。（2時間）
10	事前学習	特許公開・審査請求の手続について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	特許法（8）出願公開・出願審査請求
	事後学習	出願公開及び出願審査請求の意義とその内容を整理して復習すること。（2時間）
11	事前学習	特許に関する審査の流れについて確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	特許法（9）拒絶理由（発明性、新規性、進歩性）に対する対応
	事後学習	拒絶理由に対する対応について整理しておくこと。（2時間）
12	事前学習	特許に対する審査の流れを確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	特許法（10）拒絶理由（記載要件等）に対する対応
	事後学習	記載要件違反に対する拒絶理由の対応について整理しておくこと。（2時間）
13	事前学習	特許の審判の種類について確認しておくこと（2時間）
	授業内容	特許法（11）特許に関する審判制度
	事後学習	審判の種類とそれぞれの特徴について整理しておくこと。（2時間）
14	事前学習	特許に関する訴訟について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	特許法（12）特許に関する訴訟（審決取消訴訟を中心）
	事後学習	審決取消訴訟の手続について整理しておくこと。（2時間）
15	事前学習	これまでの事項を整理して復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業内テストを行い、その解説を行なう。
	事後学習	授業内テストで間違えた事項を再度確認し復習すること。（2時間）

科目名	知的財産法A(特許・実用新案)Ⅱ	担当者	小川 宗一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国家が知的財産立国を目指し、企業が経営戦略を知的財産戦略とリンクさせることを必須とされる時代となっている中で、知的財産法全体の概要、特許法の基本的内容〔特許権の効力や特許権の侵害等を中心とする〕、及び実用新案制度（法）の概要・意義・仕組みを学習する。特許庁審査官・審判官として、審査・審判・審決取消訴訟、さらには法改正作業に関わった経験を引きつつ、特許等の知的財産政策の実際にも言及する。				
授業目的・到達目標	種々の知的財産制度(法)及びその発展科目の履修のために必要となる、知的財産制度（法）全体の中核となる「特許制度（法）の基礎的知識（とりわけ、特許権の効力や特許権の侵害）」、及び実用新案制度（法）の基礎的知識を修得することを目的とする。 国家戦略及び企業の経営戦略における知的財産戦略の重要性や、知的財産法の基礎理論を修得し、特許制度（法）と実用新案制度（法）の仕組みや両者の相違等について、受講生が理解し説明できることを目標とする。 関連DP・CP：法律学科1,3 新聞学科1,5 経営法学科1,3,4 公共政策学科1,3,4				
履修条件	本授業を履修する者は、知的財産法A（特許・実用新案）Ⅰを履修しておくことが望ましい。				
授業方法	講義形式で行う。教科書を中心とし、最新の話題・事例も適宜教材とする。特許法・実用新案法掲載の六法、法令集等を必ず持参のこと。毎回、授業内容の理解度確認のための小テストを行い、翌週その講評及び解説をする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内で行う小テスト及び授業への参加度等（50％）、期末試験（50％）により、特許制度・実用新案制度の基本的内容の習得度を評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017年	有斐閣		知的財産法入門 第2版（4月の授業開始時に、新版が発行されていれば、最新版を使用する）	茶園成樹編
	備考				
参考書	必要に応じ、適宜紹介する。				
オフィスアワー	水曜日12:30～13:30（事前にメールでアポイントを取ること） 研究室（4号館5階452） ogawa.soichi@nihon-u.ac.jp 【授業内容以外で受け付ける質問・相談について】弁理士試験対策、大学院法学研究科私法学専攻（知的財産コース）への進学				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、授業の概要や目的を理解し、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、教科書の紹介を含めて特許法の学習方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	授業内容を記したノート及び配布資料等を確認して、今後の授業内容についての理解を深めた上で、自分の学習計画と他の履修科目との関係を検討し、履修の有無を決定する。（2時間）
2	事前学習	教科書の「UNIT 7 特許法⑥特許攻防Ⅰ総論」を読み、特許権とはどのような権利で、どのような効力を持っているのかについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	特許権（性質、発生、消滅等）、及び特許権の効力（68条）について学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。（2時間）
3	事前学習	教科書の「UNIT 7 特許法⑥特許攻防Ⅲ侵害主張に対する抗弁」を読み、特許権の効力はどのような場合に制限されるのかについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	特許権の効力の制限（69条、104条の3、特許権の消尽等）について学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。（2時間）
4	事前学習	教科書の「UNIT 6 特許法⑤権利の活用Ⅱ特許権の活用 3 許諾による実施権」を読み、特許権者の意思により設定される許諾による実施権にはどのようなものがあるのかについて考えてくる。（2時間）
	授業内容	【特許権の活用（1）】 許諾による実施権（専用実施権（77条）、通常実施権（78条））について学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。（2時間）

5	事前学習	教科書の「UNIT 6 特許法⑤権利の活用 III法定実施権 IV裁定実施権」を読み、特許権者の意思とは関係なく、法律の規定や行政処分によって設定される実施権にはどのようなものがあるのかについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	【特許権の活用(2)】 法定通常実施権(35条、79条等)・裁定通常実施権(83条、92条、93条)について学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
6	事前学習	教科書の「UNIT 6 特許法⑤権利の活用 2 移転 4 質権」を読み、特許権が財産権であることに基づき、移転や質権の目的とすることができることについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	【特許権の活用(3)】 特許権の移転(譲渡・相続その他の一般承継)、質権の設定等について学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
7	事前学習	教科書の「UNIT 7 特許法⑥特許攻防 II特許権侵害」を読み、特許権侵害とはどのようなものかについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	【特許権の侵害(1)】 特許権侵害(直接侵害・間接侵害)、文言侵害、特許発明の技術的範囲(70条)について学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
8	事前学習	教科書の「UNIT 7 特許法⑥特許攻防 II特許権侵害」を読み、均等侵害、及び間接侵害とはどのようなものかについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	【特許権の侵害(2)】 均等侵害(均等論)・間接侵害(101条)について学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
9	事前学習	教科書の「UNIT 7 特許法⑥特許攻防 I 総論」を読み、特許権が侵害された場合には、特許権者は民事上どのような救済を受けることができるのかについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	【侵害に対する救済(1)】 民事上の救済(差止請求権、損害賠償請求権、不当利得請求権、信用回復措置請求権)について学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
10	事前学習	特許法196条、196条の2(侵害の罪)、201条(両罰規定)を読み、特許権を侵害した場合には、侵害者はどのような刑事罰を受けることとなるのかについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	【侵害に対する救済(2)】 特許権侵害の刑事罰について、他の財産犯罪(窃盗罪・詐欺罪等)との比較をしながら学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
11	事前学習	教科書の「UNIT 1 イントロダクションII特許法・実用新案法」を読み、実用新案法とはどのようなものなのかについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	【実用新案法(1)】 実用新案制度の意義・仕組み、実用新案法の保護対象(考案)について、特許法と比較しながら学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
12	事前学習	教科書の「UNIT 1 イントロダクションII特許法・実用新案法」を読み、実用新案法上の保護の要件や手続について考えてくる。(2時間)
	授業内容	【実用新案法(2)】 実用新案の登録要件、実用新案権取得手続(無審査主義)について、特許法と比較しながら学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
13	事前学習	教科書の「UNIT 1 イントロダクションII特許法・実用新案法」を読み、実用新案法上、実用新案権とはどのようなものなのかについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	【実用新案法(3)】 実用新案権の効力、実用新案権の侵害・実用新案技術評価書制度について、特許法と比較しながら学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
14	事前学習	配布資料を読み、発明等の知的財産は国際的にどのような形で保護されているのかについて考えてくる。(2時間)
	授業内容	属地主義・特許独立の原則について学び、発明等保護の国際的枠組み(パリ条約、PCT、WTO・TRIPS協定等)について学習する。 授業の最後に、授業内容の理解度確認のための小テストを実施する。
	事後学習	授業の最後に実施する小テストは、授業内容の重要なポイントに関するものであり、その内容は期末試験の出題範囲にもなるので、復習をし整理をしておく。次回の授業の冒頭で、講評と解説を行う。(2時間)
15	事前学習	初回からの教科書の各UNITと講義ノート(毎回の小テストの解説を含む)を見直し、総復習をする。(2時間)
	授業内容	授業内試験及びその試験問題についての解説により、正しい知識を確認し、前期学習内容を振り返る。
	事後学習	これまでの学習内容を確認する。(2時間)

科目名	知的財産法A(特許・実用新案)Ⅱ	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	知的財産法（とりわけ、産業財産権法）の中心的位置にある特許法について、特許権の効力、特許侵害、損害賠償制度、各種実施権制度、及び審判制度の基本的な構造・体系、さらには実用新案法についての基本的な構造・体系、両法を併存させている理由、両法の比較、さらには実用新案制度の特異な制度について基礎的な理解を深め、両法の現状を的確に理解・認識する。				
授業目的・到達目標	特許権の効力に関する知識、従って、特許権者は取得する具体的な権利の内容の習得を目的とし、受講生は、特許者は、無断で他人の特許を実施した場合にどのような権利を行使できるのか、また、どのような場合に特許権の行使が制限されるのか説明でき、最終的には、特許権及び実用新案権を行使することができる人材を養成することを目標とする。関連DP及びCP：法律学科 1， 3 新聞学科 1， 5 経営法学科 1， 3， 4 公共政策学科 1， 3， 4				
履修条件	特に無し				
授業方法	パワーポイントを使用した講義を基本とする。尚、一方通行ではなく、双方向の講義を行い、講義内容の理解を深める。学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に30分程度の試験解説を実施する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	合格／不合格の判定は絶対評価により、90点以上(S)、80点以上(A)、70点以上(B)、60点以上(C)は、それぞれ5:25:40:30を目安とする相対評価。	
	平常評価		30%	出席率が70%に満たない者は不合格とし、レポートや受講態度を積極的に評価	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	有斐閣		標準 特許法 第6版	高林龍
	備考				
参考書	①特許庁編『産業財産権法 逐条解説』「第20版」（発明協会 2017） ※特許庁WEBでダウンロード可				
オフィスアワー	火曜日の12:10-1:00に、9号館（9408）研究室にて対応する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書P73-79、参考書②33-34条及びそれらの解説を事前に読んでおく。（2時間）
	授業内容	特許を受ける権利：権利対象、権利侵害に対する救済、権利の利用
	事後学習	共有に係る場合の特則や訴訟提起の場合の単独性について教科書を利用し理解する。（2時間）
2	事前学習	教科書P80-97を事前に読んでおく。現行法下での権利の原始的帰属や使用者の権利を理解する。（2時間）
	授業内容	職務発明制度
	事後学習	旧法との比較を行い、改正点を整理するとともに、改正法の課題を考える。（2時間）
3	事前学習	教科書P98-118を事前に読んでおく。特に特許権者はどのようなことを独占排他的に行えるのか理解する。（2時間）
	授業内容	特許の効力（１）：効力範囲
	事後学習	特に、消尽説を教科書102-114を利用し理解する。（2時間）
4	事前学習	教科書189-191（効力制限）、教科書174-186（間接侵害）を事前に読んでおく。（2時間）
	授業内容	特許の効力（２）：効力の制限、拡張的効力
	事後学習	「グアニジノ安息香酸誘導体III上告審」平成10（受）153を読み、69条1項の理解を深める。（2時間）

5	事前学習	教科書118-122を事前に読んでおく。特許が延長される場合について理解する。（2時間）
	授業内容	特許権の存続期間
	事後学習	「バシーフカプセル事件」（最高裁判所第1小法廷平成21年(行ヒ)第326号 平成23年4月28日）を読み、講義の理解を深める。（2時間）
6	事前学習	教科書127-173を事前に読んでおく。特許侵害はどの様に判断されるのか理解する。（2時間）
	授業内容	特許権侵害（1）：成立要件（技術的範囲の判断、均等論）
	事後学習	「ボールスブライン軸受」 平成6(オ)1083 を読み、均等の5要件の意味を理解する。（2時間）
7	事前学習	教科書279-316を事前に読んでおく。損害賠償にかかる特別規程の内容を理解する。（2時間）
	授業内容	特許権侵害（2）：民事的救済（差止請求権、損害賠償請求権）
	事後学習	講義にて簡単な事例問題を提示するので、各自賠償額を計算する。（2時間）
8	事前学習	教科書193-207を事前に読んでおく。専用と通常の相違点を理解する。（2時間）
	授業内容	権利の変動（1）：専用実施権／許諾による通常実施権
	事後学習	企業間の実施契約を非独占的なものであるため、この契約をする上で必要なる要素を考える。（2時間）
9	事前学習	教科書207-218を事前に読んでおく。各実施権の内容を理解する。特に裁定の場合、実施権種類により判断主体が異なる点、その理由を含めて理解する。（2時間）
	授業内容	権利の変動（2）：法定通常実施権及び裁定通常実施権常実施権
	事後学習	国家間で問題となっている国家による強制実施権について考える。（2時間）
10	事前学習	教科書P218（移転）、参考書②34条の2及び34条の3及びそれらの解説（仮実施権）を事前に読んでおく。（2時間）
	授業内容	権利の変動（3）：権利の移転／仮専用実施権及び仮通常実施権
	事後学習	仮実施権と実施権の相違、特許権成立後の仮実施権の取り扱いについて理解する。（2時間）
11	事前学習	教科書P245-247を事前に読んでおく。審判手続きは、各種審判に共通する部分が多い。まず、本講義でおこなわれる一般的な審判の流れや共通する手続き、特定の審判にのみ用いられる手続きなどを理解する。（2時間）
	授業内容	審判（1）：審判手続
	事後学習	特許庁：「審判制度の概要と運用」を読んで、講義内容をフォローアップする。 https://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/text/pdf/h29_jitsumusya_txt/23.pdf （2時間）
12	事前学習	教科書P245-247を事前に読んでおく。拒絶査定不服審判請求時に補正を行う場合と行わない場合で、審判手続きに差異が生じる点を理解する（2時間）
	授業内容	審判（2）：拒絶査定不服審判／前置審査
	事後学習	特許庁：「審判制度の概要と運用」を読んで、講義内容をフォローアップする。 https://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/text/pdf/h29_jitsumusya_txt/23.pdf （2時間）
13	事前学習	教科書P247-257を事前に読んでおく。類似手続きである訂正審判と訂正請求の相違を理解する。（2時間）
	授業内容	審判（3）：特許無効審判・訂正審判・延長登録無効の審判
	事後学習	特許庁：「審判制度の概要と運用」を読んで、講義内容をフォローアップする。 https://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/text/pdf/h29_jitsumusya_txt/23.pdf （2時間）
14	事前学習	教科書P257-259（異議）及びP260-278（訴訟）を事前に読んでおく。異議制度と無効審判の相違を理解する。（2時間）
	授業内容	訴訟：異議申立制度及び審決取消訴訟・その他の訴訟
	事後学習	審決取消訴訟は、査定系と当事者系があるが、請求主体が異なると考えられているため、その点を参考書①を利用して理解を深める。（2時間）
15	事前学習	教科書P317-324を事前に読んでおく。特に、権利行使に必要である技術評価書はどのようなものであるか理解する。（2時間）
	授業内容	実用新案登録制度 学期末試験を実施し、フィードバックは、試験終了後に30分程度の試験解説を実施する。
	事後学習	特許制度との相違を理解する。また、試験で回答できない部分は、講評を聞き、さらに教科書で確認する。（2時間）

科目名	知的財産法A(特許・実用新案)Ⅱ	担当者	竹内 敏夫	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	特許法・実用新案について、その基礎的な知識から各制度の内容について講義を行なう。具体的には、現役の弁理士で、大手企業の知的財産部勤務の経験から、特許法・実用新案法の知識だけでなく、具体的な事例を踏まえて実践的な知識が身につくように講義を行ない、特許等に関する理解を深める。					
授業目的・到達目標	特許法等の知的財産法は、企業活動においても重要視されており、国内だけでなく国際的な重要性が高まっています。この講義では、特許法・実用新案法の概要・特許取得等の手続の理解を通じて、特許・実用新案制度の基礎理論の修得を目的とする。 また、特許法・実用新案法の基礎理論を修得し、受講生が企業の知的財産部門などで知的財産戦略の構築ができるようになることを目標とする。 対応D P及びC P：法律学科1,3 新聞学科1,5 経営法学科1,3,4 公共政策学科1,3,4					
履修条件	特になし。					
授業方法	必要に応じてレジュメを配布して講義を行い。またスライドなどを利用して知的財産に関する最新の話題や実例を通じて実践的な知識を見につけられるようにする。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業への参加度（授業態度、発言など）と、授業内テストにより評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	必要に応じてレジュメを配布				
参考書	必要に応じて紹介する。					
オフィスアワー	金曜日10時40分～11時30分に設定（事前にアポイントをとること）担当教員研究室					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	特許要件・審査手続・審判手続き・訴訟について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	特許制度及び特許権の概要
	事後学習	特許権の内容を整理しておくこと。（2時間）
2	事前学習	特許権の効力について確認しておくこと（2時間）
	授業内容	特許法（1）特許権の効力
	事後学習	特許権の効力について整理しておくこと（2時間）
3	事前学習	特許権が制限される場合について確認しておくこと（2時間）
	授業内容	特許法（2）特許権の効力の制限
	事後学習	特許権の効力が制限される場合を整理しておくこと。（2時間）
4	事前学習	実施権の種類について確認しておくこと（2時間）
	授業内容	特許法（3）専用実施権・通常実施権
	事後学習	専用実施権・通常実施権の内容について整理しておくこと（2時間）

5	事前学習	職務発明制度について調べておくこと（2時間）
	授業内容	特許法（4）職務発明制度
	事後学習	職務発明制度の内容を整理しておくこと。（2時間）
6	事前学習	特許権の侵害について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	特許法（5）特許権の権利範囲の解釈
	事後学習	特許権の権利範囲はどのように決まるのかについて整理しておくこと。（2時間）
7	事前学習	特許権侵害の際の民事的救済（2時間）
	授業内容	特許法（6）特許権侵害と民事的な救済
	事後学習	民事的な救済の内容について整理すること。（2時間）
8	事前学習	特許権侵害の際の民事及び刑事的な救済について調べておくこと。（2時間）
	授業内容	特許法（7）特許権侵害と民事的な救済と刑事的な救済
	事後学習	民事的な救済と刑事的な救済について整理しておくこと。（2時間）
9	事前学習	これまでのまとめをしておくこと。（2時間）
	授業内容	授業内テスト及びその解説
	事後学習	授業内でテストを行なうので、間違った点などを復習すること。（2時間）
10	事前学習	実用新案法の目的を確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	実用新案法（1）実用新案法の目的と保護対象
	事後学習	実用新案法の目的と保護対象について整理しておくこと。（2時間）
11	事前学習	実用新案の登録手続について確認しておくこと（2時間）
	授業内容	実用新案法（2）登録要件及び手続
	事後学習	登録要件及び手続について整理しておくこと（2時間）
12	事前学習	実用新案権の侵害と救済について確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	実用新案法（3）実用新案権の侵害と救済
	事後学習	実用新案権の侵害と救済について整理しておくこと。（2時間）
13	事前学習	特許と実用新案の相違点について確認しておくこと（2時間）
	授業内容	まとめ1 特許と実用新制度の相違点と特徴
	事後学習	特許と実用新制度の相違点と特徴について整理しておくこと。（2時間）
14	事前学習	特許と実用新案の相違点について確認しておくこと（2時間）
	授業内容	まとめ2 特許と実用新制度の相違点とそれぞれの活用方法
	事後学習	特許と実用新案の相違点とそれぞれの制度の活用方法について整理すること。（2時間）
15	事前学習	これまでの特許及び実用新案制度のまとめをしておくこと（2時間）
	授業内容	授業内テスト及びその解説
	事後学習	授業内でテストを行なうので、間違った点などを復習すること。（2時間）

科目名	知的財産法B(意匠)	担当者	加藤 暁子	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	魅力的な工業デザインは、今日の企業活動における重要な財産である。それらを保護する意匠法を中心に、商標法、及び、両法を補完する関係にある不正競争防止法にも目配りしながら、企業活動におけるこれらの法制度の活用の重要性について理解し、活用手法を案出する姿勢を養う。							
授業目的・到達目標	意匠法及び関連知的財産法の概要を理解し、その活用を考える姿勢を養うことを目的とする。 意匠制度をはじめとする知的財産法の法体系を理解し、官民間わず現実の事業活動においてそれら法制度を利活用した提案ができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP:法律学科1, 3 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3, 4, 5 公共政策学科1, 3, 4							
履修条件	意匠法に加えて商標法、不正競争防止法について理解を深めるために、知的財産法C(商標・不正競争防止) も併せて履修することが望ましい。							
授業方法	講義形式で行う。資料を配布して事例判例や時事を紹介する。履修者は法令集等を持参して法条文を参照すること。数回に一度記入させるリアクション・ペーパーにつき次回講義でコメントする。試験の解説はポータルサイトで行う。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		60%		期末試験による。			
	平常評価		40%		授業への参加態度、講義に対するコメントの内容等で評価する。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	2012		有斐閣		意匠法		茶園成樹	
	2017年				事例から学ぶ意匠制度活用ガイド (以下「ガイド」とする)		特許庁	
	備考		『事例から学ぶ意匠制度活用ガイド』は履修者に配布を予定しています。					
参考書	土肥一史『知的財産法入門 第15版』(中央経済社、2015年)、『別冊ジュリスト188号 商標・意匠・不正競争判例百選』(有斐閣、2007年)、各種HP他、必要に応じて講義中に指示する。							
オフィスアワー	水曜 15時～16時 研究室にて。なるべく事前にメール(以下のアドレス宛)でアポイントを採ることを勧める。メールでも質問等を受け付ける。kato.akiko@nihon-u.ac.jp							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書(茶園)の1章1節「知的財産法と意匠法」、及び、参考書(土肥著作、序論)に目を通す。(2時間)
	授業内容	知的財産法の体系 知的財産とは、また知的財産権とはどのようなものか、事例を挙げて、また、他の法域との関連を含めて説明した上で、本講義で扱う対象について、概要と進め方を説明する。
	事後学習	配布資料及び教科書、参考書に基づいて講義内容を復習する。(以下毎回同じ) 講義で紹介した特許庁HPの内容及び掲載動画を自身で閲覧し、疑問点について自身で調べる。(2時間)
2	事前学習	教科書(茶園)1章2節「意匠法の目的」、3節「意匠法の概要」、4節「他法による意匠の保護」、および、参考書(土肥著作3章1節)に目を通す。(2時間)
	授業内容	知的財産法における意匠法の位置づけ 前回説明した知的財産法の体系及び他の法領域との関係を確認しながら、その中における意匠法の特徴を考察する。「知財ミックス」の概念とその重要性について解説する。
	事後学習	講義で紹介した特許庁HPの内容及び掲載動画を自身で閲覧する。「知財ミックス」の事例について調べる。(2時間)
3	事前学習	前回の事前学習対象(教科書(茶園)の1章2～5節、及び、参考書(土肥著作3章1節))に再度目を通す。(1時間)
	授業内容	意匠法の沿革、意義 日本の意匠制度がどのようなニーズのもとに誕生し、産業の発達とともに制度化が進んだのかについて講義する。意匠法が抱える今日的な問題点についても、概要を説明し、以降の各論への導入とする。
	事後学習	特許庁HP掲載書籍「意匠制度120年の歩み」に目を通し、講義内容について理解を深める。興味をひかれた意匠登録事例について調べてみる。(3時間)

4	事前学習	教科書(茶園) 2 章「意匠の概念」、及び、参考書(土肥著作 3 章 2 節)に目を通す。(2時間)
	授業内容	意匠法上の意匠 意匠法上で保護される意匠(意匠法上の意匠)とはどのようなものか(物品性、視覚性等)について、事例を踏まえて講義する。現在、保護のニーズが指摘されて法改正の対象となっている、技術革新により生まれた意匠についても解説する。
	事後学習	講義内容について特許庁H P (特に意匠審査基準)を参照して、現状の制度で保護されるための要件について理解を深める。また、新たな保護対象とすべきニーズは無いか、考えてみる。(2時間)
5	事前学習	教科書(茶園) 4 章「意匠登録要件」、及び、参考書(土肥著作 3 章 3 節 1 ～ 2)に目を通す。(2時間)
	授業内容	意匠の登録要件 前回学んだ意匠法上の意匠であることに加えて、意匠権を登録する上で満たすべき登録要件(工業場利用可能性、新規性等)について、事例を踏まえて講義する。
	事後学習	講義内容について特許庁H P (特に意匠審査基準)を参照して、現状の制度で保護されるための要件について理解を深める。また、新たな保護対象とすべきニーズは無いか、考えてみる。(2時間)
6	事前学習	教科書(茶園) 6 章「意匠登録出願手続き」、1 章 5 節「意匠に関する国際条約」、及び、参考書(土肥著作 3 章 3 節 3、7 章 5 節)に目を通す。(2時間)
	授業内容	意匠権に係る手続き(含む 国際条約) 前回までで学んだ要件を満たす意匠について、特許庁に登録出願をする際の手続きについて、特許権等、他の産業財産権とも比較しつつ解説する。複数の国における意匠権の保護を受けるためのハーグ協定に基づく国際登録出願も説明する。
	事後学習	特許庁H P 掲載の「出願の手続」第四章「意匠登録出願の手続」の概要を把握する。国際登録出願についても、特許庁の関連サイトを閲覧しておく。(2時間)
7	事前学習	教科書(茶園) 7 章 3 節「組物の意匠制度」、4 節「秘密意匠制度」、及び、参考書(土肥著作 3 章 3 節 7、8)に目を通す。(2時間)
	授業内容	特別な意匠登録制度(1) 秘密意匠、組物の意匠等 ユーザーのニーズにきめ細かに応える制度的な仕組みのうち、秘密意匠、組み物の意匠について、事例を含めて講義する。
	事後学習	特許庁H P 掲載の上記意匠制度に関する記事を読む。秘密意匠、組み物の意匠を活用した事例について、『ガイド』を読む。(2時間)
8	事前学習	教科書(茶園) 7 章 1 節「部分意匠制度」、2 節「関連意匠制度」、及び、参考書(土肥著作 3 章 2 節 3、3 節 9)に目を通す。(2時間)
	授業内容	特別な意匠登録制度(2) 部分意匠、関連意匠等 ユーザーのニーズにきめ細かに応える制度的な仕組みのうち、部分意匠、関連意匠について、事例を含めて講義する。
	事後学習	特許庁H P 掲載の上記意匠制度に関する記事を読む。部分意匠、関連意匠を活用した事例について、『ガイド』を読む。(2時間)
9	事前学習	教科書(茶園) 9 章「意匠権」に目を通し、意匠権の排他的効力のあらましについて理解する。(2時間)
	授業内容	意匠権 前回講義した手続きを経て登録される意匠権とはどのような排他的効力を有するのか、効力の範囲について講義する。
	事後学習	配布資料及び教科書に基づいて講義内容を復習し、意匠権の時間的、空間的な効力について整理してみる。(2時間)
10	事前学習	教科書(茶園) 1 0 章 4 節「侵害主張に対する防御手段」、及び、参考書(土肥著作 3 章 2 節 8)に目を通す。(2時間)
	授業内容	意匠権の制限 前回講義した意匠権の効力を想起しながら、その制限や権利の消尽、他者による無効の抗弁等、排他的効力が制限される場面と、なぜそうした制限が設けられているのかについて講義する。
	事後学習	配布資料及び教科書、参考書に基づいて講義内容を復習し、意匠権の効力が制限される場面、および、その必要性について自身で説明してみる。(2時間)
11	事前学習	教科書(茶園) 5 章「意匠の類似」、1 0 章 1 節「直接侵害」、2 節「間接侵害」、3 節「他の権利との利用・抵触関係」に目を通す。(2時間)
	授業内容	意匠権の類似の判断と侵害 意匠権を侵害したか否かを決する意匠の類似は、どのような点において判断されているのか、そのデザインが用いられているところの物品と、デザインそのものについて、事例を踏まえて検討する。意匠権侵害の類型にも触れる。
	事後学習	『判例百選』に掲載されている類似が判断された事案に関する記事を読み、より具体的に調べてみる。(2時間)
12	事前学習	教科書(茶園) 1 0 章 5 節「侵害に対する救済」に目を通す。(2時間)
	授業内容	意匠権の侵害に対する救済(1) 民事 権利侵害に対してとりえる民事的な措置(差止請求、損害賠償請求等)について講義する。
	事後学習	講義で紹介された事例について、より具体的に調べる。知的財産高等裁判所H P を閲覧して、裁判所の機能や知財関連の民事事件の傾向を把握する。(2時間)
13	事前学習	教科書(茶園) 1 0 章 5 節「侵害に対する救済」に再度目を通す。(1時間)
	授業内容	意匠権の侵害に対する救済(2) 行政：水際措置、刑事 意匠権を含む知的財産の侵害物品について規制している税関による水際措置と刑事手続きについて、権利者も利用可能な水際の輸出入差止申立て等も含めて解説する。
	事後学習	講義で紹介された税関、警察庁のH P を自身でも閲覧して、国内や水際における知的財産侵害物品の規制の仕組みと、近時の傾向を理解する。輸出入差止を申し立てている企業の具体的な事例について調べてみる。(3時間)
14	事前学習	教科書(茶園) 1 1 章「意匠権の利用」に目を通す。(2時間)
	授業内容	意匠権の活用 意匠権が財産権として移転(譲渡)や他者に対するライセンス(実施権)の設定、質権等の設定が可能であることについて講義する。各企業におけるそれら活用の事例も可能な限り紹介する。
	事後学習	配布資料及び『ガイド』、参考書に基づいて講義内容を復習する。『特許行政年次報告書』における意匠権の変動(譲渡、ライセンス等)に関する記事及び統計を確認する。(2時間)

15	事前学習	前回までの配布資料を見返す。(2時間)
	授業内容	講義のまとめ
	事後学習	配布資料及び教科書、参考書に基づいて講義内容を復習して定期試験への準備をする。(2時間)

科目名	知的財産法C(商標・不正競争)	担当者	加藤 暁子	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	自社ブランドを体現する商標の保護に係る商標法や、競業者による不正な競争行為を封じることのできる不正競争防止法は、今日の企業活動における重要な法領域であり、とりわけ、ブランドの形成と維持においてこれら標識法の果たす役割は大きい。これらの法の概要と、企業活動におけるこれらの法制度の活用の重要性について理解し、活用手法を案出する姿勢を養う。				
授業目的・到達目標	商標法、不正競争防止法及び関連知的財産法の概要を理解し、その活用を考える姿勢を養うことを目的とする。 知的財産法の体系を理解し、官民問わず現実の事業活動においてそれら法制度を利活用した提案ができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP:法律学科1, 3 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3, 4, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	商標法、不正競争防止法に加えて意匠法についても理解を深めるために、知的財産法B(意匠法) も併せて履修することが望ましい。				
授業方法	講義形式で行う。資料を配布して事例判例や時事を紹介する。履修者は法令集等を持参して法条文を参照すること。数回に一度記入させるリアクション・ペーパーにつき次回講義でコメントする。試験の解説はポータルサイトで行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		60%	期末試験による。	
	平常評価		40%	授業への参加態度、講義に対するコメントの内容等で評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2014年	有斐閣	商標法		茶園成樹
	2015年	有斐閣	不正競争防止法		茶園成樹
	備考				
参考書	土肥一史『知的財産法入門第15版』(2015年、中央経済社)、経済産業省知的財産政策室『逐条解説不正競争防止法各年版』、『別冊ジュリスト188号商標・意匠・不正競争判例百選』(有斐閣、2007年)等適宜指示する。				
オフィスアワー	水曜 15時～16時 研究室にて。なるべく事前にメール(以下のアドレス宛)でアポイントを採ることを勧める。 メールでも質問等を受け付ける。kato.akiko@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書(商標法1章1節「知的財産法と商標法」、不競法1章1節「不正競争防止法とは」)及び参考書(土肥著作、序論)に目を通す。(2時間)
	授業内容	知的財産法の体系 知的財産とは、また知的財産権とはどのようなものか、事例を挙げて、また、他の法域との関連を含めて説明したうえで、2つの法律を扱う本講義の概要と進め方を説明する。
	事後学習	配布資料及び教科書、参考書に基づいて講義内容を復習する。(以下毎回同じ) 講義で紹介した特許庁HPの内容、及び、商標制度を紹介する動画を自身で閲覧し、疑問点を自身で調べてみる。(2時間)
2	事前学習	教科書(不競法1章2節「不正競争防止法と知的財産法と知的財産法・独占禁止法等との関係」)に目を通す。(2時間)
	授業内容	知的財産法における商標法、不正競争防止法の位置づけ 前回説明した知的財産法の体系及び他の法領域との関係を確認しながら、その中で標識法の中心をなす商標法及び不正競争防止法の位置づけを考察する。「知財ミックス」の概念とその重要性について解説する。
	事後学習	講義で紹介した特許庁HPの内容及び掲載動画を自身で閲覧する。「知財ミックス」の事例について調べる。(2時間)
3	事前学習	教科書(商標法1章3節「商標法の目的」、4節「商標法の概要」)、及び、参考書(土肥著作2章1節)に目を通す。(2時間)
	授業内容	商標法の沿革と意義 現代的な商標制度の発祥と我が国における導入、改正の経緯について、その背景にある産業上のニーズも想起しながら講義する。
	事後学習	講義で紹介した特許庁HP掲載の資料を閲覧して、興味をひかれた歴史的事実や事例について調べてみる。(2時間)

4	事前学習	教科書(商標法1章2節「商標の機能」、2章「商標と商標の使用」)に目を通す。(2時間)
	授業内容	商標の機能、商標法上の商標(商標法上の商品・役務、商標の使用概念) 現代的な商標が有する基本的な機能と、それが必要となるのはどのような社会状況かという、その前提条件、さらに、商標法で保護される商標(商標法上の商標)とはどのようなものかについて講義する。
	事後学習	参考書(土肥著作2章1～5節)に目を通して、一般的にいわれる商標と商標法上の商標とはどのように異なるのか、自身で説明してみる。非伝統的な商標の保護に関する特許庁HP掲載の動画を視聴する。J-Platpatにおいて様々な商標について検索してみる。(2時間)
5	事前学習	教科書(商標法3章「商標の登録要件」)に目を通す。(2時間)
	授業内容	商標の登録要件 商標登録に当たっては、商標法上の商標であるだけでなく、商標法上の数々の登録要件を満たすことも求められる。それらの要件について、商標登録の可否が争われたパロディ商標の事例等も踏まえながら講義する。
	事後学習	参考書(土肥著作2章6節)に目を通す。 講義で紹介した特許庁HP掲載動画、および、商標審査基準を自身で閲覧して、どのような商標が登録可能なのか、具体例を挙げて説明してみる。講義で挙げられた判例についてさらに調べる。(2時間)
6	事前学習	教科書(商標法5章「商標登録出願手続」、14章「マドリッド協定議定書に基づく特例」)に目を通す。(2時間)
	授業内容	商標権に係る手続(含む マドリッド協定及びマドリッド協定附属議定書) 前回までに学んだ要件を満たす商標について、特許庁に登録出願をする際の手続きを、他の産業財産権とも比較しながら解説する。グローバルな事業展開に必須である、マドリッド協定議定書に基づく商標の国際登録手続きも学ぶ。
	事後学習	特許庁HP掲載「出願の手続」の5章「商標登録出願の手続」、及び、「国際出願」の「マドリッド協定議定書に…」に目を通す。仮に自身がある標章を用いて事業を展開するとして、どのような標章についてどのような措置を講ずるか、説明してみる。(2時間)
7	事前学習	教科書(商標法8章「商標権」)に目を通す。(2時間)
	授業内容	商標権 前回講義した手続きを経て登録できる商標権とは権利者にどのような排他的効力を授けるのか、その効力の範囲について、意匠権など他の知的財産権とも比較しながら講義する。
	事後学習	参考書(土肥著作2章10節)に目を通し、商標権の時間的、空間的な効力について整理しておく。(2時間)
8	事前学習	教科書(商標法10章「侵害主張に対する抗弁」、可能であれば13章4節「地域団体商標」も)に目を通す。(2時間)
	授業内容	商標権の制限(実施権の設定を含む)と活用 前回講義した商標権の効力を念頭に置きながら、その制限や権利の消尽、無効の抗弁といった排他的効力が制限される場面について解説し、それら制限の意義を検討する。さらに、譲渡や実施権(ライセンス)、質権の設定を通じた商標権の財産権としての活用、地域経済の活性化を目的とする地域団体商標制度について講義する。
	事後学習	参考書(土肥著作2章10節、可能であれば7節も)に目を通す。 特許庁HP掲載の『特許行政年次報告書』で商標権の変動に関する統計・解説を読む。 特許庁HP「地域団体商標について」に目を通し、特許庁HP掲載の地域団体商標制度を紹介する動画を視聴する。(2時間)
9	事前学習	教科書(不競法1章「不正競争防止法の概要」)に目を通す。(2時間)
	授業内容	不正競争防止法の目的、沿革 明治以来の不正競争防止法の制定に至る経緯をもとに、知的財産法が社会の或いは産業上のニーズに応じて制定されてきたことを概観する。さらに、日本の不正競争防止法の特徴について、諸外国との比較や、他の法領域との関係の整理を通じて講義する。
	事後学習	参考書(土肥著作1章1～2節)に目を通す。 経済産業省HPの「政策について」「不正競争防止法」の掲載内容を把握しておく。(2時間)
10	事前学習	教科書(不競法2章1節「総論」、2節「周知な商品等表示主体の混同行為」、3節「著名な商品等表示の冒用行為」、4節「商品形態の模倣行為」)に目を通す。(2時間)
	授業内容	不正競争行為の類型(1) 商品・営業主体混同行為、著名商品等表示の無断使用行為(冒用行為)、商品形態の隷属的模倣行為 不正競争防止法が規制する不正競争行為の中でも、特に標識法にあたる3類型について事例判例を踏まえて講義す
	事後学習	参考書(土肥著作1章3節1～3)に目を通す。 経済産業省HPの「政策について」「不正競争防止法」掲載の解説資料において、3類型に関する情報をみる。講義で挙げられた判例についてさらに調べてみる。(2時間)
11	事前学習	教科書(不競法2章5節「営業秘密にかかる不正行為」)に目を通す。(2時間)
	授業内容	不正競争行為の類型(2) 営業秘密に係る不正競争行為 技術情報から営業情報までを含む営業秘密、さらに有用な情報(限定提供データ)に関する不正競争行為は、度々の法改正を通じて厳しく規制されている。それら規制の背景と留意事項を確認し、行為類型別に規制の在り方を検討する。
	事後学習	参考書(土肥著作1章3節4)に目を通す。 経済産業省HPの「政策について」「不正競争防止法」の営業秘密、限定提供データに関する記事を読む。仮に自分が所属する営業主体において、営業秘密や有用な情報の保護に関する措置を採る立場に置かれた場合にどうするか、説明してみる。(2時間)
12	事前学習	教科書(不競法2章6節「技術的制限手段無効化装置等の提供行為」、7節「ドメイン名に係る不正行為」、8節「品質等誤認行為」、9節「信用毀損行為」)に目を通す。(2時間)
	授業内容	不正競争行為の類型(3) 技術的制限手段無効化装置等の提供行為、ドメイン名にかかる不正行為、品質等誤認惹起行為、信用毀損行為 古典的といえるものから技術革新を通じて規制対象に加わったものまで、不正競争行為の多様な類型とその規制の意義について、事例判例を踏まえて講義する。
	事後学習	参考書(土肥著作1章3節5～8)に目を通す。可能であれば教科書(不競法4章3～5節)に目を通す。 経済産業省HPの「政策について」「不正競争防止法」の上記類型に関する情報をみる。講義で挙げられた判例についてさらに調べてみる。(2時間)

13	事前学習	教科書(不競法3章「民事上の措置」のうち、司法手続きの利用に関する1～7節)に目を通す。(2時間)
	授業内容	不正競争防止法の適用除外、商標法・不正競争防止法の違反にかかる救済(1) 民事不正競争行為に対する適用除外の類型を整理した上で、これまで学んだ2つの法律規定に反する行為に直面した権利者がどのような措置を講ずることが可能か、権利者が権利行使をしやすいよう配慮されているか、まず民事的措置から解説する。
	事後学習	参考書(土肥著作1章4節5～8)に目を通す。 知的財産高等裁判所のHPを閲覧して、裁判所の機能や知的財産に関する民事事件の傾向を把握する。講義で紹介された事例についてさらに調べる。(2時間)
14	事前学習	教科書(不競法3章8節「関税法による水際措置」、4章「刑事上の措置」の1節「総論」、2節「不正競争行為に対する刑事罰」、6節「営業秘密侵害罪に係る刑事訴訟手続きの特例」)に目を通す。(2時間)
	授業内容	商標法・不正競争防止法の違反にかかる救済(2) 行政、刑事知的財産侵害物品を規制する、税関による水際措置、及び、刑事手続きの概要と利用の現状について、権利者が利用可能な水際での輸出入差止申立てを含めて解説する。
	事後学習	参考書(土肥著作1章8節)に目を通す。税関、警察庁HPの関連ページを閲覧する。可能であれば、教科書4章の3節「外国の国旗等の商業上の使用」、4節「国際機関の標章の商業上の使用」、5節「外国公務員等に対する不正の利益の供与等」、参考書(1章5～6節)にも目を通しておく。(2時間)
15	事前学習	教科書及びこれまでの資料類を見返す。(2時間)
	授業内容	講義のまとめ
	事後学習	配付資料及び教科書、参考書に基づいて講義内容を復習して、定期試験への準備をする。(2時間)

科目名	知的財産法D(著作権) I	担当者	藤田 晶子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	知的財産法の中でも我が国の著作権法は特許・実用新案等の他の産業財産権と異なり，出願・審査・登録という権利化のプロセスがなく，著作物が創作の時から保護の対象となるほか，実に種類豊富，多彩な創作活動の成果物が「著作物」として扱われている。著作権法の知識は，企業法務においても，個人の社会生活においても，身近で役立つ法律知識である。弁護士としての１８年の経験や実際の訴訟案件等の紹介も交えて，実践的でわかりやすい講義を目指す。				
授業目的・到達目標	前期は著作権侵害が問題となった様々な裁判例を題材にして，著作権法の条文の構造と基礎知識の習得を目的とする。判例を通して著作権侵害事例で何が法的論点であるのか，受講生が問題の所在に気付き，該当する法文や判例の規範を示すことができることを目標とする。後期は事例分析能力を養う演習教材を用いた学習で著作権法のマスターを目指すため，前期後期のセット履修が望ましい。著作権法は面白い，と実感してほしい。関連DP及びCP：法律学科１，３ 新聞学科１，５ 経営法学科１，３，４				
履修条件	著作権法は民法・民事訴訟法の特別法としての性格を有する。基本の民法・民事訴訟法の基礎知識が著作権法の理解のベースとなることに留意すること。				
授業方法	パワーポイントを使用して講義を進め，毎回復習資料をアップする。期間中に小テストを１回行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムに配信する。基本的に講義形式であるが，受講生も積極的に手を挙げて発言してほしい。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	著作権法の基礎知識，条文・判例等の知識が習得されているかを判定する。講義中に指摘した基礎的事項についての習熟度を問う。	
	平常評価		20%	授業への参加度・受講態度及び小テストの評価を加味する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016年	有斐閣		著作権法判例百選 第5版	小泉直樹，他3名編
	2016年	有斐閣		標準 著作権法 第3版	高林龍
	備考	上記のほか、各回復習レジュメをアップする。			
参考書	土肥一史「知的財産法入門【第15版】」（中央経済社 2015年），中山信弘「著作権法 第2版」（有斐閣 2014年）				
オフィスアワー	火曜日16:30pm～17:30pm 事前にメールで予約を取ること。 e-mail：akiko_fujita@lapinrose.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を購入して全体の目次に目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション，著作権法制の概要
	事後学習	教科書等で知的財産法の全体像と著作権法制の概要を理解する。（2時間）
2	事前学習	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	著作物性（1）書体，キャラクター 「著作物」とは何か。裁判例は最判平12.9.7（書体），最判平9.7.17（キャラクター）等を検討。
	事後学習	教科書等で，著作権法上の客体としての「著作物」とは何か，様々なバリエーションや論点があることを理解する。（2時間）
3	事前学習	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	著作物（2）応用美術，編集著作物，データベースの著作物 「応用美術」とは何か，「編集著作物」，「データベースの著作物」とは何か。裁判例は仙台高判平14.7.9（ファービー人形），東京地判平12.3.23（色見本帳），東京地判平12.3.17（データベース）等を検討。
	事後学習	教科書等で，「応用美術」や「編集著作物」，「データベースの著作物」の特徴・論点を理解する。（2時間）
4	事前学習	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	著作物（3）「二次的著作物」，「共同著作物」 「二次的著作物」とは何か，「共同著作物」とは何か。裁判例は知高判平18.9.26（考古学研究事典），最判平13.10.25（キャンディ・キャンディ）等を検討。
	事後学習	教科書等で，「二次的著作物」，「共同著作物」の意義，違い，条文構造等を理解する。（2時間）

5	事前学習	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	「著作者」「著作者」とは何か。映画の著作物の著作者。裁判例は最判平5. 3. 30（智恵子抄），東京地判平10. 10. 29（雑誌のインタビュー記事）等を検討。
	事後学習	教科書等で，様々な事件の著作権の帰属主体に関する認定や，映画の著作物の場合の特殊性を理解する。（2時間）
6	事前学習	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	「職務著作」「職務著作」とは何か，裁判例は最判平15. 4. 11（RGBアドベンチャー），知高判平18. 10. 19（計装士学会）等を検討。
	事後学習	教科書等で，「職務著作」と条文，具体的論点についての解釈を理解する。（2時間）
7	事前学習	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	著作権・「複製権」「複製」とは何か，翻案との違い。裁判例は東京高判平14. 2. 18（雪月花），最判昭53. 9. 7（ワン・レイニー・ナイト・イン・トーキョー）等を検討。
	事後学習	教科書等で，「複製」とは何か，複製の要件，翻案との違い等を理解する。（2時間）
8	事前学習	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	「翻案権」・二次的著作物の原著作者の権利 「翻案」とは何か。裁判例は最判平13. 6. 28（江差追分），東京高判平14. 9. 6（記念樹）等を検討。
	事後学習	教科書等で，「翻案」とは何か，判例の規範や二次的著作物の原著作者との関係を理解する。（2時間）
9	事前学習	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	「公衆送信権」・「上演権」・「頒布権」等の支分権 複製権，翻案権以外の権利の内容。裁判例は東京高判平17. 3. 3（2ちゃんねる），最判平14. 4. 25（中古ソフト）等を検討。
	事後学習	教科書等で，複製権・翻案権以外の「支分権の束」と具体的判例を理解する。（2時間）
10	事前学習	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	著作権の「制限」 私的複製，引用等の著作権の「制限」。裁判例は東京高判昭60. 10. 17（藤田嗣治），東京地判平9. 9. 5（ダリ）等を検討
	事後学習	教科書等で，法律上設けられている著作権の「制限」規定，論点，判例等を理解する。（2時間）
11	事前学習	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	著作権のライセンス契約の解釈，譲渡契約の解釈，登録と対抗要件，電子書籍関連。裁判例は知高判平20. 3. 27（Von Dutch）等を検討。
	事後学習	教科書等で，著作権のライセンス契約の実務，登録と対抗要件，出版権設定行為等を理解する。（2時間）
12	事前学習	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	「著作者人格権」，「著作隣接権」 著作者人格権の内容・条文。裁判例は東京地判平12. 2. 29（中田英寿），大阪地判平17. 1. 17（セキスイツーユーホーム）等を検討。「著作隣接権」とは何か。著作権と著作隣接権の関係。
	事後学習	教科書等で，著作者人格権（公表権・氏名表示権・同一性保持権）の内容・条文，論点を理解する。著作隣接権とは何かを理解する。（2時間）
13	事前学習	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	保護期間，侵害と救済（1）差止請求，「間接侵害」 各種知的財産権の保護期間，著作権の保護期間，著作権侵害に基づく差止請求。裁判例は東京高判平成17. 3. 31（P2Pファイル交換），最判平23. 1. 18（まねきTV）等を検討。
	事後学習	教科書等で，保護期間，著作権侵害に基づく差止請求の構成や判例法理を理解する。（2時間）
14	事前学習	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	侵害と救済（2）損害賠償請求，みなし侵害等 著作権侵害に基づく損害賠償請求，損害額の算定方法。裁判例は最判平13. 3. 2（ビデオメイツ），東京地判平13. 5. 16（東京リーガルマインド）等を検討。
	事後学習	教科書等で，著作権侵害に基づく損害賠償請求の算定方法，論点・解釈等を理解する。（2時間）
15	事前学習	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事罰，国際関係 著作権法の罰則規定の理解，国際裁判管轄，裁判例は実際の刑事事件を紹介。
	事後学習	教科書等で，著作権法の罰則規定の理解，国際関係の論点を理解する。（2時間）

科目名	知的財産法D(著作権) I	担当者	金井 重彦	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	著作権の基礎となる部分を集中的に講義する。			
授業目的・到達目標	著作権法を判例を通して具体的に学ぶことを目的とする。 受講生に報告を科すことによって理解を深め、表現力を身に着けることができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1，3			
履修条件	特になし			
授業方法	・毎回レポーターを指名、発表させ、全員で討論指名した後講義する。 ・レポーターはA4縦用紙2枚程度の発表用レジュメを作成、配布する。 ・授業内試験の解説を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	課題提出、試験等60% 受講生の議論への参加態度30%、授業参加度10%
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年	有斐閣	著作権法判例百選第5版	小泉直樹外編
	2007年 2018年	有斐閣 有斐閣	著作権法第2版 著作権法入門	中山信弘 島並＝上野ほか
	備考			
参考書	小倉＝金井共編 著作権法コンメンタール（レクシスネクシス）			
オフィスアワー	水曜7限の時間			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	判例百選2乃至4を読んでくる 教科書の該当箇所を読んでくる（2時間）
	授業内容	創作保護法としての著作権法
	事後学習	授業であったことを復習する（2時間）
2	事前学習	知的財産権のうちで、著作権法による著作物の保護と、特許法による発明の保護の違いを調べてくる（2時間）
	授業内容	著作物と発明、著作権と特許権
	事後学習	授業であったことを復習する（2時間）
3	事前学習	教科書及び福井健策著「著作権とは何か」集英社新書を読んでくる（2時間）
	授業内容	著作物とは何か
	事後学習	授業であったことを復習する（2時間）
4	事前学習	判例百選 5， 7， 8 番を読んでくる（2時間）
	授業内容	著作物の例示①
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んで理解を深める（2時間）

5	事前学習	判例百選9, 10, 12番を読んてくる（2時間）
	授業内容	著作物の例示②
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んて理解を深める（2時間）
6	事前学習	判例百選14乃至20番を読んてくる（2時間）
	授業内容	編集著作物とデータベース
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んて知識を整理する（2時間）
7	事前学習	判例百選21乃至25を読んてくる（2時間）
	授業内容	著作権の主体は誰か
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んて知識を整理する（2時間）
8	事前学習	判例百選28ないし0を読んてくる（2時間）
	授業内容	創作者
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んて知識を整理する（2時間）
9	事前学習	共同著作について善解指示した判例を読んてくる（2時間）
	授業内容	共同著作
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んて知識を整理する（2時間）
10	事前学習	2次著作について善解の授業で指示した判例と教科書の該当箇所を読んてくる（2時間）
	授業内容	2次著作
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書、参考書の該当部分を読んて知識を整理する（2時間）
11	事前学習	判例百選37乃至40を読んてくる（2時間）
	授業内容	映画の著作物と映画の著作物の著作権者
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んて知識を整理する（2時間）
12	事前学習	著作財産権の構造について教科書参考書を読んてくる（2時間）
	授業内容	著作財産権の構造
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を再度読んて知識を整理する（2時間）
13	事前学習	教科書の該当箇所を読んてくる（2時間）
	授業内容	複製権
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分、参考書、判例百選の複製権に関する判例を読んて知識を整理する（2時間）
14	事前学習	判例百選26, 27番を読んてくる（2時間）
	授業内容	変形利用権
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んて知識を整理する（2時間）
15	事前学習	教科書の該当箇所を読んてくる（2時間）
	授業内容	著作権の制限一般
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んて知識を整理する（2時間）

科目名	知的財産法D(著作権)Ⅱ	担当者	藤田 晶子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	知的財産法の中でも我が国の著作権法は、特許・実用新案等の他の産業財産権と異なり、出願・審査・登録という権利化のプロセスがなく、著作物が創作の時から保護の対象となるほか、実に種類豊富、多彩な創作活動の成果物が「著作物」として扱われている。著作権法の知識は、企業法務においても、個人の社会生活においても、身近で役立つ法律知識である。18年の弁護士としての経験や実際の訴訟案件等の紹介も交えて実践的でわかりやすい講義を目指す。				
授業目的・到達目標	後期は、前期に習得した著作権法の基礎知識を土台に、演習教材を用いた学習でより実践的な事例分析力の習得を目的とする。著作権侵害が争われる事例において、受講生が問題提起、規範定立、当てはめにより法的問題の解決能力を持つことを目標とする。前期後期の1年を通じて実践的な著作権法のマスターを目指すため、前期後期のセット履修が望ましい。著作権法は面白い、と実感してほしい。関連DP及びCP：法律学科1，3 新聞学科1，5 経営法学科1，3，4				
履修条件	著作権法は民法・民事訴訟法の特別法としての性格を有する。基本の民法・民事訴訟法の基礎知識が著作権法の理解のベースとなることに留意すること。				
授業方法	パワーポイントを使用して講義を進め、毎回復習資料をアップする。期間中に小テストを1回行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムに配信する。基本的に講義形式であるが、受講生も積極的に手を挙げて発言してほしい。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	著作権法の基礎知識、条文・判例等の知識が習得されているかを判定する。講義中に指摘した基礎的事項についての習熟度を問う。	
	平常評価		20%	授業への参加度・受講態度及び小テストの評価を加味する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016年	有斐閣		著作権法判例百選 第5版	小泉直樹，他3名編
	2016年	有斐閣		標準 著作権法 第3版	高林龍
	備考	上記のほか、各回復習レジュメをアップする。			
参考書	中山信弘「著作権法 第2版」（有斐閣 2014年）				
オフィスアワー	火曜日16:30pm～17:30pm 事前にメールで予約を取る。 e-mail：akiko_fujita@lapinrose.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の全体の目次に目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	（後半）オリエンテーション、著作権法制の概要 著作権法制全体の概要、条文構造等。
	事後学習	教科書等で知的財産法の全体像と著作権法制の概要を理解する。（2時間）
2	事前学習	教科書、前期レジュメの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	著作物性（1）書体、キャラクター 「著作物」に関する知識の確認と演習。
	事後学習	教科書等で、著作権法上の客体としての「著作物」に関する論点、演習問題の構成・分析を理解する。（2時間）
3	事前学習	教科書、前期レジュメの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	著作物（2）応用美術、編集著作物、データベースの著作物に関する知識の確認及び演習。
	事後学習	教科書等で、「応用美術」や「編集著作物」、「データベースの著作物」の特徴・論点、演習問題の構成・分析を理解する。（2時間）
4	事前学習	教科書、前期レジュメの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	著作物（3）「二次的著作物」、「共同著作物」に関する知識の確認及び演習。
	事後学習	教科書等で、二次的著作物、共同著作物に関する論点、演習問題の構成・分析を理解する。（2時間）

5	事前学習	教科書，前期レジュメの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	「著作者」に関する知識の確認及び演習。
	事後学習	教科書等で，権利の帰属主体に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。（2時間）
6	事前学習	教科書，前期レジュメの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	「職務著作」に関する知識の確認及び演習。
	事後学習	教科書等で，「職務著作」に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。（2時間）
7	事前学習	教科書，前期レジュメの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	著作権・「複製権」に関する知識の確認及び演習
	事後学習	教科書等で，「複製」に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。（2時間）
8	事前学習	教科書，前期レジュメの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	「翻案権」・二次的著作物の原著作者の権利に関する知識の確認及び演習
	事後学習	教科書等で，「翻案」，二次的著作物の原著作者との関係に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。（2時間）
9	事前学習	教科書，前期レジュメの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	公衆送信権・上演権・頒布権・出版権等の支分権に関する知識の確認及び演習
	事後学習	教科書等で，複製権・翻案権以外の支分権に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。（2時間）
10	事前学習	教科書，前期レジュメの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	著作権の「制限」に関する知識の確認及び演習
	事後学習	教科書等で，法律上設けられている著作権の「制限」に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。（2時間）
11	事前学習	教科書，前期レジュメの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	著作権のライセンス契約の解釈，譲渡契約の解釈，登録と対抗要件に関する知識の確認及び演習
	事後学習	教科書等で，著作権のライセンス契約の実務，登録と対抗要件に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。（2時間）
12	事前学習	教科書，前期レジュメの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	「著作者人格権」，「著作隣接権」に関する知識の確認及び演習
	事後学習	教科書等で，著作者人格権（公表権・氏名表示権・同一性保持権）に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。（2時間）
13	事前学習	教科書，前期レジュメの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	保護期間，侵害と救済（1）差止請求，間接侵害に関する知識の確認及び演習
	事後学習	教科書等で，保護期間，著作権侵害に基づく差止請求に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。（2時間）
14	事前学習	教科書，前期レジュメの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	侵害と救済（2）損害賠償請求，みなし侵害等に関する知識の確認及び演習
	事後学習	教科書等で，著作権侵害に基づく損害賠償請求に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。（2時間）
15	事前学習	教科書，前期レジュメの該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	刑事罰，国際関係に関する知識の確認及び演習
	事後学習	教科書等で，著作権法の罰則規定の理解，国際関係に関する論点，演習問題の構成・分析を理解する。（2時間）

科目名	知的財産法D(著作権)Ⅱ	担当者	金井 重彦	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	D1に引き続いて、著作権法の各論部分を中心に講義する。				
授業目的・到達目標	著作権法の概要を習得することを目的とする。できる限り事例に即して、具体的に著作権法を理解し、説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1，3				
履修条件	特になし。知的財産法D1を履修していることが望ましいが、条件ではない。総論部分は講義で再度、簡単に触れる。				
授業方法	・毎回レポーターを定め、発表させ、全員で討論する。 ・レポーターはA 4 縦用紙2枚程度の発表用レジュメを作成、配布する。 ・授業内試験の解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	課題提出、授業内試験等60% 受講生の議論への参加態度30%、授業参加度10%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016年	有斐閣		著作権法判例百選	小泉直樹外
	2007年 2018年	有斐閣 有斐閣		著作権法 著作権法入門	中山信弘 島並＝上野ほか
	備考				
参 考 書	小倉＝金井編 著作権法コンメンタール（レクシスネクシス） そのほか授業内において適宜参考文献を指示する				
オフィス アワー	水曜7限の時間				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	判例百選71乃至74番を読んでくる。D1を履修しないで本講座を履修するものはこのほかに福井健策著「著作権とは何か」（集英社新書）を一読しておくことが望ましい（読みやすく新書なのですぐに読み終わらせる）。（2時間）
	授業内容	引用について
	事後学習	著作権の制限規定の中で最も重要な「引用」の概念を、教科書を読んで復習する。（2時間）
2	事前学習	教科書の該当箇所を予め読んでくる。（2時間）
	授業内容	著作人格権とその内容
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んで知識を整理する（2時間）
3	事前学習	教科書の該当箇所を予め読んでくる。（2時間）
	授業内容	著作権侵害と救済
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んで知識を整理する（2時間）
4	事前学習	教科書の該当箇所を予め読んでくる。判例百選93乃至98番を読んでくる。（2時間）
	授業内容	著作権の直接侵害と間接侵害
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んで知識を整理する（2時間）

5	事前学習	教科書の該当箇所を予め読んでくる。（2時間）
	授業内容	著作権侵害の認定方法
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んで知識を整理する（2時間）
6	事前学習	教科書の該当箇所を予め読んでくる（2時間）
	授業内容	著作者人格権侵害とその救済
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んで知識を整理する（2時間）
7	事前学習	判例百選82乃至85番を予め読んでくる。（2時間）
	授業内容	著作権者の変動
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んで知識を整理する（2時間）
8	事前学習	前回の授業内で指示した判例を読んでくる。（2時間）
	授業内容	著作権の消尽
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んで知識を整理する（2時間）
9	事前学習	著作権の保護期間について調べて考えてくる。（2時間）
	授業内容	著作権の保護期間
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んで知識を整理する（2時間）
10	事前学習	教科書の放送権、有線放送権の箇所を予め読んでくる（2時間）
	授業内容	放送と著作権
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んで知識を整理する（2時間）
11	事前学習	指示した文献を読んでくる（2時間）
	授業内容	フェアユース　なぜフェアユースなのか
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んで知識を整理する（2時間）
12	事前学習	判例百選86乃至89を予め読んでくる（2時間）
	授業内容	著作権の取引
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んで知識を整理する（2時間）
13	事前学習	教科書の該当箇所を予め読んでくる（2時間）
	授業内容	著作隣接権
	事後学習	授業であったことを教科書を再読して復習する。（2時間）
14	事前学習	指示した文献を読んでくる。最近の法改正について考えてくる。（2時間）
	授業内容	著作権の刑事罰則
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んで知識を整理する（2時間）
15	事前学習	著作権法全体をもう一度、全体的にとらえなおす。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	授業であったことを復習する 教科書の該当部分を読んで知識を整理する（2時間）

科目名	知的財産法E(関連条約) I	担当者	加藤 浩	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	知的財産法の国際的なルールについて講義する。具体的には、知的財産法の基本条約として、パリ条約について講義し、また、知的財産法の各論として、特許法に関する条約、意匠法に関する条約について講義する。				
授業目的・到達目標	近年、特許権、意匠権、商標権、著作権などの知的財産権を巡る国際的な争いや模倣品被害が増加する中、企業においては、知的財産制度の国際的なルールを理解することが必要不可欠である。そこで、本講義では、知的財産分野の条約（国際法）の概要を理解することを目的とする。また、本講義では、知的財産法に関する基本条約（パリ条約）のほか、特許法に関する条約、意匠法に関する国際条約を理解し、説明できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，3新聞学会1，5、経営法学科1，2，3，4				
履修条件	特になし。（知的財産法の初学者でも履修可とする。）				
授業方法	講義プリントを配布して講義を行う。知的財産権を巡る最新の話題・事例も適宜、教材とする。授業内試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業内試験、授業への参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。毎回、講義プリントを配布する。			
参考書	必要に応じて紹介する。				
オフィスアワー	水曜日5時限目に設定する。（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館6階 1610号室）メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。また、知的財産法の全体像について考えておく。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、知的財産法E Iの学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	WIPO設立条約（世界知的所有権機関）について、事前に講義プリントを読んで、WIPO設立条約の概要を整理しておく。（2時間）
	授業内容	【WIPO設立条約】 WIPO設立条約について学習し、WIPO設立条約の目的、定義について考察する。また、WIPOという国際機関の目的、任務についても学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、WIPO設立条約の目的、定義のほか、WIPOという国際機関の目的、任務についても自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	パリ条約における「内国民待遇の原則」（パリ条約2条、3条）について、事前に講義プリントを読んで、「内国民待遇の原則」のポイントを整理しておく。（2時間）
	授業内容	【パリ条約・内国民待遇の原則】 パリ条約における「内国民待遇の原則」について学習し、「内国民待遇の原則」の具体的な規定やその解釈について考察する。また、「内国民待遇の原則」に関するケーススタディを行い、理解を深める。
	事後学習	講義ノートを確認して、パリ条約の「内国民待遇の原則」の考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
4	事前学習	パリ条約における「優先権制度」（パリ条約4条）について、事前に講義プリントに目を通して、「優先権制度」の基本的な考え方を整理しておく。（2時間）
	授業内容	【パリ条約・優先権制度】 パリ条約における「優先権制度」について学習し、「優先権制度」の具体的な規定やその解釈について考察する。また、「優先権制度」に関するケーススタディを行い、理解を深める。
	事後学習	講義ノートを確認して、パリ条約の「優先権制度」の考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）

5	事前学習	パリ条約における「各国独立の原則」（パリ条約4条の2など）について、事前に講義プリントを読んで、「各国独立の原則」の基本的な考え方を整理しておく。（2時間）
	授業内容	【パリ条約・各国独立の原則】 パリ条約における「各国独立の原則」について学習し、「各国独立の原則」の具体的な規定やその解釈について考察する。また、「各国独立の原則」に関するケーススタディを行い、理解を深める。
	事後学習	講義ノートを確認して、パリ条約の「各国独立の原則」の考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
6	事前学習	パリ条約における「不実施・不使用」（パリ条約5条）について、事前に講義プリントを読んで、「不実施・不使用」の基本的な考え方について整理しておく。（2時間）
	授業内容	【パリ条約・不実施・不使用】 パリ条約における「不実施・不使用」について学習し、「不実施・不使用」の具体的な規定やその解釈について考察する。また、「不実施・不使用」に関するケーススタディを行い、理解を深める。
	事後学習	講義ノートを確認して、パリ条約の「不実施・不使用」の考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
7	事前学習	パリ条約における「各論」（特許・意匠・商標など）について、事前に講義プリントを読んで、「各論」（特許・意匠・商標など）の規定について整理しておく。（2時間）
	授業内容	【パリ条約・各論（特許・意匠・商標など）】 パリ条約における「各論」（特許・意匠・商標など）について学習し、「各論」（特許・意匠・商標など）の具体的な規定やその解釈について考察する。また、日本の国内法の規定と比較検討する。
	事後学習	講義ノートを確認して、パリ条約の「各論」（特許・意匠・商標など）の考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
8	事前学習	授業内試験を行うので、テスト範囲を復習しておく。具体的には、パリ条約における「内国民待遇」、「優先権制度」、「各国独立の原則」、「不実施・不使用」、「各論」（特許・意匠・商標など）について、講義プリント、講義ノートを読んで十分に理解しておく。（2時間）
	授業内容	【授業内試験】 パリ条約における「内国民待遇」、「優先権制度」、「各国独立の原則」、「不実施・不使用」、「各論」（特許・意匠・商標など）について、授業内試験を行う。
	事後学習	授業内試験の結果を踏まえて、テスト範囲をさらに復習する。具体的には、パリ条約における「内国民待遇」、「優先権制度」、「各国独立の原則」、「不実施・不使用」、「各論」（特許・意匠・商標など）について、講義プリント、講義ノートを読んで理解を深める。（2時間）
9	事前学習	特許協力条約における「国際出願」と「国際公開」について、事前に講義プリントを読んで、「国際出願」と「国際公開」の規定について整理しておく。（2時間）
	授業内容	【特許協力条約・国際出願・国際公開】 特許協力条約における「国際出願・国際公開」について学習し、「国際出願」と「国際公開」の具体的な規定やその解釈について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特許協力条約の「国際出願」と「国際公開」の考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
10	事前学習	特許協力条約における「国際調査」と「国際予備審査」について、事前に講義プリントを読んで、「国際調査」と「国際予備審査」の規定について整理しておく。（2時間）
	授業内容	【特許協力条約・国際調査・国際予備審査】 特許協力条約における「国際調査・国際予備審査」について学習し、「国際調査」と「国際予備審査」の具体的な規定やその解釈について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特許協力条約の「国際調査」と「国際予備審査」の考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
11	事前学習	特許協力条約における「国内段階」について、事前に講義プリントを読んで、「国内段階」の規定について整理しておく。（2時間）
	授業内容	【特許協力条約・国内段階】 特許協力条約における「国内段階」について学習し、「国内段階」の具体的な規定やその解釈について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特許協力条約の「国内段階」の考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
12	事前学習	ハーグ協定における「国際出願」と「国際登録」について、事前に講義プリントを読んで、「国際出願」と「国際登録」の規定について整理しておく。（2時間）
	授業内容	【ハーグ協定・国際出願・国際登録】 ハーグ協定における「国際出願・国際登録」について学習し、「国際出願」と「国際登録」の具体的な規定やその解釈について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、ハーグ協定の「国際出願」と「国際登録」の考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
13	事前学習	ハーグ協定における「国際公開」について、事前に講義プリントを読んで、「国際公開」の規定について整理しておく。（2時間）
	授業内容	【ハーグ協定・国際公開】 ハーグ協定における「国際公開」について学習し、「国際公開」の具体的な規定やその解釈について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、ハーグ協定の「国際公開」の考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
14	事前学習	ハーグ協定における「拒絶の通報」について、事前に講義プリントを読んで、「拒絶の通報」の規定について整理しておく。（2時間）
	授業内容	【ハーグ協定・拒絶の通報】 ハーグ協定における「拒絶の通報」について学習し、「拒絶の通報」の具体的な規定やその解釈について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、ハーグ協定の「拒絶の通報」の考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
15	事前学習	授業内試験を行うので、テスト範囲を復習しておくこと。具体的には、「特許協力条約」、「ハーグ協定」について、講義プリント、講義ノートを読んで十分に理解しておく。（2時間）
	授業内容	【授業内試験】 「特許協力条約」及び「ハーグ協定」について、授業内試験を行う。
	事後学習	授業内試験の結果に基づいて、テスト範囲をさらに復習しておくこと。具体的には、「特許協力条約」、「ハーグ協定」について、講義プリント、講義ノートを読んで理解を深める。（2時間）

科目名	知的財産法E(関連条約)Ⅱ	担当者	加藤 浩	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	知的財産法の国際的なルールについて講義する。具体的には、知的財産法の基本条約として、TRIPS協定について講義し、また、知的財産法の各論として、商標法に関する条約、著作権法に関する条約について講義する。				
授業目的・到達目標	近年、特許権、意匠権、商標権、著作権などの知的財産権を巡る国際的な争いや模倣品被害が増加する中、企業においては、知的財産制度の国際的なルールを理解することが必要不可欠である。そこで、本講義では、知的財産分野の条約（国際法）の概要を理解することを目的とする。また、本講義では、知的財産法に関する基本条約（TRIPS協定）のほか、商標法に関する条約、著作権法に関する国際条約を理解し、説明できることを目標とする。関連D P及びC P：法律学科1，3 新聞学会1，5、経営法学科1，2，3，4				
履修条件	特になし。（知的財産法の初学者でも履修可とする。）				
授業方法	講義プリントを配布して講義を行う。知的財産権を巡る最新の話題・事例も適宜、教材とする。授業内試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業内試験、授業への参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。毎回、講義プリントを配布する。			
参考書	必要に応じ紹介する。				
オフィスアワー	水曜日5時限目に設定する。（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館6階 1610号室）メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。また、知的財産条約とは何かについて考えておくこと。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、知的財産法EⅡの学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	マドリッド協定議定書における「国際出願」と「国際登録」について、事前に講義プリントを読んで、「国際出願」及び「国際登録」のポイントを整理しておく。（2時間）
	授業内容	【マドリッド協定議定書・国際出願・国際登録】 マドリッド協定議定書における「国際出願・国際登録」について学習し、「国際出願」及び「国際登録」の具体的な規定やその解釈について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、マドリッド協定議定書の「国際出願」及び「国際登録」の基本的な考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	マドリッド協定議定書における「国際公開」について、事前に講義プリントを読んで、「国際公開」のポイントを整理しておく。（2時間）
	授業内容	【マドリッド協定議定書・国際公開】 マドリッド協定議定書における「国際公開」について学習し、「国際公開」の具体的な規定やその解釈について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、マドリッド協定議定書の「国際公開」の基本的な考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
4	事前学習	マドリッド協定議定書における「拒絶の通報」について、事前に講義プリントを読んで、「拒絶の通報」のポイントについて整理しておく。（2時間）
	授業内容	【マドリッド協定議定書・拒絶の通報】 マドリッド協定議定書における「拒絶の通報」について学習し、「拒絶の通報」の具体的な規定やその解釈について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、マドリッド協定議定書の「拒絶の通報」の考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）

5	事前学習	ベルヌ条約について、事前に講義プリントを読んで、ベルヌ条約のポイントについて整理しておく。（2時間）
	授業内容	【ベルヌ条約】 ベルヌ条約について学習し、「ベルヌ条約の三原則」などの具体的な規定やその解釈について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、ベルヌ条約の基本的な考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
6	事前学習	ローマ条約、レコード条約について、事前に講義プリントを読んで、ローマ条約及びレコード保護条約の基本的な考え方について整理しておく。（2時間）
	授業内容	【ローマ条約・レコード保護条約】 ローマ条約、レコード保護条約について学習し、ローマ条約及びレコード保護条約における「著作隣接権」などの具体的な規定やその解釈について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、ローマ条約、レコード保護条約の基本的な考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
7	事前学習	WIPO著作権条約、WIPO実演・レコード条約について、事前に講義プリントを読んで整理し、WIPO著作権条約、WIPO実演・レコード条約のポイントについて整理しておく。（2時間）
	授業内容	【WIPO著作権条約、WIPO実演・レコード条約】 WIPO著作権条約、WIPO実演・レコード条約について学習し、WIPO著作権条約、WIPO実演・レコード条約における新たな規定（インターネット、デジタル化への対応）の解釈について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、WIPO著作権条約、WIPO実演・レコード条約の基本的な考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
8	事前学習	授業内試験を行うので、テスト範囲を復習しておく。具体的には、「マドリッド協定議定書」、「ベルヌ条約」、「ローマ条約」、「レコード保護条約」、「WIPO著作権条約」、「WIPO実演・レコード条約」について、講義プリント、講義ノートを読んで十分に理解しておく。（2時間）
	授業内容	【授業内試験】 「マドリッド協定議定書」、「ベルヌ条約」、「ローマ条約」、「レコード保護条約」、「WIPO著作権条約」、「WIPO実演・レコード条約」について、授業内試験を行う。
	事後学習	授業内試験の結果を踏まえて、授業内試験の範囲について、さらに復習する。具体的には、「マドリッド協定議定書」、「ベルヌ条約」、「ローマ条約」、「レコード保護条約」、「WIPO著作権条約」、「WIPO実演・レコード条約」について、講義プリント、講義ノートを読んで理解を深める。（2時間）
9	事前学習	TRIPS協定における「最恵国待遇の原則」について、事前に講義プリントを読んで、「最恵国待遇の原則」の基本的な考え方について整理しておく。（2時間）
	授業内容	【TRIPS協定・最恵国待遇】 TRIPS協定における「最恵国待遇の原則」について学習し、「最恵国待遇の原則」の具体的な規定やその解釈について考察する。また、「最恵国待遇の原則」に関するケーススタディを行い、理解を深める。
	事後学習	講義ノートを確認して、TRIPS協定における「最恵国待遇の原則」の基本的な考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
10	事前学習	TRIPS協定における「各論」（特許・意匠・商標など）について、事前に講義プリントを読んで、「各論」（特許・意匠・商標など）の概要について整理しておく。（2時間）
	授業内容	【TRIPS協定・各論（特許・意匠・商標など）】 TRIPS協定における「各論」（特許・意匠・商標など）について学習し、「各論」（特許・意匠・商標など）の具体的な規定やその解釈について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、TRIPS協定における「各論」（特許・意匠・商標など）の基本的な考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
11	事前学習	TRIPS協定における「権利行使」について、事前に講義プリントを読んで、「権利行使」のポイントについて整理しておく。（2時間）
	授業内容	【TRIPS協定・権利行使】 TRIPS協定における「権利行使」について学習し、「権利行使」の具体的な規定やその解釈について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、TRIPS協定における「権利行使」の基本的な考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
12	事前学習	TRIPS協定における「紛争処理」について、事前に講義プリントを読んで、「紛争処理」のポイントについて整理しておく。（2時間）
	授業内容	【TRIPS協定・紛争処理】 TRIPS協定における「紛争処理」について学習し、「紛争処理」の具体的な規定やその解釈について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、TRIPS協定における「紛争処理」の基本的な考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
13	事前学習	TRIPS協定における「経過措置」について、事前に講義プリントを読んで、「経過措置」の概要について整理しておく。（2時間）
	授業内容	【TRIPS協定・経過措置】 TRIPS協定における「経過措置」について学習し、「経過措置」の具体的な規定やその解釈について考察する。経過措置が必要になった背景についても考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、TRIPS協定における「経過措置」の基本的な考え方について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
14	事前学習	TRIPS協定における「紛争事例」と「今後の課題」について、事前に講義プリントを読んで、「紛争事例」と「今後の課題」について基本的な考え方を整理しておく。（2時間）
	授業内容	【TRIPS協定・紛争事例・今後の課題】 TRIPS協定における「紛争事例」、「今後の課題」について学習し、「紛争事例」及び「今後の課題」の具体的な方向性について考察する。また、TRIPS協定の改正についても検討する。
	事後学習	講義ノートを確認して、TRIPS協定における「紛争事例」及び「今後の課題」について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
15	事前学習	授業内試験を行うので、テスト範囲を復習しておく。具体的には、TRIPS協定の「最恵国待遇」、「各論」（特許・意匠・商標など）、「権利行使」、「紛争処理」、「経過措置」、「紛争事例」、「今後の課題」について、講義プリント、講義ノートを読んで十分に理解しておく。（2時間）
	授業内容	【授業内試験】 TRIPS協定の「最恵国待遇」、「各論」（特許・意匠・商標など）、「権利行使」、「紛争処理」、「経過措置」、「紛争事例」、「今後の課題」について、授業内試験を行う。
	事後学習	授業内試験の結果を踏まえて、授業内試験の範囲について、さらに復習する。具体的には、TRIPS協定の「最恵国待遇」、「各論」（特許・意匠・商標など）、「権利行使」、「紛争処理」、「経過措置」、「紛争事例」、「今後の課題」について、講義プリント、講義ノートを読んで理解を深める。（2時間）

科目名	知的財産政策	担当者	加藤 浩	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義では、知的財産政策について解説する。具体的には、特許法、意匠法、商標法、著作権法それぞれに関する政策について、政策課題とその解決に向けた取り組みについて解説する。				
授業目的・到達目標	近年、特許権、意匠権、商標権、著作権などの知的財産権の重要性が高まる中、企業や官公庁において、知的財産権を有効に活用するため、知的財産政策について理解することが必要不可欠である。そこで、本講義では、知的財産政策の概要を理解することを目的とする。また、本講義では、さまざまな事例において、知的財産政策を理解し、説明できることを目標とする。関連D P 及びC P：経営法学科3， 4， 5				
履修条件	特になし。（知的財産法の初学者でも履修可とする。）				
授業方法	講義プリントを配布して講義を行う。知的財産政策を巡る最新の話題・事例も適宜、題材とする。授業内試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業内試験、授業への参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考				
参 考 書	知的財産戦略本部「知的財産推進計画2018」2018年6月 https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/kettei/chizaikeikaku2018.pdf				
オフィス アワー	水曜日5時限目に設定する。（休暇中を除く、事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館6階 1610号室）メールアドレス：katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。また、知的財産法の全体像について考えておく。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、知的財産政策の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	特許法に関する知的財産政策について、事前に講義プリントを読んで、「人工知能と特許」の観点から、事例①の論点を整理しておく。（2時間）
	授業内容	【特許法に関する事例①：人工知能と特許】 特許法に関する事例①について学習し、「人工知能と特許」の問題をテーマとして、知的財産政策の在り方について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特許法に関する事例①について復習し、「人工知能と特許」の論点について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	特許法に関する知的財産政策について、事前に講義プリントを読んで、「パテントロール」の観点から、事例②の論点を整理しておく。（2時間）
	授業内容	【特許法に関する事例②：パテントロール】 特許法に関する事例②について学習し、「パテントロール」の問題をテーマとして、知的財産政策の在り方について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特許法に関する事例②について、「パテントロール」の観点から、事例②の論点について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
4	事前学習	特許法に関する知的財産政策について、事前に講義プリントを読んで、「強制実施権」の観点から、事例③の論点を整理しておく。（2時間）
	授業内容	【特許法に関する事例③：強制実施権】 特許法に関する事例③について学習し、「強制実施権」の問題をテーマとして、知的財産政策の在り方について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、特許法に関する事例③について、「強制実施権」の観点から、事例③の論点について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）

5	事前学習	意匠法に関する知的財産政策について、事前に講義プリントを読んで、「登録要件」の観点から、事例①の論点を整理しておく。（2時間）
	授業内容	【意匠法に関する事例①：登録要件】 意匠法に関する事例①について学習し、「登録要件」の問題をテーマとして、知的財産政策の在り方について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、意匠法に関する事例①について、「登録要件」の観点から、事例①の論点について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
6	事前学習	意匠法に関する知的財産政策について、事前に講義プリントを読んで、「権利の効力」の観点から、事例②の論点を整理しておく。（2時間）
	授業内容	【意匠法に関する事例②：権利の効力】 意匠法に関する事例②について学習し、「権利の効力」の問題をテーマとして、知的財産政策の在り方について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、意匠法に関する事例②について、「権利の効力」の観点から、事例②の論点について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
7	事前学習	意匠法に関する知的財産政策について、事前に講義プリントを読んで、「物品性」の観点から、事例③の論点を整理しておく。（2時間）
	授業内容	【意匠法に関する事例③：物品性の課題】 意匠法に関する事例③について学習し、「物品性」の問題をテーマとして、知的財産政策の在り方について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、意匠法に関する事例③について、「物品性」の観点から、事例③論点について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
8	事前学習	授業内試験を行うので、テスト範囲を復習しておくこと。具体的には、特許法に関する知財政策の事例、意匠法に関する知財政策の事例について、講義プリント、講義ノートを読んで十分に理解しておく。（2時間）
	授業内容	【授業内試験】 特許法に関する知財政策の事例、意匠法に関する知財政策の事例について、授業内試験を行う。
	事後学習	授業内試験の結果に基づいて、テスト範囲をさらに復習しておくこと。具体的には、特許法に関する知財政策の事例、意匠法に関する知財政策の事例について、講義プリント、講義ノートを読んで理解を深める。（2時間）
9	事前学習	商標法に関する知的財産政策について、事前に講義プリントを読んで、「冒認商標」の観点から、事例①の論点を整理しておく。（2時間）
	授業内容	【商標法に関する事例①：冒認商標】 商標法に関する事例①について学習し、「冒認商標」の問題をテーマとして、知的財産政策の在り方について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、商標法に関する事例①について、「冒認商標」の観点から、事例①の論点について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
10	事前学習	商標法に関する知的財産政策について、事前に講義プリントを読んで、「パロディ商標」の観点から、事例②の論点を整理しておく。（2時間）
	授業内容	【商標法に関する事例②：パロディ商標】 商標法に関する事例②について学習し、「パロディ商標」の問題をテーマとして、知的財産政策の在り方について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、商標法に関する事例②について、「パロディ商標」の観点から、事例②の論点について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
11	事前学習	商標法に関する知的財産政策について、事前に講義プリントを読んで、「地域ブランド」の観点から、事例③の論点を整理しておく。（2時間）
	授業内容	【商標法に関する事例③：地域ブランド】 商標法に関する事例③について学習し、「地域ブランド」の問題をテーマとして、知的財産政策の在り方について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、商標法に関する事例③について、「地域ブランド」の観点から、事例③の論点について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
12	事前学習	著作権法に関する知的財産政策について、事前に講義プリントを読んで、「人工知能と著作権」の観点から、事例①の論点を整理しておく。（2時間）
	授業内容	【著作権法に関する事例①：人工知能と著作権】 著作権法に関する事例①について学習し、「人工知能と著作権」の問題をテーマとして、知的財産政策の在り方について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、商標法に関する事例①について、「人工知能と著作権」の観点から、事例①論点について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
13	事前学習	著作権法に関する知的財産政策について、事前に講義プリントを読んで、「権利の制限」の観点から、事例②の論点を整理しておく。（2時間）
	授業内容	【著作権法に関する事例②：権利の制限】 著作権法に関する事例②について学習し、「権利の制限」の問題をテーマとして、知的財産政策の在り方について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、商標法に関する事例②について、「権利の制限」の観点から、事例②点について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
14	事前学習	著作権法に関する知的財産政策について、事前に講義プリントを読んで、「サイトブロッキング」の観点から、事例③の論点を整理しておく。（2時間）
	授業内容	【著作権法に関する事例③：サイトブロッキング】 著作権法に関する事例③について学習し、「サイトブロッキング」の問題をテーマとして、知的財産政策の在り方について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認して、著作権法に関する事例③について、「サイトブロッキング」の観点から、事例③について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
15	事前学習	授業内試験を行うので、テスト範囲を復習しておくこと。具体的には、商標法に関する知財政策の事例、著作権法に関する知財政策の事例について、講義プリント、講義ノートを読んで十分に理解しておく。（2時間）
	授業内容	【まとめ・授業内試験】 商標法に関する知財政策の事例、著作権法に関する知財政策の事例について、授業内試験を行う。
	事後学習	授業内試験の結果に基づいて、テスト範囲をさらに復習しておくこと。具体的には、商標法に関する知財政策の事例、著作権法に関する知財政策の事例について、講義プリント、講義ノートを読んで理解を深める。（2時間）

科目名	地方行財政特殊講義A	担当者	山田 光矢	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本では地方創生をメインスローガンに地方行財政制度の改革が各地方公共団体で実践されている。その実態を、日本経済新聞の月曜日の朝刊「地域総合」の記事を中心に、各地方公共団体の現状や地方創生策等を題材に、各項目を分析していくことによって日本の地方創生の全体像や、各地方公共団体の実施策の特徴や問題点に迫っていく。				
授業目的・到達目標	日本の地方自治制度改革の実態を、多くの資料を活用することによって理解することを目的とし、受講生の出身地や現在生活している地域あるいは興味のある地域などの地方創生策の目標や内容や背景などを理解し、そのあるべき姿を自分の考えや視点から確立できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2，3，4				
履修条件	指定する日の新聞だけではなく、毎日新聞をきちんと読んで、各地域の地方創生策や地方行財政改革の目的や方向性を理解して講義に出席すること。				
授業方法	資料を中心にしながら皆さんの理解した内容や考えを述べてもうことで演習形式を含んだ授業を行う。レポートの講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		50%	テーマの理解度や表現力などを総合的に判断する。レポートに替えることもある。	
	平常評価		50%	授業への参加度や提出物、受講態度などを総合的に判断する	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	日本経済新聞月曜日朝刊「地方総合」を主たる資料として講義を進める。			
参考書	福島康仁編、山田光矢他著『地方自治論』（第二版）弘文堂				
オフィスアワー	水曜日5限に研究室（9号館5階9505）で行います。 ※会議等のために毎週確実に対応できないことも考えられるので、相談を希望する場合には事前にメールで連絡し、私からの相談可能な連絡を受けてからきてください。（yamada.mitsuya@nihon-u.ac.jp）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	日本経済新聞（日経新聞）2019年4月1日朝刊の「地方総合」のページを読んてくる（2時間）
	授業内容	ガイダンス：講義の目的や内容を解説する 日経新聞4月1日朝刊の「地域総合」を利用して講義の進め方等を説明する 日経新聞4月8日の「地域総合」を配布する
	事後学習	4月1日の「地域総合」の内容を理解する（2時間）
2	事前学習	2019年4月8日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	4月8日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 地方自治に関する資料を配布する
	事後学習	4月8日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を理解する（2時間）
3	事前学習	4月16日に配布した資料の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	4月16日に配布した資料の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞4月22日の「地域総合」を配布する
	事後学習	4月16日に配布した資料の内容を理解する（2時間）
4	事前学習	2019年4月22日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	4月22日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞4月29日の「地域総合」を配布する
	事後学習	4月22日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を理解する（2時間）

5	事前学習	2019年4月29日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	4月29日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞5月6日の「地域総合」を配布する
	事後学習	4月29日の日経新聞「地域総合」の内容を理解する（2時間）
6	事前学習	2019年5月6日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	5月6日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞5月13日の「地域総合」を配布する
	事後学習	5月6日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を理解する（2時間）
7	事前学習	2019年5月13日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	5月13日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞5月20日の「地域総合」を配布する
	事後学習	5月13日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を理解する（2時間）
8	事前学習	2019年5月20日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	5月20日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞5月27日の「地域総合」を配布する
	事後学習	5月20日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を理解する（2時間）
9	事前学習	2019年5月27日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	5月27日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞6月3日の「地域総合」を配布する
	事後学習	5月27日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を理解する（2時間）
10	事前学習	2019年6月3日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	6月3日の日経新聞朝刊「地域総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞6月17日の「地域総合」を配布する
	事後学習	6月3日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を理解する（2時間）
11	事前学習	2019年6月17日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	6月17日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞6月24日の「地域総合」を配布する
	事後学習	6月17日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を理解する（2時間）
12	事前学習	2019年6月24日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	6月24日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞7月1日の「地域総合」を配布する
	事後学習	6月24日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を理解する（2時間）
13	事前学習	2019年7月1日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	7月1日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞7月8日の「地域総合」を配布する
	事後学習	7月1日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を理解する（2時間）
14	事前学習	これまでの講義に合わせて指示に応じてレポートを作成してくる（2時間）
	授業内容	レポートの報告 レポートの内容について報告してもらい レポートの内容について質疑応答を行う
	事後学習	レポートの内容を再吟味する（2時間）
15	事前学習	レポートの内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	レポートの評価 レポートの内容やレベルについて話をする 再提出を含めて指導を行う
	事後学習	レポートを中心にしてこれまでの講義の内容を理解する（2時間）

科目名	地方行財政特殊講義B	担当者	山田 光矢	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本では地方創生をメインスローガンに地方行財政制度の改革が各地方公共団体で実践されている。その実態を、日本経済新聞の月曜日の朝刊「地域総合」の記事を中心に、各地方公共団体の現状や地方創生策等を題材に、各項目を分析していくことによって日本の地方創生の全体像や、各地方公共団体の実施策の特徴や問題点に迫っていく。				
授業目的・到達目標	日本の地方自治制度改革の実態を、多くの資料を活用することによって理解することを目的とし、受講生の出身地や現在生活している地域あるいは興味のある地域などの地方創生策の目標や内容や背景などを理解し、そのあるべき姿を自分の考えや視点から確立できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2, 3, 4				
履修条件	指定する日の新聞だけではなく、毎日新聞をきちんと読んで、各地域の地方創生策や地方行財政改革の目的や方向性を理解して講義に出席すること。				
授業方法	資料を中心にしながら皆さんの理解した内容や考えを述べてもうことで演習形式を含んだ授業を行う。レポートの講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		50%	テーマの理解度や表現力などを総合的に判断する。レポートに替えることもある。	
	平常評価		50%	授業への参加度や提出物、受講態度などを総合的に判断する	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	日本経済新聞月曜日朝刊「地方総合」を主たる参考資料とする			
参考書	福島康仁編、山田光矢他著『地方自治論』（第二版）弘文堂				
オフィスアワー	水曜日5限に研究室（9号館5階9505）で行います。 ※会議等のために毎週確実に対応できないことも考えられるので、相談を希望する場合には事前にメールで連絡し、私からの相談可能な連絡を受けてからきてください。（yamada.mitsuya@nihon-u.ac.jp）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	日本経済新聞（日経新聞）2019年9月2日朝刊の「地方総合」のページを読んてくる（2時間）
	授業内容	ガイダンス：講義の目的や内容を解説する 日経新聞9月2日朝刊の「地域総合」を利用して講義への進め方等を説明する 日経新聞9月16日朝刊の「地域総合」を配布する
	事後学習	9月2日の「地域総合」の内容を理解する（2時間）
2	事前学習	2019年9月16日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	9月16日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞9月23日の「地域総合」を配布する
	事後学習	9月16日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を理解する（2時間）
3	事前学習	2019年9月23日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	9月23日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞9月30日の「地域総合」を配布する
	事後学習	9月23日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を理解する（2時間）

4	事前学習	2019年9月30日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	9月30日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞10月7日の「地域総合」を配布する
	事後学習	9月30日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を理解する（2時間）
5	事前学習	2019年10月7日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	10月7日の日経新聞朝刊「地域総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞10月14日の「地域総合」を配布する
	事後学習	10月7日の日経新聞朝刊「地域総合」の内容を理解する（2時間）
6	事前学習	2019年10月14日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	10月14日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞10月21日の「地域総合」を配布する
	事後学習	10月14日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を理解する（2時間）
7	事前学習	2019年10月21日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	10月21日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞10月28日の「地域総合」を配布する
	事後学習	10月21日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を理解する（2時間）
8	事前学習	2019年10月28日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	10月28日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞11月4日の「地域総合」を配布する
	事後学習	10月28日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を理解する（2時間）
9	事前学習	2019年11月4日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	11月4日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う
	事後学習	11月4日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を理解する（2時間）
10	事前学習	これまでの講義で分析した「地方総合」の内容から日本の地方自治制度の現状を整理してくる（2時間）
	授業内容	受講生が考えてきた内容について報告を受ける 報告の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞11月18日の「地域総合」を配布する
	事後学習	日本の地方自治の現状に関する考え方を整理すし、自己の考え方を確立する（2時間）
11	事前学習	2019年11月18日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	11月18日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞11月25日の「地域総合」を配布する
	事後学習	11月18日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を理解する（2時間）
12	事前学習	2019年11月25日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	11月25日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う 日本経済新聞12月2日の「地域総合」を配布する
	事後学習	11月25日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を理解する（2時間）
13	事前学習	2019年12月2日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	12月2日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を分析する 記事の内容について報告してもらい、記事の内容について質疑応答を行う
	事後学習	12月2日の日経新聞朝刊「地方総合」の内容を理解する（2時間）
14	事前学習	これまで読んできた2019年9月2日から12月2日の日経新聞朝刊「地域総合」の内容から、「日本の地方自治制度の現状」に関するレポートを作成してくる（2時間）
	授業内容	レポートの報告 レポートの内容について報告してもらう レポートの内容について質疑応答を行う
	事後学習	レポートの内容を再吟味する（2時間）

15	事前学習	再吟味したレポートの内容を整理してくる（2時間）
	授業内容	レポートの評価 レポートの内容やレベルについて話をする 再提出を含めて指導を行う
	事後学習	レポートを中心にしてこれまでの講義の内容を理解する（2時間）

科目名	地方行財政特殊講義C	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	地方自治論の展開科目として、この授業では地方自治に関する制度や機能、さらにその原理や歴史などにまで踏み込んで、より深く地方自治に関する事柄を学習していく。地方自治に関する事象は日々目まぐるしく動いていることから、テキストで基本的部分は押さえながらも、新しい事例をマスメディアの情報を積極的に活用することにより、今現在地方自治が抱える諸課題について受講生の理解を促していく。				
授業目的・到達目標	積極的に「地方自治」の諸問題に関心を抱き、その上で主体的に行動することができる地方自治の当事者（＝主役・主人公）を養成することを授業の目的とする。地方公務員を目指す学生においては、自発的に専門的な問題意識を育んでいけるようになることを、またそれ以外の学生においても、地方自治の主人公として積極的な「市民」像を育めるようになることを授業の到達目標とする。対応DP及びCP：政治経済学科2, 3, 4				
履修条件	地方自治論の展開科目としての位置付けなので、原則地方自治論を受講済みであること。				
授業方法	演習（ゼミ）形式による。授業では毎回あらかじめ指名された学生が教科書の担当箇所を調べて報告し、皆で議論しあう。その中で出た疑問点、課題や展望等に関しては教員が解説を行い、当該分野のさらなる理解に努める。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		0%		
	平常評価		100%		授業への積極的取り組みを演習の中で判断し、最終的な評価とする。当然のことながら、出席が少ない学生は評価の対象外である。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	三恵社		地方自治を学ぶ―要点と資料― [第2版]	賀来 健輔
	備考	教科書は、必ず2019年発行のものを用意すること。			
参考書	山田光矢・福島康仁編『地方自治論 [第2版] 』弘文堂、2018年。 この他必要に応じて、授業の際に適宜紹介する。				
オフィスアワー	木曜日12時～13時。 また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールでアポイントメントを取ること。 研究室：本館7階 1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書の目次や各章を参照し、授業全体を概観する。（2時間）
	授業内容	これからの授業概要、講義計画、成績評価の方法などの説明と、教科書・参考文献の紹介し、受講生が受講の準備を具体的にできるようにする。
	事後学習	指定された教科書を購入し、第1回目に行った授業内容をもとに、これからの自らの学習計画と他の履修科目との関連性について検討する。（2時間）
2	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の種類(1)普通地方公共団体(1) 県・市町村について、その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）
3	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の種類(2)普通地方公共団体(2) 指定都市・中核市・施行時特例市について、その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）
4	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の種類(3)特別地方公共団体(1) 特別区・一部事務組合・広域連合について、その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）

5	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の種類(4) 特別地方公共団体(2) 財産区、外郭団体について、その制度的概要、問題点を学習する。また地方公共団体の種類のところを改めて全体的に復習する形で確認する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
6	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の区域(1) 市町村の区域の変更について、その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
7	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の区域(2) 市町村合併について、その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
8	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の区域(3) 平成の大合併を検証し、その問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
9	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の区域(4) 都道府県の区域の問題～道州制、連邦制について、その概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
10	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の組織(1) 首長、首長の補助機関について、その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
11	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の組織(2) 出先機関、執行機関の付属機関について、その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
12	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の組織(3) 行政委員会(1) 行政委員会について、その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
13	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の組織(4) 行政委員会(2) 個別行政委員会の概要と行政委員会制度の問題点について学ぶ。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
14	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の事務 その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
15	事前学習	これまで授業で学んだ事柄について、教科書やノートを見直し全体的な理解に努める。（2時間）
	授業内容	これまでの授業のまとめとして、改めて学生全員で重要な個所をディスカッションし、当該地方自治の問題について理解を深める。
	事後学習	授業で取り上げた事柄について改めて復習し直し、自らの理解がまだ足りない点は教科書、参考書などを用いて不足する点を補う。（2時間）

科目名	地方行財政特殊講義D	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	地方自治論の展開科目として、この授業では地方自治の制度や機能、さらにその原理や歴史などにまで踏み込んで、より深く地方自治に関する事項を学習していく。地方自治に関する事象は日々目まぐるしく動いていることから、テキストで基本的な部分は押さえながらも、新しい事例をマスメディアの情報を積極的に活用することにより、今現在地方自治の抱える諸課題について受講生の理解を促していく。			
授業目的・到達目標	積極的に「地方自治」の諸問題に関心を抱き、その上で主体的に行動することができる地方自治の当事者（＝主役・主人公）を養成することを授業の目的とする。地方公務員を目指す学生においては、自発的に専門的な問題意識を育んでいけるようになることを、またそれ以外の学生においても、地方自治の主人公として積極的な「市民」像を育めるようになることを授業の到達目標とする。対応DP及びCP：政治経済学科2, 3, 4			
履修条件	地方自治論の展開科目としての位置付けなので、原則地方自治論を受講済みであること。			
授業方法	演習（ゼミ）形式による。授業では毎回あらかじめ指名された学生が教科書の担当箇所を調べて報告し、皆で議論しあう。その中で出た疑問点、課題や展望等に関しては教員が解説を行い、当該分野のさらなる理解に努める。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業への積極的取り組みを演習の中で判断し、最終的な評価とする。当然のことながら、出席が少ない学生は評価の対象外となる。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	三恵社	地方自治を学ぶ―要点と資料―〔第2版〕	賀来 健輔
	備考	表記教科書について、必ず2019年発行のものを用意すること。		
参考書	山田光矢・福島康仁編『地方自治論〔第2版〕』弘文堂、2018年。 この他必要に応じて、授業の際に適宜紹介する。			
オフィスアワー	木曜日12時～13時。 また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールでアポイントメントを取ること。 研究室：本館7階 1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の目次を参照しながら前期で行った地方行財政特殊講義Cとの継続性、及び後期で行う予定の各章を概観しておく。それを行った上で、あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから該当章に関する話題に関心を向ける。（3時間）
	授業内容	地方議会の組織と機能(1) 議会の基本的性格、議会の組織と運営について、その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）
2	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから該当章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方議会の組織と機能(2) 議会の権限、議会と住民の関係、地方議会の諸問題について学ぶ。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）
3	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから該当章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体への住民参加(1) 住民参加、行政統制、また直接請求制度について、その意義や役割など概要を学ぶ。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）
4	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから該当章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体への住民参加(2) 直接請求制度の一つ条例の制定又は改廃請求の概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）

5	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから該当章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体への住民参加(3) その他の直接請求制度について、その概要や問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
6	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから該当章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体に対する住民の統制(1) 情報公開制度の意義、役割について、自治体広報活動との比較を通しながら学ぶ。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
7	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから該当章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体に対する住民の統制(2) 情報公開制度の有する課題や問題点について学ぶ。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
8	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから該当章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体に対する住民の統制(3) オンブズマン制度とは何かについて、その概要と制度化の変遷などを通して学ぶ。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
9	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから該当章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体に対する住民の統制(4) 地方公共団体のオンブズマン制度、川崎市市民オンブズマン制度の事例紹介について学ぶ。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
10	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから該当章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方自治体と住民 第3回から第9回までの授業のまとめとして、住民が地方自治体に対して直接的に参加することの意義や役割を改めて確認し、その重要性を学ぶ。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
11	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから該当章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の基本原理(1) 憲法における地方自治の保障について、その制度的な概要を学ぶ。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
12	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから該当章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の基本原理(2) 地方自治の理論的枠組みについて所論を紹介し、原理的な意味合いについて学ぶ。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
13	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから該当章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の変遷(1) 戦前の地方制度に関する主な出来事を取り上げ、歴史的な文脈における理解に努める。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
14	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。分からない単語や文脈は、参照された参考書を用い理解に努める。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから該当章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の変遷(2) 戦後の地方制度に関する主な出来事を取り上げ、歴史的な文脈における理解に努める。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
15	事前学習	授業でこれまで学んだ事柄について、教科書やノートを見直し全体的な理解に努める。（2時間）
	授業内容	これまでの授業のまとめとして、改めて学生全員で重要な個所をディスカッションし、当該地方自治の問題について理解を深める。
	事後学習	授業で取り上げた事柄について改めて復習し直し、自らの理解がまだ足りない点は教科書、参考書などを用いて不足する点を補う。（2時間）

科目名	地方財政論Ⅰ	担当者	斎藤 英明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国家財政と地方財政の違い、戦後、地方財政が経済成長のためにどのように活用されてきたのかについて学ぶ。そのうえで、地方財政の中心的役割を担う地方交付税について国家財政との関係に鑑みながら学ぶ。				
授業目的・到達目標	私たちの生活は地方自治体が供給するさまざまなサービスから影響を受けている。地方財政論Ⅰは、地方自治体がどのような経済活動によってサービスを供給しているのか、地方交付税を中心に学ぶ。そこから、地方財政の解決すべき問題を見つけ出すことを目的とする。 地方財政の制度や仕組みを知り、また、新聞やニュース等で地方自治体が抱える問題を知ろう。そのうえで、改善策を自分の言葉で紡ぎだすことができるようになることがこの授業の最大の目標としている。関連DP及びCP：政治経済学科2, 4, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	特に無い。余裕があれば財政学も履修すると、より楽しく学ぶことができるだろう。また、後期に地方財政論Ⅱを履修すると、より理解が深まるであろう。				
授業方法	【授業区分】に沿って、講義形式で進める予定である。授業の最後に質問やコメントを書いてもらい、次の授業でレスポンスするなど、双方向性を高めたいと考えている。定期試験の解説は試験終了後、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		85%	授業で学んだ理論や考え方が身に付き、自分の言葉で説明ができるようになっているのかを判断する。筆記試験を実施する予定である。	
	平常評価		15%	授業へ臨む態度、有意義な質問やコメントから判断する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	備考	特に指定しない。授業で使用する教材については、毎回ポータル等を通じて配布する。			
参考書	授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	木曜授業後（14:30～）に講堂で受け付けますが、事前に下記のアドレスにメールを送ってください。 hideaki_saito318@yahoo.co.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新聞やニュースで地方財政について触れてみましょう。（1時間）
	授業内容	ガイダンス ・履修上の注意 ・前期の授業では何か学ぶのか。
	事後学習	シラバスを読み返し、履修すべきか否かをしっかりと考えましょう。また、単位習得のための心構えをしましょう。（3時間）
2	事前学習	全国総合開発計画を調べておきましょう。（1時間）
	授業内容	過去と今を知ろう ・地方財政の歴史。
	事後学習	地域開発政策を復習しておきましょう。（3時間）
3	事前学習	財政の機能を調べましょう。（1時間）
	授業内容	財政学との関係 ・財政の3機能 ・公共財と地方公共財の違い。
	事後学習	公共財と地方公共財の違いを復習しましょう。（3時間）
4	事前学習	基礎的財政収支を調べておきましょう。（1時間）
	授業内容	国の財政と地方の財政（1） ・地方財政の現状。
	事後学習	地方財政の現状を復習しておきましょう。（3時間）

5	事前学習	地方財政計画を調べましょう。（1時間）
	授業内容	国の財政と地方の財政（2） ・地方財政計画とは何か。 ・地方交付税の原資は何か。
	事後学習	地方交付税の推移を確認しましょう。（3時間）
6	事前学習	国から地方自治体へのお金の流れを調べましょう。（1時間）
	授業内容	国の財政と地方の財政（3） ・地方自治体の国への依存。
	事後学習	地方財政計画の各項目を復習しましょう。（3時間）
7	事前学習	地方交付税の性質を調べましょう。（1時間）
	授業内容	地方交付税の役割（1） ・地方交付税制度の概略。 ・地方財政計画との関係。
	事後学習	地方財政計画での地方交付税の役割を復習しておきましょう。（3時間）
8	事前学習	地方交付税の算定方法を調べましょう。（1時間）
	授業内容	地方交付税の役割（2） ・地方交付税算定に関する問題点。
	事後学習	算定方法の問題点を整理しましょう。（3時間）
9	事前学習	基準財政需要額を確認しましょう。（1時間）
	授業内容	地方交付税の役割（3） ・基準財政需要額とは何か。
	事後学習	基準財政需要額の考え方が妥当か否かを考えましょう。（3時間）
10	事前学習	基準財政需要額の計算方法を調べましょう。（1時間）
	授業内容	地方交付税の算定（1） ・基準財政需要額の計算方法。
	事後学習	基準財政需要額の構造を復習しましょう。（3時間）
11	事前学習	単位費用、補正係数とは何か調べておきましょう。（1時間）
	授業内容	地方交付税の算定（2） ・単位費用、補正係数。
	事後学習	単位費用、補正係数にはどのようなものがあるか復習しておきましょう。（3時間）
12	事前学習	地方交付税の算定方法を再確認しましょう。（1時間）
	授業内容	地方交付税の算定（3） ・地方交付税の算定をめぐる見方。
	事後学習	地方交付税の算定方法は妥当か否かを考えてみましょう。（3時間）
13	事前学習	格差の現状を調べてみましょう。（1時間）
	授業内容	財政力格差と地方交付税（1） ・地方自治体の財政力格差。
	事後学習	格差の原因を明確にしましょう。（3時間）
14	事前学習	あらためて地方交付税の推移を調べてみましょう。（1時間）
	授業内容	財政力格差と地方交付税（2） ・地方交付税に対する誤解。
	事後学習	地方交付税への誤解とそれに対する解答を考えてみましょう。（3時間）
15	事前学習	第2回～第14回の内容を振り返っておきましょう。（1時間）
	授業内容	前期授業のまとめと復習 ・前期授業の復習 ・試験準備のポイント説明
	事後学習	授業の内容を復習し、テストに備えましょう。（3時間）

科目名	地方財政論Ⅱ	担当者	斎藤 英明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国家財政と地方財政の違い，戦後，地方財政が経済成長のためにどのように利活用されてきたのかについて学ぶ。そのうえで，租税，公債，補助金について国家財政との関係に鑑みながら学ぶ。				
授業目的・到達目標	私たちの生活は地方自治体が供給するさまざまなサービスから影響を受けている。地方財政論Ⅱでは，地方財政の抱える問題を観察しながら，それらを解決するための方法を考え，自分の言葉で紡ぎだせるようにする。地方財政の制度や仕組みを知り，また，新聞やニュース等で地方自治体が抱える問題を知ろう。そのうえで，改善策を自分の言葉で紡ぎだすことができるようになることをこの授業の最大の目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2，4，5 公共政策学科1，3，4				
履修条件	特に無い。余裕があれば財政学も履修すると，より楽しく学ぶことができるであろう。また，前期に地方財政論Ⅰを履修すると，より理解が深まるだろう。				
授業方法	【授業区分】に沿って，講義形式で進める予定である。授業の最後に質問やコメントを書いてもらい，次の授業でレスポンスするなど，双方向性を高めたいと考えている。定期試験の解説は試験終了後，ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		85%	授業で学んだ理論や考え方が身に付き，自分の言葉で説明ができるようになっているのかを判断する。筆記試験を実施する予定である。	
	平常評価		15%	授業へ臨む態度，有意義な質問やコメントから判断する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特に指定しない。授業で使用する教材については，毎回ポータル等を通じて配布する。			
参考書	授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	木曜授業後（14:30～）に講堂で受け付けますが，事前に下記のアドレスにメールを送ってください。 hideaki_saito318@yahoo.co.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新聞やニュースで地方財政について触れてみましょう。（1時間）
	授業内容	ガイダンス ・履修上の注意。 ・後期の授業では何か学ぶのか。
	事後学習	シラバスを読み返し，履修すべきか否かをしっかりと考えましょう。また，単位習得のための心構えをしましょう。（3時間）
2	事前学習	身近な租税にはどのようなものがあるか調べてみましょう。（1時間）
	授業内容	地方税について学ぼう（1） ・国税と地方税の租税原則。 ・地方税原則。 ・所得税と住民税
	事後学習	国税と地方税の持つ役割の違いを整理しましょう。（3時間）
3	事前学習	法人関連課税を調べておきましょう。（1時間）
	授業内容	地方税について学ぼう（2） ・法人関連税。 ・地方自治体間の税收格差。
	事後学習	税收格差が発生する理由を確認しておきましょう。（3時間）

4	事前学習	スピルオーバー効果とは何か調べてみましょう。（1時間）
	授業内容	地方税について学ぼう（3） ・租税外部性，租税輸出。 ・課税競争，重複課税。
	事後学習	受益と負担が一致しないときの弊害を整理しておきましょう。（3時間）
5	事前学習	国庫支出金について調べましょう。（1時間）
	授業内容	国庫支出金について知ろう ・地方交付税との違い。 ・政府間財政移転。 ・一般補助金と特定補助金
	事後学習	地方交付税と国庫支出金の違いを整理しましょう。（3時間）
6	事前学習	公債の種類について整理しましょう。（1時間）
	授業内容	財源不足の対処方法を知ろう ・国債と地方債の違い。 ・地方債の発行方法と残高。
	事後学習	公債の弊害を整理しましょう。（3時間）
7	事前学習	自治体財政健全化法成立の背景を調べましょう。（1時間）
	授業内容	財政悪化を防ぐ方法を知ろう ・自治体財政健全化法
	事後学習	財政再建への段階基準を復習しておきましょう。（3時間）
8	事前学習	自分の住んでいる自治体にある第3セクターを調べてみましょう。（1時間）
	授業内容	別の方法での政策実施方法を知ろう ・地方公営企業。 ・第3セクター，PFI。
	事後学習	第3セクター，PFIのメリット・デメリットを確認しましょう。（3時間）
9	事前学習	足による投票とは何か調べてみましょう。（1時間）
	授業内容	地方分権の効果を考えてみよう（1） ・足による投票と手による投票。 ・分権化定理
	事後学習	足による投票の現実的妥当性について考えてみましょう。（3時間）
10	事前学習	市町村合併が行われた目的を調べましょう。（1時間）
	授業内容	地方分権の効果を考えてみよう（2） ・道州制，市町村合併。 ・最適自治体規模。
	事後学習	道州制導入がもたらす未来を考えてみましょう。（3時間）
11	事前学習	生産関数を復習しておきましょう。（1時間）
	授業内容	自治体を成長させる方法を考えよう（1） ・生産関数を用いた経済成長。
	事後学習	経済成長理論を復習しておきましょう。（3時間）
12	事前学習	NIMBYの意味を調べておきましょう。（1時間）
	授業内容	自治体を成長させる方法を考えよう（2） ・NIMBY。
	事後学習	自分にとってのNIMBYを考えてみましょう。（3時間）
13	事前学習	原子力発電所が立地する地方自治体を調べてみましょう。（1時間）
	授業内容	自治体を成長させる方法を考えよう（3） ・原子力発電所の経済効果。
	事後学習	原子力発電所は地域振興の手段になるか否か考えてみましょう。（3時間）
14	事前学習	費用対便益とは何か調べてみましょう。（1時間）
	授業内容	政策実施の基準を考えてみよう ・費用便益分析 ・費用対効果
	事後学習	費用対便益と費用対効果の違いを確認しましょう。（3時間）

15	事前学習	第2回～第14回の内容を振り返っておきましょう。（1時間）
	授業内容	後期授業のまとめと復習 ・後期授業の復習 ・試験準備のポイント説明
	事後学習	授業の内容を復習し、テストに備えましょう。（3時間）

科目名	地方自治法Ⅰ	担当者	西原 雄二	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業では、地方自治法の理論や制度について基本的な知識や考え方を習得する。地方自治法に関する重要な問題を取り上げて、簡潔に説明する。				
授業目的・到達目標	地方自治法の基本的構造とそれを支える基本的概念を理解しながら、身近で重要な法律の一つである地方自治法に興味・関心をもってもらえるようにすることを目的とする。さらには、地方自治法の基礎的知識を身に付け、新たな知見を生み出すことができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 3 政治経済学科2 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	六法を持参すること。				
授業方法	講義形式を基本とするが、適宜、質疑応答を行う。板書をしながら解説する。 最終授業回数において、授業内試験60分、解説30分を実施する。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定 期 試 験		100%		定期試験の成績に基づいて評価する。 地方自治法の基本的な事項が十分に理解できているかどうかを判定する。
	平 常 評 価		0%		
教科書	年	出版社		書名	著者名
	使用しない。	使用しない。		使用しない。	使用しない。
	備考				
参 考 書	授業の中で紹介する。				
オフィスアワー	火曜日 1 4 : 3 0 に質問を受付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、六法で憲法と地方自治法について、ざっと目を通してみること。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 授業のテーマや内容、成績評価の方法等を含めて、法学の学習方法について説明し、受講者が授業の準備を具体的に 行えるようにする。
	事後学習	六法で憲法と地方自治法にざっと目を通し、どのようなことを学ぶのかを理解すること。（2時間）
2	事前学習	事前に当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	地方自治とは何か 地方自治の2つの要素である住民自治と団体自治の意義や内容について考察する。
	事後学習	講義ノートを確認し、感想をノートにまとめること。（2時間）
3	事前学習	事前に当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	憲法上の地方自治 憲法が規定する地方自治の基本原則について学習し、地方自治の主要なテーマが何であるかを考察する。
	事後学習	授業で行った内容を憲法や講義ノート等で確認し、感想をノートにまとめること。（2時間）
4	事前学習	事前に当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	地方自治法の基本構造 地方自治法の基本構造について学習し、地方自治法とは何かについて、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）

5	事前学習	事前に当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の種類（1） 普通地方公共団体の種類と特色について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつき合わせて、自分なりの意見をまとめること。（2時間）
6	事前学習	事前に当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の種類（2） 特別地方公共団体の種類と特色について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつき合わせて、さらに理解を深めること。（2時間）
7	事前学習	事前に当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の事務（1） 地方公共団体の事務の歴史と特質について学習し、受講者が説明できるようにする
	事後学習	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、感想をノートにまとめること。（2時間）
8	事前学習	事前に当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の事務（2） 地方公共団体の事務の種類と内容について学習し、受講者が説明できるようにする
	事後学習	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、自分なりの意見をまとめること。（2時間）
9	事前学習	事前に当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	自治立法（1） 地方公共団体における自治立法の意義や特色について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、感想をノートにまとめること。（2時間）
10	事前学習	事前に当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	自治立法（2） 条例制定権をめぐる諸問題について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、感想をノートにまとめること。（2時間）
11	事前学習	事前に当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	自治立法（3） 法律と条例の関係について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を講義ノート等とつき合わせて、自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
12	事前学習	事前に当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	住民の権利（1） 選挙権と直接請求権の意義や種類について考察する。
	事後学習	授業で行った内容を六法や講義ノート等とつき合わせて、さらに理解を深めること。（2時間）
13	事前学習	事前に当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	住民の権利（2） 住民監査請求と住民訴訟の意義や内容について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を六法や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をまとめること。（2時間）
14	事前学習	事前に当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	住民の権利（3） 住民参加と公の施設利用権の意義や内容について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業の内容を講義ノート等で復習し、自分の考えを述べられるようにまとめること。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業の内容を六法や講義ノート等で復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業のまとめ
	事後学習	これまでの授業内容を再度復習し、定期試験の準備をすること。（2時間）

科目名	地方自治法Ⅱ	担当者	西原 雄二	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業では、地方自治法の理論や制度について基本的な知識や考え方を習得する。前期の「地方自治法Ⅰ」で取り上げなかった重要な問題を中心に解説する。			
授業目的・到達目標	地方自治法の基本的構造とそれを支える基本的概念を理解しながら、身近で重要な法律の一つである地方自治法に興味・関心をもってもらえるようにすることを目的とする。さらには、地方自治法の基礎的知識を身に付け、新たな知見を生み出すことができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 3 政治経済学科2 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	六法を持参すること。			
授業方法	講義形式を基本とするが、適宜、質疑応答を行う。板書をしながら解説する。 最終授業回数において、授業内試験60分、解説30分を実施する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験	100%	定期試験の成績に基づいて評価する。 地方自治法の基本的な事項が十分に理解できているかどうかを判定する。	
	平 常 評 価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年	弘文堂	地方自治法（※2019年9月刊行予定）	池村好道・西原雄二編
	備考			
参 考 書	授業の中で紹介する。			
オフィスアワー	火曜日14：30に質問を受付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、地方自治法の条文と教科書をざっと目を通してみること。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 授業のテーマや内容、成績評価の方法等を含めて、法学の学習方法について説明し、受講者が授業の準備を具体的に 行えるようにする。
	事後学習	教科書と地方自治法にざっと目を通し、どのようなことを学ぶのかを理解すること。（2時間）
2	事前学習	事前に教科書で当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の構成要素 地方公共団体の住民、区域、自治権について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書や講義ノートを確認し、感想をノートにまとめること。（2時間）
3	事前学習	事前に教科書で当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の機関（1） 地方公共団体の議会の特色や権限について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書や講義ノート等で確認し、感想をノートにまとめること。（2時間）
4	事前学習	事前に教科書で当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の機関（2） 地方公共団体の議会の運営について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）

5	事前学習	事前に教科書で当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の機関（3） 地方公共団体の執行機関の種類と特色について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
6	事前学習	事前に教科書で当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の機関（4） 議会と執行機関との関係について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
7	事前学習	事前に教科書で当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	外部監査 外部監査制度の意義や内容について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
8	事前学習	事前に教科書で当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	国の関与（1） 地方公共団体に対する国の関与の仕組みと特色について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
9	事前学習	事前に教科書で当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	国の関与（2） 地方公共団体に対する国の関与手続について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書や講義ノート等とつぎ合わせて、感想をノートにまとめること。（2時間）
10	事前学習	事前に教科書で当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	国の関与（3） 地方公共団体と国との紛争処理制度について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書や講義ノート等で確認し、感想をノートにまとめること。（2時間）
11	事前学習	事前に教科書で当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	自主行政権 地方行政と情報公開・個人情報保護について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
12	事前学習	事前に教科書で当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	公の施設 地方公共団体における公の施設の設置・管理責任について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
13	事前学習	事前に教科書で当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	地方財務（1） 地方財政の仕組みと特色について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
14	事前学習	事前に教科書で当該箇所について調べてみること。（2時間）
	授業内容	地方財務（2） 地方債、地方税、国庫補助金の意義や内容について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書や講義ノート等で確認し、自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業の内容を教科書や講義ノート等で復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業のまとめ
	事後学習	これまでの授業内容を再度復習し、定期試験の準備をすること。（2時間）

科目名	地方自治論Ⅰ	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	政治学や行政学の展開科目として、地方自治の制度や機能そして歴史などに関する基本的な事項を学ぶ。地方自治は日々目まぐるしく動いていることから、それら実例を豊富に紹介しながら地方自治の抱える諸課題にも目を配り理解を促していく。			
授業目的・到達目標	積極的に「地方自治」の諸問題に関心を抱き、その上で主体的に行動することができる地方自治の当事者（＝主役・主人公）を養成することを授業の目的とする。地方公務員を目指す学生においては、自発的に専門的な問題意識を育んでいけるようになることを、またそれ以外の学生においても、地方自治の主人公として積極的な「市民」像を育めるようになることを授業の到達目標とする。対応DP及びCP：政治経済学科2,4 新聞学科1,5 公共政策学科1,3,4			
履修条件	特にない。本講義科目と併せて、地方財政論Ⅰ、Ⅱ、行政学Ⅰ、Ⅱ（行政学）、財政学Ⅰ、Ⅱ、などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。			
授業方法	指定教科書に沿って講義を進める。必要に応じて講義資料を配布する。各単元（章）毎に復習テストを行い、後日その解説を行うことで当該分野の理解を深める。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	筆記試験は地方自治論の主要な事柄が理解されているかを判定する。授業中に解説された基本的項目・事項について理解すること	
	平常評価	20%	授業への積極的な参加度、レポートの提出等宿題によって評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	三恵社	地方自治を学ぶ―要点と資料―〔第2版〕	賀来 健輔
	備考	教科書は、必ず2019年発行のものを用意すること。		
参考書	山田光矢・福島康仁編『地方自治論〔第2版〕』弘文堂、2018年。 この他必要に応じて、授業の際に適宜紹介する。			
オフィスアワー	木曜日12時～13時。 また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールでアポイントメントを取ること。 研究室：本館7階 1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書の目次や各章を参照し、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	これからの授業概要、講義計画、成績評価の方法などの説明と、教科書・参考文献の紹介し、受講生が受講の準備を具体的にできるようにする。
	事後学習	指定された教科書を購入し、第1回目に行った授業内容をもとに、これからの自らの学習計画と他の履修科目との関連性について検討する。（2時間）
2	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の種類(1)普通地方公共団体(1) 県・市町村について、その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）
3	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の種類(2)普通地方公共団体(2) 指定都市・中核市・施行時特例市について、その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）
4	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の種類(3)特別地方公共団体(1) 特別区・一部事務組合・広域連合について、その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）

5	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の種類(4)特別地方公共団体(2) 財産区、外郭団体について、その制度的概要、問題点を学習する。また地方公共団体の種類のところを改めて全体的に復習する形で確認する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
6	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の区域(1)市町村の区域の変更 その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
7	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の区域(2)市町村合併 その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
8	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の区域(3)平成の大合併 その検証を行い問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
9	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の区域(4)都道府県の区域の問題 道州制、連邦制について、その概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
10	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の組織(1)首長、首長の補助機関 その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
11	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の組織(2)出先機関、執行機関の付属機関 その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
12	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の組織(3)行政委員会(1)行政委員会 その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
13	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の組織(4)行政委員会(2) 個別行政委員会の概要と行政委員会制度の問題点について学ぶ。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
14	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の事務 その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次の授業で質問する。（2時間）
15	事前学習	前期の授業で学んだ事柄について、教科書やノートを見直し全体的な理解に努める。（2時間）
	授業内容	前期授業のまとめとして、これまで取り上げた事柄の主要な点について改めて取り上げ確認することで、理解を一層深いものにする。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でこれまで前期でとった講義ノートで復習し、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は教員に質問し、期末試験に備える。（2時間）

科目名	地方自治論Ⅰ	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	我々の日常生活上の身近な問題は、個々の人間の努力だけでは解決することができない。住んでいる地域の自治体との協力が不可欠である。また、近年、地方分権改革を経て、地方自治の重要性が指摘され、自治体の業務等にも変化が生じてきた。本講義では、わが国の地方自治制度とその特徴、各国の地方自治制度等について学ぶ。			
授業目的・到達目標	本講義では、地方自治の制度や現状の課題等を理解し、地方自治に関する問題を捉える視点やその解決のために必要な知識を養うことを目的とする。地方自治についての知識を修得し、地方自治をめぐる問題について、自ら考える能力を身に付けることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科：2、4 新聞学科：1、5 公共政策学科：1, 3, 4			
履修条件	特になし。ただし、私語など学習の妨げになる行為を行わないなど基本的なマナーをわきまえることを求める。			
授業方法	講義形式の授業である。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		70%	定期試験により評価する。論理的な思考や文章表現力等を基準として評価する。
	平 常 評 価		30%	授業参加度や授業内のリアクションペーパー等により評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	弘文堂	地方自治論〔第2版〕	福島康仁編
	備考			
参 考 書	吉野篤編（2018）『政治学〔第2版〕』弘文堂。その他にも、講義の内容に応じ適宜紹介する。（例：寄本勝美・小原隆治編（2011）『新しい公共と自治の現場』コモンズなど。）			
オフィスアワー	火曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）。 研究室（9号館5階）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容		
1	事前学習	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書のiii頁及び各章冒頭の「本章のポイント」を読み、地方自治論の全体像を把握し、自分の考えをまとめる。（2時間）	
	授業内容	授業のテーマや内容、授業計画及び成績評価等について説明し、受講生が今後の授業の準備を行えるようにする。また、地方自治、地方自治論とは何かについて学習し、概説できるようになる。	
	事後学習	教科書を読み直し、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「地方自治」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）	
2	事前学習	教科書2～7頁を読み、地方政府と自治権について自分の考えをまとめる。（2時間）	
	授業内容	地方自治のあり方について理解するために、地方政府と自治権について学習し、説明できるようになる。	
	事後学習	教科書2～7頁を読み直し、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「地方政府と自治権」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）	
3	事前学習	教科書16～23頁を読み、明治時代の地方制度について自分の考えをまとめる。（2時間）	
	授業内容	【日本の地方自治制度の歴史（1）】現代の地方自治制度をよりよく理解するために、明治時代の地方制度について学習し、説明できるようになる。	
	事後学習	教科書16～23頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「明治時代の地方制度」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）	
4	事前学習	教科書24～27頁を読み、第二次世界大戦時までの地方制度について自分の考えをまとめる。（2時間）	
	授業内容	【地方自治法と地方自治制度（2）】現代の地方自治制度をよりよく理解するために、明治時代以降、第二次世界大戦時までの地方制度について学習し、説明できるようになる。	
	事後学習	教科書24～27頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「第二次世界大戦時までの地方制度」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）	

5	事前学習	教科書30～40頁を読み、日本国憲法と地方自治について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	現在の地方自治制度の基礎となる日本国憲法と地方自治について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書30～40頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「日本国憲法と地方自治」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書44～47頁を読み、官僚制について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【地方自治法と地方自治制度（1）】地方自治制度を構成する地方公共団体の種類等について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書44～47頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「官僚制」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書48～53頁を読み、地方公共団体内の諸機関について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【地方自治法と地方自治制度（2）】動態的に地方自治を理解する基礎として、地方公共団体内の諸機関について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書48～53頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「地方公共団体内の諸機関」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書62～66頁を読み、地方分権改革について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【地方分権改革（1）】現在の地方自治をよりよく理解するために、地方分権改革までの地方自治の変遷と地方分権改革について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書62～66頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「地方分権改革」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書66～69頁を読み、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【地方分権改革（2）】現在の地方自治をよりよく理解するために、第一次地方分権改革以降の地方分権改革について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書66～69頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「第一次地方分権改革以降の地方分権改革」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書102～111頁を読み、地方財政制度について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【地方財政制度（1）】地方自治制度の基礎的な知識を養うために、地方財政制度、歳入と歳出について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書102～111頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「地方財政制度」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書111～115頁を読み、地方財政制度の改革等について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【地方財政制度（2）】地方自治の課題を捉えるために、地方財政制度の改革等について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書111～115頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「地方財政制度の改革等」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書120～127頁を読み、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	わが国の地方自治の現状等について理解するために、地方公共団体の再編と開発行政・広域行政について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書120～127頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「地方公共団体の再編と開発行政・広域行政」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
13	事前学習	教科書203～205頁を読み、諸外国の中央 - 地方関係等について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【各国の地方自治制度（1）】わが国の地方自治制度の課題等を考えるために、諸外国の中央 - 地方関係に関する理論等について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書203～205頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「諸外国の中央 - 地方関係等」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
14	事前学習	教科書206～211頁を読み、諸外国の地方自治について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【各国の地方自治制度（2）】わが国の地方自治の課題等を考えるために、イギリスやフランス、アメリカ等の地方自治について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書206～211頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「諸外国の地方自治」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
15	事前学習	初回から学習してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、地方自治の基礎的知識について考察する。（2時間）
	授業内容	これまでの講義の総括
	事後学習	これまで配布したレジュメや教科書等を見直し、期末試験に向けた準備をする。（2時間）

科目名	地方自治論Ⅰ	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	時代の潮流は、「中央から地方へ」となり、地方自治体の果たす役割はますます大きくなり、それへの住民の期待や関心は高まっている。さらに、主役である住民の活動にも自己決定と責任が求められるようになってきている。本講義では、地方自治の概念や基礎用語などの整理・説明からはじめたうえで、地方自治のなかで生じている具体的な問題について考察する。本講義では、事例などの分析において、審議会委員としての経験などを踏まえて解説する。			
授業目的・到達目標	地方自治のしくみについて基本的な知識を修得することを目的とする。地方自治の課題については、その本質を分析・理解することができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2，4 新聞学科1，5 公共政策学科1，3，4			
履修条件	特にないが、いうまでもなく講義中の私語は厳禁であり、真面目な学生の迷惑になるので、不真面目な学生の履修は遠慮願いたい。			
授業方法	地方自治に関する基礎理論を中心に講義をおこなう。基本的には、テキストを使用しますので、テキストを必ず持参してください。また、当然、出席を前提となります。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		90%	論述試験を実施し、評価する。
	平常評価		10%	レポートなどを提出による。（10%）
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	弘文堂	地方自治論	福島康仁編
	備考			
参考書	講義のテーマに応じて、講義の中で紹介する。			
オフィスアワー	原則水曜日の昼休みとする。事前にメールなどでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいっていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館6階の研究室。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	講義の概要を読んてくる（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	自分の学びたいことをまとめる。（2時間）
2	事前学習	1 歴史からみた国家と地方公共団体の関係、2 国家主権と自治権を読む。（2時間）
	授業内容	地方政府と自治権（1）
	事後学習	1 歴史からみた国家と地方公共団体の関係、2 国家主権と自治権をまとめる。（2時間）
3	事前学習	3 各国の地方公共団体の特徴、4 地方公共団体の政府形態を読んてくる。（2時間）
	授業内容	地方政府と自治権（2）
	事後学習	3 各国の地方公共団体の特徴、4 地方公共団体の政府形態をまとめる。（2時間）
4	事前学習	1 明治維新と地方制度、2 三新法と地方自治制度を読む。（2時間）
	授業内容	日本の地方自治制度の歴史（1）
	事後学習	明治時代の地方自治制度についてまとめる。（2時間）

5	事前学習	3 大日本帝国憲法と地方自治制度、4 戦前の地方自治制度の改正と戦時体制下の地方自治制度について読む。(2時間)
	授業内容	日本の地方自治制度の歴史(2)
	事後学習	戦前と戦後の地方自治制度についてまとめる。(2時間)
6	事前学習	1 日本国憲法と地方自治法、2 地方自治の本旨について読む。(2時間)
	授業内容	日本国憲法と地方自治(1)
	事後学習	地方自治の本旨についてまとめる。(2時間)
7	事前学習	3 日本型首長制の特徴と行政委員会、4 地方公共団体の権能、5 法律と条令、6 地方自治特別法と住民投票を読む。(2時間)
	授業内容	日本国憲法と地方自治(2)
	事後学習	日本の地方自治制度について憲法上の規定を復習する。(2時間)
8	事前学習	1 国と地方公共団体の関係と役割、2 地方公共団体の種類、3 直接請求権について読む。(2時間)
	授業内容	地方自治法と地方自治制度(1)
	事後学習	地方公共団体の種類と権限について復習する。(2時間)
9	事前学習	4 議会と執行機関、5 国と地方公共団体、地方公共団体の相互関係、について読む。(2時間)
	授業内容	地方自治法と地方自治制度(2)
	事後学習	地方自治法上の地方知事制度について要点をまとめる。(2時間)
10	事前学習	6 都制と特別区、政令指定都市と総合区・行政区、地域自治組織について読む。(2時間)
	授業内容	地方自治法と地方自治制度(3)
	事後学習	地方自治法上の地方知事制度について要点をまとめる。(2時間)
11	事前学習	地方分権改革の概要についてテキストで読む。(2時間)
	授業内容	地方分権改革(1)
	事後学習	第1次分権改革と第2次分権改革の成果について確認する。(2時間)
12	事前学習	民主党の分権改革と地域主権改革、一部事務組合・広域連合と事務の共同処理、地方分権改革と特区制度についてまとめる。(2時間)
	授業内容	地方分権改革(2)
	事後学習	民主党の分権改革と地域主権改革、一部事務組合・広域連合と事務の共同処理、地方分権改革と特区制度確認する。(2時間)
13	事前学習	戦後復興とインフレーション、シャウプ勧告と地方財政改革、三割自治と地方交付税交付金制度および国庫支出金制度を読む。(2時間)
	授業内容	地方財政制度の特徴と問題点(1)
	事後学習	シャウプ勧告と地方財政改革、三割自治と地方交付税交付金制度および国庫支出金制度をまとめる。(2時間)
14	事前学習	一般会計と特別会計、三位一体の改革、地域格差と地方財政の実態を読む。(2時間)
	授業内容	地方財政制度の特徴と問題点(2)
	事後学習	地域格差の諸要因を検討する。(2時間)
15	事前学習	いままでのものを整理しておくこと。(2時間)
	授業内容	試験とまとめ
	事後学習	試験後、見直しをすることをおすすめします。(2時間)

科目名	地方自治論Ⅰ	担当者	山田 光矢	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国家や地方公共団体の関係や主権と自治権の関係を中心に、地方自治制度存在の必要性やその目的と形態等を、主要国の地方自治制度の歴史・目的等と、明治維新以降の大日本帝国憲法下の地方自治制度の確立や改革の目的や方向性、戦後の日本国憲法と地方自治関連法規の整備と確立された日本の地方自治制度の概要や特色や改革の方向性等を解説し、日本の地方行財政制度の今後のあるべき方向性等について多様な考えを解説する。				
授業目的・到達目標	日本の地方自治制度をヨーロッパの主要国の地方自治制度と比較することを目的とし、その共通性や相違点を中心に分析し、日本の地方自治制度の特徴や問題点を明確にし、日本の地方自治制度の改革の歴史とその目的等を分析し、日本の地方自治制度のあるべき方向性についての理解度の高揚と、受講生各人の自分が理想とする日本の地方自治制度のあるべき姿を考えることができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2, 4 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	講義では教科書の内容だけでなく、地方自治の実態や問題点あるいは改革の方向性も扱うので、それに関する情報を得るために、一般紙を毎朝読んでくる。教室での守ることが当然とされる基本的なマナーやルールやエチケットを守る。				
授業方法	原則として講義中心で行います。学生の積極的な質問を歓迎します。なお、時事問題や地方自治に関する常識や講義内容の理解などを判断するためのレポート提出や小テストとその解説等を通じて理解度の高揚につなげます。レポートの講評を行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		60%	大きな問題 1 題と、項目を問う小問を4題出題し、大きな問題を60%、小問を40%で評価する。内容の程度が高いものは加点する。	
	平常評価		40%	前期レポート(2000字以上・A4版：前期提出)と授業への参加度と小テストとを総合して評価する。自主レポート(2000字以上・A4版：試験前まで)は加点要素とする。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	弘文堂		地方自治論（第二版）	福島康仁編 山田光矢他著
	備考				
参考書	吉野篤編・山田光矢他著 『政治学』（第二版） 弘文堂 その他講義時に必要に応じて紹介する				
オフィスアワー	火曜日 - 16：20～17：00 研究室（9号館5階9505） ※所用のために毎週確実に対応できないので、相談を希望する場合には事前にメールで連絡し、私からの相談可能な連絡を受けてからきてください。（myamada@law.nihon-u.ac.jp）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	統一地方選挙前半の結果と後半の予測等を整理してくる。（2時間）
	授業内容	ガイダンス授業：講義の概要 歴史から見た国家と地方公共団体の関係 前期統一地方選挙の結果と後期統一地方選挙の予測
	事後学習	日本の統一地方選挙の実態や今後について理解する（2時間）
2	事前学習	教科書第1章1-3を読んでくる（2時間）
	授業内容	地方政府と自治権：国家と地方の関係 集落と都市、国家と地方、主権と自治権 固有権説、伝来(承認)説、制度的保障説
	事後学習	固有権説・伝來說・制度的保障説の相違を理解する（2時間）
3	事前学習	教科書第1章4-6を読んでくる（2時間）
	授業内容	諸外国の地方自治制度と日本の地方自治制度の比較 住民自治と団体自治・制限列举方式と概括例示方式 各国の地方自治体の特徴、地方政府の形態
	事後学習	議院内閣制・首長（大統領）制・委員会制・市支配人制・住民総会制の相違を理解する（2時間）
4	事前学習	教科書第2章を読んでくる。「統一地方選挙と日本の地方自治の今後」のレポートを提出する（2時間）
	授業内容	明治維新と地方制度の確立、大日本帝国憲法と地方自治制度改革 廃藩置県、戸籍法と大区・小区制、三新法（郡区町村編成法・府県会規則・地方税規則） 市制町村制・明治の大合併・府県制郡制
	事後学習	明治維新後の地方自治制度改革の歴史を理解する（2時間）

5	事前学習	教科書第3章を読んでくる（2時間）
	授業内容	日本国憲法と地方自治制度Ⅰ 日本国憲法第8章と地方自治関連法規：憲法第92条と地方自治法第1条・第1条の2、第93条・第94条・第95条 地方自治の本旨、自治権、地方公共団体の機関と直接選挙、地方公共団体の権能、地方特別法と住民投票
	事後学習	地方自治の本旨、自治権の種類と性格、独立規制委員会、地方公共団体の権能等を理解する（2時間）
6	事前学習	教科書第4章を読んでくる。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の種類と区域：普通地方公共団体と特別地方公共団体 普通地方公共団体の執行機関と事務：首長制・独立規制（行政）委員会・審議会 首長制における議会の役割と住民の直接請求制度：リコール、イニシアティブ、レファレンダム 指定都市制度、広域連合、住民投票制度等を理解する。（2時間）
	事後学習	
7	事前学習	教科書第5章1-3を読んでくる（2時間）
	授業内容	大日本帝国憲法下の地方自治制度改革と日本国憲法制定から高度経済成長期の地方自治制度改革 明治維新後の地方自治制度と大日本帝国憲法下の地方自治制度改革の流れ GHQ主導の地方自治制度改革とサンフランシスコ講和会議後の地方自治制度改革の流れ
	事後学習	大日本帝国憲法下の地方自治制度改革の流れと、日本国憲法下の地方自治制度改革の流れを理解する（2時間）
8	事前学習	教科書第5章4-6を読んでくる（2時間）
	授業内容	高度経済成長の終焉後の政治経済の混乱と政権交代を挟んだ地方自治制度改革 ネオ・コーポラティズムを活用した地方制度改革の流れ 政権交代と地方自治制度改革の目的と方向性
	事後学習	20世紀末から現在までの政権交代を挟んだ地方自治制度改革の目的や問題点を理解する（2時間）
9	事前学習	レポートの返還と講評（2時間）
	授業内容	レポートの書き方等を解説する レポートの内容や特徴を解説する レポート評価の標準等を解説する
	事後学習	統一地方選挙の結果と今後の日本の地方自治の方向性などを理解する（2時間）
10	事前学習	教科書第6章・第7章を読んでくる（2時間）
	授業内容	地方行財政改革が目的とするガバメントからガバナンスへの転換と地方自治制度の転換：NPM、PPP等 広域行政の方向性と大都市制度・地域間連携制度、都市内分権、都市計画、地域運営組織、小さな拠点等 住民による民主的統制：住民の民主的統制と情報公開・行政不服審査・行政相談・オンブズマン制度他
	事後学習	複雑な地方自治制度改革の内容や方向性、民主的統制に関する諸制度を理解する（2時間）
11	事前学習	教科書第8章を読んでくる（2時間）
	授業内容	日本の地方財政制度の特色 三割（四割）自治と地方交付金制度ならびに国庫支出金（補助金）制度 日本の地方財政制度の課題
	事後学習	日本の地方財政の実態を理解する（2時間）
12	事前学習	教科書第9章1-2を読んでくる（2時間）
	授業内容	地方公共団体設定の基準 地方公共団体の変遷（設定基準） 明治の大合併、昭和の大合併、平成の大合併と地方公共団体の変質
	事後学習	地方公共団体の設定基準、三度の大大合併とその後の広域行政制度の展開の目的と必要性を理解する（2時間）
13	事前学習	教科書第9章3-4を読んでくる（2時間）
	授業内容	平成の大合併後の地方自治制度 全国総合開発計画と広域行政の展開 拠点開発方式、ネットワーク方式、広域市町村圏、地方生活圏、ふるさと市町村圏、地方拠点都市地域
	事後学習	時代の変遷と広域行政の変質を理解する（2時間）
14	事前学習	教科書第9章5-6を読んでくる（2時間）
	授業内容	21世紀の新しい全国総合開発計画 21世紀国土のグランドデザイン、国土形成計画と定住自立圏 地方創生と新しい自治制度：第二次国土形成計画と連携中枢都市圏
	事後学習	平成の大合併後の新しい広域行政政策を理解する（2時間）
15	事前学習	これまでの講義の内容を再確認してくる（2時間）
	授業内容	学生の理解度の確認 講義概要の整理とレポート等の評価 講義に関する質問と回答を通じた理解度の確認と向上
	事後学習	試験に向けてこれまでの講義内容を再確認する（2時間）

科目名	地方自治論Ⅱ	担当者	賀来 健輔	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	政治学や行政学の展開科目として、地方自治の制度や機能そして歴史などに関する基本的な事項を学ぶ。地方自治は日々目まぐるしく動いていることから、それら実例を豊富に紹介しながら地方自治の抱える諸課題にも目を配り理解を促していく。				
授業目的・到達目標	積極的に「地方自治」の諸問題に関心を抱き、その上で主体的に行動することができる地方自治の当事者（＝主役・主人公）を養成することを授業の目的とする。地方公務員を目指す学生においては、自発的に専門的な問題意識を育んでいけるようになることを、またそれ以外の学生においても、地方自治の主人公として積極的な「市民」像を育めるようになることを授業の到達目標とする。対応DP及びCP：政治経済学科2,4 新聞学科1,5 公共政策学科1,3,4				
履修条件	特にない。本講義科目と併せて、地方財政論Ⅰ、Ⅱ、行政学Ⅰ、Ⅱ（行政学）、財政学Ⅰ、Ⅱ、などの関連科目を履修することで、より深い理解が期待される。				
授業方法	指定教科書に沿って講義を進める。必要に応じて講義資料を配布する。各単元（章）毎に復習テストを行い、後日その解説を行うことで当該分野の理解を深める。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		80%		筆記試験は地方自治論の主要な事柄が理解されているかを判定する。授業中に解説された基本的項目・事項について理解すること
	平常評価		20%		授業への積極的な参加度、レポートの提出等宿題によって評価する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	三恵社		地方自治を学ぶ―要点と資料―〔第2版〕	賀来 健輔
	備考	教科書は、必ず2019年発行のものを用意すること。			
参考書	山田光矢・福島康仁編『地方自治論〔第2版〕』弘文堂、2018年。 この他必要に応じて、授業の際に適宜紹介する。				
オフィスアワー	木曜日12時～13時。 また他の曜日、時間帯でも可能。必ず事前にメールでアポイントメントを取ること。 研究室：本館7階 1717 メールアドレス：kaku.kensuke@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方議会の組織と機能(1) 議会の基本的性格、議会の組織と運営について、その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）
2	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方議会の組織と機能(2) 議会の権限、議会と住民の関係、地方議会の諸問題について学ぶ。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）
3	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体への住民参加(1) 地方公共団体への住民参加の意味合いについてその概要を学ぶ。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）
4	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。（2時間）
	授業内容	地方公共団体への住民参加(2) 住民参加を地方公共団体への統制の面から焦点をあて、その制度的概要、問題点を学習する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。（2時間）

5	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	地方公共団体への住民参加(3) 直接請求制度とは何かについて、その概要と課題について学ぶ。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
6	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	地方公共団体への住民参加(4) 条例に基づく住民投票の概要と課題及び展望について学ぶ。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
7	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	地方公共団体に対する統制(1) 情報公開制度(1) 情報公開制度とは、制度化の変遷、制度の仕組みについて学ぶ。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
8	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	地方公共団体に対する統制(2) 情報公開制度(2) 公開の「範囲」をめぐる論点、情報公開制度の課題について学ぶ。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
9	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	地方公共団体に対する統制(3) オンブズマン制度(1) オンブズマン制度とは何かについて、その概要と制度化の変遷などを通して学ぶ。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
10	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	地方公共団体に対する統制(4) オンブズマン制度(2) 地方公共団体のオンブズマン制度、川崎市市民オンブズマン制度の事例紹介について学ぶ。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
11	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	地方公共団体の基本原理(1) 憲法における地方自治の保障について基本的概要を学ぶ。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
12	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	地方公共団体の基本原理(2) 地方自治を考える所論を取り上げ、その概要を紹介することで受講生の問題意識を涵養する。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
13	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	地方公共団体の変遷(1) 戦前の地方制度に関する主な出来事を取り上げ、歴史的な文脈での理解に努める。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
14	事前学習	あらかじめ教科書の該当章を読んで学習する。またウェブサイトやテレビ、新聞などで、日ごろから地方自治の当該章に関する話題に関心を向ける。(2時間)
	授業内容	地方公共団体の変遷(2) 戦後の地方制度に関する主な出来事を取り上げ、歴史的な文脈での理解に努める。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でとった講義ノートで復習し、理解に努める。仕上げとして章末の問題を解き、理解を確認する。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は、次回の授業で質問する。(2時間)
15	事前学習	後期の授業で学んだ事柄について、教科書やノートを見直し全体的な理解に努める。(2時間)
	授業内容	後期授業のまとめとして、これまで取り上げた事柄の主要な点について改めて取り上げ確認することで、理解を一層深いものにする。
	事後学習	改めて教科書の該当章と授業でこれまで前期でとった講義ノートで復習し、理解に努める。疑問点は参考書にあたり疑問を解消する。それでも残った疑問点は教員に質問し、期末試験に備える。(2時間)

科目名	地方自治論Ⅱ	担当者	鈴木 隆志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	我々の日常生活上の身近な問題は、個々の人間の努力だけでは解決することができない。住んでいる地域の自治体との協力が不可欠である。また、近年、地方分権改革を経て、地方自治の重要性が指摘され、自治体の業務等にも変化が生じてきた。本講義では、自治体の経営・運営、住民参加、政策形成等について学ぶ。			
授業目的・到達目標	本講義では、地方自治の制度や現状の課題等を理解し、地方自治に関する問題を捉える視点やその解決のために必要な知識を養うことを目的とする。地方自治についての知識を修得し、地方自治をめぐる問題について、自ら考える能力を身に付けることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科：2、4 新聞学科：1、5 公共政策学科：1, 3, 4			
履修条件	特になし。ただし、私語など学習の妨げになる行為を行わないなどの基本的なマナーをわきまえていることを求める。			
授業方法	講義形式の授業である。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		70%	定期試験により評価する。論理的な思考や文章表現力等を評価の基準とする。
	平 常 評 価		30%	授業参加度や出席状況及び授業内のリアクションペーパー等により評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	弘文堂	地方自治論〔第2版〕	福島康仁編
	備考			
参 考 書	吉野篤編（2018）『政治学〔第2版〕』弘文堂。その他にも、講義の内容に応じ適宜紹介する。（例：寄本勝美・小原隆治編（2011）『新しい公共と自治の現場』コモンズなど。）			
オフィスアワー	火曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること）。 研究室（9号館5階）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、本講義の内容等を把握する。また、教科書のiii頁及び各章冒頭の「本章のポイント」を読み、地方自治論の全体像を把握し、自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業計画及び成績評価等について説明し、受講生が今後の授業の準備を行えるようにする。また、わが国の地方自治について学習し、概説できるようになる。
	事後学習	教科書を読み直し、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「わが国の地方自治」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
2	事前学習	教科書72～78頁を読み、新たな自治体経営の手法等について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【自治体経営と自治体改革（1）】自治体経営の手法等について理解するために、PFIや指定管理者制度について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書72～78頁を読み直し、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「新たな自治体経営の手法」等について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書79～82頁を読み、行政評価や都市内分権等について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【自治体経営と自治体改革（2）】自治体経営の手法等について理解するために、行政評価や都市内分権等について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書79～82頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「行政評価や都市内分権等」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
4	事前学習	教科書97～99頁を読み、監査制度等について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【自治体行政への民主的統制（1）】地方自治を動的に理解するために、自治体の監査制度等について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書、レジュメ、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「第二次世界大戦時までの地方制度」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）

5	事前学習	教科書92～96頁を読み、オンブズマン制度について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【自治体行政への民主的統制（2）】地方自治を動態的に理解するために、オンブズマン制度等について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書92～96頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「オンブズマン制度」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書162～173頁を読み、自治体の広報・公聴活動について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	地方自治の現状について理解するために、自治体の広報・公聴活動について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書162～173頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「自治体の広報・公聴活動」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書176～187頁を読み、自治体の情報化について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	地方自治の現状について理解するために、自治体情報化と地方自治について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書176～187頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「自治体の情報化」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書133～135頁等を読み、住民の役割や協働について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【住民と自治（1）】地方自治を動態的に理解するために、住民の役割や協働について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書133～135頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「住民の役割や協働」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書55、54、136、137頁を読み、住民参加の制度やコミュニティについて自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【住民と自治（2）】住民参加の制度やコミュニティについて学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書55、54、136、137頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「住民参加の制度やコミュニティ」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書132～133頁等を読み、住民運動や自治基本条例等について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【住民と自治（3）】地方自治を動態的に理解するために、住民運動や自治基本条例等について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「住民運動や自治基本条例等」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
11	事前学習	事前に提示する文献を読み、自治体の行政組織及び特徴について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	地方自治の行政、執行について理解するために、自治体の行政組織及び特徴等について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書、レジュメ、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「自治体の行政組織及び特徴」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書190～201頁を読み、地方自治における持続可能な発展等について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	地方自治における課題について理解するために、持続可能な発展と地方自治について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書190～201頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「地方自治における持続可能な発展」等について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
13	事前学習	事前に提示する文献を読み、自治体における政策過程や体系について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【自治体の政策（1）】地方自治における基礎的な知識として自治体における政策過程や体系について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書、レジュメ、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「自治体における政策過程や体系」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
14	事前学習	教科書148～159頁を読み、自治体の政策について自分の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	【自治体の政策（2）】地方自治の現状や課題について理解するために、環境政策等を事例として取り上げ、自治体における政策過程や国や住民との関係について学習し、説明できるようになる。
	事後学習	教科書148～159頁を読み、授業ノート等を見返し、また関連文献を調べ、「自治体の政策」について自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
15	事前学習	初回から学習してきた教科書の該当ページや授業ノート等を見直し、地方自治の基礎的知識について考察する。（2時間）
	授業内容	これまでの講義の総括
	事後学習	これまで配布したレジュメや教科書等を見直し、期末試験に向けた準備をする。（2時間）

科目名	地方自治論Ⅱ	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	時代の潮流は、名実ともに地方の時代が到来し、住民の期待や関心は高まっている。さらに、主役である住民の活動にも自己決定と責任が求められるようになってきている。本講義では、地方自治の概念、地方自治のなかで生じている具体的な問題について考察する。本講義では、事例などの分析において、審議会委員としての経験などを踏まえて解説する。				
授業目的・到達目標	地方自治のしくみについて基本的な知識を修得することを目的とする。地方自治の課題については、その本質を分析・理解できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2, 4 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	特にないが、いうまでもなく講義中の私語は厳禁であり、真面目な学生の迷惑になるので、不真面目な学生の履修は遠慮願いたい。				
授業方法	地方自治に関する基礎理論を中心に講義を行う。論述試験の解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	論述試験を実施し、評価する。（90％、但し、履修人数によっては講義内試験が困難な場合がある。）レポートなどを提出による。（10％）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	弘文堂		地方自治論	福島康仁編
	備考				
参 考 書	講義のテーマに応じて、講義の中で紹介する。				
オフィスアワー	原則水曜日の昼休みとする。事前にメールなどでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいっていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館 6 階の研究室。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通すこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	問題点を明らかにし、質問する。（2時間）
2	事前学習	市町村合併と自治制度の再編について読む。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の再編と開発行政・広域行政（1）
	事後学習	全国総合開発計画と広域行政、全国総合開発計画の変質について考える。（2時間）
3	事前学習	平成の大合併と自治制度の変質について読む。（2時間）
	授業内容	地方公共団体の再編と開発行政・広域行政（2）
	事後学習	地方創生と身近な制度の導入について考える。（2時間）
4	事前学習	公害問題と自治体の対応について読む。（2時間）
	授業内容	環境政策と廃棄物処理
	事後学習	公害対策と自治体の対応（横出し条例・上乗せ条例他）について理解する。（2時間）

5	事前学習	NPMについて、概念を勉強する。（2時間）
	授業内容	新しい地方行政の展開と都市制度
	事後学習	行政評価の意義についてまとめる。（2時間）
6	事前学習	自治基本条例について読む。（2時間）
	授業内容	地域と多元的アクター
	事後学習	協働の概念について理解する。（2時間）
7	事前学習	行政の民主的統制、情報公開条例と情報公開法について読む。（2時間）
	授業内容	住民の自治体行政への民主的統制（1）
	事後学習	行政の民主的統制の手法についてまとめる。（2時間）
8	事前学習	パブリックコメント、オンブズマンについて読む。（2時間）
	授業内容	住民の自治体行政への民主的統制（2）
	事後学習	住民による統制についてまとめる。（2時間）
9	事前学習	広報・公聴の意義について考える。（2時間）
	授業内容	自治体の広報・公聴活動（1）
	事後学習	広報公聴の課題についてまとめる。（2時間）
10	事前学習	首長と広報組織、議会広報の役割と課題、広報メディアについて調べる。（2時間）
	授業内容	自治体の広報・公聴活動（2）
	事後学習	広聴組織についてまとめる。（2時間）
11	事前学習	自治体の電子情報化の事例を調べる。（2時間）
	授業内容	自治体情報化と地方自治（1）
	事後学習	自治体における情報化の現状についてまとめる。（2時間）
12	事前学習	情報化と住民、情報化と住民のリスクについて考える。（2時間）
	授業内容	自治体情報化と地方自治（2）
	事後学習	住民本位の自治体情報化とはなにか考える。（2時間）
13	事前学習	海外の地方自治制度について調べる（2時間）
	授業内容	諸外国の地方自治
	事後学習	アメリカの首長と議会との関係についてまとめる。（2時間）
14	事前学習	持続可能な発展を遂げるためには何が必要か考える。（2時間）
	授業内容	持続可能な発展と地方自治
	事後学習	持続可能な地方自治の意義についてまとめる。（2時間）
15	事前学習	いままでのまとめをする。（2時間）
	授業内容	試験とまとめ 人数の都合により総括に変更する
	事後学習	全体を通じて復習する。（2時間）

科目名	地方自治論Ⅱ	担当者	山田 光矢	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	少子高齢化社会の中で、人口減少・地域格差・地方消滅・限界集落等が問題視されている日本の地方の実情を理解し、中央政府と地方政府がその対策として掲げている政策や実際に行われている地方創生や地域創生に策を、教科書や私の論文その他各種資料を駆使して考察し、日本の各地方公共団体の地方創生や地域創生策等の特色や内容等を中心に解説する。			
授業目的・到達目標	日本の地方自治制度の実態や改革の方向性などに関する知識や理解度の向上を目的とし、参考文献や新聞記事等を読み込んでいき、現実に各地方ではどのような実態に直面しているのか、あるいはそうした問題に対してどのような対応をしているのかについての理解力を高め、受講生がそれぞれの考えを論じていくことができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2, 4 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	講義では教科書の内容だけでなく、地方自治の実態や問題点あるいは改革の方向性も扱うので、それに関する情報を得るために、一般紙を毎朝読んでくる。教室での守ることが当然とされる基本的なマナーやルールやエチケットを守る。			
授業方法	原則として講義中心で行いますが、学生との相互コミュニケーションのある講義にするため、積極的な質問を歓迎します。なお、時事問題や地方自治に関する常識や講義内容の理解などを判断するために時折小テストを実施します。レポートの講評を行います。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	60%	大きな問題 1 題と、項目を問う小問を4題出題し、大きな問題を60%、小問を40%で評価する。内容の程度が高いものは加点する。	
	平常評価	40%	前期レポート(2000字以上・A4版：前期提出)と授業への参加度と小テストとを総合して評価する。自主レポート(2000字以上・A4版：試験前まで)は加点要素とする。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019. 3.	日本大学法学会	長野県の地方制度の特質（政経研究第55巻第4号）	山田光矢著
	2018. 3. 1.	日本大学法学部	四国四県の地方創生（法学紀要第59巻）	山田光矢著
	2018. 2. 28.	日本大学法学部	群馬県の地方創生（桜文論叢第96巻）	山田光矢著
	備考			
参考書	福島康仁編・山田光矢他著『地方自治論』（第二版）			
オフィスアワー	火曜日 - 13:00～14:00 研究室（9号館5階9505） ※会議等のために毎週確実に対応できないことも考えられるので、相談を希望する場合には事前にメールで連絡し、私からの相談可能な連絡を受けてからきてください。（yamada.mitsuya@nihon-u.ac.jp）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	日本の地方自治制度の実態を日本国憲法第8章と地方自治法第1条、第1条の2、第1条の3を土台として考えてくる（2時間）
	授業内容	ガイダンス授業：講義の概要 日本国憲法と地方自治制度の解説と確認 地方自治法第1条・第1条の2・第1条の3を中心に現行地方自治制度を理解する
	事後学習	地方自治の本旨、自治権の理論、普通地方公共団体と特別地方公共団体を理解する（2時間）
2	事前学習	教科書第9章を読んでくる（2時間）
	授業内容	明治の大合併、昭和の大合併、平成の大合併と広域行政 全国総合開発計画と広域市町村圏等 国土形成計画と定住自立圏、第二次国土形成計画と連携中枢都市圏等
	事後学習	日本の市町村合併と広域行政の関係を理解する（2時間）
3	事前学習	教科書第15章を読んでくる（2時間）
	授業内容	諸外国の地方自治制度の特色 英米法系の国家と大陸法系の国家における地方自治制度の相違 地方政治と選挙制度
	事後学習	ヨーロッパ主要国の地方自治制度の変遷と特色を理解する（2時間）
4	事前学習	「群馬県の地方創生」（桜門論争96巻）の1を読んでくる（2時間）
	授業内容	群馬県の地方公共団体の変遷と広域行政圏 群馬県の歴史と群馬県の地方制度の変遷 四国四県の歴史と自治制度の特質（「四国四県の地方創生」法学紀要第59巻との対比）
	事後学習	戦後日本の都道府県ごとの地方自治制度の変遷と特質を資料を基に再確認する（2時間）

5	事前学習	「群馬県の地方創生」を（桜門論争96巻）の2を読んてくる（2時間）
	授業内容	群馬県の地域圏を単位とした地方公共団体の変遷と今後 群馬県の各地域の特色と将来構想等 四国四県の各地域の特色と将来構想等（「四国四県の地方創生」法学紀要第59巻との対比）
	事後学習	群馬県と四国四県の地域的特性と将来構想を理解する（2時間）
6	事前学習	「群馬県の地方創生」（桜門論争96巻）の3を読んてくる（2時間）
	授業内容	群馬県の地域区分と吾妻地域 群馬県における吾妻地域の特色 四国四県における高知県の特色（「四国四県の地方創生」法学紀要第59巻との対比）
	事後学習	吾妻地域と高知県を通じて過疎地域の地方創生の特徴を理解する（2時間）
7	事前学習	「群馬県の地方創生」（桜門論争96巻）の4を読んてくる（2時間）
	授業内容	吾妻地域の地方創生策と今後 吾妻地域の目指す地方創生策の特色と問題点 四国四県の瀬戸内地域と高知県の相違（「四国四県の地方創生」法学紀要第59巻との対比）
	事後学習	吾妻地域や四国四県の取組から日本の地方創生の地域的特色を理解する（2時間）
8	事前学習	「群馬県の地方創生」を参考に、いずれかの地方公共団体か地域行政単位の地方創生に関するレポートを作成してくる（2時間）
	授業内容	レポート課題に関する内容を資料「群馬県の地方創生」と「四国四県の地方創生」を用いて解説する 日本の広域行政や地方創生を資料を通じて解説する 地方圏における地方創生の特色を解説する
	事後学習	レポートの作成を通じて日本の地方自治制度の特色や問題点を理解する（2時間）
9	事前学習	レポートの返還と講評（2時間）
	授業内容	レポートの書き方等を解説する レポートの内容や特徴を解説する レポート評価の標準等を解説する
	事後学習	レポートの内容を解説に合わせて再確認する（2時間）
10	事前学習	「長野県の地方制度の特質」（政経研究第55巻第4号）の1、2を読んてくる（2時間）
	授業内容	長野県の市町村の特質を通して見た都道府県の市町村の特色を解説する 平成の大合併に関する長野県の特質及び長野県と比較してみたその他の都道府県の特質 長野県の地理的特性と市町村の歴史
	事後学習	平成の大合併が生み出した各都道府県の特質と長野県の特徴を理解する（2時間）
11	事前学習	「長野県の地方制度の特質」（政経研究第55巻第4号）の3を読んてくる（2時間）
	授業内容	長野県の広域行政の歴史を解説する 全国総合開発計画と長野県の広域行政の特質 長野県の広域連合の特質
	事後学習	四次にわたる全国総合開発計画と長野県の広域行政制度の特質を理解する（2時間）
12	事前学習	「長野県の地方制度の特質」（政経研究第55巻第4号）の4を読んてくる（2時間）
	授業内容	長野県の平成の大合併の進捗率の低さと広域連合制度活用の特徴を解説する 長野県で平成の大合併が進展しなかった背景 長野県の広域連合の多様性とその背景
	事後学習	長野県の地理的特徴と長野県の各広域連合制度の特質について理解する（2時間）
13	事前学習	「長野県の地方制度の特質」（政経研究第55巻第4号）の5を読んてくる（2時間）
	授業内容	長野県の広域連合と三重県の広域連合の比較を通じて、各都道府県の広域行政の相違を解説する 長野県と三重県の平成の大合併の特質 長野県と三重県の広域連合の特質
	事後学習	長野県と三重県の広域連合を通じて、他の都道府県との違いを理解する（2時間）
14	事前学習	「長野県の地方制度の特質」（政経研究第55巻第4号）の6を読んてくる（2時間）
	授業内容	長野県の定住自立圏や連携中枢都市圏の特色を解説する 長野県の将来に向けた新しい広域行政制度 広域連合と定住自立圏や連携中枢都市圏の特質
	事後学習	新しい時代に向けた長野県ない市町村の広域行政に向けた取り組みを理解する（2時間）
15	事前学習	これまでの講義の内容を再確認してくる（2時間）
	授業内容	学生の理解度の確認と向上 講義概要の整理とレポート評価等 講義に関する質問と回答を通じた理解度の確認と向上
	事後学習	試験に向けてこれまでの講義内容を再確認する（2時間）

科目名	調査ジャーナリズム	担当者	高橋 俊一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリストが現場で実際に何をしているか、ニュースをどう発掘するかを具体的に知り、調査報道について理解する。ジャーナリスティックなセンスを磨き、各自の進路開拓にも役立てる。				
授業目的・到達目標	大手新聞2社でいずれも社会部記者をつとめた講師キャリアを生かした「実戦的な内容」にする。当局発表や統計調査とはまったく異なる、記者自らが隠れた事実を調べあげて、自らの責任で報道する「調査報道」の真実と実態を受講生が理解することを目的とする。 「記者に何が必要か」「ジャーナリズムの責任」を学び、現代マスコミの問題も見きわめることをめざす。報道への基本知識と新聞、テレビ、ネットの情報を読み解く力を身につけられることを目標とする。実際の調査報道手法を学びながら、社会の動きに対する感性を少しずつ磨いていき、取材最前線だけでなく学界をめざす人にも一助とする。				
履修条件	関連科目はなし。新聞学科に少しでも関心があれば十分です。				
授業方法	講義を軸に、必要ならマスコミ各社や報道現場への見学、一線記者との接触なども考慮する。 フィードバックは、定期試験の解説を当日中に行うことを原則とする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		15%	筆記試験またはレポート提出を講義最終日あたりで求める。	
	平常評価		85%	講義への取り組み方や意欲、ニュースに対する感受性を評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	備考	なし。必要な場合は適時指定する。			
参考書	必要なら適時指定する。				
オフィスアワー	授業時間（金曜4限）とその前後に適時実施する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、授業概要や目的を理解しておく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	各自の進路希望に応じてガイダンス内容を再確認する。（2時間）
2	事前学習	新聞の精読をできる範囲で行う。（2時間）
	授業内容	報道とメディアの意味と実際について、国際的な感覚もふくめた考え方の基礎作り
	事後学習	授業内容を再確認する。（2時間）
3	事前学習	新聞の精読やテレビニュースの摂取をできる範囲で進めるとともに、ノートの合理的なつけ方を考える。（2時間）
	授業内容	新聞、テレビ、ネットの実態と特質
	事後学習	ノートの再確認を的確に行う。（2時間）
4	事前学習	新聞の精読を進めつつ、テレビやネットニュースの過不足を考える。（2時間）
	授業内容	取材の基本と調査報道への応用
	事後学習	授業内容の再確認とともに、諸メディアの特質をまとめる。（2時間）

5	事前学習	新聞の精読を、社会面を中心に行う。（2時間）
	授業内容	具体的な取材方法論とその課題について
	事後学習	最新ニュースの摂取を社会面中心に進めつつ、授業内容を再確認する。（2時間）
6	事前学習	新聞の精読を、経済面を重点に行い、よく出る経済容疑を理解しておく。（2時間）
	授業内容	調査報道の基本的構造について
	事後学習	授業内容を再確認し、問題の本質を数点にしばって考察する。（2時間）
7	事前学習	新聞記事の精読を、政治面中心に。（2時間）
	授業内容	調査報道事例の研究（海外、地方紙など）
	事後学習	授業内容の再確認し、社会問題への意識を固める。（2時間）
8	事前学習	新聞各紙のニュースの扱い方を点検する。（2時間）
	授業内容	調査報道事例の研究（全国紙レベルを中心に）と課題の分析
	事後学習	授業内容とニュースの社会性を確認する。（2時間）
9	事前学習	新聞の精読をできる範囲で。（2時間）
	授業内容	調査報道の対象と個別手法
	事後学習	ニュースの社会性とその反響を再確認する。（2時間）
10	事前学習	最新のビッグニュースは何か、ニュース価値をそれぞれの世界観に従って検討する。（2時間）
	授業内容	特ダネ競争と調査報道の関係およびそれぞれのあり方について
	事後学習	授業内容を再確認し、ノートに各自の意見をまとめる。（2時間）
11	事前学習	新聞の精読やテレビニュースの摂取をできる範囲で。（2時間）
	授業内容	現代調査報道と個人情報、プライバシー保護
	事後学習	重要ニュース事例の選択に関して、優先順位やその可否を考える。（2時間）
12	事前学習	新聞一面を精読し、最も重要と考えるニュースをピックアップして、その根拠をまとめる。（2時間）
	授業内容	調査報道と国家機密あるいは行政の秘密
	事後学習	「知る権利」の重要性和ニュース現場の責務を、授業内容に照らして考察する。（2時間）
13	事前学習	ニュース報道と人権をめぐる議論を点検する。（2時間）
	授業内容	メディア内部の諸問題について
	事後学習	授業内容を再確認し、自分の意見をまとめる。（2時間）
14	事前学習	初回からの授業内容を再点検し、ノートに自分の考え方を補充する。（2時間）
	授業内容	調査報道の条件と特質
	事後学習	報道現場の在り方に思いをはせ、事例ごとの評価と批判を行う。（2時間）
15	事前学習	ノートを再点検し、授業で触れてきたニュース事例が今に及ぼす影響を考える。（2時間）
	授業内容	まとめ・質問受け付け。総括的なテストをすることもある。
	事後学習	授業内容全般の再確認をし、自分の「ニュース観」を固める。（2時間）

科目名	倒産法 I	担当者	杉本 純子	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、日本の倒産法制のうち、主に清算型倒産手続を規定する破産法を学ぶ。各々の倒産手続の流れを学ぶとともに、倒産手続の開始に伴う契約関係の処理や相殺権の行使など倒産実体法についても理解を深める。			
授業目的・到達目標	この講義では、破産法と民事再生法を中心とする倒産法制への理解力を養成することを目的とする。より具体的には、各倒産手続の流れや相違点を学ぶとともに、社会における倒産処理手続の必要性を理解し、説明できることを目標とする。 関連DP及びCP:法律学科1,3 経営法学科1,3			
履修条件	特にないが、担保物権、債権総論・各論の知識がある方が望ましい。 六法は最新のものを持参すること。			
授業方法	事前にレジュメを配布する。講義では、スライド（パワーポイント）を使用しながら、配布レジュメに沿って講義を行う。 定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	授業で扱った内容の全体について、理解度を問う。	
	平常評価	20%	講義への参加度。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用せず。 配布レジュメを使用する。		
参考書	山本和彦『倒産処理法入門』第5版（有斐閣、2018年）、中島弘雅＝佐藤鉄男『現代倒産手続法』（有斐閣、2013年）、松下淳一『民事再生法入門』第2版（有斐閣、2014年）、伊藤眞ほか編『倒産判例百選』第5版（有斐閣、2013年）			
オフィスアワー	火曜日13:00～14:00（事前にメールでアポイントメントをとること） 研究室（4号館1階417） sugimoto.junko@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、倒産に関する新聞記事やニュースなどを調べておく。（2時間）
	授業内容	講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法等についてガイダンスを行った後、倒産処理制度の概要について学習する。
	事後学習	倒産処理制度の概要について、講義ノートなどを確認しながら復習する。（2時間）
2	事前学習	講義レジュメを参考にしながら倒産処理制度の概要について改めて復習し、「破産」とはどのような状態に陥ることを言うのかについて、自分で調べておく。（2時間）
	授業内容	破産手続の基本的な流れについて概観を学ぶとともに、破産管財人を中心とする破産手続の機関について学習する。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを確認しながら、破産手続の社会における必要性と基本的な手続の流れについて復習する。（2時間）
3	事前学習	破産法の条文を参考にしながら、破産手続の申立てから開始決定までの流れを予習する。（2時間）
	授業内容	破産手続の申立てから開始決定に至るまでの手続きの流れを学習する。破産法の条文を参考に、破産手続開始原因や申立ての要件、開始決定の要件を学ぶ。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続の申立てから開始決定までの流れを復習する。（2時間）
4	事前学習	破産法の条文を参考に、破産財団の定義と破産手続における債権の種類と優先順位について予習する。（2時間）
	授業内容	破産手続における破産財団の範囲、債権の種類と優先順位について学習する。破産法の条文を参考に、破産財団の固定主義や自由財産、破産債権・財団債権の性質等について学ぶ。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産財団の定義・範囲と破産手続における債権の種類と優先順位について復習する。（2時間）

5	事前学習	破産法の条文を参考に、破産手続における別除権の取扱いについて予習するとともに、民法における担保物権の種類や各々の担保物権の性質について復習する。（2時間）
	授業内容	破産手続における別除権の取扱いについて学習する。平時における担保権の性質や役割が、破産手続においてどのように反映されているのかについて、各担保物権の知識の再確認とともに学ぶ。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続における別除権の定義やその取扱いについて復習する。（2時間）
6	事前学習	民法を参考にしながら、保証契約や連帯保証契約について復習しておく。（2時間）
	授業内容	破産手続における多数債務者関係と破産債権について学習する。平時における保証契約や連帯保証契約が、破産手続においてどのように取り扱われるのか、破産手続における保証人や連帯保証人の地位と債権者の権利について学ぶ。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続における多数債務者関係について復習する。（2時間）
7	事前学習	民法を参考に、売買契約や請負契約を中心とする双務契約について復習しておく。（2時間）
	授業内容	破産手続における双方未履行双務契約の処理について学習する。売買契約を中心にしながら、契約の一方当事者に破産手続が開始した場合、双方未履行状態の双務契約がどのように取り扱われるのかを学ぶ。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、双務契約の性質を確認するとともに、破産手続における双方未履行双務契約の処理について復習する。（2時間）
8	事前学習	破産法の条文を参考に、破産手続における双方未履行双務契約の基本的な取扱いについて復習しておく。（2時間）
	授業内容	破産手続における双方未履行双務契約の基本的な取扱いを復習するとともに、請負契約や雇用契約等の破産手続における取扱いについても、さらに理解を深める。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、各々の双方未履行双務契約の処理について、民法の条文も再確認しながら復習する。（2時間）
9	事前学習	民法を参考にしながら、相殺制度とは何かについて復習しておく。（2時間）
	授業内容	破産手続における取戻権の取扱いと相殺権について学ぶ。特に、相殺の担保的機能が破産手続においてどのように反映されているのかについて、債権者平等原則とともに理解を深める。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続における取戻権と相殺権の行使について復習する。特に、民法における相殺の要件を再確認しながら、破産法における相殺権の行使と限界について復習をしておく。（2時間）
10	事前学習	民法を参考にしながら、詐害行為取消権の制度について復習する。債権法改正に伴って、詐害行為取消権は大きく変容したことから、破産法の否認権の条文と民法の詐害行為取消権の条文を比較してみる。（2時間）
	授業内容	破産手続における否認権の制度について学習する。否認制度の趣旨や民法における詐害行為取消権との相違点、さらには基本的な否認類型である詐害行為否認と偏頗行為否認について学ぶ。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、否認権の制度趣旨と基本類型（詐害行為否認・偏頗行為否認）について復習する。（2時間）
11	事前学習	破産法の条文を参考に、否認権の基本的類型（詐害行為否認・偏頗行為否認）と否認制度の趣旨について復習する。（2時間）
	授業内容	引き続き、破産手続における否認権の制度について学習する。対抗要件否認や転得者に対する否認など、特殊な否認類型について学ぶ。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、対抗要件否認や転得者に対する否認等の要件やその効果等を復習する。（2時間）
12	事前学習	破産法の条文を参考に、破産手続開始決定に伴う破産者の取扱いと破産管財人の権限について復習する。（2時間）
	授業内容	破産手続開始決定前に既に係属していた訴訟等の取扱いについて学習する。破産管財人の権限を改めて理解するとともに、既に継続していた訴訟の中断と受継の手続きについて学ぶ。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続開始による係属中の民事訴訟手続等の処理について復習する。（2時間）
13	事前学習	破産法の条文や配布資料等を参考に、破産債権の届出・調査・確定までの流れについて予習する。（2時間）
	授業内容	破産手続における破産債権の届出・調査・配当までの手続きの流れを学習する。さらに、配当後から破産手続の終了までについても、手続きの流れを学ぶ。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産債権の確定手続・配当・終了までの手続きの流れを復習する。（2時間）
14	事前学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続の社会における必要性について復習するとともに、消費者破産に関する報道やニュース記事等を自分で検索してみる。（2時間）
	授業内容	消費者破産制度について、その目的や趣旨を理解する。法人の破産手続との相違点を学び、消費者破産手続における免責制度について理解を深める。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、消費者破産手続の特徴と免責制度について復習する。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義レジュメや講義ノートを復習しておく。（2時間）
	授業内容	破産手続の流れを復習するとともに、契約関係の処理や否認権の制度等、倒産実体法の復習を行う。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、破産手続の流れを確認するとともに、倒産実体法の理解を深める。（2時間）

科目名	倒産法Ⅱ	担当者	杉本 純子	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、日本の倒産法制のうち、主に再建型倒産手続の一つである民事再生法を学ぶ。 さらに、各々の倒産手続の流れを学ぶとともに、倒産手続の開始に伴う契約関係の処理や相殺権の行使など倒産実体法についても理解を深める。				
授業目的・到達目標	この講義では、破産法と民事再生法を中心とする倒産法制への理解力を養成することを目的とする。 より具体的には、各倒産手続の流れや相違点を学ぶとともに、社会における倒産処理手続の必要性を理解し、説明できることを目標とする。 関連DP及びCP:法律学科1,3 経営法学科1,3				
履修条件	特にないが、担保物権、債権総論・各論の知識がある方が望ましい。 六法は最新のものを持参すること。				
授業方法	事前にレジュメを配布する。講義では、スライド（パワーポイント）を使用しながら、配布レジュメに沿って講義を行う。 定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		80%	授業で扱った内容の全体について、理解度を問う。	
	平 常 評 価		20%	講義への参加度。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用せず。 配布レジュメを使用する。			
参 考 書	山本和彦『倒産処理法入門』第5版（有斐閣、2018年）、中島弘雅＝佐藤鉄男『現代倒産手続法』（有斐閣、2013年）、松下淳一『民事再生法入門』第2版（有斐閣、2014年）、伊藤眞ほか編『倒産判例百選』第5版（有斐閣、2013年）				
オフィスアワー	火曜日13:00～14:00（事前にメールでアポイントメントをとること） 研究室（４号館1階417） sugimoto.junko@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、事業再生や企業再建に関する新聞記事やニュースなどを調べておく。（2時間）
	授業内容	講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法等についてガイダンスを行った後、再建型倒産手続の概要について学習する。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、再建型倒産手続の必要性と概観について復習する。（2時間）
2	事前学習	民事再生法の条文や講義レジュメを参考にしながら、再建型倒産手続の概要について復習し、事業再生と破産とはどのような相違があるのかについて、実際の事業再生事例などを自分で調べておく。（2時間）
	授業内容	民事再生手続の基本的な流れの概観を学習するとともに、事業譲渡も含めた事業再生概念の拡大について、実際の事業再生事例も参考にしながら学ぶ。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、民事再生手続の基本的な流れと事業再生の概念について復習する。（2時間）
3	事前学習	民事再生法の条文を参考に、民事再生手続の申立てから開始決定までの流れを予習する。（2時間）
	授業内容	民事再生手続の申立てから開始決定に至るまでの流れを学習する。民事再生法の条文を参考に、再生手続開始原因や申立ての要件、開始決定の要件について破産法と比較しながら学ぶ。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、民事再生手続の申立てから開始決定までの流れや保全措置について復習する。（2時間）
4	事前学習	民事再生法の条文を参考に、民事再生手続の機関となる再生債務者、監督委員、債権者の役割について予習する。（2時間）
	授業内容	民事再生手続における機関について、主に再生債務者の法的地位、監督委員の役割と職務、債権者の手続参加を学ぶ。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生債務者の第三者性や公平誠実義務、監督委員の役割、債権者集会や債権者委員会について復習する。（2時間）

5	事前学習	民事再生手続における債権の種類と優先順位について、破産手続の場合と比較して予習する。（2時間）
	授業内容	再生手続における債権の種類と優先順位について、破産手続との比較を中心に、その相違点を学習する。再生債権と再建計画との関係についても理解を深める。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生手続における債権の種類と優先順位について、破産手続との比較を再確認しながら復習する。（2時間）
6	事前学習	民事再生手続における債権の届出・調査・確定手続について、破産手続と比較して予習する。（2時間）
	授業内容	再生手続における再生債権の届出・調査・確定の手続について、破産手続との比較をしながら学習する。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生債権の届出・調査・確定までの手続について復習する。（2時間）
7	事前学習	民事再生手続における担保権の取扱いについて、破産手続と比較しながら予習する。改めて、民法における担保物権の復習もしておく。（2時間）
	授業内容	再生手続における担保権の処遇について学習する。破産手続における別除権との相違や、担保権消滅請求制度の役割についても学ぶ。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、民事再生手続における別除権の取扱いについて、破産手続との比較も行いながら復習する。（2時間）
8	事前学習	破産法の条文や講義レジュメを参考に、破産手続における契約関係の処理や否認権、相殺権の行使について復習する。（2時間）
	授業内容	再生手続における債務者財産の調査と確保について学習する。特に、再生債務者による財産の調査や報告、双方未履行双務契約の処理について、破産手続との比較を行いながら学ぶ。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生手続における双方未履行双務契約の処理や否認権、相殺権の行使について復習する。その際には、破産手続との相違点についても復習しておく。（2時間）
9	事前学習	再生手続と破産手続における契約関係の処理や否認権、相殺権の行使について、類似性や相違点について復習する。（2時間）
	授業内容	引き続き、再生手続における債務者財産の調査と確保について学習する。特に、再生手続における否認権や相殺権の行使について、破産手続との比較を行いながら学ぶ。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生手続における否認権や相殺権の行使について復習する。その際には、破産手続との相違点についても復習しておく。（2時間）
10	事前学習	民事再生法の条文を参考に、再生計画の立案要件や権利変更等について予習する。（2時間）
	授業内容	再生手続における再生計画の立案・認可について学習する。再生債務者による再生計画の立案について、その要件や再生方針の決定など、実際の事業再生事例も参考にしながら学ぶ。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生計画立案の要件や時期、再生方針の多様性について復習する。（2時間）
11	事前学習	民事再生法の条文を参考に、再生計画の決議と認可の方法について予習する。（2時間）
	授業内容	再生手続における再生計画の立案と認可について学習する。再生計画案に対する再生債権者の決議と計画案認可の可決要件について学ぶ。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生計画の決議方法や認可の要件等について復習する。（2時間）
12	事前学習	民事再生法の条文を参考に、再生計画の履行確保の方法について予習する。（2時間）
	授業内容	再生手続において、再生計画認可後の再生計画の履行確保について学習する。再生計画の遂行における監督委員の役割についても学ぶ。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、再生計画の履行確保の方法等について復習する。再生手続における監督委員の役割と職務についても復習する。（2時間）
13	事前学習	民事再生法の条文を参考に、民事再生手続の終了や破産手続への移行について予習する。（2時間）
	授業内容	民事再生手続の終結決定と、破産手続へ移行する場合の手続きの流れや各債権の移行について学習する。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、民事再生手続の終了方法や破産手続の移行、その場合の各債権の取扱いについて復習する。（2時間）
14	事前学習	個人再生手続の特徴や必要性について、破産手続と比較しながら予習する。消費者や破産手続ではなく、再生手続を利用する場合のメリットについても自分で考えてみる。（2時間）
	授業内容	消費者のための再建型倒産手続である個人再生手続について、その概観と手続きの基本的な流れについて学習する。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、個人再生手続の流れや特徴について、消費者破産手続と比較しながら復習する。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義レジュメや講義ノートを参考にしながら、民事再生手続を中心とする再建型倒産手続について復習する。（2時間）
	授業内容	民事再生手続と中心とした再建型倒産手続のまとめとして、破産手続との比較を行いながら、再確認していく。
	事後学習	講義レジュメや講義ノートを参考に、民事再生手続を中心に再建型倒産手続の流れを理解し、破産手続との相違点を確認する。（2時間）

科目名	東洋法制史Ⅰ	担当者	加藤 雄三	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、帝制期の中国における法制史を論じます。講義前半では、法典編纂の沿革を通史的に説明します。中国の前近代法という律令格式をイメージする方が多いでしょうが、それは隋唐の時期に出現した一時的な完成形態にしか過ぎません。受講生には、その固定観念を振り払って、実態として法体系がどのように変遷したのかを学ぶよう期待します。後半は、貴族制度が高潮に達した魏晉南北朝時代を対象として、刑罰、家族のありようを論じます。					
授業目的・到達目標	中国前近代法の体系的変遷を理解することを目的とし、唐代の司法、刑罰、家族のありようを説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2					
履修条件	特になし					
授業方法	パワーポイントスライドを用いて講義形式で行う。スライドを印刷したものをノート用に配布する。授業内テストの解説を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		講義の範囲内で、論述試験を課す。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない				
参考書	『訳注 中国歴代刑法志（補）』、『訳注 続中国歴代刑法志（補）』、『訳注中国近世刑法志』、富谷至『漢唐法制史研究』、辻正博『唐宋時代刑罰制度の研究』、大澤正昭『唐宋時代の家族・婚姻・女性』					
オフィスアワー	質問などについては、木曜講義の前後に教室で受け付けます。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	高校の世界史教科書などで中国歴代王朝の境域の変遷を確認しておく。（2時間）
	授業内容	前近代中国法史総論
	事後学習	前近代中国法の体系について理解する。（2時間）
2	事前学習	戦国時代から秦の天下一統、その国家体制を確認しておく。（2時間）
	授業内容	帝制以前の法と秦代の律と令について学ぶ。
	事後学習	秦代の法制が国内各地に通達される単行法によっていたことを理解する。（2時間）
3	事前学習	漢代の国家体制と匈奴との関係について確認しておく。（2時間）
	授業内容	秦の法体系を受け継いだ、漢代の律と令について学ぶ。
	事後学習	秦代の法制が漢代にどのように引き継がれたかを理解する。（2時間）
4	事前学習	「中国」がふたたび分裂し、南北に出自がことなる貴族制国家が出現したことを確認する。（2時間）
	授業内容	魏晉南北朝期における律典と令典の形成と展開について学ぶ。
	事後学習	書写材料の変化と法典の出現の関係を理解する。また、北方の遊牧集団の法が中華王朝の法に流入したことを把握する。（2時間）

5	事前学習	隋による南北統一と唐代なかばからの藩鎮割拠情況、両代における遊牧集団由来の支配者の系譜を確認する。（2時間）
	授業内容	律令格式体系の完成と社会変容について学ぶ。
	事後学習	律令格式の4法典からなる体系が出現した社会背景とそれらの法の実効性について理解する。（2時間）
6	事前学習	五代十国時期の諸王朝の国家体制とその中での沙陀系集団の意義、宋代に完成する皇帝独裁制について確認する。（2時間）
	授業内容	五代諸王朝と宋朝において実用的な変遷を遂げた法典について学ぶ。
	事後学習	五代から南宋までの法典編纂が法律の実効性向上をめざしてのものだったことを理解する。（2時間）
7	事前学習	北方の遊牧集団が開いた遼金元の3王朝とチベット系タンгут集団が開いた西夏について、それぞれ国家体制を確認する。（2時間）
	授業内容	北方から崛起し、中華王朝の支配者となった集団の法的な漢化問題について学ぶ。
	事後学習	遼、金、西夏、元の諸王朝では、支配者集団の固有法を尊重する動きと中華王朝系の律中心の体系に倣おうとする動きの両者がせめぎあっていたことを理解する。（2時間）
8	事前学習	モンゴルの要素を継承しながら「唐宋に倣う」ことを志向した明朝とマンジュ・モンゴル・中国の三面に君臨した清朝の国家体制を確認する。（2時間）
	授業内容	明清の律と例からなる新たな法体系について学ぶ。
	事後学習	律例の体系がいかに成立し、編纂がどのように制度化されていったかを理解する。（2時間）
9	事前学習	日本法制史における法の意義の変化について確認する。（2時間）
	授業内容	漢代から唐代にかけての法の性質に関する変容について学ぶ。
	事後学習	社会の変化が法の性質の変化に連動していたことを理解する。（2時間）
10	事前学習	法典編纂史において学んだ漢代の遷徙刑以来の系譜を確認する。（2時間）
	授業内容	唐代の流刑について学ぶ。
	事後学習	流刑の確立について理解する。（2時間）
11	事前学習	日本の前近代の「おしかり」等、便宜的な罰について確認する。（2時間）
	授業内容	唐代の「不応得為」罪について学ぶ。
	事後学習	唐代の軽罪について理解する。（2時間）
12	事前学習	近代刑法における罪刑の関係を確認する。（2時間）
	授業内容	唐律における犯罪と刑罰の関係について学ぶ。
	事後学習	中国の歴代刑事司法において犯罪と刑罰の均衡が重要であったことを理解する。（2時間）
13	事前学習	現代日本における裁判官の心象形成について確認する。（2時間）
	授業内容	唐代の官僚の法的思考について理解する。
	事後学習	唐代の刑事司法においてどのように判断がなされていたのかについて理解する。（2時間）
14	事前学習	自分が属する一族と家族について、家族内で確認しておく。（2時間）
	授業内容	唐代の家族関係について理解する。
	事後学習	親子や夫婦など、個人と個人の相対的な「関係」の集積として、唐代の家族形態を見直す。（2時間）
15	事前学習	授業を総括すること。（2時間）
	授業内容	授業内テストの実施および解説、ならびに授業の総括と質疑応答を行う。
	事後学習	授業内容全体の理解を深めること。（2時間）

科目名	東洋法制史Ⅱ	担当者	加藤 雄三	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	この講義は、1) 帝制末期の王朝であり、前近代の王朝の中でもっとも多く資料が残り、司法と社会の実態を詳細に知ることができる清朝時代と2) 清末から民国時代にかけて進められた司法の近代化について論じます。本講の前半では、法源論、刑罰論、法意識、家族関係といった面から清代の司法と社会について説明します。本講の後半は、清末から民国時代にかけての司法と法制の近代化に向けられた努力について論じます。			
授業目的・到達目標	この講義は、1) 帝制末期の王朝であり、前近代の王朝の中でもっとも多く資料が残り、司法と社会の実態を詳細に知ることができる清朝時代と2) 清末から民国時代にかけて進められた司法の近代化について理解することを目的とし、前近代中国法の最終形態と中国法の近代化過程について説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，2			
履修条件	特になし			
授業方法	パワーポイントスライドを用いて講義形式で行う。スライドを印刷したものをノート用に配布する。授業内テストの解説を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	講義の範囲内で、論述試験を課す。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		
参考書	滋賀秀三『中国家族法の原理』、『清代中国の法と裁判』、『続・清代中国の法と裁判』 寺田浩明『中国法制史』、汪暉宝『民国司法志』、陳新宇・陳煜・江照信『中国近代法律史講義』			
オフィスアワー	質問などについては、講義の前後に教室で受け付けます。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期受講生は前期第8講の内容を復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	清代の律例編纂について学ぶ。
	事後学習	清代の法体系が定期的に改訂される律例を中心として成立していることを理解する。（2時間）
2	事前学習	日本の司法機構について復習しておく。（2時間）
	授業内容	清代の刑事裁判を司る裁判機構について学ぶ。
	事後学習	清代の民政機関の裁判機構としての役割と関係性、裁判の進め方について理解する。（2時間）
3	事前学習	罪刑法定主義について復習しておく。（2時間）
	授業内容	裁判手続上の問題点と裁判における準拠法について学ぶ。
	事後学習	清代の量刑がどのような準則にもとづいて、いかなる論理で行われたのかを理解する。（2時間）
4	事前学習	「判決の確定力」という言葉について調べておく。（2時間）
	授業内容	清代の裁判における判決に確定力があつたのかいなかについて考察する。
	事後学習	「聴訟」をキーワードとして講義内容を整理する。（2時間）

5	事前学習	日本の裁判で援用される法源について調べておく。（2時間）
	授業内容	民事的な争訟において言及される「情・理・法」の概念について学ぶ。
	事後学習	「情・理・法」の法源性の有無について理解する。（2時間）
6	事前学習	日本刑法内の刑罰について調べておく。（2時間）
	授業内容	律の上での正刑（五刑）とその周辺で発展した諸刑罰、地方で執行された臨時の刑罰について学ぶ。
	事後学習	正刑とその読み替え、例外、やむを得ざる状況下における臨時の措置という諸刑罰の体系と関係性について理解する。（2時間）
7	事前学習	日本の家族関係や相続関係を民法に則して調べるとともに、家族内で話し合う。（2時間）
	授業内容	清代の家族関係、相続関係にかかわる諸概念について学ぶ。
	事後学習	礼にもとづく家族関係、同居共財という財産関係を理解する。（2時間）
8	事前学習	アヘン戦争以来の中国の国際関係について復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	中国近代史の概略を学ぶ。
	事後学習	清末末期に中国が欧米列強とわたりあわねばならない環境に巻き込まれていったことを理解する。（2時間）
9	事前学習	世界史教科書あるいは中国史基本書の該当箇所を読み直す。（2時間）
	授業内容	清末の法制改革について学ぶ。
	事後学習	日清戦争、義和団戦争から意識された国政改革の必要性からもたらされた法制改革の動きについて理解する。（2時間）
10	事前学習	世界史教科書あるいは中国史基本書の該当箇所を読み直す。（2時間）
	授業内容	近代中国の立憲政治の模索について学ぶ。
	事後学習	清末における君主立憲制の探求、民国期の共和制下の憲政への変遷について理解する。（2時間）
11	事前学習	明治期日本における刑事法典の編纂過程について確認する。（2時間）
	授業内容	中国における近代刑法の編纂とその内容について学ぶ。
	事後学習	固有法から近代刑法に移行するために紆余曲折があったことを理解する。（2時間）
12	事前学習	日本の民法典論争について確認する。（2時間）
	授業内容	中国における近代民法典及び商事単行法の編纂とその内容について学ぶ。
	事後学習	中華民国民法典が制定されるまでの私法の状況と同法典の先進的構成と固有法的規定について理解する。（2時間）
13	事前学習	世界史教科書あるいは中国史基本書のナショナリズムにかかわる箇所を読み直す。（2時間）
	授業内容	司法の近代化過程におけるナショナリズムの発揚と昇華について学ぶ。
	事後学習	近代化の過程において中国的なものが失われることについての危機感が知識人に共有されたことを理解する。（2時間）
14	事前学習	世界史教科書あるいは中国史基本書の該当箇所を読み直す。（2時間）
	授業内容	租界社会における司法について上海の2租界を事例として学ぶ。
	事後学習	租界における法の混淆情況について理解する。（2時間）
15	事前学習	授業を総括すること。（2時間）
	授業内容	授業内テストの実施および解説、ならびに授業の総括と質疑応答を行う。
	事後学習	授業内容全体の理解を深めること。（2時間）

科目名	都市政策	担当者	福島 康仁	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、地方分権時代において、都市の強みをいかしながら、まちづくりをする手法について検討する。都市にはいかなる課題があり、それをどのように解決すべきなのか。都市自治体のとるべき行動やその指針、考え方について考察する。地方自治体での審議会委員の経験を生かして政策分析などについて解説する。				
授業目的・到達目標	地方分権の時代においては、都市のもつあらゆるリソースを有効に活用し、それぞれの都市の独自性がある魅力的なまちづくりを積極的に行なわなければならない。本講義では、まちづくりのための手法を分析する目を養うことを目的とする。都市問題解決のための政策について自治体職員としての基礎知識、あるいは自治の担い手としての基礎知識が身につけ政策分析や提案ができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：公共政策学科1，3，4，5				
履修条件	特にないが、講義中私語をする者は他の者の迷惑となるので履修を遠慮すること。				
授業方法	講義中心でおこなう予定であるが、受講人数によっては討論など他の方法も併用することもある。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		90%	都市政策の手法について考え方を理解している。	
	平常評価		10%	授業への参加度を中心に評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2018	弘文堂	地方自治論		福島康仁編
	備考				
参考書	適宜紹介する。				
オフィスアワー	原則水曜日の昼休みとする。事前にメールなどでアポイントメントをとること（別の人の相談がはいっていたり、研究室にいないことがあります）。場所は本館6階の研究室。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	まちづくりとはなにか考えてくる（2時間）
	授業内容	評価方法、授業内容についての説明。
	事後学習	街づくりとまちづくりの違いを理解できたか考える（2時間）
2	事前学習	時代ごとに都市はどのような変化について考える（2時間）
	授業内容	新時代の都市の様相、都市の再生、成熟化する都市
	事後学習	成熟化した都市の住民の考え方について学習する（2時間）
3	事前学習	都市の定義について調べてみる（2時間）
	授業内容	都市の歴史：都市とはなにか
	事後学習	都市の時代ごとの役割を復習する（2時間）
4	事前学習	現代都市と近代都市の違いを考える（2時間）
	授業内容	都市の歴史：都市を考える
	事後学習	都市の歴史的な役割と機能について検討する（2時間）

5	事前学習	都市をつくる指針について考える（2時間）
	授業内容	都市の原理
	事後学習	自分の住む自治体の長期構想を読んでみる（2時間）
6	事前学習	新しい公共とはなにか考える（2時間）
	授業内容	都市の主体、都市の構造
	事後学習	都市と新しい公共についてまとめてみる（2時間）
7	事前学習	都市法とはなにか調べている（2時間）
	授業内容	都市の法規
	事後学習	都市法の役割と機能についてまとめてみる（2時間）
8	事前学習	都市計画とはなにか調べてみる（2時間）
	授業内容	都市をつくる：都市計画
	事後学習	都市計画制度についてまとめてみる（2時間）
9	事前学習	用途地域について調べてみる（2時間）
	授業内容	都市をまもる：都市計画
	事後学習	用途地域の役割について、建築基準法との関係について検討する（2時間）
10	事前学習	日本の犯罪率について考える（2時間）
	授業内容	都市をまもる；安全安心な都市
	事後学習	犯罪の起こりにくいまちとは何か考える（2時間）
11	事前学習	犯罪をなくす先進的な取り組みについで考える（2時間）
	授業内容	都市をまもる；安全安心な都市
	事後学習	犯罪のはないまちの特徴を整理する（2時間）
12	事前学習	コミュニティの定義について調べる（2時間）
	授業内容	住みやすい都市：コミュニティ政策
	事後学習	コミュニティの在り方について考える（2時間）
13	事前学習	ソーシャルキャピタルの定義について調べてみる（2時間）
	授業内容	住みやすい都市：コミュニティ政策
	事後学習	自治体のコミュニティ政策の変化について整理する（2時間）
14	事前学習	都市自治体の環境政策について、市町村レベルと都道府県レベルの相違を調べる（2時間）
	授業内容	住みやすい都市：環境政策
	事後学習	環境政策の有効性と住民との関係について考える（2時間）
15	事前学習	いままでの学習を通じてなにを学んだのか整理してみる（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	残された課題を整理する（2時間）

科目名	日本経済論 I	担当者	稲葉 陽二	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	日本経済における付加価値の源泉である会社に焦点を当てて、日本型経済システムの変化と現状、課題をミクロの企業の観点から検討する。前半は理論と統計データを解説し、後半は日本経済新聞の記事を解説する。公務員試験「経済事情」に一部対応。適宜、教員の銀行員、上場企業役員の実務経験に照らして解説を行う。					
授業目的・到達目標	経済学の基礎を踏まえて、実社会における経済事象を論理的に説明する能力を養うことを目的とし、日本経済新聞を無理なく読めるようになることを目標としている。関連DPおよびCP：政治経済学科1、2					
履修条件	経済学Ⅰ、Ⅱを履修済みであることが望ましい。					
授業方法	講義による。資料は必要に応じ、講師より呈示する。授業内試験の解答の解説と結果の講評を最終授業で行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業内試験により評価。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2011	弘文堂		『日本経済論』		稲葉陽二・乾友彦・伊ヶ崎大理
	備考	統計は最新のものを学生教員共有ドライブにアップします。要約のPPTを毎回作成するので、参照してください。				
参考書	『経済財政白書 平成31年版』内閣府。 稲葉陽二『企業不祥事はなぜ起きるのか』中公新書。					
オフィスアワー	毎週木曜日12時から13時 研究室（9号館9406研究室） 事前にメールにてアポイントメントをとってください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	『日本経済論』序章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	第Ⅰ部 ミクロ編—日本経済と会社『日本経済論』序章 なぜ会社なのか（付加価値とはなにか、誰が創りだすのか）
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
2	事前学習	『日本経済論』第1章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	会社とはなにか（自然人と法人、法人の起源、会社の特徴と諸形態、わが国における会社の発展と現状）
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
3	事前学習	『日本経済論』第2章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	会社はだれのものか
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
4	事前学習	『日本経済論』第3章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	日本的経営—年功序列・終身雇用・企業内組合・株式持ち合い
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）

5	事前学習	事前に指定した資料を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	銀行の役割とその盛衰―間接金融から直接金融、そしてフィンテック、AI
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
6	事前学習	事前に指定した資料を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	雇用形態の変化：非正規雇用をどう考えるか
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
7	事前学習	『日本経済論』第4章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	企業統治（経営者の役割と地位、経営者への規律づけメカニズム、企業不祥事への対応、ケーススタディ）
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
8	事前学習	参考文献『企業不祥事はなぜ起きるのか』第1章（13-31頁）を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	それでもなくならない企業不祥事 ケーススタディ
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
9	事前学習	『日本経済論』第5章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	日本企業の課題（収益率の国際比較、収益率はなにを反映するのか、企業収益と生産性・付加価値、ケーススタディ）
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
10	事前学習	『日本経済論』第6章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	市場の失敗（市場の失敗とは何か、外部性、公共財、独占・寡占、情報の非対称性、政府の失敗）
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
11	事前学習	第10回までの授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
	授業内容	ミクロ編まとめ
	事後学習	まとめを復習してください。（2時間）
12	事前学習	前回の授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間） 過去問を学生教員共有ドライブにアップしておきますので確認をお願いします。
	授業内容	授業内試験及び振り返り。
	事後学習	試験後に解答を配布するので確認し、復習してください。（2時間）
13	事前学習	復習してください。（2時間）
	授業内容	第Ⅱ部 マクロ編―日本経済の課題 日本経済の現状 ガイダンス
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
14	事前学習	『日本経済論』第7章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	GDPの構成要素（産業関連表、支出面からみたGDP、生産面からみたGDP、所得面からみたGDP）
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
15	事前学習	『日本経済論』第8章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	景気変動（景気変動の定義と変動の要因、日米における四半期別GDPの動き、景気動向指数、インフレーションと失業率）
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）

科目名	日本経済論Ⅱ	担当者	稲葉 陽二	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経済成長の理論を学んだ後、経済財政白書を用いてマクロの観点から日本経済の現状と課題を概観したのち、格差問題とAIの影響を論じる。最後に日本経済の今後を論じるが、その前提として日本経済の発展の軌跡を概観する。前半は理論と統計データを解説し、後半は日本経済新聞の記事を解説する。公務員試験「経済事情」に対応。適宜、教員の銀行エコノミストとしての実務経験に照らして解説を行う。					
授業目的・到達目標	経済学における成長理論を踏まえて、日本経済の現状分析と将来の見通しについて分析する能力を養う。日本経済新聞を無理なく読めるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2、3					
履修条件	経済学Ⅰ、Ⅱを履修済みであることが望ましい。					
授業方法	講義による。資料は必要に応じ、講師より呈示する。授業内試験の解説と結果の講評を最終授業で行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業内試験により評価。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2011	弘文堂		『日本経済論』		稲葉陽二・乾友彦・伊ヶ崎大理
	備考	統計データは最新のものを学生教員共有ドライブにアップします。要約のPPTを毎回作成するので、参照してください。				
参考書	『経済財政白書 平成31年版』内閣府 稲葉陽二『企業不祥事はなぜ起きるのか』中公新書					
オフィスアワー	毎週木曜日12時から13時 研究室（9号館9406研究室） 事前にメールにてアポイントメントをとってください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	『経済財政白書 平成30年版』第1章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	経済財政白書を読む その1
	事後学習	授業内で用いた資料で復習をお願いします。（2時間）
2	事前学習	『経済財政白書 平成30年版』第2章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	経済財政白書を読む その2
	事後学習	授業内で用いた資料で復習をお願いします。（2時間）
3	事前学習	『経済財政白書 平成30年版』第3章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	経済財政白書を読む その3
	事後学習	授業内で用いた資料で復習をお願いします。（2時間）
4	事前学習	『日本経済論』第9章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	経済成長の諸要因（ソロー型成長モデル、成長会計の方法、日本の産業別の成長の要因分解、生産性の重要性）
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）

5	事前学習	『日本経済論』第10章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	生産性の規定要因（研究開発と生産性、競争と生産性、経済の国際化と生産性、金融の発展と生産性）
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
6	事前学習	『日本経済論』第11章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	成長の制約（成長の限界、持続可能な発展、公害問題、地球環境問題）
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
7	事前学習	『日本経済論』第12章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	現代日本経済の諸課題（低成長時代を生きる、失業、少子高齢化と社会保障問題、財政の持続可能性）
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
8	事前学習	『日本経済論』第13章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	経済成長と政府の役割　金融の変化
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
9	事前学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
	授業内容	格差問題を考える
	事後学習	授業内で用いた資料で復習をお願いします。（2時間）
10	事前学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
	授業内容	人工知能の影響
	事後学習	授業内で用いた資料で復習をお願いします。（2時間）
11	事前学習	『日本経済論』第14章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	第Ⅲ部　戦後日本経済の流れ 戦時経済体制と日本的システム（第二次世界大戦後の混乱、朝鮮戦争、高度成長、日本型システム）
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
12	事前学習	『日本経済論』第15章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	オイルショックの影響（オイルショック、低成長の時代、成長率が屈折した理由、バブルの発生と崩壊） バブル崩壊後の日本経済（ゼロ成長の時代、金融危機、小泉構造改革、政権交代）
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
13	事前学習	『日本経済論』第16章を読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	政治経済学入門　制度と政治
	事後学習	授業資料（PPT）を用いて復習をお願いします。（2時間）
14	事前学習	第1回から第13回の資料を用いて復習をお願いします。（2時間）
	授業内容	第Ⅱ部と第Ⅲ部まとめ
	事後学習	授業内で用いた資料で復習をお願いします。（2時間）
15	事前学習	第1回から第13回の資料を用いて復習をお願いします。（2時間）
	授業内容	授業内試験及び振り返り。
	事後学習	試験後に解答を配布するので確認し、復習してください。（2時間）

科目名	日本ジャーナリズム史Ⅰ	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズムやメディアを批判的に読み解くうえで、その特性を表面的に捉えているだけでは十分な考察はできない。それらの成り立ちから現代までに展開された歴史的経緯を把握してこそ、本質に迫る議論が可能となる。こうした視座から、本講義では、近代日本におけるジャーナリズムの発展過程を学ぶ。「Ⅰ」では幕末期から大正前期、「Ⅱ」では大正後期から昭和期までを対象とする。				
授業目的・到達目標	本講義では、日本のジャーナリズムの歴史を通じて、ジャーナリズムの社会的意義について考察する。例えば、新聞に関する「中立性」や「客観性」といった概念はいかなる過程の中で生まれたのか。本講義の目的は、こうした歴史的事象を対象とした考察を通じて、ジャーナリズムの発展過程とその社会的機能について理解し、説明することのできる力を養成することを目的とする。上記の目的を達するために、「①日本の新聞の変遷について、系統立てて説明することができるようになること」と、「②歴史的出来事の中でジャーナリズムが果たした役割について、具体例をあげて説明することができるようになること」の2点を到達目標とする。				
履修条件	特に関連する講義(本新聞科目必修科目)だが、学ぶ熱意があれば他学科の学生も歓迎する。なお、「Ⅰ」の単位を修得していない者は「Ⅱ」を履修することはできないので注意すること。				
授業方法	講義形式。受講の際は必ずノートを持参すること。周りの受講者に迷惑となる行為(私語・機械音など)は厳禁とする。到達度をはかるための小テストを実施した場合、翌週回の冒頭に解説と質問に対する回答を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		95%	設問の形式などは授業で説明する。(定期試験以外に小テスト等を課した場合は、出来に応じて平常評価の加点として扱う)	
	平常評価		5%	出席は当然のことなので、出席点といった加点は存在しない。欠席による減点は特に行わないが、講義総数の3分の1以上の欠席がある者は成績評価の対象としないので注意。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2013年	櫻門書房	日本のジャーナリズム		黒川貢三郎 石川徳幸
	備考	【入手方法】新聞学科の学生専用のテキストのため、一般書店に流通していない。取り扱いは、教科書販売期間中に学内に設置される臨時教科書販売所および日本大学経済学部内にある図書販売部のみ。			
参考書	必要に応じて適宜紹介する。 一例として、『近代日本メディア人物誌(創始者・経営者編/ジャーナリスト編)』(ミネルヴァ書房)など。				
オフィスアワー	【2019年度オフィスアワー】 前学期中・・・土曜日10:45～11:45 / 後学期中・・・月曜日14:45～15:45 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお勧めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通してくること。(2時間)
	授業内容	ガイダンス メディア史およびジャーナリズム史の射程
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。(2時間)
2	事前学習	教科書の序章を下読みしておくこと。(2時間)
	授業内容	西洋新聞略史
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。(2時間)
3	事前学習	教科書第1章第1節～第2節を下読みしておくこと。(2時間)
	授業内容	江戸時代の情報伝達 外字新聞の発行とその影響
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。(2時間)
4	事前学習	教科書第1章第3節～第4節を下読みしておくこと。(2時間)
	授業内容	外字新聞の発行とその影響 戊辰戦争と新聞 幕末期のジャーナリスト
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。(2時間)

5	事前学習	教科書第2章第1節～第2節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	明治政府の新聞規制政策 明治政府の新聞保護育成政策
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
6	事前学習	教科書第2章第3節～第4節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	民権運動と新聞 新聞恐怖時代
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
7	事前学習	教科書第3章第1節～第2節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	報道機関としての新聞 明治14年の政変と新聞
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
8	事前学習	教科書第3章第3節～第5節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	新聞の政党機関紙化 「小新聞」の発生とその発展 明治初期のジャーナリスト
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
9	事前学習	教科書第4章第1節～第2節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	編集と経営の改革 言論第一主義の復活
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
10	事前学習	教科書第4章第3節～第4節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	「政論新聞」の没落と新興新聞の台頭 三面記事新聞の台頭
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
11	事前学習	教科書第5章第1節～第2節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	日清戦争と新聞 新聞の近代化
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
12	事前学習	教科書第5章第3節～第4節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	日露戦争と新聞 日露講和条約と新聞 （社会主義言論の盛衰）
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
13	事前学習	教科書第6章第1節～第2節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	大正の政変と新聞 シーメンス事件と新聞
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
14	事前学習	教科書第6章第3節～第4節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	第1次世界大戦と新聞 白虹事件と新聞の商業化
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
15	事前学習	授業を受けてきた中で疑問点があれば整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	総括 質疑応答
	事後学習	本講義を通して得た知見を今後の学習に活かせるように、自分がまとめたノートをいつでも見られる状態にしておくこと。（2時間）

科目名	日本ジャーナリズム史Ⅱ	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズムやメディアを批判的に読み解くうえで、その特性を表面的に捉えているだけでは十分な考察はできない。それらの成り立ちから現代までに展開された歴史的経緯を把握してこそ、本質に迫る議論が可能となる。こうした視座から、本講義では、近代日本におけるジャーナリズムの発展過程を学ぶ。「Ⅰ」で扱った幕末期から大正前期の内容を踏まえて、「Ⅱ」では大正後期から昭和期までを対象とする。			
授業目的・到達目標	本講義では、日本のジャーナリズムの歴史を通じて、ジャーナリズムの社会的意義について考察する。例えば、「新聞の公益性」や「編集権」に関する議論はいかなる過程で生まれたのか。戦時体制下に築かれた制度の残滓とは何か。本講義の目的は、こうした歴史的事象を対象とした考察を通じて、ジャーナリズムの発展過程とその社会的機能について理解し、説明することのできる力を養成することを目的とする。上記の目的を達するために、「①日本の新聞の変遷について、系統立てて説明することができるようになること」と、「②歴史的出来事の中でジャーナリズムが果たした役割について、具体例をあげて説明することができるようになること」の2点を到達目標とする。			
履修条件	【関連科目】新聞学Ⅰ、日本新聞史Ⅰ、日本ジャーナリズム史Ⅰの単位を修得している者のみ履修可。 ※「日本ジャーナリズム史Ⅰ」の単位を修得していない者は履修不可。			
授業方法	講義形式。受講の際は必ずノートを持参すること。周りの受講者に迷惑となる行為（私語・機械音など）は厳禁とする。到達度をはかるための小テストを実施した場合、翌週回の冒頭に解説と質問に対する回答を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	95%	設問の形式などは授業で説明する。 （定期試験以外に小テスト等を課した場合は、出来に応じて平常評価の加点として扱う）	
	平常評価	5%	出席は当然のことなので、出席点といった加点は存在しない。欠席による減点は特に行わないが、講義総数の3分の1以上の欠席がある者は成績評価の対象としないので注意。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2013年	櫻門書房	日本のジャーナリズム	黒川貢三郎 石川徳幸
	備考	【入手方法】新聞学科の学生専用のテキストのため、一般書店に流通していない。取り扱い、教科書販売期間中に学内に設置される臨時教科書販売所および日本大学経済学部内にある図書販売部のみ。		
参考書	必要に応じて随時紹介する。 一例として、『近代日本メディア人物誌（創始者・経営者編／ジャーナリスト編）』（ミネルヴァ書房）など。			
オフィスアワー	【2019年度オフィスアワー】 前学期中・・・土曜日10:45～11:45 / 後学期中・・・月曜日14:45～15:45 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお勧めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通しておくこと。 ※以下に記す授業内容は、進捗状況に応じて若干の変更が生じることがある。変更がある場合は、事前に受講生に告知する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス メディア史およびジャーナリズム史の射程
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
2	事前学習	教科書第7章第1節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	補論 1：日本のジャーナリズムと国際通信の歴史 ＜国際会議と新聞＞ パリ講和会議と新聞
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
3	事前学習	教科書第7章第2節～第3節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	＜国際会議と新聞＞ 軍縮条約交渉と新聞 新聞争議と流言飛語
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
4	事前学習	教科書第7章第4節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	＜国際会議と新聞＞ 大正期における編集と経営の変化
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）

5	事前学習	教科書第8章第1節～第2節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	＜『朝毎』全盛時代＞ 政党政治の腐敗墮落と新聞 大阪系新聞の東京制覇
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
6	事前学習	教科書第8章第3節～第4節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	＜『朝毎』全盛時代＞ 東京各紙の没落 新聞の軍部批判
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
7	事前学習	教科書第8章第5節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	＜『朝毎』全盛時代＞ 軍部による言論統制と二・二六 補論2：日本における通信社の歴史
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
8	事前学習	教科書第9章第1節～第2節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	＜大日本帝国の崩壊と新聞＞ 日中戦争と新聞 第2次世界大戦の開幕と新聞
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
9	事前学習	教科書第9章第3節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	＜大日本帝国の崩壊と新聞＞ 新聞の統廃合
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
10	事前学習	教科書第9章第4節～第10章第1節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	＜大日本帝国の崩壊と新聞＞ 敗戦と新聞 ＜占領期の新聞＞ GHQの新聞政策
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
11	事前学習	教科書第10章第2節～第3節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	新聞の民主化運動 取材源証言拒否事件と捏造報道
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
12	事前学習	教科書第11章第1節～第2節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	＜飛躍する新聞＞ 対日講和条約と新聞 激化する販売競争
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
13	事前学習	教科書第11章第3節～第4節を下読みしておくこと。（2時間）
	授業内容	＜飛躍する新聞＞ 新聞界の技術革新と報道協定 安保問題と新聞
	事後学習	ノートの整理。復習用の資料を毎回COLNet共有フォルダに提供する。（2時間）
14	事前学習	自筆のノートの内容の振り返り。（2時間）
	授業内容	大正後期から昭和期までのジャーナリズムの歴史のまとめ 理解度テスト
	事後学習	テスト内容の見返し。（2時間）
15	事前学習	自筆のノートの内容の振り返り。（2時間）
	授業内容	総括
	事後学習	本講義を通して得た知見を今後の学習に活かせるように、自分がまとめたノートをいつでも見られる状態にしておくこと。（2時間）

科目名	日本政治過程論	担当者	浅井 直哉	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、1993年の非自民連立政権から現在に至るまでの政権においてどのような政治過程が観察されてきたのかを扱い、日本政治の流れや各政権の特徴について考える。日本では、長らく自民党が単独で政権を担っていた。しかし、1990年代に入ると、複数の政党が協力して政権を担当する様子がみられるようになった。このような変化を踏まえると、現代の日本政治を考えるには、連立政権という視点に立つことが重要となる。					
授業目的・到達目標	この授業では、1990年代以降の日本政治を連立政権という視点から捉え、日本の政治過程、および政権ごとの政治過程について考えることを目的とする。1993年以降の政治に目を向けることによって、連立政権が形成され、維持され、変化していく状況を理解することができる。この授業を通じて、政権ごとの特色や共通点および相違点を考え、論じることができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2,3 公共政策学科1,3,4					
履修条件	特になし					
授業方法	講義形式で行う。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		100%		授業内容が適切に理解されているか否かを確認する。	
	平常評価					
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018年	八千代出版		『日本の連立政権』		岩渕美克・岩崎正洋編
	備考					
参考書	川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子（2011）『現代の政党と選挙〔新版〕』有斐閣。その他、授業中に提示する。					
オフィスアワー	水曜日14：40～16：10 研究室					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	日本政治の大まかな流れについて調べる。（2時間）
	授業内容	イントロダクション：後学期の授業内容、進行方法などについての説明をする。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
2	事前学習	連立政権について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	連立政権の理論的枠組み：連立政権を考えるための枠組みについて説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
3	事前学習	細川政権について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	細川政権：細川政権期の政治過程や特徴を説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
4	事前学習	羽田政権について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	羽田政権：羽田政権期の政治過程や特徴を説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）

5	事前学習	村山政権について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	村山政権：村山政権期の政治過程や特徴を説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
6	事前学習	橋本政権について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	橋本政権：橋本政権期の政治過程や特徴を説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
7	事前学習	小渕・森両政権について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	小渕・森政権：小渕・森両政権期の政治過程や特徴を説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
8	事前学習	小泉政権について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	小泉政権：小泉政権期の政治過程や特徴を説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
9	事前学習	第一次安倍政権について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	第一次安倍政権：第一次安倍政権期の政治過程や特徴を説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
10	事前学習	福田・麻生両政権について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	福田・麻生政権：福田・麻生両政権期の政治過程や特徴を説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
11	事前学習	鳩山政権について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	鳩山政権：鳩山政権期の政治過程や特徴を説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
12	事前学習	菅政権について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	菅政権：菅政権期の政治過程や特徴を説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
13	事前学習	野田政権について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	野田政権：野田政権期の政治過程や特徴を説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
14	事前学習	第二次安倍政権について調べ、疑問点や自分なりの考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	第二次安倍政権：第二次安倍政権期の政治過程や特徴を説明する。
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）
15	事前学習	後学期の内容を振り返っておく。（2時間）
	授業内容	今学期の総括
	事後学習	授業で触れた本や文献を読み、要点を整理する。（2時間）

科目名	日本政治史Ⅰ	担当者	岩井 奉信	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今日、日本の政治が大きな変革の中にあると言われる。しかし、その意味するところは、必ずしも明らかとはいえない。その変化とは何かを理解するためには、今日に至る日本政治の流れを歴史的に理解する必要がある。この授業では、第二次世界大戦以降の日本政治の発展について、時を追って、論じることを通じて、現代の日本政治の姿が、どのように形成されてきたかを明らかにしていく。							
授業目的・到達目標	高校までの日本史の授業などで学ぶ機会が少ない戦後の政治史について体系的に学ぶことを通じて、現代の日本政治を理解し、説明できることを第一の目標とする。さらに歴史は古い時代のことを学ぶだけでなく、現代の日々の事象も歴史となっていくことを学ぶことを通じて、歴史の重要性を認識し、関心を高めることも授業の目的とする。 関連DP及びCP：政治経済学科1, 2, 3, 8 新聞学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4							
履修条件	原則として、教職希望者を履修対象とする。							
授業方法	講義を中心に授業を展開する。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定 期 試 験		100%		定期試験期間に行う論述試験によって評価を行う。			
	平 常 評 価							
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	備考		特になし					
参 考 書	石川真澄ほか『戦後政治史』岩波書店							
オフィスアワー	月曜日昼休みまたは金曜日昼休み							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	特にないが、日本の政治について、一定の関心や問題意識を持つことが望ましい。（2時間）
	授業内容	現代の日本政治の状況を出発点として、さまざまな政治現象が現代史の中でどのような意味をもっているのかを解説し、現代政治史を学ぶ意義について論じる。
	事後学習	現代政治の中で、各自が課題だと思う現象について、その経緯について、調べてみること。（2時間）
2	事前学習	大日本帝国憲法と日本国憲法の違いについて、基本的な知識を確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	第二次世界大戦を契機に、戦前と戦後で、政治の基本的枠組みがどう変わったのかについて、憲法や民主主義という観点から比較する。その一方で、戦前と戦後で連続している事象もあることについても言及し、政治史における戦前と戦後の分断論と連続論について学ぶ。
	事後学習	政治以外に戦後改革にはどのようなものがあるか確認しておくこと。（2時間）
3	事前学習	改めて占領軍による戦後改革について、確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	戦後の占領と同時に始まった戦後政治の再編成について、選挙制度や国会制度などの政治制度と政党や政治などの政治アクターの動静について解説していく。特に新憲法で確立された国会中心主義については、重点的に論じる。
	事後学習	帝国議会と国会の権能の違いについて、改めて確認しておくこと。（2時間）
4	事前学習	ドイツにおける占領政策と日本における占領政策の違いについて、基礎的な知識を得ておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	1946年、GHQが発した公職追放令により、予定されていた鳩山一郎内閣の成立が不可能になり、代って吉田茂内閣が成立するが、それにより戦後政治の構図は大きく変化するが、その全容と吉田茂の政治の特質を政官の関係から論じる。
	事後学習	戦前、戦中における官僚制が果たした役割について、再確認しておくこと。（2時間）

5	事前学習	吉田茂について、出自や考え方など、基礎的な知識を得ておくことが望ましい。（2時間）
	授業内容	1949年総選挙では、大量の官僚出身議員が誕生し、後に「吉田学校」と呼ばれる議員集団が形成された。彼らは以後、日本政治の主役となっていくが、その背景とその後の日本政治に与えた影響について論じることにより、戦後の保守政治の源流についても学ぶ。
	事後学習	「吉田学校」と呼ばれた国会議員には、どのような人物がいたか、再確認しておくこと。（2時間）
6	事前学習	日本国憲法、特に第9条に秘められた理念について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	1950年、朝鮮戦争が勃発し、それは日本政治の姿を大きく変えることになった。特に後の自衛隊となる警察予備隊の発足は新憲法が予定した理念との間に重大な齟齬を生み、その後の日本政治最大の争点となるが、このような状況の変化について論じる。
	事後学習	朝鮮戦争の背景である米ソの対立とその影響について、確認しておくこと。（2時間）
7	事前学習	戦後、日本の政党はどのような変遷を遂げてきたのかについて、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	1951年、日本は独立を果たしたが、政治は混迷を極めた。そのような中で、政界再編が最終段階を迎え、1955年、自由民主党と日本社会党の二大政党が誕生する。ここではその経緯について学ぶ。
	事後学習	自由民主党と日本社会党の結党の理念と、その違いについて確認しておくこと。（2時間）
8	事前学習	1955年当時の世界政治の対立構図について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	1955年に誕生した自民党と社会党の二大政党体制は、後に「五五年体制」と呼ばれるが、その「五五年体制」とは何かについて、理念、政策、支持団体などの観点から比較しつつ解説を加える。
	事後学習	自民党と社会党の相違や対立点について、再度、確認しておくこと。（2時間）
9	事前学習	「五五年体制」について、再度、確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	巨大与党自民党の誕生がその後の日本政治や経済に与えた影響について、「高度経済成長」をキーワードにして説明し、戦後政治発展の中で、政治と経済がどのような関係にあるのかについて学んでいく。
	事後学習	自民党と経済界との関係について、五五年体制成立の背景も含めて確認しておくこと。（2時間）
10	事前学習	五五年体制における自民党政治の担い手について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	「五五年体制」の下、初の本格政権となった岸信介首相は、憲法改正を主張し、日米安保条約の改定を目指したが、それは国民の間に根深い対立を生んだ。その後を継いだ池田勇人首相は「所得倍増計画」を打ち出した。二人の政治家の路線の違いについて論じる。
	事後学習	岸首相が憲法改正を唱えた背景について、再確認しておくこと。（2時間）
11	事前学習	政党制にはどのような種類があるか、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	1955年以降、自民党政治が続くことにより、「一党優位体制」が確立されたと言われる。その一方で、野党は多党化が進むことになった。ここでは自民党一党優位体制とは何か、多党化の背景には何があるのかについて学ぶ。
	事後学習	高度経済成長がもたらす政治的価値の多様化について、確認しておくこと。（2時間）
12	事前学習	高度経済成長により、日本人の生活がどのように変わったか知っておくこと。（2時間）
	授業内容	自民党の一党優位体制といわれながら、自民党の選挙での得票は、時を経るごとに減少し、「長期低落」といわれたが、その背景と影響について、社会的、経済的背景から学んでいく。
	事後学習	経済構造の変化が政治構造に与える影響について、再度、確認すること。（2時間）
13	事前学習	1960年代後半から70年代前半にかけての世界の情勢について基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	1970年代、日本の政治と経済は大きな曲がり角を迎え、自民党一党優位体制にも「ゆらぎ」が見られるようになったが、その実態と影響について学んでいく。
	事後学習	田中角栄首相について、その人物像や考え方などを確認しておくこと。（2時間）
14	事前学習	1970年代前半の石油危機が日本の経済の発展に与えた影響について、基礎的な知識を衛置くこと。（2時間）
	授業内容	1980年代、日本は石油危機を乗り越え、経済大国の地位を確立するが、貿易摩擦や国際貢献への要求など、新たな問題を抱えることになった。ここでは80年代以降に日本の政治が直面することになった課題について学んでいく。
	事後学習	1985年の「プラザ合意」が日本に与えた影響について、経済と政治の両面から確認しておくこと。（2時間）
15	事前学習	現代日本政治の課題について、各自が問題意識を持っておくこと。（2時間）
	授業内容	1980年代以降、日本の政治は混迷期を迎えることになったが、その実態と背景、そして自民党一党優位体制や五五年体制は、これによりいかに変容することになったのかについて、現代政治の課題を復命て論じていく。
	事後学習	現代日本政治が抱える問題が、戦後の政治の歴史の延長上、どのように位置づけられるのか、考えてみること。（2時間）

科目名	日本政治史Ⅰ	担当者	中 静 未知	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	明治・大正期の日本政治の歴史を概説する。大日本帝国憲法制定時(1889年)に設計された政治体制（明治国家体制）と、その後の政治の変容過程を中心に講義する。				
授業目的・到達目標	・近現代の日本政治に関する基本的な知識と理解を深めることを目的とする。様々な人々と関わる社会人の基礎教養として必要性を認識し修得すること。 ・歴史の見方（過去の事実を時代状況に即して客観的に捉えること）を学び、時流に惑わされず事実を客観的に判断し思考する姿勢と能力の修得を目標とする。 【関連DP・CP】政治経済学科 1, 2, 3, 8 新聞学科 1, 5 公共政策学科 1, 3, 4				
履修条件	Ⅰ・Ⅱ両方の履修を原則とする。1年生はできるだけ木曜1限で受講してください。				
授業方法	・授業時に配布するレジュメ（各回の概要と構成を記したプリント）に基づいて、講義を行う。 ・試験の講評と解説を日本政治史Ⅱ（後期授業）の初回に行う。希望者には個別に答案の解説をする（後期に面談）。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	論述形式の筆記試験を行う。採点は特に次の点を重視する。①問題文に対する応答になっていること、②史実に関する理解度、③記述の論理性と日本語表現・表記の正しさ。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参考書	『日本の近代』第2・3・4巻（中公文庫）、『シリーズ日本近現代史』②③④（岩波新書）等。他に適宜レジュメで紹介する。				
オフィスアワー	面談可能時間：火曜昼休み(12:10-12:50)。事前にアポイントメントを取ってください（メールか授業の前後に口頭で）。 研究室（9号館4階405号）nakashizuka.michi@nihon-u.ac.jp なお、授業内容についての質問はメールでも受け付けます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	中高で学んだ日本史の近代・現代（明治維新から太平洋戦争終結あたりまで）を復習してください。その際、教科書や参考書の「部」「章」等の区分（目次で一覧できます）がどのように立てられているかも確認してください。[3時間]
	授業内容	科目と講義の案内 序論 (1) 歴史の見方 (2) 時代区分とは
	事後学習	「事実」に対する認識の仕方と、それに基づく歴史の捉え方を理解してください（講義の聴き方・理解の仕方にもつながります）。また中高で教わった歴史科目で「時代区分がどのようになされていたか」を見直してみてください。[1時間]
2	事前学習	「近代国家」とは何か。考えて定義してみてください。そして一般にどう説明されているかを確認し（世界史や政治経済等で教わったはずです）、改めてその意味内容を考えてみてください。[1.5時間]
	授業内容	序論(2)の続き：「近代」と「現代」 1. 明治国家の形成 (1) 明治維新と新政府（1868-1882年）
	事後学習	明治維新は要するに何だったのか。どんな人々が明治新政府を構成したか。近代的な統一国家を作るには何が必要だったか。このように、講義を論題（レジュメの見出し部分）ごとに捉え、その中に細部の説明事項を位置づけると理解しやすくなるはずです。復習やノートの整理もそのようにするといいいでしょう。[2.5時間]
3	事前学習	「政府」、「統治」、「（三権分立の）「三権」。以上の語義を、国語辞典と政治学事典の両方で調べてください。その上で、国をつくる（国家形成）という行為を具体的に考えてみてください。[1.5時間]
	授業内容	1. 明治国家の形成 (1)の続き (2) 統治体制の構築（1883-1889年）
	事後学習	政変を機に新政府内の政治勢力が変化し、それによって政策路線が定まる経緯。政府が構築した統治機構が政治（国家運営）において持つ意味と機能。そして憲法制定・国会開設「の前に」統治体制を整えたことが持つ意味。これらを理解するような復習を。[2.5時間]

4	事前学習	「大日本帝国憲法」に目を通してください（法律の授業で使う六法に載っています）。特に、条文の前の「告文」「憲法発布勅語」と、第一章（天皇）・第四章（國務大臣及枢密顧問）の各条文は念入りに読んでください。[1.5時間]
	授業内容	1. 明治国家の形成 (3)大日本帝国憲法下の政治構造 ①天皇の地位と権限
	事後学習	天皇大権の種類ごとに設定された発動要件が重要です（それが「親政ではない」状態を作るからです）。発動要件は、天皇の権限と他の国家機関（内閣、元老、軍、議会）の権限の対抗関係と捉えることができます。他の国家機関が持つ権限が大権の発動要件（発動の制約）になっているからです。その仕組みと論理を理解してください。[3時
5	事前学習	立法府（立法権）と行政府（行政権）の役割と違いを理解していますか。近代以降現在に至る政治（国家体制）の基本の概念であり仕組みですから、この理解は必須です（高校までの社会科科目で教わったはず）。わからなければ勉強してください。[1.5時間]
	授業内容	1. 明治国家の形成 (3)大日本帝国憲法下の政治構造 ②「政治」の力量と限界（議会と内閣）
	事後学習	貴族院は身分制議会。衆議院の選挙権は資産に基づく制限あり（どちらも当時世界的に存在した仕組みです）。帝国議会の権限は天皇や内閣の権限と対抗関係にある（分権の担保）。現在の日本の議会制度（国会）との違いは解りますか。内閣も現在の内閣（議院内閣制）とは違います。枢密院は天皇主権国家ならではの機関。復習し理解してください。[3時間]
6	事前学習	日本国は「官僚制の強い国」に分類されてきたことを知っていますか。そうなった理由も考えてみてください（他の国と比較して考えるといいでしょう）。[1.5時間]
	授業内容	1. 明治国家の形成 (3)大日本帝国憲法下の政治構造 ③「官治」の強大（行政権力による国民統治） 2. 明治国家の確立過程 (1)初期議会期～日清戦後期の内閣と議会（1890-1903年）
	事後学習	2-(1)は「内閣と衆議院（藩閥政府と民党勢力）」の関係に焦点を絞って説明しています。両者の関係が変化する過程と理由を理解してください。「政界縦断的」「政界横断的」提携or政党という語は、両者の関係を把握するための概念です。[2.5時間]
7	事前学習	日本近代史を細分する時代区分の一つに「日清・日露戦争期」があります。10年を隔てて遂行された二つの戦争が時代を画する変化をもたらしたからです。戦争が政治や経済・社会にどんな影響を与え得るか、考えてみてください。[1.5時間]
	授業内容	2. 明治国家の確立過程 (1)の続き (2)日清戦争・戦後外交・日露戦争（1894-1905年）
	事後学習	戦争は外交の延長上にある手段ですが、当時の日本が二度も戦争にふみきった理由（戦争目的）は何にあったか（二度とも同じ）を理解してください。そこが2-(2)の焦点です。[2.5時間]
8	事前学習	日清・日露戦争を経て、明治政府は維新の目的を達成します。明治維新の最大の目的（必要性）は何だったかを思い出しておいてください（第2講 1-(1)で説明しました）。[1.5時間]
	授業内容	2. 明治国家の確立過程 (2)の続き 明治国家の確立（日清・日露戦争期の帰結と新たな課題）
	事後学習	「明治国家の確立」の項では、維新以来の日本国家の目標の達成と、その過程から生じた新たな課題をまとめました。初回以来の講義内容をふまえて理解してください。それは近代日本が置かれた状況と政治の展開を大きく捉えるものになるはずです。[2.5時間]
9	事前学習	ここからは、維新当初の想定を超えた新たな政治課題に対処する過程で、政権の構造が変化していく局面に入ります。新たな課題は前回説明した「帝国化」と「大衆化」の語で概括できますが、その内容と意味を思い出しておいてください。[1.5時間]
	授業内容	3. 明治国家体制の動揺 (1)日露戦後の政局と外交（1905-1912年）①桂園時代の政局
	事後学習	桂園時代とは単に桂と西園寺が交互に首相を務めた時期ではありません。彼らが率いる政治勢力の拮抗状態が、政権委譲という手段を選ばせ桂園時代を生み出したのです。この二つの勢力の対抗と妥協の関係は、2-(1)で説明した内閣と衆議院の関係が発展したものです。そのつながりを含めて理解してください。[2.5時間]
10	事前学習	朝鮮半島には現在二つの国家が存在するが、それはいつからか。また「満州」という地域（現在は通例「中国東北部」と呼ばれる）はどこにあるか。調べて知っておいてください。[1.5時間]
	授業内容	3. 明治国家体制の動揺 (1)日露戦後の政局と外交（1905-1912年）②桂園時代の外交：韓国と南満州
	事後学習	植民地や権益（租借地等）を持つことの得失を、長期的・世界的な視野で考えてみてください。日本でも他国でも、この時代（帝国主義時代）に為したことの影響は現在なお様々な形で存在しますから、これは現代の問題でもあります。日本や他国の例を調べてみてください。[2.5時間]
11	事前学習	「大正デモクラシー」という語が何を指すものか、日本史辞典等で調べてみてください。結構多面的です（講義ではそれが政治の動向として現われた局面を話します）。[1.5時間]
	授業内容	3. 明治国家体制の動揺 (2)「民衆的示威運動」の時代：憲政擁護運動と二つの政変（1912-1914年）
	事後学習	世論が政治に反映して政界内で具体化する過程は見えにくいものですが、大正政変はそれがよくわかる事例なので、経過を詳しく説明しました。「憲政擁護」「閥族打破」の語に込められた含意も理解してください。[2.5時間]
12	事前学習	大隈重信がどういう立場で何をした人だったかを思い出しておいてください（講義では1-(1)と2-(1)で登場しました）。[1.5時間]
	授業内容	3. 明治国家体制の動揺 (3)第一次大戦期の政治：政党内閣への抵抗（1914-1918年）
	事後学習	護憲運動は政変を起こしたが、その要求がすんなり政治に反映されたわけではない（変化は窺えるが）。政治が各勢力の力関係に左右される側面を理解してください（各勢力の力の淵源が何にあるかも含めて）。[2.5時間]
13	事前学習	人類初の総力戦と言われる第一次世界大戦ですが、欧州諸国と日本とではずいぶん様相が違います。大戦全体の概要を調べてみてください。また、日本の「大戦景気」がどんな状況だったかを知らうる具体例を探してみてください。[1.5時間]
	授業内容	4. 第一次大戦後の政治 (1)大戦後の状況と原内閣：政党内閣の成立と施政（1918-1922年）
	事後学習	原敬は公益にも適う政策手段を駆使して自らの政治目的を実現していく有能な政治家でした。その政治手腕の理解とともに、彼がめざしたものと世論が期待した「デモクラシー」は必ずしも一致しなかったことを理解してください。[2.5時間]
14	事前学習	第一次大戦の経験は世界各国に多大な影響を残し、世界秩序（国家間ルール）の組替えをもたらしました。前回話したベルサイユ条約はその中核です（講義は日本に関わる側面の説明に留めました）。ベルサイユ条約とそれを定めたパリ講和会議の概要を調べて、大戦後の日本が向き合った世界の状況を知ってください。[1.5時間]
	授業内容	4. 第一次大戦後の政治 (1)の続き (2)政友会内閣の崩壊と「中間内閣」の継続（1922-1924年）
	事後学習	高橋内閣の総辞職は、政党を基盤とする政権が党の内紛によって倒れた例。これはようやく実現した政党内閣が続かなかった理由にもつながる（直接には元老の選択結果だが）。そのように捉えてみてください。[2.5時間]

15	事前学習	明治から大正末期に至る日本政治の推移を説明しました。レジュメのタイトル（本シラバス「授業内容」欄と同じ）は時期区分と主題を示しています。各部分の見出しも手掛りにして、時期ごとの政治の特質とその変化を大きく捉え、説明の要点を押さえながら復習してください。[1.5時間]
	授業内容	講義のまとめ（試験実施予定）
	事後学習	興味を引かれた時期や事柄を扱った本を探して読んでみてください。参考書欄やレジュメに記した書籍でもいいです。講義は概説に留まりますが、歴史の本当の面白さは細部にあり、具体的な事実を知るほど面白くなるものです。[2.5時間]

科目名	日本政治史Ⅱ	担当者	中 静 未知	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	昭和戦前期（太平洋戦争開戦まで）の日本政治の歴史を概説する。戦前民主政治の頂点とされる政党内閣期の政治と、政党内閣の崩壊から戦時期に至る政治の変容過程を説明の中心とし、二つの戦争（日中戦争、太平洋戦争）にふみきった経緯を含めて講義する。				
授業目的・到達目標	・近現代の日本政治に関する基本的な知識と理解を深めることを目的とする。様々な人々と関わる社会人の基礎教養として必要性を認識し修得すること。 ・歴史の見方（過去の事実を時代状況に即して客観的に捉えること）を学び、時流に惑わされず事実を客観的に判断し思考する姿勢と能力の修得を目標とする。 【関連DP・CP】政治経済学科 1, 2, 3, 8 新聞学科 1, 5 公共政策学科 1, 3, 4				
履修条件	Ⅰ・Ⅱ両方の履修を原則とする。1年生はできるだけ木曜1限で受講してください。				
授業方法	・授業時に配布するレジュメに基づいて、講義を行う。 ・定期試験実施後、希望者には答案の解説を行う（メールで回答）。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	論述形式の筆記試験を行う。採点は特に次の点を重視する。①問題文に対する応答になっていること、②史実に関する理解度、③記述の論理性と日本語表現・表記の正しさ。	
	平常評価		0%		
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参考書	『日本の近代』第4・5巻（中公文庫）、『シリーズ日本近現代史』④⑤⑥（岩波新書）等。他に適宜レジュメで紹介する。				
オフィスアワー	面談可能時間：火曜昼休み(12:10-12:50)。事前にアポイントメントを取ってください（メールか授業の前後に口頭で）。 研究室（9号館4階405号）nakashizuka.michi@nihon-u.ac.jp なお、授業内容についての質問はメールでも受け付けます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	日本政治史Ⅰの講義内容を思い出しておいてください（自分が前期試験の答案に何をどう書いたかも）。[2時間]
	授業内容	前史の概観（Ⅰで扱った時代の概括＋Ⅰの試験の講評・解説）
	事後学習	Ⅱの時代も政治機構の大枠は変わらないので、政治の仕組みを改めて確認してください。当時の内閣制度と現在の制度（議院内閣制）との違いを理解していますか。[2時間]
2	事前学習	時代は政党内閣の最盛期に入ります。明治期以来の主要政党の結党時とその後の系統関係を確認しておいてください（Ⅰで折々説明しましたし、日本史辞典類には政党系統図などの資料も載っています）。[2時間]
	授業内容	1. 政党内閣の時代 序：政党内閣期と元老西園寺 (1) 憲政党内閣（護憲三派～単独）の内政と政党の動向（1924-1927年）
	事後学習	政党内閣期は各政党の動向が重要になるので、政界内の動向の説明が増えます。日ごろ政治報道等に慣れていないとわかりにくいかも知れませんが、これぞ政治という側面でもありますから理解に努めてください。[2時間]
3	事前学習	田中義一が政友会に入ってからすぐに総裁となり、まもなく首相になる。田中義一の経歴を調べてみてください（日本史辞典にも人名辞典にも載っているはずです）。[1.5時間]
	授業内容	1. 政党内閣の時代 (1) の続き (2) 田中内閣（政友会）の内政と政党の動向（1927-1928年）
	事後学習	田中内閣は歴史上あまり評判がよくないが、その一因は内相の鈴木喜三郎にある。田中も鈴木も新参議員ながらすぐに党幹部となり昭和期の政友会を形作った人物です。なお学習に際しては、憲政会（のち民政党）と政友会の違いという対比の視点も持って理解するように（次回の外交も含めて）。[2.5時間]
4	事前学習	辛亥革命(1912-1913年)と以後の中国の国内情勢について、概要を調べておいてください。[1.5時間]
	授業内容	1. 政党内閣の時代 (2) の続き (3) 両党内閣の外交：「幣原外交」と「田中外交」（1924-1929年）
	事後学習	幣原＝協調外交、田中＝積極(強硬)外交とよく言われるが、現実はその単純に言い切れるものでもない。違いの焦点は満州利権をめぐる方針だが、それも程度の違いと捉え得る。解ったでしょうか。[2.5時間]

5	事前学習	「金本位制」とはどのような仕組みか調べておいてください。[1.5時間]
	授業内容	1. 政党内閣の時代 (4) 浜口内閣（民政党）の内政（1929-1930年）：金解禁政策、政界の動向
	事後学習	時代が進むにつれて経済政策の重要性が高まる。浜口内閣は井上準之助という専門家を得て金解禁にふみきるが、やがて判断の誤りとされる結果をもたらす。経済政策は難しいかも知れませんが理解に努めてください。[2.5時間]
6	事前学習	再び外相となった幣原が田中外交期に悪化した対中関係の改善をめざしますが、中国の情勢は憲政会内閣時代とは変化しています。国民政府成立(1927年)以降の中国の国内動向について、調べてみてください。[1.5時間]
	授業内容	1. 政党内閣の時代 (5) 浜口内閣と外交問題（1929-1931年）：第2次幣原外交、ロンドン海軍軍縮問題
	事後学習	海軍軍縮問題は、条約自体（外交問題）ではなく日本国内の政治問題として説明していることに注意。条約支持派と反対派が争点とした論理を理解してください。前期Ⅰの1-(3)で説明した軍令・軍政の別（軍事に関する天皇大権の憲法規定2カ条と、それぞれの発動要件）が関係します。[2.5時間]
7	事前学習	世界恐慌（大恐慌）について概要を調べて知っておいてください。[1.5時間]
	授業内容	2. 「非常時」の政治：政党内閣の崩壊と「革新」 (1) 恐慌・事変・テロリズム（1930-1932年）：昭和恐慌、満州事変
	事後学習	恐慌下の惨状、特に農村部の様相は想像しにくいと思う。レジュメの参考文献に挙げた『労働者と農民』は、近現代日本に生きた普通の人々の状態を知りうる好著です。通して読めば理解は深まるが、「窮乏の農村」の章だけでも読んでみるように。[2.5時間]
8	事前学習	満州事変の首謀者・石原莞爾は昭和日本のダークヒーロー。関心が高いので関係書も多い。どんな人物だったか調べてください。[1.5時間]
	授業内容	2. 「非常時」の政治：政党内閣の崩壊と「革新」 (1) の続き：政界の動向、血盟団事件、事変の拡大と満州国の出現、五・一五事件
	事後学習	この時期の政治（特に軍との関係）を理解するには、テロリズムの恐怖が政治家の身に迫るものとして存在したことを考えに入れる必要がある。「非常時」は主に軍が喧伝した語でそれを創出したのも軍だったが、恐慌と軍の暴走に直面した内閣の動揺と苦難の実態を理解してください。[2.5時間]
9	事前学習	斎藤肇国一致内閣で6度目の蔵相を務める高橋是清は、この時期の財政指揮で名を残すが、自らの命を賭すことにもなった。日本の国際連盟脱退時の連盟総会代表だった松岡洋右は、後に外相として日本国の運命を導く一人となる。二人の人物について調べてみてください。[1.5時間]
	授業内容	2. 「非常時」の政治：政党内閣の崩壊と「革新」 (2) 挙国一致内閣の成立と満州国承認(1932-1933年)：政党内閣の途絶、「高橋財政」と軍事費、満州国承認と国際連盟脱退
	事後学習	五・一五事件後の後継首班選定は異例づくめの経過を辿った末に政党内閣を回避する。これが政党内閣の途絶となるのは後から見ての話で、この時点で政界ではいずれ政党内閣は復活すると考えられていた。関東軍が作り出した傀儡国家・満州国は国際連盟で否認されつつ存続する。[2.5時間]
10	事前学習	美濃部達吉の憲法学説「天皇機関説」（国家法人説）の概要を調べておいてください。[1.5時間]
	授業内容	2. 「非常時」の政治：政党内閣の崩壊と「革新」 (3) 挙国一致内閣の継続と政党的動向（1933-1936年）：斎藤・岡田内閣下の政党、天皇機関説問題、二・二六事件
	事後学習	「我が党内閣」を持てなくなった政党勢力は事態の打開を求めて行動する。政権奪取や党の維持存続のための手段が国家・社会に重大な影響をもたらす結果となったことを、政治が持つ性質の一面として理解してください。[2.5時間]
11	事前学習	二・二六事件は関心の高い歴史的事件の一つ。講義は政治への影響に限定した説明ですが、陸軍や首謀者達に焦点を当てた関係書も多数あります。事件について調べてみてください。[1.5時間]
	授業内容	3. 「革新」の政治——陸軍の政治介入と政界の動向（1936-1937年） ：二・二六事件後の組閣と政策、「革新」をめぐる思惑と政界
	事後学習	事件を経て陸軍の政治介入はあからさまに強まり、以後の日本政治は「政軍関係」抜きには語れなくなる。広田内閣の成立過程と施政は「軍部の台頭」と言われる事態を具体的に示している。政界でも軍に同調する革新派が暗躍し、軍・政界と国民の期待を担って近衛文麿が登場する。[2.5時間]
12	事前学習	近衛文麿について人物や経歴を調べてみてください。1945年の敗戦後までカリスマ性を持ち続けた人物ですが、そのことと政治家として現実にしたこととのギャップが謎でもあります。[1.5時間]
	授業内容	4. 戦時下の政治 (1) 日中戦争——意思なき開戦と拡大（1937-1938年）：戦争の勃発と拡大、戦時体制の構築、和平の試み
	事後学習	日中戦争は「するつもりのない戦争も起こりうる」事例。事変の拡大を導いた重大な要素は、当時の日本に（政界にも軍にも国民にも）広く存在した中国に対する侮蔑意識です。満州事変以降の対中関係は現在に至る日中関係の根底にある事実ですから、よく学んでください。[2.5時間]
13	事前学習	この時期の日本の針路に大きな影響を与えた国は、アメリカとともにドイツです。1930年代のドイツ（特に外交）について調べてみてください。[1.5時間]
	授業内容	4. 戦時下の政治 (2) 対外関係の混迷(1938-1939年)：日独伊防共協定強化問題、対米関係の悪化、ノモンハン事件、独ソ不可侵条約と欧州戦争勃発
	事後学習	「出先の暴走」は軍のみにあらず。官僚にも「革新派」は存在した。日中戦争が米国との関係悪化をもたらす淵源は、第一次大戦後の国際的諸原則（九ヵ国条約や不戦条約の規定）にあるので、その内容も確認して理解してください。[2.5時間]
14	事前学習	「フランス領インドシナ（仏印）」「オランダ領東インド（蘭印）」が現在のどこに位置するか確認しておいてください。この時期に本格化する「南進」の行き先です。[1.5時間]
	授業内容	4. 戦時下の政治 (3) 欧州戦争の下で：戦時統制の進行と議会、南進論の浮上と「近衛新体制」（1939-1940年）
	事後学習	平沼・阿部・米内と短命内閣が続いた後、再び近衛がまたも興望を担って登場する。「大政翼賛会」の名はよく知られているが、それが何をめざした末の帰結だったかを理解してください。また、欧州戦争の推移と南進論の関係について理解してください。[2.5時間]
15	事前学習	欧州戦争におけるドイツ軍の快進撃は日本を幻惑する。1939年以降ドイツ軍が侵攻し占領した国々と範囲を地図上で確認してください。講義ではドイツとの軍事同盟締結から対米英開戦に至る経緯の概略を説明します。開戦が「軍部の強行」で決まったのではないことを理解してください。[1.5時間]
	授業内容	4. 戦時下の政治 (4) 太平洋戦争（対米英開戦）に至る経緯：松岡外交と対米交渉、南進と米国の対応、開戦方針の推移（1940-1941年）
	事後学習	政党内閣期、その崩壊と「革新」政治（軍を含む）の台頭、目的もなく止めることもできない対中戦争と、それが要因となった対米英開戦まで、昭和戦前期の政治の推移を説明しました。現実の事象は様々な要因が作用して発生し展開します。「なぜそうなったのか」という視点を持って復習してください。[2.5時間]

科目名	日本政治思想史Ⅰ	担当者	上地 聡子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	西洋の衝撃（ウェスタンインパクト）の前と後でなにがどう変わったのか、国家の樹立・国民の創出とは何を意味するのか、日本の（東）アジアや世界に対する認識はどのように変化したのか、といった問題意識のもと、19世紀半ばから20世紀初期という時期を対象に、東アジアという空間のなかで日本列島の政権が近代国家を樹立して行くまでの過程を、その時代の思想を通じて学んでいく。				
授業目的・到達目標	「西洋の衝撃」以降の「常識」を相対化し、現在の政治社会制度を多元的に想像し直す思考の「くせ」の取得および育成を目的とする。①「西洋の衝撃」以前の秩序観、明治維新以降の政治思想の理解を深め説明できること、②社会科学的方法論を意識化し、教科書読解の過程で実践すること、③現在の政治社会制度を相対化する思考の「くせ」の取得と育成を到達目標とする。【対応DP及びCP：政治経済学科1、2、3／公共政策学科1、3、4】				
履修条件	歴史一般に対する関心を持っている方が望ましい。また必須条件ではないが、対象時期が連続し内容も関連するため、可能であれば後期「日本政治思想史Ⅱ」と併せて受講することが望ましい。				
授業方法	前週のレビューシートへの応答と講義を行う。教科書に沿ったレジュメを当日配布し、板書を書き写す形式で進める。関連資料、前週のレジュメの配布は共有フォルダにて行い、試験の講評も後日このフォルダにアップロードする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	①設問を理解し適切に答えているかどうか、②授業内容の理解度、③論路的思考と考察力をもとに総合的に判断する。	
	平常評価		30%	毎回のレビューシートの内容（質問を含む）をもとに判断し、授業へ積極的に取り組む姿勢を総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	1999年	岩波書店		『近代日本思想案内』	鹿野政直
	備考				
参考書	石田徹、2012年、「華夷秩序をめぐる―国際関係史的思考」飯田泰三・李曉東編『「転形期」における日本と中国―その苦悩と展望―』国際書院。＊その他、必要に応じて講義の中で適宜紹介、配布する。				
オフィスアワー	水曜日 17時50分～18時30分（事前にメールで連絡すると確実です）授業講堂				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し講義全体を概観する。共有フォルダより教科書「はじめに—思想と向き合う」および関連資料を取得し事前に読む。（2時間）
	授業内容	前期ガイダンス（授業目的、講義の概要、成績評価の説明）ののち、「日本政治思想史を学ぶということ」について教科書「はじめに—思想と向き合う」の内容に沿って確認する。
	事後学習	シラバスおよび講義ノートを確認し、自分の学習計画や他の理由科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	石田徹「華夷秩序をめぐる一国際関係史的思考」（共有フォルダ）を読み、華夷秩序下と現在の外交関係における国家概念の違いについて予習する。（2時間）
	授業内容	「華夷秩序と万国公法体制：西洋の衝撃を考える①：明治維新以前の東アジアの国際秩序観、世界観を学び、日本列島の政権が有していた対外認識が「西洋の衝撃」の前と後とでどのように変化していったのかを考察する。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、華夷秩序の特徴と現在の外交関係の違い、華夷秩序時代の徳川幕府の外交について理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
3	事前学習	石田徹「華夷秩序をめぐる一国際関係史的思考」（共有フォルダ）を読み、「西洋の衝撃」以降の徳川幕府／明治政府と東アジア諸国の外交上の変化とその原因について予習する。（2時間）
	授業内容	華夷秩序と万国公法体制：西洋の衝撃を考える②：「西洋の衝撃」がもたらした秩序観の変化が徳川幕府／明治政府と東アジア諸国のそれまでの国際関係に与えた影響について考える。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、徳川幕府／明治政府と東アジアとの国際関係が変化した背景と原因について理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
4	事前学習	石田徹「華夷秩序をめぐる一国際関係史的思考」（共有フォルダ）を読み、「西洋の衝撃」以降の徳川幕府／明治政府と東アジア諸国の外交上の変化とその原因について予習する。（2時間）
	授業内容	華夷秩序と万国公法体制：西洋の衝撃を考える③：華夷秩序のなかの国家観と万国公法体制のなかの国家観を比較し、近代国家という存在が過去数百年の間に構築されてきたものであることを再確認する。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、万国公法体制の歴史性について理解した点と不明点をまとめる。（2時間）

5	事前学習	教科書「1 幕末という時代」を読み、「西洋の衝撃」が徳川幕府時代の人々にもたらした影響について予習する。（2時間）
	授業内容	「西洋」の発見、中国観の転換、「日本」の発見①：ペリー来航を契機として人々がどのように「西洋」を知ろうとし、受けとめたのかについて考察する。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、「西洋の衝撃」の影響について理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書「1 幕末という時代」を読み、「西洋の衝撃」が東アジアと徳川幕府／明治政府時代の人々の中国観、日本観に与えた影響について予習する。（2時間）
	授業内容	「西洋」の発見、中国観の転換、「日本」の発見②：アヘン戦争の衝撃、西洋の探索などが前近代・華夷秩序時代の中国観を変えていき、同時に「日本」が意識化されていく様子をたどる。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、徳川幕府／明治政府時代の人々の中国観、日本観の変化について理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書「1 幕末という時代」を読み、「西洋の衝撃」以降、徳川幕府／明治政府の制度や思想に生じた変化について予習する。（2時間）
	授業内容	「西洋」の発見、中国観の転換、「日本」の発見③：「日本」の意識化により、幕藩体制を超える視野と身分制打破の意識が生じた過程を確認し、幕末のこうした動きの上に近代日本思想が展開していった様子を確認する。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、徳川幕府／明治政府の制度や思想に生じた変化が明治維新以降の社会に与えた影響について理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書「2 啓蒙思想」を読み、啓蒙思想家の危機感と目的、およびその国際政治的背景について予習する。（2時間）
	授業内容	啓蒙思想家が目指したこと①：明治維新、日本という国家を建設しようと意図した「文明開化」の流れの中で、その国の住人（国民）を造り上げることを目指した啓蒙思想の諸相について学ぶ。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、国民を作るとはどういうことか、自分なりに理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書「2 啓蒙思想」を読み、明六社と福沢諭吉の思想と活動について予習する。（2時間）
	授業内容	啓蒙思想家が目指したこと②：啓蒙思想家がどのように「西洋」の導入を試み、人々の気風の改革を目指したのかについて明六社や福沢諭吉を中心に理解を深める。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、明六社の多様性、福沢諭吉の思想について自分なりに理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書「2 啓蒙思想」を読み、文明からみた歴史観および翻訳という行為の含意について予習する。（2時間）
	授業内容	啓蒙思想家が目指したこと③：啓蒙思想によって歴史の見方に文明という尺度が取り入れられたこと、また思想の導入の過程で翻訳の問題が生じたことなどを確認する。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、文明からみた歴史観とそうでない歴史、翻訳の孕む問題と可能性について自分なりに理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書「3 自由と平等」を読み、自由民権運動の概要および植木枝盛という人物について予習する。（2時間）
	授業内容	自由民権運動①：自由民権運動がどのような政治状況から生まれ、何を主張し、のちにどのような影響を与えたのかについて植木枝盛の主張と著書を中心に学ぶ。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、自由民権運動と植木枝盛の問題意識と思想について自分なりに理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書「3 自由と平等」を読み、中江兆民の人物と思想について予習する。（2時間）
	授業内容	自由民権運動②：引き続き自由民権運動について中江兆民の主張と著書を中心に学ぶ。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、中江兆民の問題意識と思想について自分なりに理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
13	事前学習	教科書「3 自由と平等」を読み、自由民権思想と「西洋」と「東洋」の問題、および天皇制との関係について予習する。（2時間）
	授業内容	自由民権運動③：自由民権思想における「西洋」と「東洋」について、また同思想が天賦人權説と天皇制にどのような向き合ったか、確認する。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、自由民権思想における「西洋」と「東洋」の問題、天皇制の問題について自分なりに理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
14	事前学習	アジア主義に関する事前配布資料（授業中に指示）を読み、自由民権運動から国粋主義、アジア主義的な運動へ続く系譜について予習する。（2時間）
	授業内容	自由民権運動とアジア主義：自由民権運動から国粋主義、アジア主義的な運動が生まれた思想的背景を確認し、朝鮮半島および中国大陆の知識人が近代どのように向き合ったのか概観する。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、アジア主義が孕むナショナリズムと東アジアの知識人の移動について自分なりに理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
15	事前学習	初回からの教科書の各章、講義ノートと配布レジュメを復習し、近代化前後の東アジアおよび日本における世界観、思想上の変化について考察する。試験の準備をする。（2時間）
	授業内容	まとめ：西洋の衝撃前後の時代から20世紀初期という時間、東アジアという空間の中で、日本が近代以前の国際秩序観から近代国家化へ動き出す過程をもう一度振り返る。 授業内試験を実施する。
	事後学習	前期授業と試験をふりかえり「分からないこと」を把握し、ノートにまとめる。（2時間）

科目名	日本政治思想史Ⅱ	担当者	上地 聡子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国家形成を達成し、ナショナリズムの昂揚、帝国主義化を経験していく日本において展開していく思想を、「欧化と国粋」「国体論」「社会主義」「フェミニズム」の側面から理解を深める。それぞれの思想が同時代的状況への応答であり、直面する政治社会との往還のなかで生み出されてきていることを確認したうえで、そうした思想の多面性、帰結、影響、可能性、陥穽についてもできるかぎり学んでいく。				
授業目的・到達目標	「欧化と国粋」「国体論」「社会主義」「フェミニズム」に対する理解を深め、現在の政治社会制度に対する多様な視座の育成を目的とする。①上記4つの思想潮流について理解を深め説明できること、②社会科学的方法論を意識化し、教科書読解の過程で実践すること、③現在の政治社会制度とこれらの思想の関係を捉え直し、幅広い理解力の取得と育成を到達目標とする。【対応DP及びCP：政治経済学科1、2、3／公共政策学科1、3、4】				
履修条件	歴史一般に対する関心を持っている方が望ましい。また必須条件ではないが、対象時期が連続し内容も関連するため、可能であれば後期「日本政治思想史Ⅱ」と併せて受講することが望ましい。				
授業方法	前週のレビューシートへの応答と講義を行う。教科書に沿ったレジュメを当日配布し、板書を書き写す形式で進める。関連資料、前週のレジュメの配布は共有フォルダにて行い、試験の講評も後日このフォルダにアップロードする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	①設問を理解し適切に答えているかどうか、②授業内容の理解度、③論路的思考と考察力をもとに総合的に判断する。	
	平常評価		30%	毎回のレビューシートの内容（質問を含む）をもとに判断し、授業へ積極的に取り組む姿勢を総合的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	1999年	岩波書店	『近代日本思想案内』		鹿野政直
	備考				
参考書	講義の中で随時紹介、配布する。				
オフィスアワー	水曜日 17時50分～18時30分（事前にメールで連絡すると確実です）授業講堂				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し講義全体を概観する。共有フォルダより教科書「はじめに—思想と向き合う」および関連資料を取得し事前に読む。（2時間）
	授業内容	後期ガイダンス（授業目的、講義の概要、成績評価の説明）ののち、「日本政治思想史を学ぶということ」について教科書「はじめに—思想と向き合う」の内容に沿って確認する。併せて前期の授業内容を確認する。
	事後学習	シラバスおよび講義ノートを確認し、自分の学習計画や他の理由科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書「4 欧化と国粋」を読み、平民主義と国粋主義と呼ばれる思想について予習する。（2時間）
	授業内容	平民主義、国粋主義、アジア主義①：民権運動の退潮と国家体制樹立後の明治日本において提唱された平民主義と国粋主義の問題意識と国家／国民観を確認する。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、平民主義と国粋主義の問題意識および違いと共通点について理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書「4 欧化と国粋」を読み、平民主義と国粋主義と呼ばれる思想について予習する。（2時間）
	授業内容	平民主義、国粋主義、アジア主義②：平民主義と国粋主義がもたらした新しい文化意識を確認し、国粋主義からアジア主義的思想への理論的流れについて学ぶ。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、国粋主義とアジア主義的思想の現在への含意について理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
4	事前学習	教科書「4 欧化と国粋」を読み、岡倉天心の思想について予習する。（2時間）
	授業内容	平民主義、国粋主義、アジア主義③：岡倉天心の著作を中心に、20世紀初頭の知識人が示したアジア観の広がり、可能性、同時代的な限界を確認する。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、岡倉天心の思想の歴史的限界と現在の意義について理解した点と不明点をまとめる。（2時間）

5	事前学習	教科書「6 国体論」を読み、「国体」概念の特徴と歴史的背景について予習する。（2時間）
	授業内容	国体を巡る思想：水戸学から戦前期まで①：明治日本が近代国家化を進める過程において、人々の思想と行動に対する影響力を強めていった「国体」観念について概観する。明治維新以前の水戸学から帝国憲法・教育勅語までの時期を対象に「国体」の含意を確認する。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、日本独自の「国体」概念が発達してきた背景について理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書「6 国体論」を読み、北一輝と幸徳秋水の思想について予習する。（2時間）
	授業内容	国体を巡る思想：水戸学から戦前期まで②：19世紀末までに定着した「国体」思想に対して挑戦した北一輝と幸徳秋水の思想について学ぶ。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、北一輝と幸徳秋水が「国体」概念に挑戦した思想的・理論的方法について理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書「6 国体論」を読み、農本主義の思想と背景、昭和における「国体」概念の機能について予習する。（2時間）
	授業内容	国体を巡る思想：水戸学から戦前期まで③：「国体」思想を支えた思想としての農本主義について理解を深め、第二次世界大戦以前の昭和において「国体」概念がどのように使用されて、どのような知的・言論的風土を築いたのかを学ぶ。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、農本主義と「国体」の論理的繋がり、昭和における「国体」の機能について理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書「10 社会主義」を読み、社会主義思想黎明期の言論活動と初期社会主義の思想上の意義について予習する。（2時間）
	授業内容	近代日本における社会主義思想の位置①：社会主義思想が近代日本にもたらした歴史観・世界観の重要性を確認し、初期社会主義の思想上の意義（幸徳秋水の帝国主義批判、平民社と非戦論、アナキズム）を考察する。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、初期社会主義の多様性と思想上の意義について理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書「10 社会主義」を読み、社会主義思想黎明期の言論活動と初期社会主義の思想上の意義について予習する。（2時間）
	授業内容	近代日本における社会主義思想の位置②：初期社会主義の思想上の意義（幸徳秋水の帝国主義批判、平民社と非戦論、アナキズム）について引き続き考察をすすめる。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、引き続き初期社会主義の思想上の意義について理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書「10 社会主義」を読み、マルクス主義の概要と三木清の思想について予習する。（2時間）
	授業内容	近代日本における社会主義思想の位置③：昭和におけるマルクス主義の影響力を確認し、三木清の思想を概観する。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、マルクス主義の世界観と三木清の思想の概要について理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書「10 社会主義」を読み、講座派の思想活動と戸坂潤の思想について予習する。（2時間）
	授業内容	近代日本における社会主義思想の位置④：マルクス主義の諸相として講座派の思想と戸坂潤の「日本イデオロギー」論を概観する。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、マルクス主義の世界観と三木清の思想の概要について理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書「10 社会主義」を読み、治安維持法と転向の問題、植民地と社会主義の関係について予習する。（2時間）
	授業内容	近代日本における社会主義思想の位置⑤：治安維持法下の言論活動と昭和期の弾圧、転向の問題について考察する。また中野重治の詩をもとに、当時の社会主義者の視座の広がりと限界を確認する。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、「転向」の問題について理解した点と不明点をまとめる。また中野重治の詩を読んだ感想をまとめてみる。（2時間）
13	事前学習	教科書「12 フェミニズム」および事前配布資料（授業中に指示）を読み、女性という視座とこれまで見てきた思想史の関係、および与謝野晶子について予習する。（2時間）
	授業内容	女性にとっての近代（＝男性にとっての近代）①：自由民権運動から大正期までを中心に、女性をとりまく政治・社会・言論の変化のなかで、女性という立場の視座と主張を確認する。与謝野晶子の思想と行動を中心に理解を深める。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、女性という視座からみた歴史とこれまで知っていた歴史との差異について、また与謝野晶子の思想について理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
14	事前学習	教科書「12 フェミニズム」および事前配布資料（授業中に指示）を読み、平塚らいてうについて、また「男の子らしさ」の歴史について予習する。（2時間）
	授業内容	女性にとっての近代（＝男性にとっての近代）②：平塚らいてうと青鞥社の活動を中心に当時のフェミニズム思想の理解を深める。貞操論争、墮胎論争、公娼（廃止）論争を概観する。また「男の子らしさ」の歴史構築性について学ぶ。
	事後学習	講義ノートと配布レジュメを確認し、平塚らいてうの思想について、フェミニズムと「男の子らしさ」の歴史性について理解した点と不明点をまとめる。（2時間）
15	事前学習	初回からの教科書の各章、講義ノートと配布レジュメを復習し、明治から昭和期にかけての「欧化と国粹」「国体論」「社会主義」「フェミニズム」について考察する。試験の準備をする。（2時間）
	授業内容	まとめ：近代国家樹立以降から第二次世界大戦前の昭和という時間、東アジアのなかの日本という社会・言論空間の中で国内的、対外的にどのような思想が胚胎されたのかをもう一度概観する。 授業内試験を実施する。
	事後学習	前期授業と試験をふりかえり「分からないこと」を把握し、ノートにまとめる。（2時間）

科目名	日本政治特殊講義B(選挙運動論)	担当者	小島 勇人	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	選挙時において候補者が有権者に自らの政策や公約などを訴え、投票を依頼するために行う選挙運動とともに平常時乃至選挙時の政治活動の実際について現行の公職選挙法等に基づくルールを実践的に学ぶ。平常時・選挙時における現実の政治活動と選挙運動は微妙に交錯する場面が多く、公正な選挙運動の実践に向けた判断力を養うため、それぞれの規制を理解するために、現行法によるルールの基本を講義する。				
授業目的・到達目標	選挙は、民主政治の基礎であり基盤をなすものである。選挙時において候補者が有権者に自らの政策や公約などを訴え、投票を依頼するために行う選挙運動とともに平常時乃至選挙時の政治活動の実際について現行の公職選挙法等に基づくルールを実践的に学び、正しい選挙・政治のあり方とは何かを考える力を養成する。平常時・選挙時における現実の政治活動と選挙運動は微妙に交錯する場面が多く、それぞれの規制を理解するために、現行法によるルールの基本を習得し、公正な選挙運動の実践に向けた判断力を養うことを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2、3、4				
履修条件	特になし。				
授業方法	教科書を使用しつつ、必要に応じて授業区分ごとに参考資料を配布する。教科書や資料にない事例等を話す場合もあるので、ノートへの筆記も必要となる。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	現行公職選挙法における政治活動及び選挙運動に関する規制等の実践的理解の文章表現力。	
	平常評価		0%	なし。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	ぎょうせい		実務と研修のためのわかりやすい公職選挙法 第15次改訂版	選挙制度研究会
	備考				
参考書	必要に応じて講義に用いる参考資料を配布する。その他、授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	質問等については、授業時間中もしくは終了後に授業講堂にて対応する。（水曜3限）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	選挙運動論の命題である「選挙運動」の概念を教科書で掴んでおく。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション、授業概要、講義計画等の説明、 現行公職選挙法における政治活動・選挙運動の理解の前提となる選挙運動の概念の解説
	事後学習	講義計画、選挙運動の概念を配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して理解を深める。（2時間）
2	事前学習	教科書の該当部分を読み、選挙運動の期間、事前運動について理解しておく。（2時間）
	授業内容	選挙運動の期間、事前運動
	事後学習	配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して理解を深める。（2時間）
3	事前学習	教科書の該当部分を読み、選挙運動の主体について理解しておく。（2時間）
	授業内容	選挙運動の主体
	事後学習	配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して理解を深める。（2時間）
4	事前学習	教科書の該当部分を読み、選挙運動における文書図画について理解しておく。（2時間）
	授業内容	選挙運動の方法（1）文書図画による選挙運動
	事後学習	配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して理解を深める。（2時間）

5	事前学習	教科書の該当部分を読み、言論について理解しておく。（2時間）
	授業内容	選挙運動の方法（2）言論による選挙運動
	事後学習	配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して理解を深める。（2時間）
6	事前学習	教科書の該当部分を読み、その他の選挙運動について理解しておく。
	授業内容	選挙運動の方法（3）その他の方法による選挙運動
	事後学習	配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して理解を深める。（2時間）
7	事前学習	教科書の該当部分を読み、選挙運動に関する費用について理解しておく。（2時間）
	授業内容	選挙運動に関する費用に関する制限
	事後学習	配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して理解を深める。（2時間）
8	事前学習	教科書の該当部分を読み、選挙運動員又は選挙労務者に対する実費弁償又は報酬の支給について理解しておく。（2時間）
	授業内容	選挙運動員又は選挙労務者に対する実費弁償又は報酬の支給
	事後学習	配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して理解を深める。（2時間）
9	事前学習	教科書の該当部分を読み、政治資金の規正について理解しておく。（2時間）
	授業内容	政治資金の規正
	事後学習	配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して理解を深める。（2時間）
10	事前学習	教科書の該当部分を読み、寄附の禁止について理解しておく。（2時間）
	授業内容	寄附の禁止
	事後学習	配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して理解を深める。（2時間）
11	事前学習	教科書の該当部分を読み、政治活動の概念・平常時における政治活動について理解しておく。（2時間）
	授業内容	政治活動の概念・平常時における政治活動の規制
	事後学習	配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して理解を深める。（2時間）
12	事前学習	教科書の該当部分を読み、選挙時における政治活動について理解しておく。（2時間）
	授業内容	選挙時における政治活動の規制（1）
	事後学習	配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して理解を深める。（2時間）
13	事前学習	教科書の該当部分を読み、選挙時における政治活動について理解しておく。（2時間）
	授業内容	選挙時における政治活動の規制（2）
	事後学習	配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して理解を深める。（2時間）
14	事前学習	教科書の該当部分を読み、選挙運動・政治活動の規制違反と制裁について理解しておく。（2時間）
	授業内容	選挙運動・政治活動の規制違反と罰則・制裁
	事後学習	配布資料と講義内容に基づき復習し、自分なりに整理して理解を深める。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義内容から選挙運動の在り方を考察し、自分なりに整理して理解を深める。（2時間）
	授業内容	現行公職選挙法における政治活動・選挙運動のまとめ
	事後学習	これまでの講義から公正な選挙運動の実践に向けた判断力について考える。（2時間）

科目名	日本政治論 I（月曜1時限）	担当者	岩井 奉信	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今日、日本の政治は自民党の「一強多弱」を背景に、安倍晋三内閣の長期安定政権が続いている。このような中、日本政治の最大の争点であった憲法改正が現実味を帯びる一方、アベノミクスには限界がささやかれている。このような中、本年7月には、参議院選挙も予定されている。この授業では日本政治の現状について論じると同時に、日本政治の今後についても考えていく。				
授業目的・到達目標	・現代日本政治を客観的かつ冷静に見る「眼」を養うことを目的とする。 ・今後の日本政治を考えていく上に必要な「広い視野」を提供することを目的とする。 ・時事的な問題について、その背景について理解を深めることができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：政治経済学科1, 2 新聞学科1, 5				
履修条件	政治経済学科以外の履修を認める。政治経済学科の学生は、月曜3時限の日本政治論を履修すること。				
授業方法	授業は基本的に講義形式で行う。時事的な話題を講義の出発点とするため、必ずしもシラバス通りに授業が展開しない場合もあることを理解されたい。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		60%	授業で扱った日本政治の現状に対し、各自が問題意識をいかに形成したかを確認するような内容の試験を論述形式で行う試験の評価基準とする。	
	平常評価		40%	時事的な問題について、どの程度、理解しているかについて、必要に応じて、授業中に小テストやレポートを課すことがある。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	なし			
参考書	中北浩爾『自民党政治の変容』NHK出版 牧原出『安倍一強の謎』朝日新書				
オフィスアワー	月曜日昼休みまたは金曜日昼休み				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	日本政治に対する関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどを見聞きする習慣をつけておくこと。（2時間）
	授業内容	今日、日本政治を学ぶ意義
	事後学習	日本の政治を学ぶ意義について、自ら考え、問題意識を持つようにすること。（2時間）
2	事前学習	本政治に対する関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどを見聞きする習慣をつけておくこと。（2時間）
	授業内容	2019年の日本政治スケジュール
	事後学習	今年の日本政治のスケジュールで何が重要なのかを考えること。（2時間）
3	事前学習	今日の日本政治の中で、何が重要な関心事なのかを知り、各自の問題意識を醸成しておくこと。（2時間）
	授業内容	日本政治の「今」を知る1 自民党の「一強多弱」の現状と背景
	事後学習	民党の「一強多弱」は日本の政治・経済にとって、どのような利害得失があるかを考えること。（2時間）
4	事前学習	安倍晋三首相がどのような人物であるのかについて、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	日本政治の「今」を知る2 安倍首相による自民党内における「一強多弱」の状況と背景
	事後学習	「安倍一強」という状況が何故、起こったのかについて、理解を深めること。（2時間）

5	事前学習	現代の日本における政党の変遷について、基礎的な知識を学んでおくこと。（2時間）
	授業内容	日本政治の「今」を知る3 旧民進党の混迷と野党の分裂の背景
	事後学習	日本の野党が、何故、「一強多弱」を許すことになったのかを授業の内容を前提に、各自、考えてみること。（2時間）
6	事前学習	7月の参议院選挙について、新聞やテレビのニュースを見聞きして、状況を理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	日本政治の「今」を知る4 参议院選挙が持つ意味
	事後学習	参议院選挙のみならず、衆議院選挙の制度などについて、確認しておくこと。（2時間）
7	事前学習	憲法改正の段取りと仕組みについて基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	憲法改正への道1 何故、安倍総理は憲法改正を進めようとするのか。
	事後学習	自民党における憲法改正について、これまでの動向と現状について、再度、理解しておくこと。（2時間）
8	事前学習	憲法9条と自衛隊の関係について、どのような議論が行われてきたのか、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	憲法改正への道2 9条改正をめぐる自民党案と安倍首相案などのさまざまな考え方
	事後学習	憲法9条第2項改正案と3項加憲案の違いと問題点について、確実に理解すること。（2時間）
9	事前学習	憲法改正をめぐる改憲論と護憲論の経緯について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	憲法改正への道3 憲法改正に対する各党の対応と世論の動向
	事後学習	各党の憲法改正に対する姿勢の違いを再確認しておくこと。（2時間）
10	事前学習	日本の経済が抱える問題について、自ら考え、問題意識を醸成しておくこと。（2時間）
	授業内容	アベノミクスのゆくえ1 アベノミクスとは何か
	事後学習	アベノミクスの「三本の矢」とは何かについて、再確認しておくこと。（2時間）
11	事前学習	日本の経済が抱える問題について、自ら考え、問題意識を醸成しておくこと。（2時間）
	授業内容	アベノミクスのゆくえ2 アベノミクス5年間の成果
	事後学習	経済統計にみるアベノミクスの成果について、再度、理解しておくこと。（2時間）
12	事前学習	自らの生活の中で、アベノミクスの成果を実感できているかどうかを考えておくこと。（2時間）
	授業内容	アベノミクスのゆくえ3 アベノミクスの果実を享受できない国民の不満
	事後学習	経済統計にみる日本経済の活況と国民の所得や消費が伸びない矛盾について、自ら確認しておくこと。（2時間）
13	事前学習	自らの将来を考えた時、日本の経済の未来像はどのようなものになるかを考えてみること。（2時間）
	授業内容	アベノミクスのゆくえ4 停滞する成長戦略
	事後学習	日本の潜在成長率が低く見られているのは何故かについて、再度、理解しておくこと。（2時間）
14	事前学習	憲法改正が国民の中で受け入れられていくためには何が必要か、考えてみること。（2時間）
	授業内容	安倍政治は憲法改正とアベノミクスを両立できるのか。
	事後学習	憲法改正とアベノミクスとの関係性について、再確認すること。（2時間）
15	事前学習	安倍政治の現状について、新聞やテレビのニュースから、その動向についての情報を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	前期まとめ-2018年、日本の政治に求められていること。
	事後学習	憲法改正とアベノミクスとの関係性について、再確認すること。（2時間）

科目名	日本政治論 I（月曜3時限）	担当者	岩井 奉信	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今日、日本の政治は大きな転換混迷の中にある。このような時代であるからこそ、現代日本政治を客観的、かつ冷静に見る「眼」が求められる。本講義では、日本政治を単に政治だけでなく、経済、社会などとの相互関係を重視し、多角的な視野から学んでいく。ここでの学習を通じて、現代日本政治が置かれている状況を理解すると同時に、問題の所在や解決方法などを探っていく。・現代日本政治の発展過程を正確に理解し、問題意識を養う。					
授業目的・到達目標	・日本政治についての報道を見るための「眼」を養うことを目的とする。 ・学ぶ機会が少ない現代史について体系的に理解できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：政治経済学科1, 2 新聞学科1, 5					
履修条件	政治経済学科の学生のみが履修を許される。政治経済学科以外の学生は、月曜日 1 時限の日本政治論を履修すること。					
授業方法	授業は基本的に講義形式で行う。講義の途中では、適宜、日本政治に関する時事問題的な解説を行う。また、必要に応じて、受講生からの要望に基づいた講義も行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		60%		授業内で扱った現代日本政治の事象について理解されているか、説明や論理の展開について、一貫性や独創性があるかを評価基準とする。	
	平常評価		40%		前期に学んできた授業内容について、必要に応じて、レポートを課す場合がある。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	なし				
参考書	薬師寺克行『現代日本政治史』有斐閣					
オフィスアワー	月曜日昼休みまたは金曜日昼休み					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	日本政治に関心を持つため、日頃から新聞やテレビの政治ニュースを見聞きしておくこと。（2時間）
	授業内容	・現代日本政治を学ぶ 何故、日本の政治を学ぶ必要があるのか、それで何が得られるのかを考える。
	事後学習	今日の日本政治の状況について、自分なりの問題意識を確認すること。（2時間）
2	事前学習	日本政治に関心を持つため、日頃から新聞やテレビの政治ニュースを見聞きしておくこと。（2時間）
	授業内容	・日本政治の現状 今日の日本政治に何が起きているのか、何が問題とされているのかを確認する。
	事後学習	「一強多弱」とは何かについて確認しておくこと。（2時間）
3	事前学習	日本政治に関心を持つため、日頃から新聞やテレビの政治ニュースを見聞きしておくこと。（2時間）
	授業内容	・日本政治の特質 世界の中で日本政治の特質とされているものは何かについて概観する。
	事後学習	日本政治の特質がどのように変化してきたかを確認しておくこと。（2時間）
4	事前学習	戦後期の政治について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・現代日本政治の発展 1－戦後復興と政界再編 1945年～1955年の戦後復興期における政治と経済の相互関係について概観する。
	事後学習	日米安保体制について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）

5	事前学習	戦後におけるアメリカとソビエトの対立について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・現代日本政治の発展2－高度経済成長 1955年～64年の高度経済成長期における政治、経済の相互関係について概観する。
	事後学習	「五五年体制」とは何かについて確認しておくこと。（2時間）
6	事前学習	「高度経済成長」について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・現代日本政治の発展3－経済成長の矛盾 1965年～74年の高度経済成長後期における政治、経済の相互関係について概観する。
	事後学習	日本における政党の多党化の背景について確認しておくこと。（2時間）
7	事前学習	1970年代の石油危機について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・現代日本政治の発展4－低成長の時代 1975年～84年の低成長期における政治、経済の相互関係について概観する。
	事後学習	社会・経済構造の変化と自民党長期低落傾向との関係について確認しておくこと。（2時間）
8	事前学習	バブル経済の時代について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・現代日本政治の発展5－バブル経済 1985～94年のバブル経済期における政治、経済の相互関係について概観する。
	事後学習	1994年に実現した政治改革について確認しておくこと。（2時間）
9	事前学習	1990年代における政界再編の動向について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・現代日本政治の発展6－混迷の時代 1995年～2009以降の混迷の時代における政治、経済の相互関係について概観する。
	事後学習	小泉純一郎内閣について確認しておくこと。（2時間）
10	事前学習	2009年の政権交代を実現させた民主党について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・現代日本政治の発展7－政権交代と保守復活 2009年～今日の混迷の時代における政治、経済の相互関係について概観する。
	事後学習	民主党政権崩壊の背景と意味について確認しておくこと。（2時間）
11	事前学習	自由民主党について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・現代日本政治の基本概念1－自民党一党優位体制 自民党による長期政権支配とは何かについて解説して考える。
	事後学習	自民党の強さについて確認しておくこと。（2時間）
12	事前学習	戦後日本政治の争点について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・現代日本政治の基本概念－改憲と護憲 1955年に成立した自民党と社会党の「五五年体制」に起因する対立の構図と何かを解説する。
	事後学習	今日における改憲論にはどのようなものがあるか確認しておくこと。（2時間）
13	事前学習	政策運営における官僚制の役割について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・日本政治の基礎概念－官僚主導と政治主導 日本政治の課題と言われてきた官僚主導から政治主導の転換について解説する。
	事後学習	日本における「政官関係」について確認しておくこと。（2時間）
14	事前学習	政治と経済の相互関係について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・現代史にみる政治と経済 現代日本において政治と経済の関係から現代史を振り返り総括する。
	事後学習	日本における政治と経済の相互関係の特質について確認しておくこと。（2時間）
15	事前学習	現代日本政治の課題について、新聞やテレビのニュースから基礎的知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・現代日本政治の今日－前期まとめ 今日、日本政治が置かれている状況とはいかなるものかを前期の総括から確認する。
	事後学習	現代日本の政治課題の解決方法について、各自が独自に考えるみこと。（2時間）

科目名	日本政治論Ⅱ（月曜1時限）	担当者	岩井 奉信	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今日、「一強多弱」を背景に、安倍内閣は、これまでになく強い政権を作り上げた。その一方で、強すぎる政治ゆえの問題点も指摘されている。特にメディアへの対応については、従来の内閣とは異なる「力」を背景に圧力をかけているとも言われる。本講義では、日本における政治とメディアの関係について、テレビを中心に理解し、問題点を明らかにしていく。			
授業目的・到達目標	・現代日本政治を客観的かつ冷静に見る「眼」を養うことを目的とする。 ・今後の日本政治を考えていく上に必要な「広い視野」を提供することを目的とする。 ・日本におけるメディアと政治の関係の変遷を理解し、メディア・リテラシーを高めることができるようになることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：政治経済学科1, 2 新聞学科1, 5 政治経済学科以外の履修を認める。政治経済学科の学生は、月曜3時限の日本政治論を履修すること。			
授業方法	授業は基本的に講義形式で行う。時事的な話題を講義の出発点とするため、必ずしもシラバス通りに授業が展開しない場合もあることを理解されたい。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	60%	授業で扱った日本政治の現状に対し、各自が問題意識をいかに形成したかを確認するような内容の試験を論述形式で行う試験の評価基準とする。	
	平常評価	40%	時事的な問題について、どの程度、理解しているかについて、必要に応じて、授業中に小テストやレポートを課すことがある。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014年	中公新書	日本政治とメディア	逢坂巖
	2015年	集英社新書	安倍官邸とテレビ	砂川浩慶
	備考			
参考書	蒲島郁夫ほか『メディアと政治』有斐閣			
オフィスアワー	月曜日昼休みまたは金曜日昼休み			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	現代の日本政治の動向について関心を持つよう、平素から新聞やテレビのニュースを見聞きしておくこと。（2時間）
	授業内容	日本政治とメディア 1 日本政治の現在
	事後学習	各自が日本政治の現状について、問題意識を持つようにすること。（2時間）
2	事前学習	現代の日本政治の動向について関心を持つよう、平素から新聞やテレビのニュースを見聞きしておくこと。（2時間）
	授業内容	日本政治とメディア 2 新聞からテレビへ、そしてインターネットへ
	事後学習	活字メディアと映像メディアの特性の違いについて確認しておくこと。（2時間）
3	事前学習	占領期の時代について、基本的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	日本政治とメディア 3 戦後改革における「総ざんげ」とメディア
	事後学習	「総ざんげ」という言葉を語った大宅壮一について調べてみること。（2時間）
4	事前学習	「五五年体制」成立以前の日本政治の状況について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	政治とテレビの発達史 1 1950年代 戦後におけるテレビの登場と政治報道
	事後学習	黎明期のテレビ番組について自ら調べてみること。（2時間）

5	事前学習	自民党一党優位体制について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	政治とテレビの発達史 2 1960年代～70年代 キャスターニュースの登場と自民党一党優位体制
	事後学習	ニュースキャスターについて日米の違いを確認しておくこと。（2時間）
6	事前学習	中曽根内閣とはどのような内閣であったのかについて知っておくこと。（2時間）
	授業内容	政治とテレビの発達史 3 1980年代 中曽根内閣におけるテレビの利用
	事後学習	第二臨調におけるNHKの役割について確認しておくこと。（2時間）
7	事前学習	ニュースステーションとはどのような番組であったのかについて知っておくこと。（2時間）
	授業内容	政治とテレビの発達史 4 1990年代 ニュースステーションの登場と政権交代
	事後学習	1980年代から90年代における政治報道番組の隆盛について確認しておくこと。（2時間）
8	事前学習	1990年代初頭の政治改革の動向について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	テレポリティックスの時代 1 政治改革・政権交代とテレビ報道
	事後学習	1993年の政権交代に新聞が役割を果たせなかった理由を再確認しておくこと。（2時間）
9	事前学習	小泉純一郎内閣について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	テレポリティックスの時代 2 小泉「劇場政治」とメディア戦略
	事後学習	「劇場政治」とはいかなるものであったのかを確認しておくこと。（2時間）
10	事前学習	小泉純一郎内閣について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	テレポリティックスの時代 3 報道番組の時代からワイドショー政治の時代へ
	事後学習	小泉純一郎内閣のメディア戦略にはどのようなものがあったかについて確認しておくこと。（2時間）
11	事前学習	現代政治における世論の役割について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	テレポリティックスの時代 4 世論調査の隆盛と世論調査政局
	事後学習	世論調査の手法と課題について確認しておくこと。（2時間）
12	事前学習	第二次安倍晋三内閣の理念や政策について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	安倍内閣とメディア 1 安倍内閣における各種メディアの位置取り
	事後学習	メディアにおける「親自民」と「反自民」の分岐点について確認しておくこと。（2時間）
13	事前学習	「親安倍」メディアと「反安倍」メディアについて、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	安倍内閣とメディア 2 選別と圧力による強圧的メディア対策
	事後学習	安倍晋三内閣のメディア戦略について確認しておくこと。（2時間）
14	事前学習	放送法について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	安倍内閣とメディア 3 圧力に屈するメディアと対決するメディア
	事後学習	安倍晋三内閣と小泉純一郎内閣のメディア戦略の違いについて確認しておくこと。（2時間）
15	事前学習	政治報道における公正性と中立性について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	転機に立つ政治とメディア
	事後学習	放送法の改正や電波オークション制などテレビを巡る新しい動向について確認しておくこと。（2時間）

科目名	日本政治論Ⅱ（月曜3時限）	担当者	岩井 奉信	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	今日、日本の政治は大きな転換混迷の中にある。このような時代であるからこそ、現代日本政治を客観的、かつ冷静に見る「眼」が求められる。本講義では、日本政治を単に政治だけでなく、経済、社会などとの相互関係を重視し、多角的な視野から学んでいく。ここでの学習を通じて、現代日本政治が置かれている状況を理解すると同時に、問題の所在や解決方法などを探っていく。・現代日本政治の発展過程を正確に理解し、問題意識を養う。					
授業目的・到達目標	・日本政治についての報道を見るための「眼」を養うことを目的とする。 ・日本政治の制度と実態について理解できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：政治経済学科1，2 新聞学科1，5					
履修条件	政治経済学科の学生のみが履修を許される。政治経済学科以外の学生は、月曜日1時限の日本政治論を履修すること。					
授業方法	授業は基本的に講義形式で行う。講義の途中では、適宜、日本政治に関する時事問題的な解説を行う。また、必要に応じて、受講生からの要望に基づいた講義も行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		60%		授業内で扱った現代日本政治の事象について理解されているか、説明や論理の展開について、一貫性や独創性があるかを評価基準とする。	
	平常評価		40%		前期に学んできた授業内容について、理解されているか、レポートを課す場合がある。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	なし				
参考書	薬師寺克行『現代日本政治史』有斐閣 佐々木毅ほか編『ゼミナール現代日本政治』日本経済新聞社					
オフィスアワー	月曜日昼休みまたは金曜日昼休み					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	現代の日本政治について、各自が独自の問題意識を持つようにすること。（2時間）
	授業内容	・現代日本政治の制度構造 日本政治を特徴つける制度的特質とは何かに概観し、その視点について概観する。
	事後学習	政治制度が現実の政治に与える影響について確認しておくこと。（2時間）
2	事前学習	小選挙区制と比例代表制の違いと特質について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・現代日本の選挙制度1－衆議院 今日の衆議院の小選挙区比例代表並立制について制度の概要について解説する。
	事後学習	小選挙区比例代表並立制における当選者の決定方法について確認しておくこと。（2時間）
3	事前学習	二院制の役割について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・現代日本の選挙制度2－参議院 今日の参議院の選挙区選挙と非拘束名簿式比例代表制について解説する。
	事後学習	参議院の選挙制度と衆議院の選挙制度の違いについて確認しておくこと。（2時間）
4	事前学習	小選挙区制と比例代表制の違いと特質について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・中選挙区制1－制度の概要 1994年まで、日本独自の選挙制度であった中選挙区制の特徴と問題点について学ぶ。
	事後学習	中選挙区制の特徴と問題点について確認しておくこと。（2時間）

5	事前学習	中選挙区制とはどのような選挙制度かについて、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・中選挙区制2－後援会型選挙 中選挙区制が日本政治に与えたさまざまな影響について解説し政治家本位を考える。
	事後学習	選挙制度が選挙運動や政治活動に与える影響について確認しておくこと。（2時間）
6	事前学習	中選挙区制の問題点について、基礎的な知識を確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	・政治改革1－選挙制度改革 1994年政治改革の原点とその理念について解説し小選挙区導入の背景について学ぶ。
	事後学習	政治家本位の政治と政党本位の政治の違いについて確認しておくこと。（2時間）
7	事前学習	選挙制度と政党制との関連性について、諸外国の例などについて基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・政治改革2－政界再編 1994年の政治改革が政党に与えた影響について、政界再編という視点から明らかにする。
	事後学習	野党勢力の離合集散の背景について選挙制度との関係について確認しておくこと。（2時間）
8	事前学習	日本の国会の特徴について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・日本の国会1－二院制 衆議院と参議院からなる国会の二院制について制度論の視点から学ぶ。
	事後学習	二院制の利点と問題点について確認しておくこと。（2時間）
9	事前学習	世界各国の議会制度について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・日本の国会2－強すぎる参議院 ねじれ国会や決められない政治の原因とされる参議院の問題点について学ぶ。
	事後学習	「強すぎる参議院」とは何かについて確認しておくこと。（2時間）
10	事前学習	自民党とはどのような政党かについて、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・自民党－一党優位体制 長年にわたり政権政党である自民党とはどのような政党であるのかを政党論から学ぶ。
	事後学習	「一党優位体制」とはどのような体制なのかについて確認しておくこと。（2時間）
11	事前学習	政党とは何かについて、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・自民党－議員政党 自民党の党組織の特質について、議員政党という視点から解説していく。
	事後学習	議員政党と中選挙区制との関係について確認しておくこと。（2時間）
12	事前学習	政党と社会利益との関係について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・自民党－包括政党 自民党が代表する社会的利益について考え長期政権が生み出した包括政党について学ぶ。
	事後学習	「包括政党」の利点と弱点について確認しておくこと。（2時間）
13	事前学習	議会政治における野党の役割について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・野党－反对政党と責任野党 日本の野党には、どのような政党があるのか、その特徴は何かについて解説する。
	事後学習	野党が政権交代を実現するために必要なことを確認しておくこと。（2時間）
14	事前学習	「一強多弱」とは何かについて、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・変わる日本政治 今日の安倍内閣の登場で日本政治はどのように変わったかについて考える。
	事後学習	安倍「一強政治」と選挙制度の簡易家について確認しておくこと。（2時間）
15	事前学習	現代日本政治の問題点について、基礎的な知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	・現代日本政治のゆくえ 講義全体を振り返り、今後の日本政治の行方について、多様な視点から概観する。
	事後学習	日本政治のあるべき姿について、各自が問題意識を確認しておくこと。（2時間）

科目名	日本法制史Ⅰ	担当者	末澤 国彦	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	この講義は、近代を中心に日本の法体系や各種制度がどのように成立したか、またそれらがどのように運用されていたかについて詳しく講述する。			
授業目的・到達目標	近代法の成立過程を中心にして政治・経済・外交等、法律と隣接する領域との関連性を合わせて法学を考える能力を養成することを目的とし、現代の法システムが、どのような歴史的背景の下に成立しているのかを知ることによって、法という社会現象についてより深い理解が得られるようになることを目標とする。関連DPおよびCP：1，2			
履修条件	日本近代史の基本的知識があることを前提に講義を進める（高校レベルで十分）。			
授業方法	テキストに沿って、講義形式で進める。板書を行いながら講義を行う。なお、定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	90%	法制史についての基本的知識が身についているかどうかを判断する。	
	平常評価	10%	授業に臨む姿勢などで判断する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2002年	法律文化社	新・日本近代法論	山中永之佑編
	備考			
参考書	山中永之佑編『日本近代法案内』法律文化社			
オフィスアワー	火曜日16：20～19：30、水曜日14：00～16：00研究室（本館7階1704号室）で行う。なおsuezawa.kunihiko@nihon-u.ac.jp宛のメールでアポイントを取ること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、テキストの序章「日本近代法総論」の部分を一読し、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	【日本法制史の基本的な考え方】 授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法など法制史を学習・研究する方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	法制史という学問の特色を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
2	事前学習	図書館等で、古代・中世の法に関する文献を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【時代区分とそれぞれの法の特色～古代・中世～】 大化の改新以前の法、律令法・鎌倉幕府法・室町幕府法の概要と特徴的な事象について説明する。
	事後学習	律令制と初期武家法の特色を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
3	事前学習	図書館等で、戦国期・江戸幕府の法に関する文献を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【時代区分とそれぞれの法の特色～近世～】 戦国家法と江戸幕府法の概要と特徴的な事象について説明する。
	事後学習	戦国家法と江戸期の法の特色を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
4	事前学習	テキストの序章「日本近代法総論」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【時代区分とそれぞれの法の特色～明治期～】 明治期を三期に分けて、それぞれの時期の法の概要と特徴的な事象について説明する。
	事後学習	明治期の法体系の全体像を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）

5	事前学習	テキスト第2章「中央権力機構と官僚制」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【明治初期の国家機構～太政官制～】 明治初期の国家機構である太政官制の発足・改正の流れを追いながら、太政官制という統治システムの特色を説明する。
	事後学習	太政官制の特徴と意義を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく（2時間）。
6	事前学習	テキスト第2章「中央権力機構と官僚制」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【明治初期の国家機構～廃藩置県～】 中央集権国家体制構築にあたり、従来の体制を解体する過程とこれらの改革から発生した様々な問題について説明する。
	事後学習	封建体制の解体過程と派生した問題点について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
7	事前学習	テキスト第8章「刑法と治安法制」第1節「明治初期刑法と治安法制」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【明治初期の刑事法と治安法制】 明治初期に施行された律型刑法典の内容と特徴および言論統制法を中心とした治安立法の内容と特徴について説明する。
	事後学習	律型刑法典の特色と各種治安法制の内容・目的を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
8	事前学習	テキスト第11章「財産法制」第2節「明治前期における諸立法」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【明治初期の民事法】 明治初期における統一的民事法の作成作業の流れと現実に発生していた民事事件の解決策の内容と特徴について説明する。
	事後学習	統一的民法典作成の動きと現実に発生した民事事件の対処策の内容を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
9	事前学習	テキスト第9章「司法制度」第1節「太政官制下の司法制度」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【明治初期の司法制度】 司法制度の近代化に向けた江藤新平の司法改革・大審院の設置・司法官の養成・代言人制度の内容と特徴について説明する。
	事後学習	近代的司法制度構築へ向けての動きと法曹養成の方法ついてを自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
10	事前学習	テキスト第8章「刑法と治安法制」第2節「旧刑法の成立と治安法制」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【旧刑法の成立と治安法制】 本格的な近代的法典の嚆矢である旧刑法の成立過程とその内容・特徴と自由民権運動対策としての治安立法の整備・強化の内容について説明する。
	事後学習	近代的法典の嚆矢である旧刑法の特徴と自由民権運動取締の動きについて自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
11	事前学習	テキスト第3章「大日本帝国憲法の制定と展開」第1節「大日本帝国憲法制定にいたるまでの経過」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【大日本帝国憲法の制定～制定前史～】 明治初期の憲法制定に向けたさまざまうごきの内容と特徴、自由民権運動の拡大に伴う様々な私擬憲法草案の内容と特徴について説明する。
	事後学習	明治初期の憲法制定へ向けての動きや各種私擬憲法草案の特色を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
12	事前学習	テキスト第3章「大日本帝国憲法の制定と展開」第1節「大日本帝国憲法制定にいたるまでの経過」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【大日本帝国憲法の制定～制定過程と内容・特色～】 大日本帝国憲法の制定過程の流れと大日本帝国憲法の内容と特徴について説明する。
	事後学習	大日本帝国憲法の制定過程とその内容を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
13	事前学習	テキスト第2章「中央権力機構と官僚制」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【内閣と枢密院】 内閣制度の発足当初の特徴と憲法制定に伴い制定された内閣官制の内容、枢密院の組織・権限、元老の役割について説明する。
	事後学習	内閣および枢密院の構成・権限を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
14	事前学習	テキスト第2章「中央権力機構と官僚制」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【帝国議会】 帝国議会の組織・各種権限について説明する。
	事後学習	帝国議会の構成・権限を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
15	事前学習	テキストなどを参照しながら、これまでのノート等を整理しておく。（2時間）
	授業内容	【前期のまとめ】 前期をふりかえり、補充説明などを行う。
	事後学習	テキストなどを参照しながら、ノート等の不備な箇所を補充しておく。（2時間）

科目名	日本法制史Ⅱ	担当者	末澤 国彦	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	この講義は、近代を中心に日本の法体系や各種制度がどのように成立したか、またそれらがどのように運用されていたかについて詳しく講述する。			
授業目的・到達目標	近代法の成立過程を中心にして政治・経済・外交等、法律と隣接する領域との関連性を合わせて法学を考える能力を養成することを目的とし、現代の法システムが、どのような歴史的背景の下に成立しているのかを知ることによって、法という社会現象についてより深い理解が得られるようになることを目標とする。関連DPおよびCP：1，2			
履修条件	日本近代史の基本的知識があることを前提に講義を進める（高校レベルで十分）。			
授業方法	テキストに沿って、講義形式で進める。板書を行いながら講義を行う。なお、定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	90%	法制史についての基本的知識が身についているかどうかを判断する。	
	平常評価	10%	授業に臨む姿勢などで判断する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2002年	法律文化社	新・日本近代法論	山中永之佑編
	備考			
参考書	山中永之佑編『日本近代法案内』法律文化社			
オフィスアワー	火曜日16：20～19：30、水曜日14：00～16：00研究室（本館7階1704号室）で行う。なおsuezawa.kunihiko@nihon-u.ac.jp宛のメールでアポイントを取ること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの序章「日本近代法総論」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【時代区分とそれぞれの法の特徴～大正・昭和期～】 大正・昭和期の法の概要と特徴的な事象について説明する。
	事後学習	大正・昭和期の法体系の全体像を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
2	事前学習	テキスト第9章「司法制度」第2節「明治憲法下の司法制度」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【明治憲法下の司法制度～裁判所構成法の制定～】 近代的司法制度の根拠法である裁判所構成法の制定過程と内容・特徴について説明する。
	事後学習	裁判所構成法の内容と特色を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
3	事前学習	テキスト第9章「司法制度」第2節「明治憲法下の司法制度」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【明治憲法下の司法制度～司法官の任用と弁護士制度～】 近代的な司法官養成制度の内容と旧世代の司法官との人事の入れ替え、弁護士制度の発足と発展の内容について説明する。
	事後学習	近代的な法曹養成制度の内容について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
4	事前学習	テキスト第1章「条約改正と諸法典の編纂」第2節「諸法典の編纂」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【民法典の編纂と法典論争～民法典の編纂過程～】 旧民法の編纂過程とその内容と法典論争後の民法典の編纂過程と民法典の特徴について説明する。
	事後学習	旧民法と新民法の相違点を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）

5	事前学習	テキスト第1章「条約改正と諸法典の編纂」第2節「諸法典の編纂」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【民法典の編纂と法典論争～法典論争の動きと評価～】 民法典の編纂をめぐって起こった法典論争の流れとこの論争をめぐる歴史的評価について説明する。
	事後学習	法典論争における延期派・断行派の主張の内容と特徴を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
6	事前学習	テキスト第14章「商事・産業法制」第1節「明治商法の成立」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【商法の成立】 旧商法の成立過程とその内容、施行延期を受けて新たな商法の成立過程と商法の特徴、施行延期のきっかけとなった商法典論争の動きについて説明する。
	事後学習	商法の成立過程と商法典論争の動きを自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
7	事前学習	テキスト第10章「訴訟法制」第2節「刑事裁判手続の史的展開」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【刑事訴訟法の成立】 明治初期の刑事裁判手続の内容と治罪法・明治刑事訴訟法における刑事裁判手続の内容と特徴について説明する。
	事後学習	治罪法・明治刑事訴訟法における訴訟手続の特徴を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
8	事前学習	テキスト第10章「訴訟法制」第3節「民事裁判手続の史的展開」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【民事訴訟法の成立】 明治初期の民事裁判手続の内容と民事訴訟法の成立過程とその特徴について説明する。
	事後学習	明治初期の民事訴訟手続の内容と民事訴訟法の成立過程・特徴を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
9	事前学習	テキスト第16章「近代日本の対外的軌跡と国際法性」第1節「明治維新以後の日本の対外政策の基調と日清戦争」・第2節「日露戦争と日本帝国主義の確立」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【条約改正と日本の対外政策】 条約改正実現に向けての流れと日清・日露戦争を経た日本の対外政策の変化について説明する。
	事後学習	条約改正の流れと日本帝国主義の確立の過程を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
10	事前学習	テキスト第8章「刑法と治安法制」第3節「現行刑法の成立と治安法制」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【現行刑法の成立と治安法制】 現行刑法の成立過程とその特徴と労働・農民運動対策の治安法制の内容について説明する。
	事後学習	刑法の成立過程と労働・農民運動対策の内容を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
11	事前学習	テキスト第13章「家族法制」第3節「民法改正の動き」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【臨時法制審議会】 大正期における法の再編作業のために設置された臨時法制審議会の組織・諮問事項・影響について説明する。
	事後学習	大正期における法の再編・強化の流れを自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
12	事前学習	テキスト第10章「訴訟法制」第2節「刑事裁判手続の史的展開」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【刑事訴訟法の改正と陪審制】 大正刑事訴訟法の成立過程とその特徴と日本における陪審制度の導入とその問題点について説明する。
	事後学習	刑事訴訟法の改正内容と陪審制の特徴を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
13	事前学習	テキスト序章「日本近代法総論」第2節「日本近代国家の法構造の変容」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【普通選挙法と治安維持法の成立】 普通選挙法の成立に向けた流れと治安維持法の内容・運用上の特徴と昭和期の改正の内容について説明する。
	事後学習	普通選挙法の内容と治安維持法の内容・運用の変化を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
14	事前学習	テキスト第14章「商事・産業法制」第4節「国家総動員法の制定と一九三八年の商法改正」の部分を一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【国家総動員法の成立と戦時立法】 国家総動員法の内容・統制の実際と主要な戦時特別法の内容について説明する。
	事後学習	国家総動員法による統制の内容と戦時特別法の内容を自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
15	事前学習	テキストなどを参照しながら、これまでのノート等を整理しておく。（2時間）
	授業内容	【1年間のまとめ】 後期をふりかえり、補充説明などを行う。
	事後学習	テキストなどを参照しながら、ノート等の不備な箇所を補充しておく。（2時間）

科目名	ニュース英語 I	担当者	中村 美子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を高める。			
授業目的・到達目標	国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成することを目的とする。英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景となる知識を高める。一方、日本政府首脳らが英語で行う公式の発言や日本語の発言の公式英訳も時折、教材として使用する。また、追加の教材として録画したNHK BS1の『世界のニュース』を素材に、各国の報道論点の相違を学ぶ。国内外の現況を日英両言語で学ぶことで、国内外のニュースソースから直接情報を集め、時事問題を多面的に理解することができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：新聞学科1, 2			
履修条件	授業内で、電子辞書やスマホの辞書アプリの利用を許可する。			
授業方法	毎回、授業前1週間のなかで起きた世界的な事件・事故、国際的な取り決めなどを授業の題材として取り上げる。授業は、ニュースの解説、学生による授業時間内の翻訳、回答、のほぼ3つの要素で構成する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	(40%)授業内試験：英語ニュース常用単語の修得レベルと読解力を審査する。 (60%)授業態度を総合的に評価する。 ※4分の3以上の出席が必要	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし。毎回、ニュースのコピーを教材として配付する。		
参考書	日本語の主要各紙やNHK World、BBC News等のオンラインニュースのチェックと、NHK BS 1『国際報道2019』の視聴を勧奨する。			
オフィスアワー	授業時間内（火曜1・2限）で質問を受けることを基本とする。また、メールでも受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業を概観する。（2時間）
	授業内容	授業のガイダンスを行う。授業方法を理解するために、短い英語ニュースを実際に翻訳する。
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
2	事前学習	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）
	授業内容	東南アジア経済ニュース（メディア関連）
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
3	事前学習	天皇陛下の退位と皇太子殿下の即位に関連する英語ニュースを日本語のニュースと対照しながら読み取る。（2時間）
	授業内容	天皇陛下の退位と皇太子殿下の即位に関連する英語ニュースを読解する。諸外国の視点を学ぶ。
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
4	事前学習	天皇陛下の退位と皇太子殿下の即位に関連する英語ニュースを日本語のニュースと対照しながら読み取る。（2時間）
	授業内容	天皇陛下の退位と皇太子殿下天皇陛下の退位と皇太子殿下の即位に関連する英語ニュースを読解する。諸外国の視点を学ぶ。
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）

5	事前学習	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）
	授業内容	英国のEU離脱① 離脱の経緯と背景、その影響について英語読解する。
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
6	事前学習	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）
	授業内容	英国のEU離脱② 日本との関係を英語読解する。
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
7	事前学習	授業期間前半の教材で、英訳の不明点を確認する。（2時間）
	授業内容	翻訳および英語ニュース常用単語を確認する。
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
8	事前学習	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）
	授業内容	内外の災害・事故のニュース
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
9	事前学習	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）
	授業内容	グローバルメディア事業関連ニュース①
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
10	事前学習	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）
	授業内容	グローバルメディア事業関連ニュース②
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
11	事前学習	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）
	授業内容	参議院選挙関連ニュース
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
12	事前学習	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）
	授業内容	2020東京オリンピック・パラリンピック大会関連ニュース
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
13	事前学習	試験に備え、復習し、疑問点を整理する。（2時間）
	授業内容	前期後半の教材を復習する。
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
14	事前学習	試験に備え、復習する。（2時間）
	授業内容	まとめと学期内試験を行う。
	事後学習	試験問題を復習する。（2時間）
15	事前学習	試験問題を復習する。（2時間）
	授業内容	試験結果について、講評する。
	事後学習	英語ニュース常用語および表現を復習し、後期授業に備える。（2時間）

科目名	ニュース英語Ⅰ	担当者	三谷 文栄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地でのメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この講義では外国メディアのニュースを取り上げ、ニュースを読むための英語力を高めると同時に、国際社会や諸外国でどのような出来事がなぜ問題になっているのかを考える。					
授業目的・到達目標	外国メディアのニュースを取り上げ、ニュースを読むための英語力を養成することを目的とする。 時事問題への関心を持つとともに、英語での情報収集の重要性を認識できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：新聞学科１、２					
履修条件	特にない。講義には英語の辞書を持参すること。					
授業方法	事前に配布した英語のニュースを受講生が和訳し、それに対する修正を行いながら時事問題を解説することで授業を進める。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業内での和訳の内容と、定期的に行われる小テストで評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	毎回英語の記事を配布する。				
参考書	適宜紹介する。					
オフィスアワー	毎週水曜日の14時半～16時 できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読むこと（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	授業内で配布した資料を読むこと（2時間）
2	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	日本に関する報道（1）外国メディアで報道された日本関連ニュース
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）
3	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	日本に関する報道（2）外国メディアで報道された日本関連ニュース
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）
4	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	日本に関する報道（3）外国メディアで報道された日本関連ニュース
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）

5	事前学習	これまでの復習（2時間）
	授業内容	これまでのまとめ・日本に関する報道で出てきた単語や内容に関する小テスト・振り返り
	事後学習	小テストでわからなかった部分を確認すること。（2時間）
6	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	社会問題に関するニュース（1）
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）
7	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	社会問題に関するニュース（2）
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）
8	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	社会問題に関するニュース（3）
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）
9	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	社会問題に関するニュース（4）
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）
10	事前学習	これまでの復習（2時間）
	授業内容	これまでのまとめ・社会問題に関する報道で出てきた単語や内容に関する小テスト・振り返り
	事後学習	小テストでわからなかった部分を確認すること。（2時間）
11	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	政治に関するニュース（1）
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）
12	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	政治に関するニュース（2）
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）
13	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	政治に関するニュース（3）
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）
14	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	政治に関するニュース（4）
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）
15	事前学習	これまでの復習（2時間）
	授業内容	これまでのまとめ・政治に関する報道で出てきた単語や内容に関する小テスト・振り返り
	事後学習	小テストでわからなかった部分を確認すること。（2時間）

科目名	ニュース英語Ⅰ	担当者	柳沢 亨之	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	世界情勢をより正しく深く早く理解し、先行きが不透明な時代を生きる力を養うことができるよう、ニュース現場で使われる英語を把握する力と時事問題への知識を高める。各国首脳らが行う最新の演説や記者会見、ツイッター発信またはそれらの公式英訳、さらには国際機関の決議などを正しい日本語に訳し、理解する力を養う。				
授業目的・到達目標	国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を蓄積し論じる能力を将来的に持つための基礎固めを目的とする。各政府などが公式に出すトランスクリプトを主な教材とし、首脳らが語る言葉や国際機関の決議の内容を理解するとともに、事象の背景となる知識を高める。一方、日本政府首脳らが英語で行う公式の発言や日本語の発言の公式英訳も時折、教材として使い、日本独自の表現を英訳して世界で通用させるコツも学ぶ。英訳教材として、読売新聞とその英字紙「The Japan News」を使うことがある。国内外の現況を日英両言語で学ぶことで、国内外のニュースソースから直接情報を集め、時事問題を多面的に理解することができるようになることを目標とする。関連D P 及びC P：新聞学科1, 2				
履修条件	授業には、語彙が多い中上級者向けの英和や和英の辞典を持参する。電子辞書やスマホの辞書アプリでも中上級者向けなら問題ない。				
授業方法	トランスクリプトを授業の数日前までにポータルサイトの共有ファイルに掲げる。学生はこれをよく読んだ上で授業に臨む。授業ではパワーポイントを使う。パワーポイントは授業の数日以内に共有ファイルに掲げる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	100点を満点とした場合の配点は次の通り。①平常点（授業への積極的な参加）を計15点とする②小テストを3回行い、計85点とする（第一回25点＋第二回30点＋第三回30点）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし。上記の通り、各国首脳らが行う最新の演説や記者会見などのトランスクリプトを教材とする。			
参考書	日本語の主要各紙や英語の主要紙に日常的に目を通すことが求められる。				
オフィスアワー	土曜1限授業終了直後に直接、授業講堂で質問できる。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業を概観する。（2時間）
	授業内容	授業の概要：①「ニュース英語」とは何か②なぜ「和訳」が大切か③なぜ「英訳」が大切か④どのように授業を進めていくのか――を解説する。
	事後学習	外国の主要英字紙やThe Japan Newsに目を通す。（2時間）
2	事前学習	主要国首脳が行った最新演説の文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	演説が現在の世界情勢に与える影響や意義を考察する。こうした影響や意義を象徴する重要な時事英語表現について学ぶ。
	事後学習	演説を全訳する。（2時間）
3	事前学習	天皇陛下の退位と皇太子殿下の即位に関連する英語の文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	天皇陛下の退位と皇太子殿下の即位に関連する事象や事実を英語でどのように表現するのかを学ぶ。
	事後学習	文書を全訳する。（2時間）
4	事前学習	天皇陛下の退位と皇太子殿下の即位に関する英文記事を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	天皇陛下の退位と皇太子殿下の即位が世界でどのように報じられているかについて学ぶ。
	事後学習	英文記事を全訳する。（2時間）

5	事前学習	5月23日からの欧州議会に関する演説などの文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく（2時間）
	授業内容	小テストを行う。 英国のEU離脱などで不透明さを増す欧州情勢を理解するのに不可欠な英語表現を学ぶ。
	事後学習	演説などを全訳する（2時間）
6	事前学習	この時期に予定される日米首脳会談の共同記者会見などの文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく（2時間）
	授業内容	前回の授業で行った小テストを解説する。 日米間の外交、安全保障、経済にかかわる表現を知り、両国関係の意義と現況を認識する。
	事後学習	演説などを全訳する（2時間）
7	事前学習	トランプ米大統領が最新の演説やツイッターで語った内容を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	トランプ米大統領特有の英語表現を知り、米中関係の基本構図と戦後世界秩序の現状について考察する。
	事後学習	演説などを全訳する。（2時間）
8	事前学習	トランプ米大統領が最新の演説やツイッターで語った内容を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	トランプ米大統領特有の英語表現を通じ、米朝関係と日本の安全保障について考察する。
	事後学習	演説などを全訳する。（2時間）
9	事前学習	トランプ米大統領が最新の演説やツイッターで語った内容を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	トランプ米大統領特有の英語表現を通じ、トランプ政権が中東の政治地図に与えている影響とその日本にとっての意味合いを検証する。
	事後学習	演説などを全訳する。（2時間）
10	事前学習	日露首脳会談に関連する文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	小テストを行う。 北方領土問題に関わる英語表現を知り、この頃に行われる日露首脳会談の歴史的な意義を学ぶ。
	事後学習	文書を全訳する。（2時間）
11	事前学習	大阪で行われる主要20か国・地域（G20）首脳会議での演説文書などを共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	前回の授業で行った小テストを解説する。 G20首脳会議で主要国首脳が行った演説などから、今年のG20首脳会議の意義や日本にとっての重要性を考察するとともに、現在の世界情勢を理解する上で不可欠な表現を学ぶ。
	事後学習	文書を全訳する。（2時間）
12	事前学習	大阪で行われる主要20か国・地域（G20）首脳会議での演説文書などを共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	G20首脳会議で主要国首脳が行った演説などから、今年のG20首脳会議の意義や日本にとっての重要性を考察するとともに、現在の世界情勢を理解する上で不可欠な表現を学ぶ。
	事後学習	文書を全訳する。（2時間）
13	事前学習	参議院選挙について英字新聞が報じた記事などを共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	日本の国政選にかかわる制度や事象、概念を英語でどのように表すかを知り、今回の選挙の国際的な意義について考察する。
	事後学習	記事などを全訳する。（2時間）
14	事前学習	参議院選挙について英字新聞が報じた記事などを共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	小テストを行う。 日本の国政選にかかわる制度や事象、概念を英語でどのように表すかを知り、今回の選挙の国際的な意義について考察する。
	事後学習	記事などを全訳する。（2時間）
15	事前学習	国連の役割をまとめた文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	前回の授業で行った小テストを解説する。 後期に取り上げる9月の「国連総会一般討論演説」の意義を知り、国連が国際政治や世界秩序に対しどのような役割を果たしているかを学ぶとともに、後期の授業を概観する。
	事後学習	文書を全訳する。（2時間）

科目名	ニュース英語Ⅱ	担当者	中村 美子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ニュース報道を素材に英語の読解力と国内外の時事問題についての知識を高める。					
授業目的・到達目標	国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を養成することを目的とする。英語によるニュース報道や各政府などの公式声明を主な教材とし、事象の背景となる知識を高める。一方、日本政府首脳らが英語で行う公式の発言や日本語の発言の公式英訳も時折、教材として使用する。また、追加の教材として録画したNHK BS1の『世界のニュース』を素材に、各国の報道論点の相違を学ぶ。国内外の現況を日英両言語で学ぶことで、国内外のニュースソースから直接情報を集め、時事問題を多面的に理解することができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：新聞学科1, 2					
履修条件	授業には、語彙が多い中上級者向けの英和や和英の辞典を持参する。電子辞書やスマホの辞書アプリでも中上級者					
授業方法	毎回、授業前1週間のなかで起きた世界的な事件・事故、国際的な取り決めなどを授業の題材として取り上げる。授業は、ニュースの解説、学生による授業時間内の翻訳、回答、のほぼ3つの要素で構成する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		(40%)授業内試験：英語ニュース常用単語の修得レベルと読解力を審査する。 (60%)授業態度を総合的に評価する。 ※4分の3以上の出席が必要	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	特になし。毎回、ニュースのコピーを教材として配付する。				
参考書	日本語の主要各紙やNHK World、BBC News等のオンラインニュースのチェックと、NHK BS 1『国際報道2019』の視聴を勧奨する。					
オフィスアワー	授業時間内（火曜1・2限）で質問を受けることを基本とする。また、メールでも受け付ける。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）
	授業内容	国連活動① 国際女性デー
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
2	事前学習	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）
	授業内容	国連活動② SDGs関連事業
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
3	事前学習	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）
	授業内容	ラグビーワールドカップ日本開催と2020東京大会関連ニュース①
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
4	事前学習	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）
	授業内容	ラグビーワールドカップ日本開催と2020東京大会関連ニュース②
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）

5	事前学習	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）
	授業内容	ノーベル賞関連ニュース
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
6	事前学習	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）
	授業内容	後期授業で取り上げた英語ニュースの翻訳を復習する。
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
7	事前学習	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）
	授業内容	国内外の災害・事件ニュース①
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
8	事前学習	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）
	授業内容	国内外の災害・事件ニュース②
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
9	事前学習	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）
	授業内容	教育テレビ日本賞の結果関連ニュース
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
10	事前学習	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）
	授業内容	グローバルメディアと放送への影響関連ニュース
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
11	事前学習	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）
	授業内容	2020年米大統領選関連ニュース①
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
12	事前学習	世界の出来事を知るために、NHK WorldやBBC News等のヘッドラインをチェックする。（2時間）
	授業内容	2020年米大統領選関連ニュース②
	事後学習	授業の英語ニュースの翻訳を確認する。（2時間）
13	事前学習	後期授業で取り上げた英語ニュースを復習し、質問を準備する。（2時間）
	授業内容	後期授業で取り上げたすべての英語ニュースの翻訳を確認する。
	事後学習	試験に備える。（2時間）
14	事前学習	試験に備える。（2時間）
	授業内容	まとめと学期内試験を行う。
	事後学習	試験問題を復習する。（2時間）
15	事前学習	試験問題に関する質問を準備する。（2時間）
	授業内容	試験結果を講評する。
	事後学習	英語ニュースの常用単語および表現を復習する。（2時間）

科目名	ニュース英語Ⅱ	担当者	三谷 文栄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	高度情報社会において、外国で生じた出来事や社会問題が日本においても大きく報道されることは少なくない。間接的な情報のみならず、現地でのメディアに接し理解する力は、不確かな情報がインターネットなどに掲載される環境において重要なものとなる。この講義では外国メディアのニュースを取り上げ、ニュースを読むための英語力を高めると同時に、国際社会や諸外国でどのような出来事がなぜ問題になっているのかを考える。					
授業目的・到達目標	外国メディアのニュースを取り上げ、ニュースを読むための英語力を養成することを目的とする。 時事問題への関心を持つとともに、英語での情報収集の重要性を認識できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：新聞学科１，２					
履修条件	特にない。講義には英語の辞書を持参すること。					
授業方法	事前に配布した英語のニュースを受講生が和訳し、それに対する修正を行いながら時事問題を解説することで授業を進める。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業内での和訳の内容と、定期的に行われる小テストで評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	毎回英語の記事を配布する。				
参考書	適宜紹介する。					
オフィスアワー	毎週水曜日の14時半～16時 できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ニュース英語Ⅰの復習（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	授業内で配布した資料を読むこと（2時間）
2	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	国際問題に関する報道（1）
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）
3	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	国際問題に関する報道（2）
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）
4	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	国際問題に関する報道（3）
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）

5	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	国際問題に関する報道（4）
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）
6	事前学習	これまでの復習（2時間）
	授業内容	これまでのまとめ・国際問題に関する報道で出てきた単語や内容に関する小テスト・振り返り
	事後学習	小テストでわからなかった部分を確認すること（2時間）
7	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	文化に関する報道（1）
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）
8	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	文化に関する報道（2）
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）
9	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	文化に関する報道（3）
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）
10	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	文化に関する報道（4）
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）
11	事前学習	これまでの復習（2時間）
	授業内容	これまでのまとめ・文化に関する報道で出てきた単語や内容に関する小テスト・振り返り
	事後学習	小テストでわからなかった部分を確認すること（2時間）
12	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	マス・メディアに関する報道（1）
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）
13	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	マス・メディアに関する報道（2）
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）
14	事前学習	英語の記事を読み、わからない部分や質問を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	マス・メディアに関する報道（3）
	事後学習	授業前の疑問が解消されたのかを確認すること。（2時間）
15	事前学習	これまでの復習（2時間）
	授業内容	これまでのまとめ・マス・メディアに関する報道で出てきた単語や内容に関する小テスト・振り返り
	事後学習	小テストでわからなかった部分を確認すること（2時間）

科目名	ニュース英語Ⅱ	担当者	柳沢 亨之	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	世界情勢をより正しく深く早く理解し、先行きが不透明な時代を生きる力を養うことができるよう、ニュース現場で使われる英語を把握する力と時事問題への知識を高める。各国首脳らが行う最新の演説や記者会見、ツイッター発信またはそれらの公式英訳、さらには国際機関の決議などを正しい日本語に訳し、理解する力を養う。				
授業目的・到達目標	国内外の情勢について、日本語だけでなく英語でも知識を蓄積し論じる能力を将来的に持つための基礎固めを目的とする。各政府などが公式に出すトランスクリプトを主な教材とし、首脳らが語る言葉や国際機関の決議の内容を理解するとともに、事象の背景となる知識を高める。一方、日本政府首脳らが英語で行う公式の発言や日本語の発言の公式英訳も時折、教材として使い、日本独自の表現を英訳して世界で通用させるコツも学ぶ。英訳教材として、読売新聞とその英字紙「The Japan News」を使うことがある。国内外の現況を日英両言語で学ぶことで、国内外のニュースソースから直接情報を集め、時事問題を多面的に理解することができるようになることを目標とする。関連D P 及びC P：新聞学科1, 2				
履修条件	授業には、語彙が多い中上級者向けの英和や和英の辞典を持参する。電子辞書やスマホの辞書アプリでも中上級者向けなら問題ない。				
授業方法	トランスクリプトを授業の数日前までにポータルサイトの共有ファイルに掲げる。学生はこれをよく読んだ上で授業に臨む。授業ではパワーポイントを使う。パワーポイントは授業の数日以内に共有ファイルに掲げる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	100点を満点とした場合の配点は次の通り。①平常点（授業への積極的な参加）を計15点とする②小テストを3回行い、計85点とする（第一回25点＋第二回30点＋第三回30点）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし。上記の通り、各国首脳らが行う最新の演説や記者会見などのトランスクリプトを教材とする。			
参考書	日本語の主要各紙や英語の主要紙に日常的に目を通すことが求められる。				
オフィスアワー	土曜1限授業終了直後に直接、授業行動講堂で質問できる。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	9月24日に始まる国連総会演説の一般討論演説に関連した文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	後期の授業を概観する。 国連総会の一般討論演説開始を前に、国連に関連した英語表現を知り、国連の機能や役割を学ぶ。
	事後学習	文書を全訳する。（2時間）
2	事前学習	9月24日に始まる国連総会演説の一般討論演説に関連した文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	国連に関連した英語表現を知り、国連で記者が取材する方法などを論じる。
	事後学習	文書を全訳する。（2時間）
3	事前学習	国連総会演説の一般討論演説で日本の首相が語った内容の英訳文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	日本の首相による演説の英訳を通じ、日本外交の中心的な政策や概念を英語でどのように表現するかを知り、日本政府が目指している世界像を学ぶ。
	事後学習	文書を全訳する。（2時間）
4	事前学習	国連総会演説の一般討論演説で米大統領が語った演説の文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	米大統領による演説を通じ、米政権が追求する安全保障や経済政策のあり方、さらには世界秩序の現状について考察する。
	事後学習	文書を全訳する。（2時間）

5	事前学習	国連総会演説の一般討論演説で中国の首脳が語った演説の文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	小テストを行う。 中国首脳による演説の英訳を通じ、中国の基本政策を英語でどのように表現するかを知り、中国が国際社会で直面している課題や米中関係の現状について学ぶ。
	事後学習	文書を全訳する。（2時間）
6	事前学習	国連総会演説の一般討論演説で欧州主要国の首脳が語った演説の文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	前回の授業で行った小テストを解説する。 欧州主要国の演説を通じ、欧州統合の現状と課題を考察する。
	事後学習	文書を全訳する。（2時間）
7	事前学習	国連総会演説の一般討論演説で中東主要国の首脳が語った演説の文書を共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	中東主要国の演説を通じ、中東政治の理解に不可欠な概念や思想を英語でどのように表現するかを知り、米国の域内関与の変容で中東諸国の政治地図が複雑化している現状を考察する。
	事後学習	文書を全訳する。（2時間）
8	事前学習	11月2日まで日本で行われるラグビーのワールドカップに関連する英語報道などを共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	ラグビーのワールドカップに関する報道を通じ、東京五輪を控えた日本のスポーツ文化や社会の現状が海外に同伝えられているのかを学ぶ。
	事後学習	英語報道などを全訳する（2時間）
9	事前学習	11月2日まで日本で行われるラグビーのワールドカップに関連する英語報道などを共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	ラグビーのワールドカップに関する報道を通じ、東京五輪を控えた日本のスポーツ文化や社会の現状が海外に同伝えられているのかを学ぶ。
	事後学習	英語報道などを全訳する（2時間）
10	事前学習	毎秋発表されるノーベル賞の受賞者とその理由に関する発表文などのコピーを共有ファイルからダウンロードし、わからない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	小テストを行う。 ノーベル賞にかかわる英語表現を知り、同賞の意義や受賞者発表の取材方法について論じる。
	事後学習	発表文などを全訳する（2時間）
11	事前学習	毎秋発表されるノーベル賞の受賞者とその理由に関する発表文などのコピーを共有ファイルからダウンロードし、わからない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	前回の授業で行った小テストを解説する。 ノーベル賞にかかわる英語表現を知り、同賞の意義や受賞者発表の取材方法について論じる。
	事後学習	発表文などを全訳する（2時間）
12	事前学習	事実上始まった米大統領選の主な各候補者の演説などを共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	米大統領選にかかわる重要表現を知り、今回の選挙の争点とその世界的な意義を学ぶ。
	事後学習	演説などを全訳する（2時間）
13	事前学習	事実上始まった米大統領選の主な各候補者の演説などを共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	米大統領選にかかわる重要表現を知り、今回の選挙の争点とその世界的な意義を学ぶ。
	事後学習	演説などを全訳する（2時間）
14	事前学習	事実上始まった米大統領選の主な各候補者の演説などを共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	小テストを行う。 米大統領選にかかわる重要表現を知り、今回の選挙の争点とその世界的な意義を学ぶ。
	事後学習	演説などを全訳する（2時間）
15	事前学習	著名日本人が英語で語った記者会見などのトランスクリプトを共有ファイルからダウンロードし、分からない箇所を明確にしておく。（2時間）
	授業内容	前回の授業で行った小テストを解説する。 「通じる英語」とは何かを考える。
	事後学習	トランスクリプトを全訳する（2時間）

科目名	犯罪心理学	担当者	水田 一彦	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	犯罪心理学が扱う分野は幅広いが、本講義では、①各種犯罪とその犯人像、②犯罪捜査と心理学、③少年非行の心理、の三つに絞って授業を進める。①においては、暴力犯罪、殺人罪、性犯罪等を扱う。②においては、目撃証言の信頼性、虚偽自白等を扱う。③においては、児童虐待と少年非行の関連等について説明する。授業を通して、犯罪の心理は一般的な心理からも了解可能であること、少年非行には環境面の問題も大きく影響することなどについて示したい。			
授業目的・到達目標	(授業目的) 犯罪心理学の基礎的な知識や考え方を学ぶとともに、新聞等で報道されるような具体的な事例を検討することにより、犯罪・非行を行う者の心理を、行動科学的観点から理解し説明できるようになることを目的とする。 (到達目標) 犯罪・非行を行う者の心理を、行動科学的観点から理解し説明できるようになることを目標とする。対応DP及びCP:公共政策学科1，3，4			
履修条件	特になし。			
授業方法	スライド（パワー・ポイント）を使用して講義を行う。スライドの内容については、原則として授業前日までにポータルシステムにて配信する。毎時間小テストを実施し、次の授業で解説を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	50%	筆記試験は、犯罪心理学の基礎的な知識が習得されているかを判定する。授業中に解説された基本的な項目・事項について理解すること。	
	平常評価	50%	①レポート提出、②授業内での小テスト、③授業参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2012	サイエンス社	Progress & Application 犯罪心理学	越智啓太
	備考			
参考書	越智啓太著「ケースで学ぶ犯罪心理学」（北大路書房） その他、授業中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜日 16:20～17:00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 授業講堂 メールアドレス:mizuta.kazuhiko11@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書に目を通し、講義全体を概観する。(2時間)
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法等について説明し、受講生が授業の準備を行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。(2時間)
2	事前学習	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。(2時間)
	授業内容	【犯罪心理学を事例から学ぶ】犯罪心理学の学習方法について、過去の事例から学ぶことの重要性について学習する。
	事後学習	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、教科書の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。(2時間)
3	事前学習	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。(2時間)
	授業内容	【犯罪心理学を統計から学ぶ】犯罪心理学の学習方法について、統計資料から学ぶことの重要性について学習する。
	事後学習	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、教科書の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。(2時間)
4	事前学習	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。(2時間)
	授業内容	【暴力犯罪】暴行、傷害等の暴力犯罪を行う者の心理について、攻撃行動に関する研究知見に基づいて学習する。
	事後学習	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、教科書の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。(2時間)

5	事前学習	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。（2時間）
	授業内容	【殺人】我が国における殺人事件の特徴及び殺人を行う者の一般的な心理について学習する。
	事後学習	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、教科書の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。（2時間）
6	事前学習	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。（2時間）
	授業内容	【連続殺人・大量殺人】複数殺人の分類及び複数殺人を行う者の心理について学習する。
	事後学習	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、教科書の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。（2時間）
7	事前学習	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。（2時間）
	授業内容	【性犯罪】我が国における性犯罪の特徴及び性犯罪を行う者の一般的な心理について学習する。
	事後学習	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、教科書の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。（2時間）
8	事前学習	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。（2時間）
	授業内容	【子供に対する性犯罪】子供を対象に性犯罪を行う者の心理及びその再犯性について学習する。
	事後学習	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、教科書の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。（2時間）
9	事前学習	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。（2時間）
	授業内容	【薬物犯罪】我が国における薬物犯罪の特徴及び薬物犯罪を行う者の心理について学習する。
	事後学習	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、教科書の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。（2時間）
10	事前学習	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。（2時間）
	授業内容	【目撃証言の心理】目撃証言の信用性を左右する要因について、人間の認知特性に関する研究知見に基づいて学習する。
	事後学習	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、教科書の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。（2時間）
11	事前学習	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。（2時間）
	授業内容	【子供の目撃証言】子供の目撃証言の信用性について、認知発達に関する研究知見に基づいて学習する。
	事後学習	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、教科書の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。（2時間）
12	事前学習	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。（2時間）
	授業内容	【虚偽自白と取調べ】虚偽自白に至る心理について、同調行動に関する研究知見に基づいて学習する。
	事後学習	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、教科書の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。（2時間）
13	事前学習	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。（2時間）
	授業内容	【プロファイリング】犯罪捜査を支援する道具としてのプロファイリングについて、行動科学の知見に基づいて学習する。
	事後学習	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、教科書の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。（2時間）
14	事前学習	ポータルシステムにて配信された講義資料を読み、講義内容の大枠について理解する。（2時間）
	授業内容	【児童虐待と少年非行】不適切な養育がパーソナリティ形成に影響を与え非行行動と関係することについて、愛着研究の知見に基づいて学習する。
	事後学習	講義時に用いた資料を再読し、講義内容についての理解を深める。授業内容について、教科書の該当箇所とつき合わせてノートを整理する。（2時間）
15	事前学習	初回からの講義資料と講義ノートを見直し、学習した犯罪心理学の知見について復習する。（2時間）
	授業内容	講義のまとめ
	事後学習	初回からの講義資料と講義ノートを見直し、期末試験に向けて準備をする。（2時間）

科目名	比較行政論	担当者	上村 進	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現代欧米諸国の行政制度がどのような歴史的変遷を経て今日の姿に至ったのか、その起源となったローマ帝国やローマ教皇庁の行政制度にも触れつつ、近代行政の祖型を形作ったフランス行政の成立過程を中心に学習する。講義に当たっては行政官としての経験に基づき、具体的なケースを素材として提供する。				
授業目的・到達目標	我が国の行政制度は欧米制度と比較してどのような特徴があるのか学習することを目的とし、諸外国制度成立の背景にある歴史的・文化的文脈と我が国の背景事情の違いが、行政制度上の相違となって現われていることを説明できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：公共政策学科1, 2, 3, 4				
履修条件	特に条件はないが、「行政組織研究」科目において、同様に我が国行政の歴史的展開を講義するので、併せて受講するとなお理解が深まることが期待される。				
授業方法	講義形式を前提としている（履修人数が少ない場合は、グループ討議や個人のレポート発表等を主体とすることも検討する。）定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		75%	注：評価方法・配点割合は履修人数により変更があり得る	
	平常評価		25%	注：以下は履修人数により変更があり得る。 授業参加度（10%）、事前学習の出来映え（10%）、授業中の質問・発言状況（5%）を評価する	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特に指定しない。			
参考書	授業中に適宜指示する。				
オフィスアワー	水曜日2限。（休暇中を除く、事前にメールにて要アポイントメント）研究室（本館6階 1604号室）メールアドレス：kamimura_susumu@nihon-u.ac.jp)				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業の題材となる当該歴史を世界史教科書などで把握する（2時間）。
	授業内容	【イントロダクション】 授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義で紹介する文献・資料を収集等する（2時間）。
2	事前学習	世界史教科書等で、アメリカ合衆国独立の経緯、憲法制定会議における議論等を把握する（2時間）。
	授業内容	【アメリカの憲法・統治制度】 アメリカ特有の厳格な三権分立制度はどのようにして成立したのか。また実際の運用はどのように行われているのかなどを、その歴史的背景、メリット・デメリット、我が国システムとの比較等を含め学ぶ。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
3	事前学習	前回の講義内容を踏まえ、日本とアメリカの制度の主な違いは何か、また違いの生まれる理由は何か、あなたの考えをまとめる（2時間）。
	授業内容	【アメリカの行政・官僚制度】 アメリカ政府の構成要素であるホワイトハウス、各省などの組織体制等について学習する。また同国公務員制度等の歴史的発展経緯（ペンドルトン法など）、幹部公務員職制度（SES）、政治任用制などについて我が国制度との違いを考察する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておくこととする（2時間）。

4	事前学習	最近の報道等により英国王室・議会・内閣・各省庁・自治体等に関する記事を読み、それぞれがどのような役割を果たしているか把握しておく（2時間）。
	授業内容	【英国の行政・官僚制度】英国と日本は同じ議院内閣制を取っており、内閣・省庁の組織体制等には類似点が多いが、他方で政党と行政府の関係など大きく異なる面もある（政官接触禁止など）。これら各制度の異同を学ぶことにより我が国行政制度を考えるための視角を身につける。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
5	事前学習	世界史教科書等でローマ帝国統治機構の概要を把握し、ローマ帝国の行政制度等で現代にまで引き継がれている要素は何か、各自の考えをまとめる（2時間）。
	授業内容	【西洋行政発達の歴史1（ローマ帝国の行政・官僚制）】古代ローマ帝国の長期継続を可能にした諸要素（小さな政府、立法府と行政府の勢力均衡、ブルジョワ出身者の登用による皇帝直轄官僚団、分権的統治システム）について学ぶとともに、経済情勢変化・外圧等によりそれらが変化していった過程（中央集権化・独裁化）を確認し、これらの今日的意義を探る。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
6	事前学習	授業内で紹介する各種文献等により、フランスに関するイメージを掴んでおく（2時間）。
	授業内容	【フランスの国家と社会】フランスという国は何を指すのか、フランス人とはどういう人たちなのか。どういう歴史的展開、気候風土、隣国との関係などが今日見られるフランス社会、国家制度、フランス人の意識構造を形作ってきたのか概観する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
7	事前学習	授業内で紹介する参考書を読み、フランスにおけるライシテのイメージを把握しておく（2時間）
	授業内容	【フランスの政治行政とライシテ（宗教的中立）】フランス政治行政の大きな特徴の一つが、大革命の遺産として引き継がれた徹底的な政教分離である。本講では、その経緯、カトリック教会との対立と妥協の歴史、現代フランスが直面するイスラム教との関係などについて学ぶ。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにする（2時間）。
8	事前学習	世界史教科書等で当時のヨーロッパ社会・経済に及ぼした中世教皇庁の影響等を調べる（2時間）。
	授業内容	【西洋行政発達の歴史2（ローマ教皇庁・カトリック教会）】中世ローマ教会の組織制度を概観し、ヒエラルヒーの統治システム、裁判制度、教皇官房等のシステム、現代法典の祖型となった教会法の整備など近代行政制度との類似点等について把握する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
9	事前学習	世界史教科書等により第2次大戦後にフランスの置かれた状況と、アルジェリア動乱の経緯について把握する（2時間）。
	授業内容	【フランスの憲法・統治構造】一般のイメージと異なり、フランスは強固な国家権力を背景に成立している国であり、立法府に対する行政府の圧倒的な優越など他国に見られない特異な制度を採用している。このような国家・行政の優越はどのような経緯で成立し、具体的にどのように運営されているのか学ぶ。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
10	事前学習	世界史教科書等で皇帝ナポレオン1世が政治・行政体制確立の上で果たした事績について把握する（2時間）。
	授業内容	【フランスの行政制度①】現代の各国行政制度はほぼ全てフランス行政制度をその祖型に持つとも言えるが、これはどのような経緯で成立したのか、ナポレオンの確立した近代フランス行政制度の成立背景・特徴などについて学ぶ。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
11	事前学習	授業内で紹介する参考文献等を読み、現代フランスの行政システムについてイメージを形成しておく（2時間）。
	授業内容	【フランスの行政制度②】フランス行政組織の特徴である國務院（コンセイユデタ）、憲法院などの制度を始め、各省庁の構成・組織編成方式などについて我が国制度と対比させつつ学習する。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
12	事前学習	世界史教科書等で、フランス中世から大革命期に至る歴史的展開を把握しておく（4時間）。
	授業内容	【西洋行政発達の歴史3（フランス近代行政の成立）】政治行政制度発展の歴史を主要な国王の事績から跡づけて学ぶ。特に当初弱小であった国王権限が、ノルマンディー公国、ブルゴーニュ公国、アキテーヌ公国等近隣大領主国との争闘を経て絶対王政に変貌した過程をそれを可能にした行政制度の面から考察する。併せてこれら旧体制下の諸制度は大革命～ナポレオン統治を経てどう変化したか、あるいはどう存続したか学ぶ。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
13	事前学習	前回までの講義内容を踏まえ、フランス官僚の特権性はどのような歴史的経緯に由来するものか、あなたの考えをまとめる（2時間）。
	授業内容	【フランスの官僚制度①】中世以来のフランス家産官僚、聖職者官僚、法学士官僚（直轄官僚）、法服貴族（高等法院）、地方監察官・地方長官制度、売官制などについて学ぶ。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。

14	事前学習	前回の講義内容を踏まえ、日仏公務員制度の類似点・相違点について整理する（2時間）。
	授業内容	【フランスの官僚制度②】 現代フランス官僚制に特徴的なコール制度（職団制度）、ENA卒業生を中核とする極端なエリート主義、政官の結節点である大臣キャビネ（官房）制度、高級公務員の政治化・民間企業の支配状況などについて学ぶ。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認し、次回講義時に疑問点等を質問できるようにしておく（2時間）。
15	事前学習	地歴地図帳等を用い、フランスの各州・県がどのような配置となっているか、また各州は中世諸侯領（トゥールーズ伯領など）とどのように重なっているか確認する（2時間）。
	授業内容	【フランスの地方制度】 フランスでは中世以来の歴史的・文化的地域区分である「州」と大革命期以降に創設された人為的行政区画である「県」が混在した地方制度を採用している。また後者の県はミッテラン政権時代に、国の「機関」であることから「自治体」への変貌を遂げている。本講ではこれらの歴史的経緯・背景・意義等について学ぶ。
	事後学習	講義内で紹介された事例・文献等を各自で確認する（2時間）。

科目名	比較憲法 I	担当者	玉蟲 由樹	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義では、いわゆる近代立憲主義の諸国家における憲法体制を比較し、それぞれの特徴を分析するとともに、比較のなかでの日本国憲法の位置づけを論じることとする。 それぞれ異なる歴史的状況から展開されてきた各国の憲法体制を見ることによって、日本国憲法が置かれた状況や解釈論的な課題が明らかになってくるだろう。			
授業目的・到達目標	本講義では、主に英米仏独4か国の憲法体制を一つのモデルとして、そこでの憲法体制や解釈論の展開を学び、そこから日本国憲法への示唆を引き出すことをさしあたっての目的とする。 比較素材は、憲法条文にとどまらず、憲法判例、解釈論争、政治的な動きなど多岐にわたるが、これらから各国の憲法の現代的状況を明らかにし、説明できるようになることを目標とする。 必要に応じて、これら主要4か国以外の国家やEUなどの動向にも言及することとする。 関連DP及びCP：法律学科1, 3 新聞学科1, 5			
履修条件	とくになし。			
授業方法	講義方式によって行う。事前に配布する資料を準備しておくこと。 定期試験の解説を後日ポータルシステムに配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		100%	講義の理解，論証のプロセス等を総合的に判断する。
	平 常 評 価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	弘文堂	比較憲法	東裕・玉蟲由樹編
	備考			
参 考 書	初宿正典・辻村みよ子編『新解説世界憲法集〔第4版〕』（三省堂，2017年）			
オフィスアワー	月曜13：00～14：30 金曜13：00～14：30 事前にメール等で連絡をすること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	比較憲法とは何か
	事後学習	比較憲法学の方法論について復習しておくこと。（2時間）
2	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	日本国憲法と比較憲法学
	事後学習	憲法後進国であった日本にとっての比較憲法学の意義を復習しておくこと。（2時間）
3	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	近代立憲主義の展開
	事後学習	比較のキーワードとなる近代立憲主義について復習しておくこと。（2時間）
4	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	現代の憲法体制の展開
	事後学習	現代の各国憲法の特徴について復習しておくこと。（2時間）

5	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	民主政原理（1）
	事後学習	デモクラシーの2類型について復習しておくこと。（2時間）
6	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	民主政原理（2）
	事後学習	議会制民主主義と選挙制度について復習しておくこと。（2時間）
7	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	権力分立原理（1）
	事後学習	民主主義の正当性について復習しておくこと。（2時間）
8	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	権力分立原理（2）
	事後学習	法律の留保について復習しておくこと。（2時間）
9	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	司法制度
	事後学習	各国の司法制度の特徴について復習しておくこと。（2時間）
10	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	違憲審査制度（1）
	事後学習	司法権と違憲審査権との関係性について復習しておくこと。（2時間）
11	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	違憲審査制度（2）
	事後学習	各国の違憲審査制度の特徴について復習しておくこと。（2時間）
12	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	違憲審査制度（3）
	事後学習	各国の違憲審査制度の特徴について復習しておくこと。（2時間）
13	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	憲法保障（1）
	事後学習	憲法保障の枠組みについて復習しておくこと。（2時間）
14	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	憲法保障（2）
	事後学習	憲法改正について復習しておくこと。（2時間）
15	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	まとめ①
	事後学習	国家組織に関する各国比較について復習しておくこと。（2時間）

科目名	比較憲法Ⅱ	担当者	玉蟲 由樹	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義では、いわゆる近代立憲主義の諸国家における憲法体制を比較し、それぞれの特徴を分析するとともに、比較のなかでの日本国憲法の位置づけを論じることとする。 それぞれ異なる歴史的状況から展開されてきた各国の憲法体制を見ることによって、日本国憲法が置かれた状況や解釈論的な課題が明らかになってくるだろう。			
授業目的・到達目標	本講義では、主に英米仏独4か国の憲法体制を一つのモデルとして、そこでの憲法体制や解釈論の展開を学び、そこから日本国憲法への示唆を引き出すことをさしあたっての目的とする。 比較素材は、憲法条文にとどまらず、憲法判例、解釈論争、政治的な動きなど多岐にわたるが、これらから各国の憲法の現代的状況を明らかにし、説明できるようにすることを目標とする。 必要に応じて、これら主要4か国以外の国家やEUなどの動向にも言及することとする。 関連DP及びCP：法律学科1, 3 新聞学科1, 5			
履修条件	とくになし。			
授業方法	講義方式によって行う。事前に配布する資料を準備しておくこと。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	講義の理解，論証のプロセス等を総合的に判断する。	
	平常評価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	弘文堂	比較憲法	東裕・玉蟲由樹編
	備考			
参考書	初宿正典・辻村みよ子編『新解説世界憲法集〔第4版〕』（三省堂，2017年）			
オフィスアワー	月曜13：00～14：30 金曜13：00～14：30 事前にメール等で連絡をすること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	基本権総論（1）
	事後学習	各国の基本権保障の展開について復習しておくこと。（2時間）
2	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	基本権総論（2）
	事後学習	現代の基本権保障の特徴について復習しておくこと。（2時間）
3	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	包括的基本権（1）
	事後学習	人格権・プライバシー権について復習しておくこと。（2時間）
4	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	包括的基本権（2）
	事後学習	基本権保護義務について復習しておくこと。（2時間）

5	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	憲法における平等（1）
	事後学習	各国での平等にまつわる議論の変遷を復習しておくこと。（2時間）
6	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	憲法における平等（2）
	事後学習	現代の平等問題について復習しておくこと。（2時間）
7	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	精神的自由権（1）
	事後学習	信教の自由をめぐる各国の状況を復習しておくこと。（2時間）
8	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	精神的自由権（2）
	事後学習	表現の自由に関する各国の主要判例について復習しておくこと。（2時間）
9	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	経済的自由権（1）
	事後学習	職業の自由について復習しておくこと。（2時間）
10	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	経済的自由権（2）
	事後学習	財産権をめぐる問題について復習しておくこと。（2時間）
11	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	人身の自由
	事後学習	刑事手続と基本権との関係について復習しておくこと。（2時間）
12	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	手続的権利・受益権
	事後学習	手続的権利に関する各国の認識の違いについて復習しておくこと。（2時間）
13	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	社会的基本権（1）
	事後学習	社会的基本権に関する各国での議論状況について復習しておくこと。（2時間）
14	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	社会的基本権（2）
	事後学習	社会的基本権に関する状況変化について復習しておくこと。（2時間）
15	事前学習	事前配布資料をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	まとめ②
	事後学習	基本権保障に関する各国比較について復習しておくこと。（2時間）

科目名	比較ジャーナリズム史	担当者	小林 聡明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業は、ジャーナリズムと社会の諸関係に構造化された問題群について、次の二つのアプローチから考えようとする。第一に、「比較」であり、ここでは、日本、東アジア諸国、アメリカの事例を扱いながらグローバルな視野で問題群を捉える。第二に、「歴史」の観点である。そこには、過去と現在との分かちがたい結びつきのなかで、問題群を理解し、乗り越えていくべき方向性を見通すことのできる、一つの思考枠組みを示すねらいがある。					
授業目的・到達目標	本授業は、ジャーナリズムが有する可能性と限界を把握し、現代社会におけるジャーナリズムの諸問題について考えるためのグローバルな視野と歴史的視点の養成を目的とする。到達目標は、第一に異なる地域における歴史的展開を比較し、歴史の重層性、複数性（histories）を感知しながら、現在の問題を立体的に考えることのできる思考枠組を獲得することである。第二に、ジャーナリズム史に対するグローバルな観点からの理解と、それに必要なジャーナリズムやメディア、そして世界史や国際政治に関する知識を獲得することである。関連DP及びCP：新聞学科1, 2, 3					
履修条件	海外のメディアやジャーナリズム、国際政治、国際関係に関する授業もあわせて受講することが望ましい。					
授業方法	授業では学生の理解を助けるために、レジュメを配付し、随時、視聴覚教材を活用する。また、学生との対話を重視したインタラクティブな授業を実施する。授業内での課題やレポートに対して、次の授業でフィードバックを行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		小レポートなどの課題や試験による評価	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	なし	なし		なし		なし
	備考	使用しない				
参考書	随時、授業内で文献（論文、著書など）を紹介する。					
オフィスアワー	原則的には、火曜日の13時～16時。事前にメールで予約を取ってください。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	初回授業時までにシラバスを読んでおくこと。 国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。（2時間）
	授業内容	イントロダクション： 授業の目的や進め方などについて説明する。 グローバルに、かつ、歴史的に、物事を捉えることとは、どのようなことなのか。こうした授業を貫く「軸」について概要を述べ、受講生が次回以降の授業に入っていくやすくするための心構えを伝える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献について目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
2	事前学習	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。（2時間）
	授業内容	比較ジャーナリズム「史」を考える：ここでは、歴史とは何かという普遍的なテーマを扱いながら、最近の新たな研究潮流であるグローバル・ヒストリーの観点からジャーナリズムの歴史を捉えることの可能性と意義、限界について説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献について目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
3	事前学習	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。（2時間）
	授業内容	近代日本の新聞成立：日本という空間のなかで、新聞はどのように誕生したのかを説明する。そのうえで、近代日本の新聞成立という歴史的現象を東アジアの空間に再配置して捉えた場合、そこから、いかなる意味が浮かび上がってくるのかについてについて考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献について目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）

4	事前学習	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。 (2時間)
	授業内容	19世紀末東アジアと日中ジャーナリズム (1)：19世紀末の中国におけるジャーナリズム状況について説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献について目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。(2時間)
5	事前学習	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。 (2時間)
	授業内容	19世紀末東アジアと日中ジャーナリズム (2)：琉球をめぐる論争が、日中のジャーナリズム界で沸き起こっていた状況を説明し、ジャーナリズムが、空間を超えて機能する、なにものかについて考えます。
	事後学習	授業で紹介した参考文献について目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。(2時間)
6	事前学習	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。 (2時間)
	授業内容	19世紀末東アジアと日中ジャーナリズム (3)：19世紀末の日中ジャーナリズム状況から、現代社会に与える教訓を読み取り、説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献について目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。(2時間)
7	事前学習	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。 (2時間)
	授業内容	メディアの戦争責任とジャーナリズムの在り方：戦争を賛美し続けたメディアが、いかに戦争反対のメディアへと展開していったのか。その過程で忘れ去られた問題のいくつかについて考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献について目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。(2時間)
8	事前学習	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。 (2時間)
	授業内容	メディアと記憶（日本編）：メディアが、どのように私たちの記憶をつくりだしているのかについて、日本のケースを取り上げて説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献について目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。(2時間)
9	事前学習	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。 (2時間)
	授業内容	メディアと記憶：アメリカ・ソ連・中国編：メディアによる記憶形成メカニズムについて、米ソ中を事例として説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献について目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。(2時間)
10	事前学習	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。 (2時間)
	授業内容	メディアと記憶：韓国・北朝鮮編：メディアによる記憶形成メカニズムについて、韓国・北朝鮮を事例として説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献について目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。(2時間)
11	事前学習	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。 (2時間)
	授業内容	GHQ占領期のメディア検閲：日本への民主主義の導入・促進を目指したGHQが、民主主義とは正反対の性格を持つ検閲を実施したことの「矛盾」について考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献について目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。(2時間)
12	事前学習	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。 (2時間)
	授業内容	戦後日本のジャーナリズム教育とアメリカ：アメリカによるジャーナリズム教育の導入と、そこに含意されているものについて説明し、ジャーナリズム研究や教育に内包され、構造化されている「アメリカ」について考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献について目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。(2時間)
13	事前学習	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。 (2時間)
	授業内容	朝鮮戦争とNHK：朝鮮戦争期、NHKが、国連軍による心理戦に「参戦」した事実を取り上げ、公共性とは何か、権力とジャーナリズムの関係について説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献について目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。(2時間)
14	事前学習	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。 (2時間)
	授業内容	時事問題への解説：前期の授業期間で起きた外交・国際政治に関する 이슈 をとりあげ、これまでに学んできた知見のいくつかを用いて解説する。それは、授業で得た知識や思考枠組みが、現実の問題に対して、どのような独創的な観点から切り込んでいけるのかを、具体的に受講者に示す試みとなる。
	事後学習	授業で紹介した参考文献について目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。(2時間)
15	事前学習	国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。 (2時間)
	授業内容	授業全体を通じてのまとめ
	事後学習	授業で紹介した参考文献について目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。(2時間)

科目名	比較政治学	担当者	岩崎 正洋	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、比較政治学の基本的な知識をできるだけ幅広く、体系的に、しかも正確に伝えることを企図している。そのために、まず、初めて比較政治学を勉強しようとする場合に「最低限これだけ知っておくと、とりあえず、比較政治学の入門レベルをおさえることができるし、これから先の勉強にも役立つ」という内容を盛り込んでいる。			
授業目的・到達目標	本講義では、比較政治学の基本的な理論の検討を通して、「比較政治学は、現実政治を考える上で、どのように役立つのか」という問題を考える能力を養成することを目的とする。この講義でとり上げる比較政治学のさまざまな理論は、各国の政治の類似点や相違点を明らかにするための視点を提供することになるだろう。授業を通して、現実政治と政治理論との両者に目を向け、両者の間を架橋することが出来るような視点をもつことができるようにすることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2, 3, 4 新聞学科1, 5			
履修条件	特になし			
授業方法	講義形式で行う。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		100%	授業内容に関して、正確な理解がなされているか否か確認する。
	平常評価		0%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015年	勁草書房	『比較政治学入門』	岩崎正洋
	備考			
参考書	河野勝・岩崎正洋編『アクセス比較政治学』日本経済評論社、2002年。その他、授業中に提示する。			
オフィスアワー	月曜日12：10～13：00 研究室（4号館2階425）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
	授業内容	イントロダクション（授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
2	事前学習	教科書の「序章」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	比較政治学とは何か（社会科学と政治学、政治学における比較政治学の位置づけ、意味、特徴について説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
3	事前学習	教科書の「第1章」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政治と国家（政治の特徴、国家の特徴について説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
4	事前学習	教科書の「第1章」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政治システム（政治システムpolitical system論について説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）

5	事前学習	教科書の「第2章」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政治発展（政治発展political development論について説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
6	事前学習	教科書の「第3章」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政治文化（政治文化political culture論について説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
7	事前学習	教科書の「第3章」の「3.2」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	市民文化（政治文化論における市民文化civic cultureの概念について説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
8	事前学習	教科書の「第3章」の「3.3」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	物質主義的価値観と脱物質主義的価値観（静かなる革命silent revolutionについて説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
9	事前学習	教科書の「第4章」の「4.1」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	政治体制：民主主義体制・権威主義体制・全体主義体制（政治体制political regimeの類型論について説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
10	事前学習	教科書の「第4章」の「4.2」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	ポリアーキー（民主主義的政治体制としてのポリアーキーpolyarchyに関する理論を説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
11	事前学習	教科書の「第4章」の「4.3」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	多極共存型民主主義（民主主義的政治体制としての多極共存型民主主義consociational democracyに関する理論を説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
12	事前学習	教科書の「第4章」の「4.4」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	非民主主義体制（民主主義的政治体制ではない政治体制に関する特徴を説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
13	事前学習	教科書の「第5章」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	民主化の第三の波（民主化democratizationの第三の波について説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
14	事前学習	教科書の「第5章」を読み、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	民主主義の移行と定着（民主主義への移行transitionと定着consolidationについて説明する）
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）
15	事前学習	教科書を再読し、授業前に疑問点や意見をノートにまとめる。（2時間）
	授業内容	今学期のまとめ・質問受付
	事後学習	授業中に紹介した先行研究の原典にあたり、授業後に要点や自分の考えを述べられるようにまとめる。（2時間）

科目名	東アジア経済論	担当者	陳 文挙	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	21世紀はアジアの時代だと言われ、アジア新興国や中国の台頭によって東アジアのみならず、世界政治経済、社会文化、安全保障の構図が急変している。本講義は経済発展論に基づき、アジア経済発展の歴史、発展の原動力、産業・労働移動、国際貿易の役割、地域経済統合の動きおよび人口、環境等諸問題について学習する。また、急速に台頭する中国経済についても研究し、日中両国の相互依存関係、地域や世界経済に与える影響について検討する。				
授業目的・到達目標	今日、国際政治経済における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域経済の重要性、多様性、複雑性、可能性等について立体的な視点から考察することは、東アジア経済論の基礎知識を修得するだけでなく、東アジア地域実体経済変動の規律を把握することにとって重要である。本講義は、講義全体の学習を通じて学生諸君がアジア地域経済の学問的基礎知識を習得することを目的とし、アジア地域経済発展に対する考察力、理解力、分析力、そして説明できる力を高めることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科 2，4，6。				
履修条件	特にない。				
授業方法	シラバスに沿ってパワーポイントによる講義。講義の中、ビデオ鑑賞や演習を行うこともある。最新の新聞・雑誌等参考資料を随時に配布し、講義の補足とする。授業の最後にリアクションペーパーを書いてフィードバックしてもらう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業課題に対する理解、演習、レポート完成状況等（60%） 授業参加度、リアクションペーパーの提出状況（40%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	なし	なし		なし	なし
	備考	本講義は「経済発展論」、「東アジア経済論」、「中国経済論」等諸学問分野を総合し、最新資料、最新の経済動向分析を行うため、教科書を固定せず、事前・事後の学習には参考書を活用してほしい。			
参考書	三重野文晴・深川由起子編著『現代東アジア経済論』（ミネルヴァ書房）。加藤弘之・上原一慶編著『現代中国経済論』（ミネルヴァ書房）。丸川知雄著『現代中国経済』（有斐閣アルマ）。その他、開講時に指示。				
オフィスアワー	月曜昼休み（事前にメールでアポイントメントを取をお願いしたい。メール：chin.bunkyo@nihon-u.ac.jp） 場所：2号館1階講師室。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	図書館やWebサイトから「東アジア経済論」について調べてみる。講義全体について概観する。（2時間）
	授業内容	講義の各テーマ、内容、スケジュール、学習方法、講義ノートの取り方などについて紹介し、成績評価を説明する。また、質問応答等を行う。
	事後学習	講義ノートの確認、東アジア経済についての学習意識を明確にし、学習計画を検討する。（2時間）
2	事前学習	現代経済社会の仕組みについて予習する。特に、人類文明の転換、生産活動の歴史について調べてみる（2時間）
	授業内容	現代経済社会の仕組みについて学習し、生産活動の主役（生産者、消費者、政府）とそれぞれの役割を明確にする。経済成長、経済発展の原動力を説明する。また、経済学の源流、諸学派の基本的考え方の違いを紹介する。
	事後学習	生産活動に必要な3要素（資本、労働、技術）について復習し、技術進歩の重要性を検討する。（2時間）
3	事前学習	イギリス産業革命及び世界経済に与える影響、そして帝国主義時代の植民政策について調べてみる。（2時間）
	授業内容	近代アジア経済発展の歴史を研究する。英国産業革命のアジアに与えた影響について、「アヘン戦争」および日本明治維新の歴史研究を通じて明確にし、近代経済発展における西欧や日本の植民地政策の功罪について検討する。
	事後学習	日中両国の近代化の過程および相違について比較し、まとめる。（2時間）
4	事前学習	東西「冷戦」、計画経済、市場経済の特徴について調べる。需要の価格弾力性の概念を予習しておく。（2時間）
	授業内容	アジア農業の発展と「緑の革命」について学習する。農業生産の特性、品種改良、機械化、大規模農業の形成、資本集約的農業と技術集約的農業の違いについて日本と途上国農業の実態を比較しながら説明する。
	事後学習	農業生産における「豊作貧乏」問題に対する処方箋、遺伝子組み換え農産品の食安全の問題について考える。（2時間）

5	事前学習	人口問題について調べ、マルサス人口論や「算数級数」、「対数級数」の概念を予習しておく。（2時間）
	授業内容	アジアの経済発展と人口問題について学習する。人口発展の3つの段階や人口爆発、中国の「一人っ子政策」および日本の少子高齢化問題について「機会費用」概念を用いて考えてみる。
	事後学習	中国の一人っ子政策の廃止後の人口動向を調べ、日本政府の少子化対策の問題点についてまとめる。（2時間）
6	事前学習	最新『日経業界地図』から日本の業界分類、注目企業、労働雇用および業界別賃金水準について調べる。（2時間）
	授業内容	産業構造変化と労働移動について学習する。その中で産業の分類、ペティ・クラークの法則、雁行形態、産業移転、労働移動、インフォーマル部門の形成要因等を探る。
	事後学習	東アジアの過剰都市化問題、スラム街の形成と現状を調べて、非正規労働形成の原因を考える。（2時間）
7	事前学習	中国の農業、農村、農民（いわゆる「三農問題」）について調べ、GDPに占める農業の割合、労働人口に占める農業労働者の割合の推移を観察する。（2時間）
	授業内容	中国の農業、農村、農民の現状および農業労働移動の実態について事例研究を通じて考察する。中国およびアジア農村地域の経済発展に必要な諸条件を探る。
	事後学習	中国のスラム街は他のアジア諸国に比べて比較的少ない。その原因を調べて、農村地域の工業化が地域経済発展にとってその重要性をまとめ、復習する。（2時間）
8	事前学習	「重農主義」、「重商主義」、リカードの比較優位仮説について調べる。（2時間）
	授業内容	分業、比較優位性および国際貿易について学習し、経済効率性や経済グローバル化の理論背景を説明する。
	事後学習	リカードの比較優位性仮説についてExcelを使って具体的な数値によって確認する。また、比較劣位性はどのような場合に発生するのかをも検証する。（2時間）
9	事前学習	国民経済（GDP）計算式を予習しておく。輸出入の拡大と経済成長の関係を考察してみる。（2時間）
	授業内容	東アジアの工業化について学習する。「脱植民地」に成功した東アジア地域経済の事例を用いて、「輸入代替」から「輸出振興」に発展戦略の変換の重要性を検討する。
	事後学習	貿易依存度を用いて、日本、韓国、シンガポール、ASEAN諸国の経済国際化の度合いを計測し、比較する。（2時間）
10	事前学習	中国の建国、朝鮮戦争および「朝鮮特需」と日本経済復興について調べておく。（2時間）
	授業内容	中国建国、社会主義計画経済の実施とその成果および教訓について学習し、現代中国形成の歴史とその歩みを明らかにする。
	事後学習	毛沢東はなぜ「大躍進」戦略をとったのか、またその失敗の後、どのように責任を取ったのかをまとめる。（2時間）
11	事前学習	中国の「文化大革命」運動、米中・日中国交回復について調べ、政治と経済の関係を考えてみる。（2時間）
	授業内容	中国の経済「改革・開放」について学習する。「文化大革命」運動の悪影響、米中・日中国交回復によって明示された中国と先進国との経済格差、毛沢東の死去、極貧状態の中国農村部の反抗、「トップ・タウン」と「ボト・ムアップ」との改革方式の違いについて検討する。
	事後学習	1970年代末期に中国改革・開放政策の実施の諸条件について考えてまとめる。（2時間）
12	事前学習	「緑の革命」を復習し、中国農業生産の拡大、余剰労働の発生、世界工場形成の条件などについて調べる。（2時間）
	授業内容	中国の農業生産制度改革、郷鎮企業の興隆、外資の導入および世界工場の形成について学習し、経済発展の初期条件および諸要因を探る。
	事後学習	中国経済の成功における制度改革の重要性について農業の自由化、外資導入、貿易促進政策などの面から確認し、まとめる。（2時間）
13	事前学習	ファーウェイ（Huawei）、アリババ（Alibaba）、ハイアール（Haier）、吉利汽車（Geely）という中国を代表する企業について調べる。（2時間）
	授業内容	中国の企業成長と経済の発展について企業レベルから考察し、改革開放後40年の間に生まれた中国を代表する著名企業の成長、発展の経緯を検討する。
	事後学習	米中貿易紛争におけるファーウェイ問題について調べ、先端技術における米中熾烈な競争の実態をまとめる。（2時間）
14	事前学習	世界の地域経済協定についてWTO、EU、ASEAN、FTA、TPPについて調べる。（2時間）
	授業内容	東アジア地域経済統合について検討する。その中で、ASEAN地域経済協定の締結、日中韓FTAの動向、環太平洋パートナーシップ（TPP）、東アジア地域包括的経済連携（RCEP）などの地域経済連携の最新状況について解説し、行方を探る。
	事後学習	産業構造の変換、「雁行形態」の理論を復習し、日本企業の中国から東南アジア地域への産業移転について調べ、まとめる。（2時間）
15	事前学習	半期の学習の要点をまとめ、確認をする。半期授業のポイントを整理したうえ、自分の学習目標の達成状況、基礎知識の修得状況、そして分析力、説明力の向上状況を確認する。（2時間）
	授業内容	ま半期講義の要点をまとめ、確認するうえ期末レポート作成要領、評価の仕方、提出方法、フィードバックについて説明する。
	事後学習	期末レポートを作成、提出し、フィードバックを確認する。（2時間）

科目名	東アジア政治論Ⅰ	担当者	小林 聡明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業は、現代東アジア諸国と地域の政治構造について、歴史的な視点から説明する。ここでは、主として中国、台湾、韓国、北朝鮮を扱うものとし、19世紀半ばから現在に至る国際環境の変化のなかで、どのように東アジア各国・各地域の政治構造が形づくられ、それにともなって社会が変容していったのか、そのダイナミズムに着目して明らかにする。				
授業目的・到達目標	本授業の目的は、①歴史から現在を捉える視点の涵養、②東アジアの歴史について「一国史」ではない、グローバルな視点から理解するための知識の習得、③東アジアの政治と社会に関する知識の習得におかれている。 本授業の到達目標は、①現代東アジアの政治と社会を理解すること、②現代東アジアで生じている懸案や問題を理解し、対立の構造を把握できること、③現代東アジアで暮らす多様な人々の考え方を理解し、東アジアの「未来図」を自分なりに示すことができることにおかれている。関連DP及びCP：政治経済学科2，4，6				
履修条件	毎回、教科書の1章を読み、授業日までに質問コメントをポータルサイトにアップロードすることが、受講者に課題として課される。そのため、強い知的好奇心と意欲がない学生には、本授業の受講はお勧めできない。				
授業方法	受講者の質問コメントに対する応答を軸とし、新たな研究潮流の紹介や時事的な情勢解説も行うことで、受講者の知識定着と問題意識の刺激をはかる。本授業では歴史を講じることで、現代東アジアを説明するという方法が用いられる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	毎回の課題提出状況と最終試験による成績評価	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2007	名古屋大学出版会		東アジア国際政治史	川島真・服部龍二編
	備考				
参考書	授業内で随時、説明する。				
オフィスアワー	原則的には、火曜日の13~16時。事前にメールで予約をとること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	初回授業時までにシラバスを読んでおくこと。 国際情勢に関心を持ち、新聞やテレビ、インターネットを複合的に活用し、日常的に国際報道に接しておくこと。 (2時間)
	授業内容	イントロダクション： ・授業の進め方に関する説明 ・東アジアの現状と、それを歴史的な視点で捉え、学ぶことの意義についての説明
	事後学習	授業で扱ったトピックや、考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。(2時間)
2	事前学習	課題文献を読み、質問コメントの作成とポータル・サイトへのアップロード提出を行うこと。提出は、授業日の二日前までとする。(2時間)
	授業内容	東アジアの「伝統的」国際秩序：冊封体制を中心に19世紀東アジア世界について説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。(2時間)
3	事前学習	課題文献を読み、質問コメントの作成とポータル・サイトへのアップロード提出を行うこと。提出は、授業日の二日前までとする。(2時間)
	授業内容	開国と不平等条約改正：近代化の波という観点から19世紀半ばから末にかけての東アジア世界について、とくに日本に注目して説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。(2時間)
4	事前学習	課題文献を読み、質問コメントの作成とポータル・サイトへのアップロード提出を行うこと。提出は、授業日の二日前までとする。(2時間)
	授業内容	列強への道をたどる日本と東アジア情勢：日清、日露戦争の説明と、それが与えたインパクトについて解説する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。(2時間)

5	事前学習	課題文献を読み、質問コメントの作成とポータル・サイトへのアップロード提出を行うこと。提出は、授業日の二日前までとする。（2時間）
	授業内容	中国をめぐる国際秩序再編と日中対立の形成：20世紀初頭の日中関係について説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
6	事前学習	課題文献を読み、質問コメントの作成とポータル・サイトへのアップロード提出を行うこと。提出は、授業日の二日前までとする。（2時間）
	授業内容	ワシントン体制下の国際政治：1920年代の東アジア国際関係を説明し、それが各国の政治・社会に与えたインパクトについて検討する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
7	事前学習	課題文献を読み、質問コメントの作成とポータル・サイトへのアップロード提出を行うこと。提出は、授業日の二日前までとする。（2時間）
	授業内容	満洲事変と日中紛争：日中戦争について説明することで、現代中国における歴史認識の一端を浮き彫りにする。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
8	事前学習	課題文献を読み、質問コメントの作成とポータル・サイトへのアップロード提出を行うこと。提出は、授業日の二日前までとする。（2時間）
	授業内容	アジア太平洋戦争と東アジア国際政治の変容：アジア太平洋戦争について説明し、それが日本とアジア諸国、欧米列強との間で、どのような関係を引き起こしたのかについて考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
9	事前学習	課題文献を読み、質問コメントの作成とポータル・サイトへのアップロード提出を行うこと。提出は、授業日の二日前までとする。（2時間）
	授業内容	国際政治の中の植民地支配：台湾・朝鮮に対する植民地支配を説明し、それが、現代の韓国、北朝鮮、台湾の政治や社会に、どのように意味をもたらしているのかについて考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
10	事前学習	課題文献を読み、質問コメントの作成とポータル・サイトへのアップロード提出を行うこと。提出は、授業日の二日前までとする。（2時間）
	授業内容	日本の復興と国共内戦・朝鮮戦争：日本の戦後と東アジアの「戦時」について説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
11	事前学習	課題文献を読み、質問コメントの作成とポータル・サイトへのアップロード提出を行うこと。提出は、授業日の二日前までとする。（2時間）
	授業内容	中国分断後の国際情勢と日米安保改定：1950年代の日中、日米関係を中心に、東アジアの政治・社会について考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
12	事前学習	課題文献を読み、質問コメントの作成とポータル・サイトへのアップロード提出を行うこと。提出は、授業日の二日前までとする。（2時間）
	授業内容	アジア冷戦の変容と日本の戦後処理：日本の戦後と東アジアの脱植民地化、そして和解の実現・失敗プロセスについて説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
13	事前学習	課題文献を読み、質問コメントの作成とポータル・サイトへのアップロード提出を行うこと。提出は、授業日の二日前までとする。（2時間）
	授業内容	日中国交正常化から中国の改革開放へ：1970年代から80年代にいたる中国の政治・社会とそれを取り巻く周辺国との関係について説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
14	事前学習	課題文献を読み、質問コメントの作成とポータル・サイトへのアップロード提出を行うこと。提出は、授業日の二日前までとする。（2時間）
	授業内容	グローバル化時代の東アジア：東アジアの協調と対立、そして、乗り越えていかなければならない今後の課題について説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
15	事前学習	試験に向けた学習（5時間）
	授業内容	まとめ：東アジアという空間で、私たちは、どのように生きていくのか
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）

科目名	ビジネスロー文献講読Ⅰ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、欧米のビジネスローの専門書や報告書の原文を使用して、国際ビジネスや国際金融に関する内容を学習する。主として英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード、さらに国際的に活動する金融機関に関する規制であるバーゼル規制を題材として理論とプラクティスを学習する。			
授業目的・到達目標	ビジネスローに関する外国専門書（英語）について理解、修得することを目的とする。サブプライム金融危機以後の国際金融法規制、コーポレート・ガバナンス（企業統治）等の重要テーマを中心にG20のバーゼル銀行監督委員会、英国コーポレート・ガバナンス・コードなど最新の文献を題材に進める。欧米のガバナンス、取締役会など法的スキームを学び、概要など説明できるようになることを目標とする。英語が苦手な者も、だからこそ是非参加してほしい。大歓迎する。国際ビジネス法に関する専門の英語文献について学び、それに基づき専門書を読むことに慣れることを学習する。細かい法知識の修得もさることながら、専門書講読が苦にならなくなることが眼目である。英語習得は今や必須である。関係者及びCPA学生等関係者にも対象とし、全くの基礎から教える。法律関係科目の履修を条件としない。また2年生も広く大歓迎する。金融機関や国際的分野の就職志望者、留学希望者、留学生、英語を改めて学びたい者も来て欲しい。			
履修条件				
授業方法	政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、わかりやすく解説する。講義形式を基本とするが、一方的な授業にならないようにアクティブラーニングを組み合わせ、事例を用いて課題解決型学習により関心と理解を深める。授業内試験の解説を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業内評価。授業内試験を行う（辞書持込み可）。期末定期試験は行わない。授業内試験と共に、授業への積極的な取り組み、議論への参加などを合わせて評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	毎回レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。		
参考書	適宜、授業内で指示する。			
オフィスアワー	授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、水曜日又は金曜日授業の前後に、直接、その旨を話に来てください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。次回の講義内容、資料収集・学習方法などは毎回事前に指示する。専門用語、キーワードなども意味を調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	G20のバーゼル銀行監督委員会とサブプライム金融危機後のコーポレート・ガバナンスを強化するための諸原則 授業のテーマ、内容、スケジュール、成績評価方法、参考文献紹介を含めて学習方法、研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	コーポレート・ガバナンスに関して、概要を把握して考察する。（2時間）
	授業内容	OECD（経済協力開発機構）のコーポレート・ガバナンス(Corporate Governance)原則
	事後学習	講義ノートを確認して、OECD（経済協力開発機構）のコーポレート・ガバナンス原則の内容を復習する。（2時間）
3	事前学習	バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンスについて考察する。（2時間）
	授業内容	バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンス法制度の概観 バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンスに関する報告書などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、バーゼル銀行監督委員会のコーポレート・ガバナンス原則の内容を復習する。（2時間）
4	事前学習	銀行の取締役会の責務と実務について考察する。（2時間）
	授業内容	銀行のコーポレート・ガバナンス（1） 取締役会の責務と実務 バーゼル銀行監督委員会の銀行のコーポレート・ガバナンスに関する報告書をもとに、取締役会の責務と実務などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、銀行の取締役会の責務と実務の内容を復習する。（2時間）

5	事前学習	銀行の戦略と目標、銀行のリスク許容度/リスク選好度について考察する。（2時間）
	授業内容	銀行のコーポレート・ガバナンス（2） 銀行の戦略と目標、銀行のリスク許容度/リスク選好度 バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、銀行の戦略と目標、銀行のリスク許容度/リスク選好度などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、銀行の戦略と目標などの内容を復習する。（2時間）
6	事前学習	取締役会議長、独立社外取締役について考察する。（2時間）
	授業内容	銀行のコーポレート・ガバナンス（3） 取締役会議長（Chairman）、独立社外取締役（Outside Independent Director） バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、取締役会議長、独立社外取締役について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、取締役会議長、独立社外取締役の内容を復習する。（2時間）
7	事前学習	企業価値基準と行動規範について考察する。（2時間）
	授業内容	銀行のコーポレート・ガバナンス（4） 企業価値基準と行動規範（Code of Conduct） バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、企業価値基準と行動規範について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、企業価値基準と行動規範の内容を復習する。（2時間）
8	事前学習	上級管理職（Senior Management）に対する監視について考察する。（2時間）
	授業内容	銀行のコーポレート・ガバナンス（5） 上級管理職（Senior Management）に対する監視、取締役の資質 バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、上級管理職（Senior Management）という業務執行機能に対する取締役会の監視機能、取締役の資質について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、上級管理職（Senior Management）に対する監視、取締役の資質の内容を復習する。（2時間）
9	事前学習	取締役会の構造と機能について考察する。（2時間）
	授業内容	銀行のコーポレート・ガバナンス（6） 取締役会の構造と機能、支配株主、指名・報酬・監査委員会 バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、取締役会の構造と機能、支配株主などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、取締役会の構造と機能、支配株主などを復習する。（2時間）
10	事前学習	持株会社、親子会社の支配・権利義務について考察する。（2時間）
	授業内容	銀行のコーポレート・ガバナンス（7） グループ構造、持株会社、親子会社の支配・権利義務・少数株主関係 バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、持株会社、親子会社の支配・権利義務関係などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、持株会社、親子会社関係の権利義務などを復習する。（2時間）
11	事前学習	上級管理職の役割と責任、規律付けについて考察する。（2時間）
	授業内容	銀行のコーポレート・ガバナンス（8） 上級管理職の役割と責任、規律付け バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、上級管理職の役割と責任などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、上級管理職の役割と責任などを復習する。（2時間）
12	事前学習	リスクマネジメント、内部統制について考察する。（2時間）
	授業内容	健全なコーポレート・ガバナンスの原則（1） リスク管理（Risk Management）と内部統制 バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、銀行のリスクマネジメント、内部統制などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、リスクマネジメント、内部統制などを復習する。（2時間）
13	事前学習	役員の報酬規制について考察する。（2時間）
	授業内容	健全なコーポレート・ガバナンスの原則（2） 新しい報酬規制と対応など バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、報酬規制と対応などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、報酬規制などを復習する。（2時間）
14	事前学習	情報開示と透明性について考察する。（2時間）
	授業内容	健全なコーポレート・ガバナンスの原則（3） 複雑または不透明な組織構造、情報開示（Disclosure）と透明性、 銀行の監督当局の役割、健全なコーポレート・ガバナンスを支える環境の育成など バーゼル銀行監督委員会の報告書をもとに、情報開示と透明性、規制環境などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、情報開示と透明性などを復習する。（2時間）
15	事前学習	最初からの講義ノートを見直し、前期の全体の体系を考察する。（2時間）
	授業内容	授業内試験、解説等を行う。前期の総まとめを行い、体系的な学習を行う。
	事後学習	授業内試験と解説を参考にして、今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。（2時間）

科目名	ビジネスロー文献講読Ⅱ	担当者	藤川 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、欧米のビジネスローの専門書や報告書の原文を使用して、国際ビジネスや国際金融に関する内容を学習する。主として英国におけるコーポレート・ガバナンス・コード、さらに国際的に活動する金融機関に関する規制であるバーゼル規制を題材として理論とプラクティスを学習する。				
授業目的・到達目標	ビジネスローに関する外国専門書（英語）について理解、修得することを目的とする。サブプライム金融危機以後の国際金融法規制、コーポレート・ガバナンス（企業統治）等の重要テーマを中心にG20のバーゼル銀行監督委員会、英国コーポレート・ガバナンス・コードなど最新の文献を題材に進める。欧米のガバナンス、取締役会など法的スキームを学び、概要など説明できるようになることを目標とする。英語が苦手な者も、だからこそ是非参加してほしい。大歓迎する。国際ビジネス法に関する専門の英語文献について学び、それに基づき専門書を読むことに慣れることを学習する。細かい法知識の修得もさることながら、専門書講読が苦にならなくなることが眼目である。英語習得は今や必須である。関係者及びCPA受験関係者など対象とし、全くの基礎から教える。法律関係科目の履修を条件としない。また2年生も広く大歓迎する。金融機関や国際的分野の就職志望者、留学希望者、留学生、英語を改めて学びたい者も来て欲しい。				
履修条件					
授業方法	政府系銀行の勤務経験と融資・財務ノウハウを生かし、わかりやすく解説する。講義形式を基本とするが、一方的な授業にならないようにアクティブラーニングを組み合わせ、事例を用いて課題解決型学習により関心と理解を深める。授業内試験の解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内評価。授業内試験を行う（辞書持込み可）。期末定期試験は行わない。授業内試験と共に、授業への積極的な取り組み、議論への参加度などを合わせて評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	毎回レジメを配布する。パソコンを用いて授業を行う。			
参考書	適宜、授業内で指示する。				
オフィスアワー	授業の内容に関する質問と共に、就職、進路相談などにも積極的に応じます。希望があれば、水曜日又は金曜日授業の前後に、直接、その旨を話に来てください。後日、時間を調整して、改めてお話を伺います。金融業界、メーカー・商社などグローバル企業の就職、大学院進学希望者はぜひ、いつでも気楽にご相談下さい。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	英国におけるスチュワードシップ・コードについて、概要を把握して考察する。（2時間）
	授業内容	英国におけるスチュワードシップ・コード（機関投資家向けの規律）と株主責任の概要 スチュワードシップ・コードの概要について、学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、スチュワードシップ・コードの概要について復習する。（2時間）
2	事前学習	英国スチュワードシップ・コードの課題について、考察する。（2時間）
	授業内容	英国スチュワードシップ・コード(Stewardship Code)の課題と展望 スチュワードシップ・コードの課題と展望について、比較法的に学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、スチュワードシップ・コードの課題と展望について復習する。（2時間）
3	事前学習	英国コーポレート・ガバナンス・コードについて、考察する。（2時間）
	授業内容	英国コーポレート・ガバナンス・コード（企業経営者向けの規律）の概要と課題 コーポレート・ガバナンス・コードについて、概要などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンス・コードについて概要などを復習する。（2時間）
4	事前学習	英国のコーポレート・ガバナンスおよびコードの概要について、考察する。（2時間）
	授業内容	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（1）コーポレート・ガバナンスおよびコード（Code）の概説 英国のコーポレート・ガバナンス改革の経緯と概要およびコードの内容について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、英国のコーポレート・ガバナンス改革の経緯と概要およびコードの内容などを復習する。（2時間）

5	事前学習	プリンシプル・ベースの意義について、考察する。（2時間）
	授業内容	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（2） プリンシプル（原則）・ベースの意義 英国のコーポレート・ガバナンス・コードにおけるプリンシプル・ベースの意義などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、英国のコーポレート・ガバナンス・コードにおけるプリンシプル・ベースの意義などを復習する。（2時間）
6	事前学習	コンプライ・オア・エクスプレインの意義などについて、考察する。（2時間）
	授業内容	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（3） コンプライ・オア・エクスプレイン（遵守せよ、さもなければ説明せよ）原則 プリンシプル・ベースに関するコンプライ・オア・エクスプレインの内容を学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、プリンシプル・ベースに関するコンプライ・オア・エクスプレインの内容を復習する。（2時間）
7	事前学習	経営陣のリーダーシップと経営戦略などについて、考察する。（2時間）
	授業内容	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（4） 経営陣のリーダーシップと経営戦略 コーポレート・ガバナンス・コードにおける経営陣のリーダーシップと経営戦略の役割、機能などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、経営陣のリーダーシップと経営戦略の内容を復習する。（2時間）
8	事前学習	取締役会の有効性と取締役会評価について、考察する。（2時間）
	授業内容	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（5） 取締役会の有効性と取締役会評価 (Evaluation) コーポレート・ガバナンス・コードにおける取締役会の有効性と取締役会評価などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、取締役会の有効性と取締役会評価の内容を復習する。（2時間）
9	事前学習	説明責任と透明性について、考察する。（2時間）
	授業内容	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（6） 説明責任と透明性 (Transparency) コーポレート・ガバナンス・コードにおける説明責任と透明性などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、説明責任と透明性の内容を復習する。（2時間）
10	事前学習	機関投資家、対話とエンゲージメントについて、考察する。（2時間）
	授業内容	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（7） 機関投資家との関係、対話とエンゲージメント (Engagement) 作り コーポレート・ガバナンス・コードにおける機関投資家、対話とエンゲージメントなどを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、機関投資家、対話とエンゲージメントの内容を復習する。（2時間）
11	事前学習	報酬規制について、考察する。（2時間）
	授業内容	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（8） 報酬規制とコードの役割 コーポレート・ガバナンス・コードにおける報酬規制などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、報酬規制の内容を復習する。（2時間）
12	事前学習	業務執行取締役について、考察する。（2時間）
	授業内容	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（9） 業務執行取締役に対する業績連動型報酬の設計など コーポレート・ガバナンス・コードにおける業務執行取締役に対する業績連動型報酬などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、業務執行取締役に対する業績連動型報酬の内容を復習する。（2時間）
13	事前学習	コーポレート・ガバナンスにかかる開示について、考察する。（2時間）
	授業内容	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（10） コーポレート・ガバナンスにかかる開示 (Disclosure) コーポレート・ガバナンス・コードにおける開示のあり方などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、コーポレート・ガバナンスにかかる開示の内容を復習する。（2時間）
14	事前学習	非業務執行取締役について、考察する。（2時間）
	授業内容	英国のコーポレート・ガバナンス・コード（11） 非業務執行取締役 (Non Executive Director)の役割、取締役の研鑽・研修 (Training) など コーポレート・ガバナンス・コードにおける非業務執行取締役の役割などを学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、非業務執行取締役の役割の内容を復習する。（2時間）
15	事前学習	最初からの講義ノートを見直し、講義全体の体系を考察する。（2時間）
	授業内容	授業内試験、解説等を行う。総まとめを行い、体系的な学習を行う。
	事後学習	授業内試験と解説を参考にして、今後のキャリアアップなどに生かせるように十分復習を行う。（2時間）

科目名	福祉政策	担当者	山村 りつ	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	社会福祉に関する政策について講義を行う。社会福祉についての概観とともに、それに関連する政策を、歴史的な動向と、その背景にある思想や理念の変化とともに考察していく。その後、現代の福祉政策において重要となる個別の理論や思想について整理するとともに、個別領域にも目を向け、実際の政策策定およびその運用における現実的課題との対応を捉え、今後の福祉政策における考察に必要な知識的理解の基礎を得る。				
授業目的・到達目標	授業目的：福祉政策の要素と基礎となる概念、拠って立つべき理念を養成することを目的とし、現在の福祉政策に対する自分の意見を持ち、表明できるようにする。 到達目標： ①福祉政策の要素をあげ、全体像を図示できるようになる。対応DP及びCP：公共政策学科1 ②福祉政策の理念と公共政策との関係について自分の言葉で説明できるようになる。対応DP及びCP：公共政策学科1,3 ③現在の福祉政策の課題を説明するとともにその解決策についての自らの意見を表明できるようになる。対応DP及びCP：公共政策学科3,4,5				
履修条件					
授業方法	講義方式を取る。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		60%	詳細は授業内で説明する。	
	平常評価		40%	授業への参加（意見表明の状況）および授業後に回収するコメントカードの内容を対象とし、表現の適切さを踏まえたうえで評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	なし	なし	なし		なし
	備考	特に教科書は指定しません。			
参考書	『社会保障法令便覧2016』労働調査会発行。 その他、当該授業で参考とする資料についてはその前回授業で指定していく。				
オフィスアワー	火曜3限（それ以外は要相談） ※ただし、上記時間帯であっても事前にメール（yamamura.ritsu@nihon-u.ac.jp）等で連絡すること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの熟読し、「福祉政策」とは何かについて考える。（1時間）
	授業内容	オリエンテーション:福祉政策の基本的知識と理解
	事後学習	授業で得た知識と事前に考察した「福祉政策」の範囲について相違点を整理しておく。（3時間）
2	事前学習	前回の授業で指示されたテーマについての考察し、自分なりの考えや回答を記録しておく。（2時間）
	授業内容	福祉政策の機能と役割
	事後学習	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。（2時間）
3	事前学習	前回の授業で指示されたテーマについての考察し、自分なりの考えや回答を記録しておく。（2時間）
	授業内容	福祉政策における理論
	事後学習	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。（2時間）
4	事前学習	前回の授業で指示されたテーマについての考察し、自分なりの考えや回答を記録しておく。（2時間）
	授業内容	個別領域①：児童に関する福祉政策
	事後学習	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。（2時間）

5	事前学習	前回の授業で指示されたテーマについての考察し、自分なりの考えや回答を記録しておく。（2時間）
	授業内容	個別領域②：障害者に関する福祉政策
	事後学習	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。（2時間）
6	事前学習	前回の授業で指示されたテーマについての考察し、自分なりの考えや回答を記録しておく。（2時間）
	授業内容	個別領域③：高齢者に関する福祉政策
	事後学習	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。（2時間）
7	事前学習	前回の授業で指示されたテーマについての考察し、自分なりの考えや回答を記録しておく。（2時間）
	授業内容	個別領域④：生活困窮者に関する福祉政策
	事後学習	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。（2時間）
8	事前学習	前回の授業で指示されたテーマについての考察し、自分なりの考えや回答を記録しておく。（2時間）
	授業内容	個別領域⑤：拡大する福祉政策
	事後学習	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。（2時間）
9	事前学習	前回の授業で指示されたテーマについての考察し、自分なりの考えや回答を記録しておく。（2時間）
	授業内容	社会福祉実践の価値と政策のあり様
	事後学習	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。（2時間）
10	事前学習	前回の授業で指示されたテーマについての考察し、自分なりの考えや回答を記録しておく。（2時間）
	授業内容	福祉政策と行政組織
	事後学習	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。（2時間）
11	事前学習	前回の授業で指示されたテーマについての考察し、自分なりの考えや回答を記録しておく。（2時間）
	授業内容	国際社会と福祉政策
	事後学習	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。（2時間）
12	事前学習	前回の授業で指示されたテーマについての考察し、自分なりの考えや回答を記録しておく。（2時間）
	授業内容	福祉政策における二項対立構造
	事後学習	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。（2時間）
13	事前学習	前回の授業で指示されたテーマについての考察し、自分なりの考えや回答を記録しておく。（2時間）
	授業内容	福祉政策のプロセス
	事後学習	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。（2時間）
14	事前学習	前回の授業で指示されたテーマについての考察し、自分なりの考えや回答を記録しておく。（2時間）
	授業内容	福祉政策の担い手
	事後学習	事前に与えられていたテーマと授業を通じた学びの相違点について整理し、必要があれば文章化して次の授業でのコメントに備えておく。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業を振り返り疑問点を整理しておく。（1時間）
	授業内容	授業の総括と講評 授業を通じて寄せられたコメント（特に質問）に対するリプライ
	事後学習	試験に備えて自分が回答をしようとするテーマについて再考し、文章化しておく。（3時間）

科目名	物権・担保物権法	担当者	金光 寛之	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	民法総則では、権利の主体から学び始め、権利の客体、法律行為、代理、条件、法律行為の無効や取消等について学ぶ。			
授業目的・到達目標	本講義では民法全体の基礎理論の習得を目的する。 さらに現代社会で生じる様々な法的関係に対応できるような基礎的な知識を得られることを目標とする。関連D P及びC P：政治経済学科2 新聞学科1, 5			
履修条件	特になし			
授業方法	テキストを参照しつつ講義を行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	期末試験にて総合的評価をする。	
	平常評価	0%	受講生の人数および出席者の人数によっては授業参加度を加味することもある	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2012	法研出版	民法総則・物権法	山川一陽 小野健太郎
	備考			
参考書	適宜指示をする。			
オフィスアワー	電子メール等にて適宜相談を受ける。木曜1限終了後 希望者は授業講堂にて申し出ること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	物権とは何かについてテキストを読んでおく。（2時間）
	授業内容	物権の意義、及びその対象
	事後学習	物権の意義、及びその対象に関する講義についてテキスト等を読み内容を確認する。（2時間）
2	事前学習	所有権の移転時期についてテキストを読んでおく。（2時間）
	授業内容	物権変動
	事後学習	所有権の移転時期に関する講義内容についてテキスト等を読む。（2時間）
3	事前学習	不動産取引における対抗要件についてテキストを読んでおく。（2時間）
	授業内容	不動産取引と登記
	事後学習	不動産取引における対抗要件に関する講義内容についてテキスト等を読む。（2時間）
4	事前学習	登記簿の構造及び登記手続と権利証についてテキストを読む。（2時間）
	授業内容	登記制度概説①
	事後学習	登記簿の構造及び登記手続と権利証に関する講義内容についてテキスト等を読む。（2時間）

5	事前学習	登記の有効要件、登記請求権についてテキスト等を読む。（2時間）
	授業内容	登記制度概説②
	事後学習	登記の有効要件、登記請求権の講義内容についてテキスト等を読み確認する。（2時間）
6	事前学習	動産取引における対抗要件についてテキスト読む。（2時間）
	授業内容	動産取引と占有
	事後学習	動産取引における対抗要件講義内容についてテキスト等を読み確認する。（2時間）
7	事前学習	占有権の意義と機能についてテキストを読む。（2時間）
	授業内容	占有権
	事後学習	占有権の意義と機能の講義内容についてテキスト等を読み確認する。（2時間）
8	事前学習	所有権の性質と内容についてテキストを読む。（2時間）
	授業内容	所有権①
	事後学習	所有権の性質と内容の講義内容についてテキストを読む確認をする。（2時間）
9	事前学習	共同所有についてテキストを読む。（2時間）
	授業内容	所有権②
	事後学習	共同所有の講義内容についてテキスト等を読み確認する。（2時間）
10	事前学習	用益物権ついてテキストを読む。（2時間）
	授業内容	用益物権
	事後学習	用益物権の講義内容についてテキスト等を読み確認する。（2時間）
11	事前学習	担保制度の概要についてテキストを読む。（2時間）
	授業内容	債務の履行確保と担保制度
	事後学習	担保制度の概要の講義内容についてテキスト等を読み確認する。（2時間）
12	事前学習	法定担保物権についてテキストを読む。（2時間）
	授業内容	法定担保物権
	事後学習	法定担保物権の講義内容についてテキスト等を読み確認する。（2時間）
13	事前学習	約定担保物権についてテキストを読む。（2時間）
	授業内容	約定担保物権
	事後学習	約定担保物権の講義内容についてテキスト等を読み確認する。（2時間）
14	事前学習	非典型担保についてテキストを読む。（2時間）
	授業内容	非典型担保
	事後学習	非典型担保の講義内容についてテキスト等を読み確認する。（2時間）
15	事前学習	今までの講義内容に関してテキスト等で確認する。（2時間）
	授業内容	まとめ・質問受付
	事後学習	講義で説明された内容についてテキスト等で確認する。（2時間）

科目名	物権・担保物権法	担当者	野中 貴弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、民法典の第2編「物権」に定められたルールについて学ぶ。具体的には、まず所有権の意義や効力などをおさえた後、こうした所有権をはじめとする物権が複数に譲渡等された場合の優先関係に関するルールや、お金を借りるにあたって設定される抵当権についてのルールを学ぶ。講義では、細かい知識については省略することで、物権・担保物権法の重要部分に時間をかけて丁寧に説明することとする。				
授業目的・到達目標	民法総則の知識を前提に、所有権や抵当権を典型とした物権・担保物権の基礎的知識を修得するとともに、法的思考方法を養成することを目的とする。本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できるようになること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2 新聞学科1,5				
履修条件	前期の「民法総則」を履修済みであること。				
授業方法	レジュメを使用しての講義が中心だが、定期的に演習を実施する。第14回に行う授業内試験について、解説を第15回講義時に行う。本講座では、担当教員の弁護士としての実務経験を踏まえ、実務事例なども採り上げて説明する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	第14回に実施の授業内試験の成績によって評価する。試験においては、正誤問題と簡易記述式問題の出題を予定している。	
	平常評価		100%		
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2005年	有斐閣		物権―エッセンシャル民法2	永田眞三郎ほか
	備考				
参考書	道垣内弘人『リーガルベイス民法入門〔第3版〕』（日本経済新聞出版社・2019年）				
オフィスアワー	水曜日13：00―17：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館6階1608） nonaka.takahiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	学生教員共有フォルダから第1回講義レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおくこと 教科書1－4頁を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	講義案内、民法における物権法の位置付け、物権・担保物権法とは何か 後期に扱う物権・担保物権法を概観する。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 本講座と並行して履修することで効率的に学修を進められる講座を探すなど、半年間の学修計画を立てる（2時間）
2	事前学習	教科書の5－19頁を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	所有権① 所有権はどのような内容を持っていて、何について成立し、どのような制限を受けるのかを学ぶ。所有権がどのような内容を持っているのかを学ぶにあたっては、所有権を典型とした物権が債権とどう異なるのかを意識する。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 物権と債権の違いについてレジュメ1頁目の表を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。 第4回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
3	事前学習	教科書の20－25頁を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	所有権② 所有権が侵害された場合にどう保護されるのか、具体的には物権的請求権と呼ばれる権利の性質や、この物権的請求権が衝突する場面での調整の在り方を学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと そもそもどういった論理の流れにより「物権的請求権の衝突」があるとされてきたのか説明できるようにしておくこと。 第4回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）

4	事前学習	教科書の26－32頁を読んでおくこと あらかじめ演習（第1回）の問題を全問検討してくること（2時間）
	授業内容	所有権③、演習（第1回） 前回学んだ、所有権が侵害された場合におけるルールについて引き続き学ぶとともに、そもそも所有権はどのように取得されるか、さらには複数人が共同で所有権を有する場合等の規律について学ぶ。また、これまでの復習を兼ねた演習を行う。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する（2時間）
5	事前学習	教科書の45－62頁を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	物権変動①（不動産） 物権はどのように移転するのか、不動産についての物権変動の公示はどのようになされるのか等を学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 所有権の移転方法と移転時期について区別して整理する。 第9回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
6	事前学習	教科書の62－70頁を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	物権変動②（不動産） 登記がなければ対抗できない物権変動とはいかなる範囲かを学ぶ。具体的には、「取消しと登記」「遺産分割と登記」「時効と登記」と呼ばれる論点における判例の議論を分析する。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 講義で扱った3つの論点についての判例の態度はどういった点で共通するかをまとめておくこと。 第9回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
7	事前学習	教科書の70－76頁を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	物権変動③（不動産） 177条の「第三者」となるための要件を学ぶ。どのような関係に立つ者が「登記の欠缺を主張する正当な利益を有する者」なのかを分析することになる。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 第三者の主観的要件として、悪意者排除説と背信的悪意者排除説とが対立する。それぞれの論拠をまずおさえること。 第9回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
8	事前学習	教科書の76－92頁を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	物権変動④（動産、即時取得も含む） 今回は、不動産ではなく、動産の所有権が移転する場合を想定して、不動産の場合と同様に、「動産の物権変動の公示はどのようになされるのか」等を知ったうえで、動産物権変動に特有の「即時取得制度」を学修する。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 動産物権変動の対抗要件である「引渡し」には4種類あるとされる。それぞれ自分で説明できる状態にしておくこと。 第9回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
9	事前学習	教科書の93－122頁を読んでおくこと あらかじめ演習（第2回）の問題を全問検討してくること（2時間）
	授業内容	演習（第2回）、用益物権、占有 物権変動①～④の復習を兼ねた演習をするとともに、地上権や地役権といった用益物権、さらには占有に付与される法的効果を概観する。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 地上権と地役権はどこが異なるか整理すること。 演習問題の回答を整理する（2時間）
10	事前学習	教科書の123－141頁を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	抵当権① 担保物権の基本型としての抵当権について、その枠組みや基本用語をおさえたうえで、優先弁済権を持つとされる抵当権の効力を中心に学習する。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 物上代位とはどのようなものであり、なぜ抵当権にはこのような効力が認められるのかを考える。 第13回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
11	事前学習	教科書の142－178頁を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	抵当権② 抵当権の実行の在り方、不動産利用権との調整の在り方、さらには抵当不動産の第三取得者を保護する制度などについて簡単に学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 授業レジュメを踏まえ、出てきた条文を六法で読んでおくこと。 第13回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
12	事前学習	教科書の179－221頁を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	抵当権以外の担保物権 抵当権以外の担保物権、すなわち抵当権と同じ「約定担保物権」として質権、「法定担保物権」として留置権・先取特権、さらには民法典に規定のない「非典型担保物権」と呼ばれるものとして、譲渡担保や仮登記担保、所有権留保などといった物権について概観する。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと（2時間） 債権質はどのようなものであり、なぜ実際に使われるのかをまとめておくこと。 第13回講義の際に扱う演習（後期第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
13	事前学習	あらかじめ演習（第3回）の問題を全問検討してくること（2時間）
	授業内容	演習（第3回） 用益物権・占有および抵当権をはじめとした担保物権について、復習を兼ねた演習を行う。
	事後学習	これまでのレジュメを全て整理し、次回の授業内試験に備える。分からない箇所があれば、教科書やレジュメ、さらには図書館にある文献も参照しながら整理する（2時間）

14	事前学習	授業内試験における疑問点や不明点を質問できるよう整理しておく（2時間）
	授業内容	質疑応答（30分）、授業内試験（60分）
	事後学習	試験において十分に理解していなかった部分の復習をする（2時間）
15	事前学習	授業内試験における疑問点や不明点を質問できるよう整理しておく（2時間）
	授業内容	授業内試験の解説・講評
	事後学習	これまでのレジュメを整理するとともに、物権・担保物権法の総復習をする（2時間）

科目名	平和学	担当者	松元 雅和	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業では、国際社会の倫理という観点から、戦争と平和、環境と開発、領土と移民など、「平和」にまつわる思想的・哲学的諸問題を論じていく。現代の国際社会では、各国の経済的・社会的相互依存が深まる一方で、移民排斥や保護主義などを掲げる「自国第一主義」が目立つようになっている。この授業では、他国民に対する不偏的配慮と自国民に対する偏向的配慮の相克を理論的柱として、現代の国際社会に対する関心や理解を深めることを目指している。				
授業目的・到達目標	【授業目的】 平和学の諸概念について理解することを目的とする。 【到達目標】 1. 平和学の諸概念について適切に理解し、説明できる。2. 得られた理解・知識に基づいて、政策担当者の現実の決定や判断について分析・評価することができる。対応DP及びCP：政治経済学科3, 4, 5, 6				
履修条件	なし				
授業方法	毎回プリントを配布すると共に、パワーポイントを用いて授業を進める。また、定期的に小テストを実施し、受講者の授業理解を確認する。フィードバックは授業内で小テストの解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		70%	期末に定期試験を実施する。論述式の試験により、講義内容の理解度を総合的に評価する。	
	平 常 評 価		30%	小テストを授業時間内に計3回実施する。実施日は当日決める。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	備考	使用しない			
参 考 書	授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	月曜日昼休み、事前にアポイントメントをとること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ニュース・新聞報道に触れる（3時間）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
2	事前学習	パーマストン英国首相について調べる（3時間）
	授業内容	国際倫理の二面性
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
3	事前学習	トランプ大統領について調べる（3時間）
	授業内容	自国第一主義の論理
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
4	事前学習	ODA大綱について調べる（3時間）
	授業内容	貧困
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）

5	事前学習	WTO交渉について調べる（3時間）
	授業内容	貿易
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
6	事前学習	京都議定書について調べる（3時間）
	授業内容	環境
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
7	事前学習	第2～6回の授業内容を振り返る（3時間）
	授業内容	第2～6回についての討議
	事後学習	討議内容を振り返る（1時間）
8	事前学習	スウェーデンの移民政策について調べる（3時間）
	授業内容	移民
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
9	事前学習	イギリスの植民地政策について調べる（3時間）
	授業内容	領土
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
10	事前学習	国際人道法について調べる（3時間）
	授業内容	戦争
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
11	事前学習	ソマリア介入について調べる（3時間）
	授業内容	介入
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
12	事前学習	ルワンダ介入について調べる（3時間）
	授業内容	映像教材上映
	事後学習	教材内容を振り返る（1時間）
13	事前学習	国連気候変動会議について調べる（3時間）
	授業内容	国際倫理の理想と現実
	事後学習	配付プリントを読み直す（1時間）
14	事前学習	第3～13回の授業内容を振り返る（3時間）
	授業内容	第3～13回についての討議
	事後学習	討議内容を振り返る（1時間）
15	事前学習	配付プリント全体の振り返り（2時間）
	授業内容	期末総括
	事後学習	授業全体の振り返り（2時間）

科目名	法医学 I	担当者	大野 曜吉	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	法医学は「法律に関係のある医学的問題を研究し応用する学問」であり、医学領域では社会医学に属し、具体的問題を対象として社会活動をしなければならない立場にある。法医学では実務として司法解剖が重要であり、法学領域では刑法・刑事訴訟法などと関連する。また、民事関係でも生命保険・損害保険・損害賠償などが関連している。そこで刑事・民事・社会医学的事例を多く提示し、学生諸君に理解しやすいようにと計画する。				
授業目的・到達目標	授業目的：法医学という学問分野が医学に属し自然科学を基礎としていることを理解し、社会における様々な事件事故に法医学が果たしている役割を理解することを目的とする。 到達目標：法医学の基本的事項を修得し、回答できる。ただし医学生のレベルまでは求めない。法医学の各事例について、それぞれ問題点を指摘できる。人身の損害賠償について理解を深め、概略を説明できる。損害賠償における医学の役割について理解し、説明できる。 関連DP及びCP：法律学科1，2 公共政策学科1，3，4				
履修条件	各事例については守秘を厳守願いたい。また、パワーポイントで紹介する写真などについて電子機器などでの撮影は厳禁する。学生諸君との信頼関係がないと講義が成立しないことを理解して受講されたい。				
授業方法	パワーポイントを使って講義する。毎回プリントを1週間前までにポータルサイトにアップロードする予定。定期試験の解説を後日ポータルサイトにアップロードする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	客観的試験問題とするので用語の定義や事件事故の事実関係についてを主とした問題となろう。	
	平常評価		0%		
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書としては指定しない。			
参考書	臨床法医学テキスト、中外医学社				
オフィスアワー	水曜日 講義終了後10分程度。授業講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。（1時間）
	授業内容	4月10日 法医学概論：法医学とその関連領域、法医学による鑑定、解剖の種類（司法・行政・承諾・死因調査法）。
	事後学習	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。（3時間）
2	事前学習	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。（1時間）
	授業内容	4月17日 医療事故と異状死体届け出義務：医師法21条の届け出義務について、臨床医と法医の考え方が異なることなど。
	事後学習	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。（3時間）
3	事前学習	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。（1時間）
	授業内容	4月24日 注射と薬害：注射による大腿四頭筋拘縮症についてVTRを交えて紹介し、現在にも続く薬害について考える。
	事後学習	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。（3時間）
4	事前学習	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。（1時間）
	授業内容	5月8日 死の判定、脳死、アルコール事故：死の定義、脳死の定義と実際の脳死状態を経過した脳。アルコールによる事故についてはVTRでの紹介も加える予定。
	事後学習	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。（3時間）

5	事前学習	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。（1時間）
	授業内容	5月15日 死亡の種類と保険：病死・外因死（災害死・自殺・他殺・その他及び不詳）・不詳の死の区別が保険や損害賠償に重要な影響を与えること。生命保険と損害保険との相違。
	事後学習	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。（3時間）
6	事前学習	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。（1時間）
	授業内容	5月22日 死体現象と死亡時刻の推定：死亡時刻を推定することの法医学上の重要性、早期死体現象、晩期死体現象。
	事後学習	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。（3時間）
7	事前学習	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。（1時間）
	授業内容	5月29日 直腸温降下曲線法と民事鑑定例：直腸温からの死後経過時間推定とマンション転落事例の紹介。
	事後学習	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。（3時間）
8	事前学習	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。（1時間）
	授業内容	6月5日 窒息と民事鑑定：窒息の定義と種類、自殺か事故かが民事事件として問題となったある縊死例の紹介。
	事後学習	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。（3時間）
9	事前学習	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。（1時間）
	授業内容	6月12日 溺水と浴槽内死亡：溺水の診断、解剖所見と、入浴中の死亡の統計、民事事例紹介。
	事後学習	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。（3時間）
10	事前学習	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。（1時間）
	授業内容	6月19日 交通事故と鞭打ち損傷：交通事故の現状と処罰状況、鞭打ち損傷の問題点。
	事後学習	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。（3時間）
11	事前学習	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。（1時間）
	授業内容	6月26日 大量死亡事故と精神的傷害：大規模災害や航空機事故などに際しての法医学の役割とPTSDなどの精神的傷害の評価について。
	事後学習	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。（3時間）
12	事前学習	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。（1時間）
	授業内容	7月3日 創傷鑑定と松橋事件：創傷の定義、記録をどのようにするか、刺創の成傷器の推定と、再審無罪となった松橋事件について行った創傷鑑定の詳細。
	事後学習	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。（3時間）
13	事前学習	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。（1時間）
	授業内容	7月10日 食中毒と製造物責任：シガテラ食中毒の裁判例の紹介と製造物責任について。
	事後学習	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。（3時間）
14	事前学習	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。（1時間）
	授業内容	7月17日 ロザール事件：ロザール事件（殺人否認事件）のVTRを交えた紹介と再鑑定の問題点。
	事後学習	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の講義の終了後に質問してみる。（3時間）
15	事前学習	アップロードされたプリントに目を通し、不明な点などを確認しておく。また、Webなどで検索してみる。（1時間）
	授業内容	7月24日 トリカブト事件：トリカブト殺人事件のVTRを用いた紹介と、その詳細をナトリウムチャンネルに作用する毒物とともに講義する。
	事後学習	講義でも不明だった点、疑問に残る点を整理し、Webなどで調べてみる。なお不明な点は次週の試験の後に質問する。（3時間）

科目名	法学 I	担当者	上野 幸彦	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	「法律」に関する基礎的知識及び「法」の基本的理解の修得が、この授業の中心的な学修内容である。法律専門科目の学修に先立って、法律全体に通有する基礎的な知識について整理して学ぶとともに、法とは何かを考察する手掛かりとして、法の目的（存在理由）、規範的構造・機能、法システムとプロセスという側面から分析し、法の特徴、法の定立・解釈・適用、法と裁判との関係などについて基本的な説明を行う。				
授業目的・到達目標	法律全体に共通する基礎的な法知識を修得するとともに、基本的な法理解を養成することを目的とする。 実際に社会で生起する出来事について、基礎的な法知識に基づいて、法的な観点から分析して基本的な法律と関連付けて説明を行うことができるとともに、法律の規定に依りながら、初歩的な解釈を行ったうえ、一定の結論を導くことができるようになり、さらに、このような考察の検討プロセスにおいて、さまざまな問題点に気づき、現代的な課題についても認識することができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 5 政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 経営法学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	特になし				
授業方法	教科書に基づいて講義の形式で行う。毎回、六法は必携のこと。事前学習のチェックを兼ねて、リアクションペーパーへの記入を求め、その都度解説を行う。授業内試験の実施後にも、解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	実施せず	
	平常評価		100%	演習問題（5回：25%）、リアクションペーパー（10回：20%）、授業内試験（55%）	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2018年	成文堂	国家と社会の基本法（第4版）		上野幸彦・古屋等
	備考				
参考書	必要に応じて適宜紹介する。				
オフィスアワー	火曜 授業終了後、授業講堂にて30分程度応接する。これ以外に、メールによる質問等を随時受け付ける。 メルアド：ueno.yukihiko@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	六法（ポケット六法）を手にとって、「日本国憲法」、「民法」、「刑法」という3つの法律の条文を読み、どんなことが書かれているのか確認する。（3時間）
	授業内容	【法律の「条文」の読み方】 法律を学習する出発点として、まず法律にはどのようなことが記述されているのかを、実際に具体的な条文（規定）に触れながら理解し、条文の基本的な読み方、法律の分野における表現上の決まり、法律用語の使い方などについて学ぶ。
	事後学習	六法の引き方・使い方を再確認し、一般の用法とは異なる法令上の用語法について復習する。（1時間）
2	事前学習	法律の条文には、さまざまな指図が含まれている。そこで、刑法199条、177条、179条1項、民法709条、415条1項、4条、憲法13条、21条1・2項、25条1・2項、41条、66条1項、76条1項の各規定について、指図（ないしルール）の内容を確認するとともに、その指図が、誰による、誰に対するものなのかを考える《事前学習RP1》。（2時間）
	授業内容	【法律の「条文」の意味について】 法律の条文の記述を通じて、その規定の意味について考える。条文の構造を分析しながら、その条文から導きだされる具体的な意味・内容を明確に理解し、法規定と規範的特質との関係について理解する。
	事後学習	法律用語等につき、ポータル上の「演習問題1」（小テスト機能を利用）に取り組み、指定された期限までに送信処理を行う。（2時間） この解説は、次の授業時に行う。
3	事前学習	教科書214～216頁を読み、（1）国内法と国際法の特徴的な違いと国際法の法源、（2）公法と私法とを区別する一般的な基準とそれぞれに属する代表的な法律、（3）社会法に分類される典型的な法律をチェックしてくる《事前学習RP2》。（2時間）
	授業内容	【法の分類】 法は、さまざまな観点から分類・整理することができる。ここでは、存在形式、法律関係の対象、規定の内容などを基準として整理し、法のさまざまな種類について知ることにより、法の多様性について理解する。
	事後学習	規範的構造、法の分類につき、ポータル上の「演習問題2」（小テスト機能を利用）に取り組み、指定された期限までに送信処理を行う。（2時間） この解説は、次の授業時に行う。

4	事前学習	「日本国憲法」、「法律」、「命令」の制定主体は誰か、そしてこれらの形式的効力の優劣関係、さらに制定法である法律と不文法である慣習法との関係について、教科書221-225頁を参照して予習しておく《事前学習RP3》。(2時間)
	授業内容	【国家法の体系的構造】 主権者が制定した「憲法」を頂点とする国家法の段階的構造を中心に、憲法と条約との関係、国家法と自治体の自主法との関係、さらに制定法と慣習法との関係について学ぶ。
	事後学習	制定主体による法の分類について再確認するとともに、国家主権との関連における憲法と条約をめぐる優劣の問題や国の法令とは別個独立した条例を制定する場合の限界などの問題について復習する。(2時間)
5	事前学習	法と道徳との関係や違いについて、教科書206-211頁を参照して整理するとともに、現在、欧米では同性婚を認める国が増えているが、婚姻の成立を異性婚に限っている日本の法制度について、その根拠を調べるとともに、問題点を指摘する《事前学習RP4》。(2時間)
	授業内容	【法と道徳】 法と道徳との関係や異同に関する伝統的な見解について説明するとともに、道徳に反する法の有効性や道徳に違反しているという理由だけに基つて法によって強制することの正当性の問題について議論し、考える。
	事後学習	制定法の種類や相互関係、法と道徳に関する問題について、ポータル上の「演習問題3」(小テスト機能を利用)に取り組み、指定された期限までに送信処理を行う。(2時間) この解説は、次の授業時に行う。
6	事前学習	日本の司法システムについて、(1)裁判所の組織・権限(教科書89-91頁参照)、(2)民事及び刑事手続の概要(教科書231-236頁、240-244頁参照)を予習しておく《事前学習RP5》。(2時間)
	授業内容	【法と裁判】 法と裁判との相互関係について歴史的に分析したうえ、日本の司法システムについて、日本国憲法及び裁判所法に基づいて説明するとともに、民事及び刑事事件に関する手続の概要について学ぶ。
	事後学習	公正な裁判を支える一般的な原則を確認し、日本の裁判システムにおいて、具体的にどのような形で表れているのかをチェックする。(2時間)
7	事前学習	最高裁判所平成19年3月23日決定を読み、(1)事実関係、(2)当事者の主張、(3)争点、(4)裁判所の判断とその理由についてレポートにまとめ、授業時に提出する《事前学習RP6》。(2時間)
	授業内容	【実際の裁判例と法の解釈・適用(1)】 夫婦が生殖補助医療により代理母に出産させた場合における親子関係が問題となった裁判例を取り上げて、新たな問題に対する現行法上の解釈の限界や立法的措置の必要性等について学ぶ。
	事後学習	最高裁判所が結論を導き出す法的なロジックを整理したうえ、このような結論が社会に及ぼす影響について分析し、さらにその判断の是非を検討する。(2時間)
8	事前学習	最高裁判所平成27年4月9日判決を読み、(1)事実関係、(2)当事者の主張、(3)争点、(4)裁判所の判断とその理由についてレポートにまとめ、授業時に提出する《事前学習RP7》。(2時間)
	授業内容	【実際の裁判例と法の解釈・適用(2)】 従来の判例の傾向とは異なる判断を下した裁判例として注目される事件を取り上げて、変更に至った背景や実質的な考慮を探り、「解釈する」という営みの中にどのような価値判断が控えているのかを明らかにする。
	事後学習	最高裁判所が結論を導き出す法的なロジックを整理したうえ、裁判官がこのような結論を採用するにあたってどのような事情を考慮したと推測できるかを分析し、このような結論が社会に及ぼす影響やその判断の是非を検討する。(2時間)
9	事前学習	最高裁判所昭和60年10月23日判決を読み、(1)事実関係、(2)当事者の主張、(3)争点、(4)裁判所の判断とその理由についてレポートにまとめ、授業時に提出する《事前学習RP8》。(2時間)
	授業内容	【実際の裁判例と法の解釈適用(3)】 刑罰法規における解釈の特徴について理解するとともに、法廷意見と反対意見とを比較しながら、理論的な問題点について分析する。
	事後学習	最高裁判所が結論を導き出す法的なロジックを整理したうえ、このような結論が社会に及ぼす影響について分析し、さらにその判断の是非を検討する。(2時間)
10	事前学習	教科書225-228頁を読み、法解釈の一般的な方法について予習しておく。(2時間)
	授業内容	【解釈の技法と法の適用】 法律の規定を適用する際の解釈の方法について、これまで授業で取り上げた裁判例を含め、具体的な事例を素材にしながら、解釈を通じた適用の在り方を学ぶ。
	事後学習	司法システム、裁判手続、法の解釈・適用につき、ポータル上の「演習問題4」(小テスト機能を利用)に取り組み、指定された期限までに送信処理を行う。(2時間) この解説は、次の授業時に行う。
11	事前学習	教科書218-219頁、229-230頁を参照しながら、紛争を解決する方式について、裁判による場合とそれ以外の方式(ADR)とを比較し、それぞれの方式のメリットとデメリットを指摘し、裁判の特徴について説明できるようにしておく《事前学習RP9》。(2時間)
	授業内容	【法の紛争解決機能】 社会的な紛争解決の諸方式と裁判とを対比させながら、法と裁判の特徴を理解するとともに、司法及び裁判システムについて学ぶ。
	事後学習	日本の司法システムにつき、日本国憲法及び裁判所法の規定を参照しながら、裁判所の組織・権限を整理し、また民事・刑事に関する裁判手続の概要についてまとめる。(2時間)
12	事前学習	「法が存在しない社会を仮定したうえで、その状態と法の必要性ないし存在根拠について論じなさい。」というテーマで事前にペーパーを作成する《事前学習RP10》。(2時間)
	授業内容	【社会システムとしての法】 社会の秩序化を図る法という観点から、法の社会統合・秩序化機能と関連させながら、法と国家との関係や法と強制との結合について学ぶ。
	事後学習	社会的機能や社会システムという観点から、法の特徴を分析し、法の構造的な特質について復習する。(2時間)
13	事前学習	教科書211-214頁を読み、法の理念に関するこれまでの考え方について予習し、実定法の中に正義あるいは法的安定性の理念が具体的にどのような形で表れているのか、確認する。(2時間)
	授業内容	【法の理念】 法の価値に関する側面に焦点を当て、とくに正義と法的安定性という価値について、実定法と関連させながら学ぶ。
	事後学習	法の構造及び理念に関して、ポータル上の「演習問題5」(小テスト機能を利用)に取り組み、指定された期限までに送信処理を行う。(2時間) この解説は、次の授業時に行う。
14	事前学習	これまでの授業内容を振り返り、学習した内容をチェックするとともに、リアクションペーパーや演習問題で問われたポイントについて、あらためて見直しを行って、自己の知識や理解を確認する。(3時間)
	授業内容	【授業内試験及び解説】 これまで行ってきた授業につき、学修の定着度をチェックするためテスト(30分間)を実施し、併せて解説を行うことにより、知識の正確性及び理解の的確性の向上を図る。
	事後学習	テストの全ての問題について、各自見直しを行い、条文・裁判例等をチェックしながら確認の作業を行う。(1時間)

15	事前学習	グローバリゼーションという観点から、近時における日本の立法動向について分析する。（2時間）
	授業内容	【日本法の展開】 近代化の過程で外国とくにヨーロッパ大陸法を継受しつつ発達を遂げ、第2次世界大戦後はアメリカ法の影響を受け、今日国際的な動向を踏まえた立法措置も数多い。このような日本法の状況について学ぶ。
	事後学習	日本の近代的法制が、どのような国をモデルに行われてきたのかを振り返るとともに、今日、国際的な動向に合わせた立法の具体例を挙げて、復習する。（2時間）

科目名	法学 I	担当者	小澤 久仁男	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	------	-----	--------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	本授業においては、法律学を初めて勉強する学生を念頭に、法律学の基礎について学ぶことになります。具体的には、条文の読み方や裁判制度の概要といった法律学を学ぶ上での基礎中の基礎を形成することで、憲法、民法、刑法などの専門科目の理解にも寄与したいと考えています。			
授業目的・到達目標	法律学を学ぶ上での基礎や土台を形成することが授業目的です。他方で、法的観点から物事を考えられるようになることが到達目標となります。関連DP及びCP：法律学科1, 5 政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 経営法学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	特にありません。			
授業方法	講義形式によって行うことになります。 授業内試験の解説を行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験			
	平 常 評 価		100%	授業内試験を行います。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	弘文堂	法学（第2版）	高橋雅夫編
	備考			
参 考 書	必要に応じて紹介もいたしますが、「法学」あるいは「法学入門」というタイトルの教科書は指定教科書以外にもたくさんあるため、適宜参考にしてください。			
オフィスアワー	木曜日 授業終了後、授業講堂にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料1を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	法律学の勉強の仕方①（法律学のイメージ）
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。（2時間）
2	事前学習	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	法律学の勉強の仕方②（条文）
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、「ポケット六法」に付いている「有斐閣六法の使い方・読み方」（小冊子）を再確認するようにしてください。（2時間）
3	事前学習	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	法律学の勉強の仕方③（判例）
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、学内又は学外の判例検索ツールで、判例検索を行ってみるようにしてください。（2時間）
4	事前学習	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	法曹養成
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法学部で学んだことを、ご自身の将来の職業にどう活かしていきたいかを考えてみてください。（2時間）

5	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料2を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	法とは何か①（法と社会生活、法と道徳）
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法と道徳の違いについてはご自身でも考えてみてください。（2時間）
6	事前学習	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	法とは何か②（法と強制）
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。（2時間）
7	事前学習	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	法とは何か③（法の目的）
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法的安定性と正義についてはご自身でも考えてみてください。（2時間）
8	事前学習	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	法とは何か④（権利と義務）
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、ご自身のこれまでの振り返ってみて、権利のみを主張して義務を果たしていなかったかを検証してみてください。（2時間）
9	事前学習	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	法の発展
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。（2時間）
10	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料3を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	法の適用（裁判制度の概要と訴訟手続の諸原則）
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、裁判所の種類や、訴訟手続上の原則については覚えるようにしてください。（2時間）
11	事前学習	参考資料3から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	法源①（制定法）
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、制定法にどのようなものがあるのかについては覚えるようにしてください。（2時間）
12	事前学習	参考資料3から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	法源②（慣習法、判例、学説、条理）
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、不文法源にはどのようなものがあるのかについては覚えるようにしてください。（2時間）
13	事前学習	参考資料3から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	法の分類（公法と私法）
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、公法と私法にそれぞれ、どのようなものがあるのかについては覚えるようにしてください。（2時間）
14	事前学習	参考資料3から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	法の解釈
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、法の解釈の種類については覚えるようにしてください。（2時間）
15	事前学習	配布した参考資料および教科書を再度確認をし、試験に臨んでください。（2時間）
	授業内容	到達度試験
	事後学習	間違えたところなどを再確認するようにしてください。（2時間）

科目名	法学 I	担当者	金光 寛之	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義では学生が専門科目を学習する前に必要な法律の知識は何かという観点に立って法律の基本的な内容を説明する。				
授業目的・到達目標	法律の基本的な内容を修得することを授業目的とする。本講義では今後学ぶ専門科目の土台である法的なものの見方を得られることを目標とする。関連D P 及びC P：法律学科1, 5 政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 経営法学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	1年次生を対象とする。				
授業方法	テキストを参照しつつ、講義を行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		100%	基本的には筆記試験で評価を決める。	
	平 常 評 価		0%	受講生の人数または出席者の人数によって出席をとる場合もある。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2012年度	芦書房		『プライマリー法学』	茂野隆晴編著
	備考				
参 考 書	適宜指示する。				
オフィスアワー	電子メール等にて適宜相談を受ける。木曜日2限終了後 希望者は授業講堂にて申し出ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストを読む（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	講義で学んだ内容について復習をする。（2時間）
2	事前学習	テキストを読み法学の意義について考える（2時間）
	授業内容	法学の意義
	事後学習	法学の意義とは何であったかを復習する。（2時間）
3	事前学習	法とは何かについてテキストをよく読み考える（2時間）
	授業内容	法とはなにか
	事後学習	法とは何かについて身近な事例を通じて考える（2時間）
4	事前学習	法の効力とその範囲についてテキストをよく読み考える。（2時間）
	授業内容	法の効力の意義およびその範囲
	事後学習	講義の内容についてもう一度テキスト等をよく読み理解する。（2時間）

5	事前学習	法の効力の根拠についてテキストをよく読み考える。（2時間）
	授業内容	法の効力の根拠
	事後学習	講義の内容についてもう一度テキストを読み理解する。（2時間）
6	事前学習	法と道徳ついてテキストよく読む（2時間）
	授業内容	法と道徳
	事後学習	法と道徳の関係について日常生活を通じてよく考える。（2時間）
7	事前学習	法と権利についてテキストをよく読む（2時間）
	授業内容	法と権利
	事後学習	権利というものがいかなるものかを日常生活を通じて考える。（2時間）
8	事前学習	法がどのように分類されているかについてテキストをよく読む（2時間）
	授業内容	法の分類
	事後学習	講義に内容をテキストを通じて振り返る。（2時間）
9	事前学習	法の解釈とはいかなるものかをテキストをよく読み考える。（2時間）
	授業内容	法の適用および解釈①
	事後学習	講義の内容をテキストを読み振り返る。（2時間）
10	事前学習	法の解釈とはいかなるものかをテキストをよく読み考える。（2時間）
	授業内容	法の適用および解釈②
	事後学習	講義の内容をテキストを読み振り返る（2時間）
11	事前学習	法と国家についてテキストをよく読む（2時間）
	授業内容	法と国家（1）
	事後学習	法と国家についてテキストその他の文献をよく読んだうえで復習をする。（2時間）
12	事前学習	法と国家についてテキストをよく読む（2時間）
	授業内容	法と国家（2）
	事後学習	法と国家についてテキストその他の文献をよく読んだうえで復習をする（2時間）
13	事前学習	一般法とは何かについてテキストをよく読む（2時間）
	授業内容	一般法
	事後学習	一般法について講義内容をテキストその他の文献をよく読んだうえで復習する。（2時間）
14	事前学習	一般法と特別法との関係についてテキストをよく読む（2時間）
	授業内容	特別法
	事後学習	一般法と特別法について講義内容を振り返る（2時間）
15	事前学習	今まで学習した内容についてテキストをよく読む。（2時間）
	授業内容	まとめ。質問受付
	事後学習	講義全体をまとめる（2時間）

科目名	法学 I	担当者	佐々木 良行	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業では、とかく抽象的になりがちな法学に多少でも興味をもってもらうようにするため、弁護士としての実務経験（相談、訴訟、調停・審判、執行等）を踏まえて、できる限り具体的な問題に即して説明を行う。			
授業目的・到達目標	本授業は、社会統制の一つである法を、生きた社会との関連の中で捉えるべく、「身近なところに生きているものとしての法」を理解してもらうことを目的とする。本授業を履修することにより、法的な基礎知識及び法解釈の基本を理解し、説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 5 政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 経営法学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	六法（平成31年版のものであれば、どこの出版社でも構わない）及び指定の教科書を予め購入・持参の上、授業に臨むこと。また、授業の妨げとなる行為（私語、スマートフォン等の電子機器の使用）を禁ずる。			
授業方法	指定の教科書や配布資料を参照し、質疑応答を交えながら授業を進める。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	90%	法的な基礎知識や法解釈の基本的事項を十分に理解しているかを判断するために、前期末に筆記試験を行う。	
	平常評価	10%	授業中の質疑応答、発言の積極性等を総合して評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2005年	有斐閣	現代法学入門[第4版]	伊藤正己・加藤一郎編
	備考			
参考書	使用しない。			
オフィスアワー	月曜日の午後4時30分～5時30分までの間、13号館（法科大学院研究棟）4階の1346研究室において応対する。その際には、予めメールにて連絡されたい。sasaki.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の1頁から5頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	①法と常識、②法学の価値、③法学における議論のポイント（法規の構造、法解釈の必要性、事実、事実認定のルール）、④法令用語の基礎知識等を理解する。
	事後学習	法学における議論の特徴を具体的に説明できる。（2時間）
2	事前学習	教科書の7頁から32頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	①法と社会生活、②法と道徳、③法の目的、④権利と義務等を理解する。
	事後学習	行為規範としての法と道徳との違い、権利の種類を説明できる。（2時間）
3	事前学習	教科書の33頁から48頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	具体的事件への法の適用、裁判制度、訴訟手続の諸原則等を理解する。
	事後学習	民事・刑事の裁判制度、訴訟手続の諸原則を説明できる。（2時間）
4	事前学習	教科書の49頁から65頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	法源（制定法、慣習法、判例、学説、条理）を理解する。
	事後学習	裁判の基準という観点から、制定法・慣習法・判例・学説・条理の違いを説明できる。（2時間）

5	事前学習	教科書の66頁から81頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	事実認定と法の解釈、法の解釈の方法、等を理解する。
	事後学習	三段論法による法の適用、法の解釈の方法を例を挙げて説明できる。（2時間）
6	事前学習	教科書の83頁から93頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	法の分類（公法と私法、実定法の体系）等を理解する。
	事後学習	公法と私法の分化・融合、実定法の体系（公法と私法の分類）を説明できる。（2時間）
7	事前学習	教科書の94頁から110頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	国家と憲法の関係、立憲主義的憲法の特徴、日本国憲法の基本原理を理解する。
	事後学習	立憲主義的憲法の特徴、日本国憲法の基本原理を説明できる。（2時間）
8	事前学習	教科書の111頁から127頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	犯罪と刑法、刑法の機能、刑事手続を理解する。
	事後学習	刑法の機能、犯罪の成立要件、刑事手続の基本構造を説明できる。（2時間）
9	事前学習	教科書の40頁から42頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	法律家（法曹三者、その他の法律家）の具体的役割、判決の読み方等を理解する。
	事後学習	法曹三者の具体的役割、最高裁判決の読み方を説明できる。（2時間）
10	事前学習	教科書の128頁から140頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	家族法の基本原則、婚姻・離婚、親子（嫡出子・非嫡出子、親権と後見）を理解する。
	事後学習	家族法の基本原則、婚姻と離婚、親子（嫡出子・非嫡出子、親権と後見）を理解する。（2時間）
11	事前学習	教科書の128頁から140頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	相続制度の概要（遺言、遺留分、相続人、遺産分割）、扶養義務を理解する。
	事後学習	遺言、遺留分、相続人、遺産分割等を説明できる。（2時間）
12	事前学習	教科書の141頁から156頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	財産法の内容と基本原則、取引の主体（権利能力と行為能力）、取引の客体（不動産と動産、物権と債権、有価証券）を理解する。
	事後学習	財産法の基本原則、権利能力と行為能力との違い、物権と債権との関係を説明できる。（2時間）
13	事前学習	教科書の141頁から156頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	取引の手段としての契約（契約の諸類型、売買契約、賃貸借契約等）、不法行為による損害賠償（過失責任と無過失責任）を理解する。
	事後学習	契約の諸類型、売買・賃貸借の概要、不法行為による損害賠償責任の概要を説明できる。（2時間）
14	事前学習	教科書の157頁から179頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	市民法と社会法、労働法の理念と体系、労働保護法、労働団体を理解する。
	事後学習	労働法の2大分野である労働保護法と労働団体の概要を説明できる。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業で配布したレジュメを参考に、教科書の1頁から179頁までを読みかえしておくこと（2時間）
	授業内容	これまでの授業における学修項目の理解度を確認するとともに、項目相互間の関連性を踏まえ、発展的・応用的な観点からの検討内容の理解を目指す。
	事後学習	これまでの授業における学修項目の理解度を前提に、項目相互間の関連性を踏まえた説明ができる。（2時間）

科目名	法学 I	担当者	末澤 国彦	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	この講座は、法律学を学ぶ際の基礎となる「法の一般理論」についての講義を中心に構成する。			
授業目的・到達目標	中級・上級科目および発展科目の履修のために必要となる法律学の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で発生する様々な法的現象にアプローチするための法の基礎的理論を修得するとともに、さまざまな具体例を通して応用的能力を身につけることを目標とする。関連DPおよびCP:法律学科1, 5 政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 経営法学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	なるべく出席し、あらかじめ図書館等で下調べをして講義に参加することを望む。また、六法は必ず持参のこと。			
授業方法	板書を中心とした講義形式で行う。なお、定期試験の解説を議事津ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	90%	法律学についての基本的知識が身についているかどうかを判断する。授業中に指摘した具体例を合わせて理解しておくこと。	
	平常評価	10%	授業に臨む姿勢などで判断する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	弘文堂	Next教科書シリーズ法学〔第2版〕	高橋雅夫編
	備考			
参考書	山川一陽・根田正樹・和知賢太郎編『アプローチ法学入門』弘文堂			
オフィスアワー	火曜日16：20～19：30、水曜日14：00～16：00研究室（本館7階1704号室）で行う。なおsuezawa.kunihiko@nihon-u.ac.jp宛のメールでアポイントを取ること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキスト第1章「法の学び方」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【講義の方針についての説明】 授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法など法律学の学習方法や研究方法について説明し、受講者が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	法の学び方について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
2	事前学習	テキスト第3章「法の目的・機能」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【法の目的について】 法の目的である正義・合目的性・法的安定性とは、それぞれどういうことであるかを具体例を挙げて説明する。
	事後学習	正義、合目的性、法的安定性について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
3	事前学習	テキスト第3章「法の目的・機能」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【法の社会的機能について】 法の伝統的な三つの機能に加え、法の機能の拡大化によって注目されるようになった機能について具体例を挙げて説明する。
	事後学習	法の伝統的機能に加え、新しく注目される機能について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
4	事前学習	テキスト第3章「法の目的・機能」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【法とその隣接領域について】 法と緊密に隣接する領域である道徳・政治・経済との関係について具体例を挙げて説明する。
	事後学習	法と道徳、政治、経済との関係について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）

5	事前学習	テキスト第4章「法の存在形式（法源論）」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【法源（成文法）について】 成文法に分類されるものにはどのようなものがあるのか、それぞれの関係はどのようにになっているのかを説明する。
	事後学習	成文法に分類されるものとその特徴について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
6	事前学習	テキスト第4章「法の存在形式（法源論）」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【法源（不文法）について】 不文法に分類されるものにはどのようなものがあるのか、成文法との関係はどのようにになっているのかを説明する。
	事後学習	不文法に分類されるものとその特徴について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
7	事前学習	テキスト第5章「法の分類」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【法の分類（公法・私法・社会法、実体法と手続法）について】 公法・私法・社会法および実体法・手続法とはそれぞれどのような法をいうのか、具体例を挙げて説明する。
	事後学習	公法・私法・社会法の内容と実体法と手続法の関係について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
8	事前学習	テキスト第5章「法の分類」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【法の分類（強行法と任意法、一般法と特別法、固有法と継受法）について】 強行法と任意法・一般法と特別法・固有法と継受法とはそれぞれどのような法をいうのか、具体例を挙げて説明する。
	事後学習	強行法と任意法の内容、一般法と特別法の関係、固有法と継受法の内容について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
9	事前学習	テキスト第2章「法概念」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【法の効力範囲について】 法の時間的・場所的・人的効力範囲とはどのようなことを言うのか、具体例を挙げて説明する。
	事後学習	法の時間的、場所的、人的効力について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
10	事前学習	テキスト第14章「裁判と法」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【法と裁判について】 日本の裁判制度はどのようなシステムになっているのかについて具体例を挙げて説明する。
	事後学習	日本の裁判制度の内容について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
11	事前学習	テキスト第14章「裁判と法」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【裁判の特質について】 裁判には様々な制約原理がある。また、裁判という紛争解決システムには制約からくる限界がある。これらはどのようなことなのか、そして限界を避けるために色々なシステムが構築されている。これらについて具体例を挙げて説明する。
	事後学習	裁判をめぐる制約原理とシステムの限界について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
12	事前学習	テキスト第6章「法の解釈と適用」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【法的事実の認定方法について】 裁判における事実認定の方法＝証拠をめぐる問題とさまざまな事情で事実認定が不可能になった場合どのような方法をとるのかについて具体例を挙げて説明する。
	事後学習	事実認定の方法と事実認定が不可能な場合の方法について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
13	事前学習	テキスト第6章「法の解釈と適用」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【法解釈の意義について】 認定された事実について法を適用するために、解釈という作業を行う。この法解釈はなぜ必要なのか、また法解釈は誰が行うのかについて説明する。
	事後学習	法解釈の必要性、法解釈の機関について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
14	事前学習	テキスト第6章「法の解釈と適用」の箇所をあらかじめ一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【法解釈の技法について】 法解釈にはさまざまなテクニックがある。これらについて具体例を挙げて説明する。
	事後学習	各種の法解釈の技法の内容と具体例について自分なりに説明できるように、ノートを整理しておく。（2時間）
15	事前学習	テキストなどを参照して、ノート等を整理する。（2時間）
	授業内容	【半年間の総括】 半年間をふりかえり、補充説明等を行う。
	事後学習	テキストなどを参照して、ノート等の不備な箇所を補充する。（2時間）

科目名	法学 I	担当者	杉本 純子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、法律学における基本科目である憲法、民法及び刑法に関する具体的な事例を素材にしつつ、各法分野における入門的な内容を扱うとともに、法学学習の際に必要なリーガルリサーチや法曹又は法律隣接職等について学ぶ。加えて、各法分野における入門的な事例問題をベースに法律学の小論文の書き方などについても学修する。					
授業目的・到達目標	この講義では、法律家になるために必須となる法学及び法律実務の素養（リーガルマインド）を養成することを目的とする。より具体的には、法律の条文の読み方、法的問題に対する議論の仕方、判例の検索及び読み方を身につけ、法的議論を理解した上で、法律家としての視点で適切な論評ができるようになることがこの講義の目標である。 関連DP及びCP：法律学科1, 5					
履修条件	法職課程					
授業方法	各法分野の入門では、講義を聴くだけでなく、具体的事例の検討をふまえた小論文の作成やディベートを行う。リーガルリサーチでは、各自で判例を探すなど能動的な学修をする。なお、レポート等は添削してフィードバックする。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		講義中の積極性、課題への取り組み及び確認テストによって判断する。なお、講義日数の2／3以上の出席数がなければ、成績評価の対象としない。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	なし	なし		なし		なし
	備考					
参考書	担当教員が講義中に示す。					
オフィスアワー	火曜日13:00～14:00（事前にメールでアポイントメントをとること） 研究室（４号館1階417） sugimoto.junko@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、六法や法学についての入門書等に目を通しておく。（2時間）
	授業内容	この講義のガイダンスを行った上で、実際に、六法を使用して、六法の使い方や検索の方法について説明する。
	事後学習	大学の講義科目となっている各法律名を六法等で確認して、どのような条文があるのかについて調べておく。（2時間）
2	事前学習	民法とはどのような法律なのか、実際に六法で民法という法律の目次を見て、把握しておく。（2時間）
	授業内容	民法に関するごく初歩的な具体的事例を用いて、民法とはどのような法律なのか、どのような場面で適用されるのかについて説明する。
	事後学習	講義で扱った具体的な事例について自分はどのように考えるのかについてまとめておく。（2時間）
3	事前学習	もし、民事的な法的紛争に巻き込まれてしまったときに、どのような手続や制度によって、それを解決すればよいのかを調べておく。（2時間）
	授業内容	法的な民事紛争の解決手段として、どのようなものがあり、その手続はどのように進行するのかなどについて説明する。
	事後学習	民事手続の紛争処理制度としてどのようなものがあり、それぞれどのような特徴を有しているのか確認しておく。（2時間）
4	事前学習	2回目及び3回目で扱った事例について、何が問題になったのかについて改めて自分なりにまとめておく。（2時間）
	授業内容	演習回。法的三段論法を踏まえた小論文の書き方について説明したうえで、民事法に関する具体的な事例問題について検討し、各自答案を作成する。そのうえで模範解答等を示す。
	事後学習	実際に、講義内容を踏まえた上で、自分自身の答案との比較を行い、改善を図る。（2時間）

5	事前学習	刑法とはどのような法律なのか、実際に六法で刑法という法律の目次を見て、把握しておく。（2時間）
	授業内容	刑法に関するごく初歩的な具体的事例を用いて、刑法とはどのような法律なのか、どのような場面で適用されるのかについて説明する。
	事後学習	講義で扱った具体的な事例について自分はどのように考えるのかについてまとめておく。（2時間）
6	事前学習	刑事事件では、どのような手続により進行するのかを報道等を見ながら考えてみる。（2時間）
	授業内容	刑事手続はどのように進行するのかなどについて説明する。
	事後学習	刑事手続がどのように進行するのかなどについて自分なりに図示するなどして確認しておく。（2時間）
7	事前学習	5回目及び6回目で扱った事例について、何が問題になったのかについて改めて自分なりにまとめておく。（2時間）
	授業内容	演習回。刑事法に関する具体的な事例問題について検討し、各自答案を作成する。そのうえで模範解答等を示す。
	事後学習	実際に、講義内容を踏まえた上で、自分自身の答案との比較を行い、改善を図る。（2時間）
8	事前学習	憲法とはどのような法律なのか、実際に六法で憲法の目次を見て、把握しておく。（2時間）
	授業内容	憲法に関するごく初歩的な具体的事例を用いて、憲法とはどのような法律なのか、どのような場面で適用されるのかについて説明する。
	事後学習	講義で扱った具体的な事例について自分はどのように考えるのかについてまとめておく。（2時間）
9	事前学習	8回目で扱った事例について、何が問題になったのかについて改めて自分なりに書いてまとめておく。（2時間）
	授業内容	演習回。憲法に関する具体的な事例を用いて、2つの立場に分かれてディベートを行う。
	事後学習	講義で扱った事例について、2つの立場を踏まえたうえで、自分はどのように考えるのかについてまとめておく。（2時間）
10	事前学習	1回目～9回目で扱った、民法・刑法・憲法に関する法的諸問題について、知識を身に付けておく。（2時間）
	授業内容	中間試験。1回目～9回目まで扱った民法・刑法・憲法に関する法的諸問題に関する確認テストを行い、内容について講評する。
	事後学習	確認テストで誤った解答を確認し、改めて講義内容を踏まえて復習する。（2時間）
11	事前学習	法学部図書館の利用方法を確認し、図書館のサイトからどのようなデータベースが利用できるのかを確認し、法情報の源として何があるのかを把握しておく。（2時間）
	授業内容	法学学習に必要な判決の検索方法・データベースの利用方法等、リーガルリサーチの基本を会得してもらう。
	事後学習	講義の最後に指示された判例について、講義中に指示された方法に従って実際に自ら検索し、入手しておく（2時間）
12	事前学習	11回目終了後に調査した判例について、その内容に目を通しておく。（2時間）
	授業内容	裁判システムの概要を学んだうえで、学生が事前に調査してきた判例について、その判例の読み方を説明する。
	事後学習	講義で説明された内容を踏まえて、自身が調査した判決に書かれている内容について確認し、考察する。（2時間）
13	事前学習	調査した判決を改めて読み、どのような判決であるのかを整理しておく。（2時間）
	授業内容	演習回。課題として提示された事例問題について、判例の射程を意識しながら、どのような解決がふさわしいか実践的に学ぶ。
	事後学習	課題として提示された事例問題について、参考判例を参照しながらレポートを作成して提出する（2時間）
14	事前学習	レポート内容を読み返し、事例や判例の内容、自身の回答を思い出しておく。（2時間）
	授業内容	レポートの書き方について説明し、受講生が書いたレポートについてフィードバックを行う。
	事後学習	自身が書いたレポートとフィードバックを踏まえて、改めてレポートを書き直してみる。（2時間）
15	事前学習	法曹職・法律隣接職にはどのようなものがあるのか調べておく。（2時間）
	授業内容	法曹職及び法律隣接職とはどのような職業であるのか、受講生のキャリア形成という側面から説明する。
	事後学習	自分自身のキャリアをどのように形成するのかを考えておく。（2時間）

科目名	法学 I	担当者	田中 夏樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	法律の初学者にとって、これから専門的な学習を行う上で必要となる基礎知識及び法的思考能力（論理的思考能力）を学ぶ。授業では、法とは何かといった抽象的な内容を含めて取り扱うものであるが、身近な事例などを通じて、単なる暗記ではなく、法の役割を理解できるよう進める。また、講師は元弁護士であり、受講生が具体的なイメージを持てるように実務的な内容や弁護士としての立場からの言及も行う予定である。				
授業目的・到達目標	法律を学ぶ上で必須となる基礎知識及び法的思考能力を身につけ、現代社会における法の役割を理解し、説明できる能力を養成することを目的とする。 判例や学説の議論における法的な問題点に対し、自分なりに論理的に考え、専門的知識・能力を社会の様々な領域に応用できるようになることを目標とする。対応DP及びCP：法律学科1, 5 政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 経営法学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	特にないが、積極的に授業に参加することが求められる。六法を持参すること。				
授業方法	原則として講義形式で授業を行うが、発言を求める場合がある。また、レポート試験の講評・解説を最終授業にて行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	レポート試験（80％）及び発言の積極性といった授業参加度（20％）によって判断する。レポート試験については授業内で説明する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	授業内で指示する。基本的にレジュメを配布して授業を行うが、各自自分に合った教科書を準備することが好ましい。			
参考書	指定しない。				
オフィスアワー	水曜日14時40分～16時10分、研究室(本館6階1613) 予めメールにて連絡すること tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、六法の条文を読むなどして、法律の文に慣れておく。(2時間)
	授業内容	授業内容、授業の進行方法、授業スケジュール、成績評価の方法、教科書の紹介を行い、これから学習する法学の導入部分や学習方法について説明し、今後の学習準備を行う。
	事後学習	授業で扱った法学についての説明を確認し、法の必要性や社会的意義を踏まえ、法学がどういった事柄を対象としたものかを理解し、自分なりに説明できるようにする。(2時間)
2	事前学習	各自の教科書を読み、社会規範としての法にはどのような形式のものが存在するか確認する。(2時間)
	授業内容	法とは何か 形式的な「法律」以外にも様々な社会的規範としての「法」が存在する。それぞれの性質が異なっているが、どのような社会規範としての「法」が存在するのか、各社会規範の役割等について解説する。
	事後学習	「法律」以外にもどのような社会規範が存在するのか、また、なぜそのような社会的規範が存在し、その社会規範は法にどのような影響を与えるものかについて、自分なりに説明できるようにし、疑問点を質問できるようにする。(2時間)
3	事前学習	各自の教科書を読み、法の構造について、公法・私法・国際法とは何かを確認し、それぞれがどのような定義であるかを確認する。(2時間)
	授業内容	法とは何か 形式的には同じ「法律」として扱われるものにも「私法」や「公法」といった分類がなされることがあるが、どのような目的によるものか、またその性質がどのように異なるものであるかを解説する。
	事後学習	各法がどのような分野を規律しているものか整理し、それぞれの役割の違いを理解し、それぞれの特徴について説明ができるようにしておく。(2時間)
4	事前学習	前回までの授業で扱った法の社会における役割を確認し、法学が学ぶ対象としている法律がどいったものかについて確認する。(2時間)
	授業内容	法学の学習について 実際に条文を読み、法律の適用の仕方を学ぶ。前回までに学んだ法律の分類(公法、私法、刑法等)がどのように反映されているかについて実感できることを目的とする。
	事後学習	実際に授業で扱った条文の読み方や適用の仕組みについて、法律の分類に気を付けながらなぜそのような適用がなされるのか自分の言葉で説明できるようにする。(2時間)

5	事前学習	各自の教科書で、法源という概念がどのようなものか確認し、どのような機能を有しているかを確認する。(2時間)
	授業内容	法源 法源とは何かについて、具体的な例を交えながら解説を行う。また、そのような法源がどのような機能を有しているか解説する。
	事後学習	法源としての法の機能がどのようなものか、授業中に扱った分類の仕方とその性質について自分なりに説明できるようにする。(2時間)
6	事前学習	各自の教科書で、制定法と判例法がどのように異なり、どのような機能を営むのか確認する。(2時間)
	授業内容	法源 制定法の法源と判例法の法源について、どのように役割が異なっているかを考え、具体的な事例をもとにその機能を解説する。
	事後学習	制定法と判例法の機能の違いを理解し、具体的な事例において、どのような適用関係となるか検討する。(2時間)
7	事前学習	各自の教科書で、強行法規、任意法規の概念を調べ、どのような機能を有しているかを確認する。(2時間)
	授業内容	法の分類 強行法規や任意法規について、法律を分類する意義ないし必要性を理解し、どのような立法趣旨が存在するのかについて解説する。
	事後学習	各法の分類を行う意義及び各法の性質の違いを理解し、どのような制度趣旨が存在するのかを説明できるようにする。(2時間)
8	事前学習	前回の授業の復習をするとともに、各自の教科書で、実体法と手続法についてそれぞれの定義を確認する。(2時間)
	授業内容	法の分類 実体法と手続法という概念の区別があるが、初学者にとっては非常にわかりにくい概念であり、それぞれの定義と実際に営んでいる機能について解説する。
	事後学習	具体的な実体法と手続法にはどのような法律が分類されるのかを確認し、それぞれの特色について説明ができるようにする。(2時間)
9	事前学習	各自の教科書で、私人間に適用される法律としてどのような法律が存在するのかを確認しておく。(2時間)
	授業内容	私人間における法適用 私人間に適用される法は、どのような解釈ないし適用がなされており、そのような法解釈ないし法適用はどのような目的の下に行われているのか解説する。
	事後学習	私人間における法適用の特徴がどのようなものであり、当事者の利害関係についてどのような配慮をしているか説明できるようにする。(2時間)
10	事前学習	各自の教科書で、私人間における法の適用と公法の適用ではどのような差異があるか確認しておく。(2時間)
	授業内容	私人間における法適用 私人間における法適用と公法の適用では、どのような点が異なっており、考え方がどのように異なるのかについて解説する。
	事後学習	私人間における法の適用では、どのような特徴があるか、公法の場合と比較して理解できるようにし、その特色を説明できるようにする。(2時間)
11	事前学習	不明確な条文があった場合にはどのような問題が生じるか、また、新たに立法が必要になるのはどのような場合か考えてみる。(2時間)
	授業内容	解釈論と立法論 法学では解釈論を学ぶことが多いが、立法的な対応がなされることもあり、従来どのような内容が立法的に解決されてきたのかを解説する。
	事後学習	解釈論の限界と立法論の必要性について、具体的な例を踏まえて説明できるようにする。(2時間)
12	事前学習	前回の授業を復習し、解釈論と立法論がどのように異なるか理解できているか確認する。(2時間)
	授業内容	解釈論と立法論 実際に裁判になった事案であり、解釈論の限界を超え、実質的に立法に近いと批判されることのある事案を紹介し、解釈論について考えてもらう。
	事後学習	授業内で扱った事案について、裁判所が行った判断がどのようにして正当化できるのか、あるいは、正当化できないのかそれぞれ検討する。(2時間)
13	事前学習	各自の教科書で、執行法について調べ、法で認められた権利がどのように実現されるのか確認しておく。(2時間)
	授業内容	法の実現 実体法上認められた権利は、実際に実現されなければ意味がないが、法律はどのような手段を用意しているのかについて解説する。
	事後学習	裁判における法の実現の必要性和制度について、実体法、手続法、執行法の区別とともに説明できるようにする。(2時間)
14	事前学習	実際に裁判所のホームページなどを確認し、裁判所の手続を確認してみる。(2時間)
	授業内容	法の実現 法の実現のために実際の裁判所がどのような対応をしており、どのような制度が用意されているのかについて説明する。
	事後学習	裁判所における手続を具体的に理解し、各段階でどのような意義があるのか考え、実体法上の権利をどのようにすれば実現できるか説明できるようにする。(2時間)
15	事前学習	前期の授業をまとめ、それぞれの制度を自分の言葉で説明ができるか確認し、不明点を確認しておく。(2時間以上)
	授業内容	まとめ 前期の授業内容のまとめをするとともに、前期の授業内容を俯瞰し、大きなシステムとしての法がどのような機能を営んでいるかを解説する。また、レポート試験の解説についてもこの授業にて行う。
	事後学習	今後の学ぶ具体的な法律の予習の際に、法的思考能力が身につき、論理的に考えられているかを実践する。(2時間以上)

科目名	法学 I	担当者	西原 雄二	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	本授業では、法の各専門分野を学ぶために必要な基礎的知識や考え方について、重要なテーマを取り上げて、簡潔に説明する。				
授業目的・到達目標	法の役割を理解し、説明することができる力を養成することを目的とする。 法学の基礎的知識を身に付け、物事を論理的に考察することができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 5 政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 経営法学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	六法を持参すること。				
授業方法	講義形式を基本とするが、適宜、質疑応答を行う。板書をしながら解説する。 最終授業回数において、授業内試験60分、解説30分を実施する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業参加度、授業内試験の成績等によって評価する。 なお、4年生については、レポートによる評価とする。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017年2月	弘文堂		法学（第2版）	高橋雅夫編
	備考				
参 考 書	授業の中で紹介する。				
オフィス アワー	1部では土曜日12：10、2部では水曜日19：30に質問を受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、六法や法学の教科書等をざっと目を通してみること。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 授業のテーマや内容、成績評価の方法等を含めて、法学の学習方法について説明し、受講者が授業の準備を具体的に 行えるようにする。
	事後学習	六法や教科書等をざっと目を通し、どのようなことを学ぶのかを理解すること。（2時間）
2	事前学習	「ポケット六法」に付いている「有斐閣六法の使い方・読み方」（小冊子）を事前に目を通しておくこと。（2時間）
	授業内容	「六法」について 六法を使用しながら、基本的な知識や引き方等を説明し、今後、六法を自分で引けるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、「六法の使い方・読み方」を再読し、さらに理解を深めること。（2時間）
3	事前学習	「法とは何か」について事前に教科書等で該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	法とは何か（1） 法の概念、社会規範について学習し、法学の主要なテーマが何であるかを考察する。
	事後学習	授業で行った内容を教科書や講義ノート等で確認し、感想をノートにまとめること。（2時間）
4	事前学習	「法とは何か」について事前に教科書等で該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	法とは何か（2） 法と道徳、法の基本構造について学習し、法とは何かについて、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書や講義ノート等で確認し、法についての自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）

5	事前学習	法の目的について事前に教科書等で該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	法の目的 法の目的について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書や講義ノート等とつき合わせて、法の目的について自分なりの意見をまとめること。（2時間）
6	事前学習	法源について事前に教科書等で該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	法源（1） 法の具体的な存在形式の意義や種類について考察する。
	事後学習	授業で行った内容を教科書等とつき合わせて、さらに理解を深めること。（2時間）
7	事前学習	事前に教科書等で該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	法源（2） 成文法の効力関係、成文法と不文法の関係について学習し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書等とつき合わせて、感想をノートにまとめること。（2時間）
8	事前学習	事前に教科書等で該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	法の分類（1） 公法と私法、一般法と特別法、実体法と手続法について考察する。
	事後学習	授業で行った内容を教科書等とつき合わせて、さらに理解を深めること。（2時間）
9	事前学習	事前に教科書等で該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	法の分類（2） 国内法と国際法、実定法と自然法について学習し、法の分類について受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書等とつき合わせて、法の分類について自分なりの意見をノートにまとめること。（2時間）
10	事前学習	事前に教科書等で該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	法の効力 時間、場所及び人に関する法の効力について考察する。
	事後学習	授業で行った内容を教科書等とつき合わせて、感想をノートにまとめること。（2時間）
11	事前学習	事前に教科書等で該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	裁判 裁判の意義と種類、裁判所の構成、法曹三者について考察する。
	事後学習	授業で行った内容を教科書等とつき合わせて、感想をノートにまとめること。（2時間）
12	事前学習	事前に教科書等で該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	法の適用と解釈（1） 法の適用と解釈の意義、性質について考察する。
	事後学習	授業で行った内容を教科書等とつき合わせて、さらに理解を深めること。（2時間）
13	事前学習	事前に教科書等で該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	法の適用と解釈（2） 法の解釈の方法について学習し、法の適用と解釈について受講者が説明できるようにする。
	事後学習	授業で行った内容を教科書等とつき合わせて、法の適用と解釈について自分なりの意見をまとめること。（2時間）
14	事前学習	これまで授業で行った内容をおさらいしておくこと。（2時間）
	授業内容	前期のまとめ これまで学習した内容を確認し、受講者が説明できるようにする。
	事後学習	これまでの授業の内容を教科書等で復習し、自分の考えを述べられるようにまとめること。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業の内容を教科書等で復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業内試験及び振り返り
	事後学習	試験の内容を再度調べて、自分の考えを述べられるようにまとめること。（2時間）

科目名	法学 I	担当者	野中 貴弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、法律学における基本科目である憲法、民法及び刑法に関する具体的な事例を素材にしつつ、各法分野における入門的な内容を扱うとともに、法学学習の際に必要なリーガルリサーチや法曹又は法律隣接職等について学ぶ。加えて、各法分野における入門的な事例問題をベースに法律学の小論文の書き方などについても学修する。					
授業目的・到達目標	この講義では、法律家になるために必須となる法学及び法律実務の素養（リーガルマインド）を養成することを目的とする。より具体的には、法律の条文の読み方、法的問題に対する議論の仕方、判例の検索及び読み方を身につけ、法的議論を理解した上で、法律家としての視点で適切な論評ができるようになることがこの講義の目標である。関連DP及びCP：法律学科1,5					
履修条件	法職課程。毎回必ず六法を持参すること。					
授業方法	各法分野の入門では、講義を聴くだけでなく、具体的事例の検討を踏まえた小論文作成やディベートを行う。リーガルリサーチでは、実際に各自で判例を探すなど能動的な学修をする。なお、レポートは添削してフィードバックする。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		講義中の積極性、課題への取り組み及び確認テストによって判断する。なお、講義日数の2／3以上の出席数がなければ、成績評価の対象としない。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	なし				
参考書	担当教員が講義中に示す。					
オフィスアワー	水曜日13：00—17：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館6階1608） nonaka.takahiro@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、六法や法学についての入門書等に目を通しておく。（2時間）
	授業内容	この講義のガイダンスを行った上で、実際に、六法を使用して、六法の使い方や検索の方法について説明する。
	事後学習	大学の講義科目となっている各法律名を六法等で確認して、どのような条文があるのかについて調べておく。（2時間）
2	事前学習	民法とはどのような法律なのか、実際に六法で民法という法律の目次を見て、把握しておく。（2時間）
	授業内容	民法に関するごく初歩的な具体的事例を用いて、民法とはどのような法律なのか、どのような場面で適用されるのかについて説明する。
	事後学習	講義で扱った具体的な事例について自分はどのように考えるのかについてまとめておく。（2時間）
3	事前学習	もし、民事的な法的な紛争に巻き込まれてしまったときに、どのような手続や制度によって、それを解決すればよいのかを調べておく。（2時間）
	授業内容	法的な民事紛争の解決手段として、どのようなものがあり、その手続はどのように進行するのかなどについて説明する。
	事後学習	民事手続の紛争処理制度としてどのようなものがあり、それぞれどのような特徴を有しているのか確認しておく。（2時間）
4	事前学習	2回目及び3回目で扱った事例について、何が問題になったのかについて改めて自分なりにまとめておく。（2時間）
	授業内容	演習回。法的三段論法を踏まえた小論文の書き方について説明したうえで、民事法に関する具体的な事例問題について検討し、各自答案を作成する。そのうえで模範解答等を示す。
	事後学習	実際に、講義内容を踏まえた上で、自分自身の答案との比較を行い、改善を図る。（2時間）

5	事前学習	刑法とはどのような法律なのか、実際に六法で刑法という法律の目次を見て、把握しておく。（2時間）
	授業内容	刑法に関するごく初歩的な具体的事例を用いて、刑法とはどのような法律なのか、どのような場面で適用されるのかについて説明する。
	事後学習	講義で扱った具体的な事例について自分はどのように考えるのかについてまとめておく。（2時間）
6	事前学習	刑事事件では、どのような手続により進行するのかを報道等を見ながら考えてみる。（2時間）
	授業内容	刑事手続はどのように進行するのかなどについて説明する。
	事後学習	刑事手続がどのように進行するのかなどについて自分なりに図示するなどして確認しておく。（2時間）
7	事前学習	5回目及び6回目で扱った事例について、何が問題になったのかについて改めて自分なりにまとめておく。（2時間）
	授業内容	演習回。刑事法に関する具体的な事例問題について検討し、各自答案を作成する。そのうえで模範解答等を示す。
	事後学習	実際に、講義内容を踏まえた上で、自分自身の答案との比較を行い、改善を図る。（2時間）
8	事前学習	憲法とはどのような法律なのか、実際に六法で憲法の目次を見て、把握しておく。（2時間）
	授業内容	憲法に関するごく初歩的な具体的事例を用いて、憲法とはどのような法律なのか、どのような場面で適用されるのかについて説明する。
	事後学習	講義で扱った具体的な事例について自分はどのように考えるのかについてまとめておく。（2時間）
9	事前学習	8回目で扱った事例について、何が問題になったのかについて改めて自分なりに書いてまとめておく。（2時間）
	授業内容	演習回。憲法に関する具体的な事例を用いて、2つの立場に分かれてディベートを行う。
	事後学習	講義で扱った事例について、2つの立場を踏まえたうえで、自分はどのように考えるのかについてまとめておく。（2時間）
10	事前学習	1回目～9回目で扱った、民法・刑法・憲法に関する法的諸問題について、知識を身に付けておく。（2時間）
	授業内容	中間試験。1回目～9回目まで扱った民法・刑法・憲法に関する法的諸問題に関する確認テストを行い、内容について講評する。
	事後学習	確認テストで誤った解答を確認し、改めて講義内容を踏まえて復習する。（2時間）
11	事前学習	法学部図書館の利用方法を確認し、図書館のサイトからどのようなデータベースが利用できるのかを確認し、法情報の源として何があるのかを把握しておく。（2時間）
	授業内容	法学学習に必要な判決の検索方法・データベースの利用方法等、リーガルリサーチの基本を会得してもらう。
	事後学習	講義の最後に指示された判例について、講義中に指示された方法に従って実際に自ら検索し、入手しておく。（2時間）
12	事前学習	11回目終了後に調査した判例について、その内容に目を通しておく。（2時間）
	授業内容	裁判システムの概要を学んだうえで、学生が事前に調査してきた判例について、その判例の読み方を説明する。
	事後学習	講義で説明された内容を踏まえて、自身が調査した判決に書かれている内容について確認し、考察する。（2時間）
13	事前学習	調査した判決を改めて読み、どのような判決であるのかを整理しておく。（2時間）
	授業内容	演習回。課題として提示された事例問題について、判例の射程を意識しながら、どのような解決がふさわしいか実践的に学ぶ。
	事後学習	課題として提示された事例問題について、参考判例を参照しながらレポートを作成して提出する。（2時間）
14	事前学習	レポート内容を読み返し、事例や判例の内容、自身の回答を思い出しておく。（2時間）
	授業内容	レポートの書き方について説明し、受講生が書いたレポートについてフィードバックを行う。
	事後学習	自身が書いたレポートとフィードバックを踏まえて、改めてレポートを書き直してみる。（2時間）
15	事前学習	法曹職・法律隣接職にはどのようなものがあるのか調べておく。（2時間）
	授業内容	法曹職及び法律隣接職とはどのような職業であるのか、受講生のキャリア形成という側面から説明する。
	事後学習	自分自身のキャリアをどのように形成するのかを考えておく。（2時間）

科目名	法学 I	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	法を学ぶために必要な基礎知識や法的思考について学習する。					
授業目的・到達目標	法学についての基礎力を養成することを目的とし、今後学んでいく法律専門分野に展開できることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 5 政治経済学科1, 2, 3, 4 新聞学科1, 5 経営法学科1, 5 公共政策学科1, 3, 4					
履修条件	六法を持参すること。					
授業方法	講義形式。テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。授業の最後に、授業に対する意見・質問等に関する簡単なアンケートを行い、次の授業でフィードバックする。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業内課題、レポート及び最終講義時に実施する筆記試験の総合点で評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017年度	弘文堂		法学（第2版）		高橋雅夫編著
	備考					
参考書	講義の中で紹介する。					
オフィスアワー	火曜日13時～14時（事前にメールにてアポイントをとること） （メールアドレスは、ポータルにて連絡）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	六法や法学の教科書等をざっと目を通してみること（2時間）。
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
2	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	法の学び方
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
3	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	法の概念（法と社会秩序、法と道徳）
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
4	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	法の概念（法と強制、権利と義務）
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。

5	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	法の目的・機能（法の意義、目的・正義、法的安定性）
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
6	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	法の目的・機能（行為規範、裁判規範）
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
7	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	法の存在形式（成文法と不文法、成文法の法源、不文法の法源）
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
8	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	法の分類（自然法と実定法、公法と私法）
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
9	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	法の分類（実体法と手続法、国内法と国際法）
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
10	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	法の効力
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
11	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	裁判制度
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
12	事前学習	教科書の該当部分を読んでお（2時間）。
	授業内容	法の解釈の意義
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
13	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	事実認定と法の解釈
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
14	事前学習	教科書の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	法の解釈と性質、方法
	事後学習	教科書で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
15	事前学習	前学期講義内容を確認する（2時間）。
	授業内容	前学期のまとめ試験及び振り返り
	事後学習	前学期講義内容が理解できていたか確認し、不十分であった部分について復習する（2時間）。

科目名	法学 I	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	法学部で学ぶ学生のための、法律の基礎を学ぶ講義である。講義形式で行う。				
授業目的・到達目標	授業目的 諸法を学ぶ前提としての、法律を学ぶための基本的な理論を理解し習得することを目的とする。 到達目標 諸法を学ぶにあたり、法律学の基本的概念や用語が理解できることを目標とする。 関連DP及びCP 経営法学科1, 5				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義を中心とする。資料はプリントないしデジタルデータで配布する。 六法は、持参するか、スマホ等で「e-GOV法令データ提供」を利用してもよい。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	定期試験は実施しない。	
	平常評価		100%	学期末に試験形式で理解度の考査を行う。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
		通信教育部教材		法学(教材コード 000515)	
	備考	テキストは、通信教育部教材の「法学」とする。このテキストは、丸沼書店にて購入することになります。ガイダンスの際に説明します。			
参考書	参考書としては、図書館にいわゆる「法学」という本が多数あるのでそれを利用すること。				
オフィスアワー	木曜日10：30～授業講堂にて 希望者は事前にメールでアポイントを取ること。 E-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	法学を学ぶことの意味を考えてみること。テキスト「法学1第1章」を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	論理的思考と論理的説明の重要性をよく理解すること。(2時間)
2	事前学習	法という言葉から何を連想するか確かめる。テキスト「法学1第8章」を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	法とは何か
	事後学習	法は社会的生活を営む人が作り出すものであることを理解すること。テキスト第1章と第8章を合わせて理解する(2時間)。
3	事前学習	日本の法制度を日本史から考えてみる。テキスト「法学1第3章」を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	日本の法制度 継受法 固有法
	事後学習	他国との関係から日本の法制度がどのように変化し現代に至っているかをまとめておくこと。(2時間)
4	事前学習	我々の生活を律するものは法以外に存在するのか考えてみる。テキスト「法学1第2章、法学1第6章(刑法の基本原則)」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	法と他の社会規範 1 法と道徳の違い
	事後学習	法と道徳の区別ができるようにまとめておくこと。(2時間)

5	事前学習	法と他の社会規範との違い。テキスト「法学1第2章」を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	法と他の社会規範2 法と宗教、法と慣習(習俗)との違い
	事後学習	法と宗教、慣習(習俗)との区別ができるようにまとめておくこと。(2時間)
6	事前学習	法は何を実現しようとするのか。テキスト「法学1第11章」を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	法の目的 法と正義
	事後学習	法のいうところの正義とはどのようなものかを理解すること。(2時間)
7	事前学習	法を知る手がかりとなるものは何であるか。テキスト「法学1第8章」を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	法源1 法源とは何か 成文法と不文法の特徴
	事後学習	現代は成文法が中心的役割を担っていること。成文法の種類と特徴、不文法の種類と特徴を理解すること。(2時間)
8	事前学習	成文法について、テキスト「法学1第8章」、「法学2(日本国憲法)第21章」を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	法源2 法源としての成文法
	事後学習	法の解釈・適用において重要であるから、各成分法の関係を理解すること。(2時間)
9	事前学習	不文法について、テキスト「法学1第8章」を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	法源3 法源としての不文法
	事後学習	裁判所の判決が、不文法とされる理由を説明できるようにすること。(2時間)
10	事前学習	法の適用には順番があることを確認する。テキスト「法学1第4章」を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	法の分類 普通法(一般法)と特別法、強行法と任意法、公法、私法、社会経済法 など
	事後学習	法の適用には順番があること、どの法(条文)が優先するのか正しく理解すること。(2時間)
11	事前学習	日本の法律はどのよう範囲に効力が及ぶのか確かめる。テキスト「法学1第6章(刑法の基本原則)」部分を読んでおくこと。日本の法律はどのよう範囲に効力が及ぶのか確かめる。(2時間)
	授業内容	法の効力範囲 時間的効力範囲、地理的効力範囲、人的効力範囲
	事後学習	国境のないインターネットの世界では、どこの国の法律が適用されるのかを考えまとめておくこと。(2時間)
12	事前学習	脳死と判定されたドナーの心臓にナイフを刺して心停止にすると何罪になるか考える。テキスト「法学1第9章」を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	法の解釈と適用1 事実認定 推定、擬制
	事後学習	どの条文が推定の規定か、犠牲の規定か確認しておく。(2時間)
13	事前学習	テキスト「法学1第9章」を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	法の解釈と適用2 有権解釈 学理解釈 論理解釈 拡張解釈と類推解釈など
	事後学習	解釈のそれぞれの分類の意味を正しく理解しまとめておくこと。(2時間)
14	事前学習	今期の講義内容を復習しておく。(2時間以上)
	授業内容	講義内容の範囲で論述式の試験を行う。
	事後学習	解答が十分であったか否かについて復習しておくこと。(2時間)
15	事前学習	試験の解答が十分であったか否かについて復習しておくこと。(2時間)
	授業内容	試験問題について解説を行う。
	事後学習	十分に解答できなかったところは、復習すること。(2時間)

科目名	法学 I	担当者	南 健悟	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この講義では、法律学における基本科目である憲法、民法及び刑法に関する具体的な事例を素材にしつつ、各法分野における入門的な内容を扱うとともに、法学学習の際に必要なリーガルリサーチや法曹又は法律隣接職等について学ぶ。加えて、各法分野における入門的な事例問題をベースに法律学の小論文の書き方などについても学修する。					
授業目的・到達目標	この講義では、法律家になるために必須となる法学及び法律実務の素養（リーガルマインド）を養成することを目的とする。より具体的には、法律の条文の読み方、法的問題に対する議論の仕方、判例の検索及び読み方を身につけ、法的議論を理解した上で、法律家としての視点で適切な論評ができるようになることがこの講義の目標である。関連DP及びCP：法律学科1, 5					
履修条件	法職課程					
授業方法	各法分野の入門では、講義を聴くだけでなく、具体的事例の検討をふまえた小論文の作成やディベートを行う。リーガルリサーチでは、実際に各自で判例を探すなど能動的な学修をする。なお、レポート等は添削する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		講義中の積極性、課題への取り組み及び確認テストによって判断する。なお、講義日数の2／3以上の出席数がなければ、成績評価の対象としない。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考					
参考書	講義中に担当教員が示す。					
オフィスアワー	毎週水曜日午後1時00分～2時30分。ただし、在室中や事前にアポイントがある場合には、適宜対応する。 研究室本館9階1919研究室、メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、六法や法学についての入門書等に目を通しておく。（2時間）
	授業内容	この講義のガイダンスを行った上で、実際に、六法を使用して、六法の使い方や検索の方法について説明する。
	事後学習	大学の講義科目となっている各法律名を六法等で確認して、どのような条文があるのかについて調べておく。（2時間）
2	事前学習	民法とはどのような法律なのか、実際に六法で民法という法律の目次を見て、把握しておく。（2時間）
	授業内容	民法に関するごく初歩的な具体的事例を用いて、民法とはどのような法律なのか、どのような場面で適用されるのかについて説明する。
	事後学習	講義で扱った具体的な事例について自分はどのように考えるのかについてまとめておく。（2時間）
3	事前学習	もし、民事的な法的紛争に巻き込まれてしまったときに、どのような手続や制度によって、それを解決すればよいのかを調べておく。（2時間）
	授業内容	法的な民事紛争の解決手段として、どのようなものがあり、その手続はどのように進行するのかなどについて説明する。
	事後学習	民事手続の紛争処理制度としてどのようなものがあり、それぞれどのような特徴を有しているのか確認しておく。（2時間）
4	事前学習	2回目及び3回目で扱った事例について、何が問題になったのかについて改めて自分なりにまとめておく。（2時間）
	授業内容	演習回。法的三段論法を踏まえた小論文の書き方について説明したうえで、民事法に関する具体的な事例問題について検討し、各自答案を作成する。そのうえで模範解答等を示す。
	事後学習	実際に、講義内容を踏まえた上で、自分自身の答案との比較を行い、改善を図る。（2時間）

5	事前学習	刑法とはどのような法律なのか、実際に六法で刑法という法律の目次を見て、把握しておく。（2時間）
	授業内容	刑法に関するごく初歩的な具体的事例を用いて、刑法とはどのような法律なのか、どのような場面で適用されるのかについて説明する。
	事後学習	講義で扱った具体的な事例について自分はどのように考えるのかについてまとめておく。（2時間）
6	事前学習	刑事事件では、どのような手続により進行するのかを報道等を見ながら考えてみる。（2時間）
	授業内容	刑事手続はどのように進行するのかなどについて説明する。
	事後学習	刑事手続がどのように進行するのかなどについて自分なりに図示するなどして確認しておく。（2時間）
7	事前学習	5回目及び6回目で扱った事例について、何が問題になったのかについて改めて自分なりにまとめておく。（2時間）
	授業内容	演習回。刑事法に関する具体的な事例問題について検討し、各自答案を作成する。そのうえで模範解答等を示す。
	事後学習	実際に、講義内容を踏まえた上で、自分自身の答案との比較を行い、改善を図る。（2時間）
8	事前学習	憲法とはどのような法律なのか、実際に六法で憲法の目次を見て、把握しておく。（2時間）
	授業内容	憲法に関するごく初歩的な具体的事例を用いて、憲法とはどのような法律なのか、どのような場面で適用されるのかについて説明する。
	事後学習	講義で扱った具体的な事例について自分はどのように考えるのかについてまとめておく。（2時間）
9	事前学習	8回目で扱った事例について、何が問題になったのかについて改めて自分なりに書いてまとめておく。（2時間）
	授業内容	演習回。憲法に関する具体的な事例を用いて、2つの立場に分かれてディベートを行う。
	事後学習	講義で扱った事例について、2つの立場を踏まえたうえで、自分はどのように考えるのかについてまとめておく。（2時間）
10	事前学習	1回目～9回目で扱った、民法・刑法・憲法に関する法的諸問題について、知識を身に付けておく。（2時間）
	授業内容	中間試験。1回目～9回目まで扱った民法・刑法・憲法に関する法的諸問題に関する確認テストを行い、内容について講評する。
	事後学習	確認テストで誤った解答を確認し、改めて講義内容を踏まえて復習する。（2時間）
11	事前学習	法学部図書館の利用方法を確認し、図書館のサイトからどのようなデータベースが利用できるのかを確認し、法情報の源として何があるのかを把握しておく。（2時間）
	授業内容	法学学習に必要な判決の検索方法・データベースの利用方法等、リーガルリサーチの基本を会得してもらう。
	事後学習	講義の最後に指示された判例について、講義中に指示された方法に従って実際に自ら検索し、入手しておく（2時間）
12	事前学習	11回目終了後に調査した判例について、その内容に目を通しておく。（2時間）
	授業内容	裁判システムの概要を学んだうえで、学生が事前に調査してきた判例について、その判例の読み方を説明する。
	事後学習	講義で説明された内容を踏まえて、自身が調査した判決に書かれている内容について確認し、考察する。（2時間）
13	事前学習	調査した判決を改めて読み、どのような判決であるのかを整理しておく。（2時間）
	授業内容	演習回。課題として提示された事例問題について、判例の射程を意識しながら、どのような解決がふさわしいか実践的に学ぶ。
	事後学習	課題として提示された事例問題について、参考判例を参照しながらレポートを作成して提出する（2時間）
14	事前学習	レポート内容を読み返し、事例や判例の内容、自身の回答を思い出しておく。（2時間）
	授業内容	レポートの書き方について説明し、受講生が書いたレポートについてフィードバックを行う。
	事後学習	自身が書いたレポートとフィードバックを踏まえて、改めてレポートを書き直してみる。（2時間）
15	事前学習	法曹職・法律隣接職にはどのようなものがあるのか調べておく。（2時間）
	授業内容	法曹職及び法律隣接職とはどのような職業であるのか、受講生のキャリア形成という側面から説明する。
	事後学習	自分自身のキャリアをどのように形成するのかを考えておく。（2時間）

科目名	法学Ⅱ	担当者	小澤 久仁男	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業は、法学Ⅰで学んだ基礎をベースに、個別的な法領域、具体的には憲法や民法といった基礎領域について取り上げることで、今後、受講生が進級するに連れて学ぶ領域の土台を形成することになります。また、労働法、社会保障法、環境法といった発展領域ではあるものの、受講生にとっても身近に感じることができる領域も取り上げることによって、法学に関心を持って貰いたいと考えています。					
授業目的・到達目標	各法領域の基礎的・基本的な思考枠組の一端を広く浅く取りあげ、各法領域を実際に履修した際の土台を形成しておくことが授業目的となります。また、これらの土台を踏まえて、より強い興味や関心を持って貰えることが到達目標となります。関連DP及びCP：経営法学科1，5					
履修条件	特にありませんが、法学Ⅰを履修済もしくは履修中が望ましい。					
授業方法	講義形式によって行います。 授業内試験の解説を行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業内試験を行います。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2017年	弘文堂		法学（第2版）		高橋雅夫編
	備考					
参考書	必要に応じて紹介もいたしますが、「法学」あるいは「法学入門」というタイトルの教科書は指定教科書以外にもたくさんあるため、適宜参考にしてください。					
オフィスアワー	木曜日 授業終了後、授業講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料1を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	憲法①；近代国家と憲法
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、近代憲法とはどのような条件が必要かといったことを再確認するようにしてください。（2時間）
2	事前学習	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	憲法②；権力分立
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、各機関の役割を抑えつつ、どのように権力の均衡を保つような制度があるのかについては覚えるようにしてください。（2時間）
3	事前学習	参考資料1から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	憲法③；基本的人権
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、基本的人権の種類およびこれらの違いについては再確認するようにしてください。（2時間）
4	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料2を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政法①；市民生活と行政①
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、行政法の基本原理については再確認するようにしてください。（2時間）

5	事前学習	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政法②；市民生活と行政②
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、違法な行政活動への救済制度としてどのようなものがあるかについて再確認するようにしてください。（2時間）
6	事前学習	参考資料2から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	行政法③；地方自治
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、国の機関との違いについては再確認するようにしてください。（2時間）
7	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料3を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	刑事法
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。特に、刑事法における基本原則については再確認するようにしてください。（2時間）
8	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料4を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	民事法①；民法総則
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。（2時間）
9	事前学習	参考資料4から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	民事法②；財産関係
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。（2時間）
10	事前学習	参考資料4から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	民事法③；不法行為
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。（2時間）
11	事前学習	参考資料4から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	民事法④；家族関係
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。（2時間）
12	事前学習	学生教員共有フォルダから参考資料5を印刷し、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	労働法
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。（2時間）
13	事前学習	参考資料5から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	社会保険法
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。（2時間）
14	事前学習	参考資料5から該当部分について、あらかじめ読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	環境法
	事後学習	授業で行った内容と教科書や参考書などをつき合わせて、さらに理解を深めてください。（2時間）
15	事前学習	配布した参考資料および教科書を再度確認をし、試験に臨んでください。（2時間）
	授業内容	到達度試験及びまとめ
	事後学習	間違えたところなどを再確認するようにしてください。（2時間）

科目名	法学Ⅱ	担当者	橋爪 幸代	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	法学の具体的な法律として、憲法、行政法、民法を中心に学習し、その上で、社会法についても学ぶ。			
授業目的・到達目標	「法学1」（前期）の法学的素養を意識して、日本の法制についての基礎的な知識力を養成することを目的とし、今後学んでいく法律専門分野に展開できることを目標とする。 関連DP及びCP：経営法学科1，5			
履修条件	六法を持参すること。			
授業方法	講義形式。テキストに沿って講義を進める。必要に応じて講義に関連する資料を配布する。授業の最後に、授業に対する意見・質問等に関する簡単なアンケートを行い、次の授業でフィードバックする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業内課題、レポート及び最終講義時に実施する筆記試験の総合点で評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年度	弘文堂	法学（第2版）	高橋雅夫編著
	備考			
参考書	講義の中で紹介する。			
オフィスアワー	火曜日13時～14時（事前にメールにてアポイントをとること） （メールアドレスは、ポータルにて連絡）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	法学の教科書等をざっと目を通してみること（2時間）。
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
2	事前学習	教科書等の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	日本の法制度
	事後学習	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
3	事前学習	教科書等の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	憲法（基本原理）
	事後学習	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
4	事前学習	教科書等の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	憲法（人権）
	事後学習	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。

5	事前学習	教科書等の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	憲法（統治機構）
	事後学習	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
6	事前学習	教科書等の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	行政法（行政法の基礎）
	事後学習	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
7	事前学習	教科書等の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	行政法（行政行為）
	事後学習	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
8	事前学習	教科書等の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	行政法（行政救済法）
	事後学習	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
9	事前学習	教科書等の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	民法（民法の基礎）
	事後学習	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
10	事前学習	教科書等の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	民法（契約法）
	事後学習	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
11	事前学習	教科書等の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	民法（家族法）
	事後学習	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
12	事前学習	教科書等を読んでおく（2時間）。
	授業内容	社会法（社会法の基礎）
	事後学習	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
13	事前学習	教科書等を読んでおく（2時間）。
	授業内容	社会法（労働法）
	事後学習	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
14	事前学習	教科書等の該当部分を読んでおく（2時間）。
	授業内容	社会法（社会保障法）
	事後学習	教科書等で講義内容を確認し、ノートを完成させる。また、配布された資料を読み込み、自身の意見をまとめておくこと（2時間）。
15	事前学習	後学期講義内容を確認する（2時間）。
	授業内容	後学期のまとめ試験及び振り返り
	事後学習	後学期講義内容が理解できていたか確認し、不十分であった部分について復習する（2時間）。

科目名	法学Ⅱ	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	法学Ⅰの学習を基礎として、コンピュータやインターネットを利用する際生じる問題を、諸法によりどのように解決できるのかについて考える講義である。				
授業目的・到達目標	授業目的 諸法を学ぶ為の基礎知識を習得することと、インターネットに関わる法律問題を考えながらネットリテラシーを考えることを目的とする。 到達目標 法の適用と解釈ができるようになること。各法律がインターネットの問題にどのように作用するのかを理解し、被害者、加害者とならないよう行動できるよう諸法を理解し、説明できることを目標とする。 関連DP及びCP 経営法学科1, 5				
履修条件	法学Ⅰを履修していることが望ましい。				
授業方法	講義が中心となる。参考資料を必要に応じプリント又はデジタルデータで配布する。 六法は、持参するか、「e-GOV法令データ提供」を利用しても構わない。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	定期試験は実施しない。	
	平常評価		100%	学期末に理解度を考査する為の試験を行う。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
		通信教育部教材		法学 通信教育部教材	通信教育部
	備考	テキストは、通信教育部教材の「法学」を使用する。法学Ⅰを履修する際に用意したものでよい。			
参考書	各自、諸法を学ぶにあたり必要とされるテキストを図書館などで参照すること。 参考書 例えば 「インターネット法」 松田・鈴木・山口 編 有斐閣				
オフィスアワー	木曜日10：30～授業講堂にて 希望者は事前にメールでアポイントを取ること。 E-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキスト第9章を読んで法の適用と解釈についてもう一度復習しておくこと。(2時間)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	現に行われている法の解釈の範囲で法が執行されることの理由を理解し、法の適用の限界をまとめる。(2時間)
2	事前学習	権利の主体とは何であるか、テキスト「法学1第5章」を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	権利の主体
	事後学習	誰が権利の主体となり得るのか、理解すること。(2時間)
3	事前学習	日本国憲法の成立過程を調べてみること。テキスト「法学2(日本国憲法)第2章」を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	日本国憲法の成立過程
	事後学習	日本国憲法の成立過程を、法的、論理的に説明できるようにすること。(2時間)
4	事前学習	日本国憲法と条約の関係について、テキスト「法学2(日本国憲法)第21章」を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	日本国憲法と条約
	事後学習	前期に学んだ法の適用と解釈により解釈を実践して、論理的に説明できるようにすること。(2時間)

5	事前学習	他人のスマホに保存されているメールを見るのは刑法133条違反または通信の秘密の侵害に当たるか考え、テキスト「法学Ⅱ（日本国憲法）第7章(7)」、刑法各論のテキスト刑法133条(信書開封罪)部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	通信の秘密
	事後学習	手紙や有線電話の時代と異なり、盗み見ができる時代の通信の秘密を正しく理解できるよう復習すること。(2時間)
6	事前学習	インターネット検索エンジンと個人情報の削除。「個人情報保護の為の検索結果に対する削除権」日本法学82巻1号(https://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/doc/law82_1.pdf)を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	インターネットからの忘れられる権利
	事後学習	インターネット上で自己のプライバシーを侵害されないための方法を理解し実践できるよう、復習する。(2時間)
7	事前学習	参考書「インターネット法 第7章3(電子契約をめぐる私法的な問題)」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	特定商取引ー通信販売
	事後学習	インターネット上の契約に適用される法律を理解し、違法サイトを見抜くことができるよう復習する。(2時間)
8	事前学習	電子マネー(例えば、Suica)とサービスポイント(例えば、航空会社のマイル)は同じものなのか確認する。参考書「インターネット法第8章3(電子マネーをめぐる法的問題)」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	電子マネーとサービスポイント
	事後学習	電子マネーとサービスポイントの保護の違いを理解すること。(2時間)
9	事前学習	図書館から借りた本をデジタルデータにすることは許されるか考える。(法学部学内LAN 学生教員共有→ま→水野正→法学→「いわゆる自炊行為」)を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	インターネットと著作権(ホームページの著作権、いわゆる自炊)
	事後学習	HPを公開することは頒布にあたる。どこまでデジタル化が可能か正しく理解し、安易なコピー行為により著作権を侵害しないよう復習し実践する。(2時間)
10	事前学習	スマホで接続できないサイトがあるか確認する。新聞などでブロッキングについて確認する。参考書「インターネット法第5章」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	フィルタリングとブロッキング
	事後学習	青少年の保護と政治的な目的によるブロッキングや知る権利との境界線を正しく理解できるよう復習する。(2時間)
11	事前学習	名誉毀損罪(刑法230条、230条の2)を確認しておく。 参考書「インターネット法第3章」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	インターネット上の名誉毀損
	事後学習	自分が加害者、被害者とならないようネチケットとして捉え、理解し、実践できるようまとめる。(2時間)
12	事前学習	本屋で雑誌のあるページを写真に撮り雑誌を買わずに帰った。万引き?「いわゆるデジタル万引きと犯罪の成否」国土館法学45号(法学部学内LAN 学生教員共有→ま→水野正→法学→「デジタル万引き」)を読んでおく。(2時間)
	授業内容	デジタル万引き
	事後学習	法学Ⅰ「法の適用と解釈」を復習し具体的な法の適用と解釈としてまとめる。(2時間)
13	事前学習	大学のパソコンのIDやPWを友達に教え使わせるのは?「イマドコサーチ」アプリはコンピュータウイルス? 参考書「インターネット法第9章4ネットワークセキュリティの保護」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	不正アクセス行為とウイルスの作成と供用
	事後学習	ネット社会を保護するための法律について、その解釈と適用の難しさを理解する。(2時間)
14	事前学習	今学期の法学Ⅱでの講義内容を復習する。(2時間以上)
	授業内容	今学期「法学Ⅱ」の講義内容の範囲で論述方式の試験を行う
	事後学習	解答した内容が正しく十分であったか、他の選択肢についてみも十分に解答できるよう復習する。(2時間)
15	事前学習	解答した内容が正しく十分であったか、他の選択肢についてみも十分に解答できるか復習し、疑問点を質問できるように準備をする。(2時間)
	授業内容	試験問題について解説を行う。
	事後学習	十分に解答できなかったところ、理解不足であったところを復習すること。(2時間)

科目名	法学演習A I（憲法基礎演習）	担当者	岡田 俊幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	法曹を志す1年次生を対象とする演習科目である。この授業においては、人権に関する基礎的知識を、判例の研究や事例問題の検討を通して確実なものとするとともに、法律家に求められる事案処理能力を修得するために必要な基礎的能力を修得する。そのために教科書の読み方や判例の読み方を重点的に学修する。				
授業目的・到達目標	この授業は、法律家に求められる事案処理能力を今後の学修を通して修得することができるために必要な基礎的能力を修得することを目的とする。上記の基礎的能力を身に付けるために、この授業は事例問題を解くという方法を採用する。到達目標は、憲法の「人権」の分野に関する判例及び学説を適切に理解することと、法律家に求められる事案処理能力（事例解析能力、論理的思考力、法解釈・適用能力等）を修得するために前提となる基礎的能力を修得することである。なお、この講義は初学者を対象としており、事案処理能力の修得それ自体が到達目標ではなく、それに向けた一歩を踏み出すために必要な基本的な能力を身に付けることが到達目標であり、授業内容も難解なものではない。関連DP及びCP：法律学科1，7法曹（裁判官・検察官・弁護士）を志す法職課程在籍者を対象とする。				
履修条件					
授業方法	演習形式（事例問題について報告者を指定し、報告者は、在宅にて起案等を作成して指定日までに提出した上で、起案の内容を授業で発表する。この発表に基づいて、事例問題に含まれる問題点について議論する。）で行う。課題の講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	課題の提出、授業参加度（授業での発言内容及び頻度など）によって評価する。	
	平常評価		100%		
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は指定しない。			
参考書	芦部信喜『憲法第7版』（岩波書店、2019年） 長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ、Ⅱ第6版』（有斐閣、2013年）				
オフィスアワー	（前期）月曜日18：00～18：30、20：00～20：30 13号館（法科大学院）5階 研究室1352 （後期）月曜日18：00～17：00 13号館（法科大学院）5階 研究室1352				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス：事例問題の解き方及び判例の読み方について解説する。事例問題を解くためには事案処理の模範を示している判例を読んで事案処理の方法を理解する必要がある。
	事後学習	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
2	事前学習	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	表現の自由（１）：憲法21条２項の定める「検閲」の概念及び検閲又は表現の事前抑制が禁止される根拠について判例を踏まえて、検討する。どのような場合に憲法が禁止する検閲又は表現の事前抑制に該当するか否かについて、裁判所による名誉及びプライバシーを侵害する表現の差止め及び教科書検定などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察する。
	事後学習	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
3	事前学習	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	表現の自由（２）：明確性の理論について、判例を踏まえて検討する。「表現の自由を規制する立法の合憲性は、経済的自由を規制する立法よりも厳しい基準によって審査されなければならない」という見解について、検討する。違憲審査基準について検討する。
	事後学習	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
4	事前学習	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	表現の自由（３）：表現の内容に着目した規制と表現内容に中立的な規制を区別する見解について、検討する。文面審査や適用審査などの違憲審査の方法及び、法令の全部又は一部違憲、適用違憲などの違憲判断の方法について、説明をする。
	事後学習	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）

5	事前学習	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	表現の自由（４）：報道の自由及び取材の自由の意義、内容及び保障の根拠について理解した上で、報道機関に取材源の開示や取材資料の提出が求められた場合や、記者に国家公務員法上の秘密漏えい罪の責任が問われた場合など、 具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察することができる。
	事後学習	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
6	事前学習	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	表現の自由（５）：公務員の政治活動の自由・公務員の人権が特別の制約に服するか否かについて、政治的行為の自由が制約される場合などの具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察する。表現の自由の直接的制約と間接的・付随的制約を区別する見解について、判例を踏まえて、検討する。
	事後学習	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
7	事前学習	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	集会の自由：集会の自由の保障の制約について、公共施設の管理の必要がある場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察する。また、これに関連して、届出制や許可制などの規制態様に関する問題及び「敵意ある聴衆の法理」について、説明する。
	事後学習	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
8	事前学習	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	良心の自由：思想及び良心の自由の制約について、裁判所が謝罪広告の掲載を命令する場合及び学校が内申書に政治活動歴を記載する場合公立学校の校長が国歌斉唱の際に音楽教師にピアノ伴奏を命令する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察する。
	事後学習	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
9	事前学習	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	政教分離：どのような行為が政教分離規定に違反するかについて、国などが宗教的行事を行う場合、国などが宗教団体若しくは宗教的活動に公金の支出などを行う場合、公務員が宗教的行事に参加する場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえ、目的効果基準に照らして考察する。
	事後学習	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
10	事前学習	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	信教の自由：信教の自由の制約について、宗教上の行為により他者加害をもたらす場合及び信仰に基づく体育実技の履修の免除など、法が一般的に課す義務の免除を宗教上の理由に基づいて求める場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察する。
	事後学習	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
11	事前学習	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	職業の自由（１）：職業選択の自由の制約目的として、どのようなものがあるかについて、消極目的（警察目的）及び積極目的（社会・経済政策目的）などの区別に留意して、説明する。職業選択の自由の制約について、判例を踏まえて、考察する。
	事後学習	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
12	事前学習	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	職業の自由（２）：職業選択の自由の制約について、営業許可の要件として距離制限などを定める場合、租税収入を確保するため開業について許可制をとる場合及び規制一定の品目の輸入を専ら特定の団体に行わせ、その売渡方法及び価格などの規制を行う場合など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察する。
	事後学習	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
13	事前学習	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	平等：どのような区別が合理的な根拠に基づくものではなく、法の下の平等に反するかについて、非嫡出子の法定相続分を嫡出子の2分の1とする規定及び女性の再婚禁止期間を定める規定など、具体的事例を挙げ、判例を踏まえて、考察する。
	事後学習	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
14	事前学習	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	生存権：生存権の法的性格に関する学説及び判例の内容について、検討する。・生存権の実現について、立法及び行政の裁量が広く認められるという立場について説明するとともに、判例を踏まえて、裁量統制のあり方を考察する。
	事後学習	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
15	事前学習	事前に配布する教材（予習事項）を事前によく検討し、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	総復習：前期の授業の総復習として、事例問題を解く力とは何かを確認し、今後の勉強のあり方について考える。
	事後学習	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）

科目名	法学演習AⅡ	担当者	長谷川 福造	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講座では、演習を通じて法学一般の基礎的事項を理解する。法を学んでいく際に必要な基礎知識を把握した上で、理解した事項を説明する思考力や表現力を向上させていく。				
授業目的・到達目標	1．授業目的：憲法・民法・刑法などの各種講義科目において修得していく基礎的な知識や表現力に基づいて、具体的な題材や事例の問題点を適切に抽出し、法的思考過程による検討と説明を行う能力を養成することを目的とする。 2．到達目標：1年生の場合は、主に初歩的な事項を法的思考の枠組み（要件・効果の構造など）に沿って説明できるようになることを目標とする。2年生以上の場合は、既に学んできた事柄を題材に、自主的にテーマを設定して調査を行い、分析や考察の過程を所定の時間で説明できる能力を修得することを目標とする。対応DP及びCP：法律学科1,7				
履修条件	特に指定しない。基本的に初学者を対象としているため、1年生から3年生までの履修が望ましい。				
授業方法	演習形式を主体とする。報告発表や質疑応答が主体となる。演習の具体的方式は履修人数や理解の進度に応じて調整する。報告発表の講評及び解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	定期試験は実施しない。	
	平常評価		100%	講座の受講状況、報告及び授業中の発言内容等を総合的に判断する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	弘文堂		法学（第2版）Next教科書シリーズ	高橋雅夫 編
	備考	教科書と小型六法を毎回必ず持参すること。六法はデイリー六法（三省堂）又はポケット六法（有斐閣）を使用すること。六法と各書籍は、必ず最新版を使用すること。			
参考書	池村正道編『行政法（第3版）Next教科書シリーズ』弘文堂（2017年） その他、履修者数や進度に応じて参考資料等を配付・使用する。				
オフィスアワー	火曜日15:00から16:00まで。事前にメールでアポイントメントを取ること。他の時間帯については必要に応じて個別に対応する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認した上で、本講座の指定教科書（『行政法（第3版）』弘文堂 2017年）又は既に各自が使用している憲法・民法・刑法の体系書の冒頭にある総論的な導入説明を読んで、法の仕組みの全体構造を再確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	後期のガイダンスと法の学び方の説明（教科書P. 10まで）
	事後学習	ガイダンスと講義の概要、及び今後使用していく教材を確認すること。（2時間）
2	事前学習	前回の講義における指示に基づいて、教科書等の所定箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	法と社会秩序、法と道徳（教科書P. 14まで）
	事後学習	講義での説明に基づいて復習を行い理解を深めること。必要に応じて各自でレポート発表の準備をすること。（2時間）
3	事前学習	前回の講義における指示に基づいて、教科書等の所定箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	法と強制、権利と義務（教科書P. 20まで）
	事後学習	講義での説明に基づいて復習を行い理解を深めること。必要に応じて各自でレポート発表の準備をすること。（2時間）
4	事前学習	前回の講義における指示に基づいて、教科書等の所定箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	レポート発表の説明。法の目的・機能（教科書P. 34まで）
	事後学習	講義での説明に基づいて復習を行い理解を深めること。必要に応じて各自でレポート発表の準備をすること。（2時間）

科目名	法学演習B I（民法基礎演習）	担当者	佐々木 良行	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業では、法学の基本的事項の説明を交えつつ、民法全体（財産法）の基本的事項を説明する。その際には、弁護士としての実務経験（相談、訴訟、調停、審判、執行等）を踏まえて、できる限り具体的に説明する。なお、本授業は、改正債権法（民法の一部を改正する法律（平成29年法律第44号））を前提として行う。			
授業目的・到達目標	本授業は、民法全体（財産法）に関する基本的事項を理解させることを目的とする。本授業を履修することにより、民法全体（財産法）を概観できるようになるとともに、将来の専門的な勉強の基礎固めができるようになることを目標とする。関連D P及びC P：法律学科1, 7			
履修条件	法曹（裁判官・検察官・弁護士）を志す法職課程在籍者を対象とする。また、六法（平成31年版のものであれば、どこの出版社でも構わない）及び指定の教科書を予め購入・持参の上、授業に臨むこと。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。			
授業方法	指定の教科書や配布資料を参照し、質疑応答を交えながら授業を進める。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	90%	前期末に実施する筆記試験により、民法全体（財産法）の基礎知識・基本的事項の理解度や法的分析能力の程度を評価する。	
	平常評価	10%	授業における質疑応答の状況等によって評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	有斐閣	オリエンテーション民法	松久三四彦・遠山純弘・林誠司
	備考			
参考書	使用しない。			
オフィスアワー	月曜日の午後4時30分～5時30分までの間、13号館（法科大学院研究棟）4階の1346研究室において応対する。その際には、予めメールにて連絡されたい（上記以外の時間を希望される場合についてもメールにて相談されたい）。 sasaki.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の3頁から49頁までを読んでおくこと（2時間） ※特に教科書の33頁から49頁は、それ以降の部分の全体像にかかわるので、是非とも読んでおいていただきたい。
	授業内容	民法の意義（位置づけ）、特別法と一般法の関係、私的自治の原則、任意規定と強行規定の関係、法解釈の方法、権利の濫用のほか、財産法の全体像（問題の考え方、財産法と家族法、財産法の鳥観図）を理解する。
	事後学習	私的自治の原則、任意規定と強行規定の関係、権利の濫用、財産法と家族法との関係を説明できる。（2時間）
2	事前学習	教科書の51頁から88頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	権利・義務の主体（権利能力、意思能力、行為能力、法人）を理解する。
	事後学習	権利能力・意思能力・行為能力の区別、行為能力制度（制限行為能力者制度）の概要、法人制度の全体像に関するを説明できる。（2時間）
3	事前学習	教科書の89頁から112頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	契約の有効要件Ⅰ（契約の成立、契約の客観的有效要件、心裡留保、虚偽表示、錯誤、詐欺・強迫）を理解する。
	事後学習	契約の成立要件と有効要件の関係、真意に基づかない意思表示（心裡留保、虚偽表示、錯誤、詐欺・強迫）の各制度の概要を説明できる。（2時間）
4	事前学習	教科書の112頁から126頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	契約の有効要件Ⅱ（消費者契約法、代理、条件・期限）を理解する。
	事後学習	消費者契約法の概要（錯誤・詐欺・強迫との関係、同法10条の意味）、代理制度の概要、条件と期限の区別を説明できる。（2時間）

5	事前学習	教科書の128頁から137頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	債権の発生原因と契約、契約の分類、同時履行の抗弁権を理解する。また、これまでの授業（1回～5回）の理解度を確認する。
	事後学習	契約の分類（双務・片務契約、有償・無償契約）、同時履行の抗弁権が用いられる場面を説明できる。（2時間）
6	事前学習	教科書の137頁から158頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	債権の消滅原因（弁済、相殺、履行不能、消滅時効等）とその周辺（受領権限を有しない者への弁済の効力、弁済の提供、弁済供託）を理解する。
	事後学習	債権の消滅原因という観点から、弁済、相殺、履行不能、消滅時効等を例を挙げて説明できる。（2時間）
7	事前学習	教科書の159頁から181頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	債務不履行Ⅰ（債務不履行に対する救済手段、強制履行、債務不履行による損害賠償請求権）を理解する。
	事後学習	債務不履行に対する救済手段の全体像、強制履行（履行の強制）制度の概要、債務不履行による損害賠償の概要を説明できる。（2時間）
8	事前学習	教科書の181頁から195頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	債務不履行Ⅱ（契約の解除、契約不適合給付に対する買主の救済手段、受領遅滞、危険負担）を理解する。
	事後学習	契約の解除、受領遅滞、危険負担の各制度のほか、契約不適合給付に対する買主の救済手段をそれぞれ例を挙げて説明できる。（2時間）
9	事前学習	教科書の197頁から216頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	債権の回収Ⅰ（強制執行による債権回収、責任財産の保全[債権者代位権・詐害行為取消権]、人的担保[保証・連帯保証]、債権譲渡）を理解する。
	事後学習	強制執行の種類、債権者代位権・詐害行為取消権の概略、保証・連帯保証の概要、債権譲渡の概要を説明できる。（2時間）
10	事前学習	教科書の216頁から231頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	債権の回収Ⅱ（物的担保～典型担保、非典型担保）を理解する。
	事後学習	物的担保の特徴、典型担保（抵当権、根抵当権、質権、先取特権、留置権）の概要、非典型担保（譲渡担保等）の概要を説明できる。（2時間）
11	事前学習	教科書の233頁から258頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	所有権Ⅰ（物権的請求権、占有、物権変動[総論]）を理解する。
	事後学習	物権的請求権の種類、占有の意義と占有訴権の内容、不動産の物権変動の對抗要件を説明できる。（2時間）
12	事前学習	教科書の244頁から268頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	所有権Ⅱ（物権変動[各論]、即時取得、取得時効）を理解する。
	事後学習	不動産の物権変動の對抗要件、即時取得の成立要件・効果、取得時効の成立要件・効果をそれぞれ例を挙げて説明できる。（2時間）
13	事前学習	教科書の269頁から291頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	不法行為Ⅰ（総論、成立要件、効果等）、事務管理・不当利得を理解する。
	事後学習	不法行為の成立要件とその効果、過失相殺・損益相殺の具体例、事務管理・不当利得制度の概略を説明できる。（2時間）
14	事前学習	教科書の291頁から305頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	不法行為Ⅱ（消滅時効、特殊な不法行為[監督者責任、使用者責任、工作物責任、共同不法行為]）を理解する。
	事後学習	不法行為による損害賠償請求権の消滅時効の期間と起算点のほか、監督者責任、使用者責任、工作物責任、共同不法行為の各制度を説明できる。（2時間）
15	事前学習	教科書の3頁から305頁までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	これまでの授業における学修項目の理解度を確認するほか、項目相互間の関連性を踏まえ、応用的な観点からの検討内容を理解する。
	事後学習	これまでの授業における学修項目の理解度を前提に項目相互間の関連性を踏まえた説明ができる。（2時間）

科目名	法学演習B I	担当者	平 裕介	部 別	第一部	期 間	前期	単 位 数	2
-----	---------	-----	------	-----	-----	-----	----	-------	---

授業概要	行政法に関する諸問題について扱い、学生自身に考えてもらう。 研究者であるとともに現役弁護士でもある担当教員が、研究活動のみならず専門分野において実際に事件等を担当した経験等に照らしつつ、行政法等に関係する諸問題について解説する。				
授業目的・到達目標	行政法に関する諸問題についての知識を養成することを目的とする。この授業では、行政法の分野で議論のある部分を中心に扱っていく。その中で行政法の問題について自己の意見を固め、そこから行政法や憲法、法学にかかわる諸問題について考察し、説明できるようになることを目標とする。更にその上で、学生が主体的に、参考文献を検索するなどしてレジュメを作成し、一定の時間内に発表できるようになることや、自らの立ち位置と異なった意見とも柔軟に向き合って議論できるようにすることを目標とする。対応DP及びCP:法律学科1, 7				
履修条件	特になし。なお、将来、公務員や法曹（裁判官・検察官・弁護士）等、法律の解釈・適用に携わる職業を志望する学生には特に、この授業を通じてリーガルマインドを養ってほしい。				
授業方法	基礎知識の講義（研究者兼現役弁護士の担当教員が実務経験にも照らして行う）を踏まえ、学生が各テーマの問題について考えてもらう。その上で報告者を決めて、報告してもらう。レポートの講評・解説を授業内で行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	発言、授業態度、提出物等から総合的に評価する。 自主レポートは随時受け付ける。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018年	有斐閣		行政法 第2版	宇賀克也
	備考				
参考書	行政判例百選Ⅰ 第7版（ISBN 978-4-641-11535-4）、行政判例百選Ⅱ 第7版（ISBN 978-4-641-11536-1）、ポケット六法など、講義内で必要に応じて紹介する。				
オフィスアワー	火曜日17：50～ 授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ガイダンスを踏まえて今後の学習予定を考えること。（2時間）
2	事前学習	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
	授業内容	法律による行政の原理 －講義と問題の検討
	事後学習	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
3	事前学習	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間） 報告者は要準備。
	授業内容	－前回のテーマに関する報告と検討
	事後学習	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
4	事前学習	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
	授業内容	比例原則 －講義と問題の検討
	事後学習	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）

5	事前学習	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間） 報告者は要準備。
	授業内容	－前回のテーマに関する報告と検討
	事後学習	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
6	事前学習	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
	授業内容	信義則 －講義と問題の検討
	事後学習	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
7	事前学習	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。（2時間）
	授業内容	－前回のテーマに関する報告と検討
	事後学習	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
8	事前学習	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
	授業内容	行政情報の公開 －講義と問題の検討
	事後学習	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
9	事前学習	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。（2時間）
	授業内容	－前回のテーマに関する報告と検討
	事後学習	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
10	事前学習	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
	授業内容	行政裁量 －講義と問題の検討
	事後学習	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 （2時間）
11	事前学習	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。 報告者は要準備。（2時間）
	授業内容	－前回のテーマに関する報告と検討
	事後学習	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
12	事前学習	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
	授業内容	行政行為の瑕疵 －講義と問題の検討
	事後学習	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
13	事前学習	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間） 報告者は要準備。
	授業内容	－前回のテーマに関する報告と検討
	事後学習	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
14	事前学習	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
	授業内容	行政契約 －講義と問題の検討
	事後学習	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
15	事前学習	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間） 報告者は要準備。
	授業内容	－前回のテーマに関する報告と検討
	事後学習	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）

科目名	法学演習BⅡ	担当者	平 裕介	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	行政法に関する諸問題について扱い、学生自身に考えてもらう。 研究者であるとともに現役弁護士でもある担当教員が、研究活動のみならず専門分野において実際に事件等を担当した経験等に照らしつつ、行政法等に関係する諸問題について解説する。					
授業目的・到達目標	行政法に関する諸問題についての知識を養成することを目的とする。この授業では、行政法の分野で議論のある部分を中心に扱っていく。その中で行政法の問題について自己の意見を固め、そこから行政法や憲法、法学にかかわる諸問題について考察し、説明できるようになることを目標とする。更にその上で、学生が主体的に、参考文献を検索するなどしてレジュメを作成し、一定の時間内に発表できるようになることや、自らの立ち位置と異なった意見とも柔軟に向き合って議論できるようにすることを目標とする。対応DP及びCP:法律学科1, 7					
履修条件	特になし。なお、将来、公務員や法曹（裁判官・検察官・弁護士）等、法律の解釈・適用に携わる職業を志望する学生には特に、この授業を通じてリーガルマインドを養ってほしい。					
授業方法	基礎知識の講義（研究者兼現役弁護士の担当教員が実務経験にも照らして行う）を踏まえ、学生が各テーマの問題について考えてもらう。その上で報告者を決めて、報告してもらう。レポートの講評・解説を授業内で行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		発言、授業態度、提出物等から総合的に評価する。 自主レポートは随時受け付ける。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018年	有斐閣		行政法 第2版		宇賀克也
	備考					
参考書	行政判例百選Ⅰ 第7版（ISBN 978-4-641-11535-4）、行政判例百選Ⅱ 第7版（ISBN 978-4-641-11536-1）、ポケット六法など、講義内で必要に応じて紹介する。					
オフィスアワー	火曜日17：50～ 授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ガイダンスを踏まえて今後の学習予定を考えること。（2時間）
2	事前学習	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
	授業内容	行政指導 －講義と問題の検討
	事後学習	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
3	事前学習	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間） 報告者は要準備。
	授業内容	－前回のテーマに関する報告と検討
	事後学習	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
4	事前学習	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
	授業内容	行政基準（行政立法） －講義と問題の検討
	事後学習	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）

5	事前学習	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間） 報告者は要準備。
	授業内容	－前回のテーマに関する報告と検討
	事後学習	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
6	事前学習	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
	授業内容	行政手続 －講義と問題の検討
	事後学習	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
7	事前学習	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間） 報告者は要準備。
	授業内容	－前回のテーマに関する報告と検討
	事後学習	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
8	事前学習	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
	授業内容	行政不服申立て －講義と問題の検討
	事後学習	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
9	事前学習	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間） 報告者は要準備。
	授業内容	－前回のテーマに関する報告と検討
	事後学習	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
10	事前学習	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
	授業内容	行政訴訟（主に取消訴訟） －講義と問題の検討
	事後学習	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
11	事前学習	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間） 報告者は要準備。
	授業内容	－前回のテーマに関する報告と検討
	事後学習	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
12	事前学習	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
	授業内容	国賠賠償（国家賠償請求訴訟） －講義と問題の検討
	事後学習	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
13	事前学習	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間） 報告者は要準備。
	授業内容	－前回のテーマに関する報告と検討
	事後学習	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
14	事前学習	テーマについて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
	授業内容	損失補償（損失補償請求訴訟） －講義と問題の検討
	事後学習	講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）
15	事前学習	前回の講義を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間） 報告者は要準備。
	授業内容	－講義と問題の検討
	事後学習	他の学生の報告を踏まえて自身の意見を考えるよう試みること。（2時間）

科目名	法学演習C I（刑法基礎演習）	担当者	大島 隆明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	刑法の基本的事項を主にケーススタディーを通じて学習する。法律学自体を学んだことのないことを前提に刑法学の基本的な考え方を説明した上で、設定したケースや判例を検討する中で刑法の基礎的な論点を取り上げて検討し、質疑応答等（ソクラテスメソッド）を通じて理解を深めさせ、刑法に関する基礎的知識、法的思考を習得させる。				
授業目的・到達目標	刑法の基礎的な知識の習得及び法的思考能力の涵養を目的とする。 とりわけ、構成要件、違法性、責任といった重要な概念や刑法学の論理構造が正確に理解できるようにし、具体的な事例等の検討を行うことにより、事実を法的に分析し、問題点を抽出・検討する基礎的能力が身に付き、法的な説明ができるようになることを目標とする。関連CP及びDP：法律学科1， 7				
履修条件	法曹（裁判官・検察官・弁護士）を志す法職課程在籍者を対象とする。				
授業方法	事前に資料を配付し、パワーポイントで講義を行った上、質疑応答方式で事例研究をする。終了時にアンケートを実施し、次の授業で補充講義をすることがある。定期試験の解説はポータルサイトに掲載する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		90%	筆記試験は、事例と小問により、授業で説明した刑法の基礎的な概念の理解や法的分析能力の習得の程度を評価する。	
	平常評価		10%	授業における質疑応答の状況、参加度等によって評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2018年	有斐閣	入門刑法学 総論・各論（第2版）		井田良
	備考				
参考書	前田雅英・刑法総論講義，刑法各論講義 東京大学出版会，刑法判例百選Ⅰ，Ⅱ 有斐閣，大コンメンタール刑法1～13 青林書院，法律学小辞典 有斐閣。その他は講義の中で適宜補充する。				
オフィスアワー	水曜 16:10～ 授業終了後の授業講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し，教科書総論第1講，第2講を予め読んでおく（2時間）。
	授業内容	【刑法と刑事訴訟法，刑事学】 隣接科目との関係や刑法を学ぶことの意義等を講義するとともに，授業ごとのテーマや内容，学習方法，成績評価等を説明し，次回からの授業の準備ができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して復習し，あいまいな点は教科書の該当箇所を読んで理解を深め，さらには他の履修科目等も考慮して今後のおおよその学習計画を立ててみる（2時間）
2	事前学習	予め配付される判例を読み，その意義をよく考え，授業で意見を述べられるように準備する（1時間） 資料に目を通し，教科書の関連する部分を読んでくる（1時間）
	授業内容	【判例と学説】 学説や判例の意義を講義するとともに，刑罰法規の解釈や適用の在り方を説明する。また，実際の判例に基づき，判例の射程距離等を検討する。
	事後学習	講義ノートを確認して復習し，理解があいまいな点は友人と議論したり教科書や辞典等を調べて理解を深め，さらには講義で紹介された判例やその評釈を読んでみる（2時間）
3	事前学習	事前配付の資料に記載してある設例等を熟読し，教科書等に当たって検討するなどし，自分の考えをまとめて授業の際に答えられるように準備しておく（2時間）
	授業内容	【刑法の基本原則】 罪刑法定主義，違法性と有责性，結果無価値と行為無価値，客観主義と主観主義など，刑法学の基本となる概念を説明するとともに，事例に沿ってその意義を検討する。
	事後学習	講義ノートを確認して復習し，理解があいまいな点は友人と議論したり教科書や辞典等を調べて理解を深め，さらには講義で紹介された判例やその評釈を読んでみる（2時間）
4	事前学習	事前配付の資料に記載してある設例等を熟読し，教科書等に当たって検討するなどし，自分の考えをまとめて授業の際に答えられるように準備しておく（2時間）
	授業内容	【構成要件】 刑法における構成要件の重要性，構成要件の要素，社会的事実関係から犯罪構成要件に該当する事実の抽出方法等について説明するとともに，設例について具体的に検討する。
	事後学習	講義ノートを確認して復習し，理解があいまいな点は友人と議論したり教科書や辞典等を調べて理解を深め，さらには講義で紹介された判例やその評釈を読んでみる（2時間）

5	事前学習	事前配付の資料に記載してある設例等を熟読し，教科書等に当たって検討するなどし，自分の考えをまとめて授業の際に答えられるように準備しておく（2時間）
	授業内容	【未遂と既遂・因果関係】 不能犯，因果関係の有無の判断，実行の着手，中止未遂と障害未遂の区別等について説明し，設例について具体的に検討する。
	事後学習	講義ノートを確認して復習し，理解があいまいな点は教科書や辞典等を調べて理解を深め，さらには講義で紹介された判例やその評釈を読んでみる（2時間）
6	事前学習	事前配付の資料に記載してある設例等を熟読し，教科書等に当たって検討するなどし，自分の考えをまとめて授業の際に答えられるように準備しておく（2時間）
	授業内容	【故意と錯誤】 故意における事実認識の対象とその程度，錯誤について，具体的な設例に基づいて検討する。
	事後学習	講義ノートを確認して復習し，理解があいまいな点は友人と議論したり教科書や辞典等を調べて理解を深め，さらには講義で紹介された判例やその評釈を読んでみる（2時間）
7	事前学習	事前配付の資料に記載してある設例等を熟読し，教科書等に当たって検討するなどし，自分の考えをまとめて授業の際に答えられるように準備しておく（2時間）
	授業内容	【正当防衛，過剰防衛等】 違法性が問題となる状況について説明し，正当防衛状況の判断基準等を事例に沿って検討する。
	事後学習	講義ノートを確認して復習し，理解があいまいな点は友人と議論したり教科書や辞典等を調べて理解を深め，さらには講義で紹介された判例やその評釈を読んでみる（2時間）
8	事前学習	事前配付の資料に記載してある設例等を熟読し，教科書等に当たって検討するなどし，自分の考えをまとめて授業の際に答えられるように準備しておく（2時間）
	授業内容	【誤想防衛，正当行為，緊急避難】 誤想防衛とその位置付け，正当行為，緊急避難について，具体的な事例に沿って検討する。
	事後学習	講義ノートを確認して復習し，理解があいまいな点は友人と議論したり教科書や辞典等を調べて理解を深め，さらには講義で紹介された判例やその評釈を読んでみる（2時間）
9	事前学習	事前配付の資料に記載してある設例等を熟読し，教科書等に当たって検討するなどし，自分の考えをまとめて授業の際に答えられるように準備しておく（2時間）
	授業内容	【正犯と共犯】 最初に共犯の意義，正犯と共犯の区別，共犯と錯誤，身分犯について説明し，その後，設例に沿って具体的に検討し，理解を深めさせる。
	事後学習	講義ノートを確認して復習し，理解があいまいな点は友人と議論したり教科書や辞典等を調べて理解を深め，さらには講義で紹介された判例やその評釈を読んでみる（2時間）
10	事前学習	事前配付の資料に記載してある設例等を熟読し，教科書等に当たって検討するなどし，自分の考えをまとめて授業の際に答えられるように準備しておく（2時間）
	授業内容	【刑罰・量刑】 刑罰の種類と罪の重さの決め方，余罪と量刑との関係等を判例等を取り上げつつ学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して復習し，理解があいまいな点は友人と議論したり教科書や辞典等を調べて理解を深め，さらには講義で紹介された判例やその評釈を読んでみる（2時間）
11	事前学習	事前配付の資料に記載してある設例等を熟読し，教科書等に当たって検討するなどし，自分の考えをまとめて授業の際に答えられるように準備しておく（2時間）
	授業内容	【身体犯等】 身体犯相互の関係等について説明した上で，各犯罪における暴行の意義や被害者の同意と犯罪成否への影響等について，設例に沿って検討し，理解を深めさせる。
	事後学習	講義ノートを確認して復習し，理解があいまいな点は友人と議論したり教科書や辞典等を調べて理解を深め，さらには講義で紹介された判例やその評釈を読んでみる（2時間）
12	事前学習	事前配付の資料に記載してある設例等を熟読し，教科書等に当たって検討するなどし，自分の考えをまとめて授業の際に答えられるように準備しておく（2時間）
	授業内容	【財産犯の構造，所有と占有】 財産犯の体系，その客体や保護法益，所有と占有の関係等について説明した上で，設例に沿って検討し，理解を深めさせる。
	事後学習	講義ノートを確認して復習し，理解があいまいな点は友人と議論したり教科書や辞典等を調べて理解を深め，さらには講義で紹介された判例やその評釈を読んでみる（2時間）
13	事前学習	事前配付の資料に記載してある設例等を熟読し，教科書等に当たって検討するなどし，自分の考えをまとめて授業の際に答えられるように準備しておく（2時間）
	授業内容	【詐欺と窃盗】 設例を具体的に検討することにより，詐欺罪における処分行為の意義，窃盗における占有の侵害等についての理解を深めさせる。
	事後学習	講義ノートを確認して復習し，理解があいまいな点は教科書や辞典等を調べて理解を深め，さらには講義で紹介された判例やその評釈を読んでみる（2時間）
14	事前学習	事前配付の資料に記載してある設例等を熟読し，教科書等に当たって検討するなどし，自分の考えをまとめて授業の際に答えられるように準備しておく（2時間）
	授業内容	【横領と背任】 具体的な事例を検討することにより，横領罪における占有の意義，背任罪における財産的損害の発生，図利・加害目的等を理解させる。
	事後学習	講義ノートを確認して復習し，理解があいまいな点は友人と議論したり教科書や辞典等を調べて理解を深め，さらには講義で紹介された判例やその評釈を読んでみる（2時間）
15	事前学習	事前配付の資料に記載してある設例等を熟読し，教科書等に当たって検討するなどし，自分の考えをまとめて授業の際に答えられるように準備しておく（1時間）
	授業内容	【偽造犯罪】 有形偽造と無形偽造の区別，行使の意義等について具体的な事例に沿って検討し，理解を深めさせる。 【授業のまとめ】 これまでの授業の要点をまとめて説明する。
	事後学習	教科書のうち初回からの授業で触れた内容の部分を読み直したり講義ノートを見直して復習し，理解があいまいな点は参考図書等に当たって疑問を解消し，期末試験に向けて準備をする（3時間）

科目名	法学演習C I	担当者	早乙女 宜宏	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	--------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	本講座では、現役弁護士の教員が刑事弁護の実務経験を交えながら、刑事訴訟法の基礎的事項を解説する。一般的には捜査を勉強してから公判を勉強する流れになるが、公判でどのように証拠が扱われるかを理解した方が、捜査を理解する上でも有用であることから、本講座では公判、捜査の順序で判例の研究や事例問題の検討を通して基礎的知識を確実なものとするとともに、法律家に求められる事案処理能力を修得するために必要な基礎的能力を修得する。							
授業目的・到達目標	人権保障と実体的真実発見という刑事訴訟法の目的やその担い手の果たす役割について理解するとともに、刑事訴訟手続のうち、公判手続を中心に公訴提起から判決に至るまでの流れを理解することを目的とする。 刑事手続の基本的な流れを学び、議論をする中で判例や具体的事例に即して公判手続における各種問題点を解決できるようになることを目標とする。関連D P及びC P：法律学科1，7							
履修条件	特に指定しないが、基本的には初学者を対象としているため1、2年生の履修が望ましい。							
授業方法	講義形式と演習形式を併用する。演習の具体的方式は、履修人数や理解の深度に応じて調整する。講義及び演習における発表や提出物に関しては、講評、返却する。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%					
	平常評価		100%		授業参加度、授業での発言内容及び頻度などによって評価する。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	2017年		弘文堂		刑事訴訟実務の基礎		前田雅英編著ほか	
	備考							
参考書	池田修・前田雅英『刑事訴訟法講義第6版』（2018年、東京大学出版会）							
オフィスアワー	火曜日10：30～ 授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。それ以外の時間帯はメールでアポイントをとること。							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス：捜査と公判の関係について解説する。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
2	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	公訴の提起、公訴提起の手続・効果。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
3	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	訴因・罰条の変更。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
4	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	公判手続の原則と構造、公判前整理手続。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）

5	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	類型証拠開示請求、主張関連証拠開示請求。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
6	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	証拠調べ請求と証拠の採否。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
7	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	証拠法：証拠法に関する概要、関連性。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
8	事前学習	事前に配布する教材を事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	証拠法：伝聞証拠の証拠能力。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
9	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	証拠法：違法収集証拠の証拠能力。
	事後学習	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
10	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	証拠法：自白の証拠能力と証明力。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
11	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	証人尋問、被告人質問。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
12	事前学習	事前に配布する教材を事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	被害者参加制度。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
13	事前学習	事前に配布する教材を事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	論告・弁論・判決。
	事後学習	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
14	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	上訴制度、再審、非常上告。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
15	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	簡易公判手続・即決裁判手続、略式手続。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）

科目名	法学演習C I	担当者	帷子 翔太	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	各種民事手続における権利の実現過程、並びに同過程における実体法(主に民法)・手続法(主に民事訴訟法)の意義及び役割等について、現在弁護士でもある担当教員が専門分野に関連して実際に担当した事件の経験等も踏まえ解説する。また、民法(特に契約法。「民法の一部を改正する法律」による改正後の新法を扱う。)及び民事訴訟法の基本的事項や諸問題についても解説する。なお、法学または民法等について初学者であることを前提に授業を進める。				
授業目的・到達目標	基礎的知識や法的な考え方を身に付け、法的思考能力を養成することを授業目的とする。実体法及び手続法の関係、民法及び民事訴訟法の基本的事項並びに実体法(主に民法)及び手続法(主に民事訴訟法)がどのように関連して権利が実現されるのか等について、一定のイメージをもって理解し、説明できることを到達目標とする。関連D P及びC P：法律学科1, 7				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式で行う。レポート課題の講評・解説等を授業内で行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	課題の提出、授業参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は指定しない。			
参 考 書	適宜紹介する。				
オフィスアワー	水曜日21：10～ 授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス:学習する内容や授業の進行予定等
	事後学習	今後の学習予定を考えること。（2時間）
2	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	実体法と手続法の関係、これらの各種民事手続における役割等について概観する。
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
3	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	民法の全体像を概観する。
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
4	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	民事訴訟法の全体像を概観する。
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）

5	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	契約法(1)：契約法の全体像及び贈与契約
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
6	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	契約法(2)：売買契約
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
7	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	契約法(3)：消費貸借契約
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
8	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	契約法(4)：使用貸借契約
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
9	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	契約法(5)：賃貸借契約
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
10	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	契約法(6)：請負契約
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
11	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	契約法(7)：委任契約
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
12	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	契約法(8)：雇用契約
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
13	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	総復習(1)：前期授業の総復習を行う
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
14	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	総復習(2)：前期授業の総復習及びレポートの提出
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
15	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	総復習(3)：前期授業の総復習、レポートの講評及び今後の勉強のあり方等。
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）

科目名	法学演習CⅡ	担当者	早乙女 宜宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講座では、現役弁護士の教員が刑事弁護の実務経験を交えながら、刑事訴訟法の基礎的事項を解説する。一般的には捜査を勉強してから公判を勉強する流れになるが、公判でどのように証拠が扱われるかを理解した方が、捜査を理解する上でも有用であることから、本講座では公判、捜査の順序で判例の研究や事例問題の検討を通して基礎的知識を確実なものとするとともに、法律家に求められる事案処理能力を修得するために必要な基礎的能力を修得する。			
授業目的・到達目標	人権保障と実体的真実発見という刑事訴訟法の目的やその担い手の果たす役割について理解するとともに、刑事訴訟手続のうち、捜査手続を中心に捜査の端緒から公訴提起に至るまでの流れを理解することを目的とする。 刑事手続の基本的な流れを学び、議論をする中で判例や具体的事例に即して捜査手続における各種問題点を解決できるようになることを目標とする。関連D P及びC P：法律学科1，7			
履修条件	特に指定しないが、基本的には初学者を対象としているため1、2年生の履修が望ましい。また、できるだけ法学演習CIから継続して履修することが望ましい。			
授業方法	講義形式と演習形式を併用する。演習の具体的方式は、履修人数や理解の深度に応じて調整する。講義及び演習における発表や提出物に関しては、講評、返却する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業参加度、授業での発言内容及び頻度などによって評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017年	弘文堂	刑事訴訟実務の基礎	前田雅英編著ほか
	備考			
参考書	池田修・前田雅英『刑事訴訟法講義第6版』（2018年、東京大学出版会）			
オフィスアワー	火曜日10：30～ 授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。それ以外の時間帯はメールでアポイントをとること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス：捜査法の基本的枠組み
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
2	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	捜査の端緒、職務質問、所持品検査。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
3	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	強制処分と任意処分の概要。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
4	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	強制処分と任意処分：写真撮影、おとり捜査等。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）

5	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	強制処分と任意処分：X線検査、GPS捜査等。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
6	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	任意処分の限界。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
7	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	通常逮捕、現行犯逮捕、緊急逮捕。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
8	事前学習	事前に配布する教材を事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	勾留。再逮捕、再勾留。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
9	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	別件逮捕、別件勾留と余罪取調べ。
	事後学習	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
10	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	逮捕に伴う捜索・差押え。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
11	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	捜索・差押えに関する諸問題①。令状の記載、令状提示前の捜索、執行場所にいる者の身体への捜索。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
12	事前学習	事前に配布する教材を事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	捜索・差押えに関する諸問題②。強制採尿、体内物の採取、嚥下物の採取。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
13	事前学習	事前に配布する教材を事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	被疑者の防御権、黙秘権、弁護人選任権。
	事後学習	配布された教材に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
14	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	接見交通権と接見指定。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
15	事前学習	事前に配布する教材又は教科書の該当ページを事前によく読み、授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	捜査の終結。
	事後学習	配布された教材及び教科書に基づいて授業内容を復習すること。（2時間）

科目名	法学演習CⅡ	担当者	帷子 翔太	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	各種民事手続における権利の実現過程、並びに同過程における実体法(主に民法)・手続法(主に民事訴訟法)の意義及び役割等について、現在弁護士でもある担当教員が専門分野に関連して実際に担当した事件の経験等も踏まえ解説する。また、民法(特に契約法。「民法の一部を改正する法律」による改正後の新法を扱う。)及び民事訴訟法の基本的事項や諸問題についても解説する。なお、法学または民法等について初学者であることを前提に授業を進める。				
授業目的・到達目標	基礎的知識や法的な考え方を身に付け、法的思考能力を養成することを授業目的とする。実体法及び手続法の関係、民法及び民事訴訟法の基本的事項並びに実体法(主に民法)及び手続法(主に民事訴訟法)がどのように関連して権利が実現されるのか等について、一定のイメージをもって理解し、説明できることを到達目標とする。関連D P及びC P：法律学科1, 7				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式で行う。レポート課題の講評・解説等を授業内で行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	課題の提出、授業参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は指定しない。			
参 考 書	適宜紹介する。				
オフィスアワー	水曜日21：10～ 授業講堂にて。希望者は授業終了後に申し出ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス:学習する内容や授業の進行予定等
	事後学習	今後の学習予定を考えること。（2時間）
2	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	前期授業の総復習
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
3	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	民事手続(1)：保全、訴訟、執行手続の概観
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
4	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	民事手続(2)：訴えの提起、処分権主義等
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）

5	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	民事手続(3)：審理の進行(口頭弁論、争点及び証拠の整理)
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
6	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	民事手続(4)：審理の進行(弁論主義)
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
7	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	民事手続(5)：証拠調手続
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
8	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	民事手続(6)：訴訟の終了
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
9	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	具体的な事例を通じた学習(1)：訴状の作成
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
10	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	具体的な事例を通じた学習(2)：答弁書の作成
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
11	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	具体的な事例を通じた学習(3)：給付訴訟
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
12	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	具体的な事例を通じた学習(4)：確認訴訟
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
13	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	総復習(1)：後期授業の総復習を行う
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
14	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	総復習(2)：後記授業の総復習及びレポートの提出
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）
15	事前学習	事前に配布するレジュメをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	総復習(3)：後記授業の総復習、レポートの講評及び今後の勉強のあり方等。
	事後学習	配布されたレジュメに基づいて授業内容を復習すること。（2時間）

科目名	法学演習E I	担当者	蟻川 恒正	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	憲法の権利論について演習する。				
授業目的・到達目標	憲法の権利論について批判的討究ができる力を養成することを目的とする。 文化施設における表現の自由に関する諸問題について他者と議論できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科 1， 7				
履修条件	この演習を楽しむ意欲のある学生であること。				
授業方法	演習形式。フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	この演習の全体をどれだけ理解しているかをレポートによって判定する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参 考 書	追って指示する。				
オフィスアワー	火曜日の13：30～14：30とします。13号館 1 階受付にて蟻川へ連絡するよう伝えてください。 なお、相談内容等により、改めて日時を指定する場合があります。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	憲法の権利論を主題とする演習について想像をめぐらしておくこと。（2時間）
	授業内容	開講の辞
	事後学習	事前の想像と開講の辞とのギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること。（2時間）
2	事前学習	事前の想像と開講の辞とのギャップがあったとすればそれは何故かを自答すること。（2時間）
	授業内容	憲法の権利論の概説
	事後学習	次回以下のこの演習の展開を希望的に予測すること。（2時間）
3	事前学習	主題判例1について考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例1の概説
	事後学習	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）
4	事前学習	主題判例1について深く考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例1の「判断枠組み」の前提
	事後学習	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）

5	事前学習	主題判例 1 について一層深く考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 1 の「判断枠組み」
	事後学習	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）
6	事前学習	主題判例 2 について考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 2 の概説
	事後学習	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）
7	事前学習	主題判例 2 について深く考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 2 の「判断枠組み」
	事後学習	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）
8	事前学習	主題判例 3 について考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 3 の概説
	事後学習	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）
9	事前学習	主題判例 3 について再度考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 3 の「判断枠組み」の前提
	事後学習	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）
10	事前学習	主題判例 3 について深く考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 3 の「判断枠組み」
	事後学習	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）
11	事前学習	主題判例 3 の問題点を自分なりに考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 3 の問題点
	事後学習	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）
12	事前学習	主題判例 4 について深く考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 4 の「判断枠組み」
	事後学習	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）
13	事前学習	主題判例 4 の問題点を自分なりに考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 4 の問題点
	事後学習	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）
14	事前学習	主題判例 4 を再構成する方法について考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 4 の再構成
	事後学習	この回の授業について1000字前後で表現できるようになること。（2時間）
15	事前学習	事前の想像とこの演習とのギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること。（2時間）
	授業内容	まとめ・閉講の辞
	事後学習	事前の想像と開講の辞とのギャップがあったとすればそれは何故かを自答すること。（2時間）

科目名	法学演習EⅡ	担当者	蟻川 恒正	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	憲法の権利論について演習する。				
授業目的・到達目標	憲法の権利論について討議できる力を養成することを目的とする。 公務員の表現の自由に関する諸問題について他者と議論できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科 1， 7				
履修条件	この演習を楽しむ意欲のある学生であること。				
授業方法	演習形式。フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	この演習の全体をどれだけ理解できているかをレポートによって判定する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参 考 書	追って指示する。				
オフィスアワー	火曜日の13：30～14：30とします。13号館 1 階受付にて蟻川へ連絡するよう伝えてください。 なお、相談内容等により、改めて日時を指定する場合があります。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	憲法の権利論を主題とする演習について想像をめぐらしておくこと。（2時間）
	授業内容	開講の辞
	事後学習	事前の想像と開講の辞とのギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること。（2時間）
2	事前学習	事前の想像と開講の辞とのギャップがあったとすればそれは何故かを自答すること。（2時間）
	授業内容	公務員の表現の自由についての新たな視角
	事後学習	次回以下のこの演習の展開を希望的に予測すること。（2時間）
3	事前学習	主題判例 1 について考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 1 の概説
	事後学習	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）
4	事前学習	主題判例 1 の「判断枠組み」について考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 1 の「判断枠組み」
	事後学習	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）

5	事前学習	主題判例 1 の論理展開を辿っておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 1 の全体構成
	事後学習	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）
6	事前学習	主題判例 2 について考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 2 の概説
	事後学習	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）
7	事前学習	主題判例 2 の「判断枠組み」について考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 2 の「判断枠組み」
	事後学習	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）
8	事前学習	主題判例 2 の論理展開を辿っておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 2 の全体構成
	事後学習	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）
9	事前学習	主題判例 3 について考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 3 の概説
	事後学習	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）
10	事前学習	主題判例 3 を同 2 との比較において考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 3 の問題点
	事後学習	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）
11	事前学習	主題判例 4 について考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 4 の意味
	事後学習	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）
12	事前学習	主題判例 5 について考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 5 の概説
	事後学習	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）
13	事前学習	主題判例 5 の「判断枠組み」について考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 5 の「判断枠組み」
	事後学習	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）
14	事前学習	主題判例 6 について考えておくこと。（2時間）
	授業内容	主題判例 6 の意味
	事後学習	この回の授業について500字前後で表現できるようになること。（2時間）
15	事前学習	事前の想像とこの演習とのギャップがあったとすればそれは何故かを自問すること。（2時間）
	授業内容	まとめ・閉講の辞
	事後学習	事前の想像とこの演習とのギャップがあったとすればそれは何故かを自答すること。（2時間）

科目名	法学特殊講義（ジェンダーと法）Ⅰ	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「正義の実現」を目的の一つに掲げる法を、ジェンダーの視点から分析することが、この「ジェンダーと法」の授業である。私たちの社会には、伝統的な慣習や認知バイアスなどから、差別構造を含む法の条文や法システムを、不変的な既定のものとして捉えることがある。またそのような法規範が存在することにより、妥当とは言えない規範意識が再生産され、生き辛さに結びつくことがある。こうした「法のゆがみ」をジェンダーという視点から見直してみたい。					
授業目的・到達目標	法の目的の一つである「正義の実現」のために、法がどのような機能を果たし、また果たす可能性を持つのか、もしくはいかに法により操作され事実上の正義の実現が阻害されているのかを、ジェンダーの見地から検証することで、現代法に潜む構造的、機能的な問題点を認識し、かつ表現する力を育成することが、この授業の目的である。ジェンダーに関する基礎的知識を前提として、法をジェンダーの視点から見たとき、どのような問題があるのかを理解し、それを多角的な視点から論理的に表現・説明する力をつけることを、到達の目標とする。対応DP及びCP：法律学科1, 4					
履修条件	真摯かつ積極的な態度で授業に臨むことが要請される。					
授業方法	各授業の始めに基本的事項を講義した後、グループディスカッションや相互の意見交換、小レポートの作成などを行う。レポートは授業内で解説・講評し、さらに議論を深める材料とする。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		70%以上の出席を前提に、筆記試験による評価（50%）に加え、発言や質問、小レポート等、授業への参加内容による評価（50%）。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2012年	法律文化社		レクチャージェンダー法		犬伏由子・井上匡子・君塚正臣編
	備考	なし				
参考書	辻村みよ子『概説ジェンダーと法（第2版）』信山社、2016年。					
オフィスアワー	火曜12時20分～12時50分、研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。 matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp 本館7階1713研究室					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	「ジェンダー差別」という言葉から想起される事例を各自考えた上で、教科書の序章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション ジェンダーを学ぶ意義
	事後学習	「ジェンダー・ステレオタイプ」の例を挙げる。自分の問題として、ジャンダーがどう関わっているのか、具体例を挙げて考える。（2時間）
2	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書0章Ⅰ～Ⅲを読んでおく。（2時間）
	授業内容	ジェンダー法を学ぶ基礎1 ジェンダーと憲法・民法・刑法
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。（2時間）
3	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書0章Ⅳ、Ⅴを読んでおく。（2時間）
	授業内容	ジェンダー法を学ぶ基礎2 ジェンダーと社会法・国際法
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。（2時間）
4	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書1章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	日本における性差別
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。（2時間）

5	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書3章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	フェミニズム法学の展開
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。(2時間)
6	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書4章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	学校教育に見るジェンダーバイアス
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。(2時間)
7	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書5章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	家族と平等
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。(2時間)
8	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書6章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	家族と自由
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。(2時間)
9	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書7章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	失われたものの「値段」の男女差
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。(2時間)
10	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書8章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	雇用とジェンダー、ワーク・ライフ・バランス
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。(2時間)
11	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書9章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	社会保障とジェンダー
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。(2時間)
12	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書15、16章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	政治・行政、司法分野とジェンダー
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。(2時間)
13	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書17章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	男性にとってのジェンダー法
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。(2時間)
14	事前学習	これまでの内容について、事前に再度確認しておく。要点をまとめ直し、キーワードを正確に用いながら論理的な記述を行えるように準備する。(2時間)
	授業内容	授業内試験及び講評
	事後学習	このセメスターでの授業内容を見直す。キーワードを用いながら、どのような問題があったのか、またその問題を法的にどう評価することが可能かを確認する。(2時間)
15	事前学習	これまでの授業の要点につき、再度確認しておく。教科書18章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	ジェンダー法学の応用
	事後学習	これまでの学びが、実生活でどのように活用されうるか整理する。またジェンダーの問題が他の領域に与える影響について考察する。(2時間)

科目名	法学特殊講義（ジェンダーと法）Ⅱ	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「正義の実現」を目的の一つに掲げる法を、ジェンダーの視点から分析することが、この「ジェンダーと法」の授業である。私たちの社会には、伝統的な慣習や認知バイアスなどから、差別構造を含む法の条文や法システムを、不変的な既定のものとして捉えることがある。またそのような法規範が存在することにより、妥当とは言えない規範意識が再生産され、生き辛さに結びつくことがある。こうした「法のゆがみ」をジェンダーという視点から見直してみたい。				
授業目的・到達目標	法の目的の一つである「正義の実現」のために、法がどのような機能を果たし、また果たす可能性を持つのか、もしくはいかに法により操作され事実上の正義の実現が阻害されているのかを、ジェンダーの見地から検証することで、現代法に潜む構造的、機能的な問題点を認識し、かつ表現する力を育成することが、この授業の目的である。ジェンダーに関する基礎的知識を前提として、法をジェンダーの視点から見たとき、どのような問題があるのかを理解し、それを多角的な視点から論理的に表現・説明する力をつけることを、到達の目標とする。対応DP及びCP：法律学科1， 4				
履修条件	真摯かつ積極的な態度で授業に臨むことが要請される。				
授業方法	各授業の始めに基本的事項を講義した後、グループディスカッションや相互の意見交換、小レポートの作成などを行う。レポートは授業内で解説・講評し、さらに議論を深める材料とする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	70%以上の出席を前提に、筆記試験による評価（50%）に加え、発言や質問、小レポート等、授業への参加内容による評価（50%）。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2012年	法律文化社	レクチャージェンダー法 （シラバスではAと表記）		犬伏由子、井上匡子、君塚正臣編
	2017年	法律文化社	セクシュアリティと法 （シラバスではBと表記）		谷口洋幸・綾部六郎・池田弘乃編
	備考	なし			
参考書	辻村みよ子『概説ジェンダーと法（第2版）』信山社、2016年。				
オフィスアワー	火曜12時20分～12時50分、研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。 matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp 本館7階1713研究室				

【授業計画】

回数	授 業 内 容		
1	事前学習	ジェンダーと何か、ジェンダーを巡ってどのような問題があるのかを、自分に引きつけて具体的に考えておく。教科書Aを概観し、ジェンダーと法に関してどのような問題があるのか、把握しておく。（2時間）	
	授業内容	ジェンダーとは何か、「ジェンダーと法」が明らかにするもの	
	事後学習	自分に起きたジェンダーに関する具体的問題を、ジェンダー中立的見地から眺めるとどのように考えられるのか、挙げておく。（2時間）	
2	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A11章を読んでおく。（2時間）	
	授業内容	セクシュアル・ハラスメント	
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。（2時間）	
3	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A12章を読んでおく。（2時間）	
	授業内容	ドメスティック・バイオレンス、ストーカー	
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。（2時間）	
4	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A10章を読んでおく。（2時間）	
	授業内容	性犯罪をめぐる問題	
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。（2時間）	

5	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A13章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。（2時間）
6	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書A14章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	性表現とジェンダー
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。（2時間）
7	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B1章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	法的性別の根拠
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。（2時間）
8	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B2章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	性同一性障がいと法
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。（2時間）
9	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B4章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	性的マイノリティの親子関係
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。（2時間）
10	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B5章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	同性婚と法
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。（2時間）
11	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B7章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	性的マイノリティと労働
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。（2時間）
12	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B8章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	性的マイノリティと学校教育
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。（2時間）
13	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書B9章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	人権の多様性
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理する。キーワードを用いながら、自分の言葉で授業内容を説明できるようにしておく。十分説明できない点、わからなかった点、疑問点など質問できるようにしておく。（2時間）
14	事前学習	これまでの内容について、事前に再度確認しておく。要点をまとめ直し、キーワードを正確に用いながら論理的な記述を行えるように準備する。（2時間）
	授業内容	授業内試験及び講評
	事後学習	これまでの授業内容を見直す。キーワードを用いながら、どのような問題があったのか、またその問題を法的にどう評価することが可能かを確認する。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業の要点につき、再度確認しておく。教科書B12章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「セクシュアリティと法」のゆくえ
	事後学習	これまでの学びが、実生活でどのように活用されうるか整理する。またジェンダーの問題が他の領域に与える影響について考察する。（2時間）

科目名	法思想史Ⅰ	担当者	井上 琢也	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	この授業では、古代から中世までの「自然法」論の流れに身を任せじっくり下っていくことにします。「自然」という不思議かつ本質的な概念を手がかりに、西欧の法思想家たちは、法学・神学の隅々にまで目配りした巧妙な議論を展開して来ました。「自由意志」論や「清貧論争」等にもつながる「自然法」論について丹念に掘り下げ考察した上で、臨床研修として、「正戦」や「死者」が法思想でどう位置づけられてきたのか紹介することになります。			
授業目的・到達目標	現在を考え語るためには過去の思想の蓄積と戯れることが不可欠であることに気づいてもらい、「自然」や「自由」等の言葉を巡って陥りがちな誤解から脱出して自分自身を突き放して分析する力を養成することが、この授業の目的となります。古典的教養を宿命的に担うことになる法学徒が知るべき基礎概念の意味を正確に把握し、社会人として「外に開かれた」普遍の世界を生き抜いていく支えとなる法的語彙を豊富に身につけて、それらを操って、資格試験の短答問題等にも頻出する「自然法」等の主題について確信をもって説明出来るようになることを目標とします。関連DP及びCP：法律学科1，2			
履修条件	特にありません。			
授業方法	授業時に配布するプリントに沿って、講義形式で行います。ノートをしっかりとってください。 授業内試験の講評を後日、ポータルシステムを通じて配信します。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	15回目に実施予定の授業内試験で判定します。記述式説明問題を出題し、授業で言及した概念をどれだけ上手に使いこなせているかが主な評価基準となります。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は使用しません。		
参考書	田中・竹下等著『法思想史 第2版』有斐閣・2011；森村進編『法思想の水脈』法律文化社・2016 その他、授業で適宜紹介します。			
オフィスアワー	火曜日 16:10～16:20 授業講堂にて			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	「自然」という言葉の意味を辞典で調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	<プレリュード> 開幕にあたり、授業で何を話すか、授業をどう進めていくか説明した上で、授業を導いてくれる「船頭」的役割を果たす「自然」という言葉の意味について検討します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、「自然」という言葉がもつ複数の意味について整理しておいて下さい。（2時間）
2	事前学習	ソポクレス作『オイディプス王』のあらすじについて調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	<古代ギリシアの法思想と女神達> 戯曲『オイディプス王』等を参照しながら、ディケー等の女神たちとギリシア法思想が契った関係について概観します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、アルカイック期における「自然と人為」の関係性の変化について整理しておいて下さい。（2時間）
3	事前学習	世界史の教科書等を参照して、紀元前6世紀から前4世紀にかけてのギリシアの状況を確認しておいて下さい。（2時間）
	授業内容	<ピュシスとノモス> プラトンのソフィスト批判に注目しながら、「自然法」論の源流に立てられた「ピュシスとノモス」という二つの旗について考察します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、プラトンが「ピュシス」と「法」の関係についてどう考えていたか、整理しておいて下さい。（2時間）
4	事前学習	前回配布したプリントに基づいて、アリストテレスが提示した「ボリス的動物」という言葉の意味を確認しておいて下さい。（2時間）
	授業内容	<アリストテレスと自然、正義（1）> 万学の祖とされるアリストテレスの「目的」論的世界観を、「自然」、「運動」、「最高善」といった言葉に寄り添って概観します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、アリストテレスが「目的」についてどう考えていたか、整理しておいて下さい。（2時間）

5	事前学習	前回配布したプリントに基づいて、アリストテレスが「徳」という言葉をどのように使用していたか、確認しておいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜アリストテレスと自然、正義（2）＞ アリストテレスが「正義」について試みた基本的かつ複合的整理を紹介するとともに、彼の「行為」論の中から、「自由意志」や「過失」について考える手がかりを探し出してみます。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、「配分的正義」、「選択」、「熟慮」等の重要概念の意味を整理しておいて下さい。（2時間）
6	事前学習	3回目に配布したプリントに基づいて、ソフィストが「ノモス」をどう批判したか、確認しておいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜ストア派周辺の人々と自然法＞ 「自然法」について考えるとき準拠される枠組みをほぼ完成させたストア派周辺の議論を整理し、「万民法」や「ロゴス」といった概念の位置づけを確認します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、「ius」や「運命」という言葉がもつ多層的な意味について、慎重に整理しておいて下さい。（2時間）
7	事前学習	前回配布したプリントに基づいて、アウグスティヌスが「秩序」の形成についてどう考えていたか、確認しておいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜アウグスティヌスと自然法＞ 「神の国」や「自由意志」に関する議論にも当然目配りしながら、「永久法」概念等に基づくアウグスティヌスの「自然法」論について考察します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、アウグスティヌスが「神の光」や「神と悪」についてどう考えていたか、整理しておいて下さい。（2時間）
8	事前学習	前回配布したプリントに基づいて、トマスが「超自然」と「自然」との関係についてどう考えていたか、確認しておいてください。（2時間）
	授業内容	＜トマス・アキナスと自然法（1）＞ 中世スコラ学を体系化し、その後の「法」の見方についても決定的な影響を与えた教会人トマスの「自然法」論について、アリストテレスやアウグスティヌスの思想と比較しながら検討します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、トマスが正義や人間の理性についてどう考えていたか、慎重に整理しておいて下さい。（2時間）
9	事前学習	前回配布したプリントに基づいて、「主義主義」や「恩恵」という言葉に与えられた意味について確認しておいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜トマス・アキナスと自然法（2）＞ トマスが国家や法についてどう考えていたか、「自然本性」や「主知主義」といった言葉に立ち戻って包括的に検討した上で、「意志と自由意志」という難題についても一瞥します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、トマスの錯綜した法の見方や「意志は誤ることがない」というフレーズの意味について整理しておいて下さい。（2時間）
10	事前学習	『薔薇の名前』という小説・映画について調べておいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜『薔薇の名前』の法思想史 オッカム＞ 14世紀の哲学者オッカムには主義主義者や唯名論者という属性が通常付与されるのですが、聖書や教会に潜む難題について彼が与えた解答の意味を「自然法」論等の枠組に依拠して考察します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、「イサクを殺す命令」や「教皇の任命権」を正当化する理由についてオッカムがどう考えたか、整理しておいて下さい。（2時間）
11	事前学習	前回配布したプリントに基づいて、オッカムが「使用の権能」についてどう考えたか、確認しておいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜「使用」と「所有」の法思想史 概観＞ オッカムが「清貧論争」において提示した解答を出発点として、アリストテレスやトマス等が「共通的な使用」についてどう考えていたか、逆走しながら検討します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、トマスとオッカムが「私的所有」と「緊急使用权」についてどう考えていたか、整理しておいて下さい。（2時間）
12	事前学習	前回配布したプリントに基づいて、グロティウスが「私的所有」についてどう考えたか、確認しておいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜グロティウスにおける「所有」と「正戦」＞ 16歳で弁護士になった早熟の天才グロティウスの「所有」論を出発点として、近世の始まりに生きた彼の「戦争」や「嘘」に関する見方の新しさについて検討します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、「嘘」と「悪」と「心裡留保」の関係について整理しておいて下さい。（2時間）
13	事前学習	「自殺」と「自死」の違いについて確認するとともに、江戸時代以前の日本で「自殺者」はどう扱われていたか調べてみて下さい。（2時間）
	授業内容	＜「死者」の法思想史＞ ヨーロッパ社会において、「死者」がどのように扱われてきたか、「自殺者」へのサンクションや「自殺」の原因論等に注目しながら、法思想史の立場から考察します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、「自殺者」の峻別について整理した上で、現代を生きるあなたが「自死」者とどう対するか考えてみて下さい。（2時間）
14	事前学習	前回配布したプリントに基づいて、西欧古代・中世において「異形なるもの」は「自然」の内部にいたか否か、確認しておいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜「異形」の法思想史＞ ヨーロッパ社会において、「異形なるもの」が法的にどのように扱われてきたか、アリストテレス、アウグスティヌス、フラクトン等を例に挙げて概観してみます。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、マルブランシュが「一般意志」と「自然の法」と「異形なるもの」をどう結びつけていたか、整理しておいて下さい。（2時間）
15	事前学習	重要な言葉の意味をしっかり確認して、各思想家が同じ素材をどう料理したか、その違いを整理して、試験に臨んで下さい。（2時間）
	授業内容	授業内試験及びこれまでの授業の振返りを行います。但し、履修者数等によって予定変更することもありますのでご注意ください。
	事後学習	試験でうまく答えられなかった箇所を見つめ直して下さい。（2時間）

科目名	法思想史 I	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	基礎法学としての法を考えると、法の歴史、法をどう見るか（正義論）、法に特有な思考方法などが主たるテーマであるが、それを法思想を通じて見るのがこの授業である。自然法論と法実証主義との対立、何を社会的な正義とみなすか、正当な手続きとはどのようなものか、といった視点から、法がどのように捉えられ、活用されてきたのか、そして現代的な諸課題にどう対応できるのかを考えていく。				
授業目的・到達目標	法的な正しさを論理的に示すためには、適切な材料を用いる必要がある。法思想はその宝庫である。国家、主権、正義論、民主主義等の問題と関連させながら、さまざまな法思想を確認し、幅広い見識を養成することを目的とする。法的な正しさについて考える際、どのような問題があり、それにどのような見方がありうるのかという基礎となる事項を理解し、相対立しあう見解をも踏まえた上で、より妥当と思われる見解を論理的に表現できるようにすることを、この授業の到達目標とする。対応DP及びCP：法律学科1、2				
履修条件	真摯な態度で授業に望むこと。授業内で議論をする際には、必ず発言すること。				
授業方法	講義形式を基本としつつ、一定のテーマを扱った後、それについて小レポートを作成してもらう。レポートは授業内で解説・講評し、さらに議論を進める材料とする。授業内で議論し合うこともある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	70%以上の出席を前提として、セメスター最後のレポート作成（50%）、及び授業内小レポートや参加態度（50%）により評価。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2016年	法律文化社	法思想の水脈 （シラバスではAと標記）		森村進編
	2010年	ミネルヴァ書房	はじめて学ぶ法哲学・法思想 （シラバスではBと標記）		竹下賢・角田猛之 他編
	備考				
参考書	深田三徳、濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』ミネルヴァ書房、2007年。				
オフィスアワー	火曜12時20分～12時50分、研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。 matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp 本館7階1713研究室				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	社会的な正しさと、法的な正しさとの異同を考えておく。教科書A0章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション 法思想史とはなにか
	事後学習	法思想史における様々なアプローチを大まかに整理し、法思想史を学ぶ意義を押さえておく。（2時間）
2	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの11～19ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	古代ギリシアの法思想1 ソクラテス、プラトン
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
3	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの19～26ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	古代ギリシアの法思想2 アリストテレス
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
4	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの2章を読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	神学的自然法論 トマス・アキナス
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）

5	事前学習	1～4回の内容について確認したうえで、教科書Bの40～51ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	なぜ責任を問えるのか？ アリストテレスとカントから
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
6	事前学習	前回までの内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの42～57ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	法の支配 クック、ベンサム、ミル
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
7	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの58～65ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	社会契約1 ホッブズ、ロック
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
8	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの66～73ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	社会契約2 ルソー
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
9	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの5章を読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	ドイツ観念論 カント、ヘーゲル
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
10	事前学習	6～9回の内容について確認したうえで、教科書Bの16～27ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	権利とは何か？ ホッブズとイエーリングから
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
11	事前学習	前回までの内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの96～122ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	概念法学 サヴィニー、プフタ、イエーリング
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
12	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの123～137ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	法社会学の形成 エールリッヒ、ウェーバー
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
13	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書の34～35ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	プラグマティズム ホームズ
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
14	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Bの205～218ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	価値相対主義の法哲学 ラートフルフ
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
15	事前学習	11～14回の内容について確認したうえで、教科書Bの89～102ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	法の支配とは何か ホッブズとロックから
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。全体を概観したうえで、どのような問題があったかを確認する。（2時間）

科目名	法思想史Ⅱ	担当者	井上 琢也	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	この講義では、西欧近世の「社会契約」論について深く掘り下げて考察します。「契約」ですから「当事者」や「目的物」について検討することがまず必要で、さらに自然法論、あるいは法や自由の捉え方等にも目配りする必要があるのですが、これらの厄介な作業を片付けた上で、臨床研修として、「敵」や「例外状態」といった問題群をカール・シュミットやアガンベン等に依拠しながら分析します。				
授業目的・到達目標	現在を考え語るためには過去の思想の蓄積と戯れることが不可欠であることに気づいてもらい、「自然権」や「人民」等の言葉を巡って陥りがちな誤解から脱出して自分自身を突き放して分析する力を養成することが、この授業の目的となります。古典的教養を宿命的に担うことになる法学徒として知るべき基礎概念の意味を正確に把握し、社会人として「外に開かれた」普遍の世界を生き抜いていく支えとなる法的語彙を豊富に身につけて、それらを操って、資格試験の短答問題等にも頻出する「社会契約」等の主題について確信をもって説明出来るようになることを目標とします。関連DP及びCP：法律学科1，2				
履修条件	特にありません。				
授業方法	授業時に配布するプリントに沿って、講義形式で行います。ノートをしっかりとってください。 授業内試験の講評を後日、ポータルシステムを通じて配信します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	15回目に実施予定の授業内試験で判定します。記述式説明問題を出題し、授業で言及した概念をどれだけ上手に使いこなせているかが主な評価基準となります。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用しません。			
参考書	田中・竹下等著『法思想史 第2版』有斐閣・2011；森村進編『法思想の水脈』法律文化社・2016 その他、授業で適宜紹介します。				
オフィスアワー	火曜日 16:10～16:20 授業講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	世界史の教科書等を参照して、ヨーロッパで「近世」と呼ばれる時代のイメージをつかんでおいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜インターミッション＞ この授業でどのようなことを話すか、「契約」という言葉に注目をして、早送りで紹介します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、「契約」という言葉がどんな意味で使われてきたか整理しておいて下さい。（2時間）
2	事前学習	「自然法」という言葉の意味を辞典やインターネット等で再度確認しておいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜グロティウスと近世自然法論＞ グロティウスの「自然法」論の「新しさ」を確認する作業を通じて、近世の法思想を検討するのに必要な全般的前提を皆さんに提供しようと思います。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、新旧の「自然法」論の違いについて整理しておいて下さい。（2時間）
3	事前学習	世界史の教科書等を参照して、ピューリタン革命前後のイングランドの状況をつかんでおいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜ホッブズと社会契約 総論（1）＞ ホッブズの「社会契約」論の基層にあるものについて、意志、理性等の概念に注目をして、彼の人間観、運動論にも留意しながら詳論してみます。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、「恐怖」を出発点として、ホッブズが人間をどう描こうとしたか整理しておいて下さい。（2時間）
4	事前学習	前回配布したプリントに基づいて、ホッブズが「自然法」や「自然権」をどう意味づけたか確認しておいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜ホッブズと社会契約 総論（2）＞ ホッブズの「社会契約」論を手がかりに、彼が法や自由についてどう考えてきたか、思想的伝統を踏まえて検討します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、契約の担い手や合一、代表等について、ホッブズがどのように捉えていたか整理しておいて下さい。（2時間）

5	事前学習	旧約聖書でモーセがどのように登場するか、確認しておいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜ホッブズと社会契約 各論＞ 聖書解釈等と関連づけられて進化し続けている、ホッブズ「社会契約論」に関する研究の最先端を、スピノザの思想等にも留意しながら紹介します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、「ホッブズ問題」や「主権的預言者」概念について、内容を整理しておいて下さい。（2時間）
6	事前学習	世界史の教科書等を参照して、名誉革命前後のイングランドの状況をつかんでおいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜ロックと社会契約（1）＞ ロックの「社会契約」論について、「自然的権力」や「固有権」等の語義を確認しながら考察します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、ロックが「自然権」「自然法」等の概念をどう意味づけていたか慎重に整理しておいて下さい。（2時間）
7	事前学習	前回配布したプリントに基づいて、ロックが「信託」という言葉をどのように使用したか確認しておいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜ロックと社会契約（2）＞ ロックの「社会契約」論を手がかりに、彼が法や自由についてどう考えていたか、ホッブズ等と比較しながら検討します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、ロックが「権力」をどう位置づけていたか整理しておいて下さい。（2時間）
8	事前学習	世界史の教科書等を参照して、ルソーが生きた18世紀フランスのイメージをつかんでおいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜ルソーと社会契約 総論（1）＞ ルソーが展開した歴史シミュレーションとしての『不平等起源論』を出発点として、「憐れみ」や「自己愛」等の概念に注目しながら、彼の「社会契約」論の基層にある人間観について検討します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、ルソーが提示した複数の「自然状態」について、内容を整理しておいて下さい。（2時間）
9	事前学習	前回配布したプリントに基づいて、ルソーが「一般意志」という言葉をどう意味づけていたか確認しておいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜ルソーと社会契約 総論（2）＞ ルソーの錯綜した「社会契約」論について、何を誰に渡すのか、自由とは何なのか、等の論点に留意しながら、慎重に検討します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、ルソーの「君の名は。」的な「社会契約」論において、個人と共同体が結んだ関係性について整理しておいて下さい。（2時間）
10	事前学習	前回配布したプリントに基づいて、ルソーが「立法者」や「共和国」についてどう考えていたか確認しておいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜ルソーと社会契約 各論＞ 伝統的思想に対するルソーの鋭敏な批判を手がかりに、近世「社会契約論」の整理を行い、「社会契約論」を巡る「知ったかぶり」を解消する格好の機会を提供します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、ルソーが「自然法」や「理性」に与えた複数の評価について整理しておいて下さい。（2時間）
11	事前学習	3回目や8回目等に配布したプリントに基づいて、ホッブズやルソーの「自然状態」論について復習しておいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜「敵をどう罰すればいいのか」という問いを巡る法思想史＞ 9/11以来賑やかになっている「対敵刑法」を巡る議論について、ホッブズ等に注目しながら歴史的観点も交え紹介します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、各思想家の「刑罰権」論、「戦争」論の違い等を整理しておいて下さい。（2時間）
12	事前学習	「緊急事態」等の言葉を巡ってどのような議論が存在するのか、憲法の教科書等を参照して確認しておいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜「例外状態にどう対すればいいのか」という問いを巡る法思想史＞ カール・シュミット等が構築した基本枠組を紹介しながら、現在を生きる皆さんが、「例外状態」を巡る議論について「決断」するための足場を提供します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、アガンベンがホッブズの「狼」概念に注目して展開した「例外状態」論について整理しておいて下さい。（2時間）
13	事前学習	前回配布したプリントに基づいて、ルソーが「独裁」についてどう考えていたか確認しておいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜「契約」と近代 展望＞ 近世の法思想家たちが「契約」一般をどう捉え直そうとしたかを確認して、近代社会における「契約」のあり方を展望します。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、ルソーやホッブズが社会契約において「獣や神」をどう位置づけたか、整理しておいて下さい。（2時間）
14	事前学習	3回目と4回目に配布したプリントに基づいて、ホッブズの「社会契約」論に登場する当事者について復習しておいて下さい。（2時間）
	授業内容	＜「社会契約」と現代 総括＞ 現代イタリアの思想家、アガンベンが提示する、ポップなホッブズ論を紹介しながら、「社会契約」論が現代につけている思想的挑戦状を読み解きます。
	事後学習	配布したプリント等に基づいて、ホッブズの「人民」概念について再度整理しておいて下さい。（2時間）
15	事前学習	重要な言葉の意味をしっかりと確認して、各思想家が同じ素材をどう料理したか、その違いを整理して、試験に臨んで下さい。（2時間）
	授業内容	授業内試験及びこれまでの授業の振り返りを行います。但し、履修者数等で予定変更することもありますのでご注意ください。
	事後学習	試験でうまく答えられなかった箇所を見つめ直して下さい。（2時間）

科目名	法思想史Ⅱ	担当者	松島 雪江	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	基礎法学としての法を考えると、法の歴史、法をどう見るか（正義論）、法に特有な思考方法などが主たるテーマであるが、それを法思想を通じて見るのがこの授業である。自然法論と法実証主義との対立、何を社会的な正義とみなすか、正当な手続きとはどのようなものか、といった視点から、法がどのように捉えられ、活用されてきたのか、そして現代的な諸課題にどう対応できるのかを考えていく。			
授業目的・到達目標	法的な正しさを論理的に示すためには、適切な材料を用いる必要がある。法思想はその宝庫である。国家、主権、正義論、民主主義等の問題と関連させながら、さまざまな法思想を確認し、幅広い見識を養成することを目的とする。法的な正しさについて考える際、どのような問題があり、それにどのような見方がありうるのかという基礎となる事項を理解し、相対立しあう見解をも踏まえた上で、より妥当と思われる見解を論理的に表現できるようにすることを、この授業の到達目標とする。対応DP及びCP：法律学科1，2			
履修条件	真摯な態度で授業に望むこと。授業内で議論をする際には、必ず発言すること。			
授業方法	講義形式を基本としつつ、一定のテーマを扱った後、それについて小レポートを作成してもらう。レポートは授業内で解説・講評し、さらに議論を進める材料とする。授業内で議論し合うこともある。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	70%以上の出席を前提として、セメスター最後のレポート作成（50%）、及び授業内小レポートや参加態度（50%）により評価。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年	法律文化社	法思想の水脈 （シラバスではAと標記）	森村進編
	2010年	ミネルヴァ書房	はじめて学ぶ法哲学・法思想 （シラバスではBと標記）	竹下賢・角田猛之 他編
	備考			
参考書	深田三徳、濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』ミネルヴァ書房、2007年。			
オフィスアワー	火曜12時20分～12時50分、研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。 matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp 本館7階1713研究室			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	法的な正しさと国家との関係について考えておく。参考書の2、3ページ及び46、47ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	後期オリエンテーション 法的妥当性と正義
	事後学習	正義と国家とがどのように関係しているのか、論点を整理しておく。（2時間）
2	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Bの77～88ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	国法学と立憲主義 1 イエリネク
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
3	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの138～152ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	国法学と立憲主義 2 天皇機関説
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
4	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの153～165ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	法実証主義 1 ケルゼン、シュミット
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）

5	事前学習	16～19回の内容について確認したうえで、教科書Bの28～39ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	法的な人格とは何か？ ケルゼンから
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
6	事前学習	前回までの内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの170～183ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	法実証主義 2 H.L.A. ハート
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
7	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの184～202ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	再生自然法論と法実証主義 ハート・フラー論争
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
8	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの203～216ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	正義論 1 ロールズ
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
9	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの138～152ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	正義論 2 ドゥオーキン
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
10	事前学習	20～24回の内容について確認したうえで、教科書Bの176～189ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	デモクラシーと多数決 ルソー、トクヴィルから
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
11	事前学習	前回までの内容について、事前に再度確認しておく。参考書の182～183ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	正義論 3 A. セン
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
12	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書Aの217～228ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	正義論 4 リパタリアニズム
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
13	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書の120～123ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	正義論 5 コミュニタリアニズム、フェミニズム
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
14	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書の124～125ページを読み、時代背景も把握しておく。（2時間）
	授業内容	正義論 6 多文化主義
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった個所は調べ、疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
15	事前学習	26～29回の内容について確認したうえで、教科書Bの251～262ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	自由の規制 ミルとバーリンから
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。全体を概観したうえで、どのような問題があったかを確認する。（2時間）

科目名	法情報学 I	担当者	水野 正	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	コンピュータネットワークやインターネットを通して、データベースを利用するなどし、法律学のレポートを作成するための情報、資料の収集を学ぶとともに、インターネットやコンピュータに関する諸問題とその法律関係を考える。			
授業目的・到達目標	授業目的 少なくとも法学部図書館から利用できるデータベースを通して、様々な情報を検索する。インターネット上に生ずる様々な問題を現行法を通してどのように解決できるのか、また現行法上の問題点を考え、諸問題の解決方法を正しく習得させること。 到達目標 データベース等の利用がスムーズに行えること。インターネット上の商取引の問題点を正しく理解し、解決の方向性を見出せるようになること。 関連DP及びCP 経営法学科1, 2, 5			
履修条件	特になし。			
授業方法	講義が中心となるが、講義の際に、コンピュータネットワークを利用して実際に情報にアクセスし利用する。必要な資料は、デジタルデータ形式で配布する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	定期試験は実施しない。
	平 常 評 価		100%	指定した課題について学期末にレポートを提出してもらい、それにより評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015年	有斐閣	インターネット法	松井・鈴木・山口
	備考	コンピュータ、インターネットに関する問題は多様で、このテキストに講義内容の全ての項目が記載されているわけではない。		
参 考 書	「情報ネットワークの法実務」第一法規			
オフィスアワー	授業終了後、講堂にて（授業時間：水曜2・3・4限） 事前にメールでアポイントを取ること E-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	コンピュータやインターネットに関する法的問題にはどのようなものがあるか事前に考えてみる。テキスト第1章を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	毎日の新聞にどのような事件として、記事として掲載されているかを読み、コンピュータやインターネット上で起こる問題と法の適用を整理する。(2時間)
2	事前学習	コンピュータ、インターネットを利用することでどのように時間を節約できるかを考えてみる。利用できるデータベースシステムを検索する。(2時間)
	授業内容	インターネットの概念とコンピュータの活用法
	事後学習	コンピュータ、インターネットを学習のために利用し、時間の節約、有効利用を実践してみる。図書館のデータベースを利用する。ネット上の翻訳ソフトを使用する。e-GOV法令検索を利用する。(2時間)
3	事前学習	コンピュータ、インターネットの利用がもたらす経済効果と情報の支配を考えてみる。参考書「情報ネットワークの法実務第8章15(デジタル経済社会の進展と競争政策)部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	デジタル経済社会の進展と競争政策
	事後学習	コンピュータ、インターネットがもたらす省資源化とプライバシーの関係を考え、その調和の妥協点を説明できるようにまとめる。(2時間)
4	事前学習	店舗での対面販売の際のクレジットカード決済について調べておくこと。テキスト第8章「1 電子商取引の支払いと決済の仕組み」、「6 クレジットカードをめぐる法的問題」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	電子決済 1 (クレジットカード決済)
	事後学習	通常の店舗でのクレジットカード決済とインターネットにおけるクレジットカード決済の違いを十分に理解し、説明できるようまとめる。(2時間)

5	事前学習	電子マネー、プリペイドカードとはどういうものなのか、自らが利用しているか調べておくこと。テキスト第8章「1 電子商取引の支払いと決済の仕組み」、「2 電子マネーをめぐる法的問題」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	電子決済2(電子マネー、プリペードカード)
	事後学習	電子マネー、プリペイドカードの法的保護について正しく理解し、説明できるようにまとめる。(2時間)
6	事前学習	マイレージやサービスポイントとはどういうものなのか？ 参考書「情報ネットワークの法実務第5章12(ポイントサービス)部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	サービスポイント制度の問題点
	事後学習	サービスポイントの法的性格を正しく理解し、電子マネーの保護との違いを説明できるようにまとめる。(2時間)
7	事前学習	インターネットオークションサイトに関わる事件を調べておくこと。テキスト「第7章電子契約をめぐる私法的な問題」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	インターネットオークションサイトの問題点
	事後学習	インターネットオークションサイトの主催者やサイトの責任について正しく理解し、説明できるようにまとめる。(2時間)
8	事前学習	盗品の譲渡について理解しておくこと。刑法256条以下、古物営業法について確認しておくこと。参考書「情報ネットワークの法実務第4章15(インターネット・オークションと古物営業法)部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	古物営業と盗品の譲渡
	事後学習	現実社会とインターネット上での取引との違いに関して、法の改正と適用の違いについて説明できるようまとめる。(2時間)
9	事前学習	インターネット上の取引に関して適用される法律である特定商取引法を事前に確認しておくこと。テキスト第7章「電子商取引と契約」を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	インターネット上での売買
	事後学習	法律に則った店舗であるか否かを見極めることができるよう、問題点を整理しまとめる。(2時間)
10	事前学習	マルチ商法、業務提携誘引販売取引について調べておくこと。参考書「情報ネットワークの法実務第4章6(ネットワーク上の悪質商法(1))部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	ネットワーク上の悪質商法
	事後学習	インターネットを利用することによる悪徳商法が行われやすいことを理解し、対策、問題点を説明できるようまとめる。(2時間)
11	事前学習	民法526条(隔地者間の契約の成立時期)および民法95条(錯誤)と、電子消費者契約及び電子承諾通知に関する民法の特例に関する法律の違いについて確認しておく。テキスト第7章4部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	電子消費者契約及び電子承諾通知に関する民法の特例に関する法律について。
	事後学習	民法の特例に関する法律がネット上の取引にどのように適用されているかを確認し、説明できるようにまとめる。(2時間)
12	事前学習	インターネット上のオークションサイトに同一商品を販売する店舗が多いのか考えてみる。参考書「情報ネットワークの法実務第4章20(アフィリエイトとドロップシッピング)部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	アフィリエイトとドロップシッピング
	事後学習	契約の当事者が誰であるのかを明確にし、契約について説明できるようにまとめる。(2時間)
13	事前学習	電話勧誘に関する法律(特定商取引法)と電気通信事業法を確認しておくこと。特定商取引法の参考書の「電話勧誘」の部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	電気通信事業者の電話勧誘行為
	事後学習	電話勧誘行為を規制する諸国との違いを知り、どのような規制が望ましいか、その考えをまとめる。(2時間)
14	事前学習	日頃、個人情報がどのように収集されているか調べておくこと。テキスト第11章「インターネット上の個人情報の保護」を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	個人情報の保護
	事後学習	わが国における個人情報の集中化とその利用、漏洩と自らの情報の管理と提供の状況を説明できるようにまとめる。(2時間)
15	事前学習	今学期のレポート課題ついて口頭で説明できるようにまとめる。(2時間)
	授業内容	今学期のレポート課題について解説する。
	事後学習	作成、提出したレポートが適切なものであったかを考え、不十分であった部分を補足するよう復習する。(2時間)

科目名	法情報学Ⅱ	担当者	水野 正	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	コンピュータネットワークやインターネットを通して、データベースを利用するなどし、法律学のレポートを作成するための情報、資料の収集を学ぶとともに、インターネットやコンピュータに関する諸問題とその法律関係を考える。				
授業目的・到達目標	授業目的 少なくとも法学部図書館から利用できるデータベースを通して、様々な情報を検索する。インターネット上に生ずる様々な問題を現行法を通してどのように解決できるのか、また現行法上の問題点を考え、諸問題の解決方法を正しく習得させること。 到達目標 データベース等の利用がスムーズに行えること。インターネット上の商取引の問題点を正しく理解し、解決の方向性を見出せるようになること。 関連DP及びCP 経営法学科1, 2, 5				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義が中心となるが、講義の際に、コンピュータネットワークを利用して実際に情報にアクセスし利用する。必要な資料は、デジタルデータ形式で配布する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%	定期試験は実施しない。	
	平常評価		100%	指定した課題について学期末にレポートを提出してもらい、それにより評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2015年	有斐閣	インターネット法		松井・鈴木・山口
	備考	コンピュータ、インターネットに関する問題は多様で、このテキストに講義内容の全ての項目が記載されているわけではない。			
参考書	「情報ネットワークの法実務」第一法規				
オフィスアワー	授業終了後、講堂にて（授業時間：水曜2・3・4限） 事前にメールでアポイントを取ること E-Mail: mizuno.tadashi@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	コンピュータやインターネットに関する法的問題にはどのようなものがあるか事前に考えてみる。例えば、毎日の新聞にどのような事件として、記事として掲載されているか見てみる。 (2時間)
	授業内容	ガイダンスと前期講義内容に関する質問と回答
	事後学習	コンピュータやインターネット上で起こる問題と現実世界で起こる問題の違いを説明できるようにまとめる。(2時間)
2	事前学習	ブログやフェイスブックのサイトを作成する際のソースの著作権は誰にあるのか考えてみる。
	授業内容	情報ネットワーク利用に関する著作権
	事後学習	公衆送信権と複製の私的使用の違いを正しく理解し、それを説明できるようにまとめる。(2時間)
3	事前学習	書籍のデジタル化に関して、最高裁平成23年1月20日第一小法廷判決を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	自炊と著作物の私的利用
	事後学習	書籍のデジタル化に関し、代行業者に依頼する場合と自ら行う場合の違いを理解し、説明できるようにまとめる。(2時間)
4	事前学習	物品の購入と所有権について知識を確認しておくこと。最判平成14年4月25日を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	ソフトウェアの利用許諾
	事後学習	利用許諾契約と売買契約の違いについて正しく理解し、説明できるようにまとめる。(2時間)

5	事前学習	電子メールのモニタリングやGPS機能を利用した位置情報の取得が許される場合と許されない場合を考える。参考書「情報ネットワークの法実務第7章15(IT機器を利用した従業員の監視の在り方)」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	情報通信装置を利用した従業員の監視
	事後学習	種々のケースに当てはめ、プライバシーの保護の境界線を考え説明できるようにまとめる。(2時間)
6	事前学習	仮想通貨を利用するメリット、デメリットを調べておくこと。テキスト第8章7(仮想通貨をめぐる法的問題) 部分を読んでおく。(2時間)
	授業内容	仮想通貨の諸問題
	事後学習	仮想通貨が主流となった場合のメリット、デメリットを比較して説明できるようまとめる。(2時間)
7	事前学習	検索エンジンを利用する際に表示される検索語や結果の要約と著作権、名誉毀損との関係を確認する。テキスト第11章(インターネット上の個人情報の保護) 部分を読んでおく。(2時間)
	授業内容	検索エンジンの問題点
	事後学習	検索結果が諸権利を侵害しない理由を説明できるようにまとめる。(2時間)
8	事前学習	最高裁H29年12月6日判決を読んでおく。(2時間)
	授業内容	放送受信料制度をめぐる問題点。
	事後学習	NHKに放送受信料を支払わなくてよい場合、諸外国の公共放送とを比較して説明できるようまとめる。(2時間)
9	事前学習	コンサートチケットの高額転売は許されるのか考える。不正転売規制法について検索し、その趣旨を理解しておく。(2時間)
	授業内容	コンサートチケットの転売、現金の販売の問題点
	事後学習	コンサートチケットの転売の有効な対策はあるのか、主催者側、消費者側の立場から説明できるようまとめる。(2時間)
10	事前学習	ポケモンGOの社会現象がもたらした法的な問題点を考える。刑法61条、62条、未必の故意、概括的故意について刑法のテキストを読んでおく。(2時間)
	授業内容	ポケモンGOの法的諸問題
	事後学習	法の解釈、適用の範囲を考え、(例えば、教唆、幫助)各法条が適用できるのか説明できるようにまとめる(2時間)。
11	事前学習	顔認証システムはどのように利用されているか確認すること。参考書「情報ネットワークの法実務第7章6(バイオメトリクス個人認証)」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	バイオメトリクス個人認証
	事後学習	バイオメトリクス情報の利用とプライバシー侵害の境界線を説明できるようにまとめる。(2時間)
12	事前学習	IoTの意味を調べ、問題点を考える。参考書「情報ネットワークの法実務第7章17(IoTの法的課題)」部分を読んでおくこと。(2時間)
	授業内容	IoTの法的課題
	事後学習	IoTにより集積されるデータの保護とプライバシーの保護を比較し説明できるようにまとめる。(2時間)
13	事前学習	インターネットにおける自主規制の必要性について調べる。テキスト第2章「インターネットにおける表現の自由」部分を読んでおく。(2時間)
	授業内容	検索エンジンサイト、プロバイダー、SNS等の自主規制
	事後学習	インターネットとは何なのかを再考して、規制の要否を考え十分な説明ができるようまとめる。(2時間)
14	事前学習	コルネットのIDやパスワードを友人に使わせると、違法か否か考える。テキスト第9章4「ネットワークセキュリティキーの保護」部分を読んでおく。(2時間)
	授業内容	不正アクセス禁止法の諸問題
	事後学習	不正アクセス行為が国により違うことを理解し、その理由を説明できるようにまとめる。(2時間)
15	事前学習	今学期のレポート課題ついて口頭で説明できるようにまとめる。(2時間)
	授業内容	今学期のレポート課題について解説する。
	事後学習	作成、提出したレポートが適切なものであったかを考え、不十分であった部分を補足するよう復習する。(2時間)

科目名	法哲学 I	担当者	西村 清貴	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	法哲学は、哲学的知見を用いて、法という現象をより深く理解することを目的とする学問である。法哲学Iでは、古代から19世紀頃までの代表的な(法)哲学者の見解を取り上げ、彼らが法をどのように理解していたかを確認する。				
授業目的・到達目標	受講生が法哲学における基本的諸概念を十分に使いこなせる能力を養成することを目的とする。実定法をより深くするための基礎的知識を習得するとともに、法学において用いられる権利、自由、正義といった諸概念についてその背景的思想を含めて受講者が理解し、説明できるようになることを目標とする。 関連DPおよびCP:法律学科1,2				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式で行う。レジュメを配布する。小テストにつき、実施した次の週において返却・講評を行う予定である				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	講義で示した法哲学の基本的知識が身についているかを確認する。 論述試験を予定している。	
	平常評価		20%	小テストを行う。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。			
参考書	瀧川裕英/宇佐美誠/大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年) 深田三徳/濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』(ミネルヴァ書房、2015年)				
オフィスアワー	木曜17:50～ 授業終了後の講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと (2時間)
	授業内容	授業・評価の方法と前期の概要
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること (2時間)
2	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと (2時間)
	授業内容	古代ギリシアの法思想(1):ソクラテス、プラトンの法思想を見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること (2時間)
3	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと (2時間)
	授業内容	古代ギリシアの法思想(2):アリストテレスの法思想を見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること (2時間)
4	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと (2時間)
	授業内容	中世の法思想:トマス・アクィナスの自然法論を見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること (2時間)

5	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	社会契約論(1)：トマス・ホッブズの社会契約論を見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
6	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	社会契約論(2)：ジョン・ロックの社会契約論を見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
7	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	社会契約論(3)：J・J・ルソーの社会契約論を見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
8	事前学習	質疑応答の時間を設けるため、不明な点等について質問する用意をすること（2時間）
	授業内容	ここまでの振り返りと小テスト
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
9	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	カントの法思想(1)：イマニエル・カントの道徳思想を見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること。また、返却された小テストの見直しをすること（2時間）
10	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	カントの法思想(2)：イマニエル・カントにおける法と道徳の関係について見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
11	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	ヘーゲルの法思想：G・W・F・ヘーゲルの法思想をみる
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
12	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	歴史法学の法思想(1)：サヴィニーの法典編纂反対論を見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
13	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	歴史法学の法思想(2)：サヴィニーの実定法論を見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
14	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	歴史法学後の法思想：概念法学や自由法論を見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
15	事前学習	質疑応答の時間を設けるため、不明な点等について質問する用意をすること（2時間）
	授業内容	ここまでの振り返りと質疑応答
	事後学習	講義の復習を行っておくこと（2時間）

科目名	法哲学 I	担当者	松島 雪江	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現在ある法的ルールを、条文解釈とは異なる方向から観察しようとする試みが本授業である。一定の法的問題を実社会での課題と結びつけながら具体的に見ていく中で、法的ルールの妥当性根拠を根源的に追求し、その正当性を問いながら、そこに含まれる法的思考や法思想を検討していく。				
授業目的・到達目標	既存のルールに対して、問題の所在を発見し、多角的な見地からその規範が存在する意味を見出し、かつ批判的に考察できるようにすることを本授業の目的とする。 そのようにして理解した内容を、論理的に説明できるようになることが到達目標である。 対応DP及びCP：法律学科 1， 2				
履修条件	履修条件はないが、法思想史と併せて受講するとより理解が深まる。				
授業方法	講義形式を基本としながら、授業内でディスカッション、レポート作成等を行う。レポートは授業内で解説・講評し、さらに議論を深める材料とする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	70%以上の出席を前提に、セメスター最後に行う筆記試験による評価（50%）に加え、発言や質問、授業内レポート等、授業への参加内容による評価（50%）。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2016年	法律文化社	問いかける法哲学		瀧川裕英編
	備考				
参考書	竹下賢他編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』ミネルヴァ書房、2010年。 深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』ミネルヴァ書房、2011年。				
オフィスアワー	火曜12時20分～12時50分、研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。 matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp 本館 7 階1713研究室				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	法とは何か、正義とは何かについて自分の考えをまとめておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』の46・47ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション 法とは何か？
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
2	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の1章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	ドーピングは禁止すべきか？ 1 ドーピングをめぐる状況
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
3	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』90、91ページ及び156ページ「パターナリズムの拒絶と自己責任」を読んでおく。（2時間）
	授業内容	ドーピングは禁止すべきか？ 2 パターナリズムとフェアプレイ
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
4	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の2章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	自分の臓器を売ることとは許されるべきか？ 1 自己所有権の意義と正当化
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）

5	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』194、195ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	自分の臓器を売るとは許されるべきか？2 ドゥオーキン、ノージックに見る権利概念
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
6	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の3章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	犯罪者を薬物で改善して良いか？1 化学的去勢、刑罰の条件
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
7	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』88、89ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	犯罪者を薬物で改善して良いか？2 ミルの危害原理
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
8	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の4章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	ダフ屋を規制すべきか？1 法規制の根拠
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
9	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』104～107ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	ダフ屋を規制すべきか？2 功利主義
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
10	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の5章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	チンパンジーは監禁されない権利を持つか？1 動物の権利
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
11	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』164～165ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	チンパンジーは監禁されない権利を持つか？2 自然の権利訴訟
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
12	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の6章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	女性専用車両は男性差別か？1 差別はなぜ許されるのか？/許されないのか？
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
13	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』122、123ページ及び132、133ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	女性専用車両は男性差別か？2 フェミニズムと人権の普遍性
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
14	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の7章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	同性間の婚姻を法的に認めるべきか？1 婚姻は私事か公事かー婚姻の法的制度化
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
15	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』120～121ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	同性間の婚姻を法的に認めるべきか？2 サンデル
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）

科目名	法哲学Ⅱ	担当者	西村 清貴	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	法哲学は、哲学的知見を用いて、法という現象をより深く理解することを目的とする学問である。 法哲学Ⅱでは、法とはなにかを取り扱う法概念論および法とはなにであるべきかを取り扱う正義論の議論を確認する。					
授業目的・到達目標	受講生が法哲学における基本的諸概念を十分に使いこなせる能力を養成することを目的とする。 実定法をより深くするための基礎的知識を習得するとともに、法学において用いられる権利、自由、正義といった諸概念についてその背景的思想を含めて受講者が理解し、説明できるようになることを目標とする。 関連DPおよびCP:法律学科1, 2					
履修条件	法哲学Iと併せて受講することが望ましいが、必須条件ではない。					
授業方法	講義形式で行う。レジュメを配布する。小テストにつき、実施した次の週において返却・講評を行う予定である。。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		80%		講義で示した法哲学の基本的知識が身についているかを確認する。 論述試験を予定している。	
	平常評価		20%		小テストを行う。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	後期開講時までに刊行予定の教科書を用いる可能性がある。 詳細は開講時に指示する。				
参考書	瀧川裕英/宇佐美誠/大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年） 深田三徳/濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2015年）					
オフィスアワー	木曜17：50～ 授業終了後の講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと（2時間）
	授業内容	授業・評価の方法と全体の概要
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
2	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	ケルゼンの法思想(1)：ハンス・ケルゼンにおいて法と道徳がどのように区別されているかを見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
3	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	ケルゼンの法思想(2)：ケルゼンにおいて法が正しいといえるのはどのような場合であるかを見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
4	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	ナチスの法思想：ナチスドイツにおいていかなる法思想が存在していたかを見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）

5	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	再生自然法論:ナチスに対する反省ののち、戦後現れた再生自然法論を見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
6	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	ハートの法思想(1):法を社会的ルールとして見るH・L・A・ハートの議論を見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
7	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	ハートの法思想(2):法というルールが道徳というルールとどこが違うのかを見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
8	事前学習	質疑応答の時間を設けるため、不明な点等について質問する用意をすること（2時間）
	授業内容	ここまでの振り返りと小テスト
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
9	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	ドゥオーキンの法思想:ロナルド・ドゥオーキンの法解釈論を見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
10	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	リベラリズムの法思想(1):前期ジョン・ロールズの思想を見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
11	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	リベラリズムの法思想(2):後期ジョン・ロールズの思想を見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
12	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	リバタリアニズムの法思想(1):ロバート・ノージックの自己所有権論論を見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
13	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	リバタリアニズムの法思想(2):ロバート・ノージックの最小国家論を見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
14	事前学習	事前に配布するレジュメによって不明点を確認しておくこと（2時間）
	授業内容	コミュニタリアニズムの思想:マイケル・サンデルの思想を見る
	事後学習	レジュメおよびノートに基づいて内容を確認すること。講義で紹介した文献について確認すること（2時間）
15	事前学習	質疑応答の時間を設けるため、不明な点等について質問する用意をすること（2時間）
	授業内容	ここまでの振り返りと質疑応答
	事後学習	講義の復習を行っておくこと（2時間）

科目名	法哲学Ⅱ	担当者	松島 雪江	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現在ある法的ルールを、条文解釈とは異なる方向から観察しようとする試みが本授業である。一定の法的問題を実社会での課題と結びつけながら具体的に見ていく中で、法的ルールの妥当性根拠を根源的に追求し、その正当性を問いながら、そこに含まれる法的思考や法思想を検討していく。				
授業目的・到達目標	既存のルールに対して、問題の所在を発見し、多角的な見地からその規範が存在する意味を見出し、かつ批判的に考察できるようにすることを本授業の目的とする。 そのようにして理解した内容を、論理的に説明できるようになることが到達目標である。 対応DP及びCP：法律学科1，2				
履修条件	履修条件はないが、法思想史と併せて受講するとより理解が深まる。				
授業方法	講義形式を基本としながら、授業内でディスカッション、レポート作成等を行う。レポートは授業内で解説・講評し、さらに議論を深める材料とする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	70%以上の出席を前提に、セメスター最後に行う筆記試験による評価（50%）に加え、発言や質問、授業内レポート等、授業への参加内容による評価（50%）。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016年	法律文化社		問いかける法哲学	瀧川裕英編
	備考				
参考書	竹下賢他編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』ミネルヴァ書房、2010年。 深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』ミネルヴァ書房、2011年。				
オフィスアワー	火曜12時20分～12時50分、研究室にて。事前にメールで訪問につき連絡をして下さい。 matsushima.yukie@nihon-u.ac.jp 本館7階1713研究室				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	正義とは何か、これまでに正義観はどのように把握されてきたのかを整理する。参考書94～101ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション 法的な正しさの作られ方
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
2	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の8章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	相続制度は廃止すべきか？1 相続制度の存在理由
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
3	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』108～111ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	相続制度は廃止すべきか？2 ロールズの格差原理
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
4	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の9章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	児童手当は独身者差別か？1 児童手当の意義、善に対する正義の優位
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）

5	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』96、97ページ及び120、121ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	児童手当は独身者差別か？2 リベラリズムとコミュニタリアニズム
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
6	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の10章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	年金は世代間の助け合いであるべきか？1 世代間正義
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
7	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』144、145ページ及び183ページ「センの潜在能力アプローチ」を読んでおく。（2時間）
	授業内容	年金は世代間の助け合いであるべきか？2 法と経済学、財・資源・潜在能力の平等
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
8	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の12章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	女性議席を設けるべきか？1 議会の正統性
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
9	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』166～167ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	女性議席を設けるべきか？2 ポジティブ・アクション
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
10	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の13章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	悪法に従う義務はあるか？1 自然法論と法実証主義
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
11	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』48～53ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	悪法に従う義務はあるか？2 ラートブルフ、ハート、フラー
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
12	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の14章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国家は廃止すべきか？1 最小国家論、国家民営化論
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
13	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』112～117ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	国家は廃止すべきか？2 ハイエク、ノージック
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
14	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。教科書の15章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際社会に法は存在するか？1 民族紛争・大量虐殺を裁けるか？
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）
15	事前学習	前回の内容について、事前に再度確認しておく。参考書『よくわかる法哲学・法思想』176～185ページを読んでおく。（2時間）
	授業内容	国際社会に法は存在するか？2 文化相対主義とグローバル・ジャスティス
	事後学習	授業内容を見直し、ノートを整理しておく。理解が十分でなかった箇所や疑問に思った箇所はそれについて調べ、さらなる疑問点は質問できるようにしておく。（2時間）

科目名	法律外国語A I【経営法学科】	担当者	平野 英則	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	-----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際化が加速する今日において、企業の国際法務部門で英文契約書の理解および作成に必要とされる法律外国語に特有な表現などを学習します。 また、受講する学生の大半が1年生および2年生であることから、法律関係の理解をするために必要とされる基本的な解説も行ったうえで、学習します。				
授業目的・到達目標	この授業は、企業の国際法務部門における英文契約書の理解および作成に必要とされる法律外国語に特有な表現などを修得することを目的とし、実務でも活用できるようになることを目標とする。 関連DPおよびCP：法律学科1,6 経営法学科1,6				
履修条件	特になし。				
授業方法	講師による講義および学生との質疑応答により、学生の理解度を確認する方法で授業を行う。また、理解度確認テストについては、次の講義時に答案を返却し、解説をおこなう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	前期に3回の理解度確認テストを授業内に実施するとともに、前期末に論述式の授業内試験を行い、総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2014年	文眞堂		『現代国際商取引－よくわかる理論と実務－』	亀田尚己編著 平野英則ほか著
	備考				
参考書	飯田勝人訳『ICC 荷為替信用状に関する統一規則および慣例（UCP600）』国際商業会議所日本支部				
オフィスアワー	講義が質疑応答方式で行われることから、学生からの質問および相談は、授業内（火曜3時限）に書面または口頭にて受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の該当箇所の事前精読（2時間）
	授業内容	信用状の意義と機能（講義の導入）
	事後学習	教科書の該当箇所および講義内容の復習（2時間）
2	事前学習	教科書の該当箇所の事前精読（2時間）
	授業内容	貿易取引の概要（国際商取引のあらまし）
	事後学習	教科書の該当箇所および講義内容の復習（2時間）
3	事前学習	教科書の該当箇所の事前精読（2時間）
	授業内容	支払いの方法（前払い送金、後払い送金）
	事後学習	教科書の該当箇所および講義内容の復習（2時間）
4	事前学習	教科書の該当箇所の事前精読（2時間）
	授業内容	支払いの方法（支払渡し、引受渡し）
	事後学習	教科書の該当箇所および講義内容の復習（2時間）

5	事前学習	教科書の該当箇所の事前精読（2時間）
	授業内容	支払いの方法（信用状による決済 - その1：信用状の利用目的）
	事後学習	教科書の該当箇所および講義内容の復習（2時間）
6	事前学習	教科書の該当箇所の事前精読（2時間）
	授業内容	支払いの方法（信用状による決済 - その2：信用状取引の概要と特徴）
	事後学習	教科書の該当箇所および講義内容の復習（2時間）
7	事前学習	信用状統一規則の適用範囲（1条）の事前精読および事前配付レジュメに記載の重要法律用語の和訳・重要事項の事前まとめ（2時間）
	授業内容	信用状統一規則の適用範囲（1条）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
8	事前学習	信用状統一規則における定義（2条）の事前精読および事前配付レジュメに記載の重要法律用語の和訳・重要事項の事前まとめ（2時間）
	授業内容	信用状統一規則における定義（2条）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
9	事前学習	信用状統一規則における解釈（3条）の事前精読および事前配付レジュメに記載の重要法律用語の和訳・重要事項の事前まとめ（2時間）
	授業内容	信用状統一規則における解釈（3条）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
10	事前学習	信用状の独立抽象性（4条）（その1）の事前精読および事前配付レジュメに記載の重要法律用語の和訳・重要事項の事前まとめ（2時間）
	授業内容	信用状の独立抽象性（4条）（その1：独立抽象性の意義）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
11	事前学習	信用状の独立抽象性（4条）（その2）の事前精読および事前配付レジュメに記載の重要法律用語の和訳・重要事項の事前まとめ（2時間）
	授業内容	信用状の独立抽象性（4条）（その2：独立抽象性の制度目的）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
12	事前学習	書類取引の原則（5条）の事前精読および事前配付レジュメに記載の重要法律用語の和訳・重要事項の事前まとめ（2時間）
	授業内容	書類取引の原則（5条）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
13	事前学習	事前配付のレジュメの事例に基づく事前解答の作成（2時間）
	授業内容	事例研究（貿易代金の3つの決済方法のメリットとデメリット）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
14	事前学習	前期の講義における疑問点の事前取りまとめ（2時間）
	授業内容	前期講義内容の総括と質疑応答
	事後学習	前期講義内容の総括と質疑応答内容の復習（2時間）
15	事前学習	前期講義内容の全体的復習（2時間）
	授業内容	前期末試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	自己の解答の確認（2時間）

科目名	法律外国語AⅡ【経営法学科】	担当者	平野 英則	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	国際化が進展する企業において、法務部門で英文契約書等を理解ために、また、契約書を作成するうえで必要とされる法律外国語を学習します。 なお、この授業の受講生の大半がこれから専門科目を履修する予定の1年生および2年生であることから、必要に応じて法律関係の基本的な解説も行ったうえで、学習します。					
授業目的・到達目標	法律外国語の基本的な知識の修得を目的として、貿易代金の決済に用いられる信用状に関する統一規則の英語による条文の精読を通じて、信用状に関する法律関係を解説する。法律英語における重要な単語や慣用句の言い回しを修得するとともに、信用状取引の基本的な法律構造を理解し説明できることを目標とする。 関連DPおよびCP：法律学科1,6 経営法学科1,6					
履修条件	法律外国語AⅠを履修済みであること。					
授業方法	事前配付のレジュメに基づき、講師による講義および学生との質疑応答により、理解度を確認する方法で授業を行う。 なお、理解度確認テストについては、次回の講義で答案を返却し、解説を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%		後期に3回の理解度確認テストを授業内に実施するとともに、後期末に論述式の授業内試験を行い、総合的に評価する。	
	平常評価		100%			
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2014年	文眞堂		『現代国際商取引－よくわかる理論と実務－』		亀田尚己編著 平野英則ほか著
	備考					
参考書	飯田勝人訳『ICC 荷為替信用状に関する統一規則および慣例（UCP600）』国際商業会議所日本支部					
オフィスアワー	講義が質疑応答方式で行われることから、学生からの質問および相談は、授業内（火曜3時限）に書面または口頭にて受け付ける。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	信用状の利用可能性、有効期限および呈示地（6条）の事前精読および事前配付レジュメの重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめ（2時間）
	授業内容	講義の導入 信用状の利用可能性、有効期限および呈示地（6条）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
2	事前学習	発行銀行の約束（7条）（その1）の事前精読および事前配付レジュメの重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめ（2時間）
	授業内容	発行銀行の約束（7条）（その1：発行銀行の約束の内容）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
3	事前学習	発行銀行の約束（7条）（その2）の事前精読および事前配付レジュメの重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめ（2時間）
	授業内容	発行銀行の約束（7条）（その2：発行銀行の約束の成立時期およびその効力の発生時期）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
4	事前学習	確認銀行の約束（8条）（その1）の事前精読および事前配付レジュメの重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめ（2時間）
	授業内容	確認銀行の約束（8条）（その1：確認銀行の約束の内容）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）

5	事前学習	確認銀行の約束（8条）（その２）の事前精読および事前配付レジュメの重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめ（2時間）
	授業内容	確認銀行の約束（8条）（その２：発行銀行の約束の成立時期およびその効力の発生時期）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
6	事前学習	指定（12条）の事前精読および事前配付レジュメの重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめ（2時間）
	授業内容	指定（12条）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
7	事前学習	書類点検の標準（14条）、充足した呈示（15条）の事前精読および事前配付レジュメの重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめ（2時間）
	授業内容	書類点検の標準（14条）、充足した呈示（15条）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
8	事前学習	ディスクレパンシーのある書類、権利放棄（16条）（その１）の事前精読および事前配付レジュメの重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめ（2時間）
	授業内容	ディスクレパンシーのある書類、権利放棄（16条）（その１：ディスクレパンシーの意義）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
9	事前学習	ディスクレパンシーのある書類、権利放棄（16条）（その２）の事前精読および事前配付レジュメの重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめ（2時間）
	授業内容	ディスクレパンシーのある書類、権利放棄（16条）（その２：ディスクレパンシーに基づく支払拒絶の方法）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
10	事前学習	書類の有効性等に関する免責（34条）の事前精読および事前配付レジュメの重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめ（2時間）
	授業内容	書類の有効性等に関する免責（34条）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
11	事前学習	伝送および翻訳に関する銀行の免責（35条）（その１の事前精読および事前配付レジュメの重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめ（2時間）
	授業内容	伝送および翻訳に関する銀行の免責（35条）（その１：銀行免責の制度趣旨）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
12	事前学習	伝送および翻訳に関する銀行の免責（35条）（その２）の事前精読および事前配付レジュメの重要な法律用語の和訳および重要事項の事前取りまとめ（2時間）
	授業内容	伝送および翻訳に関する銀行の免責（35条）（その２：書類紛失をめぐる各当事者の権利義務関係）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
13	事前学習	事前に後期の講義内容を踏まえた総合的な事例研究問題を配付するので、それに対する事前解答の準備（2時間）
	授業内容	事例研究（書類紛失をめぐる各当事者の権利義務関係など）
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
14	事前学習	後期の講義内容で疑問な点についての事前取りまとめ（2時間）
	授業内容	後期の講義内容の総括と質疑応答
	事後学習	講義内容の復習（2時間）
15	事前学習	後期講義の全体体的な復習（2時間）
	授業内容	後期末試験及びまとめ、振り返り
	事後学習	解答内容の確認（2時間）

科目名	法律外国語B I	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	前期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	アメリカ法（憲法・不法行為法・財産法・契約法）の代表判例を用い、その判決要旨を解説する。尚、全ての講義は、英語にて実施するが、極めて重要な箇所は、日本語と英語にて解説を行う。					
授業目的・到達目標	憲法・不法行為法・財産法・契約法の法域で用いられている法律英語の意味を理解し、それらの用語を用いて受講者同士で、英語にて法的な論点について英語で会話できることを目標とし、後期開講の法律外国語BIIを合わせて、授業終了後には、米国のロースクールに入学しても講義についていくことができ、最終的に、米国人弁護士とリーガル・ディベートを行いうる人材を育成することを目的とする。					
履修条件	関連DP及びCP:法律学科1、6 経営法学科1、2、6 特に無いが、法律外国語Aや米国の法の授業を受講済み又は受講中であることが望ましい。また、英語での講義を予定しているの、ある程度の英語力が必要である。					
授業方法	講義形式と演習形式の融合。講義は基本的に英語で行い。受講者は、教員から与えられた事例を読み、事実関係・争点・判決概要を英語で発表する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		レポートの提出、授業への参加度により評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	教科書は使用しない				
参考書	判例要約を受講者に配布する。及び、教員の作成したレジメを基に講義をすすめる					
オフィスアワー	火曜日の12:10-1:00に、9号館（9408）研究室にて対応する。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前に配布する資料（判例要旨及びレジメ）の米国憲法 Article I - III に該当する箇所を読んでおく。(1時間)
	授業内容	Orientation & Constitutional Law(1) 米国憲法が規定する政府の3つのブランチ（立法権、執行権、司法権）について説明する。
	事後学習	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。(1時間)
2	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。(1時間) Marbury v. Madison, 5 U.S. 137 (1803) United State v. Nixon, 418 U.S. 683 (1803)
	授業内容	Constitutional Law(2) 連邦議会が制定する連邦法が合衆国憲法に違反した場合の最高裁の違法立法審査権に有無に関する上記判例を用いて解説するとともに、大統領もまた法の支配に服することをNIXON事件を用いて解説する
	事後学習	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。(1時間)
3	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。(1時間) Roe v. Wade, 410 U.S. 113 (1973) Lawrence v. Texas, 539 U.S. 558 (2003) Washington v. Glucksberg, et al
	授業内容	Constitutional Law (3) 米国修正憲法で規定する権利章典について解説する。特に、手続的デュー・プロセスや実体的デュー・プロセスを講義した後、基本的な権利として中絶に関する権利や同性婚、死ぬ権利などについて解説する。
	事後学習	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。(1時間)

4	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） New York Times v. Sullivan, 376 U.S. 254 (1964)) Dred Scott v. Stanford, 60 U.S. 393 (1857)
	授業内容	Constitutional Law (4) 米国修正憲法で規定する権利章典について解説する。特に、表現や結社の自由、出版の自由などを名誉棄損との関係で解説する。また、平等による保護と黒人差別について米国での流れについて解説する。まずは、奴隷の開放について解説する。
	事後学習	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
5	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） Plessy v. Ferguson, 163 U.S. 537 (1896) Brown v. Board of Education, 347 U.S. 483 (1954)
	授業内容	Constitutional Law (5) 米国修正憲法で規定する権利章典について解説する。特に、奴隷の開放から平等による保護と黒人差別について上記判例を用いて解説する。
	事後学習	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
6	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） Van Camp v. McAfoos, 261 Iowa 1124 (1968) Garratt v. Dailey, 46 Wn.2d 197(1955) Coblyn v. Knnedy’ s Inc, 359 Mass. 319 (1971)
	授業内容	Torts Law(1) 子供による不法行為の責任、故意による不法行為の成立要件、故意による不法行為(1)：暴行及び不法監禁について解説する。
	事後学習	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
7	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） Katko v. Briney, 183 N.W. 2d 657 (1971) Wilkinson v. Downton, 2 Q.B. 57 (1897) ※イギリス判決
	授業内容	Torts Law(2) 故意による不法行為(2)：不法侵入、土地又は動産への不法侵害、精神的加害による故意の迷惑行為について解説する。
	事後学習	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
8	事前学習	過失による不法行為に関する箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間）
	授業内容	Torts Law(3) 過失による不法行為の要件（4要件）を解説する。即ち、 a. Duty of care, b. Breach of this duty by negligence, c. Actual damages, d. Causationを判例を用いで確認する。
	事後学習	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
9	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） Byrne v. Boadle, 2 H. & C. 722(1863) ※イギリス判決 Summers v. Tice, 33 Cal. 2d 80 (1948)
	授業内容	Torts Law(4) 過失による不法行為の各要件に関する意味を判例を用いで確認する。特に、過失推定論については、Res Ipsa Loquiturという言葉で表現されるので、その意味を十分理解する。
	事後学習	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
10	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） Lee v. Crookston Coca-Cola Bottling Co, 290 Minn. 321(1971) Gehrts v. Batteen, 620 N.W. 2d 775(S.D.2001)
	授業内容	Torts Law(5) 製造物責任及び動物の不法行為に関する米国での取り扱いを題材に講義を行う。
	事後学習	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
11	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） Lucy v. Zehmer, 196 Va 493(Va.1954) ProCD, Inc v. Zeidenberg, 96 F.3d 1447(7th Cir. 1996) Mills v. Wyman, 20 Mass. 207(Mass. 1825)
	授業内容	Contract Law(1) 契約法の概略、契約法を管理する法律を解説した後、契約の種類、契約の成立について講義する。特に、契約の成立には、米国特有のConsideration（約因）が必要であるため、判例を用いて、約因の有無で効力が異なることを理解する。また、Shrinkwrap Licenseも学ぶ。
	事後学習	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
12	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） Webb v. McGowin, 27 Ala.App. 82(Ala.App. 1935) Mitchill v. Lath, 247 N.Y. 377 (N.Y. 1928) Taylor v. Caldwell, 3 Best & S. 826(1863)
	授業内容	Contract Law(2) 契約の成立で重要な相互合意の成立とはどういうことか、また、Parol Evidence Ruleとななにか、契約成立に対する抗弁にはどのようなものがあるかについて学ぶ。
	事後学習	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）

13	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） Jacob & Young v. Kent, 230 N.Y. 239(N.Y. 1921) Walker & Co. v. Harrison, 347 Mich. 630(Mich. 1957) Hadley v. Baxendale, 9 Exch. 341(1854)
	授業内容	Contract Law(3) 義務の放免、契約違反をした場合の救済について講義する。
	事後学習	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
14	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） Johnson v. M’ Intosh, 21 U.S. 543(1823) Armory v. Delamirie, 1 Strange 505(1722) McAvov v. Medina, 93 Mass 548(1866)&Mannillo v. Gorski, 54 N.I. 378(1969)
	授業内容	Property Law(1) 財産権法の概要について説明した後、財物の取得（時効取得を含む）について講義する。
	事後学習	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
15	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） Swartzbaugh v. Sampson, et al, 11 Cal App.2d 451(1936) In re Marriage of Graham, 574 P.2d 75(1978) Berg v. Wiley, 264 N.W.2d 145(Minn1978)
	授業内容	Property Law(2) 不動産法で重要な、Joint Tenancy, the tenancy by the entirety, the tenancy in common を講義する。 また、課題レポートの簡単な説明を受講者が行い、教員が解説を行う。
	事後学習	自己がまとめた課題レポートにおいて言及が足りなかった部分について、再度判決文を読み返し、今まで半期で習ってきた法律用語を見直す。（1時間）

科目名	法律外国語BⅡ	担当者	三村 淳一	部別	第一部	期間	後期	単位数	1
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	アメリカ法（証拠法・刑法・捜査法）の代表判例を用いながら、基本的な知識を身につける。尚、全ての講義は、英語にて実施するが、極めて重要な箇所は、日本語と英語にて解説を行う。					
授業目的・到達目標	証拠法、刑法、捜査法の法域で用いられている法律英語の意味を理解し、それらの用語を用いて受講者同士で、英語にて法的な論点について英語で会話できることを目標とし、前期開講の法律外国語BIと合わせて、授業終了後には、米国のロースクールに入学しても講義についていくことができ、最終的に、米国人弁護士とリーガル・ディベートを行いうる人材を育成することを目的とする。					
履修条件	関連DP及びCP:法律学科1、6 経営法学科1、2、6 特に無いが、法律外国語A、BIや米国法の授業を受講済み又は受講中であることが望ましい。また、英語での講義を予定しているので、ある程度の英語力が必要である。					
授業方法	講義形式と演習形式の融合。講義は基本的に英語で行い。受講者は、教員から与えられた事例を読み、事実関係・争点・判決概要を英語で発表する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		レポートの提出、授業への参加度により評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	教科書は使用しない				
参考書	判例要約を受講者に配布する。及び、教員の作成したレジメを基に講義をすすめる					
オフィスアワー	火曜日の12:10-1:00に、9号館（9408）研究室にて対応する。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） Michelson v. United States, 335 U.S. 469(1948)
	授業内容	Evidence (1) 証拠法において、証拠は事件と関連性があるものでなければならないが、関連性とは何を意味するのか？
	事後学習	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
2	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） State v. Cassidy, 3 Conn.App 374 (1985) United States v. Cunningham, 103 F.3d 553(7th Cir.1996)
	授業内容	Evidence (2) 証拠法における性格証拠とは何かを講義する。
	事後学習	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
3	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） Sirico v. Cotto, 67 Misc.2d 636 (NY 1971) Hill v. Skinner, 81 Ohio App 375 (NY 1947)
	授業内容	Evidence (3) 物的証拠、文書証拠、証人の資格（特に幼児の証人適格）について講義する。
	事後学習	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）

4	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） United States v. Owens, 21 M.J. 117 (NY 1985)
	授業内容	Evidence (4) 証人への信ぴょう性の攻撃について講義する。
	事後学習	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
5	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） United States v. Woodruff, 383 F.Supp 696(Penn 1974) Clark v. State, 159 Texas Cr.R. 187 (1953) Estate of Murdock, 32 Muc. 352 (1983)
	授業内容	Evidence (5) 証言特権（特に弁護士特権、医師特権、配偶者特権、聖職者特権）について講義する。
	事後学習	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
6	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） Estate of Murdock, 32 Muc. 352 (1983) United States v. English, 201 N.C. 295 (1931) Truck Ins. Exchange v. Michling, 364 S.W.2d 172(1963)
	授業内容	Evidence (6) 伝聞証拠及び非伝聞証拠や伝聞証拠の例外について講義する。
	事後学習	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
7	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） People v. Newton, 340 N.Y.S. 77(1973) Regina v. Prince, L.R. 2 Crim. Cas. Res. 154(CCCR 1875) United States v. Diaz, 864 F.2d 544 (7th Cir. 1988)
	授業内容	Criminal Law(1) 刑法の管轄権や犯罪の分類、犯罪の吸収など概略について講義する。また、犯罪の本質的要素としてであるactus reus及びmens reaについて講義する。
	事後学習	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
8	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） United States v. Diaz, 864 F.2d 544 (7th Cir. 1988) McQuirter v. State, 63 So.2d 388(Ala. App.1953)
	授業内容	Criminal Law(2) 共犯者責任（正犯・従犯）・未完全犯罪・犯罪能力に関し講義する。
	事後学習	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
9	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） People v. La Voie, 395 P.2d 1001 (Colo. 1964) Rowland v. State, 35 So. 826 (Miss. 1904) People v. Hickman, 297 N.E. 2d 582 (1973)
	授業内容	Criminal Law(3) 無罪の基本原則（正当防衛、脅迫の抗弁、同意）について講義する。また、人に対する犯罪について講義する。
	事後学習	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
10	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） People v. Liberta, 485 N.Y.S. 2d 207 (1984) Brown v. State, 106 N.W. 536(1906) State v. Colvin, 645 N.W. 2d. 449(Minn. 2002)
	授業内容	Criminal Law(4) 性犯罪（強姦・法定強姦・重婚他）について講義する。
	事後学習	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
11	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） Mapp v. Ohio, 367 U.S. 643(1961)
	授業内容	Criminal Procedure(1) 被疑者の権利としてどのような規定があるか、概略を説明する。特に、修正4～6条、修正8条を含めて講義を行う。まずは証拠排除即として、「毒樹の果実の法理」を解説する。
	事後学習	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
12	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） Illinois v. Gates, 462 U.S. 213(1983) United States v. Watson, 423 U.S. 411(1976) United States v. Robinson, 414 U.S. 218 (1973)
	授業内容	Criminal Procedure(2) 逮捕（相当な理由がある場合や令状が不要な場合）の講義をし、証拠の搜索や押収の手法について講義する。
	事後学習	配布資料(レジメ)を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）

13	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） Miranda v. Arizona, 384 U.S. 436 (1966) United States v. Wade, 388 U.S. 218 (1967)
	授業内容	Criminal Procedure(3) 自白（特に、自己に不利な証言を強要されないミランダ警告）について講義を行う。また、ラインナップ手続きに代表される同一性の確認を行う
	事後学習	配布資料（レジメ）を用いて、授業で解説した法律単語の発音や意味を確認し、さらに、配布資料（判例要旨）を用いて、レジメ内の法律用語がどのように使用されていか、裁判所ではそのような法律用語の意味をどのように解釈しているか考察する。（1時間）
14	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間）。 Batson v. Kentucky, 476 U.S. 79 (1986)
	授業内容	Criminal Procedure(4) プリトリアル手続きをトリアルについて講義する。また、捜査法や刑事訴訟等を扱った米国のメディアを視聴し、各場面でどのような手続きが行われているのか確認し、課題レポートとして最終回の授業までに提出する。
	事後学習	通常の事後学習に加え、課題レポートをまとめる。（1時間）
15	事前学習	以下の判例の要約（配布します）を読み、また該当箇所のレジメを読んで授業に参加する。（1時間） Oregon v. Kennedy, 456 U.S. 667 (1982)
	授業内容	Criminal Procedure(5) 一事不再理について講義する。課題レポートに関しフィードバックを行う。
	事後学習	通常の事後学習に加え、再度メディアを見返して、教員のフィードバックの箇所を確認する。（1時間）

科目名	簿記原理Ⅰ	担当者	尾上 選哉	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	簿記原理では簿記の基礎を学びます。簿記は、企業、官公庁、家庭などの各経済主体の経済活動に伴う財産の増減・変化を継続的に記録・計算・整理し、その原因と結果を明らかにする会計的技法です。			
授業目的・到達目標	本講義では、企業がどのようにして財産の増減・変化を把握し、損益計算を行い、その結果として、どのように貸借対照表、損益計算書を作成するかという複式簿記の習得を目的とします。 受講者が、①個人企業の決算書（貸借対照表・損益計算書）の作成過程を説明できるようになること、②企業会計の基礎を習得することができる、③日本商工会議所簿記検定試験３級合格レベルの知識を習得し、簿記の仕組みを理解し説明できるようになることを目標とします。 関連DPおよびCP：法律学科1、2 経営法学科1、2、3、4			
履修条件	特にありません。 受講者が、簿記・会計学についての初学者であることを前提に授業を行います。			
授業方法	指定したテキストに沿って授業を進め、必要に応じて資料を配布します。スライド(パワーポイント)を使用して講義を行います。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	到達目標レベルに達しているかを判定します。	
	平常評価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	中央経済社	検定簿記講義／3級商業簿記〔平成31年度版〕	渡部裕亘・片山 寛・北村敏子編著
	2019	中央経済社	検定簿記ワークブック／3級商業簿記〔最新版〕	渡部裕亘・片山 寛・北村敏子編著
	備考			
参考書	中村忠『簿記の考え方・学び方（五訂版）』税務経理協会。 上記以外は授業内において、適宜、指示します。			
オフィスアワー	火曜日授業終了後および電子メールにより対応します。 eliya.onoe★mail.o-hara.ac.jp（★を@に置き換えてください。）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通すとともに、教科書の各章の冒頭にある導入説明を読み、前期の講義全体を概観する(2時間)。
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて財務諸表論の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する(2時間)。
2	事前学習	教科書・第1章の「簿記の意義」、「簿記の基礎」、「貸借対照表」の部分を読み、新しいキーワードの概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【簿記の意義としくみ(1)】 (1) 簿記の意義、(2) 簿記の基礎、(3) 貸借対照表について説明し、簿記の基礎について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
3	事前学習	教科書・第1章の「損益計算書」、「貸借対照表と損益計算書の関係」の部分を読み、新しいキーワードの概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【簿記の意義としくみ(2)】 (1) 損益計算書、(2) 貸借対照表と損益計算書の関係について説明し、簿記の基礎について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
4	事前学習	教科書・第2章の「勘定」、「取引の意義と種類」、「取引の8要素と結合関係」の部分を読み、新しいキーワードの概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【仕訳と転記(1)】 (1) 勘定、(2) 取引の意義と種類、(3) 取引の8要素と結合関係について説明し、複式簿記の基礎について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。

5	事前学習	教科書・第2章の「仕訳と転記」の部分を読み、新しいキーワード〴〵の概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【仕訳と転記(2)】 (1)仕訳と転記について説明し、複式簿記の基礎である仕訳および勘定への転記について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
6	事前学習	教科書・第3章の「帳簿の種類」、「仕訳帳への記入」、「仕訳帳から総勘定元帳への転記」の部分を読み、新しいキーワード〴〵の概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【仕訳帳と総勘定元帳】 (1)帳簿の種類、(2)仕訳帳への記入、(3)仕訳帳から総勘定元帳への転記について説明し、前回に引き続き、複式簿記の基礎となる仕訳と転記について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
7	事前学習	教科書・第4章の「試算表の作成」の部分を読み、新しいキーワード〴〵の概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【決算(1)】 (1)試算表の作成について説明するとともに、複式簿記の基礎である仕訳および勘定への転記について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
8	事前学習	教科書・第4章の「決算の意義と手続」、「帳簿の締切と財務諸表の作成」の部分を読み、新しいキーワード〴〵の概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【決算(2)】 (1)決算の概要、(2)決算の手続、(3)帳簿決算の手順について説明し、帳簿上での決算について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
9	事前学習	教科書・第4章の「決算の意義と手続」、「帳簿の締切と財務諸表の作成」の部分再度読み、キーワード〴〵の概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【決算(3)】 (1)財務諸表の作成について説明し、帳簿決算から財務諸表の作成への手順について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
10	事前学習	教科書・第5章の「現金」、「現金過不足」の部分を読み、新しいキーワード〴〵の概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【現金と預金(1)】 「現金」、「現金過不足」について説明し、現金勘定に関わる会計処理について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
11	事前学習	教科書・第5章の「当座預金と当座借越」、「小口現金」の部分を読み、新しいキーワード〴〵の概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【現金と預金(2)】 「当座預金と当座借越」、「小口現金」について説明し、当座預金勘定および小口現金勘定に関わる会計処理について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
12	事前学習	教科書・第6章の「3分法のあらまし」、「諸掛・値引き・返品」の部分を読み、新しいキーワード〴〵の概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【商品売買(1)】 商品売買取引に係る会計処理について説明し、特に3分法について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
13	事前学習	教科書・第6章の「仕入帳と売上帳」、「商品有高帳」の部分を読み、新しいキーワード〴〵の概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【商品売買(2)】 商品売買取引に係る補助簿について説明し、補助簿について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
14	事前学習	教科書・第4章の「決算手続と精算表」の部分を読み、新しいキーワード〴〵の概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【決算(4)】 決算手続における精算表の位置づけについて説明し、精算表の作成について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
15	事前学習	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、今期に学習した財務会計の基礎を確認する(2時間)。
	授業内容	講義のまとめ
	事後学習	初回からの教科書の各章と授業ノートを見直し、定期試験に向けて準備をする(2時間)。

科目名	簿記原理 I	担当者	北川 道男	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	企業活動を記録する複式簿記の基礎を体系的にパワー・ポイントを使い説明する。							
授業目的・到達目標	企業活動を記録する複式簿記の基礎を体系的に修得することを目的とし、商業簿記の基礎ができるようになることを目標とする。 関連DPおよびCP： 法律学科1,2 経営法学科1,2,3,4							
履修条件	簿記を学習するためには、毎回の積み重ねが重要である。試験前にテキストを熟読しても身につけるのは困難。繰り返し電卓を用い演習問題で復習することで身に付いた学習となります。							
授業方法	解説、問題、小テストを繰り返し行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		70%		過去問題より出題。			
	平常評価		30%		プリント課題、小テスト。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
			中央経済社		検定簿記講義 3 級商業簿記		渡部、片山、北村	
			中央経済社		検定簿記ワークブック 3 級		渡部、片山、北村	
	備考							
参考書	授業で指示							
オフィスアワー	金曜日10：30～ 授業講堂にて。 事前にkitagawa.michio@nihon-u.ac.jpにメールし時間を調整してください。							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストのまえがきをよく読む（2時間）
	授業内容	簿記の学習の仕方、関連資格試験
	事後学習	将来の職業を考える（2時間）
2	事前学習	テキスト 1 章を 1 項をよく読む（2時間）
	授業内容	複式簿記の意義、目的
	事後学習	ワークブック 1 章でおさらい（2時間）
3	事前学習	企業活動に関係する法律は（2時間）
	授業内容	簿記と関連法規
	事後学習	商法、会社法、金融商品取引法の目的を考える（2時間）
4	事前学習	テキスト 1 章 3 項を読む（2時間）
	授業内容	貸借対照表とその要素
	事後学習	プリント課題（2時間）

5	事前学習	テキスト1章4項をよく読む（2時間）
	授業内容	損益計算書とその要素
	事後学習	プリント課題（2時間）
6	事前学習	テキスト1章5項をよく読む（2時間）
	授業内容	貸借対照表と損益計算書との関係
	事後学習	プリント課題（2時間）
7	事前学習	テキスト2章をよく読む（2時間）
	授業内容	取引と勘定
	事後学習	ワークブック2章でおさらい（2時間）
8	事前学習	テキスト3章をよく読む（2時間）
	授業内容	仕訳の方法と仕訳帳
	事後学習	ワークブック3章でおさらい（2時間）
9	事前学習	テキスト3章をよく読む（2時間）
	授業内容	転記の方法と総勘定元帳
	事後学習	プリント課題（2時間）
10	事前学習	テキスト3章をよく読む（2時間）
	授業内容	帳簿
	事後学習	ワークブック3章でおさらい（2時間）
11	事前学習	テキスト4章2項をよく読む（2時間）
	授業内容	試算表
	事後学習	プリント課題提出（2時間）
12	事前学習	テキスト4章4項をよく読んでおく（2時間）
	授業内容	六桁精算表
	事後学習	プリント課題提出（2時間）
13	事前学習	テキスト5章をよく読むこと（2時間）
	授業内容	個別勘定の処理：現金取引の処理
	事後学習	小テスト（2時間）
14	事前学習	テキスト5章（2時間）
	授業内容	当座預金取引の処理
	事後学習	ワークブック5章でおさらい（2時間）
15	事前学習	まとめ（2時間）
	授業内容	商品売上の処理　理解度テスト
	事後学習	まとめ（2時間）

科目名	簿記原理Ⅰ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、企業の財務諸表を作成するための技法である複式簿記を学習します。複式簿記とは、企業の営む経済活動を貨幣額によって測定・記録する技術であり、簿記原理は法学部における様々な会計関連科目の学びの基礎となるものです。			
授業目的・到達目標	この授業の目的は、正しい帳簿を作成することの重要性やそのためのルールを理解し、帳簿記録に基づく経営上の課題を発見する能力や、経営者の思考・問題意識等を理解するための基礎を養成することにあります。授業における具体的な到達目標は、簿記の基本的仕組みや現金預金等の具体的な論点の簿記処理について理解し、これらを実践できることです。 【関連DP及びCP：法律学科1,2 経営法学科1,2,3,4】			
履修条件	簿記原理Ⅱを併せて履修するようにしてください。また、会计学・財務諸表論・原価計算論・管理会計論といった会計関連科目は、簿記原理を先に履修し、その内容を理解してから履修するとよいでしょう。			
授業方法	指定テキストを用いて、演習を中心とした講義を実施します。計算問題を扱いますので、必ず電卓を持参するようにしてください。なお、定期試験へのフィードバックは、ポータルシステムを通じて行います。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	授業内容の理解度を確認するために、前学期末に試験を実施します。なお、日商簿記検定試験等の合格者については、成績評価上、その実績を加味します。	
	平常評価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	平成31年度	創成社	ニューステップアップ簿記	大野智弘 編著
	備考			
参考書	『検定簿記ワークブック3級』 渡部裕亘・片山覚・北村敬子 編著 中央経済社			
オフィスアワー	研究室での相談対応は、毎週火曜日の夕方（16:30頃～18:00頃）実施します。希望者は実施時間帯に担当教員の研究室（本館8階の1820研究室）まで来ること。 都合により不在の場合もあるため、事前にメール（kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp）にてアポを取るようにしてください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書のChapter1を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	簿記一巡の手続き
	事後学習	複式簿記とはどのような技術であるかを理解し、簿記一巡の手続きを把握する（2時間）
2	事前学習	教科書のChapter2を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	勘定科目と分類
	事後学習	勘定の役割を理解し、様々な勘定科目の分類を把握する（2時間）
3	事前学習	教科書のChapter3を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	取引と仕訳
	事後学習	簿記上の取引の概念を理解し、仕訳の方法を把握する（2時間）
4	事前学習	教科書のChapter4を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	転記
	事後学習	転記の仕組みを理解し、仕訳から転記までの手順を修得する（2時間）

5	事前学習	教科書のChapter5を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	試算表の原理
	事後学習	試算表の仕組みを理解し、その作成方法を把握する（2時間）
6	事前学習	教科書のChapter6を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	精算表の仕組み
	事後学習	精算表の仕組みを理解し、六桁精算表の作成方法を把握する（2時間）
7	事前学習	教科書のChapter7を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	損益計算書と貸借対照表の様式
	事後学習	財務諸表の役割を理解し、貸借対照表および損益計算書の基本構造を把握する（2時間）
8	事前学習	教科書のChapter8を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	現金預金
	事後学習	現金預金に関する諸取引を理解し、現金取引および当座預金取引の簿記処理を修得する（2時間）
9	事前学習	教科書のChapter9を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	現金過不足と小口現金
	事後学習	現金過不足の仕組みを理解し、その簿記処理を修得するとともに、定額資金前渡法（インプレストシステム）を理解し、小口現金取引の簿記処理を修得する（2時間）
10	事前学習	教科書のChapter10を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	商品売買①：記帳方法
	事後学習	分記法および三分法の違いを理解し、両者の簿記処理を修得する（2時間）
11	事前学習	教科書のChapter11を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	商品売買②：手付、商品券、クレジット販売
	事後学習	商品売買に関連する諸論点を理解し、手付の授受、商品券取引およびクレジット販売の簿記処理を修得する（2時間）
12	事前学習	教科書のChapter12を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	約束手形と電子記録債権
	事後学習	手形取引および電子記録債権取引を理解し、各取引の簿記処理を修得する（2時間）
13	事前学習	教科書のChapter13を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	貸倒れと貸倒引当金
	事後学習	貸倒れの概念と貸倒引当金の必要性を理解し、貸倒時のほか、決算時における貸倒引当金計上の簿記処理を修得する（2時間）
14	事前学習	教科書のChapter14を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	有形固定資産
	事後学習	有形固定資産の概念を理解し、取得時および売却時の簿記処理に加え、決算時の減価償却を修得する（2時間）
15	事前学習	前期の学修内容を概観しておく（2時間）
	授業内容	総括：複式簿記の基本、現金預金以降の各論の確認
	事後学習	定期試験に向けて前期の学修内容を包括的に復習しておく（2時間）

科目名	簿記原理 I	担当者	船越 洋之	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	企業の経営活動を正確に記録・測定・計算するための技法を複式簿記という。複式簿記を理解することで計数感覚を身につけ、財務諸表を分析することも可能になる。小規模株式会社レベルの商業簿記を前提に、複式簿記の基本原理と取引記録から財務諸表作成までの流れを学習する。			
授業目的・到達目標	国内外の企業活動の現状を貨幣数値を用いて理解し、その結果について分析や説明を行える力を養成することを目的とする。具体的には、商品売買業を営む小規模株式会社を対象に、その経営活動を貨幣数値に変換し、最終的に財産の現状と活動の成果を財務諸表としてまとめる複式簿記の基本原理を修得することを目標とする。日商簿記検定3級の基礎となる日商簿記初級レベルの内容を理解できることを最終到達目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：経営法学科1～4、法律学科1～2 簿記や会計に興味のある者。教科書を必ず購入し、無断欠席をしない者。電卓を用意できる者。体育会系部活所属学生と4年生については、相当の覚悟を持って勉強をしないと単位修得は難しいと思ってください。			
授業方法	教科書を使用する講義形式だが、問題演習（適宜プリント配付）も行うので、教科書・ノート・電卓（8桁以上）を持参すること。スマホで板書を撮影することは絶対にしないこと。なお、続けて休むとプリントをもらえない。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	復習をしているかの確認のために授業内ミニテストを予告なしに実施する。ミニテストと最終テストで評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年	創成社	ニューステップアップ簿記（仮称）	大野智弘編著
	備考	4月に新たに刊行されるので、それを購入のこと。昨年まで使用していたものは使用しない。		
参考書	①滝澤ななみ『スッキリわかる日商簿記初級（第2版）』（TAC出版）②資格の大原『土日で合格（うか）る日商簿記初級（第2版）』（中央経済社）			
オフィスアワー	非常勤講師ゆえ、金曜日5・6限授業終了後に授業講堂にて受け付ける（事前にメールでアポイントが必要）。なお、スポーツ系クラブ所属学生と就職活動に忙しい4年生については相談に乗るが、原則メールでの対応になる（すぐには返事できない場合あり）。 メールアドレス：hirofuna@musashino-u.ac.jp（本務校；武蔵野大学）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読むこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス（簿記と会計の世界）、各種簿記検定について、簿記実務電卓カシオ・AZ-26Sの紹介
	事後学習	履修を決定したら、テキストを購入し、電卓を用意すること。簿記実務電卓カシオ・AZ-26S購入希望者は購入方法にしたがって購入すること。（2時間）
2	事前学習	教科書Chapter1と2の学習のポイントを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	複式簿記の基本前提について学ぶ。この授業で扱う日商簿記初級レベルの勘定科目を紹介する。
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
3	事前学習	教科書Chapter3の学習のポイントを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	簿記上の取引と仕訳について、基本原理を学ぶ。
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
4	事前学習	教科書Chapter3の学習のポイントを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	簿記上の取引と仕訳について、問題を解くことで知識の定着を図る。
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）

5	事前学習	教科書Chapter4の学習のポイントを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	転記について学ぶ。
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
6	事前学習	教科書Chapter5の学習のポイントを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	試算表の原理について学ぶ。
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
7	事前学習	教科書Chapter7の学習のポイントを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	財務諸表の構成について学ぶとともに、財産法と損益法の考え方についても学ぶ。
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
8	事前学習	教科書Chapter8の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	現金、通貨代用証券、当座預金、その他の預貯金の基本を学ぶ。
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
9	事前学習	教科書Chapter10の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	商品売買の記帳（三分法）・返品記帳・諸掛の記帳について、基本的処理のみ学習する。
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
10	事前学習	教科書Chapter11と17の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	前払金、前受金、消費税について、基本的処理のみ学習する。
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
11	事前学習	教科書Chapter12の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	約束手形、電子記録債権、電子記録債務について、基本的処理のみ学習する。
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
12	事前学習	教科書Chapter15の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	貸付金・借入金、仮払金・仮受金、立替金・預り金について、基本的処理のみ学習する。
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
13	事前学習	教科書Chapter14の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	未収入金・未払金、有形固定資産の取得、有形固定資産の売却、減価償却について、基本的処理のみ学習する。
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
14	事前学習	教科書Chapter5と18と27の学習のポイントのうち授業内容に関連する箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	月次合計残高試算表の作成、帳簿と伝票について、基本的処理のみ学習する。授業内試験について伝達する。
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
15	事前学習	授業内試験に向けた復習を行うこと。（3時間）
	授業内容	日商簿記初級レベルの授業内試験の実施（45分）及び試験の解説実施（30分）さらに成績評価と簿記原理Ⅱの説明（15分）。授業内試験は電卓のみ持込可とする。
	事後学習	授業内試験について自己採点し、今後の学習に役立てる。（1時間）

科目名	簿記原理Ⅱ	担当者	尾上 選哉	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	簿記原理では簿記の基礎を学びます。簿記は、企業、官公庁、家庭などの各経済主体の経済活動に伴う財産の増減・変化を継続的に記録・計算・整理し、その原因と結果を明らかにする会計的技法です。			
授業目的・到達目標	本講義では、企業がどのようにして財産の増減・変化を把握し、損益計算を行い、その結果として、どのように貸借対照表、損益計算書を作成するかという複式簿記の習得を目的とします。 受講者が、①個人企業の決算書（貸借対照表・損益計算書）の作成過程を説明できるようになること、②企業会計の基礎を習得することができる、③日本商工会議所簿記検定試験３級合格レベルの知識を習得し、簿記の仕組みを理解し説明できるようになることを目標とします。 関連DPおよびCP：法律学科１、２ 経営法学科１、２、３、４			
履修条件	特にありません。 受講者が、簿記・会計学についての初学者であることを前提に授業を行います。			
授業方法	指定したテキストに沿って授業を進め、必要に応じて資料を配布します。スライド(パワーポイント)を使用して講義を行います。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信します。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	到達目標レベルに達しているかを判定します。	
	平常評価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	中央経済社	検定簿記講義／３級商業簿記〔平成31年度版〕	渡部裕亘・片山 寛・北村敏子編著
	2019	中央経済社	検定簿記ワークブック／３級商業簿記〔最新版〕	渡部裕亘・片山 寛・北村敏子編著
	備考			
参考書	中村忠『簿記の考え方・学び方（五訂版）』税務経理協会。 上記以外は授業内において、適宜、指示します。			
オフィスアワー	火曜日授業終了後および電子メールにより対応します。 eliya.onoe★mail.o-hara.ac.jp（★を@に置き換えてください。）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	学習予定の教科書の範囲について読み、後期の講義全体を俯瞰する(2時間)。
	授業内容	前期末の定期試験の講評等を行う。また、前期に学習した内容について概観する。
	事後学習	講義ノートを確認して、理解できていない部分について教科書を読み返す(2時間)
2	事前学習	教科書・第7章の「売掛金と買掛金」の部分を読み、新しいキーワードの概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【債権と債務(1)】 売掛金と買掛金、前払金と前受金について説明し、商品売買取引における債権と債務の会計処理について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
3	事前学習	教科書・第9章の「受取手形と支払手形」の部分を読み、新しいキーワードの概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【債権と債務(2)】 受取手形と支払手形について説明し、商品売買取引における債権と債務の会計処理について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
4	事前学習	教科書・第8章の「その他の債権と債務」の部分を読み、新しいキーワードの概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【債権と債務(3)】 その他の債権と債務について説明し、各々の債権と債務の会計処理について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。

5	事前学習	教科書・第8章の「その他の債権と債務」の部分再度読み、キーワードの概念を再確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【債権と債務(4)】 債権の譲渡(クレジット売掛金)、電子記録債権・債務について説明し、各々の会計処理について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
6	事前学習	教科書・第11章の「貸倒損失と貸倒引当金」の部分を読み、新しいキーワードの概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【債権と債務(5)】 債権の回収に係る貸倒れと貸倒損失、貸倒の見積もりと貸倒引当金の設定について説明し、会計処理について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
7	事前学習	教科書・第10章の「有形固定資産」の部分を読み、新しいキーワードの概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【固定資産(1)】 有形固定資産の取得、売却および減価償却について説明し、有形固定資産の会計処理について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
8	事前学習	教科書・第10章の「有形固定資産」の部分再度読み、キーワードの概念を再確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【固定資産(2)】 前回の基本的な会計処理を踏まえて、有形固定資産の減価償却後の売却などについて学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
9	事前学習	教科書・第12章の「資本」の部分を読み、新しいキーワードの概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【株式会社会計】 株式会社会計の基礎となる資本金、利益剰余金、剰余金の配当について説明し、会計処理について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
10	事前学習	教科書・第13章の「収益と費用」の部分を読み、新しいキーワードの概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【収益と費用】 収益と費用、収益および費用の見越し・繰延べ、消耗品費の処理について説明し、会計処理について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
11	事前学習	教科書・第14章の「税金」の部分を読み、新しいキーワードの概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【税金】 固定資産税など、法人税・住民税・事業税、消費税について説明し、会計処理について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
12	事前学習	教科書・第15章の「伝票」の部分を読み、新しいキーワードの概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【伝票】 伝票会計について説明し、伝票を用いた会計処理について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
13	事前学習	教科書・第16章の「財務諸表」の部分を読み、新しいキーワードの概念を確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【決算(5)】 決算と決算手続について再度説明し、決算整理事項について学習する。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
14	事前学習	教科書・第16章の「財務諸表」の部分再度読み、キーワードの概念を再確認し、考察しておく(2時間)。
	授業内容	【決算(6)】 決算と決算手続にかかる試算表の作成、財務諸表の作成、精算表の作成の総合問題について説明し、答案練習を行う。
	事後学習	教科書と講義ノートを確認して、ワークブックの該当箇所の練習問題について解答を行う(2時間)。
15	事前学習	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、簿記原理の講義内容について考察する(2時間)。
	授業内容	講義のまとめ
	事後学習	初回からの教科書の各章と授業ノートを見直し、定期試験に向けて準備をする(2時間)。

科目名	簿記原理Ⅱ	担当者	北川 道男	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	複式簿記の応用を中心に				
授業目的・到達目標	複式簿記の応用を中心に修得することを目的とし、日本商工会議所簿記検定試験３級合格を目標とする。 関連DP及びCP 法律学科1, 2 経営法学科1, 2, 3, 4				
履修条件	簿記を学習するためには、毎回の積み重ねが重要である。試験前にテキストを熟読しても身につけるのは困難。繰り返し電卓を用い演習問題で復習することで身に付いた学習となります。				
授業方法	解説、問題、小テストを繰り返し行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	過去問題より出題。	
	平常評価		30%	提出課題、小テスト。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
		中央経済社		検定簿記講義３級商業簿記	渡部、片山、北村
		中央経済社		検定簿記ワークブック３級	渡部、片山
	備考				
参考書	授業で指示				
オフィスアワー	金曜日10：30～ 授業講堂にて。 事前にkitagawa.michio@nihon-u.ac.jpにメールし時間を調整してください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキスト 7 章をよく読む（2時間）
	授業内容	掛け取引の処理
	事後学習	ワークブック 7 章でおさらい（2時間）
2	事前学習	テキスト 9 章をよく読む（2時間）
	授業内容	手形取引の処理
	事後学習	ワークブック 9 章でおさらい（2時間）
3	事前学習	テキスト 8 章をよく読む（2時間）
	授業内容	その他の債権・債務の処理
	事後学習	ワークブック 8 章でおさらい（2時間）
4	事前学習	テキスト 1 0 章をよく読む（2時間）
	授業内容	有価証券の処理
	事後学習	ワークブック 1 0 章でおさらい（2時間）

5	事前学習	テキスト 1 1 章をよく読む (2時間)
	授業内容	固定資産の処理と減価償却
	事後学習	ワークブック 1 1 章でおさらい (2時間)
6	事前学習	テキスト 1 2 章をよく読む (2時間)
	授業内容	貸倒引当金
	事後学習	ワークブック 1 2 章でおさらい (2時間)
7	事前学習	テキスト 1 4 章をよく読む (2時間)
	授業内容	収益・費用の繰延・見越
	事後学習	ワークブック 1 4 章でおさらい (2時間)
8	事前学習	テキスト 1 3 章をよく読む (2時間)
	授業内容	資本金と引出金
	事後学習	ワークブック 1 3 章でおさらい (2時間)
9	事前学習	テキスト 1 3 章をよく読む (2時間)
	授業内容	個人企業の税金の処理
	事後学習	ワークブック 1 3 章でおさらい (2時間)
10	事前学習	テキスト 1 5 章をよく読む (2時間)
	授業内容	伝票の処理
	事後学習	ワークブック 1 5 章でおさらい (2時間)
11	事前学習	テキスト 1 6 章をよく読む (2時間)
	授業内容	決算手続
	事後学習	ワークブック 1 6 章でおさらい (2時間)
12	事前学習	テキスト 1 6 章をよく読む (2時間)
	授業内容	決算修正 (1)
	事後学習	ワークブック 1 6 章でおさらい (2時間)
13	事前学習	テキスト 1 6 章 4 項をよく読む (2時間)
	授業内容	決算修正 (2)
	事後学習	プリント課題 (2時間)
14	事前学習	まとめ (2時間)
	授業内容	精算表 (1) テスト
	事後学習	まとめ (2時間)
15	事前学習	まとめ (2時間)
	授業内容	精算表 (2) テスト
	事後学習	反省 (2時間)

科目名	簿記原理Ⅱ	担当者	小阪 敬志	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、企業の財務諸表を作成するための技法である複式簿記を学習します。複式簿記とは、企業の営む経済活動を貨幣額によって測定・記録する技術であり、簿記原理は法学部における様々な会計関連科目の学びの基礎となるものです。			
授業目的・到達目標	この授業の目的は、正しい帳簿を作成することの重要性やそのためのルールを理解し、帳簿記録に基づく経営上の課題を発見する能力や、経営者の思考・問題意識等を理解するための基礎を養成することにあります。授業における具体的な到達目標は、具体的な論点の簿記処理および財務諸表作成までの決算手続について理解し、これらを実践できることです。【関連DP及びCP：法律学科1,2 経営法学科1,2,3,4】			
履修条件	簿記原理Ⅰを併せて履修するようにしてください。また、会计学・財務諸表論・原価計算論・管理会計論といった会計関連科目は、簿記原理を先に履修し、その内容を理解してから履修するとよいでしょう。			
授業方法	指定テキストを用いて、演習を中心とした講義を実施します。計算問題を扱いますので、必ず電卓を持参するようにしてください。なお、定期試験へのフィードバックは、ポータルシステムを通じて行います。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		100%	授業内容の理解度を確認するために、後学期末に試験を実施します。なお、日商簿記検定試験等の合格者については、成績評価上、その実績を加味します。
	平常評価		0%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	平成31年度	創成社	ニューステップアップ簿記	大野智弘 編著
	備考			
参考書	『検定簿記ワークブック3級』 渡部裕亘・片山覚・北村敬子 編著 中央経済社			
オフィスアワー	研究室での相談対応は、毎週火曜日の夕方（16:30頃～18:00頃）実施します。希望者は実施時間帯に担当教員の研究室（本館8階の1820研究室）まで来ること。 都合により不在の場合もあるため、事前にメール（kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp）にてアポを取るようにしてください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期に学修した内容を確認しておく（2時間）
	授業内容	簿記原理Ⅰで学修した内容の復習
	事後学習	複式簿記の基本と前期に学修した各論について、再確認する（2時間）
2	事前学習	教科書のChapter15を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	その他の債権と債務
	事後学習	貸付金・借入金といったその他の債権・債務について理解し、それらの簿記処理を修得する（2時間）
3	事前学習	教科書のChapter16を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	株式会社の資本金と繰越利益剰余金
	事後学習	資本金と繰越利益剰余金の違いについて理解し、それらの簿記処理を修得する（2時間）
4	事前学習	教科書のChapter17を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	税金の処理および訂正仕訳
	事後学習	各種税金の仕組みを理解し、その簿記処理を把握するとともに、誤処理の訂正仕訳を把握する（2時間）

5	事前学習	教科書のChapter18を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	試算表と掛明細表
	事後学習	各論を盛り込んだ試算表の作成方法を把握するとともに、売掛金明細表・買掛金明細表の作成方法を把握する（2時間）
6	事前学習	教科書のChapter19を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	試算表の演習
	事後学習	実践的な問題演習を通じて、試算表の作成方法を修得する（2時間）
7	事前学習	教科書のChapter20を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	売上原価と売上総利益の計算
	事後学習	売上原価の計算構造を理解し、売上総利益の計算方法を把握する（2時間）
8	事前学習	教科書のChapter21を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	費用・収益の前払・前受・未払・未収
	事後学習	費消・収益の繰延べ・見越しの考え方を理解し、それらの簿記処理を修得する（2時間）
9	事前学習	教科書のChapter22を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	決算整理事項と決算整理仕訳
	事後学習	決算整理の意義を理解し、各種決算整理事項を把握する（2時間）
10	事前学習	教科書のChapter23を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	決算整理事項と八桁精算表
	事後学習	八桁精算表の仕組みを理解し、精算表上で行われる決算整理を修得する（2時間）
11	事前学習	教科書のChapter24を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	八桁精算表の作成
	事後学習	実践的な問題演習を通じて、八桁精算表の作成方法を把握する（2時間）
12	事前学習	教科書のChapter25を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	財務諸表の作成
	事後学習	財務諸表の基本的な仕組みを再確認し、決算整理を踏まえた財務諸表の作成方法を把握する（2時間）
13	事前学習	教科書のChapter26を読み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	帳簿決算（英米式決算法による締切）
	事後学習	帳簿決算の仕組みを理解し、各勘定の締切手続きを把握する（2時間）
14	事前学習	事前配布した演習問題に取り組み、疑問点を洗い出しておく（2時間）
	授業内容	問題演習による決算整理等の修得
	事後学習	実践的な問題演習を通じて、八桁精算表による決算整理を修得する（2時間）
15	事前学習	後期の学修内容を概観しておく（2時間）
	授業内容	総括：各論および決算手続の確認
	事後学習	定期試験に向けて後期の学修内容を包括的に復習しておく（2時間）

科目名	簿記原理Ⅱ	担当者	船越 洋之	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	小規模株式会社レベルの商業簿記について、簿記原理Ⅰで学習した内容を土台にして、いろいろな取引の仕訳を学ぶとともに、8桁精算表や財務諸表の作成、帳簿の締め切り、補助簿・伝票の記入などを学習する。日商簿記3級基本レベルの修得を念頭においている。なお授業では、簿記原理Ⅰで学習した基本的内容以外の日商簿記3級レベルを学習するので、予習復習は欠かせないこと。			
授業目的・到達目標	国内外の企業活動の現状を貨幣数値を用いて理解し、その結果について分析や説明を行える力を養成することを目的とする。具体的には、商品売買業を営む小規模株式会社を対象に、その経営活動を貨幣数値に変換し、最終的に財産の現状と活動の成果を財務諸表としてまとめる複式簿記の基本原則を修得することを目標とする。日商簿記検定3級レベルの基本的内容（様々な仕訳、帳簿決算、補助簿・伝票）を理解できることを最終到達目標とする。 関連DP及びCP：経営法学科1～4、法律学科1～2			
履修条件	簿記や会計に興味のある者。教科書を必ず購入し、無断欠席をしない者。簿記原理Ⅰを学習済みであること。体育会系部活所属学生と4年生については、相当の覚悟を持って勉強をしないと単位修得は難しいと思ってください。			
授業方法	教科書を使用する講義形式だが、問題練習（適宜プリント配付）も行うので、毎回、教科書・ノート・電卓（8桁以上）を持参すること。スマホで板書を撮影することは絶対にしないこと。続けて休むとプリントをもらえないので注意。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	復習をしているかの確認のために授業内ミニテストを予告なしに実施する。ミニテストと最終テストで評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019月年	創成社	ニューステップアップ簿記（仮称）	大野智弘編著
	備考	前期の簿記原理Ⅰで使用した教科書を引き続き使用する。		
参考書	各自の気に入った日商簿記検定3級関連テキスト			
オフィスアワー	非常勤講師ゆえ、金曜日5．6限授業終了後に授業講堂にて受け付ける（事前にメールでアポイントが必要）。なお、スポーツ系クラブ所属学生と就職活動に忙しい4年生については相談に乗るが、原則メールでの対応になる（すぐには返事できない場合あり）。 メールアドレス：hirofuna@musashino-u.ac.jp（本務校；武蔵野大学）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書Chapter8と9の学習のポイントを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	当座預金の銀行別管理、当座借越への振替え、現金過不足、小口現金
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
2	事前学習	教科書Chapter10と20の学習のポイントを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	諸掛の処理、売上原価と売上総利益の計算
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
3	事前学習	教科書Chapter11と28の学習のポイントを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	他者発行商品券、クレジット売掛金、補助簿の作成（小口現金出納帳、商品有高帳）
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
4	事前学習	教科書Chapter11と12と28の学習のポイントを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	補助簿の作成（売掛金元帳、買掛金元帳、手形記入帳）、約束手形、電子記録債権、電子記録債務
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）

5	事前学習	教科書Chapter13と14と28の学習のポイントを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	貸倒れと貸倒引当金、関節法による減価償却の記帳、有形固定資産の売却、改良と修繕、固定資産台帳
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
6	事前学習	教科書Chapter15と16の学習のポイントを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	その他の債権と債務、金融手形、法定福利費、差入保証金、株式会社の純資産
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
7	事前学習	教科書Chapter16と17の学習のポイントを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	利益剰余金、租税公課、法人税等、消費税の申告、訂正のための仕訳
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
8	事前学習	教科書Chapter21と22の学習のポイントを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	収益・費用の前受・前払・未収・未払、決算整理仕訳のまとめ
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
9	事前学習	教科書Chapter22と23の学習のポイントを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	決算整理仕訳のまとめ、決算整理後試算表の作成、8桁精算表の基礎
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
10	事前学習	教科書Chapter23と24の学習のポイントを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	8桁精算表の作成
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
11	事前学習	教科書Chapter23と24の学習のポイントを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	8桁精算表の作成
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
12	事前学習	教科書Chapter25の学習のポイントを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	財務諸表の作成
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
13	事前学習	教科書Chapter26の学習のポイントを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	帳簿決算（振替と締切り）、8桁精算表の作成
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
14	事前学習	教科書Chapter27の学習のポイントを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	8桁精算表の作成、伝票式会計、授業内試験について
	事後学習	テキストの問題と配付したプリントを復習しておくこと。（2時間）
15	事前学習	授業内試験に向けた復習を行うこと。（3時間）
	授業内容	授業内試験実施（60分、教科書・ノート・電卓持込可）、試験の解説（30分）
	事後学習	授業内試験について自己採点し、今後の学習（将来の日商簿記3級受験も含めて）に役立てること。（1時間）

科目名	マーケティング戦略論Ⅰ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	競争市場における事業戦略とマーケティング行動の関係について体系的に理解する。とくに戦略経営論の基礎と戦略的マーケティング論について理解を深める。			
授業目的・到達目標	ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考える抜く力の基礎を修得することを第一の目標としている。 DPならびにCP（新聞学科 1, 5 経営法学科 2, 3, 4, 6, 7)			
履修条件	原則として「マーケティング論」の単位取得を条件とする。「マーケティング論」の単位未取得者は必ず第1回目講義終了後に教員へ相談にくること。			
授業方法	教員による講義と受講生による討論により進める。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	60%	詳しくは第1回目の講義にて説明するため、必ず出席すること。第1回目の講義に出席できないものは受講資格を失うこともあるので注意すること。	
	平常評価	40%	40%の内訳は、原則としてグループ演習10%×4回とするが、その他参加態度を加味し、総合的に判断する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	同文館出版	国際マーケティング・ケイパビリティ戦略計画から実行能力へー（2019年5月発行）	諸上茂登 編著
	備考			
参考書	Kumar著 井上崇道・村松潤一監訳『戦略としてのマーケティング』同友館出版。			
オフィスアワー	水曜13：30?14：30 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。 usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの熟読ならびに自身の目標を認識しておく（2.0時間）
	授業内容	ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）（1.5時間）
	事後学習	ガイダンス資料に基づき、年間の学習スケジュールと目標を理解しておく（2.0時間）
2	事前学習	講義ノートの準備。現実のマーケティング問題について新聞記事等を読んで理解しておく（2.0時間）
	授業内容	戦略とは何か（マーケティングの基礎と戦略の関係）（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2.0時間）
3	事前学習	講義ノートの準備（2.0時間）
	授業内容	戦略経営論：ポジショニング・アプローチ1（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（寡占企業の例を調べる）（2.0時間）
4	事前学習	講義ノートの準備（2.0時間）
	授業内容	戦略経営論：ポジショニング・アプローチ2（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理ならびにグループ演習課題のための2次資料収集（2.0時間）

5	事前学習	グループ演習課題のための2次資料収集（2.0時間）
	授業内容	グループ演習1とフィードバック：航空業界の構造分析（1.5時間）
	事後学習	リアクションペーパーの準備（2.0時間）
6	事前学習	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認（2.0時間）
	授業内容	戦略経営論：資源ベース・ビュー1（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2.0時間）
7	事前学習	講義ノートの準備（2.0時間）
	授業内容	戦略経営論：資源ベース・ビュー2（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理ならびにグループ演習課題のための2次資料収集（2.0時間）
8	事前学習	グループ演習課題のための2次資料収集（2.0時間）
	授業内容	グループ演習2とフィードバック：経営資源に基づく戦略策定（1.5時間）
	事後学習	リアクションペーパーの準備（2.0時間）
9	事前学習	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認（2.0時間）
	授業内容	戦略的マーケティングの枠組み（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2.0時間）
10	事前学習	講義ノートの準備（2.0時間）
	授業内容	ビジネスモデル1（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理ならびにグループ演習課題のための2次資料収集（2.0時間）
11	事前学習	グループ演習課題のための2次資料収集（2.0時間）
	授業内容	グループ演習3とフィードバック：ビジネスモデルを考える（1.5時間）
	事後学習	リアクションペーパーの準備（2.0時間）
12	事前学習	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認（2.0時間）
	授業内容	ビジネスモデル2（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2.0時間）
13	事前学習	講義ノートの準備（2.0時間）
	授業内容	ダイナミック・ケイパビリティ論と戦略的マーケティング（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習ならびに個人演習の準備（2.0時間）
14	事前学習	個人演習の準備（2.0時間）
	授業内容	ケーススタディ：ゲストスピーカー（予定）（1.5時間）
	事後学習	リアクションペーパーの準備（2.0時間）
15	事前学習	試験の準備（2.0時間）
	授業内容	授業内試験及びフィードバック（1.5時間）
	事後学習	試験の振り返り（2.0時間）

科目名	マーケティング戦略論Ⅱ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	競争市場における事業戦略とマーケティング行動の関係について体系的に理解する。とくに戦略経営論の基礎と戦略的マーケティング論について理解を深める。			
授業目的・到達目標	ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成することを目的とし、本講義で学んだことを説明できるようになることを目標としている。 DPならびにCP（新聞学科1, 5 経営法学科2, 3, 4, 6, 7）			
履修条件	原則として「マーケティング論」の単位取得を条件とする。「マーケティング論」の単位未取得者は必ず第1回目講義終了後に教員へ相談にくること。			
授業方法	教員による講義と受講生による討論により進める。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	60%	詳しくは第1回目の講義にて説明するため、必ず出席すること。第1回目の講義に出席できないものは受講資格を失うこともあるので注意すること。	
	平常評価	40%	40%の内訳は、原則として個人演習（レポート）とグループ演習とするが、その他参加態度を加味し、総合的に判断する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	同文館出版	国際マーケティング・ケイパビリティ戦略計画から実行能力へー（2019年5月発行）	諸上茂登 編著
	備考			
参考書	Kumar著 井上崇道・村松潤一監訳『戦略としてのマーケティング』同友館出版。			
オフィスアワー	水曜13：30 14：30 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。 usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの熟読ならびに自身の目標を認識しておく（2.0時間）
	授業内容	ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）（1.5時間）
	事後学習	ガイダンス資料に基づき、年間の学習スケジュールと目標を理解しておく（2.0時間）
2	事前学習	講義ノートの準備ならびに教科書2章の学習（2.0時間）
	授業内容	海外市場参入行動1（歴史）（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理ならびに教科書2章の復習（2.0時間）
3	事前学習	講義ノートの準備ならびに教科書3章の学習（2.0時間）
	授業内容	海外市場参入行動2（市場分析）（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理ならびに教科書3章の復習（2.0時間）
4	事前学習	講義ノートの準備（2.0時間）
	授業内容	海外市場参入行動3（参入モード）（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理ならびにグループ演習課題のための2次資料収集（2.0時間）

5	事前学習	グループ演習課題のための2次資料収集（2.0時間）
	授業内容	グループ演習1とフィードバック（緑茶飲料の海外市場参入）（1.5時間）
	事後学習	リアクションペーパーの準備（2.0時間）
6	事前学習	講義ノートの準備ならびに教科書4章の学習（2.0時間）
	授業内容	国際マーケティング標準化－適応化1（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理ならびに教科書4章の学習（2.0時間）
7	事前学習	講義ノートの準備ならびに教科書4章の学習（2.0時間）
	授業内容	国際マーケティング標準化－適応化2（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理ならびにレポートの準備（2.0時間）
8	事前学習	講義ノートの準備ならびにレポートの準備（2.0時間）
	授業内容	国際マーケティング標準化－適応化3（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理ならびにレポートの準備（2.0時間）
9	事前学習	グループ演習課題のための2次資料収集（2.0時間）
	授業内容	グループ演習2とフィードバック（緑茶飲料の標準化と適応化戦略）（1.5時間）
	事後学習	リアクションペーパーの準備（2.0時間）
10	事前学習	講義ノートの準備ならびにレポートの準備（2.0時間）
	授業内容	国際マーケティング・ケイパビリティ1（1.5時間）
	事後学習	教科書5～7章の学習（2.0時間）
11	事前学習	講義ノートの準備ならびに教科書5～7章の学習（2.0時間）
	授業内容	国際マーケティング・ケイパビリティ2（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理ならびに教科書5～7章の復習（2.0時間）
12	事前学習	講義ノートの準備（2.0時間）
	授業内容	ケーススタディ：ゲストスピーカー（予定）（1.5時間）
	事後学習	リアクションペーパーの準備ならびに個人演習の準備（2.0時間）
13	事前学習	教科書4～7章の復習（2.0時間）
	授業内容	個人演習1とフィードバック（1.5時間）
	事後学習	リアクションペーパーならびに試験の準備（2.0時間）
14	事前学習	試験の準備（2.0時間）
	授業内容	個人演習2とフィードバック（1.5時間）
	事後学習	リアクションペーパーならびに試験の準備（2.0時間）
15	事前学習	試験の準備（2.0時間）
	授業内容	授業内試験及びフィードバック（1.5時間）
	事後学習	試験の振り返り（2.0時間）

科目名	マーケティング論Ⅰ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	市場の形成、マーケティングの発生、企業によるマーケティング行動につき体系的に講じる。とくに4Pを用いたマーケティング計画の具体的手順と消費者行動につき理解を深める。			
授業目的・到達目標	ビジネスの成功は、急変を繰り返す環境要因を所与としながらも、「考え抜く力」と「実現力」で決まる。本講義では、教員が受講生に対して常に疑問を投げかけることにより、受講生が自ら考え抜く力を養成することを目的とし、本講義で学んだことを説明できるようになることを目標としている。 DPならびにCP（新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3）			
履修条件	特になし。2年次以降に履修が可能となる「マーケティング戦略論」の履修には本単位の取得が条件となるため、本単位を1年次で履修することを推奨する。			
授業方法	教員による講義と受講生による討論により進める。講義への積極的な関与が求められる。 定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	60%	詳しくは第1回目の講義にて説明するため、必ず出席すること。第1回目の講義に出席できないものは受講資格を失うこともあるので注意すること。	
	平常評価	40%	40%の内訳は、グループ演習10%×4回とするが、その他参加態度を加味し、総合的に判断する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2013	日本経済新聞社	ゼミナールマーケティング入門	石井・嶋口・栗木・余田著
	備考	教科書の事前購入は必要ない。詳しくは講義内で説明する。		
参考書	『広告コミュニケーションの総合講座2018』日本経済新聞出版社 『1からのマーケティング』中央経済社。			
オフィスアワー	水曜13：30?14：30 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。 usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの熟読ならびに自身の目標を認識しておく（2.0時間）
	授業内容	ガイダンス（本講義の進め方、内容、評価方法、課題について）（1.5時間）
	事後学習	ガイダンス資料に基づき、年間の学習スケジュールと目標を理解しておく（2.0時間）
2	事前学習	講義ノートの準備。現実のマーケティング問題について新聞記事等を読んで理解しておく（2.0時間）
	授業内容	マーケティングの発生、定義、原理（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2.0時間）
3	事前学習	講義ノートの準備。現実のマーケティング問題について新聞記事等を読んで理解しておく（2.0時間）
	授業内容	マーケティング・マネジメント（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2.0時間）
4	事前学習	講義ノートの準備。自身の考えるヒット製品、サービスについて新聞記事等を読んで理解しておく（2.0時間）
	授業内容	コンセプトと製品・サービス（Product）（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2.0時間）

5	事前学習	グループ演習課題のための2次資料の収集（2.0時間）
	授業内容	グループ演習1とフィードバック（1.5時間） （法学部のコンセプト策定）
	事後学習	リアクションペーパーの準備（2.0時間）
6	事前学習	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認（2.0時間）
	授業内容	価格のデザイン(Price)（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2.0時間）
7	事前学習	講義ノートの準備。コンビニの棚割りを確認しておく（2.0時間）
	授業内容	マーケティング・チャネル(Place)（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2.0時間）
8	事前学習	グループ演習課題のための2次資料の収集（2.0時間）
	授業内容	プロモーション(Promotion)（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2.0時間）
9	事前学習	グループ演習課題のための2次資料の収集（2.0時間）
	授業内容	グループ演習2とフィードバック（1.5時間） （プロモーション企画立案）
	事後学習	リアクションペーパーの準備（2.0時間）
10	事前学習	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認（2.0時間）
	授業内容	消費者行動の理解1（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2.0時間）
11	事前学習	講義ノートの準備ならびにグループ演習課題のための2次資料の収集（2.0時間）
	授業内容	消費者行動の理解2（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2.0時間）
12	事前学習	グループ演習課題のための2次資料の収集（2.0時間）
	授業内容	グループ演習3とフィードバック（1.5時間） （消費者行動）
	事後学習	リアクションペーパーの準備（2.0時間）
13	事前学習	前回の復習ならびにリアクションペーパーの確認（2.0時間）
	授業内容	ケーススタディ：ゲストスピーカー講義（予定）（1.5時間）
	事後学習	リアクションペーパーの準備（2.0時間）
14	事前学習	個人演習の準備（2.0時間）
	授業内容	個人演習とフィードバック（1.5時間）
	事後学習	試験の準備（2.0時間）
15	事前学習	試験の準備（2.0時間）
	授業内容	授業のまとめ（試験に向けて）（1.5時間）
	事後学習	試験の準備（2.0時間）

科目名	マーケティング論Ⅱ	担当者	臼井 哲也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	市場の形成、マーケティングの発生、企業によるマーケティング行動、流通のしくみなどにつき体系的に講じる。とくに流通システムと小売業の業態と戦略について講じる。			
授業目的・到達目標	マーケティングの理論と実践における基礎知識の養成を目的とし、本講義で学んだことを説明できるようになることを目標とする。 DP, CP（新聞学科1, 5 経営法学科 1, 2, 3）			
履修条件	特になし。2年次以降に履修が可能となる「マーケティング戦略論」の履修には本単位の取得が条件となるため、本単位を1年次で履修することを推奨する。			
授業方法	教員による講義と受講生による討論により進める。講義への積極的な関与が求められる。 定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	60%	詳しくは第1回目の講義にて説明するため、必ず出席すること。第1回目の講義に出席できないものは受講資格を失うこともあるので注意すること。	
	平常評価	40%	個人演習（レポート）とグループ演習への参加態度を加味し、総合的に判断する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2013	日本経済新聞社	ゼミナールマーケティング入門	石井・嶋口・栗木・余田著
	備考	教科書の事前購入は必要ない。詳しくは講義内で説明する。		
参考書	『広告コミュニケーションの総合講座2018』日本経済新聞出版社 『1からのマーケティング』中央経済社。			
オフィスアワー	水曜13：30?14：30 以下のメールアドレスへ問い合わせること。個別に時間および研究室等の場所を設定する。 usui.tetsuya@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの熟読ならびに講義ノートの準備（2．0時間）
	授業内容	ガイダンスと前期復習（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理ならびにリアクションペーパーの執筆（2．0時間）
2	事前学習	講義ノートの準備。企業のターゲット顧客の選定について自身で考えをまとめておく（2.0時間）
	授業内容	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）1（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2．0時間）
3	事前学習	講義ノートの準備。製品のポジショニングについて自身で考えをまとめておく（2.0時間）
	授業内容	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）2（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2．0時間）
4	事前学習	講義ノートの準備。自身が好きなブランドについて考えをまとめておく（2.0時間）
	授業内容	ブランド・マネジメント1（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2．0時間）

5	事前学習	講義ノートの準備ならびに好きなブランドに関する情報収集（2.0時間）
	授業内容	ブランド・マネジメント2（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2.0時間）
6	事前学習	グループ演習課題のための2次資料の収集（2.0時間）
	授業内容	グループ演習とフィードバック（ブランドについて）（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理、レポート準備（2.0時間）
7	事前学習	講義ノートの準備、レポート準備（2.0時間）
	授業内容	流通システム1（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2.0時間）
8	事前学習	講義ノートの準備、レポート準備（2.0時間）
	授業内容	流通システム2（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2.0時間）
9	事前学習	講義ノートの準備、レポート準備（2.0時間）
	授業内容	小売業態発展と競争1（百貨店からチェーンストアへ）（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2.0時間）
10	事前学習	講義ノートの準備、レポート準備（2.0時間）
	授業内容	ケーススタディ：ゲストスピーカー講義（予定）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2.0時間）
11	事前学習	講義ノートの準備、レポート準備（2.0時間）
	授業内容	小売業態発展と競争2（コンビニエンスストアの強み）（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2.0時間）
12	事前学習	講義ノートの準備、レポート準備（2.0時間）
	授業内容	小売業態発展と競争3（製造小売業の強み）（1.5時間）
	事後学習	講義ノートの整理と復習（2.0時間）
13	事前学習	講義ノートの準備、個人演習の準備（2.0時間）
	授業内容	個人演習1とフィードバック（1.5時間）
	事後学習	リアクションペーパーの執筆（2.0時間）
14	事前学習	講義ノートの準備、個人演習の準備（2.0時間）
	授業内容	個人演習2（1.5時間）
	事後学習	リアクションペーパーの執筆（2.0時間）
15	事前学習	試験の準備（2.0時間）
	授業内容	授業のまとめ（試験に向けて）（1.5時間）
	事後学習	試験の準備（2.0時間）

科目名	マクロ経済学Ⅰ	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる概念やモデルについて講義を行う。 なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。					
授業目的・到達目標	経済現象や市場メカニズムを解明するための基本的な分析枠組みであるマクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を養成することを目的とする。 GDPや物価、失業率、利子率、為替レートといった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，2 政治経済学科2，3 新聞学科1，5 経営法学科1，2，3，4 公共政策学科1，3，4					
履修条件	特になし。					
授業方法	教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。定期試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		90%		学期末試験で評価する。	
	平常評価		10%		小テストを考慮する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2013年	東洋経済新報社		マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第3版）		N. グレゴリー・マンキュー
	備考					
参考書	使用しない					
オフィスアワー	授業期間中の毎週火曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける（予約は不要）、また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書のイントロダクションを一読し、テキストで扱うテーマについて理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【オリエンテーション】 マクロ経済学の対象と方法と理論体系
	事後学習	講義内容について確認をして、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書第5章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【国民所得の計算】 マクロ経済のフロー循環、名目GDPと実質GDPの違いについて学習する。
	事後学習	教科書の第5章の復習問題3．6．について説明をまとめること。（2時間）
3	事前学習	教科書第6章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【生計費の計算】 消費者物価指数の計測、インフレ率、生産者物価指数について学習する。
	事後学習	教科書の第6章の復習問題1．2．について説明をまとめること。（2時間）
4	事前学習	教科書第7章1．2．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【経済成長と生産性】 生産性と経済成長の関係について学習する。
	事後学習	教科書の第7章の復習問題1．2．について説明をまとめること。（2時間）

5	事前学習	教科書第7章3．4．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【経済成長の要因】 成長性を高めるための政府の政策について学習する。
	事後学習	教科書の第7章の復習問題4．8．について説明をまとめること。（2時間）
6	事前学習	教科書第8章1．2．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【金融システム】 マクロ経済における金融の果たす役割について学習する。
	事後学習	教科書の第8章の復習問題1．3．について説明をまとめること。（2時間）
7	事前学習	教科書第8章3．4．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【貸付資金市場】 貸付資金市場のメカニズムについて学習する。
	事後学習	教科書の第8章の復習問題5．6．について説明をまとめること。（2時間）
8	事前学習	教科書第9章1．2．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【ファイナンスの基礎】 現在価値とリスク管理について学習する。
	事後学習	教科書の第9章の復習問題1．3．について説明をまとめること。（2時間）
9	事前学習	教科書第9章3．4．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【行動ファイナンスの基礎】 個人の非合理性を考慮した行動ファイナンスについて学習する。
	事後学習	授業の最後で提示する練習問題について自分の答えをまとめること。（2時間）
10	事前学習	教科書第11章1．2．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【貨幣とは何か】 マクロ経済における貨幣の意味と中央銀行の役割について学習する。
	事後学習	教科書の第11章の復習問題1．2．について説明をまとめること。（2時間）
11	事前学習	教科書第11章3．4．5．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【銀行と貨幣供給】 信用創造と中央銀行による貨幣供給の調節について学習する。
	事後学習	教科書の第11章の復習問題5．9．について説明をまとめること。（2時間）
12	事前学習	教科書第10章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【失業とは何か】 マクロ経済における失業について学習する。
	事後学習	教科書の第10章の復習問題3．5．について説明をまとめること。（2時間）
13	事前学習	教科書第13章の1．2．部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【開放経済の基礎】 財と資本の国際フローと為替相場について学習する。
	事後学習	教科書の第13章の復習問題1．2．について説明をまとめること。（2時間）
14	事前学習	教科書第13章の3．4．部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【為替相場の基礎理論】 購買力平価について学習する。
	事後学習	教科書の第13章の復習問題4．5．について説明をまとめること。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	期末試験に向けて準備をする。（2時間）

科目名	マクロ経済学Ⅰ	担当者	羽田 翔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経済現象や市場経済のメカニズムを理解するために、一国の経済活動を決定する要因や経済政策の基礎理論を中心に講義を進める。具体的には、GDP、物価水準、貨幣、利子率、雇用、賃金、為替レートの決定と、これらの経済指標が変化する要因を説明する。					
授業目的・到達目標	本講義では、現実に行き起きているマクロ経済に関する現象を読み解くために必要なマクロ経済学の基本的な知識、分析手および経済学的なものの考え方を育成することを目的とする。また、これらの知識を駆使し、現実の経済及び政治経済に関する諸問題の理解、そしてその解決方法を提案できる力をつけることを目標とする。対応DP及びCP：法律学科 1, 2 政治経済学科 2, 3 新聞学科 1,5 経営法学科 1, 2, 3, 4 公共政策学科 1, 3, 4					
履修条件	なし					
授業方法	講義ノートとレシ ュメ（主に図表）を活用して授業を進める。練習問題及び小テストを複数回行うことで理解を促す。練習問題等の解説および返却を次の授業で行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		70%		学期末の定期試験で評価する。	
	平常評価		30%		授業への積極的な参加及び小テストで評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2007年	日本評論社		入門マクロ経済学 第5版		中谷 巖
	備考					
参考書	特に指定しない。しかし、自分でマクロ経済学の入門書を実際に手に取り、合ったものを1冊参考にすることか望ましい。					
オフィスアワー	月曜日12:00-13:30（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（ ） メールアドレス：					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を準備し、マクロ経済学の枠組みを理解するために教科書第1章を熟読すること。また、シラハスの内容を確認してくること。（2時間）
	授業内容	マクロ経済学を学ぶ意味： 経済学におけるマクロ経済学とミクロ経済学の説明、授業概要および成績評価方法の解説
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、マクロ経済学の全体像をまとめること。さらに、マクロ経済学とミクロ経済学の違いも自分なりにまとめること。（2時間）
2	事前学習	教科書第2章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「GDP」と「付加価値」の概念を重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	GDPと物価指数(1)： GDPとGNP、付加価値、名目と実質、フローとストックについて
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、GDPの概念およびGDPとGNPの違いについてまとめること。（2時間）
3	事前学習	教科書第2章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、GDPを計算する上で「消費」「投資」という概念がどのように異なるかを理解すること。（2時間）
	授業内容	GDPと物価指数(2)： GDPの計算における消費と投資の違いについて
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、内閣府のホームページにある統計データを実際に確認してみること。（2時間）
4	事前学習	教科書第2章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、GDPを考える上で「生産」「分配」「支出」といった異なる側面があることを理解すること。（2時間）
	授業内容	GDPと物価指数(3)： 三面等価（生産・分配・支出）の原則の理解
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、「生産」「分配」「支出」面から確認するGDPの値が一致することをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。（2時間）

5	事前学習	教科書第2章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、どのような場合にマクロ経済学におけるGDPの分析枠組みが有用かを理解すること。（2時間）
	授業内容	GDPと物価指数(4)： 三面等価の原則と現実の世界について（統計としてのGDPと現実世界の乖離）
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、GDPに含まれていないが重要な要素をまとめる。また、練習問題の内容を再度確認すること。（2時間）
6	事前学習	教科書第2章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、GDPデフレーター の計算式および計算式に含まれる各要素の意味を理解すること。（2時間）
	授業内容	GDPと物価指数(5)： 物価水準の指標とGDPデフレーター の計算
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、物価水準に関する各指標の特徴をまとめること。また、練習問題の内容及び計算方法を再度確認すること。（2時間）
7	事前学習	教科書第4章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、どのような時にモノを販売する財市場において「価格」又「数量」が調整されるのかを理解すること。（2時間）
	授業内容	所得の決定メカニズム(1)： 財市場における数量調整と価格調整の違いについて
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、総需要曲線と総供給曲線の概念をまとめること。また、練習問題の内容を再度確認し、ミクロ経済学との考えの違いについてまとめること。（2時間）
8	事前学習	教科書第4章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、関数の考え方と、「消費」及び「投資」を決定する要素について理解すること。（2時間）
	授業内容	所得の決定メカニズム(2)： 消費関数と投資関数について（人々の消費行動又は投資行動は何によって決定されているのか）
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、「限界概念」「消費性向」「投資の効率効率」について正確に理解できるよう自分なりにまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。（2時間）
9	事前学習	教科書第4章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、総需要曲線が上にシフトする要因と45度線が意味するものについて理解すること。（2時間）
	授業内容	所得の決定メカニズム(3)： 45度線モデルと所得の決定
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、45度線モデルによってどのように所得が決定されるかを自分で作図することで確認すること。また、練習問題の内容を再度確認すること。（2時間）
10	事前学習	教科書第4章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、政府「乗数効果」の概念及び計算方法について理解すること。（2時間）
	授業内容	所得の決定メカニズム(4)： 乗数波及効果とデフレキヤッフ、インフレキヤッフ について
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、政府支出乗数の計算方法及びその意味についてまとめること。また、練習問題の内容を再度確認し、再度計算問題を解くこと。（2時間）
11	事前学習	教科書第5章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、貨幣市場の定義およびそこで取引される「貨幣以外」の資産について理解すること。（2時間）
	授業内容	貨幣の需給バランスと利子率(1)： ストック（貨幣）市場におけるワルラスの法則について
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、ワルラスの法則を示している数式(3)について、自分なりにまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。（2時間）
12	事前学習	教科書第5章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、貨幣の機能及び貨幣に対する需要の種類について理解すること。（2時間）
	授業内容	貨幣の需給バランスと利子率(2)： 貨幣の3つの機能と割引現在価値
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、割引現在価値の概念とその計算方法について、自分なりにまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。（2時間）
13	事前学習	教科書第5章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、債券価格の決定要因としての利子率の役割について理解すること。（2時間）
	授業内容	貨幣の需給バランスと利子率(3)： 債券価格と利子率の関係
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、利子率が上昇（低下）した場合の債券価格の動きをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。（2時間）
14	事前学習	教科書第5章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、日本銀行の役割と金融政策について理解すること。（2時間）
	授業内容	貨幣の需給バランスと利子率(4)： 貨幣の供給と政策について
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、金融政策とその効果についてまとめること。現在の日本において、そのような金融政策が必要であるかを考えること。（2時間）
15	事前学習	第1回～14回までの講義ノートを見返し、重要なポイントについて理解すること。（2時間）
	授業内容	マクロ経済学Iのまとめ及び試験内容の確認
	事後学習	第1回～14回までの講義ノートを見返し、定期試験の準備を進めること（2時間）

科目名	マクロ経済学 I	担当者	日隈 信夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）では、経済活動の行われる3つの市場（財市場、資産《貨幣・債券》市場および労働市場）のうち、財市場と貨幣市場を取り扱い、その後、財市場からIS曲線、貨幣市場からLM曲線を導出し、IS-LM分析を行う。また、IS-LMモデルを使用して、財政政策と金融政策の有効性について解説する。			
授業目的・到達目標	マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）を習得することによって、現実の社会現象を説明する能力を養成することを目的とする。また、マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）の知識や理論を使用して、現実の社会現象を科学的に分析できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1,2 政治経済学科2,3 新聞学科1,5 経営法学科1,2,3,4			
履修条件	特になし			
授業方法	講義形式 フィードバックは授業内に行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	平常評価（授業参加度、授業内試験等）
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2007	日本評論社	入門マクロ経済学 第5版	中谷巖
	備考			
参考書	大淵三洋ほか著『基本経済学』八千代出版、2018年。			
オフィスアワー	質問、要望などがあれば、授業（月曜2限）前後など、気軽にお声がけいただきたい（メールでも対応可）。また、やむを得ず欠席する場合も、以下のメールアドレスに事前連絡（欠席理由も報告）いただきたい。 sunbears7@hotmail.com			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	この授業のガイダンス（受講方法、授業方針などの解説）を行った後、マクロ経済学の概要、ミクロ経済学との関係、周辺領域との関係について解説する。履修希望者は、必ず出席すること。
	事後学習	第1回に行った解説の内容（マクロ経済学の概要、ミクロ経済学との関係、周辺領域との関係を復習しておくこと。（2時間）
2	事前学習	第2回に行われる第1章前半を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	世界経済との関連で、日本経済の動向と今後の展望について解説する。
	事後学習	第2回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
3	事前学習	第3回に行われる第2章前半を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	フローとストック、名目と実質、静学と動学など、マクロ経済学を学習するためのいくつかの概念を解説したうえで、国民所得統計としてのGDPの概念について解説する。
	事後学習	第3回になった解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
4	事前学習	第4回に行われる第2章後半を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	三面等価の原則、ISバランスおよび物価水準について解説したうえで、簡単な数値例を基に、物価水準に関する簡単な計算問題を行う。
	事後学習	第4回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）

5	事前学習	第5回に行われる第3章前半を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	マクロ経済学の枠組みとして、日常生活における「歴史的時間」とマクロ経済学における「抽象的時間」の違いを解説したうえで、「短期」と「長期」の違い、「総供給曲線」と「総需要曲線」の関係について解説する。
	事後学習	第5回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
6	事前学習	第6回に行われる第3章後半を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	マクロ経済学の枠組みとして、「短期」における総供給曲線と「長期」における総供給曲線の違いから、「有効需要の原理」と「セイの法則」について解説する。その後、「短期」と「長期」のそれぞれにおける物価水準と産出量の決定過程について解説する。
	事後学習	第6回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
7	事前学習	第7回に行われる第4章前半を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	財市場の分析として、消費や投資といった総需要を構成する経済変数に関連して、消費関数、投資の限界効率、投資関数から、国民所得決定の過程について解説する。
	事後学習	第7回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
8	事前学習	第8回に行われる第4章後半を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	財市場の分析として、財市場の均衡式から、財政政策の有効性と乗数について解説する。その後、簡単な数値例を基に、均衡国民所得や乗数に関連する計算問題を行う。
	事後学習	第8回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
9	事前学習	第9回に行われる第5章前半を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	資産市場の分析として、資産の特性とワルラスの法則について解説したうえで、貨幣の機能、債券価格と利子率の関係から、貨幣の保有動機（貨幣の需要）について解説する。
	事後学習	第9回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
10	事前学習	第10回に行われる第5章後半を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	資産市場の分析として、貨幣の種類と乗数について解説したうえで、貨幣の供給について解説する。その後、貨幣市場の均衡と利子率の決定や金融政策の有効性について解説する。
	事後学習	第10回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
11	事前学習	第11回に行われる第6章前半を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	財市場のモデルからIS曲線、貨幣市場のモデルからLM曲線を導出し、IS-LMモデルの基本的な枠組みについて解説する。
	事後学習	第11回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
12	事前学習	第12回に行われる第6章後半を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	IS-LMモデルを使用して、財政政策と金融政策の有効性およびその効果を妨げる現象（クラウディング・アウト効果、流動性のわな、投資の利子非弾力性）について解説する。
	事後学習	第12回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
13	事前学習	第13回に行われる第6章のポイントを整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	簡単な数値例を基に、IS曲線、LM曲線、IS-LMモデルに関連する簡単な計算問題を行う。
	事後学習	第13回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
14	事前学習	第14回に行われる第4章から第6章のポイントを整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	マクロ経済学Ⅱ（国際マクロ経済学および長期モデル）に繋げる（対応させる）ために、財市場の分析、貨幣市場の分析およびIS-LM分析など、マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）の総復習を行う。
	事後学習	第14回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
15	事前学習	これまでの単元を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業内試験および前期学習内容の振り返り
	事後学習	マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）、特に、IS-LMモデルの基本的な枠組みを十分復習し、マクロ経済学Ⅱ（国際マクロ経済学および長期モデル）の受講準備をしておくこと。（2時間）

科目名	マクロ経済学Ⅰ	担当者	武縄 卓雄	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経済学の基礎であるマクロ経済学を、ケインズ経済学を中心に講義する。マクロ経済学を理解するために必要な、基本的な概念と用語、基礎的な理論、関連した統計を説明する。				
授業目的・到達目標	マクロ経済学を理解するために必要な、基本的な概念と用語、基礎的な理論、関連した統計を説明することを目的とする。現在の我が国に生じているマクロ経済面の問題に関して、意見を述べられる力を身につけることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 2				
履修条件	数学の予備知識は必要としないが、割り算の意味を理解していないと単位修得は難しい。また、経済学もしくは経済学Ⅰ・Ⅱを修得していることが望ましい。				
授業方法	講義形式。毎週、原則として講義冒頭に復習問題を行い、解説します。 課題などの提出物は、原則として提出時の翌週に、返却します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	期末試験の結果以外に、授業参加度、授業内練習問題の点数および提出課題の内容等を考慮します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017/3/3	岩波書店		マクロ経済学 第4版	吉川洋
	備考				
参考書	西村和雄『入門 経済学ゼミナール』実務教育出版、三橋・内田・池田『ゼミナール日本経済入門(第25版)』日本経済新聞社、J. K. シム/J. G. シーゲル著／井堀／栗沢訳『新経済学用語辞典』新世社				
オフィスアワー	メールで問い合わせてください。 takenawa.takuo@nihon-u.ac.jp 時間調整をします。月曜17:50～授業講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストとノートを準備する。事前にシラバスを確認しておく。（2時間）
	授業内容	第1章 マクロ経済学の諸概念 ストックとフロー、GDPとその統計原則、
	事後学習	ノートの整理をし、GDPに関する質問を作成する。（2時間）
2	事前学習	前回のノートを再確認する。（2時間）
	授業内容	名目GDPと実質GDP
	事後学習	ノートを整理し、実質GDPを算出する数値例を自作して、計算する。（2時間）
3	事前学習	前回のノートを再確認する。（2時間）
	授業内容	貯蓄・投資バランス GDP統計の限界
	事後学習	ノートを整理し、財市場の均衡条件式の導出法を文章化する。（2時間）
4	事前学習	前回のノートを再確認する。（2時間）
	授業内容	第2章 GDPの決定 有効需要の原理 消費関数
	事後学習	ノートを整理する。（2時間） 消費関数を自作し、作図する。

5	事前学習	有効需要の原理を中心に、前回のノートを確認する。（2時間）
	授業内容	財市場におけるマクロの需給均衡とGDPの決定 会計上の恒等式と経済理論の均衡式
	事後学習	ノートを整理し、GDPの決定について文章化する。（2時間）
6	事前学習	前回のノートを確認し、GDP決定の計算例を一題作問する。（2時間）
	授業内容	乗数
	事後学習	ノートを整理し、乗数メカニズムを文章化する。（2時間）
7	事前学習	前回のノートを確認し、投資乗数の計算例を一題作問する。（2時間）
	授業内容	政府支出と税
	事後学習	租税乗数を中心に、ノートを整理する。（2時間）
8	事前学習	前回のノートを確認し、租税乗数の数値例を一題作問する。（2時間）
	授業内容	IS曲線の導出
	事後学習	IS曲線の定義を中心に、ノートを整理する。（2時間）
9	事前学習	IS曲線の数値例を1問作成し、ノートを確認する。（2時間）
	授業内容	第3章 資産市場 資産の特性と貨幣 債券価格と利子率
	事後学習	債券価格と利子率の関係を中心にノートを整理する。（2時間）
10	事前学習	債券価格と利子率の関係を文章化し、ノートを確認する。（2時間）
	授業内容	資産市場の均衡 貨幣の需要 貨幣の供給
	事後学習	貨幣の定義と利子率の決定を中心に、ノートを整理する。（2時間）
11	事前学習	利子率の決定を文章化し、ノートを確認する。（2時間）
	授業内容	第4章 IS/LMモデル 貨幣市場の均衡：LM曲線
	事後学習	LM曲線の定義を中心に、ノートを整理する。（2時間）
12	事前学習	LM曲線の数値例を1問作成し、ノートを確認する。（2時間）
	授業内容	財市場の均衡：IS曲線 貨幣市場と財市場の同時均衡
	事後学習	同時均衡の数値問題を1問作成し、ノートを整理する。（2時間）
13	事前学習	同時均衡を文章化し、ノートを確認する。（2時間）
	授業内容	財政政策
	事後学習	IS曲線のシフトと財政政策の関係を中心にノート整理する。（2時間）
14	事前学習	財政政策とIS曲線のシフトに関する数値例を1問作成し、ノートを確認する。（2時間）
	授業内容	金融政策
	事後学習	LM曲線のシフトと財政政策の関係を中心にノート整理する。（2時間）
15	事前学習	金融政策とLM曲線のシフトに関する数値例を1問作成し、これまでのノートを確認する。（2時間）
	授業内容	期末試験。解答用紙は添削して、メールで返却します。
	事後学習	試験を再度、解いてみる。（2時間）

科目名	マクロ経済学Ⅱ	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	マクロ経済学とは、一国経済について理解するための体系的な理論である。本講義ではそのマクロ経済政策について講義を行う。 なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。			
授業目的・到達目標	経済現象や市場メカニズムを解明するための基本的な分析枠組みであるマクロ経済政策の基本的なモデルと考え方の基礎力を養成することを目的とする。 IS-LMモデル、AD-ASモデル、フィリップス曲線といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科3， 4			
履修条件	マクロ経済学Ⅰが履修済みであることが望ましい。（履修は必須ではないが、マクロ経済学Ⅰの内容は理解している前提で講義を進める。）			
授業方法	教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。定期試験の解答・解説を後日学生教員フォルダにアップする。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		90%	学期末試験で評価する。
	平 常 評 価		10%	小テストを考慮する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2013年	東洋経済新報社	マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第3版）	N. グレゴリー・マンキュー
	備考			
参 考 書	必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	授業期間中の毎週火曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける（予約は不要）、また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の第8章部分を復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	【オリエンテーション】 マクロ経済政策とは何か。
	事後学習	講義内容について確認をして、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	講義ノートを事前に読み内容の外観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【IS曲線の導出】 IS曲線の導出方法及び性質について学習する。
	事後学習	授業の最後に提示する練習問題について説明をまとめること。（2時間）
3	事前学習	講義ノートを事前に読み内容の外観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【LM曲線の導出】 LM曲線の導出方法及び性質について学習する。
	事後学習	授業の最後に提示する練習問題について説明をまとめること。（2時間）
4	事前学習	講義ノートを事前に読み内容の外観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【IS-LM分析】 IS-LM分析の基礎、その拡張（動学的効果、名目利子率と実質利子率）について学習する。
	事後学習	授業の最後に提示する練習問題について説明をまとめること。（2時間）

5	事前学習	講義ノートを事前に読み内容の外観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【マンデル・フレミングモデル】 マンデル・フレミングモデルについて学習する
	事後学習	授業の最後に提示する練習問題について説明をまとめること。（2時間）
6	事前学習	講義ノートを事前に読み内容の外観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【開放経済における為替の影響】 マンデル・フレミングモデルに為替レートの与える影響について学習する。
	事後学習	授業の最後に提示する練習問題について説明をまとめること。（2時間）
7	事前学習	教科書第15章 1. 2. 3. の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【総需要曲線】 総需要曲線の性質について学習する。
	事後学習	教科書第15章の復習問題 3 について説明をまとめること（2時間）
8	事前学習	教科書第15章 4. 5. 6. の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【総需要・総供給モデル】 総供給曲線の性質、総需要・総供給の均衡、シフトについて学習する。
	事後学習	教科書第15章の復習問題 2. 6. 7 について説明をまとめること（2時間）
9	事前学習	教科書第16章 1. の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【金融政策の効果】 流動性選好理論について学習する。
	事後学習	教科書第16章の復習問題 1. 2 について説明をまとめること（2時間）
10	事前学習	教科書第16章 2. 3. 4. の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【財政政策の効果】 乗数効果、クラウディング・アウト効果について学習する。
	事後学習	教科書第16章の復習問題 3 について説明をまとめること（2時間）
11	事前学習	教科書第12章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【インフレーションの基礎理論】 古典派の二分法、貨幣の中立性、貨幣の流通速度、フィッシャー効果について学習する。
	事後学習	教科書第12章の復習問題 3、4 について説明をまとめること（2時間）
12	事前学習	教科書第17章 1. 2. 3. の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【フィリップス曲線】 フィリップス曲線の性質、シフトについて学習する。
	事後学習	教科書第17章の復習問題 2 について説明をまとめること（2時間）
13	事前学習	教科書第17章 4. 5. の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【インフレと失業】 中央銀行による金融政策がインフレ率と失業率に与える影響について学習する。
	事後学習	教科書第17章の復習問題 1、5 について説明をまとめること（2時間）
14	事前学習	教科書第18章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【マクロ経済政策の論争】 現在のマクロ経済政策のトピックスについて学習する。
	事後学習	教科書第18章の復習問題 1、9 について説明をまとめること（2時間）
15	事前学習	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	期末試験に向けて準備しておくこと。（2時間）

科目名	マクロ経済学Ⅱ	担当者	羽田 翔	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経済現象や市場経済のメカニズムを理解するために、一国の経済活動を決定する要因や経済政策の基礎理論を中心に講を進める。具体的には、GDP、物価水準、貨幣、利子率、雇用、賃金、為替レートの決定と、これらの経済指標が変化する要因を説明する。					
授業目的・到達目標	本講義では、現実に行き起きているマクロ経済に関する現象を読み解くために必要なマクロ経済学の基本的な知識、分析手および経済学的なモノの考え方を育成することを目的とする。また、これらの知識を駆使し、現実の経済及び政治経済に関する諸問題の理解、そしてその解決方法を提案できる力をつけることを目標とする。対応DP及びCP：政治経済学科 3、4					
履修条件	なし					
授業方法	講義ノートとレシメ（主に図表）を活用して授業を進める。練習問題及び小テストを複数回行うことで理解を促す。練習問題等の解説および返却を次の授業で行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		70%		学期末の定期試験で評価する。	
	平常評価		30%		授業への積極的な参加及び小テストで評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2007年	日本評論社		入門マクロ経済学 第5版		中谷 巖
	備考					
参考書	特に指定しない。しかし、自分でマクロ経済学の入門書を実際に手に取り、合ったものを1冊参考にすることか望ましい。					
オフィスアワー	月曜日12:00-13:30（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（ ） メールアドレス：					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ミクロ経済学Ⅰに関する内容を確認するために講義ノートを熟読すること。また、シラハスの内容を確認してくること。（2時間）
	授業内容	マクロ経済学Ⅰの復習： 講義概要と成績評価方法の説明
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、マクロ経済学の全体像をまとめること。さらに、マクロ経済学とミクロ経済学の違いも自分なりにまとめること。（2時間）
2	事前学習	教科書第6章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「IS曲線」と「LM曲線」の概念を重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	IS-LM分析(1)： IS-LM分析の考え方とIS曲線の導出
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、IS曲線とLM曲線の違いについてまとめること。また、IS曲線の導出方法についても自分なりにまとめること（2時間）
3	事前学習	教科書第6章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「LM曲線」がどの市場を対象としており、そのように導出できるかを重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	IS-LM分析(2)： IS-LM分析の考え方とLM曲線の導出
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、LM曲線の導出方法についてまとめる。また、練習問題の内容を再度確認すること。（2時間）
4	事前学習	教科書第6章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、IS曲線とLM曲線が交わる点は何を意味するかを重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	IS-LM分析(3)： IS曲線とLM曲線の交点とその意味
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、IS曲線とLM曲線の交点とその意味についてまとめる。また、練習問題の内容を確認し、どのようにIS曲線とLM曲線を導出するかを再確認すること。（2時間）

5	事前学習	教科書第6章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、財政政策と金融政策には何が含まれるかを重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	IS-LM分析と財政政策・金融政策(1)： 財政政策・金融政策とIS-LM曲線のシフト
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、それぞれの政策がどちらの曲線をどの方向にシフトさせるかをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。（2時間）
6	事前学習	教科書第6章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、金融政策が機能しない状況について重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	IS-LM分析と財政政策・金融政策(2)： クラウテ `ィンク `アウト、金融政策が `機能しないケースについて
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、金融政策が機能しないケースに関して、日本がどのような経験をしてきたかをまとめること。（2時間）
7	事前学習	教科書第7章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、国際収支表の概念とその構成要素について重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	国際マクロ経済の理解(1)： 国際収支表の理解と為替制度の歴史
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、為替制度の歴史と講義日時点での（例えば日本円とアメリカドル）の為替レートを確認すること。また、実際の日本の国際収支表についても確認すること。（2時間）
8	事前学習	教科書第7章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、IS-LM分析に海外部門が加わる意味と為替レートの関係について重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	国際マクロ経済の理解(2)： マンテ `ル=フレミング `モデルについて
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、海外部門がある時とない時のIS-LM分析の違いをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。（2時間）
9	事前学習	教科書第7章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、固定相場制と変動相場制における中央銀行の役割および為替レートの決定方法について再確認すること。（2時間）
	授業内容	国際マクロ経済の理解(3)： 固定相場制と変動相場制におけるマンテ `ル=フレミング `モデル
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、マンテ `ル=フレミング `モデルにおいて、固定相場制又は変動相場制であるかによって各政策の効果が異なることをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。（2時間）
10	事前学習	教科書第3・8章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、マクロ経済学における「短期」「長期」の概念について再確認すること。（2時間）
	授業内容	マクロ経済学における短期モデルと長期モデルの違いとその応用
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、「長期」におけるIS-LM分析の意味についてまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。（2時間）
11	事前学習	教科書第9章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「総供給曲線」について再確認すること。（2時間）
	授業内容	物価水準の決定メカニズム(1)： ケインズ `と古典派の総供給曲線
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、「古典派」が何を意味するかを再確認すること。また、これらの学派における「総供給曲線」についてもまとめること。（2時間）
12	事前学習	教科書第9章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「価格調整」と「数量調整」について再確認すること。（2時間）
	授業内容	物価水準の決定メカニズム(2)： 現実的な短期の総供給曲線と価格の調整速度について
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、理論的な概念である「短期」と現実の「短期」の違いを再確認すること。また、「短期」という概念を絶対的な時間で理解するのではなく、概念的な時間として考えることで経済学的な思考を試みること。（2時間）
13	事前学習	教科書第10章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、物価変動の指標及び物価が変動することの直感的な意味について再確認すること。（2時間）
	授業内容	インフレーションとデフレーション(1)： インフレとデフレを理解する
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、インフレとデフレの違い及びそれぞれが景気とどのように連動しているかをまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。（2時間）
14	事前学習	教科書第10章および事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、物価変動の指標及び物価が変動することの直感的な意味について再確認すること。（2時間）
	授業内容	インフレーションとデフレーション(2)： 合理的期待形成とインフレ及び `デ `フレの社会的費用
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、合理的期待形成の概念と物価変動が経済になどに与える社会的費用についてそれぞれまとめること。また、練習問題の内容を再度確認すること。（2時間）
15	事前学習	第1回～14回までの講義ノートを見返し、重要なポイントについて理解すること。（2時間）
	授業内容	マクロ経済学Ⅱのまとめ及び `試験内容の確認
	事後学習	第1回～14回までの講義ノートを見返し、定期試験の準備を進めること（2時間）

科目名	マクロ経済学Ⅱ	担当者	日隈 信夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）、特に、IS-LMモデルの復習を十分行ったうえで、国際マクロ経済学の解説を行う。つぎに、短期モデルと長期モデルの違いを解説し、供給サイドを考慮したマクロ経済学Ⅱ（長期モデル）へと解説を繋げていく。			
授業目的・到達目標	マクロ経済学Ⅱ（長期モデル）を習得することによって、現実の社会現象の本質を見抜く能力を養成することを目的とする。 また、マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）およびマクロ経済学Ⅱ（長期モデル）の知識や理論を使用して、現実の社会現象を科学的に分析するだけでなく、現実の社会問題に対する解決策を提示提案できるようになることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：政治経済学科3,4 特になし。			
授業方法	講義形式。フィードバックは授業内に行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	平常評価（授業参加度、授業内試験等）
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2007年	日本評論社	入門マクロ経済学 第5版	中谷巖
	備考			
参考書	大淵三洋ほか著『基本経済学』八千代出版，2018年。			
オフィスアワー	質問、要望などがあれば、授業（月曜2限）前後など、気軽にお声がけいただきたい（メールでも対応可）。また、やむを得ず欠席する場合は、以下のメールアドレスに事前連絡（欠席理由も報告）いただきたい。 sunbears7@hotmail.com			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	この授業のガイダンス（受講方法、授業方針などの解説）を行った後、マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）の概要について復習する。履修希望者は、必ず出席すること。
	事後学習	第1回に行った解説の内容（マクロ経済学Ⅰ《短期モデル》）を復習しておくこと。（2時間）
2	事前学習	第2回に行われる第6章前半を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	財市場と貨幣市場のモデルからIS曲線とLM曲線を導出し、IS-LMモデルの基本的な枠組みを復習する。
	事後学習	第2回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
3	事前学習	第3回に行われる第6章後半を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	IS-LMモデルを使用して、財政政策と金融政策の有効性について解説する。
	事後学習	第3回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
4	事前学習	第4回に行われる第6章のポイントを整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	IS-LMモデルに関する簡単な計算問題を行うことによって、IS-LMモデルの理解を深める。
	事後学習	第4回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）

5	事前学習	第5回に行われる第7章前半を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	国際収支の構造と外国為替制度について解説する。
	事後学習	第5回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
6	事前学習	第6回に行われる第7章後半を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	固定為替相場制、変動為替相場制のそれぞれの制度におけるマンデル＝フレミング・モデルについて解説する。
	事後学習	第6回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
7	事前学習	第7回に行われる第7章のポイントを整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	国際マクロ経済学のポイントを整理したうえで、簡単な計算問題を行う。
	事後学習	第7回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
8	事前学習	第8回に行われる第8章前半を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	短期モデルと長期モデルの枠組みについて解説する。
	事後学習	第8回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
9	事前学習	第9回に行われる第8章後半を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	海外部門を考慮した短期モデル（マンデル＝フレミング・モデル）と海外部門を考慮した長期モデルの枠組みについて解説する。
	事後学習	第9回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
10	事前学習	第10回に行われる第8章のポイントを整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	名目利子率と実質利子率に関連したフィッシャー方程式、インフレ率を考慮したIS-LMモデルについて解説する。
	事後学習	第10回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
11	事前学習	第11回に行われる第9章前半を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	ケインジアン総供給曲線と古典派総供給曲線について解説する。
	事後学習	第11回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
12	事前学習	第12回に行われる第9章後半を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	物価水準の決定と総需要管理政策の有効性について解説する。
	事後学習	第12回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
13	事前学習	第13回に行われる第10章前半を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	総供給曲線から、インフレ供給曲線、フィリップス曲線について、総需要曲線から、インフレ需要曲線について解説する。
	事後学習	第13回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
14	事前学習	第14回に行われる第10章後半を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	合理的期待形成と自然失業率仮説について解説する。
	事後学習	第14回に行った解説の内容を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
15	事前学習	これまでの単元を復習し、理解できる箇所と理解できない箇所を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業内試験および後期学習内容の振り返り
	事後学習	マクロ経済学Ⅰ（短期モデル）とマクロ経済学Ⅱ（長期モデル）で習得した知識や理論を基に、現実の経済問題を考え、自分の考えで積極的に議論に臨んでいくこと。（2時間）

科目名	ミクロ経済学Ⅰ	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義ではその基礎となる消費者行動と生産者行動について講義を行う。 なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。			
授業目的・到達目標	この講座では、ミクロ経済学の基本的なモデルと考え方の基礎力を養成することを目的とする。需要と供給、消費者行動、生産者行動、厚生分析といった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，2 政治経済学科2，3 新聞学科1，5 経営法学科1，2，3，4 公共政策学科1，3，4			
履修条件	特になし。			
授業方法	教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。定期試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	90%	学期末試験で評価する。	
	平常評価	10%	小テストの結果を考慮する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2013年	東洋経済新報社	マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第3版）	N. グレゴリー・マンキュー
	備考			
参考書	使用しない			
オフィスアワー	授業期間中の毎週火曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける（予約は不要）、また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書のイントロダクションを一読しておくこと。（2時間）
	授業内容	【オリエンテーション】 ミクロ経済学の対象と方法と理論体系
	事後学習	講義内容について確認をして、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書第3章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【機会費用】 機会費用と絶対優位・比較優位について学習する。
	事後学習	教科書の第3章の復習問題2．4．について説明をまとめること。（2時間）
3	事前学習	教科書第4章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【需要と供給】 需要曲線と供給曲線、正常財、劣等財、代替財、補完財、均衡について学習する。
	事後学習	教科書の第4章の復習問題3．8．について説明をまとめること。（2時間）
4	事前学習	教科書第5章1．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【需要の弾力性】 需要の価格弾力性、所得弾力性、交差価格弾力性について学習する。
	事後学習	教科書の第5章の復習問題1．4．について説明をまとめること。（2時間）

5	事前学習	教科書第5章2．3．第6章2．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【供給の弾力性】 供給の価格弾力性、税の帰着について学習する。
	事後学習	教科書の第5章の復習問題10、第6章の復習問題7．について説明をまとめること。（2時間）
6	事前学習	教科書第7章1．2．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【厚生分析の基礎】 消費者余剰、生産者余剰を学習する。
	事後学習	教科書の第7章の復習問題1．2．について説明をまとめること。（2時間）
7	事前学習	教科書第7章3．4．第8章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【厚生分析の応用】 総余剰、市場の効率性、課税による死荷重について学習する。
	事後学習	教科書の第7章の復習問題4．第8章の復習問題1．5について説明をまとめること。（2時間）
8	事前学習	教科書第21章1．2．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【消費者行動の基礎】 予算制約線と無差別曲線について学習する。
	事後学習	教科書の第21章の復習問題1．2．について説明をまとめること。（2時間）
9	事前学習	教科書第21章3．4．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【最適化】 消費の最適化、個人の需要曲線の導出、労働供給の決定について学習する。
	事後学習	教科書の第21章の復習問題4．6．について説明をまとめること。（2時間）
10	事前学習	教科書第13章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【生産コスト】 生産関数、総費用曲線、さまざまな費用、短期と長期の費用について学習する。
	事後学習	教科書の第13章の復習問題5．7．について説明をまとめること。（2時間）
11	事前学習	教科書第14章1．2．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【企業行動の基礎】 競争市場における企業行動、利潤最大化について学習する。
	事後学習	教科書の第14章の復習問題2．3．について説明をまとめること。（2時間）
12	事前学習	教科書第14章3．4．の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【企業の供給】 供給曲線の導出、参入と退出の自由について学習する。
	事後学習	教科書の第14章の復習問題5．8．について説明をまとめること。（2時間）
13	事前学習	教科書第15章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【独占の基礎】 独占が生じるメカニズム、独占企業の行動、独占による費用、価格差別戦略について学習する。
	事後学習	教科書の第15章の復習問題2．3．6について説明をまとめること。（2時間）
14	事前学習	教科書第16章の部分を読み内容の概観について理解しておくこと（2時間）
	授業内容	【独占的競争】 独占的競争とは何か、製品差別化、広告の効果について学習する。
	事後学習	教科書の第16章の復習問題1．6．について説明をまとめること。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	期末試験に向けて準備しておくこと。（2時間）

科目名	ミクロ経済学 I	担当者	羽田 翔	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経済現象や市場経済のメカニズムを理解するために、企業や家計の経済活動を決定する要因や経済政策の基礎理論を中心に講義を進める。具体的には、消費者の幸せの度合いを意味する効用、企業の利潤、市場における価格の決定メカニズムや、これらに対する政策導入の効果などを学修する。				
授業目的・到達目標	本講義では、現実に行き起きているミクロ経済に関する現象を読み解くために必要なミクロ経済学の基本的な知識、分析手および経済学的なモノの考え方を育成することを目的とする。また、これらの知識を駆使し、現実の経済及び政治経済に関する諸問題の理解、そしてその解決方法を提案できる力をつけることを目標とする。対応DP及びCP：法律学科 1, 2 政治経済学科 2, 3 新聞学科 1,5 経営法学科 1, 2, 3, 4 公共政策学科 1, 3, 4				
履修条件	なし				
授業方法	講義ノートとレシ ュメ（主に図表）を活用して授業を進める。練習問題及び小テストを複数回行うことで理解を促す。習問題等の解説および返却を次の授業で行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		70%	学期末の定期試験で評価する。	
	平 常 評 価		30%	授業への積極的な参加及び小テストで評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2004	新世社		『入門ミクロ経済学第2版』	井堀利宏
	備考				
参 考 書	特に指定しない。しかし、自分でミクロ経済学の入門書を実際に手に取り、合ったものを1冊参考にすることか望ましい。				
オフィスアワー	月曜日12:00-13:30（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（ ） メールアドレス：				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書を準備し、ミクロ経済学の枠組みを理解するために教科書第1章を熟読すること。また、シラハースの内容を確認してくること。（2時間）
	授業内容	ミクロ経済学を学ぶための概念：数式、グラフ、機会費用、比較優位
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、ミクロ経済学の理解に必要な基礎知識をまとめること。さらに、マクロ経済学とミクロ経済学の違いも自分なりにまとめること。（2時間）
2	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、需要曲線と供給曲線は何を表しているかを重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	需要と供給について1： 需要曲線と供給曲線
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、需要曲線と供給曲線の違いについてまとめること。（2時間）
3	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、弾力性の概念と「市場価格」がいかに決定されるかを重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	需要と供給について2： 弾力性と市場価格の決定
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、弾力性の計算方法及び市場価格の決定メカニズムについてまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
4	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「効用」及び「限界」概念を重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	消費（需要）の理論1：効用関数と限界効用
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、例を参考に効用と限界概念についてうまくイメージしながらまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）

5	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、無差別曲線の考え方を重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	消費（需要）の理論2：予算制約、無差別曲線、（限界代替率）
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、予算政策と無差別曲線の解釈について、特に図を書くことでまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
6	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、所得変化が効用に与える影響を重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	消費（需要）の理論3：均衡点及び所得変化の影響
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、所得が変化することによってどのように効用個人の均衡点が変化するかについてまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
7	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、生産関数の構成要素及び限界概念を重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	企業（供給）の理論1：生産関数、限界・平均生産
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、消費者側の考え方との違いについてまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
8	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、それぞれの曲線について、その意味及び導出方法を重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	企業（供給）の理論2：等生産量曲線と等費用曲線
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、図を用いながら2つの曲線の意味と導出方法について再度まとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
9	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、企業の行動と費用との関係を重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	企業（供給）の理論3：限界費用・平均費用曲線と費用最小化問題
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、費用の種類及びその考え方についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
10	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、完全競争の仮定を重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	生産の決定1：完全競争市場、利潤最大化行動
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、完全競争下における企業の利潤最大化（費用最小化）行動についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
11	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、企業がどこまで操業を続けるかを理解するためには何が必要かを重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	生産の決定2：損益分岐点、操業停止点、市場供給曲線
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、どの点に達した時に企業は生産をストップさせるか、改めてそのメカニズムについてまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
12	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、需要曲線と供給曲線が「シフト」する意味を重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	市場の均衡1：価格調整メカニズム
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、各曲線がシフトする要因及びシフトする方向についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
13	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、生産者余剰及び消費者余剰を重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	市場の均衡2：余剰分析、死荷重、政府の介入
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、完全競争市場において、政府の介入は死荷重を発生させてしまうことについてまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
14	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、ボックスダイアグラムの見方を重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	市場の均衡3：パレート最適
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、パレート最適に成立についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
15	事前学習	第1回～14回までの講義ノートを見返し、重要なポイントについて理解すること。（2時間）
	授業内容	ミクロ経済学Iのまとめ及び試験内容の確認
	事後学習	第1回～14回までの講義ノートを見返し、定期試験の準備を進めること（2時間）

科目名	ミクロ経済学Ⅰ	担当者	丸田 利昌	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ミクロ経済学の初歩を学ぶ。特別な予備知識を想定しない。ただし、中学校で学ぶ数学の知識は前提とする。				
授業目的・到達目標	ミクロ経済学とは、「人々の選択」を精査する学問である。キーワードは「インセンティブ」と「トレードオフ」。われわれの生活とは、日々行われる何らかの選択の積み重ねである。あらゆる「選択」を経済学的に考える力を養成することを目的とする。標準的な経済学的考え方を理解し、それを用いて社会における様々な事象を説明できるようになることが到達目標である。関連DPおよびCP： 法律学科 1， 2 政治経済学科 2， 3 新聞学科 1， 5 経営法学科 1， 2， 3， 4 公共政策学科 1， 3， 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式。受講者は、ノートをとること。スライドを用いて講義を行う。定期試験の解説をポータルシステムにて後日配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	教科書・ノート・参考書参照可。	
	平常評価		0%	出席点はなし。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2013	有斐閣	ミクロ経済学の第一歩		安藤至大
	備考	受講者の手元に教科書があるという前提で講義を行う。この前提が満たされない場合、講義は理解不能となろう。			
参考書	ミクロ経済学の力、神取道宏、日本評論社、2014。その他、講義中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	授業（火曜2限）前後に質問を受け付ける。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに，教科書各章の冒頭部に目を通し，講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容，授業スケジュール，成績評価の方法，参考文献の紹介を含めて経済学の学習方法や研究方法について説明し，受講生が事業の準備を具体的にに行えるようにする。
	事後学習	講義ノート（受講者自身がとったもの，本シラバス「授業方法」を参照，以下同様）を確認して，自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書第1章，1「価格と価値の違い」2「財・サービスを買う」3「合意に基づく交換」を通読し，導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する。（2時間）
	授業内容	【ミクロ経済学とは（その1）】価格，価値，財・サービス，交換など，経済学の基本語をその日常の意味との異同に留意しつつそれらを理解するとともに，相互の関連を学ぶ。あわせて，ミクロ経済学の目的を明らかにする。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る。（2時間）
3	事前学習	教科書第1章，4「交換の利益と余剰」5「価格の決まり方」6「ミクロ経済学の目的」を通読し，あらたに導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する。（2時間）
	授業内容	【ミクロ経済学とは（その2）】利益，便益，余剰，価格価格，価値，財・サービス，交換など，あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに，相互の関連を学ぶ。また資源配分と所得分配の違いを学び，ミクロ経済学の目的を資源配分の効率性という視点から明らかにする。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る。特に，「ミクロ経済学にとって，資源配分とは何か」と自問し，自答してみよう。（2時間）
4	事前学習	教科書第2章，1「個人の選択と効用の最大化」2「人はインセンティブに反応する」3「人々はトレードオフに直面している」を通読し，あらたに導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する。（2時間）
	授業内容	【個人の選択を考える（その1）】効用，効用最大化，インセンティブ，誘因，トレードオフなど，あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに，相互の関連を学ぶ。特に，報酬体系の違いに人々はどのように反応するかを考える。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る。授業で議論した報酬体系の事例，トレードオフの事例それぞれについて，同様の考察が成立する類似の事例を自分の生活の中から探してみよう。（2時間）

5	事前学習	教科書第2章、4「機会費用に着目する」5「人は限界的な部分を見て意思決定を行う」を通読し、あらたに導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに、それらのあいだの関連を考察する。（2時間）
	授業内容	【個人の選択を考える（その2）】機会費用、限界効用、限界利潤、限界便益など、あらたに導入される基本語をその日常の意味との異同に留意しつつ理解するとともに、相互の関連を学ぶ。特に、経済学で頻出する「限界〇〇」について、その背後に潜む数学的考え方にも踏み込んで考察する。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に「「限界〇〇」と「〇〇」の関連を述べよ」と自問し、自答してみよう。また、機会費用という考え方がうまくあてはまる事例を自分の生活の中から探してみよう。（2時間）
6	事前学習	教科書第3章1「完全競争市場とは」2「財・サービスと市場」3「需要曲線」を通読し、あらたに導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに、それらのあいだの関連を考察する。（2時間）
	授業内容	【需要曲線と供給曲線（その1）】完全競争市場、需要曲線、また「与件」とは何かを学ぶ。特に、数量-価格平面において競争市場における消費者の行動を集約して表示するものとしての需要曲線を構成する。加えて、「与件」の変化がどのような変化を需要曲線に及ぼすかを学ぶ。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、与件のどのような変化が需要曲線のどのような変化に対応するか、あらゆる場合を考えて復習しよう。（2時間）
7	事前学習	教科書第3章4「供給曲線」を通読し、需要曲線との異同、関連を考察する。（2時間）
	授業内容	【需要曲線と供給曲線（その2）】完全競争市場における生産者の利潤最大化行動を考える。それを数量-価格平面において集約して表示するものとしての供給曲線を構成する。加えて、「与件」の変化がどのような変化を供給曲線に及ぼすかを学ぶ。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、与件のどのような変化が供給曲線のどのような変化に対応するか、あらゆる場合を考えて復習しよう。（2時間）
8	事前学習	教科書第1章から第3章までの章末練習問題に取り組もう。（2時間）
	授業内容	【問題演習】これまでの学習の振り返り、および理解の定着のため、各章末練習問題、および類似の独自問題に取り組む。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し、各問題の解答の意味がわかるかどうかを確認する。わからない場合は、あらためて模範解答を書くこと試みる。また、類似の練習問題を自ら作成し、自答してみよう。（2時間）
9	事前学習	教科書第4章1「需要と供給の組み合わせ」2「需要曲線と消費者余剰」3「供給曲線と生産者余剰」を通読し、それぞれの「余剰」の意味と、その数量-価格平面における表示を考察する。（2時間）
	授業内容	【市場均衡と効率性（その1）】需要曲線が描かれている数量-価格平面において、消費者余剰がどのような領域としてあらわされるかを学ぶ。また、供給曲線が描かれている数量-価格平面において、生産者余剰がどのような領域としてあらわされるかを学ぶ。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、数量-価格平面において各余剰を描いてみよう。（2時間）
10	事前学習	教科書第4章4「完全競争市場の効率性」5「市場均衡点の変化」6「ここまでのまとめ」を通読し、均衡が効率的であるとはどのようなことを意味するかを考察する。（2時間）
	授業内容	【市場均衡と効率性（その2）】需要曲線と供給曲線がともに描かれている数量-価格平面において、市場均衡点とは何かを理解する。また、その点を特徴づける最も重要な性質を学ぶ。さらには、与件の変化に対応する均衡点の変化を学習する。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、与件のどのような変化が均衡点のどのような変化に対応するか、あらゆる場合を考えて復習しよう。（2時間）
11	事前学習	教科書第5章1「価格規制」を通読し、価格規制のメリットとデメリットは何かを、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて考察する。（2時間）
	授業内容	【完全競争市場への政府介入と死荷重の発生（その1）】価格規制について、経済学的考察を行う。その功罪を、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて考察する。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、価格規制の例を自分の身の回りから探し、そのメリットとデメリットを再考してみよう。（2時間）
12	事前学習	教科書第5章2「参入規制」3「税金と補助金」を通読し、参入規制や税金・補助金のメリットとデメリットは何かを、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて考察する。（2時間）
	授業内容	【完全競争市場への政府介入と死荷重の発生（その2）】参入規制、税金、補助金について、経済学的考察を行う。その功罪を、消費者余剰、生産者余剰、資源配分、効率性、所得分配といった用語を用いて考察する。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、税金・補助金の議論が、「大きな政府vs小さな政府」の議論に与える影響を考えてみよう。（2時間）
13	事前学習	教科書第6章1「市場の失敗とは」2「市場の失敗と政府による介入の例」を通読し、市場への介入はどのような場合に「ミクロ経済学的に」正当化されるかを考える。（2時間）
	授業内容	【市場の失敗と政府の役割】市場の失敗とは何かを、完全競争市場との関連に注意して学ぶ。また、市場への介入はどのような場合に「ミクロ経済学的に」正当化されるかを考える。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、身近な市場を考え、それは完全競争市場であるかどうか、市場の失敗が認められるかどうかを考えてみよう。（2時間）
14	事前学習	教科書第4章から第5章の練習問題に取り組もう。（2時間）
	授業内容	【問題演習】これまでの学習の振り返り、および理解の定着のため、各章末練習問題、および類似の独自問題に取り組む。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し、各問題の解答の意味がわかるかどうかを確認する。わからない場合は、あらためて模範解答を書くこと試みる。また、類似の練習問題を自ら作成し、自答してみよう。（2時間）
15	事前学習	教科書のうち授業で議論した部分を再読し、最も重要なところはどこであるかを考えてみよう。（2時間）
	授業内容	【問題演習】これまでの学習の振り返り、および理解の定着のため、独自の練習問題に取り組む。
	事後学習	教科書と講義ノートを初回分から読み直し、期末試験に向けて準備をしよう。（2時間）

科目名	ミクロ経済学Ⅰ	担当者	武縄 卓雄	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経済現象や市場経済のメカニズムを解明するための基本的分析枠組みであるミクロ経済学を講義する。ミクロ経済学は消費者（労働者）や企業の行動及び財・サービスの価格と取引量の決定と変動のメカニズムを解明し、われわれの経済の資源（労働・土地・資本）配分や所得分配のメカニズムを解明する。				
授業目的・到達目標	ミクロ経済学は消費者（労働者）や企業の行動及び財・サービスの価格と取引量の決定と変動のメカニズムを解明し、われわれの経済の資源（労働・土地・資本）配分や所得分配のメカニズムを解明することを目的とする。現在の我が国に生じているミクロ経済面の問題に関して、意見を述べられる力を身につけることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1，2				
履修条件	数学の予備知識は必要としないが、割り算の意味を理解していると単位修得が容易である。また、経済学もしくは経済学Ⅰ・Ⅱを修得していることが望ましい。				
授業方法	講義形式。毎週、原則として講義冒頭に復習問題を行い、解説します。 課題などの提出物は、原則として提出時の翌週に、返却します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	期末試験の結果以外に、授業参加度、授業内練習問題の点数および提出課題の内容等を考慮します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2008年	新世社		グラフィックミクロ経済学 第2版	金谷貞男 吉田真理子
	備考				
参考書	武熊慎一『ミクロ経済学』新世社 / 滝川好夫『経済学計算問題の攻略法』税務経理協会 J. K. シム/J. G. シーゲル著／井堀／栗沢訳『新経済学用語辞典』新世社経済新報社				
オフィスアワー	メールで問い合わせてください。 takenawa.takuo@nihon-u.ac.jp 時間調整をします。月曜17:50～授業講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストとノートを準備する。事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	経済学の対象と方法と理論体系 ミクロ経済学とマクロ経済学の対象と方法と理論体系
	事後学習	経済学の定義、ミクロ経済学とマクロ経済学の違いを中心にノートを整理する。（2時間）
2	事前学習	前回のノートを再確認する。（2時間）
	授業内容	基本概念（1） 経済主体、市場と財・用益、行動原理
	事後学習	行動原理を中心にノートを整理する。（2時間）
3	事前学習	前回のノートを再確認し、経済循環図を文章化する。（2時間）
	授業内容	基本概念（2） 需要と供給
	事後学習	需要（供給）と需要量（供給量）との相違を中心にノートを整理する。（2時間）
4	事前学習	前回のノートを再確認する。（2時間）
	授業内容	家計の理論（1） 効用関数と効用曲線
	事後学習	ノートを整理し、効用曲線の導出法を文章化する。（2時間）

5	事前学習	限界効用を重点にして、前回のノートを確認する。（2時間）
	授業内容	家計の理論（2） 限界効用逓減の法則 無差別曲線
	事後学習	限界効用が逓減する根拠が何かを考えながら、ノートを整理する。（2時間）
6	事前学習	前回のノートを確認しながら、無差別曲線の特徴を文章化する。（2時間）
	授業内容	家計の理論（3） 予算制約線とグラフ化
	事後学習	予算制約線の数値例を作成し、それをグラフに作図することがスムーズにできるまで、繰り返す。 ノートを整理する。（2時間）
7	事前学習	前回のノートを確認する。また、作図された予算制約線上で消費の組合せが決定されることを文章化する。（2時間）
	授業内容	家計の理論（4） 最適消費量の決定 加重限界効用均等
	事後学習	ノートを整理する。その際、最適消費量の決定を文章化する。（2時間）
8	事前学習	最適消費点で加重限界効用が均等になることを文章化しながら、前回のノートを確認する。（2時間）
	授業内容	家計の理論（5） 予算線のシフト：代替効果と所得効果
	事後学習	ノートを整理する。その際、代替効果と予算線のシフトに関して文章化する。（2時間）
9	事前学習	前回のノートを確認する。その際、所得効果と予算線のシフトに関して文章化する。（2時間）
	授業内容	家計の理論（6） 個別需要曲線の導出 市場需要曲線の導出
	事後学習	ノートを整理する。その際、個別需要曲線の導出法について文章化する。（2時間）
10	事前学習	前回のノートを確認する。その際、市場需要曲線の導出法について文章化する。（2時間）
	授業内容	家計の理論（7） 需要の価格弾力性
	事後学習	ノートを整理する。その際、需要の価格弾力性の作図法を文章化する。（2時間）
11	事前学習	前回のノートを確認する。その際、需要の価格弾力性の値を求める数値例を1問作成する。（2時間）
	授業内容	家計の理論（8） 需要の価格弾力性と支払額
	事後学習	ノートを整理する。その際、価格の変化と取引額の変化について文章化する。（2時間）
12	事前学習	前回のノートを確認する。その際、価格変化が与える取引額の変化についての数値例を1問作成する。（2時間）
	授業内容	家計の理論（9） 需要曲線のシフト要因とシフト方向
	事後学習	ノートを整理する。その際、需要曲線のシフト要因を再確認する。（2時間）
13	事前学習	前回のノートを確認する。（2時間）
	授業内容	家計の理論（10） 労働供給の決定 労働供給曲線の導出
	事後学習	ノートを整理する。その際、労働供給曲線の導出を文章化する。（2時間）
14	事前学習	前回のノートを確認する。その際、導出した労働供給曲線を所得効果と代替効果に分解してみる。（2時間）
	授業内容	家計の理論（11） 貯蓄の決定
	事後学習	ノートを整理する。その際、貯蓄の決定を文章化する。（2時間）
15	事前学習	これまでのノートを全て再確認する。（2時間）
	授業内容	期末試験。解答用紙は添削して、メールで返却します。
	事後学習	行った試験を再チェックする。（2時間）

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	担当者	立福 家徳	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ミクロ経済学とは、経済主体の合理的行動を説明するための体系的な理論である。本講義では、ゲーム理論について講義を行う。 なお講義の進捗に応じて講義内容を多少変更する場合がある。					
授業目的・到達目標	この講座では、ゲーム理論の基本的なモデルと考え方の基礎力を養成することを目的とする。ナッシュ均衡、交渉ゲーム、公共財供給、クールノー競争、オークション、ホテリング・モデルといった項目についての理論を習得し、公務員試験や大学院受験（旧帝大レベル）の基本的な問題が解けるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科3，4					
履修条件	ミクロ経済学Ⅰが履修済みであることが望ましい。（履修は必須ではないが、ミクロ経済学Ⅰの内容は理解している前提で講義を進める。）					
授業方法	教科書及び講義ノートに基づいて、講義形式で行う。なお、講義ノートは学生教員フォルダにアップするので必要に応じて持参すること（教員から配布は行わない）。定期試験の解答・解説を後日、学生教員フォルダにアップする。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		90%		学期末試験で評価する。	
	平常評価		10%		小テストの結果を考慮する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2002年	日本評論社		ミクロ経済学 戦略的アプローチ		梶井厚志、松井彰彦
	備考					
参考書	使用しない					
オフィスアワー	授業期間中の毎週火曜12:15～12:55に研究室（9502）で受け付ける（予約は不要）、また適宜メール（tatefuku.ienori@nihon-u.ac.jp）による予約も受け付ける。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の第1章の部分を読み内容の外観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【オリエンテーション】 ゲーム理論とは何か
	事後学習	講義内容について確認をして、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書の第2章の部分を読み内容の外観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【戦略と均衡】 戦略形表現と支配戦略、最適反応、ナッシュ均衡について学習する。
	事後学習	教科書の第2章の練習問題を解くこと。（2時間）
3	事前学習	教科書の第3章の部分を読み内容の外観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【裁量カルールか】 展開形表現とバックワード・インダクションについて学習する。
	事後学習	教科書の第3章の練習問題3. 1、3. 4を解くこと。（2時間）
4	事前学習	教科書の第5章5. 1、5. 2、5. 3の部分を読み内容の外観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【情報とゲーム（ベイズ完全均衡）】 ベイズ完全均衡について学習する。
	事後学習	教科書の第5章の練習問題5. 1を解くこと。（2時間）

5	事前学習	教科書の第5章5. 4、5. 5の部分を読み内容の外観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【シグナリング】 混在型均衡について学習する。
	事後学習	教科書の第5章の練習問題5. 5を解くこと。（2時間）
6	事前学習	教科書の第4章の部分を読み内容の外観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【交渉ゲーム】 最後通牒ゲーム、2段階の交渉、n段階の交渉について学習する。
	事後学習	教科書の第4章の練習問題4. 1を解くこと。（2時間）
7	事前学習	教科書の第7章7. 1、7. 2の部分を読み内容の外観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【公共財供給】 公共財のフリーライダー問題、集団意思決定のインセンティブについて学習する。
	事後学習	教科書の第7章の練習問題7. 2を解くこと。（2時間）
8	事前学習	教科書の第7章7. 3、7. 4の部分を読み内容の外観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【メカニズムデザイン】 Groves-Clarkeメカニズムについて学習する。
	事後学習	教科書の第7章の練習問題7. 1を解くこと。（2時間）
9	事前学習	教科書の第6章6. 1、6. 2の部分を読み内容の外観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【オークションの基礎理論】 オークションの種類について学び、それぞれの最適戦略について学習する。
	事後学習	教科書の第6章の練習問題6. 4を解くこと。（2時間）
10	事前学習	教科書の第6章6. 3、6. 4の部分を読み内容の外観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【オークションの比較】 売り手にとって望ましいオークションルール、最低入札価格の意味、オークションのくり返しゲームについて学習する。
	事後学習	教科書の第6章の練習問題6. 2、6. 5を解くこと。（2時間）
11	事前学習	教科書の第10章10. 1の部分を読み内容の外観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【寡占市場】 クールノー競争について学習する。
	事後学習	教科書の第10章の練習問題10. 1を解くこと。（2時間）
12	事前学習	教科書の第10章10. 1. 1～10. 1. 4の部分を読み内容の外観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【寡占市場の性質】 寡占市場における最適企業数、談合の効果について学習する。
	事後学習	教科書の第10章の練習問題10. 3を解くこと。（2時間）
13	事前学習	教科書の第13章13. 1. ～13. 1. 2の部分を読み内容の外観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【製品差別化の基礎理論】 ホテリング・モデルについて学習する。
	事後学習	教科書の第13章の練習問題13. 1を解くこと。（2時間）
14	事前学習	教科書の第13章13. 2. ～13. 3の部分を読み内容の外観について理解しておくこと。（2時間）
	授業内容	【製品差別の応用】 集積効果、価格競争のある場合の製品差別について学習する。
	事後学習	教科書の第13章の練習問題13. 3を解くこと。（2時間）
15	事前学習	これまでの講義内容について整理し、理解しておく。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	期末試験に向けて準備しておくこと。（2時間）

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	担当者	羽田 翔	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	経済現象や市場経済のメカニズムを理解するために、企業や家計の経済活動を決定する要因や経済政策の基礎理論を中心に講義を進める。具体的には、独占企業の行動、ゲーム理論、寡占市場における企業の行動、外部性、不確実性の問題、情報の非対称性（不完全情報）などについて学修する。				
授業目的・到達目標	本講義では、現実に行き起きているミクロ経済に関する現象を読み解くために必要なミクロ経済学の基本的な知識、分析手および経済学的なモノの考え方を育成することを目的とする。また、これらの知識を駆使し、現実の経済及び政治経済に関する諸問題の理解、そしてその解決方法を提案できる力をつけることを目標とする。対応DP及びCP：政治経済学科 3, 4				
履修条件	なし				
授業方法	講義ノートとレシ ュメ（主に図表）を活用して授業を進める。練習問題及び小テストを複数回行うことで理解を促す。練習問題等の解説および返却を次の授業で行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		70%	学期末の定期試験で評価する。	
	平 常 評 価		30%	授業への積極的な参加及び小テストで評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2004	新世社	『入門ミクロ経済学第2版』		井堀利宏
	備考				
参 考 書	特に指定しない。しかし、自分でミクロ経済学の入門書を実際に手に取り、合ったものを1冊参考にすることか望ましい。				
オフィスアワー	月曜日12:00-13:30（事前にメールにてアポイントメントを取る） 研究室（ ） メールアドレス：				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	ミクロ経済学Ⅰに関する内容を確認するために講義ノートを熟読すること。また、シラハースの内容を確認してくること。（2時間）
	授業内容	ミクロ経済学Ⅰの復習1： 講義概要と成績評価方法の説明
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、前期に学んだミクロ経済学の理解に必要な基礎知識をまとめること。（2時間）
2	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、を重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	ミクロ経済学Ⅰの復習2： 完全競争市場の理論
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、完全競争の仮定及び各プレイヤーの行動についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
3	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、不完全競争市場の中でも独占市場について重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	独占市場1：完全競争市場と不完全競争市場
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、独占市場の特徴についてまとめ、どのような歪みが発生するかを理解すること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
4	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、完全競争企業との違いを重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	独占市場2：独占企業の利潤最大化問題
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、特に独占度の概念についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）

5	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、独占企業の弊害がどこに現れるかを重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	独占市場3：価格差別化及び余剰分析
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、完全競争市場における余剰分析の結果と比較し、独占企業の弊害についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
6	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、ナッシュ均衡の直感的な意味を重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	ゲーム理論1：囚人のジレンマ、ナッシュ均衡
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、囚人のジレンマとナッシュ均衡についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
7	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、静学と動学の違いを重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	ゲーム理論2：繰り返しゲーム（動学的分析）
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、繰り返しゲームの性質と現実への応用についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
8	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、完全競争市場、独占市場との違いを重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	寡占市場1：屈折需要曲線
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、屈折需要曲線の考え方についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
9	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、独占的競争モデルを重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	寡占市場2：クールノー・モデルと独占的競争
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、独占的競争モデルについてまとめ、現実世界ではどの産業が当てはまるかをまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
10	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、市場失敗には何が含まれるかを重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	外部性の問題1：外部経済・外部不経及びビグー課税
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、ビグー課税の考え方について図を使用しながらまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
11	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、コースの定理及び公共財の特徴について重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	外部性の問題2：コースの定理、公共財
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、市場が失敗した時の政府の役割についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
12	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、リスク（危険）と期待値の考え方を重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	不確実性の問題：リスク、期待効用、リスクに対する選好
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、リスクに対する選好についてまとめ、自身はどのタイプかについて考えてみること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
13	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、情報の非対称性及びモラルハザードを重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	不完全情報（情報の非対称性）1：モラルハザード
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、市場が失敗する原因の一つとしてモラルハザードがあることについてまとめ、現実世界ではどうかを考えること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
14	事前学習	教科書及び事前に配布する資料の該当箇所を熟読しておくこと。特に、「情報の重要性」を重点的に理解すること。（2時間）
	授業内容	不完全情報（情報の非対称性）2：逆選択
	事後学習	講義資料及びノートを確認し、情報の非対称性が存在することで市場が歪んでしまうこと、そして政府の対応についてまとめること。また、練習問題も再確認すること。（2時間）
15	事前学習	第1回～14回までの講義ノートを見返し、重要なポイントについて理解すること。（2時間）
	授業内容	ミクロ経済学Ⅱのまとめ及び`試験内容の確認
	事後学習	第1回～14回までの講義ノートを見返し、定期試験の準備を進めること（2時間）

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	担当者	丸田 利昌	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	【ミクロ経済学Ⅰ】の学習を前提に、ミクロ経済学の初歩の「残り半分」を学ぶ。			
授業目的・到達目標	ミクロ経済学とは、「人々の選択」を精査する学問である。キーワードは「インセンティブ」と「トレードオフ」。われわれの生活とは、日々行われる何らかの選択の積み重ねである。あらゆる「選択」を経済学的に考える力を養成することをを目的とする。標準的な経済学的考え方を理解し、それを用いて社会における様々な事象を説明できるようになることが到達目標である。関連DPおよびCP：政治経済学科 3，4			
履修条件	ミクロ経済学Ⅰの学習を前提とする。			
授業方法	講義形式。受講者は、ノートをとること。スライドを用いて講義を行う。一部、教科書にない内容を配布資料にもとづいて講義する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	教科書・ノート・参考書参照可。	
	平常評価	0%	出席点はなし。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2013	有斐閣	ミクロ経済学の第一歩	安藤至大
	備考	受講者の手元に教科書があるという前提で講義を行う。この前提が満たされない場合、講義は理解不能となろう。		
参考書	ミクロ経済学の力，神取道宏，日本評論社，2014。その他，講義中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	授業（火曜2限）前後に質問を受け付ける			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書各章の冒頭部に目を通し、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	【復習：完全競争市場の効率性】需要曲線，供給曲線，消費者余剰，生産者余剰，市場均衡の効率性，完全競争市場などについて，ミクロ経済学Ⅰで学んだことを復習する。
	事後学習	講義ノート（受講者自身がとったもの，本シラバス「授業方法」を参照，以下同様）を確認して，ミクロ経済学Ⅰで学んだことを復習する。また，自分の学習計画と他の履修科目との関係についても検討する。（2時間）
2	事前学習	教科書第7章1「独占とは」2「独占の定義」3「独占企業による利潤最大化行動」を通読し，導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに，それらのあいだの関連を考察する。（2時間）
	授業内容	【独占（その1）】独占企業，独占市場，独占市場の利潤最大化行動を学ぶ。特に，独占企業の利潤最大化の必要条件として，「限界収入＝限界費用」条件が導かれることを理解する。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る。特に，「限界収入＝限界費用」条件を適切に図示できるかどうかを再確認する。（2時間）
3	事前学習	教科書第7章4「独占はなぜ問題なのか」を通読し，独占市場における余剰分析について考える。（2時間）
	授業内容	【独占（その2）】独占市場における消費者余剰・生産者余剰・社会的余剰を，完全競争市場におけるそれらと比較する。この比較を，数量－価格平面において適切に図示できるようにする。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し，何がどのように議論されているのかわかるかどうかを確認する。わからない場合は，講義ノートを改訂し，理解の定着を図る。特に，各種余剰を適切に図示できるかどうかを再確認する。（2時間）
4	事前学習	教科書第7章1～4節を通読し，独占市場の理解の定着を図る。また，章末の練習問題に取り組む。（2時間）
	授業内容	【独占（その3）】章末の練習問題を精査するとともに，需要曲線や費用曲線の形状がより一般的な場合を，独自の練習問題を通じて考察する。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し，各問題の解答の意味がわかるかどうかを確認する。わからない場合は，あらためて模範解答を書くこと試みる。また，類似の練習問題を自ら作成し，自答してみよう。（2時間）

5	事前学習	教科書第8章1「外部性とは」2「コースの定理と効率的な結果の実現」を通読し、あらたに導入される用語の定義や意味を大まかに確認するとともに、それらのあいだの関連を考察しよう。（2時間）
	授業内容	【外部性（その1）】経済学独特の概念・用語である「外部性」について、その意味を事例を通じて理解する。さらに、それが引き起こす問題の解決法としての「交渉」と、「理想的な交渉」のもとで期待される結果を述べる「コースの定理」について学ぶ。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかがわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。また、自分の身の回りから外部性の事例となるものを探してみよう。さらには、それにコースの定理を適用してその含意を導いてみよう。（2時間）
6	事前学習	教科書第8章3「波及効果による外部性」4「生産の正の外部性と消費の正・負の外部性」5「外部性の問題を解決・軽減するための取り組み」を通読し、各図示の理解に努めよう。（2時間）
	授業内容	【外部性（その2）】正の外部性・負の外部性など、様々な外部性のあり方について考える。余剰を比較し、効率的状態の実現手段としての課税・補助金のあり方について考察する。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかがわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。また、正負様々な外部性について、課税・補助金による問題解決を適切に図示できるかどうかを確認しよう。（2時間）
7	事前学習	教科書8章全体を通読し、外部性問題の理解の再確認しよう。また、章末問題に取り組もう。（2時間）
	授業内容	【外部性（その3）】外部性問題の理解の定着のため、独自の練習問題を考察する。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し、各問題の解答の意味がわかるかどうかを確認する。わからない場合は、あらためて模範解答を書くこと試みる。また、類似の練習問題を自ら作成し、自答してみよう。（2時間）
8	事前学習	教科書第10章1「情報の非対称」を通読し、それが何を意味し、どのような問題を引き起こすかを考えよう。特に、経済学における「情報」という語の意味・用法、またそれが「非対称」とあるとはどういうことかを考えよう。（2時間）
	授業内容	【非対称情報の経済学（その1）】経済学独特の概念・用語である「情報の非対称性」について、その意味を事例を通じて理解する。また、それがどのような問題を引き起こすのかを考える。特に「逆淘汰」「モラルハザード」について焦点を当てて考察する。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかがわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、「逆淘汰」「モラルハザード」について、その主題を他者に説明できるかどうかを確認しよう。（2時間）
9	事前学習	教科書第10章2「当事者による情報の非対称への対策」3「情報の非対称に対処するための政府の取り組み」を通読し、「スクリーニング」「シグナリング」「モニタリング」などについて、大まかな理解を得ることを目指そう。（2時間）
	授業内容	【非対称情報の経済学（その2）】「スクリーニング」「シグナリング」「モニタリング」などについて学ぶ。特に、これらの異同を「事前・事後」「情報を持つもの・持たざる者」との対比において適切に理解する。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかがわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、「スクリーニング」「シグナリング」について、その主題を他者に説明できるかどうかを確認しよう。（2時間）
10	事前学習	教科書第12章1「ゲーム理論とは何か」2「ゲームの構成要素」3「銀行行動の容疑者たち」4「ナッシュ均衡」5「司法取引と囚人のジレンマ」を通読し、ゲーム理論とはどのような「理論」であるかの大まかな理解を得ることを目指そう。（2時間）
	授業内容	【ゲーム理論（その1）】ゲーム理論とは何か、また戦略型ゲームとは何かを学ぶ。有名な事例である「囚人のジレンマ」をその類似例とともに考察する。また、ナッシュ均衡の定義と、その求め方を学ぶ。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかがわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、ナッシュ均衡の求め方を再確認しよう。（2時間）
11	事前学習	教科書第12章全体をあらためて通読し、前回の議論を思い起こそう。特に、ナッシュ均衡の求め方を再確認しよう。（2時間）
	授業内容	【ゲーム理論（その2）】「囚人のジレンマ」の類似例とともに、それとは本質的に異なるゲーム的狀況である「協調ゲーム」「タカ-ハトゲーム」について考察する。特に、それらのゲームのナッシュ均衡に注目する。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかがわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、「囚人のジレンマ」「協調ゲーム」「タカ-ハトゲーム」について、そのナッシュ均衡の性質の違いを復習しよう。（2時間）
12	事前学習	教科書第9章1「公共財とは」2「公共財の効率的な活用」3「公共財供給の決定」を通読し、公共財とは何か、その実現に際し何が問題となるのかについて、大まかな理解を得ることを試みよう。（2時間）
	授業内容	【公共財】「非競合性」「非排除性」という財・サービスの性質から、公共財を定義する。公共財供給に際して発生するフリーライダー問題について、ゲーム理論的考察を与える。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかがわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、公共財の定義を、その実例とともに他者に説明できるかどうかを確認しよう。（2時間）
13	事前学習	教科書第11章1「取引費用とは？」2「政府による取引費用の削減策」を通読し、「取引費用」とは何かについて、大まかな理解を得ることを目指そう。また、各章末問題に取り組もう。（2時間）
	授業内容	【取引費用・全体のまとめ】「取引費用」という観点から、本講義で扱った主な話題をまとめて概観する。また、理解の定着のため、各章末問題に取り組む。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し、何がどのように議論されているのかがわかるかどうかを確認する。わからない場合は、講義ノートを改訂し、理解の定着を図る。特に、章末問題の解答が納得できるものであるかを再確認しよう。（2時間）
14	事前学習	教科書・講義ノートを初回から再読し、まとめの練習問題に備えよう。（2時間）
	授業内容	【まとめの練習問題】これまでの学習の振り返り、および理解の定着のため、各主題について独自の練習問題に取り組む。
	事後学習	自分のとった講義ノートを通読し、各問題の解答の意味がわかるかどうかを確認する。わからない場合は、あらためて模範解答を書くこと試みる。また、類似の練習問題を自ら作成し、自答してみよう。（2時間）
15	事前学習	教科書・講義ノートを初回から再読し、講義内試験に備えよう。（2時間）
	授業内容	【講義内試験】講義内試験（60分）を実施し、さらにその解説を与える。
	事後学習	本講義を履修して学んだことは何か、自問自答してみよう。（2時間）

科目名	民事執行・保全法	担当者	吉田 純平	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	4
-----	----------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	民事執行法および民事保全法に関する基本的の知識の説明、及び重要論点についての判例等を通じた解説。			
授業目的・到達目標	民事執行法および民事執行法を活用して適切・有効に権利実現の手続に関与することができる能力を養成することを目的とする。 民事執行法および民事保全法の基礎的知識および民事執行および民事保全の仕組みを理解し、的確に説明することができることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1， 2， 3， 5・経営法学科1， 3， 5			
履修条件	必須ではないが、民法（特に担保物権）、民事訴訟法を履修していることが望ましい。講義には必ず六法を持参すること。			
授業方法	基本的には講義形式で行う。 毎回小テストを行い、次回の冒頭で復習を行う。期末試験の解説はポータルサイト内で行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	民事執行法及び民事保全法の基礎知識の習得と事案に対する同法の適用能力を問う。	
	平常評価	0%	小テストの結果を加点する場合がある。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014年	弘文堂	民事執行法・民事保全法	小田司
	備考			
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。			
オフィスアワー	水曜日12：10～13：00 研究室（9号館9305） メールアドレスは授業内で連絡します。 授業内容のほか、法科大学院進学について等			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（2時間）
	授業内容	民事訴訟手続と民事執行手続
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
2	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（2時間）
	授業内容	民事執行手続の構造と法体系・執行機関と執行当事者
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
3	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（2時間）
	授業内容	債務名義
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
4	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（2時間）
	授業内容	執行文
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）

5	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（2時間）
	授業内容	強制執行の対象：責任財産、差押禁止財産
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
6	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（2時間）
	授業内容	法的救済制度（1）執行抗告・執行異議
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
7	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（2時間）
	授業内容	法的救済制度（2）請求異議の訴え
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
8	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（2時間）
	授業内容	法的救済制度（3）第三者異議の訴え
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
9	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（2時間）
	授業内容	強制執行の開始
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
10	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（2時間）
	授業内容	強制執行の停止・取消し
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
11	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（2時間）
	授業内容	不動産執行（1）：強制競売の開始・売却の準備
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
12	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（2時間）
	授業内容	不動産執行（2）：強制競売の売却手続
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
13	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（2時間）
	授業内容	不動産執行（3）：強制競売の配当手続
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
14	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（2時間）
	授業内容	不動産執行（4）：強制管理
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
15	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（2時間）
	授業内容	動産執行
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
16	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（2時間）
	授業内容	債権執行（1）：金銭債権に対する強制執行①
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）

17	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（２時間）
	授業内容	債権執行（２）：金銭債権に対する強制執行②
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（２時間）
18	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（２時間）
	授業内容	債権執行（３）：その他の財産権に対する強制執行
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（２時間）
19	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（２時間）
	授業内容	非金銭執行（１）：物の引渡・明渡請求権についての強制執行
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（２時間）
20	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（２時間）
	授業内容	非金銭執行（２）：作為・不作為請求権についての強制執行
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（２時間）
21	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（２時間）
	授業内容	非金銭執行（３）：意思表示請求権の強制執行
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（２時間）
22	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（２時間）
	授業内容	担保権実行（１）：担保権実行総論
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（２時間）
23	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（２時間）
	授業内容	担保権実行（２）：担保不動産競売・担保不動産収益執行
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（２時間）
24	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（２時間）
	授業内容	担保権実行（３）：担保動産競売
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（２時間）
25	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（２時間）
	授業内容	担保権実行（４）：債権等についての担保権実行
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（２時間）
26	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（２時間）
	授業内容	財産開示手続等
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（２時間）
27	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（２時間）
	授業内容	民事保全法（１）：民事保全の概要
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（２時間）
28	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（２時間）
	授業内容	民事保全法（２）保全命令手続
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（２時間）

29	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（2時間）
	授業内容	民事保全法（3）：仮差押え
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
30	事前学習	教科書の該当箇所を読む。（2時間）
	授業内容	民事保全法（4）：仮処分
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）

科目名	民事訴訟法	担当者	小田 司	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義は、訴えの提起から口頭弁論を経て終局判決に至るまでの判決手続を対象とするものであり、裁判管轄、当事者（当事者能力、訴訟能力）、訴訟の開始（訴えの種類、訴えの利益）、訴訟の審理（裁判資料の収集、口頭弁論、証拠調べと事実認定）、確定判決の効力（既判力の時的限界、既判力の客観的範囲・主観的範囲）、不服申立手続（控訴、上告、抗告、再審）など、判決手続における重要事項について学習する。			
授業目的・到達目標	この講義では、民事訴訟の全体像について把握した上で、民事訴訟の基本構造と基本理論、民事訴訟の仕組みについて理解し、民事紛争を解決する能力を養成することを目的とする。訴えの提起から口頭弁論を経て終局判決に至るまでの過程について理解し、それに基づいて具体的な民事紛争の解決方法を説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP:法律学科1, 2, 3, 5 新聞学科1, 5 経営法学科1, 3, 5			
履修条件	2年次生以上を対象とする。講義には、必ず六法を持参すること。			
授業方法	テキストに沿って講義を進める。民事訴訟について具体的なイメージが描けるように、貸金返還請求訴訟や損害賠償請求訴訟などの紛争事例を用いて講義を行う。なお、定期試験の解説については、ポータルシステム等で配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		100%	民事訴訟法の重要事項について基礎的知識が身についているかを判定する。授業中に解説した項目・事項について理解すること。
	平常評価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016年	弘文堂	民事訴訟法〔第2版〕	小田司編
	備考			
参考書	使用しない			
オフィスアワー	月曜12:10～13:00 研究室（9号館9320） 授業内容の他、法科大学院進学、海外留学（ヨーロッパ諸国）などについて メールアドレス：oda.tsukasa@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、テキストの第1章1A「民事訴訟」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	民事紛争とは（民事訴訟の概要）など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト16頁「知識を確認しよう」の問題（2）を解き確認すること。（2時間）
2	事前学習	テキストの第1章1B「裁判外紛争解決制度（ADR）」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	民事紛争の解決方法（訴訟とADR）など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト16頁「知識を確認しよう」の問題（1）を解き確認すること。（2時間）
3	事前学習	授業中に予告したテキストの該当箇所を事前に読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	民事訴訟の流れとその基本構造：貸金返還請求訴訟を例に
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト144頁「知識を確認しよう」の問題（2）を解き確認すること。（2時間）
4	事前学習	テキストの第2章1A「裁判所の概念」B「裁判所職員の除斥・忌避・回避」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	裁判所（1）：裁判所の種類・構成など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか確認するため、授業で解説した項目について各自まとめておくこと。（2時間）

5	事前学習	テキストの第2章1C「民事裁判権」E「管轄」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	裁判所（2）：民事裁判権の範囲、裁判管轄など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト59頁「知識を確認しよう」の問題（1）（2）を解き確認すること。（2時間）
6	事前学習	テキストの第2章2A「当事者の意義」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	当事者（1）：当事者の概念、当事者の確定など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか確認するため、授業で解説した項目について各自まとめておくこと。（2時間）
7	事前学習	テキストの第2章2B「当事者能力」C「訴訟能力」D「訴訟上の代理」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	当事者（2）：当事者能力、訴訟能力、訴訟代理など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト59頁「知識を確認しよう」の問題（3）（4）（5）を解き確認すること。（2時間）
8	事前学習	テキストの第3章7A「当事者適格の意義」B「当事者適格の判断基準」C「第三者の訴訟担当」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	当事者（3）：当事者適格、第三者の訴訟担当など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト92頁「知識を確認しよう」の問題（5）を解き確認すること。（2時間）
9	事前学習	テキストの第3章1A「訴えの意義」B「訴えの種類」3A「訴え提起の方式」などを読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	訴訟の開始：訴えの種類、訴え提起の方式など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか確認するため、授業で解説した項目について各自まとめておくこと。（2時間）
10	事前学習	テキストの第3章4「訴え提起の効果」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	訴訟係属の効果：重複起訴の禁止、時効の中断など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト92頁「知識を確認しよう」の問題（1）（2）を解き確認すること。（2時間）
11	事前学習	テキストの第3章5「訴えの適法性」6「訴えの利益」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	訴訟の審理（1）：本案と訴訟要件、訴訟要件の調査など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト92頁「知識を確認しよう」の問題（3）（4）を解き確認すること。（2時間）
12	事前学習	テキストの第4章1「審理の進行」2「裁判資料の収集」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	訴訟の審理（2）：裁判資料の収集、審理の進行など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト144頁「知識を確認しよう」の問題（1）（2）を解き確認すること。（2時間）
13	事前学習	テキストの第4章3「口頭弁論」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	口頭弁論：口頭弁論の必要性と準備、審理の基本原則など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか確認するため、授業で解説した項目について各自まとめておくこと。（2時間）
14	事前学習	テキストの第4章3「口頭弁論」F「口頭弁論における当事者の訴訟行為」G「口頭弁論における当事者の欠席」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	口頭弁論・口頭弁論における当事者の訴訟行為、当事者の欠席など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト144頁「知識を確認しよう」の問題（5）を解き確認すること。（2時間）
15	事前学習	テキストの第4章3「口頭弁論」C「口頭弁論の準備」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	弁論の準備：準備書面、争点整理手続、当事者照会など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか確認するため、授業で解説した項目について各自まとめておくこと。（2時間）
16	事前学習	テキストの第4章4「証拠調べと事実認定」A「証拠」B「証明」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	証拠調べ：証明の対象、訴え提起前の証拠収集手続など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか確認するため、授業で解説した項目について各自まとめておくこと。（2時間）

17	事前学習	テキストの第4章4「証拠調べと事実認定」E「証拠調べ」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	証拠調べの手続：証人尋問、当事者尋問、鑑定、書証、検証、調査の囑託、証拠保全
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか確認するため、授業で解説した項目について各自まとめておくこと。（2時間）
18	事前学習	テキストの第4章4「証拠調べと事実認定」C「自由心証主義」D「証明責任」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	証拠の評価：自由心証主義、証明責任など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト144頁「知識を確認しよう」の問題（4）（5）を解き確認すること。（2時間）
19	事前学習	テキストの第5章1「当事者の行為による訴訟終了」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	当事者の行為による訴訟終了：訴えの取下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト193頁「知識を確認しよう」の問題（1）を解き確認すること。（2時間）
20	事前学習	テキストの第5章2「終局判決による訴訟の終了」A「裁判と判決の種類」C「判決の成立と確定」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	終局判決による訴訟終了：判決の種類、判決の成立・言渡し・送達など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか確認するため、授業で解説した項目について各自まとめておくこと。（2時間）
21	事前学習	テキストの第5章2「終局判決による訴訟の終了」D「判決の効力」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	判決の効力（1）：確定判決の効力、既判力の作用・性質など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか確認するため、授業で解説した項目について各自まとめておくこと。（2時間）
22	事前学習	テキストの第5章2「終局判決による訴訟の終了」E「既判力」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	判決の効力（2）：既判力の時的限界など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト193頁「知識を確認しよう」の問題（2）を解き確認すること。（2時間）
23	事前学習	テキストの第5章2「終局判決による訴訟の終了」E「既判力」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	判決の効力（3）：既判力の客観的範囲など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト193頁「知識を確認しよう」の問題（3）（5）を解き確認すること。（2時間）
24	事前学習	テキストの第5章2「終局判決による訴訟の終了」E「既判力」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	判決の効力（4）：既判力の主観的範囲など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト193頁「知識を確認しよう」の問題（4）を解き確認すること。（2時間）
25	事前学習	テキストの第6章1「複数請求訴訟」A「請求の併合」B「訴えの変更」C「反訴」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	複数請求訴訟：訴えの併合・変更、反訴など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか確認するため、授業で解説した項目について各自まとめておくこと。（2時間）
26	事前学習	テキストの第6章2「多数当事者訴訟」A「共同訴訟」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	多数当事者訴訟（1）：共同訴訟、選定当事者など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト234頁「知識を確認しよう」の問題（1）を解き確認すること。（2時間）
27	事前学習	テキストの第6章2「多数当事者訴訟」B「訴訟参加」C「当事者の交替」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	多数当事者訴訟（2）：訴訟参加、訴訟承継など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト234頁「知識を確認しよう」の問題（2）（3）を解き確認すること。（2時間）
28	事前学習	テキストの第7章1「上訴」A「上訴制度」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	不服申立手続（1）：上訴制度の意義と目的、上訴の種類・要件など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト262頁「知識を確認しよう」の問題（1）を解き確認すること。（2時間）

29	事前学習	テキストの第7章1「上訴」B「控訴」C「上告」D「抗告」2「再審」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	不服申立手続（2）：控訴、上告、抗告、再審など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト262頁「知識を確認しよう」の問題（2）（3）（4）を解き確認すること。（2時間）
30	事前学習	テキストの第8章1「簡易裁判所の手続」2「少額訴訟手続」3「督促手続」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	略式訴訟手続：少額訴訟手続、督促手続など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト275頁「知識を確認しよう」の問題（1）（2）（3）を解き確認すること。（2時間）

科目名	民事訴訟法	担当者	小田 司	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義は、訴えの提起から口頭弁論を経て終局判決に至るまでの判決手続を対象とするものであり、裁判管轄、当事者（当事者能力、訴訟能力）、訴訟の開始（訴えの種類、訴えの利益）、訴訟の審理（裁判資料の収集、口頭弁論、証拠調べと事実認定）、確定判決の効力（既判力の時的限界、既判力の客観的範囲・主観的範囲）、不服申立手続（控訴、上告、抗告、再審）など、判決手続における重要事項について学習する。				
授業目的・到達目標	この講義では、民事訴訟の全体像について把握した上で、民事訴訟の基本構造と基本理論、民事訴訟の仕組みについて理解し、民事紛争を解決する能力を養成することを目的とする。訴えの提起から口頭弁論を経て終局判決に至るまでの過程について理解し、それに基づいて具体的な民事紛争の解決方法を説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP:法律学科1, 2, 3, 5 新聞学科1, 5 経営法学科1, 3, 5				
履修条件	2年次生以上を対象とする。講義には、必ず六法を持参すること。				
授業方法	テキストに沿って講義を進める。民事訴訟について具体的なイメージが描けるように、貸金返還請求訴訟や損害賠償請求訴訟などの紛争事例を用いて講義を行う。なお、定期試験の解説については、ポータルシステム等で配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	民事訴訟法の重要事項について基礎的知識が身についているかを判定する。授業中に解説した項目・事項について理解すること。	
	平常評価				
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2016年	弘文堂	民事訴訟法〔第2版〕		小田司編
	備考				
参考書	使用しない				
オフィスアワー	月曜12:10～13:00 研究室（9号館9320） 授業内容の他、法科大学院進学、海外留学（ヨーロッパ諸国）などについて メールアドレス：oda.tsukasa@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、テキストの第1章1A「民事訴訟」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	民事紛争とは（民事訴訟の概要）など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト16頁「知識を確認しよう」の問題（2）を解き確認すること。（2時間）
2	事前学習	テキストの第1章1B「裁判外紛争解決制度（ADR）」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	民事紛争の解決方法（訴訟とADR）など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト16頁「知識を確認しよう」の問題（1）を解き確認すること。（2時間）
3	事前学習	授業中に予告したテキストの該当箇所を事前に読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	民事訴訟の流れとその基本構造：貸金返還請求訴訟を例に
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト144頁「知識を確認しよう」の問題（2）を解き確認すること。（2時間）
4	事前学習	テキストの第2章1A「裁判所の概念」B「裁判所職員の除斥・忌避・回避」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	裁判所（1）：裁判所の種類・構成など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか確認するため、授業で解説した項目について各自まとめておくこと。（2時間）

5	事前学習	テキストの第2章1C「民事裁判権」E「管轄」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	裁判所（2）：民事裁判権の範囲、裁判管轄など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト59頁「知識を確認しよう」の問題（1）（2）を解き確認すること。（2時間）
6	事前学習	テキストの第2章2A「当事者の意義」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	当事者（1）：当事者の概念、当事者の確定など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか確認するため、授業で解説した項目について各自まとめておくこと。（2時間）
7	事前学習	テキストの第2章2B「当事者能力」C「訴訟能力」D「訴訟上の代理」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	当事者（2）：当事者能力、訴訟能力、訴訟代理など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト59頁「知識を確認しよう」の問題（3）（4）（5）を解き確認すること。（2時間）
8	事前学習	テキストの第3章7A「当事者適格の意義」B「当事者適格の判断基準」C「第三者の訴訟担当」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	当事者（3）：当事者適格、第三者の訴訟担当など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト92頁「知識を確認しよう」の問題（5）を解き確認すること。（2時間）
9	事前学習	テキストの第3章1A「訴えの意義」B「訴えの種類」3A「訴え提起の方式」などを読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	訴訟の開始：訴えの種類、訴え提起の方式など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか確認するため、授業で解説した項目について各自まとめておくこと。（2時間）
10	事前学習	テキストの第3章4「訴え提起の効果」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	訴訟係属の効果：重複起訴の禁止、時効の中断など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト92頁「知識を確認しよう」の問題（1）（2）を解き確認すること。（2時間）
11	事前学習	テキストの第3章5「訴えの適法性」6「訴えの利益」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	訴訟の審理（1）：本案と訴訟要件、訴訟要件の調査など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト92頁「知識を確認しよう」の問題（3）（4）を解き確認すること。（2時間）
12	事前学習	テキストの第4章1「審理の進行」2「裁判資料の収集」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	訴訟の審理（2）：裁判資料の収集、審理の進行など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト144頁「知識を確認しよう」の問題（1）（2）を解き確認すること。（2時間）
13	事前学習	テキストの第4章3「口頭弁論」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	口頭弁論：口頭弁論の必要性と準備、審理の基本原則など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか確認するため、授業で解説した項目について各自まとめておくこと。（2時間）
14	事前学習	テキストの第4章3「口頭弁論」F「口頭弁論における当事者の訴訟行為」G「口頭弁論における当事者の欠席」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	口頭弁論・口頭弁論における当事者の訴訟行為、当事者の欠席など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト144頁「知識を確認しよう」の問題（5）を解き確認すること。（2時間）
15	事前学習	テキストの第4章3「口頭弁論」C「口頭弁論の準備」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	弁論の準備：準備書面、争点整理手続、当事者照会など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか確認するため、授業で解説した項目について各自まとめておくこと。（2時間）
16	事前学習	テキストの第4章4「証拠調べと事実認定」A「証拠」B「証明」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	証拠調べ：証明の対象、訴え提起前の証拠収集手続など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか確認するため、授業で解説した項目について各自まとめておくこと。（2時間）

17	事前学習	テキストの第4章4「証拠調べと事実認定」E「証拠調べ」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	証拠調べの手続：証人尋問、当事者尋問、鑑定、書証、検証、調査の囑託、証拠保全
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか確認するため、授業で解説した項目について各自まとめておくこと。（2時間）
18	事前学習	テキストの第4章4「証拠調べと事実認定」C「自由心証主義」D「証明責任」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	証拠の評価：自由心証主義、証明責任など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト144頁「知識を確認しよう」の問題（4）（5）を解き確認すること。（2時間）
19	事前学習	テキストの第5章1「当事者の行為による訴訟終了」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	当事者の行為による訴訟終了：訴えの取下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト193頁「知識を確認しよう」の問題（1）を解き確認すること。（2時間）
20	事前学習	テキストの第5章2「終局判決による訴訟の終了」A「裁判と判決の種類」C「判決の成立と確定」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	終局判決による訴訟終了：判決の種類、判決の成立・言渡し・送達など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか確認するため、授業で解説した項目について各自まとめておくこと。（2時間）
21	事前学習	テキストの第5章2「終局判決による訴訟の終了」D「判決の効力」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	判決の効力（1）：確定判決の効力、既判力の作用・性質など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか確認するため、授業で解説した項目について各自まとめておくこと。（2時間）
22	事前学習	テキストの第5章2「終局判決による訴訟の終了」E「既判力」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	判決の効力（2）：既判力の時的限界など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト193頁「知識を確認しよう」の問題（2）を解き確認すること。（2時間）
23	事前学習	テキストの第5章2「終局判決による訴訟の終了」E「既判力」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	判決の効力（3）：既判力の客観的範囲など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト193頁「知識を確認しよう」の問題（3）（5）を解き確認すること。（2時間）
24	事前学習	テキストの第5章2「終局判決による訴訟の終了」E「既判力」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	判決の効力（4）：既判力の主観的範囲など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト193頁「知識を確認しよう」の問題（4）を解き確認すること。（2時間）
25	事前学習	テキストの第6章1「複数請求訴訟」A「請求の併合」B「訴えの変更」C「反訴」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	複数請求訴訟：訴えの併合・変更、反訴など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか確認するため、授業で解説した項目について各自まとめておくこと。（2時間）
26	事前学習	テキストの第6章2「多数当事者訴訟」A「共同訴訟」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	多数当事者訴訟（1）：共同訴訟、選定当事者など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト234頁「知識を確認しよう」の問題（1）を解き確認すること。（2時間）
27	事前学習	テキストの第6章2「多数当事者訴訟」B「訴訟参加」C「当事者の交替」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	多数当事者訴訟（2）：訴訟参加、訴訟承継など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト234頁「知識を確認しよう」の問題（2）（3）を解き確認すること。（2時間）
28	事前学習	テキストの第7章1「上訴」A「上訴制度」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	不服申立手続（1）：上訴制度の意義と目的、上訴の種類・要件など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト262頁「知識を確認しよう」の問題（1）を解き確認すること。（2時間）

29	事前学習	テキストの第7章1「上訴」B「控訴」C「上告」D「抗告」2「再審」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	不服申立手続（2）：控訴、上告、抗告、再審など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト262頁「知識を確認しよう」の問題（2）（3）（4）を解き確認すること。（2時間）
30	事前学習	テキストの第8章1「簡易裁判所の手続」2「少額訴訟手続」3「督促手続」を読み、各自予習しておくこと。（2時間）
	授業内容	略式訴訟手続：少額訴訟手続、督促手続など
	事後学習	学習した項目について正しく理解できているかどうか、テキスト275頁「知識を確認しよう」の問題（1）（2）（3）を解き確認すること。（2時間）

科目名	民事訴訟法	担当者	畑 宏樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	民事紛争の処理方法には様々なものがあるところ、公権力を介して実体法上の権利義務関係を確定していく民事訴訟制度はとりわけ重要な制度である。この授業においては、民事裁判という一連の手続の流れについて説明する。				
授業目的・到達目標	民事紛争の処理方法には様々なものがあるところ、公権力を介して実体法上の権利義務関係を確定していく民事訴訟制度はとりわけ重要な制度である。この授業においては、民事裁判という一連の手続の流れについて理解し説明できる力を養成することを目的とする。民事裁判に関する知識の習得・定着を目標とすると同時に、民事実体法との関連性を意識することにより、民事法の全体構造を説明できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5 新聞学科1, 5 経営法学科1, 3, 5				
履修条件	民事実体法に関する科目をある程度履修済みであることが望ましい。				
授業方法	毎回授業時にはレジュメを配布し、それに基づいて講義形式で授業を進める。 定期試験の結果についてはこれを学生にフィードバックするために、試験の解説・講評をポータルシステムにて公開する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	論述式の答案を作成してもらうが、法律的な文章としての最低限（問題提起、先例・学説の検討、自説の展開・あてはめ）をみたしていることが必須である。	
	平常評価		20%	講義に出席するのは当然のこと。漫然と出席をするのではなく授業内容に意欲的に取り組む姿勢（授業参加度）を見せてもらいたい。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2016	弘文堂	民事訴訟法（Next教科書シリーズ）〔第2版〕		小田司編
	備考				
参考書	高橋宏志ほか編『民事訴訟法判例百選〔第5版〕』（有斐閣、2015）				
オフィスアワー	金曜 毎授業後16:10～ 授業講堂にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書1～16頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス／民事紛争とは
	事後学習	教科書16頁の確認問題(1) (3)をまとめておくこと。（2時間）
2	事前学習	教科書1～16頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	民事訴訟制度の概要
	事後学習	教科書16頁の確認問題(4)をまとめておくこと。（2時間）
3	事前学習	教科書18～39頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	裁判所―管轄を中心に
	事後学習	教科書59～60頁の確認問題(2)をまとめておくこと。（2時間）
4	事前学習	教科書40～59頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	訴訟の主体―当事者
	事後学習	教科書60頁の確認問題(3) (4) (5)をまとめておくこと。（2時間）

5	事前学習	教科書73～77頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	訴訟の客体―訴訟物
	事後学習	教科書92頁の確認問題(1)をまとめておくこと。（2時間）
6	事前学習	教科書62～65，69～72頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	訴訟の開始(1)―訴えの提起
	事後学習	教科書72頁に掲げられている訴状のフォーマットをよく確認しておくこと。（2時間）
7	事前学習	教科書164～167，181頁，77～81頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	訴訟の開始(2)―処分権主義、訴え提起の効果
	事後学習	教科書92頁の確認問題(2)をまとめておくこと。（2時間）
8	事前学習	教科書81～83頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	訴訟の審理／訴訟要件(1)
	事後学習	教科書82頁に掲げられている訴訟要件の種類をよく確認しておくこと。（2時間）
9	事前学習	教科書83～92頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	訴訟要件(2)―当事者適格・訴えの利益を中心に
	事後学習	教科書92頁の確認問題(3)(4)(5)をまとめておくこと。（2時間）
10	事前学習	教科書111～114頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	口頭弁論における基本原則
	事後学習	攻撃防御方法の提出に関する一般原則とそれに対する規制の方途についてまとめておくこと。（2時間）
11	事前学習	教科書100～103頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	弁論主義(1)
	事後学習	教科書144頁の確認問題(1)(2)をまとめておくこと。（2時間）
12	事前学習	教科書101～106頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	弁論主義(2)
	事後学習	教科書144頁の確認問題(3)をまとめておくこと。（2時間）
13	事前学習	教科書109～111頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	争点整理手続
	事後学習	現行民事訴訟における争点整理の重要性について説明できるようにしておくこと。（2時間）
14	事前学習	教科書122～123頁，132～137頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	証拠調べ(1)
	事後学習	証拠方法、証拠能力、証拠資料、証拠原因など類似する用語の違いについてまとめておくこと。（2時間）
15	事前学習	教科書137～138頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	証拠調べ(2)
	事後学習	人証、物証のそれぞれの証拠調べ手続の進め方についてまとめておくこと。（2時間）
16	事前学習	教科書138～140頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	証拠や情報の収集制度(1)
	事後学習	教科書144頁の確認問題(6)をまとめておくこと。（2時間）

17	事前学習	教科書66～69頁， 111頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	証拠や情報の収集制度(2)
	事後学習	教科書68頁に出てくる広島地決の裁判例を参考書を手がかりに確認しておくこと。（2時間）
18	事前学習	教科書129～132頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	証明責任
	事後学習	教科書144頁の確認問題(5)をまとめておくこと。（2時間）
19	事前学習	教科書146～160頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	裁判によらない訴訟の終了
	事後学習	教科書193頁の確認問題(1)をまとめておくこと。（2時間）
20	事前学習	教科書161～164頁， 167～172頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	判決の成立
	事後学習	教科書72頁に掲げられている訴状の事件において、原告の請求を認容する判決書はどのようなものになるのかイメージをつけておくこと。（2時間）
21	事前学習	教科書173～179頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	既判力とは／既判力の時的限界
	事後学習	教科書193頁の確認問題(2)をまとめておくこと。（2時間）
22	事前学習	教科書180～184頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	既判力の客観的範囲
	事後学習	教科書193頁の確認問題(3)(5)をまとめておくこと。（2時間）
23	事前学習	教科書184～190頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	既判力の主観的範囲
	事後学習	教科書193頁の確認問題(4)をまとめておくこと。（2時間）
24	事前学習	教科書196～204頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	複数請求訴訟
	事後学習	訴えの客観的併合の併合形態について、具体例を用いつつ説明ができるようにしておくこと。（2時間）
25	事前学習	教科書204～219頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	多数当事者訴訟(1)―通常共同訴訟・必要的共同訴訟
	事後学習	教科書234頁の確認問題(1)をまとめておくこと。（2時間）
26	事前学習	教科書216～224頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	多数当事者訴訟(2)―共同訴訟参加・独立当事者参加
	事後学習	教科書234頁の確認問題(2)をまとめておくこと。（2時間）
27	事前学習	教科書224～230頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	多数当事者訴訟(3)―補助参加・訴訟告知
	事後学習	教科書234頁の確認問題(2)をまとめておくこと。（2時間）
28	事前学習	教科書230～232頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	多数当事者訴訟(4)―訴訟承継・当事者引込み論
	事後学習	教科書234頁の確認問題(3)をまとめておくこと。（2時間）

29	事前学習	教科書264～273頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	簡易裁判所における訴訟手続
	事後学習	教科書275頁の確認問題(1)をまとめておくこと。（2時間）
30	事前学習	教科書236～261頁を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	判決に対する不服申立て方法
	事後学習	教科書262頁の確認問題(1)～(4)をまとめておくこと。（2時間）

科目名	民事訴訟法	担当者	吉田 純平	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	民事訴訟法の基本的知識を説明し、民事訴訟法の重要論点について判例・学説の検討を通して解説する。			
授業目的・到達目標	民事訴訟法の知識をもとに、適切に民事手続を利用することができる人材を養成することを目的とする。 民事訴訟法の基礎的の仕組みを理解し、適切に説明することができることを目標とする。 関連DPおよびCP:法律学科1，2，3，5 経営法学科1，3，5			
履修条件	特にない。授業には必ず六法を持参すること。			
授業方法	講義形式でおこなう。 毎回小テストを行い、次回の冒頭で解説をする。期末テストの解説はポータルサイト内で行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	民事訴訟の基礎的概念の確認、事案における同法に関する問題発見能力、問題解決能力を問う。	
	平常評価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016	弘文堂	『民事訴訟法〔第2版〕』	小田司
	備考			
参考書	使用しない。			
オフィスアワー	水曜日12：10～13：00 研究室（9号館9305） メールアドレスは授業内で連絡します。 授業内容のほか、法科大学院進学について等			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	民事紛争の解決と民事訴訟
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
2	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	民事訴訟の流れと基本構造
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
3	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	裁判所（1）裁判所の種類・構成
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
4	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	裁判所（2）民事裁判権の範囲、管轄
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）

5	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	当事者（1）：当事者の概念、当事者確定
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
6	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	当事者（2）：当事者能力、訴訟能力、訴訟代理
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
7	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	当事者（3）：当事者適格、第三者の訴訟担当
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
8	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	訴訟の開始：訴えの種類、訴え提起
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
9	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	訴訟係属の効果：重複起訴の禁止など
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
10	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	訴訟の審理（1）：訴訟要件
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
11	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	訴訟の審理（2）：裁判資料の収集、審理の進行
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
12	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	民事訴訟の審理原則（1）
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
13	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	民事訴訟の審理原則（2）
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
14	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	訴訟行為
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
15	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	前半のまとめ
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
16	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	証拠手続：証明の対象・自白
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く（2時間）

17	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	証拠調べ
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
18	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	証明責任
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
19	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	訴訟の終了（1）：当事者による訴訟の終了
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
20	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	訴訟の終了（2）：判決による訴訟の終了
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
21	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	判決の効力（1）：確定判決の効力、既判力の作用・性質
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
22	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	判決の効力（2）：既判力の時的限界
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
23	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	判決の効力（3）：既判力の客観的範囲
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
24	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	判決の効力（4）：既判力の主観的範囲
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
25	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	複雑訴訟（1）：複数請求訴訟
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
26	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	複雑訴訟（2）：共同訴訟①
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
27	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	複雑訴訟（3）：共同訴訟②
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
28	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	複雑訴訟（4）：訴訟参加
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）

29	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	上訴制度
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）
30	事前学習	教科書の該当部分を読む。（2時間）
	授業内容	後半のまとめ
	事後学習	「知識を確認しよう」を解く。（2時間）

科目名	民事法特殊講義 I（要件事実） A	担当者	奥田 正昭	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	民法に関する基本的かつ典型的な事例問題を事前に検討してもらい、これを素材として、要件事実についての基本的な理解及びその理解の説明が可能になるよう、教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心とした演習を行う。			
授業目的・到達目標	民法の基礎的な理解を踏まえ、要件事実の考え方が民事裁判実務にどのように生かされ、機能しているかについて理解し、説明できる力を養成することを目的とし、演習を通じて、与えられた事例の中から、論理的な思考を通じて、その事案に含まれる法的問題点を抽出し、要件事実の観点から、民法の解釈を踏まえてその適切な分配を検討することのできる基礎的な素養を身に付け、これを説明することができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1・4・8			
履修条件	履修条件は特に定めないが、法職課程（法職コースを含む）に在籍する者、又はそれと同等以上に民法等を勉強しようとする意欲を有する者が望ましい。			
授業方法	言い分方式による事例問題を素材とし、教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心に授業を進める。レポートの提出又は小テストを実施することがあり、その場合には、その内容を添削して返却する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業内における質疑応答や議論の内容、授業への積極的な取組姿勢等に基づいて評価する。レポートの提出や小テストを実施した場合には、これも評価の対象とする。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は指定しない。		
参考書	司法研修所「新問題研究要件事実」法曹会			
オフィスアワー	法科大学院法務研究科の研究室で対応する。 通年で、金曜日の午後2時から午後4時までとする。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	参考書を読むなどして、要件事実の考え方が民事裁判実務でなぜ必要とされているのかを各自考えておくこと。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション 要件事実の機能と役割について
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
2	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	物権的請求権 目的物引渡請求権
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
3	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	物権的請求権と対抗要件
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
4	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	所有権喪失の抗弁等
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）

5	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。 1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	所有権移転登記抹消登記手続請求権
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
6	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。 1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	取得時効を理由とする目的物引渡請求権
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
7	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。 1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	抵当権設定登記抹消登記手続請求権
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
8	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。 1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	売買代金請求権
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
9	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。 1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	消滅時効の抗弁
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
10	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。 1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	貸金返還請求権
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
11	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。 1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	動産引渡請求権 即時取得
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
12	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。 1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	賃貸借契約終了に基づく土地明渡請求権
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
13	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。 1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	譲受債権についての支払請求権
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
14	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。 1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	保証債務履行請求権
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
15	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている民法上及び要件事実に関する問題点について、各自の使用する基本書や参考書の該当箇所を読んだ上で、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。 1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	要件事実に関する重要な問題点についての復習
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）

科目名	民事法特殊講義Ⅰ（要件事実） A	担当者	中野 哲弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前学期である本講義では、民法の事例問題に基づき、要件事実を念頭にした演習と解説を行う。				
授業目的・到達目標	この授業では、これまでの講義で学んだ民法の内容につき事例の観点から改めて検討する訓練を行うことを目的とする。民法及びこれに関する民事訴訟実務につき、法科大学院入学試験ないしこれに準ずる試験に合格するレベルの知識を習得し、到達できることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科 1, 4, 8				
履修条件	法職課程（含む法職コース）に在籍する者、もしくはそれと同等以上に民法等の勉強をしようという意欲を有する者を歓迎する。				
授業方法	司法試験予備試験（論文式）レベルの事例問題（民法）を素材として、学生同士の討論も加えて、授業を進める。授業内レポートの解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業内レポート内容と質疑応答による。最終時期に、まとめのレポートを提出してもらう。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	司法研修所「改訂紛争類型別の要件事実」「新問題研究要件事実」「10訂民事判決起案の手引」（法曹会）中野哲弘 「わかりやすい民事訴訟法概説」「わかりやすい債権総論概説」「わかりやすい担保物権法概説」（信山社）				
オフィスアワー	火曜日14：30～15：30 授業講堂にて				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	民法の法文を手元に置くこと。事前にシラバスを確認しておくこと（2時間）
	授業内容	オリエンテーション
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
2	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例問題（1）（総則・物権）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
3	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例問題（2）（総則・物権）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
4	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例問題（3）（総則・物権）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）

5	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例問題（4）（総則・物権）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
6	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例問題（5）（総則・物権）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
7	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例問題（6）（総則・物権）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
8	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例問題（7）（債権）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
9	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例問題（8）（債権）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
10	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例問題（9）（債権）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
11	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例問題（10）（債権）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
12	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例問題（11）（債権）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
13	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例問題（12）（債権）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
14	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例問題（13）（総合）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
15	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例問題（14）（総合）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）

科目名	民事法特殊講義Ⅰ（要件事実） B	担当者	中野 哲弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	後学期である本講義では、民事訴訟実務の基礎について修得してもらうため、訴訟物と要件事実を中心に、事例問題の演習と解説を行う。					
授業目的・到達目標	後学期のこの授業では、民事訴訟手続で使われる民法の要件事実を中心として、事例問題を中心に訓練を行うことを目的とする。民法及びこれに関する民事訴訟実務につき、法科大学院入学試験ないしこれに準ずる試験に合格するレベルの知識を習得できることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科 1, 4, 8					
履修条件	法職課程（含む法職コース）に在籍する者、もしくはそれと同等以上に民法等の勉強をしようという意欲を有する者。					
授業方法	司法試験予備試験（論文式）レベルの事例問題（法律実務基礎・民事）を素材として、学生同士の討論を中心に授業を進める。授業内レポートの解説を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業内レポート内容と質疑応答による。最終時期に、まとめのレポートを提出してもらう。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない				
参考書	司法研修所「改訂紛争類型別の要件事実」「新問題研究要件事実」「10訂民事判決起案の手引」（法曹会）、中野哲弘「わかりやすい民事訴訟法概説」「わかりやすい債権総論概説」「わかりやすい担保物権法概説」（信山社）					
オフィスアワー	火曜日14：30～15：30 授業講堂にて					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	民事訴訟法について出来るだけ学習してくること（60分）、上記参考書を絶えず参照すること（以下同じ）（2時間）
	授業内容	民法と要件事実（1）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
2	事前学習	民事訴訟法について出来るだけ学習してくること（2時間）
	授業内容	民法と要件事実（2）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
3	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例研究（1）（貸金）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
4	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例研究（2）（貸金）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）

5	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例研究（3）（貸金）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
6	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例研究（4）（売買）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
7	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例研究（5）（売買）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
8	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例研究（6）（売買）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
9	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例研究（7）（登記）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
10	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例研究（8）（登記）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
11	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例研究（9）（登記）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
12	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例研究（10）（賃貸借）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
13	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例研究（11）（賃貸借）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
14	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	事例研究（12）（賃貸借）
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）
15	事前学習	予め配付する事例問題につき検討してくること（2時間）
	授業内容	全体を振り返って
	事後学習	受講内容をノートに記載し、復習をすること（2時間）

科目名	民事法特殊講義Ⅱ（判例演習） A	担当者	奥田 正昭	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	民法上の基本的な問題点に関する事例問題とこれに関連する基本的な判例を事前に検討してもらい、授業では、その検討結果を踏まえ、教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心に問題点の検討を行う。			
授業目的・到達目標	現代社会における民法の役割を理解し、基本的な知識を踏まえてこれを説明することのできる力、各種事案に含まれる法的問題点を抽出し、その解決策を見出すことのできる力、これを的確に他者に伝えることのできる力を養成することを目的とし、民法の基本的な知識、理解を踏まえ、論理的かつ合理的な思考のもと、設例における事案に即した問題点を発見し、その具体的な解決方法を検討してこれを他者に的確に伝えることができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1・4・8			
履修条件	履修条件は特に定めないが、法職課程（法職コースを含む）に在籍する者、若しくはそれと同等以上に民法等の勉強をしようという意欲を有する者が望ましい。			
授業方法	民法上の基本的な問題点に関する事例問題を素材として、教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心に授業を進める。レポートの提出又は小テストを実施した場合には、その内容を添削して返却する予定である。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業中における質疑応答や議論の内容、授業への積極的な取組姿勢等に基づいて評価する。レポート提出や授業内の小テストを実施した場合には、これも評価に含める。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は指定しない。		
参考書	特に指定しない。			
オフィスアワー	大学院法務研究科の研究室で対応する。 通年で、金曜日の午後2時から午後4時までとする。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくとともに、改正民法の概要について勉強しておくこと。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション 改正民法の概要について
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
2	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	契約とは何か（単なる合意との異同） 契約の拘束力
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
3	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	契約の当事者（預金者の特定等）
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
4	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	契約締結の能力（権利能力、意思能力、行為能力）
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）

5	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	契約と意思表示（1） 通謀虚偽表示，詐欺
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
6	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	契約と意思表示（2） 錯誤
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
7	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	契約の無効 暴利行為，強行法規違反
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
8	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	契約の取消しと追認
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
9	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	契約と代理（1） 有権代理 109条の表見代理
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
10	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	契約と代理（2） 110条の表見代理
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
11	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	契約と無権代理（1） 無権代理行為と追認 無権代理行為と相続
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
12	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	契約と無権代理（2） 無権代理の効果 無権代理人の責任
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
13	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	契約の効力 双務契約 同時履行の抗弁権
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
14	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	契約の付款 条件と期限 条件成就の妨害
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）

15	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し，そこに含まれている法的な問題点について，各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに，設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり，事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	売買契約について 手付契約 受領遅滞
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）

科目名	民事法特殊講義Ⅱ（判例演習） B	担当者	奥田 正昭	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	民法上の基本的な問題点に関する事例問題とこれに関連する基本的な判例を事前に検討してもらい、授業では、その検討結果を踏まえ、教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心に問題点の検討を行う。				
授業目的・到達目標	現代社会における民法の役割を理解し、基本的な知識を踏まえてこれを説明することのできる力、各種事案に含まれる法的問題点を抽出し、その解決策を見出すことのできる力、これを的確に他者に伝えることのできる力を養成することを目的とし、民法の基本的な知識、理解を踏まえ、論理的かつ合理的な思考のもと、設例における事案に即した問題点を発見し、その具体的な解決方法を検討してこれを他者に的確に伝えることができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1・4・8				
履修条件	履修条件は特に定めないが、法職課程（法職コースを含む）に在籍する者、若しくはそれと同等以上に民法等の勉強をしようという意欲を有する者が望ましい。				
授業方法	民法上の基本的な問題点に関する事例問題を素材として、教員と学生との質疑応答や学生同士の議論を中心に授業を進める。レポートの提出又は小テストを実施した場合には、その内容を添削して返却する予定である。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業中における質疑応答や議論の内容、授業への積極的な取組姿勢等に基づいて評価する。レポート提出や授業内的小テストを実施した場合には、これも評価に含める。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は指定しない。			
参考書	特に指定しない。				
オフィスアワー	大学院法務研究科の研究室で対応する。 通年で、金曜日の午後2時から午後4時までとする。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション 原始的不能と後発的不能
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
2	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	債権者代位権
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
3	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	債権者取消権
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
4	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	特定物債権・種類債権（種類債権の特定） 受領遅滞 危険負担
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）

5	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	第三者の弁済 弁済の提供
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
6	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	同時履行の抗弁権 不安の抗弁権
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
7	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	契約不適合責任 契約解除 他人物売買
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
8	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	債権譲渡
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
9	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	契約締結過程における紛争
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
10	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	契約と物権変動 売買の予約
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
11	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	売買契約 売主の担保責任（契約不適合責任）
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
12	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	賃貸借契約 賃借権の物権化
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
13	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	請負契約 委任契約
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
14	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	不当利得
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）
15	事前学習	授業前に提示された事例問題を事前に検討し、そこに含まれている法的な問題点について、各自の使用する基本書の該当箇所を読むとともに、設問に対する自分の考えを述べられるようにしておくこと。1回の授業当たり、事前・事後学習合わせて4時間の授業時間外学習が必要である。（2時間）
	授業内容	不法行為
	事後学習	授業内容に関する疑問点等を解消するための復習（2時間）

科目名	民事法特殊講義Ⅲ(会社法)A	担当者	大久保 拓也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では商法特に会社法の重要論点を検討することで、商法・会社法で理解しておくべき法制度を理解することができるようにする。重要論点を扱っている司法試験、司法試験予備試験クラスの問題を取り扱い、それを解いてゆくことで、高度な法律論を展開する能力を養成する。				
授業目的・到達目標	商法の重要論点を検討する。これにより、(1)商法Iで習得した知識を具体的事例に当てはめて再確認するとともに、(2)具体的事例に当てはめる能力を習得する能力を身につけることを目的とする。問題に関連する裁判例についても適宜指示するので、具体的事例から、検討されるべき会社法上の問題点と当てはめに必要な個々の事実を抽出できるようにして、難易度の高い資格試験にチャレンジすることができる能力や知識を習得できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1、4、8				
履修条件	商法Ⅰ（会社法）を履修済みであること。法曹志望者、難易度の高い資格試験の受験を目指す者を歓迎したい。				
授業方法	司法試験、司法試験予備試験の過去問やそれと同等クラスの問題を取り上げて、それについて授業中に解説する。またポータルシステムを利用して解説や講評を配信する場合もある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	商法・会社法に関する基礎知識の理解、事例問題への当てはめ能力を確認する。授業への参加度等の平常の講義への取り組み、レポート提出等を総合して評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	勁草書房		論文演習会社法 上巻	上田純子＝松嶋隆弘編
	備考	六法を持参すること（民法（債権関係）、（相続関係）改正、商法（運送法等）が成立したため、最新版（2019(平成31)年版）が望ましい）			
参考書	各自の基本書 岩原紳作ほか編『会社法判例百選（第3版）』（有斐閣、2016年）				
オフィスアワー	火曜5時限。事前にメールでアポイントメントをとること オフィス 研究室（9号館2階9204）ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、教科書の冒頭にある説明を読み、講義全体を概観する。日刊新聞紙の経済面を読シラバスを確認すると共に、教科書の冒頭にある説明を読み、講義全体を概観する。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス。授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。 なお、受講生と適宜相談の上決めるため、下記の授業内容は変更する場合がある。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
2	事前学習	テキストの予習（「第1章 会社法総論」「Ⅰ 会社の目的」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第1章 会社法総論」「Ⅰ 会社の目的」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第1章Ⅰ）。（2時間）
3	事前学習	テキストの予習（「第1章 会社法総論」「Ⅱ 法人格否認の法理」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第1章 会社法総論 Ⅱ」「法人格否認の法理」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第1章Ⅱ）。（2時間）
4	事前学習	テキストの予習（「第2章 設立」「Ⅰ 発起人の権限、定款に記載なき財産引受け、事後設立」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第2章 設立」「Ⅰ 発起人の権限、定款に記載なき財産引受け、事後設立第1章 会社法総論 Ⅱ」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第2章Ⅰ）。（2時間）

5	事前学習	テキストの予習（「第2章 設立」「Ⅱ 仮装払込み」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第2章 設立」「Ⅱ 仮装払込み」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第2章Ⅱ）。（2時間）
6	事前学習	テキストの予習（「第3章 株式、新株発行」「Ⅰ 株主名簿、募集株式発行の差止め」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第3章 株式、新株発行」「Ⅰ 株主名簿、募集株式発行の差止め」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第3章Ⅰ）。（2時間）
7	事前学習	テキストの予習（「第3章 株式、新株発行」「Ⅱ 株式譲渡①」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第3章 株式、新株発行」「Ⅱ 株式譲渡①」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第3章Ⅱ）。（2時間）
8	事前学習	テキストの予習（「第3章 株式、新株発行」「Ⅲ 株式譲渡②（総合問題）」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第3章 株式、新株発行」「Ⅲ 株式譲渡②（総合問題）」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第3章Ⅲ）。（2時間）
9	事前学習	テキストの予習（「第3章 株式、新株発行」「Ⅳ 自己株式」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第3章 株式、新株発行」「Ⅳ 自己株式」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第3章Ⅳ）。（2時間）
10	事前学習	テキストの予習（「第3章 株式、新株発行」「Ⅴ 新株発行無効」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第3章 株式、新株発行」「Ⅴ 新株発行無効」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第3章Ⅴ）。（2時間）
11	事前学習	テキストの予習（「第3章 株式、新株発行」「Ⅵ 新株発行不存在」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第3章 株式、新株発行」「Ⅵ 新株発行不存在」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第3章Ⅵ）。（2時間）
12	事前学習	テキストの予習（「第3章 株式、新株発行」「Ⅶ キャッシュ・アウト」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第3章 株式、新株発行」「Ⅶ キャッシュ・アウト」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第3章Ⅶ）。（2時間）
13	事前学習	テキストの予習（「第4章 機関1：株主総会」「Ⅰ 説明義務、提案権」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第4章 機関1：株主総会」「Ⅰ 説明義務、提案権」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第4章Ⅰ）。（2時間）
14	事前学習	テキストの予習（「第4章 機関1：株主総会」「Ⅱ 株主総会決議の瑕疵①」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第4章 機関1：株主総会」「Ⅱ 株主総会決議の瑕疵①」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第4章Ⅱ）。（2時間）
15	事前学習	テキストの予習（「第4章 機関1：株主総会」「Ⅲ 株主総会決議の瑕疵②」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。教科書全体、配付資料を読み返す。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第4章 機関1：株主総会」「Ⅲ 株主総会決議の瑕疵②」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。講義のまとめと総括をする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第4章Ⅲ）。（2時間）

科目名	民事法特殊講義Ⅲ(会社法)B	担当者	大久保 拓也	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では商法特に会社法の重要論点を検討することで、商法・会社法で理解しておくべき法制度を理解することができるようにする。重要論点を扱っている司法試験、司法試験予備試験クラスの問題を取り扱い、それを解いてゆくことで、高度な法律論を展開する能力を養成する。				
授業目的・到達目標	商法の重要論点を検討する。これにより、(1)商法Iで習得した知識を具体的事例に当てはめて再確認するとともに、(2)具体的事例に当てはめる能力を習得する能力を身につけることを目的とする。問題に関連する裁判例についても適宜指示するので、具体的事例から、検討されるべき会社法上の問題点と当てはめに必要な個々の事実を抽出できるようにして、難易度の高い資格試験にチャレンジすることができる能力や知識を習得できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1、4、8				
履修条件	商法Ⅰ（会社法）を履修済みであること。法曹志望者、難易度の高い資格試験の受験を目指す者を歓迎したい。				
授業方法	司法試験、司法試験予備試験の過去問やそれと同等クラスの問題を取り上げて、それについて授業中に解説する。またポータルシステムを利用して解説や講評を配信する場合もある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	商法・会社法に関する基礎知識の理解、事例問題への当てはめ能力を確認する。授業への参加度等の平常の講義への取り組み、レポート提出等を総合して評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2017	勁草書房		論文演習会社法 上巻・下巻	上田純子＝松嶋隆弘編
	備考	六法を持参すること（民法（債権関係）、（相続関係）改正、商法（運送法等）が成立したため、最新版（2019(平成31)年版）が望ましい）			
参考書	各自の基本書 岩原紳作ほか編『会社法判例百選（第3版）』（有斐閣、2016年）				
オフィスアワー	火曜5時限。事前にメールでアポイントメントをとること オフィス 研究室（9号館2階9204）ohkubo.takuya@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、教科書の冒頭にある説明を読み、講義全体を概観する。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス。授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて学習方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的にに行えるようにする。 なお、受講生と適宜相談の上決めるため、下記の授業内容は変更する場合がある。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する。（2時間）
2	事前学習	テキストの予習（「第5章 機関2：取締役会」「Ⅱ 重要な財産の処分」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第5章 機関2：取締役会」「Ⅱ 重要な財産の処分」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第5章Ⅱ）。（2時間）
3	事前学習	テキストの予習（「第5章 機関2：取締役会」「Ⅲ 取締役会決議の瑕疵①（総合問題）」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第5章 機関2：取締役会」「Ⅲ 取締役会決議の瑕疵①（総合問題）」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第5章Ⅲ）。（2時間）
4	事前学習	テキストの予習（「第5章 機関2：取締役会」「Ⅳ 取締役会決議の瑕疵②（総合問題）」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第5章 機関2：取締役会」「Ⅳ 取締役会決議の瑕疵②（総合問題）」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第5章Ⅳ）。（2時間）

5	事前学習	テキストの予習（「機関2：取締役会」「Ⅴ 取締役会決議の瑕疵③（総合問題）」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「機関2：取締役会」「Ⅴ 取締役会決議の瑕疵③（総合問題）」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第5章Ⅴ）。（2時間）
6	事前学習	テキストの予習（「第6章 機関3：役員の義務、責任」「Ⅰ 内部統制、経営判断」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第6章 機関3：役員の義務、責任」「Ⅰ 内部統制、経営判断」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第6章Ⅰ）。（2時間）
7	事前学習	テキストの予習（「第6章 機関3：役員の義務、責任」「Ⅱ 従業員の引き抜き」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第6章 機関3：役員の義務、責任」「Ⅱ 従業員の引き抜き」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第6章Ⅱ）。（2時間）
8	事前学習	テキストの予習（「第6章 機関3：役員の義務、責任」「Ⅲ 競業取引」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第6章 機関3：役員の義務、責任」「Ⅲ 競業取引」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第6章Ⅲ）。（2時間）
9	事前学習	テキストの予習（「第6章 機関3：役員の義務、責任」「Ⅳ 利益相反取引①」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第6章 機関3：役員の義務、責任」「Ⅳ 利益相反取引①」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第6章Ⅳ）。（2時間）
10	事前学習	テキストの予習（「第6章 機関3：役員の義務、責任」「Ⅵ 利益相反取引③」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第6章 機関3：役員の義務、責任」「Ⅵ 利益相反取引③」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第6章Ⅵ）。（2時間）
11	事前学習	テキストの予習（「第6章 機関3：役員の義務、責任」「Ⅶ 報酬」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第6章 機関3：役員の義務、責任」「Ⅶ 報酬」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第6章Ⅶ）。（2時間）
12	事前学習	テキストの予習（「第6章 機関3：役員の義務、責任」「Ⅷ 差止め」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第6章 機関3：役員の義務、責任」「Ⅷ 差止め」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第6章Ⅷ）。（2時間）
13	事前学習	テキストの予習（「第6章 機関3：役員の義務、責任」「Ⅹ 対第三者責任」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第6章 機関3：役員の義務、責任」「Ⅹ 対第三者責任」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第6章Ⅹ）。（2時間）
14	事前学習	テキストの予習（「第7章 監査」「Ⅰ 監査役、監査役会」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第7章 監査」「Ⅰ 監査役、監査役会」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第7章Ⅰ）。（2時間）
15	事前学習	テキストの予習（「第8章 会社の計算」「Ⅰ 会計帳簿」）をする。問題の内容は高度であるから、十分な予習時間が必要である。新聞の経済面を読んでおく。（2時間）
	授業内容	授業で取り扱うのは、テキストの「第8章 会社の計算」「Ⅰ 会計帳簿」である。事案の整理、適用条文の確認、予習してきた内容の適否を分析し、適切な内容の解答を書くことができるようにする。講義のまとめと総括をする。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。授業で取り扱われた教科書の該当部分を復習する（第8章Ⅰ）。（2時間）

科目名	民事法特殊講義Ⅳ(商法)A	担当者	南 健悟	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、運送法の特異形態である鉄道運送に関する法的問題について取り扱う。商法と呼ばれる分野のうち、運送法に関する部分について、平成30年に商法制定以来の大改正が行われ、陸上運送・航空運送・海上運送に関する規定の現代化が行われた。この講義は、陸上運送のうち鉄道運送に特化して、その特殊性や実態等について、文献や判例を素材に学習するものである。					
授業目的・到達目標	この講義では、運送法のうち鉄道運送に関する法的問題や法理論の修得を目的とする。運送法と呼ばれる分野でも鉄道運送については、その特殊性から、従前の判例や学説ではあまりクローズアップされてこなかったことから、この講義では、鉄道関連法令の基本を修得するとともに、鉄道が関係する法的諸問題（例えば、旅客営業規則の問題、鉄道事故における賠償など）について受講生が説明できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，4，8					
履修条件	商法Ⅴ（運送法）を（同時に・既に）受講していることが望ましいが、特に条件を求めない。					
授業方法	一定の課題について受講生と共に議論する演習形式を予定している。またアウトプットされたものに対してコメントを行う。なお、検討の素材は教科書や判例等を予定している。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		事前の課題に対する取り組み、授業中での積極的な態度及び提出物によって評価を行う。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	1999年	成山堂書店		やさしい鉄道の法規（四訂版）		和久田康雄
	備考					
参考書	園部敏＝植村栄治『交通法・通信法（新版）』（有斐閣、1984年） 我妻栄編『運輸判例百選（別冊ジュリスト34号）』（有斐閣、1971年）					
オフィスアワー	毎週水曜日午後1時00分～2時30分。ただし、在室中や事前にアポイントがある場合には、適宜対応する。 研究室本館9階1919研究室、メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認すると共に、教科書の序章部分を読んでおき、鉄道関連法令にはどのようなものがあるのかをあらかじめ確認する。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献（運送法の概説書）の紹介をし、運送法の学習方法や研究方法について説明し、受講生が講義の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	鉄道運送に関する法令の特殊性について自分なりにまとめ、他の運送モードとの違い等について把握しておく。（2時間）
2	事前学習	運送法の概説書を読み、運送法全体を概観する。（2時間）
	授業内容	鉄道運送だけではなく、その特殊性を把握するため、他の運送モード（自動車運送、航空運送、海上運送）の基礎について講義する。
	事後学習	陸上運送・航空運送・海上運送の異同について自分なりにまとめ、鉄道運送における法的問題について確認しておく。（2時間）
3	事前学習	教科書の「第1章 鉄道の定義と種類」を読み、鉄道の意義、鉄道事業の種類、民営鉄道と公営鉄道との違いについて把握し、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	鉄道運送法を検討するに当たり、その総論的な部分として、鉄道の意義や鉄道事業の種類、民営鉄道・公営鉄道について講義する。
	事後学習	実際に、受講生が利用する鉄道運送がどのように行われているのかについて、他の文献等を利用しながらまとめておく。（2時間）
4	事前学習	教科書の「第2章 鉄道の開業まで」を読み、鉄道事業免許制度や運行計画に関する法制度等について把握し、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	鉄道事業の免許制度や鉄道を運行するための法的手続（行政手続等）について講義する。
	事後学習	最近、鉄道事業の免許を申請した事例等を探して、どのように手続きされているのかを改めて確認する。（2時間）

5	事前学習	教科書の「第3章 鉄道の譲渡や合併と廃止」を読み、鉄道事業の譲渡や廃線時の手続等について把握し、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	鉄道事業を譲渡したり、昨今、地方鉄道でしばしば見られる鉄道の廃止（廃線）時の手続等について講義する。
	事後学習	最近、鉄道路線を廃止した事例等を探して、どのように手続きされているのかを改めて確認する。（2時間）
6	事前学習	教科書の「第4章 鉄道の間の関係」を読み、他社の車両を走らせる場合、他社に業務を行わせる場合にはどのようなものがあるのかを把握し、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	東京近郊では、各種鉄道事業者間において直通相互運転（例えば、東京メトロ半蔵門線と東急田園都市線など）が行われているが、そのような運行がなされている場合、どのような法的手続があるのかについて講義する。
	事後学習	相互直通運転にはどのようなものがあるのか、そこでの運賃精算はどのようにになっているのかについて、調べてみる。（2時間）
7	事前学習	教科書の「第5章 鉄道の運賃をめぐる」を読み、鉄道運賃の認可制について把握し、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	鉄道運賃は、鉄道事業者が全てを決めることができるのではなく、認可制を採用していることから、鉄道運賃はどのように決まっているのか、についてその概要を講義する。
	事後学習	鉄道運賃が高い路線と安い路線があるとしてしばしば指摘されているが、どの程度の差があるのか、なぜそのような差が生じているのかについて、調べてみる。（2時間）
8	事前学習	教科書の「第6章 鉄道の会計と財務」を読み、鉄道事業者の会計が他の種類の会社とはどのように異なっているのか等について把握し、レジュメを作成する。なお、教科書は会社法制定前であることから、会社法ではどのようになっているのか注意をすること。（2時間）
	授業内容	鉄道事業の会計は、他の事業会社とは少し異なる点があることから、鉄道事業者の会計はどのようになっているのかについて講義する。
	事後学習	一般の事業会社と鉄道事業者の会計の異同について、自分なりにまとめてみる。（2時間）
9	事前学習	教科書の「第7章 鉄道の設備についての基準」を読み、鉄道の設備にはどのようなものがあるのか、どのような安全基準が設定されているのかなどについて把握し、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	鉄道設備の種類やその安全基準がどのように設定されているのかについて講義する。
	事後学習	鉄道設備の安全基準がどのように定められ、どのように利用されているのかについて、改めて確認して自分なりにまとめてみる。（2時間）
10	事前学習	教科書の「第8章 鉄道の運転と従業員」を読み、鉄道職員に関する規制について把握し、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	鉄道職員の種類と、その職務内容について講義する。
	事後学習	鉄道職員の職務内容について、自分なりにまとめ、どのような権限があるのかなども確認しておく。（2時間）
11	事前学習	教科書の「第9章 鉄道と利用者の関係」を読み、鉄道旅客運送契約等について把握し、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	旅客運送契約の全体及び鉄道旅客運送契約の特殊性や約款（旅客営業規則）について講義する。
	事後学習	鉄道旅客運送契約に関する他の法的問題について確認しておく。（2時間）
12	事前学習	教科書の「第10章 鉄道の補助・税制など」を読み、鉄道事業に対して支出される補助金や、逆に鉄道事業者が納付する税金について把握し、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	鉄道事業は、民営鉄道であったとしても、公共インフラとして位置づけられていることから、そこに支出される補助金等について講義する。
	事後学習	不採算路線ではどのような補助金が支給されているのかを調べて、まとめておく。（2時間）
13	事前学習	教科書の「第11章 鉄道用地の法律関係」を読み、鉄道用地の特徴や収用について把握し、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	鉄道用地にはどのような規制があるのか、鉄道用地の収用の手続がどうなっているかなどについて講義する。
	事後学習	鉄道用地に関する特別法であるいわゆる一体化法とはどのような法律なのかについて調べて、まとめておく。（2時間）
14	事前学習	教科書の「第12章 鉄道関係の官庁組織」を読み、どのような行政組織があるのかを確認し、レジュメを作成する。ただし、現在、国土交通省となり官庁組織が大幅に変更されているので、同省のHP等を確認すること。（2時間）
	授業内容	国土交通省（及び地方出先機関）における鉄道関係の官庁組織について講義する。
	事後学習	国土交通省設置法などを確認しながら、鉄道関係の官庁組織を図示してみる。（2時間）
15	事前学習	教科書を再読し、分からない点や深めたい点を自分なりに調べておく。（2時間）
	授業内容	受講生から出た疑問を教員及び受講生同士で検討する。
	事後学習	分からない点や深めたい点に対する回答をまとめておく。（2時間）

科目名	民事法特殊講義Ⅳ(商法)B	担当者	南 健悟	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、運送法の特異形態である鉄道運送に関する法的問題について取り扱う。商法と呼ばれる分野のうち、運送法に関する部分について、平成30年に商法制定以来の大改正が行われ、陸上運送・航空運送・海上運送に関する規定の現代化が行われた。この講義は、陸上運送のうち鉄道運送に特化して、その特殊性や実態等について、文献や判例を素材に学習するものである。					
授業目的・到達目標	この講義では、運送法のうち鉄道運送に関する法的問題や法理論の修得を目的とする。運送法と呼ばれる分野でも鉄道運送については、その特殊性から、従前の判例や学説ではあまりクローズアップされてこなかったことから、この講義では、鉄道関連法令の基本を修得するとともに、鉄道が関係する法的諸問題（例えば、旅客営業規則の問題、鉄道事故における賠償など）について受講生が説明できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，4，8					
履修条件	商法Ⅴ（運送法）を（同時に・既に）受講していることが望ましいが、特に条件を求めない。					
授業方法	一定の課題について受講生と共に議論する演習形式を予定している。またアウトプットされたものに対してコメントを行う。なお、検討の素材は教科書や判例等を予定している。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		事前の課題に対する取り組み、授業中での積極的な態度及び提出物によって評価を行う。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	1999年	成山堂書店		やさしい鉄道の法規（四訂版）		和久田康雄
	備考					
参考書	園部敏＝植村栄治『交通法・通信法（新版）』（有斐閣、1984年） 我妻栄編『運輸判例百選（別冊ジュリスト34号）』（有斐閣、1971年）					
オフィスアワー	毎週水曜日午後1時00分～2時30分。ただし、在室中や事前にアポイントがある場合には、適宜対応する。 研究室本館9階1919研究室、メールアドレス：minami.kengo@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期15回分を振り返り、ノートやレジュメなどを確認しておく。（2時間）
	授業内容	鉄道関連訴訟にはどのような訴訟があるのかなどについて講義する。
	事後学習	講義で配布された鉄道関連訴訟に一通り目を通しておく。（2時間）
2	事前学習	鉄道運送における高価品の滅失に関する最判昭和63年3月25日判時1296号52頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	鉄道運送における高価品の滅失に関する裁判例を検討する。
	事後学習	講義で出た質問をふまえ、鉄道運送における高価品特則についてまとめる。（2時間）
3	事前学習	鉄道旅客運送における安全配慮義務に関する東京地判平成17年10月4日判時1944号113頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	鉄道旅客運送における安全配慮義務に関する裁判例を検討する。
	事後学習	講義で出た質問をふまえ、鉄道旅客運送における安全配慮義務についてまとめる。（2時間）
4	事前学習	公営電車における鉄道事故と損害賠償責任に関する大阪高判昭和43年5月23日判時521号55頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	公営電車における鉄道事故に関する裁判例を検討する。
	事後学習	講義で出た質問をふまえ、公営電車における鉄道事故と損害賠償責任についてまとめる。（2時間）

5	事前学習	鉄道乗車券の検査に関する大判大正5年7月15日民録22輯1543頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	鉄道乗車券の検査の法的な意味について裁判例を素材に検討する。
	事後学習	講義で出た質問をふまえ、鉄道乗車券の検査の法的問題についてまとめる。（2時間）
6	事前学習	鉄道回数乗車券の性質に関する大判大正6年2月3日民録23輯35頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	鉄道回数乗車券とはどのような法的性質を有するものかについて検討する。
	事後学習	講義で出た質問をふまえ、鉄道回数乗車券の性質についてまとめる。（2時間）
7	事前学習	鉄道車室内での事故における旅客同士の損害賠償責任に関する大津地判昭和62年2月23日判時1242号98頁を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめて、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	鉄道車室内での事故と旅客同士の損害賠償責任について検討する。
	事後学習	講義で出た質問をふまえ、鉄道車室内での事故と旅客の損害賠償責任についてまとめる。（2時間）
8	事前学習	乗車券を購入していない鉄道利用予定者に対する損害賠償責任に関する大阪地判昭和54年3月29日判タ383号66頁と判例評釈を読み、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	乗車券を購入していない鉄道利用予定者に対する損害賠償責任について検討する。
	事後学習	講義で出た質問をふまえ、乗車券を購入していない者に対する責任についてまとめる。（2時間）
9	事前学習	鉄道事業者の故意による遅延と免責約款の有効性に関する最判昭和55年5月8日判タ417号83頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめて、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	鉄道旅客営業規則における免責規定の有効性について検討する。
	事後学習	講義で出た質問をふまえ、鉄道旅客営業規則における免責規定の有効性についてまとめる。（2時間）
10	事前学習	新幹線の運賃を在来線の営業キロを基準として算出することの許容性に関する最判昭和61年3月28日判時1195号82頁と判例評釈を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	新幹線運賃の算出方法と法的問題について検討する。
	事後学習	講義で出た質問をふまえ、新幹線運賃の算出方法に関する法的問題についてまとめる。（2時間）
11	事前学習	鉄道事業者の鉄道設備毀損事業者に対する損害賠償請求に関する東京地判平成22年9月29日判時2095号55頁を読んで、事実の概要・判旨・検討をまとめ、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	鉄道事業者の運行阻害事業者に対する責任について検討する。
	事後学習	講義で出た質問を踏まえ、鉄道事業者の損害賠償請求についてまとめる。（2時間）
12	事前学習	鉄道事故と旅客に対する損害賠償責任に関する大阪高判平成14年12月26日判時1812号3頁を読んで、事実の概要をまとめ、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	いわゆる信楽高原鉄道事件の概要を把握し、論点を整理する。
	事後学習	講義で整理した論点を把握し、判旨を読んでおく。（2時間）
13	事前学習	鉄道事故と旅客に対する損害賠償責任に関する大阪高判平成14年12月26日判時1812号3頁を読んで、判旨と検討をまとめ、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	鉄道の相互直通運転をしている場合に、損害賠償責任をどのように負担するかについて検討する。
	事後学習	講義で出た質問をふまえ、鉄道の相互直通運転時に生じた事故の責任についてまとめる。（2時間）
14	事前学習	駆け込み乗車と旅客の死亡に関する静岡地裁沼津支判平成13年3月7日判時1752号90頁を読んで、事実の概要をまとめる。（2時間）
	授業内容	いわゆる新幹線三島駅事件の概要を把握し、論点を整理する。
	事後学習	講義で整理した論点を把握し、判旨を読んでおく。（2時間）
15	事前学習	駆け込み乗車と旅客の死亡に関する静岡地裁沼津支判平成13年3月7日判時1752号90頁を読んで、判旨と検討をまとめ、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	駆け込み乗車に対する鉄道事業者の注意義務について検討する。
	事後学習	講義で出た質問をふまえ、駅構内における鉄道事業者の注意義務についてまとめる。（2時間）

科目名	民事法特殊講義Ⅴ（不動産登記法）	担当者	堀江 泰夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「不動産の現況と権利関係を登記簿に記録して公示する制度」である不動産登記について、登記簿の概要、登記業務を行う官庁である登記所と登記官、実際の登記申請方法等を具体的な素材（登記簿謄本、登記記録例、申請情報・添付情報等）を用いて講義する。不動産登記法の基礎について、実務と関連させながら、また常に最新の話題を提供して授業を進めていく（講師は組織内司法書士として、企業法務部門に長年勤務している）。				
授業目的・到達目標	不動産物権変動の対抗要件である不動産登記（民法177条）について、不動産登記法の基礎理論及び基礎知識の習得を目的とする。不動産登記法は、司法書士はもとより、弁護士、企業法務等の法律実務にとっても重要である。法曹・準法曹（司法書士等）及び企業法務等の法律関連業務へ進んだ場合に、また一般企業・官庁へ進んだ場合にも役立つ不動産登記の知識・能力を習得できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1， 4， 8				
履修条件	・民法の物権・担保物権の基本を理解していることが前提。				
授業方法	・指定教科書を中心に毎回レジュメを配布して講義を行う。六法必携。レポートの解説を後日、ポータルシステムにて配信する。学外授業として、東京法務局見学会（最寄駅地下鉄「九段下駅」）を実施予定。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	要レポート提出（1回）。レポート評価は、平常評価の40%の割合とする。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	・使用しない。適宜レジュメを配布して講義を行う。			
参考書	『詳細 登記六法』平成31年版（きんざい）				
オフィスアワー	火曜17:50～授業講堂にて。電子メールにより授業内容に関する質問・相談を随時受け付ける。質問・相談は、授業内容以外の司法書士、企業法務等に関するものも可。e-mail:horiey@r2.dion.ne.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	・法務局HPを閲覧して、登記業務について概観しておくこと（例：法務局トップページ>業務のご案内）。 (http://houmukyoku.moj.go.jp/homu/static/goannai_index.html) (2時間)
	授業内容	オリエンテーション：不動産登記法・商業登記法等、登記法の全体像
	事後学習	・授業において配布するレジュメを復習すること。 (2時間)
2	事前学習	・事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	不動産登記制度概要－登記簿、登記所、登記官等
	事後学習	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。 (2時間)
3	事前学習	・事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	不動産登記法総論（１）－登記の種類・登記の順位
	事後学習	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。 (2時間)
4	事前学習	・事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	不動産登記法総論（２）－共同申請の原則、登記の申請方法・処理①
	事後学習	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。 (2時間)

5	事前学習	・事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	不動産登記法総論（2）－共同申請の原則、登記の申請方法・処理②
	事後学習	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。 (2時間)
6	事前学習	・事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	不動産登記法総論（3）－登記申請情報
	事後学習	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。 (2時間)
7	事前学習	・事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	不動産登記法総論（4）－添付情報①（登記原因証明情報、登記識別情報）
	事後学習	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。 (2時間)
8	事前学習	・事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	不動産登記法総論（5）－添付情報②（印鑑証明書、その他）
	事後学習	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。 (2時間)
9	事前学習	・事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	不動産登記法総論（6）－権利に関する登記の手續上の分類（移転登記、変更・更正登記、抹消登記）
	事後学習	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。 (2時間)
10	事前学習	・事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	不動産登記法各論（1）－所有権に関する登記①（所有権保存）
	事後学習	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。 (2時間)
11	事前学習	・事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	不動産登記法各論（2）－所有権に関する登記②（所有権移転）
	事後学習	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。 (2時間)
12	事前学習	・事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	不動産登記法各論（3）－抵当権等に関する登記①
	事後学習	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。 (2時間)
13	事前学習	・事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	不動産登記法各論（4）－抵当権等に関する登記②
	事後学習	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。 (2時間)
14	事前学習	・事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	不動産登記法各論（5）－単独申請の登記（相続登記、判決による登記等）
	事後学習	・授業において配布するレジュメを教科書の該当箇所と照らして復習すること。 (2時間)
15	事前学習	・これまでに配布されたレジュメ、教科書で登記所について改めて確認するとともに、法務局HPを閲覧し、登記所のイメージをつかんでおくこと。 (2時間)
	授業内容	東京法務局見学会（学外授業）実施予定
	事後学習	東京法務局で当日配布される資料を復習すること。 (2時間)

科目名	民事法特殊講義Ⅵ(商業登記法)	担当者	堀江 泰夫	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	2
-----	-----------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	商業登記制度は、取引の安全等のために「会社について、一定事項を登記簿に記録して公示する制度」である。商業登記法の理解なくして、商法・会社法の真の理解には至らない。会社のうち株式会社について、登記簿の概要、登記申請方法等を具体的な素材（登記簿謄本、登記記録例、申請書・添付書類）を用いて講義する。その他、司法書士業務である供託、債権譲渡登記及び動産譲渡登記についても簡単に解説する。				
授業目的・到達目標	・商業登記法は、司法書士はもとより、弁護士、企業法務等の法律実務にとっても重要である。本講義では、実体法である商法・会社法の理解を深めるために最低限必要となる商業登記（株式会社に限定）の基礎理論及び基礎知識の習得を目的とする。 ・法曹・準法曹（司法書士等）及び企業法務等の法律関連業務へ進んだ場合に、また一般企業・官庁へ進んだ場合に役立つ商業登記の知識・能力を習得できることを目標とする（講師は組織内司法書士として、これまで企業の法務部門に長年勤務している）。関連DP及びCP：法律学科1，4，8				
履修条件	・商法・会社法の基本を理解していることが前提				
授業方法	・配布するレジュメをもとに講義を行う。六法必携。民事法特殊講義Ⅴで東京法務局見学会を実施予定であり、合わせて受講が望ましいが、本講義のみ選択も可。レポートの解説を講義最終日又は後日ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	要レポート提出（1回）。レポート評価は、平常評価の40%の割合とする。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	・使用しない。適宜レジュメを配布して講義を行う。			
参考書	・『詳細登記六法』平成31年版（きんざい） ・神崎満治郎『商業登記法入門』（有斐閣、2015）				
オフィスアワー	火曜17:50～授業講堂にて。電子メールにより授業内容に関する質問・相談を随時受け付ける。質問・相談は、授業内容以外の司法書士、企業法務等に関するものも可。e-mail:horiey@r2.dion.ne.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	・法務局HPを閲覧して、登記業務について概観しておくこと（例：法務局トップページ>業務のご案内）。 (http://houmukyoku.moj.go.jp/homu/static/goannai_index.html) (2時間)
	授業内容	会社法と商業登記法の関係
	事後学習	・授業において配布するレジュメを復習すること。 (2時間)
2	事前学習	・事前に商法及び会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	商業登記法総論（1）①商業登記制度とは ②登記所・登記官・登記簿
	事後学習	・授業において配布するレジュメを復習すること。 (2時間)
3	事前学習	・事前に商法及び会社法の教科書で、講義該当部分を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	商業登記法総論（2）①登記情報手続概論 ②印鑑届出制度
	事後学習	・授業において配布するレジュメを復習すること。 (2時間)
4	事前学習	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	商業登記法各論―株式会社の設立の登記（1）
	事後学習	・授業において配布するレジュメを復習すること。 (2時間)

5	事前学習	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	商業登記法各論―株式会社の設立の登記（2）
	事後学習	・授業において配布するレジュメを復習すること。 (2時間)
6	事前学習	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	商業登記法各論―定款記載事項と登記（1）①商号変更 ②目的変更 ③公告方法の変更
	事後学習	・授業において配布するレジュメを復習すること。 (2時間)
7	事前学習	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	商業登記法各論―定款記載事項と登記（2）本店移転
	事後学習	・授業において配布するレジュメを復習すること。 (2時間)
8	事前学習	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	商業登記法各論―役員に関する登記（1）
	事後学習	・授業において配布するレジュメを復習すること。 (2時間)
9	事前学習	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	商業登記法各論―役員に関する登記（2）
	事後学習	・授業において配布するレジュメを復習すること。 (2時間)
10	事前学習	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	商業登記法各論―増資（募集株式発行）の登記
	事後学習	・授業において配布するレジュメを復習すること。 (2時間)
11	事前学習	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	商業登記法各論―減資（資本減少）の登記
	事後学習	・授業において配布するレジュメを復習すること。 (2時間)
12	事前学習	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	商業登記法各論―合併・会社分割等組織変更に関する登記（1）
	事後学習	・授業において配布するレジュメを復習すること。 (2時間)
13	事前学習	・事前に会社法の教科書で講義該当部分を読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	商業登記法各論―合併・会社分割等組織変更に関する登記（2）
	事後学習	・授業において配布するレジュメを復習すること。 (2時間)
14	事前学習	・民法の教科書で、供託及び動産・債権譲渡登記について読んでおくこと。 (2時間)
	授業内容	供託法、動産譲渡登記（法人がする動産の譲渡について登記によって公示）、債権譲渡登記（法人の行う債権譲渡のための簡便な対抗要件制度）
	事後学習	・授業において配布するレジュメを復習すること。 (2時間)
15	事前学習	・これまでの復習を行っておくこと。 (2時間)
	授業内容	企業法務概論
	事後学習	・授業において配布するレジュメを復習すること。 (2時間)

科目名	民事法特殊講義Ⅶ(民事手続法)A	担当者	井上 哲男	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	民事訴訟法の基本的な論点について一定の時間をかけ、多くの平易な事例を用いて議論、検討、説明等を行う。講義は、初学者にも理解できるようにできるだけ噛み砕いた内容にしたいと考えている。担当者は、本学法科大学院の専任教員（元裁判官）であり、実務経験（東京高裁，東京地裁等）を活かしながら，民事訴訟の理論とその実際について理解できるような授業をしていきたい。				
授業目的・到達目標	訴訟の実際を踏まえつつ，民事訴訟の基本的な事項についての理解及び応用力を養成することを目的とする。 具体的な事例の中で，これらの法理がどのように働くのかを受講生が説明できることを目標とする。 なお，講義資料はできるだけ理解しやすいものにして，学内システム「学生教員共有」の「教材配布」にアップする。 関連D P 及びP C：法律学科1，4，8				
履修条件	特になし。				
授業方法	基本的に講義形式をとるが，できるだけ多くの具体的な事例問題に基づき議論，起案等を行う。レポートの提出等は求めないが，事前にレジュメを読み込んでくることが予定されている。起案は添削して返却する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	授業中の質疑応答に際しての各人の論理的な思考力・表現能力や分析力，問題練習の結果等を加味して総合的に判断する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	講義資料は，学内システム「学生教員共有」の「教材配布」にアップする。			
参 考 書	和田吉弘『基礎からわかる民事訴訟法』（商事法務、2012年） 高橋宏志ほか編『民事訴訟法判例百選〔第5版〕』（有斐閣、2015年）				
オフィスアワー	土曜日午後1時00分～2時30分 法科大学院本館4階1343号室				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	民事訴訟のイメージ（訴えの提起から判決までの流れ）（１） 典型的な民事訴訟事件（貸金返還訴訟）の提示，一連の手続の流れ 訴訟物，請求の趣旨，訴えと請求，「口頭弁論終結日」の重要性
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
2	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	民事訴訟のイメージ（訴えの提起から判決までの流れ）（２） 主張立証責任の概要，法律要件分類説，請求原因，抗弁などの意味，本証と反証，管轄
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
3	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	当事者の確定，当事者能力，訴訟能力，当事者適格（１） 人違いと被告の確定，権利能力なき社団
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
4	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	当事者の確定，当事者能力，訴訟能力，当事者適格（２） 未成年者や意思能力を欠く者の訴訟行為，法定代理の制度
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）

5	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	訴訟要件，訴えの利益（1） 訴訟要件の類型と職権調査・職権探知，抗弁事項，本案前の抗弁
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
6	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	訴訟要件，訴えの利益（2） 訴えの利益の意味，確認の利益，過去の法律関係の確認などの具体的事例
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
7	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	重複起訴の禁止 重複起訴の判断基準，重複起訴禁止の機能，本訴と反訴，相殺との関係
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
8	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	処分権主義と弁論主義（1） 処分権主義の意味と内容，弁論主義の第1～3テーゼの内容と民訴法179条
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
9	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	処分権主義と弁論主義（2） 具体的事案における弁論主義の機能，弁論主義と裁判所の釈明権・釈明義務，消極的釈明と積極的釈明
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
10	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	既判力（1） 既判力の客観的範囲，訴訟物と既判力，既判力の消極的作用と積極的作用
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
11	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	既判力（2） 具体的事例における既判力の作用（訴訟物の同一性，先決関係，矛盾関係），相殺と既判力
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
12	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	既判力（3） 既判力の主観的範囲，民訴法115条1項各号の具体的事例
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
13	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	証明と証拠（1） 証明と疎明，本証と反証，法律上の推定と事実上の推定，暫定真実
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
14	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	証明と証拠（2） 文書の証拠調べ，書証の成立，形式的証拠力と実質的証拠力，具体的事例における二段の推定
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
15	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるように準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	前期まとめ
	事後学習	授業を踏まえた総復習をすること。（2時間）

科目名	民事法特殊講義Ⅶ(民事手続法)B	担当者	井上 哲男	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	民事訴訟法の基本的な論点について一定の時間をかけ、多くの平易な事例を用いて議論、検討、説明等を行う。講義は、初学者にも理解できるようにできるだけ噛み砕いた内容にしたいと考えている。担当者は、本学法科大学院の専任教員（元裁判官）であり、実務経験（東京高裁，東京地裁等）を活かしながら，民事訴訟の理論とその実際について理解できるように授業をしていきたい。				
授業目的・到達目標	訴訟の実際を踏まえつつ，民事訴訟の基本的な事項についての理解及び応用力を養成することを目的とする。 具体的な事例の中で，これらの法理がどのように働くのかを受講生が説明できることを目標とする。 なお，講義資料はできるだけ理解しやすいものにして，学内システム「学生教員共有」の「教材配布」にアップする。 関連D P 及びP C：法律学科1，4，8				
履修条件	特になし。				
授業方法	基本的に講義形式をとるが，できるだけ多くの具体的な事例問題に基づき議論，起案等を行う。レポートの提出等は求めないが，事前にレジュメを読み込んでくることが予定されている。起案は添削して返却する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	授業中の質疑応答に際しての各人の論理的な思考力・表現能力や分析力、練習問題の結果等を加味して総合的に判断する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	講義資料は，学内システム「学生教員共有」の「教材配布」にアップする。			
参 考 書	和田吉弘『基礎からわかる民事訴訟法』（商事法務、2012年） 高橋宏志ほか編『民事訴訟法判例百選〔第5版〕』（有斐閣、2015年）				
オフィスアワー	土曜日午後1時00分～2時30分 法科大学院本館4階1343号室				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	一部請求（１） 明示の一部請求，一部請求と外側説，一部請求の既判力，後遺症の発生と既判力
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
2	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	一部請求（２） 一部請求に対する相殺と既判力
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
3	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	請求の併合，訴えの変更，反訴，中間確認の訴え（１） 請求の客観的併合，単純併合，予備的併合，選択的併合，訴えの変更の要件
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
4	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	請求の併合，訴えの変更，反訴，中間確認の訴え（２） 反訴の要件，予備的反訴，中間確認と中間判決の異同
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）

5	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	共同訴訟（1） 通常共同訴訟と共同訴訟人独立の原則，共同訴訟人と主張共通の原則，主観的予備的併合，同時審判の申出
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
6	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	共同訴訟（2） 固有必要的共同訴訟と類似必要的共同訴訟，必要的共同訴訟における当事者の訴訟行為の効果
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
7	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	参加（1） 共同訴訟参加，訴えの主観的追加的併合
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
8	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	参加（2） 補助参加，訴訟告知，参加的効力，独立当事者参加の要件・具体例
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
9	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	訴訟承継（1） 当然承継と特定承継，訴訟承継主義
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
10	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	訴訟承継（2） 承継の基準，紛争の主体たる地位の承継と具体的事案
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
11	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	裁判によらない訴訟の完結（1） 取下げ，請求の放棄・認諾
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
12	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	裁判によらない訴訟の完結（2） 和解の既判力，和解の無効
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
13	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	上訴（1） 確定遮断効と移審，附帯控訴，上訴不可分の原則，上訴の利益
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
14	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	上訴（2） 控訴棄却，取消し，自判・差戻し，不利益変更の禁止，上告
	事後学習	レジュメ，参考書等に基づき，授業内容を復習すること。（2時間）
15	事前学習	レジュメ，参考書等を読み，授業中に積極的に発言できるよう準備しておくこと。（2時間）
	授業内容	後期まとめ
	事後学習	授業を踏まえた総復習をすること。（2時間）

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	大杉 麻美	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	民法第1編(民法総則)を扱う。具体的には、「誰が」「どのように」権利を行使することができるか(権利の主体、能力)、自らの意思をどのように相手方に伝えるか(意思表示)、「他人」に法律行為を代わってもらうことは可能か(代理)、権利はいつまで請求することが可能か(時効)等について講義を行う。私的自治等の私法の基本的な考え方についても本講義で扱う。				
授業目的・到達目標	本講義では、自ら問題点を認識し、法的視点から理解し、解決策を提示することができる能力を養うことを目的とする。本講義では(1)民法の基本原理解について説明することができる、(2)専門用語を理解し、権利主体、能力・意思表示・代理・時効等について簡単に説明することができる、(3)(1)、(2)で学修した内容につき実例をあげ、問題点を発見し条文を用いて解決方法を探ることができることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5 経営法学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	なし				
授業方法	テキストに沿って講義を行う。必要に応じて講義資料を配信する(ポータルサイト)。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		50%	講義にて解説された基礎的な内容と、それに対する的確な理解及び文章作成を評価の対象とする。履修人数によっては授業内試験を実施することもある。	
	平常評価		50%	講義にて解説された基礎的な内容と、それに対する的確な理解及び文章作成を評価の対象とする。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018年	法律文化社		『新ハイブリッド民法Ⅰ 民法総則』	小野秀誠、良永和隆他3名
	備考				
参考書	使用しない				
オフィスアワー	火曜日3限。事前にアポイントメントをとって訪問すること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書序「民法を学ぶあたって 民法の体系の概観」を読んで、民法の体系について内容を確認しておく(2時間)。
	授業内容	民法の体系を概観し、私法の一般法・民法の体系・民法の各編の概要と関係について解説する。
	事後学習	民法の各編の概要についてまとめ、各編の関係についてノートにまとめておく(2時間)。
2	事前学習	教科書第1章民法の意義と一般的内容「民法の法源、民法の解釈、民法の効力」を読んで、慣習法・判例法・条理の違いについてまとめておく(2時間)。
	授業内容	民法の法源：民法典、民法の特別法、民法の口語化、慣習法・判例法・条理、民法の解釈：解釈基準、民法の効力について解説する。
	事後学習	講義中に示された判例の事案と判旨をまとめ、民法の解釈基準についての考え方をノートにまとめておく(2時間)。
3	事前学習	教科書第1章民法の意義と一般的内容「民法上の権利、民法の指導原理と効力」を読んで、民法の基本原則と指導原理についてまとめておく(2時間)。
	授業内容	民法上の権利：権利の体系、私権の種類、私権の行使・信義則・権利の濫用の禁止、民法の指導原理と効力：民法の基本原則・指導原理、民法1条について解説する。
	事後学習	私権の種類についてノートにまとめ、民法1条の基本的な考え方について整理しておく(2時間)。
4	事前学習	教科書第2章人「権利能力、意思能力と行為能力(意思能力、制限行為能力者制度の意義と行為能力、未成年者)を読んで、権利能力・意思能力・行為能力の違いについてまとめておく(2時間)。
	授業内容	権利能力：権利能力の意義、権利能力の始期、胎児、権利能力の終期、意思能力と行為能力(制限行為能力者制度)：意思能力、制限行為能力者制度、未成年者について解説する。
	事後学習	未成年者の消費者被害の状況についてインターネットで調査して自らの意見を述べられるようにまとめておく(2時間)。

5	事前学習	教科書第2章人「意思能力と行為能力(制限行為能力者制度の創設、成年被後見人、被保佐人、被補助人、審判相互の関係、任意後見制度、制限行為能力者の相手方の保護)を読んで、成年後見制度についてまとめておく(2時間)。
	授業内容	意思能力と行為能力(制限行為能力者制度の創設、成年被後見人、被保佐人、被補助人、審判相互の関係、任意後見制度、制限行為能力者の相手方の保護)を解説する。
	事後学習	高齢者の消費者被害の状況についてインターネットで調査して自らの意見を述べられるようにまとめておく(2時間)。
6	事前学習	教科書第2章人「住所、不在者の財産管理、失踪宣告」を読んで、失踪宣告の手続きについてまとめておく(2時間)。
	授業内容	住所：住所・居所・仮住所、不在者の財産管理、失踪宣告：失踪宣告の意義・失踪宣告の要件・失踪宣告の効果・失踪宣告の取消しと遡及効について説明する。
	事後学習	失踪宣告が必要とされる場面について整理をし、簡単な説明ができるようにまとめておく(2時間)。
7	事前学習	教科書第5章法律行為「法律行為の意義、法律行為の解釈」を読んで、法律行為とは何かについて考えてみる(2時間)。
	授業内容	法律行為の意義：法律行為の意味、法律行為の分類、法律行為の成立、準法律行為、法律行為の解釈：当事者の真意の探求と信義則、事実たる慣習、任意法規について解説する。
	事後学習	法律行為の意味、法律行為の分類についてノートにまとめ、具体的な事例にどのようなものがあるかについて考える(2時間)。
8	事前学習	教科書第5章法律行為「法律行為の限界一強行規定および公序良俗」を読んで、強行規定と任意法規の違いについて考えてみる(2時間)。
	授業内容	法律行為の限界一強行規定および公序良俗：法律行為の限界、公序良俗、公序良俗の分類、強行規定、取締規定、脱法行為について解説する。
	事後学習	公序良俗が適用される具体的な場面について、教科書を復習しつつノートにまとめる(2時間)。
9	事前学習	教科書第6章意思表示「意思表示の意義と構造、意思表示の意義」を読んで、意思表示の構造について内容を確認する(2時間)。
	授業内容	意思表示の意義と構造：意思表示とは何か、意思の不存在と瑕疵ある意思表示を解説する。
	事後学習	意思表示の基本的な考え方について整理するとともに、具体的な事例をあげて基礎的な説明ができるようにしておく(2時間)。
10	事前学習	教科書第6章意思表示「意思表示の有効性：心裡留保、虚偽表示」を読んで、心裡留保と虚偽表示の違いについて考えてみる(2時間)。
	授業内容	意思表示の有効性：心裡留保、虚偽表示について解説する。
	事後学習	心裡留保と虚偽表示の違いについて、具体的な事例をあげてその解決方法の違いについて基本的な説明ができるように整理しておく(2時間)。
11	事前学習	教科書第6章「意思表示の有効性：錯誤、詐欺、強迫」を読んで、詐欺と強迫の違いについて整理する(2時間)。
	授業内容	意思表示の有効性：錯誤、詐欺、強迫について解説する。
	事後学習	詐欺と強迫の違いについて、具体的な事例をあげてその解決方法の違いについて基本的な説明ができるように整理しておく(2時間)。
12	事前学習	教科書第6章意思表示「意思表示の効力発生時期」を読んで、何が問題となっているのかについて整理する(2時間)。
	授業内容	意思表示の効力発生時期：問題点、問題へのアプローチ、民法が採用する考え方、表意者の死亡・意思能力の喪失・行為能力の制限、意思表示の受領能力について解説する。
	事後学習	意思表示の効力発生時期について、具体的な場면을想定して、その解決方法を整理しておく(2時間)。
13	事前学習	教科書第6章意思表示「消費者契約法：契約締結過程規制、契約内容規制」を読んで、消費者契約にはどのような種類があるのかについてインターネットで検索する(2時間)。
	授業内容	消費者契約法：契約締結過程規制、契約内容規制について解説する。
	事後学習	消費者契約法の考え方、規制内容について具体的な場면을想定して整理するとともに、想定される場面に対する具体的な解決方法を書き出してみる(2時間)。
14	事前学習	教科書第7章代理「序説：代理の意義、代理の種類、代理に類似する制度、代理に親しまない行為」を読んで、代理の法律関係を図式化してみる(2時間)。
	授業内容	序説：代理の意義、代理の種類、代理に類似する制度、代理に親しまない行為(代理既定の適用範囲)について解説する。
	事後学習	代理の意義、代理の種類について整理し、具体的な契約の場面で想定される代理についてインターネットで検索する(2時間)。
15	事前学習	教科書第7章代理「代理の法律関係：代理権、代理行為、代理行為の効果」を読んで、代理の法律関係を図式化してみる(2時間)。
	授業内容	代理の法律関係：代理権(本人・代理人間)、代理行為(代理人・相手方間)、代理行為の効果(本人・相手方間)について解説する。
	事後学習	代理の法律関係について整理し、具体的な契約関係を想定して、当事者間の法的関係を図式化して整理する(2時間)。
16	事前学習	教科書第7章代理「復代理：復代理の意義、復任権、復代理人の過誤に対する代理人の責任、復代理の法律関係」を読んで、復代理の法律関係について図式化してみる(2時間)。
	授業内容	復代理：復代理の意義、復任権、復代理人の過誤に対する代理人の責任、復代理の法律関係について解説する。
	事後学習	復代理の法律関係について整理し、具体的な契約関係を想定して、当事者間の法的関係を図式化して整理する(2時間)。

17	事前学習	教科書第7章無権代理「無権代理：無権代理の意義、本人の追認・追認拒絶、相手方の催告権・取消権」を読んで無権代理の仕組みについて整理しておく(2時間)。
	授業内容	無権代理：無権代理の意義、本人の追認・追認拒絶、相手方の催告権・取消権について解説する。
	事後学習	無権代理の法律関係について整理したうえで、具体的な場面を想定し、無権代理の法律関係が説明できるようにまとめる(2時間)。
18	事前学習	教科書第7章無権代理「無権代理：無権代理人の責任、無権代理と相続、単独行為の無権代理」を読んで無権代理人の責任について整理しておく(2時間)。
	授業内容	無権代理：無権代理人の責任、無権代理と相続、単独行為の無権代理について解説する。
	事後学習	無権代理人と相続について、講義で紹介された判例について事案と判旨をまとめておく(2時間)。
19	事前学習	教科書第7章表見代理「表見代理：表見代理の意義、代理権授与の表示による表見代理、権限外の表見代理」を読んで表見代理の仕組みについて整理しておく(2時間)。
	授業内容	表見代理：表見代理の意義、代理権授与の表示による表見代理、権限外の表見代理について解説する。
	事後学習	表見代理の法律関係について整理したうえで、具体的な場面を想定し、表見代理の法律関係が説明できるようにまとめる(2時間)。
20	事前学習	教科書第7章表見代理「表見代理：代理権消滅後の表見代理、重畳適用、無権代理と表見代理の関係」を読んで代理権消滅後の表見代理について法律関係を整理しておく(2時間)。
	授業内容	表見代理：代理権消滅後の表見代理、重畳適用、無権代理と表見代理の関係について解説する。
	事後学習	表見代理の法律関係について整理したうえで、無権代理と表見代理の関係について説明できるようにまとめる(2時間)。
21	事前学習	教科書第8章「無効と取消し：無効取消しの概念、無効、取消し」を読んで、無効と取消しの違いについて整理しておく(2時間)。
	授業内容	無効と取消し：無効取消しの概念(2つの効果の相違、無効と取消しの二重効、無効または取消しの効果)、無効、取消しについて解説する。
	事後学習	具体的な契約事例ごとに、無効と取消しの法的効果がいずれが該当するかについて整理する(2時間)。
22	事前学習	教科書第9章条件と期限、期間「付款の意義、条件、期限、期間」を読んで、契約に条件が付けられる場合について具体的な事例をあげてみる(2時間)。
	授業内容	付款の意義、条件(条件の意義、停止条件と解除条件、条件に親しまない行為、条件付き法律行為の効力、特殊な条件)、期限(期限の意義、条件と不確定期限、期限に親しまない行為、期限付き法律行為の効力、期限の利益)、期間(期間の意義、期間の計算方法)について解説する。
	事後学習	条件付き契約の類型について整理するとともに、具体的な契約の場面について書き出してみる(2時間)。
23	事前学習	教科書第10章時効「時効制度の意義、時効の援用と時効利益の放棄、時効の完成猶予と時効の更新」を読んで、時効の存在理由についてまとめておく(2時間)。
	授業内容	時効制度の意義、時効の援用と時効利益の放棄(時効の援用と援用権者、時効利益の放棄)、時効の完成猶予と時効の更新(時効障害事由の再構成、時効の完成猶予と完成猶予事由、時効の更新、時効の完成猶予または時効の更新の及ぶ者の範囲)について解説する。
	事後学習	時効の援用と利益の放棄、完成猶予と更新について、具体的な事例をあげて考え方を整理する(2時間)。
24	事前学習	教科書第10章時効「取得時効：取得時効の意義、所有権の取得時効、所有権以外の権利の取得時効」を読んで、取得時効の類型について整理する(2時間)。
	授業内容	取得時効：取得時効の意義、所有権の取得時効、所有権以外の権利の取得時効について解説する。
	事後学習	取得時効について考え方を整理したうえで、具体的事例をあげて考え方を整理する(2時間)。
25	事前学習	教科書第10章時効「消滅時効：消滅時効の意義、消滅時効の適用範囲、消滅時効の要件、消滅時効の効果、消滅時効に関連、類似する制度」を読んで、消滅時効を類型別に整理する(2時間)。
	授業内容	消滅時効：消滅時効の意義、消滅時効の適用範囲、消滅時効の要件、消滅時効の効果、消滅時効に関連、類似する制度について解説する。
	事後学習	消滅時効について、具体的事例をあげて要件・効果をノートに整理する(2時間)。
26	事前学習	教科書第3章法人「序説：法人の種類、法人の設立」を読んで、法人の種類を整理しておく(2時間)。
	授業内容	序説：法人の種類、法人の設立について解説する。
	事後学習	興味のある法人を選んで、当該法人の種類を調べるとともに、法人の設立について整理しておく(2時間)。
27	事前学習	教科書第3章法人「法人の能力、一般法人法、公益法人法、外国法人」を読んで、法人の能力であげられる具体的事例を整理する(2時間)。
	授業内容	法人の能力、一般法人法、公益法人法、外国法人について解説する。
	事後学習	一般法人と公益法人の違いについて整理するとともに、法人の能力について類型別に整理する(2時間)。
28	事前学習	教科書第4章物「権利の客体、動産・不動産、主物・従物、元物・果実」を読んで、それぞれの類型別に整理する(2時間)。
	授業内容	権利の客体、動産・不動産、主物・従物、元物・果実について解説する。
	事後学習	権利の客体である「物」を具体的事例をあげて再度整理をし直す(2時間)。

29	事前学習	これまでの講義についてよくわからなかったところを書き出しておく。具体的事例に対する条文の適用で不明確な点を整理しておく(2時間)。
	授業内容	講義のまとめと、民法改正、最近の判例についての解説を行う。
	事後学習	講義で解説された内容をノートにまとめ、判例については事案、法的问题点、社会的課題についてまとめるとともに、自らの意見を述べられるよう追加の調査を行う(2時間)。
30	事前学習	前回の疑問点が解決されているかを確認し、第29回の講義での解説で残された疑問点を整理し、事後学習の成果をノートにまとめておく(2時間)。
	授業内容	授業内試験を実施する場合：授業内試験60分、解説30分を実施する。 定期試験を実施する場合：前期学習内容の振り返り。解説については定期試験終了後ポータルサイトにて配信する。
	事後学習	これまでの学習内容をファイルにまとめ、整理しておく(2時間)。

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	岡島 芳伸	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	民法が私法の一般法であるところから、民法の理解は、私法全般の入門的理解にとって不可欠である。とりわけ民法Ⅰは法律初学者に重要な科目であるところから、教科書の理解を助けるための補足説明資料を配付して授業を進める。平成29年改正法についても説明する。			
授業目的・到達目標	民法Ⅰ（民法総則）分野の基本概念を学び、これを応用して具体的事案における問題点を指摘して解決する能力を養成することを目的とし、そのために事例問題演習を重ねていく。個別問題の解説や受講生のレポート講評を通じて、法的思考力を習得することを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5 経営法学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	特にない			
授業方法	基礎概念については講義を行うが、事例演習問題のレポートに対するや講評やレポーターである受講生との質疑を通じての双方向的方法での授業。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	期末に行う筆記試験で評価する。	
	平常評価	20%	受講態度（練習問題についてレポート回数及び質の）また授業時間等における私との質疑応答を総合評価して定期試験の成績に加味する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	平成31年後期	成文堂	新民法基本講義「民法総則講義」（第1版第1刷）2018年	藤村和夫
	備考	なお、授業開始までに「山川一陽著民法総則講義の改訂版（第六版）中央経済社」が出版された場合はそれも利用する。		
参考書	特に指定しないが六法は必携。他に適宜に示す。			
オフィスアワー	授業講堂において、12時20分から13時30分。但し、私が空いていれば、何時でも良い。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	「公法」と「私法」の概念について確認しておくこと（2時間）
	授業内容	民法はどのような法か。民法Ⅰで何を学ぶか。民法Ⅰの学習の仕方。本講座の進め方について。
	事後学習	配付資料を利用して、サブノートを作成すること。（2時間）
2	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	民法の基本原理とその修正
	事後学習	練習問題1について検討すること。配付資料を利用して、サブノートを作成する。。（2時間）
3	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。練習問題1について検討すること（2時間）
	授業内容	権利主体（1）権利能力・意思能力
	事後学習	配付資料を利用して、サブノートを作成すること。（2時間）
4	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	権利主体（2）制限能力者制度その1
	事後学習	指定された練習問題を検討し、解答を作成すること。（2時間）

5	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。指定された練習問題を検討し、解答を作成すること。（2時間）
	授業内容	権利主体（3）制限能力者制度その2。
	事後学習	練習問題を検討し解答を作成すること。（2時間）
6	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。指定された練習問題を検討し、解答を作成すること。（2時間）
	授業内容	権利主体（4）住所・失踪宣告
	事後学習	。配付資料を利用して、サブノートを作成すること。（2時間）
7	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	権利主体（5）法人その1
	事後学習	配付資料を利用して、サブノートを作成すること。（2時間）
8	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	権利主体（6）法人その2
	事後学習	配付資料を利用して、サブノートを作成すること（2時間）
9	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	権利主体（6）法人その3 。権利能力の無い団体
	事後学習	練習問題を検討し解答を作成すること。。（2時間）
10	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。練習問題を検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	法律行為とその解釈（1）公序良俗、強行法規
	事後学習	配付資料を利用して、サブノートを作成すること。（2時間）
11	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	法律行為の成立要件と有効要件
	事後学習	練習問題を検討し解答を作成すること。配付資料を利用して、サブノートを作成すること（2時間）
12	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。練習問題を検討し解答を作成すること。（2時間）
	授業内容	意思表示（1）心裡留保と虚偽表示
	事後学習	練習問題を検討し解答を作成すること。配付資料を利用して、サブノートを作成すること。（2時間）
13	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	意思表示（2）錯誤
	事後学習	練習問題を検討し解答を作成すること。配付資料を利用して、サブノートを作成すること。（2時間）
14	事前学習	練習問題を検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	意思表示（3）詐欺と強迫
	事後学習	練習問題の解答を作成すること。。（2時間）
15	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	代理（1）代理とは何か
	事後学習	サブノートを作成すること。（2時間）
16	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	代理（2）代理の要件と効果
	事後学習	練習問題の解答を作成すること。（2時間）

17	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	代理（3）表見代理その1
	事後学習	練習問題の解答を作成すること。。（2時間）
18	事前学習	教科書の該当部分を熟読し、練習問題を検討しておくこと。（2時間）
	授業内容	代理（4）表見代理その2
	事後学習	練習問題の解答を作成すること。（2時間）
19	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	代理（5）表見代理その3
	事後学習	練習問題の解答を作成すること。。（2時間）
20	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	代理（6）代理人の権限濫用
	事後学習	練習問題の解答を作成すること。。（2時間）
21	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	代理（7）代理の応用問題、無権代理と相続等
	事後学習	練習問題の解答を作成すること。。（2時間）
22	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	条件・期限
	事後学習	配付資料を利用して、サブノートを作成すること。（2時間）
23	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	期間
	事後学習	配付資料を利用して、サブノートを作成すること。（2時間）
24	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	時効（1）その意義
	事後学習	配付資料を利用して、サブノートを作成すること（2時間）
25	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	時効（2）時効の要件その1。時効の援用
	事後学習	配付資料を利用して、サブノートを作成すること。（2時間）
26	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	時効（3）時効の要件その2 時効の中断
	事後学習	配付資料を利用して、サブノートを作成すること（2時間）
27	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	時効（4）取得時効
	事後学習	配付資料を利用して、サブノートを作成すること。（2時間）
28	事前学習	教科書の該当部分を熟読しておくこと。（2時間）
	授業内容	時効（5）消滅時効
	事後学習	配付資料を利用して、サブノートを作成すること（2時間）

29	事前学習	今年度にの授業範囲の中で理解が不十分なものをまとめ質問の準備をしておくこと。（2時間）
	授業内容	時効（6）時効と類似の制度。 やり残したこと。補足説明 練習問題についての全体講評
	事後学習	今までの授業内容を振り返っておくこと。配付資料を利用して、サブノートを作成すること。（2時間）
30	事前学習	今までの授業内容を振り返っておくこと。（2時間）
	授業内容	やり残したこと。補足説明 練習問題についての全体講評
	事後学習	練習問題の再検討。（2時間）

科目名	民法Ⅰ（民法総則）【法職課程】	担当者	加藤 雅之	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	-----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	民法典第1編「総則」1条～169条（2017年民法の一部を改正する法律案による改正後の条文）について学ぶ。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学ぶ。私法の一般法である民法は、法学部で学ぶ法律科目の中でも重要な基本法の1つである。民法総則の理解は、物権および債権などの民法の他の分野のみならず、商法等の他の私法分野における法律を学ぶ上でも必須である。				
授業目的・到達目標	民法の理解の基礎となる民法総則に関する基本的知識の習得と、基本的知識を用いた問題解決能力を養成することを目的とし、（1）対象範囲に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができること、（2）対象範囲における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できること、（3）解釈上の問題について、基本的な最上級審の立場（判例）を理解し、説明できること、および（4）対象範囲に関する単純な事例について、法律の規定に基づいて論理的に解答できることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1，2，3，5 最新版の六法を持参すること。				
履修条件					
授業方法	教科書およびポータルシステムにて配信する講義資料を用いて講義を進める。授業内試験および解説講義を授業期間中に行うとともに、試験の解説はポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		0%		
	平常評価		100%		授業期間中に行う試験の結果（80%）および質疑応答等の授業時間中の取り組みの評価（20%）による。 ※ 履修者の人数によっては定期試験を行うこともあり得る。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018年	日本評論社		民法総則【補訂版】	原田昌和・寺川永・吉永一行
	備考				
参考書	佐久間毅『民法の基礎1総則【第4版】』（有斐閣・2018年）				
オフィスアワー	木曜日12：20～12：50（授業期間中。事前にメールでアポイントを取ること） 研究室（4号館423号室） メールアドレス：kato.masayuki@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の第1章を読み、授業の対象となる領域を確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス：民法総則とは
	事後学習	民法とはどのような法律か、および、そのうち民法総則はどのような問題を扱うか、について答えられるようにする。（2時間）
2	事前学習	教科書第1章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	民法総則の基本事項の確認、民法の全体像
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
3	事前学習	教科書第2章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	意思表示・法律行為総説、心理留保、虚偽表示
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
4	事前学習	教科書第2章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	錯誤
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）

5	事前学習	教科書第2章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	詐欺、強迫
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
6	事前学習	教科書第2章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	意思表示の取消しからの第三者の保護、意思表示の効力発生時期等
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
7	事前学習	教科書第3章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	法律行為の内容の確定と有効要件、
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
8	事前学習	教科書第3章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	条件・期限、無効・取消し
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
9	事前学習	教科書第4章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	民法における人とは、権利能力
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
10	事前学習	教科書第4章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	意思能力、行為能力
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
11	事前学習	これまでの講義内容（教科書第1章～第4章）を復習しておく。（2時間）
	授業内容	これまでのまとめ
	事後学習	これまでの授業内容を振り返り、不明な点があればまとめておき、次回の授業の際またはオフィスアワーを利用して、質問すること。（2時間）
12	事前学習	教科書第5章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	代理総説、有権代理
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
13	事前学習	教科書第5章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	無権代理
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
14	事前学習	教科書第5章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	表見代理
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
15	事前学習	教科書第5章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	代理のまとめ
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
16	事前学習	教科書第6章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	時効総説、取得時効の完成、消滅時効の完成
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）

17	事前学習	教科書第6章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	時効の完成猶予および更新
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
18	事前学習	教科書第6章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	時効の援用、時効利益の放棄、期間
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
19	事前学習	教科書第7章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	法人
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
20	事前学習	教科書第8章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	試験の行使に対する制限
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
21	事前学習	教科書第9章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	民法の基本原則と現代的課題
	事後学習	講義資料中の『確認問題』を参考に、講義内容を復習しておくこと。（2時間）
22	事前学習	これまでの講義内容（教科書第5章～第9章）を復習しておく。（2時間）
	授業内容	これまでのまとめ
	事後学習	これまでの授業内容を振り返り、不明な点があればまとめておき、次の授業の際またはオフィスアワーを利用して、質問すること。（2時間）
23	事前学習	練習問題について、解答を作成しておくこと。（2時間）
	授業内容	論点講義 法律行為の無効・取消しと第三者の保護
	事後学習	講義資料中の『確認問題』を参考に、講義内容を復習しておくこと。（2時間）
24	事前学習	練習問題について、解答を作成しておくこと。（2時間）
	授業内容	論点講義 法律行為の無効・取消しと第三者の保護
	事後学習	講義資料中の『確認問題』を参考に、講義内容を復習しておくこと。（2時間）
25	事前学習	練習問題について、解答を作成しておくこと。（2時間）
	授業内容	論点講義 代理に関する問題
	事後学習	講義資料中の『確認問題』を参考に、講義内容を復習しておくこと。（2時間）
26	事前学習	練習問題について、解答を作成しておくこと。（2時間）
	授業内容	論点講義 代理に関する問題
	事後学習	講義資料中の『確認問題』を参考に、講義内容を復習しておくこと。（2時間）
27	事前学習	練習問題について、解答を作成しておくこと。（2時間）
	授業内容	論点講義 総合的問題の検討
	事後学習	試験問題をノートや教科書等を参考に再検討しておくこと。（2時間）
28	事前学習	これまでの授業内容を復習しておく。（2時間）
	授業内容	授業内試験 論述式試験を行う
	事後学習	公表する問題のポイントを参考に、自分の答案を確認する。（2時間）

29	事前学習	前回の試験問題について、完全な解答を作成しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業内試験の解説
	事後学習	自らの解答を確認し、分からない点があれば解消しておくこと。（2時間）
30	事前学習	これまでの授業内容を復習し、不明な点があれば、あらかじめまとめしておくこと。（2時間）
	授業内容	授業全体のまとめおよび質疑応答
	事後学習	授業全体を通じて得られたものを再確認しておくこと。（2時間）

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	長谷川 貞之	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	-----------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、私法の一般法・普通法である民法の基本原則を理解し、社会で生起する様々な法律現象にアプローチするための民法学の基礎理論を学習する。民法典は総則を中心に5編から成り、第1編の総則には、通則のほか、人、物、契約などの法律行為、時効などに関する規定が置かれて、これを通じて他の4編を理解する仕組みとなっている。この講座では、人が取得する権利の分類を通じて出生から死亡に至るまでの法律関係を学習する。			
授業目的・到達目標	中級・上級科目及び発展科目の履修のために必要となる私法一般及び民法の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生起する様々な法律現象にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、権利の主体である人が取得する私法上の権利の概念及び分類を基礎に民法学の基礎理論を修得し、受講生が人の誕生から死亡に至るまでの法律関係を説明できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5 経営法学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	1年次および2年次以降の学生を対象とする。学習効果を上げるために、憲法・刑法を学んでいることが望ましい。			
授業方法	教科書に即して講義形式で行う。適宜、ソクラテス・メソッドを用いる。基本判例や現役弁護士の教員が実際に担当した事件等を紹介しながら、具体的な設例を挙げて講義する。考える授業をモットーとする。試験終了後、解説を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		80%	授業等で学んだ基本的な事項および裁判例について、筆記試験により基礎学力を判定し評価する。受講者数によっては、授業内試験に切り替えることもある。
	平常評価		20%	課題の取組み（予習・復習）を評価の対象として考慮する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	有斐閣	民法Ⅰ——総則〔第4版〕＜有斐閣Sシリーズ＞	山田卓生ほか
	備考			
参考書	椿寿夫＝中倉寛樹編『解説 新・条文にない民法』（日本評論社、2011年）、松本恒雄・潮見佳男編『判例プラクティスⅠ』（信山社、2013年）ほか。このほか、授業中に、適宜紹介する。			
オフィスアワー	木曜日・12時30分～50分、研究室（4号館2階443）。事前にアポイントを取ること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	民法典は、権利の主体である「人」が出生から死亡に至るまでの法律関係を権利・義務の観点から規律している。民法典を手に取り、ポイントとなる規定を押さえながら人の一生を概観してみよう。あわせて教科書を2・3回ほど通読する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス：民法総則を学ぶ意義 序論・民法と市民生活、人の一生と法
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
2	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、近代私法の諸原則——法律行為自由・所有権絶対・過失責任の各原則、および法的人格の平等——を把握しておく。（2時間）
	授業内容	民法とは何か—民法の基本原則、民法典の制定とパンデクテン体系
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
3	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、権利の主体である「人」（自然人）とは何か。人は出生から死亡に至るまでどのような法的地位を有するのかを、民法典の規定に即して把握しておこう。（2時間）
	授業内容	権利の主体①：権利能力・意思能力・制限能力
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
4	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、人が活動する生活の本拠「住所」とは何か、人が行方不明になった場合の取扱いなどについて把握しておこう。（2時間）
	授業内容	権利の主体②：住所・失踪宣告、同時死亡の推定
	事後学習	授業の成果を教科書および配布プリントを参考に、整理してまとめる。（2時間）

5	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、未成年者や事理弁識能力が欠如する者について、民法上、どのような処遇がなされるのかを、民法典の規定に即して把握しておこう。（2時間）
	授業内容	権利の主体④：未成年者、事理弁識能力が欠如する者と制限行為能力者制度
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
6	事前学習	教科書を熟読し、自然人以外で権利能力の帰属主体となりうる法人について、公益・営利の観点から分類するとともに、法人制度の意義・内容について、その概要を理解しておこう。（2時間）
	授業内容	法人制度：意義・種類、新しい法人制度の概略・仕組み
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）
7	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、権利の客体である「物」について、不動産・動産の観点から把握する。民法典には、不動産・動産と並んで、定着物・従物・付合物・付加物や果実などの分類もあるので、相互の関係に注意が必要である。（2時間）
	授業内容	権利の客体①：物の分類・種類、不動産と動産、土地の定着物と従物・付合物・付加物の区別
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
8	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、物理的に触知しえない物（無体物）について、民法典はどのような取扱いをしているかを把握しておく。あわせて、無体物に対する権利にはどのようなものがあるか、これについても調べておこう。（2時間）
	授業内容	権利の客体②：無体物と知的財産権
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）
9	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、意思に基づく権利・義務の変動原因である「法律行為」の概念を調べておく。法律行為が無効とされる場合とは、どのような場合か。（2時間）
	授業内容	法律行為制度①：法律行為の意義、任意法規と強行法規
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
10	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、意思に基づく権利・義務の変動原因である「法律行為」の概念を調べておく。法律行為が無効とされる場合とは、どのような場合か。（2時間）
	授業内容	法律行為制度②：公序良俗違反、法律行為とその解釈など
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
11	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。（2時間）
	授業内容	意思表示①：意思表示の意義、意思主義と表示主義
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）
12	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。（2時間）
	授業内容	意思表示②：心裡留保と通謀虚偽表示、錯誤
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
13	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。（2時間）
	授業内容	意思表示③：錯誤
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
14	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。併せて、消費者関連基本三法の1つである消費者契約法についても調べておく。（2時間）
	授業内容	意思表示④：詐欺・強迫、消費者契約法と悪徳商法
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
15	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、意思と意思表示、契約、法律行為との関係を、民法典の規定に即して把握する。併せて、法律行為が無効・取消しとなった場合の効果と第三者との関係を検討する。（2時間）
	授業内容	法律行為の瑕疵と第三者の保護、善意者保護制度
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
16	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、代理制度の意義について理解を深める。（2時間）
	授業内容	代理①：代理の意義、代理の種類と類似する他の制度（委任、間接代理、信託など）、代理の要件・効果
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）

17	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、代理権が濫用された場合の本人保護と相手方の関係について検討する。（2時間）
	授業内容	代理②：代理権の濫用、利益相反行為と自己契約・双方代理
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
18	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、適法かつ有効な有権代理と無権代理、および表見代理との関係について検討する。（2時間）
	授業内容	代理③：無見代理と表見代理、表見代理の3類型と相互の関係
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
19	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、代理をめぐる解釈上の諸問題につて検討する。（2時間）
	授業内容	代理④：代理をめぐる解釈上の諸問題
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
20	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、法律行為が無効・取消しとなった場合の効果と第三者との関係を検討する。（2時間）
	授業内容	無効・取消し：意義・効果、取消しの遡及効と第三者の保護
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
21	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、無効行為の転換とはどのようなことをいうのか、無効行為の転換によって無効な法律行為が一定の要件のもとに有効とされる場合があるかを、検討する。（2時間）
	授業内容	無効行為の転換、その他
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）
22	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、法律行為の効力発生要件である条件・期限、および期間について検討する。（2時間）
	授業内容	条件・期限、期間
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
23	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、時効制度について調べてみよう。なぜこのような制度が必要とされるのか、時効制度の存在理由はどこにあるのか。（2時間）
	授業内容	時効①：時効の意義、時効制度の存在理由、時効の援用と時効利益の放棄、
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）
24	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、時効と類似する除斥期間などの制度を調べ、違いを検討してみよう。（2時間）
	授業内容	時効②：時効と類似する他の制度
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）
25	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、取得時効について理解を深める。（2時間）
	授業内容	時効③：取得時効の意義、要件・効果
	事後学習	授業の成果を教科書および配布プリントを参考に、整理してまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
26	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、取得時効と関連する即時取得について、理解を深める。（2時間）
	授業内容	時効④：取得時効と即時取得
	事後学習	授業の成果を教科書および配布プリントを参考に、整理してまとめる。（2時間）
27	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、消滅時効について理解を深める。（2時間）
	授業内容	時効③：消滅時効の意義、要件・効果
	事後学習	授業の成果を教科書および配布プリントを参考に、整理してまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
28	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、時効制度の問題点などを検討する。（2時間）
	授業内容	時効④：時効制度と民法改正
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）

29	事前学習	教科書を熟読し、民法典を取り巻く現代社会を読み説く。民法の世界は、どのよう見えるか。（2時間）
	授業内容	一般条項と民法典——公共の福祉、信義則、権利の濫用 民法典を取り巻く私法と現代社会
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）
30	事前学習	教科書のページの余白に記載してある★印（重要度に応じて3段階）に注意して教科書を通読し、重要な論点を確認する。（2時間）
	授業内容	総括と質疑応答／授業内試験
	事後学習	これまでの授業内容を、教科書および配布プリントを参考に総括し、まとめる。 「課題と質問」を整理する。（2時間）

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	藤村 和夫	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	民法総則は、民法財産法の基礎・根幹をなす領域であり、総則の理解なくしては、財産法は勿論、家族法の理解も叶わない。総則であるがゆえに抽象的な内容が少なくないが、民法典の規定に沿い、判例および通説的な見解を中心に、なるべく具体的な事例を交えながら総則全体を俯瞰する。 なお、弁護士実務において経験した事例についても触れる。				
授業目的・到達目標	民法総則の全体像を把握し、民法の他の分野とどのように関わっているのかを理解することを目的とする。そして、民法総則の全体像を把握し、民法の他の分野とどのように関わっているのかを理解し、それを説明できるようになることを目標とする。 関連D P 及びC P：法律学科1、2、3、5経営法学科1、2、3、5公共政策学科1、3、4				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義中心となるが、適宜、質疑も交え、受講生の理解度を確認しながら講義を進める。 試験の講評、解説はポータルサイトで行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		100%	授業で学んだことがどの程度理解できているかをみて評価する。	
	平 常 評 価		0%		
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018年	信山社		民法総則	藤村和夫
	備考				
参 考 書	必要があれば、授業中に示す。				
オフィスアワー	木曜日16時30分～17時30分（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室：本館7階、1714室 メールアドレス：fujimura.kazuo@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書～18頁を読んでおく（以下、同様）（2時間）
	授業内容	授業の進め方の説明、基本的事項（1）
	事後学習	民法とは、およそどういうものであるかに思いを致してみる（2時間）
2	事前学習	18頁～23頁（2時間）
	授業内容	基本的事項（2）
	事後学習	近代私法の三大原則および民法上の基本原則とはどういうものかを理解する（2時間）
3	事前学習	25頁～30頁（2時間）
	授業内容	権利主体としての自然人
	事後学習	権利能力についての理解を確かなものにする（2時間）
4	事前学習	30頁～39頁（2時間）
	授業内容	権利能力、制限行為能力者（1）
	事後学習	制限行為能力者の意義について理解する（2時間）

5	事前学習	39頁～45頁（2時間）
	授業内容	制限行為能力者（2）
	事後学習	制限行為能力者の種類とその違いを理解する（2時間）
6	事前学習	45頁～54頁（2時間）
	授業内容	制限行為能力者（3）
	事後学習	任意後見制度等についての理解を深める（2時間）
7	事前学習	54頁～61頁（2時間）
	授業内容	制限行為能力者の相手方の保護
	事後学習	制限行為能力者の相手方がどのように保護されるかについて理解する（2時間）
8	事前学習	61頁～70頁（2時間）
	授業内容	失踪宣告、住所
	事後学習	失踪宣告の意義について理解する（2時間）
9	事前学習	71頁～75頁（2時間）
	授業内容	権利の客体としての物
	事後学習	権利の客体にはどのようなものがあるかを確認する（2時間）
10	事前学習	77頁～85頁（2時間）
	授業内容	法律行為一般
	事後学習	法律行為の意義を確認する（2時間）
11	事前学習	86頁～92頁（2時間）
	授業内容	意思表示（1）
	事後学習	意思表示の意義を理解する（2時間）
12	事前学習	92頁～110頁（2時間）
	授業内容	意思表示（2）
	事後学習	虚偽表示とは何かを理解する（2時間）
13	事前学習	110頁～120頁（2時間）
	授業内容	意思表示（3）
	事後学習	錯誤についての理解を確実なものにする（2時間）
14	事前学習	121頁～132頁（2時間）
	授業内容	意思表示（4）
	事後学習	瑕疵ある意思表示とは何かを理解する（2時間）
15	事前学習	132頁～139頁（2時間）
	授業内容	意思表示（5）
	事後学習	消費者契約法ではどのような規制があるのかを理解する（2時間）
16	事前学習	139頁～143頁（2時間）
	授業内容	代理総説
	事後学習	代理の意義と法的構成について理解する（2時間）

17	事前学習	143頁～154頁（2時間）
	授業内容	代理権
	事後学習	代理権を巡る基礎的な理解を確実にする（2時間）
18	事前学習	154頁～158頁（2時間）
	授業内容	代理行為（1）
	事後学習	代理権の濫用と消滅について理解する（2時間）
19	事前学習	158頁～164頁（2時間）
	授業内容	代理行為（2）
	事後学習	代理行為についての理解を深める（2時間）
20	事前学習	164頁～174頁（2時間）
	授業内容	無権代理と表見代理
	事後学習	無権代理と表見代理の意義を理解する（2時間）
21	事前学習	175頁～192頁（2時間）
	授業内容	狭義の無権代理
	事後学習	無権代理人の責任等について理解する（2時間）
22	事前学習	192頁～206頁（2時間）
	授業内容	無効および取消
	事後学習	無効と取消の意義と効果について理解する（2時間）
23	事前学習	206頁～216頁（2時間）
	授業内容	条件および期限
	事後学習	条件と期限の意義と効力について理解する（2時間）
24	事前学習	217頁～222頁（2時間）
	授業内容	期間、時効総説
	事後学習	期間の意義と時効制度の存在理由について理解する（2時間）
25	事前学習	223頁～242頁（2時間）
	授業内容	時効（1）
	事後学習	取得時効の意義と効果を理解する（2時間）
26	事前学習	242頁～260頁（2時間）
	授業内容	時効（2）
	事後学習	債権および債権以外の消滅時効について理解する（2時間）
27	事前学習	260頁～279頁（2時間）
	授業内容	時効（3）
	事後学習	消滅時効類似の制度と時効中断について理解する（2時間）
28	事前学習	279頁～302頁（2時間）
	授業内容	時効（4）
	事後学習	時効の援用と時効利益の放棄について理解する（2時間）

29	事前学習	303頁～338頁（2時間）
	授業内容	権利主体としての法人（1）
	事後学習	法人の意義と種類、法人の設立について理解する（2時間）
30	事前学習	338頁～356頁（2時間）
	授業内容	権利主体としての法人（2）
	事後学習	法人の能力等について理解する（2時間）

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	田中 夏樹	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業では民法の総則を取り扱う。民法総則は、民法規定の共通項（権利能力の主体や代理制度）をまとめたものであり、民法を学習する際の導入にあたる。民法総則の中でも基本的な事項を扱うが、民法改正を踏まえ基本的には新法を基準として講義を行い、必要に応じて旧法についても言及する。担当教員は元弁護士であり、実務上の取り扱いや具体的な事例等の言及を交えながら解説を行う。				
授業目的・到達目標	法律行為や代理制度などの基本制度を中心として判例や学説の解説を通じて、民法総則がどのような機能を担っているのかを学び、法学の基礎的知識を身につけ、新たな知見を生み出すことができる能力を養成することを目的とする。民法総則の位置づけや民法総則に規定されている制度についての基本的な知識を習得することを目標とするが、演習問題を行うことで、実際に身につけた知識を活用し、物事を論理的、合理的かつ批判的に考察できるようになることを目標とする。 対応DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5 経営法学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4 六法を持参すること。なお、法改正を踏まえ、最新のものを用意すること。				
履修条件					
授業方法	講義形式によって行う。あらかじめ、パワーポイントによって資料を配布する。また、2回に1回程度簡単な演習問題をやらせよう予定（成績には加味せず、提出不要）。最終授業にて授業内試験の講評・解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業内にて試験を行い、成績評価を行う（80％）。なお、授業に積極的に参加すること（20％）を加味して評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019	日本経済新聞出版社	リーガルベシス民法入門 第3版		道垣内弘人
	備考	教科書はあくまで参考であり、授業内（ガイダンス）にて具体的に指示するため、第1回授業開始前に準備する必要はない。			
参考書	授業中に適宜指示する。				
オフィスアワー	水曜日14：30～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書の債権総論の導入部分を読み、債権総論の民法上の位置づけを理解する。(2時間)
	授業内容	授業の内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、債権総論の授業進行方法や学習方法について説明し、受講生の今後の学習準備を行う。成績評価等の質問も受け付ける。
	事後学習	授業内容で言及した学習方法を再確認し、到達度を踏まえた学習計画を検討する。(2時間)
2	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、民法には総則以外にどのような内容の条文が存在し、どのような意味を有するの か確認しておく。(2時間)
	授業内容	民法の体系と位置づけ 民法は、一般に民法総則・物権・債権・親族・相続に分けられるが、それぞれの意義や機能が異なっている。これらの民法の体系について解説するとともに、特別法との関係など民法以外の法分野との関係について解説する。
	事後学習	民法が営む機能について、公法や刑事法の分野とはどのように異なるのかを確認し、民法の位置づけについての理解を深め、自分なりに説明できるようにする。(2時間)
3	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、民法総則の中でも信義則や権利濫用の禁止といった概念がどのようなものかを調べておく。(2時間)
	授業内容	民法の基本原則 民法総則には、民法全体に及ぶ基本原則である信義則や権利濫用の禁止といった概念が規定されている。しかし、このような概念は抽象的であるため、判例などを通じて具体的にはどのように認められるのかを解説する。
	事後学習	授業内で言及した判例以外の関連判例を調べ、信義則・権利濫用の禁止等の基本原則が判例上どのように扱われているのかを調べる。(2時間)
4	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、権利義務の主体という概念がどのようなものであるか調べ、権利能力という用語の意味を調べておく。(2時間)
	授業内容	自然人の権利主体性 民法を学ぶ上では、権利能力・行為能力・意思能力といった各概念を理解する必要がある。これらの能力について具体例や判例を交えながら解説を行う。
	事後学習	授業内で学習した内容を踏まえ、権利能力・行為能力・意思能力の意味内容のみならず、それぞれの関係について自分なりに説明できるようにする。(2時間)

5	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、行為能力が制限される必要性としてどのような場合か調べておく。(2時間)
	授業内容	行為能力の制限 一定の場合に行為能力が制限され、成年被後見人・被保佐人・被補助人といった制度が民法上規定されている。各概念の目的や内容について解説を行う。
	事後学習	行為能力の制限について、意思能力との関係がどのようなものであるか、例えば、行為能力の制限を受けていながら意思能力を有している場合がありえるかなどを検討する。(2時間)
6	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、不在者の財産を管理する必要性が生じるのはいかなる場合であり、その場合にどのような問題が生じるのかを確認する。(2時間)
	授業内容	不在者の財産管理 不在者が財産を有している際には、これを管理する必要がある。しかし、特に数年に及ぶ行方不明である場合には不在者の権利関係がそのまま残り、不都合が生じる場合がある。この場合に利用される失踪宣告について解説を行う。
	事後学習	失踪宣告がなされ、不在者が死亡したものと扱われたのちに、不在者の生存が確認された場合にはどのように扱われるのか、調べ、検討する。(2時間)
7	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、法人与自然人の概念の違いを確認し、法人を制度の趣旨を調べておく。(2時間)
	授業内容	法人の権利能力 法人は現在の社会では欠くことのできない存在であるが、その性質上自然人とは異なった法理が適用される。法人に関する民法の規定を踏まえ、法人の権利能力に関して解説する。
	事後学習	法人にも類型が存在するが、民法上にはどのような類型の法人が存在するのかを確認したうえで、それぞれの制度趣旨の相違について検討する。(2時間)
8	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、権利の客体としてはどのような具体例が存在するのか調べ、該当する条文を確認しておく。(2時間)
	授業内容	権利の客体 権利の客体としての「物」に関し、動産・不動産の区別や主物・従物の区別を解説し、民法上の扱いを説明する。また、債権の客体についてもこの授業内で取り上げたい。
	事後学習	財産権には物権と債権が存在するが、物権の客体と債権の客体とではその性質がどのように異なるか、授業内容を踏まえて、自分なりに説明できるようにする。(2時間)
9	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、法律行為がどのような概念であるかを調べ、法律行為の類型を調べておく。(2時間)
	授業内容	法律行為概説 法律行為に共通することとして、法律行為の有効性や法律行為の概念がどのように扱われているかについて解説を行い、次週以降に解説する予定の意思表示との関係について解説する。
	事後学習	法律行為と事実行為との関係について、それぞれの概念がどう異なっているか、法律上はどのように扱われるかを検討する。(2時間)
10	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、意思表示が法律行為との関係においてどのような位置づけにあるのかを確認し、その意義を調べておく。(2時間)
	授業内容	意思表示の意義・構造 意思表示は、動機・内心的効果意思・表示意思といった構造を有しており、その構造を解説するとともに、そのような構造を観念することの意義について解説する。
	事後学習	意思表示の構造について、実際に自分が法律行為を行う場面を想定し、自分の行為がどの段階にあたるのかを確認し、法律的な意味を考える。(2時間)
11	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、無効と取消しの概念がどのような意義を有し、法的な効果がどのようなものであるかを確認する。(2時間)
	授業内容	法律行為の無効と取消し 法律行為は無効あるいは取消される場合が存在するが、それぞれの法的な効果は異なっている。無効と取消しの意義を説明するとともに、法的な効果の違いを解説する。
	事後学習	法律行為の無効と取消しは、法律行為の構造と関係しており、無効原因と取消し原因が法律行為の構造との間ではどのような関係にあるかをまとめ、説明ができるようにする。(2時間)
12	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、意思の欠缺が法律行為の構造との関係でどのような問題であるかを整理しておく。(2時間)
	授業内容	意思の欠缺1 心裡留保及び虚偽表示に関して、法律行為の構造との関係を踏まえながら解説を行う。また、関連する判例が多く存在するため、判例の事実関係を踏まえながら解説を行う。
	事後学習	心裡留保及び虚偽表示に関しては、意思の欠缺の問題ではあるが、各規定の趣旨が異なっている。法律行為の構造との関係を踏まえながらも、それぞれの規定が当事者の利害関係をどのように調停しているのかを検討する。(2時間)
13	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、前回の授業の復習をするとともに、錯誤が法律行為の構造との関係でどのような問題であるかを整理しておく。(2時間)
	授業内容	意思の欠缺2 錯誤及び錯誤に起因する各種の問題点について、昨今の議論を踏まえて解説する。特に、錯誤は第三者の保護との関係で重要な議論があり、第三者の保護の在り方を解説する。
	事後学習	錯誤の効果については、無効と取消しの相違に関連して重要な議論があり、各自の教科書等においてそれぞれの立場からの考え方を説明ができるようにする。(2時間)
14	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、詐欺及び強迫の条文を調べ、法律行為の構造との関係では、どの段階の問題であるかを確認する。(2時間)
	授業内容	瑕疵ある意思表示 瑕疵ある意思表示として、詐欺及び強迫の条文解説から始め、瑕疵ある意思表示が意思の欠缺とはどのように異なるのか、及び、その違いが要件や効果にどのような影響を与えるものであるかを解説する。
	事後学習	詐欺及び強迫に関し、瑕疵ある意思表示はその効果が取消しとされているが、これはどのような考慮によるものか。例えば、詐欺は刑法でも処罰対象となっているが、民法上の契約は当事者の意思に委ねられている理由は何か、検討する。(2時間)
15	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、詐欺及び強迫の条文を調べ、第三者の保護に関してはどのような取り扱いがなされ、そこから読みとれる法の趣旨を考えておく。(2時間)
	授業内容	瑕疵ある意思表示 詐欺及び強迫は、同一の条文に規定されていながら、第三者の保護に関しては異なる取り扱いをしている。法が第三者を含めた各当事者の利害関係をどのように調整しているのかを解説する。
	事後学習	意思の欠缺及び瑕疵ある意思表示において、それぞれ各当事者の利害関係が異なっているが、法律効果にどのような影響を及ぼしているのか、整理し、自分なりに説明できるようにする。(2時間)

16	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、代理制度がどのような構造であるか、登場する当事者を確認し、条文を調べる。(2時間)
	授業内容	代理制度概説 代理制度は、私的自治を拡充する目的であるが、通常の契約に比べて代理人が介在することにより、考慮すべき事由が増えており、代理の要件・効果を解説するとともに、代理人を含めた利害関係を解説する。
	事後学習	代理の要件について、一般的に3つの要件が必要であるが、これらの要件についてそれぞれが必要とされる趣旨及び欠けた場合の法律関係に関して検討する。(2時間)
17	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、代理の要件のうち、いずれが欠けると無権代理となるのか、また、それはなぜか確認しておく。(2時間)
	授業内容	無権代理 代理には3要件が存在するが、それぞれの要件が欠けた場合の法律関係は異なっている。無権代理となるのはどの要件が欠けた場合、また、そのような場合に相手方及び本人をいかに保護するのかを解説する。
	事後学習	無権代理となるのは、代理人が勝手に代理人を名乗った場合だけでなく、代理人が過失なく代理権を証明できない場合も含むが、この場合に代理人を保護する方法はないか、検討する。(2時間)
18	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、表見代理がどのような概念か、無権代理との関係を調べておく。(2時間)
	授業内容	表見代理1 前提となる、表見代理一般の法理論や制度趣旨について解説する。表見代理が相手方保護の法理であることや本人の利益をどの範囲で保護しようとしているかを学ぶ。
	事後学習	表見代理の成否によって、無権代理の地位はどのような影響を受けるか検討する。(2時間)
19	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、民法109条を調べ、表見代理の一類型を知るとともに、要件を確認しておく。(2時間)
	授業内容	表見代理2 表見代理の一類型である、代理権授与表示の表見代理について解説する。どのような場合に本人の犠牲のもと相手方の保護が認められるのかを意識して学習してほしい。
	事後学習	代理権授与表示というものは、実際の判例ではどのようにして認められているのか、授業中に言及した判例の事実関係を意調べ、理解する。(2時間)
20	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、民法110条を調べ、基本権限の概念を踏まえて、要件を確認しておく。(2時間)
	授業内容	表見代理3 表見代理の一類型である、権限外行為の表見代理について解説する。また、民法110条は拡張されて適用される傾向にあり、民法110条が適用される特殊な場面として日常家事代理についても解説する。
	事後学習	民法110条の基本権限としてどのようなものが含まれるのか、授業中に言及した判例をもとに、検討する。特に、事実行為に関する権限が基本権限に含まれるかについて、関連判例を調べる。(2時間)
21	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、民法112条を調べ、代理権消滅後の表見代理の事実関係を把握し、要件を確認しておく。(2時間)
	授業内容	表見代理4 表見代理の一類型である、代理権消滅後の表見代理について解説する。また、民法109条と民法110条、民法110条と民法112条の重量適用についても解説する。
	事後学習	重量適用について、授業中に言及した判例の事実関係を調べ、どのような事実が認められる場合に適用ができるかを検討する。(2時間)
22	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、条件・期限の概念を調べ、契約においてどの段階で問題となる概念かを考えておく。(2時間)
	授業内容	条件・期限 停止条件、解除条件・停止期限、解除期限の概念について解説し、それぞれの機能や期限の利益喪失等といった関連する法律関係について解説する。
	事後学習	条件・期限がそれぞれ契約に付与された場合にどのような意義を有するのか、検討し、説明できるようにする。(2時間)
23	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、時効制度について、条文を調べ、その意義及び制度趣旨を確認する。(2時間)
	授業内容	時効制度1 事実状態に即した権利関係を確定させる時効制度について解説する。そのうち、特に時効制度一般に共通する制度趣旨や機能について解説を行う予定である。
	事後学習	時効制度の趣旨を復習し、時効によって不利益を受ける当事者が存在する場合に、それが正当化されるのか検討する。(2時間)
24	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、取得時効について、条文を調べ、要件及び効果について確認する。(2時間)
	授業内容	時効制度2 時効制度のうち、取得時効について要件及び効果を中心に解説する。また、所有権以外の取得時効についても、制度趣旨の相違を踏まえて解説する。
	事後学習	時効制度の趣旨を踏まえ、債権の時効取得がなぜ可能か検討し、関連する判例を調べておく。(2時間)
25	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、消滅時効について、条文を調べ、要件及び効果について確認する。(2時間)
	授業内容	時効制度3 時効制度のうち、消滅時効について要件及び効果を中心に解説する。消滅時効が、取得時効とはどのように異なり、制度趣旨や機能の相違を踏まえながら解説する。
	事後学習	時効の更新や完成猶予について、時効制度全体の趣旨との関連を踏まえて、どのような機能を有しているのか、説明できるようにする。(2時間)
26	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、除斥期間の概念を調べ、時効とはどのように異なる概念かを確認しておく。(2時間)
	授業内容	時効制度4 時効と登記の問題や除斥期間について解説する。特に除斥期間は、時効とは異なった制度趣旨を有している類似した制度であり、注意する必要があるため、制度趣旨及びそこから導かれる機能を中心に解説する。
	事後学習	改正前の民法724条を調べ、時効と除斥期間のいずれであるかを検討し、説明できるようにする。(2時間)

27	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、これまでに学習してきた内容が相互に関係することを理解し、今までに扱った判例等が複合的な問題を有していることを理解する。(2時間)
	授業内容	複合的問題について これまでに解説してきた総則の内容は、それぞれが完全に独立しているものではなく、複合的な問題となって生じる場合がある。簡単な事例問題を題材にし、今までに学習してきた知識を用いて法律関係を理解できるように講義を行う。
	事後学習	授業内で扱った事例や判例について、どのような条文が適用されているのか適用関係を検討し、実際に条文を引く条文操作を行う。(2時間)
28	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、債権法改正によって、民法総則のうちどの分野が改正されるのかを確認する。また、新旧の条文を確認することが望ましい。(2時間)
	授業内容	債権法改正 債権法改正の作業が行われ、今後施行される予定であるが、民法総則の分野でも法律行為や時効の範囲において改正が行われている。それぞれの改正がどのような趣旨で行われ、運用に影響を及ぼすものかについて解説する。
	事後学習	新旧の条文を比較し、どのように改正がなされたのかを確認し、授業で扱った判例の結論や論理構成に影響を与えるものであるか検討する。(2時間)
29	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、これまでに扱った内容を復習し、疑問点が残らないようにする。(2時間)
	授業内容	授業内試験及びまとめ 授業内にて民法総則の試験を行い、併せてまとめとなる授業を行う。
	事後学習	授業内試験やこれまでの授業で扱った内容のうち、解消できなかった疑問点を整理し、最終授業にて質問ができるようにする。(2時間)
30	事前学習	前回の授業内試験の内容を整理し、過去の授業内容の不明点と合わせて質問ができるようにする。(2時間)
	授業内容	授業内試験の解説 前回の授業で行った試験の解説を行い、質疑に回答する。また、全体的な答案の傾向等についても言及し、今後につなげてもらいたい。
	事後学習	全30回の授業内容は、それぞれが複雑に結びついており、授業の復習をするとともに、各制度が他の制度にどのように影響を及ぼしているのかを確認する。(2時間以上)

科目名	民法Ⅰ（民法総則）	担当者	野中 貴弘	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	4
-----	-----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この講座では、民法典の第1編「総則」に定められたルールについて学ぶ。具体的には、民法がどのような場面に適用されるのかをおさえた後、民法における登場人物についてのルール、納得のいかない意思表示をしてしまった場合の当事者間の利益調整のあり方、他者を使って取引等をする場合の代理制度、さらには永続した事実状態を尊重する制度としての時効制度を学ぶ。民法総則の重要部分に時間をかけて丁寧に説明することとしたい。				
授業目的・到達目標	私法の基本法たる民法の総則を通して、その後の物権法や債権法の学修に必要な法的知識を修得するとともに、法的思考方法を養成することを目的とする。本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できるようになること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5				
履修条件	特になし。				
授業方法	レジュメを使用しての講義が中心だが、定期的に演習を実施する。第28回に行う授業内試験について、解説を残し時間および第29回の冒頭に行う。担当教員の弁護士としての実務経験を踏まえ、実務事例なども採り上げて説明する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	第28回に実施の授業内試験の成績によって評価する。試験においては、正誤問題と簡易記述式問題の出題を予定している。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018年	有斐閣		民法入門・総則〔第5版〕エッセンシャル民法1	永田眞三郎ほか
	備考				
参考書	道垣内弘人『リーガルベシス民法入門〔第3版〕』（日本経済新聞出版社・2019年）				
オフィスアワー	水曜日13：00—17：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館6階1608） nonaka.takahiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	学生教員共有フォルダから第1回講義レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおくこと 自分が「なぜ民法を学びたいのか」「なぜ学ぶ必要があると考えるのか」を整理してみる（2時間）
	授業内容	講義案内、民法の特徴と魅力、民法の構造と民法における民法総則の位置づけ 講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法、教科書や参考書の紹介を含めて、民法総則の学修方法について説明し、そのうえで学生が民法をはじめとした法学を学ぶ意味を一緒に考える。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 第1回講義を踏まえ、本講義と並行して履修することで学習効果が高そうな講座を探し、半年間の学習計画を立てる（2時間）
2	事前学習	教科書の「第1章 民法とは何か」及び「第2章 私権」を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	民法の全体像①（民法とは何か、民法の全体像） 民法がどのような場面において適用される法律であるのかを理解したうえで、極めて広範囲に及ぶ民法につき、その全体像を概観する。
	事後学習	レジュメを読み返し、挙げられている条文について実際に六法を開いて素読してみること（2時間）
3	事前学習	教科書の「第1章 民法とは何か」及び「第2章 私権」を読んでおくこと 第3回講義は、第2回の講義内容の続きになるので、第2回レジュメを読み返してから講義に臨むこと（2時間）
	授業内容	民法の全体像②（民法の基本概念） 民法における諸原則をはじめとし、善意・悪意や承継取得・原始取得といった法律用語の意味を学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 所有権の取得方法として、原始取得と承継取得の意味を自分の言葉で具体例を挙げて説明できるようにしておくこと。 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）

4	事前学習	教科書の「第3章 人」を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	権利の主体（人）① 権利能力、意思能力、行為能力といった3つの能力概念を学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 3つの能力概念には、それぞれどのような差があり、それぞれの能力を欠いてした法律行為の効力をおさえる。 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
5	事前学習	教科書の「第3章 人」を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	権利の主体（人）② 前回の続きとして、行為能力が十分でない者を保護する制度としての「制限行為能力者制度」について、相手方保護の在り方も含めて学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 制限行為能力者制度につき、民法が用意している4つの類型をおさえるとともに、こうした制限行為能力者と取引をした相手方保護の必要性和その手段について一連の流れでおさえる。 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
6	事前学習	教科書の「第3章 人」と「第5章 物」を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	権利の主体（人）③、権利の客体（物） 権利主体の問題として、最後に、失踪宣告制度を学んだ後、権利の客体となる物概念について学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 失踪宣告の取消しに関し、民法32条1項後段の「善意」の意味について、講義内容を踏まえ自らの考えをまとめる。 第7回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
7	事前学習	あらかじめ演習（第1回）の問題を全問検討してくること（2時間）
	授業内容	演習（第1回） 民法の全体像、権利の主体（人）、権利の客体（物）として学んだ内容について、復習を兼ねた演習を行う。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する（2時間）
8	事前学習	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、法律行為と意思表示の関係、意思表示の到達と受領、法律行為と意思表示の解釈の箇所を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	法律行為と意思表示①（法律行為と意思表示の関係、意思表示の到達と受領、法律行為と意思表示の解釈） 隔地者間における意思表示はいつ効力が生じるのか、契約をしたものの両当事者が表示に込めた意味にずれ違いがあった場合にはどのような内容で効力が生じるのか。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 意思表示や契約の解釈に関し、講義中で紹介した客観的解釈説と規範的解釈説の相違を整理する。 第13回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
9	事前学習	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、心裡留保の箇所を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	法律行為と意思表示②（心裡留保） 一方当事者が冗談で契約の申込みをし、相手方がその冗談を信じ切っている場合にその契約の効力は生じるのか。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと そもそも心裡留保とはどのような場合か、その具体例を複数挙げられるようにしておく。 第13回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
10	事前学習	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、通謀虚偽表示の箇所を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	法律行為と意思表示③（通謀虚偽表示） 契約当事者が、真に譲渡する意思がないにもかかわらず、示し合わせて形だけの契約がなされたとき、この契約にはどのような効力があるか。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 講義で出てきた94条2項の類推適用とは、94条2項が直接適用される場面とどこが異なるか考えてみること。 第13回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
11	事前学習	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、錯誤の箇所を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	法律行為と意思表示④（錯誤） 契約締結にあたり一方当事者に勘違いがあったとき、当該契約の効力はどうなるか。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 講義内容を踏まえ、2017年改正後の民法95条を精読し、レジュメで出てきた知識と条文とを結びつけて理解できるようにしておくこと。 第13回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
12	事前学習	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、詐欺と強迫の箇所を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	法律行為と意思表示⑤（詐欺、強迫） 契約締結にあたり契約の相手方が詐欺または強迫をしていたとき、詐欺や強迫の被害者はどのような主張が可能か。第三者が詐欺していたときと比べると何か違いがあるか。詐欺と強迫で差があるか。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 96条2項と96条3項を読んだだけで、当事者関係図が書けるように整理する。 第13回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
13	事前学習	あらかじめ演習（第2回）の問題を全問検討してくること（2時間）
	授業内容	演習（第2回） 法律行為と意思表示①～⑤の復習を兼ねて演習を行う。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する（2時間）

14	事前学習	教科書の「第7章 法律行為の自由と制約」を読んでくること（2時間）
	授業内容	法律行為の自由と制約 契約は原則として自由であるものの、公序良俗や強行法規に反する場合には当該契約は効力を有しない。それでは、取締規定に反した場合はどうか。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと これまで学んできた民法の条文がそれぞれ強行規定なのか任意規定なのか考えてみること。 第17回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
15	事前学習	教科書の「第8章 無効と取消し」を読んでくること（2時間）
	授業内容	無効と取消し 無効と取消しは、どのような違いがあるのか。取消しの主体や期間はどのように定められているか。取消しができなくなる場合として追認や法定追認も学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 無効・取消しの違いを整理する。 第17回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
16	事前学習	教科書の「第9章 条件・期限」を読んでくること（2時間）
	授業内容	条件と期限 そもそも条件と期限とはどのような差があるか。条件成就を妨害した場合にはどのような法的効果が生じるか。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 「期限の利益」とは何か、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。 第17回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
17	事前学習	あらかじめ演習（第3回）の問題を全問検討してくること（2時間）
	授業内容	演習（第3回） 法律行為の自由と制約、無効と取消し、条件と期限について、復習を兼ねた演習を行う。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する（2時間）
18	事前学習	教科書の「第10章 代理」のうち、第1節から第3節までを読んでくること（2時間）
	授業内容	代理①（代理の基本的仕組みと機能） 第三者を使って法律行為をする場面である代理制度につき、その構造と機能を学習する。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 代理と使者の違いを整理する。 第22回講義の際に扱う演習（第4回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
19	事前学習	教科書の「第10章 代理」のうち、第1節から第3節までを読んでくること（2時間）
	授業内容	代理②（代理権、顕名、代理行為） 第三者を使って法律行為をする場面である代理制度につき、その効果が生じる要件を整理して学習する。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと なぜ署名代理も顕名として許されているのかにつき、顕名が求められている趣旨に遡って考えてみること。 第22回講義の際に扱う演習（第4回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
20	事前学習	教科書の「第10章 代理」のうち、第4節を読んでくること（2時間）
	授業内容	代理③（無権代理） 代理行為の効果は本人に帰属するのが原則であるが、代理の要件を満たしていなかった場合には、例外となる。そうした例外的局面における相手方保護の在り方として、無権代理人の責任を学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 117条は、2017年改正によりどこが変わったのか、条文を比較して整理してみる。 第22回講義の際に扱う演習（第4回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
21	事前学習	教科書の「第10章 代理」のうち、第5節を読んでくること（2時間）
	授業内容	代理④（表見代理） 前回に引き続き、有権代理の要件を満たさないために効果が本人に帰属しない局面における相手方保護の在り方として、表見代理制度を学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 109条の表見代理は、どのような場面で相手方を保護するものか。条文を見て具体例が挙げられるようにしておくこと。 第22回講義の際に扱う演習（第4回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
22	事前学習	あらかじめ演習（第4回）の問題を全問検討してくること（2時間）
	授業内容	演習（第4回） 代理①～④を終えて、その復習を兼ねて演習を行う。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する（2時間）
23	事前学習	教科書の「第12章 時効」のうち、第1節を読んでくること（2時間）
	授業内容	時効①（取得時効） 永続した事実状態を尊重する制度としての取得時効について、その法的仕組みを学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 自分の身の回りにある物で、実は取得時効が完成している物がないか考えてみる（2時間） 第26回講義の際に扱う演習（第5回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
24	事前学習	教科書の「第12章 時効」のうち、第2節を読んでくること（2時間）
	授業内容	時効②（消滅時効、時効の共通原則、時効制度の意義と類似の制度） 「権利の上に眠る者は保護に値しない」制度としての消滅時効について、2017年の民法改正での影響も含め学習する。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 2017年改正で消滅時効における時効期間が整理されたが、その趣旨を調査したうえで、その是非を考えること。 第26回講義の際に扱う演習（第5回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）

25	事前学習	教科書の「第 1 2 章 時効」のうち、第 3 節・第 4 節を読んてくること（2 時間）
	授業内容	時効③（時効の共通原則、時効制度の意義と類似の制度） 取得時効及び消滅時効に共通する原則や、時効制度と似た除斥期間制度について学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 日本民法では、時効の効果を享受するには時効の援用が必要だが、この援用はなぜ必要なのか、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。 第 2 6 回講義の際に扱う演習（第 5 回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2 時間）
26	事前学習	あらかじめ演習（第 5 回）の問題を全問検討してくる（2 時間）
	授業内容	演習（第 5 回） 時効①～③を終えて、その復習を兼ねて演習を行う。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する（2 時間）
27	事前学習	これまでの授業レジュメ全てと教科書を参照しながら、あらかじめ演習（第 6 回）の問題を全問検討してくる（2 時間）
	授業内容	総合演習（第 6 回） 民法総則全体を終えて、その重要部分について総復習をする演習を行う。
	事後学習	演習問題の回答を整理する（2 時間）
28	事前学習	これまでのレジュメを全て整理し、授業内試験に備える。 分からない箇所があれば、教科書やレジュメ、さらには図書館にある文献も参照しながら整理する（2 時間）
	授業内容	授業内試験（6 0 分）、解説（3 0 分）
	事後学習	試験において十分に理解していなかった部分の復習をする（2 時間）
29	事前学習	事前に提示された事例問題について、これまでのレジュメや教科書を参考に検討し、様々な可能性を模索して みる（2 時間）
	授業内容	発展的演習（アクティブ・ラーニング形式）① 民法総則の範囲における実務上の問題について、担当教員の弁護士としての実務経験を踏まえながら、事例問題の検討を通じて様々な解決可能性を模索する。
	事後学習	発展的演習の中で疑問に思ったことについて、講義内で紹介した文献を図書館等で探して読んでみる（2 時間）
30	事前学習	事前に提示された事例問題について、これまでのレジュメや教科書を参考に検討し、様々な可能性を模索して みる（2 時間）
	授業内容	発展的演習（アクティブ・ラーニング形式）② 民法総則の範囲における実務上の問題について、担当教員の弁護士としての実務経験を踏まえながら、事例問題の検討を通じて様々な解決可能性を模索する。この最終回は、学生が物権法や債権法にスムーズに入っていけるよう、物権法や債権法をも意識した事例問題を提示する予定である。
	事後学習	発展的演習の中で疑問に思ったことについて、講義内で紹介した文献を図書館等で探して読んでみる（2 時間） 来年度における民法やその延長線上の科目の履修計画を立てる（2 時間）

科目名	民法Ⅱ（物権法）	担当者	加藤 雅之	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	民法総則に関する理解を前提に、民法典第2編「物権」175条から294条までについて学ぶ。もともと、民法の規定は相互に関係しているため、必要に応じて対象範囲以外の規定および特別法についても学ぶ。			
授業目的・到達目標	民法の理解のために必要となる物権法の基本的知識の習得、およびそれによる問題解決能力を養成することを目的とし、（１）対象範囲に関する基本用語および概念を理解し、適切に用いることができること、（２）対象範囲における諸制度・諸規定について、そのような制度・規定が設けられた趣旨を理解し、説明できること、（３）解釈上の問題について、基本的な最上級審の立場（判例）を理解し、説明できること、（４）対象範囲に関する単純な事例について、法律の規定に基づいて論理的に解答できることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1，2，3，5 経営法学科1，3，5 公共政策学科 1，3，4			
履修条件	最新版の六法を持参すること。 民法総則に関する理解を前提として授業を進めるため、民法Ⅰ（民法総則）の単位を修得済みであることが望ましい。			
授業方法	教科書およびポータルシステムにて配信する講義資料を用いて講義を進める。授業内試験および解説講義を授業期間中に行うとともに、試験の解説はポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業期間中に行う試験の結果（80%）および質疑応答等の授業時間中の取り組みの評価（20%）による。 ※ 履修者の人数によっては定期試験を行うこともあり得る。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	有斐閣	民法2物権 [第3版]	千葉恵美子・藤原正則・七戸克彦
	備考			
参考書	佐久間毅著『民法の基礎2物権』（有斐閣・2006年） 田高寛貴著『クロスタディ物権法』（日本評論社・2008年）			
オフィスアワー	木曜日12：20～12：50（授業期間中。事前にメールでアポイントを取ること） 研究室（4号館423号室） メールアドレス：kato.masayuki@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書の目次を確認し、授業の対象となる領域を確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス、物権法概論：民法における物権法の位置づけ
	事後学習	民法とはどのような法律か、および、そのうち物権法はどのような問題を扱うか、について答えられるようにする。（2時間）
2	事前学習	民法総則の内容を復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	民法総則の基本事項の確認
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
3	事前学習	教科書第1章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	所有権の内容：所有権の客体と性質
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
4	事前学習	教科書第1章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	所有権の内容：所有権絶対の原則と所有権の制限
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）

5	事前学習	教科書第2章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	所有権に基づく請求権
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
6	事前学習	教科書第3章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	所有権の原始取得
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
7	事前学習	教科書第4章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	共同所有
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
8	事前学習	教科書第4章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	共同所有
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
9	事前学習	第3回から第8回までの授業内容を復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	PART1 所有権のまとめ
	事後学習	これまでの授業内容を振り返り、不明な点があればまとめておき、次回の授業の際またはオフィスアワーを利用して、質問すること。（2時間）
10	事前学習	教科書第5章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	占有権 占有の保護
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
11	事前学習	教科書第6章および第7章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	占有と所有権の関係
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
12	事前学習	第10回および第11回の授業内容を復習しておくこと。（2時間）
	授業内容	PART2 占有権のまとめ
	事後学習	これまでの授業内容を振り返り、不明な点があればまとめておき、次回の授業の際またはオフィスアワーを利用して、質問すること。（2時間）
13	事前学習	教科書第8章および第9章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	物権変動概論
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
14	事前学習	教科書第10章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	不動産物権変動論
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
15	事前学習	教科書第10章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	登記を必要とする物権変動
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）
16	事前学習	教科書第10章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2時間）
	授業内容	177条の第三者の範囲
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2時間）

17	事前学習	教科書第 1 1 章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2 時間）
	授業内容	動産・立木等の物権変動の特殊性
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2 時間）
18	事前学習	教科書第 1 2 章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2 時間）
	授業内容	善意取得制度
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2 時間）
19	事前学習	教科書第 1 2 章および第 1 3 章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2 時間）
	授業内容	公信の原則
	事後学習	講義資料中の『確認問題』に取り組み、疑問点を次回までに解消しておくこと。（2 時間）
20	事前学習	第 1 3 回から第 1 9 回までの授業内容を復習しておくこと。（2 時間）
	授業内容	P A R T 3 物権変動のまとめ
	事後学習	これまでの授業内容を振り返り、不明な点があればまとめておき、次回の授業の際またはオフィスアワーを利用して、質問すること。（2 時間）
21	事前学習	練習問題について、解答を作成しておくこと。（2 時間）
	授業内容	論点講義 不動産物権変動各論：取消しと登記
	事後学習	講義資料中の『確認問題』を参考に、講義内容を復習しておくこと。（2 時間）
22	事前学習	練習問題について、解答を作成しておくこと。（2 時間）
	授業内容	論点講義 不動産物権変動各論：取得時効と登記
	事後学習	講義資料中の『確認問題』を参考に、講義内容を復習しておくこと。（2 時間）
23	事前学習	練習問題について、解答を作成しておくこと。（2 時間）
	授業内容	論点講義 不動産物権変動における 9 4 条 2 項類推適用法理
	事後学習	講義資料中の『確認問題』を参考に、講義内容を復習しておくこと。（2 時間）
24	事前学習	練習問題について、解答を作成しておくこと。（2 時間）
	授業内容	論点講義 不動産物権変動における背信的悪意者排除法理
	事後学習	講義資料中の『確認問題』を参考に、講義内容を復習しておくこと。（2 時間）
25	事前学習	練習問題について、解答を作成しておくこと。（2 時間）
	授業内容	論点講義 占有改定と即時取得
	事後学習	講義資料中の『確認問題』を参考に、講義内容を復習しておくこと。（2 時間）
26	事前学習	練習問題について、解答を作成しておくこと。（2 時間）
	授業内容	論点講義 占有の訴え
	事後学習	講義資料中の『確認問題』を参考に、講義内容を復習しておくこと。（2 時間）
27	事前学習	これまでの授業内容を復習しておくこと。（2 時間）
	授業内容	授業内試験 論述形式で試験を行う。
	事後学習	試験問題をノートや教科書等を参考に再検討しておくこと。（2 時間）
28	事前学習	前回の試験問題について、完全な解答を作成しておくこと。（2 時間）
	授業内容	授業内試験の解説
	事後学習	自らの解答を確認し、分からない点があれば解消しておくこと。（2 時間）

29	事前学習	教科書第 1 4 章および第 1 5 章を参考にして、講義資料中の『予習問題』に対する解答を準備しておく。（2 時間）
	授業内容	物権法の全体像
	事後学習	講義資料中の『確認問題』を参考に、講義内容を復習しておくこと。（2 時間）
30	事前学習	これまでの授業内容を復習し、不明な点があれば、あらかじめまとめしておくこと。（2 時間）
	授業内容	授業全体のまとめおよび質疑応答
	事後学習	授業全体を通じて得られたものを再確認しておくこと。（2 時間）

科目名	民法Ⅱ（物権法）	担当者	益井 公司	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	物権法に関する各制度の内容につき、通説・判例を中心にして概説する。講義内容を十分理解できるためには、事前に該当する教科書の箇所を読んでおく必要がある。さらに、講義後の復習として、講義で扱われた判例をもう一度さらによく読み、自分で考えてみる必要がある。それで、よくわからない場合には、次回の講義において質問していただきたい。			
授業目的・到達目標	物権法に関する判例。学説の状況を理解するとともに、それを文章でうまく説明できるようになる能力を育成することを目的とする。これにより新たに生じてきた問題にも自分だけで対処することが出来るようになることを目標とする。 関連CP・DP法律学科 1, 2, 3, 5 経営法学科 1, 3, 5 公共政策学科 1, 3, 4			
履修条件	講義には必ず出席すること。			
授業方法	講義形式で進めるが、必要に応じて資料を配布する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	90%	論文式試験による。法的構成、理由づけ等に配慮して答案を構成する必要がある。	
	平常評価	10%	授業の際の質問や、私の質問に対する解答等の授業参加度を考慮して、加点する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2012年	日本評論社	物権法講義（第3版）	山川一陽
	備考			
参考書	必要に応じて講義の際に指示する。			
オフィスアワー	火曜日の12時15分より13時15分までの時間帯で授業講堂にてオフィスアワーを行う（講義のあとで予約を入れるようにしていただきたい）。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	民法総則で民法の学習の仕方を習っていたものと思われるので、それをもう一度出して読んでおいていただきたい。以下すべての事前学習では教科書の該当部分を必ず読んできていることが必要であり、そのことは繰り返して書かないで、その際注意すべき点など留意すべきことのみを簡単に指摘しておくことにした。（2時間）
	授業内容	講義のガイダンス 物権の意義と特質
	事後学習	物権・債権の違い、なぜ両者を峻別しているのか等についてもう一度検討しておくこと。120分の復習をする（以下各授業の事後学習として120分の復習をすること）（2時間）
2	事前学習	物権法定主義にした理由をよく考えながら教科書を読み、慣習法上の物権で物権法定主義に反するものとそうでないものが生じるのはなぜかを考えてみること。120分の予習をすること（以下各授業ごろに事前学習をして120分の予習をすること）（2時間）
	授業内容	物権の種類 ①物権法定主義 ②慣習法上の物権
	事後学習	譲渡担保が認められる理由について、よく検討すること。（2時間）
3	事前学習	特定性、独立性を必要とし、一物一権主義をとっている理由を考えてください。そうすれば必然的に集合物についてどうするかということが理解できるはずである。（2時間）
	授業内容	物権の客体
	事後学習	集合物に関する最判昭和54年2月15日民衆33巻1号51頁、最判昭和62年11月10日民衆41巻6号1559頁をもう一度よく検討すること。（2時間）
4	事前学習	物権・債権を分けたことの意味が物権の効力を検討することで分かるようになります。物権的請求権がなぜ認められているのかの理由を考えらがが、教科書の該当部分をよく読んでいくことが必要である。（2時間）
	授業内容	物権の効力 ①優先的効力 ②物権的請求権
	事後学習	物権的請求権の性質、費用負担の問題は重要である。さらには、物権的請求権の相手方は誰になるのかについての最判平成6年2月8日民衆48巻2号373頁の判例を検討しておくこと。（2時間）

5	事前学習	物権の得喪・変更・喪失が物権変動ですが、それを公示する必要がどうしてあるのか、公示されているものを信頼して取引した場合どうなるのかを考えること。（2時間）
	授業内容	物権変動 ①序説 i 物権変動の意義 ii 公示の原則と公信の原則
	事後学習	不動産登記簿はどのようにできているかを見ることによってどのような形で公示されているかを見ること。民法94条2項の類推適用の意味を検討すること。（2時間）
6	事前学習	フランス法、ドイツ法、日本法の物権変動の法的構造を考えながら教科書を読むこと。日本法の条文をドイツ法がとっているように解釈することもできるが、かなり無理があり、意思主義、対抗要件主義になっていることを理解すること。（2時間）
	授業内容	②物権変動を生じる法律行為 i 物権行為と債権行為 ii 意思主義と形式主義 iii 物権行為の独自性 iv 無因性
	事後学習	物権行為の独自性を認める意味があるのか否かを検討すること。（2時間）
7	事前学習	契約時、代金支払い時、登記時のどこで所有権が移転するか考えてみよ。所有権移転時期を議論する実益はどの点にあるのか。（2時間）
	授業内容	③物権変動の時期
	事後学習	有償性理論で説明することができるのか、さらには段階的所有権移転説（鈴木禄弥）をとることができるか検討せよ。（2時間）
8	事前学習	物権の特質から公示する必要性が出てくることを考えながら教科書を読むこと。（2時間）
	授業内容	不動産物権変動における公示 ①序説 ②公示方法としての登記
	事後学習	なぜ公示の原則がとられているのか、公示の原則は徹底しているかを考えてみよ。（2時間）
9	事前学習	無権利者法理による第三者保護と対抗要件主義による第三者保護の関係を考えよ。さらに、「対抗できない」ということの法的意味について考えること。（2時間）
	授業内容	②不動産物権変動と対抗 i 対抗とは何か
	事後学習	176条で売買の意思表示だけでAからBに所有権が移転しているのならその時点で、すでにAは無権利者のはずなのに、さらにAがCに所有権を移転しCが先に登記するとなぜCが勝つのはなぜかをどう説明するか。（2時間）
10	事前学習	不動産売買契約が取り消されたり解除された場合にその不動産が第三者にすでに売られていたとか、取り消し、解除されたのにそのちに第三者に売られた場合の法的処理について考えよ。民法総則でやった取消の問題と関連させながら理解することが必要である。（2時間）
	授業内容	ii 取消と登記 iii 解除と登記
	事後学習	大審判昭和17年9月30日民衆21巻911頁、最判昭和25年11月29日民衆14巻13号2869頁の判例をよく読むこと。こうした復帰の物権変動説をとるか、遡及的無効説（無権利説）をとるべきか検討せよ。（2時間）
11	事前学習	①共同相続人の登記の冒用、②相続放棄、③遺産分割協議、④遺贈、死因贈与、さらには、⑤相続させる旨の遺言があった場合のケースなどで登記なくして第三者に対抗できるか否かを検討せよ。（2時間）
	授業内容	iv 相続と登記
	事後学習	①最判昭和38年2月22日民集17巻1号235頁、②最判昭和42年1月20日民集21巻1号16頁、③最判昭和46年1月26日民集25巻1号90頁、④最判昭和39年3月6日民集18巻3号437頁、⑤最判平成3年4月19日民集45巻4号477頁をよく読んでみること。（2時間）
12	事前学習	他人Aの不動産を時効取得したBはAに対してだけでなく、Aからの譲り受け人Cに対しても登記なくしてその取得を対抗できるであろうかについて検討せよ。（2時間）
	授業内容	v 時効と登記
	事後学習	①占有開始時における所有者との関係（最判昭和42年7月21日民集21巻6号1653頁）、②時効完成前の第三取得者との関係（最判昭和41年11月22日民集20巻9号1901頁）、時効完成後の第三取得者との関係（最判昭和33年8月28日民集12巻12号1936頁）、さらには、最判昭和46年11月5日民集25巻8号1087頁の判例についても検討せよ。（2時間）
13	事前学習	民法177条にいう「第三者」とはいかなる者をいうか。無制限説をとるか、制限説をとるか、不法占有者に新所有者は登記なくして自分が所有者といえるか、また賃借人に対し新所有者は登記なくして賃料を請求できるかなどを考えよ。177条の第三者には悪意者も含まれるか考えよ。（2時間）
	授業内容	④第三者の範囲 悪意者の問題（背信的悪意者）
	事後学習	①大連判明治41年12月15日民録14輯1276頁（制限説を採用）、②最判昭和25年12月19日民集4巻12号660頁（不法占拠者）、③最判昭和49年3月19日民集28巻2号325頁（賃料請求）、④最判平成18年1月17日民集60巻1号27頁（背信的悪意者）⑤最判平成8年10月29日民集50巻9号2506頁（背信的悪意者からの転得者）の判例につき検討せよ。（2時間）
14	事前学習	登記の効力と順位について考えよ。対抗力、推定力、公信力について検討せよ。（2時間）
	授業内容	登記の推定力と公信力（94条2項の類推適用） 仮登記の効力
	事後学習	最判昭和34年1月8日民集13巻1号1頁（登記の推定力）、登記には公信力がないが94条2項の類推適用により公信力があるのに近い運用がなされている。これらのことにつき整理しておくこと。（2時間）
15	事前学習	登記の申請手続き、登記請求権、登記の有効要件についてみておくこと。特に中間省略登記、登記の流用が重要である。（2時間）
	授業内容	登記手続 登記請求権、登記の有効要件（中間省略登記、登記の流用）
	事後学習	最判昭和40年9月21日民集19巻6号1560頁（中間省略登記）最判昭和49年12月24日民集28巻10号2117頁（登記の流用）について検討せよ。この問題については不動産判例百選を参照のこと。（2時間）

16	事前学習	なぜ明認方法のような対抗要件が必要とされるのかを考えてみること。（2時間）
	授業内容	明認方法等
	事後学習	最判昭和36年5月4日民集15巻5号1253頁の判例を検討すること。（2時間）
17	事前学習	動産物権変動における対抗要件である引き渡しは、現実の引き渡し以外に観念的な引き渡しも認められていることに注意する必要がある。（2時間）
	授業内容	動産物権変動と対抗要件（178条）
	事後学習	間接占有下にある動産の譲渡と「対抗」の関係について、大判大正8年10月16日民録25輯1824頁、最判昭和29年8月31日民集8巻8が追う1567頁を参考に考えてみよ。（2時間）
18	事前学習	なぜ即時取得制度が必要とされるのか、その要件効果はどうなっているのかを事前に教科書で確認しておくこと。占有改定でも即時取得は成立するかについてよく見ておくこと。（2時間）
	授業内容	動産の即時取得
	事後学習	最判昭和35年2月11日民集14巻2号168頁（占有改定と即時取得）、最判平成12年6月27日民集54巻5号1737頁（194条に該当する善意占有者の使用収益権）をよく検討すること。（2時間）
19	事前学習	混同、目的物の滅失、消滅時効、放棄、公用徴収などについて教科書の該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	物権の消滅
	事後学習	混同の問題・海没した土地の所有権の問題・抵当権についての396条などについて検討すること。（2時間）
20	事前学習	占有権が成立するための所持と意思についてみておくこと、相続は新たな権限か、占有承継（187条）の問題についてよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	占有権 ①占有と占有権 ②占有権の取得
	事後学習	最判昭和58年3月24日民集37巻2号131頁（占有意思）、最判昭和32年2月15日民集11巻2号270頁（法人の代表機関と占有）、最判平成8年11月12日民集50巻10号2591頁（相続と新たな権原）、最判昭和53年3月6日民集32巻2号135頁（前主の無過失と10年の取得時効[占有の承継の問題]）につき検討すること。（2時間）
21	事前学習	占有訴権（占有訴権の種類、交互侵奪の問題、占有訴権と本権の訴え）、権利の推定機能、占有者と回復者との関係（果実の取得等不当利得との関係）について見ておくこと。（2時間）
	授業内容	③占有権の効力、占有権の消滅。準占有
	事後学習	大判大13年5月22日民集3巻224頁（交互侵奪の問題）、最判昭和40年3月4日民集19巻2号197頁（占有訴権と反訴による本権の訴え）について検討すること。（2時間）
22	事前学習	近代的所有権の性質、所有権の内容、所有権行使の制限、土地所有権の及ぶ範囲（土地の上下、地中の鉱物、地下水、海面下の土地）（2時間）
	授業内容	所有権 ①所有権の意義と性質 ②所有権の内容
	事後学習	大判昭和10年10月5日民集14巻1965頁（宇奈月温泉事件）等権利の濫用事件、最判昭和52年12月12日判時878号65頁・最判昭和61年12月16日判時1221号3頁（海面下の土地）について検討すること。（2時間）
23	事前学習	隣地通行権や境界付近の工作物に関する相隣関係を中心に教科書の該当部分を、所有権の取得については附合・加工を中心とし他所有権の取得の部分を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	③相隣関係 ④所有権の取得
	事後学習	最判平成2年11月20日民集44巻8号1037頁・最判平成18年3月16日民集60巻3号735頁（通行券の問題）、最判昭和54年1月25日民集33巻1号26頁（建築途中の建物への第三者の工事と所有権の帰属）、最判平成6年1月25日民集48巻1号18頁（建物が合体した場合、抵当権はどうなるか）の判例を検討すること。（2時間）
24	事前学習	共有・合有・総有について理解するとともに、共有物の管理、共有物の分割について教科書の該当部分を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	⑤共有
	事後学習	最判昭和31年5月10日民集10巻5号487頁（共有物の管理）、最判昭和41年5月19日民集20巻5号947頁（共有者相互間の明渡し請求）、最判平成8年10月31日民集50巻9号2563頁（全面的価格賠償を認めた判例）を検討すること。（2時間）
25	事前学習	いわゆるマンション法に關しての概要を簡単に説明するので、教科書の該当部分は必ず読んでくること。（2時間）
	授業内容	⑥建物の区分所有（教科書の記述は簡単すぎるのでもう少し詳しく説明する）
	事後学習	この部分については、皆さんにとっても重要となることが考えられるので、区分所有法に関するいくつかの本を紹介するので、さらに勉強したい人はそれを読んでください。（2時間）
26	事前学習	以下用益物権についての概略を説明し、地上権に入っていく、賃借権の物権化との関係も考えながら、該当箇所を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	地上権、区分地上権
	事後学習	借地借家法による修正を検討しておくこと。（2時間）
27	事前学習	小作権の歴史や農地法の制定との関係で永小作権のことを考えるとともに、日本の農政をどうするかということを考えていただきたい。（2時間）
	授業内容	永小作権
	事後学習	農地法が大きく変わっていることとの関係を考えて、日本の農政がどうあるかを再検討すること。（2時間）

28	事前学習	地役権とは何かを理解するとともに、地役権の対抗力については、重要な判例がいくつかあるのでそれを読んでおくこと（その一つは爾後学習の欄に示している）。（2時間）
	授業内容	地役権
	事後学習	最判平成10年2月13日民集52巻1号62頁（未登記地役権の対抗力）について再検討すること。（2時間）
29	事前学習	入会権の社会的意義、法的性質、入会権の内容、入会権の変動、入会権の近代化事業等について該当部分を読みながら考えること。（2時間）
	授業内容	入会権
	事後学習	最判昭和48年3月13日民集27巻2号272頁（官地編入によっても入会権は消滅しない）、最判平成6年5月31日民集48巻4号1065頁（入会団体による総有権確認請求権）について検討すること。（2時間）
30	事前学習	これまで学習したことでよくわからない点について質問できるよう、自分のノート等を整理してみること。（2時間）
	授業内容	まとめと質問受付（事前学習をした結果わからないことがあった場合質問を受け付け、それにこたえとともに、法律の答案の書き方等について説明する）
	事後学習	質問の回答を基によりさらに自分で考えてみること。（2時間）

科目名	民法Ⅱ（物権法）	担当者	矢田 尚子	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、民法の中でも物権法とよばれる分野を学びます。物権は、取っ付きにくい印象を受けるかもしれませんが、しかし、物権を学ぶということは、社会のなりたちを知ることにはほかならず、また考えることの楽しさを知ることができる分野です。具体的な事例をあげ、ゆっくり丁寧に説明をしていきますので、一緒に学んでいきましょう。				
授業目的・到達目標	この講義では、民法の中でも物権法とよばれる分野の基礎的・体系的な理解をしっかりと身につけてもらうことを目的とします。物権法の基本的概念を正確に修得することを到達目標とします。 関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5 経営法学科1, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	講義には必ず出席すること、最新の六法を持参すること、わからない法律用語がでてきたら、面倒がらずに調べること				
授業方法	レジュメを配布し、講義形式で進めていきます。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		100%		物権法の基礎知識が身についているかを判定します。
	平常評価		0%		
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2013	一学舎		ロードマップ民法②－物権－	小川富之・矢田尚子編
	備考				
参考書	法令用語研究会編『有斐閣法律用語辞典(第4版)』（有斐閣・2012）				
オフィスアワー	原則として火曜日の12:15～12:50に研究室（本館 7 F 1720）にて、講義内容につき、質問を受け付けます。 （※相談の上、別の日時に設定することもあります。）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストを購入し、目次に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	ガイダンス（条文の読み方、法律用語の確認） （※六法を持参すること）
	事後学習	レジュメを復習しておくこと（2時間）
2	事前学習	事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	物権制度と物権の権能
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
3	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでくこと 民法総則のテキストの該当箇所（物）を読んでくこと 事前に配布したレジュメに目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	物権の意義、物権の対象
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
4	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでくこと 事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	物権の効力
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）

5	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでくること 事前に配布したレジュメに目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	物権的請求権
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
6	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでくること 事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	物権変動① 総説
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
7	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでくること 事前に配布したレジュメに目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	物権変動② 物権変動を生じる法律行為
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
8	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでくること 事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	物権変動③ 物権変動の時期
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
9	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでくること 事前に配布したレジュメに目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	不動産に関する物権変動① 登記の意義、機能
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
10	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでくること 事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	不動産に関する物権変動② 登記の効力
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
11	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでくること 事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	不動産に関する物権変動③ 二重譲渡の法的構成（対抗要件主義など）
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
12	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでくること 民法総則のテキストの該当箇所（法律行為、取り消し・無効）を読んでくること 事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	不動産に関する物権変動④登記を必要とする物権変動 （1）法律行為の取消と登記
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
13	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでくること 民法総則のテキストの該当箇所（法律行為、取り消し・無効）を読んでくること 事前に配布したレジュメに目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	不動産に関する物権変動⑤登記を必要とする物権変動 （2）解除と登記
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
14	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでくること 事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	不動産に関する物権変動⑥登記を必要とする物権変動 （3）相続と登記
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
15	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでくること 民法総則のテキストの該当箇所（時効）を読んでくること 事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	不動産に関する物権変動⑦登記を必要とする物権変動 （4）取得時効と登記
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
16	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでくること 事前に配布したレジュメに目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	不動産に関する物権変動⑧ 177条の第三者
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）

17	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでもくこと 事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	不動産に関する物権変動⑨ 不動産取引と登記（まとめ）
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間） （不動産に関する物権変動につき、事例問題を中心に全体を総復習すること）
18	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでもくこと 事前に配布したレジュメに目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	動産に関する物権変動① 動産取引と占有
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
19	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでもくこと 事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	動産に関する物権変動② 動産取引と即時取得
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
20	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでもくこと 事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	立木等に関する物権変動、物権の消滅
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間） （動産に関する物権変動につき、事例問題を中心に全体を総復習すること）
21	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでもくこと 事前に配布したレジュメの該当箇所を読んでもくこと（2時間）
	授業内容	占有権① 意義、機能、態様
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
22	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでもくこと 事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	占有権② 占有訴権と物権的請求権
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
23	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでもくこと 事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	所有権① 意義、性質、内容
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
24	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでもくこと 事前に配布したレジュメに目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	所有権② 相隣関係、所有権の取得原因
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
25	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでもくこと 事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	所有権③ 共有
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
26	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでもくこと 事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	所有権④ 建物の区分所有
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
27	事前学習	講義内で指示したテキストの該当箇所を読んでもくこと 事前に配布したレジュメの該当箇所に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	用益物権（地上権、永小作権地役権、入会権）
	事後学習	レジュメを参考にしつつ、テキストの該当箇所を復習すること（2時間）
28	事前学習	テストに向けてテキスト全体の見直しを行うこと（2時間）
	授業内容	ゲストスピーカー（不動産の専門家に話をきいてみよう！①）
	事後学習	テキストの事例問題を中心に復習すること（2時間）

29	事前学習	テストに向けてテキストの復習をすること（2時間）
	授業内容	ゲストスピーカー（不動産の専門家に話をきいてみよう！②）
	事後学習	テストに向けてテキストの総復習をすること（2時間）
30	事前学習	テストに向けてテキストの総復習をすること 質問事項がないかを考えてくること（2時間）
	授業内容	総まとめ、質問受付、答案の書き方など
	事後学習	テストに向けてテキストの総復習をすること（2時間）

科目名	民法Ⅱ（物権法）	担当者	根本 晋一	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	民法学における、物権法総論と、物権法各論の一部、すなわち占有権、所有権、用益物権（地上権、永小作権、地役権）について説明をする。				
授業目的・到達目標	民法学における「物権」の体系的な位置付けと、「物権法」領域の内容、即ち、物権法総論・占有権・所有権・用益物権の全体像を理解することを目的とする。これらの理解と修得を前提として「物権法」領域における基本論点の解釈ができるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 4 経営法学科1, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義形式を採用し、板書事項をしっかりと示す。なお、シラバス（学習計画）は凡その目安である。法改正や新判例、新論点を追加した場合、シラバスと進行に齟齬が生じる場合もある。 フィードバックは授業内もしくはポータルサイトにて行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	レポート試験を実施しない場合のみ、実施する。	
	平常評価		30%	授業参加度	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	授業開始後に紹介をする。			
参考書	授業開始後に紹介をする。				
オフィスアワー	水道橋における出講は前期土曜日の午前中のみなので、原則として授業の前後の休み時間に対応をする。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンスなど
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
2	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	物権法総論（意義、直接支配性と物権的請求権、排他性と対抗力、債権との相違、債権に対する優先的効力、物権法定主義など）①
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
3	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	物権法総論（意義、直接支配性と物権的請求権、排他性と対抗力、債権との相違、債権に対する優先的効力、物権法定主義など）②
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
4	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	物権法総論（意義、直接支配性と物権的請求権、排他性と対抗力、債権との相違、債権に対する優先的効力、物権法定主義など）③
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）

5	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	物権変動総論（物権変動の原因、物権変動意思主義の原則、物権変動公示の原則、対抗関係の意義など）①
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
6	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	物権変動総論（物権変動の原因、物権変動意思主義の原則、物権変動公示の原則、対抗関係の意義など）②
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
7	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	物権変動総論（物権変動の原因、物権変動意思主義の原則、物権変動公示の原則、対抗関係の意義など）③
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
8	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）①
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
9	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）②
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
10	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）③
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
11	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）④
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
12	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）⑤
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
13	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）⑥
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
14	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	不動産物権変動（対抗要件としての登記、登記の意義と効力、公信力の有無、第177条に関する解釈上の諸問題、明認方法など）⑦
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
15	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	動産物権変動（対抗要件としての「引渡し（占有）」、「引渡し」の意義、即時取得など）①
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
16	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	動産物権変動（対抗要件としての「引渡し（占有）」、「引渡し」の意義、即時取得など）②
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）

17	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	動産物権変動（対抗要件としての「引渡し（占有）」、「引渡し」の意義、即時取得など）③
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
18	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	占有権（意義と効力、占有訴権、準占有など）
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
19	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	所有権総論（意義と効力、完全物権と制限物権、不動産所有権に関する相隣関係など）
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
20	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	所有権の取得（取得原因、無主物先占、遺失物拾得、埋蔵物発見、附合、混和、加工、など）①
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
21	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	所有権の取得（取得原因、無主物先占、遺失物拾得、埋蔵物発見、附合、混和、加工、など）②
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
22	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	共有（共有の意義、共有物の変更と管理、分割、準共有、区分所有法など）①
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
23	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	共有（共有の意義、共有物の変更と管理、分割、準共有、区分所有法など）②
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
24	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	共有（共有の意義、共有物の変更と管理、分割、準共有、区分所有法など）③
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
25	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	地上権（意義と効力、区分地上権、不動産賃借権との相違、とくに借地借家法の適用を受ける建物所有を目的とする借地について）①
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
26	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	地上権（意義と効力、区分地上権、不動産賃借権との相違、とくに借地借家法の適用を受ける建物所有を目的とする借地について）②
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
27	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	永小作権、地役権、入会権など①
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
28	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	永小作権、地役権、入会権など②
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）

29	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	補遺・調整・まとめ①
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）
30	事前学習	前回授業時の板書をよく読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	補遺・調整・まとめ②
	事後学習	板書事項が多いので、それをしっかりと録取して、よく復習しておくこと。（2時間）

科目名	民法Ⅲ(担保物権法)【法職課程】	担当者	清水 恵介	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	条文上は、民法第2編物権のうち、第295条から第398条の22までが対象領域であるが、金融実務に促される形で日々発展を遂げている非典型担保の諸類型も、担保物権法の重要な領域の1つを構成している。全体として、債権の回収を容易にするための様々な物的保護手段を扱うことになる。			
授業目的・到達目標	【授業目的】一般に理解が困難とされる担保法の仕組みやその社会的意義を理解し、的確に説明することができる力を養成することを目的とする。 【到達目標】担保物権法に関する諸制度の基礎的知識を身につけ、その適用対象となる事象を論理的、合理的かつ批判的に考察することができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5			
履修条件	最新版の六法を持参すること。また、民法Ⅰ・Ⅱ（民法総則・物権法）の単位を修得する程度の知識を有することが前提となる。			
授業方法	実務や学界の動向、最新判例なども視野に入れつつ講義を行う。授業内試験の講評及び解説を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業内に行われる試験は、授業内容を踏まえて出題される設問を論述式で解答させる。その論述内容により、担保物権法の理解度をはかり、評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015年	日本評論社	担保物権法（日評ベーシック・シリーズ）	田高寛貴＝白石大＝鳥山泰志
	備考	なし		
参考書	授業内で適宜教示する。			
オフィスアワー	当該授業に関する質問を、授業期間中の火曜日12時～13時に研究室で受け付ける。ただし、オフィスアワーを利用した質問を希望する学生は、ガイダンスの際に教示するメールアドレス宛てに、質問の概要及び希望日を事前に通知し、希望者の競合等により対応不能である旨の回答がない場合であることを条件とする。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、授業概要を踏まえつつ、各回の授業内容を読み込む。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス】 履修条件を満たし得ることを確認した上で、シラバスに沿って授業概要や授業目的・到達目標、授業方法、成績評価の基準、教科書・参考書について説明し、次回以降、受講生が授業に参加できるよう、その準備や心構えを促す。
	事後学習	授業での説明内容を確認し、教科書・参考書・六法・ノート購入等、受講に向けた具体的準備を行う。（2時間）
2	事前学習	教科書第1章のうち、1～8頁を読み、担保物権の意義や種類について考察する。（2時間）
	授業内容	【担保物権法序説(1)：担保物権の機能・種類】 本授業の全体像を把握させるため、担保物権一般の機能や種類を整理して説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
3	事前学習	教科書第1章のうち、8～15頁を読み、担保物権と他分野の権利との比較や担保物権の通有性について考察する。（2時間）
	授業内容	【担保物権法序説(2)：他分野の権利との比較、担保物権の通有性】 前回の授業に引き続き、担保物権法の序説として、担保物権が他の物権や債権との間で示す性質や効力を説明するとともに、人的担保との対比や、付従性や随伴性、不可分性、物上代位性といった担保物権が共通して有する性質（通有性）について説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
4	事前学習	教科書第2章のうち、16～22頁を読み、抵当権の意義について考察する。（2時間）
	授業内容	【抵当権(1)：抵当権の意義】 実務上の典型的な担保物権である抵当権について、公示の原則をはじめとする諸原則を説明し、特別法上の特殊な抵当権を概観するとともに、価値権説に代表される抵当権の本質をめぐる議論を説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）

5	事前学習	教科書第2章のうち、22～29頁を読み、抵当権の設定・公示・対抗や抵当権の被担保債権の範囲について考察する。（2時間）
	授業内容	【抵当権(2)：抵当権の設定・公示・対抗、被担保債権の範囲】 抵当権設定契約と抵当権の被担保債権・目的物について説明するとともに、抵当権の公示方法・対抗要件としての登記について、その諸問題とともに説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
6	事前学習	教科書第2章のうち、29～37頁を読み、抵当権の効力が及ぶ目的物の範囲について考察する。（2時間）
	授業内容	【抵当権(3)：抵当権の効力が及ぶ目的物の範囲】 抵当目的物本体である不動産（土地・建物）だけでなく、付加一体物や従たる権利、果実など、不動産に関連する他の物にも抵当権の効力が及ぶかといった目的物の範囲をめぐる諸問題を説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
7	事前学習	教科書第2章のうち、37～44頁を読み、抵当権侵害について考察する。（2時間）
	授業内容	【抵当権(4)：抵当権侵害】 担保権侵害一般の特徴を説明した後、抵当権侵害をめぐる諸問題として、抵当権に基づく物権的請求権、損害賠償請求権、期限の利益喪失、増担保請求権を採り上げて説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
8	事前学習	教科書第2章のうち、45～53頁を読み、抵当権に基づく物上代位の意義・対象・手続について考察する。（2時間）
	授業内容	【抵当権(5)：物上代位の意義・対象・手続】 担保物権の通有性としての物上代位について一般的な説明を加えた後、抵当権に基づく物上代位を採り上げ、その意義・対象・手続について説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
9	事前学習	教科書第2章のうち、53～58頁を読み、前回の授業内容を踏まえつつ、抵当権に基づく物上代位と第三者の権利との競合について考察する。（2時間）
	授業内容	【抵当権(6)：物上代位と第三者の権利との競合】 前回の授業に引き続き、抵当権に基づく物上代位に関する諸問題として、抵当権に基づく物上代位と第三者の権利との競合について採り上げて説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
10	事前学習	教科書第2章のうち、59～68頁を読み、担保不動産競売や担保不動産収益執行について考察する。（2時間）
	授業内容	【抵当権(7)：担保不動産競売、担保不動産収益執行】 抵当権が有する優先弁済権の実現過程のうち、担保不動産競売について、その具体的手続の流れを中心に説明するとともに、2003年改正により創設された担保不動産収益執行についても説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
11	事前学習	教科書第2章のうち、68～73頁を読み、共同抵当について考察する。（2時間）
	授業内容	【抵当権(8)：共同抵当】 同一の債権の担保として複数の不動産に設定される抵当権を意味する共同抵当について、とりわけ配当段階に生じる後順位抵当権者の代位（民法392条2項後段）をめぐる諸問題をを中心に説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
12	事前学習	教科書第2章のうち、74～78頁を読み、抵当不動産の賃借人の保護について考察する。（2時間）
	授業内容	【抵当権(9)：賃借人の保護】 抵当目的不動産の利用権と抵当権との調整に関し、特に賃借人を保護するための制度として、いずれも2003年改正により導入され、建物の明渡猶予の制度（民法395条）と、抵当権者の同意による賃借権への対抗力の付与の制度（同387条）を採り上げて説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
13	事前学習	教科書第2章のうち、79～86頁を読み、担保不動産競売に伴う法定地上権の制度趣旨と、その成立要件のうち地上建物の存在の要件について考察する。（2時間）
	授業内容	【抵当権(10)：法定地上権の制度趣旨・要件(1)建物存在要件】 抵当不動産の競売に伴い成立する民法388条の法定地上権について、その制度趣旨とともに、その成立要件のうち、地上建物の存在の要件について説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
14	事前学習	教科書第2章のうち、86～95頁を読み、前回の授業内容を踏まえつつ、担保不動産競売に伴う法定地上権の成立要件のうち同一所有者要件について考察する。（2時間）
	授業内容	【抵当権(11)：法定地上権の要件(2)同一所有者要件、一括競売】 前回の授業に引き続き、抵当不動産の競売に伴う法定地上権の成立要件のうち、土地と建物が同一の所有者に属することの要件（同一所有者要件）について、判例上現れる諸類型をめぐる問題を中心的に採り上げて説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
15	事前学習	教科書第2章のうち、95～99頁を読み、抵当権者と抵当不動産の第三取得者との関係について考察する。（2時間）
	授業内容	【抵当権(12)：第三取得者との関係】 抵当権設定後の不動産を取得した第三者を意味する第三取得者につき、これを保護する法的仕組みとして、第三者弁済・代価弁済のほか、抵当権消滅請求を採り上げて説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）

16	事前学習	教科書第2章のうち、100～107頁を読み、抵当権の処分・消滅について考察する。（2時間）
	授業内容	【抵当権(13)：抵当権の処分・消滅】 転抵当や抵当権の譲渡・放棄、抵当権の順位の譲渡・放棄といった抵当権の種々の処分について説明するとともに、近時判例が出現している抵当権の消滅をめぐる諸問題を採り上げて説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
17	事前学習	教科書第2章のうち、107～112頁を読み、根抵当権について考察する。（2時間）
	授業内容	【抵当権(14)：根抵当権】 実務上も重要な抵当権の類型である根抵当権について、通常の抵当権との違いを中心に説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
18	事前学習	教科書第2章をおさらいするとともに、教科書第3章のうち、113～116頁を読み、質権の種類・意義・設定について考察する。（2時間）
	授業内容	【抵当権(15)：特別法上の抵当権／質権(1)：質権の種類・意義・設定】 前回までの授業内容を踏まえつつ、特別法上の抵当権について詳述した後、質権のパートに進み、その種類・意義・設定について整理して説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
19	事前学習	教科書第3章のうち、117～124頁を読み、質権の効力・実行・消滅と権利質について考察する。（2時間）
	授業内容	【質権(2)：質権の効力・実行・消滅、権利質】 前回の授業に引き続き、質権のうち、その効力・実行・消滅について説明するとともに、特殊な質権である権利質について、債権質を中心に説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
20	事前学習	教科書第4章のうち、125～133頁を読み、非典型担保の意義のほか、譲渡担保の意義と法的構成について考察する。（2時間）
	授業内容	【非典型担保(1)：非典型担保の意義、譲渡担保の意義・法的構成】 民法に規定されていない担保手段としての非典型担保について、その実務上の意義を説明するとともに、実務上多く用いられる非典型担保としての譲渡担保につき、その意義を説明し、併せて、その法的構成をめぐる問題についても説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
21	事前学習	教科書第4章のうち、133～139頁を読み、譲渡担保の目的物と公示・対抗・実行について考察する。（2時間）
	授業内容	【非典型担保(2)：譲渡担保の目的物と公示・対抗・実行】 前回の授業に引き続き、譲渡担保をめぐる諸問題のうち、その目的物と公示・対抗・実行に関する問題を、判例を中心に採り上げて説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
22	事前学習	教科書第4章のうち、139～145頁を読み、譲渡担保の対外的効力について考察する。（2時間）
	授業内容	【非典型担保(3)：譲渡担保の対外的効力】 前回の授業に引き続き、譲渡担保をめぐる諸問題のうち、その対外的効力に関する問題を、判例を中心に採り上げて説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
23	事前学習	教科書第4章のうち、145～153頁を読み、仮登記担保と所有権留保について考察する。（2時間）
	授業内容	【非典型担保(4)：仮登記担保、所有権留保】 譲渡担保以外の非典型担保として、特別法上の規律がある仮登記担保のほか、近時重要判例が続出している所有権留保を採り上げて説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
24	事前学習	教科書第4章のうち、154～164頁を読み、非典型担保としての債権担保について考察する。（2時間）
	授業内容	【非典型担保(5)：債権担保】 債権譲渡担保や相殺の担保的機能、代理受領、振込指定といった非典型担保としての債権担保を採り上げて説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
25	事前学習	教科書第5章のうち、165～176頁を読み、先取特権について考察する。（2時間）
	授業内容	【法定担保(1)：先取特権】 当事者の約定がなくても成立する法定担保のうち、特別法を含めて種々の類型がみられる先取特権を採り上げて説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
26	事前学習	教科書第5章のうち、176～183頁を読み、留置権の意義のほか、民事留置権の成立要件について考察する。（2時間）
	授業内容	【法定担保(2)：留置権の意義、民事留置権の成立要件】 法定担保のうち、留置権について、その一般的意義を説明した上で、民法295条以下に基づく民事留置権を採り上げ、その成立要件について説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）

27	事前学習	教科書第5章のうち，184～190頁を読み，民事留置権の効力消滅と商事留置権について考察する。（2時間）
	授業内容	【法定担保(3)：民事留置権の効力・消滅，商事留置権】 前回の授業に引き続き，民事留置権のうち，その効力・消滅について説明した上で，商事留置権についても採り上げ，民事留置権との違いを中心に説明し，理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し，わからない箇所については教科書を再度確認した上で，授業のテーマについて再検討する。（2時間）
28	事前学習	教科書の各章のうち，欠席等により理解が不十分であった箇所を読み直し，授業内試験に向けて学習事項をまとめる。（2時間）
	授業内容	【授業内試験及びまとめ(1)】 授業内試験を実施するとともに，残った時間で全体のまとめとなるポイントを説明し，理解させる。
	事後学習	授業内試験やその後の説明を通じて理解が不十分であった箇所について，教科書や参考書等を確認した上で再検討する。（2時間）
29	事前学習	前回の授業まででなお理解が不十分であった箇所について考察し，授業内での質問事項をまとめる。（2時間）
	授業内容	【授業内試験（予備日）及びまとめ(2)】 これまでの授業内容に対する質問を受け付けるとともに，やむを得ない事由により前回の授業内試験を受験できなかった者のための追試験を実施する。
	事後学習	自分や他の学生が行った質問やそれに対する教員の回答について，その場で理解できなかった点を教科書や参考書等に当たって確認し，再検討する。（2時間）
30	事前学習	授業内試験で扱われたテーマについて，再度教科書等に当たって考察する。（2時間）
	授業内容	【試験の講評】 授業内試験の採点結果を踏まえ，特に誤りがちであった点を中心に講評し，随時質問を受け付ける。
	事後学習	試験の講評内容やその後の質疑応答について，その場で理解できなかった点を教科書や参考書等に当たって確認し，再検討する。（2時間）

科目名	民法Ⅲ（担保物権法）	担当者	長谷川 貞之	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
-----	------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、担保の仕組みを理解し、社会で用いられる様々な物的担保についてアプローチするための基礎理論を学習する。担保は、債権の履行を確保する法的手段として現代社会では重要な意味をもっている。担保は大別して人的担保と物的担保に分類されるが、この講座では主に、民法典が定める抵当権などの担保物権の基礎理論を学習し、企業実務で用いられることの多い譲渡担保や仮登記担保、所有権留保などの非典型担保の仕組みを学習する。				
授業目的・到達目標	中級・上級科目及び発展科目の履修のために必要となる担保物権の基礎理論の修得を目的とする。 現代社会で用いられる様々な担保にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、人的担保を含む担保法学の基礎理論を修得し、債権の履行を確保する法的手段である担保について、受講生が説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5 経営法学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	民法総則は履修済みであること。物権法の基礎理論については履修していることが望ましいが、本講義でも復習を兼ねて講義をする。債権法総論と各論は本講義と合わせて履修することが望ましい。				
授業方法	教科書に即して講義形式で行う。適宜、ソクラテス・メソッドを用いる。基本判例や現役弁護士の教員が実際に担当した事件等を紹介しながら、具体的な設例を挙げて講義する。考える授業をモットーとする。試験終了後、解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	授業等で学んだ基本的な事項および裁判例について、筆記試験により基礎学力を判定し評価する。受講者数によっては、授業内試験に切り替えることもある。	
	平常評価		20%	課題の取組み（予習・復習）を評価の対象として考慮する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	有斐閣		民法Ⅱ——物権【題4版】＜有斐閣Sシリーズ＞	淡路剛久ほか
	備考				
参考書	椿寿夫=中倉寛樹編『解説 新・条文にない民法』（日本評論社、2011年）、松本恒雄・潮見佳男編『判例プラクティスⅠ』（信山社、2013年）。このほか、授業中に、適宜紹介する。				
オフィスアワー	木曜日・12時30分～50分、研究室（4号館2階443）。事前にアポイントを取ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	あらかじめ教科書を2・3回通読する。併せて、これから学ぶ民法典の担保物権に関する規定（民法295条―398条の22）を音読しておく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス：担保物権法を学ぶ意義 序論：担保の意義——これから学ぶ“担保”とは何か？
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 物的担保の概要および民法典における担保物権の輪郭を把握し、整理する。（2時間）
2	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、民法典が定める4種類の担保物権（典型担保）の特徴を把握しておく。（2時間）
	授業内容	物権法における担保物権の位置付け―「物」を「直接に」「債権」の「担保にあてる」法律上の手段とは？
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
3	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、担保物権の種類ごとに法的性質を調べておく。（2時間）
	授業内容	担保物権の意義・種類、法的性質／特別法上の担保物権——各種の財団抵当制度、企業担保権、立木抵当ほか
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）
4	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、担保物権の効力を調べておく。（2時間）
	授業内容	担保物権の効力
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）

5	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、留置権の沿革を調べておく。（2時間）
	授業内容	法定担保物権 留置権の意義・法的性質など
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 留置権の意義・性質を整理するとともに、同時履行の抗弁権との異同を整理する。（2時間）
6	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、留置権の成立要件を確認しておく。（2時間）
	授業内容	留置権の成立要件
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 とくに、物と債権と牽連関係について裁判例を整理し、理解を深める。「課題と質問」に取り組む。（2時間）
7	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、留置権の効果を確認しておく。（2時間）
	授業内容	留置権の効力・留置権の消滅
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
8	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、先取特権の沿革、先取特権が担保目的物に着眼してどのように分類されるかを調べておく。（2時間）
	授業内容	先取特権の意義・法的性質・種類
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）
9	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、先取特権の効果を確認しておく。（2時間）。
	授業内容	先取特権の順位・効力・消滅
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
10	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、質権の沿革、現代社会における質権の役割・機能を調べておく。（2時間）
	授業内容	約定担保物権 質権の意義・性質・対象・種類
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）
11	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、質権設定の一般的要件および効果を確認しておく。（2時間）
	授業内容	質権の設定・効力
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
12	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、質権が設定される目的物に即して、質権設定の要件および効果を確認しておく。（2時間）
	授業内容	動産質権と不動産質権と権利質―それぞれの意義・成立要件・効力
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
13	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、抵当権の沿革、取引社会における抵当権の機能・役割、近代抵当制度という観点から、わが国の抵当制度がどのような特徴を有しているかをなどを確認しておく。（2時間）
	授業内容	抵当権の意義・法的性質、抵当権の設定と対象など
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
14	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、抵当権が不動産に設定されることの意味、抵当権の効力が及ぶ目的物の範囲を確認しておく。（2時間）
	授業内容	抵当権の効力の及ぶ範囲（目的物）
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
15	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、抵当権の実行によって担保される債権の範囲を確認しておく。（2時間）
	授業内容	抵当権の効力の及ぶ範囲（被担保債権）
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）
16	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、抵当権の実効手続としてどのようなものがあるかを把握しておく。（2時間）
	授業内容	抵当権の実効手続――担保不動産の競売、抵当権の物上代位、担保不動産収益執行
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）

17	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、抵当不動産に対する抵当権者と利用権者との利害の対立とその調整方法、抵当不動産の第三取得者の地位などについて確認しておく。（2時間）
	授業内容	抵当権と利用権との関係、抵当不動産の第三取得者の地位など
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
18	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、抵当権者と利用権者との利害調整として、法定地上権がどのような機能を有しているかを確認しておく。（2時間）
	授業内容	法定地上権の意義・成立要件など
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
19	事前学習	抵当権の処分とは何かを、民法典の規定および教科書を読み、確認しておく。（2時間）
	授業内容	抵当権の処分=転抵当・譲渡・放棄・順位の譲渡など
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
20	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、共同抵当の意義、配当方法における同時配当と異時配当の関係を確認しておく。（2時間）
	授業内容	共同抵当
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）
21	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、極度額と元本確定という観点から根抵当の仕組みを確認しておく。（2時間）
	授業内容	根抵当①——根抵当制度の概要：根抵当権の意義と性質、設定と内容
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
22	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、根抵当権の内容の変更と処分をめぐる問題について確認しておく。（2時間）
	授業内容	根抵当②——根抵当権の内容の変更と処分：極度額の変更、被担保債権の譲渡・質入れ、根抵当権の譲渡など
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）
23	事前学習	教科書を熟読し、民法典が定める典型担保以外にどのような担保があるか、その特徴について確認しておく。（2時間）
	授業内容	非典型担保①：総論
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
24	事前学習	教科書を熟読し、譲渡担保の沿革、譲渡担保の意義と特色について確認しておく。（2時間）
	授業内容	非典型担保②：譲渡担保①
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）
25	事前学習	教科書を熟読し、譲渡担保の効力について、対内的関係と対外的関係の観点から確認しておく。（2時間）
	授業内容	非典型担保③：譲渡担保②
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
26	事前学習	教科書を熟読し、仮登記担保の意義と特色、立法上の手続について確認しておく。（2時間）
	授業内容	非典型担保④：仮登記担保
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）
27	事前学習	教科書を熟読し、所有権留保の意義と特色について確認しておく。（2時間）
	授業内容	非典型担保⑤：所有権留保
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
28	事前学習	教科書を熟読し、工場財団を中心とした各種の財団抵当制度、企業担保などの仕組みを確認しておく。（2時間）
	授業内容	特殊の担保——工場抵当法における工場財団、その他の財団抵当制度、企業担保など
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）

29	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、民法における非担保制度としての担保的利用としてどのようなものがあるか確認しておく。（2時間）
	授業内容	その他の担保：代理受領、再売買予約など
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
30	事前学習	教科書のページの余白に記載してある★印（重要度に応じて3段階）に注意して教科書を通読し、重要な論点を確認する。（2時間）
	授業内容	総括と質疑応答／授業内試験
	事後学習	これまでの授業内容を、教科書および配布プリントを参考に総括し、まとめる。 「課題と質問」を整理する。（2時間）

科目名	民法Ⅲ（担保物権法）	担当者	峯川 浩子	部別	第二部	期間	前期	単位数	4
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	民法典第3編物権における、留置権、先取特権、抵当権等の典型担保物権および金融実務等によって日々発展を遂げている譲渡担保等の非典型担保物権を取り上げ、担保物権の法律上の意義、要件、効果、解釈上の問題点等を体系的に学習する。			
授業目的・到達目標	担保物権の基本構造、基本概念、原理・原則および諸制度の基礎的知識を習得し、担保物権法の内容を正確に理解することが目的である。単なる知識の習得のみならずその知識を活用して、この領域で生じる初歩的かつ具体的な問題を解決する能力を身につけることが到達目標である。 関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5 経営法学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	民法総則を履修済みであること。物権・債権総論を履修済みないし履修中であることが望ましい。			
授業方法	講義形式による。2コマ続きとなるので、練習問題を解くなど気分転換をはかりつつ効率よく授業をすすめたい。授業内で実施した試験は、後日ポータルシステムで解説を配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	試験の結果を評価する。	
	平常評価	20%	授業態度、学習への取り組み、質問等を評価の対象とする。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	平成23年	弘文堂	担保物件法〔第3版〕	山川一陽
	備考	レジュメを配布して授業を進めるので教科書は持参しなくても構わない。事前・事後学習で活用してもらいたい。 条文を参照するので六法を必ず持参すること。		
参考書	椿寿夫＝中舎寛樹編『解説・新・条文にない民法』（日本評論社、2011年）			
オフィスアワー	金曜授業終了後19:30～ 授業講堂にて質問を受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの確認（2時間）
	授業内容	ガイダンス、担保物権とは何か
	事後学習	復習（2時間）
2	事前学習	教科書7頁～15頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	担保物権の構成、種類、意義
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
3	事前学習	教科書16頁～24頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	担保物権に共通して認められる性質
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
4	事前学習	教科書25頁～31頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	留置権（1）意義、法的性格、成立要件
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）

5	事前学習	教科書32頁～49頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	留置権（2）成立要件、効力、消滅
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
6	事前学習	教科書51頁～66頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	先取特権（1）意義、法的性質、種類
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
7	事前学習	教科書67頁～74頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	先取特権（2）順位、効力、消滅
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
8	事前学習	教科書75頁～81頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	質権（1）質権の概要、質権の設定
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
9	事前学習	教科書82頁～98頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	質権（2）質権の効力、転質
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
10	事前学習	教科書82頁～98頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	質権（3）動産質権と不動産質権
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
11	事前学習	教科書99頁～104頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	質権（4）債権質権と機能、対抗要件
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
12	事前学習	教科書107頁～132頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	抵当権（1）抵当権の意義と機能、法的性質
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
13	事前学習	教科書133頁～150頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	抵当権（2）抵当権の設定
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
14	事前学習	教科書143頁～153頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	抵当権（3）抵当権の効力・範囲
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
15	事前学習	教科書107頁～153頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	抵当権（4）前半まとめ
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
16	事前学習	教科書169頁～173頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	抵当権（5）抵当権の用益権の関係：法定地上権
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）

17	事前学習	教科書169頁～173頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	抵当権（6）抵当権の用益権の関係：法定地上権
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
18	事前学習	教科書195頁～204頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	抵当権（7）抵当権と賃借人の保護
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
19	事前学習	教科書155頁～165頁、201～204頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	抵当権（8）抵当権侵害、抵当不動産の第三取得者の地位
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
20	事前学習	教科書205頁～217頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	抵当権（9）転抵当、譲渡、放棄
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
21	事前学習	教科書215頁～217頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	抵当権（10）共同抵当権
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
22	事前学習	教科書219頁～225頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	根抵当権（1）根抵当権の意義、設定、範囲
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
23	事前学習	教科書226頁～234頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	根抵当権（2）根抵当権の確定、共同根抵当
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
24	事前学習	教科書235頁～245頁、298頁～301頁、246～250頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	非典型担保の種類、機能/所有権留保/譲渡担保（1）意義、法的性質等
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
25	事前学習	教科書246頁～254頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	譲渡担保（2）設定、効力等
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
26	事前学習	教科書254頁～262頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	譲渡担保（3）目的物の利用関係、処分、実行
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
27	事前学習	教科書263頁～271頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	譲渡担保（4）集合譲渡担保
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
28	事前学習	教科書272頁～284頁に目を通しておく（2時間）
	授業内容	仮登記担保（1）意義、基本的構造
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）

29	事前学習	教科書285頁～298頁に目を通しておく。（2時間）
	授業内容	仮登記担保（2）目的物、効力、私的実行/その他の非典型担保、
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）
30	事前学習	教科書と配布したレジュメに目を通して確認しておく（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	教科書とレジュメを用いて復習（2時間）

科目名	民法Ⅳ（債権法総論）【法職課程】	担当者	田中 夏樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業では、民法の債権総論を取り扱う。人からお金を借りた場合（消費貸借契約）や人と物の売り買いを行った場合（売買契約）のような人に対する権利(債権)について、具体的な契約類型に関する規律（債権各論の分野）ではなく、債権に共通した事柄を扱うものである。 担当教員は元弁護士であり、実務上の取り扱いや具体的な事例等の言及を交えながら解説を行う。			
授業目的・到達目標	債権の発生、効果、消滅に至るまでのプロセスを中心とし判例や学説の解説を通じて、債権法の位置づけや債権法の機能について学び、法律学の基礎的知識を身につけ、新たな知見を生み出すことができる能力を養成することを目的とする。債権法の位置づけや債権が発生してから消滅するまでの各段階についての基本的な知識を習得することを目的とするが、演習問題を行うことで、実際に身につけた知識を活用し、物事を論理的、合理的かつ批判的に考察できるようになることを目標とする。対応DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5			
履修条件	法職課程の学生に限る。また、民法総則、物権法の知識があるのが望ましい。 また、六法を持参すること。			
授業方法	講義形式によって行う。あらかじめ、パワーポイントによって資料を配布する予定。また、2回に1回程度簡単な演習問題をやってもらう予定。試験は授業内に行い、最終授業にて講評・解説を行い採点雑感を述べる。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	授業内にて試験を行い、成績評価を行う（80％）。なお、授業に積極的に参加すること（20％）を加味して評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2009	成文堂	民法講義〈4〉債権総論	近江幸治
	2013	岩波書店	債権総論 第三版	中田裕康
	2019	日本経済新聞出版社	リーガルベシス民法入門 第3版	道垣内弘人
	備考	教科書はあくまで参考であり、授業内（ガイダンス）にて具体的に指示するため、第1回授業開始前に準備する必要はない。		
参考書	授業中に適宜指示する。			
オフィスアワー	水曜日14：30～16：10（事前にアポイントメントを取ること） 研究室(本館6階1613) メールアドレス：tanaka.natsuki@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書の債権総論の導入部分を読み、債権総論の民法上の位置づけを理解する。(2時間)
	授業内容	授業の内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、債権総論の授業進行方法や学習方法について説明し、受講生の今後の学習準備を行う。成績評価等の質問も受け付ける。
	事後学習	授業内容で言及した学習方法を再確認し、到達度を踏まえた学習計画を検討する。(2時間)
2	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、債権法が同じ財産法である物権法と位置づけがどのように異なっているかを確認し、不明点を明らかにする。(2時間)
	授業内容	民法の体系と債権法の位置づけ 債権法は民法の一分野であり、債権法が民法上どのような位置づけにあり、どのような性質を有しているかを物権法等と比較しながら学習する。
	事後学習	特に物権法とどのように役割や機能が違うかについて、何故違うのか、何故そのような役割が与えられているかを自分なりに検討し、事前学習の疑問点を解消できたか確認する。(2時間)
3	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、債権の中でもどのような種類の債権が存在し、どのような性質を有しているのかを理解し、教科書の該当範囲に目を通しておく。(2時間)
	授業内容	債権の種類 債権の中にも種類物債権や特定物債権など様々な種類の債権が存在し、それぞれ性質が異なっている。これらの債権の分類と性質について解説を行う。
	事後学習	何故そのような分類をする必要があり、分類にはどのような意味があるのかについて具体的な債権と関連付けて説明ができるようにする。(2時間)
4	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、債務不履行について制度の目的や要件を理解し、教科書の該当範囲に目を通し、授業前に不明点を明らかにしておく。(2時間)
	授業内容	債務不履行I 債務不履行について、なぜそのような制度が必要であるか、制度が機能するのはどのような場面かについて解説し、債務不履行制度の概要について理解することを目的とする。
	事後学習	債務不履行制度はいくつかの類型に分類されるが、何故そのような必要があるのか、制度趣旨等と関連付けて説明ができるようにする。(2時間)

5	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、債務不履行制度について、制度の目的を踏まえ、どのような法律上の要件が求められているか、分類によって要件がどう異なるのかを確認する。(2時間)
	授業内容	債務不履行2 債務不履行について、前回の授業で扱った類型に応じて異なる要件が求められており、類型ごとの性質を踏まえてなぜそのような要件が必要となるのかを解説する。
	事後学習	債務不履行の要件について、何故そのような理解となるのか、制度趣旨や債務不履行の類型ごとの性質と関連させて説明ができるようにする。(2時間)
6	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、前回までに扱った類型や要件についての理解を確認するとともに、債務不履行の効果について、なぜそのような効果が認められるのかを検討する。(2時間)
	授業内容	債務不履行3 債務不履行について、債務不履行はその効果として契約そのものを遡及的に無効にする手段や契約が存在することを前提として損害賠償請求を行う手段など複数の手段が存在しており、各手段の性質を比較しながら説明する。
	事後学習	債務不履行の効果について、そのような効果がなぜ認められるのか、複数の効果を選択できる場合には、どのような目的の違いが認められるのかを説明できるようにする。(2時間)
7	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、一般的な債務不履行制度と受領遅滞制度がどのように異なるか、制度趣旨や目的について確認をする。(2時間)
	授業内容	受領遅滞 受領遅滞は、債権者側の責任の問題であり、一般的な債務不履行が債務者の責任であることと区別される。債務不履行制度との比較を通じて受領遅滞制度を解説する。
	事後学習	受領遅滞という概念の必要性や法的性質について、債務不履行制度との相違を説明できるか確認し、何故そのような理解が求められるのか確認する。(2時間)
8	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、債務者が債務不履行に陥った場合に、履行の強制の種類としてどのようなものがあるか、どのような性質を有しているかを確認する。(2時間)
	授業内容	履行の強制 契約の不履行の際に、履行を強制することができるが、債権の性質が異なるように履行の強制の方法も異なっている。債権の性質と関連付けて履行の強制について解説する。
	事後学習	債務不履行との連続性を意識し、かつ、債権の性質を踏まえ、債権が最終的にどのように実現されるかを説明できるようにする。(2時間)
9	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、損害賠償制度について、どのような目的の制度であるかなどの制度趣旨を確認する。(2時間)
	授業内容	損害賠償1 損害賠償制度について、日本の損害賠償制度の趣旨がどのようなものであるかを解説し、損害とは何か、どのように算出されるのかなどを解説する。
	事後学習	債務不履行に基づく損害賠償制度の目的や機能について、不法行為に基づく損害賠償制度との違いを踏まえながら理解し、説明できるようにする。(2時間)
10	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、損害賠償の際に考慮しなければならない特殊事情としてどのようなものが存在するのかを確認する。(2時間)
	授業内容	損害賠償2 損害賠償の損害額を算出するにあたっては、当事者の公平を保つため、債権者側、債務者側に特殊事情が存在する場合にはそれを考慮する必要があるが、どのような理論的根拠に基づいて行われるのかを解説する。
	事後学習	損害額を算出するにあたって、どのような事由が考慮され、また、考慮されないのかについてそれぞれの論理的な根拠を自分なりに説明ができるようにする。(2時間)
11	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、責任財産とは何か、責任財産を保全する目的は何かといった概要を確認しておく。(2時間)
	授業内容	責任財産の保全1 債務者から資金を回収する際に、債務者に財産がなければ空振りしてしまうため、民法上どのような債務者の責任財産を保つ仕組みが用意されているのかを解説する。
	事後学習	責任財産を保全する必要性と債権者代位権の制度趣旨や機能について具体的な事例を念頭に説明ができるようにする。(2時間)
12	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、債権者代位権と詐害行為取消権の機能や目的の違いを予め確認し、どのような場面で機能するのかを考えてみる。(2時間)
	授業内容	責任財産の保全2 責任財産の保全には、債権者代位権と詐害行為取消権とが民法上存在しているが、それぞれ適用場面が異なっており、どのような事情があればいずれの手段を選択するべきであるのかを解説する。
	事後学習	責任財産の保全について、債権者代位権と詐害行為取消権を念頭に置き、法的な手段の区分と要件及び効果を制度趣旨と関連させて説明ができるようにする。(2時間)
13	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、多数当事者とはどういった事実関係で問題となるのか、今まで学習してきた事実関係と対比させて、問題点を確認しておく。(2時間)
	授業内容	多数当事者の債権関係 今までは基本的に当事者は債権者と債務者の関係を念頭に置いていたが、一方あるいは双方の当事者が複数人存在する法律関係も存在し、どのような場合にそのような法律関係が生じるのかを解説する。
	事後学習	多数当事者という制度が必要な理由を考え、二当事者の場合と比べてどのような点に影響があるのかを確認し、説明ができるようにする。(2時間)
14	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、連帯債務とはどのような当事者が登場し、どのような債権関係に立っているか概要を確認する。(2時間)
	授業内容	連帯債務1 多数当事者の中で最も重要な概念の一つである連帯債務について、債務者が複数人存在し、かつ、連帯して債務を負っている場合にどのような影響関係があるかを解説する。
	事後学習	連帯債務は、債権者にとってどういったメリットのある制度であり、どのような制度設計が念頭に置かれているかを理解し、債権者の権利の拡張を説明できるようにする。(2時間)
15	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、連帯債務者の一人に生じた事情が他の債務者に影響を及ぼす場合と及ぼさない場合が存在することを確認し、どのようにして分類できるのかを考えてみる。(2時間)
	授業内容	連帯債務2 連帯債務の場合には、当事者が複数人存在するため、一人に特定の事情が生じた場合、他の債務者や債権者との関係でどのような影響が生じるのかを理解する必要がある、理論的根拠とともに解説する。
	事後学習	授業で扱った各事情がなぜ他の債務者に影響を及ぼすのか、逆になぜ他の債務者に影響を及ぼさないのか、分類を暗記するのではなく、論理的根拠から説明ができるようにする。(2時間)

16	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、保証債務の場合に、連帯債務とどのように異なるかを意識して、保証制度の機能や目的を確認しておく。(2時間)
	授業内容	保証債務1 保証制度は主として債権者の債権を強化する目的で利用されるが、他方で保証人が不当に害されることを防ぐ必要がある。民法が各当事者の利害関係にどのような配慮をした制度を用意しているかを解説する。
	事後学習	保証債務について、制度趣旨の違いを踏まえ、連帯債務者の場合と比較してどのような立法的な保護がなされているのかを理解し、説明ができるようにする。(2時間)
17	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、保証債務の中に連帯保証債務という類型が存在することを確認し、通常の保証債務とどのような点で異なり、制度趣旨がどのようなものか確認しておく(2時間)
	授業内容	保証債務2 保証債務には、連帯保証債務というより債権者の債権を強化した類型が存在するが、保証債務に比して非常に債権者の債権が強化されており、保証人の権利が制限されている。これらの制度趣旨を解説し、かつ、保証人の保護について解説する。
	事後学習	連帯保証債務について、保証債務及び連帯債務とどのように異なっており、どのような場面で使い分けがなされているのか、債権者との関係を踏まえて考え、説明ができるようにする。(2時間)
18	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、債権譲渡の制度について、どのような目的の制度であるか、どのような場面で活用される制度であるかを確認する。(2時間)
	授業内容	債権譲渡1 債権譲渡はかつては否定されていた制度であるが、近代に近づくにつれて積極的に活用されるようになった制度であり、債権譲渡を活用することの利点と不都合性としてどのようなものがあるかを解説する。
	事後学習	債権譲渡がどのような目的で行われる制度であるか、債権譲渡のやり方にはどのような類型があるのかを理解し、債務者・債権者・第三者の状況に応じてどのような手法が妥当であるかを考えられるようにする。(2時間)
19	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、債権譲渡の対抗要件として、どのような制度が用意されているのかを確認する。この際、債務者と第三者ではどのように異なっているかを特に意識する。(2時間)
	授業内容	債権譲渡2 債権譲渡の対抗要件は債務者に対するものと第三者に対するものでは異なった条文が用意されている。それぞれの特色及び債権譲渡の対抗関係特有の問題について解説する。
	事後学習	債権譲渡の対抗要件と物権法の対抗要件との制度の相違を確認し、なぜそのような相違が生じるのかを考え、それぞれの法的性質や制度趣旨を理解し、説明ができるようにする。(2時間)
20	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、債権譲渡に隣接した制度として債務引受、契約上の地位の移転が存在することを確認し、制度の構造がどのようなものか確認する。(2時間)
	授業内容	債務引受等 債権が移転するのが債権譲渡であるが、債務や契約上の地位が移転する制度も存在する。しかし、各当事者の利害関係は債権譲渡とは異なっており、異なる考察が必要であることから、各当事者の利害関係を中心に解説する。
	事後学習	契約上の地位の移転には、賃貸借契約上の地位の移転等、それぞれの契約類型に応じて問題点が異なっており、具体的な事案との関係で各当事者の利害関係を考えてみる。(2時間)
21	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、債務が消滅するのはどういった類型が存在するか確認し、弁済についての該当箇所を確認する。(2時間)
	授業内容	債務消滅 - 弁済1 発生した債権がどのようにして消滅するのかについて、総論的な解説を行う。債権の消滅に関しては、債権者と債務者の利害関係が対立するため、どのような調整がなされるのかといった観点から解説を行う。
	事後学習	債務が消滅する法制度間の差異を理解し、各制度ごとの論点や特徴としてどのようなものがあるか、なぜそのような問題が生じるのかといったことを順序立てて説明できるようにする。(2時間)
22	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、弁済の要件及び効果について理解し、弁済が否定される場合や誤った弁済の取り扱いについてどのような問題が存在するのを確認する。(2時間)
	授業内容	債務消滅 - 弁済2 弁済がどのような場合に有効であるのか、また、誤った弁済を行ってしまった場合にどのような処理がなされるのかを解説し、債権者と債務者間の利害関係がどのように調整されているのかを学ぶ。
	事後学習	誤った弁済がなされた場合にどのような例外が認められるか、その後の求償関係の処理はどのようになされるのかについて、事例設定から結論までの順序を説明できるようにする。(2時間)
23	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、第三者が弁済することによって債務が消滅した際に、当該第三者が債務者に対してどのような権利を有するのか、求償権について確認する。(2時間)
	授業内容	債務消滅 - 弁済による代位 第三者が弁済を行った場合には、第三者が債務者に対して求償権を取得する。この場合には、債権者、債務者に加えて第三者の存在をも考慮した検討が必要となる。利害関係が複雑になるが、法がどのような調整を図っているかを解説する。
	事後学習	第三者が一部しか弁済していない場合と第三者が全額を弁済した場合には、当然各当事者の利害関係の程度が異なっており、第三者の弁済の程度によって検討事項や結論に影響を及ぼすか考える。(2時間)
24	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、代物弁済という類型が弁済とはどのように異なった制度化を確認し、要件・効果の相違を確認する。(2時間)
	授業内容	債務消滅 - 代物弁済 代物弁済は、通常の弁済と比べて債権者との合意が必要であり、代物弁済契約として扱われ、通常の弁済とは異なった法理論に服することになる。代物弁済の特色を解説し、弁済との相違を解説する。
	事後学習	代物弁済がなされたのち、代物として引き渡されたものに瑕疵が存在していた場合や当事者に錯誤が生じていた場合、どのような扱いになるのか、既に学習してきた知識を利用して検討する。(2時間)
25	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、供託制度の概要を確認し、供託を行う場合の手順を理解しておく(2時間)
	授業内容	債務消滅 - 供託債務 供託は、供託所に目的物を引き渡すことによって債務を免れる行為であり、債権者が弁済を受け入れない場合等に利用される制度である。供託は、供託所を介することによって通常の弁済とは異なった制度が用意されており、これを解説する。
	事後学習	今まで学習してきた範囲を含めて供託制度がどのような事例で用いられるかを調べ、供託制度を他の法律関係と有機的に結び付け、全体像を理解でき、説明ができるようにする。(2時間)

26	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、相殺制度についてどのような当事者間の関係で用いられる制度かを確認する。(2時間)
	授業内容	債務消滅 - 相殺1 相殺は、双方の当事者が相手方に対して債権を有している際に対等額を消滅される制度である。債務を消滅されるものであるが、双方の債務を消滅されるものである以上、通常の弁済よりも利害関係が複雑であり、相殺が制限される場合もある。これらの制度を相殺の類型に応じて解説する。
	事後学習	債権譲渡や責任財産の保全の分野でも相殺は重要な機能を有しており、相殺の機能を理解するとともに、他の法制度ではどのように適用がなされるのかをパワーポイントの復習をしながら確認する。(2時間)
27	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、相殺と差押えの問題について、どのような当事者が存在し、どのような利害関係を有しているのかを確認する。(2時間)
	授業内容	債務消滅 - 相殺2 相殺を行おうとした債権ないし債務が第三者によって差押えられる場合がある。しかし、相殺を望む当事者の利益を法は強く保護しており、第三者との間でどのような利害関係の調整しているのかを解説する。
	事後学習	相殺と差押えはいくつかの類型に場合分けをすることができるが、各場合において各当事者の利害関係が異なっており、それぞれの当事者の利害関係が結論にどのように影響を与えるのか自分で説明ができるようにする。(2時間)
28	事前学習	配布したパワーポイントを確認し、債権法改正について、どのような目的のもと、どの分野が改正されたのかおおよそ確認する。(2時間)
	授業内容	債権法改正について 債権法が改正されたが、単に個々の条文を改正したのではなく、大きな改正の趣旨が存在しており、各制度や条文を理解するうえで必要な知識となっている。改正の目的やどのように条文化したかなどの解説を行う。
	事後学習	改正された条文がなぜそのように改正されたのか等、条文から直ちに読み取ることができない改正の目的を理解し、有機的な条文のつながりを説明ができるようにする。(2時間)
29	事前学習	授業内試験を行うため、配布したパワーポイントを確認し、復習を行う。(2時間)
	授業内容	授業内試験及びまとめ 授業内で試験を行った後、債権法総論のまとめとなる解説を合わせて行う。
	事後学習	授業内試験で扱った内容のうち、不明点を整理し、次の授業までに質問ができるようにする。(2時間)
30	事前学習	前回の授業内試験の内容を整理し、過去の授業内容の不明点と合わせて質問ができるようにする。(2時間)
	授業内容	授業内試験の解説 前回の授業で行った試験の解説を行い、質疑に回答する。また、全体的な答案の傾向等についても言及し、今後につなげてもらいたい。
	事後学習	全30回の授業内容は、それぞれが複雑に結びついており、授業の復習をするとともに、各制度が他の制度にどのように影響を及ぼしているのかを確認する。(2時間以上)

科目名	民法Ⅳ（債権法総論）	担当者	野中 貴弘	部 別	第一部	期 間	後期	単位数	4
-----	------------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この講座では、民法典の第3編「債権」の「第1章 総則」に定められたルールについて学ぶ。債権法総論で扱われるテーマは、大きく分ければ、①契約が正常に履行されていく場面でのルール、②契約が履行されないために債権者が民法に基づき何らかの手立てを講じる場面でのルール、そして③不良債権の債権者が債権回収をする場面でのルールの3つである。講義では、債権総論のこうした大きな枠組みに時間をかけて丁寧に説明することとしたい。			
授業目的・到達目標	債権法総論の学修を通じて、商法や倒産法等の学修に必要な法的知識を修得するとともに、法的思考方法を養成することを目的とする。本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できるようになること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：法律学科1,2,3,5 経営法学科1,2,3,5 公共政策学科1,3,4			
履修条件	民法Ⅰ（民法総則）を履修済みであること。また、民法Ⅴ（債権法各論）も履修済みであることが望ましい。			
授業方法	レジュメを使用しての講義が中心だが、定期的に演習を実施する。第27回に行う授業内試験について、解説を残り時間および第28回に行う。担当教員の弁護士としての実務経験を踏まえ、実務事例なども採り上げて説明する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	第27回に実施の授業内試験の成績によって評価する。試験においては、正誤問題と簡記述式問題の出題を予定している。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	有斐閣	有斐閣ストゥディア民法4 債権総論	山本敬三監修
	備考			
参考書	道垣内弘人『リーガルバイシス民法入門〔第3版〕』（日本経済新聞出版社・2019年）			
オフィスアワー	水曜日13：00—17：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館6階1608） nonaka.takahiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	学生教員共有フォルダから第1回講義レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおくこと 自分が「なぜ民法を学びたいのか」「なぜ学ぶ必要があると考えるのか」を整理してみる（2時間）
	授業内容	講義案内、民法の特徴と魅力、民法の構造と民法における債権法総論の位置づけ 講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法、教科書や参考書の紹介を含めて、債権法総論の学修方法について説明し、そのうえで学生が民法をはじめとした法学を学ぶ意味を一緒に考える。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 第1回講義を踏まえ、本講義と並行して履修することで学習効果が高そうな講座を探し、半年間の学習計画を立てる（2時間）
2	事前学習	学生教員共有フォルダから第2回講義レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおくこと（2時間）
	授業内容	民法の全体像（民法とは何か、民法の全体像、民法の基本概念） 民法がどのような場面において適用される法律であるのかを理解したうえで、極めて広範囲に及ぶ民法につき、その全体像を概観する。さらに、民法における諸原則をはじめとし、善意・悪意や承継取得・原始取得といった法律用語の意味を学ぶ。
	事後学習	レジュメを読み返し、挙げられている条文について実際に六法を開いて読んでみる 第6回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
3	事前学習	教科書の「第1章 債権の意義・債権総論の意義」を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	債権の意義・債権総論の意義 債権とは何かにつき、その意義や物権との比較を通じて理解を深める。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 「債権の相対効」とはどのようなことを意味しているか。具定例を挙げて説明できるようにしておく 第6回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）

4	事前学習	教科書の「第2章 債権の目的」を読んてくること（2時間）
	授業内容	債権の目的 特定物債権と種類債権の違いをその法的効果を意識しながら学ぶとともに、金銭債権と利息債権の関係性を学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 「種類債権の特定」は401条2項で規定されているが、これと関係する規定が債権法各論の売買契約の中に567条1項として規定されている。410条2項と567条1項の関係性について考えてみよう。 第6回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
5	事前学習	教科書の「第3章 債務不履行総論」を読んてくること（2時間）
	授業内容	債務不履行①（債務不履行総論） 債務不履行の種類をおさえたうえで、債務者に債務不履行があった場合に債権者が選択できる手段を学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 債務不履行があった場合に債権者が選択できる手段と、債務不履行の種類とはどのような関係にあるか整理してみる。 第6回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
6	事前学習	あらかじめ演習（第1回）の問題を全問検討してくること
	授業内容	演習（第1回） 民法の全体像、債権の意義・債権総論の意義、債権の目的、債務不履行①を終えて、その復習を兼ねて演習を行う。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する（2時間）
7	事前学習	教科書の「第4章 履行請求権・履行の強制」を読んてくること（2時間）
	授業内容	債務不履行②（履行請求権・履行強制） 債務不履行がある場合、債権者は履行請求ができるのが原則であるが、これができない場合もある。それがどういった場合であるのか学んだ後に、履行請求できる場合の履行強制の方法を学修する。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 履行不能か否かを判断するにあたっては、物理的に履行不能か否かだけでなく、契約その他の債務の発生原因や取引上の社会通念をも加味される。後者によって履行不能と判断されるようなケースを複数挙げてみる。 第10回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
8	事前学習	教科書の「第5章 債務不履行による損害賠償の要件」を読んてくること（2時間） 415条は2017年に改正されている。事前に新旧を比較し、どのように変わったのか考えてみる。
	授業内容	債務不履行③（損害賠償の要件） 債務不履行による損害賠償の要件を学ぶ。いかなる場合には債務者は免責されるのかを意識して学修する。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 遅延賠償を求める場合と填補賠償を求める場合とでは、要件がどのように異なるか整理する。 第10回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
9	事前学習	教科書の「第6章 債務不履行の効果としての損害賠償」を読んてくること（2時間） 416条は2017年に改正されている。事前に新旧を比較し、どのように変わったのか考えてみる。
	授業内容	債務不履行④（効果としての損害賠償） 損害賠償の範囲、損害の金銭的評価、さらには過失相殺や違約金の定めなどについて学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 過失相殺に関して、債権者の損害軽減義務が語られることがあるが、この損害軽減義務とはどのようなものであり、判例は債権者のこうした義務を認めているか検討する。 第10回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
10	事前学習	あらかじめ演習（第2回）の問題を全問検討してくること
	授業内容	演習（第2回） 債務不履行②～④を終えて、その復習を兼ねて演習を行う。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する（2時間）
11	事前学習	教科書の「第7章 債権者代位権」の第1節を読んてくること（2時間）
	授業内容	責任財産の保全総論 責任財産という概念を理解したうえで、こうした責任財産が減少しようとしている場合における債権者保護の在り方について、債権者の予めの手立ても含め、総合的に学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 「抵当権、保証、責任財産、強制執行、無資力」などといった法律用語を用いて、責任財産保全の必要性を説明してみる。 第14回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
12	事前学習	教科書の「第7章 債権者代位権」の第2節以下を読んてくること（2時間）
	授業内容	債権者代位権 債権者代位権の要件・効果・転用事例を学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 債権者代位権にも事実上の優先弁済機能があると言われるが、それはどのようなものか自分の言葉で説明できるようにする。 第14回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
13	事前学習	教科書の「第8章 詐害行為取消権」を読んてくること（2時間）
	授業内容	詐害行為取消権 詐害行為取消権の要件・効果を学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 2017年改正で新設された詐害行為取消権についての規定を復習として読んでおく。 第14回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）

14	事前学習	あらかじめ演習（第3回）の問題を全問検討してくること
	授業内容	演習（第3回） 責任財産の保全総論、債権者代位権、詐害行為取消権を終えて、その復習を兼ねて演習を行う。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する（2時間）
15	事前学習	教科書の「第9章 多数当事者の債権および債務」を読んでくること（2時間）
	授業内容	多数当事者の債権および債務 分割債権・分割債務、連帯債権・連帯債務、不可分債権・不可分債務について学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 連帯債務者の一人が債権者に弁済した場合における他の連帯債務者への「求償」について、求償ができるための要件を整理しておくこと。 第18回講義の際に扱う演習（第4回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
16	事前学習	教科書の「第10章 保証」のうち、第1節を読んでくること（2時間）
	授業内容	保証①（保証債務） 保証契約とはそもそも誰との間の契約であるのか、他にも保証人がいると信じて契約した場合には契約をなかったことにできるのかといったことも含めながら、保証債務の性質について学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 保証人には分別の利益および補充性があるとされる。それぞれどのような意味か具体例を挙げて説明できるようにしておく。 第18回講義の際に扱う演習（第4回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
17	事前学習	教科書の「第10章 保証」のうち、第2節以下を読んでくること（2時間）
	授業内容	保証②（連帯保証、共同保証、根保証） 単なる保証と異なる連帯保証、共同保証、根保証を学ぶ。それぞれ、通常の保証とどこが異なるのかを意識しながら学修する。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 連帯保証人と単なる保証人との違いを意識しながら、再度連帯保証に関する条文を素読してみること。 第18回講義の際に扱う演習（第4回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
18	事前学習	あらかじめ演習（第4回）の問題を全問検討してくること
	授業内容	演習（第4回） 多数当事者の債権および債務、保証①②を終えて、その復習を兼ねて演習を行う。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する（2時間）
19	事前学習	教科書の「第11章 債権譲渡の要件」を読んでくること（2時間）
	授業内容	債権譲渡の要件 世の中でなぜ債権譲渡が行われるのかをおさえたうえで、そうした債権譲渡の成立要件および対抗要件を学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 債務者対抗要件だけでなく、第三者対抗要件についても、債務者の認識を問題とするのはなぜかにつき、判例の立場を論理を追って説明できるようにする。 第21回講義の際に扱う演習（第5回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
20	事前学習	教科書の「第12章 債権譲渡の効果・債権の譲渡性・債務引受」を読んでくること（2時間）
	授業内容	債権譲渡の効果・債権の譲渡性・債務引受 債務者が債務の履行を拒絶できるのはどのような場合か、そもそも債権が譲渡できないのはどのような場合かなどを学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 2017年改正前までの民法では、債務者が主張できる抗弁に関し、468条1項において「異議なき承諾」があった場合の効果が定められていた。どのような制度であり、なぜ当該規定が削除されたのか調べてみよう。 第21回講義の際に扱う演習（第5回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
21	事前学習	あらかじめ演習（第5回）の問題を全問検討してくること
	授業内容	演習（第5回） 債権譲渡の要件、債権譲渡の効果・債権の譲渡性・債務引受を終え、その復習を兼ねて演習を行う。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する（2時間）
22	事前学習	教科書の「第13章 弁済」のうち、第1節を読んでくること（2時間）
	授業内容	弁済① 弁済権者や弁済受領権者、弁済の方法、弁済の充当を学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 478条の存在理由（制度趣旨）を自分の言葉で説明できるように理解する。 第26回講義の際に扱う演習（第6回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
23	事前学習	教科書の「第13章 弁済」のうち、第2節と第3節を読んでくること（2時間）
	授業内容	弁済② 「弁済による代位」の意味、および代物弁済の実際における用いられ方、さらには供託制度を学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 弁済による代位により取得した債権と求償権との関係性について調べてみること。 第26回講義の際に扱う演習（第6回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）

24	事前学習	教科書の「第14章 弁済以外の債権消滅原因」のうち、第1節を読んでもくること（2時間）
	授業内容	相殺① 相殺の一般的要件・方法・効果を学んだうえで、相殺が制限・禁止される場面を学修する。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 相殺の効果は相殺適状時に遡るが、こうした遡及効が与えられているのはなぜかにつき調べてみること。 第26回講義の際に扱う演習（第6回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
25	事前学習	教科書の「第14章 弁済以外の債権消滅原因」のうち、第1節および第2節を読んでもくること（2時間）
	授業内容	相殺②・その他の債権消滅原因 相殺と差押えについて、具体的事例を挙げながら、2017年改正前における判例・学説の主張とその論拠をそれぞれ学び、こうした判例学説が改正法においてどのような変化を受けるのかを学修する。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 相殺と差押えについての最大判昭和45年6月24日を実際に読んでみる。 第26回講義の際に扱う演習（第6回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
26	事前学習	あらかじめ演習（第6回）の問題を全問検討してくる
	授業内容	演習（第6回） 弁済①②、相殺①②・その他の債権消滅原因を終えて、その復習を兼ねて演習を行う。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する（2時間）
27	事前学習	これまでのレジュメを全て整理し、授業内試験に備える。 分からない箇所があれば、教科書やレジュメ、さらには図書館にある文献も参照しながら整理する（2時間）
	授業内容	授業内試験（60分）、解説（30分）
	事後学習	試験において十分に理解していなかった部分の復習をする（2時間）
28	事前学習	授業内試験の内容を思い出したうえで、疑問点等があれば質問できるよう準備しておく（2時間）
	授業内容	授業内試験の解説・講評
	事後学習	試験において減点されている部分が、知識不足であるのか、応用力であるのか、さらには文章表現力にあるのかを分析する。 これまでのレジュメ全てを整理して、債権法総論の総復習をする（2時間）
29	事前学習	事前に提示された事例問題について、これまでのレジュメや教科書を参考に検討し、様々な可能性を模索して みる（2時間）
	授業内容	発展的演習（アクティブ・ラーニング形式）① 債権法総論の範囲における実務上の問題について、担当教員の弁護士としての実務経験も踏まえながら、事例問題の検討を通じて様々な解決可能性を模索する。
	事後学習	発展的演習の中で疑問に思ったことについて、講義内で紹介した文献を図書館等で探して読んでみる こと（2時間）
30	事前学習	事前に提示された事例問題について、これまでのレジュメや教科書を参考に検討し、様々な可能性を模索して みる（2時間）
	授業内容	発展的演習（アクティブ・ラーニング形式）② 債権法総論の範囲における実務上の問題について、担当教員の弁護士としての実務経験も踏まえながら、事例問題の検討を通じて様々な解決可能性を模索する。
	事後学習	発展的演習の中で疑問に思ったことについて、講義内で紹介した文献を図書館等で探して読んでみる こと 来年度における民法やその延長線上の科目の履修計画を立てる（2時間）

科目名	民法Ⅳ（債権法総論）	担当者	益井 公司	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	講義形式で授業を進めていくが、時々学生に質問してきちんと理解しているか確かめながら講義する。債権法総論に関しては全面的な改正がなされているが、まだ施行されていないため、旧法と新法の両方を説明する必要があり、講義時間はたりなくなるので、新法に関するプリント等を配布する予定なので、教科書とそのプリントの両方をあらかじめよく読んでおいていただきたい。					
授業目的・到達目標	債権法総論に関する判例・通説を理解し、それをうまく文章に表現できる能力を養成することを目的とする。を通して、新たな問題に対しても対処出来るようになることを到達目標とする。 関連CP・DP法律学科 1, 2, 3, 5 経営法学科 1, 3, 5 公共政策学科 1, 3, 4					
履修条件	講義には必ず出席すること。					
授業方法	講義形式で進めるが、必要に応じて資料を配布する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		90%		論文式試験による。法的構成、理由づけ等に配慮して答案を構成する必要がある。	
	平常評価		10%		授業の際の質問や、私の質問に対する解答等の授業参加度を考慮して、加点する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2010年	嵯峨野書院		マルシェ債権総論（第3版）		宮本健蔵編著
	備考	債権総論は大きく改正されたが、まだ施行されていないため、新法と旧法の両方を説明する。新法についてはプリントを配布する予定である。4月の講義のときまでに新法の内容をもった適切な教科書が見つかれば講義の初めに教科書を変更したことをお知らせする。				
参考書	必要に応じて講義の際に指示する。					
オフィスアワー	火曜日の12時20分より13時20分までの時間帯で授業講堂にてオフィスアワーを行う（講義の終わりに予約を入れておいていただきたい）。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	第一回目の講義なので、債権法総論に関し予習する必要はないが、民法総則、物権法をすでに学んでいるので、それら全体をもう一度見ておいていただきたい。（2時間）
	授業内容	講義のガイダンス
	事後学習	民法の学び方に関し、プリントを配布するので、それをもう一度よく読んでおくこと。120分の復習をすること（以下各授業の終わりには必ず120分の復習をすること）。（2時間）
2	事前学習	債権の基本概念 債権と物権 債権法の特質に関する教科書簿部分をあらかじめ読んでくること。120分の予習をすること（以下各授業の初めに120分の予習をすること）。（2時間）
	授業内容	1 債権法の意義 ①債権の基本概念 ②債権と物権 債権法の特質
	事後学習	債権と物権の峻別にどのような意味があるのか、債権法の普遍的性質等についてもう一度考えること。（2時間）
3	事前学習	教科書の特定債権、種類債権の部分を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	債権の目的 ①特定物債権 ②種類債権 旧規定による特定物ドグマの否定（新483条）、特定物と機変負担等との関係が新法では改正されていることに注意する必要がある。
	事後学習	最判昭和30年10月18日民集9巻11号1642頁、この部分に関する改正法の内容についてもう一度確認しておくこと。（2時間）
4	事前学習	金銭債権、利息債権、選択債権、任意債権の箇所をあらかじめ学習しておくこと。（2時間）
	授業内容	③金銭債権 ④利息債権 ⑤選択債権 ⑥任意債権
	事後学習	最判平成22年4月20日民衆64巻3号921頁、最判平成20年6月10日民集62巻6号1488頁をよく読んでみること。（2時間）

5	事前学習	債権の対内的効力、債権の保全的効力、債権の対外的効力、不完全債務（自然債務）について、あらかじめ読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	2 債権の効力 ①序説（債権の対内的効力、債権の保全的効力、債権の対外的効力） i 不完全債務（自然債務）
	事後学習	自然債務という概念が、必要か否を検討すること。（2時間）
6	事前学習	第三者による債権侵害と不法行為、債権に基づく妨害排除請求の部分を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	ii 第三者による債権侵害（不法行為の成立と妨害排除）
	事後学習	大審院大正4年3月10日刑録21輯279頁（第三者の債権侵害と不法行為）、最判昭和30年5月31日民集9巻6号774頁（2重譲渡）、東京地判平成20年12月10日判時2035号70頁（引き抜き）、最判昭和28年12月18日民集7巻12号1515頁（妨害排除）、最大判昭和61年6月11日民集40巻4号872頁（人格権）を検討すること。（2時間）
7	事前学習	債務の履行の強制の部分を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	②現実的履行の強制
	事後学習	大決昭和10年12月16日民集14巻2044頁（謝罪広告）、幼児の引き渡し請求の問題について整理しておくこと。（2時間）
8	事前学習	債務不履行責任の拡大（客観的拡大、人的拡大、時間的拡大）、つまり、安全配慮義務、契約交渉破棄における責任、説明義務違反に基づく損害賠償について、あらかじめ教科書等で見ておくこと（2時間）
	授業内容	③損害賠償の請求（債務不履行の種類、債務不履行責任の拡大） 、
	事後学習	最判昭和50年2月25日民集29巻2号143頁（判然配慮義務）、最判昭和59年9月18日判時1137号51頁（契約交渉破棄における責任）、最判平成23年4月22日民集65巻3号1405頁（契約締結説明義務違反）（2時間）
9	事前学習	履行不能、履行遅滞、不完全履行について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）
	授業内容	i 債務不履行の種類と要件（履行不能、履行遅滞、不完全履行）
	事後学習	債務者の帰責事由（帰責事由か免責事由か）履行補助者の故意・過失（どのような形で債務を履行するかという契約内容の問題か）など自分でもう一度整理しておくこと。（2時間）
10	事前学習	債務不履行の効果の部分を読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	ii 債務不履行による損害賠償（損害賠償の範囲を中心に） 損害の概念 損害の種類、損害賠償の範囲、損害賠償の調整（損益相殺、過失相殺）、損害賠償の予定、代償請求権の新法での明文化
	事後学習	損害賠償の範囲を中心として、最判平成21年1月19日民集63巻1号97頁（損害回避減少措置）、大審院大正7年8月27日民集24巻1658頁（416条2項の予見時期）、最判昭和28年12月18日民集7巻12号1448頁および最判昭和47年4月20日民集26巻3号520頁（損害算定時期）をもう一度整理しておくこと。（2時間）
11	事前学習	受領遅滞に関し教科書等を使い勉強しておくこと。（2時間）
	授業内容	④受領遅滞
	事後学習	新法による受領遅滞における効果の明文化、受領不能か履行不能か争われるケース（最判昭和62年7月17日民集41巻5号1350頁）を検討すること。また受領遅滞の解消に関し最判昭和45年8月20日民集24巻9号1243頁を検討すること。（2時間）
12	事前学習	債権者代位権の意義・機能と要件の部分教科書等で勉強しておくこと。（2時間）
	授業内容	3 責任財産の保全 ①債権者代位権 その1（意義と機能、債権者代位権の要件、債権者代位権の対象となる権利）
	事後学習	最判昭和55年7月11日民集34巻4号628頁（内容確定前の金銭債権）、最判昭和50年3月6日民集29巻3号203頁（債務者の無資力）、最判平成13年11月22日民集55巻6号1033頁（遺留分減殺請求）、最判昭和58年10月6日民集37巻8号1041頁（慰謝料請求）、最判昭和43年9月26日民集22巻9号2002頁（時効の援用権）について検討すること。（2時間）
13	事前学習	債権者代位権の行使方法、行使の効果、債権者代位権の転用につき教科書等を使い勉強しておくこと。（2時間）
	授業内容	その2（行使方法、行使の効果、債権者代位権の転用）
	事後学習	最判昭和44年6月24日民集23巻7号1079頁（行使できる範囲）、大判明治43年7月6日民録16輯537頁（登記請求権の代位行使）、大判昭和4年12月16日民集8巻944頁、最判昭和29年9月24日民集8巻9号1658頁（不動産賃借権の保全）、最判昭和50年3月6日民集29巻3号203頁（金銭債権の特定債権としての保全）を検討すること。（2時間）
14	事前学習	詐害行為取消権の意義、その法的性質、詐害行為取消権の要件（①詐害行為）について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）
	授業内容	2 詐害行為取消権 その1（意義、法的性質、詐害行為取消権の要件①[詐害行為]） 相対的取消を否定し絶対的取消を新法では認める。要件は相関的判断による。
	事後学習	時価相当価額での不動産の売却、一部の債権者への弁済または担保の供与等につき新法および旧法での議論を整理しておくこと。（2時間）
15	事前学習	詐害行為取消権の要件②[被保全債権の要件]、詐害行為取消権の行使方法、行使の効果について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）
	授業内容	その2（詐害行為取消権の要件②[被保全債権の要件]、詐害行為取消権の行使方法、行使の効果、行使期間等）
	事後学習	対抗要件を具備させる行為は詐害行為となるか、相続の放棄・遺産分割の合意・離婚に際しての財産分与等は詐害行為になるか検討しておくこと。特定債権でも被保全債権となるか、被保全債権の成立時期さらには取消権の範囲および内容について整理しておくこと。（2時間）

16	事前学習	多数当事者の債権関係の①意義、②分割債権関係、③不可分債権関係について教科書などで勉強しておくこと。（2時間）
	授業内容	4 多数当事者の債権関係 ①序説 ②分割債権関係、③不可分債権関係
	事後学習	平成17年9月8日民集59巻7号1931頁、最判昭和42年8月25日民集21巻7号1740頁の判例を検討すること。不可分の給付の対価の支払い義務は不可分債務か検討せよ（大判対象1年11月24日民集1巻670頁、大判昭和7年6月8日裁判例6巻民179頁）。（2時間）
17	事前学習	連帯債務の意義、連帯債務の成立、連帯債務の効力の部分を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）
	授業内容	④連帯債務関係 その1（意義、連帯債務の成立、連帯債務の効力（連帯債務の対外的効力、連帯債務の一人について生じた事由））
	事後学習	債務者の一人についての無効・取消し、連帯債務の一人について生じた事由につき絶対的効力事由差応対的効力事由について整理しておくこと。（2時間）
18	事前学習	連帯債務の対内的効力である求償関係、不真正連帯債務、連帯債権について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）
	授業内容	その2（連帯債務の対内的効力（求償関係）、不真正連帯債務、連帯債権）
	事後学習	大判昭和7年9月30日民集11巻2008頁（有効とみなす効果の法的構成（相対的效果説））、最判平成22年10月8日民集64巻7号1719頁、最大判平成28年12月19日民集70巻8号2121頁を検討せよ。（2時間）
19	事前学習	保障債務の意義と性質、保証債務の成立について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）
	授業内容	⑤保証債務 その1（意義と性質、保証債務の成立）
	事後学習	最判昭和40年6月30日民集19巻4号1143頁、最判平成28年1月12日民集70巻1号1頁を検討しておくこと。（2時間）
20	事前学習	保証債務の内容、保証債務の対外的効力について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）
	授業内容	その2（保証債務の内容、保証債務の対外的効力）
	事後学習	最判昭和40年6月30日民集19巻4号1143頁・最判昭和47年3月23日民集26巻2号274頁、最判昭和20年5月21日民集24巻9頁を検討のこと。（2時間）
21	事前学習	主たる債務者または保証人に生じた事由の効力を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）
	授業内容	その3（主たる債務者または保証人に生じた事由の効力）
	事後学習	最判平成15年3月14日民集57巻3号286頁、最判昭和46年10月26日民集25巻7号1019頁、最判昭和43年10月17日判時540号34頁、大判昭和20年9月10日民集24巻82頁を検討すること。（2時間）
22	事前学習	保証債務の内部関係、特殊な保証を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）
	授業内容	その4（保証債務の内部関係、特殊な保証）
	事後学習	最判平成2年12月18日民集44巻9号1686頁、最判昭和60年2月12日民集39巻1号89頁、最判平成27年11月19日民集69巻7号1988頁、平成24年12月14日民集66巻12号3559頁を検討のこと。（2時間）
23	事前学習	債権の譲渡性（将来債権の譲渡性）と譲渡制限について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）
	授業内容	5 債権・債務の移転 ①序説 ②債権譲渡 その1（債権の譲渡性（将来債権の譲渡性）と譲渡制限など）
	事後学習	最判昭和53年12月15日判時916号25頁、最判平成11年1月29日民集53巻1号151頁、最判平成13年11月22日民集55巻6号1059頁を検討すること。（2時間）
24	事前学習	債権譲渡の債務者および第三者対抗要件のぶぶんを教科書等で勉強しておくこと。（2時間）
	授業内容	その2（債権譲渡の債務者および第三者対抗要件）
	事後学習	最判昭和49年3月7日民集28巻2号174頁、最判昭和55年1月11日民集34巻1号42頁、最判平成5年3月30日民集47巻4号3334頁を検討のこと。（2時間）
25	事前学習	債務引き受け・契約上の地位の移転について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）
	授業内容	③債務引き受け・契約上の地位の移転
	事後学習	最判昭和41年12月20日民集20巻10号2139頁、最判昭和46年4月23日民集25巻3号388頁を検討すること。（2時間）
26	事前学習	債権の消滅 ①序説 ②弁済の部分を教科書等で勉強しておくこと（2時間）
	授業内容	6 債権の消滅 ①序説 ②弁済
	事後学習	最判昭和63年7月1日判時1287号63頁、最判昭和37年8月21日民集16巻9号1809頁、最判昭和59年2月23日民集38巻3号445頁、平成15年4月8日民集57巻4号337頁を検討のこと。（2時間）
27	事前学習	弁済者代位の部分を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）
	授業内容	弁済者代位
	事後学習	最判昭和59年5月29日民集38巻7号885頁、平成7年3月23日民集49巻3号987頁、最判平成23年11月22日民集65巻8号3165頁、最判昭和61年11月27日民集40巻7号1205頁を検討のこと。（2時間）

28	事前学習	相殺の部分を教科書等で勉強しておくこと。（2時間）
	授業内容	③相殺
	事後学習	最判平成25年2月28日民集67巻2号343頁、最判昭和45年6月24日民集24巻6号587頁を検討すること。（2時間）
29	事前学習	代物弁済・供託、更改・免除・混同について教科書等で勉強しておくこと。（2時間）
	授業内容	④代物弁済・供託、更改・免除・混同
	事後学習	最判平成24年9月4日金判1413号46頁、最判昭和46年10月14日民集25巻7号933頁を検討すること。（2時間）
30	事前学習	これまでの講義においてよくわからなかった点を自分で整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	まとめと質問受付（事前学習をした結果わからないことがあった場合質問を受け付け、それにこたえとともに、法律の答案の書き方等について説明する）
	事後学習	質問に対する説明を受けたはずなのでそれを整理しておくこと。（2時間）

科目名	民法Ⅳ（債権法総論）	担当者	清水 恵介	部別	第二部	期間	後期	単位数	4
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	民法第3編債権のうち、第1章の「総則」に規定された、第399条から第520条までの全126ヶ条が対象領域である。債権の効力・譲渡・消滅といった債権一般の基本理論を扱う。				
授業目的・到達目標	【授業目的】財産法の全体を把握する上で要となる債権法総論中の各制度の役割や仕組みを理解し、的確に説明することができる力を養成することを目的とする。 【到達目標】債権法総論に関する諸制度の基礎的知識を身につけ、その適用対象となる事象を論理的、合理的かつ批判的に考察することができるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5				
履修条件	債権法が大幅に改正されるため、必ず最新版の六法を持参すること。また、民法Ⅰ・Ⅱ（民法総則・物権法）の単位を修得する程度の知識を有することが前提となる。				
授業方法	実務や学界の動向、最新判例、債権関係法改正の動向なども視野に入れつつ講義を行う。授業内試験の講評及び解説を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内に行われる試験は、授業内容を踏まえて出題される設問を論述式で解答させる。その論述内容により、債権法総論の理解度をはかり、評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018年	有斐閣		民法4 債権総論（有斐閣ストゥディア）	山本敬三監修
	備考	なし			
参考書	授業内で適宜教示する。				
オフィスアワー	当該授業に関する質問を、授業期間中の火曜日12時～13時に研究室で受け付ける。ただし、オフィスアワーを利用した質問を希望する学生は、ガイダンスの際に教示するメールアドレス宛てに、質問の概要及び希望日を事前に通知し、希望者の競合等により対応不能である旨の回答がない場合であることを条件とする。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、授業概要を踏まえつつ、各回の授業内容を読み込む。（2時間）
	授業内容	【ガイダンス】 履修条件を満たし得ることを確認した上で、シラバスに沿って授業概要や授業目的・到達目標、授業方法、成績評価の基準、教科書・参考書について説明し、次回以降、受講生が授業に参加できるよう、その準備や心構えを促す。
	事後学習	授業での説明内容を確認し、教科書・参考書・六法・ノートの購入等、受講に向けた具体的準備を行う。（2時間）
2	事前学習	巻頭にある教科書の使い方や「民法の全体像と本巻の位置付け」を読んだ上で、教科書第1章、1～11頁を読み、債権の意義や債権総論という科目の意義について考察する。（2時間）
	授業内容	【債権の意義、債権総論の意義】 本講義の中核概念である「債権」とは何かを説明するほか、債権をもつことの法的意義、債権と並ぶ主要な財産権である物権との違いを説明し、併せて、債権総論という科目の意義についても、債権法全体の中での位置付けという視点から説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第1章のPOINT（11頁）を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
3	事前学習	教科書第2章のうち、12～23頁を読み、「債権の目的」という言葉の意味のほか、特定物債権と種類債権について考察する。（2時間）
	授業内容	【債権の目的(Ⅰ)：特定物債権、種類債権】 債権総論の最初のパートであり、多義性のある「債権の目的」という概念について説明するほか、その規定群に含まれる数種の債権のうち、特定物債権と種類債権を採り上げ、両者の違いに留意しながら、その法的意義について具体例を踏まえつつ説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第2章のPOINT（35頁）1～7を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）

4	事前学習	教科書第2章のうち、23～35頁を読み、金銭債権、利息債権、選択債権について考察する。（2時間）
	授業内容	【債権の目的(2)：金銭債権、利息債権、選択債権】 「債権の目的」の規定群に含まれる数種の債権のうち、金銭債権と利息債権と選択債権、とりわけ、利息債権に関して高金利規制を行う特別法である利息制限法や貸金業法等について説明し、理解させる。また、教科書を超える内容として、貸金業法に関する判例をきっかけに全国で多発した過払金返還請求訴訟についても説明を加える。
	事後学習	教科書第2章のPOINT（35頁）8～11を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
5	事前学習	教科書第3章、36～46頁を読み、債務不履行の意義・種類・効果について、その全体像を考察する。（2時間）
	授業内容	【債務不履行総論】 「債権の効力」に関する規定の中核概念であり、債権各論にも射程が及ぶ「債務不履行」について、その詳細を検討する前に、意義・種類・効果の概要を説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第3章のPOINT（46頁）を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
6	事前学習	教科書第4章、47～61頁を読み、履行請求権と履行の強制について考察する。（2時間）
	授業内容	【履行請求権・履行の強制】 債務不履行を理解する上で要となる「履行」に関し、実体法上も重要な履行請求権につき、履行不能や代償請求権の概念とともに説明し、併せて、手続法とも連続性を有する履行の強制（強制執行）についても、その具体的方法である直接強制・代替執行・間接強制を中心に説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第4章のPOINT（61頁）を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
7	事前学習	教科書第5章のうち、62～73頁を読み、債務不履行による損害賠償の意義と成立要件について考察する。（2時間）
	授業内容	【債務不履行による損害賠償の要件(1)：意義、成立要件】 債務不履行の重要な効果である損害賠償について、具体例とともにその意義を説明するとともに、その成立要件を1つずつ分解しながら説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第5章のPOINT（78頁）1・2を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
8	事前学習	教科書第5章のうち、73～78頁を読み、債務不履行による損害賠償の免責事由と填補賠償について考察するとともに、教科書第6章のうち、79～83頁を読み、債務不履行による損害賠償の効果である「損害賠償」と「損害」の意義についても考察する。（2時間）
	授業内容	【債務不履行による損害賠償の要件(2)：免責事由、填補賠償／債務不履行の効果としての損害賠償(1)：意義】 債務不履行による損害賠償責任の免責事由である「債務者の責めに帰することができない事由」について、履行補助者を用いた場合等の諸問題を含めて解説し、「債務の履行に代わる損害賠償」（填補賠償）の要件について解説するとともに、債務不履行による損害賠償の効果論のうち、「損害賠償」と「損害」の意義についても解説し、理解させる。
	事後学習	教科書第5章のPOINT（78頁）3～5と第6章のPOINT（100頁）1を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
9	事前学習	教科書第6章のうち、83～101頁を読み、債務不履行による損害賠償の効果に関する諸問題として、前回の授業内容以外のものについて考察する。（2時間）
	授業内容	【債務不履行の効果としての損害賠償(2)：賠償範囲の確定、損害の金銭的評価ほか】 債務不履行による損害賠償の効果に関する諸問題として、通常損害と特別損害の区別を含む損害賠償範囲の確定の問題、損害賠償額算定の基準時を含む損害の金銭的評価の問題、過失相殺や違約金の定めを含む損害賠償額の算定に関する特則の問題、損害賠償による代位の問題を採り上げて説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第6章のPOINT（100・101頁）2～8を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
10	事前学習	教科書第7章のうち、102～111頁を読み、責任財産保全の制度について概観するとともに、その制度の1つである債権者代位権のうち、その意義と一般的要件について考察する。（2時間）
	授業内容	【債権者代位権(1)：意義、要件】 教科書第7章・第8章を読み解く上で重要な「責任財産」の概念について説明し、これらの章で扱う債権者代位権と詐害行為取消権とがいずれも責任財産保全の制度であることを理解させるとともに、前者の債権者代位権について、その意義と一般的要件について説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第7章のPOINT（122頁）1～6を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
11	事前学習	教科書第7章のうち、111～122頁を読み、前回の授業内容を踏まえつつ、債権者代位権の行使と転用をめぐる諸問題について考察する。（2時間）
	授業内容	【債権者代位権(2)：行使、転用】 前回の授業に引き続き、債権者代位権をめぐる諸問題のうち、事実上の優先弁済機能を含む債権者代位権の行使の問題と、登記請求権の代位行使を中心とする債権者代位権の転用の問題を採り上げて説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第7章のPOINT（122頁）7～11を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
12	事前学習	教科書第8章のうち、123～133頁を読み、詐害行為取消権の意義と一般的要件について考察する。（2時間）
	授業内容	【詐害行為取消権(1)：意義、要件】 責任財産保全の制度の1つである詐害行為取消権について、その意義と一般的要件を説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第8章のPOINT（152・153頁）1を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）

13	事前学習	教科書第8章のうち、133～143頁を読み、詐欺行為の類型による特則について考察する。（2時間）
	授業内容	【詐欺行為取消権(2)：詐欺行為の類型による特則】 前回の授業に引き続き、詐欺行為取消権の一般的要件を踏まえつつ、相当の対価を得てした財産の処分行為や特定の債権者に対する担保の供与等の偏頗行為など、詐欺行為の類型による特則について説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第8章のPOINT（153頁）2～5を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
14	事前学習	教科書第8章のうち、143～153頁を読み、詐欺行為取消権の行使について考察する。（2時間）
	授業内容	【詐欺行為取消権(3)：行使】 前回の授業に引き続き、詐欺行為取消権の行使の方法や、受益者・転得者の権利を含めた詐欺行為取消権の効果、詐欺行為取消権の期間制限について説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第8章のPOINT（153頁）6～8を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
15	事前学習	教科書第9章のうち、154～162頁を読み、多数当事者の債権関係一般について考察するとともに、その一類型である分割債権・分割債務から連帯債権までを考察する。（2時間）
	授業内容	【多数当事者の債権および債務(1)：分割債権、分割債務、連帯債権】 このパートの主題である多数当事者の債権関係（債権者複数と債務者複数）一般について説明し、その一連の類型のうち、原則類型である分割債権・分割債務を説明するとともに、連帯債権についても、新設の規定に基づいて説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第9章のPOINT（175頁）1～4を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
16	事前学習	教科書第9章のうち、162～175頁を読み、多数当事者の債権関係の一類型である連帯債務から不可分債権、不可分債務までを考察する。（2時間）
	授業内容	【多数当事者の債権および債務(2)：連帯債務、不可分債権、不可分債務】 多数当事者の債権関係の諸類型のうち、連帯債務、不可分債権、不可分債務について、連帯債務者の1人について生じた事由の効力（相対的効力・絶対的効力）や債務者間の求償関係を中心に説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第9章のPOINT（175頁）5～9を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
17	事前学習	教科書第10章のうち、176～191頁を読み、多数当事者の債権関係の一類型としても位置付けられる保証債務一般について考察する。（2時間）
	授業内容	【保証(1)：保証債務】 多数当事者の債務の一類型でもある保証債務について、その成立・性質（付従性・随伴性・補充性等）・内容等を説明するとともに、保証人の求償権についても説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第10章のPOINT（199頁）1～7を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
18	事前学習	教科書第10章のうち、191～199頁を読み、保証の諸類型である連帯保証・共同保証・根保証について考察する。（2時間）
	授業内容	【保証(2)：連帯保証、共同保証、根保証】 前回の授業に引き続き、保証の諸類型である連帯保証・共同保証・根保証について、一般の保証との違いを踏まえながら説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第10章のPOINT（199頁）8～10を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
19	事前学習	教科書第11章、200～215頁を読み、債権譲渡の要件について考察する。（2時間）
	授業内容	【債権譲渡(1)：要件】 債権譲渡の意義・目的について説明するとともに、その要件として、とりわけ債務者及び第三者に対する各対抗要件につき、その制度趣旨のほか、通知の同時到達・先後不明といった特殊な事例を紹介しつつ説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第11章のPOINT（215頁）を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
20	事前学習	教科書第12章のうち、216～227頁を読み、債権譲渡の効果と譲渡性について考察する。（2時間）
	授業内容	【債権譲渡(2)：効果、譲渡性】 前回の授業に引き続き、抗弁の対抗を含む債権譲渡の効果について説明するとともに、将来債権を含めた債権の譲渡性と、その例外としての譲渡制限、とりわけ譲渡制限特約の効力について説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第12章のPOINT（236頁）1～3を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
21	事前学習	教科書第12章のうち、227～236頁を読み、債務引受について考察する。（2時間）
	授業内容	【債務引受】 債権譲渡に関連する制度として規定が新設された債務引受について、併存的債務引受と免責的債務引受に分けてその要件・効果一般を説明するとともに、免責的債務引受による担保の移転を特に採り上げて説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第12章のPOINT（236頁）4を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
22	事前学習	教科書第13章のうち、237～247頁を読み、弁済の意味のほか、弁済者が誰かについて考察する。（2時間）
	授業内容	【弁済(1)：弁済者】 債権の本来的な消滅原因としての弁済の意味や基本的効果を確認させるとともに、弁済をする権限をもつ者としての弁済者について、第三者弁済を中心に説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第13章のPOINT（268頁）1・2を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）

23	事前学習	教科書第13章のうち、247～254頁を読み、弁済による代位の制度について考察する。（2時間）
	授業内容	【弁済(2)：弁済による代位】 前回の授業に引き続き、弁済に関する諸規定のうち、弁済による代位の制度について、それが求償権を確保するために原債権と担保権を移転させるものであることを具体例とともに説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第13章のPOINT（268頁）3を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
24	事前学習	教科書第13章のうち、254～268頁を読み、弁済の相手方、弁済の充当、弁済の方法について考察するとともに、代物弁済と弁済供託についても併せて考察する。（2時間）
	授業内容	【弁済(3)：相手方、充当、方法／代物弁済、供託】 前回の授業に引き続き、弁済に関する諸規定のうち、受領権者としての外観を有する者（表見受領権者）への弁済を有効とする民法478条を中心とした弁済の相手方の問題のほか、弁済の充当、弁済の方法について説明するとともに、弁済に関連する債権の消滅原因としての代物弁済と、供託一般を含めた弁済供託の制度について説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第13章のPOINT（268頁）4を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
25	事前学習	教科書第14章のうち、269～279頁を読み、相殺の意義・要件・方法・効果について考察する。（2時間）
	授業内容	【相殺(1)：意義、要件、方法、効果】 弁済以外の債権消滅原因を説明した上で、その中で最も重要な相殺について、その意義・要件・方法・効果一般を順次説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第14章のPOINT（300頁）1～3を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
26	事前学習	教科書第14章のうち、279～288頁を読み、相殺の制限・禁止に関する諸規定、とりわけ、相殺と差押えの優劣関係について考察する。（2時間）
	授業内容	【相殺(2)：制限・禁止、相殺と差押え】 前回の授業に引き続き、相殺に関する諸規定のうち、相殺の制限・禁止について説明する。とりわけ、民法511条が定める相殺と差押えとの優劣関係について、具体例とともに説明し、理解させる。
	事後学習	レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
27	事前学習	教科書第14章のうち、288～300頁を読み、弁済の提供と受領遅滞について考察する。（2時間）
	授業内容	【弁済の提供・受領遅滞】 債権の消滅原因ではないものの、弁済に関連する制度としての弁済の提供と受領遅滞について具体例とともに説明し、理解させる。
	事後学習	教科書第14章のPOINT（300頁）4～6を読み、授業中の理解が正しいことを確認するとともに、レジュメや授業中に記入したノートを見返し、わからない箇所については教科書を再度確認した上で、授業のテーマについて再検討する。（2時間）
28	事前学習	教科書の各章のうち、欠席等により理解が不十分であった箇所を読み直し、授業内試験に向けて学習事項をまとめる。（2時間）
	授業内容	【授業内試験及びまとめ(1)】 授業内試験を実施するとともに、残った時間で全体のまとめとなるポイントを説明し、理解させる。
	事後学習	授業内試験やその後の説明を通じて理解が不十分であった箇所について、教科書や参考書等を確認した上で再検討する。（2時間）
29	事前学習	前回の授業まででなお理解が不十分であった箇所について考察し、授業内での質問事項をまとめる。（2時間）
	授業内容	【授業内試験（予備日）及びまとめ(2)】 これまでの授業内容に対する質問を受け付けるとともに、やむを得ない事由により前回の授業内試験を受験できなかった者のための追試験を実施する。
	事後学習	自分や他の学生が行った質問やそれに対する教員の回答について、その場で理解できなかった点を教科書や参考書等に当たって確認し、再検討する。（2時間）
30	事前学習	授業内試験で扱われたテーマについて、再度教科書等に当たって考察する。（2時間）
	授業内容	【試験の講評】 授業内試験の採点結果を踏まえ、特に誤りがちであった点を中心に講評し、随時質問を受け付ける。
	事後学習	試験の講評内容やその後の質疑応答について、その場で理解できなかった点を教科書や参考書等に当たって確認し、再検討する。（2時間）

科目名	民法Ⅴ（債権法各論）	担当者	長谷川 貞之	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、売買や賃貸借などの各種の契約や不法行為を主たる原因として発生する債権の仕組みを理解し、社会で生成する様々な債権に関する法律問題にアプローチするための債権法の基礎理論を学習する。債権法の領域は、債権法総論と債権法各論に大別されるが、この講座では、売買や賃貸借などの各種の契約や不法行など債権発生原因を民法典の規定に即して要件・効果の観点から分析し、現代社会における契約理論及び不法行為理論を学ぶ。			
授業目的・到達目標	中級・上級科目及び発展科目の履修のために必要となる契約及び不法行為の基礎理論の修得を目的とする。現代社会で生起する様々な各種の契約及び不法行為にアプローチするための基礎的知識を修得するとともに、契約における多角的法律関係や不法行為における複数賠償義務者の責任に関する民法学の基礎理論を修得し、これらを受講生が説明できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5 経営法学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	2年次以降の学生を対象とする。民法総論は履修済みであること。あわせて債権総論を履修する（している）ことが望ましい。			
授業方法	教科書に即して講義形式で行う。適宜、ソクラテス・メソッドを用いる。基本判例や現役弁護士の教員が実際に担当した事件等を紹介しながら、具体的な設例を挙げて講義する。考える授業をモットーとする。試験終了後、解説を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	授業等で学んだ基本的な事項および裁判例について、筆記試験により基礎学力を判定し評価する。受講者数によっては、授業内試験に切り替えることもある。	
	平常評価	20%	課題の取組み（予習・復習）を評価の対象として考慮する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018	有斐閣	民法Ⅳ——債権各論〔第4版〕＜有斐閣Sシリーズ＞	藤岡康宏ほか
	2017	商事法務	民法（債権関係）改正法新旧対照条文	商事法務（編）
	備考			
参考書	椿寿夫=中倉寛樹編『解説 新・条文にない民法』（日本評論社、2011年）、松本恒雄・潮見佳男編『判例ブラクティスⅡ』（信山社、2013年）ほか。このほか、授業中に、適宜紹介する。			
オフィスアワー	木曜日・12時30分～50分、研究室（4号館2階443）。事前にアポイントを取ること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	あらかじめ教科書を2・3回通読する。併せて、これから学ぶ民法典の債権各論に関する規定（民法521条―724条）を音読しておく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス：債権法各論を学ぶ意義 序論：債権各論と契約・不法行為、最近の債権法改正と民法理論
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
2	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、債権が売買や賃貸借などの各種の契約を主たる原因として発生すること、契約の一般的ルールがどのようなものであるかを、民法典の規定に即して整理しておく。（2時間）
	授業内容	契約法総論①：契約の意義、契約の種類と性質、契約の分類
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
3	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、各種の契約に共通する契約の一般的ルールについて、理解を深めておく。併せて、現代社会における契約の特色を調べておく。（2時間）
	授業内容	契約法総論②：契約自由の原則とその制限、約款取引／現代社会における契約の特色——契約の多角的法律関係、複合的給付
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。（2時間）
4	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、契約が成立するための要件について、申込と承諾、承諾機関の有無、対話者・隔地者間の取引の違いなどを考慮し、検討しておく。（2時間）
	授業内容	契約法総論③：契約の成立と効力（その1）―申込と承諾、契約の成立時期、契約と信義則、事情変更の原則
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）

5	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、各種の契約の中心をなす双務契約について、物の引渡しと代金の支払いとの対価的牽連関係という観点から、民法典の規定がどのように規定されているか調べておく。（2時間）
	授業内容	契約法総論④：契約の成立と効力（その2）—双務契約と牽連関係：契約締結上の過失理論
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
6	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、各種の契約の中心をなす双務契約について、物の引渡しと代金の支払いとの対価的牽連関係という観点から、民法典の規定がどのように規定されているか調べておく。（2時間）
	授業内容	契約法総論⑤：契約の成立と効力（その3）—双務契約と牽連関係：危険負担、債務不履行
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
7	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、各種の契約の中心をなす双務契約について、物の引渡しと代金の支払いとの対価的牽連関係という観点から、民法典の規定がどのように規定されているか調べておく。（2時間）
	授業内容	契約法総論⑥：契約の成立と効力（その4）—契約の解除、解除と第三者
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
8	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、贈与の社会的意義を知ったうえで、贈与がどのような場合に成立し、いかなる効力を有するかをを学習しておく。併せて、贈与の種類についても、理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	贈与：意義、成立と効力／特殊の贈与——負担附贈与、死因贈与、定期贈与など
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
9	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、現代社会の取引の根幹をなす売買について、消費者取引の観点から、売買の意義・性質、売買が成立するに至るプロセスを調べておく。（2時間）
	授業内容	売買①：意義と性質、売買の成立と効力、手付の意義・種類、買戻・再売買の予約
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
10	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、引き渡された給付の目的物に欠陥・瑕疵があった場合の処理につて、動産売買と不動産売買とを対比しながら、売主の責任を検討しておく。（2時間）
	授業内容	売買②：売主の（瑕疵）担保責任
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
11	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、民法典が定める売買と異なる取引類型である割賦販売と訪問販売について、消費者取引の観点から理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	売買③：特殊の売買——割賦販売・訪問販売など交換
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
12	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、金銭などの消費物の借入がどのような仕組みで行われるかについて学習しておく。金銭の消費貸借は売買と並んで現代社会で最も重要な契約である。併せて、利息に関する法規制についても調べておこう。（2時間）
	授業内容	消費貸借①：意義、成立と効力、準消費貸借、利息に関する法規制—金利と利息制限、刑罰など
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
13	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、物の貸し借りの中核をなす賃貸借について、意義、成立と効力などを学習しておく。売買と同様に、賃貸借も多様な目的物を対象としているから、注意を要する。（2時間）
	授業内容	使用貸借：意義、成立と効力、使用貸借の終了 賃貸借①：意義、成立と効力、賃貸借の存続期間・更新、賃貸借の終了
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）
14	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、賃貸借が成立した後の当事者間の権利・義務関係について、学習しておく。併せて、賃貸中の不動産の譲渡、賃借権の譲渡や賃借物の転貸などの第三者に対する関係についても、理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	賃貸借②：賃借権の譲渡・目的物の転貸、賃借人の第三者に対する関係、直接訴権
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
15	事前学習	教科書を熟読し、宅地・建物・農地の賃貸借に関する法律関係について事前に学習しておく。生活の基盤である不動産の賃貸借はますます重要性を増してきており、借地借家法などの特別法の理解が不可欠である。（2時間）
	授業内容	賃貸借③：特殊の賃貸借—借地借家契約（その1）
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
16	事前学習	教科書を熟読し、宅地・建物・農地の賃貸借に関する法律関係について事前に学習しておく。生活の基盤である不動産の賃貸借はますます重要性を増してきており、借地借家法などの特別法の理解が不可欠である。（2時間）
	授業内容	賃貸借③：特殊の賃貸借—借地借家（その2）、農地賃貸借
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）

17	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、労務提供型契約として民法典が定める雇用・請負・委任・寄託について事前に学習し、それぞれの意義・法的性質・社会的作用の観点から理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	雇用：意義、成立と効力、雇用の終了 請負①：意義、成立と効力、請負人の担保責任、特殊の解除権
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）
18	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、労務提供型契約として民法典が定める雇用・請負・委任・寄託について事前に学習し、それぞれの意義・法的性質・社会的作用の観点から理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	請負②：意義、成立と効力、請負人の担保責任、特殊の解除権 委任①：意義、成立と効力、受任者の善管注意義務、委任の終了、専門家の責任
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
19	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、労務提供型契約として民法典が定める雇用・請負・委任・寄託について事前に学習し、それぞれの意義・法的性質・社会的作用の観点から理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	委任②：意義、成立と効力、受任者の善管注意義務、委任の終了、専門家の責任 寄託：意義、成立と効力、消費寄託、特殊の寄託
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
20	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、民法典が定める組合・終身定期金・和解について事前に学習し、それぞれの意義・法的性質・社会的作用の観点から理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	組合・終身定期金・和解
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）
21	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、契約以外の債権の主たる発生原因である不法行為について、民事責任の観点から事前に学習しておく。現代社会における不法行為は、自動車事故に限らず幅広いものが対象となるから、注意を要する。（2時間）
	授業内容	不法行為法概説：不法行為制度の意義と目的、民事責任における不法行為法の現状
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
22	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、不法行為制度の沿革、あらゆる不法行為に共通する不法行為の成立要件について、事前に学習しておく。（2時間）
	授業内容	一般的不法行為の成立要件：故意・過失、権利侵害と違法性、因果関係、損害の発生など
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
23	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、不法行為が成立した場合の賠償責任について、賠償の基本的ルールを事前に学習しておく。（2時間）
	授業内容	不法行為の効果：金銭賠償の原則、損害賠償の請求権者、損害の種類と損害賠償の範囲、過失相殺、損益相殺など
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
24	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、一般的不法行為に対して、特別の要件で不法行為の成立が認められるものにはどのようなものがあるかを学習しておく。（2時間）
	授業内容	特殊的不法行為①：責任無能力者の不法行為と監督者の責任 特殊的不法行為②：使用者責任
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。（2時間）。
25	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、一般的不法行為に対して、特別の要件で不法行為の成立が認められるものにはどのようなものがあるかを学習しておく。（2時間）
	授業内容	特殊的不法行為③：注文者の責任、工作物責任 特殊的不法行為④：動物占有者責任
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
26	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、不法行為が競合する場合の複数主体による賠償責任について学習しておく。あわせて、民法典以外のその他の不法行為についても、現代社会における民事責任の観点から理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	特殊的不法行為⑤：共同不法行為 民法典以外のその他の不法行為——運行供用者責任、製造物責任、医療過誤責任、原子力損害賠償責任など
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
27	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、不当利得の意義と目的、不当利得の類型を学習しておく。不当利得において類型論的処理が必要とされる理由・根拠をしっかりと理解することが重要である。（2時間）
	授業内容	不当利得①：意義と目的、不当利得の類型
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に授業の成果をまとめる。（2時間）
28	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、不当利得における給付利得にはどのような問題があるのかを理解する。あわせて、多数当事者間の不当利得の問題についても、理解を深めておく。（2時間）
	授業内容	不当利得②：騙取金による弁済、転用物訴権、多数当事者間の不当利得
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）

29	事前学習	民法典の規定および教科書を読み、事務管理がどのような場合に成立し、事務管理者はいかなる範囲で本人に対して費用の償還を請求することができるのか、他人の事務の要件・成立範囲、その効果を学習しておく。（2時間）
	授業内容	事務管理
	事後学習	教科書および配布プリントを参考に、授業の成果をまとめる。 「課題と質問」に取り組む。（2時間）
30	事前学習	教科書のページの余白に記載してある★印（重要度に応じて3段階）に注意して教科書を通読し、重要な論点を確認する。（2時間）
	授業内容	総括と質疑応答／授業内試験
	事後学習	これまでの授業内容を、教科書および配布プリントを参考に総括し、まとめる。 「課題と質問」を整理する。（2時間）

科目名	民法Ⅴ（債権法各論）【法職課程】	担当者	藤村 和夫	部別	第一部	期間	前期	単位数	4
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	債権法各論は、契約法総論から不法行為法までに至る大変広い分野を対象とするが、そこでは、およそどのような規制がなされているのかを概観する。時間の関係上、契約法が中心となるが、近時の改正内容にも触れながら進める。 なお、弁護士実務において経験した事例についても触れる。			
授業目的・到達目標	契約総論において各契約に共通して妥当する法制度がどのようなものか、同各論においては個別の契約の意義・内容等を理解することを目的とする。そして、具体的契約において紛争が生じた場合にどのような解決を図ることができるか説明できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1、2、3、5			
履修条件	特になし。			
授業方法	講義中心となるが、適宜、質疑も交え、受講生の理解度を確認しながら講義を進める。 試験の講評、解説はポータルシステムで行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	授業で学んだことがどの程度理解できているかをみて評価する。	
	平常評価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	信山社	契約法	藤村和夫
	備考			
参考書	必要があれば、授業中に示す。			
オフィスアワー	木曜日16時30分～17時30分（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室：本館7階、1714室 メールアドレス：fujimura.kazuo@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書～13頁を読んでおく（以下、同様）（2時間）
	授業内容	民法の構造、民法における契約法の位置づけ
	事後学習	民法とは、およそどのようなものかの復習をする（2時間）
2	事前学習	17頁～24頁（2時間）
	授業内容	契約法の原理
	事後学習	契約の意義と種類についての理解を確かなものにする（2時間）
3	事前学習	25頁～30頁（2時間）
	授業内容	契約の成立
	事後学習	契約の成立要件と契約締結上の過失についての理解を確かなものにする（2時間）
4	事前学習	30頁～43頁（2時間）
	授業内容	各種の契約成立方法
	事後学習	契約が成立する際の仕組みについて理解する（2時間）

5	事前学習	45頁～58頁（2時間）
	授業内容	契約の効力（1）
	事後学習	同時履行の抗弁権とはどのようなものであるか理解する（2時間）
6	事前学習	58頁～70頁（2時間）
	授業内容	契約の効力（2）
	事後学習	危険負担とはどのようなものか理解する（2時間）
7	事前学習	70頁～82頁（2時間）
	授業内容	第三者のためにする契約
	事後学習	第三者のためにする契約とはどのようなものかの理解を深める（2時間）
8	事前学習	82頁～90頁（2時間）
	授業内容	解除（1）
	事後学習	解除の意義と機能について理解する（2時間）
9	事前学習	90頁～104頁（2時間）
	授業内容	解除（2）
	事後学習	法定解除権の種類とその発生原因を確認する（2時間）
10	事前学習	104頁～120頁（2時間）
	授業内容	解除（3）
	事後学習	法定解除の効果等について理解する（2時間）
11	事前学習	120頁～131頁（2時間）
	授業内容	解除（4）
	事後学習	約定解除、解除契約、定型約款について理解する（2時間）
12	事前学習	135頁～140頁（2時間）
	授業内容	贈与
	事後学習	贈与一般について理解する（2時間）
13	事前学習	141頁～146頁（2時間）
	授業内容	売買（1）
	事後学習	売買の意義と成立についての基礎的な事柄を理解する（2時間）
14	事前学習	146頁～164頁（2時間）
	授業内容	売買（2）
	事後学習	売主の担保責任とは何かを理解する（2時間）
15	事前学習	164頁～171頁（2時間）
	授業内容	売買（3）
	事後学習	特殊の売買にはどういうものがあるかを理解する（2時間）
16	事前学習	172頁～176頁（2時間）
	授業内容	買戻
	事後学習	買戻の意義、効力等を理解する（2時間）

17	事前学習	177頁～190頁（2時間）
	授業内容	交換、消費貸借
	事後学習	消費貸借の意義と効力についての理解を確かなものにする（2時間）
18	事前学習	191頁～198頁（2時間）
	授業内容	使用貸借
	事後学習	使用貸借の意義と効力について理解する（2時間）
19	事前学習	199頁～207頁（2時間）
	授業内容	賃貸借（1）
	事後学習	賃貸借の意義と存続期間についての理解を深める（2時間）
20	事前学習	207頁～222頁（2時間）
	授業内容	賃貸借（2）
	事後学習	賃貸借の効力について理解する（2時間）
21	事前学習	222頁～233頁（2時間）
	授業内容	賃貸借（3）
	事後学習	賃借権の譲渡・転貸についての規制を理解する（2時間）
22	事前学習	235頁～244頁（2時間）
	授業内容	雇傭
	事後学習	雇傭の意義と効力について理解する（2時間）
23	事前学習	245頁～254頁（2時間）
	授業内容	請負
	事後学習	請負の意義と効力について理解する（2時間）
24	事前学習	255頁～263頁（2時間）
	授業内容	委任
	事後学習	委任の意義と効力について理解する（2時間）
25	事前学習	265頁～276頁（2時間）
	授業内容	寄託
	事後学習	寄託の意義と効力について理解する（2時間）
26	事前学習	277頁～286頁（2時間）
	授業内容	組合（1）－組合の意義・性質、その規制
	事後学習	組合の意義と業務執行について理解する（2時間）
27	事前学習	286頁～296頁（2時間）
	授業内容	組合（2）－組合の財産関係、解散と清算
	事後学習	組合の財産関係について理解する（2時間）
28	事前学習	297頁～300頁（2時間）
	授業内容	終身定期金、和解についての概説
	事後学習	終身定期金と和解の意義を確かめる（2時間）

29	事前学習	配布するレジュメを熟読する（2時間）
	授業内容	不法行為（1）
	事後学習	不法行為の成立要件についてその基礎を理解する（2時間）
30	事前学習	配布するレジュメを熟読する（2時間）
	授業内容	不法行為（2）
	事後学習	不法行為の効果についてその基礎を理解する（2時間）

科目名	民法Ⅴ（債権法各論）	担当者	峯川 浩子	部別	第一部	期間	後期	単位数	4
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義は、財産法のなかで債権各論とよばれる領域を対象とする。契約法と不法行為法が授業の主たる内容となる。契約においては、権利移転型（売買、交換、贈与）、利用型（消費貸借、賃貸借）、役務提供型（請負、委任、寄託）の契約を順次取り上げ、各契約から発生する権利義務の内容と各契約独自の事項について学習する。不法行為においては、一般の不法行為と特殊の不法行為について学習する。改正債権法の内容なども織り込みながら講義を進める。					
授業目的・到達目標	債権各論の基礎的な知識を体系的に習得し、その内容を正確に理解することが目的である。単なる知識の習得のみならずその知識を活用して、この領域で生じる初歩的かつ具体的な問題を解決する能力を身につけることが到達目標である。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5 経営法学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4					
履修条件	民法総則を受講済みであることが望ましい。					
授業方法	講義形式による。2コマ続きとなるので、気分転換をはかりつつ効率よく授業をすすめた。また、定期試験については、後日ポータルシステム上で解説する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		80%		法律の基礎的知識が身についているかを判定する 授業中に指摘した基本的な事項について理解しておくこと	
	平常評価		20%		授業態度や取り組み等で評価する。詳細については初回の授業のときに説明する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
				レジュメを配布するので特に指定しない。		
	備考	条文を参照するので六法は必ず持参すること。 予習・復習のため、自分がわかりやすいと思う「債権各論」の参考書を一冊準備しておく（以下に記載する参考書に限定する必要はない）。				
参考書	潮見佳男『債権各論Ⅰ・Ⅱ』（新世社、2017年）。内田貴『民法Ⅱ債権各論』（東京大学出版会、2011年） 中田 裕康ほか「判例百選Ⅱ債権」（有斐閣、2009年）					
オフィスアワー	金曜授業終了後16:10～ 授業講堂にて質問を受け付ける。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス確認（2時間）
	授業内容	ガイダンス・債権法の基礎：債権法の構造、債権の種類、債権の概念と特色等
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
2	事前学習	参考書の該当箇所に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	契約の成立：申込みと承諾、隔地者間の契約等
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
3	事前学習	参考書の該当箇所に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	契約の成立と契約前の責任
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
4	事前学習	参考書の該当箇所に目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	同時履行の抗弁権
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）

5	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	危険負担
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
6	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	第三者のためにする契約
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
7	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	解除（1）契約解除の意義、要件、効果、解除と類似の制度
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
8	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	解除（2）解除の効果をめぐる諸問題：解除権を行使した際の損害賠償の範囲、解除と第三者等
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
9	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	有償契約の問題（1）担保責任
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
10	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	有償契約の問題（2）担保責任の重要論点
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
11	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	売買契約：売買契約の成立、売買の予約、手付、売買契約の効力、買戻し、再売買の予約等
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
12	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	贈与契約、交換契約
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
13	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	賃貸借契約（1）賃貸借契約の成立、存続期間、賃貸人・賃借人の権利・義務等
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
14	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	賃貸借契約（2）賃貸借契約の終了、賃貸人の地位の移転、賃借権の譲渡、目的物の転貸
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
15	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	賃貸借契約（3）特殊な賃貸借
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
16	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	消費貸借契約：消費貸借契約の成立、準消費契約、消費者信用等
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）

17	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	請負契約
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
18	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	委任契約
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
19	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	寄託契約、和解契約、事務管理
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
20	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	一般不当利得
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
21	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	特殊の不当利得
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
22	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	不法行為制度概説：意義・機能、不法行為責任と刑事責任、請求権の関係等
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
23	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	一般不法行為の成立要件（１）故意・過失、権利侵害と違法性
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
24	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	一般不法行為の成立要件（２）損害の発生、因果関係、責任能力
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
25	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	不法行為の効果（１）損害の金銭的評価、損害賠償の方法、賠償の範囲等
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
26	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	不法行為の効果（２）損害賠償請求権者、損害賠償額の調整、消滅時効等
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
27	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	特殊な不法行為（１）監督義務者の責任
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
28	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	特殊な不法行為（２）使用者責任
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）

29	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	特殊な不法行為（3）工作物責任・動物占有者の責任、
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）
30	事前学習	参考書の該当箇所を目を通しておくこと（2時間）
	授業内容	特殊な不法行為（4）共同不法行為
	事後学習	レジュメ・参考書を用いて復習（2時間）

科目名	民法Ⅵ(親族法)	担当者	大杉 麻美	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	本講義では、民法第4編(親族編)に関する解説を行う。わが国における家族をめぐる状況は、近年、大きく変わりつつある。本講義では、親族法に関する理解を深めるとともに社会問題にも注意を払うことにより、具体的な解説策を導き出すことができる能力を養う。			
授業目的・到達目標	本講義では、自ら家族に関する問題を認識し、法的視点から理解し、解決策を提示することができる能力を養うことを目的とする。家族に関する問題を理解するために、(1)親族編の基礎について正確に理解し説明することができる、(2)親族編の具体的事例につき簡単に説明することができる、(3)現代的課題について理解し、自らの意見を発信することができることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5 政治経済学科2 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	なし			
授業方法	テキストに沿って講義を行う。必要に応じて講義資料を配信する(ポータルサイト)。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	50%	講義にて解説された基礎的な内容と、それに対する的確な理解(社会問題の認識)及び文章作成を評価の対象とする。履修人数によっては授業内試験を実施することもある。	
	平常評価	50%	講義にて解説された基礎的な内容と、それに対する的確な理解(社会問題の認識)及び文章作成を評価の対象とする。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014年	ミネルヴァ書房	『よくわかる家族法』	本澤巳代子、大杉麻美他2名
	備考			
参考書	水野紀子・大村敦志編『民法判例百選3 親族・相続(別冊ジュリストNo.239)』(有斐閣・2018)			
オフィスアワー	火曜日3限。事前にはアポイントメントをとって訪問すること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書Ⅰ総則「家族法の歴史と基本理念、家族法と戸籍、日本の家族：過去・現在・未来」を読んで現代の家族の特徴について考えてみる(2時間)。
	授業内容	家族法の歴史と基本理念、家族法と戸籍(婚姻後の実家の戸籍の記載)、日本の家族(過去・現在・未来)について解説する。
	事後学習	教科書コラムー1「性別適合手術と戸籍」を読んで、戸籍の特徴についてまとめておく(2時間)
2	事前学習	教科書Ⅱ婚姻「婚約の意味・婚姻するために必要なこと・婚姻届を出せない(1)(2)(3)」を読んで、婚姻届を出せない場合についてまとめておく(2時間)
	授業内容	婚約の意味、婚姻するために必要なこと、婚姻届を出せない(1)：婚姻の形式的要件、婚姻届を出せない(2)：婚姻の実質的要件、婚姻届を出せない(3)：近親婚の禁止について解説する。
	事後学習	教科書資料②戸籍の記載例、資料③婚姻届の様式を確認し、記載事項についてまとめておく(2時間)。
3	事前学習	教科書Ⅱ婚姻「夫婦の役割分担、マイホームの購入、夫婦が別居したら」を読んで、夫婦のお財布事情について考えてみる(2時間)。
	授業内容	夫婦の役割分担、マイホームの購入：夫婦の財産関係、夫婦の別居について解説する。
	事後学習	マイホームを購入する際の夫婦の金銭的負担のあり方について自らの意見を述べられるようにまとめておく(2時間)。
4	事前学習	教科書Ⅲ親子「子どもの出生と名前、婚姻と親子関係、できちゃった結婚と子ども、子どもが夫の子でないとき、未婚の母と子ども：認知しますか、させますか」を読んで、親子の法律関係の類型についてまとめておく(2時間)。
	授業内容	子どもの出生と名前、婚姻と親子関係、できちゃった結婚と子ども、子どもが夫の子でないとき、認知について解説する
	事後学習	子どもの名前をつける権利は誰にあるか、親の命名権について具体的事例を調べて自らの意見を述べられるようにまとめておく(2時間)。

5	事前学習	教科書Ⅲ親子「生殖補助医療で生まれた子ども(1)(2)、他人の子どもを養子にする(1)(2)」を読んで、養子の法的類型についてまとめておく(2時間)。
	授業内容	生殖補助医療で生まれた子ども：人工授精と体外受精、代理母とその問題、他人の子どもを養子にする：普通養子、特別養子について解説する。
	事後学習	生殖補助医療の現状をインターネットで調べて、親子関係をどのように認めるべきかについて自らの意見を述べられるようにまとめておく(2時間)。
6	事前学習	教科書Ⅳ親子間の権利義務「子育てと親の義務、誰が親権者か、中学生で母?、親の体罰と教師の体罰」について読んで、親子の法的関係についての法律の考え方をまとめておく(2時間)。
	授業内容	子育てを親の義務、誰が親権者か、中学生で母?、親の体罰と教師の体罰について解説する。
	事後学習	子どもを育てるにあたり、法律では親にどのような義務を課しているのかについて、具体的事例を述べられるようにまとめておく(2時間)。
7	事前学習	教科書Ⅳ親子間の権利義務「子どものものは親のもの?、子ども虐待、医療と子ども虐待、親権の喪失と制限、親権者がいなくなったら」を読んで、虐待の具体的事例についてマスコミで報道された事例を調べておく(2時間)。
	授業内容	子どものものは親のもの?、子ども虐待、医療と子ども虐待、親権の喪失と制限について解説する。
	事後学習	子ども虐待、医療ネグレクトをインターネットで調べて、虐待を減少させるための具体的政策について意見を述べられるようにまとめておく(2時間)。
8	事前学習	教科書Ⅴ離婚「離婚届の意味(1)(2)、離婚届を出せない(1)(2)(3)」を読んで、離婚の類型についてまとめておく(2時間)。
	授業内容	離婚届の意味(1)：協議離婚、離婚届の意味(2)：離婚と戸籍、離婚届を出せない(1)：離婚の種類、離婚届を出せない(2)：具体的離婚原因、離婚届を出せない(3)：抽象的離婚原因について解説する。
	事後学習	有責配偶者からの離婚請求についての考え方をまとめ、離婚原因の具体的事例についてインターネットで調べておく(2時間)。
9	事前学習	教科書Ⅴ離婚「離婚後の生活はどうなる(1)(2)」を読んで、財産分与の法的性質についてまとめておく(2時間)。
	授業内容	離婚後の生活はどうなる(1)：財産分与の法的性質、離婚後の生活はどうなる(2)：財産分与の対象と方法、内縁について解説する。
	事後学習	財産分与の手続きと支払い基準について、家庭裁判所のHPを閲覧してまとめておく(2時間)。
10	事前学習	教科書Ⅵ離婚と子ども「父母共同親権から単独親権へ、子ども争奪戦、別れて暮らす家族に会いたい(1)(2)、離婚後の子どもの養育費(1)(2)」を読んで、離婚後の親子関係についてまとめておく(2時間)。
	授業内容	父母共同親権から単独親権へ、子ども争奪戦、別れて暮らす家族に会いたい：面会交流、それでも会わせてくれないとき、離婚後の子どもの養育費について解説する。
	事後学習	子どもの手続き代理人、養育費・婚姻費用算定表をHPで調べて具体的な手続きについて説明できるようにまとめておく(2時間)。
11	事前学習	教科書Ⅶ国際結婚とこども「国際結婚、国際結婚から生まれた子どもの国籍、国際養子縁組、国際離婚、国境を超えた子の連れ去りとハーグ条約」について読んで、国際結婚から発生する家族関係の法的ルールについてまとめておく(2時間)。
	授業内容	国際結婚、国際結婚から生まれた子どもの国籍、国際養子縁組、国際離婚、国境を超えた子の連れ去りとハーグ条約について解説する。
	事後学習	インターネットでハーグ条約について調べ、具体的事例について説明できるようにしておく(2時間)。
12	事前学習	教科書Ⅷ扶養と後見「老親扶養の義務は誰に(1)(2)、新しい成年後見制度、成年後見人の選任と職務」を読んで、成年後見の制度についてまとめておく(2時間)。
	授業内容	老親扶養の義務は誰に(1)(2)：扶養の権利義務関係、扶養の順位と方法、新しい成年後見制度、成年後見人の選任と職務について解説する。
	事後学習	成年後見制度と任意後見制度の違いについてまとめておく、成年後見制度の問題点について説明できるようにまとめておく(2時間)。
13	事前学習	教科書Ⅷ扶養と後見「老親を看取る」を読んで、老親扶養の特徴と問題点について考えてみる(2時間)。
	授業内容	老親扶養、親族法と相続法のかかわりについて解説する。
	事後学習	親族法と相続法のかかわりについてまとめておく。老親扶養の問題点について自らの意見を述べられるようにまとめておく(2時間)。
14	事前学習	これまで配布された資料を見直し、よくわからなかったところを書き出しておく。第12回・第13回の講義で指示された判例を読んで、事案と判旨をまとめておく(2時間)。
	授業内容	講義のまとめと、最近の家族法判例についての解説を行う。
	事後学習	講義で解説された内容をノートにまとめ、判例については事案、法的問題点、社会的課題についてまとめるとともに、自らの意見を述べられるよう追加の調査を行う(2時間)。
15	事前学習	前回の疑問点が解決されているかを確認し、第14回の講義で解説された判例について、事後学習の成果をノートにまとめておく(2時間)。
	授業内容	授業内試験を実施する場合：授業内試験60分、解説30分を実施する。 定期試験を実施する場合：前期学習内容の振り返り。解説については定期試験終了後ポータルサイトにて配信する。
	事後学習	これまでの学習内容をファイルにまとめ、整理しておく(2時間)。

科目名	民法Ⅵ(親族法)	担当者	矢田 尚子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、民法の中でも親族法とよばれる分野を学習します。ここで扱う内容は、身近な法律問題ではありますが、近時、新たな動きが生まれ、検討すべき事柄の多い領域でもあります。そこで、この講義では、生殖補助医療・児童虐待・無戸籍児・事実婚など新たなトピックにも言及しつつ、家族の今について、皆さんと共に考えていきたいと思います。				
授業目的・到達目標	この講義では、民法の中でも親族法とよばれる分野の基礎的・体系的な理解を身につけてもらうことを目的とします。親族法の基本的概念を正確に修得することを到達目標とします。 関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5, 政治経済学科2 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	講義には必ず出席すること、最新の六法を持参すること、わからない法律用語がでてきたら、面倒がらずに調べること。				
授業方法	レジュメを配布し、講義形式で進めていきます。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	親族法の基礎知識が身についているかを判定します。	
	平常評価		0%		
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	法律文化社		ユーリカ民法5 親族・相続	小川富之他
	備考				
参考書	①法令用語研究会編『有斐閣法律用語辞典(第4版)』（有斐閣・2012） ②水野紀子・大村敦志編『民法判例百選3 親族・相続 【第2版】（別冊ジュリストNo. 239）』（有斐閣・2018）				
オフィスアワー	原則として火曜日の12:15～12:50に研究室（本館7F1720）にて、講義内容につき、質問を受け付けます。 （※相談の上、別の日時に設定することもあります。）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストを購入し、目次等をみておくこと（2時間）
	授業内容	ガイダンス（条文の読み方、法律用語の確認）、家族法総論（※六法を持参すること）
	事後学習	レジュメを復習しておくこと（2時間）
2	事前学習	事前に配布したレジュメの総論部分についてみておくこと テキストの第1部第1章を読んでくこと（2時間）
	授業内容	親族（総則）
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所を復習しておくこと（2時間）
3	事前学習	事前に配布したレジュメの婚姻の箇所についてみておくこと テキストの第1部2章を読んでくこと（2時間）
	授業内容	夫婦関係（1） 婚姻の成立
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所を復習しておくこと（2時間）
4	事前学習	事前に配布したレジュメの婚姻の効果等の箇所についてみておくこと テキストの第1部2章を読んでくこと（2時間）
	授業内容	夫婦関係（2） 婚姻の一般的効果・財産的效果（夫婦財産制）
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所を読んでおくこと（2時間）

5	事前学習	事前に配布したレジュメの婚姻の解消の箇所についてみておくこと テキストの第1部2章を読んでくこと（2時間）
	授業内容	夫婦関係（3） 離婚の成立
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所を復習しておくこと（2時間）
6	事前学習	事前に配布したレジュメの婚姻の解消の箇所についてみておくこと テキストの第1部2章を読んでくこと（2時間）
	授業内容	夫婦関係（4） 離婚の効果・DV・無戸籍児問題
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所を復習しておくこと（2時間）
7	事前学習	事前に配布したレジュメの該当箇所を読んでおくこと テキストの第1部2章を読んでくこと（2時間）
	授業内容	婚外関係（内縁・事実婚）
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所を読んでおくこと（2時間）
8	事前学習	事前に配布したレジュメの実親子関係の箇所についてみておくこと テキストの第1部3章を読んでくこと（2時間）
	授業内容	親子関係（1） 実親子関係①（嫡出子）
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所を読んでおくこと（2時間）
9	事前学習	事前に配布したレジュメの実親子関係の箇所についてみておくこと テキストの第1部3章を読んでくこと（2時間）
	授業内容	親子関係（2） 実親子関係②（非嫡出子・準正）
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所を読んでおくこと（2時間）
10	事前学習	事前に配布したレジュメの実親子関係の箇所についてみておくこと テキストの第1部3章を読んでくこと（2時間）
	授業内容	親子関係（3） 養親子関係
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所を読んでおくこと（2時間）
11	事前学習	事前に配布したレジュメの生殖補助医療の箇所を読んでくこと テキストの第1部3章を読んでくこと（2時間）
	授業内容	親子関係（4） 生殖補助医療
	事後学習	レジュメの該当箇所を復習しておくこと（2時間）
12	事前学習	事前に配布したレジュメの親権の箇所についてみておくこと テキストの第1部4章を読んでくこと（2時間）
	授業内容	親子関係（5） 親権①（親権に服する者、親権者、親権の内容）
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所を読んでおくこと（2時間）
13	事前学習	事前に配布したレジュメの親権の箇所についてみておくこと テキストの第1部4章を読んでくこと（2時間）
	授業内容	親子関係（6） 親権②（児童虐待・医療ネグレクト）
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所を読んでおくこと（2時間）
14	事前学習	事前に配布したレジュメの後見・扶養の箇所についてみておくこと テキストの第1部5、6、7章を読んでくこと（2時間）
	授業内容	後見・保佐・補助・扶養
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所を読んでおくこと（2時間）
15	事前学習	質問すべき点がないかを考えてくこと（2時間）
	授業内容	まとめ・質問受付
	事後学習	配布したレジュメ及びテキストを試験に向けてよく読んでおくこと（2時間）

科目名	民法Ⅵ(親族法)	担当者	武田 政明	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この科目では、主として民法典第4編親続編の条文および関連する法規について、各規定の制定の沿革、解釈の変遷、解釈の対立点、主要判例、参考としての外国の事例と状況について学習し、家族法に関する具体的法律問題の解決が実際ににおいてどのようになされているかを学ぶ。また、現代の世界・日本での新たな家族法上の問題、その解決のための諸外国の立法例、日本で要請されている立法案についても学ぶ。				
授業目的・到達目標	子ども、男女、夫婦、親子、高齢者、広く家庭内・親族関係に関する諸問題を解決するために不可欠となる法的知識の習得を目的とする。現代社会において実際に生ずる親族法領域の諸問題について、法的争点を明らかにし、法に則した当事者が納得する解決を導き出せる能力の獲得を目標とする。また、グローバル化する世界において、多くの国の家族法が既に直面し、やがて日本でも大きな問題となることが予想される従来とは異なった次元の家族法上の重要諸問題に対処する際に必要となる法情報の修得も目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，2，3，5 政治経済学科2 新聞学科1，5 経営法学科1，2，3，5 公共政策学科1，3，4				
履修条件	子ども、男女、夫婦、親子、高齢者、広く家族・親族関係に関する諸問題に関心のある者に受講してもらいたい。				
授業方法	教科書に即して講義方式で行う。必要に応じて配布する資料に基づいた講義も行う。 定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	授業内容の理解の程度、正確な法的知識、正しい法的思考のもとに妥当な法的結論を導き出しているかを評価基準とする。	
	平常評価		20%	講義中の質問、応答態度、提出レポートによって評価する	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	平成26年	日本加除出版		親族法・相続法講義〔第六版〕	山川一陽
	備考				
参考書	「家族法判例百選 第7版」（有斐閣） 「Q&Aわかるわかる！よくわかる家族法」山川一陽（日本加除出版）				
オフィスアワー	希望する場合には、授業の際にあらかじめ相談の上、火曜授業の前後に時間をとり可能な限り応じる。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認する。教科書「第1部家族法の基礎知識 第1章家族法の構造と特質」を読む。憲法の理念を現行家族法がどの程度実現しているかを考察する。2時間
	授業内容	憲法と家族法の関係。男女平等の本質と社会における意義
	事後学習	講義記録を読み直し、講義内容を確認する。日本国憲法の理念と家族法の関係、家庭内における男女の平等の法的意義を検討する。2時間
2	事前学習	教科書の「第2部親族法 第1章親族とその機能」を読む。親族の種類と範囲について考察する。2時間
	授業内容	親族の種類と範囲
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。親族の範囲を条文で定めることの問題点を検討する。2時間
3	事前学習	教科書の「3親族関係の発生と限界」を読む。自然血族関係と法定血族関係について考察する。2時間
	授業内容	親族関係の発生、効果 終了
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。法律上の親子関係と生物学上の親子関係について整理・検討する。2時間
4	事前学習	教科書の「第2章家族関係とその公示」を読む。戸籍の機能と基本構造を考察する。2時間
	授業内容	親族に関する法と戸籍
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。戸籍記載の基本原則、入籍と除籍の記載実例、現代社会における戸籍制度のあり方を検討する。2時間

5	事前学習	教科書の「第2章婚姻」を読む。婚姻制度の変遷、現代社会における婚姻の意義を諸外国とも比較して考察する。2時間
	授業内容	婚姻制度、婚約、内縁
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。婚姻の歴史、婚約の成立要件、内縁の効果を整理・検討する。2時間
6	事前学習	教科書の「3婚姻の成立 第3婚姻の無効と取消」を読む。婚姻の成立要件を考察する。2時間
	授業内容	婚姻の成立要件
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。形式成立要件、実質的成立要件、無効と取消の効果の差異、各問題点を整理・検討する。2時間
7	事前学習	教科書の「第4婚姻の効力」を読む 婚姻の効力全般について考察する。2時間
	授業内容	婚姻の効力
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。一般的効力、財産的効力について整理・検討する。2時間
8	事前学習	教科書の「第3章婚姻の解消」を読む。死亡と失踪による解消、離婚による解消、離婚制度の変遷、現代社会における離婚の意義を諸外国とも比較して考察する。2時間
	授業内容	死亡と失踪による婚姻の解消、離婚制度と手続
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。死亡と失踪による婚姻解消の要件、協議離婚、調停離婚、審判離婚、それぞれの問題点を整理・検討する。2時間
9	事前学習	教科書の「4判決離婚制度」を読む。離婚原因の意義、離婚原因を諸外国とも比較して考察する。2時間
	授業内容	離婚原因
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。離婚原因の解釈、有責配偶者からの離婚請求、破綻主義について諸外国とも比較検討して整理・検討する。2時間
10	事前学習	教科書の「5離婚の効果」を読む。一般的効果 身分上の効果、財産上の効果について考察する。2時間
	授業内容	離婚の効果
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。復氏、親権者の指定・変更、監護権者、財産分与請求権について整理・検討する。2時間
11	事前学習	教科書の「第4章親子」を読む。夫婦間の子について、父との親子関係を考察する。2時間
	授業内容	嫡出子の親子関係に関する法
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。推定を受ける嫡出子、推定の及ばない嫡出子、推定を受けない嫡出子、親子関係の否定と確定について整理・検討する。2時間
12	事前学習	教科書の「3嫡出でない子」を読む。母子関係、認知制度について考察する。2時間
	授業内容	嫡出でない子の親子関係に関する法
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。母の認知、任意認知、認知の無効と取消、強制認知、認知の効果、準正について整理・検討する。2時間
13	事前学習	教科書の「第3養子縁組」を読む。普通養子縁組、特別養子縁組について考察する。2時間
	授業内容	養親子関係に関する法
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。普通養子縁組、特別養子縁組の成立要件と問題点を整理・検討する。2時間
14	事前学習	教科書の「第5章親権・後見・保佐・補助について 第6章扶養について」を読む。親権の内容、成年後見制度について考察する。2時間
	授業内容	親権、後見、保佐、補助、扶養に関する法
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。現代社会における親権制度の意義からの親権に関する法制度の見直し、成年後見制度の利用促進のための要件、公的扶養と私的扶養の新たな関係、扶養義務者、扶養の方法と程度について整理・検討する。2時間
15	事前学習	初回からの教科書の各箇所と講義記録を見直す。憲法の理念、家族法の指導原理からの不適合箇所を考察する。2時間
	授業内容	初回からの教科書の各箇所および講義記録を読み直し、憲法の理念、家族法の指導原理により適合することが求められこれからのあるべき家族法
	事後学習	初回からの講義記録を読み、全講義内容を確認して、これからの家族法に求められている社会における機能を検討する。2時間

科目名	民法Ⅶ(相続法)	担当者	大杉 麻美	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講義では、民法第5編(相続編)に関する解説を行う。わが国における家族をめぐる状況は、近年、大きく変わりつつある。本講義では、親族法に関する理解を深めるとともに社会問題にも注意を払うことにより、具体的な解説策を導き出すことができる能力を養う。			
授業目的・到達目標	本講義では、自ら家族に関する問題を認識し、法的視点から理解し、解決策を提示することができる能力を養うことを目的とする。家族に関する問題を理解するために、(1)相続編の基礎について正確に理解し説明することができる、(2)相続編の具体的事例につき簡単に説明することができる、(3)現代的課題について理解し、自らの意見を発信することができることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5 政治経済学科2 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	なし			
授業方法	テキストに沿って講義を行う。必要に応じて講義資料を配信する(ポータルサイト)。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		50%	講義にて解説された基礎的な内容と、それに対する的確な理解(社会問題の認識)及び文章作成を評価の対象とする。履修人数によっては授業内試験を実施することもある。
	平常評価		50%	講義にて解説された基礎的な内容と、それに対する的確な理解(社会問題の認識)及び文章作成を評価の対象とする。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014年	ミネルヴァ書房	『よくわかる家族法』	本澤巳代子、大杉麻美他2名
	備考			
参考書	水野紀子・大村敦志編『民法判例百選3 親族・相続(別冊ジュリストNo. 239)』(有斐閣・2018)			
オフィスアワー	火曜日3限。事前にアポイントメントをとって訪問すること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書IX相続の開始と相続人「死を迎えたとき、『死者』をおくるとのこと、『相続』は何のためにあるのか」を読んで現代の相続の特徴について考えてみる(2時間)。
	授業内容	死を迎えたとき：相続のしくみ、『死者』をおくるとのこと、『相続』は何のためにあるのか：相続の歴史・根拠について解説する。
	事後学習	わが国の葬儀の特徴についてまとめるとともに、葬儀契約のトラブル事例についてインターネットで検索する(2時間)。
2	事前学習	教科書IX相続の開始と相続人「子どもはどれくらい相続できるのか、親が結婚していない子の相続分」を読んで、相続できる相続人の範囲についてまとめておく(2時間)
	授業内容	子どもはどれくらい相続できるのか、親が結婚していない子の相続分について解説する。
	事後学習	相続人の確定に関連する法律にはどのようなものがあるかについて講義の説明をもとにまとめておく(2時間)。
3	事前学習	教科書IX相続の開始と相続人「相続人になれない子ども、親の意思で相続人を決定するのか」を読んで、相続欠格と廃除の違いについてまとめておく(2時間)。
	授業内容	相続人になれない子ども：相続欠格、親の意思で相続人を決定するのか：相続廃除について解説する。
	事後学習	相続廃除に関する判例の事例を確認し、それに対する自らの意見を述べられるようにまとめておく(2時間)。
4	事前学習	教科書IX相続の開始と相続人「相続人が存在しないとき、相続財産を取り戻せ」を読んで、相続人がいないとはどのような事例であるかについて考えてみる(2時間)。
	授業内容	相続人が存在しないとき：身寄りのない者の財産と国庫帰属、相続財産を取り戻せ：相続回復請求について解説する
	事後学習	相続人が存在しない場合の相続手続きについてまとめておく(2時間)。

5	事前学習	教科書Ⅹ相続財産の確定「相続できるもの・できないもの、相続の対象とならない財産、特殊な相続財産(1)(2)」を読んで、相続の対象とすることができる財産の種類についてまとめておく(2時間)。
	授業内容	相続できるもの・できないもの、相続の対象とならない財産、特殊な相続財産(1)：親の「遺骨」は誰のものか、特殊な相続財産(2)：保険契約の受取人について解説する。
	事後学習	講義で取り上げられた事例のうち、最も興味を持った事例についての法的規制について自らの意見を述べられるようにまとめておく(2時間)。
6	事前学習	教科書Ⅹ相続財産の確定「相続財産の共有、相続財産は誰か『管理』するのか、相続財産の名義を移す：相続登記」について読んで、相続財産の共有に関する法律の考え方をまとめておく(2時間)。
	授業内容	相続財産の共有、相続財産は誰か『管理』するのか、相続財産の名義を移す：相続登記について解説する。
	事後学習	相続財産に関する登記が行われる事例を整理して、それぞれの解決策について簡単に結論が述べられるようにまとめておく(2時間)。
7	事前学習	教科書Ⅺ遺言「遺言のスタイル、『遺言書』を書く、誰にも知られたくない『遺言書』、遺言ができる人・できない人」を読んで、遺言書の書式事例をインターネットで調べておく(2時間)。
	授業内容	遺言のスタイル：意義・性質、『遺言書』を書く：自筆証書遺言、誰にも知られたくない『遺言書』、遺言ができる人・できない人について解説する。
	事後学習	遺言書に関するトラブルを減少させるための具体的政策について意見を述べられるようにまとめておく(2時間)。
8	事前学習	教科書Ⅺ遺言「遺言内容の実現、遺言による贈与(1)(2)、遺言内容の実現」を読んで、遺言による贈与の類型についてまとめておく(2時間)。
	授業内容	遺言内容の実現：遺言の効力、遺言による贈与(1)：遺贈・包括遺贈、遺言による贈与(2)：その他の遺贈、遺言内容の実現：遺言の執行について解説する。
	事後学習	遺言による遺贈の具体的事例についてインターネットで調べておく(2時間)。
9	事前学習	教科書Ⅻ遺産分割「相続の承認・放棄、『借金』の相続」を読んで、相続・承認の類型についてまとめておく(2時間)。
	授業内容	相続の承認・放棄、「借金」の相続：限定承認について解説する。
	事後学習	相続の承認と放棄の違いについて、レポート用紙にまとめておく(2時間)。
10	事前学習	教科書Ⅻ遺産分割「親からの援助：特別受益、介護は報われるか：寄与分」を読んで、特別受益と寄与分の違いについてまとめておく(2時間)。
	授業内容	特別受益、寄与分について解説する。
	事後学習	教科書コラムー13「長男の嫁」問題についてHPで調べて具体的な問題点について説明できるようにまとめておく(2時間)。
11	事前学習	教科書Ⅻ遺産分割「遺産分割の流れ、遺産分割の種類・方法」について読んで、遺産分割の流れについてまとめておく(2時間)。
	授業内容	遺産分割の流れ、遺産分割の種類・方法について解説する。
	事後学習	教科書資料⑮遺産分割協議書、登記申請書についてインターネット調べ、具体的に説明できるようにしておく(2時間)。
12	事前学習	教科書Ⅻ遺産分割「遺留分、遺留分減殺請求権、遺留分減殺の『順序』」を読んで、遺留分減殺の制度についてまとめておく(2時間)。
	授業内容	最低限は保障されるか：遺留分、遺留分減殺請求権、遺留分減殺の『順序』について解説する。
	事後学習	講義中に解説した遺留分減殺請求権の内容につき、ノートにまとめておく(2時間)。
13	事前学習	相続法改正について法務省のHPにアクセスして、講義で指示される資料をダウンロードし、内容を確認しておく(2時間)。
	授業内容	相続法改正の内容について解説する。
	事後学習	相続法改正についてまとめておく。現行法との違いについてまとめておく(2時間)。
14	事前学習	これまで配布された資料を見直し、よくわからなかったところを書き出しておく。第12回・第13回の講義で指示された判例を読んで、事案と判旨をまとめておく(2時間)。
	授業内容	講義のまとめと、最近の家族法判例についての解説を行う。
	事後学習	講義で解説された内容をノートにまとめ、判例については事案、法的問題点、社会的課題についてまとめるとともに、自らの意見を述べられるよう追加の調査を行う(2時間)。
15	事前学習	前回の疑問点が解決されているかを確認し、第14回の講義で解説された判例について、事後学習の成果をノートにまとめておく(2時間)。
	授業内容	授業内試験を実施する場合：授業内試験60分、解説30分を実施する。 定期試験を実施する場合：前期学習内容の振り返り。解説については定期試験終了後ポータルサイトにて配信する。
	事後学習	これまでの学習内容をファイルにまとめ、整理しておく(2時間)。

科目名	民法Ⅶ(相続法)	担当者	矢田 尚子	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、民法の中でも相続法とよばれる分野を学んでいきます。ここで扱う内容は、身近な法律問題ではありますが、近時、新たな動きが生まれ、検討すべき課題の多い領域でもあります。そこで、この講義では、非嫡出子の相続分、相続させる旨の遺言といった近年の重要判例にも言及しながら、家族、相続の今について、皆さんと共に考えていきたいと思います。							
授業目的・到達目標	この講義では、民法の中でも相続法とよばれる分野の基礎的・体系的な理解を身につけてもらうことを目的とします。相続法の基本概念を正確に修得することを到達目標とします。 関連DP及びCP：法律学科1, 2, 3, 5, 政治経済学科2 新聞学科1, 5 経営法学科1, 2, 3, 5 公共政策学科1, 3, 4							
履修条件	講義には必ず出席すること、最新の六法を持参すること、わからない法律用語がでてきたら、面倒がらずに調べること。							
授業方法	レジュメを配布し、講義形式で進めていきます。 定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信します。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		100%		相続法の基礎知識が身についているかを判定します。			
	平常評価		0%					
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	2019		法律文化社		ユーリカ民法5 親族・相続		小川富之他	
	備考							
参考書	①法令用語研究会編『有斐閣法律用語辞典(第4版)』（有斐閣・2012） ②水野紀子・大村敦志編『民法判例百選3 親族・相続【第2版】（別冊ジュリストNo. 239）』（有斐閣・2018）							
オフィスアワー	原則として火曜日の12:15～12:50に研究室（本館 7 F 1720）にて、講義内容につき、質問を受け付けます。 （※相談の上、別の日時に設定することもあります。）							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストを購入し、目次を確認してくること（2時間）
	授業内容	ガイダンス（条文の読み方、法律用語の確認）、家族法入門
	事後学習	レジュメを復習しておくこと（2時間）
2	事前学習	事前に配布したレジュメに目を通しておくこと テキストの第2部8章を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	相続法改正の概要 相続法総論(1)―意義、開始原因と場所、推定相続人の地位
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習しておくこと（2時間）
3	事前学習	事前に配布したレジュメを確認しておくこと テキストの第2部9章を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	相続法総論(2)―相続回復請求権、祭祀承継
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習しておくこと（2時間）
4	事前学習	事前に配布したレジュメを確認しておくこと テキストの第2部10章を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	相続人と相続分(1)―意義、相続人の種類と順位、相続欠格、廃除
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習しておくこと（2時間）

5	事前学習	事前に配布したレジュメの該当箇所を読んでおくこと テキストの第2部10章を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	相続人と相続分(2)－法定相続分、指定相続分、代襲相続人の相続分
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習しておくこと（2時間）
6	事前学習	事前に配布したレジュメに目を通しておくこと テキストの第2部11章を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	相続人と相続分(3)－特別受益者、寄与者の相続分
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習しておくこと（2時間）
7	事前学習	事前に配布したレジュメに目を通しておくこと テキストの第2部11章を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	相続の効果
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習しておくこと（2時間）
8	事前学習	事前に配布したレジュメに目を通しておくこと テキストの第2部11章を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	遺産分割(1)－意義、実行、分割の基準と方法
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習しておくこと（2時間）
9	事前学習	事前に配布したレジュメに目を通しておくこと テキストの第2部11章を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	遺産分割(2)－効力、共同相続人間の担保責任、対象
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習しておくこと（2時間）
10	事前学習	事前に配布したレジュメに目を通しておくこと テキストの第2部12、13、14章を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	相続の承認・放棄、財産分離、相続人の不存在
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習しておくこと（2時間）
11	事前学習	事前に配布したレジュメに目を通しておくこと テキストの第2部15章を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	遺言(1)－意義、普通方式、特別方式、一般的効力
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習しておくこと（2時間）
12	事前学習	事前に配布したレジュメに目を通しておくこと テキストの第2部15章を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	遺言(2)－遺贈、遺言の執行、遺言の撤回・取消し
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習しておくこと（2時間）
13	事前学習	事前に配布したレジュメに目を通しておくこと テキストの第2部16章を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	遺留分(1)－意義、遺留分権利者と遺留分割合、遺留分の算定
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習しておくこと（2時間）
14	事前学習	事前に配布したレジュメに目を通しておくこと テキストの第2部16章について読んでおくこと（2時間）
	授業内容	遺留分(2)－遺留分侵害額請求権の行使、効力、消滅
	事後学習	レジュメ及びテキストの該当箇所について復習しておくこと（2時間）
15	事前学習	質問事項がないかを考えておくこと（2時間）
	授業内容	まとめ・質問受付
	事後学習	配布したレジュメ及びテキストを試験に向けてよく読んでおくこと（2時間）

科目名	民法Ⅶ(相続法)	担当者	武田 政明	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この科目では、主として民法典第5編相続編の条文および関連する法規について、各規定の制定の沿革、解釈の変遷、解釈の対立点、主要判例、参考としての外国の事例と状況について学習し、相続法に関する具体的法律問題の解決が実際ににおいてどのようになされているかを学ぶ。また、新たな相続法上の問題に対処するための新設・改正条文についても学ぶ。				
授業目的・到達目標	広く相続に関する諸問題を解決するために不可欠となる法的知識を身につけることを目的とし、現代社会において実際に生ずる相続法領域の諸問題について、法的争点を明らかにし、法に則した当事者が納得する解決を導き出せる能力を獲得することを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，2，3，5 政治経済学科2 新聞学科1，5 経営法学科1，2，3，5 公共政策学科1，3，4				
履修条件	相続に関する争い事、これからの相続法はどのようにあるべきかに関心のある者に受講してもらいたい。				
授業方法	教科書に即して講義方式で行う。必要に応じて配布する資料に基づいた講義も行う。 定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		80%		授業内容の理解の程度、正確な法的知識、正しい法的思考のもとに妥当な法的結論を導き出せているかを評価基準とする。
	平常評価		20%		講義中の質問、応答態度、提出レポートによって評価する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	平成26年	日本加除出版		親族法・相続法講義〔第六版〕	山川一陽
	備考				
参考書	「家族法判例百選 第7版」（有斐閣） 「Q&Aわかるわかる！よくわかる家族法」山川一陽（日本加除出版）				
オフィスアワー	希望する場合には、授業の際にあらかじめ相談の上で、火曜授業の前後に時間をとり可能な限り応じる。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認する。教科書の「第3部相続法 第1章相続の歴史とその意義」を読む。戦前の相続法と現行相続法の基本理念、達成目標の根本的違いを考察する。2時間
	授業内容	日本相続法の歴史と特色、相続の根拠
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。現行相続法が家族生活における個人の尊重という憲法の理念をどの程度達成しているか、またこれからの相続法はどのようにあるべきかについて、整理・検討する。2時間
2	事前学習	教科書の「第2章相続の開始 1 相続の開始原因とその時期 2 その意義と同時存在の原則 3 相続回復請求権」を読む。相続の開始について大規模自然災害の場合を考察する。相続回復請求権の法的存在意義等を考察する。2時間
	授業内容	相続の開始原因とその時期、相続回復請求権
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。相続開始原因としての死亡の法的意義、同時存在の原則、当然開始の原則等を検討する。相続回復請求権の意義、判例、行使の当事者、遺産分割請求権との関係、消滅等の問題を整理・検討する。2時間
3	事前学習	教科書の「第3章相続人と相続分」を読む。配偶者相続人と血族相続人、相続順位、相続人の二重資格等について考察する。2時間
	授業内容	配偶者相続人、血族相続人、相続人の二重資格、
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。配偶者の意義、血族相続人の意義、相続順位、胎児の相続権、相続人の二重資格等について現行相続法規が抱える問題点を整理・検討する。2時間
4	事前学習	教科書の「2 法定相続分 3 代襲相続」を読む。相続人と法定相続分、代襲相続人の資格要件等について考察する。2時間
	授業内容	法定相続分、代襲相続
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。代襲相続も含めて相続人となる場合とそのときの相続分の割合の関係を整理・検討する。2時間

5	事前学習	教科書の「4 配偶者相続の諸問題」を読む。相続法の改正条文から配偶者の相続権に関係する部分を考察する。2 時間
	授業内容	配偶者相続権
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。配偶者居住権、遺産分割における配偶者保護のための方策等を整理・検討する。2 時間
6	事前学習	教科書の「5 相続欠格 6 相続人の廃除」を読む。制度の目的、それぞれの事由と効果等を考察する。2 時間
	授業内容	相続人となれない者
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。欠格・廃除制度の事由を現在の親子・家族生活を踏まえて整理・検討する。2 時間
7	事前学習	教科書の「第2 指定相続分 第3 特別受益者の相続分」を読む。相続分の指定がなされた場合、相続人の中に特別受益者がいる場合の相続人各自の相続分等を考察する。2 時間
	授業内容	相続分の指定、特別受益者
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。相続分の指定方法、指定の解釈、遺留分や相続債務との関係等について整理・検討する。特別受益の意義・評価、特別受益者がいる場合の相続分の算定方式等を具体的事例に則して整理・試算・検証する。2 時間
8	事前学習	教科書の「第4 寄与分 第5 相続分の取戻権について」を読む。寄与分の要件、相続分の譲渡、取り戻し権の行使等について考察する。2 時間
	授業内容	寄与分、相続分取戻権
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。寄与分制度の意義と問題点、寄与分の算定方式等を具体的事例に則して整理・試算・検証する。相続分取戻権の意義、相続分の遺産分割前の譲渡と登記、譲渡を受けた者の法的立場等について整理・検討する。2 時間
9	事前学習	教科書の「第6 遺産分割について」を読む。遺産分割に関する諸問題、代償財産の取扱い、遺産分割の基準・方法、遺産分割の禁止、遺産分割の効果等について考察する。2 時間
	授業内容	遺産分割
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。遺産分割に関する諸問題を整理し、さまざまな場合を想定した遺産分割協議書を実際に作成してみて問題点を検証する。2 時間
10	事前学習	教科書の「第4 章相続財産」を読む。相続財産の意義、無権代理と相続、遺産共有の法的性質、共同財産の管理等に関する諸問題について考察する。2 時間
	授業内容	相続財産
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。相続財産の範囲、無権代理と相続の種類、合有説と共有説の主張、共同相続財産の管理、相続と登記等に関する諸問題を整理・検討する。2 時間
11	事前学習	教科書の「第5 章相続の承認と放棄」を読む。承認・放棄の法的性格、熟慮期間、相続放棄の方式等について考察する。2 時間
	授業内容	相続の承認と放棄
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。熟慮期間の起算点と特則、熟慮期間と特別事情、相続放棄の方式と効果等について整理・検討する。2 時間
12	事前学習	教科書の「第3 相続の承認 第6 章財産分離」を読む。法定単純承認、限定承認、財産分離の機能について考察する。2 時間
	授業内容	相続の承認、財産分離
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。法定単純承認となる場合、限定承認の意義と効果、財産分離の意義と効果等について整理・検討する。2 時間
13	事前学習	教科書の「第7 章相続人の不存在 第8 章遺言制度について」を読む。相続人不存在の意義と手続き、遺言能力、遺言事項等について考察する。2 時間
	授業内容	相続人の不存在、遺言の機能、遺言能力、遺言事項
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。相続人不存在の場合の手続の進め方、特別縁故者の意義と財産分与、国庫帰属について問題点を整理し検討する。遺言制度の意義と機能から遺言能力、遺言事項について検討する。2 時間
14	事前学習	教科書の「4 遺言の方式から9 遺言の執行について」までを読む。遺言の種類と方式、遺言の効力、遺贈、遺言の執行等について考察する。2 時間
	授業内容	遺言の執行 遺言の撤回・取消
	事後学習	講義記録を読み、講義内容を確認する。普通方式・特別方式の遺言方法、遺言の効力、遺言の無効・取消し等について実際に遺言書を作成してみて、またそれぞれの方式によって作成された遺言書から各遺言方式による問題点を整理・検討する。受遺者と遺贈義務者の法的関係、包括遺贈と特定遺贈、負担付贈与等の諸問題について検討する。2 時間
15	事前学習	教科書の「第2 遺留分制度」を読む。遺留分制度を考察する。また、初回からの教科書の各箇所と講義記録を読み直し、憲法の理念から、これからの相続法において改めるべきところを考察する。2 時間、
	授業内容	遺留分 これからのあるべき相続法
	事後学習	初回からの教科書の各箇所と講義記録を確認する。社会においてこれからの相続法に求められている機能、その実現方法をを検討する。2 時間

科目名	民法総則	担当者	金光 寛之	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	民法総則では、権利の主体から学び始め、権利の客体、法律行為、代理、条件、法律行為の無効や取消等について学ぶ。			
授業目的・到達目標	本講義では民法全体の基礎理論の習得を目的する。 さらに現代社会で生じる様々な法的関係に対応できるような基礎的な知識を得られることを目標とする。関連D P及びC P：政治経済学科2 新聞学科1, 5			
履修条件	特になし			
授業方法	テキストを参照しつつ講義を行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	期末試験にて総合的評価をする。	
	平常評価	0%	受講生の人数および出席者の人数によっては授業参加度を加味することもある	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2012	法研出版	民法総則・物権法	山川一陽 小野健太郎
	備考			
参考書	適宜指示をする。			
オフィスアワー	電子メール等にて適宜相談を受ける。木曜1限終了後 希望者は授業講堂にて申し出ること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	指定されたテキストを読み講義に備える（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	講義で説明された内容について再度考える。（2時間）
2	事前学習	民法の基本原則に関する内容についてテキストをよく読む（2時間）
	授業内容	民法の基本原則
	事後学習	民法の基本原則に関して講義で説明された内容についてテキスト・ノートを読み直す。（2時間）
3	事前学習	民法上の権利の主体についてテキストをよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	民法上の権利の主体・自然人
	事後学習	民法上の権利の主体・自然人の講義で説明された内容についての判例等を調べる。（2時間）
4	事前学習	法人についてテキストをよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	民法上の権利の主体・法人
	事後学習	民法上の権利の主体・法人についてテキスト等をもう一度読みなおす。（2時間）

5	事前学習	民法上の権利の客体・物についてテキストをよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	民法上の権利の客体・物
	事後学習	民法上の権利の客体・物の講義内容についてテキスト等を読み確認する。（2時間）
6	事前学習	法律行為の意義と種類についてテキスト等をよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	法律行為①
	事後学習	法律行為の意義と種類の講義内容についてテキスト等を読み確認する。（2時間）
7	事前学習	法律行為の解釈と基準についてテキストをよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	法律行為②
	事後学習	法律行為の解釈と基準の講義内容についてテキスト等を読み確認をする。（2時間）
8	事前学習	法律行為の目的上の有効要件についてテキストをよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	法律行為③
	事後学習	法律行為の目的上の有効要件の講義内容についてテキスト等を読み確認をする。（2時間）
9	事前学習	代理の意義と機能についてテキストをよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	代理①
	事後学習	代理の意義と機能の講義内容についてテキスト等を読み内容を確認する。（2時間）
10	事前学習	代理権の制限についてテキストをよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	代理②
	事後学習	代理権の制限の講義内容についてテキスト等を読み内容を確認する。（2時間）
11	事前学習	無権代理についてテキストを読んでおく。（2時間）
	授業内容	代理③
	事後学習	無権代理の講義内容についてテキスト等を読み内容を確認する。（2時間）
12	事前学習	無効・取消、条件・期限についてテキストをよく読んでおく。（2時間）
	授業内容	無効・取消、条件・期限
	事後学習	無効・取消、条件・期限の講義についてテキスト等を読み内容を確認する。（2時間）
13	事前学習	取得時効についてテキストを読んでおく。（2時間）
	授業内容	時効①
	事後学習	取得時効の講義についてテキスト等を読み内容を確認する。（2時間）
14	事前学習	消滅時効についてテキストを読んでおく。（2時間）
	授業内容	時効②
	事後学習	消滅時効の講義についてテキスト等を読み内容を確認する。（2時間）
15	事前学習	時効の効力と時効の援用についてテキストを読んでおく。（2時間）
	授業内容	時効③
	事後学習	時効の効力と時効の援用の講義についてテキスト等を読み内容を確認する。（2時間）

科目名	民法総則	担当者	野中 貴弘	部 別	第一部	期 間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	この講座では、民法典の第1編「総則」に定められたルールについて学ぶ。具体的には、民法がどのような場面に適用されるのかをおさえた後、民法における登場人物についてのルール、納得のいかない意思表示をしてしまった場合の当事者間の利益調整のあり方、他者を使って取引等をする場合の代理制度、さらには永続した事実状態を尊重する制度としての時効制度を学ぶ。民法総則の重要部分に時間をかけて丁寧に説明することとしたい。			
授業目的・到達目標	私法の基本法たる民法の総則を通して、その後の物権法や債権法の学修に必要な法的知識を修得するとともに、法的思考方法を養成することを目的とする。本授業で扱った制度・論点について、自身で適宜具体例を挙げたうえで、そこでの法の考え方（仕組み）を他者に論理的に説明できるようになること、及び具体的事例（現代社会が直面している問題）の中から法的問題を発見できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：政治経済学科2 新聞学科1,5			
履修条件	特になし。			
授業方法	レジュメを使用しての講義が中心だが、定期的に演習を実施する。第14回に行う授業内試験について、解説を第15回講義時に行う。本講座では、担当教員の弁護士としての実務経験を踏まえ、実務事例なども採り上げて説明する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	第14回に実施の授業内試験の成績によって評価する。試験においては、正誤問題と簡易記述式問題の出題を予定している。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	有斐閣	民法入門・総則〔第5版〕エッセンシャル民法1	永田眞三郎ほか
	備考			
参考書	道垣内弘人『リーガルベシス民法入門〔第3版〕』（日本経済新聞出版社・2019年）			
オフィスアワー	水曜日13：00—17：00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館6階1608） nonaka.takahiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	学生教員共有フォルダから第1回講義レジュメを印刷し、あらかじめ読んでおく 自分が「なぜ民法を学びたいのか」「なぜ学ぶ必要があると考えるのか」を整理してみる（2時間）
	授業内容	講義案内、民法の特徴と魅力、民法の構造と民法における民法総則の位置づけ 講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法、教科書や参考書の紹介を含めて、民法総則・物権法の学修方法について説明し、そのうえで学生が民法をはじめとした法学を学ぶ意味を一緒に考える。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 第1回講義を踏まえ、本講義と並行して履修することで学習効果が高そうな講座を探し、半年間の学習計画を立てる（2時間）
2	事前学習	教科書の「第1章 民法とは何か」及び「第2章 私権」を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	民法の全体像①（民法とは何か、民法の全体像） 民法がどのような場面において適用される法律であるのかを理解したうえで、極めて広範囲に及ぶ民法につき、その全体像を概観する。
	事後学習	レジュメを読み返し、挙げられている条文について実際に六法を開いて読んでみる（2時間）
3	事前学習	教科書の「第1章 民法とは何か」及び「第2章 私権」を読んでおくこと 第3回講義は、第2回の講義内容の続きになるので、第2回レジュメを読み返してから講義に臨むこと（2時間）
	授業内容	民法の全体像②（民法の基本概念） 民法における諸原則をはじめとし、善意・悪意や承継取得・原始取得といった法律用語の意味を学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 所有権の取得方法として、原始取得と承継取得の意味を自分の言葉で具体例を挙げて説明できるようにしておくこと。 第5回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）

4	事前学習	教科書の「第3章 人」を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	権利の主体（人） 権利能力、意思能力、行為能力といった3つの能力概念を学び、それぞれどのような差があり、それぞれの能力を欠いていた法律行為の効力をおさえる。また、行為能力が十分でない者を保護する制度としての制限行為能力者制度についても学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 制限行為能力制度につき、民法が用意している4つの類型をおさえるとともに、こうした制限行為能力者と取引をした相手方保護の必要性とその手段について一連の流れでおさえる。 第5回講義の際に扱う演習（第1回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
5	事前学習	教科書の「第5章 物」を読んでおくこと あらかじめ演習（第1回）の問題を全問検討しておくこと（2時間）
	授業内容	権利の客体（物）、演習（第1回） 民法上の権利の客体となる物概念について学んだあと、第2回以降の講義内容の復習を兼ねた演習を行う。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 演習問題の回答を整理する（2時間）
6	事前学習	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、法律行為と意思表示の関係、意思表示の到達と受領、法律行為と意思表示の解釈、心裡留保の箇所を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	法律行為と意思表示①（法律行為と意思表示の関係、意思表示の到達と受領、法律行為と意思表示の解釈、心裡留保） 隔地者間における意思表示はいったいいつ効力が生じるのか、契約をしたものの両当事者が表示に込めた意味にすれ違いがあった場合にはどのような内容で効力が生じるのか、一方当事者が相手をだますつもりで契約の申込みをし、相手方が信じ切っている場合にその契約の効力は生じるのか、といったことを学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 意思表示や契約の解釈に関し、講義中で紹介した客観的解釈説と規範的解釈説の相違を整理する。 第8回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
7	事前学習	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、通謀虚偽表示と錯誤の箇所を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	法律行為と意思表示②（通謀虚偽表示、錯誤） 契約当事者が、真に譲渡する意思がないにもかかわらず、示し合わせて形だけの契約がなされたとき、この契約にはどのような効力があるか。契約締結にあたり、一方当事者に勘違いがあった場合はどうか。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 講義で出てきた94条2項の類推適用とは、94条2項が直接適用される場面とどこが異なるか考えてみること。 第8回講義の際に扱う演習（第2回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
8	事前学習	教科書の「第6章 法律行為と意思表示」のうち、詐欺と強迫の箇所を読んでおくこと あらかじめ演習（第2回）の問題を全問検討しておくこと（2時間）
	授業内容	法律行為と意思表示③（詐欺、強迫）、演習（第2回） 契約締結にあたり契約の相手方が詐欺または強迫をしていた場合、詐欺や強迫の被害者はどのような主張が可能か。第三者が詐欺していた場合に何か違いがあるか。詐欺と強迫で差があるか。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 96条2項と96条3項を読んだだけで、当事者関係図が書けるように整理する。 演習問題の回答を整理する（2時間）
9	事前学習	教科書の「第7章 法律行為の自由と制約」「第8章 無効と取消し」「第9章 条件・期限」を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	法律行為の自由と制約、無効と取消し、条件と期限 取締規定に反する契約は全て効力が生じないか。そもそも無効と取消しは、どのような違いがあるのか。条件と期限にはどのような差があるか。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと これまで学んできた民法の条文がそれぞれ強行規定なのか任意規定なのか考えてみること。 第11回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
10	事前学習	教科書の「第10章 代理」のうち、第1節から第3節までを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	代理①（代理の基本的仕組みと機能、代理権、代理行為） 第三者を使って法律行為をする場面である代理制度につき、その効果が生じる要件を整理して学習する。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと なぜ署名代理も頭名として許されているのかにつき、頭名が求められている趣旨に遡って考えてみること。 第11回講義の際に扱う演習（第3回）の問題のうち、今回学んだ部分の問題につき解いてみること（2時間）
11	事前学習	教科書の「第10章 代理」のうち、第4節および第5節を読んでおくこと あらかじめ演習（第3回）の問題を全問検討しておくこと（2時間）
	授業内容	代理②（無権代理、表見代理）、演習（第3回） 代理行為の効果は本人に帰属するのが原則であるが、代理の要件を満たしていなかった場合には、例外となる。そうした例外的局面における相手方保護の在り方について学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 109条の表見代理は、どのような場面で相手方を保護するものか。条文を見て具体例が挙げられるようにしておくこと。 演習問題の回答を整理する（2時間）
12	事前学習	教科書の「第12章 時効」のうち、第1節を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	時効①（取得時効） 永続した事実状態を尊重する制度としての取得時効について、その法的仕組みを学ぶ。
	事後学習	レジュメを再度読み直しておくこと 自分の身の回りにある物で、実は取得時効が完成している物がないか考えてみる（2時間）
13	事前学習	教科書の「第12章 時効」のうち、第2節～第4節を読んでおくこと（2時間）
	授業内容	時効②（消滅時効、時効の共通原則、時効制度の意義と類似の制度） 「権利の上に眠る者は保護に値しない」制度としての消滅時効について、2017年の民法改正での影響も含め学習する。また、前回の取得時効にも共通する原則や、時効制度と似た除斥期間制度についても学ぶ。
	事後学習	日本民法では、時効の効果を享受するには時効の援用が必要だが、この援用はなぜ必要なのか、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。 これまでのレジュメを全て整理し、次回の授業内試験に備える。分からない箇所があれば、教科書やレジュメ、さらには図書館にある文献も参照しながら整理する（2時間）

14	事前学習	これまでのレジメを読み返し、理解の不十分な箇所をあらかじめ明らかにして質問できるようにしておくこと（2時間）
	授業内容	質疑応答（30分）、授業内試験（60分）
	事後学習	試験において十分に理解していなかった部分の復習をする（2時間）
15	事前学習	授業内試験における疑問点や不明点を質問できるよう整理しておく（2時間）
	授業内容	授業内試験の解説・講評
	事後学習	これまでのレジメを整理するとともに、民法総則の総復習をする（2時間）

科目名	メディア演習Ⅰ	担当者	高木 強	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	新聞メディアを中心にジャーナリズム活動の現状と社会的・法的・経済的環境、およびそれらの理解を通じて、ジャーナリズム活動の構造や社会的な意義・役割について学ぶ。					
授業目的・到達目標	社会の中でのジャーナリズム、メディアの構造、制度への理解を深め、メディア、情報に接する主体的判断力を養うことを目的とする。 到達目標：ジャーナリズム・メディア・言論の自由の問題をさまざまな観点から考察し、ジャーナリズム活動の現状・構造や社会的役割を把握、理解できる能力を身につけることを目標とする。					
履修条件	関連DP及びCP：新聞学科1， 4， 8 ジャーナリズム、言論・表現の自由に関心を有していること。					
授業方法	主に講義形式で行う。質疑応答、討論の時間を適宜設ける。授業内レポートのフィードバックを最終回で行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		授業での質疑、授業内レポートの内容で評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない。授業ごとに適宜、資料を配布する。				
参 考 書	授業ごとに適宜、紹介する。					
オフィスアワー	授業内（土曜2限）で質問を受け付ける。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読し、授業概要、目的について理解しておく。（120分）
	授業内容	全体の授業計画の説明、ガイダンス
	事後学習	新聞あるいは新聞社に対するイメージを考える。（120分）
2	事前学習	新聞あるいは新聞社に対するイメージをまとめておく。（120分）
	授業内容	新聞メディアの活動と構造1（組織）：新聞社がどのような組織体であり、どのような構造となっており、どのような活動を行っているのかについて。
	事後学習	新聞以外に自分が関心を持っているメディアの組織・構造について考える。（120分）
3	事前学習	新聞の取材・報道について日頃気になっていることをまとめておく。（120分）
	授業内容	新聞メディアの活動と構造2（活動）：新聞社の中心的活動である取材と報道の基本的な流れ、構造について。
	事後学習	新聞以外の他のメディアの取材や報道の仕組みについて考える。（120分）
4	事前学習	新聞社の経営がどのように成り立っているのかについて想像しておく。（120分）
	授業内容	新聞メディアの活動と構造3（産業）：新聞産業・経営の概要、構造について。
	事後学習	新聞以外の他のメディアの経営構造について考える。（120分）

5	事前学習	日頃の報道の中で倫理上、疑問に感じたことをまとめておく。（120分）
	授業内容	ジャーナリズムの倫理 1（新聞倫理綱領）：新聞を中心に、取材・報道倫理について。
	事後学習	倫理綱領などに照らして、日々の新聞やテレビなどの報道について考える。（120分）
6	事前学習	倫理について考えをまとめておく。（120分）
	授業内容	ジャーナリズムの倫理 2：諸外国での取材・報道倫理やその向上のための活動について。
	事後学習	日本の報道倫理と比較し考える。（120分）
7	事前学習	刑法・民法の違いを整理しておく。（120分）
	授業内容	メディアと法制度 1：取材・報道に関連する法制度の概要について。
	事後学習	名誉毀損訴訟など報道に関わる判決文を読んでみる。（120分）
8	事前学習	法律と倫理の違いについて考えておく。（120分）
	授業内容	メディアと法制度 2：取材・報道に関連する法制度の概要について。（前回続き）
	事後学習	日頃の報道を、報道する側と報道される側の立場になって考えてみる。（120分）
9	事前学習	言論の自由の必要性について考えをまとめておく。（120分）
	授業内容	言論の自由をめぐる問題 1：言論の自由の意義、戦前・戦中と戦後の比較について。
	事後学習	戦前の言論統制に関する書籍を読んでみる。（120分）
10	事前学習	フリーのジャーナリストと企業のジャーナリストはどちらがより自由かについて考えをまとめておく。（120分）
	授業内容	言論の自由をめぐる問題 2：組織的ジャーナリズムにおける言論の自由について。
	事後学習	仮に自分がジャーナリストになるとして、フリーと企業のどちらを選択するかを考えてみる。（120分）
11	事前学習	ヘイト・スピーチ規制の是非について考えをまとめておく。（120分）
	授業内容	言論の自由をめぐる問題 3：ヘイト・スピーチ規制の是非を具体的なテーマとして、言論の自由と人権との関係の在り方について。
	事後学習	自分が組織内ジャーナリストになったと想定し、言論の自由と組織の論理、人権、法律、読者・視聴者との関係で、どのように行動するかを考えてみる。（120分）
12	事前学習	民主主義の仕組み、意義を整理しておく。（120分）
	授業内容	民主主義とジャーナリズムの役割：民主主義社会におけるジャーナリズムの役割について。
	事後学習	民主主義と自由が対立した場合にジャーナリズムはどうあるべきかを考えてみる。（120分）
13	事前学習	社会はマスメディアに何を求めているのかについて考えをまとめておく。（120分）
	授業内容	メディアの社会的責任・公共性：メディアの社会的責任や期待される役割について。
	事後学習	現在のマスメディアの役割や責任について考えてみる。（120分）
14	事前学習	事前に告知するレポートテーマについて考えを整理し、執筆構成を準備しておく。（120分）
	授業内容	授業内レポートおよびまとめ：事前に告知するテーマについて、授業内でレポートを執筆する。
	事後学習	これまでの授業を通じて感じたこと、日頃のメディアに対する疑問などをまとめておく。（120分）
15	事前学習	これまでの授業を通じて感じたこと、日頃のメディアに対する疑問などをまとめておく。（120分）
	授業内容	これまでの授業を通じて感じたこと、日頃のメディアに対する疑問、前回レポート内容などについて討議する。
	事後学習	今後のジャーナリズム、メディアの役割について考える。（120分）

科目名	メディア演習Ⅱ	担当者	黒井 克行	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「〇〇論」をぶつものではない。学問としてはともかく、実際のメディアの現場を再現した中での、既存の屁の役にも立たない理屈を一切排除した講義となろう。これまでにメディアで取り上げられてきた事件や出来事を歴史的に検証し、そこから垣間見えてくる課題を発掘して次にどのように活かしていくか。すでに報じられ歴史的に定着をみている事象の再検証とメディアの功罪と意義を問うものである。			
授業目的・到達目標	今、現実には起きている出来事やメディアで報じられている事をそのまま鵜呑みにすることなく、その行間に潜む本質を的確に捉え、自分なりの考えを加えて発信し伝える力を養成することを目的とする。 これまでにメディアで取り上げられてきた事件や出来事を歴史的に検証し、そこから垣間見えてくる課題を発掘して次にどのように活かしていくか、自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：新聞学科1， 4， 8 「新聞学科を極めたい」「3年間学んできたけど物足りない」「もっと刺激が欲しい」「気が付けば4年になっていた」という諸兄。			
授業方法	担当講師の活動現場での体験やそれに裏付けされた理論や認識をほとんどのマシンガントークと、残された時間は「演習」と名のつくかぎり、授業内レポートや発言を求めたい。フィードバックは授業内において行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	60%) 半期の授業の成果の全てをぶつける機会とし、または平常の講義の出遅れを巻き返す唯一無二のチャンスとして授業内レポート(もしくは提出)を科す。 40%) 不定期に課す授業内レポート、授業への参加度等真摯な姿勢。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし。強いて挙げれば日常の新聞か。		
参考書	適宜指示。			
オフィスアワー	講義のある日（金曜3限）は、その1時間前後は講師控室にて面談可能。予めメールにてアポイントを取ることが望ましいが、他日でも都合が折り合えば対応する。他、メールのやりとりにてコミュニケーションをはかることにも積極的に応じる。メルアドは教室にて告知。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	授業の進め方やテーマ、成績評価の方法等、受講生が授業の準備にあたってのオリエンテーション。
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。（2時間）
2	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類に注意を払い考察する。（2時間）
	授業内容	「時代とメディア」～生活必需品だったラジオ；「風呂屋から女性が消えた」
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。（2時間）
3	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。（2時間）
	授業内容	「時代とメディア」～街頭テレビ；「プロレスが戦後復興の狼煙だった」
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。（2時間）
4	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。（2時間）
	授業内容	「時代とメディア」～娯楽は映画；「映画館の扉が閉まらない」
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。（2時間）

5	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	「時代とメディア」～青春のバイブル；「左手に朝日ジャーナル、右手に平凡パンチ」
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。 (2時間)
6	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	1964年東京オリンピック～高度経済成長の日本とメディアの果たした役割
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。 (2時間)
7	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	「時代とメディア」～テレビ黄金時代；三種の神器
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。 (2時間)
8	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	「時代とメディア」～テレビの曲がり角；視聴率との攻防
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。 (2時間)
9	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	調査報道の醍醐味と歴史を変えた記事の舞台裏～田中金脈
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。 (2時間)
10	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	調査報道の醍醐味と歴史を変えた記事の舞台裏～リクルート事件
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。 (2時間)
11	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	調査報道の醍醐味と歴史を変えた記事の舞台裏～ロス疑惑
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。 (2時間)
12	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	スキャンダル報道のあり方と功罪
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける (2時間)
13	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	メディアの暴力～何度も殺された松下幸之助
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。 (2時間)
14	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	2020年東京オリンピック～メディアの役割
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。 (2時間)
15	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	授業内レポート及びまとめ
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。 (2時間)

科目名	メディア演習Ⅲ	担当者	黒井 克行	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「〇〇論」をぶつものではない。学問としてはともかく、実際のメディアの現場を再現した中での、屁の役にも立たない理屈を一切排除した講義となろう。これまでにメディアが取り上げてきた事件や出来事を歴史的に検証し、そこから垣間見えてくる課題を発掘して次にどう活かしていくか。すでに報じられ歴史的に定着をみている事象の再検証とメディアの功罪と意義を問うものである。				
授業目的・到達目標	今、現実に行っている出来事やメディアで報じられている事をそのまま鵜呑みにすることなく、その行間に潜む本質を的確に捉え、自分なりの考え方を加えて発信し、伝える力を養成することを目的とする。 これまでにメディアで取り上げられてきた事件や出来事を歴史的に検証し、そこから垣間見えてくる課題を発掘して次のように活かしていくか、自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。				
履修条件	関連DP及びCP：新聞学科1，4，8 前期「メディア演習Ⅱ」を履修した者の引き続きの取り組みが望ましい。この「Ⅲ」を持って、新聞学科の集大成として、最終的な成果を掴み取って欲しい。				
授業方法	担当講師の活動現場での体験やそれに裏付けされた理論や認識をほとんどのマシンガントークと、残された時間は「演習」と名の付く限り授業内レポートや発言を求めたい。フィードバックは授業内において行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	60%) 半期の成果の全てをぶつける機会とし、または平常の講義の出遅れを巻き返す唯一無二のチャンスとして授業内レポート(もしくは提出)を科す。 40%) 不定期に課す授業内レポート、授業への参加度等真摯な姿勢。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし。強いて挙げれば、日常の新聞か。			
参考書	適宜指示。				
オフィスアワー	講義のある日（金曜2限）は、その1時間前後は講師控室にて面談可能。予めメールにてアポイントを取ることが望ましいが、他日でも都合が折り合えば対応する。他、メールのやりとりにてコミュニケーションをはかることにも積極的に応じる。メルアドは教室内にて告知。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	授業の進め方やテーマ、成績評価の方法等、受講生が授業の準備にあたってのオリエンテーション。
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。（2時間）
2	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。（2時間）
	授業内容	『玉音放送』と戦後民主主義
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。（2時間）
3	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。（2時間）
	授業内容	『昭和天皇崩御と報道のあり方』
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。（2時間）
4	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。（2時間）
	授業内容	紙からネットへ
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。（2時間）

5	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	芸能ニュース～安室引退、嵐解散、スマップ解体で見える社会
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける (2時間)
6	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	昭和の事件史～『日航ジャンボ機墜落事故』
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。
7	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	昭和の事件史～『グリコ森永事件』
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。 (2時間)
8	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	平成のスポーツ史～『野茂英雄から大谷翔平まで 日本人メジャー』
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。 (2時間)
9	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	平成のスポーツ史～『ゆとり世代の世界的活躍』
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。 (2時間)
10	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	『スポーツメディア』の可能性
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける (2時間)
11	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	『大統領選挙とメディア戦略』
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。 (2時間)
12	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	『2つの大震災に見るメディアの社会的意義と役割』
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。 (2時間)
13	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	『メディアの社会的影響力の変遷と未来』
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。 (2時間)
14	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	『インタビュー術』
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。 (2時間)
15	事前学習	各メディアを通して一週間の気になるニュースをチェックし、特にシラバスに関する類いに注意を払い考察する。 (2時間)
	授業内容	授業内レポート及びまとめ
	事後学習	講義ノートを確認し、当該授業内容から受けた刺激を知的好奇心に変え、柔軟性溢れる発想力に磨きをかける。 (2時間)

科目名	メディア・コミュニケーションの科学A	担当者	三谷 文栄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	マス・コミュニケーションは現代社会でどのような効果を有しているのだろうか。効果研究はマス・コミュニケーション研究の初期から中心的なテーマとされている。この講義では、効果研究の系譜を紹介するとともに、特に第3期の強力効果論を中心に具体的な事例を交えて様々な研究を紹介する。				
授業目的・到達目標	効果研究の系譜等を通じ、知識を養成することを目的とする。 マス・コミュニケーション、メディア・コミュニケーションに関する最も基礎的な効果研究を学ぶことを通じて、政治や社会問題に対するメディアとの関係性について、自ら考え、判断できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：新聞学科1， 4， 8				
履修条件	コミュニケーションの科学A Bの履修を終えていることが望ましい。				
授業方法	授業は講義形式で行う。進行に応じて映像資料を用いる。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定 期 試 験		80%		期末に行う試験によって評価する。後日ポータルサイトに解説を配信する。 (場合によっては定期試験は行わずレポートで評価する)
	平 常 評 価		20%		講義内での質問と、授業内試験によって評価する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	授業内で資料を配布する。			
参 考 書	適宜紹介する。				
オフィスアワー	毎週水曜日の14時半～16時 できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認すること（2時間）
	授業内容	ガイダンス：マス・コミュニケーション研究の基礎的な概念について
	事後学習	授業内で配布した資料を読むこと（2時間）
2	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第1期の効果研究 皮下注射モデル（1）
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
3	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第1期の効果研究 皮下注射モデル（2）
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
4	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第1期の効果研究 皮下注射モデル（3）
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）

5	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	これまでのまとめ・授業内試験（1）皮下注射モデルに関する論述試験・振り返り
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
6	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第2期の効果研究 限定効果モデル（1）ピープルズ CHOICE、イノベーションの普及過程理論
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
7	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第2期の効果研究 限定効果モデル（2）利用と満足研究、コミュニケーション効果の一般化
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
8	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	これまでのまとめ・授業内試験（2）限定効果モデルに関する論述試験・振り返り
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
9	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第3期の効果研究 強力効果モデル（1）アジェンダ設定効果
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
10	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第3期の効果研究 強力効果モデル（2）沈黙の螺旋理論
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
11	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第3期の効果研究 強力効果モデル（3）知識ギャップ仮説
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
12	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第3期の効果研究 強力効果モデル（4）スキーマ理論
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
13	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第3期の効果研究 強力効果モデル（5）培養効果論
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
14	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第3期の効果研究 強力効果モデル（6）メディア・フレーム論
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
15	事前学習	これまでの授業のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	これまでのまとめ・授業内試験（3）強力効果モデルに関する論述試験・振り返り
	事後学習	これまでの授業を見直し、抱いた疑問が解消されたのかを再確認すること

科目名	メディア・コミュニケーションの科学A	担当者	三谷 文栄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	マス・コミュニケーションは現代社会でどのような効果を有しているのだろうか。効果研究はマス・コミュニケーション研究の初期から中心的なテーマとされている。この講義では、効果研究の系譜を紹介するとともに、特に第3期の強力効果論を中心に具体的な事例を交えて様々な研究を紹介する。				
授業目的・到達目標	効果研究の系譜等を通じ、知識を養成することを目的とする。 マス・コミュニケーション、メディア・コミュニケーションに関する最も基礎的な効果研究を学ぶことを通じて、政治や社会問題に対するメディアとの関係性について、自ら考え、判断できるようになることを目標とする。 関連DP及びCP：新聞学科1， 4， 8				
履修条件	コミュニケーションの科学A Bの履修を終えていることが望ましい。				
授業方法	授業は講義形式で行う。進行に応じて映像資料を用いる。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		80%		期末に行う試験によって評価する。後日ポータルサイトに解説を配信する。 (場合によっては定期試験は行わずレポートで評価する)
	平常評価		20%		講義内での質問と、授業内試験によって評価する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	授業内で資料を配布する。			
参考書	適宜紹介する。				
オフィスアワー	毎週水曜日の14時半～16時 できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認すること（2時間）
	授業内容	ガイダンス：マス・コミュニケーション研究の基礎的な概念について
	事後学習	授業内で配布した資料を読むこと（2時間）
2	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第1期の効果研究 皮下注射モデル（1）
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
3	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第1期の効果研究 皮下注射モデル（2）
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
4	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第1期の効果研究 皮下注射モデル（3）
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）

5	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	これまでのまとめ・授業内試験（1）皮下注射モデルに関する論述試験・振り返り
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
6	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第2期の効果研究 限定効果モデル（1）ピープルズ CHOICE、イノベーションの普及過程理論
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
7	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第2期の効果研究 限定効果モデル（2）利用と満足研究、コミュニケーション効果の一般化
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
8	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	これまでのまとめ・授業内試験（2）限定効果モデルに関する論述試験・振り返り
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
9	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第3期の効果研究 強力効果モデル（1）アジェンダ設定効果
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
10	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第3期の効果研究 強力効果モデル（2）沈黙の螺旋理論
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
11	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第3期の効果研究 強力効果モデル（3）知識ギャップ仮説
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
12	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第3期の効果研究 強力効果モデル（4）スキーマ理論
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
13	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第3期の効果研究 強力効果モデル（5）培養効果論
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
14	事前学習	事前に配布した資料のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	第3期の効果研究 強力効果モデル（6）メディア・フレーム論
	事後学習	授業前に抱いていた疑問が解消したかを確認すること（2時間）
15	事前学習	これまでの授業のわからない部分や質問を整理すること（2時間）
	授業内容	これまでのまとめ・授業内試験（3）強力効果モデルに関する論述試験・振り返り
	事後学習	これまでの授業を見直し、抱いた疑問が解消されたのかを再確認すること

科目名	メディア・コミュニケーションの科学B	担当者	小林 義寛	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	規範的な研究に対するカルチュラル・スタディーズの批判的な研究を概観し、その後、オーディエンス研究、メディア・スタディーズとりわけメディア・テクノロジー研究の基礎を学ぶ。					
授業目的・到達目標	身の回りのメディア・コミュニケーション現象を理解する能力を養成する。 1980年代から現在までのメディア研究のアプローチを理解し、その現代的課題を前提に自らメディアについて考察できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：新聞学科 1, 2, 3					
履修条件	メディア・コミュニケーションの科学Aを先修していることが望ましい。					
授業方法	基本的には講義形式。授業資料はCoIネット共有フォルダー(Y：小林義寛：)にpdfとしておいておくので、事前事後及び授業時参照できるようにしておくこと。レポートの講評を授業内に授業と関連させて、おこなう。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		レポート試験（60％：提出がない場合には評価しない）、小テストおよび小レポート2回（40％：前記レポート試験の加算点として利用する）。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	授業方法で示した授業資料を参照する。				
参考書	講義中に適宜指示する。					
オフィスアワー	火曜5限、水曜5限。授業終了後であればその講堂あるいは研究室。授業終了後でない場合には事前にアポイントメントをとること。 研究室（9号館602）、メールアドレス kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認しておく。（0.5時間）
	授業内容	授業のテーマ、スケジュール、評価方法、資料などを説明するとともに、他の科目、とくにメディア・コミュニケーションの科学Aとの関係などを位置づける。前学期のレポートの問題点の解説。
	事後学習	授業の流れを理解しておくこと。 メディア・コミュニケーションの科学Aの授業内容（効果論を中心とした規範的研究）の復習。（4時間）
2	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 規範的研究とくに効果研究の復習。（3時間）
	授業内容	規範的な研究へのホールの批判①： 規範的研究を中心としたコミュニケーション研究の問題点 効果研究の復習と確認→問題点とは何か
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 規範的研究の問題点を確認しておく。（1時間）
3	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 規範的研究の問題点の確認。（1時間）
	授業内容	規範的な研究へのホールの批判②： ホールのコミュニケーション図式の内容 3つの社会的条件－技術的基盤・生産関係（生産諸関係）・知識の枠組み TV=映像メディア→「映像=真実」の誤謬：遠近法（ルネサンス）、近代における視覚の優位性etc
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 身近な事例から社会的条件を理解する。（3時間）
4	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 社会的条件を復習しておく。（1時間）
	授業内容	規範的な研究へのホールの批判③： デコーディングに関する仮説的モデル 3つの立場－優先的（支配的－ヘゲモニック）な立場・交渉的（折衝的）な立場・対抗的な立場
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 3つの立場を事例を通して理解する→課題レポート予定。（3時間）

5	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 ホールの問題提起を理解しておく。提出したレポートの内容を確認しておく。(3時間)
	授業内容	オーディエンス研究① ホールの議論の確認ーレポートの解説と提出レポートの講評を通して。 ホールの研究の理論的前提ー創造的受容行為、バルトのテキスト理論（「作者の死」など）
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 提出したレポートの問題点を確認し、ホールの仮説的モデルを再確認する。(1時間)
6	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 メディア・テキストの基礎Ⅰの資料で言語相対仮説などを確認しておく。(1時間)
	授業内容	オーディエンス研究② エスノグラフィックなアプローチ-エスノグラフィーとは何か、フィールドワークの思想と文化相対主義、エチック とイーミック、外在的理解と内在的理解、厚い記述、オリエンタリズムの衝撃etc
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 オーディエンス研究におけるエスノグラフィックなアプローチとエスノグラフィーの相違点を確認する。レヴィ=ス トロースについて調べておく。(3時間)
7	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 ホールの社会的条件を再度確認しておく。(2時間)
	授業内容	オーディエンス研究③ モーレイのオーディエンス研究 アン（アング）のオーディエンス研究
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 両者の研究はホールの社会的条件のどこに焦点をあてているか、確認し、理解する。(2時間)
8	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 効果影響研究を復習し、モーレイ、アンの研究と特に利用と満足研究との類似点を確認しておく。(1時間)
	授業内容	オーディエンス研究④ モーレイの利用と満足研究への批判、アンの利用と満足研究への批判 両者の前提としてのポスト構造主義←言語論的転回・構造革命（構造論的転回）ー構造主義とは
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 両者の批判を確認しておく。 →ポスト構造主義、その前提として構造主義に関する（テキスト指定）レポート予定。(3時間)
9	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 指定テキストを講読しつつ、構造主義への理解をすすめつつ、バルトのテキスト理論を復習。(3時間)
	授業内容	オーディエンス研究⑤ フィスクのオーディエンス研究 テキスト概念、日常の実践、テキスト密猟、テレビと日常生活etc
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 バルトのテキスト理論と関連させ、フィスクの概念を復習。ポスト構造主義の一環として、「実践」の概念を復習す る。(3時間)
10	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 3者のオーディエンス研究の特徴を確認しておく。(2時間)
	授業内容	ハートレイのオーディエンス研究への疑義① ハートレイの提起したフィクションとしてのオーディエンス 想像の共同体、国民的テレビジョンー近代の理念としての国民国家etc
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ホールの議論を前提に、ハートレイがなぜオーディエンス概念に疑義を提示したか、理解しておく。(2時間)
11	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 オーディエンス研究がホールの社会的条件のどこに焦点をあてているかを確認しておく。(2時間)
	授業内容	ハートレイのオーディエンス研究への疑義② オーディエンスを必要とする3つの機関 3つの機関がオーディエンスを必要とする理由etc
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 モーレイとアンの批判（8回）とハートレイの疑義との類似点を確認しておく。(2時間)
12	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 これまでの展開において、ホールの社会的条件のどこが欠落しているかを確認しておく。(1時間)
	授業内容	メディア・テクノロジー研究① ホールの社会的条件の復習→シルバーストーンらによるドメスティケーション・モデル 言語論的転回→唯物論的転回あるいは存在論的転回
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 メディアとモノおよびテクノロジーとの関係をホールを前提に理解する。 構造主義の展開とリミットを考える。(3時間)
13	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 ホールのデコーディングに関する仮説的モデルを復習しておく。(1時間)
	授業内容	メディア・テクノロジー研究② ドメスティケーション・モデルとはー社会決定論と技術決定論 日常生活とテクノロジー、ジェンダーとの関連etc→ホールの仮説的モデルの応用ー社会決定論
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ドメスティケーション・モデルを理解する。(3時間)
14	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 ドメスティケーション・モデルの問題点を検討する。(2時間)
	授業内容	メディア・テクノロジー研究③ ドメスティケーション・モデルの問題点ー12回の内容とも関連させてモデルの問題点を考える →ヒト、モノ、テクノロジーの探求へ向けて
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ホールの問題提起、特に社会的条件との関連で問題点を理解する。(2時間)
15	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 授業全体の流れと内容を確認しておく。(1時間)
	授業内容	全体のまとめと質疑応答 最終レポートの課題提示
	事後学習	授業内容、授業資料、参考文献などをもとにレポートを作成する。(8時間)

科目名	メディア・コミュニケーションの科学B	担当者	小林 義寛	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	規範的な研究に対するカルチュラル・スタディーズの批判的な研究を概観し、その後、オーディエンス研究、メディア・スタディーズとりわけメディア・テクノロジー研究の基礎を学ぶ。					
授業目的・到達目標	身の回りのメディア・コミュニケーション現象を理解する能力を養成する。 1980年代から現在までのメディア研究のアプローチを理解し、その現代的課題を前提に自らメディアについて考察できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：新聞学科 1, 2, 3					
履修条件	メディア・コミュニケーションの科学Aを先修していることが望ましい。					
授業方法	基本的には講義形式。授業資料はCo1ネット共有フォルダー(Y：小林義寛：)にpdfとしておいておくので、事前事後及び授業時参照できるようにしておくこと。レポートの講評を授業内に授業と関連させて、おこなう。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		レポート試験（60％：提出がない場合には評価しない）、小テストおよび小レポート2回（40％：前記レポート試験の加算点として利用する）。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	授業方法で示した授業資料を参照する。				
参考書	講義中に適宜指示する。					
オフィスアワー	火曜5限、水曜5限。授業終了後であればその講堂あるいは研究室。授業終了後でない場合には事前にアポイントメントをとること。 研究室（9号館602）、メールアドレス kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認しておく。（0.5時間）
	授業内容	授業のテーマ、スケジュール、評価方法、資料などを説明するとともに、他の科目、とくにメディア・コミュニケーションの科学Aとの関係などを位置づける。前学期のレポートの問題点の解説。
	事後学習	授業の流れを理解しておくこと。 メディア・コミュニケーションの科学Aの授業内容（効果論を中心とした規範的研究）の復習。（4時間）
2	事前学習	Co1ネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 規範的研究とくに効果研究の復習。（3時間）
	授業内容	規範的な研究へのホールの批判①： 規範的研究を中心としたコミュニケーション研究の問題点 効果研究の復習と確認→問題点とは何か
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 規範的研究の問題点を確認しておく。（1時間）
3	事前学習	Co1ネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 規範的研究の問題点の確認。（1時間）
	授業内容	規範的な研究へのホールの批判②： ホールのコミュニケーション図式の内容 3つの社会的条件－技術的基盤・生産関係（生産諸関係）・知識の枠組み TV=映像メディア→「映像=真実」の誤謬：遠近法（ルネサンス）、近代における視覚の優位性etc
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 身近な事例から社会的条件を理解する。（3時間）
4	事前学習	Co1ネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 社会的条件を復習しておく。（1時間）
	授業内容	規範的な研究へのホールの批判③： デコーディングに関する仮説的モデル 3つの立場－優先的（支配的－ヘゲモニック）な立場・交渉的（折衝的）な立場・対抗的な立場
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 3つの立場を事例を通して理解する→課題レポート予定。（3時間）

5	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 ホールの問題提起を理解しておく。提出したレポートの内容を確認しておく。(3時間)
	授業内容	オーディエンス研究① ホールの議論の確認ーレポートの解説と提出レポートの講評を通して。 ホールの研究の理論的前提ー創造的受容行為、バルトのテキスト理論（「作者の死」など）
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 提出したレポートの問題点を確認し、ホールの仮説的モデルを再確認する。(1時間)
6	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 メディア・テキストの基礎Ⅰの資料で言語相対仮説などを確認しておく。(1時間)
	授業内容	オーディエンス研究② エスノグラフィックなアプローチ-エスノグラフィーとは何か、フィールドワークの思想と文化相対主義、エチック とイーミック、外在的理解と内在的理解、厚い記述、オリエンタリズムの衝撃etc
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 オーディエンス研究におけるエスノグラフィックなアプローチとエスノグラフィーの相違点を確認する。レヴィ=ス トロースについて調べておく。(3時間)
7	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 ホールの社会的条件を再度確認しておく。(2時間)
	授業内容	オーディエンス研究③ モーレイのオーディエンス研究 アン（アング）のオーディエンス研究
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 両者の研究はホールの社会的条件のどこに焦点をあてているか、確認し、理解する。(2時間)
8	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 効果影響研究を復習し、モーレイ、アンの研究と特に利用と満足研究との類似点を確認しておく。(1時間)
	授業内容	オーディエンス研究④ モーレイの利用と満足研究への批判、アンの利用と満足研究への批判 両者の前提としてのポスト構造主義←言語論的転回・構造革命（構造論的転回）ー構造主義とは
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 両者の批判を確認しておく。 →ポスト構造主義、その前提として構造主義に関する（テキスト指定）レポート予定。(3時間)
9	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 指定テキストを講読しつつ、構造主義への理解をすすめつつ、バルトのテキスト理論を復習。(3時間)
	授業内容	オーディエンス研究⑤ フィスクのオーディエンス研究 テキスト概念、日常の実践、テキスト密猟、テレビと日常生活etc
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 バルトのテキスト理論と関連させ、フィスクの概念を復習。ポスト構造主義の一環として、「実践」の概念を復習す る。(3時間)
10	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 3者のオーディエンス研究の特徴を確認しておく。(2時間)
	授業内容	ハートレイのオーディエンス研究への疑義① ハートレイの提起したフィクションとしてのオーディエンス 想像の共同体、国民的テレビジョンー近代の理念としての国民国家etc
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ホールの議論を前提に、ハートレイがなぜオーディエンス概念に疑義を提示したか、理解しておく。(2時間)
11	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 オーディエンス研究がホールの社会的条件のどこに焦点をあてているかを確認しておく。(2時間)
	授業内容	ハートレイのオーディエンス研究への疑義② オーディエンスを必要とする3つの機関 3つの機関がオーディエンスを必要とする理由etc
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 モーレイとアンの批判（8回）とハートレイの疑義との類似点を確認しておく。(2時間)
12	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 これまでの展開において、ホールの社会的条件のどこが欠落しているかを確認しておく。(1時間)
	授業内容	メディア・テクノロジー研究① ホールの社会的条件の復習→シルバーストーンらによるドメスティケーション・モデル 言語論的転回→唯物論的転回あるいは存在論的転回
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 メディアとモノおよびテクノロジーとの関係をホールを前提に理解する。 構造主義の展開とリミットを考える。(3時間)
13	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 ホールのデコーディングに関する仮説的モデルを復習しておく。(1時間)
	授業内容	メディア・テクノロジー研究② ドメスティケーション・モデルとはー社会決定論と技術決定論 日常生活とテクノロジー、ジェンダーとの関連etc→ホールの仮説的モデルの応用ー社会決定論
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ドメスティケーション・モデルを理解する。(3時間)
14	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 ドメスティケーション・モデルの問題点を検討する。(2時間)
	授業内容	メディア・テクノロジー研究③ ドメスティケーション・モデルの問題点ー12回の内容とも関連させてモデルの問題点を考える →ヒト、モノ、テクノロジーの探求へ向けて
	事後学習	授業資料と合わせて内容を確認し、疑問点などを整理しておく。 ホールの問題提起、特に社会的条件との関連で問題点を理解する。(2時間)
15	事前学習	Colネット共有フォルダー(Y：小林義寛：メディア・コミュニケーションの科学B)にある授業資料を確認しておく。 授業全体の流れと内容を確認しておく。(1時間)
	授業内容	全体のまとめと質疑応答 最終レポートの課題提示
	事後学習	授業内容、授業資料、参考文献などをもとにレポートを作成する。(8時間)

科目名	メディア史	担当者	小林 聡明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	現在、私たちが目にしているメディアは、昨日、今日に突然現れ出てきたものではない。むしろ、長い歴史的な時間のなかで成立し、現在にいたっている。本授業は、日本のみならず、欧米やアジアの状況にも目配りしながら、19世紀以降のメディアの歴史的展開を跡づけることで、私たちが暮らす社会の歴史的構造を浮き彫りにする。			
授業目的・到達目標	本授業の目的は、第一に、歴史的な文脈のなかで、現在のメディアを考え、そのメディアが、現代社会の形成に、どのような影響を与えてきたのかを読み解くことにある。第二に、さまざまなメディアの成立と展開が、私たちの知覚や感覚に、いかなる変化をもたらし、それにともなって、＜近代＞の社会が、どのように変容していったのかを考えることである。 本授業の到達目標は、第一にメディアの歴史的展開に関する理解であり、第二にメディアの諸問題を考えるための歴史的な視野の獲得におかれている。関連DP及びCP：新聞学科1, 2, 3			
履修条件	課題文献は、初回の授業時に提示するので、かならず出席すること。毎回の課題を欠かさずに行う強い意思をもたない学生の受講は、お薦めしない。			
授業方法	原則として、毎回、受講生には論文あるいは著書1章分を読み、「同意できる点／できない点」と質問を記したペーパーの作成・提出が課題として課される。授業は、それへの教師からのフィードバックと受講者との対話で構成される。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	毎回の提出課題の状況と最終レポートによる評価
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2018年	岩波書店	『現代メディア史 新版』	佐藤卓己
	備考	授業の際に、レジュメを配布する。		
参考書	吉見俊哉『メディア文化論』有斐閣、2012年など			
オフィスアワー	原則的には、火曜日の13時～16時。事前にメールで予約を取ってください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	初回授業時までにシラバスを読んでおくこと。 「メディア」を扱ったメディア報道について、しっかりと触れておくこと。（2時間）
	授業内容	イントロダクション： 授業の目的や進め方などの授業概要に加え、文献の「読み方」についても説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
2	事前学習	前回の授業時に提示した課題文献を読み、ペーパーを作成する。授業日2日前までに、ポータルサイトを通じて提出しておくこと（3時間）
	授業内容	メディア史の射程：メディア史とは、何を、どのように考え、いかなる意味を持つ研究分野なのかについて説明する。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
3	事前学習	前回の授業時に提示した課題文献を読み、ペーパーを作成する。授業日2日前までに、ポータルサイトを通じて提出しておくこと（3時間）
	授業内容	メディア史としてのコミュニケーション研究：メディアの歴史研究が、コミュニケーション研究とのあいだで、どのような関係を有しているのか、それが持つ意味とは、いかなるものなのかについて考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
4	事前学習	前回の授業時に提示した課題文献を読み、ペーパーを作成する。授業日2日前までに、ポータルサイトを通じて提出しておくこと（3時間）
	授業内容	メディア都市の成立：「都市はメディアである」とは、どういうことなのか。このことについて考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）

5	事前学習	前回の授業時に提示した課題文献を読み、ペーパーを作成する。授業日2日前までに、ポータルサイトを通じて提出しておくこと（3時間）
	授業内容	出版資本主義と近代精神：メディアとしての書籍がもつ意味について、歴史のなかからあぶり出す。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
6	事前学習	前回の授業時に提示した課題文献を読み、ペーパーを作成する。授業日2日前までに、ポータルサイトを通じて提出しておくこと（3時間）
	授業内容	新聞の成立：新聞は、私たちに何をもたらしたのかについて考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
7	事前学習	前回の授業時に提示した課題文献を読み、ペーパーを作成する。授業日2日前までに、ポータルサイトを通じて提出しておくこと（3時間）
	授業内容	電話の成立：電話は、私たちに何をもたらしたのかについて考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
8	事前学習	前回の授業時に提示した課題文献を読み、ペーパーを作成する。授業日2日前までに、ポータルサイトを通じて提出しておくこと（3時間）
	授業内容	映画の登場：映画という視聴覚のメディアがあらわれたことは、人間社会に、どのようなインパクトを与えたのか。このことについて考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
9	事前学習	前回の授業時に提示した課題文献を読み、ペーパーを作成する。授業日2日前までに、ポータルサイトを通じて提出しておくこと（3時間）
	授業内容	宣伝／動員のためのメディアとプロパガンダの時代：メディアが、どのように人々の心に働きかけ、人々は、それによって、ある方向へと導かれていく。こうしたことが発生する機制と、それによって紡ぎ出される意味について考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
10	事前学習	前回の授業時に提示した課題文献を読み、ペーパーを作成する。授業日2日前までに、ポータルサイトを通じて提出しておくこと（3時間）
	授業内容	ラジオの時代：ラジオの成立が有する社会的インパクトについて考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
11	事前学習	前回の授業時に提示した課題文献を読み、ペーパーを作成する。授業日2日前までに、ポータルサイトを通じて提出しておくこと（3時間）
	授業内容	トーキー映画と総力戦体制：総力戦体制について説明し、その時代におけるトーキー映画が果たした役割と、そこに含意されるものについて考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
12	事前学習	前回の授業時に提示した課題文献を読み、ペーパーを作成する。授業日2日前までに、ポータルサイトを通じて提出しておくこと（3時間）
	授業内容	テレビ時代の到来：テレビの成立が有する社会的インパクトについて考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
13	事前学習	前回の授業時に提示した課題文献を読み、ペーパーを作成する。授業日2日前までに、ポータルサイトを通じて提出しておくこと（3時間）
	授業内容	テレビと戦後日本：テレビが、戦後という時代に、日本という空間で、どのような意味をもったのかについて考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
14	事前学習	前回の授業時に提示した課題文献を読み、ペーパーを作成する。授業日2日前までに、ポータルサイトを通じて提出しておくこと（3時間）
	授業内容	情報化の未来史：メディアの歴史的変遷から浮かび上がる未来のメディアの姿について考える。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）
15	事前学習	最終レポートの作成（5時間）
	授業内容	全体の授業を通じたまとめと、受講者に課した課題へのフィードバックを行う。
	事後学習	授業で紹介した参考文献に目を通すこと。 授業で扱ったトピックや、授業で考えたことなどについて、できるだけ「他人」と議論すること。（2時間）

科目名	メディア史	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	メディアの歴史は、人びとの言語や記号とコミュニケーションの歴史であり、「世界」や「社会」とのかかわり方の歴史でもある。メディアと社会とのダイナミズムについて議論をする。					
授業目的・到達目標	メディアという存在を、歴史的な文脈のなかでとらえ、一般的な通史とは異なったメディア視点から歴史をとらえる力を養うことを目的とする。メディアと「近代」および「現代」との関わりについて、事象とともに説明できることを目標とする。 関連DP及びCP：新聞学科1.2.3					
履修条件	特になし					
授業方法	授業では、適宜、視聴覚教材を活用する。講義で課した課題は、共通の用紙を用いる。フィードバックは授業内にて行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		レポートなどの提出課題と試験による評価	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2018	岩波書店		現代メディア史 新版		佐藤卓己
	備考	使用しない				
参考書	随時、授業で紹介する					
オフィスアワー	水曜日4限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、確認すること。教科書の概要を確認すること（2時間）
	授業内容	ガイダンス：講義の計画と概要
	事後学習	講義の内容を確認・復習すること（2時間）
2	事前学習	前回の講義で提示した課題を準備してくること（2時間）
	授業内容	メディア史の射程
	事後学習	講義の内容を確認・復習すること（2時間）
3	事前学習	前回の講義で提示した課題を準備してくること（2時間）
	授業内容	中世からのまどろみ：文字から活版へ
	事後学習	講義の内容を確認・復習すること（2時間）
4	事前学習	前回の講義で提示した課題を準備してくること（2時間）
	授業内容	中世から近代へ：マクルーハンの視角
	事後学習	講義の内容を確認・復習すること（2時間）。時間をみつけて、印刷博物館へ自主的に見学しておくことが望ましい

5	事前学習	テキスト：第1章を読んでくること（2時間）
	授業内容	歴史の中のメディアの位置づけ
	事後学習	講義の内容を確認・復習すること（2時間）
6	事前学習	テキスト：第2章を読んでくること（2時間）
	授業内容	メディアと都市の形成
	事後学習	講義の内容を確認・復習すること（2時間）
7	事前学習	テキスト：第3章を読んでくること（2時間）
	授業内容	国民国家と出版資本主義
	事後学習	講義の内容を確認・復習すること（2時間）
8	事前学習	テキスト：第4章を読んでくること（2時間）
	授業内容	民主主義とメディア
	事後学習	講義の内容を確認・復習すること（2時間）
9	事前学習	テキスト：第5章を読んでくること（2時間）
	授業内容	映画と表象のテクノロジー
	事後学習	講義の内容を確認・復習すること（2時間）
10	事前学習	テキスト：第6章を読んでくること（2時間）
	授業内容	宣伝と動員のメディア
	事後学習	講義の内容を確認・復習すること（2時間）
11	事前学習	テキスト：第7章を読んでくること（2時間）
	授業内容	メディア・イベントとプロパガンダ
	事後学習	講義の内容を確認・復習すること（2時間）
12	事前学習	テキスト第8章を読んでくること。第6回～第11回までの講義の内容を復習すること（2時間）
	授業内容	小テスト（論述型）（前半）、テストの解説（後半）
	事後学習	テストとその解説を確認・復習すること（2時間）
13	事前学習	テキスト：第9章を読んでくること（2時間）
	授業内容	戦後の生活とメディアの普及
	事後学習	講義の内容を確認・復習すること（2時間）
14	事前学習	テキスト：終章を読んでくること（2時間）
	授業内容	情報化という社会変容が語られた時代
	事後学習	講義の内容を確認・復習すること（2時間）
15	事前学習	これまでの講義の内容を復習しておくこと（3時間）
	授業内容	講義内テスト（全講義のふりかえり）
	事後学習	テストの内容をふまえ、講義の内容を復習すること（2時間）

科目名	メディア／情報産業Ⅰ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	新聞、放送など私たちが普段接しているマスメディアの情報伝達活動がどのような産業構造によって支えられているかを解説します。また、インターネットの登場によってマスメディア産業が抱える課題についても考えます。放送の業界団体、日本民間放送連盟で報道、オリンピック、営業、業界紙記者を担当した経験を活かして講義を行います。				
授業目的・到達目標	各マスメディアがビジネスとしてどのように成り立っているかを理解する人材を養成することを目的とします。高度情報化社会における各マスメディアの産業としてしての役割を理解できるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：新聞学科１，２，３				
履修条件	特にありません。				
授業方法	パワーポイントを使用し、講義形式で行います。また、レポートの講評を授業内で行います。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		０％		
	平常評価		100%	授業内レポート、最終授業での課題レポート、授業参加度で評価します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特に指定しません。適宜、プリントを配付します。			
参考書	「図説 日本のマスメディア[新版]」（藤竹暁、竹下俊郎編著、NHK出版）				
オフィスアワー	月曜日の13:00～14:00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館 9 階1914） メールアドレス：sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、放送、新聞について自分なりにその役割を考え、整理してください。（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ガイダンスで紹介されたメディアで興味を持ったものについてその役割を調べてください。（2時間）
2	事前学習	電通ホームページ内の「2018年 日本の広告費」を読んで、ポイントをまとめてください。（2時間）
	授業内容	メディア/情報産業の全体像
	事後学習	授業を踏まえ、自分の各メディアに対する自分の評価を再度、まとめてください。（2時間）
3	事前学習	電気を使った通信が始まる前は、どのような手段で通信を行っていたかを調べてください。（2時間）
	授業内容	通信から放送の誕生まで
	事後学習	放送が誕生した理由をまとめてください。（2時間）
4	事前学習	テレビを見て、CMにはどのような種類があるかをまとめてください。（2時間）
	授業内容	民放テレビの営業概論Ⅰ：民放テレビの発展とセールス形態
	事後学習	民放テレビのビジネスモデルについてまとめてください。（2時間）

5	事前学習	ビデオリサーチのホームページ内で「視聴率」について調べてください。（2時間）
	授業内容	民放テレビの営業概論Ⅱ：視聴率と視聴質
	事後学習	視聴率と視聴質の違いを整理してください。（2時間）
6	事前学習	民放テレビの営業概論Ⅰ、Ⅱでの自分の授業ノート、まとめ、整理を改めて読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	民放テレビの営業概論Ⅲ：テレビ営業の仕組み
	事後学習	民放テレビがどのように収入を得ているかについてまとめてください。（2時間）
7	事前学習	コーヒーハウスの起源について調べてください。（2時間）
	授業内容	新聞の歴史：パンフレットから新聞へ
	事後学習	どのようにしてマス広告が誕生したのかについてまとめてください。（2時間）
8	事前学習	新聞にはどのような種類があるか調べてください。（2時間）
	授業内容	新聞産業の概要Ⅰ：新聞媒体の種類と特徴、宅配と再版制度
	事後学習	なぜ、再版制度が必要なのかについてまとめてください。（2時間）
9	事前学習	新聞を見て、新聞広告にはどのような種類があるかについて調べてください。（2時間）
	授業内容	新聞産業の概要Ⅱ：新聞広告の実態
	事後学習	新聞広告の種類と特徴をまとめてください。（2時間）
10	事前学習	テレビや新聞以外に、広告にはどのようなものがあるかについて調べてください。（2時間）
	授業内容	広告と消費者動向Ⅰ：1940年代から1980年代前半まで
	事後学習	メディアと広告の発展の関係について整理してください。（2時間）
11	事前学習	広告と消費者動向Ⅰを受けて、広告にはどのようなものがあるかについて再整理してください。（2時間）
	授業内容	広告と消費者動向Ⅱ：1980年代から2000年代
	事後学習	メディアと広告の発展の関係についてまとめてください。（2時間）
12	事前学習	広告の役割について考え、整理してください。（2時間）
	授業内容	広告とは何か
	事後学習	インターネットの登場による広告の変化をまとめてください。（2時間）
13	事前学習	2020年東京大会で想定されている大会に係る経費、経済効果について調べてください。（2時間）
	授業内容	オリンピックとメディアⅠ：ベルリン大会からピョンチャン大会まで
	事後学習	オリンピックとメディアの関係をまとめてください。（2時間）
14	事前学習	「オリンピック」という言葉や五輪マークを使って広告を行っているスポンサーは、どのような業種があるかについて調べてください。（2時間）
	授業内容	オリンピックとメディアⅡ：オリンピックのマーケティング収益、TOPスポンサー
	事後学習	IOCの収支構造を整理してください。（2時間）
15	事前学習	自分の授業ノート、事後学習でまとめたものをよく読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	課題レポート及び総括
	事後学習	総括を踏まえ、再度、前学期の自分の授業ノート、事後学習でまとめたものを読んでください。（2時間）

科目名	メディア／情報産業Ⅱ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	出版、映画、音楽などの私たちが普段接しているマスメディアの情報伝達活動がどのような産業構造によって支えられているかを解説します。また、インターネット広告の特徴についても考えます。					
授業目的・到達目標	各マスメディアがビジネスとしてどのように成り立っているかを理解する人材を養成することを目的とします。高度情報化社会における各マスメディアの産業としてしての役割を理解できるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：新聞学科１，２，３					
履修条件	メディア/情報産業Ⅰの単位取得者。					
授業方法	パワーポイントを使用し、講義形式で行います。また、レポートの講評を授業内で行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業内レポート、最終授業内での課題レポート、授業参加度で評価します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	特に指定しません。適宜、プリントを配付します。				
参考書	「図説 日本のマスメディア[新版]」（藤竹暁、竹下俊郎編著、NHK出版）					
オフィスアワー	月曜日の13:00～14:00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館 9 階1914） メールアドレス：sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、出版、映画、音楽について自分なりにその役割を考え、整理してください。（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ガイダンスで紹介されたメディアで興味を持ったものについてその役割を調べてください。（2時間）
2	事前学習	1990年以降の書籍、雑誌の売り上げの推移について調べてください。（2時間）
	授業内容	出版メディアⅠ：出版メディアの特徴
	事後学習	文庫本の歴史についてまとめてください。（2時間）
3	事前学習	出版の「取次」の役割について調べてください。（2時間）
	授業内容	出版メディアⅡ：出版の流通と販売
	事後学習	再販制度についてまとめてください。（2時間）
4	事前学習	電子書籍を読んでください。（2時間）
	授業内容	出版メディアⅢ：出版のデジタル化
	事後学習	出版のデジタル化のメリットをまとめてください。（2時間）

5	事前学習	エジソンとリュミエール兄弟が発明したものを調べてください。（2時間）
	授業内容	映画産業Ⅰ：映画の誕生まで
	事後学習	技術の発展と動く絵の関係を整理してください。（2時間）
6	事前学習	ハリウッドについて調べてください。（2時間）
	授業内容	映画産業Ⅱ：サイレント映画からデジタル化まで
	事後学習	サイレント映画とトーキー映画の特徴と違いを整理してください。（2時間）
7	事前学習	過去5年間の映画の興行収入1位～10位を調べ、特徴をまとめてください。（2時間）
	授業内容	映画産業Ⅲ：日本映画の現状
	事後学習	映画ビジネスの収益配分方法についてまとめてください。（2時間）
8	事前学習	映画倫理機構について調べてください。（2時間）
	授業内容	映画産業Ⅲ：映画と自主規制
	事後学習	映画倫理機構の活動についてまとめてください。（2時間）
9	事前学習	過去20年のCDの売り上げの推移について調べてください。（2時間）
	授業内容	音楽産業Ⅰ：パッケージビジネスから360度ビジネスへ
	事後学習	現在の音楽ビジネスの潮流についてまとめてください。（2時間）
10	事前学習	音楽ビジネスに関わる人や会社について調べてください。（2時間）
	授業内容	音楽産業Ⅱ：音楽ビジネスと契約
	事後学習	実演家契約、マネージメント契約についてまとめてください。（2時間）
11	事前学習	自分が携帯で行っていること、どのくらいの時間を費やしているかについて取りまとめてください。（2時間）
	授業内容	ケータイが変えたもの
	事後学習	ケータイが変えたものは「何か」を整理してください。（2時間）
12	事前学習	広告会社の役割について調べてください。（2時間）
	授業内容	広告会社とは
	事後学習	広告会社の種類とそれぞれの役割をまとめてください。（2時間）
13	事前学習	インターネット上で展開されている広告はどのようなものがあるかについて調べてください。（2時間）
	授業内容	インターネットと広告Ⅰ：AIDMAからAISASへ
	事後学習	AIDMAとAISASの違いを整理してください。（2時間）
14	事前学習	インターネット上における「共感」とはどんなものか考え、整理してください。（2時間）
	授業内容	インターネットと広告Ⅱ：AIDMAからAISAS、そしてSIPSへ
	事後学習	AISASとSIPSの違いを整理してください。（2時間）
15	事前学習	自分の授業ノート、事後学習でまとめたものをよく読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	課題レポート及び総括
	事後学習	総括を踏まえ、再度、前学期の自分の授業ノート、事後学習でまとめたものを読んでください。（2時間）

科目名	メディア調査	担当者	浅利 光昭	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本講座は、ジャーナリズム活動の基礎となる新聞や出版、放送（テレビ／ラジオ）などのマスメディアをはじめ、音楽やゲーム、劇映画などの娯楽・エンタテインメント産業、インターネット等情報通信産業の現状と課題について、公的機関（政府等）や業界団体、各産業におけるキープレイヤー（企業）等がまとめた各種統計指標や財務関連資料などのデータ分析を通じ、主として産業論の観点による探索、分析手法を中心に学習する。				
授業目的・到達目標	ジャーナリズムの基礎となるメディア産業等に係る専門的な知識を学ぶ力を養成し、規範と高い倫理観に基づき情報を取り扱うことができる人材を育成する。その上で、メディア産業を分析する際に必要なヒト、モノ、カネの３要素の動きを的確に探索、整理する科学的な分析手法を修得することで、社会を客観的かつ論理的に考察し、結論を導き出す力を養成することを目的とする。その上で、産業論に基づく調査手法を活用することで、自ら問題を発見し、解決策を考え、積極的に提案ができるようになることを目標とする。 関連ＤＰ及びＣＰ：新聞学科１、３、４				
履修条件	特になし				
授業方法	スライド（パワー・ポイント）を使用した授業を基本とし、必要に応じて関連資料を配布する。 小テスト及び定期試験の解説及び講評は、次回以降の授業中ないしは後日ポータルシステム等を通じて提示・配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	筆記試験はメディア産業の産業論的分析において授業中に解説した重要な概念及び用語（テクニカル・ターム）等を理解し、習得されているかを判定する。	
	平常評価		30%	小テスト、レポート、授業への参加度によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	電通メディアイノベーションラボ編（2019）『情報メディア白書2019』ダイヤモンド社／藤田真文編（2011）「メディアの卒論」ミネルヴァ書房など。その他、講義内容に応じて適宜紹介する。				
オフィスアワー	月曜日10:30～10:40及び12:10～12:30 授業講堂にて実施する。 質問、相談等は事前にメールにてアポイントメントを取ること （メールアドレス：asari@mdri.co.jp）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、ポータルシステムにて事前に配布する資料等を読み、講義全体を概観すること（２時間）
	授業内容	【本授業のガイダンス】 授業担当者の自己紹介に加え、授業のテーマや内容、授業のスケジュール（半期１５回分）、成績評価の方法、参考文献の紹介を含め、「メディア調査」の学習方法や研究方法等について説明し、受講生が授業の準備及び復習等を具体的に実施できるようにする。
	事後学習	講義で使用した資料等及び自らの講義ノートを確認し、自らの学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（２時間）
2	事前学習	ポータルシステムにて事前に配布する資料を読み、メディア及びコミュニケーション領域における産業論的な分析手法について概観すること。（２時間）
	授業内容	【メディア産業における産業論的分析手法の紹介】 本講座の研究・分析等で用いる方法論（産業論）について、用語の定義を踏まえた分析の基礎的要素（ヒト／モノ／カネ）をデータで確認する手法を解説する。そのうえで、劇映画を例に採り、ヒト、モノ、カネに関する指標の公的データ（政府統計、業界団体統計、各企業業績等）等の活用手法について具体的に紹介する。
	事後学習	第２回講義にて解説した産業論の基礎的要素および具体的な活用手法等について、講義中に実施した小テストの復習を含め、講義ノートを確認し、整理すること。その上で、メディア産業における産業論的分析における基礎的要素および具体的な活用手法について自分なりの整理でまとめる。（２時間）
3	事前学習	ポータルシステムにて事前に配布する資料を読むとともに、第３回講義で扱う政府統計等（総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」／国土地理協会「住民基本台帳要覧」）及び業界団体統計（日本新聞協会の公式ホームページ「Pressnet」上のデータ）をあらかじめ確認すること。（３時間）
	授業内容	【メディア産業とマクロ指標 ①】 データ分析の基本となる相関関係について簡単な解説をしたのち、日本のマスメディア産業と関連性の深いマクロ指標（人口、世帯数等）との関係性について、総務省等の政府統計や業界団体等がまとめた産業関連のデータを用いて具体的に分析する。
	事後学習	第３回講義にて分析したデモグラフィック関連のマクロ指標と新聞産業の関係性について、講義中に実施した小テストの復習を含め、講義ノートを確認し、整理すること。その上で、デモグラフィック関連のマクロ指標と新聞産業の関係性について自分なりの整理でまとめる。（１時間）

4	事前学習	ポータルシステムにて事前に配布する資料を読むとともに、第4回講義で扱うメディアユーザー関連のデータ（総務省「通信利用動向調査」／NHK放送文化研究所「国民生活時間調査」／総務省「家計調査年報」）の所在及び内容等をあらかじめ確認すること。（3時間）
	授業内容	【メディア産業とマクロ指標 ②】政府（総務省等）や各種調査機関（NHK放送文化研究所等）が提供する定量データをもとに、現代日本のマスメディア産業、エンタテインメント産業、情報通信産業を支えるメディアユーザーの実態について具体的に分析する。そのうえで、ユーザー行動の変化を導く分析手法としてのコーホート分析を紹介する。
	事後学習	第4回講義にて分析したユーザー関連のマクロ指標とその分析手法について、講義中に実施した小テストの復習を含め、講義ノートを確認し、整理すること。その上で、ユーザー関連のマクロ指標とその分析手法について自分なりの整理でまとめる。（1時間）
5	事前学習	ポータルシステムにて事前に配布する資料を読むとともに、第5回講義で扱う総務省情報通信政策研究所（2018）「メディア・ソフトの制作及び流通の実態に関する調査」のデータの所在及び内容等をあらかじめ確認すること。（3時間）
	授業内容	【日本のメディア産業の現状】総務省・情報通信政策研究所「メディア・ソフトの制作及び流通の実態に関する調査」（2018年7月発表）をもとに、現代日本のコンテンツ産業（メディア産業）の概況及び特徴等について具体的に分析する。日本のコンテンツ産業全体におけるマスメディア産業の位置づけ、マルチユース市場の現状及びインターネットをはじめとする通信系コンテンツの現状等について俯瞰する。
	事後学習	第5回講義にて分析した日本のコンテンツ産業等の現状について、講義中に実施した小テストの復習を含め、講義ノートを確認し、整理すること。その上で、日本のコンテンツ産業等の現状について自分なりの説明でまとめる。（1時間）
6	事前学習	ポータルシステムにて事前に配布する資料を読むとともに、第6回講義で扱う日本の新聞産業に関する定量データ（日本新聞協会の公式ホームページ「Pressnet」掲載データ等）の所在及び内容等をあらかじめ確認すること。（3時間）
	授業内容	【マスメディア産業の現状 ①新聞】マスメディア産業のひとつとして新聞産業を取り上げる。日本の新聞産業の特徴（諸外国と比べて発行部数が多い、個別宅配制度の充実、法制度としての再販売価格維持制度の適用を受けるなど）を踏まえ、日本で発行される主要日刊紙の業界団体である日本新聞協会の公式ホームページ（Pressnet）上の統計をもとに、日本の新聞産業の現状と課題について分析する。
	事後学習	第6回講義にて分析した新聞産業の現状及び課題について、講義中に実施した小テストの復習を含め、講義ノートを確認し、整理すること。その上で、新聞産業の現状及び課題について自分なりの説明でまとめる。（1時間）
7	事前学習	ポータルシステムにて事前に配布する資料を読むとともに、第7回講義で扱う日本の出版産業（コミックスを含む）に関する定量データ（全国出版協会・出版科学研究所『出版指標 年報』／出版ニュース社『出版年鑑』／経済産業省「特定サービス産業実態調査 出版業編」など）の所在及び内容等をあらかじめ確認すること。（3時間）
	授業内容	【マスメディア産業の現状 ②書籍・コミックス】マスメディア産業のひとつとして出版産業（書籍・コミックス）を取り上げる。日本の出版産業の特徴（再販売価格維持制度等）を踏まえ、日本で発行される書籍（コミックスを含む）に関する各種データブック（『出版指標年報』『出版年鑑』など）及び政府統計（経済産業省「特定サービス産業実態調査 出版業編」など）をもとに、日本の出版産業（書籍・コミックス）の現状と課題について分析する。
	事後学習	第7回講義にて分析した出版産業（書籍・コミックス）の現状及び課題について、講義中に実施した小テストの復習を含め、講義ノートを確認し、整理すること。その上で、出版産業（書籍・コミックス）の現状と課題について自分なりの説明でまとめる。（1時間）
8	事前学習	ポータルシステムにて事前に配布する資料を読むとともに、第8回講義で扱う雑誌産業に関する定量データ（全国出版協会・出版科学研究所『出版指標 年報』／出版ニュース社『出版年鑑』／経済産業省「特定サービス産業実態調査 出版業編」／電通「日本の広告費」など）の所在及び内容等をあらかじめ確認すること。（3時間）
	授業内容	【マスメディア産業の現状 ③雑誌】第7回講義に引き続き、マスメディア産業のひとつとして出版産業（雑誌）を取り上げる。書籍・コミックスとのビジネスモデル上の相違点などを踏まえ、日本で発行される雑誌に関する各種データブック（『出版指標年報』『出版年鑑』など）及び政府統計（経済産業省「特定サービス産業実態調査 出版業編」など）、広告関連指標等をもとに、日本の出版産業（雑誌）の現状と課題について分析する。
	事後学習	第8回講義にて分析した出版産業（雑誌）の現状及び課題について、講義中に実施した小テストの復習を含め、講義ノートを確認し、整理すること。その上で、出版産業（雑誌）の現状と課題について自分なりの説明でまとめる。（1時間）
9	事前学習	ポータルシステムにて事前に配布する資料を読むとともに、第9回講義で扱う地上波放送（テレビ）に関する定量データ（日本民間放送連盟『日本民間放送年鑑』／NHK『NHK年鑑』（NHK業務報告書））に加え、広告関連指標（電通「日本の広告費」）及び視聴率関連のデータブック（電通メディアイノベーションラボ『情報メディア白書』など）などの所在及び内容等をあらかじめ確認すること。（3時間）
	授業内容	【マスメディア産業の現状 ④地上波テレビ放送】マスメディア産業のひとつとして地上波テレビ放送を取り上げる。受信料モデルを基本とするNHKと広告モデルを採用する民放の特徴や法制度上の位置づけなどを踏まえ、各種データブック（『NHK年鑑』『日本民間放送年鑑』など）及び政府統計（総務省「民間放送事業者の収支状況」など）、広告関連指標等をもとに、日本のテレビ放送産業の現状と課題について分析する。
	事後学習	第9回講義にて分析したテレビ放送産業（地上波放送）の現状及び課題について、講義中に実施した小テストの復習を含め、講義ノートを確認し、整理すること。その上で、地上波テレビ放送産業の現状と課題について自分なりの説明でまとめる。（1時間）
10	事前学習	ポータルシステムにて事前に配布する資料を読むとともに、第9回講義に引き続き、マスメディア産業のひとつとしてラジオ放送に関する定量データ（日本民間放送連盟『日本民間放送年鑑』）に加え、政府統計（総務省「民間放送事業者の収支状況」）や広告関連指標（電通「日本の広告費」）及び聴取率関連のデータブック（電通メディアイノベーションラボ『情報メディア白書』など）などの所在及び内容等をあらかじめ確認すること。（3時間）
	授業内容	【マスメディア産業の現状 ⑤ラジオ放送】第9回講義に引き続き、マスメディア産業のひとつとしてラジオ放送産業（コミュニティFM放送を含む）を取り上げる。広告モデルを採用する民放ラジオ放送の特徴や法制度上の位置づけなどを踏まえ、ラジオ放送に関する各種データブック（『日本民間放送年鑑』など）及び政府統計（総務省「民間放送事業者の収支状況」など）、広告関連指標等をもとにラジオ放送産業の現状と課題について分析する。
	事後学習	第10回講義にて分析したラジオ放送産業の現状及び課題について、講義中に実施した小テストの復習を含め、講義ノートを確認し、整理すること。その上で、ラジオ放送産業の現状と課題について自分なりの説明でまとめる。（1時間）
11	事前学習	ポータルシステムにて事前に配布する資料を読むとともに、マスメディア産業のひとつとして日本の有料テレビ放送産業（衛星放送、ケーブルテレビ）に関する定量データ（日本民間放送連盟『日本民間放送年鑑』、衛星放送協会公式ホームページ等）に加え、政府統計（総務省「民間放送事業者の収支状況」）や広告関連指標（電通「日本の広告費」）などの所在及び内容等をあらかじめ確認すること。（3時間）
	授業内容	【マスメディア産業の現状 ⑥衛星放送・ケーブルテレビ】マスメディア産業のひとつとして日本の有料テレビ放送産業（衛星放送、ケーブルテレビ）を取り上げる。広告放送と有料放送モデルの特徴や相違点、法制度上の位置づけなどを踏まえ、日本の有料テレビ放送放送に関する各種データ（『日本民間放送年鑑』、衛星放送協会公式ホームページなど）及び政府統計等をもとに、日本の有料テレビ放送産業の現状と課題について分析する。
	事後学習	第11回講義にて分析した有料テレビ放送産業の現状及び課題について、講義中に実施した小テストの復習を含め、講義ノートを確認し、整理すること。その上で、有料テレビ放送産業（衛星放送、ケーブルテレビ）の現状と課題について自分なりの説明でまとめる。（1時間）

12	事前学習	ポータルシステムにて事前に配布する資料を読むとともに、エンタテインメント産業のひとつとして日本の音楽産業に関する定量データ（日本レコード協会「日本のレコード産業」、日本レコード協会公式ホームページ等）に加え、音楽産業関連の各種データブック（電通総研『情報メディア白書』等）などの所在及び内容をあらかじめ確認すること。（3時間）
	授業内容	【エンタテインメント産業の現状 ①音楽】 エンタテインメント産業のひとつとして日本の音楽産業を取り上げる。日本の音楽産業の特徴と推移、ビジネスモデルの変化などを踏まえ、日本の音楽産業に関する各種データ（日本レコード協会公式ホームページなど）及び音楽産業関連のデータブック等をもとに、日本の音楽産業の現状と課題について分析する。
	事後学習	第12回講義にて分析した音楽産業の現状及び課題について、講義中に実施した小テストの復習を含め、講義ノートを確認し、整理すること。その上で、日本の音楽産業の現状と課題について自分なりの説明でまとめる。（1時間）
13	事前学習	ポータルシステムにて事前に配布する資料を読むとともに、エンタテインメント産業のひとつとして日本の劇映画産業に関する定量データ（日本映画製作者連盟公式ホームページ等）に加え、劇映画産業関連の各種データブック（電通総研『情報メディア白書』等）、政府統計（経済産業省「特定サービス産業実態調査_映画館編」等）などの所在及び内容をあらかじめ確認すること。（3時間）
	授業内容	【エンタテインメント産業の現状 ②劇映画】 エンタテインメント産業のひとつとして日本の劇映画産業を取り上げる。劇映画産業のビジネスモデルである「興行モデル」を概観したうえで、日本の劇映画産業の特徴と推移、ビジネスモデルの変化・多様化などを踏まえ、日本の劇映画産業に関する各種データ（日本映画製作者連盟公式ホームページなど）及び劇映画産業関連のデータブック等をもとに、日本の劇映画産業の現状と課題について分析する。
	事後学習	第13回講義にて分析した劇映画産業の現状及び課題について、講義中に実施した小テストの復習を含め、講義ノートを確認し、整理すること。その上で、日本の劇映画産業の現状と課題について自分なりの説明でまとめる。（1時間）
14	事前学習	ポータルシステムにて事前に配布する資料を読むとともに、エンタテインメント産業のひとつとして日本のビデオゲーム産業に関する定量データ（コンピュータエンタテインメント協会『CESAゲーム白書』等）に加え、ビデオゲーム産業関連の各種データブック（電通総研『情報メディア白書』等）、政府関連調査などの所在及び内容をあらかじめ確認すること。（3時間）
	授業内容	【エンタテインメント産業の現状 ③ゲーム産業】 エンタテインメント産業のひとつとして日本のビデオゲーム産業を取り上げる。技術革新・普及に伴うビデオゲーム産業のビジネスモデルの変化・多様化を概観したうえで、日本のビデオゲーム産業に関する各種データ（『CESAゲーム白書』など）及び各種調査会社の統計調査等をもとに、日本のビデオゲーム産業の現状と課題について分析する。
	事後学習	第14回講義にて分析したビデオゲーム産業の現状及び課題について、講義中に実施した小テストの復習を含め、講義ノートを確認し、整理すること。その上で、日本のゲーム産業の現状と課題について自分なりの説明でまとめる。（1時間）
15	事前学習	ポータルシステムにて事前に配布する資料を読むとともに、情報通信産業のひとつとして日本のインターネットコンテンツ産業に関する定量データ（デジタルコンテンツ協会『デジタルコンテンツ白書』）に加え、ビデオゲーム産業関連の各種データブック（「電子書籍ビジネス調査報告書」、モバイルコンテンツフォーラム公式ホームページ等）、政府関連調査などの所在及び内容をあらかじめ確認すること。（3時間）
	授業内容	【インターネットコンテンツ産業】 情報通信産業のひとつとして日本のインターネットコンテンツ産業を取り上げる。インターネットを活用したコンテンツビジネスの特徴等を踏まえ、日本のインターネットコンテンツ産業に関する各種データ（『デジタルコンテンツ白書』、モバイルコンテンツフォーラム公式ホームページなど）及び政府統計、各種調査会社の統計調査等をもとに、日本のインターネットコンテンツ産業の現状と課題について分析する。
	事後学習	初回からの講義及び配布資料、講義ノート等を見直し、定期試験に向けて準備をする。（1時間以上）

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅰ	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	学部1年生を対象にした少人数制の科目であり、新聞学科で学ぶための学問・研究の基礎的な認識、方法を学ぶ。				
授業目的・到達目標	社会科学の方法論を理解し、活用できる力を養うことを目的とする。社会科学における基礎的な思考方法、分析・観察方法、表現方法を修得することを目標とする。【対応DP及びCP：新聞学科1.3.4.6.7.8】				
履修条件	新聞学科に在籍する学生				
授業方法	30人前後のクラスで、講義、ワークショップ的な形式などで行う。 また、全クラス共通の小テスト、テストを実施する。 フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内テストとして、小テスト2回、テスト1回	
教科書	年	出版社		書名	著者名
				特に指定しない	
	備考				
参考書	講義の中で、適宜紹介する				
オフィスアワー	【2019年度オフィスアワー】 前学期中・・・土曜日10:45～11:45 / 後学期中・・・月曜日14:45～15:45 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお薦めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読むこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） ガイダンス：講義のねらい、新聞学科での学びと研究など
	事後学習	ガイダンス後に、新聞学科の特徴を確認しておくこと（2時間）
2	事前学習	前回の講義で提示した課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） 新聞学科で学ぶ学問と学問領域
	事後学習	新聞学科の学問の特徴について、再確認すること（2時間）
3	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） 「社会」をみる/捉えるとはどのようなことか
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
4	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】（第4講以降は、各クラスごとの授業） 問題を解き明かすための第一歩：疑似科学と普遍性、経験的妥当性
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間） 基本用語集を配布する。各自辞典等で基本用語について補強的に調べておくことが望ましい

5	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 説明すること／因果関係をとらえる
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
6	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 経験科学・実証とは
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
7	事前学習	第4講から第6までの内容、基本用語集の内容を復習すること（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 小テスト（第2クールのふりかえり）
	事後学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
8	事前学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	小テストの解説
	事後学習	小テストの内容をブラッシュアップしマスターすること（2時間）
9	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 演繹と帰納
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
10	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 統計と資料：社会調査
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
11	事前学習	第9講、第10の内容を復習すること（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 小テスト（第3クールのふりかえり）
	事後学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
12	事前学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 小テストの解説
	事後学習	小テストの内容をブラッシュアップしマスターすること（2時間）
13	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第4クール／説明と記述・関係をとらえる】 学術情報を調べよう
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
14	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第4クール／説明と記述・関係をとらえる】 レポート・論文の書き方の手法
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
15	事前学習	第1講から第14講までの講義の内容を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	第4クールおよび講義全体のまとめ
	事後学習	講義全体の内容と自らの達成度を確認しておくこと（2時間）

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅰ	担当者	小林 聡明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	学部1年生を対象にした少人数制の科目であり、新聞学科で学ぶための学問・研究の基礎的な認識、方法を学ぶ。				
授業目的・到達目標	社会科学の方法論を理解し、活用できる力を養うことを目的とする。社会科学における基礎的な思考方法、分析・観察方法、表現方法を修得することを目標とする。【対応DP及びCP：新聞学科1.3.4.6.7.8】				
履修条件	新聞学科に在籍する学生				
授業方法	30人前後のクラスで、講義、ワークショップ的な形式などで行う。 また、全クラス共通の小テスト、テストを実施する。 フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内テストとして、小テスト2回、テスト1回	
教科書	年	出版社		書名	著者名
				特に指定しない	
	備考				
参考書	講義の中で、適宜紹介する				
オフィスアワー	原則的には、火曜日の13時～16時。事前にメールで予約を取ってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読むこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） ガイダンス：講義のねらい、新聞学科での学びと研究など
	事後学習	ガイダンス後に、新聞学科の特徴を確認しておくこと（2時間）
2	事前学習	前回の講義で提示した課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） 新聞学科で学ぶ学問と学問領域
	事後学習	新聞学科の学問の特徴について、再確認すること（2時間）
3	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） 「社会」をみる/捉えるとはどのようなことか
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
4	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】（第4講以降は、各クラスごとの授業） 問題を解き明かすための第一歩：疑似科学と普遍性、経験的妥当性
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間） 基本用語集を配布する。各自辞典等で基本用語について補強的に調べておくことが望ましい

5	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 説明すること／因果関係をとらえる
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
6	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 経験科学・実証とは
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
7	事前学習	第4講から第6までの内容、基本用語集の内容を復習すること（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 小テスト（第2クールのふりかえり）
	事後学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
8	事前学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	小テストの解説
	事後学習	小テストの内容をブラッシュアップしマスターすること（2時間）
9	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 演繹と帰納
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
10	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 統計と資料：社会調査
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
11	事前学習	第9講、第10の内容を復習すること（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 小テスト（第3クールのふりかえり）
	事後学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
12	事前学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 小テストの解説
	事後学習	小テストの内容をブラッシュアップしマスターすること（2時間）
13	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第4クール／説明と記述・関係をとらえる】 学術情報を調べよう
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
14	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第4クール／説明と記述・関係をとらえる】 レポート・論文の書き方の手法
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
15	事前学習	第1講から第14講までの講義の内容を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	第4クールおよび講義全体のまとめ
	事後学習	講義全体の内容と自らの達成度を確認しておくこと（2時間）

科目名	メディア・テキストの基礎 I	担当者	小林 義寛	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	学部1年生を対象にした少人数制の科目であり、新聞学科で学ぶための学問・研究の基礎的な認識、方法を学ぶ。				
授業目的・到達目標	社会科学の方法論を理解し、活用できる力を養うことを目的とする。社会科学における基礎的な思考方法、分析・観察方法、表現方法を修得することを目標とする。【対応DP及びCP：新聞学科1.3.4.6.7.8】				
履修条件	新聞学科に在籍する学生				
授業方法	30人前後のクラスで、講義、ワークショップ的な形式などで行う。 また、全クラス共通の小テスト、テストを実施する。 フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内テストとして、小テスト2回、テスト1回	
教科書	年	出版社		書名	著者名
				特に指定しない	
	備考				
参考書	講義の中で、適宜紹介する				
オフィスアワー	火曜5限、水曜5限。授業終了後であればその講義あるいは研究室。授業終了後でない場合には事前にアポイントメントをとること。 研究室（9号館602）、メールアドレス　kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読むこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） ガイダンス：講義のねらい、新聞学科での学びと研究など
	事後学習	ガイダンス後に、新聞学科の特徴を確認しておくこと（2時間）
2	事前学習	前回の講義で提示した課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） 新聞学科で学ぶ学問と学問領域
	事後学習	新聞学科の学問の特徴について、再確認すること（2時間）
3	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） 「社会」をみる/捉えるとはどのようなことか
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
4	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】（第4講以降は、各クラスごとの授業） 問題を解き明かすための第一歩：疑似科学と普遍性、経験的妥当性
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間） 基本用語集を配布する。各自辞典等で基本用語について補強的に調べておくことが望ましい

5	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 説明すること／因果関係をとらえる
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
6	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 経験科学・実証とは
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
7	事前学習	第4講から第6までの内容、基本用語集の内容を復習すること（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 小テスト（第2クールのふりかえり）
	事後学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
8	事前学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	小テストの解説
	事後学習	小テストの内容をブラッシュアップしマスターすること（2時間）
9	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 演繹と帰納
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
10	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 統計と資料：社会調査
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
11	事前学習	第9講、第10の内容を復習すること（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 小テスト（第3クールのふりかえり）
	事後学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
12	事前学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 小テストの解説
	事後学習	小テストの内容をブラッシュアップしマスターすること（2時間）
13	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第4クール／説明と記述・関係をとらえる】 学術情報を調べよう
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
14	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第4クール／説明と記述・関係をとらえる】 レポート・論文の書き方の手法
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
15	事前学習	第1講から第14講までの講義の内容を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	第4クールおよび講義全体のまとめ
	事後学習	講義全体の内容と自らの達成度を確認しておくこと（2時間）

科目名	メディア・テキストの基礎 I	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	学部1年生を対象にした少人数制の科目であり、新聞学科で学ぶための学問・研究の基礎的な認識、方法を学ぶ。				
授業目的・到達目標	社会科学の方法論を理解し、活用できる力を養うことを目的とする。社会科学における基礎的な思考方法、分析・観察方法、表現方法を修得することを目標とする。【対応DP及びCP：新聞学科1.3.4.6.7.8】				
履修条件	新聞学科に在籍する学生				
授業方法	30人前後のクラスで、講義、ワークショップ的な形式などで行う。 また、全クラス共通の小テスト、テストを実施する。 フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内テストとして、小テスト2回、テスト1回	
教科書	年	出版社		書名	著者名
				特に指定しない	
	備考				
参考書	講義の中で、適宜紹介する				
オフィスアワー	水曜4限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読むこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） ガイダンス：講義のねらい、新聞学科での学びと研究など
	事後学習	ガイダンス後に、新聞学科の特徴を確認しておくこと（2時間）
2	事前学習	前回の講義で提示した課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） 新聞学科で学ぶ学問と学問領域
	事後学習	新聞学科の学問の特徴について、再確認すること（2時間）
3	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） 「社会」をみる/捉えるとはどのようなことか
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
4	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】（第4講以降は、各クラスごとの授業） 問題を解き明かすための第一歩：疑似科学と普遍性、経験的妥当性
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間） 基本用語集を配布する。各自辞典等で基本用語について補強的に調べておくことが望ましい

5	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 説明すること／因果関係をとらえる
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
6	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 経験科学・実証とは
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
7	事前学習	第4講から第6までの内容、基本用語集の内容を復習すること（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 小テスト（第2クールのふりかえり）
	事後学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
8	事前学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	小テストの解説
	事後学習	小テストの内容をブラッシュアップしマスターすること（2時間）
9	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 演繹と帰納
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
10	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 統計と資料：社会調査
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
11	事前学習	第9講、第10の内容を復習すること（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 小テスト（第3クールのふりかえり）
	事後学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
12	事前学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 小テストの解説
	事後学習	小テストの内容をブラッシュアップしマスターすること（2時間）
13	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第4クール／説明と記述・関係をとらえる】 学術情報を調べよう
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
14	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第4クール／説明と記述・関係をとらえる】 レポート・論文の書き方の手法
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
15	事前学習	第1講から第14講までの講義の内容を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	第4クールおよび講義全体のまとめ
	事後学習	講義全体の内容と自らの達成度を確認しておくこと（2時間）

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅰ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	学部1年生を対象にした少人数制の科目であり、新聞学科で学ぶための学問・研究の基礎的な認識、方法を学ぶ。				
授業目的・到達目標	社会科学の方法論を理解し、活用できる力を養うことを目的とする。社会科学における基礎的な思考方法、分析・観察方法、表現方法を修得することを目標とする。【対応DP及びCP：新聞学科1.3.4.6.7.8】				
履修条件	新聞学科に在籍する学生				
授業方法	30人前後のクラスで、講義、ワークショップ的な形式などで行う。 また、全クラス共通の小テスト、テストを実施する。 フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内テストとして、小テスト2回、テスト1回	
教科書	年	出版社		書名	著者名
				特に指定しない	
	備考				
参考書	講義の中で、適宜紹介する				
オフィスアワー	月曜日の13:00～14:00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館9階1914） メールアドレス：sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読むこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） ガイダンス：講義のねらい、新聞学科での学びと研究など
	事後学習	ガイダンス後に、新聞学科の特徴を確認しておくこと（2時間）
2	事前学習	前回の講義で提示した課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） 新聞学科で学ぶ学問と学問領域
	事後学習	新聞学科の学問の特徴について、再確認すること（2時間）
3	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） 「社会」をみる/捉えるとはどのようなことか
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
4	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】（第4講以降は、各クラスごとの授業） 問題を解き明かすための第一歩：疑似科学と普遍性、経験的妥当性
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間） 基本用語集を配布する。各自辞典等で基本用語について補強的に調べておくことが望ましい

5	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 説明すること／因果関係をとらえる
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
6	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 経験科学・実証とは
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
7	事前学習	第4講から第6までの内容、基本用語集の内容を復習すること（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 小テスト（第2クールのふりかえり）
	事後学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
8	事前学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	小テストの解説
	事後学習	小テストの内容をブラッシュアップしマスターすること（2時間）
9	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 演繹と帰納
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
10	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 統計と資料：社会調査
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
11	事前学習	第9講、第10の内容を復習すること（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 小テスト（第3クールのふりかえり）
	事後学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
12	事前学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 小テストの解説
	事後学習	小テストの内容をブラッシュアップしマスターすること（2時間）
13	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第4クール／説明と記述・関係をとらえる】 学術情報を調べよう
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
14	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第4クール／説明と記述・関係をとらえる】 レポート・論文の書き方の手法
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
15	事前学習	第1講から第14講までの講義の内容を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	第4クールおよび講義全体のまとめ
	事後学習	講義全体の内容と自らの達成度を確認しておくこと（2時間）

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅰ	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	学部1年生を対象にした少人数制の科目であり、新聞学科で学ぶための学問・研究の基礎的な認識、方法を学ぶ。			
授業目的・到達目標	社会科学の方法論を理解し、活用できる力を養うことを目的とする。社会科学における基礎的な思考方法、分析・観察方法、表現方法を修得することを目標とする。【対応DP及びCP：新聞学科1.3.4.6.7.8】			
履修条件	新聞学科に在籍する学生			
授業方法	30人前後のクラスで、講義、ワークショップ的な形式などで行う。 また、全クラス共通の小テスト、テストを実施する。 フィードバックは授業内に行う。			
成績評価	種別		割合	
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	
		授業内テストとして、小テスト2回、テスト1回		
教科書	年	出版社		書名
				著者名
				特に指定しない
	備考			
参考書	講義の中で、適宜紹介する			
オフィスアワー	月曜～木曜日の13：00～18：00 授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。 対面質問も受けるが、メールで日時予約が条件。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読むこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） ガイダンス：講義のねらい、新聞学科での学びと研究など
	事後学習	ガイダンス後に、新聞学科の特徴を確認しておくこと（2時間）
2	事前学習	前回の講義で提示した課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） 新聞学科で学ぶ学問と学問領域
	事後学習	新聞学科の学問の特徴について、再確認すること（2時間）
3	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） 「社会」をみる/捉えるとはどのようなことか
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
4	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】（第4講以降は、各クラスごとの授業） 問題を解き明かすための第一歩：疑似科学と普遍性、経験的妥当性
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間） 基本用語集を配布する。各自辞典等で基本用語について補強的に調べておくことが望ましい

5	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 説明すること／因果関係をとらえる
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
6	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 経験科学・実証とは
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
7	事前学習	第4講から第6までの内容、基本用語集の内容を復習すること（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 小テスト（第2クールのふりかえり）
	事後学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
8	事前学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	小テストの解説
	事後学習	小テストの内容をブラッシュアップしマスターすること（2時間）
9	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 演繹と帰納
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
10	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 統計と資料：社会調査
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
11	事前学習	第9講、第10の内容を復習すること（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 小テスト（第3クールのふりかえり）
	事後学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
12	事前学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 小テストの解説
	事後学習	小テストの内容をブラッシュアップしマスターすること（2時間）
13	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第4クール／説明と記述・関係をとらえる】 学術情報を調べよう
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
14	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第4クール／説明と記述・関係をとらえる】 レポート・論文の書き方の手法
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
15	事前学習	第1講から第14講までの講義の内容を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	第4クールおよび講義全体のまとめ
	事後学習	講義全体の内容と自らの達成度を確認しておくこと（2時間）

科目名	メディア・テキストの基礎 I	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	学部1年生を対象にした少人数制の科目であり、新聞学科で学ぶための学問・研究の基礎的な認識、方法を学ぶ。			
授業目的・到達目標	社会科学の方法論を理解し、活用できる力を養うことを目的とする。社会科学における基礎的な思考方法、分析・観察方法、表現方法を修得することを目標とする。【対応DP及びCP：新聞学科1.3.4.6.7.8】			
履修条件	新聞学科に在籍する学生			
授業方法	30人前後のクラスで、講義、ワークショップ的な形式などで行う。 また、全クラス共通の小テスト、テストを実施する。 フィードバックは授業内に行う。			
成績評価	種別		割合	
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	
		授業内テストとして、小テスト2回、テスト1回		
教科書	年	出版社		書名
				著者名
				特に指定しない
	備考			
参考書	講義の中で、適宜紹介する			
オフィスアワー	原則的に月曜日の昼休みだが、柔軟に対応したいので、必ずメールにて予約を取って欲しい。 研究室（9号館1階 9101研究室）メールアドレス tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読むこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） ガイダンス：講義のねらい、新聞学科での学びと研究など
	事後学習	ガイダンス後に、新聞学科の特徴を確認しておくこと（2時間）
2	事前学習	前回の講義で提示した課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） 新聞学科で学ぶ学問と学問領域
	事後学習	新聞学科の学問の特徴について、再確認すること（2時間）
3	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） 「社会」をみる/捉えるとはどのようなことか
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
4	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】（第4講以降は、各クラスごとの授業） 問題を解き明かすための第一歩：疑似科学と普遍性、経験的妥当性
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間） 基本用語集を配布する。各自辞典等で基本用語について補強的に調べておくことが望ましい

5	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 説明すること／因果関係をとらえる
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
6	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 経験科学・実証とは
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
7	事前学習	第4講から第6までの内容、基本用語集の内容を復習すること（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 小テスト（第2クールのふりかえり）
	事後学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
8	事前学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	小テストの解説
	事後学習	小テストの内容をブラッシュアップしマスターすること（2時間）
9	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 演繹と帰納
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
10	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 統計と資料：社会調査
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
11	事前学習	第9講、第10の内容を復習すること（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 小テスト（第3クールのふりかえり）
	事後学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
12	事前学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 小テストの解説
	事後学習	小テストの内容をブラッシュアップしマスターすること（2時間）
13	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第4クール／説明と記述・関係をとらえる】 学術情報を調べよう
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
14	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第4クール／説明と記述・関係をとらえる】 レポート・論文の書き方の手法
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
15	事前学習	第1講から第14講までの講義の内容を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	第4クールおよび講義全体のまとめ
	事後学習	講義全体の内容と自らの達成度を確認しておくこと（2時間）

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅰ	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	学部1年生を対象にした少人数制の科目であり、新聞学科で学ぶための学問・研究の基礎的な認識、方法を学ぶ。				
授業目的・到達目標	社会科学の方法論を理解し、活用できる力を養うことを目的とする。社会科学における基礎的な思考方法、分析・観察方法、表現方法を修得することを目標とする。【対応DP及びCP：新聞学科1.3.4.6.7.8】				
履修条件	新聞学科に在籍する学生				
授業方法	30人前後のクラスで、講義、ワークショップ的な形式などで行う。 また、全クラス共通の小テスト、テストを実施する。 フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内テストとして、小テスト2回、テスト1回	
教科書	年	出版社		書名	著者名
				特に指定しない	
	備考				
参考書	講義の中で、適宜紹介する				
オフィスアワー	オフィスアワー：水曜日15:00～16:00（予定） 連絡先（メールアドレス）は初回の授業の際にお伝えします。 事前にアポイントをとってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読むこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） ガイダンス：講義のねらい、新聞学科での学びと研究など
	事後学習	ガイダンス後に、新聞学科の特徴を確認しておくこと（2時間）
2	事前学習	前回の講義で提示した課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） 新聞学科で学ぶ学問と学問領域
	事後学習	新聞学科の学問の特徴について、再確認すること（2時間）
3	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） 「社会」をみる/捉えるとはどのようなことか
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
4	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】（第4講以降は、各クラスごとの授業） 問題を解き明かすための第一歩：疑似科学と普遍性、経験的妥当性
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間） 基本用語集を配布する。各自辞典等で基本用語について補強的に調べておくことが望ましい

5	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 説明すること／因果関係をとらえる
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
6	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 経験科学・実証とは
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
7	事前学習	第4講から第6までの内容、基本用語集の内容を復習すること（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 小テスト（第2クールのふりかえり）
	事後学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
8	事前学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	小テストの解説
	事後学習	小テストの内容をブラッシュアップしマスターすること（2時間）
9	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 演繹と帰納
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
10	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 統計と資料：社会調査
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
11	事前学習	第9講、第10の内容を復習すること（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 小テスト（第3クールのふりかえり）
	事後学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
12	事前学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 小テストの解説
	事後学習	小テストの内容をブラッシュアップしマスターすること（2時間）
13	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第4クール／説明と記述・関係をとらえる】 学術情報を調べよう
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
14	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第4クール／説明と記述・関係をとらえる】 レポート・論文の書き方の手法
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
15	事前学習	第1講から第14講までの講義の内容を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	第4クールおよび講義全体のまとめ
	事後学習	講義全体の内容と自らの達成度を確認しておくこと（2時間）

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅰ	担当者	三谷 文栄	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	学部1年生を対象にした少人数制の科目であり、新聞学科で学ぶための学問・研究の基礎的な認識、方法を学ぶ。				
授業目的・到達目標	社会科学の方法論を理解し、活用できる力を養うことを目的とする。社会科学における基礎的な思考方法、分析・観察方法、表現方法を修得することを目標とする。【対応DP及びCP：新聞学科1.3.4.6.7.8】				
履修条件	新聞学科に在籍する学生				
授業方法	30人前後のクラスで、講義、ワークショップ的な形式などで行う。 また、全クラス共通の小テスト、テストを実施する。 フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内テストとして、小テスト2回、テスト1回	
教科書	年	出版社		書名	著者名
				特に指定しない	
	備考				
参考書	講義の中で、適宜紹介する				
オフィスアワー	毎週水曜日の14時半～16時 できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読むこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） ガイダンス：講義のねらい、新聞学科での学びと研究など
	事後学習	ガイダンス後に、新聞学科の特徴を確認しておくこと（2時間）
2	事前学習	前回の講義で提示した課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） 新聞学科で学ぶ学問と学問領域
	事後学習	新聞学科の学問の特徴について、再確認すること（2時間）
3	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第1クール／学問とは】（木曜1限、5限、それぞれ合同授業） 「社会」をみる/捉えるとはどのようなことか
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
4	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】（第4講以降は、各クラスごとの授業） 問題を解き明かすための第一歩：疑似科学と普遍性、経験的妥当性
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間） 基本用語集を配布する。各自辞典等で基本用語について補強的に調べておくことが望ましい

5	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 説明すること／因果関係をとらえる
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
6	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 経験科学・実証とは
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
7	事前学習	第4講から第6までの内容、基本用語集の内容を復習すること（2時間）
	授業内容	【第2クール／科学的なものの見方】 小テスト（第2クールのふりかえり）
	事後学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
8	事前学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	小テストの解説
	事後学習	小テストの内容をブラッシュアップしマスターすること（2時間）
9	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 演繹と帰納
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
10	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 統計と資料：社会調査
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
11	事前学習	第9講、第10の内容を復習すること（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 小テスト（第3クールのふりかえり）
	事後学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
12	事前学習	小テストでの不明な点や曖昧な部分を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	【第3クール／経験科学・実証とは】 小テストの解説
	事後学習	小テストの内容をブラッシュアップしマスターすること（2時間）
13	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第4クール／説明と記述・関係をとらえる】 学術情報を調べよう
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
14	事前学習	前回の講義で提示した資料・課題を行うこと（2時間）
	授業内容	【第4クール／説明と記述・関係をとらえる】 レポート・論文の書き方の手法
	事後学習	講義内容が理解できたのか、確認し疑問点は次回の講義で質問できるように整理しておくこと（2時間）
15	事前学習	第1講から第14講までの講義の内容を再確認しておくこと（2時間）
	授業内容	第4クールおよび講義全体のまとめ
	事後学習	講義全体の内容と自らの達成度を確認しておくこと（2時間）

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	石川 徳幸	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期のメディア・テキストの基礎Ⅰでの学習をふまえ、「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。				
授業目的・到達目標	学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うことを目的とする。受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行えるようになることを目標とする。【対応DP及びCP：新聞学科1.3.4.6.7.8】。				
履修条件	新聞学科に在籍していること				
授業方法	講義、ディスカッション、プレゼンテーションなど フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義内での課題	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	講義で使用するテキストについては、適宜提示する			
参考書	適宜紹介する				
オフィスアワー	【2019年度オフィスアワー】 前学期中・・・土曜日10:45～11:45　／　後学期中・・・月曜日14:45～15:45 ※アポイント無しでも構わないが、会議などの校務で研究室にいない場合もあるため、メールなどで事前に予約を入れることをお勧めする。また、同時刻に複数の訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の講義をふまえ、メディア・テキストⅠとⅡとのつながりを確認すること(2時間)
	授業内容	ガイダンスと講義の概要
	事後学習	後期の授業計画や目標などを確認すること(2時間)
2	事前学習	前期に課した課題を自分なりに振り返っておくこと(2時間)
	授業内容	メディア・テキストⅠの課題に対する講評およびコメント
	事後学習	講義の内容と課題とを照らし合わせ、復習する(2時間)
3	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
4	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)

5	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
6	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く④
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
7	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
8	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
9	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
10	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
11	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
12	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
13	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
14	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	レポートと総括的なディスカッション
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
15	事前学習	後期の講義内容を確認しておくこと(2時間)
	授業内容	後期全体のまとめ
	事後学習	講義の内容を受けて、メディア・テキストⅡを総括する(2時間)

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	小林 聡明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期のメディア・テキストの基礎Ⅰでの学習をふまえ、「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。				
授業目的・到達目標	学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うことを目的とする。受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行えるようになることを目標とする。【対応DP及びCP：新聞学科1.3.4.6.7.8】。				
履修条件	新聞学科に在籍していること				
授業方法	講義、ディスカッション、プレゼンテーションなど フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義内での課題	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	講義で使用するテキストについては、適宜提示する			
参考書	適宜紹介する				
オフィスアワー	原則的には、火曜日の13時～16時。事前にメールで予約を取ってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の講義をふまえ、メディア・テキストⅠとⅡとのつながりを確認すること(2時間)
	授業内容	ガイダンスと講義の概要
	事後学習	後期の授業計画や目標などを確認すること(2時間)
2	事前学習	前期に課した課題を自分なりに振り返っておくこと(2時間)
	授業内容	メディア・テキストⅠの課題に対する講評およびコメント
	事後学習	講義の内容と課題とを照らし合わせ、復習する(2時間)
3	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
4	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)

5	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
6	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く④
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
7	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
8	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
9	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
10	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
11	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
12	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
13	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
14	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	レポートと総括的なディスカッション
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
15	事前学習	後期の講義内容を確認しておくこと(2時間)
	授業内容	後期全体のまとめ
	事後学習	講義の内容を受けて、メディア・テキストⅡを総括する(2時間)

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	小林 義寛	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期のメディア・テキストの基礎Ⅰでの学習をふまえ、「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。				
授業目的・到達目標	学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うことを目的とする。受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行えるようになることを目標とする。【対応DP及びCP：新聞学科1.3.4.6.7.8】。				
履修条件	新聞学科に在籍していること				
授業方法	講義、ディスカッション、プレゼンテーションなど フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義内での課題	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	講義で使用するテキストについては、適宜提示する			
参考書	適宜紹介する				
オフィスアワー	火曜5限、水曜5限。授業終了後であればその講堂あるいは研究室。授業終了後でない場合には事前にアポイントメントをとること。 研究室（9号館602）、メールアドレス　kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の講義をふまえ、メディア・テキストⅠとⅡとのつながりを確認すること(2時間)
	授業内容	ガイダンスと講義の概要
	事後学習	後期の授業計画や目標などを確認すること(2時間)
2	事前学習	前期に課した課題を自分なりに振り返っておくこと(2時間)
	授業内容	メディア・テキストⅠの課題に対する講評およびコメント
	事後学習	講義の内容と課題とを照らし合わせ、復習する(2時間)
3	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
4	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)

5	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
6	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く④
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
7	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
8	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
9	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
10	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
11	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
12	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
13	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
14	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	レポートと総括的なディスカッション
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
15	事前学習	後期の講義内容を確認しておくこと(2時間)
	授業内容	後期全体のまとめ
	事後学習	講義の内容を受けて、メディア・テキストⅡを総括する(2時間)

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	佐幸 信介	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期のメディア・テキストの基礎Ⅰでの学習をふまえ、「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。				
授業目的・到達目標	学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うことを目的とする。受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行えるようになることを目標とする。【対応DP及びCP：新聞学科1.3.4.6.7.8】。				
履修条件	新聞学科に在籍していること				
授業方法	講義、ディスカッション、プレゼンテーションなど フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義内での課題	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	講義で使用するテキストについては、適宜提示する			
参考書	適宜紹介する				
オフィスアワー	水曜4限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の講義をふまえ、メディア・テキストⅠとⅡとのつながりを確認すること(2時間)
	授業内容	ガイダンスと講義の概要
	事後学習	後期の授業計画や目標などを確認すること(2時間)
2	事前学習	前期に課した課題を自分なりに振り返っておくこと(2時間)
	授業内容	メディア・テキストⅠの課題に対する講評およびコメント
	事後学習	講義の内容と課題とを照らし合わせ、復習する(2時間)
3	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
4	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)

5	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
6	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く④
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
7	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
8	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
9	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
10	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
11	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
12	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
13	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
14	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	レポートと総括的なディスカッション
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
15	事前学習	後期の講義内容を確認しておくこと(2時間)
	授業内容	後期全体のまとめ
	事後学習	講義の内容を受けて、メディア・テキストⅡを総括する(2時間)

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期のメディア・テキストの基礎Ⅰでの学習をふまえ、「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。				
授業目的・到達目標	学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うことを目的とする。受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行えるようになることを目標とする。【対応DP及びCP：新聞学科1.3.4.6.7.8】。				
履修条件	新聞学科に在籍していること				
授業方法	講義、ディスカッション、プレゼンテーションなど フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義内での課題	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	講義で使用するテキストについては、適宜提示する			
参考書	適宜紹介する				
オフィスアワー	月曜日の13:00～14:00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館9階1914） メールアドレス：sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の講義をふまえ、メディア・テキストⅠとⅡとのつながりを確認すること(2時間)
	授業内容	ガイダンスと講義の概要
	事後学習	後期の授業計画や目標などを確認すること(2時間)
2	事前学習	前期に課した課題を自分なりに振り返っておくこと(2時間)
	授業内容	メディア・テキストⅠの課題に対する講評およびコメント
	事後学習	講義の内容と課題とを照らし合わせ、復習する(2時間)
3	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
4	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)

5	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
6	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く④
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
7	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
8	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
9	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
10	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
11	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
12	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
13	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
14	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	レポートと総括的なディスカッション
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
15	事前学習	後期の講義内容を確認しておくこと(2時間)
	授業内容	後期全体のまとめ
	事後学習	講義の内容を受けて、メディア・テキストⅡを総括する(2時間)

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	柴田 秀一	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期のメディア・テキストの基礎Ⅰでの学習をふまえ、「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。				
授業目的・到達目標	学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うことを目的とする。受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行えるようになることを目標とする。【対応DP及びCP：新聞学科1.3.4.6.7.8】。				
履修条件	新聞学科に在籍していること				
授業方法	講義、ディスカッション、プレゼンテーションなど フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義内での課題	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	講義で使用するテキストについては、適宜提示する			
参考書	適宜紹介する				
オフィスアワー	月曜～木曜日の13：00～18：00 授業中に示すメールアドレスで随時受け付ける。 対面質問も受けるが、メールで日時予約が条件。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の講義をふまえ、メディア・テキストⅠとⅡとのつながりを確認すること(2時間)
	授業内容	ガイダンスと講義の概要
	事後学習	後期の授業計画や目標などを確認すること(2時間)
2	事前学習	前期に課した課題を自分なりに振り返っておくこと(2時間)
	授業内容	メディア・テキストⅠの課題に対する講評およびコメント
	事後学習	講義の内容と課題とを照らし合わせ、復習する(2時間)
3	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
4	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)

5	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
6	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く④
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
7	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
8	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
9	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
10	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
11	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
12	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
13	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
14	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	レポートと総括的なディスカッション
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
15	事前学習	後期の講義内容を確認しておくこと(2時間)
	授業内容	後期全体のまとめ
	事後学習	講義の内容を受けて、メディア・テキストⅡを総括する(2時間)

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期のメディア・テキストの基礎Ⅰでの学習をふまえ、「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。				
授業目的・到達目標	学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うことを目的とする。受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行えるようになることを目標とする。【対応DP及びCP：新聞学科1.3.4.6.7.8】。				
履修条件	新聞学科に在籍していること				
授業方法	講義、ディスカッション、プレゼンテーションなど フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義内での課題	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	講義で使用するテキストについては、適宜提示する			
参考書	適宜紹介する				
オフィスアワー	原則的に月曜日の昼休みだが、柔軟に対応したいので、必ずメールにて予約を取って欲しい。 研究室（9号館1階 9101研究室）メールアドレス tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の講義をふまえ、メディア・テキストⅠとⅡとのつながりを確認すること(2時間)
	授業内容	ガイダンスと講義の概要
	事後学習	後期の授業計画や目標などを確認すること(2時間)
2	事前学習	前期に課した課題を自分なりに振り返っておくこと(2時間)
	授業内容	メディア・テキストⅠの課題に対する講評およびコメント
	事後学習	講義の内容と課題とを照らし合わせ、復習する(2時間)
3	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
4	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)

5	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
6	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く④
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
7	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
8	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
9	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
10	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
11	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
12	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
13	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
14	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	レポートと総括的なディスカッション
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
15	事前学習	後期の講義内容を確認しておくこと(2時間)
	授業内容	後期全体のまとめ
	事後学習	講義の内容を受けて、メディア・テキストⅡを総括する(2時間)

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期のメディア・テキストの基礎Ⅰでの学習をふまえ、「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。				
授業目的・到達目標	学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うことを目的とする。受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行えるようになることを目標とする。【対応DP及びCP：新聞学科1.3.4.6.7.8】。				
履修条件	新聞学科に在籍していること				
授業方法	講義、ディスカッション、プレゼンテーションなど フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義内での課題	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	講義で使用するテキストについては、適宜提示する			
参考書	適宜紹介する				
オフィスアワー	オフィスアワー：水曜日15:00～16:00（予定） 連絡先（メールアドレス）は初回の授業の際にお伝えします。 事前にアポイントをとってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の講義をふまえ、メディア・テキストⅠとⅡとのつながりを確認すること(2時間)
	授業内容	ガイダンスと講義の概要
	事後学習	後期の授業計画や目標などを確認すること(2時間)
2	事前学習	前期に課した課題を自分なりに振り返っておくこと(2時間)
	授業内容	メディア・テキストⅠの課題に対する講評およびコメント
	事後学習	講義の内容と課題とを照らし合わせ、復習する(2時間)
3	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
4	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)

5	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
6	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く④
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
7	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
8	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
9	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
10	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
11	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
12	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
13	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
14	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	レポートと総括的なディスカッション
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
15	事前学習	後期の講義内容を確認しておくこと(2時間)
	授業内容	後期全体のまとめ
	事後学習	講義の内容を受けて、メディア・テキストⅡを総括する(2時間)

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅱ	担当者	三谷 文栄	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	前期のメディア・テキストの基礎Ⅰでの学習をふまえ、「読む、調べる、書く、表現する」の一連の研究作業を、実際に行いながら基礎的なリテラシーを習得する。				
授業目的・到達目標	学問的なテキストの読み方やプレゼンテーションの方法や手法を身につけ、実践する力を養うことを目的とする。受講する学生自身が、研究の作業とアウトプットを行えるようになることを目標とする。【対応DP及びCP：新聞学科1.3.4.6.7.8】。				
履修条件	新聞学科に在籍していること				
授業方法	講義、ディスカッション、プレゼンテーションなど フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	講義内での課題	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	講義で使用するテキストについては、適宜提示する			
参考書	適宜紹介する				
オフィスアワー	毎週水曜日の14時半～16時 できれば事前にメール等でアポイントを入れてほしい。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	前期の講義をふまえ、メディア・テキストⅠとⅡとのつながりを確認すること(2時間)
	授業内容	ガイダンスと講義の概要
	事後学習	後期の授業計画や目標などを確認すること(2時間)
2	事前学習	前期に課した課題を自分なりに振り返っておくこと(2時間)
	授業内容	メディア・テキストⅠの課題に対する講評およびコメント
	事後学習	講義の内容と課題とを照らし合わせ、復習する(2時間)
3	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
4	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)

5	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
6	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	テキストを読む／書く④
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
7	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
8	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
9	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
10	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	グループ・ワーク③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
11	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション①
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
12	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション②
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
13	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	プレゼンテーションとディスカッション③
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
14	事前学習	前回の講義で課された課題を準備する(2時間)
	授業内容	レポートと総括的なディスカッション
	事後学習	準備した課題と講義の内容を振り返り、不明点、疑問点などをあらためて整理しておくこと(2時間)
15	事前学習	後期の講義内容を確認しておくこと(2時間)
	授業内容	後期全体のまとめ
	事後学習	講義の内容を受けて、メディア・テキストⅡを総括する(2時間)

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅲ	担当者	岸本 裕紀子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	社会問題、政治問題、経済問題を前にして、自分の考えを整理し、論理的に組み立て、いかに効果的に文章にしてアピールするか、その方法を学ぶ。					
授業目的・到達目標	自分の考えを整理し、論理的に組み立て、効果的に文章にしてアピールする能力を養成する。メディアテキストの基礎Ⅰ、Ⅱをふまえた上で、本講座では、さらなる思考力の向上、課題の見つけ方、表現方法の熟達を得られるようになることを目標とする。関連DP及びCP：新聞学科1, 6					
履修条件	なし					
授業方法	前半の時間は講義形式で必要事項をまとめ、それに基づいて後半30－40分で実際に文章を書いてもらう。講義の後半期に、それまで提出したいいくつかの文章をもとにフィードバックとして個人面接を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%		授業内で6、7回提出してもらう文章すべてで評価する。	
	平常評価		100%			
教科書	年	出版社		書名		著者名
	使用しない。					
	備考	使用せず				
参考書	特に指定しない。					
オフィスアワー	次の授業に支障がない範囲で、月曜日2時限目の授業後に教室内で質問に対応する。 なお、質問・回答が長くなると想定される場合は、事前にメールで予約することとする。 yukiko@b07.itscom.net					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、各人の受けた「メディアテキストの基礎Ⅰ」を復習し、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス。授業のテーマや目的、授業スケジュール、成績評価の方法、などをを含めて説明する。
	事後学習	第一回目は文章の提出がないので、ガイダンスの内容を復習し、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。（2時間）
2	事前学習	「メディアテキストの基礎Ⅱ」を復習する。（2時間）
	授業内容	文章表現 好き・嫌いの軸 自分の肯定的な感情を文章で表現するにはどうするのがよいか、どのような要素を盛り込むといいか、どのような表現が効果的に相手に伝わるか、などを学んだ後、実際にテーマに沿って文章を作成する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業内で提出した文章に改良すべき点がないか考えてみる。（2時間）
3	事前学習	前回の授業の復習をする。（2時間）
	授業内容	文章表現 好き・嫌いの軸 自分の否定的な感情を文章で表現するにはどうするのがよいか、どのような要素を盛り込むといいか、どのような表現が効果的に相手に伝わるか、などを学んだ後、実際にテーマに沿って文章を作成する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業内で提出した文章に改良すべき点がないか考えてみる。（2時間）
4	事前学習	前回の授業の復習をする。（2時間）
	授業内容	文章表現 良い・悪いの軸 ある現象について、評価すべき点、問題となる点の両面から考え、それをいかに文章に盛り込むか、などを学んだ後、実際にテーマに沿って文章を作成する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業内で提出した文章に改良すべき点がないか考えてみる。（2時間）

5	事前学習	前回の授業の復習をする。（2時間）
	授業内容	文章表現 古い・新しいの軸 ブームの背景を探り、何が人々に受け入れられたかを分析・整理する手法を学んだ後、実際にテーマに沿って文章を作成する。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業内で提出した文章に改良すべき点がないか考えてみる。（2時間）
6	事前学習	前回の授業の復習をする。（2時間）
	授業内容	企画を立てて、取材し、まとめる 取材の仕方、その際のテーマの探し方を学ぶ。また、仮にあるテーマを取材をするとして、自分はどのような点に注目するかをまとめてみる。
	事後学習	講義ノートを確認して、授業内で提出した文章に改良すべき点がないか考えてみる。（2時間）
7	事前学習	テレビ局（出版社）の放送（出版物）をチェックし、質問事項など取材の準備をする。（2時間）
	授業内容	企画を立てて、取材し、まとめる テレビ局か出版社を実際に取材する。
	事後学習	取材の内容を振り返る、自分なりに取材を終えてということでもまとめてみる。（2時間）
8	事前学習	テレビ局（出版社）の放送（出版物）をチェックし、質問事項など取材の準備をする。（2時間）
	授業内容	企画を立てて、取材し、まとめる テレビ局か出版社を実際に取材する…
	事後学習	取材の内容を振り返り、自分なりに取材を終えて、ということでもまとめてみる。（2時間）
9	事前学習	新聞を読んで、自分が何に興味を持ったのか、その理由は何かを考える。（2時間）
	授業内容	政治社会評論 報道を読み解く際の注意点を知り、そのうえで社会問題を自分の考えにまとめ上げていく方法を学ぶ。
	事後学習	講義ノートを確認して、改めて新聞を読んでみる。（2時間）
10	事前学習	新聞を読んで、その中で興味を持って問題について考えてみる。（2時間）
	授業内容	論文を書く 論文の組み立て方の方法を学ぶ。
	事後学習	講義ノートを確認し、授業の内容を復習する。（2時間）
11	事前学習	新聞を読んで、興味を持った内容について考えてみる。（2時間）
	授業内容	論文を書く 論文テーマの説明をする。テーマはその時々話題になりっているもので、事前の下調べが必要であり、かつ自分なりの論を展開できるものを選んでいる。
	事後学習	講義ノートを確認し、自分なりに論文の構成を考えてみる。（2時間）
12	事前学習	自分なりに論文の下調べを行い、構成を考えてみる。（2時間）
	授業内容	論文を書く 論文の文献、データの活用、体験談の盛り込み方、歴史的経緯の追い方、などについての説明をする。
	事後学習	実際に論文作成に取り掛かる。（2時間）
13	事前学習	それまでの提出物を思い出し、自分なりに問題点や質問を整理しておく（2時間）
	授業内容	文章評価 フィードバックとしての個人面談をする。それまでの提出物を参考にする（他の履修者は論文作成）。
	事後学習	面談の内容をまとめて、自分なりに復習する。（2時間）
14	事前学習	それまでの提出物を思い出し、自分なりに問題点や質問を整理しておく（2時間）
	授業内容	文章評価 フィードバックとしての個人面談をする。それまでの提出物を参考にする（他の履修者は論文作成）。
	事後学習	面談の内容をまとめて、自分なりに復習する。（2時間）
15	事前学習	これまでのすべての授業を復習する。（2時間）
	授業内容	これまでの講義全体のまとめ 自分論 自分の特徴をどうつかみ、表現するかを学ぶ。
	事後学習	全ての授業の内容をまとめておく。（2時間）

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅲ	担当者	高橋 俊一	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	メディアに登場する言葉や用語・新語に接しながら、ニュース感覚を身につけ、読解力や作文力の錬成と発展を期す。その基礎を固め、進路に応じて応用力をつける。			
授業目的・到達目標	マスメディアの文章や用語との付き合い方・接し方の基本をしっかりと習得することを目的とする。 主にマスメディアで使われる用語や新語の解釈と書きこなしの方法を学び、文章力やニュースへの関心を自然な形で高められることをめざす。 関連DP及びCP：新聞学科1， 6			
履修条件	指定の教科書を「必携」とする。教科書を用意しない者の単位は原則、認めない。			
授業方法	さまざまな分野で生まれるニュースや用語に触れつつ、解釈や考え方を書きこなすための要点やコツを整理してわかりやすく示す。講義のフィードバックも適時行い、ときには実際に原稿を書きながら感受性や表現力を高めていく。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%	授業参加度を重視し、講義内に作文提出も適時行うことで試験にかえる。	
	平常評価	100%	多彩な課題を書きこなす実戦的作業を通じて基本姿勢や成長度を評価する。日頃の努力や向上心を重視する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	三笠書房（知的生きかた文庫）	『すぐ書ける！ 「頭のいい文章」ちょっとしたコツ』	高橋俊一
	備考	教科書は「必携」とする。 文庫サイズのため廉価。		
参考書	『すっきり！ わかりやすい！ 文章が書ける』（すばる舎＝電子版もあります）			
オフィスアワー	授業時間（金曜4限）とその前後に適時実施する。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、授業概要や目的を理解しておく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 講義の基本と構成などについて話す。
	事後学習	ガイダンスの内容を自分の希望進路や学習志望とよく照合すること。（2時間）
2	事前学習	新聞や教科書の精読を始める。（2時間）
	授業内容	「有用な情報伝達」の条件、マスメディアと接するノウハウ習得の基本姿勢などについて考える。
	事後学習	ニュースとの接し方や時事用語に対する基本を確認する。（2時間）
3	事前学習	教科書の中で関心のある個所をできるだけ読んでおく。（2時間）
	授業内容	文章を書く意味と楽しさ、おもしろさについて、要点をまとめ、ともに考える。
	事後学習	文法の基本や原稿構成の再検証を少しずつ始める。（2時間）
4	事前学習	教科書の通読を進める。（2時間）
	授業内容	メディア情報と文章の基本条件を検討する。
	事後学習	最新ニュースに関心を持ち、情報収集に努める。（2時間）

5	事前学習	教科書の通読を進めながら、最新ニュースの中から関心のある分野を絞っていく。（2時間）
	授業内容	現代メディアの情報と記事文章を読み解く練習をする。
	事後学習	新聞記事の一面をチェックしておく。（2時間）
6	事前学習	新聞やテレビ報じるニュースから、関心事をピックアップする。（2時間）
	授業内容	原稿を書くための事前準備にかかり、何をすればよいから検討を始める。（2時間）
	事後学習	授業を振り返って、自分の中心課題をさがす。（2時間）
7	事前学習	政治面の新聞記事をよく読んでおき、重要政策への問題意識を高める。（2時間）
	授業内容	実際に文章を書くときの基本姿勢を確認し、コツのいくつかを検討する。
	事後学習	原稿の全体構成を確認し、知識探索の方法も確かめる。（2時間）
8	事前学習	教科書の通読を仕上げ段階に進める。（2時間）
	授業内容	実際に文章を書き、その基本と応用力の習得を進める。
	事後学習	自分の文章力とその課題を検討しておく。（2時間）
9	事前学習	ニュース用語のピックアップを進める。（2時間）
	授業内容	ニュースと新聞記事の基本構造を知る。
	事後学習	自分の文章力確認を進め、どこまで通じるかを考えておく。（2時間）
10	事前学習	新聞やテレビニュースに出る経済用語を確認する。（2時間）
	授業内容	原稿中の主語述語の再確認と誤解を防ぐための具体的注意点を研究する。
	事後学習	わかりやすい原稿の基本条件と自分の文章力の特徴を絞り込む。（2時間）
11	事前学習	新聞の社会面を中心に、最新ニュースとその用語を調べる。（2時間）
	授業内容	句読点や修飾語の使い方の基本と注意事項を確認する。
	事後学習	最新ニュースの出方、メディアごとの扱い方を確認する。（2時間）
12	事前学習	教科書が強調する文章力錬成のポイントを再確認する。（2時間）
	授業内容	文章を輝かせるコツと条件およびノウハウを研究し、学生それぞれのレベルを再確認する。
	事後学習	世論の関心が高い話題をピックアップし、その意義づけを進める。（2時間）
13	事前学習	自分の文章力を基本から再検討し、課題を整理する。（2時間）
	授業内容	プロの記事・作品構成の基礎と応用を実際の記事から研究する。
	事後学習	最新ニュースをもとに政治・経済・社会のニュースや社説の意義づけを考える。（2時間）
14	事前学習	国際面、スポーツ面のニュースにも関心を持ち、重要事項とその要点をノートに記す。（2時間）
	授業内容	原稿の仕上げに必要な注意事項を考え、習得する。授業の後半に全般的なまとめにとりかかる。
	事後学習	講義中に提起された重要事項を再確認する。（2時間）
15	事前学習	世界の中での日本という観点から最新ニュースを研究・検証する。（2時間）
	授業内容	まとめ・質問受け付け・ディスカッション
	事後学習	講義がどれだけ身についたかを、静かに検証する。（2時間）

科目名	メディア・テキストの基礎Ⅲ	担当者	新田 直子	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	どのような文章にも読み手があり、目的に応じた書き方がある。だから書き手は、はっきりと読み手と目的を意識して、ルールに沿った文章を書くべきである。本講座では毎回異なる課題を出し、実際に文章を作成してもらう。その中で各自が書く技術を養成し、さらに、読み手にとって価値のある文章とは何かを自身で探求していくことを目的としている。							
授業目的・到達目標	毎回異なる課題を出し、実際に文章を作成してもらい、その中で各自が書く技術を養成することを目的とする。社会人として、とりわけマス・メディア、広告などの業種に携わっていく上で必要不可欠な文章作成力を習得できることを目標とする。それには日ごろから知識を蓄え、感覚を研ぎ澄ませて、その場で与えられたさまざまな課題にも対応できる順応性を養うことも大事である。							
履修条件	関連DP及びCP：新聞学科1， 6 特になし							
授業方法	基本的には毎週、講義時間内に実際に課題文を書いて提出してもらう。残りの時間に、前回課題の講評、注意点を述べるほか、文章作成上の注意点や論の組み立て方など、基本的なことを解説する。必要に応じて資料を配布する。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%		行わない。			
	平常評価		100%		受講姿勢および提出された文章により評価する。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	備考		文章課題となる図書については講義中に指示する。					
参考書	講義内で適宜指示・紹介する。							
オフィスアワー	授業（水曜3限）終了時にアポイントを取ること。その翌週の授業後に時間をもうける。文章作成に関する質問には可能な限り応じる。							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、講義を概観しておくこと。（1時間）
	授業内容	ガイダンス 文章作成の基本（1）文法・文型 / 課題文の作成
	事後学習	ガイダンス及び第1回講義内容の復習。各自、再度各自課題文章を作成し、問題点を確認すること。（3時間）
2	事前学習	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	文章作成の基本（2）読みやすい文章・読みにくい文章 / 課題文の作成
	事後学習	第2回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。（2時間）
3	事前学習	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	文章作成の基本（3）文章作成上のルールについて / 課題文の作成
	事後学習	第3回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。（2時間）
4	事前学習	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	文章作成の基本（4）課題に対する思考法について / 課題文の作成
	事後学習	第4回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。（2時間）

5	事前学習	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	文章作成の基本（5）書き手の興味・読み手の要求について考える／ 課題文の作成
	事後学習	第5回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。（2時間）
6	事前学習	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	発想を広げ、文章力を蓄える（1）創作文（1）／ 課題文の作成
	事後学習	第6回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。（2時間）
7	事前学習	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	発想を広げ、文章力を蓄える（2）制限のある文／ 課題文の作成
	事後学習	第7回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。（2時間）
8	事前学習	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	発想を広げ、文章力を蓄える（3）創作文（2）／ 課題文の作成
	事後学習	第8回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。（2時間）
9	事前学習	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	発想を広げ、文章力を蓄える（4）／ 課題文の作成
	事後学習	第9回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。（2時間）
10	事前学習	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	さまざまな課題への対応を学ぶ（1）字数制限について／ 課題文の作成
	事後学習	第10回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。（2時間）
11	事前学習	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	さまざまな課題への対応を学ぶ（2）キセル文・三題噺／ 課題文の作成
	事後学習	第11回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。（2時間）
12	事前学習	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	さまざまな課題への対応を学ぶ（3）抽象的な課題／ 課題文の作成
	事後学習	第12回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。（2時間）
13	事前学習	指示された課題について予備知識を得ておくこと。課題文がある場合は、読んでおくこと。（2時間）
	授業内容	さまざまな課題への対応を学ぶ（4）時事問題への取り組み／ 課題文の作成
	事後学習	第13回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。（2時間）
14	事前学習	指示された課題について予備知識を得ておくこと。（2時間）
	授業内容	推敲・校正の方法（1）。基本的な校正方法、自分で行う推敲の方法を学ぶ。
	事後学習	第14回講義内容の復習をすること。簡単な校正記号を覚え、宿題に出す課題に取り組むこと。（2時間）
15	事前学習	推敲・校正について講義する。指示された課題について予備知識を得ておくこと。講義全体について確認し、不明な点を書き出しておくこと。（2時間）
	授業内容	推敲・校正の方法（2）。質疑。
	事後学習	第15回講義内容の復習に加え、返却された答案を今一度読み返し、再度課題に取り組むよう求める。（2時間）

科目名	メディア・ビジネス	担当者	公野 勉	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	情報メディアの中核をなす映像をテーマとし、実写・アニメーション・CG等を活用した、映画・TVコンテンツ・キャラクターMDの具体的な制作方法を、実地者の立場から“ナマの声”で講義する(担当講師は映画会社日活で製作・配給の取締役を務めた現役のプロデューサーであり、アニメ会社タツノコ・プロダクションの'09年度取締役)。				
授業目的・到達目標	【授業目的】コンテンツを中心としたビジネス構造の把握をする人材の養成を目的とする。 【到達目標】映画等のコンテンツビジネスを理解し、説明できる事を到達目標とする。 対応DPおよびCP:新聞学科1〜3。				
履修条件	2年生以上。				
授業方法	コンテンツ関連の時事情報を例示、学生との意見交換により講義を展開。フィードバックについては質問等を講義内およびメールにて受け付け、返信・回答するが受講者全員の前でレビューした方が良いと判断した場合は講義内で行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業への参加度および講義内レポート(コンテンツのビジネス構造の把握レベルを測るために企画書作成)を予定。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016	風塵社		コンテンツ製造論	公野 勉
	備考	可能であれば持参の事。			
参考書	適宜、資料揭示および紹介予定。				
オフィスアワー	講義設定日(後期土曜2限)の前後休み時間に講義室にて。 メールによる受け付けも可能(kuno.tom@gmail.com)				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	講師の事歴をインターネット等で検索、熟読しておくこと。(120分)
	授業内容	講師自己紹介およびガイダンス
	事後学習	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)
2	事前学習	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)
	授業内容	映像メディアのセグメント
	事後学習	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)
3	事前学習	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)
	授業内容	映像業界の構造について.
	事後学習	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)
4	事前学習	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)
	授業内容	映画興行について.(コンテンツ・リテール)
	事後学習	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)

5	事前学習	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)
	授業内容	映画配給について.(コンテンツ・ディストリビューション)
	事後学習	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)
6	事前学習	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)
	授業内容	映画宣伝について.(コンテンツ・マーケティング)
	事後学習	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)
7	事前学習	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)
	授業内容	劇場公開終了後のビジネス.(ライセンス・ビジネス)
	事後学習	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)
8	事前学習	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)
	授業内容	邦画の海外戦略について.
	事後学習	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)
9	事前学習	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)
	授業内容	映像版權について.(知的財産権的観点)
	事後学習	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)
10	事前学習	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)
	授業内容	コンテンツ企業のメカニズム解析.(トレンド企業のエポックメイキング解説)
	事後学習	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)
11	事前学習	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)
	授業内容	キャラクターコンテンツ企業のメカニズム解析.(知財展開例：アニメーション等)
	事後学習	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)
12	事前学習	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)
	授業内容	玩具企業のマーチャンダイジングメカニズム解析(知財保全技法例等)
	事後学習	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)
13	事前学習	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)
	授業内容	企画書の作り方.(その項目等条件の解説)
	事後学習	講義内提示の事案をインターネット等で確認しておくこと(120分)
14	事前学習	前回講義末提示の事案をインターネット等で検索、熟読しておくこと(120分)
	授業内容	収支計画の作り方.(主にPL的視点とCF的事情の解説)
	事後学習	最終講義回収予定のテーマのレポートを作成しておくこと(120分)
15	事前学習	前回講義末提示のテーマのレポートを作成しておくこと(120分以上)
	授業内容	総括. レポート回収
	事後学習	講義内提示の事案をインターネット等で確認するおくこと(120分)

科目名	メディア文化演習Ⅰ	担当者	玉川 博章	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	文化社会学やカルチュラルスタディーズの先行研究を参照し、現代におけるグローバル化や流動化（リキッドモダニティ）などの状況を踏まえて、文化やメディアのあり方を考察する。			
授業目的・到達目標	現代における文化とメディアの関係性を捉える教養と問題発見、さらにディスカッションによる問題解決や省察能力の涵養を目的とする。基本的な概念や文献を学び、各自が文化やメディアを多角的に捉え考察するための知識取得、議論などのインプットとアウトプットの訓練を行うことを目的とする。 メディアや文化を政治や社会との関連から分析し、考察できるようになることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP新聞学科1、4、8。 特になし。			
授業方法	講義と学生によるグループディスカッションや発表などを併用する演習形式（半分程度はディスカッションや発表）。学術文献を予習として事前に一読することが必須。提出課題は授業内での総評やコメントによりフィードバックする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業への参加（提出物・発表内容等）に加え、期末に課すレポートにより、文化分析の基礎的知識やメディアと社会・政治との関係性の理解を確認し評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	演習の対象とする文献は、授業開始時に以下の参考書の中などから、受講生の人数等を鑑み決定し指示する。		
参考書	岩淵功一『文化の対話力』、谷川・王・呉編『サブカルで読むナショナルリズム』、イアンコンドリー『日本のヒップホップ』、高井編『「反戦」と「好戦」のポピュラー・カルチャー』、谷川ら編『越境するポピュラーカルチャー』			
オフィスアワー	授業前後（1230-1300など）に講義教室で対応する。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよむ（2時間）
	授業内容	イントロダクション 近代・モダニティの基本概念の導入
	事後学習	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。（2時間）
2	事前学習	近代化の歴史についてインターネットや世界史の教科書で調べる。（2時間）
	授業内容	グローバル化とリキッドモダニティの概念・理論の説明
	事後学習	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。（2時間）
3	事前学習	カルスタについてインターネットで調べる。（2時間）
	授業内容	文化研究の基本概念① 文化研究の学説史
	事後学習	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。（2時間）
4	事前学習	外国人タレント・番組についてインターネットで調べる。（2時間）
	授業内容	文化研究の基本概念② 岩淵功一『文化の対話力』について
	事後学習	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。（2時間）

5	事前学習	事前に指示された関連文献を読んできくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する（3時間）
	授業内容	文化研究の基本概念③ 発表・ディスカッション等
	事後学習	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。（2時間）
6	事前学習	マスメディア、ブロックバスターという語についてインターネットで調べる。（2時間）
	授業内容	メインストリーム×サブカルチャー① メインストリームとサブカルチャーの対立構造について
	事後学習	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。（2時間）
7	事前学習	事前に指示された関連文献を読んできくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する（3時間）
	授業内容	メインストリーム×サブカルチャー② 発表・ディスカッション等
	事後学習	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。（2時間）
8	事前学習	消費社会・記号的消費についてインターネットで調べる。（2時間）
	授業内容	メインストリーム×サブカルチャー③ メディアと消費文化
	事後学習	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。（2時間）
9	事前学習	事前に指示された関連文献を読んできくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する（3時間）
	授業内容	様々なサブカルチャーの事例考察① 発表・ディスカッション等
	事後学習	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。（2時間）
10	事前学習	事前に指示された関連文献を読んできくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する（3時間）
	授業内容	様々なサブカルチャーの事例考察② 発表・ディスカッション等
	事後学習	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。（2時間）
11	事前学習	事前に指示された関連文献を読んできくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する（3時間）
	授業内容	様々なサブカルチャーの事例考察③ 発表・ディスカッション等
	事後学習	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。（2時間）
12	事前学習	経済産業省のサイトでクールジャパンについてインターネットで調べる。（3時間）
	授業内容	「クールジャパン」：グローバル化の中の日本① クールジャパン政策についての説明
	事後学習	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。（2時間）
13	事前学習	事前に指示された関連文献を読んできくる。また、発表・ディスカッション等が予定される時は、準備として指定文献を読んだり調べ、それを元に資料等を作成・提出する（3時間）
	授業内容	「クールジャパン」：グローバル化の中の日本② 発表・ディスカッション等
	事後学習	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。（2時間）
14	事前学習	海外のオタクについてインターネットで調べる。（1時間）
	授業内容	「クールジャパン」：グローバル化の中の日本③ マンガ・アニメのグローバル化と再生産
	事後学習	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。期末レポートのための文献収集と閲読、レポート執筆。（4時間）
15	事前学習	これまでの授業資料を一読する。（1時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	授業でふれた事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。期末レポートのための文献収集と閲読、レポート執筆。（4時間）

科目名	メディア文化演習Ⅱ	担当者	仲川 秀樹	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	メディア文化の世界を、社会のトレンドから分析をおこなう。とくに、流行やファッションを対象に進めていく。メディア文化演習Ⅱでは、流行という現象がどのように発生するのか。なぜ、人びとは流行を選択するのか、その動機、目的などを探る。そして流行が発生する社会とは、社会的条件とは、そこにある時代の世相や風俗をみる。1960年代から2018年、その歴史的過程をたどりながら、今日のトレンドを明らかにしていきたい。			
授業目的・到達目標	流行とファッションを理解する基礎的な前提を教科書から探ってみる。人びとの動機や目的を知り、それを実現する社会的条件を考えてみる。流行が発生するメディア環境を整理することで、流行のメカニズムが明らかになり、時代の流れと流行発生の関係性を理解してもらうことを目的とする。 時代に応じたさまざまなトレンドの意味を、考えることで、その時代精神や時代性を正確によみとるための基本的思考を理解し、説明できるようになることを目的とする。			
履修条件	関連科目及び必修新聞学科1，4，8			
授業方法	基礎的な部分は教科書を用いた講義からはじめる。つぎに、教科書の要点から、学生にレポートし、発表し、意見などを求めながら進めていく時間にしたい。演習科目という正確から、学生の主体的な取り組みを期待したい。 授業内発表の際は都度講評を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	(40%) 前期末終了レポートを評価の対象とします (60%) 授業中のレポート、報告内容、主体的な取り組みから総合的に評価します	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015	学文社	『H・ブルーマーの集合行動論―流行理論を軸として―』	仲川秀樹
	備考			
参考書	必要に応じて指示します			
オフィスアワー	原則授業（月曜2限）終了後、講堂にて授業中に詳細を指示します			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス内容と使用教科書を事前に確認してください。（2時間）
	授業内容	メディア文化演習Ⅱの進め方
	事後学習	教科書の講読範囲を確認し、ノートに確認部分をまとめてください。（2時間）
2	事前学習	教科書の第2章を、事前に読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	集合行動としての流行
	事後学習	流行の位置づけを明確に理解してください。（2時間）
3	事前学習	教科書の第3章Ⅰを、読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	流行の基礎理論1（流行の基本的性格）
	事後学習	教科書と講義ノートの整理につとめてください。（2時間）
4	事前学習	教科書の第3章Ⅱを、読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	流行の基礎理論2（流行を採用する個人の動機）
	事後学習	教科書と講義ノートの整理につとめてください。（2時間）

5	事前学習	教科書の第3章Ⅱを、読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	流行の基礎理論3（流行を選択するパターン）
	事後学習	教科書と講義ノートの整理につとめてください。（2時間）
6	事前学習	教科書の第3章Ⅲを、読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	流行の基礎理論4（流行の発生する社会）
	事後学習	教科書と講義ノートの整理につとめてください。（2時間）
7	事前学習	教科書の第3章Ⅲを、読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	流行の基礎理論5（流行と社会変動）
	事後学習	教科書と講義ノートの整理につとめてください。（2時間）
8	事前学習	これまでの教科書内容を整理しておいてください。（2時間）
	授業内容	学生のリポートと報告準備
	事後学習	リポートと報告のための資料作成
9	事前学習	リポートと報告学生のテーマを事前に把握してください。（2時間）
	授業内容	学生のリポートと報告①
	事後学習	リポート内容を振り返り自分の報告のための準備
10	事前学習	リポートと報告学生のテーマを、事前に把握してください。（2時間）
	授業内容	学生のリポートと報告②
	事後学習	リポート内容を振り返り自分の報告のための準備
11	事前学習	リポートと報告学生のテーマを、事前に把握してください。（2時間）
	授業内容	学生のリポートと報告③
	事後学習	リポート内容を振り返り自分の報告のための準備
12	事前学習	リポートと報告学生のテーマを事前に把握してください。（2時間）
	授業内容	学生のリポートと報告④
	事後学習	リポート内容を振り返り自分の報告のための準備
13	事前学習	リポートと報告学生のテーマを、事前に把握してください。（2時間）
	授業内容	学生のリポートと報告⑤
	事後学習	リポート内容を振り返り自分の報告のための準備
14	事前学習	リポートと報告学生のテーマを、事前に把握してください。（2時間）
	授業内容	学生のリポートと報告⑥
	事後学習	リポート内容を振り返り自分の報告のための準備
15	事前学習	これまでリポートした内容を、まとめて提出する準備をしてください。（2時間）
	授業内容	メディア文化演習Ⅱ総括と総括レポート
	事後学習	メディア文化演習Ⅱを振り返り、実践的な取り組みに進めるようつとめてください。（2時間）

科目名	メディア文化演習Ⅲ	担当者	仲川 秀樹	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	メディア文化演習Ⅲでは、マス・メディア（女性誌）とファッションをテーマにする。1970年代『an・an』『non-no』の登場から、『JJ』『CanCam』『ViVi』『Ray』の4大女性誌創刊の1980年代。1990年代に入り、『Popteen』からギャル系雑誌の全盛。2015年以降、女性誌からSNSへと、女性誌読者層のファッション選択は大きな変化を遂げた。メディアとファッションの関係を歴史的連続性から探ってみたい			
授業目的・到達目標	時代の流れ、歴史的過程を、マス・メディアである女性誌に求める。現在（いま）のファッションを探るには、時代をさかのぼり、連続的にみる必要がある。メディア文化演習Ⅲでは、女性誌とファッションの関係を時代の流れから探り、そこに発生したさまざまなスタイルから、社会の変動を理解していくことを目的とする 上記のことから、社会の変動を理解し、説明できるようになることを目標とする			
履修条件	関連DP及びCP：新聞学科1，4，8 メディア文化演習Ⅱの履修者が望ましい			
授業方法	女性誌とファッションの関係について概観を論じる。つぎに、学生たちから女性誌の分析、ファッションに影響を与える媒体を女性誌からSNSと変化する様子を探ってもらう。それをレポートし、報告し、意見交換の場としたい 授業内発表の際は都度講評を行う			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	30%		
	平常評価	70%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			
参考書	仲川秀樹（2002年）『サブカルチャーの社会学』学陽書房 仲川秀樹（2010年）『おしゃれとカワイイの社会学』学文社			
オフィスアワー	原則授業（月曜2限）終了後、講堂にて。 授業中に詳細を指示します			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	関心のある女性誌をピックアップしておいてください。（2時間）
	授業内容	メディア文化演習Ⅲの進め方
	事後学習	講義ノートを参考にメディア文化演習Ⅲに関する資料を集めてください。（2時間）
2	事前学習	女性誌誕生と女性のライフ・スタイルの変化を考える。（2時間）
	授業内容	1970年代『an・an』『non-no』登場と女性のライフ・スタイル①
	事後学習	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。（2時間）
3	事前学習	『an・an』『non-no』創刊がもたらした女性文化を考える。（2時間）
	授業内容	1970年代『an・an』『non-no』登場と女性のライフ・スタイル②
	事後学習	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。（2時間）
4	事前学習	キャンパス・ファッションとは何かを事前に考えてください。（2時間）
	授業内容	『JJ』創刊とキャンパス・ファッション①
	事後学習	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。（2時間）

5	事前学習	女性誌がファッションの教科書になった背景を考えてください。（2時間）
	授業内容	『J J』創刊とキャンパス・ファッション②
	事後学習	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。（2時間）
6	事前学習	景気高揚とブランド至上主義の時代背景を追ってください。（2時間）
	授業内容	『C a n C a m』『V i V i』『R a y』の4大女性誌時代①
	事後学習	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。（2時間）
7	事前学習	景気高揚とバブル時代を考えてください。
	授業内容	『C a n C a m』『V i V i』『R a y』の4大女性誌時代②
	事後学習	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。（2時間）
8	事前学習	ギャル登場の時代背景を考えてください。（2時間）
	授業内容	『P o p t e e n』『B L E N D A』からギャル世代
	事後学習	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。（2時間）
9	事前学習	景気後退から時代の変化を考えてください。
	授業内容	『m i n a』『Z i p p e r』『C U T i E』ストリート・カジュアルの浸透
	事後学習	女性誌コンテンツの理解、講義ノートから整理してください。（2時間）
10	事前学習	事前に女性誌を選択し、その内容を理解してください。（2時間）
	授業内容	女性誌とファッション分析の進め方
	事後学習	女性誌と流行の関係を、講義ノートから整理してください。（2時間）
11	事前学習	レポート報告の資料作成の準備。（2時間）
	授業内容	女性誌とファッション分析レポート報告①
	事後学習	レポート報告を参考にし、自分のレポート作成の準備につとめてください。（2時間）
12	事前学習	レポート報告の資料作成の準備。（2時間）
	授業内容	女性誌とファッション分析レポート報告②
	事後学習	レポート報告を参考にし、自分のレポート作成の準備につとめてください。（2時間）
13	事前学習	レポート報告の資料作成の準備。（2時間）
	授業内容	女性誌とファッション分析レポート報告③
	事後学習	レポート報告を参考にし、自分のレポート作成の準備につとめてください。（2時間）
14	事前学習	レポート報告の資料作成の準備。（2時間）
	授業内容	女性誌とファッション分析レポート報告④
	事後学習	レポート報告を参考にし、自分のレポート作成の準備につとめてください。（2時間）
15	事前学習	メディア文化演習Ⅲの提出用報告レポートをまとめてください。（2時間）
	授業内容	メディア文化演習総括と総括レポート提出
	事後学習	女性誌とファッションの歴史的連続性から、時代の世相や風俗をよみとってください。（2時間）

科目名	メディア法Ⅰ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	メディア法の範囲は、放送、新聞、雑誌などマスメディア、あるいはそこで仕事に従事しているジャーナリストに適用される法とします。それらの法について概説するとともに、判例や学説を踏まえながらマスメディアの活動に関わる法的問題を考えます。 放送の業界団体、日本民間放送連盟で報道、オリンピック、営業、業界紙記者を担当した経験を生かして講義を行います。					
授業目的・到達目標	現代のマスメディアが抱える法的な諸課題を体系的に捉えることを養成することを目的とします。 法律がメディアに与えている影響を理解することができるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：法律学科 1， 3 新聞学科 1， 2， 3 経営法学科 1， 2， 3					
履修条件	特にありません。					
授業方法	パワーポイントを使用し、講義形式で行います。また、レポートの講評を授業内で行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定 期 試 験					
	平 常 評 価		100%		授授業内レポート、最終授業内での課題レポート、授業参加度で評価します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	特に指定しません。適宜プリントを配付します。				
参 考 書	別冊ジュリスト「メディア判例百選」（有斐閣）、「法とジャーナリズム 第3版」（山田健太、学陽書房）					
オフィスアワー	月曜日の13:00～14:00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館 9階1914） メールアドレス：sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んで、メディアに関わる法律はどのようなものがあるか調べてください。（2時間）
	授業内容	ガイダンス「メディア法とは何か」
	事後学習	授業で紹介した法律で関心を持ったものを調べてください。（2時間）
2	事前学習	憲法第21条の内容を改めて確認するとともに、博多駅テレビフィルム提出命令事件について調べてください。（2時間）
	授業内容	表現の自由と報道の自由：表現の自由はなぜ憲法で保障されているのか、表現の自由と報道の自由・取材の自由
	事後学習	表現の自由、報道の自由、取材の自由についてそれぞれ整理してください。（2時間）
3	事前学習	北方ジャーナル事件について調べてください。（2時間）
	授業内容	検閲の禁止と報道の自由：検閲の禁止の意味、検閲の禁止の具体例
	事後学習	検閲の禁止をどのように理解すべきかをまとめてください。（2時間）
4	事前学習	OLNetにある資料を読んで疑問点をまとめておいてください。（2時間）
	授業内容	知る権利とは何か
	事後学習	知る権利がなぜ重要かをまとめてください。（2時間）

5	事前学習	最高裁判所のホームページにアクセスし、どのような情報が公開されているかについて調べてください。（2時間）
	授業内容	裁判の公開と報道の自由：法廷における取材、裁判員制度
	事後学習	報道における裁判員制度の課題をまとめてください。（2時間）
6	事前学習	日本テレビ・リクルートテープ押収事件について調べてください。（2時間）
	授業内容	取材源の秘匿：証言拒否、ビデオテープの証拠採用、押収、差し押さえ
	事後学習	取材源の開示の強制やビデオテープの証拠採用がその後の報道活動に与える影響をまとめてください。（2時間）
7	事前学習	月刊ペン事件、夕刊和歌山時事事件について調べてください。（2時間）
	授業内容	名誉棄損と報道の自由
	事後学習	名誉毀損が免責されるための要件についてまとめてください。（2時間）
8	事前学習	イエロージャーナリズムについて調べてください。（2時間）
	授業内容	プライバシーの侵害と報道の自由
	事後学習	プライバシー権の確立と発展過程についてまとめてください。（2時間）
9	事前学習	日本新聞協会ホームページ内の『「個人情報保護法」「人権擁護法案」に関する見解等』を読んで、概要をまとめてください。（2時間）
	授業内容	個人情報保護法と報道の自由：メディアの適用除外、報道への影響
	事後学習	報道との関係において、個人情報保護法の問題点をまとめてください。（2時間）
10	事前学習	COLNetにある資料を読んで疑問点をまとめておいてください。（2時間）
	授業内容	少年法と報道の自由：少年の実名報道の是非
	事後学習	少年の実名報道の是非の考え方についてまとめてください。（2時間）
11	事前学習	COLNetにある資料を読んで疑問点をまとめておいてください。（2時間）
	授業内容	わいせつの概念と表現
	事後学習	わいせつ性の判断基準の変化についてまとめてください。（2時間）
12	事前学習	放送メディアと印刷メディアの違いを整理してください。（2時間）
	授業内容	放送の自由Ⅰ：放送に関する特殊な規制
	事後学習	放送に対する規制内容はどのようなものかについてまとめてください。（2時間）
13	事前学習	放送法第1章を読んで、どのようなことが記述されているかをまとめてください。（2時間）
	授業内容	放送の自由Ⅱ：日本で唯一の“言論立法”と呼ばれる放送法の内容規制
	事後学習	行政による「番組編集準則」の捉え方の変化を整理してください。（2時間）
14	事前学習	放送倫理・番組向上機構（BPO）ホームページ内の「BPOについて」と3つの委員会の役割を読んで、概要をまとめてください。（2時間）
	授業内容	放送の自由Ⅲ：自主自律と放送倫理
	事後学習	なぜ、自主規制が必要なのかをまとめてください。（2時間）
15	事前学習	自分の授業ノート、事後学習でまとめたものをよく読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	課題レポート及び総括
	事後学習	総括を踏まえ、再度、前学期の自分の授業ノート、事後学習でまとめたものを読んでください。（2時間）

科目名	メディア法Ⅱ	担当者	笹田 佳宏	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	メディア法の範囲は、放送、新聞、雑誌などマスメディアあるいはそこで仕事に従事しているジャーナリストに適用される法とします。それらの法について概説するとともに、判例や学説を踏まえながらマスメディアの活動に関わる法的問題を考えます。放送の業界団体、日本民間放送連盟で、報道、オリンピック、営業、業界紙記者を担当した経験を活かして講義を行います。					
授業目的・到達目標	現代のマスメディアが抱える法的な諸課題を体系的に捉えることを養成することを目的とします。 法律がメディアに与えている影響を理解することができるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：法律学科1，3 新聞学科1，2，3 経営法学科1，2，3					
履修条件	メディア法Ⅰの単位取得者。					
授業方法	パワーポイントを使用し、講義形式で行います。また、レポートの講評を授業内で行います。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業内レポート、最終授業内での課題レポート、授業参加度で評価します。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	特に指定しません。適宜、プリントを配付します。				
参考書	別冊ジュリスト「メディア判例百選」（有斐閣）、「法とジャーナリズム 第3版」（山田健太、学陽書房）					
オフィスアワー	月曜日の13:00～14:00（事前にメールでアポイントメントを取ること） 研究室（本館9階1914） メールアドレス：sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	メディア法Ⅰの自分の授業ノート、事後学習でまとめたものを読んでください。（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	紹介した、法律で興味があるものを調べてください。（2時間）
2	事前学習	外務省沖縄密約事件について調べてください。（2時間）
	授業内容	国家秘密と報道の自由Ⅰ：公務員の職務上の秘密、防衛上の秘密
	事後学習	国家秘密と取材・報道の自由のバランスをどのように取ればよいかをまとめてください。（2時間）
3	事前学習	COLNetにある資料を読んで疑問点をまとめておいてください。（2時間）
	授業内容	秘密国家秘密と報道の自由Ⅱ：特定秘密保護法
	事後学習	報道との関連において、特定秘密保護法の問題点をまとめてください。（2時間）
4	事前学習	COLNetにある資料を読んで疑問点をまとめておいてください。（2時間）
	授業内容	選挙と報道の自由：公職選挙法、政見放送、政党スポット
	事後学習	選挙報道における公平性の考え方をまとめてください。（2時間）

5	事前学習	憲法改正手続きについて調べてください。（2時間）
	授業内容	国民投票法と報道の自由：国民投票運動、広報活動、メディア規制
	事後学習	国民投票における広告の問題点についてまとめてください。（2時間）
6	事前学習	国内機構の地位に関する原則（パリ原則）を読んで、概要をまとめてください。（2時間）
	授業内容	メディアと人権
	事後学習	メディアスクラムに対する新聞・放送界の取り組みの概要と取り組みに至る経緯をまとめてください。（2時間）
7	事前学習	人種差別撤廃条約を読んで、概要をまとめてください。（2時間）
	授業内容	社会秩序の維持と表現の自由：ヘイト・スピーチ、デモ規制、ビラ規制
	事後学習	ヘイト・スピーチと表現の自由に関する課題をまとめてください。（2時間）
8	事前学習	名古屋テレビ「オンブス6」、関西テレビ「オンブスカンテレ委員会」について調べてください。（2時間）
	授業内容	オンブズマン制度：苦情処理機関、プレス評議会
	事後学習	苦情処理機関が抱える課題についてまとめてください。（2時間）
9	事前学習	サンケイ新聞事件について調べてください。（2時間）
	授業内容	損害賠償と謝罪広告
	事後学習	賠償額の引き上げの背景と高額化による影響をまとめてください。（2時間）
10	事前学習	NHKと民間放送の組織や財源の違いについて調べてください。（2時間）
	授業内容	公共放送と民間放送Ⅰ：NHKと民間放送の二元体制、NHKの経営体制
	事後学習	日本の放送体制の特徴についてまとめてください。（2時間）
11	事前学習	NHKのホームページで「NHK経営計画（2018-2020年度）修正版」を読んで、ポイントをまとめてください。（2時間）
	授業内容	公共放送と民間放送Ⅱ：NHKの法的位置づけ
	事後学習	受信料をめぐる議論をまとめてください。（2時間）
12	事前学習	COLNetにある資料を読んで疑問点をまとめておいてください。（2時間）
	授業内容	公共放送と民間放送Ⅲ：構造規制、参入規制、資本規制
	事後学習	放送内容以外の規制についてまとめてください。（2時間）
13	事前学習	記者クラブにはどのようなものがあるか調べてください。（2時間）
	授業内容	記者クラブ：閉鎖性、発表ジャーナリズム問題
	事後学習	記者クラブが抱える問題点をまとめてください。（2時間）
14	事前学習	日本新聞協会のホームページで「新聞広告倫理綱領/新聞広告掲載基準」を、日本民間放送連盟のホームページで「放送基準（広告に関する部分）」を読んで、概要をまとめてください。（2時間）
	授業内容	広告の自由と規制
	事後学習	広告の規制構造についてまとめてください。（2時間）
15	事前学習	自分の授業ノート、事後学習でまとめたものを読んでおいてください。（2時間）
	授業内容	総括
	事後学習	総括を踏まえ、再度、後学期の自分の授業ノート、事後学習でまとめたものを読んでください。（2時間）

科目名	メディア法Ⅱ	担当者	塚本 晴二郎	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	「メディア法Ⅰ」では、「ジャーナリズム」「メディア」「コミュニケーション」を巡る法的諸問題を専門的に理解し、説明する能力を培った。そのような基礎を前提に、本講義ではメディアに関連する諸法規の応用力の養成を主眼とする。具体的な判例を使用して、実際に法解釈ができるようにメディア法の理論をディベート等を通じて学習する。					
授業目的・到達目標	本講義では、メディア法に関する諸問題に関する分析力、判断力を涵養し、ジャーナリズムに関する法的問題を、適切に分析できる素養を養成することを目的とする。 「ジャーナリズム」「メディア」「コミュニケーション」を巡る法的諸問題を批判的に捉え、論理的に結論を導き出せるようになることを目標とする。					
履修条件	関連DP及びCP：法律学科1,3 新聞学科1,2,3 経営法学科1,2,3 メディア法Ⅰの単位取得者					
授業方法	評価は平常評価とする。受講者を4、5人のチームに分け、ディベートのリーグ戦を行う。ジャッジも対戦カードのないチームが行う。教員は各チームの作戦会議の支援と対戦後の講評と判例解説を対戦ごとに行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		到達目標に達しているかどうかを授業に対する取り組み方25%、ジャッジの適切さ25%、ディベートのパフォーマンス50%で判断する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2005	有斐閣		メディア判例百選(昨年度までの「メディア法Ⅰ」のテキスト)		
	備考					
参考書	『ポケット六法』等（六法は初回から毎回必ず持参する） その他は適宜紹介する。					
オフィスアワー	原則的に月曜日の昼休みだが、柔軟に対応したいので、必ずメールにて予約を取って欲しい。 研究室（9号館1階 9101研究室）メールアドレス tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、「メディア法Ⅰ」の講義内容を概観する。（2時間）
	授業内容	講義のスケジュール、成績評価の方法、ディベートのルール、ディベートで扱う11の判例等の説明を行い、受講生が今後の授業準備を行いやすいようにする。
	事後学習	ディベートのルールを確実に把握する。自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。疑問点は必ず次回講義で質問するための準備をする。（2時間）
2	事前学習	ディベートのルールを念頭において、「メディア法Ⅰ」の復習を徹底的に行う。（2時間）
	授業内容	履修登録者の人数と学年等を考慮した上で、受講者と相談しながら、チーム編成を行う。その後に対戦カードをチーム同士で決定させると同時に、試合日程も決定する。すべてのスケジュール決定後、ディベートにおける各立場やジャッジの視点について解説し、次回以降のチーム・ミーティングをやりやすいようにする。
	事後学習	チーム内で役割分担をし、次回からのチーム・ミーティングに備える。（2時間）
3	事前学習	各自の役割に応じたチーム・ミーティング用の資料収集等を完了しておく。（2時間）
	授業内容	第1戦から第11戦までを通したチーム・ミーティングを行う。ディベートにおける各立場の論点と、ジャッジの視点をチームごとに確認する。教員は各チーム・ミーティングを頻繁に回り、質問に答えたり、ミーティングの議事進行を支援したりする。
	事後学習	チーム・ミーティングの結果を確認し、教員の指導を理解できているかどうかを、チームのメンバー同士で確かめ合った後、各自の役割に応じた次回のチーム作戦会議及びジャッジ打ち合わせに備える。（2時間）
4	事前学習	第1戦：朝日新聞記者証言拒否事件に向けた新聞記者側チームと裁判所側チームの作戦会議及び対戦カードのないチームのジャッジ打ち合わせを行う。（2時間）
	授業内容	第1戦：朝日新聞記者証言拒否事件のディベートを実施する。試合後、新聞記者側チームと裁判所側チーム及び対戦カードのないチームのジャッジに関して講評を行う。その後第2戦に関する質問等を受ける。
	事後学習	各チームで第1戦の反省会を行う。その後、第2戦に向けて、各自の役割に応じた次回のチーム作戦会議及びジャッジ打ち合わせに備える。（2時間）

5	事前学習	第2戦：北海道新聞記者証言拒否事件に向けた新聞記者側チームと保育士側チームの作戦会議及び対戦カードのないチームのジャッジ打ち合わせを行う。（2時間）
	授業内容	第2戦：北海道新聞記者証言拒否事件のディベートを実施する。試合後、新聞記者側チームと保育士側チーム及び対戦カードのないチームのジャッジに関して講評を行う。その後第3戦に関する質問等を受ける。
	事後学習	各チームで第2戦の反省会を行う。その後、第3戦に向けて、各自の役割に応じた次回のチーム作戦会議及びジャッジ打ち合わせに備える。（2時間）
6	事前学習	第3戦：博多駅テレビフィルム提出命令事件に向けた放送局側チームと裁判所側チームの作戦会議及び対戦カードのないチームのジャッジ打ち合わせを行う。（2時間）
	授業内容	第3戦：博多駅テレビフィルム提出命令事件のディベートを実施する。試合後、放送局側チームと裁判所側チーム及び対戦カードのないチームのジャッジに関して講評を行う。その後第4戦に関する質問等を受ける。
	事後学習	各チームで第3戦の反省会を行う。その後、第4戦に向けて、各自の役割に応じた次回のチーム作戦会議及びジャッジ打ち合わせに備える。（2時間）
7	事前学習	第4戦：日本テレビ事件に向けた放送局側チームと検察側チームの作戦会議及び対戦カードのないチームのジャッジ打ち合わせを行う。（2時間）
	授業内容	第4戦：日本テレビ事件のディベートを実施する。試合後、放送局側チームと検察側チーム及び対戦カードのないチームのジャッジに関して講評を行う。その後第5戦に関する質問等を受ける。
	事後学習	各チームで第4戦の反省会を行う。その後、第5戦に向けて、各自の役割に応じた次回のチーム作戦会議及びジャッジ打ち合わせに備える。（2時間）
8	事前学習	第5戦：TBS事件に向けた放送局側チームと警察側チームの作戦会議及び対戦カードのないチームのジャッジ打ち合わせを行う。（2時間）
	授業内容	第5戦：TBS事件のディベートを実施する。試合後、放送局側チームと検察側チーム及び対戦カードのないチームのジャッジに関して講評を行う。その後第6戦に関する質問等を受ける。
	事後学習	各チームで第5戦の反省会を行う。その後、第6戦に向けて、各自の役割に応じた次回のチーム作戦会議及びジャッジ打ち合わせに備える。（2時間）
9	事前学習	第6戦：『月刊 ペン』事件に向けた公人側チームと私人側チームの作戦会議及び対戦カードのないチームのジャッジ打ち合わせを行う。（2時間）
	授業内容	第6戦：『月刊 ペン』事件のディベートを実施する。試合後、公人側チームと私人側チーム及び対戦カードのないチームのジャッジに関して講評を行う。その後第6戦に関する質問等を受ける。
	事後学習	各チームで第6戦の反省会を行う。その後、第7戦に向けて、各自の役割に応じた次回のチーム作戦会議及びジャッジ打ち合わせに備える。（2時間）
10	事前学習	第7戦：嬰兒変死事件に向けた新聞社側チームと遺族側チームの作戦会議及び対戦カードのないチームのジャッジ打ち合わせを行う。（2時間）
	授業内容	第7戦：嬰兒変死事件のディベートを実施する。試合後、公人側チームと私人側チーム及び対戦カードのないチームのジャッジに関して講評を行う。その後第8戦に関する質問等を受ける。
	事後学習	各チームで第7戦の反省会を行う。その後、第7戦に向けて、各自の役割に応じた次回のチーム作戦会議及びジャッジ打ち合わせに備える。（2時間）
11	事前学習	第8戦：ロス疑惑共同通信社事件に向けた新聞社側チームと報道被害者側チームの作戦会議及び対戦カードのないチームのジャッジ打ち合わせを行う。（2時間）
	授業内容	第8戦：ロス疑惑共同通信事件のディベートを実施する。試合後、公人側チームと私人側チーム及び対戦カードのないチームのジャッジに関して講評を行う。その後第9戦に関する質問等を受ける。
	事後学習	各チームで第8戦の反省会を行う。その後、第9戦に向けて、各自の役割に応じた次回のチーム作戦会議及びジャッジ打ち合わせに備える。（2時間）
12	事前学習	第9戦：『宴のあと』事件に向けた新聞社側チームと報道被害者側チームの作戦会議及び対戦カードのないチームのジャッジ打ち合わせを行う。（2時間）
	授業内容	第9戦『宴のあと』事件のディベートを実施する。試合後、一作家側チームとモデル対象者側チーム及び対戦カードのないチームのジャッジに関して講評を行う。その後第10戦に関する質問等を受ける。
	事後学習	各チームで第9戦の反省会を行う。その後、第10戦に向けて、各自の役割に応じた次回のチーム作戦会議及びジャッジ打ち合わせに備える。（2時間）
13	事前学習	第10戦：『逆転』事件に向けた作家側チームと登場人物側チームの作戦会議及び対戦カードのないチームのジャッジ打ち合わせを行う。（2時間）
	授業内容	第10戦『宴のあと』事件のディベートを実施する。試合後、一作家側チームと登場人物側チーム及び対戦カードのないチームのジャッジに関して講評を行う。その後第11戦に関する質問等を受ける。
	事後学習	各チームで第10戦の反省会を行う。その後、第11戦に向けて、各自の役割に応じた次回のチーム作戦会議及びジャッジ打ち合わせに備える。（2時間）
14	事前学習	第11戦：「刑法175条は合憲か違憲か」に向けた合憲側チームと違憲側チームの作戦会議及び対戦カードのないチームのジャッジ打ち合わせを行う。（2時間）
	授業内容	第11戦：「刑法175条は合憲か違憲か」のディベートを実施する。試合後、：「刑法175条は合憲か違憲か」に向けた合憲側チームと違憲側チームの作戦会議及び対戦カードのないチームのジャッジその後第11戦に関する質問等を受ける。
	事後学習	各チームで第11戦の反省会を行う。その後、総括に向けて、各自の役割に応じて次回のチーム・ミーティングに備える。（2時間）
15	事前学習	総括用のチーム・ミーティングを行う。（2時間）
	授業内容	第1戦から第11戦までを通して各チームに対する講評を行う。
	事後学習	チーム毎に反省会を行う。（2時間）

科目名	メディア理論	担当者	平井 智尚	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	メディア、ジャーナリズム、情報、コミュニケーションに関連する理論を学習します。これまでの学習成果を理論という観点で捉えなおす一方、専門的な調査・研究を手掛けていく際に求められる視座を養成します。				
授業目的・到達目標	メディア、ジャーナリズム、情報、コミュニケーションに関連する理論を学習し、学習成果を理論という観点で捉えなおす一方、専門的な調査・研究を手掛けていく際に求められる視座を養成ことを目的とします。メディア理論に基づき現代社会の事象を把握し、考察できるようになることを目標とします。関連DP及びCP：新聞学科1，2，3				
履修条件	各自で確認したうえ履修してください。 私語等の周りに迷惑のかかる行為は絶対に控えてください。				
授業方法	講義形式で授業を進めます。必要に応じて、レジュメ、プレゼンテーション、映像資料を用います。 後日、定期試験の解説をポータルシステムを通じて公表します。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	期末試験を予定しています。	
	平常評価		30%	授業の進行を見ながらレポート等の課題を出す予定です。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書を指定する予定はありません。			
参考書	授業内で適宜紹介します。				
オフィスアワー	オフィスアワー：水曜日15:00～16:00（予定） 連絡先（メールアドレス）は初回の授業の際にお伝えします。 事前にアポイントをとってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス等を確認し授業に備える（2時間）
	授業内容	イントロダクション：メディアの理論とは何か
	事後学習	参考書等を揃え、目を通しておく（2時間）
2	事前学習	参考書等を揃え、目を通しておく（2時間）
	授業内容	社会科学における理論
	事後学習	授業内で取り上げた理論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
3	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	マス・メディアと理論（1）：マス・コミュニケーションの効果・影響
	事後学習	授業内で取り上げた理論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
4	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	マス・メディアと理論（2）：批判的コミュニケーション論
	事後学習	授業内で取り上げた理論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）

5	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	マス・メディアと理論（3）：メディア・オーディエンスの理論
	事後学習	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの準備を行う（2時間）
6	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	メディアと文化の理論（1）：大衆文化、サブカルチャー
	事後学習	レポート課題に備えて、これまでの授業を振り返り、レポートの準備を行う（2時間）
7	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	メディアと文化の理論（2）：ファン研究
	事後学習	レポート作成（2時間）
8	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	ジャーナリズムと理論（1）：プレスの自由に関する理論
	事後学習	レポート作成（2時間）
9	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	ジャーナリズムと理論（2）：ニュースの生産とニュースバリュー
	事後学習	レポート作成（2時間）
10	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	ジャーナリズムと理論（3）：現実の社会的構築・構成
	事後学習	授業内で取り上げた理論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
11	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	ジャーナリズムと理論（4）：メディア・イベント
	事後学習	授業内で取り上げた理論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
12	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	情報メディアと理論（1）：集合行為
	事後学習	授業内で取り上げた理論や用語の意味を確認し、整理する（2時間）
13	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	情報メディアと理論（2）：社会関係資本
	事後学習	定期試験に備えて、授業内容の復習を行う（2時間）
14	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	情報メディアと理論（3）：公共性
	事後学習	定期試験に備えて、授業内容の復習を行う（2時間）
15	事前学習	共有フォルダ内の教材配布に用意した資料に目を通しておく（2時間）
	授業内容	授業のまとめ
	事後学習	定期試験に備えて、授業内容の復習を行う（2時間）

科目名	ヨーロッパ政治論 I	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業は、近年のヨーロッパ各国でみられる共通の現象を理論的に検討するとともに、その理論を用いて各国事例を説明する。その際のキーワードは、デモクラシー、大統領制化、ポピュリズム、極右勢力である。				
授業目的・到達目標	ヨーロッパの各国政治に対する理解を深めるとともに、理論と事例を検討することで、演繹的思考能力、帰納的思考能力を身につけることを目的としている。ヨーロッパ政治への理解を深めることで、その知見を日本政治へと応用できるようになることが目標となる。関連DP及びCP：政治経済学科2, 4, 6				
履修条件	履修条件は特に設けないが、他の学生の学習の妨げになるような行為には厳しく対応する。				
授業方法	パワーポイントを用いた講義形式。講義の理解度を問う小テストに関しては、次回授業の冒頭で解説を行う。定期試験の解説は、試験実施後にポータルサイト上で行う。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定 期 試 験		80%		学期末に行われる定期試験によって評価する。 試験は、事実関係が整理されているか、因果関係が明示されているかによって採点される。
	平 常 評 価		20%		授業中に実施される小テストによって加点する。 任意提出レポートによって加点する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年	ミネルヴァ書房		『大統領制化の比較政治学（仮）』	岩崎正洋編
	備考	2019年4月に出版予定であるが、教科書に関しては、ガイダンスで説明を行う。			
参 考 書	授業中に適宜、提示する。				
オフィスアワー	火曜日13:00～14:00（研究室：本館8F 1811） 担当者が不在の場合もあるので、事前にメールで予定を確認すること。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認することで、本授業の全体像を把握する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 講義の流れや成績評価についての説明を行う。受講希望者は、必ず出席することを求める。
	事後学習	政治学や比較政治学で学習した内容を振り返る。（2時間）
2	事前学習	各国の政治制度の違いをまとめてみる。（2時間）
	授業内容	民主主義対民主主義 A. レイブハルトの“Patterns of Democracy”を基に多数決型民主主義を説明する。
	事後学習	多数決型民主主義の優れている点を検討してみる。（2時間）
3	事前学習	多数決型民主主義の弊害を検討してみる。（2時間）
	授業内容	民主主義対民主主義 A. レイブハルトの“Patterns of Democracy”を基にコンセンサス型民主主義を説明する。
	事後学習	日本は、2つの民主主義のどちらに近いのかを考えてみる。（2時間）
4	事前学習	多数決型民主主義の理論を確認する。（2時間）
	授業内容	イギリスにおけるデモクラシー 多数決型民主主義の典型例といわれるイギリスのデモクラシーの現在を説明する。
	事後学習	イギリスのデモクラシーの現在と過去を比較してみる。（2時間）

5	事前学習	コンセンサス型民主主義の理論を確認する。（2時間）
	授業内容	ドイツにおけるデモクラシー コンセンサス型民主主義といわれているドイツのデモクラシーの現在を説明する。
	事後学習	ドイツのデモクラシーの現在と過去を比較してみる。（2時間）
6	事前学習	イギリスとドイツのデモクラシーの違いを確認する。（2時間）
	授業内容	フランスにおけるデモクラシー 半大統領を採用するフランスのデモクラシーの現在を説明する。
	事後学習	フランスのデモクラシーの現在と過去を比較してみる。（2時間）
7	事前学習	執政制度（議院内閣制、半大統領制、大統領制）の違いの確認する。（2時間）
	授業内容	大統領制化の理論 首相の大統領制化と呼ばれる現象の理論について説明する。
	事後学習	政治学で学んだ、選挙や政党や執政制度などの知識と大統領制化を関連付ける。（2時間）
8	事前学習	サッチャー以降のイギリスの首相を確認する。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパにおける大統領制化　イギリス イギリスにおける首相の地位の変化について説明する。
	事後学習	大統領制化が現在のイギリス政治にも当てはまるのかを考えてみる。（2時間）
9	事前学習	シュレーダー以降のドイツの首相を確認する。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパにおける大統領制化　ドイツ ドイツにおける首相の地位の変化について説明する。
	事後学習	大統領制化が現在のドイツ政治にも当てはまるのかを考えてみる。（2時間）
10	事前学習	半大統領制という制度を確認する。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパにおける大統領制化　フランス 大統領と首相の権限の変化について説明する。
	事後学習	大統領制化が現在のフランス政治にも当てはまるのかを考えてみる。（2時間）
11	事前学習	ポピュリズムという言葉を使っているニュースを確認する。（2時間）
	授業内容	ポピュリズムとは何か ポピュリズムという言葉の定義について説明する。
	事後学習	ニュースワードとしてのポピュリズムとアカデミックワードとしてのポピュリズムの違いを考えてみる。（2時間）
12	事前学習	2016年国民投票（EU離脱を問う）について確認する。（2時間）
	授業内容	ポピュリスト勢力の台頭　イギリス国民投票 2016年国民投票とイギリス独立党を事例に、イギリスのポピュリズムを説明する。
	事後学習	イギリスの政党政治の変容について考えてみる。（2時間）
13	事前学習	2017年総選挙の結果を確認する。（2時間）
	授業内容	ポピュリスト勢力の台頭　AfD（ドイツのための選択枝）の躍進（ドイツ） 2017年総選挙を事例に極右政党AfDが躍進したことの意味を説明する。
	事後学習	ドイツ政党政治の変容について考えてみる。（2時間）
14	事前学習	2017年大統領選挙の結果を確認する。（2時間）
	授業内容	ポピュリスト勢力の台頭　2017年フランス大統領選挙 2017年大統領選挙を事例に、極右政党の候補者ルペンが多くの支持を得たことの意味を説明する。
	事後学習	フランスにおける既存政党の凋落について考えてみる。（2時間）
15	事前学習	これまで授業で学習してきた点で、十分に理解できなかったことを把握する。（2時間）
	授業内容	まとめ 当期授業の総括を行うとともに、受講生からの質問に答える。
	事後学習	講義資料、教科書、参考書などを用いて、本授業の最終的な確認を行う。（2時間）

科目名	ヨーロッパ政治論Ⅱ	担当者	三澤 真明	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本授業は、ヨーロッパ政治を理解する上で必要不可欠であるEUについて、その歴史、制度およびヨーロッパ統合の理論を説明するものである。				
授業目的・到達目標	本授業は、EUの歴史や制度、統合の理論を検討することで、国家の存在を相対化することを目的とする。そこで目標となるのは、EUを多角的な視点から分析することで、ヨーロッパ統合の現在を理解し、国家の在り方を説明することができるようになることである。関連DP及びCP：政治経済学科2, 4, 6				
履修条件	履修条件は特に設けないが、他の学生の学習を妨げるような行為には厳しく対応する。				
授業方法	パワーポイントを用いた講義形式。講義の理解度を問う小テストに関しては、次回授業の冒頭で解説を行う。定期試験の解説は、試験実施後にポータルサイト上で行う。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		80%		学期末に行われる定期試験によって評価する。試験は、事実関係が整理されているか、因果関係が明示されているかによって採点される。
	平常評価		20%		授業中に実施される小テストによって加点する。任意提出レポートによって加点する。
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。			
参考書	授業中に適宜、提示する。				
オフィスアワー	火曜日13:00～14:00（研究室：本館8F 1811） 担当者が不在の場合もあるので、事前にメールで予定を確認すること。 misawa.masahiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認した上で、講義全体を概観する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 講義の流れや成績評価についての説明を行う。受講希望者は、必ず出席することを求める。
	事後学習	ヨーロッパの各国にとってEUとは何かを考えてみる。（2時間）
2	事前学習	第二次世界大戦後から1950年までのヨーロッパの歴史を確認する。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパ統合への道 第二次世界大戦終結からヨーロッパ統合がスタートするまでの歴史を説明する。
	事後学習	なぜヨーロッパ統合が必要とされたのかを確認する。（2時間）
3	事前学習	1950年代のヨーロッパの歴史を確認する。（2時間）
	授業内容	ECSCの誕生からEECへ ECSC誕生からEECへと統合が深化する過程について説明する。
	事後学習	主権の共有範囲がどこまで広がっていったのかを確認する。（2時間）
4	事前学習	1960年代から70年代初頭までのヨーロッパの歴史を確認する。（2時間）
	授業内容	EECからECへ EECからECへと統合が深化する過程について説明する。
	事後学習	統合が単線的に進展したわけではないことを確認する。（2時間）

5	事前学習	1970年代から90年代初頭までのヨーロッパの歴史を確認する。（2時間）
	授業内容	ECからEUへ ECからEUへと統合が深化する過程について説明する。
	事後学習	統合が深化するとともに、加盟国が拡大していったことを確認する。（2時間）
6	事前学習	ECSC、EEC、ECの違いを確認する。（2時間）
	授業内容	EUの誕生 マーストリヒト条約発効によって創設されたEUがどのような役割を付与されたのかを説明する。
	事後学習	EUの創設が各国に与えた影響について考えてみる。（2時間）
7	事前学習	マーストリヒト条約の課題は何かを確認する。（2時間）
	授業内容	統合の深化と拡大 マーストリヒト条約で積み残された課題がどのように解消されようとしたのかを説明する。
	事後学習	憲法条約が頓挫した理由について考えてみる。（2時間）
8	事前学習	EUが現在果たしている役割は何かを考えてみる。（2時間）
	授業内容	リスボン条約の締結とEUの現在 マーストリヒト条約締結以後の統合の深化と課題について説明する。
	事後学習	EUが直面している問題点は何かを考えてみる。（2時間）
9	事前学習	ヨーロッパ統合の歴史（第2回から8回までの授業内容）を確認する。（2時間）
	授業内容	統合の理論① 新機能主義 共同体の形成、発展に関して、新機能主義の立場から理論的な説明を行う。
	事後学習	新機能主義の妥当性を統合の歴史と関連付けて考えてみる。（2時間）
10	事前学習	新機能主義を批判的に検討してみる。（2時間）
	授業内容	統合の理論② 政府間主義 共同体の形成、発展に関して、政府間主義の立場から理論的な説明を行う。
	事後学習	国家主権と共同体について考えてみる。（2時間）
11	事前学習	政府間主義を批判的に検討してみる。（2時間）
	授業内容	統合の理論③ 連邦主義 共同体の形成、発展に関して、連邦主義の立場から理論的な説明を行う。
	事後学習	ヨーロッパ統合の未来について、理論的な検討を行ってみる。（2時間）
12	事前学習	各国における執政府の役割を確認する。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパ委員会 委員会の役割と課題について説明を行う。
	事後学習	EU機構内での委員会の位置づけを確認する。（2時間）
13	事前学習	ヨーロッパ統合の歴史における「空席危機」とは何かを確認する。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパ理事会 理事会の役割と課題について説明を行う。
	事後学習	EU機構内での理事会の位置づけを確認する。（2時間）
14	事前学習	各国における議会の役割を確認する。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパ議会 議会の役割と課題について説明を行う。
	事後学習	EU機構内での議会の位置づけを確認する。（2時間）
15	事前学習	これまで授業で学習してきた点で、十分に理解できなかったことを把握する。（2時間）
	授業内容	まとめ 当期授業の総括を行うとともに、受講生からの質問に答える。
	事後学習	講義資料、参考書などを用いて、本授業の最終的な確認を行う。（2時間）

科目名	リサーチ・ペーパー（メディアと社会）	担当者	安達 周	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	テレビやラジオ、新聞、映画、インターネットなど情報を伝える道具がメディアだ。特性の異なるこれらメディアが政治や社会に与える影響を考察する。影響力に陰りが見える新聞やテレビ。一方で生活に深く浸透しフェイクニュースの拡散などで社会を揺るがすソーシャルメディア。新聞やテレビなど「旧メディア」が果たしてきた歴史的役割、ソーシャルメディアの問題点などを明らかにすることにより、民主主義社会のメディアのあるべき姿を探る。			
授業目的・到達目標	新聞・テレビ・ラジオが果たしてきた役割と功罪、ソーシャルメディアの影響力などを明らかにすることで、民主主義社会にとってのメディアの重要性を理解することを目的とする。 新聞の発展過程に見る近代ジャーナリズムの形成、戦中ジャーナリズムの権力への屈服とプロパガンダとしての役割、調査報道で発揮される新聞の力、生活様式を変えたテレビ、ソーシャルメディアが政治や社会に及ぼす様々な影響、広告の問題点などを理解し、説明出来ることを目標とする。関連DP及びCP:新聞学科1, 4, 8			
履修条件	原則として「ゼミ」に入らない学生が対象。			
授業方法	講義形式で行う。授業ごとに資料を配布する。 提出レポートの解説を、後日、ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業最終日にレポートを提出（80%） 授業参加度（20%） レポートの詳細は授業の中で触れる。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。		
参考書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	木曜日 4 限の授業終了後、授業講堂にて。 次のメールアドレスmeguru@arion.ocn.ne.jpでも受け付ける。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新聞が「第4の権力」といわれる理由を調べておく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス・・・授業スケジュール、成績評価の方法など。 ヨーロッパの新聞の発祥と発展 ——新聞と国家権力との闘い 新聞は権力の監視装置——
	事後学習	配布資料やノートをもとに、近代ヨーロッパ社会で新聞の果たした役割を整理しておく。（2時間）
2	事前学習	「政論新聞」「白虹事件」「大本営発表」について調べておく。（2時間）
	授業内容	日本の新聞の発祥と発展 ——戦中は国家権力の補完装置——
	事後学習	配布資料やノートをもとに、日本の新聞が果たした役割を整理する。（2時間）
3	事前学習	日本のラジオ・映画が国民の娯楽にいかに関与したか調べておく。（2時間）
	授業内容	ラジオ・映画の役割 ——当初から政府機関的色彩の強い日本のラジオ ナチスドイツはプロパガンダ装置として巧妙に利用——
	事後学習	配布資料などをもとに、日独と米国のラジオの使われ方の違いを整理する。（2時間）
4	事前学習	ウォルター・リップマンが言及した「疑似環境の環境化」を調べておく。（2時間）
	授業内容	テレビの出現 ——20世紀が生んだ最強のメディア 生活様式を変えた影響力——
	事後学習	配布資料などをもとに、テレビの社会への影響について整理する。（2時間）

5	事前学習	SNSによる「エコーチェンバー（共鳴室）」について調べておく。（2時間）
	授業内容	ソーシャルメディアの威力 ——誰でもメディアになれる時代 SNSで拡散するフェイクニュース 脅かされる民主主義——
	事後学習	フェイクニュースによる政治介入の事例を調べる。（2時間）
6	事前学習	「忘れられる権利」について調べておく。（2時間）
	授業内容	続・ソーシャルメディアの威力 ——ネットの無法地帯 誹謗中傷 プライバシーの侵害 殺人に利用されるSNS——
	事後学習	憲法21条「表現の自由」保障とは何かについて考察する。（2時間）
7	事前学習	「パナマ文書」「ウォーターゲート事件」「ペンタゴン・ペーパーズ」について調べておく。（2時間）
	授業内容	メディアの功績 ——ジャーナリストの世界的連携による調査報道、米国を動かした新聞報道——
	事後学習	配布資料などを参考に「国益」と「報道の自由」について自分の考えをまとめる。（2時間）
8	事前学習	ベトナム戦争が「テレビに負けた戦争」といわれる意味を調べておく。（2時間）
	授業内容	続・メディアの功績 ——テレビ映像と報道写真の力——
	事後学習	「人命優先か報道優先か」自分の考えを整理する。（2時間）
9	事前学習	「リクルート事件」を調べておく。（2時間）
	授業内容	続・メディアの功績 ——権力の不正を暴いた日本の調査報道——
	事後学習	授業で取り上げたもの以外の調査報道を調べる。（2時間）
10	事前学習	メディアリテラシーが働かず社会問題となった事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	メディアリテラシー ——情報を読み解く力 メディアによって異なる情報の捉え方、報道の姿勢——
	事後学習	授業内容をもとに、メディアリテラシーを養うにはどうすべきか整理する。（2時間）
11	事前学習	大事件でのメディア・スクラム事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	報道による人権侵害 ——メディアスクラム（集团的過熱取材） 危うい推定無罪——
	事後学習	日本の冤罪事件を調べ、事件発生当時のメディアの報道姿勢を考察する。（2時間）
12	事前学習	「人権差別表現」として批判され、炎上するなどした事例を調べておく。（2時間）
	授業内容	メディアに見る「差別表現」 ——女性差別、人種差別、障害者差別——
	事後学習	問題化する差別表現はどのような原因によるものか考察する。（2時間）
13	事前学習	一般的言論と広告言論との違いを調べておく。（2時間）
	授業内容	広告の問題点 ——無くならない虚偽・誇大表現 広告規制の必要性——
	事後学習	配布資料などをもとに、広告規制の概要を整理する。（2時間）
14	事前学習	災害時のデマの発生・流布について調べておく。（2時間）
	授業内容	災害とメディア ——災害時のメディアの役割——
	事後学習	ラジオ、SNSの果たす役割を整理する。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業内容を復習しておく。（2時間）
	授業内容	授業のまとめ 授業終了後、レポート提出
	事後学習	配布資料、ノートを整理し、授業内容の概略を整理する。（2時間）

科目名	リサーチ・ペーパー（情報と社会）	担当者	小林 正幸	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	情報と社会に関する調査・研究を実施していくための方法を学習します。 リサーチペーパーの作り方。事例の調査。事例への評価の調査。分析可能な概念や理論の理解。			
授業目的・到達目標	情報と社会に関連する事象を実際に調査・分析し、レポートが作成できるようになることを目的とします。受講者自身が関心を持つ情報社会の事象を調査・分析し、レポートを作成できるようになることが到達目標となります。関連D P及びC P：新聞学科1, 4, 8			
履修条件	科目履修に関連する条件等は各自で確認してください。			
授業方法	演習形式を想定していますが受講者数に応じて調整します。実際取り扱うテーマは受講者の関心を掬い上げたいと思います。例えば、最近話題になっている「バイトテロ」を取り上げるということもあり得ます。レポートの講評・解説を授業内で行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	期末レポート60% 報告、小レポート、授業姿勢40%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし
	備考	教科書は指定しませんが授業に関連する文献を使用します。最初の講義で言及します。 その他、適宜資料を配布します。		
参考書	南田勝也他『ゼミで学ぶスタディスキル』北樹出版 藤田真文編（2012）『メディアの卒論——テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房			
オフィスアワー	希望者は水曜3限授業後に授業講堂にて申し出ること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	情報と社会に関する事象に興味を持って接する（2時間）
	授業内容	ガイダンス：情報と社会に関する調査・分析の進め方。授業の姿勢。テーマに関して相談
	事後学習	レポートの執筆に向け全体的な構想を考える（2時間）
2	事前学習	第1回で決まったテーマに即して自習（2時間）
	授業内容	情報と社会の基礎：講義を進めるにあたって参考となる資料の紹介
	事後学習	中間報告やレポートの執筆に向けて資料や文献の内容を整理する（2時間）
3	事前学習	第1回で決まったテーマに即して自習（2時間）
	授業内容	情報と社会の基礎：講義を進めるにあたって参考となる資料の紹介
	事後学習	中間報告やレポートの執筆に向けて資料や文献の内容を整理する。あるいはリサーチ（2時間）
4	事前学習	第1回で決まったテーマに即して自習（2時間）
	授業内容	具体的にどのような事例であるのか報告や確認
	事後学習	中間報告やレポートの執筆に向けて資料や文献の内容を整理する。あるいはリサーチ（2時間）

5	事前学習	第1回で決まったテーマに即して自習（2時間）
	授業内容	具体的にどのような事例であるのか報告や確認
	事後学習	中間報告やレポートの執筆に向けて資料や文献の内容を整理する。あるいはリサーチ（2時間）
6	事前学習	リサーチ対象について下調べを行う（2時間）
	授業内容	その事例についてメディアがどう取り上げているのか報告、確認
	事後学習	リサーチ（2時間）
7	事前学習	リサーチを通じて収集した情報を整理（2時間）
	授業内容	その事例についてメディアがどう取り上げているのか報告、確認
	事後学習	リサーチ（2時間）
8	事前学習	リサーチを通じて収集した情報を整理（2時間）
	授業内容	その事例についてメディアがどう取り上げているのか報告、確認
	事後学習	これまで調べたことを整理する（2時間）
9	事前学習	これまで調べたことを整理する（2時間）
	授業内容	事例を分析できる社会学やメディア論の考えについて取り上げる
	事後学習	授業で取り上げた理論や概念の理解（2時間）
10	事前学習	指定した文献および配布資料を読んでおく（2時間）
	授業内容	事例を分析できる社会学やメディア論の考えについて取り上げる
	事後学習	授業で取り上げた理論や概念の理解（2時間）
11	事前学習	指定した文献および配布資料を読んでおく（2時間）
	授業内容	取り上げた理論や概念の応用について考察
	事後学習	取り上げた理論や概念の応用について考察を再度行う（2時間）
12	事前学習	中間報告の準備（2時間）
	授業内容	リサーチ中間報告（1）：リサーチにおける進捗を報告
	事後学習	指摘やコメントをふまえて今後のリサーチの進め方を改めて確認する（2時間）
13	事前学習	中間報告の準備（2時間）
	授業内容	リサーチ中間報告（1）：リサーチにおける進捗を報告
	事後学習	指摘やコメントをふまえて今後のリサーチの進め方を改めて確認する（2時間）
14	事前学習	リサーチペーパーについて準備（2時間）
	授業内容	リサーチペーパー作成 1
	事後学習	リサーチペーパー作成の準備（2時間）
15	事前学習	リサーチペーパーの準備（2時間）
	授業内容	リサーチペーパー作成 2
	事後学習	授業内容をふまえた情報と社会に関する事象を把握、復習（2時間）

科目名	リサーチ・ペーパー(政治行動論)	担当者	水野 泰志	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	政治全般についてジャーナリズムの視点から考察し、日常的な政治への興味から、ニュースの入手、政治問題に関する調査研究、署名やデモの政治活動、選挙における投票行動にいたるまで、さまざまな政治行動の実情や課題を明らかにしていく。					
授業目的・到達目標	ゼミに相当するリサーチペーパー・演習Ⅰ・演習Ⅱ・演習Ⅲと続く一連の科目を履修するための基礎力を養うことを目的とする。 政治全般、とくに政治行動の基礎的知識を習得するとともに可能な限り実践し、初歩的な論文（レポート）をまとめられることを目標とする。 関連DP及びCP：新聞学科1， 4， 8					
履修条件	特になし。					
授業方法	個々の受講生が興味を持つ政治行動に関するテーマを選び、論文（レポート）としてまとめる。受講者のプレゼンを踏まえ、受講者全員で討議する（ゼミ形式）。論文（レポート）は、中間報告を含め発表の都度、講評や解説を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		受講生ごとに設定したテーマにおける研究の成果（レポートなど）、講義への取り組み、討議の内容などにより、総合判断する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	特になし。				
参考書	必要に応じて指示する。					
オフィスアワー	火曜日18:00～19:00（事前にメールでアポイントメントをとること） 図書館L302 メールアドレス：aei03021@nifty.com					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、政治行動について考える。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション：授業のテーマ、内容、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する。
	事後学習	政治行動について整理する。（2時間）
2	事前学習	政治行動の類型について考える。（2時間）
	授業内容	政治行動の類型について考察する。
	事後学習	政治行動の類型について整理する。（2時間）
3	事前学習	自らが研究する政治行動に関するテーマについて検討する。（2時間）
	授業内容	政治行動に関する研究テーマの事例について考察する。
	事後学習	検討した政治行動のテーマについて整理する。（2時間）
4	事前学習	自らが研究する政治行動に関するテーマを決定する。（2時間）
	授業内容	個々の受講生が政治行動に関する個々の研究テーマを設定する。
	事後学習	次回以降、受講者はそれぞれ決定した研究テーマについて、順番にプレゼンするので、それぞれ準備にとりかかる。（2時間）

5	事前学習	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。（2時間）
	授業内容	政治参加の概要について考察するとともに、該当のプレゼン担当者が報告し受講者全員で討議する。
	事後学習	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての報告や討議を受け、知見を深める。（2時間）
6	事前学習	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。（2時間）
	授業内容	政治行動について新聞メディアとの関連を考察するとともに、該当のプレゼン担当者が報告し受講者全員で討議する。
	事後学習	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての報告や討議を受け、知見を深める。（2時間）
7	事前学習	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。（2時間）
	授業内容	政治行動について放送メディアとの関連を考察するとともに、該当のプレゼン担当者が報告し受講者全員で討議する。
	事後学習	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての報告や討議を受け、知見を深める。（2時間）
8	事前学習	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。（2時間）
	授業内容	政治行動についてネットメディアとの関連を考察するとともに、該当のプレゼン担当者が報告し受講者全員で討議する。
	事後学習	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての報告や討議を受け、知見を深める。（2時間）
9	事前学習	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。（2時間）
	授業内容	選挙における投票行動を考察するとともに、該当のプレゼン担当者が報告し受講者全員で討議する。
	事後学習	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての報告や討議を受け、知見を深める。（2時間）
10	事前学習	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。（2時間）
	授業内容	選挙におけるネットの活用を考察するとともに、該当のプレゼン担当者が報告し受講者全員で討議する。
	事後学習	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての報告や討議を受け、知見を深める。（2時間）
11	事前学習	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。（2時間）
	授業内容	18歳選挙権の導入を考察するとともに、該当のプレゼン担当者が報告し受講者全員で討議する
	事後学習	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての報告や討議を受け、知見を深める。（2時間）
12	事前学習	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。（2時間）
	授業内容	ネット時代の政治を政権を中心に考察するとともに、該当のプレゼン担当者が報告し受講者全員で討議する
	事後学習	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての報告や討議を受け、知見を深める。（2時間）
13	事前学習	プレゼン担当者は事前に自らの研究テーマについてレポート（中間報告等）を提出し、受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。（2時間）
	授業内容	ネット時代の政治を国民を中心に考察するとともに、該当のプレゼン担当者が報告し受講者全員で討議する
	事後学習	講義や、プレゼン担当者の研究テーマについての報告や討議を受け、知見を深める。（2時間）
14	事前学習	参議院議員通常選挙（参院選）について基本的知識を修徳する。（2時間）
	授業内容	参院選において究極の政治行動である投票を実践するとともに、メディアの開票報道を実際に体験する。
	事後学習	参院選の投票・開票における体験を踏まえ、政治行動について知見を深める。（2時間）
15	事前学習	受講者全員が提出する最終レポートを作成する。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	講座全般の内容について、知見を深める（2時間）

科目名	リサーチ・ペーパー（メディアと文化）	担当者	玉川 博章	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	メディアと文化、そして社会との関係について、メディアの歴史とアニメやマンガなどのサブカルチャーを事例に分析する。授業前半では、メディアの発達とプロパガンダの関係、アニメ・マンガの歴史をみながら表現（サブカルチャーの生産）と社会・政治との関連を考察する。後半では、現在のグローバル化した生産・消費をテーマとし、産業、受容者、政策等の側面が絡み合ったサブカルチャーの理解を促す。				
授業目的・到達目標	現代における文化とメディアの関係性を捉える教養を育成すること及び問題発見を目的とする。アニメーションやマンガの歴史的経緯とプロパガンダの関係性、メディアと政治の関係やグローバル化の流れ、そしてアニメやマンガを中心とした文化の特徴とを理解し、政治や社会との関係性を踏まえたサブカルチャーの捉え方ができるようになることを目標とする。				
履修条件	関連DP及びCP新聞学科1、4、8。 特になし				
授業方法	配付資料を参照しながら講義形式を中心に行う。必要に応じ視聴覚資料を利用する。適宜、ミニレポートやディスカッションなどを行う。授業期間中提出課題については授業内での総評やコメントによりフィードバックを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業期間中のレポート等の提出物と期末レポートにより評価する。期末に課すレポートでは、サブカルチャー分析の基礎的知識や社会との関係性の理解を確認し評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	『キャラクターとは何か』小田切博著 『アジア海賊版文化』土佐昌樹著 『トランスナショナル・ジャパン』岩渕功一著 『ハルヒ in USA』三原龍太郎著 『メイン・ストリーム』フレデリック・マルテル著、林はる芽訳				
オフィスアワー	授業前後(1230-1300など)に講義教室で対応する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよむ。サブカルチャー、文化の概念を調べる（2時間）
	授業内容	ガイダンス、メディアと文化：「サブカルチャー」についての基礎知識の導入
	事後学習	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める（2時間）
2	事前学習	前回授業で指示した資料を一読する。または19世紀のメディアについてインターネットで調べる。（2時間）
	授業内容	エンターテインメントメディアと戦争 娯楽メディアと戦争の関係について
	事後学習	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める（2時間）
3	事前学習	前回授業で指示した資料を一読する。または第一次大戦当時の映画についてインターネットで調べる。（2時間）
	授業内容	エンターテインメントメディアと戦争 20世紀前半の戦争とプロパガンダの実例
	事後学習	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める（2時間）
4	事前学習	日本の第二次世界大戦時のメディア状況についてインターネットで調べる。（2時間）
	授業内容	キャラクター文化とリアリズム 日本に開ける戦前・戦中のメディア状況とキャラクターブーム
	事後学習	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める（2時間）

5	事前学習	日本の第二次世界大戦時のメディア状況についてインターネットで調べる。（2時間）
	授業内容	キャラクター文化とリアリズム 戦時中日本のアニメーション、マンガにみるリアリズムと科学
	事後学習	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める（2時間）
6	事前学習	前回授業で指示した資料を一読する。（2時間）
	授業内容	現代のエンターテインメントメディアと国家 戦後のプロパガンダの実例
	事後学習	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める（2時間）
7	事前学習	自宅学習の課題となるミニレポートやディスカッションのための資料作成を指示した場合は、それを作成し提出する。（3時間）
	授業内容	現代のエンターテインメントメディアと国家 戦争とアニメ・コミックの変質
	事後学習	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める（2時間）
8	事前学習	原子力博覧会、行政のマスコットキャラについてインターネットで調べる。（2時間）
	授業内容	現代のエンターテインメントメディアと国家 キャラクターとプロパガンダ・広告
	事後学習	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める（2時間）
9	事前学習	メディアコングロマリッドについてインターネットで調べる。（2時間）
	授業内容	グローバル化するメディア産業
	事後学習	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める（2時間）
10	事前学習	自宅学習の課題となるミニレポートやディスカッションのための資料作成を指示した場合は、それを作成し提出する。（3時間）
	授業内容	メディアの世界市場と政策 国境を越える映像コンテンツ流通とそのハブ
	事後学習	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める（2時間）
11	事前学習	自宅学習の課題となるミニレポートやディスカッションのための資料作成を指示した場合は、それを作成し提出する。（3時間）
	授業内容	メディアの世界市場と政策 グローバル化するメディア産業
	事後学習	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める（2時間）
12	事前学習	海賊版についてインターネットで調べる。（1時間）
	授業内容	メディアの世界市場と政策 海賊版と著作権の国際的調和
	事後学習	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。提示した参考書を読む。（4時間）
13	事前学習	自宅学習の課題となるミニレポートやディスカッションのための資料作成を指示した場合は、それを作成し提出する。（3時間）
	授業内容	グローバリズムとサブカルチャー 文化とナショナリティの関係性
	事後学習	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。提示した参考書を読む。（4時間）
14	事前学習	海外のアニメ受容者についてインターネットで調べる。（1時間）
	授業内容	グローバリズムとサブカルチャー 「クールジャパン」とファン：海外での受容
	事後学習	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。期末レポートのための文献収集と閲読、レポート執筆。（4時間）
15	事前学習	提示した参考書を読む。（4時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	配付資料に記載されている事例やキーワード等についてインターネットや文献で詳細を調べ理解を深める。期末レポートのための文献収集と閲読、レポート執筆。（4時間）

科目名	リサーチ・ペーパー(メディア史)	担当者	緒川 直人	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	メディア史、それも写真史の諸問題を講じる。写真は「客観的な現実の記録」とは別に、写真家が時代や社会に発するメッセージを投影した「主観的な表現」でもある。写真史料を読む面白さは、ストーリーテラーとしての写真家の思索と眼が捉えた時代像・社会像・人間像として表れる、この「主観的な表現」の解釈にある。主に、ドキュメンタリーフォトの歴史を題材に、写真における事実・現実・表現とは何かを解釈する手法（フォトリテラシー）を教授する。				
授業目的・到達目標	①写真ないし写真史料を、歴史的かつ批判的に「読み解く」ための、「フォトリテラシー」を修得させることを目的とする。 ②写真家の「主観的な表現」に投影された、写真と社会との関係（写真家が見た社会・時代・人間）を分析する「問いの立てかた」「解釈の仕方」を修得できることが目標である。 ③習得したフォトリテラシーの見地（上記①②）から、現代社会を論評する足場やモノサシを得られることを目標とする。（関連D P 及びC P：新聞学科1， 4， 8）				
履修条件	とくになし。				
授業方法	主に講義形式。折々にディスカッション。レジュメを配布。スライド（パワーポイント）を使用。授業期間中、有意義な写真展覧会が開催されている場合、見学を求める場合もある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	レポート（60％）と、授業参加の姿勢と提出課題（40％）。 レポートは、A4用紙2枚（前年度）。 【フィードバック】レポートは後日、ポータルシステムで講評を配信する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
			とくになし		
	備考				
参考書	・東京都写真美術館監修『写真の歴史入門』第1～3部、新潮社、2005年 ・飯沢耕太郎『増補戦後写真史ノート』岩波現代文庫、2008年				
オフィスアワー	授業時（木曜4限）に、アポイントをねがいます。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読み、「写真史」や「報道写真」について、どんなイメージを抱き、どんな学びを期待しているか、簡単に考えてみる。また、写真における「客観性（記録）」と「主観性（表現）」とは何か、考えてみる。（2時間）
	授業内容	Guidanceと実験：「高校教科書」の有名な写真史料を読んでみる
	事後学習	授業で取上げた写真史料について、自分なりの「読みかた」の可能性を実験してみる。（2時間）
2	事前学習	配布する写真史料について、自分なりの「読み方」を実験してみる。（2時間）
	授業内容	写真史料を読む（1）：小石清の戦争写真「半世紀」シリーズを読む
	事後学習	講義の復習。写真史料を読むための基本的な方法を整理し、授業で取上げた写真作品を用いて復習。（2時間）
3	事前学習	配布する写真史料について、自分なりの「読み方」を実験してみる。（2時間）
	授業内容	写真史料を読む（2）：「引揚写真」にみる新聞社の戦争意識と戦後意識を読む
	事後学習	講義の復習。写真史料を読むための基本的な方法を整理し、授業で取上げた写真作品を用いて復習。（2時間）
4	事前学習	①カルティエ・ブレッソンの写真集『決定的瞬間』の写真史上の意義を調べておく。 ②ドキュメンタリー写真、報道写真の一般的なイメージを確認する。（2時間）
	授業内容	カルティエ・ブレッソンとドキュメンタリーの「神話」：報道写真界の規範と写真集『決定的瞬間』
	事後学習	報道写真界の暗黙の規範の形成と、ブレッソンの写真集『決定的瞬間』の関係を復習しておく。（2時間）

5	事前学習	配布する写真史料の「構図」が意味するところを考えてみる。（2時間）
	授業内容	「ストーリーテラー」としてのカルティエ・ブレッソン：「絶妙な構図」と報道写真の実態
	事後学習	ブレッソンの作品の「絶妙な構図」の配置とメッセージ（寓意）を理解した上で、「報道写真」とはどのようなものとして存在していたかを整理し、自分が抱いてきた「報道写真」イメージとの相違点を確認する。（2時間）
6	事前学習	戦前期報道写真を牽引した名取洋之助と日本工房について調べておく。（2時間）
	授業内容	名取洋之助、日本型報道写真の日蝕（1）輝きのなかの衰亡
	事後学習	講義の復習。特に、アメリカのグラフ雑誌『LIFE』の理念と名取洋之助の初期作品の共鳴を理解する。（2時間）
7	事前学習	配布する写真史料を、読み解いてみる。（2時間）
	授業内容	名取洋之助、日本型報道写真の日蝕（2）1937年『LIFE』の衝撃とプロパガンダ戦線
	事後学習	配布した新聞資料を読み、戦時期報道写真の実態と報道写真研究の可能性を考えてみる。（2時間）
8	事前学習	配布する資料を読み、安井仲治の経歴と活躍した時代背景を理解する。併せて、配布する写真史料の特徴を考えてみる。（2時間）
	授業内容	安井仲治と「大衆の反逆」：苦境・不条理に直面したとき、写真（家）は何ができるか？
	事後学習	講義の復習。特に、安井仲治の「写真哲学」の特徴を時代精神との関係から整理しておく。（2時間）
9	事前学習	配布する写真史料を読み解いてみる。（2時間）
	授業内容	安井仲治、社会を撃つ眼：苦境・不条理に直面したとき、写真（家）は何ができるか？
	事後学習	講義の復習。特に、安井仲治が、マイノリティの社会構造とその歴史的再生産を、いかなる写真哲学と技法で写真表現に仕上げたのか、を理解しておく。（2時間）
10	事前学習	配布する写真史料（「流氓ユダヤ」シリーズ）を読み解き、自分の見解を記述してみる。（2時間）
	授業内容	安井仲治、他者へのまなざし：苦境・不条理に直面したとき、写真（家）は何ができるか？
	事後学習	安井仲治の仕事や生きざまを、自分が直面する問題や生活のなかで、どのように活かせるのか考えてみる。（2時間）
11	事前学習	写真家ユージン・スミスの事績を調べておく。その上で、安井仲治との相違点・共通点をイメージしてみる。（2時間）
	授業内容	ユージン・スミスと戦後日本の社会問題：個人と地域によりそうカメラアイ
	事後学習	ユージン・スミスと安井仲治の相違点や共通点を整理し、ドキュメンタリーの発展方向を考えてみる。（2時間）
12	事前学習	前回までに知り得たユージン・スミスの作品上・方法上の特徴を整理しておく。その上で、それらがなぜ生まれたのかに留意して、授業に臨む。（2時間）
	授業内容	ユージン・スミスと戦争体験：ユージン・スミスはいかにして「ユージン・スミス」になったのか？
	事後学習	ユージン・スミスの写真家としての転換点は何であったか、それがドキュメンタリーの方性性にどんな意義をもったのかを整理してみる。（2時間）
13	事前学習	配布する資料を読み、奥村泰宏・常盤とよ子の経歴と、主要な作品シリーズを理解しておくこと（2時間）
	授業内容	奥村泰宏・常盤とよ子と戦後復興期を生きるひとひと（1）：シリーズ作品の「キラーピース」を読む
	事後学習	シリーズ作品を読む場合の「キラーピース」の役割について、復習しておく。（2時間）
14	事前学習	配布する写真史料シリーズについて、その中のどの作品が、シリーズの「キラーピース」にあたり、それがシリーズ全体をどのように特徴づけているかを、考えてみる（2時間）
	授業内容	奥村泰宏・常盤とよ子と戦後復興期を生きるひとひと（2）：シリーズ作品の「キラーピース」を読む
	事後学習	シリーズ作品を読む場合の「キラーピース」の役割について、復習しておく。（2時間）
15	事前学習	授業全体をふりかえり、興味を抱いた写真家や論点を整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業の総括と意見交換
	事後学習	最終レポートの準備。（2時間）

科目名	リスク・コミュニケーション	担当者	中森 広道	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	非常時や緊急時などの人々の生命や生活に影響を与える状況の中で生じる社会的混乱について、情報、メディアの機能、人々の意識・行動・コミュニケーションなどについて、社会学・社会心理学・社会情報論の観点から考えていく。主な内容は、パニック・流言・デマ、災害時の情報や避難、メディアと危機意識等についてケーススタディをもとに講義をし、これらを踏まえて、リスク・コミュニケーションの特性と課題について検討していく。			
授業目的・到達目標	「リスク・コミュニケーション」とは、人々に危険を与える可能性があり生命・健康・生活等を脅かす現象や事態について、その被害や影響を最小限に食い止めるために行われる情報の対応や合意形成等のことである。ここでは、事例を挙げながら、リスク・コミュニケーションに関する問題について検討し、情報の混乱やメディアの社会的逆機能への対応、災害などの非常時の対策につなげていく課題を再考する能力を養成することを目的に授業を進めていく。そして、各自が、リスク・コミュニケーションの課題を抽出し、問題と解決策を提示できるようになることを目標とする。			
履修条件	特になし 関連DP及びCP：新聞学科1， 2， 6			
授業方法	講義形式で行う。必要に応じて資料の配布や映像を利用する。出欠をとることもある（毎回ではない）。フィードバックは授業内もしくはポータルサイトにて行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	80%	授業内容の理解度や各自の問題意識を中心に評価する。	
	平常評価	20%	不定期に求めるコメントの内容によって加点する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用せず		
参考書	吉井博明・田中淳編『災害危機管理論入門』（弘文堂）、田中淳・吉井博明編『災害情報論入門』（弘文堂）、福田充『リスク・コミュニケーションとメディア』（北樹出版）ほか（授業中に紹介する）。			
オフィスアワー	授業（火曜4限）終了後、講堂にて。 Eメールでも対応する（nakamori@chs.nihon-u.ac.jp）。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んで、授業の概要を把握しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 授業の概要（以下、予定）。
	事後学習	関連する書籍・資料等を読むこと。（2時間）
2	事前学習	「パニック」と考えられる現象をまとめておくこと。（2時間）
	授業内容	パニック（1） パニックとは
	事後学習	これまで考えていた「パニック」について、この授業ではどのような位置づけになるのか確認しておくこと。（2時間）
3	事前学習	日常で使われている「パニック」と専門用語の「パニック」の意味の違いを整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	パニック（2） パニックの分類
	事後学習	使用した映像の内容について整理しておくこと。（2時間）
4	事前学習	前回、前々回の内容を確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	パニック（3） パニックの背景
	事後学習	映像で扱った時代の世相について考えること。（2時間）

5	事前学習	この授業で扱う「パニック」について、まとめておくこと。（2時間）
	授業内容	パニック（4）　パニックの発生が少ない理由
	事後学習	パニックの発生条件について整理しておくこと。（2時間）
6	事前学習	流言・うわさ・デマについて、思いつくものを挙げておくこと。（2時間）
	授業内容	情報と混乱（1）　流言・うわさ・デマ
	事後学習	流言の意味確認しておくこと。（2時間）
7	事前学習	マス・メディアの特性について考えておくこと。（2時間）
	授業内容	情報と混乱（2）　メディアと誤情報
	事後学習	使用した映像の内容について整理しておくこと。（2時間）
8	事前学習	以前にとりあげた「パニックの社会的背景」について整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	情報と混乱（3）　情報の社会的混乱
	事後学習	使用した映像の内容について整理しておくこと。（2時間）
9	事前学習	メディアの人々への影響について、関連する資料を読んでおくこと。
	授業内容	リスクに関する価値観とメディア（2時間）
	事後学習	マス・メディアの機能の特性についてまとめておくこと（2時間）
10	事前学習	記憶に残っている災害について整理しておくこと（2時間）
	授業内容	災害情報の展開とリスク・コミュニケーション（1）　災害情報と避難①　災害情報の機能
	事後学習	災害時の人々の避難についてまとめておくこと（2時間）
11	事前学習	記憶に残っている災害について整理しておくこと（2時間）
	授業内容	災害情報の展開とリスク・コミュニケーション（2）　災害情報と避難②　人々が避難しない理由
	事後学習	災害時の人々の避難についてまとめておくこと（2時間）
12	事前学習	記憶に残っている災害について整理しておくこと（2時間）
	授業内容	災害情報の展開とリスク・コミュニケーション（3）　災害情報と避難③　近年の問題
	事後学習	災害時の人々の対応の特性についてまとめておくこと（2時間）
13	事前学習	「東日本大震災」について考えておくこと（2時間）
	授業内容	「東日本大震災」とリスク・コミュニケーション
	事後学習	授業で紹介したデータを整理しておくこと（2時間）
14	事前学習	最近の災害における問題点を整理しておくこと（2時間）
	授業内容	「東日本大震災」以降の災害とリスク・コミュニケーション
	事後学習	授業で紹介したデータを整理しておくこと（2時間）
15	事前学習	これまでの授業の内容をまとめておくこと。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	定期試験に備えること。（2時間）

科目名	立法過程論	担当者	水戸 克典	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	周知の通り、わが国の国会は「国権の最高機関」として位置付けられています。しかしその実態については、ほとんどの国民に理解されているとは言い難い状況です。本講義では、国会について指摘される様々な特質を解説しながら、その問題と課題を多面的に検討していきます。本講義を受講することにより、国会や立法過程についての基礎的な知識を修得し、それを自分の言葉で説明できるようになる力を養成します。				
授業目的・到達目標	国会の抱える諸問題について理解することを目的とし、その課題や改革の方向性に関して説明できるようになることを目標とします。 関連DP及びCP：政治経済学科2、3、4 新聞学科1、5				
履修条件	後期の「国会論」と併せて履修することを強く推奨します。				
授業方法	講義 【フィードバック方法】毎回、前回の小テストに対する講評を行い、立法過程についての理解の向上に努めます				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		80%	論述形式の試験を実施します。	
	平常評価		20%	授業内で小テストを実施します。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019	慈学社		議会政治 第3版	加藤秀治郎・水戸克典
	備考				
参考書	授業中に適宜紹介します。				
オフィスアワー	金曜日12：15～12：55 ※事前にメール（mito.katsunori@nihon-u.ac.jp）で必ず連絡・予約してください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	履修を希望する場合には、必ず初回ガイダンスに出席すること（2時間）
	授業内容	ガイダンス—国会の「常識」と「非常識」
	事後学習	ガイダンスで示された履修条件を確認すること（2時間）
2	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	現代の政治と議会—議会の存在意義
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
3	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	政治制度と議会—議院内閣制と大統領制
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
4	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	議会の諸類型—「変換議会」と「アリーナ議会」
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）

5	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	帝国議会と戦後の国会
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
6	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	国会の制度と慣行
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
7	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	国会―内閣提出法案と議員立法
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
8	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	国会―会期制と会期不継続の原則
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
9	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	国会―委員会における審査と本会議における審議
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
10	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	国会―わが国の二院制と参議院
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
11	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	与・野党の立法行動
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
12	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	議院運営委員会と国会对策委員会
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
13	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	政党の党議決定と党議拘束
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
14	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	国会無能論と国会機能論
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）
15	事前学習	ノートを読み返しながら、前回の授業で扱った政策及び政策過程に関する知識を復習しておくこと（2時間）
	授業内容	前期まとめ
	事後学習	指定教科書の該当頁を必ず読んでおくこと（2時間）

科目名	労働事情	担当者	白川 欽也	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講座では、雇用就業状況を中心とした現下の労働事情について、労働経済白書や各種労働統計等をもとに、全体的状況について広く把握するほか、特定層（非正規、高齢者、女性）、労働時間・賃金、、ワークライフバランス、技術革新などにも焦点を当てて、学習する。				
授業目的・到達目標	現下の労働事情について理解することを授業目的とし、雇用就業状況等の現状と問題点について、論理的、多面的に分析し、説明できる力を養成することを目標とする。関連D P及びC P：経営法学科1，3，4 公共政策学科1，3，4				
履修条件	なし				
授業方法	労働経済白書等に沿って、講義を進める。講義は、スライドを使用して行う。 なお、ミニテスト（授業内試験）は、試験終了後に解説等を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	ミニテスト(授業内テスト)、授業への参加度、レポート提出等によって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	全国官報販売協同組合		平成30年版 労働経済白書	厚生労働省編
	備考	労働経済白書は、厚生労働省HPよりPDFをダウンロードして、利用することもできる。			
参考書	適宜、紹介する。				
オフィスアワー	土曜2限講義終了後に、授業講堂にて行う。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、30年版労働経済白書・骨子を読み、講義全体を概観する。また、第Ⅰ部第1章「一般経済の動向」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	オリエンテーション（授業のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法、参考文献の説明等）、経済と雇用の基本的関係について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。また、経済と雇用の関係を考察する。（2時間）
2	事前学習	30年版労働経済白書の第Ⅰ部第2章第4節「就業者・雇用者」の動向を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	就業者、雇用者の動向について、就業形態、年齢階級、雇用形態等の観点から、その実態について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、就業者、雇用者の動向について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
3	事前学習	30年版労働経済白書の第Ⅰ部第2章「雇用・失業情勢の動向」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	雇用失業関係の統計、雇用失業情勢の動向、失業率の国際比較、職業間ミスマッチ等について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、雇用失業関係の統計、雇用失業情勢の動向等ついて、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
4	事前学習	30年版労働経済白書の第Ⅰ部第3章第1節「労働時間・有給休暇の動向」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	労働時間・有給休暇の実態と動向、効率的な働き方について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、労働時間・有給休暇の実態と動向、効率的な働きかについて自分なりの説明をまとめる。（2時間）

5	事前学習	30年版労働経済白書の第Ⅰ部第3章第2節「賃金の動向」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	賃金の実態と動向を就業形態や年齢等に着目して学習する。また、賃金と労働生産性の関係について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、賃金の動向、労働生産性について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
6	事前学習	30年版労働経済白書の第Ⅰ部第3章第3節「春季労使交渉の動向」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	労働組合、労使関係、春季労使交渉の動向等について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、労働組合、労使関係、春季労使交渉の動向等について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
7	事前学習	30年版労働経済白書の第Ⅱ部第1章第3節「働き方の多様化」（p 97～p 108）を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	働き方の多様化、ワークライフバランス、女性の活躍等について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、働き方の多様化、ワークライフバランス、女性の活躍等について、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
8	事前学習	30年版労働経済白書の第Ⅰ部第2章第4節の非正規雇用関係の部分（p 30～p 34、p 38～39）、第3章p 49～p 50、第2章p 149～150を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	非正規雇用に関する統計、雇用動向、労働時間、賃金、人材育成等について、学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、非正規雇用に関する統計、雇用動向、労働時間、人材育成等について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
9	事前学習	30年版労働経済白書の第Ⅰ部第2章コラム1－4（p 44～45）を読み、内容を考察する。これまでの講義の重要用語を復習する。（2時間）
	授業内容	地域経済と雇用について学習する。第1回ミニテスト（授業内試験）及びまとめを行う。試験終了後に解説等を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、地域経済と雇用について自分なりの説明をまとめる。ミニテストの結果を振り返り、これまでの講義の復習を行う。（2時間）
10	事前学習	30年版労働経済白書の第Ⅰ部第2章の人手不足関係（p 20～22、p 34～38）、第Ⅱ部第1章（p 102～104）を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	人手不足と企業、労働者の状況、高齢者雇用について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、人手不足と企業、労働者の状況、高齢者雇用について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
11	事前学習	30年版労働経済白書の第Ⅱ部第4章第2節「主体的なキャリア形成に向けた自己啓発の効果と課題について」を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	自己啓発の状況、支援の状況と課題について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、自己啓発の状況、支援の状況と課題について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
12	事前学習	30年版労働経済白書の第Ⅱ部第4章の転職市場関係部分（p 236～p 261）を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	転職市場、賃金・労働時間の動向、満足度等について、学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、転職市場、賃金・労働時間の動向、満足度等について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
13	事前学習	30年版労働経済白書の第Ⅱ部第3章（p 182～235）を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	人材マネジメント方針、モチベーション、正社員や高度人材、多様な人材に対応した雇用管理について、学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、人材マネジメント方針、多様な人材に対応した雇用管理について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
14	事前学習	30年版労働経済白書の第Ⅱ部第1章p 74～p 96を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	労働生産性と能力開発について学習する。第2回ミニテスト（授業内試験）及びまとめを行う。試験終了後に解説等を行う。
	事後学習	講義ノートを確認して、労働生産性と能力開発について自分なりの説明をまとめる。ミニテストの結果を振り返り、これまでの講義の復習を行う。（2時間）
15	事前学習	30年版労働経済白書の第Ⅱ部第2章p 172～p 181を読み、内容を考察する。（2時間）
	授業内容	技術革新の進展（ICT、AI）と雇用について学習する。
	事後学習	講義ノートを確認して、技術革新の進展（ICT、AI）と雇用について自分なりの説明をまとめる。初回からの講義と授業ノートを見直し、講義全体を復習する。（2時間）

科目名	労働法Ⅰ	担当者	新谷 真人	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	労働法は働く者のための法律である。その法領域は大きく個別法と集団法に分かれる。個別法は主として労働基準法を対象とし、集団法は労働組合法が中心となる。本授業では、労働法総論と個別的労働法の一部を学ぶ。アルバイトなどで疑問に感じている点も、法的根拠が明らかになるであろう。将来の管理職候補である諸君も、職場の法律として必須のものといえる。			
授業目的・到達目標	本授業では、労働法総論と個別的労働法の一部を学ぶことを目的とする。労働基準法、労働組合法など労働法全般の基礎知識を理解し、働き方改革の主要な動向を説明できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 3 経営法学科1, 3 公共政策学科1, 3, 4			
履修条件	日頃から労働問題に関心をもち、新聞報道等に注意してほしい。なお、労働法Ⅱを履修すると労働法の全体を学習することができる。			
授業方法	ほぼテキストの順序どおりに講義する。毎回パワーポイントを使用する。スライドは事前又は事後に「学生教員共有ホルダー」にアップする。必要に応じ、新聞記事、DVD等を使用する。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	設問の意図を正しく理解しているか、適切に条文や判例の指摘がなされているか、答えは論理的に構成されているか、などを勘案して総合評価する。	
	平常評価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	平成31年度	弘文堂	労働法・第2版	新谷真人編著
	備考	教科書は2019年2月刊行予定。初版は働き方改革の動向が反映されておらず適切でない。		
参考書	ジュリスト『労働判例百選第9版』有斐閣 ジュリスト増刊『労働法の争点』有斐閣（2014年刊行）			
オフィスアワー	月曜日9:30～10:30 研究室は4号館5階455号室。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、授業概要や目的を理解しておく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス、労働法の体系
	事後学習	ガイダンスの内容を復習しておく。（2時間）
2	事前学習	テキスト第1章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	労働法の法的特色
	事後学習	スライドを確認する。（2時間）
3	事前学習	テキスト第1章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	労働法の歴史と団結権保障の意義
	事後学習	スライドを確認する。（2時間）
4	事前学習	テキスト第2章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	労働契約の成立、労働憲章
	事後学習	スライドを確認する。（2時間）

5	事前学習	テキスト第2章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	採用内定、試用期間
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)
6	事前学習	テキスト第3章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	就業規則とその変更
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)
7	事前学習	テキスト第3章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	企業秩序と懲戒
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)
8	事前学習	テキスト第4章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	配転・出向・転籍
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)
9	事前学習	テキスト第5章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	賃金請求権
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)
10	事前学習	テキスト第5章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	最低賃金、賃金支払いの原則
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)
11	事前学習	テキスト第6章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	法定労働時間と規制緩和
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)
12	事前学習	テキスト第6章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	時間外・休日労働
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)
13	事前学習	テキスト第7章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	休憩・休日・年次有給休暇
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)
14	事前学習	テキスト第8章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	労働災害の予防と補償
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)
15	事前学習	これまでのノート、教科書に目を通しておく。(2時間)
	授業内容	復習
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)

科目名	労働法 I	担当者	大山 盛義	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	労働法は多くの人にとって身近な法律といえよう。「ブラックバイト」「サービス残業」「過労死」「過労自殺」「リストラ」「パワハラ」「セクハラ」等々、これらの聞き慣れた言葉は全て労働法に直結する問題である。労働法は個別的労働関係領域と集団的労使関係に関する領域に分けられる。労働法Ⅰでは主に前者を取り扱い当事者の権利義務について講義し、学生が自らの権利義務を理解する労働者となることを目的とする。				
授業目的・到達目標	学生が、個別的労働法分野についての法制度および裁判例などを通して現代日本における雇用・労働問題を理解し、雇用・労働に関する法律及び判例について基本的な知識を獲得することを目的とし、課題を発見し解決に向けた思考を養い、現代社会における法の役割を理解し、説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，3 経営法学科1，3 公共政策学科1，3，4				
履修条件	2019年度の六法を必携すること。ただしe-Gov（電子政府の六法）を参照できる環境があれば、それでもよい。				
授業方法	配布するレジュメと教科書に沿って行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合		評価方法
	定期試験		100%		条文や判例の内容を正しく理解しているか、論理的に主張が展開されているか、などを考慮して判断する。
	平常評価				
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年	弘文堂		Next 教科書シリーズ労働法	新谷真人編
	備考				
参考書	ジュリスト『労働判例百選第9版』有斐閣、ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年）有斐閣。その他、講義において適宜案内する。				
オフィスアワー	火曜日3時限（メールでアポイントメントをとること）研究室にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認したうえで憲法上の労働者の権利を概観する（2時間）
	授業内容	ガイダンス（講義の進め方、評価方法等の説明）、労働法の概要
	事後学習	日本法の体系の中での憲法と労働法の位置づけを確認する（2時間）
2	事前学習	戦後日本の社会経済の展開を確認する。（2時間）
	授業内容	現代社会における労働法の機能と変化を説明し、社会の問題状況を考察する。
	事後学習	労働法の史的展開の意義を理解する（2時間）
3	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	労働関係の成立
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
4	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する。（2時間）
	授業内容	労働関係の当事者
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）

5	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する。（2時間）
	授業内容	労働条件の決定と変更 就業規則 労働契約
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
6	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する。（2時間）
	授業内容	賃金とは何か。
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
7	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する。（2時間）
	授業内容	労働時間規制の意義を解説する。
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
8	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する。（2時間）
	授業内容	労働時間ではない、休日 年次有給休暇の意義と制度を解説する。
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
9	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する。（2時間）
	授業内容	配転 出向 転勤。労務遂行における場地的変更とその制限の必要性を
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
10	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する。（2時間）
	授業内容	使用者の懲戒権の根拠と限界について
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
11	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する。（2時間）
	授業内容	労働者の人格権。セクハラ、パワハラ、マタハラとは何か。労働者はハラスメントからどのように保護されるべきかを解説する。
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
12	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する（2時間）
	授業内容	雇用形態の多様化と非典型雇用
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
13	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する（2時間）
	授業内容	労働関係の終了
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
14	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する（2時間）
	授業内容	労働者の人格権
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
15	事前学習	前回に示した論点を確認する（2時間）
	授業内容	弁護士（実務家）が最近の労働裁判の動向と課題を解説する
	事後学習	労働法の主要論点に関する知識を確実にする（2時間）

科目名	労働法Ⅱ	担当者	新谷 真人	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	労働法は働く者のための法律である。その法領域は大きく個別法と集団法に分かれる。個別法は主として労働基準法を対象とし、集団法は労働組合法が中心となる。本授業では、労働法Ⅰに引き続き個別的労働法を学ぶとともに、集団的労働法の領域も講義する。				
授業目的・到達目標	本授業では、労働法Ⅰに引き続き個別的労働法を学ぶとともに、集団的労働法の領域も学ぶことを目的とする。労働基準法、労働組合法など労働法全般の基礎知識を理解し、働き方改革の主要な動向を説明できることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 3 経営法学科1, 3 公共政策学科1, 3, 4				
履修条件	日頃から労働問題に関心をもち、新聞報道等に注意してほしい。労働法Ⅰから継続して履修するのが望ましい。				
授業方法	ほぼテキストの順序どおりに講義する。毎回パワーポイントを使用する。スライドは事前又は事後に「学生教員共有ホルダー」にアップする。必要に応じ、新聞記事、DVD等を使用する。定期試験の解説を後日ポータルシステムで配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	設問の意図を正しく理解しているか、適切に条文や判例の指摘がなされているか、答えは論理的に構成されているか、などを勘案して総合評価する。	
	平常評価				
教科書	年	出版社	書名		著者名
	平成31年度	弘文堂	労働法・第2版		新谷真人編著
	備考	教科書は2019年2月刊行予定。初版は働き方改革の動向が反映されておらず適切でない。			
参考書	ジュリスト『労働判例百選第9版』有斐閣 ジュリスト増刊『労働法の争点』有斐閣（2014年刊行）				
オフィスアワー	月曜日9:30～10:30 研究室は4号館5階455号室。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスをよく読み、授業概要や目的を理解しておく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ガイダンスの内容を復習しておく。（2時間）
2	事前学習	テキスト第9章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	男女雇用機会均等法
	事後学習	スライドを確認する。（2時間）
3	事前学習	テキスト第9章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	セクシュアルハラスメント（DVD使用予定）
	事後学習	スライドを確認する。（2時間）
4	事前学習	テキスト第9章を読んでおく。（2時間）
	授業内容	非正規労働者の法律問題
	事後学習	スライドを確認する。（2時間）

5	事前学習	テキスト第10章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	退職と解雇
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)
6	事前学習	テキスト第10章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	整理解雇、定年制
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)
7	事前学習	テキスト第11章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	団結権保障、公務員の労働基本権
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)
8	事前学習	テキスト第11章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	労組法上の労働組合、組合活動の正当性
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)
9	事前学習	テキスト第12章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	不当労働行為制度の概要
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)
10	事前学習	テキスト第12章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	不当労働行為の類型と法的救済
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)
11	事前学習	テキスト第13章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	団体交渉
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)
12	事前学習	テキスト第13章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	労働協約の効力
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)
13	事前学習	テキスト第14章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	争議行為の意義
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)
14	事前学習	テキスト第14章を読んでおく。(2時間)
	授業内容	争議行為の正当性
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)
15	事前学習	これまでの教科書、ノートに目を通しておく。(2時間)
	授業内容	復習
	事後学習	スライドを確認する。(2時間)

科目名	労働法Ⅱ	担当者	大山 盛義	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	労働法は多くの人にとって身近な法律といえよう。「ブラックバイト」「サービス残業」「過労死」「過労自殺」「リストラ」「パワハラ」「セクハラ」等々、これらの聞き慣れた言葉は全て労働法に直結する問題である。労働法は個別的労働関係領域と集団的労使関係に関する領域に分けられる。労働法Ⅰでは主に前者を取り扱い当事者の権利義務について講義し、学生が自らの権利義務を理解する労働者となることを目的とする。			
授業目的・到達目標	学生が、個別的労働法分野についての法制度および裁判例などを通して現代日本における雇用・労働問題を理解し、雇用・労働に関する法律及び判例について基本的な知識を獲得することを目的とし、課題を発見し解決に向けた思考を養い、現代社会における法の役割を理解し、説明できるようになることを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1，3 経営法学科1，3 公共政策学科1，3，4			
履修条件	2019年度の六法を必携すること。ただしe-Gov（電子政府の六法）を参照できる環境があれば、それでもよい。			
授業方法	配布するレジュメと教科書に沿って行う。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		100%	条文や判例の内容を正しく理解しているか、論理的に主張が展開されているか、などを考慮して判断する。
	平常評価			
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019年	弘文堂	Next 教科書シリーズ労働法	新谷真人編
	備考			
参考書	ジュリスト『労働判例百選第9版』有斐閣、ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年）有斐閣。その他、講義において適宜案内する。			
オフィスアワー	火曜日3時限（メールでアポイントメントをとること）研究室にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認したうえで憲法上の労働者の権利を概観する（2時間）
	授業内容	ガイダンス（講義の進め方、評価方法等の説明）
	事後学習	現代の労働問題についてどのような課題があるか確認する
2	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する（2時間）
	授業内容	労働災害（1）
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
3	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する（2時間）
	授業内容	労働災害（2）
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
4	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する（2時間）
	授業内容	育児介護休業法
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）

5	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する（2時間）
	授業内容	男女雇用機会均等法
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
6	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する（2時間）
	授業内容	労働と生活の調和
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
7	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する（2時間）
	授業内容	集団的労使関係と労働組合（1）
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
8	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する（2時間）
	授業内容	集団的労使関係と労働組合（2）
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
9	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する（2時間）
	授業内容	労使紛争
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
10	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する（2時間）
	授業内容	不当労働行為（1）
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
11	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する（2時間）
	授業内容	不当労働行為（2）
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
12	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する（2時間）
	授業内容	団体交渉
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
13	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する（2時間）
	授業内容	労働協約（1）
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
14	事前学習	シラバスを確認し、教科書の当該部分の導入部分を読み、関連法文を確認する（2時間）
	授業内容	労働協約（2）
	事後学習	法文・裁判例等についての知識を確実にする（2時間）
15	事前学習	不確実な知識をピックアップする
	授業内容	復習
	事後学習	労働法の主要論点を確認する

科目名	ローカル／コミュニティ・メディアⅠ	担当者	大西 正行	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	地方紙、地方民放、地方出版、コミュニティFM等による情報発信を、時代潮流や時事を意識しつつ、少子高齢化社会にあつて地域再生が問われる地方の世論を担う「ローカル／コミュニティ・メディア」の取り組みを、中央メディアとの対比も交えて俯瞰する。地方メディアの発達過程とネット社会における変容を見据えた諸課題を把握し、報道面やそれを支えるビジネス面についても学び、情報発信の現場に立脚したメディアリテラシー向上に資する。			
授業目的・到達目標	地方自立の世論を担う地方メディアの課題と使命を理解し説明できる人材を養成することを目的とする。地方が直面する人口減少や地域再生等の報道を直視。地方紙が地方では全国紙を凌ぐ世論形成力を持つ意義を踏まえ、中央目線では発信し得ないコンテンツの重要性に触れ、米中対立など世界の潮流変化も地方の視座から捉える。通信社も含めた地方・中央メディアとの関係も把握し、ジャーナリズムやメディアに係る現場などの実社会において適切かつ積極的なコミュニケーションを実践できるようになることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：新聞学科1，2，3			
授業方法	パワー・ポイントで講義。地方紙編集局長等の実務経験を踏まえた講義が中心で、時事的テーマも取り上げる。双方向を意識し感想や質問を講義の折にリアクションペーパーに書いてもらう。授業内試験の解説はポータルサイトにて。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	70%＝講義後のリアクションペーパー等を含めた授業参加度。 30%＝授業内に行う学期末考査。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用せず。授業で使用するパワーポイントに関連する参考文献（資料）を随時配布。		
参考書	授業中に指示。			
オフィスアワー	リアクションペーパーも活用し質問や相談等に対応する。 オフィスアワー（金曜日授業終了後の17：50～18：20）に「授業講堂」にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容をよく読んでもらい、講義全体の流れを概観する。（2時間）
	授業内容	前期ガイダンス（授業の目的と到達目標を中心とした講義の大きな流れについて知ってもらう）
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
2	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	地方メディア〈地方紙等〉はなぜ必要か（整備新幹線建設報道をはじめとする社説等から検証）
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
3	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	地方紙から説き起こす地方メディアの成長と戦時報道（戦前編＝一県一紙等）
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
4	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	地方のメディアの発達と今：GHQとアメリカ（戦後編＝「1940年体制論」の考察と地方メディア）
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）

5	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	「県紙・ブロック紙・全国紙」の競合のもとで（現代編）
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
6	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	地方メディア〈地方紙等〉に伴走してきた通信社（共同通信社等）の源流
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
7	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	インターネットで伝える「47NEWS」（地方紙と共同通信が連携）の展開及び地方紙のネット戦略
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
8	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	広告ビジネスの視点からとらえる地方メディアの姿
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
9	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	地方民放ラジオの発達（NHKを見据えて）
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
10	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	地方民放テレビの発達とキー局系列
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
11	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	地方民放テレビのありよう
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
12	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	地方出版の歩みとこれから
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
13	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	コミュニティFM等と地域
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
14	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	情報発信拠点としての地方メディアの取り組み
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業を振り返って学んだことを整理し授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	前期のまとめ<課題執筆>
	事後学習	各講義で配布した資料等を再点検し、就職活動や社会に出てからの就業の糧にもしてもらう。（2時間）

科目名	ローカル／コミュニティ・メディアⅡ	担当者	大西 正行	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	地方紙、地方民放、地方出版、コミュニティFM等による情報発信を、時代潮流や時事を意識しつつ、少子高齢化社会にあつて地域再生が問われる地方の世論を担う「ローカル／コミュニティ・メディア」の取り組みを、中央メディアとの対比も交えて俯瞰する。地方メディアの発達過程とネット社会における変容を見据えた諸課題を把握し、報道面やそれを支えるビジネス面についても学び、情報発信の現場に立脚したメディアリテラシー向上に資する。			
授業目的・到達目標	地方自立の世論を担う地方メディアの課題と使命を理解し説明できる人材を養成することを目的とする。地方が直面する人口減少や地域再生等の報道を直視。地方紙が地方では全国紙を凌ぐ世論形成力を持つ意義を踏まえ、中央目線では発信し得ないコンテンツの重要性に触れ、米中対立など世界の潮流変化も地方の視座から捉える。通信社も含めた地方・中央メディアとの関係も把握し、ジャーナリズムやメディアに係る現場などの実社会において適切かつ積極的なコミュニケーションを実践できるようになることを目標とする。			
履修条件	関連DP及びCP：新聞学科1，2，3			
授業方法	パワー・ポイントで講義。地方紙編集局長等の実務経験を踏まえた講義が中心で、時事的テーマも取り上げる。双方向を意識し感想や質問を講義の折にリアクションペーパーに書いてもらう。授業内試験の解説はポータルサイトにて。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	70＝講義に関するリアクションペーパー等を含めた授業参加度。 30＝授業内に行う学期末考査。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用せず。授業で使用するパワーポイントに関連する参考文献（資料）を随時配布。		
参考書	授業中に指示。			
オフィスアワー	リアクションペーパーも活用し質問や相談等に対応する。 オフィスアワー＜金曜日17：50～18：20＝授業終了後＞に「授業講堂」にて。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容をよく読んでもらい、講義全体の流れを概観する。（2時間）
	授業内容	後期ガイダンス（地方紙の報道、社説）をはじめ、地方メディアの情報発信を例に、その内燃と自噴の大切さに触れていく。後期段階の国内外・地方の情勢を踏まえ、地方メディアと関係する時事的テーマも加味していくことについても説明する。
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
2	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	地べたのジャーナリズムを担う地方メディアならではの報道
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
3	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	地方メディアの社説の論調と、二極化が際立つ中央メディアの論調の源流（憲法とも関連付けて）
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
4	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	地方メディアと北朝鮮問題等、極東情勢も絡めた安全保障報道（外交と防衛）
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）

5	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	地方メディアと社会保障報道
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
6	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	地方政治行政（都道府県市町村）と霞が関・永田町（国政）と、地方メディア・中央メディアの立ち位置
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
7	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	災害報道と地方メディア（中央メディアも見据えて）
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
8	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	事件報道（県警取材）と地方メディア（中央メディアも見据えて）
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
9	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	県政報道と地方メディア（中央メディアも見据えて）
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
10	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	地方経済発展の中核を担う地方メディア
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
11	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	県民性あつての地方文化と地方メディア（明治150年後。中央メディアも見据えて）
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
12	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	これからの永続的論点：地域活性化に向けた事業展開及び広告を含めたメディアの取り組み
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
13	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	これからの永続的論点：人口減少と地方消滅の危機、少子高齢化対策（外国人労働者受け入れ拡大）と地方メディア
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
14	事前学習	事前に予告したテーマに関するニュース等をチェックし授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	これからの永続的論点：地方自立の重要性から考える地域の再生とメディア
	事後学習	講義に関して配布した資料等をもとに復習し、関連分野の問題意識を広げてもらう。（2時間）
15	事前学習	これまでの授業を振り返って整理し、授業に臨んでもらう。（2時間）
	授業内容	後半まとめ<課題執筆>
	事後学習	各講義で配布した資料等を再点検し、就職活動や社会に出てからの就業の糧にもしてもらおう。（2時間）

科目名	ローマ法Ⅰ	担当者	吉原 達也	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	民法典をはじめとする日本の法制度の根幹は明治以来西欧法の伝統のもとで形成されきたが、この授業では、民法典の遠い淵源としての古代ローマ法を中心に、その歴史を通じて、契約法と不法行為法という考え方が生まれいかにそれが現代とつながっているかを辿ってみること。				
授業目的・到達目標	法は歴史的に生成発展していくものであるから、その原点に立ち返ることは、その理解にとってきわめて重要である。それと同時に、現行法とその運用を相対化して眺めることの必要性を認識することも重要である。今日の日本社会が前提にしている現行法制度が唯一絶対のものでなく、近代という特殊な時代にヨーロッパという特殊な社会の中で培われたものであることをしっかりと知ることを目的とし、ヨーロッパ法学の大前提になっているローマ法という特殊な学問領域を通じて、契約法及び不法行為法について基本的な考え方ができる能力の修得をめざすことを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2				
履修条件	とくにありません。				
授業方法	主として、講義形式で行なう。授業内試験とその講評を通じて、講義内容の理解の深化をはかる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	前学期・後学期各1回・各50%の授業内試験の合計で評価します。ローマ法に関する基礎的な知識の習得度及び理解度によります。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	とくに指定しません。授業内で講義資料を適宜配布します。			
参考書	マンテ著田中・瀧澤訳『ローマ法の歴史』ミネルヴァ書房・2008。ベーレンツ著河上正二訳著『歴史の中の民法―ローマ法との対話』日本評論社・2001。木庭顕『新ローマ法案内』勁草書房書房・2017。				
オフィスアワー	金曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（本館9階1908）yoshihara.tatsuya@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	上記の参考書を手がかりに、ローマ法史及び日本近代法史についての基礎的な知識を修得しておくこと。（2時間）
	授業内容	前学期のオリエンテーション
	事後学習	上記の参考書を手がかりに、ローマ法史及び日本近代法史についての理解を確認しておくこと。（2時間）
2	事前学習	日本近代法史について、ベーレンツ著河上正二訳著『歴史の中の民法―ローマ法との対話』補講1などを参考に基礎的な知識を修得しておくこと。（2時間）
	授業内容	日本民法典と西欧的法伝統（1）[到達目標] 明治期の西欧法継受・法典編纂史及び学説継受について基本的な理解を修得する。
	事後学習	上記の参考書を手がかりに、日本近代法史についての理解を深めておくこと。（2時間）
3	事前学習	日本近代法史について、ベーレンツ著河上正二訳著『歴史の中の民法―ローマ法との対話』補講1などを参考に基礎的な知識を習得しておくこと。（2時間）
	授業内容	日本民法典と西欧的法伝統（2）[到達目標] 日本民法典とローマ法との関係について基本的な理解を修得する。
	事後学習	上記の参考書を手がかりに、日本近代法史についての理解を深めておくこと。（2時間）
4	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ古代 十二表法以前（1）[到達目標]最古の所有権訴訟・神聖賭金による対物的法律訴訟について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりにローマ古法をどのように考えるか、理解を深めておくこと。（2時間）

5	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ古代 十二表法以前（2）[到達目標] 握取行為による儀式的所有権移転・ネクスムについて基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりにローマ古法をどのように考えるか、理解を深めておくこと。（2時間）
6	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ古代 十二表法とその社会（1））[到達目標] 家族法・家長権・婚姻について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、家族制度の歴史をどのように考えるか、理解を深めておくこと。（2時間）
7	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ古代 十二表法とその社会（2））[到達目標] 共和政期の国制・十二表法の成立について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、十二表法以後のローマ古法をどのように考えるか、理解を深めておくこと。（2時間）
8	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ共和政期(1)[到達目標] 古代ローマにおける法学の誕生・神官法学について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、古代ローマにおける法学の誕生・神官法学について基本的な理解を修得しておくこと。（2時間）
9	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ共和政期 [到達目標] 法学の形成に関するギリシア思想の影響について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、法学の形成に関するギリシア思想の影響について基本的な理解を確認すること。（2時間）
10	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ古典期[到達目標] ローマ古典法学の形成、法学の体系をめぐる諸問題について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ古典法学の形成、法学の体系をめぐる諸問題について基本的な理解を確認すること。（2時間）
11	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ古典期[到達目標] ローマ古典法学の形成、法学の体系をめぐる諸問題について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ古典法学の形成、法学の体系をめぐる諸問題について基本的な理解を確認すること。（2時間）
12	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ古典期以後の時代）[到達目標] テオドシウス法典をはじめ、ローマ古典期以後の時代めぐる諸問題について概観する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、テオドシウス法典をはじめ、ローマ古典期以後の時代めぐる諸問題について基本的な理解を確認すること。（2時間）
13	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ユスティニアヌスの時代）[到達目標] ユスティニアヌス法典の成立・ビザンツ帝国と法について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、ユスティニアヌス法典の成立・ビザンツ帝国と法について基本的な理解を確認すること。（2時間）
14	事前学習	配布された資料をもとに、講義内容の全般を復習し理解を深めておくこと。（2時間）
	授業内容	前学期の総復習
	事後学習	試験をふまえつつ、配布資料、参考文献を手がかりに、講義内容の全般を復習し理解を深めておくこと。（2時間）
15	事前学習	配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業内試験（60分）及び解説（30分）
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、前学期の講義内容の全般を復習し理解を深めるとともに、現代法との接続を考えること。（2時間）

科目名	ローマ法Ⅱ	担当者	吉原 達也	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	民法典をはじめとする日本の法制度の根幹は明治以来西欧法の伝統のもとで形成されきたが、この授業では、民法典の遠い淵源としての古代ローマ法を中心に、その歴史を通じて、契約法と不法行為法という考え方が生まれいかにそれが現代とつながっているかを辿ってみること。				
授業目的・到達目標	法は歴史的に生成発展していくものであるから、その原点に立ち返ることは、その理解にとってきわめて重要である。それと同時に、現行法とその運用を相対化して眺めることの必要性を認識することも重要である。今日の日本社会が前提にしている現行法制度が唯一絶対のものでなく、近代という特殊な時代にヨーロッパという特殊な社会の中で培われたものであることをしっかりと知ることを目的とし、ヨーロッパ法学の大前提になっているローマ法という特殊な学問領域を通じて、契約法及び不法行為法について基本的な考え方ができる能力の修得をめざすことを目標とする。関連DP及びCP：法律学科1, 2				
履修条件	とくにありません。				
授業方法	主として、講義形式で行なう。授業内試験とその講評を通じて、講義内容の理解の深化をはかる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	前学期・後学期各1回・各50%の授業内試験の合計で評価します。ローマ法に関する基礎的な知識の習得度及び理解度によります。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	とくに指定しません。授業内で講義資料を適宜配布します。			
参考書	マンテ著田中・瀧澤訳『ローマ法の歴史』ミネルヴァ書房・2008。バーレンツ著河上正二訳著『歴史の中の民法―ローマ法との対話』日本評論社・2001。木庭顕『新ローマ法案内』勁草書房書房・2017。				
オフィスアワー	金曜日12：10～13：00（事前にメールでアポイントメントをとること。） 研究室（本館9階1908）yoshihara.tatsuya@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	上記の参考文献などを手がかりに、後期の講義内容についての基礎的な理解を修得しておくこと。（2時間）
	授業内容	後学期のオリエンテーション。[到達目標]ローマ民事訴訟法についてについて基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ民事訴訟法についてについて基本的な理解を確認すること。（2時間）
2	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ刑事法[到達目標]ローマ刑法・刑事訴訟の歴史的展開について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ刑法・刑事訴訟の歴史的展開について基本的な理解を確認する。（2時間）
3	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ所有権法（1）[到達目標]ローマ所有権法について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりにローマ所有権法についてについて基本的な理解を確認すること。（2時間）
4	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ所有権法（2）[到達目標]資料を講読しながらローマ所有権法の基本的な考え方を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ法史料を読みつつ、ローマ所有権法の考え方についての理解を深めておくこと。（2時間）

5	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ契約法（１）[到達目標]ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を確認すること。（2時間）
6	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ契約法（２）[到達目標]ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ契約法の歴史的展開について基本的な理解を確認すること。（2時間）
7	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ契約法（３）[到達目標]資料を講読しながらローマ契約法の基本的な考え方について理解を修得する。危険負担
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ契約法の基本的な考え方について理解を確認すること。（2時間）
8	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ契約法（４）[到達目標]資料を講読しながらローマ契約法の基本的な考え方について理解を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、ローマ契約法の基本的な考え方について理解を確認すること。（2時間）
9	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ不法行為法（１）[到達目標]主としてアクィリウス法を中心に不法行為法について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、アクィリウス法を中心に不法行為法について基本的な理解を確認すること。（2時間）
10	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ不法行為法（２）[到達目標]主としてアクィリウス法を中心に不法行為法について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、アクィリウス法を中心に不法行為法について基本的な理解を確認すること。（2時間）
11	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ不法行為法（３）[到達目標]不法行為法の歴史的展開として、民法719条前史について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、不法行為法の歴史的展開として、民法719条前史について基本的な理解を確認すること。（2時間）
12	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ不法行為法（４）[到達目標]不法行為法の歴史的展開として、民法719条前史について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、不法行為法の歴史的展開として、民法719条前史について基本的な理解を確認すること。（2時間）
13	事前学習	事前に配布された資料をもとに講義内容をあらかじめ概観しておくこと。（2時間）
	授業内容	ローマ家族法の諸問題 [到達目標]家父長制・婚姻・相続に関する法的問題について基本的な理解を修得する。
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、家父長制・婚姻・相続に関する法的問題について基本的な理解を確認すること。（2時間）
14	事前学習	配布された資料をもとに、講義内容の全般を復習し理解を深めておくこと。（2時間）
	授業内容	後学期のまとめ
	事後学習	試験をふまえつつ、配布資料、参考文献を手がかりに、講義内容の全般を復習し理解を深めておくこと。（2時間）
15	事前学習	配布された資料をもとに講義内容全般についての理解を確認しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業内試験（６０分）及び解説（３０分）
	事後学習	配布資料、参考文献を手がかりに、講義内容の全般を復習し理解を深めるとともに、現代法との接続を考えること。（2時間）

VIII群

教職課程科目

VIII群

教職課程科目

科目名	教育課程論	担当者	奥田 智	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	学習指導要領においては、生徒や地域等の実態を踏まえて特色ある学校づくりを進める事が求められており、学校教育における教育課程編成の重要性を理解させる。その際、全国学力・学習状況調査結果等から生徒の学習課題を明らかにするとともに、カリキュラム・マネジメントをはじめとする教育課程編成に関わる全国の事例研究を行う。また、過去の学習指導要領の改訂の歴史的な変遷にも触れながら、教育課程編成の意義についても理解する。				
授業目的・到達目標	【授業目的】学習指導要領においては、生徒や地域等の実態を踏まえて特色ある学校づくりを進める事が求められており、学校教育における教育課程編成の重要性を理解させる。 【到達目標】 1. 学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解し、説明できるようになること。 2. 教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解し、説明できるようになること。 3. 学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解し、説明できるようになること。 4. 学習指導要領改訂にある背景及び要点を理解し、説明できるようになること。				
履修条件	教員免許の取得を目指す者				
授業方法	学習指導要領等に関わる解説及び先進的な教育課程編成の事例研究などについては原則は講義形式で行うが、必要に応じて演習形式も随時取り入れ、対話的・協働的な学びの場とする。レポートの講評を授業内にて行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業に対する姿勢（40％）、授業理解度（レポート含）（30％）、授業参加度（30％）	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	平成30年度	文部科学省	高等学校学習指導要領解説総則編		
	平成29年度	文部科学省	中学校学習指導要領解説総則編		
	備考				
参考書	授業中に指示する。				
オフィスアワー	授業開始前後 1 5 分間に教室で対する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教育課程の基本概念について事前に調べる。（2時間）
	授業内容	教育課程の基本概念について解説する。
	事後学習	授業中に指示する。（2時間）
2	事前学習	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。（2時間）
	授業内容	学習指導要領の変遷と時代背景について解説する。
	事後学習	授業中に指示する。（2時間）
3	事前学習	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。（2時間）
	授業内容	新学習指導要領のねらいについて解説する。
	事後学習	授業中に指示する。（2時間）
4	事前学習	指定された者は教育時事に関係する3分間スピーチを準備する。（2時間）
	授業内容	国際学力調査及び全国学力学習状況調査結果からわかる教育課題について解説する。
	事後学習	授業中に指示する。（2時間）

5	事前学習	指定された者は教育時事に関係する 3 分間スピーチを準備する。(2 時間)
	授業内容	教育課程編成の事例研究を行う。 1
	事後学習	授業中に指示する。(2 時間)
6	事前学習	指定された者は教育時事に関係する 3 分間スピーチを準備する。(2 時間)
	授業内容	教育課程編成の事例研究を行う。 2
	事後学習	授業中に指示する。(2 時間)
7	事前学習	指定された者は教育時事に関係する 3 分間スピーチを準備する。(2 時間)
	授業内容	教育課程編成の事例研究を行う。 3
	事後学習	授業中に指示する。(2 時間)
8	事前学習	指定された者は教育時事に関係する 3 分間スピーチを準備する。(2 時間)
	授業内容	カリキュラム・マネジメントの重要性について説明する。
	事後学習	授業中に指示する。(2 時間)
9	事前学習	指定された者は教育時事に関係する 3 分間スピーチを準備する。(2 時間)
	授業内容	総合的な学習の時間の創設を通してカリキュラム・マネジメントについて解説する。(調査等による課題把握)
	事後学習	授業中に指示する。(2 時間)
10	事前学習	指定された者は教育時事に関係する 3 分間スピーチを準備する。(2 時間)
	授業内容	総合的な学習の時間の創設を通してカリキュラム・マネジメントについて解説する。(課題の対応策検討)
	事後学習	授業中に指示する。(2 時間)
11	事前学習	指定された者は教育時事に関係する 3 分間スピーチを準備する。(2 時間)
	授業内容	総合的な学習の時間の創設を通してカリキュラム・マネジメントについて解説する。(評価及び更なる改善)
	事後学習	授業中に指示する。(2 時間)
12	事前学習	指定された者は教育時事に関係する 3 分間スピーチを準備する。(2 時間)
	授業内容	学校における教育課程編成の手続きと内容について解説する。
	事後学習	授業中に指示する。(2 時間)
13	事前学習	指定された者は教育時事に関係する 3 分間スピーチを準備する。(2 時間)
	授業内容	教育課程の意義について解説する。(授業改善の重要性)
	事後学習	授業中に指示する。(2 時間)
14	事前学習	指定された者は教育時事に関係する 3 分間スピーチを準備する。(2 時間)
	授業内容	教育課程の意義について解説する。(学校改善の重要性)
	事後学習	授業中に指示する。(2 時間)
15	事前学習	指定された者は教育時事に関係する 3 分間スピーチを準備する。(2 時間)
	授業内容	教育課程の意義について総括する。
	事後学習	授業中に指示する。(2 時間)

科目名	教育原論	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	教育を人類の歴史の中に位置づけ、教育を人類の営みと考えるて教育の原理を考察する。多くの教育論の中から、教育学の成立と発展に大きな影響を与えた人々の教育観に注目して教育について考察する。			
授業目的・到達目標	人間と教育の関係、学校の成立とそれを支える教育思想、を歴史的な視点から理解することを目的とし、これからの教育の在り方を自ら考察することができるようになることを目標とする。			
履修条件	教員採用試験の受験を考えている学生。			
授業方法	講義だけでなく、教員採用試験対策問題等を行いながら、解説を加えていく。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験	100%	テーマに対して的確にまとめられているかどうかが重要で、講義内容に触れながら自分の考えを示すことを求める。	
	平 常 評 価	0%		
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない		
参 考 書	あらかじめ指定しないが、第1回目の講義で紹介する。			
オフィスアワー	火曜日2限 9号館9106研究室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	各自の教育歴を自ら振り返り、今の自分という人格がはどのようにして形成されたのかを考える。それをもとに人がどのよう成長していくか、人の人格はどのように形成されていくのかについて考える。（2時間）
	授業内容	人類のいとなみと教育の関係について
	事後学習	文献やインターネットを利用して、人の営みと教育が深くどのように深く関連しているのかを説明する事例を収集する。その中から、各自が各自の言葉で教育について表現できるようにする。（2時間）
2	事前学習	あらゆる生活現場で起きている教育現象の中から、人格の形成において、人類に共通する問題に注目して、その事例を収集整理する。（2時間）
	授業内容	教育現象の分類について（海後宗臣の教育論紹介を例として）
	事後学習	講義ノートを確認して、「陶冶」「教化」「形成」という教育現象の分類を通して教育を考え整理する。この三つの教育現象のそれぞれの特徴をまとめる。（2時間）
3	事前学習	「子どもの遊び」について考える。子どもが子ども時代しか使わない玩具、子どもの時代しか遊ばない遊びの収集を通して、子どもの文化が成立する時代を考える。（2時間）
	授業内容	「子ども」文化の成立と教育の発達について（久木幸男の教育論紹介を例として）
	事後学習	講義ノートを確認して、文明の発達が「子ども」を生み出したという理論を理解する。同時に「青年期」も文明の発達の所産であることを確認し、子どもや青年期について、自らの言葉で説明できるようにする。（2時間）
4	事前学習	学校とは何か、学校の発生はいつかという問題に答えることができる文献や記事を収集する。同時に、庶民が学校に通うようになったのはいつ頃かについても考える。（2時間）
	授業内容	学校の定義について
	事後学習	講義ノートを確認して、学校が持つ教育機能について知見を広める。同時に庶民のための学校が存在しない時代でも、庶民は教育を受けていた事実を理解する。（2時間）

5	事前学習	高等学校や大学の総合科目で学んだことを手掛かりに、古代ギリシャの歴史を調べ、アテネとスパルタの国家体制の違いに注目する。（2時間）
	授業内容	近代教育学成立以前の教育・学校（古代ギリシャの教育の紹介）
	事後学習	講義ノートを確認して、社会体制の違いが教育のありかたに強く影響することを古代ギリシャの諸ポリスの例から確認することができることを、自らの表現で説明できるようにする。（2時間）
6	事前学習	第3回目の講義を手掛かりに、子どもの発見者と呼ばれるルソーについての知見を広める。高等学校や大学講義を手掛かりにして、18世紀のヨーロッパの歴史を調べる。（2時間）
	授業内容	ルソーの教育思想　―　子どもの発見とは何か　―
	事後学習	教育学の成立・発展にルソーが果たした役割についてまとめる。『エミール』を読む。（2時間）
7	事前学習	高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、16世紀以降のヨーロッパの歴史を調べる。とくに、宗教改革について注目し、スイス、チェコ、ドイツなど中部ヨーロッパの歴史を理解する。（2時間）
	授業内容	新教育運動の展開
	事後学習	講義ノートを確認して、コメニウスの生涯と彼の著作『大教授学』及び「世界図絵」が今日の学校教育に及ぼした影響についてまとめる。（2時間）
8	事前学習	ナポレオン戦争などを通して多くの孤児が生まれた18世紀前後のヨーロッパの歴史を調べる。当時の社会福祉政策がどのようなものであったかなど混乱したヨーロッパの状況を調べる。（2時間）
	授業内容	近代教育学の成立（1）ペスタロッチの教育思想
	事後学習	講義ノートを確認して、ペスタロッチの生き方と後に「直観教授」と呼ばれる教授法の開発についてまとめ、各自が自らの言葉でペスタロッチの業績を説明できるようにする。（2時間）
9	事前学習	高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、18世紀以降のヨーロッパの歴史を調べる。（2時間）
	授業内容	近代教育学の成立（2）ヘルバルトの教育思想
	事後学習	講義ノートを確認して、ヘルバルトとペスタロッチの出会いや教育学成立に果たした役割についてまとめ、自らの言葉でその意義を説明できるようにする。（2時間）
10	事前学習	高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、19世紀以降のアメリカの歴史を調べる。（2時間）
	授業内容	進歩主義教育運動の展開
	事後学習	講義ノートを確認して、新教育運動がアメリカに伝わって、進歩主義教育といわれるようになった経緯を明らかにし、デューイ主義が世界に及ぼした影響についてまとめる。（2時間）
11	事前学習	教育学用語としての「コアカリキュラム」、近年文科省が指摘している「コアカリキュラム」の意味について、教育学辞典や書籍を検索してまとめる。（2時間）
	授業内容	デューイ主義とコアカリキュラム
	事後学習	講義ノートを確認して、コアカリキュラムの意味を理解し、自らの言葉で説明できるようにする。（2時間）
12	事前学習	高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、近代日本の教育政策について調べる。とくに、富国強兵政策と教育政策の関係についてまとめる。（2時間）
	授業内容	わが国近代公教育の成立と発展
	事後学習	講義ノートを確認して、戦前の学校教育が国家主義教育と呼ばれる理由についてまとめる。（2時間）
13	事前学習	戦後教育改革とはどのようなものであったかを理解するために、高等学校や大学の総合科目の講義を手掛かりにして、終戦と戦後史について調べる。（2時間）
	授業内容	戦後教育改革と学習指導要領の変遷
	事後学習	講義ノートを確認して、戦後教育改革が目指したものについてまとめる。とくに、GHQが示した日本の教育改革への指令が意味していたものとは何かまとめる。（2時間）
14	事前学習	1970年代後半から日本の学校教育が直面した「いじめ」、「非行」、「校内暴力」という言葉について、文献や記事さらにインターネットで調べる。（2時間）
	授業内容	1970年代「学校の教育荒廃現象」と新学力観による教育
	事後学習	1970年代後半から1980年代にかけて日本の教育界が目指したものとは何であったか。そこから試行されてきた「ゆとり教育」の導入がもたらしたものとは何だったか、講義ノートを確認して、まとめる。（2時間）
15	事前学習	「ゆとり教育」の時代から新しい価値観の教育へと変遷した経過について、文献や記事さらにインターネットで調べる。（2時間）
	授業内容	1970年代「学校の教育荒廃現象」と新学力観による教育
	事後学習	講義ノートを確認して、これからの学校が求められるものとは何か、どのような改革が必要か、各自が自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）

科目名	教職実践演習(中・高)	担当者	香川 七海	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	これまでの教職課程での学びを総括するかたちで学習を進めていきます。学校教育現場の実践知を客観的に分析することを目的とします。【実務家経験：文部科学省の「教職実践演習」設置の意向に沿うように、学校教育現場の教師を外部講師として招聘し、教育実践家から学びます】							
授業目的・到達目標	学校教育現場の実践知を客観的に分析することを目的とします。受講者の多数が介護等体験や教育実習を経験していることを踏まえ、これまで学び得た知見をグループによる発表と討議をもって、共有、相対化できることを最終的な到達目標とします。							
履修条件	教職を志望する学生（４年生）を対象とします。							
授業方法	個人報告を中心に進めます。報告内容には、授業ごとに講評いたします。また、学校教育現場に勤務する現役の教職員を外部講師（ゲストスピーカー）として招聘します（第５～７回のいずれかを予定）。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%					
	平常評価		100%		レポート（40％）、発表報告（60％）にて判断いたします。			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	備考		指定いたしません。					
参考書	北澤毅『「いじめ」自殺の社会学』（世界思想社）、遠山啓『かけがえのない、この自分』（太郎次郎社）							
オフィスアワー	金曜日の14時45分～16時。18時～19時。本館８階の研究室にて。（それ以外の日程については別途相談）							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	参考文献や新聞媒体をチェックし、教職に関する話題に目を向ける。（２時間）
	授業内容	授業の進め方についての説明とグループ分け
	事後学習	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。（２時間）
2	事前学習	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。（２時間）
	授業内容	学生による発表報告（１）学校教育現場の構造について学ぶ
	事後学習	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。（２時間）
3	事前学習	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。（２時間）
	授業内容	学生による発表報告（２）学校教育現場の「実践知」について学ぶ
	事後学習	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。（２時間）
4	事前学習	前回の内容をレジュメを読みなおして復習する。（２時間）
	授業内容	学生による発表報告（３）学校教育現場における生活指導について学ぶ
	事後学習	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。（２時間）

5	事前学習	前回の内容をレジюмеを読みなおして復習する。（2時間）
	授業内容	学生による発表報告（4）学校教育現場における教科教育について学ぶ
	事後学習	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。（2時間）
6	事前学習	前回の内容をレジюмеを読みなおして復習する。（2時間）
	授業内容	学生による発表報告（5）学校教育現場における授業実践について学ぶ
	事後学習	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。（2時間）
7	事前学習	前回の内容をレジюмеを読みなおして復習する。（2時間）
	授業内容	学生による発表報告（6）学校教育現場における教育実践について学ぶ
	事後学習	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。（2時間）
8	事前学習	前回の内容をレジюмеを読みなおして復習する。（2時間）
	授業内容	学生による発表報告（7）学校教育現場と教育行政の関係について学ぶ
	事後学習	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。（2時間）
9	事前学習	前回の内容をレジюмеを読みなおして復習する。（2時間）
	授業内容	学生による発表報告（8）学校教育現場と教育政策の関係について学ぶ
	事後学習	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。（2時間）
10	事前学習	前回の内容をレジюмеを読みなおして復習する。（2時間）
	授業内容	学生による発表報告（9）学校教育現場と社会問題の関係について学ぶ
	事後学習	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。（2時間）
11	事前学習	前回の内容をレジюмеを読みなおして復習する。（2時間）
	授業内容	学生による発表報告（10）青少年文化論と学校教育の関係について学ぶ
	事後学習	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。（2時間）
12	事前学習	前回の内容をレジюмеを読みなおして復習する。（2時間）
	授業内容	学生による発表報告（11）表象文化論と学校教育の関係について学ぶ
	事後学習	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。（2時間）
13	事前学習	前回の内容をレジюмеを読みなおして復習する。（2時間）
	授業内容	学生による発表報告（12）逸脱と非行の教育社会学について学ぶ
	事後学習	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。（2時間）
14	事前学習	前回の内容をレジюмеを読みなおして復習する。（2時間）
	授業内容	学生による発表報（13）学校教育と犯罪社会学と教育社会学の関係について学ぶ
	事後学習	授業内容を踏まえて発表報告の準備をする。（2時間）
15	事前学習	前回の内容をレジюмеを読みなおして復習する。（2時間）
	授業内容	まとめ（総括討議）
	事後学習	教職課程での学習を振り返る。（2時間）

科目名	教職実践演習(中・高)	担当者	壽福 隆人	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、3年間の教職課程各科目の履修及び介護体験、教育実習を終えて、教職に対する高い意識を育成する。教員免許状を申請するにあたり、教職課程各科目の連関性を教育実習の体験に照らして確認するとともに、教職を目指す各受講生が、どの分野の学習が不足しているか、どの分野の学習を今後一層深めなければならないかを自覚できるように、私の実務経験を紹介しながら講義する。				
授業目的・到達目標	教職に対する高い意識を育成するために、同じ目的を持つ学生たちとのディスカッションを通じて、教職を目指す他の学生の教育観や指導観を理解し、的確な評価を下すことができるようになることを目的とする。そのために、介護体験や教育実習で体験した自らの教育体験を専門的な教育用語を用いて的確に表現できるようになることを本講義の到達目標とする。				
履修条件	教員免許状の取得が見込まれる学生。				
授業方法	介護体験や教育実習体験をもとに、学生の教職に関する体験や経験の発表を中心に講義は進められる。また、私の実務経験と照らしながら講義を展開する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	教職に対する真摯な態度が見られるかどうかを各学生の発表や討論内容から評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	備考	使用しない			
参考書	適宜紹介する。				
オフィスアワー	火曜日2限 9号館9106研究室				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、自らの介護体験や教育実習の体験をまとめ、発表の準備をする。（2時間）
	授業内容	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法を紹介して、本講義が、教職課程の講義方法や評価方法に対するガイダンス。また、私の実務経験を紹介し、どのような点に注目して発表するべきか指導する。
	事後学習	介護体験・教育実習の体験をまとめ、発表の準備をする。（2時間）
2	事前学習	教育実習を踏まえて、授業参観を通して、現職教員の参考となった授業を各自一つ取り上げ、どのような点がよかったのか、「授業の構成」という観点からまとめる。また、それを発表できるようにレジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	【現職教員の授業を参観して感じたことを議論する(1)】 学生の発表をもとに、「よい授業」とは何かを受講者全員で話し合う。とくに、「授業の構成」に注目して「よい授業」に共通する点とは何かを見出すことができるように議論を進める。
	事後学習	現職教員の「よい授業」から、各自の教育実習で作成した学習指導案の問題点を「授業の構成」という観点から探し、どのような改善が可能かを考える。（2時間）
3	事前学習	教育実習を踏まえて、授業参観を通して、現職教員の参考となった授業を各自一つ取り上げ、どのような点がよかったのか、「提示資料の質」という観点からまとめる。また、それを発表できるようにレジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	【現職教員の授業を参観して感じたことを議論する(2)】 学生の発表をもとに、「よい授業」とは何かを受講者全員で話し合う。とくに、「提示資料の質」に注目して「よい授業」に共通する点とは何かを見出すことができるように議論を進める。学生の発表をもとに議論する。
	事後学習	現職教員の「よい授業」から、各自の教育実習で作成した学習指導案の問題点を「提示資料の質」という観点から探し、どのような改善が可能かを考える。（2時間）
4	事前学習	教育実習を踏まえて、授業参観を通して、現職教員の参考となった授業を各自一つ取り上げ、どのような点がよかったのか、「生徒の学習活動」という観点からまとめる。また、それを発表できるようにレジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	【現職教員の授業を参観して感じたことを議論する(3)】 学生の発表をもとに、「よい授業」とは何かを受講者全員で話し合う。とくに、生徒の学習活動に注目して「よい授業」に共通する点とは何かを見出すことができるように議論を進める。学生の発表をもとに議論する。
	事後学習	現職教員の「よい授業」から、各自の教育実習で作成した学習指導案の問題点を「生徒の学習活動」の観点から、どのような改善が可能かを考える。（2時間）

5	事前学習	教育実習を踏まえて、授業参観を通して、現職教員の参考となった授業を各自一つ取り上げ、どのような点がよかったのか、「アクティブラーニング」という観点からまとめる。また、それを発表できるようにレジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	【現職教員の授業を参観して感じたことを議論する（4）】 学生の発表をもとに、「よい授業」とは何かを受講者全員で話し合う。とくに、生徒の学習活動に注目して「よい授業」に共通する点とは何かを「アクティブラーニング」という観点から見出すことができるように議論を進める。
	事後学習	現職教員の「よい授業」から、各自の教育実習で作成した学習指導案の問題点を「アクティブラーニング」という観点から、どのような改善が可能かを考える。（2時間）
6	事前学習	教育実習の経験から教材研究の重要性についてまとめる。各自作成した教材、とくに「導入」として開発した教材の中から最も自信があるものを紹介できるようにレジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	【導入として用いた教材例】 教育実習中に開発した「導入」をして用いた教材開発の方法や苦勞について学生の発表をもとに議論する。とくに、導入教材の質と生徒の授業への関心の向上という観点から議論を進める。
	事後学習	導入に用いる教材の質が、授業全体に大きく影響することを確認し、実習においてどのような工夫が必要であったかを振り返り、この点を自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
7	事前学習	教育実習の経験から教材研究の重要性についてまとめる。各自作成した教材、とくに「展開」として開発した教材の中から最も自信があるものを紹介できるようにレジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	【展開として用いた教材例】 教育実習中に開発した「導入」をして用いた教材開発の方法や苦勞について学生の発表をもとに議論する。とくに、展開で用いた教材の質と生徒の授業への関心の向上という観点から議論を進める。学生の発表をもとに議論する。
	事後学習	展開に用いる教材の質が、授業全体に大きく影響することを確認し、実習においてどのような工夫が必要であったかを振り返り、この点を自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
8	事前学習	教育実習の経験から教材研究の重要性についてまとめる。各自作成した教材、とくに「まとめ」および「形成評価」として開発した教材の中から最も自信があるものを紹介できるようにレジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	【まとめおよび形成評価として用いた教材例】 教育実習中に開発した「導入」をして用いた教材開発の方法や苦勞について学生の発表をもとに議論する。とくに、まとめおよび形成評価で用いた教材の質と生徒の授業への関心の向上という観点から議論を進める。
	事後学習	まとめおよび形成評価に用いる教材の質が、授業全体に大きく影響することを確認し、実習においてどのような工夫が必要であったかを振り返り、この点を自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
9	事前学習	教育実習の反省から、これから作成してみたい教材について各自の考えをまとめ、そのために必要な新たな活動、見学場所について報告できるようレジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	【教材研究に必要な体験・学習】 今後教師として赴任する前に、どうしても見学しておきたい場所、経験および学習内容について、学生の発表をもとに議論する。
	事後学習	教師として赴任する前に必ず行っておきたい見学場所や体験しておきたいことについてまとめ、訪問計画・体験計画を作成する。（2時間）
10	事前学習	教育実習で体験した現在の学校教育の中で、生活指導（生徒指導）において疑問に思ったことについてまとめる。とくに、「校則」について各自の考えをまとめ、レジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	【生活指導（生徒指導）】 教育実習中に体験した「校則」とその指導について、受講学生討論を通して、現在の校則問題について考える。不適切と思われる校則がなぜ存在するのか、校則違反に関して行われている指導や罰則が適正であるのかについて議論する。
	事後学習	校則と生徒の成長について各自の意見をまとめ、自分の考えを自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
11	事前学習	教育実習に行った学校にあった教育機器や視聴覚教育機器についてまとめ、教育機器の利用と教育効果についてまとめる。教育実習中に利用した教育機器がある場合、それがどのように教育効果を上げることに役立ったかを発表するレジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	【教育機器を利用した教育】 教育機器を利用した授業についての学生の発表と討論を展開しながら、教育機器の発達や教育機器を用いた授業の代表例を紹介する。
	事後学習	教育機器を用いた授業を計画するために必要な教材研究とは何かを考え、教育実習中に作成した学習指導案の修正を各自試みる。（2時間）
12	事前学習	新学習指導要領を読んで、今後の学校教育における学習指導は何がどう変わっていかなければならないか各自の意見をまとめる。（2時間）
	授業内容	【新学習指導要領の特色】 新学習指導要領の注目点とはなにかについて議論する。その過程で、教師に求められる資質について議論し、理想とされる教師像について考える。
	事後学習	これからの学校教育に求められる教師像を明らかにし、各自が自らの言葉で理想としての教師像について発言できるようにする。（2時間）
13	事前学習	職業としての教師について考える。とくに、公立中学校教諭の給与や待遇に関する資料をインターネットを通じて検索し、教師は「よい仕事」かどうかについてまとめ、発表するためのレジュメを作成する。（2時間）
	授業内容	【職業としての教師】 教師の給与や待遇について議論し、受講生が職業としての教師をどのように考えるか議論する。それを通して、教職を目指す各自の意思について確認する。
	事後学習	人生設計の中に職業としての教師をいかに位置付けるか各自の意見をまとめ、教師を目指す「動機」について自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
14	事前学習	出生率の低下から子ども減少が続いている日本社会にいて、教育界は斜陽産業となっていくのかどうかについて考え、教師という仕事の将来性について考え、議論する材料を用意する。（2時間）
	授業内容	【人口減少・子どもの減少と教育界】 子どもの減少が社会に及ぼす影響につて、学生の発表をもとに議論する。
	事後学習	少子化と教職の関係について考え、各自が自らの言葉でこの問題について意見が述べらるようにする。（2時間）
15	事前学習	これまでの議論をまとめる。（2時間）
	授業内容	これまでの議論を通じて感じたことを、「教職を目指して」というテーマで論述し、解説する。
	事後学習	教職を目指すものとして、自らの人生設計を行う。（2時間）

科目名	教職実践演習(中・高)	担当者	和田 万紀	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	教職課程での学びと教育実習から教師として必要な知識技法等を確認して教師になることを具体的に考える。 ※フィードバックは授業内に行う。			
授業目的・到達目標	これまでの教職課程での学びを振り返り、「教師としての自分」についての理解と実践における基本的知識、技法等を養成することを目的とし、「教師になる」ことの意義、意味を確実にできることを目標とする。			
履修条件	教育実習を修了していること。教職に関する特別講義（3回）に出席すること（日程は後日通知する）。			
授業方法	学生各自の教職課程での学びを振り返り、それに基づいて集団討議や特別講義への参加、課題レポートの提出を行う。なお、各クラスは約30名前後で構成される。また、法学部教職課程特別講義（年3回程度、教育委員会、附属高等学校等教職員と連携済み）に出席して、そのテーマについてレポートし、討議する（日程は別途指示する）。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	教育実習のふりかえり、課題レポート、集団討議への参加等を総合的に判断して評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	授業中に配布する資料、文科省HPからのダウンロードした資料、文献検索による資料を用いる。		
参考書	授業中に指示する。			
オフィスアワー	月曜日 12時20分から13時まで。9号館501研究室			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	「教育実習ノート」、実習中の資料等を用意する。授業計画の中で、特別講義の日程を確認する。2時間の予習。
	授業内容	授業の計画と評価方法の説明、グループわけ。
	事後学習	教育実習だけではなく、教職課程での学びを振り返る。グループでそれらを分かち合う。2時間の復習。
2	事前学習	教職課程の学びをまとめて文章にする。2時間の予習。
	授業内容	教職課程での学びのふりかえり：個人の学びをまとめる。この経験を、他者と共有するため、発表を行う。
	事後学習	自分と他者の学びの共通点、相違点を考えて記述する。グループでそれを分かちあう。2時間の復習。
3	事前学習	教職課程での学びの中で、教育実習での学びをまとめて、実習校の先生方、指導の先生、他の実習生等との関わりについて、記述する。2時間の予習。
	授業内容	教育実習で何を学んだか：個人の学びのまとめと、教師の日常の業務を振り返り、集団討議する。
	事後学習	教師の1日がどのように進んでいくのかについて、まとめる。グループでそれを分かち合う。2時間の復習。
4	事前学習	実際の授業で使用した授業案、資料を基に、再度「授業」を行ってみる。2時間の予習。
	授業内容	教育実習で何を学んだか：個人の発表と全体の討議1：授業の作り方、展開、振り返り、について、集団で討議する。
	事後学習	授業案等から、自分の教育実習での授業の作り方、展開、振り返りについて、改善点をまとめて記述する。2時間の復習。

5	事前学習	「教師と生徒」という関係について、実習での経験を振り返り、まとめる。2時間の予習。
	授業内容	教育実習で何を学んだか：個人の発表と全体の討議2：教師と生徒との「距離の取り方、距離感」について、各自の経験を基に、集団討議する。
	事後学習	教師と生徒との関係について、経験から学んだことをまとめる。グループでそれを分かち合う。2時間の復習。
6	事前学習	「学級経営」について、教育実習での経験をまとめて記述する。2時間の予習。
	授業内容	教育実習で何を学んだか：個人の発表と全体の討議3：学級経営における「教師」の役割について、各自の経験を基に集団討議する
	事後学習	教師として学級経営で自分が行ったこと、課題等をまとめて、グループで分かち合う。2時間の復習。
7	事前学習	「組織としての学校」という視点について、配布資料を基にしながら、実習での経験をまとめて記述する。2時間の予習。
	授業内容	教育実習で何を学んだか：個人の発表と全体の討議4：「組織としての学校」について、何を学んだかを、各自の経験を基に集団討議する。
	事後学習	組織として学校がいかに機能しているのか、その中での教師の役割、等について、配布資料、自分の経験をまとめて記述する。グループでそれを分かち合う。2時間の復習。
8	事前学習	第1回特別講義について、テーマに関する配布資料等をまとめる。2時間の予習。
	授業内容	特別講義について：第1回特別講義の内容について、グループ、および全体で討議する。
	事後学習	第1回特別講義について、テーマに関するレポートを作成する。2時間の復習。
9	事前学習	第2回特別講義について、テーマに関する配布資料をまとめる。2時間の予習。
	授業内容	特別講義について：第2回特別講義の内容について、全体で討議する
	事後学習	第2回特別講義について、レポートを作成する。2時間の復習。
10	事前学習	第3回特別講義について、資料やノートをまとめる。2時間の予習。
	授業内容	特別講義について：第3回特別講義の内容について、グループおよび全体で討議する。
	事後学習	第3回特別講義について、レポートを作成する。2時間の復習。
11	事前学習	教教師という職業：教師という職業の特殊性について、教育実習を通じて学んだことを討議する師という職業の特殊性をまとめる。2時間の予習。
	授業内容	教師という職業について考える：教師という職業の特殊性を、他の職業との比較から考えて集団討議する。
	事後学習	教師という職業と他の職業の相違点をまとめて記述する。2時間の復習。
12	事前学習	自分の将来計画において、教師という職業を選択する意味を考えて記述する。2時間の予習。
	授業内容	教師という職業について考える：教師という職業を自分が選択することの意味について考え、集団討議する。
	事後学習	教師という職業を選択するために、自分に不足している点を考えて記述する。2時間の復習。
13	事前学習	授業計画、資料の準備、等を行い、模擬授業実施の準備をする。2時間の予習。
	授業内容	模擬授業：1人20分程度の模擬授業を行い、その内容や方法等をグループで討議する。
	事後学習	自分の授業方法のよかった点と改善点を確認して記述する。2時間の復習。
14	事前学習	これからの教師になる人間に期待されることについて、考えをまとめて記述する。グループで分かち合う。2時間の予習。
	授業内容	自分の理想の教師、皆から期待される教師とはどのような教師か？全体で討議する。
	事後学習	自分の理想の教師像、皆から期待される教師像、現在の自分の不足点等をまとめて記述する。2時間の復習。
15	事前学習	配布資料、まとめ等を再度確認する。2時間の予習。
	授業内容	総合的なまとめ：全体でふりかえる。
	事後学習	自分が教師という職業を選択して、教師になることの意味を再度確認する。2時間の復習。

科目名	教育制度論	担当者	李 吉魯	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	学校教育においては、その目的とそれに関わる者の範囲（児童、生徒、教師など）が教育制度によって規定されており、目的達成のための方法・手段（学校制度、学校経営、学校組織、教育内容、教材など）にも共通性が認められる。この授業では、教育に関する社会的、制度的および経営的事項についての基礎的知識を習得し、今日の教育改革に関する理解を深める。			
授業目的・到達目標	・授業目的 教育に関する基礎的知識、概念、また法規や制度について学び、学校教育のあり方や国民の教育を受ける権利などを理解する力を養成することを目的とする。 ・到達目標 教育に関する社会的、制度的および経営的事項について学び、それに基づき今日の教育改革や学校運営の取り組みなど、直面している様々な教育問題を理解し、説明できることを目標とする。			
履修条件	学生諸君は気持ちを引き締めて、教職への強い志をもって受講されたい。			
授業方法	教科書および参考資料を中心にして授業を進める。必要に応じて授業に関連する資料を配布する。また、毎回作成したリアクションペーパーを含め、課題やレポートなどについてはフィードバックを行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	学期末試験（60％）、レポートおよび小テスト（20％）、授業への積極的な参加度（20％）等によって総合的に評価する。試験の際、参考書等の持込は「不可」。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2012年	啓明出版	新訂版『わかりやすく学ぶ教育制度―課題と討論による授業の展開―』	北野秋男編
	備考	教職は厳しい側面もあるが、何よりも人も育て、人間同士の関係を育てていく仕事である。それは未来を育てる仕事である。この授業を通して、学校と教育制度との関連について興味を持ってもらえればいいと思う。		
参考書	森秀夫『要説 教育制度』学芸図書、2011年。早田幸政著『教育制度論』ミネルヴァ書房、2016年。『教育小六法』学陽書房、2016年。その他の資料は、必要に応じて授業中に紹介する。			
オフィスアワー	金曜日12:20～13:00 授業講堂にて（事前にメールでアポイントメントを取ること）。 メールアドレス：onkochishin6@hotmail.com			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、「教育」の概念について整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	教育（制度）とは何か。 学校・社会と教育の関係、授業の課題や進め方、評価、教職の学習方法などについて説明し、受講生が授業の準備を具体的にこなせるようにする。
	事後学習	教育と社会の関係や学校文化について調べてみる。（2時間）
2	事前学習	近代化と学校との関係、教育用語の概念を考察する。（2時間）
	授業内容	近代学校教育の原初形態と制度化。 学校のはじまり、近代学校の制度化過程、学校教育制度発展の道筋などを検討する。
	事後学習	日本の近代学校制度の流れから今日の教育の仕組みについて考える。（2時間）
3	事前学習	義務教育の特徴について整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	公教育制度の原理および理念。 義務制、無償性、中立性、「教育を受ける権利」と「教育の機会均等」などを学習して公教育制度の仕組みを考察する。
	事後学習	教育の機会均等と教育改革について調べてみる。（2時間）
4	事前学習	教育行財政機関の役割について整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	教育に関する行政と財政。 教育行政の原理、国と地方の教育財政およびその分担などについてその特徴を学習し、受講生が説明できるようにする。
	事後学習	教育行財政のあり方について自分なりの説明をまとめる。（2時間）

5	事前学習	教育法規の体系と特徴について整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	教育に関する法規。 日本国憲法・教育基本法、学校教育法および学校保健安全法などを例に挙げて学習する。
	事後学習	教育基本法と改正教育基本法の違いについて調べてみる。（2時間）
6	事前学習	文部科学省の役割について整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	日本における中央および地方の教育行政の組織である文部科学省と教育委員会の役割について説明し、その仕組みを学習する。
	事後学習	なぜ日本に教育委員会制度が導入されたのかについて調べてみる。（2時間）
7	事前学習	学校選択制について整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	規制緩和や地方分権。 学校選択制、民間人校長、「公設民営学校」の構想などについて考察する。
	事後学習	公設民営学校の特徴について自分なりの説明をまとめる。（2時間）
8	事前学習	学校・地域社会・家庭の関係について整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	学校管理と学校経営。 学校の管理・運営、学校経営の様態などを考察する。
	事後学習	地域社会における学校の役割について調べてみる（2時間）
9	事前学習	教育評価の目的とその特徴について整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	学校における教育活動と学校評価の制度。 児童生徒の管理および指導、学校評価の導入の経緯とその意義、学校評価の内容と実施、PDCAサイクルの重要性、質保証などを学習する。
	事後学習	学校評価の意義と評価方法について整理しておくこと。（2時間）
10	事前学習	「コミュニティ」概念の登場と「地域の教育力」の見直しについて整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	学校と地域社会との連携。 地域社会に根差した学校づくり、コミュニティ・スクールの仕組みや活動などを学習する。
	事後学習	コミュニティ・スクールの役割について理解し、自分なりの説明をまとめる。（2時間）
11	事前学習	学校保健安全法について整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	学校安全への対応策（安全管理）。 児童・生徒及び職員の健康診断、食品の安全性の確保、事件・事故や災害時の安全対策などについて検討する。
	事後学習	災害に対する備えと発生時及び発生後の対応について調べてみる。（2時間）
12	事前学習	在校時の防犯・安全対策について整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	学校安全への対応策（安全教育）。 学校における防災教育や防犯教育、交通安全教育などについて検討する。
	事後学習	生命・安全を守るためにどうしたらいいのか、自分なりの考えをまとめる。（2時間）
13	事前学習	アジアの教育制度（日本・中国・韓国等）について整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	諸外国の学校制度と教育状況。 アメリカ、イギリス、ドイツ、フランスなどの学校教育について幅広く学び、日本の学校教育との比較を試みる。
	事後学習	ヨーロッパの教育制度とアジアの教育制度の共通点と相違点について調べてみる（2時間）
14	事前学習	女子教育とジェンダー問題について整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	現代日本の教育制度改革。 子どもの貧困、教育格差、大学入試制度の改革など、現在抱えている教育問題について学習する。
	事後学習	学校教育改革によってもたらされた変化について、自分なりの考えをまとめる。（2時間）
15	事前学習	これまでの学習内容を見直し、基本的な項目・事項について整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業のまとめ
	事後学習	これまでの学習内容を見直し、学期末試験に向けて準備をする。（2時間）

科目名	教育相談	担当者	和田 万紀	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	オムニバス形式で3名の担当者が講義中心で行う。講義ごとに、関連したエクササイズまたは知識の確認のための質問を取り入れる。これにはグループ討議、ロールプレイング、心理検査（性格検査等）、事例研究等を含み、最後にリフレクションペーパーを作成して提出する。文科省等のHPからダウンロードした資料を使用して、グループ討議等に使用する。レポート提出、試験を行う。				
授業目的・到達目標	①教育相談の基本的知識を養成することを目的とし、その実践のために、②組織内外や専門家と、また教員同士と「連携」をしながら、③教師自らがカウンセリングの理論と技術の基礎、基本的態度を身につけ、心理教育的援助の実践に寄与できる知識と資質を得ることを目標とする。そして、教師としての教育相談のあり方を考え、学ぶこととする。				
履修条件	心理学Ⅰ、心理学Ⅱ、発達と学習を履修済みまたは履修中であること。				
授業方法	3名の担当によるオムニバス形式の授業となる。講義形式を中心とするが、授業内で実習やロールプレイング、集団討議等を行う。フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内テスト、レポート課題提出、討議への積極的参加、レフレーションペーパー等提出を総合的に判断する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	文科省HPからダウンロードした資料等を使用する。また、授業中に資料を配布する。			
参考書	和田万紀編 心理学第3版 弘文堂 和田万紀編 教育心理学 弘文堂				
オフィスアワー	月曜日昼休み				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業形式、授業概要を読み、授業に際しての注意事項を確認する。（2時間）
	授業内容	授業の進め方、評価の方法等の説明と集団討議、心理検査実習、ロールプレイング等のグループ分けの実施（担当：和田万紀）
	事後学習	3名の担当者によるオムニバス形式であり、森沢担当の授業は授業日程に注意する。（2時間）
2	事前学習	「教育相談」のイメージは何かについて、考える。（2時間）
	授業内容	教育相談総論：（1）歴史と理念を理解する（教育相談とは、日本の教育相談の歴史と特徴、諸外国の教育相談の例等）（担当：和田万紀）
	事後学習	「教育相談」のイメージが、授業前後でどのように変化したのか（しなかったのか）を考える。（2時間）
3	事前学習	教育相談は、誰が、どのような方法で、だれに対して、行うのか、を考える（2時間）
	授業内容	教育相談総論：（2）理論と方法を理解する（学校という組織、校内相談システムと専門機関との連携、協働、SC、SSWRとの連携と協働教育相談の予防、治療、開発の側面）（担当：和田万紀）
	事後学習	学校という組織のなかで、「協働」を基本として教育相談が行われる現状を考える。（2時間）
4	事前学習	学校組織における教育相談の実際を考え、教師として何を行うのかを具体的に考える。（2時間）
	授業内容	教育相談総論：（3）教育相談の課題と解決のための学校等組織の取り組みを理解する。（教育相談の年間計画と運営、形態、展開、評価と活用、教育相談担当者に求められる基本的態度、保護者の理解と対応）（担当：和田万紀）
	事後学習	学校組織の中で、教育相談の具体的過程を知り、組織の一員としての教師に求められる行動を考える。（2時間）

5	事前学習	児童生徒にとって、悩みとは何か。誰に相談するのか。自分の経験等を通して考える。（2時間）
	授業内容	教育相談総論：（4）児童生徒にとっての教育相談の意味を理解し、援助の方法を理解する。心理検査等の実習等を行い、アセスメントの理解を深める。（自己開示、悩みと相談、児童生徒の発達課題と教育相談、アセスメントと方法）（担当・和田万紀）
	事後学習	児童生徒の悩みは、教育相談を通じてどのように取り扱われて解決へと向かうのか。アセスメントとは何か、その方法について考える。（2時間）
6	事前学習	教師が教育相談を行う際に求められる資質とは何かを考える。（2時間）
	授業内容	カウンセリングのための心理学的基礎理論と技法1：カウンセリングマインドの意味と意義を実習をもとに理解を深める。（カウンセリングマインド、カウンセリングにおける人間関係、傾聴、共感リフレーミング）（担当：伊藤令枝）
	事後学習	教師にとってカウンセリングマインドとは何かを考える。（2時間）
7	事前学習	参考書から、臨床心理学についての知識を得る。（2時間）
	授業内容	カウンセリングのための心理学的基礎理論と技法2：カウンセリングの心理学的基礎理論と技法を理解する。（フロイト、ロジャースの理論、学習理論と認知行動療法）（担当：伊藤令枝）
	事後学習	フロイト、ロジャース、学習理論、認知行動療法、について、その相違点を考える。（2時間）
8	事前学習	上手な人間関係の築き方に必要なスキルについて考える。（2時間）
	授業内容	予防、開発的取り組み：ソーシャルスキルトレーニングを中心にしてその理論と技法を理解する。ロールプレイングを行いその理解を深める。（担当：伊藤令枝）
	事後学習	社会的スキルと人間関係について考える。自分の社会的スキルと人間関係について振り返る。（2時間）
9	事前学習	問題行動の具体的な例を経験等を踏まえながら考える。（2時間）
	授業内容	「問題行動」と教育相談1：問題行動とはなにかについて、暴力、いじめ問題を中心にして理解する。ロールプレイングを行いその理解を深める。（担当：伊藤令枝）
	事後学習	暴力、いじめ、について、加害者と当事者の立場から、考えをまとめる。（2時間）
10	事前学習	不登校について、最近の資料（文科省のHP等よりダウンロード）をもとにして、概要をまとめる。（2時間）
	授業内容	「問題行動」と教育相談2：不登校を中心にして、ロールプレイングを行い、その理解を深める。（担当：伊藤令枝）
	事後学習	不登校について、教育相談の立場からの接近方法をまとめる。（2時間）
11	事前学習	なぜ学ぶことに積極的になれないのか、自分の経験等から考える（2時間）
	授業内容	「問題行動」と教育相談3：「学力問題」という問題について理解する。ロールプレイングを行い、その理解を深める。（学習意欲、学習習慣、学級崩壊等）（担当：和田万紀）
	事後学習	教師として、学ぶことに消極的な児童生徒にどのような対処が考えられるかをまとめる（2時間）
12	事前学習	「発達障害」の定義を調べてまとめる（2時間）
	授業内容	発達障害と教育相談：発達障害のとらえ方と対応、アセスメント、認知発達、社会情動発達 言語発達とその支援、保護者への支援について、集団討議等を行い理解する。（担当：森澤亮介）
	事後学習	発達障害と教育相談の実際について、保護者の視点からまとめる。（2時間）
13	事前学習	「インクルーシブ教育」の定義を調べてまとめる（2時間）
	授業内容	インクルーシブ教育と教育相談：インクルーシブ教育の基本的概念、インクルーシブ教育の必要条件について検討し、教員への支援、保護者への支援について集団討議等を行い理解する。（担当：森澤亮介）
	事後学習	インクルーシブ教育の実際について、保護者の視点を含めてまとめる。（2時間）
14	事前学習	感情労働、バーンアウト、メンタルヘルス、職場復帰、について定義を調べてまとめる（2時間） 教師の
	授業内容	教師の支援と教育相談：感情労働とバーンアウト、教師のメンタルヘルス、教師支援と教育相談、休職と職場復帰とそのサポートについて、理解をする。（担当：和田万紀）
	事後学習	ストレスに対する対処法について、自分の例を考える。（2時間）
15	事前学習	授業での資料等をまとめる。（2時間）
	授業内容	総合的なまとめと授業内テストを行う（担当：和田万紀）
	事後学習	各講義のキーワードと事後学習について、まとめる。（2時間）

科目名	教育の方法・技術論	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	教育方法学は教育学の基礎を形成していて、簡単に言うと、学び方、教え方を探求する学問である。本講義では教育方法学の研究領域と研究方法の基礎を学ぶとともに、具体的な教育技術にも言及して、教育実践力を身につけた教員の養成を目指す。私の実務経験を紹介しながら、教育実践力を身に付けられるような講義を展開する。			
授業目的・到達目標	これからの子どもに求められる資質・能力を育成するために、情報機器を活用した授業展開ができるようになることを目的とし、教育方法学、教育技術論の基礎を理解し、説明できるようになることを目標とする。			
履修条件	教職に強い関心がある学生、プレゼンテーション技術を学びたい学生。			
授業方法	講義を中心に展開するが、適宜レポートを提示して、学生自らが情報機器を利用して教材・資料制作を行う機会を設ける。定期試験の解説を後日ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		50%	テスト課題について、的確な判断ができているかどうか、および、テキストをよく読んでいるかどうかの評価基準となる。
	平常評価		50%	定期的に出題する課題へのレポートを制限期間内に正しい方法で提出できるかどうか重要な評価基準となる。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	平成27年4月	DTP出版	歴史教育の課題と教育の方法・技術	壽福隆人
			中学校学習指導要領（最新版）	
			高等学校学習指導要領（最新版）	
	備考			
参考書	講義の中で、適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日2限 9号館9106研究室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	各自の教育歴・学校歴の中から、わかりやすい授業とはどのような授業であったか、興味関心が高まる授業とはどんな授業であったかを思いおこしてまとめる。（2時間）
	授業内容	教育学における教育方法学の位置について
	事後学習	講義ノートを確認して、教育方法学研究が教育学の成立を促したことをまとめる。教育学研究のなかで、教育方法学の意味について自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
2	事前学習	教育原論で学習した「教育学の成立」についてふりかえる。講義ノートを確認して、ペスタロッチやヘルバルトの教育論、教育方法論をまとめる。（2時間）
	授業内容	教育方法学に寄与した教育家の理論と実践
	事後学習	講義ノートを確認して、「直観教授」の理論、「訓育的教授」の理論をまとめて、各自が自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
3	事前学習	日本の近世末期の手習塾の教授方法を調べる。近代公教育で一般的に用いられている「一斉教授」との違いを明確にするために、教育学事典や文献を調査する。（2時間）
	授業内容	わが国近代公教育の成立と教授法の紹介（古典的教授理論の紹介）
	事後学習	講義ノートを確認して、近代公教育の教授法についてまとめる。教育機器やメディアを用いた最新の教育方法の基礎を形成する古典的な教授法の理解に努める。（2時間）
4	事前学習	高等学校での学習や大学での学習を基礎として、イギリス産業革命期の歴史について学ぶ。とくに、年少労働者が過酷な環境のなかで、資本主義の発達を支えた問題に注目して文献検索をおこなう。（2時間）
	授業内容	一斉教授法の成立と問題点
	事後学習	産業革命期の庶民教育の方法として、安価で合理的な教授法として「一斉教授」が普及した事実を、講義ノートから確認する。また、この教授法が基本的に無理な教授法であったことに理解を深める。（2時間）

5	事前学習	学校教育において、学習は集団を編成して行われる。この集団の種類や編成方法について、各自の教育歴・学校歴の中から経験をまとめる。（2時間）
	授業内容	学習集団の編成と学習集団に適した指導法の紹介
	事後学習	講義ノートを確認して、学習集団編成の理論と方法についてまとめる。学習集団の編成とは深い関係があることを理解し、自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
6	事前学習	小集団学習、いわゆるグループ学習の経験を各自の教育歴・学校歴の中から抽出してまとめる。各自の経験の中で、どのような学習集団が望ましかったか考え、その理由についてまとめる。（2時間）
	授業内容	教具・教育機器を用いたバズ学習の実践方法
	事後学習	講義ノートを確認し、バズセッションの理想的な編成方法と意義についてまとめる。また、バズ学習はどのような教科・科目の指導に適しているかについて考える。（2時間）
7	事前学習	各自お教育歴・学校歴の中から、形成テスト（ドリル・小テストなど）の経験についてまとめる。（2時間）
	授業内容	教具・教育機器を用いた完全習得学習の実践方法
	事後学習	完全習得学習の実践方法についてまとめる。また、完全習得学習はどのような教科・科目の指導に適しているかについて考える。（2時間）
8	事前学習	フィンランドなど北欧諸国の教育を紹介したサイトをインターネットで検索し、それらの国の授業風景との日本の教室での授業風景との違いについて感じることをまとめる。（2時間）
	授業内容	チームティーチングでの教具・教育機器の利用
	事後学習	講義ノートを確認して、チームティーチングの方法について自らの言葉でその意義を表現できるようにする。（2時間）
9	事前学習	インターネットで文部科学省のホームページを検索して、学習指導案や各種解説の入手方法について学ぶ。（2時間）
	授業内容	学習指導案とは何か（種類と目的）
	事後学習	講義ノートを確認して、学習指導案の意義と目的について理解する。また、各都道府県が示している学習指導案のモデルの入手方法についてまとめる。（2時間）
10	事前学習	インターネットで紹介されているさまざまな学習指導案を検索し、それらの特徴や注目点について考える。（2時間）
	授業内容	学習指導案作成のための教材研究の方法
	事後学習	講義ノートを確認して、学習指導案作成には十分な教材研究が必要であることを理解する。また、教材研究の方法について考える。（2時間）
11	事前学習	各自の教育歴・学校歴の中から、経験したことがある教具、教育機器についてまとめ、それらがそのような教育効果を上げたか、各自の考えをまとめる。（2時間）
	授業内容	教具・教育機器の発達（1）古典的教具
	事後学習	講義ノートを確認して、掛け図や紙媒体の資料を実際にPC上で作成してみる。その過程で、教材作成の難しさや煩雑さを体験する。（2時間）
12	事前学習	各自の教育歴や学校歴の中から経験したことがある映像提示機器についてまとめる。また、映像教材が学習課題の理解にどのように役立ったかを説明できるようにする。（2時間）
	授業内容	教具・教育機器の発達（2）映像メディア
	事後学習	講義ノートを確認して、各自のテーマにしたがって、映像教材を作成してみる。また、映像教材の背景にある制作者の意図と学習課題との関係適切であったどうかを考える必要性についてまとめる。（2時間）
13	事前学習	インターネットを検索して、明らかにフェイクニュース・情報であると思われるものを探し、講義の中で紹介できるように準備する。（2時間）
	授業内容	教具・教育機器の発達（3）ICTを用いた教育
	事後学習	講義ノートを確認して、インターネットを用いて教材を作るときの問題点を明らかにし、ICT教育の実践において留意しなければならないことを明らかにする。（2時間）
14	事前学習	通知表や調査書など教育評価の方法を考える。各自の教育歴・学校歴の中から、教育評価を示す資料にはどのようなものがあるか、どういう方法が用いられているかまとめる。（2時間）
	授業内容	評価法の種類と歴史及び意義
	事後学習	課題として示すあるクラスの成績をもとに5段階評価と各生徒に伝えるコメントを実際に作成してみる。一覧表をレポートとして提出する。（2時間）
15	事前学習	各自の教育歴・学校歴の中で、各自が通知表や調査書を受け取った経験をまとめる。通知表は子どもや青年にどのような心理的影響を与えるか考える。（2時間）
	授業内容	通知表・指導要録作成の意義と方法
	事後学習	講義ノートを確認するとともに、テキストに紹介されている指導要録を見て、教師にとって成績評価の重要性について考え、各自が各自の言葉でこのことを表現できるようにする。（2時間）

科目名	現代教職論	担当者	香川 七海	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	(1) 日本における学校教育や教職の社会的意義を学習します。(2) 教育界の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を学習します。(3) 教員の職務内容の全体像や教員の服務上・身分上の義務を学習します。(4) 学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について学習します。(以上、文部科学省「コアカリキュラム」から引用) 【実務家経験：学校教育現場の実勢経験を持つ外部講師によるレクチャーがあります】				
授業目的・到達目標	日本における学校教育や教職の社会的意義を学習し、教育界の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を養成することを目的とします。 学校教育現場の実情や実践知を理解できることを目標とします。				
履修条件	教育学分野、教育社会学分野に関心のある学生が対象になります。				
授業方法	講義形式。毎回、受講生からコメントペーパーを回収しますが、次週の授業にて、そのつど応答をします。また、学校教育現場に勤務する教職員を外部講師（ゲストスピーカー）として招聘します（第5～7回のいずれかを予定）。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	レポート作成（60％）、コメントペーパー、質疑など受講態度（40％）にて判断いたします。※コメントペーパー=出席点ではありません。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2018	弘文堂		現代教職論	羽田積男・関川悦雄
	備考				
参考書	里見実『学校を非学校化する』、『働くことと学ぶこと』、『学校でこそできることとは、なんだろうか』（太郎次郎社）				
オフィスアワー	月曜日のお昼休み、月曜日の5限、木曜日の午後（会議時間は除外）、いずれかの時間帯、本館8階の研究室にて。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	指定教科書などの準備（2時間）
	授業内容	被教育経験を相対化する試み
	事後学習	配布資料を読みなおす。（2時間）
2	事前学習	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。（2時間）
	授業内容	教職についての概論：公教育システムの構造と教職の役割とは？
	事後学習	配布資料を読みなおす。（2時間）
3	事前学習	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。（2時間）
	授業内容	教師観の歴史的変遷：戦前の公教育システムと教師像「ビンボーの時代と曙の時代？」
	事後学習	配布資料を読みなおす。（2時間）
4	事前学習	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。（2時間）
	授業内容	教師観の歴史的変遷：戦後の公教育システムと教師像 管理教育と民間教育研究運動「押さえつけと、たたかいの時代？」
	事後学習	配布資料を読みなおす。（2時間）

5	事前学習	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。（2時間）
	授業内容	教師の身分と服務（1）：教師の身分保障「なにをしたらクビになる？」
	事後学習	配布資料を読みなおす。（2時間）
6	事前学習	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。（2時間）
	授業内容	教師の身分と服務（2）：労働環境、体罰と懲戒の区別「殴られたら、やりかえす？」
	事後学習	配布資料を読みなおす。（2時間）
7	事前学習	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。（2時間）
	授業内容	教師の役割と仕事（1）：学習指導（授業実践）、生活・生徒指導（教育実践）「頭髪検査に意味はあるか？」
	事後学習	配布資料を読みなおす。（2時間）
8	事前学習	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。（2時間）
	授業内容	教師の役割と仕事（2）：校務分掌、学校経営、保護者と地域社会「PTAは、なんのため？」
	事後学習	配布資料を読みなおす。（2時間）
9	事前学習	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。（2時間）
	授業内容	教師の資質・能力：教職の専門性の輪郭「プロか、職人か、公務員か？」
	事後学習	配布資料を読みなおす。（2時間）
10	事前学習	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。（2時間）
	授業内容	教師の研修：教員研修の種別と内実
	事後学習	配布資料を読みなおす。（2時間）
11	事前学習	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。（2時間）
	授業内容	多様な教師像 テレビドラマ「金八先生」から「鈴木先生」へ
	事後学習	配布資料を読みなおす。（2時間）
12	事前学習	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。（2時間）
	授業内容	教師の多忙化と教育労働「教職はブラックか？」
	事後学習	配布資料を読みなおす。（2時間）
13	事前学習	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。（2時間）
	授業内容	チームとしての学校：「開かれた学校」と「コミュニティ・スクール」
	事後学習	配布資料を読みなおす。（2時間）
14	事前学習	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。（2時間）
	授業内容	教師の理想と現実「教師の価値＝バレンタインのチョコの数か？ 卒業式の色紙の数か？」
	事後学習	配布資料を読みなおす。（2時間）
15	事前学習	前回の授業内容について、配布資料をもとに復習をする。授業内容にリンクする時事問題をチェックする。
	授業内容	教職に関する要点まとめ
	事後学習	配布資料を読みなおす。（2時間）

科目名	自然地理学概論Ⅰ	担当者	田代 崇	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	近年の環境変動とこれに関する人間社会の対応等の自然－人間環境間の問題を理解するためには、分野を超えた幅広い教養が必要とされており、包括的理解の手段として自然地理学は有用である。本授業では、地形・気候・植生をテーマとした地理学的諸現象を例に挙げ、これらの基礎的知識を学習する。				
授業目的・到達目標	本授業では、教育職員として地理歴史科を教える上で必要とされる自然地理学の基礎的知識とこの知識を用いた自然地理学的なものの方の見方・考え方の養成を目的とする。 上記事項を理解し、説明できるようになることを目標とする。				
履修条件	なし。				
授業方法	スライド及び配布プリントを用いた講義形式。映像資料やプリントを適宜配布する。授業内において、学生主体のプレゼン及びディスカッションをおこなう。定期試験の解説は、後日ポータルシステムを通じておこなう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	学期末試験において、課題に関する理解の程度を評価する。	
	平常評価		30%	プレゼン及び提出課題中において、理解の程度を評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参考書	必要な際に授業内にて参考図書を紹介する。				
オフィスアワー	月曜日14：30～16：00／水曜日14：30～16：00。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの理解（2時間）
	授業内容	ガイダンス：講義の概要と半期の流れ、評価方法の解説、心構えなど
	事後学習	講義の流れ及び心構えの理解（2時間）
2	事前学習	講義の流れ及び心構えの理解（2時間）
	授業内容	自然地理学の概要：自然地理学とは
	事後学習	自然地理学の概要と基礎的概念を理解する（2時間）
3	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	宇宙の中の地球：太陽系と地球、地球の形成史
	事後学習	今回の授業の復習（2時間）
4	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	地球の姿：地帯構造、プレートテクトニクス
	事後学習	今回の授業の復習（2時間）

5	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	地形Ⅰ：地形の基礎
	事後学習	今回の授業の復習（2時間）
6	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	地形Ⅱ：地形と地質
	事後学習	今回の授業の復習（2時間）
7	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	地形Ⅲ：様々な地形とその成因
	事後学習	第5～7回における「地形」の内容を復習する（2時間）
8	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	気候Ⅰ：気候要素と気候因子
	事後学習	今回の授業の復習（2時間）
9	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	気候Ⅱ：気候区分
	事後学習	今回の授業の復習（2時間）
10	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	気候Ⅲ：日本の気候、都市気候など
	事後学習	第8～10回における「気候」の内容を復習する（2時間）
11	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	植生Ⅰ：植生区分と森林帯
	事後学習	今回の授業の復習（2時間）
12	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	植生Ⅱ：日本の森林帯
	事後学習	今回の授業の復習（2時間）
13	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	植生Ⅲ：森林と土壌
	事後学習	第11～13回における「植生」の内容を復習する（2時間）
14	事前学習	「地形」，「気候」，「植生」の内容を復習し，プレゼン資料を作成する（2時間）
	授業内容	プレゼン及びディスカッション - 身近な自然の中の地形・気候・植生 -
	事後学習	発表に対する意見や質問の意図を理解し，ノートにまとめる（2時間）
15	事前学習	前回までの授業の復習（2時間）
	授業内容	前学期授業の総括
	事後学習	前学期授業内容の復習及びノートの作成（2時間）

科目名	自然地理学概論Ⅱ	担当者	田代 崇	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	地球温暖化など環境変化の人間社会に対する影響や人間活動による自然環境への影響の理解を十分なものとするために、自然地理学的知識は有用と考えられる。本授業では、環境変化とその人間社会への影響や人間活動による自然環境への影響に主眼を置いた地理学的諸トピック挙げて、その時空間分布と影響について学ぶ。				
授業目的・到達目標	本授業では、教育職員として地理歴史科を教える上で必要な自然地理学的な基礎知識とこの知識を用いた自然地理学的なものの方見方・考え方の養成を目的とする。 上記事項を理解し、説明できるようになることを目標とする。				
履修条件	なし。				
授業方法	スライド及び配布プリントを用いた講義形式。映像資料やプリントを適宜配布する。授業内において、学生主体のプレゼン及びディスカッションをおこなう。定期試験の解説は、後日ポータルシステムを通じておこなう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	学期末試験において、課題に関する理解の程度を評価する。	
	平常評価		30%	プレゼン及び提出課題中において、理解の程度を評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。			
参考書	必要な際に授業内にて参考図書を紹介する。				
オフィスアワー	月曜日14：30～16：00／水曜日14：30～16：00。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの理解（2時間）
	授業内容	ガイダンス：後学期講義の概要，評価方法の解説，心構えなど
	事後学習	講義の流れ及び心構えの理解（2時間）
2	事前学習	講義の流れ及び心構えの理解（2時間）
	授業内容	自然地理学の概要：基礎的概念の復習，自然地理学の研究対象
	事後学習	自然地理学の概要と基礎的概念を理解する（2時間）
3	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	環境問題とその地域的差異
	事後学習	今回の授業の復習（2時間）
4	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	環境問題Ⅰ：世界の環境問題
	事後学習	今回の授業の復習（2時間）

5	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	環境問題Ⅱ：気候変動，地球温暖化など
	事後学習	今回の授業の復習（2時間）
6	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	環境問題Ⅲ：森林破壊，砂漠化，酸性雨など
	事後学習	今回の授業の復習（2時間）
7	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	環境問題に関する総括
	事後学習	今回の授業の復習（2時間）
8	事前学習	様々な環境問題の環境状況と自然現象を理解し，身近な環境問題に関するプレゼン資料を作成する（2時間）
	授業内容	プレゼン及びディスカッション - 身近な環境問題に関する資料作成及びプレゼン -
	事後学習	発表に対する意見や質問の意図を理解し，ノートにまとめる（2時間）
9	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	自然災害Ⅰ：地震，地震に伴う諸現象
	事後学習	今回の授業の復習（2時間）
10	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	自然災害Ⅱ：火山災害
	事後学習	今回の授業の復習（2時間）
11	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	自然災害Ⅲ：気象災害，水害など
	事後学習	今回の授業の復習（2時間）
12	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	自然科学的ケーススタディ
	事後学習	前後期を通した自然地理学的視座を通して現象の解明に至る過程を理解する（2時間）
13	事前学習	前回の授業の復習（2時間）
	授業内容	人類紀自然学的ケーススタディ
	事後学習	前後期を通した自然地理学的視座を通して現象の解明に至る過程を理解する（2時間）
14	事前学習	後学期の復習をおこない，人間活動と自然災害との関わりを考える（2時間）
	授業内容	プレゼン及びディスカッション：人間生活と自然災害に関する資料作成及びプレゼン
	事後学習	発表に対する意見や質問の意図を理解し，ノートにまとめる（2時間）
15	事前学習	前回までの授業の復習（2時間）
	授業内容	後学期授業の総括
	事後学習	後学期授業内容の復習及びノートの作成（2時間）

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ	担当者	奥田 智	部 別	第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	-------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	授業の前半は新学習指導要領の改訂の背景及び改訂のポイント及び、中学校社会科公民分野に関わる学習指導要領の「目標」「内容」「内容の取り扱い」及び「学習評価」についての理解を深めるとともに、事例研究等を行いながら「思考力」「判断力」「表現力」等を高める学習指導の在り方について学習する。授業の後半は、指導案作成及び模擬授業を行い、受講者相互に批評する形式をとり、実践的な授業構想力及び授業展開力を身に付ける。					
授業目的・到達目標	【授業目的】中学校社会科担当教員として必要な知識・技能及び実践力の養成を目的とする。 【到達目標】学習指導要領に示されている中学校社会科のと「目標」や「内容とその取扱い」等を理解し、指導計画や指導案を作成するとともにそれらを実践できるようになることを目標とする。					
履修条件	中学校社会科の教員免許取得に必修である。また、高等学校公民科・地理歴史科の教員免許取得希望者も履修することが望ましい。					
授業方法	学習指導要領等に関わる解説及び先進的な授業に関わる事例研究などについては原則は講義形式で行う。受講者による学習指導案の作成及び模擬授業等については演習形式で行う。演習後、指導案及び模擬授業の講評を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業に対する姿勢（20％）、指導案作成及び模擬授業(30%)、授業理解度(レポート含)（20％）、授業参加度(30%)	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	平成26年 1月一部改訂	日本文教出版		中学校学習指導要領解説社会編		文部科学省
	備考					
参考書	新学習指導要領の展開 社会編 原田智仁編著 明治図書					
オフィスアワー	授業終了後及び休憩時間、講堂にて行う。 授業時間：水曜 6 限					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	学習指導要領とはどのような性格を有するものか事前に調べる。(2時間)
	授業内容	新学習指導要領が改訂された背景及び改訂のポイントについて解説する。
	事後学習	講義の内容を受けて、新学習指導要領が改訂された背景及び改訂のポイントについて復習する。(2時間)
2	事前学習	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 学習指導要領における「中学校社会科公民分野」の内容構成について確認する。(2時間)
	授業内容	学習指導要領における「中学校社会科公民分野」の内容構成について解説する。
	事後学習	講義の内容を受けて、学習指導要領における「中学校社会科公民分野」の内容構成について復習する。(2時間)
3	事前学習	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 学習指導要領において「思考力・判断力・表現力」の育成についてどのように記されているか確認する。(2時間)
	授業内容	学習指導要領における「思考力・判断力・表現力」の育成について、「思考力・判断力・表現力とは何か」「思考力・判断力・表現力はどのようにすれば育むことができるのか」という視点で解説する。①
	事後学習	講義の内容を受けて、思考力・判断力・表現力を育む指導の在り方について考える。(2時間)
4	事前学習	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 学習指導要領において「思考力・判断力・表現力」の育成についてどのように記されているか確認する。(2時間)
	授業内容	学習指導要領における「思考力・判断力・表現力」の育成について、「思考力・判断力・表現力とは何か」「思考力・判断力・表現力はどのようにすれば育むことができるのか」という視点で解説する。②
	事後学習	講義の内容を受けて、思考力・判断力・表現力を育む指導の在り方について考える。(2時間)

5	事前学習	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。(2時間)
	授業内容	生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開(中学校社会科公民分野)に関わる事例研究①を行う。
	事後学習	講義を受けて、自身が指導者になった仮定で参考になることを整理する。(2時間)
6	事前学習	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。(2時間)
	授業内容	生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開(中学校社会科公民分野)に関わる事例研究②を行う。
	事後学習	講義を受けて、自身が指導者になった仮定で参考になることを整理する。(2時間)
7	事前学習	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 指定された単元(政治分野・経済分野・国際分野)の教科書記述を理解しておく。(2時間)
	授業内容	グループ毎に学習指導案(政治分野・経済分野・国際分野)を作成する。 ※グループ毎に担当分野を指定する。
	事後学習	授業で作成した学習指導案を振り返り修正する。(2時間)
8	事前学習	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 指定された単元(政治分野・経済分野・国際分野)の教科書記述を理解しておく。(2時間)
	授業内容	グループ毎に学習指導案(政治分野・経済分野・国際分野)を作成する。 ※グループ毎に担当分野を指定する。
	事後学習	授業で作成した学習指導案を振り返り改善を加える。(2時間)
9	事前学習	模擬授業を行う内容を理解しておく。(2時間)
	授業内容	指定されたグループは模擬授業(政治分野)を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。
	事後学習	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。(2時間)
10	事前学習	模擬授業を行う内容を理解しておく。(2時間)
	授業内容	指定されたグループは模擬授業(政治分野)を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。
	事後学習	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする(2時間)
11	事前学習	模擬授業を行う内容を理解しておく。(2時間)
	授業内容	指定されたグループは模擬授業(経済分野)を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。
	事後学習	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。(2時間)
12	事前学習	模擬授業を行う内容を理解しておく。(2時間)
	授業内容	指定されたグループは模擬授業(経済分野)を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。
	事後学習	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。(2時間)
13	事前学習	模擬授業を行う内容を理解しておく。(2時間)
	授業内容	指定されたグループは模擬授業(国際分野)を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。
	事後学習	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。(2時間)
14	事前学習	模擬授業を行う内容を理解しておく。(2時間)
	授業内容	指定されたグループは模擬授業(国際分野)を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。
	事後学習	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。(2時間)
15	事前学習	生徒の学習意欲を高める授業に必要な要件について自身の考えをまとめる。(2時間)
	授業内容	生徒の学習意欲を高める授業に必要な要件についてレポートにまとめる 生徒の学習意欲を高める学習指導という観点で授業を総括する。
	事後学習	学習意欲を高める授業の在り方について振り返る。(2時間)

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解し、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目指す。とくに、近年重視されているアクティブラーニングに対応できる教員をめざした教材研究作成の具体的方法について研究する。さらに、私の中学校・高等学校での実務経験を生かして、授業作り、生徒指導の方法について講義する。				
授業目的・到達目標	中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解することを目的とし、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目標とする。				
履修条件	教職課程を将来も履修し、教員免許状取得を目指している学生。				
授業方法	講義形式を中心に行うが、並行して学習指導案の作成のための教材研究を行い、適宜、研究発表を実践し、教材研究の具体的方法について講義し、解説する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		50%	社会科・公民科教育の理論と実践方法に関する論述試験を実施する。	
	平常評価		50%	定期的に課題を設定し、それに対応した学習指導案等提出物から評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019	芦書房	社会科教育課程の歴史的研究		壽福隆人
			中学校学習指導要領（最新版）		
			高等学校学習指導要領（最新版）		
	備考				
参考書	中学校社会科・高等学校公民科の教科書を準備する。各自が中学校、高等学校時代に使用した教科書可。出版社は問わない。				
オフィスアワー	火曜日2限 9号館9106研究室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	高校時代に学習したことや大学総合科目等で学習した内容を手がかりに、アメリカ史についてまとめる。とくに、19世紀末からのアメリカ社会の発達について調べる。（2時間）
	授業内容	アメリカにおいて社会科が成立した背景を理解する。
	事後学習	講義ノートを確認して、19世紀末から20世紀初頭に行われたアメリカ中等教育のカリキュラム改革についてまとめ、ここに社会科成立の起点あったことを理解する。（2時間）
2	事前学習	中学校学習指導要領を事前に読んで、意図していることをまとめる。また、インターネットで文部科学省ホームページを検索して、学習指導要領の変遷について理解する。（2時間）
	授業内容	学習指導要領における社会科の目標と内容について理解する。
	事後学習	講義ノートを確認して、学習指導要領の今次の改善点についてまとめ、社会科教育の目標について理解する。また、社会科教育の目標を自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
3	事前学習	各種教育学事典を参考にして、「教育課程」という語と「教科課程」という語の違いを調べる。とくに、戦後、「教育課程」と言われるようになった理由を明らかにする。（2時間）
	授業内容	教育課程の意義と編成方法について考える。
	事後学習	いかなる教育機関も「教育課程」を持っていることを理解し、「教育課程」が成立していることが学校の条件であることをまとめる。（2時間）
4	事前学習	中学校社会科公民的分野の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。（2時間）
	授業内容	中学校社会科公民的分野の指導目標と指導上の留意点について。
	事後学習	講義ノートと中学校社会科公民的分野の教科書から、中学校社会科公民的分野が扱う学習課題を理解する。（2時間）

5	事前学習	小学校社会科がどのような教材を扱ってきたか、中学校社会科公民分野がどのような教材を扱っているのか、高等学校公民科がどのような教材を扱うのか、学習指導要領から調査し、どのに違いがあるのかについてまとめる。（2時間）
	授業内容	中学校社会科公民科指導で使われる資料集を用いる方法について
	事後学習	小学校・高等学校の公民的学習で用いられる教材と比較して、中学校社会科公民分野が扱う教材の特徴を明らかにする。講義ノートと中学校社会科歴史的分野の教科書から、中学校社会科公民的分野が扱う学習課題を明確にする。（2時間）
6	事前学習	中学校社会科地理分野と歴史分野の学習課題を整理し、中学校公民的分野が地理的分野を歴史的分野を基礎として成立していることを理解する。（2時間）
	授業内容	中学校社会科各分野の関連する教材の取り扱いについて。
	事後学習	中学校学習指導要領が目指す「公民的資質の育成」に、中学校社会科各分野の学習が重要な意味を持っていることを理解し、社会科教育の目的について、各自が自らの言葉でそれを表現できるようにする。（2時間）
7	事前学習	高等学校公民科の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。（2時間）
	授業内容	学習指導要領における公民科の目標と内容について理解する。
	事後学習	講義ノートと高等学校地公民科の教科書から、高等学校公民科が扱う学習課題を理解する。（2時間）
8	事前学習	高等学校現代社会の教科書を事前に読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。（2時間）
	授業内容	高等学校現代社会の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。
	事後学習	講義ノートを確認し、高等学校現代社会の学習課題をまとめる。とくに、政治的分野と経済的分野、さらに青年論や環境問題に関する教材がどのように盛り込まれているかに注目して、高等学校現代社会についての理解を深める。（2時間）
9	事前学習	高等学校政治経済の教科書を読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。（2時間）
	授業内容	高等学校政治経済の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。
	事後学習	講義ノートを確認し、高等学校政治経済の学習課題をまとめる。とくに、憲法学習がどのように配置されているかに注目して政治経済学習の今後のあり方を考える。（2時間）
10	事前学習	高等学校倫理教科書を読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。（2時間）
	授業内容	高等学校倫理の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。
	事後学習	講義ノートを確認し、高等学校倫理の学習課題をまとめる。とくに、学習課題として取り上げられている「資料」に注目し、その扱い方を理解する。（2時間）
11	事前学習	新テスト（大学入学共通テスト）の導入を踏まえ、各科目の大学入試問題をがどのように変化していくか、インターネットなどからプレテスト問題を調べ、これからの高等学校教育の方向を理解する。（2時間）
	授業内容	暗記教科とならないための工夫（生徒の認識・思考・学力の理解）
	事後学習	新テストの過去2年間のプレテストを実際に回答した感想をもとに、これまでの暗記型地理歴史科が思考力を問う教科へと大きく変わっていくことを実感としてつかむ。（2時間）
12	事前学習	新テスト（大学入学共通テスト）の導入を踏まえ、社会科、公民科の形成テストも大きく変わっていかねばならないことについて考える。（2時間）
	授業内容	「社会科嫌い」をなくすための工夫（生徒の認識・思考・学力の理解）
	事後学習	デバートやグループによる発表を指導する社会科公民科の教授法について考える。また、これまでの「社会科嫌い」の原因と今後増えてくると考えられる「社会科嫌い」の違いについてまとめる。（2時間）
13	事前学習	これからの高等学校教育や公民科教育において問われる「思考力」と「表現力」について考える。（2時間）
	授業内容	評価法の工夫（暗記教科とならず、「社会科嫌い」をなくす試験問題への試み）
	事後学習	「思考力」と「表現力」を求める社会科公民科に求められるこれからの評価法とは何かを考える。（2時間）
14	事前学習	文献やインターネットを調べて、新しい社会科公民科のあり方、指導方法に関する近年の研究動向について調査する。（2時間）
	授業内容	教材研究の方法（1）発展的学習内容と学問領域との継続的接触の必要性
	事後学習	教師が教材研究の方法がまず変わらなければ、新しい学習指導要領が掲げる社会科公民科の指導には対応できないかとを講義ノートや文献研究から理解する。（2時間）
15	事前学習	生徒の興味に注目してアクティブラーニングにつなげていく教授法について考えるために、インターネットを検索して新たな試みの例を調べる。（2時間）
	授業内容	教材研究の方法（2）発展的学習内容と生徒の文化との関連への着目
	事後学習	生徒がより深く学習したいと考えるようになる教材とは何か。「教える」ことから「学びの援助」へと教材研究の方法を転換していく方法について考える。（2時間）

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	担当者	奥田 智	部 別	第二部	期 間	後期	単位数	2
-----	-------------	-----	------	-----	-----	-----	----	-----	---

授業概要	授業の前半は新学習指導要領の改訂の背景・ポイント、高等学校公民科に関わる学習指導要領の「目標」「内容」「内容の取り扱い」及び「学習評価」についての理解を深めるとともに、ディベート学習等の事例研究等を行いながら生徒の学習意欲を高める学習指導の在り方について学習する。授業の後半は、指導案作成及び模擬授業を行い、受講者相互に批評する形式をとり、実践的な授業構想力及び授業展開力を身に付ける。				
授業目的・到達目標	【授業目的】 高等学校公民科担当教員として必要な知識・技能及び実践力の養成を目的とする。 【到達目標】 学習指導要領に示されている高等学校公民科のと「目標」や「内容とその取扱い」等を理解し、指導計画や指導案を作成するとともにそれらを実践できるようになることを目標とする。				
履修条件	高等学校公民科の教員免許取得に必修である。また、高等学校地理歴史科及び中学校社会科の教員免許取得希望者も履修することが望ましい。				
授業方法	学習指導要領等に関わる解説及び先進的な授業に関わる事例研究などについては原則は講義形式で行う。受講者による学習指導案の作成及び模擬授業等については演習形式で行う。演習後、指導案及び模擬授業の講評を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業に対する姿勢（20％）、指導案作成及び模擬授業(30%)、授業理解度(レポート含)（20％）、授業参加度(30%)	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	平成22年 6月	教育出版		高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省
	備考				
参 考 書	高等学校新学習指導要領の展開公民編 大杉昭英編著 明治図書				
オフィスアワー	授業終了後及び休憩時間、講堂にて行う。 授業時間：水曜 6 限				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	新学習指導要領が改訂された背景・改訂のポイントについて事前に調べる。(2時間)
	授業内容	新学習指導要領が改訂された背景・改訂のポイントについて解説する。
	事後学習	講義の内容を受けて、新学習指導要領が改訂された背景・改訂のポイントについて復習する。(2時間)
2	事前学習	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。(2時間)
	授業内容	新学習指導要領における新科目「公共」の設置の背景など新教育課程における公民科が果たす役割について解説する。
	事後学習	公民としての資質とは何かについてまとめる。(2時間)
3	事前学習	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。(2時間)
	授業内容	公民科「現代社会」「政治経済」「倫理」の内容構成について解説する。
	事後学習	「現代社会」「政治経済」「倫理」の目標等をまとめる。(2時間)
4	事前学習	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。(2時間)
	授業内容	生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開「現代社会」に関わる事例研究を行う。
	事後学習	講義を受けて、自身が指導者になった仮定で参考になることを整理する。(2時間)

5	事前学習	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。(2時間)
	授業内容	生徒が意欲的に学習に取り組む先進的な授業展開「政治経済」「倫理」に関わる事例研究を行う。
	事後学習	講義を受けて、自身が指導者になった仮定で参考になることを整理する。(2時間)
6	事前学習	ディベート学習について事前に調べる。(2時間)
	授業内容	公民科におけるディベート学習の有効性について解説するとともに、グループ別に「我が国においては『大きな政府』に関わる政策を推進すべきである」という論題でディベート準備を行う。
	事後学習	ディベート準備を継続する。(2時間)
7	事前学習	ディベートに必要な基礎資料を用意する。(2時間)
	授業内容	代表グループが模擬ディベートを実施する。(論題：「我が国においては『大きな政府』に関わる政策を推進すべきである」)
	事後学習	公民科におけるディベート学習の有効性を整理する。(2時間)
8	事前学習	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 指定された科目「現代社会」「政治経済」「倫理」の教科書記述を理解しておく。(2時間)
	授業内容	グループ毎に学習指導案「現代社会」「政治経済」「倫理」を作成する。 ※グループ毎に担当科目を指定する。
	事後学習	授業で作成した学習指導案を振り返り修正する。(2時間)
9	事前学習	指定された者は、時事問題に関する3分間スピーチを用意する。 指定された科目「現代社会」「政治経済」「倫理」の教科書記述を理解しておく。(2時間)
	授業内容	グループ毎に学習指導案「現代社会」「政治経済」「倫理」を作成する。 ※グループ毎に担当科目を指定する。
	事後学習	授業で作成した学習指導案を振り返り修正する。(2時間)
10	事前学習	模擬授業を行う内容を理解しておく。(2時間)
	授業内容	指定されたグループは模擬授業「現代社会」を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。
	事後学習	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。(2時間)
11	事前学習	模擬授業を行う内容を理解しておく。(2時間)
	授業内容	指定されたグループは模擬授業「現代社会」を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。
	事後学習	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。(2時間)
12	事前学習	模擬授業を行う内容を理解しておく。(2時間)
	授業内容	指定されたグループは模擬授業「政治経済」を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。
	事後学習	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。(2時間)
13	事前学習	模擬授業を行う内容を理解しておく。(2時間)
	授業内容	指定されたグループは模擬授業「政治経済」を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。
	事後学習	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。(2時間)
14	事前学習	模擬授業を行う内容を理解しておく。(2時間)
	授業内容	指定されたグループは模擬授業「倫理」を行う。1グループ30分×2グループ 受講者同士で批評する。
	事後学習	模擬授業を振り返り成果と課題を明らかにする。(2時間)
15	事前学習	公民科における課題追究学習の重要性について自身の考えをまとめる。(2時間)
	授業内容	公民科における課題追究学習の重要性についてレポートにまとめる。 公民科における課題追究学習の重要性の観点で授業を総括する。
	事後学習	公民科の授業の在り方について振り返る。(2時間)

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	担当者	壽福 隆人	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	社会科公民科教育法Ⅰで学んだ理論を実践的に学ぶ。教材研究を実際に実施し、具体的な学習指導案を作成し、模擬授業を行ってみることを通じて、教科指導の理論を定着させる。とくに、アクティブラーニングやEラーニングに必要な教材研究の方法を身につける。私の実務経験を紹介しながら学習指導の方法を身につけるよう講義する。					
授業目的・到達目標	中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解することを目的とし、教育機器を用いて具体的に授業を立案し実践的報告を通して教科指導力の向上を目標とする。					
履修条件	教職課程を将来も履修し、教員免許状取得を目指している学生が優先される。					
授業方法	講義形式を中心に行うが、並行して学習指導案の作成のための教材研究を行い、適宜、研究発表を実践し、教材研究の具体的方法について説明を加え、解説する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		50%		社会科・公民科教育の理論と実践方法に関する論述試験を実施する。	
	平常評価		50%		定期的に課題を設定し、それに対応した学習指導案等提出物を評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019年	芦書房		社会科教育課程の歴史的研究		壽福隆人
				中学校学習指導要領（最新版）		
				高等学校学習指導要領（最新版）		
	備考					
参考書	中学校社会科・高等学校現代社会・高等学校政治経済・高等学校倫理の教科書を準備する。各自が中学校、高等学校時代に使用した教科書可。出版社は問わない。					
オフィスアワー	火曜日2限 9号館9106研究室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	文献や記事、授業で使う文献史料や映像資料の収集方法について、各自の方法でやってみる。その過程で、困難を感じた点や有意義であった資料収集の方法を紹介できるようにする。（2時間）
	授業内容	資料検索の方法（1）NDL-OPACを利用した資料収集の方法
	事後学習	驚異か教育法の文献だけでなく、各学問分野の研究情報を入手する方法を身につける。そのために、各自テーマを決めて、そのテーマを追求するための文献検索を実際に行ってみる。（2時間）
2	事前学習	各自テーマを決めて、インターネットを用いて資料や情報検索を試行する。とくに、それぞれの分野の専門家やその人が著わして文献の検索を実際にやって見て報告できるようにする。（2時間）
	授業内容	資料検索の方法（2）ReaD & Researchmapを利用した研究者及び資料収集の方法
	事後学習	インターネット情報には信頼をおけない情報やフェイク情報も多くあることを実際に体験して、研究者及び資料収集の方法を各自が確立できるようにする。（2時間）
3	事前学習	第1回目、第2回目の講義で実践した資料収集で集めた資料から実際に学習指導案を作成する準備をする。収集した資料で学習指導案を作成してみる。（2時間）
	授業内容	資料収集と知的財産権の問題
	事後学習	文献やインターネットから収集した資料を学習指導案作成に用いるとき、注意しておかなければならないこと、例えば、知的財産権に関する問題などについてまとめる。（2時間）
4	事前学習	学習指導要領を参照しながら、第3回目の講義で作成した学習指導案の修正点を見つけ、視聴覚教材を導入したり、デバートを授業に盛り込むなどして学習指導案の修正を試みる。（2時間）
	授業内容	収集した資料を中学生・高校生の認識・思考・学力に合わせて構成することの意義
	事後学習	インターネットで収集した資料や映像資料には制作者の意図があることを認識して、適切な提示方法を考え、作成する。とくに生徒の思考力を育てるための学習指導案とは何かを考えながら作業する。（2時間）

5	事前学習	第4回目の講義までに各自が作成した学習指導案を用いて、自宅で各自やってみる。「一人芝居」のように実際に各自で授業を実施してみて、問題点や改善点を考える。（2時間）
	授業内容	収集した資料を中学生・高校生の認識・思考・学力に合わせて構成するための方法
	事後学習	教えることばかりになっていないか、生徒が授業の中で発見があったり、思考したりすることができるような学習指導案とは何か考えながら、修正点を見つけて修正する。（2時間）
6	事前学習	第5回目までの講義で作成してきた学習指導案の中で取り上げられている資料に関連がなければ論理的に構成された授業とは言えないから、各自の学習指導案の論理構成を再検討する。（2時間）
	授業内容	教育の工学的方法について
	事後学習	講義ノートを確認して、各自が作成した学習指導案の論理性に注目して、各自の学習指導案を再考する。とくに提示資料の構成が論理的な構成となっているかに注目して修正する。（2時間）
7	事前学習	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回は紙媒体の資料を提示して授業を展開してみるための準備をする。（2時間）
	授業内容	紙媒体の資料を用いた授業実践例紹介及び模擬授業
	事後学習	紙媒体の資料を中心とした模擬授業の実践を通して、紙媒体の資料提示の問題点や限界、また、紙媒体の資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。（2時間）
8	事前学習	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回は映像資料を提示して授業を展開してみるための準備をする。（2時間）
	授業内容	映像資料を用いた授業実践例紹介及び模擬授業
	事後学習	映像資料を中心とした模擬授業の実践を通して、映像資料の資料提示の問題点や限界、また、映像資料の資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。（2時間）
9	事前学習	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回はインターネットを使いながら授業を展開してみるための準備をする。（2時間）
	授業内容	インターネットを利用する授業実践例紹介及び模擬授業
	事後学習	インターネットを中心とした模擬授業の実践を通して、インターネットでの資料提示の問題点や限界、また、インターネットでの資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。（2時間）
10	事前学習	教科書をどのように授業の中で使っていくのか、「教科書で教える」のか「教科書を教える」のか昔から問われている社会科公民科の問いについて考える。（2時間）
	授業内容	教科書・資料集の利用方法と授業実践例紹介及び模擬授業
	事後学習	講義ノートを確認して、教科書の重要語句を覚える授業からの脱却するための社会科公民科教育法を考える。生徒が自ら考え積極的に授業に参加する授業と教科書の関係について各自の意見をまとめる。（2時間）
11	事前学習	社会科地理歴史科教育で行われるディベートの実践例を文献やインターネットからさがす。とくに、テーマの作り方、討論の進め方に注目して検索する。（2時間）
	授業内容	討論を用いる授業実践例紹介及び模擬授業
	事後学習	講義ノートを確認して、ディベートを用いた授業展開の方法を、次回の模擬授業に生かす方法を考え、授業準備する。教師が模擬授業の反省を学習指導案に生かす工夫を考える。（2時間）
12	事前学習	第11回目の講義で検討した成果を授業準備に生かす。ディベートを模擬授業で実施するための資料を作成する。ディベートでの資料提示を教師がおこなうのか生徒に行わせるのかという点を考える。（2時間）
	授業内容	討論を用いる授業実践例紹介及び模擬授業
	事後学習	ディベートではどのようなことが学べるのか、どういうテーマの学習にむいて言うのかについて考えをまとめる。同時にディベートを用いた授業展開の難しさについて考える。（2時間）
13	事前学習	生徒にグループを作り、グループ単位で発表するための学習を行うために必要なこととは何かを考える。まず、グループ編成の方法、発表原稿の作り方など事前指導が必要な点を列挙する。（2時間）
	授業内容	生徒のグループ発表を実施する場合の資料収集方法の指導
	事後学習	グループ発表をメインにした授業実践例を書籍やインターネットから収集して、問題点や有効な点を明らかにし、まとめる。模擬授業としてじっすための資料および指導案を作成する。（2時間）
14	事前学習	グループ学習を実際に展開するための学習指導案を実際に作成し、研究授業として行えるよう配布資料を準備する。（2時間）
	授業内容	生徒のグループ発表を実施する場合の資料収集方法の指導
	事後学習	実際に展開したグループ学習の模擬授業の反省点をまとめる。とくに、生徒の主体性や思考力を高める授業、アクティブラーニングのひとつの方法としてその良さや問題点を整理する。（2時間）
15	事前学習	現地調査や実地調査を社会科地理歴史科教育で実施した経験を、各自の教育歴・学校歴の中から抽出して、その良さや問題点をまとめる。（2時間）
	授業内容	実地調査や実地見学の報告文を指導する方法
	事後学習	実地調査を社会科公民科の学習に用いる場合、事前準備と事後報告が重要であることを理解する。（2時間）

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	担当者	壽福 隆人	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解し、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目指す。とくに、近年重視されているアクティブラーニングに対応できる教員をめざした教材研究作成の具体的方法について研究する。さらに、私の中学校・高等学校での実務経験を生かして、授業作り、生徒指導の方法について講義する。				
授業目的・到達目標	中学校社会科・高等学校公民科学習の意義を理解することを目的とし、具体的に授業計画を立案・実践できる教師の育成を目標とする。				
履修条件	教職課程を将来も履修し、教員免許状取得を目指している学生。				
授業方法	講義形式を中心に行うが、並行して学習指導案の作成のための教材研究を行い、適宜、研究発表を実践し、教材研究の具体的方法について講義、解説する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		50%	社会科・公民科教育の理論と実践方法に関する論述試験を実施する。	
	平常評価		50%	定期的に課題を設定し、それに対応した学習指導案等提出物から平常点を評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2019	芦書房	社会科教育課程の歴史的研究		壽福隆人
			中学校学習指導要領（最新版）		
			高等学校学習指導要領（最新版）		
	備考				
参考書	中学校社会科・高等学校公民科の教科書を準備する。各自が中学校、高等学校時代に使用した教科書可。出版社は問わない。				
オフィスアワー	火曜日2限 9号館9106研究室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	高校時代に学習したことや大学総合科目等で学習した内容を手がかりに、アメリカ史についてまとめる。とくに、19世紀末からのアメリカ社会の発達について調べる。（2時間）
	授業内容	アメリカにおいて社会科が成立した背景を理解する。
	事後学習	講義ノートを確認して、19世紀末から20世紀初頭に行われたアメリカ中等教育のカリキュラム改革についてまとめ、ここに社会科成立の起点あったことを理解する。（2時間）
2	事前学習	中学校学習指導要領を事前に読んで、意図していることをまとめる。また、インターネットで文部科学省ホームページを検索して、学習指導要領の変遷について理解する。（2時間）
	授業内容	学習指導要領における社会科の目標と内容について理解する。
	事後学習	講義ノートを確認して、学習指導要領の今次の改善点についてまとめ、社会科教育の目標について理解する。また、社会科教育の目標を自らの言葉で表現できるようにする。（2時間）
3	事前学習	各種教育学事典を参考にして、「教育課程」という語と「教科課程」という語の違いを調べる。とくに、戦後、「教育課程」と言われるようになった理由を明らかにする。（2時間）
	授業内容	教育課程の意義と編成方法について考える。
	事後学習	いかなる教育機関も「教育課程」を持っていることを理解し、「教育課程」が成立していることが学校の条件であることをまとめる。（2時間）
4	事前学習	中学校社会科公民的分野の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。（2時間）
	授業内容	中学校社会科公民的分野の指導目標と指導上の留意点について。
	事後学習	講義ノートと中学校社会科公民的分野の教科書から、中学校社会科公民的分野が扱う学習課題を理解する。（2時間）

5	事前学習	小学校の公民的分野あつかう教材、高等学校公民科であつかう教材と中学校社会科公民的分野があつかう教材を比較して、その違いを検討し、中学校公民的分野が目的とする学習課題を明確にする。（2時間）
	授業内容	中学校社会科歴史的分野の指導目標と指導上の留意点について。
	事後学習	講義ノートを確認し、中学校社会科公民的分野が目指している「公民的資質」とは何かをまとめる。（2時間）
6	事前学習	中学校社会科地理分野と歴史分野の学習課題を整理し、公民的分野がこれを基礎として成り立っていることを理解する。（2時間）
	授業内容	中学校社会科各分野の関連する教材の取り扱いについて。
	事後学習	中学校学習指導要領が目指す「公民的資質の育成」に、中学校社会科各分野の学習が重要な意味を持っていることを理解し、社会科教育の目的について、各自が自らの言葉でそれを表現できるようにする。（2時間）
7	事前学習	高等学校公民科各科目の教科書を事前に目を通し、学習指導要領が定めた教育課程がどのような教材として具体化しているかを調べる。（2時間）
	授業内容	学習指導要領における公民科の目標と内容について理解する。
	事後学習	講義ノートと高等学校公民科の教科書から、高等学校公民科が扱う学習課題を理解する。（2時間）
8	事前学習	高等学校現代社会の教科書を事前に読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。（2時間）
	授業内容	高等学校現代社会の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。
	事後学習	講義ノートを確認し、高等学校現代社会の学習課題をまとめる。とくに、政治的分野と経済的分野および青年論的分野や環境論などがどのように盛り込まれているかに注目して、高等学校現代社会についての理解を深める。（2時間）
9	事前学習	高等学校政治経済の教科書を読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。（2時間）
	授業内容	高等学校政治経済の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。
	事後学習	講義ノートを確認し、高等学校政治経済の学習課題をまとめる。とくに、政治と経済の学習がどのように配置されているかに注目して政治経済学習の今後のあり方を考える。（2時間）
10	事前学習	高等学校倫理の教科書を読み、学習指導要領に掲げられた学習目標がどのような教材として具体化されているかをまとめる。（2時間）
	授業内容	高等学校倫理の背景となる学問と指導目標・指導上の留意点について。
	事後学習	講義ノートを確認し、高等学校倫理の学習課題をまとめる。とくに、学習課題として取り上げられている「資料」に注目し、その扱い方を理解する。（2時間）
11	事前学習	新テスト（大学入学共通テスト）の導入を踏まえ、各科目の大学入試問題をがどのように変化していくか、インターネットなどからプレテスト問題を調べ、これからの高等学校教育の方向を理解する。（2時間）
	授業内容	暗記教科とならないための工夫（生徒の認識・思考・学力の理解）
	事後学習	新テストの過去2年間のプレテストを実際に回答した感想をもとに、これまでの暗記型公民科が思考力を問う教科へと大きく変わっていくことを実感としてつかむ。（2時間）
12	事前学習	新テスト（大学入学共通テスト）の導入を踏まえ、社会科、公民科の形成テストも大きく変わっていかなければならないことについて考える。（2時間）
	授業内容	「社会科嫌い」をなくすための工夫（生徒の認識・思考・学力の理解）
	事後学習	デバートやグループによる発表を指導する社会科公民科の教授法について考える。また、これまでの「社会科嫌い」の原因と今後増えてくると考えられる「社会科嫌い」の違いについてまとめる。（2時間）
13	事前学習	これからの高等学校教育や公民科教育において問われる「思考力」と「表現力」について考える。（2時間）
	授業内容	評価法の工夫（暗記教科とならず、「社会科嫌い」をなくす試験問題への試み）
	事後学習	「思考力」と「表現力」を求める社会科公民科に求められるこれからの評価法とは何かを考える。（2時間）
14	事前学習	文献やインターネットを調べて、新しい社会科公民科のあり方、指導方法に関する近年の研究動向について調査する。（2時間）
	授業内容	教材研究の方法（1）発展的学習内容と学問領域との継続的接触の必要性
	事後学習	教師が教材研究の方法がまず変わらなければ、新しい学習指導要領が掲げる社会科公民科の指導には対応できないかとを講義ノートや文献研究から理解する。（2時間）
15	事前学習	生徒の興味に注目してアクティブラーニングにつなげていく教授法について考えるために、インターネットを検索して新たな試みの例を調べる。（2時間）
	授業内容	教材研究の方法（2）発展的学習内容と生徒の文化との関連への着目
	事後学習	生徒がより深く学習したいと考えるようになる教材とは何か。「教える」ことから「学びの援助」へと教材研究の方法を転換していく方法について考える。（2時間）

科目名	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	担当者	壽福 隆人	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	---------------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	社会科地理歴史科教育法Ⅰで学んだ理論を実践的に学ぶ。教材研究を実際に実施し、具体的な学習指導案を作成し、模擬授業を行ってみることを通じて、教科指導の理論を定着させる。とくに、アクティブラーニングやEラーニングに必要な教材研究の方法を身につける。私の実務経験を紹介しながら学習指導の方法を身につけるよう講義する。				
授業目的・到達目標	中学校社会科・高等学校地理歴史科学習の意義を理解することを目的とし、教育機器を用いて具体的に授業を立案し実践的報告を通して教科指導力の向上を目指すことを目標とする。				
履修条件	教職課程を将来も履修し、教員免許状取得を目指している学生が優先される。				
授業方法	講義形式を中心に行うが、並行して学習指導案の作成のための教材研究を行い、適宜、研究発表を实践し、教材研究の具体的方法について説明、解説を加える。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		50%	社会科・地歴科教育の理論と実践方法に関する論述試験を実施する。	
	平常評価		50%	定期的に課題を設定し、それに対応した学習指導案等提出物を評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2019年	足書房		社会科教育課程の歴史的研究	壽福隆人
				中学校学習指導要領（最新版）	
				高等学校学習指導要領（最新版）	
	備考				
参考書	中学校社会科・高等学校地理・高等学校日本史・高等学校世界史の教科書を準備する。各自が中学校、高等学校時代に使用した教科書可。出版社は問わない。				
オフィスアワー	火曜日2限 9号館9106研究室（休暇中を除く、事前にメールでアポイントをとること）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	文献や記事、授業で使う考古学的史料や映像資料の収集方法について、各自の方法でやってみる。その過程で、困難を感じた点や有意義であった資料収集の方法を紹介できるようにする。（2時間）
	授業内容	資料検索の方法（1）NDL-OPACを利用した資料収集の方法
	事後学習	驚異か教育法の文献だけでなく、各学問分野の研究情報を入手する方法を身につける。そのために、各自テーマを決めて、そのテーマを追求するための文献検索を実際に行ってみる。（2時間）
2	事前学習	各自テーマを決めて、インターネットを用いて資料や情報検索を試行する。とくに、それぞれの分野の専門家やその人が著わして文献の検索を実際にやって見て報告できるようにする。（2時間）
	授業内容	資料検索の方法（2）ReaD & Researchmapを利用した研究者及び資料収集の方法
	事後学習	インターネット情報には信頼をおけない情報やフェイク情報も多くあることを実際に体験して、研究者及び資料収集の方法を各自が確立できるようにする。（2時間）
3	事前学習	第1回目、第2回目の講義で実践した資料収集で集めた資料から実際に学習指導案を作成する準備をする。収集した資料で学習指導案を作成してみる。（2時間）
	授業内容	資料収集と知的財産権の問題
	事後学習	文献やインターネットから収集した資料を学習指導案作成に用いるとき、注意しておかなければならないこと、例えば、知的財産権に関する問題などについてまとめる。（2時間）
4	事前学習	学習指導要領を参照しながら、第3回目の講義で作成した学習指導案の修正点を見つけ、視聴覚教材を導入したり、デバートを授業に盛り込むなどして学習指導案の修正を試みる。（2時間）
	授業内容	収集した資料を中学生・高校生の認識・思考・学力に合わせて構成することの意義
	事後学習	インターネットで収集した資料や映像資料には制作者の意図があることを認識して、適切な提示方法を考え、作成する。とくに生徒の思考力を育てるための学習指導案とは何かを考えながら作業する。（2時間）

5	事前学習	第4回目の講義までに各自が作成した学習指導案を用いて、自宅で各自やってみる。「一人芝居」のように実際に各自で授業を実施してみて、問題点や改善点を考える。（2時間）
	授業内容	収集した資料を中学生・高校生の認識・思考・学力に合わせて構成するための方法
	事後学習	教えることばかりになっていないか、生徒が授業の中で発見があったり、思考したりすることができるような学習指導案とは何か考えながら、修正点を見つけて修正する。（2時間）
6	事前学習	第5回目までの講義で作成してきた学習指導案の中で取り上げられている資料に関連がなければ論理的に構成された授業とは言えないから、各自の学習指導案の論理構成を再検討する。（2時間）
	授業内容	教育の工学的方法について
	事後学習	講義ノートを確認して、各自が作成した学習指導案の論理性に注目して、各自の学習指導案を再考する。とくに提示資料の構成が論理的な構成となっているかに注目して修正する。（2時間）
7	事前学習	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回は紙媒体の資料を提示して授業を展開してみるための準備をする。（2時間）
	授業内容	紙媒体の資料を用いた授業実践例紹介及び模擬授業
	事後学習	紙媒体の資料を中心とした模擬授業の実践を通して、紙媒体の資料提示の問題点や限界、また、紙媒体の資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。（2時間）
8	事前学習	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回は映像資料を提示して授業を展開してみるための準備をする。（2時間）
	授業内容	映像資料を用いた授業実践例紹介及び模擬授業
	事後学習	映像資料を中心とした模擬授業の実践を通して、映像資料の資料提示の問題点や限界、また、映像資料の資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。（2時間）
9	事前学習	各自がこれまでに作成してきた学習指導案で模擬授業を展開してみるための資料を作成する。今回はインターネットを使いながら授業を展開してみるための準備をする。（2時間）
	授業内容	インターネットを利用する授業実践例紹介及び模擬授業
	事後学習	インターネットを中心とした模擬授業の実践を通して、インターネットでの資料提示の問題点や限界、また、インターネットでの資料提示の良さを考えて模擬授業を反省し、次の模擬授業に生かす工夫を考える。（2時間）
10	事前学習	教科書をどのように授業の中で使っていくのか、「教科書で教える」のか「教科書を教える」のか昔から問われている社会科地理歴史科の問いについて考える。（2時間）
	授業内容	教科書・資料集の利用方法と授業実践例紹介及び模擬授業
	事後学習	講義ノートを確認して、教科書の重要語句を覚える授業からの脱却するための社会科地理歴史科教育法を考える。生徒が自ら考え積極的に授業に参加する授業にと教科書の関係について各自の意見をまとめる。（2時間）
11	事前学習	社会科地理歴史科教育で行われるディベートの実践例を文献やインターネットからさがす。とくに、テーマの作り方、討論の進め方に注目して検索する。（2時間）
	授業内容	討論を用いる授業実践例紹介及び模擬授業
	事後学習	講義ノートを確認して、ディベートを用いた授業展開の方法を、次回の模擬授業に生かす方法を考え、授業準備する。教師が模擬授業の反省を学習指導案に生かす工夫を考える。（2時間）
12	事前学習	第11回目の講義で検討した成果を授業準備に生かす。ディベートを模擬授業で実施するための資料を作成する。ディベートでの資料提示を教師がおこなうのか生徒に行わせるのかという点を考える。（2時間）
	授業内容	討論を用いる授業実践例紹介及び模擬授業
	事後学習	ディベートではどのようなことが学べるのか、どういうテーマの学習にむいて言うのかについて考えをまとめる。同時にディベートを用いた授業展開の難しさについて考える。（2時間）
13	事前学習	生徒にグループを作り、グループ単位で発表するための学習を行うために必要なこととは何かを考える。まず、グループ編成の方法、発表原稿の作り方など事前指導が必要な点を列挙する。（2時間）
	授業内容	生徒のグループ発表を実施する場合の資料収集方法の指導
	事後学習	グループ発表をメインにした授業実践例を書籍やインターネットから収集して、問題点や有効な点を明らかにし、まとめる。模擬授業としてじっすための資料および指導案を作成する。（2時間）
14	事前学習	グループ学習を実際に展開するための学習指導案を実際に作成し、研究授業として行えるよう配布資料を準備する。（2時間）
	授業内容	生徒のグループ発表を実施する場合の資料収集方法の指導
	事後学習	実際に展開したグループ学習の模擬授業の反省点をまとめる。とくに、生徒の主体性や思考力を高める授業、アクティブラーニングのひとつの方法としてその良さや問題点を整理する。（2時間）
15	事前学習	現地調査や実地調査を社会科地理歴史科教育で実施した経験を、各自の教育歴・学校歴の中から抽出して、その良さや問題点をまとめる。（2時間）
	授業内容	実地調査や実地見学の報告文を指導する方法
	事後学習	実地調査を社会科地理歴史科の学習に用いる場合、事前準備と事後報告が重要であることを理解する。（2時間）

科目名	人文地理学概論Ⅰ	担当者	品田 光春	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	地表面における人間の存在や活動の在り方を地域的差異といった空間的視点から考察する人文地理学という学問について、その基本的なものの見方・考え方を各種の事例を紹介しながら解説する。本授業では特に人文地理学の教材としての地図の利用法に重点を置く。					
授業目的・到達目標	人文地理学に関する諸概念や教材としての地図類の利用法などについて学び、教職にとって必要とされる人文地理学的な知識・視点および技能の基礎を習得し、中学・高校で教える「地理」に関する人文地理的内容の理解力を養成することを目的とする。 上記事項を理解し、説明できるようになることを目標とする。					
履修条件	特になし。					
授業方法	講義資料（プリント）を中心とした講義形式。必要に応じて、授業中に作業を行う。可能ならば映像教材も多用する。また、授業中の作業や試験についてのフィードバック（講評・解説など）は必要に応じて授業内で行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業内試験で、授業中に解説した重要事項（地理学用語、地図の読み方など）の理解度を判定する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない				
参考書	授業中に紹介する（配布資料に明示）。					
オフィスアワー	授業（水曜４・５限）後に授業講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んで、授業内容等を確認する。地理学および人文地理学の概要について調べる。（２時間）
	授業内容	ガイダンス 本授業の進め方、受講上の注意
	事後学習	配布プリントの重要事項（地理学の学問的特性など）について復習する。（2時間）
2	事前学習	授業内容に関する地理学用語（系統地理学、地誌学など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	地理学の体系と人文地理学 系統地理学と地誌学の関係性
	事後学習	配布プリントの重要事項（地理学の体系における人文地理学の位置づけ、系統地理学と地誌学の関係性など）について復習する。（2時間）
3	事前学習	授業内容に関する地理学用語（地域、地域スケール、縮尺など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	地域と地域スケール 地理学における地域概念、地域スケールと地図の縮尺の関係
	事後学習	配布プリントの重要事項（地理学における地域概念、地域スケールと地図の縮尺の関係など）について復習する。（2時間）
4	事前学習	授業内容に関する地理学用語（地図、住宅地図など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	人文地理学的資料・教材としての地図 地図の分類と身近な地図としての「住宅地図」
	事後学習	配布プリントの重要事項（地図の分類、「住宅地図」の特徴など）について復習する。（2時間）

5	事前学習	授業内容に関する地理学用語（地形図など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	地形図の読み方（1） 地形図の概要
	事後学習	配布プリントの重要事項（地形図の概要、作成法など）について復習する。（2時間）
6	事前学習	授業内容に関する地理学用語（地図記号、等高線など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	地形図の読み方（2） 地形図読解の基本ルール 地図記号・等高線
	事後学習	配布プリントの重要事項（地形図読解の基本ルールなど）について復習する。（2時間）
7	事前学習	授業内容に関する地理学用語（扇状地など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	沖積平野の地形と農業的土地利用・集落立地の関係（1） 扇状地
	事後学習	配布プリントの重要事項（扇状地の地形と農業的土地利用・集落立地の関係の読図など）について復習する。（2時間）
8	事前学習	授業内容に関する地理学用語（氾濫原など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	沖積平野の地形と農業的土地利用・集落立地の関係（2） 氾濫原
	事後学習	配布プリントの重要事項（氾濫原の地形と農業的土地利用・集落立地の関係の読図など）について復習する。（2時間）
9	事前学習	授業内容に関する地理学用語（交通地理学、旧版地形図など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	交通地理学における旧版地形図の利用 旧版地形図から鉄道廃線を読む
	事後学習	配布プリントの重要事項（交通地理学、旧版地形図の利用法、鉄道廃線の読図など）について復習する。（2時間）
10	事前学習	授業内容に関する地理学用語（都市化など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	都市化の地理（1） 浦安の都市化
	事後学習	配布プリントの重要事項（浦安の都市化の実態とその読図など）について復習する。（2時間）
11	事前学習	授業内容に関する地理学用語（ニュータウンなど）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	都市化の地理（2） 多摩ニュータウン
	事後学習	配布プリントの重要事項（多摩ニュータウンの特徴とその変遷についての読図など）について復習する。（2時間）
12	事前学習	授業内容に関する地理学用語（戦時改描など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	戦争と地図 旧版地形図における戦時改描
	事後学習	配布プリントの重要事項（旧版地形図における戦時改描の実態など）について復習する。（2時間）
13	事前学習	授業内容に関する地理学用語（分布の一致、ハザードマップなど）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	分布論 分布の一致から地理的事象を読む 犯罪地図とハザードマップ
	事後学習	配布プリントの重要事項（分布図の事例からみた分布の一致の意義・有用性など）について復習する。（2時間）
14	事前学習	これまでの授業内容全般について復習し、地形図読解や重要な地理用語について、具体的に説明できるようにしておく。（2時間）
	授業内容	授業内試験と解説
	事後学習	試験内容について復習する。（2時間）
15	事前学習	授業内容に関する地理学用語（古地図、歴史地理学など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	古地図と歴史地理 様々な古地図から過去の地理を読む （授業内試験予備日または試験欠席者レポート提出）
	事後学習	配布プリントの重要事項（古地図の利用法など）について復習する。（2時間）

科目名	人文地理学概論Ⅱ	担当者	品田 光春	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	----------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	地表面における人間の存在や活動の在り方を地域的差異といった空間的視点から考察する人文地理学という学問について、その基本的なものの見方・考え方を各種の事例を紹介しながら解説する。本授業では特に地域概念・メンタルマップ・環境・景観に重点を置く。					
授業目的・到達目標	人文地理学に関する諸概念について学び、教職にとって必要とされる人文地理学的な知識・視点および技能の基礎を習得し、中学・高校で教える「地理」に関する人文地理的内容の理解力を養成することを目的とする。 上記事項を理解し、説明できるようになることを目標とする。					
履修条件	特になし。					
授業方法	講義資料（プリント）を中心とした講義形式。必要に応じて、授業中に作業を行う。可能ならば映像教材も多用する。また、授業中の作業や試験についてのフィードバック（講評・解説など）は必要に応じて授業内で行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業内試験で、授業中に解説した重要事項（地理学用語、研究事例など）の理解度を判定する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	使用しない				
参考書	授業中に紹介する（配布資料に明示）。					
オフィスアワー	授業（水曜４・５限）後に授業講堂にて。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んで、授業内容等を確認する。地理学および人文地理学の概要について調べる。（２時間）
	授業内容	ガイダンス 本授業の進め方、受講上の注意
	事後学習	配布プリントの重要事項（人文地理学における本授業の位置づけなど）について復習する。（２時間）
2	事前学習	授業内容に関する地理学用語（等質地域、機能地域など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（２時間）
	授業内容	等質地域と機能地域の概念 等質地域・機能地域とは何か ケッペンの気候区分とホイットルセーの世界農業地域区分
	事後学習	配布プリントの重要事項（等質地域と機能地域の概念、ケッペンの気候区分とホイットルセーの世界農業地域区分など）について復習する。（２時間）
3	事前学習	授業内容に関する地理学用語（商業地理学、商圏など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（２時間）
	授業内容	機能地域からみた商業地理 商圏の形成と変容
	事後学習	配布プリントの重要事項（商圏の定義、商圏の形成と変容の実態など）について復習する。（２時間）
4	事前学習	授業内容に関する地理学用語（実質地域、形式地域、政治地理学など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（２時間）
	授業内容	実質地域と形式地域の関係からみた政治地理 県境と国境
	事後学習	配布プリントの重要事項（実質地域と形式地域の定義、県境と国境をめぐる地域問題の実例など）について復習する。（２時間）

5	事前学習	授業内容に関する地理学用語（メンタルマップなど）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	メンタルマップ（1） 頭の中の世界像
	事後学習	配布プリントの重要事項（メンタルマップの定義。手書き世界地図の分析、子どもの成長と世界像など）について復習する。（2時間）
6	事前学習	授業内容に関する地理学用語（リンチの「都市のイメージ」など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	メンタルマップ（2） 都市のイメージ
	事後学習	配布プリントの重要事項（リンチなど都市のメンタルマップ研究の事例など）について復習する。（2時間）
7	事前学習	授業内容に関する地理学用語（環境、環境決定論、環境可能論など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	地理学における環境概念 環境決定論と環境可能論
	事後学習	配布プリントの重要事項（環境の定義と分類、環境決定論と環境可能論など）について復習する。（2時間）
8	事前学習	授業内容に関する地理学用語（砂漠化など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	現代の開発と環境問題（1） アラル海の砂漠化
	事後学習	配布プリントの重要事項（砂漠化の定義、アラル海の縮小問題の実態とその要因など）について復習する。（2時間）
9	事前学習	授業内容に関する地理学用語（熱帯林、森林破壊など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	現代の開発と環境問題（2） アマゾンの熱帯林破壊
	事後学習	配布プリントの重要事項（アマゾンの熱帯林破壊の実態とその要因など）について復習する。（2時間）
10	事前学習	授業内容に関する地理学用語（歴史地理学、文化地理学など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	環境論と歴史・文化地理（1） 『銃・病原菌・鉄』（1） 文明のはじまり
	事後学習	環境決定論と環境可能論の差異をふまえた上で、配布プリント・ビデオの重要事項（『銃・病原菌・鉄』第1巻）の内容を復習する。（2時間）
11	事前学習	前回の授業内容およびビデオのあらすじ復習しておく。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	環境論と歴史・文化地理（2） 『銃・病原菌・鉄』（2） 二つの世界の衝突
	事後学習	環境決定論と環境可能論の差異をふまえた上で、配布プリント・ビデオの重要事項（『銃・病原菌・鉄』第2巻および3巻の一部）の内容を復習する。（2時間）
12	事前学習	授業内容に関する地理学用語（景観、自然景観、文化景観、風景、景観法など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	地理学に於ける景観概念と景観保全 自然景観と文化景観、景観法と日本の景観保全
	事後学習	配布プリントの重要事（景観の定義と分類、景観法の意義など）について復習する。（2時間）
13	事前学習	授業内容に関する地理学用語（近代化産業遺産、鉱山集落など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	近代化産業遺産の保全と活用 長崎県端島（軍艦島）
	事後学習	配布プリントの重要事項を復習する。（2時間）
14	事前学習	これまでの授業内容全般について復習し、重要な地理用語や研究事例について、具体的に説明できるようにしておく。（2時間）
	授業内容	授業内試験と解説
	事後学習	試験内容について復習する。（2時間）
15	事前学習	授業内容に関する地理学用語（文化的景観など）を調べる。事前に配布プリントがある場合は、内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	文化的景観としての石見銀山 文化的景観の特徴と世界遺産としての評価 （授業内試験予備日または試験欠席者レポート提出）
	事後学習	配布プリントの重要事項（石見銀山の文化的景観の徴と世界遺産としての価値など）について復習する。（2時間）

科目名	生徒指導・進路指導論	担当者	山田 智之	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	学校教育は、すべての児童生徒の人格の健全な育成を図ることを目的に存在している。時代の変化の中で、表面化する問題への対処の仕方にも違いが出てくるが、生徒指導・進路指導には不易な部分がある。この不易な部分を学び、なおかつ現実を知ることが必要である。本講義では、学校教育現場で起こっている現実を見据え、児童生徒の個性の伸長や自己実現、自立を援助するための生徒指導、進路指導の在り方や具体的な方策について取り組みについて考える。				
授業目的・到達目標	上記の知識を養成することを目的とする。 中学校・高等学校における生徒の発達に即した生徒指導及び進路指導・キャリア教育の在り方を考察し、展望できるようになることを到達目標とする。				
履修条件	特になし。				
授業方法	講義とアクティブラーニングによる授業を行う。フィードバックは授業内もしくはポータルサイトにて行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		40%	生徒指導及び進路指導・キャリア教育に関する論述形式（1000字）の試験。	
	平常評価		60%	1 発表、論議への参加状況、リアクションペーパー（15回×3%）45% 2 課題レポート（3回×5%）15%	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特に指定しない。資料を随時配布する。			
参考書	指定しない				
オフィスアワー	授業（金曜4・5限）終了後、講堂にて。 メールでも対応する。 tomoyuki@juen.ac.jp yamada.tomoyuki@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）
	授業内容	ガイダンス及び、進路指導・キャリア教育の意義と課題
	事後学習	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）
2	事前学習	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）
	授業内容	進路指導・キャリア教育の歴史的経緯
	事後学習	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）
3	事前学習	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）
	授業内容	進路指導・キャリア発達理論（クランボルツ、スーパー、シャイン等）
	事後学習	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）
4	事前学習	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）
	授業内容	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスとカウンセリング機能
	事後学習	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）

5	事前学習	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）
	授業内容	【AL】自己理解に関わる授業事例の検討 人生双六<金の糸>
	事後学習	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）
6	事前学習	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）
	授業内容	【AL】職業観・勤労観などの育成に関わる授業事例の検討
	事後学習	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）
7	事前学習	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）
	授業内容	これからの時代の進路指導・キャリア教育
	事後学習	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）
8	事前学習	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）
	授業内容	進路指導・キャリア教育の組織と体制 （課題提示）
	事後学習	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）
9	事前学習	ワークシートを用いて授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）
	授業内容	【AL】職場体験とキャリア教育
	事後学習	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）
10	事前学習	ワークシートを用いて授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）
	授業内容	【AL】三者面談とキャリア教育
	事後学習	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）
11	事前学習	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）
	授業内容	生徒指導の組織と体制
	事後学習	リアクションペーパーにて、本日の学びを整理する。（2時間）
12	事前学習	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）
	授業内容	【AL】リーダーシップの育成に関わる授業事例の検討
	事後学習	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）
13	事前学習	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）
	授業内容	【AL】いじめ問題に関連する教育課題と解決策
	事後学習	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）
14	事前学習	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）
	授業内容	学校現場におけるリスクマネジメントの実際
	事後学習	リアクションペーパー及びワークシートに、本日の学びを整理する。（2時間）
15	事前学習	授業内容について理解が深められるよう、概要を事前に把握する。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	半期の学びを整理する。（2時間）

科目名	西洋史概論Ⅰ	担当者	馬 淵 彰	部 別	第一部 第二部	期 間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	西洋の歴史を、古代オリエントから古代ギリシア・古代ローマを経てカール大帝の時代に至るまでの通史を通じて学ぶ。				
授業目的・到達目標	【授業目的】中学校・高等学校での歴史関連科目の指導に必要とされる西洋史に関する歴史理解を確かなものとするを目的とする。 【授業目標】政治社会・文化共同体としての「ヨーロッパ」がどのように形成され、またどのように変容してきたのかについて理解したうえで、古代オリエントの時代からカール大帝の時代までの通史の説明ができることを目標とする。				
履修条件	少なくとも高校世界史の教科書や資料集などを用いて予習、復習すること。自分の専門分野や好きな事項に視野を狭めず、人間に関わるあらゆる事柄に関心を持つよう努めること。そうしないと、過去の世界は把握できない。				
授業方法	具体的なイメージを受講者が持てるようビデオや絵画や写真などを用いて、講義をおこなう。定期試験の後、どのような点に気をつけて論じるべきだったかなどについての解説をポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		50%	西洋の歴史について理解し説明できるかを判定する。授業中に解説された基本的な項目・事項について理解すること。出席日数不足の者は、採点対象外となる。	
	平常評価		50%	授業への参加度によって評価する。出席日数不足の者は、授業内課題を提出しても授業内試験を受けても点数が一切つかない。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。必要に応じて、授業内で資料を配布する。			
参考書	『ヨーロッパ論Ⅱ』 澤田昭夫編著：放送大学教育振興会（絶版。他学部図書館などに所蔵あり）。『西洋の歴史：古代・中世編』『西洋の歴史：近現代編』『教養のための西洋史入門』（どれもミネルヴァ書房）				
オフィスアワー	授業終了後、質問・相談等を受付ける。オフィスアワーは一部の学生は火曜日の昼休みか火曜日 5 限、二部の学生は水曜日 2 限。オフィスアワー利用の際は、事前にメール名などでアポイントメントをとってください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	「ヨーロッパ（西洋）とは何か」との問いへの答えを考えてくる。（2時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	ヨーロッパ（西洋）史の通史を扱うこの講義が、どのような独特な二つの視点に立って展開されていくのかを確認しておく。（2時間）
2	事前学習	ヨーロッパとは、どのような文化を持った世界なのかを考えてくる。（2時間）
	授業内容	超民族的文化共同体としてのヨーロッパ
	事後学習	講義で出てきた用語を理解し、補足をつけてノートにまとめておく。（2時間）
3	事前学習	ヨーロッパの通史が、なぜ「古代」「中世」「近代」と分けられているのかを考えてくる。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパの歴史的構造：時代区分問題
	事後学習	講義で学んだ、時代五区分について要点を明らかにしてノートにまとめておく。（2時間）
4	事前学習	古代アッシリア、新バビロニア、アケメネス朝ペルシア、古代ギリシアについて調べ、政治・社会・文化などの特徴を調べ、ノートに整理しておく。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパの語源についての諸説
	事後学習	ヨーロッパの語源について、どのような説があるかまとめる。講義中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）

5	事前学習	歴史地図を探し、古代ギリシア人が活動した地域がどこまで及んでいたのかを調べておく。また、ペルシア戦争、アテネの民主政、アレクサンドロス大王の功績について調べておく。（2時間）
	授業内容	地理的表現および価値表現としてのヨーロッパ
	事後学習	地理的表現および価値表現として「ヨーロッパ」という語がどのように用いられていたのか、その理由とともに整理しておく。講義中に出てきた用語や人名で分らなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）
6	事前学習	古代ギリシアの建築、学問、娯楽がどのようなものであったのか、また、「ルネサンス」と古代ギリシアがどのように関係しているか調べておく。（2時間）
	授業内容	古代ギリシアと後のヨーロッパとの人為的結合
	事後学習	古代ギリシアと後のヨーロッパとの人為的結合が、どのようになされたかまとめる。講義中に出てきた用語や人名で分らなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）
7	事前学習	教養教育とは何か、また、古代アテネの民主政がどのように誕生したかについて調べておく。（2時間）
	授業内容	教養理念（パイディア）と民主主義（デモクラシー）
	事後学習	古代ギリシアの教育方法がどのように現代にまで引き継がれてきたのか、また古代ギリシアと現在のデモクラシーとはどのように異なるのかまとめる。講義中に出てきた用語や人名で分らなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）
8	事前学習	共和政期のローマが、どのように周辺の国々や地域を支配下に置いたのか調べておく。（2時間）
	授業内容	「国々」を支配したローマ共和国
	事後学習	皇帝のいないローマ共和国も帝國的支配をしていたとはどういうことなのかまとめておく。講義中に出てきた用語や人名で分らなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）
9	事前学習	共和政期の古代ローマの元老院や民会がどのようなものであったのか、またローマの支配者たちがどのようにローマ市民たちを治めていたのか調べておく。（2時間）
	授業内容	ローマ共和国を支配した人々
	事後学習	ローマ共和国がどのような人々によって支配されていたのかまとめておく。講義中に出てきた用語や人名で分らなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）
10	事前学習	古代ローマがどの地域まで支配下に置いていたのか、そして今日その地域において古代ローマのどのような遺跡が存在するか調べておく。（2時間）
	授業内容	都市（キヴィタス）建設による地中海世界のローマ化
	事後学習	古代ローマに支配された地域が、どのようにしてローマの文化的影響を受けたのか整理しておく。講義中に出てきた用語や人名で分らなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）
11	事前学習	古代ローマにおいて支配者たちがどのような教育を受けていたのか調べてみる。（2時間）
	授業内容	地中海世界に浸透したローマの「文明」：「自由な帝国」
	事後学習	古代ローマの支配者たちがなぜ教養教育を重視したのかまとめておく。講義中に出てきた用語や人名で分らなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）
12	事前学習	ゲルマン民族による民族大移動と西ローマの崩壊の流れを、フランク王国のクローヴィスの時代まで学んでおく。（2時間）
	授業内容	政治社会としての「ヨーロッパ」の誕生
	事後学習	「ヨーロッパ」という言葉が、文化共同体的な意味でどのように使われ始めたかまとめておく。講義中に出てきた用語や人名で分らなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）
13	事前学習	フラン王国カロリング朝の王たちの功績や、イギリスの七王国とその文化を調べておく。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパの王カールとキリスト教帝国建設プラン
	事後学習	カール大帝がなぜキリスト教帝国を建設しようとしたのか、またどのような政治・社会・文化政策を推進したのかまとめておく。講義中に出てきた用語や人名で分らなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）
14	事前学習	カール大帝の時代から教皇グレゴリウス7世の時代までに、カールの帝国がどのように変容したか調べておく。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパ王国からキリスト教社会へ
	事後学習	カール大帝の戴冠からグレゴリウス7世までの間に、皇帝（王）と教皇とがどのような関係にあったのかまとめる。講義中に出てきた用語や人名で分らなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）
15	事前学習	古代ペルシアから教皇グレゴリウス7世までの流れを復習する。（2時間）
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	古代ペルシアから教皇グレゴリウス7世までの流れで、まだ理解できていなかった箇所や忘れてしまっていた箇所を学びなおす。（2時間）

科目名	西洋史概論Ⅱ	担当者	馬 淵 彰	部 別	第一部 第二部	期 間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	-----	------------	-----	----	-----	---

授業概要	西洋の歴史を、カール大帝の時代から現在に至るまでの通史を通じて学ぶ。			
授業目的・到達目標	【授業目的】 中学校・高等学校での歴史関連科目の指導に必要とされる西洋史に関する歴史理解を確かなものとするを目的とする。 【授業目標】 政治社会・文化共同体としての「ヨーロッパ」がどのように形成され、またどのように変容してきたのか理解したうえで、カール大帝の時代から現代までの通史の説明ができることを目標とする。			
履修条件	少なくとも高校世界史の教科書や資料集などを用いて予習、復習すること。自分の専門分野や好きな事項に視野を狭めず、人間に関わるあらゆる事柄に関心を持つよう努めること。そうしないと、過去の世界は把握できない。			
授業方法	具体的なイメージを受講者が持てるようビデオや絵画や写真などを用いて、講義をおこなう。定期試験の後、どのような点に気をつけて論じるべきだったかなどについての解説をポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	50%	西洋の歴史について理解し説明できるかを判定する。授業中に解説された基本的な項目・事項について理解すること。出席日数不足の者は、採点対象外となる。	
	平常評価	50%	授業への参加度によって評価する。出席日数不足の者は、授業内課題を提出しても授業内試験を受けても点数が一切つかない。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	教科書は使用しない。必要に応じて、授業内で資料を配布する。		
参考書	『ヨーロッパ論Ⅱ』 澤田昭夫編著：放送大学教育振興会（絶版。他学部図書館などに所蔵あり）。『西洋の歴史：古代・中世編』『西洋の歴史：近現代編』『教養のための西洋史入門』（どれもミネルヴァ書房）			
オフィスアワー	授業終了後、質問・相談等を受付ける。オフィスアワーは一部の学生は火曜日の昼休みか火曜日 5 限、二部の学生は水曜日 2 限。オフィスアワー利用の際は、事前にメール名などでアポイントメントをとってください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容		
1	事前学習	ベネディクト修道会、クリューニ修道院、シトー会、フランシスコ会、ドミニコ会がどのような修道会であるか調べておく。また、「中世ヨーロッパの都市」がいつ頃からどのように発展した、インノケンティウス3世とはどんな人物であったのか調べておく。（2時間）	
	授業内容	ガイダンス キリスト教社会の拡充：ベネディクトから托鉢修道会まで	
	事後学習	国境や民族の壁を越えて、修道院が文化共同体を各地で広め、キリスト教社会を支え、発展させていたこと、また、キリスト教社会の崩壊の危機を生み出したことをまとめておく。講義中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）	
2	事前学習	いつ頃から大学がヨーロッパに登場したのか、また、大学で何がどのように学ばれていたのか、またスコラ学とは何かについて調べておく。（2時間）	
	授業内容	大学の登場とその成果：討論とスコラ哲学	
	事後学習	国境や民族の壁を越えて、大学が知的権威を発揮して分析的・批判的精神を有する人材を輩出し、キリスト教社会を支えていたこと、またキリスト教社会崩壊の危機を生み出したことをまとめておく。講義中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）	
3	事前学習	教皇ボニファティウス8世以降、カペー朝とヴァロア朝のフランス国王たちが教皇権に対抗してどのように王権を強めていったか調べておく。（2時間）	
	授業内容	民族王権の台頭とキリスト教社会の動揺	
	事後学習	フランス国王などの民族王権の台頭と、ローマ教皇権の衰退がどのように生じたのかまとめる。講義中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）	
4	事前学習	ヨーロッパが、セルジューク朝トルコ、モンゴル帝国、中国の元朝、オスマン朝トルコとどのような関係にあったか調べておく。また、北方ゲルマン（ノルマン人やデーン人）の移動やイベリア半島でのレコンキスタについて調べておく。（2時間）	
	授業内容	世界像の変容：新たな地理的知識	
	事後学習	古代ローマの文化やキリスト教を通じてヨーロッパに継承されてきた世界像が、どのように変容したのか。また、その変容によって、ヨーロッパ人のアイデンティティがどのようなものになったのかまとめておく。講義中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）	

5	事前学習	ヒューマニストとは何か、またその作品や業績にどんなものがあるのか調べておく。（2時間）
	授業内容	キリスト教社会から再びヨーロッパへ： ヒューマニストによる「ヨーロッパ」の復活
	事後学習	ヒューマニストたちによって、「ヨーロッパ」がどのような意味で用いられ始めたかまとめる。講義中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）
6	事前学習	絶対王政、宗教改革、イギリス国教会、三十年戦争、名誉革命とはどのようなものか調べておく。（2時間）
	授業内容	主権国家の形成と勢力均衡のヨーロッパ
	事後学習	主権国家の形成がどのようになされたのか、また、皇帝権や教皇権に代わって新たな国際秩序形成の力となったものがなんだったのか整理する。（2時間）
7	事前学習	アリストタロス、プトレマイオス、コペルニクス、ケプラー、ガリレオ、ニュートンが天文学とどのように関係していたのか調べておく。また、啓蒙思想とは何か、その思想に関係する人物にどのような人々がいるか調べておく。講義中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）
	授業内容	啓蒙と世俗化のヨーロッパ
	事後学習	ヨーロッパにおいて、信仰（恩寵の光）ではなく理性の重視へとなぜ変わったのか、また、「理性の時代」にもそれに沿わない、あるいは反する文化が力を伸ばしていたことをまとめる。講義中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）
8	事前学習	教皇権や皇帝権がヨーロッパ世界秩序の要として機能しなくなったこの時代、ヨーロッパ世界の平和を実現するのにどんな方法があるか考えてくる。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパの平和の模索：さまざまな統合案・平和案
	事後学習	18世紀末までに、ヨーロッパの平和への多種多様な案が唱えられていたことをまとめる。講義中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）
9	事前学習	フランス革命、ナポレオンによる支配によってヨーロッパがどのように変容したか調べてくる。（2時間）
	授業内容	ナショナリズムのヨーロッパ： フランス革命とナポレオン
	事後学習	フランス革命とナポレオンによって、どのようにナショナリズムがヨーロッパに広まったのかまとめる。講義中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）
10	事前学習	ナポレオンがなぜ失脚したのか、ウィーン体制とは何か、メッテルニヒとはどのような人物であったのか調べてくる。（2時間）
	授業内容	反ナポレオンの「愛欧心」： ウィーン体制とメッテルニヒ
	事後学習	ナポレオン帝国崩壊後のヨーロッパ新秩序がどのようにつくられたのか、また、その新秩序はなぜ不安定となったのかまとめる。講義中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）
11	事前学習	「産業革命」とはどのように始まったのか、また、「帝国主義時代」とはどのようなものなのか調べてくる。（2時間）
	授業内容	ヨーロッパ世界の世界的拡大： 産業革命および帝国主義
	事後学習	世界がヨーロッパ化されていく過程と、ヨーロッパそのもののが他の文化との接触で変容することをまとめる。講義中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）
12	事前学習	19世紀末のヨーロッパの人々の間に、どのような理想的な国家像や世界像があったのか考えてくる。（2時間）
	授業内容	さまざまヨーロッパ像が共存するヨーロッパ
	事後学習	ナショナリズム、リベラリズム、社会主義、民族主義、帝国主義などに基づく新たな理想像が登場したことをまとめる。講義中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）
13	事前学習	第一次世界大戦と第二次世界大戦について、それぞれ原因と経過と結果について調べてくる。（2時間）
	授業内容	二つの世界大戦
	事後学習	ヨーロッパの「近代」に登場した体制や思想・理想が発展し衝突支配ながら、ヨーロッパ列強（主権国家）間の争いが世界規模で戦争を引き起こしたことをまとめる。講義中に出てきた用語や人名で分からなかったものを、調べてノートに整理する。（2時間）
14	事前学習	第二次世界大戦終結からEUの誕生までのヨーロッパの統合の流れを調べてくる。（2時間）
	授業内容	戦後ヨーロッパの向かうところ： 共同体としてのヨーロッパの見直し・挑戦
	事後学習	かつての共同体としてのヨーロッパの復活を、新たな原理によって試みているヨーロッパについてまとめる。（2時間）
15	事前学習	ヨーロッパの王カールの帝国（超民族連合体）崩壊から第二次世界大戦後のヨーロッパ連合までの流れを復習する。（2時間）
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	ヨーロッパの王カールの帝国（超民族連合体）崩壊から第二次世界大戦後のヨーロッパ連合までの流れにおいて、理解できていない箇所や忘れていた箇所を学びなおす。（2時間）

科目名	地誌学概論Ⅰ	担当者	小倉 眞	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	教職課程の本講義では、地理学的概念に基づいて「地域」を抽出し、地域内に展開する自然的・社会経済的諸現象について実態分析を行い、「地域構造」を把握することを目標とする。具体的には地理学の学問的特徴と地誌学の関係、地域の画定方法、また日本の諸地域（北海道等）について地誌学手視点から整理をすると共に、微視的地誌の分析として富山県の扇状地地域を抽出して小地域の地誌的観点からの分析・整理などを行う。				
授業目的・到達目標	地誌学は地理学的概念に基づいて「地域」を抽出し、地域内に展開する自然的・社会経済的諸現象を整理すると共に詳細な実態分析を行い、「地域の構造」を把握することを目的としている。到達目標：1. 地域の諸要素を抽出し、地域の特色を客観的に理解できる。2. 日本及び世界の諸地域における多様性や特徴を把握し、説明できる。3. 地図・地理資料などを使用して地理学的視点に基づいて説明できる。				
履修条件	特になし。				
授業方法	テキストは使用せず、配布したプリントによって授業を進める。また、適宜にPC（パワーポイント）・ビデオ等を使用する。（フィードバック方法：課題レポート・小テストの講評と討議、授業内試験とその後の解説等によって行う）				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		75%	授業内容を客観的に理解しているか、また論理思考がなされているかについて検証・評価する。	
	平常評価		25%	授業への積極的参加度合いを授業後の小テスト・発表などにより評価する。（10%）特定のテーマについて課題を設定し、レポート提出を求める。（15%）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用せず、配布したプリントに沿って授業を行う。			
参考書	地図帳を準備する。その他の参考文献については授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	(月) 12：10～13：00 14：40～16：00 (水) 12：10～13：00 事前にメールにてアポイントメントをとること。 研究室（4号館4階441） メールアドレス：ogura.makoto@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスで授業内容の確認をする。（1時間）
	授業内容	地誌学と地理学（1） 「地理学の学問的特徴」 地理学の歴史的発展過程と地誌学の位置づけについて整理すると共に、教科としての地理について整理・考察する。
	事後学習	地理学の歴史と発展過程、地域研究との関係について具体的事例を踏まえて整理する。（3時間）
2	事前学習	プリントにより地理学の研究範囲（自然地理学と人文地理学）と地誌学の関係について検証する。（2時間）
	授業内容	地誌学と地理学（2） 「系統地理学と地誌学における地域の捉え方」 地理学（系統地理学）と地誌学の位置づけについて理論的に整理・考察する。
	事後学習	系統地理学（テーマ研究）と地誌学（総合的地域研究）の相違・特色について整理する。（2時間）
3	事前学習	地域に内在する諸要素について自然的・社会的観点から抽出し考察してみる。（1時間）
	授業内容	地域の空間構造 ：地域抽出方法と地域の画定 行政区域とは異なり、地理学的視点で地域を画定する論理的根拠・方法について提起・考察する。
	事後学習	分布要素の種類と分布領域との関係について整理して、具体的事例地域を選定し、実際に画定してみる。与えられた課題レポートを作成する。（3時間）
4	事前学習	地理の教科書の内容について、項目・構成内容・展開順等について整理してみる。（2時間）
	授業内容	地理教育と地誌学 第二次大戦後の社会の位置づけ、その後の社会科・地理科の変遷過程について整理し、その概要について考察する。（前回授業時の課題レポートを提出する）
	事後学習	地理教育の変遷について整理し、地理Aと地理Bとの関係、自然と人文との関係について検証する。（2時間）

5	事前学習	プリントに基づき既存の書籍において、地誌学的記述がどのような内容・構成をしているかを整理してみる。（2時間）
	授業内容	地誌の捉え方・記述内容 歴史的に見て地域の地誌的記述にどのような変遷があるのか、また、その内容を理論的に整理し、地域を対象にどのようにまとめることができるかについて考察する。（3回授業時のレポートに対する講評と討議も行う）
	事後学習	古典的近代地誌や総合地誌についての記述内容を整理し、その特徴を検証する。（2時間）
6	事前学習	日本の自然的特徴などについて事前に整理・考察してみる。（2時間）
	授業内容	日本における地帯構造と自然・社会文化の特徴 日本における自然的特徴（自然災害大国）と社会・文化の特徴について考察する。
	事後学習	東北日本と西南日本の文化的・歴史的特徴と地域区分について整理する。（2時間）
7	事前学習	北海道の自然的特徴、特に火山列・地震列の特色について考察する。（2時間）
	授業内容	日本地誌（1） 北海道地方：開拓史と経済開発を中心として 日本における植民地域として機能した北海道の地誌的位置づけと特色について考察する。
	事後学習	屯田村・道央開発の歴史、農林業の展開、産業の特徴について整理する。（2時間）
8	事前学習	地誌的観点から、東北6県のそれぞれの特徴についてまとめてみる。（1時間）
	授業内容	日本地誌（2） 東北地方：太平洋側と日本海側の地域の特徴 気候・地形から見た日本海側と太平洋側の自然的相違と展開の歴史的特徴について考察する。
	事後学習	関東外縁の福島県と遠隔地に位置する青森・岩手県等について経済的発展状況の相違について整理する。（与えられた課題についてのレポートを作成する）（3時間）
9	事前学習	関東地方を地域的なまとまりから小地域に分類してそれぞれの地域の特徴について考察する。（2時間）
	授業内容	日本地誌（3） 関東地方：自然環境、農業・工業等の展開 関東地方の農業展開の特色や工業立地（内陸工業団地）について整理・考察する。（前回授業時の課題レポートを提出する）
	事後学習	近郊農業地域として日本有数の農業生産地域であることを確認し、農業の地域的展開について検証する。（2時間）
10	事前学習	首都圏の範囲と、根拠となる法について調べ、その諸県を抽出してみる。（2時間）
	授業内容	日本地誌（4） 首都圏地域の産業構造の変容を中心として 首都圏の範囲とその特徴について整理すると共に、都市化と都市問題について整理・考察する。（8回授業時の課題レポートについての講評と討議も行う）
	事後学習	首都圏における都市化の具体的展開状況と問題点などについて整理する。（2時間）
11	事前学習	北陸地方の自然的特徴、特に冬の降雪の特徴と社会生活について考察する。（2時間）
	授業内容	日本地誌（5） 北陸地方：自然的特徴と社会の歴史的展開 半周辺地域としての位置づけや特色について考察する。
	事後学習	半周辺地域にあるといわれる産業構造の特徴について検証する。（2時間）
12	事前学習	富山県を流れる河川と扇状地平野の分布について調べる。（1時間）
	授業内容	日本地誌（6） 微視的地誌としての扇状地地域の分析（富山県を中心に） 扇状地の地形的特色と地域的展開過程について考察する。
	事後学習	扇状地地形の地形的特色、三角州平野との違いと村落立地について整理する。 次回小テストの準備をする。（3時間）
13	事前学習	地形図を読図し、地域の特徴について整理する。 5万分の1の地形図の表記や土地利用の特徴について整理する。（2時間）
	授業内容	日本地誌（7） 微視的地誌としての扇状地地域分析（黒部川扇状地） 扇状地地形が持つ特色と、地域としての展開について具体的に考察する。（黒部川扇状地と地域的関連に関する小テストを行う 20分）
	事後学習	合口事業・流水客土事業等を整理し、自然と地域問題について検証する。（2時間）
14	事前学習	東海地方・近畿地方を地域区分し、その地域の特徴について、産業の立地展開の視点で考察する。（1時間）
	授業内容	日本地誌（8） 東海・近畿地方、西日本地方：自然環境、産業、人口等の地域的特色 東海・近畿地方及び西日本地方の自然的特徴について整理すると共に、前期の授業内容についてまとめる。
	事後学習	経済の相対的低下傾向にある大阪と自動車産業を中心に経済的拡大傾向の名古屋の産業・経済状況について整理すると共に、前期授業の内容についてまとめ、授業内試験についての準備をする。（3時間）
15	事前学習	西日本の自然と社会についての文献を選び考察すると共に、前期試験の準備をする。（3時間）
	授業内容	前期授業をまとめると共に、授業内試験（50分）及び試験後の講評を行う（40分）
	事後学習	プリントと講義ノートを見直す。（1時間）

科目名	地誌学概論Ⅱ	担当者	小倉 眞	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	教職課程の本講義では、地理学的概念に基づいて「地域」を抽出し、地域内に展開する自然的・社会経済的諸現象を整理するとともに詳細な実態分析を行い、「地域構造」を把握することを目標とする。具体的には世界地誌をテーマとして取り上げ、アジア州全体と中国の地誌、ヨーロッパ州特にEU諸国とオランダ地誌、北アメリカ州とアメリカ合衆国地誌、南アメリカ地誌、オセアニア州とオーストラリア地誌について分析・整理する。				
授業目的・到達目標	地誌学は地理学的概念に基づいて「地域」を抽出し、地域内に展開する自然的・社会経済的諸現象を整理すると共に詳細な実態分析を行い、「地域の構造」を把握することを目的としている。到達目標：1. 地域の諸要素を抽出し、地域の特徴を客観的に理解できる。2. 日本及び世界の諸地域における多様性や特徴を把握し、説明できる。3. 地図・地理資料などを使用して地理学的視点に基づいて説明できる。				
履修条件	特になし。				
授業方法	テキストは使用せず、配布したプリントによって授業を進める。また、適宜にPC（パワーポイント）・ビデオ等を使用する。（フィードバック方法：課題レポート・小テストの講評と討議、授業内試験とその後の解説等によって行う）				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		75%	授業内容を客観的に理解しているか、また論理思考がなされているかについて検証・評価する。	
	平常評価		25%	授業への積極的参加度合いを授業後の小テスト・発表などにより評価する。（10％）特定のテーマについて課題を設定し、レポート提出を求める。（15％）	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	教科書は使用せず、配布したプリントに沿って授業を行う。			
参考書	地図帳を準備する。その他の参考文献については授業中に適宜紹介する。				
オフィスアワー	(月) 12：10～13：00 14：40～16：00 (水) 12：10～13：00 メールにてアポイントメントをとること。 研究室（4号館4階441） メールアドレス：ogura.makoto@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスで授業内容を確認する。（2時間）
	授業内容	世界地誌と教科科目の位置づけについて考察する。
	事後学習	世界地誌が教科目でどのように取り扱われているかについて整理する（2時間）
2	事前学習	大陸と地域区分の方法と相違について事前に調べてみる。（2時間）
	授業内容	世界の地域区分方法 世界の各地域についての地域区分についての歴史的経緯を整理し、その特徴について考察する。
	事後学習	自然地域区分・社会歴史地域区分・経済地域区分の相違と特徴について整理する。（2時間）
3	事前学習	西アジア・中央アジア・南アジア・東アジア地域の地域区分と地域的特徴について整理してみる。（2時間）
	授業内容	世界地誌（1） アジア州： アジア諸国の自然環境、人口、産業、文化 アジア地域の特徴について地誌的観点から整理・考察する。
	事後学習	世界の60%を占める人口分布状況と、乾燥アジア・湿潤アジアの地域的展開について整理する。（2時間）
4	事前学習	中国の南部・北部における農業の相違と、沿岸部・内陸部における工業分布の特徴について調べる。（1時間）
	授業内容	世界地誌（2） アジア州： 中国の資源・経済展開を中心に 中国の社会・経済的特色について整理すると共に、高校教書ではどのように取り上げられているか分析・考察する。
	事後学習	中国の改革開放体制と経済開発、工業立地の特質について整理する。与えられた課題についてのレポートを作成する。（3時間）

5	事前学習	EU地域の自然的特徴についての整理とその分布について調べる。（2時間）
	授業内容	世界地誌（3） ヨーロッパ州： EU諸国の自然と産業・政治・文化 EU加盟の歴史について整理し、その拡大過程とEUの機能変化・特色等を中心に考察する。（前回授業時の課題レポートを提出する）
	事後学習	EU地域における農業・工業の展開と地域的経済格差について整理する。（2時間）
6	事前学習	バルト海とライン川沿岸に位置するオランダの地理的特徴について考察する。（2時間）
	授業内容	世界地誌（4） ヨーロッパ州： オランダの自然環境と地域開発を中心として 一国地誌としてのオランダについて地誌学的観点から考察する。（4回授業時の課題レポートに対する講評と討議も行う）
	事後学習	低地地域の干拓と地域開発，ヨーロッパの窓口としての経済構造について整理する。（2時間）
7	事前学習	アメリカ合衆国とカナダとの地形・気候の特徴について事前に調べる。（2時間）
	授業内容	世界地誌（5） 北アメリカ州： 北アメリカの自然環境と産業と都市 アメリカ合衆国を中心として、その地形・気候の特色を中心に考察する。
	事後学習	地形・気候の特徴として東西関係と南北関係の意味について確認・整理する。（2時間）
8	事前学習	西経100度線を境に自然環境や農業が大きく変わることを検証し，地図等で確認する。（1時間）
	授業内容	世界地誌（6） 北アメリカ州： アメリカ合衆国の自然的特徴と農業地域の分布 世界の大農業国であるアメリカ合衆国の農業の地域的展開状況を共に整理すると共に、地理教科目での取り上げ方について考察する。
	事後学習	アメリカ合衆国の農業地域分布，世界的農産物輸出国としての特徴について整理する。次回小テストの準備をする。（3時間）
9	事前学習	アメリカ合衆国の資源分布状況について調べ，確認する。（2時間）
	授業内容	世界地誌（7） 北アメリカ州： アメリカ合衆国の資源と工業地域変動 サンベルト等を代表に、10などの先端産業地域の分布とその特徴について考察する。（アメリカの農業分布に関する小テストを行う 20分）
	事後学習	アメリカ合衆国におけるICを中心とした工業変動と工業地域について検証と整理する。（2時間）
10	事前学習	南アメリカ州に含まれる諸国を抽出し，各国の地域的特徴について考察する。（2時間）
	授業内容	世界地誌（8） 南アメリカ州： 南アメリカ諸国の自然環境と社会文化 南アメリカ諸国について整理すると共に、ブラジル地誌について取り上げ、考察する。（9回授業時の小テストに関する講評と討議も行う）
	事後学習	資源大国のブラジルの経済開発について特に重点的に検証する。（2時間）
11	事前学習	アフリカのサヘル地域の分布と砂漠化の状況について考察する。（2時間）
	授業内容	世界地誌（9） アフリカ州： アフリカ諸国の自然環境，産業，地域問題 アフリカの地誌学的地域区分について整理すると共に、アフリカ諸国の社会・歴史（植民地）・経済（資源産出）について考察する。
	事後学習	アフリカの資源分布と経済開発，地域格差や地域紛争について整理する。（2時間）
12	事前学習	オセアニアの自然的特徴について事前に調べてみる。（2時間）
	授業内容	世界地誌（10） オセアニア州： オセアニアの範囲と自然環境の特徴 大部分が乾燥気候地域にあるオーストラリアや温帯気候に位置するニュージーランドの自然について考察する。
	事後学習	太平洋諸国の地域区分及び火山国ニュージーランドの自然的特徴について整理する。（2時間）
13	事前学習	乾燥大陸オーストラリアの地形的特徴（卓状地など安定大陸）について整理し、その分布状況等について調べる。（2時間）
	授業内容	世界地誌（11） オセアニア州： オーストラリアの自然環境と資源分布，植民の歴史 特に植民の歴史やアボリジニの歴史・文化、及び工業資源の賦存状況と輸出について考察する。
	事後学習	オーストラリアの社会構成、農業や工業資源の分布と展開について整理する。（2時間）
14	事前学習	オーストラリアの都市分布と人口規模について事前に調べる。また、オーストラリアと日本の関係について経済・観光などの中心に検証してみる。（1時間）
	授業内容	世界地誌（12） オセアニア州： オーストラリアの空間構造（都市の分布，経済構造，日本との関係） 特にオーストラリアと日本との関係について考察し、議論する。
	事後学習	オーストラリアにおける空間構造（都市・外国との関係）と経済構造の特徴について整理する。また、授業内試験の準備をする。（3時間）
15	事前学習	後期試験の準備をする。（3時間）
	授業内容	後期授業をまとめると共に、授業内試験（50分）及び試験後の講評を行う（40分）。
	事後学習	プリントと講義ノートを見直し、後期授業の内容について整理する。（1時間）

科目名	哲学概論Ⅰ	担当者	岡山 敬二	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	「哲学とは何か」という問題を焦点にしなが、古代から近代に至るまで西洋哲学が歩んできた思考の道筋をたどる。自然観としての存在論の変遷という点を大きなテーマに据えて、ソクラテス以前の自然観が、ソクラテスを経てプラトンに始まり、近代にまで至る形而上学的な自然観によってどのように変貌してゆくのか、その展開の意味を問い、考えてゆく。				
授業目的・到達目標	時代や立場を超えた哲学的な考え方になじむことで、人間教育にとって不可欠な総合的視野を養成することを目的とする。そのために、1. 古代から近代までの西洋哲学における主要な哲学的概念を抽出し、その背景にある問題意識や問いの動機を理解し、説明できるようになること、2. 様々な哲学的な立場を比較・検討することで、それぞれの立場の限界や可能性を理解し、説明できるようになること、3. 時代や立場を超えた哲学的な問いや考え方を理解し、説明できるようになることを目標とする。				
履修条件	哲学への関心や学習意欲をもっていること。私語、遅刻厳禁（ばあいによっては減点対象にする）。第二部の履修にあたっては、各自、下記の指定教科書を用意すること。				
授業方法	配布するレジュメ（※共有フォルダでも入手可）に沿い講義を中心にすすめてゆく。リアクションペーパーを提出してもらい、その返答の機会を設けてゆきたい。定期試験の講評を後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		100%	授業内容の要点を理解し、それを自分の言葉でしっかりと説明、表現できているかを見る。 ※第二部については0%とする。	
	平常評価			※第二部については100%とし、出席状況を含めた授業参加、その取り組みや姿勢を評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2000年4月10日	講談社		反哲学史（講談社学術文庫）	木田元
	備考	※第一部は使用せず、第二部のみの使用とする。			
参考書	木田元『反哲学史』講談社学術文庫、木田元『現代の哲学』講談社学術文庫。その他、必要なものについては授業のなかでそのつど紹介してゆく。				
オフィスアワー	原則として火曜日12：00～13：00、土曜日12:00～13:00（休暇期間は電子メールで相談の上対応する）。事前に電子メールでの連絡を踏まえ対応する。 研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの「授業概要」、「授業目的・到達目標」を読み、その内容を確認しておくこと。その他のシラバスの内容についても確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス ——授業内容や評価方法の説明。
	事後学習	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
2	事前学習	シラバスの「授業概要」、「授業目的・到達目標」を読み、その内容を確認しておくこと。その他のシラバスの内容についても確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。哲学と科学との違いについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	哲学とは ——常識や科学知と哲学との違いや関係について考える。
	事後学習	常識や科学知と哲学との違いや関係についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
3	事前学習	ソクラテスのいう「無知の知」について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	「哲学」の誕生 ——ソクラテスの「知を愛すること（フィロソフィア）」の意味と役割について考える。
	事後学習	ソクラテスのいうフィロソフィアについてその意味と役割について確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
4	事前学習	皮肉と嘘の違いや共通点について思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	アイロニーとしての哲学 ——ソクラテスの「皮肉（アイロニー）」の意味や目的について考える。
	事後学習	ソクラテスのアイロニーについてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）

5	事前学習	ソクラテス裁判について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	ソクラテス裁判　——ソクラテスの「無限否定性」という生き方とその政治的立場との関係について考える。
	事後学習	ソクラテスの無限否定性についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
6	事前学習	自然について思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	ソクラテス以前の自然観　——ソクラテス以前の思想家たちにとっての「自然（フュシス）」の意味と役割について考える。
	事後学習	ソクラテス以前のフュシスについてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
7	事前学習	ここまでの授業内容を振り返り、自然観という点から見たソクラテスの役割についてノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業の総括　——授業内容のまとめ。
	事後学習	自然観という点から見たソクラテスの役割についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
8	事前学習	プラトンのイデア論について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	プラトンのイデア論　——プラトンのイデア論の真意を探り、イデア論と物質的自然観との関係について考える。
	事後学習	イデア論と物質的自然観との関係についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
9	事前学習	プラトンとアリストテレスとの哲学の違いや関係性について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	アリストテレスの形而上学　——アリストテレスによるイデア論の批判的継承と、形而上学的思考様式の普及について考える。
	事後学習	形而上学的思考様式についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
10	事前学習	スコラ哲学について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	プラトン - アウグスティヌス主義の復興　——デカルト哲学への影響という点からスコラ哲学の動向について考える。
	事後学習	スコラ哲学のデカルト哲学への影響についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
11	事前学習	デカルトとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	デカルトと近代哲学の創建　——デカルトによる量的自然観の基礎づけについて考える。
	事後学習	デカルトによる量的自然観の基礎づけについてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
12	事前学習	科学的世界観について思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	近代哲学の構図（1）　——デカルトに始まる近代哲学の構図について考える。
	事後学習	近代哲学の構図についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
13	事前学習	科学の可能性と限界について思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	近代哲学の構図（2）　——デカルトに始まる近代哲学が招いた問題について考える。
	事後学習	近代哲学が招いた問題についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
14	事前学習	カントとはどういう哲学者であったのかを調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	カントと近代哲学の完成　——カントのコペルニクス的転回とは何か。直観の形式と思考のカテゴリーという発想の意味について考える。
	事後学習	カントのコペルニクス的転回についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
15	事前学習	授業内容の全体を振り返り、ソクラテス以前からカントに至るまでの自然観の変遷についてその意味をノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業の総括　——授業内容のまとめ。定期試験の主題範囲や傾向、対策などの説明。
	事後学習	ソクラテス以前からカントに至るまでの自然観の変遷についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）

科目名	哲学概論Ⅱ	担当者	岡山 敬二	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	「哲学とは何か」という問題を焦点にしながら、近代から現代に向けて西洋哲学が歩んできた思考の道筋をたどる。自然観としての存在論の変遷という点を大きなテーマに据えて、近代哲学において形而上学的な自然観がどのように完成されてゆくのか、現代哲学に向かって、近代哲学の自然観の限界がどのように克服されてゆくのか、その展開の意味を問い、考えてゆく。			
授業目的・到達目標	時代や立場を超えた哲学的な考え方になじむことで、人間教育にとって不可欠な総合的視野を養成することを目的とする。そのために、１．近代哲学における主要な哲学的概念の可能性や限界を抽出し、その克服を目指す現代哲学の主要な哲学概念を理解し、説明できるようになること、２．様々な哲学的な立場を比較・検討することで、それぞれの立場の限界や可能性を理解し、説明できるようになること、３．時代や立場を超えた哲学的な問いや考え方を理解し、説明できるようになることを目標とする。			
履修条件	哲学への関心や学習意欲をもっていること。私語、遅刻厳禁（ばあいによっては減点対象にする）。第二部の履修にあたっては、各自、下記の指定教科書を用意すること。			
授業方法	配布するレジュメ（※共有フォルダでも入手可）に沿い講義を中心にすすめてゆく。リアクションペーパーを提出してもらい、その返答の機会を設けてゆきたい。定期試験の講評を後日、ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	100%	授業内容の要点を理解し、それを自分の言葉でしっかりと説明、表現できているかを見る。 ※第二部については0%とする。	
	平常評価	0%	※第二部については100%とし、出席状況を含めた授業参加、その取り組みや姿勢を評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2010年4月10日	講談社	反哲学史（講談社学術文庫）	木田元
	2017年9月5日	文藝春秋	哲学散歩（文春文庫）	木田元
	備考	※第一部は使用せず、第二部のみの使用とする。		
参考書	木田元『反哲学史』講談社学術文庫、木田元『現代の哲学』講談社学術文庫。その他、必要なものについては授業のなかでそのつど紹介してゆく。			
オフィスアワー	原則として火曜日12：00～13：00、土曜日12:00～13:00（休暇期間は電子メールで相談の上対応する）。事前に電子メールでの連絡を踏まえ対応する。 研究室（本館6階1612）okayama.keiji@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの「授業概要」、「授業目的・到達目標」を読み、その内容を確認しておくこと。その他のシラバスの内容についても確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	ガイダンス —— 授業内容や評価方法の説明。
	事後学習	ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
2	事前学習	シラバスの「授業概要」、「授業目的・到達目標」を読み、その内容を確認しておくこと。その他のシラバスの内容についても確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。ガイダンスで話した内容とシラバスの内容との対応性を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。形而上学についてその意味を調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	形而上学とは —— 「哲学概論Ⅰ」の授業内容を総括しながら、「哲学概論Ⅱ」の授業内容とのつながりを確認する。
	事後学習	形而上学についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
3	事前学習	ヘーゲルの弁証法について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	ヘーゲルと近代哲学の完成 —— ヘーゲルの弁証法の意味を確認し、形而上学的思考様式の完成について考える。
	事後学習	ヘーゲルの弁証法、および形而上学的思考様式についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
4	事前学習	ヘーゲルとシェリングとの哲学の違いや関係性について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	後期シェリングと実存哲学 —— 後期シェリングの実存主義について考える。
	事後学習	後期シェリングの実存という概念についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）

5	事前学習	実存主義について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	実存とは ——「実存」について、後期シェリングとキルケゴールやサルトルとの考え方の違いと関係について考える。
	事後学習	実存についての後期シェリングとキルケゴールやサルトルとの考え方の違いや関係についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
6	事前学習	マルクスの労働概念について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	マルクスの自然主義 ——マルクスの『経済学・哲学草稿』における労働の弁証法と自然主義という考え方について。
	事後学習	マルクスのいう自然主義についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
7	事前学習	ここまでの授業を振り返り、近代哲学の完成、その可能性や限界についてその意味をノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業の総括 ——授業内容のまとめ。
	事後学習	近代哲学の完成、その可能性や限界についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
8	事前学習	ニヒリズムについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	ニーチェのニヒリズム ——ヨーロッパのニヒリズムという点からニーチェの文化批判について考える。
	事後学習	ニーチェのいう「ヨーロッパのニヒリズム」についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
9	事前学習	ニーチェのいう「力への意志」について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	ニーチェと「力への意志」の哲学 ——「力への意志」という点からニーチェの自然観について考える。
	事後学習	「力への意志」という考えにおけるニーチェの自然観についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
10	事前学習	近代哲学にまで至る自然観の変遷についてその意味をノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	近代から現代へ ——近代哲学にまで至る自然観の変遷を振り返る。
	事後学習	近代哲学にまで至る自然観の変遷についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
11	事前学習	科学の限界について思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	科学の危機 ——近代理性の崩壊について科学の危機（数学の危機、物理学の危機）という点から考える。
	事後学習	科学の危機についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
12	事前学習	人間と機械との違いについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	現代哲学の課題 ——人間諸科学をめぐる問題の意味を踏まえ、現代哲学の課題について考える。
	事後学習	人間諸科学の問題と現代哲学の課題についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
13	事前学習	科学的世界像と日常生活の世界との違いや関係について思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	世界内存在 ——科学的世界観から生活世界への還帰の必要性について考える。
	事後学習	生活世界への還帰の必要性についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
14	事前学習	幻影肢という現象について調べ、それについて思い、考えることをノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	心身の関係 ——幻影肢等の現象をとおして人間の心と身体（自然）との区別と統一について考える。
	事後学習	心と身体との区別と統一についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）
15	事前学習	授業内容の全体を振り返り、近代哲学の可能性と限界、現代哲学の課題と方向性についてその意味をノートに整理しておくこと。（2時間）
	授業内容	授業の総括 ——授業内容のまとめ。定期試験の主題範囲や傾向、対策などの説明。
	事後学習	近代哲学の可能性と限界、現代哲学の課題と方向性についてその意味を確認し、疑問や質問も含めてノートに整理しておくこと。（2時間）

科目名	道徳教育の理論と方法	担当者	今泉 朝雄	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	学校教育における重要な教育活動の一つである道徳教育について、基礎知識を理解し、全体の指導計画を立て、特別の教科道徳の授業を構成し、指導するための能力を養成することを目的とした科目である。				
授業目的・到達目標	授業の到達目標は以下の通りである。 ①教育基本法及び学校教育法の根本精神に基づきながら道徳教育の基礎を理解する （道徳とは何かの理解、子どもの道徳的発達の理解、学習指導要領における道徳教育の位置付けの理解） ②道徳のカリキュラム構成や指導方法: 実践 （学校教育全体を通して指導計画の作成ができる、道徳科の授業構成論を理解し学習指導案を作成できる、授業が実践できる、評価方法を構成できる）				
履修条件	特になし				
授業方法	講義を中心としながら、討議など学生の意見を積極的に採り入れる授業を行う。フィードバックは授業内に行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	最終レポートにて評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない			
参考書	文部科学省『中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編』2017年 (http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/11/02/1387018_11_3.pdf)				
オフィスアワー	指導の時間が取れない場合が多いので、基本的にメールでの対応とする。アドレスは授業時に提示する。 直接対応が必要な場合は授業（木曜5限）終了後に申し出ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	道徳教育に関する自身の経験を振り返る（2時間）
	授業内容	イントロダクション 本講義の必要性
	事後学習	本時で求められる能力がどうして教員として必要なのかを自身なりに整理する。（2時間）
2	事前学習	「道徳」という言葉を自身はどのように理解しているのか、検討する。（2時間）
	授業内容	「道徳」とは何か ～言葉の定義とその考え方の検討～
	事後学習	「道徳」の基本的定義、反省的道徳の考え方について自身なりの言葉で説明できるようにする（2時間）
3	事前学習	小学生の道徳性と大学生の道徳性は何がどう違うのか、自分なりに考えてみる。（2時間）
	授業内容	道徳性の発達について
	事後学習	道徳性の発達理論について自身なりに整理し、それを自身に当てはめてみる。（2時間）
4	事前学習	学校教育が自身にどのような道徳的影響を持っていたのかについて検討する（2時間）
	授業内容	教育課程における道徳教育 1 ～全面主義の考え方、指導計画の基礎～
	事後学習	学校教育が自身にどのような道徳的影響を持っていたのかについて、制度的な枠組みを踏まえて理論的に整理する。（2時間）

5	事前学習	前回内容を復習しながら、自身の担当教科がどのような道德教育の意味を持ち得るかについて検討する。（2時間）
	授業内容	教育課程における道德教育2 ～各教科等と道德教育の関係～
	事後学習	学習指導要領に照らし合わせながら自身の担当教科と道德教育の関係を整理する（2時間）
6	事前学習	日本の近代史を概観しておく（2時間）
	授業内容	歴史から道德教育を考察する ～いじめ、情報モラルの教育を踏まえて～
	事後学習	戦前、戦後の道德教育の特徴を整理する。（2時間）
7	事前学習	学習指導要領特別の教科道德の内容を予め読んでおく（2時間）
	授業内容	道德の授業を考える1 ～学習指導要領における目標・内容・取扱い等の分析～
	事後学習	学習指導要領の総則、特別の教科道德の目標・内容の特徴を整理し、内容項目の構成を把握する。（2時間）
8	事前学習	過去に受けた道德の授業を振り返っておく。（2時間）
	授業内容	道德の授業を考える2 ～授業映像視聴と分析～
	事後学習	映像からみた実践について自身なりの感想をまとめる（2時間）
9	事前学習	前回の内容についてその教育効果を振り返る（2時間）
	授業内容	道德の授業を考える3 ～前回の事例分析～
	事後学習	道德の授業構成の基本的な考え方を整理する。（2時間）
10	事前学習	授業作りのテーマを考えておく（2時間）
	授業内容	道德の授業を考える4 ～学習指導案の作り方、教材分析の方法～
	事後学習	学習指導案の構成要素を確認する。（2時間）
11	事前学習	第9回の授業構成の基本を振り返る。（2時間）
	授業内容	道德の指導方法1 ～道德の気づきを考える～
	事後学習	本日作成検討した内容について、自身なりにさらに検討を加え、自身がそれを受けたらどのように感じるかを考える。（2時間）
12	事前学習	前回の内容を予習する。（2時間）
	授業内容	道德の指導方法2 ～気づきを深める～
	事後学習	深い気づきを得る、それをさらに深める指導方法について、自身の課題も含めて検討する。（2時間）
13	事前学習	第9回の内容を復習する。（2時間）
	授業内容	道德の指導方法3 ～考え、判断する授業 モラルジレンマ・問題解決型～
	事後学習	自身の課題に照らし合わせるとどんな内容が構成できるかを考えてみる。（2時間）
14	事前学習	教育評価とは何か、その基礎知識をまとめておく（2時間）
	授業内容	道德の指導方法4 ～道德教育の評価～
	事後学習	教育評価の基礎理論と道德教育に於ける評価の特徴を整理してまとめる。（2時間）
15	事前学習	どんな授業が道德教育において求められのかを考えておく（2時間）
	授業内容	道德の授業実践とその分析 ～アクティブ・ラーニングと道德教育の視点から～
	事後学習	自身なりの道德の授業の理想像を描く。（2時間）

科目名	道徳教育の理論と方法	担当者	香川 七海	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	------------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	道徳教育の意義や原理などを踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標や内容、指導計画等を理解します。また、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身につけることを目的とします。（以上、文部科学省「コアカリキュラム」より引用：一部改）【実務家経験：文部科学省委託事業（2016～2017：篠原学園受託）の実務委員会、調査研究委員会の経験をもとに、社会調査方法について実践的に説明します】			
授業目的・到達目標	教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を養成することを目的とします。道徳教育の授業実践を構想し、実践できることを到達目標とします。			
履修条件	おもに、教職を志望する学生を対象とします。なお、教職を志望していない学生（現代・未来において教職課程とは縁のない学生）には、基本的には模擬授業の実施の必要はありません。			
授業方法	講義、学生による模擬授業を中心に進めます。模擬授業に対する講評は、そのつど実施します。また、学校教育現場に勤務する現役の教職員を外部講師（ゲストスピーカー）として招聘します（第5～7回のいずれかを予定）。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	模擬授業（60%）、授業参加度＋模擬授業の実践者へのコメント（40%）によって成績評価をいたします。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	指定いたしません。		
参考書	松下良平『道徳教育はホントに道徳的か？』（日本図書センター）、田中智志・橋本美保・松下良平『道徳教育論』（一藝社）、藤田昌士『道徳教育』（エイデル研究所）			
オフィスアワー	金曜日の14時45分～16時。18時～19時。本館8階の研究室にて。（それ以外の日程については別途相談）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	教科書や参考文献に目を通しておく。（2時間）
	授業内容	被教育体験のなかの道徳教育
	事後学習	配布資料をもとに復習をする。（2時間）
2	事前学習	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。（2時間）
	授業内容	「道徳」の輪郭 道徳性の発達と概念の定義をめぐって
	事後学習	配布資料をもとに復習をする。（2時間）
3	事前学習	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。（2時間）
	授業内容	日本における戦前の道徳教育史 江戸時代の通俗道徳から修身教育まで
	事後学習	配布資料をもとに復習をする。（2時間）
4	事前学習	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。（2時間）
	授業内容	日本における戦後の道徳教育史 敗戦後から「教科化」まで
	事後学習	配布資料をもとに復習をする。（2時間）

5	事前学習	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。（2時間）
	授業内容	具体的な戦後の道徳教育実践（1）「いのち」の授業：黒田恭史を事例として
	事後学習	配布資料をもとに復習をする。（2時間）
6	事前学習	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。（2時間）
	授業内容	具体的な戦後の道徳教育実践（2）「いのち」の授業：鳥山敏子を事例として
	事後学習	配布資料をもとに復習をする。（2時間）
7	事前学習	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。（2時間）
	授業内容	道徳教育の学習指導案 作成と方法
	事後学習	配布資料をもとに復習をする。（2時間）
8	事前学習	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。（2時間）
	授業内容	模擬授業の検討（1） 教材研究
	事後学習	配布資料をもとに復習をする。（2時間）
9	事前学習	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。（2時間）
	授業内容	模擬授業の実践（1） 各グループによる小授業
	事後学習	配布資料をもとに復習をする。（2時間）
10	事前学習	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。（2時間）
	授業内容	模擬授業の検討（2） 各グループへの意見交流
	事後学習	配布資料をもとに復習をする。（2時間）
11	事前学習	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。（2時間）
	授業内容	模擬授業の実践（2） 各グループによる授業実践（小学校）
	事後学習	配布資料をもとに復習をする。（2時間）
12	事前学習	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。（2時間）
	授業内容	模擬授業の実践（3） 各グループによる授業実践（中学校）
	事後学習	配布資料をもとに復習をする。（2時間）
13	事前学習	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。（2時間）
	授業内容	模擬授業の実践（3） 各グループによる授業実践（高等学校）
	事後学習	配布資料をもとに復習をする。（2時間）
14	事前学習	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。（2時間）
	授業内容	各グループの教育評価のあり方をめぐって
	事後学習	配布資料をもとに復習をする。（2時間）
15	事前学習	配布資料と前回の学習内容について再度、指定箇所を読みなおす。（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	配布資料をもとに復習をする。（2時間）

科目名	東洋史概論Ⅰ	担当者	齋藤 史範	部別	第一部 第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	先史時代から近現代にいたる、東ユーラシアと中央ユーラシアの歴史的な展開、中国の歴史を中心に中央ユーラシア・朝鮮半島・ベトナムなどの諸地域の歴史を講義する。高等学校での教員経験をふまえて、高等学校「世界史」を教えるにあたって、教科書の内容と留意事項について適宜ふれていく。				
授業目的・到達目標	高等学校「世界史」の授業を行うにあつて、その学習による深い理解や、実際の授業準備に必要な知識やポイントを把握できることを目的に授業を展開する。先史時代から近現代にいたるまでの東ユーラシア・中央ユーラシア、東南アジアの歴史的な展開を概述・説明できることを目標とする。				
履修条件	向上心のある学生に限る。授業内容が分かるまで自律的／自立的に学修しなければ、良い成績はとれません。辛抱づよく取り組んでほしい。また、常日頃から「教える側」に求められものは何かを追究してもらいたい。無礼な方お断り。				
授業方法	プリントを配布します。A4版のクリアブック／クリアフォルダーを用意して下さい。なお、「まとめレポート」を課します。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	期末テスト　なお授業内試験に変更する場合もある	
	平常評価		30%	事前課題・事後課題　「まとめレポート」	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2015年	ちくま学芸文庫 (筑摩書房)		『中国の歴史』	岸本美緒
	2011年	日経ビジネス文庫 (日経新聞社)		『遊牧民から見た世界史 増補版』	杉山正明
	2017年	ちくま新書 (筑摩書店)		『朝鮮思想全史』	小倉紀蔵
	備考	授業はもとより事前学習・事後学習には教科書が必要です。必ずそろえて下さい。また検定教科書・世界史図録も用意して下さい。			
参考書	『中国史』『中央ユーラシア史』『朝鮮史』『世界史リブレット』のシリーズ (以上山川出版社) 井波律子『故事成句でたどる楽しい中国史』岩波書店 (岩波ジュニア新書)				
オフィスアワー	月曜日の昼休み。事前にメール等で予約の上、質問・相談・指導をおこないます。 研究室 (4号館1階412)　saito.fuminori@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、教科書の導入部分を読み、授業にそなえる。（2時間）
	授業内容	【中国史1】授業内容やスケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介をするとともに、人類の誕生、ホモ・サピエンスの登場、さらに中国における人類の足跡や旧石器時代について概述する。
	事後学習	「人類の誕生・ホモ・サピエンスの登場・中国における人類の足跡・旧石器時代の中国」についてまとめてみよう。（2時間）
2	事前学習	『中国の歴史』「2 中国初期王朝の形成」を読んで授業にのぞんで下さい。（2時間）
	授業内容	【中国史2】中国文明の誕生 中国文明の多元性について
	事後学習	中国文明の多元性についてまとめてみよう。（2時間）
3	事前学習	『中国の歴史』「2 中国初期王朝の形成」を読んで授業にのぞんで下さい。（2時間）
	授業内容	【中国史3】 中国初期王朝の形成一般周時代
	事後学習	殷周時代についてまとめてみよう。（2時間）
4	事前学習	『中国の歴史』「3 春秋・戦国から秦の統一へ」を読んで春秋戦国時代から秦の統一についてまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	【中国史4】 春秋戦国　秦の統一
	事後学習	授業内容をふまえて「春秋戦国　秦の統一」についてまとめてみよう。（2時間）

5	事前学習	『中国の歴史』「4 漢帝国と周辺地域」を読んで漢帝国と周辺地域についてまとめてみよう。（2 時間）
	授業内容	〔中国史 5〕 漢帝国の成立と発展 王莽の新と漢の再興
	事後学習	授業内容をふまえて「漢帝国の成立と発展 王莽の新と漢の再興」についてまとめてみよう。（2 時間）
6	事前学習	『中国の歴史』「5 分裂と融合の時代」を読んで授業にのぞんで下さい。（2 時間）
	授業内容	〔中国史 6〕 中国の分裂 三国の鼎立 南北朝時代 中国における胡漢融合と六朝政権
	事後学習	授業内容をふまえて「中国の分裂 中国における胡漢融合と六朝政権」についてまとめてみよう。（2 時間）
7	事前学習	『中国の歴史』「6 隋唐帝国の形成」を読んで授業にのぞんで下さい。（2 時間）
	授業内容	〔中国史 7〕 隋唐律令国家の登場 唐と周辺諸地域
	事後学習	授業内容をふまえて「隋唐律令国家の登場 唐と周辺諸地域」についてまとめてみよう。（2 時間）
8	事前学習	配布プリントの「羈縻政策」を読んでまとめてみよう。（2 時間）
	授業内容	〔中国史 8〕 東アジア文化圏の成立 隋唐の国際関係と文化
	事後学習	授業内容をふまえて「東アジア文化圏の成立 隋唐の国際関係と文化」についてまとめてみよう。（2 時間）
9	事前学習	『遊牧民から見た世界史 増補版』のスキタイ、匈奴に関する記述（p110～p135、匈奴：p144～p164）を読んで授業にのぞんで下さい。（2 時間）
	授業内容	〔中央ユーラシア史 1〕 騎馬遊牧民の誕生 遊牧国家の発生 スキタイ 匈奴の時代
	事後学習	授業内容をふまえて「騎馬遊牧民の誕生 遊牧国家の発生 スキタイ 匈奴の時代」についてまとめてみよう。（2 時間）
10	事前学習	『遊牧民から見た世界史 増補版』（p245～p280）を参考にして、五胡、柔然、高車、「カンカハシカ」について概述してみよう。（2 時間）
	授業内容	〔中央ユーラシア史 2〕 草原世界の「民族大移動」 鮮卑 五胡十六国時代 高車と柔然
	事後学習	授業内容をふまえて「草原世界の「民族大移動」 鮮卑 五胡十六国時代 高車と柔然」についてまとめてみよう。（2 時間）
11	事前学習	『遊牧民から見た世界史 増補版』（p280～p311）を参考にして、突厥についてまとめてみよう。（2 時間）
	授業内容	〔中央ユーラシア史 3〕 古テュルク時代 突厥の勃興と隋・唐等の関係 唐の羈縻政策と東突厥 ウイグル遊牧国家 オアシス世界の展開 オアシス世界への中華文化の流入
	事後学習	授業内容をふまえて「古テュルク時代 突厥の勃興と隋・唐等の関係 唐の羈縻政策と東突厥 ウイグル遊牧国家」についてまとめてみよう。（2 時間）
12	事前学習	『朝鮮思想全史』（p49～p56）を参考にして、古朝鮮・漢の四郡・三韓についてまとめてみよう。（2 時間）
	授業内容	〔朝鮮史 1〕 朝鮮の神話と伝承 朝鮮三国以前 古朝鮮・漢の四郡・三韓
	事後学習	授業内容をふまえて「古朝鮮・漢の四郡・三韓」についてまとめてみよう。（2 時間）
13	事前学習	『朝鮮思想全史』（p56～p58、p62～p64、p69～p70）を参考にして、「高句麗・百済・新羅」についてまとめてみよう。（2 時間）
	授業内容	〔朝鮮史 2〕 高句麗・百済・新羅・伽耶諸国 朝鮮三国の抗争
	事後学習	授業内容をふまえて「高句麗・百済・新羅・伽耶諸国 朝鮮三国の抗争」についてまとめてみよう。（2 時間）
14	事前学習	『朝鮮思想全史』（p70～p73）を参考にして、「統一新羅」についてまとめてみよう。（2 時間）
	授業内容	〔朝鮮史 3〕 統一新羅と渤海
	事後学習	授業内容をふまえて「統一新羅と渤海」についてまとめてみよう。（2 時間）
15	事前学習	『遊牧民から見た世界史 増補版』（p311～p322）を参考にして、唐滅亡後の東アジア、ウイグル崩壊後の中央ユーラシアのイスラーム化とテュルク化についてまとめてみよう。（2 時間）
	授業内容	〔中国史 9／中央ユーラシア史 4〕 唐の滅亡と東アジア世界の変容 中央ユーラシアの変容ーイスラーム化とテュルク化
	事後学習	授業内容をふまえて「唐の滅亡と東アジア世界の変容 中央ユーラシアの変容ーイスラーム化とテュルク化」についてまとめてみよう。（2 時間）

科目名	東洋史概論Ⅱ	担当者	齋藤 史範	部別	第一部 第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	------------	----	----	-----	---

授業概要	12世紀から近現代にいたる、東ユーラシアと中央ユーラシアの歴史的な展開、中国の歴史を中心に中央ユーラシア・朝鮮半島・ベトナムなどの諸地域の歴史を講義する。高等学校での教員経験をふまえて、高等学校「世界史」を教えるにあたって、教科書の内容と留意事項について適宜ふれていく。				
授業目的・到達目標	高等学校「世界史」の授業を行うにあつて、その学習による深い理解や、実際の授業準備に必要な知識やポイントを把握できることを目的に授業を展開する。先史時代から近現代にいたるまでの東ユーラシア・中央ユーラシア、東南アジアの歴史的な展開を概述・説明できることを目標とする。				
履修条件	向上心のある学生に限る。授業内容が分かるまで自律的／自立的に学修しなければ、良い成績はとれません。辛抱づよく取り組んでほしい。また、常日頃から「教える側」に求められものは何かを追究してもらいたい。無礼な方お断り。				
授業方法	プリントを配布します。A4版のクリアブック／クリアフォルダーを用意して下さい。なお、「まとめレポート」を課します。定期試験の解説を後日、ポータルシステムにて配信する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		70%	期末テスト　なお授業内試験に変更する場合もある	
	平 常 評 価		30%	事前課題・事後課題　「まとめレポート」	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2015年	ちくま学芸文庫 (筑摩書房)	『中国の歴史』		岸本美緒
	2011年	日経ビジネス文庫 (日経新聞社)	『遊牧民から見た世界史 増補版』		杉山正明
	2017年	ちくま新書(筑摩書店)	『朝鮮思想全史』		小倉紀蔵
	備考	授業はもとより事前学習・事後学習には教科書が必要です。必ずそろえて下さい。また検定教科書・世界史図録も用意して下さい。			
参 考 書	『中国史』『中央ユーラシア史』『朝鮮史』『世界史リブレット』のシリーズ(以上山川出版社) 井波律子『故事成句でたどる楽しい中国史』岩波書店(岩波ジュニア新書)				
オフィスアワー	月曜日の昼休み。事前にメール等で予約の上、質問・相談・指導をおこないます。 研究室(4号館1階412)　saito.fuminori@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	『中国の歴史』『7宋と北方民族』を参考にして宋朝についてまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	【中国史8】 宋朝の成立と中国の統一　「唐宋変革」
	事後学習	授業内容をふまえて「宋朝の成立と中国の統一　「唐宋変革」」についてまとめてみよう。（2時間）
2	事前学習	『中国の歴史』『7宋と北方民族』、『遊牧民から見た世界史』（p322～p338）を参考に遼、西夏、金についてまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	【中国史9／中央ユーラシア史5】 遼と西夏、金－北方民族の台頭　「征服王朝論」
	事後学習	授業内容をふまえて「遼と西夏、金－北方民族の台頭　「征服王朝論」」についてまとめてみよう。（2時間）
3	事前学習	『中国の歴史』『7宋と北方民族』『8元から明へ』、『遊牧民から見た世界史』（p358～p374）を参考にしてモンゴル帝国の成立と元朝についてまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	【中央ユーラシア史6／中国史10】 モンゴル帝国の成立　元朝の中国統治
	事後学習	授業内容をふまえて「モンゴル帝国の成立　元朝の中国統治」についてまとめてみよう。（2時間）
4	事前学習	『遊牧民から見た世界史』（p378～p388）を読んでモンゴル帝国時代の経済・文化の交流についてまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	【中央ユーラシア史7】 モンゴルの平和　チャガタイ・ウルス　モンゴルのイスラーム受容　東西文化交流
	事後学習	授業内容をふまえて「モンゴルの平和　チャガタイ・ウルス　モンゴルのイスラーム受容　東西文化交流」についてまとめてみよう。（2時間）

5	事前学習	『中国の歴史』「8元から明へ」を参考にして、明朝についてまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	〔中国史11〕 明朝の成立・発展と周辺諸地域
	事後学習	授業内容をふまえて「明朝の成立・発展と周辺諸地域」についてまとめてみよう。（2時間）
6	事前学習	『中国の歴史』「9清朝の平和」を参考にして、清朝についてまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	〔中国史12〕 清朝支配の成立と広域統治
	事後学習	授業内容をふまえて「清朝支配の成立と広域統治」についてまとめてみよう。（2時間）
7	事前学習	配布プリントを参考にして、チベットの歴史についてまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	〔中央ユーラシア史8〕 チベット仏教国家 チベット仏教国家の誕生と唐朝 チベット仏教とモンゴル チベット仏教と清朝
	事後学習	授業内容をふまえて「チベットの歴史」についてまとめてみよう。（2時間）
8	事前学習	『朝鮮思想全史』（p105～p108）を参考にして、「高麗」についてまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	〔朝鮮史4〕 高麗の歴史と文化 朝鮮王朝時代
	事後学習	授業内容をふまえて「高麗の歴史」についてまとめてみよう。（2時間）
9	事前学習	『中国の歴史』「10清末の動乱と社会の変容」を参考にして、二つのアヘン戦争と太平天国ついてまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	〔中国史13〕 清朝の動揺と社会の変容 二つのアヘン戦争 太平天国 朝貢国の喪失
	事後学習	授業内容をふまえて「清朝の動揺と社会の変容 二つのアヘン戦争 太平天国 朝貢国の喪失」についてまとめてみよう。（2時間）
10	事前学習	『中国の歴史』「11中国ナショナリズムの形成」を参考にして、日清戦争から辛亥革命までをまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	〔中国史14〕 中国ナショナリズムの形成 日清戦争から戊戌変法へ 辛亥革命元朝の支配
	事後学習	授業内容をふまえて「中国ナショナリズムの形成 日清戦争から戊戌変法へ 辛亥革命」についてまとめてみよう。（2時間）
11	事前学習	『中国の歴史』「12五・四運動と社会の変容」を参考にして、第一次世界大戦と中国ついてまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	〔中国史15〕 五・四運動と社会の変容 第一次世界大戦と中国 五・四運動 北伐と「国民政府」による中国統一
	事後学習	授業内容をふまえて「五・四運動と社会の変容 第一次世界大戦と中国 五・四運動 北伐と「国民政府」による中国統一」についてまとめてみよう。（2時間）
12	事前学習	『中国の歴史』「13抗日戦争と中国革命」を参考にして、抗日戦争の展開と人中華人民共和国の成立についてまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	〔中国史16〕 抗日戦争と中国革命 中華人民共和国の成立
	事後学習	授業内容をふまえて「抗日戦争と中国革命 中華人民共和国の成立」についてまとめてみよう。（2時間）
13	事前学習	『中国の歴史』「14社会主義国家の建設の時代」を参考にして、人民共和国成立後の中国の歴史をまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	〔中国史17〕 社会主義国家の建設 冷戦のなかの中国 プロレタリア文化大革命 現代中国の課題
	事後学習	授業内容をふまえて「社会主義国家の建設 冷戦のなかの中国 プロレタリア文化大革命 現代中国の課題」についてまとめてみよう。（2時間）
14	事前学習	『朝鮮思想全史』（p127～p130、p214～243）を参考にして、朝鮮王朝の時代をまとめてみよう。（2時間）
	授業内容	〔朝鮮史5〕 朝鮮王朝の成立から大韓帝国まで
	事後学習	授業内容をふまえて「朝鮮王朝の成立から大韓帝国まで」についてまとめてみよう。（2時間）
15	事前学習	配布プリントを参考にして、中国と東南アジアとの関係を概述してみよう（2時間）
	授業内容	〔東南アジア史〕 前近代東南アジア史のなかの「中国」 中国の歴代王朝と東南アジアの諸国家の交流 朝貢冊封関係と東南アジア 中国文化の受容－仏教と儒教 ベトナムの独立王朝
	事後学習	授業内容をふまえて東南アジア諸地域の歴史についてまとめてみよう。（2時間）

科目名	特別活動論	担当者	今泉 朝雄	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	本科目では教育課程の重要な一領域である特別活動について、その基礎理論、指導計画、指導方法の考え方やその実践について多様な視点から学ぶ。					
授業目的・到達目標	①学校の重要な教育活動である特別活動の位置づけ、目的・意義、内容、方法に関する基礎的な知識を養成することを目的とする。 ②特別活動の各領域の指導計画、及び指導実践が出来るようになること、 ③よりよい特別活動のあり方を自身なりに考えることが出来るようになることを目標とする。					
履修条件	特になし					
授業方法	講義だけでなく、特別活動に関連する諸活動や討議なども多く採り入れ実践的に学習する。フィードバックは授業内に行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		最終レポートにて評価する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2019年	弘文堂		特別活動・総合的学習の理論と指導法		今泉朝雄・関川悦雄編
	備考					
参考書	文部科学省『中学校学習指導要領解説特別活動編』2017年 (http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/07/25/1387018_13_1.pdf)					
オフィスアワー	指導の時間が取れない場合が多いので、基本的にメールでの対応とする。アドレスは授業時に提示する。 直接対応が必要な場合は授業（木曜5限）終了後に申し出ること。					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	本時のシラバスを確認しておく（2時間）
	授業内容	イントロダクション 特別活動とは何か
	事後学習	言葉の定義を整理する（2時間）
2	事前学習	自身の経験を振り返り、それがどんな意味があったかを考える。（2時間）
	授業内容	特別活動の教育的意義
	事後学習	教育的意義について自身なりの言葉で整理する（2時間）
3	事前学習	学習指導要領について予習をしておく（2時間）
	授業内容	学習指導要領における特別活動の位置付け
	事後学習	目標、内容を中心に簡潔に整理する。（2時間）
4	事前学習	日本の戦後史について概観しておく（2時間）
	授業内容	特別活動（教科外活動）の歴史
	事後学習	戦前・戦後の歴史の特徴とそこから学ぶべき事について整理する。（2時間）

5	事前学習	よかった学級集団、悪かった学級集団を思い出し、その原因を検討しておく。（2時間）
	授業内容	学校における集団形成①
	事後学習	同調圧力の理論を整理する。望ましい集団の考え方をまとめる。（2時間）
6	事前学習	学級経営の始まりはどのようなものだったかを思い出しておく。（2時間）
	授業内容	学校における集団形成②
	事後学習	そのプロセスについて、意義も含めて把握する。（2時間）
7	事前学習	学級活動がどのような取り組みだったかを振り返っておく。（2時間）
	授業内容	学級活動とは何か
	事後学習	学習指導要領における学級活動の位置付け、意義、指導方法の基礎的考え方を整理する。（2時間）
8	事前学習	学校の話し合い活動がどのようなものだったのかを振り返る。（2時間）
	授業内容	話し合い活動の方法①
	事後学習	本日の話し合い活動について自身なりに評価・検討する。（2時間）
9	事前学習	第8回事後活動に同じ。（2時間）
	授業内容	話し合い活動の方法②
	事後学習	その理論的枠組みを整理しながら、第8回の内容に当てはめて考えてみる。（2時間）
10	事前学習	体育祭を性に、それが一体どのような教育定義があったのかについて検討する。（2時間）
	授業内容	学校行事とは何か
	事後学習	教育課程の全体構成と学校行事の意義について自分なりの言葉で整理する。（2時間）
11	事前学習	中高生時代、生徒会をどのように考えていたかについて振り返る。（2時間）
	授業内容	生徒会活動とは何か
	事後学習	生徒会活動について民主的組織のあり方から説明が出来るようにする。（2時間）
12	事前学習	前回の内容を振り返る。（2時間）
	授業内容	生徒自治を考える
	事後学習	生徒の自主性、主体性、自治についての考え方を今回の内容を踏まえながら自身なりに検討する。（2時間）
13	事前学習	自身の部活動について振り返りその教育的意義を検討する。（2時間）
	授業内容	部活動とは何か
	事後学習	学校教育における位置付け、その問題の所在を整理する。（2時間）
14	事前学習	自身が取り組んできた部活動の具体的活動内容を振り返る。（2時間）
	授業内容	部活動の指導方法
	事後学習	指導方法の基本的考え方について踏まえ例を挙げて検討する。（2時間）
15	事前学習	これまでの学習内容を振り返る（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	本時の内容が教員を目指す自身にとってどんな意義があったのかを考える。（2時間）

科目名	日本史概論Ⅰ	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	【歴史学入門&日本前近代史概論】将来中学や高校の日本史を教育する教員として教壇に立つものを想定して、必要な素養を養うことを目的とする。歴史教師は「もの知り」や「歴史ファン」というだけでは勤まらない。高校レベルの内容を教育するためには、自ら歴史の探究者である必要がある。そのための基礎を築くべく、前半では歴史学入門を、後半では日本前近代史概説を講義する。なお本講義は教員採用試験対策の講義ではない。			
授業目的・到達目標	①なぜ歴史を学ぶのかについて、自分なりの答えを持つこと、②歴史学という学問の特徴について、基本的な理解をもつこと、③日本史を教えるということについて、自分なりの考えを持つこと、④日本前近代史の骨格を理解すること、⑤教科書的な「日本史」の向こう側にアプローチできるようになること、⑥以上のような事柄を中心に、日本史を教える教員としての素養を育成することを目的とし、オリジナルな日本史授業を構想できるようになることを目標とする。なお、「地歴」の教職免許のための選択必修科目なので、合格ラインが高めである。			
履修条件	教職への熱意や歴史への関心の高い学生を歓迎する。講義外でも積極的・主体的に勉強する意欲が必要。単位のためだけに安易に履修しないで欲しい。課外活動を理由とする不勉強は認めない。初回に必ず出席のこと。			
授業方法	レジュメと史料、パワーポイントを使い、一話完結式で進める。講義中に小テストや小レポートを課すことがある。また毎回コメントカードの提出を課す。講評をポータルサイトで発表することをもってフィードバックとする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業内試験40%、中間レポート40%、小テスト・小レポート等20%。オプションで読書レポートを提出することができる。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	使用しない。なお、中学社会科歴史分野又は高校日本史Bの教科書（会社は指定しない）は用意しておくこと。		
参考書	鹿野政直『歴史を学ぶこと』（岩波書店）、小田中直樹『歴史学って何だ』（PHP新書）、溪内謙『現代史を学ぶ』（岩波新書）、『新しい歴史教育のパラダイムを拓く』（地歴社）、『ともに学ぶ人間の歴史』（学び舎）。			
オフィスアワー	月曜 13:00～14:00 金曜 16:30～17:30 講義に関する質問、講義とは直接関係のない勉強についての質問や相談、学生生活全般や進路についての相談ごとなど、上記の時間に対応します。メールでアポイントを取ると確実です。研究室は9号館 6階・9604室。メールは ohoka.satoshi@nihon-u.ac.jp 。なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読する。遅刻・欠席しないように準備を整える。（2時間）
	授業内容	ガイダンス（講義の目的・履修案内・注意事項・文献紹介・講義計画）
	事後学習	ガイダンス資料を熟読し、注意事項を守って受講できるかどうかを考え、履修登録するかどうかを良く検討する。（2時間）
2	事前学習	これまでの日本史・世界史の学習歴を振り返りつつ、「なぜ歴史を学ぶのか」について自分なりの答えを考えてくる。（2時間）
	授業内容	よく生きるための歴史——なぜ歴史を学ぶのか？
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。「なぜ歴史を学ぶのか」について考えをまとめる。（2時間）
3	事前学習	地元の歴史博物館や郷土史料館に足を運んで、史料を見てくる。（2時間）
	授業内容	過去の痕跡としての史料
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。特に「史料批判」の意義についてまとめる。（2時間）
4	事前学習	「「歴史」とは何か」について、自分なりの答えを考えてくる。（2時間）
	授業内容	「歴史」が生まれる—歴史学という営み
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。歴史学という学問の特徴についてまとめる。（2時間）

5	事前学習	学校教育の「日本史」で、何を教えられてきたかを振り返る。（2時間）
	授業内容	歴史を教えるということ―歴史教育と歴史学
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 既成のスタイルを壊して、どんな歴史の授業をしてみたいかを考える。（2時間）
6	事前学習	学校教育で、なぜ「日本史」を学習させられるのだろうか？を考えてくる。（2時間）
	授業内容	「日本史」とはなんだろう―「日本史」の歴史
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。「「日本史」の歴史」の特徴と問題点をまとめる。（2時間）
7	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、原始・古代の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	ヤマト王権の形成と東アジア―原始から古代へ
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）
8	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、古代の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「日本」の誕生―律令制国家の確立と東アジア
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）
9	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、中世前期の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	中世の政治と社会―分権と競合
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）
10	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、中世後期の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	いくつもの「日本」――中世の西と東・北と南
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）
11	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、戦国時代の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	戦争と平和――中世から近世へ
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）
12	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、近世（対外関係）の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	鎖国とは何か―近世の対外関係
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）
13	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、近世前半の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	幕藩体制と社会秩序―安定支配のしくみと正統性
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）
14	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、近世後半の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	近世社会の成熟から動揺へ―近代への序章
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）
15	事前学習	全講義を復習して試験に備える。（2時間）
	授業内容	まとめ・テスト
	事後学習	これまでの学びを振り返り、獲得したものと足りないものを確認する。 ノート・レジュメを参照して、テストの答案の内容を自己評価する。（2時間）

科目名	日本史概論Ⅰ	担当者	朴澤 直秀	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、高等学校地歴科の免許の取得にふさわしい力量を育むことを目的とする。具体的には、日本史を対象として、地域の形成・変容と支配のありように焦点を当て、時代の特質とその変遷への理解を深めていく。そのことを通じて、下記の授業目的・到達目標の達成を目指す。			
授業目的・到達目標	教科書に書かれていることの背景に対する理解を深めること。研究状況の進展を確認すること。また、歴史学の特質について理解を深めること。それらにより、研究状況の進展に即して、自ら教科書や教材を理解し、常に知識を更新して授業を行う力量を育むことを目的とする。地域の形成・変容と支配のありようを軸に、諸時代の社会の特質と、それに即した政治体制のありようについて理解し、説明できるようになることを目標とする。			
履修条件	教職科目である。高等学校「日本史B」履修程度の十分な知識・理解を必須の受講の前提とする。未履修者は十分に予習し理解したうえで講義に臨むこと。履修済みの者であっても十分に知識・理解を確認したうえで講義に臨むこと。			
授業方法	基本的に講義形式で行うが、受講者数によって柔軟に対応する。受講者の状況・取り組みなどに応じて進行・内容につき対応する。達成度テストに関する全体の講評を、後日ポータルシステムにて配信する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験		0%	
	平常評価		100%	授業内での達成度テストを中心に、受講姿勢などを勘案する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	なし	なし	なし	なし
	備考			
参考書	『岩波講座日本歴史』（2013～2016）、ほか、講義中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	原則として月曜日１８：００～１８：３０、ただし、必ず事前に、口頭、ないしはメールにてアポイントメントを取ること			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通す。高等学校「日本史B」履修程度の、古代史の内容について、振り返っておく（２時間以上）。
	授業内容	導入 授業内容の概観、授業方法に関する説明と指導
	事後学習	授業内のアンケートで問われた内容につき、調べる（２時間）。
2	事前学習	前回説明された授業概要をめぐって、質問すべき点はなかったか、振り返っておく（２時間）。
	授業内容	原始から古代へ
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（２時間）。
3	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（２時間）。
	授業内容	ヤマト政権
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（２時間）。
4	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（２時間）。
	授業内容	律令国家の形成
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（２時間）。

5	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（2時間）。
	授業内容	律令国家の確立
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
6	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（2時間）。
	授業内容	地域社会の様相
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
7	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（2時間）。
	授業内容	古代国家の展開
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
8	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（2時間）。
	授業内容	古代から中世へ
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
9	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（2時間）。
	授業内容	院政
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
10	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（2時間）。
	授業内容	荘園と史料
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
11	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（2時間）。
	授業内容	荘園制
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
12	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（2時間）。
	授業内容	武家政権と朝廷
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
13	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（2時間）。
	授業内容	鎌倉幕府の構造
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
14	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。これまでの講義内容について、質問すべき事はないか、自分の理解を点検しておく（2時間）。
	授業内容	重要な論点の補足
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
15	事前学習	今学期の授業内容を整理し、授業内に説明した問題について、いかに解答すべきかを考えておく（2時間以上）。
	授業内容	授業目的・到達目標に関する確認
	事後学習	今学期の達成度を振り返り、理解の不十分な点について学習を深める（2時間）。

科目名	日本史概論Ⅱ	担当者	大岡 聡	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	【世界史のなかの近現代日本】 将来高校日本史を担当する教員として教壇に立つものを想定して、それに必要な素養を養うことにする。Ⅱでは「世界史のなかの近現代日本」と題して、日本近現代史を概論する。なお本講義は教員採用試験対策の講義ではない。				
授業目的・到達目標	①なぜ歴史を学ぶのかについて、自分なりの答えを持つこと、②歴史を教えるということについて、自分なりの考えを持つこと、③日本近現代の歴史過程とその特質について基本的な認識を持つこと、④政治・外交の推移や社会変容を構造的に理解できるようになること、⑤教科書的な「日本史」像の向こう側にアプローチできるようになること、以上のような素養を中心に、日本史教員としての基礎力を育成することを目的とし、オリジナルの日本史授業を構想できるようになることを目標とする。なお、「地歴」の教職免許のための選択必修科目なので、合格ラインが高めである。				
履修条件	教職への熱意や歴史への関心の高い学生を歓迎する。講義外でも積極的・主体的に勉強する意欲が必要。単位のためだけに安易に履修しないで欲しい。課外活動を理由とする不勉強は認めない。初回に必ず出席のこと。				
授業方法	レジュメと史料、パワーポイントを使い、一話完結式で進める。講義中に小テストや小レポートを課すことがある。また毎回コメントカードの提出を課す。講評はポータルサイトで発表する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業内試験40%、中間レポート40%、小テスト・小レポート等20%。オプションで読書レポートを提出することができる。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	使用しない。なお、中学社会科歴史分野・高校日本史の教科書（会社は指定しない）は用意しておくこと。			
参考書	講義中に紹介する。さしあたり岩波新書の「シリーズ日本近現代史」1～10巻の通読を勧める。『新しい歴史教育のパラダイムを拓く』（地歴社）、『ともに学ぶ人間の歴史』（学び舎）は授業づくりの参考になる。				
オフィスアワー	月曜 13:00～14:00 金曜 16:30～17:30 講義に関する質問、講義とは直接関係のない勉強についての質問や相談、学生生活全般や進路についての相談ごとなど、上記の時間に対応します。メールでアポイントを取ると確実です。研究室は9号館 6階・9604室。メールは ohoka.satoshi@nihon-u.ac.jp 。なお試験やレポート、成績評価に関するメールでの質問・相談はご遠慮ください。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを熟読する。遅刻・欠席しないように準備を整える。（2時間）
	授業内容	ガイダンス（履修案内・注意事項・文献紹介・自己紹介の小レポート） 世界史のなかの近代日本・イントロダクション
	事後学習	ガイダンス資料を熟読し、注意事項を守って受講できるかどうかを考え、履修登録するかどうかを良く検討する。（2時間）
2	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「開国」の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	世界史のなかの「開国」と「維新」
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）
3	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「明治維新」の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「文明国」になるということ——上からの＜文明化＞と＜国民化＞
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）
4	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「自由民権運動」「明治憲法」の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「民権」と「国権」——明治憲法体制の形成
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）

5	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「明治政府の外交」の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	明治政府の外交と東アジア国際関係の再編
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）
6	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「日清戦争」「日露戦争」の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	日清・日露戦争——帝国主義と東アジア
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）
7	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「韓国併合」の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「帝国」日本と植民地主義
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）
8	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「第一次世界大戦」の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	帝国とデモクラシー(1)——第一次世界大戦後の世界の変容と日本の針路
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）
9	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「大正デモクラシー」「政党政治の実現」の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	帝国とデモクラシー(2)——政治体制の民主化と社会の改造
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）
10	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「満州事変」の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「帝国」の再膨張——満州事変から日中戦争へ
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）
11	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「日中戦争」「太平洋戦争」の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	アジア・太平洋戦争論
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）
12	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「太平洋戦争」の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	「大日本帝国」の崩壊
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）
13	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「太平洋戦争」の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	非軍事化と民主化——焼跡からの再出発
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）
14	事前学習	自分が持っている中学・高校教科書のうち、「占領改革」の部分を読んでおく。（2時間）
	授業内容	冷戦下の日本の現代——高度成長から
	事後学習	レジュメ・ノートを用いて、講義を復習する。 レジュメ記載の練習問題に解答する。 参考文献等を読んで、理解を深め、知識を広げる。（2時間）
15	事前学習	全講義を復習して試験に備える。
	授業内容	まとめ・テスト
	事後学習	これまでの学びを振り返り、獲得したものと足りないものを確認する。

科目名	日本史概論Ⅱ	担当者	朴澤 直秀	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この講義では、高等学校地歴科の免許の取得にふさわしい力量を育むことを目的とする。具体的には、「日本史概論Ⅰ」を受け、日本史を対象として、地域の形成・変容と支配のありように焦点を当て、時代の特質とその変遷への理解を深めていく。そのことを通じて、下記の授業目的・到達目標の達成を目指す。					
授業目的・到達目標	教科書に書かれていることの背景に対する理解を深めること。研究状況の進展を確認すること。また、歴史学の特質について理解を深めること。それらにより、研究状況の進展に即して、自ら教科書や教材を理解し、常に知識を更新して授業を行う力量を育むことを目的とする。地域の形成・変容と支配のありようを軸に、諸時代の社会の特質と、それに即した政治体制のありようについて理解し、説明できるようになることを目標とする。					
履修条件	教職科目である。高等学校「日本史B」履修程度の十分な知識・理解を必須の受講の前提とする。未履修者は十分に予習し理解したうえで講義に臨むこと。履修済みの者であっても十分に知識・理解を確認したうえで講義に臨むこと。					
授業方法	基本的に講義形式で行うが、受講者数によって柔軟に対応する。「日本史概論Ⅰ」の状況や、受講者の状況・取り組みなどに応じて進行・内容につき対応する。達成度テストに関する全体の講評を、後日ポータルシステムにて配信する。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験		0%			
	平常評価		100%		授業内での達成度テストを中心に、受講姿勢などを勘案する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	なし	なし		なし		なし
	備考					
参考書	『岩波講座日本歴史』（2013～2016）、ほか、講義中に適宜紹介する。					
オフィスアワー	原則として月曜日１８：００～１８：３０、ただし、必ず事前に、口頭、ないしはメールにてアポイントメントを取ること					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通す。高等学校「日本史B」履修程度の、中世史の内容について、振り返っておく。朴澤担当の「日本史概論Ⅰ」の受講者は、前期の要点についても振り返っておく（２時間以上）。
	授業内容	導入 授業内容の概観、授業方法に関する説明と指導
	事後学習	授業内のアンケートで問われた内容につき、調べる。朴澤担当の「日本史概論Ⅰ」を受講していない者は、授業内での指示に従い、該当内容について調べる（２時間）。
2	事前学習	前回説明された授業概要をめぐって、質問すべき点はなかったか、振り返っておく（２時間）。
	授業内容	東西関係の展開
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（２時間）。
3	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（２時間）。
	授業内容	蒙古襲来と社会の変容
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（２時間）。
4	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（２時間）。
	授業内容	南北朝内乱
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（２時間）。

5	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（2時間）。
	授業内容	室町幕府の成立
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
6	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（2時間）。
	授業内容	室町幕府の支配
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
7	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（2時間）。
	授業内容	戦国時代
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
8	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（2時間）。
	授業内容	中世から近世へ
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
9	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（2時間）。
	授業内容	近世社会の確立
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
10	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（2時間）。
	授業内容	近世社会の展開
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
11	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（2時間）。
	授業内容	近世社会の変動
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
12	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（2時間）。
	授業内容	近世から近代へ
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
13	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく（2時間）。
	授業内容	近現代と史料
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
14	事前学習	前回の講義の要点を今一度まとめておく。さらに、今回の授業内容に関する基礎知識につき、教員の指示に従い整理しておく。これまでの講義内容について、質問すべき事はないか、自分の理解を点検しておく（2時間）。
	授業内容	重要な論点の補足
	事後学習	講義の要点を振り返る。講義中に出てきた事項・語彙などでわからないものがあれば調べる。理解が難しい論点があれば、質問できるように整理する（2時間）。
15	事前学習	今学期の授業内容を整理し、授業内に説明した問題について、いかに解答すべきかを考えておく（2時間以上）。
	授業内容	授業目的・到達目標に関する確認
	事後学習	今学期の達成度を振り返り、理解の不十分な点について学習を深める（2時間）。

科目名	発達と学習	担当者	和田 万紀	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	人間の発達と学習の過程について、発達の障害や困難なども含めて、主に心理学を中心として講義する。そして、基本的な知識と教育実践でのその応用可能性を考える。そこから心理学の概念、理論等を用いて、教育実践場面での現象や問題解決を理解する。				
授業目的・到達目標	心身の発達及び学習の過程の基礎的知識を養成することを目的とする。 人間の発達と学習の過程について、発達の障害や困難なども含めて、心理学の基礎的な概念や理論を理解でき、そして、実際の教育場面での諸問題について、それらを用いて説明できるようにすることを目標とする。				
履修条件	心理学ⅠⅡを履修済み、または履修中であること。				
授業方法	講義を中心とする。検査実習やロールプレイングなどをとり入れる。その結果を集団討議などでまとめレポート提出する。フィードバックは授業内もしくはポータルサイトにて行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		55%	基本的知識の修得。	
	平常評価		45%	レポート提出・授業内課題実習、授業参加度等から、総合的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2014	弘文堂	教育心理学		和田万紀
	備考				
参考書	2017年度 弘文堂 心理学第3版 和田万紀編著				
オフィスアワー	月曜日12時20分から13時まで、9号館501研究室にて行う。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	発達と学習について、教育場面でどのような具体例として考えられるのか、例を記述する。そして教科書と参考書の序章を読んでまとめる。2時間の予習。
	授業内容	授業の計画、方法、評価方法等を説明する。発達の概念、理論と、教育における発達理解の意義を考える。
	事後学習	実践的な教育現場で、児童、生徒、教師、職員等が、発達と学習の知識をもつことの重要性、意味について記述して、まとめる。教科書序章を読んでまとめる。2時間の復習。
2	事前学習	人間は生理的早産で生まれるという。これについて、具体的例を考えてまとめる。教科書第1章1節を読んでまとめる。2時間の予習。
	授業内容	発達の一般的特徴と過程についての理論（遺伝と環境、発達の原理、生涯発達等）を考える。
	事後学習	教科書第1章第1節の復習。参考書第6章第1節をまとめて記述する。2時間の復習。
3	事前学習	教科書第1章第2節を読んでまとめる。参考書第6章第1節を読む。2時間の予習。
	授業内容	発達の各時期の特徴と理論（ピアジェ、ビゴツキー、バルテス、エリクソン等）を考える。
	事後学習	発達の各時期の特徴について、各理論をまとめて、その差異を記述する。2時間の復習。
4	事前学習	教科書第1章第3節を読んでまとめる。2時間の予習。
	授業内容	発達の各時期の特徴を理解する（運動、言語、認知の発達、社会性の発達等）
	事後学習	発達の各時期の特徴をまとめて記述する。各時期において、「学習」をどのように考えるのかをまとめる。2時間の復習。

5	事前学習	青年期の発達の特徴を、身体的側面。認知的側面、社会性の視点から、自分の例についてまとめる。2時間の予習。
	授業内容	青年期の心身発達の特徴を理解する（第2の誕生、自我同一性確立と拡散、親離れと子離れ等）
	事後学習	自我同一性達成地位尺度の実習結果、反抗期と親子関係、についてまとめて記述する。教科書第6章3節をまとめて記述する。2時間の復習。
6	事前学習	学ぶ過程について、教科書第2章第1，2，3節を読んでまとめる。参考書第3章1節を読んでまとめる。2時間の予習。
	授業内容	学習の成立過程を理解する（記憶の過程、ワーキングメモリー、知識等）
	事後学習	学習の成立過程における記憶と知識の働き、役割をまとめて記述する。2時間の復習。
7	事前学習	知識と問題解決の過程について、教科書第2章第4，5節を読んでまとめる。参考書第3章1，2節を読んでまとめる。2時間の予習。
	授業内容	知識と問題解決の過程について理解する（メタ認知、直感、アリゴリズム等）
	事後学習	知識と問題解決について、教育現場での応用について考えを記述する。2時間の復習。
8	事前学習	なぜ学ぼうと思うのか、自分の例を記述する。教科書第3章第1節、参考書第3章2節を読んでまとめる。2時間の予習。
	授業内容	学習の動機づけと行動（外発的、内発的動機づけ、自律性、報酬と阻害効果等）
	事後学習	学習行動の成立過程について、基本的知識の確認をして、教育現場での実例をあげて、説明できるようにする。学習への動機づけを高める、低める要因について、記述する。2時間の復習。
9	事前学習	教科書第3章第2，3節と参考書第4章4，5節を読んでまとめる。2時間の予習。
	授業内容	認知と学習行動（原因帰属、統制感、学習性無力感、目標設定等）、
	事後学習	無気力になる要因と無気力から脱出するための要因をまとめて記述する。2時間の復習。
10	事前学習	頭が良い、とは何かについて考えをまとめる。教科書第5章2節、参考書序章4節を読んでまとめる。2時間の予習。
	授業内容	知的能力と学力（知能とは何か、知能検査の歴史、知的能力の測定、教師期待効果等）
	事後学習	「知能検査の歴史」を振り返り、「知的能力を測ることができる」ことについて賛成か反対かの立場を述べて、知的能力をどのように表現するのか、について記述する。2時間の復習。
11	事前学習	教科書第4章第1節、参考書第3章2節を読んでまとめる。2時間の予習。
	授業内容	「学習行動の形成（古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習、自己強化等）
	事後学習	ほめることと叱ることが学習行動に与える影響を記述する。2時間の復習。
12	事前学習	教科書第4章2節、参考書序章4節を読んでまとめる。2時間の予習。
	授業内容	教授法と学習行動（発見学習、仮説実験授業、有意味受容学習、適正処遇効果等）
	事後学習	適正処遇効果という点から、自分の学習行動に適した教授法はどれか、それはなぜかを考えて記述する。2時間の復習。
13	事前学習	教科書第5章1，2，3節、参考書第8章1，4節を読んでまとめる。2時間の予習。
	授業内容	評価と学習行動（評価の種類、評価の目的、評価基準、形成的評価等）
	事後学習	学習の評価とその後の学習活動について、考えをまとめて記述する。2時間の復習。
14	事前学習	教科書第6章4節、参考書第8章、4節を読んでまとめる。2時間の予習。
	授業内容	発達障害とインクルーシブ教育（発達障害の定義、インクルーシブ教育等）
	事後学習	発達の障害と困難とインクルーシブ教育が持つ意味についてまとめて記述する。2時間の復習。
15	事前学習	教科書第7章、第8章をまとめる。2時間の予習。
	授業内容	学級という社会（教師のリーダーシップ、学級雰囲気、生徒の人間関係等）
	事後学習	学級という社会が教師と児童生徒に与える影響をまとめて記述する。2時間の復習。

科目名	倫理学概論Ⅰ	担当者	上野山 晃弘	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、中学校社会及び高等学校公民の指導に必要な基礎知識と倫理的な思考力の習得をめざす。具体的には、主に西洋思想および日本思想における主要な倫理学説の学習を通して、倫理学に関する幅広い知識と思考力を習得する。				
授業目的・到達目標	中学校社会及び高等学校公民の指導に必要な基礎知識と倫理的な思考力を養成することを目的とする。具体的には、主に西洋思想および日本思想における主要な倫理学説について説明し、さらに「自主創造」の理念のもと、現代社会の中で生じている諸問題について倫理的な観点から自ら考察できるようになることを目標とする。				
履修条件	教職をめざす学生、または倫理学に深い関心と学習意欲をもつ学生。この授業では、毎回の授業におけるリアクションペーパーの提出を重視する。受動的な聴講ではなく、積極的な参加が求められる。				
授業方法	講義形式を中心に行うが、グループディスカッションやリアクションペーパーの記述のための時間も確保する。なお、リアクションペーパーと授業内テストについては授業時に講評・解説する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	リアクションペーパー（44%）と授業内テスト（56%）により評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	授業中に適宜資料を配布する。			
参考書	小寺聡（編）『もういちど読む山川倫理』山川出版社、2011年				
オフィスアワー	時間帯：水曜12:20～12:50、14:30～14:40（授業時または事前にアポイントメントを取る）、場所：授業講堂。 メールアドレス：開講時に告知する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容を熟読し、現代社会において生じている倫理的諸問題について調査・考察する（2時間）。
	授業内容	導入 倫理学を学ぶ意義について
	事後学習	授業内容について復習し、倫理学を学ぶ意義についてさらに深く考察する（2時間）。
2	事前学習	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	西洋思想と倫理（1）ソクラテス・プラトン
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
3	事前学習	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	西洋思想と倫理（2）アリストテレス
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
4	事前学習	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	西洋思想と倫理（3）デカルト
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。

5	事前学習	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	西洋思想と倫理（4）カント
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
6	事前学習	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	西洋思想と倫理（5）ヘーゲル
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
7	事前学習	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	西洋思想と倫理（6）ニーチェ
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
8	事前学習	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	西洋思想と倫理（7）ハイデガー
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
9	事前学習	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	日本思想と倫理（1）親鸞
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
10	事前学習	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	日本思想と倫理（2）道元
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
11	事前学習	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	日本思想と倫理（3）西田幾多郎
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
12	事前学習	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	日本思想と倫理（4）和辻哲郎
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
13	事前学習	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する（2時間）。
	授業内容	現代社会の倫理的課題（1）環境・生命
	事後学習	今学期の授業全体をふりかえり、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
14	事前学習	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する（2時間）。
	授業内容	現代社会の倫理的課題（2）理解度の確認（授業内テスト）とまとめ
	事後学習	今学期の授業全体をふりかえり、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
15	事前学習	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する（2時間）。
	授業内容	総括
	事後学習	今学期の授業全体をふりかえり、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。

科目名	倫理学概論Ⅰ	担当者	金子 佳司	部別	第二部	期間	前期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、仏教や儒教などの東洋の倫理思想、それらの東洋思想や西洋思想の影響を受けた日本の倫理思想、マルクス主義や実存主義に代表される現代の倫理思想を学びます。				
授業目的・到達目標	この授業では、高校公民科および中学社会科公民的分野の指導に必要な倫理学の知識を身につけ、倫理学上の問題を理解することを目的としています。また、それらの問題に関する学説を説明することができるとともに、自分でもそれらの問題について考えることができるようになることが目標です。				
履修条件	高校公民科および中学社会科の教職を目指す学生。または、それと同等の能力を身につけたいと考えている学生。				
授業方法	授業は講義形式で行ないますが、できるかぎり学生のみなさんとの対話を取り入れながら、いっしょに問題を考えていきたいと思います。なお、授業中に行なう小テストについては、後日授業中に解説を行ないます。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		70%	授業中に取り上げた事項や問題がしっかり理解できているかどうか、またその理解したことを自分の言葉で的確に表現できているかどうかを定期試験で判定します。	
	平常評価		30%	授業中に行なう小テスト（3回行なう予定）で評価します。やむをえない事情で小テストを受けられなかった場合は必ず速やかに申し出ること。また、無断欠席は減点対象。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2011	山川出版	もういちど読む山川倫理		小寺聡
	備考				
参考書	授業中に随時紹介します。				
オフィスアワー	火曜日午後6時以降　希望者は授業講堂にて申し出ること。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	このシラバス全体を読んで、教科書を使って授業の概要を理解する。（2時間）
	授業内容	授業計画や評価方法などの説明。東洋の倫理思想(1)仏教の世界観について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
2	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	東洋の倫理思想(2)仏教の人生観について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
3	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	東洋の倫理思想(3)古代中国の儒教思想と老荘思想について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
4	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	東洋の倫理思想(4)朱子学と陽明学について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）

5	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	日本の倫理思想(1) 日本古来の思想と古代日本の仏教思想について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
6	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	日本の倫理思想(2) 鎌倉仏教について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
7	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	日本の倫理思想(3) 江戸時代の儒教と国学について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
8	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	日本の倫理思想(4) 近代日本の思想について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
9	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	現代の倫理思想(1) マルクスの社会主義について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
10	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	現代の倫理思想(2) サルトルの実存主義について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
11	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	現代の倫理思想(3) アーレントの公共論について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
12	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	現代の倫理思想(4) ロールズのリベラリズム（自由主義）について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
13	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	現代の倫理思想(5) ノージックとサンデルによるロールズ批判を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
14	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	現代の倫理思想(6) 科学技術の進歩による新たな倫理問題を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
15	事前学習	前回までの授業内容をノートを読み直して確認しておく。（2時間）
	授業内容	授業の総まとめと理解の確認
	事後学習	授業の総まとめを振り返って、自分の理解が確かであったかどうか確認する。（2時間）

科目名	倫理学概論Ⅱ	担当者	上野山 晃弘	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	--------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、中学校社会及び高等学校公民の指導に必要な基礎知識と倫理学的な思考力の習得をめざす。具体的には、主に社会思想や宗教思想に関する主要な倫理学説の学習を通して、倫理学に関する幅広い知識と思考力を習得する。				
授業目的・到達目標	中学校社会及び高等学校公民の指導に必要な基礎知識と倫理学的な思考力を養成することを目的とする。具体的には、主に社会思想や宗教思想に関する主要な倫理学説について説明し、さらに「自主創造」の理念のもと、現代社会の中で生じている諸問題について倫理学的な観点から自ら考察できるようになることを目標とする。				
履修条件	教職をめざす学生、または倫理学に深い関心と学習意欲をもつ学生。この授業では、毎回の授業におけるリアクションペーパーの提出を重視する。受動的な聴講ではなく、積極的な参加が求められる。				
授業方法	講義形式を中心に行うが、グループディスカッションやリアクションペーパーの記述のための時間も確保する。なお、リアクションペーパーと授業内テストについては授業時に講評・解説する。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	リアクションペーパー（44%）と授業内テスト（56%）により評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	授業中に適宜資料を配布する。			
参考書	小寺聡（編）『もういちど読む山川倫理』山川出版社、2011年				
オフィスアワー	時間帯：水曜12:20～12:50、14:30～14:40（授業時または事前にアポイントメントを取ること）、場所：授業講堂。 メールアドレス：開講時に告知する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容を熟読し、現代社会において生じている倫理的諸問題について調査・考察する（2時間）。
	授業内容	導入 倫理学を学ぶ意義について
	事後学習	授業内容について復習し、倫理学を学ぶ意義についてさらに深く考察する（2時間）。
2	事前学習	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	社会思想と倫理（1）ミル
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
3	事前学習	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	社会思想と倫理（2）アーレント
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
4	事前学習	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	社会思想と倫理（3）ハーバーマス
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。

5	事前学習	今回扱う哲学者の基礎的な情報（人生や時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	社会思想と倫理（4）ロールズ
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
6	事前学習	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	宗教思想と倫理（1）ユダヤ教
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
7	事前学習	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	宗教思想と倫理（2）キリスト教
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
8	事前学習	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	宗教思想と倫理（3）イスラーム
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
9	事前学習	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	宗教思想と倫理（4）仏教
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
10	事前学習	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	宗教思想と倫理（5）儒教
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
11	事前学習	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	宗教思想と倫理（6）道教
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
12	事前学習	今回扱う宗教思想の基礎的な情報（時代背景等）について、参考図書や図書館等を活用して調査する（2時間）。
	授業内容	宗教思想と倫理（7）神道
	事後学習	授業内容について復習し、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
13	事前学習	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する（2時間）。
	授業内容	現代社会の倫理的課題（1）異文化理解・国際平和・情報
	事後学習	今学期の授業全体をふりかえり、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
14	事前学習	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する（2時間）。
	授業内容	現代社会の倫理的課題（2）理解度の確認（授業内テスト）とまとめ
	事後学習	今学期の授業全体をふりかえり、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。
15	事前学習	今学期の授業全体をふりかえり、各倫理学説の基礎知識を整理する（2時間）。
	授業内容	総括
	事後学習	今学期の授業全体をふりかえり、ディスカッション問題に対する自分自身の考えをさらに発展させる（2時間）。

科目名	倫理学概論Ⅱ	担当者	金子 佳司	部別	第二部	期間	後期	単位数	2
-----	--------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	この授業では、仏教や儒教などの東洋の倫理思想、それらの東洋思想や西洋思想の影響を受けた日本の倫理思想、マルクス主義や実存主義に代表される現代の倫理思想を学びます。			
授業目的・到達目標	この授業では、高校公民科および中学社会科公民的分野の指導に必要な倫理学の知識を身につけ、倫理学上の問題を理解することを目的としています。また、それらの問題に関する学説を説明することができるとともに、自分でもそれらの問題について考えることができるようになることが目標です。			
履修条件	高校公民科および中学社会科の教職を目指す学生。または、それと同等の能力を身につけたいと考えている学生。			
授業方法	授業は講義形式で行ないますが、できるかぎり学生のみなさんとの対話を取り入れながら、いっしょに問題を考えていきたいと思います。なお、授業中に行なう小テストについては、後日授業中に解説を行ないます。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	70%	授業中に取り上げた事項や問題がしっかり理解できているかどうか、またその理解したことを自分の言葉で的確に表現できているかどうかを定期試験で判定します。	
	平常評価	30%	授業中に行なう小テスト（3回行なう予定）で評価します。やむをえない事情で小テストを受けられなかった場合は必ず速やかに申し出ること。また、無断欠席は減点対象。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2011	山川出版	もういちど読む山川倫理	小寺聡
	備考			
参考書	授業中に随時紹介します。			
オフィスアワー	火曜日午後6時以降　希望者は授業講堂にて申し出ること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	このシラバス全体を読んで、教科書を使いながら授業の概要を理解する。（2時間）
	授業内容	授業計画や評価方法などの説明。東洋の倫理思想(1)仏教の世界観について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
2	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	東洋の倫理思想(2)仏教の人生観について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
3	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	東洋の倫理思想(3)古代中国の儒教思想と老荘思想について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
4	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	東洋の倫理思想(4)朱子学と陽明学について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）

5	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	日本の倫理思想(1) 日本古来の思想と古代日本の仏教思想について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
6	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	日本の倫理思想(2) 鎌倉仏教について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
7	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	日本の倫理思想(3) 江戸時代の儒教と国学について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
8	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	本の倫理思想(4) 近代日本の思想について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
9	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	現代の倫理思想(1) マルクスの社会主義について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
10	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	現代の倫理思想(2) サルトルの実存主義について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
11	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	現代の倫理思想(3) アーレントの公共論について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
12	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	現代の倫理思想(4) ロールズのリベラリズム（自由主義）について学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
13	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	現代の倫理思想(5) ノージックとサンデルによるロールズ批判を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
14	事前学習	下記の授業内容の範囲を教科書で予習しておく。（2時間）
	授業内容	現代の倫理思想(6) 科学技術の進歩による新たな倫理問題を学ぶ。
	事後学習	授業の内容を復習して、後で自分にわかるようにノートを作り、次回の授業につなげる。（2時間）
15	事前学習	前回までの授業内容をノートを読み直して確認しておく。（2時間）
	授業内容	授業の総まとめと理解の確認
	事後学習	授業の総まとめを振り返って、自分の理解が確かであったかどうか確認する。（2時間）